

2021年度 成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

【発行日：2021/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

【A0001】 憲法Ⅰ [建石 真公子] 春学期授業/Spring	1
【A0002】 憲法Ⅱ [建石 真公子] 秋学期授業/Fall	2
【A0003】 憲法Ⅰ [建石 真公子] 春学期授業/Spring	3
【A0004】 憲法Ⅱ [建石 真公子] 秋学期授業/Fall	4
【A0005】 憲法Ⅲ [國分 典子] 春学期授業/Spring	5
【A0006】 憲法Ⅳ [國分 典子] 秋学期授業/Fall	6
【A0007】 現代情報法Ⅰ [鈴木 秀美] 春学期授業/Spring	7
【A0008】 現代情報法Ⅱ [鈴木 秀美] 秋学期授業/Fall	8
【A0009】 国際社会と憲法Ⅰ [大津 浩] 春学期授業/Spring	9
【A0010】 国際社会と憲法Ⅱ [國分 典子] 秋学期授業/Fall	10
【A0011】 ジェンダーと法Ⅰ [谷田川 知恵] 春学期授業/Spring	11
【A0012】 ジェンダーと法Ⅱ [谷田川 知恵] 秋学期授業/Fall	12
【A0015】 憲法訴訟論 [大津 浩] 秋学期授業/Fall	13
【A0019】 生命倫理と人権Ⅰ [鶴澤 和彦] 春学期授業/Spring	14
【A0020】 生命倫理と人権Ⅱ [洪 賢秀] 秋学期授業/Fall	15
【A0021】 行政法入門Ⅰ [西田 幸介] 春学期授業/Spring	16
【A0022】 行政法入門Ⅱ [西田 幸介] 秋学期授業/Fall	17
【A0023】 行政作用法Ⅰ [西田 幸介] 春学期授業/Spring	18
【A0024】 行政作用法Ⅱ [西田 幸介] 秋学期授業/Fall	19
【A0025】 行政救済法Ⅰ [高橋 滋] 春学期授業/Spring	20
【A0026】 行政救済法Ⅱ [高橋 滋] 秋学期授業/Fall	21
【A0027】 租税手続法 [阿部 雪子] 秋学期授業/Fall	22
【A0028】 租税実体法 [阿部 雪子] 春学期授業/Spring	23
【A0029】 地方自治法 [氏家 裕順] 秋学期授業/Fall	24
【A0030】 環境法 [高橋 滋] 春学期授業/Spring	25
【A0031】 民事法総論 [大澤 彩] 秋学期授業/Fall	26
【A0032】 契約法Ⅰ [大澤 彩] 春学期授業/Spring	27
【A0033】 民事法総論 [新堂 明子] 秋学期授業/Fall	28
【A0034】 契約法Ⅰ [新堂 明子] 春学期授業/Spring	28
【A0037】 契約法Ⅱ [宮本 健蔵] 春学期授業/Spring	29
【A0038】 債権回収法Ⅰ [宮本 健蔵] 秋学期授業/Fall	30
【A0039】 契約法Ⅱ [宮本 健蔵] 春学期授業/Spring	31
【A0040】 債権回収法Ⅰ [宮本 健蔵] 秋学期授業/Fall	32
【A0041】 不法行為法 [川村 洋子] 秋学期授業/Fall	33
【A0042】 契約法Ⅲ [川村 洋子] 春学期授業/Spring	34
【A0043】 契約法Ⅳ [大澤 彩] 秋学期授業/Fall	35
【A0044】 不法行為法 [川村 洋子] 秋学期授業/Fall	36
【A0045】 契約法Ⅲ [川村 洋子] 春学期授業/Spring	37
【A0046】 親族法 [和田 幹彦] 春学期授業/Spring	38
【A0047】 相続法 [和田 幹彦] 秋学期授業/Fall	39
【A0048】 消費者法Ⅰ [大澤 彩] 春学期授業/Spring	40
【A0049】 消費者法Ⅱ [大澤 彩] 秋学期授業/Fall	41
【A0050】 商法総則・商行為法Ⅰ [椋川 泰史] 秋学期授業/Fall	42
【A0054】 会社法 [荒谷 裕子] 年間授業/Yearly	44
【A0055】 会社法 [椋川 泰史] 年間授業/Yearly	45
【A0056】 手形法・小切手法 [椋川 泰史] 年間授業/Yearly	47
【A0069】 民事訴訟法Ⅰ [杉本 和士] 春学期授業/Spring	49
【A0070】 民事訴訟法Ⅱ [杉本 和士] 秋学期授業/Fall	50
【A0071】 民事訴訟法Ⅲ [杉本 和士] 秋学期授業/Fall	51
【A0074】 破産法Ⅰ [倉部 真由美] 春学期授業/Spring	52
【A0075】 破産法Ⅱ [倉部 真由美] 秋学期授業/Fall	53
【A0076】 民事再生法 [倉部 真由美] 秋学期授業/Fall	54
【A0077】 刑法総論Ⅰ [佐藤 輝幸、佐野 文彦] 秋学期授業/Fall	55

【A0078】 刑法総論Ⅱ [佐野 文彦] 春学期授業/Spring	56
【A0079】 刑法総論Ⅰ [佐藤 輝幸、佐野 文彦] 秋学期授業/Fall	56
【A0085】 犯罪学 [佐野 文彦] 春学期授業/Spring	57
【A0086】 刑事政策 [今井 猛嘉] 秋学期授業/Fall	58
【A0090】 労働法総論・労働契約法 [藤本 茂] 春学期授業/Spring	59
【A0091】 労働基準法 [藤本 茂] 秋学期授業/Fall	60
【A0092】 労働法総論・労働契約法 [浜村 彰] 春学期授業/Spring	61
【A0093】 労働基準法 [浜村 彰] 秋学期授業/Fall	62
【A0094】 労働組合法 [浜村 彰] 春学期授業/Spring	63
【A0095】 労働法特論 [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall	64
【A0096】 社会保障法Ⅰ [沼田 雅之] 春学期授業/Spring	65
【A0097】 社会保障法Ⅱ [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall	66
【A0098】 社会政策 [沼田 雅之] 春学期授業/Spring	67
【A0099】 雇用・福祉政策 [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall	68
【A0104】 国際空間法 [田中 佐代子] 秋学期授業/Fall	69
【A0105】 国際安全保障法 [田中 佐代子] 春学期授業/Spring	70
【A0109】 国際人権法 [北村 泰三、建石 真公子] 年間授業/Yearly	71
【A0112】 国際刑事法 [安藤 貴世] 秋学期授業/Fall	72
【A0113】 国際経済法 [猪瀬 貴道] 秋学期授業/Fall	73
【A0116】 日本法制史Ⅰ [川口 由彦] 春学期授業/Spring	74
【A0117】 日本法制史Ⅱ [川口 由彦] 秋学期授業/Fall	75
【A0120】 ドイツ法制史Ⅰ [田中 憲彦] 春学期授業/Spring	76
【A0121】 ドイツ法制史Ⅱ [田中 憲彦] 秋学期授業/Fall	77
【A0122】 イギリス法制史Ⅰ [高 友希子] 春学期授業/Spring	78
【A0123】 イギリス法制史Ⅱ [高 友希子] 秋学期授業/Fall	79
【A0124】 法社会学 [北村 隆憲] 秋学期授業/Fall	80
【A0125】 英米法Ⅰ [小山田 朋子] 春学期授業/Spring	81
【A0126】 英米法Ⅱ [小山田 朋子] 秋学期授業/Fall	82
【A0127】 アジア法Ⅰ [陳 志明] 春学期授業/Spring	83
【A0128】 アジア法Ⅱ [陳 志明] 秋学期授業/Fall	84
【A0129】 社会安全政策論Ⅰ [寺井 陽子] 春学期授業/Spring	85
【A0131】 法思想史 [大野 達司] 秋学期授業/Fall	86
【A0203】 行政法入門Ⅰ [高橋 滋] 春学期授業/Spring	87
【A0204】 行政法入門Ⅱ [高橋 滋] 秋学期授業/Fall	88
【A0212】 外国書講読(独語)Ⅱ [大野 達司] 秋学期授業/Fall	89
【A0213】 外国書講読(英語)Ⅰ [田中 佐代子] 春学期授業/Spring	90
【A0214】 外国書講読(英語)Ⅱ [田中 佐代子] 秋学期授業/Fall	91
【A0223】 会社法入門 [荒谷 裕子] 春学期授業/Spring	92
【A0224】 会社法 [潘 阿憲] 年間授業/Yearly	93
【A0237】 比較政治論Ⅰ [新川 敏光] 春学期授業/Spring	94
【A0238】 比較政治論Ⅱ [新川 敏光] 秋学期授業/Fall	95
【A0249】 ジェンダー論Ⅰ [中野 洋恵] 春学期授業/Spring	96
【A0250】 ジェンダー論Ⅱ 秋学期授業/Fall	98
【A0251】 知的財産法Ⅰ [武生 昌士] 春学期授業/Spring	99
【A0252】 知的財産法Ⅱ [武生 昌士] 秋学期授業/Fall	100
【A0257】 日本政治論Ⅰ [中嶋 一成] 春学期授業/Spring	101
【A0258】 日本政治論Ⅱ 秋学期授業/Fall	102
【A0259】 日本政治思想史Ⅰ [河野 有理] 春学期授業/Spring	103
【A0260】 日本政治思想史Ⅱ [河野 有理] 秋学期授業/Fall	104
【A0265】 法律学特講(知的財産法の今日的課題) [武生 昌士] 春学期授業/Spring	105
【A0271】 ヨーロッパ政治思想史Ⅰ [犬塚 元] 春学期授業/Spring	106
【A0272】 ヨーロッパ政治思想史Ⅱ [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	107
【A0275】 福祉政策Ⅰ [石川 久] 春学期授業/Spring	108
【A0276】 福祉政策Ⅱ [石川 久] 秋学期授業/Fall	109
【A0277】 比較福祉国家Ⅰ [山本 卓] 春学期授業/Spring	110
【A0278】 比較福祉国家Ⅱ [山本 卓] 秋学期授業/Fall	111
【A0281】 経済政策Ⅰ [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring	112

【A0282】 経済政策Ⅱ [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall	113
【A0307】 行政学 [金井 利之] 年間授業/Yearly	114
【A0314】 マス・コミュニケーション論Ⅰ [郭 善英] 春学期授業/Spring	116
【A0315】 マス・コミュニケーション論Ⅱ [郭 善英] 秋学期授業/Fall	117
【A0316】 日本政治史Ⅰ [明田川 融] 春学期授業/Spring	118
【A0317】 日本政治史Ⅱ [明田川 融] 秋学期授業/Fall	119
【A0354】 外国書講読(独語)Ⅰ [上田 知夫] 春学期授業/Spring	120
【A0355】 外国書講読(独語)Ⅱ [上田 知夫] 秋学期授業/Fall	121
【A0428】 法律学特講(こども行政と法) [氏家 裕順] 春学期授業/Spring	122
【A0429】 法律学特講(政策と法) [氏家 裕順] 秋学期授業/Fall	123
【A0430】 外国書講読(英語)Ⅰ [氏家 裕順] 春学期授業/Spring	124
【A0431】 外国書講読(英語)Ⅱ [氏家 裕順] 秋学期授業/Fall	125
【A0440】 民事手続法入門 [倉部 真由美] 秋学期授業/Fall	126
【A0441】 法律学特講(大陸法思想史) [西村 清貴] 春学期授業/Spring	127
【A0442】 法律学特講(英米法思想史) [金井 光生] 春学期授業/Spring	128
【A0443】 行政組織法 [氏家 裕順] 春学期授業/Spring	129
【A0444】 都市法 [西田 幸介] 秋学期授業/Fall	130
【A0447】 アメリカ政治外交史 [森 聡] 春学期授業/Spring	131
【A0452】 法律学特講(社会保障法の現代的課題Ⅰ) [大原 利夫] 春学期授業/Spring	132
【A0453】 法律学特講(社会保障法の現代的課題Ⅱ) [大原 利夫] 秋学期授業/Fall	133
【A0457】 外国書講読(仏語)Ⅰ [大津 浩] 春学期授業/Spring	134
【A0458】 外国書講読(仏語)Ⅱ [大津 浩] 秋学期授業/Fall	135
【A0475】 会社法入門 [椋川 泰史] 春学期授業/Spring	136
【A0477】 金融商品取引法Ⅰ [荒谷 裕子] 春学期授業/Spring	137
【A0479】 金融商品取引法Ⅱ [荒谷 裕子] 秋学期授業/Fall	138
【A0481】 法律学特講((法学部同窓会寄付講座)企業法務への案内) [武生 昌士] 秋学期授業/Fall	139
【A0485】 政治学特殊講義Ⅰ(安全保障政策) [半田 滋] 春学期授業/Spring	140
【A0520】 都市政策 [杉崎 和久] 春学期授業/Spring	141
【A0521】 まちづくり論 [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall	142
【A0522】 コミュニティ政策(日本) [名和田 是彦] 春学期授業/Spring	143
【A0523】 コミュニティ政策(理論・国際比較) [名和田 是彦] 秋学期授業/Fall	144
【A0535】 外国書講読(中国語)Ⅰ [黄 偉修] 春学期授業/Spring	145
【A0536】 外国書講読(中国語)Ⅱ [黄 偉修] 秋学期授業/Fall	146
【A0537】 外国書講読(英語)Ⅰ [CHRISTOPHER C MOSLEY] 春学期授業/Spring	147
【A0538】 外国書講読(英語)Ⅱ [CHRISTOPHER C MOSLEY] 秋学期授業/Fall	148
【A0552】 知的財産法Ⅲ [武生 昌士] 秋学期授業/Fall	149
【A0553】 法律学特講(憲法哲学) [金井 光生] 秋学期授業/Fall	150
【A0554】 政治学特殊講義Ⅰ(現代の政治理論) [面 一也] 春学期授業/Spring	151
【A0555】 政治学特殊講義Ⅱ(現代の政治理論) [面 一也] 秋学期授業/Fall	152
【A0573】 憲法Ⅳ [國分 典子] 秋学期授業/Fall	153
【A0574】 憲法Ⅲ [國分 典子] 春学期授業/Spring	154
【A0575】 法律学特講(コンテンツビジネスの実相と知的財産権) [安田 和史] 秋学期授業/Fall	155
【A0576】 法律学特講(芸術振興の法と政策ーアート・ロー入門ー) [澤田 悠紀] サマーセッション/Summer Session	157
【A0606】 財政と金融Ⅰ [島澤 諭] 春学期授業/Spring	158
【A0607】 財政と金融Ⅱ [島澤 諭] 秋学期授業/Fall	159
【A0627】 International Politics [森 聡] 秋学期授業/Fall	160
【A0649】 国際NGO論Ⅰ [山口 誠史] 春学期授業/Spring	161
【A0650】 国際NGO論Ⅱ [山口 誠史] 秋学期授業/Fall	162
【A0652】 国際文化交流Ⅰ [牧田 東一] 春学期授業/Spring	163
【A0653】 国際文化交流Ⅱ [牧田 東一] 春学期授業/Spring	164
【A0662】 アジア国際政治概論 [水野 孝昭] 秋学期授業/Fall	165
【A0667】 中東の政治と社会Ⅰ [木村 正俊] 春学期授業/Spring	166
【A0668】 中東の政治と社会Ⅱ [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	167
【A0671】 日本の政治と外交Ⅱ [高橋 和宏] 秋学期授業/Fall	168
【A0717】 国際協力論Ⅰ [志賀 裕朗] 春学期授業/Spring	169
【A0718】 国際協力論Ⅱ [志賀 裕朗] 秋学期授業/Fall	171
【A0736】 オセアニアの政治と社会Ⅰ [今泉 裕美子] 春学期授業/Spring	172

【A0737】 オセアニアの政治と社会Ⅱ [今泉 裕美子] 秋学期授業/Fall	174
【A0755】 ラテンアメリカの政治と社会Ⅰ [真嶋 麻子] 春学期授業/Spring	175
【A0756】 ラテンアメリカの政治と社会Ⅱ [真嶋 麻子] 秋学期授業/Fall	176
【A0759】 国際経済論Ⅰ [田村 晶子] 春学期授業/Spring	177
【A0760】 国際経済論Ⅱ [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	177
【A0813】 商法入門Ⅰ [潘 阿憲] 春学期授業/Spring	178
【A0814】 商法入門Ⅱ [潘 阿憲] 秋学期授業/Fall	178
【A0820】 法律実務入門Ⅰ [藤本 茂] 春学期授業/Spring	179
【A0821】 法律実務入門Ⅱ [藤本 茂] 秋学期授業/Fall	180
【A0832】 外国書講読(英語)Ⅰ [杉田 敦] 春学期授業/Spring	181
【A0833】 外国書講読(英語)Ⅱ [杉田 敦] 秋学期授業/Fall	181
【A0836】 外国書講読(独語)Ⅰ [細井 保] 春学期授業/Spring	182
【A0837】 外国書講読(独語)Ⅱ [細井 保] 秋学期授業/Fall	183
【A0838】 外国書講読(仏語)Ⅰ [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	183
【A0839】 外国書講読(仏語)Ⅱ [近江屋 志穂] 秋学期授業/Fall	184
【A0840】 ヨーロッパ政治史Ⅰ [網谷 龍介] 春学期授業/Spring	185
【A0841】 ヨーロッパ政治史Ⅱ [網谷 龍介] 秋学期授業/Fall	186
【A0868】 人権と企業社会Ⅰ [土屋 仁美] オータムセッション/Autumn Session	187
【A0898】 アメリカ政治史Ⅰ [中野 勝郎] 春学期授業/Spring	188
【A0899】 アメリカ政治史Ⅱ [中野 勝郎] 秋学期授業/Fall	189
【A0917】 政治学特殊講義Ⅰ(日韓比較政治思想) [崔 先鎬] 春学期授業/Spring	190
【A0918】 政治学特殊講義Ⅱ(日韓比較政治思想) [崔 先鎬] 秋学期授業/Fall	191
【A0921】 現代政策学特講Ⅰ(立法学) [正木 寛也] 春学期授業/Spring	192
【A0922】 現代政策学特講Ⅱ(立法学) [正木 寛也] 秋学期授業/Fall	193
【A0925】 外国書講読(朝鮮語)Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授業/Spring	194
【A0926】 外国書講読(朝鮮語)Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fall	195
【A2212】 哲学特講(1)-1 [奥田 和夫] 春学期	196
【A2213】 哲学特講(1)-2 [山下 真] 秋学期	197
【A2216】 哲学特講(3)-1 [松本 力] 春学期	198
【A2217】 哲学特講(3)-2 [古屋 俊彦] 秋学期	199
【A2218】 哲学特講(4)-1 [菅沢 龍文] 春学期	200
【A2219】 哲学特講(4)-2 [近堂 秀] 秋学期	201
【A2220】 哲学特講(5)-1 [西塚 俊太] 春学期	201
【A2221】 哲学特講(5)-2 [相原 博] 秋学期	202
【A2222】 哲学特講(6)-1 [大橋 基] 春学期	203
【A2223】 哲学特講(6)-2 [小井沼 広嗣] 秋学期	204
【A2224】 哲学特講(7)-1 [君嶋 泰明] 春学期	205
【A2225】 哲学特講(7)-2 [大森 一三] 秋学期	206
【A2226,A3672】 哲学特講(8)-1/科学哲学Ⅰ [木島 泰三] 春学期	207
【A2227,A3673】 哲学特講(8)-2/科学哲学Ⅱ [中釜 浩一] 秋学期	208
【A2553】 日本文芸批評史A [川鍋 義一] 春学期	209
【A2555】 日本文芸批評史B [川鍋 義一] 秋学期	210
【A2561】 中国文芸史A [長谷川 真史] 春学期	211
【A2563】 中国文芸史B [長谷川 真史] 秋学期	212
【A2566】 書誌学 [山口 恭子] 春学期	213
【A2584】 表現と著作権A [内藤 裕之] 春学期	214
【A2586】 表現と著作権B [内藤 裕之] 秋学期	215
【A2657】 日本文芸研究特講(1)上代A [坂本 勝] 春学期	216
【A2658】 日本文芸研究特講(1)上代B [坂本 勝] 秋学期	217
【A2661】 日本文芸研究特講(2)中古A [栗山 元子] 春学期	217
【A2662】 日本文芸研究特講(2)中古B [加藤 昌嘉] 秋学期	219
【A2665】 日本文芸研究特講(3)中世A [小秋元 段] 春学期	220
【A2666】 日本文芸研究特講(3)中世B [小秋元 段] 秋学期	221
【A2667】 日本文芸研究特講(3)中世C [井 真弓] 春学期	221
【A2668】 日本文芸研究特講(3)中世D [井 真弓] 秋学期	222
【A2669】 日本文芸研究特講(4)近世A [眞島 望] 春学期	223
【A2670】 日本文芸研究特講(4)近世B [小林 ふみ子] 秋学期	224

【A2671】	日本文芸研究特講（4）近世C〔宮本 祐規子〕	春学期	225
【A2672】	日本文芸研究特講（4）近世D〔宮本 祐規子〕	秋学期	226
【A2673】	日本文芸研究特講（5）近代A〔佐藤 未央子〕	春学期	227
【A2674】	日本文芸研究特講（5）近代B〔佐藤 未央子〕	秋学期	228
【A2677】	日本文芸研究特講（6）現代A〔藤木 直実〕	春学期	229
【A2678】	日本文芸研究特講（6）現代B〔藤木 直実〕	秋学期	230
【A2679】	日本文芸研究特講（6）現代C〔高口 智史〕	春学期	231
【A2680】	日本文芸研究特講（6）現代D〔梅澤 亜由美〕	秋学期	232
【A2681】	日本文芸研究特講（7）漢文A〔遠藤 星希〕	春学期	233
【A2682】	日本文芸研究特講（7）漢文B〔遠藤 星希〕	秋学期	234
【A2685】	日本文芸研究特講（8）言語A〔王 安〕	春学期	235
【A2686】	日本文芸研究特講（8）言語B〔間宮 厚司〕	秋学期	236
【A2687】	日本文芸研究特講（9）表現A〔藤谷 治〕	春学期	237
【A2688】	日本文芸研究特講（9）表現B〔藤谷 治〕	秋学期	237
【A2689】	日本文芸研究特講（10）演劇A〔伊海 孝充〕	春学期	238
【A2690】	日本文芸研究特講（10）演劇B〔伊海 孝充〕	秋学期	238
【A2693】	日本文芸研究特講（11）音楽芸能史A〔本塚 亘〕	春学期	239
【A2694】	日本文芸研究特講（11）音楽芸能史B〔本塚 亘〕	秋学期	240
【A2695】	日本文芸研究特講（12）詩歌A〔四元 康祐〕	春学期	241
【A2696】	日本文芸研究特講（12）詩歌B〔四元 康祐〕	秋学期	242
【A2697】	日本文芸研究特講（13）児童文芸A〔三井 喜美子〕	春学期	243
【A2698】	日本文芸研究特講（13）児童文芸B〔三井 喜美子〕	秋学期	244
【A2699】	日本文芸研究特講（14）沖縄文芸A〔福 寛美〕	春学期	245
【A2700】	日本文芸研究特講（14）沖縄文芸B〔福 寛美〕	秋学期	246
【A2703】	日本文芸研究特講（15）国際日本学A〔STEVEN GEORGE NELSON〕	春学期	247
【A2704】	日本文芸研究特講（15）国際日本学B〔STEVEN GEORGE NELSON〕	秋学期	248
【A2707】	日本文芸研究特講（16）特域C〔安原 眞琴〕	春学期	249
【A2708】	日本文芸研究特講（16）特域D〔山口 恭子〕	秋学期	250
【A2804】	英語学概論A〔椎名 美智〕	春学期	251
【A2805】	英語学概論B〔福元 広二〕	秋学期	252
【A2806】	言語学概論A〔石川 潔〕	春学期	253
【A2807】	言語学概論B〔石井 創〕	秋学期	254
【A2808】	英語・言語学講義A〔椎名 美智〕	秋学期	256
【A2809】	英語・言語学講義B〔石川 潔〕	秋学期	257
【A2810】	社会言語学〔塩田 雄大〕	春学期	258
【A2811】	応用言語学〔川崎 貴子〕	秋学期	259
【A2824】	比較文学A〔柳橋 大輔〕	春学期	259
【A2825】	比較文学B〔柳橋 大輔〕	秋学期	260
【A2901】	英語史A〔福元 広二〕	春学期	261
【A2902】	英語史B〔福元 広二〕	秋学期	262
【A2903】	英文学史A〔丹治 愛〕	春学期	263
【A2904】	英文学史B〔丹治 愛〕	秋学期	264
【A2905】	米文学史A〔宮川 雅〕	春学期	265
【A2906】	米文学史B〔宮川 雅〕	秋学期	266
【A2907】	英米文学講義ⅠA〔宮川 雅〕	春学期	267
【A2908】	英米文学講義ⅠB〔宮川 雅〕	秋学期	268
【A2909】	英米文学講義ⅡA〔丹治 愛〕	春学期	269
【A2910】	英米文学講義ⅡB〔丹治 愛〕	秋学期	270
【A2911】	英語学講義A〔福元 広二〕	春学期	271
【A2912】	英語学講義B〔福元 広二〕	秋学期	272
【A2913,A2326】	言語学講義ⅠA／言語と論理Ⅰ（言語学講義Ⅰ）A〔石川 潔〕	春学期	273
【A2914,A2327】	言語学講義ⅠB／言語と論理Ⅰ（言語学講義Ⅰ）B〔石川 潔〕	秋学期	274
【A2915】	言語学講義ⅡA〔伊藤 達也〕	春学期	274
【A2916】	言語学講義ⅡB〔伊藤 達也〕	秋学期	275
【A2917】	英語音声学A〔川崎 貴子〕	春学期	275
【A2918】	英語音声学B〔川崎 貴子〕	秋学期	276
【A2919】	英語音声学A〔川崎 貴子〕	春学期	277

【A2920】 英語音声学B [川崎 貴子] 秋学期	277
【A2923】 英語・言語学特殊講義A [小野 綾子] 春学期	278
【A2924】 英語・言語学特殊講義B [小野 綾子] 秋学期	279
【A2968】 英米文学特殊講義Ⅳ [小島 尚人] 秋学期	280
【A2969】 文学研究方法論A [小島 尚人] 春学期	281
【A2970】 文学研究方法論B [小島 尚人] 秋学期	282
【A2977】 英語の文法力Ⅰ [椎名 美智] 春学期	283
【A2978】 英語の文法力Ⅱ [椎名 美智] 秋学期	284
【A2979】 メディア・リテラシーⅠ [田中 邦佳] 秋学期	285
【A2980】 メディア・リテラシーⅡ [吉川 純子] 秋学期	286
【A2981】 比較文化論(1) [小島 尚人] 秋学期	287
【A2982】 英米文化概論A [田中 裕希] 春学期	288
【A2983】 英米文化概論B [田中 裕希] 秋学期	289
【A2984】 Academic Writing A [福元 広二] 春学期	289
【A2985】 Academic Writing B [福元 広二] 秋学期	290
【A2988】 Comparative Culture(2) [小島 尚人] 春学期	291
【A2989】 Comparative Culture(3) [小島 尚人] 秋学期	292
【A2990】 Second Language Learning and Teaching [BRIAN WISTNER] 秋学期	293
【A3113,A3856】 日本考古学／日本考古学(資格) [古庄 浩明] 秋学期	294
【A3114】 日本古代史 [春名 宏昭] 春学期	295
【A3115】 日本中世史 [及川 亘] 秋学期	296
【A3116】 日本近世史 [松本 剣志郎] 秋学期	297
【A3117】 日本近代史 [長井 純市] 春学期	298
【A3118】 日本現代史 [劉 傑] 春学期	299
【A3121】 日本古代史科学Ⅰ [春名 宏昭] 秋学期	300
【A3124】 日本近世史科学Ⅰ [松本 剣志郎] 春学期	301
【A3125】 日本近世史科学Ⅱ [松本 剣志郎] 秋学期	302
【A3126】 日本近代史科学 [長井 純市] 秋学期	303
【A3127】 日本現代史科学 [劉 傑] 秋学期	304
【A3135】 東洋古代史 [飯尾 秀幸] 春学期	305
【A3136】 東洋中世史 [宇都宮 美生] 秋学期	306
【A3143】 西洋古代史 [後藤 篤子] 春学期	307
【A3144】 西洋中世史 [小沼 明生] 春学期	308
【A3145】 西洋近代史 [中嶋 毅] 春学期	309
【A3146】 西洋現代史 [古川 高子] 秋学期	310
【A3152,A3855】 考古学概論／考古学概論(資格) [古庄 浩明] 春学期	311
【A3153,A2274】 史学概論／歴史思想(史学概論) [高澤 紀恵] 春学期	312
【A3154】 日本史特講Ⅰ [中山 学] 春学期	313
【A3155】 日本史特講Ⅱ [大塚 紀弘] 春学期	313
【A3157】 日本史特講Ⅳ [中山 学] 秋学期	314
【A3158】 日本史特講Ⅴ [友田 昌宏] 秋学期	315
【A3159】 日本史特講Ⅵ [米崎 清実] 春学期	316
【A3160】 日本史特講Ⅶ [山田 康弘] 春学期	317
【A3162】 東洋史特講Ⅰ [飯尾 秀幸] 秋学期	318
【A3163】 東洋史特講Ⅱ [澁谷 由紀] 春学期	319
【A3164】 東洋史特講Ⅲ [芦沢 知絵] 秋学期	320
【A3165】 東洋史特講Ⅳ [塩沢 裕仁] 秋学期	321
【A3168】 西洋史特講Ⅰ [後藤 篤子] 秋学期	322
【A3169】 西洋史特講Ⅱ [小沼 明生] 秋学期	323
【A3170】 西洋史特講Ⅲ [篠原 琢] 秋学期	324
【A3171】 西洋史特講Ⅳ [高澤 紀恵] 春学期	325
【A3172】 西洋史特講Ⅴ [高澤 紀恵] 秋学期	326
【A3173】 西洋史特講Ⅵ [大鳥 由香子] 春学期	327
【A3174】 西洋史特講Ⅶ [遠藤 泰生] 秋学期	328
【A3201】 日本史特講Ⅸ [長井 純市] 春学期	329
【A3202】 日本史特講Ⅹ [森田 貴子] 秋学期	330
【A3204】 日本古代史科学Ⅱa [山口 英男] 春学期	330

【A3209】東洋考古・美術史〔塩沢 裕仁〕春学期	331
【A3217】東洋史特講Ⅶ〔水上 和則〕春学期	332
【A3218】東洋史特講Ⅷ〔松本 隆志〕春学期	333
【A3219】西洋史特講Ⅸ〔大和久 悌一郎〕秋学期	334
【A3408】地誌学概論（１）〔小寺 浩二〕春学期	335
【A3409】地誌学概論（２）〔南 春英〕春学期	336
【A3412】地球科学概論Ⅰ〔宍倉 正展〕春学期	337
【A3413】地球科学概論Ⅱ〔宍倉 正展〕秋学期	338
【A3417】自然環境論〔羽佐田 紘大〕春学期	339
【A3420】生物・土壌地理学及び実験Ⅰ〔小川 滋之〕春学期	340
【A3421】生物・土壌地理学及び実験Ⅱ〔小川 滋之〕秋学期	341
【A3422】気候・気象学及び実験Ⅰ〔山口 隆子〕春学期	342
【A3423】気候・気象学及び実験Ⅱ〔山口 隆子〕秋学期	343
【A3424】海洋・陸水学及び実験Ⅰ〔小寺 浩二〕春学期	344
【A3425】海洋・陸水学及び実験Ⅱ〔小寺 浩二〕秋学期	345
【A3426】社会経済地理学（１）〔小原 丈明〕秋学期	346
【A3427】社会経済地理学（２）〔伊藤 達也〕春学期	347
【A3428】社会経済地理学（３）〔片岡 義晴〕秋学期	348
【A3443】世界地誌（１）〔狩野 真規〕春学期	349
【A3444】世界地誌（２）〔南 春英〕秋学期	350
【A3445】世界地誌（３）〔小寺 浩二〕秋学期	351
【A3446】世界地誌（４）〔伊藤 達也〕秋学期	352
【A3449】地理学読図演習（１）〔羽佐田 紘大〕春学期	353
【A3450】地理学読図演習（２）〔羽佐田 紘大〕秋学期	354
【A3452】自然地理学特講（２）〔飯泉 佳子〕春学期	355
【A3453】自然地理学特講（３）〔山口 隆子〕春学期	355
【A3455】人文地理学特講（１）〔小田 宏信〕春学期	356
【A3456】人文地理学特講（２）〔片岡 義晴〕春学期	357
【A3457】人文地理学特講（３）〔小原 丈明〕春学期	358
【A3481】社会経済地理学（４）（エコツーリズム）〔呉羽 正昭〕秋学期	359
【A3482】文化地理学（１）〔中俣 均〕春学期	360
【A3483】文化地理学（２）〔中俣 均〕秋学期	360
【A3489】人文地理学特講（４）〔伊藤 達也〕秋学期	361
【A3500】自然地理学特講（１）〔羽佐田 紘大〕秋学期	362
【A3513】地理学史〔中俣 均〕秋学期	363
【A3601,A2254】心理学概論／心理学１（心理学概論）１〔福田 由紀〕春学期	364
【A3602,A2255】心理学史／心理学１（心理学史）２〔高砂 美樹〕秋学期	365
【A3619】脳の科学〔高橋 敏治〕秋学期	366
【A3620】認知心理学〔吉村 浩一〕春学期	367
【A3621】認知科学入門〔田嶋 圭一〕春学期	368
【A3622】発達心理学〔渡辺 弥生〕春学期	369
【A3623】教育心理学〔福田 由紀〕秋学期	371
【A3624】学習心理学〔押尾 恵吾〕秋学期	372
【A3667】言語心理学〔福田 由紀〕春学期	372
【A3687】社会心理学特講〔島宗 理、高橋 敏治、田嶋 圭一、渡辺 弥生、福田 由紀〕秋学期	373
【A3721】産業組織心理学〔島宗 理〕秋学期	374
【A3819】歴史地理学（１）〔米家 志乃布〕春学期	376
【A3820】歴史地理学（２）〔米家 志乃布〕秋学期	377
経営学科専門科目 300 番台 【A4362】キャリア・マネジメントⅡ（2019 年度以降入学者）〔小川 憲彦〕秋学期授業/Fall	378
経営学科専門科目 300 番台 【A4363】経営組織論Ⅰ〔長岡 健〕春学期授業/Spring	379
経営学科専門科目 300 番台 【A4364】経営組織論Ⅱ〔長岡 健〕秋学期授業/Fall	380
【A4365】組織マネジメント論Ⅰ〔永山 晋〕春学期授業/Spring	381
【A4366】組織マネジメント論Ⅱ〔永山 晋〕秋学期授業/Fall	382
経営学科専門科目 300 番台 【A4369】人的資源管理Ⅰ〔佐野 嘉秀〕春学期授業/Spring	383
経営学科専門科目 300 番台 【A4370】人的資源管理Ⅱ〔佐野 嘉秀〕秋学期授業/Fall	384
【A4379】税務会計論Ⅰ〔大下 勇二〕春学期授業/Spring	385
【A4380】税務会計論Ⅱ〔大下 勇二〕秋学期授業/Fall	386

【A4393】 組織経済学 [奥西 好夫] 秋学期授業/Fall	387
【A4423】 日本経営史Ⅰ [二階堂 行宣] 春学期授業/Spring	388
【A4424】 日本経営史Ⅱ [二階堂 行宣] 秋学期授業/Fall	389
【A4425】 企業評価論Ⅰ [高橋 美穂子] 春学期授業/Spring	390
【A4426】 企業評価論Ⅱ [高橋 美穂子] 秋学期授業/Fall	391
【A4427】 経営分析論Ⅰ [福多 裕志] 春学期授業/Spring	392
【A4428】 経営分析論Ⅱ [福多 裕志] 秋学期授業/Fall	393
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4465】 日本経営論Ⅰ [金 容度] 春学期授業/Spring	394
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4466】 日本経営論Ⅱ [金 容度] 秋学期授業/Fall	395
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4471】 デリバティブ入門Ⅰ (2019 年度以降入学者) [山嵯 輝] 春学期授業/Spring	396
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4472】 デリバティブ入門Ⅱ (2019 年度以降入学者) [山嵯 輝] 秋学期授業/Fall	397
【A4475】 産業組織論Ⅰ [大木 良子] 春学期授業/Spring	398
【A4476】 産業組織論Ⅱ [大木 良子] 秋学期授業/Fall	399
【A4477】 情報技術論Ⅰ [入戸野 健] 春学期授業/Spring	400
【A4478】 情報技術論Ⅱ [入戸野 健] 秋学期授業/Fall	401
【A4481】 経営のための経済学 [宮澤 信二郎] 春学期授業/Spring	402
【A4482】 応用経済学Ⅱ [宮澤 信二郎] 秋学期授業/Fall	403
【A6039】 English Test Preparation for IELTS [Marcus LOVITT] 春学期授業/Spring	404
【A6041】 Professional Communication [Mark James BIRTLES] 秋学期授業/Fall	405
【A6042】 Statistics [Yuji OGIHARA] 秋学期授業/Fall	406
【A6043】 Translation [Sarah ALLEN] 秋学期授業/Fall	407
【A6107】 Drama Survey [Tony DANI] 春学期授業/Spring	408
【A6110】 History of Modern Europe [Markus WINTER] 秋学期授業/Fall	409
【A6111】 History of Modern East Asia [Chris Hyunkyu PARK] 秋学期授業/Fall	410
【A6113】 Music Appreciation [Cathy Lynn COX] 春学期授業/Spring	411
【A6114】 Drama Workshop [Tony DANI] 秋学期授業/Fall	412
【A6121】 Manga Studies [Stevie Tongshun SUAN] 春学期授業/Spring	413
【A6122】 Manga Studies [Stevie Tongshun SUAN] 秋学期授業/Fall	414
【A6123】 Visual Arts [Shiho KITO] 春学期授業/Spring	415
【A6124,A6551】 Topics in Arts: Fine Arts [Suzanne Carol MOONEY] 秋学期授業/Fall	417
【A6125,A6550】 Topics in Arts: Visual Communication Design [Gary MCLEOD] 秋学期授業/Fall	419
【A6128】 Contrastive Linguistics [Geraldo FARIA] 春学期授業/Spring	420
【A6131】 Language Education in the Digital Era [Robert PATERSON] 秋学期授業/Fall	421
【A6132】 Second Language Acquisition [Junya FUKUTA] 秋学期授業/Fall	422
【A6133】 Comparative Education [Machiko KOBORI] 秋学期授業/Fall	423
【A6140,A6500】 French AⅠ [Masamichi SUZUKI] 春学期授業/Spring	424
【A6141,A6501】 French AⅡ [Masamichi SUZUKI] 秋学期授業/Fall	425
【A6142,A6502】 French BⅠ [Tamio OKAMURA] 春学期授業/Spring	426
【A6143,A6503】 French BⅡ [Tamio OKAMURA] 秋学期授業/Fall	427
【A6144,A6504】 Spanish AⅠ [Taiga WAKABAYASHI] 春学期授業/Spring	428
【A6145,A6505】 Spanish AⅡ [Taiga WAKABAYASHI] 秋学期授業/Fall	429
【A6146,A6506】 Spanish BⅠ [Yoshifumi Onuki] 春学期授業/Spring	430
【A6147,A6507】 Spanish BⅡ [Yoshifumi Onuki] 秋学期授業/Fall	431
【A6148,A6508】 Chinese AⅠ [Yuko TAKADA] 春学期授業/Spring	432
【A6149,A6509】 Chinese AⅡ [Yuko TAKADA] 秋学期授業/Fall	433
【A6150,A6510】 Chinese BⅠ [Shota WATANABE] 春学期授業/Spring	434
【A6151,A6511】 Chinese BⅡ [Shota WATANABE] 秋学期授業/Fall	435
【A6152】 English in the Movies [Megumi KOBAYASHI] 春学期授業/Spring	436
【A6162】 Cultural and Ethnic Diversity in Japan [Kyung HEE HA] 春学期授業/Spring	437
【A6166】 Developmental Psychology [Sayaka AOKI] 秋学期授業/Fall	438
【A6167,A6520】 Media Studies [Zeliha MUGE IGARASHI] 秋学期授業/Fall	439
【A6174】 Introduction to Environmental Science [Ayami OTSUKA] 春学期授業/Spring	440
【A6187】 Principles of Business Management [Maymay HO] 秋学期授業/Fall	441
【A6188】 Introduction to Tourism Studies [John MELVIN] 春学期授業/Spring	442
【A6189】 Introduction to Tourism Studies [John MELVIN] 秋学期授業/Fall	443
【A6190】 Information Studies [Alfons JOSEF SCHUSTER] 秋学期授業/Fall	444
【A6191】 IT in Modern Society [Niall MURTAGH] 秋学期授業/Fall	445

[A6205] American History and Society [Robert SINCLAIR] 春学期授業/Spring	446
[A6208] Cultural Studies [Zeliha MUGE IGARASHI] 秋学期授業/Fall	447
[A6213] Sociology of Law [Kelesha NEVERS] 春学期授業/Spring	448
[A6214] Sociology of Violence [Yuki NAKAMURA] 秋学期授業/Fall	449
[A6215] Crime and Society [Kelesha NEVERS] 春学期授業/Spring	450
[A6219] Media Effects [Zeliha MUGE IGARASHI] 春学期授業/Spring	451
[A6223] Asian Popular Culture [Stevie Tongshun SUAN] 春学期授業/Spring	452
[A6224] Japanese Popular Culture [Akiko MIZOGUCHI] 春学期授業/Spring	453
[A6225] Music and Culture [Cathy Lynn COX] 秋学期授業/Fall	454
[A6226] Performance Studies [Stevie Tongshun SUAN] 春学期授業/Spring	455
[A6229] Digital Writing and Publication [Mark James BIRTLES] 春学期授業/Spring	456
[A6230] Digital Writing and Publication [Mark James BIRTLES] 秋学期授業/Fall	457
[A6239] Applied Psychology [Sayaka AOKI] 春学期授業/Spring	458
[A6243] Macroeconomics II [Alberto J Iniguez M] 秋学期授業/Fall	459
[A6244] Microeconomics II [Maymay HO] 秋学期授業/Fall	460
[A6250] Teaching Pronunciation [Katsuya YOKOMOTO] 春学期授業/Spring	461
[A6251,A6527] Semantics and Pragmatics [Nobumi NAKAI] 秋学期授業/Fall	462
[A6254,A6557] Psycholinguistics [Mako ISHIDA] 秋学期授業/Fall	463
[A6259] Topics in Applied Linguistics A: Linguistic Landscapes [Chie SAITO] 秋学期授業/Fall	464
[A6262] Business Negotiation [Akio YAMAMOTO] 春学期授業/Spring	465
[A6263] General Topics II: Business Ethics [Maymay HO] 秋学期授業/Fall	466
[A6264] Organizational Behavior [Junko SHIMAZOE] 春学期授業/Spring	467
[A6269] Marketing Research [Kayhan TAJEDDINI] 秋学期授業/Fall	468
[A6272] Entrepreneurship and New Ventures [Sean MICHAEL HACKETT] 秋学期授業/Fall	469
[A6273] Creative Industries [Stevie Tongshun SUAN] 秋学期授業/Fall	471
[A6274] Tourism Development in Japan [John MELVIN] 春学期授業/Spring	472
[A6279] English Teaching in Primary School [Machiko KOBORI] 秋学期授業/Fall	473
[A6283] Political Theory [Kazuhiro WATANABE] 秋学期授業/Fall	474
[A6284] Japanese Politics [Jeffrey JAMES HALL] 春学期授業/Spring	475
[A6285] American Politics and Foreign Policy [Jeffrey JAMES HALL] 秋学期授業/Fall	476
[A6290] Religion and Politics [Christopher KAVANAGH] 秋学期授業/Fall	477
[A6292] International Organizations [Ayako KOBAYASHI] 秋学期授業/Fall	478
[A6297] Development Economies [Upalat KORWATANASAKUL] 春学期授業/Spring	479
[A6298] Environment and Development [Gregory TOTH] 春学期授業/Spring	480
[A6299] Society and Environmental Change [Ayami OTSUKA] 秋学期授業/Fall	481
[A6306] Readings in Philosophy [Robert SINCLAIR] 春学期授業/Spring	482
[A6310] Art in the Real World [Suzanne Carol MOONEY] 春学期授業/Spring	483
[A6311] Film Studies [Andree LAFONTAINE] 春学期授業/Spring	484
[A6318] Social Theory: Perspectives on Inequality [Yuki NAKAMURA] 秋学期授業/Fall	485
[A6320] Migration and Diaspora [Chris Hyunkyu PARK] 秋学期授業/Fall	486
[A6323] Special Topics I: Photography and Culture [Gary MCLEOD] 春学期授業/Spring	487
[A6325] Comparative Media [Stevie Tongshun SUAN] 春学期授業/Spring	488
[A6326] Media and Globalization [Stevie Tongshun SUAN] 秋学期授業/Fall	489
[A6327] Media and the Nation [Stevie Tongshun SUAN] 春学期授業/Spring	490
[A6328] Media Research [Kukhee Choo] 春学期授業/Spring	491
[A6329] Impact of Artificial Intelligence [Maymay HO] 春学期授業/Spring	492
[A6333] Community Psychology [Toshiaki SASAO] 春学期授業/Spring	493
[A6334] Clinical Psychology [Keiko ITO] 秋学期授業/Fall	494
[A6335] Psychology of Morality [Christopher KAVANAGH] 秋学期授業/Fall	495
[A6339,A6533] Syntactic Theory [Peter EVANS] 春学期授業/Spring	496
[A6340] Morphology: Building Words [Peter EVANS] 春学期授業/Spring	497
[A6342] English in Asia [Megumi KOBAYASHI] 秋学期授業/Fall	499
[A6343] Language Policy [Geraldo FARIA] 秋学期授業/Fall	500
[A6347] International Economics [Ayako SAIKI] 春学期授業/Spring	501
[A6348] International Finance [Ayako SAIKI] 秋学期授業/Fall	503
[A6352] Supply Chain Management [Kayhan TAJEDDINI] 秋学期授業/Fall	505
[A6356] Cultural Tourism [John MELVIN] 秋学期授業/Fall	506

[A6359] English Teaching in Primary School: Advanced [Tomoko SHIGYO] 春学期授業/Spring	507
[A6364] Advanced Comparative Politics [Nathan GILBERT QUIMPO] 春学期授業/Spring	508
[A6365] Globalization and Political Change [Jenny De Asis BALBOA] 秋学期授業/Fall	509
[A6366] Peace Building [Aigul KULNAZAROVA] 春学期授業/Spring	511
[A6369] International Development Policy [Ippeita NISHIDA] 春学期授業/Spring	513
[A6370] International Environmental Policy [Gregory TOTH] 秋学期授業/Fall	514
[A6371] Global Political Economy [Nathalie CAVASIN] 春学期授業/Spring	515
[A6374] International Law [Kiyoshi ADACHI] 春学期授業/Spring	517
[A6375] Law in a Globalizing World [Gregory TOTH, Kelesha NEVERS] 春学期授業/Spring	519
[A6378] Financial Statement Analysis [Maymay HO] 春学期授業/Spring	520
[A6379] Advanced Accounting [Noriaki OKAMOTO] 春学期授業/Spring	521
[A6380,A6555] Stock Investment [EYO Shiao Jia] 秋学期授業/Fall	522
[A6401,A6402] Seminar: British Culture and Literature I [Mitsutoshi SOMURA] 春学期授業/Spring	523
[A6403,A6404] Seminar: British Culture and Literature II [Mitsutoshi SOMURA] 秋学期授業/Fall	524
[A6405,A6406] Seminar: Diversity of English I [Yutai WATANABE] 春学期授業/Spring	525
[A6407,A6408] Seminar: Diversity of English II [Yutai WATANABE] 秋学期授業/Fall	526
[A6409,A6410] Seminar: Language Teaching and Learning I [Machiko KOBORI] 春学期授業/Spring	527
[A6411,A6412] Seminar: Language Teaching and Learning II [Machiko KOBORI] 秋学期授業/Fall	528
[A6413,A6414] Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I [Diana KHOR] 春学期授業/Spring	529
[A6415,A6416] Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II [Diana KHOR] 秋学期授業/Fall	530
[A6417,A6418] Seminar: Self and Culture I [Yu NIIYA] 春学期授業/Spring	531
[A6419,A6420] Seminar: Self and Culture II [Yu NIIYA] 秋学期授業/Fall	532
[A6421,A6422] Seminar: International Relations I [TAKESHI YUZAWA] 春学期授業/Spring	533
[A6423,A6424] Seminar: International Relations II [TAKESHI YUZAWA] 秋学期授業/Fall	534
[A6425,A6426] Seminar: Tourism Management I [John MELVIN] 春学期授業/Spring	535
[A6427,A6428] Seminar: Tourism Management II [John MELVIN] 秋学期授業/Fall	536
[A6429,A6430] Seminar: Entrepreneurship & Innovation I [EYO Shiao Jia] 春学期授業/Spring	537
[A6431,A6432] Seminar: Entrepreneurship & Innovation II [EYO Shiao Jia] 秋学期授業/Fall	538
[A6433,A6434] Seminar: Global Strategic Management I [Takamasa FUKUOKA] 春学期授業/Spring	539
[A6435,A6436] Seminar: Global Strategic Management II [Sairan HAYAMA] 秋学期授業/Fall	540
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 [B1010] 開発と国際協力 [浅川 英理子、小野澤 雅人] 秋学期授業/Fall	541
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 [B1010] 開発と国際協力 [浅川 英理子、小野澤 雅人] 秋学期授業/Fall	542
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 [B1010] 開発と国際協力 [浅川 英理子、小野澤 雅人] 秋学期授業/Fall	543
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_人文分野 [B1012] 文化と文明 [小林 信也] 秋学期授業/Fall	544
建築学科_基盤科目_人文社会系_人文分野 [B1012] 文化と文明 [小林 信也] 秋学期授業/Fall	545
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_人文分野 [B1012] 文化と文明 [小林 信也] 秋学期授業/Fall	546
建築学科_基盤科目_総合系_環境分野 [B1018] 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	547
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_環境分野 [B1018] 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	548
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_環境分野 [B1019] 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	549
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 [B1268] ジオロジカルエンジニアリング [山本 浩之] 秋学期授業/Fall	550
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_デザイン分野 [B2005] デザイン文化論 [辻村 亮子] 春学期授業/Spring	552
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野 [B2005] デザイン文化論 [辻村 亮子] 春学期授業/Spring	553
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_デザイン分野 [B2005] デザイン文化論 [辻村 亮子] 春学期授業/Spring	554
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 [B2007] 色彩論 [大高 知子] 秋学期授業/Fall	555
建築学科_外国語科目_英語以外 [B2050] 英語表現技術 [ペイカー ダンカン] 秋学期前半/Fall(1st half)	557
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語以外 [B2050] 英語表現技術 [ペイカー ダンカン] 秋学期前半/Fall(1st half)	558
システムデザイン学科_外国語科目_英語以外 [B2050] 英語表現技術 [ペイカー ダンカン] 秋学期前半/Fall(1st half)	559
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 [B2054] 地図とGIS [丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一] 春学期後半/Spring(2nd half)	560
建築学科_専門科目_基礎科目 [B2054] 地図とGIS [丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一] 春学期後半/Spring(2nd half)	561
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 [B2054] 地図とGIS [丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一] 春学期後半/Spring(2nd half)	562
建築学科_専門科目_基礎科目 [B2055] 都市・地域政策 [土屋 愛自] 春学期前半/Spring(1st half)	563

都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B2055】 都市・地域政策 [土屋 愛自] 春学期前半/Spring(1st half) .	564
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2055】 都市・地域政策 [土屋 愛自] 春学期前半/Spring(1st half)...	565
建築学科_専門科目_展開科目 【B2056】 公共空間デザイン及演習 (2020年度休講) [竹内 豪、下吹越 武人、佐藤 康三、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登] 秋学期授業/Fall	566
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B2056】 公共空間デザイン及演習 (2020年度休講) [竹内 豪、下吹越 武人、佐藤 康三、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登] 秋学期授業/Fall	567
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2056】 公共空間デザイン及演習 (2020年度休講) [竹内 豪、下吹越 武人、佐藤 康三、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登] 秋学期授業/Fall	568
建築学科_基礎科目_総合系_デザイン分野 【B2057】 デザイン思想史概論 (2019年度以降入学生) [高橋 美礼] 秋学期授業/Fall	569
都市環境デザイン工学科_基礎科目_総合系_デザイン分野 【B2057】 デザイン思想史概論 (2019年度以降入学生) [高橋 美礼] 秋学期授業/Fall	570
システムデザイン学科_基礎科目_総合系_デザイン分野 【B2057】 デザイン思想史概論 (2019年度以降入学生) [高橋 美礼] 秋学期授業/Fall	571
建築学科_専門科目_導入科目 【B2151】 建築のしくみ [安藤 直見] 秋学期授業/Fall	572
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2345】 デザイン理論 (SD) [秋元 淳] 秋学期授業/Fall	574
建築学科_専門科目_基礎科目 【B2401】 建築生理心理1 [川久保 俊] 春学期授業/Spring	576
システムデザイン学科_専門科目_特別科目 【B2414】 Design Basics in English [ディン ポリバン] 秋学期授業/Fall	577
都市環境デザイン工学科_専門科目_特別科目 【B2414】 Design Basics in English [ディン ポリバン] 秋学期授業/Fall	578
建築学科_専門科目_特別科目 【B2414】 Design Basics in English [ディン ポリバン] 秋学期授業/Fall	579
都市環境デザイン工学科_基礎科目_理工系_自然科学分野 【B2505】 数値計算法 [酒井 久和] 春学期授業/Spring ..	580
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2633】 インタフェースデザイン [土屋 雅人] 秋学期前半/Fall(1st half)	581
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2638】 材料と構造のデザイン [竹内 則雄] 秋学期後半/Fall(2nd half)	582
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2639】 熱と流れのデザイン (2020年度休講) [田中 豊] 春学期前半/Spring(1st half)	583
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2640】 オペレーションズリサーチ [野々部 宏司] 秋学期前半/Fall(1st half)	585
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2668】 デザインケーススタディ [佐藤 康三、土屋 雅人] 秋学期授業/Fall	586
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2671】 情報システムデザイン [田岡 賢輔] 秋学期授業/Fall	588
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2708】 プロダクトデザイン理論 [佐藤 康三] 春学期前半/Spring(1st half)	589
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2726】 メカニカルデザイン (2019年度以降入学生) [山田 泰之] 春学期後半/Spring(2nd half)	590
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2734】 スマートマシンデザイン (2019年度以降入学生) (2021年度開講) [梅舘 拓也] 秋学期前半/Fall(1st half)	591
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2735】 ゲームプログラミング (2019年度以降入学生) (2021年度開講) [岩月 正見] 春学期前半/Spring(1st half)	592
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2737】 AR プログラミング (2019年度以降入学生) (2021年度開講) [岩月 正見] 春学期後半/Spring(2nd half)	593
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3001】 サステナブルデザイン [出口 清孝] 秋学期後半/Fall(2nd half)	594
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3001】 サステナブルデザイン [出口 清孝] 秋学期後半/Fall(2nd half)	595
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3001】 サステナブルデザイン [出口 清孝] 秋学期後半/Fall(2nd half)	596
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3007】 福祉工学 (デザイン工) [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	597
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3007】 福祉工学 (デザイン工) [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	598
建築学科_専門科目_展開科目 【B3007】 福祉工学 (デザイン工) [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	599
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [小木曾 裕] 春学期授業/Spring	600
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [小木曾 裕] 春学期授業/Spring .	602
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [小木曾 裕] 春学期授業/Spring ...	604
建築学科_専門科目_展開科目 【B3011】 建築フォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人] 秋学期授業/Fall	606
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3013】 環境工学 [出口 清孝] 春学期授業/Spring	607
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3013】 環境工学 [出口 清孝] 春学期授業/Spring	608
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3013】 環境工学 [出口 清孝] 春学期授業/Spring	609
都市環境デザイン工学科_基礎科目_総合系_情報分野 【B3016】 数理統計学 [牧野 倫子] 春学期授業/Spring	610
建築学科_基礎科目_総合系_情報分野 【B3016】 数理統計学 [牧野 倫子] 春学期授業/Spring	611

システムデザイン学科_基盤科目_総合系_情報分野 【B3016】 数理統計学 [牧野 倫子] 春学期授業/Spring	612
建築学科_専門科目_展開科目 【B3017】 タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自] 秋学期前半/Fall(1st half)	613
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3017】 タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自] 秋学期前半/Fall(1st half)	614
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3017】 タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自] 秋学期前半/Fall(1st half)	615
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3018】 マテリアルサイエンス [伊崎 健晴] 年間授業/Yearly	616
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3018】 マテリアルサイエンス [伊崎 健晴] 年間授業/Yearly	617
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3018】 マテリアルサイエンス [伊崎 健晴] 年間授業/Yearly	618
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3406】 西洋建築史 [稲益 祐太] 春学期授業/Spring	619
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3409】 日本建築史 [高村 雅彦] 秋学期授業/Fall	620
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3410】 建築計画 1 [岩佐 明彦] 春学期授業/Spring	621
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3411】 建築計画 2 [岩佐 明彦] 秋学期授業/Fall	622
建築学科_専門科目_展開科目 【B3417】 木造建築の構法 [網野 禎昭] 秋学期授業/Fall	623
建築学科_専門科目_展開科目 【B3427】 空間の構造デザイン [浜田 英明] 春学期授業/Spring	624
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3436】 建築生理心理 2 [川久保 俊] 秋学期授業/Fall	625
建築学科_専門科目_展開科目 【B3438】 光・視環境 [出口 清孝] 春学期授業/Spring	626
建築学科_専門科目_展開科目 【B3439】 音・振動環境 [川久保 俊] 秋学期授業/Fall	627
建築学科_専門科目_展開科目 【B3540】 都市建築史 (2019年度以降入学生) (2021年度開講) [高村 雅彦] 春学期授業/Spring	628
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B3697】 バイオ・ケミカルエンジニアリング (2019年度以降入学生) [大山 聖一、小林 卓也] 秋学期授業/Fall	629
システムデザイン学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B3698】 バイオ・ケミカルエンジニアリング (2019年度以降入学生) [大山 聖一、小林 卓也] 秋学期授業/Fall	630
建築学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B3698】 バイオ・ケミカルエンジニアリング (2019年度以降入学生) [大山 聖一、小林 卓也] 秋学期授業/Fall	631
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B3699】 生態学概論 (2019年度以降入学生) [西廣 美穂] 秋学期授業/Fall	632
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3809】 メカトロニクス [木村 文信] 秋学期後半/Fall(2nd half)	633
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3812】 システム工学 [森 健一郎] 春学期後半/Spring(2nd half)	634
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3816】 素材と機能 [中丸 啓] 秋学期前半/Fall(1st half)	636
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3825】 コストマネジメント [飯塚 隼光] 秋学期授業/Fall	638
建築学科_専門科目_展開科目 【B3830】 品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall	639
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3830】 品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall	640
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3830】 品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall	641
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3831】 プロジェクトマネジメント (SD) [村上 季史、永田 義昭] 春学期授業/Spring	642
【C0200】 国際文化情報学の展開 [松本 悟] 春学期授業/Spring	644
【C0210】 統計処理法 [吉田 一星] 春学期授業/Spring	646
【C0211】 システム論 [甲 洋介] 春学期授業/Spring	647
【C0212】 デジタル情報学概論 [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	648
【C0213】 文化情報学概論 [森村 修] 春学期授業/Spring	649
【C0214】 情報産業論 [鏡 明彦] 春学期授業/Spring	651
【C0215】 ネット文化論 [神戸 雅一] 秋学期授業/Fall	653
【C0220】 表象文化概論 [竹内 晶子、林 志津江、深谷 公宣、島田 雅彦] 春学期授業/Spring	654
【C0221】 メディアと情報 [君塚 洋一] 春学期授業/Spring	655
【C0222】 社会と美術 [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	656
【C0223】 メディアと社会 [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	658
【C0224】 身体表象論 [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	660
【C0230】 比較文化 [竹内 晶子] 春学期授業/Spring	661
【C0232】 現代思想 [森村 修] 秋学期授業/Fall	662
【C0234】 異文化間コミュニケーション [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	664
【C0235】 国際関係学概論Ⅰ [今泉 裕美子] 春学期授業/Spring	666
【C0236】 国際関係学概論Ⅱ [今泉 裕美子] 秋学期授業/Fall	668
【C0241】 国家と民族 [石森 大知] 春学期授業/Spring	670
【C0300】 世界の言語Ⅰ [興石 哲哉] 春学期授業/Spring	671
【C0302】 世界の英語 [小中原 麻友] 春学期授業/Spring	672

【C0432】	メディア表現法〔菊池 司〕春学期授業/Spring	674
【C0433】	プログラミング言語基礎〔和泉 順子〕春学期授業/Spring	676
【C0434】	仮想世界研究〔甲 洋介〕春学期授業/Spring	677
【C0437】	社会とデータサイエンス〔和泉 順子〕春学期授業/Spring	678
【C0438】	道具による感覚・体験のデザイン〔甲 洋介〕春学期授業/Spring	679
【C0439】	メディアアートの世界〔菊池 司〕春学期授業/Spring	680
【C0535】	英語アプリケーションⅥ〔ラスカイル L. ハウザー〕春学期授業/Spring	681
【C0715】	スペイン語アプリケーション〔OSNO I DE SASAKUBO H〕春学期授業/Spring	682
【C0716】	スペイン語アプリケーション〔OSNO I DE SASAKUBO H〕春学期授業/Spring	683
【C0720】	スペイン語アプリケーション〔OSNO I DE SASAKUBO H〕秋学期授業/Fall	684
【C0721】	スペイン語アプリケーション〔OSNO I DE SASAKUBO H〕秋学期授業/Fall	685
【C0770】	情報コミュニケーションⅠ〔甲 洋介〕春学期授業/Spring	686
【C0771】	情報コミュニケーションⅡ〔和泉 順子〕春学期授業/Spring	687
【C0772】	情報コミュニケーションⅢ〔稲垣 立男〕春学期授業/Spring	688
【C0773】	情報アプリケーションⅠ〔重定 如彦〕秋学期授業/Fall	690
【C0800】	こころの科学〔甲 洋介〕春学期授業/Spring	691
【C0801】	ゲーム構築論〔重定 如彦〕春学期授業/Spring	692
【C0802】	こころとからだの現象学〔森村 修〕秋学期授業/Fall	693
【C0810】	道具のデザイン学〔甲 洋介〕春学期授業/Spring	694
【C0813】	情報セキュリティとプライバシー〔和泉 順子〕秋学期授業/Fall	695
【C0814】	文化と生物〔島野 智之、岡西 政典、川上 裕司、松崎 素道、黒沼 真由美〕秋学期授業/Fall	696
【C0815】	文化と環境情報〔島野 智之、佐々木 美貴、中西 由季子、忽那 賢志、塚田 訓久〕秋学期授業/Fall	697
【C0830】	コネクション・デザイン〔川村 たつる〕秋学期授業/Fall	699
【C0831】	情報の編集論〔川村 たつる〕春学期授業/Spring	700
【C0832】	文化情報の哲学〔森村 修〕春学期授業/Spring	701
【C0833】	ソーシャル・プラクティス〔稲垣 立男〕秋学期授業/Fall	702
【C0850】	パフォーマンスの美学〔森村 修〕秋学期授業/Fall	704
【C0852】	サブカルチャー論〔島田 雅彦〕春学期授業/Spring	705
【C0861】	メディア表現ワークショップ1〔稲垣 立男〕春学期授業/Spring	706
【C0862】	メディア表現ワークショップ2〔島田 雅彦〕秋学期授業/Fall	707
【C0864】	五感共生論〔川村 たつる〕秋学期授業/Fall	708
【C0870】	映像文化論〔岡村 民夫〕秋学期授業/Fall	709
【C0871】	写真論〔丹羽 晴美〕秋学期授業/Fall	710
【C0880】	演劇論〔竹内 晶子〕春学期授業/Spring	711
【C0883】	空間デザイン論〔前田 尚武〕秋学期授業/Fall	712
【C0900】	世界の中の日本文学〔岩川 ありさ〕春学期授業/Spring	713
【C0902】	世界とつながる地域の歴史と文化〔高柳 俊男〕春学期授業/Spring	714
【C0945】	スペイン語圏の文化Ⅰ〔久木 正雄〕春学期授業/Spring	716
【C0964】	英語圏の文化Ⅴ（文学と社会Ⅱ）〔北 文美子〕秋学期授業/Fall	717
【C1011】	異文化と身体表現〔深谷 公宣〕春学期授業/Spring	718
【C1045】	人の移動と国際関係Ⅲ（アジア・太平洋）〔村川 庸子〕秋学期授業/Fall	719
【C1060】	インターンシップ事前学習〔石森 大知、北 文美子〕春学期授業/Spring	720
【C1501】	デジタル情報学概論〔重定 如彦〕秋学期授業/Fall	722
【C1502】	仮想世界研究〔甲 洋介〕春学期授業/Spring	723
【C1503】	文化情報学概論〔森村 修〕春学期授業/Spring	724
【C2002】	民事法Ⅰ〔中川 義宏〕春学期授業/Spring	725
【C2003】	民事法Ⅱ〔中川 義宏〕秋学期授業/Fall	726
【C2012】	刑法の基礎〔渡辺 靖明〕春学期授業/Spring	727
【C2016】	環境法Ⅳ〔今井 康介〕秋学期授業/Fall	728
【C2019】	労働環境法〔水野 圭子〕春学期授業/Spring	729
【C2020】	自治体環境政策論Ⅰ〔小島 聡〕春学期授業/Spring	730
【C2021】	自治体環境政策論Ⅱ〔小島 聡〕秋学期授業/Fall	731
【C2024】	エネルギー政策論〔菊地 昌廣〕春学期授業/Spring	732
【C2025】	地球環境政治論〔横田 匡紀〕春学期授業/Spring	733
【C2104】	現代企業論〔長谷川 直哉〕春学期授業/Spring	734
【C2106】	経営学入門〔金藤 正直〕春学期授業/Spring	735
【C2107】	環境経営と会計〔金藤 正直〕秋学期授業/Fall	736

【C2108】公共経済学〔小田 圭一郎〕秋学期授業/Fall	737
【C2126】環境ビジネス論〔竹ヶ原 啓介〕秋学期授業/Fall	738
【C2203】NPO・ボランティア論〔新田 英理子〕秋学期授業/Fall	739
【C2212】地域福祉論〔宮脇 文恵〕春学期授業/Spring	740
【C2213】地域コモンズ論〔船戸 修一〕秋学期授業/Fall	741
【C2223】NGO活動論〔小野 行雄〕春学期授業/Spring	742
【C2228】科学技術社会論〔詫間 直樹〕秋学期授業/Fall	743
【C2229】社会開発論〔新村 恵美〕秋学期授業/Fall	744
【C2302】日本詩歌の伝統〔日原 傳〕春学期授業/Spring	745
【C2303】比較演劇論Ⅰ〔平野井 ちえ子〕春学期授業/Spring	746
【C2304】比較演劇論Ⅱ〔平野井 ちえ子〕秋学期授業/Fall	747
【C2316】環境人類学Ⅰ〔高橋 五月〕春学期授業/Spring	748
【C2317】環境人類学Ⅱ〔高橋 五月〕秋学期授業/Fall	749
【C2400】サイエンスカフェⅠ〔石井 利典〕春学期授業/Spring	750
【C2401】サイエンスカフェⅡ〔宮川 路子〕秋学期授業/Fall	751
【C2402】サイエンスカフェⅢ〔高田 雅之〕春学期授業/Spring	752
【C2411】気候変動論Ⅰ〔松本 倫明〕春学期授業/Spring	753
【C2412】気候変動論Ⅱ〔松本 倫明〕秋学期授業/Fall	754
【C2413】自然環境政策論Ⅰ〔高田 雅之〕春学期授業/Spring	755
【C2414】自然環境政策論Ⅱ〔高田 雅之〕秋学期授業/Fall	756
【C2419】衛生・公衆衛生学Ⅰ〔宮川 路子〕春学期授業/Spring	757
【C2420】衛生・公衆衛生学Ⅱ〔宮川 路子〕秋学期授業/Fall	758
【C2421】衛生・公衆衛生学Ⅲ〔宮川 路子〕春学期授業/Spring	759
【C2432】自然災害論〔杉戸 信彦〕秋学期授業/Fall	760
【C2433】自然環境論Ⅳ〔高田 雅之〕秋学期授業/Fall	761
【C2504】キャリア入門〔長峰 登記夫〕春学期授業/Spring	762
【C2505】食と農の環境学Ⅰ〔西川 邦夫〕春学期授業/Spring	763
【C2506】食と農の環境学Ⅱ〔湯澤 規子〕春学期授業/Spring	764
【C2507】食と農の環境学Ⅲ〔湯澤 規子〕秋学期授業/Fall	765
基幹科目_選択 【C7080】労働法〔砂押 以久子〕秋学期	766
基幹科目_選択 【C7081】ファシリテーション論〔鈴木 まり子〕春学期	767
基幹科目_選択 【C7082】若者の自立支援〔大山 宏〕秋学期	769
基幹科目_選択 【C7083】職業選択論Ⅰ〔上西 充子〕春学期	770
基幹科目_選択 【C7084】ライフコース論〔高崎 美佐〕秋学期	771
基幹科目_選択 【C7085】生活設計論Ⅰ（社会保障）〔上田 将史〕春学期	772
基幹科目_選択 【C7086】生活設計論Ⅱ（生活設計）〔林 奈生子〕秋学期	773
基幹科目_選択 【C7087】キャリアモデル・ケーススタディ〔熊谷 智博〕秋学期	774
基幹科目_選択 【C7088】キャリアモデル・ケーススタディ〔梅崎 修〕春学期	775
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育 【C7152】外書講読A（発達・教育）〔福田 紀子〕春学期	776
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育 【C7153】外書講読B（発達・教育）〔長岡 智寿子〕春学期	778
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育 【C7154】生涯発達心理学Ⅰ〔松浦 千春〕春学期	779
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育 【C7155】生涯発達心理学Ⅱ〔廣川 進〕秋学期	780
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育 【C7156】臨床教育相談論Ⅰ〔飯野 雄大〕春学期	781
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育 【C7157】臨床教育相談論Ⅱ〔飯野 雄大〕秋学期	782
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育 【C7158】キャリアカウンセリングⅠ〔廣川 進〕春学期	783
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育 【C7159】キャリアカウンセリングⅡ〔高橋 浩〕秋学期	784
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育 【C7160】キャリアカウンセリングⅢ（ケーススタディ）〔宮脇 優子〕秋学期	785
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育 【C7173】学校論Ⅰ（キャリア形成）〔松尾 知明〕春学期	786
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育 【C7174】学校論Ⅱ（キャリア形成）〔大塚 類〕秋学期	787
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育 【C7175】学校論Ⅲ（キャリア教育）〔児美川 孝一郎〕春学期	788
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育 【C7176】学校論Ⅳ（キャリア教育）〔寺崎 里水〕秋学期	789
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育 【C7187】メディア教育論Ⅰ〔村上 郷子〕春学期	790
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育 【C7188】メディア教育論Ⅱ〔村上 郷子〕秋学期	791
【C7189】【2013 以前入学生用】教育マネジメントⅠ〔福嶋 真治〕春学期	792
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育 【C7189】【2014 以降入学生用】教育マネジメントⅠ〔福嶋 真治〕春学期	793
【C7190】【2013 以前入学生用】教育マネジメントⅡ〔福嶋 真治〕秋学期	794
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育 【C7190】【2014 以降入学生用】教育マネジメントⅡ〔福嶋 真治〕秋学期	795

展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7191】教育政策[村上 純一] 秋学期	796
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7192】現代教育思想[岩本 俊一] 秋学期	797
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7193】生涯学習論Ⅲ(成人教育論Ⅰ)[森本 扶] 春学期	798
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7194】生涯学習論Ⅳ(成人教育論Ⅱ)[朝岡 幸彦] 秋学期	799
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7195】学習の社会史A[山口 真里] 秋学期	800
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7196】学習の社会史B[寺崎 里水] 春学期	801
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7197】教育社会学Ⅰ[筒井 美紀] 春学期	802
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7198】教育社会学Ⅱ[筒井 美紀] 秋学期	803
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7199】教育経済学[荒木 宏子] 秋学期	804
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7252】外書講読A(ビジネス)[中野 貴之] 秋学期	805
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7253】外書講読B(ビジネス)[杉原 弘恭] 春学期	806
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7254】職業選択論Ⅱ[上西 充子] 秋学期	807
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7255】人材育成論Ⅰ[西村 純] 春学期	808
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7256】人材育成論Ⅱ[池田 心豪] 秋学期	809
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7257】産業・組織心理学Ⅰ[坂爪 洋美] 春学期	810
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7258】産業・組織心理学Ⅱ[坂爪 洋美] 秋学期	811
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7259】キャリア開発論[武石 恵美子] 春学期	812
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7260】リーダーシップ論[佐野 達] 秋学期	813
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7261】経営統計論A(心理データ)[北村 康宏] 春学期	814
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7262】企業会計論[松本 徹] 春学期	815
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7263】経営統計論B(企業データ)[中野 貴之] 秋学期	816
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7264】経営組織論Ⅰ[梅木 眞] 春学期	817
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7265】経営組織論Ⅱ[梅木 眞] 秋学期	818
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7266】戦略経営論Ⅰ[木村 琢磨] 春学期	819
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7267】戦略経営論Ⅱ[堀田 治] 秋学期	820
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7268】経営分析論Ⅰ[中野 貴之] 春学期	821
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7269】経営分析論Ⅱ[中野 貴之] 秋学期	822
	【C7270】【2013 以前入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅰ[松本 真尚、田口 香織、市川 大樹] 春学期	823
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7270】【2014 以降入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅰ[松本 真尚、田口 香織、市川 大樹] 春学期	824
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7271】【2014 以降入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅱ[松本 真尚、田口 香織、市川 大樹] 秋学期	825
	【C7271】【2013 以前入学生用】アントレプレナーシップ論Ⅱ[松本 真尚、田口 香織、市川 大樹] 秋学期	826
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7272】職業キャリア論[松浦 民恵] 春学期	827
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7273】労働経済学[梅崎 修] 春学期	828
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7274】シティズンシップ論[榎並 利博] 春学期	829
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7275】生産システム論[小林 哲也] 秋学期	830
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7276】国際経営論[森 直子] 春学期	831
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7277】日本経済論秋学期	832
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7278】産業論[青木 成樹] 秋学期	833
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7280】マーケティング論[酒井 理] 春学期	835
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7281】流通・マーケティング戦略論[小川 浩孝] 春学期	836
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7282】流通・サービスビジネス論[酒井 理] 春学期	837
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7283】就業機会発見実務[田辺 康広] 春学期	838
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7302】外書講読A(ライフ)[門脇 仁] 春学期	839
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7303】外書講読B(ライフ)[門脇 仁] 秋学期	840
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7304】コミュニティ社会論Ⅰ[佐藤 恵] 春学期	841
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7305】コミュニティ社会論Ⅱ[佐藤 恵] 秋学期	842
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7306】家族論[齋藤 嘉孝] 春学期	843
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7307】若者文化論[玉川 博章] 春学期	844
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7308】世代間交流論[安田 節之] 秋学期	845
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7309】身体表現論[叶 雄大] 春学期授業/Spring	846
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7310】地域文化論[緑川 岳志] 秋学期	847
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7311】アイデンティティ論[熊谷 智博] 春学期	848
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7312】余暇集団論[熊谷 智博] 春学期	849
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7313】NPO論[山口 佳子] 秋学期	850
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7314】公共サービス論[前浦 穂高] 秋学期	851

展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7315】	アート・マネジメント論 [山口 佳子] 春学期	852
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7316】	文化経営論 [武田 知也] 秋学期	853
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7317】	メディア文化論 [堤 信子] 秋学期	854
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7318】	文化マーケティング論 [横石 崇] 春学期	855
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7319】	ブランド創造論 [石原 篤] 春学期	856
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7320】	産業文化論 [上原 義子] 秋学期	857
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7324】	多文化社会論Ⅰ [小田 昌教] 春学期	858
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7325】	多文化社会論Ⅱ [金 泰植] 春学期	860
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7326】	多文化社会論Ⅲ [加藤 丈太郎] 春学期	861
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7327】	アジア社会論Ⅰ [趙 宏偉] 春学期	863
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7328】	アジア社会論Ⅱ [趙 宏偉] 秋学期	864
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7329】	国際関係論Ⅰ [趙 宏偉] 春学期	865
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7330】	国際関係論Ⅱ [趙 宏偉] 秋学期	866
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7331】	国際地域研究Ⅰ [福井 令恵] 春学期	867
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7332】	国際地域研究Ⅱ [福井 令恵] 秋学期	868
	【C7351】	【2013 以前入学生用】職業能力ベーシックスキルⅠ [島村 泰子] 春学期	869
展開科目_総合	【C7351】	【2014 以降入学生用】職業能力ベーシックスキルⅠ [島村 泰子] 春学期	870
	【C7352】	【2013 以前入学生用】職業能力ベーシックスキルⅡ [島村 泰子] 秋学期	871
展開科目_総合	【C7352】	【2014 以降入学生用】職業能力ベーシックスキルⅡ [島村 泰子] 秋学期	872
関連科目	【C7700】	国際コミュニケーション語学(英語Ⅰ) [Robert Durham] 春学期	873
関連科目	【C7701】	国際コミュニケーション語学(英語Ⅱ) [Robert Durham] 秋学期	875
関連科目	【C7702】	国際コミュニケーション語学(英語Ⅲ)/Foreign Language Exercise (English Ⅲ)	
	※GO科目 [Kregg Johnston]	春学期	876
関連科目	【C7703】	国際コミュニケーション語学(英語Ⅳ)/Foreign Language Exercise (English Ⅳ)	
	※GO科目 [Kregg Johnston]	秋学期	877
関連科目	【C7704】	国際コミュニケーション語学(英語Ⅴ)/Foreign Language Exercise (English Ⅴ)	
	※GO科目 [Kregg Johnston]	春学期	878
関連科目	【C7710】	就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合- [梅崎 修、上西 充子] 秋学期	879
関連科目	【C7711】	就業応用力養成Ⅰ [鈴木 美伸] 春学期	880
関連科目	【C7712】	就業応用力養成Ⅱ [鈴木 美伸] 秋学期	882
応用情報工学科_学科専門科目	【H4036】	数論 [安田 幹] 春学期授業/Spring	884
応用情報工学科_学科専門科目	【H4043】	プログラミング言語 J A V A [藤浦 豊徳] 春学期授業/Spring	885
応用情報工学科_学科専門科目	【H4044】	プログラミング言語 J A V A [藤浦 豊徳] 春学期授業/Spring	886
創生科学科_学科専門科目	【H4065】	複素関数論 [西村 滋人] 春学期授業/Spring	887
機械工学科機械工学専修_学科専門科目	【H5149】	応用数学(機械) [清水 朝雄] 春学期授業/Spring	888
機械工学科機械工学専修_学科専門科目	【H5150】	応用解析(機械) [清水 朝雄] 秋学期授業/Fall	889
電気電子工学科_学科専門科目	【H5616】	複素関数論(電気) [塚田 和美] 春学期授業/Spring	890
電気電子工学科_学科専門科目	【H5650】	応用数学(電気) [鳥飼 弘幸] 春学期授業/Spring	891
電気電子工学科_学科専門科目	【H5652】	確率統計(電気) [斉藤 利通] 秋学期授業/Fall	892
電気電子工学科_学科専門科目	【H5662】	基礎数値解析 [堀端 康善] 秋学期授業/Fall	893
電気電子工学科_学科専門科目	【H5663】	応用物理学 [西村 征也] 春学期授業/Spring	894
応用情報工学科_学科専門科目	【H6154】	応用数学(情報) [陸名 雄一] 春学期授業/Spring	895
応用情報工学科_学科専門科目	【H6155】	応用解析(情報) [陸名 雄一] 秋学期授業/Fall	896
経営システム工学科_学科専門科目	【H6780】	複素関数論(経営) [神谷 亮] 秋学期授業/Fall	897
経営システム工学科_学科専門科目	【H6781】	数値解析(経営) [小林 健太] 秋学期授業/Fall	898
経営システム工学科_学科専門科目	【H6813】	応用数学(経営) [磯島 伸] 春学期授業/Spring	899
学部共通科目	【H7001】	グリーンケミストリ [渡邊 雄二郎] 春学期授業/Spring	900
学部共通科目	【H7006】	環境と人間 [越智 英輔、街 勝憲] 秋学期授業/Fall	901
学部共通科目	【H7007】	植物薬理学 [三富 正明] 秋学期授業/Fall	902
学部共通科目	【H7008】	物理学概論Ⅰ [金沢 育三] 春学期授業/Spring	903
学部共通科目	【H7009】	物理学概論ⅠⅠ [金沢 育三] 秋学期授業/Fall	904
学部共通科目	【H7010】	グリーンケミストリ [加藤 尚之] 春学期授業/Spring	905
学部共通科目	【H7011】	環境と人間 [長谷川 敬洋、平塚 二郎] 春学期授業/Spring	906
学部共通科目	【H7015】	物理学概論Ⅰ [金沢 育三] 春学期授業/Spring	908
学部共通科目	【H7016】	物理学概論ⅠⅠ [金沢 育三] 秋学期授業/Fall	909
学部共通科目	【H7017】	高分子化学 [渡辺 敏行] 秋学期授業/Fall	910
学部共通科目	【H7018】	環境安全化学 [大波 英幸、福島 由美子] 春学期授業/Spring	911

学部共通科目	【H7019】環境安全化学〔吉原 利一〕春学期授業/Spring	912
学部共通科目	【H7020】分析化学〔渡邊 雄二郎〕春学期授業/Spring	914
学部共通科目	【H7021】バイオエンジニアリング〔稲本 進〕秋学期授業/Fall	915
学部共通科目	【H7023】物質構造化学〔緒方 啓典〕秋学期授業/Fall	916
学部共通科目	【H7024】機器分析学〔古田 悦子〕秋学期授業/Fall	917
学部共通科目	【H7025】機器分析学〔黒田 裕、野口 恵一、加藤 敏代〕秋学期授業/Fall	918
学部共通科目	【H7031】バイオエンジニアリング〔萩原 知明〕秋学期授業/Fall	919
学部共通科目	【H7032】分析化学〔加治 大哉〕秋学期授業/Fall	920
学部共通科目	【H7033】物質機能化学〔緒方 啓典〕春学期授業/Spring	921
学部共通科目	【H7034】物質変換化学〔奥村 和〕春学期授業/Spring	922
学部共通科目	【H7035】物質循環化学〔明石 孝也〕秋学期授業/Fall	923
学部共通科目	【H7036】バイオマテリアル〔湯田坂 雅子〕秋学期授業/Fall	924
学部共通科目	【H7038】分子エレクトロニクス〔照井 通文〕春学期集中/Intensive(Spring)	925
学部共通科目	【H7040】蛋白工学〔常重 アントニオ〕秋学期授業/Fall	926
学部共通科目	【H7041】生物有機化学〔芝 清隆〕春学期授業/Spring	927
学部共通科目	【H7042】食品科学〔三浦 豊〕春学期授業/Spring	928
学部共通科目	【H7043】遺伝子工学〔佐藤 勉〕秋学期授業/Fall	929
生命機能学科_学科専門科目	【H7045】生体超分子〔曾和 義幸〕春学期授業/Spring	930
学部共通科目	【H7071】基礎有機化学 I〔河内 敦〕春学期授業/Spring	931
学部共通科目	【H7072】基礎有機化学 II〔河内 敦〕秋学期授業/Fall	932
学部共通科目	【H7073】応用環境化学〔渡邊 雄二郎〕秋学期授業/Fall	933
学部共通科目	【H7081】分子生物学 I〔佐藤 勉〕春学期授業/Spring	934
学部共通科目	【H7082】分子生物学 I〔片山 映〕春学期授業/Spring	935
学部共通科目	【H7083】分子生物学 II〔山本 兼由〕秋学期授業/Fall	936
学部共通科目	【H7084】分子生物学 II〔小見 美央〕秋学期授業/Fall	937
学部共通科目	【H7085】生物化学 I〔廣野雅文〕春学期授業/Spring	938
学部共通科目	【H7086】生物化学 I〔田島 寛隆〕春学期授業/Spring	939
学部共通科目	【H7087】蛋白質構造機能学 I〔廣野 雅文〕春学期授業/Spring	940
学部共通科目	【H7088】蛋白質構造機能学 II〔曾和 義幸〕秋学期授業/Fall	941
学部共通科目	【H7089】分子薬理学〔小藤 智史〕春学期授業/Spring	942
生命機能学科_学科専門科目	【H7090】構造生物学〔金丸 周司〕春学期授業/Spring	943
学部共通科目	【H7303】植物医科学概論〔鍵和田 聡、津田 新哉、石川 成寿、廣岡 裕史〕春学期授業/Spring	944
学部共通科目	【H7304】植物病学概論〔濱本 宏〕秋学期授業/Fall	945
学部共通科目	【H7305】植物分子細胞生物学〔鍵和田 聡〕秋学期授業/Fall	946
学部共通科目	【H7306】生物学概論 I〔清水 隆〕春学期授業/Spring	947
学部共通科目	【H7307】生物学概論 II〔清水 隆〕秋学期授業/Fall	948
生命機能学科_学科専門科目	【H7502】計算機科学概論 I〔内古閑 伸之〕春学期授業/Spring	949
生命機能学科_学科専門科目	【H7503】計算機科学概論 II〔内古閑 伸之〕秋学期授業/Fall	950
生命機能学科_学科専門科目	【H7509】発生生物学〔小林 麻己人、川岸 万紀子〕春学期集中/Intensive(Spring)	951
生命機能学科_学科専門科目	【H7512】物理化学概論 I〔見附 孝一郎〕春学期授業/Spring	952
生命機能学科_学科専門科目	【H7513】物理化学概論 II〔見附 孝一郎〕秋学期授業/Fall	953
生命機能学科_学科専門科目	【H7515】生理病理学〔丸井 朱里〕秋学期授業/Fall	954
生命機能学科_学科専門科目	【H7533】細胞工学〔廣野 雅文〕秋学期授業/Fall	955
生命機能学科_学科専門科目	【H7534】細胞情報学〔川岸 郁郎〕秋学期授業/Fall	956
生命機能学科_学科専門科目	【H7536】神経科学〔高田 耕司〕秋学期授業/Fall	957
生命機能学科_学科専門科目	【H7537】分子免疫学〔中村 俊博〕秋学期授業/Fall	958
生命機能学科_学科専門科目	【H7538】バイオイメージング〔佐甲 靖志〕春学期授業/Spring	959
生命機能学科_学科専門科目	【H7551】生物化学 II〔西川正俊〕秋学期授業/Fall	960
生命機能学科_学科専門科目	【H7552】生物物理学 I〔西川正俊〕春学期授業/Spring	961
生命機能学科_学科専門科目	【H7553】生物物理学 II〔曾和義幸〕秋学期授業/Fall	962
学部共通科目	【H7554】細胞生物学 I〔金子 智行〕春学期授業/Spring	963
学部共通科目	【H7555】細胞生物学 I〔小見 美央〕春学期授業/Spring	964
生命機能学科_学科専門科目	【H7556】細胞生物学 II〔川岸 郁朗〕秋学期授業/Fall	965
学部共通科目	【H7558】生物統計学〔谷合 弘行〕秋学期授業/Fall	966
生命機能学科_学科専門科目	【H7560】ゲノム構造機能学 I〔佐藤 勉〕春学期授業/Spring	967
生命機能学科_学科専門科目	【H7561】ゲノム構造機能学 II〔皆川 周〕秋学期授業/Fall	968
学部共通科目	【H7562】細胞構造機能学 I〔金子 智行〕春学期授業/Spring	969

学部共通科目 【H7563】 細胞構造機能学 I I [山本 健太郎] 秋学期授業/Fall	970
生命機能学科_学科専門科目 【H7564】 生体分子分析学 I [今村 大輔] 春学期授業/Spring	971
生命機能学科_学科専門科目 【H7565】 生体分子分析学 I I [雲財 悟、今村 大輔] 秋学期授業/Fall	972
学部共通科目 【H7566】 分子微生物学 [皆川 周] 春学期授業/Spring	973
学部共通科目 【H7569】 バイオインフォマティクス [今村 大輔] 秋学期授業/Fall	974
学部共通科目 【H7570】 ケミカルバイオロジー [影近 弘之] 秋学期授業/Fall	975
生命機能学科_学科専門科目 【H7571】 バイオエナジェティクス [常重 アントニオ] 春学期授業/Spring	976
生命機能学科_学科専門科目 【H7572】 医用生体工学 [金子 智行] 秋学期授業/Fall	977
応用植物科学科_学科専門科目 【H8003】 栽培植物学 [佐野 俊夫] 春学期授業/Spring	978
応用植物科学科_学科専門科目 【H8004】 植物病原菌類学 [廣岡 裕史] 春学期授業/Spring	979
応用植物科学科_学科専門科目 【H8005】 植物病防除学 [石川 成寿] 秋学期授業/Fall	980
応用植物科学科_学科専門科目 【H8006】 土壌科学 [亀和田 國彦] 秋学期授業/Fall	981
応用植物科学科_学科専門科目 【H8009】 診断技術論 [大井田 寛、濱本 宏、廣岡 裕史、平田 賢司] 春学期授業/Spring	982
応用植物科学科_学科専門科目 【H8013】 植物生理生態学 [佐野 俊夫] 秋学期授業/Fall	983
応用植物科学科_学科専門科目 【H8014】 雑草学 [佐野 俊夫、横山 昌雄] 秋学期授業/Fall	984
応用植物科学科_学科専門科目 【H8015】 植物医科ビジネス論 [高橋 修一郎、宮内 陽介、川名 祥史、小倉 里江子] 秋学期授業/Fall	985
応用植物科学科_学科専門科目 【H8017】 フードセイフティ論 [川本 伸一、濱松 潮香、八戸 真弓] 秋学期授業/Fall	986
学部共通科目 【H8021】 植物バイオテクノロジー概論 [川合 伸也] 春学期授業/Spring	987
学部共通科目 【H8022】 植物メディカルゲノム学 [大島研郎、濱本宏] 秋学期授業/Fall	989
学部共通科目 【H8023】 植物細菌学 [大島 研郎] 春学期授業/Spring	990
学部共通科目 【H8024】 植物ウイルス学 [津田 新哉] 秋学期授業/Fall	991
学部共通科目 【H8025】 微生物生態学 [堀 知行] 春学期授業/Spring	992
応用植物科学科_学科専門科目 【H8026】 環境昆虫学 [安田 耕司] 春学期授業/Spring	993
応用植物科学科_学科専門科目 【H8027】 媒介システム学 [津田 新哉] 春学期授業/Spring	994
応用植物科学科_学科専門科目 【H8028】 植物メディカルシステム学 [濱本 宏] 春学期授業/Spring	995
応用植物科学科_学科専門科目 【H8030】 植物感染生理学 [鍵和田 聡] 春学期授業/Spring	996
応用植物科学科_学科専門科目 【H8031】 植物臨床医科学 [石川 成寿] 春学期授業/Spring	997
応用植物科学科_学科専門科目 【H8032】 生物制御化学 [中牟田 潔] 秋学期授業/Fall	998
応用植物科学科_学科専門科目 【H8033】 植物医科学法論 [福盛田 共義] 春学期授業/Spring	1000
応用植物科学科_学科専門科目 【H8034】 ポストハーベスト論 [廣岡 裕史、宮ノ下 明大] 秋学期授業/Fall	1001
応用植物科学科_学科専門科目 【H8035】 植物生理病学 [佐野 俊夫、亀和田 國彦] 春学期授業/Spring	1002
応用植物科学科_学科専門科目 【H8103】 国際食料需給論 [黒川 哲治] 春学期授業/Spring	1003
応用植物科学科_学科専門科目 【H8104】 植物管理技術論 [松崎 守夫、山口 弘道] 春学期授業/Spring	1004
応用植物科学科_学科専門科目 【H8105】 教職化学 [田 艶] 春学期授業/Spring	1005
応用植物科学科_学科専門科目 【H8106】 基礎植物害虫学 [大井田 寛] 秋学期授業/Fall	1006
応用植物科学科_学科専門科目 【H8107】 グリーン経済学 [黒川 哲治] 秋学期授業/Fall	1007
応用植物科学科_学科専門科目 【H8108】 植物栄養学 [亀和田 國彦] 春学期授業/Spring	1008
応用植物科学科_学科専門科目 【H8110】 教職物理学 [金沢 育三] 秋学期授業/Fall	1010
応用植物科学科_学科専門科目 【H8113】 応用植物害虫学 [大井田 寛] 春学期授業/Spring	1011
応用植物科学科_学科専門科目 【H8114】 食料・地域政策論 [黒川 哲治] 秋学期授業/Fall	1012
応用植物科学科_学科専門科目 【H8115】 自然再生学概論 [大井田 寛、黒川 哲治、安田 耕司、橋本 智美] 秋学期授業/Fall	1013
応用植物科学科_学科専門科目 【H8117】 ホーティカルチャー論 [津田 新哉、紺野 祥平、池田 敬、鈴木 栄] 春学期授業/Spring	1014
応用植物科学科_学科専門科目 【H8118】 教職生物学 [齋藤 理佳] 秋学期授業/Fall	1015
応用植物科学科_学科専門科目 【H8120】 実践植物遺伝学 [柳澤 貴司、黒羽 剛] 春学期授業/Spring	1016
環境応用化学科_学科専門科目 【H8501】 化学熱力学 I [森 隆昌] 秋学期授業/Fall	1017
環境応用化学科_学科専門科目 【H8502】 化学熱力学 I I [作道 直幸] 春学期授業/Spring	1018
環境応用化学科_学科専門科目 【H8503】 応用化学基礎 [渡邊 雄二郎] 春学期授業/Spring	1019
環境応用化学科_学科専門科目 【H8503】 応用化学基礎 [明石 孝也] 春学期授業/Spring	1020
環境応用化学科_学科専門科目 【H8503】 応用化学基礎 [杉山 賢次] 春学期授業/Spring	1021
環境応用化学科_学科専門科目 【H8503】 応用化学基礎 [緒方 啓典] 春学期授業/Spring	1022
環境応用化学科_学科専門科目 【H8503】 応用化学基礎 [山下 明泰] 春学期授業/Spring	1023
環境応用化学科_学科専門科目 【H8503】 応用化学基礎 [森 隆昌] 春学期授業/Spring	1024
環境応用化学科_学科専門科目 【H8503】 応用化学基礎 [河内 敦] 春学期授業/Spring	1025

環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】	応用化学基礎 [石垣 隆正]	春学期授業/Spring	1026
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】	応用化学基礎 [高井 和之]	春学期授業/Spring	1027
環境応用化学科_学科専門科目	【H8512】	無機化学概論 [明石 孝也]	秋学期授業/Fall	1028
環境応用化学科_学科専門科目	【H8523】	応用化学入門 [高井 和之]	春学期授業/Spring	1029
環境応用化学科_学科専門科目	【H8525】	物理化学 I [緒方 啓典]	春学期授業/Spring	1030
環境応用化学科_学科専門科目	【H8526】	物理化学 I I [高井 和之]	秋学期授業/Fall	1031
環境応用化学科_学科専門科目	【H8527】	無機化学 I [石垣 隆正]	春学期授業/Spring	1032
環境応用化学科_学科専門科目	【H8528】	無機化学 I I [石垣 隆正]	秋学期授業/Fall	1033
環境応用化学科_学科専門科目	【H8529】	有機化学 I [杉山 賢次]	春学期授業/Spring	1034
環境応用化学科_学科専門科目	【H8530】	有機化学 I I [杉山 賢次]	秋学期授業/Fall	1035
環境応用化学科_学科専門科目	【H8533】	コンピュータ利用化学 [小鍋 哲]	春学期授業/Spring	1036
環境応用化学科_学科専門科目	【H8541】	電気化学 [片山 英樹]	春学期授業/Spring	1037
環境応用化学科_学科専門科目	【H8545】	反応工学 [小堀 深]	春学期授業/Spring	1038
環境応用化学科_学科専門科目	【H8548】	量子化学 [野口 真理子]	春学期授業/Spring	1039
環境応用化学科_学科専門科目	【H8549】	錯体化学 [田所 誠]	春学期授業/Spring	1040
環境応用化学科_学科専門科目	【H8553】	化学統計力学 [藤森 裕基]	秋学期授業/Fall	1041
環境応用化学科_学科専門科目	【H8554】	物質設計化学 [高井 和之]	秋学期授業/Fall	1042
環境応用化学科_学科専門科目	【H8555】	エネルギー環境化学 [打越 哲郎]	秋学期授業/Fall	1043
環境応用化学科_学科専門科目	【H8556】	触媒化学 [石垣 隆正]	春学期授業/Spring	1044
環境応用化学科_学科専門科目	【H8580】	環境化学工学概論 [森 隆昌]	秋学期授業/Fall	1045
環境応用化学科_学科専門科目	【H8581】	環境化学工学応用 [山下 明泰]	春学期授業/Spring	1046
環境応用化学科_学科専門科目	【H8584】	無機素材反応化学 [明石 孝也]	春学期授業/Spring	1047
環境応用化学科_学科専門科目	【H8585】	教職生物学 [齋藤 理佳]	秋学期授業/Fall	1048
創生科学科_学科専門科目	【H9270】	フーリエ変換 [西村 滋人]	秋学期授業/Fall	1049
創生科学科_学科専門科目	【H9271】	空間の幾何 [中村 真帆]	春学期授業/Spring	1050
創生科学科_学科専門科目	【H9272】	対称性と構造 [長谷 正司]	春学期授業/Spring	1051
専門教育科目_専門科目	【J0301】	情報科学入門 [日高 宗一郎]	春学期授業/Spring	1052
専門教育科目_専門科目	【J0302】	情報科学入門 [坂本 寛]	春学期授業/Spring	1053
専門教育科目_専門科目	【J0303】	コンピュータシステム入門 1 [佐々木 晃]	春学期授業/Spring	1054
専門教育科目_専門科目	【J0304】	コンピュータシステム入門 1 [坂本 寛]	春学期授業/Spring	1055
専門教育科目_専門科目	【J0305】	コンピュータシステム入門 2 [首藤 裕一]	秋学期授業/Fall	1056
専門教育科目_専門科目	【J0306】	コンピュータシステム入門 2 [村上 健一郎]	秋学期授業/Fall	1057
専門教育科目_専門科目	【J0309】	離散構造 1 [尾花 賢]	春学期授業/Spring	1058
専門教育科目_専門科目	【J0310】	離散構造 1 [若原 徹]	春学期授業/Spring	1059
専門教育科目_専門科目	【J0311】	離散構造 2 [佐々木 晃]	秋学期授業/Fall	1060
専門教育科目_専門科目	【J0312】	離散構造 2 [首藤 裕一]	秋学期授業/Fall	1061
専門教育科目_専門科目	【J0318】	論理回路入門 [李 亜民]	秋学期授業/Fall	1062
専門教育科目_専門科目	【J0319】	プログラミング入門 [波多野 大智]	春学期授業/Spring	1063
専門教育科目_専門科目	【J0320】	プログラミング入門 [久東 義典]	春学期授業/Spring	1065
専門教育科目_専門科目	【J0321】	プログラミング入門 [赤石 美奈]	春学期授業/Spring	1067
専門教育科目_専門科目	【J0322】	プログラミング入門 [五月女 健治]	春学期授業/Spring	1069
専門教育科目_専門科目	【J0323】	プログラミング 1(C/C++) [廣津 登志夫]	秋学期授業/Fall	1071
専門教育科目_専門科目	【J0324】	プログラミング 1(C/C++) [坂本 寛]	秋学期授業/Fall	1073
専門教育科目_専門科目	【J0325】	プログラミング 1(C/C++) [久東 義典]	秋学期授業/Fall	1075
専門教育科目_専門科目	【J0326】	プログラミング演習 1(Python) [佐々木 晃]	秋学期授業/Fall	1077
専門教育科目_専門科目	【J0327】	プログラミング演習 1(Python) [小林 郁夫]	秋学期授業/Fall	1078
専門教育科目_専門科目	【J0328】	データ構造とアルゴリズム [首藤 裕一]	春学期授業/Spring	1079
専門教育科目_専門科目	【J0329】	データ構造とアルゴリズム [坂本 寛]	春学期授業/Spring	1080
専門教育科目_専門科目	【J0334】	最適化 [佐川 浩彦]	秋学期授業/Fall	1081
専門教育科目_専門科目	【J0335】	アルゴリズムの設計と解析 [黄 潤和]	春学期授業/Spring	1082
専門教育科目_専門科目	【J0401】	プログラミング 2(C/C++) [廣津 登志夫]	春学期授業/Spring	1083
専門教育科目_専門科目	【J0402】	プログラミング 2(C/C++) [相島 健助]	春学期授業/Spring	1085
専門教育科目_専門科目	【J0403】	プログラミング演習 1(C/C++) [廣津 登志夫]	秋学期授業/Fall	1087
専門教育科目_専門科目	【J0404】	形式言語とオートマトン [日高 宗一郎]	春学期授業/Spring	1088
専門教育科目_専門科目	【J0405】	形式言語とオートマトン [藤田 悟]	春学期授業/Spring	1090
専門教育科目_専門科目	【J0406】	コンピュータ構成と設計入門 [八巻 隼人]	春学期授業/Spring	1092
専門教育科目_専門科目	【J0407】	コンパイラ [佐々木 晃]	春学期授業/Spring	1093

専門教育科目_専門科目	[J0408]	プログラミング演習 2(C/C++) [若原 徹] 春学期授業/Spring	1094
専門教育科目_専門科目	[J0411]	統計学 2 [若原 徹] 秋学期授業/Fall	1095
専門教育科目_専門科目	[J0412]	統計学 2 [小西 克巳] 秋学期授業/Fall	1096
専門教育科目_専門科目	[J0413]	情報基礎学 A [尾花 賢] 秋学期授業/Fall	1097
専門教育科目_専門科目	[J0414]	情報基礎学 B [雪田 修一] 春学期授業/Spring	1098
専門教育科目_専門科目	[J0415]	コンピュータ構成と設計 [李 亜民] 秋学期授業/Fall	1099
専門教育科目_専門科目	[J0416]	情報理論 [尾花 賢] 春学期授業/Spring	1100
専門教育科目_専門科目	[J0417]	プログラム設計 [栗田 太郎] 秋学期授業/Fall	1101
専門教育科目_専門科目	[J0418]	オペレーティングシステム [山田 浩史] 春学期授業/Spring	1103
専門教育科目_専門科目	[J0419]	型システムと関数型言語 [雪田 修一] 秋学期授業/Fall	1104
専門教育科目_専門科目	[J0420]	ソフトウェア工学 [栗田 太郎] 秋学期授業/Fall	1105
専門教育科目_専門科目	[J0421]	並列分散処理 [八巻 隼人] 秋学期授業/Fall	1107
専門教育科目_専門科目	[J0422]	新ネットワーク理論 [廣津 登志夫] 春学期授業/Spring	1108
専門教育科目_専門科目	[J0423]	情報・ネットワークセキュリティ入門 [上田 浩] 春学期授業/Spring	1110
専門教育科目_専門科目	[J0424]	プログラミング 3(Java) [黄 潤和] 秋学期授業/Fall	1112
専門教育科目_専門科目	[J0425]	プログラミング 3(Java) [細部 博史] 秋学期授業/Fall	1113
専門教育科目_専門科目	[J0426]	ヒューマンコンピュータインタラクション [細部 博史] 春学期授業/Spring	1114
専門教育科目_専門科目	[J0427]	データベース [日高 宗一郎] 秋学期授業/Fall	1115
専門教育科目_専門科目	[J0428]	データベース [坂本 寛] 秋学期授業/Fall	1116
専門教育科目_専門科目	[J0429]	人工知能 [赤石 美奈] 秋学期授業/Fall	1117
専門教育科目_専門科目	[J0430]	人工知能 [藤田 悟] 秋学期授業/Fall	1119
専門教育科目_専門科目	[J0431]	プログラミング 4(Java) [馬 建華] 春学期授業/Spring	1121
専門教育科目_専門科目	[J0432]	コンピュータネットワーク [馬 建華] 秋学期授業/Fall	1122
専門教育科目_専門科目	[J0433]	サービスコンピューティング [佐治 信之] 秋学期授業/Fall	1123
専門教育科目_専門科目	[J0434]	オペレーションズリサーチ [小西 克巳] 秋学期授業/Fall	1124
専門教育科目_専門科目	[J0435]	オブジェクト指向プログラミング [雪田 修一] 秋学期授業/Fall	1125
専門教育科目_専門科目	[J0436]	情報検索 [相島 健助] 秋学期授業/Fall	1126
専門教育科目_専門科目	[J0437]	ユビキタスコンピューティング [馬 建華] 春学期授業/Spring	1127
専門教育科目_専門科目	[J0439]	コンピュータグラフィックス [小池 崇文] 秋学期授業/Fall	1128
専門教育科目_専門科目	[J0440]	パターン認識と機械学習 [若原 徹] 秋学期授業/Fall	1129
専門教育科目_専門科目	[J0441]	プログラミング (MATLAB) [伊藤 克亘] 秋学期授業/Fall	1130
専門教育科目_専門科目	[J0442]	プログラミング演習 2(python) [伊藤 克亘] 春学期授業/Spring	1131
専門教育科目_専門科目	[J0445]	デジタル信号処理 [小池 崇文] 春学期授業/Spring	1133
専門教育科目_専門科目	[J0446]	画像処理 [花泉 弘] 秋学期授業/Fall	1134
専門教育科目_専門科目	[J0447]	音声情報処理 [伊藤 克亘] 秋学期授業/Fall	1135
専門教育科目_専門科目	[J0448]	プログラミング演習 3(MATLAB) [花泉 弘] 春学期授業/Spring	1137
専門教育科目_専門科目	[J0450]	科学技術計算 [岩沢 美佐子] 秋学期授業/Fall	1138
講義・実習科目	[K5254]	地理学Ⅱ [朴 宗玄] 秋学期授業/Fall	1139
講義・実習科目	[K5353]	物理学Ⅰ [藤田 貢崇] 春学期授業/Spring	1140
講義・実習科目	[K5354]	物理学Ⅱ [藤田 貢崇] 秋学期授業/Fall	1141
講義・実習科目	[K5355]	物理学Ⅰ [藤田 貢崇] 春学期授業/Spring	1142
	[K6046]	社会経済学応用 A [原 伸子] 春学期授業/Spring	1143
	[K6047]	社会経済学応用 A [原 伸子] 春学期授業/Spring	1144
	[K6048]	社会経済学応用 B [原 伸子] 秋学期授業/Fall	1145
	[K6049]	社会経済学応用 B [原 伸子] 秋学期授業/Fall	1146
	[K6054]	日本経済論 A [小黑 一正] 春学期授業/Spring	1147
	[K6055]	日本経済論 A [牧野 文夫] 春学期授業/Spring	1148
	[K6056]	日本経済論 B [小黑 一正] 秋学期授業/Fall	1149
	[K6057]	日本経済論 B [牧野 文夫] 秋学期授業/Fall	1150
	[K6058]	国際経済論 A [武智 一貴] 春学期授業/Spring	1151
	[K6059]	国際経済論 A [田村 晶子] 春学期授業/Spring	1152
	[K6060]	国際経済論 B [武智 一貴] 秋学期授業/Fall	1152
	[K6061]	国際経済論 B [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	1153
	[K6062]	財政学 A [小林 克也] 春学期授業/Spring	1154
	[K6063]	財政学 A [天利 浩] 春学期授業/Spring	1155
	[K6064]	財政学 B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	1156
	[K6065]	財政学 B [天利 浩] 秋学期授業/Fall	1157

【K6066】	金融論A〔武田 浩一〕	春学期授業/Spring	1158
【K6067】	金融論A〔鈴木 誠〕	春学期授業/Spring	1159
【K6068】	金融論B〔武田 浩一〕	秋学期授業/Fall	1160
【K6069】	金融論B〔高橋 秀朋〕	秋学期授業/Fall	1161
【K6070】	経済の数理A〔佐柄 信純〕	春学期授業/Spring	1162
【K6071】	経済の数理B〔佐柄 信純〕	秋学期授業/Fall	1163
【K6094】	計量経済学A〔宮崎 憲治〕	春学期授業/Spring	1164
【K6095】	計量経済学B〔宮崎 憲治〕	秋学期授業/Fall	1165
【K6102】	企業と経済・応用A〔鈴木 豊〕	春学期授業/Spring	1166
【K6103】	企業と経済・応用B〔河村 真〕	秋学期授業/Fall	1167
【K6108】	現代ファイナンス入門A〔湯前 祥二〕	春学期授業/Spring	1168
【K6109】	現代ファイナンス入門B〔湯前 祥二〕	秋学期授業/Fall	1169
【K6122】	経済データ分析A〔明城 聡〕	春学期授業/Spring	1170
【K6123】	経済データ分析B〔明城 聡〕	秋学期授業/Fall	1171
【K6124】	経済地理〔近藤 章夫〕	春学期授業/Spring	1172
【K6125】	産業集積論〔近藤 章夫〕	秋学期授業/Fall	1173
【K6128】	コーポレートガバナンス論A〔胥 鵬〕	春学期授業/Spring	1174
【K6129】	コーポレートガバナンス論B〔胥 鵬〕	秋学期授業/Fall	1175
【K6130】	リスク・マネジメントA〔湯前 祥二〕	春学期授業/Spring	1176
【K6131】	リスク・マネジメントB〔湯前 祥二〕	秋学期授業/Fall	1177
【K6132】	企業経営史A〔飯塚 陽介〕	春学期授業/Spring	1178
【K6133】	企業経営史B〔飯塚 陽介〕	秋学期授業/Fall	1179
【K6136】	企業経営論A〔川邊 安彦〕	春学期授業/Spring	1180
【K6137】	企業経営論B〔川邊 安彦〕	秋学期授業/Fall	1181
【K6140】	企業実務研究A〔武田 浩一〕	春学期授業/Spring	1182
【K6141】	企業実務研究B〔武田 浩一〕	秋学期授業/Fall	1184
【K6142】	国際会計制度A〔田中 優希〕	春学期授業/Spring	1185
【K6143】	国際会計制度B〔田中 優希〕	秋学期授業/Fall	1186
【K6148】	開発経済論A〔池上 宗信〕	春学期授業/Spring	1187
【K6149】	開発経済論B〔池上 宗信〕	秋学期授業/Fall	1188
【K6150】	国際関係論A〔富永 靖敬〕	春学期授業/Spring	1189
【K6151】	国際関係論B〔富永 靖敬〕	秋学期授業/Fall	1190
【K6152】	経済人類学A〔河野 正治〕	春学期授業/Spring	1191
【K6153】	経済人類学B〔河野 正治〕	秋学期授業/Fall	1192
【K6154】	環境経済論A〔松波 淳也〕	春学期授業/Spring	1193
【K6155】	環境経済論A〔松波 淳也〕	春学期授業/Spring	1194
【K6156】	環境経済論B〔松波 淳也〕	秋学期授業/Fall	1195
【K6157】	環境経済論B〔松波 淳也〕	秋学期授業/Fall	1196
【K6160】	経済地理A〔近藤 章夫〕	春学期授業/Spring	1197
【K6161】	経済地理B〔近藤 章夫〕	秋学期授業/Fall	1198
【K6162】	アメリカ経済論A〔下斗米 秀之〕	春学期授業/Spring	1199
【K6163】	アメリカ経済論B〔下斗米 秀之〕	秋学期授業/Fall	1200
【K6164】	ヨーロッパ経済論A〔伊東 林蔵〕	春学期授業/Spring	1201
【K6165】	ヨーロッパ経済論B〔伊東 林蔵〕	秋学期授業/Fall	1202
【K6166】	現代アジア経済論A〔馬場 敏幸〕	春学期授業/Spring	1203
【K6167】	現代アジア経済論B〔馬場 敏幸〕	秋学期授業/Fall	1204
【K6168】	中国経済論A〔馬 欣欣〕	春学期授業/Spring	1205
【K6169】	中国経済論B〔馬 欣欣〕	秋学期授業/Fall	1206
【K6180】	ドイツ語セミナーA〔新田 誠吾〕	春学期授業/Spring	1207
【K6181】	ドイツ語セミナーB〔新田 誠吾〕	秋学期授業/Fall	1208
【K6182】	フランス語セミナーB〔橋本 到〕	秋学期授業/Fall	1209
【K6183】	フランス語セミナーA〔橋本 到〕	春学期授業/Spring	1210
【K6184】	ロシア語セミナーA〔佐藤 裕子〕	春学期授業/Spring	1211
【K6185】	ロシア語セミナーB〔佐藤 裕子〕	秋学期授業/Fall	1212
【K6186】	中国語セミナーA〔石 碩〕	春学期授業/Spring	1213
【K6187】	中国語セミナーB〔石 碩〕	秋学期授業/Fall	1213
【K6188】	スペイン語セミナーA〔芝田 幸一郎〕	春学期授業/Spring	1214

【K6189】	スペイン語セミナーB [芝田 幸一郎] 秋学期授業/Fall	1215
【K6190】	現代社会と情報A [坂本 憲昭] 春学期授業/Spring	1215
【K6191】	現代社会と情報B [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	1216
【K6194】	経済統計論A [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	1217
【K6195】	経済統計論B [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	1218
【K6196】	日本文化論 [池田 雄一] 秋学期授業/Fall	1219
【K6200】	政治過程論 [岡崎 加奈子] 秋学期授業/Fall	1220
【K6201】	国際政治論 [曹 海石] 秋学期授業/Fall	1221
【K6202】	日本思想史 [古澤 直人] 春学期授業/Spring	1222
【K6203】	開発経済入門A [池上 宗信] 春学期授業/Spring	1223
【K6204】	開発経済入門B [池上 宗信] 秋学期授業/Fall	1224
【K6209】	環境科学A [岡部 雅史] 春学期授業/Spring	1225
【K6210】	環境科学B [岡部 雅史] 秋学期授業/Fall	1226
【K6214】	日本文化史 [古澤 直人] 秋学期授業/Fall	1227
【K6219】	経済学史A [平瀬 友樹] 春学期授業/Spring	1228
【K6220】	経済学史B [平瀬 友樹] 秋学期授業/Fall	1229
【K6221】	公共経済論A [篠原 隆介] 春学期授業/Spring	1230
【K6222】	公共経済論B [篠原 隆介] 秋学期授業/Fall	1231
【K6223】	環境政策論A [西澤 栄一郎] 春学期授業/Spring	1232
【K6224】	環境政策論B [西澤 栄一郎] 秋学期授業/Fall	1233
【K6225】	日本経済史A [長原 豊] 春学期授業/Spring	1233
【K6226】	日本経済史B [長原 豊] 秋学期授業/Fall	1235
【K6227】	社会経済思想史A [後藤 浩子] 春学期授業/Spring	1236
【K6228】	社会経済思想史B [後藤 浩子] 秋学期授業/Fall	1237
【K6229】	経済政策論A [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring	1238
【K6230】	経済政策論B [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall	1239
【K6231】	農業経済論A [西澤 栄一郎] 春学期授業/Spring	1239
【K6232】	農業経済論B [西澤 栄一郎] 秋学期授業/Fall	1240
【K6233】	社会政策論A [菅原 琢磨] 春学期授業/Spring	1240
【K6234】	社会政策論B [菅原 琢磨] 秋学期授業/Fall	1241
【K6235】	労働経済論A [酒井 正] 春学期授業/Spring	1242
【K6236】	労働経済論B [酒井 正] 秋学期授業/Fall	1243
【K6237】	金融各論ⅠA [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	1244
【K6238】	金融各論ⅠB [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	1245
【K6239】	情報経済論A [鈴木 豊] 春学期授業/Spring	1246
【K6240】	情報経済論B [鈴木 豊] 秋学期授業/Fall	1247
【K6241】	地方財政論A [小林 克也] 春学期授業/Spring	1248
【K6242】	地方財政論B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	1249
【K6243】	社会保障論A [小黑 一正] 春学期授業/Spring	1250
【K6244】	社会保障論B [小黑 一正] 秋学期授業/Fall	1251
【K6245】	産業組織論A [河村 真] 春学期授業/Spring	1252
【K6246】	産業組織論B [河村 真] 秋学期授業/Fall	1253
【K6247】	金融各論ⅡA [武田 浩一] 春学期授業/Spring	1254
【K6249】	金融各論ⅡB [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	1255
【K6251】	企業金融論A [胥 鵬] 春学期授業/Spring	1256
【K6252】	企業金融論B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	1257
【K6253】	数理統計学A [宮脇 典彦] 春学期授業/Spring	1258
【K6254】	数理統計学B [宮脇 典彦] 秋学期授業/Fall	1259
【K6268】	国際金融論A [ブー トウン カイ] 春学期授業/Spring	1259
【K6269】	国際金融論B [ブー トウン カイ] 秋学期授業/Fall	1260
【K6270】	企業経済論A [砂田 充] 春学期授業/Spring	1261
【K6271】	企業経済論B [砂田 充] 秋学期授業/Fall	1262
【K6312】	世界の文化と思想A [新田 誠吾] 春学期授業/Spring	1263
【K6313】	世界の文化と思想B [新田 誠吾] 秋学期授業/Fall	1264
【K6314】	地球環境論A [山崎 友紀] 春学期授業/Spring	1265
【K6315】	地球環境論B [山崎 友紀] 秋学期授業/Fall	1266
【K6326】	国際貿易論A [武智 一貴] 春学期授業/Spring	1267

【K6327】 国際貿易論 B [武智 一貴] 秋学期授業/Fall	1268
【K6332】 監査論 A [岸 牧人] 春学期授業/Spring	1269
【K6333】 監査論 B [岸 牧人] 秋学期授業/Fall	1270
【K6337】 マクロ経済学 A [檜野 智子] 春学期授業/Spring	1271
【K6338】 マクロ経済学 B [檜野 智子] 秋学期授業/Fall	1272
【K6339】 ミクロ経済学 A [篠原 隆介] 春学期授業/Spring	1273
【K6340】 ミクロ経済学 B [篠原 隆介] 秋学期授業/Fall	1274
【K6341】 現代経済学応用 A [八木橋 毅司] 春学期授業/Spring	1275
【K6342】 現代経済学応用 B [八木橋 毅司] 秋学期授業/Fall	1276
【K6343】 マクロ経済学 A [森田 裕史] 春学期授業/Spring	1277
【K6344】 マクロ経済学 B [森田 裕史] 秋学期授業/Fall	1278
【K6345】 ミクロ経済学 A [平井 俊行] 春学期授業/Spring	1279
【K6346】 ミクロ経済学 B [平井 俊行] 秋学期授業/Fall	1280
【K6347】 財政学 A (市ヶ谷開講) [島澤 諭] 春学期授業/Spring	1280
【K6348】 財政学 B (市ヶ谷開講) [島澤 諭] 春学期授業/Spring	1281
【K6349】 経済政策論 A (市ヶ谷開講) [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring	1282
【K6350】 経済政策論 B (市ヶ谷開講) [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall	1283
【K6351】 国際経済論 A (市ヶ谷開講) [田村 晶子] 春学期授業/Spring	1283
【K6352】 国際経済論 B (市ヶ谷開講) [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	1284
【K6501】 特別講義 (寄付講座 証券市場論) [大和証券 (株)] 春学期授業/Spring	1284
【K6572】 寄付講座 わが国金融の現状と課題 [寄付講座担当教員] 秋学期授業/Fall	1285
【K6695】 Business Communication I A [GLENN FERN] 春学期授業/Spring	1286
【K6696】 Business Communication I B [GLENN FERN] 秋学期授業/Fall	1288
【K6697】 Business Communication I A [GLENN FERN] 春学期授業/Spring	1290
【K6698】 Business Communication I B [GLENN FERN] 秋学期授業/Fall	1291
【K6699】 Business Communication II A [YONGUE JULIA SALLE] 春学期授業/Spring	1293
Advanced Courses / 専門科目_Desciplinary Courses / IGESS 科目_Ⅲ. Global Business 【K6699】 Business	
Communication II A [YONGUE JULIA SALLE] 春学期授業/Spring	1295
【K6700】 Business Communication II B [YONGUE JULIA SALLE] 秋学期授業/Fall	1296
【K6701】 Business Communication II A [ROBERT T DEREZA] 春学期授業/Spring	1297
【K6702】 Business Communication II B [ROBERT T DEREZA] 秋学期授業/Fall	1298
【K6705】 日本国憲法 A [川鍋 健] 春学期授業/Spring	1299
【K6706】 日本国憲法 B [川鍋 健] 秋学期授業/Fall	1300
【K6707】 民法一部 A [菅 富美枝] 春学期授業/Spring	1301
【K6708】 民法一部 B [菅 富美枝] 秋学期授業/Fall	1302
【K6709】 民法二部 A [菅 富美枝] 春学期授業/Spring	1303
【K6710】 民法二部 B [菅 富美枝] 秋学期授業/Fall	1304
【K6711】 商法一部 A [笹久保 徹] 春学期授業/Spring	1305
【K6712】 商法一部 B [笹久保 徹] 秋学期授業/Fall	1305
【K6713】 商法二部 A [笹久保 徹] 春学期授業/Spring	1306
【K6714】 商法二部 B [笹久保 徹] 秋学期授業/Fall	1306
【K6715】 経済法 A [山田 務] 春学期授業/Spring	1307
【K6716】 経済法 B [山田 務] 秋学期授業/Fall	1308
【K6717】 労働法 A [藤木 貴史] 春学期授業/Spring	1309
【K6718】 労働法 B [藤木 貴史] 秋学期授業/Fall	1310
【K6719】 経営学 A [砂田 充] 春学期授業/Spring	1311
【K6720】 経営学 B [砂田 充] 秋学期授業/Fall	1312
【K6721】 Principles of Economics A [JESS DIAMO N D] 春学期授業/Spring	1313
Advanced Courses / 専門科目_Desciplinary Courses / IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6721】 Principles	
of Economics A [JESS DIAMO N D] 春学期授業/Spring	1314
【K6722】 Principles of Economics B [JESS DIAMO N D] 秋学期授業/Fall	1315
Advanced Courses / 専門科目_Desciplinary Courses / IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6722】 Principles	
of Economics B [JESS DIAMO N D] 秋学期授業/Fall	1316
【K6723】 International Economics A [倪 彬] 春学期授業/Spring	1317
Advanced Courses / 専門科目_Desciplinary Courses / IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6723】 International	
Economics A [倪 彬] 春学期授業/Spring	1318
【K6724】 International Economics B [倪 彬] 秋学期授業/Fall	1319

Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6724】 International Economics B [倪 彬] 秋学期授業/Fall	1320
【K6725】 Area Studies A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	1321
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6725】 Area Studies A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	1322
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6726】 Area Studies B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	1323
【K6726】 Area Studies B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	1325
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅲ. Global Business 【K6727】 Business Research Seminar A [中谷 安男] 春学期授業/Spring	1326
【K6727】 Business Research Seminar A [中谷 安男] 春学期授業/Spring	1327
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅲ. Global Business 【K6728】 Business Research Seminar B [中谷 安男] 秋学期授業/Fall	1328
【K6728】 Business Research Seminar B [中谷 安男] 秋学期授業/Fall	1329
【K6729】 簿記Ⅱ A [岸 牧人] 春学期授業/Spring	1330
【K6730】 簿記Ⅱ B [岸 牧人] 秋学期授業/Fall	1331
【K6731】 地域経済論 A [川邊 安彦] 春学期授業/Spring	1332
【K6732】 地域経済論 B [川邊 安彦] 秋学期授業/Fall	1333
【K6733】 Academic Research Seminar A [飯野 厚] 春学期授業/Spring	1334
【K6734】 Academic Research Seminar B [飯野 厚] 秋学期授業/Fall	1335
【K6739】 Academic Research Seminar A [山崎 達朗] 春学期授業/Spring	1336
【K6740】 Academic Research Seminar B [山崎 達朗] 秋学期授業/Fall	1336
【K6741】 世界経済史 A [杉浦 未樹] 春学期授業/Spring	1337
【K6742】 世界経済史 B [杉浦 未樹] 秋学期授業/Fall	1338
【K6745】 財務諸表論 A [石田 惣平] 春学期授業/Spring	1339
【K6746】 財務諸表論 B [石田 惣平] 秋学期授業/Fall	1340
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6747】 Demography A [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	1341
【K6747】 DemographyA [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	1342
【K6748】 DemographyB [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	1343
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6748】 Demography B [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	1344
【K6749】 原価計算 A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	1345
【K6750】 原価計算 B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	1345
【K6751】 会計学入門 A [石田 惣平] 春学期授業/Spring	1346
【K6752】 会計学入門 B [石田 惣平] 秋学期授業/Fall	1347
【K6755】 管理会計 A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	1348
【K6756】 管理会計 B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	1348
【K6757】 スポーツ経済論 [杉本 龍勇] 春学期授業/Spring	1349
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅲ. Global Business 【K6764】 Business Communication I A [リチャード エバノフ] 春学期授業/Spring	1350
【K6764】 Business Communication IA [リチャード エバノフ] 春学期授業/Spring	1351
【K6765】 Business Communication IB [リチャード エバノフ] 秋学期授業/Fall	1352
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅲ. Global Business 【K6765】 Business Communication I B [リチャード エバノフ] 秋学期授業/Fall	1353
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6770】 Japan and ASEAN Economy A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring	1354
【K6770】 Japan and ASEAN Economy A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring	1355
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅱ. Global Economy 【K6771】 Japan and ASEAN Economy B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1356
【K6771】 Japan and ASEAN Economy B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1357
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅲ. Global Business 【K6772】 Japanese Business and Economy A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring	1358
【K6772】 Japanese Business and Economy A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring	1359
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_Ⅲ. Global Business 【K6773】 Japanese Business and Economy B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1361
【K6773】 Japanese Business and Economy B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1362

【K7001】	演習 [岸 牧人]	年間授業/Yearly	1364
【K7002】	演習 [小黒 一正]	年間授業/Yearly	1365
【K7003】	演習 [平井 俊行]	年間授業/Yearly	1367
【K7004】	演習 [岡部 雅史]	年間授業/Yearly	1368
【K7005】	演習 [奥山 利幸]	年間授業/Yearly	1369
【K7006】	演習 [山崎 達朗]	年間授業/Yearly	1370
【K7007】	演習 [杉浦 未樹]	年間授業/Yearly	1371
【K7008】	演習 [小沢 和浩]	年間授業/Yearly	1373
【K7011】	演習 [河村 哲二]	年間授業/Yearly	1374
【K7012】	演習 [河村 真]	年間授業/Yearly	1375
【K7016】	演習 [JESS DIAMOND]	年間授業/Yearly	1376
【K7018】	演習 [武田 浩一]	年間授業/Yearly	1377
【K7019】	演習 [後藤 浩子]	年間授業/Yearly	1379
【K7020】	演習 [小林 克也]	年間授業/Yearly	1380
【K7021】	演習 [近藤 章夫]	年間授業/Yearly	1381
【K7023】	演習 [坂本 憲昭]	年間授業/Yearly	1382
【K7024】	演習 [佐柄 信純]	年間授業/Yearly	1383
【K7026】	演習 [酒井 正]	年間授業/Yearly	1384
【K7027】	演習 [胥 鵬]	年間授業/Yearly	1385
【K7028】	演習 [菅 富美枝]	年間授業/Yearly	1387
【K7029】	演習 [鈴木 豊]	年間授業/Yearly	1388
【K7030】	演習 [砂田 充]	年間授業/Yearly	1390
【K7031】	演習 [竹口 圭輔]	年間授業/Yearly	1391
【K7033】	演習 [武智 一貴]	年間授業/Yearly	1392
【K7034】	演習 [田村 晶子]	年間授業/Yearly	1393
【K7035】	演習 [田中 優希]	年間授業/Yearly	1394
【K7036】	演習 [山崎 友紀]	年間授業/Yearly	1395
【K7037】	演習 [芝田 幸一郎]	年間授業/Yearly	1396
【K7038】	演習 [ブー トウン カイ]	年間授業/Yearly	1397
【K7040】	演習 [長原 豊]	年間授業/Yearly	1398
【K7041】	演習 [池上 宗信]	年間授業/Yearly	1400
【K7042】	演習 [中塚 芽依]	年間授業/Yearly	1401
【K7043】	演習 [西澤 栄一郎]	年間授業/Yearly	1402
【K7044】	演習 [新田 誠吾]	年間授業/Yearly	1403
【K7045】	演習 [明城 聡]	年間授業/Yearly	1404
【K7046】	演習 [朴 宗玄]	年間授業/Yearly	1405
【K7047】	演習 [橋本 到]	年間授業/Yearly	1406
【K7048】	演習 [馬場 敏幸]	年間授業/Yearly	1407
【K7049】	演習 [森田 裕史]	年間授業/Yearly	1408
【K7050】	演習 [原 伸子]	年間授業/Yearly	1409
【K7051】	演習 [平瀬 友樹]	年間授業/Yearly	1410
【K7052】	演習 [廣川 みどり]	年間授業/Yearly	1411
【K7053】	演習 [濱秋 純哉]	年間授業/Yearly	1412
【K7054】	演習 [池田 雄一]	年間授業/Yearly	1413
【K7055】	演習 [古澤 直人]	年間授業/Yearly	1414
【K7056】	演習 [牧野 文夫]	年間授業/Yearly	1415
【K7058】	演習 [松波 淳也]	年間授業/Yearly	1416
【K7059】	演習 [宮崎 憲治]	年間授業/Yearly	1417
【K7060】	演習 [石 碩]	年間授業/Yearly	1418
【K7061】	演習 [宮脇 典彦]	年間授業/Yearly	1419
【K7064】	演習 [富永 靖敬]	年間授業/Yearly	1420
【K7066】	演習 [湯前 祥二]	年間授業/Yearly	1422
【K7067】	演習 [YONGUE JULIA SALLE]	年間授業/Yearly	1423
【K7068】	演習 [山田 快]	年間授業/Yearly	1424
【K7070】	演習 [梅津 亮子]	年間授業/Yearly	1425
【K7071】	演習 [杉本 龍勇]	年間授業/Yearly	1426
【K7072】	演習 [池田 雅美]	年間授業/Yearly	1427

【K7073】	演習 [飯野 厚] 年間授業/Yearly	1429
【K7074】	演習 [伊東 林蔵] 年間授業/Yearly	1431
【K7075】	演習 [菅 幹雄] 年間授業/Yearly	1432
【K7076】	演習 [鈴木 誠] 年間授業/Yearly	1433
【K7077】	演習 [藤田 貢崇] 年間授業/Yearly	1434
【K7078】	演習 [篠原 隆介] 年間授業/Yearly	1436
【K7079】	演習 [菅原 琢磨] 年間授業/Yearly	1437
【K7080】	演習 [松野 響] 年間授業/Yearly	1438
【K7082】	演習 [田村 理香、高尾 直知] 年間授業/Yearly	1439
【K7083】	演習 [張 欣] 年間授業/Yearly	1440
【K7084】	演習 [中谷 安男] 年間授業/Yearly	1441
【K7085】	演習 [倪 彬] 年間授業/Yearly	1442
講義・実習科目	【LA004】 政治学理論Ⅰ [白鳥 浩] 春学期授業/Spring	1443
講義・実習科目	【LA005】 政治学理論Ⅱ [白鳥 浩] 秋学期授業/Fall	1444
講義・実習科目	【LA006】 日本経済論 [澁谷 朋樹] 秋学期授業/Fall	1444
講義・実習科目	【LA007】 憲法 [田中 美里] 秋学期授業/Fall	1445
講義・実習科目	【LA008】 民法（総則） [松田 佳久] 春学期授業/Spring	1445
講義・実習科目	【LA009】 民法（財産法） [松田 佳久] 秋学期授業/Fall	1446
講義・実習科目	【LA010】 ミクロ経済学 [北浦 康嗣] 春学期授業/Spring	1447
講義・実習科目	【LA011】 マクロ経済学 [北浦 康嗣] 秋学期授業/Fall	1448
講義・実習科目	【LA012】 組織論 [多田 和美] 春学期授業/Spring	1449
講義・実習科目	【LA016】 行政学 [谷本 有美子] 春学期授業/Spring	1450
講義・実習科目	【LA017】 行政法Ⅰ [氏家 裕順] 春学期授業/Spring	1451
講義・実習科目	【LA018】 行政法Ⅱ [氏家 裕順] 秋学期授業/Fall	1451
講義・実習科目	【LA019】 政策と制度 [田中 充] 秋学期授業/Fall	1452
講義・実習科目	【LA020】 人的資源論 [恵羅 さとみ] 春学期授業/Spring	1453
講義・実習科目	【LA102】 社会・イノベーション論Ⅰ [糸久 正人] 春学期授業/Spring	1454
講義・実習科目	【LA103】 社会・イノベーション論Ⅱ [糸久 正人] 秋学期授業/Fall	1455
講義・実習科目	【LA104】 中小企業論 [糸久 正人] 春学期授業/Spring	1456
講義・実習科目	【LA105】 地域産業論Ⅰ [加藤 寛之] 春学期授業/Spring	1457
講義・実習科目	【LA106】 地域産業論Ⅱ [加藤 寛之] 秋学期授業/Fall	1458
講義・実習科目	【LA107】 産業社会学Ⅰ [恵羅 さとみ] 春学期授業/Spring	1459
講義・実習科目	【LA108】 産業社会学Ⅱ [恵羅 さとみ] 秋学期授業/Fall	1460
講義・実習科目	【LA109】 国際経営論Ⅰ [多田 和美] 春学期授業/Spring	1461
講義・実習科目	【LA110】 国際経営論Ⅱ [多田 和美] 秋学期授業/Fall	1462
講義・実習科目	【LA111】 経済政策論 [北浦 康嗣] 秋学期授業/Fall	1462
講義・実習科目	【LA112】 金融システム論 [八木 勲] 春学期授業/Spring	1463
講義・実習科目	【LA202】 環境経済学Ⅰ [信澤 由之] 春学期授業/Spring	1464
講義・実習科目	【LA203】 環境経済学Ⅱ [信澤 由之] 秋学期授業/Fall	1465
講義・実習科目	【LA204】 環境政策論 [田中 充] 春学期授業/Spring	1466
講義・実習科目	【LA205】 環境自治体論 [田中 充] 秋学期授業/Fall	1467
講義・実習科目	【LA206】 エネルギー論 [鞠子 茂] 秋学期授業/Fall	1468
講義・実習科目	【LA207】 気候変動論 [澤柿 教伸] 春学期授業/Spring	1469
講義・実習科目	【LA210】 社会保障法Ⅰ [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring	1470
講義・実習科目	【LA211】 社会保障法Ⅱ [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	1471
講義・実習科目	【LA303】 市民運動論 [中筋 直哉] 春学期授業/Spring	1471
講義・実習科目	【LA305】 地方自治論Ⅰ [谷本 有美子] 春学期授業/Spring	1472
講義・実習科目	【LA306】 地方自治論Ⅱ [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall	1473
講義・実習科目	【LA308】 国際協力論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	1474
講義・実習科目	【LA309】 イスラム社会論 [岡野内 正] 春学期授業/Spring	1475
講義・実習科目	【LA310】 国際経済論Ⅰ [増田 正人] 春学期授業/Spring	1476
講義・実習科目	【LA311】 国際経済論Ⅱ [増田 正人] 秋学期授業/Fall	1477
講義・実習科目	【LB004】 社会学理論AⅠ [鈴木 智之] 春学期授業/Spring	1478
講義・実習科目	【LB005】 社会学理論AⅡ [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	1479
講義・実習科目	【LB006】 社会学理論BⅠ [槐山 新] 春学期授業/Spring	1480
講義・実習科目	【LB007】 社会学理論BⅡ [槐山 新] 秋学期授業/Fall	1480
講義・実習科目	【LB010】 理論社会学 [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	1481

講義・実習科目	【LB011】	社会学史Ⅰ [徳安 彰] 春学期授業/Spring	1482
講義・実習科目	【LB012】	社会学史Ⅱ [徳安 彰] 秋学期授業/Fall	1483
講義・実習科目	【LB013】	歴史社会学Ⅰ [鈴木 智道] 春学期授業/Spring	1484
講義・実習科目	【LB014】	歴史社会学Ⅱ [鈴木 智道] 秋学期授業/Fall	1485
講義・実習科目	【LB015】	数理社会学Ⅰ [斎藤 友里子] 春学期授業/Spring	1485
講義・実習科目	【LB016】	数理社会学Ⅱ [斎藤 友里子] 秋学期授業/Fall	1486
講義・実習科目	【LB017】	原典講読 [鈴木 智道] 秋学期授業/Fall	1487
講義・実習科目	【LB018】	社会学総合特講A [多喜 弘文] 春学期授業/Spring	1488
講義・実習科目	【LB019】	社会学総合特講B [斎藤 友里子] 秋学期授業/Fall	1489
講義・実習科目	【LB026】	統計調査法 [斎藤 友里子] 春学期授業/Spring	1490
講義・実習科目	【LB102】	発達・教育の理論Ⅰ [山下 大厚] 春学期授業/Spring	1491
講義・実習科目	【LB103】	発達・教育の理論Ⅱ [山下 大厚] 秋学期授業/Fall	1491
講義・実習科目	【LB104】	家族社会学Ⅰ [菊澤 佐江子] 春学期授業/Spring	1492
講義・実習科目	【LB105】	家族社会学Ⅱ [菊澤 佐江子] 秋学期授業/Fall	1492
講義・実習科目	【LB106】	臨床社会学Ⅰ [木矢 幸孝] 春学期授業/Spring	1493
講義・実習科目	【LB107】	臨床社会学Ⅱ [木矢 幸孝] 秋学期授業/Fall	1493
講義・実習科目	【LB108】	社会心理学Ⅰ [土倉 英志] 春学期授業/Spring	1494
講義・実習科目	【LB109】	社会心理学Ⅱ [土倉 英志] 秋学期授業/Fall	1494
講義・実習科目	【LB110】	エイジングの社会学 [姫野 宏輔] 秋学期授業/Fall	1495
講義・実習科目	【LB202】	環境社会学Ⅰ [堀川 三郎] 春学期授業/Spring	1496
講義・実習科目	【LB203】	環境社会学Ⅱ [堀川 三郎] 秋学期授業/Fall	1497
講義・実習科目	【LB204】	現代農業・農村の社会学 [池田 寛二] 春学期授業/Spring	1498
講義・実習科目	【LB205】	地域環境論 [池田 寛二] 秋学期授業/Fall	1499
講義・実習科目	【LB301】	文化社会学B [武田 俊輔] 秋学期授業/Fall	1500
講義・実習科目	【LB304】	文化人類学 [謝 荔] 秋学期授業/Fall	1501
講義・実習科目	【LB305】	宗教社会学 [永井 美紀子] 春学期授業/Spring	1502
講義・実習科目	【LB306】	スポーツ文化論 [越部 清美] 秋学期授業/Fall	1503
講義・実習科目	【LB402】	国際社会学Ⅰ [田嶋 淳子] 春学期授業/Spring	1503
講義・実習科目	【LB403】	国際社会学Ⅱ [田嶋 淳子] 秋学期授業/Fall	1504
講義・実習科目	【LB404】	国際関係論Ⅰ [志村 真弓] 春学期授業/Spring	1505
講義・実習科目	【LB405】	国際関係論Ⅱ [志村 真弓] 秋学期授業/Fall	1506
講義・実習科目	【LB406】	国際社会と民族 [高橋 誠一] 春学期授業/Spring	1506
講義・実習科目	【LB407】	開発とジェンダー [吉村 真子] 秋学期授業/Fall	1507
講義・実習科目	【LB408】	地域研究 (ヨーロッパ) [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	1508
講義・実習科目	【LB409】	地域研究 (アジア) [吉村 真子] 春学期授業/Spring	1508
講義・実習科目	【LB410】	地域研究 (中国) [大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	1509
講義・実習科目	【LB902】	特講 (社会心理学研究法) [土倉 英志] 秋学期授業/Fall	1510
講義・実習科目	【LB903】	特講 (米国社会事情・人種民族関係論) [鈴木 和子] 春学期授業/Spring	1510
講義・実習科目	【LD009】	メディアの思想 [小林 直毅] 秋学期授業/Fall	1511
講義・実習科目	【LD011】	社会問題とメディア [津田 正太郎] 秋学期授業/Fall	1512
講義・実習科目	【LD012】	認知科学 [森 健治] 春学期授業/Spring	1513
講義・実習科目	【LD013】	知的財産権法 [白田 秀彰] 秋学期授業/Fall	1514
講義・実習科目	【LD014】	メディア法 [白田 秀彰] 秋学期授業/Fall	1515
講義・実習科目	【LD015】	公共性と民主主義Ⅰ [鈴木 宗徳] 春学期授業/Spring	1516
講義・実習科目	【LD016】	公共性と民主主義Ⅱ [鈴木 宗徳] 秋学期授業/Fall	1517
講義・実習科目	【LD023】	特講 (コミュニケーション・デザイン論) [石寺 修三、青木 貞茂] 春学期授業/Spring	1518
講義・実習科目	【LD100】	メディア文化論 [稲増 龍夫] 秋学期授業/Fall	1519
講義・実習科目	【LD103】	広告・消費文化論 [青木 貞茂] 春学期授業/Spring	1520
講義・実習科目	【LD104】	広告・PR論 [青木 貞茂] 秋学期授業/Fall	1521
講義・実習科目	【LD106】	情報科学とコミュニケーション [小川 有希子] 春学期授業/Spring	1522
講義・実習科目	【LD107】	認知映像論 [小川 有希子] 秋学期授業/Fall	1523
講義・実習科目	【LD109】	ジャーナリズムの歴史と思想Ⅰ [別府 三奈子] 春学期授業/Spring	1524
講義・実習科目	【LD110】	ジャーナリズムの歴史と思想Ⅱ [別府 三奈子] 秋学期授業/Fall	1525
講義・実習科目	【LD200】	消費者行動論 [諸上 茂光] 春学期授業/Spring	1526
講義・実習科目	【LD203】	都市空間とデザインⅠ [斎藤 伊久太郎] 春学期授業/Spring	1527
講義・実習科目	【LD204】	都市空間とデザインⅡ [斎藤 伊久太郎] 秋学期授業/Fall	1528
講義・実習科目	【LD206】	メディアの歴史 [小林 直毅] 春学期授業/Spring	1528

講義・実習科目	【LD210】	メディアコンテンツ論 [西田 善行]	秋学期授業/Fall	1529
講義・実習科目	【LD300】	メディアテクノロジーと社会 [橋爪 絢子]	春学期授業/Spring	1530
講義・実習科目	【LD301】	メディアテクノロジーと社会分析 [橋爪 絢子]	秋学期授業/Fall	1531
講義・実習科目	【LD303】	社会ネットワーク論Ⅰ [宇野 斉]	春学期授業/Spring	1531
講義・実習科目	【LD304】	社会ネットワーク論Ⅱ [宇野 斉]	秋学期授業/Fall	1532
講義・実習科目	【LD306】	デジタル情報環境論 [土橋 臣吾]	春学期授業/Spring	1533
講義・実習科目	【LD307】	デジタル情報環境分析 [土橋 臣吾]	秋学期授業/Fall	1534
講義・実習科目	【LD309】	ソーシャルメディア論 [藤代 裕之]	春学期授業/Spring	1534
講義・実習科目	【LD310】	ソーシャルメディア分析 [藤代 裕之]	秋学期授業/Fall	1535
専門教育科目_専門基幹科目	【M1610】	スポーツコーチング論Ⅰ [平野 裕一]	秋学期授業/Fall	1536
専門教育科目_専門基幹科目	【M1620】	スポーツトレーニング論Ⅰ [平野 裕一]	春学期授業/Spring	1537
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M1730】	スポーツリスクマネジメント [木下 訓光]	春学期授業/Spring	1538
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M1730】	スポーツリスクマネジメント [木下 訓光]	春学期授業/Spring	1541
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	【M1750】	スポーツビジネス論Ⅰ [井上 尊寛]	秋学期授業/Fall	1543
専門教育科目_専門基幹科目	【M1750】	スポーツビジネス論Ⅰ [井上 尊寛]	秋学期授業/Fall	1544
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3080】	スポーツメディア論 [山本 浩]	秋学期授業/Fall	1546
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3170】	スポーツビジネス論Ⅱ [伊藤 真紀]	春学期授業/Spring	1548
専門教育科目_専門基幹科目	【M3170】	スポーツビジネス論Ⅱ [伊藤 真紀]	春学期授業/Spring	1549
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3230】	マーケティングリサーチ実習 [伊藤 真紀]	春学期授業/Spring	1550
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3240】	マーケティングリサーチ演習 [伊藤 真紀]	秋学期授業/Fall	1551
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3250】	マーケティングリサーチ実習 [伊藤 真紀]	年間授業/Yearly	1552
臨床心理学科_専門教育科目_専門基礎科目	【N0054】	心理学 [服部 環]	春学期授業/Spring	1553
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基礎科目	【N0054】	心理学 (2021 年度以降入学者) [服部 環]	春学期授業/Spring	1553
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目 (人文系)	【N0054】	心理学 (2020 年度以前入学者) [服部 環]	春学期授業/Spring	1554
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目 (人文系)	【N0062,N0064】	日本人の心理特性と文化 [長山 恵一]	秋学期授業/Fall	1554
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目 (人文系)	【N0062,N0064】	日本人の心理特性と文化 [長山 恵一]	秋学期授業/Fall	1555
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基礎科目	【N1003】	地域問題入門 [野田 岳仁]	春学期授業/Spring	1556
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目	【N1003】	地域問題入門 [野田 岳仁]	春学期授業/Spring	1557
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基礎科目	【N1005】	社会問題論 [高良 麻子]	春学期授業/Spring	1558
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目	【N1005】	社会問題論 [高良 麻子]	春学期授業/Spring	1559
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目 (社会系)	【N1006】	コミュニティマネジメント入門 [水野 雅男、関司 直也、土肥 将敦、佐野 竜平、野田 岳仁]	春学期授業/Spring	1559
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基礎科目	【N1006】	コミュニティマネジメント入門 [水野 雅男、関司 直也、土肥 将敦、佐野 竜平、野田 岳仁]	春学期授業/Spring	1560
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目	【N1053】	地域計画論 [保井 美樹]	秋学期授業/Fall	1561
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目 (社会系)	【N1054】	ボランティアアクション [長濱 洋二]	春学期授業/Spring	1562
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目	【N1054】	ボランティアアクション [長濱 洋二]	春学期授業/Spring	1563
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目	【N1055】	コミュニティビジネス論 [土肥 将敦]	秋学期授業/Fall	1564
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目	【N1056】	社会的包摂論 [水野 雅男]	秋学期授業/Fall	1565
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目	【N1058】	福祉国家論 [布川 日佐史]	春学期授業/Spring	1566
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目	【N1059】	ケアマネジメント論 [柴崎 祐美]	春学期授業/Spring	1567
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目	【N1101】	社会福祉原理 [平野 寛弥]	秋学期授業/Fall	1568
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目	【N1104】	地域経済論 [関司 直也]	秋学期授業/Fall	1569
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目	【N1105】	地域文化政策論 [須田 英一]	春学期授業/Spring	1570
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目	【N1107】	地方自治論 [中嶋 学]	秋学期授業/Fall	1571
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目	【N1108】	都市住宅政策論 [水野 雅男]	春学期授業/Spring	1572
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目 (社会系)	【N1113】	国際協力論 [佐野 竜平]	春学期授業/Spring	1573
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目	【N1113】	国際協力論 [佐野 竜平]	春学期授業/Spring	1573
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目	【N1114】	福祉の思想と歴史 [白川 耕一]	春学期授業/Spring	1574
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目	【N1115】	環境政策論 [藤澤 浩子]	春学期授業/Spring	1575
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目	【N1116】	医療政策論 [小磯 明]	春学期授業/Spring	1576
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目 (社会系)	【N1118】	Community Based Inclusive Development [佐野 竜平]	春学期授業/Spring	1577

福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1118】 Community Based Inclusive Development [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	1578
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1119】 アジア地域開発論 (2020 年度以前入学者) [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	1579
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目 (社会系) 【N1119】 アジア地域開発論 [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	1580
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目 【N1119】 アジア地域開発論 (2021 年度以降入学者) [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	1581
臨床心理学科_総合教育科目_視野形成科目 (社会系) 【N1120】 Disability and Development in Asia [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	1582
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1120】 Disability and Development in Asia [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	1583
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1201,N1223】 コミュニティアート [吉野 裕之] 秋学期授業/Fall	1584
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1202】 コミュニティスポーツ [遠藤 華英] 春学期授業/Spring	1585
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1203】 住民参加の手法 [杉崎 和久] 春学期授業/Spring	1586
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1207】 地域遺産マネジメント論 [須田 英一] 春学期授業/Spring	1587
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1208,N1224】 地域経営論 [松本 昭] 春学期授業/Spring	1588
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1209,N1225】 地域ツーリズム [野田 岳仁] 秋学期授業/Fall	1589
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1210】 ソーシャルイノベーション論 [土肥 将敦] 春学期授業/Spring	1590
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1212】 農山村とコミュニティ [図司 直也] 春学期授業/Spring	1591
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1213】 文化環境創造論 [須田 英一] 秋学期授業/Fall	1591
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1216】 ソーシャルマネジメント論 [樋口 邦史] 秋学期授業/Fall	1592
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1217】 ソーシャルファイナンス論 [徳永 洋子] 春学期授業/Spring	1593
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1218】 協同組合論 [阿高 あや] 秋学期授業/Fall	1594
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1220】 人権活動論 [寺中 誠] 春学期授業/Spring	1595
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1221,N1226】 NPO論 [渡真利 紘一] 春学期授業/Spring	1596
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1222】 居住福祉論 [大原 一興] 春学期授業/Spring	1597
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1309】 異文化心理学 [奥山 今日子] 春学期授業/Spring	1598
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1309】 異文化心理学 [奥山 今日子] 春学期授業/Spring	1599
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1311】 家族心理学 [松本 聡子] 秋学期授業/Fall	1600
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1311】 家族心理学 [松本 聡子] 秋学期授業/Fall	1601
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1313】 教育心理学特講 [安齊 順子] 春学期授業/Spring	1602
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1313】 教育心理学特講 [安齊 順子] 春学期授業/Spring	1603
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1322】 セルフヘルプグループ [横川 剛毅] 春学期授業/Spring	1604
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1322】 セルフヘルプグループ [横川 剛毅] 春学期授業/Spring	1605
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1323】 多文化ソーシャルワーク [伊藤 正子] 春学期授業/Spring	1606
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1325】 老いの文化と福祉 [中村 律子] 秋学期授業/Fall	1607
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1329】 死生観とソーシャルワーク [佐藤 蘭美] 春学期授業/Spring	1608
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1329】 死生観とソーシャルワーク [佐藤 蘭美] 春学期授業/Spring	1609
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1451】 コミュニティ心理学 [丹羽 郁夫] 春学期授業/Spring	1610
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目 【N1451】 コミュニティ心理学 [丹羽 郁夫] 春学期授業/Spring	1611
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目 【N1455】 心理療法 [久保田 幹子] 春学期授業/Spring	1612
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1501】 グループアプローチ [大竹 直子] 秋学期授業/Fall	1613
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1503】 児童精神医学 [関谷 秀子] 春学期授業/Spring	1614
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1507】 精神分析学 [中 康] 秋学期授業/Fall	1615
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1509】 臨床心理学特講 [末武 康弘] 秋学期授業/Fall	1616
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1511】 認知行動療法 [金築 優] 秋学期授業/Fall	1617
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1607】 精神生理学特講 [望月 聡] 秋学期授業/Fall	1618
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1609】 認知心理学特講 [望月 聡] 秋学期授業/Fall	1619
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0101】 情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	1620
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0102】 情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall	1621

[illegible]

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0131】情報処理演習Ⅰ〔久東 義典〕春学期授業/Spring	1652
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0132】情報処理演習Ⅱ〔久東 義典〕秋学期授業/Fall	1654
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0133】情報処理演習Ⅰ〔久東 義典〕春学期授業/Spring	1656
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0134】情報処理演習Ⅱ〔久東 義典〕秋学期授業/Fall	1658
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0135】情報処理演習Ⅰ〔名兄耶 厚〕春学期授業/Spring	1660
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0136】情報処理演習Ⅱ〔名兄耶 厚〕秋学期授業/Fall	1661
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0137】情報処理演習Ⅰ〔名兄耶 厚〕春学期授業/Spring	1661
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0138】情報処理演習Ⅱ〔名兄耶 厚〕秋学期授業/Fall	1662
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0139】情報処理演習Ⅰ〔名兄耶 厚〕春学期授業/Spring	1662
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0140】情報処理演習Ⅱ〔名兄耶 厚〕秋学期授業/Fall	1663
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0141】情報処理演習Ⅰ〔名兄耶 厚〕春学期授業/Spring	1663
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0142】情報処理演習Ⅱ〔名兄耶 厚〕秋学期授業/Fall	1664
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0143】情報処理演習Ⅰ〔星 善光〕春学期授業/Spring	1664
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0144】情報処理演習Ⅱ〔星 善光〕秋学期授業/Fall	1665
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0145】情報処理演習Ⅰ〔星 善光〕春学期授業/Spring	1666
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0146】情報処理演習Ⅱ〔星 善光〕秋学期授業/Fall	1667
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0303】情報処理演習〔寺澤 信雄〕春学期授業/Spring	1668
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0305】情報処理演習〔寺澤 信雄〕春学期授業/Spring	1670
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0307】情報処理演習〔御園生 純〕春学期授業/Spring	1671
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0451】キャリアデザイン応用〔大八木 智一〕秋学期授業/Fall	1672
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0452】キャリアデザイン応用〔大八木 智一〕秋学期授業/Fall	1674
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0453】キャリアデザイン応用〔大八木 智一〕秋学期授業/Fall	1676
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0454】キャリアデザイン応用〔大八木 智一〕秋学期授業/Fall	1678
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0501】大学を知ろう <法政学>への招待〔小林 ふみ子、小倉 淳一〕春学期授業/Spring	1680
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0503】法政学の探究Ⅱ B〔古俣 達郎〕春学期授業/Spring	1682
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0504】法政学の探究Ⅱ A〔古俣 達郎、高柳 俊男〕秋学期授業/Fall	1683
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0621】リベラルアーツ特別講座〔コーディネータ：小原 丈明、講師（ゲストスピーカー）：イオン銀行 岩波 俊哉氏 他〕春学期授業/Spring	1685

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0622】リベラルアーツ特別実習〔コーディネータ：小原 丈明、講師（ゲストスピーカー）：イオン銀行 岩波 俊哉氏 他〕スプリングセッション/Spring Session	1686
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1001】日本古典文学A〔表 きよし〕春学期授業/Spring	1687
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1002】日本古典文学B〔表 きよし〕秋学期授業/Fall	1688
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1003】日本古典文学A〔園 明美〕春学期授業/Spring	1690
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1004】日本古典文学B〔園 明美〕秋学期授業/Fall	1691
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1005】日本古典文学A〔成島 知子〕春学期授業/Spring	1692
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1006】日本古典文学B〔成島 知子〕秋学期授業/Fall	1693
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1007】日本古典文学A〔成島 知子〕春学期授業/Spring	1694
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1008】日本古典文学B〔成島 知子〕秋学期授業/Fall	1695
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1009】日本近・現代文学A〔川鍋 義一〕春学期授業/Spring	1696
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1010】日本近・現代文学B〔川鍋 義一〕秋学期授業/Fall	1697
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1011】日本近・現代文学A〔川鍋 義一〕春学期授業/Spring	1698
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1012】日本近・現代文学B〔川鍋 義一〕秋学期授業/Fall	1699
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1013】日本文学A〔島田 雅彦〕春学期授業/Spring	1700
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1014】日本文学B〔島田 雅彦〕秋学期授業/Fall	1701
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1015】日本文学A〔佐藤 未央子〕春学期授業/Spring	1702
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1016】日本文学B〔佐藤 未央子〕秋学期授業/Fall	1703
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1017】外国文学A〔DIETMAR HEIDENREICH〕春学期授業/Spring	1704
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1018】外国文学B〔DIETMAR HEIDENREICH〕秋学期授業/Fall	1705
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1019】外国文学A〔近江屋 志穂〕春学期授業/Spring	1706
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1020】外国文学B〔近江屋 志穂〕秋学期授業/Fall	1707
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1021】外国文学A〔吉井 涼子〕春学期授業/Spring	1708
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1022】外国文学B〔吉井 涼子〕秋学期授業/Fall	1709
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1023】外国文学A〔吉井 涼子〕春学期授業/Spring	1710
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1024】外国文学B〔吉井 涼子〕秋学期授業/Fall	1711
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1025】外国文学A〔梁 禮先〕春学期授業/Spring	1712
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1026】外国文学B〔梁 禮先〕秋学期授業/Fall	1713
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1027】日本近・現代文学A〔鈴木 彩〕春学期授業/Spring	1714

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1028】 日本近・現代文学B [鈴木 彩] 秋学期授業/Fall	1715
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1061】 文章論 [萩野 了子] 春学期授業/Spring	716
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1062】 文章論 [西元 康雅] 春学期授業/Spring	717
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1063】 文章論 [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	718
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1064】 文章論 [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall	720
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1065】 文章論 [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	721
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1069】 文章論 [西元 康雅] 秋学期授業/Fall	722
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1081】 言語学A [板井 美佐] 春学期授業/Spring	1723
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1082】 言語学B [板井 美佐] 秋学期授業/Fall	1724
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1083】 言語学A [齊藤 雄介] 春学期授業/Spring	1725
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1084】 言語学B [齊藤 雄介] 秋学期授業/Fall	1726
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1085】 言語学A [江村 裕文] 春学期授業/Spring	1727
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1086】 言語学B [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	1728
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1091】 哲学I [滝口 清栄] 春学期授業/Spring	1729
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1092】 哲学II [滝口 清栄] 秋学期授業/Fall	730
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1093】 哲学I [計良 隆世] 春学期授業/Spring	1731
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1094】 哲学II [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	732
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1095】 哲学I [計良 隆世] 春学期授業/Spring	1733
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1096】 哲学II [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	734
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1097】 哲学I [山口 誠一] 春学期授業/Spring	1735
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1098】 哲学II [山口 誠一] 秋学期授業/Fall	736
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1099】 哲学I [伊藤 功] 春学期授業/Spring	737
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1100】 哲学II [伊藤 功] 秋学期授業/Fall	738
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1101】 哲学I [谷口 力] 春学期授業/Spring	739
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1102】 哲学II [谷口 力] 秋学期授業/Fall	740
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1103】 哲学I [大西 正人] 春学期授業/Spring	1741
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1104】 哲学II [大西 正人] 秋学期授業/Fall	742
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1105】 哲学I [近堂 秀] 春学期授業/Spring	743
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1106】 哲学II [近堂 秀] 秋学期授業/Fall	744
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1107】 哲学I [越部 良一] 春学期授業/Spring	1745
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1108】 哲学II [越部 良一] 秋学期授業/Fall	746
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1109】 哲学I [白根 裕里枝] 春学期授業/Spring	1747
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1110】 哲学II [白根 裕里枝] 秋学期授業/Fall	1748
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1121】 倫理学I [越部 良一] 春学期授業/Spring	1749
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1122】 倫理学II [越部 良一] 秋学期授業/Fall	1750
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1123】 倫理学I [杉本 隆久] 春学期授業/Spring	1751
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1124】 倫理学II [杉本 隆久] 秋学期授業/Fall	1752

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1125】 倫理学 I [伊藤 直樹] 春学期授 業/Spring	1753
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1126】 倫理学 II [伊藤 直樹] 秋学期授 業/Fall	1754
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1127】 倫理学 I [田島 樹里奈] 春学期 授業/Spring	1755
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1128】 倫理学 II [田島 樹里奈] 秋学期 授業/Fall	1756
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1129】 倫理学 I [森村 修] 春学期授 業/Spring	1757
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1130】 倫理学 II [森村 修] 秋学期授業/Fall	1758
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1131】 倫理学 I [佐藤 英明] 春学期授 業/Spring	1759
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1132】 倫理学 II [佐藤 英明] 秋学期授 業/Fall	1760
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1133】 倫理学 I [越部 良一] 春学期授 業/Spring	1761
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1134】 倫理学 II [越部 良一] 秋学期授 業/Fall	1762
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1141】 論理学 I [大西 正人] 春学期授 業/Spring	1763
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1142】 論理学 II [大西 正人] 秋学期授 業/Fall	1764
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1143】 論理学 I [白根 裕里枝] 春学期 授業/Spring	1765
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1144】 論理学 II [白根 裕里枝] 秋学期 授業/Fall	1766
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1145】 論理学 I [計良 隆世] 春学期授 業/Spring	1767
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1146】 論理学 II [計良 隆世] 秋学期授 業/Fall	1769
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1147】 論理学 I [鵜澤 和彦] 春学期授 業/Spring	1770
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1148】 論理学 II [鵜澤 和彦] 秋学期授 業/Fall	1772
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1149】 論理学 I [大貫 義久] 春学期授 業/Spring	1773
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1150】 論理学 II [大貫 義久] 秋学期授 業/Fall	1774
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1151】 論理学 I [滝口 清栄] 春学期授 業/Spring	1775
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1152】 論理学 II [滝口 清栄] 秋学期授 業/Fall	1776
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1153】 論理学 I [菅沢 龍文] 春学期授 業/Spring	1777
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1154】 論理学 II [菅沢 龍文] 秋学期授 業/Fall	1778
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1155】 論理学 I [計良 隆世] 春学期授 業/Spring	1779
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1156】 論理学 II [計良 隆世] 秋学期授 業/Fall	1780
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1161】 東洋史 I [齋藤 勝] 春学期授 業/Spring	1782
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1162】 東洋史 II [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	1783
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1163】 東洋史 I [齋藤 勝] 春学期授 業/Spring	1784
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1164】 東洋史 II [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	1785

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1165】 東洋史 I [板橋 暁子] 春学期授業/Spring	1786
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1166】 東洋史 II [板橋 暁子] 秋学期授業/Fall	1787
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1167】 東洋史 I [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	1788
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1168】 東洋史 II [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	1789
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1169】 東洋史 I [板橋 暁子] 春学期授業/Spring	1790
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1170】 東洋史 II [板橋 暁子] 秋学期授業/Fall	1791
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1181】 西洋史 I [大澤 広晃] 春学期授業/Spring	1792
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1182】 西洋史 II [大澤 広晃] 秋学期授業/Fall	1793
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1183】 西洋史 I [大澤 広晃] 春学期授業/Spring	1794
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1184】 西洋史 II [大澤 広晃] 秋学期授業/Fall	1795
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1185】 西洋史 I [大澤 広晃] 春学期授業/Spring	1796
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1186】 西洋史 II [大澤 広晃] 秋学期授業/Fall	1797
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1187】 西洋史 I [大澤 広晃] 春学期授業/Spring	1798
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1188】 西洋史 II [大澤 広晃] 秋学期授業/Fall	1799
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1201】 日本史 I [根崎 光男] 春学期授業/Spring	1800
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1202】 日本史 II [根崎 光男] 秋学期授業/Fall	1801
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1203】 日本史 I [小口 雅史] 春学期授業/Spring	1802
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1204】 日本史 II [小口 雅史] 秋学期授業/Fall	1803
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1205】 日本史 I [小口 雅史] 春学期授業/Spring	1805
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1206】 日本史 II [小口 雅史] 秋学期授業/Fall	1806
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1207】 日本史 I [真辺 美佐] 春学期授業/Spring	1808
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1208】 日本史 II [真辺 美佐] 秋学期授業/Fall	1809
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1209】 日本史 I [小口 雅史] 春学期授業/Spring	1810
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1210】 日本史 II [小口 雅史] 秋学期授業/Fall	1811
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1211】 日本史 I [根崎 光男] 春学期授業/Spring	1813
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1212】 日本史 II [根崎 光男] 秋学期授業/Fall	1814
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1221】 宗教論 I [若林 明彦] 春学期授業/Spring	1815
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1222】 宗教論 II [若林 明彦] 秋学期授業/Fall	1816
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1223】 宗教論 I [君嶋 泰明] 春学期授業/Spring	1817

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1224】 宗教論Ⅱ [君嶋 泰明] 秋学期授業/Fall	1818
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1231】 芸術A [武田 昭彦] 春学期授業/Spring	1819
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1232】 芸術B [武田 昭彦] 秋学期授業/Fall	1820
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1233】 芸術A [小澤 慶介] 春学期授業/Spring	1821
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1234】 芸術B [小澤 慶介] 秋学期授業/Fall	1822
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1235】 芸術A [中川 三千代] 春学期授業/Spring	1823
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1236】 芸術B [中川 三千代] 秋学期授業/Fall	1824
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1301】 日本文学と文化L A [本塚 亘] 春学期授業/Spring	1825
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1302】 日本文学と文化L B [本塚 亘] 秋学期授業/Fall	1826
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1303】 日本文学と文化L C [今泉 隆裕] 春学期授業/Spring	1827
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1304】 日本文学と文化L D [今泉 隆裕] 秋学期授業/Fall	1828
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1307】 日本文学と文化L G [榎本 正樹] 春学期授業/Spring	1830
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1308】 日本文学と文化L H [榎本 正樹] 秋学期授業/Fall	1831
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1309】 外国文学と文化L A [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	1833
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1310】 外国文学と文化L B [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	1834
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1311】 外国文学と文化L C [日原 傳] 春学期授業/Spring	1836
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1312】 外国文学と文化L D [日原 傳] 秋学期授業/Fall	1837
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1313】 外国文学と文化L E [大崎 さやの] 春学期授業/Spring	1838
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1314】 外国文学と文化L F [大崎 さやの] 秋学期授業/Fall	1839
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1315】 文学と社会L A [佐藤 陽] 春学期授業/Spring	1840
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1316】 文学と社会L B [佐藤 陽] 秋学期授業/Fall	1841
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1319】 文学と社会L C [白戸 満喜子] 春学期授業/Spring	1842
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1320】 文学と社会L D [白戸 満喜子] 秋学期授業/Fall	1843
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1321】 文学と社会L E [中澤 忠之] 春学期授業/Spring	1844
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1322】 文学と社会L F [中澤 忠之] 秋学期授業/Fall	1845
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1323】 日本文学と文化L G [榎本 正樹] 春学期授業/Spring	1846
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1324】 日本文学と文化L H [榎本 正樹] 秋学期授業/Fall	1847
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1362】 音声学L [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	1849
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1381】 哲学L I [大西 正人] 春学期授業/Spring	1850
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1382】 哲学L II [大西 正人] 秋学期授業/Fall	1851

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1383】 哲学L I [白根 裕里 枝] 春学期授業/Spring	1852
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1384】 哲学L II [白根 裕里 枝] 秋学期授業/Fall	1853
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1391】 倫理学L I [森村 修] 春学期授業/Spring	1854
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1392】 倫理学L II [森村 修] 秋学期授業/Fall	1855
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1393】 倫理学L I [佐藤 英 明] 春学期授業/Spring	1857
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1394】 倫理学L II [佐藤 英 明] 秋学期授業/Fall	1858
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1395】 倫理学L I [杉本 隆 久] 春学期授業/Spring	1859
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1396】 倫理学L II [杉本 隆 久] 秋学期授業/Fall	1860
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1397】 倫理学L I [伊藤 直 樹] 春学期授業/Spring	1861
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1398】 倫理学L II [伊藤 直 樹] 秋学期授業/Fall	1862
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1399】 倫理学L I [田島 樹 里奈] 春学期授業/Spring	1863
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1400】 倫理学L II [田島 樹 里奈] 秋学期授業/Fall	1865
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1401】 倫理学L I [吉永 明 弘] 春学期授業/Spring	1866
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1402】 倫理学L II [吉永 明 弘] 秋学期授業/Fall	1867
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1411】 論理学L I [佐々木 護] 春学期授業/Spring	1868
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1412】 論理学L II [佐々木 護] 秋学期授業/Fall	1869
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1421】 東洋史L I [岡安 勇] 春学期授業/Spring	1870
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1422】 東洋史L II [岡安 勇] 秋学期授業/Fall	1871
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1423】 東洋史L I [長谷部 圭彦] 春学期授業/Spring	1873
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1424】 東洋史L II [長谷部 圭彦] 秋学期授業/Fall	1874
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1435】 西洋史L A [渡辺 知] 春学期授業/Spring	1875
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1436】 西洋史L B [渡辺 知] 秋学期授業/Fall	1876
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1437】 西洋史L A [渡辺 知] 春学期授業/Spring	1877
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1438】 西洋史L B [渡辺 知] 秋学期授業/Fall	1878
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1441】 日本史L I [森 朋久] 春学期授業/Spring	1879
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1442】 日本史L II [森 朋久] 秋学期授業/Fall	1880
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1443】 日本史L I [仁平 義 孝] 春学期授業/Spring	1881
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1444】 日本史L II [仁平 義 孝] 秋学期授業/Fall	1882

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1445】 日本史ⅠⅡ [貫井 裕恵] 春学期授業/Spring	1883
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1446】 日本史ⅠⅡ [貫井 裕恵] 秋学期授業/Fall	1884
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1447】 日本史ⅠⅡ [鈴木 多聞] 春学期授業/Spring	1885
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1448】 日本史ⅠⅡ [鈴木 多聞] 秋学期授業/Fall	1886
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1451】 宗教論ⅠⅡ [須藤 孝也] 春学期授業/Spring	1887
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_1 群 (人文分野) 【Q1452】 宗教論ⅠⅡ [須藤 孝也] 秋学期授業/Fall	1888
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2001】 法学Ⅰ [山本 圭子] 春学期授業/Spring	1889
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2002】 法学Ⅱ [山本 圭子] 秋学期授業/Fall	1890
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2003】 法学Ⅰ [内藤 淳] 春学期授業/Spring	1891
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2004】 法学Ⅱ [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	1892
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2005】 法学Ⅰ [前川 佳夫] 春学期授業/Spring	1893
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2006】 法学Ⅱ [前川 佳夫] 秋学期授業/Fall	1894
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2007】 法学Ⅰ [内藤 淳] 春学期授業/Spring	1895
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2008】 法学Ⅱ [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	1896
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2009】 法学Ⅰ [内藤 淳] 春学期授業/Spring	1897
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2010】 法学Ⅱ [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	1898
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2011】 法学Ⅰ [水野 圭子] 春学期授業/Spring	1899
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2012】 法学Ⅱ [水野 圭子] 秋学期授業/Fall	1900
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2013】 法学Ⅰ [金子 匡良] 春学期授業/Spring	1901
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2014】 法学Ⅱ [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	1902
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2015】 法学Ⅰ [茂木 洋平] 春学期授業/Spring	1903
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2016】 法学Ⅱ [茂木 洋平] 秋学期授業/Fall	1904
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2017】 法学Ⅰ [前川 佳夫] 春学期授業/Spring	1905
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2018】 法学Ⅱ [前川 佳夫] 秋学期授業/Fall	1906
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2031】 法学 (日本国憲法) [陳 志明] 春学期授業/Spring	1907
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2032】 法学 (日本国憲法) [陳 志明] 秋学期授業/Fall	1908
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2033】 法学 (日本国憲法) [陳 志明] 春学期授業/Spring	1909
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2034】 法学 (日本国憲法) [陳 志明] 秋学期授業/Fall	1910
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2041】 経済学Ⅰ [玉之内 直] 春学期授業/Spring	1911
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2042】 経済学Ⅱ [玉之内 直] 秋学期授業/Fall	1912
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2043】 経済学Ⅰ [西崎 文平] 春学期授業/Spring	1913
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2044】 経済学Ⅱ [西崎 文平] 秋学期授業/Fall	1914
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2045】 経済学Ⅰ [梅溪 健児] 春学期授業/Spring	1915
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2046】 経済学Ⅱ [梅溪 健児] 秋学期授業/Fall	1916

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2049】 経済学Ⅰ [玉之内 直] 春学期授 業/Spring	1917
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2050】 経済学Ⅱ [玉之内 直] 秋学期授 業/Fall	1918
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2061】 マクロ経済学Ⅰ [平田 英明] 春 学期授業/Spring	1919
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2062】 マクロ経済学Ⅱ [平田 英明] 秋 学期授業/Fall	1920
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2063】 マクロ経済学Ⅰ [平田 英明] 春 学期授業/Spring	1921
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2064】 マクロ経済学Ⅱ [平田 英明] 秋 学期授業/Fall	1922
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2071】 心理学Ⅰ [宇野 カオリ] 春学期 授業/Spring	1923
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2072】 心理学Ⅱ [宇野 カオリ] 秋学期 授業/Fall	1924
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2073】 心理学Ⅰ [櫻井 登世子] 春学期 授業/Spring	1925
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2074】 心理学Ⅱ [櫻井 登世子] 秋学期 授業/Fall	1926
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2075】 心理学Ⅰ [宇野 カオリ] 春学期 授業/Spring	1927
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2076】 心理学Ⅱ [宇野 カオリ] 秋学期 授業/Fall	1928
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2077】 心理学Ⅰ [海部 紀行] 春学期授 業/Spring	1929
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2078】 心理学Ⅱ [海部 紀行] 秋学期授 業/Fall	1932
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2079】 心理学Ⅰ [海部 紀行] 春学期授 業/Spring	1935
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2080】 心理学Ⅱ [海部 紀行] 秋学期授 業/Fall	1938
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2081】 心理学Ⅰ [宇野 カオリ] 春学期 授業/Spring	1941
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2082】 心理学Ⅱ [宇野 カオリ] 秋学期 授業/Fall	1942
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2083】 心理学Ⅰ [宇野 カオリ] 春学期 授業/Spring	1943
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2084】 心理学Ⅱ [宇野 カオリ] 秋学期 授業/Fall	1944
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2085】 心理学Ⅰ [櫻井 登世子] 春学期 授業/Spring	1945
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2086】 心理学Ⅱ [櫻井 登世子] 秋学期 授業/Fall	1946
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2111】 地理学Ⅰ [高木 正] 春学期授 業/Spring	1947
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2112】 地理学Ⅱ [高木 正] 秋学期授業/Fall	1948
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2113】 地理学Ⅰ [前川 明彦] 春学期授 業/Spring	1949
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2114】 地理学Ⅱ [前川 明彦] 秋学期授 業/Fall	1950
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2115】 地理学Ⅰ [米家 志乃布] 春学期 授業/Spring	1951
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2116】 地理学Ⅱ [米家 志乃布] 秋学期 授業/Fall	1952
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2117】 地理学Ⅰ [前畑 明美] 春学期授 業/Spring	1953

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2118】 地理学Ⅱ [前畑 明美] 秋学期授 業/Fall	1954
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2119】 地理学Ⅰ [前畑 明美] 春学期授 業/Spring	1955
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2120】 地理学Ⅱ [前畑 明美] 秋学期授 業/Fall	1956
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2131】 社会学Ⅰ [菅野 摂子] 春学期授 業/Spring	1957
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2132】 社会学Ⅱ [菅野 摂子] 秋学期授 業/Fall	1958
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2133】 社会学Ⅰ [山本 卓] 春学期授 業/Spring	1959
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2134】 社会学Ⅱ [山本 卓] 秋学期授業/Fall	1960
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2135】 社会学Ⅰ [高橋 徹] 春学期授 業/Spring	1961
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2136】 社会学Ⅱ [高橋 徹] 秋学期授業/Fall	1962
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2137】 社会学Ⅰ [山本 卓] 春学期授 業/Spring	1963
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2138】 社会学Ⅱ [山本 卓] 秋学期授業/Fall	1964
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2139】 社会学Ⅰ [高橋 徹] 春学期授 業/Spring	1965
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2140】 社会学Ⅱ [高橋 徹] 秋学期授業/Fall	1966
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2141】 社会学Ⅰ [橋本 みゆき] 春学期 授業/Spring	1967
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2142】 社会学Ⅱ [橋本 みゆき] 秋学期 授業/Fall	1968
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2143】 社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授 業/Spring	1969
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2144】 社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	1970
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2145】 社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授 業/Spring	1971
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2146】 社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	1972
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2161】 政治学Ⅰ [及川 智洋] 春学期授 業/Spring	1973
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2162】 政治学Ⅱ [及川 智洋] 秋学期授 業/Fall	1974
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2163】 政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授 業/Spring	1975
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2164】 政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fall	1976
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2165】 政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授 業/Spring	1977
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2166】 政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fall	1978
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2167】 政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授 業/Spring	1979
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2168】 政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授 業/Fall	1980
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2169】 政治学Ⅰ [及川 智洋] 春学期授 業/Spring	1981
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2170】 政治学Ⅱ [及川 智洋] 秋学期授 業/Fall	1982
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2171】 政治学Ⅰ [面 一也] 春学期授 業/Spring	1983
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2172】 政治学Ⅱ [面 一也] 秋学期授業/Fall	1984
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2173】 政治学Ⅰ [岡崎 加奈子] 春学期 授業/Spring	1985
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2174】 政治学Ⅱ [岡崎 加奈子] 秋学期 授業/Fall	1986

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2175】 政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授 業/Spring	1987
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2176】 政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授 業/Fall	1988
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2191】 文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授 業/Spring	1989
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2193】 文化人類学 [四條 真也] 春学期授 業/Spring	1990
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2195】 文化人類学 [梅村 絢美] 春学期授 業/Spring	1991
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2197】 文化人類学 [長沢 利明] 春学期授 業/Spring	1992
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2199】 文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授 業/Spring	1993
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2201】 文化人類学 [梅村 絢美] 春学期授 業/Spring	1994
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2203】 文化人類学 [阿部 朋恒] 春学期授 業/Spring	1995
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2205】 文化人類学 [阿部 朋恒] 春学期授 業/Spring	1996
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2207】 文化人類学 [四條 真也] 春学期授 業/Spring	1997
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2209】 文化人類学 [石森 大知] 春学期授 業/Spring	1998
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2211】 社会思想Ⅰ [犬塚 元] 春学期授 業/Spring	1999
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2212】 社会思想Ⅱ [犬塚 元] 秋学期授 業/Fall	2000
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2213】 社会思想Ⅰ [村田 玲] 春学期授 業/Spring	2001
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2214】 社会思想Ⅱ [村田 玲] 秋学期授 業/Fall	2002
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2215】 社会思想Ⅰ [阿部 崇史] 春学期 授業/Spring	2003
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2216】 社会思想Ⅱ [阿部 崇史] 秋学期 授業/Fall	2004
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2217】 社会思想Ⅰ [洪 貴義] 春学期授 業/Spring	2005
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2218】 社会思想Ⅱ [洪 貴義] 秋学期授 業/Fall	2006
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2219】 社会思想Ⅰ [熊沢 敏之] 春学期 授業/Spring	2007
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2220】 社会思想Ⅱ [熊沢 敏之] 秋学期 授業/Fall	2008
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2221】 社会思想Ⅰ [村田 玲] 春学期授 業/Spring	2009
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2222】 社会思想Ⅱ [村田 玲] 秋学期授 業/Fall	2010
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2321】 経済学Ⅰ A [中平 千 彦] 春学期授業/Spring	2011
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2322】 経済学Ⅰ B [中平 千 彦] 秋学期授業/Fall	2012
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2323】 経済学Ⅰ A [鈴木 誠] 春学期授業/Spring	2013
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2324】 経済学Ⅰ B [鈴木 誠] 秋学期授業/Fall	2014

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2325】 経済学 L A [陳 文挙]	
春学期授業/Spring	2015
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2326】 経済学 L B [陳 文挙]	
秋学期授業/Fall	2016
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2341】 心理学 L A [海部 紀行]	
春学期授業/Spring	2017
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2342】 心理学 L B [海部 紀行]	
秋学期授業/Fall	2020
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2343】 心理学 L A [海部 紀行]	
春学期授業/Spring	2023
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2344】 心理学 L B [海部 紀行]	
秋学期授業/Fall	2026
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2351】 地理学 L A [長沢 利明]	
春学期授業/Spring	2029
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2352】 地理学 L B [長沢 利明]	
秋学期授業/Fall	2030
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2353】 地理学 L C [片岡 義晴]	
春学期授業/Spring	2031
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2354】 地理学 L D [片岡 義晴]	
秋学期授業/Fall	2032
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2355】 地理学 L C [高木 正]	
春学期授業/Spring	2033
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2356】 地理学 L D [高木 正]	
秋学期授業/Fall	2034
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2357】 地理学 L A [長沢 利明]	
春学期授業/Spring	2035
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2358】 地理学 L B [長沢 利明]	
秋学期授業/Fall	2036
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2359】 地理学 L C [前川 明彦]	
春学期授業/Spring	2037
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2360】 地理学 L D [前川 明彦]	
秋学期授業/Fall	2039
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2361】 社会学 L A [松下 優一]	
春学期授業/Spring	2040
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2362】 社会学 L B [松下 優一]	
秋学期授業/Fall	2041
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2363】 社会学 L C [徐 玄九]	
春学期授業/Spring	2041
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2364】 社会学 L D [徐 玄九]	
秋学期授業/Fall	2042
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2371】 政治学 L A [木村 正俊]	
春学期授業/Spring	2043
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2372】 政治学 L B [木村 正俊]	
秋学期授業/Fall	2044
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2382】 文化人類学 L [ベル 裕紀]	
秋学期授業/Fall	2045
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2384】 文化人類学 L [四條 真也]	
秋学期授業/Fall	2046
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2386】 文化人類学 L [梅村 絢美]	
秋学期授業/Fall	2047
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2388】 文化人類学 L [長沢 利明]	
秋学期授業/Fall	2049
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2390】 文化人類学 L [ベル 裕紀]	
秋学期授業/Fall	2050
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2392】 文化人類学 L [梅村 絢美]	
秋学期授業/Fall	2051

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2394】 文化人類学 L [阿部 朋恒] 秋学期授業/Fall	2052
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2396】 文化人類学 L [阿部 朋恒] 秋学期授業/Fall	2054
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2398】 文化人類学 L [四條 真也] 秋学期授業/Fall	2055
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2400】 文化人類学 L [石森 大知] 秋学期授業/Fall	2056
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2401】 社会思想 L A [洪 貴 義] 春学期授業/Spring	2057
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2402】 社会思想 L B [洪 貴 義] 秋学期授業/Fall	2058
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2403】 社会思想 L A [洪 貴 義] 春学期授業/Spring	2059
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_2 群 (社会分野) 【Q2404】 社会思想 L B [洪 貴 義] 秋学期授業/Fall	2060
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3001】 教養数学 A [平田 康史] 春学期授業/Spring	2061
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3002】 教養数学 B [平田 康史] 秋学期授業/Fall	2062
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3003】 教養数学 A [平田 康史] 春学期授業/Spring	2063
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3004】 教養数学 B [平田 康史] 秋学期授業/Fall	2064
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3005】 教養数学 A [小木曾 岳義] 春学期授業/Spring	2065
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3006】 教養数学 B [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall	2066
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3007】 教養数学 A [小木曾 岳義] 春学期授業/Spring	2067
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3008】 教養数学 B [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall	2068
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3011】 教養数学 A [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	2069
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3012】 教養数学 B [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	2070
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3013】 教養数学 A [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	2071
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3014】 教養数学 B [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	2072
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3015】 教養数学 A [佐藤 洋祐] 春学期授業/Spring	2073
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3016】 教養数学 B [佐藤 洋祐] 秋学期授業/Fall	2074
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3017】 教養数学 A [佐藤 洋祐] 春学期授業/Spring	2075
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3018】 教養数学 B [佐藤 洋祐] 秋学期授業/Fall	2076
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3019】 教養数学 A [佐藤 洋祐] 春学期授業/Spring	2077
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3020】 教養数学 B [佐藤 洋祐] 秋学期授業/Fall	2078
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3031】 基礎数学 I [若井 健太郎] 春学期授業/Spring	2079
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3032】 基礎数学 II [若井 健太郎] 秋学期授業/Fall	2080

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3033】基礎数学Ⅰ [板井 昌典] 春学期 授業/Spring	2081
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3034】基礎数学Ⅱ [板井 昌典] 秋学期 授業/Fall	2082
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3035】基礎数学Ⅰ [池田 宏一郎] 春学 期授業/Spring	2083
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3036】基礎数学Ⅱ [池田 宏一郎] 秋学 期授業/Fall	2084
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3037】基礎数学Ⅰ [若井 健太郎] 春学 期授業/Spring	2085
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3038】基礎数学Ⅱ [若井 健太郎] 秋学 期授業/Fall	2086
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3039】基礎数学Ⅰ [板井 昌典] 春学期 授業/Spring	2087
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3040】基礎数学Ⅱ [板井 昌典] 秋学期 授業/Fall	2088
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3041】基礎数学Ⅰ [倉田 俊彦] 春学期 授業/Spring	2089
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3042】基礎数学Ⅱ [倉田 俊彦] 秋学期 授業/Fall	2090
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3043】基礎数学Ⅰ [江口 直日] 春学期 授業/Spring	2091
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3044】基礎数学Ⅱ [江口 直日] 秋学期 授業/Fall	2092
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3047】基礎数学Ⅰ [江口 直日] 春学期 授業/Spring	2093
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3048】基礎数学Ⅱ [江口 直日] 秋学期 授業/Fall	2094
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3051】入門物理学A [吉田 智] 春学期授 業/Spring	2095
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3052】入門物理学B [吉田 智] 秋学期授 業/Fall	2096
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3053】入門物理学A [井坂 政裕] 春学期 授業/Spring	2097
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3054】入門物理学B [井坂 政裕] 秋学期 授業/Fall	2098
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3055】入門物理学A [石川 壮一] 春学期 授業/Spring	2099
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3056】入門物理学B [石川 壮一] 秋学期 授業/Fall	2100
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3057】入門物理学A [鈴木 裕武] 春学期 授業/Spring	2101
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3058】入門物理学B [鈴木 裕武] 秋学期 授業/Fall	2103
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3059】入門物理学A [井坂 政裕] 春学期 授業/Spring	2104
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3060】入門物理学B [井坂 政裕] 秋学期 授業/Fall	2105
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3061】入門物理学A [吉田 智] 春学期授 業/Spring	2106
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3062】入門物理学B [吉田 智] 秋学期授 業/Fall	2107
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3065】入門物理学A [鈴木 裕武] 春学期 授業/Spring	2108
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3066】入門物理学B [鈴木 裕武] 秋学期 授業/Fall	2110

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3067】 入門物理学 A [石川 壮一] 春学期 授業/Spring	2111
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3068】 入門物理学 B [石川 壮一] 秋学期 授業/Fall	2112
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3081】 入門生物学 A [町田 郁子] 春学期 授業/Spring	2113
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3082】 入門生物学 B [町田 郁子] 秋学期 授業/Fall	2114
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3083】 入門生物学 A [町田 郁子] 春学期 授業/Spring	2115
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3084】 入門生物学 B [町田 郁子] 秋学期 授業/Fall	2116
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3085】 入門生物学 A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	2117
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3086】 入門生物学 B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	2118
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3087】 入門生物学 A [宇野 真介] 春学期 授業/Spring	2119
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3088】 入門生物学 B [宇野 真介] 秋学期 授業/Fall	2121
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3089】 入門生物学 A [宇野 真介] 春学期 授業/Spring	2122
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3090】 入門生物学 B [宇野 真介] 秋学期 授業/Fall	2124
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3091】 入門生物学 A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	2125
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3092】 入門生物学 B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	2126
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3093】 入門生物学 A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	2127
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3094】 入門生物学 B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	2128
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3111】 入門化学 A [向井 知大] 春学期授 業/Spring	2129
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3112】 入門化学 B [向井 知大] 秋学期授 業/Fall	2130
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3113】 入門化学 A [小林 令子] 春学期授 業/Spring	2131
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3114】 入門化学 B [小林 令子] 秋学期授 業/Fall	2132
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3117】 入門化学 A [中田 和秀] 春学期授 業/Spring	2133
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3118】 入門化学 B [中田 和秀] 秋学期授 業/Fall	2134
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3119】 入門化学 A [赤羽 良一] 春学期授 業/Spring	2135
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3120】 入門化学 B [赤羽 良一] 秋学期授 業/Fall	2137
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3121】 入門化学 A [小林 令子] 春学期授 業/Spring	2138
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3122】 入門化学 B [小林 令子] 秋学期授 業/Fall	2139
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3125】 入門化学 A [赤羽 良一] 春学期授 業/Spring	2140
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3126】 入門化学 B [赤羽 良一] 秋学期授 業/Fall	2142

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3171】天文学 A [福島 登志夫] 春学期授業/Spring	2143
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3172】天文学 B [福島 登志夫] 秋学期授業/Fall	2144
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3173】天文学 A [松本 倫明] 春学期授業/Spring	2145
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3174】天文学 B [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	2146
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3175】天文学 A [福島 登志夫] 春学期授業/Spring	2147
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3176】天文学 B [福島 登志夫] 秋学期授業/Fall	2148
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3181】科学史 A [木島 泰三] 春学期授業/Spring	2149
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3182】科学史 B [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	2150
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3183】科学史 A [詫間 直樹] 春学期授業/Spring	2151
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3184】科学史 B [詫間 直樹] 秋学期授業/Fall	2152
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3185】科学史 A [木島 泰三] 春学期授業/Spring	2153
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3186】科学史 B [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	2154
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3187】科学史 A [木島 泰三] 春学期授業/Spring	2156
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3188】科学史 B [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	2157
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3211】発展数学 L I [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	2158
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3212】発展数学 L II [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	2159
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3213】発展数学 L I [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	2160
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3214】発展数学 L II [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	2161
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3221】教養物理学 LA [石川 壮一] 春学期授業/Spring	2162
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3222】教養物理学 LA [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	2163
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3223】教養物理学 LB [吉田 智] 春学期授業/Spring	2164
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3224】教養物理学 LB [吉田 智] 秋学期授業/Fall	2165
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3231】教養生物学 L A [沼田 治] 春学期授業/Spring	2166
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3232】教養生物学 L B [沼田 治] 秋学期授業/Fall	2168
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3233】教養生物学 L A [沼田 治] 春学期授業/Spring	2169
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3234】教養生物学 L B [沼田 治] 秋学期授業/Fall	2171
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3241】教養生物学 L C [町田 郁子] 春学期授業/Spring	2172
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3242】教養生物学 L D [町田 郁子] 秋学期授業/Fall	2173

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3243】 教養生物学 L C [町田 郁子] 春学期授業/Spring	2175
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3244】 教養生物学 L D [町田 郁子] 秋学期授業/Fall	2176
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3261】 教養化学 L A [向井 知大] 春学期授業/Spring	2177
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3262】 教養化学 L A [中島 弘一] 秋学期授業/Fall	2178
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3263】 教養化学 L B [中島 弘一] 春学期授業/Spring	2179
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3264】 教養化学 L B [西村 直美] 秋学期授業/Fall	2180
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3266】 教養化学 L A [中田 和秀] 春学期授業/Spring	2181
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3267】 教養化学 L C [中田 和秀] 春学期授業/Spring	2182
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3268】 教養化学 L D [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	2183
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_3 群 (自然分野) 【Q3269】 教養化学 L E [向井 知大] 秋学期授業/Fall	2184
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3301】 サイエンス・ラボ A [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2185
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3302】 サイエンス・ラボ B [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2186
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3303】 サイエンス・ラボ A [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2187
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3304】 サイエンス・ラボ B [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2188
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3305】 サイエンス・ラボ A [伊藤 晋平、 田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	2189
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3306】 サイエンス・ラボ B [伊藤 晋平、 田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2190
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3307】 サイエンス・ラボ A [伊藤 晋平、 田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2191
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3308】 サイエンス・ラボ B [伊藤 晋平、 田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2192
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3309】 サイエンス・ラボ A [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2193
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3310】 サイエンス・ラボ B [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2194
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3311】 サイエンス・ラボ A [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2195
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3312】 サイエンス・ラボ B [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2196
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3313】 サイエンス・ラボ A [向井 知大、 島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	2197
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3314】 サイエンス・ラボ B [向井 知大、 島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	2198
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3315】 サイエンス・ラボ A [向井 知大、 島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	2199
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3316】 サイエンス・ラボ B [向井 知大、 島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	2200
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3317】 サイエンス・ラボ A [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2201
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3318】 サイエンス・ラボ B [西村 直美、 小林 富美恵、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2202

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3319】サイエンス・ラボA [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2203
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3320】サイエンス・ラボB [西村 直美、 小林 富美恵、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2204
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3321】サイエンス・ラボA [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2205
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3322】サイエンス・ラボB [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2206
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3323】サイエンス・ラボA [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2207
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3324】サイエンス・ラボB [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2208
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3325】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、 田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	2209
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3326】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、 田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2210
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3327】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、 田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2211
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3328】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、 田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2212
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3329】サイエンス・ラボA [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2213
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3330】サイエンス・ラボB [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2214
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3331】サイエンス・ラボA [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2215
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3332】サイエンス・ラボB [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2216
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3333】サイエンス・ラボA [向井 知大、 島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	2217
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3334】サイエンス・ラボB [向井 知大、 島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	2218
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3335】サイエンス・ラボA [向井 知大、 島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	2219
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3336】サイエンス・ラボB [向井 知大、 島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	2220
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3337】サイエンス・ラボA [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2221
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3338】サイエンス・ラボB [西村 直美、 小林 富美恵、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2222
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3339】サイエンス・ラボA [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2223
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3340】サイエンス・ラボB [西村 直美、 小林 富美恵、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2224
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3341】サイエンス・ラボA [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2225
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3342】サイエンス・ラボB [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2226
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3343】サイエンス・ラボA [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2227
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3344】サイエンス・ラボB [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2228
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3345】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、 田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	2229
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3346】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、 田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2230

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3347】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2231
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3348】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2232
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3349】サイエンス・ラボA [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2233
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3350】サイエンス・ラボB [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2234
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3351】サイエンス・ラボA [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2235
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3352】サイエンス・ラボB [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2236
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3353】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	2237
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3354】サイエンス・ラボB [向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	2238
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3355】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	2239
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3356】サイエンス・ラボB [向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	2240
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3357】サイエンス・ラボA [西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2241
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3358】サイエンス・ラボB [西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2242
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3359】サイエンス・ラボA [西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2243
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3360】サイエンス・ラボB [西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2244
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5451】健康の科学L A [藤 平 杏子] 春学期授業/Spring	2245
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5452】健康の科学L B [阿 部 巧] 秋学期授業/Fall	2246
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5453】健康の科学L A [谷 本 都栄] 春学期授業/Spring	2247
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5454】健康の科学L B [谷 本 都栄] 秋学期授業/Fall	2248
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6001】第三外国語としての朝鮮語 A [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	2249
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6002】第三外国語としての朝鮮語 B [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	2250
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6003】第三外国語としての朝鮮語中級 [梁 禮先] 春学期授業/Spring	2251
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6005】第三外国語としての朝鮮語 A [吉良 佳奈江] 春学期授業/Spring	2252
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6006】第三外国語としての朝鮮語 B [吉良 佳奈江] 秋学期授業/Fall	2253
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6051】日本語コミュニケーション A [江村 裕文] 春学期授業/Spring	2254
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6052】日本語コミュニケーション B [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	2255
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6101】漢字・漢文学 A [加納 留美子] 春学期授業/Spring	2256
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6102】漢字・漢文学 B [加納 留美子] 秋学期授業/Fall	2257
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6103】教養ゼミⅠ [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	2258
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6104】教養ゼミⅡ [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	2259
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6109】身体表現論 A [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	2260

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6110】身体表現論 B [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	2261
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6111】美術論 A [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	2262
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6112】美術論 B [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	2264
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6113】芸術と人間 A [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	2266
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6114】芸術と人間 B [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	2267
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6115】仏教思想論 A [計良 隆世] 春学期授業/Spring	2268
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6116】仏教思想論 B [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	2269
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6117】行為の理論 A [山口 誠一] 春学期授業/Spring	2270
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6118】行為の理論 B [山口 誠一] 秋学期授業/Fall	2271
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6119】教養ゼミ I [森村 修] 春学期授業/Spring	2272
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6120】教養ゼミ II [森村 修] 秋学期授業/Fall	2273
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6121】中国の民族と文化 A [齋藤 勝] 春学期 授業/Spring	2275
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6122】中国の民族と文化 B [齋藤 勝] 秋学期 授業/Fall	2276
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6125】古代日本・中国の法と社会 A [岡野 浩二] 春学期授業/Spring	2277
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6126】古代日本・中国の法と社会 B [岡野 浩二] 秋学期授業/Fall	2278
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6127】アジア・太平洋島嶼国際関係史 A [新崎 盛吾] 春学期授業/Spring	2279
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6128】アジア・太平洋島嶼国際関係史 B [水谷 明子] 秋学期授業/Fall	2281
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6129】教養ゼミ I [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	2282
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6130】教養ゼミ II [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	2283
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6133】キリスト教思想史 A [酒井 健] 春学期 授業/Spring	2284
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6134】キリスト教思想史 B [酒井 健] 秋学期 授業/Fall	2285
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6135】教養ゼミ I [江村 裕文] 春学期授業/Spring	2286
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6136】教養ゼミ II [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	2287
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6137】異文化コミュニケーション論 A [山本 そのこ] 春学期授業/Spring	2288
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6138】異文化コミュニケーション論 B [山本 そのこ] 秋学期授業/Fall	2289
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6141】教養ゼミ I [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	2290
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6142】教養ゼミ II [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall	2291
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6143】イギリスと帝国 A [大澤 広晃] 春学期 授業/Spring	2292
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6144】イギリスと帝国 B [大澤 広晃] 秋学期 授業/Fall	2293
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6201】法哲学 A [内藤 淳] 春学期授業/Spring	2294
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6202】法哲学 B [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	2295
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6203】教養ゼミ I [木村 正俊] 春学期授業/Spring	2296
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6204】教養ゼミ II [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	2297
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6207】福祉社会論 A [菅野 摂子] 春学期授業/Spring	2298
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6208】福祉社会論 B [菅野 摂子] 秋学期授業/Fall	2299
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6209】人文地理学セミナー A [米家 志乃布] 春 学期授業/Spring	2300
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6210】人文地理学セミナー B [米家 志乃布] 秋 学期授業/Fall	2301
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6212】文化人類学方法論 B [石森 大知] 秋学 期授業/Fall	2302
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6213】教養ゼミ I [上村 剛] 春学期授業/Spring	2303
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ	【Q6214】教養ゼミ II [上村 剛] 秋学期授業/Fall	2304
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6215】人間行動学 A [海部 紀行] 春学期授業/Spring	2305
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目	【Q6216】人間行動学 B [海部 紀行] 秋学期授業/Fall	2307

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6223】 教養ゼミⅠ [金子 匡良] 春学期授業/Spring	2309
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6224】 教養ゼミⅡ [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	2310
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6301】 自然環境のしくみとその変貌 A [加藤 美雄] 春学期授業/Spring	2311
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6302】 自然環境のしくみとその変貌 B [加藤 美雄] 秋学期授業/Fall	2312
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6305】 計算と言語のしくみ [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	2314
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6306】 コンピュータと数理の活用 [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	2315
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6307】 確率の世界 A [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	2316
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6308】 確率の世界 B [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	2317
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6311】 相対性理論と宇宙 A [石川 壮一] 春学期授業/Spring	2318
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6312】 相対性理論と宇宙 B [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	2319
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6313】 現代の錬金術 A [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2320
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6314】 現代の錬金術 B [井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2321
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6315】 原子核と素粒子 A [吉田 智] 春学期授業/Spring	2322
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6316】 原子核と素粒子 B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	2323
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6317】 教養ゼミⅠ [島野 智之] 春学期授業/Spring	2324
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6318】 教養ゼミⅡ [島野 智之] 秋学期授業/Fall	2325
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6323】 イオンの科学 A [向井 知大] 春学期授業/Spring	2326
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6324】 イオンの科学 B [向井 知大] 秋学期授業/Fall	2327
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6325】 光と色の科学 A [中島 弘一] 春学期授業/Spring	2328
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6326】 光と色の科学 B [中島 弘一] 秋学期授業/Fall	2329
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6327】 物質の科学 A [中田 和秀] 春学期授業/Spring	2330
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6328】 物質の科学 B [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	2332
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6329】 IT リテラシー [児玉 靖司] 春学期授業/Spring	2333
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6330】 コンピュータ科学 [児玉 靖司] 秋学期授業/Fall	2334
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6335】 人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業/Spring	2335
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6336】 Human Impact on the Global Environment [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	2336
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6337】 ボルボックス生物論 A [植木 紀子] 春学期授業/Spring	2337
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6338】 ボルボックス生物論 B [植木 紀子] 秋学期授業/Fall	2338
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6339】 教養ゼミⅠ [中田 和秀] 春学期授業/Spring	2339
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6340】 教養ゼミⅡ [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	2340
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6401】 教養ゼミⅠ [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	2341
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6402】 教養ゼミⅡ [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	2343
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6421】 第三外国語としてのドイツ語 A [笠原 賢介] 春学期授業/Spring	2344
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6422】 第三外国語としてのドイツ語 B [笠原 賢介] 秋学期授業/Fall	2345

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6423】ドイツ語コミュニケーション中級 A [Annette Gruber] 春学期授業/Spring	2346
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6424】ドイツ語コミュニケーション中級 B [Annette Gruber] 秋学期授業/Fall	2347
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6425】教養ゼミ I [辻 英史、竹本 研史] 春学期授業/Spring	2348
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6426】教養ゼミ II [辻 英史、竹本 研史] 秋学期授業/Fall	2349
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6427】ドイツの思想 A [笠原 賢介] 春学期授業/Spring	2350
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6428】ドイツの思想 B [笠原 賢介] 秋学期授業/Fall	2351
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6429】ドイツ語圏の文学 A [柳橋 大輔] 春学期授業/Spring	2352
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6430】ドイツ語圏の文学 B [柳橋 大輔] 秋学期授業/Fall	2353
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6431】比較文化 A [DIETMAR HEIDENREICH] 春学期授業/Spring	2354
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6432】比較文化 B [DIETMAR HEIDENREICH] 秋学期授業/Fall	2355
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6433】ドイツ語圏の芸術 A [林 志津江] 春学期授業/Spring	2356
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6434】ドイツ語圏の芸術 B [林 志津江] 秋学期授業/Fall	2358
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6501】スポーツ科学 A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	2359
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6502】スポーツ科学 B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	2360
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6505】スポーツ科学 A [落合 久夫] 春学期授業/Spring	2361
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6506】スポーツ科学 B [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	2362
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6507】スポーツ科学 A [前原 千佳] 春学期授業/Spring	2363
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6508】スポーツ科学 B [前原 千佳] 秋学期授業/Fall	2365
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6509】スポーツ科学 A [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	2366
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6510】スポーツ科学 B [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	2368
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6511】スポーツ科学 A [落合 久夫] 春学期授業/Spring	2369
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6512】スポーツ科学 B [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	2370
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6513】スポーツ科学 A [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	2371
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6514】スポーツ科学 B [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	2372
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6515】スポーツ科学 A [秋本 成晴] 春学期授業/Spring	2373
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6516】スポーツ科学 B [秋本 成晴] 秋学期授業/Fall	2375
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6517】スポーツ科学 A [中澤 史] 春学期授業/Spring	2376
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6518】スポーツ科学 B [中澤 史] 秋学期授業/Fall	2378
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6519】スポーツ科学 A [笠井 淳] 春学期授業/Spring	2379
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6520】スポーツ科学 B [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	2380
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6523】教養ゼミ I [伊藤 マモル] 春学期授業/Spring	2381

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6524】 教養ゼミⅡ [伊藤 マモル] 秋学期授業/Fall	2383
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6529】 スポーツ科学 A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	2385
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6530】 スポーツ科学 B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	2386
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6531】 教養ゼミⅠ [林 容市] 春学期授業/Spring	2387
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6532】 教養ゼミⅡ [林 容市] 秋学期授業/Fall	2389
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6601】 第三外国語としてのフランス語 A [コル バイユ スティーブ] 春学期授業/Spring	2390
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6602】 第三外国語としてのフランス語 B [コル バイユ スティーブ] 秋学期授業/Fall	2391
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6605】 教養ゼミⅠ [大中 一彌] 春学期授業/Spring	2392
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6606】 教養ゼミⅡ [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	2394
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6607】 教養ゼミⅠ [PHILIPPE JORDY] 春学期授業/Spring	2395
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6608】 教養ゼミⅡ [PHILIPPE JORDY] 秋学期授業/Fall	2397
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6609】 フランス語コミュニケーション (中・上級) A [PHILIPPE JORDY] 春学期授業/Spring	2398
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6610】 フランス語コミュニケーション (中・上級) B [PHILIPPE JORDY] 秋学期授業/Fall	2399
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6701】 第三外国語としてのロシア語 A [木部 敬] 春学期授業/Spring	2400
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6702】 第三外国語としてのロシア語 B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	2401
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6703】 第三外国語としてのロシア語中級 A [エレナ 三神] 春学期授業/Spring	2402
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6704】 第三外国語としてのロシア語中級 B [エレナ 三神] 秋学期授業/Fall	2403
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6705】 実用ロシア語 A [エレナ 三神] 春学期授業/Spring	2404
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6706】 実用ロシア語 B [エレナ 三神] 秋学期授業/Fall	2405
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6707】 ロシア語講読 A [木部 敬] 春学期授業/Spring	2406
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6708】 ロシア語講読 B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	2407
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6709】 時事ロシア語 A [油本 真理] 春学期授業/Spring	2408
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6710】 時事ロシア語 B [油本 真理] 秋学期授業/Fall	2409
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6801】 第三外国語としての中国語 A [岩田 和子] 春学期授業/Spring	2410
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6802】 第三外国語としての中国語 B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	2411
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6809】 中国語コミュニケーション中級 A [周 重雷] 春学期授業/Spring	2412
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6810】 中国語コミュニケーション中級 B [周 重雷] 秋学期授業/Fall	2413
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6811】 中国語翻訳・通訳 A [葉 進] 春学期授業/Spring	2414
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6812】 中国語翻訳・通訳 B [葉 進] 秋学期授業/Fall	2415
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6813】 中国語翻訳・通訳 C [高田 裕子] 春学期授業/Spring	2416
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6814】 中国語翻訳・通訳 D [高田 裕子] 秋学期授業/Fall	2417
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6815】 中国語講読 A [岩田 和子] 春学期授業/Spring	2418
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6816】 中国語講読 B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	2419

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6819】 資格中国語中級 A [渡辺 昭太] 春学期 授業/Spring	2420
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6820】 資格中国語中級 B [渡辺 昭太] 秋学期 授業/Fall	2422
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6821】 資格中国語上級 A [康 鴻音] 春学期授 業/Spring	2423
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6822】 資格中国語上級 B [康 鴻音] 秋学期授 業/Fall	2424
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6823】 教養ゼミⅠ [岩田 和子] 春学期授業/Spring	2425
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6824】 教養ゼミⅡ [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	2426
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6901】 第三外国語としてのスペイン語 A [杉下 由紀子] 春学期授業/Spring	2427
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6902】 第三外国語としてのスペイン語 B [杉下 由紀子] 秋学期授業/Fall	2428
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6905】 スペイン語上級 A [大西 亮] 春学期授 業/Spring	2429
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6906】 スペイン語上級 B [大西 亮] 秋学期授 業/Fall	2430
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6907】 スペイン語コミュニケーション中級 A [瓜 谷 アウロラ] 春学期授業/Spring	2431
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6908】 スペイン語コミュニケーション中級 B [瓜 谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall	2432
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6909】 教養ゼミⅠ [久木 正雄] 春学期授業/Spring	2433
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6910】 教養ゼミⅡ [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	2434
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6911】 スペイン語講読 A [若林 大我] 春学期 授業/Spring	2435
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6912】 スペイン語講読 B [若林 大我] 秋学期 授業/Fall	2436
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2301】 英語オーラ ル・コミュニケーションⅠ [ALAN M NICHOLLS] 春学期授業/Spring	2437
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2302】 英語オーラ ル・コミュニケーションⅡ [ALAN M NICHOLLS] 秋学期授業/Fall	2439
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2303】 英語オーラ ル・コミュニケーションⅠ [栲木 玲子] 春学期授業/Spring	2440
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2304】 英語オーラ ル・コミュニケーションⅡ [栲木 玲子] 秋学期授業/Fall	2441
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2305】 英語オーラ ル・コミュニケーションⅠ [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	2442
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2306】 英語オーラ ル・コミュニケーションⅡ [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	2443
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2351】 ビジネス・ イングリッシュⅠ [JOHN REILLY] 春学期授業/Spring	2444
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2352】 ビジネス・ イングリッシュⅡ [JOHN REILLY] 秋学期授業/Fall	2445
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2381】 English Reading and VocabularyⅠ [ウォルター・カズマー] 春学期授業/Spring	2446
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2382】 English Reading and VocabularyⅡ [ウォルター・カズマー] 秋学期授業/Fall	2447
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2383】 English Reading and VocabularyⅠ [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	2448
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2384】 English Reading and VocabularyⅡ [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	2449
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2391】 English Academic WritingⅠ [DYLAN O SCUDDER] 春学期授業/Spring	2450
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2392】 English Academic WritingⅡ [DYLAN O SCUDDER] 秋学期授業/Fall	2452

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2393】 English Academic Writing I 【MARK D BURNS】 春学期授業/Spring	2454
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2394】 English Academic Writing II 【MARK D BURNS】 秋学期授業/Fall	2455
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2395】 English Academic Writing I 【ALAN M NICHOLLS】 春学期授業/Spring	2456
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2396】 English Academic Writing II 【ALAN M NICHOLLS】 秋学期授業/Fall	2457
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2401】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [田中 邦佳] 春学期授業/Spring	2458
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2402】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [田中 邦佳] 秋学期授業/Fall	2459
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2403】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [岩坪 友子] 春学期授業/Spring	2460
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2404】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [岩坪 友子] 秋学期授業/Fall	2462
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2405】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [永井 大輔] 春学期授業/Spring	2463
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2406】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [永井 大輔] 秋学期授業/Fall	2465
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2407】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [余田 剛] 春学期授業/Spring	2467
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2408】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [余田 剛] 秋学期授業/Fall	2469
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2409】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [金谷 優子] 春学期授業/Spring	2470
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2410】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [金谷 優子] 秋学期授業/Fall	2472
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2411】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [大曲 陽子] 春学期授業/Spring	2474
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2412】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [大曲 陽子] 秋学期授業/Fall	2475
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2441】 English Presentation I 【NADER Jamelea】 春学期授業/Spring	2477
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2442】 English Presentation II 【NADER Jamelea】 秋学期授業/Fall	2478
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2443】 English Presentation I 【JOHN REILLY】 春学期授業/Spring	2480
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2444】 English Presentation II 【JOHN REILLY】 秋学期授業/Fall	2481
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2445】 English Presentation I [コートランド・デイビッド・スミス] 春学期授業/Spring	2482
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2446】 English Presentation II [コートランド・デイビッド・スミス] 秋学期授業/Fall	2483
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2447】 English Presentation I 【MARK D BURNS】 春学期授業/Spring	2485
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2448】 English Presentation II 【MARK D BURNS】 秋学期授業/Fall	2486
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2451】 英語アカデミック・リーディングⅠ [岩崎 博] 春学期授業/Spring	2487
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2452】 英語アカデミック・リーディングⅡ [岩崎 博] 秋学期授業/Fall	2489
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2481】 英語検定試験対策Ⅰ [久慈 美貴] 春学期授業/Spring	2491
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2482】 英語検定試験対策Ⅱ [久慈 美貴] 秋学期授業/Fall	2492

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2483】 英語検定試験対策Ⅰ [飛田 英伸] 春学期授業/Spring	2493
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2484】 英語検定試験対策Ⅱ [飛田 英伸] 秋学期授業/Fall	2494
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2485】 英語検定試験対策Ⅰ [鈴木 理枝] 春学期授業/Spring	2495
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2486】 英語検定試験対策Ⅱ [鈴木 理枝] 秋学期授業/Fall	2496
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2487】 英語検定試験対策Ⅰ [高橋 佳江] 春学期授業/Spring	2497
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2488】 英語検定試験対策Ⅱ [鈴木 理枝] 秋学期授業/Fall	2498
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2601】 Oral CommunicationⅠ [板橋 美也] 春学期授業/Spring	2499
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2602】 Oral CommunicationⅡ [板橋 美也] 秋学期授業/Fall	2500
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2603】 Oral CommunicationⅠ [R. G. ジェイムズ] 春学期授業/Spring	2501
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2604】 Oral CommunicationⅡ [R. G. ジェイムズ] 秋学期授業/Fall	2502
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2611】 English through Movies and DramaⅠ [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	2503
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2612】 English through Movies and DramaⅡ [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	2504
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2613】 English through Movies and DramaⅠ [舟橋 美香] 春学期授業/Spring	2505
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2614】 English through Movies and DramaⅡ [舟橋 美香] 秋学期授業/Fall	2506
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2621】 TOEIC®Ⅰ [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	2507
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2622】 TOEIC®Ⅱ [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	2508
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2623】 TOEIC®Ⅰ [板橋 美也] 春学期授業/Spring	2509
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2624】 TOEIC®Ⅱ [板橋 美也] 秋学期授業/Fall	2510
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2631】 英語検定試験対策Ⅰ [青山 恵子] 春学期授業/Spring	2511
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2632】 英語検定試験対策Ⅱ [青山 恵子] 秋学期授業/Fall	2512
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2641】 Business CommunicationⅠ [今井 澄子] 春学期授業/Spring	2513
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2642】 Business CommunicationⅡ [今井 澄子] 秋学期授業/Fall	2515
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2651】 ニュース英語Ⅰ [塩谷 幸子] 春学期授業/Spring	2516
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R2652】 ニュース英語Ⅱ [塩谷 幸子] 秋学期授業/Fall	2518
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R3621】 日本語の世界 LA [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	2519
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R3622】 日本語の世界 LB [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	2520
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R3623】 日本の文化と社会 LA [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	2522
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R3624】 日本の文化と社会 LB [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	2523

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R4281】ドイツ語コミュニケーション I [JENS OSTWALD] 春学期授業/Spring	2525
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R4282】ドイツ語コミュニケーション II [JENS OSTWALD] 秋学期授業/Fall	2526
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R4283】ドイツ語表現法 I [Schmidt Ute] 春学期授業/Spring	2527
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R4284】ドイツ語表現法 II [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	2528
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R4285】ドイツ語視聴覚 I [DIETMAR HEIDENREICH] 春学期授業/Spring	2529
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R4286】ドイツ語視聴覚 II [DIETMAR HEIDENREICH] 秋学期授業/Fall	2530
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R4287】時事ドイツ語 I [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	2531
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R4288】時事ドイツ語 II [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	2532
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R4289】検定ドイツ語 I [上田 知夫] 春学期授業/Spring	2534
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R4290】検定ドイツ語 II [上田 知夫] 秋学期授業/Fall	2535
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R4295】ドイツ語の世界 L A [Schmidt Ute] 春学期授業/Spring	2536
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R4296】ドイツ語の世界 L B [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	2537
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R4297】ドイツの文化と社会 L A [上田 知夫] 春学期授業/Spring	2538
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R4298】ドイツの文化と社会 L B [上田 知夫] 秋学期授業/Fall	2539
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R5271】フランス語の世界 L A [コルベイク ステューブ] 春学期授業/Spring	2540
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R5272】フランス語の世界 L B [コルベイク ステューブ] 秋学期授業/Fall	2541
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R5273】フランス語コミュニケーション (初級) I [ニコラ ガイヤール] 春学期授業/Spring	2543
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R5274】フランス語コミュニケーション (初級) II [ニコラ ガイヤール] 秋学期授業/Fall	2544
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R5279】時事フランス語 I [大中 一彌] 春学期授業/Spring	2545
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R5280】時事フランス語 II [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	2547
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R5291】フランスの文化と社会 L A [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	2549
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R5292】フランスの文化と社会 L B [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	2550
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R5293】フランス生活文化論 L A [河村 英和] サマーセッション/Summer Session	2552
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R5294】フランス生活文化論 L B [河村 英和] 秋学期授業/Fall	2553
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R5295】フランス生活文化論 L A [梶谷 彩子] 春学期授業/Spring	2554
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R5296】フランス生活文化論 L B [梶谷 彩子] 秋学期授業/Fall	2555
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R6241】ロシア語の世界 L A [木部 敬] 春学期授業/Spring	2556
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R6242】ロシア語の世界 L B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	2557

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R6243】 ロシアの文化と社会 L A [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	2558
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R6244】 ロシアの文化と社会 L B [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	2559
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R7413】 中国語コミュニケーション初級 I [周 重雷] 春学期授業/Spring	2560
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R7414】 中国語コミュニケーション初級 II [周 重雷] 秋学期授業/Fall	2561
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7431】 中国語作文初級 I [康 鴻音] 春学期授業/Spring	2562
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7432】 中国語作文初級 II [康 鴻音] 秋学期授業/Fall	2563
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7433】 中国語視聴覚初級 I [劉 渴氷] 春学期授業/Spring	2564
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R7434】 中国語視聴覚初級 II [劉 渴氷] 秋学期授業/Fall	2565
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R7437】 資格中国語初級 I [青木 正子] 春学期授業/Spring	2566
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R7438】 資格中国語初級 II [青木 正子] 秋学期授業/Fall	2567
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R7445】 中国語の世界 L A [渡辺 大] 春学期授業/Spring	2568
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R7446】 中国語の世界 L B [渡辺 大] 秋学期授業/Fall	2569
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R7447】 中国の文化と社会 L A [山本 律] 春学期授業/Spring	2570
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R7448】 中国の文化と社会 L B [山本 律] 秋学期授業/Fall	2571
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R8301】 スペイン語コミュニケーション I [瓜谷 アウロラ] 春学期授業/Spring	2572
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R8302】 スペイン語コミュニケーション II [瓜谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall	2573
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R8303】 現代のスペイン語 I [大西 亮] 春学期授業/Spring	2574
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R8304】 現代のスペイン語 II [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	2575
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R8305】 スペイン語の世界 L A [塩崎 公靖] 春学期授業/Spring	2576
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R8306】 スペイン語の世界 L B [塩崎 公靖] 秋学期授業/Fall	2577
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R9281】 朝鮮語 3C I (コミュニケーション) [富所 明秀] 春学期授業/Spring	2578
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R9282】 朝鮮語 3C II (コミュニケーション) [富所 明秀] 秋学期授業/Fall	2579
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R9283】 朝鮮語 4 B I (視聴覚) [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	2580
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択必修] 外国語 (諸外国語) 【R9284】 朝鮮語 4 B II (視聴覚) [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	2581
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R9285】 朝鮮語 5 A I (講読) [吉良 佳奈江] 春学期授業/Spring	2582
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R9286】 朝鮮語 5 A II (講読) [吉良 佳奈江] 秋学期授業/Fall	2583
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R9287】 朝鮮語 5 B I (表現法) [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	2584
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語) 【R9288】 朝鮮語 5 B II (表現法) [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	2585

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R9289】 朝鮮の文化と社会	
L A [李 英美] 春学期授業/Spring	2586
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群 (諸外国語分野) 【R9290】 朝鮮の文化と社会	
L B [李 英美] 秋学期授業/Fall	2587

LAW100AB

憲法 I

建石 真公子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、立憲主義の原理と基本的人権について、歴史、理論、判例を通じて学ぶ。

授業の目的は、明治憲法制定及び日本国憲法制定時に西欧立憲主義を取り入れた日本の憲法史の特徴を理解し、第二次世界大戦後の違憲審査制や国際人権保障制度によって変容した憲法原理を踏まえ、さらにグローバル化に直面した現代の立憲主義の課題について考える能力を養うことである。全てのコースに配置されている。

【到達目標】

1. 立憲主義について理解できるようになる。
2. 基本的人権の本質とその保障のメカニズムを理解できるようになる。
3. 日本国憲法における基本的人権の保障について、具体的な問題として理解でき、国際社会や日本社会における人権課題として考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は大人数講義ですので、オンデマンド授業（録画）となる。

授業形式は、教科書、レジュメに基づき講義中心に行い、合間に簡単な質問を行う場合がある。録画へのアクセスは、授業開始後に連絡する。

レジュメは、授業支援システムに事前にアップする。

質問は、HOPPI（学生支援サイト）の掲示板に投稿して下さい。1 週間以内にお返事します。小テストのモデル答案や回答についての注意は、テスト後 2 週間以内に HOPPI にアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や学び方についてのガイダンスを行う。
第 2 回	「憲法とは何か」を学ぶ 憲法判例とは？	憲法判例の意義や学び方について理解する。
第 3 回	立憲主義	教科書 1 ～ 4 章から、立憲主義の概要について学ぶ。
第 4 回	立憲主義（2）	国際法と憲法の関係について学ぶ（教科書第 5 章）
第 5 回	憲法改正	憲法改正について、理論、諸外国の制度、日本における課題について学ぶ。
第 6 回	明治憲法体制と日本国憲法体制（1）	明治憲法の原理と特徴を学ぶ。
第 7 回	明治憲法体制と日本国憲法体制（2）	日本国憲法制定過程に関する議論について学ぶ。日本国憲法の特徴、及び課題について理解する。
第 8 回	基本的人権総論	基本的人権について、歴史、類型、主体、保障について理解する。
第 9 回	公務員の人権	公務員は、法律により人権を制約されているが、その法的根拠、課題について学ぶ。
第 10 回	外国人の人権	日本に滞在、居住する外国人の人権保護、及び課題について学ぶ。
第 11 回	人権の国際的保障	第 2 次世界大戦後に創設された国際人権保障について、意義、制度、課題について学ぶ。
第 12 回	人権の私人間適用	私人間における人権保障について間接的に憲法を適用する理論である「私人間適用」について理解する。
第 13 回	個人の尊重と人格権	憲法 13 条の個人の尊重の解釈、判例について学ぶ。
第 14 回	個人の尊重－プライバシーの権利－	現代的な権利である「プライバシーの権利」に関して、理論と判例を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、教科書を読んで、わかりにくい点を明らかにしておいてください。授業後は、レジュメや判例を読み直して理解を深めてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

元山健・建石真公子編『現代日本の憲法』法律文化社、2016 年。

長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿（編）『憲法判例百選 I・II』（第 7 版）2019 年

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（第 7 版）岩波書店、2019 年

【成績評価の方法と基準】

期末に行う「課題」（60 %）、中間に 1 回行う小テスト（40 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題を理解したいという要望がありますので、適宜解説していきます。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドの授業を視聴できる機器等。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、基本的にオンラインで行います。

疑問のある時には気軽 HOPPI の掲示板で日程のリクエストをしてください。

【Outline and objectives】

Learn the principles of the Constitutionalism and the fundamental human rights through history, theory and cases.

The purpose of the lecture is to understand the characteristics of Japanese constitution established by importing the Western Constitutionalism, from the viewpoint of comparative law, and to cultivate the ability to think about the various problems concerning the constitution in the age of globalization.

It is arranged in all courses.

LAW100AB

憲法Ⅱ

建石 真公子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的人権の保護について、解釈、判例、課題を理解する。
 授業の目的は、現代の国際社会及び日本の社会における人権に関する問題について理解し、人権保護について考える能力を養う事である。
 全てのコースに配置されている科目である。

【到達目標】

1. 基本的人権の概念について、日本社会及び国際社会における課題について理解できるようになる。
2. 人権保障のメカニズムと、その課題を理解できるようになる。
3. 憲法判例の意義、及び違憲審査基準論の課題を理解できるようになる。
4. 以上の理解を通じて、実際の社会において提起される人権問題に関して、法的解決方法を提示することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業は、教科書に沿って、録画またはレジュメによって行う。レジュメは事前に授業支援システムにアップする。録画は、前日までにレジュメをアップすると共に、Google ドライブに録画をアップし、共有リンクをメールで通知する。
 学期中、1 回、小テストを行い、理解度を確認する。
 小テストのフィードバックとして、モデル答案を2週間以内に Hoppi にアップします。
 質問は、Hoppi の掲示板に書き込んで下さい。できるだけ1週間以内にお返事します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 人権総論	授業の進め方と基本的人権保障の思想及びメカニズムを学ぶ
第 2 回	人権主体ー 公務員・外国人の人権	憲法が保護している権利の主体は誰か。例えば、法制度上、一定の権利制約が認められている人々がいる。たとえば、未成年、受刑者、公務員などである。また、外国人野人権はどのように保護されているのだろうか。現状を理解し、学説、判例から学び、考える。
第 3 回	私人間適用	憲法は、公権力を統制する法であり、私人間には直接には適用されないと解釈されている。それでは、私人間の人権問題には憲法は適用できないのか。学説及び判例から、私人間の人権問題に関する憲法の適用の可能性と方法について学ぶ。
第 4 回	13 条ー 人格権	13 条における個人の尊重と幸福追求権の解釈を理解し、人格権に関する学説と判例を学ぶ。
第 5 回	13 条ー プライバシーの権利	13 条から、学説及び判例はプライバシーの権利を引きだしているが、その範囲は多岐に渡る。プライバシーの権利について、国際人権基準、外国法の解釈を参考にしつつ、その内容と射程を理解する。
第 6 回	生命権	13 条の保護する生命権の定義を学び、どのような場面でその保護が問題となるのかを理解する。
第 7 回	平等	憲法上の平等の解釈について、形式的平等、相対的平等、アファーマティブ・アクションについて理解する。
第 8 回	思想・良心の自由	思想・良心の自由の保護に関して、三菱樹脂事件、君が代起立拒否事件の判例を通じて理解する。
第 9 回	信教の自由	信教の自由の意義を理解し、その課題を判例を通じて理解する。政教分離に関して比較法の観点から理解し、日本における意義を考える。

第 10 回 表現の自由

表現の自由の意義を理解し、その課題を判例を通じて理解する表現の自由の保護と、ヘイトスピーチによって権利侵害されている人の人権保護について考える。

第 11 回 参政権

第 12 回 社会権・生存権

参政権の意義と課題について学ぶ
 生存権保護の意義について、歴史、学説を通じて理解する諸外国の社会保障との比較を通じて、日本の問題点について考える。

第 13 回 労働基本権

現代社会における労働者の保護の内容と課題について学ぶ。

第 14 回 人身の自由・公正な裁判

刑事手続きにおける人身の自由保護に関して、制度及び課題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を受講する前に、教科書の予定範囲部分を読んで予習すること。
 授業には、レジュメを印刷し持参すること、
 授業後は、レジュメや教科書を読み直し、理解を深めること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

元山健・建石真公子『現代日本の憲法』法律文化社、2016 年。
 長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿（編）『憲法判例百選 I・II』（第7版）2019 年

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（第6版）岩波書店、2015 年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（80%）、小テスト 1 回（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

時事的な問題についての要望があるので、適宜触れます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

判例百選は学習に必須ですので準備しておいて下さい。

【Outline and objectives】

Understand the question about the protection of the fundamental human rights through theory and cases.

The purpose of lecture is to cultivate the ability to understand human rights issues in contemporary international society and Japanese society.

It is a subject that is arranged in all courses.

LAW100AB

憲法 I

建石 真公子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、立憲主義の原理と基本的人権について、歴史、理論、判例を通じて学ぶ。

授業の目的は、明治憲法制定及び日本国憲法制定時に西欧立憲主義を取り入れた日本の憲法史の特徴を理解し、第二次世界大戦後の違憲審査制や国際人権保障制度によって変容した憲法原理を踏まえ、さらにグローバル化に直面した現代の立憲主義の課題について考える能力を養うことである。全てのコースに配置されている。

【到達目標】

1. 立憲主義について理解できるようになる。
2. 基本的人権の本質とその保障のメカニズムを理解できるようになる。
3. 日本国憲法における基本的人権の保障について、具体的な問題として理解でき、国際社会や日本社会における人権課題として考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は大人数講義ですので、オンデマンド授業（録画）となります。

授業形式は、教科書、レジュメに基づき講義中心に行い、合間に理解度を確認するために質問を行う場合があります。

レジュメは、授業支援システムに事前にアップします。

小テストは、2週間以内にモデル答案と回答のポイントを Hoppi にアップします。

質問は、Hoppi の掲示板に書いてください。可能な限り、1週間以内にお返事します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 「憲法とは何か」を学ぶ	授業の進め方や学び方についてのガイダンスを行う。
第 2 回	憲法判例とは？	憲法判例の意義や学び方について理解する。
第 3 回	立憲主義	教科書 1 ～ 4 章から、立憲主義の概要について学ぶ。
第 4 回	立憲主義（2）	国際法と憲法の関係について学ぶ（教科書第 5 章）
第 5 回	憲法改正	憲法改正について、理論、諸外国の制度、日本における課題について学ぶ。
第 6 回	明治憲法体制と日本国憲法体制（1）	明治憲法の原理と特徴を学ぶ。
第 7 回	明治憲法体制と日本国憲法体制（2）	日本国憲法制定過程に関する議論について学ぶ。日本国憲法の特徴、及び課題について理解する。
第 8 回	基本的人権総論	基本的人権について、歴史、類型、主体、保障について理解する。
第 9 回	公務員の人権	公務員は、法律により人権を制約されているが、その法的根拠、課題について学ぶ。
第 10 回	外国人の人権	日本に滞在、居住する外国人の人権保護、及び課題について学ぶ。
第 11 回	人権の国際的保障	第 2 次世界大戦後に創設された国際人権保障について、意義、制度、課題について学ぶ。
第 12 回	人権の私人間適用	私人間における人権保障について間接的に憲法を適用する理論である「私人間適用」について理解する。
第 13 回	個人の尊重と人格権	憲法 13 条の個人の尊重の解釈、判例について学ぶ。
第 14 回	個人の尊重－プライバシーの権利－	現代的な権利である「プライバシーの権利」に関して、理論と判例を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、教科書を読んで、わかりにくい点を明らかにしておいてください。授業後は、レジュメや判例を読み直して理解を深めてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

元山健・建石真公子編『現代日本の憲法』法律文化社、2016 年。

長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿（編）『憲法判例百選 I・II』（第 7 版）2019 年

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（第 7 版）岩波書店、2019 年

【成績評価の方法と基準】

期末に行う「課題」（60 %）、中間に 1 回行う小テスト（40 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題を理解したいという要望がありますので、適宜解説していきます。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドの授業を視聴できる機器等。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、基本的にオンラインで行います。

疑問のある時には気軽 Hoppi の掲示板で日程のリクエストをしてください。

【Outline and objectives】

Learn the principles of the Constitutionalism and the fundamental human rights through history, theory and cases.

The purpose of the lecture is to understand the characteristics of Japanese constitution established by importing the Western Constitutionalism, from the viewpoint of comparative law, and to cultivate the ability to think about the various problems concerning the constitution in the age of globalization.

It is arranged in all courses.

LAW100AB

憲法Ⅱ

建石 真公子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的人権の保護について、解釈、判例、課題を理解する。
 授業の目的は、現代の国際社会及び日本の社会における人権に関する問題について理解し、人権保護について考える能力を養う事である。
 全てのコースに配置されている科目である。

【到達目標】

1. 基本的人権の概念について、日本社会及び国際社会における課題について理解できるようになる。
2. 人権保障のメカニズムと、その課題を理解できるようになる。
3. 憲法判例の意義、及び違憲審査基準論の課題を理解できるようになる。
4. 以上の理解を通じて、実際の社会において提起される人権問題に関して、法的解決方法を提示することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業は、教科書に沿って、録画またはレジュメによって行う。
 レジュメは事前に授業支援システムにアップする。録画は、前日までにレジュメをアップすると共に、Google ドライブに録画をアップし、共有リンクをメールで通知する。

学期中、1 回、小テストを行い、理解度を確認する。

小テストは、2 週間以内にモデル答案と回答のポイントとを Hoppi にアップする。

質問は、Hoppi の掲示板に書いてください。可能な限り、1 週間以内にお返事します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 人権総論	授業の進め方と基本的人権保障の思想及びメカニズムを学ぶ
第 2 回	人権主体ー 公務員・外国人の人権	憲法が保護している権利の主体は誰か。例えば、法制度上、一定の権利制約が認められている人々がいる。たとえば、未成年、受刑者、公務員などである。また、外国人野人権はどのように保護されているのだろうか。現状を理解し、学説、判例から学び、考える。
第 3 回	私人間適用	憲法は、公権力を統制する法であり、私人間には直接には適用されないと解釈されている。それでは、私人間の人権問題には憲法は適用できないのか。学説及び判例から、私人間の人権問題に関する憲法の適用の可能性と方法について学ぶ。
第 4 回	13 条ー 人格権	13 条における個人の尊重と幸福追求権の解釈を理解し、人格権に関する学説と判例を学ぶ。
第 5 回	13 条ー プライバシーの権利	13 条から、学説及び判例はプライバシーの権利を引きだしているが、その範囲は多岐に渡る。プライバシーの権利について、国際人権基準、外国法の解釈を参考にしつつ、その内容と射程を理解する。
第 6 回	生命権	13 条の保護する生命権の定義を学び、どのような場面でその保護が問題となるのかを理解する。
第 7 回	平等	憲法上の平等の解釈について、形式的平等、相対的平等、アファーマティブ・アクションについて理解する。
第 8 回	思想・良心の自由	思想・良心の自由の保護に関して、三菱樹脂事件、君が代起立拒否事件の判例を通じて理解する。
第 9 回	信教の自由	信教の自由の意義を理解し、その課題を判例を通じて理解する。政教分離に関して比較法の観点から理解し、日本における意義を考える。

第 10 回 表現の自由

表現の自由の意義を理解し、その課題を判例を通じて理解する表現の自由の保護と、ヘイトスピーチによって権利侵害されている人の人権保護について考える。

第 11 回 参政権

第 12 回 社会権・生存権

参政権の意義と課題について学ぶ
 生存権保護の意義について、歴史、学説を通じて理解する諸外国の社会保障との比較を通じて、日本の問題点について考える。

第 13 回 労働基本権

現代社会における労働者の保護の内容と課題について学ぶ。

第 14 回 人身の自由・公正な裁判

刑事手続きにおける人身の自由保護に関して、制度及び課題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を受講する前に、教科書の予定範囲部分を読んで予習すること。
 授業には、レジュメを印刷し持参すること、
 授業後は、レジュメや教科書を読み直し、理解を深めること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

元山健・建石真公子『現代日本の憲法』法律文化社、2016 年。
 長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿（編）『憲法判例百選 I・II』（第 7 版）2019 年

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（第 6 版）岩波書店、2015 年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（60%）、小テスト 2 回（各 20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

時事的な問題についての要望があるので、適宜触れます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

判例百選は学習に必須ですので準備しておいて下さい。

【Outline and objectives】

Understand the question about the protection of the fundamental human rights through theory and cases.

The purpose of lecture is to cultivate the ability to understand human rights issues in contemporary international society and Japanese society.

It is a subject that is arranged in all courses.

LAW200AB

憲法Ⅲ

國分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「行政・公共政策と法」コースに位置づけられるものとして、憲法の統治機構の諸問題を扱います。立法、行政、司法という水平的権力分立と中央と地方という垂直的権力分立の二つの側面から、日本の統治機構のあり方を勉強します。また、立憲主義の発展過程の中で権力分立制がどのように展開されてきたか、さらにそれが民主主義論とどのように結びついているのかを比較法的な視点も踏まえて考察します。

【到達目標】

日本国憲法における権力分立制のあり方を通し、民主主義と立憲主義の関係を理解することが目標です。具体的には、国会、内閣、裁判所、地方自治に関する憲法上のトピックを学び、統治機構の枠組とその現代的变化の状況を把握することを目指します。また振り返って権力分立制がなぜ必要なのか、日本の政治社会の動向の中で統治のしくみがどうあるべきなのかを自ら考えてゆく力を身につけることをも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメや資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。

学期中に2回ほど○×式の理解度確認テストを学習支援システム上で行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。質問は質問コーナーの時間を設けてお答えするほか、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと本講義の序論	授業の進め方について
2	権力分立	権力分立制の歴史的展開と現代的变化 日本国憲法における権力分立制の枠組 と日本国憲法下の天皇制の位置づけ
3	国民主権	国民主権の意味
4	選挙	日本国憲法下の選挙制度とその諸問題
5	国会（1）	国会の権限と活動
6	国会（2）	国会議員の地位
7	内閣（1）	日本国憲法における議院内閣制と内閣の権限を巡る諸問題
8	内閣（2）	総理大臣の地位と権限
9	これまでのまとめ	日本の議院内閣制の比較法的な位置づけ
10	裁判所（1）	司法の機能
11	裁判所（2）	司法権の限界
12	裁判所（3）	裁判所の組織と司法権の独立
13	地方自治	地方自治を巡る諸問題
14	これまでのまとめ	後半のまとめと全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で挙げる参考書を事前に読んで授業に臨みます。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、関連判例などを自分で調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題に関心をもって、憲法との関連で考えてみるようにします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（出版社は指定しないので、使いやすいものを選ぶこと。）

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第7版（岩波書店、2019年）

佐藤幸治『日本国憲法論』（成文堂、2011年）

野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利『憲法Ⅱ』第5版（有斐閣、2012年）

辻村みよ子『憲法』第6版（日本評論社、2018年）

高橋和之『立憲主義と日本国憲法』第5版（有斐閣、2020年）

元山建・建石真公子編『現代日本の憲法』第2版（法律文化社、2016年）

渡辺康行・宍戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法Ⅱ 総論・統治』（日本評論社、2020年）

長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）

など

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80％）及び理解度確認テスト（20％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

もう少し時事的な内容を加味して授業をできるように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を予定し、レジュメ等の資料も学習支援システムにアップしますので、ウェブで受講できるための機器をご準備ください。

【Outline and objectives】

This lecture will focus on the issues of government institutions in terms of comparative perspectives of constitution.

LAW200AB

憲法Ⅳ

國分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「行政・公共政策と法」コースに位置づけられる科目として、日本国憲法のトピックのうち、違憲審査制、安全保障、財政などの論点について講義を行います。授業では、比較憲法的な視点も踏まえながら、近代立憲主義とその現代的変容という視点から、日本国憲法がどのような民主主義および立憲主義のあり方を想定しているのかを学んでいきます。

【到達目標】

日本国憲法における違憲審査制、安全保障の問題、憲法保障、財政に関する論点を理解するようにします。またそれらを通じて、現代日本における政治的な問題について法的視点から考え、判断できる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメと資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。

学期中に2回ほど○×式の理解度確認テストを学習支援システム上でを行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。質問は質問コーナーの時間を設けてお答えするほか、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと違憲審査制（1）	違憲審査制の歴史と諸類型
2	違憲審査制（2）	憲法訴訟の基礎
3	違憲審査制（3）	憲法判断の方法
4	違憲審査制（4）	判例の展開
5	違憲審査制（5）	違憲審査の基準論とその問題
6	これまでのまとめ	違憲審査についてのまとめ
7	安全保障（1）	日本国憲法の想定する平和と安全
8	安全保障（2）	安全保障を巡る変化と政府見解
9	安全保障（3）	安全保障を巡る現代的課題と憲法
10	安全保障（4）	判例の分析
11	財政（1）	財政民主主義
12	財政（2）	財政に関する憲法的論点
13	憲法保障	国家緊急権と抵抗権
14	民主主義と立憲主義	民主主義論からみた本授業のトピックの意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連する参考書、判例などを事前に読み、授業に臨むようにします。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題や社会問題に関心をもって、憲法の観点から考えてみます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第7版（岩波書店、2019年）
 佐藤幸治『日本国憲法論』（成文堂、2011年）
 野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利『憲法Ⅱ』第5版（有斐閣、2012年）
 辻村みよ子『憲法』第6版（日本評論社、2018年）
 高橋和之『立憲主義と日本国憲法』第5版（有斐閣、2020年）
 元山建・建石真公子編『現代日本の憲法』第2版（法律文化社、2016年）
 渡辺康行・宍戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法Ⅱ 総論・統治』（日本評論社、2020年）
 長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）
 など

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80％）及び2回の理解度確認テスト（20％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

時間配分に留意したい。また違憲審査論についての説明がわかりにくくなりがちなので、できるだけ平易な説明を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回のレジュメや資料は学習支援システム上にアップし、理解度確認テストも学習支援システム上で行う予定です。講義自体もオンラインになる可能性がありますので、インターネットでアクセスできる環境を準備しておいて頂くようお願い致します。

【Outline and objectives】

This course will focus mainly on the issues of the constitutional review system, the fiscal system, and the national security under the Constitution of Japan.

LAW200AB

現代情報法 I

鈴木 秀美

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日々生起する「情報や表現（言論）」に関わる問題をきっかけに、現在の日本の日常ではあまりにも当たり前のものとして、取り立てて意識することが少ないであろう「表現の自由」を、半期の講義を通して問い直します。いったいなぜ、表現の自由なのか、何が守られるべき権利なのかを考えます。インターネットによるSNSでの投稿のように、表現活動とその限界は私たちの生活のあらゆる場面において問題となりうるので、どのコースとの関係でも意義のある授業内容です。

【到達目標】

表現の自由の基本原則、メディア・ジャーナリズム活動を支える法・社会制度について、その全体像のイメージを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

なぜ民主主義の社会において表現の自由が大切なのかという視点から、表現の自由の意味や保障の限界、名誉やプライバシーと表現の自由の調整の仕方、国家秘密や裁判の公正のための取材・報道に対する制限をめぐる裁判例、ジャーナリストに憲法上認められた特別扱いはあるのかについて学びます。具体的な事例を手がかりに、それがどのように解決されており、その解決の仕方によってどのような問題があるかを検討します。ジャーナリストを目指す人だけでなく、主権者として知っておくべき表現の自由についての基礎知識を解説します。この授業は対面授業の場合は、講義形式で行います（レジュメを配布）。授業で扱う個別テーマの順番は変更する可能性があります。

なお、新型コロナウイルス感染防止のため授業は、オンラインで行う予定です。毎回、「学習支援システム」を通じて授業レジュメを配布します。「学習支援システム」に各回授業についての質問欄を設けます。質問には個別に回答するほか、必要に応じて授業の中でも解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	表現の自由1	名誉毀損総論
第3回	表現の自由2	名誉毀損各論
第4回	表現の自由3	プライバシーの侵害
第5回	表現の自由4	犯罪報道の限界
第6回	表現の自由5	事前差止め
第7回	表現の自由6	表現の内容規制と内容中立規制
第8回	表現の自由7	ヘイトスピーチ規制（外国）
第9回	表現の自由8	ヘイトスピーチ規制（日本）
第10回	取材の自由1	法廷カメラ取材の規制を中心に
第11回	取材の自由2	取材源の証言強制
第12回	取材の自由3	取材資料の提出強制と取材の自由
第13回	取材の自由4	国家秘密と取材の自由
第14回	取材の自由5	特定秘密と取材の自由

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。準備学習として、「授業支援システム」で事前に配布する授業レジュメを読んでおくこと。復習として、各回レジュメの冒頭に書かれている「事例問題」を自分で書いて答案を作成してみることに。

【テキスト（教科書）】

鈴木秀美＝山田健太編著『よくわかるメディア法〔第2版〕』（ミネルバ書房、2019年）

【参考書】

長谷部恭男ほか編『メディア判例百選〔第2版〕』有斐閣、2018年
 松井茂記『マスメディア法入門〔第5版〕』日本評論社、2013年
 山田健太『法とジャーナリズム〔第3版〕』学陽書房、2014年
 ＊このほかは配布する授業レジュメに記載します。

【成績評価の方法と基準】

教室で試験を実施できる場合、論述式の筆記試験（持込不可）により（100％）。

教室で試験を実施できない場合、期末レポートの提出により（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

「学習支援システム」やメールで質問に応じます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the Information Law (defamation, hate speech law, freedom of the press and State secret etc.).

LAW200AB

現代情報法Ⅱ

鈴木 秀美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日々生起する「情報や表現（言論）」に関わる問題をきっかけに、現在の日本の日常ではあまりにも当たり前のものとして、取り立てて意識することが少ないであろう「表現の自由」を問い直す。いったいなぜ、表現の自由なのか、何が守られるべき権利なのかを、放送法、インターネット法、情報公開法、個人情報保護法を中心に考えます。テレビ番組の政治的公平性や真実性、また、インターネットのSNSによるプライバシー権や肖像権の侵害など、表現活動とその限界は私たちの生活のあらゆる場面において問題となりうるので、どのコースとの関係でも意義のある授業内容です。

【到達目標】

放送とインターネットを支える法・社会制度について、また、情報公開法と個人情報保護法について、その全体像のイメージを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

なぜ民主主義の社会において表現の自由が大切なのか、なぜ政治がメディアに圧力をかけてはいけないのかという視点から、放送法や放送倫理、インターネット法やインターネットリテラシー、情報公開法、特定秘密保護法などについて学びます。また、なぜ自分が自分らしくあるためにプライバシーは保護されるべきなのかという視点から個人情報保護法についても学びます。具体的事例を手がかりに、それがどのように解決されており、その解決の仕方にどのような問題があるかを検討します。テレビ局やIT企業で働くことを目指す人だけでなく、視聴者として、また、インターネットを利用する誰もが知っておくべき基礎知識を解説します。

なお、新型コロナウイルス感染防止のため授業は、オンラインで行う予定です。毎回、「学習支援システム」を通じて授業レジュメを配布します。。「学習支援システム」に各回授業についての質問欄を設けます。質問には個別に回答するほか、必要に応じて授業の中でも解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	放送法制1	制度の概要
第2回	放送法制2	番組編集準則の合憲性
第3回	放送法制3	「真実」確保のための放送法の仕組み
第4回	放送法制4	訂正放送と反論権
第5回	放送法制5	公共放送の仕組みと役割
第6回	放送法制6	放送法制における法的規制と自主規制
第7回	インターネット法1	インターネット上の表現の自由
第8回	インターネット法2	プロバイダの責任
第9回	インターネット法3	検索結果削除請求権（忘れられる権利）
第10回	インターネット法4	SNS 法規制
第11回	インターネット法5	インターネット上の青少年保護
第12回	情報公開・個人情報保護1	知る権利はどのように法制度として具体化されているか？
第13回	情報公開法・個人情報保護2	自己情報コントロール権はどのように法制度として具体化されているか？
第14回	情報公開法・個人情報保護3	情報公開制度と個人情報保護制度の相互関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。準備学習として、「授業支援システム」で事前に配布する授業レジュメを読んでおくこと。復習として、各回レジュメの冒頭に書かれている「事例問題」を自分で書いて答案を作成してみることに。

【テキスト（教科書）】

鈴木秀美＝山田健太編著『よくわかるメディア法〔第2版〕』ミネルヴァ書房、2019年

【参考書】

鈴木秀美＝山田健太編著『放送制度概論』商事法務、2011年

松井茂記＝鈴木秀美＝山口いつ子『インターネット法』有斐閣、2015年

長谷部恭男ほか編『メディア判例百選〔第2版〕』有斐閣、2018年

松井茂記『マスメディア法入門〔第5版〕』日本評論社、2013年

山田健太『法とジャーナリズム〔第3版〕』学陽書房、2014年

＊そのほかの参考書は配布資料に記載します。

【成績評価の方法と基準】

教室で試験を実施できる場合、論述式の筆記試験（持込不可）によります（100％）。教室で試験を実施できない場合、期末レポートの提出によります（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

「学習支援システム」やメールで質問に応じます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the Information Law (broadcasting law, internet Law, official information disclosure system, personal information protection system etc.).

LAW300AB

国際社会と憲法 I

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西欧の近現代憲法史の流れの中で、「外見の立憲主義」、「近代立憲主義」、「民衆型立憲主義」のそれぞれの特徴とその成立背景、そして立憲主義間の対立を学ぶ。そのうえで、現代のイギリス、フランス、ドイツそれぞれの憲法の基本的特徴、各国憲法に共通する「現代立憲主義」化の特徴と 21 世紀のグローバル立憲主義への対応状況についても考察する。

本授業は、「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」に属する。

【到達目標】

西欧の近現代憲法史の流れの中で、「外見の立憲主義」、「近代立憲主義」、「民衆型立憲主義」のそれぞれの特徴とその成立背景、そして立憲主義間の対立を理解できるようになる。現代のイギリス、フランス、ドイツそれぞれの憲法の基本的な特徴を理解したうえで、それぞれの憲法の違いを超えて共通して存在する「現代立憲主義」化の傾向とそのような変化の基本的な要因を理解できるようになる。最後に、21 世紀のグローバル立憲主義における西欧憲法原理の展開方向を見通す力を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

イギリス、フランス、ドイツの近現代憲法史を講義する中で、「外見の立憲主義」、「近代立憲主義」、「民衆型立憲主義」のそれぞれの特徴と成立背景、及び立憲主義間の対立を解説する。その上で、20 世紀以降、現在までのイギリス、フランス、ドイツそれぞれの憲法の特徴と変容を分析することで「現代立憲主義」の特徴と 21 世紀のグローバル立憲主義の展開方向を解説する。

授業は Hoppii に事前にアップしたレジュメや資料を用い、レジュメに沿って講義中心で授業を進める。原則として毎授業後に Hoppii を通じて小テストを課し、次の授業時にその内容を解説することを通じて授業内容の理解度を確認する。

対面式を予定しているが、大学の方針が変更された場合には、オンデマンド方式のオンライン授業を行う（詳細は春学期開始時の第 1 回ガイダンス時に連絡する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と比較憲法の方法論、及び「近代市民憲法」成立の歴史的背景について講義する。
第 2 回	近代イギリス憲法（1）	イギリス市民革命とイギリスにおける近代立憲主義の成立について講義する。
第 3 回	近代イギリス憲法（2）	イギリスにおける議会政治の発達と近代立憲主義の確立について講義する。
第 4 回	近代イギリス憲法	近代イギリス憲法の特徴について講義する。
第 5 回	近代フランス憲法（1）	フランス革命期の「近代立憲主義」と「民衆型立憲主義」の対立について講義する。
第 6 回	近代フランス憲法（2）	フランス第 3 共和制における近代立憲主義の確立と現代立憲主義への変容の萌芽について講義する。
第 7 回	近代フランス憲法（1）	フランス第 4 共和制憲法の成立と崩壊、ならびに第 5 共和制憲法の成立について講義する。
第 8 回	近代フランス憲法（2）	フランス第 5 共和制憲法の特徴について講義する。
第 9 回	近代フランス憲法（3）	第 5 共和制憲法の特徴を引き続き講義したのちに、現在のフランス憲法の変容について講義する。
第 10 回	近代ドイツ憲法（1）	ドイツにおける近代立憲主義の困難性とフランクフルト憲法成立について講義する。
第 11 回	近代ドイツ憲法（2）	プロイセン憲法とドイツ帝国憲法の分析を踏まえつつ、「外見の立憲主義」について講義する。
第 12 回	近代ドイツ憲法（1）	ワイマール憲法について講義する。
第 13 回	近代ドイツ憲法（2）	現行ドイツ憲法の成立過程とその人権保障の特徴について講義する。

第 14 回 現代ドイツ憲法（3）と 現行ドイツ憲法の統治機構面の特徴、ならびに欧州統合におけるその変容について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

西欧近現代史について、毎回の講義の時間で扱われる予定の部分を自主的に勉強し、あるいは授業後に自主的に復習すること。また、イギリス、フランス、ドイツそれぞれについて、テキストの各国憲法の「概説」部分を予習すること。

対面式授業の場合は、Hoppii にアップした各回の文字ベースの授業内容を旨を事前・又は事後に読了すること。加えて、同じくアップする予定の小テストに授業後に解答し、授業内容の確認に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初宿正典・辻村みよ子編『新解説世界憲法集（第 5 版）』2020 年、三省堂、2,700 円＋税

【参考書】

杉原泰雄『憲法の歴史～新たな比較憲法学のすすめ～』岩波書店（1996 年）
辻村みよ子『比較憲法（第 3 版）』岩波書店（2018 年）

辻村みよ子・糠塚康江『フランス憲法入門』三省堂（2012 年）

【成績評価の方法と基準】

対面式授業の場合は、定期試験（95 %）及びその他の授業参加の積極度（5 %）により評価する。

オンライン授業の場合は、各回の小テストの合計（70～75 %）、授業アンケートや期末レポート（20～25%）、その他の授業参加の積極度（5%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が多いため進捗が遅れがちとなり、授業の最後で急ぐ傾向があるので、時間配分に留意するよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

予習や復習用に PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末が必要。

【その他の重要事項】

レジュメや資料は Hoppii で事前配布するので、特に対面式授業の場合は、必ず事前にプリントアウトして持参してほしい。

【Outline and objectives】

Lecture of some constitutional histories and their actual constitutionalism in the developing democratic countries like England, France and Germany.

LAW300AB

国際社会と憲法Ⅱ

國分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代立憲主義は西洋の産物です。アジア諸国はそれを受容しつつ、自らの法文化と融合させて独自の憲法を發展させてきました。本講義は、東アジアの立憲主義が歴史的にどのように形成されたか、また国際社会のなかで東アジア地域の憲法がどのような特徴をもつものと考えられるかを比較法的視点をもって分析、理解するとともに近代立憲主義の意味をアジアの視点から考え直すことを目標とします。

なお、この講義は、「行政・公共政策と法コース」および「国際社会と法コース」に属するものです。

【到達目標】

日本の近隣地域である韓国、台湾、中国の憲法を学ぶことによって、それぞれの政治体制の特徴を把握するとともに、それがこの地域の抱える特有の法的所有政治的問題とどのように関係しているかを理解することができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

歴史的背景を踏まえつつ、東アジア地域の今日の憲法状況を概観します。近代化や今日のアジア地域の変化に触れると同時に、東アジア地域で日本の憲法がどのような位置づけを有すると考えられるかも考察します。

毎回、出席を兼ねて感想やわからなかった点等についての簡単なコメントを書いてもらい、わからなかった点に関しては、次の授業の際にお答えするようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要、教科書、成績の基準等について説明する。
第 2 回	東アジアの近代国家形成と法	日本を含めた東アジア地域の近代化のなかでの立憲主義の發展について考える。
第 3 回	韓国の近現代史と憲法	日韓関係をも視野に入れつつ、韓国の憲法史を概観する。
第 4 回	韓国の憲法の特徴	韓国憲法の特徴と特殊性を検討する。
第 5 回	韓国の統治機構	韓国の統治機構を概観する。
第 6 回	韓国の司法と憲法裁判	韓国の法院と憲法裁判所の機能を概観する。
第 7 回	韓国の違憲審査制	韓国の違憲審査システムの特徴と問題点を考察する。
第 8 回	台湾の歴史と憲法	台湾の憲法の歴史的背景を概観する。
第 9 回	台湾の憲法状況	台湾の憲法の特徴と特殊性を概観する。
第 10 回	台湾の統治機構	台湾の統治機構を概観する。
第 11 回	中国憲法の形成過程	中華人民共和国の形成過程から中国憲法の特徴を考える。
第 12 回	中国憲法の特徴	中国憲法前文に見られる特徴を検討する。
第 13 回	中国の統治機構と人権	統治と人権の観点から中国憲法を概観する。
第 14 回	東アジアにおける日本・日本法	戦後補償問題等を素材に東アジア地域における日本・日本法の位置づけを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から東アジア諸国の政治・社会状況について関心をもつようにします。また日本の憲法についての基礎知識についても復習しつつ授業に参加するようにします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中国や韓国の憲法条文を参照するために：

初宿正典・辻村みよ子編『新解説 世界憲法集』第 5 版三省堂 2020 年などの憲法集を各自用意してください（図書館等で本講義で扱う国の憲法をコピーするのも結構です）。韓国と台湾の憲法は、ネット上でも見ることができるので、これについては授業の初日に説明します。中国憲法の 2018 年改正後の最新版の翻訳が出ているのは、おそらく前記の三省堂の憲法集のみではないかと思われます。

【参考書】

尹龍澤ほか編『コリアの法と社会』（日本評論社、2020 年）、鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009 年）、稲正樹・孝忠延夫・國分典子編『アジアの憲法入門』（日本評論社、2010 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回出してもらったコメントをもって平常点とし、平常点 30 % と学期末の筆記試験 70 % によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

参加者の問題関心を汲み取って説明する必要があると感じています。

【Outline and objectives】

This course will focus on the constitutional problems of East Asian country from the comparative point of view.

LAW200AB

ジェンダーと法 I

谷田川 知恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「文化・社会と法コース」に属する。

1. ジェンダー法学について学ぶ。この呼称は新しいものだが、扱われる内容は、古くから続く性差別と法の問題である。20 世紀後半に興隆した第2波フェミニズムの成果を引き継ぎながら、性差別のない社会を構築するため、既存の法体系を批判的に検討して、あらたな法理論の構築を試みる。

2. 女性差別の構造を中心に学ぶ。性差別には、女性差別だけではなく、男性差別も性的少数者（従来の女性か男性かとの分類におさまらない人々）差別もあり、各差別の構造は様々ではない。しかし、法が「普遍的」「中立的」としながら排除してきた人間社会最大のマイノリティである女性に対する差別の構造を理解することは、男性差別と性的少数者差別、さらにはあらゆるマイノリティに対する差別をも理解することに繋がる。

【到達目標】

1. これまでに身につけた狭い価値観や偏見にとらわれずに、性差別をめぐめる実態と、その解決のために国際社会が積み重ねてきた到達点を知る。

2. 教員の解説を無批判に受容するのではなく、自分と対立する見解をやみくもに批判するのではなく、多様性を尊重しつつ建設的な議論ができる。

3. 事実に基づき、論理を用いて、反対意見にも目配りしながら、実質的平等にかなう提案を導く視点を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

0. オンライン授業のときはオンデマンド配信でおこなう。資料は学習支援システムに掲示する。

1. 講義：受講者がこれからの人生で出会うであろうさまざまな問題を取り上げる。日本は性差別を禁じた憲法を擁し、女性差別撤廃条約も批准しているが、国民の7割は「日本社会全体で見ると男性の方が優遇されている」と感じている。このような国民の意識と法のあり方にはどのような関係があるのか、法は歴史的に女性をどのように遇してきたのか、法は女性が現実の生活で出会う出来事に対応しているのか、ジェンダーバイアスは法制度にどのように埋め込まれているのか等を解説する。

2. 議論：担当教員の一方的な解説だけではなく、教室にいる全員で議論を行う。この方法が有効に機能するためには、受講生各人が、主権者として、法のあるべき姿を探索する知的好奇心を持ち、それまでの解説を理解していることが前提となる。オンライン授業のときは学習支援システムの掲示板がそのための場になる。

3. コメント：コメントの提出を求める。

4. 小テスト：解説した重要な語句を正確に理解できているかを確認するための小テストを行う。

5. レポート：容易に解決法の見つからない問題についてのレポート提出を課す。

6. 課題へのフィードバック：原則として提出締切の翌週の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダー統計から見える日本と世界
2	ジェンダー法の見取り図	ジェンダーと法では何が問題で何を学ぶのか全体像の把握
3	近代市民法の成立と女性の排除1	欧米を中心にした女性の権利の歴史
4	近代市民法の成立と女性の排除2	日本の歴史、天皇制と性差別
5	国連と女性差別撤廃条約	国連憲章、女性差別撤廃条約、国際刑事裁判所
6	公私二元論とジェンダー主流化	法律上の平等と事実上の平等
7	ポジティブ・アクション(PA)、アファーマティブ・アクション(AA)	AA/PA の歴史と種類、効果
8	S O G I（性的指向と性自認）	伝統的な女性・男性の枠組みにあてはまらない人々をめぐる権利
9	男女共同参画社会基本法	基本計画と条例
10	政治分野のジェンダー平等	諸外国の状況、日本の候補者男女均等法

11	家族とジェンダーと法1	家族の多様化と家族法
12	家族とジェンダーと法2	民法改正をめぐる問題
13	家族とジェンダーと法3	母子家庭の貧困をめぐる問題
14	家族とジェンダーと法4	生殖補助医療と養子制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回講義から内閣府男女共同参画局のパンフレット『ひとりひとりが幸せな社会のために——男女共同参画社会の実現を目指して』を使用するので、男女共同参画局ホームページからダウンロードして持参する。<http://www.gender.go.jp/kaigi/renkei/pamphlet/index.html>

授業前にパンフレットと教科書の該当箇所を通読し、各回のテーマについて基礎知識を得ておくことが望まれる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

三成・笹沼・立石・谷田川『ジェンダー法学入門〔第3版〕』（法律文化社・2019年）。また、有斐閣『ポケット六法』等の小型六法があれば毎回利用し、使いこなしてほしい。

【参考書】

教科書末尾に参考文献を豊富に掲載してある。

【成績評価の方法と基準】

期末テストは行わない。【到達目標】で示したことが身に付いたかを、【授業の進め方と方法】で示した議論への貢献度（10%）、コメント・小テスト（45%）、およびレポート（45%）の完成度から、総合的に評価する。議論について、受講生は開講当初は不慣れなため参加にためらいがあるかもしれないが、当初はうまくできなくてかまわないので、恐れずに発言してほしい。教室は失敗するための場所と割り切り、だんだんとチカラをつけていく姿を見せてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からは「説明が明快で非常にわかりやすい」と言われる。しかし、現実の問題はそれほど単純ではない。担当者の説明を手がかりに、もう一歩、自分で踏み込んで考えてほしい。

【その他の重要事項】

人生の大海原で航路を見失いかけたときに、手がかりを与えてくれる星座のひとつとなるような講義を目指している。受講生は、十分に予習・復習を行い、集中して講義を聴き、つねに自分が発言を求められることを期待（覚悟？）して主体的に参加することで、自分だけの海図を得られる。しなやかに、したたかに、自分の手で、漕ぎ続けよう。

【Outline and objectives】

In this class, you are going to learn Gender and Law issues in Japan and global perspectives to solve them. Succeeding feminist approaches derived in 1970's, we are going to be critical to review present law system which has been built by only male for last 2 centuries. Arguments are not only for women, but also for men and LGBTIQ or other sexual minorities. We need to construct society without gender discrimination.

LAW200AB

ジェンダーと法Ⅱ

谷田川 知恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース」「文化・社会と法コース」に属する。

1. ジェンダー法学について学ぶ。この呼称は新しいものだが、扱われる内容は、古くから続く性差別と法の問題である。20 世紀後半に興隆した第2波フェミニズムの成果を引き継ぎながら、性差別のない社会を構築するため、既存の法体系を批判的に検討して、あらたな法理論の構築を試みる。
2. 女性差別の構造を中心に学ぶ。性差別には、女性差別だけではなく、男性差別も性的少数者（従来の女性か男性かとの分類におさまらない人々）差別もあり、各差別の構造は様々ではない。しかし、法が「普遍的」「中立的」としながら排除してきた人間社会最大のマイノリティである女性に対する差別の構造を理解することは、男性差別と性的少数者差別、さらにはあらゆるマイノリティに対する差別をも理解することに繋がる。

【到達目標】

1. これまでに身につけた狭い価値観や偏見にとらわれずに、性差別をめぐる実態と、その解決のために国際社会が積み重ねてきた到達点を知る。
2. 教員の解説を無批判に受容するのではなく、自分と対立する見解をやみくもに批判するのではなく、多様性を尊重しつつ建設的な議論ができる。
3. 事実に基づき、論理を用いて、反対意見にも目配りしながら、実質的平等にかなう提案を導く視点を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

0. オンライン授業のときはオンデマンド配信でおこなう。資料は学習支援システムに掲載する。
1. 講義：受講者がこれからの人生で出会うであろうさまざまな問題を取り上げる。日本では性差別を禁じた憲法を擁し、女性差別撤廃条約も批准しているが、国民の7割は「日本社会全体で見ると男性の方が優遇されている」と感じている。このような国民の意識と法のあり方にはどのような関係があるのか、法は歴史的に女性をどのように遇してきたのか、法は女性が現実の生活で出会う出来事に対応しているのか、ジェンダーバイアスは法制度にどのように埋め込まれているのか等を解説する。
2. 議論：担当教員の一方的な解説だけではなく、教室にいる全員で議論を行う。この方法が有効に機能するためには、受講生各人が、主権者として、法のあるべき姿を探索する知的好奇心を持ち、それまでの解説を理解していることが前提となる。オンライン授業のときは学習支援システムの掲示板がそのための場になる。
3. コメント：コメントの提出を求める。
4. 小テスト：解説した重要な語句を正確に理解できているかを確認するための小テストを行う。
5. レポート：容易に解決法の見つからない問題についてのレポート提出を課す。
6. 課題へのフィードバック：原則として提出締切の翌週の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	統計から見える日本と世界のジェンダー平等格差
2	ジェンダー法総論	事実上のジェンダー平等に向けて
3	労働とジェンダーと法1	均等法ができる前：結婚解雇、定年差別
4	労働とジェンダーと法2	男女雇用機会均等法
5	労働とジェンダーと法3	間接差別、アンペイドワーク
6	暴力とジェンダーと法1	女性に対する暴力（violence against women）の発見
7	暴力とジェンダーと法2	ドメスティック・ヴァイオレンス（DV）
8	暴力とジェンダーと法3	デート DV、ストーカー
9	暴力とジェンダーと法4	性暴力
10	暴力とジェンダーと法5	セクシュアル・ハラスメント
11	暴力とジェンダーと法6	買売春、ポルノグラフィ
12	暴力とジェンダーと法7	男性の性被害
13	生殖とジェンダーと法1	中絶とリプロダクティブ・ライツ
14	生殖とジェンダーと法2	代理母、死後懐胎

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回講義から内閣府男女共同参画局のパンフレット『ひとりひとりが幸せな社会のために——男女共同参画社会の実現を目指して』を使用するので、男女共同参画局ホームページからダウンロードして持参する。<http://www.gender.go.jp/kaigi/renkei/pamphlet/index.html>

授業前にパンフレットと教科書の該当箇所を通読し、各回のテーマについて基礎知識を得ておくことが望まれる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

三成・笹沼・立石・谷田川『ジェンダー法学入門〔第3版〕』（法律文化社・2019年）。また、有斐閣『ポケット六法』等の小型六法があれば毎回携行し、使いこなしてほしい。

【参考書】

教科書末尾に参考文献を豊富に掲載してある。

【成績評価の方法と基準】

期末テストは行わない。【到達目標】で示したことが身に付いたかを、【授業の進め方と方法】で示した議論への貢献度（10 %）、コメント・小テスト（45 %）、およびレポート（45 %）の完成度から、総合的に評価する。議論について、受講生は開講当初は不慣れなため参加にためらいがあるかもしれないが、当初はうまくできなくてかまわないので、恐れずに発言してほしい。教室は失敗するための場所と割り切り、だんだんとチカラをつけていく姿を見せてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からは「説明が明快で非常にわかりやすい」と言われる。しかし、現実の問題はそれほど単純ではない。担当者の説明を手がかりに、もう一步、自分で踏み込んで考えてほしい。

【その他の重要事項】

人生の大海原で航路を見失いかけたときに、手がかりを与えてくれる星座のひとつとなるような講義を目指している。受講生は、十分に予習・復習を行い、集中して講義を聴き、つねに自分が発言を求められることを期待（覚悟？）して主体的に参加することで、自分だけの海図を得られる。しなやかに、したたかに、自分の手で、漕ぎ続けよう。

【Outline and objectives】

In this class, you are going to learn Gender and Law issues in Japan and global perspectives to solve them. Succeeding feminist approaches derived in 1970's, we are going to be critical to review present law system which has been built by only male for last 2 centuries. Arguments are not only for women, but also for men and LGBTIQ or other sexual minorities. We need to construct society without gender discrimination.

LAW300AB

憲法訴訟論

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

憲法訴訟論は、実体法と訴訟法の双方を系統的に学び、裁判をフィールドにした法解釈の専門的能力の習得を目指す「裁判と法」コースおよび、現代的な法を学ぶ「行政・公共政策と法」に分類されていることに鑑みて、本授業では、実際の日本の憲法判例の分析を通じて、日本国憲法の違憲審査制の特質並びにそこから導かれる憲法訴訟の特質と法技術を理解することを目指す。

【到達目標】

付随審査制（司法審査制）としての日本の違憲審査制の特質に由来する憲法訴訟の諸特徴と限界について理解できるようになること、こうした限界の中でも、権利の実効的保障のために試みられている様々な新たな憲法訴訟の手法や法理について理解できるようになること、さらに、新しい憲法判例の中でもこのような手法や法理がより一層取り入れられるようになるうえで必要な条件は何かについて、自ら考える力を身に付けることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

初めに外国の違憲審査制と対比しつつ、付随審査制（司法審査制）としての日本の違憲審査制の特質を講義する。次に、この違憲審査制の特質から導き出される憲法訴訟の諸理論、諸法理について講義し、そのうえで、それぞれの憲法訴訟論に関わる具体的な憲法判例の分析を行う。

学部生の授業であることを念頭に置き、あまり難解で高度な授業にはしないつもりである。

授業は Hoppii に事前にアップしたレジュメや資料（資料は対面式が可能な場合は教室で配布する）を用い、レジュメに沿って講義中心で授業を進める。原則として毎授業後に Hoppii を通じて小テストを課し、次の授業時にその内容を解説することを通じて、授業内容の理解度を確認する。

対面式を予定しているが、大学の方針が変更された場合には、オンデマンド方式のビデオによるオンライン授業を行う（詳細は春学期開始時の第 1 回ガイダンス時に連絡する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	憲法訴訟に関する受講生の知識を確認するアンケートを実施した後に、授業の進め方を解説する。
第 2 回	違憲審査制	アメリカ、ドイツ、フランスの違憲審査制と対比しつつ、日本の違憲審査制の特質を講義する。
第 3 回	事件性と客観訴訟	司法権概念の分析から、適法な訴訟となるための訴訟要件を講義する。
第 4 回	憲法訴訟の当事者適格	実際の訴訟において違憲性を争点とするための要件について講義する。第三者の権利援用についても説明する。
第 5 回	憲法判断回避の準則	具体的な判例の分析を通じて、付随審査制の特質に由来する憲法判断回避の準則について講義する。
第 6 回	合憲限定解釈	具体的な判例の分析を通じて合憲限定解釈の有効性と困難性を講義する。
第 7 回	違憲判断の方法（1）	法令違憲の現状を概観する。
第 8 回	違憲判断の方法（2）	法令違憲、適用違憲、処分違憲の違いについて講義する。
第 9 回	違憲判決の効力	違憲判決の効力をめぐる学説の対立と、実際の運用状況について講義する。
第 10 回	違憲無効判断回避の手法	とくに選挙訴訟を例にとりながら、違憲無効判断の回避の手法としての合理的期間論と事情判決の法理の意義を講義する。
第 11 回	立法行為の憲法訴訟（1）	在宅投票制廃止事件、在外選挙権訴訟を取り上げつつ、付随審査制と国民代表制の下で立法行為の憲法訴訟を提起することの困難性と新たな可能性を理論的に説明する。

- 第 12 回 立法行為の憲法訴訟（2） 立法不作為の憲法訴訟の新たな展開について、強制不妊（断種）手術損害賠償立法不作為訴訟、在外国民審査制訴訟等を検討する。
- 第 13 回 権利の実効的保障 権利の実効的救済方法としての立法者の合理的意思推定の理論と部分無効の法理について解説する。
- 第 14 回 違憲審査基準の現状と本授業のまとめ 二重の基準論、規制目的二分論などの従来の違憲審査基準論のあり方を概観したのちに、最近の最高裁判所の違憲審査の状況や「三段階審査」論について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業テーマについて、学部の憲法の授業（憲法Ⅰ～Ⅳ）で用いた教科書の該当部分を参照し予習しておくこと。また、各回の授業で扱った憲法判例について、判例集や参考書の当該部分を参照し、自分で判決内容をまとめ直すことで、理解をより深めること。

対面式授業の場合には、Hoppii に事前にアップされた各回の授業内容のビデオを事前ないし事後に視聴し、また同じくアップされている各回の小テストに授業後に解答するよう努めること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書指定はせず、代わりにオンデマンド方式のビデオで授業内容を解説する予定である。

【参考書】

高橋和之『体系・憲法訴訟』（岩波書店、2017 年）、3,800 円（＋税）
初宿正典他共著『憲法 Case and Materials 憲法訴訟』（有斐閣、第 2 版、2013 年）7,150 円
芦部信喜（高橋和幸補訂）『憲法』（岩波書店、第 7 版、2019 年）3,520 円
L S 憲法研究会編『プロセス演習・憲法』（信山社、第 4 版、2012 年）5,800（＋税）円

【成績評価の方法と基準】

対面式授業の場合は、定期試験（95 %）及びその他の授業参加の積極度（5 %）により評価する。

オンライン式授業の場合は、各回の小テストの合計（70～75 %）、授業アンケートや期末レポート（20～25 %）、その他の授業参加の積極度（5 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

内容が専門的であり、難解な講義となりがちなので、具体例を多く用いつつ、十分な時間をかけて分かりやすい講義に努める。時間配分に気を付けて、最終テーマまで到達できるよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

事前や事後の学習、学習準備のため、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を用意すること。

【その他の重要事項】

弁護士として訴訟実務も行っているため、憲法訴訟論の中で、必要に応じて実際の訴訟との関連性を考慮した授業を行う。

授業で用いるレジュメや資料は Hoppii に事前にアップしておくので、各自で事前にダウンロード、プリントアウトして、特に対面式授業の場合は授業に持参すること。

【Outline and objectives】

Lecture of Japanese constitutional litigation theories though analysis of some constitutional precedents in Japan.

LAW200AB

生命倫理と人権 I

鶴澤 和彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命倫理は、20 世紀中葉の非人道的な人体実験を背景にして、今日の形態へと発展してきました。本授業は、このような歴史的な人権問題を考慮しながら、生命倫理の四原則（自律尊重、仁恵、無危害、正義）並びに三種類の同意概念（インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意）を学んでいきます。その際、授業内容に関連する医療ドラマを視聴し、生命倫理の諸概念や人権問題の理解を深めていきます。なお、本科目は「文化・社会と法コース」にあげられているような、法的教養を深めるに適切な科目です。また「行政・公共政策と法」の各コースにも配置されています。

【到達目標】

- ①生命倫理と人権思想の連関を把握し、日常生活の出来事から倫理的及び法律的問題を見つめることができる。
- ②具体的な事例に基づいて、生命倫理の土台を成す四原則（自律尊重、仁恵、無危害、正義）を把握することができる。
- ③インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意という三種類の同意概念、そして、それらに関連する法規定（法律およびガイドラインなど）を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は、オンデマンド型オンライン授業となります。学習支援システム Hoppii を通じて、ナレーション付きのパワーポイント教材、解説動画、授業資料、課題等が提供され、Q&A 動画による質疑応答も行われます。課題は主に医療ドラマから出されます。受講生は、このドラマを視聴し、課題に答えて送信してください。課題の提出をもって出席と判断します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	教員の自己紹介、到達目標、授業内容、授業の進め方について説明します。また、スピッツの「ホスピタリズム」研究から人間の生命について考えます。
第 2 回	生命倫理と人権思想の歴史①	生命倫理の成立史（ニュルンベルク綱領、ヘルシンギ宣言、ベルモントレポート）を解説します。
第 3 回	生命倫理と人権思想の歴史②	ロバート・J・リフトンによるナチズムの研究から、生命倫理と人権、とくに差別、抑圧、暴力の問題について考えます。
第 4 回	終末期医療と人権①：第 1 章「いのちの終わりは誰が決めるのか」	死の概念、患者の自己決定権、インフォームド・コンセント（IC）、パターナリズム、いのちの「終わり」の選択（①セデーション、②自然死、③安楽死、④延命治療）を解説し、それぞれの問題点とそれに関するモラル・ジレンマを明らかにします。
第 5 回	終末期医療と人権②：第 1 章「いのちの終わりは誰が決めるのか」	がん告知に関する法整備、がん告知についての統計、がん告知の問題、終末期患者への対応、死の受容に関する五段階説（エリザベス・キューブラーロス）、医療資源の配分などの問題を考えていきます。
第 6 回	終末期医療と人権③：第 1 章「いのちの終わりは誰が決めるのか」	第 4 回と第 5 回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第 7 回	小児医療と人権①：第 2 章「子供の医療は誰が決めるのか」	ホスピタリズムと幼児の能力（ヤヌシュ・コルチャック、内藤寿七郎）、幼児の精神的な病気（スピッツ）、インフォームド・アセント（IA）の概念、親の許諾、患児の賛同、IA の適用例、日本における I A の実施率について考察します。

第 8 回	小児医療と人権②：第 2 章「子供の医療は誰が決めるのか」	拒食症と宗教的理由から輸血を拒否する事例を取り上げ、パターナリズムと治療の拒否権について考えます。
第 9 回	小児医療と人権③：第 2 章「子供の医療は誰が決めるのか」	第 7 回と第 8 回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第 10 回	コンピテンスと人権①：第 3 章「判断能力は誰が決めるのか」	判断能力のない患者（生まれながらに判断能力を持ちえない患者と事故や病気で判断能力を失った患者）、リビング・ウィル、成年後見、代理同意とその基準（最高利益と代理判断）及び問題点、臓器移植法改正、家族の範囲について考察します。
第 11 回	コンピテンスと人権②：第 3 章「判断能力は誰が決めるのか」	自律、コンピテンス、人権との関係、及びコンピテンスの臨床基準について説明します。
第 12 回	コンピテンスと人権③：第 3 章「判断能力は誰が決めるのか」	第 11 回と第 12 回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第 13 回	生命倫理の四原則と人権	自律尊重、仁恵、無危害、正義の諸原則を整理し、それらの原則と人権思想との関連をまとめます。
第 14 回	生命倫理における同意概念と人権	人権との関連でインフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意の概念をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：受講生は授業前に教科書の該当箇所を読み、あらかじめ概要を把握しておいて下さい。また、参考書を使って、専門用語の意味等を理解してください（2 時間）。復習：授業時に配布された資料（講義原稿と参考資料）を読み直してください。そして、授業支援システムを使って、各授業後に出される課題に答え、その内容を送信してください（3 時間）。さらに、ディスカッションでの他の受講生の意見を参考にしながら、そのテーマに関する自分の考えをまとめてください。

【テキスト（教科書）】

小林亜津子著『はじめて学ぶ生命倫理』、ちくまプリマー新書、780 円、ISBN-10:4480688684

【参考書】

①トム・L・ビーチャム他著『生命医学倫理』、成文堂、7,560 円、ISBN-10:4792360641

【成績評価の方法と基準】

試験方法：筆記試験、実施時期：定期試験期間内。定期試験 50%、課題 50%の総合評価。課題は授業内容を正しく理解しているかどうか、そして、自分の考えを筋道を立てて表現しているかどうか、という基準で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされてあります。このシステムを活用して自習してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。もし可能であれば、Web カメラとプリンターを用意してください。

【その他の重要事項】

オンデマンド型オンライン授業の詳細は、すでに学習支援システム Hoppii に掲載していますので、そちらをご覧ください。

【Outline and objectives】

Bioethics has developed into today's form from the background of inhumane human experiments in the middle of the 20th century. Taking into account such historical human rights issues, we learn in this class the four principles of bioethics (respect for autonomy, beneficence, nonmaleficence, justice) and three concepts of consent (informed consent, informed ascent, proxy consent). At that time, we will watch medical dramas related to the lecture contents and deepen our understanding of bioethical concepts and human rights issues. This course is suitable for legal education, such as those listed in the Culture, Society, and Law Course. It also belongs to the course of an Administration, Public Policy, and Law.

LAW200AB

生命倫理と人権Ⅱ

洪 賢秀

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命科学技術の進展により、私たちは、「いのちにどこまで人為的な介入を許すべきか」という難題に直面しています。本授業では、生命倫理をめぐる諸課題について社会的・文化的背景を踏まえながら、各社会が新たに登場した生命科学技術をどのように受容し対応しているのかについて、人権及び法的視点からアプローチしていきます。法律学科のコース制との関係では、「裁判と法」「行政・公共政策と法」及び「文化・社会と法」の各コースに属する科目です。

【到達目標】

本授業では、生殖医療技術、遺伝子関連技術、再生医療、移植医療、終末期医療などについて、各社会がどのような規制をもち、どのような議論をしているのか、具体的な事例を検討し、生命倫理に関する基本的情報を習得します。また、他の人との意見交換をとおして、生命倫理に関する多様な立場や価値観への理解を示すとともに、自分の考えを深めていくことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業内容の理解度を確認し、テーマにおける自分の考えを整理していただくために、ミニレポートを課し提出してもらいます。提出されたミニレポートに対して、個人への回答やコメントが必要な場合には、個別に回答・コメントをお送りします。また、全体として共有したほうがよいと思われる内容については、次の講義の際に、おさらいと補足をいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	生命倫理とは何か	人間の欲望と歴史的教訓としての倫理
第2回	生殖医療技術と倫理	生殖医療技術と「生殖医療民法特例法」と諸課題
第3回	遺伝子関連技術と倫理①	遺伝情報と差別
第4回	遺伝子関連技術と倫理②	ゲノム研究とゲノム医療
第5回	遺伝子関連技術と倫理③	ゲノム編集と遺伝子関連検査
第6回	再生医療と倫理①	クローン技術
第7回	再生医療と倫理②	人体組織と再生医療
第8回	エンハンスメントと倫理	エンハンスメントの問題と背景
第9回	移植医療をめぐる倫理①	脳死と臓器移植
第10回	移植医療をめぐる倫理②	いのちの贈物の光と影
第11回	移植医療をめぐる倫理③	移植ツーリズム
第12回	死をめぐる倫理①	終末期医療
第13回	死をめぐる倫理②	新型コロナウイルスと終末期
第14回	死をめぐる倫理③	死体の研究利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において適宜指示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

準備学習としては、授業内容と関連するテーマについてテキストや参考文献を読んで、授業に臨んでください。毎回のミニレポートの作成は、授業内容の論点整理や理解を確認するための復習の時間となります。

【テキスト（教科書）】

神里 彩子・武藤 香織 編『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』（東京大学出版会、2015 年、税込 2592 円）

【参考書】

『ジュリスト増刊 ケース・スタディ 生命倫理と法』、松原洋子・伊吹友秀『生命倫理のレポート・論文を書く』（東京大学出版会）、棚島次郎『先端医療と向き合う：生老病死をめぐる問いかけ』（平凡社新書）
その他、授業において毎回レジュメや資料を配布し、参考文献は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は、期末レポート 50%と、ミニレポートの課題 50%とし、総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

Advances in the life sciences and technologies are forcing us to confront the difficult question of “How much artificial intervention into life should be permitted?” In this class, drawing on the social and cultural background of a variety of issues surrounding bioethics, we adopt a legal and human rights perspective as we approach the question of how each society accepts and responds to newly emerging life sciences and technologies. With reference to the law school's course system, this class is affiliated with the following courses: “Courts and the Law,” “Administrative and Public Policy and the Law,” and “Culture, Society, and Law.”

LAW200AB

行政法入門Ⅰ

西田 幸介

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法とは行政に関する法のことを指す。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律（行政法典）がないことである。このため、学習者は行政法の体系や基本原理を法典を通して知ることができない。「行政法は難しい」といわれる理由の一つはこの点にあらう。行政法も、法の一種であるから、権利義務あるいは法律関係を対象とする。しかし、行政法では、民事法と異なり、権利義務の有無よりも行政の行為の適法性が問題となる。この授業では、行政法を学ぶ土台を作るために、行政法の概略、行政法とはどのような法なのか、行政の組織に関する法律論の基礎的な枠組みおよび行政法の基本原理を学ぶ。

この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

- ①行政法とは何かを説明することができる。
- ②行政主体と行政機関について説明することができる。
- ③権限の代行について説明することができる。
- ④指揮監督について説明することができる。
- ⑤行政法の基本原理について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、オンデマンド授業とリアルタイムオンライン授業を併用して行う（ハイブリッド型授業）そのために、Hoppii と Google クラスルームを利用する。Hoppii は授業開始当初に受講者または受講希望者への連絡のために用い、Google クラスルームを主として利用する。受講者は、① Google クラスルームを通して配信される動画を閲覧するか指定テキストの該当箇所を精読した（必須）うえで、② Google クラスルームを通して理解度確認のための小テストを受験し（任意）リアクションペーパーを提出し（任意）、③適宜実施されるリアルタイムオンライン授業を受講することで、学習を進める。①と②はオンデマンド授業である。

小テストに対するフィードバックは、個別に得点を開示しかつ解説を示すことによって行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて担当者が個別にコメントし、また、必要に応じて授業内で受講者全員に向けてコメントをすることによって実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 行政法のイメージ	授業の進め方 行政法令の諸相 行政の主体とプロセス
第 2 回	行政法序論（1）	行政と行政法 行政法の三分野 行政法典の不在
第 3 回	行政法序論（2）	行政の意義と分類
第 4 回	行政法序論（3）	公法私法二元論 民事法の適用
第 5 回	行政主体と行政機関（1）	行政主体の種類
第 6 回	行政主体と行政機関（2）	行政機関の権限と分類
第 7 回	行政主体と行政機関（3）	行政機関の類似概念
第 8 回	行政機関の相互関係	指揮監督 権限の代行
第 9 回	行政法の基本原理（1）	法律による行政の原理の意義と内容
第 10 回	行政法の基本原理（2）	法律による行政の原理の形式性とその克服
第 11 回	行政法の基本原理（3）	信義誠実の原則
第 12 回	行政法の基本原理（4）	権利濫用禁止の原則
第 13 回	行政法の基本原理（5）	比例原則
第 14 回	行政法の基本原理（6）	平等原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『行政法入門講義』（生協書籍部で販売）を用いる。

【参考書】

教科書・体系書

- ・稲葉馨ほか『行政法』（2018 年、第 4 版、有斐閣）
- ・今村成和（著）＝畠山武道（補訂）『行政法入門』（2012 年、第 9 版、有斐閣）
- ・宇賀克也『行政法概説Ⅰ』（2020 年、第 5 版、有斐閣）
- ・小早川光郎『行政法上』（1999 年、弘文堂）、『行政法講義下Ⅰ』（2002 年、弘文堂）
- ・塩野宏『行政法Ⅰ』（2015 年、第 6 版、有斐閣）
- ・芝池義一『行政法読本』（2016 年、第 4 版、有斐閣）
- ・高橋滋『行政法』（2018 年、第 2 版、弘文堂）
- ・原田尚彦『行政法要論』（2012 年、全訂第 7 版補訂 2 版、学要書房）
- ・藤田宙靖『行政法総論』（2013 年、青林書院）
- その他
- ・宇賀克也ほか（編）『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（2017 年、第 7 版、有斐閣）
- ・稲葉馨ほか（編）『ケースブック行政法』（2018 年、第 6 版、弘文堂）
- ・芝池義一（編）『判例行政法入門』（2017 年、第 6 版、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100 %）のみで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。引き続き授業改善に努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

Google クラスルームおよび学習支援システムを利用するので、インターネット環境だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、インターネットの利用が可能な情報機器の準備が必須である。スマートフォンのみでも受講が可能なように配慮するが、スマートフォンのみの場合、レポート作成に当たっては物理キーボードの利用を検討した方がよいだろう。

【その他の重要事項】

行政法の科目としては、行政法入門Ⅰ・Ⅱのほかに、行政作用法Ⅰ・Ⅱ、行政救済法Ⅰ・Ⅱ、行政組織法、地方自治法、環境法、都市法、租税実体法、租税手続法がある。行政法の科目を履修または受講する場合、いずれも行政法入門Ⅰ・Ⅱを受講していることを前提として授業が行われるので、単位修得の有無にかかわらず、2 年次に行政法入門Ⅰ・Ⅱを受講しておくことが望ましい。ただし、行政法の他の科目を履修するに当たって、行政法入門Ⅰ・Ⅱの履修あるいは単位取得は必須の条件としていない。

これらのほか、法学部のカリキュラムでは行政法として位置づけられていないが、教育法、経済法、社会保障法など行政と密接に関係する法律分野もある。行政に関する法律問題を学びたいと思っている学生は、行政法の科目のみならず、これらの科目を受講するとよいだろう。

【Outline and objectives】

Administrative Law is whole body of Laws concern to Public Administration. Although Administrative Law regulate legal relationship between Nation and Natural or Legal Person, in Administrative Law, legality of acts that Administrative Agency do is very important matter. In this course, Students learn about outline of Administrative Law, Administrative Organ and basic principal of Administrative Law.

LAW200AB

行政法入門Ⅱ

西田 幸介

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法入門Ⅱでは、行政法入門Ⅰに引き続きそれを前提に、行政作用法および行政救済法の基本的な理論について解説する。

行政作用とは行政主体が私人に対してする行政活動を指し、これを規律するのが行政作用法である。行政作用法の詳細は、この授業に続く行政作用法Ⅰ・Ⅱで取り扱われる。行政作用は人権に関わる。たとえば、営業規制は営業（職業選択・職業活動）の自由を、建築規制は財産権を、それぞれ規制するものであるし、生活保護は生存権を実現するためのものといえる。この意味で行政法は、人権侵害に対抗するための法律論である。

この授業では、こうした認識を前提に、行政作用については、行政作用に関する法律論の基礎的な枠組みを示すとともに、行政作用に関する一般制度として行政手続を取り上げる。前者では、とりわけ、行政機関が行政主体のために行政作用としてする行為（行政の行為）の法形式の整理が重要である。行政の行為には様々なものが含まれるが、それは、権力性、法効果および具体性の三要素によって分類される。この基準によって行政の行為の法的性質を見極められるようになることが、まずもって必要である。

行政救済とは、行政作用により私人に生じた不利益の救済のことをいい、これを行政救済法は規律する。その主要法律として、行政事件訴訟法、行政不服審査法および国家賠償法がある。行政救済法の詳細は、この授業に続く行政救済法Ⅰ・Ⅱで取り扱われる。行政法学では、行政救済に関して、行政事件訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償請求などを取り上げてきた。行政救済とは別の観点として、行政作用の司法審査というものがある。これは、行政作用の適法性を行政とは個別される国家機関である裁判所が審査するものであり、それは行政事件訴訟だけでなく民事訴訟や刑事訴訟においても行われる。

この授業の受講者は、行政法入門Ⅰで学んだ行政法の基本原則と行政組織法の基礎を前提に、行政作用法と行政救済法の基本的な法制度を理解し、行政法現象を法的に把握できるようになることを期待される。

この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

- ①行政の各種の行為（行為形式）について説明することができる。
- ②行政救済の概略を説明することができる。
- ③行政手続について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、オンデマンド授業とリアルタイムオンライン授業を併用して行う（ハイブリッド型授業）そのために、Hoppii と Google クラスルームを利用する。Hoppii は授業開始当初に受講者または受講希望者への連絡のために用い、Google クラスルームを主として利用する。受講者は、① Google クラスルームを通して配信される動画を閲覧するか指定テキストの該当箇所を精読した（必須）うえで、② Google クラスルームを通して理解度確認のための小テストを受験し（任意）リアクションペーパーを提出し（任意）、③適宜実施されるリアルタイムオンライン授業を受講することで、学習を進める。①と②はオンデマンド授業である。

小テストに対するフィードバックは、個別に得点を開示しかつ解説を示すことによって行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて担当者が個別にコメントし、また、必要に応じて授業内で受講者全員に向けてコメントをすることによって実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	行政の各種の行為（1）	内部的行為と外部的行為 行政の行為形式
第 2 回	行政の各種の行為（2）	行政行為
第 3 回	行政の各種の行為（3）	法規命令
第 4 回	行政の各種の行為（4）	行政契約 実力行使 行政指導
第 5 回	行政救済法の基礎（1）	行政作用の司法審査 行政事件訴訟の意義
第 6 回	行政救済法の基礎（2）	取消訴訟の意義
第 7 回	行政救済法の基礎（3）	取消訴訟の訴訟要件
第 8 回	行政救済法の基礎（4）	無効等確認訴訟 差止訴訟

第 9 回	行政救済法の基礎（5）	義務付け判決 当事者訴訟
第 10 回	行政救済法の基礎（6）	民衆訴訟 機関訴訟
第 11 回	行政救済法の基礎（7）	行政上の不服申立て
第 12 回	行政救済法の基礎（8）	国家賠償
第 13 回	行政手続の基礎（1）	適正手続の保障
第 14 回	行政手続の基礎（2）	行政手続の手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづき学習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『行政法入門講義』（生協書籍部で販売）

【参考書】

教科書・体系書
 ・稲葉馨ほか『行政法』（2018 年、第 4 版、有斐閣）
 ・今村成和（著）＝畠山武道（補訂）『行政法入門』（2012 年、第 9 版、有斐閣）
 ・宇賀克也『行政法概説Ⅰ』（2020 年、第 7 版、有斐閣）
 ・小早川光郎『行政法 上』（1999 年、弘文堂）、『行政法講義 下Ⅰ』（2002 年、弘文堂）
 ・塩野宏『行政法Ⅰ』（2015 年、第 6 版、有斐閣）
 ・芝池義一『行政法読本』（2016 年、第 4 版、有斐閣）
 ・高橋滋『行政法』（2018 年、第 2 版、弘文堂）
 ・原田尚彦『行政法要論』（2012 年、全訂第 7 版補訂 2 版、学芸書房）
 ・藤田宙靖『行政法総論（上）』（2020 年、青林書院）

その他

・宇賀克也ほか（編）『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（2017 年、第 7 版、有斐閣）
 ・稲葉馨ほか（編）『ケースブック行政法』（2018 年、第 6 版、弘文堂）
 ・芝池義一（編）『判例行政法入門』（2017 年、第 6 版、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Google クラスルームおよび学習支援システムを利用するので、インターネット環境だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、インターネットの利用が可能な情報機器の準備が必須である。スマートフォンのみでも受講が可能なように配慮するが、スマートフォンのみの場合、レポート作成に当たっては物理キーボードの利用を検討した方がよいだろう。

【その他の重要事項】

行政法入門Ⅱのカリキュラム上の位置づけについては、行政法入門Ⅰのシラバス参照。

【Outline and objectives】

In this course, the basic legal theories of acts of Administrative Agency and the outline of Administrative Remedies are taken up. Acts of Administrative Agency are concerned to Fundamental Human Rights. For example, Regulation to Occupation will regulate the Freedom to act Occupation. Livelihood Protection will realize the Right to live. So, in these meanings, the Administrative Law theories are means of Human Rights Protection. Administrative Remedies mean remedies to rights or interests that are injured by acts of Administrative Agency.

LAW300AB

行政作用法Ⅰ

西田 幸介

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、行政法入門Ⅰ・Ⅱにおいて取り扱われた内容を前提に、行政の各種の行為とその法的規制について取り上げる。行政の行為とは、行政主体ないし行政機関が行政作用として行う行為のことをいう。従来から行政法学が考察の対象としてきた行政の各種の行為として、行政による規範制定（法規命令と行政規則）、行政計画、行政行為、行政契約、実力行使（即時強制と強制執行行為）および行政指導がある。これら行政の行為が恣意的に行われてはならないことはいくつまでもない。また、これらは民主的統制に服する必要がある。そこで、行政の行為に対しては、とりわけ法律によって、実体・手続の両面から各種の規制が行われている。

この授業では、行政の各種の行為の意義・分類・法的規制について、個別の行政法令を参照しながら学ぶ。

なお、この科目は、「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」に配置されている科目である。

【到達目標】

- ① 行政の各種の行為をその法的性質に応じて分類することができる
- ② 行政の各種の行為の法的規制について説明することができる
- ③ 個別の行政法令（建築基準法など）に定められている行政の各種の行為の法的性質を見極めることができる
- ④ 具体的な事件において行政の各種の行為が私人の権利利益にどのように影響を及ぼしているかを把握することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、オンデマンド授業とリアルタイムオンライン授業を併用して行う（ハイブリッド型授業）そのために、Hoppii と Google クラスルームを利用する。Hoppii は授業開始当初に受講者または受講希望者への連絡のために用い、Google クラスルームを主として利用する。受講者は、① Google クラスルームを通して配信される動画を閲覧するか指定テキストの該当箇所を精読した（必須）うえで、② Google クラスルームを通して理解度確認のための小テストを受験し（任意）リアクションペーパーを提出し（任意）、③適宜実施されるリアルタイムオンライン授業を受講することで、学習を進める。①と②はオンデマンド授業である。

小テストに対するフィードバックは、個別に得点を開示しかつ解説を示すことによって行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて担当者が個別にコメントし、また、必要に応じて授業内で受講者全員に向けてコメントをすることによって実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	行政法の体系と行政作用法 行政作用とは何か
第 2 回	行政による規範制定（1）	意義と分類
第 3 回	行政による規範制定（2）	法規命令と行政規則
第 4 回	行政による規範制定（3）	法的規制
第 5 回	行政計画	意義と分類 法的規制
第 6 回	行政行為（1）	意義と分類
第 7 回	行政行為（2）	法的規制
第 8 回	行政行為（3）	申請に対する処分の手続
第 9 回	行政行為（4）	不利益処分の手続
第 10 回	行政契約（1）	意義と分類
第 11 回	行政契約（2）	法的規制
第 12 回	即時強制と行政調査	意義と分類 法的規制
第 13 回	行政指導（1）	意義と分類
第 14 回	行政指導（2）	法的規制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書、その他授業内で指示された内容にもとづき学習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『行政作用法講義』（生協書籍部で販売）

【参考書】

教科書・体系書

- ・稲葉馨ほか『行政法』（2018 年、第 4 版、有斐閣）
- ・今村成和（著）＝畠山武道（補訂）『行政法入門』（2012 年、第 9 版、有斐閣）
- ・宇賀克也『行政法概説Ⅰ』（2020 年、第 7 版、有斐閣）
- ・小早川光郎『行政法上』（1999 年、弘文堂）、『行政法講義下Ⅰ』（2002 年、弘文堂）
- ・塩野宏『行政法Ⅰ』（2015 年、第 6 版、有斐閣）
- ・芝池義一『行政法総論講義』（2006 年、第 4 版補訂版、有斐閣）
- ・高橋滋『行政法』（2018 年、第 2 版、弘文堂）
- ・原田尚彦『行政法要論』（2012 年、全訂第 7 版補訂 2 版、学要書房）
- ・藤田宙靖『行政法総論（上）』（2020 年、青林書院）
- その他
- ・宇賀克也ほか（編）『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（2017 年、第 7 版、有斐閣）
- ・稲葉馨ほか（編）『ケースブック行政法』（2018 年、第 6 版、弘文堂）
- ・芝池義一（編）『判例行政法入門』（2017 年、第 6 版、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100 %）のみで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Google クラスルームおよび学習支援システムを利用するので、インターネット環境だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、インターネットの利用が可能な情報機器の準備が必須である。スマートフォンのみでも受講が可能なように配慮するが、スマートフォンのみの場合、レポート作成に当たっては物理キーボードの利用を検討した方がよいだろう。

【その他の重要事項】

行政法入門Ⅰおよび行政法入門Ⅱを履修しているか履修中であることを前提として、授業を進める。両科目を履修していないかあるいは履修中でない者が、この科目を履修することを排除しないが、その場合には、各自で両科目で取り扱われる内容について、学習しておく必要がある。また、この科目を履修したのちに、行政作用法Ⅱを履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

In this course, definitions, legal natures and legal regulations of the acts of the Administrative Agency are taken up. The acts are included one that has legal effect and one that doesn't have legal effect. In study of Administrative Law, regardless a act of Administrative Agency has legal effect or not, functions that statutes or courts have to do in legal regulation of Administration is important.

LAW300AB

行政作用法Ⅱ

西田 幸介

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、行政作用法Ⅰに引き続きそれを前提として、行政の実効性確保と行政行為の法理を取り上げる。

行政の実効性確保とは、私人が行政上の義務を任意に履行しなかったり、行政側からみて不適切と考えられる行動をとっているときに、義務の履行を強制したり、各種手段を用いて行政の意図する行動をとらせたりすることをいう。これには、刑事罰が含まれるほか、身体・財産への実行行使に当たるものもあるため、その適正化がとりわけ強く要請される。

行政行為とは、行政の各種の行為のうち、行政機関が一方的に私人の権利義務を具体的に決定する行為のことをいう。行政行為の意義・分類・法規制の概略は、行政作用法Ⅰにおいて解説される。この授業では、行政行為について、その意義等を確認するところからはじめて、行政行為の法理を詳細に検討する。その具体的内容は、①行政行為の効力、②行政行為の瑕疵、③行政行為の職権取消しと撤回、④行政裁量である。伝統的に行政法学では、行政作用ないし行政の行為の議論のほとんどは行政行為論に当たられてきた。なお、上記の事項中、行政裁量は、必ずしも行政行為に限定されることなく、それ以外の行政の行為についても語ることでできるものであるが、従来から学説で行政裁量として論じられてきたのは行政行為における裁量であった。

この授業では、上のような行政の実効性確保と行政行為の法理について、個別の行政法令と関連に注目しつつ、学ぶ。

なお、この授業は、「行政・公共政策と法コース」に属する。

【到達目標】

- ①行政の実効性確保の意義と内容を説明することができる
- ②行政の各種の行為ごとに、それに対応する行政の実効性確保の手法としていかなるものがあるか、それにどのような法的問題点があるかを説明することができる
- ③行政行為の効力について、成立要件や附款による効力制限に留意しながら、説明することができる
- ④行政行為の瑕疵について、無効と取消しの差異に注目して、説明することができる
- ⑤行政行為の職権取消しと撤回の意義や効果、制限法理などについて、それが私人に及ぼす影響にふれながら、説明することができる
- ⑥行政裁量の有無・所在とその司法審査について説明することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、オンデマンド授業とリアルタイムオンライン授業を併用して行う（ハイブリッド型授業）そのために、Hoppii と Google クラスルームを利用する。Hoppii は授業開始当初に受講者または受講希望者への連絡のために用い、Google クラスルームを主として利用する。受講者は、① Google クラスルームを通して配信される動画を閲覧するか指定テキストの該当箇所を精読した（必須）うえで、② Google クラスルームを通して理解度確認のための小テストを受験し（任意）リアクションペーパーを提出し（任意）、③適宜実施されるリアルタイムオンライン授業を受講することで、学習を進める。①と②はオンデマンド授業である。

小テストに対するフィードバックは、個別に得点を開示しかつ解説を示すことによって行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて担当者が個別にコメントし、また、必要に応じて授業内で受講者全員に向けてコメントをすることによって実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	行政の実効性確保（1）	行政上の強制執行（行政的執行）
第 2 回	行政の実効性確保（2）	行政上の制裁
第 3 回	行政の実効性確保（3）	行政上の義務と民事執行（司法的執行）
第 4 回	行政行為の効力（1）	成立と効力の発生
第 5 回	行政行為の効力（2）	附款
第 6 回	行政行為の効力（3）	消滅
第 7 回	行政行為の瑕疵（1）	瑕疵ある行政行為
第 8 回	行政行為の瑕疵（2）	無効と取消し
第 9 回	行政行為の瑕疵（3）	無効と取消しの区別
第 10 回	違法な行政行為（1）	違法の類型
第 11 回	違法な行政行為（2）	瑕疵の治癒 違法行為の転換

第 12 回	違法な行政行為（3）	違法性の承継
第 13 回	行政裁量（1）	意義、所在、判定要素
第 14 回	行政裁量（2）	裁量濫用審査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書、その他授業内で指示された内容にもとづき学習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『行政作用法講義』（生協書籍部で販売）

【参考書】

教科書・体系書

- ・稲葉馨ほか『行政法』（2018 年，第 4 版，有斐閣）
- ・今村成和（著）＝島山武道（補訂）『行政法入門』（2012 年，第 9 版，有斐閣）
- ・宇賀克也『行政法概説Ⅰ』（2020 年，第 7 版，有斐閣）
- ・小早川光郎『行政法上』（1999 年，弘文堂），『行政法講義下Ⅰ』（2002 年，弘文堂）
- ・塩野宏『行政法Ⅰ』（2015 年，第 6 版，有斐閣）
- ・芝池義一『行政法総論講義』（2006 年，第 4 版補訂版，有斐閣）
- ・高橋滋『行政法』（2018 年，第 2 版，弘文堂）
- ・原田尚彦『行政法要論』（2012 年，全訂第 7 版補訂 2 版，学要書房）
- ・藤田宙靖『行政法総論』（2013 年，青林書院）
- その他
- ・宇賀克也ほか（編）『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（2017 年，第 7 版，有斐閣）
- ・稲葉馨ほか（編）『ケースブック行政法』（2014 年，第 5 版，弘文堂）
- ・芝池義一（編）『判例行政法入門』（2017 年，第 6 版，有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。ただ、今後とも授業改善に努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

Google クラスルームおよび学習支援システムを利用するので、インターネット環境だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、インターネットの利用が可能な情報機器の準備が必須である。スマートフォンのみでも受講が可能なように配慮するが、スマートフォンのみの場合、レポート作成に当たっては物理キーボードの利用を検討した方がよいだろう。

【その他の重要事項】

この授業は行政作用法Ⅰを履修した者を対象としている。行政作用法Ⅰを履修していない者の受講を排除しないが、同科目を未受講の場合、そこで取り上げられる内容をあらかじめ自習しておくことが望まれる。

【Outline and objectives】

In this course, ensuring effectiveness of the acts of Administrative Agency, and Administrative Act that is “Gyousei Kou” in Japanese or “Verwaltungsakt” in German are taken up. In the former, the students learn the methods to ensure In this course, ensuring effectiveness of the acts of Administrative Agency, and the Administrative Act that is “Gyousei Kou” in Japanese or “Verwaltungsakt” in German are taken up. In the former, the students learn the methods to ensure effectiveness of the acts of Administrative Agency in cases that Natural or Legal Person is in non compliance to the acts. The methods include lawful one or not. In the latter, categorizing the Administrative Acts, legal regulations of the Administrative Act, the Defective Administrative Act, and the Administrative Discretions in the Administrative Act are important themes. By the way, the concept of the Administrative Act does not exist in Common Law. So unfortunately “Administrative Act” is not faithful translation of “Gyousei Kou” or “Verwaltungsakt”. effectiveness of the acts of Administrative Agency in cases that Natural or Legal Person isn’t in submission to the acts. The methods include lawful one or not. In the latter, categorizing Administrative Acts, legal regulation of Administrative Act, Defective Administrative Act, and Administrative Discretions in Administrative Act are important themes. By the way, the concept of Administrative Act does not exist in Common Law. So unfortunately “Administrative Act” is not faithful translation of “Gyousei Kou” or “Verwaltungsakt”.

LAW300AB

行政救済法Ⅰ

高橋 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I 行政法入門で習得した知識・能力を基盤として、行政救済法に関して学部レベルで期待される知識・能力の修得を目指す。この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「文化・社会と法」の各コースに配置されている。

II 行政救済法Ⅱと併せて4単位の講義であることから、条文解釈を含めた行政法令の理解、学説の対立点と背景、最高裁判例についての事実関係と判旨の正確な理解を修得することを目指す。

III 具体的には、行政訴訟を取り扱う。時間数の関係上、行政争訟制度のうち、行政不服審査、苦情処理については、行政救済法Ⅱにおいて取り扱う。

【到達目標】

I 知識面

行政救済法のうち、行政訴訟を取り扱う。関係法令、学説、判例に係る学部レベルでの知識の確実な修得を目指す。

II 能力面

① 行政救済法分野における学部生向けの解説書・解説文を自ら読解できる能力を養う。併せて、最高裁判所の判旨を正確に理解できる能力を養う。

② 解説文、最高裁判所の判決要旨等について、理解できない点、疑問点を発見し、これらについて自ら学術論文を調べ、あるいは、担当教員等に質問するなどして、受動的ではなく、積極的に講義に参加する学習態度を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

I 一般的な講義形式による。ただし、新型コロナウイルス感染症の蔓延が終息しない間においては、規模の大きい本講義は、当分の間、学習支援システムに、学習資料と動画の URL をアップすることを通じた動画の視聴と自習の形式、及び Zoom によるリアルタイム講義形式を併用する。併せて、Zoom の視聴時間把握機能とアンケート機能を用いて、講義参加実態とアンケートの回答状況を確認し、学習状況を把握する（状況により変動し得るため、毎週、学習支援システムを確認すること）。

II 受講者は教科書を購入し、学習支援システムからダウンロードした資料を利用し、動画を視聴して学習を進めること。

III 受講者は、併せて、Zoom を用いたリアルタイム講義に参加し、予習を踏まえて学習を深め、その後の復習を通じて理解を定着させること。

学生に対するフィードバックは、試験につき、必要と認めた場合に、採点方針と講評を事後に公表する形で実施する（第1回中間試験については必ず実施）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	行政争訟法（概説）、行政訴訟・概説（1）	行政争訟法（概説）、行政訴訟（沿革等）、行政統制と司法（前半）
第2回	行政訴訟・概説（2）	行政訴訟と司法（後半）、行政事件訴訟の意義と類型、行政事件と民事事件
第3回	抗告訴訟（1）	取消訴訟の訴訟要件、処分性（1） - 基本的な考え方
第4回	抗告訴訟（2）	処分性（2）、原告適格（1）
第5回	抗告訴訟（3）	原告適格（2）
第6回	第1回中間試験	第1回中間試験（試験範囲：第1回～第5回）
第7回	抗告訴訟（5）	狭義の訴えの利益
第8回	抗告訴訟（6）	他の訴訟要件、取消の審理（1） - 訴訟物、主張立証責任、文書提出義務、違法判断の基準時
第9回	抗告訴訟（7）	取消訴訟の審理（2） - 主張制限、原処分主義、処分理由の追加・差換え、複雑な訴訟形態
第10回	抗告訴訟（8）	複雑な訴訟形態・訴訟の終了
第11回	第2回中間試験	第2回中間試験（試験範囲：第7回～第10回）
第12回	抗告訴訟（9）	訴訟の終了、その他の抗告訴訟（前半）
第13回	抗告訴訟（10）	その他の抗告訴訟（後半）
第14回	機関訴訟、仮の救済	民衆訴訟と機関訴訟

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政救済法Ⅰ・Ⅱを合計して学部4単位の講義科目であるので、指定教科書を熟読し、わからない用語等があれば、参考文献を調べる。興味が出た事項・判例については、参考文献・ウェブサイトの判例データベースを自ら調べ、それでも解決できない場合は、教員に質問できるよう準備をしておくこと。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋『行政法〔第2版〕』（弘文堂、2018年）3,500円

（最新の内容の理解が重要であり、理解度テストも最新の知見を重視するため、第1版の使用は推奨しない（第1版の記述に依拠して解答した場合は及第点が獲得できない可能性がある））

【参考書】

以下のものを推奨する（図書館等において、参照し活用すること）。

宇賀＝交告＝山本『行政判例百選Ⅱ（第7版）』（有斐閣、2017）

塩野宏『行政法Ⅱ（第6版）』（有斐閣・2019）、

宇賀克也『行政法概説Ⅱ 行政救済法（第6版）』（有斐閣・2017）

芝池義一『行政法読本（第4版）』（有斐閣・2016）

【成績評価の方法と基準】

I 2回の中間試験（50%）、期末試験（50%）の合計100%とする。いずれも、文章題形式とする。

II 講義への出席が講義内容の理解度の向上に寄与するとの観点、及び、出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、Zoom 講義の出席（20分程度の退出時間は許容される。それを超える場合にはアンケートの回答への有無にかかわらずその回の出席点は付与しない）、投票機能を用いた正誤問題の回答を平常点として加点する（最大50点を加点）。

III 学生に対するフィードバックは、試験につき、必要と認めた場合に、採点方針と講評を事後に公表する形で実施する（第1回中間試験については必ず実施）。

【学生の意見等からの気づき】

① 学習に意欲的な受講者の反応からは、オンライン講義の形態であっても、対面講義に劣らない講義内容を提供できたものと考え

② 教員・学生相互にオンライン講義の習熟度が向上したと思われることから、平常点の確認の手法をより厳格なものに切り替えることとした。

③ Zoom についても学習支援システムについても、稀にはあるが通信障害が生ずることが確認された。この点を踏まえ、昨年度においても救済措置を実施したが、平常点の評価の厳格化に伴い、救済措置としてのレポートの評価も厳格化する。

【学生が準備すべき機器他】

P C（所有しない者には大学から貸与される）

無線ルーター（所有しない者には貸与または通信費が補助される）又はデータ回線

六法（WEB上に政府の法令データベースが公開されている）

【その他の重要事項】

行政法入門を受講していない者については、受講を推奨しない。判例の分析を重視し、かつ、様々な行政学説を見渡したバランスの良い解説を心がけることとする。

【Outline and objectives】

In the "Administrative Remedy Law I", we will deal with the field of the Administrative Remedy Law in conjunction with the "Administrative Remedy Law II".

The aim of this lecture is to acquire an understanding of administrative laws and regulations, including the methods of interpretation about articles of administrative statutes, the logical constructions and backgrounds of the administrative law theories, and an accurate understanding of the facts and judgment reasons of the Supreme Court's cases in the field of administrative law.

LAW300AB

行政救済法Ⅱ

高橋 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I 行政救済法Ⅰに続き、行政法入門で習得した知識・能力を基盤として、行政救済法に関して学部レベルで期待される知識・能力の修得を目指す。この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「文化・社会と法」の各コースに配置されている。

II 行政救済法Ⅰと併せて 4 単位の講義であることから、条文解釈を含めた行政法令の理解、学説の対立点と背景、最高裁判例についての事実関係と判旨の正確な理解を修得することを目指す。

III 具体的には、行政不服審査制度、苦情処理・オンブズマン

損失補償、国家賠償法、国家補償の谷間

を取り扱う。

【到達目標】

I 知識面

行政救済法のうち、行政不服審査制度等の狭義の行政争訟制度、国家補償制度について、関係法令、学説、判例に係る学部レベルでの知識の確実な修得を目指す。

II 能力面

① 行政救済法分野における学部生向けの解説書・解説文を自ら読解できる能力を養う。併せて、最高裁判所の判旨を正確に理解できる能力を養う。

② 解説文、最高裁判所の判決要旨等について、理解できない点、疑問点を発見し、これらについて自ら学術論文を調べ、あるいは、担当教員等に質問するなどして、受動的ではなく、積極的に講義に参加する学習態度を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

I 一般的な講義形式による。ただし、新型コロナウイルス感染症の蔓延が終息しない間においては、規模の大きい本講義は、当分の間、学習支援システムに、学習資料と動画の URL をアップすることを通じた動画の視聴と自習の形式、及び Zoom によるリアルタイム講義形式を併用する。併せて、Zoom の視聴時間把握機能とアンケート機能を用いて、講義参加実態とアンケートの回答状況を確認し、学習状況を把握する（状況により変動し得るため、毎週、学習支援システムを確認すること）。

II 受講者は教科書を購入し、学習支援システムからダウンロードした資料を利用し、動画を視聴して学習を進めること。

III 受講者は、併せて、Zoom を用いたリアルタイム講義に参加し、予習を踏まえて学習を深め、その後の復習を通じて理解を定着させること。

学生に対するフィードバックは、試験につき、必要と認めた場合に、採点方針と講評を事後に公表する形で実施する（第 1 回中間試験については必ず実施）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	行政不服審査等（1）	①行政不服審査制度の沿革、行政不服審査の種類、要件 ②行政不服審査の手続Ⅰ（審理員の手続）
第 2 回	行政不服審査等（2）	①行政不服審査の手続Ⅱ（行政不服審査会） ②行政審判・苦情処理・オンブズマン
第 3 回	国家補償法・概説、損失補償（1）	国家補償法の体系・利害調整の制度、損失補償の理念、憲法 29 条 3 項の法的効果
第 4 回	損失補償（2）	損失補償の要否・損失補償の方法、損失補償と訴訟
第 5 回	第 1 回中間試験	第 1 回中間試験（試験範囲は、第 1 回～第 4 回）
第 6 回	国家賠償（1）	国家賠償の沿革、国家賠償法の体系、国家賠償法 1 条の本質論
第 7 回	国家賠償（2）	国家賠償法 1 条の要件（1）- 公権力の行使と公務員、違法性と故意・過失（1）
第 8 回	国家賠償（3）	国家賠償法 1 条の要件（2）- 違法性と故意・過失（2）

第 9 回	国家賠償（4）	国家賠償法 1 条の要件（3）- 職務行為基準説とその評価、その他の要件
第 10 回	第 2 回中間試験	第 2 回中間試験（試験範囲は、第 6 回～第 9 回）
第 11 回	国家賠償（5）	国家賠償法 2 条（1）- 营造物の概念、設置・管理の瑕疵（道路）
第 12 回	国家賠償（6）	国家賠償法 2 条（2）- 設置管理の瑕疵（河川）、タイムラグ、1 条と 2 条の関係
第 13 回	国家賠償（7）	国家賠償法 3 条ないし 6 条
第 14 回	国家補償の谷間	国家補償の谷間

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政救済法Ⅰ・Ⅱを合計して学部 4 単位の講義科目であるので、指定教科書を熟読し、わからない用語等があれば、参考文献を調べる。興味が出た事項・判例については、参考文献・ウェブサイトの判例データベースを自ら調べ、それでも解決できない場合は、教員に質問できるよう準備をしておくこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋『行政法（第 2 版）』（弘文堂、2018 年）3,500 円

（最新の内容の理解が重要であり、理解度テストも最新の知見を重視するため、第 1 版の使用は推奨しない（第 1 版の記述に依拠して解答した場合は及第点が獲得できない可能性がある））

【参考書】

以下のものを推奨する（図書館等において、参照し活用すること）。

宇賀＝交告＝山本『行政判例百選Ⅱ（第 7 版）』（有斐閣、2017）

塩野宏『行政法Ⅱ（第 6 版）』（有斐閣・2019）、

宇賀克也『行政法概説Ⅱ 行政救済法（第 6 版）』（有斐閣・2017）

芝池義一『行政法読本（第 4 版）』（有斐閣・2016）

【成績評価の方法と基準】

I 2 回の中間試験（50%）、期末試験（50%）の合計 100% とする。いずれも、文章題形式とする。

II 講義への出席が講義内容の理解度の向上に寄与するとの観点、及び、出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、Zoom 講義の出席（20 分程度の退出時間は許容される。それを超える場合にはアンケートの回答への有無にかかわらずその回の出席点は付与しない）、投票機能を用いた正誤問題の回答を平常点として加点する（最大 50 点を加点）。

III 学生に対するフィードバックは、試験について、必要と認めた場合に、採点方針と講評を事後に公表する形で実施する（第 1 回中間試験については必ず実施）。

【学生の意見等からの気づき】

- ① 学習に意欲的な受講者の反応からは、オンライン講義の形態であっても、対面講義に劣らない講義内容を提供できたものと考え
- ② 教員・学生相互にオンライン講義の習熟度が向上したと思われることから、平常点の確認の手法をより厳格なものに切り替えることとした。
- ③ Zoom についても学習支援システムについても、稀にはあるが通信障害が生ずることが確認された。この点を踏まえ、昨年度においても救済措置を実施したが、平常点の評価の厳格化に伴い、救済措置としてのレポートの評価も厳格化する。

【学生が準備すべき機器他】

PC（所有しない者には大学から貸与される）

無線ルーター（所有しない者には貸与または通信費が補助される）又はデータ回線

六法（WEB 上に政府の法令データベースが公開されている）

【その他の重要事項】

行政救済法Ⅰを受講していない者については、受講を推奨しない。2 単位の独立した科目であるので、教科書は独自に指定する。その上で、判例の分析を重視し、かつ、様々な行政学説を見渡したバランスの良い解説を心がけて、行政救済法Ⅰとの整合性・連続性を確保する。

【Outline and objectives】

In the "Administrative Remedy Law II", we will deal with the field of the Administrative Remedy Law in conjunction with the "Administrative Remedy Law I".

The aim of this lecture is to acquire an understanding of administrative laws and regulations, including the methods of interpretation about articles of administrative statutes, the logical constructions and backgrounds of the administrative law theories, and an accurate understanding of the facts and judgment reasons of the Supreme Court's cases in the field of administrative law.

LAW300AB

租税手続法

阿部 雪子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、租税の確定（申告、更正・決定等）や租税の納付・還付などの租税の確定手続に関する必要な知識を身につけるとともに、納税の告知、滞納処分などの租税徴収手続に関する基本的事項を習得することを目的とする。租税の確定手続や徴収手続は、行政法や民法などの法領域と密接に関連することから、これらの法も参照しながら租税の手続的側面について学ぶ。租税手続法の重要論点は、裁判例を通じて知識を確実なものとする。なお、この科目は、「裁判と法コース」、「行政・公共政策と法コース」、「企業経営と法コース（商法中心）」、「国際社会と法コース」に配置されている。

【到達目標】

租税手続法は、租税の確定手続や徴収手続を対象とする法分野である。この講義では、租税の確定手続及び徴収手続に関する法律上の要件や効果について、基本的な知識を習得することを目標とする。この講義を通じて、租税手続法の解釈や適用問題について理解できる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業用教材は、随時、学習支援システムにアップロードするので、各自、印刷して使用してください。講義内容や課題等の質問事項に対するフィードバックの方法として、授業時間内に解説の時間を設けたり、授業時間に限らず、学習支援システムの掲示板で解説することにした。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のガイダンス	授業の進め方、租税手続法とは
第 2 回	租税法の基本原則 (1)	租税法律主義
第 3 回	租税法の基本原則 (2)	租税公平主義
第 4 回	租税法の解釈と適用	租税法と私法、租税回避、偽装行為
第 5 回	租税手続法、租税確定手続 (1)	租税確定手続と租税徴収手続との関係
第 6 回	租税手続法、租税確定手続 (2)	申告納税制度、賦課課税制度、納税環境の整備
第 7 回	租税手続法、租税確定手続 (3)	納税申告、青色申告制度
第 8 回	租税手続法、租税確定手続 (4)	更正の請求と修正申告、更正・決定等の期間制限
第 9 回	租税手続法、租税確定手続 (5)	推計課税の要件・方法、納税環境の整備
第 10 回	租税手続法、租税確定手続 (6)	質問検査権（税務調査）、質問検査の法的根拠、質問検査の要件
第 11 回	租税徴収手続、納付と徴収 (1)	租税の納付、徴収納付（源泉徴収等）、租税の徴収
第 12 回	租税徴収手続、納付と徴収 (2)	租税確定手続、納税義務の成立と確定
第 13 回	租税徴収手続 (3)	滞納処分、違法性の承継
第 14 回	租税徴収手続 (4)	租税債権の優先劣後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を重視してください。税制改正などの新聞記事や報道にも注目してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

金子 宏『租税法』（弘文堂、2018）
 水野忠恒『大系租税法第 2 版』（中央経済社、2018）
 増井良啓『租税法入門 2 版』（有斐閣、2018）
 水野忠恒編『テキストブック租税法第 2 版』（中央経済社、2018）
 中里実・佐藤英明・増井良啓・渋谷雅弘編『租税判例百選（第 6 版）』（有斐閣、2016）
 阿部雪子『資産の交換・買換えの課税理論』（中央経済社、2017）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 50 %、平常点 10%とする。

【学生の意見等からの気づき】

抽象的な説明にならないように、授業では裁判例を多く取り上げるなどの工夫をしている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

関連科目として行政法、憲法、民法、会社法等を履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

The student can learn the basic matter of collection procedure, such as tax procedures to fixes, such as decision(filing of return, correction, determination) of a tax, payment, return of a tax, and a notice of tax payment, a disposition for failure to pay, by this lecture. Since a tax procedures to fix and collection-of-taxes procedure are closely connected with law, such as Civil Code and the administrative law, the student can learn the fundamental knowledge of the procedural side of a tax, referring to these law. The student can learn exact knowledge by analysis of a judicial precedent about the important point of argument of tax adjective law.

LAW300AB

租税実体法

阿部 雪子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

租税実体法は、所得税法、法人税法、相続税法、消費税法、地方税法などを総称する法分野である。これらの税目のうち、所得課税の分野である所得税法、法人税法を中心に学習し、租税法の基礎理論を習得することを目的とする。各税法の解釈や適用の問題は、裁判例を通じて確実な知識を身につける。なお、この科目は、「裁判と法コース」、「行政・公共政策と法コース」、「企業経営と法コース（商法中心）」、「国際社会と法コース」に配置されている。

【到達目標】

所得税法及び法人税法を体系的に学習することを通じて、社会に必要な税法の知識を身につける。所得税法では、確定申告書が理解できるようになる。また、法人税法においては、法人所得の計算と企業会計の関係について必要な知識を習得する。税制改革の議論や税制に関わる記事にも関心をもち得るような能力を涵養する。司法試験、公務員採用試験などの各種資格試験の勉強にも資するものとする。なお、後期は、租税法分野のうち租税手続法を取扱い、租税の確定や徴収に関する手続的側面の理論、知識を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業用教材は、随時、学習支援システムにアップロードするので、各自、印刷して使用してください。講義内容や課題等の質問事項に対するフィードバックの方法として、授業時間内に解説の時間を設けたり、授業時間に限らず、学習支援システムの掲示板で解説することにしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、租税法とは、租税の現状、租税の必要性	授業の進め方、租税体系
第 2 回	租税法の基本原則、申告納税制度	租税法律主義、租税公平主義、シャウプ税制の成立
第 3 回	所得税法、所得の定義、非課税所得	消費型・支出型所得概念、発生型・取得型所得概念、法令外非課税所得、法令による非課税所得
第 4 回	所得の分類と所得税の基本的仕組み、各種の所得	利子所得、配当所得、不動産所得
第 5 回	所得の分類と所得税の基本的仕組み、各種の所得	事業所得、給与所得、退職所得
第 6 回	所得の分類と所得税の基本的仕組み、各種の所得	譲渡所得、山林所得、一時所得、雑所得
第 7 回	所得の年度帰属、必要経費	年度帰属の原則、権利確定主義、必要経費の意義、家族的企業と必要経費
第 8 回	損益通算、所得控除と税額控除、確定申告	損益通算制度の仕組み、所得控除と税額控除の意義、確定申告書、課税標準と税額
第 9 回	法人税法と法人税の納税義務者	法人の形態と納税義務者
第 10 回	法人所得・法人税額の計算	法人所得の計算と企業会計の関係
第 11 回	法人所得・法人税額の計算	益金、益金の別段の定め
第 12 回	法人所得・法人税額の計算	損金、損金の別段の定め①
第 13 回	法人所得・法人税額の計算	損金、損金の別段の定め②
第 14 回	特殊関係法人の課税問題・総括	同族会社の課税・同族会社の行為・計算の否認規定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を重視してください。税制改正などの新聞記事や報道にも注目してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

増井良啓『入門租税法 2 版』有斐閣

【参考書】

金子 宏『租税法』（弘文堂、2018）
水野忠恒『大系租税法第 2 版』（中央経済社、2018）
中里実・佐藤英明・増井良啓・渋谷雅弘編『租税判例百選（第 6 版）』（有斐閣、2016）
阿部雪子『資産の交換・買換えの課税理論』（中央経済社、2017）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 50 %、平常点 10%とする。

【学生の意見等からの気づき】

抽象的な説明にならないように裁判例を多く取り上げるなどの工夫をしている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

関連科目として、行政法、憲法、民法、会社法等を履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

A Tax substantive law is a law field that collectively refers to the Income Tax Law, Corporate Tax Law, Inheritance Tax Law, Consumption Tax Law, and Local Tax Law. The students can learn the basic theory of tax law, focusing on the fields of income taxation and corporate income taxation. The problem of the interpretation and application of each tax law will be acquired through court cases. The student can learn exact knowledge according to a judicial precedent about application of Income Tax Law, Corporate Tax Law, or an interpretative important point of argument.

LAW300AB

地方自治法

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市町村、都道府県などの地方公共団体は、国とはほぼ同じ分野において行政活動を行っており、住民の活動を規制し住民に対して給付するほか、租税の賦課徴収もしている。立法活動については、条例などを制定して、住民の権利義務を抽象的に規律する場合がある。地方公共団体の活動は住民の生活に深く関わるものである。その活動に関して住民は、直接請求権を行使し、また、住民訴訟を提起するなど、権利主体として法的な主張をすることができる。住民の権利のありようなどの、地方公共団体と住民に関わりのある法的問題は重要なものである。

憲法が規定している地方自治を詳細化する、各種の法令・地方自治法（＝地方自治法）が存在するが、授業では、地方自治の一般的・基本的枠組みを定めている地方自治法を主に参照しながら、地方公共団体と住民をめぐる主要な法的問題について学ぶ。その目的は、行政・公共政策と法コースにあげられているような、法的問題を理解し、その問題の解決に向けて積極的に取り組むことができる能力を身につけることにある。

【到達目標】

①住民自治・団体自治、②地方自治の担当団体、③住民の権利、④議会と長の関係、⑤条例制定権の限界・地方自治法相互の関係、⑥国と普通地方公共団体及び普通地方公共団体相互間の行政事務配分、⑦国の行政的関与について、それぞれ説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式による。受講者から寄せられた意見・感想等にフィードバックするために授業冒頭で、受講者から提出された意見・感想等を紹介しコメントする。ただし、通学できない場合には、以下の形式による。

レジュメと資料のほか、実際の対面式授業において解説すべき事項を記載した講義ノート（いずれも PDF 形式のもの）を、学習支援システムを用いて配布する。受講者にはレジュメの内容を理解しながら到達目標に達するために、必要に応じて講義ノートを併読し、あるいは、後掲の参考書を精読することが期待される。また、各回、コメント等を学習支援システムを通じて提出することも求められる。質問には授業掲示板で回答する。このようなレジュメ・資料等を用いた学習に並行して、月 1 回程度、復習の機会を設ける予定である。復習は、正規の授業時間中に、Webex を用いることにより、行う（実施日・参加のための URL 等、詳細は各受講者に対して学習支援システムを通じて連絡する。復習は、学習の便宜を図るためのものであって、これに参加できない場合であっても不利益は生じない）。

授業方法など、受講者に対する連絡は、学習支援システムによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	主要な法的問題
第 2 回	地方自治の基礎	地方制度から地方自治の保障へ 住民自治と団体自治
第 3 回	地方自治の担当団体 (1)	普通地方公共団体の意義と組織・権能
第 4 回	地方自治の担当団体 (2)	大都市制度 普通地方公共団体の再編論
第 5 回	地方自治の担当団体 (3)	特別地方公共団体の意義と種類
第 6 回	住民の権利 (1)	住民の意義 参政権
第 7 回	住民の権利 (2)	直接請求権
第 8 回	住民の権利 (3)	公の施設の利用権
第 9 回	住民の権利 (4)	住民監査請求 住民訴訟
第 10 回	住民の権利 (5)	住民投票
第 11 回	普通地方公共団体の組織	議会と長の関係
第 12 回	普通地方公共団体の自治立法権	条例制定権の限界・地方自治法相互の関係
第 13 回	普通地方公共団体の自治行政権	国と普通地方公共団体及び普通地方公共団体相互間の行政事務配分
第 14 回	国と地方公共団体の関係	国の行政的関与の概要

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書のいずれかを参照しながら、予習・復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布レジュメ

【参考書】

塩野宏『行政法 III 〔第 4 版〕』（有斐閣、2012 年）
人見剛・須藤陽子編著『ホーンブック地方自治法〔第 3 版〕』（北樹出版、2015 年）
白藤博行ほか著『アクチュアル地方自治法』（法律文化社、2010 年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100 %）が、通学できない場合にはレポートによる（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いる。ただし、通学できない場合にはさらに、(1) Webex が利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するための PDF 閲覧ソフトウェア（Adobe Acrobat Reader〔無料〕など）、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc, .docx. の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）、(4) 上記 (1) から (3) までのものを利用するために必要となる PC、あるいは、スマートフォン等が必要である。

【その他の重要事項】

この科目は行政法科目に該当する。あらかじめ行政法入門を履修したか、現に履修中であることが、科目での学びが効果的なものとなるため、望ましい。

【Outline and objectives】

This course is designed to lean major problems concerning local authorities and the public, while consulting Local Autonomy Act 1947 (c.67) which lays down fundamental and general framework of local autonomy system.

After completing this course, you should be able to:

- Explain a principle of local autonomy;
- Explain a definition, sorts, and organisation of local authorities;
- Explain individual's rights which the Act 1947 provides;
- Explain relationship between council (which is comparable though not identical idea of county council, district council, parish council, and so on) and head of a local authority;
- Explain limits on legislative powers of local authorities;
- Explain differences between public services necessarily delivered by the state and local authorities; and
- Explain manner of state intervention in (local authorities' carrying out) the executive functions.

LAW300AB

環境法

高橋 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境法に関する 2 単位の科目として、環境法の全体像の紹介を試みる。環境保全の制度の進展は目覚ましく、環境法令についても頻繁に制定・改廃が行われているが、最新の法令の状況、学説の議論を踏まえつつも、環境法の基本的な考え方の修得に講義の重点を置くことにしたい。

本科目は「行政・公共政策と法コース」、「国際社会と法コース」に属する。民法・憲法等の基本関連科目のほか、「行政法入門Ⅰ・Ⅱ」、「行政法作用法Ⅰ・Ⅱ」、「行政救済法Ⅰ・Ⅱ」の知識・理解をもつ受講者には、より精確な講義の理解が可能となる。

【到達目標】

Ⅰ 知識面

①受講者が、環境法分野における法令、理論、判例を学ぶことを通じ、憲法、民法、行政法等の関連知識を確実なものとするができる、あるいは、これらの分野を本格的に学習する足がかりとすることができる講義を目指す。

②さらに進んで、受講者が、地球温暖化問題、東アジアの環境汚染、環境問題への参加、司法アクセスの改善等、法政策的な課題についても、最新の知識が取得できる講義を目指す。

Ⅱ 能力面

①受講者が、法律文献を正確に読解できる力を身に付けることを目指す。併せて、受講者が、最高裁判所をはじめとする裁判例の論理を正確に把握できる能力を身に付けることを目指す。

②受講者が、関連する自然科学上の知識について高校レベルの正確な知識を踏まえ、環境問題の正しい把握の上に法的な分析を行うことできる能力を身に付けることを目指す。

③受講者が、興味・関心に応じ、自然科学の基礎的な文献にも取り組む積極的な姿勢を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則、対面での講義を行い、同時に、Zoom を用いてリアルタイムで配信する。ただし、教室の規模に比して受講者が過多となった場合、新型コロナウイルスの蔓延が深刻になった場合には、全面的にリアルタイム配信に切り替える。レポートあるいは試験について、提出物又は解答のレベルに照らして必要と認めた場合には、出題意図、採点方針及び所感を公表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要 成績評価の方法
第 2 回	環境法の生成（1）	公害法の生成、公害対策基本法、公害・環境訴訟の展開
第 3 回	環境法の生成（2）	地球環境問題の発生、環境基本法、福島原発事故・環境法への組込み
第 4 回	環境法の基礎（1）	環境法の理念、環境法における主体、環境保全の手法①（規制的手法、土地利用規制手法、事業手法、買上げ・管理契約手法、計画的な管理手法）
第 5 回	環境法の基礎（2）	環境保全の手法②（非権力的手法）・③（経済的インセンティブ・ディスインセンティブ）・④（情報を媒介としたインセンティブ・ディスインセンティブ）
第 6 回	環境法の基礎（3）	環境保全の費用負担
第 7 回	環境法の基礎（4）	国際的な環境保全、東アジアの環境問題
第 8 回	環境汚染の規制・環境保全（1）	環境の保全と計画的な手法
第 9 回	環境汚染の規制・環境保全（2）	公害規制（大気汚染・土壌汚染を例として）
第 10 回	環境汚染の規制・環境保全（3）	原子力安全規制（1）- 歴史・概要
第 11 回	環境汚染の規制・環境保全（4）	原子力安全規制（2）- 福島原発事故以降の改革、化学物質規制
第 12 回	環境汚染の規制・環境保全（5）	廃棄物処理・循環型社会形成

第 13 回	地球環境問題とその対策	地球環境問題とその対策
第 14 回	公害・環境紛争と司法・行政上の解決（概論）	共同不法行為・環境行政訴訟（公権力の行使、処分性、原告適格、仮の救済、住民訴訟）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○学際的な科目であり、応用科目であるので、授業中でわからない用語等が出てきた場合には、自主的に環境省ホームページ等を検索して調べることが望ましい。

○また、環境問題の実態は科学技術上の基礎知識がないと理解できないことも多いので、興味関心のあるテーマについては環境省のホームページ等の解説を調べることが望まれる。

○本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない。講義の際に、レジュメ、参考資料を配布する。なお、本講義の体系は、参考書のうち、阿部泰隆・淡路剛久編『環境法（第 4 版）』（有斐閣、2011 年）に準拠している。

【参考書】

（図書館等において、参照し活用すること）

阿部泰隆・淡路剛久編『環境法（第 4 版）』（有斐閣、2011 年） 3,456 円

大塚直『環境法（第 4 版）』（有斐閣、2020 年） 5,280 円

北村喜宣『環境法（第 5 版）』（弘文堂、2020 年） 3,630 円

【成績評価の方法と基準】

Ⅰレポート（100 パーセント）。ただし、レポートの提出は 10 回以上出席（10 分以上の遅刻・早退は欠席とみなす）し、かつ、出席回についてリアクションペーパーを提出した者にもみ認める。リアルタイム配信を視聴する者については、Zoom の視聴時間確認機能を用いて遅刻・早退を測定する（通信障害については、障害の状況を示す PC 画面のなかに発生時刻と終了時刻を証する PC の時刻表示を映し込む形で提出し、かつ、代替レポートを提出した場合について、出席扱いとする）。

Ⅱレポートの提出を認められなかった者については、期末試験（予告した 14 問のうちから 2 題を出題する）の受験を認める（100 パーセント）。

PC（所有しない者には大学から貸与される）

無線ルーター（所有しない者には貸与または通信費が補助される）又はデータ回線

六法（WEB 上に政府の法令データベースが公開されている）

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム等を使用する。参照すべき行政法規がミニ六法には掲載されていないこともあるので、対面での参加の場合には、法令データベースを参照できる情報機器（無線 LAN の接続が可能な PC、スマートフォン等）を持参することが望ましい。オンラインリアルタイム配信を利用する場合には、① PC（所有しない者には大学から貸与される）、②無線ルーター（所有しない者には貸与または通信費が補助される）又はデータ回線

、③六法（WEB 上に政府の法令データベースが公開されている）

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to learn the basics of environmental law while focusing on domestic environmental law.

LAW100AB

民事法総論

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として民法総則を中心に扱い、民法の基本制度、基本原則、さらには消費者問題、高齢者問題といった現代社会特有の問題に対処する上で民法が果たす役割について学ぶ。「裁判と法コース」など全コースに属している。

【到達目標】

民法総則のうち、特に信義則・権利濫用、権利外観法理、法人、時効の基本的知識・考え方を判例や学説をもとに理解することができる。
また、消費者問題、高齢者問題など現代社会特有の問題に民法が果たす役割について、民法総則の知識を生かして幅広い視点から考える力を身につけることができる。
以上の学習にあたり、実際の紛争の内容およびその解決の在り方（条文の解釈・適用の仕方）について、判例をもとに理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

民事法総論では、主として民法総則を講義の対象とし、民法の定める基本原則の意味のほか、物の概念、無効と取消し、時効といった民法の基本知識に加え、権利外観法理や法人制度など、これまでの民法の講義で学んだ分野の発展的問題をとりあげる。毎回の講義において、これらの分野の基本知識・考え方を説明するとともに、関連する判例を読んで民法の規定が具体的にどのように解釈・適用されるかを理解する。
また、民法は私たちの生活にとって身近でかつ重要な法律であることを踏まえ、現代社会における民法の役割、重要性についても発展的な講義を行う。これらについても、関連する判例をもとに説明する。
具体的には、①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、音声による補足解説ファイルや事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること。②授業日は 50 分～60 分ほど ZOOM で解説（レジュメのうち、特に重要な点の補足や判例解説）を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。ZOOM での解説は同時録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、オンラインでの集合オフィスアワーを行うことがあるので進路相談や学習相談に活用して欲しい。事前課題や小テストの解説は学習支援システムや授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	民法とは何か・民法上の基本概念（物とは何か）	民法とは何か、民法の「物」概念および関連規定についての講義
第 2 回	民法の基本原則①	民法の信義則概念についての講義・判例分析
第 3 回	民法の基本原則②	民法の権利濫用法理についての講義・判例分析
第 4 回	権利の主体・発展問題① 民法における外観法理	民法 94 条 2 項と 110 条をめぐる判例の解説
第 5 回	権利の主体・発展問題② 法人	法人とは何か、法人の設立についての講義
第 6 回	権利の主体・発展問題③ 法人	法人の対外関係についての講義
第 7 回	無効と取消しについて	無効・取消しの意義、両者の違いをめぐる講義
第 8 回	時効①	時効とは何か、時効の援用についての講義
第 9 回	時効②	時効の完成猶予、更新についての講義
第 10 回	時効③	消滅時効についての講義
第 11 回	時効④	時効の起算点をめぐる判例の分析
第 12 回	民法と特別法の関係－消費者契約法	消費者契約法についての解説・民法との関係についての説明
第 13 回	現代における民法の役割 ①消費者問題と民法	消費者契約法が適用された裁判例の分析
第 14 回	現代における民法の役割 ②高齢者問題と民法	高齢者問題をめぐる裁判例の分析・成年後見制度についての講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメや音声ファイルを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所（毎回の講義の最後に次の該当箇所を指定する）を読むとともに理解が深まる。また、民法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に ZOOM での解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や民法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。

特に判例集に掲載された判例については、紛争の内容および争点を図を書くなどして具体的に把握する。

本授業の予習・復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐久間毅『民法の基礎 1 総則（第 5 版）』（有斐閣、2018 年）（講義の予習・復習用として必ず購入すること）。なお、開講時に第 5 版が発売されている可能性もある。開講時点での最新版を教科書として用いるため、開講直前に購入すること。

内田貴＝山田誠一＝大村敦志＝森田宏樹『民法判例集 総則・物権（第 2 版）』（有斐閣、2014 年）

六法（出版社は問わない）

【参考書】

判例の解説として、潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選 I 総則・物権（第 8 版）』（有斐閣、2018 年）

学習の理解を助けるものとして、大村敦志『新基本民法 1 総則（第 2 版）』（有斐閣、2019 年）。

その他の参考書は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」の「テスト」機能を使った小テストを学期中に複数回行う（行う場合には、事前に学習支援システムで告知するので、学習支援システムはこまめにチェックすること）。この小テストによる評価を 50 % とする。また、学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはレポート試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 50 % とする。つまり、小テスト 50 % + 学期末試験またはレポート 50 % = 100 % で評価する。
以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメ、板書に頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。自分で教員の話聞き取った上で要点をまとめてノートに書くという作業を行うことで、さらに授業の理解が深まり、また、記述式試験の対策にもなる。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで教材（資料、音声ファイルなど）を配布したり、小テストを行う。また、講義や質疑応答は ZOOM で行う。そのことから、パソコンかタブレットを準備することを勧める。

【その他の重要事項】

少なくとも「契約法 I」を受講した上でこの科目を受講すること。
学習支援システムで随時お知らせを配信するため、こまめにチェックすること。

【Outline and objectives】

We learn the general provisions of Civil Code, especially, the juridical person and the prescription.

LAW100AB

契約法Ⅰ

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法のうち、契約の成立、有効要件、および、契約の主体に関する法的問題を扱う。「裁判と法コース」など全コースに属している。民法には家族、契約、物の所有といった、私達にとって身近な事柄に関する規定が設けられているが、このうち、この授業では私達が日々行っている契約に関する基本ルールを学ぶ。

大学に入学して初めて民法を学ぶ機会でもあることから、民法とは何か、契約とは何かといった民法の基本的な考え方はもちろん、判例の調べ方、文献の調べ方といった民法の学習方法も身につける。

【到達目標】

契約の成立、有効要件、および契約の主体にかかわる民法総則、契約総論部分の知識・考え方を判例や学説をもとに理解することができる。また、実際の紛争の内容およびその解決の在り方（条文の解釈・適用の仕方）について、判例をもとに理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

民法総則は、民法全体にわたる規定であり、しかも、抽象的な規定が多いことから、必ずしも理解が容易な分野ではない。講義では契約における法的問題を中心に学説・判例の考え方を示すとともに、判例を実際に読むことで紛争を解決するための法的思考方法や民法の規定が具体的にどのように解釈・適用されるかについても説明する。

具体的には、①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、音声による補足解説ファイルや事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること、②授業日は 50 分～60 分ほど ZOOM で解説（レジュメのうち、特に重要な点の補足や判例解説）を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。ZOOM での解説は同時録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、オンラインでの集合オフィスアワーを行うことがあるので進路相談や学習相談に活用して欲しい。事前課題や小テストの解説は学習支援システムや授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	契約とは何か（ガイダンスも兼ねて）	民法とは何か、契約法とは何か
第 2 回	契約の成立	民法における契約の成立に関する規定
第 3 回	契約の解釈・契約の内容	契約の解釈、公序良俗規定
第 4 回	契約の有効要件①意思表示総論、意思の不存在	意思表示総論、心裡留保、虚偽表示①
第 5 回	契約の有効要件②意思の不存在	虚偽表示②、錯誤
第 6 回	契約の有効要件③意思表示の瑕疵	詐欺、強迫
第 7 回	契約の主体①自然人	権利能力、失踪宣告
第 8 回	契約の主体②自然人	意思能力、行為能力①行為能力とは何か、未成年者
第 9 回	契約の主体③自然人	行為能力②成年被後見人、被保佐人、被補助人、取引の相手方の保護
第 10 回	代理①	代理とは何か、代理の種類、代理人の義務
第 11 回	代理②	代理権の濫用、代理行為、無権代理①
第 12 回	代理③	無権代理②、無権代理と相続
第 13 回	代理④	表見代理①民法 109 条、110 条
第 14 回	代理⑤	表見代理②民法 112 条、109 条と 110 条の重畳適用、110 条と 112 条の重畳適用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメや音声ファイルを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所（毎回の講義の最後に次回の該当箇所を指定する）を読むとともに理解が深まる。また、民法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に ZOOM での解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や民法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。特に判例集に掲載された判例については、紛争の内容および争点を図を書くなどして把握するよう努めること。本授業の予習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐久間毅『民法の基礎 1 総則（第 5 版）』（有斐閣、2020 年）（講義の予習・復習用として必ず購入すること）。

内田貴＝山田誠一＝大村敦志＝森田宏樹『民法判例集 総則・物権（第 2 版）』（有斐閣、2014 年）

以上 2 点ともに、開講時の最新版を購入すること。

六法（出版社は問わないが、『ポケット六法』や『デイリー六法』といったコンパクトなもので十分である）

【参考書】

判例の解説として、潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ 総則・物権（第 8 版）』（有斐閣、2018 年）

学習の理解を助けるものとして、大村敦志『新基本民法 1 総則（第 2 版）』（有斐閣、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」の「テスト」機能を使った小テストを学期中に複数回行う（行う場合には、事前に学習支援システムで告知するので、学習支援システムはこまめにチェックすること）。この小テストによる評価を 50 % とする。また、学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはレポート試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 50 % とする。つまり、小テスト 50 % + 学期末試験またはレポート 50 % = 100 % で評価する。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。自分で教員の話聞き取った上で要点をまとめてノートに書くという作業を行うことで、さらに授業の理解が深まり、また、記述式試験の対策にもなる。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで教材（資料、音声ファイルなど）を配布したり、小テストを行う。また、講義や質疑応答は ZOOM で行う。そのことから、パソコンかタブレットを準備することを勧める。

【その他の重要事項】

学習支援システムで随時お知らせを配信するため、こまめにチェックすること。

【Outline and objectives】

We learn the juristic acts, the agency, and the formation of contracts of Civil Code.

LAW100AB

民事法総論

新堂 明子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法総則のうち、無効、取消し、代理、法人、消滅時効を扱う。これに関する法律（民法等）、判例を学び、適宜、学説について検討する。

民法総則はすべてのコースの基本となる。とくに、裁判と法コースを選択する場合、履修を強くすすめる。

【到達目標】

民法総則のうち、無効、取消し、代理、法人、消滅時効を説明することができる。これに関する法律（民法等）、判例を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。

対面授業、リアルタイムオンライン授業、または両者併用のどの実施形態になるかは未定です。学習支援システムの「お知らせ」に注意してください。教材中の設例に対し、授業中に適宜解説および解答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	法学入門	法学入門
第 2 回	民法入門	民法入門
第 3 回	無効と取消し（1）	無効と取消し（1）
第 4 回	無効と取消し（2）	無効と取消し（2）
第 5 回	代理（1）	有権代理の要件と効果（1）
第 6 回	代理（2）	有権代理の要件と効果（2）
第 7 回	代理（3）	無権代理（1）
第 8 回	代理（4）	無権代理（2）
第 9 回	代理（5）	表見代理（1）
第 10 回	代理（6）	表見代理（2）
第 11 回	法人（1）	法人（1）
第 12 回	法人（2）	法人（2）
第 13 回	消滅時効（1）	消滅時効（1）
第 14 回	消滅時効（2）	消滅時効（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は軽く、復習は重く。

民法の条文を声に出して読み上げる。授業でよく分からなかった箇所を教科書で確認する。学期中、試験前に教科書の該当箇所を初めから終わりまで通読する。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

自分に合った（自分で選んだ）教科書（参考書の中から選んでください。）『民法判例百選 I 総則・物権〔第 8 版〕』六法（必ず最新版をそろえましょう。）

【参考書】

佐久間毅『民法の基礎 1 総則〔第 5 版〕』（2020 年）
四宮和夫＝能見善久『民法総則〔第 9 版〕』（2018 年）
山野目章夫『民法概論 1 民法総則』（2017 年）
（必ず最新版をそろえましょう。）

【成績評価の方法と基準】

定期試験。（100%）

法学部の方針により、対面（教室）で定期試験を実施することができない場合には、学習支援システムにおいて、定期試験代替措置を講じます。学習支援システムの「お知らせ」に注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

私語厳禁です。周囲の学生に迷惑をかけないよう気をつけましょう。注意しても止まない場合、退出をお願いすることがあります。

録音、録画厳禁です。録音、録画が必要な学生は別途相談を受け付けます。もちろん、板書の写メも厳禁です。

【Outline and objectives】

studying voidance, agency, corporation and the statute of limitations in the Japanese Civil Code

LAW100AB

契約法 I

新堂 明子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法総則のうち、契約の成立要件、有効要件、効果を扱う。これに関する法律（民法）、判例を学び、適宜、学説について検討する。

民法総則はすべてのコースの基本となる。とくに、裁判と法コースを選択する場合、履修を強くすすめる。

【到達目標】

民法総則のうち、契約の成立要件、有効要件、効果を説明することができる。これに関する法律（民法）、判例を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。

対面授業、リアルタイムオンライン授業、または両者併用のどの実施形態になるかは未定です。学習支援システムの「お知らせ」に注意してください。教材中の設例に対し、授業中に適宜解説および解答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	法学入門	法律要件、法律効果、法的三段論法
第 2 回	民法入門（1）	所有 → 物権、契約 → 債権の抽象化。法律行為、意思表示の意味。「総則」の意味
第 3 回	民法入門（2）	契約の成立
第 4 回	民法入門（3）	契約の終了
第 5 回	権利能力、意思能力、行為能力（1）	権利能力、意思能力、未成年者
第 6 回	行為能力（2）	成年被後見人と成年後見人
第 7 回	行為能力（3）	被保佐人と保佐人、被補助人と補助人
第 8 回	意思表示（1）	心裡留保、虚偽表示（1）
第 9 回	意思表示（2）	虚偽表示（2）
第 10 回	意思表示（3）	錯誤（1）
第 11 回	意思表示（4）	錯誤（2）
第 12 回	意思表示（5）	詐欺・強迫（1）
第 13 回	意思表示（6）	詐欺・強迫（2）
第 14 回	強行規定違反、公序良俗違反	強行規定違反、公序良俗違反

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は軽く、復習は重く。

民法の条文を声に出して読み上げる。授業でよく分からなかった箇所を教科書で確認する。学期中、試験前に教科書の該当箇所を初めから終わりまで通読する。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

自分に合った（自分で選んだ）教科書（参考書の中から選んでください。）『民法判例百選 I 総則・物権〔第 8 版〕』六法（必ず最新版をそろえましょう。）

【参考書】

佐久間毅『民法の基礎 1 総則〔第 5 版〕』
四宮和夫＝能見善久『民法総則〔第九版〕』
山野目章夫『民法概論 1 民法総則』
（必ず最新版をそろえましょう。）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100 %）。

法学部の方針により、対面（教室）で定期試験を実施することができない場合には、学習支援システムにおいて、定期試験代替措置を講じます。学習支援システムの「お知らせ」に注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

私語厳禁です。周囲の学生に迷惑をかけないよう気をつけましょう。注意しても止まない場合、退出をお願いすることがあります。

録音、録画厳禁です。録音、録画が必要な学生は別途相談を受け付けます。
もちろん、板書の写メも厳禁です。

【Outline and objectives】
studying formation of contracts in the Japanese Civil Code

LAW200AB

契約法Ⅱ

宮本 健蔵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する
学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権は契約または不法行為などの法律の規定に基づいて発生する。このように発生原因は異なるが、しかし、いずれも債権としての共通性を有する。本講義ではこの債権に共通する事柄を取り扱う。具体的には、①債権の目的に応じた具体的な債務内容、②債務の正常な消滅、③債務が正常に履行されないという病理的な場合において、債権者の取りうる法的手段とその問題点をその対象とする。

なお、「裁判と法コース」など全てのコースに属する。

【到達目標】

本講義の目標は授業のテーマに掲げた事柄に関する十分な法的知識の修得と法的思考力を涵養することである。また、現実の取引関係から生ずる具体的な法律問題について法的な視点から自分で分析し検討しうる能力を養うことを目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

債権法は、物権法と並んで現代自由主義経済社会を法的側面から支える基礎法である。民法典は第三編で債権について規定するが、これは第一章総則、第二章契約、第三章事務管理、第四章不当利得、第五章不法行為の5つの章で構成される。

第二章以下は債権の発生原因ごとに規定したものであるが、第一章はこのような債権の発生原因とは無関係に、すべての債権に共通する事柄を定める。この中で、債権の目的、債権の効力、および債権の消滅を対象とするのが契約法Ⅱ（正確には「債権法」）である。

講義では、初学者に十分理解できるように平易に解説することを主眼とするが、その対象は初歩的事柄から判例・学説が対立する困難な解釈上の問題点にまで及ぶ。

なお、講義はパワーポイントを使って行う。また、六法は必ず持参して下さい。授業内で課題等を出題した場合は、そのフィードバックは、授業において、適宜、行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義に際しての諸注意
第2回	財産法の体系 (1)	物権と債権
第2回	財産法の体系 (2)	債権の発生原因 債権の目的
第3回	特定物債権 (1)	保管義務 現状引渡義務
第4回	特定物債権 (2)	契約不適合物の引渡しに関する責任 危険負担
第5回	種類債権	種類債権の特定 危険の移転
第6回	金銭債権	金額債権
第7回	利息債権	利息債権の法的性質
第7回	利息の制限	利息制限法・貸金業等規制法
第7回	選択債権	選択権をめぐる諸問題
第8回	履行請求権	履行請求権の限界 追完請求権 履行の強制（直接強制・間接強制・代替執行）
第9回	債務不履行による損害賠償 (1)	本旨不履行 債務者の帰責事由 履行補助者
第10回	債務不履行による損害賠償 (2)	損害の種類 損害賠償の範囲 履行遅滞と遅延賠償
第11回	債務不履行による損害賠償 (3)	履行不能と填補賠償 騰貴価格による損害賠償 賠償額の減額事由
第12回	債務不履行による損害賠償 (4)	特殊な損害賠償の事例
	受領遅滞	受領遅滞の効果と弁済提供の効果

発行日：2021/5/1

第 13 回	債権の消滅原因 (1)	債権の消滅原因の概観 相殺の要件
第 14 回	債権の消滅原因 (2)	相殺と差押え 弁済・代物弁済・供託

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各回の講義資料は予め授業支援システムにアップする。各自ダウンロードした上で、次回の講義部分につき、配付資料を参考にしながら、テキストの該当部分を良く読んで十分に予習をすること。また、知識をより確実なものとするために、講義終了後速やかに復習することが肝要である。

なお、重要な判例については、原典などにあたって、十分に事実関係と判旨を理解することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『債権総論』（新・マルシェ民法シリーズ）2019 年 12 月 嵯峨野書院。

【参考書】

- ①『民法判例百選Ⅱ－債権』（第 8 版） 有斐閣
- ②松岡久和など編『改正債権法コメンタール』（2020 年）法律文化社
なお、改正法に関する文献としては、とりあえず、下記の文献を参照。
- ①平野裕之『債権総論』2017 年 日本評論社
- ②潮見佳男『新債権総論Ⅰ』『新債権総論Ⅱ』2017 年 信山社

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績による（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自習時間が極端に少ないように思われる。定期試験の直前の「一夜漬け」では知識は身につかない。毎週コンスタントに勉強することが何よりも重要である。

【Outline and objectives】

Claims arise based on contracts or the provisions of laws such as torts. In this lecture, we deal with matters common to these claims.

LAW200AB

債権回収法 I

宮本 健蔵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、債権回収のための法制度を扱う。具体的には、①債権回収の基本的な仕組み、②責任財産保全の必要性とその手段、③債権回収をより確実にするための法的手段（人的担保）、④債権譲渡・債務引受の機能とその要件などがその主たる対象である。

なお、この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

本講義の目標は、授業のテーマに掲げた事柄に関する法的な専門知識を修得し現実的な取引との係わりを理解することにある。実際の取引関係において債権を確実に回収するための事前の措置と危機的状況において事後的に取り得る手段を用いることによって、債権の焦げ付きを防ぐための実務的能力を養うことを目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

債権法は、物権法と並んで現代自由主義経済社会を法的側面から支える基礎法である。民法典は第三編で債権について規定するが、これは第一章総則、第二章契約、第三章事務管理、第四章不当利得、第五章不法行為の 5 つの章で構成される。

第二章以下は債権の発生原因ごとに規定したものであるが、第一章はこのような債権の発生原因とは無関係に、すべての債権に共通する事柄を定める。この中で、債権回収法 I は、責任財産の保全（債権者代位権・債権者取消権）、多数当事者の債権関係、債権譲渡・債務引受を対象とするものである。

講義では、初学者に十分理解できるように平易に解説することを主眼とするが、その対象は初歩的事柄から判例・学説が対立する困難な解釈上の問題点にまで及ぶ。

なお、六法は必ず持参すること。授業内で課題等を出題した場合は、そのフィードバックは、授業において、適宜、行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	債権回収の基本原則 債権者代位権 (1)	債権回収の基本原則と民法上の制度 債権者代位権の要件
第 2 回	債権者代位権 (2)	債権者代位権の効果 債権者代位権の転用現象
第 3 回	債権者取消権 (1)	要件論
第 4 回	債権者取消権 (2)	行使の方法
第 5 回	債権者取消権 (3)	取消しの範囲
第 6 回	多数当事者の債権関係 (1)	多数当事者の債権関係の概要 分割債権関係 不可分債権関係
第 7 回	多数当事者の債権関係 (2)	連帯債権
第 8 回	多数当事者の債権関係 (3)	連帯債務
第 9 回	多数当事者の債権関係 (4)	求償権の制限と拡張
第 10 回	多数当事者の債権関係 (5)	保証債務の法的性質
第 11 回	多数当事者の債権関係 (6)	保証人の抗弁権 保証人の求償権 特殊の保証（連帯保証）
第 12 回	多数当事者の債権関係 (7)	特殊の保証（共同保証、根保証）
第 13 回	債権譲渡 (1)	債権の自由譲渡性 債権譲渡の対抗要件
第 14 回	債権譲渡 (2)	証券的債権の譲渡
	債務引受	債務引受
	契約上の地位の移転	契約上の地位の移転

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各回の講義資料は予め授業支援システムにアップする。各自ダウンロードした上で、次回の講義部分につき、配付資料を参考しながら、参考文献の該当部分を良く読んで十分に予習をすること。また、知識をより確実なものとするために、講義終了後速やかに復習することが肝要である。

なお、重要な判例については、原典などにあたって、十分に事実関係と判旨を理解することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『債権総論』（新マルシェ民法シリーズ）2019 年 12 月 嵯峨野書院

【参考書】

- ①『民法判例百選Ⅱ－債権』（第 8 版） 有斐閣
 ③松岡久和など編『改正債権法コメンタール』（2020 年）法律文化社
 なお、改正法に関する文献としては、とりあえず、下記の文献を参照。
 ①平野裕之『債権総論』2017 年 日本評論社
 ②潮見佳男『新債権総論Ⅰ』『新債権総論Ⅱ』2017 年 信山社

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績による（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

宝石も磨かざればただの石。
 持てる能力を最大限に伸ばしましょう。

【Outline and objectives】

In this lecture, we deal with the legal system for collecting debts. In particular, keeping of responsible property is important .

LAW200AB

契約法Ⅱ

宮本 健蔵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権は契約または不法行為などの法律の規定に基づいて発生する。このように発生原因は異なるが、しかし、いずれも債権としての共通性を有する。本講義ではこの債権に共通する事柄を取り扱う。具体的には、①債権の目的に応じた具体的な債務内容、②債務の正常な消滅、③債務が正常に履行されないという病理的な場合において、債権者の取りうる法的手段とその問題点をその対象とする。

なお、「裁判と法コース」など全てのコースに属する。

【到達目標】

本講義の目標は授業のテーマに掲げた事柄に関する十分な法的知識の修得と法的思考力を涵養することである。また、現実の取引関係から生ずる具体的な法律問題について法的な視点から自分で分析し検討しうる能力を養うことを目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

債権法は、物権法と並んで現代自由主義経済社会を法的側面から支える基礎法である。民法典は第三編で債権について規定するが、これは第一章総則、第二章契約、第三章事務管理、第四章不当利得、第五章不法行為の 5 つの章で構成される。

第二章以下は債権の発生原因ごとに規定したものであるが、第一章はこのような債権の発生原因とは無関係に、すべての債権に共通する事柄を定める。この中で、債権の目的、債権の効力、および債権の消滅を対象とするのが契約法Ⅱ（正確には「債権法」）である。

講義では、初学者に十分理解できるように平易に解説することを主眼とするが、その対象は初歩的事柄から判例・学説が対立する困難な解釈上の問題点にまで及ぶ。

なお、講義はパワーポイントを使って行う。また、六法は必ず持参して下さい。授業内で課題等を出題した場合は、そのフィードバックは、授業において、適宜、行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義に際しての諸注意
第 2 回	財産法の体系 (1)	物権と債権
第 2 回	財産法の体系 (2)	債権の発生原因 債権の目的
第 3 回	特定物債権 (1)	保管義務 現状引渡義務
第 4 回	特定物債権 (2)	契約不適合物の引渡しに関する責任 危険負担
第 5 回	種類債権	種類債権の特定 危険の移転
第 6 回	金銭債権	金額債権
第 7 回	利息債権	利息債権の法的性質
第 7 回	利息の制限	利息制限法・貸金業等規制法
第 7 回	選択債権	選択権をめぐる諸問題
第 8 回	履行請求権	履行請求権の限界 追完請求権 履行の強制（直接強制・間接強制・代替執行）
第 9 回	債務不履行による損害賠償 (1)	本旨不履行 債務者の帰責事由 履行補助者
第 10 回	債務不履行による損害賠償 (2)	損害の種類 損害賠償の範囲 履行遅滞と遅延賠償
第 11 回	債務不履行による損害賠償 (3)	履行不能と填補賠償 騰貴価格による損害賠償 賠償額の減額事由
第 12 回	債務不履行による損害賠償 (4)	特殊な損害賠償の事例 受領遅滞の効果と弁済提供の効果
	受領遅滞	

発行日：2021/5/1

第 13 回	債権の消滅原因 (1)	債権の消滅原因の概観 相殺の要件
第 14 回	債権の消滅原因 (2)	相殺と差押え 弁済・代物弁済・供託

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各回の講義資料は予め授業支援システムにアップする。各自ダウンロードした上で、次回の講義部分につき、配付資料を参考にしながら、テキストの該当部分を良く読んで十分に予習をすること。また、知識をより確実なものとするために、講義終了後速やかに復習することが肝要である。

なお、重要な判例については、原典などにあたって、十分に事実関係と判旨を理解することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『債権総論』（新・マルシェ民法シリーズ）2019 年 12 月 嵯峨野書院。

【参考書】

- ①『民法判例百選Ⅱ－債権』（第 8 版） 有斐閣
- ②松岡久和など編『改正債権法コメンタール』（2020 年）法律文化社
なお、改正法に関する文献としては、とりあえず、下記の文献を参照。
- ①平野裕之『債権総論』2017 年 日本評論社
- ②潮見佳男『新債権総論Ⅰ』『新債権総論Ⅱ』2017 年 信山社

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績による (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自習時間が極端に少ないように思われる。定期試験の直前の「一夜漬け」では知識は身につかない。毎週コンスタントに勉強することが何よりも重要である。

【Outline and objectives】

Claims arise based on contracts or the provisions of laws such as torts. In this lecture, we deal with matters common to these claims.

LAW200AB

債権回収法 I

宮本 健蔵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、債権回収のための法制度を扱う。具体的には、①債権回収の基本的な仕組み、②責任財産保全の必要性とその手段、③債権回収をより確実にするための法的手段（人的担保）、④債権譲渡・債務引受の機能とその要件などがその主たる対象である。

なお、この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

本講義の目標は、授業のテーマに掲げた事柄に関する法的な専門知識を修得し現実的な取引との係わりを理解することにある。実際の取引関係において債権を確実に回収するための事前の措置と危機的状況において事後的に取り得る手段を用いることによって、債権の焦げ付きを防ぐための実務的能力を養うことを目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

債権法は、物権法と並んで現代自由主義経済社会を法的側面から支える基礎法である。民法典は第三編で債権について規定するが、これは第一章総則、第二章契約、第三章事務管理、第四章不当利得、第五章不法行為の 5 つの章で構成される。

第二章以下は債権の発生原因ごとに規定したものであるが、第一章はこのような債権の発生原因とは無関係に、すべての債権に共通する事柄を定める。この中で、債権回収法 I は、責任財産の保全（債権者代位権・債権者取消権）、多数当事者の債権関係、債権譲渡・債務引受を対象とするものである。

講義では、初学者に十分理解できるように平易に解説することを主眼とするが、その対象は初歩的事柄から判例・学説が対立する困難な解釈上の問題点にまで及ぶ。

なお、六法は必ず持参すること。授業内で課題等を提出した場合は、そのフィードバックは、授業において、適宜、行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	債権回収の基本原則 債権者代位権 (1)	債権回収の基本原則と民法上の制度 債権者代位権の要件
第 2 回	債権者代位権 (2)	債権者代位権の効果 債権者代位権の転用現象
第 3 回	債権者取消権 (1)	要件論
第 4 回	債権者取消権 (2)	行使の方法
第 5 回	債権者取消権 (3)	取消しの範囲
第 6 回	多数当事者の債権関係 (1)	多数当事者の債権関係の概要 分割債権関係 不可分債権関係
第 7 回	多数当事者の債権関係 (2)	連帯債権
第 8 回	多数当事者の債権関係 (3)	連帯債務
第 9 回	多数当事者の債権関係 (4)	求償権の制限と拡張
第 10 回	多数当事者の債権関係 (5)	保証債務の法的性質
第 11 回	多数当事者の債権関係 (6)	保証人の抗弁権 保証人の求償権 特殊の保証（連帯保証）
第 12 回	多数当事者の債権関係 (7)	特殊の保証（共同保証、根保証）
第 13 回	債権譲渡 (1)	債権の自由譲渡性 債権譲渡の対抗要件
第 14 回	債権譲渡 (2)	証券的債権の譲渡
	債務引受	債務引受
	契約上の地位の移転	契約上の地位の移転

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各回の講義資料は予め授業支援システムにアップする。各自ダウンロードした上で、次回の講義部分につき、配付資料を参考しながら、参考文献の該当部分を良く読んで十分に予習をすること。また、知識をより確実なものとするために、講義終了後速やかに復習することが肝要である。

なお、重要な判例については、原典などにあたって、十分に事実関係と判旨を理解することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『債権総論』（新マルシェ民法シリーズ）2019 年 12 月 嵯峨野書院

【参考書】

- ①『民法判例百選Ⅱ－債権』（第 8 版） 有斐閣
 ③松岡久和など編『改正債権法コンメンタール』（2020 年）法律文化社
 なお、改正法に関する文献としては、とりあえず、下記の文献を参照。
 ①平野裕之『債権総論』2017 年 日本評論社
 ②潮見佳男『新債権総論Ⅰ』『新債権総論Ⅱ』2017 年 信山社

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績による（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

宝石も磨かざればただの石。
 持てる能力を最大限に伸ばしましょう。

【Outline and objectives】

In this lecture, we deal with the legal system for collecting debts. In particular, keeping of responsible property is important .

LAW100AB

不法行為法

川村 洋子

授業形式：講義 ｜ 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権は、その発生原因を基準にすると、契約的債権と、不法行為に代表される法定債権（事務管理、不当利得を含む）の二つに大別されるが、本授業では、後者の法定債権を扱う。交通事故や医療過誤など私人間の多様な加害事例における被害者救済制度として機能する不法行為法を、その現代的役割に照らして、学習する。私人間の財産関係を規律する財産法分野における重要領域であり、法学の基本科目の一つとして、民法による問題解決の仕方の基礎を固める意義をもつ。この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

基本型不法行為の類型並びに要件・効果、及び、複合型不法行為の種類・適用領域並びに要件・効果を述べることができる。

その他の法定債権（不当利得・事務管理）の基本的内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

新型コロナ・ウイルス感染拡大予防に配慮する大学の方針により、リアルタイムオンライン授業を原則とする（状況により、オンデマンド方式を利用する場合もあり得る）。事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

学習支援システムの掲示板で質問も受けつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第 2 回	基本型不法行為の要件論①	直接加害型不法行為の不法性——主観的要件と権利侵害
第 3 回	基本型不法行為の要件論②	間接加害型不法行為の不法性——客観的過失
第 4 回	基本型不法行為の要件論③	間接加害型不法行為における過失認定①——医療過誤
第 5 回	基本型不法行為の要件論④	間接加害型不法行為における過失認定②——交通事故と工作物責任
第 6 回	基本型不法行為の要件論⑤	間接加害型不法行為における過失認定③——名誉・プライバシー侵害等
第 7 回	基本型不法行為の要件論⑥	損害発生・因果関係
第 8 回	基本型不法行為の要件論⑦	責任能力 責任無能力者の監督義務者等の責任（714 条）
第 9 回	基本型不法行為の効果論①	賠償されるべき損害事実の範囲
第 10 回	基本型不法行為の効果論②	損害事実の金銭評価処理
第 11 回	基本型不法行為の効果論③	減額調整——過失相殺と損益相殺
第 12 回	基本型不法行為の効果論④	損害賠償請求権者の範囲・間接損害
第 13 回	複合型不法行為	使用者責任（715 条）と共同不法行為（719 条）
第 14 回	その他の法定債権	事務管理と不当利得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの指示による授業の予習と復習、小テスト。
 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅱ 不法行為法』（第 3 版、2017 年、新世社）。通常の書籍版があるほか、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡康宏他『民法Ⅳ－債権各論』（第4版）、潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ』（不当利得・事務管理の箇所）（第3版）、平野裕之『コア・テキスト民法Ⅵ』（第2版）、大村敦志『新基本民法6 不法行為編』、川井健『民法概論4』（補訂版）、平井宜雄『債権各論Ⅱ 不法行為』、『民法判例百選Ⅱ』（第8版）など。詳細は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限 50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のホワイトボードの利用を増やすなど、オンライン授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料等の配信、小テストの実施等について授業支援システムを利用するので、対応できるように準備しておいてください。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the organizing principles of tort law, such as civil liability, negligence, duty of care, causation, damages and vicarious liability. The general principles of tort law is provided in Chapter 5, Part.3 of the Japanese Civil Code, and tort law is a branch of law whose rules and methods are mainly developed through court decisions, thereby we will concentrate on case law analysis as well as legislative provisions. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapter 3 and 4 of the Civil Code.

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major tort issues which may arise in a particular factual situation.

This course falls under all Course Models.

LAW200AB

契約法Ⅲ

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有償契約の典型である売買契約を対象として、交換型契約の基礎理論を学習する。無償の財産の提供である贈与契約とも対比し、両者の特徴を正確に理解することを目的とする。

法律学の基本的科目である民法のうち、私人間の取引を規律する財産法分野の最重要領域である売買契約の学習を通じて、民法による問題解決の仕方を身につける意義をもつ。この科目は全てのコースに属する。

【到達目標】

契約の概念、双務契約上の権利義務の発生・関係・消滅、売買契約に関する基本的ルール、及び贈与契約の特殊効果等について、述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

新型コロナ・ウィルス感染拡大予防に配慮する大学の方針により、リアルタイムオンライン授業を原則とする（状況により、オンデマンド方式を利用する場合もあり得る）。事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

学習支援システムの掲示板で質問も受けつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第 2 回	有償諾成契約法総論①	物権と債権の概念 民法の体系における契約法の位置づけ
第 3 回	有償諾成契約法総論②	契約の成立——申込と承諾
第 4 回	有償諾成契約法総論③	契約の効力——同時履行の抗弁権・危険負担
第 5 回	有償諾成契約法総論④	契約の終了段階——解除と危険負担
第 6 回	売買の成立	売買契約の成立要件と契約の拘束力
第 7 回	売買の効力①	売買契約の当事者の義務——総説
第 8 回	売買の効力②	売主の責任①——権利の瑕疵（不適合）
第 9 回	売買の効力③	売主の責任②——物の瑕疵（不適合）
第 10 回	売買の効力④	契約上の危険の移転・期間制限等
第 11 回	売買の終了	売買契約の解除の効果
第 12 回	贈与	贈与契約の成立と効力
第 13 回	契約交渉	契約交渉段階の法律関係
第 14 回	契約関係の清算	不当利得（給付利得）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメで指示される予習と復習、小テスト。

契約法Ⅲが対象とする債権編については 2017 年に改正法が成立した。六法は改正法に対応したものを使用すること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ 契約法・事務管理・不当利得』（第3版、2017年、新世社）。通常の書籍版もあるが、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡・磯村他『民法Ⅳ 債権各論』、中田裕康『契約法』、大村敦志『基本民法5 契約編』、平井宜雄『債権各論Ⅰ上－契約総論』、その他債権法改正（2017年成立）に対応しているもの。開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限 50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のホワイトボードの利用を増やすなど、オンライン授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料の配布等に授業支援システムを利用するので、準備しておいてください。

【Outline and objectives】

Contract law is the study of legally enforceable promises between individuals and this course introduces students to the basic concepts of contract law so as to enable them to deal effectively with the disputes related to contracts. The principles of contract law are mostly provided in Chapter 2, Part.3 of the Japanese Civil Code, of which this course addresses Section 1 General Provisions, applicable to all types of contracts, Section 2 Gifts and Section 3 Sales, of specific contracts. Among the Topics covered are: formation (offer and acceptance), effect and termination of a contract, rights and obligations of the parties to a contract of sale, seller's warranty in particular and enforceability of gift promises.

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major contract issues which may arise in a particular factual situation.

This course falls under all Course Models.

LAW300AB

契約法Ⅳ

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

契約各則のうち、貸借型（消費貸借・質貸借・使用貸借）、役務提供型（請負・委任・雇用・寄託）、その他（組合など）について学習する。「裁判と法コース」など全てのコースに属する。

私達の日常生活においては売買以外の契約も多く見られる。例えば家を借り、お金を借りる、家を建ててもらい、医者診療を受ける、といった有償の取引はもちろん、友達に本を借りる、ホテルのフロントに荷物を預けるといった無償での約束も、実は民法の売買契約以外の契約類型に該当する。このような現代取引において重要な契約類型を学ぶことで、現代取引におけるルールのほか、現代取引のあり方について学ぶ。

【到達目標】

貸借、使用貸借、消費貸借、請負、委任、雇用、寄託、組合等についてその権利義務の発生・その内容・終了に関わるルールの意義と内容を理解することができる。

具体的には各契約における当事者間の権利義務の発生、権利義務の内容、契約の終了を中心に、規定の内容やそれに関する学説や判例を理解する。単に規定の内容を学ぶだけでなく、各契約類型の特徴およびその現代取引における役割を意識しながら、なぜそのような規定となっているのか、現行規定にはどのような問題があるのか、といった観点から学ぶ。

また、契約類型によっては民法以外の特別法において詳細なルールが設けられていることも多い。本講義ではこれらのうち、実際の取引において重要な役割を果たしているものについても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、音声による補足解説ファイルや事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること、②授業日は 50 分～60 分ほど ZOOM で解説（レジュメのうち、特に重要な点の補足や判例解説）を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。ZOOM での解説は同時録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、ZOOM での授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。

受講生数が多くない場合には、ZOOM での授業内でディスカッションを行うことや、質疑応答を行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	概要 参考文献の指示
第 2 回	貸借型①	消費貸借①民法の消費貸借
第 3 回	貸借型②	消費貸借②クレジット契約、消費者信用
第 4 回	貸借型③	使用貸借
第 5 回	貸借型④	質貸借①質貸借とは、質貸借契約の成立
第 6 回	貸借型⑤	質貸借②質貸借人・質借人の義務
第 7 回	貸借型⑥	質貸借③譲渡・転貸、第三者との関係
第 8 回	貸借型⑦	質貸借④質貸借の終了、定期借家権
第 9 回	役務型①	委任①
第 10 回	役務型②	委任②サービス契約の規定の在り方
第 11 回	役務型③	請負①請負とは、請負の成立
第 12 回	役務型④	請負②請負の効力、終了
第 13 回	役務型⑤	雇用、寄託
第 14 回	その他	組合契約について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメや音声ファイルを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所（毎回の講義の最後に次回の該当箇所を指定する）を読むとともに理解が深まる。また、民法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に ZOOM での解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や民法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。
本授業の予習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

山本豊＝笠井修＝北居功『民法 5 契約（有斐閣アルマ）』（有斐閣、2018 年）。開講時までに 2 版に改訂される場合には 2 版を教科書とする。
判例教材として、瀬川信久＝内田貴『民法判例集債権各論第 4 版』（有斐閣、2020 年）。

【参考書】

契約各論に関しては、以下の 2 つの書籍を特に薦める。経済的事情が許せば購入して学習して欲しい。
契約各論の全体像および現代における契約規定の在り方を考える上で有益な書籍として、大村敦志『新基本民法 5 契約編 各種契約の法（第 2 版）』（有斐閣、2020 年）
中田裕康『契約法』（有斐閣、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」の「テスト」機能を使った小テストを学期中に複数回行う（行う場合には、事前に学習支援システムで告知するので、学習支援システムはこまめにチェックすること）。この小テストによる評価を 40 % とする。また、学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはオンライン試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 50 % とする。その他、掲示板への書き込みを評価に入れることもある。つまり、小テスト 40 %＋学期末試験またはレポート 50 %＋その他 10 %＝100 % で評価する。
以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM での受講や学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

【Outline and objectives】

In this lesson, we learn the rule of each contract in a Civil Code, for example, the lease contract, the service contract.

LAW200AB

不法行為法

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権は、その発生原因を基準にすると、契約的債権と、不法行為に代表される法定債権（事務管理、不当利得を含む）の二つに大別されるが、本授業では、後者の法定債権を扱う。交通事故や医療過誤など私人間の多様な加害事例における被害者救済制度として機能する不法行為法を、その現代的役割に照らして、学習する。私人間の財産関係を規律する財産法分野における重要領域であり、法学の基本科目の一つとして、民法による問題解決の仕方の基礎を固める意義をもつ。この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

基本型不法行為の類型並びに要件・効果、及び、複合型不法行為の種類・適用領域並びに要件・効果を述べることができる。

その他の法定債権（不当利得・事務管理）の基本的内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

新型コロナ・ウイルス感染拡大予防に配慮する大学の方針により、リアルタイムオンライン授業を原則とする（状況により、オンデマンド方式を利用する場合もあり得る）。事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。
学習支援システムの掲示板で質問も受けつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第 2 回	基本型不法行為の要件論①	直接加害型不法行為の不法性——主観的要件と権利侵害
第 3 回	基本型不法行為の要件論②	間接加害型不法行為の不法性——客観的過失
第 4 回	基本型不法行為の要件論③	間接加害型不法行為における過失認定①——医療過誤
第 5 回	基本型不法行為の要件論④	間接加害型不法行為における過失認定②——交通事故と工作物責任
第 6 回	基本型不法行為の要件論⑤	間接加害型不法行為における過失認定③——名誉・プライバシー侵害等
第 7 回	基本型不法行為の要件論⑥	損害発生・因果関係
第 8 回	基本型不法行為の要件論⑦	責任能力 責任無能力者の監督義務者等の責任（714 条）
第 9 回	基本型不法行為の効果論①	賠償されるべき損害事実の範囲
第 10 回	基本型不法行為の効果論②	損害事実の金銭評価処理
第 11 回	基本型不法行為の効果論③	減額調整——過失相殺と損益相殺
第 12 回	基本型不法行為の効果論④	損害賠償請求権者の範囲・間接損害
第 13 回	複合型不法行為	使用者責任（715 条）と共同不法行為（719 条）
第 14 回	その他の法定債権	事務管理と不当利得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの指示による授業の予習と復習、小テスト。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅱ 不法行為法』（第 3 版、2017 年、新世社）。通常の書籍版があるほか、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡康宏他『民法Ⅳ－債権各論』（第4版）、潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ』（不当利得・事務管理の箇所）（第3版）、平野裕之『コア・テキスト民法Ⅵ』（第2版）、大村敦志『新基本民法6 不法行為編』、川井健『民法概論4』（補訂版）、平井宜雄『債権各論Ⅱ 不法行為』、『民法判例百選Ⅱ』（第8版）など。詳細は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限 50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のホワイトボードの利用を増やすなど、オンライン授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料等の配信、小テストの実施等について授業支援システムを利用するので、対応できるように準備しておいてください。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the organizing principles of tort law, such as civil liability, negligence, duty of care, causation, damages and vicarious liability. The general principles of tort law is provided in Chapter 5, Part.3 of the Japanese Civil Code, and tort law is a branch of law whose rules and methods are mainly developed through court decisions, thereby we will concentrate on case law analysis as well as legislative provisions. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapter 3 and 4 of the Civil Code.

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major tort issues which may arise in a particular factual situation.

This course falls under all Course Models.

LAW200AB

契約法Ⅲ

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有償契約の典型である売買契約を対象として、交換型契約の基礎理論を学習する。無償の財産の提供である贈与契約とも対比し、両者の特徴を正確に理解することを目的とする。

法律学の基本的科目である民法のうち、私人間の取引を規律する財産法分野の最重要領域である売買契約の学習を通じて、民法による問題解決の仕方を身につける意義をもつ。この科目は全てのコースに属する。

【到達目標】

契約の概念、双務契約上の権利義務の発生・関係・消滅、売買契約に関する基本的ルール、及び贈与契約の特殊効果等について、述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

新型コロナ・ウィルス感染拡大予防に配慮する大学の方針により、リアルタイムオンライン授業を原則とする（状況により、オンデマンド方式を利用する場合もあり得る）。事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

学習支援システムの掲示板で質問も受けつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第 2 回	有償諾成契約法総論①	物権と債権の概念 民法の体系における契約法の位置づけ
第 3 回	有償諾成契約法総論②	契約の成立——申込と承諾
第 4 回	有償諾成契約法総論③	契約の効力——同時履行の抗弁権・危険負担
第 5 回	有償諾成契約法総論④	契約の終了段階——解除と危険負担
第 6 回	売買の成立	売買契約の成立要件と契約の拘束力
第 7 回	売買の効力①	売買契約の当事者の義務——総説
第 8 回	売買の効力②	売主の責任①——権利の瑕疵（不適合）
第 9 回	売買の効力③	売主の責任②——物の瑕疵（不適合）
第 10 回	売買の効力④	契約上の危険の移転・期間制限等
第 11 回	売買の終了	売買契約の解除の効果
第 12 回	贈与	贈与契約の成立と効力
第 13 回	契約交渉	契約交渉段階の法律関係
第 14 回	契約関係の清算	不当利得（給付利得）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメで指示される予習と復習、小テスト。

契約法Ⅲが対象とする債権編については 2017 年に改正法が成立した。六法は改正法に対応したものを使用すること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ 契約法・事務管理・不当利得』（第3版、2017年、新世社）。通常の書籍版もあるが、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡・磯村他『民法Ⅳ 債権各論』、中田裕康『契約法』、大村敦志『基本民法5 契約編』、平井宜雄『債権各論Ⅰ上－契約総論』、その他債権法改正（2017年成立）に対応しているもの。開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限 50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のホワイトボードの利用を増やすなど、オンライン授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料の配布等に授業支援システムを利用するので、準備しておいてください。

【Outline and objectives】

Contract law is the study of legally enforceable promises between individuals and this course introduces students to the basic concepts of contract law so as to enable them to deal effectively with the disputes related to contracts. The principles of contract law are mostly provided in Chapter 2, Part.3 of the Japanese Civil Code, of which this course addresses Section 1 General Provisions, applicable to all types of contracts, Section 2 Gifts and Section 3 Sales, of specific contracts. Among the Topics covered are: formation (offer and acceptance), effect and termination of a contract, rights and obligations of the parties to a contract of sale, seller's warranty in particular and enforceability of gift promises.

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major contract issues which may arise in a particular factual situation.

This course falls under all Course Models.

LAW300AB

親族法

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★この科目は「他学部公開科目」でもあります。

●この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（労働法中心）」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。

授業の概要と目的：

●民法典の「第4編 親族」の法解釈と、法改正論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正論を論じられる能力を身につけます。

●法学部生、他学部生とも、必ず人生で1度は深く考える「婚姻」や「夫婦別氏」、そして日本で比率がどんどん高まっている「離婚」を含む「民法・親族法」の諸問題などを、法学に縁のない他学部生にも解りやすく解説し、学生は教師と一緒に「対話」をしながら考えていきます。

●「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・対話・親族法と法改正、そして「自分の頭で考える。正答は一つではない。」

【到達目標】

●学生は、学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との前提の下に、「自分の頭で考え」、親族法の説得的な解釈論を展開できる実力を身につけます。

●また21世紀に入って、同じ民法の第3編「債権法」と第5編「相続法」の大改正が、まさに行われました。

それに伴い、第1編の「総則」も部分的に改正されています。

こうした「民法大改正」のうねりの中で、第4編「親族法」も民法改正と無縁ではありません。

●まずは現行民法の「親族編」つまり親族法の法的論点について、独自の解釈論を展開し、根拠を論述できる能力を身につけます。

●さらに、どのような親族法改正が必須か、例えば旧くて新しい問題としては「（選択的）夫婦別氏」、新しい課題では「同性婚の合法化」、そして憲法との関連では、「離婚後の未成年の子と、嫡出でない未成年の子の、片方の親のみによる『単独親権制度』は憲法違反で改正すべきか？」など、「民法、その中でも『親族編』の諸問題を、自分の頭で考え、法改正論を独自に論じ、根拠を論述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

●基本的に講義形式を取ります。しかし学生の自由な発言・質問を歓迎します。

●また、「質問用紙」を教室の前後に常備し、学生はいつでも質問を書いて教員に提出できます。

●学生は、学期中に数回、「質問用紙」に授業の質問、感想、批判、自分の説などを書き、提出します。（匿名可可能です。）次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。

●学生は、指定された教科書の箇所を、次回の授業までに必ず予習します。

●学生は、法の解釈を学ぶには、一に条文、二に判例、三に学説を参照し、教師との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、答は一つではありません。

●学生皆さんが生きていく21世紀の日本では、国内外、社会・家庭、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。

●学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「親族法」が、ただのテスト勉強に終わらず、卒業後の実務や家庭でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・民法立法過程（1）	現行民法改正過程の前半（主に1946年）に関する講義&質疑応答
第2回	民法立法過程（2）・家族法概論	現行民法改正過程の前半（主に1947年）に関する講義&質疑応答
第3回	婚姻法（1）	民法中の婚姻、特に婚姻の成立要件に関する講義&質疑応答
第4回	婚姻法（2）	民法中の婚姻、夫婦財産制度に関する講義&質疑応答
第5回	離婚法（1）	民法中の離婚、特に離婚の成立要件に関する講義&質疑応答
第6回	離婚法（2）	民法中の離婚、特に離婚の際の財産分与に関する講義&質疑応答

第 7 回	婚外関係の法的処理	旧くは判例で「内縁」、現在社会では「事実婚」と呼ばれる（法律婚では無い）関係の保護に関する講義&質疑応答
第 8 回	実親子関係の発生（1）：嫡出推定制度	法的夫婦間にできた子どもの法的地位の発生に関する講義&質疑応答
第 9 回	実親子関係の発生（2）：認知制度	法的婚姻関係に無い女性・男性の間の子どもの法的地位の発生に関する講義&質疑応答
第 10 回	実親子関係の発生（3）：人工生殖（その 1）	不妊治療中の人工生殖により出生した子の実親子関係の発生に関する講義&質疑応答
第 11 回	実親子関係の発生（3）：人工生殖（その 2）	不妊治療ではない人工生殖により出生した子の実親子関係の発生に関する講義&質疑応答
第 12 回	養親子関係	養親子関係、特に「特別養子縁組」に関する講義&質疑応答
第 13 回	子の保護：監護教育と財産管理	「法的弱者となりうる未成年子の守られるべき権利の保護」に関する講義&質疑応答
第 14 回	高齢者への援助：成年後見と扶養	「法的弱者ともなりうる高齢者の守られるべき権利の保護」に関する講義&質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
- 学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
- 準備（予習）・復習時間は、1 回の授業につき各々 2 時間（合計 4 時間）である。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用する【秋学期の「相続法」でも同一の教科書を使用する】。しかし、2021 年 3 月現在、民法改正と新たな判例が出されたことに伴い、使用するべき最新版の教科書の出版が想定されているため、4 月初旬以後、「学習支援システム」の「親族法」の「お知らせ」教材」と、初回授業（4 月 8 日）で、教科書を指定する。

【参考書】

水野 紀子(編集), 大村 敦志(編集)『民法判例百選 III 親族・相続 第 2 版 (別冊ジュリスト 239)』(2018 年)、2,420 円【秋学期の「相続法」と同じ。】

【成績評価の方法と基準】

- 期末試験 100 点。
- 期末試験では、到達目標である：
 - 1) 親族法の学説や判例を覚えるだけでなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、自分の頭で考え、独自に親族法の説得的な解釈論を展開できる能力
 - 2) 親族法の改正論の諸問題を、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、自分の頭で考え、独自に論じ、根拠を論述する能力
 以上 2 点を身につけたかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- 質問をしやすい環境を整備します。
- 授業のスピードを速くしすぎず、学生がフォローしやすいテンポにします。
- 「目からも学ぶ」ことを重視し、DVD、ブルーレイ教材を使います。
- 教科書や参考書にもないが、法解釈や、民法・法学・法そのものの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。

【その他の重要事項】

- 法学部以外の学生も、誰でも履修ができます。
- 「親族法」履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
- 法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」をなるべく履修していることが望まれます。義務ではありません。
- 法学部政治学科・国際政治学科の学生は、無理に他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「親族法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかりと持って下さい。
- 全学部生に、秋学期の「相続法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

【Outline and objectives】

To learn the Japanese Family Law, the fourth book of the Japanese Civil Code.

LAW300AB

相続法

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ★この科目は「他学部公開科目」でもあります。
 - この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（労働法中心）」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。
- 授業の概要と目的：
- 民法典の「第 5 編 相続」の法解釈と、法改正論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正論を論じられる能力を身につけます。
 - 法学部生、他学部生とも、必ず人生で 1 度は深く考える「相続」の諸問題などを、法学に縁のない他学部生にも解りやすく解説し、学生は教師と一緒に「対話」をしながら考えていきます。
 - 「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・対話・相続法と法改正、そして「自分の頭で考える。正答は一つではない。」

【到達目標】

- 学生は、学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「自分の頭で考え」、相続法の説得的な解釈論を展開できる実力を身につけます。
- また 21 世紀に入って、同じ民法の第 3 編「債権法」の大改正が、まに行われました。
- それに伴い、第 1 編の「総則」も 部分的に改正されています。
- こうした「民法大改正」の一環として、第 5 編「相続法」にも改正が行われたことを学びます。
- まずは現行民法の「相続編」つまり相続法の法的論点について、独自の解釈論を展開し、根拠を論述できる能力を身につけます。
- さらに、どのような相続法改正が必須としてすでに行われたか、さらに「民法、その中でも『相続編』の諸問題を、自分の頭で考え、今後必要となるであろう法改正論を独自に論じ、根拠を論述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 基本的に講義形式を取ります。しかし学生の自由な発言・質問を歓迎します。
- また、「質問用紙」を教室の前後に常備し、学生はいつでも質問を書いて教員に提出できます。
- 学生は、学期中に数回、「質問用紙」に授業の質問、感想、批判、自分の説などを書き、提出します。(匿名可能です。) 次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。
- 学生は、指定された教科書の箇所を、次回の授業までに必ず予習します。
- 学生は、法の解釈を学ぶには、一に条文、二に判例、三に学説を参照し、教師との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、答は一つではありません。
- 学生皆さんが生きていく 21 世紀の日本では、国内外、社会・家庭、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。
- 学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「相続法」が、ただのテスト勉強に終わらず、卒業後の実務や家庭でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	全体的な授業計画	開講にあたって、この授業で何を学ぶか シラバスの説明による、この授業で学ぶこと及び教科書や成績評価方法などの確認
第 2 回	相続法総論	相続法総則 相続の開始 法定相続と遺言相続 相続回復請求権。加えて相続法改正の要点と今後の改正の展望。
第 3 回	相続人（1）	1. 胎児と相続
第 4 回	相続人（2）	2. 相続人の範囲
第 5 回	相続の効力（1）	3. 相続権の喪失・相続欠格と廃除
第 6 回	相続の効力（2）	3. 同時死亡の推定
第 7 回	相続の効力（3）	1. 相続財産の範囲
		2. 法定相続分（1）
		2. 法定相続分（2）
		3. 指定相続分
		4. 具体的相続分・特別受益、寄与分

発行日：2021/5/1

第 8 回	遺産分割	1. 遺産の共有 2. 分割協議と利益相反 3. 分割の効力 4. 遺産分割の指定または禁止
第 9 回	相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在	1. 相続の承認と放棄 2. 相続財産の分離 3. 相続人の不存在
第 10 回	遺言 (1)	1. 遺言の要式性 2. 遺言能力 3. 共同遺言の禁止
第 11 回	遺言 (2)	3. 普通方式遺言と特別方式遺言
第 12 回	遺言の効力	1. 効力発生時期 2. 公序良俗違反の内容を含む遺言の効力 3. 遺贈 4. 遺言の執行 5. 遺言の撤回
第 13 回	遺留分 (1)	1. 遺留分制度の趣旨 2. 遺留分権利者の範囲と遺留分の分割
第 14 回	遺留分 (2)	3. 遺留分算定の基礎になる財産 4. 遺留分侵害額請求権 5. 遺留分の放棄

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
- 学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
- 準備（予習）・復習時間は、1 回の授業につき各々 2 時間（合計 4 時間）である。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用する【春学期の「親族法」でも同一の教科書を使用する】。しかし、2021 年 3 月現在、民法改正と新たな判例が出されたことに伴い、使用するべき最新版の教科書の出版が想定されているため、4 月初旬以後、「学習支援システム」の「親族法」「相続法」双方の「お知らせ」「教材」（および「親族法」の 4 月 8 日の初回授業）で、教科書を指定する。

【参考書】

水野 紀子(編集), 大村 敦志(編集)『民法判例百選 III 親族・相続 第 2 版 (別冊ジュリスト 239)』(2018 年)、2,420 円【春学期の「親族法」と同じ。】

【成績評価の方法と基準】

- 期末試験 100 点。
- 期末試験では、到達目標である：
1) 相続法の学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、自分の頭で考え、独自に相続法の説得的な解釈論を展開できる能力
2) 相続法の改正と今後の改正論の諸問題を、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、自分の頭で考え、独自に論じ、根拠を論述する能力
以上 2 点を身につけたかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- 質問をしやすい環境を整備します。
- 授業のスピードを速くしすぎず、学生がフォローしやすいテンポにします。
- 「目からも学ぶ」ことを重視し、DVD、ブルーレイ教材を使います。
- 教科書や参考書にもないが、法解釈や、民法・法学・法そのものの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。

【その他の重要事項】

- 法学部以外の学生も、誰でも履修ができます。
「相続法」履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
- 法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」「親族」をなるべく履修していることが望まれます。義務ではありません。
- 法学部政治学科・国際政治学科の学生は、無理に他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「相続法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかりと持って下さい。
- 全学部生に、春学期の「親族法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

【Outline and objectives】

To learn the Japanese Law of Inheritance, the fifth book of the Japanese Civil Code.

LAW300AB

消費者法 I

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの消費生活では、契約トラブル、悪徳商法、食の安全など、日々様々な法律問題が生じている。このような法律問題を考える上で必要となってくるのが、消費者法と呼ばれる領域の法知識・考え方である。本講義は消費者法についての考え方、知識を身につけ、日常生活における法律問題を考える際に必要なリーガルマインドを有した「消費者」になることを目的とする。学習にあたっては、民法はもちろん、消費者契約法・製造物責任法などの特別法、さらには消費者行政に重要な役割を果たしている行政機関や行政規制の役割、民事訴訟を中心とした紛争解決制度の現状など、様々な分野にわたる知識・理解・関心が求められる。消費者法 I では、主に契約をめぐる法的問題につき、民法のみならず消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の内容とともに学ぶ。それにより、消費者契約をめぐるトラブルに対処するための法解釈・適用の在り方を理解することができる。「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】

民法の契約総論、各論部分のみならず、消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の知識を身につける。契約トラブルなどの日常的な消費者問題に対して民法・各種特別法がいかなる役割を果たしているのかについて、法律の規定のみならず判例・学説をもとに理解する。これによって、民法の特に総則・債権法部分の発展的な学習を行うこともできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、音声による補足解説ファイルや事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること、②授業日は 50 分～60 分ほど ZOOM で解説（レジュメのうち、特に重要な点の補足や判例解説）を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。ZOOM での解説は同時録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、ZOOM での授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。受講生の数が多くない場合には、ZOOM での授業内でディスカッションを行うことや、質疑応答を行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	消費者法とは何か	消費者・事業者概念、消費者基本法
第 2 回	消費者契約の締結過程の適正化①契約の成立	消費者契約の成立、契約締結上の過失
第 3 回	消費者契約の締結過程の適正化②民法の役割	民法の錯誤、詐欺
第 4 回	消費者契約の締結過程の適正化③消費者契約法	消費者契約法 4 条など
第 5 回	消費者契約の締結過程の適正化④交渉力の不均衡	民法の強迫、消費者契約法 4 条など
第 6 回	消費者契約の内容の適正化①中心的債務：公序良俗	公序良俗規定と消費者取引
第 7 回	消費者契約の内容の適正化②不当条項規制その 1	民法による不当条項規制、約款論
第 8 回	消費者契約の内容の適正化③不当条項規制その 2	消費者契約法 8 条～10 条
第 9 回	消費者契約の内容の適正化④履行段階	信義則の役割、契約の解釈
第 10 回	消費者契約と特定商取引法①	特定商取引法の概要
第 11 回	消費者契約と特定商取引法②	クーリングオフ、過量販売規制など
第 12 回	消費者取引とシステム責任論①割賦販売法	割賦販売法の概要、抗弁の接続

- 第 13 回 消費者取引とシステム責任論②名義貸し、不正利用、預金トラブル 名義貸し、預金トラブル
- 第 14 回 消費者取引と不法行為法 消費者取引における不法行為法の役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメや音声ファイルを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所（毎回の講義の最後に次の該当箇所を指定する）を読むとともに理解が深まる。また、消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしていることを前提に授業日に ZOOM で解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。

また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞しておくことも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

オリジナル教材『消費者法裁判例集』を作成し、使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】

中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第 4 版）』（日本評論社、2020 年）
河上正二＝沖野真己編『消費者法判例百選（第 2 版）』（有斐閣、2020 年）
松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017 年）
大村敦志『消費者法（第 4 版）』（有斐閣、2011 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはオンライン試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 50 % とする。

また、「事前課題」に対する掲示板への書き込みを評価に入れる（50 %）つまり、学期末試験またはレポート 50 % + 掲示板への書き込み 50 % = 100 % で評価する。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM での受講や学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

【その他の重要事項】

契約法（Ⅰ～Ⅳ）・不法行為法の講義をすでに受講、ないしは同時に受講していることが望ましい。

消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。

秋学期に開講される「消費者法Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。

SDG s の観点からも受講することをお勧めする。

学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達は「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室 487 号（2021 年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline and objectives】

We learn the consumer law, especially, the consumer contract law.

LAW300AB

消費者法Ⅱ

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者法Ⅰの理解をもとに、消費者取引における物・サービスの品質・安全に関する法制度を学ぶ。また、消費者取引のうち、特殊な法的問題をほらむ数種の取引類型をとりあげ、民法、特別法が果たす役割を学ぶ。さらに、行政組織、訴訟手続など消費者法を形成している制度についても理解を深める。「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】

物・サービスの品質、安全についての民事ルール、業法ルールの知識を身につける。

消費者取引のうち、特に問題となることが多い取引類型につき、民法、特別法が果たしている役割を理解する。

消費者問題に関連する行政規制、訴訟法の知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、音声による補足解説ファイルや事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること、②授業日は 50 分～60 分ほど ZOOM で解説（レジュメのうち、特に重要な点の補足や判例解説）を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。ZOOM での解説は同時録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、ZOOM での授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。

受講生の数が多くない場合には、ZOOM での授業内でディスカッションを行うことや、質疑応答を行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	消費者取引の対象①物の品質	民法の規定との関係
第 2 回	消費者取引の対象②物の安全性（1）	製造物責任①
第 3 回	消費者取引の対象③物の安全性（2）	製造物責任
第 4 回	消費者取引の対象④品質・安全性に関する行政規制	食品衛生法など
第 5 回	消費者取引の対象⑤サービス契約論	民法の規定・特定商取引法
第 6 回	消費者取引・各論①悪徳商法	悪徳商法の各類型についての説明
第 7 回	消費者取引・各論②金融商品	金融商品トラブルをめぐる民事判例および特別法
第 8 回	消費者取引・各論③建築取引	建築トラブルをめぐる民事判例
第 9 回	消費者取引・各論④電子商取引	電子商取引をめぐる民事判例および特別法
第 10 回	消費者保護制度論①行政機関の役割	消費者庁、国民生活センターの役割
第 11 回	消費者保護制度論②消費者紛争解決制度その 1	ADR 制度、消費者団体訴訟
第 12 回	消費者保護制度論③消費者紛争解決制度その 2	集団的消費者被害救済について
第 13 回	消費者取引と市場の公正	独禁法と消費者法の関係
第 14 回	消費者・事業者の活動	消費者団体の役割、公益通報者保護法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメや音声ファイルを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所（毎回の講義の最後に次の該当箇所を指定する）を読むとともに理解が深まる。また、消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしていることを前提に授業日に ZOOM で解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。

また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

オリジナル教材『消費者法裁判例集』を作成し、使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】

中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第 4 版）』（日本評論社、2020 年）
河上正二＝沖野真巳編『消費者法判例百選（第 2 版）』（有斐閣、2020 年）
松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017 年）
大村敦志『消費者法（第 4 版）』（有斐閣、2011 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはオンライン試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 50 % とする。

また、「事前課題」に対する掲示板への書き込みを評価に入れる（50 %）つまり、学期末試験またはレポート 50 % + 掲示板への書き込み 50 % = 100 % で評価する。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM での受講や学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

【その他の重要事項】

消費者法 I を受講済みであるのが望ましい。

消費者問題に直接取り組み弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。

SDG s の観点からも受講することをお勧めする。

学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達は「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室 487 号（2021 年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline and objectives】

We learn consumer law, especially, the safety and the the quality of the goods and the service.

LAW200AB

商法総則・商行為法 I

榎川 泰史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

えー、2 年生の方ははじめまして。担当のトチカワです。よろしく。商法と会社法によって規整されているものは、私法上の権利義務関係、すなわち本来は民法によって規整されるはずの生活関係です。そこで疑問となるのは「なぜ民法の他にわざわざ商法や会社法といった法律が制定されたのか？」ということですね。この疑問に対して、商法や会社法がその適用対象としている人（法人も含む）や組織のもつ特徴に視点をあてて疑問への答を探ろう、ということがこの講義のテーマとなります。

(1) まず、民法と比較しながら、商法という法分野（注：法分野としての商法は、「商法」という名称の法律も含まれますが、それよりもっと広い概念で、例えば「会社法」も法分野としての商法に含まれます）にはどのような特色があるのかについて学びます。その際に重要になる法概念が「商人」及び「商行為」です。この 2 つの概念については、法律上の厳密な定義がありますから、この定義をしっかり覚え身に付けることが、この講義の第 1 関門になります。

(2) 次に、「企業」という概念について学びます。これは「商人」とは異なり、厳密な法的定義のない言葉ですが、商法を学ぶ際に鍵となる概念です。やや抽象的な議論になりがちなのですが、現実にある様々な形態・業態の企業をイメージしながら考えていきましょう。

(3) 次に企業の営みであり、また企業の組織そのものを指す言葉でもある「営業」「事業」についての商法・会社法上の規定と、その意義について学びます。ここら辺から本格的に判例についても言及していきます。予め読んでおいて欲しい判例は事前に示しますので、講義当日には指定された判例の全文を手元に置いて講義を聞くようにして下さい。

(4) 次に、「営業」「事業」と不可分の関係にある「商号」について学びます。併せて「営業所」「支店」「商業帳簿」など、企業の物的設備に関する規整も学びましょう。

(5) 企業の人的設備と言われる「使用人」についての規定も学びます。民法の「代理」についての定めの特則になる部分ですので、民法における代理に関する諸規定も併せて復習しながら考えていきます。

(6) 商業登記に関する規整を検討します。同じ登記でも不動産登記とは大きく異なる制度ですので、混乱しないようについてきて下さい。

(7) 最後に商取引の分野における民法とは異なる商法の規律について検討します。

なお、本講義は『裁判と法コース』および『企業・経営と法コース（商法中心）（労働法中心）』に属します。

【到達目標】

商法及び会社法の「総則」部分および商法の「商行為」に置かれている条文が、実際にどのような場面で、どのような規範として適用されることになるのかを理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形態で行います。2 年次生が主な対象であるということと秋学期の授業であることを考慮して、希望的観測を込めて対面授業を基本としつつ、動画配信（オンデマンド）を交えて行う形式といたします。（対面授業も録画して配信いたしますので、対面の出席を必須とするものではありません。）本シラバスだけではなく、各回の授業用のレジュメや参考資料を配付して理解の助けとなるようにします。資料等はできるだけ事前配付をしたいと思います。授業支援システムの資料配付機能を積極的に使用しますので、皆さんもどんどん活用してください。授業外や課題に関連する質問については、授業（配信動画を含む）の中でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	開講にあたって・商法とは何か	講義の進め方と全体像／民法と規 整範囲が重なる商法・会社法が制 定されなければならないのは何故 なのかを考える。
第 2 回	商人と商行為	「商人」及び「商行為」の法律上 の定義について学ぶ。
第 3 回	商法の意義	商法 1 条の「商事」とは何を指す かについて、商的色彩説と企業法 説とを紹介しながら、民法と商法 の異同とその関係を考える。〔テ キスト第 1 章〕
第 4 回	客観的意義における営 業・事業	譲渡の対象となる営業・事業とは 何か。営業譲渡・事業譲渡の要件 及び効果はどのようなになっている かを検討する。〔テキスト pp.33-38〕
第 5 回	営業譲渡・事業譲渡の 法的効果	代表的な判例をいくつか取り上げ て、営業譲渡・事業譲渡に関する 現行法の規範を検討する。〔テキ スト pp.38-49〕
第 6 回	濫用的（許害的）な営 業・事業の譲渡	営業譲渡・事業譲渡が債権者を害 する目的でなされた濫用的なもの である場合の規律を検討する。
第 7 回	商号の保護と名板貸責 任	商号の意義、商号権の侵害と商号 権侵害に関する救済方法、他人に 商号使用を許諾した場合（名板 貸）に生じ得る責任について学 ぶ。〔テキスト第 3 章・第 7 章〕
第 8 回	支配人と表見支配人	支配人など商業使用人の資格と権 限及び義務、表見支配人の行為に 関する営業主の責任について学 ぶ。〔テキスト pp.75-88、第 8 章〕
第 9 回	支配人以外の商業使用 人	無権限で商人や会社を代理する権 限があるかのように振る舞った者 がいる場合について、いくつか判 例を取り上げて、現行法における 規範を検討する。〔テキスト pp.88-90〕
第 10 回	商業登記	商業登記の効力と不実の登記がな された場合の関係者の責任につい て学ぶ。〔テキスト第 5 章・第 9 章〕
第 11 回	商行為の代理と委任	商行為の代理と委任についての商 法上の特則を、民法上の規律と比 較しながら概観する。〔テキスト pp.191-197〕
第 12 回	商事売買	売買契約に関して商法が定める特 則を学ぶ。〔テキスト第 12 章〕
第 13 回	補助商	他の企業の活動を補助することを 役割とする企業（代理商・仲立 人・問屋）に関する商法上の規整 を概観する。〔テキスト第 15 章〕
第 14 回	補助商事例研究	判例の検討を通じて、代理商・仲 立人・問屋に関する規範の現状を 検討する。〔テキスト第 15 章〕

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・民法のなかでも、法律行為（特に代理）、債権譲渡、債務不履行責任については、ひととおりは学修してあることが望ましい。
・受講者はテキストの該当部分を事前に一読しているということを前提として講義を進めます。

・予め指定された判例については、最低でも下記【参考書】欄に掲げた判例百選の該当判例の部分を読んでおいて下さい。できれば解説部分にも目を通していただければ更に講義内容についての理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大塚英明ほか『商法総則・商行為法〔第 3 版〕』（有斐閣アルマ・2019 年）

【参考書】

神作裕之ほか『商法判例百選』別冊ジュリスト 243 号（有斐閣・2019 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

・法律学科の専門科目ですから言うまでもないことですが、商法・会社法だけでなく他の法令も登載されている六法を常に参照可能な状態で用意しておいて下さい。
・六法は (a) 最新の条文が反映され、(b) 講義中に口頭で指示される指定条文を素早く一覧できるものを使用して下さい。(a・b の 2 条件を満たしていれば紙に印刷されたものである必要はありませんが、教壇から見ていると、スマホで条文を引いている方の中には、指定の条文に辿り着くのにかなり時間がかかっている方が多いようです。課金を厭わず学修するために最適な六法を利用して下さい。
・なお、定期試験では印刷された六法以外の参照は禁止されます。

【Outline and objectives】

This course provides students with an introduction to commercial law.

This class provides a survey of legal issues related to the definition of merchant, business transfers, commercial agency, commercial registration, and commercial sale and purchase.

LAW200AB

会社法

荒谷 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

単位数：4 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、実務的な法学教育を意識して、企業、特に株式会社が法律上どのように規整されているのか概観するとともに、実務では実際に企業はどのように運営されているのかということについて考察する。

卒業後にすぐ役立つ会社実務の基礎的知識の習得、金融商品取引法と並んで企業を取り巻く法環境について多角的な考察力を身につけることを目標とする。

この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

- ① 株式会社は一体どのように設立され、どのように運営されているのか、また出資者である株主や会社債権者を保護するために法はどのような規制を設けているのか、その概要を理解する。
- ② ビジネスに必要な様々な用語やスキームを理解し、新聞の経済面を楽しく読み解くことができるようにする。
- ③ 就職活動に役立つ専門知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

会社、特に株式会社は、現代の日本経済になくなくてはならない存在であり、ほとんどの学生が、現在その組織の中に組み込まれている、あるいは卒業後組み込まれていくにもかかわらず、これを規律する法律である会社法は、刑法や民法などに比べてとっつきにくいという印象が強く、どうしても敬遠されがちである。そこで、本講義では、会社とはどういうものなのか、そして現代社会において如何なる機能を果たしているのかといった会社全般に関する総論的なことを説明した後、会社の中でも最もよく利用され、最も重要な機能を果たしている株式会社に焦点を絞って、株式会社は一体どのように設立され、どのように運営されているのか、また出資者である株主や会社債権者を保護するために法はどのような規制を設けているのかといった株式会社組織全般の法規制の内容を分かりやすく説明する。会社法は学生には馴染みがないので、実際に話題となっている企業買収事例や企業不祥事などの時事問題や判例を紹介しながら具体的に会社法が果たす役割や問題についてわかりやすく説明する予定である。

なお、大講義では、とすれば教える側の一方通行になりがちであるが、本講義では、ただ単に法律上の手続きや規制の内容を覚えるだけでなく、学生が自分の頭で考えながら理解することを目指し、「何故そうした法規制が必要なのか」、「どうしてそういうことが問題となるのか」といった問題意識を絶えず念頭におき、学生との質疑応答を交えながら進めて行くつもりである。

授業外の質問に対しては、授業支援システムの掲示板もしくは次の回の授業で回答する形でフィードバックする。

【重要】 新型コロナウイルス感染防止の観点から、受講生数が確定するまでの期間（4月）は、学習支援システムに、レジュメと、受講生が自習すべきテキストの該当箇所の指示を配信するとともに、通常の時間帯（火曜日3限目）にZoomによるオンラインでのライブ授業を実施する。

5月以降は、感染状況等を見ながら、オンライン授業を基本としつつ、教室での対面・オンライン併用型（ハイフレックス型）授業を実施できればと考えている。授業計画の変更等については、学習支援システムの「お知らせ」に掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	会社法総論	会社の経済的機能と会社法について概説する
第3回	会社の概念・種類	会社の定義、および会社法上認められている会社の種類・意義について概説する
第4回	会社の権利能力	会社の権利能力について、八幡製鉄献金事件などの判例を交えながら概説する。
第5回	株式会社—総説—	株式会社とはどういうものなのか、その特質について概説する。
第6回	株式会社の機関総論	株式会社の機関、機関設計について概説する。
第7回	株主総会1	株主総会とはどういうものか、その概要について概説する。
第8回	株主総会2	株主提案権・決議要件・株主総会決議の瑕疵について概説する。
第9回	経営機構	株式会社の経営機構の概要について概説する。
第10回	取締役・取締役会	取締役会の機能・権限、取締役の資格・報酬等について概説する。
第11回	取締役の権限・代表取締役	取締役の権限、代表訴訟の意義・権限について概説する。
第12回	指名委員会設置会社・監査監査役・監査役会・会計監査人等委員会設置会社	各経営機構について、コーポレート・ガバナンスの視点から概説する。
第13回	役員の責任	取締役等株式会社の役員の責任について、判例を交えながら概説する。
第14回	役員の対第三者責任	役員の対第三者責任について概説する。
第15回	株主代表訴訟	株主第三者割当・多重代表訴訟について概説する。
第16回	株式と株主	株式と株主について解説する。
第17回	株式の種類と内容	株主平等原則、種類株式の概要について解説する。
第18回	キャッシュ・アウト、全部取得条項付株式	全部取得条項付株式の概要と問題点、およびキャッシュ・アウト制度について概説する。
第19回	株式譲渡	株式譲渡に関する法規制の概要について概説する。
第20回	株式の併合・分割・無償割当	株式の併合・分割・無償割当について解説する。について概説する。
第21回	募集株式の発行と不正な株式発行等	募集株式の発行と不正な株式発行について、判例を交えながら概説する。
第22回	新株予約権	新株予約権に関する法規制について概説する。
第23回	社債	社債に関する法規制について概説する。
第24回	企業買収・企業再編	テーマに基づく講義
第25回	合併	合併に関する法規制について概説する。
第26回	会社分割	会社分割に関する法規制について概説する。
第27回	株式交換・株式移転	株式交換・株式移転に関する法規制について、具体的な事例を交えながら概説する。
第28回	事業譲渡・事業の譲受け	事業譲渡・事業の譲受けに関する法規制について概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特にしなくても良いので、その分、前回の講義の復習をきちんとすること。また、新聞の経済面を毎日読んで、企業に関する情報—例えば、株主総会が開催され、そこで取締役の解任が議論されたとか、株主が取締役に対する損害賠償を提起したとか、どこの会社とどこの会社が合併するといった記事—toに注目し、何が問題となっているのか自分なりに考えてみる（準備学習）。こうした知識が頭にあるだけで、会社法の講義は楽になります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・田中亘「会社法【第 3 版】」（2021 年）東京大学出版会
・必ず最新の六法を持参すること

【参考書】

・「会社法判例百選【第 3 版】」有斐閣
・「会社法の争点」有斐閣

【成績評価の方法と基準】

年度末の定期試験と学期中の小テストによって評価する（100%）
なお、今年度の授業は、新型コロナの影響により、オンラインでの開講が継続する可能性があることから、成績評価の方法と基準を変更する場合があります。その場合には、学習支援システムで掲示するので、お知らせ情報を適宜チェックすること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to understand the rules of the Companies Act, especially in relation to:

- (a) incorporation of a company,
- (b) corporate governance,
- (c) corporate financing,
- (d) M & A.

LAW200AB

会社法

椽川 泰史

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

単位数：4 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

こんにちは！ 会社法を担当しますトチカワです。この授業は、受講者が「会社法入門」を既に履修していることを前提として実施します。

「会社法入門」で学ばれたように、会社とは、複数の人が共同出資をして継続する事業体として営利事業を営むための法律上の道具です。「継続する」ことが前提ですので、そこには多数の利害関係が束になって存在します。この多数の利害関係を私法上の権利義務関係として整理して相互の調整を図り、この企業体が維持・発展するのを助けることが会社法の目的です。

共同出資者間の私的利害調整という点では民法の典型契約の 1 つである「組合」の特則であるという位置づけもできるのですが、なにしる利害関係が複雑多岐にわたるためシンプルに「契約自由の原則」にばかり頼ってられません。そこで、2005 年に公布された「会社法」という名前の制定法を中核として、その周囲に「会社法施行規則」「会社計算規則」「社債、株式等の振替に関する法律」といった各種法令、さらにこれらの法令及び 2005 年以前の「商法」「有限会社法」など旧法令の下での判例、そして業界自主ルールのようなソフト・ローなどが取り巻き、これらが全体として「実質的意義における会社法」といわれる大きなルールの体系をなしているわけです。

この全体像を 4 単位 28 回の講義で論じ尽くすことは到底できませんが、会社という企業体が事業を進めていくうえで、どのようなシーンにどのような法的問題が生じ、これをどのような手法で規律されているのかを学ぶことで、会社をめぐる様々な生活関係を、できるだけ厳密に定義される「権利・義務」の視点から捉えるという考え方・視点を身につけることが本講義の目的です。

法曹コース所属の 3 年次生にとっては、この科目は必修科目となっていますので、会社法について、法科大学院の既修者コース入学者として最低限必要な「見通し」を持って進学できるようお手伝いをするということもこの授業の目的となのですが、結局のところ、上記のような「考え方・視点」を身につけていただくことがまさにその目的に合うことだと考えております。

なお、この科目は 6 つのガイドライン型コースすべてに属しています。

【到達目標】

株式会社の出資者である株主の地位と株式会社の業務運営に関する会社法の制度について、法的な権利義務の視点から基本的な説明ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

- (1) 講義形態で行います。授業参加者がテキスト等の資料を読んできたことを前提に、ポイントを絞った解説をします。
 - (2) リアルタイム・オンライン授業とオンデマンド授業（動画ファイル配信）とを併用します。
 - (3) 教科書や講義の内容の理解度を確認する目的で、Hoppii を利用した事前または事後の小テストを随時実施します。
- ※授業外や課題に関連する質問については、授業（配信動画を含む）の中でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容	
第 1 回	会社と会社法	・講義の進め方と成績評価 ・組合と会社 ・株式会社の特徴 ・会社法の役割 〔テキスト第 1 章・第 2 章〕	・善管注意義務と忠実義務 ・株主利益の最大化 ・経営判断原則 ・法令遵守義務 ・監視義務と内部統制システム構築義務 〔テキスト第 4 章第 3 節■ 6〕
第 2 回	株式と株主	・株主の権利 ・株主の義務と責任 〔テキスト第 3 章第 1 節■ 1～4〕	・役員等の任務懈怠責任 ・株主代表訴訟 〔テキスト第 4 章第 9 節■ 1～3〕
第 3 回	株式の種類と株主平等原則	・株式の種類 ・株主平等原則 〔テキスト第 3 章第 1 節■ 5～7〕	・違法行為差止請求権 ・役員等の第三者に対する責任 〔テキスト第 4 章第 9 節■ 4〕
第 4 回	株式の譲渡と株主権行使の方法	・株式の譲渡自由の原則 ・譲渡制限株式の譲渡 ・株券発行会社における株式譲渡の方法 ・振替株式発行会社における株式譲渡の方法 〔テキスト第 3 章第 2 節・第 3 節〕	・資本金／準備金／剰余金 ・株主への配当と自己株式取得 〔テキスト第 5 章〕 ・募集株式の発行等の意義 ・募集株式の発行等の手続 ・出資の履行に関する規律 〔テキスト第 6 章第 2 節■ 1～4〕
第 5 回	株主名簿制度	・株主名簿の名義書換について ・基準日制度 ・振替株式発行会社における権利行使方法 〔テキスト第 3 章第 3 節■ 4～5〕	・新株予約権の意義 ・新株予約権の発行 ・新株予約権の譲渡等 〔テキスト第 6 章第 3 節■ 1～5〕
第 6 回	株式会社の機関	・株主総会 ・取締役と取締役会 ・監査役／監査等委員会／指名委員会等 ・会計監査人／会計参与 ・機関設計のルール 〔テキスト第 4 章第 1 節■ 1～3〕	・差し止め請求権 ・無効の訴え 〔テキスト第 6 章第 2 節■ 6～8・第 3 節■ 6〕 ・株式公開買付け ・第三者割当増資による買収 ・キャッシュアウト 〔テキスト第 9 章第 1 節・第 2 節〕
第 7 回	株主総会	・株主総会の権限 ・株主総会の招集 ・株主提案権 〔テキスト第 4 章第 2 節■ 1～3〕	・総説 ・取締役会による防衛策 ・事前警告型防衛策 〔テキスト第 9 章第 5 節〕
第 8 回	株主総会の運営	・株主の議決権 ・代理人による議決権行使 ・株主総会の議事と決議 〔テキスト第 4 章第 2 節■ 4～5〕	・発起設立の手続 ・募集設立の手続 ・設立中の会社 ・設立に関する責任 ・設立無効 〔テキスト第 7 章〕
第 9 回	株主総会決議の瑕疵	・株主総会決議取消の訴え ・株主総会決議無効確認の訴え ・株主総会決議不存在確認の訴え 〔テキスト第 4 章第 2 節■ 6〕	・組織変更 ・合併 ・株式分割 ・株式移転／株式交換 〔テキスト第 9 章第 3 節■ 1〕
第 10 回	取締役	・業務執行の決定と業務の執行 ・取締役と会社の関係 〔テキスト第 4 章第 3 節■ 1～2〕	・組織再編契約（計画） ・事前開示 ・株主総会と反対株主の株式買取請求権 ・組織再編と債権者 ・組織再編の無効 〔テキスト第 9 章第 3 節■ 2～3〕
第 11 回	取締役会と代表取締役	・取締役会の招集と運営 ・代表取締役の地位と権限 ・業務執行取締役（代表取締役以外） 〔テキスト第 4 章第 3 節■ 3～4〕	全体のまとめと重要判例
第 12 回	監査役・監査役会	・監査役と会社の関係 ・監査役の権限 ・監査役会の役割 〔テキスト第 4 章第 5 節〕	
第 13 回	監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社	・取締役会と監査等委員会 ・取締役会と 3 委員会と執行役 〔テキスト第 4 章第 7 節・第 8 節〕	
第 14 回	春学期のまとめ	・株式会社の特徴 ・株式の意義 ・株式会社の機関の分化	
第 15 回	取締役の義務（1）	・競業取引規制 ・利益相反取引規制 ・違法な利益相反取引の効力 〔テキスト第 4 章第 3 節■ 5〕	
第 16 回	取締役の義務（2）		
第 17 回	役員等の責任（1）		
第 18 回	役員等の責任（2）		
第 19 回	計算と配当		
第 20 回	株式発行による資金調達		
第 21 回	新株予約権		
第 22 回	瑕疵のある株式発行・新株予約権発行		
第 23 回	会社の買収		
第 24 回	敵対的買収と防衛策		
第 25 回	株式会社の設立		
第 26 回	組織再編の全体像		
第 27 回	組織再編の手続		
第 28 回	総まとめ		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・「会社法入門」（2 単位）が履修済みであることを前提として講義を進める。
・民法の総則、担保物権、債権総論、契約総則について、ひととおり勉強しておくことが望ましい。
・予め指定された判例については、最低でも下記【参考書】欄に掲げた判例百選の該当判例の部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中亘『会社法【第 3 版】』（東京大学出版・2021 年）

【参考書】

別冊ジュリスト 229 号「会社法判例百選【第 3 版】」（有斐閣・2016 年）
山下友信・神田 秀樹（編著）「商法判例集 第 7 版」（有斐閣・2017 年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績（90 %）

小テスト・レポートの提出状況／質問による授業への貢献などの平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイム・オンライン授業（Zoom または Webex 使用）とオンデマンド授業（動画配信と PDF 等による配布資料との併用）とを受講できる情報機器。

【その他の重要事項】

上記指定テキストの他、最新の六法を毎回必ず用意すること。

★「最新の」というところが大事です。電子デバイスで利用できる六法もありますが、今のところ定期試験で「六法参照可」の場合、紙媒体の六法しか参照は許可されませんので、普段から印刷された紙版の六法の利用に慣れておくという意味でも、安くないうえに重くてどうも恐縮ですが、紙媒体の六法の利用を強くお勧めします。

【Outline and objectives】

This class will provide an overview of the major legal issues related to Japanese corporate law.

The class will cover legal issues regarding types of companies, incorporation of Kabusiki Kaisha (joint stock companies), corporate governance, corporate finance, and mergers and acquisitions.

LAW300AB

手形法・小切手法

椋川 泰史

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

単位数：4 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

手形や小切手は企業間の取引における決済と金融の手段として長らく使われてきた法的な技術ですが、情報技術を利用した決済手段の多様化や、リスク評価手法が洗練されたことによる企業への資金供給ルートの拡大により、近年では存在感が薄れてきています。しかしながら、そうした新しい決済・金融手段においても、手形や小切手が提供してきた法的技術が形を変えて利用されています。本講義は、そのような決済・金融についての法技術と、それが実際に利用された場合に生じる種々の法的問題について考えていきます。「手形法・小切手法」という標題は、いわばそうした法的問題の代表例であって、本講義はより幅広く、モバイル決済や暗号資産（仮想通貨）など、現代的な決済取引に関する法の現状を取り上げて論じていきたいと考えています。

授業のテーマは下記のとおりとします。

〔春学期〕手形法・小切手法によって発展してきた「有価証券法理」の内容と、具体的な問題への適用のされ方

〔秋学期〕現代の様々な決済システムの紹介と、それぞれの決済システムで生じ得る具体的な法律問題の検討

【到達目標】

〔春学期〕手形法・小切手法が提供してきた基本的な法原則の内容を理解すること。

〔秋学期〕現代の決済システムの運用上生じる法的問題の所在を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- (1) 講義形態で行います。事前に指定された教科書の該当箇所を読んできていることを前提として、ポイントを絞った解説をします。
 - (2) リアルタイム・オンライン授業とオンデマンド授業（動画ファイル配信）とを併用します。
 - (3) 教科書や講義の内容の理解度を確認する目的で、Hoppii を利用した事前または事後の小テストを随時実施します。
- ※授業外や課題に関連する質問については、授業（配信動画を含む）の中でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	開講にあたって	この授業について 手形・小切手とはどのようなものか 手形・小切手の法的性質 手形・小切手と銀行取引 振出から支払まで
第 2 回	手形・小切手の経済的機能	手形・小切手の経済的機能 有価証券としての手形・小切手
第 3 回	手形・小切手と実質関係	原因関係 手形関係と原因関係 手形・小切手の資金関係
第 4 回	手形行為	手形行為の特色 手形行為の解釈

第 5 回	手形署名	署名の意義 法人の署名
第 6 回	手形・小切手の要式性	手形・小切手の振出に必要な方式について、約款や銀行実務の現状も含めて解説する。
第 7 回	手形理論	契約説 単独行為説 権利外觀理論
第 8 回	手形行為論	手形・小切手の効力を有効に生じさせるための法律行為＝手形行為の法的な性質についての議論を、手形行為の成立時期に関する問題の検討を通じて論じる。
第 9 回	民法総則と手形行為	手形能力 手形上の意思表示の瑕疵
第 10 回	手形行為の代理	代理の方式 代理権の濫用 無権代理人の責任
第 11 回	表見代理・表見代表	民法上の表見代理 商法上の表見代理 利益相反取引の手形行為
第 12 回	手形の偽造変造	手形の偽造 手形の変造
第 13 回	手形の流通	裏書の意義 裏書の効力 特殊の裏書
第 14 回	裏書の連続	裏書の連続 善意取得
第 15 回	手形・小切手の喪失対策	手形・小切手を紛失したり盗まれた者の保護のために、どのような制度が用意されているかを検討する。
第 16 回	決済システムと法	多様な支払手段 決済システムとは
第 17 回	銀行振込・資金移動業	銀行振込の仕組み 預金取引 銀行間資金決済システム 資金移動業
第 18 回	預金者の決定	定期預金の預金者 普通預金の預金者
第 19 回	誤振込み	誤振込みの法律関係 誤振込みによる預金の成立
第 20 回	手形交換	手形交換所規則 当座勘定規定 銀行取引約定書
第 21 回	手形抗弁の制限	手形抗弁とは 人的抗弁の制限 手形法 17 条の意義
第 22 回	人的抗弁と物的抗弁	物的抗弁 原因関係上の抗弁 融通手形の抗弁
第 23 回	人的抗弁	戻裏書 後者の抗弁 二重無権の抗弁
第 24 回	電子記録債権	電子記録債権法の概要 でんさいネットの法的性質
第 25 回	一括決済システム	手形に代わる決済・金融手段として採用される一括決済システムの法的な仕組みと法リスクについて検討する。
第 26 回	電子マネー	プリペイド式電子マネー プリペイドカード
第 27 回	暗号資産（仮想通貨）	暗号資産の定義 暗号資産交換業
第 28 回	有価証券	有価証券の定義 民法上の有価証券

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキスト該当箇所を事前に読んでいることを前提に講義をする。
・民法総則と債権総則に該当する部分については履修済みであることが望ましい。

・予め指定された判例がある場合には、最低でも下記【参考書】欄に挙げた「手形小切手判例百選」の当該判例部分については目を通しておくこと。できれば判決全文を持って講義に臨むことが望ましい。
・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川村正幸「手形・小切手法（第 4 版）」（新世社・2018 年）
小塚壮一郎・森田果「支払決済法〔第 3 版〕」（商事法務・2018 年）

【参考書】

別冊ジュリスト「手形小切手判例百選（第 7 版）」（有斐閣・2014 年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100%）
[ただし、質問等での授業への貢献や、小テストを実施した場合に成績が優れていた者については、その評価を定期試験の得点に加味する。]

【学生の意見等からの気づき】

（特になし。）

【Outline and objectives】

In this class, we will discuss the legal principles of negotiable instruments from the perspective of payment systems law.

LAW300AB

民事訴訟法 I**杉本 和士**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義は、具体的な民事紛争を念頭に置きながら、民事紛争の解決という観点からみて民事訴訟がどのような性格を有しているのか、民事訴訟法における諸概念がどのような意義を有しているのか、また、具体的にどのような手続として運営されているのかについて理解することを目的とします。

・なお、この講義は、「裁判と法」、「行政・公共政策と法」、「企業・経営と法（商法中心）」、「同（労働法中心）」及び「法曹コース」の各コースに配置されます。

【到達目標】

・第 1 審までにおける民事訴訟手続（判決手続）の手続構造を理解し、かつ、個々の規律を条文に即して説明することができる。

・民事訴訟法における基本概念及び基本原則について、条文及び具体例に即して適切に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・この講義では、教員の配布する講義ノート及び配布教材に沿って進めます。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行ってくることを前提として講義を行います。

・各回の講義の初めに、前回の講義に関して学習支援システム上で提出されたリアクションペーパーの内容を採り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（講義の進め方等） 民事紛争解決制度としての民事訴訟 民事訴訟審理の基本構造と基本概念	ガイダンスを行った後、民事訴訟制度の全体像及びその基本構造について概観する。
第 2 回	訴えの提起（1）その 1	訴え・処分権主義・請求の趣旨及び原因・訴訟物・請求の客観的併合
第 3 回	訴えの提起（1）その 2	訴え・処分権主義・請求の趣旨及び原因・訴訟物・請求の客観的併合
第 4 回	訴えの提起（2）その 1	訴訟要件、訴えの利益
第 5 回	訴えの提起（2）その 2	訴訟要件、訴えの利益
第 6 回	訴えの提起（3）	当事者、当事者の確定
第 7 回	訴えの提起（4）	当事者能力、訴訟能力
第 8 回	訴えの提起（5）	訴訟上の代理、法人等の代表者
第 9 回	訴えの提起（6）	当事者適格、第三者の訴訟担当
第 10 回	訴えの提起（7）	裁判所・裁判官、管轄
第 11 回	訴えの提起（8）	訴え提起の効果（送達を含む）、二重起訴禁止
第 12 回	口頭弁論（1）	口頭弁論の意義及びその必要性、口頭弁論における諸原則
第 13 回	口頭弁論（2）	弁論主義①（総論、第 1 テーゼ）
第 14 回	口頭弁論（3）	弁論主義②（第 2 テーゼ、裁判上の自白）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習（予習・復習のほか、発展学習）に関する一般的な指示は、初回講義冒頭のガイダンスで行うほか、各回の講義内容に関する具体的な予習・復習の内容に関しては、「予習用課題・復習テスト」の教材を配布することで指示します。

・なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義は、教員の配布する講義ノート、参考資料及び予習復習用教材を用いて進めますが、予習復習に際して基本となる教科書として、山本弘ほか『民事訴訟法〔第 3 版〕有斐閣アルマシリーズ』（有斐閣、2018 年）を指定しておきます。

・使用する教材等は、全て「法政大学学習支援システム」において PDF ファイルとして配布します。必ず受講前に各自で教材を準備して下さい。

【参考書】

＜入門書＞本講義を受講するに当たり、下記のいずれか（できれば双方）を熟読しておくことを強く推奨します。いずれも民事訴訟手続に対する理解に大いに役立つ、小説仕立ての入門書です。

・福永有利＝井上治典著・中島弘雅＝安西明子補訂『アクチュアル民事の訴訟〔補訂版〕』（有斐閣、2016 年）

・山本和彦『よくわかる民事裁判〔第 3 版〕』（有斐閣、2018 年）

＜本格的な体系書として＞

・新堂幸司『新民事訴訟法』（弘文堂、第 6 版、2019 年）

・伊藤眞『民事訴訟法』（有斐閣、第 7 版、2020 年）

＜各テーマに関する詳細な検討について＞

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（上）』（有斐閣、第 2 版補訂版、2013 年）

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（下）』（有斐閣、第 2 版補訂版、2014 年）

＜判例集＞ 下記のいずれか 1 冊を持っておくことをお勧めします。

・上原敏夫ほか『基本判例民事訴訟法』（有斐閣、第 2 版補訂、2010 年）

・高橋宏志ほか編『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、第 5 版、2015 年）

・中島弘雅＝岡仲浩編著『民事訴訟法判例インデックス』（商事法務、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

・成績評価は、リアクションペーパー又はレポート等による平常点（30%）及び期末試験（70%）によります。具体的な方法等は、「学習支援システム」において提示します。

なお、成績評価に際しては、上記の到達目標が指標となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course introduces the principles of civil procedure to students taking this course.

The goals of this course are to

- (1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of civil procedure.
- (2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.

LAW300AB

民事訴訟法Ⅱ

杉本 和士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義は、具体的な民事紛争を念頭に置きながら、民事紛争の解決という観点からみて民事訴訟がどのような性格を有しているのか、民事訴訟法における諸概念がどのような意義を有しているのか、また、具体的にどのような手続として運営されているのかについて理解することを目的とします。

・なお、この講義は、「裁判と法」、「行政・公共政策と法」、「企業・経営と法（商法中心）」、「同（労働法中心）」及び「法曹コース」の各コースに配置されます。

【到達目標】

・第 1 審までにおける民事訴訟手続（判決手続）の手続構造を理解し、かつ、個々の規律を条文に即して説明することができる。

・民事訴訟法における基本概念及び基本原則について、条文及び具体例に即して適切に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・この講義では、教員の配布する講義ノート及び配布教材に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行ってくることを前提として講義を行います。

・各回の講義の初めに、前回の講義に関して学習支援システム上で提出されたリアクションペーパーの内容を採り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（講義の進め方等） 民事訴訟審理の基本構造と基本概念の復習（「民事訴訟法Ⅰ」の学習内容の確認）	ガイダンスを行った後、「民事訴訟法Ⅰ」における学修内容を踏まえて、改めて民事訴訟手続の基本構造について確認を行う。
第 2 回	口頭弁論（4）	口頭弁論における当事者の行為、訴えの変更・反訴、共同訴訟・独立訴訟参加・補助参加
第 3 回	口頭弁論（5）	裁判所による口頭弁論の指揮、釈明権・釈明義務
第 4 回	口頭弁論（6）	口頭弁論期日の実施とその準備、争点整理手続、送達
第 5 回	口頭弁論（7）	証拠調べ（証拠法）総論
第 6 回	口頭弁論（8）その 1	証拠調べ各論
第 7 回	口頭弁論（8）その 2	証拠調べ各論
第 8 回	口頭弁論（9）	自由心証主義、証明責任
第 9 回	終局判決による訴訟の終結（1）	判決の種類、判決の成立・確定、処分権主義
第 10 回	終局判決による訴訟の終結（2）その 1	確定判決の効力：既判力
第 11 回	終局判決による訴訟の終結（2）その 2	確定判決の効力：既判力
第 12 回	終局判決による訴訟の終結（2）その 3	確定判決の効力：既判力 訴訟承継との比較
第 13 回	裁判によらない訴訟の終結	訴訟上の和解、請求の認諾・放棄、訴えの取下げ
第 14 回	上訴、非常救済手続	控訴、上告、抗告、特別上訴、再審

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習（予習・復習のほか、発展学習）に関する一般的な指示は、初回講義冒頭のガイダンスで行うほか、各回の講義内容に関する具体的な予習・復習の内容に関しては、「予習用課題・復習テスト」の教材を配布することで指示します。

なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義は、教員の配布する講義ノート、参考資料及び予習復習用教材を用いて進めますが、予習復習に際して基本となる教科書として、山本弘ほか『民事訴訟法〔第 3 版〕有斐閣アルマシリーズ』（有斐閣、2018 年）を指定しておきます。

・使用する教材等は、全て「法政大学学習支援システム」において PDF ファイルとして配布します。必ず受講前に各自で教材を準備して下さい。

【参考書】

＜入門書＞本講義を受講するに当たり、下記のいずれか（できれば双方）を熟読しておくことを強く推奨します。いずれも民事訴訟手続に対する理解に大いに役立つ、小説仕立ての入門書です。

- ・福永有利＝井上治典著・中島弘雅＝安西明子補訂『アクチュアル民事の訴訟〔補訂版〕』（有斐閣、2016 年）
- ・山本和彦『よくわかる民事裁判〔第 3 版〕』（有斐閣、2018 年）

＜本格的な体系書として＞

- ・新堂幸司『新民事訴訟法』（弘文堂、第 6 版、2019 年）
- ・伊藤眞『民事訴訟法』（有斐閣、第 7 版、2020 年）

＜各テーマに関する詳細な検討について＞

- ・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（上）』（有斐閣、第 2 版補訂版、2013 年）
- ・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（下）』（有斐閣、第 2 版補訂版、2014 年）

＜判例集＞ 下記のいずれか 1 冊を持っておくことをお勧めします。

- ・上原敏夫ほか『基本判例民事訴訟法』（有斐閣、第 2 版補訂、2010 年）
- ・高橋宏志ほか編『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、第 5 版、2015 年）
- ・中島弘雅＝岡仲浩編著『民事訴訟法判例インデックス』（商事法務、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

・成績評価は、リアクションペーパー又はレポート等による平常点（30%）及び期末試験（70%）によります。具体的な方法等は、「学習支援システム」において提示します。

・なお、成績評価に際しては、上記の到達目標が指標となります。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline and objectives】

This course introduces the principles of civil procedure to students taking this course.

The goals of this course are to

- (1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of civil procedure.
- (2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.

LAW300AB

民事訴訟法Ⅲ

杉本 和士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義は、すでに民事訴訟法の基礎を学習していることを前提に、民事訴訟法における応用的な論点や判例について重点的に学習することで、民事訴訟法に対する理解を深めることを目的とします。

・なお、この講義は、「裁判と法」、「行政・公共政策と法」、「企業・経営と法（商法中心）」及び「同（労働法中心）」の各コースに配置されます。

【到達目標】

・民事訴訟法における、いわゆる複雑訴訟の分野についての基礎を理解することができる。

・民事訴訟手続全体における論点の位置付けを明確にすることができる。

・民事訴訟法における論点及び判例について理解をするとともに、その問題の所在や議論状況について説明をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・この講義では、教員の配布する講義ノート及び配布教材に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行ってくることを前提として講義を行います。

・各回の講義の初めに、前回の講義に関して学習支援システム上で提出されたリアクションペーパーの内容を採り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（講義の進め方） 民事訴訟手続に関する全体像の復習	ガイダンスを行った後、民事訴訟法の基礎に関する復習を行う。
第 2 回	訴えの利益—特に確認の利益に関する判例を中心に（1）	各種類型に関する訴えの利益に関する問題状況を概観した上で、遺言無効確認の訴えの確認の利益に関する判例を読み解く。
第 3 回	訴えの利益—特に確認の利益に関する判例を中心に（2）	将来の権利関係確認の訴え等の確認の利益に関する判例を読み解く。
第 4 回	訴訟担当に関する判例	明文のない任意的訴訟担当の規律に関する一連の判例について検討する。
第 5 回	二重起訴禁止と相殺の抗弁に関する判例	二重起訴禁止と相殺の抗弁に関する一連の判例について検討する。
第 6 回	弁論主義と釈明権	弁論主義と釈明権の関係、法的観点指摘義務に関する判例の検討を行う。
第 7 回	既判力（1）—客観的範囲、相殺の抗弁	既判力の客観的範囲に関する民事訴訟法上の規律を確認した上で、特に相殺の抗弁と弁済の抗弁の比較、一部請求論に関する判例を読み解く。
第 8 回	既判力（2）—時的範囲、主観的範囲	既判力における基準時の概念、既判力の時的範囲に関する判例を読み解く。
第 9 回	既判力（3）—その他の判決効（争点効、反射効）	既判力以外の判決効に関する判例を読み解く。
第 10 回	複数請求訴訟	いわゆる複雑訴訟における複数請求訴訟について概観した上で、請求の客観的併合、訴えの変更、反訴及び中間確認の訴えについて検討を行う。
第 11 回	共同訴訟	いわゆる複雑訴訟における複数当事者訴訟について概観した上で、共同訴訟に関する規律について検討を行う。
第 12 回	訴訟参加（1）—独立当事者参加	複数当事者訴訟の 1 つである訴訟参加に関して、主に独立当事者参加の規律について検討を行う。
第 13 回	訴訟参加（2）—補助参加	複数当事者訴訟の 1 つである訴訟参加に関して、主に補助参加の規律について検討を行う。
第 14 回	当事者の変更：訴訟承継	複数当事者訴訟の 1 つである訴訟承継に関する規律について検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習（予習・復習のほか、発展学習）に関する一般的な指示を初回講義冒頭のガイダンスで行うほか、各回の講義内容に関する具体的な予習・復習の内容に関する指示は、各回の講義の際に行います。

・各回で扱う分野の基礎知識について、事前に復習を行うことが必要です。

・なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義は、教員の配布する講義ノート、参考資料及び予習復習用教材を用いて進めます。

・使用する教材等は、全て「法政大学学習支援システム」において PDF ファイルとして配布します。必ず受講前に各自で教材を準備して下さい（PC やタブレットによる閲覧は認めますが、講義中のスマホによる閲覧は認めません）。

【参考書】

＜基礎知識確認用の自習教材として＞

山本弘ほか『民事訴訟法〔第 3 版〕有斐閣アルマシリーズ』（有斐閣、2018 年）

＜本格的な体系書として＞

・新堂幸司『新民事訴訟法』（弘文堂、第 6 版、2019 年）

・伊藤真『民事訴訟法』（有斐閣、第 7 版、2020 年）

＜本講義で取り上げる各テーマに関する詳細な検討について＞

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（上）』（有斐閣、第 2 版補訂版、2013 年）

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（下）』（有斐閣、第 2 版補訂版、2014 年）

＜判例集＞ 下記のいずれか 1 冊を持っておくことをお勧めします。

・上原敏夫ほか『基本判例民事訴訟法』（有斐閣、第 2 版補訂、2010 年）

・高橋宏志ほか編『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、第 5 版、2015 年）

・中島弘雅＝岡田浩編著『民事訴訟法判例インデックス』（商事法務、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

・「期末試験の成績（60%）」及び「講義中に適宜実施するレポート等の課題への取り組み及び講義中の質疑応答等に関する平常点（40%）」を総合して評価します。

なお、成績評価に際しては、上記の到達目標が指標となります。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline and objectives】

This course introduces the principles of civil procedure to students taking this course.

The goals of this course are to

- (1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of civil procedure.
- (2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.

LAW300AB

破産法 I

倉部 真由美

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倒産処理法の基本である破産法の基礎を理解する。
「裁判と法」「企業・経営と法」「国際社会と法」の各コースに配置される。

【到達目標】

清算型倒産手続の一般法である破産法の意義、破産手続の流れと全般的な仕組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

倒産とは、債務者が、その有する財産、信用力、収入・収益などを総合的に考慮して、債権者に対して債務の全般を支払えなくなる状況をいう。このような状況进行处理するための法律を総称して、一般的に倒産処理法あるいは倒産法というが、その中には、破産法、会社法の特別清算の部分、民事再生法、会社更生法が含まれる。前二者を清算型と呼び、債務者の財産を換価することによって得られた換価金から債権者に平等に配当することを主たる目的としている。後二者を再建型と呼び、債務者を再生・再建することにより将来の収益から債権者に弁済することを主たる目的とする。

本講義では、これら倒産処理法の基本である破産法を扱うが、手続の側面と消費者破産を中心に説明する。破産手続における契約関係の処理といわゆる倒産実体法（取戻権、別除権、相殺権、否認権）については、破産法Ⅱで扱うため、破産法ⅠとⅡを連続して受講することを強く推奨する。

授業内外での質問は個別に対応するほか、必要に応じてクラス全体で共有する。課題へのフィードバックは、学習支援システムを通じて行うほか、必要に応じて授業中にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	倒産の世界へようこそ	ガイダンス
第 2 回	裁判所で行われる倒産手続	裁判所で行われる倒産手続の概要を紹介する。
第 3 回	私的整理／倒産 ADR	裁判所の外で行われる私的整理と倒産 ADR について扱う。
第 4 回	破産手続の基本的な流れ	チャート等を用いて、これから学ぶ破産手続の流れがどのように進むものなのかを解説する。
第 5 回	破産手続の開始 (1)	破産能力、破産手続開始申立て、開始決定を扱う。
第 6 回	破産手続の開始 (2)	各種保全処分を扱う。
第 7 回	破産管財人と破産財団	破産管財人、破産財団と取戻権を扱う。
第 8 回	破産債権、財団債権、債権の種類と優先順位	財団債権、破産債権その他の債権の種類と優先劣後関係を扱う。
第 9 回	破産債権の届出・調査・確定	破産債権の届出、調査、確定の方法とプロセスを扱う。
第 10 回	破産財団の管理・換価・	破産管財人が破産財団を管理・換価するための手法とプロセスを扱う。
第 11 回	配当	債権者に換価金を配当する方法とプロセスを扱う。
第 12 回	破産手続の終了	破産手続が終了する場面を扱う。
第 13 回	個人破産と免責	消費者についての破産手続開始申立て、同時廃止、自由財産、免責と復権等を扱う。
第 14 回	総括	第 13 回までの授業内容を振り返り、質問を受け付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習のいずれに重点を置くかは、各受講生の学習のスタイルに委ねるが、適宜、授業中に配布するレジュメを中心に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで自習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・倉部真由美＝高田賢治＝上江洲純子『ストゥディア倒産法』（有斐閣、2018 年）
・携行するサイズの六法を必ず持参すること。

【参考書】

・山本和彦『倒産処理法入門〔第 5 版〕』（有斐閣、2018 年）

・山本和彦ほか『倒産法概説〔第 2 版補訂版〕』（弘文堂、2015 年）
倒産判例について
・松下淳一＝菱田雄郷編『倒産判例百選〔第 5 版〕』（有斐閣、2021 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide a comprehensive overview of the insolvency system and the law of bankruptcy in Japan. We will primarily focus on the procedure of Bankruptcy.

LAW300AB

破産法Ⅱ**倉部 真由美**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倒産処理法の基本である破産法の基礎を理解する。
「裁判と法」「企業・経営と法」「国際社会と法」の各コースに属する。

【到達目標】

清算型倒産手続の一般法である破産法の意義、破産手続の流れと全般的な仕組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

倒産とは、債務者が、その有する財産、信用力、収入・収益などを総合的に考慮して、債権者に対して債務の全般を支払えなくなる状況をいう。このような状況进行处理するための法律を総称して、一般的に倒産処理法あるいは倒産法というが、その中には、破産法、会社法の特別清算の部分、民事再生法、会社更生法が含まれる。前二者を清算型と呼び、債務者の財産を換価することによって得られた換価金から債権者に平等に配当することを主たる目的としている。後二者を再建型と呼び、債務者を再生・再建することにより将来の収益から債権者に弁済することを主たる目的とする。

本講義では、これら倒産処理法の基本である破産法を扱うが、破産手続における法律関係・契約関係の処理といわゆる倒産実体法（取戻権、別除権、相殺権、否認権）を中心に説明する。手続に関する部分と消費者破産については、破産法Ⅰで扱うが、破産法ⅠとⅡは関連性が強く、破産法Ⅰで扱った内容に言及することが多い。破産法ⅠとⅡを連続して受講することを強く推奨する。破産法Ⅰを受講していない場合は、予めテキストを通過して自習しておくこと。

授業内外での質問は個別に対応するほか、必要に応じてクラス全体で共有する。課題へのフィードバックは、学習支援システムを通じて行うほか、必要に応じて授業中にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／破産手続の概観	ガイダンス。破産手続を概観し、破産法Ⅰを簡単に復習する。
第 2 回	破産財団をめぐる契約関係 (1)	双方未履行双務契約を扱う。
第 3 回	破産財団をめぐる契約関係 (2)	賃貸借契約を扱う。
第 4 回	破産財団をめぐる契約関係 (3)	請負契約を扱う。
第 5 回	別除権 (1)	別除権の意義と行使方法、破産手続における取扱いを扱う。
第 6 回	別除権 (2)	担保権消滅請求許可制度を扱う。
第 7 回	相殺権 (1)	相殺権の破産手続における行使方法と相殺が禁止される場面を扱う。
第 8 回	相殺権 (2)	相殺権の破産手続における行使方法と相殺が禁止される場面を扱う。
第 9 回	否認権 (1)	否認権の意義と種類、行使方法を扱う。
第 10 回	否認権 (2)	否認権の意義と種類、行使方法の続きを扱う。
第 11 回	役員の責任追及	役員の責任追及について扱う。
第 12 回	最新判例の紹介	最新の判例を紹介する。
第 13 回	最新判例の紹介	最新の判例を紹介する。
第 14 回	総括	第 13 回までの授業内容を振り返り、質問を受け付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習のいずれに重点を置くかは、各受講生の学習のスタイルに委ねるが、適宜、授業中に配布するレジュメを中心に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで自習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・倉部真由美＝高田賢治＝上江洲純子『ストゥディア倒産法』（有斐閣、2018 年）
・携行するサイズの六法を必ず持参すること。

【参考書】

・山本和彦『倒産処理法入門〔第 5 版〕』（有斐閣、2018 年）

・山本和彦ほか『倒産法概説〔第 2 版補訂版〕』（弘文堂、2015 年）
倒産判例について
・松下淳一＝菱田雄郷『倒産判例百選〔第 6 版〕』（有斐閣、2021 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide a comprehensive overview of the insolvency system and the law of bankruptcy in Japan. We will primarily focus on dealing of the rights of secured creditors, set-off, and avoidance under the Bankruptcy law.

LAW300AB

民事再生法

倉部 真由美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

再建型倒産手続の一般法について定める民事再生法の基礎を理解する。「裁判と法」「企業・経営と法」「国際社会と法」の各コースに配置されている。

【到達目標】

再建型倒産手続の一般法である民事再生手続の意義、手続の流れ、全般的な仕組みを理解する。破産法と民事再生法の主たる相違点を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

倒産といえば、自己破産をイメージして、債務者の財産を換価し債権者への平等に配当する手続を思い出すかもしれないが、わが国にはこのようないわゆる清算型の手続だけではなく、再建型の手続も存在する。民事再生法は、再建型倒産手続について定める一般法であり、利害関係人の利害を調整しつつ、主として債務者を再生することにより、将来の収益から債権者に弁済することを主たる目的とする手続である。本講義では、民事再生法の意義、手続の流れ、全般的な仕組みを、適宜、破産法と比較しながら解説する。

なお、本講義では、破産法Ⅰ・Ⅱで扱った内容に言及することが多いため、破産法Ⅰ・Ⅱを予めまたは並行して受講することを強く推奨する。

授業内外での質問は個別に対応するほか、必要に応じてクラス全体で共有する。課題へのフィードバックは、学習支援システムを通じて行うほか、必要に応じて授業中にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／再建型倒産手続の概観	ガイダンス。再建型倒産手続を中心に倒産処理制度を概観する。
第 2 回	手続の開始	再生手続開始申立て、申立権者、開始決定、各種保全処分を扱う。
第 3 回	手続の機関	再生裁判所、再生債務者、監督委員、管財人、債権者集会、債権者委員会を扱う。
第 4 回	債権の種類と優先順位	共益債権、再生債権など債権の種類と優先劣後関係を扱う。
第 5 回	債権の届出・調査・確定	再生債権の届出、調査、確定の方法とプロセスを扱う。
第 6 回	担保権の取扱い	別除権の意義と取扱い、不足額責任主義の適用される場面を扱う。
第 7 回	担保権に対する制約	担保権実行中止命令と担保権消滅許可制度を扱う。
第 8 回	否認権	否認権の行使に関する民事再生法上の特別な取扱いを扱う。
第 9 回	再生計画の立案・認可	再生計画を立案・提出できる者、再生計画の内容、再生計画認可要件を扱う。
第 10 回	手続の終了	再生手続の終了を扱う。
第 11 回	個人再生	小規模個人再生手続、給与所得者等再生手続及び住宅資金貸付債権に関する特則を扱う。
第 12 回	民事再生と会社更生	民事再生と会社更生を比較して紹介する。
第 13 回	最新判例の紹介	最新の判例を紹介する。
第 14 回	総括	第 13 回までの授業内容を振り返り、質問を受け付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習のいずれに重点を置くかは、各受講生の学習のスタイルに委ねるが、適宜、授業中に配布するレジュメを中心に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで自習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・倉部真由美＝高田賢治＝上江洲純子『ストウディア倒産法』（有斐閣、2018 年）
・携行するサイズの六法を必ず持参すること。

【参考書】

・山本和彦『倒産処理法入門〔第 5 版〕』（有斐閣、2018 年）
・山本和彦ほか『倒産法概説〔第 2 版補訂版〕』（弘文堂、2015 年）

・松下淳一『民事再生法入門』（有斐閣、第 2 版、2014 年）

判例について

・松下淳一＝菱田雄郷『倒産判例百選＜第 6 版＞』（有斐閣、2021 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide a comprehensive overview of the insolvency system and the law of civil rehabilitation act in Japan.

LAW100AB

刑法総論 I

佐藤 輝幸、佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全てのコースに配置されている刑法総論は、法律学科の基本科目である刑法の内容のうち、全ての犯罪に共通する要素についてその内容と機能を明らかにし、犯罪の実質、成否についての統一的理解を導こうとするものである。刑法総論の授業科目としては、刑法総論 I と刑法総論 II が設けられているが、各コースに共通の選択必修科目である刑法総論 I では、刑法総論の内容のうち、刑事法全般にわたる入門的講義である概説刑事法で学修した知識・考え方を基礎に、犯罪の成否を判断するために必要な基本的な内容を講義する。より踏み込んだ高度な議論は刑法総論 II で学習する。

【到達目標】

刑法総論に関するテーマについて、抽象的な条文の解釈を基本原理から理論的に導くという刑法総論特有の思考方法を習得するとともに、基本的な犯罪成立要件を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップしたレジュメに沿って、講義形式で行う。

オンデマンド形式で講義動画を毎週配信する予定である。動画配信による講義であるところ、週によって講義時間の長さが異なる可能性がある。

毎回の授業計画は、下記を基本とするが、受講者の理解度に応じて調整することがある。

質問については、オフィスアワーおよび学習支援システムによって対応する。また、中間レポートについては、期末試験までに講評をアップロードする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・刑法総論とは（佐野）	授業の進め方、教材等の説明。刑法総論の意義
第 2 回	刑法の基本原則（佐野）	刑罰の意義、罪刑法定主義、責任主義など
第 3 回	構成要件（佐藤）	構成要件の意義と機能・因果関係
第 4 回	違法性 I（佐藤）	刑法における違法の意義
第 5 回	違法性 II（佐藤）	緊急避難
第 6 回	違法性 III（佐藤）	正当防衛
第 7 回	違法性 IV（佐藤）	その他の違法性阻却事由
第 8 回	責任 I（佐野）	刑法における責任の意義・故意前半
第 9 回	責任 II（佐野）	故意後半、過失
第 10 回	責任 III（佐野）	責任能力、違法性の意識の可能性
第 11 回	不作為犯論（佐藤）	不作為犯の意義と作為義務
第 12 回	未遂犯論（佐藤）	実行の着手、不能犯
第 13 回	共犯 I（佐野）	共犯の処罰根拠・教唆幫助
第 14 回	共犯 II（佐野）	共同正犯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

概説刑事法の内容を一通り理解していることを前提に行う。自信がない場合は、夏期休暇等を利用して、2、3 時間程度でも復習しておくことより刑法総論の修得に有益であろう。

概説刑事法の内容の理解があれば、予習よりも復習に力を入れ、分かったことと分からないことを明確化し、分からないことについては、オフィスアワー等で質問すること。大学は、勉強習慣を身につける場ではなく、研究に必要な知識や考え方を習得する場であるので、「学習時間」で判断することは無意味であるが、一応の目安として、上述の分かったことと分からないことの明確化を目的とした復習に 3 時間程度をかけ、余裕があれば、授業前にレジュメや入門書の該当箇所を流し読みしておくことと良い。さらに、学期末に、期末試験対策を兼ねて、15～20 時間程度かけて全体の復習をしておくことは、全体像の理解とそれに基づく相互の関連性の理解にもつながり、知識を定着させ、学修を深めるのに非常に有益である。

【テキスト（教科書）】

西田典之ほか『判例刑法総論』（第 7 版（授業開始までに改訂された場合には、新版を用いる）、2018、有斐閣）及び、六法（小型のもので良い）は、毎回持参すること。

【参考書】

基本書等については、受講者の自由に選択してよいが、選び方等に関して初回の授業で説明する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 50 %、期末レポート 50 % の予定である。詳細は学習支援システム等で告知する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメだけ読んで理解できている学生がいるようであるが、レジュメは、あくまで授業の補助資料であって、授業を聞いて補充することを予定しているものであるため、それだけで完結したものではないことを踏まえて学修すること。また、分からないことは、オフィスアワーなどを利用して積極的に質問すること。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義に伴い、PC や通信設備等が必要となる。

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce students to the fundamental principles of substantive criminal law. It addresses the basic penal theory, the general elements of crime and the criminal defenses.

LAW200AB

刑法総論Ⅱ

佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑法総論の分野について、刑法総論Ⅰで学修したことを前提に、さらに踏み込んだ議論を学修する。重要判例や議論状況を正確に把握することで、具体的な問題や発展的な問題についても自ら解決の方向性を示す能力を身につけることを目指す。

【到達目標】

刑法総論Ⅰで学修した基本的な考え方を前提に、重要判例を丹念に読むことで、基礎的な知識に肉付けを行うと共に、理論・実務における発展的な問題の考え方を身につける。具体的には、主に刑法総論に関する近時の重要判例を題材とし、先例や学説との関係でその意義と射程を正確に理解することで、刑法総論の各分野の知識を深めつつ、交錯領域等の問題について、その捉え方を具体的に学ぶことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的にオンデマンド式（動画配信）での開講となる。詳細は、学習支援システム及び初回の講義動画で連絡する。なお、適宜オンラインでの質疑応答の機会を設けるとともに、中間レポートに対しては講評の動画をアップロードする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	ガイダンス、刑法総論Ⅰの復習
第 2 回	違法論・責任論（1）	正当防衛の復習・質的過剰防衛・量的過剰防衛
第 3 回	違法論・責任論（2）	誤想防衛・誤想過剰防衛
第 4 回	違法論・責任論（3）	責任能力判断
第 5 回	違法論・責任論（4）	原因において自由な行為を論じるにあたっての前提知識
第 6 回	違法論・責任論（5）	原因において自由な行為を巡る諸学説
第 7 回	違法論・責任論（6）	過失犯
第 8 回	正犯共犯論（1）	因果共犯論
第 9 回	正犯共犯論（2）	正犯性
第 10 回	正犯共犯論（3）	共謀の射程・共犯からの離脱
第 11 回	正犯共犯論（4）	承継的共犯
第 12 回	正犯共犯論（5）	共犯と他領域の交錯
第 13 回	罪数論	法条競合・包括一罪・科刑上一罪・併合罪
第 14 回	さいごに	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習が求められる。特に刑法総論Ⅰで学んだ内容や、教員の事前に指定する判例について、事前に確認することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西田典之ほか『判例刑法総論〔第 7 版〕』（有斐閣、2018）（授業開始までに改訂された場合には最新版）及び六法（小型のもので可）は毎回参照できるようにすること。追加資料がある場合は適宜配布する。

【参考書】

基本書等については受講者に委ねるが、初回に多少の案内を行う。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート及び期末レポートで評価する（それぞれ 40%、60%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義動画を視聴している学生と、視聴せずレジュメだけ見ていられる学生とは、評価に大きな開きがある。レジュメは講義の補助資料であり、レジュメだけでは具体的な考え方は身につかないので、毎週講義を受講すること。

【学生が準備すべき機器他】

講義動画を視聴するための PC 等の機器が必要となる。

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce students to the advanced materials on the general elements of crime and the criminal defenses.

LAW200AB

刑法総論Ⅰ

佐藤 輝幸、佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全てのコースに配置されている刑法総論は、法律学科の基本科目である刑法の内容のうち、全ての犯罪に共通する要素についてその内容と機能を明らかにし、犯罪の実質、成否についての統一的理解を導こうとするものである。刑法総論の授業科目としては、刑法総論Ⅰと刑法総論Ⅱが設けられているが、各コースに共通の選択必修科目である刑法総論Ⅰでは、刑法総論の内容のうち、刑事法全般にわたる入門的講義である概説刑事法で学修した知識・考え方を基礎に、犯罪の成否を判断するために必要な基本的な内容を講義する。より踏み込んだ高度な議論は刑法総論Ⅱで学習する。

【到達目標】

刑法総論に関するテーマについて、抽象的な条文の解釈を基本原理から理論的に導くという刑法総論特有の思考方法を習得するとともに、基本的な犯罪成立要件を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップしたレジュメに沿って、講義形式で行う。オンデマンド形式で講義動画を毎週配信する予定である。動画配信による講義であるところ、週によって講義時間の長さが異なる可能性がある。毎回の授業計画は、下記を基本とするが、受講者の理解度に応じて調整することがある。

質問については、オフィスアワーおよび学習支援システムによって対応する。また、中間レポートについては、期末試験までに講評をアップロードする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・刑法総論とは（佐野）	授業の進め方、教材等の説明。刑法総論の意義
第 2 回	刑法の基本原則（佐野）	刑罰の意義、罪刑法定主義、責任主義など
第 3 回	構成要件（佐藤）	構成要件の意義と機能・因果関係
第 4 回	違法性Ⅰ（佐藤）	刑法における違法の意義
第 5 回	違法性Ⅱ（佐藤）	緊急避難
第 6 回	違法性Ⅲ（佐藤）	正当防衛
第 7 回	違法性Ⅳ（佐藤）	その他の違法性阻却事由
第 8 回	責任Ⅰ（佐野）	刑法における責任の意義・故意前半
第 9 回	責任Ⅱ（佐野）	故意後半、過失
第 10 回	責任Ⅲ（佐野）	責任能力、違法性の意識の可能性
第 11 回	不作為犯論（佐藤）	不作為の意義と作為義務
第 12 回	未遂犯論（佐藤）	実行の着手、不能犯
第 13 回	共犯Ⅰ（佐野）	共犯の処罰根拠・教唆幫助
第 14 回	共犯Ⅱ（佐野）	共同正犯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

概説刑事法の内容を一通り理解していることを前提に行う。自信がない場合は、夏期休暇等を利用して、2、3 時間程度でも復習しておくことより刑法総論の修得に有益であろう。

概説刑事法の内容の理解があれば、予習よりも復習に力を入れ、分かったことと分からないことを明確化し、分からないことについては、オフィスアワー等で質問すること。大学は、勉強習慣を身につける場ではなく、研究に必要な知識や考え方を習得する場であるので、「学習時間」で判断することは無意味であるが、一応の目安として、上述の分かったことと分からないことの明確化を目的とした復習に 3 時間程度をかけ、余裕があれば、授業前にレジュメや入門書の該当箇所を読みしておくことと良い。さらに、学期末に、期末試験対策を兼ねて、15～20 時間程度かけて全体の復習をしておくことは、全体像の理解とそれに基づく相互の関連性の理解にもつながり、知識を定着させ、学修を深めるのに非常に有益である。

【テキスト（教科書）】

西田典之ほか『判例刑法総論』（第 7 版（授業開始までに改訂された場合には、新版を用いる）、2018、有斐閣）及び、六法（小型のもので良い）は、毎回持参すること。

【参考書】

基本書等については、受講者の自由に選択してよいが、選び方等に関して初回の授業で説明する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 50 %，期末レポート 50 %の予定である。詳細は学習支援システム等で告知する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメだけ読んで理解できている学生がいるようであるが、レジュメは、あくまで授業の補助資料であって、授業を聞いて補充することを予定しているものであるため、それだけで完結したものではないことを踏まえて学修すること。また、分からないことは、オフィスアワーなどを利用して積極的に質問すること。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義に伴い、PC や通信設備等が必要となる。

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce students to the fundamental principles of substantive criminal law. It addresses the basic penal theory, the general elements of crime and the criminal defenses.

LAW200AB

犯罪学

佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、犯罪をコントロールする方法を研究する刑事学のうち、犯罪の現状、すなわち、犯罪の原因や発生状況を分析することを目的とする。このような犯罪学は、刑法学における犯罪の成立要件の解釈や刑事政策学における犯罪予防の方策の研究に対して、基礎となる犯罪の現状認識を提供し、合理的かつ有効な研究を可能とするものである。

【到達目標】

前半の授業により、我が国における犯罪の現状について、データを基礎に（但し、データの限界を踏まえて）、その現状を理解することができる。

後半の授業により、なぜ犯罪が生じるのかについて、生物学、心理学、社会学等を利用した分析手法を学び、それに基づく仮説を検証することができる。

両者を総合して、犯罪対策、刑事政策のベースとなる正確なデータと理論的な仮説を調査し、自ら批判的に分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に強く関連。「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。状況によってはハイフレックス制になる可能性もあるが、少なくとも 4 月については動画配信により講義を行う。詳細は初回の講義動画で伝える。

授業支援システムにアップするレジュメに沿って行うが、犯罪白書のデータを適宜参照しながら行うので、授業中に参照できるようにすること。

なお、適宜オンラインでの質疑応答の機会を設けるとともに、中間レポートに対しては講評の機会を設ける予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、教材等の説明、犯罪学の意義。
第 2 回	犯罪統計の読み方	犯罪統計の種類と意義、分析の注意点など、犯罪統計の基本用語。
第 3 回	我が国の犯罪の全体像	我が国の治安に対するイメージ、認知件数・検挙件数の推移。
第 4 回	犯罪者の処遇に関する近年の動向	刑事手続きの各段階における処遇の現状。
第 5 回	個別の犯罪の検討 (1)	殺人の件数の推移、被害者との関係、処遇の動向、強盗の件数の推移、手口、処遇の動向。
第 6 回	個別の犯罪の検討 (2)	窃盗及び覚せい剤事犯、女性犯罪、高齢者犯罪。
第 7 回	個別の犯罪の検討 (3)	再犯者による犯罪の推移。
第 8 回	個別の犯罪の検討 (4)	少年の犯罪・非行に対する手続の概観、少年犯罪・非行の件数の推移。
第 9 回	犯罪の分析の刑事政策へのつながり	犯罪のイメージと実態、犯罪者処遇への示唆、刑事手続・処遇以前の対応の重要性。
第 10 回	犯罪原因論の歴史の概観	古典派犯罪学、犯罪生物学、犯罪心理学、犯罪社会学。
第 11 回	犯罪原因論の分析手法 (1)	古典派犯罪学の意義、初期の犯罪生物学の評価、新しい犯罪生物学。
第 12 回	犯罪原因論の分析手法 (2)	深層心理と犯罪、性格と犯罪、知能と犯罪、近時の心理学的アプローチ。
第 13 回	犯罪原因論の分析手法 (3)	初期の社会学的アプローチ、社会過程アプローチ、緊張理論、葛藤理論。
第 14 回	犯罪原因への新しいアプローチ	ラベリング論、コントロール理論、環境犯罪学、ニュークリミノロジー。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を中心に行う。具体的には、レジュメや教科書等の内容について、犯罪白書等のデータを基に自ら検証したり、参考文献を自分で読んでみたりすることで、理解を確認することを毎週 1 時間程度行うことを目安とする。これに加えて、期末対策を兼ねて、各テーマの関連性を理解するため、期末前に 15 時間程度全体の復習を行うことが有益であろう。

また、犯罪等に関する報道等に注意し、授業やデータに照らして考えてみることも望ましい。

【テキスト（教科書）】

法務省『令和 2 年版 犯罪白書』（冊子版の他、法務省のホームページ（http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html）でも閲覧可能）。

【参考書】

やや古いが犯罪学全体についての定評ある教科書として、瀬川晃『犯罪学』（1998、成文堂）。

犯罪統計の分析に関する詳細かつわかりやすい解説として、浜井浩一編著『犯罪統計入門』（第 2 版、2013、日本評論社）、同編著『刑事司法統計入門』（2010、日本評論社）。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート及び期末レポート（40%、60%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

講義動画を視聴するため、PC 等の機器が必要となる。

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce students to the basics of criminology. The first half of the class will focus on learning how to read statistics while the second half will introduce the mains theories and their evolution.

LAW200AB

刑事政策

今井 猛嘉

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、「犯罪学」が犯罪現象と犯罪原因を取り扱うのに対し、刑事制裁の内容を中心に、刑事司法制度における犯罪対策の在り方を学修する。

具体的な犯罪対策と、それを基礎付ける刑罰論を学修することにより、法解釈学にとどまらない幅広い視点から犯罪現象を捉える能力を身につけることを目指す。

【到達目標】

古くより対立の大きい問題（例えば死刑や保安処分）や、近時法改正の進んでいる問題（例えば没収追徴や執行猶予）について、抽象的な議論に止まらず、具体的な制度に関する知識に根ざした議論が展開できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に強く関連。「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。

・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	ガイダンス、犯罪学との関係
第 2 回	刑罰論 1	刑罰目的論についての議論状況の確認
第 3 回	刑罰論 2	刑罰とその他の制度との関係、非犯罪化
第 4 回	量刑理論	量刑の手続と基準、裁判員裁判との関係
第 5 回	死刑	死刑制度の現状、死刑選択基準、死刑存廃論
第 6 回	自由刑、財産刑	制度の現状、単一刑論、労役場留置、日数罰金制
第 7 回	没収追徴	没収追徴制度の現状、法的性質、組織犯罪に関する法改正
第 8 回	司法内処遇	微罪処分、起訴猶予、執行猶予
第 9 回	施設内処遇（1）	沿革、再犯と処遇
第 10 回	施設内処遇（2）	矯正処遇の現状
第 11 回	施設内処遇（3）	受刑者の法的地位
第 12 回	社会内処遇	仮釈放、保護観察
第 13 回	保安処分	刑罰との相違、措置入院制度、医療観察法
第 14 回	さいごに	まとめ（刑事制裁の内実と刑罰目的論の関係）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を中心に行う。

教科書にとどまらず、授業内で紹介する参考文献をも読むことで、刑事政策を巡る諸問題について主体的に考え、意見を持つことが望ましい。

本授業の復習時間は毎週約 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出敏裕＝金光旭『刑事政策〔第 2 版〕』（成文堂、2018）

【参考書】

法務省『令和元年版 犯罪白書』（冊子版の他、法務省のホームページ（http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html）でも閲覧可能）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce students to the way in which we control and prevent crimes within the criminal justice system. The issues this course addresses include the penal theories, the forms of criminal sanction and the civil commitment.

LAW200AB

労働法総論・労働契約法

藤本 茂

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雇用社会（労働関係）の紛争を解決する法領域が労働法である。雇用社会（労働関係）とは労働者が会社に雇われ、指示に従って働いて報酬を得る社会関係である。

労働法総論では労働法の生成や各分野・個別的労働関係法、労働組合と使用者の集团的労使関係法、雇用保障法への概要や紛争解決制度を学ぶ。

労働契約法では採用拒否、内定取消、配転・出向（人事異動）や解雇といった労働契約の形成・展開・終了に関する紛争の法的解決について学ぶ。その内容は判例法理の蓄積が反映されている。また、解雇規制緩和議論や人事異動しない正社員（多様な正社員）といったホットな論点でもある。

この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

- 1 この講義を学修することによって、労働法の意義・目的を把握し、本講義の法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
- 2 理解した論理で関連する事例について自分なりに考えることができる。
- 3 上記のことを文章で表現できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の諸問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は「労働法総論」と「労働契約法」を連続して進める。
- ・授業支援システムを活用して出席をチェックする。
- ・春学期はおそらくすべてオンラインで授業をすることになる。通常の授業時間で Zoom を利用する。
- ◎授業の進め方については、初回のガイダンスで話す。ガイダンスも Zoom でおこなう。
- ・Zoom では、「ビデオの停止」「ミュート」で受講するようお願いする。
- ・Zoom のミーティング ID やパスワードは、学習支援システムにて連絡する。
 - * 学習支援システムに登録したメールアドレス宛に、自動的にメールが送信される。
- ・講義終了後にミニテストを出題することがある。また、授業支援システムの「課題」を通して、課題をだすこともある。いずれも期限までに回答のこと。
- ◎リアクションペーパー等に対するフィードバックについて
 - ・質問等は、学習支援システムの「授業内掲示板」を利用してほしい。Zoom にチャット機能があるが、見逃したり話の途中でうまく返答できないことも考えられるので、「授業内掲示板」にてお願いしたい。回答も「授業内掲示板」を介して、受講生全員にフィードバックする。なお、個別の質問にはオフィスアワーを利用して欲しい。
 - ・リアクションペーパーにある質問については、回答が必要と思われるものについて、次回の授業開始前に、受講生全員にフィードバックする形で回答する。
- ◎レジュメ等
 - レジュメや資料は、学習支援システムに事前にアップロードする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／労働法の生成と理念	ガイダンスと近代社会での労働法の理念について学ぶ。
第 2 回	労働紛争解決制度	不当解雇問題や賃金の未払い問題、男女雇用差別問題などを解決する制度。労働審判制度や公的紛争解決制度をとり上げる。
第 3 回	日本的雇用慣行	日本的雇用慣行システムの内容と変容。労働法見直しの必要性の背景を知る。
第 4 回	労働条件決定の仕組み－労働契約	指揮命令に従って働く内容は労働条件といわれる。労働条件の決定は労働契約にある。
第 5 回	労働条件決定と就業規則	就業規則の法的性質/就業規則による労働条件の不利益変更。
第 6 回	労働条件決定と労働協約、労使協定など	労働協約や労使協定といった自分の労働条件が決まる、修行縛束以外のものを取り上げて学ぶ。
第 7 回	労働契約の締結	労働契約の成立。採用、内定、試用。
第 8 回	労働契約の期間	有期労働契約について学ぶ。

第 9 回	労働契約の権利・義務	労働契約上の権利義務。労働契約法に見る労働契約の原則。
第 10 回	人事異動－業務命令、配転	業務命令という権限と配転-同一使用者の下での人事異動の法理。
第 11 回	人事異動－出向、転籍	出向・転籍-異なる使用者の間での異動。
第 12 回	労働関係の終了－解雇以外の終了	労働契約の終了。その背景を考え、法的規制のありようを考える。終了原因からみると解雇によらない終了もあることを知る。
第 13 回	労働関係の終了－解雇	解雇。解雇の法規制について学ぶ。
第 14 回	企業再編と労働契約	合併・会社分割と労働契約の継承問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・シラバスを見て、授業で扱うテーマを知り、テキストとレジュメ（授業支援システムを通じて事前に配布）を最低限読んでおく。ノートにまとめておく。
- ・授業内容がより理解できる。
- ・授業の中で、気づいた必要箇所を書き加える。そののちテキストを使用して復習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所 2020）

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014 年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第 9 版）』（2016 年、有斐閣）
- ・金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦・山本圭子共著『基礎から学ぶ労働法Ⅰ【第 4 版・第 2 刷】』（エイデル研究所 2019）
- ・金子編集代表『基礎から学ぶ労働法Ⅱ【第 2 版】』（エイデル研究所 2016）
- ・六法はコンパクトなものでかまわないが、労働基準法施行規則などが掲載されているものを選ぶ。具体的には、開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・定期試験の評価が主と考えている。受験していないと評価が出せないで、評価を欲しい人は必ず受験すること。（70 %）
- ・上記定期試験（70 %）のほかに、授業内掲示板での質問内容やリアクションペーパーの内容（10 %）や課題・ミニテスト（20 %）も評価対象である。

【学生の意見等からの気づき】

語尾が聴き取りづらいことがあるとの意見があった。マイクを使い、最後まではっきりとしゃべることを心がけることで対応している。

【Outline and objectives】

The student attending this class learns Japanese Labor Law.

The class constitutes the introduction to Labor law and Labor Contract Act.

The introduction to Labor law - The student learns Generation of labor law (Employment law, Labor relations law) and Dispute settlement system.

Labor Contract Act - The student learns the rule of adoption, transfer and dismissal.

LAW200AB

労働基準法

藤本 茂

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、労働基準法とこれに関連する判例法理を扱う。法律学科の選択必修科目の一つであり、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

「企業・経営と法（労働法中心）」コースをモデルとして履修計画をたてている者は、良好な成績で単位を修得することが強く求められる。

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とこれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とこれに関連する判例法理についての基本的な問題に自分なりに考えることができるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とこれに関連する判例法理に関する事例について文章で回答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の諸問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・秋学期の少なくとも前半はオンラインで授業をすることになろう。通常の授業時間で Zoom を利用しておこなう。
- ・本講義は春学期の「労働法総論・労働契約法」に続く科目である。
- ・授業支援システムを活用して出席をチェックする。
- ◎授業の進め方については、初回のガイダンスで話す。ガイダンスも Zoom にておこなう。
- ・Zoom では、「ビデオの停止」「ミュート」で受講するようお願いする。
- ・Zoom のミーティング ID やパスワードは、学習支援システムにて連絡する。
 - * 学習支援システムに登録したメールアドレス宛に、自動的にメールが送信される。
- ・講義終了後にミニテストを出題することがある。また、授業支援システムの「課題」を通して、課題をだすこともある。いずれも期限までに回答のこと。
- ◎リアクションペーパー等に対するフィードバックについて
- ・質問等は、学習支援システムの「授業内掲示板」を利用してほしい。Zoom にチャット機能があるが、見逃したり話の途中でうまく返答できないことも考えられるので、「授業内掲示板」にてお願いしたい。回答も「授業内掲示板」を介して、受講生全員にフィードバックする。なお、個別の質問にはオフィスアワーを利用して欲しい。
- ・リアクションペーパーにある質問については、回答が必要と思われるものについて、次回の授業開始前に、受講生全員にフィードバックする形で回答する。
- ◎レジュメ等
- レジュメや資料は、学習支援システムに事前にアップロードする。・授業の進め方については、初回のガイダンスで話す。ガイダンスも Zoom にておこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	・ガイダンス ・労働基準法上の実効性確保の手段	・講義内容や評価方法の説明。労働法の全体像の説明。 ・労働基準法が定める基準を守らせるための手段について学習する。
第 2 回	労働基準法の適用範囲・労働関係の当事者 (1)	労働基準法の効力が及ぶ範囲について。労働基準法上の「労働者」の概念など
第 3 回	労働基準法の適用範囲・労働関係の当事者 (2)	労働基準法上の「使用者」の概念など
第 4 回	総則	均等待遇原則、強制労働の禁止等
第 5 回	賃金 (1)	賃金の定義、賃金支払規制
第 6 回	賃金 (2)	休業手当、最低賃金規制
第 7 回	賃金 (3)	賞与（ボーナス）、退職金
第 8 回	労働時間規制 (1)	法定労働時間規制、労働時間の概念
第 9 回	労働時間規制 (2)	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制

第 10 回	労働時間規制 (3)	割増賃金、労働時間規制の適用除外
第 11 回	変形労働時間制	変形労働時間制・フレックスタイム制
第 12 回	みなし労働時間制度	事業場外労働のみなし時間制・裁量労働制
第 13 回	休暇・休業・退職	年次有給休暇を中心した法的問題
第 14 回	労働者の安全衛生	労働安全衛生法に関する問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に教科書の該当部分と配付プリントに十分目を通しておく。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としている。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020 年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014 年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第 9 版）』（2016 年、有斐閣）
- ・金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦・山本圭子共著『基礎から学ぶ労働法Ⅰ【第 4 版・第 2 刷】』（エイデル研究所、2019 年）
- ・金子編集代表『基礎から学ぶ労働法Ⅱ【第 2 版】』（エイデル研究所、2016 年）
- ・六法はコンパクトなものでかまいませんが、労働基準法施行規則などが掲載されているものをご購入してください。具体的には、開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- （レポート試験）
- ・期末試験としてレポート試験を実施する。概要は、学習支援システム上で案内する。(70 %)
- ・期末試験を最も重視するため、受験しなかった者の評価はしない。
- ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準としている。(Web 小テストなど)
- ・講義で実施することのあるミニテスト、課題、質問を 30 点満点に換算して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

話しの最後が聞き取りにくいときがあるとの指摘を受け、語尾をきちんと話すよう心掛けています。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to lecture on basic subjects of Japanese Labor Law.

The outline is as follows:

1. About a Labor Standards Act;
2. A case law concerning the Labor Standards Act.

LAW200AB

労働法総論・労働契約法

浜村 彰

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義は、企業・経営と法コース（労働法中心）に属する科目であり、労働法総論では、労働法全体の基本的仕組みや労働法の基本理念・原理に関する最近の論議の状況を踏まえたうえで、昨今の労働法の改正動向を紹介し、日本の雇用慣行の変化が労働法の法制度や理論にどのような影響を与えているのか、という点について講義を行う。

・労働契約法については、労働契約法の全体の概観をしたうえで、労働契約の締結から終了にいたる過程で発生する労働契約をめぐる法的問題を学習する。労働契約上の労働条件の決定の仕組みを理解したうえで、採用や配転・出向、就業規則による労働条件の決定と変更、解雇規制の問題のほかに、最近の企業の雇用管理の変化と年俸制などの賃金制度をめぐる最近の問題を取り上げる。

【到達目標】

・労働法全体の仕組みを正確に理解し、説明することができる。

・労働法の基本的考え方、理念・原理に基づき、労働法の問題を思考することができる。

・労働契約法の意義、目的を正確に把握し、労働契約法制全体を説明することができる。

・労働契約上の労働条件決定の仕組みを理解し、採用・試用期間、配転・出向、就業規則による労働条件の決定と変更、解雇、賃金などをめぐる応用的な問題について自分で解決方法を思考することができる。

・労働相談を受けたときに、自分でその問題を調べ、整理、思考して課題解決策を見出し、自分なりの答えをアドバイスすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本として開講する予定であるが、状況に応じてハイフレックス型またはハイブリット型授業を行うこととする。授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	労働法総論-日本型雇用社会の変容と労働法の改編	労働法とはなにか、労働法の基本理念と原理を踏まえたうえで、最近の雇用・労務管理の変化と労働法制の動向、労働法理論の新しい問題を扱う。
第 2 回	個別的労働紛争処理法	使用者と労働者との間で発生する個別的労働関係紛争を処理・解決する法制度について勉強する。
第 3 回	労働契約法・労働基準法の適用範囲	労働法上の保護の対象となる労働者とは何か、使用者と何か、という労働法の入り口の問題を講義する。
第 4 回	労使対等決定原則と労働憲章	労働契約上の労働条件決定に関する労使対等決定原則と思想・信条の自由などの労基法の労働憲章について学ぶ。
第 5 回	労働契約の終了	労働契約法の様々な問題のなかめ石となる解雇法制と退職、解雇の金銭解決制度などの労働契約の終了をめぐる法的問題を講義する。
第 6 回	労働契約の締結	労基法上の労働条件明示義務、採用内定、試用期間などの労働契約の締結をめぐる法的問題を理解する。
第 7 回	労働契約の期間	労基法上の労働契約の期間に関する規定と有期労働契約をめぐる法的問題を労働契約法の規制を含めて講義する。
第 8 回	就業規則による労働条件の決定と変更①	労基法上の就業規則法制を踏まえたうえで、労働契約上の労働条件を決定する就業規則の法的性質と労働契約法の仕組みについて学ぶ。
第 9 回	就業規則による労働条件の決定と変更②	就業規則による労働契約上の労働条件の不利益変更をめぐる問題について判例法理を整理し、労働契約法の仕組みを理解する。

第 10 回	労働契約上の権利・義務	労働契約の主たる権利・義務と個別的労働条件の決定と変更に関して配転・出向を素材に講義する。
第 11 回	労基法上の賃金規制と最低賃金法	労基法上の賃金とは何か、賃金保護規定、休業手当、最低賃金制度などについて講義する。
第 12 回	能力・成果主義的賃金制度と最低賃金法	年功的賃金制度、年俸制、能力・成果主義的賃金制度など伝統的な賃金制度と最近の賃金制度の変容を扱う。
第 13 回	労働災害	労働災害と補償制度の仕組み、過労死・過労自死問題について学習する。
第 14 回	試験・まとめと解説	13 回の授業をまとめ・解説し、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

・指定教科書であるベーシック労働法（第 8 版）の該当部分を必ず読むこと。授業でも随時使用する。また、裁判資料などあらかじめ配布、授業支援システムに掲載されたものは必ず読んでくること。

【テキスト（教科書）】

指定教科書：浜村・唐津・青野・奥田著『ベーシック労働法』（第 8 版）（有斐閣、2020 年）。六法は必ず持参してくること（ただし、タブレット等を用いても構わないが、定期試験の時には参照できないことに注意）。

【参考書】

授業で使う裁判資料等は当日配布するか、事後に授業支援システムにアップする。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや授業改善アンケートの結果を踏まえ、継続的に授業の改善を行う。

【その他の重要事項】

授業中にスマホやタブレットで参考資料を見ることは禁じないが、私用で用いることは厳禁し、また、試験中は禁止。

【専門領域と研究業績】

<専門領域>労働法

<研究テーマ>従業員代表制、労働契約法、労働時間法

<主要研究業績>

『ベーシック労働法第 8 版』（有斐閣、2020 年）、『ライフステージと法（第 8 版）』（有斐閣、2020 年）、「改正労働者派遣法による派遣労働者の均等・均衡待遇」季労 268 号（2020 年）、「最高裁判例法理の再検討⑥秋北バス事件－就業規則の法的性質」労旬 1957 号（2020 年）、「プラットフォームエコノミーと就労者の法的保護」労委労協 762 号（2020 年）、「タクシー乗務員の歩合給からの残業手当相当額の控除」ジュリスト令和 2 年度重要判例解説（2021 年）

【Outline and objectives】

・ General Labor Law theory introduces recent trends in labor law reforms and lectures on what of influence the changes of Japanese employment practices have for legal system and theory.

・ Regarding the Labor Contract Law, we learn the legal issues concerning labor contracts that arise in the process from the conclusion of labor contracts to the termination, specifically the problems such as recruitment and relocation, decision and change of working conditions by work rules, restrictions on dismissal etc.

LAW200AB

労働基準法

浜村 彰

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・労働基準法は、企業・経営と法コース（労働法中心）に属する科目であり、主に労働時間に関する法的問題を取り扱う。2007 年から労基法は幾度も改正され、労働時間の弾力化や多様化が進んでいるが、その一方正規従業員の労働時間の短縮はいっそうに進んでおらず、過労死や過労自殺が大きな社会問題となっている。労働時間法制的現状と問題点を具体的問題を素材にしながら体系的に学ぶ。また、労基法の労働時間以外の主要論点についても、ここで取り上げて実務上の留意点についても講義する。

・労働基準法を学ぶことで、会社等に就職したときに不当な扱いを受けても、自分の権利や利益を守ることができる。

【到達目標】

・労働基準法の意義・目的を理解し、労基法の全体の仕組みを説明できる。

・労働時間法制的理念・目的を踏まえて、労働時間規制の意義を理解できる。

・労働時間に関する具体的テーマについて、学説・判例の現状を理解し、その法的解決の方法を説明できる。

・労働時間をめぐる法的問題に直面したときに、必要な参考文献や資料を収集し、それを整理・理解したうえで、解決方法を思考できる。

・労働時間に関する法的問題を相談されたときに、適切な解決策をアドバイスすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・対面授業を基本として開講する予定であるが、状況に応じてハイフレックス型またはハイブリット型授業を行うこととする。授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	労働基準法総論	労働基準法の理念・目的と全体の仕組みを概観し、最近の労働基準法の改正動向を講義する。
第 2 回	労働時間の短縮と政策－法定労働時間の意義と例外	労働時間短縮の意義と時間政策の推移・現状を総括し、労基法の法定労働時間などの時間規制の意義について考えてみる。
第 3 回	時間外労働・休日労働	時間外労働・休日労働の法的規制の仕組みと残業義務をめぐる学説判例の到達点を学ぶ。
第 4 回	労働時間の概念と起算点	労基法上の労働時間とは何かを労働時間の算定方法を具体的テーマとして判例法理の到達点を踏まえて学習する。
第 5 回	労働時間の弾力化	労働時間の弾力化措置として、1 ヶ月単位の変形労働時間制、1 年単位の変形労働時間制およびフレックス・タイム制について講義する。
第 6 回	労働時間のみなし制	事業場外労働と裁量労働制について労働時間のみなしという特別な計算方法を理解する。
第 7 回	休憩・休日	労基法上の休憩・休日に関する法規制の仕組みとそれに関する法律問題の実務を学習する。
第 8 回	年次有給休暇	労基法上の年次有給休暇の意義とその法的問題点について、最近の法改正と裁判実務について講義する。
第 9 回	労働時間の適用除外と高度プロフェッショナル制度	管理監督者等に対する時間規制の適用除外と最近論議されている高度プロフェッショナル制度の導入問題について考える。
第 10 回	年少者・妊産婦等の労基法上の保護	年少者・女性労働者の労基法上の保護と育児・介護休業制について学習する。

第 11 回	労働災害と災害補償制度	労働災害の現状・労働者災害補償保険法の仕組みと業務上災害の認定方法について実務的知識を身につける。
第 12 回	過労死・過労自死と安全配慮義務	最近の過労死・過労自死と民事上の安全配慮義務について裁判実務の動向を講義する。
第 13 回	最近の労働基準法のトピックス	労働基準法をめぐる改正動向とホットな問題について講義する。
第 14 回	試験・まとめと解説	13 回の授業を振り返り、まとめと解説をするとともに、授業内試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

・指定テキストのほかに、随時授業の際に配布または授業支援システムにアップされる参考資料をあらかじめ読んでくること。なお、テキストは授業で随時使用する。また、六法は必ず持参すること（タブレット等でも良い）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定テキスト：浜村・唐津・青野・奥田『ベーシック労働法（第 8 版）』（有斐閣、2020 年）のほか、随時参考資料や裁判例を授業支援システムにアップする。

【参考書】

授業中、タブレットやスマホは資料参照のために使用してよいが、私用は厳禁。また、試験中の使用は禁止。

【成績評価の方法と基準】

主として定期試験の評価（90 %）によるが、リアクションペーパーの提出（10 %）も加味する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等に記載された意見・要望を参考に随時改善する。

【専門領域と研究業績】

<専門領域>労働法
 <研究テーマ>従業員代表制、労働契約法、労働時間法
 <主要研究業績>

『ベーシック労働法第 8 版』（有斐閣、2020 年）、『ライフステージと法（第 8 版）』（有斐閣、2020 年）、「改正労働者派遣法による派遣労働者の均等・均衡待遇」季労 268 号（2020 年）、「最高裁判例法理の再検討⑥秋北バス事件－就業規則の法的性質」労旬 1957 号（2020 年）、「プラットホームエコノミーと就労者の法的保護」労委労協 762 号（2020 年）、「タクシー乗務員の歩合給からの残業手当相当額の控除」ジュリスト令和 2 年度重要判例解説（2021 年）

【Outline and objectives】

・ This lecture,the Labor Standards Law,mainly deals with legal issues concerning working hours. Since 2007, the Labor Standards Law has been revised many times, the working hours are becoming flexible and diversified. But on the other hand reduce of working hours of regular employees has not progressed, and The death from overwork and overworked suicide is a big social problem. We learn the current state and problems of working hours legislation systematically while using concrete problems as materials.

LAW300AB

労働組合法

浜村 彰

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この科目は、企業・経営と法コース（労働法中心）に属しており、労働組合法の基本理念・原理を学んだ上で、憲法 28 条の定める団結権、団体交渉権、団体行動権の保障とそれをめぐる労働組合法の法制度および主要な問題を講義する。とりわけ、労組法の骨格といえる不当労働行為制度を中心に、労働組合の内部問題、組合活動、労働協約、争議行為などをめぐる最高裁判例を取り上げて、具体的な問題点を検討する。

【到達目標】

・労働組合法の意義、目的を正確に理解し、労働組合法全体を説明することができる。
 ・労働組合法の主要問題に関する基本的考え方と最高裁判例の意義を理解し、体系的に思考することができる。
 ・労働組合法に関する具体的問題については、その法的論点を把握し、その問題の解決を導き出すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・対面授業を基本として開講する予定であるが、状況に応じてハイフレックス型またはハイブリット型授業を行うこととする。授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
 ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	労働組合法総論	労働組合法の意義・目的および全体の仕組みを理解した上で、基本的考え方の整理を行う
第 2 回	憲法 28 条の労働基本権保障	憲法 28 条の保障する団結権・団体交渉権・団体行動権の規範的意義と法的効果を学ぶ
第 3 回	公務労働と団結権保障	国家公務員や地方公務員の争議行為を禁止する現行法制の問題点について、とくにストライキ権の意義の面から考察する
第 4 回	労働組合法上の労働者と使用者	労働組合法上の労働者・使用者概念の拡張について、最高裁判例を中心に学ぶ。
第 5 回	労働組合と統制処分	労働組合の組織と運営をめぐる法的問題を解説する。とくに労働組 第 14 回 企業組織の変動と労働 契約 企業の合併・事業譲渡・分割にと もなう労働契約の承継にあり方について学習する。 [準備学習等] 同上 合法上の労働組合の要件である組合の自主性と民主性と労働組合の統制処分について検討する。
第 6 回	労働組合の組織強制	労働組合の組織強制手段であるユニオン・ショップ協定の法的効力と限界およびチェック・オフについて学習する。
第 7 回	不当労働行為制度の意義と不利益取扱い	労組法の労働組合保護の中心的制度である不当労働行為制度の意義と労組法 7 条 1 号の不利益取扱いをめぐる学説・判例の議論状況を理解する。
第 8 回	支配加入	労組法 7 条 3 号の支配加入の意義・成立要件・法的救済のあり方について学ぶ。
第 9 回	組合活動	企業内組合活動の正当性について、労組法 7 条の不当労働行為と関連付けながら、学説判例の議論の状況を整理する

第 10 回	団体交渉	日本における労使協議制と団体交渉制度の法的仕組みおよび労組法 7 条 2 号の団交拒否と誠実交渉義務について検討する。
第 11 回	争議行為・使用者の葬儀 対抗行為	労働組合の行うストライキ等の争議行為の正当性と刑事・民事免責および使用者の行うロックアウトについて学習する。
第 12 回	労働協約による労働条件 の決定	労働条件決定の仕組みのうち、集团的労働条件決定としての労働協約の法的性質・規範的効力・一般的拘束力について学ぶ。
第 13 回	労働協約による労働条件 の不利益変更	集团的労働条件の変更としての労働協約による労働条件の不利益変更について判例法理と学説の議論を整理する。
第 14 回	試験・まとめと解説	13 回の授業をまとめ、解説するとともに、授業内試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とする。
 ・指定教科書であるベーシック労働法（第 8 版）の該当部分を必ず事前に読むこと。また、裁判資料など授業中に配布したプリントは必ず授業が終わった後、確認して読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定教科書：浜村・唐津・青野・奥田著『ベーシック労働法（第 8 版）』（有斐閣、2020 年）。6 法は必ず持参してくること。ただしスマホ・タブレット等を用いてもかまわないが、定期試験の時は参照できないことに注意。

【参考書】

授業で使う裁判資料等は当日配布し、その後、授業支援システムにアップする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の具体的な方法と基準は、授業形態に依るので、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果を踏まえ、継続的に授業の改善を行う。

【専門領域と研究業績】

<専門領域>労働法
 <研究テーマ>従業員代表制、労働契約法、労働時間法など
 <主要研究業績>

『ベーシック労働法第 8 版』（有斐閣、2020 年）、「ライフステージと法（第 8 版）」（有斐閣、2020 年）、「改正労働者派遣法による派遣労働者の均等・均衡待遇」季労 268 号（2020 年）、「最高裁判例法理の再検討⑥秋北バス事件－就業規則の法的性質」労旬 1957 号（2020 年）、「プラットフォームエコノミーと就労者の法的保護」労委労協 762 号（2020 年）、「タクシー乗務員の歩合給からの残業手当相当額の控除」ジュリスト令和 2 年度重要判例解説（2021 年）

【Outline and objectives】

・ In this lecture, after learning the basic ideas and principles of the labor union law, we learn on the right of organization, collective bargaining and collective action protected by Article 28 of the Constitution and the legal system and major problems of the labor union law surrounding those rights. In particular, focusing on the unfair labor practice system which can be said to be the framework of the labor union law, we take up the cases of the Supreme Court concerning internal labor union problems, union activities, collective agreements, dispute acts, etc. and discuss specific problems.

LAW300AB

労働法特論

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、非正規労働者に関する法（労働契約法のうち有期契約労働者に関する部分、パートタイム労働法など）、労働市場に関する法（職業安定法、労働者派遣法など）、高齢者雇用・障害者雇用に関する法を扱う。

法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また「企業・経営と法（商法中心）」「文化・社会と法」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※

・本講義は、ハイフレックス授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業になる場合がある。オンライン授業となった場合は、Zoom を使用する。

・講義は、PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。

・何らかのチャットアプリ（執筆時点では LINE オープンチャットを利用予定）を用いて、双方向型の講義とする予定である。

・授業に関する質問等についてはチャットアプリにて、試験については学習支援システム（採点基準や成績分布等の情報提供）を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容や評価方法の説明。労働法の全体像の説明。労働法特論の労働法における位置付けの説明。
第 2 回	女性・年少者の保護	女性・年少者の保護のカatalogについて学習する。
第 3 回	性差別の禁止（1）	男女同一賃金原則について学ぶ。
第 4 回	性差別の禁止（2）	均等法の制定と発展について学ぶ。
第 5 回	ハラスメント	職場における様々な形態のハラスメントについて学ぶ。
第 6 回	育児介護休業法	育児介護休業法上の諸制度について理解する。
第 7 回	有期雇用労働者・パート労働者（1）	有期契約労働者に関する保護策について学習する。
第 8 回	有期雇用労働者・パート労働者（2）	均衡・均等処遇を中心にパート有期法について学習する。
第 9 回	派遣労働者（1）	労働者派遣の歴史について学ぶ。労働者派遣の基本的枠組みを理解する。
第 10 回	派遣労働者（2）	派遣元事業主と派遣先事業主が講じるべき措置等について学習する。
第 11 回	高齢者	高齢者の雇用の安定に関する措置について学ぶ。
第 12 回	障害者	障害者権利条約の批准と障害者雇用促進法の改正点について学習する。
第 13 回	外国人	外国人労働者の就労と適用される労働法について学習する。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。

・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。

・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020 年）
・プリント教材

【参考書】

・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014 年、有斐閣）
・別冊ジュリスト『労働判例百選（第 9 版）』（2016 年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

試験（70 点）

・期末試験として 1 回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを、評価基準とする。

Web 小テスト（30 点）

・講義ごとに実施する小テストの点数を 30 点満点に換算して評価します。
※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【その他の重要事項】

・「労働法総論・労働契約法」、「労働基準法」を履修していることが望ましい。
・同時に、「社会政策」、「雇用・福祉政策」を履修するとより理解を深めることができる。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to lecture on development subjects of Japanese Labor Law.

The outline is as follows:

1. A law on non-regular workers;
2. The Law of the Labor Market;
3. A law on Employment of the Elderly;
4. A law on Employment of Persons with Disabilities.

LAW300AB

社会保障法 I

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会保障法のうち社会保障法総論及び福祉関係法を扱う。法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目であり、「行政・公共政策と法」コースの履修推奨科目である。社会保障の総論や社会福祉は、企業が提供する法定内外の福利厚生に密接に関連する。さらに社会保障は、誰もがその恩恵を受けうるものであり、「企業・経営と法」コースを主体に科目選択している学生だけではなく、すべての学生にとって必要な知識である。しがたつて、社会保障制度の理論的根拠としての総論をふまえて、個別の諸制度の目的、制度内容そしてその課題についての情報を提供する。

社会保障は、行政サービスの大きな部分を占めていることから、法律学科の「行政・公共政策と法」コースが想定する職業に就くことを検討している方も、受講するのがのぞましい。

【到達目標】

1. 社会保障法の定義、法体系などの総論的事項、および生活保護法と福祉法の概要を説明できるようになる。
2. 生活保護法と福祉法の法的問題点について、自己の見解を説得的に論じることができるようになる。
3. 1～2で獲得した知識をもって、実社会で想定される公的扶助・社会福祉領域での基本的問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※

・本講義は、ハイフレックス授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業になる場合がある。オンライン授業となった場合は、Zoom を使用する。

・初回講義時（2021 年 4 月 13 日）は、Zoom にてオンラインで実施する。

・講義は、PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。

・何らかのチャットアプリ（執筆時点では LINE オープンチャットを利用予定）を用いて、双方向型の講義とする予定である。

・授業に関する質問等についてはチャットアプリにて、試験については学習支援システム（採点基準や成績分布等の情報提供）を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、学習方法などについて説明を行う。
第 2 回	社会保障法の概論	社会保障法学の射程、限界などに関して考察する。
第 3 回	社会保障法の法源等	社会保障法の定義・法体系・発展経緯を解説する。
第 4 回	生存権	生存権の意義・学説・判例について考察する。
第 5 回	生活保護法の概要	公的扶助の歴史、生活保護法の原理・原則、自立の意義について考える。
第 6 回	生活保護法における補足性の原理	補足性の原理の具体的内容、および関連判例を検討する。
第 7 回	生活保護法のその他の原理・原則等	世帯単位の問題ほか、被保護者の権利・義務について説明し、関連判例について考察する。
第 8 回	福祉関係法の概要	福祉の意義、福祉法制の発展経緯のほか、社会福祉基礎構造改革について説明する。
第 9 回	福祉関係法（障害者福祉）	障害者関連法の概要について解説する。
第 10 回	福祉関係法（高齢者福祉）	介護保険法など、高齢者福祉に関する法律について検討する。
第 11 回	福祉関係法（児童福祉）	児童福祉に関する法律について説明する。
第 12 回	福祉関係法（家庭福祉）	ひとり親世帯等の福祉に関する法律について説明する。
第 13 回	社会手当法	社会手当の概念、および子ども手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法の概要を説明する。

第 14 回 総合研究

社会保障法に関する近年の法的諸問題を取り上げて、考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】

- ・本沢己代子・新田秀樹編『トピック社会保障法（第 15 版）』（信山社、2021 年 4 月刊行予定）
 - ・菊池馨実『社会保障法【第 2 版】』（有斐閣、2018 年）
- このほか、生活保護制度の行政実務の実態を理解するためには、柏木ハルコ作の『健康で文化的な最低限度の生活』のコミック各巻は、大いに参考となる。

【成績評価の方法と基準】

試験（70 点）

- ・期末試験として 1 回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。

- ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを、評価基準とする。

Web 小テスト（30 点）

- ・講義ごとに実施する小テストの点数を 30 点満点に換算して評価します。

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to lecture on Japanese Social Welfare Law.

The outline is as follows:

1. About Article 25 of the Constitution of Japan;
2. Japanese Public Assistance Act;
3. Welfare law for people with disabilities;
4. Elderly Welfare law;
5. Child Welfare Act.

LAW300AB

社会保障法Ⅱ

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会保障法のうち社会保険法を扱う。法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目であり、「行政・公共政策と法」コースの履修推奨科目である。社会保険は、企業が提供する法定内外の福利厚生に密接に関連する。さらに社会保険は、誰もがその恩恵を受けうるものであり、「企業・経営と法」コースを主体に科目選択している学生だけではなく、すべての学生にとって必要な知識である。社会保険法に含まれる個別の諸制度の目的、制度内容そしてその課題についての情報を提供する。

社会保険は、行政サービスの大きな部分を占めていることから、法律学科の「行政・公共政策と法」コースが想定する職業に就くことを検討している方も、受講するのがのぞましい。

【到達目標】

1. 社会保障法のうち社会保険法（医療関係法、年金法、労災保険法、雇用保険法）の概略について説明できるようになる。
2. 社会保障法のうち社会保険法（医療関係法、年金法、労災保険法、雇用保険法）の法的問題点について、自己の見解を説得的に論じることができるようになる。
3. 1～2で獲得した知識をもって、実社会で想定される社会保険法上の基本的問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※

・本講義は、ハイフレックス授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業になる場合がある。オンライン授業となった場合は、Zoom を使用する。

・講義は、PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。

・何らかのチャットアプリ（執筆時点では LINE オープンチャットを利用予定）を用いて、双方向型の講義とする予定である。

・授業に関する質問等についてはチャットアプリにて、試験については学習支援システム（採点基準や成績分布等の情報提供）を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、学習方法などについて説明を行う。
第 2 回	医療保障（1）	医療関係法の法体系、医療受給権の特徴などについて説明する。
第 3 回	医療保障（2）	保険診療の仕組みを説明し、関連判例について考察する。
第 4 回	医療保障（3）	健康保険法の概要を説明し、関連判例について考察する。
第 5 回	医療保障（4）	国民健康保険法等の概要を説明し、関連判例について考察する。
第 6 回	年金保険（1）	年金法の法体系、概要、年金受給権の法構造、スライド制などについて説明する。
第 7 回	年金保険（2）	老齢年金と障害年金の概要を説明し、関連判例について考察する。
第 8 回	年金保険（3）	遺族年金の概要を説明し、関連判例について考察する。
第 9 回	年金保険（4）	年金分割制度等について説明する。
第 10 回	労災保険（1）	労災保険法の概要、同法で使用される諸概念について説明する。
第 11 回	労災保険（2）	業務災害給付について説明し、関連判例を考察する。
第 12 回	労災保険（3）	通勤災害給付について説明し、関連判例を考察する。
第 13 回	雇用保険（1）	求職者給付について説明し、関連判例を考察する。
第 14 回	雇用保険（2）	就職促進給付、教育訓練給付、雇用継続給付について説明し、関連判例を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前の一読のこと。
- ・課題プリントに解答すること（覚えるべきことが多いことによる措置）。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】

- ・東京都産業労働局「働く人のための労働保険 社会保険」(<http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/sodan/siryo/index.html>)
- ・本沢己代子・新田秀樹編『トピック社会保障法（第 15 版）』（信山社、2021 年 4 月刊行予定）
- ・菊池馨実『社会保障法【第 2 版】』（有斐閣、2018 年）

【成績評価の方法と基準】

試験（70 点）

- ・期末試験として 1 回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
- ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを、評価基準とする。

Web 小テスト（30 点）

- ・講義ごとに実施する小テストの点数を 30 点満点に換算して評価します。
- ※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【その他の重要事項】

事前に社会保障法Ⅰを履修していることがのぞましい。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to lecture on Japanese Social Insurance Law.

The outline is as follows:

1. Japanese Health Insurance Act;
2. Japanese Pension Insurance Law;
3. Japanese Unemployment Insurance Law.

LAW300AB

社会政策

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会政策」の講義では、講学上の「社会政策」領域のうち、古くから議論されている労働時間や雇用・失業、賃金などの労働問題に関する政策上の課題を対象とする。これらの問題について、どのような政策上の手当がなされ、それがどのような問題に直面し、どのような解決策が考えられているのかについて、統計データなどをとって解説することになる。

法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」の中心科目であり、「行政・公共政策と法コース」の履修推奨科目である。また、「文化・社会と法コース」の履修することが望ましいとされている科目でもある。このように多様な学生のニーズに応えられるものとなっている。

【到達目標】

1. 労働時間や賃金、雇用の安定など、「社会政策」上の古くから議論されているテーマについて、今の社会でどのような点が問題となっているか正確に理解できる。
2. 労働時間や賃金、雇用の安定など、「社会政策」上の古くから議論されているテーマについて、今後のあるべき国家像をイメージしながら、問題の解決方法について自分なりの考え方をまとめることができる。
3. 労働時間や賃金、雇用の安定など、「社会政策」上の古くから議論されているテーマについて、2. でまとめられた自分なりの考え方を説得的に文章で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※

・本講義は、ハイフレックス授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業になる場合がある。オンライン授業となった場合は、Zoom を使用する。

・初回講義時（2021 年 4 月 13 日）は、Zoom にてオンラインで実施する。

・講義は、PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。

・何らかのチャットアプリ（執筆時点では LINE オープンチャットを利用予定）を用いて、双方向型の講義とする予定である。

・授業に関する質問等についてはチャットアプリにて、試験については学習支援システム（採点基準や成績分布等の情報提供）を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方、評価方法についての説明。
第 2 回	社会政策上の課題	社会政策が直面している問題について説明する。
第 3 回	社会政策の歴史	社会政策発展の歴史について学習する。
第 4 回	長期安定雇用の歴史的検討	社会政策と密接に関係する日本の特徴的な雇用慣行について歴史的に考察。
第 5 回	長期安定雇用の現状	社会政策と密接に関係する日本の特徴的な雇用慣行に関する現状と課題について。
第 6 回	解雇規制の現状と課題	解雇規制について。とりわけ、解雇の金銭解決制度の是非を中心に取り上げる。
第 7 回	解雇規制以外の失業予防策	解雇規制以外の失業の予防について、その現状と課題を説明する。
第 8 回	雇用保険制度の現状と課題	失業した場合の所得保障政策である雇用保険制度について、その現状と課題について学習する。
第 9 回	労働時間規制の根拠と現状の規制水準	労働時間規制の根拠について確認した上で、日本の労働時間規制の現状について学習する。
第 10 回	時間外労働の規制と課題	時間外労働に関する規制の現状と課題について学習する。とりわけ 36 協定の問題点を中心に取り上げる。
第 11 回	過労死・過労自死	過労死・過労自死と長時間労働の問題について。
第 12 回	自律的労働時間制度の是非	構想されている新たな労働時間制度について。

第 13 回 教育訓練と社会政策

労働者の職業能力の向上の必要性について

第 14 回 労使関係と社会政策

使用者と労働組合の関係に関する歴史と現状、課題について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】

久本憲夫『日本の社会政策（改訂版）』（ナカニシヤ出版、2015 年）3,200 円＋税。その他必要な場合には講義中に案内する。

【成績評価の方法と基準】

試験（100 点）

・期末試験として 1 回実施する。

・基本的な知識の確認と、問われた問題に対する私見を論理的に解答できているかを、この私見の評価基準とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【その他の重要事項】

・講義内容は、雇用・社会保障分野に政策上の大きな展開があれば、それを取り上げることがある。

・講義内容は、受講者の問題関心や理解度に応じて、適宜変更する場合がある。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to lecture on Social Policy.

The outline is as follows:

1. History of Social Policy;
2. Japanese employment practices and Social Policy;
3. Dismissal regulations;
4. Working hours regulation.

LAW300AB

雇用・福祉政策

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「雇用・福祉政策」の講義では、講学上の「社会政策」領域のうち、比較的新しい問題である非正規労働や雇用平等といった労働問題や、社会保障に関する政策上の課題など、雇用や社会保障の交錯領域の問題を対象とする。具体的には、非正規労働問題、女性労働の問題、少子高齢社会などの問題を切り口に、労働問題、社会保障問題について説明することになる。

講義では、これらの問題についてどのような政策上の手当がなされ、それがどのような問題に直面し、どのような解決策が考えられているのかについて、統計データなどをもとに解説することになる。

法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」の中心科目であり、「行政・公共政策と法コース」の履修推奨科目である。また、「文化・社会と法コース」の履修することが望ましいとされている科目でもある。このように多様な学生のニーズに応えられるものとなっている。

【到達目標】

1. 非正規労働や均等待遇、少子社会問題など、「社会政策」上の比較的新しいテーマについて、今の社会でどのような点が問題となっているか正確に理解できる。
2. 非正規労働や均等待遇、少子社会問題など、「社会政策」上の比較的新しいテーマについて、今後のあるべき国家像をイメージしながら、問題の解決方法について自分なりの考え方をまとめることができる。
3. 非正規労働や均等待遇、少子社会問題など、「社会政策」上の比較的新しいテーマについて、2. でまとめられた自分なりの考え方を説得的に文章で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※

・本講義は、ハイフレックス授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業になる場合がある。オンライン授業となった場合は、Zoom を使用する。

・講義は、PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。

・何らかのチャットアプリ（執筆時点では LINE オープンチャットを利用予定）を用いて、双方向型の講義とする予定である。

・授業に関する質問等についてはチャットアプリにて、試験については学習支援システム（採点基準や成績分布等の情報提供）を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方、評価方法説明。
第 2 回	非正規労働者をめぐる問題の現状。	就労形態の多様化（非正規化）に関する問題を、総論的に説明。
第 3 回	労働者派遣制度の現状	労働者派遣制度の制度枠組みについて学習する。
第 4 回	労働者派遣制度の課題	労働者派遣制度が直面する課題について学習する。
第 5 回	均等・均衡処遇問題の現状	正規労働者と非正規労働者との間の均等・均衡処遇問題に関する現状について。
第 6 回	均等・均衡処遇問題の課題	近年の法政策を EU 等の諸外国の施策との比較で検討する。
第 7 回	女性の社会参加と雇用平等	性別による雇用差別の是正について学習する。
第 8 回	女性の貧困問題	女性問題を通じた貧困問題について考察する。
第 9 回	少子社会の現状	少子社会の問題点について、統計データ等で確認する。
第 10 回	少子社会に対する対策	少子社会問題に対する対応策とその効果について検証する。
第 11 回	公的保険制度の概要	年金と健康保険制度の概要について。
第 12 回	賃金と社会政策	最低賃金制度について。
第 13 回	社会的排除と社会的包摂(1)	社会的排除論について。
第 14 回	社会的排除と社会的包摂(2)	今後の社会政策のあり方を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。
2. 学期中のレポート課題について、与えられたテーマについて授業外で学習し、考察する。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】

久本憲夫『日本の社会政策（改訂版）』（ナカニシヤ出版、2015 年）3,200 円＋税。その他必要な場合には講義中に案内する。

【成績評価の方法と基準】

試験（100 点）

・期末試験として 1 回実施する。

・基本的な知識の確認と、問われた問題に対する私見を論理的に解答できているかを、この私見の評価基準とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【その他の重要事項】

・講義内容は、雇用・社会保障分野に政策上の大きな展開があれば、それを取り上げることがある。

・講義内容は、受講者の問題関心や理解度に応じて、適宜変更する場合がある。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to lecture on Social Policy.

The outline is as follows:

1. Social policy for non-regular workers in Japan;
2. Social policy for a declining birthrate;
3. Wage policy;
4. Social policy for the future.

LAW300AB

国際空間法

田中 佐代子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国家領域以外の空間に関する国際法について学ぶ。法学部法律学科のコース制における位置づけとしては「国際社会と法コース」に最も強く関係する。同時に、この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「企業・経営と法（商法中心）」「企業・経営と法（労働法中心）」の各コースにも属している。グローバル化の進展が著しい今日においては、日本国内の法律専門家、公務員、企業に勤める者にも国際法の基本知識が求められる局面が増えており、それに対応するための素地を作ることも目指している。国際法という特定の分野について深める科目であることはもちろんだが、同時に、国際法の特徴（国内法との相違）を理解することを通じて、そもそも法とは何か、社会の中でどのような意味を持っているかを考える契機を与えるという基礎的な側面も有する。

【到達目標】

国家領域以外の空間に関わる国際法の規律を理解する。また、本分野における国際法上の諸制度の歴史的展開と現状を学ぶことを通じて、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えられるようになることも目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

学習支援システム上での教材配付と、Zoom を用いたリアルタイムオンライン授業を組み合わせる。（基本的には、全般的な解説は配布教材によって行い、Zoom 授業では重要トピックについての理解を深めることを目指す。）

Zoom 授業では、教員からの講義だけでなく、受講生とのやりとりをまじえながら、進める。受講生はビデオはオフでも構わないが、マイクはオンにして発言できる環境で受講する必要がある。

学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。授業時間中以外の質問については、学習支援システム上で対応する。

授業方法等についてより具体的な指示は、学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本分野を学ぶ意義、参考文献紹介
第 2 回	海洋法（1）	海洋法の歴史的展開
第 3 回	海洋法（2）	海域の具体的制度（内水、領海、接続水域）
第 4 回	海洋法（3）	海域の具体的制度（排他的経済水域、大陸棚）
第 5 回	海洋法（4）	海域の具体的制度（排他的経済水域及び大陸棚の境界画定）
第 6 回	海洋法（5）	海域の具体的制度（公海）
第 7 回	海洋法（6）	海域の具体的制度（公海（続き）、深海底）
第 8 回	海洋法（7）	海洋環境の保護
第 9 回	海洋法（8）	海洋科学調査
第 10 回	海洋法（9）	紛争解決
第 11 回	空域	領空、国際空域、航空犯罪等
第 12 回	宇宙（1）	宇宙空間の法的地位
第 13 回	宇宙（2）	宇宙活動に対する責任と管轄権
第 14 回	国際化地域	南極その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システム上の教材を予習すること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

『国際条約集』（有斐閣）。（ここ数年のものであれば、最新年度版でなくても構わない。）

玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法』（有斐閣）。

柳原正治・森川幸一・兼原敦子編『プラクティス国際法講義〔第 3 版〕』（信山社）。

浅田正彦編著『国際法〔第 4 版〕』（東信堂）。

テキストの使用方法については初回授業で説明するので、その確認後に購入することを推奨する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）。平常点（リアクションペーパーおよび授業内の議論への参加）（40 %）。

詳細な成績評価方法・基準は、学習支援システム上で提示する。（なお、教室での試験実施の可否など感染状況等により左右される部分もあるので、成績評価方法には変更がありうる。その場合も、授業内で詳しく説明するとともに、学習支援システム上で提示する。）

【学生の意見等からの気づき】

大学では、どのような形態の授業であれ、与えられるのを待つのではなく、自ら学ぶ姿勢が重要であることを、学生に改めて理解してもらえようとした。その上で、受講生からの質問等には、引き続き丁寧に対応していきたい。

【Outline and objectives】

This course provides students with a basic understanding of international law regulating areas and spaces other than territories attributed to States, such as the sea, air and outer space, and the Antarctic.

LAW300AB

国際安全保障法

田中 佐代子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における暴力の規制は、国際法にとって一貫して（しかし問題の諸相を変化させつつ）重要な課題であり続けている。この授業では、紛争の平和的解決および武力の規制に関わる国際法について学ぶ。法学部法律学科のコース制における位置づけとしては「国際社会と法コース」に最も強く関係する。同時に、この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「企業・経営と法（商法中心）」「企業・経営と法（労働法中心）」の各コースにも属している。グローバル化の進展が著しい今日においては、日本国内の法律専門家、公務員、企業に勤める者にも国際法の基本知識が求められる局面が増えており、それに対応するための素地を作ることも目指している。国際法という特定の分野について深める科目であることはもちろんだが、同時に、国際法の特徴（国内法との相違）を理解することを通じて、そもそも法とは何か、社会の中でどのような意味を持っているかを考える契機を与えるという基礎的な側面も有する。

【到達目標】

紛争の平和的解決、国際社会の平和と安全の維持に関わる国際法について理解することが目標となる。同時に、本分野における国際法の歴史的展開と今日の実態を学ぶことを通じて、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えられるようになることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

学習支援システム上での教材配付と、Zoom を用いたリアルタイムオンライン授業を組み合わせる。（基本的には、全般的な解説は配布教材によって行い、Zoom 授業では重要トピックについての理解を深めることを目指す。）

Zoom 授業では、教員からの講義だけでなく、受講生とのやりとりをまじえながら、進める。受講生はビデオはオフでも構わないが、マイクはオンにして発言できる環境で受講する必要がある。

学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。授業時間中以外の質問については、学習支援システム上で対応する。

授業方法等についてより具体的な指示は、学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本分野を学ぶ意義、参考文献紹介
第 2 回	紛争の平和的解決（1）	総論的検討
第 3 回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続
第 4 回	紛争の平和的解決（3）	裁判的手続
第 5 回	武力行使禁止（1）	武力行使の制限・禁止の歴史的展開
第 6 回	武力行使禁止（2）	武力不行使原則の射程
第 7 回	集団安全保障	国連の集団安全保障体制等
第 8 回	国連平和維持活動（PKO）	PKO の意義と問題点、歴史的変遷
第 9 回	自衛権（1）	個別的自衛権
第 10 回	自衛権（2）	集団的自衛権
第 11 回	自衛権以外の武力行使正当化の主張	在外自国民保護、人道的干渉
第 12 回	武力紛争法	交戦法規
第 13 回	武力紛争非当事国の法的地位	「中立」の問題
第 14 回	軍備管理、軍縮	軍備管理、軍縮

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システム上の教材を予習すること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

『国際条約集』（有斐閣）。（ここ数年のものであれば、最新年度版でなくても構わない。）

玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法』（有斐閣）。

柳原正治・森川幸一・兼原敦子編『プラクティス国際法講義〔第 3 版〕』（信山社）。

浅田正彦編著『国際法〔第 4 版〕』（東信堂）。

テキストの使用方法については初回授業で説明するので、その確認後に購入することを推奨する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）。平常点（リアクションペーパーおよび授業内の議論への参加）（40 %）。

詳細な成績評価方法・基準は、学習支援システム上で提示する。（なお、教室での試験実施の可否など感染状況等により左右される部分もあるので、成績評価方法には変更がありうる。その場合も、授業内で詳しく説明するとともに、学習支援システム上で掲示する。）

【学生の意見等からの気づき】

大学では、どのような形態の授業であれ、与えられるのを待つのではなく、自ら学ぶ姿勢が重要であることを、学生に改めて理解してもらえるようにしたい。その上で、受講生からの質問等には、引き続き丁寧に対応していきたい。

【Outline and objectives】

This course explores the international law relating to the settlement of disputes, armed conflicts, and the threat and use of force.

LAW300AB

国際人権法

北村 泰三、建石 真公子

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

単位数：4 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際人権規約、ヨーロッパ人権条約、子どもの権利条約等の人権条約によって人権を保護する国際人権法について、国際人権法の誕生の歴史や各人権条約の仕組みや国内適用にあたっての憲法上の課題について学ぶ。
実際に国際人権法がどのような人権保障を行っているか、国際的および国内的な解釈や判例を通じて現状を理解する。

【到達目標】

- ①国家を越えて、人権を国際社会において保障することの意義及びそのための仕組みを理解する。
- ②国際人権法の国内実施制度について理解する。多様な人権の内容について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

国際人権法の概要を学んだ後に、国内適用の現状を国内法や判例を通じて学ぶ。春学期、秋学期共に、Zoom を利用したオンライン授業を基本とし、適宜、対面授業を行う。

教材は、レジュメ配布、また PPT を使用する。

Zoom の URL およびレジュメについては、前日に配付・通知する。

質問は、授業の際に、または Hoppi の掲示板に書いてください。なるべく 1 週間以内にお返事します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際人権法の意義	イントロダクション、国際人権法の発展と形成の歴史的過程をたどる
2	国際人権法の目的、内容と対象	弱者等の人権を保護するための法として国際人権法を捉える
3	国連と人権	国連の人権活動について検討する。
4	人権条約の履行監視制度	人権条約上の国際的な履行監視制度の概要を理解することをめざす。
5	地域的人権条約の実施	ヨーロッパ人権条約を例として、人権の地域的な実施制度について学ぶ。
6	国内裁判所における人権条約の適用・条約の国内実施	人権条約を解釈・適用するための前提的問題を検討
7	外国人の人権（１）	外国人の人権のうち、特別永住者の人権問題を扱う。国内判例を主に検討する。
8	外国人の人権（２）	外国人の人権保護とヘイトスピーチ規制について、国際判例及び日本の現状について学ぶ
9	ジェンダーと差別（１）	女性差別撤廃条約－労働分野における平等
10	ジェンダーと差別（２）	女性差別撤廃条約－家族分野における個人の尊重
11	個人の尊重と子ども	子どもの権利条約の内容及び国内適用の問題を考える
12	親の権利と子どもの権利の交錯	ハーグ子奪取条約について、内容及び国内適用の課題を学ぶ
13	個人の尊重と社会的少数者	LGBT の権利は、国際人権法ではどのように保護されているか。国連及びヨーロッパ人権裁判所の判例から学ぶ
14	国際人権保障と「平和のうちに生存する権利と国際刑事裁判所	国連における人権としての平和の概念と制度、および個人の戦争犯罪を処罰する国際刑事裁判所の内容と現状を学ぶ
15	前期授業の総復習 イントロダクション なぜ国内の人権保護に国際人権法が必要か	前期で扱った内容の総復習。 秋学期の内容の紹介
16	憲法と国際法－国内における国際人権法の法規範の性質とは	後期の授業で学ぶことを理解する

17 国内裁判所における人権条約の適用－履行監視制度との関係で

18 女性差別撤廃条約と日本における女性の人権保護（１）
なぜ、女性の人権が問題となるのか－公的生活と労働

19 女性差別撤廃条約と日本における女性の人権保護（２）
－家族および私生活

20 子どもの権利条約と日本の子どもの権利（１）

21 子どもの権利と親の権利の交錯

22 私生活の尊重と国際人権法

23 生殖医療と国際人権法

24 LGBT と国際人権法

25 人種差別撤廃条約とヘイトスピーチ：京都地裁と大阪高裁の判決を例に考える

26 障がい者の権利

27 Covid-19 と国際人権法

28 安全保障をめぐる国際人権法と憲法

人権条約上の国際的な履行監視制度の概要を理解することをめざす。

日本における女性の人権の現状について理解し、女性差別撤廃条約の観点から保護について考える

歴史的に女性には公的な生活－政治や労働－に参画する権利が制約され、私的な空間のみで生きてきたが、家族や婚姻においても、家制度の下で女性の権利は非常に制約されてきた。現在でもその影響は残っているが、人権条約によってどのような改善が可能かを学ぶ。子どもの権利条約の内容及び国内適用の問題を考える。貧困、施設収容、学校などに関して、子どもの権利をどのように保護しうるかを考える。子奪取条約（ハーグ条約）について学び、子どもの最善の利益について考える。

ヨーロッパ人権条約では「私生活及び家庭生活の尊重」が規定されている。日本の法制度では馴染みのないこれらの権利について学び、憲法 13 条及び 24 条の解釈との関連を考える。日本では生殖医療のあり方を定める法が存在しない。そのため、日本では認められていないか明確ではない生補医療－代理懐胎や受精卵の提供など－に関しては、外国で実施する人々もいる。しかし、生殖医療は、人の生命や胚の価値に関わる重要なものであることから、国際的な基準の可能性について考える。

LGBT の権利保護は、国によって大きく異なる。婚姻まではほぼ全的に認めている EU 諸国から、同性愛関係を死刑とするイスラム諸国まで、その保護の状況は多様である。国際人権法における LGBT の権利保護を学び、日本における権利保護の可能性を考える。人種差別撤廃条約が加盟国においてどの湯に適用されているか。また現在の国際社会における人種差別の撤廃の直面する課題について学ぶ禁止委員会は、我が国に対してどのような勧告を行っているかを理解し、その実現に向けた問題と課題を検討する。

障がい者権利条約の意義を考える。日本における同条約の適用の現状を踏まえ、障がい者の権利保護の改善に衝いて考える。
Covid-19 は、国際的な広がりを持つ感染症（パンデミック）のため、その対処については WHO などの国際的な統制が必要となる。日本の対応を踏まえつつ、国際的な感染症対策の観点からどのような人権保護が必要かを考える。安全保障は、一国の主権の権限であるが、しかし、第二次世界大戦後には、平和への権利を初め、人権保護の観点から各国の武力行使は原則として禁止されている。国際的な安全保障制度と、日本の憲法 9 条との関係を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布レジュメを読んで疑問点を明らかにしておく。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配付します。

【参考書】

戸波ほか編著『ヨーロッパ人権裁判所の判例 I』信山社、2008 年、「ヨーロッパ人権裁判所の判例 II」信山社、2019 年。

山下泰子ほか編『コンメンタール 女性差別撤廃条約』尚学社、2010 年。

国際法、憲法のテキスト。

【成績評価の方法と基準】

期末にレポート（前期と後期）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

映画や DVD による授業の希望があったので試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline and objectives】

Learn about international human rights law that protects human rights through human rights treaties such as the International Covenant on Human Rights, the European Convention on Human Rights, and the Convention on the Rights of the Child. .
Understand the current state of international human rights law through human and international interpretations and precedents

LAW300AB

国際刑事法

安藤 貴世

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、国際法の一分野である国際刑事法の基本構造を理解し、国際刑事法に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。特に、主として国家間関係を規律する法である国際法体系において、個人がいかなる法的地位を有し得るかという点について、国際犯罪の処罰という観点から理解することを目指す。この科目は「国際社会と法コース」に属している。

【到達目標】

（１）ニュルンベルク裁判から国際刑事裁判所（ICC）にいたる国際社会における個人の処罰の歴史を理解する。

（２）国際犯罪の基本的な類型について学び、その処罰の枠組みについて理解する。

①コア・クライムと称される国際社会における最も重大な犯罪（ジェノサイド、戦争犯罪、人道に対する犯罪、侵略犯罪）について概要を確認したうえで、国際的な刑事裁判所（ICTY, ICTR, ICC）の基本構造および活動について学ぶ。またシエラレオネやカンボジアなどに設置された国際混合法廷についても概要を理解する。

②国際テロリズム、海賊行為、その他の国際犯罪（例として薬物犯罪、金融犯罪）などの概要を確認し、これらの処罰の法的構造についても理解する。

（３）上記（１）、（２）をもとに、国際刑事法に関わる国際社会の今問題について考察し、自らの言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式とし、オンライン方式にて実施する（Google Classroom を使用したオンデマンド方式にて実施予定）。

授業の具体的な進め方などに関する詳細は、初回の授業開始前に学習支援システム上で連絡・説明する。

課題等に対しては、以下の方法でフィードバックを行う。

・リアクションペーパー：授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

・小テスト：授業の初めに前回の授業で課された小テストに関する解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画の概要説明、参考文献紹介、成績評価に関する説明
第 2 回	国際刑事法とは	国際刑事法の発展・特色
第 3 回	国際社会における個人の処罰の歴史	戦間期の動き、ニュルンベルク裁判から国際刑事裁判所（ICC）設立まで
第 4 回	国際犯罪の種類	国際犯罪の 3 類型
第 5 回	国際裁判所における個人の処罰（1）	旧ユーゴ国際刑事裁判所（ICTY）、ルワンダ国際刑事裁判所（ICTR）
第 6 回	国際裁判所における個人の処罰（2）	国際刑事裁判所（ICC）：設立経緯、対象犯罪、管轄権行使の要件など

第 7 回	国際裁判所における個人の処罰（3）	国際刑事裁判所（ICC（続き））：裁判例、ICC の課題など
第 8 回	その他の訴追方法	国際混合法廷（カンボジア、シエラレオネなど）
第 9 回	国際刑事司法協力	犯罪人引渡制度の概要、意義
第 10 回	国際テロリズム（1）	テロリズムの定義、テロリズム防止関連諸条約の概要
第 11 回	国際テロリズム（2）	テロリズムの処罰方式の特徴、現代のテロリズムへの対処枠組み
第 12 回	海賊行為	海賊行為の定義、処罰方式、海賊問題の現状
第 13 回	その他の国際犯罪	薬物犯罪、金融犯罪など
第 14 回	試験、まとめと解説	全体の総括としての試験およびその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：授業に関連する資料を事前に配布する場合があるので、それを十分に読んだうえで授業に臨む。

復習：各回の授業後に、講義内容についてノートを見つつ十分に復習する。

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

条約集を準備すること。岩沢雄司編『国際条約集 2021 年版』（有斐閣、2021 年）を推奨するが、これ以外のものでも可。出版年度は最近のものであれば、2021 年版でなくとも構わない。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（1 回）（80 %）。

授業内容に関する課題（小テスト（短答式クイズ）、リアクションペーパーなど、3～5 回）（20 %）

詳細は初回の授業において説明する。

筆記試験は、授業の実施方法によってはレポートに変更になる可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容に関連する参考資料などを配布するが、受講者はノートを取り、講義内容についてその都度復習することが重要である。

【Outline and objectives】

The objective of this class is to understand the basic structure of International Criminal Law. The lecture especially focuses on the legal structure of punishment of individuals who are responsible for international crimes, such as genocide, war crimes, crime against humanity, international terrorism and piracy. Through this class, students will learn and understand the legal status of individuals in International Law which is the set of rules among nations.

LAW300AB

国際経済法

猪瀬 貴道

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経済活動のうち貿易および投資を規律する法制度（国際（公）法的分野）を中心に取上げて基本原則について学び、どのような特色があり、どのように機能しているか理解する。国際経済活動における法的課題について解決を考える。この科目は「企業・経営と法（商法中心）コース」と「国際社会と法コース」に属している。

【到達目標】

貿易および投資を中心とする国際経済活動に関する法的規律の基本構造（基本的考え方（原理）、原則と例外）について基礎的な知識を修得する。

国際経済活動から生じる問題や紛争の処理の実際について、先例から基本的な判断枠組を理解して適切に説明ができる。具体的な例として「WTO の基本原則と例外の関係」「WTO における貿易救済措置」「投資条約に基づく投資家＝国家間紛争処理」「国際経済法と国家の規制権限」などについて関連条約の条文や事例などに基づいて適切に説明でき、その課題について指摘できる。

（発展）国際経済法と「途上国の開発・発展」「人権の保障」「環境の保護」などを規律する法規範との調整方法について考えて適切な意見を持てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

貿易・投資・金融・商取引などの国際経済活動のうち、貿易分野の法的規律（世界貿易機関 WTO を中心とする）および投資分野の法的規律（二国間投資条約 BIT、自由貿易協定 FTA、経済連携協定 EPA および投資紛争解決国際センター ICSID）について取り上げる。原則として講義方式で実施し、関連条約の条文および事例を参照しながら基本構造について教員が解説する。教科書を指定するが、授業計画は教科書の章立てとは若干異なるので、各授業回において適宜参照箇所は指示する。

受講人数等に応じて、授業における口頭質疑または授業後のリアクションペーパー、理解度チェックの小テストによって理解状況を確認する。フィードバックは原則として授業での解説に取り入れる形で行う。

（新型コロナウイルス感染症の状況によってオンライン授業・在宅授業となった場合は、オンタイム（水曜 3 時間）にオンライン会議システム上で PowerPoint スライドの画面共有を利用して解説するとともに、Google Classroom にクラスを設定して、上記解説の録画動画のほか、資料等をアップロードしてオンデマンド学習にも対応する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	科目全体の内容、授業の進め方と注意事項の確認をシラバスを参照しながら行う。
2	国際経済法の基本枠組	国際経済活動の範囲とその法的規制について整理して、その規律原理と規律対象を概説する。
3	国際貿易の法制度	国際貿易を規律する WTO の組織と機能について、紛争解決を含めて概要と特徴を取り上げる。
4	WTO の基本原則	WTO の基本原則である無差別原則と自由化原則について条文や事例を参照しながら解説する。
5	WTO の基本原則の例外	WTO の基本原則である無差別原則・自由化原則の例外についてその内容や意義について整理する。
6	WTO における貿易救済措置	貿易救済措置として認められているセーフガード、アンチダンピング、補助金・相殺措置について概説する。
7	物品貿易以外の諸協定	農業貿易、サービス貿易、知的財産権関連についての WTO の規律を概説する。
8	多数国間制度と地域経済統合、二国間制度	多角的自由貿易体制を原則とする WTO の限界、国際経済における地域主義の位置づけについて検討する。
9	国際投資の法制度	私人による国境を超える経済活動の一形態である外国直接投資の規律について概説する。

10	投資条約制度の基本枠組	投資条約による外国投資の規律の基本枠組について条文や事例を参照しながら整理する。
11	投資条約における紛争処理手続	投資家と国家との間の投資紛争の処理方法の概要と特徴を取り上げる。
12	国際経済法と国家の規制権限	環境、人権、公衆衛生などに関連した国家の規制権限と国際経済法の規律原理との間に生じる問題を概説する。
13	国際経済法と環境・公衆衛生	環境保護・公衆衛生保護のためにとられた国家規制措置が国際経済法上の問題となった事例について考える。
14	国際経済法の課題	国際経済法の課題について考えるとともに講義全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が、到達目標の達成に必要と考える内容の授業時間外の学習を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。準備学習の例としては、教科書・参考書・参考資料の関連分野に目を通してわからない部分を把握する。復習の例としては、教科書、配布資料と自分で作成したノートを見直し整理する。その他、授業において個別の課題を指示する場合がある。

【テキスト（教科書）】

小林友彦・飯野文・小寺智史・福永有夏『WTO・FTA 入門：グローバル経済のルールを学ぶ』〔第 2 版〕法律文化社（2020 年）

【参考書】

中川淳司・清水章雄・平覚・間宮勇『国際経済法』〔第 3 版〕有斐閣（2019 年）
柳赫秀（編集）『講義 国際経済法』東信堂（2018 年）
小寺彰（編著）『国際投資協定』三省堂（2010 年）
松下満雄・中川淳司・清水章雄（編）『ケースブック WTO 法』有斐閣（2009 年）
小寺彰・中川淳司（編）『基本経済条約集』〔第 2 版〕有斐閣（2014 年）
経済産業省通商政策局編『不正貿易報告書』（経済産業省 http://www.meti.go.jp/policy/trade_policy/wto_compliance_report/）
その他の資料は授業の際に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への能動的な参加・各授業回のリアクションペーパー・理解度チェックの小テスト（20～30 %）、期末試験（上記の到達目標に示した具体的な例に関する論述型筆記試験またはレポート課題）（70～80 %）により評価する。
期末試験（論述型筆記試験またはレポート課題）の評価基準は、出題の意図を正しく捉えて、正確な知識に基づいて論理的に私見を述べているもの（単なる意見や感想は不可）を基本点として、論じている視点・論点の豊富さ、記述内容の正確さ、論拠の説得力、他の法制度との比較の巧みさなどにより加減し、文章の稚拙さ、余計な表現・表記や誤字・脱字などは減点する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的事例を取り上げて、法規範の理解を深める内容にする予定である。大枠は、上記授業計画に則って行うが、受講者数、受講者の希望等に応じて調整する。また、本科目の対象はルール形成の途上にあることから知識だけではなく基本的な考え方の修得について重視する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）および学習管理システム（LMS:Google Classroom）を使用予定）を活用して関連資料について指示を行う。また、オンライン授業・在宅授業の可能性があるので、対応した情報機器（パソコン等）および通信環境をできるだけ整備してほしい。

【Outline and objectives】

This course focuses on the international law (public international law) governing international economic activities, especially international trade and investment. I will lecture on the fundamental knowledge. We will discuss what the basic principles are and how they work. We consider solutions to legal issues in international economic activities. This course belongs to the "Corporate, Management and Law (Commercial Law)" and "International Society and Law" courses.

LAW200AB

日本法制史 I

川口 由彦

授業形式：講義 ｜ 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、法律学科の「文化・社会と法」コースにおかれている。また、「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（商法中心）/（労働法中心）」の各コースでも履修が推奨されている。法を理解するためには、公法・私法、刑事法・民事法など諸分野の法の相違を認識することが必要である。この認識には、解釈論的理解と並んで法制史的理解も必要となる。平面的ではなく、立体的に法を学ぶ機会を提供するのが、法制史である。

【到達目標】

現代日本法は、制定法を主体とし、六法典を中心に据えるという形態をとっている。しかし、このようなあり方は、必ずしも近代法一般の態様ではない。近代国家の下でも、判例法を主体とする国もあるし、法典主義の国でも法典の数が異なることはよくあるからである。

なぜ、日本の近代法はこのような姿なのか、それはどのような経緯を経てそうなったのかを理解するのがこの授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

人類社会は、生まれたときから何らかのルールをもってきた。それは、形態、内容、実質、執行システム等いずれも多様なものである。

法といわれているものは、こうしたルールの中のあるグループのことなのだが、こうしたグループは、歴史上発生を見た社会もあれば、発生しなかった社会もある。日本社会は、幸か不幸か、この法というグループをもつにたつた社会である。

しかし、そうはいっても、この法という社会規範は、国により民族により、時代によりきわめて多様で、簡単に一般論を語らせてくれない難物である。

この難物を扱うには、いろいろな方法があるが、各時代の人々から「法」と呼ばれたものをピックアップして相互に比較し、そのうえで、おのおのの特徴を捉えるというのは有効なアプローチの方法である。法史学という学問の意義も一つには、そのあたりにある。

講義では、明治以降の、通常「近代法」と呼ばれる「法」のあり方を座標軸とした、今日の法の特徴を考えてみたい。

現代日本法は、ほとんどが明治期に作られたものである。試みに六法をみてみよう。すると、民法の制定年は明治 29 年（1896 年）となっていて 19 世紀の産物であることがわかる。商法も明治 32 年（1899 年）と 19 世紀の産物である。刑法は、明治 40 年（1907 年）制定だから、何とか 20 世紀の所産といえるが、いずれにせよ明治時代の産物で、しかも、この刑法は、明治 13 年（1880 年）に制定された刑法（旧刑法）の条文をかなりひきずっているから、やはり、歴史ある法典といえる。日本の法典には、一世紀以上の長い歴史があるのである。

このような法は、一体どのようにして、どのような考え方の下でつくられたのか。考えてみれば、これら諸法典は、封建領土支配が解体してから、ほんのわずかの年数を経て外国法を摂取しつつつくられているのだから、その営為たるや驚異的といえる。

この急速な法の形成は、当然ながら、江戸時代にみられた法との「断絶」を生み出した。この「断絶」には、封建法から近代法への変化という他国にも共通してみられるものと、日本的なものから西欧的なものへの変容という二様のものがある。

しかも、こうした「近代法」の形成は、一概に既存の法との「断絶」のみとは特徴づけられず、すぐれて日本的なもの・東アジア的なものの継承という要素を多分に残したものであった。

講義では、このような諸契機、諸要素が、どのように絡み合っているかに焦点をあてつつ、日本の「近代法」の形成過程を考察したい。

講義では、単元が終わる都度、質問を募り、それに回答する。また、授業支援システム上でも質問を募り、講義時間内に回答する。また、最終授業で、質問内容を含めた履修者の授業理解について講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方・試験等についての説明 日本法制史Ⅰの授業は、4 月 23 日に開始します。当日は、半年間の授業の進め方、テキスト等について記載したプリントを配布します。 4 月 30 日は休講日ですので、5 月に入ってから、動画で 30 分間講義をして、質問を受け付け、次の授業までの課題を出すという形で授業を進めていきます。 質問に対する回答は、次の授業で動画または文書で行います。 テキストをもとに授業をしますので、シラバスに書いてある川口由彦「日本近代法制史第二版」（新世社）を必ず用意してください。 単位認定方法は、学期末の筆記テストを予定していますが、その時期になっても教室で試験ができないことが考えられます。その場合は、学習支援システムを用いたテストを検討します。
第 2 回	日本近代法史概観	時期区分について
第 3 回	19 世紀近代法とは何か	伝統ヨーロッパの「市民社会」と法
第 4 回	19 世紀のイギリス近代法	判例法主義の歴史の実態
第 5 回	19 世紀のフランス・ドイツ近代法	法典主義の歴史の実態
第 6 回	固有名詞としての「維新法」	明治初期の法的混乱
第 7 回	律型法典と西欧型法典 1	criminal からの civil の分離・独立
第 8 回	律型法典と西欧型法典 2	東洋型罪刑法定主義と西欧型罪刑法定主義
第 9 回	律型法典と西欧型法典 3	教育刑と応報刑－その歴史的文脈
第 10 回	近代法の形成 1	太政官制と内閣制
第 11 回	近代法の形成 2	「統治権」と「主権」
第 12 回	近代法の形成 3	ボアソナードと旧民法
第 13 回	近代法の形成 4	法典論争－大分裂の謎
第 14 回	近代法の形成 5	法典調査会と明治民法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、参考書を読んでくること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川口由彦『日本近代法制史 第 2 版』（新世社）

【参考書】

高谷知佳・小石川裕介編著『日本法史から何がみえるか』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

論述式筆記試験 100 %（テキスト・講義内容より出題。持ち込み不可。）

教室で試験が出来ない場合は、期末レポートにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生によって歴史知識の有無がかなり異なることがわかってきたので、この点に留意したい。

【Outline and objectives】

It is necessary to recognize difference in legal fields - public law/ private law, criminal law/civil law- to understand law. Also it is necessary to understand legal history besides law interpretation. It is legal history to provide the opportunity to learn jurisprudence not superficially but three-dimensionally.

LAW200AB

日本法制史Ⅱ

川口 由彦

授業形式：講義 ｜ 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、法律学科の「文化・社会と法」コースにおかれている。また、「裁判と法」「行政と公共政策と法」「企業・経営と法（商法中心）/（労働法中心）」の各コースでも履修が推奨されている。法を理解するためには、公法・私法、刑事法・民事法など諸分野の法の相違を認識することが必要である。この認識には、解釈論的理解と並んで法制史的理解も必要となる。平面的ではなく、立体的に法を学ぶ機会を提供するのが、法制史である。

【到達目標】

制定法主義を最も特徴的に表現する六法が成立する頃、日本社会は急速に変化の様相を呈していく。この時期は、行政・軍事官僚システムや司法官僚システムが自律性を高めていく時期で、明治末から大正にかけて重大な法的変化が生じるようになる。

司法・行政・立法の連携構造や公法・私法関係の変容を理解し、法を立体的にとらえられるようにすることが授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

日本法制史Ⅰでは、明治期に六法典を中心とする日本近代法が成立する過程を述べた。

これらの法の作成に際して参照された外国法は、フランス、ドイツ、イタリア、イギリス、アメリカ、オランダ、ベルギー等多岐にわたるが、これらの様々な外国法は、日本人法律家の手によって吟味され、選択的に輸入されたものであった。

この選択のあり方を規定したのが、当時の日本がおかれた国際的位置（不平等条約改正のための西欧型法典の速やかな作成）と、国内の規範状況であった。国内の規範状況とは、江戸時代に形成された国家と社会の関係、及び広範に日本社会を覆った慣習規範と西欧的規範の接合・すりあわせのあり方に他ならない。

このように形成された規範構造は、明治末から早くも再編成され、大正・昭和期に大きな変更を加えられることとなる。

日露戦争を契機に、都市商工業に富を吸いあげられた農村の疲弊が顕著となり、その救済が特別法により行われるようになっていく。また、ネーションステイツ化が強調され、これに応じて、教育・社会事業等の分野に新たな立法が展開されることとなるのである。現代法の中で肥大化してあらわれる福祉法制や教育法制の原像がここに垣間見られる。

政治的にも、明治天皇の死によって憲法システムは動揺をきたし、新たな国家機構の構築が模索されていった。

明治憲法体制は、本来、法的装置と法外的装置の組み合わせによって機能するようになっていたが、「天皇の意思」がシステム上大きな後退をみるとともに、特別法による憲法機構の再構築という新たな展開がみられるようになるのである。

また、社会的矛盾が拡大し、都市市民運動、労働運動、借地借家運動、小作運動などが広く見られるようになり、これに応じて言論規制は後退する。これら社会運動の展開に対応するため、調停法の制定や選挙法の改正、治安政策の再編成が行われ、社会的主張が大幅に国家法の世界に流れ込むこととなった。もっとも、これは、同時に国家的統合の触手がより深く社会の底部に及ぶことを意味していた。

この時期には、給与生活者世帯や単身者世帯が増加し、「他人」同士の社会的接触の程度が高まって、「家族」をめぐる法は大きな変動の中におかれる。民法制定当初から不安定だった「家」秩序は、決定的な解体過程に入り、民法・家族法の改正論が展開することとなり、これが、第二次大戦後の「家」制度解体につながるのである。

このような変化の様相を考察し、今日の法構造に直接連接する史的文脈を描出する。

講義では、単元が終わる都度、質問を募り、それに回答する。また、授業支援システム上でも質問を募り、講義時間内に回答する。また、最終授業で、質問内容を含めた履修者の授業理解について講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方、試験等についての説明
第 2 回	明治期近代法史概観	法典体制の成立
第 3 回	明治天皇と法 1	和協の詔勅と大臣罷免
第 4 回	明治天皇と法 2	対外戦争と大元帥

第 5 回	明治天皇と法 3	軍令の成立
第 6 回	明治天皇と法 4	伊藤博文・梅謙次郎と植民地法制
第 7 回	刑法大改正	明治 40 年刑法の成立
第 8 回	大正天皇と法 1	天皇機関説の行方
第 9 回	大正天皇と法 2	国家・天皇・政党
第 10 回	大正天皇と法 3	宮中某重大事件
第 11 回	選挙法と治安対策	「普通選挙」と治安維持法による国家・社会システムの再編
第 12 回	法の「民衆化」	各種調停法と陪審法の制定
第 13 回	昭和天皇と法 1	内閣瓦解
第 14 回	昭和天皇と法 2	軍縮と軍部

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、参考書を読んでくること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川口由彦『日本近代法制史 第 2 版』（新世社）

【参考書】

高谷知佳・小石川裕介編著『日本法史から何がみえるか』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

論述式筆記試験 100 %（テキスト・講義内容から出題。持ち込み不可。）
教室で試験が出来ない場合は、期末レポートにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生によって歴史知識の有無がかなり異なることがわかってきたので、この点に留意したい。

【Outline and objectives】

It is necessary to recognize difference in legal fields - public law/ private law, criminal law/civil law- to understand law. Also it is necessary to understand legal history besides law interpretation. It is legal history to provide the opportunity to learn jurisprudence not superficially but three-dimensionally.

LAW200AB

ドイツ法制史 I

田中 憲彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ法制史 I は、法はいかなる歴史的基礎の上に成り立つのかという視点から考察を行うものであり、ドイツにおける法の淵源のひとつであるローマ法について、その制度や思想を明らかにすることを目標とする。
本講義は「文化・社会と法コース」に属する。
ドイツの法の歴史を見ると、そこではローマ法とゲルマン法という二つの流れにさかのぼることができる。つまりこれらを融合しながらドイツの法は発展していったのである。したがってドイツの法の歴史を学ぶためには、その構成要素の一つであるローマ法を学ぶことが不可欠であり、さらには日本の近代法の発展においてそれが果たした役割という観点から見ても、ローマ法についての認識は重要である。この授業では、ローマ法の基本的な特徴について、こうした法を生み出したローマ社会の構造と関連づけながら学んでいく。

【到達目標】

ローマ法はどのようにして生み出され、またどのような特徴をもっているのか。まず、このことについて理解できる。さらに、ローマ法は、多くの古代社会の法と同様に、他の規範と一体化しており、そのため当時の社会のあり方と密接に関連しているから、ローマ社会の歴史についても把握できる。そして、ローマ法が日本の法制度にどのような影響を与えたのかについて、比較法という視点から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

レジュメや資料などのプリントを配付し、これを参照しながら授業を進めていく。レジュメは、それぞれのテーマごとに簡潔な内容とし、講義においてこれに詳細な説明を加えるというやり方で理解が深まるようにする。資料は、ローマの国家や社会に関する解説や図版などを参考にする。また、ローマ法史料については、できるだけ原典に即して解説する。その際必要に応じてラテン語の語彙や文法の説明を行う。さらに、ドイツ法制史におけるローマ法の位置づけという観点から、ローマ法に関連したドイツの文献も適宜紹介していく。この授業は「対面」の形態で行うが、履修者の便宜を図るために、講義資料を「学習支援システム」に提示する。ただし、状況によっては、授業形態を変更する場合がある。
履修者による授業のコメントについては、「学習支援システム」などを利用しながら講義内容の向上のために役立てていく。さらに、最終授業で、それまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業の課題についての解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ローマ法を学ぶ意義
第 2 回	歴史のなかのローマ法 (1) 歴史の全体像	ローマの歴史概観
第 3 回	歴史のなかのローマ法 (2) ローマ法の特徴	ローマ法の歴史的意義
第 4 回	共和政期ローマの法と国制 (1) ローマの法	社会規範と法
第 5 回	共和政期ローマの法と国制 (2) ローマの国制	社会構造と国制
第 6 回	共和政期における法の発展 (1) 法の特徴	ローマ法の法源
第 7 回	共和政期における法の発展 (2) 法の進化	十二表法の意義
第 8 回	ローマの訴訟制度 (1) 訴訟の意味	紛争解決方法
第 9 回	ローマの訴訟制度 (2) 訴訟の特徴	訴訟と法
第 10 回	ローマにおける家族 (1) 家族とは何か	家族の権力関係
第 11 回	ローマにおける家族 (2) 家族の構成	夫婦と親子
第 12 回	ローマ法と法学 (1) ローマ法の位置づけ	法学の発展
第 13 回	ローマ法と法学 (2) ローマ法の遺産	ローマ法大全
第 14 回	まとめ	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記の参考書や高校世界史の教科書などを利用しながらローマの歴史について基本的な事項を確認するとともに、授業で学んだことをもとにしてローマ法の成立や発展について理解を深める。
なお、本授業の準備学習および復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

勝田有恒・森征一・山内進『概説西洋法制史』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

ローマ法の特徴やローマの歴史が理解されているかを評価基準として、レポート（100%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者がさらに理解を深めることができるように、資料の配付や板書を適切に行うとともに、コメントペーパーなどを利用して意見や感想を授業に反映させていく。

【Outline and objectives】

The European law is composed of the Roman law and the Germanic law. These two elements of law were combined, so that the European law developed.

This course is designed to consider the Roman law that consists the element of the European law.

Students should be able to explain the characteristics of the Roman law and its historical background, and to understand the Japanese law with the knowledge of the Roman law.

LAW200AB

ドイツ法制史Ⅱ

田中 憲彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ法制史Ⅱは、法はいかなる歴史的基礎の上に成り立つのかという視点から考察を行うものであり、ドイツの法が形成されるうえで重要な時代とされる中世について、その歴史的意義を探究することを目標とする。

本講義は「文化・社会と法コース」に属する。

ドイツの法は、ローマ法とゲルマン法という二つの要素が融合しながら発展してきたとすることができる。すなわち、ゲルマンの伝統的な法文化を基礎にしながら、これにローマの法制度が加わることによって、ドイツに特有の法が作り出されていったのである。とはいえ、これら二つの要素は分かちがたく結びついており、またドイツの法の形成過程それ自体もきわめて複雑な様相を呈している。この授業では、ドイツの法発展についての概括的な認識を得るために、とくに古代末期から中世にかけてのヨーロッパ全体の動きに注目しながら、この時代の法と社会の基本的な特徴を学んでいく。

【到達目標】

ゲルマン時代から中世初期にかけて、社会構造はどのように変化し、また紛争解決のためのしくみはどのように構築されていったかについて、理解できる。さらに中世における都市法などのヨーロッパに特有の法形式、また封建制という社会制度についての認識を深める。そして、ローマ法が中世において果たした役割について、継受という観点から日本の法制度も視野に入れながら考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

レジュメや資料などのプリントを配付し、これを参照しながら授業を進めていく。レジュメは、それぞれのテーマごとに簡潔な内容とし、講義においてこれに詳細な説明を加えるというやり方で理解が深まるようにする。資料は、ヨーロッパ中世の社会に関する解説や図版などを参考にする。また、中世の法史料は多様であるが、その中からそれぞれのテーマに関連するものを原典と翻訳の形で提示し、解説する。ラテン語の説明も併せて行う。さらに、中世史を扱ったドイツの文献についても紹介する。

この授業は「対面」の形態で行うが、履修者の便宜を図るために、講義資料を「学習支援システム」に提示する。ただし、状況によっては、授業形態を変更する場合がある。

履修者による授業のコメントについては、「学習支援システム」などを利用しながら講義内容の向上のために役立てていく。さらに、最終授業で、それまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業の課題についての解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	法制史の課題と方法
第 2 回	ゲルマン社会の構造と紛争解決（1）ゲルマン社会の構造	社会構造と国制
第 3 回	ゲルマン社会の構造と紛争解決（2）ゲルマン社会の紛争解決	紛争解決のしくみ
第 4 回	フランク王国の成立と発展（1）フランク王国の成立	ゲルマン人国家とフランク王国
第 5 回	フランク王国の成立と発展（2）フランク王国の発展	フランク王国の国制
第 6 回	フランク王国の法（1）法の制定	ゲルマン人の法典編纂
第 7 回	フランク王国の法（2）法の機能	部族法典
第 8 回	中世の裁判（1）裁判とは何か	裁判の意味
第 9 回	中世の裁判（2）裁判の過程	裁判手続と証明
第 10 回	封建制（1）封建制の成立	社会体制と封建制
第 11 回	封建制（2）封建制の特徴	中世国家と封建制
第 12 回	中世都市と都市法	都市法の特徴と意義
第 13 回	法書	法書とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記の参考書や高校世界史の教科書などを利用してながらヨーロッパの歴史について基本的な事項を確認するとともに、授業で学んだことをもとにしてヨーロッパ中世における法の成立や発展、社会構造の変化などについて理解を深める。

なお、本授業の準備学習および復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

勝田有恒・森征一・山内進『概説西洋法制史』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

ヨーロッパ中世の法や社会構造の特徴が理解されているかを評価基準として、レポート（100%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者がさらに理解を深めることができるように、資料の配付や板書を適切に行うとともに、コメントペーパーなどを利用して意見や感想を授業に反映させていく。

【Outline and objectives】

The European law is composed of the Roman law and the Germanic law. In the medieval Europe the culture of the law was formed by introducing the Roman law in the society based on the Germanic law.

This course is designed to study the European law in the Middle Ages. Students should be able to explain the law and the society in the medieval Europe, and to understand the Japanese law in connection with the reception of the European law.

イギリス法制史 I

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、手続法は権利・義務などの法律関係や内容を規定する実体法（例えば民法）を実現するためのものと理解していると思いますが、イギリスでは手続法が実体法に先んじて発展しました。そのイギリスは、成文法主義の日本とは異なり判例法主義で、判例の中から法が形成されてきました。またイギリス法の理解に欠かせないコモン・ローとエクイティは、数多くの裁判所が併存する形で運用され、裁判官たちは、大学（オックスフォードやケンブリッジ）の法学部ではなく、ロンドンにある法曹学院といういわゆるギルドで養成されてきました。

法制度や法の形成・発展はその国の長い歴史と密接な関係にあるため、なぜこのような発展を遂げてきたのかを理解するためには、「国境」と「時空」を超えた考察が必要になります。また、その考察を通して外国法を学ぶことは、自らの置かれている世界を客観視する視点を得ること、すなわち現代の日本の法や法制度を再考するための素地を養成することを可能にしてくれます。

I では、イギリスの法制度を歴史の観点から考察することを通じて、その成立および発展の過程を理解していきます。この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

- 1 イギリスの法制度を歴史の観点から考察することを通じて、判例法、慣習法の世界を理解する。
- 2 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本の法制度を客観的に考察・検討できるようになる。
- 3 自らとは異なる属性や理念を持つ人々や、自らとは異なる感性や認識、慣習のもとで生きていた「他者」である過去の人々が、経験してきたことや直面したことがどのような意味を持っているのかを考えることを通じて、複雑な事象を柔軟で多様な視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講（オンデマンドとリアルタイム講義の組み合わせ）となります。受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。

質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（リアルタイム講義の後に質問することも可能です）。次回以降の授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス イギリスとは？	授業概要の説明 連合王国とユニオンジャック
第 2 回	イギリス法とは？	コモン・ローとエクイティ
第 3 回	コモン・ロー訴訟手続（1）	令状体系と訴訟方式：手続法が実体法に先んじた世界
第 4 回	コモン・ロー訴訟手続（2）	訴答術と陪審：裁判における法律家と素人の役割
第 5 回	裁判所と裁判官	中央と地方の裁判所、旅する裁判官
第 6 回	コモン・ロー上位裁判所	王座裁判所、民訴裁判所、財務府裁判所の成立と発展
第 7 回	エクイティと大法官府裁判所	コモン・ロー裁判所で救済されない事件への対応、その方法は？
第 8 回	エクイティ：思想と裁判権	エクイティはイギリスに固有のものだろうか？
第 9 回	国王評議会系列の裁判所	コモン・ローでもエクイティでもない、国王の大権的裁判権に基づく裁判所とは？
第 10 回	カノン法と教会裁判所	教会法と世俗の法、裁判権をめぐるローマ教皇と国王の争い
第 11 回	司法審査制度	上訴、誤審、再審、弾劾裁判
第 12 回	法曹養成	現存する法曹学院とはどこなところだろうか？
第 13 回	法学教育	大学法学部と法曹学院、その関係と役割
第 14 回	法源	判例、慣習、制定法と法の解釈、法改革運動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備してあるクイズに取り組んでください。
更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、イギリスの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメ・資料を配布します。

【参考書】

J.H. ベイカー／深尾裕造訳『イギリス法史入門（第 4 版）第 I 部〔総論〕』（関西学院大学出版会、2014 年）。
幡新大実『イギリスの司法制度』（東信堂、2009 年）。
小山貞夫『英米法律語辞典』（研究社）。
青山ほか『イギリス史 1～3』（山川出版社）。
その他については、レジュメおよび講義中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（60 %）、クイズ（20 %）、中間レポート（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

科目の性質上、初めて耳にする用語や概念が出てくることもあると思いますが、資料や図、ホワイトボードなどを使いながら、分かりやすく解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【Outline and objectives】

In this course, the students will learn about the origins and development of English law, legal institutions and the legal profession.

LAW200AB

イギリス法制史Ⅱ

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、手続法は権利・義務などの法律関係や内容を規定する実体法（例えば民法）を実現するためのものと理解していると思いますが、イギリスでは手続法が実体法に先んじて発展しました。そのイギリスは、成文法主義の日本とは異なり判例法主義で、判例の中から法が形成されてきました。またイギリス法の理解に欠かせないコモン・ローとエクイティは、数多くの裁判所が併存する形で運用され、裁判官たちは、大学（オックスフォードやケンブリッジ）の法学部ではなく、ロンドンにある法曹学院といういわゆるギルドで養成されてきました。
法制度や法の形成・発展はその国の長い歴史と密接な関係にあるため、なぜこのような発展を遂げてきたのかを理解するためには、「国境」と「時空」を超えた考察が必要になります。また、その考察を通して外国法を学ぶことは、自らの置かれている世界を客観視する視点を得ること、すなわち現代の日本の法や法制度を再考するための素地を養成することを可能にしてくれます。
Ⅱでは、個別の法分野における法の形成および発展の過程を、政治・経済・文化などの背景を踏まえて考察していきます。
この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

- 1 判例を中心に、個別の法分野を政治や経済などの背景を踏まえて歴史の観点から考察することを通じて、法（ルール）の形成・発展のプロセスだけでなく、様々な法分野の重なりや、現代に至るまでの、あるいは現代とは異なる法の枠組みを理解する。
- 2 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本法を客観的に考察・検討することができるようになる。
- 3 自らとは異なる属性や理念を持つ人々や、自らとは異なる感性や認識、慣習のもとで生きていた「他者」である過去の人々が、経験してきたことや直面したことがどのような意味を持っているのかを考えることを通じて、複雑な事象を柔軟で多様な視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講（オンデマンドとリアルタイム講義の組み合わせ）となります。受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。
質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（リアルタイム講義の後に質問することも可能です）。次回以降の授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 不文憲法の国	授業概要の説明 マグナ・カルタ、権利請願、権利章典の役割と意義
第 2 回	議会主権と国王大権	国王は勝手に課税できるのだろうか？ 議会はそれを止められるのだろうか？
第 3 回	人権と法の支配	国王による恣意的な拘束は認められるのだろうか？
第 4 回	国籍と外国人の人権	植民地政策のもとでの帰化や国籍付与
第 5 回	引受訴訟と契約法	約束や契約はなぜ守らなければならないのだろうか？ 契約に拘束力を与える根拠 得べかりし利益と予見可能性 （日本民法 416 条との関係）
第 6 回	契約と損害賠償	工作物と厳格責任、過失による製造物責任
第 7 回	不法行為法	土地をめぐるコモン・ロー上の権利と利益取得権（エクイティ上の権利）、どちらが保護されるのだろうか？
第 8 回	信託の起源：ユース	女性財産を保有できるのだろうか？ できるとしたらどのように？
第 9 回	ユースから信託へ	海外貿易におけるルール（商慣習）と国内法の関係
第 10 回	商慣習とコモン・ロー	新しい利権の誕生、保護の対象は誰の何？
第 11 回	コピーライトとコモン・ロー	

第 12 回	使用者と被用者をめぐるルール	誰が他者の過失に責任を負うのだろうか？ 請負人の法的地位（日本民法 716 条との関係）
第 13 回	救貧政策から福祉国家へ	救貧法、チャリティ
第 14 回	刑事法と警察組織	私訴、自力救済、聖域・聖職者の特権、 刑罰と死刑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組んでください。
更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、イギリスの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメ・資料を配布します。

【参考書】

J.H. ベイカー／深尾裕造訳『イギリス法史入門（第 4 版）第 I 部〔総論〕』（関西学院大学出版会、2014 年）。
J.H. ベイカー／深尾裕造訳『イギリス法史入門（第 4 版）第 II 部〔各論〕』（関西学院大学出版会、2014 年）。
小山貞夫『英米法律語辞典』（研究社）。
『イギリス史 1～3』（山川出版社）。
その他については、レジュメおよび講義中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（60 %）、クイズ（20 %）、中間レポート（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

科目の性質上、初めて耳にする用語や概念はありますが、資料や図、ホワイトボードなどを使いながら、分かりやすく解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【Outline and objectives】

In this course, the students will learn about the knowledge of English legal system and the relationship between English legal system and social, economical and political force.

LAW200AB

法社会学

北村 隆憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：4 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

*今回は遠隔オンライン授業の方法により実施します（ただし、その後の状況により変更する場合がある）。毎回、1 - 3 本の授業ビデオと関連書類をシステムにアップするので、受講生は毎回それらを学習して、レポート課題を提出してもらうことになります。

法社会学は、法規も含めて様々な法的な制度やメカニズムが、実際の社会・文化の中でどのように機能しているのかについて、経験科学的な方法を用いて研究する社会科学の一分野であり、「文化・社会と法コース」に属する。法社会学は他の実定法分野と異質な研究目標と研究方法を有するので、単に知識の提供にとどまらず、法に対する「見方」「考え方」の相違についての認識を持ってもらうことに、本講義の重要な目的の一つがある。今回は、エスノメソロジーと会話分析という社会学のアプローチを使って、日常的コミュニケーションと法的場面における様々なコミュニケーションを検討する。

【到達目標】

法的場面における様々なコミュニケーションについて理解し、自分でも概要を分析できるようにする。法的コミュニケーションの特徴と機能について分析・理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントの映写により行う。頻繁にビデオや音声資料を利用する。必要な資料は授業時に配布する。また、ポータルサイトで資料を配布するので、常に該当授業サイトを参照すること。（遠隔授業で行う場合には、毎回授業ビデオと資料をウェブ上で配布する）
また、授業の内容や課題や質問に対しては、回目の授業の中でフィードバックを行う。遠隔授業の場合には、個別にメールで対応して、質疑や議論のフィードバックを行う。また、提出された課題については、そこでの問題点への対応を含めて回目の授業でフィードバックされるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	法的コミュニケーションと法社会学	法的コミュニケーションとは何か。法社会学的観点から理解する。
第 2 回	法的コミュニケーションの詳細	法的コミュニケーションのメカニズムについて学習する
第 3 回	日常的コミュニケーションと法的コミュニケーション	日常的コミュニケーションと法的コミュニケーションの諸特徴と応用
第 4 回	日常的コミュニケーションのメカニズム（順番交替）	順番交代と会話の関係について
第 5 回	日常的コミュニケーションのメカニズム（順番交替と行為連鎖）	行為連鎖のメカニズムについて、
第 6 回	行為連鎖	順番交代のルールと行為連鎖のメカニズムの関係
第 7 回	修復の組織 1	修復の秩序：修復のメカニズムとは何か
第 8 回	修復の組織 2	修復のメカニズムと法的コミュニケーション
第 9 回	陪審制度における法的コミュニケーション	司法への国民参加市民の司法参加について理解する
第 10 回	裁判員制度における法的コミュニケーション	陪審と裁判員ビデオの視聴と分析
第 11 回	優先性のメカニズムと法	優先性の秩序とは何か？
第 12 回	会話と優先性	優先性の秩序と法規範の関係
第 13 回	成員カテゴリーと法	成員カテゴリーとコミュニケーション
第 14 回	法における成員カテゴリーと結合活動	成員カテゴリーと結合活動の法的関連性
第 15 回	成員カテゴリーと適用規則	成員カテゴリー化装置の概要
第 16 回	成員カテゴリー化と法的コミュニケーション	成員カテゴリー化装置が法的コミュニケーションにどのような関連性を持つか

第 17 回	反対尋問におけるコミュニケーション	反対尋問のコミュニケーションの意義
第 18 回	反対尋問におけるコミュニケーションと会話の秩序	ケネディスミス・レイブ事件における反対尋問 ブラックの反対尋問のメカニズム
第 19 回	反対尋問の具体例と相互行為分析	日本における反対尋問コミュニケーションの実態
第 20 回	反対尋問と成員カテゴリー分析	日本の反対尋問教育について
第 21 回	市民の司法参加と評議のコミュニケーション	陪審評議のコミュニケーションと常識の利用
第 22 回	評議のコミュニケーションにおける常識	裁判員評議における常識の利用
第 23 回	常識とは何か？	実際の評議データから「常識」を発見する
第 24 回	評議における常識とは何か？	実際の評議データから「常識」を発見する。特にその相互行為的特徴を学習
第 25 回	学校型コミュニケーションの諸特徴	オウム説法のコミュニケーションと教育場面のコミュニケーションの比較
第 26 回	学校型コミュニケーションと法的コミュニケーション	教育場面のコミュニケーションと法的コミュニケーションの異同
第 27 回	評議における裁判官の発言	評議における裁判官のコントロールの技法
第 28 回	緊急通報電話	緊急通報電話の特徴の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のレジュメを復習する。

授業の進行に合わせてテキストの該当部分を読む。

課題を行う本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料は大学のウェブシステムで配布する。

【参考書】

エスノメソドロジー—人びとの実践から学ぶ（ワードマップ）単行本（ソフトカバー） 前田 泰樹（編集）、水川 喜文（編集）、岡田 光弘（編集）新曜社（2007/8/3）

【成績評価の方法と基準】

試験とともに、毎回の課題を実施するとともに、授業中の質問への応答など授業に積極的に参加することを評価対象とする。詳細はガイダンス時に説明する。出席も勘案する。期末試験（授業内試験の可能性もある）70パーセント、平常点（授業中の質疑、課題、小テスト）を30パーセントとする。

【学生の意見等からの気づき】

板書が読みにくい場合があったので、今回はすべてパワーポイントのスライドを作成して、投影しながら授業を進行させる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

通常授業ではあるが、授業中の作業や質問への応答が必須であるから、十分積極的に授業に参加すること。

【Outline and objectives】

The sociology of law, or "law and society" studies, is a research field in which to study how the law actually works in a variety of settings in our society by collecting and examining various kinds of data from social scientific perspectives. This year the class focuses particularly on how communications in law-related situations are conducted, including examinations in court, jury deliberations, lawyers' interviews/counseling with their clients, mediations and legal negotiations, and examines the data from the perspective of ethnomethodology and conversation analysis as a research method.

LAW300AB

英米法 I

小山田 朋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米法の中でも現代アメリカ法を扱います。「日本の高校生がアメリカに留学し、ハロウィンの日に仮装をして近所の家に行ったら射殺された」事件や、「コーヒーをこぼしたおばあさんから訴えられたマクドナルド社が3億円の賠償を命じられた（?）」事件を聞いたことがあるかもしれません。この授業では、これらの事件を扱います。そして、これらの事件などをきっかけにわが国でも広まったアメリカ法のイメージや誤解について解説します。

授業が終わる頃に、アメリカ法について、またわが国の法について、イメージが変わっているかもしれません。（これまでの受講生からはそのような声が寄せられました。）

受講生が、一市民として生活する上で、日本法とアメリカ法ではどのような違いがあるか考え、わが国の法についても新しい発見をすること、がこの授業の目的です。「文化・社会と法コース」ともっとも強い関連を持ちますが、他のコースも含めすべてのコースに属している科目です。

なお、英語はまったく使用しません。

【到達目標】

わが国との比較から、アメリカ法の特徴をつかむこと、それによって、わが国の法のあり方への理解も深めることができることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度は、資料配布とZOOMでの授業を組み合わせた、オンラインでの開講となります。くわしい日程やZOOMのURL等は、4月5日までに学習支援システムの「お知らせ」に提示します。①解説を付した課題の資料を配付するので各自学習する、②ZOOMでの授業を受ける、③学期に2回程度、理解を確認するクイズやアンケートを行う、という方法を予定しています。講義だけでなく、理解を助ける映像も使います。特に、陪審制については、実際の陪審裁判を記録したビデオや映画等の教材も使って、裁判への素人の参加について考えてみたいと思います。

また、数回に一度、それまでの授業の重要な部分や、リアクションペーパーに書かれた学生からの疑問点やコメントをとりあげ、解説します。

なお、英語はまったく使用しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とアメリカ法を学ぶ意味
第 2 回	陪審制とは？	映画『12人の怒れる男』を見る
第 3 回	陪審制の説明	映画の解説と「服部くん事件」（ハロウィンの日に射殺された高校生留學生）
第 4 回	陪審制の長所と短所	陪審制の長所と短所を分析する
第 5 回	陪審裁判にはどんな課題があるか？	陪審裁判の映像を見る
第 6 回	陪審裁判の課題について	陪審裁判の映像を見て、解説する
第 7 回	陪審裁判の課題と制度	陪審裁判の課題についてどのような制度があるか？
第 8 回	わが国との比較	わが国の裁判員制度との比較（裁判員になりたい？）
第 9 回	懲罰的損害賠償とは？	マクドナルド事件（コーヒーが熱くて3億円?！）
第 10 回	懲罰的損害賠償と陪審	「マクドナルド事件の陪審はクレイジーなのか？」について映像を見る
第 11 回	懲罰的損害賠償の長所と短所	映像の解説と分析
第 12 回	アメリカの建国	なぜイギリスから独立したのか？
第 13 回	アメリカの建国と憲法	どのような国家を目指したのだろうか？今日のアメリカの理解につなげる
第 14 回	まとめ	全体のまとめと疑問点の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アメリカ法の授業は初めて受講する学生ばかりですから、基礎知識は必要ありません。また、英語はまったく使用しないので、英語についての準備も必要ありません。

授業では、数回に一度、授業内容を振り返ったり、学生からの疑問点に答える時間を設けるので、疑問点や理解できなかった部分について意識しておくといいでしょう。本授業の復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はレジメを配布して行い、テキストは指定しません。

【参考書】

樋口範雄『はじめてのアメリカ法』（有斐閣）
（とても読みやすい本です）
そのほか授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムのテスト機能を使ったクイズを成績評価の対象とします（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で理解を確認したりするための時間を取ってきましたが、その時間のおかげで、理解できていなかった部分がわかったり、より理解を確実にすることができたという、学生からの感想がありました。
また、これまでに、難しかったとの声があった箇所については、より分かりやすい解説を心がけています。
また、これまでの学生からの希望を受けて、数回に一度、それまでの授業の重要な部分や学生からの疑問点やクイズの準備方法などを解説する時間を設けるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

準備するものはありません。

【その他の重要事項】

授業の初回および2回目、講義の進め方、成績評価についてなど説明します。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn some aspects of modern American law, and compare them with Japanese law.

LAW300AB

英米法Ⅱ

小山田 朋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米法の中でも現代アメリカ法を扱います。「黒人などのマイノリティについて大学入試で優先的に合格とする制度は平等なのか」や、「同性の2人が結婚するのは権利なのか」という問題について、アメリカの最高裁判所は判決を出してきました。「同性婚は憲法上の権利だ」という2015年の判決については、わが国でも新聞等で報じられました。

もちろん結論もインパクトがありますが、「大学とは何か?」「結婚とは何か?」ということが判決文の中で論じられているのは、新鮮だと思います。

受講生が、わが国との比較を通して、アメリカ法への理解だけでなく、わが国の法についても新しい発見を得ることがこの授業の目的です。「文化・社会と法コース」ともっとも強い関連を持っていますが、他のコースも含めすべてのコースに属している科目です。

なお、英語はまったく使用しません。また、英米法Ⅰを履修している必要はありません。

【到達目標】

わが国との比較から、アメリカ法の特徴をつかむこと、それによって、わが国の法のあり方への理解も深めることができることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度は、資料配布とZOOMでの授業を組み合わせた、オンラインでの開講となります。くわしい日程やZOOMのURL等は、9月21日までに学習支援システムの「お知らせ」で提示します。①解説を付した課題の資料を配付するので各自学習する、②ZOOMでの授業を受ける、③学期に2回程度、理解を確認するクイズやアンケートを行う、という方法を予定しています。講義だけでなく、理解を助ける映像も使います。また、数回に一度、それまでの授業の重要な部分や、リアクションペーパーに書かれた学生からの疑問点やコメントをとりあげ、解説します。
なお、英語はまったく使用しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方とアメリカ法を学ぶ意味
第2回	奴隷制はどのようになくなったか？	映画『グローリー』を見る
第3回	奴隷制と憲法の関係	映画の解説と憲法
第4回	奴隷制と判例	奴隷制を最高裁はどう扱ったか？
第5回	奴隷制と憲法改正	憲法改正による変化
第6回	人種差別	人種差別はどのように残ったか？
第7回	人種差別と判例	最高裁は人種差別をどう扱ったか？
第8回	現代の人種差別：アフーマティブ・アクション	アフーマティブ・アクション（大学に優先的に合格させる）は望ましいか？
第9回	現代の人種差別：陪審	陪審と人種差別の問題（O.J. シンプソン事件：白人ばかり／黒人ばかりの陪審でいいか？）
第10回	同性婚をめぐる判例	同性婚についての判決
第11回	同性婚をめぐる判例の分析	同性婚についての判決と反対意見を比較する
第12回	製造物責任の裁判	製造物責任法の裁判のビデオを見る
第13回	製造物責任法とは？	映像の分析と法の解説
第14回	まとめ	全体のまとめと疑問点の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アメリカ法の授業は初めて受講する学生ばかりですから、基礎知識は必要ありません。

また、英語はまったく使用しないので、英語についての準備も必要ありません。授業の受講の間には、数回に一度、授業内容を振り返ったり、学生からの疑問点に答える時間を設けるので、疑問点や理解できなかった部分について意識しておくといいでしょう。本授業の復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はレジメを配布して行い、テキストは指定しません。

【参考書】

樋口範雄『はじめてのアメリカ法』（有斐閣）

(とても読みやすい本です)
そのほか授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムのテスト機能を使ったクイズを成績評価の対象とします（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で理解を確認したりするための時間を取ってきましたが、その時間のおかげで、理解できていなかった部分がわかったり、より理解を確実にすることができたという、学生からの感想がありました。
また、これまでに、難しかったとの声があった箇所については、より分かりやすい解説を心がけています。
また、これまでの学生からの希望を受けて、数回に一度、それまでの授業の重要な部分や学生からの疑問点やクイズの準備方法などを解説する時間を設けるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

準備するものはありません。

【その他の重要事項】

授業の初回および2回目、講義の進め方、成績評価についてなど説明します。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn some aspects of modern American law, and compare them with Japanese law.

LAW300AB

アジア法Ⅰ

陳 志明

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、アジア法Ⅱ（秋学期）と一体をなすものであり、アジア各国・地域の法制度（特に憲法制度）をテーマとしています。アジア法Ⅰ及びアジア法Ⅱは、法律学科の専門教育科目では基礎法科目に属し、「行政・公共政策と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「企業・経営と法コース（労働法中心）」、「国際社会と法コース」及び「文化・社会と法コース」では履修が望まれる選択科目に挙げられています。春学期のアジア法Ⅰでは、総論としてアジアの法制度の特質を概観した上で、東南アジアに属する各国の法制度を中心に取り上げる予定です。

【到達目標】

受講生がアジア各国・地域の法制度について、その背景にある諸要因（歴史・文化等）を踏まえつつ理解し、自分なりの問題意識及びそれに対する見解を持つに至ることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」上で教材配信型のオンライン授業を行い、毎回配信するレジュメ及び資料を受講生が読む形で授業を進めます。また計5回の授業内小レポートを課し、それに対するフィードバックは第14回授業のまとめに際して包括的に行います。なお対面授業に復帰することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明
第2回	総論（アジアの法制度）	アジアの法制度の特質 アジアの法制度を理解する上での留意点
第3回	フィリピンの法制度①	フィリピンの概観 フィリピンの歴史と法制度の変遷 現在のフィリピン憲法
第4回	フィリピンの法制度②	フィリピンの統治構造 フィリピンの人権
第5回	マレーシアの法制度①	マレーシアの概観 マレーシアの歴史と法制度の変遷 現在のマレーシア憲法
第6回	マレーシアの法制度②	マレーシアの統治構造 マレーシアの人権
第7回	シンガポールの法制度	シンガポールの概観 シンガポールの歴史と法制度の変遷 現在のシンガポール憲法
第8回	タイの法制度①	タイの概観 タイの歴史と法制度の変遷 現在のタイ憲法
第9回	タイの法制度②	タイの統治構造 タイの人権
第10回	インドネシアの法制度①	インドネシアの概観 インドネシアの歴史と法制度の変遷 現在のインドネシア憲法
第11回	インドネシアの法制度②	インドネシアの統治構造 インドネシアの人権
第12回	ベトナムの法制度	ベトナムの概観 ベトナムの歴史と法制度の変遷 現在のベトナム憲法
第13回	カンボジアの法制度	カンボジアの概観 カンボジアの歴史と法制度の変遷 現在のカンボジア憲法
第14回	まとめ及び学期末レポート	総復習並びにレポートの作成及び提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を読むことと併せて、新聞等でアジアの最新動向を追うことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

作本直行編『アジア諸国の憲法制度』（経済協力シリーズ 182、アジア経済研究所、1997 年）

大村泰樹・小林昌之編『東アジアの憲法制度』（経済協力シリーズ 187、日本貿易振興会アジア経済研究所、1999 年）

安田信之『東南アジア法』（日本評論社、2000 年）

鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009 年）

稲正樹・孝忠延夫・國分典子編著『アジアの憲法入門』（日本評論社、2010 年）

加藤和英「仏暦 2560 年（西暦 2017 年）タイ王国憲法について」（『タイ国情報』第 51 巻別冊第 1 号、日本タイ協会、2017 年 5 月、巻頭 1～18 ページ）

知花いづみ・今泉慎也『現代フィリピンの法と政治―再民主化後 30 年の軌跡』（アジ研選書 53、アジア経済研究所、2019 年）

青木まき編『タイ 2019 年総選挙―軍事政権の統括と新政権の展望（電子書籍 PDF 版）』（情勢分析レポート 32、アジア経済研究所、2020 年、<https://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Josei/032.html>、2021 年 2 月 1 日閲覧）

鮎京正訓編集代表・島田弦編著『インドネシア―民主化とグローバリゼーションへの挑戦』（アジア法整備支援叢書、旬報社、2020 年）

その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80 %）及び授業内小レポート（20 %）によって評価します。なお対面授業に復帰することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

例年受講生が大変多いこともあり、授業の形式は片方向的なものとなりがちです。ので、一定の双方向性を確保するため、授業後における個別の質問を歓迎します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of the legal system in Asia and the legal system of each country belonging to Southeast Asia.

LAW300AB

アジア法Ⅱ

陳 志明

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、アジア法Ⅰ（春学期）と一体をなすものであり、アジア各国・地域の法制度（特に憲法制度）をテーマとしています。アジア法Ⅰ及びアジア法Ⅱは、法律学科の専門教育科目では基礎法科目に属し、「行政・公共政策と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「企業・経営と法コース（労働法中心）」、「国際社会と法コース」及び「文化・社会と法コース」では履修が望まれる選択科目に挙げられています。秋学期のアジア法Ⅱでは、東アジアに属する各国・地域の法制度を中心に上げますが、南アジアに属するインドの法制度、さらにイスラム法も取り上げる予定です。

【到達目標】

受講生がアジア各国・地域の法制度について、その背景にある諸要因（歴史・文化等）を踏まえつつ理解し、自分なりの問題意識及びそれに対する見解を持つに至ることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」上で教材配信型のオンライン授業を行い、毎回配信するレジュメ及び資料を受講生が読む形で授業を進めます。また計 5 回の授業内小レポートを課し、それに対するフィードバックは第 14 回授業のまとめに際して包括的にを行います。なお対面授業に復帰することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	インドの法制度①	インドの概観 インドの歴史と法制度の変遷 現在のインド憲法
第 2 回	インドの法制度②	インドの統治構造 インドの人権
第 3 回	イスラム法	イスラム法と聖典 イスラム法学と法学派 イスラム法の淵源
第 4 回	韓国の法制度①	韓国の概観 韓国の歴史と法制度の変遷 現在の韓国憲法
第 5 回	韓国の法制度②	韓国の統治構造 韓国の人権
第 6 回	北朝鮮の法制度	北朝鮮の概観 北朝鮮の歴史と法制度の変遷 現在の北朝鮮憲法
第 7 回	モンゴルの法制度	モンゴルの概観 モンゴルの歴史と法制度の変遷 現在のモンゴル憲法
第 8 回	中国の法制度①	中国の概観 中国の歴史と法制度の変遷 現在の中国憲法
第 9 回	中国の法制度②	中国の統治構造 中国の人権
第 10 回	香港の法制度	香港の概観 香港の歴史と法制度の変遷 現在の香港基本法
第 11 回	マカオの法制度	マカオの概観 マカオの歴史と法制度の変遷 現在のマカオ基本法
第 12 回	台湾の法制度①	台湾の概観 台湾の歴史と法制度の変遷 現在の台湾統治基本法
第 13 回	台湾の法制度②	台湾の統治構造 台湾の人権
第 14 回	まとめ及び学期末レポート	総復習並びにレポートの作成及び提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を読むことと併せて、新聞等でアジアの最新動向を追うことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009 年）
 稲正樹・孝忠延夫・國分典子編著『アジアの憲法入門』（日本評論社、2010 年）
 金永完『中国における「一国二制度」とその法的展開—香港・マカオ・台湾問題と中国の統合』（国際書院、2011 年）
 大河原知樹・堀井聡江『イスラーム法の「変容」—近代との邂逅』（イスラームを知る 17、山川出版社、2015 年）
 蔡秀卿・王泰升編著『台湾法入門』（法律文化社、2016 年）
 孝忠延夫・浅野宜之『インドの憲法〔新版〕—「国民国家」の困難性と可能性』（関西大学出版部、2018 年）
 田中信行編『入門中国法〔第 2 版〕』（弘文堂、2019 年）
 尹龍澤・青木清・大内憲昭・岡克彦・國分典子・中川敏宏・三村光弘編著『コリアの法と社会』（日本評論社、2020 年）
 その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80 %）及び授業内小レポート（20 %）によって評価します。なお対面授業に復帰することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

例年受講生が大変多いこともあり、授業の形式は片方向的なものとなりがちですので、一定の双方向性を確保するため、授業後における個別の質問を歓迎します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the legal system of India, the Islamic law, and the legal system of each country and region belonging to East Asia.

LAW300AB

社会安全政策論Ⅰ

寺井 陽子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

犯罪等の人の行為に起因する危険から個人や社会を守るためには、誰がどのような行動をとればよいのでしょうか。本講義では、現実社会で問題となっている各種の治安事象について説明しつつ、それに対する各方面からの取組を紹介します。講義や議論を通じて、犯罪の発生状況や犯罪対策について正確に理解するとともに、社会を担う一員として、社会の安全安心についての考え方を確立することを目指します。

【到達目標】

人は常に犯罪の危険にさらされています。よって、この講義により、犯罪リスク、逸脱行動への対処の仕方を学びます。
 また、人は常に犯罪を抑止することができます。この講義を受けることで、皆さんが社会の構成員として担うべき役割、責務を学び、安全な社会を作るプレーヤーとしての能力を養うことを目指します。
 その他、近年の我が国における治安情勢についての理解を深め、効果的かつ均衡のとれた政策の在り方について考察する素養を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

グラフや画像を活用したわかりやすい資料を講師が毎回作成し、配布します。
 出席した皆さんから講義中に質問や意見を受け付け、いただいた質問には次回講義で回答します。
 講義時間外の質問も可能です。その場合は、メールを原則とし、メールで返信します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のテーマ、進め方、評価の仕方、警察概要、社会安全政策論の定義等
第 2 回	犯罪情勢	日本の犯罪情勢に係る統計、安心と安全の違い等
第 3 回	犯罪予防	犯罪予防総論・各論
第 4 回	犯罪捜査	捜査の概要、司法制度改革、捜査の高度化のための取組等
第 5 回	犯罪被害者支援	犯罪被害者を取り巻く状況、日本における被害者等施策の推移等
第 6 回	特別講義	実務の現状
第 7 回	女性等を守る施策	性犯罪対策、ストーカー対策、DV 対策等
第 8 回	子どもを守る施策	児童虐待対策、児童ポルノ対策等
第 9 回	少年非行対策	少年法の概要、少年非行情勢、少年非行への対策等
第 10 回	特殊詐欺対策	特殊詐欺の発生状況、手口の詳細、対策等
第 11 回	サイバー犯罪対策	サイバー犯罪の現状、対策等
第 12 回	組織犯罪対策	暴力団とは、暴力団による犯罪情勢、対策等
第 13 回	薬物対策	薬物の基礎知識、薬物犯罪情勢、対策等
第 14 回	テロ対策	日本及び世界のテロ情勢、対策等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

治安事象に関する報道等に広く関心を持って下さい。
 本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

全体を通じて、警察政策学会編『社会安全政策論』立花書房（2018 年）、警察白書、犯罪白書 等を参考としてください。警察白書は警察庁ウェブサイト、犯罪白書は法務省ウェブサイトに掲載されていますので、購入せずとも見ることができます。

その他、講義ごとに参考資料を明示します。

【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況や参加度を平常点として評価します。

また、学期末にレポートを提出してもらいます。

成績評価に当たっては、それぞれ 50 % を配分します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

講義で使用する資料は、原則として、事前に学習支援システムにアップロードしますので、可能な限り資料を印刷し、事前に目を通しておいください。

【その他の重要事項】

講師は現役の警察庁職員であり、警察庁のほか、他省庁や都道府県警察でも勤務した経験を持ちます。講師の知見を活かしつつ、現実社会に即した社会安全政策論について、分かりやすく解説します。刑法、刑事訴訟法の基礎知識があると理解が平易になります。

【Outline and objectives】

This course, Theory on Social Security Policy, deals with policies for protecting the individual or society from dangers arising from people's behavior, mainly related to crimes. The course provides theoretical understanding of the dramatic improvement of the public safety situation in the recent 18 years. The students can also get some keys to properly handle the risks or other challenges they might face in future. This course ultimately aims to develop their ability so that they can grasp and analyze various kinds of problems in society, and find out solutions

LAW100AB

法思想史

大野 達司

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「文化・社会と法コース」に属する。

近代日本の法思想・法制度に対する海外法思想の影響と理解を概観する。

【到達目標】

近代日本法思想の海外法思想の受容と歴史的背景を理解し、近代化の意味とともに、とくに西欧法思想をわたしたちが学ぶ意味をとらえ、一般に目にする西欧中心の法思想史を学ぶきっかけをうる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、学習支援システムで配布するレジュメに基づいて授業を進める。

対面授業ができない場合は、概要について動画・または音声ファイルをシステムにアップする予定。同システムを通じて、授業時間内・また一定の期間質問を受け付ける。次回授業か、学習支援システムで応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第二回	第一章法と権利	近代初期日本への法と権利概念の継受
第三回	第二章自然法の思想	西欧自然法論の概要
第四回	第三章公と知識人	明治期の「市民社会」＝公共圏のありか
第五回	第四章憲法と自治	明治憲法制定期の議会制と自治をめぐる議論
第六回	第五章初期明治憲法理論 第12章天皇機関説事件の法思想	穂積八東・美濃部達吉・上杉慎吉らの法思想
第七回	第六章明治民法学	日本とドイツの法典論争
第八回	第七章刑法理論の対立	初期刑法学以降の旧派と新派の対立と意味
第九回	第八章大正デモクラシー	大正デモクラシーの法・政治思想と初期フェミニズム
第十回	第九章マルクス主義法学	社会法の法思想のはじまりと、思想弾圧
第十一回	第10章国際法と国際政治	第一次大戦後の国際法・政治思想とケルゼン・シュミット
第十二回	第11章国粋主義の法思想	昭和初期の政治基盤の変容と右派法思想
第十三回	第13章総動員体制（新体制）の構築と法思想 第14章戦時体制下の法思想	第二次大戦に突入するころの法思想
第十四回	第15章新憲法体制の法思想	第二次大戦直後の法思想の対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに基づいて予習復習をすること。教科書を利用する場合は、事前に指示した箇所を確認しておくこと本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大野・森元・吉永『近代法思想史入門』法律文化社、2016 年

【参考書】

教科書にあげられているものの他、西欧法思想史について

森村進編『法思想の水脈』法律文化社、2016 年

西村清貴『近代ドイツの法と国制』成文堂、2017 年

中山・浅野・松嶋・近藤『法思想史』有斐閣、2019 年

西村清貴『法思想史入門』成文堂、2020 年

戒能通弘・神原和宏・鈴木康文『法思想史を読み解く』法律文化社、2020 年
授業では触れられないかもしれないが、オリヴァー・リーマン『イスラム哲学への扉』中村廣治郎訳、ちくま学芸文庫、2002 年

小嶋祐馬『中国思想史』KK ベストセラーズ、2017 年

【成績評価の方法と基準】

オンラインの場合期末レポート（100 %）。対面授業ができる場合（試験ができる場合）については、後日指示する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

なし

学習支援システムが使えるように。

【Outline and objectives】

This lecture focuses on the modern Japanese legal thoughts and their receptions from foreign legal thoughts as their backgrounds.

LAW200AB

行政法入門Ⅰ

高橋 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I 行政法とは行政に関する法のことを指す。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律（行政法典）がないことである。しかしながら、市場及び国民生活に対する公的な介入としての行政のメカニズムに即して、行政法は独自の体系を構築している。

II 本講義は、行政法に関する入門科目として、行政法入門Ⅱとともに、行政法に関する題材を幅広く取扱い、行政法の全体像の把握、行政法の基礎知識に関する修得を目指す。

III 行政法入門Ⅰにおいては、具体的には、行政法の基礎、行政組織法の基礎、行政活動（作用）法入門（前半）を取り扱う。全てのコースに配置されている科目である。

【到達目標】

I 知識面

① 行政法の全体像を把握し、各学習項目について基礎的な知識を確実に理解する。

② 行政法の基礎的な理解に不可欠な行政法令、代表的な最高裁判所の判決の概要について、確実な知識を身に付ける。

③ 具体的には、次のものを取り扱う。

行政法の体系、法治主義と法の支配、行政法の基本原理、
行政組織法の基礎
行政行為

II 能力面

① 行政法分野における基礎的な解説文が読解できる能力を養う。併せて、代表的な最高裁判所の判旨を正確に理解できる能力を養う。

② 解説文、最高裁判所の判決要旨等について、理解できない点、疑問点を発見し、これらについて自ら基礎的な文献を調べ、あるいは、担当教員等に質問するなどして、受動的ではなく、積極的に講義に参加する学習態度を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

I 一般的な講義形式による。ただし、新型コロナウイルス感染症の蔓延が終息しない間においては、規模の大きい本講義は、当分の間、学習支援システムに、学習資料と動画の URL をアップすることを通じた動画の視聴と自習の形式、及び Zoom によるリアルタイム講義形式を併用する。併せて、Zoom の視聴時間把握機能とアンケート機能を用いて、講義参加実態とアンケートの回答状況を確認し、学習状況を把握する（状況により変動し得るため、毎週、学習支援システムを確認すること）。

II 受講者は教科書を購入し、学習支援システムからダウンロードした資料を利用し、動画を視聴して学習を進めること。

III 受講者は、併せて、Zoom を用いたリアルタイム講義に参加し、予習を踏まえて学習を深め、その後の復習を通じて理解を定着させること。

学生に対するフィードバックは、試験につき、必要と認めた場合に、採点方針と講評を事後に公表する形で実施する（第1回中間試験については必ず実施）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方
	行政法とは何か	行政法令の例
第2回	行政法基礎（1）	行政法の基本原理（1）
第3回	行政法基礎（2）・行政組織法（1）	行政法の基本原理（2）・行政組織法（1）（行政主体）
第4回	行政法組織法（2）	行政組織法（2）（国・地方関係、地方分権）
第5回	第1回中間試験	第1回中間試験（試験範囲は、第1回～第4回）
第6回	行政組織法（3）	行政組織法（3）（公私協働、行政機関）
第7回	行政作用法入門（1）	行政作用法入門（1）（行政の行為形式論、「行政行為」①（概説））
第8回	行政作用法入門（2）	行政作用法入門（2）（行政行為②（行政行為と事後的救済の制度①））
第9回	行政作用法入門（3）	行政行為③（行政行為と事後的救済の制度②）
第10回	第2回中間試験	第2回中間試験（試験範囲は、第6回～第9回）

第 11 回	行政作用法入門（４）	行政行為④（行政手続①- 概説・申請に対する処分）
第 12 回	行政作用法入門（５）	行政行為⑤（行政手続②- 不利益処分）
第 13 回	行政作用法入門（６）	行政行為⑥（行政裁量）
第 14 回	行政作用法入門（７）	行政指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

入門科目であるので、テキストを熟読すること。また、適宜、プリントを配布するので、それにも必要に応じて参照すること。さらに、わからない用語等があれば、法律学辞典等を調べること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋＝野口貴公美＝磯部哲＝大橋真由美編『行政法 Visual Materials〔第 2 版〕』（有斐閣、2020 年）2,750 円
（最新の内容の理解が重要であり、理解度テストも最新の知見を重視するため、第 1 版の使用は推奨しない（第 1 版の記述に依拠して解答した場合は及第点が獲得できない可能性がある））

【参考書】

高橋滋『行政法（第 2 版）』（弘文堂、2018 年）3,500 円

【成績評価の方法と基準】

I 大学の学習支援システムを用いたオンライン中間試験を 2 回実施する（合計 25%）、期末オンライン試験を 1 回実施する（25%）。合計 50%
II Zoom の接続時間登録機能を用いた出席チェック、Zoom のアンケート機能を用いた理解度チェックを通じて、平常の学習態度を評価する（50%）。春学期における Zoom を通じた受講の習熟度の向上を踏まえ、理解度チェックは各問について実施する（接続時間要件を満たし、かつ、2 問正解の場合は 5 点、同じく 1 問正解の場合は 3 点、2 問とも不正解の場合 1 点、接続要件不充足の場合は 0 点）。任意の 10 回の講義につき、10 回 × 5% = 合計 50%
III 正当な事由により、接続時間要件を満たすことができず、あるいは、アンケートに解答できなかった受講者については、正当事由を証する物件の提出を条件として、レポートの提出による救済措置を実施する（レポートの記載内容に応じて 0 点から 5 点を付与する）。
IV 学生に対するフィードバックは、試験につき、必要と認めた場合に、採点方針と講評を事後に公表する形で実施する（第 1 回中間試験については必ず実施）。

【学生の意見等からの気づき】

① 学習に意欲的な受講者の反応からは、オンライン講義の形態であっても、対面講義に劣らない講義内容を提供できたものと考え
② 教員・学生相互にオンライン講義の習熟度が向上したと思われることから、平常点の確認の手法をより厳格なものに切り替えることとした。
③ Zoom についても学習支援システムについても稀にはあるが通信障害が生ずることが確認された。この点を踏まえ、昨年度においても救済措置を実施したが、平常点の評価の厳格化に伴い、救済措置としてのレポートの評価も厳格化する。

【学生が準備すべき機器他】

PC（所有しない者には大学から貸与される）
無線ルーター（所有しない者には貸与または通信費が補助される）又はデータ回線
六法（WEB 上に政府の法令データベースが公開されている）

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

(1) Introduction to Administrative Law I

As an introductory lecture of administrative law, together with Introduction to Administrative law II, this lecture handles many materials about the administration. Students are expected to grasp the whole structure of the subject and to acquire basic knowledge about the administrative law.

(2) Contents of the lecture

Basic theory of administrative Law, Introduction to administrative organization law, introduction to administrative operations (first half).

(3) This lecture is for all courses.

LAW200AB

行政法入門Ⅱ

高橋 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I 行政法に関する入門科目として、行政法入門Ⅰとともに、全てのコースに置かれている。行政法に関する題材を幅広く取扱い、行政法の全体像の把握、行政法の基礎知識に関する修得を目指す。
II 実定法、特に行政法の講義内容が抽象的なものとなりがちであることに留意し、行政法の複雑な仕組みを平易に説明した図・グラフ、重要判例の事案の理解に資する図・説明文、行政実務に用いられている文書等を多く用い、行政法全体の体系に関する基礎的な理解及び基礎知識が 1 年間 4 単位の講義を通じて修得できることを目指す。
III 具体的には、次の内容を取り扱う。
行政立法、行政計画、行政契約
情報公開、個人情報保護
国家賠償法入門、国家賠償、損失補償
行政争訟法入門、行政訴訟

【到達目標】

I 知識面

①行政法の全体像を把握し、各学習項目について基礎的な知識を確実に理解する。
②行政法の基礎的に理解に不可欠な行政法令、代表的な最高裁判所の判決の概要についても、確実な知識を身に付ける。

II 能力面

①行政法分野における基礎的な解説文が読解できる能力を養う。併せて、代表的な最高裁判所の判旨を正確に理解できる能力を養う。
②解説文、最高裁判所の判決要旨等について、理解できない点、疑問点を発見し、これらについて自ら基礎的な文献を調べ、あるいは、担当教員等に質問するなどして、受動的ではなく、積極的に講義に参加する学習態度を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

I 一般的な講義形式による。ただし、新型コロナウイルス感染症の蔓延が終息しない間においては、規模の大きい本講義は、当分の間、学習支援システムに、学習資料と動画の URL をアップすることを通じた動画の視聴と自習の形式、及び Zoom によるリアルタイム講義形式を併用する。併せて、Zoom の視聴時間把握機能とアンケート機能を用いて、講義参加実態とアンケートの回答状況を確認し、学習状況を把握する（状況により変動し得るため、毎週、学習支援システムを確認すること）。

II 受講者は教科書を購入し、学習支援システムからダウンロードした資料を利用し、動画を視聴して学習を進めること。

III 受講者は、併せて、Zoom を用いたリアルタイム講義に参加し、予習を踏まえて学習を深め、その後の復習を通じて理解を定着させること。
学生に対するフィードバックは、試験につき、必要と認めた場合に、採点方針と講評を事後に公表する形で実施する（第 1 回中間試験については必ず実施）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	行政契約・行政立法①	行政契約・行政立法①（概説）
第 2 回	行政立法②	行政立法②（法規命令・行政規則①）
第 3 回	行政立法③・行政計画	行政立法③（行政規則②）・行政計画
第 4 回	行政情報の公開	行政情報の公開
第 5 回	行政情報と個人情報保護	行政情報と個人情報保護
第 6 回	第 1 回中間試験	第 1 回中間試験（試験範囲は、第 1 回から第 5 回）
第 7 回	行政訴訟の基礎・抗告訴訟①	行政訴訟の基礎・抗告訴訟の種類・取消訴訟の要件①
第 8 回	抗告訴訟②	取消訴訟の訴訟要件①- 処分性・原告適格
第 9 回	抗告訴訟③	その他の抗告訴訟・仮の救済
第 10 回	当事者訴訟・客観訴訟	当事者訴訟・客観訴訟
第 11 回	第 2 回中間試験	第 2 回中間試験（試験範囲は、第 7 回～第 10 回）
第 12 回	国家賠償法①	国家賠償法①- 概説、公務員・公権力の行使
第 13 回	国家賠償法②	国家賠償法②- 故意・過失・違法性、職務行為基準説

第 14 回 国家賠償法③

公の営造物の設置管理の瑕疵・国家補償の谷間

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

入門科目であるので、テキストを予め熟読すること。また、わからない用語等があれば、参考文献を調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋＝野口貴公美＝磯部哲＝大橋真由美編『行政法 Visual Materials〔第 2 版〕』（有斐閣、2020 年）2,750 円

（最新の内容の理解が重要であり、理解度テストも最新の知見を重視するため、第 1 版の使用は推奨しない（第 1 版の記述に依拠して解答した場合は及第点が獲得できない可能性がある））

【参考書】

高橋滋『行政法（第 2 版）』（弘文堂、2018 年） 3,500 円

【成績評価の方法と基準】

I 大学の学習支援システムを用いたオンライン中間試験を 2 回実施する（合計 25%）、期末オンライン試験を 1 回実施する（25%）。合計 50%

II Zoom の接続時間登録機能を用いた出席チェック、Zoom のアンケート機能を用いた理解度チェックを通じて、平常の学習態度を評価する（50%）。春学期における Zoom を通じた受講の習熟度の向上を踏まえ、理解度チェックは各問について実施する（接続時間要件を満たし、かつ、2 問正解の場合は 5 点、同じく 1 問正解の場合は 3 点、2 問とも不正解の場合 1 点、接続要件不充足の場合は 0 点）。任意の 10 回の講義につき、10 回 × 5% = 合計 50% III 正当な事由により、接続時間要件を満たすことができず、あるいは、アンケートに解答できなかった受講者については、正当事由を証する物件の提出を条件として、レポートの提出による救済措置を実施する（レポートの記載内容に応じて 0 点から 5 点を付与する）。

IV 学生に対するフィードバックは、試験につき、必要と認めた場合に、採点方針と講評を事後に公表する形で実施する（第 1 回中間試験については必ず実施）。

【学生の意見等からの気づき】

① 学習に意欲的な受講者の反応からは、オンライン講義の形態であっても、対面講義に劣らない講義内容を提供できたものと考ええる

② 教員・学生相互にオンライン講義の習熟度が向上したと思われることから、平常点の確認の手法をより厳格なものに切り替えることとした。

③ Zoom についても学習支援システムについても、稀にはあるが通信障害が生ずることが確認された。この点を踏まえ、昨年度においても救済措置を実施したが、平常点の評価の厳格化に伴い、救済措置としてのレポートの評価も厳格化する。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム等を使用する。

PC(ない場合には大学から貸与される)

通信設備（ない場合には大学の通信費補助又は無線ルーターの貸与がある）

六法（ネットで政府の法令データベースを無料で利用できる）

【その他の重要事項】

なし。

【Outline and objectives】

(1) Introduction to Administrative Law II

As an introductory lecture of administrative law, together with Introduction to Administrative law I, this lecture handles many materials about the administration. Students are expected to grasp the whole structure of the subject and to acquire basic knowledge about the administrative law.

(2) Contents of the lecture

Introduction to administrative operations (last half), Freedom of Administrative Information and Protection of Personal Data, State Compensation, Appeals and Suits against Administration.

(3) This lecture is for all courses.

LAW200AB

外国語講読（独語）Ⅱ

大野 達司

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、各コースの基礎となるものであり、法律学の学問的視野を広める土台となることを目的としている。対象はドイツ法・政治とその近代日本への影響であり、関連するドイツ語文献を読んでもみる。

【到達目標】

法学や政治学の基本概念を、日独の比較の中で理解する。ドイツ語を履修していない場合も、概要をある程度把握できるように関連文献を使って予習する。最終的にドイツ語文献を自分で読んでみようという意欲がわくだけの語学力を身につけるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

毎回一頁ほどのペースで、テキストの輪読を行う。参加者の習熟に合わせて増減する。対面授業が難しい場合には、zoom を用いて実施する。テキストは学習支援システムで配布する。語学そのものというより、内容理解と背景の確認ができるように。質問は授業内、学習支援システムで受け付け、応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	西洋法継受について	全体の概略的説明と、場合によってはテキストの変更（以下変更無い場合の予定）
2	317 頁	ドイツ方針受容の帰結
3	318 頁	ドイツ法ブーム
4	319 頁	ドイツ法学と穂積
5	320 頁	概念法学？
6	321 頁	末弘法学
7	322 頁	その後
8	323 頁	ドイツ民法との対比
9	324 頁	結論：はじめに
10	325 頁	憲法史
11	326 頁	官僚制と軍制
12	327 頁	教育システム
13	328 頁	軍事文化
14	329 頁	アメリカ化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習。文法的な問題だけでなく、内容についてできるだけ日本語の資料などをもとに、自分で調べる。授業以外には 1 時間程度、予習（復習）する。

【テキスト（教科書）】

Paul Christian Schenk, Der deutsche Anteil an der Gestaltung des modernen japanischen Rechts- und Verfassungswesens, Franz Steiner, 1997 の予定だが、参加者と相談の上決定する。昨年度（秋学期のⅡ）では、Carl Schmitt, Gesetz und Urteil をとりあげた。今年度は、上記テキストのほか、Axel Honneth Das Recht der Freiheit も候補にしている。フランクフルトの社会哲学者による、近代・現代法や正義論に関する著書。人権論や民主主義論。

【参考書】

川口由彦『日本近代法制史』、大野・森元・吉永『近代法思想史入門』など

【成績評価の方法と基準】

平常点と「努力点」70 + 30 %

平常点は、各回での参加度合い。努力点とは、参加者それぞれで出発点が違うので、初回と比べて最終回までにどれだけ理解度が増したか、を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

実施せず

【学生が準備すべき機器他】

とくにないが、テキストを授業支援システムで配布することがある。

【その他の重要事項】

内容に関連したドイツ映画を参考にすることがある。大学院との合同授業。初学者でも可。

【Outline and objectives】

This Seminar gives the basis for any courses. Its aim is to enlarge the perspectives of the law students. What we read together here is German articles or parts of books, whose objects are German law or politics and their influence to modern Japanese idea of law. We will read not only the texts themselves, but also another related texts for deeper understanding of the contents of texts.

LAW200AB

外国書講読（英語）Ⅰ

田中 佐代子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は各コースの基礎となるものであり、法学の学問的視野を広める土台となることを目的とする。
具体的には、英語で書かれた国際法の文献を読み、内容について議論する。

【到達目標】

英語で書かれた国際法文献の内容を正確に理解できるようになること。
その内容について議論ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

事前に配布する英文を受講生各自が予習して来た上で、授業当日は、全員で内容を確認し、正確に理解する。できる限り、当該英文で扱われたテーマについての議論の時間もとりたい。

初回は Zoom を用いてリアルタイムオンライン授業を行う（事前の指示は学習支援システム上で行う）。二回目以降は、感染状況や受講生の意向等をふまえて、対面授業を実施するか、あるいは、Zoom のリアルタイムオンライン授業を継続するか、決定する。なお、Zoom 授業の場合、受講生はビデオはオフでも構わないが、マイクはオンにして発言できる環境で受講する必要がある。なお、国際法を体系的に学んだことのない学生にも配慮して進める。法律学科以外の学生ももちろん歓迎する。
受講生からの質問等に対しては、授業内のコメントによりフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業計画の説明
第 2 回	文献の輪読と討論（1）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 3 回	文献の輪読と討論（2）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 4 回	文献の輪読と討論（3）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 5 回	文献の輪読と討論（4）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 6 回	文献の輪読と討論（5）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 7 回	文献の輪読と討論（6）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 8 回	文献の輪読と討論（7）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 9 回	文献の輪読と討論（8）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 10 回	文献の輪読と討論（9）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 11 回	文献の輪読と討論（10）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 12 回	文献の輪読と討論（11）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 13 回	文献の輪読と討論（12）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 14 回	総括	理解度の確認と全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習として、英語文献を精読してくること。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間であり、実際には各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

一例として、ASIL Insights, <https://www.asil.org/insights>（米国国際法学会の HP 上で国際法に関連する時事的なトピックについて解説・分析したもの）。受講生の関心に応じてテキストは変更する可能性がある。（例えば 2019 年度は、Harold Hongju Koh, The Trump Administration and International Law (OUP, 2018) を扱った。）
教材の入手方法については初回に説明する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）。予習、当日の質疑・討論への参加を総合的に評価する。（想定以上に履修者数が多いなど、平常点での評価が難しい場合には、成績評価方法を変更することがある。変更する場合は、授業中に詳しく説明するとともに、学習支援システム上に掲示する。）

【学生の意見等からの気づき】

受講生の自習の方法について十分説明するようにしたい。

【Outline and objectives】

In this seminar, participants are expected to read and discuss on English literatures on international law.

LAW200AB

外国書講読（英語）Ⅱ

田中 佐代子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は各コースの基礎となるものであり、法学の学問的視野を広める土台となることを目的とする。

具体的には、英語で書かれた国際法の文献を読み、内容について議論する。

【到達目標】

英語で書かれた国際法文献の内容を正確に理解できるようになること。

その内容について討論ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

事前に配布する英文を受講生各自が予習して来た上で、授業当日は、全員で内容を確認し、正確に理解する。できる限り、当該英文で扱われたテーマについての討論の時間もとりたい。

初回は Zoom を用いてリアルタイムオンライン授業を行う（事前の指示は学習支援システム上で行う）。二回目以降は、感染状況や受講生の意向等をふまえて、対面授業を実施するか、あるいは、Zoom のリアルタイムオンライン授業を継続するか、決定する。なお、Zoom 授業の場合、受講生はビデオはオフでも構わないが、マイクはオンにして発言できる環境で受講する必要がある。なお、国際法を体系的に学んだことのない学生にも配慮して進める。法律学科以外の学生ももちろん歓迎する。

受講生からの質問等に対しては、授業内のコメントによりフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業計画の説明
第 2 回	文献の輪読と討論（1）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 3 回	文献の輪読と討論（2）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 4 回	文献の輪読と討論（3）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 5 回	文献の輪読と討論（4）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 6 回	文献の輪読と討論（5）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 7 回	文献の輪読と討論（6）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 8 回	文献の輪読と討論（7）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 9 回	文献の輪読と討論（8）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 10 回	文献の輪読と討論（9）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 11 回	文献の輪読と討論（10）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 12 回	文献の輪読と討論（11）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 13 回	文献の輪読と討論（12）	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第 14 回	総括	理解度の確認と全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習として、英語文献を精読してくること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間であり、実際には各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

一例として、ASIL Insights, <https://www.asil.org/insights>（米国国際法学会の HP 上で国際法に関連する時事的なトピックについて解説・分析したもの）。受講生の関心に応じてテキストは変更する可能性がある。（例えば 2019 年度は、Harold Hongju Koh, The Trump Administration and International Law (OUP, 2018) を扱った。）

教材の入手方法については初回に説明する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）。予習、当日の質疑・討論への参加を総合的に評価する。
（想定以上に履修者数が多いなど、平常点での評価が難しい場合には、成績評価方法を変更することがある。変更する場合は、授業中に詳しく説明するとともに、学習支援システム上に掲示する。）

【学生の意見等からの気づき】

受講生の自習の方法について十分説明するようにしたい。

【Outline and objectives】

In this seminar, participants are expected to read and discuss on English literatures on international law.

LAW200AB

会社法入門

荒谷 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、法学部法律学科の入門科目として、会社法、金融商品取引法とはどのようなものなのかその全体像を理解することを目的とするものである。すなわち、「企業」とか「会社」は身近な存在であるにもかかわらず、これを規律する会社法は、条文の数が多いだけでなく、特殊な用語や定義があり、その全体像を把握しようと思っても簡単ではない。そこで、会社法・金融商品取引法への橋渡しをすることが本講義の目的である。

この科目は、全てのコースに属している。

【到達目標】

- ① 会社法とはどういうものか、その全体像を理解する。
- ② 会社法の基本的な用語・概念—たとえば取締役、社長、監査役、株主、M&A—を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
- ③ 新聞やニュースで話題となっている企業に関する時事問題—たとえば、企業の不祥事が起きた場合に、何故それが法律上問題となるのか、その責任は誰が負うのか？—について、関心を持つようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。ただ、オンライン授業では、どうしても教える側の一方通行になりがちであることから、学生が自分の頭で考えながら理解することができるようになることを目標とし、学生との質疑応答を交えながら講義を進めていくつもりである。

授業外の質問に対しては、授業支援システムの掲示板もしくは次の回の授業で回答する形でフィードバックする。

【重要】新型コロナウイルス感染防止の観点から、大学の方針に従い、今年度はすべて双方向型オンライン・ライブ授業を行います。学習支援システムに、詳細なレジメと、受講性が自習すべきテキストの該当箇所を指示しますので、お知らせメールが来たら、授業支援システム上の「教材」からダウンロードしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	会社法とはどのようなものか。
第 2 回	会社法概説	会社の経済的機能と会社法について概説する。
第 3 回	会社の意義	会社の意義について概説する。
第 4 回	会社の種類	会社法上認められている会社の種類について概説する。
第 5 回	株式会社とは？	株式会社とはどのようなものなのか。そのシステムについて概説する。
第 6 回	株主と経営者との関係	株主と経営—所有と経営—の関係について、概説する。
第 7 回	会社法と金融商品取引法	株式会社と証券市場の関係、上場の意義、会社法と金融商品取引法の関係について概説する。
第 8 回	コーポレート・ガバナンスとは？	コーポレート・ガバナンスとは？その意義について概説する。

第 9 回	株式会社の設立	株式会社はどのように設立されるのか概説する。
第 10 回	企業はどのように経営されているのか？	企業はどのように経営されているのかについて概説する。
第 11 回	経営者の責任	経営者の責任について概説する。
第 12 回	コーポレート・ファイナンス	株式会社はどのように資金を調達しているのかについて概説する。
第 13 回	M&A(1)	M&A とは？ その意義と方法について概説する。
第 14 回	M&A(2)	企業が買収されそうになったときの防衛策について概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習はしなくても良いので、復習を必ずすること。また、新聞の経済面を毎日見て、今、何が企業で問題となっているのか（たとえば、A 会社の不祥事、B 会社と C 会社の合併、D 会社の上場など）、常に関心を持つこと（準備学習）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・田中亘「会社法〔第 3 版〕」（2021 年 3 月）東京大学出版会
・3 月に改正会社法が施行されますので、必ず新しい六法を用意してください。

【参考書】

・浜田道代・岩原紳作編「会社法の争点」有斐閣
・江頭憲治郎・岩原紳作他編「会社法判例百選（第 3 版）」有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験・小テスト 80 %、平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

全講義オンライン授業になりますので、Zoom を利用できる環境を整えてください。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to understand the management system of the company and the method of financing the company.

LAW200AB

会社法

潘 阿憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

単位数：4 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、株式会社法制度を取り扱うものである。講義においては、会社法上の基本的な概念及び制度の仕組みを解説し、さらに重要な法的論点について、学説や判例を踏まえた検討を行う。この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

株式会社においては、株主や会社債権者をはじめとする多くのステークホルダー（利害関係人）が存在しており、会社法はこれらのステークホルダーの利害調整を行う役割も果たしている。本科目では、会社法上の各種のルールが個々のステークホルダーの利益保護にとってどのような意義を有しているのかに着目しながら、会社法の基礎を学んでもらうことを目的としており、本講義を通じて、会社法の基本的な仕組みとその機能を理解することができることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルスの影響により、春学期はオンラインで開講する予定である。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示することにする。また、受講生からの授業外の質問については、授業内で回答することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「会社法」で何を学ぶか？	・ 会社の意義 ・ 会社法の基本的な構造
第 2 回	株式会社制度の特徴	・ 組合契約と会社の異同 ・ 株式会社と合同会社の異同
第 3 回	株主の権利	・ 自益権と共益権 ・ 種類株式
第 4 回	株式の譲渡と担保化の方法	・ 株式譲渡の効力要件と対抗要件 ・ 株式の担保化の方法
第 5 回	株式会社の機関	機関の構成と権限分配
第 6 回	株主総会制度	・ 招集手続 ・ 議事運営 ・ 総会検査役の役割
第 7 回	株主の議決権行使	・ 議決権 ・ 書面決議 ・ 代理人による議決権行使 ・ 利益供与
第 8 回	瑕疵のある株主総会決議とその効力	・ 株主総会決議取消の訴え ・ 株主総会決議の不存在・無効
第 9 回	取締役	・ 取締役の地位 ・ 取締役の義務 ・ 監査役
第 10 回	監査役	・ 監査役
第 11 回	取締役会制度	・ 取締役会の権限 ・ 取締役会決議の瑕疵 ・ 会計監査人の地位と権限
第 12 回	会計監査人	・ 取締役と執行役の地位
第 13 回	指名委員会等設置会社/監査等委員会設置会社	・ 取締役会と 3 委員会の権限 ・ 執行役の権限 ・ 監査等委員会
第 14 回	検査役	・ 選任の方法 ・ 検査役の権限
第 15 回	春学期のまとめ	・ 第 1 4 回までの講義内容のまとめ
第 16 回	取締役の会社に対する義務	・ 善管注意義務と忠実義務 ・ 競業取引規制 ・ 利益相反規制
第 17 回	取締役の報酬	・ 取締役の報酬 ・ その他の役員の報酬
第 18 回	取締役の会社に対する責任	・ 任務懈怠責任 ・ 任務懈怠責任の免除
第 19 回	取締役の任務懈怠責任	・ 任務懈怠責任の要件 ・ 任務懈怠責任の免除

発行日：2021/5/1

第 20 回	株主代表訴訟・多重代表訴訟	・役員等の責任を追及する訴えを提起すべき旨の請求 ・代表訴訟の提起 ・代表訴訟の却下と担保提供命令
第 21 回	取締役の第三者に対する責任	・会社法 429 条 1 項の責任 ・会社法 429 条 2 項の責任
第 22 回	募集株式の発行	・企業の資金調達手段 ・授權資本制度 ・募集株式発行の手続き
第 23 回	募集株式発行の瑕疵を争う手続	・募集株式発行の差止め ・株式発行無効の訴え ・取締役の責任
第 24 回	株式会社の設立	・株式会社の設立手続 ・発起人の権限と責任 ・設立無効の訴え
第 25 回	企業の再編と買収	・企業買収の意義 ・買収の手法
第 26 回	企業再編行為	・合併 ・会社分割 ・株式交換／株式移転
第 27 回	企業再編の手続とその瑕疵	・企業再編の手続 ・企業再編行為の瑕疵を争う手続
第 28 回	敵対的買収	・敵対的買収の意義 ・敵対的買収に対する防衛策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

なるべくテキストを予習してくる、また、復習を行うこと。本授業の準備・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中亘著 『会社法』（東大出版会）の最新版

【参考書】

初回授業時に指定する。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの開講に伴い、成績評価は、期末レポート試験の結果に基づいて行うものとする。期末レポート試験の成績基準を100%とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Corporation Law

POL200AC

比較政治論 I

新川 敏光

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、近代政治の基本的分析枠組（国民国家、民主主義、資本主義）を設定し、欧米日本における近代政治の形成・発展を比較検討する。

【到達目標】

現代政治の諸問題を、歴史的空間的比較の視座（比較歴史制度発展論）から、理論的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義方式によって行う。

二回目以降の講義では、前回の講義に関する質問や疑問への対応を含む、簡単なまとめを行う。また最終回では、全体に関するまとめのほか、それまでの提出物への講評も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	本講義の射程	比較とは何か、政治とは何かをテーマに本講義の目的と対象範囲を明らかにする。
第二回	権力と支配	権力とは何か、そして支配とは何かについて検討する。
第三回	近代国民国家	近代国民国家をモデル化し、英仏独米における国民国家形成を比較する。
第四回	政治体制：リベラルデモクラシー	近代における政治範型である自由民主主義についてモデル化する
第五回	実証的デモクラシー論	現代デモクラシーの実証諸理論と各国の事例を比較検討する。
第六回	資本主義経済の発展：レッセ・フェール・夜警国家から帝国主義の時代へ	資本主義経済の発展とそれに呼応した国家機能の拡大を考察する。
第七回	左右イデオロギーの収斂	資本主義経済の批判理論である社会主義理論と擁護理論である自由主義、双方における変化（収斂）を考察する。
第八回	福祉国家パラダイム	国民国家、資本主義経済、階級政治の新たな枠組の誕生として福祉国家を検討する
第九回	福祉国家の多様性	福祉国家の多様性を類型論に基づいて紹介する。
第一〇回	福祉国家の経済体制	フォーディズム、ケイン主義、埋め込まれた自由主義について検討する。
第一一回	福祉国家の政治体制	階級闘争の民主化、民主的階級闘争がリベラル・デモクラシーの安定化をもたらしたことを論ずる。

第一二回	福祉国家と資本主義の多様性	福祉国家の多様性は、各国の資本主義経済システムの多様性と連動するものであることを明らかにする。
第一三回	福祉国家の影響	福祉国家の負の側面として、管理社会化、国家部門の肥大を検討する
第一四回	総括	国民国家の変化、政治経済体制の変化を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にアップロードされた教材について予習し、講義後はノートで整理し、理解が不十分な点について調べ、不明な点は次回質問すること。

【テキスト（教科書）】

新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹『政治学』（有斐閣）

【参考書】

新川敏光『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学習支援システムを通じての課題レポートの評価によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

事前に学習支援システムに教材をアップロードする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本年度の講義は、コロナ・ウィルス対策のため、Zoomを使用する予定です。通知は、すべて学習支援システムを通じて行いますので、登録を忘れないようにしてください。

【Outline and objectives】

This course is to compare the developments of the nation state, democracy, and capitalism in major industrial societies.

POL200AC

比較政治論Ⅱ

新川 敏光

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀後半以降、とりわけ福祉国家の危機、東西冷戦の終焉、グローバル化といわれる時代におきた政治変化について、欧米日を中心に検討する。

なお比較の方法、基準については、比較政治論Ⅰで紹介するので、できるだけⅠを履修のうえで本講義を受講すること。

【到達目標】

本講義では、20 世型国民国家パラダイムともいべき福祉国家が国際システム、資本主義経済、社会構造の変化に伴い有効性を失い、国民統合の手段として再分配に代わってイデオロギーが再び大きな役割を担うようになり、その結果暴力の爆発、ポピュリズムの台頭、格差の深刻化が生じていることを概念的理論的に理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義方式による。二回目以降の講義では、前回の講義に関する質問や疑問への対応を含む、簡単なまとめを行う。また最終回では、全体に関するまとめのほか、それまでの提出物への講評も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	福祉国家の危機①	ケインズ主義に代わって経済学主流となったネオ・リベラリズムの政治的文脈を明らかにする。
第二回	福祉国家の危機②	ネオ・リベラリズム台頭の背景として、戦後の国際経済システム、「埋め込まれた自由主義」の崩壊を明らかにする。
第三回	福祉国家の危機③	豊かな社会のなかでの階級的求心力の低下と脱フォーディズムにおける労働の柔軟化について検討する。
第四回	新自由主義の現実	1980 年代いち早く新自由主義政権が生まれた英サッチャー政権、米レーガン政権、日本中曽根政権を比較検討する。
第五回	グローバル化と格差社会	東西冷戦によって本格化したグローバル化の世界的影響力について検討する。
第六回	左の右旋回：「第三の道」、「新しい中道」	ネオ・リベラリズムの台頭に対する左の刷新（穏健化）について、英米独を中心に検討する。
第七回	危険社会論	個人化が進むなかで、階級社会論に代わって出てきた危険社会論のもつ射程と限界について検討する。
第八回	人口減少社会とジェンダー・ポリティクス	近代を超える新たな政治論として注目されるジェンダー論について検討する

第九回	文明の衝突	東西冷戦の終焉は、「文明の衝突」を招くというハンチントン・テーゼについて検討する
第十回	ポピュリスト・ナショナリズム：分断の政治	欧米における福祉ショービニズム、そしてポピュリスト・ナショナリズムの台頭を紹介する。
第一一 回	スカーフ問題	仏独英におけるムスリム系女性のスカーフ問題への対応を比較検討する。
第一二 回	多文化主義という選択肢	多文化主義は社会的分岐、並行社会を招くという議論を検討する。
第一三 回	民主主義の可能性	民主主義に関する悲観的見解が支配的となる今日、改めて民主主義の可能性について検討する。
第一四 回	総括と展望	近年の政治の変化がもつ意味と危険性について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アップロードされた教材を参考に予習し、講義後はノートを整理し、理解が不十分な点は調べ、なお不明な点は次回質問すること。

【テキスト（教科書）】

新川敏光他『政治学』（有斐閣）

【参考書】

新川敏光『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、課題レポートによって行う。

【学生の意見等からの気づき】

事前に教材を学習支援システムにアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

比較政治論ⅡはⅠの議論を前提としているので、まずⅠを履修してほしい。

【Outline and objectives】

This course is to clarify the transformation of the 20th century paradigm of politics by examining the crisis of the welfare state, the end of the cold war, and globalization.

POL200AC

ジェンダー論Ⅰ

中野 洋恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目で、ジェンダーの視点から政治・政策を考察することを目的としています。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬直化した既成の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ごしてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論Ⅰでは、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。言わば、ジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】

授業では、この「ジェンダー」を、現代社会を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政策を、従来にない新しい観点から再考することを目指します。すなわち、既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。そしてそれがそれがどのような政策につながっているのかを理解してほしいと考えます。このような学びを通して、学生にはこれまでの概念を批判的に問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。政治や政策は机上の理論ではなく、私たちの政策に密接にかかわっています。だからこそ参画して変えていくことが可能になるのです。そのために、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ジェンダーの視点から政治、政策の中心となる課題を問い直します。

(1) ジェンダー概念

本講義では、政治、政策の課題をジェンダーの視点から検討し、どのような変化がみられるのか、そのそしてその要因はどのような政治的、社会的と関わっているのかを理解します。

この作業の前提として、講義ではまずジェンダーとは何か、ジェンダーに基づく見方や考え方、またジェンダー分析の射程について学びます。従来、ジェンダーは男女の役割や関係を表す用語として用いられてきましたが、今にちでは様々な社会関係に応用され、また性の多様性を表現する概念に発展しています。

(2) 様々な政策からジェンダー問題を理解する

1999 年に可決された男女共同参画社会基本法、2020 年 12 月に閣議決定された「第 5 次男女共同参画基本計画」で強調されている政策を理解します。

(3) ジェンダー平等を進めるために

平等であることに異議を唱える人はあまりいないと思います。また、平等は人権が尊重され、誰もが幸福に生きるため社会的基盤といっても良いでしょう。しかし、いまだに、性別、人種や民族、性的マイノリティ、障がいのある人びとが差別的に取り扱われているという現実があります。

どうすればいいのか、国内の動きや海外の動きを見ることによって考えます。

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用します。また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。毎回、リアクションペーパーを提出していただきます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序：本講義の目的、講義の見取り図 講義の全体像の理解	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢

第 2 回	ジェンダーとは？ ① ジェンダーについての理解を深める	ジェンダーとは「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）とは異なる。どうしてジェンダーについて考える必要があるかを理解する。
第 3 回	ジェンダーとは？ ② 日常生活の中のジェンダー問題を考える	私たちが当たり前だと思っている「ジェンダー」について日常生活から考える。私たちの生活の中にあるジェンダーを考える。
第 4 回	家族とジェンダー① 親密な近親者ベースの小さな集団である家族について考える	家族とは何か？ 夫婦別姓や同性婚についても考察する。
第 5 回	家族とジェンダー②	日本では「男性は外で働き、女性は家事育児」と考えられてきました。これを性別役割分業意識という。ここでは性別役割分業について理解する。
第 6 回	教育とジェンダー①	一般に教育の場は男女平等だと言われている。問題はないのかを考える。
第 7 回	教育とジェンダー②	「理系は男子が得意で女子は文系が得意」という言説について考える。内在しているアンコンシャス・バイアスを理解する。
第 8 回	労働とジェンダー①	「ワーク・ライフ・バランス」が政策課題になっている。女性の継続就労が当たり前になりつつある中の課題について言及する。
第 9 回	労働とジェンダー②	女管理職に女性が少ないのはどうしてなのか？ 企業等の意思決定の場に女性が少ない問題点とその要因を明らかにする。
第 10 回	メディアとジェンダー	インターネット、テレビ、新聞や雑誌など私たちのまわりは情報にあふれているがジェンダーのステレオタイプを再生産することが少なくない。メディアをジェンダーの視点で分析するとともに「メディア・リテラシー」を理解する。
第 11 回	災害等とジェンダー	自然災害や人的災害はジェンダー問題を表出させる。地震などの自然災害やコロナ禍でどのような問題が生じたかについて言及する。
第 12 回	国内のジェンダー平等政策	ジェンダー平等を進めるためにどのような方策がとられてきたのかを理解する。
第 13 回	国際的に見たジェンダー平等の取組	世界の中でも日本のジェンダー平等のランキングは低い。国際的な動向を踏まえ日本の課題を考える。政治分野にどうして女性が少ないか、その要因も考える。
第 14 回	授業内試験	持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献等を読むことを薦めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。

【参考書】

前田健太郎『女性のいない民主主義』（岩波書店 2019 年）
・第 5 次男女共同参画基本計画
http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html
・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
<http://www.cao.go.jp/wlb/index.html>
・女性に対する暴力
若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材
http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html
NVEC 実践研究第 9 号「ジェンダーに基づく暴力」
・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト
http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html
・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html>
・内閣府男女局 理工チャレンジ（リコチャレ）
<http://www.gender.go.jp/c-challenge/>
・科学技術振興機構 ダイバーシティ推進
<http://www.jst.go.jp/diversity/index.html>
・初等中等教育における男女共同参画
国立女性教育会館
<https://www.nwec.jp/research/hqtuvq0000002ko2.html> 三浦まり・衛藤幹子編著『ジェンダー・クォーター世界の女性議員はなぜ増えたのか』（明石書店、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

授業参加とリアクションペーパーの提出（40%）
筆記試験（授業内試験、持ち込み不可）（60%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に注意を払い、受講へのモチベーションを高めるように努力します。難しい内容もありますので、レジュメによる補完、丁寧な説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This lecture is part of the category of political theory and history. It aims to examine politics from viewpoints of socio-politically marginalized people. This viewpoints are rephrased as “gender perspectives”. Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens. This lecture will provide you for a fresh spectrum of politics, different from the mainstream of political studies or political science.

POL200AC

ジェンダー論Ⅱ

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目です。ジェンダーと政治をめぐる問題を、時間的にも空間的にも射程を広げてとらえ返すことを目的とします。具体的には、おもにイギリス近現代史に焦点を当てながら、ジェンダーの視点からみた政治のあり方について、現代日本に生きる私たちに新たな気づきを与えるさまざまな歴史的事例を学びます。

【到達目標】

・現代日本のジェンダーと政治をめぐる問題を、国際的および歴史的視点から相対化できるようになる。
・ジェンダーの視点から、議会内外の政治のあり方を複眼的にとらえ、政治の多元性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義が中心となりますが、可能なかぎり視聴覚資料を使用して理解を助けます。授業の終わりにリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業でその内容をいくつか取り上げ、全体にむけてフィードバックを行いながらさらなる議論に活かします。また、前半のテーマと後半のテーマのそれぞれの締め括りの回では、全体でディベートを行う予定です。なお、対面授業の実施方法（実施の有無も含めて）は、受講者数や教室環境に応じて変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	〈ジェンダーと政治〉について考える
第 2 回	歴史とジェンダー（1）	近世君主制とジェンダー
第 3 回	歴史とジェンダー（2）	近代君主制とジェンダー
第 4 回	歴史とジェンダー（3）	現代君主制とジェンダー
第 5 回	歴史とジェンダー（4）	女性君主をめぐる問題
第 6 回	歴史とジェンダー（5）	日本における女性天皇の可能性
第 7 回	女性と政治参加（1）	政治の民主化とフェミニズム
第 8 回	女性と政治参加（2）	女性参政権運動
第 9 回	女性と政治参加（3）	政治運動とジェンダー
第 10 回	女性と政治参加（4）	ウーマンリブ運動
第 11 回	女性と政治参加（5）	労働運動とジェンダー
第 12 回	女性と政治参加（6）	女性首相の誕生
第 13 回	女性と政治参加（7）	政治的リーダーシップとジェンダー
第 14 回	女性と政治参加（8）	日本におけるクオータ制の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、事前配布される授業の資料に目を通し、わからない用語や気になる事柄があれば調べておくこと。授業後は、講義内容を振り返り、各自の関心に従って参考文献を読み進めること。この講義の準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業時にその都度、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 80 %（リアクションペーパーの内容にたいする評価点の合算）
・レポート 20 %（前半のテーマと後半のテーマのそれぞれに関連して 2 本分）
詳しい評価基準や積算方法については、初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の事前配付や課題の提出は、学習支援システムを利用する予定です。受講にあたっては、学習支援システムを活用できる環境が必要です。

【その他の重要事項】

ディベートの回では、可能なかぎり多くの受講者に発言を求める予定です。

【Outline and objectives】

This course explores a range of historical issues involving gender and politics with a particular focus on modern British history.

LAW300AB

知的財産法Ⅰ

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち主要なもののひとつである著作権法を一通り学ぶことを内容とする。著作権法は基本的には民法の特別法に位置付けられ、その意味ではやや応用的な科目ではあるものの、表現活動全般において問題となり得る法律であるため、「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」、「文化・社会と法コース」などを中心に幅広く関連を有し得る身近な法律であり、その基礎的な理解を身に付けておくことは、受講生にとって将来的に公私両面にわたって意義を有するものといえる。

【到達目標】

著作権法について、制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後著作権法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的な素養を涵養することを目標とする。

より具体的には、第一に、著作権法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、著作権法が問題となる具体的な事例（紛争）について、著作権法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、知的財産法の中核を担う法律のひとつである著作権法について、文化の発展に寄与するためにどのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。音声付きのパワーポイントをオンデマンドで視聴していただくことを基本形式とするが、リアルタイムオンラインも必要に応じて実施する予定である。詳細は学習支援システムを通じて期中に改めて告知することとしたい。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等はメール・学習支援システムを通じて随時受け付け、個別に、あるいは次回授業を通じてフィードバックすることとしたい。期末の課題に関しては学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第 2 回	著作権法総説・権利の客体 (1)	著作権法の概要、著作物の定義（総説）
第 3 回	権利の客体 (2)	著作物の定義（創作性要件など）
第 4 回	権利の客体 (3)	著作物の具体例、特殊な問題など
第 5 回	権利の主体	著作者の認定、職務著作、映画の場合など
第 6 回	著作者人格権	公表権・氏名表示権・同一性保持権など
第 7 回	著作権 (1)	各支分権について
第 8 回	著作権 (2)	著作権の制限
第 9 回	著作権 (3)	保護期間など
第 10 回	著作権に関する取引	著作権の譲渡、利用許諾など
第 11 回	著作隣接権	実演家の権利など
第 12 回	侵害と救済 (1)	侵害成立のための要件（依拠性・類似性）、間接侵害など
第 13 回	侵害と救済 (2)	民事的救済（差止め・損害賠償など）及び刑事罰など
第 14 回	まとめ	講義全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料（論文・裁判例等）を指定する場合があるので、一読した上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、著作権法の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】

鳥並良ほか『著作権法入門〔第 2 版〕』（有斐閣、2016）、田村善之『知的財産法〔第 5 版〕』（有斐閣、2010）、中山信弘『著作権法〔第 3 版〕』（有斐閣、2020）、愛知靖之ほか『知的財産法』（有斐閣、2018）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の実施が可能であれば期末試験により評価する（期末試験 100 %）。試験の実施ができない場合、レポート課題で評価する（期末レポート 100 %）。なお、期末レポートの場合、複数の課題を提示する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各回の冒頭に配布するほか、授業支援システムにも誤記等を修正したものを適宜アップロードするので、活用してほしい。

【その他の重要事項】

民法（物権法、不法行為法など）や民事訴訟法などの科目を履修済みか、並行して履修することが望ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけたい。

著作権法と特許法とを比較しながら学習することによって、知的財産法の特徴をより深く理解することができるため、できれば秋学期の「知的財産法Ⅱ」を本講義に続けて受講してほしい。

【Outline and objectives】

This course covers the basics of Copyright Law.

LAW300AB

知的財産法Ⅱ

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち主要なもののひとつである特許法を一通り学ぶことを内容とする。特許法は基本的には民法の特別法と位置付けられるほか、特許権の発生には特許庁という行政庁が関係することもあり、私法・公法両面にわたり学習を進めた者がそれらの理解を活かしてさらに進んで学ぶべき応用的な科目と位置付けることができる。特に「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」、「文化・社会と法コース」における学習の最終段階において受講すべき科目のひとつである。

【到達目標】

特許法について制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後特許法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養すること、また、そのことを通じて、法的なものの考え方や法制度設計の技法を習得することが目標である。

より具体的には、第一に、特許法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、特許法が問題となる具体的な事例（紛争）について、特許法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、知的財産法の中核を担う法律のひとつである特許法について、産業の発達に寄与するためにどのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。対面授業の実施が情勢により不可能な場合、音声付きのパワーポイントをオンデマンドで視聴していただくことを基本形式とするが、リアルタイムオンラインも必要に応じて実施する予定である。詳細は学習支援システムを通じて期中に改めて告知することとしたい。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等は対面の場合は出席票、オンラインの場合はメール・学習支援システムを通じて随時受け付け、個別に、あるいは次回授業を通じてフィードバックすることとしたい。期末の課題に関しては学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第 2 回	特許法の概要・権利の客体 (1)	特許法の全体像、発明の定義（自然法則の利用要件）
第 3 回	権利の客体 (2)・特許の要件 (1)	発明の定義（その他の要件）、特許要件（新規性・進歩性）
第 4 回	特許の要件 (2)	特許要件（先願・拡大先願など）
第 5 回	権利の主体 (1)	発明者、特許を受ける権利、共同発明、冒認出願に対する救済など
第 6 回	権利の主体 (2)	職務発明など
第 7 回	権利取得の手續	出願、出願公開、審査、補正など
第 8 回	審判・審決取消訴訟	各種審判及び審決取消訴訟の目的と概要
第 9 回	特許権 (1)	特許権の内容・存続期間など
第 10 回	特許権 (2)	特許権の制限、法定通常実施権など
第 11 回	特許権に関する取引	特許権の譲渡、専用実施権、通常実施権など
第 12 回	侵害と救済 (1)	文言侵害・均等侵害・間接侵害など
第 13 回	侵害と救済 (2)	抗弁事由、民事的救済など
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料（論文・裁判例等）を指定する場合があるので、一読した上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、特許法の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】

田村善之『知的財産法〔第 5 版〕』（有斐閣、2010）、中山信弘『特許法〔第 4 版〕』（弘文堂、2019）、島並良ほか『特許法入門』（有斐閣、2014）、駒田泰士ほか『知的財産法Ⅰ 特許法』（有斐閣、2014）、愛知靖之ほか『知的財産法』（有斐閣、2018）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の実施が可能であれば期末試験により評価する（期末試験 100 %）。試験の実施ができない場合、レポート課題で評価する（期末レポート 100 %。なお、期末レポートの場合、複数の課題を提示する予定である）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各回の冒頭に配布するほか、授業支援システムにも誤記等を修正したものを適宜アップロードするので、活用してほしい。

【その他の重要事項】

民法（物権法、不法行為法など）や民事訴訟法、行政法などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけたい。

特許法と著作権法とを比較しながら学習することによって、知的財産法の特徴をより深く学習することができるため、できれば春学期の「知的財産法Ⅰ」と連続で受講してほしい。

【Outline and objectives】

This course covers the basics of Patent Law.

POL200AC

日本政治論 I

中嶋 一成

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本政治を形作ってきた政党や政権の歩みを追いつつ、日本政治を理解するための基礎を学ぶ。本年は衆議院選挙ならびに東京都議会選挙という大きな選挙が実施されることから、政治という幅広い概念の中から、有権者として必要な知識を身につける。

【到達目標】

自らが有権者として政治のアクターであることを自覚し、国家、地域、社会と自らの関係性を考えられるようになる。国政、地方政治を問わず、自らの知識、経験、考察を通じ、先入観や固定観念を排し、虚偽の情報・伝聞に惑わされず、何が真実であるかを、自らの力で見極められるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とするが、新型コロナウイルスの感染状況や学生の希望なども考慮しながら、オンラインによる授業も併用する。時間的に可能であれば、東京都選で候補者の街頭演説を視察することも検討する。シラバスをはじめ授業計画の変更などは、学習支援システムでその都度、提示する。主要テーマごとに小レポートを求める。リアクションペーパーの毎回提出は必須としなが、氏名を伏した上で授業の中で取り上げることもありうる。

授業の初めに、前回の授業後に提出されたリアクションペーパーや小レポートをいくつか取り上げ、全体に対し、リアクションペーパーや小レポートの課題に対する講評や解説をし、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本政治の現状と課題	現代日本の政治に求められているものは何か、浮かび上がっている課題を考える
2	戦後政治①	「55年体制」の成立から「三角大福中」と呼ばれる5大派閥政権までを知る
3	戦後政治②	「5大派閥統治」の終焉から、リクルート事件に端を発する非自民党政権の誕生、小泉政権までを検証する
4	戦後政治③	「官邸主導」と呼ばれる安倍政権・菅政権の特質を考察する
5	自民党の政権維持システム①	自民党の政権維持を可能にしてきたシステムを学ぶ
6	自民党の政権維持システム②	政権維持のために構築してきたシステムの変容と、それがもたらす功罪を考える
7	自民党が選択した連立政権	自民党としては初となる中曽根政権時代の新自由クラブとの連立から現在の公明党との連立まで、その経緯や性質の違いを考える
8	野党の現状	「反対ばかりしている」「多弱」と批判される野党の現状、課題を探る
9	選挙①	選挙制度とその変遷をたどり、各制度の問題点や各党候補者の選挙戦略・選挙運動に与える影響を分析する

10	選挙②	有権者はいかに政党や候補者を選ぶのか、候補者たちはどのように票を集めるのかを知る
11	地方政治	低投票率が目立つ自治体の首長や議員選挙。地方政治の在り方と、どんな課題に直面しているのかを考える
12	政治と民意	大阪維新の会が進める「大阪都構想」と、沖縄の米軍普天間飛行場の代替施設建設を例に、示された民意と政治の関係性を考察する
13	政治報道の現状	政治報道の現状を紹介するとともに、問題点を考える
14	試験・まとめと解説	授業全般を通して学習したことに関し試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々、新聞の政治記事を読んで何が起きているかを把握する。地方、中央問わず興味がある、あるいは持てそうな議員を見つけて、公式HPや新聞などをチェックするなどして、定点観測する。新型コロナウイルス感染が収束した場合は事務所訪問や本人参加の集会や街頭演説などへの参加、本人との面会などを体験してみる。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回必ず使用する教科書はない

【参考書】

(購入が可能な書籍)

「自民党―「一強」の実像」(中北浩爾著、中公新書、2017年、880円)

「検証 安倍イズム～胎動する新国家主義」(柿崎明二著、岩波新書、2015年、800円)

「戦後政治史 第四版」(石川真澄、山口二郎共著、岩波新書、2021年3月発売)

「平成政治史」(大嶽秀夫著、ちくま新書、2020年、1000円)

「政権交代とは何だったのか」(山口二郎著、岩波新書、2012年、880円)

「戦う民意」(翁長雄志著、角川書店、2015年、1540円)

* 沖縄の米軍普天間飛行場移設問題に関して、あまり知識がない学生は必読。なお、電子版の入手は容易、1100円)

(購入が困難な書籍)

「自民党政権」(佐藤誠三郎、松崎哲久共著、中央公論新社、1986年、2669円)

「補助金と政権党」(広瀬道貞著、朝日新聞出版、1981年、1210円)

「自民党税制調査会」(木代泰之著、東洋経済新報社、1985年、1210円)

【成績評価の方法と基準】

テーマごと的小レポートで50%、期末試験が40%、平常点が10%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを利用し、その後の授業に生かす。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

教官は共同通信社政治部で20年以上にわたり、政治取材を続け、ここ10年は国政、地方選を問わず、どの候補者が当選するかを判断する総括責任者として主に選挙の現場から政治を見てきた。授業では日本の政治を俯瞰、分析するだけでなく、学生も有権者として政治の重要なアクターになることを踏まえ、渦中にある当事者の視点や気づきを交えながら授業を行う

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire a basic ability to grasp politics with certainty.

Then this course introduces current status of Japanese politics to students taking this course.

POL200AC

日本政治論Ⅱ

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治とは、私たちはどんな社会を目指すのかという目標をどう定め、どう実現するかを探る営みである。そのことを理解し、私たちが今の日本で政治を実践するために必要な問題意識を身につける。

【到達目標】

歴代最長の安倍前内閣と野党分裂に象徴される、今の自民党「一強」政権。それが生まれるに至った経緯を1990年代以降に焦点を当てて概観する。節目節目の政治課題と選挙結果という「国民の選択」をたどることで、今後の日本にとってどんな政治のあり方が望ましいのか考えを深められるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業前の課題資料読み込み、講義、授業後のリアクションペーパー提出というサイクルで進めます。授業の初めに前回のリアクションペーパーをいくつか取り上げフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに コロナ禍と政治	政治とはどのような社会を目指すのか、いかにその目標を定めて実現するか。まず目下のコロナ禍について考える
2	日本政治の課題とは	少子高齢化、中国・北朝鮮の軍拡への対応、そしてコロナ禍…課題山積のなぜ投票率は上がらないのか
3	自民党・二度の政権転落①	1955年の結党から93年の最初の下野までを概観
4	自民党・二度の政権転落②	1994年の社会党との連立による政権復帰から、99年の公明党との連立まで
5	自民党・二度の政権転落③	2001年から06年までの小泉純一郎政権での自民党の復興
6	自民党・二度の政権転落④	2006年から09年まで安倍（一）、福田、麻生と内閣が転々とした自民党下野前夜
7	民主党政権誕生の背景	「政権交代可能な二大政党制」の実現を掲げた1996年小選挙区制導入の帰結
8	民主党政権の混乱①	鳩山政権の普天間移設問題、菅政権の東日本大震災対応
9	民主党政権の混乱②	野田政権の消費増税解散、その後の民主党分裂
10	安倍内閣、歴代最長の理由①	自民党の変質。1990年代の選挙制度、政治資金改革で総裁に権力集中、派閥弱体化
11	安倍内閣、歴代最長の理由②	第一次内閣の反省で経済優先。公明に加え維新とも連携。逆に政権を経験した民主党は分裂
12	今後の争点①憲法改正	改憲は必要なのか、なぜ自民党はこだわっているのか。なぜ歴代最長の安倍内閣で実現できなかったか
13	今後の争点②外交・安全保障	「脅威」を外交でどう減らすか、自衛隊の役割拡大、在日米軍基地問題など、さらに議論を深めるべき分野
14	まとめ	授業を振り返りつつ到達目標に沿って、とりまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コロナ禍はじめ現在進行形の課題に政府がどう対応しようとしているか、国会でどんな議論がされているかについて、新聞記事を読んで把握しておく。SNS等で関心を持った国会議員や政党の主張や経歴をウェブサイトなどでさらに掘ってみる。この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回必ず使用する教科書はありません。

【参考書】

- ①戦後政治史 第三版（石川真澄・山口二郎著、岩波新書、2010年、940円）
- ②政権交代とは何だったのか（山口二郎著、岩波新書、2012年、880円）
- ③日本は「右傾化」したのか（小熊英二・樋口直人編、慶応大学出版会、2020年、2000円）
- ④ナショナリズムを陶冶する ドイツから日本への問い（藤田直央著、朝日新聞出版社、2021年、1650円）
- ⑤新聞・ネットの関連記事（随時連絡）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとのリアクションペーパーで60%、期末レポートで40%。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーをその後の授業に生かします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand that politics is setting and trying to realize the goal of our society generally, and to learn basic contemporary issues for us to practice politics in Japan especially.

POL100AC

日本政治思想史 I

河野 有理

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本政治思想史 I」：政治学科科目の中で、歴史・思想科目群に属します。江戸から明治にかけての政治思想史の流れについて、主要な思想家の議論の概要を押さえつつ、理解を深めていきます。

【到達目標】

現代日本においてたとえ「保守」の立場を標榜する人物といえども、江戸時代への「復古」を本気で主張することはほとんど想定できません。しかし、なぜなのでしょう。考えてみれば不思議なことです。この問いは、もちろん、日本にとって明治維新（明治革命）がいかなる意味を持ったのかという問いと深く結びついています。「維新」という言葉や明治維新についての通俗的イメージは広く流布していますが、明治維新を江戸の政治思想史からさかのぼって説明できる人は決して多くありません。なぜ明治維新は起きたのか。そしてそれにはどんな意味があったのか。説明してみたいとは思いませんか。この講義はそのための機会を提供することを目指しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、zoom 等を用いたリアルタイムのオンライン講義を想定しています。適宜、小レポートやアンケートの提出を求めることで双方向性を確保します。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方や評価の方法について。
第 2 回	江戸時代とは何か	「名」と「身分」
第 3 回	武士について	軍人と「ならずものの道徳」
第 4 回	儒学について	東アジアのグローバル政治哲学
第 5 回	伊藤仁斎	儒学の日本化
第 6 回	新井白石	日本の儒学化
第 7 回	荻生徂徠（1）	「礼楽」の政治思想——方法、学問、言語
第 8 回	荻生徂徠（2）	「礼楽」の政治思想——アーキテクチュアによる支配
第 9 回	本居宣長（1）	「みやび」の（反）政治思想——方法・学問・言語
第 10 回	本居宣長（2）	「みやび」の（反）政治思想——「美」の逆説
第 11 回	海保青陵	「市場」の政治思想
第 12 回	横井小楠・吉田松陰	「危険思想」としての儒学
第 13 回	福澤諭吉（1）	「社交」の政治思想
第 14 回	福澤諭吉（2）	「爱国心」と「やせ我慢」について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、指定したテキストを通読し、講義の内容をよく復習しつつ、翌週の講義に臨むようにしてください。また、講義で紹介した史料、あるいはテキストに引用されている史料の原典にあたり、教員やテキスト執筆者の解釈のあらさがしをすることも望ましい授業外学習として推奨に値します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡辺浩『日本政治思想史 十七～十九世紀』（東京大学出版会、2010 年）

【参考書】

刈部直『日本思想史への道案内』（NTT 出版、2017 年）

原武史『日本政治思想史』（放送大学教材、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

レポート（70 %）、小テスト・アンケートの提出状況（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

無し。

【学生が準備すべき機器他】

講義は zoom によるリアルタイム・オンラインで行う予定です。最低限、web に接続できる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】

以上、特に covid19 事態に即して変更を加えた部分については、状況の変化に伴い再度の変更がありえますので、学生ポータルで最新の情報を入手するように注意してください。

【Outline and objectives】

This course is designed to overview the history of Japanese political thought from 1600 to 1868, focusing on some Confucian Thinkers and Native-Learning(Kokugaku) thinkers.

POL100AC

日本政治思想史 II

河野 有理

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本政治思想史 II」：政治学科科目の中で、歴史・思想科目群に属します。近代日本の政治思想史について、主要な思想家の議論を概観しつつ、時に原典史料にあたり、その理解を深めていきます。

【到達目標】

「日本」とはいったい何でしょうか。それはいったいいかなるものであったのでしょうか、あるいはありえたのでしょうか。「これからどうすべきか」を論じるにあたり、しばしば「今までがどうであったのか」についてのイメージを持つことが重要になってきます。この講義では、近代日本に大きな影響を与えた思想家のなかでも特に「これまで日本がどうであったのか」を自らの立論の前提として重視している（ように見える）人々をとりあげ、彼ら（残念ながらすべて男性なのですが、随時、同時代の女性の視点を導入して相対化する努力をしていきたいと思います）が提示する様々な「日本」像について考えていきたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、zoom 等を用いたリアルタイムのオンライン講義を行う予定です。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	進行方法や成績評価について
第 2 回	福澤諭吉と田口卯吉	「文明論」の衝撃
第 3 回	植木枝盛と中江兆民	反〈上から目線〉の政治思想
第 4 回	徳富蘇峰と陸羯南	それでも〈上から目線〉の必要について
第 5 回	竹越三又と山路愛山	〈史論〉の復権
第 6 回	内村鑑三と新渡戸稲造	〈キリスト教 made in Japan〉の破壊力
第 7 回	高山樗牛と北村透谷	〈美的反逆〉の系譜
第 8 回	「国民道徳」と井上哲次郎	道徳憲法としての「教育勅語」とその新しさ
第 9 回	柳田国男と折口信夫	「民俗学」の登場：私たちは私たちのことをよく知っているのか？
第 10 回	和辻哲郎と津田左右吉	「日本」について改めて
第 11 回	権藤成卿と大川周明	〈偽史〉の政治学
第 12 回	「講座派」と三木清・戸坂潤	〈マルクス主義〉の降臨
第 13 回	京都学派	〈超克せよ〉と近代は言う
第 14 回	丸山眞男	〈作為せよ〉と近代は言う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、指定したテキストを通読し、講義の内容をよく復習しつつ、翌週の講義に臨むようにしてください。また、講義で紹介した史料、あるいはテキストに引用されている史料の原典にあたり、教員やテキスト執筆者の解釈のあらさがしをすることも望ましい授業外学習として推奨に値します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

荻部直『日本思想史への道案内』（NTT 出版、2017 年）

【参考書】

渡辺浩『日本政治思想史 十七～十九世紀』（東京大学出版会、2010 年）

原武史『日本政治思想史』（放送大学教材、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（90 パーセント）、講義への積極的な貢献度（10 パーセント）

【学生の意見等からの気づき】

無し。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【Outline and objectives】

This course is designed to overview the history of Japanese political thought from 1868 to 1945, focusing on various thinkers who tried to embrace "Western Impact" in various ways.

LAW200AB

法律学特講（知的財産法の今日的課題）

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、知的財産法に関する諸問題のうち、著作権法・特許法・商標法以外のものの中から、その時々的重要と思われる課題を個別的に採り上げ、どのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例や関連する他の法制度にも触れながら学んでいく。

今年度も、近時その重要性をますます高めつつある営業秘密の保護を中心に採り上げる。雇用の流動性が高まりつつある今日、その反面として、退職従業員による営業秘密の流出といった案件を報道において目にする機会もまた多くなっている。営業秘密の保護は、知的財産法のひとつである不正競争防止法において規定されているものであるが、これは、市場において競争を行っている事業者のみならず、その従業員や役員といった個人にも関係してくる規律であるため、これについて一定の理解を身に付けておくことは社会に出た際に少なくない意義を有するものである。

この授業は、以上のような営業秘密に関する規律を中心に、不正競争防止法のうちのいくつかの規定等を学ぶことを目的とするものである。民法（不法行為法）や労働法を学んだ上での応用科目といった意味合いを有するが、情報の秘密管理といった事柄は幅広い分野に関連し得るため、「裁判と法コース」、「行政・公共政策と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」などの各コースにおける学習の最終段階において受講すべき科目のうちのひとつとして位置付けられる。

【到達目標】

不正競争防止法における営業秘密の保護に関する規律などを中心に、関連する知的財産法上の規律について、制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後関連する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。

より具体的には、第一に、営業秘密保護の規律などを理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、営業秘密保護などが問題となる具体的な事例（紛争）について、不正競争防止法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、不正競争防止法における営業秘密の保護（及びデザイン保護に関する法制度等）をテーマとし、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。音声付きのパワーポイントをオンデマンドで視聴していただくことを基本形式とするが、リアルタイムオンラインも必要に応じて実施する予定である。詳細は学習支援システムを通じて期中に改めて告知することとしたい。

下記授業計画に示した形で講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じて変更する可能性がある。

質問等はメール・学習支援システムを通じて随時受け付け、個別に、あるいは次回授業を通じてフィードバックすることとしたい。期末の課題に関しては学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像に占める本講義の位置
第 2 回	営業秘密の不正利用 (1)	不競法 2 条 1 項 4～10 号総説、営業秘密の定義（秘密管理性等）
第 3 回	営業秘密の不正利用 (2)	営業秘密の定義（有用性、非公知性等）
第 4 回	営業秘密の不正利用 (3)	不正利用行為
第 5 回	営業秘密の不正利用 (4)	適用除外、救済手段など
第 6 回	営業秘密の不正利用 (5)	営業秘密に関する問題演習、答案の書き方の解説など
第 7 回	限定提供データの不正利用	不競法 2 条 1 項 11 号～16 号の概説
第 8 回	商品形態模倣行為の規律 (1)	不競法 2 条 1 項 3 号の制度趣旨、保護の要件
第 9 回	商品形態模倣行為の規律 (2)	保護の要件、適用除外

第 10 回	商品形態模倣行為の規律 (3)	請求主体、救済手段など
第 11 回	意匠法概説 (1)	登録意匠制度とは、意匠の定義
第 12 回	意匠法概説 (2)	意匠の定義、登録要件
第 13 回	意匠法概説 (3)	登録要件、意匠権・意匠権侵害概説など
第 14 回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料や解いてくるべき課題などを出す場合があるので、取り組んだ上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、不正競争防止法等の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい（意匠法は一般的な六法には掲載されていないので、留意されたい。詳細は開講時に改めて指示する）。

【参考書】

田村善之『知的財産法〔第 5 版〕』（有斐閣、2010）、茶園成樹編『知的財産法入門〔第 2 版〕』（有斐閣、2017）、愛知靖之ほか『知的財産法』（有斐閣、2018）、茶園成樹編『意匠法〔第 2 版〕』（有斐閣、2020）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の実施が可能であれば期末試験により評価する（期末試験 100 %）。試験の実施ができない場合、レポート課題で評価する（期末レポート 100 %）。なお、期末レポートの場合、複数の課題を提示する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の理解の度合いを見計らいながら授業を進めるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各回の冒頭に配布するほか、授業支援システムにも誤記等を修正したものを適宜アップロードするので、活用してほしい。

【その他の重要事項】

民法（特に不法行為法）や労働法、民事訴訟法、知的財産法などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけたい。

【Outline and objectives】

This course covers the basics of Trade Secret Protection (and Design Protection).

POL200AC

ヨーロッパ政治思想史 I

犬塚 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Google Classroom クラスコード elze4bv

オンデマンド授業をあくまで原則としますが、状況が許す場合に限って、数回は対面授業（ハイフレックス対応）を実施する可能性があります。オンデマンド授業は、Google Classroom（クラスコード elze4bv）を使用し、毎回、動画視聴（60 分程度）＋課題実施というメニューとします。質問には、Google Classroom を利用して随時対応します。

この「ヨーロッパ政治思想史 I」は、政治学科科目の中で歴史・思想科目群に属する科目です。ヨーロッパにおける政治学・政治思想の歴史を学びます。政治学・政治思想の歴史を学ぶことを通じて、政治や政治学について理解を深めることが目的です。

【到達目標】

「ヨーロッパ政治思想史 I」は、おもに、ヨーロッパの古代・中世の政治思想史を扱います。現代の政治学の用語・概念のほとんどが、すでに古代ギリシア・ローマに登場していることから明らかなように、古代の政治思想は、近現代の政治学にもきわめて大きな影響を及ぼしており、後者を理解するためにも非常に重要です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式。資料を配布します。履修者は、各自で、Google Classroom でこの授業を登録してください。（クラスコード elze4bv） Google Classroom で実施するオンライン課題は、2020 年度と同じように、各週に採点して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	この授業の概要
第 2 回	ギリシアの政治 1	ヘロドトス トゥキュディデス
第 3 回	ギリシアの政治 2	アテナイとラケダイモン
第 4 回	プラトン 1	『ソクラテスの弁明』
第 5 回	プラトン 2	『ゴルギアス』
第 6 回	プラトン 3	『ポリテイア』
第 7 回	アリストテレス 1	『ニコマコス倫理学』
第 8 回	アリストテレス 2	『政治学』
第 9 回	ローマ共和政	歴史と制度
第 10 回	ポリュビオス	『歴史』 政体循環 混合政体
第 11 回	キケロ	暴君放伐 自然法
第 12 回	政治思想としてのキリスト教	聖書 アウグスティヌス
第 13 回	「中世」の政治思想	聖権と俗権 トマス
第 14 回	まとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

政治思想史を学ぶためになにより重要なのは、講義を聴くことでも、教科書や研究文献を読むことでもなく、過去のテキストを実際に読んでみることです。授業で紹介する古典をひとつでも読んでみることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

必要な資料は配布します。資料配付にあたっての注意事項は、初回の講義で説明します。

【参考書】

参考文献は、各回の授業で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）、期末の授業内試験（30%）

【学生の意見等からの気づき】

講義のスピードや難易度に留意して授業をおこないます。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom で動画を視聴して課題を実施するために、情報通信環境が必須です。

【Outline and objectives】

Explores history of political thought, especially of the ancient Greek and Rome and the middle ages.

POL200AC

ヨーロッパ政治思想史Ⅱ

犬塚 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Google Classroom クラスコード oyzc6w6

オンデマンド授業をあくまで原則としますが、状況が許す場合に限って、数回は対面授業（ハイフレックス対応）を実施する可能性があります。オンデマンド授業は、Google Classroom（クラスコード oyzc6w6）を使用し、毎回、動画視聴（60 分程度）＋課題実施というメニューとします。質問には、Google Classroom を利用して随時対応します。

この「ヨーロッパ政治思想史Ⅱ」は、政治学科科目の中で歴史・思想科目群に属する科目です。ヨーロッパにおける政治学・政治思想の歴史を学びます。政治学・政治思想の歴史を学ぶことを通じて、政治や政治学について理解を深めることが目的です。

【到達目標】

「ヨーロッパ政治思想史Ⅱ」は、おもにヨーロッパにおける初期近代の政治思想史を扱います。とくに、宗教改革後の凄惨な宗教対立が、ヨーロッパの政治思想・政治学にきわめて大きな影響を及ぼしたことについて適切に理解することが、この授業の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式。資料を配布します。履修者は、各自で、Google Classroom でこの授業を登録してください。（クラスコード oyzc6w6）Google Classroom で実施するオンライン課題は、2020 年度と同じように、各週に採点して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要
第 2 回	ルネサンス	マキアヴェッリ
第 3 回	宗教対立 1	ルター カルヴァン ベーズ オトマン
第 4 回	宗教対立 2	ボダン
第 5 回	イングランドの宗教対立 1	レヴェラーズ
第 6 回	イングランドの宗教対立 2	ホップズ
第 7 回	イングランドの宗教対立 3	ハリントン
第 8 回	イングランドの宗教対立 4	ロック
第 9 回	18 世紀の文明社会論	モンテスキュー
第 10 回	文明への懐疑	ルソー
第 11 回	革命の時代 1	フェデラリスト
第 12 回	革命の時代 2	バーク
第 13 回	19 世紀の自由主義	トクヴィル ミル
第 14 回	まとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

政治思想史を学ぶためになにより重要なのは、講義を聴くことでも、教科書や研究文献を読むことでもなく、過去のテキストを実際に読んでみることです。授業で紹介する古典をひとつでも読んでみることを望ましい。

【テキスト（教科書）】

必要な資料は配布します。資料配付にあたっての注意事項は、初回の講義で説明します。

【参考書】

参考文献は、各回の授業で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）、期末の授業内試験（30%）

【学生の意見等からの気づき】

講義のスピードや難易度に留意して授業をおこないます。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom で動画を視聴して課題を実施するために、情報通信環境が必須です。

【Outline and objectives】

Explores history of political thought, especially of the early modern Europe.

POL200AC

福祉政策 I

石川 久

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。

政府のもっとも重要な役割として、健康で文化的な最低限度の生活の保障がある。それらは各行政分野で担われるが、その基本となるのは各福祉政策の形成とその展開にある。本授業では、それぞれの福祉分野の概要を理解し、その問題点、課題を考えられるようになることである。

【到達目標】

- ・今日の日本がおかれている福祉環境と福祉政策の概要を理解する。
- ・福祉政策における地方自治体と国との関係やその役割を理解する。
- ・それぞれの福祉政策分野ごとにその制度と実際の運用・適用について理解を深める。
- ・これらについて問題点を探り、今後の課題と改革について考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

学習支援システム「教材」に各回授業の PPT ファイルと PDF ファイルを掲載する。

授業では、以下の項目について、自治体現場での実務・実践経験や具体的事例を取り上げながら、できる限り、分かりやすく、役に立つ講義を中心に行う。

- 1 政策主体としての自治体と福祉環境の変化
- 2 福祉政策・計画とその実現手法としての法務・財務
- 3 子育て・子育て支援などの子ども家庭福祉政策
- 4 年金などの高齢者福祉政策

各回のリアクションを受け止めるため、専用のメールを開設し、このメールに疑問・質問、感想など求め、理解度や疑問に対応しながら授業を進める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクション（疑問・質問、感想等）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要、注意事項、評価方法などを説明する。
第 2 回	福祉事業の変遷	福祉政策・福祉事業の変遷について概説する。
第 3 回	福祉環境の変化 (1) 人口構造の変化	日本社会の人口構造の変化（少子高齢化・人口減少など）が福祉政策に及ぼす影響などについて考える。
第 4 回	福祉環境の変化 (2) 地方分権	福祉政策の主体としての自治体、特に分権改革（地方分権）と福祉事業について考える。
第 5 回	福祉環境の変化 (3) 措置から契約へ	社会福祉構造改革、「措置」から「契約」への変化について考える。
第 6 回	福祉の計画と法務・財務	福祉分野の計画とその実現手法としての法務・財務を考える。
第 7 回	子ども家庭福祉政策 (1) 子どもの人権と福祉政策	子どもの人権と福祉政策について考える。
第 8 回	子ども家庭福祉政策 (2) 子育て・子育て支援①	子育て・子育て支援の歴史とその考え方について考える。
第 9 回	子ども家庭福祉政策 (3) 子育て・子育て支援②	子育て・子育て支援の現状と問題点・課題について考える。
第 10 回	子ども家庭福祉政策 (4) 子ども虐待	子ども虐待について考える。
第 11 回	子ども家庭福祉政策 (5) ひとり親家庭	ひとり親家庭（母子・父子家庭）の福祉について考える。
第 12 回	高齢者福祉政策 (1) 所得の保障	高齢者の所得保障としての年金、合わせて「定年」延長などについて考える。
第 13 回	高齢者福祉政策 (2) 生きがいと就労	高齢者の生きがいや社会参加、就労などについて考える。
第 14 回	授業のまとめ。	授業のまとめを行い、到達度の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容に基づく学習。事前に PPT ファイルを「授業支援システム」に掲載されるので、あらかじめ見ておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『図解 福祉政策はわかり 第 1 次改訂版』石川久 学陽書房 2017 年 2100

【参考書】

石川久『福祉課のシゴト』ぎょうせい
石川久他編著『自治体政策と訴訟法務』学陽書房
自治六法・福祉六法
その他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に照らして、各授業の要点を理解しているかどうかを確認するため、期末に試験を行う。この学期末試験（80 % 程度）、専用メールへのリアクション（20 % 程度）の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

従来の授業に改善を要する特段の指摘がなかったため、原則として従来どおり、パワーポイントを用いた授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】

原則としてパワーポイントファイル（または、同様の内容の PDF ファイル）を用いて授業を進める。

【その他の重要事項】

<対面授業の場合>

授業の講義終了後、20 分程度の時間をとり、質問や意見交換の機会を設ける。

自治体において、法務や財務を統括する総合政策部長を歴任し、福祉事務所に勤務（福祉課長）した経験を活かし、各福祉分野の実践について、より現実的でわかりやすい授業を行う。

【Outline and objectives】

It is a subject belonging to the field of "policy system" among subjects of political science courses.

As the government's most important role, there is guarantee of a minimum healthy and cultural life. Though they are carried out in each administrative field, the foundation becomes the formation and development of each welfare policy. In this lesson, it is to understand the outline of each welfare field, to be able to think about the problem.

POL200AC

福祉政策Ⅱ

石川 久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。政府のもっとも重要な役割として、健康で文化的な最低限度の生活の保障がある。それらは各行政分野で担われるが、その基本となるのは各福祉政策の形成とその展開にある。本授業では、それぞれの福祉分野の概要を理解し、その問題点、課題を考えられるようになることである。

【到達目標】

- ・今日の日本がおかれている福祉環境と福祉政策の概要を理解する。
- ・福祉政策における地方自治体と国との関係やその役割を理解する。
- ・それぞれの福祉政策分野ごとにその制度と実際の運用・適用について理解を深める。
- ・これらについて問題点を探り、今後の課題と改革について考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、以下の項目について、自治体現場での実務・実践経験や具体的事例を取り上げながら、できる限り、分かりやすく、役に立つ講義を行う。

- 1 高齢者介護などの高齢者福祉政策
- 2 障がい者の社会参加などの障がい者福祉政策
- 3 生活保護制度
- 4 地域福祉の計画と実践

各回のリアクションを受け止めるため、専用のメールを開設し、このメールに疑問・質問、感想など求め、理解度や疑問に対応しながら授業を進める。

- 5 ボランティア・NPOなどの活動、専門職など多様な福祉の担い手
- 6 健康づくり、医療保険などの保健・医療政策

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要、注意事項、評価方法などを説明する。
第 2 回	介護保険制度 (1) 制度の創設	介護保険制度の創設、制度の概要について解説する。
第 3 回	介護保険制度 (2) 制度の運用と課題・問題点、今後の展望	介護保険制度の運用と課題・問題点、今後の展望について考える。
第 4 回	障がい者福祉政策 (1) 制度の歴史・概要	障がい者福祉施策の概要について解説する。
第 5 回	障がい者福祉政策 (2) 措置から自立支援に	障害者自立支援制度について考える。
第 6 回	障がい者福祉政策 (3) 総合支援、就労・雇用	障害者総合支援制度、就労・雇用について考える。
第 7 回	生活保護制度 (1) 制度の歴史・概要	生活保護制度の概要について解説する。
第 8 回	生活保護制度 (2) 運用の実態	生活保護の具体的運用、その実態を考える。
第 9 回	生活保護制度 (3) 制度の課題・問題点、今後の展望	生活保護、生活困窮者支援制度の運用と課題・問題点、今後の展望について考える。
第 10 回	地域福祉 制度の創設、理念	地域福祉の概要・考え方を解説し、地域福祉の計画と実践、現状と課題・問題点、今後の展望について考える。
第 11 回	ボランティア活動	ボランティアの始まりと基礎、福祉との関係を理解し、現状と課題・問題点、今後の展望について考える。
第 12 回	NPO の法と組織	NPO の法と組織、活動について概説し、現状・課題・問題点、今後の展望について考える。
第 13 回	保健・医療政策	日本の保健・医療の全体像を解説し、現状・課題・問題点、今後の展望について考える。
第 14 回	授業のまとめ 到達度確認。	授業のまとめを行い、到達度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容に基づく学習。事前に授業の PPT ファイルと PDF ファイルが「学習支援システム」に掲載されるので、それを見ておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『図解 福祉政策はわかり 第 1 次改訂版』石川久 学陽書房 2017 年 2100

【参考書】

石川久『福祉課のシゴト』ぎょうせい
石川久他編著『自治体政策と訴訟法務』学陽書房
自治六法・福祉六法
その他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に照らして、各授業の要点を理解しているかどうかを確認するため、期末に試験を行う。この学期末試験（80 %程度）、専用メールへのリアクション（20 %程度）の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

従来の授業に改善を要する特段の指摘がなかったため、原則として従来どおり、パワーポイントを用いた授業を行う。各回に専用メールでの質問、感想等を受けながら理解度や疑問に対応し授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

原則としてパワーポイントソフトを用いて授業を進める。

【その他の重要事項】

<対面授業の場合>

授業の講義終了後、20 分程度の時間をとり、質問や意見交換の機会を設ける。

自治体において、法務や財務を統括する総合政策部長を歴任し、福祉事務所に勤務（福祉課長）した経験を活かし、各福祉分野の実践について、より現実的でわかりやすい授業を行う。

【Outline and objectives】

It is a subject belonging to the field of "policy system" among subjects of political science courses.

As the government's most important role, there is guarantee of a minimum healthy and cultural life. Though they are carried out in each administrative field, the foundation becomes the formation and development of each welfare policy. In this lesson, it is to understand the outline of each welfare field, to be able to think about the problem.

POL200AC

比較福祉国家 I

山本 卓

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜この授業は、現代政治科目群に属する科目である。＞

福祉国家のかたちは国際的に多様である。では、福祉国家はどのように多様であり、また、何がその多様性を生み出しているのだろうか。「福祉国家 I」では、これらの点を説明しようと提示されてきた理論・視点を、データ分析の実習的な要素もとり入れて学習する。さらに、福祉国家の今日の状況について、「福祉国家と経済のグローバル化」という観点から考察する。

【到達目標】

- ① 福祉国家の国際的な多様性を説明する代表的な理論について説明できる。
- ② 福祉国家・福祉レジームの類型を、その分析枠組みと合わせて説明できる。
- ③ 用意されたデータを使って、上記の分析枠組みを用いた考察ができる。
- ④ 福祉国家に対する経済的グローバル化の影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 毎回、電子ブックの教材をオンデマンドで配信します（配信の案内は、学習支援システムでおこないます）。
- 習得状況の確認を目的とする小課題を複数回出し、指定する期日内の提出を求めます（提出先は、学習支援システム）。
- 教員に質問等をする機会を Zoom 上で設けます。
- 課題や質問等へのフィードバックは、全体に対しては教材内での紹介やコメントの形で、個別적으로는メールや学習支援システム（教員のコメント）でおこないます。
- 授業用データサイト：Comparative study of Welfare States (<https://public.tableau.com/profile/welfarestates#!/>) を用いて分析・考察をおこなうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要について説明を受けたのちに、福祉国家の概念について「北欧モデル」を事例に学習する。
第 2 回	福祉国家と経済分野のグローバル化（1）	経済的グローバル化が福祉国家にどのような変化をもたらしているのを、映像資料を使って考察する。
第 3 回	福祉国家と経済分野のグローバル化（2）	前回学習を踏まえて、福祉国家に対する経済的グローバル化の影響を、構造的に分析する。
第 4 回	福祉国家の多様性：給付面の国際比較	ILO の World Social Protection Data 等を使って、社会給付にかかわる各国の状況を共時的に分析する。
第 5 回	福祉国家の多様性を説明する理論（1）近代化・収斂説	近代化・収斂説に基づく、福祉国家の国際的多様性はどのように説明されるのか学習する。

第 6 回	福祉国家の多様性を説明する理論（2）権力資源動員論	権力資源動員論に基づく、福祉国家の国際的多様性はどのように説明されるのか学習する。
第 7 回	福祉国家の多様性を説明する理論（3）新制度論	新制度論に基づく、福祉国家の国際的多様性はどのように説明されるのかを学習する。
第 8 回	前半の振り返り	前半の学習内容を振り返り総合する。
第 9 回	福祉国家の類型（1）福祉レジームと脱商品化	福祉レジームの概念を学習した上で、福祉レジームを分類する基準のひとつめとして「脱商品化」指標の構成を学習する。
第 10 回	福祉国家の類型（2）社会的階層化	福祉レジームを分類する基準のひとつめとして「社会的階層化」を学習する。また、「社会的階層化」との関係で、ミーンズテスト、選別主義と普遍主義、再分配のパラドクスについても考察する。
第 11 回	福祉国家の類型（3）福祉レジームの三類型	データを使って「脱商品化」指標と「社会的階層化」指標に基づいた国際比較をおこなう。それを踏まえて、E・アンデルセンの提示した福祉レジームの三類型を考察する。
第 12 回	ジェンダー・家族・福祉国家	男性稼ぎ主モデル、家族主義、脱家族化の概念を学習する。
第 13 回	家族主義・脱家族化の国際比較	家族主義・脱家族化を福祉レジーム類型の基準とする視点から、国際比較をおこなう。
第 14 回	振り返りと総括	各自、春学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で出される課題に取り組む。また、授業内で紹介された各種資料を使って、学習した内容に関する知見を深める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配信する電子ブックの教材を使用する。

【参考書】

- ・ OECD Social and welfare issues (<http://www.oecd.org/social/soc/>)
- ・ ILO, World Social Protection Data (<https://www.social-protection.org/gimi/gess/WSPDB.action?id=32>)
- ・ その他、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（90%）、提出課題や質問での、授業全体にとって有意義な視点や問題の提起（10%）、で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ PC やタブレットなどの情報機器および通信環境。
- ・ この授業では、電子教材の配信や課題提出に関する案内を、学習支援システムでおこないます。履修を考えられる場合には、学習支援システムへの登録を早めにおこなってください。

【Outline and objectives】

This course will provide students with the conceptual knowledge and comparative methods to understand and analyze international diversity of welfare state. It also introduces a viewpoint to understand the relationship between welfare state and economic globalization.

POL200AC

比較福祉国家Ⅱ

山本 卓

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜この授業は、現代政治科目群に属する科目である。＞

20 世紀の第 3 四半期までに福祉国家を形成した諸国では、1980・90 年代以降の福祉国家再編の過程を経て、「新しい福祉国家」が「新しい福祉国家の政治」とともに姿を現しつつあるとされる。では、それらは具体的にはどのようなものなのだろうか？ 本授業ではこの問いを、社会政策・福祉政策学の分野で提示されてきた理論や視点を、諸国の社会保障分野における制度、政策に当てはめて考察することを通して考察する。

【到達目標】

- ① 福祉多元主義の観点から諸国の福祉制度、政策を比較・考察できる。
- ② 政府間財政関係の観点から、社会支出に関する財政統計を分析できる。
- ③ 福祉三角形のモデルを応用して、福祉国家再編の政治を分析できる。
- ④ 福祉ガバナンスの視点を諸国の福祉制度、政策に当てはめて考察できる。
- ⑤ 諸国の年金改革を、高齢期所得保障政策の観点から国際比較できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 毎回、電子ブックの教材をオンデマンドで配信します（配信の案内は、学習支援システムでおこないます）。
- 習得状況の確認を目的とする小課題を複数回出し、指定する期日内の提出を求めます（提出先は、学習支援システム）。
- 教員に質問等をする機会を Zoom 上で設けます。
- 課題や質問等へのフィードバックは、全体に対しては教材内での紹介やコメントの形で、個別的にはメールや学習支援システム（教員のコメント）でおこないます。
- 授業用データサイト： Comparative study of Welfare States (<https://public.tableau.com/profile/welfarestates#!/>) を用いて分析・考察をおこなうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要について説明を受けたのち、秋学期の学習テーマを理解する。
第 2 回	福祉国家の行財政 (1) サービス供給	福祉サービスの供給面について学習する。
第 3 回	福祉国家の行財政 (2) 企画・規制と政府間関係	福祉サービスの企画・規制面について、政府間財政関係（中央・地方関係）の視点と合わせて学習する。 政府財政統計の枠組みを用いて学習する。

第 4 回	福祉国家の行財政 (3) 政府間関係の国際比較	社会保障制度における政府間財政関係を国際比較する。
第 5 回	福祉国家の行財政 (4) 政府間財政関係	COFOG に基づく政府財政統計の体系を学習することを通して、福祉国家の政府間財政関係について学習する。 を、所得再分配の観点と合わせて国際比較する。
第 6 回	福祉国家の行財政 (5) 政府間財政関係の国際比較	政府間財政関係について、統計数値の制度的背景を分析する視点を学ぶ。
第 7 回	【歴史の窓】同業組合と互助・共済——社会保険の源流	ヨーロッパの同業組合に関するビデオを視聴し、互助・共済活動の歴史を学ぶ。
第 8 回	福祉国家の財源——税・所得分布・社会保障	財源構成と所得分布（所得の不平等、貧困率）の関係を、OECD の国際統計を用いて国際比較する。
第 9 回	福祉多元主義	福祉多元主義の歴史的背景を学んだのち、福祉多元主義に基づいた福祉国家再編を福祉三角形のモデルを使って分析する。
第 10 回	福祉国家再編の動向	福祉国家再編の国際的動向として、Privatization（民営化・民間化）、市場化、脱家族化の三つを取り上げて考察する。
第 11 回	福祉ガバナンス	福祉政策におけるガバナンス的視点の主流化を、福祉多元主義との関係を軸に理解する。
第 12 回	医療保障のガバナンス (1) イギリス	福祉ガバナンスの理念型を学習した上で、イギリス・ドイツ・アメリカの医療保障にその類型を当てはめて考察する。この回では、イギリスを取り上げる。
第 13 回	医療保障のガバナンス (2) ドイツ	福祉ガバナンスの理念型を、イギリス・ドイツ・アメリカの医療保障に当てはめて考察する。この回では、ドイツとアメリカを取り上げる。
第 14 回	高齢期の所得保障	高齢期の収入源について国際比較したのち、年金改革の国際的動向について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で出される課題に取り組む。また、授業内で紹介された各種資料を使って、学習した内容に関する知見を深める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配信する電子ブックの教材を使用する。

【参考書】

- ・ IMF Data, Government Finance Statistics
 - ・ OECD Social and welfare issues (<http://www.oecd.org/social/soc/>)
 - ・ ISSA, Social Security Country Profiles (<https://www.issa.int/country-profiles>)
 - ・ European Observatory on Health Systems and Policies (<https://www.euro.who.int/en/about-us/partners/observatory>)
 - ・ 厚生労働省『世界の厚生労働（海外情勢報告）』
- その他、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（90%）、提出課題や質問での、授業全体にとって有意義な視点や問題の提起（10%）、で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ PC やタブレットなどの情報機器および通信環境。
- ・ この授業では、電子教材の配信や課題提出に関する案内を、学習支援システムでおこないます。履修を考えられる場合には、学習支援システムへの登録を早めにおこなってください。

【Outline and objectives】

This course will provide students with the conceptual knowledge and methods to understand and analyze welfare institutions and policies of modern welfare states. Specific social policy areas, such as health and pension will be focused and recent reforms will be discussed comparatively.

ECN200AC

経済政策 I

濱秋 純哉

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策・都市・行政」の分野に属する科目であり、現実の経済政策を経済学に基づいて考える。政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、経済学の余剰分析の考え方に基づき考察を加える。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、経済学の余剰分析の考え方に基づき、外部性の問題や望ましい公共財の供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

Zoom を通じたリアルタイム配信型のオンライン授業で、直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学で経済政策を考える意味
2	市場の働き 1	完全競争市場とは何か
3	市場の働き 2	需要曲線と供給曲線
4	市場の働き 3	消費者余剰の図示
5	弾力性の概念	価格弾力性とは何か
6	企業行動と生産者余剰 1	様々な費用の概念
7	企業行動と生産者余剰 2	企業の利潤最大化行動と供給曲線
8	企業行動と生産者余剰 3	生産者余剰の図示
9	外部性 1	外部性の概念
10	外部性 2	外部性の存在と市場の効率性
11	外部性 3	規制、ピグー税、及び排出権市場による外部性の問題の解決
12	公共財 1	排除可能性と消費の競合性
13	公共財 2	公共財の最適供給の条件、公共財の自発的供給
14	公共財 3	国家公共財と地方公共財

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

八田達夫, 2008, 『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー, 2013, 『マンキュー経済学 I ミクロ編 [第 3 版]』東洋経済新報社

【参考書】

小川光・西森晃, 2015, 『公共経済学』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、3 回の宿題（40%）、復習問題の回答の提出（10%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline and objectives】

Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

ECN200AC

経済政策Ⅱ

濱秋 純哉

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策・都市・行政」の分野に属する科目であり、現実の経済政策を経済学に基づいて考える。政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学の IS-LM 分析の手法を用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討を行う。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

Zoom を通じたりアルタイム配信型のオンライン授業で、直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	データで見る日本経済 1	GDP の概念と作成方法
3	データで見る日本経済 2	物価指数の概念と作成方法
4	データで見る日本経済 3	失業率の概念と作成方法
5	雇用問題 1	摩擦的失業への政策的対処
6	雇用問題 2	最低賃金引き上げの影響
7	雇用問題 3	若年者の雇用問題、「世代効果」への政策的対処
8	IS-LM モデルの構築 1	ケインジアンの変差図、乗数効果
9	IS-LM モデルの構築 2	IS 曲線の導出
10	IS-LM モデルの構築 3	貨幣量の測定とコントロール
11	IS-LM モデルの構築 4	LM 曲線の導出
12	IS-LM モデルの応用 1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
13	IS-LM モデルの応用 2	金融政策の効果
14	IS-LM モデルの応用 3	「流動性の罠」の下での財政政策と金融政策の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、経済政策Ⅰを履修済みのことが望ましい。また、授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

N・グレゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学Ⅰ（第4版）』東洋経済新報社

【参考書】

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門（第5版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、3 回の宿題（40%）、復習問題の回答の提出（10%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline and objectives】

Governments and central banks conduct economic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM analysis. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

POL100AC

行政学

金井 利之

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

単位数：4 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は政策行政系の科目であり、政治学科の政治学基本科目群に属する。

現代日本の行政と官僚制の役割と活動の様々な特徴について解説する。学生が行政との相互作用をするときのための基礎的な知識を学習する。

【到達目標】

行政や官僚制あるいは行政職員の行動について、そのような現象として現れることを理解するとともに、そのような行政と対面したときに、どのように対処するかを考える能力を開発するための基礎体力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代日本行政の様々な特徴について、それぞれ、1回1テーマを採り上げて、逐次解説していく。ハイブリッド方式である。Zoom によるミーティングを活用して講義を行う。但し、何回かに一回は、教室での対面の回（討論会）を設ける予定である。討論会において、学生による報告、学生間討議、教員による解説などのフィードバックも行う。ただし、COVID-19 の状況や交通機関・外出へのハードルなどによって変化するので、対面の回を具体的に何月何日に設定するかは、予定と変更になることも有り得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	この講義の基本的な狙いについて説明する
第 2 回	相対性	行政の役割と機能について、行政以外の様々な役割と機能との相対関係を論じる。
第 3 回	空間性	行政の空間との関係について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 4 回	時間性	行政と時間との関係について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 5 回	討論会（1）	対面を原則とする。感染状況によっては、日時を前後することはある。具体的な時事問題を探り上げて、学生に解答を報告させ、そのそれを踏まえて学生間の討論を行う。
第 6 回	権威性	行政の権威性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 7 回	区別性	行政の区別性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 8 回	専門性	行政の専門性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。

第 9 回	秘密性	行政の秘密性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 10 回	討論会（2）	対面を原則とする。感染状況によっては、日時を前後することはある。具体的な時事問題を探り上げて、学生に解答を報告させ、そのそれを踏まえて学生間の討論を行う。
第 11 回	合法性	行政の合法性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 12 回	自律性	行政の自律性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 13 回	妥当性	行政の妥当性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 14 回	討論会（3）	対面を原則とする。感染状況によっては、日時を前後することはある。具体的な時事問題を探り上げて、学生に解答を報告させ、そのそれを踏まえて学生間の討論を行う。
第 15 回	公平性	行政の公平性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 16 回	民主性	行政の民主性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 17 回	代表性	行政の代表性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 18 回	中立性	行政の中立性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 19 回	討論会（4）	対面を原則とする。感染状況によっては、日時を前後することはある。具体的な時事問題を探り上げて、学生に解答を報告させ、そのそれを踏まえて学生間の討論を行う。
第 20 回	総合性	行政の総合性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 21 回	計画性	行政の計画性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 22 回	調整性	行政の調整性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 23 回	討論会（5）	対面を原則とする。感染状況によっては、日時を前後することはある。具体的な時事問題を探り上げて、学生に解答を報告させ、そのそれを踏まえて学生間の討論を行う。
第 24 回	必要性	行政における／対する必要性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 25 回	限界性	行政の限界性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 26 回	決定性	行政の決定性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 27 回	責任性	行政の責任性について、具体例も含みつつ、多角的に論じる。
第 28 回	総括討論会	対面を原則とする。1 年間の講義をつ踏まえて、総括討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の序盤から中盤にかけては教科書の該当部分を事前に読んでおく
さまざまな行政現象に関して、新聞、インターネット、テレビ、雑誌（できるだけ週刊誌）等の情報に接するように努力する。特に、紙媒体としての新聞を読むことを強く求める。

本授業の準備学習・復習時間は、教科書購読 15 分、新聞閲読毎日 15 分 × 7 日 = 115 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

金井利之『行政学概説』放送大学教育振興会、2020 年、本体 3100 円

【参考書】

講義のなかにおいて、必要に応じて適宜、言及する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（0%）

討論会での報告・発言（0%）

夏休み課題レポート（後期冒頭提出）（30%）

学年末試験（対面試験の実施が困難など、状況を見ながら形式を検討する。レポートに振替する可能性もある）（70%）

【学生の意見等からの気づき】

発言については、文脈を踏まえ、真意を付度した上で、傾聴と理解の精神が重要である。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン受講できるようなデバイス／周辺環境

【その他の重要事項】

新聞／雑誌を読む

【Outline and objectives】

This is a class regarding public policy and administration.

I aims at providing characteristics of roles and activities of modern Japanese public administration and bureaucracy. Students could study basic knowledge when they would interact with public administration.

POL200AC

マス・コミュニケーション論 I

郭 善英

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マス・コミュニケーションの特徴・役割など関する基本的な概念と理論を学び、実際に行っているコミュニケーション、メディア現象をより分析的・批判的に考察できる能力を養う。

【到達目標】

- 1) マス・コミュニケーションに関する概念・理論を理解する。
- 2) 現代社会におけるマスコミュニケーションの役割・重要性を理解し、分析的・批判的に考察する。
- 3) 学習した理論・概念を現実のメディア・コミュニケーション現象に適用し、自分の意見・議論を共有する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に強く関連。「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 主に講義とケース分析を行い、ケース分析では最近話題になるメディア現象などを中心に紹介します。学生には自らのケース紹介およびディスカッション参加が求められます。
- 毎回、授業内容のチェック及び意見・感想などをワークシートに記入してもらいます。ワークシートは原則、授業当日中に提出してもらい、提出内容につきましては次回の授業中に解説を行い、意見・感想の内容はクラスで共有し議論します。
- レポートとテストは採点の後、学習情報システムにて返却します。
- 対面授業が難しい場合、Zoom によるリアルタイム授業を行い、出席できない学生には授業の録画を提供します。（事前相談必要）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要：マス・コミュニケーションとは？	授業の構成とマス・コミュニケーション論を学ぶ意義について紹介します。
2	メディアからみるメディア (1)	映画・ドラマなどで描かれたメディアの姿から、今のメディアについて議論します。
3	マス・コミュニケーションの歴史	マス・コミュニケーション、マス・メディアの歴史と関連概念の変遷について学びます。
4	マス・メディアの機能と規範理論	マス・メディアの機能とメディアの在り方に関する規範理論を学びます。
5	ニュースの社会学	報道の過程に影響を及ぼす社会的要因を通じて、マス・メディアと社会の関係を考察します。
6	2つのパラダイム (1)	コミュニケーション学の2大パラダイムの中、主流・伝統パラダイムを学びます。
7	2つのパラダイム (2)	マルクス主義に基づく批判的パラダイムを学びます。
8	メディアからみるメディア (2) (*書評提出)	映画・ドラマなどで描かれたメディアの姿から、今のメディアについて語ります。
9	マス・コミュニケーションと民主主義	民主主義のためのメディアの役割について学びます。
10	オールド・メディアとニュー・メディア	インターネットなどニュー・メディアの特徴について学びます。
11	マス・コミュニケーション効果理論	マス・コミュニケーションの効果に関する理論を学びます。
12	オーディエンス論	批判的理論の伝統の中発展してきたオーディエンスに関する理論を学びます。
13	表現の自由とメディア倫理	表現の自由と他の価値が衝突するケースやメディアの倫理問題が問われるケースから、倫理性を判断するために考慮すべき基準・原則を学びます。
14	期末テスト	オープンブック形式で、授業内容に基づき自分の意見を述べます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットニュースなど、メディア・コンテンツに接し、気になる現象、議論などを考えておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書はありません。

【参考書】

マクウェール、デニス (2010) 『マスコミュニケーション研究』 慶應義塾大学出版会

McQuail, Denis and Mark Deuze. 2020. McQuail's Mass Communication Theory. London: Sage.

スタンリー J. バラン、デニス K. デイビス (2007) 『マス・コミュニケーション理論 上—メディア・文化・社会

Baran, Stanley J. and Dennis K. Davis. 2020. Mass Communication Theory: Foundations, Ferment, and Future. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

授業参加 30%（出席・ワークシート・ディスカッション参加など）

テスト 40%（オープンブック形式）

書評 15%

期末レポート 15%

【学生の意見等からの気づき】

1 年生が多い授業ですので、概念や理論よりはケース紹介を割合を増やし、課題のチェックでフォローしていきます。

映画などの活用は学生から反応が良いし、良いコメント・議論にもなりますので引き続き活用します。オンライン授業での試行錯誤に照らして、オンデマンドとリアルタイム両方を活用しながら、学生同士の議論をより活発にさせたいと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces basic concepts and theories about the characteristics and roles of mass communication, in order to provide grounds on that students can develop analytical and critical viewpoints on communication and media phenomena.

POL200AC

マス・コミュニケーション論Ⅱ

郭 善英

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：4 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マス・コミュニケーションⅠから学んだマス・コミュニケーション一般の概念・理論を元に、コミュニケーション学の具体的な分野の概念・理論を学び、自分の興味のあるテーマのケース研究を行うことを目的とします。

【到達目標】

- 1) コミュニケーション学の具体的な分野の概念・理論を理解する。
- 2) 自分の興味のあるコミュニケーション・メディア現象を紹介するケース研究を行い、3-4 ページのレポートを作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に強く関連。「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 主に講義とケース分析を行い、ケース分析では最近話題になるメディア現象などを中心に紹介します。学生には自らのケース紹介およびディスカッション参加が求められます。
- 毎回、授業内容のチェック及び意見・感想などをワークシートに記入してもらいます。ワークシートは原則、授業当日中に提出してもらい、提出内容につきまちは次回の授業中に解説を行い、意見・感想の内容はクラスで共有し議論します。
- レポートとテストは採点の後、学習情報システムにて返却します。
- 対面授業が難しい場合、Zoom によるリアルタイム授業を行い、出席できない学生には授業の録画を提供します。（事前相談必要）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要・課題案内	授業で紹介するコミュニケーション学の分野について紹介し、期末プロジェクトのケース研究について案内します。
2	国際コミュニケーション：概念と理論（1）	国境を越えて行われるコミュニケーション現象を語る理論の中、主流パラダイムの流れを学びます。
3	国際コミュニケーション：概念と理論（2）	文化帝国主義など、国際コミュニケーションを語る批判的理論を学びます。展過程について学びます。
4	【TOPIC】 グローバル・オーディエンスとファン活動	海外のコンテンツを消費するオーディエンスについて学び、積極的なファン活動の様子とその影響力について議論します。
5	メディア・イベントと国際報道	海外の出来事を報道する国際報道の特徴を国際的なメディア・イベントを中心に議論します。
6	メディア経済と統治	メディア産業の特徴と役割について学びます。
7	広告と消費社会	現代社会における広告の役割と位置づけについて議論します。
8	【TOPIC】 フェイクニュース	フェイクニュースに関する番組を視聴し、その原因と対策について考察します。
9	政治とコミュニケーション	テレビ討論や政治広告など、政治とコミュニケーションに関する理論を学びます。
10	児童とコミュニケーション	子ども・青少年とコミュニケーションの関係に関する理論を学びます。
11	コミュニケーションと多様性	ジェンダー、人種、社会的マイノリティなど、コミュニケーションと多様性の問題について話します。
12	ケース研究発表（1）	レポート提出の前に、これまで分かった内容を発表し、クラスからコメントを受けます。
13	ケース研究発表（2）	レポート提出の前に、これまで分かった内容を発表し、質疑応答・悩み相談などを行います。
14	期末テスト	オープンブック形式で、授業内容に基づき自分の意見を述べます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットニュースなど、メディア・コンテンツに接し、気になる現象、議論などを考えておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書はありません。

【参考書】

マクウェール、デニス（2010）『マスコミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

McQuail, Denis and Mark Deuze. 2020. McQuail's Mass Communication Theory. London: Sage.

スタンリー J. バラン、デニス K. デイビス（2007）『マス・コミュニケーション理論 上—メディア・文化・社会

Baran, Stanley J. and Dennis K. Davis. 2020. Mass Communication Theory: Foundations, Ferment, and Future. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

授業参加 30%（出席・ワークシート・ディスカッション参加など）

テスト 30%（オープンブック形式）

ケース研究 40%（発表 10%, 期末レポート 30%）

【学生の意見等からの気づき】

1 年生が多い授業ですので、概念や理論よりはケース紹介を割合を増やし、課題のチェックでフォローしていきます。

映画などの活用は学生から反応が良いし、良いコメント・議論にもなりますので引き続き活用します。オンライン授業での試行錯誤に照らして、オンデマンドとリアルタイム両方を活用しながら、学生同士の議論をより活発にさせたいと思います。

【Outline and objectives】

With the foundation of the theories and concepts studied in Mass Communication I, this course introduces concepts and theories in specific fields of communication studies. At the end of the semester, students will develop their own interests into case studies.

POL100AC

日本政治史 I

明田川 融

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は選択必修科目のなかの学科基礎科目群に属する。そして、政治学が実証科学、法則科学、批判科学、そして政策科学という多層性をもつ学とすれば、その基層をなすものといえよう。近現代日本政治の複雑な道筋をたどりながら、そこから何らかのパターンや問題点を抉りだし、こんごの政策立案ならびに制度構想に資することを目的とする。

【到達目標】

近現代日本政治の制度（しくみ）と過程（ながれ）を理解する。そのさい、日沖（琉）関係の視座（中村 哲）、天皇制国家の支配原理（藤田省三）、官治集権と自治分権の対立軸（松下圭一）など、いわば法政政治学の先達たちが提示した問題意識や争点を念頭に置きつつ、日本政治史を理解することを心がけたい。また、政治制度や運用実態の、一見して自明と思われるようなことでも批判的に検証する態度や眼力を涵養したい。たとえば、そもそも「日本」政治史というけれど、民主化の歩みにおいて、沖縄のそれと、いわゆる本土のそれとは一絡げにできるか？

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

幕末・維新から第二次大戦での敗北にいたる時期の日本政治史を概説する。憲法、政党政治、選挙制度、議会制、官僚機構、中央・地方関係、内政と外交の連関などとともに、為政者の側だけでなく民衆運動をふくむ民主化のさまざまな担い手の言動にも可能なかぎり論及しながら講義をおこなう。

第 2 回目以降、授業のはじめに、前回授業で教員がだした課題に対する個々の受講生の解答からいくつか取りあげ、受講生全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的・到達目標・成績評価方法などにつき説明。参考文献リスト配布
第 2 回	幕藩体制の動揺	徳川幕藩体制後期の変動と諸改革。維新への条件
第 3 回	明治国家の成立	維新政府と民権運動。長州支配の淵源と政党の結成
第 4 回	憲法制定、議院開設	体制モデルの相剋。イギリス・モデル対ドイツ・モデル
第 5 回	初期議会と政党政治	議会政治、政党政治事始め。議会制における政党の定位・役割
第 6 回	政党政治の展開	原 敬内閣まで。試される政党の力
第 7 回	憲政の常道	政友会と民政党。二大政党制の経験
第 8 回	都市化と政治	「男子普通選挙」制の導入、社会主義運動。社会変動期における政治課題
第 9 回	国際政治と内政	ワシントン会議、ロンドン軍縮会議と国内政治。国際協調と国内民主化の連関、
第 10 回	政党政治の凋落	国家改造運動、テロ事件、「満州事変」。政と軍
第 11 回	新体制運動	国家総動員と翼賛政治。政党政治の終焉
第 12 回	戦争のなかの政治	日中戦争の拡大と対米開戦決定過程。戦争のはじめ方
第 13 回	敗戦への道程 1	沖縄戦から対米英和平工作まで
第 14 回	敗戦への道程 2	ポツダム宣言受諾にいたる政治過程

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業を履修する学生は、理解を深めるために、各回のテーマについて事前に予習し、講義後はノートを整理し、配布プリントを見直すなど、授業実施期間を通して、各々が適当と判断する時間の授業時間外学習が必要となる。参考までに、大学設置基準によれば、この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

さしあたり、以下を挙げておく。

鶴見俊輔ほか編著『日本の百年』1～9、筑摩書房（ちくま学芸文庫）2007-2008 年。

沖縄県文化振興会史料編纂室編『沖縄県史』各論編第 5 巻（近代）編集工房東洋企画、2011 年。

升味準之輔『日本政治史』1～3、東京大学出版会、1988 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、出席状況をふくむ平常点等（30 %）を考慮して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやオンラインによる授業に参加できるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

重要なお知らせ（2021 年 2 月 9 日）

新型コロナ禍により、授業の開始日や方法等につき重要な連絡がなされる可能性がありますので、受講生は本 Web シラバスおよび学習支援システムを小まめにチェックするようにしてください。

【Outline and objectives】

Political history of Japan 1 is categorized to one of the basic subjects in the department of politics. In this class, we trace the complicated course of the political history of modern Japan. From that work, we find out the patterns and questions of the course and lessons of the past for the policy-making and the institution-planning.

POL100AC

日本政治史Ⅱ

明田川 融

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は選択必修科目のなかの学科基礎科目群に属する。そして、政治学が実証科学、法則科学、批判科学、そして政策科学という多層性をもつ学とすれば、その基層をなすものといえよう。近現代日本政治の複雑な道筋をたどりながら、そこから何らかのパターンや問題点を抉りだし、こんごの政策立案ならびに制度構想に資することを目的とする。

【到達目標】

近現代日本政治の制度（しくみ）と過程（ながれ）を理解する。そのさい、日沖（琉）関係の視座（中村 哲）、天皇制国家の支配原理（藤田省三）、官治集権と自治分権の対立軸（松下圭一）など、いわば法政政治学の先達たちが提示した問題意識や争点を念頭に置きつつ、日本政治史を理解することを心がけたい。また、政治制度や運用実態の、一見して自明と思われるようなことでも批判的に検証する態度や眼力を涵養したい。たとえば、そもそも「日本」政治史というけれど、民主化の歩みにおいて、沖縄のそれと、いわゆる本土のそれとは一絡げにできるか？

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

第二次大戦末期から対日講和にいたる時期の日本政治史を概説する。憲法、政党政治、選挙制度、議会制、官僚機構、中央・地方関係、内政と外交の連関などとともに、為政者の側だけでなく民衆運動をふくむ民主化のさまざまな担い手の言動にも可能なかぎり論及しながら講義をおこないたい。

第2回目以降、授業のはじめに、前回授業で教員がだした課題に対する個々の受講生の解答からいくつか取りあげ、受講生全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的・到達目標・成績評価方法などにつき説明。参考文献リスト配布
第2回	前史	沖縄戦、ヒロシマ、ナガサキと戦後政治
第3回	対日占領のはじまり	立案過程と究極目標
第4回	統治体制の変革	象徴天皇制への道
第5回	双面神の憲法構想	「平和憲法」と沖縄
第6回	早期講和と安保問題	芦田メモと昭和天皇の沖縄メッセージ
第7回	戦後政党政治の起動	いわゆる本土と沖縄
第8回	対日政策の転換	交錯する二つの論理
第9回	講和論争	国務省 vs. 米軍部、全面講和論 vs. 片面講和論
第10回	講和交渉	日米の外交指導
第11回	対日講和条約の成立	潜在主権方式（第3条）を中心に
第12回	日米安保条約の成立	「安保条約の論理」を中心に
第13回	サンフランシスコ体制	その光と影を考える
第14回	補論	戦後政治史と昭和天皇

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業を履修する学生は、理解を深めるために、各回のテーマについて事前に予習し、講義後はノートを整理し、配布プリントを見直すなど、授業実施期間を通して、各々が適当と判断する時間の授業時間外学習が必要となる。参考までに、大学設置基準によれば、この授業の準備学習・復習時間は各2時間が標準となる。

「日本の政治と外交Ⅰ」および「日本の政治と外交Ⅱ」をも履修することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

さしあたり、以下を挙げておく。

升味準之輔『日本政治史』4、東京大学出版会、1988年。

河野康子『日本の歴史24 戦後と高度成長の終焉』講談社（講談社学術文庫）、2010年。

中野好夫・新崎盛暉『沖縄戦後史』岩波書店（岩波新書）1976年。

新崎盛暉『沖縄現代史 新版』岩波書店（岩波新書）2005年。

櫻澤 誠『沖縄現代史：米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』中央公論新社（中公文庫）、2015年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）、出席状況をふくむ平常点等（30％）を考慮して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやオンラインによる授業に参加できるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

重要なお知らせ（2021年2月9日）

新型コロナウイルスにより、授業の開始日や方法等につき重要な連絡がなされる可能性がありますので、受講生は本 Web シラバスおよび学習支援システムを小まめにチェックするようにしてください。

【Outline and objectives】

Political history of Japan 2 is categorized to one of the basic subjects in the department of politics. In this class, we trace the complicated course of the political history of post-war Japan. From that work, we find out the patterns and questions of the course and lessons of the past for the policy-making and the institution-planning.

POL300AC

外国書講読（独語）Ⅰ

上田 知夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学の基礎に関わるドイツ語の教科書を読み、学術的なドイツ語の読解力を身につける。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。
倫理学（道徳の哲学）についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

内容としては、演習形式でドイツ語の文章を精読します（各回約 2 ページ進むことを目指します）。

担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこれるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。

また内容について、各回教員が小さな議論を作っていきますので、それを検討することも重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション： "Vorbemerkung" 解説	オリエンテーション： 3 つの講義を通じた前言部分の解説
第 2 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(59-61 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 3 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(62-63 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 4 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(64-65 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 5 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(66-67 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 6 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(68-69 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 7 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(70-71 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 8 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(72-73 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 9 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(74-75 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 10 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(76-77 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 11 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(78-79 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 12 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(80-83 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 13 回	第 1 講義「道徳への意味論的アクセス」(84-86 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 14 回	まとめ	まとめおよび第 2 講義への接続

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Ernst Tugendhat『Probleme der Ethik』Reclam (1984) 所収の
"Drei Vorlesungen über die Probleme der Ethik"
の内の講義 1 つを選んで精読します。
初回にコピーを配布します。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を 1 冊持ってきてください。
独和辞典を所有していない方は、
『アクセス独和辞典』（三修社）
『大独和辞典』（小学館）
などを入手してください。
文法書を所有していない人は、
中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）
などを持参してください。
その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します (100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

単にテキストを淡々と訳読するだけではなくて、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。
文法書・文法教科書も、必ず持ってきてください。
(どちらも平常点の評価ポイントになります。)

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。(昨年度は文法を初めて学ぶ学生もいました。)

【Outline and objectives】

This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading a German textbook on ethics.

POL300AC

外国書講読（独語）Ⅱ

上田 知夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学の基礎に関わるドイツ語の教科書を読み、学術的なドイツ語の読解力を身につける。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。倫理学に関わる概念や議論についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

演習形式で、ドイツ語の文章を精読します。担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項および/または訳を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(87 ページ)	問題設定とドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 2 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(87-88 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 3 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(89-90 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 4 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(91-92 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 5 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(93-94 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 6 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(95-96 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 7 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(97-98 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 8 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(99-100 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 9 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(101-102 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 10 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(103-104 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 11 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(105-106 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 12 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(106-107 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 13 回	第 2 講義「経験からの道徳的な学習は可能か」(108 ページ)	ドイツ語の文章講読および日本語での議論
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Ernst Tugendhat『Probleme der Ethik』Reclam (1984) 所収の "Drei Vorlesungen über die Probleme der Ethik"

の内の第 2 講義を精読します。

必要箇所をコピーして配布する予定ですが、Amazon で購入すると、1 冊 732 円ほどです。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を 1 冊持ってきてください。

独和辞典を所有していない方は、

『アクセス独和辞典』（三修社）

『大独和辞典』（小学館）

などを入手してください。

文法書を所有していない人は、

中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）

などを持参してください。

その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します (100%)。予習に基づいて自分が何が分かっているか、どこが分からないかを区別できる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

単にテキストを淡々と訳読するだけでなく、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして解説しつつ議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。

文法書・文法教科書も、必ず持ってきてください。

（どちらも平常点の評価ポイントになります。）

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。春学期を履修していなくても、この科目を履修することはできるようになっています。

【Outline and objectives】

This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading a German textbook on political science.

法律学特講（こども行政と法）

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国や自治体は、子どもの成長を支援し、子どもを育成するために、児童手当などに基づく手当を給付したり、児童福祉法などに基づく措置を実施したりしている。また、国や自治体は、子どもの保護のために、青少年保護条例や未成年者喫煙防止法などに基づく規制権限を行使する場合もある。子どもの育成・保護のために適切な法制度が設けられ、行政活動が適法に行われることが社会の発展にとって重要なことである。

授業では、子どもの育成・保護のための法制度・行政活動の概要を理解するとともに、制度の抱える問題について学ぶ。その目的は、法的問題を正確に認識したりその解決に向けて積極的に取り組んだりすることのできる能力を身につけることにある（行政・公共政策と法コース）。

【到達目標】

①児童手当などの、子どもに関する社会手当、②障害児に対する社会手当、③保育所の利用と法的規制、④認可外保育所の利用と法的規制、⑤児童虐待の発見と児童の保護、⑥青少年保護条例について、各制度の概要と抱える問題を、それぞれ、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

レジュメと資料のほか、実際の対面式授業において解説すべき事項を記載した講義ノート（いずれも PDF 形式のもの）を、学習支援システムを用いて配布する。受講者にはレジュメの内容を理解しながら到達目標に達するために、必要に応じて講義ノートを併読し、あるいは、後掲の参考書を精読することが期待される。また、各回、コメント等を学習支援システムを通じて提出することも求められる。質問は授業掲示板で受け付ける。

上記のレジュメ・資料等を用いた学習に並行して、月 1 回程度、復習の機会を設ける予定である。復習は、正規の授業時間中に、Webex を用いることによって、行う（実施日・参加のための URL 等、詳細は各受講者に対して学習支援システムを通じて連絡する。復習は、学習の便宜を図るためのものであって、これに参加できない場合であっても不利益は生じない）。

上記とは別に、オリエンテーションは、Webex を用いて行う（その内容を記した講義ノートも配布する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	主要な論点
第 2 回	子どもに関する社会手当	子どもに関する社会手当の概要
第 3 回	子どもに関する社会手当 (1)	児童手当
第 4 回	子どもに関する社会手当 (2)	児童扶養手当
第 5 回	子どもに関する社会手当 (3)	特別児童扶養手当
第 6 回	子どもに関する社会手当 (4)	
第 7 回	障害児に対する社会手当	障害児福祉手当
第 8 回	児童福祉 (1)	各種の保育と保育実施施設
第 9 回	児童福祉 (2)	保育所の利用
第 10 回	児童福祉 (3)	保育所の法的規制
第 11 回	児童福祉 (4)	認可外保育所の利用
第 12 回	児童福祉 (5)	認可外保育所の法的規制
第 13 回	児童福祉 (6)	児童虐待の発見と児童の保護
第 14 回	青少年の保護と育成 (1)	青少年保護条例のイメージ
第 15 回	青少年の保護と育成 (2)	青少年保護育成条例と関連法の関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にレジュメを読み授業で学ぶべき点を明確にしておく。授業後は、まとめノートを作成し、理解度を深めるとともに、授業で紹介される参考文献を用いて積極的に学びを深める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布レジュメ

【参考書】

授業内で紹介するもの。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

(1) 学習支援システムや Webex が利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するための PDF 閲覧ソフトウェア（Adobe Acrobat Reader [無料] など）、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc, .docx の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）、(4) 上記 (1) から (3) までのものを利用するために必要となる PC、あるいは、スマートフォン等。

【Outline and objectives】

Some Acts of Parliament and bye-laws provide acts of executive agencies necessary for bringing up or protecting children, in order to work towards these goals. This course is designed to overview those statute laws and executive functions, and also to learn problems of those statute laws.

After completing this course, you should be able to:

- Sketch out an Act concerning child allowances and define its problems;
- Sketch out an Act concerning child rearing allowances and define its problems;
- Sketch out an Act concerning special child rearing allowances and define its problems;
- Sketch out an Act concerning disabled child welfare allowances and define its problems;
- Sketch out an Act concerning the use of nursery centers and define its problems;
- Sketch out an Act concerning the use of the other nursery facilities (which established without administrative approval), and define its problems;
- Sketch out Acts concerning detection and protection of children who have suffered for child abuse, and also define its problems; and
- Sketch out bye-laws concerning protection of young people and define its problems.

LAW200AB

法律学特講（政策と法）

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

われわれ市民の生活は各種の法によって規律されている。適切な法によって公共的問題が解決されることが望ましいが、法に不備や欠陥があり、そのため、既存の法を解釈・適用すると不都合が生じる場合があり、また、既存の法を解釈・適用しても紛争を適切に解決することができない場合がある。法の不備・欠陥を補う、社会の重要な手段が政策である。政策のあり方そのものも重要な論点であるが、既存の法の抱える問題を発見することが政策を検討するために必要である。

授業では、総論として解説される政策制度化の「骨組み」について理解するとともに、政策の制度化にあたり生じうる一般的な問題を学ぶ。また、個別のテーマに沿ってとりあげられる既存の法の概要と抱える問題を学習する。総論では法律学だけでなく、政治学の観点から解説がされることがある（第6回～第8回）。個別テーマでは主に行政法学的な観点から解説がされる。受講者は、授業後、それぞれの問題について、授業内で提示される手がかりや文献を参照しながら必要となる解決策・政策を考えるべきである。これらを通じて、法の抱える問題を正確に認識したり、その問題に対処するために必要となる解決策を積極的に検討したりすることのできる能力を養ってほしい（行政・公共政策と法コース）。

【到達目標】

①立法事実の把握、各種の法的手段・仕組みとその機能、法的手段・仕組みの実効性確保のための考慮事項、法律案の成立における内閣法制局・議院法制局の役割それぞれについて説明することができる。

②秘密保護、暴力団対策などのために制定されている法の概要と抱える問題を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式による。受講者から寄せられた意見・感想等にフィードバックするために授業冒頭で、受講者から提出された意見・感想等を紹介しコメントする。ただし、通学できない場合には、以下の形式による。

レジュメと資料のほか、実際の対面式授業において解説すべき事項を記載した講義ノート（いずれも PDF 形式のもの）を、学習支援システムを用いて配布する。受講者にはレジュメの内容を理解しながら到達目標に達するために、必要に応じて講義ノートを併読し、あるいは、後掲の参考書を精読することが期待される。また、各回、コメント等を学習支援システムを通じて提出することも求められる。質問には授業掲示板で回答する。このようなレジュメ・資料等を用いた学習と並行して、月 1 回程度、復習の機会を設ける予定である。復習は、正規の授業時間中に、Webex を用いることにより、行う（実施日・参加のための URL 等、詳細は各受講者に対して学習支援システムを通じて連絡する。復習は、学習の便宜を図るためのものであって、これに参加できない場合であっても不利益は生じない）。

授業方法など、受講者に対する連絡は、学習支援システムによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	科目の概要
第 2 回	総論 (1)	国と自治体の法務 政策の制度化の手順
第 3 回	総論 (2)	立法事実の把握
第 4 回	総論 (3)	各種の法的手段・仕組みとその機能
第 5 回	総論 (4)	法的手段・仕組みの実効性
第 6 回	総論 (5)	内閣提出法律案と議員提出法律案
第 7 回	総論 (6)	法律案の成立と内閣法制局・議院法制局
第 8 回	総論 (7)	条例による政策の制度化
第 9 回	個別の検討 (1)	各種の秘密保護制度 特定秘密保護法の概要
第 10 回	個別の検討 (2)	特定秘密保護法の抱える問題
第 11 回	個別の検討 (3)	斜面地マンションの建築への対処
第 12 回	個別の検討 (4)	暴力団対策に関する法律とその抱える問題
第 13 回	個別の検討 (5)	暴力団対策に関する条例の概要とその抱える問題（東京都暴排条例を素材として）

第 14 回 個別の検討 (6)

ストーカー行為等規制法の概要と抱える問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にレジュメを読み予習するのはもちろん、授業後は、政策の制度化にあたり生じうる一般的な問題の解決策や、既存の法の抱える問題に対処するために必要と思われる政策についての自らの考えを論理的に展開できるよう、授業内容や自分の考えをまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布レジュメ

【参考書】

授業内で紹介するもの

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100 %）が、通学できない場合にはレポートによる（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いる。ただし、通学できない場合にはさらに、(1) Webex が利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するための PDF 閲覧ソフトウェア（Adobe Acrobat Reader [無料] など）、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc、.docx の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）、(4) 上記 (1) から (3) までのものを利用するために必要となる PC、あるいは、スマートフォン等が必要である。

【Outline and objectives】

After completing this course, concerning general matters on the legislation of policy objectives, you should be able to:

- Explain legislative fact and offer an analysis of it, and also explain importance of it in making the Act of Parliament and bye-laws;
- Explain how/what kind of legal measures should be provided and composed in the statute law above mentioned, and besides, explain how they should influence the public;
- Explain and offer an analysis particular issues which need considering in making the Act of Parliament and bye-laws so as to ensure effectiveness of them;
- Explain roles of peoples working in making the Act of Parliament and bye-laws (peoples like a parliamentary counsel); and
- Explain process of making the Act of Parliament and bye-laws.

After following through this course, as concerns a particular Act of Parliament and a certain range of bye-laws, you should able to, for example:

- Sketch out the Act on the Protection of Specially Designated Secrets 2013 (c.108), with identifying problems of that Act and offering solutions to them; and
- Sketch out the Act to Prevent Illegal Activities by Members of Organized Crime Groups (like hoodlums or mobster) 1991 (c.77) and provide an overview of bye-laws made in order to exclude that Members from our society, with identifying problems of the Act 1991 and bye-laws and also offering solutions to them.

LAW200AB

外国書講読（英語）Ⅰ

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、すべてのコースに属する科目である。本科目では、外国語の法律文献のうち、英語で書かれたものを読む能力を養う。そのために英語で書かれた英国の文献を精読する。

【到達目標】

辞書を参照しながら、英語で書かれた英国の法律文献を正確に読み、その内容を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

英国の大学の学部生向けに書かれた、同国の公法や法制度一般を解説している教科書（後掲の参考書のいずれか）を読む。

毎回1～2ページの予定。参加者が予習したものを発表する形式とする。そのために毎回、Webexを使用する。URL等は、学習支援システムを通じて連絡する。参加者の発表や質問には、授業内で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方 輪読する文献の紹介
第2回	輪読	文献を読む①
第3回	輪読	文献を読む②
第4回	輪読	文献を読む③
第5回	輪読	文献を読む④
第6回	輪読	文献を読む⑤
第7回	輪読	文献を読む⑥
第8回	輪読	文献を読む⑦
第9回	輪読	文献を読む⑧
第10回	輪読	文献を読む⑨
第11回	輪読	文献を読む⑩
第12回	輪読	文献を読む⑪
第13回	輪読	文献を読む⑫
第14回	輪読	文献を読む⑬

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回指定される範囲を予習するとともに、復習も行う。予習では文法構造を把握し、法律用語を辞書で調べる。その辞書はオリエンテーションで紹介する。復習では授業で重要であると指摘されたことを理解できているかどうかを確認する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布する複写物

【参考書】

Emily Allbon and Sanmeet Kaur Dua, Elliott & Quinn's English Legal System (20th edn, Pearson 2019) 148-173.

Hilaire Barnett, Constitutional & Administrative Law (13th edn, Routledge 2020) 51-78.

A.T.H. Smith, Glanville Williams: Learning the Law (17th edn, Sweet & Maxwell 2020) 1-12.

【成績評価の方法と基準】

平常点により評価し（100%）、文献を正確に読み、その内容を理解するために必要となる予習をしている場合、合格とする。ただし、受講者が多数で平常点評価が困難であると認める場合（30人以上）、平常点評価に代えてレポートの提出を求める（100%）。レポートの課題は、輪読した範囲から出題する。

【学生の意見等からの気づき】

輪読している文献の英語が難しいとの意見もある。それでも、授業内での学習のほか、予習・復習を行えば、理解できると評価されている。そのため、予習・復習の手助けを今後も適切に行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、予習したもの（word [あるいは pages, txt] 形式のファイル）を、学習支援システムを用いて提出する。受講者が準備すべき物は、(1) 学習支援システムと Webex を利用するための通信環境、(2) Microsoft Word など「.doc, .docx, .dot, .pages, .txt」の形式で保存できるソフトウェア、(3) PC あるいはスマートフォンである。

【その他の重要事項】

【Outline and objectives】

In order to enhance your linguistic ability to read english-language literatures on law, this course is designed to read British textbook such as Hilaire Barnett, Constitutional & Administrative Law (13th edn, Routledge 2020) intensively.

After completing this course, you should be able to:

- Read english-language British literatures on law correctly, using your dictionaries; and
- Understand their meanings.

LAW200AB

外国書講読（英語）Ⅱ

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、すべてのコースに属する科目である。本科目では、外国語の法律文献のうち、英語で書かれたものを読む能力を養う。そのために英語で書かれた英国の文献を精読する。

【到達目標】

辞書を参照しながら、英語で書かれた英国の法律文献を正確に読み、その内容を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

英国の大学の学部生向けに書かれた、同国の公法や法制度一般を解説している教科書など（後掲の参考書のいずれか）を読む。

毎回1～2ページの予定。参加者が予習したものを発表する形式とする。

通学できない場合には、発表等のために、毎回 Webex を利用する。Webex を利用するための URL は、学習支援システムを通じて各受講者に知らせる。参加者の発表や質問には、授業内で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方 輪読する文献の紹介
第2回	輪読	文献を読む①
第3回	輪読	文献を読む②
第4回	輪読	文献を読む③
第5回	輪読	文献を読む④
第6回	輪読	文献を読む⑤
第7回	輪読	文献を読む⑥
第8回	輪読	文献を読む⑦
第9回	輪読	文献を読む⑧
第10回	輪読	文献を読む⑨
第11回	輪読	文献を読む⑩
第12回	輪読	文献を読む⑪
第13回	輪読	文献を読む⑫
第14回	輪読	文献を読む⑬

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回指定される範囲を予習するとともに、復習も行う。予習では文法構造を把握し、法律用語を辞書で調べる。その辞書はオリエンテーションで紹介する。復習では授業で重要であると指摘されたことを理解できているかどうかを確認する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布する複写物

【参考書】

Emily Allbon and Sanmeet Kaur Dua, Elliott & Quinn's English Legal System (20th edn, Pearson 2019) 710-725.

Hilaire Barnett, Constitutional & Administrative Law (13th edn, Routledge 2020) 121-152.

A.T.H. Smith, Glanville Williams: Learning the Law (17th edn, Sweet & Maxwell 2020) 265-279.

【成績評価の方法と基準】

平常点により評価し（100%）、文献を正確に読み、その内容を理解するために必要となる予習をしている場合、合格とする。ただし、受講者が多数で平常点評価が困難であると認める場合（30人以上）、平常点評価に代えて期末試験を実施する（100%）。期末試験の問題は、輪読した範囲から出題する。通学できない場合には、期末試験ではなく、レポートを課する。出題範囲は期末試験の場合と同じものとする。

【学生の意見等からの気づき】

輪読している文献の英語が難しいとの意見もある。それでも、授業内での学習のほか、予習・復習を行えば、理解できると評価されている。そのため、予習・復習の手助けを今後も適切に行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、予習したものを印刷して教員に提出することとする。ただし、通学できない場合には、毎回、予習したもの（word [あるいは pages, txt] 形式のファイル）を、学習支援システムを用いて提出する。したがって、その場合に受講者が準備すべき物は、(1) 学習支援システムと Webex を利用するための通信環境、(2) Microsoft Word など「.doc, .docx, .dot, .pages, .txt」の形式で保存できるソフトウェア、(3) PC あるいはスマートフォンである。

【Outline and objectives】

In order to enhance your linguistic ability to read english-language literatures on law, this cours is designed to read British textbook such as Hilaire Barnett, Constitutional & Administrative Law (13th edn, Routledge 2020) intensively.

After completing this cours, you should be able to:

- Read english-language British literatures on law correctly, using your dictionaries; and
- Understand their meanings.

LAW200AB

民事手続法入門

倉部 真由美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民事紛争を解決するために裁判所で行われる手続のなかから、民事保全手続、民事訴訟手続（判決手続）、そして、民事執行手続のそれぞれの手続の基礎を理解する。

本科目は、入門として全てのコースに配置される。

【到達目標】

・具体的な民事紛争に対処するイメージをもちながら、訴え提起の準備から始まり、権利の実現に至るまでの一連の手続の流れを理解することができる。
・民事紛争を解決するために裁判所で行われる手続として、民事保全手続、民事訴訟手続（判決手続）、そして、民事執行手続のそれぞれの手続の意義・目的、流れ、仕組みを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

民事紛争は、いつ何をきっかけに生じるかわからない。例えば、交通事故にあい、治療費がかかったが、加害者が損害を賠償してくれない、アルバイト先が給料を払わないといったことは、学生の皆さんのまわりでも起こりうることである。

本講義では、民事紛争を処理・解決するために用意されている様々な手段・手続の中から、裁判所で行われる訴訟手続を中心に扱う。具体的な事例を想定しながら、できる限り実際の紛争処理の流れに沿って解説していく。

授業外での質問には個別に対応するほか、必要に応じて、授業中に共有してコメントする。課題についてのフィードバックは、学習支援システムを通じて行うほか、必要に応じて、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	民事手続法の世界へようこそ	ガイダンス
第 2 回	民事紛争と民事手続法	民事紛争を解決するために利用することができる手続を概観する。
第 3 回	民事裁判の特徴と概要	裁判所の組織、管轄、裁判官・書記官・弁護士など法廷の人々、民事裁判の大きな流れを扱う。
第 4 回	訴え提起の準備／民事保全	訴えを提起する前に行われる準備、民事保全手続の意義・目的・流れと仕組みを扱う。
第 5 回	訴えの提起	訴えの提起、当事者を扱う。
第 6 回	訴えの種類と利益／訴訟物	給付・確認・形成の訴えの内容とそれぞれの利益、訴訟物の意義を扱う。
第 7 回	審理	審理、弁論主義、釈明権、口頭弁論の意義と内容を扱う。
第 8 回	争点整理手続	争点整理手続の意義・目的、種類と内容を扱う。
第 9 回	証拠調べ	証拠、証明責任、証拠調べ、証拠の収集のために使われる手続を扱う。
第 10 回	訴訟の終了・判決	当事者による訴訟の終了、判決の意義と効力について扱う。
第 11 回	民事執行手続の概要	民事執行手続の意義・目的・流れと仕組みを扱う。
第 12 回	不動産執行	不動産執行の手続の流れを扱う。
第 13 回	動産執行	動産執行の手続の流れを扱う。
第 14 回	債権執行	債権執行の手続の流れを扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習のいずれに重点を置くかは、各受講生の学習のスタイルに委ねるが、適宜、授業中に配布するレジュメを中心に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで自習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、レジュメを配布する。また、必要な資料も適宜配布する。携行するサイズの六法を持参すること。

【参考書】

民事訴訟の流れを理解するために早い時期に一読をお勧めするもの

・山本和彦『よくわかる民事裁判—平凡吉訴訟日記（第 3 版）』（有斐閣、2018 年）
・福永有利・井上治典『アクチュアル民事の訴訟（補訂版）』（有斐閣、2016 年）
いわゆる民事手続法全般を網羅的に扱っているもの
・佐藤鉄男ほか『民事手続法入門（第 4 版）』（有斐閣、2012 年）
・中野貞一郎『民事裁判入門（第 3 版補訂版）』（有斐閣、2012 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

We will study the procedures, principles, and rules that courts in Japan use to resolve civil disputes. We will focus primarily on Civil procedure law and Debtor-creditor law.

LAW200AB

法律学特講（大陸法思想史）

西村 清貴

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化・社会と法コース」に属する授業である。

ヨーロッパ大陸法（特にドイツ法）を理解するにあたり重要な法律家、哲学者に関する講義を通じて、大陸法思想を理解することを目的とする。

【到達目標】

1. 大陸法がいかなる共通の基盤を有しているか理解できること
2. ドイツ法思想史において「法」と「法律（制定法）」がどのように区別されて論じられていたかを理解できること
3. 日本法が大陸法から何を学び、何を学ばなかったかを理解するための視座を得ること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

コロナ感染状況や大学の方針等にもよるが、オンデマンド方式による講義に複数回の対面授業を組み合わせる方式を考えている。なお、対面授業への出席をやむを得ない理由により避けたい受講者のために、対面授業の内容を録音した音声データを後日配信する予定である。具体的なスケジュールは Hoppi を通じて連絡するため、よく確認すること。

質疑応答については、講義中にそのための時間を設けるほか、講義前後に受け付ける。また、Hoppi を通じた質問も受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第二回	古代ギリシアの法思想	古代ギリシアにおける法思想についてみる
第三回	キリスト教の法思想	キリスト教における法思想についてみる
第四回	カントの法思想	ドイツ観念論の哲学者であるイマニエル・カントについてみる
第五回	ヘーゲルの法思想 (1)	ドイツ観念論の哲学者である G・W・F・ヘーゲルの市民社会論についてみる
第六回	ヘーゲルの法思想 (2)	ヘーゲルの国家論についてみる
第七回	ここまでのまとめと質疑応答	ここまでのまとめと質疑応答
第八回	歴史法学の法思想 (1)	歴史法学を代表する F・C・v・サヴィニーの民族精神論についてみる
第九回	歴史法学の法思想 (2)	サヴィニーの法源論についてみる
第十回	歴史法学後の法思想	サヴィニー以後の議論をみる
第十一回	ハンス・ケルゼンの法思想	ワイマール期の法哲学者であるハンス・ケルゼンについてみる
第十二回	カール・シュミットの法思想	ワイマール期の憲法学者であるカール・シュミットについてみる

第十三 ここまでのまとめ
回

第十四 学期末試験と解説
回

ここまでのまとめと質疑応答の機会を設ける

学期末試験を行った後、模範解答等の説明を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメや教科書、下記に挙げる参考書、講義時に記載したノートに基づいて予習復習をすること。教科書については、事前に該当箇所を示す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西村清貴『法思想史入門』（成文堂、2020 年）、2200 円

【参考書】

勝田有恒／山内進編著『近世・近代ヨーロッパの法学者たち』（2008 年、ミネルヴァ書房）

勝田有恒／森征一／山内進編著『概説 西洋法制史』（2004 年、ミネルヴァ書房）

西村清貴『近代ドイツの法と国制』（2017 年、成文堂）

【成績評価の方法と基準】

講義に対する理解度を学期末試験で確認する（100 %）。

大学の方針等により、レポート提出で代替する可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

板書について工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付等のために Hoppi を利用する。

【Outline and objectives】

This lecture aims to understand Europe (especially Germany) law thoughts through discussion by lawyers and philosophers.

LAW200AB

法律学特講（英米法思想史）

金井 光生

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として、「文化・社会と法コース」との関連が深い授業です。
 法思想史のうち、英米系の法思想史を概観します。
 法も人間が「権利のための闘争」の中で生み出してきた共同の文化遺産である以上、人類の長い思想の物語（narratives）に裏づけられています。
 法の意義と意味を深く知り、より生産的な実定法解釈を実践するために、単なる思想の理解や知識の獲得を目的とするだけでなく、その現代日本法における意義も考えながら「自分で思索できる」ようになることを目指します。
 英米法思想の観点から、法・正義・人権などについて原理的に考えていきましょう。「人は哲学を学ぶことはできない…ただ哲学することを学ぶうのみである」（カント『純粋理性批判』B866）。
 なお、「大陸法思想史」および「英米法」と併せて履修すると効果的です。

【到達目標】

- (1) 基本的な論点を理解できる。
- (2) 主要な思想を「自分の言葉で」説明できる。
- (3) 諸思想を踏まえたうえで、現代日本法の諸問題にアプローチできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【コロナ禍によりオンライン授業形式で行います。Hoppii 学習支援システム等を活用した授業になります。詳細は学習支援システムの授業情報をご覧ください。】

教科書を前提に、文字ベースの講義録を配信する形で講義する予定です。
 講義録の指示に従って教科書等を読み、講義録の内容をノートを作成しながら理解してください。
 授業内容は、主に「コモン・ロー主義と制定法主義」という図式の下で、(1) イギリス近代まで、(2) アメリカ近代まで、(3) 現代の英米法思想、を扱う予定です。
 適時にリアクションペーパーやレポートを課すことで理解度を測り、その後の授業で、リアクションペーパーについては応答し、レポートについては講評することで、フィードバックします。
 ＊授業計画はあくまで予定で、履修者や時間の関係等で変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	英米法思想史を学ぶ意味と意義
第 2 回	英米法と英米法思想	コモン・ローと法思想
第 3 回	イギリスの自然法論と法実証主義①	E. クック vs. Th. ホッブズ
第 4 回	イギリスの自然法論と法実証主義②	J. ロック vs. D. ヒューム
第 5 回	イギリスの自然法論と法実証主義③	W. ブラックストーン vs. J. ベンサム
第 6 回	イギリスの分析法と歴史法学	J. オースティン vs. H. メイン
第 7 回	イギリス・アメリカの憲法思想①	マグナ・カルタ、権利章典、『ザ・フェデラリスト』など
第 8 回	イギリス・アメリカの憲法思想②	独立宣言、合衆国憲法、プラグマティズム法学など
第 9 回	現代英米正義論①	J. ロールズ
第 10 回	現代英米正義論②	R. ドゥオーキン、A. セン
第 11 回	現代英米正義論③	R. ノージック、M. サンドルなど
第 12 回	現代英米正義論④	H.L.A. ハート vs. R. ドゥオーキン
第 13 回	英米と大陸の法思想的対話	英米におけるカント、デリダなど
第 14 回	まとめ：日本法への一流としての英米法	日本法思想との対話

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) テキストとレジュメ・資料の指定範囲を予習・復習する。
 - (2) 下記の参考書を活用して、自分なりに補習する。
 - (3) 用語や関連する論点等を各自で図書館やデータベースを活用して調べる。
- ＊なお、本授業の準備学習・復習時間は「各 2 時間」を標準とします。

【テキスト（教科書）】

深田三徳ほか編著『よくわかる法哲学・法思想（第2版）』（ミネルヴァ書房、2015 年）

【参考書】

竹下賢ほか編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010 年）
 田中成明ほか『法思想史（第2版）』（有斐閣、1997 年）
 中山竜一ほか『法思想史』（有斐閣、2019 年）
 田中英夫『英米法のことは』（有斐閣、1986 年）
 大野達司ほか『近代法思想史入門』（法律文化社、2016 年）
 戒能通弘『近代英米法思想の展開』（ミネルヴァ書房、2013 年）
 金井光生『裁判官ホームズとプラグマティズム』（風行社、2006 年）
 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000 年）
 田中英夫編集代表『英米法辞典』（東京大学出版会、1991 年）

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」の達成の度合いに応じて評価します。
 平常点・リアクションペーパー（20％）＋期末試験またはレポート課題（80％）

【学生の意見等からの気づき】

レジュメ・資料等を改良

【その他の重要事項】

「大陸法思想史」および「英米法」も科目履修することを推奨します。

【教員の著作】

『裁判官ホームズとプラグマティズム』（風行社、2006 年）、『フクシマで日本国憲法〈前文〉を読む』（公人の友社、2014 年）、片桐直人ほか編『憲法のこれから』（日本評論社、2017 年）など

【Outline and objectives】

We learn the history of Anglo - American legal ideas. And we think thoughtfully those ideas in comparison to Japanese legal ideas.

LAW300AB

行政組織法

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国や都道府県・市町村などの行政主体が実際に行政活動をするには、大臣、副大臣、局長・部長・課長（室長）、徴収職員、知事・市町村長、副知事・副市町村長、消防吏員などの行政機関がなければならない。多数の行政機関の体系的な機構を行政組織という。その設置・名称・構成・所掌事務などを規律する法が、狭義の行政組織法である（以下、狭義の行政組織法を「行政組織法」という）。

行政機関は、行政主体のために行政事務を担当する自然人をその地位で捉えたものであり、その意味で観念的存在であって、そのため現実の行政活動の遂行には、行政主体のために働く自然人も必要である。その自然人のうち、行政主体と勤務関係にある者を公務員という。公務員を規律する法が、公務員法である。

また、行政活動の遂行には、庁舎・その土地、事務用品などの物品もなければならず、また、行政目的の達成には、道路・河川・保健所などの物的施設の提供・管理も不可欠である。これらの物品・物的施設のような、行政主体により直接に公の目的に供される有体物を公物という。公物に関する法が、公物法である。

行政組織法では、行政主体や行政機関の意義・種別、行政機関相互の関係なども検討されるが、これらは行政法入門でとりあげられているため、授業では、これらとの重複を避ける。学習するのは、現行法上の行政組織の編成であり、また、公務員法と公物法の概要である。それらの学びを通して、国や地方公共団体の抱える法的問題を把握したり、その法的問題に対処したりする能力を養ってほしい（行政・公共政策と法コース）。

【到達目標】

内閣・内閣府・外局などの、現行法上の行政組織の編成について説明することができる。

公務員の意義、種類、勤務関係、権利と義務について説明することができる。公物の意義、種類、管理権、使用権について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

レジュメと資料のほか、実際の対面式授業において解説すべき事項を記載した講義ノート（いずれも PDF 形式のもの）を、学習支援システムを用いて配布する。受講者にはレジュメの内容を理解しながら到達目標に達するために、必要に応じて講義ノートを併読し、あるいは、後掲の参考書を精読することが期待される。また、各回、コメント等を学習支援システムを通じて提出することも求められる。コメント等のうち、学習の便宜上受講者において共有すべきものがあると認められる場合には、そのコメント等の内容あるいは要旨とそれに対する担当教員の意見等とを講義ノートに記す（そのほか、必要に応じて学習支援システムを用いて個別に返信することもある）。質問は授業掲示板で受け付ける。

上記のレジュメ・資料等を用いた学習と並行して、月 1 回程度、復習の機会を設ける予定である。復習は、正規の授業時間中に、Webex を用いることによって、行う（実施日・参加のための URL 等、詳細は各受講者に対して学習支援システムを通じて連絡する。復習は、学習の便宜を図るためのものであって、これに参加できない場合であっても不利益は生じない）。

上記とは別に、オリエンテーションも、Webex を用いて行う（その内容を記した講義ノートも配布する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	行政組織法・公務員法・公物法のイメージと本授業での学び
第 2 回	行政組織法 (1)	内閣
第 3 回	行政組織法 (2)	内閣府
第 4 回	行政組織法 (3)	省
第 5 回	行政組織法 (4)	外局等
第 6 回	行政組織法 (5)	地方公共団体の行政組織の編成
第 7 回	公務員法 (1)	公務員の意義と種類 人事行政機関
第 8 回	公務員法 (2)	勤務関係
第 9 回	公務員法 (3)	公務員の権利
第 10 回	公務員法 (4)	公務員の義務（職務専念義務、法令及び上司の命令に従う義務）
第 11 回	公務員法 (5)	公務員の義務（争議行為等の禁止、政治的行為の制限など）

第 12 回	公物法 (1)	公物の意義と種類
第 13 回	公物法 (2)	公物管理権の主体と内容
第 14 回	公物法 (3)	公共用物の使用関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

後掲の参考書のいずれかを用いて予習・復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各回配布レジュメ

【参考書】

宇賀克也『行政法概説 III（第 5 版）』（有斐閣、2019 年）

塩野宏『行政法 III（第 4 版）』（有斐閣、2012 年）

藤田宙靖『行政組織法』（有斐閣、2005 年）

室井力編『新現代行政法入門（2）』（法律文化社、2004 年）

【成績評価の方法と基準】

レポートによる（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし。

【学生が準備すべき機器他】

(1) 学習支援システムや Webex が利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するための PDF 閲覧ソフトウェア（Adobe Acrobat Reader〔無料〕など）、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc、.docx の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）、(4) 上記 (1) から (3) までのものを利用するために必要となる PC、あるいは、スマートフォン等。

【その他の重要事項】

この科目は行政法科目に該当する。あらかじめ行政法入門を履修したか、現に履修中であることが、科目での学びが効果的なものとなるため、望ましい。

【Outline and objectives】

This course is designed to understand a contemporary composition of the executive branch, to provide an overview of law on civil service, and to sketch out law on tangible things used directly by public entities or made available to the public (about tangible things, see art. 85 of the Civil Code).

After completing this course, you should be able to:

- Explain a contemporary composition of the executive branch, such as Cabinet, Cabinet Office, Ministry;
- Explain a notion, sorts, and recruitment (including working conditions) of civil servants, and also spell out their rights and obligations; and
- Explain a notion and sorts of the tangible things used directly by public entities or made available to the public, and also expound public entities' power to administer them and individual's rights to use them.

LAW300AB

都市法

西田 幸介

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市空間の利用を制御し都市空間の整備や保全を規律するのが都市法である。都市空間の利用は、私人だけでなく国や地方公共団体によっても行われる。都市空間の整備・保全は主として国や地方公共団体が行うが、私人がこれに関与することもある。この授業は、このような都市法について、できるだけ身近な問題を取り上げながら、検討することを目的とする。

具体的には、都市計画、開発規制、建築規制、土地収用、都市計画事業（土地区画整理、市街地再開発等）、都市問題に関連して生じる紛争の解決を取り上げる。いずれのテーマも、一見とすると、人の生活に直接関係がないようにみえる。しかし、各自が居住する地域を思い巡らせれば容易に分かるように、個人の居宅、マンション、商店、オフィスビル、ショッピングセンターなどの建設は、日々、行われており、また、道路や公園の整備は個人の生活に深く関係する。この授業は、具体的には、これらの法律問題について検討するものである。

この授業の受講者は、都市法を学ぶことを通して、都市空間の利用を制御する法、都市空間の整備や保全を規律する法を修得し、また、それらの問題点を把握し、さらに、都市法を利用してよりよい生活環境を享受するためにいかなる行動をとるべきかを判断できるようになることが期待される。

なお、この科目は「行政・公共政策と法コース」に属する。

【到達目標】

- ①都市法と都市問題の関係について説明することができる。
- ②新たな建築を行う場合に当該建築物がどのような建築規制を受けることとなるかを調べ確認して説明することができる。
- ③都市計画の内容や決定・変更の手続について説明することができる。
- ④都市計画制限について説明することができる。
- ⑤土地収用について、事業認定や収用裁決の適否を含め、説明することができる。
- ⑥区画整理・再開発について、その仕組みやメリット・デメリット、それらに伴う紛争解決のあり方について、説明することができる。
- ⑦都市計画事業について、その概略を説明することができる。
- ⑧建築紛争や開発調整について、具体例を含めて、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、オンデマンド授業とリアルタイムオンライン授業を併用して行う（ハイブリッド型授業）そのために、Hoppii と Google クラスルームを利用する。Hoppii は授業開始当初に受講者または受講希望者への連絡のために用い、Google クラスルームを主として利用する。受講者は、① Google クラスルームを通して配信される動画を閲覧するか指定テキストの該当箇所を精読した（必須）うえで、② Google クラスルームを通して理解度確認のための小テストを受験し（任意）リアクションペーパーを提出し（任意）、③適宜実施されるリアルタイムオンライン授業を受講することで、学習を進める。①と②はオンデマンド授業である。

小テストに対するフィードバックは、個別に得点を開示しかつ解説を示すことによって行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて担当者が個別にコメントし、また、必要に応じて授業内で受講者全員に向けてコメントをすることによって実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国土利用と都市法制（1）	都市問題と都市法 都市法とは何か
第 2 回	国土利用と都市法制（2）	国土利用計画法 都市計画法
第 3 回	国土利用と都市法制（3）	マスタープラン 都市計画提案制度
第 4 回	都市空間の制御（1）	開発と建築 開発規制
第 5 回	都市空間の制御（2）	建築基準法 建築物概念
第 6 回	都市空間の制御（3）	用途地域制
第 7 回	都市空間の制御（4）	建築物の高さ制限 日影規制
第 8 回	都市空間の制御（5）	道路に関する規制

第 9 回	都市空間の制御（6）	建築確認
第 10 回	都市空間の制御（7）	地区計画 建築協定
第 11 回	都市空間の形成（1）	土地収用の対象とプロセス
第 12 回	都市空間の形成（2）	土地収用と損失補償
第 13 回	都市空間の形成（3）	都市計画事業
第 14 回	都市空間の形成（4）	土地区画整理事業 市街地再開発事業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書、その他授業内で指示された内容にもとづき学習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『都市法講義』（法政大学生協書籍部のみで販売）

【参考書】

- ・生田長人『都市法入門講義』（2010 年，信山社）
- ・稲本洋之助・小柳春一郎・周藤利一『日本の土地法 [第 3 版]』（2016 年，成文堂）
- ・碓井光明『都市行政法精義Ⅰ』（2013 年，信山社），『都市行政法精義Ⅱ』（2014 年，信山社）
- ・逐条解説建築基準法編集委員会（編）『逐条解説建築基準法』（2012 年，ぎょうせい）
- ・原田大樹『例解行政法』（2013 年，東京大学出版会）
- ・安本典夫『都市法概説 [第 3 版]』（2017 年，法律文化社）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。ただし、今後とも授業改善に努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

Google クラスルームおよび学習支援システムを利用するので、インターネット環境だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、インターネットの利用が可能な情報機器の準備が必須である。スマートフォンのみでも受講が可能なように配慮するが、スマートフォンのみの場合、レポート作成に当たっては物理キーボードの利用を検討した方がよいだろう。

【Outline and objectives】

Urban Law controls the use of urban space and regulates the maintenance and conservation of urban space. This course covers urban planning, development regulations, building regulations, land acquisition, and urban planning projects (land readjustment, urban redevelopment, etc.). Students who take this course are expected to master legal method to resolve urban problems by Urban Law. They are also expected that to find what actions should be taken to enjoy a better living environment by Urban Law.

POL300AD

アメリカ政治外交史

森 聡

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの建国から第二次世界大戦までの政治と外交の歴史について、国内政治上の変化が対外政策にいかなる変化を生じさせたのかを解説する。また、アメリカの対外関与が、いかなる国際的な要因の変化を受けながら射程を広げていったのかを説明する。さらに、資料を活用しながら、重要な歴史的局面上における政策転換に作用した諸要因を明らかにする。

【到達目標】

次の到達目標を目指す。第一に、アメリカの政治制度の特徴と由来についての専門的な知識を習得する。第二に、アメリカ外交を国内政治と対外政策との相互連関という視点から理解できる能力を身につける。

また、授業で紹介する資料について、その文脈や位置づけについて考察する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度告知する。本授業の開始日は、4月21日とする。具体的な授業方法などは、学習支援システムで提示する。学習支援システムの「お知らせ」サイトを随時確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	合衆国憲法の政治制度	連邦制と三権分立。
2	大統領と連邦議会の外交権限	大統領の権限。連邦議会の権限。官僚機構の役割。
3	独立革命	植民地から合衆国憲法の制定まで。
4	フランス革命への対応と1812年の米英戦争	米国内における権力闘争と外交。
5	モンロー・ドクトリン	欧州諸国との駆け引き。
6	南北戦争と対外関係	南北戦争と米国の外交
7	領土拡張と門戸開放政策	西方への拡張。アジアへの関与。
8	革新主義と対アジア政策	ローズヴェルト、タフト、ウィルソンの時代の政治と外交。
9	第一次世界大戦とパリ講和会議	第一次世界大戦への参戦過程と戦後処理。
10	1920年代の共和党政権の内政と外交、中南米での善隣外交	戦間期の政治。ドル外交の展開。
11	大恐慌とニューディール	1930年代の政治。ニューディール連合の結成。
12	1930年代のアジアとヨーロッパ	台頭する日本とドイツへの対応。
13	第二次世界大戦をめぐる外交と戦略	レンド・リース法の制定。戦争準備。日米交渉。
14	戦時体制と終戦外交	第二次世界大戦期の内政と外交。学期中の主要な課題に関する解説・講評を行う。学期末レポート課題の説明など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

斎藤眞、古矢旬『アメリカ政治外交史（第二版）』、東京大学出版会、2012年。
斎藤眞、久保文明編『アメリカ政治外交史教材・英文資料選（第二版）』、東京大学出版会、2008年。

【成績評価の方法と基準】

成績は、レポート課題により評価する予定。

【学生の意見等からの気づき】

前回の授業のポイントを、次の講義の冒頭で確認のために解説する。

【現代アメリカ外交、国際政治学】

＜専門領域＞ 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障

＜研究テーマ＞ 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など

＜主要研究業績＞

・川島真・森聡編著『アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序』、東京大学出版会、2020年。

・"US Technological Competition with China: The Military, Industrial and Digital Network Dimensions," Asia Pacific Review, Vol.26, No.1 (2019), pp.77-120.

・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," Asia Pacific Review, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.

・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月。

・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第58号（2016年4月）、23-48頁。

・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年、39-91頁。

・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968年』、東京大学出版会、2009年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。

など

【Outline and objectives】

This is a lecture course on the history of American politics and diplomacy covering the period from the founding of the nation to the Second World War. It will shed light on how domestic political factors and international factors affected U.S. foreign engagement. Documents will be used from time to time to explain how historically significant decisions were influenced by various factors.

LAW200AB

法律学特講（社会保障法の現代的課題Ⅰ）

大原 利夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、学生が社会保障法、特に児童虐待（ドメスティック・バイオレンスを含む）に関する法的基礎を学び、児童虐待等に関する諸問題を学ぶことを目的とする科目である。
この科目は、すべてのコースに属している。

【到達目標】

学生は、児童虐待に関する法制度の概要を説明することができる。
学生は、児童虐待の実態、法制度に関して、問題を抽出し、その解決策を提示することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業です。受講生は授業動画を視聴し、文献を読み、レポート課題を提出します。
レポート課題のフィードバックは、学習支援システムにおいて全体に対して行います。
なお、受講生の要望等によって適宜授業内容・方法を修正する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス～シラバスの説明	社会保障法のイメージ、授業の進め方、授業の受け方などについて説明する。
第 2 回	助けてといえない人々たち	今、見えないところで何が起きているのか、隠れた現代的な社会問題としての児童虐待、DV を扱う。
第 3 回	職権保護の緊迫する現場	虐待を受けている子どもの緊急保護の実態を扱う。
第 4 回	保護された子どもたち	施設に保護された子どもについて、施設内の日常と子どもの苦悩を扱う。
第 5 回	里親制度	里親制度を理解するために里親委託率全国 2 位の静岡市を扱う。
第 6 回	虐待された子どもを育てる	虐待された過去を持つ子どもを社会がどう育てるべきか、ある高校を扱う。
第 7 回	性的虐待	その特性のために、顕在化しづらい性的虐待を扱う。
第 8 回	性的虐待を受けた女性への支援	性的虐待を受けた人を支援する NPO を扱う。
第 9 回	保護施設を出た後の子どもたち	親の支援のない中で社会に出ていかなければならない現実と、新たな支援について扱う。
第 10 回	DV 家庭で育った子ども	DV 家庭で育つとはどういうことか、ある女性に焦点をあてる。
第 11 回	法制度の課題	児童虐待に関する制度の問題点とその解決方法について扱う。
第 12 回	社会保障法の現代的課題 1	社会保障に関する最近のトピックを扱う。
第 13 回	社会保障法の現代的課題 2	社会保障に関する最近のトピックを扱う。
第 14 回	まとめ	授業の補足と総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は不要です。指示に従い、復習をして下さい。また、授業の中で紹介した参考書等により、知見をさらに深めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

『トピック社会保障法』本沢巳代子ほか著、信山社、2020 年。
『社会保障法』加藤智章ほか著、有斐閣、2019 年。
『よくわかる社会保障法』西村健一郎ほか著、有斐閣、2015 年。
『社会保障法』菊池馨実著、有斐閣、2014 年。

【成績評価の方法と基準】

レポート（100 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明の仕方を工夫したいと思います。また、資料の用い方を工夫したいと思います。

【その他の重要事項】

質問などは、メールにて随時、受け付けます。
この授業は基本的に虐待を扱いますので、フラッシュバックなどの症状が出る方は、慎重に履修の判断をして下さい。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations and various problems of social security law, especially law of child abuse, including domestic violence. The goal of this course are to obtain

- (1)Basic knowledge about law of child abuse
- (2)Solving skills of problems about child abuse.

LAW200AB

法律学特講（社会保障法の現代的課題Ⅱ）

大原 利夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、学生が社会保障法、特に障がい者法の基礎と障がいに関する諸問題を学ぶための科目である。
この科目は、すべてのコースに属している。

【到達目標】

学生は、特別支援学校、ハンセン病、盲導犬、サリドマイド薬害、障がい者排斥思想、脳死、吃音、顔の異形、出生前診断等に関して、問題を抽出し、その解決策を提示することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業です。受講生は授業動画を視聴し、文献を読み、レポート課題を提出します。

レポート課題のフィードバックは、学習支援システムにおいて全体に対して行います。

なお、受講生の要望等によって適宜授業内容・方法を修正する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス～シラバスの説明	シラバスに基づき、授業の内容、すすめ方を説明する。また、導入としてボランティアを扱う。
第 2 回	障がい者福祉 1～障がい者	障がい者と甲子園について扱う。
第 3 回	障がい者福祉 2～障がい者への差別	相模原障害者殺害事件を扱う。
第 4 回	障がい者福祉 3～薬害と障がい者	サリドマイド薬害について扱う。
第 5 回	障がい者福祉 4～視覚障がい	視覚障害者と盲導犬について扱う。
第 6 回	福祉 1～介護労働	福祉の現場における介護人材について扱う。
第 7 回	障がい者福祉 5～吃音	多くの人が悩んでいるとされる吃音について扱う。
第 8 回	福祉 2～脳死	脳死の判断基準について扱う。
第 9 回	障がい者福祉 6～ハンセン病	隔離政策がとられたハンセン病について扱う。
第 10 回	障がい者福祉 7～顔の異形	顔のアザなど、顔の異形と障がいについて扱う。
第 11 回	福祉 3～高福祉社会と低福祉社会	高・低福祉社会について考えるために諸外国を扱う。
第 12 回	福祉 4～出生前診断	出生前診断と障がいについて扱う。
第 13 回	社会保障法の現代的課題	最近のトピックについて扱う。
第 14 回	まとめ	授業の補足と総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は不要です。指示に従って復習をして下さい。また授業の中で紹介した参考書等により、知見をさらに深めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

『トピック社会保障法』本沢巳代子ほか著、信山社、2020 年。
『社会保障法』加藤智章ほか著、有斐閣、2019 年。
『よくわかる社会保障法』西村健一郎ほか著、有斐閣、2015 年。
『社会保障法』菊池馨実著、有斐閣、2014 年。

【成績評価の方法と基準】

レポート（100 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

資料の用い方を工夫したいと思います。

【その他の重要事項】

質問などは、基本的にメールにて随時、受け付けます。なお、受講生の要望等によって適宜授業内容・方法を修正する場合があります。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations and various problems of social security law, especially disability law. The goal of this course are to obtain

(1)Basic knowledge about of disability law.

(2)Solving skills of disability issues.

LAW200AB

外国書講読（仏語）Ⅰ

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代フランスの政治思想と憲法理論との連関について示唆に富むフランス語原典の前半部分を輪読することで、フランス語の翻訳・読解能力と現代フランスの政治思想・憲法理論そのものについての理解を深めるコースワーク科目である。

【到達目標】

フランス語原典を読みこなす力を身に着ける。加えて、現代フランスの政治思想と憲法理論との連関性を十分に理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

輪番制を採用。学生は割り当てられた部分のフランス語原典を翻訳し、報告する。教師は適宜、文法や訳語について解説を行う。加えて、参考書などを利用してテキストが扱うフランスの憲法理論と政治思想についての解説も行う。

本授業で用いるテキストは、2020 年度の本授業でも用いたものであるが、2020 年度はテキストの最初の部分しか翻訳できなかったため、2021 年度も引き続き同じテキストを用いて、残りの部分を翻訳する。2021 年度に初めて本授業を受講する学生のために、2020 年度に翻訳した部分の全てを予め Hoppii にアップして受講生全員が入手できるようにするので、2021 年度に初めて本授業を受講する学生は事前に上記の翻訳を読了してから授業に臨んでもらうことになる。

授業は対面式を予定しているが、大学の方針が変更された場合には、Zoom によるリアルタイムのオンライン授業を行う（詳細は春学期開始時の第 1 回ガイダンス時に連絡する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方とローテーションの設定 テキスト序章と第 1 章（1）（日本語訳された部分）の解説
第 2 回	第 1 部・第 2 章（1）	民主主義のイデオロギー的な基盤としての諸価値について輪読する（1）
第 3 回	第 1 部・第 2 章（2）	民主主義のイデオロギー的な基盤としての諸価値について輪読する（2）
第 4 回	第 1 部・第 2 章（3）	民主主義のイデオロギー的な基盤としての諸価値について輪読する（3）
第 5 回	第 1 部・第 3 章（1）	民主主義の目的としての全体の利益の確定について輪読する（1）
第 6 回	第 1 部・第 3 章（2）	民主主義の目的としての全体の利益の確定について輪読する（2）
第 7 回	第 1 部・第 3 章（3）	民主主義の目的としての全体の利益の確定について輪読する（3）
第 8 回	第 1 部・第 4 章（1）	民主主義の道具としての多数派代表制メカニズムについて輪読する（1）
第 9 回	第 1 部・第 4 章（2）	民主主義の道具としての多数派代表制メカニズムについて輪読する（2）
第 10 回	第 1 部・第 4 章（3）	民主主義の道具としての多数派代表制メカニズムについて輪読する（3）
第 11 回	第 1 部・第 5 章（1）	民主主義の条件としての法的・政治的要件について輪読する（1）
第 12 回	第 1 部・第 5 章（2）	民主主義の条件としての法的・政治的要件について輪読する（2）
第 13 回	第 1 部・第 5 章（3）	民主主義の条件としての法的・政治的要件について輪読する（3）
第 14 回	春学期のまとめ	第 1 部の内容全体について再検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各回の予定部分の仏語原文を各自で翻訳しておくこと。事後には、授業で示された翻訳内容と自己の翻訳とを照らし合わせて、よりよい仏語翻訳の技術を身に着けること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Bertrand MATHIEU, Le droit contre la démocratie ?, L.G.D.J., 2017 (ISBN 978-2-275-05736-1)

※本書は希望する学生には必要部分のコピーを配布する予定である。

【参考書】

授業中、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

輪番で割り当てられた原典の翻訳内容（60 %）と質疑その他の授業への積極的参加度（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

初歩のフランス語を学ぶ学生が多いので、進度を遅らせて、フランス語の文法や法思想、政治思想の背景についての解説を多くとることが必要だった。今後も学生の状況に応じて、進度については臨機応変に進める。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン式授業の場合は当然であるが、対面式の場合も事前に Hoppii を通じて各回のレポーターの翻訳や教師の翻訳や資料を配布する関係上、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末が必要になる。

【Outline and objectives】

Reading of a first half of French text concerning French political and constitutional theories.

LAW200AB

外国書講読（仏語）Ⅱ

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代フランスの政治思想と憲法理論との連関について示唆に富むフランス語原典の後半部分を輪読することで、フランス語の翻訳・読解能力と現代フランスの政治思想・憲法理論そのものについての理解を深めるコースワーク科目である。

【到達目標】

フランス語原典を読みこなす力を身に着ける。加えて、現代フランスの政治思想と憲法理論との連関性を十分に理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

輪番制を採用。学生は割り当てられた部分のフランス語原典を翻訳し、報告する。教師は適宜、文法や訳語について解説を行う。加えて、参考書などを利用してテキストが扱うフランスの憲法理論と政治思想についての解説も行う。

本授業で用いるテキストは、2020 年度の本授業でも用いたものであるが、2020 年度はテキストの最初の部分しか翻訳できなかったため、2021 年度も引き続き同じテキストを用いて、残りの部分を翻訳する。2021 年度秋学期に初めて本授業を受講する学生のために、2020 年度及び 2021 年度春学期の「外国書講読（仏語）」の既翻訳部分の全てを予め Hoppii にアップして受講生全員に入手できるようにするので、2021 年度秋学期に初めて受講する学生は事前に上記の翻訳を読了してから授業に臨んでもらうことになる。

授業は対面式を予定しているが、大学の方針が変更された場合には、Zoom によるリアルタイムのオンライン授業を行う（詳細は春学期開始時の第 1 回ガイダンス時に連絡する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと第 2 部・第 1 章（1）	授業の進め方をレクチャーしたのち、非民主的な法秩序の発展について輪読する（1）
第 2 回	第 2 部・第 1 章（2）	非民主的な法秩序の発展について輪読する（2）
第 3 回	第 2 部・第 2 章 A	民主主義と人権の関係に関して、人権概念の変容について輪読する
第 4 回	第 2 部・第 2 章 B	民主主義と人権の関係に関して、イデオロギー的枠付手段としての法について輪読する
第 5 回	第 2 部・第 2 章 C	民主主義と人権の関係に関して、民主的政治権力への対抗権力の強化について輪読する
第 6 回	第 3 部・第 1 章 A	民主主義の超越又は再構築に関して、参加民主主義の幻想について輪読する
第 7 回	第 3 部・第 1 章 B	民主主義の超越又は再構築に関して、ポピュリズムの「楔」について輪読する
第 8 回	第 3 部・第 1 章 C	民主主義の超越又は再構築に関して、非自由主義的民主主義の経験について輪読する
第 9 回	第 3 部・第 2 章 A	民主主義を救う法に関して、国家権限の再構築と明確化について輪読する
第 10 回	第 3 部・第 2 章 B	民主主義を救う法に関して、政治決定への人民の介入制度の再構築について輪読する
第 11 回	結論（1）	自由民主主義を救うべきか？ について輪読する（1）
第 12 回	結論（2）	自由民主主義を救うべきか？ について輪読する（2）
第 13 回	結論（3）	自由民主主義を救うべきか？ について輪読する（3）
第 14 回	まとめ	本書全体について意見交換を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各回の予定部分の仏語原文を各自で翻訳しておくこと。事後には、授業で示された翻訳内容と自己の翻訳とを照らし合わせて、よりよい仏語翻訳の技術を身に着けること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Bertrand MATHIEU, Le droit contre la démocratie ?, L.G.D.J., 2017 (ISBN 978-2-275-05736-1)

※本書は希望する学生にはコピーを配布する予定である。

【参考書】

授業中、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

輪番で割り当てられた原典の翻訳内容（60 %）と質疑その他の授業への積極的参加度（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

初歩のフランス語を学ぶ学生が多いので、進度を遅らせて、フランス語の文法や法思想、政治思想の背景についての解説を多くとることが必要だった。今後も学生の状況に応じて、進度については臨機応変に進める。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン式授業の場合は当然であるが、対面式の場合も事前に Hoppii を通じて各回のレポーターの翻訳や教師の翻訳や資料を配布する関係上、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末が必要になる。

【Outline and objectives】

Reading of a second half of French text concerning French political and constitutional theories.

LAW200AB

会社法入門

篠川 泰史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、会社法を体系的に学ぶために必要な基礎的知識を講義形式で学ぶ授業です。この科目は全てのコースに属しています。より具体的な授業目的は以下の2つです。

(a) 3 年次以降、商法関連科目のうち会社法分野に属する科目（会社法・企業結合・金融商品取引法など）の体系的履修を予定する学生が、これらの科目への導入として、会社法に関する基礎的知識を獲得すること。

(b) 必ずしも会社法等の商法関連科目の体系的履修を予定していない学生が、公法・民事法・社会法分野においても無視し得ないプレーヤーである営利企業について、その組織や行動はいかなる法原理によって動機付けられているかを理解するための助けとなる知識を獲得すること。

【到達目標】

[1] 株式・コーポレートガバナンス・取締役会・増資・代表訴訟・M&A など、会社法に関する基礎的な用語の意味が説明できるようになる。

[2] 新聞やニュースで話題となっている企業に関する時事問題——たとえば、企業の不祥事が起きた場合に、何故それが法律上問題となるのか、その責任は誰が負うのか？——について、関心を持って考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

(1) 講義形態で行います。授業参加者がテキスト等の資料を読んできたことを前提に、ポイントを絞った解説をします。

(2) Hoppii の教材・小テスト・アンケート・レポート等の機能を利用した課題提出とオンデマンド授業（動画ファイル配信）との組み合わせを軸にして、リアルタイムオンライン授業での補足説明と質疑応答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「会社法」とは、どのような法分野か？	・講義の進め方 ・「商人」と「商行為」 ・商法と民法の違い ・講義の全体像
2	営利事業はどのように成長していくのか？	・あるベンチャー企業の決算公告から ・「企業価値」という考え方
3	営利事業に共同して出資すると、法律関係はどうなるのか？	・組合契約 ・法人化した組合＝持分会社 ・企業形態とは 〔教科書「序章」参照〕
4	出資者としての権利の価値をどうやって金銭化するのか？	・細分化された持分＝株式 ・株主有限責任の原則 ・所有と経営の分離

5	株式会社制度の特徴と意義	・株式と資本 ・営利社団法人 ・所有と経営の分離 ・株主有限責任 〔教科書「第1章」参照〕
6	株主総会の役割と実際の運営はどのようになっているか？	・株主総会の権限 ・総会の招集と運営 ・株主総会決議の瑕疵 〔教科書「第2章」1・2参照〕
7	コーポレートガバナンスとはどういうことか？	・株式会社に於ける株主経営者間の利害対立構造 ・法令による取り組み ・ソフト・ローによる取り組み 〔教科書「第1章」1－3「会社法の役割」参照〕
8	「取締役会」とはどのような仕組みか？	・取締役会の権限と役割 ・代表取締役の権限 ・選定業務執行取締役の権限 ・業務執行取締役と使用人（従業員）の関係 〔教科書「第2章」3参照〕
9	監査役・会計監査人による「監査」とはどのような職務か？	・監査役と地位と職務 ・監査役会の職務 ・会計監査人の地位と職務 〔教科書「第2章」4参照〕
10	監査等委員会設置会社・指名委員会等設置会社におけるガバナンスとはどのようなものか？	・監査等委員会設置会社における業務執行の監督 ・指名委員会等設置会社における業務執行の監督 〔教科書「第2章」5・6参照〕
11	株式会社の役員が任務を怠った場合の法的責任はどのように追及されるか？	・任務懈怠責任 ・株主代表訴訟 ・役員に対する第三者責任 〔教科書「第2章」7参照〕
12	株式会社が資金調達をする場合にどのような規律が必要か？	・株式会社の資金の原資 ・新株発行による資金調達の方法 〔教科書「第3章」1・2参照〕
13	どのような手続で株式会社を設立するか？	・設立手続の概要 ・定款 ・出資の履行 ・会社機関の具備 ・設立登記 〔教科書「第7章」参照〕
14	会社の事業再編の方法にはどのようなものがあるか？	・事業譲渡 ・合併 ・株式移転／株式交換 ・会社分割 〔教科書「第6章」参照〕

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムを利用して配布するレジュメ・資料等には必ず目を通してから参加して下さい。また事前課題については、「とりあえずやってみて、ざっと提出する」程度の取り組み方で構いません。（選択肢を選ぶタイプの小テストは「何度でも提出できる」ように設定しますが、これは「正解に至るまで納得できない」タイプの方のための設定ですので、正解するまでやり直す必要はありません。）また、新聞の経済面を毎日見て、今、何が企業で問題となっているのか（たとえば、A 会社の不祥事、B 会社と C 会社の合併、D 会社の上場など）、常に関心を持ちながら本講義に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中東正文ほか『会社法』（有斐閣ストゥディア・2015 年）ISBN978-4-641-15015-7

【参考書】

田中亘『会社法〔第3版〕』東京大学出版会（2021 年）
高橋美加ほか『会社法（第3版）』弘文堂（2020 年）
伊藤靖ほか『会社法〔第4版〕（LEGAL QUEST）』有斐閣（2018 年）〔2021 年に第5版が出版されるようです〕
上記はいずれも定評のある会社法の教科書です。比較的アクセス容易な文献や資料の紹介がなされていますので、より詳細な参考資料を知りたいという場合にもちょっと覗いてみて下さい。

【成績評価の方法と基準】

定期試験に代わる期末レポート 40 %

平常点（教材へのアクセス・テスト提出等）60 %

【学生の意見等からの気づき】

特にありません

【学生が準備すべき機器他】

オンラインによる動画配信と資料配付を受けることが可能な情報機器

【その他の重要事項】

受講者は「契約法Ⅰ」を履修済みであることを前提として講義を進めます。「契約法Ⅰ」の単位未修得でも履修は可能ですが、頑張って再履修して下さい。

【Outline and objectives】

In this class, several typical topics related to corporate law will be covered and discussed in order to provide an introduction to corporate law.

The outline will be as follows.

- (1) What is Kumiai〔組合〕(a partnership)?
- (2) What is Kabusiki-Kaisha〔株式会社〕(a joint stock company)?
- (3) Corporate governance
- (4) Corporate finance

LAW300AB

金融商品取引法Ⅰ

荒谷 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、身近なものとなっている株取引などの金融商品取引の意義およびその法規制の必要性と概要について理解することにより、企業を取り巻く法環境について多角的な考察力を身につけることを目標とする。

この科目は、「企業・経営と法コース（商法中心）」に属する科目である。

【到達目標】

- ① 金融商品取引法の全体構造を理解する。
- ② 近年、専門的な知識もないままに株式取引や FX 取引等を行う学生が多く被害も後をたたない。そこで、本講義では、金融商品取引に関する正しい知識を身につける。
- ③ 新聞の経済面を楽しく興味を持って読むことができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

金融商品取引法というのは、有価証券だけではなく広く金融商品を横断的に規制する法律である。最近では、インターネットや銀行等で気楽に株式等の金融商品に投資したり、コンビニで本や弁当を買うように気楽に株式等を売買できるようになるなど金融商品取引は学生にとっても身近な存在になりつつある。また、NISA や iDeCo(イデコ) といった長期分散投資制度の普及と超低金利を反映して、急速に、金融商品取引への関心が高まっている。しかし、他方において、映画ファンドやミュージック・ファンドなど趣味と投資を兼ねた投資商品や FX、暗号資産（旧仮想通貨）といった商品が多数開発され、十分な知識や投資意識がないままこれに参加し、多額の被害を蒙るケースも多発している。金融商品取引のシステムは本屋で本を買うのとは違い、かなりの専門知識を必要とするので、十分な知識もなくこうした取引に手を出すのは非常に危険である。そこで、本講義では、まずこうした金融商品に関する基本的な概念や取引システムをわかりやすく説明するとともに、一般投資家を保護するために法は具体的にどのような規制を行っているのかといった金融商品取引法の内容について、判例の分析を交えながら概説をする。

なお、学生の問題意識を喚起し、併せて理解度を高めるために、日本銀行の見学や最新のニュース・判例等を題材に質疑応答形式を取り入れた講義を行いたいと考えている。

授業外の質問に対しては、授業支援システムの掲示板もしくは次の回の授業で回答する形でフィードバックする。

【重要】 新型コロナウイルスの感染防止の観点から、4 月は、双方向のオンライン型ライブ授業を実施する。5 月以降は、感染状況を見ながら、オンライン・ライブ授業の間に、教室で対面・オンライン併用型（ハイフレックス型）授業を実施したいと考えているので、授業支援システムの「お知らせ」を随時チェックすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	金融商品取引法とはどのような法律なのか、1 年間の授業の進め方等について説明をする。

第 2 回	金融商品取引法の意義および目的	金融商品取引法の意義および目的についてわかりやすく解説する。
第 3 回	金融商品取引法の制定・改正経緯	金融商品取引法制定前の法律である証券取引法制定の背景、改正の経緯とその背後にある理念・目的について概説する。
第 4 回	有価証券の意義 1	金融商品取引法の基本となる有価証券概念の意義について概説する
第 5 回	有価証券の意義 2	金融商品取引法の基本となる有価証券概念の意義について概説する。
第 6 回	ファンド規制	最近話題となっているファンドとはどういうものをいうのか、そのファンドを金融商品取引法はなぜ規制しようとしているのか、其の背後にある政策などを踏まえながら概説する。
第 7 回	デリバティブ取引の意義	デリバティブ取引とはなにか、其の意義についても概説する。
第 8 回	金融商品取引業・金融商品取引仲介業	証券会社や銀行など金融商品取引に関わる専門家の業務の内容について概説する。
第 9 回	日本銀行の見学	日本銀行の見学
第 10 回	発行市場における規制 1	発行市場における開示規制の概要について概説する。
第 11 回	発行市場における規制 2	発行市場における開示規制の概要について概説する。
第 12 回	継続開示規制 1	流通市場における開示規制の概要について解説する。
第 13 回	継続開示規制 2	流通市場における開示規制の概要について解説する。適時開示規制。
第 14 回	大量保有規制	上場会社における大量保有規制、いわゆる 5 % ルールの概要について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・特に予習は不要であるが、復習は必すること。新聞の経済面には毎日目を通すこと（準備学習）。
 ・会社法もしくは会社法入門の講義を受講することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

近藤光男・志谷匡史・石田真得・鎌田薫子「基礎から学べる金融商品取引法（第 4 版）」（成文堂）

【参考書】

初回の講義のときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）と期中の小テスト（30%）、平常点（10%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に備えて、Zoom を利用できるようにしてください。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to understand the rules of the Financial Instruments and Exchange Law

LAW300AB

金融商品取引法Ⅱ

荒谷 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、近年しばしば耳にする公開買付（TOB）やインサイダー取引、相場操縦といった金融商品取引上の不正行為規制の意義および概要について理解する。

この科目は、「企業・経営と法コース（商法中心）」に属する科目である。

【到達目標】

- ① 金融商品取引に関する不正行為の意義と規制の内容を理解する。
- ② 新聞の経済面を楽しく興味を持って読むことができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

最近では、投資に関心を持つ学生も増えて、簡単にコンピュータを利用して株取引やFXなどを行っているが、金融商品取引のシステムは本屋で本を買うのとは違い、かなりの専門知識を必要とするので、十分な知識もなくこうした取引に手を出すのは非常に危険である。特に、インサイダー取引とは何かを知らずに違法行為当事者になったり、掲示板等を通じて虚偽の情報や噂を流すなど無意識に違法行為を犯している場合がある。そこで、本講義では、金融商品取引法上の不正取引の意義と概要について、判例の分析を交えながら概説するとともに、トラブルに巻き込まれたときの対処方法等についても論ずるつもりである。

なお、学生の問題意識を喚起し、併せて理解度を高めるために、東京証券取引所の見学や最新のニュース・判例等を題材に質疑応答形式を取り入れた講義を行いたいと考えている。

授業外の質問に対しては、授業支援システムの掲示板もしくは今回の授業で回答する形でフィードバックする。

【重要】 新型コロナウイルス感染防止の観点から、登録学生数が不確定な 9 月は、双方向型のオンライン・ライブ授業を実施する。10 月以降は、感染状況・受講学生数等に応じて、教室での対面授業とオンライン授業を組み合わせた（ハイフレックス型）授業を実施したいと考えている。情報は、適宜更新するので、授業支援システムの「お知らせ」をチェックすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	公開買付規制 1	公開買付（TOB）の規制の概要について実例を交えながら解説を加える。
第 2 回	公開買付規制 2	公開買付（TOB）の規制の概要について実例を交えながら解説を加える。
第 3 回	不正取引概説	不正取引一般について概説する。
第 4 回	風説の流布	風説の流布に関する規制の概要を実際に判例上問題となった事案を中心に概説をする。

第 5 回	偽計取引に関する規制	ライブドア事件で有名になった偽計取引をもちいた不正取引の規制の概要について概説する。
第 6 回	相場操縦規制 1	相場操縦の規制の概要を判例を交えながら詳細に解説する。
第 7 回	相場操縦規制 2	相場操縦の規制の概要を判例を交えながら詳細に解説する。
第 8 回	短期売買差益返還義務について	短期売買差益返還義務に関する規制の概要とその規制の意義について解説する。
第 9 回	インサイダー取引規制 1	インサイダー取引に関する規制の概要について判例を交えながら概観する。
第 10 回	インサイダー取引規制 2	インサイダー取引に関する規制の概要について判例を交えながら概観する。
第 11 回	損失補てん・損失保障の禁止	損失補てん・損失補償の禁止に関する規制の概要を実際に判例で問題となった事案の検証を交えながら概説を行なう。
第 12 回	東京証券取引所の見学	証券取引所を見学し、株取引の模擬売買を体験する。
第 13 回	金融商品取引業協会と金融庁の果たす役割	金融商品取引業協会と金融庁の果たす役割について概説する。
第 14 回	投資者保護基金と金融ADR 制度	紛争処理の制度と金商業者の破綻処理を制度、ADR 制度について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は不要であるが、復習は必ずしていただくこと。新聞の経済面には毎日目を通すこと。会社法の講義を受講することが望ましい（準備学習）。

なお、金融商品取引法の全体像がわからずと本講義は理解できないので、必ず金融商品取引法Ⅰを受講してください。本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

近藤光男・志谷匡史・石田真得・鎌田薫子「基礎から学べる金融商品取引法（第 4 版）」(成文堂)

【参考書】

・松岡啓祐「最新金融商品取引法講義【第 5 版】(中央経済社)
・川村正幸・品谷篤哉・山田剛志・芳賀良「金融商品取引法の基礎」(中央経済社)

【成績評価の方法と基準】

小テストと定期試験 (80 %)、平常点 (20 %) で成績を判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to understand the rules of the Financial Instruments and Exchange Law

LAW200AB

法律学特講（（法学部同窓会寄付講座）企業法務への案内）

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、いわゆる企業法務とは何か、法律学科で学んだ内容を活かして企業等で働くとは実際にはどうということなのかといった事柄を、本学の卒業生を中心としたゲストスピーカーの先生方からお話を伺うことを通じて学んでいくものです。

我が国では、社会の成熟・複雑多様化が進展するに伴い、個人や企業、あるいは団体（地方公共団体や学校法人・NPO 法人など）を取り巻く権利義務関係も、より複雑かつ精密なものとなりつつあります。これを受けて、社会における法の支配の必要性はますます高まっていて、社会のあらゆる場面において、法律に準拠した判断を行うことによって紛争を未然に防止し、あるいは適正かつ迅速に解決することが要請されているのが現状です。

これに伴って、企業・団体に設けられた法務部は、その重要性に対する社会的認識が日増しに高まるとともに、その活動も急速に充実化しつつあります。このような法務部が取り扱う諸問題（契約、人事・労務、経営、M&A、知財、会計・税務、環境、訴訟等）が、実際に企業等でどのように扱われているのか、その実態を法務部等の最前線で現に活躍しておられるゲストスピーカーの先生方から学ぶのが、この授業の目的です。

なお、ここでいう「法務」は、必ずしも狭義の法務部の仕事には限定されるものではありません。法務の仕事は他の部署が担っている会社も少なくないですし、また法務部のみが法的な思考をしていればそれで足りるというものでもないからです。法的素養を活かして働くという事柄に関心を持つ皆さんが幅広く受講してくださることを期待しています。

以上のように、法律学科での学びが将来どのように活かされるかを知るための講義です。法律学科に設けられた 6 つのコースすべてに関係するものと位置付けられます。

【到達目標】

受講生が、我が国における法務部の取り扱う問題とそれに関係する法律の解釈適用の実情を理解し、卒業後の進路のひとつとしての法務部、あるいは法的素養を活かしつつ企業等で働くということに関する具体的なイメージを獲得すること。また、企業・団体の法務部が、法律の専門的素養を活かすことができる職場であり、かつ、社会的にも有用でやり甲斐のある職場であることを理解すること。

さらに、そのような職場を目指すために、在学中にどのような法分野を学習しておくべきかについて、主体的に捉えることができるようになることも、この授業の目標とするところです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、本学の卒業生を中心に、企業・団体の法務部等において実務経験を有する方々をゲストスピーカーとしてお招きし、講義をしていただく形で授業を進めます。教室での授業又は Zoom を用いたリアルタイムオンライン授業を予定しています。

講義していただく内容は、企業・団体の法務部等で実際に取り扱った事例に即したものとします。事例の具体的な分野としては、契約、人事・労務、経営、M&A、知財、会計・税務、環境、訴訟等が想定されます。そして、取り上げられた事例がどのようにして処理ないし解決されていったかということ、実務の機微に触れる形でご紹介いただきます。ゲストスピーカーの先生によっては、受講生を指名して質問をされる場合があります。

以下、過去の実績をベースに仮の授業計画を示しますが、テーマ・順番ともに変更される可能性があります。

ゲストスピーカーの先生方への質問は、当日お答えいただくほか、必要に応じて後日、学習支援システムを通じてフィードバックします。また、期末の試験又はレポートに関しても、学習支援システムを通じて講評を公開する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	担当教員によるこの授業に関する説明
第 2 回	企業法務とは何か？（企業法務総論）	ゲストスピーカーによる講演
第 3 回	企業の資金調達の実態	ゲストスピーカーによる講演
第 4 回	インサイダー取引及び贈収賄の企業内実務	ゲストスピーカーによる講演

発行日：2021/5/1

第 5 回	会社法と株主総会の運営について	ゲストスピーカーによる講演
第 6 回	企業と契約	ゲストスピーカーによる講演
第 7 回	人事・労務関係	ゲストスピーカーによる講演
第 8 回	企業の訴訟対応の実際	ゲストスピーカーによる講演
第 9 回	競争法関係	ゲストスピーカーによる講演
第 10 回	コンプライアンス・コーポレートガバナンス	ゲストスピーカーによる講演
第 11 回	国際政治と企業法務	ゲストスピーカーによる講演
第 12 回	不動産売買におけるトラブルとその対処等	ゲストスピーカーによる講演
第 13 回	製造物管理瑕疵等について	ゲストスピーカーによる講演
第 14 回	知っておきたい経済と金融の見方	ゲストスピーカーによる講演

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は基本的には必要ありませんが、事前準備を求められたテーマについては、事前配布資料の読み込みなどが必要となる場合があります。

復習については、各回の話題で特に興味を持った点について、各自自分なりに調べてみる事が推奨されます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特にありません。毎回、レジュメを配布する予定です。

【参考書】

経営法友会 企業法務入門テキスト編集委員会編著『企業法務入門テキスト——ありのままの法務』（商事法務，2016）。

このほか、必要に応じて各回に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回、講演に対する感想文（比較的短いもの）を提出してもらう予定であり、これによって平常点を評価します（60 %）。なお、ゲストスピーカーの講義回の出席数が半数に満たない場合、単位を付与しません（いわゆる「足切り」）。

このほか、期末試験（又は期末のレポート）によっても評価します（40 %）。試験・レポートといっても、毎回の講義から得られる細かい知識を問うものではありませんので、あまり身構えずに取り組んでいただければと思います。

ただし、毎回の感想文にせよ、期末試験・レポートにせよ、自身の将来の働き方にどのように活かせるかを考えつつ、真剣にゲストスピーカーのお話を聞いたということが読み手に伝わるような文章であることが、最低限求められます。大半の学生にはわざわざ注意するまでもない事柄ですが、一部、こちらの予想がまったく及ばないような低水準の感想文・答案が見られたので、念のため注意喚起しておきます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は、多様な分野にわたるゲストスピーカーのお話を幅広く聴講することを通じて、受講者の見聞や興味関心を広げることにより、今後の進路選択等に役立ててもらおうということを狙いとしています。そのため、受講者が自身の興味関心のあるテーマの回のみをつまみ食いの聴講するという受講の仕方は、推奨されるものではありません。それゆえ、上記「成績評価の方法と基準」欄にも記載したとおり、出席数による足切りを実施しています。こうした授業の性質をよく理解した上で受講するようにしてください。

【Outline and objectives】

This omnibus course covers the basics of "corporate legal affairs". Most of the speakers are the graduates of this university.

POL300AC

政治学特殊講義Ⅰ（安全保障政策）

半田 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の安全保障政策について考察します。日本防衛を担うのは一義的には自衛隊です。日米安全保障条約により、米軍にもその役割が求められています。海外で武力行使せず、専守防衛に徹してきた自衛隊は冷戦後、海外活動に乗り出しました。さらに安全保障関連法により、集団的自衛権の行使、他国軍への後方支援へと踏み込もうとしています。日本はシビリアンコントロール（文民統制）の国ですから、もちろん政治による決定です。政治が決める自衛隊や米軍のあり方について、具体的な事例をもとに学びます。

【到達目標】

日本の安全保障政策を理解すること。中国、北朝鮮などの軍事力の現状と狙いを知ることにより、日本を取り巻く安全保障環境について考察を深めます。そのうえで自衛隊に求められる役割が日本防衛だけでなく、国際秩序の構築、人道復興支援などに広がり、そうした活動が結果的に日本や国際社会の平和につながることを理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルスの影響で大学での授業が困難な状態となっており、Hoppii の学習支援システムを使った授業を行います。詳しくは仮登録すれば、授業支援システムの「政治学特殊講義Ⅰ（安全保障政策）」にアクセスできますので、読んでみてください。仮登録後の授業は「学習支援システム」に私がアップする「お知らせ」や「教材」を活用して授業を進めます。youtube などの使用については検討中です。（2月10日現在）

授業の初めに前回の授業で提出されたりアクションペーパーなどからいくつか取り上げ、回答します。またメールなどでいただいた疑問についても回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（日本国憲法と自衛隊）	戦争放棄を明記した日本国憲法のもと、政府は自衛隊を合憲としています。自衛隊とはどのような存在なのでしょう。また国民は自衛隊をどうみているのでしょうか。自衛隊の全体像を勉強します。
第 2 回	日米安全保障体制とは	米国は日米安全保障条約により、日本に基地を置くことが認められています。米軍の役割は日本防衛にあるはずですが、基地の存在が日本の主権侵害につながる例もあります。米軍駐留の意味について学びます。
第 3 回	沖縄の米軍基地の現状と問題点	国土面積の 0.6 % に過ぎない沖縄県に米軍専用施設の 7 割が集中しています。米海兵隊のための辺野古新基地の建設めぐり、沖縄県は政府と鋭く対立しています。沖縄の基地の現状と問題点を学びます。
第 4 回	多様化する自衛隊の活動	自衛隊は、日本が他国から侵略されることがないで防衛出動をゼロ。その一方で災害派遣や福島第一原発の事故には出動し、災害救援隊の色彩が強まっています。自衛隊の国内における実像に迫ります。
第 5 回	国連平和維持活動（PKO）への参加	冷戦後、自衛隊は PKO への参加を開始しました。すでに 14 回の派遣実績があります。南スーダン PKO では「違憲」との批判がある安保法制が適用されました。憲法との整合性と活動の実態をみます。
第 6 回	ソマリア沖の海賊対処／拡大するジブチの自衛隊海外拠点	現在、自衛隊の海外活動はソマリア沖の海賊対処が典型例です。海賊対処のためにジブチに恒久施設を持った自衛隊の活動とその狙いは何でしょうか。2020 年から始まった中東の監視任務の実態に迫ります。

第 7 回	米国艦艇への洋上補給／憲法違反の判決を受けたイラクでの空輸	米国のアフガニスタン攻撃、イラク戦争に合わせて自衛隊は対米支援を実施しました。初の戦地派遣です。このうち憲法違反の判決を受けた活動もあるのです。何が起きていたのか検証します。
第 8 回	中国の軍事力強化とその狙い	巨大経済圏・安全保障構想「一帯一路」を進める中国。海軍力を強め、外洋進出を図る一方で、米軍の南シナ海進出は阻止する構えです。中国の狙いを理解し、日本の安全にどのような影響があるのか学びます。
第 9 回	北朝鮮の核・ミサイル開発の狙いと朝鮮半島情勢	核とミサイル開発を進める北朝鮮。南北首脳会談、米朝首脳会談を経て、朝鮮半島情勢は変化したといえるのでしょうか。北朝鮮の核・ミサイルが日本の安全保障にどのようにかわるのか学習します。
第 10 回	米国から導入した弾道ミサイル迎撃システムの問題点	自衛隊は米国以外では唯一、米国製のミサイル防衛システムを導入しています。導入を断念したイージス・アショアに代わり、イージス・システム搭載艦という珍妙な艦艇 2 隻の建造が決まりました。問題点を探ります。
第 11 回	首都圏に配備されたオスプレイの問題点	防衛省は千葉県にオスプレイ 17 機を配備します。米軍と合わせると日本を飛ぶオスプレイは合計 53 機に。欠陥機と呼ばれるオスプレイ配備の理由とその問題点を探ります。
第 12 回	安全保障関連法による自衛隊の変化・その 1	安倍晋三政権は安全保障関連法を成立させ、自衛隊の活動に集団的自衛権行使を含めました。多くの憲法学者から違憲との指摘もある活動の中身をみていきます。
第 13 回	安全保障関連法による自衛隊の変化・その 2	前の授業に続き、安全保障関連法による自衛隊の変化を勉強します。憲法改正による自衛隊明記の意味も考えていきます。
第 14 回	テスト	これまで学んできた自衛隊や米軍の現状、日本を取り巻く安全保障環境などについて幅広く出題します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本を取り巻く安全保障環境はこの四半世紀の間に大きく変わりました。政府は「防衛計画の大綱」を変えるなかで、空母保有を打ち出すなど日本の安全保障政策は大きく変化しています。中国は南シナ海での活動をさらに活発化させるのか、核・ミサイル開発を進めてきた北朝鮮は今後、どうなるのか。新聞、テレビを通じて、日々の動きを追い、日本の安全がどのような形で維持されていくのか注視してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

半田滋『変貌する日本の安全保障』（弓立社）

【参考書】

防衛省『令和 2 年版防衛白書 日本の防衛』

【成績評価の方法と基準】

テストにより、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

政治の動きと自衛隊の活動は一体化しているので、「新聞が参考になる」との学生の意見がありました。本授業では、新聞のみならず、テレビ、インターネット情報も積極的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業内容は毎回、ポータルサイト（Hoppii の学習支援システム）にアップします。そのために必要な機材（パソコン、スマートフォン、プリンターなど）を準備してください。

【その他の重要事項】

東京新聞記者として防衛省・自衛隊、在日米軍の取材を 30 年以上、続けてきました。現場から見える安全保障の実像を学生のみならずと共有していきます。

【Outline and objectives】

I will examine Japanese security policy. It is the Self Defense Force who uniquely plays Japan defense. U.S. military roles are required by the Japan-US Security Treaty. Without exercising force abroad, the Self Defense Force, which has dedicated itself to exclusive defense, began working overseas after the Cold War. Furthermore, by the security-related law, we are trying to step into the exercise of collective self-defense rights and backward support to other national forces. Since Japan is a country of civilian control, of course, it is decision by politics. We will learn about the way the SDF and the US military are determined by politics based on concrete examples.

POL200AC

都市政策

杉崎 和久

授業形式：講義 ｜ 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 都市空間の形成を制御するシステム（制度、プロセス等）を理解できること
- 2) 都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド教材を用いて行う。
- ・金曜日に授業動画とスライド資料を学習支援システムにアップロードする。
- ・受講者は、各自オンデマンド教材を視聴し、学習支援システムの「課題」を通じて出題された課題を翌週水曜日正午までに提出する。
- ・課題内容については、授業の中で概観し、重要な論点については解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	都市とは何か	オリエンテーション・都市の成り立ちと集積
第 2 回	近代都市計画の誕生	計画的都市の形成過程
第 3 回	都市計画概要	都市計画の目的、手段、対象、都市計画法の体系
第 4 回	都市施設 1	都市施設の概要、道路
第 5 回	都市施設 2	公園緑地
第 6 回	都市計画事業	概要、土地区画整理事業、市街地再開発事業
第 7 回	土地利用規制	近代都市計画の誕生、ゾーニング、地域地区・用途地域、集団規定（建築基準法）
第 8 回	地域特性に相応しい土地利用規制 1	補助的地域地区、地区計画
第 9 回	地域特性に相応しい土地利用規制 2	建築協定（建築基準法）、まちづくり条例等
第 10 回	開発許可制度	経済成長期の開発と開発許可制度の導入、概要概要
第 11 回	都市の計画	都市計画マスタープラン（都市計画区域マスタープランと市町村マスタープラン）
第 12 回	都市計画の決め方	都市計画決定のプロセスと市民参加
第 13 回	人口減少社会とコンパクトシティ	立地適正化計画、地域公共交通
第 14 回	公共施設のマネジメント	都市インフラの長期的管理運営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
- ・「土地利用に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、土地利用規制等を考察するため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

- ・学習支援システムを通じて、オンデマンド教材（動画）とスライド資料を配布する。

【参考書】

1. 襲庭伸ほか著「初めて学ぶ都市計画」（市ケ谷出版社）
 2. 伊藤雅春ほか著「都市計画とまちづくりがわかる本」（彰国社）
 3. 高見沢実 著「初學者のための都市工学入門」（鹿島出版会）
 4. 住民主体のまちづくり研究ネットワーク 編著「住民主体の都市計画」（学芸出版社）
 5. 武田重明ほか著「小さな都市から都市をプランニングする」（学芸出版社）
- 1～3 は基本事項の解説等、4.5 は参考事例の紹介

【成績評価の方法と基準】

評価は、授業ごとに出席する課題の合計（70 %）、レポート課題（30 %）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
①授業ごとに出席する課題の評価は下記になる。

・A：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。B：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。D：未記入とする。
 なお、提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。

②レポート課題について

・出題は、6月中の講義の中で行う（実施日は未定）。
 ・提出締切は、授業内で指示する。提出は、学習支援システムを通じて行う。（締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。）
 ・レポート課題の評価は、A：独自の視点からの意見が掛かっている優れた内容である。B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。C：レポートの課題主旨が理解できず、表現方法も含めて不十分な内容である、とする。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深めるため、具体的な都市における事例解説を行い、それらの解説のための視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、オンデマンド教材にて実施する。動画配信、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。そのためオンデマンド教材を視聴するインターネット環境、課題作成、提出をするための環境が必要になる。

【その他の重要事項】

複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline and objectives】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

POL200AC

まちづくり論

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、全国一律の都市空間制御の仕組みである都市計画法の運用に加えて、特定課題別の政策的対応、さらに地方自治体や地域住民等が地域特性や課題に対応して都市空間制御を実践している事例について概観するものである。

【到達目標】

1) 地域特性に対応した都市空間制御等の運用事例の特徴・効果等を分析できること
 2) 現代、将来に対する都市計画等システムの課題を認識できること
 3) 都市問題には、多様な利害の存在していることを理解し、それを踏まえた課題解決が行われることを理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド教材を用いて行う。
 ・金曜日中に授業動画とスライド資料を学習支援システムにアップロードする。
 ・受講者は、各自オンデマンド教材を視聴し、学習支援システムの「課題」を通じて出題された課題を翌週水曜日正午までに提出する。
 ・課題内容については、授業の中で概観し、重要な論点については解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	地域課題と地域独自の取組（まちづくり）
第 2 回	戦後の住宅政策	セーフティネットとしての役割を果たしてきた住宅供給を目的とする政策について理解する。
第 3 回	住環境改善の取組	大都市への人口集中に伴う住環境の悪化とそれに対する対応について理解する。
第 4 回	防災まちづくり 1（大規模地震への対応）	地震・火災など大規模災害に備えた対策について理解する。
第 5 回	防災まちづくり 2（気候変動に伴う災害への対応）	近年増加している水害等への対応について理解する。
第 6 回	商業・流通政策	購買活動の変化に伴う都市構造、空間の変化を理解する。
第 7 回	中心市街地活性化	都市の郊外化に伴う中心市街地の空洞化とそれに対応した施策を理解する。
第 8 回	歴史的街並み保存・再生	歴史的価値を持つ街並みや集落を継承し、活用していく取組について理解する。
第 9 回	アーバンデザイン・景観	地域特性の活かした都市空間を形成する方法について理解する。
第 10 回	ユニバーサルデザイン・バリアフリー	多様な主体の社会参加を担保する都市空間の
第 11 回	エリアマネジメント	地域の価値を高める地域運営の取組を理解する。
第 12 回	公共空間の利活用	身近な空間を利用した地域の魅力向上のための取組を理解する。
第 13 回	都市のモビリティ	高齢社会における都市空間の移動の課題とその対応について理解する。
第 14 回	都市農地の保全	都市空間における農地の価値の再評価とその施策について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
 ・「地域課題に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、課題に関する考察をするため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

・学習支援システムを通じて、オンデマンド教材（動画）とスライド資料を配布する。

【参考書】

伊藤雅春ほか著「都市計画とまちづくりがわかる本」（彰国社）
 饗庭伸ほか著「初めて学ぶ都市計画」（市ヶ谷出版社）
 三船康道＋まちづくりコラボレーション著「まちづくりキーワード事典」（学芸出版社）

住民主体のまちづくり研究ネットワーク 編著「住民主体の都市計画」(学芸出版社)

高見沢実 著「初学者のための都市工学入門」(鹿島出版会)ほか

【成績評価の方法と基準】

評価は、授業ごとに出题する課題の合計 (70 %)、レポート課題 (30 %) の合計点で評価する (期末試験は実施しない)。

①授業ごとに出题する課題の評価は下記になる。

・A：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。B：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。D：未記入とする。

なお、提出締切時間は厳守すること (締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない)。

②レポート課題について

・出题は、6月中の講義の中で行う (実施日は未定)。
・提出締切は、授業内で指示する。提出は、学習支援システムを通じて行う。(締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい)。

・レポート課題の評価は、A：独自の視点からの意見が掛かっている優れた内容である。B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。C：レポートの課題主旨が理解できず、表現方法も含めて不十分な内容である、とする。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深める視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、オンデマンド教材にて実施する。授業動画配信、資料配布、課題提出等には学習支援システムを活用する。そのためオンデマンド教材を視聴するインターネット環境、課題作成、提出をするための必要な環境が必要となる。

【その他の重要事項】

・春学期の「都市政策」を受講している前提で講義を進める。
・授業担当者は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline and objectives】

In this lecture, we examine the case of controlling space to solve regional problems.

POL200AC

コミュニティ政策 (日本)

名和田 是彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考 (履修条件等)：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政治学科の科目の中では行政・地方自治科目群に属します。「コミュニティ」及び「コミュニティ政策」とは何であるか、日本のそれはどういう特徴を持っているかを理解することが、この「コミュニティ政策 (日本)」のテーマであり、到達目標です。結論から言うと、日本の「コミュニティ」は、欧米なら地方自治体等として政治制度の中に位置づけられているはずの身近な地域単位です。それが日本では長らく民間サイドに放置されてきました。高度成長期後にこうした「コミュニティ」を再び制度化する政策が試みられ、コミュニティは政治社会の構成要素となっていきました。そして、バブル経済崩壊の1990年代以降の厳しい時代においては独特な役割を期待され、また新たな法制度のもとに展開してきています。本講義はこうした日本特有の身近な地域社会の構造を解明することを目指しています。なお、本講義は、昨年度までの「コミュニティ論Ⅰ」を改称したものです。

【到達目標】

コミュニティ、自治体内分権 (都市内分権)、協働といった政策用語が織りなす今日の日本のコミュニティ政策の概要と、その日本の特異性を、理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

コミュニティ政策はある意味で日本に特有なものです。それを理解するためには、日本と異なった構造をもつ国や比較的類似した国との比較の視点をもつことが不可欠です。外国の状況をそれとして扱うのは「コミュニティ政策 (理論・国際比較)」の課題とし、本講義では、諸外国との比較を念頭に置きつつ、コミュニティ論の基礎理論を端的に提示し、それに基づいて日本のコミュニティとコミュニティ政策について概説します。

各回とも事前に講義資料を配付しますので、受講者は予習をして講義に臨んでください。また、講義中に受講者に投げかけをしたり議論をしたりしますので、受講者はそれに呼応して積極的に発言してください。数回程度リアクションペーパーまたは課題を提出していただきますが、それに対しては原則として次の回にコメントをいたします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序説 コミュニティ政策というもの、地域的まとまりという発想	「地域的まとまり」の「重層構造」について、受講者の直感的な理解を掘り起こし、講義の理論的基礎を獲得する。
第2回	自治会・町内会の構造と特質	自治会・町内会の理解抜きには日本のコミュニティは語れない。日本独自の地域組織とされる自治会・町内会の基本的な性格を、これまでの社会学等の研究に基づいて整理する。
第3回	自治会・町内会の構造と特質 続き	前回に引き続いて、自治会・町内会について整理する。
第4回	地域的まとまりを「運営」するための制度的諸条件	ミルトン・コトラウの考え方に学びながら、地域的まとまりを秩序づけるためには、どのような制度的条件が必要かを考える。そして、日本では、自治会・町内会が民間組織であるにもかかわらず、地域的まとまりを運営でできたことを解明する。
第5回	コミュニティ政策の開始	昭和の大合併が終わったあと日本は経済の高度成長に入り、都市化の道を歩む。その結果生じた諸矛盾の激発がコミュニティ政策を促した。その最初の時期から1970年代の様子を概観する。
第6回	1980年代のコミュニティ政策とその転換	1980年代のコミュニティ政策はコミュニティ・センター自主管理が主柱であった。これがバブル経済の崩壊とともに変わってくる。この様子を、自治体内分権的な仕組みが登場してくることに即して明らかにすると同時に、地域集会施設の変容についても触れる。

発行日：2021/5/1

第 7 回	日本型自治体内分権の成立	1990年代からいくつかの自治体で取組まれた新しいコミュニティ政策は、地方自治法に「地域自治区」制度が規定されるあたりからさらに加速してくる。この動きを日本型自治体内分権として捉える。
第 8 回	日本型自治体内分権と自治会・町内会	自治会・町内会は2000年前後から特有の弱体化過程に入ったと私は見る。だからこそ自治体内分権という新しいコミュニティ政策が採用されるのであるが、にもかかわらずその制度が主要にあてにしているのは自治会・町内会である。そのため自治体内分権の実践には独特な困難が伴っている。このことをいくつかの実例に則して考察する。
第 9 回	日本型自治体内分権の類型の特徴	日本型自治体内分権は、参加と協働を基本理念とした、国際比較的に見ても特異な性格のものである。その類型的完成形を高松市の仕組みを分析することによって解明する。
第 10 回	日本型自治体内分権制度としての地域自治区制度の運用	地方自治法上の地域自治区制度を採用している自治体は多くないが、日本型自治体内分権としての特徴をよく観察できる重要な考察対象である。宮崎市を例にとって、日本型自治体内分権の「限界」について考察する。
第 11 回	日本型自治体内分権の事例研究	さらに考察材料を増やすために、どちらかといえば「参加」を重視して始まった上越市の地域自治区制度の運用とその変化を扱う。さらに、地域自治区制度ではない、独自の仕組みを設計して自治体内分権制度を行っている自治体の例も取り上げる。
第 12 回	日本型自治体内分権の限界と可能性	各地の事例を通じて読み取れる、日本型自治体内分権の限界を整理し、現在諸方面で構想されたり試行されたりしている限界突破の構想を吟味する。
第 13 回	現代日本のコミュニティ政策の総体的動向	以上を総括しつつ、現代日本で政策としてコミュニティがどのように見られ扱われているかを整理する。
第 14 回	現代コミュニティの展望	財政危機と不況の中で格差が拡大している。この状況のもとでコミュニティはどのような役割を果たせるのか、総務省や日本都市センターなどが行った全国調査をもとに私見を述べ、受講者と意見交換したい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2020年度はすべてオンライン授業となったために、非常に充実した（ほぼ教科書と言っていい程度の）講義資料を配布しました。今年度もこの講義資料を事前に配布し、これに基づいて講義を行いますので、受講者はこれを予習・復習することが基本です。さらに、講義中に参考文献を紹介しますので、これも読んで学習してください。また、2020年度ほどではなくても、課題を何度か出しますので、その際には、単に講義資料の該当箇所を復習するだけではなく、課題を解答するに必要な資料を自ら探して調べることも求められます。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しません。

【参考書】

講義の各回に扱うテーマについての文献はその都度示しますが、全体に関わる私の著作として次のものを挙げておきます。
名和田彦彦『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）
名和田彦彦編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）

【成績評価の方法と基準】

成績は、何度か出題する課題を採点して判定します。上にも示したように、課題に取り組む際には、講義資料の該当箇所をよく復習するとともに、必要な資料を自ら探して調べることも必要です。採点に当たっては、内容の正しさよりも、課題を受け止めてよく調べよく考えたかどうかを重視して採点します。社会科学においては、正解が複数ある、あるいは正解がはっきりしない、という場合もよくあります。どこかにある「正解」なるものを探す、という学習態度では身につけません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、オンライン授業であったため、毎回課題を出して、かつこれを採点するのみならず、次回授業で論評するという双方向的なやりとりがあり、私も多くを学ぶことができました。説明の仕方、提示の仕方によって思わぬ誤解が生じたりすることにも気づきました。今年度の講義資料は、これを生かしてブラッシュアップしたいと思います。

【Outline and objectives】

I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. I will analyze the history and the recent tendency of Japanese community policy, paying special attention to international comparison with those in European, American and Asian countries, especially Germany.

POL200AC

コミュニティ政策（理論・国際比較）

名和田 彦彦

授業形式：講義 ｜ 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科の科目の中で、行政・地方自治科目群に属する科目です。コミュニティないしコミュニティ政策は、ある意味で日本特有の現象といえます。諸外国は、日本でコミュニティ政策として処理している課題を、別な形で処理しているからです。この「コミュニティ政策（理論・国際比較）」では、諸外国（特にドイツ）との比較を正面から行うことによって、日本でコミュニティ政策が必然化してくることを明らかにできる、普遍的な理論枠組を提示したいと思います。

なお、本講義は、昨年度までの「コミュニティ論Ⅱ」を改称したものです。

【到達目標】

日本のコミュニティ政策の概略を理解した上で、こうした政策的営みが国際的に見てきわめて特異なものであることを理解し、日本社会の特異な構造の一面を考えることができるようになること。

具体的には、近代地方自治制度のもとでは、市町村こそがコミュニティを運営する基本的な仕組みであること、市町村合併を経た後コミュニティにどのような制度的枠組を付与するかで国際比較的な偏差が生ずることの理解、その中で日本はきわめて特異な経過をたどったことの理解、こうした理解を可能にする理論枠組である「地域的まとまり論」の理解、が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式ですが、時折受講者からの発言を求め、受講者の問題意識を共有したり、理解度や知識水準を確認したりして、授業内容を受講者の能力とニーズに合ったものにするように努めます。また、配布資料を充実し、事前事後の学習に役立つようにします。数回程度リアクションペーパーまたは課題を提出していただきますが、それに対しては原則としてその次の回にコメントをいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域的まとまり論の概略とドイツの政治制度概説	国民国家の中央政府の機能だけでは、民主的な意思決定とはいえないし、身近な公共サービスもきちんと行なわれない。身近な地域社会（本講義ではこれを「コミュニティ」とよぶ）にも運営組織が必要である。それが市町村であった。その制度的特徴はどこにあるかを考えて導入的序論とする。また、本講義ではドイツを主要な対象としているので、ドイツの政治制度について入門的概説を行う。
第 2 回	ドイツの都市内分権制度その 1 プレーメンの戦後史と都市内分権制度の発展	しばらくドイツの都市内分権制度について説明する回が続く。その初回として、プレーメン市の都市内分権の歴史の経緯について扱う。
第 3 回	ドイツの都市内分権制度その 2 プレーメン市の地域評議会制度の実態と仕組み	プレーメン市の都市内分権制度の実態をまずは入門的に概観し、ついで法令に基づいて制度的仕組みの説明を行う。
第 4 回	ドイツの都市内分権制度その 3 プレーメン市の地域評議会制度の仕組み	現行法令に基づき、プレーメン市の都市内分権制度を、前回に引き続き、説明する。
第 5 回	ドイツの都市内分権制度その 4 プレーメン市地域評議会制度の実態分析	制度的な仕組みが理解されたところで、プレーメン市の都市内分権の実態を細かく分析していく。
第 6 回	ドイツの都市内分権制度その 5 ノルトライン＝ヴェストファーレン州とハンブルク市	プレーメン市以外の事例として、ドルトムント市ないしノルトライン＝ヴェストファーレン州及びハンブルク市の仕組みを説明する。

第 7 回	ドイツの農村部における小規模自治体連携制度 その 1 概説	市町村合併を経ても、きめ細かな自治の重層構造をつくり、身近な地域社会を制度化して丁寧に政治に反映させるドイツのやり方は、都市部に限らない。今回は農村部の仕組みを見る。
第 8 回	ドイツの農村部における小規模自治体連携制度 その 2 ニーダーザクセン州の「連合自治体」制度	前回に引き続き、ドイツの農村部の仕組みを見るが、今度はニーダーザクセン州にしばり、その「連合自治体」制度を詳しく説明する。
第 9 回	都市内分権制度の法的性格をめぐる憲法裁判から	考察の材料が出そろったところで、理論的考察に入る。まずは、都市内分権制度をめぐって行われたドイツの四つの憲法裁判を手がかりとする。
第 10 回	ドイツの「協働」政策とボランティア観念	ドイツの都市内分権は基本的に「参加」型で、日本の「協働」型とは好対照であるが、現代ドイツは「協働」的な政策を必要としないわけではない。
第 11 回	地域的まとまり論の理論史 その 1 ギールケの「領域社団」論	ドイツの「市民社会」重視政策を見る。理論的予備考察も終えたところで、本格的な理論編に入る。本講義が提唱している「地域的まとまり」論は、ドイツのゲルマニスト法学派が提唱した「領域社団」概念を淵源としている。その源流をたどる。
第 12 回	地域的まとまり論の理論史 その 2 マックス・ヴェーバーの「領域団体」論	ギールケとプロイスによって完成された「領域社団」概念を、社会科学的分析概念として再構成したマックス・ヴェーバーの理論を説明する。
第 13 回	地域的まとまり論の理論構成	理論史を踏まえ、また自治会・町内会という独自の「領域団体」が展開する日本の現実をも踏まえて、「地域的まとまり論」の基本骨格を提示する。
第 14 回	まとめと展望	本講義をまとめるとともに、都市内分権以外に日本でコミュニティ政策として行われている政策についても、このされた研究課題として触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回事前に学習支援システムを通じて講義資料を配付します。これの予習・復習が基本です。また講義の中で参考文献や参考資料を提示しますので、それも勉強してください。課題が出された場合には、講義資料の該当箇所を復習することを基本としながらも、自分で資料を探して調べることも必要です。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しません。

【参考書】

講義の各回に扱うテーマについての文献はその都度示しますが、全体に関わる私の著作として次のものを挙げておきます。
名和田は彦『コミュニティの法理論』（創文社）
名和田は彦編著『コミュニティの自治』（日本評論社）
特に後者は、共同研究者とともに作った本で、欧米やアジアのコミュニティについても論じています。やや高価ですが図書館で読むことができます。

【成績評価の方法と基準】

何度か課題を出し、それを採点することによって成績評価を行います。上記のように、課題への解答に当たっては、該当する講義資料の箇所を十分に復習することはもちろん、参考として提示した資料や文献、さらには独自に探して調べた資料などをもとに、取り組んでください。「正解」かどうかよりも、各自が主張する結果にどのようにたどり着いたか、その論証過程が主たる評価の対象となります。社会科学においては、「正解」が複数あったり、そもそも「正解」が不明だったたりすることが、よくあります。大切なのは、そうした問題について、各自が十分に調べて考え抜き、説得力ある論証を提示することです。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はすべてオンライン授業で、講義資料も充実させ、また毎回課題を出して次の回に論評するというをやったので、受講者の反応も比較的良好に分かりました。提示の仕方や話す順序によって思わぬ誤解が生ずるなど、気をつけるべき点にも気づきました。今年度も、双方向のコミュニケーションを大切にしたいと思います。

【Outline and objectives】

I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. In this lecture I focus on an international comparison of Japanese community policy with that in European, American and Asian countries, especially Germany so that students can understand the characteristics of the Japanese community policy as well as the Japanese society itself.

POL300AC

外国語講読（中国語） I

黄 偉修

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「言語は生き物、進化する物」と言われていますが、その言語を使う国における政治、経済、社会、文化などの要因が、言語の「生き方」「進化」に影響を与えたのです。この授業は、毎回時事的な中国語、具体的には雑誌及び新聞記事の講読を行います。また、中国大陸に限らず、台湾と香港などでも中国語が使用されているため、中国語圏の文献を幅広く使用します。履修者が読解には必要な力を身に付けることは本講の主な目的です。また、履修者が文献を通じて中国語圏全体への理解を深めることも本講の重要な目的ですので、中国語圏の事情に興味のある学生、これから中国語圏の事情について学びたい学生の履修を歓迎します。

【到達目標】

- ①辞書さえあれば中国語の新聞や雑誌の内容が理解できる能力を身に付けます。
- ②中国語の文献を通じて中国語圏の政治、経済、社会、文化などに対する理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

- ①辞書の持参：必ず辞書を持参してください。電子辞書も可。
- ②授業の進行：文献の意味内容の把握（教員による専門用語・文法の解説、音読）→ 文献の検討（教員の解説、受講者の質問、議論）→ 感想文の提出
- ③教員は受講者の能力や関心の方向に応じて文献・補足の教材・解説に柔軟に調整し、工夫します。
- ④課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：感想提出後に学生に対して個別に、あるいは次回の授業の初めに全体に対してフィードバックを行います。また、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめ、復習、講評、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよびプロセスメントテスト	①授業方針などを説明します。 ②学生の中国語力を確認するために簡単な試験を行います（成績評価基準に含みません）。辞書を必ず持参してください。 ③中国語検定の合格証明書を持っていれば持ってきてください。 ④プロセスメントテストの解説を行います
第 2 回	中国語教材の読解	文献の読解。
第 3 回	中国語教材の読解	同上
第 4 回	中国語教材の読解	同上
第 5 回	中国語教材の読解	同上
第 6 回	中国語教材の読解	同上
第 7 回	中国語教材の読解	同上
第 8 回	中国語教材の読解	同上
第 9 回	中国語教材の読解	同上
第 10 回	中国語教材の読解	同上
第 11 回	中国語教材の読解	同上

第12回	中国語教材の読解	同上
第13回	中国語教材の読解	同上
第14回	試験・総括	今学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①授業に出席するだけでは語学は身に付きません。今まで学んだ文法と単語を繰り返して復習してください。
②中国を中心とするアジアに関する記事（日本語の記事も可）を読む習慣を身につけてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。担当教員が中華圏を紹介する文献、必要な参考資料を受講者の中国語能力と希望、興味関心などを考慮して印刷・配布します。

【参考書】

各自の持っている日中・中日辞書

【成績評価の方法と基準】

課題（50％）、授業内での議論への参加（50％）を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

記事の内容が難しいという意見が時にありましたが、外国語を学ぶことは、言葉を通して自分の知らない世界を知ることにつながります。そのため、はじめは時に難しい単語、わからない分野の知識が多くて骨が折れます。しかし、身に付けば自分の世界が広がります。担当教員が柔軟に調整・工夫していきますので、一緒に頑張りましょう。

【Outline and objectives】

This course will offer students a series of literature from the Chinese world (Taiwan, Hong Kong, and China). The goal of this course is to enable students to not only comprehend the usage of Chinese vocabulary at progressively higher levels, but also to also enhance their ability to translate simple phrases (from Chinese to Japanese). Additionally, this course will provide students with a basic understanding of the Chinese world through literature. This course's goals will be accomplished by the student's ability to apply a basic core of reading skills (e.g. skimming and making inferences).

POL300AC

外国語講読（中国語）Ⅱ

黄 偉修

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「言語は生き物、進化する物」と言われていますが、その言語を使う国における政治、経済、社会、文化などの要因が、言語の「生き方」「進化」に影響を与えたのです。この授業は、毎回時事的な中国語、具体的には雑誌及び新聞記事の講読を行います。また、中国大陸に限らず、台湾と香港などでも中国語が使用されているため、中国語圏の文献を幅広く使用します。履修者が読解には必要な力を身に付けることは本講の主な目的です。また、履修者が文献を通じて中国語圏全体への理解を深めることも本講の重要な目的ですので、中国語圏の事情に興味のある学生、これから中国語圏の事情について学びたい学生の履修を歓迎します。

【到達目標】

- ①辞書さえあれば中国語の新聞や雑誌の内容が理解できる能力を身に付けます。
- ②中国語の文献を通じて中国語圏の政治、経済、社会、文化などに対する理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

- ①辞書の持参：必ず辞書を持参してください。電子辞書も可。
- ②授業の進行：文献の意味内容の把握（教員による専門用語・文法の解説、音読）→ 文献の検討（教員の解説、受講者の質問、議論）→ 感想文の提出
- ③教員は受講者の能力や関心の方向に応じて文献・補足の教材・解説に柔軟に調整し、工夫します。
- ④課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：感想提出後に学生に対して個別に、あるいは次回の授業の初めに全体に対してフィードバックを行います。また、最終授業で、13回までの講義内容のまとめ、復習、講評、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよびプレースメントテスト	①授業方針などを説明します。 ②学生の中国語力を確認するために簡単な試験を行います（成績評価基準に含みません）。辞書を必ず持参してください。 ③中国語検定の合格証明書を持っていれば持ってきてください。 ④プレースメントテストの解説を行います。
第2回	中国語教材の読解	文献の読解。
第3回	中国語教材の読解	同上
第4回	中国語教材の読解	同上
第5回	中国語教材の読解	同上
第6回	中国語教材の読解	同上
第7回	中国語教材の読解	同上
第8回	中国語教材の読解	同上
第9回	中国語教材の読解	同上
第10回	中国語教材の読解	同上
第11回	中国語教材の読解	同上

第12回	中国語教材の読解	同上
第13回	中国語教材の読解	同上
第14回	試験・総括	試験および今学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①授業に出席するだけでは語学は身に付きません。今まで学んだ文法と単語を繰り返して復習してください。
- ②中国を中心とするアジアに関する記事（日本語の記事も可）を読む習慣を身につけてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。担当教員が中華圏を紹介する文献、必要な参考資料を受講者の中国語能力と希望、興味関心などを考慮して印刷・配布します。

【参考書】

各自の持っている日中・中日辞書

【成績評価の方法と基準】

期末課題（50 %）、授業内での議論への参加（50 %）を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

記事の内容が難しいという意見が時にありましたが、外国語を学ぶことは、言葉を通して自分の知らない世界を知ることにつながります。そのため、はじめは時に難しい単語、わからない分野の知識が多くて骨が折れます。しかし、身に付けば自分の世界が広がります。担当教員が柔軟に調整・工夫していきますので、一緒に頑張りましょう。

【Outline and objectives】

This course will offer students a series of literature from the Chinese world (Taiwan, Hong Kong, and China). The goal of this course is to enable students to not only comprehend the usage of Chinese vocabulary at progressively higher levels, but also to also enhance their ability to translate simple phrases (from Chinese to Japanese). Additionally, this course will provide students with a basic understanding of the Chinese world through literature. This course's goals will be accomplished by the student's ability to apply a basic core of reading skills (e.g. skimming and making inferences).

LAW200AB

外国語講読（英語）Ⅰ

CHRISTOPHER C MOSLEY

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法、政治、国際政治にかかわる、やや専門的な援護文献の読解力向上を目的とした講義です。並行して、英語で質問し、聞き、理解する能力の向上も目指します。

法律学科のコース科目（国際社会と法コースと行政・公共政策と法コース）ですが、政治学科、国際政治学科の学生も歓迎します。

【到達目標】

法・政治・国際政策にかかわる、やや専門的な英文の読解力を高める。英語の基礎的および応用的な文法を復習し、習得する。英語の新たな表現、たとえば「国際公法、環境法、人権、国際人権」といった新たな分野での新しいボキャブラリーを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回授業：必ず英和・和英辞典を持参すること（電子辞書・スマホも可）。授業方法：基本的にゼミ形式で、質問、回答などを優しい英語を使いながら行います。（但し、英語の聞き取り／発言が不得手でも、努力により参加は十分可能です。）

事前：次回以後の英語文献を配布——参加者は持ち帰り、予習する。予習に際しては、新出単語や表現を（英和）辞書やグーグルで徹底的に調べてくる。授業：①参加学生全員による英語文献の音読・講読 意味内容の把握（要約：部分的に精読・全訳）②文献の検討

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction to International Human Rights Law	英和・和英辞典（電子辞書・スマホも可能）を必ず持参すること。テキストの輪読、検討
第2回	The International Human Rights System	テキストの輪読、検討
第3回	Civil and Political Rights	テキストの輪読、検討
第4回	Freedom of Expression, Assembly, and Association	テキストの輪読、検討
第5回	Right to Privacy & LGBT Rights	テキストの輪読、検討
第6回	Internet and Human Rights	テキストの輪読、検討
第7回	Fair Trial and Penal Rights	テキストの輪読、検討
第8回	Economic and Social Rights	テキストの輪読、検討
第9回	Right to Health & Disability Rights	テキストの輪読、検討
第10回	Children's Rights, Right to Education, Family Rights	テキストの輪読、検討
第11回	Right to Work, Labor Rights, Business and Human Rights	テキストの輪読、検討
第12回	Legal Writing Practice	テキストの輪読、検討
第13回	Women's Rights	テキストの輪読、検討
第14回	Human Trafficking	テキストの輪読、検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材の内容を理解できるように、分からない単語、熟語は全て辞書（スマホも良い）とグーグルで予習して調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教師が作成した教材を配布します。新聞の記事や、論文等を配布します。子どもの権利、女性の権利、環境と人権、表現の自由、ビジネスと人権等がテーマです。

【参考書】

各自の持っている英和・和英辞典（スマホによる辞典やグーグル検索も行う）。

【成績評価の方法と基準】

授業での質問や議論への参加を評価します（60％）。

二つりアクションペーパーの提出（40％）。

最初のペーパーは練習問題ですが、一週間後に 2 番目のペーパー（最終試験）に使用できるフィードバックを添えて返送します。どちらのペーパーも、私が「Legal Writing Practice」クラスで教えている方法に従い、他のクラスの内容に基づいています。

【学生の意見等からの気づき】

This class is slightly reorganized to bring together civil & political rights topics and economic and social rights topics, to help students understand these categories better. It also moves labor rights to this term as an economic and social right.

【Outline and objectives】

This is a legal seminar course aimed at engaging legal materials and discussion on topics in international human rights law concerning law, politics, and international politics. The course aims to improve student's ability to be critical, understand, argue, and write on legal materials in English. The course is for students in the departments of law, political science, and international politics.

LAW200AB

外国書講読（英語）Ⅱ

CHRISTOPHER C MOSLEY

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法、政治、国際政治にかかわる、やや専門的な援護文献の読解力向上を目的とした講義です。並行して、英語で質問し、聞き、理解する能力の向上も目指します。

法律学科のコース科目（国際社会と法コースと行政・公共政策と法コース）ですが、政治学科、国際政治学科の学生も歓迎します。法律学科、政治学科、国際政治学科の学生、どなたも歓迎します。

【到達目標】

法・政治・国際政策にかかわる、やや専門的な文献な英語の読解力を高める。英語の基礎的および応用的な文法を復習し、習得する。英語の新たな表現、たとえば「国際公法、環境法、人権、国際人権」といった新たな分野での新しいボキャブラリーを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回授業：必ず英和・和英辞典を持参すること（電子辞書・スマホも可）。授業方法：基本的にゼミ形式で、質問、回答などを優しい英語を使いながら行います。（但し、英語の聞き取り／発言が不得手でも、努力により参加は十分可能です。）

事前：次回以後の英語文献を配布——参加者は持ち帰り、予習する。予習に際しては、新出単語や表現を（英和）辞書やグーグルで徹底的に調べてくる。授業：①参加学生全員による英語文献の音読・講読 意味内容の把握（要約：部分的に精読・全訳）②文献の検討。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Right to Life and Freedom from Torture and Inhuman Treatment	英和・和英辞典（電子辞書・スマホも可能）を必ず持参すること。テキストの輪読、検討
第 2 回	Armed Conflict and Human Rights and International Humanitarian Law	テキストの輪読、検討
第 3 回	International Criminal Law 1	テキストの輪読、検討
第 4 回	International Criminal Law 2	テキストの輪読、検討
第 5 回	Transitional Justice	テキストの輪読、検討
第 6 回	Compliance & Accountability for Violations	テキストの輪読、検討
第 7 回	Refugees and Displaced People's Rights	テキストの輪読、検討
第 8 回	Terrorism and Human Rights	テキストの輪読、検討
第 9 回	Racial Discrimination Law	テキストの輪読、検討
第 10 回	Indigenous Rights	テキストの輪読、検討
第 11 回	The Rohingya Crisis Case Study	テキストの輪読、検討
第 12 回	Legal Writing Practice	テキストの輪読、検討
第 13 回	Environment and Human Rights	テキストの輪読、検討
第 14 回	Disasters, Climate Change, and Human Rights	テキストの輪読、検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材の内容を理解できるように、分からない単語、熟語は全て辞書（スマホも良い）とグーグルで予習して調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教師が作成した教材を配布します。

新聞の記事、論文等も配布します。

生命権、武力紛争と人権、難民、テロリズム、環境、大規模災害（福島など）と人権等がテーマです。

【参考書】

各自の持っている英和・和英辞典（スマホによる辞典やグーグル検索も行う）。

【成績評価の方法と基準】

授業での質問や議論への参加を評価します（60 %）。

二つアクションペーパーの提出（40 %）。

最初のペーパーは練習問題ですが、一週間後に 2 番目のペーパー（最終試験）に使用できるフィードバックを添えて返送します。どちらのペーパーも、私が「Legal Writing Practice」クラスで教えている方法に従い、他のクラスの内容に基づいています。

【学生の意見等からの気づき】

The business and human rights class has been moved to the first term, as an economic and social right, and international criminal law has been extended into two classes given the scope of the topic and basis for later classes.

【Outline and objectives】

This is a seminar course aimed at improving English comprehension of legal materials on topics in international human rights law concerning law, politics, international politics. It aims to improve student's ability to be critical, understand, argue, and write on legal topics in English. The course is open to students in the departments of law, political science, and international politics.

LAW300AB

知的財産法Ⅱ

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち、「ブランド」の保護などに関連する、いわゆる「標識法」に分類される法制度（商標法及び不正競争防止法の一部）について一通り学ぶことを目的とする。これらの法律はいずれも民法の特別法に位置付けられるほか、消費者法や行政法、独占禁止法とも関連を有するものであり、「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」、「文化・社会と法コース」における学習の最終段階において受講すべき応用的な科目のひとつである。

【到達目標】

知的財産法のうち、いわゆる標識法に分類される法制度について、一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後関連する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。

より具体的には、第一に、標識法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、標識法が問題となる具体的な事例（紛争）について、不正競争防止法・商標法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この講義では、標識法に関する法制度としてどのようなものが設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。教室での授業が実施できない場合、音声付きのパワーポイントをオンデマンドで視聴していただくことを基本形式とするが、リアルタイムオンラインも必要に応じて実施する予定である。詳細は学習支援システムを通じて期中に改めて告知することとした。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等はメール・学習支援システムを通じて随時受け付け、個別に、あるいは次回授業を通じてフィードバックすることとした。期末の課題に関しては学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第 2 回	標識法概説・不正競争防止法総説	標識法の概説、不正競争防止法の全体像
第 3 回	混同惹起行為の規律 (1)	不競法 2 条 1 項 1 号の趣旨及び要件
第 4 回	混同惹起行為の規律 (2)	不競法 2 条 1 項 1 号の要件
第 5 回	混同惹起行為の規律 (3)	不競法 2 条 1 項 1 号の要件及び効果
第 6 回	著名表示冒用行為の規律 (1)	不競法 2 条 1 項 2 号の趣旨及び要件
第 7 回	著名表示冒用行為の規律 (2)	不競法 2 条 1 項 2 号の要件及び効果
第 8 回	不競法のその他の関連規定	不競法 2 条 1 項 19 号等の概説
第 9 回	商標法総説	商標法の全体像
第 10 回	商標の登録要件 (1)	積極的登録要件
第 11 回	商標の登録要件 (2)	消極的登録要件
第 12 回	商標権の保護範囲	商標権の内容、商標の類似性など
第 13 回	商標権の制限	権利行使が制限される場合について
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料等を指定する場合があるので、一読した上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、不正競争防止法等の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい（商標法は一般的な六法には掲載されていないので、留意されたい。詳細は開講時に改めて指示する）。

【参考書】

田村善之『知的財産法〔第5版〕』（有斐閣、2010）、茶園成樹編『知的財産法入門〔第2版〕』（有斐閣、2017）、愛知靖之ほか『知的財産法』（有斐閣、2018）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の実施が可能であれば期末試験により評価する（期末試験 100 %）。試験の実施ができない場合、レポート課題で評価する（期末レポート 100 %）。なお、期末レポートの場合、複数の課題を提示する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各回の冒頭に配布するほか、授業支援システムにも誤記等を修正したものを適宜アップロードするので、活用してほしい。

【その他の重要事項】

民法（特に不法行為法）や消費者法、行政法、経済法、民事訴訟法、知的財産法（特許法・著作権法）などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心掛けたい。

【Outline and objectives】

This course covers the basics of Trademark Protection.

LAW200AB

法律学特講（憲法哲学）

金井 光子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【コロナ禍遠隔授業要請のため、内容を一部変更する場合があります。】

「文化・社会と法コース」と密接な関連を有する科目です。

本講義では、諸々の市民の法的な物語群（narratives）に支えられた共同の文化作品として「憲法」を捉えて、人間の存在の constitution に照応した国家の constitution として、憲法をナラティヴ論の観点から哲学的解釈学的に解明し、立憲主義の普遍的な精神的基礎を哲学的人間学的に探究します。

その際は、憲法物語として、多彩なテキスト（文芸作品、宗教聖典、戦争、東日本大震災と福島原発事故の記録 etc.）を読解しながら、「法の支配」・「立憲主義」の思想を読み取り、多様な人間の平和的共生のための「希望」のよすがとして、公布・施行 70 年を経過した 1946 年日本国憲法の記憶を thoughtful に思索していきます。

単なる実定法解釈学以上の憲法の魂に触れたい人、せっかく大学に入ったのだから本格的な学芸としての法の醍醐味を味わいたい人、または、大学に来てしまった者の責任として「学芸としての法」をじっくり思索したい人の受講を求めます。

【到達目標】

- (1) 基本的な論点を理解できる。
- (2) テキストの基本的な読解ができる。
- (3) 立憲主義をめぐる主要な思想を「自分の言葉で」物語ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【現時点では、コロナ禍によりオンライン授業形式で行う予定です。Hoppii 学習支援システム等を活用した授業になります。詳細は学習支援システムの授業情報をご覧ください。】

基本的に講義形態です。テキストを前提にして、配信する講義録と資料をベースにノートを作成しながら学習してください。

本講義は実験的なものです。毎年度、授業の後半に取り上げるテキストは異なります。今年度は、「世界宗教の聖典類」等を中心に、憲法ナラティヴズの観点から読解していく予定です。

ただし、下記【授業計画】はあくまで予定であり、コロナ禍との関係上、また、受講者との対話的応答の中で、内容は変更する場合があります。大学の授業は学生のみならずとともに思索しながら、その都度の対話的探究の中で共同制作していくものですから。

そのためにも、適時にリアクションペーパーやレポートを課すことで理解度を測り、その後の授業で、リアクションペーパーについては応答し、レポートについては講評することで、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：「憲法哲学」ということ	憲法物語群（ナラティヴズ）と立憲的信
第 2 回	法とナラティヴズ①	法と文学
第 3 回	法とナラティヴズ②	法と物語の哲学
第 4 回	法とナラティヴズ③	法と哲学的解釈学
第 5 回	小括	カフカ「法の前で」
第 6 回	憲法物語①	ユダヤ教聖書（ヘブライ語聖書）
第 7 回	憲法物語②	キリスト教聖書（ギリシア語聖書）
第 8 回	憲法物語③	イスラム教クルアーン
第 9 回	憲法物語④	インド・ヴェーダ聖典
第 10 回	憲法物語⑤	初期仏典
第 11 回	憲法物語⑥	大乘仏典・密教典
第 12 回	憲法物語⑦	記紀神話・神道神典
第 13 回	憲法物語⑧	夏目漱石、宮沢賢治など
第 14 回	まとめ：全世界の国民の平和的生存権	「ナラティヴ」としての 1946 年日本国憲法と、2011.3.11 & コロナ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 該当箇所の予習・復習をする
 - (2) 図書館を徹底的に活用する（参考書など）
 - (3) 本講義や関連科目の学びを自分の生き方や将来の職業にいかす
- *なお、本授業の準備学習・復習時間は「各 2 時間」を標準とします。

【テキスト（教科書）】

島菌進『宗教を物語でほどく——アンデルセンから遠藤周作へ』（NHK 出版新書、2016 年）

【参考書】

H. アーレント（大久保和郎訳）『エルサレムのアイヒマン（新版）』（みすず書房、2017 年）

大野達司ほか『近代法思想史入門』（法律文化社、2016 年）

大和田雅人『憲法とみやぎ人』（河北新報社、2018 年）

奥平康弘『「憲法物語」を紡ぎ続けて』（かもがわ出版、2015 年）

H.-G. ガダマー（豊田収ほか訳）『真理と方法（全 3 巻）』（法政大学出版局、1986-2012 年）

金井光生『フクシマで日本国憲法〈前文〉を読む』（公人の友社、2014 年）

来栖三郎『法とフィクション』（東京大学出版会、1999 年）

小森陽一『ことばの力 平和のちから』（かもがわ出版、2006 年）

柴田哲雄『フクシマ・抵抗者たちの近現代史』（彩流社、2018 年）

R. ドゥオーキン（小林公訳）『法の帝国』（未来社、1995 年）

夏目漱石『私の個人主義』（講談社学術文庫、1978 年）

野家啓一『物語の哲学』（岩波現代文庫、2005 年）

林田清明『《法と文学》の法理論』（北海道大学出版会、2012 年）

渡邊二郎『構造と解釈』（ちくま学芸文庫、1994 年）

東京電力福島原子力発電所事故調査委員会『国会事故調報告書』（徳間書店、2012 年）

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」の達成の度合いに応じて評価します。

平常点・リアクションペーパー（20 %）+期末試験またはレポート課題（80 %）

【学生の意見等からの気づき】

講義録・資料等を改良

【教員の著作】

『裁判官ホームズとプラグマティズム』（風行社、2006 年）、片桐直人ほか編『憲法のこれから』（日本評論社、2017 年）など

【Outline and objectives】

We read the constitutional narratives as Japanese literary works etc., because a Constitution is also a constitutional narrative. We think thoughtfully The Constitution of Japan who is supported by Japanese peoples' narratives representing Japanese constitutional faiths.

POL300AC

政治学特殊講義Ⅰ（現代の政治理論）

面 一也

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治理論は危機の時代に生まれる、と言われる。危機に立ち向かいその解決を目指す点で、政治学は古来より医学に喩えられてもきた。本授業では、二度の世界大戦、大衆社会化に伴う人間の画一化、マイノリティの排除や差別、テロとの戦い、ポピュリズム…等々の危機に対峙してきた、現代の代表的な政治理論を概観しながら、今日の政治がなお抱えている諸課題に関して、批判的考察を行なう。とくに問うべきは、それらの政治理論がはたして問題を解決できているのかどうか、もしできていないとしたら、それは何を意味しているのか、である。

【到達目標】

- 1 現代の政治理論の主要な争点を理解する。
- 2 今日の政治的諸課題について理解する。
- 3 現在および将来の政治的諸課題に対する批判的考察力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出（2～3 回）を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要と進め方、教材などについて。
2	フリードリヒ・ニーチェ 1	文体の技法、キリスト教道徳への批判
3	ニーチェ 2	近代デモクラシーへの批判
4	ニーチェ 3	末人と超人
5	ニーチェ 4	大いなる政治
6	ハンナ・アーレント 1	活動、自由、公的空間：人はいかに共に生きるべきか
7	アーレント 2	全体主義への批判：人間の本性の破壊に抗して
8	アーレント 3	人間の条件：「活動>仕事>労働」のヒエラルヒー、その近代における転倒
9	アーレント 4	公的空間の再興：いかにして、またそもそも、それは可能なのか
10	ジョン・ロールズ 1	正義論の構想：ヘントナム戦争や人種差別への反対、功利主義の克服
11	ロールズ 2	正義の二原理：リベラル・デモクラシーと社会福祉国家の擁護
12	ロールズ 3	正義論をめぐる論争：新自由主義による批判を中心に
13	ロールズ 4	正義論の国際社会への適用：永遠平和のための正しい戦争、人道的介入と核武装
14	期末筆記試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習に力点を置くことを勧める。ノートと引用資料をよく読み返し、自らの考察を簡単に書き留めておくことよい。初回授業時に詳しく説明するが、成績評価に際しても考察を重視する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布する引用資料を主に用いる。

【参考書】

藤原保信、飯島昇蔵編著『西洋政治思想史Ⅱ』新評論、1995 年。
杉田敦、川崎修編著『西洋政治思想資料集』法政大学出版局、2014 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80 %）、リアクションペーパー（20 %）。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline and objectives】

It is often said that political theory is born in an age of crisis. In terms of confronting those crises and aiming to solve them, political science has been compared to medical science since ancient times. In this course, we will study some representative contemporary political theories, which confronted, for example, the crisis of two world wars, the human standardization in mass society, the discrimination or elimination of minority, terrorism, populism in democratic society, etc. I will try to ask critical questions on the issues which the contemporary political theories are still confronting. Especially, the question to ask is whether these theories can solve the problems, and if not, what it means to us.

POL300AC

政治学特殊講義Ⅱ（現代の政治理論）

面 一也

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治理論は危機の時代に生まれる、と言われる。危機に立ち向かいその解決を目指す点で、政治学は古来より医学に喩えられてもきた。本授業では、二度の世界大戦、大衆社会に伴う人間の画一化、マイノリティの排除や差別、テロとの戦い、ポピュリズム…等々の危機に対峙してきた、現代の代表的な政治理論を概観しながら、今日の政治がなお抱えている諸課題に関して、批判的考察を行なう。とくに問うべきは、それらの政治理論がはたして問題を解決できているのかどうか、もしできていないとしたら、それは何を意味しているのか、である。

【到達目標】

- 1 現代の政治理論の主要な争点を理解する。
- 2 今日の政治的諸課題について理解する。
- 3 現在および将来の政治的諸課題に対する批判的考察力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出（2～3回）を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要と進め方、教材などについて。
2	カール・シュミット 1	政治的なものの概念：友と敵の区別、臨戦体制または戦争国家へ
3	シュミット 2	リベラル・デモクラシーと近代社会への批判：議会のお喋り、娯楽社会化と人間のサル化
4	シュミット 3	権威国家の擁護：独裁と両立する“真のデモクラシー”
5	シュミット 4	ナチズムへの加担
6	アレクサンドル・コジェーヴ 1	欲望の自我：動物的欲望と人間的欲望
7	コジェーヴ 2	生死を賭けた承認をめぐる闘争
8	コジェーヴ 3	主人と奴隷の弁証法から血塗られた革命へ
9	コジェーヴ 4	歴史の終わり：賢者によるホモ・サピエンスの飼育国家
10	ミシェル・フーコー 1	“真理”を語る者は誰か？：近代批判としての系譜学的問い
11	フーコー 2	規律=訓練テクノロジー：権力への自発的服従
12	フーコー 3	司牧者権力と生政治：知と権力の結託による生の監視
13	フーコー 4	近代への抵抗：新しい主体の可能性
14	期末筆記試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習に力点を置くことを勧める。ノートと引用資料をよく読み返し、自らの考察を簡単に書き留めておくことよい。初回授業時に詳しく説明するが、成績評価に際しても考察を重視する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布する引用資料を主に用いる。

【参考書】

藤原保信、飯島昇蔵編著『西洋政治思想史Ⅱ』新評論、1995 年。
杉田敦、川崎修編著『西洋政治思想資料集』法政大学出版局、2014 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80 %）、リアクションペーパー（20 %）。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline and objectives】

It is often said that political theory is born in an age of crisis. In terms of confronting those crises and aiming to solve them, political science has been compared to medical science since ancient times. In this course, we will study some representative contemporary political theories, which confronted, for example, the crisis of two world wars, the human standardization in mass society, the discrimination or elimination of minority, terrorism, populism in democratic society, etc. I will try to ask critical questions on the issues which the contemporary political theories are still confronting. Especially, the question to ask is whether these theories can solve the problems, and if not, what it means to us.

LAW200AB

憲法Ⅳ

國分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「行政・公共政策と法」コースに位置づけられる科目として、日本国憲法のトピックのうち、違憲審査制、安全保障、財政などの論点について講義を行います。授業では、比較憲法的な視点も踏まえながら、近代立憲主義とその現代の変容という視点から、日本国憲法がどのような民主主義および立憲主義のあり方を想定しているのかを学んでいきます。

【到達目標】

日本国憲法における違憲審査制、安全保障の問題、憲法保障、財政に関する論点を理解するようにします。またそれらを通じて、現代日本における政治的な問題について法的視点から考え、判断できる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメと資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。

学期中に2回ほど〇×式の理解度確認テストを学習支援システム上で行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。質問は質問コーナーの時間を設けてお答えするほか、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと違憲審査制（1）	違憲審査制の歴史と諸類型
2	違憲審査制（2）	憲法訴訟の基礎
3	違憲審査制（3）	憲法判断の方法
4	違憲審査制（4）	判例の展開
5	違憲審査制（5）	違憲審査の基準論とその問題
6	これまでのまとめ	違憲審査についてのまとめ
7	安全保障（1）	日本国憲法の想定する平和と安全
8	安全保障（2）	安全保障を巡る変化と政府見解
9	安全保障（3）	安全保障を巡る現代的課題と憲法
10	安全保障（4）	判例の分析
11	財政（1）	財政民主主義
12	財政（2）	財政に関する憲法的論点
13	憲法保障	国家緊急権と抵抗権
14	民主主義と立憲主義	民主主義論からみた本授業のトピックの意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連する参考書、判例などを事前に読み、授業に臨むようにします。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題や社会問題に関心をもって、憲法の観点から考えてみます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第7版（岩波書店、2019年）
 佐藤幸治『日本国憲法論』（成文堂、2011年）
 野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利『憲法Ⅱ』第5版（有斐閣、2012年）
 辻村みよ子『憲法』第6版（日本評論社、2018年）
 高橋和之『立憲主義と日本国憲法』第5版（有斐閣、2020年）
 元山建・建山真公子編『現代日本の憲法』第2版（法律文化社、2016年）
 渡辺康行・宍戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法Ⅱ 総論・統治』（日本評論社、2020年）
 長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）
 など

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80％）及び2回の理解度確認テスト（20％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

時間配分に留意したい。また違憲審査論についての説明がわかりにくくなりがちなので、できるだけ平易な説明を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回のレジュメや資料は学習支援システム上にアップし、理解度確認テストも学習支援システム上で行う予定です。講義自体もオンラインになる可能性がありますので、インターネットでアクセスできる環境を準備しておいて頂くようお願い致します。

【Outline and objectives】

This course will focus mainly on the issues of the constitutional review system, the fiscal system, and the national security under the Constitution of Japan.

LAW200AB

憲法Ⅲ

國分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「行政・公共政策と法」コースに位置づけられるものとして、憲法の統治機構の諸問題を扱います。立法、行政、司法という水平的権力分立と中央と地方という垂直的権力分立の二つの側面から、日本の統治機構のあり方を勉強します。また、立憲主義の発展過程の中で権力分立制がどのように展開されてきたか、さらにそれが民主主義論とどのように結びついているのかを比較法的な視点も踏まえて考察します。

【到達目標】

日本国憲法における権力分立制のあり方を通し、民主主義と立憲主義の関係を理解することが目標です。具体的には、国会、内閣、裁判所、地方自治に関する憲法上のトピックを学び、統治機構の枠組とその現代的变化の状況を把握することを目指します。また振り返って権力分立制がなぜ必要なのか、日本の政治社会の動向の中で統治のしくみがどうあるべきなのかを自ら考えてゆく力を身につけることをも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメや資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。

学期中に2回ほど〇×式の理解度確認テストを学習支援システム上で行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。質問は質問コーナーの時間を設けてお答えするほか、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと本講義の序論	授業の進め方について
2	権力分立	権力分立制の歴史的展開と現代的变化 日本国憲法における権力分立制の枠組と日本国憲法下の天皇制の位置づけ
3	国民主権	国民主権の意味
4	選挙	日本国憲法下の選挙制度とその諸問題
5	国会（1）	国会の権限と活動
6	国会（2）	国会議員の地位
7	内閣（1）	日本国憲法における議院内閣制と内閣の権限を巡る諸問題
8	内閣（2）	総理大臣の地位と権限
9	これまでのまとめ	日本の議院内閣制の比較法的位置づけ
10	裁判所（1）	司法の機能
11	裁判所（2）	司法権の限界
12	裁判所（3）	裁判所の組織と司法権の独立
13	地方自治	地方自治を巡る諸問題
14	これまでのまとめ	後半のまとめと全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で挙げる参考書を事前に読んで授業に臨みます。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、関連判例などを自分で調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題に関心をもって、憲法との関連で考えてみるようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（出版社は指定しないので、使いやすいものを選ぶこと。）

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第7版（岩波書店、2019年）
佐藤幸治『日本国憲法論』（成文堂、2011年）
野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利『憲法Ⅱ』第5版（有斐閣、2012年）
辻村みよ子『憲法』第6版（日本評論社、2018年）
高橋和之『立憲主義と日本国憲法』第5版（有斐閣、2020年）
元山建・建石真公子編『現代日本の憲法』第2版（法律文化社、2016年）
渡辺康行・宍戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法Ⅱ 総論・統治』（日本評論社、2020年）
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）
など

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80％）及び理解度確認テスト（20％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

もう少し時事的な内容を加味して授業をできるように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を予定し、レジュメ等の資料も学習支援システムにアップしますので、ウェブで受講できるための機器をご準備ください。

【Outline and objectives】

This lecture will focus on the issues of government institutions in terms of comparative perspectives of constitution.

LAW200AB

法学特講（コンテンツビジネスの実相と知的財産権）

安田 和史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「デジタルコンテンツ白書 2020」（デジタルコンテンツ協会）の調査によると、2019 年のコンテンツ産業の市場規模は 12 兆 8,476 億円（前年比 101.0%）8 年連続して堅調に推移しているとされる。

コンテンツビジネスは、流通や収益構造などに大きな変化があらわれており、毎年キープレイヤーが入れ替わっている。また、コンテンツビジネスは多岐の分野にわたるが、授業では大きな変化が見られているゲーム市場、出版市場、および、近年エンタテインメント化が進む広告をテーマに、法的な課題等を交えて解説を行う。

また、授業では、ゲストスピーカーとして各分野の専門家および実務家を招致し、受講者の理解を深めたいと考えている。

（なお、ゲストスピーカーのスケジュールによりシラバスの順番が入れ替わる場合がありますのでご了承ください。また、COVID - 19 の影響により、インタビュー動画の配信になったり、LIVE 配信を行う場合がありますのでご了承ください。）

この授業は、知的財産法に分類される法律のうちコンテンツビジネスに関連するものを中心として学ぶことを内容とするが、知的財産法を横断的に取り扱うことになる。従って、知的財産法Ⅰ～Ⅲ【武生昌士】および法律学特講（知的財産法の今日的課題）【武生昌士】を受講している（あるいは、将来受講する）と全体的な理解が深まるようになると思われることから推奨する。

「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「行政・公共政策と法コース」、「文化・社会と法コース」などを中心に幅広く関連を有し得る。

【到達目標】

コンテンツビジネス（ゲーム、出版、広告）にかかる法的問題について理解し、それを解消するための考え方を身につける。授業では、判例や実務的な解決手段等を紹介するが、問題解決の手段はそれだけに留まらない。この授業あるいはそれ以外で得た知識をフル活用して、自分であればどのような解決手段を提案できるかということを考えられるようになってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、コンテンツビジネス市場についてゲーム、出版、広告を主要なテーマに掲げ、最新技術の動向を交えながら、コンテンツと法に関する解説を行う。また、ある程度ビジネス環境等の理解ができたところで、法的問題について海賊版サイト問題や、ゲームのチャートに関する法的な問題など、皆さんに身近なケースを紹介しながら解説し理解を深める。知識を深めるということも重要であるが、問題解決のための考え方を養ってもらいたい。

授業形態は、講義形式で行う。また、教室を使うことが可能であれば実務家を招いて体験学習やワークショップを行うことも考えている。

講義の後にリアクションペーパーを回収する。その中で、質問等がある場合には記載してもらい、翌週の冒頭で質問に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コンテンツビジネスの実相と知的財産の概要	初回講義では、講義の進め方および講師の紹介、成績評価の方法などについて説明を行う。また、現在のコンテンツ市場について、解説を行う。
2	コンテンツビジネスの実相と知的財産～プロテクト技術と知的財産法～	ゲームは、ゲーム機側とソフト側双方にプロテクトがかけられており、違法なソフトは起動しない技術的な工夫がされている。しかしながら、このような手段を回避するための装置やプログラムを提供する者が存在しており、この対応として著作権法や不正競争防止法の規定が用いられる。近年においては、民事対応のみならず、不正競争防止法による刑事対応および、関税法における水際措置が効果を上げている。授業では、ゲームの技術的保護と関連法に関する具体例を中心に解説する。

- 3 コンテンツビジネスの実相と知的財産～通信規格・メモリ等のインフラ～
- ゲーム機やソフトウェアの流通において、メモリーや通信関連技術、ファイル圧縮技術等の標準化が不可欠となる。標準化は、複数の企業が所有する特許権をプールすることで成立する。これらの特許は **FRAND** 宣言され、公正、合理的かつ非差別的な条件（**FRAND** 条件）でライセンスされることになる。しかしながら、**FRAND** 条件の前提があったとしても、特許権者とこれらの特許を使用する者との間でライセンス交渉が行われるにあたり、具体的な条件等について折り合わず紛争が起きている。**FRAND** に関する問題は、日本のみならず国際的な問題であることから、日米欧の現状について解説する。オンラインゲーム市場は、コンテンツ市場の中でも極めて好調である。ソーシャルモデルとフリーミアムモデルによる相乗効果もあり、高収益化に成功している。他方で、オンラインゲームは悪質なユーザーによる「チート」行為の被害が深刻化している。チート行為は、ゲーム内の秩序を破壊し、企業に経営上の被害をもたらす。授業では、チート行為の一部が、知的財産法による法的対応が可能であり、民事対応による損害賠償請求や刑事対応が効果をあげていることについて解説する。ゲームアプリは、Apple の App Store や google の Google Play 等を通じてダウンロードされており、その総数は、其々 200 万以上とも言われている。このように競争が激しいゲームアプリ市場において、自社のゲームコンテンツを知的財産権等により保護することは極めて重要である。AR 技術・スマホの位置情報技術を用いたゲームアプリが世界中で大ヒットしているが、関係各社は技術やキャラクターについての知的財産権による保護に余念がなく現在のところ同種のゲームアプリの追随を許していない。また、スタートアップ系の企業に勢いのあるゲームアプリ業界であるが、知的財産権のクリアランスが不十分であれば、将来の経営リスクになる。授業では、具体的な紛争事例等を交えながら、ゲームアプリの知的財産権による保護について解説する。
- 4 コンテンツビジネスの実相と知的財産～オンラインゲーム（1）～
- バーチャルリアリティ（VR）技術の動向について、専門家を招いて解説を行う。また、許される範囲で VR 技術のデモ等を行いたいと考えている。（受講人数によって、授業内容や体験方法が異なることをご了承ください）バーチャルリアリティ（VR）技術の動向について、専門家を招いて解説を行う。また、許される範囲で VR 技術のデモ等を行いたいと考えている。（受講人数によって、授業内容や体験方法が異なることをご了承ください）広告は、法的な制約を受けており、その枠組みの中でクリエイターが制作を行っている。具体的には、他人の知的財産権等をはじめとする権利を侵害しないように留意する必要がある他、広告に関連する法的規制も存在している。授業では、これらの法的規制および広告コンテンツの創作との関係について解説する。
- 5 コンテンツビジネスの実相と知的財産～オンラインゲーム（2）～
- コピー、ネーミング、デザイン、ストーリー等、ひと口に「広告クリエイティブ」と言っても様々なクリエイティブが存在する。企業は広告会社とタッグを組み、それらを駆使してブランディングや販売促進に励んでいる。授業では、実際に広告業務に携わるクリエイターもゲストとして参加し、前回解説した法的問題も加味しつつ、広告クリエイティブの実相について具体的に解説する。
- 6 コンテンツビジネスの実相と知的財産～x R 関連の最新技術の体験授業もしくは専門家からのインタビュー 1～
- コピー、ネーミング、デザイン、ストーリー等、ひと口に「広告クリエイティブ」と言っても様々なクリエイティブが存在する。企業は広告会社とタッグを組み、それらを駆使してブランディングや販売促進に励んでいる。授業では、実際に広告業務に携わるクリエイターもゲストとして参加し、前回解説した法的問題も加味しつつ、広告クリエイティブの実相について具体的に解説する。
- 7 コンテンツビジネスの実相と知的財産～x R 関連の最新技術の体験授業もしくは専門家からのインタビュー 2～
- コピー、ネーミング、デザイン、ストーリー等、ひと口に「広告クリエイティブ」と言っても様々なクリエイティブが存在する。企業は広告会社とタッグを組み、それらを駆使してブランディングや販売促進に励んでいる。授業では、実際に広告業務に携わるクリエイターもゲストとして参加し、前回解説した法的問題も加味しつつ、広告クリエイティブの実相について具体的に解説する。
- 8 コンテンツビジネスの実相と知的財産～広告コンテンツの創作と法的制約～
- コピー、ネーミング、デザイン、ストーリー等、ひと口に「広告クリエイティブ」と言っても様々なクリエイティブが存在する。企業は広告会社とタッグを組み、それらを駆使してブランディングや販売促進に励んでいる。授業では、実際に広告業務に携わるクリエイターもゲストとして参加し、前回解説した法的問題も加味しつつ、広告クリエイティブの実相について具体的に解説する。
- 9 コンテンツビジネスの実相と知的財産～広告コンテンツにおけるクリエイティブの実相（1）～
- コピー、ネーミング、デザイン、ストーリー等、ひと口に「広告クリエイティブ」と言っても様々なクリエイティブが存在する。企業は広告会社とタッグを組み、それらを駆使してブランディングや販売促進に励んでいる。授業では、実際に広告業務に携わるクリエイターもゲストとして参加し、前回解説した法的問題も加味しつつ、広告クリエイティブの実相について具体的に解説する。
- 10 コンテンツビジネスの実相と知的財産～広告コンテンツにおけるクリエイティブの実相（2）～
- コピー、ネーミング、デザイン、ストーリー等、ひと口に「広告クリエイティブ」と言っても様々なクリエイティブが存在する。企業は広告会社とタッグを組み、それらを駆使してブランディングや販売促進に励んでいる。授業では、実際に広告業務に携わるクリエイターもゲストとして参加し、前回解説した法的問題も加味しつつ、広告クリエイティブの実相について具体的に解説する。
- 11 コンテンツビジネスの実相と知的財産～出版市場のデジタル化と流通の変化～
- コピー、ネーミング、デザイン、ストーリー等、ひと口に「広告クリエイティブ」と言っても様々なクリエイティブが存在する。企業は広告会社とタッグを組み、それらを駆使してブランディングや販売促進に励んでいる。授業では、実際に広告業務に携わるクリエイターもゲストとして参加し、前回解説した法的問題も加味しつつ、広告クリエイティブの実相について具体的に解説する。
- 12 コンテンツビジネスの実相と知的財産～違法サイトに対する出版社の戦い～
- コピー、ネーミング、デザイン、ストーリー等、ひと口に「広告クリエイティブ」と言っても様々なクリエイティブが存在する。企業は広告会社とタッグを組み、それらを駆使してブランディングや販売促進に励んでいる。授業では、実際に広告業務に携わるクリエイターもゲストとして参加し、前回解説した法的問題も加味しつつ、広告クリエイティブの実相について具体的に解説する。
- 13 令和 2 年著作権法改正と海賊版対策
- コピー、ネーミング、デザイン、ストーリー等、ひと口に「広告クリエイティブ」と言っても様々なクリエイティブが存在する。企業は広告会社とタッグを組み、それらを駆使してブランディングや販売促進に励んでいる。授業では、実際に広告業務に携わるクリエイターもゲストとして参加し、前回解説した法的問題も加味しつつ、広告クリエイティブの実相について具体的に解説する。
- 14 コンテンツビジネスの実相と知的財産 まとめ
- コピー、ネーミング、デザイン、ストーリー等、ひと口に「広告クリエイティブ」と言っても様々なクリエイティブが存在する。企業は広告会社とタッグを組み、それらを駆使してブランディングや販売促進に励んでいる。授業では、実際に広告業務に携わるクリエイターもゲストとして参加し、前回解説した法的問題も加味しつつ、広告クリエイティブの実相について具体的に解説する。

広告キャンペーンをプランニングする際、その軸になることが多いのが「コピー」である。コピーとは、綺麗な飾り言葉ではなく、企業の哲学や戦略が内包された「言葉のアイデア」と言える。講義では、広告会社で広告プランニング業務や若手育成に携わるクリエイターもゲストとして参加し、前回解説した内容を加味しつつ、実際にコピーを企画する体験学習を実施する。デジタル出版が可能となったことで、出版社を介さずに、直接出版することが可能になった。出版社を介した出版の場合、作家に入る印税は 10 % である。他方で、大手の電子出版サービスを利用すると、70 % が作家に入ることになる。このような事実から、出版社が将来的に不要になるのではとの考え方も成立し得るが、プロの作家は必ずしもそのようには考えていない。この問題をひも解くために、作品の創作において出版社がどのような役割を担っているのかという点、および、法的立場を明らかにした上で、「デジタル出版時代には出版社は不要か？」という点を考察する。インターネット上の違法コンテンツについては、米国 **DMCA** に準拠した方式（我が国ではプロ責任法）による削除申請をサイト事業者によって削除される場合がある。また、これらはサイトによっては検出から削除まで自動化されており一定の効果を上げていて作業効率も上がっている。講義では、出版社による海賊版対策の実際と法的対抗手段について解説する。海賊版サイトは、毎年のように姿や国を変え、コンテンツ事業者を翻弄している。講義では、まず新たな対抗手段として導入された令和 2 年著作権法改正について解説する。なお、法改正は行われたものの、既に現行法では対応が難しい海賊版サイトが数多く存在している状況にある。これらの実態を明らかにするとともに、今後さらにどのような対抗手段が可能かについて検討する。コンテンツビジネスの実相と知的財産について総括する。また、この講義の時点で起きている注目すべき事例などがあれば解説を行う。その他、期末レポートの課題について説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布レジュメの内容について十分に復習すること。事前配布した資料については、授業当日までに内容について検討しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、レジュメを必要に応じて配布します。なお、プロジェクトターには投影できても、事情により配布できない資料もありますのでご了承ください。

【参考書】
経済産業省 商務情報政策局（監修）『デジタルコンテンツ白書 2021』一般財団法人デジタルコンテンツ協会（2021 年 8 月）
総務省『令和 2 年版 情報通信白書』※総務省ウェブサイト無料で取得可能。
『逐条解説 不正競争防止法』※経産省ウェブサイト無料で取得可能。
前田健他編著『図録 知的財産法』（弘文堂、2021 年 02 月）
その他、島並良ほか『著作権法入門〔第 2 版〕』（有斐閣、2016）、田村善之『知的財産法〔第 5 版〕』（有斐閣、2010）、中山信弘『著作権法〔第 2 版〕』（有斐閣、2014）、茶園成樹編『知的財産法入門〔第 2 版〕』（有斐閣、2017）、茶園成樹編『不正競争防止法』（有斐閣、2015）、土肥一史『知的財産法入門〔第 16 版〕』（中央経済、2019）、藤野仁三（著、編集）= **FRAND** 研究会（編集）『標準必須特許ハンドブック SEP HANDBOOK〔第 2 版〕』発明推進協会（2021 年 4 月予定）など。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパー [30%]+期末レポート [60%]+平常点 [10 %]
リアクションペーパーの回収は当日のみ。公欠を除き、事後提出は認めません。期末レポートの課題は、12 月初旬に講義の中で提示します。
Google classroom を使用します。
平常点は、授業への積極的な取り組みなどを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
コンテンツビジネスと知的財産法の問題の中でも、現在ニュースなどで報じられている問題や、皆さんの身近で起きている問題、皆さんが抱えている疑問などについては、質問をしてもらえれば、可能な限り講義で取り扱うようにします。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各回の冒頭に配布します。授業支援システムにも誤記等を修正したものを適宜アップロードします。

【その他の重要事項】

知的財産法などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけます。

【Outline and objectives】

Lectures on content business and intellectual property law.

LAW200AB

法学特講（芸術振興の法と政策－アート・ロー入門－）

澤田 悠紀

授業形式：講義 ｜ 開講セメスター：サマーセッション/Summer Session

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アリストテレスは「芸術は自然を模倣する」と述べ、オスカー・ワイルドは「自然は芸術を模倣する」と述べたとされる。自然のみならず、社会もまた必ずしも私たちの外にあるのではなく、私たちの見方によって自己の内に築き上げられるものからなるとすれば、社会につき斬新な見方を提供する作品とじっくり向き合うことは、いわゆる"社会科学"的なものの見方を相対化し、それを新たな角度から検討しなおすことを可能にする。

この授業では、芸術と法の交錯領域における様々な実例を紹介しながら、社会の見方の多様性に触れ、現代社会における理想的な法のあり方を自ら思考していくための基礎を養う。

この科目は、「文化・社会と法コース」に属している。

【到達目標】

- ①表現をめぐる国内外の様々な事案について学ぶ。
- ②「芸術とはなにか」「法とはなにか」について熟考する。
- ③今後、表現にまつわる社会的な問題に遭遇した際、どのような解決が図られ得るか、自ら思考することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド型による講義と、Zoom によるプレゼンテーション・討論との組み合わせにより進める。「その他の重要事項」を参照。シラバスに生ずべき変更については学習支援システムにて通知するので、随時確認のこと。授業内にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方・扱うトピックの紹介など
第 2 回	芸術と憲法 1	問題提起
第 3 回	芸術と憲法 2	表現の自由
第 4 回	芸術と民法	作品の使用・収益・処分
第 5 回	芸術と刑法	贋作・盗品・盗作
第 6 回	芸術と著作権法 1	創作
第 7 回	芸術と著作権法 2	模倣
第 8 回	芸術と意匠法	アートとデザイン
第 9 回	芸術と文化財保護/相続税法	私有と公有/寄贈・物納・登録美術品制度
第 10 回	芸術と所得税法・法人税法	寄附金税制・補助金税制
第 11 回	芸術と国際問題	ベルヌ条約・武力紛争の際の文化財保護条約・文化財不法輸出入等禁止条約・主権免除 近年の国内事例より
第 12 回	芸術と食品衛生法・医師法・軽犯罪法など	
第 13 回	まとめ/プレゼンテーション 1	講義内容のまとめ/スクリーンシェアによるプレゼンテーションと質疑応答
第 14 回	プレゼンテーション 2	スクリーンシェアによるプレゼンテーションと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は特に必要ないものの、復習は必ず行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

適宜、授業内において参考となるべき資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

討論参加による授業への貢献 30%（10% × 3回）＋プレゼンテーション 40%

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド型とリアルタイム型（Zoom）とを毎日組み合わせることで、臨場感をもって進行させていきます。

【学生が準備すべき機器他】

ビジュアル（写真・映像・PPT など）を使用したプレゼンテーションをリアルタイムでスクリーンシェアできるパソコン・タブレット・スマートフォン等

【その他の重要事項】

Zoom は原則マイク・カメラをオフで行いますが、討論開始時と終了時（各 1 分程度）、お名前を呼ばれた際、プレゼンテーションを行う際には、カメラをオンにさせていただきます。絶対にカメラをオンにたくないという方は、履修を慎重に検討してください。

【Outline and objectives】

This course lets students explore a diverse array of art law disciplines. Students will examine the functioning of law and policy in the field of arts, paying special attention to how they shape our perception of society.

ECN100AC

財政と金融 I

島澤 諭

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政や金融を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

最終授業で、13 回までの講義内容を振り返り、授業内で行った課題に対する講評や解説を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政の役割（1）	経済活動と政府、財政の役割、大きな政府と小さな政府
第 3 回	財政制度（1）	財政と法律、予算制度
第 4 回	財政制度（2）	財政投融资、地方財政制度
第 5 回	通貨金融についての基礎知識（1）	金融の概念、金融機関の役割
第 6 回	通貨金融についての基礎知識（2）	通貨の概念、通貨の供給、通貨の需要
第 7 回	金融・資本市場（1）	相対市場と公開市場、短期金融市場と長期金融市場
第 8 回	金融・資本市場（2）	金融派生商品市場、オンショア市場とオフショア市場
第 9 回	日本の財政問題（1）	財政赤字の累増、財政赤字の構造的要因
第 10 回	日本の財政問題（2）	財政赤字の問題点
第 11 回	政府支出の理論と実際（1）	政府支出の理論
第 12 回	政府支出の理論と実際（2）	政府支出の膨張要因、政府支出の構造
第 13 回	租税の原則と経済効果（1）	税の役割と租税原則、公平な税とは、課税と経済効率
第 14 回	全体のまとめと復習	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- （1）井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- （2）畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- （3）鈞雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- （4）小黒一正等『財政学 15 講』新世社
- （5）林宜嗣等『財政学（第4版）』新世社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、中間課題（40 %）と期末レポート（60 %）で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

経済企画庁（現内閣府）の行政官として官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

ECN100AC

財政と金融Ⅱ

島澤 諭

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

日本財政や金融、社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障制度、金融政策の効果について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

最終授業で、13 回までの講義内容を振り返り、授業内で行った課題に対する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	社会保障の財政問題Ⅰ (1)	超高齢社会と社会保障
第 3 回	社会保障の財政問題Ⅰ (2)	最低生活の保障、年金問題
第 4 回	社会保障の財政問題Ⅱ (1)	医療と財政
第 5 回	社会保障の財政問題Ⅱ (2)	社会福祉の改革
第 6 回	景気変動と財政政策 (1)	国民所得の決定
第 7 回	景気変動と財政政策 (2)	乗数、ビルトインスタビライザー
第 8 回	景気変動と財政政策 (3)	財政政策の効果
第 9 回	景気変動と金融政策 (1)	通貨と実体経済のかかわり
第 10 回	景気変動と金融政策 (2)	インフレーションとデフレーション
第 11 回	公債の負担 (1)	公債とは、公債発行の問題点、クラウディングアウト
第 12 回	公債の負担 (2)	公債の将来世代に対する負担
第 13 回	公債の負担 (3)	中立命題
第 14 回	全体のまとめと復習	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- (3) 鈞雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- (4) 小黒一正等『財政学 15 講』新世社
- (5) 小塩隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論
- (6) 島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

中間課題 40 %、期末試験 60%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

経済企画庁（現内閣府）の行政官として官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

POL200AD

International Politics

森 聡

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a specialized course that forms a part of the practice-oriented course cluster of the Department of Global Politics, and it is also designated as a Global Open Course.

The course objective is to learn and think about the latest topics in international affairs by using English as the primary language. The first half of the course will cover topics related to international relations in East Asia, and the latter half will cover other topics.

【到達目標】

The three goals of this course are as follows. First, the participant will gain knowledge of the latest debates surrounding various ongoing international affairs. Second, the participants will acquire the basic skill to analyze and understand various phenomena of international affairs through "modeled thinking." Third, the participants will enhance the ability to use English for international politics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」に強く関連。「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

Classes will be held online but may change during the course of the semester. Any changes to the course schedule will be announced through the Study Support System (the university's online courseware). Participants are advised to check announcements on the Study Support System.

オンラインでの開講となるが、状況次第で変更される可能性がある。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度告知する。学習支援システムの「お知らせ」サイトを随時確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Session 1	Introduction	Overview of the course; the levels of analysis problem in international relations.
Session 2	The evolution of international order since the Second World War	Ideal types of international order and the change of international order.
Session 3	The emergence of great power competition	Changing great power relations since the end of the Cold War.
Session 4	U.S.-China relations Part 1	Shifts in U.S. policy toward China
Session 5	U.S.-China relations Part 2	Technological competition
Session 6	U.S.-China relations Part 3	East and South China Seas, the Belt and Road Initiative, the Free and Open Indo-Pacific, the Digital Silk Road, etc.
Session 7	Review Session	Review of the first half of the course content.
Session 8	Denuclearization of North Korea	Diplomacy surrounding the North Korean nuclear crises since the end of the Cold War
Session 9	Alliance politics	Japan-U.S. relations and the North Atlantic Treaty Organization (NATO)
Session 10	The Iran-Saudi rivalry and the Syrian crisis	Consequences of competition over regional hegemony between Iran and Saudi Arabia.
Session 11	New Domains in International Politics	Cyberspace, outer space, and international security.
Session 12	The international economic order	The politics of international trade
Session 13	Transnational issues and international politics	The politics of climate change and the pandemic.

Session 14	Conclusion	The future of international politics and international order. Review of major tasks assigned during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class participants are encouraged to read the international affairs section of a newspaper(s) everyday. Participants should also read assigned readings in advance of the lectures.

本授業の準備学習・復習時間は約 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

The instructor will assign latest articles as appropriate in class.

【参考書】

There are no pre-designated reference books.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on a report.

【学生の意見等からの気づき】

As this course will be taught in English, the speed of the instructor's talk in class will be adjusted as appropriate.

【その他の重要事項】

Lectures will be conducted in English in principle, but Japanese phrases will also be referred to when there is a need for explanation.

A brief review of the contents of the previous session might be conducted in Japanese with the purpose of facilitating the participants' understanding of the subject matter.

The instructor was a former Japanese Foreign Ministry official. He will aim to explain the intricacies of foreign and security policy-making when appropriate.

【国際政治学、アメリカの外交・安全保障政策】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障

<研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など

<主要研究業績>

・川島真・森聡編著『アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序』、東京大学出版会、2020 年。

・"US Technological Competition with China: The Military, Industrial and Digital Network Dimensions," Asia Pacific Review, Vol.26, No.1 (2019), pp.77-120.

・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," Asia Pacific Review, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.

・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018 年 7 月。

・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第 58 号（2016 年 4 月）、23-48 頁。

・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016 年、39-91 頁。

・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968 年』、東京大学出版会、2009 年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。など

【Outline and objectives】

This is a specialized course that forms a part of the practice-oriented course cluster of the Department of Global Politics, and it is also designated as a Global Open Course.

The course objective is to learn and think about the latest topics in international affairs by using English as the primary language. The first half of the course will cover topics related to international relations in East Asia, and the latter half will cover other topics.

POL300AD

国際 NGO 論 I

山口 誠史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

飢餓や貧困、人権侵害、環境破壊など、様々な地球規模の課題がますます深刻化しています。これらの課題に対して、国境を越えて市民の立場から非営利で解決に取り組む NGO の役割が重要になってきています。

NGO の援助においては、物質的な支援よりも、人々の潜在的な能力を強めて、住民自身が自立的に改善に取り組んでいくことを重視しています。このような NGO の開発理念やアプローチを実例から学び、NGO が社会の中で果たす役割と今後の課題を理解し、自分たちに何ができるかを考えることを目的とします。

【到達目標】

- （1）地球規模課題に取り組む NGO の特徴と課題を理解する。
- （2）一人ひとりの市民が、国際協力にどのように関わることができるか、糸口を見つける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

私が実際に途上国や日本国内で経験してきた現場の活動を中心に、パワーポイントやビデオを使って授業を進めます。

講義だけでなく、グループワークや投票・発表など、学生の皆さんにも参加してもらい機会を作ります。

授業終了後に課題またはリアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーについては、次の授業の冒頭で主なコメントの紹介や質問に対する回答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の狙いおよび春学期の授業計画を説明した後、国際協力の背景
第 2 回	日本の NGO の概要	NGO とは何か、日本の国際 NGO の特徴と課題
第 3 回	NGO と ODA	政府が行う ODA の概要と NGO との違い
第 4 回	開発効果	ODA 援助効果と CSO 開発効果およびイスタンブール原則について
第 5 回	MDGs と SDGs	貧困削減や環境保全など世界が共通に目指す国際目標である MDGs と SDGs の背景と課題
第 6 回	教育	途上国の教育問題を理解するために、「世界一大きな授業」を実施する
第 7 回	緊急救援	ソマリアにおける緊急救援を例に、飢餓の原因と NGO による緊急救援活動
第 8 回	貧困と地域開発	バングラデシュの貧困、開発、NGO、ソーシャルビジネス（外部講師）
第 9 回	難民問題	アフガニстанを題材に難民問題に関する概要と現状について

第10回 人道支援	シリアなどの紛争地における人道支援活動
第11回 農村開発	カンボジアにおける農村開発プロジェクトの事例研究
第12回 保健医療 I	カンボジアにおける保健状況と NGO による母子保健プロジェクトの成果
第13回 保健医療 II	東ティモールにおける学校保健プロジェクトの事例研究
第14回 まとめ	春学期の授業の全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において、適時次回授業までの課題および予習内容を指示します。また、1, 2 回のレポート作成を指示します。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使いません。

授業中に使用するパワーポイントを授業支援システムにアップします。

【参考書】

- ・めざすは貧困なき世界、高柳彰夫、フェリス女学院大学
- ・SDGs 一危機の時代の羅針盤、南博、稲場雅紀、岩波新書
- ・シェア＝国際保健協力市民の会ウェブサイト

<https://share.or.jp/index.html>

- ・国際協力 NGO センター（JANIC）ウェブサイト

<https://www.janic.org/>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、課題の提出及び内容（50 %）、レポート（10%）、試験または代替レポート（40%）を目安とします。

【学生の意見等からの気づき】

資料については、見やすい資料を作るように心がけるとともに、できるだけ最新のデータを収集して作成します。議論だけでなく、いっしょに作業を行うグループワークを積極的に取り入れたいと思います。

【その他の重要事項】

ソマリア、カンボジアでの 4 年半の駐在を含め、30 年間におよぶ NGO 職員としての経験をもとに、市民による国際協力とは何かを講義する。

【Outline and objectives】

Starvation and poverty, human rights violations, various global problems including the environmental disruption worsen more and more. For these problems, the role of the NGO which works on solution from a civic viewpoint becomes important. In the help of the NGO, it is important that strengthen the potential ability of people than material support, and people themselves work on improvement autonomously. You learn an idea and the approach of such an NGO and I expect that you think about what you can do to solve global problem.

POL300AD

国際 NGO 論 II

山口 誠史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

飢餓や貧困、人権侵害、環境破壊など、様々な地球規模の課題がますます深刻化しています。これらの課題に対して、国境を越えて市民の立場から非営利で解決に取り組む NGO の役割が重要になってきています。

NGO の援助においては、物質的な支援よりも、人々の潜在的な能力を強めて、住民自身が自立的に改善に取り組んでいくことを重視しています。このような NGO の開発理念やアプローチを実例から学び、NGO が社会の中で果たす役割と今後の課題を理解し、自分たちに何ができるかを考えることを目的とします。

【到達目標】

- （1）地球規模課題に取り組む NGO の特徴と課題を理解する。
- （2）一人ひとりの市民が、国際協力にどのように関わることができるか、糸口を見つける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

私が実際に途上国や日本国内で経験してきた現場の活動を中心に、パワーポイントやビデオを使って授業を進めます。

講義だけでなく、グループワークや投票・発表など、学生の皆さんにも参加してもらう機会を作ります。

授業終了後に毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭で主なコメントの紹介や質問に対する回答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	HIV/AIDS I	HIV/AIDS の概要とアジアにおける事例
第2回	HIV/AIDS II	アフリカにおける HIV/AIDS の事例
第3回	環境	ラオスにおける森林プロジェクトの事例研究
第4回	在日外国人支援	在日外国人の健康問題に取り組む NGO の事例研究
第5回	国内における緊急救援	東日本大震災における国際協力 NGO の活躍と課題
第6回	NGO 間のネットワーク	ネットワークの意義と NGO 間の連携
第7回	企業との連携	NGO と企業との連携の意義と事例研究
第8回	BOP ビジネス	途上国における NGO と企業との連携
第9回	NGO の組織運営とアカウンタビリティ	NGO の組織の特徴と、NGO 活動を支える組織運営の概要
第10回	NGO の財務とファンドレイジング	NGO の財務構造とそれを支えるファンドレイジング（資金集め）
第11回	プロジェクト立案入門編	ひとつのエピソードをきっかけに、問題分析から事業立案を体験

第12回 政策提言 I	地球規模の課題に対する提言活動の事例として、対地雷廃絶の道を解説
第13回 働く場としての NGO	NGO の職場環境や待遇を含む NGO の現状とリクルートまでのプロセス
第14回 まとめ	秋学期全体の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において、適時次回授業までの課題および予習内容を指示します。また、1、2 回のレポート作成を指示します。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使いません。授業中に使用するパワーポイントを授業支援システムにアップします。

【参考書】

- ・めざすは貧困なき世界、高柳彰夫、フェリス学院大学
- ・SDGs 一危機の時代の羅針盤、南博、稲場雅紀、岩波新書
- ・あの日私たちは東北へ向かった 国際協力 NGO と 3・11、国際協力 NGO センター、早稲田大学出版部
- ・シェア＝国際保健協力市民の会ウェブサイト <https://share.or.jp/index.html>
- ・国際協力 NGO センター（JANIC）ウェブサイト <https://www.janic.org/>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、課題の提出及び内容（50 %）、レポート（10%）、試験または代替レポート（40%）を目安とします。

【学生の意見等からの気づき】

資料については、見やすい資料を作るように心がけるとともに、できるだけ最新のデータを収集して作成します。議論だけでなく、いっしょに作業を行うグループワークを積極的に取り入れたいと思います。

【その他の重要事項】

ソマリア、カンボジアでの 4 年半の駐在を含め、30 年間におよび NGO 職員としての経験をもとに、市民による国際協力とは何かを講義する。

【Outline and objectives】

Starvation and poverty, human rights violations, various global problems including the environmental disruption worsen more and more. For these problems, the role of the NGO which works on solution from a civic viewpoint becomes important. In the help of the NGO, it is important that strengthen the potential ability of people than material support, and people themselves work on improvement autonomously. You learn an idea and the approach of such an NGO and I expect that you think about what you can do to solve global problem.

POL300AD

国際文化交流 I

牧田 東一

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：国際関係論の中で扱われる文化の問題について基本的な理解をしたうえで、歴史的な経緯を追いながら、今日の国際関係の基層となっている、国民国家と文化の関係、帝国主義時代の宗主国と植民地の文化関係、脱植民地化の過程で問われてきた文化的依存関係等について、何が不正であるのか、何が問題であるのかを考える。授業の目的・意義：国際政治の本質を理解するために、文化という国家のもっとも基礎的な部分を理解し、国際政治・国際関係の動因の重要な要素としての文化が分かるようになる、ことを目的とする。

【到達目標】

国際関係論で取り上げられる文化は他の学問領域における文化とは異なり、国際政治に影響を与えるものとしての文化である。その点をまず理解することが必要である。その上で、普遍に捉えられる国際関係に、文化の違いがどのように影響するのかを理解すること。今日の国家間関係の中で文化の問題とされる諸課題の歴史的経緯を理解すること。そこで、何が不正なのかを理解すること。さらに、国家がどのように文化を国家アイデンティティの表象として用いるのかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、Youtube を使った授業ビデオを事前に見て、授業当日に Zoom（オンライン会議アプリ）を用いてオンライン授業を行います。Zoom は無料で簡単にダウンロードできます。詳しくは、授業支援システムの「授業内掲示板」を見てください。事前に、授業支援システムの「教材」に、①すべての回のレジュメ（PDF）および 30 分 x 2 つ程度の Zoom を使った授業録画ビデオを開始の週の日曜日までにアップします。それを予め見て予習の上、時間割通りの時間に Zoom 授業に参加してください。授業では、主にテーマを与えてグループディスカッションを行います。30～40 分程度です。その後、10～15 分程度、授業支援システムを使つての小テストを行います。成績評価は小テストの平均値（50 %）と期末レポート（50 %）とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：国際関係における文化の問題	国際関係という政治経済を中心とする領域において、文化がどのように扱われるのか。
第 2 回	ナショナリズムと国民国家	国家の成立と文化の関係をナショナリズムの観点から理解する。
第 3 回	伝統とは何か：伝統の創造	国家と文化の関係において重要な「伝統」の操作について。
第 4 回	帝国主義と文化政策	国民国家とはことなる帝国における支配政策が被支配民族の文化をどのように扱うのか。
第 5 回	文化国際主義	国家を超えようとする国際主義は、どのように多様な国際社会の文化を扱うとするのか。
第 6 回	近代化へのアンチテーゼ、文化相対主義	帝国主義支配への反省から、人類文化の普遍性に挑戦する文化相対主義の考え方とは何か。
第 7 回	文化変容の理論、文化触変論	国際交流、異文化接触によって、文化はどのように変容するのか。
第 8 回	文化帝国主義批判	欧米文化の不当な影響力を批判する文化帝国主義批判とは何か。
第 9 回	文明の衝突論	ハンチントンの文明の衝突論の内容とそれへの批判。
第 10 回	原理主義	冷戦後の宗教の重要性和原理主義の国際社会への影響を考える。
第 11 回	欧米諸国の対外文化政策	国家が文化を用いて対外政策を組み立てるという観点から、欧米諸国の外交における文化の位置づけを考える。
第 12 回	日本の対外文化政策	明治以降の近代日本は、どのように外に対して自らの文化を表象してきたのか。

第 13 回	地域形成のための域内文化協力	EU 統合に見られる新しい欧州人アイデンティティ形成に向けての EU 文化政策とは何か。
第 14 回	ユネスコと文化政策	世界遺産登録というユネスコの人類規模の文化政策はどのような意味があるのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の各回で参考文献を紹介するので、関心のあるテーマについて、自ら進んで勉強を進めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めない。

【参考書】

参考文献は授業の各回にレジュメで示す。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加 50 %、レポート 50 %。（レポートは 1 回）。授業への参加は、第 1 回を除いて、小テストを行い、その点数の平均とする。遅刻の場合は、小テストの点数を半分とするので、遅刻しないように。レポートは、授業の中盤で課題を示す。参考文献を最低 1 冊読んで、課題について自分の意見をまとめる。提出は授業支援システムを利用。小テストの採点については、簡単なコメントをつける他、次の回の授業の際に、共通の問題点（減点の理由）を解説し、また高得点の回答の内容を紹介するなど、フィードバックを行う。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline and objectives】

This lecture deals with the various issues related culture in International Relations. It follows historical course of cultural issues appeared, including relationship between nation state and culture, cultural relations between Capital country and its colonies during imperialism period, problems of cultural dependency voiced in the process of decolonization, focusing on unfairness and real problems raised.

The students are expected to understand the issue of culture that is the base of nation and an important factor of dynamism of international politics.

POL300AD

国際文化交流Ⅱ

牧田 東一

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：国際移民の問題を多文化共生の観点から理解する。日本の多文化状況について理解を深めると同時に、他の先進国における移民政策や移民の人権擁護について理解する。

授業の目的・意義：国際移民を国際関係における一つの避けがたい現象であることをまず理解し、客観的な観点、また国際人権の観点から考える姿勢を身につけることを目的とする。その前提の上で、政府がとりうる政策について、最終的には日本の政策の可能性について、自ら考えるための基礎的な知識を身につける。

【到達目標】

日本を含む先進国の多文化状況の現状、原因、課題について理解する。移民問題の一つの対処方法である多文化主義の理念と現実について、海外の事例を含めて理解する。日本における多文化共生の理念と現実について理解する。日本の移民に対する政府、自治体、市民社会の政策や活動について、内容と課題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、事前に youtube を使って講義ビデオを見て、授業当日は Zoom（オンライン会議アプリ）を用いてオンライン授業を行います。Zoom は無料で簡単にダウンロードできます。詳しくは、授業支援システムの「授業内掲示板」を見てください。事前に、授業支援システムの「教材」に、①すべての回のレジュメ（PDF）および 30 分 x 2 つ程度の Zoom を使った授業録画ビデオを授業の週の日曜日までにアップします。それを予め見て予習の上、時間割通りの時間に Zoom 授業に参加してください。授業では、主にテーマを与えてグループディスカッションを行います。30～40 分程度です。その後、10～15 分程度、授業支援システムを使つての小テストを行います。成績評価は小テストの平均値（50 %）と期末レポート（50 %）とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際移民の時代	国際移民を歴史的に概観し、グローバル化と移民の関係を理解する。
第 2 回	在日韓国朝鮮人の移民の原因	帝国主義の時代の遺産である旧植民地出身者の中で最大集団である在日韓国朝鮮人の形成を歴史的に理解する。
第 3 回	在日韓国朝鮮人の社会生活、文化	戦後日本において、在日韓国朝鮮人がどのように生きてきたのか、その社会的貢献を含めて理解する。
第 4 回	アジア系新移民	1970 年代以降のアジア系の新移民について、その原因や置かれた状況を理解する。
第 5 回	日系移民	1990 年代にアジア系に取って代わった中南米からの日系移民の原因と現状を理解する。
第 6 回	フランス、ドイツの移民問題	フランスとドイツの移民問題、移民政策の基本を理解する。
第 7 回	イギリスの移民問題、多文化主義	イギリスの移民問題、多文化主義の思想を理解する。
第 8 回	アメリカの移民問題、多文化主義	アメリカの移民問題、多文化主義を理解する。
第 9 回	カナダの多文化主義	カナダの移民問題、多文化主義を理解する。
第 10 回	オーストラリアの多文化主義	オーストラリアの移民問題、多文化主義を理解する。
第 11 回	在日外国人が抱える諸問題	在日外国人の人々が抱えている様々な問題を広く把握する。
第 12 回	日本の移民政策の変化と現状	日本政府の移民政策を歴史的に見ると同時に、現状の課題を考える。
第 13 回	地方自治体の外国人政策の変化と現状	地方自治体で行われている外国籍住民への政策を神奈川県を例に見る。
第 14 回	民間 NPO による外国人支援	外国人支援を行っている民間団体、NPO の活動の特徴、限界などを見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる様々なテーマについて、参考文献を自ら読み進め、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めない。

【参考書】

参考文献は授業の各回にレジュメで示す。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 50 %、レポート 50 %。（レポートは 1 回）。授業への参加は、第 1 回を除いて、小テストを行い、その点数の平均とする。遅刻の場合は、小テストの点数を半分とするので、遅刻しないように。レポートは、授業の中盤で課題を示す。参考文献を最低 1 冊読んで、課題について自分の意見をまとめる。提出は授業支援システムを利用。小テストの採点については、簡単なコメントをつける他、次の回の授業の際に、共通の問題点（減点の理由）を解説し、また高得点の回答の内容を紹介するなど、フィードバックを行う。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

This lecture deals with problems related to migration and multicultural situation in the recipient society, focusing on Japanese situation, but it also deals with immigration and human rights policy in other developed countries.

The students are expected to understand international migration as an unavoidable phenomenon of the present world and see it from objective viewpoint and international human rights protection. Then, they are also expected to acquire knowledge to think by themselves possible government migrant policies in Japan.

POL300AD

アジア国際政治概論

水野 孝昭

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの「戦争」について、戦前と戦後の日本、米国、ベトナム、南北朝鮮、中国・台湾などそれぞれの視点から考えていきます。「民族解放」「祖国統一」という理念が現実の国際政治の中でどう機能してきたのか、米中対立が再燃している背景は何か、なぜ朝鮮半島の分断は続くのか、などアジア太平洋での「新冷戦」を考えていきましょう。

【到達目標】

21 世紀の東アジアの国際関係を理解する前提として歴史的背景と構造を押さえる。軍事パワーとしての大日本帝国とその崩壊、米国の覇権と「民族解放」のイデオロギーの衝突としての朝鮮戦争とベトナム戦争、冷戦後の ASEAN の模索、21 世紀の中国の台頭と米中対立に至る流れを把握する。

現在の日本と各パワー（米国、中国、南北朝鮮、東南アジア）との関係を政治・安全保障、経済、文化・市民社会という各次元で理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半は、東アジアの国際関係の成り立ちについて、エポックメイキングになったそれぞれの時代の「戦争」を軸に検討する。後半は安全保障、領土紛争、歴史認識、経済統合などの現在の争点を取り上げ、受講生がテーマを選択してプレゼンを行い討論する。その質疑を含めて講評する。また最終授業で講義のまとめだけでなく、争点のプレゼンに対する講評や総括質疑も行い、「議論する力」を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「東アジアのパラドックス」／政治と安全保障、経済と文化／地政学とナショナリズム
第 2 回	アジアの「帝国」とパワーシフト	大日本帝国の戦争と植民地支配の遺産／パワーの定義
第 3 回	米国はアジアか？	米国にとっての東アジア／日本の戦略的価値／朝鮮戦争とベトナム戦争
第 4 回	中国：分断国家から超大国へ	中華アイデンティティー／「一带一路」
第 5 回	中国と日本：歴史、領土、外交、経済	米中国交正常化と日中関係／日米中トライアングル
第 6 回	韓国：民主化とナショナリズム	半島国家の地政学 南北統一の展望 日韓関係
第 7 回	北朝鮮：化石体制の行方	金王朝とスターリニズム／核兵器開発と 6 者協議／拉致問題
第 8 回	ベトナム戦争からカンボジア和平：「戦場から市場へ」	独立と民族解放のベトナム戦争／ドイモイと市場経済／対中、対米関係
第 9 回	ASEAN：成長のはざまで	アジア金融危機と開発独裁の問題点／中進国のワナ／
第 10 回	民主化と開発：フィリピンとミャンマー	開発独裁から民主化したフィリピンやインドネシア、軍政のタイ、ミャンマーの経験は？
第 11 回	南シナ海と領土紛争	ASEAN 地域フォーラムなど多国間協調の意義と限界
第 12 回	米中新時代？ 冷戦の再現？	米国の「アジア回帰」と中国の「一带一路」や海洋戦略／
第 13 回	日本外交の選択	日米安保体制とは？朝鮮半島有事シナリオ／対中戦略は？
第 14 回	21 世紀のアジア 講義内容のまとめ	21 世紀の東アジアと日本について総括する。授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

東アジアは、日々動いています。領土紛争や歴史認識について現実に起きている問題について、歴史的文脈を踏まえて論理的に説明できる能力が求められます。英文ニュースサイトを読むなど日々のニュースに敏感になってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しません。
毎回の指定文献は授業の初回で指示します。

【参考書】

毛利和子 『日中漂流』（岩波新書）
服部龍二 『外交ドキュメント 歴史認識』（岩波新書）
図説「ゼロからわかる日本の安全保障」
ジョン・ダワー 『敗北を抱きしめて』（上下）
イアン・ブルマ 『戦争の記憶 日本人とドイツ人』
若宮啓文 『和解とナショナリズム』
植木千可子 『平和のための戦争論』（ちくま新書）
ドン・オーバードファー 『二つのコリア』（共同通信）

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーなど授業参加、平常点が4割。期末試験が6割。
テーマを選んでプレゼンを行い、その内容をまとめたペーパーを提出すること
で期末試験に代えることもできる。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業内容や順序は、できるだけ現実の国際社会の動きに合わせていく
ので、必ずアジアに関する国際ニュースをチェックすること。

【学生が準備すべき機器他】

ipad などネットが閲覧できる情報機器を持参するのが望ましい。

【その他の重要事項】

朝日新聞での30年間の記者経験、とくにハノイ、ワシントン、ニューヨーク
での特派員としての経験をいかして、戦争報道や国際報道のメディアリテラ
シーを高めることを目指す。

【Outline and objectives】

This class tries to provide a fresh look at strategic landscapes
in Asian region through Japan's experiences. Asian countries in
general have been enjoying economic growth and development by
trade and investment. Regional economic integrations and economic
interdependences, however, do not mean political reconciliation nor a
stable regional order. We will examine these trends and think of the
future perspectives in Asia.

POL100AD

中東の政治と社会 I

木村 正俊

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学
生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中東イスラーム世界の宗教と国家の歴史的展開に関する基本的知識
を身につけることを目的とする。同時に、第一次大戦後の中東世界
の政治を考えることに必要な知識を得ることを目指す。

【到達目標】

学生は以下のことが可能になります。

中東地域の政治、歴史、宗教に関する知識の習得。
中東地域と他の地域（特にヨーロッパ）との関係についての理解。
国際政治学や比較政治に関する基本的な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強
く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。
対面授業を行うか、オンラインの場合ライブで行うかなどは受講生
の皆さんと相談して決定する。
課題等に対するフィードバック方法
授業の時に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからい
くつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
#1	Intro.	講義の概要の紹介と講義のやり方
#2	古代末期文明	古代末期文明における宗教
#3	疫病、国家、宗教	ユスティアヌスのペスト
#4	イスラームの出現	古代末期文明とイスラームの出現
#5	初期イスラームとペスト	ペスト／疫病に対するイスラームの原則
#6	イスラームの確立	スンナ派とシーア派
#7	聖戦と正戦	宗教と戦争
#8	黒死病とその後	中東と西ヨーロッパのペストに対する対応の比較
#9	中東の火薬帝国	オスマン朝とサファヴィー朝
#10	預言者の医学	イスラームと医学の関係
#11	国家と疫病	疫病対策に関するオスマン帝国とヨーロッパ諸国の相違
#12	エジプトの近代化	ムハンマド・アリー登場以降のエジプト
#13	オスマン帝国の近代化	オスマン帝国の近代化とヨーロッパ外交
#14	第一次世界大戦へ	講義のまとめと第一次世界大戦後の中東世界の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習および復習のために配布したプリントに目を通すこと。
新聞やインターネットなどを利用して中東で生じている問題に関心
をもつこと。
可能なかぎり紹介された文献を読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。この時間には
各種メディアを通じた中東に関する情報へアクセスすることも含まれる。

【テキスト（教科書）】

テキストの代わりに、毎回プリントを配布する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容に関するレポートのみで評価。

出席は当然であるが、欠席に由来する不利益に関しては何の対応もしません。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であれば ZOOM によるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしてください。

YouTube も視聴できるようにしてください。

【その他の重要事項】

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に 2 時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019 年）を参照してください。

【Outline and objectives】

This course deals with political and religious history of the Middle East from roughly 600 to 1914. The fundamental aim of this course is to acquire the basic knowledge of Christianity, Islam and Judaism, and to consider the relations between politics and religion. In addition, we aim to get a lens through which politics and public affairs can be viewed.

POL100AD

中東の政治と社会Ⅱ

木村 正俊

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一次世界大戦後の中東諸国の政治および中東の国際政治に関する知識とともに、宗教、とくにイスラームと政治に関する知識を身につけてもらうことを目指す。これによって、比較政治学や国際政治学の基本的知識を習得することを目標とする。

【到達目標】

学生は以下のことが可能になります。

中東地域の政治、経済、歴史、宗教に関する知識の習得。

中東地域と他の地域の関係についての理解。

国際政治学や比較政治に関する知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

対面授業を行うか、オンラインの場合ライブで行うかなどは受講生の皆さんと相談して決定する。

課題等に対するフィードバック方法

授業の時に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
#1	Intro.	講義の概要の紹介と講義のやり方
#2	第一次世界大戦と中東世界	イスラーム帝国の解体と国民国家の登場
#3	アラブ・ナショナリズム	アラブ・ナショナリズムの思想・運動と第一次中東戦争
#4	ナセルのエジプト	ナセル時代のエジプトとアラブ世界
#5	ナセル後のエジプト	エジプトの権威主義体制の特徴
#6	イスラームと政治	エジプトのムスリム同胞団とアラブの春
#7	シリア	シリアのバアス党体制
#8	イラク	イラクのバアス党体制とその後
#9	サラフィー主義	サラフィー主義の思想・運動
#10	US と中東	UA の中東政策
#11	湾岸諸国	ガルフ資本主義と湾岸地域国際政治
#12	イラン	革命国家イランと地域国際政治
#13	パレスチナ問題	パレスチナとイスラエル
#14	Outro.	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習および復習のために配布したプリントに目を通すこと。

新聞やインターネットなどを利用して中東で生じている問題に関心をもつこと。

可能なかぎり紹介された文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。この時間には各種メディアを通じた中東に関する情報へアクセスすることも含まれる。

【テキスト（教科書）】

テキストの代わりに、毎回プリントを配布する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容に関するレポートのみで評価。

出席は当然であるが、欠席に由来する不利益に関しては何の対応もしません。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であれば ZOOM によるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしてください。

YouTube も視聴できるようにしてください。

【その他の重要事項】

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に 2 時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019 年）を参照してください。

【Outline and objectives】

This course deals with domestic and regional politics in the Middle East since WW II. The fundamental aim of this course is to acquire the basic knowledge of Christianity, Islam and Judaism, and to consider the relations between politics and religion. In addition, we aim to get a lens through which politics and public affairs can be viewed.

POL300AD

日本の政治と外交Ⅱ

高橋 和宏

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「政治（選挙、政党、派閥）」「外交」「経済」「安全保障」という 4 つを焦点として、1945 年から 2000 年代までの日本の政治・外交の軌跡を政権ごとに検証する。とくに、歴代の首相の役割に注目し、リーダーシップという視点から戦後日本政治外交史についての基礎的な理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

戦後日本の政治外交の歴史的展開を理解し、現代の政治・外交上の課題を歴史的文脈に位置付けて考察できる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式。

対面授業とリアルタイムのオンライン授業（ZOOM）を併用するハイフレックス型の授業を想定している。新型コロナウイルスの影響などで授業方法を変更する場合は学習支援システムを通じて連絡する。各回の授業の最後に小テストを課す。この小テストは学習支援システム上から回答するので、学生は学習支援システムに接続できるノートパソコンやタブレットを準備すること。小テストへのフィードバックは、次の授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、参考文献の紹介
第 2 回	占領・講和期の政治と外交 (1)	東久邇宮稔彦内閣～芦田均内閣
第 3 回	占領・講和期の政治と外交 (2)	吉田茂内閣
第 4 回	高度成長期の政治と外交 (1)	鳩山一郎内閣～岸信介内閣
第 5 回	高度成長期の政治と外交 (2)	池田勇人内閣・佐藤栄作内閣
第 6 回	1970 年代の政治と外交 (1)	田中角栄内閣・三木武夫内閣
第 7 回	1970 年代の政治と外交 (2)	福田赳夫内閣・大平正芳内閣
第 8 回	1980 年代の政治と外交 (1)	鈴木善幸内閣・中曽根康弘内閣
第 9 回	1980 年代の政治と外交 (2)	竹下登内閣・宇野宗佑内閣
第 10 回	1990 年代の政治と外交 (1)	海部俊樹内閣・宮澤喜一内閣
第 11 回	1990 年代の政治と外交 (2)	細川護熙・羽田孜内閣
第 12 回	1990 年代の政治と外交 (3)	村山富市内閣～森喜朗内閣
第 13 回	2000 年代の政治と外交	小泉純一郎内閣
第 14 回	総括	これまでの議論を総括し、戦後日本政治外交を俯瞰的に考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容をよりよく理解するために、参考書を授業の予習・復習に活用すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

五百旗頭真編『戦後日本外交史（第 3 版増訂版）』有斐閣アルマ、2014 年
石川真澄・山口二郎『戦後政治史（第 3 版）』岩波新書、2010 年
宮城大蔵『現代日本外交史』中公新書、2016 年
渡邊昭夫編『戦後日本の宰相たち』中公文庫、2001 年

【成績評価の方法と基準】

小テスト（50 %）

期末試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

映像資料を活用することで、より深い歴史理解を促す。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメの配布や小テストの回答に学習支援システムを利用するので、学習支援システムに接続できるノートパソコンやタブレットを準備すること。

【担当教員の専門分野】

<専攻領域>日本外交史、経済外交論、国際関係史

<研究テーマ>冷戦期の日米関係、国際経済秩序をめぐる日本外交

<主要業績>『ドル防衛と日米関係 高度成長期日本の経済外交 1959~1969年』（千倉書房、2018年）など。

【Outline and objectives】

This course provides students with basic understandings on politics and diplomacy of postwar Japan from 1945 to the 2000s, focusing on the roles of the Prime Ministers and tracing the political, diplomatic, economic, and security issues of each administration.

POL100AD

国際協力論 I

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルス感染の世界的拡大は、今後の世界のあり方を激変させると言われている。世界の片隅で起きた感染が日本を含む先進国に大きな打撃を与えたことで、国際社会が一致団結してこの困難に立ち向かい、途上国での感染拡大防止に取り組むことの重要性は明白になったが、米中の対立や先進諸国の思惑の違いなどで、国際社会が一致できるかはますます不確実となっている。

こうした不安定な世情のなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたうえで、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か（何と考えられているか）を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとづいて、どのような方法で対処しようとしているか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。

次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

出来るだけインターアクティブな授業としたい。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の積極的受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要、成績評価方法等の説明を行う。

2	コロナ危機と途上国	新型コロナウイルスのパンデミックは途上国に急速に広がりつつある。国民の命と生活を守るうえで、途上国政府はどんな課題やジレンマに直面しているかを検討する。
3	コロナ危機と開発援助	国際社会は、パンデミックと戦う途上国を、どのように支援できるだろうか。先進国経済も悪化し、米中の対立が激化するなか、「ポストコロナの世界」における開発援助の将来を考える。
4	途上国が（コロナ危機以前から）直面する課題	途上国が（コロナ危機前から）直面してきた様々な課題を、SDGS（持続可能な開発目標）を参考にしながら広く検討する。
5	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター（援助機関、途上国政府、企業、NGO等）が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした違いがなぜ存在するのかを考える。
8	中間振り返り	これまで学習・議論したことを振り返り、ディスカッションを行う。
9	日本の政府開発援助（ODA）①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本のODAにはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
10	日本の政府開発援助（ODA）②	日本のODAの代表的な事例（借款によるインフラ整備支援や、法整備を目指した技術援助）を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
11	途上国問題と開発援助の新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
12	途上国問題と開発援助の新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
13	ロールプレイング・ゲーム	途上国問題あるいは開発援助に関する具体的なテーマを取り上げ、それに関連するアクター（二国間援助機関、国際機関、途上国政府、NGO等）の役割を各自で分担して実際に戦略立案や交渉を体験するゲームを行う。
14	振り返りと総括	改めて、コロナ危機が我々に突き付けたものを振り返る。それは、途上国だけの問題だろうか？日本を含む先進国にもその問題は存在しないだろうか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、グループディスカッションの準備等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学：「共生の世界」と日本のODA』、有斐閣。

木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開：途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。

木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊：開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】

授業中に提出を求める課題（40％）と最終試験（60％）で成績を評定する予定であるが、履修学生数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義（講師からの説明）の比重を減らし、学生自身が参加し議論する時間の割合を高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無い。途上国問題、開発援助、国際政治経済に関する前提知識も一切必要としない。

■「国際開発論Ⅱ」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）では無いので、その点を十分に理解して臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わずに不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline and objectives】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Japan has been tackling these challenges for over sixty years, by providing aid (Official Development Assistance: ODA) to developing countries with distinctive aid philosophy and unique instruments.

This course firstly introduces a basic knowledge about development issues and Japan's ODA policy. Then students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on global agendas. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD

国際協力論Ⅱ

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国をはじめとする新興国の台頭、米トランプ政権誕生やブレグジットに象徴される「不寛容と不機嫌」な国内世論の醸成と拡散、地域紛争の続発と環境問題の深刻化など、国際政治経済情勢の大きな変動に伴って、まだ誰も答えを見いだせていない人類の難問が次々に生まれている。いわゆる「途上国」において発生する様々な問題にどう対応すべきか、開発援助のあり方をどう変えていくべきかも、こうした難問の一つである。

こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたくえて、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさとしらべを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。

なお、国際情勢の変動や受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性が高い（そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである）。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では、テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの意見の発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に必要な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の積極的受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界の HIV-AIDS 患者の 7 割が集中すると言われ、特に南アフリカ共和国では 30 代前半の女性の罹患率が 36 % という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。
3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどう対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族は共存・和解させるにはどうすればよいのか」を、1990 年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助（平和構築支援）の実例を題材に議論する。

5	途上国が直面する多様な課題④	1970 年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようににはならない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようににはならない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？ アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいまなのか？」という問いを検討する。「汚職腐敗がひどい独裁国家に対しては援助を行うべきではない」という主張の是非を検討する。
6	開発思想と援助手法①	これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実（post-truth）の時代」が来たと言われる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するのかを議論する。
7	開発思想と援助手法②	2015 年に採択された SDGs（持続可能な開発目標）を読み、2000 年に策定された MDGs（ミレニアム開発目標）と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。
8	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序①	「2000 年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行（AIIB）等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。
9	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序②	第二次大戦における敗北から 10 年も経っていない 1954 年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方にどのように影響したかを検討する。
10	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③	日本の ODA は借款を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。
11	日本の政府開発援助（ODA）の特徴①	2015 年に日本政府が発表した「開発協力大綱」を読み、日本が ODA を通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA 大綱（1992 年制定、2003 年改訂）」と比較しながら読み解く。
12	日本の政府開発援助（ODA）の特徴②	これから学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。
13	日本の政府開発援助（ODA）の特徴③	
14	授業内容の振り返りと総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、講義で取り上げる問題について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー（A4 サイズで 2 枚以内）を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。なお、講義のトピックは学生の興味も勘案して決定する（シラバス通りとは限らない）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

近藤康太郎、2020 年、『三行で撃つーく 善く、生きる> ための文章塾』、CCC メディアハウス。
小坂井敏晶、2017 年、『答えのない世界を生きる』、祥伝社。

【成績評価の方法と基準】

授業で提出を求める課題（60 %）およびディスカッションへの積極的参加の度合い（40 %）によって成績を評定する予定（最終試験は行わない）であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自 PC 持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。
 ■途上国問題や開発援助に関する前提知識があることが望ましい。本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無いが、「国際協力論Ⅰ」を併せて受講することを推奨する。
 ■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）ではない。特に、全く発言しないような消極的姿勢の場合には単位を与えないので、その点を十分に理解したうえで履修に臨むよう希望する。
 ■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わず不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline and objectives】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on the global agendas mentioned above. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL300AD

オセアニアの政治と社会Ⅰ

今泉 裕美子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オセアニアは、ミクロネシア、ポリネシア、メラネシアの三地域からなるが、この名称、区分はヨーロッパからの外来者によるものであり、いずれの島も欧米諸国や日本による植民地化や占領の経験を持つ。また、現在の国や非自治地域の単位から見渡すと、大半を占めるのは小さな島嶼である。しかも、これら島嶼は太平洋に生存を依存しており、海からの視点で島じまを捉える必要がある。島尾敏雄は日本列島を「ヤボネシア」と表現したが、複数の島嶼から成り立つ日本列島も太平洋に依存し、オセアニアの島嶼と歴史的に深い関わりをもってきた。しかし日本からのオセアニアへの関心は小さく、あったとしても情報に偏りや不正確が目立つ。ところが、オセアニアの島嶼には日本に注目し、日本と草の根の交流を行ってきた人びともいる。経済大国、技術大国として援助を求めるだけではない。なぜだろうか。

オセアニアの島嶼の現状をみると、現代世界が抱える諸問題が集約的かつ深刻に現れている。例えば、海面上昇や巨大台風による被害、核実験による放射能被害は、島の人々の離散、社会、文化の消滅の危機をもたらす。彼らは極小国家、非自治地域であるがゆえに、大国中心の「国際関係」や「平和」を問い直し、外来のものを受入れながら、祖先から引き継いだ知恵や共同体を鍛え、島を離れた同胞たちともつながりながら、問題に取り組んできた。

本授業では、上記のようなオセアニアの島嶼の実情や取り組みを、オセアニア島嶼への人類の到達から第一次世界大戦までの歴史を中心に学ぶ。「オセアニアの政治と社会Ⅱ」の前提となる授業である。

【到達目標】

- ①オセアニアの島嶼の政治や社会の特徴、抱える問題を、歴史的な文脈のなかで理解することができる。
- ②オセアニアの島嶼から国際関係の歴史、基本的な概念や構造、動態を見つめ直し、これら島嶼が抱える問題から現代世界の諸問題に通じる視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①授業はオンラインで行う（ただし【その他の注意事項】を確認すること）。レジュメや資料は、教員からの指示に応じて事前に、あるいは授業中にダウンロードして閲覧、視聴する。
- ②リアクションペーパーなど提出物で注目すべきコメントや質問があれば、授業内で紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。
- ③オセアニア情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。
- ④授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。
- ⑤授業の予習、復習のために課題を出すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、注意事項の説明。受講生の本授業への関心についてアンケートをとる。
第2回	「オセアニア」とは？	オセアニア研究に基づく呼称、範囲、概念を学ぶ。

第 3 回	現代日本におけるオセアニア認識	日本および受講者のオセアニア認識の特徴を確認し、本授業のオセアニア島嶼へのアプローチを確認する。
第 4 回	オセアニアの問題につながる日本①	「ビキニ事件」から、東日本大震災での福島第一原発事故に始まる放射線被害の問題を考える。
第 5 回	オセアニアの問題につながる日本②	グアム島を例に、オセアニアの島嶼の軍事化に対する先住民族の取り組みをとりあげ、本授業のテーマを共有する
第 6 回	オセアニアへの人類の進出とくらし①	島嶼の人々が現在自らのアイデンティティのよりどころとする航海や漁労を学ぶ
第 7 回	オセアニアへの人類の進出とくらし②	島嶼の人々が現在自らのアイデンティティのよりどころとする、巨石文化を学ぶ。
第 8 回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化①	近代国際関係のなかでヨーロッパ人のオセアニア進出、島嶼の人々との「出会い」、これらが双方の社会にもたらした影響を学ぶ。
第 9 回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化②	近代国際関係のなかで列強による島嶼の植民地化、現在の脱植民地化の問題との関連を学ぶ。
第 10 回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化③	列強による島嶼の植民地化の実態を、具体的な事例から学ぶ。
第 11 回	近代世界における欧米人と日本人のオセアニア認識	欧米人のオセアニア認識を、絵画、文学などを対象に学び、近代日本のオセアニア認識への影響を学ぶ。
第 12 回	オセアニアにとっての第一次世界大戦①	ANZAC 軍などを事例に、オセアニアにとっての第一次世界大戦経験を学ぶ。
第 13 回	オセアニアにとっての第一次世界大戦②	第一次世界大戦によるオセアニアの再分割を委任統治制度の創設から理解し、現代に続く問題を学ぶ。
第 14 回	まとめ	春学期授業の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①シラバスやレジュメに提示した参考文献、特に授業中に指示した部分は必ず読む。
 ②オセアニア関連の HP など参照し、オセアニア情報に意識的に接する。
 ③予習、復習それぞれ 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社、2000 年。
 吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009 年。
 印東道子編『ミクロネシアを知るための 58 章』明石書店、2005 年。
 石森大知ほか編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための 58 章』明石書店、2010 年。
 今泉裕美子「太平洋の「地域」形成と日本－日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第 20 巻（地域論）』岩波書店、2014 年。
 その他必要に応じて、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①リアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物を総合して（50%）。セメスター末のレポート（50%）。
 ②提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないため記入する内容は無い。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業では、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業では Zoom を使う予定であり、提出物は学習支援システムを通じて提出してもらう。
- ・授業内容によっては動画や画像を配信したり、グループディスカッションを行うため、有線接続など安定的な接続環境で、通信容量に制限がない状態にしておくのが望ましい。
- ・沖縄県の県史、市史などの編さん、執筆に関わって来たため、地域住民の経験をどう記録し、歴史として次世代に継承するか、そのための聞き取りの方法、地域外の研究者として地域にいかに関わるのか、の経験に基づく「地域研究」の方法を紹介する。
- ・社会情勢の変化、これに伴う大学の方針によって授業形態が変化する場合通知する。

【Outline and objectives】

This course will introduce students a fundamental understanding of the politics and society of Oceania through a focus on the history of Pacific Islands.

The course then examines some important specific issues such as human migration; the processes of imperialism and colonialism; militarization as a neocolonialism; decolonization movement by indigenous peoples; navigation and livelihood in the Pacific Ocean. The focus is on before World War II. This course is highly recommended for those who are planning to take "Politics and Society of Oceania II".

POL300AD

オセアニアの政治と社会Ⅱ

今泉 裕美子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オセアニアは、ミクロネシア、ポリネシア、メラネシアの三地域からなるが、この名称、区分はヨーロッパからの外来者によるものであり、いずれの島も欧米諸国や日本による植民地化や占領の経験を持つ。また、現在の国や非自治地域の単位から見渡すと、大半を占めるのは小さな島嶼である。しかも、これら島嶼は太平洋に生存を依存しており、海からの視点で島じまを捉える必要がある。

島尾敏雄は日本列島を「ヤボネシア」と表現したが、複数の島嶼から成り立つ日本列島も太平洋に依存し、オセアニアの島嶼と歴史的に深い関わりをもってきた。しかし日本からのオセアニアへの関心は小さく、あったとしても情報に偏りや不正確さが目立つ。ところが、オセアニアの島嶼には日本に注目し、日本と草の根の交流を行ってきた人びともいる。経済大国、技術大国として援助を求めるだけではない。なぜだろうか。

オセアニアの島嶼の現状をみると、現代世界が抱える諸問題が集約的かつ深刻に現れている。例えば、海面上昇や巨大台風による被害、核実験による放射能被害は、島の人々の離散、社会、文化の消滅の危機をもたらす。彼らは極小国家、非自治地域であるがゆえに、大国中心の「国際関係」や「平和」を問い直し、外来のものを受入れながら、祖先から引き継いだ知恵や共同体を鍛え、島を離れた同胞たちともつながりながら、問題に取り組んできた。本授業では、上記のようなオセアニアの島嶼の実情や取り組みを、日本が最も深いかかわりを持つミクロネシアを中心に学ぶ。本年度の「オセアニアの政治と社会Ⅱ」を受講していることを強く推奨する。

【到達目標】

- ①オセアニアをミクロネシアと日本との関わり合いを通じて学ぶ。
- ②ミクロネシアと日本との関係を、歴史から、そして歴史に学び、国際関係や日本の近現代史を捉え直す。
- ③ミクロネシアと日本の関係を踏まえ、太平洋島嶼の一員としての日本の立場性、役割について基礎的な知識を身につけ、自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①授業はオンラインで行う（ただし【その他の注意事項】を確認すること）。レジュメや資料は、教員からの指示に応じて事前に、あるいは授業中にダウンロードして閲覧、視聴する。
- ②リアクションペーパーなど提出物で注目すべきコメントや質問があれば、授業内で紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。
- ③オセアニア情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。
- ④授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。
- ⑤授業の予習、復習のために課題を出すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションー三つのネシアとミクロネシア	授業の進め方、注意事項の説明。「オセアニアの政治と社会Ⅱ」との関連づけ。受講生の本授業テーマについてアンケートをとる。
第 2 回	ミクロネシアと日本との交流の現状	外交レベルから地域、市民レベルの交流の事例を紹介し、第 3 回以後のテーマの意義を確認する。
第 3 回	「南洋群島」時代のミクロネシア①ー委任統治制度	委任統治として行われた日本によるミクロネシア統治を、一次世界大戦後の世界の植民地支配体制の再編のなかで学ぶ。
第 4 回	「南洋群島」時代のミクロネシア②ー日本に紹介された姿	戦前の日本に紹介された「南洋群島」情報の特徴を学び、現在のわれわれのミクロネシア認識との関連を考える。
第 5 回	「南洋群島」時代のミクロネシア③植民地社会の特徴	現地住民人口の 2 倍もの日本人が移民し、なかでも沖縄出身者が多かった植民地社会の特徴を学ぶ。
第 6 回	日本による南洋群島統治④-チャモロとカリロニアンの経験	チャモロとカリロニアンの植民地経験を、日本の教育政策を中心に学ぶ。

第 7 回	The Typhoon of Warーミクロネシアの第二次世界大戦経験①	沖縄戦に先駆けて地上戦が行われた南洋群島での戦争を、沖縄戦と比較し関係づけながら、オセアニアの島嶼についての戦争経験を理解する。
第 8 回	The Typhoon of Warーミクロネシアの第二次世界大戦経験②	南洋群島での戦争を生き抜いてきた人々が戦争経験をどう伝えようとしているか、非体験者としてのその継承を考察する。
第 9 回	「核の海」ミクロネシアー核実験の開始と展開	度重なる核実験を実施したアメリカ、アメリカの核の傘のもとにある日本、核による軍事植民地化を強いられたミクロネシア、について学ぶ。
第 10 回	「核の海」ミクロネシアー戦略的信託統治	「核の海」を生み出したアメリカによる戦略的信託統治と、ミクロネシアの人々の離散、脱植民地化への取り組みを学ぶ。
第 11 回	「核の海」ミクロネシアー「ビキニ事件」	冷戦体制下の日米関係、日本への原子力発電の導入、日本から世界に広がった反核運動を「ビキニ事件」から学ぶ。
第 12 回	ミクロネシアと日本の関係再開	「ミクロネシア協定」を中心に戦後日本とミクロネシアとの関係を学ぶ。
第 13 回	オセアニアのなかのミクロネシア	受講生の関心を踏まえたテーマを取り上げる。
第 14 回	まとめ	授業を総括し、私たちとオセアニアの島嶼との関係を改めて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①シラバスやレジュメに提示した参考文献、特に授業中に指示した部分は必ず読む。
- ②オセアニア関連の HP など参照し、オセアニア情報に意識的に接する。
- ③予習、復習それぞれ 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

- 山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社、2000 年。
 印東道子編『ミクロネシアを知るための 58 章』明石書店、2005 年。
 吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009 年。
 石森大知ほか編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための 58 章』明石書店、2010 年。
 中山京子編『グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための 54 章』2012 年。
 今泉裕美子「太平洋の「地域」形成と日本ー日本の南洋群島統治から考える」
 李成市他編『岩波講座日本歴史第 20 巻（地域論）』岩波書店、2014 年。
 その他必要に応じて、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①リアクションペーパー、適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物を総合して（50%）。セメスター末のレポート（50%）。
- ②提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないため記入する内容はない。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業では、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業では Zoom を使う予定であり、提出物は学習支援システムを通じて提出してもらう。
- ・授業内容によっては動画や画像を配信したり、グループディスカッションを行うため、有線接続など安定的な接続環境で、通信容量に制限がない状態にしておくのが望ましい。
- ・沖縄県の県史、市史などの編さん、執筆に関わって来たため、地域住民の経験をどう記録し、歴史として次世代に継承するか、そのための聞き取りの方法、地域外の研究者として地域にいかに関わるのか、の経験に基づく「地域研究」の方法を紹介する。
- ・社会情勢の変化、これに伴う大学の方針によって授業形態が変化する場合は通知する。

【Outline and objectives】

This course will introduce students a fundamental understanding of the politics and society of Oceania through a focus on the history of Pacific Islands.

The course then examines some important specific issues such as human migration; the processes of imperialism and colonialism; militarization as a neocolonialism; decolonization movement by indigenous peoples; navigation and livelihood in the Pacific Ocean. The focus is on Micronesia-Japan relations. It is strongly recommended that this course be taken after taking “Politics and Society of Oceania I.”

POL100AD

ラテンアメリカの政治と社会 I

真嶋 麻子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ラテンアメリカ地域の多様性を学び、この地域の政治と社会を理解するための基本的な視点を学ぶことを目的とする。そのためにまず、ラテンアメリカの政治史を振り返り、いくつかの国を取り上げて地域の多様性を学ぶ。これを基礎として、現在のラテンアメリカ諸国が直面する課題とそれに対してどのように取り組んでいるのかを考えていく。

【到達目標】

1. ラテンアメリカ地域の政治と社会の多様性ならびに地域的特徴について説明できるようになる。
2. ラテンアメリカ地域内の関心を持った国について、その政治および社会の特徴と課題を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行うが、課題提出やプレゼンテーションの機会を設け、学生自身が学び考えたことを発信することを重視する。履修者数や授業の進み具合によって、予定を変更することがある。
授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ラテンアメリカ地域の概要
第 2 回	政治体制の変遷	植民地支配からの独立、ナショナリズム、ポピュリズム、軍政
第 3 回	民主化・経済危機の 1980 年代	民主化の要因と南米諸国の民主化について理解する
第 4 回	新自由主義の時代	新自由主義がもたらした問題群
第 5 回	地域的多様性①	アルゼンチンの政治と社会の特徴を理解する
第 6 回	地域的多様性②	ブラジルの政治と社会の特徴を理解する
第 7 回	地域的多様性③	メキシコの政治と社会の特徴を理解する
第 8 回	地域的多様性④	中米諸国の政治と社会の特徴を理解する
第 9 回	地域的多様性⑤	カリブ海諸国の政治と社会の特徴を理解する
第 10 回	現代社会の課題①	貧困と格差
第 11 回	現代社会の課題②	先住民運動と文化的多様性
第 12 回	現代社会の課題③	組織犯罪と暴力
第 13 回	現代社会の課題④	政治の左傾化と社会運動
第 14 回	試験・まとめと解説	春学期に解説した内容についての確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を参照し講義内容の理解を深めると共に、ラテンアメリカの現状への理解を深めるためテレビ・新聞・インターネット等で伝えられる地域の政治・経済・社会に関する情報に積極的に触れるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 70%

授業内課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is a survey of Latin American politics and society. We will start on the political history of Latin America and understand regional diversity through examples of some countries. Also, we will consider the challenges facing Latin American countries today and how they are tackling them. Our goal is to learn the basic perspectives for understanding the politics and society of the region.

POL100AD

ラテンアメリカの政治と社会Ⅱ

真嶋 麻子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際関係とラテンアメリカとの連関について学び、ラテンアメリカ地域の政治と社会を理解するための視点を学ぶ。そのためにまず、アメリカ合衆国との関係を中心としたラテンアメリカの国際関係史を振り返る。これを基礎として、地球規模の様々な課題に対してラテンアメリカ地域がどのように取り組んでいるのかを考えていく。

【到達目標】

1. ラテンアメリカ地域の政治と社会を特徴づけてきた国際関係要因について説明できるようになる。
2. 関心を持った地球規模課題とラテンアメリカ地域との関わりについて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行うが、課題提出やプレゼンテーションの機会を設け、学生自身が学び考えたことを発信することを重視する。履修者数や授業の進み具合によって、予定を変更することがある。
授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ラテンアメリカ地域の概要
第 2 回	国際関係史①	植民地支配からの独立と経済発展
第 3 回	国際関係史②	米国の覇権主義の拡大
第 4 回	国際関係史③	経済危機とネオリベリズムの台頭
第 5 回	国際関係史④	ポスト冷戦期の地域協調
第 6 回	地球規模課題とは何か	グローバル社会で生じている課題の事例を学ぶ
第 7 回	地球規模課題とラテンアメリカ①	軍縮・非核地帯
第 8 回	地球規模課題とラテンアメリカ②	武力紛争と平和
第 9 回	地球規模課題とラテンアメリカ③	人権
第 10 回	地球規模課題とラテンアメリカ④	移行期正義
第 11 回	地球規模課題とラテンアメリカ⑤	貧困問題
第 12 回	地球規模課題とラテンアメリカ⑥	地球環境問題
第 13 回	地球規模課題とラテンアメリカ⑦	地域主義と域内協力
第 14 回	試験・まとめと解説	秋学期に解説した内容についての確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を参照し講義内容の理解を深めると共に、ラテンアメリカの現状への理解を深めるためテレビ・新聞・インターネット等で伝えられる地域の政治・経済・社会に関する情報に積極的に触れるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

畑恵子・浦部浩之編『ラテンアメリカ 地球規模課題の実践』新評論、2021 年。
その他の参考資料は授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 70%

授業内課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義は春学期開講の「ラテンアメリカの政治と社会Ⅰ」を履修済みであることを前提に進める。未履修の場合は、初回授業時に提示する参考文献を第 2 回講義時までに読んでおくこと。

【Outline and objectives】

This course is a survey of Latin American politics and society. We will start on the international political history of Latin America focusing on the relations between Latin American countries and the USA. Also, we will analyze how Latin American countries are struggling with global issues. Our goal is to understand international relations and Latin America, and to learn the basic perspectives for understanding the politics and society of the region.

POL300AD

国際経済論Ⅰ

田村 晶子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、F T AやE P Aなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解法について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第 2 回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第 3 回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第 4 回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第 5 回	資源と貿易①	ヘクシャー・オリーソンモデルの仮定
第 6 回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第 7 回	グローバル経済の企業	輸出の判断と多国籍企業
第 8 回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果、費用と便益
第 9 回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第 10 回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制の効果
第 11 回	貿易政策の政治経済	自由貿易の進展、WTO
第 12 回	地域貿易協定の効果	F T Aが与える影響
第 13 回	貿易政策をめぐる論争	戦略的貿易政策
第 14 回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策 〔原書第 10 版〕上：貿易編』丸善出版、2017 年
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第 2 版）』有斐閣、2013 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（13 回を予定）（30 %）と、期末に行う定期試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

Students study the basics of International Trade. Students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Then students consider the international trade framework with Free Trade Agreements.

POL300AD

国際経済論Ⅱ

田村 晶子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を学習支援システムから出し、自動採点で得点をフィードバックします。今回の授業で解き方を解説し、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際収支表の項目	日本の国際収支表の見方
第 2 回	国際収支の記入方法	国際収支表の記入例
第 3 回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第 4 回	外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第 5 回	外国為替取引の種類	さまざまな外国為替取引
第 6 回	短期為替レート決定①	外国為替市場における需給の一致
第 7 回	短期為替レート決定②	金融政策と為替レート
第 8 回	短期為替レート決定③	先渡為替レートとリスク要因
第 9 回	長期為替レート決定①	絶対的、相対的購買力平価
第 10 回	長期為替レート決定②	実質為替レートと貿易
第 11 回	外国為替介入	外国為替市場介入の効果
第 12 回	最適通貨圏の理論	固定為替レートの範囲
第 13 回	国際金融体制	国際金融における課題
第 14 回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策 〔原書第 10 版〕下：金融編』丸善出版、2017 年
清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年
高木信二著『入門国際金融（第 4 版）』日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の練習問題（30 %）と、期末に行う定期試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進捗に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy.

LAW200AB

商法入門Ⅰ

潘 阿憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、商法（実質的意義における商法）上の各制度の内容を全般的に取り扱うものである。講義においては、商法上の基本的な概念及び制度の仕組みを解説し、さらに重要な法的論点について、学説や判例を踏まえた検討を行う企業・経営と法コースの基礎科目である。

【到達目標】

一般に企業とは、継続性と計画性をもって営利行為を行う独立の経済的主体と定義されるが、このような企業をめぐる関係主体相互間の経済的利益の調整を目的とするのが実質的意義における商法である。本科目では、商法典上の各制度のほか、会社法、保険法、手形法・小切手法等の制度の内容を取り上げ、企業組織と企業活動についての法規制の概要を理解できるようにするのが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルスの影響により、春学期はオンラインでの開講となる。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。また、受講生からの授業外の質問については、授業内で回答することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「商法入門」で何を学ぶか？	・商法の意義 ・商法適用
第 2 回	商法総則（1）	・商人と営業 ・商業登記 ・商号
第 3 回	商法総則（2）	・商業帳簿 ・商業使用人 ・代理商
第 4 回	会社（1）	・会社の意義 ・会社の設立
第 5 回	会社（2）	・株式制度
第 6 回	会社（3）	・株主総会制度
第 7 回	会社（4）	・取締役と取締役会
第 8 回	会社（5）	・監査役と監査役会
第 9 回	会社（6）	・委員会会社制度
第 10 回	商行為（1）	・商法行為の概念と類型
第 11 回	商行為（2）	・約款の効力とその規制
第 12 回	商行為（3）	・企業間の売買（商事売買）
第 13 回	商行為（4）	・運送営業と運送取扱営業
第 14 回	商行為（5）	・倉庫営業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを予習してくること、また、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

近藤光男編 『現代商法入門（第 10 版）』 2018 年 有斐閣

【参考書】

初回授業時に指定する。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの開講にともない、成績評価は、期末レポート試験の結果に基づいて行うこととする。期末試験試験の成績基準は、100%とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Commercial law and Practice

LAW200AB

商法入門Ⅱ

潘 阿憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、商法（実質的意義における商法）上の各制度の内容を全般的に取り扱うものである。講義においては、商法上の基本的な概念及び制度の仕組みを解説し、さらに重要な法的論点について、学説や判例を踏まえた検討を行う企業・経営と法コースの基礎科目である。

【到達目標】

一般に企業とは、継続性と計画性をもって営利行為を行う独立の経済的主体と定義されるが、このような企業をめぐる関係主体相互間の経済的利益の調整を目的とするのが実質的意義における商法である。本科目では、商法典上の各制度のほか、会社法、保険法、手形法・小切手法等の制度の内容を取り上げ、企業組織と企業活動についての法規制の概要を理解できるようにするのが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で行うが、受講者の理解を促すため、それぞれのテーマについて、関連する裁判例を取りあげて解説を行う。また、受講生からの授業外の質問については、授業内で回答することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	保険制度（1）	・保険の仕組み ・保険契約の概念と類型
第 2 回	保険制度（2）	・損害保険契約（1）
第 3 回	保険制度（3）	・損害保険契約（2）
第 4 回	保険制度（4）	・損害保険契約（3）
第 5 回	保険制度（5）	・生命保険契約（1）
第 6 回	保険制度（6）	・生命保険契約（2）
第 7 回	保険制度（7）	・傷害疾病定額保険契約（1）
第 8 回	保険制度（8）	・傷害疾病定額保険契約（2）
第 9 回	手形・小切手（1）	・手形・小切手の機能
第 10 回	手形・小切手（2）	・手形行為 ・手形の振出
第 11 回	手形・小切手（3）	・手形の裏書き
第 12 回	手形・小切手（4）	・手形保証 ・手形の支払い
第 13 回	手形・小切手（5）	・遡求
第 14 回	手形・小切手（6）	・手形上の権利の消滅

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを予習してくること、また、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

近藤光男編 『現代商法入門（第 10 版）』 2018 年 有斐閣

【参考書】

初回授業時に指定する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Commercial law and Practice

LAW200AB

法律実務入門 I

藤本 茂

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法律実務家をめざす人のための入門講座です。法学部で法律の勉強をしている学生で、法律実務家の実態を知らない者は意外と多いと感じます。弁護士や裁判官、検察官といった「法曹三者」についてはある程度理解していても、自分の将来の進路としては少し難しすぎると考える学生も多くいて、結局は法律実務家の道をあきらめてしまうのでしょうか。しかし、世の中には、法曹三者以外にも、実に様々な法律実務家が存在し、彼らは立派に自立して社会的に有益な活動をしています。こうした法律実務家のことをほとんど知らない学生に、その仕事の内容とその資格を得るためのノウハウを知ってもらうことがこの授業の目的です。この科目は全てのコースに属しています。

【到達目標】

この講義を通じて、受講生が自分の進むべき道を考えることができれば目標は達成されたと思っています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP1」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

外部からゲストスピーカーを招へいし、講演をしてもらう形で授業を進めます。
 ※ コロナが収まらない状況から、今年度春学期もオンライン授業が予定されます。そこで、オンラインを念頭に置いて記します。
 ・オンラインの講義は、通常の授業時間帯に Zoom を利用して実施されます。
 ・授業の進め方の説明については、授業開始時（4 月 9 日（金））の所定の授業時間に Zoom にて行います。
 ・Zoom では、「ビデオの停止」「ミュート」で参加してください。
 ・この講義は、外部講師によるオムニバス方式で実施されます。外部講師の先生方は、法政大学の教職員でない方が多くいらっしゃいます。そのため、この講義の様子が第三者に配信されるとトラブル発生の原因ともなりかねません。講義の録画・録音は絶対にしないでください。Zoom の設定で、受講者は録画等を行えないように設定してありますが、この点ご協力願います。
 ・主催者側が講義内容を録画することはありません。個別の通信回線不調を理由とした講義の再実施にも応じられません。オンライン講義のリスクとして引き受けてください。
 ・Zoom のミーティング ID やパスワードは、学習支援システムを通じて事前に周知いたします。学習支援システムに登録したメールアドレス宛てにメールが送信されます。
 ・2 回目以降、各回の講義終了後に選択式の問題が出題されます。期限までに解答してください。（解答期限は、各回の講義終了後 15 分間となります。）
 ・質問等は、授業内で Zoom のチャットを利用するか、学習支援システムの「授業内掲示板」をご利用ください。
 ※ 質問等への回答については、チャットでの質問については講師の先生が口頭で回答します。時間的に回答できなかった質問やチャットに間に合わなかった質問については、学習支援システムの「授業内掲示板」を介して講師の先生の回答をアップして対応します。
 ・教材（レジュメ等）は、学習支援システムに事前にアップロードいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	この講義の目的と全体構成について	担当者によるこの講義の目的
第 2 回	法律実務家を目指す諸君に	法政士業の会会長による講義
第 3 回	弁護士の職務と役割	弁護士による講義
第 4 回	裁判官の職務と役割	裁判官による講義
第 5 回	検察官の職務と役割	検察官による講義
第 6 回	法科大学院の仕組みと機能	法科大学院教授による講義
第 7 回	法曹三者の職務について	担当者による講義
第 8 回	裁判所事務官・書記官の職務と役割	裁判所書記官による講義
第 9 回	労働基準監督官の職務と役割	労働基準監督官による講義
第 10 回	公認会計士の職務と役割	公認会計士による講義
第 11 回	弁理士の職務と役割	弁理士による講義
第 12 回	社会保険労務士の職務と役割	社会保険労務士による講義

第 13 回 不動産鑑定士の職務と役割 不動産鑑定士による講義

第 14 回 法律実務家を目指すこと 担当者による総括について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をよく聞いて、必ず復習をすること。
 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはないが、各講師の授業についてのレジュメを配布する予定。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

◎ 小テストおよび平常点、課題によって評価します。
 ・オンライン講義実施を念頭に、下記の方法で評価します。対面授業の場合は教室で実施することになります。
 （講義後に実施する選択問題－ Web 小テスト）
 ・各回の講義終了後に選択式の問題が出題されます。この正答率を評価基準とします。（配点 70 点）
 ・第 2 回目の各回の講義終了後に選択式の問題が出題されます。期限までに解答してください。（解答期限は、各回の講義終了後 15 分間となります。）（平常点）
 ・講義ごとに実施するリアクションペーパーの提出状況及びその内容を評価します。（配点 10 点）
 ・内容は、講義への積極的参加度などを評価基準とします。（課題）
 ・テーマを授業支援システムなどを通して知らせます。（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

おおむね評判の良い講義であるが、実務家の講師選択に対する注文もある。講師の幅を広げてみることも考えたい。

なお、従前の課題－受講生の数に対応しない教室の狭、マイク設備の不備－は、昨年度新教室に移動したことによって改善された。

後部座席の学生の私語や学生の授業途中の退席などの指摘もある。学生のモラルに問いかけつつ、対応したい。

【Outline and objectives】

This course will lecture to second grade student of department of law about the activity of Law practitioners.

We know many kind of Law practitioners, for example, Lawyer, Judge, Prosecutor, Patent attorney, Certified Public Accountants, Labor standards inspectors, etc.

This course contents from 11 guest speakers of above Law practitioners.

LAW200AB

法律実務入門Ⅱ

藤本 茂

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、文字通り法律実務家をめざす人のための入門講座です。春学期の「法律実務入門Ⅰ」の続編です。

法学部で法律の勉強をしている学生で、法律実務家の実態を知らない者は意外と多いと思います。この科目は法律実務家から直に職務を伺うことにより、近い将来の進路を真剣に考えるきっかけとし、その仕事の内容とその資格を得るためのノウハウを知ってもらうことを目的としています。

秋学期は、弁護士のような仕事をより具体的なテーマに即して講義をしていただきます。

この科目は全てのコースに属しています。

【到達目標】

この講義を通じて、受講生が自分の進むべき道を考えることができれば目標は達成されたと思われる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP1」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

※外部からゲストスピーカーを招へいし、講演をしてもらう形で授業を進める。
※秋学期はコロナがどうなるか、不明なところがあります。春学期と同様、オンラインによる授業を念頭に記します。

・オンラインの講義は、通常の授業時間帯に Zoom を利用して行います。
・授業の進め方の説明については、秋学期授業開始時（9 月 17 日（金））の所定の授業時間に Zoom にて行います。

・Zoom では、「ビデオの停止」「ミュート」で参加してください。
・この講義は、外部講師によるオムニバス方式で実施されます。外部講師の先生方は、法政大学の教職員ではありません。そのため、この講義の模様が第三者に配信されるとトラブル発生の原因ともなります。講義の録画・録音は絶対にしないでください。Zoom の設定で、受講者は録画等を行えないように設定してありますが、この点ご協力お願いいたします。

・主催者側が講義内容を録画することはありません。個別の通信回線不調を理由とした講義の再実施にも応じられません。オンライン講義のリスクとして引き受けてください。

・Zoom のミーティング ID やパスワードは、学習支援システムを通じて事前に周知いたします。学習支援システムに登録したメールアドレス宛てにメールが送信されます。

・第 2 回目の各回の講義終了後に選択式の問題が出題されます。期限までに解答してください。（解答期限は、各回の講義終了後 15 分間となります。）

・質問等は、授業内で Zoom のチャットを利用するか、学習支援システムの「授業内掲示板」をご利用ください。

※ 質問等への回答について、チャットでの質問については講師の先生が口頭で回答します。時間的に回答できなかった質問やチャットに間に合わなかった質問については、学習支援システムの「授業内掲示板」を介して講師の先生の回答をアップして対応します。

・教材（レジュメ等）は、学習支援システムに事前にアップロードいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	この講座の目的を考える - 秋学期を迎えて	担当者による本講義の目的と内容
第 2 回	家事事件と弁護士	弁護士による講義
第 3 回	知的財産権と弁護士	弁護士による講義
第 4 回	会社再建と弁護士	弁護士による講義
第 5 回	民事調停と弁護士	弁護士による講義
第 6 回	人権裁判と弁護士	弁護士による講義
第 7 回	労働委員会について	担当者による講義
第 8 回	司法書士の職務と役割	司法書士による講義
第 9 回	税理士の職務と役割	税理士による講義
第 10 回	経営者から見た法律実務家の必要性会社	経営者による講義
第 11 回	顧問弁護士の役割	弁護士による講義
第 12 回	労働者側弁護士の役割	弁護士による講義
第 13 回	若手弁護士の役割	弁護士による講義
第 14 回	総括 - 法律実務家を目指すことを問う	科目担当者による講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をよく聞いて、必ず復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはないが、各講師の授業についてのレジュメを配布する予定。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ◎ 小テストおよび平常点、課題によって評価します。
- ・オンライン講義実施を念頭にして、下記の方法で評価します。対面授業の場合は教室で実施することになります。
- （講義後に実施する選択問題 - Web 小テスト）
- ・各回の講義終了後に選択式の問題が出題されます。この正答率を評価基準とします。（配点 70 点）
- ・第 2 回目の各回の講義終了後に選択式の問題が出題されます。期限までに解答してください。（解答期限は、各回の講義終了後 15 分間となります。）（平常点）
- ・講義ごとに実施するリアクションペーパーの提出状況及びその内容を評価します。（配点 10 点）
- ・内容は、講義への積極的参加度などを評価基準とします。（課題）
- ・テーマを授業支援システムなどを通して知らせます。（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

おおむね評判の良い講義であるが、実務家の講師選択に対する注文もある。講師の幅を広げてみることも考えたい。

なお、従前の課題 - 受講生の数に対応しない教室の狭、マイク設備の不備 - は、昨年度新教室に移動したことによって改善された。

後部座席の学生の私語や学生の授業途中の退席などの指摘もある。学生のモラルに問いかけつつ、対応したい。

【Outline and objectives】

This course will lecture to second grade student of department of law about the activity of Law practitioners.

We know many kind of Law practitioners, for example, Lawyer, Judge, Prosecutor, etc.

This course contents from 11 guest speakers of Lawyers, Judicial scrivener, Tax Accountant, etc.

POL300AC

外国書講読（英語）Ⅰ

杉田 敦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、政治学に関連する英語文献の購読を通じて、語学力・語彙力を向上させると同時に、政治学に関する高度な知識の取得を目指す。講義は大学院修士課程と合同で行うため、出席者には大学院進学希望者などを主として想定している。

【到達目標】

語彙を増やし、文法的な知識を改善し、併せて政治学上の知見を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

事前に文献を読み、当日、日本語訳・要約ならびに討論を行う。なお、講義の進捗状況や受講者の到達度に従い、その都度テキストを指定する。随時、リアクションペーパー等の提出を受け、それに基づいて講義を補足する。感染症の状況によっては、遠隔で実施することもありうる。学習支援システムにおいて通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読	文献を読み、議論する。①
第 2 回	文献講読	文献を読み、議論する。②
第 3 回	文献講読	文献を読み、議論する。③
第 4 回	文献講読	文献を読み、議論する。④
第 5 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑤
第 6 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑥
第 7 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑦
第 8 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑧
第 9 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑨
第 10 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑩
第 11 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑪
第 12 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑫
第 13 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑬
第 14 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑭

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定範囲の文献を事前に必ず読むこと。積極的に討論に参加すること。

【テキスト（教科書）】

開講時に相談の上、指定する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

語学的な向上と、政治学的な知見を総合的に、平常点により評価。

【学生の意見等からの気づき】

初回につき該当せず。

【その他の重要事項】

感染症の状況に応じて、対面または遠隔で実施する。対面で実施する場合にも、遠隔での参加も可能なように手配する。

【Outline and objectives】

This class aims to improve your grammatical skills and vocabularies, and to help you to have advanced knowledges in political studies. As this is a joint-class with a grauate school, you will be most welcome if you are planning to go on to school.

POL300AC

外国書講読（英語）Ⅱ

杉田 敦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、政治学に関連する英語文献の購読を通じて、語学力・語彙力を向上させると同時に、政治学に関する高度な知識の取得を目指す。講義は大学院修士課程と合同で行うため、出席者には大学院進学希望者などを主として想定している。

【到達目標】

語彙を増やし、文法的な知識を改善し、併せて政治学上の知見を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

事前に文献を読み、当日、日本語訳・要約ならびに討論を行う。なお、講義の進捗状況や受講者の到達度に従い、その都度テキストを指定するので、具体的な進行についてはここでは記載しない。随時、リアクションペーパー等の提出を受け、それに基づいて講義を補足する。感染症の状況によっては、遠隔により実施する。学習支援システムにおいて通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読	文献を読み、議論する。①
第 2 回	文献講読	文献を読み、議論する。②
第 3 回	文献講読	文献を読み、議論する。③
第 4 回	文献講読	文献を読み、議論する。④
第 5 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑤
第 6 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑥
第 7 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑦
第 8 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑧
第 9 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑨
第 10 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑩
第 11 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑪
第 12 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑫
第 13 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑬
第 14 回	文献講読	文献を読み、議論する。⑭

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定範囲の文献を事前に必ず読むこと。積極的に討論に参加すること。

【テキスト（教科書）】

開講時に相談の上、指定する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

語学的な向上と、政治学的な知見を総合的に、平常点により評価。

【学生の意見等からの気づき】

初回につき、該当せず。

【その他の重要事項】

感染症の状況に応じて、対面または遠隔で実施する。対面で実施する場合にも、遠隔での参加も可能なように手配する。

【Outline and objectives】

This class aims to improve your grammatical skills and vocabularies, and to help you to have advanced knowledges in political studies. As this is a joint-class with a grauate school, you will be most welcome if you are planning to go on to school.

POL300AC

外国書講読（独語）Ⅰ

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、ドイツ語を母語とする者が著した同分野についての文献を購読する。その際、ドイツ語のテキストを主とするか、和訳を主とするかは、受講者のドイツ語力によって決める。

現時点では Carl Schmitt: Der Begriff des Politischen（シュミット『政治的なものの概念』）の購読を予定している。同書でシュミットは Die spezifisch politische Unterscheidung, auf welche sich die politischen Handlungen und Motive zurückführen lassen, ist die Unterscheidung von Freund und Feind（政治的な行動や動機の基因と考えられる、特殊政治的な区別とは、友と敵という区別である）とのべ、その有名な友敵理論を展開する。本購読では、二〇世紀はじめに特殊政治的なものの起因を論じたこの政治学の古典をとりあげることによって、あらためて政治とは何か、ということを受講者とともに考察したい。

なお進み具合によっては、Theorie des Partisanen Zwischenbemerkung zum Begriff des Politischen（『バルチザンの理論』）も講読したいと考えている。

【到達目標】

ドイツ語の文章をとおりて政治・社会・文化事象についての情報を入手できるようにすること。ドイツ語圏の政治・社会・文化事象をめぐる知識の獲得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本科目の授業形態は演習である。すなわち授業内での発表などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。ドイツ語の難易度については、履修者のレベルに応じて決めるので、テーマとドイツ語に関心さえあれば、無理なく参加できるようにする方針である。フィードバックは授業中随時なされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	準備情報
2	Der Begriff des Politischen	購読
3	Der Begriff des Politischen	購読
4	Der Begriff des Politischen	購読
5	Der Begriff des Politischen	購読
6	Der Begriff des Politischen	購読
7	Der Begriff des Politischen	購読
8	ふりかえり	前半の内容
9	Theorie des Partisanen	購読
10	Theorie des Partisanen	購読
11	Theorie des Partisanen	購読
12	Theorie des Partisanen	購読
13	Theorie des Partisanen	購読
14	ふりかえり	後半の内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文章を事前に読み、読書ノートを作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

独文については授業内で配布

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

現下の状況に鑑みて、今年度の春学期の進め方等は、授業支援システムに記していきますので、履修者は必ず、同支援システムにも登録し、定期的に閲覧するようにしてください。

【Outline and objectives】

In diesem Seminar werden wir deutsche Texte über Kultur, Gesellschaft und Politik lesen.

English Keywords: German text, politics, society, culture

POL300AC

外国書講読（独語）Ⅱ

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、ドイツ語を母語とする者が著した同分野についての文献を購読する。その際、ドイツ語のテキストを主とするか、和訳を主とするかは、受講者のドイツ語力によって決める。現時点では Walter Benjamin: Zur Kritik der Gewalt (1920/1920:ベンヤミン『暴力批判論』)の購読を予定している。この文章をベンヤミンは、Die Aufgabe einer Kritik der Gewalt läßt sich als die Darstellung ihres Verhältnisse zu Recht und Gerechtigkeit unterschreiben（暴力批判論の課題は、暴力と、法および正義との関係をえがくことだ、といてよいだろう）という一文ではじめ、暴力の是非を、ある目的とその目的を達成するための手段と関連づけて考察することからはじめる。ほぼ同じ時期にウェーバーもまた『職業としての政治』のなかでこの論点に言及し、心情倫理と責任倫理について論じる。ベンヤミンは、かれの議論を、神話の暴力と神的暴力の対比へと展開させてゆく。本購読では、二〇世紀はじめに暴力・政治・法を考察したこの文章をとりあげることによって、あらためて政治における暴力について受講者とともに考察したい。

【到達目標】

ドイツ語の文章をとおして政治・社会・文化事象についての情報を入手できるようにすること。ドイツ語圏の政治・社会・文化事象をめぐる知識の獲得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本科目の授業形態は演習である。すなわち授業内での発表などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。ドイツ語の難易度については、履修者のレベルに応じて決めるので、テーマとドイツ語に関心さえあれば、無理なく参加できるようにする方針である。フィードバックは授業中随時なされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	準備情報
2	Zur Kritik der Gewalt	購読
3	Zur Kritik der Gewalt	購読
4	Zur Kritik der Gewalt	購読
5	Zur Kritik der Gewalt	購読
6	Zur Kritik der Gewalt	購読
7	Zur Kritik der Gewalt	購読
8	ふりかえり	前半の内容
9	Zur Kritik der Gewalt	購読
10	Zur Kritik der Gewalt	購読
11	Zur Kritik der Gewalt	購読
12	Zur Kritik der Gewalt	購読
13	Zur Kritik der Gewalt	購読
14	ふりかえり	後半の内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文章を事前に読み、読書ノートを作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

独文は授業内で配布

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In diesem Seminar werden wir deutsche Texte über Kultur, Gesellschaft und Politik lesen.

English Keywords: German text, politics, society, culture

POL300AC

外国書講読（仏語）Ⅰ

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やしながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。扱う文章のジャンルは、物語、評論、時事です。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

中～上級レベルのフランス語読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。ただし到達目標は受講者のフランス語の習熟度に合わせて変更することもあり得ます。また、初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

訳読が中心となります。易しめの文章から始め、原書（外国人学習者向けに易しく書きかえられていない文章）を読んできます。翻訳書のあるものは、翻訳書を見ながらでも構いません。少しずつペースを上げ、最終的には辞書を引きながら、日本語訳の出いていない原書の文章を読めるようにします。課題や試験へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
3	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
4	短編の抜粋	講読
5	短編の抜粋	講読
6	短編の抜粋	講読
7	評論文の抜粋	講読
8	評論文の抜粋	講読
9	評論文の抜粋	講読
10	評論文の抜粋	講読
11	時事文の抜粋	講読
12	時事文の抜粋	講読
13	時事文の抜粋	講読
14	期末試験	筆記試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の予習を行うこと。
・文章を音読する練習も行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。受講者の関心が一致すれば、教科書を指定することもあります。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、試験 50 %（教室授業が可能な場合）

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

仏和辞書

【その他の重要事項】

・予定している授業内容は授業計画に掲げた通りですが、本授業は年度によって受講希望者のフランス語習熟度に違いが見られます。そのため最終的に教材は受講者のフランス語習熟度と関心も考慮して決定します。関心のある方は初回授業に参加してみてください。
・昨年度の春学期は『ル・モンド』の抜粋とモーパッサンの短編を読みました。

【Outline and objectives】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.

POL300AC

外国書講読（仏語）Ⅱ

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やししながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。扱う文章のジャンルは物語、評論、時事です。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

中～上級レベルのフランス語読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。ただし到達目標は受講者のフランス語の習熟度に合わせて変更することもあり得ます。

また、初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

訳読が中心となります。易しめの文章から始め、原書（外国人学習者向けに易しく書きかえられていない文章）を読んでいます。翻訳書のあるものは、翻訳書を見ながらでも構いません。少しずつベースを上げ、最終的には辞書を引きながら、日本語訳の出ていない原書の文章を読めるようにします。課題や試験へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
3	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
4	短編の抜粋	講読
5	短編の抜粋	講読
6	短編の抜粋	講読
7	評論文の抜粋	講読
8	評論文の抜粋	講読
9	評論の抜粋	講読
10	評論文の抜粋	講読
11	時事文の抜粋	講読
12	時事文の抜粋	講読
13	時事文の抜粋	講読
14	試験	筆記試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の予習を行うこと。
・文章を音読する練習も行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。受講者の関心が一致すれば教科書を指定することもあります。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、試験 50 %（教室授業が可能な場合）

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

仏和辞書

【その他の重要事項】

・予定している授業内容は授業計画に掲げた通りですが、本授業は年度によって受講希望者のフランス語習熟度に違いが見られます。そのため最終的に教材は受講者のフランス語習熟度と関心も考慮して決定します。関心のある方は初回授業に参加してみてください。
・昨年度の秋学期は『ル・モンド』の記事の抜粋、ゾラの短編、ヴォルテールの哲学コント、ランボーの詩を読みました。

【Outline and objectives】
Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.

POL200AC

ヨーロッパ政治史 I

網谷 龍介

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視点から鳥瞰するものである（したがってミクロな歴史過程を講じるものではない）。

政治の世界は、個人の創発的行為と集合的に形成されたパターンの双方から織り成されている。しかもその「パターン」は様ではなく、時代・社会毎に異なっている。

そこで、政治現象の理解には、ある社会の事例を他の社会との比較の中におくとともに、その事例を歴史的な文脈に位置付けて理解することが重要となる。この作業をヨーロッパを題材として行うのが、この授業の内容である。

学生はこの授業を通じて、特定の国（たとえば日本）の現在の政治を理解するために必要な背景となる知識と、政治の多様性についての認識を獲得することができる。

【到達目標】

- ・ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略を理解する
- ・各社会の対応のヴァリエーションを類型化しながら理解する
- ・ヨーロッパの政治発展を題材としてうまれてきた比較政治学上の鍵概念を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義により行う。学生は概ね 2 回につき 1 通の予習課題を提出する。予習課題を基礎として、授業時間中には理解が不足している部分の補足や、発展的内容を中心に講じる。毎回リアクションペーパーを実施し、理解度を確認しながら進めていく。

リアクションペーパーや予習課題を通じて提示された質問や意見に対しては、リプライを配布するほか、重要なものについて授業中に応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	内容の導入を行うとともに、授業の前提としてヨーロッパに成立した「国民国家」という枠組について説明する。
2	自由主義的議会政治	19 世紀のヨーロッパ政治を概観し、そこにおける中心的な理念としての自由主義と、それを基礎とする議会政治の枠組みについて説明する。
3	民主主義の挑戦	20 世紀に入って選挙権がすべての成人（男子）に拡大されたことで、19 世紀の政治モデルがどのような困難に直面し、どのような解決が模索されたか、概観する。
4	オランダ・ベルギー (1)	オランダやベルギーの政治発展を、「柱」という観点から検討する。
5	オランダ・ベルギー (2)	オランダやベルギーの政治発展を、「多極共存型デモクラシー」という観点から検討する。
6	北欧諸国 (1)	北欧諸国の政治発展を、「社会的亀裂」という観点から検討する。
7	北欧諸国 (2)	北欧諸国の政治発展を、「福祉国家」という観点から検討する。
8	レビュー・セッション (1)	これまでの内容をまとめるとともに、補足的内容を講じる。
9	ドイツ (1)	ドイツの政治発展を「民主主義の崩壊」という観点から検討する。
10	ドイツ (2)	ドイツの政治発展を「連邦制」という観点から検討する。
11	イギリス (1)	イギリスの政治発展を「近世的政治制度の漸進的拡張」という観点から検討する。
12	イギリス (2)	イギリスの政治発展を「戦後コンセンサス」と「サッチャリズム」という観点から検討する。
13	レビュー・セッション (2)	これまでの内容をまとめるとともに、補足的内容を講じる。

14 全体のまとめ 授業全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習課題提出回については、テキストの事前に指定された部分を読み、要約やコメントを提出する。授業終了後は内容を復習しコメントペーパーや小テストに備える。事前学習・復習をあわせて授業時間外学習は各回概ね 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

網谷龍介・伊藤武・成廣孝『ヨーロッパのデモクラシー 改訂第 2 版』ナカニシヤ出版、2014 年。

【参考書】

マーク・マズワー『暗黒の大陸』未来社、2015 年。

篠原一『ヨーロッパの政治』東京大学出版会、1986 年。

馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック 第 2 版』東京大学出版会、2010 年。

中山洋平・水島治郎『ヨーロッパ政治史』放送大学教育振興会、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

授業前提出課題 34%：A4 で 1 ページ程度の予習課題を提出。テキストの指定部分について内容のまとめとコメント・疑問を記載する。内容を自分で理解しようとしているか、疑問やコメントが適切に記載されているかを評価する。授業内課題 26%：小テスト、リアクション・ペーパーなどを不定期に実施する。授業内容についての理解度を確認する。

学期末試験 40%：全体としての講義の理解度と到達目標の達成度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course gives an overview of European political history from the perspective of "Political Development" leading to democratic regimes. "Politics" of a given society in a given era is moulded by the collective patterns of political behaviour and creative and path-breaking action of a person. We focus on those patterns, which has been forged historically and takes different forms in various societies. For that reason, it is important to take comparative and historical approach to understand "politics" in a given setting. Therefore, the course is concentrated on the European cases but has further implication to understand democratization pathways.

POL200AC

ヨーロッパ政治史Ⅱ

網谷 龍介

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視角から鳥瞰するものである（したがってミクロな歴史過程を講じるものではない）。

政治の世界は、個人の創発的行為と集合的に形成されたパターンの双方から織り成されている。しかもその「パターン」は様ではなく、時代・社会毎に異なっている。

そこで、政治現象の理解には、ある社会の事例を他の社会との比較の中におくとともに、その事例を歴史的な文脈に位置付けて理解することが重要となる。この作業をヨーロッパを題材として行うのが、この授業の内容である。

学生はこの授業を通じて、特定の国（たとえば日本）の現在の政治を理解するために必要な背景となる知識と、政治の多様性についての認識を獲得することができる。

【到達目標】

- ・ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略を理解する
- ・各社会の対応のヴァリエーションを類型化しながら理解する
- ・ヨーロッパの政治発展を題材としてうまれてきた比較政治学上の鍵概念を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義により行う。学生は概ね 2 回につき 1 通の予習課題を提出する。予習課題を基礎として、授業時間中には理解が不足している部分の補足や、発展的内容を中心に講じる。毎回リアクションペーパーを実施し、理解度を確認しながら進めていく。

リアクションペーパーや予習課題を通じて提示された質問や意見に対しては、リプライを配布するほか、重要なものについて授業中に応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	内容の導入を行う。
2	戦後ヨーロッパの政治変動	第二次大戦後のヨーロッパ政治と、そこにおける政治変動の「波」を概観する。
3	デモクラシーの変容から融解へ？	戦後ヨーロッパ型のデモクラシーがどのように変容してきたかを概観する。
4	フランス (1)	フランスの政治発展を、「議会主権体制」という観点から検討する。
5	フランス (2)	フランスの政治発展を、「半大統領制」という観点から検討する。
6	イタリア (1)	イタリアの政治発展を、「自由主義と政治的クライエンテリズム」という観点をから検討する。
7	イタリア (2)	イタリアの政治発展を、「政権選択型デモクラシーの創出」という観点から検討する。
8	レビュー・セッション (1)	これまでの内容をまとめるとともに、補足的内容を講じる。
9	南欧諸国 (1)	スペイン・ポルトガルの政治発展を「権威主義体制」という観点から検討する。
10	南欧諸国 (2)	スペイン・ポルトガルの政治発展を「民主制への移行」という観点から検討する。
11	中欧諸国 (1)	中欧諸国の政治発展を「社会主義体制からの体制変動」という観点から検討する。
12	中欧諸国 (2)	中欧諸国の政治発展を「民主制の定着」という観点から検討する。
13	レビュー・セッション (2)	これまでの内容をまとめるとともに、補足的内容を講じる。
14	全体のまとめ	授業全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習課題提出回については、テキストの事前に指定された部分を読み、要約やコメントを提出する。授業終了後は内容を復習しコメントペーパーや小テストに備える。事前学習・復習をあわせて授業時間外学習は各回概ね 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

網谷龍介・伊藤武・成廣孝『ヨーロッパのデモクラシー 改訂第 2 版』ナカニシヤ出版、2014 年。

【参考書】

マーク・マゾワー『暗黒の大陸』未来社、2015 年。
篠原一『ヨーロッパの政治』東京大学出版会、1986 年。
馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック 第 2 版』東京大学出版会、2010 年。
中山洋平・水島治郎『ヨーロッパ政治史』放送大学教育振興会、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

授業前提出課題 34%：A4 で 1 ページ程度の予習課題を提出。テキストの指定部分について内容のまとめとコメント・疑問を記載する。内容を自分で理解しようとしているか、疑問やコメントが適切に記載されているかを評価する。授業内課題 26%：小テスト、リアクション・ペーパーなどを実施する。授業内容についての理解度を確認する。
学期末試験 40%：全体としての講義の理解度と到達目標の達成度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course gives an overview of European political history from the perspective of "Political Development" leading to democratic regimes. "Politics" of a given society in a given era is moulded by the collective patterns of political behaviour and creative and path-breaking action of a person. We focus on those patterns, which has been forged historically and takes different forms in various societies. For that reason, it is important to take comparative and historical approach to understand "politics" in a given setting. Therefore, the course is concentrated on the European cases but has further implication to understand democratization pathways.

LAW300AB

人権と企業社会 I

土屋 仁美

授業形式：講義 | 開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代資本主義社会の経済活動は、企業によって支えられ、企業の活動は、社会全体に大きな影響力を与えています。現代社会における企業活動には、営利を追求するだけではなく、社会の一員として、労働、環境、消費等に関わる社会的な問題を解決するための行動が求められています。そこで、現代社会が抱える問題に企業が対応する意義や必要性について理解を深めつつ、人権保障の観点から問題を考察する力を身に付けます。「企業・経営と法コース」のコース配当科目③憲法科目に位置づけられます。

【到達目標】

- ① 企業活動における関係当事者の権利を理解する。
- ② 人権保障の観点から、企業活動に求められる対応や取組みを理解する。
- ③ 法的な観点から問題を把握し、考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

企業活動における利害関係者の権利を理解したうえで、国内外の具体的な事例について、関連する判例や学説をもとに、講義形式で授業を進めていきます。授業内で取り組んだ課題等（テスト／レポート）については、学習支援システム等を用いてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	企業社会の形成と企業の社会的責任	日本型企業社会の特徴と、社会の一員としての企業の責任について学びます。
第 2 回	企業活動による人権保障の重要性	企業活動における人権保障の重要性について、人権の私人間効力の観点から学びます。
第 3 回	ステークホルダーの権利と法規範	企業活動に関わる利害関係者として、労働者、消費者、地域住民等の権利について学びます。
第 4 回	国際社会におけるビジネスと人権	国際法の中でも経済分野に焦点を当て、自由貿易体制の維持と人権保障について学びます。
第 5 回	環境保護に対する国内外の取組	気候変動や公害の輸出の問題について、環境権の観点から企業活動における環境保護の必要性について学びます。
第 6 回	長時間労働の是正と過労死等の防止	長時間労働の是正と過労死等の防止の観点から、労働者の権利保障について学びます。
第 7 回	雇用分野における女性の活躍の推進	雇用分野における男女格差の是正について、ジェンダー平等やポジティブアクションの観点から学びます。
第 8 回	消費者問題の特徴と消費者の権利	消費者被害の現状を把握し、消費者契約の特徴について、消費者の権利の観点から学びます。
第 9 回	食品の安全性の確保	消費者の生命権・健康権の観点から、商品・サービスにおける安全性確保の必要性について学びます。
第 10 回	営利的表現としての広告・表示	営利的表現としての広告・表示について、事業者の表現の自由と消費者の知る権利の観点から学びます。
第 11 回	AI ネットワーク社会における自己決定	プロファイリングに基づくマーケティングの問題点について、消費者の自己決定の観点から学びます。
第 12 回	ビックデータの利活用と個人情報保護	プライバシー権の観点から、企業が保有するビックデータの利活用における個人情報保護について学びます。
第 13 回	巨大 IT 企業と競争市場の維持	企業が活動する市場に焦点を当て、営業の自由の観点から、巨大 IT 企業に対する規制について学びます。
第 14 回	試験（レポート）	授業内容についての試験（レポート）を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その日のうちに配布プリント・資料をもとに復習しましょう。
日ごろから時事問題に関心を持ちましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。
講義時にレジュメ・資料を配布します。
講義の際には、六法を持参してください。

【参考書】

元山 健・建石真公子編『現代日本の憲法〔第 2 版〕』（法律文化社、2016 年）
『（別冊ジュリスト）憲法判例百選Ⅰ 第 7 版』（有斐閣、2019 年）
『（別冊ジュリスト）憲法判例百選Ⅱ 第 7 版』（有斐閣、2019 年）
『（別冊ジュリスト）労働判例百選 第 9 版』（有斐閣、2016 年）
『（別冊ジュリスト）環境法判例百選 第 3 版』（有斐閣、2018 年）
『（別冊ジュリスト）消費者法判例百選』（有斐閣、2010 年）

【成績評価の方法と基準】

各講義の小テスト（40 %）、レポート（60 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が能動的に参加できるように、受講者自身が問題と向き合い考える時間（小レポート）を設けます。受講者数によって、グループディスカッション等を行う場合があります。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等に学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

In Modern capitalism, business activities have great influence on society. As a member of society, business enterprises need to take actions with social problems related to labor, environment, consumption, etc. In this class students learn about the significance of business activities to protect the human rights.

POL200AC

アメリカ政治史Ⅰ

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国の歴史と政治を考察します。
アメリカ合衆国を通史的ではなく文脈的に考察していきます。

【到達目標】

アメリカ合衆国の政治・経済・社会・文化は、日本と密接な関係をもち、また、日本に影響を与えていますが、一般に思われているほどそれらの理解は簡単ではありません。アメリカという国のもつさまざまな政治的社会的文化的特質を考察しながら、それらについて理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教室で対面授業を行なう予定ですが、それができない場合には、オンライン授業に切り替えます。
オンライン授業の場合、リアルタイムではなく、あらかじめ収録していた授業を YouTube で限定配信します。YouTube の URL は授業日までに HOPPII にアップします。
授業にかんする情報も、すべて、HOPPII にアップします。
アップする頻度が高いかもしれませんので、受講者は、同システムで確認するようにしてください。
毎回提出されるリアクションペーパーについては、次の授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	時間・空間・人間 1	「時間」の視点からアメリカ合衆国を考察する 1
第 2 回	時間・空間・人間 2	「時間」の視点からアメリカ合衆国を考察する 2
第 3 回	時間・空間・人間 3	「空間」の視点からアメリカ合衆国を考える 1
第 4 回	時間・空間・人間 4	「空間」の視点からアメリカ合衆国を考える 2
第 5 回	時間・空間・人間 5	「人間」の視点からアメリカ合衆国を考える 1
第 6 回	時間・空間・人間 6	「人間」の視点からアメリカ合衆国を考える 2
第 7 回	アメリカニズム 1	19 世紀アメリカニズム 1
第 8 回	アメリカニズム 2	19 世紀アメリカニズム 2
第 9 回	アメリカニズム 3	20 世紀アメリカニズム 1
第 10 回	アメリカニズム 4	20 世紀アメリカニズム 2
第 11 回	三つの伝統 1	聖書の伝統 1
第 12 回	三つの伝統 2	聖書の伝統 2
第 13 回	三つの伝統 3	共和主義的伝統
第 14 回	三つの伝統 4	自由主義的伝統

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献を指示します。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（100 %）

教室試験ができない場合には、レポートによる評価をおこないます。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【Outline and objectives】

U.S. Politics and History

POL200AC

アメリカ政治史Ⅱ

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国の歴史と政治を考察します。

アメリカ合衆国を通史的ではなく文脈的に考察していきます。

【到達目標】

アメリカ合衆国の政治・経済・社会・文化は、日本と密接な関係を持ち、また、日本に影響を与えていますが、一般に思われているほどそれらの理解は簡単ではありません。アメリカという国のもつさまざまな政治的社会的文化的特質を考察しながら、それらについて理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教室での授業を予定しています。

教室での授業ができない場合には、オンライン授業に切り替えます。オンライン授業の場合、あらかじめ収録した授業を YouTube で限定配信します。

YouTube の URL は授業日までに HOPPII にアップします。

毎回提出されるリアクションペーパーについては、次の授業内に回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	憲法 1	立憲主義
第 2 回	憲法 2	連邦制
第 3 回	憲法 3	三権分立制
第 4 回	大統領制 1	大統領の権限
第 5 回	大統領制 2	大統領と議会
第 6 回	裁判所	権力機構としての裁判所
第 7 回	政党政治 1	政党制
第 8 回	政党政治 2	現代の政党政治
第 9 回	選挙	選挙・政党・議会
第 10 回	地方自治	自己統治と自律
第 11 回	人種とエスニシティ 1	移民
第 12 回	人種とエスニシティ 2	多文化主義
第 13 回	アメリカの世紀 1	対外政策
第 14 回	アメリカの世紀 2	「アメリカ文明」とはなにか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献を指示します。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（100 %）

教室試験ができない場合には、レポートにより成績評価をおこないます。

詳細については、授業中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【Outline and objectives】

U.S.Politics and History

POL300AC

政治学特殊講義Ⅰ（日韓比較政治思想）

崔 先鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目です。この講義においては、近代と日韓の思想を通して、両国における政治・社会・文化についての思考能力、並びに両国関係をめぐる諸問題に対する関心の向上を目指します。

近代という時代を克服して、戦後の日韓と世界で指導的役割を發揮しながら活躍した知識人の思想を基に、現在を構成する一員としての我々が備えるべき問題意識を歩むべき方向性について真剣に考えて行きたいです。

【到達目標】

一般論としての政治学分野に加えて、最も重要な近隣諸国である日韓関係についての理解を高めたい学生のために、両国の歴史・文化・社会をめぐる諸問題について考察していく予定です。

社会科学としての政治思想分野、とくに日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

政治学の一般論について理論書を通して学習しつつ、歴史的な取り組みから現代の時事問題に至るまでの内容を包括して説明を行います。日韓をめぐるいろいろな問題意識を有する学生を包容し、文書購読を行います。また、理論的文献の他に、新聞、雑誌、並びに、ドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行います。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	（前期） オリエンテーション	講義全般についての紹介
第二回	近現代の日韓における状況について	関連内容の紹介・説明
第三回	日韓関係をめぐる市民社会の論理と心理について①	関連内容の紹介・説明
第四回	日韓関係をめぐる市民社会の論理と心理について②	関連内容の紹介・説明
第五回	日韓における人間と道徳認識について①	関連内容の紹介・説明
第六回	日韓における人間と道徳認識について②	関連内容の紹介・説明
第七回	日韓におけるナショナリズムの諸問題について①	関連内容の紹介・説明
第八回	日韓におけるナショナリズムの諸問題について②	関連内容の紹介・説明
第九回	歴史的視座から見た日韓における西欧認識について①	関連内容の紹介・説明
第十回	歴史的視座から見た日韓における西欧認識について②	関連内容の紹介・説明
第十一回	日韓の学問世界における普遍的ものの追求について①	関連内容の紹介・説明
第十二回	日韓の学問世界における普遍的ものの追求について②	関連内容の紹介・説明
第十三回	現代の日韓における態度決定の諸問題について①	関連内容の紹介・説明
第十四回	現代の日韓における態度決定の諸問題について②	関連内容の紹介・説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。授業中はノートを取ることに。
授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対しないこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

歴史教育研究会編『日韓交流の歴史』東京、明石書店、2007 年
(必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像を使用いたします。その他、必要な場合はコピーを配布いたします。)
三谷太一郎『日本の近代とは何であったかー問題史的考察』岩波新書 1650、東京、岩波書店、2017 年

【参考書】

南原繁『政治哲学序説』、岩波書店、1988 年
白樂濬『歴史と文化』、延世大学出版部、1995 年
中野勝郎・杉田敦・崔先鎬ほか『市民社会と立憲主義』、法政大学出版局、2012 年
中野勝郎・崔先鎬ほか『境界線の法と政治』、法政大学出版局、2016 年

【成績評価の方法と基準】

例年の場合、参加度 (= 手書きのレポートなどの提出物、30%) + 試験 (黒の油性ボールペンのみ使用可、70%) です。
(ただし、非常事態宣言に伴うオンライン講座の対応となった場合、参加度のみの 100% の評価 (受講態度 50% + 提出物 50%) といたします。無論、上記の措置が解除され大学での試験実施が可能な場合は通常通りの実施となります。)

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係における持続可能な信頼の構築

【学生が準備すべき機器他】

ノート筆記

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline and objectives】

By this subject about the modern history in Japanese & Korean politics, society, the culture study it. In addition, by this lecture, to the improve interest about various the relationship around Japanese & Korean's modern age. Particularly, to consider education system with the Elite between these two countries.

POL300AC

政治学特殊講義Ⅱ（日韓比較政治思想）

崔 先鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目です。この講義においては、近代と日韓の思想を通して、両国における政治・社会・文化についての思考能力、並びに両国関係をめぐる諸問題に対する関心の向上を目指します。
近代という時代を克服して、戦後の日韓と世界で指導的役割を發揮しながら活躍した知識人の思想を基に、現在を構成する一員としての我々が備えるべき問題意識を歩むべき方向性について真剣に考えて行きたいです。

【到達目標】

一般論としての政治学分野に加えて、最も重要な近隣諸国である日韓関係についての理解を高めたい学生のために、両国の歴史・文化・社会をめぐる諸問題について考察していく予定です。
社会科学としての政治思想分野、とくに日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無難歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

政治学的一般論について理論書を通して学習しつつ、歴史的な取り組みから現代の時事問題に至るまでの内容を包括して説明を行います。日韓をめぐるいろいろな問題意識を有する学生を包容し、文書購読を行います。また、理論的文献の他に、新聞、雑誌、並びに、ドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行います。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	（後期） オリエンテーション	講義全般についての紹介
第二回	日韓における文化的共通認識と歴史的価値について①	関連内容の紹介・説明
第三回	日韓における文化的共通認識と歴史的価値について②	関連内容の紹介・説明
第四回	日韓における文化的共通認識と歴史的価値について③	関連内容の紹介・説明
第五回	日韓におけるリベラリズムとデモクラシーについて①	関連内容の紹介・説明
第六回	日韓におけるリベラリズムとデモクラシーについて②	関連内容の紹介・説明
第七回	日韓におけるリベラリズムとデモクラシーについて③	関連内容の紹介・説明
第八回	日韓における市民社会について①	関連内容の紹介・説明
第九回	日韓における市民社会について②	関連内容の紹介・説明
第十回	日韓における市民社会について③	関連内容の紹介・説明
第十一回	日韓における文化多元主義について①	関連内容の紹介・説明
第十二回	日韓における文化多元主義について②	関連内容の紹介・説明
第十三回	国際関係としての日韓について	関連内容の紹介・説明
第十四回	日韓友好関係の意義と可能性について	関連内容の紹介・説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。授業中はノートを取ることに。
授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対しないこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

歴史教育研究会編『日韓交流の歴史』東京、明石書店、2007 年
(必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像を使用いたします。その他、必要な場合はコピーを配布いたします。)
三谷太郎『日本の近代とは何であったかー問題史的考察』岩波新書 1650、東京、岩波書店、2017 年

【参考書】

南原繁『政治哲学序説』、岩波書店、1988 年
白樂濤『歴史と文化』、延世大学出版部、1995 年
中野勝郎・杉田敦・崔先鎬ほか『市民社会と立憲主義』、法政大学出版局、2012 年
中野勝郎・崔先鎬ほか『境界線の法と政治』、法政大学出版局、2016 年

【成績評価の方法と基準】

例年の場合、参加度 (= 手書きのレポートなどの提出物、30%) + 試験 (黒の油性ボールペンのみ使用可、70%) です。
(ただし、非常事態宣言に伴うオンライン講座の対応となった場合、参加度のみの 100%(受講態度 50%+提出物 50%) の評価といたします。無論、上記の措置が解除され大学での試験実施が可能な場合は通常通りの実施となります。)

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係における持続可能な信頼の構築

【学生が準備すべき機器他】

ノート筆記

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline and objectives】

By this subject about the modern history in Japanese & Korean politics, society, the culture study it. In addition, by this lecture, to the improve interest about various the relationship around Japanese & Korean's modern age. Particularly, to consider education system with the Elite between these two countries.

POL300AC

現代政策学特講Ⅰ（立法学）

正木 寛也

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、政治学科科目の中で「選択科目」に属しており、Ⅰ・Ⅱを通して、法制度の形成（立法）過程を着眼点として立法学の全体像を俯瞰するものです。解釈法学に対する概念としての立法学の必要性は古くから指摘され、これまでも、様々な分野の研究者が各自の視点からの「立法学」を論じています。本科目は、今日までの立法学に関する議論を整理するとともに、法制度がいかにして形成されるかを、立法過程論にとどまらず、立法される（べき）内容に係る憲法、民事法、刑事法等との関係の在り方といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に位置付けて体系的に構築することを試みます。Ⅰでは、主に政策の形成過程から分析します。

【到達目標】

法制度は天賦のものでも不動不変のものでもなく、それを「書いた人」があり、また、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程において政策がいかにして形成されるか、そして、政策のアウトプットの一形態としての法制度がいかにして構築されるかを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法に、それを誰が主体的に形成しているかという視点を加えることで実定法を動的に理解できるようにすることにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行い、映像の使用も検討中です。立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図ります。また、具体例として取り上げるテーマについても、皆さんの要望に可能な限り対応する予定です。さらに、各段階において、考える時間を確保することにより法制度の形成過程における立法者の思考の流れを追体験してもらうとともに、提出された質問や課題の回答を端緒にしたフィードバックを適宜行うこと等を通じて、「実用」性を高める工夫もしたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第 2 回	「立法学」とはなにか	テーマに沿った講義
第 3 回	立法学の再定位	テーマに沿った講義
第 4 回	政策形成過程概論	テーマに沿った講義
第 5 回	政府における政策形成過程	テーマに沿った講義
第 6 回	政府における政策形成の事例研究（1）	テーマに沿った講義
第 7 回	政府における政策形成の事例研究（2）	テーマに沿った講義
第 8 回	政党における政策形成過程	テーマに沿った講義
第 9 回	政党における政策形成の事例研究	テーマに沿った講義
第 10 回	政策形成と選挙制度の関係	テーマに沿った講義
第 11 回	選挙制度概論	テーマに沿った講義
第 12 回	選挙制度史	テーマに沿った講義
第 13 回	日本の選挙制度	テーマに沿った講義
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

政治の場で議論される社会における諸課題と法制度は、密接に結びついています。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえるといいと思います。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣、2012年）。その他については、講義において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の進捗に合わせて適時（学期中に数回）課す課題（50%）、学期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

教員は、衆議院法制局において20年以上にわたり議員立法の補佐に携わっており、題材として実際の法律の立法過程を取り扱うのはもちろん、授業の時点において国会で議論されているテーマ（近年の授業で紹介した事例として、TPP、安全保障関連法案、違法伐採、入管法改正など）について具体的に説明することで、皆さんが興味を持ち、より深く理解してもらえるような授業を心がけています。

【Outline and objectives】

In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.

POL300AC

現代政策学特講Ⅱ（立法学）

正木 寛也

授業形式：講義 ｜ 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、政治学科科目の中で「選択科目」に属しており、Ⅰ・Ⅱを通して、法制度の形成（立法）過程を着眼点として立法学の全体像を俯瞰するものです。解釈法学に対する概念としての立法学の必要性は古くから指摘され、これまでも、様々な分野の研究者が各自の視点からの「立法学」を論じています。本科目は、今日までの立法学に関する議論を整理するとともに、法制度がいかにして形成されるかを、立法過程論にとどまらず、立法される（べき）内容に係る憲法、民事法、刑事法等との関係の在り方といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に位置付けて体系的に構築することを試みます。Ⅱでは、議会（国会）における議論・調整を通じた法制度の形成過程から分析します。

【到達目標】

法制度は天賦のものでも不動不変のものでもなく、それを「書いた人」があり、また、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程において政策がいかにして形成されるか、そして、政策のアウトプットの一形態としての法制度がいかにして構築されるかを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法に、それを誰が主体的に形成しているかという視点を加えることで実定法を動的に理解できるようにすることにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行い、映像の使用も検討中です。立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図ります。また、具体例として取り上げるテーマについても、皆さんの要望に可能な限り対応する予定です。さらに、各段階において、考える時間を確保することにより法制度の形成過程における立法者の思考の流れを追体験してもらうとともに、提出された質問や課題の回答を端緒にしたフィードバックを適宜行うこと等を通じて、「実用」性を高める工夫もしたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第2回	代議制民主政治論	テーマに沿った講義
第3回	議会制度概論	テーマに沿った講義
第4回	二院制と立法過程	テーマに沿った講義
第5回	日本の立法の量的・質的分析	テーマに沿った講義
第6回	立法の今日的課題	テーマに沿った講義
第7回	立法政策と立法事実論	テーマに沿った講義
第8回	法制度設計の政治性と倫理	テーマに沿った講義
第9回	事例研究（1）	具体的な法律の立法過程の分析
第10回	事例研究（2）	具体的な法律の立法過程の分析
第11回	事例研究（3）	具体的な法律の立法過程の分析
第12回	事例研究（4）	具体的な法律の立法過程の分析
第13回	事例研究（5）	具体的な法律の立法過程の分析
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

政治の場で議論される社会における諸課題と法制度は、密接に結びついていきます。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえるといいと思います。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣、2012 年）。その他については、講義において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の進捗に合わせて適時（学期中に数回）課す課題（50%）、学期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

教員は、衆議院法制局において 20 年以上にわたり議員立法の補佐に携わっており、題材として実際の法律の立法過程を取り扱うのはもちろん、授業の時点において国会で議論されているテーマ（近年の授業で紹介した事例として、TPP、安全保障関連法案、違法伐採、入管法改正など）について具体的に説明することで、皆さんが興味を持ち、より深く理解してもらえるような授業を心がけています。

【Outline and objectives】

In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.

POL300AC

外国語講読（朝鮮語）Ⅰ

崔 先鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義においては、ハングルを通して、政治・社会・文化についての思考能力、並びに文献分析能力の向上を目指します。この科目を受講するには、「第二外国語として初級レベルの韓国語を履修済み・TOPIK 三級以上・ハングル検定三級以上の何れかの語学力」が必要です。

【到達目標】

基礎レベルのハングル学習能力をもとに、基本的なハングル文献判読能力を高めたい学生のために学習を行う予定です。語学としてのハングル・日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無難歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

文例集を参考にさまざまな実用文について学習しつつ、現地の時事雑誌などを使用して訳の比較を行います。少ない語彙で表現できるレベルから、語彙そのものを高めるレベルまで、いろいろな語学水準の学生を包容し、文書講読の練習を行います。また、ハングル文献、新聞、雑誌、並びに、現地で制作したドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行う予定です。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	（前期）レベルテスト・オリエンテーション	レベルテスト・講義全般についての紹介
第二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第三回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第四回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第五回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第六回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第七回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第八回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第九回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十一回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十三回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十四回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。必要に応じてノートを取ること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布いたします。
(必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像、並びに音楽等を使用して進めて行く予定です。今期は非常事態宣言に伴うオンライン講座の対応となった場合、Web 上の文書にて講読することといたします。)

【参考書】

日韓・韓日辞書は必要です。紙の辞書を用意してください。
Hana 韓国語教育研究会編『韓国語ライティングの文例集』、アルク、2010 年
和田春樹・石坂浩一編『岩波小辞典 現代韓国・朝鮮』、岩波書店、2002 年

【成績評価の方法と基準】

例年の場合、平常点：講座への貢献・参加度 (50%) + 手書きのレポートなどの提出物 (50%) です。(ただし、非常事態宣言に伴うオンライン講座の対応となった場合、上記の参加度とレポートを合わせての平常点 100% の評価といたします。無論、上記の措置が解除され大学での試験実施が可能な場合は通常通りの実施となります。)

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係の再構築

【Outline and objectives】

By this lecture, the consider about Japanese & Korean politics, society, culture through by the Korean language (=Hangul) and improve the ability of the documents analysis.

Hangul of the beginner's class level as the second foreign language has been studied to attend this subject or linguistic ability more than the TOPIK third grade is necessary.

POL300AC

外国書講読（朝鮮語）Ⅱ

崔 先鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：履修を希望する場合は、所定の手続きに従って申請すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義においては、ハングルを通して、政治・社会・文化についての思考能力、並びに文献分析能力の向上を目指します。

この科目を受講するには、「第二外国語として初級レベルの韓国語を履修済み・TOPIK 三級以上・ハングル検定三級以上の何れかの語学力」が必要です。

【到達目標】

基礎レベルのハングル学習能力をもとに、基本的なハングル文献判読能力を高めたい学生のために学習を行う予定です。

語学としてのハングル・日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無難歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

文例集を参考にさまざまな実用文について学習しつつ、現地の時事雑誌などを使用して訳の比較を行います。少ない語彙で表現できるレベルから、語彙そのものを高めるレベルまで、いろいろな語学水準の学生を包容し、文書講読の練習を行います。

また、ハングル文献、新聞、雑誌、並びに、現地で制作したドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行う予定です。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	（後期） レヴェルテスト・オリエンテーション	レヴェルテスト・講義全般についての紹介
第二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第三回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第四回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第五回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第六回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第七回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第八回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第九回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十一回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十三回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十四回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。

必要に応じてノートを取ること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布いたします。

（必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像、並びに音楽等を使用して進めて行く予定です。）

【参考書】

日韓・韓日辞書は必要です。紙の辞書を用意してください。

Hana 韓国語教育研究会編『韓国語ライティングの文例集』、アルク、

2010 年

和田春樹・石坂浩一編『岩波小辞典 現代韓国・朝鮮』、岩波書店、

2002 年

【成績評価の方法と基準】

例年の場合、平常点：講座への貢献・参加度 (50%) + 手書きのレポートなどの提出物 (50%) です。（ただし、非常事態宣言に伴うオンライン講座の対応となった場合、上記の参加度とレポートを合わせての平常点 100% の評価といたします。無論、上記の措置が解除され大学での試験実施が可能な場合は通常通りの実施となります。）

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係の再構築

【Outline and objectives】

By this lecture, the consider about Japanese & Korean politics, society, culture through by the Korean language (=Hangul) and improve the ability of the documents analysis.

Hangul of the beginner's class level as the second foreign language has been studied to attend this subject or linguistic ability more than the TOPIK third grade is necessary.

PHL300BB

哲学特講（1）－1

奥田 和夫

授業コード：A2212 | 曜日・時限：火曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソクラテスについて

「西洋哲学史Ⅰ」にて解説したように、ソクラテスは著作を残さなかった。そのため、歴史上のソクラテスの哲学を直接に知ることはできない。ただ、ソクラテスの近くにいた人たちがソクラテスについて残した著作を手掛かりにソクラテスの哲学を推測することができるだけである。

ソクラテスの哲学を考える際に、プラトンの著作が重要視されるのは当然である。が、その他の人々の著作はどれだけ活用できるのか。この問題については 19 世紀から 20 世紀にかけて学者たちの論争もあったが、今日でも意見がまとまっているわけではない。

この授業では、プラトンをはじめとしてプラトン以外の著作家たちの作品もあらためて読み直し、ソクラテス解釈上、許される論点をさぐり、ソクラテス解釈・理解を前進させることを目的とする。

【到達目標】

関連テキストの慎重な読解と分析にもとづき、新たに、ソクラテス哲学に関する解釈上の正当な論点をさぐる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、その授業の概要と資料を提示し、講義形式ですすめる。質問は口頭でもリアクションペーパーでも受けつける。後者の場合、回答は次回の授業の冒頭にて前回の授業の復習を行なう際にのべる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ソクラテスを考えるときの資料とその性格
第 2 回	アリストパネス劇とソクラテス	アリストパネスの劇作とソクラテス
第 3 回	アリストパネス劇の中のソクラテス	アリストパネスと人々が共有したソクラテス像
第 4 回	クセノポン	クセノポンの生涯と著作
第 5 回	クセノポンのソクラテス 1	クセノポンのソクラテス像 1
第 6 回	クセノポンのソクラテス 2	クセノポンのソクラテス像 2
第 7 回	プラトンのソクラテス 1	初期作品 1
第 8 回	プラトンのソクラテス 2	初期作品 2
第 9 回	プラトンのソクラテス 3	中期作品 1
第 10 回	プラトンのソクラテス 4	中期作品 2
第 11 回	プラトンのソクラテス 5	後期作品 プラトン作品に登場するソクラテス像（変化と全体像）
第 12 回	プラトンのソクラテスとアリストテレスのソクラテス	両者の相違点と近似点
第 13 回	ソクラテスの人物像	彼らはソクラテスに何を見ていたのか

第 14 回 ソクラテスの哲学 ソクラテスは何者であったと考え
まとめ られるのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介する著作、関連する著作を読む。本授業の準備・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はない。講義内容と講義で使用する資料からともに考えてもらう。

【参考書】

田中美知太郎『ソクラテス』（岩波新書）その他は講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」に記した内容の到達度に照らして、① 数回の小レポート（40%）② 期末レポートの内容（60%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline and objectives】

In this class we read Aristophanes, Xenophon, Plato and Aristotle, and then we challenge the Socratic Problem anew.

The objects of the class are careful reading of them and by doing this work finding another or new aspects of Socratic thoughts.

PHL300BB

哲学特講（1）－2

山下 真

授業コード：A2213 | 曜日・時限：水曜 4 限

秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義のテーマは、「ヤスパース：実存と理性の哲学」です。

20 世紀ドイツの哲学者、カール・ヤスパースの極めて広大な思想は、〈実存〉と〈理性〉という二つの主要概念によって特徴づけることができます。まず彼の前期思想は、キルケゴールやニーチェの影響のもと、偶然性や死といった不条理な限界状況の只中にある個としての人間存在を捉え、独自の〈実存哲学〉を確立しました。しかし、ナチス政権下で迫害され、全体主義の脅威を経験した後期のヤスパースは、より積極的に、多様な他者との交わりに開かれた〈理性の哲学〉を提示するに至ります。

受講者は、こうしたヤスパース哲学の統一的な展開過程、および多面的な全体像を学び、その独自性と可能性を考察することで、現代哲学の一側面への理解を深めることとなるでしょう。

【到達目標】

受講者が達成すべき目標は、以下の三点です。

- ① ヤスパース哲学の基本概念と全体構想、および彼の思考の特質を学ぶ。
- ② 哲学的伝統や現代の実存思想、20 世紀の社会状況との関連を視野に入れ、ヤスパースの思考を導いた問題意識を理解する。
- ③ 現代に生きる自分たちにとって、実存および理性という概念が持つ、意義と可能性を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、配布資料を使って講義形式で進めます。毎回、ヤスパースが思考した中心課題や基本概念を解説し、問題となっている事柄を捉えていきます。

受講者には、出席票を兼ねたコメントカードで、感想や意見、質問を提出してもらいます。そのうち重要なものについては、次の授業でいくつか取り上げ、応答することとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と導入	ヤスパース哲学の展開とその時代
第 2 回	〈存在の探求〉と実存	実存思想の歴史的背景と位置づけ
第 3 回	〈状況内存在〉からの出発	実存的思考の発生とその根本動機
第 4 回	実存と〈限界状況〉(1)	〈実存〉概念の含意と限界状況論の概要
第 5 回	実存と〈限界状況〉(2)	実存的自由と〈瞬間〉の思想
第 6 回	〈実存的交わり〉の論理	他者の存在との共同的自己生成
第 7 回	〈哲学的世界定位〉の意味	科学知の特性とその限界の露呈
第 8 回	暗号の形而上学 (1)	存在全体の問いから形而上学への超出
第 9 回	暗号の形而上学 (2)	超越者とその〈暗号解読〉という概念
第 10 回	形而上学的〈責め〉	ヤスパースの戦争責任論とその意図
第 11 回	〈哲学的論理学〉と理性	包括者論と理性概念の基本特徴
第 12 回	〈哲学的信仰〉の多元性	哲学と宗教との対話の可能性
第 13 回	原子爆弾と人間の未来	ヤスパースの原爆論とその射程
第 14 回	講義の総括と展望	実存の多元性と理性的思考

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、配布資料や指定した参考文献を読解し、予習・復習を実施して参加すること（大学の基準では、本授業の準備・復習時間は、毎回 4 時間と規定されています）。

各回の連続性が高いので、欠席が多いと内容を理解できなくなります。学んだ事柄を自主的に整理した上で、極力休まず参加してください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

ヤスパースの主要著作の邦訳は、『哲学』全 3 巻（創文社）や『ヤスパース選集』全 37 巻（理想社）などで読めます。高価・入手難のものが多く、まずは図書館を利用してください。また、さしあたりの概説的な書物として、宇都宮芳明『人と思想 ヤスパース』（清水書院）、重田英世『人類の知的遺産 ヤスパース』（講談社）、W・シュスラー『ヤスパース入門』（月曜社）を挙げておきます。その他の文献は、講義内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況およびコメントカードでの理解度や意見・質問の積極性、受講態度などの平常点（50 %）と、学期末の課題レポート（50 %）で、上記「到達目標」三点の達成度を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各人の経験に引きつけて思考できるよう、常に具体的な実例を織り交ぜた説明を心がけています。また、背景となる哲学史的な知識や、様々な術語の原語に含まれるニュアンスなど、詳しく話しています。配布資料では哲学者のテキストを多く引用し、原典の言葉から問題を理解できるような手法をとります。コメントカードへの応答は内容理解に役立つとの声が多いので、留意していきます。

【Outline and objectives】

This course deals Karl Jaspers' philosophy. His thoughts can be characterized by two central concepts of 'existence and reason' (Existenz und Vernunft). The student will obtain basic knowledge about the development and concepts of Jaspers' philosophy. The goal of this course is to understand originality and possibility of his pluralistic thinking.

PHL300BB

哲学特講（3）－1

松本 力

授業コード：A2216 | 曜日・時限：金曜 3 限

春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『方法序説』では、デカルトが自らの哲学を打ち立てる動機を読み取ることで、デカルト哲学が目指す到達点を理解し、その到達点にたどり着くために『省察』において具体的にどのような議論を行っているかを学ぶことになります。

【到達目標】

デカルトにとっての理性とは何か。理性をもちいて到達する「考える私」の確かさとは何か。そしてデカルトにとっての神が、私たちの認識においてどのような役割を果たしているか。これらを考察することで、デカルト哲学の中心的概念を理解し、説明できるようになることが、この授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

デカルトの主要な著作である『方法序説』と『省察』を配布資料をもとに読み進め、毎回、授業内容についての理解度を確保するための「課題」に答えてください（オンライン授業では、Hoppii 上で行います）。質問があれば、この「課題」への答えに書き込むこと。質問への回答は、次の授業回の冒頭（オンラインであれば「お知らせ」）で示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	デカルトの生涯と著作	デカルト哲学の全体像。
第 2 回	『方法序説』第一部	デカルト哲学の目的。
第 3 回	『方法序説』第二部	デカルト哲学の方法。
第 4 回	『方法序説』第三部	デカルトの暫定道徳。
第 5 回	『方法序説』第四部	「我思う故に我あり」。
第 6 回	『省察』第一部	疑いをさしはさみうるものについて。
第 7 回	『省察』第二部	考えるとはどのようなことか。
第 8 回	『省察』第三部前半	神の存在証明第一、神の観念の原因として。
第 9 回	『省察』第三部後半	神の存在証明第二、私の存在の原因として。
第 10 回	『省察』第四部	誤謬の原因について。
第 11 回	『省察』第五部	神の存在証明第三、神の存在論的証明。
第 12 回	『省察』第六部前半	想像すること、感覚すること、そして理解すること。
第 13 回	『省察』第六部後半	精神と身体との関係について。
第 14 回	試験	筆記試験により授業内容の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り扱う箇所を、配布資料を参考に読み進め、その内容の要約し、疑問点をまとめておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『方法序説』については資料を配付する。『省察』については次のものを各自用意すること。『デカルト 省察 情念論』（中央公論新社、中公クラシックス、2002 年、1500 円＋税）

【参考書】

野田又夫『デカルト』（岩波新書、1966 年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70 %）によりデカルト哲学の重要概念の理解度を、最終的に確認する。また、各回の「課題」（30 %）に答えることを平常点とする。

【学生の意見等からの気づき】

「課題」提出前には、必ずテキストと配布資料を読んでおくこと。また、「課題」の提出後も、疑問点があれば質問すること。自分の中で理解できていること、理解できていないことを確認しながら読み進めることが求められます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Meditations on First Philosophy of Descartes.

PHL300BB

哲学特講（3）－2

古屋 俊彦

授業コード：A2217 | 曜日・時限：火曜 5 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソシュールの『一般言語学講義』を詳しく読み、現代思想の理解に不可欠な言語の本質についての考察を学ぶ。
構造主義と構造主義以後の現代思想を理解するためにはソシュールの『一般言語学講義』における考察を正確に知っていなければならない。
今は古典となっているこのような本の丁寧な読解は常に必要だが、特にソシュールの『一般言語学講義』は本質的かつ具体的な言語の考察が際立っていて今でも特異性を失わないので読む価値がある。

【到達目標】

ソシュールの『一般言語学講義』に書かれている、言語の本質に関する考え方や基本的な概念とその言い換えなどを理解する。予備知識として十九世紀から二十世紀の言語学の歴史を把握し、『一般言語学講義』の考察を、その中で位置づけて理解する。更に、『一般言語学講義』の考察を、現代思想、その中でも特に構造主義と構造主義以後の思想への影響の中で理解する。以上の理解を前提として、課題となる小論文の中で、『一般言語学講義』にならって言語に関する原理的な考察を自分なりに試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ソシュールの『一般言語学講義』の講読を講義形式で進める。受講者は、事前に本を読み、疑問点や問題点を授業中あるいはウェブサイトで提示する。受講生は、毎回、受講報告として、授業を受けて考えたことを文章で書いて提出する。教員は疑問点や問題点に対して即答した上で詳しく検討して次の回に返答する。受講報告についても同様に次の回に必要なに応じて返答する。要約や詳述などの資料は独自に作成したウェブサイトを使用して開示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業概要	授業の説明、自己紹介
第 2 回	まえおき その 1	『一般言語学講義』の成立事情、基本概念、同時代の思想との関連
第 3 回	まえおき その 2	言語学者としてのソシュールの経歴、影響関係
第 4 回	まえおき その 3	比較言語学、音韻論、ソシュール以後の言語学との関係
第 5 回	前年度までの内容	序論、第 1 部、第 2 部、第 3 部の第 1 章まで
第 6 回	第 3 部 通時言語学	第 2 章 音変化
第 7 回	第 3 部 通時言語学	第 3 章 音的進化の文法的帰結
第 8 回	第 3 部 通時言語学	第 4 章 類推
第 9 回	第 3 部 通時言語学	第 5 章 類推と進化
第 10 回	第 3 部 通時言語学	第 6 章 民間語源
第 11 回	第 3 部 通時言語学	第 7 章 膠着
第 12 回	第 3 部 通時言語学	第 8 章 通時的な単位、同一性、現実性
第 13 回	第 3 部と第 4 部への付録	A 主観的分析と客観的分析 B 主観的な分析と下位単位の確定 C 語源学
第 14 回	第 4 部 言語地理学	第 1 章 言語の多様性について 第 2 章 地理的多様性の複雑化 第 3 章 地理的多様性の原因 第 4 章 言語的な波の伝播
第 15 回	第 5 部 回顧的言語学の諸問題	第 1 章 通時言語学の 2 つの観点 第 2 章 最古の言語と原型 第 3 章 再建
第 16 回	第 5 部 回顧的言語学の諸問題	第 4 章 人類学と先史学での言語の証拠
第 17 回	まとめ	第 5 章 語族と言語類型

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ソシュールの『一般言語学講義』の指定箇所をあらかじめ読み、疑問点、問題点を書き出しておく。授業と並行して、小論文の課題を進める。小論文は、できるだけ早く提出を始めて、書き直ししながら再提出を繰り返す。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『一般言語学講義』フェルディナン・ド・ソシュール、町田健訳、研究社、3500円

【参考書】

授業の中で、必要に応じて紹介していく

【成績評価の方法と基準】

小論文 60%

『一般言語学講義』の理解に基づいて言語に関する原理的な考察を継続的に文章の中で仕上げていく過程を特に評価の対象とする。基本的な概念の理解は重要だが考察を積み重ねていく努力を特に重視する。

平常点 40%

毎回提出する受講報告から授業への取り組みの度合いを評価する

【学生の意見等からの気づき】

要約の資料だけでなく解説的な補足資料を用意する

【Outline and objectives】

Reading of the 'Course in the General Linguistics' by Ferdinand de Saussure in Japanese translation. We learn about the essence of the language itself for understanding of the contemporary philosophy.

PHL300BB

哲学特講（4）－1

菅沢 龍文

授業コード：A2218 | 曜日・時限：火曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カント『道徳形而上学の基礎づけ』の内容についてテキストに沿って順次学び、考えます。毎回その回の内容について考えることにより、全体としては、カント倫理学に独特の考え方を知り、良心に従って道徳的に生きるとはどういうことかを考えます。

【到達目標】

- (1) カント倫理学の基本知識を身につける。[知識]
(2) 行為の道徳的価値について考えて振舞う態度を身につける。[態度]
(4) 哲学的・論理的な文章の意味を読み解き、論理的な文章で自分の考えを伝えることができる。[技能]

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) プロジェクターおよびプリントを用いて説明し、質問を受け付けます。
(2) 毎回の課題プリントで考察のための課題を課します。この課題について自分の考えを書いて提出します。
(3) 授業の初めに、前回は提出された課題プリントについての気づきを、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	(1) オリエンテーション (2) 道徳哲学 ※ 1-9 段落	(1) 本授業について (2) なぜ道徳哲学は純粹でなければならないのか
第 2 回	善い意志 ※ 15-20 段落	なぜ善い意志は無制限に善いのか
第 3 回	理性と道徳的価値 ※ 18-27 段落	なぜ人間に理性が与えられていて、行為に道徳的価値があるのか
第 4 回	道徳的行為 ※ 28-32 段落	なぜ道徳的な行為の確実な実例は示せないのか
第 5 回	自己 ※ 38-41 段落	なぜ愛しい自己を抑制しなければならないのか
第 6 回	意志 ※ 45-51 段落	なぜ意志は実践理性に他ならないのか
第 7 回	定言命法 ※ 52-61 段落	なぜ仮言命法と定言命法を区別するのか
第 8 回	定言命法と自然法則 ※ 62-74 段落	なぜ定言命法が隠れた仮言命法になるのか
第 9 回	人格 ※ 75-84 段落	なぜ物件と人格を区別するのか
第 10 回	定言命法と人間性 ※ 85-87 段落	なぜ自殺や虚の約束は禁ぜられるのか
第 11 回	定言命法と自己立法 ※ 88-91 段落	なぜ才能を伸ばすことや親切は義務なのか
第 12 回	意志の自律 ※ 92-95, 116 段落	なぜ意志は自分で自分を律するべきなのか
第 13 回	目的の国 ※ 98-110 段落	なぜ国が道徳的でなければならないのか
第 14 回	全体を振り返ったレポート作成	カントの定言命法の思想について—— 良心的に生きるとはどういうことか——

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

(予習) 授業で取り上げる段落をしっかりと読み込んでおく。

(復習) 授業でよく理解できなかった点について、テキストやプリントを繰り返し読み返し、参考書や哲学事典を調べるなどして理解に努める。

【テキスト（教科書）】

カント『道徳形而上学の基礎づけ』中山元 訳、光文社古典新訳文庫（段落番号付き）

【参考書】

カント『道徳形而上学の基礎づけ』宇都宮芳明 訳、以文社（段落番号付き）
カント『プロレゴメナ 人倫の形而上学の基礎づけ』（『基礎づけ』は野田又夫 訳）、中公クラシックス（段落番号は付いていない）
カント『人倫の形而上学』（カント全集：岩波版・第 11 巻、理想社版・第十一巻）

カント『実践理性批判』（岩波文庫、他）

ペイトン『定言命法』（行路社）

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準

- (1) 出席および参加態度と、毎回の課題プリントへの取り組み
(2) セメスター末の期末レポート
(1) を 7 割、(2) を 3 割として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明の際に、発音を明瞭にし、ゆっくり分かりやすく話すようにする。

【Outline and objectives】

We learn and think about the contents of Kant's "Groundwork for the Metaphysics of Morals" along the text one after another. On the whole we learn Kant's way of thinking which is peculiar to his ethics and we study what it means to live morally along our conscience.

PHL300BB

哲学特講（4）－2

近堂 秀

授業コード：A2219 | 曜日・時限：火曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イマヌエル・カントの『純粋理性批判』を読みながら、カントの哲学思想の意義を検討する。

【到達目標】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

実際に『純粋理性批判』を読み、関連文献を参照しながら、現代社会に対してカントの哲学思想にどのような意義があるかを検討する。授業は講義形式で進め、課題の提出とフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学を学ぶとは	時代状況と哲学
第 2 回	カントの哲学思想 (1)	近代の哲学思想
第 3 回	カントの哲学思想 (2)	カント哲学の概要
第 4 回	カントの哲学思想 (3)	カントの理論哲学
第 5 回	『純粋理性批判』を読む (1)	「超越論的論理学」
第 6 回	『純粋理性批判』を読む (2)	「超越論的分析論」
第 7 回	『純粋理性批判』を読む (3)	「純粋悟性概念の演繹について」・予備的注意
第 8 回	『純粋理性批判』を読む (4)	「純粋悟性概念の演繹について」・上からの演繹
第 9 回	『純粋理性批判』を読む (5)	「純粋悟性概念の演繹について」・下からの演繹
第 10 回	カントの哲学思想 (4)	カントの実践哲学
第 11 回	カントと現代の哲学思想 (1)	カント哲学の解釈
第 12 回	カントと現代の哲学思想 (2)	カントと現象学・プラグマティズム・分析哲学
第 13 回	カントと現代の哲学思想 (3)	カントとウイトゲンシュタイン
第 14 回	カントと現代の哲学思想 (4)	分析哲学からカントへ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査する。準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。

【参考書】

牧野英二編『新・カント読本』、法政大学出版局、2018 年。
近堂秀『『純粋理性批判』の言語分析哲学的解釈——カントにおける知の非還元主義』、晃洋書房、2018 年。
トム・ロックモア『カントの航跡のなかで——二十世紀の哲学』、牧野英二監訳、法政大学出版局、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学の著作を読む力は出席率と授業の内容理解度によって、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力は学期末レポートによって、それぞれ 30 % と 70 % の割合で評価する。
※定期試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容と授業の内容理解度のバランスを随時調整する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental problems of Kant's philosophy.

PHL300BB

哲学特講（5）－1

西塚 俊太

授業コード：A2220 | 曜日・時限：金曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本の近代哲学を代表する和辻哲郎の著作を読み解くことを通じて、日本近代思想の一端の把握を目指していく。講義形式ではあるが、原典の読解を軸にすることで、最終的に自身で哲学書を読み進めていく力を養成することを目的としている。

【到達目標】

- ・日本近代の哲学書を読み解くことが出来る。
- ・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 「原典読解」を中心とする講義形式を基本とする。
- (2) 毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
- (3) 毎回の講義の終盤に、講義内容の確認と次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。
- (4) 講義の始めに、前回の講義で提出された課題の講評を行いフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本近代思想を学ぶことの意味	講義内容や進め方および評価方法の説明 日本近代哲学の特徴はいかなる点に存在するのか
第 2 回	「倫理」という言葉の意味	和辻哲郎『人間の学としての倫理学』（岩波文庫） pp.9-18 以下の回のページ数はすべて岩波文庫版による
第 3 回	「人間」という言葉の意味 「世間」あるいは「世の中」の意義	『人間の学としての倫理学』 pp.18-38 の解説
第 4 回	「存在」という言葉の意味 人間の学としての倫理学の構想	『人間の学としての倫理学』第一章の出だしのまとめ pp.38-52
第 5 回	アリストテレス論	個々の思想家の解説の開始、アリストテレス論 pp.52-69
第 6 回	カントのアントロポロジー	カントの人間学の考察 pp.69-83
第 7 回	コーヘン論	コーヘンの人間の「概念」化についての検討 pp.83-102
第 8 回	ヘーゲルの人間倫の学	ヘーゲルの人間倫の検討の開始 pp.102-126
第 9 回	ヘーゲルと和辻哲郎	ヘーゲルの人間倫の思想と和辻哲郎の人間の学の対比 pp.126-152
第 10 回	フォイエルバッハの人間学	フォイエルバッハによる近代的な思考の登場 pp.152-165
第 11 回	マルクスの人間存在	哲学思想としてのマルクス pp.165-180
第 12 回	人間の問い 問われている人間	『人間の学としての倫理学』の方法論の検討の開始 pp.181-198
第 13 回	学としての目標 人間存在への通路	和辻倫理学の方向性の確定へ向けての検討 pp.198-233
第 14 回	和辻倫理学の解釈学的方法	和辻倫理学の方法論の確認 pp.233-258

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。

また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。
本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書として和辻哲郎『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）の 2007 年以降の版を指定する。毎回の講義において必ず使用することになるため、受講に際して必須の教科書となる。

【参考書】

参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義時に課すミニレポートの評価（45 %）と、学期末レポート（55 %）によって評価する。
講義における質問や発言は高く評価するポイントとなる。

【学生の意見等からの気づき】

正当な理由がない遅刻者への対応をより厳密することで、途中入室者への対応で講義が中断しないようにいっそう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

講義終了後に質問を受け付けているが、時間の余裕がない場合は hoppii の掲示板機能などを利用した質問を随時受け付けている。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日本近代哲学・日本思想史

<研究テーマ> 京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究

<主要研究業績>

- ① 「『ひと』であること、『私』であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
- ② 『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
- ③ 「『曾我物語』における敵討の動因——「実の父」の欠如と希求という観点から——」（『倫理学紀要第 26 輯』、2019）

【Outline and objectives】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading various books. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

PHL300BB

哲学特講（5）－2

相原 博

授業コード：A2221 | 曜日・時限：金曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、人間の尊厳というテーマで行います。人間の尊厳は、人間の絶対的な価値を意味し、あらゆる人間を尊重する根拠になるものです。近年は日本でも、クローン技術を規制する法律などで、この概念が使用されています。しかし、人間の尊厳が何を意味するのかについては、さまざまな議論があるため合意に至っていません。そこで授業では、西洋の哲学や思想を手がかりに、応用倫理学の議論も考慮しながら、人間の尊厳の内容や意義について考察します。人間の尊厳は、たしかに西洋思想に由来する概念ですが、基本的人権の根拠として、第二次世界大戦後に注目されるようになりました。もっとも現在では厳しい批判もあり、人間の尊厳の内実が問い直されています。受講生には、選択的人口妊娠中絶や尊厳死など応用倫理学の諸問題を手がかりに、人間の尊厳について議論してもらいます。その議論によって、人間の「かけがえのなさ」や「絶対的な価値」について考えることになるはずです。

【到達目標】

- 第一に、人間の尊厳とは何か、この概念の内容を説明できることです。
- 第二に、選択的人工妊娠中絶や尊厳死など、応用倫理学の諸問題を理解して、これらの問題における尊厳概念の意義を説明できることです。
- 第三に、選択的人工妊娠中絶や尊厳死について、自分の考えを言語化し表現できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換を重視します。また積極的に参加してもらうため、グループディスカッションを実施します。受講にあたっては、自分自身で考えること、また授業で発言することが必要です。その他、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介、尊厳概念の必要性	授業の概要と方法、どうして尊厳概念が必要なのか説明する
第 2 回	尊厳概念の歴史 (1)	古代から中世まで、尊厳概念の歴史を説明する
第 3 回	尊厳概念の歴史 (2)	ルネサンスから現代まで、尊厳概念の歴史を説明する
第 4 回	尊厳概念へのアプローチと拷問	尊厳概念を解明する方法と、「拷問」という尊厳侵害の実例を考察する
第 5 回	グループディスカッション (1)	胎児の障がい理由とした人工妊娠中絶について、受講生と議論する
第 6 回	グループディスカッション (1) のまとめ	胎児の障がい理由とした人工妊娠中絶について、その問題点を説明する
第 7 回	カントの尊厳概念	「道徳的行為」の可能性を重視した、カントの尊厳概念を説明する
第 8 回	マルセルの尊厳概念	人間の弱さと「兄弟愛」を重視した、マルセルの尊厳概念を説明する
第 9 回	マルガリートの尊厳概念	屈辱なき「良識ある社会」を構想した、マルガリオートの尊厳概念を説明する
第 10 回	グループディスカッション (2)	障がい理由とした尊厳死について、受講生と議論する
第 11 回	グループディスカッション (2) のまとめ	障がい理由とした尊厳死について、その問題点を説明する
第 12 回	医療技術の進展と人間の尊厳	エンハンスメント（能力の改善を目的として心身に医学的に介入すること）の問題点、および人間の「卓越性」を重視するカスの尊厳概念を説明する
第 13 回	今日の尊厳概念	人間の尊厳とは何か、結論を提起する
第 14 回	試験・まとめと解説	学期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディスカッションの前には、レポートを提出する必要があります。なおレポートが提出できない場合、ディスカッションには参加できません。また授業は発展的な内容を含むため、予習や復習は不可欠です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

松田純『遺伝子技術の進展と人間の未来』、知泉書館、2005 年
金子晴勇『ヨーロッパの人間像』、知泉書館、2002 年
その他、必要に応じて参考書を授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度と授業後のレポートによって、自分の考えを表現できるかどうか評価します (40%)。また学期末試験によって、人間の尊厳の内容を説明できるかどうか、応用倫理学の問題を理解できているかどうか評価します (60%)。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。またわかりやすい授業を行うために努力したい。

【Outline and objectives】

This course elucidates the concept of human dignity. Human dignity means the absolute value of human being. And it is also ground to respect a human being. Recently in Japan, human dignity came to be mentioned by laws to regulate the use of the new biotechnology. However, there is no agreement about what human dignity means. Therefore, considering arguments of western philosophy and applied ethics, this course presents meanings of human dignity. Being a concept which derives from western thoughts, human dignity came to attract attention as a basis of fundamental human rights after World War II. But there is severe criticism against this concept. In this course you will discuss with human dignity in various contexts of applied ethics and finally think about human absolute value.

PHL300BB

哲学特講（6）－1

大橋 基

授業コード：A2222 | 曜日・時限：木曜 2 限

春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後ドイツの哲学を代表する「フランクフルト学派」の歩みを、その都度の時代状況を背景に置きながら辿ることによって、「民主主義」の活性化のために必要とされる学問や芸術のあり方を学ぶ。

【到達目標】

フランクフルト学派の「批判理論」における理論と現実の関係を説明できる。「自由で民主的な社会」における「表現の自由」や「学問の自由」の意義を解説できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員が作成した「講義用資料」（学生各自が「学習支援システム」からプリントアウトする）を解説・考察を行う講義。

講義に関する質問・意見はEメール（motoi.ohashi@gmail.com）で受け付け、返信をもって教員からの回答とする。なお重要なものは、学生の個人名を伏せ、「学習支援システム」の「掲示板」に掲載する。その場合は、内容に応じて得点を与えて、試験成績に加算する。

*受講者数と感染状況を勘案して、講義の方法等を変更するので、「学習支援システム」の「お知らせ」を、適宜、確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業案内	講義内容と成績評価についての説明
第 2 回	フランクフルト学派の問題意識	なぜ「アウシュヴィッツのあとで詩を書く」のは「野蛮」なのか？
第 3 回	近代化が生んだ「権威主義的パーソナリティ」	戦前・戦後でドイツ人の国民的メンタリティは変化したのか？
第 4 回	「歴史哲学」と「歴史の天使」	啓蒙主義以降の進歩史観とユダヤ教的歴史観の違いは何か？
第 5 回	ベンヤミンと美的経験の破壊的瞬間	複製技術による「アウラの消失」以後に可能な芸術表現とは？
第 6 回	アドルノとホルクハイマーの「啓蒙の弁証法」	アメリカに亡命した哲学者は過去と未来をどのように描いたか？
第 7 回	ハイデガーの復権と新世代の攻撃	戦後ドイツの政治文化はいかなる「ドイツ人」像を求めたか？
第 8 回	帰国後のアドルノの哲学的闘争	革命を目指さない身「西欧マルクス主義」の目的は何か？
第 9 回	行き場なき学生運動と戦後民主主義の再検討	哲学に「社会科学の言語」を導入することによってどんな意義があるか？
第 10 回	「生活世界の植民地化」という「時代診断」	「奇跡の経済復興」の背後にどのような問題が潜んでいたのか？
第 11 回	「新しい社会運動」と「美的モデルネ」	ボイスやキーファーの芸術作品は何を表現しているのか？
第 12 回	ハーバーマスの「討議倫理学」の基本構図	支配や抑圧から自由な「コミュニケーション」の成立条件は何か？
第 13 回	「歴史家」論争への関与	「アウシュヴィッツは捏造だ」と主張するのも「学問の自由」か？
第 14 回	期末レポート	「フランクフルト学派」の視点からの事例分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業までに、テキストの該当箇所を読み、要点や疑問を整理しておく。「学習支援システム」から該当回の「講義用資料」をプリントアウトして、テキスト同様、授業に持参する。

毎回、前回の授業内容を前提として議論が組み立てられているので、講義前に復習しておく。

講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

ベンヤミン『ベンヤミン・コレクション 1 近代の意味』ちくま学芸文庫 1995 年
アドルノ&ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』岩波文庫 2007 年
ハーバマス『道徳意識とコミュニケーションの行為』岩波書店 1991 年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 90 %、平常点 10 % の比率で、成績評価を行い、60 点以上を及第点とする。E メールや口頭での質問・意見を平常点算出の参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。

メールなどによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載して、受講者全員が確認できるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help student acquire an understanding of the philosophical attempts of The Frankfurt School in Germany before and after Nazi Era, in order to give careful consideration to the matters of our liberal democratic society that appear as poverty, discrimination, and populism. It deals with five themes as follow: 1. the authoritarian personality which was brought up through the modernization, 2. the dialectic of enlightenment in the real world, 3. the conceptual art as criticism for ourselves educated as a part of social system, 4. the possibility of the communication free from domination, 5. the freedom of the academism and its mission for the democratic politics.

PHL300BB

哲学特講（6）－2

小井沼 広嗣

授業コード：A2223 | 曜日・時限：木曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は「ヘーゲル哲学と現代思想」をテーマとする。
「ヘーゲルには途方もない力があります。……私がここでみなさんとお話した思想のどれ一つとして、ヘーゲル哲学の中に少なくとも傾向として含まれていないものなど何一つない、ということ、私は十分自覚しています」（アドルノ『否定弁証法講義』）。

このように語ったのはアドルノだが、彼だけではなく、現代の多くの哲学者は、批判的にせよ受容的にせよ、ヘーゲル哲学から多大なインパクトを受けつつ、そこから独自の思想を展開している。そこでこの授業では、現代思想の動向の一端を、ヘーゲル哲学の批判・継承・発展という視角から検討していく。またそれを通じて、精神、人倫、欲望、否定性、相互承認、絶対的自由、外化、理念、絶対者といったヘーゲル哲学の主要な諸概念がもつ現代的意義を考察する。

具体的な人物とトピックとしては、チャールズ・テイラーの共同体主義・多文化主義、ユルゲン・ハーバーマスのコミュニケーション論・宗教論、アクセル・ホネットの承認論、ジェルジ・ルカーチの物象化論、ジュディス・バトラーのポストモダン・フェミニズム、マルクス・ガブリエルの新実在論、ロバート・ブランダム・ネオ・プラグマティズム、森岡正博の生命学、を取り上げる。

【到達目標】

- ・多種多様なヘーゲル解釈やヘーゲル評価に触れることで、哲学古典の多様なポテンシャルを学ぶこと。
- ・現代思想において取り組まれている哲学的な諸問題とヘーゲル哲学との関連を、概略的にせよ、適切に説明できるだけの知識を習得すること。
- ・その知識をもとに、現代社会が抱えている諸課題について各自が理解と洞察を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・教員による講義と受講者によるレジュメ発表とを組み合わせて進める。
- ・講義については、パワーポイントと配布プリントを用いる。
- ・各回の授業テーマについて、教科書内容のレジュメ発表（10～15 分程度）を特定の受講者に担当してもらい、受講者は全員、レジュメ発表を少なくとも一回は担当しなければならない。
- ・毎回リアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でそのレスポンスを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／イントロダクション	授業の進め方と成績評価の確認／ヘーゲル哲学の概要
第 2 回	テイラーのヘーゲル理解と哲学的人間学	啓蒙主義的な人間観と自由観への批判
第 3 回	テイラーの道徳文化論と政治哲学	「真正さ」の倫理と差異の相互承認
第 4 回	ヘーゲルとフランクフルト学派	ハーバーマスのコミュニケーション論とホネットの相互承認論
第 5 回	ルカーチの物象化論	資本主義とその変革主体をめぐる
第 6 回	ヘーゲルとポストモダン思想	ポストモダン思想におけるヘーゲル受容とバトラーのジェンダー論
第 7 回	バトラーの『アンティゴネー』論	「アンティゴネー」解釈とジェンダー問題
第 8 回	現代哲学の脱宗教化	ヘーゲルの宗教論とハーバーマスの世俗化論
第 9 回	ヘーゲルとネオ・プラグマティズム	分析哲学におけるヘーゲルの復権
第 10 回	ブランダム・ヘーゲル解釈	「意味論的プラグマティズム」について
第 11 回	現代哲学の「実在論」的転回	新たな実在論の興隆とガブリエルの「世界の不在」論
第 12 回	ガブリエルの新実在論	領域的存在論とヘーゲル的な「絶対者」の行方
第 13 回	ヘーゲルと現代の生命論	「理念」としての生命把握
第 14 回	総括と展望	ヘーゲル哲学の現代的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各回ごと教科書範囲を指定するので、かならず事前に読んでくること。

・レジュメ担当者は、事前に教科書の内容の要約レジュメを作り、授業日の前日までに教員に送ること。また、分からない内容についてはできるかぎり調べておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

寄川条路編著『ヘーゲルと現代社会』見洋書房、2018 年（定価 1900 円＋税）

【参考書】

寄川条路編著『ヘーゲルと現代思想』見洋書房

岡本裕一朗『ヘーゲルと現代思想の臨界』ナカニシヤ出版

仲正昌樹『ヘーゲルを超えるヘーゲル』講談社現代新書

それ以外の個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（14%）、各回のリアクションペーパーの提出とその内容（28 %）、レジュメ発表（18%）、期末レポート（40 %）、を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの応答を丁寧に行い、双方向的な授業を心がけたい。

【Outline and objectives】

The theme of this class is “Hegel’s philosophy and contemporary thought”.

Hegel’s philosophy has a great impact on many contemporary philosophers, each of whom is influenced critically or receptively by Hegel’s idea and develops his/her own thought.

In this class, we will examine the thoughts of some contemporary philosophers from the following perspectives; criticism, inheritance and development of Hegel’s idea. We will also examine the today’s significance of Hegel’s important ideas, such as Spirit, ethical life, desire, negativity, mutual recognition, absolute freedom, externalization, the Idea, the Absolute.

The following persons and topics are discussed in this class; Charles Taylor’s communitarianism and multiculturalism, Jürgen Habermas’s theory of communicative action and his thought on religion, Axel Honneth’s theory of recognition, Georg Lukács’s theory of reification, Judith Butler’s postmodern feminism, Markus Gabriel’s new realism, Robert Brandom’s neo-pragmatism, Masahiro Morioka’s life studies.

PHL300BB

哲学特講（7）－1

君嶋 泰明

授業コード：A2224 | 曜日・時限：木曜 5 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

技術、テクノロジーは人間と不可分な関係にあるため、哲学で扱われるべきさまざまな問題を提起する。この授業では、そうした問題のいくつかを考えることを通じて、技術と人間の関係がもつ諸相に目を向け、それらを包括的に理解することを目指す。

【到達目標】

- ①技術はどのような問題を提起するかを理解する。
- ②それらの問題を解決するために考慮に入れるべき論点を理解する。
- ③それらの論点を踏まえ、個々の問題にたいして一定の結論を導けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。必要に応じてディスカッションを行う予定。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは次回授業の初めに行う。

この授業で扱われる問題の多くは、David E. Nye の *Technology Matters* という本から拝借したものである（未邦訳。下記「参考書」を参照）。それゆえこの本を座右に授業に臨めばより効果的に学習できるはずだが、それなしでもまったく支障はない。

教室定員にたいする受講者人数を把握するため、初回授業は Zoom で行う。アドレスは学習支援システムで連絡する。人数が多い場合は抽選を行う可能性もあるので、初回は必ず出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	概要の説明
第 2 回	技術の定義	技術とは何か
第 3 回	技術決定論	技術は自律的か
第 4 回	技術の予測可能性	技術の未来は予測可能か
第 5 回	技術の歴史	歴史から何がいえるか
第 6 回	技術と文化	技術は文化を画一化するのか、多様化するのか
第 7 回	技術と自然	技術と自然の関係とはどのようなものか
第 8 回	技術と仕事	技術は仕事を奪うのか、生み出すのか
第 9 回	技術と市場	技術はどのように選択すべきか
第 10 回	技術と安全	技術は世の中を安全にするのか、危険にするのか
第 11 回	技術と視野	技術は視野を広げるのか、制限するのか
第 12 回	技術と科学	技術と科学の関係とはどのようなものか
第 13 回	技術と今後	技術とどう向き合うべきか
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

David E. Nye (2006) *Technology Matters: Questions to Live With*, The MIT Press.

その他の参考書は授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が 50%、期末レポートが 50%。前者はリアクションペーパーの内容やディスカッションへの参加状況、後者は上記「到達目標」の①②③がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline and objectives】

Since technology is inseparable from human beings, it raises various questions, which should be dealt with in philosophy. In this course, by way of considering some of the questions, we will look to various aspects of the relationship between technology and human beings, and aim to acquire a comprehensive knowledge of them.

PHL300BB

哲学特講（7）－2

大森 一三

授業コード：A2225 | 曜日・時限：木曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは「西洋教育哲学史」です。本授業では、古代から現代に至るまでの西洋教育思想、教育哲学を中心に学び、教育哲学の固有の課題と特徴を学び、考察してゆきます。
教育哲学がこれまでどのような問題を扱い、解決を与えようとしてきたのか、さらに、現在の教育哲学がどのような課題を抱えているのかを理解し、広い視野を持って思考できるようになることが本授業の到達目標です

【到達目標】

教育哲学の歴史と、教育に関する固有の哲学的課題を理解し、説明できるようになること。

今日の教育が抱える諸問題について理解し、それらの諸問題に対し、哲学的観点から自分の言葉で考察することができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とディスカッションを組み合わせで行います。また、授業内でレポートを作成していただき、翌週の授業ではそのレポートの紹介を通じて、全体へのフィードバックを行いながら議論を進めてゆきます。
講義の内容は、教育哲学・教育思想が西洋哲学の起源である古代ギリシャからどのように生まれたのかを確認し、その後、ヨーロッパで「教育学」が確立してゆく 18 世紀に至るまで、時系列で諸教育思想の歴史と影響関係を考察してゆきます。19 世紀以降に関しては、トピックに応じて考察を進めてゆきます。また、関連する現代的な問題や現代の社会についても主体的に考察してゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	教育哲学とは何か。公民教育、歴史教育の観点から
第 2 回	諸文明における教育思想の起源と比較	教育思想の特徴と制限
第 3 回	西洋教育思想の起源	古代ギリシャにおける教育思想
第 4 回	ローマ・教父哲学での教育思想	ヘレニズムから教父哲学における教育思想の考察
第 5 回	ルネサンスの教育思想	ルネサンス期の教育思想の考察
第 6 回	宗教改革と教育	宗教改革期からコメニウスの教育思想の考察
第 7 回	18 世紀の教育思想	教育思想における「子供の発見」について
第 8 回	「教育学」の萌芽（1）	18 世紀ドイツの哲学と「教育学」について
第 9 回	「教育学」の萌芽（2）	公教育-国家による教育について
第 10 回	ヘルバルト派とロマン主義	ヘルバルト派教育学と日本への影響、およびロマン主義の教育思想について
第 11 回	英米系の教育思想	ロックからデューイに至るまでの教育思想について
第 12 回	教育学と心理学（1）	ディルタイとディルタイ派の教育学
第 13 回	教育学と心理学（2）	発達心理学とケア倫理学と教育学の関係について
第 14 回	世界市民主義的教育」とは何か	教育哲学における「世界市民主義」について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した内容について復習しておいてください。
また、事前に検討しておくべき事柄がある場合は、その授業前に示しますので、予習をしておいてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を適宜、授業内で配布します

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業内レポート（40 %）、期末レポート（40 %）に加え、授業中の参加の度合い、ディスカッションでの発言（20 %）などで総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの際には全体ディスカッションとグループディスカッションを適宜組み合わせさせていただきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用してレポート提出をおこないます。したがって、学習支援システムを使用できるパソコンやタブレット、スマホの準備・持参をお願いします。なお、授業内に持参することができない場合でも、後日に入力・作成することができるようにします。

【Outline and objectives】

This course will help you to understand Historical and Philosophical aspects of Education. After taking this course you will be able to deepen the understandings about Philosophy of Education and its feature. This course will be taught in Japanese.

PHL300BB

哲学特講（8）－1／科学哲学Ⅰ

木島 泰三

授業コード：A2226,A3672 | 曜日・時限：月曜 2 限

春学期・2 単位

備考（履修条件等）：心理学科生は「科学哲学Ⅰ」として履修。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今期は「機械論的自然像の成立とその後の展開」をテーマにする。近代力学が描き出す世界のあり方は、近代科学の成立期以来、「機械」、さらにいえば「時計仕掛け」にたとえられてきた。今期の講義は、この比喻によって示される自然観の成立、その後の展開とそれへの批判、この自然観の正確な内実などを学び、科学的世界像と言われるものの哲学的な含意を考えていく。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史的事項やそれと関連する哲学的諸問題について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、近代科学の成立によって開かれた「機械論的自然像」をめぐって、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できることになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行い、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける（提出課題は翌週以降コメントを付して返却する）。また、最終回には授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。（なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに：	自己紹介、授業の進め方や成績評価などの説明、授業の概要など。
第 2 回	西洋思想史における哲学／科学のはじまり	ミレトスのタレスに始まる古代ギリシャの自然哲学について学ぶ
第 3 回	ソクラテスの道徳哲学とプラトン『ティマイオス』における目的論的自然観／アリストテレスの目的論的自然観（その 1）	ソクラテスとプラトンにおける、古代ギリシャ哲学の大きな転機を「目的論的自然観」の問題を中心に見た後、アリストテレスの思想を見ていく。
第 4 回	アリストテレスの目的論的自然観（その 2）	前回に引き続き、中世を通じて支配的な学説となるアリストテレス自然学にの概要を見ていく。
第 5 回	ストア派とエピクロス派の自然観／中世からルネサンス期までの展開	ヘレニズム期のストア派・エピクロス派の自然観を、後の機械論的自然観との対比で見た後、中世の中期から後期にかけて西ヨーロッパで進んだ、機械時計を含む機械技術の進歩を見ていく。
第 6 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判	17 世紀科学革命と言われている知的革新を概観する。
第 7 回	デカルトの機械論的自然観	機械論的自然観を哲学的に打ち出したデカルトの思想を見ていく。
第 8 回	機械論哲学と「時計仕掛け」のメタファーの興隆	「機械論哲学」と呼ばれた思想と、それに関連する機械時計のメタファーの流行を概観する。
第 9 回	スピノザによる目的論的自然観の批判	機械論哲学のある意味での徹底としてのスピノザの思想を、「目的論的自然観の批判」を中心に見ていく。
第 10 回	ライブニッツとニュートンの論争・その 1	スピノザのような徹底した目的論的自然観への批判に対し、目的論的自然観を守ろうとした思想家としてのライブニッツとニュートンの思想を、彼らの論争を中心に見ていく。
第 11 回	ライブニッツとニュートンの論争・その 2	前回の続き。ライブニッツのデザイン論的な機械論と、ニュートンの生気論はその後の主要な潮流の端緒になっていく。
第 12 回	18-19 世紀における機械論的自然観への批判	18 世紀から 19 世紀にかけての機械論的自然観批判を概観する。

第 13 回	機械論的自然観と現代	20 世紀以降の自然科学の発展の中で改めて機械論的自然観を考えていく。
第 14 回	まとめ：科学革命と現代 ／授業内試験／レポート 回収	全体を振り返った後、授業内試験とレポートの回収を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供するが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、一般的な参考書として、木島泰三『自由意志の向こう側——決定論をめぐる哲学史』（講談社選書メチエ）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、オットー・マイヤー『時計じかけのヨーロッパ』（平凡社）、など。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる「到達目標」(2) の到達度の評価を中心とする (70 %)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1) の到達度の評価 (15 %)、および、小レポート等を含む平常の授業への参加態度 (15 %) も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取することを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline and objectives】

Our primary objective is to learn about the so-called modern "mechanical worldview". It is a world view beginning with the "scientific revolution" in the 17th century, which conceives the natural world by analogy with a machine or a clockwork.

You shall learn the history of how this worldview emerged, developed, and criticized, as well as learn its detailed implications. Finally, we will consider philosophical meanings of the scientific worldview generally.

PHL300BB

哲学特講（8）－2／科学哲学Ⅱ

中 釜 浩一

授業コード：A2227,A3673 | 曜日・時限：月曜 2 限

秋学期・2 単位

備考（履修条件等）：心理学科生は「科学哲学Ⅱ」として履修。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：自己と自己知。

「自己の正体と自己知の本性」の問題は、多くの哲学者を悩ませてきた難問の一つである。この問題に対するデカルト以降の代表的哲学者達の見解を現代的視点から検討することで、「自己」の問題への洞察を深める。

【到達目標】

「自己とは何か」に関する哲学者達の議論を理解し、「自己について知るとはどのようなことか」を考える際の哲学的論点を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とそれに対する学生からの疑問・質問、およびその解答によって議論を進める。

授業の冒頭で前回の小課題の解説、質問・疑問への解答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	「自己」はなぜ問題となるのか
第 2 回	デカルトと自己（1）	「自己」と確実な知識
第 3 回	デカルトと自己（2）	実体としての「自己」
第 4 回	ロックと自己（1）	自己の同一性の問題
第 5 回	ロックと自己（2）	身体と記憶
第 6 回	パークリーと自己（1）	観念論と自己
第 7 回	パークリーと自己（2）	想像力と自己
第 8 回	ヒュームと自己（1）	「自己」の知覚不可能性
第 9 回	ヒュームと自己（2）	「自己」の非存在
第 10 回	カントと自己（1）	カントのデカルト批判
第 11 回	カントの自己（2）	超越論的「自己」
第 12 回	現代哲学と自己（1）	パーフィットの議論
第 13 回	現代哲学と自己（2）	シュレーダーの議論
第 14 回	まとめ	何が解けていないのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に課された小課題を Hoppii 上で提出する。

デカルト、ロック、パークリー、ヒューム、カントらの著作から「自己」に関する議論を読んでおく。

本講義の準備復習時間は、毎回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

デカルト「省察」、ロック「人間知性論」、パークリー「人知原理論」、ヒューム「人間本性論」、カント「純粹理性批判」など。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出 70 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の疑問点には可能な限り答えるが、容易に理解可能な正解があるのかのような安易な答え方はしない。

【Outline and objectives】

Theme: Self and Self-knowledge

Problems of the Self and Self-knowledge is one of the most difficult philosophical problems which puzzled many great philosophers over the centuries. We will discuss some of main positions since Descartes, and deepen our insight concerning Self.

LIT300BC

日本文芸批評史 A

川鍋 義一

授業コード：A2553 | 曜日・時限：金曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

批評だの評論だのというのは、一体、なんでしょうか？ それは文学原論ともいふべきものであり、表現理論であり、創作理論であり、読者の理論であり、作品論・作家論であり、場合によっては社会と人間のあり方を考察する政治論をも射程に入れます。

要するに鵜外の「小説といふものは何をどんな風に書いても好いものだ」をもじって、批評・評論というのは論理的な書き方をしてあれば何を書いてもよいものなのです。

ところが狭い意味での論理性などを無視した批評というものもあって、それが人の心を強く打つものだったりする。そうなると批評ってなんだと考えてみても、もう訳がわかりませんね。困ったものだ。

ということでこの授業では、たとえば「論理性って文学に必要なのか？」ということ小林秀雄に聞いてみましょう。「文学って自分の体験したこともないことを描けるのか？」ということ有島武郎と一緒に考えてみましょう。「文学は現実を写すことができるのか？」「文学って役に立つのか？」「文学は現実とどのように切り結ぶべきなのか？」……といろんな批評に聞いてみましょう。

そういった難問に向き合った先輩たちの真摯な態度が批評する態度であり、その著作をヒントにして難問と向き合うわたしたち自身の態度が批評であると言えるかもしれません。授業のテーマはそれらの難問に明確な答えを出すのではなく、わたしたち自身が思考する上でのヒントを得ることです。

上記テーマを達成するためには、近現代日本文学史、表現理論、政治、思想の基本的なことならについての理解も必要になります。諸君はこれらの問題についても知識を身につけます。

【到達目標】

上記「授業の概要」の問題意識に沿って、文学とはなにか、表現とはなにかということ、論理的な側面から考えられるようにすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン（オンデマンド）の講義形式。授業は金曜4限に授業支援システム、Google Classroomなどで公開されます。パワーポイントのファイルなどを視聴し、Google フォームの課題に答える形式で授業は進行します。

文学史上に残る著名な批評を1本読み、まずは作品の読解をし、次に時代（文学史・社会史）背景との関連で作品を理解し、批評史の通史的な観点を持てるようにし、さらに作品から逸脱して、発展的な考察を加えます（近現代文学史になじみのない人も多いでしょうから、そのあたりの導入にも配慮します。心配しないでいいですよ）。これを5講（6作品）で繰り返します。

以上のような形式で進行しますから、まずはテキストの指定箇所を事前に読んできてもらいます。難しい文章も多いけど、読む気のない人は受講しないでください。それが受講の条件です。難解な箇所は解説します。テキストは必ず持参すること。

また、批評の研究ですから、話が理屈っぽくなるのは仕方ない。「理屈なんかカンケーねーよ」という人は受講しないでください。

春学期は『小説神髓』から大正末・昭和初期のいわゆる三派鼎立の状況（主に新感覚派）まで。

各回、Google フォームで課題に答えてもらいます。締め切り後、受講生の回答をまとめて公開し、受講生同士で共有します（氏名などは伏せます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと予備知識	授業進行の説明と近代文学史理解のための予備知識
第2回	近代文学の始まり	坪内逍遙「小説神髓」（抄）：近代文学の言語
第3回	近代文学の始まり	坪内逍遙「小説神髓」（抄）：近代文学の内容
第4回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：時代背景
第5回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：読解
第6回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：発展的考察
第7回	自然主義	文学は現実を描き得るか 田山花袋「露骨なる描写」：リアリズムとはなにか

第8回	自然主義	文学は現実を描き得るか 田山花袋「露骨なる描写」：発展的考察
第9回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：文学史的背景
第10回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：有島の文学理論
第11回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：体験と文学
第12回	三派鼎立の状況 千葉亀雄「新感覚派の誕生」	文学史的背景
第13回	三派鼎立の状況 千葉亀雄「新感覚派の誕生」	横光利一作品読解および表現理論への発展的考察
第14回	試験まとめと解説	試験まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所は授業前に必ず読んでおくこと。これは受講のための必須の条件であり、これを怠る人には単位を認定しません。

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選【明治・大正篇】』（岩波文庫）品切れのため、プリントなどでこれに代える。ほかに適宜プリント配布。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50％、期末のレポート50％。

【学生の意見等からの気づき】

※ 近現代日本文学を専門としない学生の受講も歓迎するため、専門用語には解説をつけることを心がけています。

※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。

※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そうい

うことがないようにしましょう。

※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【その他の重要事項】

春学期の明治～大正と、秋学期の昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire Japanese modern literary criticism concerned in novels, poems, politics, and so on.

LIT300BC

日本文芸批評史 B

川鍋 義一

授業コード：A2555 | 曜日・時限：金曜 4 限
 秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「日本文芸批評史 A」と同様、先人たちの批評というたまたかから、わたしたち自身の考えるヒントを得ていきましょう。

秋学期は昭和初年から 1950 年代までの批評を読みます。

したがって、秋学期は春学期の問題意識に加え、もう一つ、戦争（第二次世界大戦）というテーマが加わります。戦争に突き進む時代に、文学者たちはどのように振る舞ったか。戦争中、権力とどのような距離をとったか。戦後、どのように新しい文学・思想を始めたか。

それらの時代に、文学者は流れに抵抗しようとしながらも、流れに棹さし、流れに飲み込まれ、密かに文学の孤塁を守り、あるいはとりかえしのつかないことをしてしまいました。

昨今単純で直線的で勇ましく、痛みを伴わない言説が幅を利かしています。わたしたちはそういう時流といかに向き合うか。そのヒントを得たいと考えます。

秋学期の授業では、諸君は「政治と文学」という、近現代文学の難問をいろんな局面で自らの課題として考えることが要求されます。

【到達目標】

上記「授業の概要」の内容を達成することは、近現代日本文学史、表現理論、政治、思想の基本的なことがらについて理解することです。これらの問題について、知識を身につけることを諸君の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン（オンデマンド）の講義形式。授業は金曜 4 限に授業支援システム、Google Classroom などで開催されます。パワーポイントのファイルなどを視聴し、Google フォームの課題に答える形式で授業は進行します。

文学史上に残る著名な批評を 1 本読み、まずは作品の読解をし、次に時代（文学史・社会史）背景との関連で作品を理解し、批評史の通史的な観点を持てるようにし、さらに作品から逸脱して、発展的な考察を加えます（近現代文学史になじみのない人も多いでしょうから、そのあたりの導入にも配慮します。心配しないでいいですよ）。これを 4 講（8 作品）で繰り返します。

以上のような形式で進行しますから、まずはテキストの指定箇所を事前に読んできてもらいます。難しい文章も多いけど、読む気のない人は受講しないでください。それが受講の条件です。難解な箇所は解説します。テキストは必ず持参すること。

また、批評の研究ですから、話が理屈っぽくなるのは仕方ない。「理屈なんかカンケーねーよ」という人は受講しないでください。

秋学期は三派鼎立のうちプロレタリア文学の理論と、その批判者であった小林秀雄から始めて、吉本隆明までを読みます。

各回、Google フォームで課題に答えてもらいます。締め切り後、受講生の回答をまとめて公開し、受講生同士で共有します（氏名などは伏せます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 蔵原惟人「プロレタリアリズムへの道」	マルクス主義とはどういうものか
第 2 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 蔵原惟人「プロレタリアリズムへの道」	文学史的背景および蔵原文読解
第 3 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 小林秀雄「様々な意匠」	印象批評とはなにか
第 4 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 小林秀雄「様々な意匠」	小林文読解
第 5 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 武田泰淳「司馬遷伝」	戦中文学史概観・転向について
第 6 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 武田泰淳「司馬遷伝」	戦中文学史概観・転向について

第 7 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 坂口安吾「墮落論」	無頼派の戦中・戦後
第 8 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 坂口安吾「墮落論」	その文学史・思想史上の意義
第 9 回	戦後左翼の分岐点 小田切秀雄「文学における戦争責任の追求」	『新日本文学』について
第 10 回	戦後左翼の分岐点 平野謙「近代文学」について	「政治と文学」
第 11 回	戦後左翼の分岐点 平野謙「政治と文学」論争	「政治と文学」
第 12 回	『近代文学』から吉本隆明へ 本多秋五「転向文学論」（抄）吉本隆明「転向論」	本多文読解
第 13 回	『近代文学』から吉本隆明へ 本多秋五「転向文学論」（抄）吉本隆明「転向論」	吉本文読解
第 14 回	秋学期総括	秋学期総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所は授業前に必ず読んでおくこと。これは受講のための必須の条件であり、これを怠る人には単位を認定しません。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選【昭和篇】』（岩波文庫）品切れのため、プリントなどでこれに代える。ほかに適宜プリント配布。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50%、期末のレポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

※ 近現代日本文学を専門としない学生の受講も歓迎するため、専門用語には解説をつけることを心がけています。

※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時限に、学習支援システム、Google Classroom などで開催されます。

※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020 年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そうい

うことがないようにしましょう。

※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【その他の重要事項】

春学期の明治～大正と、秋学期の昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire Japanese modern literary criticism concerned in novels, poems, politics, and so on.

LIT200BC

中国文芸史 A

長谷川 真史

授業コード：A2561 | 曜日・時限：金曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本に強い影響を及ぼした中国古典（特に漢詩）を毎回取り上げ、中国文学がどのように日本に流入し、日本がどのようにそれらを吸収し自国の文化に取り入れていったかを、文学作品の鑑賞を通して紹介する。また、原文とその注釈を読解しながら、漢字・漢語・語法・修辞などに関する基礎的な事柄を確認する。

【到達目標】

中国古典文学（詩・韻文・散文、日本漢文を含む）の語法を知り、読解能力を高めることを目標とする。また、文学作品の鑑賞を通して、アジア漢字文化圏に生きる一員として必要不可欠「教養」を身につけ、日本文化・日本文学との関わりから、現在に生きる中国古典の有りようについての「問い」をもち、考える端緒を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は ZOOM によるオンライン授業を予定している。（リアルタイム配信）状況に応じてオンラインと対面を切り替える場合もある。基本的に講義形式で授業を行い、随時レポート課題を出す。中間レポートについては授業時間内に全体でリフレクションを行う。期末レポートについては個別に総評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（教養としての漢詩）	漢詩の基礎知識（漢字の中古音と平仄）についての概説
第 2 回	「詩」の源流について	『詩経』とその注釈・翻訳についての概説
第 3 回	近体詩と古体詩について	陶淵明「飲酒」解説：古詩の解説
第 4 回	近体詩について①	杜牧「江南春」解説：絶句の規則についての概説
第 5 回	近体詩について②	杜甫「春望」解説：律詩の規則についての概説
第 6 回	対句の構造について	杜甫「登高」解説：全対格についての概説
第 7 回	中間レポートガイドライン解説	レポート「漢詩をつくろう」：漢詩作成キットの解説
第 8 回	楽府について	李白「子夜呉歌」「秋浦歌」解説：古楽府と新楽府についての概説
第 9 回	版本とテキスト	李白「静夜思」解説：異同と校勘についての概説
第 10 回	日本文学との関わり①	白居易「香炉峰」詩解説：『白氏文集』と平安文学についての概説
第 11 回	日本文学との関わり②	菅原道真「不出門」解説：平安知識人と漢文についての概説
第 12 回	期末レポートガイドライン解説	中国古典学のレファレンスとリテラシーについての概説とレポート作成についての解説
第 13 回	漢詩と日本人①	明治時代の文学者と漢詩についての概説
第 14 回	漢詩と日本人②	井伏鱒二の翻訳詩についての概説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスに記載した事項や書籍、文学作品について下調べをして「問い」をもって講義に臨むことが望ましい。分からない言葉については辞書で調べる。人名や地名などについてはインターネット等を利用して調べてもよい。授業前後、各 3 時間程度の準備・復習時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。（適宜資料を配布する。）

【参考書】

【研究書】松浦友久『校注唐詩鑑賞辞典』（大修館書店）、松枝茂夫『中国名詩選』上中下（岩波文庫）興膳宏『中国文学を学ぶ人のために』（世界思想社）
【辞書類】『大漢和辞典』（大修館書店）、『学研漢和大辞典』（学研研究社）は図書館で利用。所持用としては『新字源』（角川書店）、『漢字源』（学研研究社）、『漢字海』（三省堂）。電子辞書も可。
これ以外については授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（50%）、中間レポート（20%）、授業の出席（30%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続し、閲覧できる機器。パソコンかタブレットが望ましいが、スマートフォンでも受講できるよう配慮する。漢和辞典（電子辞書も可）を手元においておくといよい。

【その他の重要事項】

出席を重視する。事故、病気などやむを得ない事情は考慮する。公欠、やむを得ず欠席する場合などは事後報告でも構わないので、証明書類等を提出すること。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末レポートを認めない。

【Outline and objectives】

Lecture on Chinese classics that had a strong influence on Japan, introduce how Chinese literature flowed into Japan and how Japan absorbed them and incorporated them into their own culture. Also, while reading the original text and its annotations, check the basic matters related to kanji, grammar, rhetoric, etc.

LIT200BC

中国文芸史 B

長谷川 真史

授業コード：A2563 | 曜日・時限：金曜 2 限
 秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国古典の文章を題材として、原文を読解しながら、漢字・漢語・語法・修辭などに関してより高度な事柄を確認する。また、古抄本をテキストとして利用することで、テキストクリティークやリテラシー、レファレンス事項についても学習していく。さらに、典故となる経書・史書も読み込むことで、背景となる思想や社会文化についても深く掘り下げ、作品を中国文学史の観点から立体的に確認していく。

【到達目標】

中国古典文学の語法を深く理解し、読解能力をより高めることを目標とする。また、中国文学研究に必要とされる作業として、原文に当たって根拠と自信をもって読み込むことができるようになることが狙いである。加えて、より高度な専門的知識として、リテラシーやレファレンス能力を習得し、自ら問いをもって研究調査を行っていくための基盤をつくることも視野に入れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ZOOM によるオンライン授業を予定している（リアルタイム配信）が、状況によって対面に切り替える。
 基本的に講義形式で授業を進め、随時レポート課題を出す。
 レポートは授業時間内に全体でリフレクションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	中唐文学における「尤物」論の展開と白居易「長恨歌」「李夫人」の版本及び旧抄本についての概説
第 2 回	陳鴻「長恨歌伝」読解①	『管見抄』本「長恨歌伝」及び「長恨歌」の概説
第 3 回	陳鴻「長恨歌伝」読解②	「長恨歌」制作の由来についての概説
第 4 回	白居易「李夫人」読解①	神田本『白氏文集』『新楽府』についての概説
第 5 回	白居易「李夫人」読解②	漢武帝と李夫人の「愛と死」についての概説
第 6 回	白居易「李夫人」読解③	『漢書』郊祀志・外戚伝との関係についての概説
第 7 回	白居易「李夫人」読解④	「新楽府」の創作意図についての概説
第 8 回	『漢書』外戚伝読解①	李夫人の入内の場面についての解説
第 9 回	『漢書』外戚伝読解②	李夫人の死の場面についての解説
第 10 回	『漢書』外戚伝読解③	李夫人反魂の場面についての解説
第 11 回	期末レポートのガイドライン解説	中国古典文学のレファレンス、リテラシーについての概説、レポート作成についての解説
第 12 回	『春秋左氏伝』における尤物①	叔向とその母のいさかいの場面についての解説
第 13 回	『春秋左氏伝』における尤物②	叔向の母の「尤物」論についての解説
第 14 回	『春秋左氏伝』における尤物③	叔向の結婚とその結末についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 難解な語句は必ず辞書で調べる。手元の辞書で見つからない場合、『大漢和辞典』等で調べる。『大漢和』は「索引」と「語彙索引」とがあり、よみで調べることができる。
 (2) 人名、地名など固有名詞はインターネットなどでもよいので確認する。
 (3) 訓読・現代日本語訳する。
 (4) 内容について考察する。
 (1)(2)は最低限調べ、ひと通り訓読した上で授業に臨むことが望ましい。
 授業前後含め、各 3 時間程度の準備・復習時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。（適宜資料を配布する。）

【参考書】

【研究書】近藤春雄『新楽府・秦中吟の研究』（明治書院）、岡村繁（新釈漢文大系）『白氏文集』シリーズ（明治書院）、川合康三『白樂天詩選』上下（岩波文庫）

【辞書類】『大漢和辞典』（大修館書店）、『学研漢和大字典』（学習研究社）は図書館で利用。所持用としては『新字源』（角川書店）、『漢字源』（学習研究社）、『漢字海』（三省堂）。電子辞書も可。
 これ以外については授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（50%）、中間レポート（20%）、授業の出席（30%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続し、閲覧できる機器。パソコンかタブレットが望ましいが、スマートフォンでも受講できるよう配慮する。
 漢和辞典（電子辞書も可）を手元に用意しておくことよい。

【その他の重要事項】

成績評価については、出席を重視する。やむをえない事情で欠席する場合は事前か事後に必ず報告する。事故、病気などやむを得ない事情は考慮する。
 全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末レポートの提出を認めない。

【Outline and objectives】

While reading the original text based on classical Chinese texts, check more advanced matters regarding kanji, grammar, rhetoric, etc. Also, learn about text critique, literacy, and reference, furthermore, by reading the allusions and historical books, deeply understand the underlying ideas and social culture, and confirm the work from the perspective of Chinese literary history.

LIT300BC

書誌学

山口 恭子

夜間時間帯

授業コード：A2566 | 曜日・時限：火曜 5 限

春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・授業の概要

書誌学とは、「本」そのものを研究対象とする学問です。本の形態や歴史、料紙や出版書肆など幅広く精査し、それを踏まえてその本の作成年代や流通などについて追究することを目的とします。本授業では、とくに日本の江戸時代までの本を対象とし、書物の装訂や素材、出版の展開など、書誌学の基礎的なことからについて講義します。

・授業の目的

日本古典籍書誌学の基礎を学ぶことを目的とします。本にまつわる様々な文化、およびそれを作りあげた人々の知の世界をともに眺めてゆきましょう。

【到達目標】

・「書誌学」の概念を知る。

・日本古典籍書誌学の基礎的事項、とくに江戸時代までの写本と版本の特徴や歴史、本にまつわる文化について理解し、かつそれらを的確に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・日本古典籍書誌学の概念と基礎的事項を講義します。また、書誌学の講義と並行して、書誌学的な調査研究に欠くことのできない基本的なくずし字の解読（翻刻）作業も行います。

・書誌学については配布プリントをもとに進め、くずし字については写本・版本の教材（和歌等）を皆で翻刻してゆく時間を設けます。

・毎時、リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・「書誌学」という学問の概要や目的について ・くずし字の基礎について ・授業計画について
第 2 回	装訂の様々	・卷子本から冊子本に至る、書物の主な装訂と発展について
第 3 回	写本の姿（1）	・写本に関する様々な用語の意味と使い方について
第 4 回	写本の姿（2）	・転写本における「写す」方法と特徴について
第 5 回	古筆切と手鑑	・古筆切の種類と特徴、および手鑑の歴史について
第 6 回	料紙について（1）	・紙の歴史、および和紙の材料と製法について
第 7 回	料紙について（2）	・日本の加工料紙、とくに平安時代の料紙装飾について
第 8 回	版本の歴史（1）	・版本の種類に関する概説 ・中世までの印刷の歴史について
第 9 回	版本の歴史（2）	・キリシタン版について ・古活字版の特徴と種類について
第 10 回	版本の歴史（3）	・古活字版から整版本への移行について
第 11 回	江戸時代の本屋について	・書肆（本屋）の始まりと展開について
第 12 回	本の顔かたち（1）	・本の構成要素、とくに、「表紙」「外題」のバリエーションについて
第 13 回	本の顔かたち（2）	・本の構成要素、とくに、「内題」「奥付」「刊記」について ・前回の講義内容とあわせ、書物の特徴を理解するための観点について講ずる
第 14 回	まとめ	半期の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・参考文献や授業資料に予め目を通し、授業に臨みましょう。

・随時配布される復習用プリントをもとに復習に努めましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

くずし字の翻刻のために笠間影印叢刊刊行会編『字典かな』（笠間書院）を用意すること（他社の字典をすでにお持ちであればそれを使用して構いません）。書誌学に関してはテキストを定めず、配布プリントを用います。

【参考書】

・廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』（世界思想社、1998年）

・『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、1999年）

・橋口侯之介『和本入門』・『続和本入門』（平凡社、2005年・2007年）

・堀川貴司『書誌学入門』（勉誠出版、2010年）

このほか、授業時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（80%）に、平常点（20%）を加味して評価します。期末試験は筆記試験とし、書誌学という学問の意味を理解したか、そして、授業において講じた書誌学の基本事項を理解したかを主な評価基準とします。後者には、書誌学的事項を正しく説明できるかについての評価も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

実際の古典籍を多く見せたり、現代の書物・出版物との関連を示すなどすることで、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline and objectives】

"Bibliography" is a study of books.

This course deals with the basic concept of bibliography.

The purpose of this course is as follows.

(1) master basic knowledge on Japanese classical bibliography

(2) Understand the culture of books

LIT200BC

表現と著作権 A

内藤 裕之

夜間時間帯

授業コード：A2584 | 曜日・時限：木曜 5 限

春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

著作権を知的財産権にまで広げて考える。著作人格権と財産権としての著作権、身の回りにある知的財産権について理解し、権利を守る立場を確認する。文芸誌、週刊誌、男性ヴィジュアル誌で体験した事例をもとに、法律とは別の現場感覚を伝えたい。簡単に発信してしまう、拡散してしまうことはどれだけ危険か。氾濫する情報を利用するにあたって、知的財産権について、どう対処すべきか。コロナ禍で在宅の活動に縛られて、情報の比較ができてにくい中において、注意すべき事柄を考える。

【到達目標】

知識の量ではなく、ものの考え方、考える道筋を獲得する。そのためには、法律ではなく、現場は何を守り、何は誤りを認めるべきと考えられているかを紹介しつつ、謝る力を身につけることを目指す。どんな職業についても、必ず関わってくる知的財産権について、著作権のジャンルから、クロ、シロ、グレーを見分けられることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心としながら、授業内での課題発表、もしくはグループディスカッションを講座のまとめの意味で行う予定。また課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の進め方と手順	知的財産権についての概説と法律家でない現場の見方
第 2 回	知的財産権には何があるか。	身近にある具体例について考える。
第 3 回	知的財産権 2	知的財産権の侵害例。
第 4 回	それでは著作権とは何か。	著作権と著作人格権
第 5 回	知的財産権とトラブル ①	週刊誌の現場で学んだこと
第 6 回	知的財産権とトラブル ②	月刊誌の現場で学んだこと
第 7 回	盗作と剽窃	文芸の世界で学んだこと
第 8 回	アイデアとタイトル	書籍の編集で学んだこと
第 9 回	権利侵害についての事例	表現形式の違いによる侵害例
第 10 回	グループにわかれて討議①	著作権侵害の原告となってみる。
第 11 回	グループにわかれて討議②	著作権侵害の被告となってみる。
第 12 回	グループにわかれて討議③	判決を下すとすれば。
第 13 回	誰でもが発信者になれる危険性。	発進、あるいは安易な拡散がもたらすもの。
第 14 回	総括	編集者として肝に銘じていること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。リアルタイムに起きた事件を可能な限り取り込んでいきますので、世の中の出来事について関心を持ち、事実関係を理解していることを望みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

発表やグループワークへの参加は必須とし、30 %。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20 %、通常授業での平常点 30 %、課題評価 20 %。

ただし、オンラインが想定されていますので、各回にコメントや感想を求める可能性があります。この場合、これを平常点とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンラインになったときは PC で受講されることを望みます。

【その他の重要事項】

出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【Outline and objectives】

Know what intellectual property rights are. We live by taking advantage of various rights. Understand the intellectual property rights around you and confirm your position to protect them. Based on the examples I experienced in literary magazines, weekly magazines, and men's visual magazines, I would like to convey a sense of the field that is different from the law.

LIT200BC

表現と著作権 B

内藤 裕之

夜間時間帯

授業コード：A2586 | 曜日・時限：木曜 5 限

秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアの違いによる特質を理解し、表現と社会についての関連をつかむ。同時にグループワーク等を通じて、各メディアの現場がどのような視点から情報発信しているかを体験し、情報が氾濫する現代にあって、振り回されることなく、的確な判断ができる姿勢を獲得することを目指す。

【到達目標】

同じ事件、情報であっても、メディアによって、視点、切り口、方向性は、自ずと違ってくる。メディアの特質やこれらの違いを理解し、情報を取捨選択できる判断力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各メディアの規模、特徴などを講義により理解し、メディアの特性から、同じテーマのニュースであっても、視点や切り口、方向性が違い、選び取られたものがいかに違うかを知る。受講人数によるが、後半は各メディアを想定したグループに分かれ、メディアの性質を活かす企画を考える。模擬実務体験のグループワークを行い、メディアの立場から社会との関連を考える。また課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と進め方	秋学期は、講座名からは少し離れて、メディアについて考える。知識の量ではなく、求められるのは、考える過程。
第 2 回	メディアを概観する	新聞、テレビ、雑誌、出版メディアの規模と実情について学ぶ。
第 3 回	新聞について考えてみる①	発行形態から見ると、ジャンルから見る。新聞が果たしてきた役割。新聞に求められるもの
第 4 回	新聞について考えてみる②	ジャーナリズムとは何か。戦争報道は何を遺したか。誤報とねつ造。
第 5 回	テレビについて考えてみる①	「テレビがテレビから追い出される日」。テレビの現場は、いま何を考えているか。
第 6 回	テレビについて考えてみる②	事実と真実の差。「切り取られた真実」と理解するには。
第 7 回	雑誌について考えてみる①	女性誌、男性誌、週刊誌、月刊誌、総合誌、文芸誌、マスマガジン、クラスマガジン。読者対象や刊行形態から雑誌を分析する。
第 8 回	雑誌について考えてみる②	紙のエンターティナーか、野次馬精神か。企画力と企画達成力の違い。
第 9 回	出版について考えてみる①	文庫は月刊総合誌。「読んでから見るか、見てから読むか」。
第 10 回	出版について考えてみる②	名作からスタンダードに。
第 11 回	グループワークでメディアの企画を制作してみる①	新書は知の最前線。単行本も時代を切り取るジャーナリズム。新聞記者になってみる。目線は一体どこにあるか。（受講者数によってスタイルを変えます）
第 12 回	メディアの企画を制作してみる②	テレビを作る、雑誌を作る。企画はどこから生まれるか。（受講者数によってスタイルを変えます）
第 13 回	制作した企画を発表する。	発表された企画について、フリートーク、ディスカッション。
第 14 回	SNS 時代の危険な落とし穴に落ちないために。総括	SNS 時代のメディア。電子書籍とは何か。受信者でしかなかった者が、簡単に発信者になれる時代に待ち構える危険な落とし穴。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。雑誌を見る、本を読む。リアルタイムで起きた事件、情報を、可能な限り取り込んでいきます。事実関係や背景などの説明に要する時間を限りなくゼロに近づけたいと思っていますので、授業内容の理解の手助けになると 생각합니다。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

積極的な発言や質問等を加点評価します。発表やグループワークへの参加は必須とし、30 %。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20 %、通常授業での平常点 30 %、課題評価 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、アンケートがありません。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等で、インターネット環境を持っていることが望ましい。

【その他の重要事項】

出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【担当教員の専門分野】

<専門領域（現職）> 日本文化を海外に発信するべく、若い世代の文化交流と海外の日本語教育の普及、支援に努める公益財団法人 国際文化フォーラムの前代表理事 常務理事。
文芸分野（フィクション）を統括する講談社 元文芸局長。
<主要研究業績（社歴）> 群像編集部、PENTHOUSE 編集部、FRIDAY 副編集長、小説現代副編集長、文庫出版部次長、文庫出版部長、文芸局次長兼文芸図書第二出版部長、文芸局長、文芸局長兼文芸文庫出版部長、文芸局長兼群像編集長。

【Outline and objectives】

If you think the news is all same in every media, that is incorrect. Each media has his original opinion. The newspaper article is not neutral, and also the television. The students must learn the difference of each media news, how different there is and why it will happen.

日本文芸研究特講（1）上代A

坂本 勝

授業コード：A2657 | 曜日・時限：木曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代日本の神話世界について講義します。現代の私たちが見失った古代人のものの見方、感じ方、考え方を学びます。

【到達目標】

なぜ私たちは神話という思考様式を生み出したのか、その意味を確かめる。古代日本の神話世界を理解するための文献解説法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

古事記、日本書紀、風土記などの古代のテキストを通して、古代日本の神話世界について考えていきます。私たち人間の歴史や文学に対する想像は、かつては神話的な物語として産み出されました。もちろん、そこに流れているのは、私たち人間自身についての深い思いです。私たち人間はどのような存在なのか、なぜこの世に存在し、そこにどんな喜びや悲しみ、驚きや感動があるのか、人生のさまざまな問題が神話を産み出す原動力でした。授業では、そうした古代の人々の思考の跡を、追っていきます。日本の神話にターゲットを据えますが、日本の神話と同じような神話が、世界の各地にも残っています。そうした諸外国の神話なども紹介しながら講義を進めていきます。第1回授業、各回の授業内容などについてH o p p i i上で確認してください。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要 自然と文化の共生	授業全体の概説 賀茂の〈御生れ（ミアレ）〉神事と山城 国風土記の神話
第 2 回	日本の《はじまり》物語	日本の創世記を紹介します
第 3 回	世界の《はじまり》物語	古事記、日本書紀の創世神話を学びます
第 4 回	最初の《喪失》体験	火の誕生と文化の始まりについて考えます
第 5 回	《生》と《死》の神話	神話を産み出す心のメカニズムを考えます
第 6 回	《黄泉の国》はどこにある	生と死の神話について考えます
第 7 回	《根の国》の話	大地と生命の神話について考えます。
第 8 回	ヲロチ退治の物語	英雄神話について考えます
第 9 回	《天》と《地》の神話	古代の宇宙観を学びます
第 10 回	《海》の神話	同前
第 11 回	神々と出会う《場所》	神話と祭りの関係について考えます
第 12 回	神々と出会う《人》	同前
第 13 回	神々と出会う《時》	同前
第 14 回	まとめとレポート提出	あらためて今、神話を学ぶ意味を考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『はじめての日本神話 古事記を読みとく』ちくまプリマー新書、780円、坂本勝。

書籍がない場合は電子書籍を購入すること

※電子書籍版の配信先は kindle,kobo,iBook, 紀伊国屋、honto など（Google 版を除く）

スマホ、タブレット、専用端末等、各社の端末やアプリにもすべて対応しているようです。

ほかに、プリント教材を配布。

【参考書】

参考文献『古事記の読み方』岩波新書、坂本勝

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（1 回 60 点）に平常点（40 点、出席状況、リアクションペーパーによる授業への参加状況など）を加味して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で考え調べること、小さな世界から大きな世界に自分の思考を広げることの大切さ。

【Outline and objectives】

Learn about the myths of ancient Japan.

LIT200BC

日本文芸研究特講（1）上代B

坂本 勝

授業コード：A2658 | 曜日・時限：木曜 4 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

万葉集を通して古代日本の人間群像を考えます。

【到達目標】

上代文学の読解研究の基礎的方法を身に着ける。古典の面白さを味わい、ことばの重要性を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

万葉集が産み出された時代は、この列島が東アジアの辺境のクニ（国）から本格的な古代国家、当時の感覚では、急激な《近代》国家へと、大きな変貌を遂げた時代です。その時代の転換期に、人々はなにを感じ、なにを考え、どのような人生を生きたのでしょうか。《村》の暮らしから《都会》の暮らしに、自然の中に生きていた時代から、自然の外側で生きていくようになる時代へ、この時期の人々は、明治以降の近代の人々が経験したことと同じような劇的体験を重ねながら、その心の奇跡を多くの歌に刻みました。この授業では、時代の転換期を生きた万葉の人々のさまざまな人間模様を考えていきます。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義概要
第 2 回	初期万葉の大王たち	雄略天皇と舒明天皇
第 3 回	額田王	恋と言霊の姫王
第 4 回	有間皇子と天津皇子	悲劇の皇子たち
第 5 回	天武天皇と持統女帝	古代と近代の狭間
第 6 回	柿本人麻呂	愛と死の歌人
第 7 回	同前	同前
第 8 回	高市黒人と長意吉麻呂	旅と笑いの歌人
第 9 回	山部赤人と笠金村	自然の発見と王権讃美
第 10 回	大伴旅人と山上憶良	人生を見つめる
第 11 回	後期万葉の女たち	坂上女郎ほか
第 12 回	防人歌と東国民衆の歌謡	東国の歌謡と抒情
第 13 回	大伴家持	倭歌の離陸
第 14 回	まとめとレポート提出	万葉集を学ぶ意義をあらためて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材など、Hoppi 上で確認してください。

【参考書】

参考文献については授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（1 回,60 点）と平常点（40 点、リアクションペーパーなど、授業への参加態度）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で調べ考えることの大切さ。ひとつのことばに自然と人間の深い交流が刻まれていること、そういうことばの大切さを知ること。

【Outline and objectives】

We would explore humanity in ancient Japan, through the study of Manyosho.

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古A

栗山 元子

授業コード：A2661 | 曜日・時限：火曜 5 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『源氏物語』という主人公である光源氏の物語というイメージが強いですが、光源氏の死後の次世代のことを描く続篇では、まったく異なるタイプの主人公・薫が登場します。薫は光源氏の子として育てられましたが、実は密通の結果生まれた子であり、そうした出生の秘密を負っているため厭世的で、恋にも後ろ向きという特異な設定となっています。そんな薫が没落皇族の八宮の三人の娘たちと出会い、次々にその恋を失っていくというのが宇治十帖の顛末になりますが、中でもその最後の相手である浮舟との関係の中で、薫の人物像にも変容が見られ、物語についての理解を一層複雑なものにしています。

この授業では、この薫という人物に照準を当てながら続編の物語を宇治十帖を中心に読み進めていきます。具体的には薫と八宮の姫君たちと関わる場面を取り上げ、その人物像についての考察を行います。この薫の造型がその後の平安時代の物語の主人公像に強い影響を与えたと指摘されていますが、それは当時の読者には薫が人気だったことを意味しています。現代では薫像への受け止め方は平安期とはかなり異なっているようですが、こうした薫像の享受のあり方についても触れていきます。続編の物語世界を味わい、その表現についての理解を深め、かつこの物語が後世に与えた影響についても考えていきます。*なお授業の形態については、初回以外は対面講義で行います。

【到達目標】

- ①『源氏物語』の原文に触れてその内容を精読することで、古典作品についての知識を深め、また古典や古語ならではの表現の魅力や意義を自ら見出す。
- ②『源氏物語』が後世の物語に与えた影響について考えることで、文学史における『源氏物語』の位地やその達成についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式です。第一回目はオンラインになりますが、基本的に対面授業になる予定です。ただ今後の状況により変更する場合もあります。変更の場合は授業内掲示板等で通知します。
- ・理解度をはかるためにリアクションペーパーを毎時間作成し提出してもらいます。フィードバックとしては質問や意見などを次の授業で回答・紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 正編の物語の確認（オンライン）	授業方法や内容などについてのガイダンスを行います。また『源氏物語』正編の物語の世界を概観し、人物関係やテーマの継承などについても見ていきます。
第 2 回	源氏物語』続編の世界 —主人公・薫について の概観	第一回に続き正編の物語世界から続編の物語への継承ということを考えつつ、第三部の主人公・薫の造型の特異性について見ていきます。

第 3 回	薫と大君①	薫と没落皇族である八の宮の娘・大君との出会いについて見ていきます。
第 4 回	薫と大君②	八宮亡き後、その娘である大君への恋愛感情をたかぶらせていく薫の様子を見ていきます。
第 5 回	薫と大君③	薫と大君とのすれ違いについて見ていきます。
第 6 回	薫と大君④	薫の思いと薫を拒否したまま死に向かう大君の複雑な心情を読み解いていきます。
第 7 回	薫と大君⑤	大君の死の場面を中心に読み、薫の悲しみについて考えます。
第 8 回	薫と中君・浮舟①	薫が大君の妹である中君に思いを寄せていく様相を確認していきます。また大君の身代わりとして登場してきた浮舟に対する薫の態度や反応を描いた場面を精読していきます。
第 9 回	薫と浮舟①	薫と浮舟とのすれ、そして匂宮が浮舟と関係を持つことで勃発した三角関係について考えていきます。
第 10 回	薫と浮舟②	苦悩し入水しようとして追いつめられていく浮舟の心情と、浮舟に対する薫の反応を見ていきます。
第 11 回	薫と浮舟③	浮舟失踪後の薫と匂宮の反応や横川僧都一行に助け出された浮舟のその後を見ていきます。
第 12 回	薫と浮舟④	浮舟の生存を知った薫の反応について見ていきます。
第 13 回	薫像の享受について	後世の作品での薫評や薫型の主人公が登場する作品などについて紹介します。
第 14 回	全体のまとめと確認	授業全体を振り返ってのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として各授業前に、授業で取り上げる箇所に至る迄の展開などを確認しておいてください。またその際に各巻の概容や年立上の位置、登場人物の人間関係や年齢などの確認をしておき、授業内容の理解につなげていってください。また授業後は授業内容を確認し、物語への理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に講師作成のプリントを配布します。

【参考書】

中野幸一編『新装版 常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院 2012）、秋山虔・小町谷照彦編『源氏物語図典』（小学館 1997 初版）、林田孝和他編『源氏物語事典』（大和書房 2002）、秋山虔・三田村雅子『源氏物語を読み解く』（小学館 2003）など。またさまざまな新書版での入門書もあります。原文で読みたい人には、角川ソフィア文庫や岩波文庫などのものが入手しやすいと思います。なお風俗博物館（京都）のサイトは、平安時代の風俗や年中行事を知る上で非常にわかりやすく参考になります。<http://www.iz2.or.jp/>

【成績評価の方法と基準】

授業時作成するコメントシートによる評価（70％）と期末レポートにおける評価（30％）とを合算して成績をつけます。なお評価方法については、前者は授業の到達目標①の達成度を、後者は到達目標の①と②をそれぞれ50％ずつの配分にしてその達成度を計り評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間内に一つのテーマがまとまるように時間配分に留意します。分かりやすくめりはりのついた授業になるよう心がけます。

【Outline and objectives】

In this class, we'll read "The Tale of Genji" focusing Kaoru who is the main character of Uzi Zyuzyo (宇治十帖) – the second half of the story. Kaoru has a secret birth and has a complex personality. Therefore Kaoru was misanthropic and timid in love. Kaoru wants to be a priest and continues to sway with religious spirit and love, resulting in loss of love one after another. Such a hero image is the exact opposite of Hikaru Genji or a typical hero image of the story so far. Why did the story need such a hero image? Also, how was such a hero image accepted in posterity? We need to consider such issues through the analysis of the story or knowing oh the reception of "The Tale of Genji".

LIT200BC

日本文学研究特講（2）中古B

加藤 昌嘉

授業コード：A2662 | 曜日・時限：火曜 5 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆秋学期「特講（2）中古B」のテーマは、《密通と性愛の物語史》です。

◆中古（平安時代）～中世（鎌倉時代）の物語や日記を対象とし、《姦通》や《性》にスポットを当て、各作品の作劇法や当時の文化などを、多角的に考察してゆきます。

【到達目標】

- ◆A、物語の仕掛け・作劇法を、客観的に分析する力を養う。
- ◆B、中古（平安時代）～中世（鎌倉時代）の制度や文化を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ◆毎回、プリントを配布して講義を行います。
- ◆受講者のみなさんが書いた質問・アイデアなどは、授業内で紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	シェイクスピアもフロベールも、	世界文学の中心は《姦通》と《性》
2	『伊勢物語』『源氏物語』	天皇の后が密通して子どもが出来る
3	『源氏物語』	これはベッドシーン？
4	『蜻蛉日記』『源氏物語』	「一夫多妻制」では、ない！
5	『とりかへばや物語』と『とりかへばや』	男装／女装、入れ替わり
6	『有明けの別れ』『新蔵人』	男装する女たち
7	『我が身にたどる姫君』	同性どうしの愛／女帝
8	『紫式部日記』	女目線／男目線
9	『台記』『石清水物語』	同性どうしの愛
10	『風に紅葉』	少年を愛でる
11	課題発表	《最終課題》のテーマ（選択肢5つほど）を発表
12	『とはずがたり』と『後宮』	複数の男との関係
13	『今昔物語集』巻29 第3話	むちで打つ
14	『日本霊異記』下18、中13	まら・つび／愛欲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆授業で取り上げられた作品のうち、面白そうだったものを、ぜひ、入手して読んでみてください。
※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ◆毎回、プリントを配布します。
- ◆各作品のテキスト（原文・注釈書・現代語訳）は、授業内で紹介します。

【参考書】

- ◆授業内容と関わる入門書・解説書を挙げます。面白そうだなと思うものを、書店や図書館で手に取って見てみてください。
- ◎田中貴子&田中圭一『セクシイ古文』（メディアファクトリー新書）
- ◎大塚ひかり『本当はエロかった昔の日本』（新潮文庫）
- ◎林望『古典文学の秘密―「本当はとてめえっちな古典文学」改題―』（光文社文庫）
- ◎工藤重矩『源氏物語の結婚―平安朝の婚姻制度と恋愛譚―』（中公新書）
- ◎神田龍身『物語文学、その解体』（有精堂）
- ◎伊藤比呂美ほか『作家と楽しむ古典』（河出書房新社）
- ◎板坂則子『江戸時代恋愛事情―若衆の恋、町娘の恋―』（朝日選書）
- ◎日本歴史編集委員会編『恋する日本史』（吉川弘文館）
- ◎ゲイリー・P・リュース／藤田真利子訳『男色の日本史』（作品社）
- ◎中村隆文『男女交際進化論「情交」か「肉交」か』（集英社新書）
- ◎喜志哲雄『シェイクスピアのたくらみ』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

◆授業で扱った作品のうち幾つかを読んだ上で、2000字程度の《最終課題》を書いてもらいます（86%）。5つほどテーマを挙げます → 1つを選択してもらいます。

◆毎回、リアクションペーパー（質問・情報などを自由に書く用紙）を提出してもらいます（14%）

【学生の意見等からの気づき】

- ◆受講者のみなさんからもらったリアクションペーパー（質問・情報・体験談など）をもとに、授業内容を膨らませてゆきます。
- ◆中古・中世の文学を考察する際、比較対照として、現代の小説・映画・漫画などを積極的に取り挙げます。

【Outline and objectives】

This course deals with love affairs and adulterous relationships in the Japanese classics(8c-13c).

LIT200BC

日本文芸研究特講（3）中世 A

小秋元 段

授業コード：A2665 | 曜日・時限：土曜 1 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『平家物語』を読む。
『平家物語』は日本文学に入ったからには、絶対に読んでおきたい偉大な古典である。この授業を通じて『平家物語』に接し、その作品を深く理解してみよう。

【到達目標】

1. 『平家物語』を原文で読み、その内容（虚構性や表現の特徴等）を理解し、それを説明する力を身につける。
2. 中世の文学と歴史・思想・文化全体への理解を養い、そこから『平家物語』に描かれた諸事象を共時的に理解し、それを説明する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、一つの章段をとりあげ、原文を朗読し、その内容を解説する。そして、歴史・思想・文化的背景を説明しながら、『平家物語』の叙述の特徴を指摘する。なお、講義は「法政大学オンデマンドシステム」を通じて動画配信するかたちで進めるほか、対面もしくは Zoom による授業を 3 回とりいれる（実施日は「学習支援システム」で通知する）。各回の受講後、「学習支援システム」を通じて 100～200 字程度のコメントを提出してもらう（3/29 追記：コメントの提出回数は、履修者数により変更する場合がある。「学習支援システム」を通じて通知する）。そこで出された質問への回答は、個別に行うほか、内容によっては Zoom 授業で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『平家物語』に触れよう	巻一「祇園精舎」の講読し、『平家物語』の世界に触れる。
第 2 回	『平家物語』概説	『平家物語』のあらすじ、成立、作者に関して講義する。
第 3 回	平家の繁栄～巻 1「殿下乗合」～	巻 1「殿下乗合」を講読し、平清盛・重盛父子の人物造形の特徴を中心に講義する。
第 4 回	院近臣の策謀～巻 1「鹿谷」～	巻 1「鹿谷」を講読し、政治的事件を描く作者の方法を中心に講義する。
第 5 回	質疑応答【対面もしくは Zoom】	第 1～4 回の質疑応答。
第 6 回	俊寛の悲劇～巻 3「足摺」～	巻 3「足摺」を講読し、悲劇を描く作者の方法を中心に講義する。
第 7 回	以仁王の変の発端～巻 4「競」～	巻 4「競」「橋合戦」を講読し、「いくさ語り」と『平家物語』の関係を中心に講義する。
第 8 回	清盛の死～巻 6「入道死去」～	巻 6「入道死去」を講読し、清盛の死の物語と浄土思想の関係を中心に講義する。
第 9 回	平家の都落ち～巻 7「忠教都落」～	巻 7「忠教都落」、巻 8「猫間」を講読し、『平家物語』における人物造形を中心に講義する。
第 10 回	質疑応答【対面もしくは Zoom】	第 6～9 回の質疑応答。
第 11 回	一谷の悲劇～巻 9「敦盛最期」～	巻 9「敦盛最期」を講読し、「父子の恩愛」の造形を中心に講義する。
第 12 回	扇の的～巻 11「那須与一」～	巻 11「那須与一」を講読し、覚一本と延慶本の物語の描き方の違いを中心に講義する。
第 13 回	平家滅亡～巻 11「先帝身投」「能登殿最期」～	巻 11「先帝身投」「能登殿最期」「大臣殿被斬」を講読し、平宗盛・知盛の役割を中心に講義する。
第 14 回	質疑応答【対面もしくは Zoom】	第 10～13 回の質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげる本文は、『平家物語』のうちの一部に過ぎない。授業で触れられない章段について、各自、読み進めておいてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント使用。

【参考書】

新潮日本古典集成、水原一校注『平家物語』上・中・下（新潮社、1979～81 年）
新日本古典文学大系、梶原正昭・山下裕明校注『平家物語』上・下（岩波書店、1991・93 年）
新編日本古典文学全集、市古貞次校注・訳『平家物語』上・下（小学館、1994 年）
三弥井古典文庫、佐伯真一校注『平家物語』（三弥井書店、1993・2000 年）
大津雄一ほか編『平家物語大事典』（東京書籍、2010 年）
王新禧訳『全訳本平家物語』（上海訳文出版社、2011 年）

【成績評価の方法と基準】

コメントカード 50 %、学期末レポート 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、質問に対しては全て個別に回答してきましたが、コメントについてもできるかぎり返信できるよう努力します。

【Outline and objectives】

In this course, we will read Heike-Monogatari.

LIT200BC

日本文芸研究特講（3）中世 B

小秋元 段

授業コード：A2666 | 曜日・時限：土曜 1 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世の説話と和歌

日本文学の歴史を深く理解するために、この授業では中世の説話と和歌について講義する。そこから中世文学の特徴について実感し、日本文学史を俯瞰する目を養うことを目的とする。

【到達目標】

1. 中世文学の歴史を理解し、それを説明する力を身につける。
2. 説話と和歌を原文で読み、その内容や特徴を理解し、それを説明する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎時間、作品の解題（基本的な事項の説明）と本文の解釈を中心に行う。

第 1～4 回、第 6～9 回、第 11～13 回は「法政大学オンデマンドシステム」を通じて動画を配信する。第 5・10・14 回は対面もしくは Zoom を使用し、授業を行う（実施日は「学習支援システム」通知する）。各回の受講後、「学習支援システム」を通じて 100～200 字程度のコメントを提出してもらう。そこで出された質問への回答は、個別に行うほか、内容によっては Zoom 授業で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中世とはいかなる時代か	中世、および中世文学の特徴について解説。
第 2 回	『今昔物語集』	『今昔物語集』の解題・講読。
第 3 回	『宇治拾遺物語』	『宇治拾遺物語』の講読。
第 4 回	説話と絵巻	『宇治拾遺物語』講読、『伴大納言絵詞』の鑑賞。
第 5 回	質疑応答【対面もしくは Zoom】	第 1～4 回の質疑応答。
第 6 回	『江談抄』と『十訓抄』	『江談抄』『十訓抄』の解題・講読。
第 7 回	『古今著聞集』	『古今著聞集』の解題・講読。
第 8 回	『宝物集』	『宝物集』の解題・講読。
第 9 回	『発心集』	『発心集』の解題・講読。
第 10 回	質疑応答【対面もしくは Zoom】	第 6～9 回の質疑応答。
第 11 回	和歌の基礎知識	勅撰和歌集についての解説。
第 12 回	『新古今和歌集』	『新古今和歌集』の解題・講読。
第 13 回	中世和歌の世界	『玉葉和歌集』『風雅和歌集』の解題・講読。
第 14 回	質疑応答【対面もしくは Zoom】	第 11～13 回の質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高等学校の国語（古文）の授業で行われた文学史や古典文法の内容を理解していることを前提に講義を進める。その理解に自信のない学生は、個々に自習することを望む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリント使用。

【参考書】

『日本古典文学大辞典』全 6 巻（岩波書店、1983～85 年）
『日本古典文学大事典』（明治書院、1998 年）
小山弘志編『日本文学新史〈中世〉』（至文堂、1990 年）

【成績評価の方法と基準】

毎時のコメントカード…… 30 %
期末レポート…… 70 %

【学生の意見等からの気づき】

出された質問については必ず回答していますが、コメントについてでもできるだけ返信するように努力します。

【Outline and objectives】

In this course, we will read Setsuwa and Waka.

LIT200BC

日本文芸研究特講（3）中世 C

井 真弓

夜間時間帯

授業コード：A2667 | 曜日・時限：金曜 4 限

春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世王朝物語を読む（前編）

鎌倉時代以降の物語文学に大きな影響を与えた『源氏物語』は、その卓越した優秀性から物語作者の自由な発想を阻害し、舞台設定の似通った多くの「中世王朝物語」を生み出した。このような「中世王朝物語」は、単に『源氏物語』の亜流・模倣に終始しているわけではなく、独自の世界観や主題を描出し、趣向を凝らすことによって『源氏物語』からの脱却、進化を図っている作品群である。

本講義では『源氏物語』の存在を念頭におきつつ中世王朝物語を丁寧に読み解き、その文学的価値を確認することを目的とする。

【到達目標】

- （1）物語個々の特徴を把握するとともに、その作品の文学史的意義を理解する。
- （2）物語相互の影響関係を把握し、物語がどのように変容していくかを理解する。
- （3）『源氏物語』以降、どれほど多くの物語が書き継がれていたのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。原文を丁寧に読み解き、その内容を解説する。そしていかに先行作品、特に『源氏物語』の影響を享受し、独自性の創造に至ったかを趣向や表現、歴史的・思想的背景を交えながら指摘する。授業の初めには前回のリアクションペーパーに寄せられた質問事項の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	物語文学概説（1）	物語とは何か、『源氏物語』までの物語の流れ
第 2 回	物語文学概説（2）	『源氏物語』の存在とは
第 3 回	中世王朝物語とは（1）	呼称、研究史について
第 4 回	中世王朝物語とは（2）	趣向について
第 5 回	『しのびね物語』を読む	「しのびね型」とは
第 6 回	『石清水物語』を読む（1）	作品概説、物語構造、『源氏物語』との比較
第 7 回	『石清水物語』を読む（2）	男色について
第 8 回	『石清水物語』を読む（3）	武士という設定について
第 9 回	『風に紅葉』を読む	男色について、『石清水物語』との比較
第 10 回	『松浦宮物語』を読む（1）	作品概説、物語構造について
第 11 回	『松浦宮物語』を読む（2）	三人の女性の意味について
第 12 回	『松浦宮物語』を読む（3）	主人公帰国後の物語展開について
第 13 回	『我が身にたどる姫君』を読む（1）	作品概説、『松浦宮物語』との比較
第 14 回	『我が身にたどる姫君』を読む（2）	巻五における女帝の人物造型について
第 15 回	『我が身にたどる姫君』を読む（3）	巻六における前斎宮の人物造型について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（授業前）

・全員が次の講義箇所の概略をつかんでおく。

（授業中）

・講義を聞き、物語の内容を理解する。

・授業中に配布するプリントに講義内容を書き取る。

・物語本文の解釈に不明なところが残らないように一文ずつ理解していく。

（授業後）

・授業で扱った箇所を再読し、読み方・内容を十分に理解するようにする。

・不明箇所は次回に質問して十分に理解するよう心がける。

・授業で取り上げる本文は作品の一部である。授業で触れることのできる部分について通読する。

《授業前（予習）と授業後（復習）、それぞれ 120 分は必要》

【テキスト（教科書）】

授業内でプリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

（1）大槻修、神野藤昭夫編『中世王朝物語を学ぶ人のために』（世界思想社）

（2）神田龍身、西沢正史編『中世王朝物語・御伽草子事典』（勉誠出版）

（3）ドナルド・キーン『日本文学史 古代・中世篇二・三・五』（中公文庫）

（4）中村真一郎『王朝物語』『王朝文学論』（新潮文庫）

（5）『日本の歴史 5～9』（中公文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出）30%、（授業で学び、考えたことをリアクションペーパーに報告できるか）

学期末試験 70%（授業で扱った内容に関する問題に答えることができるか）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

古典作品の原文を扱うため、古語辞典や電子辞書を用意するとよい。

【Outline and objectives】

"Chusei Ocho Monogatari" is not just a sub-stream or imitation of "Genji Monogatari", but it breaks away from "Genji Monogatari" by drawing out its own world view and theme and elaborating its taste.

The purpose of this lecture is to carefully read "Chusei Ocho Monogatari" and confirm its literary value, keeping in mind the existence of "Genji Monogatari".

LIT200BC

日本文学研究特講（3）中世 D

井 真弓

夜間時間帯

授業コード：A2668 | 曜日・時限：金曜 4 限

秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世王朝物語を読む（後編）

鎌倉時代以降の物語文学に大きな影響を与えた『源氏物語』は、その卓越した優秀性から物語作者の自由な発想を阻害し、舞台設定の似通った多くの「中世王朝物語」を生み出した。このような「中世王朝物語」は、単に『源氏物語』の亜流・模倣に終始しているわけではなく、独自の世界観や主題を描出し、趣向を凝らすことによって『源氏物語』からの脱却、進化を図っている作品群である。

本講義では『源氏物語』の存在を念頭におきつつ中世王朝物語を丁寧に読み解き、その文学的価値を確認することを目的とする。

【到達目標】

（1）物語個々の特徴を把握するとともに、その作品の文学史的意義を理解する。

（2）物語相互の影響関係を把握し、物語がどのように変容していくかを理解する。

（3）『源氏物語』以降、どれほど多くの物語が書き継がれていたのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。原文を丁寧に読み解き、その内容を解説する。そしていかに先行作品、特に『源氏物語』の影響を享受し、独自性の創造に至ったかを趣向や表現、歴史的・思想的背景を交えながら指摘する。

授業の初めには前回のリアクションペーパーに寄せられた質問事項の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『夢の通ひ路物語』を読む（1）	作品概説、物語の構造について
第 2 回	『夢の通ひ路物語』を読む（2）	『源氏物語』との比較
第 3 回	『夢の通ひ路物語』を読む（3）	登場人物の人物造型について
第 4 回	『松陰中納言物語』を読む（1）	作品概説、物語の構造について、流罪について
第 5 回	『松陰中納言物語』を読む（2）	『夢の通ひ路物語』との比較
第 6 回	『松陰中納言物語』を読む（3）	主人公召還後の物語展開について
第 7 回	『源氏物語』を読む	『雲隠六帖』『山路の露』を読むための内容の振り返り
第 8 回	『雲隠六帖』を読む（1）	作品概説、雲隠巻について
第 9 回	『雲隠六帖』を読む（2）	巢守巻、桜人巻について
第 10 回	『雲隠六帖』を読む（3）	法の師巻について
第 11 回	『山路の露』を読む（1）	作品概説、物語の構造について
第 12 回	『山路の露』を読む（2）	作品内表現について
第 13 回	『山路の露』を読む（3）	浮舟の人物造型について
第 14 回	『別本八重葎』を読む	作品概説、『源氏物語』との比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（授業前）

・全員が次の講義箇所の概略をつかんでおく。

（授業中）

- ・講義を聞き、物語の内容を理解する。
 - ・授業中に配布するプリントに講義内容を書き取る。
 - ・物語本文の解釈に不明なところが残らないように一文ずつ理解していく。(授業後)
 - ・授業で扱った箇所を再読し、読み方・内容を十分に理解するようにする。
 - ・不明箇所は次回に質問して十分に理解するよう心がける。
 - ・授業で取り上げる本文は作品の一部である。授業で触れることできない部分について通読する。
- 《授業前（予習）と授業後（復習）、それぞれ 120 分は必要》

【テキスト（教科書）】

授業内でプリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

- (1) 大槻修、神野藤昭夫編『中世王朝物語を学ぶ人のために』（世界思想社）
- (2) 神田龍身、西沢正史編『中世王朝物語・御伽草子事典』（勉誠出版）
- (3) ドナルド・キーン『日本文学史 古代・中世篇二・三・五』（中公文庫）
- (4) 中村真一郎『王朝物語』『王朝文学論』（新潮文庫）
- (5) 『日本の歴史 5～9』（中公文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出）30%、（授業で学び、考えたことをリアクションペーパーに報告できるか）
学期末試験 70%（授業で扱った内容に関する問題に答えることができるか）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

古典作品の原文を扱うため、古語辞典や電子辞書を用意するとよい。

【Outline and objectives】

"Chusei Ocho Monogatari" is not just a sub-stream or imitation of "Genji Monogatari", but it breaks away from "Genji Monogatari" by drawing out its own world view and theme and elaborating its taste.
The purpose of this lecture is to carefully read "Chusei Ocho Monogatari" and confirm its literary value, keeping in mind the existence of "Genji Monogatari".

LIT200BC

日本文学研究特講（４）近世 A

眞島 望

授業コード：A2669 | 曜日・時限：火曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近世文学のみならず、本邦の古典を代表する詩人たる芭蕉。その手になる『おくのほそ道』の読解を手がかりに、日本文学の潮流の一つである紀行文学や地誌への理解を深めるとともに、江戸時代の新興文芸である俳諧の特質と、そこに底流する和歌・謡曲をはじめとする日本文化のエッセンス、特に名所や歌枕の概念を学ぶ。また、その主な経路となった東北地方の歴史的な位置づけについて知ることを通して、東国文化の特質や「日本」とはいかなる文化なのかを考える。

【到達目標】

- 1、紀行文学や地誌の歴史や、他の散文・韻文文芸との関係を理解する。
- 2、俳諧という文芸の特質や、その代表者の一人である芭蕉の生涯とその芸術について理解する。
- 3、『おくのほそ道』の文学作品としての特色を説明できるようになる。
- 4、我々も現在その一部に属している東（あずま）という土地の歴史性に興味をもち、そのことについて自分なりの意見を述べるができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

主に質疑応答を含めた講義形式（適宜資料を配付する）で進めるが、必要に応じて討論や作業（授業内課題など）も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと概説	授業の概要の説明 芭蕉の図像としてのイメージに触れる。
第 2 回	俳諧の歴史と展開	俳諧文芸の史的展開と、そこに芭蕉がいかに位置付けられるかを知る。
第 3 回	俳人芭蕉の生涯①	芭蕉の前半生について解説し、その作品（談林時代）を鑑賞する。
第 4 回	俳人芭蕉の生涯②	芭蕉の後半生について解説し、その作品（漢詩文調～蕉風開眼以後）を鑑賞して、俳風の変遷を学ぶ。
第 5 回	『おくのほそ道』の諸本とその形態	『おくのほそ道』の諸本とその関係を確認し、紀行文としての特色を知る。
第 6 回	読解①（発端・出立）	旅の目的となっている歌枕とは何かを知る。
第 7 回	読解②（第一夜）	江戸時代の「日本」認識と「東国」・「奥羽」の歴史とイメージを知る。
第 8 回	読解③（室の八鳥）	歌枕「室の八鳥」の変遷とその背景に見える当地の歴史を学ぶ。
第 9 回	読解④（日光 1）	能・謡曲からの影響と、「東国」の聖地としての日光の歴史を学ぶ。
第 10 回	読解⑤（日光 2）	同行者である曾良の経歴と謎の多い半生について知り、日光との関わりを探る。
第 11 回	読解⑥（白河の関）	歌枕「白河の関」の和歌における本意を学び、本文に見える芭蕉の作意を知る。
第 12 回	読解⑦（壺の碑）	東北各藩の歌枕に対する眼差しと、「壺の碑」の来訪で芭蕉が得た芸術理論について知る。
第 13 回	読解⑨（平泉 1）	平泉の古戦場としての歴史を知り、芭蕉の歴史観を考察する。
第 14 回	読解⑩（平泉 2）・全体のまとめ	後半部を中心に、不易流行論との関係を主題に読み解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に『おくのほそ道』全文を読み通しておくこと。また、毎授業前に該当箇所の本文・語釈・現代語訳などを確認しておく。授業後には、配布資料や板書事項を中心に復習しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

頼原退蔵・尾形仿訳注『新版おくのほそ道』〈角川ソフィア文庫〉（角川書店、2003 年 3 月）¥760
※同出版社・同レーベルの「ビギナーズ・クラシックス」版は避けて下さい（内容に差異があります）。

【参考書】

阿部喜三男・久富哲雄著『増訂版 詳考奥の細道』（日栄社、1979 年 11 月）
堀切実編『『おくのほそ道』解釈事典』（東京堂出版、2003 年 7 月）
上野洋三・櫻井武次郎校注『芭蕉自筆 奥の細道』（岩波文庫）（2017 年 7 月）
※そのほか多数。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %・小テスト 30 %・平常点 10 %

【学生の意見等からの気づき】

学生のコメントに対するフィードバックが充分に行えなかった反省を踏まえ、
できる限りきめ細かい対応を目指したいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students will understand the art of “Haikai” that was new style poetry in the Edo period, and the essence of Japanese traditional culture by reading famous travel literature “Oku no Hosomichi” written by Matsuo Basho. And, students will learn the historical background of the Tohoku Region in Japan.

For that purpose, it is necessary to come into contact with the classical texts of Japan and China, for example, 31-syllable Japanese poems, Noh songs, or Chinese poetry, because “Oku no Hosomichi” is based on a lot of the different classics.

LIT200BC

日本文学研究特講（4）近世 B

小林 ふみ子

授業コード：A2670 | 曜日・時限：火曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸っ子の笑いと機知を読み解く。
18 世紀後半に成熟期を迎えた江戸で「江戸っ子」という言葉が生まれ、その独自の気風・美学からさまざまな文学が生み出される。その笑いと機知を読み解きながら、語彙や文体における近世文芸の表現の多様性を考える。

【到達目標】

- 江戸戯作の各ジャンルの特質・表現について理解する。
- うがち、ちゃかし、地口などの江戸文芸の笑いの技法に親しむ。
- 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。
- デジタル公開されている江戸の文芸や浮世絵の資料の調査方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1～3 回で 1 ジャンルを学ぶ。
提供した授業資料と指定したデジタル公開資料などを読み解いてもらい、各ジャンルの特徴を知る。
100 分を個人での課題への取り組み、グループでの共有、講義などを織りまぜて構成する。発表に対しては授業内でフィードバックし、最終レポートはコメントを付けて返却する。
戯作の発想方法を理解するために、創作にもチャレンジする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入 時代背景 短詩系文学①	クラスの人を知る。 江戸っ子の時代概説 川柳のうがちに触れる。
第 2 回	黄表紙の奇想①	デジタル資料から黄表紙の特徴を探る。 子ども絵本の荒唐無稽さを逆手にとって戯れた黄表紙を理解する。
第 3 回	黄表紙の奇想②	「かちかち山」の後日談『親敵討腹鼓』を読み解く。－上
第 4 回	黄表紙の奇想③	「かちかち山」の後日談『親敵討腹鼓』を読み解く。－下 浮世絵の利用法を知る。
第 5 回	見立絵本のしかけ①	見立ての概念と見立て絵本を知る。
第 6 回	見立絵本のしかけ②	江戸時代の妖怪文化を知る。 見立絵本『画本纂怪興』を読み解く。
第 7 回	短詩系文学②	辞書や辞典を駆使しながら、狂歌を読み解く。 物真似のような口語体を駆使して笑いを追求した滑稽本の概説
第 8 回	滑稽本の表現力①	「敦盛最期」を当世化して遊ぶ式亭三馬『大千世界楽屋探』の読解
第 9 回	滑稽本の表現力②	三馬『大千世界楽屋探』の読解とまとめ
第 10 回	滑稽本の表現力③	デジタル展示（メトロポリタン美術館の源氏物語展）より、江戸時代の源氏物語享受のさまを探る
第 11 回	合巻の情緒①	『源氏物語』の江戸時代版『修紫田舎源氏』を読み解く－上
第 12 回	合巻の情緒②	『源氏物語』の江戸時代版『修紫田舎源氏』を読み解く－下
第 13 回	合巻の情緒③	全体のとまとめ
第 14 回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末の試験やレポートを課す代わりに、単元ごとの小課題を出します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準に考えます。

【テキスト（教科書）】

各回、資料提供し、参照すべき URL を提示します。

【参考書】

小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』（集英社インターナショナル［インターナショナル新書］、2019）
黄表紙について、見立絵本についてのまとまった解説があります（とくに見立絵本はこの授業で扱う作品を解説しています）ので、参照すると課題にとりくむにあたって役立つでしょう。

【成績評価の方法と基準】

毎回のふり返り（Hoppii40 %）、計 4 回の課題の得点（60 %）を合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。講義と（予習も含めた）個人での読解作業とグループでの解説と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面とオンライン（双方向）併用を想定しての実施です。デジタル資料の参照を推奨しますので、教室で参加する場合も（スマホでもいいのですが）、ノートパソコンまたはスマホより画面の大きなタブレットを用意しましょう。図書館のデータベースのうちジャパンナレッジは随時使えるようにしておきましょう。（授業内で接続方法は案内します）

【その他の重要事項】

質問は Hoppii に提出してもらった各回の感想、および Hoppii の掲示板で受け付けます。

【Outline and objectives】

Reading and analyzing the comic works from the late 18th century Edo(now Tokyo) to know diversity of literary style, vocabulary and expressions in those works.

LIT200BC

日本文学研究特講（４）近世Ｃ

宮本 祐規子

夜間時間帯

授業コード：A2671 | 曜日・時限：水曜 4 限

春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世の前期小説である浮世草子を中心に、近世文学の多様さと面白さを知る。古典の知識、地方の特色、当代性の摂取、後世への影響など、色々な視点で浮世草子を読む。

【到達目標】

- ①近世らしさが花開き始めた時期の、上方の文学・文化について知る。
- ②井原西鶴を中心に、江島其磧、太宰治といった後続作者の小説も紹介し、近世文学の面白さと多様さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義の場合は、毎授業時に資料を配布し、授業内に、小課題・リアクションペーパー・創作などの提出を課す。提出された課題類は、次週に授業内で紹介、コメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	近世前期という時代	江戸と上方
第 2 回	近世小説の特徴及び浮世草子の特徴	実用書から小説まで
第 3 回	浮世草子と古典	西鶴の好色ものと『伊勢物語』『源氏物語』
第 4 回	浮世草子と挿絵	西鶴『新可笑記』の新しい読み
第 5 回	浮世草子の王道	西鶴の町人もの『世間胸算用』『日本永代蔵』
第 6 回	浮世草子の女性たち	『好色五人女』のヒロイン
第 7 回	浮世草子の毒	西鶴の武家もの『武家義理物語』『武道伝来記』
第 8 回	浮世草子の怪異	『西鶴諸国はなし』の闇
第 9 回	浮世草子と裁判	『本朝桜蔭比事』と現実社会
第 10 回	浮世草子と手紙	書簡体小説『万の文反古』
第 11 回	浮世草子と中国文学	『二十四孝』と『本朝二十不孝』
第 12 回	浮世草子と西鶴以後①	西鶴から太宰治『新釈諸国噺』
第 13 回	浮世草子と西鶴以後②	八文字屋本と江島其磧
第 14 回	まとめ 期末試験 解説	まとめ 期末試験 解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時には、配布する資料に事前に目を通すことを求める。授業内だけでなく次週のレポート提出や、創作課題を課すことがある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

『新編日本古典文学全集 西鶴集』（小学館）、『八文字屋本全集』（汲古書院）など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 %（小課題、リアクションペーパーなどを含める）
試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げた作品をより深く学べるように、授業後に各自で読むことのできるような論文・資料などを紹介していく。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書の持ち込みを推奨する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けないが、質問等は授業後に受け付ける。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire a literature of the Edo period. Ukiyo Zoshi is one of the major literary forms in the early Kinsei Bungaku.

LIT200BC

日本文学研究特講（４）近世Ｄ

宮本 祐規子

夜間時間帯

授業コード：A2672 | 曜日・時限：水曜 4 限

秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、「怪異」を取り上げる。

近世の前期小説である浮世草子を中心に、仮名草子・読本・演劇といったジャンルにおける怪異を扱う作品を読む。一読してすぐに怖い話というよりは、不思議な話に見えるが、よく考えると「恐怖」を感じるような作品を考察したい。また、現代のホラーとは何が共通し、何が違うのかを考えてみてほしい。

また、仮名草子・浮世草子は比較的読みやすい板本なので、受講者はくずし字で原文を読むことを目指したい。

【到達目標】

①近世期の原本に触れ、くずし字を読むことが出来る。

②近世文学に描かれた文化的背景について知る。

③井原西鶴を中心に、仮名草子・上田秋成・近世演劇の怪異を描く作品を紹介し、近世文学の面白さと多様さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義の場合は、毎授業時に資料を配布し、授業内に、小課題・リアクションペーパー・創作・簡単なくずし字小試験などの提出を課す。提出された課題類は、次週に授業内で紹介、コメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	近世前期という時代 くずし字の基本	近世の文化的・経済的背景 くずし字の基本的知識
第 2 回	仮名草子の短編怪談集	初期の素朴な怪談集
第 3 回	浮世草子『西鶴諸国はなし』①	西鶴の描きたい「不思議」とは何か
第 4 回	『西鶴諸国はなし』② 水筋のぬけ道	女性の怨みの晴らし方
第 5 回	『西鶴諸国はなし』③ 夢路の風車	桃源郷の理想と現実
第 6 回	『西鶴諸国はなし』④ 楽しみの男地蔵	愛の境界線を探る
第 7 回	『西鶴諸国はなし』⑤ 行末の宝船	人間の欲望と末路
第 8 回	『西鶴諸国はなし』⑥ 身を捨てる油壺	伝説と現実
第 9 回	浮世草子の怪談と笑話	恐怖を突き詰めれば(笑)となるか
第 10 回	読本『雨月物語』①吉備津の釜	男が描く、女の一念
第 11 回	『雨月物語』②浅茅が宿	中国と日本における恐怖
第 12 回	演劇の怪談①	四谷怪談 お岩と『仮名手本忠臣蔵』
第 13 回	演劇の怪談②	累物
第 14 回	まとめ 期末試験	まとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する資料に事前に目を通すことは必須。

授業内の提出課題だけでなく、次週までにレポート・創作課題などの提出を課すことがある。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

『増補改訂 仮名変体集』（伊地知鉄男編、新典社）、『近世怪異小説研究』（太刀川清著、笠間書院）、『新編日本古典文学全集 西鶴集』（小学館）、『新潮日本古典集成 上田秋成集』（新潮社）など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%（小課題、リアクションペーパーなどを含める）
試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書の持ち込みを推奨する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けないが、質問等は授業後に受け付ける。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire a literature of the Edo period. Ukiyo Zoshi is one of the major literary forms in the early Kinsei Bungaku.

LIT200BC

日本文学研究特講（5）近代A

佐藤 未央子

授業コード：A2673 | 曜日・時限：木曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、日本近代文学と同時期に発展した映画が、作家によってどう捉えられたか考えるため、映画との関わりが深い谷崎潤一郎の作品を取り上げる。谷崎は早くから映画のメディア的・芸術的可能性を見抜き、1920年には映画会社に招聘されて映画脚本を数本発表した。またその経験をもとにした映画論や映画小説も数多く残している。それらのテキストが持つ同時代的意義やアクチュアリティを学び、他のメディアとの関わりの中で成立する文学の在り方について考察する。

【到達目標】

- ・作家の言説を相対化し、客観的に分析することができる。
- ・同時代資料を読み解き、歴史的に意味づけることができる。
- ・映画やメディアの知識を援用して、作品を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と進め方に関する説明
第 2 回	「秘密」	盛り場・浅草に登場した映画館を、谷崎がいかなる場として描いたか読み解く。
第 3 回	「魔術師」	谷崎は映画を、身体性を持つ魔術的なメディアとして捉えていたことを確認する。
第 4 回	「人面疽」①	作中で描かれた映画女優と身体表象の問題について、映画の果たした役割を踏まえて考察する。
第 5 回	「人面疽」②	ヴァルター・ベンヤミンの理論を援用しながら、映画がもたらす複製の恐怖について考察する。
第 6 回	大正活映と谷崎潤一郎	谷崎が所属した大正活映の活動を中心に、日本映画の改良運動とその意義について確認する。
第 7 回	「アマチュア倶楽部」	谷崎が実作した映画について、シナリオをもとに表現の新規性を分析する。
第 8 回	「葛飾砂子」	泉鏡花の小説を映画の原作に選んだ根拠と、演出の特徴について考察する。
第 9 回	「月の囁き」	谷崎の未映画化シナリオを取り上げ、女性の狂気とまなざしのドラマツルギーについて論じる。
第 10 回	「アズ・マリア」①	作中で語り手に引用されるセシル・B・デミル監督の映画や女優について資料と照合し、事実と語りの差異を分析する。
第 11 回	「アズ・マリア」②	語り手が映画を過去性を持つメディアとして捉えるさまを、アンリ・ベルクソンの哲学を援用して考察する。

第 12 回 「青塚氏の話」①	観客の能動的な映画受容に着目し、同時代的な映画ファンの様相と欲望の問題性を明らかにする。
第 13 回 「青塚氏の話」②	映画が拡散する情報と物語の展開を連関させて読み解き、作品の現代的な批評性を析出する。
第 14 回 総括	授業内容の復習と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対象作品を読んでいることを前提に講義を進めるので、毎回必ず予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・谷崎潤一郎著、千葉俊二編『潤一郎ラビリンス（11）銀幕の彼方』（1999、中央公論社）
ほか、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

【参考書】

・千葉伸夫『映画と谷崎』（1989、青蛙房）
・五味湖典嗣『言葉を食べる 谷崎潤一郎、1920-1931』（2009、世織書房）
・田中純一郎『日本映画発達史』1、2 巻（1975～1976、中央公論社）
ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを含む授業への参加度：50 %
・学期末テスト（講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題）：50 %
以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より授業を担当するため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course deals with Tanizaki Jun'ichiro's film theory and "film novels". It also explains actuality significance of works, and the form of literature established in the relation with other media.

LIT200BC

日本文学研究特講（5）近代B

佐藤 未央子

授業コード：A2674 | 曜日・時限：木曜 3 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

谷崎潤一郎の小説は、1930年代以降の文芸映画ブームの中で次々と映画化されていった。本講義では、谷崎の小説が映画化されるに際して生じた問題とその背景を考察する。具体的には、映画に際して働いたバイアスや表現規制と、女性（女優）の演出に焦点を当てる。映画化された文学が持つ新たな相貌とその波及効果、さらに女優が社会状況を反映して表象されていく様相について考えていく。

【到達目標】

・作家の言説を相対化し、客観的に分析することができる。
・同時代資料を読み解き、歴史的に意味づけることができる。
・映画やメディアの知識を援用して、作品を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と進め方に関する説明
第 2 回	アダプテーションとは何か	文学作品から多様な形に変換されていく「アダプテーション」（翻案）行為の意義について考える。
第 3 回	「蛇性の姪」	大正活映時代の谷崎が『雨月物語』をいかに翻案したのか、シナリオを分析する。
第 4 回	「春琴抄」①	1930年代の文芸映画ブーム以降、繰り返し映画化されてきた理由と演出の傾向を分析する。
第 5 回	「春琴抄」②	映像を具体的に確認し、原作と比較する。
第 6 回	「春琴抄」③	「春琴抄」の主題である「盲目」を映画化することの意味と問題性について考察する。
第 7 回	「盲目物語」①	戦時下に映画化されるにあたり、原作のいかなる点が前掲化されたのかを分析する。
第 8 回	「盲目物語」②	谷崎がイメージした映画化の案と、実際の映画のギャップについて考察する。
第 9 回	「痴人の愛」①	戦前に小説「痴人の愛」と登場人物の「ナオミ」がもったインパクトを明らかにする。
第 10 回	「痴人の愛」②	戦後の映画化で、ストーリーの根幹が大きく変更された背景と要因を考える。
第 11 回	「鍵」①	特殊な文体と構成をもつ長編が、映画化にあたりいかに再編されたか考える。
第 12 回	「鍵」②	同時代のセクシュアリティのあり方を背景に、「鍵」が切り結んだ問題を明らかにする。
第 13 回	「瘋癲老人日記」	「鍵」の考察を踏まえて、女性身体がいかに表象されたか検討する。

第 14 回 総括 授業内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対象作品を読んでいることを前提に講義を進めるので、毎回必ず予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

【参考書】

- ・谷崎潤一郎著、千葉俊二編『潤一郎ラビリンス（11）銀幕の彼方』（1999、中央公論社）
 - ・千葉伸夫『映画と谷崎』（1989、青蛙房）
 - ・北村匡平『スター女優の文化社会学 戦後日本が欲望した聖女と魔女』（2017、作品社）
 - ・田中純一郎『日本映画発達史』3～5 巻（1976、中央公論社）
- ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・リアクションペーパーを含む授業への参加度：50 %
 - ・学期末テスト（講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題）：50 %
- 以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より授業を担当するため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course deals with the problems that occurred when Tanizaki Jun'ichiro's novels that has been made into a movie. It also explains censorship and bias of expression with film-making, and actress's performance.

LIT200BC

日本文学研究特講（6）現代 A

藤木 直実

授業コード：A2677 | 曜日・時限：火曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

森鷗外の作品とそのアダプテーション（鵬外作品を素材とする演劇や映画）を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20 世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鵬外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

近現代文学作品および演劇や映画を、ジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第 2 回	「舞姫」(1)	「近代的自我とその挫折の物語」としての受容の系譜
第 3 回	「舞姫」(2)	定番教材としての受容の系譜
第 4 回	「舞姫」(3)	「妊娠小説」へのパラダイムシフトと日本のフェミニズム文学批評について
第 5 回	「舞姫」(4)	ジェンダーの観点から「舞姫」を再読する
第 6 回	映画「舞姫」(1)	篠田正浩監督「舞姫」を鑑賞する
第 7 回	映画「舞姫」(2)	鑑賞の続きとグループワークによる批評
第 8 回	映画「舞姫」(3)	各グループでの討議内容の発表
第 9 回	男たちの「妊娠小説」	夏目漱石、長塚節などの作品を読む
第 10 回	女たちの「妊娠小説」(1)	水野仙子、森しげ、与謝野晶子などの作品を読む
第 11 回	女たちの「妊娠小説」(2)	村田沙耶香、田中兆子、川上未映子などの作品を読む
第 12 回	鵬外と性欲の問題系	「キタ・セクスアリス」などの鵬外作品を読む
第 13 回	鵬外と性暴力の問題系	「魔睡」「鼠睡」などの鵬外作品を読む
第 14 回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鵬外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリント配布する。鵬外作品の多くについては青空文庫でのダウンロードを用いる。
。映像作品の視聴方法については授業時に指示する。

【参考書】

『鵬外近代小説集』（岩波書店）、金子幸代編『鵬外女性論集』（不二出版）、山崎明子・藤木直実編『〈妊婦〉アート論』（青弓社）、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーおよび小レポートの内容 30 %、期末レポート（または試験）70 %。3 分の 2 以上の出席を必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日的トピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパー用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが使用できることが望ましい。プリンターがあれば学習効率がより高くなるとされる。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム／ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については授業時に受け付けるほかメールでも対応する。メールでの質問の場合は、件名を「日本文芸研究特講 学籍番号 氏名」とすること。メール宛先：fujiki@olive.ocn.ne.jp

【Outline and objectives】

We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

LIT200BC

日本文芸研究特講（6）現代B

藤木 直実

授業コード：A2678 | 曜日・時限：火曜 3 限

秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

森鷗外の作品とそのアダプテーション（鷗外作品を素材とする演劇や映画）を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20 世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

近現代文学をジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の内容、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第 2 回	森鷗外「半日」の波紋	「半日」成立までの鷗外と作品の概要
第 3 回	「作家の妻」とテクスチュアルハラスメント	テクスチュアルハラスメント概念についての紹介
第 4 回	森しげ「波瀾」の宛先	森しげ（鷗外夫人）の代表作「波瀾」の概要
第 5 回	森しげ「あだ花」の戦略	森しげの代表作「あだ花」の概要
第 6 回	鷗外・しげの間テキスト性	鷗外夫妻の作品の相互性について
第 7 回	森しげ「お鯉さん」の逸脱と挫折	森しげの最後の作品「お鯉さん」の概要
第 8 回	雑誌「三越」と鷗外・しげ	三越百貨店機関誌および百貨店文化と鷗外夫妻との関わりについて
第 9 回	鷗外と与謝野晶子	鷗外と与謝野晶子との影響関係
第 10 回	与謝野晶子と『台湾愛国婦人』	愛国婦人会台湾支部機関誌「台湾愛国婦人」と与謝野晶子
第 11 回	永井愛「鷗外の怪談」(1)	演劇作品「鷗外の怪談」(2014) の鑑賞
第 12 回	永井愛「鷗外の怪談」(2)	「鷗外の怪談」鑑賞の続きと解説
第 13 回	鷗外と大逆事件	大逆事件の影響下に発表された鷗外作品の概略
第 14 回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリント配布する。

【参考書】

『鷗外近代小説集』（岩波書店）、『明治文学全集』（筑摩書房）、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容 30 %、期末レポート（または試験）70 %。3 分の 2 以上の出席を必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鵬外作品と今日のトピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパーを用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム／ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については各回の授業時に対応するほかメール fujiki@olive.ocn.ne.jp でも受け付ける。メールでの質問の場合は件名を「学籍番号 氏名」とすること。

【Outline and objectives】

We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

LIT200BC

日本文学研究特講（6）現代C

高口 智史

夜間時間帯

授業コード：A2679 | 曜日・時限：木曜 6 限

春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後文学を読む——現在を相対化するために

文学は芸術であり、娯楽であるが、批評でもある。文学作品を、一部の研究者や一部の熱心なファンのものから社会的に開かれたものにするためには、文学を批評として読む視点が必要である。この授業では批評としての文学について考えてみようと思う。そしてその対象として「戦後文学」を読み返したい。

ここで言う「戦後文学」とは大雑把に第二次大戦後に発表された文学作品や、旧来の文学史で「戦後派」にカテゴライズされた文学を指すのではない。作品の中に戦争体験や戦争の記憶が影を落としているような作品のことである。

いまなぜ「戦後文学」を読むのか。戦争・敗戦とは日本人全体が共有した歴史的挫折体験だった。そして現在の日本が新型コロナの影響もあって、大きな歴史的転換期にあることは誰もが感じるところだろう。戦争は暴力が人間社会を破壊するのに対して、新型コロナは活動停止という静かな恐怖が人間社会を破壊していく。コロナ終息後にどのような光景が広がるのか、今はまだわからない。しかし大切なことはこれを単なる天災とせず、この危機の中で露呈している人間の問題をしっかりと見据えその反省を終戦後の社会の再構築に活かす必要がある。そのためには〈いま〉を相対化するために（言い換えれば〈いま〉に振り回されないために）歴史に学ぶ必要がある。その一つの方法として戦後文学を読もうと思う。文学こそが同時代に対する戦争・敗戦を生きた人間の証言であり批評であるからだ。

この授業で考えてもらいたいことは、今年で敗戦から 76 年を迎えるが、日本人は変わったのだろうか、ということである。「変わった」とは「反省した」ということだ。変わったのならば、戦後文学は古びた歴史な文献資料に過ぎなくなる。逆に変わらないとすれば、私たちはまだ歴史を反省せずに過ごしてしまったということだ。実際、授業で一人ひとりが作品を読みながら考えてほしい。

【到達目標】

- ・戦後文学の歴史的意味を再評価する。
- ・日本の戦後文学の批評性が現在にどのような意味を持つのか理解する。
- ・小説の基本的な構造分析と読みの方法について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。各作品に入る時、簡単な感想を提出してもらい、次の時間に発表する。また毎回終了時にリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業で紹介し、質問に対しても答える。また質問については学習支援システムも活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・授業の方向性や進め方について ・現在「戦後文学」を再読する意味について
第 2 回	I 〈廃墟〉としての戦後 ① 志賀直哉「灰色の月」を読む	・敗戦のもたらした〈廃墟〉とは何か ・志賀直哉は敗戦をどうとらえたか（志賀直哉のナショナリズム）
第 3 回	I 〈廃墟〉としての戦後 ② 原民喜「夏の花」を読む 第一回	・原民喜と「リアリズム」について— 「夏の花」の表現について考える
第 4 回	I 〈廃墟〉としての戦後 ③ 原民喜「夏の花」を読む 第二回	・戦中と戦後の〈断絶〉を考える ・人類の敗北としての〈戦後〉
第 5 回	II 延命した〈戦前〉① 坂口安吾「白痴」を読む 第一回	・「白痴」の表現について考える
第 6 回	II 延命した〈戦前〉② 坂口安吾「白痴」を読む 第二回	・坂口安吾に於ける戦中と戦後の〈連続〉と〈断絶〉 ・「墮落」しない日本人
第 7 回	II 延命した〈戦前〉③ 中野重治「五勺の酒」を読む 第一回	・「五勺の酒」の表現について考える— 前衛小説としての「五勺の酒」

第 8 回	Ⅱ 延命した〈戦前〉④ 中野重治「五勺の酒」を読む 第二回	・「政治小説」としての「五勺の酒」— 天皇制と民主主義について
第 9 回	Ⅲ 忘却された〈戦後〉① 野坂昭如「火垂るの墓」 を読む①	・「火垂るの墓」の表現について考える —特に冒頭表現の特徴について
第 10 回	Ⅲ 忘却された〈戦後〉② 野坂昭如「火垂るの墓」 を読む①	・忘却された〈戦災孤児〉から日本の 〈戦後〉について考える
第 11 回	Ⅲ 忘却された〈戦後〉③ 目取真俊「水滴」を読む ①	・「水滴」の表現について考える—幽霊 の意味を中心に
第 12 回	Ⅲ 忘却された〈戦後〉④ 目取真俊「水滴」を読む ②	・二重に隠蔽された沖縄戦の記憶と忘 却—「戦争の悲惨さ」について考える
第 13 回	まとめ	・戦後文学が批評した日本の〈戦後〉 と日本人について ・戦後文学がコロナ後の日本に投げか けるもの
第 14 回	試験	春学期の総括—「戦後文学」の批評性 について理解できたか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に必ず作品を読んで授業に臨んでほしい。さらに今回取り上げる戦時中から戦後の時代についても歴史を予習し、時代についてのおおまかなイメージをつかんでおいてほしい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用するテキストは学習支援システムで配信する。

【参考書】

・内田樹『映画の構造分析』（文春文庫）なぜテキスト論なのか、映画を対象にテキスト分析の実際をわかりやすく論じている。
・土方洋一『物語のレッスン』（青簡舎）手に入りにくいのが、読み方をめぐる最良の入門書。探しても読んでほしい。
・廣野由美子『批評理論入門—『フランケンシュタイン』解剖講義』（中公新書）カタログ的な本だが、テキスト分析用語、様々な批評理論についての知識を身につけるためにはよい。
・『日本の歴史』

【成績評価の方法と基準】

・各作品をめぐる感想（600 字程度）（30％）
・平常点（20％）
・学期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

・講義形式で一方通行になりがちなので、学習支援システムを有効に活用し出来る限りリアクションペーパーや感想を通して受講生の声を取り上げていきたい。

【Outline and objectives】

Read the Works of “Postwar Literature”

In this class, we consider the possibility of literature as criticism. For this purpose, we are going to read the works of “postwar literature.” “Postwar literature” includes the works which described the experiences and memories of World War Ⅱ. Why do we read the works of “postwar literature” now? World War Ⅱ and defeating in the war were the frustration all Japanese people had at that time. At present, everybody knows Japan (and the rest of the world) face historical turning points by the influence of the coronavirus. However, nobody knows how our world will change in the future when things turn to normal. Importantly, we shouldn't think that this is a kind of natural disaster, but we should think that we focus on the problems occurring among human beings in this crisis and that we make use of rebuilding the normal society after going away the coronavirus. We need to study history and literature in order to learn from the past and consider the present relatively. It has been 76 years since Japan defeated in World War Ⅱ. Japanese people probably spend that period without thinking about the war and defeating in the war so much. Criticism unfolded in “postwar literature” has been existed until now. Reading various literary works, each of us wants to inspect this.

LIT200BC

日本文学研究特講（6）現代D

梅澤 亜由美

夜間時間帯

授業コード：A2680 | 曜日・時限：月曜 5 限

秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

* 近現代小説の語りの構造、および視点と小説の関係について考える。
→ この授業では、1930 年代以降の一人称で書かれた小説を読みます。小説の背景を学ぶと同時に、一人称の小説の語りの構造、および視点に注目し、その効果を考えていきます。また、実際に自分で一人称小説を探し、分析してもらいます。最終的には、小説における語り・視点の分析が自分で行うこと、またその役割について理解することを目標とします。

【到達目標】

1、小説における語り・視点の役割について、理解することができる。
2、語りの構造や視点と小説の関係を分析することができる。
3、学んだことを応用し、自分で小説の分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、以下の3つによって講義を進めます。

1、指定された資料を用いての事前学習
2、教員による講義、および学生同士の意見交換
3、その日のワーク

ワーク①：小説の内容確認や語り・視点についての分析をしてもらいます。
ワーク②：語り・視点を変えた場合の小説の可能性について考察してもらいます。

→ ワークについては、前回の授業で提出されたものの中からいくつかをとりあげ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のテーマ、目標、やり方について説明する。
第 2 回	太宰治『駆込み訴え』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 3 回	太宰治『恥』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 4 回	太宰治『葉桜と魔笛』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 5 回	太宰治『ヴィヨンの妻』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 6 回	武田泰淳『審判』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 7 回	安部公房『死んだ娘が歌った……』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 8 回	三島由紀夫『雛の宿』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 9 回	山田詠美『蜘蛛の指環』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 10 回	村上春樹『レキシントンの幽霊』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。

第 11 回	川上弘美『蛇を踏む』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 12 回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第 13 回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第 14 回	まとめ①	一人称小説の語り、視点の特徴とは何か。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・指定されたテキストを必ず読み、以下を行う。
→ 登場人物を抜き出す（テキストに印をつける）。
→ 語り手の特徴を抜き出す（テキストに印をつける）。
・講義をもとに、提示された課題を行う。
→ 語り・視点を変えた場合の小説への影響を考える（他の人物が語り手になったらどう変わるか）。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小説テキストについては、前半の太宰治については青空文庫などを用います。後半については、指定された文庫の購入を勧めます。
武田泰淳『審判』、『上海の蜚・審判』P+D BOOKS 所収
安部公房『死んだ娘が歌った……』、『R 62 号の発明・鉛の卵』新潮文庫所収
三島由紀夫『雛の宿』、『女神』新潮文庫所収
山田詠美『蜘蛛の指環』、『色彩の息子』新潮文庫所収
村上春樹『レキシントンの幽霊』文春文庫
川上弘美『蛇を踏む』文春文庫

【参考書】

安藤宏『「私」をつくる一近代小説の試み』岩波新書
廣野由美子『一人称小説とは何か―異界の「私」の物語』ミネルヴァ書房
石原千秋他・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋世織『読むための理論』世織書房

【成績評価の方法と基準】

①各回ワーク（60 パーセント）

②学期末課題（40 パーセント）

※学期末課題は、以下の 2 つから 1 つを選んでもらう予定です。

①自分で一人称小説を探し、学んだことをもとに分析してもらいます。自分で一人称の在り方が面白いと思う小説をとりあげてほしいです。

②語り手を変えて、小説の一部を書き換えてもらいます。

なお、学期末課題の提出は 12 回授業終了より前、12 月初旬となります。授業のまとめとして、提出されたレポートを紹介していく予定です。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、オンデマンドと Zoom の併用を行いました。学生同士の意見交換について要望が出ていますので、この点を工夫したいと考えています。

【その他の重要事項】

※秋学期の授業となります。2021 年 9 月の状況によっては、授業内容の変更もあり得ます。必ず秋学期最初に、再度、シラバスを確認するようにしてください。

※毎週、指定された小説テキストを必ず読んでおくことが、受講の必須条件となります。毎週 1 作の小説を読みワークに臨むので、かなり忙しい授業となります。そのつもりで受講しましょう。

【Outline and objectives】

This course introduces one of the style of stories called a first-person novel written after the 1930's. We learn about its positioning in the history of literature, and analyze it about the problem of its perspectives style.

LIT200BC

日本文学研究特講（7）漢文 A

遠藤 星希

授業コード：A2681 | 曜日・時限：木曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【諸子百家の文を読む】

先秦時代の諸子百家の書から比較的名著を精選し、原文で読解する。諸子百家の「諸子」とは、孔子・孟子・韓非子・老子・莊子・墨子・孫子などを代表とする諸々の思想家たちのこと、「百家」とは、儒家・法家・道家・墨家・兵家などを代表とする数多くの学派のことである。戦乱が恒常化した世の中で、学術・思想の自由競争社会を生み抜くため、春秋・戦国時代の思想家たちは様々な思索をめぐらせた。諸子百家の書を通じて彼らの思索を追体験することにより、現代社会をとらえ直す新たな視野を獲得することを目指し、同時に漢文を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 訓点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 諸子の各学派の思想的特徴を把握する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

初回と第 2 回のみ、動画を YouTube で配信する、オンデマンド方式で実施する。第 3 回以降は、教室での対面方式で、講義形式の授業を行う。毎回リアクションペーパーを提出して頂き、そこに書き込まれた質問等については、次の授業の冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	諸子百家の思想とその時代背景についての概説
第 2 回	儒家の思想（1）	『論語』を読む（1）：「為政篇」「公冶長篇」「先進篇」等より
第 3 回	儒家の思想（2）	『論語』を読む（2）：「雍也篇」「述而篇」「憲問篇」等より
第 4 回	儒家の思想（3）	『孟子』を読む（1）：「公孫丑上」「離婁上」等より
第 5 回	儒家の思想（4）	『孟子』を読む（2）：「梁惠王上」「尽心上」等より
第 6 回	道家の思想（1）	『老子』を読む：「第一章」「第五章」等より
第 7 回	道家の思想（2）	『莊子』を読む（1）：「齊物論篇」「大宗師篇」等より
第 8 回	道家の思想（3）	『莊子』を読む（2）：「応帝王篇」「秋水篇」等より
第 9 回	道家の思想（4）	『列子』を読む：「天瑞篇」「周穆王篇」等より
第 10 回	法家の思想（1）	『韓非子』を読む（1）：「五蠹篇」等より
第 11 回	法家の思想（2）	『韓非子』を読む（2）：「外儲說篇」等より
第 12 回	雑家の思想	『淮南子』を読む：「人間訓」等より
第 13 回	墨家の思想	『墨子』を読む：「非攻篇上」等より
第 14 回	兵家の思想	『孫子』を読む：「謀攻篇」「軍争篇」等より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料のプリントは 1 週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を教室で配布する。

【参考書】

- ・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015 年）
 - ・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009 年）
 - ・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫、2010 年）
 - ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011 年）
 - ・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012 年）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100 % 学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数を受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、授業の予定を一部変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

We will carefully select relatively famous passages from the writings of zhuzi baijia (the Hundred Schools of Thought) during the Pre-Qin period in China and closely read them in the original language. Zhuzi in zhuzi baijia refers to various thinkers including Confucius, Mencius, Han Fei, Laozi, Zhuangzi, Mozi, and Sunzi. Baijia refers to a variety of schools including Confucianism, Daoism, Mohism, and the School of the Military. Against the backdrop of continuous wars, thinkers during the Spring and Autumn period and the Warring States period pursued their thoughts in various forms in order to survive the free competition between schools of thought. Through the works of zhuzi baijia, we will relive their thoughts and in so doing we seek to attain a novel perspective from which to revisit the contemporary society, while at the same time developing basic skills for reading literary Chinese.

LIT200BC

日本文学研究特講（7）漢文B

遠藤 星希

授業コード：A2682 | 曜日・時限：木曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【『戦国策』と『史記』を読む】

史書の『戦国策』と『史記』の中から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。『戦国策』は、戦国時代の遊説家の弁論や献策、逸話などを国別にまとめたもので、前漢末の劉向の編とされる。平安時代の日本にはすでに伝来しており、その後もわが国で広く読まれた。『史記』は前漢の司馬遷が著した史書であり、黄帝の時代から前漢中期に至る三千年にわたる通史である。『枕草子』に「ふみは、文集、文選、新賦、史記五帝本紀……」とあるように平安時代の貴族にとって最も馴染み深い漢籍の一つであり、『源氏物語』にもその影響が色濃く見えるのみならず、その後の日本文学にも影響力を持ち続けた。本授業では、『戦国策』と『史記』の文を精読することを通して、古代中国の社会・文化に対する理解を深め、そこに描かれた人々の英知を吸収すると同時に、漢文資料を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 訓点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 『戦国策』と『史記』についての基礎的な知識を習得する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。毎回リアクションペーパーを提出して頂き、そこに書き込まれた質問等については、次の授業の冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『戦国策』ガイダンス	『戦国策』と中国の戦国時代についての概説
第 2 回	『戦国策』精読（1）	「斉策」より
第 3 回	『戦国策』精読（2）	「燕策」より
第 4 回	『戦国策』精読（3）	「楚策」より
第 5 回	『戦国策』精読（4）	「魏策」より
第 6 回	『史記』ガイダンス	『史記』と司馬遷についての概説
第 7 回	『史記』精読（1）	「廉頗藺相如列伝」より「完璧」
第 8 回	『史記』精読（2）	「廉頗藺相如列伝」より「渾池の会」
第 9 回	『史記』精読（3）	「項羽本紀」より
第 10 回	『史記』精読（4）	「淮陰侯列伝」より
第 11 回	『史記』精読（5）	「管晏列伝」より
第 12 回	『史記』精読（6）	「伍子胥列伝」より
第 13 回	『史記』精読（7）	「孫子呉起列伝」より
第 14 回	『史記』精読（8）	「刺客列伝」より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料のプリントは 1 週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

- ・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015 年）
 - ・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009 年）
 - ・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫、2010 年）
 - ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011 年）
 - ・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012 年）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100 % 学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数を受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、授業の予定を一部変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

We will carefully select and read relatively famous passages from Zhan Guo Ce (Strategies of the Warring States) and Shiji in the original language. Zhan Guo Ce is a compilation by dynasty of rhetoric, strategic suggestions and anecdotes of strategists during the Warring States period, compiled by Liu Xiang at the end of the former Han period. It had already been introduced to Japan by the Heian period, and was widely read since then. Shiji is a history book written by Sima Qian during the early Han period, and is one of the most familiar Chinese classic books that not only exerted strong influence on the Tale of Genji but also had enduring effects on the subsequent Japanese literature. In this course, through close reading of passages from Zhan Guo Ce and Shiji, we will deepen our understanding on ancient Chinese society and culture and absorb wisdom of people described therein, and develop basic skills for reading Chinese classical writings.

LIT200BC

日本文学研究特講（8）言語A

王 安

授業コード：A2685 | 曜日・時限：火曜 5 限

春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言葉は言葉で独立しているのではなく、使い手である言語主体、すなわち私たち自身の認知のあり方を反映している。あらゆる言語表現の意味には言語主体の解釈や捉え方が関与している。同じ事態でも、言語主体の視点や解釈が違えば言語表現の意味も異なってくる。本講義では、認知言語学の基本を学び、日本語や英語、中国語の言語事例を取り上げ、言語主体の捉え方がどのように言葉の意味に反映されているのかを理解していく。

【到達目標】

- (1) 認知言語学の基本理念、概念を理解する。
- (2) 言語表現の意味と言語主体の「捉え方」との関係を理解する。
- (3) 認知言語学の基本的な考えを利用して、言語表現の意味構造を説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で進めるが、内容と必要に応じて、調査課題を与え、発表をしてもらったり、皆でディスカッションをしたりしながら授業を進める。また、授業の理解度を確認するために、毎回あるいは二回の授業に一度リアクションペーパーを書いてもらう。フィードバックは随時授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	第1章	授業ガイダンス、認知言語学と言語学
第2回	第2章	ことばの記号性
第3回	第3章	ものの見方と意味
第4回	第4章	プロトタイプとカテゴリー
第5回	第5章	イメージ・スキーマ
第6回	第6章	イメージ・スキーマと比喩
第7回	第7章	意味のネットワーク
第8回	第8章	メタファー（隠喩）
第9回	第9章	メトニミー（換喩）
第10回	第10章	概念メタファー
第11回	第11章	方向性のメタファー
第12回	第12章	色とことば
第13回	第13章	構文と意味
第14回	これまでのまとめ	総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業前にテキストを読み、予習を行う。知らない概念や用語があれば、調べておく。（2時間）
2. 授業のあと、当日授業で学んだ内容を整理し、復習を行う（1～2時間）
3. 課題がある場合、しっかり参考書などを調べ、課題を行う（3時間）

【テキスト（教科書）】

『学びのエクササイズ 認知言語学』谷口一美 ひつじ書房 1200 円

【参考書】

- 『言葉のしくみ』高橋英光 2010 北海道大学出版会
- 『ファンダメンタル認知言語学』2014 野村益寛 ひつじ書房

○『新編 認知言語学キーワード事典』 2013 辻幸夫編 研究社
『日本語表現で学ぶ 入門からの認知言語学』 初山洋介 研究社
『日本語研究のための認知言語学』 初山洋介、研究社
『認知言語学とは何か』 高橋英光 野村益寛 森雄一 くろしお出版
『認知意味論: 言語から見た人間の心』 ジョージレイコフ著、紀伊国屋書店
『認知意味論のしくみ』 初山洋介著、研究社
『認知意味論の新展開—メタファーとメトニミー』 谷口一美著、研究社

【成績評価の方法と基準】

課題・小レポート 30% + リアクションペーパー 20% + 期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

1. 参考書のうち、特に“○”がついているものは頻繁に使うため、購入するかまたは図書館から借りておいてください。
2. 新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、対面授業および zoom 形式を併用して授業を行う可能性があります。詳細は、hoppii にて連絡いたします。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>

対照言語学、現代中国語文法、認知言語学

<研究テーマ>

形容詞の意味と機能、感情の概念化と言語の多様性、感情表現の構文パターンにおける類型論的研究

<主要研究業績>

「中国語の<主観性>の再考察—使役表出文を例として—」『認知言語学研究の広がり』大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦編。pp.35-50. 2018. 開拓社

「感情の普遍性とその言語化—感情表現の類型論的研究に向けて—」『ことばのパーспекティヴ』（中村芳久教授退職記念論文集刊行会編。pp.71-84. 2018. 開拓社

第8章「主体化」『認知言語学 基礎から最前線へ』森雄一・高橋英光編 2013. くろしお出版

「感情表現における日中対照研究—感情の語り方と人称制限の普遍性に着目して—」『言語研究の諸相』pp.35-45. 2010. 北海道大学出版

【Outline and objectives】

This course will study the basic knowledge of cognitive linguistics. Through the Japanese, English, Chinese language examples, we will understand how the cognitive subject's construe is reflected in the meaning and structure of the language.

LIT200BC

日本文学研究特講（8）言語B

間宮 厚司

授業コード：A2686 | 曜日・時限：火曜 5 限

秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『万葉集』の名歌・類歌・難調歌を取り上げ、言語学的に読み解く方法について考えます。万葉歌の訓読の再検討と類歌の比較を行うことにより、上代日本語の表記・文法・表現について理解を深めます。

【到達目標】

千年以上も前に、漢字だけで書かれた万葉歌を言語学的に読み解くプロセスを通して、上代日本語の歌ことばについて学びます。テキストを読み進め、解説することで、問題点の発見・資料の集め方・論証の仕方・論の展開・結論の導き方についても学び、応用のきく、考える力を多方面から身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で、テキストとプリントを併用して、丁寧に解説します。講義形式の授業ですが、リアクションペーパーに書かれた「質問・コメント・感想等」を次の授業で紹介したり、質問に対しては個別に答えたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・テキスト・成績評価等についての説明
第 2 回	『万葉集』の基礎知識	テキストの 4～20 頁を解説
第 3 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（1）	テキストの第 1 話
第 4 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（2）	テキストの第 2 話と第 2 話補遺
第 5 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（3）	テキストの第 3 話導入と第 3 話
第 6 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（4）	テキストの第 4 話と第 5 話
第 7 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（5）	テキストの第 6 話と第 7 話
第 8 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（6）	テキストの第 8 話と第 9 話
第 9 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（7）	テキストの第 10 話と第 11 話
第 10 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（8）	テキストの第 12 話と第 13 話
第 11 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（9）	テキストの第 14 話と第 15 話
第 12 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（10）	テキストの第 16 話と第 17 話
第 13 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（11）	テキストの第 18 話と第 19 話
第 14 回	まとめ	定期試験の説明と注意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読んで、授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

間宮厚司『万葉異説 [増補版]』（森話社、2021 年、2000 円＋税）

【参考書】

参考書はテキストの 144 頁に一覧してありますが、授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーによる授業の理解度及び質問・コメント・感想等の内容）と定期試験の点数を各 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教室授業にしてほしい。

【Outline and objectives】

In this lecture, you are going to use a textbook that I've showed on the list. The lecture introduces the way of how to read the poems of "Manyoshu" to students taking this course.

LIT200BC

日本文芸研究特講（9）表現A

藤谷 治

授業コード：A2687 | 曜日・時限：水曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学における多様な表現の諸相を、小説を例にとり原理的に考えていきます。

【到達目標】

文学における「表現」の意義、目的を多角的にとらえる。「読む」ことから見えてくる文学のあり方の基本を、小説を例にとって考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

藤谷治「小説は君のためにある」を読みながら、講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「君」とは何か	文学が成り立つ最低必要条件である「君」という存在について
第 2 回	表現の存在意義	なぜ表現はあるのか
第 3 回	文学とは何か	文学を定義する
第 4 回	文学の評価	文学を評価するための基本について
第 5 回	文学の拠点	文学のありかについて
第 6 回	書く	文学における創作という側面と、その価値について
第 7 回	表現と情報	表現と情報の違いについて
第 8 回	小説- 人物の複数性	小説の顕著な特徴である「登場人物」とその複数性について
第 9 回	作者の存在	小説における作者の役割と、その存在がもたらす文学への影響について
第 10 回	小説の自由	小説表現が本来持っている自由について
第 11 回	稗史としての小説	稗史と、その子孫としての小説の一面について
第 12 回	非現実	小説における荒唐無稽や空想について
第 13 回	ストーリー	小説にとってのストーリーの位置と価値
第 14 回	まとめ	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤谷治「小説は君のためにある」（ちくまプリマー新書）

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況 5 0 %。レポート 5 0 %。

【学生の意見等からの気づき】

授業後に毎回アクション・ペーパーを提出していただきます。そこからの意見や質問等を選び、次の授業に応じます。

【その他の重要事項】

講師は小説家。2003 年デビュー。2015 年『世界でいちばん美しい』で第 31 回織田作之助賞受賞。他に『いつか棺桶はやってくる』（第 21 回三島由紀夫賞候補）『船に乗れ！』（第 7 回本屋大賞第 7 位）『燃えよ、あんず』『小説は君のためにある』など。

【Outline and objectives】

We will observe the elementary study of various aspects of literature with selected examples from novels.

LIT200BC

日本文芸研究特講（9）表現B

藤谷 治

授業コード：A2688 | 曜日・時限：水曜 4 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学における表現の諸相が、作品を実際に書く上でどのように実現されるか、小説の創作を例にとって解析する。

【到達目標】

表現と創作の実際の困難や非論理性などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。リアクションペーパーの内容を次の授業に活かします。1 ～ 2 回レポートを課し、査定して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	発想	趣向について
第 2 回	取材	空気を吸うことについて
第 3 回	文章	スタイルの選択
第 4 回	起筆	書き出しについて
第 5 回	持続	書き続けることの困難
第 6 回	題名	題名を決める
第 7 回	人物	性格の否定について
第 8 回	禁止	自らに課す禁止事項及びボルノの自戒について
第 9 回	推敲	文章の検討と批判
第 10 回	改稿	初稿の否定について
第 11 回	構成	作品全体について
第 12 回	秘密	語りえないこと及び読者との秘密の共有について
第 13 回	完成	作品の独立について
第 14 回	まとめ	一年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤谷治「世界でいちばん美しい」（小学館文庫）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況 5 0 %。レポート 5 0 %。

【学生の意見等からの気づき】

「情報」ではなく、経験に基づいた「思索」を中心に講義を進めます。

【その他の重要事項】

講師は小説家。2003 年デビュー。2015 年『世界でいちばん美しい』で第 31 回織田作之助賞受賞。他に『いつか棺桶はやってくる』（第 21 回三島由紀夫賞候補）『船に乗れ！』（第 7 回本屋大賞第 7 位）『燃えよ、あんず』『小説は君のためにある』など。

【Outline and objectives】

We will analyze the way a story progress with selected example from novels and discuss how the phase of expression is realized in literary works.

LIT200BC

日本文芸研究特講（１０）演劇A

伊海 孝充

授業コード：A2689 | 曜日・時限：月曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、古典芸能の「能」の基本を学んでいく。能は難解で敷居の高い芸能だと思われる。確かに、独特なルールが存在するが、初心者でもその世界を堪能できる視点もある。その視点の一つとして、本講義では、能を日本古典文学の名場面集として捉えていき、それがいかに身体で表現されるかを考えていく。

【到達目標】

本講義では、能という芸能の基本を理解し、自分の言葉でこの芸能を説明できることを目標とする。能と言えば、「幽玄」などの固定観念で説明されることが多い。そうした既成の言葉ではなく、自身の言葉で能を形容できるようにするのが、目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	能はなぜ難しいと言われるのか？
第 2 回	能楽の基本	用語と劇構成
第 3 回	能楽の歴史	室町時代から江戸時代までの能の歴史を概観する。
第 4 回	能《頼政》を読む①	『平家物語』と能
第 5 回	能《頼政》を読む②	作品を読む
第 6 回	能《野宮》を読む①	『源氏物語』と能
第 7 回	能《野宮》を読む②	作品を読む
第 8 回	能《高砂》を読む①	和歌と能
第 9 回	能《高砂》を読む②	作品を読む
第 10 回	能《道成寺》を読む①	絵巻と能
第 11 回	能《道成寺》を読む②	作品を読む
第 12 回	能《安宅》を読む①	義経伝承と能
第 13 回	能《安宅》を読む②	作品を読む
第 14 回	総括	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。実際能楽堂まで行き、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況及びコメントカードの評価 50%

授業内小テスト（2～3回） 20%

学期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

初めて能について学ぶ学生もついてこられるように、はじめの説明を丁寧に行ないます。

【Outline and objectives】

In this lecture, We will read books of secrets written by Zeami. In this lecture, we will learn the basics of Noh, a classical performing art. Noh is often thought of as an esoteric and difficult art form. It is true that there are unique rules, but there are also perspectives from which even beginners can enjoy the world of Noh. As one of these perspectives, this lecture will consider Noh as a collection of famous scenes from Japanese classical literature, and how it is expressed physically.

LIT200BC

日本文芸研究特講（１０）演劇B

伊海 孝充

授業コード：A2690 | 曜日・時限：月曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古典芸能の「狂言」の基本を学ぶ。狂言はテレビや高校までの芸術鑑賞会で観たことがあるかもしれないが、能との関係やその歴史については知らない者も多いだろう。そうした者を対象として、代表的な演目を通し、狂言の特質を学んでいく。また狂言は、作品が作られた時代の文化を反映した史劇であるとともに、フィクション世界でもある。狂言を通して、中近世の人間模様と非現実な遊戯空間を読み解いていく。

【到達目標】

本講義では、「狂言とはこのような芸能である」と自分の言葉で正確に説明できることを目標とする。そのためには、狂言の台本を正確に読み、また舞台のセリフ・演技を理解することが必要である。中近世の口語で構成されている狂言のセリフ慣れ、狂言の舞台を台本なしで鑑賞できるようになってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	能と狂言の関係
第 2 回	狂言の歴史	狂言の形成と展開
第 3 回	狂言概説	狂言の流派と家
第 4 回	附子①	狂言「附子」を読む
第 5 回	附子②	太郎冠者と次郎冠者
第 6 回	武悪①	狂言「武悪」を読む
第 7 回	武悪②	下廻上の文学
第 8 回	髭槽①	狂言「髭槽」を読む
第 9 回	髭槽②	わわしい女
第 10 回	首引①	狂言「首引」を読む
第 11 回	首引②	豪傑と狂言
第 12 回	川上①	狂言「川上」を読む
第 13 回	川上②	狂言と〈社会的弱者〉
第 14 回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。現存する芸能の、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況及びコメントカードの評価 50%

授業内小テスト（2～3回） 20%

学期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

時間の制約上、狂言のビデオ全部見られない曲もあります。それらの曲について、DVD の貸し出しなども行ないます。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn the basics of Kyogen, a classical art form. You may have seen Kyogen on TV or at art appreciation events in high school, but many of you may not know the relationship between Kyogen and Noh or its history. In this course, students will learn about the characteristics of Kyogen through representative performances. Kyogen is both a historical drama and a fictional world that reflects the culture of the times in which it was created. Through Kyogen, we will try to decipher the human character and the unrealistic play space of the middle and modern ages.

ART200BC

日本文芸研究特講（11）音楽芸能史 A

本塚 亘

授業コード：A2693 | 曜日・時限：木曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。春学期は「日本の音楽とは何か」という問題について考えます。雅楽や仏教音楽、平家語りなどを中心に、「日本の音楽」を外来文化とのかかわりの中で客観的に捉え、その普遍性と特殊性について考えてみましょう。

【到達目標】

- ・日本音楽史（古代・中世）の概要について理解を深めます。
- ・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
- ・日本の音楽と外来文化との関係性について理解を深めます。
- ・日本の音楽の普遍性と客観性について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンド授業（資料型）とします。毎週、授業時間までに hoppii 経由で資料を公開します。受講生は、毎時設定される締切までに、小テストおよび質問事項等の入力を hoppii 上で行います。授業連絡、および質問事項等に対するフィードバックは hoppii を利用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方、評価方法等の確認を行う。
第 2 回	雅楽《越殿楽》	《越殿楽》を鑑賞し、雅楽（管絃）に用いられる楽器や楽譜、演奏形式の由来について考える。
第 3 回	日本の様々な伝統楽器	正倉院の楽器を中心に日本の様々な伝統楽器について学び、そのルーツについて考える。
第 4 回	東大寺大仏開眼供養会	東大寺大仏開眼供養会の概要、規模、演目について学び、当時の音楽の機能と歴史的背景について考える。
第 5 回	日本の音楽の「起源」	出土品や『隋書』倭国伝の記述などをもとに、日本の音楽の黎明について学び、その様相や対外的な機能について考える。
第 6 回	雅楽寮の成立と内外楽の整理	律令制度の整備に伴って組織化された日本の音楽の体系を学び、その機能や思想的背景について考える。
第 7 回	日本の「在来」歌舞	国風歌舞（久米舞、大和舞、東遊などの在来歌舞）について学び、その由来や享受について考える。
第 8 回	舞楽（左方・右方）	舞楽（左方・右方）の編成や形式などについて学び、『源氏物語』における舞楽の描写を鑑賞する。

第 9 回 管絃と御遊

管絃の編成や御遊の形式などについて学び、『源氏物語』における管絃の描写を鑑賞する。

第 10 回 催馬楽

御遊などで歌われる催馬楽について学び、『源氏物語』における催馬楽の引用場面について鑑賞する。法会の形式や法要の種類、声明の曲種などについて学び、仏教における音楽の意義や、雅楽との関係について考える。

第 11 回 仏教と音楽

後の語り物芸能に影響を与えた、和讃や講式などの声明の曲種について学び、その音楽性と文学性について考える。

第 12 回 平家語り、語り物の普遍性

平家語りについて学び、雅楽や声明から受けた影響について考える。また国外の語り物文化との関係について学び、語り物芸能の普遍性について考える。

第 13 回 春学期総括・レポート課題の出題

これまでの授業と学生のリアクションなどをふまえ総括。レポート課題を出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時、hoppii 上での小テスト回答、および質問事項等の入力が必要となります。質問については、まず自分自身で調べてみて、その上で行ってください。なお、準備学習・復習については 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。hoppii を経由して資料を公開します。

【参考書】

岸辺成雄『古代シルクロードの音楽』（講談社、1982）
平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
遠藤徹『雅楽を知る事典』（東京堂出版、2013）
その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】に照らして以下の 2 項目を評価の対象とします。

- ・リアクションペーパー 60%
- ・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

専門的で理解が難しいといった旨のご意見を多くいただきました。授業の性質上、どうしても専門的な資料や用語などを多用せざるを得ないのですが、毎時の学習到達目標を示すことによって、理解すべき点を明確にしたいと存じます。

【学生が準備すべき機器他】

hoppii にアクセスできる PC、インターネット環境を用意してください。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、hoppii にて連絡いたします。

【Outline and objectives】

This is an undergraduate-level lecture giving an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the spring semester, we center on the question "What is Japanese music?" by learning about *gagaku*, Buddhist music, *Heike-gatari* and so on. We objectively consider these genres of "Japanese music" in relation to foreign cultures and learn about their universal and unique characteristics.

ART200BC

日本文芸研究特講（11）音楽芸能史B

本塚 亘

授業コード：A2694 | 曜日・時限：木曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。秋学期は「うたと音楽との関係」について考えます。和歌や催馬楽、朗詠などを中心に、旋律に乗って歌われる言葉の機能や、替え歌によって生じるイメージの拡がりを分析し、その多様性と複層性について考えてみましょう。

【到達目標】

- ・日本音楽史（古代・中世）の概要についての理解を深めます。
- ・古典文学作品中に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
- ・日本の「うた」の文学性と音楽性についての理解を深めます。
- ・歌謡における旋律と詞章との重層的な関係について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンド授業（資料型）とします。毎週、授業時間までに hoppii 経由で資料を公開します。受講生は、毎時設定される締切までに、小テストおよび質問事項等の入力を hoppii 上で行います。授業連絡、および質問事項等に対するフィードバックは hoppii を利用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方、評価方法等の確認を行う。
第 2 回	和歌を歌う	歌会始における歌披露を鑑賞し、現代における和歌の歌唱例について考える。
第 3 回	上代における歌唱事例	記紀や『万葉集』などにおける歌唱例について学び、それぞれのうたがどのように、また何のために歌われたのかを考える。
第 4 回	和歌のレトリック 1	和歌（短歌）の成立過程、および枕詞、序詞などのレトリックについて学び、その発声上の機能について考える。
第 5 回	和歌のレトリック 2	縁語や掛詞、本歌取り、体言止めなどのレトリックについて学び、和歌史における質的な変遷について考える。
第 6 回	歌合における音楽と歌唱	歌合の歴史を概観しながら、歌合において催される音楽や、和歌の詠唱方法について学ぶ。
第 7 回	「誦ず」と「うたふ」	『源氏物語』における歌謡の発声場面で用いられる二つの動詞（誦ず、うたふ）に注目し、その使い分けについて考える。
第 8 回	『源氏物語』と催馬楽	『源氏物語』における催馬楽の歌唱場面に注目し、演奏上の特性や文学的効果について考える。

第 9 回	催馬楽の音楽的性質	催馬楽における二重の同音性について学ぶ。同じ旋律で歌われる催馬楽同士の関係について考える。
第 10 回	催馬楽と唐楽・高麗楽の先後	催馬楽と同じ旋律をもつ唐楽・高麗楽曲との関係について注目し、同音関係の生じた経緯について考える。
第 11 回	平家語りの音楽とことば	『平家物語』における朗詠や今様などの音楽描写について注目し、琵琶法師が語る「音楽」の意味について考える。
第 12 回	越殿楽の系譜	雅楽が寺院歌謡に取り込まれ、やがて越殿楽歌物として様々な芸能分野に拡散していく過程を追う。
第 13 回	あらためて、うたを歌うとは	和歌や朗詠、隆達節歌謡など、様々な形で伝播し、やがて数奇な運命をたどるに至った「君が代」について考える。
第 14 回	秋学期総括・レポート課題の出題	これまでの授業と学生のリアクションなどをふまえて総括。レポート課題を出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時、hoppii 上での小テスト回答、および質問事項等の入力が必要となります。質問については、まず自分自身で調べてみて、その上で行ってください。なお、準備学習・復習については 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。hoppii を経由して資料を公開します。

【参考書】

平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
青柳隆『日本朗詠史 研究篇』（笠間書院、1999）
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
渡部泰明編『和歌とは何か』（岩波文庫 新赤版 1198、2013）
その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】に照らして以下の 2 項目を評価の対象とします。

- ・毎時小テスト・質問事項 60%
- ・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

専門的で理解が難しいといった旨のご意見を多くいただきました。授業の性質上、どうしても専門的な資料や用語などを多用せざるを得ないのですが、毎時の学習到達目標を示すことによって、理解すべき点を明確にしたいと存じます。

【学生が準備すべき機器他】

hoppii にアクセスできる PC、インターネット環境を用意してください。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、hoppii にて連絡いたします。

【Outline and objectives】

This is an undergraduate-level lecture giving an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the autumn semester, we center on the relationship between song and music by learning about *waka*, *saibara*, *rōei*, and so on. We analyze the function of the words sung to the melody and the spread of the image caused by change in the lyrics, and think about the diverse and multilayered nature of song.

LIT300BC

日本文芸研究特講（12）詩歌A

四元 康祐

授業コード：A2695 | 曜日・時限：金曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

詩を書いてみる、読んでみる、考えてみる。
コトバの魔術としての詩、ココロの発露としての詩。物語る詩、歌う詩、祈る詩。目の詩、耳の詩。詩のさまざまな在り方に親しむことによって、詩とは何か、そして詩を書く唯一の動物としての人間の知性とはどのようなものなのか、頭だけでなく、五感を使って洞察する。春期は詩の原理と構造を中心に、秋期は原型的な詩人像を巡って講義と演習を行います。

【到達目標】

「詩」と呼ばれる人類特有の営みの、時代や文化ごとに移り変わる多様性に触れるとともに、深層的な象徴言語としてのその普遍性について学び、自分自身の意識の根底に組み込まれた詩的想像力の働きを自覚する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ズームを利用したオンライン授業による講義と、対面授業による演習・発表・ディスカッションを隔週で行う予定です。（ただし最初の二回のみ、オンライン授業が続くことになります。）オンライン授業はリアルタイムを基本とします。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
1 回目に受講規模者に課題を出し、希望者が多い場合は選抜を行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション (オンライン)	講師と受講生の自己紹介。この授業の目的、進め方、期待するものなどの相互確認。受講規模者に課題を出し、希望者が多い場合は選抜を行います
第 2 回	講義 1：詩の世界を眺望する (オンライン)	古今東西のさまざまな詩の形や詩人たちの系譜を概観する
第 3 回	演習 1：詩を書いてみる 1 (対面)	与えられたテーマ・手法に則して予め書いてきた詩を発表し合い、相互に観賞・批評、推敲する。
第 4 回	講義 2：声の詩、文字の詩 (オンライン)	詩の中に太古から在る口承の要素と、文字を用いる詩の特徴を比較し、詩が目と耳、そして肉体と理性に、それぞれどのように働きかけてくるかを学ぶ。
第 5 回	演習 2：詩を訳してみる (対面)	外国語の詩に限らず、日本の古典や近・現代詩、小説、映画、マンガなど他ジャンルの作品を、「詩」にしてみる。
第 6 回	講義 3：物事の詩、心の詩 (オンライン)	中世の叙事詩、近代の俳句、現代のイメージ派などを通して、詩における、事と心の相互作用を学ぶ。

第 7 回	演習 3：詩を書いてみる 2 (対面)	与えられたテーマ・手法に則して予め書いてきた詩を発表し合い、相互に観賞・批評、推敲する。
第 8 回	講義 4：宴と孤心 (オンライン)	大岡信の『宴と孤心』理論を中心に、詩における個と共同体のダイナミズムについて学ぶ。
第 9 回	演習 4：ミニ連詩 (対面)	小グループに分かれて、短い行を交互に連ねることによって、連歌・連詩の醍醐味を体感する。
第 10 回	講義 5：AI(人工知能)に詩は書けるか？ (オンライン)	AIを用いた詩の制作を通して、人間の意識と言語の関わりを考察する。
第 11 回	演習 5：AI 詩で遊ぶ (対面)	短歌・俳句自動作成アプリや「偶然短歌」などを利用して自分だけの AI 詩を作ってみる。
第 12 回	講義 6：詩とは何か？ (オンライン)	古今東西の詩論や、詩について書かれた詩を通して、詩を定義しようとする人類の情熱と、それを逃れ続ける詩の多様性・変容性を認識する。
第 13 回	演習 6：詩を書いてみる 3 (対面)	与えられたテーマ・手法に則して予め書いてきた詩を発表し合い、相互に観賞・批評、推敲する。
第 14 回	まとめと解説 (オンライン)	春季の授業を振り返り、必要に応じて解説をするとともに、生徒の側から見て良かった点、不満だった点を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「詩を書いてみる」演習（第 3 回、7 回、13 回）の授業には、予め課題の詩や文章を書いてくる。
それ以外の授業では、その回に学んだことの感想や質問を簡潔にまとめて提出する。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料はその都度スライドを準備して配布します。

【参考書】

四元康祐著『詩人たちよ！』思潮社 2015 年
四元康祐著『ホモサピエンス詩集 四元康祐翻訳集現代詩篇』滯標 2020 年
あくまでも参考です。授業のために読んでおく必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

レポート 80 %
平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Expose oneself to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, discussing varieties of poems. Gain insight as to the function and nature of the poetic language, and the role of poetic imagination in the human intelligence.

LIT300BC

日本文芸研究特講（12）詩歌B

四元 康祐

授業コード：A2696 | 曜日・時限：金曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

詩を書いてみる、読んでみる、考えてみる。
コトバの魔術としての詩、ココロの発露としての詩。物語る詩、歌う詩、祈る詩。目の詩、耳の詩。詩のさまざまな在り方に親しむことによって、詩とは何か、そして詩を書く唯一の動物としての人間の知性とはどのようなものなのか、頭だけでなく、五感を使って洞察する。春期は詩の原理と構造を中心に、秋期は原型的な詩人像を巡って講義と演習を行います。

【到達目標】

「詩」と呼ばれる人類特有の営みの、時代や文化ごとに移り変わる多様性に触れるとともに、深層的な象徴言語としてのその普遍性について学び、自分自身の意識の根底に組み込まれた詩的想像力の働きを自覚する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

すべて教室での対面授業を想定しています。
講義と演習を交互に繰り返してゆく予定です。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	講師と受講生の自己紹介。この授業の目的、進め方、期待するものなどの相互確認。
第 2 回	講義 1：放浪と越境の詩人たち	ダンテ『神曲』、紀貫之『土佐日記』、伊藤比呂美『河原荒草』などを例に、詩における放浪と越境の意味を問う。
第 3 回	演習 1：詩を書いてみる 1	与えられたテーマ・手法に則して予め書いてきた詩を発表し合い、相互に観賞・批評、推敲する。
第 4 回	講義 2：部族の声としての詩人たち	ウォルト・ホイットマン、アレン・ギンズバーグ、シェーマス・ヒーニーなどを例に、共同体の代弁者としての詩人像を探る。
第 5 回	演習 2：詩を訳してみる	外国語の詩に限らず、日本の古典や近・現代詩、小説、映画、マンガなど他ジャンルの作品を、「詩」にしてみる。
第 6 回	講義 3：愛と孤独の女性詩人たち	和泉式部、エミリー・ディキンソン、石垣りんらを例に、女性詩人の系譜を追う。
第 7 回	演習 3：詩を書いてみる 2	与えられたテーマ・手法に則して予め書いてきた詩を発表し合い、相互に観賞・批評、推敲する。
第 8 回	講義 4：言語を疑う詩人たち	ゲーテ『ファウスト』と谷川俊太郎『詩人の墓』を例に、詩における言語と現実との関係を探る。
第 9 回	演習 4：国際詩祭をプロデュースする	実際の国際詩祭の記録を参考に、もしも自分たちがプロデュースするのなら、どんな詩祭を実現したいか、企画立案する。
第 10 回	講義 5：自由と抵抗の詩人たち	金子光晴、マイケル・パーマー、現代の香港の詩人たちを例に、詩における自由と抵抗の在り方について考察する。
第 11 回	演習 5：定型で遊ぶ	俳句、短歌、長歌、ソネット、カプレット、4 行詩、ラップなど、予め与えられた詩形やルールに則して詩を書いてみる。
第 12 回	講義 6：笑う詩人たち	ジョン・ダン、ウィリアム・ブレイク、サイモン・アーミテッジ、平田俊子らを例に、詩におけるユーモアの働きを探る。
第 13 回	演習 6：詩を書いてみる 3	与えられたテーマ・手法に則して予め書いてきた詩を発表し合い、相互に観賞・批評、推敲する。
第 14 回	まとめ	後期の授業のまとめと質疑応答、意見交換。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「詩を書いてみる」演習（第 3 回、7 回、13 回）の授業には、予め課題の詩や文章を書いてくる。
それ以外の授業では、その回に学んだことの感想や質問を簡潔にまとめて提出する。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。必要なテキストは、授業の都度配布します。

【参考書】

四元康祐著『詩人たちよ！』思潮社 2015 年
四元康祐著『ホモサピエンス詩集 四元康祐翻訳集現代詩篇』澤標 2020 年
あくまでも参考です。授業のために読んでおく必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

レポート 80 %
平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Expose oneself to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, discussing varieties of poems. Gain insight as to the function and nature of the poetic language, and the role of poetic imagination in the human intelligence.

LIT300BC

日本文学研究特講（13）児童文学A

三井 喜美子

授業コード：A2697 | 曜日・時限：水曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本児童文学について総論的に歴史や意義を理解する。各論的には、明治期における巖谷小波の業績とその意義、翻訳児童文学の影響、大正期における「赤い鳥」の果たした役割、昭和期における戦前戦後の日本児童文学の諸相等について理解する。短編児童文学を創作し、合評会を行う

【到達目標】

明治から現代に至る日本の児童文学史の代表的な作品を読んで感想を意見交換することができる。明治期の児童文学は、巖谷小波・翻訳小説を中心に特徴を捉えることができる。小波の「こがね丸」は日本児童文学史の始まりとされている作品であるので、必ず読了すること。特に、声に出して読むこと。大正期においては、雑誌「赤い鳥」の果たした役割を理解すること。昭和期の児童文学については、現代の児童文学の多様性を捉えること。また、代表的な作家の業績をとらえること。実際に児童文学の創作をし、合評会で意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義。大学の指示に則り、状況に応じてオンラインも活用する。
講義内容に即した関連作品を毎回読むこと。児童文学の創作を提出し、合評会を行うこと。出席表に感想を書き、講師とコミュニケーションをとること。具体的な授業の準備や課題など、詳細は授業支援システムで確認のこと
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	児童文学の領域について	現代児童文学をどう捉えるか、現代の児童文学の多様さについて視野を広げる
第 2 回	明治期の児童文学	巖谷小波の功績
第 3 回	小波の「こがね丸」 ここまで作品を読了しておくこと	「こがね丸」の面白さについて理解することを通して、日本児童文学の出發を考えることができる
第 4 回	翻訳児童文学	「小公子」と「十五少年」を中心に翻訳児童文学の特性を理解する。特に文体の特徴を捉えることができる
第 5 回	大正期の児童文学	御伽草子から童話へどのように変化していったか理解することができる
第 6 回	小川未明「赤い船」その他	情緒性と文体の特徴を理解することができる
第 7 回	小川未明「赤いろうそく と人魚」	作品の評価を巡って、児童文学史における未明作品の価値を理解することができる
第 8 回	「赤い鳥」の功績	赤い鳥運動と大正デモクラシーについて理解することができる
第 9 回	鈴木三重吉の求めたもの	文壇作家の作品を読み、その特性を理解することができる
第 10 回	浜田廣介の作品と作家像 「泣いた赤鬼」を中心に	廣介童話といわれる作風の特徴を理解することができる 童心主義とは何かを理解する
第 11 回	創作の相互評価と合評会	実作した作品を読み合い、感想を出し合う。ベスト作品を選定する。
第 12 回	豊島与志雄その他	夢を書くということについて考える 大人の文学と子どもの文学その 1
第 13 回	千葉省三その他 創作集について	子どもを描くということについて考える
第 14 回	坪田譲治その他	大正から昭和へ作品の変化を理解することができる 大人の文学と子どもの文学その 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱う作品を事前に必ず読むこと。
講義後の感想を必ず提出すること。
児童文学短編を創作すること。
合評会をして作品評価をする

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各作家の短編集

小川未明・浜田広介・坪田譲治及び赤い鳥傑作集は文庫本で必携のこと

【参考書】

明治の児童文学 大正期の児童文学 現代児童文学

『児童文学入門』（関口安義著 中教出版 2200 円）『アプローチ児童文学』（関口安義編 翰林書房 2000 円）

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム（ホッピー）の掲示板に毎回感想を投稿し、教員とコミュニケーションをとること。

平常点（授業への参加態度と授業感想） 40%

児童文学（掌編）の創作と合評 30%

小論文 30%

出席は開始 10 分までを認める

【学生の意見等からの気づき】

学生とのコミュニケーションを大事にすること。

学生同士の交流を取り入れること。

スクリーンを活用して、映像や音声による資料の提示も積極的に導入する予定。

【その他の重要事項】

創作は学習支援システムの相互評価を活用し、その結果をもとに合評会を行う。合評及び選考会は必ず出席のこと。

合評会の運営方法は、受講者登録が終わった段階で決定する

【Outline and objectives】

Students will generally understand the history and significance of Japanese children's literature. Topics will focus on themes such as Iwaya Sazanami's works and their significance during the Meiji Era, the influence of translated children's literature, the role that the children's literature magazine Akai Tori played during the Taisho era, and the various phases of Japanese children's literature during the pre- and post-WWII Showa era. Students will create a short children's story and have an evaluation session.

LIT300BC

日本文芸研究特講（13）児童文芸B

三井 喜美子

授業コード：A2698 | 曜日・時限：水曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の内容を受けて、秋学期では特に昭和から現代に至る児童文学について、具体的に作家やジャンルごとのテーマに沿って講義をする。それぞれの作家の作風や表現の特徴を捉えることができる。ジャンルの特徴を捉えることができる。また、子どもを取り巻くメディアにも広く関心に向けて児童文学を捉えた時、児童文学を読み、考えることで、どういう「今」が見えてくるか、現代社会を批判的に見据えていくことを視座として、児童文学を考えいけることができる。アクティブラーニングとして推薦絵本のブルリオバトル風に紹介する

【到達目標】

現代の児童文学の多様化を、読者論、社会論的に探究し、その問題と可能性を検討し、意見を伝えることができる。取り上げる作家についての代表作や文学史的評価を捉えることができる。児童文学のジャンルについてその特徴や歴史的意味を捉えることができる。絵本の紹介を通して、児童文学の可能性を考えることができる。児童文学（絵本）の作品評価をプレゼンテーションすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

大学の指示にのっとり、状況に応じてオンラインを活用する。個人的に取り上げる作家は、新美南吉と宮沢賢治。また、ジャンル別に作品を取り上げ、幼年童話、戦争児童文学、歴史児童文学、少年少女小説、ファンタジーなどについて、諸相を捉えていくこと。また、絵本も積極的に取り上げる。新たな児童文学の観点も意識して、推奨絵本作品をプレゼンテーションする。詳細はホッピー（学習支援システム）にて連絡するので、確認をすること・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	絵本の今日的読まれ方	今学期の授業の進め方のオリエンテーションを含む。 大人も楽しむ児童文学 ビブリオバトルのガイド
第 2 回	新美南ごんぎつね」を中心に	南吉文学の特徴である不条理の世界を理解することができる
第 3 回	新美南吉の民話的作品	新美南吉の人と作品について
第 4 回	絵本の世界～かこさとしとヨシタケシンスケを中心に	絵本の児童文学性、芸術性、多様性について認識を深め、絵本ビブリオに挑む
第 5 回	宮沢賢治のユーモア作品について	宮沢賢治の民話的作品の世界また独特のユーモアを理解することができる
第 6 回	宮沢賢治「なめとこ山の熊」を中心に	宮沢賢治の不条理の世界観 また、独特の表現の特徴と効果を理解することができる
第 7 回	宮沢賢治「銀河鉄道の夜」	宮沢賢治のファンタジー世界を理解する
第 8 回	推薦したい絵本を紹介しあい、児童文学の評価を考える	推薦絵本のビブリオバトル
第 9 回	幼年文学	松谷みよ子、今西祐行を中心に幼年童話の特徴を理解することができる
第 10 回	戦争児童文学①	「かわいそうな象」「干からびた象と象使いの話」を中心に
第 11 回	戦争児童文学②	今西祐行作品を中心に
第 12 回	歴史児童文学	歴史児童文学のジャンルについて作品を読み、特徴を理解することができる
第 13 回	少年少女小説と YA	児童と大人の狭間の読者論的理解
第 14 回	ファンタジー	ファンタジーの系譜を理解し、ファンタジー作品の文学の力について考えをまとめることができる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域の図書館や書店で絵本を出来るだけたくさん読み、今だからこそ紹介したい本を見つけること。推薦絵本のビブリオバトルを行う。方法は受講登録がすんで受講者数に応じて決定する。
フィールドワークは、検討中。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。新美南吉、宮沢賢治、松谷みよ子、今西祐行の短編集は必携

【参考書】

別冊太陽特集絵本 ○○年のベスト絵本 その他授業で紹介

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム（ホッピー）の掲示板に毎回感想を投稿し、教員とコミュニケーションをとること。
授業への参加態度と感想文 4 0 %、
推薦絵本プレゼンテーション 1 5 %
推薦絵本の書評 1 5 %
レポート 3 0 %
出席は開始 10 分までを認める

【学生の意見等からの気づき】

教員とのコミュニケーションをとること。
学生間のコミュニケーションをとること。
プレゼンの経験を積むこと。

【学生が準備すべき機器他】

OHC の使用

【その他の重要事項】

絵本紹介はアクティブラーニングとして必須
詳細は学習支援システムに掲載する

【Outline and objectives】

After finishing the spring term, the fall term will focus on children's literature from the Showa era to present, from specific authors or genres and observe their styles and features of each. Students will view children's literature from the media that involve children, as well as read and consider children's literature itself, and through doing so, they will observe the present times, utilizing children's literature as a tool. They will make a presentation on their evaluation of recommended children's books.

LIT300BC

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸A

福 寛美

授業コード：A2699 | 曜日・時限：金曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

琉球王国初めの文字資料である神歌集、『おもろさうし』のおもろ（神歌）に親しむ。また琉球の口頭伝承を記した『遺老説伝（いろうせつでん）』の説話や口頭伝承に影響を及ぼしたと考えられる事象を知る。

【到達目標】

『おもろさうし』は簡単な漢字とひらかなを用いた神歌集であるが、内容は難解で日本本土のどのような歌とも似ていない。その不思議な神歌（おもろ）の世界に分け入り、独特の世界観と信仰を知ることとする。あわせて、琉球王国時代の口頭伝承を書き記した『遺老説伝（いろうせつでん）』、おもろや口頭伝承に影響を及ぼした、と考えられる日本本土由来の説話のことも考察していく。その過程を通し、琉球の神歌や文芸が周辺諸地域と関わりを持ちつつ、独自の世界を形成していることを知ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする。琉球・沖縄の文学を知るためには、民俗や音楽も知る必要があり、音源を鑑賞する時間も設ける。また、授業数回に一回程度、リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーに対しては、次の授業でフィードバックする。具体的には質問にこたえ、感想に対して所感を述べる。状況に応じて学習支援システムを用い、簡単な課題を出す。課題に目を通し、各自に対し所感を述べる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『おもろさうし』の驚 1	『おもろさうし』のおもろの読み方と、おもろ世界の驚の用例をみていく。
第 2 回	『おもろさうし』の驚 2	おもろの中で「驚をつかむ」という用例がある。その用例を詳しくみていく。
第 3 回	驚をとる	「驚をとる」というおもろの意味を考えていく。
第 4 回	驚の霊能 1	おもろ世界の驚は霊能を持つ存在である。それが具体的にどのようなものかをみていく。
第 5 回	驚の霊能 2	おもろ世界の驚は不可視のものをみる、とされる。その意義を考えていく。
第 6 回	驚の地名	おもろ世界では驚のつく地名がある。その地名を考察していく。
第 7 回	驚と王権	おもろ世界の驚と王権は深く結びついている。そのことを考察していく。
第 8 回	驚と戦い	驚、驚羽には戦勝の霊力があるとみなされていた。そのことを考察していく。
第 9 回	船と驚	おもろ世界では船が猛禽類とダブルイメージされることがある。そのことを考察していく。
第 10 回	琉球船と猛禽類	琉球船は猛禽類と同一視されることがある。そのことを考察していく。
第 11 回	『遺老説伝』の驚羽	琉球の口頭伝承を集めた『遺老説伝』にある驚羽の事例をみていく。
第 12 回	驚のイメージ・神話・矢羽根	巨大な驚のイメージがいかに形成されたかを神話、驚の尾羽が矢羽根として珍重されていた事象などから考察していく。
第 13 回	驚のイメージ・鳥の墓	南西諸島には宇佐八幡の唱導文芸、百合若大臣が伝わっている。その物語に登場する鷹のイメージを考察していく。
第 14 回	驚之鳥節の驚	八重山諸島で現在も愛される驚之鳥節の驚のイメージを考察していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の『火山と竹の女神』の「おもろ世界の驚」を読むこと。また、おもろを読んでいく上で必要なことは、別にプリントを作成する。学習支援システムにアップするので、教科書の理解を進めるために、読んでいくこと。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『火山と竹の女神』（福寛美、七月社、2021 年）を教科書として使用する。2021 年 3 月末に出版予定につき、価格は未定。

【参考書】

『喜界島・鬼の海域』（福寛美、新典社、2008 年）
『『おもろさうし』と群雄の世紀』（福寛美、森話社、2013 年）
『ぐすく造営のおもろ』（福寛美、新典社、2015 年）
『奄美群島おもろの世界』（福寛美、南方新社、2018 年）

【成績評価の方法と基準】

・記述式の期末試験を行う。問題をいくつか提示し、その内 2 つを選んで、それぞれ 300 字以上記述する、という形をとる。
・平常点も参考にする。最低 6 回は出席すること。
・期末試験で 70%、平常点で 30%の配分とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を『おもろさうし』主体にすると、必ず難解である、という学生からの意見がある。それは仕方がない部分もあるが、なるべくわかり易く説明するように努める。

【学生が準備すべき機器他】

資料は学習支援システムにアップするので、それらを参照しながら授業を受講することが好ましい。

【Outline and objectives】

The Omoro Soshi is the first written compilation of sacred songs and poems collected by Ryukyu kingdom. The Ryukyuan folklores in the Irousetsuden and the Okinawan cultural background may have affected the development of its oral traditions. In this course, you will learn the Ryukuan sacred songs and literature are related to the cultures of surrounding areas and developed their own unique styles.

LIT300BC

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸B

福 寛美

授業コード：A2700 | 曜日・時限：金曜 3 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

南西諸島の神話や民俗は南九州と深く関わっている。薩摩（さつま）、そして薩南の島々を自在に航海していた人々を、隼人（はやと）という。その隼人の神話を学び、移動する海民について考察する。

【到達目標】

・日本神話と火山、という視点は従来あまり顧みられなかった。しかし、火山列島でもある日本で、噴火はまさに神の仕業としか考えられなかったはずである。その視点で神話を読み解くと、新たな知見が得られる。
・コノハナノサクヤビメ、そしてその神話的末裔の『竹取物語』のカグヤビメを火山と関わる存在、と捉えると興味深い事象が認識できる。
・南九州を出自とする隼人と日本神話の関係から、日本神話における隼人の存在価値を知り、古代の九州の文化への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする。授業数回に一回、リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーには講義内容に対する質問などを書くこととする。次の授業で質問に答えるようつとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	噴火	日本古代における火山の噴火について述べる。
第 2 回	コノハナノサクヤビメ	降臨した天孫（てんそん）と結ばれた地上の女神について考察する。
第 3 回	コノハナノサクヤビメの行動	女神についての神話を解説し、女神が天上のアマテラスを模すること、一方で隼人の女神らしい行動をとることを述べる。
第 4 回	ヨ（よ・世・代・節）1	ヨ（ユ）は区切られた年代のほか、様々な意味を持つ。そのことを考察する。
第 5 回	ヨ 2	南西諸島の祭祀において、世を乞う（ユークイ）という儀礼が行なわれる。ヨ、ユとは何かを考察する。
第 6 回	ヨ 3	『竹取物語』のカグヤビメは竹の節にいた。この節もまたヨといわれる。そのことを考察する。
第 7 回	カグという語	カグヤビメのカグは、大和三山の香具（カグ）山、火の神のカグツチと関わる。そのことを考察する。
第 8 回	カゲ（影）	カゲは靈力を意味する言葉であり、南西諸島では光を意味することもある。その用例を考察する。
第 9 回	隼人と畿内	南九州の隼人が畿内に移動していたことと、その働きについて考察する。
第 10 回	このはなのサクヤビメとなよたけのカグヤビメ	サクヤビメとカグヤビメの神話的類似について考察する。
第 11 回	富士山	コノハナノサクヤビメは富士山の女神とされる。そのことを考察する。
第 12 回	隼人と水の献上	隼人は古代の朝廷で水を献上する役割を担っていた。そのことを考察する。

第 13 回 日向出身の皇妃

神話には日向出身の隼人の女性が皇妃になったことを語る。その意義を考察する。

第 14 回 隼人と狗（いぬ）吠え

朝廷で、隼人は魔を祓うため特殊な声を出す（狗吠え）役割を担っていた。そのことを考察し、秋学期の授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・『火山と竹の女神』の「火山と竹の女神」の項目をよく読むこと。また授業内容の理解を助けるためのプリントを授業支援システムにアップするので、プリントも参照すること。
・簡単な参考文献、インターネットで読める資料なども周知するようにするので、そちらも参考にすること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『火山と竹の女神』（福寛美、七月社、2021 年）2021 年 3 月末に刊行予定のため、価格は未定。

【参考書】

『夜の海、永劫の海』（福寛美、新典社、2011 年）
『うたの神話学』（福寛美、森話社、2014 年）
『新うたの神話学』（福寛美、新典社、2020 年）

【成績評価の方法と基準】

・学期末に試験を行う。問題を複数提示し、2 問を選び、それぞれ 300 字以上記述する、という形にする。
・平常点も留意する。最低 6 回は出席すること。
・試験を 70%、平常点を 30% として採点する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が受講生にとって未知で難解なものである場合、戸惑いの声を聞くこともあるが、なるべくわかりやすく解説するようにつとめる。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに授業の内容の理解を深めるためのプリントをアップするので、それを見ることができる環境（パソコン）があることが望ましい。

【Outline and objectives】

The myths and folklore of Nansei Islands are closely related to Southern Kyushu. The Hayato were the people who sailed across the Southern Kyushu and Southern Satsuma islands. In this course, the myth of the Hayato and the people of the sea who sailed across the Nansei areas will be learned. The relationship between the Hayato from the Southern Kyushu and Japanese myths reveals the presence of Hayato people in Japanese myths. The culture of ancient Kyushu will be deeply learned.

LIT300BC

日本文芸研究特講（15）国際日本学A

STEVEN GEORGE NELSON

授業コード：A2703 | 曜日・時限：金曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかわり合いを、主に 2 つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人 3 人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。
・内村鑑三（1861-1930）*Representative Men of Japan*（代表的日本人、1908。*Japan and the Japanese* [1894] の改訂版）。
・新渡戸稲造（1862-1933）*Bushido: The Soul of Japan*（武士道、1900）。
・岡倉天心（1862-1913）*The Book of Tea*（茶の本、1906）。
文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】

・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計 3 回の討論会（授業第 5・9・13 回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず 1 回参加するとともに、議論にも参加します。授業第 1～3 回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート
第 2 回	「(国際) 日本学」とは	プレゼンテーション担当の調整 世界の中の日本 文化圏の存在 プレゼンテーションの準備
第 3 回	日本意識の芽生えと発展	「中華思想」との接触 中世の日本意識 プレゼンテーションの準備（続）
第 4 回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	キリスト教宣教師の見聞（ザビエルとフロイス） 長崎（出島）歴代オランダ商館長らの研究 博物学と本草学
第 5 回	討論会① 内村鑑三著『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第 6 回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン等
第 7 回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ等 Asiatic Society of Japan の設立と活動
第 8 回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第 9 回	討論会② 新渡戸稲造『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第 10 回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第 11 回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の大出世
第 12 回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第 13 回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第 14 回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからパウンド・イエイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 5・9・13 回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。
第 6 回 テキスト pp. 10-17
第 7 回 テキスト pp. 18-23
第 8 回 テキスト pp. 64-69、70-77
第 14 回 テキスト pp. 104-111
その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。
プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35 %）、プレゼンテーションと議論への参加度（25 %）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40 %）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline and objectives】

This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Students give presentations (3 sessions in total) on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

LIT300BC

日本文芸研究特講（15）国際日本学B

STEVEN GEORGE NELSON

授業コード：A2704 | 曜日・時限：金曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた *The Chrysanthemum and the Sword* (菊と刀, 1946) と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960 年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】

・「文化の型」という見方で 20 世紀前半の日本を捉えた *The Chrysanthemum and the Sword* の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
・戦後、特に 1960 年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計 3 回の討論会（授業第 5・9・12 回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず 1 回参加するとともに、議論にも参加します。授業第 1 ～ 3 回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第 2 回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第 3 回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第 4 回	『菊と刀』③	青木保（『日本文化論』の変容）の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第 5 回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第 5 章 “Debtor to the Ages and the World” と第 6 章 “Repaying One-Ten-Thousandth”
第 6 回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー等の活躍
第 7 回	60 ～ 70 年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー等
第 8 回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざまな（極論も含めて）
第 9 回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第 7 章 “The Repayment Hardest to Bear” と第 8 章 “Clearing One’s Name”
第 10 回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー
第 11 回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧（イ・オリョン）、ハルミ・ベフ、青木保 ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第 12 回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第 10 章 “The Dilemma of Virtue”
第 13 回	日本人論、日本文化論への批判②	デールの「恥の文化の恥」論
第 14 回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 5・9・12 回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第 2 回 テキスト pp. 182-187

第 6 回 テキスト pp. 214-219、266-271

第 7 回 テキスト pp. 248-253

第 11 回 テキスト pp. 260-265

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

青木保『『日本文化論』の変容 戦後日本の文化とアイデンティティ』（中央公論社、1990）中公文庫 533、1999

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35 %）、プレゼンテーションと議論への参加度（25 %）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40 %）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

『菊と刀』の内容検討に当てる授業数を増やしました。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために取って英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline and objectives】

This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict’s *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict’s book, students give presentations (3 sessions in total) on Benedict’s discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 & 6), *giri* (Chapters 7 & 8), and *haji* (Chapter 10). Other topics of lectures given by the instructor include the *Nihonjinron* (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

LIT300BC

日本文学研究特講（16）特域C

安原 眞琴

夜間時間帯

授業コード：A2707 | 曜日・時限：木曜 6 限

春学期・2 単位

備考（履修条件等）：・本科目を履修済みの場合、A2581「文化史1」（夜間科目）は履修不可。

・学芸員の資格取得に本科目は適用となりません。A2581「文化史1」を履修登録してください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

概要：この授業では、仮名草子について多角的に学ぶことで、〈文学〉が、いつ頃、どのように始まったのかを探る。

目的：我々は、日本文学史の中で看過されてきた仮名草子について学び、その重要性を知り、また、常日頃、何かを書いたり読んだりしているが、それが当たり前ではなかったことを学び、それによって、気持ちと言葉と表現媒体の関係性について認識をあらたにする。

【到達目標】

- ①日本文学史で看過されてきた仮名草子を学び、その特徴や重要性が説明できるようにになる。
- ②仮名草子の社会的背景を学び、文学と社会との関係性が説明できるようにになる。
- ③出版文化を中心とする江戸初期の書物史の概要を学び、説明できるようにになる。
- ④古語、故事などを学びながら仮名草子を読むことで、読解力と古典的な素養を身に付けることができる。
- ⑤リアクションペーパーやレポートなどを通して、文章力を身につけることができる。
- ⑥個別の作品読解と同時に、「人が何かを書き発信し読む」ことに注目しながら学習していくことで、応用編として、執筆動機と、言葉と、表現媒体の関係性について持続的な関心を持つことができ、その考察のために時代やジャンルを問わず情報収集を行い、それらを批判的に取捨選択した上で、創造的に再構築する力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①講義形式だが、以下のような予習の答え合わせやリアクションペーパーのフィードバック時に、質疑応答やグループディスカッションなど、アクティブラーニングを行う。
- ②予習として、配布テキストを読み、分からない言葉などを調べ、ノートにまとめ、次の授業までに、学習支援システム等で提出する（ノートの定型は授業時に伝える）。
- ③毎回リアクションペーパーまたはクイズを提出し、授業内容の理解を深める。そして、次の授業のはじめの時間で、リアクションペーパーから良いコメントをいくつかとりあげ（またはクイズの答えを発表し）、全体に対してフィードバックすることで、知識を共有し、認識を高め合う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業準備	予習：仮名草子について調べて、50 字程度で簡単にまとめる。ネット利用可。 授業：授業の内容や進め方、成績評価方法などについて概説する。
第 2 回	仮名草子とは？ ～文学のはじまり？～	予習：指示した「仮名草子」の参考文献を読んでくる。 授業：「仮名草子」の通説と授業で学ぶ内容の違いを、おおよそ理解する。
第 3 回	日本文学史を概観する （1） 仮名草子以前の文学	予習：「お伽草子」を調べて 50 字程度でまとめる。ネット利用可。 授業：「お伽草子」や絵巻、写本などの概要を理解する。
第 4 回	日本文学史を概観する （2） 仮名草子以後の文学	予習：「浮世草子」を調べて 50 字程度でまとめる。ネット利用可。 授業：「浮世草子」や井原西鶴などの概要を理解する。
第 5 回	準備体操 仮名草子の時代と作者	予習：仮名草子の参考文献に出てくる作者について調べてくる。ネットも利用可。 授業：作者に注目することで、仮名草子の特徴の一端を理解する。

第 6 回	時代背景を知る 『可笑記』を読む①	予習：『可笑記』の作者とその時代背景について調べてくる。ネット利用可。 授業：作者が生きた時代背景を理解する。
第 7 回	本文を読む＋語釈 『可笑記』を読む②	予習：提示した『可笑記』のテキストを読んでくる。 授業：作者の執筆動機の一部を理解する。
第 8 回	落語のはじまり 『醒睡笑』を読む①	予習：落語の始まりについて調べてくる。ネット利用可。 授業：『醒睡笑』の内容について理解する。
第 9 回	江戸初期書物史の一端 『醒睡笑』を読む②	予習：板倉重宗について調べてくる。ネット利用可。 授業：口承、書承、出版、販売という展開について理解する。
第 10 回	恋愛小説の変化と社会的背景 『うらみのすけ』を読む①	予習：『ドン・キホーテ』の予習：あらすじを調べてくる。ネット利用可。 授業：仮名草子とそれ以前の恋愛小説の違いを理解する。
第 11 回	執筆動機と社会的背景 『うらみのすけ』を読む②	予習：かぶき者について調べてくる。ネット利用可。 授業：執筆動機と社会的背景の関係性について理解する。
第 12 回	浮世という俗世で生きる人々 『竹斎』を読む①	予習：「竹斎」という名前を調べてくる。ネット利用可。 授業：庶民の生活を描いた文学としての『竹斎』について理解する。
第 13 回	都市観光文学のはじまり？ 『竹斎』を読む②	予習：『竹斎』のあらすじを調べてくる。ネット利用可。 授業：『竹斎』を読みながら、都市観光文学を概観する。
第 14 回	仮名草子とメディア 写本から版本へ	予習：写本、版本、古活字本、整版本、嵯峨本について調べてくる。ネット利用可。 授業：仮名草子を通して、作者、読者の誕生や、表現媒体と表現心理の関係性などについて考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間として、1 回につき 4 時間以上かける。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、複数の参考書を使って授業を進める。

【参考書】

- 基本的に、複数の参考書を、それぞれ部分的に利用する予定である。
- 授業時にも指示するが、いくつかあげておけば、次のような参考書を用いる。
- ・榎本隆司編『はじめて学ぶ日本文学史』（ミネルヴァ書房、2010 年）
- ・渡辺守邦『可笑記』（教育社新書〈原本現代訳〉51、教育社、1979 年（1986 年新装））
- ・前田金五郎校注『日本古典文学大系 90 仮名草子集』（岩波書店、1965 年）

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回のリアクションペーパーまたはクイズ（50 %：到達目標との対応①②③④⑤）
- ・予習＝宿題（30 %：到達目標との対応①②③④）
- ・期末レポートおよび試験（20 %：到達目標との対応①②③④⑤⑥）
- （注 1）試験は最終授業時に行う。その日にどうしても受けられない学生は翌朝（8 時頃）学習支援システム等を介して前日とは内容の異なる試験を受ける。
- （注 2）期末レポートは、学習支援システム等を介して、最終授業終了時から 1 週間後の 23:59 までの間に提出する。
- （注 3）スクーリング学生はメールでの提出を受け付ける。メールが不可能な学生は授業時に指示するのでオフィスアワーに申し出ること。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、学生の授業への参加度が高いため目標達成度も高いが、授業以外の学習時間は少ないようなので、予習、復習の促進と同時に、高度な情報収集やまとめを課すなどして、学習への意欲をより一層高めたい。

【学生が準備すべき機器他】

この授業では、学習支援システムを利用するので、使える準備をしてください。ただし、スクーリング学生は、学習支援システムの代わりになるものを授業時に指示します。

また、もしオンライン授業になった場合、PC かスマホが必要になります。

【その他の重要事項】

- オフィスアワーに質問などを受け付けます。
- ・対面授業の場合、授業終了後、教卓前に来てください。
- ・オンライン授業の場合、授業終了後、zoom などのチャットで行います。
- ・それ以外の時間は、学習支援システム等に記入してください（その場合即答はできません）。
- ・上記が不可能な場合やどうしても連絡が必要な場合は、安原眞琴公式サイト <http://www.makotooffice.net/> の contact から連絡してください。

【Outline and objectives】

Outline: In this class, we will explore when and how "literature" began by learning about Kanazoshi from various angles.

objectives: We usually write and read something, but learn that it was not the norm, thereby renewing our awareness of the relationship between feelings, words and media of expression.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１６）特域D

山口 恭子

夜間時間帯

授業コード：A2708 | 曜日・時限：木曜 6 限

秋学期・2 単位

備考（履修条件等）：・日本文学科生でない文学部生が「文化史2」（資格）を履修する場合は哲学科主催の「文化史2」（資格）（A3862）を履修すること。

- ・本科目を履修済みの場合、「文化史2」（A2582）（夜間）は履修不可。
- ・日本文学科生が学芸員の資格を取得するには「文化史2」（A2582）を履修登録する必要があります。特域 D では学芸員科目になりませんのでご注意ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

【到達目標】

中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史の事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起りから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。

なお、授業の内容に関して毎時アクションペーパーを提出してもらいます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 中国書道史 1 (殷・周の書)	・書および書道史研究について ・古代の漢字 ・甲骨文と金文
第 2 回	中国書道史 2 (秦・漢の書)	・始皇帝の文字統一 ・隸書の発展と後漢の石碑
第 3 回	中国書道史 3 (三国の書)	・書体の発展
第 4 回	中国書道史 4 (東晋の書)	・王羲之、王献之の書
第 5 回	中国書道史 5 (南北朝の書)	・北朝の石刻について
第 6 回	中国書道史 6 (唐の書)	・初唐の三大家と楷書
第 7 回	日本書道史 1 (飛鳥・奈良の書)	・文字の受容 ・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第 8 回	日本書道史 2 (平安前期の書)	・三筆の書
第 9 回	日本書道史 3 (平安中期の書)	・三蹟の書 ・和様の成立
第 10 回	日本書道史 4 (仮名の書のさまざま)	・仮名の書とその書美
第 11 回	日本書道史 5 (平安後期の書)	・西本願寺本三十六人家集
第 12 回	日本書道史 6 (中世の書)	・尊円親王の書 ・さまざまな書流
第 13 回	日本書道史 7 (近世の書)	・寛永の三筆の書
第 14 回	まとめ	中国書道史、日本書道史のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館で、『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しません。授業時にプリントを配布します。

【参考書】

・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』（萱原書房、2005年）
 ・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、2009年）
 ・名兄耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、2009年）
 そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験（70％）平常点（30％）により評価します。とくに、試験では、主要な書道史的事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy. The aim of this course is to understand the fundamentals of calligraphy history, such as typefaces, calligraphers, written works.

LIN100BD

英語学概論A

椎名 美智

授業コード：A2804 | 曜日・時限：火曜 3 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学の研究領域の全体を、2セメスターをかけて概観します。春学期は、世界の英語、形態論、意味論、語用論、文体論、英語教育を中心に、英語学研究の全体像が把握できるように広い視野を持って学習します。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく1年次に、春・秋と連続して履修することが望ましいと思います。

【到達目標】

英語学研究の諸分野の内容、アプローチと研究の現状を学び、自分の興味のある分野の研究を概観し、さらに今後の自分の研究テーマの位置づけができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始は4月13日です。一回目はリモートです。テキストはそれまでに自分で生協にて買っておいください。毎週 HOPPII「学習支援システム」に何らかの授業の課題ややってほしいこと、読んではほしい箇所などの情報を入れます。授業日が火曜日3限ですので、必ず、前日までには HOPPII をチェックしてください。ハンドアウト、パワーポイント、課題、指示、いろんなメディアを使って、授業のエッセンスをお伝えします。基本的には対面授業の予定ですが、場合によっては、オンデマンドやオンラインになることもあるかもしれません。そうした情報も含め、全て前日までには HOPPII でお知らせします。HOPPII から皆さんへはメールでお知らせがいくようになります。

「言語」といっても、書き言葉、話し言葉、文法の知識、頭のなかの言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方のちがいは、そのまま研究アプローチに反映されます。言語学には、理論的な側面から研究を進める分野もあれば、具体的な言語現象に注目する分野もあります。できるだけ多くの分野を、講義形式で紹介していきます。テキスト、ハンドアウト、パワーポイントを使います。次々と新しい分野へ移動していくので、テキストの該当する部分の予習と復習が必要です。英語で書かれたテキストなので、予習、復習、エキササイズなどは、各自、自分で読み進めていく必要があります。

リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 毎週、授業日の前日に、必ず HOPPII を見てください。	英語学研究の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第2回	世界の英語 (1)	世界語としての英語について
第3回	世界の英語 (2)	英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて
第4回	形態論 (1)	形態論の概説、単語ができるしくみ
第5回	形態論 (2)	形態論と形態素

第 6 回	中間の振り返り	これまでの内容のまとめと復習と演習
第 7 回	意味論 (1)	意味論の概説
第 8 回	意味論 (2)	意味の拡張としてのメタファー、メトニミー
第 9 回	語用論 (1)	語用論の概説、言葉の意味について
第 10 回	語用論 (2)	語用論の演習、コミュニケーション論の概説
第 11 回	文体論 (1)	文体論の概説
第 12 回	文体論 (2)	テキスト分析の方法、言語の規則性
第 13 回	英語教育	英語教育の現状と問題点
第 14 回	社会言語学、言葉と社会、およびコンサルテーション	社会言語学の概説、および春学期の講義内容についてのまとめ、コンサルテーション、課題に対する解説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、事前にテキストの該当部分を読んでから授業に出席する必要があります。また、HOPPII にアップロードされた授業の資料は必ずしも、すべてを授業でとりあげるわけではないので、自分で読んで復習をする必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

影山太郎他、『First Steps in English Linguistics:英語学の第一歩』くろしお出版

【参考書】

内容ごとに参考文献や資料を紹介し、HOPPII にアップロードします。

【成績評価の方法と基準】

通常の授業では、学期末試験 70%、レポート 10%、平常点 20%で、評価します。変更しなければならない状況になったら、HOPPII にて連絡をします。

【学生の意見等からの気づき】

進み方が早いようなので、毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックします。また、理解度をチェックする小テストを行いたいと思います。最初は難しいと思うかもしれませんが、予習と復習をきちんとすると、だんだん理解できるようになります。

【学生が準備すべき機器他】

課題は、基本的に HOPPII に添付ファイルの形で提出してもらいます。

【その他の重要事項】

- ・パワーポイントの資料は、必要な場合は、授業後に HOPPII にアップします。
- ・オフィスアワーについて、詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to acquire an overview of the English linguistics. The course will focus on important issues in the fields such as World Englishes, Morphology, Semantics, Pragmatics, Sociolinguistics, Stylistics and English teaching.

LIN100BD

英語学概論 B

福元 広二

授業コード：A2805 | 曜日・時限：金曜 1 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期（A）では、世界の英語、形態論、意味論、語用論などについて学びました。ひきつづき、秋学期（B）では、英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得などについて学びます。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、伝統的文法から最近の生成文法に至るまでの基本的な知識を習得します。言語学研究の諸分野のアプローチと研究の現状を学びます。自分の今後の英語学研究的基礎となるような内容が身につきます。

【到達目標】

この授業を受講することで、英語を専攻する学生として必須である、英語の母音や子音の発音の実際の仕組みを知り、実践できるようになります。英語を組み立てている構造についての知識が獲得できるようになります。特に日本語と英語とは何が異なり、何が共通なのかを知ることで第 2 言語としての英語の習得が容易になります。また、多用される英語的な構文について表面的ではない深い分析を加える方法で理解することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、学校文法から最近の生成文法についての基礎的概念や用語、理論の変遷などは基本的に講義形式で行います。音の仕組みに関しては、インターネットに接続して発音の仕組みの動画を使用しながら、英語母語話者の発音を聞き、実際に発音してみます。リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や教科書、参考文献、履修条件について
第 2 回	音を出す仕組み	音声学・音韻論の概説：調音器官の説明、母音の仕組み
第 3 回	音声・音韻論 (1)	音韻論の演習:母音の発音の実践
第 4 回	音声・音韻論 (2)	音声学の概説:子音の仕組み
第 5 回	音声・音韻論 (3)	音声学の演習：子音の発音の実践
第 6 回	音声・音韻論 (4)	英語と日本語の違い：音節とモーラ
第 7 回	統語論の基礎	統語論の概説：言語の構造について
第 8 回	統語構造	統語論の理論について：生成文法による構造分析
第 9 回	言語構造の解析 (1)	言語の構造について：主要部、補語、付加部とは何か
第 10 回	言語構造の解析 (2)	句構造が全て基本的に同じ構造であること
第 11 回	言語習得 (1)	言語習得の基礎的概念
第 12 回	言語習得 (2)	言語習得を説明する主な理論
第 13 回	英語の歴史	言語の歴史について。英語史の概説
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当する箇所は必ず事前に読んでおきます。自分で辞書を引きながらとりあえずは読んでみて、授業時間に学ぶことが復習となるように心がけること。また、授業のあとで必ずもう一度復習しておくことで、知識が確実に脳内に残ります。授業でやった内容を利用した課題を解くことでしっかり記憶ができます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』
影山太郎、日比谷潤子、ブレント デ・シェン 著
くろしお出版

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に示した、その分野の基礎的知識が十分に理解できているかで評価します。
期末試験 70 %
平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】

「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

【その他の重要事項】

できれば、1 年次に春学期「英語学概論 A」と合わせて履修することを勧めます。英語学の基本的知識は、「英語学概論 A」と「英語学概論 B」を両方履修してはじめて得られます。授業の構成や順序に関しては、学生の理解度に応じて微修正する場合があります。出席は毎回とります。

【Outline and objectives】

This course introduces students to basic terminology and concepts in the study of the English language. Students get a general introduction to English linguistics, including phonetics and phonology (the study of speech sounds), syntax (the structure of sentences), and language acquisition (how children acquire their native language) and the history of the English language.

LIN100BD

言語学概論 A

石川 潔

授業コード：A2806 | 曜日・時限：水曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るというより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことになるので、それぞれの分野が自分に向いているか向いていないかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】

- 「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向き判断の材料を得る（あくまで「材料」に過ぎません）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。

教材配信と zoom 授業で、二重に説明を行います。また、配信した教材に基づく質問、口頭説明のリクエストを募り、また、リアクションペーパーを書いてもらいます。zoom 授業では、それらに応じる形のフィードバックも行う予定です。

配信教材は、「短い動画デモ・ファイルと解説 pdf ファイルの配信」という形が基本となりますが、内容に応じて、違う形態になる場合もあります（例えば動画なしとか）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業の紹介
第 2 回	「音素」その 1（音声学・音韻論）	<i>party</i> はカタカナで何と言うべき？
第 3 回	「音素」その 2（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第 4 回	「音節」その 1（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第 5 回	「音節」その 2（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第 6 回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第 7 回	今日の文法理論その 1（統語論）	「5 文型」のアホさ
第 8 回	今日の文法理論その 2（統語論）	統語論「研究」実体験
第 9 回	今日の文法理論その 3（統語論）	理論的な道具、およびその「心理学的実在性」
第 10 回	今日の文法理論その 4（統語論）	新たな（？）潮流
第 11 回	今日の文法理論その 5（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第 12 回	今日の文法理論その 6（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出せるか
第 13 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その 1	「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第 14 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その 2	<i>Without her contributions failed to come in.</i> ってどういう意味？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材を配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、100 %。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は授業改善アンケートが行なわれませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムには自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておく（または、法政 gmail で、自分がアクセスするメアドへの自動転送を設定しておく）こと。

【その他の重要事項】

この授業は『言語学概論B』とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

【Outline and objectives】

An introduction to linguistic sciences for novice. You will take a look at how research in each of the fields is typically conducted so that you will be able to (partially) judge whether each would be the right field for you.

LIN100BD

言語学概論B

石井 創

授業コード：A2807 | 曜日・時限：水曜 3 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の内容は、「経験科学」としての言語学入門になります。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における各分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】

1. 言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2. 身近で話されている言語の事実の感受性に気付く、また気付いた事実に対し初歩的な考察・分析ができる
3. 科学研究の方法論に対し、正しい認識をもっている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 授業形態

本シラバス執筆時点では、文学部の新型コロナウイルス感染対策方針及びその他諸般の事情により、以下の2つの形態のどちらかで授業を実施する予定です。

A. 隔週で「対面授業」と「オンライン授業」を交互に実施

B. 毎週「オンライン授業」を実施

なお、「オンライン授業」は Zoom などの双方向通信アプリを用いたりリアルタイム配信形式を予定しています。A と B のどちらの形態になるかは、秋学期開始前にその時期の新型コロナウイルス流行状況とそれに付随する社会情勢などを考慮して教員が決定し、その旨を学習支援システム経由で履修者にお知らせします。

2. 授業の進め方

授業形態が上記の A と B のどちらになるかにかかわらず、本授業は教員による講義形式で進められます。ただし、教員が一方的にレクチャーするだけでなく、内容理解を助けるために、受講者が練習問題を解く機会も適宜設けていきます（練習問題を課す頻度は、上記の授業形態の違いによって多少変わってくるでしょう）。

教員は具体的な言語現象とそれに関わる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられる答えを鵜呑みにせず、そのもっともらしさを自分で疑う姿勢を大切にし、その姿勢によって得られた疑問点や不明点を授業内の質疑応答もしくはリアクションペーパー（「オンライン授業」の場合は学習支援システムの「テスト／アンケート」機能で代用）で積極的に発信することが望まれます。また、リアクションペーパー等で得られた面白い質問やコメントは、時間の許す限りその後の授業内で紹介して教員がそれに答えることで、授業における話題や議論を広げるのに役立てていきます。

なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかかる授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	言語学ってどんな学問？
第 2 回	言語理論と言語観	ソシュール以降の「言語」の捉え方とその変遷
第 3 回	形態論 1	語の内部構造と形態素
第 4 回	形態論 2	語の作られ方
第 5 回	形態論 3	日本語の「ラ」抜きはどのようにして生じたか？
第 6 回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第 7 回	音声学 1	音声産出と子音・母音の体系
第 8 回	音声学 2	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第 9 回	音韻論	音節とモーラ
第 10 回	統語論 1	句構造と X-bar Theory
第 11 回	統語論 2	句構造から文構造へ
第 12 回	統語論 3	生成文法における「移動」と「痕跡」の概念

第 13 回	意味論 1	意味の記述と語彙分解
第 14 回	意味論 2	述語のアスペクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 1 回あたりの標準の準備・復習時間は、各 2 時間とします。

1. 準備

後述するように、事前配布されるその授業日のハンドアウトにあらかじめ目を通しておくと、その日の授業内容の理解の助けになるでしょう。また、前回の授業内容を理解していることを前提にその日の授業は行われます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業を必ず行ってください。

2. 復習（宿題、その他応用学習も含む）

その日の授業内容をハンドアウトやノートを用いて整理し、さらに宿題が課されていた場合はそれに取り組んでください。そして、これらの過程で疑問点・不明点が出てきたら、ハンドアウトの引用文献に当たるなど、まずは自分で答えを出す努力をしてみてください。その成果をリアクションペーパーや学習支援システムの掲示板、あるいは授業後の質問のような形で教員に示してもらえば、こちらもそれに対してさらなるアクションをいたします。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、代わりに適宜ハンドアウトを配布します。なお、授業形態が上記の A、B のどちらになるにせよ、必ず「オンライン授業」が実施される関係で、今年度は紙のハンドアウトは基本的に教室で配布せず、授業日の前にその日に使用するハンドアウトの電子データを学習支援システムにアップロードすることとします（アップロードのスケジュールは学期開始時にお知らせします）。よって、受講者は各自でハンドアウトのデータを事前にダウンロードし、手元に用意した状態で授業に臨んでください（授業中にハンドアウトに直接書き込みをしたい人は、紙に印刷するか、もしくはデータに直接書き込みができるタッチペン等のデバイスを用意してください）。

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末課題 100%

授業形態が上記の A、B のどちらになるかにより、実施可能な課題形式も変わってくるため、以下は本シラバス執筆時点での見通しになります（ゆえに、形式変更の可能性あり）。形態 A の場合、定期試験期間中の新型コロナウイルス流行状況や大学の教室使用状況にもよりますが、基本的には教室での期末試験を行い、その点数を成績とする予定です。一方で形態 B になった場合、教室内試験はおそらく不可能であるため、(1) 期末レポートの提出、(2) 学習支援システムのテスト機能等を用いたオンラインでの期末試験、のどちらかにより成績評価を行う予定です。

2. プラスアルファの加点

上記 1 の通り、本科目の成績は基本的には期末課題による一発勝負での評価となりますが、それに加え、下記の項目を満たした受講生には成績にプラスアルファで少々の加点をいたします。

- a. リアクションペーパーや質疑応答などで、授業内容に対し良い質問やコメントを行った者
- b. 授業外で学内教員の実施する実験に参加した者（不参加の者が減点されることはない）

なお、本授業では出席は取りません。よって、リアクションペーパーも出席票ではなく、授業の内容や方法に対して受講者が意見や質問、希望を記すためのものであり、「出さないと減点される」という類のものではありません。ゆえに、出席票を出すノリでいい加減なリアクションペーパー（e.g., 氏名を記入しただけのもの、「面白かった」「興味深かった」等の一言感想だけのもの）を提出した者は、逆に成績から減点いたします。

【学生の意見等からの気づき】

1. 以前学生から「説明を聞き逃すと理解が追いつかなくなる」という意見が出されたため、一昨年度は説明を極力丁寧に繰り返す方針で授業を進めましたが、それに対し「理解しやすかった」と「同じ説明を何度も繰り返されてくどい」という相反する意見が出されました。また、1 つあたりの学習項目に費やす説明時間を増やしたために全体的な進度に遅れが生じ、以前は終わらせることができた予定学習範囲を一昨年度はすべてカバーすることができませんでした。従って、今年度は、「オンライン授業」の場合なかなか難しいとは思われますが、授業中に学生の理解度を可能な限り細やかに確認しながら説明量を適切に調整することで、上記した一昨年度の問題を解消できるように努めていきます。

2. 一昨年度は授業中に学生が練習問題を解く機会を増やしましたが、それに対して「具体例で実際に手を動かしながら考えてみることで、理解が促進された」等の好意的な意見を多くもらいました。よって、今年度も練習問題を解く機会を、授業形態に応じて、可能な限り積極的に設けていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業形態が上記 A、B のどちらになるにせよ、「オンライン授業」は必ず実施されるため、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。

a. Zoom などの双方向通信アプリを使用できるデバイス（スマートフォンではなく PC が望ましい）

b. 上記アプリによるリアルタイム配信授業の視聴に十分耐えうるインターネット回線

これらの機器・環境を用意するのが経済的な理由などで困難な受講生は、大学の事務課に相談してみてください（昨年度はオンライン授業の学生向け受講環境支援が大学により実施されていました）。

また、本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりの学生は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行っておい

【その他の重要事項】

本科目で「対面授業」を実施することになった場合に備えて、授業内での新型コロナウイルス感染への対策の 1 つとして、「受講者同士が十分なソーシャルディスタンスを確保できる規模の教室」を用意してもらえよう、本シラバス執筆時点で事務課に要請しています。しかし、もし本科目に割り当てられた教室が上記の要請を満たせない規模のものであった場合には、「その教室においてソーシャルディスタンスを十分に確保できる程度の人数」にまで履修者数を絞る目的で、履修希望者に対して抽選による履修者選抜を実施します。抽選実施の有無は履修希望者数次第になるため、その詳細は後日連絡しますので、履修希望者は教員もしくは事務課からの抽選に関するお知らせに十分ご注意ください。

【Outline and objectives】

This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics in these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.

LIN200BD

英語・言語学講義 A

椎名 美智

授業コード：A2808 | 曜日・時限：火曜 3 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初回は 9 月 21 日です。授業形態（対面・リモート）は HOPPII で連絡します。互いに日本語で話しているのに、なにを言いたいのかわからない時があります。外国語だとなおさらそうです。原因の多くは「意味論の意味」と「語用論の意味」のズレ、つまり言葉の辞書的な意味と伝えたいメッセージが一致していないことにあります。本講義では、そうした「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面面を探ります。

講義のテーマは、「語用論」の中でも特に注目されている「ポライトネス」です。理論的枠組みを学び、知識としてだけでなく、実際のコミュニケーションの技術を身につけ、人間関係を見つめなおす切り口を探ることです。「語用論」を学ぶことによって、「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面面を探ります。

【到達目標】

授業の最終目標は、コミュニケーション力を向上させていく感性を身につけることです。語用論やポライトネス理論を学ぶと、日常生活でのコミュニケーションギャップの理由が理解できるようになります。よって、「コミュニケーション力」アップを目指す学生への履修をお勧めします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書、ハンドアウト、PPT を使った講義形式です。日本語のテキストなので、授業前に予習をしてください。実際に人々のコミュニケーションを観察するフィールドワークやロールプレイも行います。基本的には対面授業の予定ですが、状況に応じて、授業の形式は変わりますので、毎週、授業の前日までには HOPPII を見てください。毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学問領域の概説と、各自の課題設定
第 2 回	語用論とは何か	語用論とポライトネスについて概説
第 3 回	第 1 章：ポライトネスの背景（1）	人間関係に関わる普遍的なルール
第 4 回	第 1 章：ポライトネスの背景（2）	ポライトネスについて
第 5 回	第 2 章：ブラウン＆レビンソンのポライトネス理論（1）	効率と配慮について
第 6 回	第 2 章：ブラウン＆レビンソンのポライトネス理論（2）	ポライトネスと言語文化について
第 7 回	第 3 章：敬語とポライトネス（1）	会話の場で人間関係を切り分けることについて
第 8 回	第 3 章：敬語とポライトネス（2）	敬語と距離感について
第 9 回	第 4 章：距離とポライトネス（1）	「人を呼ぶこと」と「ものを呼ぶこと」の語用論
第 10 回	第 4 章：距離とポライトネス（2）	呼称と指示語について
第 11 回	第 5 章：ポライトネスのコミュニケーション（1）	会話のスタイル・言語行為・文化差について
第 12 回	第 5 章：ポライトネスのコミュニケーション（2）	言語の形式と機能について
第 13 回	第 6 章：終助詞の意味とポライトネス	話者が直観的にしていることについて
第 14 回	歴史語用論概説	歴史語用論の射程の方法論について、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活における人々のコミュニケーションを観察するフィールド・ワークを実践します。自分の生活の中の会話の分析をします。レポートの課題については、ワークショップの形で考えていきたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。滝浦真人（2008）『ポライトネス入門』（研究社）

【参考書】

「ポライトネス」「語用論」「コミュニケーション論」といったタイトルのついた本は、おおむね参考になります。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 80%、平常点 20%で評価します。学期末のレポート以外に、学期中に教員が提案したテーマについて提出された課題レポートは加点の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使った PPT 資料は、授業後に学習支援システムにアップする予定ですので、それを参考にしてください。授業中はスクリーンの内容をノートにとることよりも、授業の内容に集中してください。講義中心の一方通行の授業になりがちなので、テーマにそって議論できるチャンスを毎回作ります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは火曜日 4 限です。「社会言語学」も履修すると、さらに広い言語観を身につけることができるようになります。

【Outline and objectives】

This course deals with human communication with politeness on focus. Students are expected to find problems regarding their own everyday communication.

LIN200BD

英語・言語学講義 B

石川 潔

授業コード：A2809 | 曜日・時限：水曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】

現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的なネタを取り上げた zoom 講義、および、zoom のチャット機能を利用した訳や作文の実習。

訳や作文に授業時にコメントを加え、かつ、リアクションペーパーへのコメントを返す予定です。

なお、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	巷の日本語論の嘘（その 1）	うなぎ文（その 1）：翻訳とは何か、日本語の主語について
第 2 回	巷の日本語論の嘘（その 2）	うなぎ文（その 2）：奥津説、菅井説
第 3 回	「訳」についての誤解（その 1）	代名詞と役割語
第 4 回	「訳」についての誤解（その 2）	意味と文法的手段
第 5 回	文化と思考と言語	概念の切り取り方の文化／言語ごとの違い
第 6 回	ハとガ、英語の冠詞（その 1）	情報の新旧説……英語の冠詞
第 7 回	ハとガ、英語の冠詞（その 2）	情報の新旧説……日本語の助詞
第 8 回	「黒人」英語（その 1）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第 9 回	「黒人」英語（その 2）	無意識の規則
第 10 回	「黒人」英語（その 3）	必要な（意味論的）概念の整備
第 11 回	「黒人」英語（その 4）	細かい意味的な区別
第 12 回	強形・弱形・再強勢形	do の 3 単現（その 1）
第 13 回	音節量	do の 3 単現（その 2）
第 14 回	外来語での音節量調整	do の 3 単現（その 3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えてきてください。

また、授業で学んだ方法論を身近な他の問題に応用して考えてみてください。

なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、授業内オンライン試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

（シラバス執筆段階での結果に基づいています。）

ハンドアウトへの書き込みが必要と思われる回については、通常の LaTeX + pdf という形でなく Word の形にしましたが、毎回は Word にしてほしいという声がありました。pdf でも実は書き込みは可能ですし、Word だとハンドアウトは大変作りにくいのですが、内容と照らし合わせつつ、Word に出来るものは Word にすることも考えます。

また、テスト／アンケートが不定期になってしまったことは、ご指摘を受けるまでもなく、自分でもまさかだったと思っていましたが、急遽の代打の講義が入るという特殊な状況だったためであり、今年度はそんな事態にはならないと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておく（または、自分が普段アクセスするアドレスへの自動転送を法政 gmail で設定しておく）こと。

【Outline and objectives】

Various "lessons" from linguistics presumably useful for foreign language learning.

LIN200BD

社会言語学

塩田 雄大

授業コード：A2810 | 曜日・時限：木曜 1 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。後者が、当講義で扱う「社会言語学」と呼ばれる分野である。

社会言語学が取り扱うテーマは多岐にわたるが（ことばの使われ方の多様性／言語の変化／「ことばの乱れ」意識／ことばの地域差／コミュニケーション／アイデンティティ／言語・方言どうしの接触／言語政策／…）、講義ではこれらを射程に入れつつ、今年度は特に「方言・ことばの地域差」の観点から考察を進める。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」のことばの使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。（履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある）

【到達目標】

社会言語学的・方言学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講師による講義形式のものだけではなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の公開を積極的におこなう。また、スマホ・タブレット・PCを用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じて行う予定。

対面講義を想定しているが、状況により判断する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全般の説明
第 2 回	方言の区画・東西対立	西と東で異なることば ほか
第 3 回	周囲論的／逆周囲論的分布・いろいろな分布	「アホ」と「バカ」の分布、「ら抜き」の変化はなぜ遅いのか ほか
第 4 回	地点と年齢差	年齢差の観点から見た方言分布 ほか
第 5 回	発音・アクセント・イントネーションの地域差	「箸を持って橋の端を渡る」のアクセント ほか
第 6 回	アスペクト・条件表現・オノマトペの地域差	「この講義を受ければ／受けると／受けたら」の地域差 ほか
第 7 回	あいさつ・話の進め方の地域差	買い物をしたら何と言って店を出るのか ほか
第 8 回	コミュニケーション意識・待遇表現・昔話の地域差	会話においてボケとツッコミは大切か ほか
第 9 回	共通語化・方言と共通語の使い分け	方言は共通語化したのか ほか
第 10 回	伝統方言・中間方言・新方言、近年の地域差	新たに生まれてくる方言 ほか
第 11 回	社会と方言、地域資源としての方言、方言研究の社会的意義	「方言がコンプレックス」から「方言ってかわいい」へ ほか
第 12 回	言語意識、バーチャル方言、方言ステレオタイプ、方言コスプレ	アニメのキャラクターがなぜ方言を話すのか ほか
第 13 回	レポート検討	各自のレポートについて検討する。
第 14 回	まとめ	講義の総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の事前準備（テキスト該当箇所の要約および批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間（標準的には4時間以上）が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト（教科書）】

『方言学入門』（木部暢子ほか編著、三省堂、2013 年、1,800 円＋税）

https://www.sanseido-publ.co.jp/publ/gen/gen2lang/hogengak_prm/

履修者は必ず購入のうえ毎回持参すること。

【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後に三千円以上の損をすることになる。

- (1) 『はじめて学ぶ方言学』（井上史雄ほか 編著、ミネルヴァ書房、2016 年、2,800 円＋税）
- (2) 『日本語は「空気」が決める』（石黒圭、光文社新書、2013 年、840 円＋税）
- (3) 『朝倉日英対照言語学シリーズ〔発展編〕1 社会言語学』（井上逸平編著、朝倉書店、2017 年、3,200 円＋税）
- (4) 『新・方言学を学ぶ人のために』（徳川宗賢ほか編、世界思想社、1991 年、1,893 円＋税）

【成績評価の方法と基準】

・毎回の事前準備課題 30 %

・最終レポート 70 %

いずれも、「分量」よりも「内容の質」を重視する。

課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したもの、不可となる。

【学生の意見等からの気づき】

前年度も優秀な学生が多く、共に学ぶことができた。引き続き努力を怠らないうようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。

【その他の重要事項】

質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上にて随時受け付ける。本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。ただし毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まっただけで知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline and objectives】

To study linguistics, there are two kinds of viewpoint, one is to clarify the structure of "the language itself", and the another one is to research "how the language is used in the real context of society". The latter one is called "sociolinguistics" which will be dealt in this lecture.

The themes dealt on sociolinguistics are diverse (ex. diversity of language usage / language change / consciousness of "language disturbance" / regional dialect / communication / identity / language contact / language policy / ...). In this lecture, these topics will be put in range, while the themes of "regional variation in recent years" should be discussed with greater emphasis in this term.

LIN200BD

応用言語学

川崎 貴子

授業コード：A2811 | 曜日・時限：金曜 4 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Applied Linguistics の分野の中でも Language Acquisition の理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学びます。

【到達目標】

こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の内容説明
第 2 回	言語知識	子供と大人の言語知識
第 3 回	第一言語習得 1	子供の言語習得
第 4 回	第一言語習得 2	入力の問題点・生得性
第 5 回	第一言語習得 3	臨界期仮説
第 6 回	第一言語習得 4	第一言語習得の研究
第 7 回	言語教育～言語習得	第二言語習得の歴史
第 8 回	第二言語習得 1	第二言語習得における入力問題
第 9 回	第二言語習得 2	L1 と L2 の相違点
第 10 回	第二言語習得 3	言語差と難易度
第 11 回	SLA 研究	実験方法の変遷
第 12 回	SLA 理論 1	パラメタと有標性
第 13 回	SLA 理論 2	パラメタの習得
第 14 回	SLA 理論 3	SLA 理論の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は必要ありませんが、授業の復習を行う必要があります。また宿題も課されます。指示された映像課題をノートを取りながら見ること、宿題の解答を頭の中で考えるだけではなく書いてまとめることが求められます。これらの宿題も試験の範囲に含まれます。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。PDF ファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】

参考文献は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験を 100 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

言語習得の分野の奥深さを知っていただいたこと、研究の手法などにも興味を持っていたことが良かったと思います。

【学生が準備すべき機器他】

連絡、資料の追加配布などに、学習支援システムを使用します。

【Outline and objectives】

Among various fields of applied linguistics, this course mainly concentrates on theoretical aspects of first and second language acquisition.

LIT200BD

比較文学 A

柳橋 大輔

授業コード：A2824 | 曜日・時限：木曜 5 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語文化圏を拠点としながら、英米語文化圏や日本語文化圏との相互的越境について考えます。ある文化的・社会的・歴史的文脈において生み出された文化的産物が別の文脈に移しかえられるとき、どのような変異が生じるのでしょうか。この問いについて、主に児童文学や青少年向け映画作品を手掛かりに考察していきます。

【到達目標】

ドイツ語圏文化が英米語圏・日本語圏においてどのように受容されてきたか、具体的に理解し述べるができる。
「文化的越境」について、ドイツ語圏文化からの具体例をもとに概略的に説明することができる。
文化的事象のうちにひそむ歴史的・社会的コンテクストに対する鋭敏な感覚と、これまで自明視してきた文化的環境を相対化する柔軟な思考力を養う。
ドイツ語圏の文学・文化・映画やその歴史に関心をもち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的越境についてお話しします（講義形式）。なお、場合によってはその途中で受講生のみなさんに質問を投げかけ、必要があればさらに説明を行ないます（演習形式）。文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の概要と紹介
第 2 回	グリム兄弟とディズニー（1）	19 世紀のメルヒェンから 20 世紀のスクリーンへ： 『白雪姫』『シンデレラ』
第 3 回	グリム兄弟とディズニー（2）	ディズニー・プリンセスの変容： 『いばら姫』と『眠れる森の美女』、『野いちご』と『ラプンツェル』のあいだ
第 4 回	ディズニーとドイツ—〈危険な関係〉？（1）	ナチス高官もユダヤ系知識人もミッキーマウスに夢中！
第 5 回	ディズニーとドイツ—〈危険な関係〉？（2）	ドナルドは武器をとる——ディズニーと対独プロパガンダ
第 6 回	バンビ：ゲルマンの森から聖林（ハリウッド）へ（1）	狩猟家が描く森の物語？——フェーリクス・ザルテン『バンビ』とディズニー映画
第 7 回	バンビ：ゲルマンの森から聖林（ハリウッド）へ（2）	〈人間〉という脅威——小説／映画『バンビ』と環境批評
第 8 回	ハイジは誰のもの？——スイス、アメリカ、日本（1）	シュピリ『ハイジ』：〈自然〉と〈文明〉を往還する修業時代

第 9 回	ハイジは誰のもの？ ——スイス、アメリカ、日本（2）	世界を循環する〈ハイジ〉——ハリウッド映画と日本アニメ
第 10 回	ハリウッドという「ファンタジーエン」？ ——『はてしない物語』と『ネバーエンディングストーリー』のあいだ（1）	エンデ『はてしない物語』とファンタジーの権利
第 11 回	ハリウッドという「ファンタジーエン」？ ——『はてしない物語』と『ネバーエンディングストーリー』のあいだ（2）	『ネバーエンディングストーリー』とハリウッドの論理
第 12 回	手塚治虫とドイツ——ファウスト、ヒトラー、メトロポリス（1）	メフィストーフェレスは手塚を三度訪れる、あるいは転生するファウスト
第 13 回	手塚治虫とドイツ——ファウスト、ヒトラー、メトロポリス（2）	ドイツ生まれのATOM？ ——〈ドイツ〉から読む手塚作品
第 14 回	越境するドイツ語圏文化	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、それぞれ約2時間を標準とします。授業であつた文学作品については該当する箇所を日本語（場合によっては英語）で配布するので、事前に目を通していただきます。授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひDVD レンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60 %
学期末レポート：40 %（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、念のためPCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。
授業の進度により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

In this course, we will consider the cross-border relations between the German-speaking world and the Anglo-American and Japanese-speaking world. What kind of mutations occur when cultural products produced in one cultural, social, or historical context are transferred to another? We will examine this question using mainly children's literature and films for young people as a guide.

LIT200BD

比較文学B

柳橋 大輔

授業コード：A2825 | 曜日・時限：木曜 5 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代のドイツ文化史において「ヴァイマル共和国」期（1918-1933年）はひとつの黄金時代だったといえます。とりわけこの時代に製作された映画作品は、先行する文学史に影響を受けながら、名高い光と影の美学や特徴的なモチーフとともに、世界中で熱狂的に受容されました。ヴァイマル映画のヨーロッパ諸国やアメリカ、日本などにおける受容について、文学や映画など映像作品を手掛かりに分析します。

【到達目標】

ドイツ語圏文化が英米語圏・日本語圏においてどのように受容されてきたか、具体的に理解し述べるができる。
「文化的越境」について、ドイツ語圏文化からの具体例をもとに概略的に説明することができる。
文化的事象のうちにひそむ歴史的・社会的コンテクストに対する鋭敏な感覚と、これまで自明視してきた文化的環境を相対化する柔軟な思考力を養う。
ドイツ語圏の文学・文化・映画やその歴史に関心をもち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的越境についてお話しします（講義形式）。なお、場合によってはその途中で受講生のみなさんに質問を投げかけ、必要があればさらに説明を行ないます（演習形式）。文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の概要と紹介
第 2 回	『ファウスト』は越境する（1）	ゲーテ『ファウスト』と ムルナウによるその映画化
第 3 回	『ファウスト』は越境する（2）	スクリーンで変身するファウスト——クレール、黒澤、ソクーロフ
第 4 回	〈人造人間〉の系譜（1）	巨大ロボットは魂をもつか？——『巨人ゴーレム』、そして『鉄人 28 号』『エヴァンゲリオン』
第 5 回	〈人造人間〉の系譜（2）	人造人間は〈友〉？ それとも〈敵〉？——『メトロポリス』、そして『鉄腕アトム』『ドラえもん』
第 6 回	〈切断〉される身体——アンピュテーション／プロテーゼ（1）	第一次世界大戦と〈身体〉——表現主義絵画（ディックス、キルヒナー）とフリッツ・ラング
第 7 回	〈切断〉される身体——アンピュテーション／プロテーゼ（2）	抹消は中枢を支配する？——『芸術と手術』、シュルレアリスム、ベンヤミン、川端
第 8 回	〈吸血鬼〉——境界侵犯の主題と変奏（1）	疫病、戦争、ユダヤ人——ストーリー『ドラキュラ』とムルナウ『吸血鬼ノスフェラトゥ』

第 9 回	〈吸血鬼〉——境界侵犯の主題と変奏（2）	〈吸血鬼〉は生き続ける？——ムルナウと『シャドウ・オブ・ヴァンパイア』
第 10 回	〈影の美学〉——ドイツからの輸入品（1）	亡命する「ドイツ表現主義映画」——ハリウッドのドイツ人たち
第 11 回	〈影の美学〉——ドイツからの輸入品（2）	ジャンルを越境する「ドイツ表現主義映画」——フィルム・ノワールと SF 映画
第 12 回	〈影の美学〉——ドイツからの輸入品（3）	「ドイツ表現主義映画」と日本——『狂った一頁』と谷崎『陰影礼讃』
第 13 回	映画の日独同盟——『新しき土』	ドイツ人監督は〈日本回帰〉を演出する
第 14 回	変位／変異するイメージ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、それぞれ約 2 時間を標準とします。授業であつかう文学作品については該当する箇所を日本語（場合によっては英語）で配布するので、事前に目を通しておいください。授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひ DVD レンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60 %
学期末レポート：40 %（提出しない場合は単位の認定ができません）——なお、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、念のため PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をととした履修を推奨します。

授業の進度により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

The Weimar Republic (1918-33) was a golden age in modern German cultural history. In particular, the films produced during this period were enthusiastically received around the world with their characteristic aesthetics and motifs. In this course, we will analyze the reception of Weimar films in European countries, the U.S., and Japan, using literature and visual works as clues.

LIN200BD

英語史 A

福元 広二

授業コード：A2901 | 曜日・時限：火曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約 1500 年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】

英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所に関しても説明します。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の紹介
第 2 回	英語外面史	英語外面史の概観
第 3 回	英語外面史と地名	英語外面史と地名との関係
第 4 回	世界語としての英語	世界における英語の分布
第 5 回	インド・ヨーロッパ祖語	インド・ヨーロッパ祖語とゲルマン語族
第 6 回	古英語の時代背景	古英語期における社会的・文化的時代背景
第 7 回	古英語の名詞	古英語における名詞の性・数・格
第 8 回	古英語の形容詞・副詞・代名詞	古英語における形容詞・副詞・代名詞の語形変化
第 9 回	古英語の動詞活用	古英語の強変化動詞と弱変化動詞の活用
第 10 回	古英語の語順・否定	古英語における語順、否定、その他
第 11 回	古英語の作品講読	古英語の代表的な作品を講読する
第 12 回	中英語の時代背景	中英語期における社会的・文化的時代背景
第 13 回	中英語の名詞・形容詞	中英語における名詞と形容詞の語形変化
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中尾俊夫・寺島廸子『図説 英語史入門』大修館書店

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価については、期末試験と平常点を総合して評価します。

期末試験 70% 平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、秋学期に開講される「英語史 B」と合わせて履修することをお勧めします。

【Outline and objectives】

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

LIN200BD

英語史 B

福元 広二

授業コード：A2902 | 曜日・時限：火曜 4 限

秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約 1500 年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】

- ・英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
- ・現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所に関しても説明します。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の復習と秋学期で扱うテーマの紹介
第 2 回	中英語の動詞	中英語における動詞活用
第 3 回	中英語の文法	中英語に特徴的な文法
第 4 回	中英語の語彙	中英語期における借入語
第 5 回	中英語の作品講読	中英語の代表的な作家である Chaucer の作品講読
第 6 回	初期近代英語の時代背景	初期近代英語期における社会的・文化的時代背景
第 7 回	初期近代英語の文法	初期近代英語期に特徴的な文法
第 8 回	初期近代英語の語彙	初期近代英語期における借入語
第 9 回	初期近代英語の作品講読	初期近代英語の代表的な作家である Shakespeare の作品講読
第 10 回	後期近代英語の時代背景	後期近代英語期における社会的・文化的時代背景と英文法書・辞書の発達
第 11 回	後期近代英語の文法	後期近代英語期に特徴的な文法
第 12 回	アメリカ英語の成立	アメリカ英語の成立と語彙の特徴
第 13 回	現代英語の変化	現在進行中である英語の文法的変化
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中尾俊夫・寺島廸子 『図説 英語史入門』大修館書店

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価については、期末試験と平常点を総合して評価します。

期末試験 70% 平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、春学期に開講される「英語史 A」と合わせて履修することをお勧めします。

【Outline and objectives】

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

LIT200BD

英文学史 A

丹治 愛

授業コード：A2903 | 曜日・時限：金曜 2 限

春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イングランド統一、ノルマン人による征服、百年戦争、宗教改革（英国国教会の成立）、海洋国家としての台頭、ピューリタン革命、議会制度の確立、農業革命と産業革命、連合王国の形成といった歴史的事件を背景にして、古英語の時代（中世前期）から 19 世紀初頭までのイギリス文学の歴史を駆け足でたどるが、そのなかで、とくにイングランドのナショナル・アイデンティティとの関連性をもつ作品を優先的に読んでいく。そのことをとおして、文学が全体的な歴史の動向とどのように関連しあい、そしてその作品が生み出された時代のナショナル・アイデンティティをどのように反映しているかを見ていく。

【到達目標】

・イギリス文学史を、イギリス史の大きな動向と関連づけながら概観できる。
・そのことをとおして、イギリス（イングランド）の国家像（ナショナル・アイデンティティ）がどのように形成され変容してきたかを述べることができる。
・文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、中世前期—— <i>Beowulf</i>	古代から中世前期までの歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 2 回	中世後期—— Chaucer, <i>The Canterbury Tales</i> ; Malory, <i>Le Morte d'Arthur</i> ; Langland, <i>Piers Plowman</i>	中世後期の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 3 回	ルネサンス（物語）—— More, <i>Utopia</i>	ルネサンスの歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学（物語）的状況を学習する。
第 4 回	ルネサンス（詩）—— Spenser, <i>The Faerie Queene</i> ; Shakespeare: <i>The Sonnets</i>	ルネサンスの言語的・文化的・文学（詩）的状況を学習する。
第 5 回	Shakespeare 映画を見て、ディスカッション	Shakespeare 映画のひとつを見て、その内容について議論する。
第 6 回	ルネサンス（劇）—— Shakespeare, <i>Richard II</i> ; <i>King Lear</i> ; <i>As You Like It</i>	ルネサンスの言語的・文化的・文学（劇）的状況を学習する。
第 7 回	17 世紀—— Bunyan, <i>Pilgrim's Progress</i> ; Milton, <i>Paradise Lost</i> ; <i>Paradise Regained</i>	17 世紀の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 8 回	18 世紀前半（小説）—— Defoe, <i>Robinson Crusoe</i>	18 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 9 回	18 世紀後半（詩）—— Wordsworth & Coleridge, <i>Lyrical Ballads</i>	18 世紀後半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 10 回	19 世紀前半（詩）—— Blake, Milton, Wordsworth, <i>The Prelude</i>	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学（詩）的状況を学習する。
第 11 回	Austen 映画を見て、ディスカッション	Austen, <i>Sense and Sensibility</i> を見て、その内容について議論する。

第 12 回	19 世紀前半（小説）（1） —— Austen, <i>Sense and Sensibility</i> ; <i>Pride and Prejudice</i> ; <i>Northanger Abbey</i>	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学（小説）的状况を学習する。
第 13 回	19 世紀前半（小説）（2） —— Austen, <i>Emma</i> ; <i>Mansfield Park</i> ; <i>Persuasion</i>	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状况を学習する。
第 14 回	期末試験とまとめ	学期全体をとおして学習したことを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料。

Shakespeare の作品ひとつと Austen の作品ひとつ。

【参考書】

教科書以外で、授業であつかうことになる作品。

Patrick Parrinder, *Nation and Novel: The English Novel from Its Origins to the Present Day* (Oxford UP)

【成績評価の方法と基準】

1. イギリスの歴史を概観できること。
 2. それとの関連で文学作品の特徴を説明できること。
- リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点 50 %
期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけアクティブラーニング的な要素を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

質問は授業中に積極的におこなってください。

【Outline and objectives】

This lecture treats the history of English and British literature from the era of the Old English (the early Medieval period) to the early 19th century, with the background of such historical incidents as the Unification of England, the Norman Conquest, the Hundred Years' War, the English Reformation (the Establishment of the Church of England), the Rise as a Maritime State, the English Revolution, the Formation of the Parliamentary System, the Agricultural Revolution and the Industrial Revolution, the Formation of the United Kingdom. In particular, this lecture selects works having relevance to the English national identity, and in doing so, explains how literature relates to the overall historical trends and how a literary work reflects the national identity of the era when it was created.

LIT200BD

英文学史 B

丹治 愛

授業コード：A2904 | 曜日・時限：金曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業革命の結果としての急激な都市化、それと反比例する農村の衰退、帝国主義的展開と植民地の拡大、国民退化論の流行、二つの世界大戦、福祉国家への転換、英国病の蔓延とサッチャリズムといった歴史的事件を背景にして、19 世紀から 20 世紀後半までのイギリス文学の歴史をたどるが、そのなかで、とくにイングランドのナショナル・アイデンティティとの関連性をもつ作品を優先的に読んでいく。そのことをとおして、文学が全体的な歴史の動向とどのように関連しあい、そしてその作品が生み出された時代のナショナル・アイデンティティをどのように反映しているかを見ていく。

【到達目標】

- ・イギリス文学史を、イギリス史の大きな動向と関連づけながら概観できる。
- ・そのことをとおして、イギリス（イングランド）の国家像（ナショナル・アイデンティティ）がどのように形成され変容してきたかを述べることができる。
- ・文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（19 世紀初頭までの流れ）	19 世紀初頭までの英文学史の流れを、ナショナル・アイデンティティと関連させながら概観する。
第 2 回	19 世紀前半—— Dickens, <i>Oliver Twist</i> , Brontë, <i>Wuthering Heights</i>	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状况を学習する。
第 3 回	19 世紀なかば（小説）—— Gaskell, <i>North and South</i> ; Eliot, <i>Adam Bede</i>	19 世紀なかばの歴史的出来事とともに、文化的・文学（小説）的状况を学習する。
第 4 回	19 世紀なかば（詩）—— Tennyson, "In Memoriam"; Arnold, "Dover Beach"	19 世紀なかばの歴史的出来事とともに、文化的・文学（詩）的状况を学習する。
第 5 回	19 世紀末—— Hardy, <i>Tess of the D'Urbervilles</i> ; Morris, <i>News from Nowhere</i>	19 世紀末の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状况を学習する。
第 6 回	20 世紀前半（1）—— Gissing, <i>The Private Papers of Henry Ryecroft</i>	1900 年代の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状况を学習する。
第 7 回	映画 <i>Howards End</i> を見てディスカッション	映画 <i>Howards End</i> を見て、その内容について議論する。
第 8 回	20 世紀前半（2）—— Forster, <i>Howards End</i> ; Maurice	1910 年代の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状况を学習する。
第 9 回	20 世紀前半（3）—— Woolf, <i>Mrs Dalloway</i> ; <i>Between the Acts</i>	戦間期の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状况を学習する。
第 10 回	20 世紀前半（4）—— Country House Novels	いくつかのカントリーハウス・ノヴェルをとりあげながら、カントリーハウスの文化史をたどる。
第 11 回	20 世紀後半（1）—— Osborne, <i>Look Back in Anger</i> ; Sillitoe, "The Loneliness of the Long-Distance Runner"	第二次大戦後の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状况を学習する。
第 12 回	映画 <i>The Remains of the Day</i> を見て、ディスカッション	映画 <i>The Remains of the Day</i> を見て、その内容について議論する。

第 13 回	20 世紀後半 (2) ——— Ishiguro, <i>The Remains of the Day</i>	20 世紀後半の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 14 回	期末試験とまとめ	学期全体をとおして学習したことを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料。

授業であつかう作品のうち 2 つ。

【参考書】

教科書以外で、授業であつかうことになる作品。

Patrick Parrinder, *Nation and Novel: The English Novel from Its Origins to the Present Day* (Oxford UP)

【成績評価の方法と基準】

1. イギリスの歴史を概観できること。
 2. それとの関連で文学作品の特徴を説明できること。
- リアクションペーパーと中間レポートなどの平常点 50 %
期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけアクティブラーニング的な要素を増やしていきたい。

【Outline and objectives】

This lecture follows the history of English and British literature from the 19th century to the latter half of the 20th century, with the background of such historical incidents as the rapid urbanization as a result of the Industrial Revolution, the decline of rural areas inversely proportional to it, the development of imperialism and the expansion of colonies, the spread of the national degeneration theory, the outburst of two World Wars, the formation of a welfare state, the diffusion of the British disease and the appearance of Thatcherism as the reaction to it. This lecture selects works with relevance to the national identity of England, and in doing so, explains how literature relates to the overall historical trends and how a literary work reflects the national identity of the era when it was created.

LIT200BD

米文学史 A

宮川 雅

授業コード：A2905 | 曜日・時限：月曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカンネス」とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

春学期 A は、植民地時代の文学から 19 世紀中葉の南北戦争前までのアメリカ文学の歴史を、ピューリタニズムという宗教問題、黒人やネイティブ・アメリカンであらわになる人種問題、産業革命と近代的自我の不安の問題、人間中心主義問題などとアメリカ作家・文学との関連を考えながら、たどる。

目的は、

- (1) アメリカ文学の流れをたどり、その特質を考えることと、
 - (2) 積極的に作品を読み文学テキストに触れること、
- により、アメリカ文学の歴史的なパースペクティブを得ることである。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語る。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに取り扱われるのか、どんなふうに関心があるのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

前期の A では 17 世紀初頭の植民地時代から南北戦争のころまでを扱う予定。

講義。ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。

昨年度は、コロナ禍とは無関係なプランとして、(1) ボルヘスの文学史を教科書とし (4) けっきょく電子化して英語原書 + 注釈書を配布)、(2) レポートは 1 作品のみとしたのですが、今年は (1) なんでもいいから米文学史の本を各自 1 冊読むこと、(2) レポートは 3 作品、3 本とすること、に改めます。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	移民の国アメリカ	イントロダクション：アメリカという国の性格について。
第 2 回	植民地時代の文学 I	ピューリタニズムとタイポロジカルな想像力。
第 3 回	植民地時代の文学 II	エレジーと名前の重要性。
第 4 回	ベンジャミン・フランクリンの自伝	アメリカの宗教と理論 (Deism) について。プロテスタンティズムと資本主義の精神。自伝とフィクション。
第 5 回	チャールズ・ブロックデン・ブラウンとアメリカン・ゴシックの伝統	ノヴェル対ロマンス。ゴシック・ロマンス。
第 6 回	ジェイムズ・フェニモア・クーパー	"Leather-Stocking Tales" とウェスタン英雄像。フロンティアと文学的想像力。
第 7 回	ワシントン・アーヴィング	ゴシックの変容とアメリカ的ユーモア。アメリカの短篇小説。
第 8 回	エマソンとアメリカ超絶主義	アメリカ的ロマン主義と自己信頼。ローとホイットマン。
第 9 回	エドガー・アラン・ポー	ロマン主義とゴシック。ゴシックの多様性。芸術至上主義と象徴主義。
第 10 回	ホーソーとロマンス	ホーソーの小説論。ノヴェル対ロマンス (2)。
第 11 回	メルヴィルの小説	小説の極限について。長篇・短篇・詩。

第 12 回	感傷小説の伝統	大衆小説、高級小説。プロット、ストーリー、キャラクター。女性読者・女性作家・男性作家。
第 13 回	ホイットマンとディキンソン	詩の独自性と現代詩へのつながり。アメリカ詩の伝統。
第 14 回	南北戦争その他	19 世紀の文化と社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を必ず一冊読むこと（試験において確認する）。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】

現在日本人の書いた最も充実した米文学史の本は、渡辺利雄の『講義 アメリカ文学史 [全 4 巻]』（研究社、2007、2010）であろう。文学的洞察としてより（興味）深いのは小説家でもある平石貴樹の『アメリカ文学史』（松柏社、2010）。英語で書かれたもので、すぐれたものは、やや古いが、英国の学者による Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books) だと思う。米国内の多文化主義的な文学史の見直しの流れを受けとめたうえで詳細なのは Emory Elliott の *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988) 1263pp. である。おそらく最も短くて文学趣味的なのはアルゼンチンの作家ボルヘスの文学史講義をもとにした *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974) 95pp. である（柴田元幸の翻訳が出ている）。

さまざまな主題からの文学史的な本は、授業で折に触れて紹介する。古典的研究書を 2 冊だけ前もってあげておくなら、正統キリスト教の視点から書かれた、ホーソン学者 Randall Stewart の、*American Literature and Christian Doctrine* (1958)（邦訳『アメリカ文学とキリスト教』）、アメリカ小説をハイブリッドなロマンス＝ノヴェルとした Richard Chase の、*The American Novel and Its Tradition* (1958)（邦訳『アメリカ小説とその伝統』）。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20 %）、(2) 3 作品を読んだレポート（40 %）、(3) 期末試験（40 %）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

むづかしくなりすぎないようにやさしく語ること。やさしくなりすぎないように論理を構築すること。

【その他の重要事項】

後期（秋学期）の「米文学史 B」との継続履修が望ましい。

【Outline and objectives】

This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."

LIT200BD

米文学史 B

宮川 雅

授業コード：A2906 | 曜日・時限：月曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカンネス」（ナショナル・アイデンティティーとかかわるもの）とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

秋学期 B は、南北戦争を契機にヨーロッパに遅れて起こるリアリズムの運動を、自然主義やフェミニズムや社会の変化と関連付けながら理解し、その後 20 世紀前半のモダニズムや後半のカウンターカルチャーを経て、あらためて 1960 年代以降から今日までの非リアリズム的な文学に至る大きな変化を考える。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語れる。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、講義形式で歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに読み取れるのか、どんなふうにむづかしいのか、おもしろいのか、などを解説していききたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

後期の B では南北戦争から現代までを扱う予定。
ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。

昨年度は、コロナ禍とは無関係なプランとして、(1) ボルヘスの文学史を教科書とし（けっきょく電子化して英語原書＋注釈書を配布）、(2) レポートは 1 作品のみとしたのですが、今年は（1）なんでもいいから米文学史の本を各自 1 冊読むこと、（2）レポートは 3 作品、3 本とすること、に改めます。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かせます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	南北戦争とアメリカ文学のリアリズム	ジャーナリズムと文学の文体。
第 2 回	ルイーザ・メイ・オルコットの家小説と少女小説とスリラー	女性小説の伝統。
第 3 回	サミュエル・クレメンズ（マーク・トウェイン）と語りのスタイル	American vernacular について。
第 4 回	ヘンリー・ジェイムズと幽霊	視点（point of view）の問題。
第 5 回	フランク・ノリス、ステイヴン・クレイン、セオドア・ドライサー	アメリカの自然主義文学。
第 6 回	アメリカ文学の世紀末	エコロジー、神秘主義、神秘学。
第 7 回	アーネスト・ヘミングウェイ、スコット・フィッツジェラルド、ウィリアム・フォークナー	ロスト・ジェネレーションの文学。
第 8 回	S F と探偵小説	小説のジャンル、ジャンルの分化の問題。
第 9 回	T・S・エリオット、エズラ・パウンド、ガートルード・スタイン	アメリカの現代詩。
第 10 回	ジャック・ケルアック、アレン・ギンズバーグ、ゲアリー・スナイダー	ビート・ジェネレーションの文学。

第 11 回	カウンター・カルチャーとアメリカ文学	カルト的なものも含めてアメリカ文化・文学の特性をあらためて考える。
第 12 回	トマス・ピンチョンとジョン・バース	ポスト=モダンな意識とは何か。
第 13 回	アメリカン・ドラマ	演劇とミュージカル。
第 14 回	同時代作家たち	アメリカ文学の現在。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を一冊読むこと。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】

渡辺利雄『講義 アメリカ文学史 [全 4 巻]』（研究社、2007、2010）
平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010）
Marcus Cunliffe, *Literature of the Unites States* (1964; rpt. Pelican Books)
Emory Elliott, *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988)
Jorge Luis Borges, *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974)

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20 %）、(2) 作品 3 冊を読んだレポート（40 %）、(3) 期末試験（40 %）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいけば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

やさしさを心がける。

【その他の重要事項】

前期（春学期）の「米文学史 A」との継続履修が望ましい。

【Outline and objectives】

This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."

LIT200BD

英米文学講義 I A

宮川 雅

授業コード：A2907 | 曜日・時限：金曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
- (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
- (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景の知識を得ている。
- (4) 英文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。リアクション・ペーパーを提出してもらう。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	英語文学とは何か	導入。地理と歴史、空間と時間。
第 2 回	英語史と英米文学	言葉とスタイルの変容。
第 3 回	映画と文学（1）	映画を観る。
第 4 回	映画と文学（2）	映画を読む。
第 5 回	小説とは何か	歴史的・構造的考察。
第 6 回	ノヴェルとロマンス	イギリス文学の特性。
第 7 回	ノヴェルとロマンス（2）	アメリカ文学の特性。
第 8 回	小説の登場人物について	round character と flat character (E・M・フォースターの『小説の諸相』)
第 9 回	会話と語法について	学校文法のおさらいから。
第 10 回	視点と人物について	全知の視点と腹心の友。
第 11 回	背景の知識について	ゴシック小説と美学。
第 12 回	英語の辞書のはなし（1）	OED その他の標準辞典。
第 13 回	英詩のはなし	英詩の構造、rhyme と meter。
第 14 回	本の蒐集について	本を買う、借りる、閲覧する、ダウンロードする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳ででも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布／学習支援システムの「教材」に蓄積

【参考書】

豊田昌倫『英語のスタイル』（研究社、1981）
豊田昌倫『英語のスタイル——教えるための文体論入門』（研究社、2017）
E. M. Forster, *The Aspects of the Novel* 『小説の諸相』（ダヴィッド社）
英米の文学史（教室でリストを配布する）
その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント
レポート 20 パーセント
期末試験 60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

課題を過大にしない。

【Outline and objectives】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

LIT200BD

英米文学講義 I B

宮川 雅

授業コード：A2908 | 曜日・時限：金曜 4 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
- (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
- (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 英文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。（ときどき、なかば演習スタイルで）作品を読んでリサーチの方法・辞書の引き方を体感する。リアクション・ペーパーを提出する。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	英語の辞書のはなし（2）	俗語、慣用句、方言、引用、その他。
第 2 回	キリスト教と英米文学	聖書、コンコルドランス。
第 3 回	シェークスピアと演劇	エリザベス朝の舞台から大衆演芸まで。
第 4 回	引用について	引用と盗用（剽窃）。引用的想像力。
第 5 回	アメリカの短篇小説を読む（1）	19 世紀アメリカの短篇小説。
第 6 回	注釈について	注釈について。
第 7 回	本文校訂とテキストの問題	textual criticism と “text” の多様な意味について。
第 8 回	Speech/ Narration —— 話法について（2）	とくに描出話法、中間話法、自由間接文体について。
第 9 回	スタイルについて（1）	style のいろいろな意味とさまざまなスタイルについて。
第 10 回	スタイルについて（2）	subordination と coordination
第 11 回	アメリカの短篇小説を読む（2）	20 アメリカの短篇小説。
第 12 回	視点と話法について—— 話法について（3）	作品に即して具体的に考える。
第 13 回	ナラトロジーについて	ジュネットとブース、その他
第 14 回	エンディング	作品の結末と終末。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳でも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布／学習支援システムの「教材」に蓄積。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント

レポート 20 パーセント

期末試験 60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

課題を余裕のあるものとする。

【その他の重要事項】

前期春学期の「英米文学講義 I A」からの継続履修がここから望ましい。

【Outline and objectives】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

LIT200BD

英米文学講義Ⅱ A

丹治 愛

授業コード：A2909 | 曜日・時限：火曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、18 世紀前半から中期ヴィクトリア朝までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、一人称的語りと三人称的語り、リアリズムとゴシックを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】

- ・18 世紀前半のダニエル・デフォーから中期ヴィクトリア朝（1870 年以前）までのイギリス小説の流れを概観できる。
- ・そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを説明できる。
- ・作品の一部を英語で講読することをおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（小説以前の物語）	小説というジャンルに影響をあたえた小説誕生以前の物語形式について学習する。
第 2 回	Defoe, <i>Robinson Crusoe</i>	<i>Robinson Crusoe</i> をテキストにして、ピカレスク小説について学習する。
第 3 回	Swift, <i>Gulliver's Travels</i> と風刺	<i>Gulliver's Travels</i> をテキストにして、風刺文学について学習する。
第 4 回	<i>Gulliver's Travels</i> （映画）	<i>Gulliver's Travels</i> の映画を見て、その内容を議論する。
第 5 回	Richardson, <i>Pamela</i> と書簡体小説	<i>Pamela</i> をテキストにして、書簡体小説について学習する。
第 6 回	Fielding, <i>Joseph Andrews</i> と三人称的語り	<i>Joseph Andrews</i> をテキストにして、一人称小説と三人称小説の違いについて学習する。
第 7 回	Sterne, <i>Tristram Shandy</i> とメタフィクション	<i>Tristram Shandy</i> をテキストにして、メタフィクションについて学習する。
第 8 回	Walpole, <i>The Castle of Otranto</i> とゴシック的伝統	<i>The Castle of Otranto</i> をテキストにしてゴシックについて学習する。
第 9 回	<i>The Castle of Otranto</i> （映画）と Radcliffe, <i>The Italian</i>	<i>The Castle of Otranto</i> の短編映画を見て、ゴシック小説の発展について学習する。
第 10 回	Austen, <i>Northanger Abbey</i> と自由間接話法	<i>Northanger Abbey</i> をテキストにして、自由間接話法について学習する。
第 11 回	<i>Northanger Abbey</i> （映画）	<i>Northanger Abbey</i> の映画を見て、その内容について議論する。
第 12 回	Brontë Sisters, <i>Jane Eyre & Wuthering Heights</i>	<i>Jane Eyre & Wuthering Heights</i> をテキストにして、女性の文学について学習する。
第 13 回	Dickens, <i>Oliver Twist</i>	<i>Oliver Twist</i> をテキストにして、社会小説について学習する。
第 14 回	期末試験とまとめ	授業全体のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料

授業であつかう作品のうち 2 つ

【参考書】

『講座英米文学史 8 小説Ⅰ』『講座英米文学史 9 小説Ⅱ』（大修館）
The Cambridge Companion to the Eighteenth-Century Novel (Cambridge UP)

The Cambridge Companion to the Victorian Novel (Cambridge UP)

【成績評価の方法と基準】

1. イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
2. それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。
リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点 50%
期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

【Outline and objectives】

While reading typical British novels and watching the movies with them as their original, this lecture explains how realism, which is the essential element of the novel, has diversified. This lecture deals with the history of British novels from the first half of the 18th century to the middle Victorian period, and, in doing so, explains how they developed, taking special notice of the contrasts of first person and third person narratives, and realism and Gothicism. We read novels, and watch movies, practically grasp the method for interpreting them, and learn about differences in expression between novels and movies.

LIT200BD

英米文学講義Ⅱ B

丹治 愛

授業コード：A2910 | 曜日・時限：火曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、19 世紀末から 21 世紀初頭までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、リアリズムとゴシック、リアリズムとメタフィクション、モダニズムとポストモダニズムとを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】

・19 世紀末から 21 世紀初頭までのイギリス小説の流れを概観できる。
・そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを説明できる。
・作品の一部を英語で講読することをおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（19 世紀末までの小説の展開）	イントロダクションとして 19 世紀末までの小説の展開を概観する。
第 2 回	映画 <i>Bram Stoker's Dracula</i> を見てディスカッション	映画 <i>Bram Stoker's Dracula</i> を見て、その内容を議論する。
第 3 回	世紀末のゴシック（1）恐怖小説とファンタジー—— <i>Dr Jekyll and Mr Hyde</i> , <i>Dracula</i> , <i>The Princess and the Goblin</i>	<i>Dr Jekyll and Mr Hyde</i> などをテキストにして、恐怖小説とファンタジーについて学習する。
第 4 回	世紀末のゴシック（2）ミステリーと SF—— <i>Sherlock Holmes</i> もの、 <i>The Time Machine</i>	<i>The Time Machine</i> などをテキストにして、ミステリーと SF について学習する。
第 5 回	唯美主義—— <i>The Picture of Dorian Gray</i>	<i>The Picture of Dorian Gray</i> をテキストにして、唯美主義について学習する。
第 6 回	主観的・内的リアリズム—— <i>Heart of Darkness</i> , <i>The Secret Agent</i> , <i>Mrs Dalloway</i>	<i>Heart of Darkness</i> などをテキストにして、主観的・内的リアリズムについて学習する。
第 7 回	芸術家小説—— <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> , <i>Sons and Lovers</i> , <i>To the Lighthouse</i>	<i>To the Lighthouse</i> などをテキストにして、芸術家小説について学習する。
第 8 回	アンチユートピア—— <i>Nineteen Eighty-Four</i>	<i>Nineteen Eighty-Four</i> をテキストにして、アンチユートピアについて学習する。
第 9 回	怒れる若者たち—— "The Loneliness of the Long-Distance Runner"	"The Loneliness of the Long-Distance Runner" をテキストにして 1950 年代の小説について学習する。
第 10 回	ヒストリオグラフィカル・メタフィクション—— <i>The French Lieutenant's Woman</i>	<i>The French Lieutenant's Woman</i> などをテキストにして、ヒストリオグラフィカル・メタフィクションについて学習する。
第 11 回	マジック・リアリズム—— <i>Midnight's Children</i>	<i>Midnight's Children</i> などをテキストにして、マジック・リアリズムについて学習する。

- 第 12 回 映画 *Atonement* を見て ディスカッション 映画 *Atonement* を見て、その内容について議論する。
- 第 13 回 ポストモダン・メタフィクション——*Atonement* *Atonement* をテキストにして、ポストモダン・メタフィクションについて学習する。
- 第 14 回 期末試験とまとめ 全体の授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料 授業であつかう作品のうち 2 つ

【参考書】

『講座英米文学史 9 小説Ⅱ』『講座英米文学史 10 小説Ⅲ』（大修館）
The Cambridge Companion to the Victorian Novel (Cambridge UP)
The Cambridge Companion to the Twentieth-Century Novel (Cambridge UP)

【成績評価の方法と基準】

1. イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
 2. それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。
- リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点 50 %
 期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

【Outline and objectives】

While reading typical British novels and watching the movies with them as their original, this lecture explains how realism, which is the essential element of the novel, has diversified. This lecture deals with the history of British novels from the end of the 19th century to the beginning of the 21st century, and, in doing so, explains how they developed, taking special notice of the contrasts of realism and Gothicism, realism and metafiction, modernism and postmodernism. We read novels, and watch movies, practically grasp the method for interpreting them, and learn about differences in expression between novels and movies.

LIN200BD

英語学講義 A

福元 広二

授業コード：A2911 | 曜日・時限：火曜 2 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語についての、とくに統語構造つまり文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点も紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。適宜、様々な分析アプローチについても紹介します。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。英語力も確実に向上します。又、英語・言語の分析法の代表的なものについてある程度の知識を持つことができるようになります。英語と日本語の違いと共通点が言語構造に基づくものであることを理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、教科書を使って講義形式で行います。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクション・ペーパーも提出してもらいます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については HOPPII で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明
第 2 回	現代英語について	実は知っているようで知らない英語の真実
第 3 回	品詞	学校英文法の見直し
第 4 回	実際の英語	実際に英語の問題を解いてみよう
第 5 回	英語の文型	5 文型の分析
第 6 回	英語における主語	意味上の主語とは何か
第 7 回	代表的な統語構造—その 1	名詞構文
第 8 回	代表的な統語構造—その 2	動名詞
第 9 回	代表的な統語構造—その 3	不定詞
第 10 回	代表的な統語構造—その 4	分詞
第 11 回	英語の動詞（1）	他動詞の特徴
第 12 回	英語の動詞（2）	自動詞の特徴
第 13 回	英語の助動詞	助動詞の性質
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定の構文については、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ていたときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中島平三 (2017) 『斜めからの学校英文法』（開拓社）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験と平常点で、総合的に判断します。(期末試験 60 %、平常点 40 %)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業の構成、内容や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていきます。受講生の理解度に応じて、さらに必要と思われる内容を入れていくこともあります。

【Outline and objectives】

This course deals with the study of the characteristics of English syntax. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures.

LIN200BD

英語学講義 B

福元 広二

授業コード：A2912 | 曜日・時限：火曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語についての、とくに統語構造つまり文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点を紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。適宜、様々な分析アプローチについても紹介します。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになる。英語力の向上も目指す。B の授業では、受講するとさらに代表的な構文について、主要な理論を使った分析方法についての知識を持てるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、ハンドアウトを使いながら講義形式で行います。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については HOPPII で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容について
第 2 回	現代英語の特徴	現代英語の特徴
第 3 回	現代英語の構文	実際に問題を解いてみようー基本的な事実が完璧に理解できているだろうか？
第 4 回	英語の動詞	不定形動詞について
第 5 回	形容詞 + to 不定詞構文	現代英語の形容詞 + to 不定詞構文の多様さ
第 6 回	to 不定詞を使った構文ー (1)	現代英語の to 不定詞を使った構文について、詳しくその性質を分析する。
第 7 回	to 不定詞を使った構文ー (2)	共通の性質を持つ不定詞構文について
第 8 回	動名詞、分詞を使った構文	どこが共通でどこが違うのか
第 9 回	結果構文	結果構文の特徴を理解する。
第 10 回	二重目的語構文	二重目的語構文の特徴を理解する。
第 11 回	There 構文	There 構文の特徴を理解する
第 12 回	英語構文と文法化	英語における文法化の例
第 13 回	文法化	文法化のメカニズムについて
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定の構文については、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中島平三 (2017) 『斜めからの学校英文法』（開拓社）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験と平常点で、総合的に判断します。(期末試験 60 %、平常点 40 %)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、春学期の内容をどの程度理解できているかに応じて柔軟に対応させていきます。

【Outline and objectives】

This course deals with the study of the characteristics of English syntax. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures

LIN200BD

言語学講義 I A／言語と論理 1（言語学講義 I） A

石川 潔

授業コード：A2913,A2326 | 曜日・時限：月曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語と日本語を、主として音声の面から比較します。

【到達目標】

母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

資料配信と zoom 授業を組み合わせる形を予定しています。資料は、オンデマンド教材としても成立するような資料を予定していますので、zoom 授業では、特に口頭説明のリクエストがある部分の解説、リアクションペーパーへの口頭でのフィードバックを行う予定です。学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業全体の説明
第 2 回	鼻音 1	鼻音についての誤解
第 3 回	鼻音 2	母音挿入
第 4 回	母音挿入は防げるか（その 1）	母音の無声化の利用
第 5 回	母音挿入は防げるか（その 2）	「有声」子音の後ろの場合
第 6 回	「有声」と「無声」（その 1）	半濁点、VOT
第 7 回	「有声」と「無声」（その 2）	知覚における VOT の categorical perception
第 8 回	ヤ行、ワ行の発音（その 1）	大まかな捉え方
第 9 回	ヤ行、ワ行の発音（その 2）	より正確な捉え方
第 10 回	音節についての、よくある誤解	子音・母音の結合ではないこと、および強勢の話
第 11 回	英語における強勢	強勢の有無に伴う音の違い
第 12 回	英語のリズム	強弱交替
第 13 回	聞き取り	実習
第 14 回	様々な話	出生前の習得、歌

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ話に基づいて、日本語話者による英語（その他の言語）の誤解を探してみてくださいませ。
また、英語で歌う機会も設けてください（理由は授業を受ければわかる……はず）。
なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて資料配布。

【参考書】

適宜、指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。
公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

（昨年度はアンケートは実施されなかったので、一昨年の結果に基づいて書きます。）
リアクションペーパーへの返信について良い評価をいただきましたが……めっちゃくちゃ時間を取られすぎるので、あのままだを継続するのはちょっと非現実的に思えます。そういうことも考慮し、zoom 授業での返答を行う予定です。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I B」と連続履修すること。

【Outline and objectives】

Comparisons of English and Japanese phonetics.

LIN200BD

言語学講義Ⅰ B／言語と論理Ⅰ（言語学講義Ⅰ）B

石川 潔

授業コード：A2914,A2327 | 曜日・時限：月曜 3 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語と日本語を、意味の面から比較します。また、文理解についての実験研究も少し眺めます。

【到達目標】

- ・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
- ・論理的な分析能力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教材配信と zoom 授業で、二重に説明を行う予定です。また、配信した教材に基づく質問、口頭説明のリクエストを募り、また、リアクションペーパーを書いてもらいます。zoom 授業では、それらに応じる形のフィードバックも行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	時制とアスペクト 1	述語の 2 分類
第 2 回	時制とアスペクト 2	英語の進行形の基本
第 3 回	時制とアスペクト 3	英語の進行形の応用
第 4 回	時制とアスペクト 4	英語に「未来形」ってあるのか？
第 5 回	時制とアスペクト 5	英語の完了形の基本
第 6 回	時制とアスペクト 6	英語の完了形の応用
第 7 回	時制とアスペクト 7	日本語に「現在形・過去形」はない？
第 8 回	時制とアスペクト 8	日本語だって「現在形・過去形」だ！（その 1）
第 9 回	時制とアスペクト 9	日本語だって「現在形・過去形」だ！（その 2）
第 10 回	時制とアスペクト 10	telicity
第 11 回	時制とアスペクト 11	日本語のテンスについての補足
第 12 回	時制とアスペクト 12	従属節の時制の日英比較
第 13 回	時制とアスペクト 13	「～している」の意味（基本編）
第 14 回	文理解	文中における曖昧語の理解の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時制・アスペクトについても授業でカバーしきれない事柄はたくさんあります。授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてください。また、授業で紹介された分析への反例も、日ごろ日本語（や英語）に接していれば見つかるはず。見つけてください。もし学期中に見つかれば、教員に反論してくださいませ（有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしてくれれば、平常点に大幅加算となります）。なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材配信。

【参考書】

教材に記載。

【成績評価の方法と基準】

各回での「テスト／アンケート」（リアクションペーパーも含む）が 100 %。公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス執筆段階で回答者が 1 人のみだったので、解釈が難しいのですが、昨年度、教材配信（＋リアクションペーパーへの答えの配信）のみというのが不足という印象を受けました。なので、今度は、資料配信に上乘せる形で zoom 授業も行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義Ⅰ A」と連続履修すること。

【Outline and objectives】

Comparisons of English and Japanese semantics, as well as a glimpse of experimental studies on sentence processing.

LIN200BD

言語学講義Ⅱ A

伊藤 達也

授業コード：A2915 | 曜日・時限：月曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まよめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	形態論 (1)	形態素の種類
第 3 回	形態論 (2)	派生と語の内部構造
第 4 回	形態論 (3)	造語
第 5 回	統語論 (1)	文の構成素分析
第 6 回	統語論 (2)	句構造規則で文を作る
第 7 回	統語論 (3)	変形規則で文を変える
第 8 回	第 2 回から第 7 回のまとめ	まとめ
第 9 回	意味論	語、句、文の意味
第 10 回	語用論 (1)	協調の原理と会話の公理
第 11 回	語用論 (2)	発話行為、ポライトネス
第 12 回	社会言語学 (1)	地域や人種による言語の変異
第 13 回	社会言語学 (2)	ジェンダーと言語
第 14 回	第 9 回から第 13 回のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。次回扱う資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んできてください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ビー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%) と平常点 (30%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

配布物は完成前にしっかりと目を通して、タイポがないように気をつけます。

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal of this course is to become able to think deeply about language.

LIN200BD

言語学講義Ⅱ B

伊藤 達也

授業コード：A2916 | 曜日・時限：月曜 4 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まともの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	音声学 (1)	母音、子音
第 3 回	音声学 (2)	自然類
第 4 回	音韻論 (1)	弁別素性
第 5 回	音韻論 (2)	音素と異音
第 6 回	音韻論 (3)	音韻規則
第 7 回	音韻論 (4)	強勢
第 8 回	第 2 回から第 7 回のまとめ	まとめ
第 9 回	心理言語学 (1)	子供の言語習得
第 10 回	心理言語学 (2)	構文解析
第 11 回	歴史言語学 (1)	イギリス史、語彙変化
第 12 回	歴史言語学 (2)	音声変化、統語変化、意味変化
第 13 回	歴史言語学 (3)	言語の系統
第 14 回	第 9 回から第 13 回のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。次回扱う資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%) と平常点 (30%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

配布物は完成前にしっかりと目を通して、タイポがないように気をつけます。

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal of this course is to become able to think deeply about language.

LIN100BD

英語音声学 A

川崎 貴子

授業コード：A2917 | 曜日・時限：水曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語・英語の音声的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学びます。

【到達目標】

日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号 (IPA) などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「音声学」とは？	調音・聴覚・音響音声学について
第 2 回	発声・調音 (1)	呼吸、発声・構音
第 3 回	発声・調音 (2)	調音器官
第 4 回	音とシンボル (1)	国際音声記号 (子音)
第 5 回	音とシンボル (2)	国際音声記号 (母音)
第 6 回	音声学の基本概念	音素と異音、相補分布
第 7 回	気音と VOT	音素、VOT と範疇知覚
第 8 回	日本語の音声変化 (1)	サ行・ハ行
第 9 回	本語の音声変化 (2)	母音変化、英語習得への転移
第 10 回	音とまとまり (1)	聞こえ度・音節構造
第 11 回	音とまとまり (2)	英語の音節構造
第 12 回	音とまとまり (3)	音節構造の日英比較
第 13 回	音節構造と音声変化	英語の /l/
第 14 回	まとめ	基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく、書いてまとめることが求められます。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 ...100%

【学生の意見等からの気づき】

一昨年よりの気付きですが、多くの人が初めて学ぶ音声学、熱心に学び、気づきを得てくださった人が多かったようで嬉しく思います。言語学の授業の礎となる授業なので、しっかり基礎を固められるよう、今後も問題を織り交ぜながら進めてまいります。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学 B」と連続履修して下さい。

【Outline and objectives】

This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

LIN100BD

英語音声学 B

川崎 貴子

授業コード：A2918 | 曜日・時限：水曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「英語音声学 A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するのかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。

【到達目標】

この授業では、「英語音声学 A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロソディーについての知識を得ること。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見だし、記述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するのかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	音声学の基礎 (1)	日・英の子音・母音
第 2 回	音声学の基礎 (2)	音節構造・モーラなど
第 3 回	音声規則 (1)	音素・音声変化の記述
第 4 回	音声規則 (2)	英語の音声変化—気音化
第 5 回	音声規則 (3)	英語の音声変化—flapping
第 6 回	モーラと母音	Minimal word と英語の母音
第 7 回	日本語のプロソディー	モーラとアクセント
第 8 回	英語のプロソディー (1)	英語の音節タイプとストレス
第 9 回	英語のプロソディー (2)	英語のストレスルール
第 10 回	借用語と音韻変化	借用過程における変化
第 11 回	日本語のアクセント	アクセントと意味変化
第 12 回	外来語とアクセント	外来語アクセント規則
第 13 回	ESL データ分析	日本語話者による英語発話エラー分析
第 14 回	まとめ	音声規則、モーラ、プロソディーに関する練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業内容の復習をすることがとても重要です。
- また、「英語音声学 A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学 A」の復習を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布いたします。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 ...100%

【学生の意見等からの気づき】

一昨年よりの気付きになりますが、英語音声学 A の基礎知識のもとに発展的な内容を行う授業であるため、楽しめる学生と、難しく感じた学生がいたようですが、諦めず努力した方が多かったようです。授業内での理解の確認に加え、復習の機会をより多く設けるよう心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

この授業の内容は「英語音声学 A」で学ぶ内容を発展させたものとなります。「英語音声学 A」と連続履修して下さい。

【Outline and objectives】

This course further explores English and Japanese phonetics and phonology.

LIN100BD

英語音声学 A

川崎 貴子

授業コード：A2919 | 曜日・時限：木曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語・英語の音声的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学びます。

【到達目標】

日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号（IPA）などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「音声学」とは？	調音・聴覚・音響音声学について
第 2 回	発声・調音 (1)	呼吸, 発声・構音
第 3 回	発声・調音 (2)	調音器官
第 4 回	音とシンボル (1)	国際音声記号（子音）
第 5 回	音とシンボル (2)	国際音声記号（母音）
第 6 回	音声学の基本概念	音素と異音、相補分布
第 7 回	気音と VOT	音素、VOT と範疇知覚
第 8 回	日本語の音声変化 (1)	サ行・ハ行
第 9 回	本語の音声変化 (2)	母音変化、英語習得への転移
第 10 回	音とまとまり (1)	聞こえ度・音節構造
第 11 回	音とまとまり (2)	英語の音節構造
第 12 回	音とまとまり (3)	音節構造の日英比較
第 13 回	音節構造と音声変化	英語の /l/
第 14 回	まとめ	基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく、書いてまとめることが求められます。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 ...100%

【学生の意見等からの気づき】

一昨年よりの気付きですが、多くの人が初めて学ぶ音声学、熱心に学び、気づきを得てくださった人が多かったようで嬉しく思います。言語学の授業の礎となる授業なので、しっかり基礎を固められるよう、今後も問題を織り交ぜながら進めてまいります。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学 B」と連続履修して下さい。

【Outline and objectives】

This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

LIN100BD

英語音声学 B

川崎 貴子

授業コード：A2920 | 曜日・時限：木曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「英語音声学 A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するのかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。

【到達目標】

この授業では、「英語音声学 A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロソディーについての知識を得ること。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見だし、記述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するのかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	音声学の基礎 (1)	日・英の子音・母音
第 2 回	音声学の基礎 (2)	音節構造・モーラなど
第 3 回	音声規則 (1)	音素・音声変化の記述
第 4 回	音声規則 (2)	英語の音声変化—気音化
第 5 回	音声規則 (3)	英語の音声変化—flapping
第 6 回	モーラと母音	Minimal word と英語の母音
第 7 回	日本語のプロソディー	モーラとアクセント
第 8 回	英語のプロソディー (1)	英語の音節タイプとストレス
第 9 回	英語のプロソディー (2)	英語のストレスルール
第 10 回	借用語と音韻変化	借用過程における変化
第 11 回	日本語のアクセント	アクセントと意味変化
第 12 回	外来語とアクセント	外来語アクセント規則
第 13 回	ESL データ分析	日本語話者による英語発話エラー分析
第 14 回	まとめ	音声規則、モーラ、プロソディーに関する練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業内容の復習をすることがとても重要です。
- また、「英語音声学 A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学 A」の復習を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく、書いてまとめることが求められます。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布いたします。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 ...100%

【学生の意見等からの気づき】

一昨年よりの気付きになりますが、英語音声学 A の基礎知識のもとに発展的な内容を行う授業であるため、楽しめる学生と、難しく感じた学生がいたようですが、諦めず努力した方が多かったようです。授業内での理解の確認に加え、復習の機会をより多く設けるよう心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

この授業の内容は「英語音声学 A」で学ぶ内容を発展させたものとなります。「英語音声学 A」と連続履修して下さい。

【Outline and objectives】
This course further explores English and Japanese phonetics and phonology.

LIN200BD

英語・言語学特殊講義 A

小野 綾子

授業コード：A2923 | 曜日・時限：水曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業形態（対面・リモート）は、HOPPII で連絡します。
この授業は、日本語文法の基礎と全体像を学びます。日本語文法について初めから考えたい、あるいは、日本語教師を目指す人にも向いています。日本語学、言語学に関しては、さまざまな見方があります。分野によって、あるいは学者によっても現象の捉え方や品詞分類が異なることがあります。このテキストの内容も多くの見方の中のひとつだと思ってください。そのため、ここで参考書として挙げた本の内容とも異なる記述があります。この授業を通してひとつの見方を知るだけでなく、自分で興味をもち、ぜひ他の本や論集を読んでほしいと思います。そして、何気なく話す日本語がどのようなしくみであるかも考えてみましょう。今後の話し方や文章の書き方も変わってくるかもしれません。レポートに関しては授業の中でお伝えします。

【到達目標】

日本語文法の基礎を学ぶことで、日本語の構造がわかるようになる。日本語での文章作成の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナ禍が去り状況が変われば対面にしたいと思いますが、現在のところ、基本はオンライン授業です。人数によって方法を変えるので、初回は授業前に資料を送ります。HOPPII を見てください。その後の授業は（人数にもよりますが）メールやアクションペーパーで皆さんからの意見も確認しながら進めていきます。世の中がこのような状況なので、しばらくは流動的ですが、3 回目までには安定するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション テキスト 第 1 章その 1 基本文型	導入 基本文型とは何かを知る
第 2 回	第 1 章その 2 格助詞	格助詞を分析する
第 3 回	第 2 章その 1 格成分の主題化	格成分の働きを考え、格成分の主題化について学ぶ
第 4 回	第 2 章その 2 格成分以外の主題化	格成分以外の主題化について
第 5 回	第 3 章その 1 自他の区別	自他の区別の表現について考える
第 6 回	第 3 章その 2 自他の対応による分類	自他の対応による分類について
第 7 回	第 4 章その 1 受身文	受身の表現について考える
第 8 回	第 4 章その 2 使役文とその他のヴォイス	使役文とその他のヴォイスについて役割を考える
第 9 回	第 5 章その 1 テンス	絶対テンスと相対テンスについて
第 10 回	第 5 章その 2 タ形	テンス以外のタ形について
第 11 回	第 6 章その 1 テ形と「いる」「ある」	「～ている」と「～である」について
第 12 回	第 6 章その 2 動詞分類	金田一の動詞分類について
第 13 回	第 7 章 ムード	ムードについて考える
第 14 回	特別編 品詞	品詞の分類について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

それぞれの回のテキストの問題演習をやってもらいます。レポートの課題については、受講生の人数とレベルにあわせて考えます。今のところ、授業の途中で課題を出し、ZOOM でやりとりすることを考えています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。
原沢伊都夫（2018）『考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法』

【参考書】

「日本語」「言語」に関する本は参考になります。考え方は様々です。品詞分類も異なることがありますので、興味のある人は色々なものを読んでみてください。以下、全体を通して参考にできる書籍をあげておきます。
風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健（2007）『言語学 第2版』
渡辺実（2013）『日本語概説』
第7回、第8回の授業で参考になる本
椎名美智（2021）『「させていただく」の語用論 人はなぜ使いたくなるのか』

【成績評価の方法と基準】

レポート 80 %、平常点 20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

質問や意見は、授業後にメールで受けます。基本は個人に返します。もし全体にフィードバックしたほうが良さそうな内容であれば（匿名で）全体と共有させてもらうこともあります。もし全体との共有を望まない場合、そのこともメールでお知らせください。もちろん、個人的な気づきや意見などの場合は、質問者に確認後、全体に共有します。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn about one view of basic Japanese grammar. Students are expected to have an interest in the structure of Japanese.

LIN200BD

英語・言語学特殊講義B

小野 綾子

授業コード：A2924 | 曜日・時限：水曜 3限

秋学期・2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業形態（オンライン・対面）は HOPPII で連絡します。この授業は日本語のしくみに言及しつつ、日本語文章表現を向上させるクラスです。レポートや論文で分かりやすい表現とはどのようなものか、日本語の特徴を伝えながらテキストを進めていきます。テキストはレポートの書き方を中心になっていますが、日本語についての資料情報（参考論文などの情報）を適宜お伝えする予定です。

【到達目標】

日本語の特徴をつかみながら、文章表現の向上を目指します。文章を書くための日本語がどのような仕組みになっているのか、どのように伝えたら効果的であるかを文法的な観点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前にテキストのまとめの資料を送ります。予習や復習が必要な場合もあります。文章の課題やレポートがあります。提出された課題やレポートをどのように直したら分かりやすくなるのか順番を決め ZOOM でやりとりすることになると思いますが、人数や学生のレベルによって方法を変えるかもしれません。最初の数回は資料や課題を送りながら考えますが、3回目までには安定すると思います。人数によっては、最終試験としてプレゼンを行う予定です。プレゼンをする場合、加点とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション テキスト 第 1 課 日本語の特性と表現	日本語文章表現について
第 2 回	第 2 課 レポートの形	日本語ならではの特徴を踏まえて考察する
第 3 回	第 3 課 構想と情報	構想を練り、情報を調べる
第 4 回	第 4 課 テーマと目標	テーマを絞り、目標を規定する
第 5 回	第 5 課 文章構造	文章を組み立てる 課題あり（予定）
第 6 回	第 6 課 再検討	組み立ての再検討をする
第 7 回	第 7 課 パラグラフ	パラグラフを書く 日本語文章の構造について
第 8 回	第 8 課 文章の運び	本文を書き込む 接続詞の役割について
第 9 回	第 9 課 引用と表現	どこでどのように引用をすれば効果的であるか、その表現方法について
第 10 回	第 10 課 点検作業	文章・表現・形式を点検する
第 11 回	第 11 課 発表準備	発表の準備について
第 12 回	第 12 課 口頭発表	口頭発表について方法を考える
第 13 回	第 13 課 振り返り	テキストの振り返り 日本語の品詞について
第 14 回	第 14 課 日本語表現	全体の振り返り 日本語表現について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから新聞や本などを読み、レポートに使える材料や日本語表現などをストックしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。
大島弥生 池田玲子 大場理恵子 加納なおみ 高橋淑郎 岩田夏穂（2019）『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』【第2版】（ひつじ書房）

【参考書】

「日本語表現」「小論文」「レポート」といったタイトルのついた本は、おおむね参考になります。

以下の本は第1章が参考になります。

町田健（2020）『日本語のしくみがわかる本』（研究社）

以下の本も第1章が参考になります。

野矢茂樹（2019）『論理トレーニング 101 題』（産業国書）

【成績評価の方法と基準】

レポート 80%、平常点 20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

質問や意見はメールで受け付けます。基本は個人とのやりとりで返します。もし全体に共有した方がいい場合は、（必要があれば匿名で）質問者に確認後、共有することもあります。

授業前に読む資料や課題があり、レポート課題の配分も大きいので、よく考えて受講してください。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to improve writing ability. It based on construction grammar of Japanese.

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅳ

小島 尚人

授業コード：A2968 | 曜日・時限：金曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：『ハックルベリー・フィンの冒険』から読み解くアメリカ

概要と目的：

この授業では、19 世紀後半の米国の国民的文学者 Mark Twain の代表作 *Adventures of Huckleberry Finn* (1884) を題材に、そこから見えてくる「アメリカ」の姿を学ぶ。名作長篇をくわしく読解することを通じて小説のおもしろさ、解釈をおこなうことのおもしろさを知るとともに、米文学・文化・社会の理解および文学研究の方法・意義の理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- ・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって読解しようとする習慣をつける。
- ・他者の考えに耳を傾けて理解し、建設的なやり方で応答することができる。
- ・自分の考えを分かりやすく効果的に伝えることができる。
- ・自分の解釈を論理的に記述することができる。
- ・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持つ。
- ・『ハックルベリー・フィンの冒険』について、テキストの具体的なキャラクターや細部に触れながら自分なりに語れるようになる。
- ・マーク・トウェインの生涯と作品、時代背景を学ぶことを通じ、米国の歴史・文化についての知識を深める。
- ・小説と映画の解釈および比較分析の実践を通して、文学研究の意義を体験的に理解し、その基本的方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・講義と演習を組み合わせながら進める。
- ・学期序盤は講義が主となる。映画版を見て物語の内容を知るとともに、原作小説を読み解く上で必要なアメリカの文化的・歴史的背景（南北対立、黒人奴隷制など）を学ぶ。
- ・学期中盤以降は演習形式に適宜講義を取り入れた形式の授業となる。『ハックルベリー・フィンの冒険』の指定された版の翻訳を教科書として各自購入し、翌週で扱う範囲を予習として読んできた上で授業に臨む。
- ・予習状況の確認のために、作品の内容理解を問う授業内小テストが不定期に課される。
- ・各自の予習を前提としてグループディスカッションをおこない、受講者同士で解釈や疑問を共有しながら作品とその背景の多角的な理解を深める。
- ・リアクションペーパー等における良いコメントは翌週の授業内で紹介される。それを踏まえてさらに考察を重ね、より議論の射程を広げつつ掘り下げていく。
- ・そのような実践の積み重ねを通じて、小説や映画がアメリカの社会・文化の動向とどのように関連しあい、生み出された時代のありさまをどのように反映しているかを能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明、学習内容の概観
第 2 回	映画『ハック・フィンの大冒険』	ディズニー制作の実写映画版（1993 年）を視聴して考察
第 3 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』の背景①：アメリカ南部と北部	アメリカ南部と北部の文化的・社会的差異や対立・衝突の歴史を学ぶ
第 4 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』の背景②：黒人奴隷制	黒人奴隷制はどのようにして始まり、なぜ南北戦争に至ったか、南北戦争後とはどのような時代だったのか、その歴史を学ぶ
第 5 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む①——語り手ハックの言葉と人物像	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 6 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む②——黒人奴隷ジムの立場とその内面	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 7 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む③——「冒険」と「逃亡」	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説

第 8 回	『ハuckleベリー・フィンの冒険』を読む④——ハックとジムの「自由」とは	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 9 回	映画『トム・ソーヤーの大冒険』	ディズニー制作の実写映画版（1995 年）を視聴して考察
第 10 回	『ハuckleベリー・フィンの冒険』を読む⑤——南部社会の姿	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 11 回	『ハuckleベリー・フィンの冒険』を読む⑥——ハックの葛藤と決断	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 12 回	『ハuckleベリー・フィンの冒険』を読む⑦——トム・ソーヤーの（再）登場と結末の分析	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 13 回	20・21 世紀のハックたち	『ハuckleベリー・フィンの冒険』がその後のアメリカ文学・文化・社会に与えた影響と現代的意義を学ぶ
第 14 回	学期のまとめ	学んだ内容を振り返りながらまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で扱う作品を事前に読む。気になった箇所、感想、疑問点などをメモしておき、授業内での小テストや課題に対応できるようにしておく。（3 時間）
・授業で学んだ作家の他の作品や、教員が紹介する参考文献や映画を積極的に読んだり観たりする。（1 時間）

【テキスト（教科書）】

- ①マーク・トウェイン『ハuckleベリー・フィンの冒けん』柴田元幸訳、研究社、2017 年（ISBN: 9784327492014）
② Mark Twain, *Adventures of Huckleberry Finn*. Dover Thrift Editions, 1994. (ISBN: 9780486280615)

【参考書】

- 柴田元幸『『ハuckleベリー・フィンの冒けん』をめぐる冒けん』（研究社、2019 年）
亀井俊介『マーク・トウェインの世界』（南雲堂、1995 年）
後藤和彦『迷走の果てのトム・ソーヤー 小説家マーク・トウェインの軌跡』（松柏社、2000 年）
日本マーク・トウェイン協会編『マーク・トウェイン 研究と批評』（毎年 1 冊発刊、南雲堂）
亀井俊介監修『マーク・トウェイン文学／文化事典』（彩流社、2010 年）

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点：小テスト、課題、グループディスカッションへの参加度：40 %
予習ができていないか（ちゃんと作品を読んできているか）、授業内容を理解しているか、課題やディスカッションを通じて積極的に参加しているか、自分なりの解釈を試みているか、他の人に伝わるような形で説明できているか
②期末試験：60 %
小説を読み、授業内容を理解し、作品の内容を正確に把握していることを前提に出題される記述・論述中心のテスト

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションや課題へのフィードバック等を通じて皆さんの考察や疑問をクラス全体に共有しつつ講義内容に反映させていくことで、各々の能動的な参加を促したいと思います。

【その他の重要事項】

必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、文学研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解を得ている状態で履修するとよいと思います。

【Outline and objectives】

This is a special topics course focusing on Mark Twain's *Adventures of Huckleberry Finn*. Beginning with a historical survey of American slavery and the North-South divide the course offers a close reading of the novel. Through an intensive discussion on Twain's masterpiece and its film adaptations, students develop their skills to analyze literary texts in a critical way with focus both on their individuality and historicity. Most classes consist of quizzes, lectures, and group discussions.

LIT200BD

文学研究方法論 A

小島 尚人

授業コード：A2969 | 曜日・時限：火曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。

- ①文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか
②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
という 4 つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。
題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノベル、音楽、などできるだけさまざまなものを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の都合上、アメリカ文学・文化に関わる作品を主に扱う。

【到達目標】

- ①「授業の概要と目的」に掲げた 4 つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、文学研究の基本概念、方法論、批評理論についてパワーポイントを用いて講義するかたちで授業を進めていく。題材として扱う作品は、授業内で鑑賞することもあれば、事前に配布して宿題として読んでくことを求める場合もある。ほぼ毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述するかたちで、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらう。翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。そのような解釈の実践の積み重ねと双方向的な議論を通じて、文学研究のおもしろさや意義を能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	英米文学研究にまつわる 4 つの問い
第 2 回	「メディアを読む」こと	形式と内容、その連関 「メディアはメッセージである」とは ミッキーはなぜ口笛を吹くのか
第 3 回	作品解釈と歴史的コンテキスト	
第 4 回	解釈は推理で（も）ある①	「モルグ街の殺人」における犯人特定のプロセス
第 5 回	解釈は推理で（も）ある②	「モルグ街の殺人」のさまざまな解釈の実例
第 6 回	はじめてのナラトロジー	物語の組み立てを知る 『ピーナッツ』の主人公は誰か
第 7 回	「語られたもの」のナラトロジー	物語の組み立てを知る 順序、提示方法、速度
第 8 回	「語るもの」のナラトロジー	語れるものと語れないもの 人称、視点人物、焦点化
第 9 回	ナラトロジー応用編	「信頼できない語り手」とは何か
第 10 回	作品鑑賞と解釈の実践：『ピノキオ』①	映像の形式・視点・描写とその効果
第 11 回	作品鑑賞と解釈の実践：『ピノキオ』②	感想からレポートへ：5 つのステップ
第 12 回	作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』①	映像の形式・視点・描写とその効果
第 13 回	作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』②	感想からレポートへ：5 つのステップ
第 14 回	まとめ：文学・文化研究のススメ	さまざまな面白さと役立て方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①フィードバックシート（受講者の考察と教員のコメントをまとめたもの）を授業後に改めて読み、自分の考えを深めたり、友人と話し合ったりする。（1 時間）
②授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。（1 時間）

③授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。(2 時間)

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】

テリー・イーグルトン『文学とは何か（上・下）』岩波文庫、2014 年。

J. ヒリス・ミラー『文学の読み方』岩波書店、2008 年。

林文代（編）『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、2009 年。

丹治愛・山田広昭（編）『文学批評への招待』放送大学教育振興会、2018 年。

大橋洋一（編）『現代批評理論のすべて』新書館、2006 年。

筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫、2000 年。

ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50 %

期末試験（授業内容を踏まえた論述問題が中心）：50 %

※リアクションペーパーおよびワークシートは、出席者が当該回の授業終了時にもみ提出できる（事後の提出は理由の如何にかかわらず認められない）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。また、記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立ったという意見をいただいたので、引き続き実施するつもりです。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「文学研究方法論 B」と連続履修してください。

【Outline and objectives】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in.

LIT200BD

文学研究方法論 B

小島 尚人

授業コード：A2970 | 曜日・時限：火曜 4 限

秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。

①文学を学ぶことは何がどうおもしろいか

②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか

③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか

④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか

という 4 つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。

題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノヴェル、音楽、などできるだけさまざまなものを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の都合上、アメリカ文学・文化に関わる作品を主に扱う。

【到達目標】

①「授業の概要と目的」に掲げた 4 つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。

②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。

③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、文学研究の基本概念、方法論、批評理論についてパワーポイントを用いて講義するかたちで授業を進めていく。題材として扱う作品は、授業内で鑑賞することもある。事前に配布して宿題として読んでくことを求める場合もある。ほぼ毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述するかたちで、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらう。翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。そのような解釈の実践の積み重ねと双方向的な議論を通じて、文学研究のおもしろさや意義を能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	批評理論とは何か、何の役に立つのか
第 2 回	心理と無意識に着目する 精神分析批評①	理論の概要と実例を知る ハムレットはなぜ復讐を引き延ばすのか
第 3 回	心理と無意識に着目する 精神分析批評②	ミッキーの無意識をさぐる
第 4 回	性とジェンダーに着目する フェミニズム批評とクィア批評①	理論の概要と実例を知る ベクデル・テストを使いこなす
第 5 回	性とジェンダーに着目する フェミニズム批評とクィア批評②	エルサの物語をどう読むか ブルートのジェンダー・アイデンティティ
第 6 回	作品鑑賞と解釈の実践①	「気づきの道具」としての批評理論
第 7 回	作品鑑賞と解釈の実践②	フィードバックシートを用いてレポートに繋げる
第 8 回	異文化・異民族の描かれ方に着目する ポストコロニアル批評①	理論の概要と実例を知る オリエンタリズムとは
第 9 回	異文化・異民族の描かれ方に着目する ポストコロニアル批評②	『ロスト・イン・トランスレーション』における日本人と日本文化
第 10 回	社会的・階級的意味に着目する マルクス主義批評①	理論の概要と実例を知る クラリッサの見えないタクシー
第 11 回	社会的・階級的意味に着目する マルクス主義批評②	『フランケンシュタイン』の怪物とは何か
第 12 回	作品鑑賞と解釈の実践③	「気づきの道具」としての批評理論
第 13 回	作品鑑賞と解釈の実践④	フィードバックシートを用いてレポートに繋げる

第 14 回 まとめ：文学・文化研究 他者を読み、自分を読みかえる経験
のススメ、ふたたび

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①フィードバックシート（受講者の考察と教員のコメントをまとめたもの）を授業後に改めて読み、自分の考えを深めたり、友人と話し合ったりする。（1 時間）
②授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。（1 時間）
③授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。（2 時間）

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】

テリー・イーグルトン『文学とは何か（上・下）』岩波文庫、2014 年。
J. ヒリス・ミラー『文学の読み方』岩波書店、2008 年。
林文代（編）『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、2009 年。
丹治愛・山田広昭（編）『文学批評への招待』放送大学教育振興会、2018 年。
大橋洋一（編）『現代批評理論のすべて』新書館、2006 年。
筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫、2000 年。
ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50 %
期末レポート（授業で学んだアプローチを応用して課題作品を分析・解釈）：50 %
※リアクションペーパーおよびワークシートは、出席者が当該回の授業終了時にのみ提出できる（事後の提出は理由の如何にかかわらず認められない）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。また、記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立ったという意見をいただいたので、引き続き実施するつもりです。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「文学研究方法論 A」と連続履修してください。

【Outline and objectives】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in.

LIN200BD

英語の文法力 I

椎名 美智

授業コード：A2977 | 曜日・時限：月曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生に必要な英語力の基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力です。で、本授業は、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力、プレゼンテーション力をアップさせることを目的にしています。

【到達目標】

英語を話すときに必要な構文やフレーズが、実際のコミュニケーションで自然に使えるようになります。役にたつ英語の構文を理解し、必要なフレーズを暗記し、応用することによって、自然に自分の言いたいことが、適切な構文と語彙を使って言えるように、書けるようになります。また、PPT を使って、英語でプレゼンテーションができるようになる勉強もします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始日は 4 月 13 日です。初回はリモートの予定ですが、HOPPII で連絡します。
それまでに生協などで、教科書を手に入れておいてください。
テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。学生によるプレゼンテーションも行います。少人数での演習タイプの授業を行う予定なので、履修希望者が多い場合は、小テストによる選抜を行います。よって、履修希望者は必ず初回の授業に出席してください。毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究領域の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	Unit 1: 動詞の基礎と文型 (1)	学生のプレゼンテーション、動詞の基礎と文型についての復習と総括
第 3 回	Unit 1: 動詞の基礎と文型 (2)	学生のプレゼンテーション、動詞の基礎と文型についての演習、小テスト
第 4 回	Unit 2: 動詞 2 (1)	学生のプレゼンテーション、動詞についての復習と総括
第 5 回	Unit 2: 動詞 2 (2)	学生のプレゼンテーション、動詞の用法と演習、小テスト
第 6 回	Unit 3: 時制 (1)	学生のプレゼンテーション、時制についての復習と総括
第 7 回	Unit 3: 時制 (2)	学生のプレゼンテーション、時制についての演習、小テスト
第 8 回	中間のまとめと復習	学生のプレゼンテーション、これまでの復習と演習、小テスト
第 9 回	Unit 4: 助動詞 (1)	学生のプレゼンテーション、助動詞についての復習と総括、小テスト
第 10 回	Unit 4: 助動詞 (2)	学生のプレゼンテーション、助動詞についての演習、小テスト
第 11 回	Unit 5: 名詞・冠詞・代名詞 (1)	学生のプレゼンテーション、名詞・冠詞・代名詞についての復習と総括、小テスト
第 12 回	Unit 5: 名詞・冠詞・代名詞 (2)	学生のプレゼンテーション、名詞・冠詞・代名詞についての演習、小テスト
第 13 回	Unit 6: 形容詞と副詞 (1)	学生のプレゼンテーション、形容詞と副詞についての復習と総括、小テスト
第 14 回	Unit 6: 形容詞と副詞 (2)、試験とまとめ	学生のプレゼンテーション、形容詞と副詞についての演習、春セメスターで学んだことについての試験と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習し、問題をやった上で、授業に出席する必要があります。また、復習をきちんと行い、宿題で指定された構文を暗記して、小テストに備える必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

町田健・豊島克己（2014）『大学生のための英文法再入門』研究社

【参考書】

必要な場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 80 %、プレゼンテーション 20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題は HOPPII の課題として添付ファイルで提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋セメスターと、連続して履修してください。
・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

LIN200BD

英語の文法力Ⅱ

椎名 美智

授業コード：A2978 | 曜日・時限：月曜 3 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生に必要な英語力を身につけるための基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力です。本授業では、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力、プレゼンテーション力をアップさせる勉強をします。

【到達目標】

英文法を総復習し、反復的な演習を行うことによって、英語を話すときに必要な構文やフレーズが、実際のコミュニケーションで自然に使えるように練習します。役にたつ英語の構文を理解し、必要なフレーズを暗記し、応用することによって、自然に自分の言いたいことが、適切な構文と語彙を使って言えるように、書けるように勉強します。また、パワーポイントを使って英語でプレゼンテーションができるようになる練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には対面授業の予定ですが、状況によっては、リモートになるかもしれません。HOPPII で連絡します。連絡事項や課題は前日までに HOPPII にアップロードするので、必ず見ながら授業に臨んでください。
テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。学生はプレゼンテーションを行います。少人数による演習タイプの授業を行う予定です。履修希望者が多い場合は、初回の授業で、小テストによる選抜を行いますので、履修希望者は必ず初回授業に出席してください。毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	扱う領域の概説と秋学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	Unit 7: 態 (1)	学生によるプレゼンテーション、態についての復習と総括
第 3 回	Unit 7: 態 (2)	学生によるプレゼンテーション、態についての演習、小テスト
第 4 回	Unit 8: 否定・疑問 (1)	学生によるプレゼンテーション、否定・疑問についての復習と総括、小テスト
第 5 回	Unit 8: 否定・疑問 (2)	学生によるプレゼンテーション、否定・疑問についての演習、小テスト
第 6 回	Unit 9: 準動詞 (1)	学生によるプレゼンテーション、準動詞についての復習と総括、小テスト
第 7 回	Unit 9: 準動詞 (2)	学生によるプレゼンテーション、準動詞についての演習、小テスト
第 8 回	中間のまとめと復習	学生によるプレゼンテーション、これまでの復習と演習、エッセイライティング
第 9 回	Unit 10: 準動詞 2・接続詞 (1)	学生によるプレゼンテーション、準動詞 2・接続詞についての復習と総括、小テスト
第 10 回	Unit 10: 形容詞と副詞 (2)	学生によるプレゼンテーション、準動詞 2・接続詞についての演習、小テスト
第 11 回	Unit 11: 関係詞 (1)	学生によるプレゼンテーション、関係詞についての復習と総括、小テスト
第 12 回	Unit 11: 関係詞 (2)	学生によるプレゼンテーション、関係詞についての演習、小テスト
第 13 回	Unit 12: 形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句 (1)	学生によるプレゼンテーション、形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句についての復習と総括、小テスト
第 14 回	Unit 12: 形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句 (2)、テストと振り返り	学生によるプレゼンテーション、形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句について演習、秋セメスター全体のテスト、これまでの授業のまとめに加え試験、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習し、問題をやった上で、授業に出席する必要があります。また、復習をきちんと行い、宿題で指定された構文を暗記して、小テストに備える必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

町田健・豊島克己（2014）『大学生のための英文法再入門』研究社

【参考書】

必要場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを HOPPII にアップロードします。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 80%、課題・プレゼンテーション 20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題は HOPPII に添付資料で提出してもらいますので、自分用の PC があると良いと思います。

【その他の重要事項】

・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋セメスターを続けて履修してください。
・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

BSP200BD

メディア・リテラシー I

田中 邦佳

授業コード：A2979 | 曜日・時限：火曜 4 限

秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞、雑誌、テレビなどのメディアやインターネット上には多種多様なデータがグラフなどの形で可視化され掲載されています。データを目に見える形にする方法には様々な手法があり、読み取りが困難であったり、そのまとめ方に何らかの意図が込められている場合もあります。

本授業は、これまでデータ分析にあまり馴染みのない参加者を対象にします。授業では、データを受け取る側として各種のグラフの読み取り方や、読み取りの注意点を学び、データを発信する側として、データの種類によってどのような手法を用いるのが適切か、また、データ化や可視化における注意点を学びます。

授業の参加者各自が何らかのテーマを設定し、データを可視化して誰にもわかりやすいレポートを完成することを最終目的とする。

【到達目標】

- (1) 各種のグラフの読み取りができるようになる。
- (2) 具体的な場合にに応じたデータのグラフ化ができるようになる。
- (3) データを客観的に文で報告できるようになる。
- (4) 上記の 3 つの項目を踏まえて、何らかのデータを適切に発信できるように 1 枚のポスターにしてまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でメディア上で見られる、各種のデータ・グラフを紹介します。参加者は、それらのデータから読み取れることを考えたり、作図する演習を行い、レポート執筆の準備を行います。データの解釈やまとめ方についてグループディスカッションを行うこともあります。

授業の最終目標のレポートの完成に向け、各自が考えたデータ分析のテーマや可視化の手法について教員からコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方の説明
第 2 回	様々なグラフ	グラフの種類の紹介
第 3 回	棒グラフ	棒グラフについて学ぶ
第 4 回	ヒストグラム	ヒストグラム
第 5 回	折れ線グラフ	折れ線グラフ
第 6 回	2つの手法が組み合わされたグラフ	2つの手法が組み合わされたグラフ
第 7 回	散布図	散布図
第 8 回	円グラフ	円グラフ
第 9 回	適しているグラフ適していないグラフ	データのまとめ方に合わせたグラフの選び方
第 10 回	データを表にする	データを表にする
第 11 回	データの数値化	データを数値としてまとめる時の注意点
第 12 回	平均値と中央値	平均値と中央値
第 13 回	標準偏差	標準偏差
第 14 回	ことばで報告する	データを文で説明する場合の注意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、各種データを読み取って文にまとめたり、数値データをまとめてグラフなどの形に作図し準備しておく必要があります。最終レポートに向け、データ分析の計画を立て、途中経過を報告する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

特にありません。
個別の項目に対し、参考になりそうな情報に関しては授業中にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

40%: 期末課題（ポスター）

60%: 授業内外の課題

以下のいずれかに該当する場合は評価の対象としません。

・授業での課題の未提出が 4 回に達した場合

・期末の課題が提出されなかった場合

【学生の意見等からの気づき】

実現可能なレポートのテーマの設定や、データの構築、分析に時間を要することが伝わっていないように感じました。その点についてより実感を持って理解できるように促すことができたと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出のために学習支援システムを使用する予定です。

【その他の重要事項】

作図の演習では、データの入力など初歩的な項目から実際のデータ分析においてミスをしてしまいがちなポイントや、困難点になりそうな点を紹介します。

本授業では、卒業論文などのために調査や実験の結果の可視化の具体的な手法を学びたい、今後のためにデータの可視化の手法を学びたいという参加者を対象にします。授業では記述統計の手法を扱いますが、推測統計は扱わないことに留意してください。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn methods for summarizing and visualizing data.

BSP200BD

メディア・リテラシーⅡ

吉川 純子

授業コード：A2980 | 曜日・時限：木曜 4 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、今日的なさまざまなトピックについて自分で調べ、何が正しいのか比較検討して選択をする訓練を通して、主体的に情報の取捨選択ができる力、すなわちメディア・リテラシーを身につけます。

【到達目標】

学校で教わったことやマスコミで流される情報を鵜呑みにしている人のことを、ネットの世界では「情報弱者（情弱）」と呼びます。だまされて操られる「カモ」にされかねない「情弱」を脱却し、一つのトピックについて異なる立場や意見があることを調べて理解できるようになり、考えて議論することができるようになり、主体的に情報を取捨選択できる「情報強者（情強）」になることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、対面の演習形式で行います。初回の授業で、各トピックについてのリーディングリストを受講者全員に配布します。ただし、それはあくまで考えるきっかけであって、そこに書いてあることを鵜呑みにしてほしいわけではありません。発表担当者はそのトピックについて調べ、わかったことや考えたことを発表します。その際、自分がこれまで知っていたこと、思っていたことと何が違うのかをはっきりさせてください。そして、どのような意見の違いがあるのかを紹介し、自分の考えを述べます。他の受講者は、同じトピックについて自分でも調べて考えてきてください。授業では担当者の発表の後、議論をしますが、結論を出すことが目的ではなく、立場の違いが明確になればよしとします。一人最低一回は発表をしなければなりません、発表後に教員のコメントを述べる形でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期		
回	テーマ	内容
イントロ	「情弱」と「情強」	授業の進め方など
ダクショ		
ン		
第一回	日本の階級	格差社会の現状
第二回	健康格差	経済と健康のリンク
第三回	日本の人口減少	人口の減少によって何が起るのか
第四回	貧困世代	なぜ今の若者世代は貧困に陥る可能性が高いのか
第五回	過労鬱、過労自殺	現状と対策
第六回	介護保険	介護保険の仕組み
第七回	消費税	消費税の仕組み
第八回	コロナ禍とワクチン	コロナ禍とワクチンをめぐる論争
第九回	食糧問題	食品添加物、農薬、遺伝子組み換え食品など
第十回	電磁波、経皮毒	どの程度有害か？
第十一回	ショック・ドクトリンと新自由主義	惨事便乗資本主義とは何か？
第十二回	戦後の日米関係と日米安全保障条約	なぜ重要なのか？
第十三回	今期学んだことのまとめ	今期学んだことを振り返り、議論する。レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、担当のトピックについて調べて論点を整理します。他の受講者も、同じトピックについて調べて考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回到リーディングリストを配布します。

【参考書】

初回到紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表 30%、授業への貢献度 30%、レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

「情報強者への一歩を踏み出せた」「マスコミの情報を鵜呑みにしてはいけないということがわかった」という感想をいただいて、とても心強く思いました。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

取りあげるトピックは、知って楽しいものはないかもしれませんが、皆さんがこれから社会に出て大人として生きていくにあたって重要なものばかりです。社会の厳しい現実を直視し、「情報強者」として生き延びていくための重要な武器の一つはメディア・リテラシーです。「知的サバイバー」を目指して、ぜひこの授業に主体的に参加してください。

【Outline and objectives】

We are going to acquire media literacy by making research and giving presentations, and having discussions on several important topics.

ARS200BD

比較文化論（1）

小島 尚人

授業コード：A2981 | 曜日・時限：水曜 1 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国をはじめとした英語圏の国々における「日々の暮らしの中の伝統文化と現代文化」に着目し、日本文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテキストから現在の社会を問い直す視座を拓く。

【到達目標】

- 1) 英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
- 2) アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
- 3) 英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
- 4) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
- 5) 以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ合衆国と他の英語圏の国々の比較を念頭に置きながら、日常生活のレベルにおける様々な文化的事象を学ぶ。扱う題材は、食生活、民話、歌、年中行事、スポーツ、現代大衆文化など多岐にわたる。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。

授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび授業の導入	人間の日々の生活の営みとしての文化
第 2 回	移民国家アメリカ	多文化社会を読み解くための歴史的考察
第 3 回	文化を「比較」することの意味	世界から見た日本文化（留学生を迎えるディスカッション①）
第 4 回	食生活	「英米の料理はまずい」は本当か
第 5 回	年中行事	ハロウィンとクリスマスの地域差、国ごとの差
第 6 回	民話とその起源	それぞれの伝統を知り教訓を学ぶ
第 7 回	アメリカ人の愛唱歌とその起源	歌詞の比較から見えてくる価値観とは
第 8 回	文化のグローバル化とアメリカ化	世界各国におけるアメリカ文化（留学生を迎えるディスカッション②）
第 9 回	ポップカルチャー進化論	異文化混交から生まれる新しさ
第 10 回	デジタル時代に生きる伝統文化	文化的越境の媒体としてのインターネット
第 11 回	学生によるグループ・プレゼンテーション	食生活、スポーツ、年中行事
第 12 回	学生によるグループ・プレゼンテーション	民話、音楽、インターネット文化
第 13 回	異文化交流のこれから	現状と課題を話し合う（留学生を迎えるディスカッション③）
第 14 回	異文化相互理解のために必要なこと	授業のまとめと授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。（2 時間）
- ・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。（1 時間）
- ・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。（1 時間）

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

佐々木英明（編）『異文化への視線——新しい比較文学のために』（名古屋大学出版会、1996 年）
アメリカ学会（編）『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018 年）
ウェルズ恵子、リサ・ギャバート『多文化理解のためのアメリカ文化入門 社会・地域・伝承』（丸善出版、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

授業内での課題および授業への貢献度 30 %
グループ・プレゼンテーション 30 %
授業内期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

「留学生とのディスカッション」の回で英語で発言をしやすい環境をつくるため、準備のアクティビティをより工夫したいと思います。

【その他の重要事項】

定員を 30 名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。

履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】

This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American culture, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

ARS200BD

英米文化概論 A

田中 裕希

授業コード：A2982 | 曜日・時限：月曜 3 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「帝国」をテーマに、19 世紀末から 20 世紀にかけてのイギリス文学・映画を読み解く。イギリス帝国主義の根底にある進歩主義や異文化への偏見が作品でどう描かれ、二つの世界大戦を経てどう変化していくのか。授業の後半では、イギリス統治下のアイルランドと南アフリカについても学ぶ。

【到達目標】

歴史的文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画批評を通して、イギリス文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	帝国主義とは
第 2 回	Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i>	啓蒙思想と帝国
第 3 回	<i>Heart of Darkness</i>	語りの構造
第 4 回	<i>Heart of Darkness</i>	『闇の奥』批判
第 5 回	戦争詩人	第一次世界大戦
第 6 回	Virginia Woolf, <i>Mrs Dalloway</i>	帝国の時間観
第 7 回	<i>Mrs Dalloway</i>	意識の流れ
第 8 回	<i>Mrs Dalloway</i>	帝国の退廃
第 9 回	<i>The King's Speech</i>	第二次世界大戦
第 10 回	<i>The King's Speech</i>	人間としての王
第 11 回	W. B. Yeats, "The Song of Wandering Aengus"	アイルランド文芸復興運動
第 12 回	James Joyce, "Araby"	アイルランドの夢と現実
第 13 回	Nadine Gordimer, "Once Upon a Time"	南アフリカにおける植民地政策
第 14 回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『闇の奥』（光文社古典新訳文庫） ジョゼフ コンラッド（著）、黒原 敏行（翻訳）
『ダロウェイ夫人』（集英社文庫） ヴァージニア・ウルフ（著）、丹治 愛（翻訳）
必要に応じて、授業支援サイトを通じ資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル、K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %
期末テスト 70 %
4 回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【Outline and objectives】

This class focuses on the representation of the British Empire in literature and films. We will analyze the foundational values of British imperialism and how they changed and were critiqued over the course of the twentieth century.

ARS200BD

英米文化概論 B

田中 裕希

授業コード：A2983 | 曜日・時限：月曜 3 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学・映画を通じてアメリカン・ドリームとはなにかを考える。建国の時代から根強くこのアメリカン・ドリームという概念は、アメリカ独自の価値観に強く関わってくる。自治の精神、民主主義、機会平等の理念、などアメリカの「夢」にまつわる主題を考えながら、作品を読み解く。また、西部劇のようになぜ特定のジャンル映画がアメリカン・ドリームを体現するに至ったかも考える。

【到達目標】

歴史的な文脈・文化的な文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画を通して、アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカン・ドリームの歴史
第 2 回	Walt Whitman, <i>Song of Myself</i>	建国の理念と叙事詩
第 3 回	<i>Red River</i>	民主主義の夢
第 4 回	<i>Red River</i>	西部劇と民主主義
第 5 回	F. Scott Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i>	語りの構造
第 6 回	<i>The Great Gatsby</i>	情景描写と文明批判
第 7 回	<i>The Great Gatsby</i>	幻想としてのアメリカンドリーム
第 8 回	Langston Hughes	人種と夢
第 9 回	Sylvia Plath	ジェンダーと夢
第 10 回	<i>Easy Rider</i>	60 年代のアメリカ
第 11 回	<i>Easy Rider</i>	New Hollywood とは
第 12 回	<i>Moonlight</i>	マイノリティーの夢
第 13 回	<i>Moonlight</i>	成長物語
第 14 回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『グレート・ギャツビー』（新潮文庫）フィッツジェラルド（著）、野崎 孝（翻訳）

必要に応じて、授業支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル、K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）
Jim Cullen, *The American Dream: A Short History of an Idea That Shaped a Nation* (Oxford University Press)

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

4 回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大規模の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【Outline and objectives】

In this class, we will analyze the representation of the American Dream in literature and films. The idea of the American Dream has been present since the founding of the nation. We will consider some of the reasons why it has exercised such fascination in American society. By tracing the motif of dream in American cinema, we will discuss the role of self-governance, democracy, equal opportunity, and the frontier in the U.S. history. We will also discuss why particular genres such as the Western came to embody the spirit of the American Dream more than any other genres.

BSP200BD

Academic Writing A

福元 広二

授業コード：A2984 | 曜日・時限：火曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、アカデミックな英文エッセイの基本を理解し、実際にエッセイを書くことでアカデミック・ライティング能力の向上を目的とする。様々な種類のパラグラフの構造を理解したうえで、パラグラフ・ライティングのルールと型を学び、一貫性や結束性を備えた論理的な文章の書き方を学習する。

【到達目標】

- ・文法的に正しく、形式に則した英文エッセイを書くことができる。
- ・わかりやすく、説得力のある英語のエッセイを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、エッセイ・ライティングに対応した教科書を用いて、それぞれのユニットごとにエッセイを書いていきます。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明
第 2 回	Explanatory Paragraphs	説明型エッセイについて学習する
第 3 回	Information Paragraphs	情報型エッセイについて学習する
第 4 回	Opinion Paragraphs	意見文型エッセイについて学習する
第 5 回	エッセイ・ライティング	実際にエッセイを書く
第 6 回	Comparative Paragraphs	比較型エッセイについて学習する
第 7 回	Contrast Paragraphs	対比型エッセイについて学習する
第 8 回	Cause and Effect Paragraphs	原因・結果型エッセイについて学習する
第 9 回	Argumentative Paragraphs	論証型エッセイについて学習する
第 10 回	Time-order Paragraphs	時系列型エッセイについて学習する
第 11 回	Process Paragraphs	過程型エッセイについて学習する
第 12 回	Five Paragraph Essays	5 段落のエッセイについて学習する
第 13 回	Concluding Paragraphs for Essays	結論の段落について学習する
第 14 回	プレゼンテーション	実際に書いたエッセイを発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、教科書をしっかりと読んで、予習をしておいてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Mariko Kawasaki et al. (2019) Real Writing（南雲堂）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション（40％）、平常点（30％）、レポート課題（30％）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて22科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が4月頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4月頭）にそちらに申請をしてください。

※ なお、2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】

This course aims to introduce essay writing skills and academic writing styles, focusing on various paragraph styles that are important in academic writing. In this course, students will learn how to write paragraphs and essays in English for academic purposes.

BSP200BD

Academic Writing B

福元 広二

授業コード：A2985 | 曜日・時限：火曜 3 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、相手に読みやすくわかりやすいパラグラフを書く基本を学びます。パラグラフの構成を理解し、実際に英文を書くことでアカデミック・ライティング能力の向上を目的とする。また、説得力のある英文を書くためのストラテジーを学び、一貫性や結束性を備えた論理的な文章の書き方を学習する。

【到達目標】

- ・文法的に正しく、形式に則したパラグラフを書くことができる。
- ・わかりやすく、説得力のある英文エッセイを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、ライティングスキル向上に対応した教科書を用いて、それぞれのユニットごとにタスクをこなしていきます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明
第2回	Flow of Sentences	英文の流れの作り方を学ぶ
第3回	Basic Paragraph	パラグラフの基本構成
第4回	Developing Coherence	文法的結束と語彙的結束
第5回	Guiding your Readers	読者の誘導の仕方
第6回	Hedges and Boosters	ヘッジ表現とブースター表現の使用法
第7回	エッセイ・ライティング	実際にエッセイを書く
第8回	How to Attract Your Readers	topic sentence の書き方
第9回	Supporting Your Ideas	Supporting sentence の書き方
第10回	Concluding Paragraphs	Concluding sentence の書き方
第11回	Essay Structure	Thesis statement の書き方
第12回	Problem-Solving Essay	問題解決のエッセイの書き方
第13回	The First Step for Academic Papers	研究論文の書き方の基礎
第14回	プレゼンテーション	実際に書いたエッセイを発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、教科書をしっかりと読んで、予習をしておいてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Yasuo Nakatani (2020) Academic Writing Strategies（金星堂）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション（40％）、平常点（30％）、レポート課題（30％）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

【その他の重要事項】

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目目合わせて22科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が4月頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4月頭）にそちらに申請をしてください。

※ なお、2年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】

This course aims to introduce essay writing skills and academic writing styles, focusing on various paragraph styles that are important in academic writing. In this course, students will learn how to write paragraphs and essays in English for academic purposes.

ARS200BD

Comparative Culture(2)

小島 尚人

授業コード：A2988 | 曜日・時限：火曜 2限

春学期・2単位

備考（履修条件等）：定員30名を超えた場合は文学部所属学生を優先して選抜する

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines culture and society of the United States in comparison with other countries of immigrants such as Canada and Mexico, focusing on its transborderness and mobility. Often conceived of as a cross-border experience across regions and nations, the experience of traveling has been one of the central concerns in the history of literary and visual narratives particularly in the US. Through the analysis of American road movie and travel literature in comparison with those of other countries, this course introduces students to ways of thinking about US culture in a comparative and historical perspective.

【到達目標】

Through this course, students are expected to be able to do the following:

1. Examine the ways in which travel is represented in literary and visual narratives
2. Develop their skills to discuss culture through literary and visual texts
3. Give presentations in which the concepts and topics covered in the course are applied

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group or individual presentation toward the end of the semester. Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	Course Introduction	Review course goals; brief self-introduction by students; characteristics of the US as a nation of immigrants
第2回	US and North America	The historical and cultural background of the US in comparison with other North American countries (Canada and Mexico)
第3回	Transborderness	The role of Mexico in Jack Kerouac's <i>On the Road</i>
第4回	Mobility	American frontier, Western expansion, and cultural fusion
第5回	Americalization	Family and national identity
第6回	Ethnicity	Ethnic pluralism and cultural diversity
第7回	Social Class	Migrant workers and <i>The Grapes of Wrath</i>
第8回	Gender	Travel narrative and the domestic ideology; Feminist politics in <i>Thelma & Louise</i>
第9回	Slavery and African American culture	<i>Adventures of Huckleberry Finn</i> as travel narrative
第10回	Orientalism	Travel narrative and power relations: reading an essay
第11回	Language Barrier and Communication	Representation of Tokyo and the Japanese characters in <i>Lost in the Translation</i>
第12回	Study Abroad as a Cross-border Experience	The image of "America" in post-WWII Japan
第13回	Student Presentations (1)	Student presentations on "Family" and "Ethnicity"

第 14 回 Student Presentations Student presentations on "Gender" and "Orientalism" (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) Reading assigned texts (or watching assigned films) and preparing for quizzes and in-class discussions (2 hours)
- 2) Preparing for a group presentation (2 hours)

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class.

【参考書】

Primeau, Ronald. *Romance of the Road: The Literature of American Highway*. Bowling Green, OH: Bowling Green State UP, 1996.

Laderman, David. *Driving Visions: Exploring the Road Movie*. Austin: U of Texas P, 2002.

King, Homa. *Lost in Translation: Orientalism, Cinema, and the Enigmatic Signifier*. Durham: Duke UP, 2010.

【成績評価の方法と基準】

Class participation (worksheets, discussions, and other in-class activities): 40%

Presentations: 20%

Final Exam: 40%

【学生の意見等からの気づき】

I plan to allot more time for students to share their thoughts with the class.

【その他の重要事項】

定員を 30 名とし、それを超える場合は選抜をおこないます（文学部生を優先とする）。

履修希望者は、辞書（電子辞書可・携帯電話不可）を持参の上、必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】

N/A

ARS200BD

Comparative Culture(3)

小島 尚人

授業コード：A2989 | 曜日・時限：火曜 2 限

秋学期・2 単位

備考（履修条件等）：定員 30 名を超えた場合は文学部所属学生を優先して選抜する

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Among the most colorful, complex, and eventful periods in American history, the 1960s marks a turning-point of contemporary world. This course is designed to be an introduction to the history and culture of America in this decade for better understanding of current affairs we are facing today. Through the analysis of cultural materials including films, essays, stories, music tracks and lyrics in comparison with those of other countries, this course introduces students to ways of thinking critically about cultural phenomena and practices in a comparative and historical perspective.

【到達目標】

Through this course, students are expected to be able to do the following:

1. Explain the ways in which the counterculture movement challenged the established norms of American society
2. Analyze cultural phenomena and practices through literary, visual, and audio texts
3. Give presentations in which the concepts and topics covered in the course are applied

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group or individual presentation toward the end of the semester. Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Introduction	Review course goals; brief self-introduction by students; Overview of the history of the 1960s and introduction to the major issues to be discussed in this course
第 2 回	Society	Comparative overview of the social conditions of the US, the UK, and Japan in the 1960s
第 3 回	Family	Comparative overview of family and domestic life in the US, the UK, and Japan in the 1960s
第 4 回	Education	Comparative overview of education and school system in the US, the UK, and Japan in the 1960s
第 5 回	Youth	The Beat generation, rock and roll, and drug culture
第 6 回	Race	From Civil Rights to Black Power
第 7 回	Ethnicity	Latinos, Asian Americans, and Native Americans
第 8 回	Gender	The women's movement and the sexual revolution
第 9 回	Sexuality	The gay liberation
第 10 回	Environmentalism	Rachel Carson, <i>Silent Spring</i>
第 11 回	International Counterculture	Counterculture in Japan and the UK
第 12 回	Counterculture in the 21st Century	The legacy and future of counterculture
第 13 回	Student Presentations (1)	Student presentations on "Counterculture" and "The Black Arts" in the 1960s
第 14 回	Student Presentations (2)	Student presentations on "The Women's Movement" and "Environmentalism" in the 1960s

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) Reading assigned texts (or watching assigned films) and preparing for quizzes and in-class discussions (2 hours)
2) Preparing for a group presentation (2 hours)

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class.

【参考書】

Alexander Bloom and Wini Breines, eds. *Takin' it to the Streets: A Sixties Reader*. 4th edition. Oxford University Press, 2015.
Ann Charters, ed. *The Portable Sixties Reader*. Penguin Classics, 2002.
David Farber and Beth Bailey, *The Columbia Guide to America in the 1960s*. Columbia University Press, 2001.
David Farber, *The Age of Great Dreams: America in the 1960s*. Farrar, 1994.
Maurice Isserman and Michael Kazin, *America Divided: The Civil War of the 1960s*. 5th edition. Oxford University Press, 2015.
Todd Gitlin, *The Sixties: Years of Hope, Days of Rage*. Bantam Books, 1993.

【成績評価の方法と基準】

Class participation (worksheets, discussions, and other in-class activities): 40%
Presentations: 20%
Final Exam: 40%

【学生の意見等からの気づき】

I plan to allot more time for students to share their thoughts with the class.

【その他の重要事項】

定員を 30 名とし、それを超える場合は選抜をおこないます（文学部生を優先とする）。
履修希望者は、辞書（電子辞書可・携帯電話不可）を持参の上、必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】

N/A

LIN200BD

Second Language Learning and Teaching

BRIAN WISTNER

授業コード：A2990 | 曜日・時限：水曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine the variables that influence L2 acquisition and investigate how they are addressed in principled approaches to L2 pedagogy.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:

1. Identify and explain the variables that influence L2 acquisition
2. Investigate the connection between L2 learning and teaching

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation. Check Hoppii for any updates regarding this course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	First language acquisition	How do people learn an L1?
第 3 回	Second language acquisition	How do adults learn an L2?
第 4 回	Age and L2 acquisition	How does age affect L2 acquisition?
第 5 回	Interaction in L2 classrooms	Does interaction lead to L2 acquisition?
第 6 回	Focus on form	Attending to meaning and form in L2 learning
第 7 回	Acquisition of L2 grammar	How is L2 grammar acquired?
第 8 回	Acquisition of L2 vocabulary	Issues related to L2 vocabulary acquisition
第 9 回	Contexts of instructed second language acquisition	In what ways does the linguistic environment influence L2 acquisition?
第 10 回	Foreign language aptitude	Does language aptitude influence L2 learning?
第 11 回	Motivation	To what extent does motivation affect L2 learning?
第 12 回	Affect and other individual differences	What other variables play a role in L2 learning?
第 13 回	Research presentations	Research project presentations
第 14 回	Feedback on research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' presentations and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class—this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】

Patsy M. Lightbown, and Nina Spada. (2013). *How languages are learned*. Oxford University Press. Approximately 4,200 yen.

【参考書】

Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.
Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.

Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.
H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.
H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】

In-class presentations: 50%

Written report: 25%

Final exam: 25%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】

Students commented that some of the topics were interesting and helpful.

【その他の重要事項】

定員 25 名を超えた場合は文学部所属学生を優先して選抜する。
履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】

This course examines second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine the variables that influence L2 acquisition and investigate how they are addressed in principled approaches to L2 pedagogy.

HIS200BE

日本考古学／日本考古学（資格）

古庄 浩明

授業コード：A3113,A3856 | 曜日・時限：月曜 2 限

秋学期・2 単位

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3856）で履修する。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の旧石器時代から奈良時代に至る歴史展開の中で、中国や朝鮮半島との交流を中心に獲得した各種の生産技術や社会制度を理解することを目標とする。考古学資料にもとづく交流と技術の歴史学的解明がテーマである。

【到達目標】

物質文化としてとりあげる各種の技術の系譜と展開を説明することができる。各種の技術の意義について解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

日本列島における原始・古代の生産と技術について考え、生産活動を支える技術の進化が列島史にどのような影響を与えてきたのか学ぶ。
授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援システムに課題を提出していただき、そのフィードバックも学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答も学習支援システムを利用する。資料も利用する。授業のプリントは各自「古庄浩明の講義ノート」（<https://wacoffee.blogspot.com/>）からダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	旧石器時代（1）	列島の文化形成の前提となる石器製作技術
第 3 回	旧石器時代（2）	後期旧石器時代の石刃技法と細石刃技法
第 4 回	縄文時代（1）	縄文土器の起源と製作
第 5 回	縄文時代（2）	縄文時代の生業技術
第 6 回	弥生時代（1）	稲作の伝播と展開
第 7 回	弥生時代（2）	青銅器の生産
第 8 回	弥生時代（3）	木器・木製品の生産
第 9 回	弥生時代（4）	玉作の技術と対外交流
第 10 回	古墳時代（1）	古墳時代前期の対外交流
第 11 回	古墳時代（2）	須恵器生産の開始
第 12 回	古墳時代（3）	製鉄・冶金・彫金
第 13 回	奈良時代	正倉院宝物の国際性
第 14 回	原始・古代の技術革新	全体のふりかえりと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書・参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。
期末試験を課すので、それに関する資料の渉猟と読み込みを行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

古庄浩明 2013『第 2 回改訂版「日本」のはじまり－考古学からみた原始・古代』和出版

ISBN978-4-9906476-0-5 C1021 定価 3300 円（本体 3000 円＋税 10 %）

【参考書】

白石太一郎編（2002）『日本の時代史 1 倭国誕生』吉川弘文館
鈴木靖民編（2002）『日本の時代史 2 倭国と東アジア』吉川弘文館
石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史 1』岩波新書
吉村武彦（2010）『ヤマト王権 シリーズ日本古代史 2』岩波新書
大津透ほか編（2013）『岩波講座日本歴史 第 1 巻 原始・古代 1』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を 50 % とし、期末試験による評価を 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

物質文化を扱う科目なので、概念的な理解のみでなく、物質資料そのものやその歴史的意義に対する理解も大切にしたい。受講者は博物館等や美術館において（環境が整わない場合には HP 等も活用して）考古学資料や美術資料に触れ、物質資料に対する感覚を十分に養ってほしい。授業内容をわかりやすくするため、実物資料の写真や図面をまじえた画像の投影によって授業を進める。オンライン授業となった場合も同様である。画像や配付資料をもとに要領よくノートを作成し、学習を進める必要があることを念頭に置いてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

ネット環境とデバイス（パソコン・スマホ・パッドなど）資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目として公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to learn the technologies and social systems that Japan has introduced from mainland China and Korean Peninsula.

HIS200BE

日本古代史

春名 宏昭

授業コード：A3114 | 曜日・時限：水曜 5 限

春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「平安時代と貴族社会」と題して講義します。平安前期の改革の時代の国家・政治のあり方、貴族たちのあり方を理解するようつとめます。

【到達目標】

平安時代の貴族社会のあり方の把握を目指します。基礎的な知識を得て、その上でそれぞれの事象に興味を持ってアプローチし、国家・政治の本質を理解できる能力を身につけましょう。平安時代の官僚のあり方は現代の日本にも通じるオンタイムの問題ですから、現代の政治が抱える問題点も理解できるようになるでしょう。そのような視点から課題レポートにも取り組んで下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

平安前期の改革によって国家・政治のあり方がどのように変わっていったのか、この変化が平安中期の王朝貴族の時代に帰結していったのかを検証していきます。この授業では、一般啓蒙書に書かれることのない天皇や貴族たちのあり方を見ていきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組む必要があります。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すとし新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。課題を課した際には、学生の課題をすべて読んだ後、総評的にコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容の説明
第 2 回	〈時代〉の変化	ワンランク上の国家を目指して
第 3 回	官人たちの変化	良吏政治のスタート＝大同元年勅
第 4 回	天皇の性格変化	桓武天皇と平城天皇
第 5 回	良吏政治の展開	嵯峨朝への政策継承
第 6 回	良吏政治の実践	弘仁三年勅から天長元年官符へ
第 7 回	承和の変の前奏	淳和朝・仁明朝の政治状況
第 8 回	承和の変	母橘嘉智子と娘正子内親王
第 9 回	貴族の時代へ	文徳朝・清和朝の様相
第 10 回	応天門の変	安定の時代、摂関政治へ
第 11 回	源氏と藤原氏	源氏の左大臣と藤原氏の右大臣
第 12 回	藤原基経の国政運営	清和天皇の悲嘆と陽成天皇の廃位
第 13 回	阿衡の紛議	昌泰の変へ
第 14 回	平安前期という時代	平安時代史概観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

平安時代に関して問題意識を持つには、その前提として平安前期・中期の知識が必要ですし、奈良時代から平安時代への推移についても概括的な理解が必要です。それらを得るために、どれでも参考書（該当巻）を読んでみて下さい。ただし、著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。この講義では、通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを述べます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。また、平城天皇の事績をより詳しく知るには私の『平城天皇』（吉川弘文館人物叢書）を、延喜年間以降については『岩波講座日本歴史』第 5 巻の「摂関時代と政治構造」を読んで下さい。この講義の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春名宏昭『〈謀反〉の古代史 平安朝の政治改革』（吉川弘文館）

授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

中央公論社（文庫）・小学館（文庫）・集英社・講談社（文庫）から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波書店の『シリーズ日本の古代史』（新書）、『岩波講座日本歴史』の該当巻。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点 30 %、レポート 70 %です。レポートで取り上げる範囲は平安時代に限りますが、テーマは学生各人で選んでよいことにしています。ただ、どのようなテーマを選んでも、授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作ってください。

【Outline and objectives】

This lecture is attended under the heading of “The Heian period and the aristocracy”. We try to understand how should be the nation and aristocrats in the former term of the Heian period when the political innovation was extensively carried out.

HIS200BE

日本中世史

及川 亘

授業コード：A3115 | 曜日・時限：火曜 5 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代人の生活はしばしば「都市的」と形容される。生活の都市化によって、われわれは都市を基軸とする社会的分業がもたらす様々な日常の便利さや快適さを享受するとともに、都市ならではの問題にも直面する。日本列島で初めてそれらを民衆レベルまで含めて体験することになったのは、中世の人々であると言つてよいだろう。本授業では、16 世紀前半から 17 世紀前半の京都を描いた「洛中洛外図屏風」を素材として、そこに描かれるものを一つ一つ読み解きながら、中世から近世に至る都市景観の変化や、都市に住む人々の生活のあり方について考える。

【到達目標】

「洛中洛外図屏風」の読解を通じて、画像史料読解の基礎を学ぶとともに、都市に関連するトピックを中心として、日本中世・近世史の基礎的な概念や考え方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に「洛中洛外図屏風」に描かれている場面の読み方や調べ方を例示し、その後は担当者（受講人数によってはグループ）を決めて、担当箇所にて何がどのように描かれているか、調べて分かったこと、考えたことを発表してもらい、参加者全員で討論する。併せて教員側からは関連資料を提示しながら解説（フィードバック）する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	「洛中洛外図屏風」について	ガイダンス 授業の進め方と利用史料について
第 2 回	「洛中洛外図屏風」 歴博甲 本を読む ①	下京隻（右隻）第一・二扇を読む。
第 3 回	「洛中洛外図屏風」 歴博甲 本を読む ②	下京隻（右隻）第三・四扇を読む。
第 4 回	「洛中洛外図屏風」 歴博甲 本を読む ③	下京隻（右隻）第五・六扇を読む。
第 5 回	「洛中洛外図屏風」 歴博甲 本を読む ④	上京隻（左隻）第一・二扇を読む。
第 6 回	「洛中洛外図屏風」 歴博甲 本を読む ⑤	上京隻（左隻）第三・四扇を読む。
第 7 回	「洛中洛外図屏風」 歴博甲 本を読む ⑥	上京隻（左隻）第五・六扇を読む。
第 8 回	小括 I	戦国期の京都の都市景観
第 9 回	「洛中洛外図屏風」 林原本 を読む ①	右隻第一～三扇を読む。
第 10 回	「洛中洛外図屏風」 林原本 を読む ②	右隻第四～六扇を読む。
第 11 回	「洛中洛外図屏風」 林原本 を読む ③	左隻第一～三扇を読む。
第 12 回	「洛中洛外図屏風」 林原本 を読む ④	左隻第四～六扇を読む。
第 13 回	小括 II	近世初期の京都の都市景観
第 14 回	まとめ	京都の変貌 中世から近世へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
報告担当者は、担当箇所について何が描かれているか、そして描かれているものに関する語彙や背景知識を十分に調査検討し、史料を読み込むことが求められる。もちろん担当者以外も予習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

前半の「洛中洛外図屏風」 歴博甲本については、国立歴史民俗博物館のウェブサイトで公開されている画像 (https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/gallery/webgallery/rakuchu_kou/rakuchu_kou_1.html https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/gallery/webgallery/rakuchu_kou/rakuchu_kou_r.html) を利用し、後半の「洛中洛外図屏風」 林原本については配布プリントを利用する。また適宜プリントを利用する。

【参考書】

石田尚豊監修ほか『洛中洛外図大観』小学館
京都国立博物館編『洛中洛外図 都の形像』淡交社
高橋康夫・吉田伸之ほか編『図集 日本都市史』東京大学出版会

高橋慎一郎・千葉敏之編『中世の都市 史料の魅力、日本とヨーロッパ』東京大学出版会

笠松宏至ほか編『日本思想体系 22 中世政治社会思想 下』岩波書店
『日本都市史・建築史事典』丸善出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 %、期末試験（またはレポート）40 % で評価する。
積極的な授業参加を期待する。

【学生の意見等からの気づき】

歴史学では必ずしも一つの答えが見つかるわけではないが、史料読解や論理展開にいくつかの可能性がある場合も、それらになるべく分かりやすく整理して解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

予習・復習のためにインターネット環境が必要である。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症の流行が収束しない場合は、授業は ZOOM を利用して行う。URL は HOPPII の本授業のページに掲載する。

【Outline and objectives】

The life of modern people is often described as "urban". Through the urbanization of life, we enjoy the various conveniences and comforts of everyday, and also face the problems unique to the city. It can be said that it was the medieval people who first experienced them in the Japanese archipelago, including at the people's level. In this class, using "Rakuchu Rakugai Zu Byobu", which depicts Kyoto from the first half of the 16th century to the first half of the 17th century, as a material, while reading each one drawn there, changes in the cityscape from the Middle Ages to the early modern period, Think about the way people live in the city.

HIS200BE

日本近世史

松本 剣志郎

授業コード：A3116 | 曜日・時限：水曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近世における都市化社会の形成と展開を広い視野に立って考え、城下町の達成と限界、新しい社会関係や社会意識の萌芽を理解し、これらを適切な表現のもとに説明できるようになることを目的とする。城下町は、身分制を体現した都市である。その社会構造を理解するためには、それぞれの身分および空間に即した検討が必要である。その際、イメージをもつことが重要であるから、図像史料を読み解きながら理解を深めていきたい。

【到達目標】

- ①城下町の特徴を説明できる。
- ②城下町江戸を構成した諸社会、諸要素について説明できる。
- ③図像史料を読み解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業である。ただし、ときに教師は問いを発し、学生の意見を徴し、それをもとに授業を進める。hoppii に教材をアップするので各自プリントアウトして授業にのぞむこと。あるいはタブレット端末等でみてもよい。13 回目の授業で、まとめや復習だけでなく、授業内で実施した試験や小レポート等、課題に対する講評や解説もおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	都市とは何か
第 2 回	江戸前史	地層と地形
第 3 回	江戸城のなか	表・奥・大奥と殿中席
第 4 回	マチの支配	町奉行と町年寄
第 5 回	マチとチョウ	大江戸八百八町
第 6 回	町人の生活	家持・地借・店借・屋守と日用
第 7 回	寺社地の空間と社会	信仰と生業と娯楽
第 8 回	大名屋敷のなか	御殿空間と詰人空間
第 9 回	武家拝領屋敷の相対替	主従関係と内実売買
第 10 回	武家抱屋敷の売買	土地の売買と所持
第 11 回	役屋敷と近世官僚制	老中役屋敷の成立と都市社会
第 12 回	公共空間の維持管理	外堀
第 13 回	総括	まとめ
第 14 回	試験	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書などを読むこと。授業中に参考文献を随時示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史入門』Ⅰ～Ⅲ（東京大学出版会、1989～1990 年）

吉田伸之編『日本の近世』9（中央公論社、1992 年）

松本剣志郎『江戸の都市化と公共空間』（塙書房、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90％）、平常点（10％）

【学生の意見等からの気づき】

日本近世史を専攻しない学生にも理解できるよう授業する積もりですが、参考文献を予め読んでおくことを勧めます。

【Outline and objectives】

This course introduces urban history of early modern Japan to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the urbanisation in the castle town.

HIS200BE

日本近代史

長井 純市

授業コード：A3117 | 曜日・時限：月曜 2 限

春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・授業の概要：日露戦争後の明治時代の政治史を学ぶ。20 世紀初頭の日露戦争での勝利を経て、世界の列強の注目する軍勢力を有することとなった大日本帝国が、経済・産業・生活などの分野における後進性の克服に努める様相を学ぶ。

・目的：1）大日本帝国の政治に関する知識を得る。2）アジア地域唯一の列強となった大日本帝国の国際社会における影響力行使と問題点とに関する知識を得る。3）日本近代史研究の現状に関する情報を得る。4）大日本帝国と日本国との連続性と断絶とについて考える手がかりを得る。

【到達目標】

到達目標：1）日露戦争後の政治、とりわけ桂閣体制と称される政治状況に関する知識を得る。2）当該期の経済・産業・文化・生活の発展・向上に関する知識を得る。3）そうした知識の修得を通して、今日の日本との連続性と断絶を捉え、20 世紀日本の総合的理解と 21 世紀日本の展望とを併せ持つ手がかりを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・進め方：講義形式である。

・方法：受講生の能動的な学習と双方向的な授業運営に努め、授業での配布プリントに記載された史料を受講生が音読することや、教員・受講生間の質疑応答、受講生同士のディスカッションを取り入れる。・教室での対面授業を行うが、新型コロナウイルス感染防止策に対応して、ZOOM を利用して教室での対面授業を同時配信する方式を併用することもある。リアクションペーパーにおける受講生の疑問や質問、コメントなどには、次回の授業冒頭あるいは学習支援システムにおいて対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要説明。
第 2 回	帝国議会と国会	国会開設百年に関するビデオの視聴とその解説。
第 3 回	帝国議会の制度と人（1）	帝国議会に関する制度の解説。
第 4 回	帝国議会の制度と人（2）	帝国議会に関わる人々の解説。
第 5 回	第 25 回帝国議会	第 25 回帝国議会の状況と争点の解説。
第 6 回	第 25 回帝国議会後の社会情勢	第 25 回帝国議会後の社会情勢の解説。
第 7 回	第 26 回帝国議会	第 26 回帝国議会の状況と争点の解説。
第 8 回	第 26 回帝国議会後の社会情勢	第 26 回帝国議会後の社会情勢の解説。
第 9 回	第 27 回帝国議会	第 27 回帝国議会の状況と争点の解説。
第 10 回	第 27 回帝国議会後の社会情勢	第 27 回帝国議会後の社会情勢の解説。
第 11 回	第 28 回帝国議会	第 28 回帝国議会の状況と争点の解説。

第12回	第28回帝国議会後の社会情勢	第28回帝国議会後の社会情勢の解説。
第13回	第29回帝国議会、大正時代の幕開け	第29回帝国議会の状況と争点の解説。大正時代の幕開けと展望の解説。
第14回	まとめ	授業総括と質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・準備学習：学習支援システムの「授業内掲示板」サイトにテキストとなる授業プリントを添付ファイルでアップロードするので、受講生各自、授業前にダウンロードして読んでおくこと。授業テーマに関する参考文献を読んでおくこと。
- ・復習：授業後に授業プリントを読み直すこと。学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに記される毎回の授業の要点を読むこと。授業の中で示された参考文献を読むこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・刊本としてのテキストは使用しない。
- ・授業内容をまとめたプリント（授業プリント）を学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに添付ファイルでアップロードする。

【参考書】

- 佐々木隆『日本の歴史 21 明治人の力量』（講談社）
- 小風秀雅『日本の時代史 23 アジアの帝国国家』（吉川弘文館）
- 飯塚一幸『日本近代の歴史 3 日清・日露戦争と帝国日本』（吉川弘文館）
- 宮田昌明『英米世界秩序と東アジアにおける日本』（錦正社）
- アジア歴史資料センター、独立行政法人国立公文書館、国立国会図書館の各ウェブサイトにおける日本近代史関連解説コラム

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 40 %、試験 60 %（設題は到達目標に沿うものとする）。参照可。
- ・特別な事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には、あるいは試験を受験しない場合には、不合格の評価とする。
- ・新型コロナウイルス感染防止策として教室での試験ができない場合には、リポート（設題方針は試験の場合と同じ）に切り替えることもある。

【学生の意見等からの気づき】

- 日本近代史に関する基礎的な知識の不足を感じている受講生もいることから、授業内容の理解と定着に資する質疑応答を積極的に行い、受講生の学習の動機付けや意欲を高めるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用することができる IT 機器。
- ・ZOOM 授業を受講することができる IT 機器。

【その他の重要事項】

- ・「日本近代史料学」（秋学期）との継続履修を強く推奨する。
- ・大学院における学部合同科目（「日本近代史研究Ⅰ」）である。
- ・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
- ・新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
- ・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、頻繁に閲覧し、見落とさないようにすること。
- ・担当教員宛の直接連絡にはメールを利用すること。そのメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline and objectives】

This course has four main points. The first point is to study the politics of Japan in the early 20th century, the period from the end of the Russo-Japanese War to the end of the Meiji Era. The second one is to study how Japan developed economy, industry, or life style in the above period as one of the Great Powers. The third is to get a basic information on the academic trends in the study of Japanese modern history. The fourth is to get clues for a comprehensive image of the 20th century Japan and a prospect on the 21st century Japan.

HIS200BE

日本現代史

劉 傑

授業コード：A3118 | 曜日・時限：金曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昭和期の日本は、戦争と戦後復興を経て、世界の経済大国になった。激動する日本が歩んだ道を振り返り、世界のなかの日本、アジアのなかの日本という視点から、昭和期日本の内政と外交に対する理解を深め、「昭和」は日本にとってどのような時代だったのかを考えていきたい。多様な近代史史料の利用法も学んでいく。

昭和戦前期日本の内政と外交は、戦争と密接な関係にあった。議会や軍部はもちろん、経済界、メディアなども外交政策の策定や外交交渉の遂行に影響を与えた。複雑な力が働くなかで、外務省はどのように行動したのか。とりわけ外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。「事件」や「事変」、戦争が絶えなかった時代における外交の可能性について、考えていきたい。

【到達目標】

内政と外交に関する多様な記録を教員と共に選択し、解説することによって、現代日本が進んできた道筋に対する理解を深めることができる。また、外交の特徴や、内政と外交の関係、及び外交政策に影響する諸要素を討論形式で考え、客観的、多面的な歴史理解をめざす。講義や討論を通じて、日本と世界の国々とのかわりかたを理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解説」する方法を学んでいく。授業中の質問に対しては討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
第1回	「昭和」という時代（1）	日本近代史の中の昭和時代について考える。
第2回	「昭和」という時代（2）	昭和初期の世相を多様な資料を通じて理解する。
第3回	「昭和」という時代（3）	メディアと政治について討論する。
第4回	外務省と軍部（1）	外務省の歴史を概観し、日本外交の特質を理解する。
第5回	外務省とメディア（2）	世論の形成と外交官の世論への影響を考える。
第6回	昭和初期の外務省と外交官（1）	外務省内の中国通はどのように形成したのか、その役割について討論する。
第7回	昭和初期の外務省と外交官（2）	外務省の外交政策論を諸外国と比較しながら考える。
第8回	山東出兵と日本外交（1）	山東出兵の経緯と中国の対応を事例として、日本外交に対する理解を深める。
第9回	山東出兵と日本外交（2）	田中外交と幣原外交、蒋介石の対日認識と政策について討論する。
第10回	満州事変と日本外交（1）	日本にとって、満洲はなんだったのかを理解する。
第11回	満州事変と日本外交（2）	満洲事変への各方面の対応を検討する。
第12回	満州事変と日本外交（3）	満洲国の成立、満洲国が目指したもの、満洲国の評価について討論する。
第13回	日中戦争前の国交調整	陸軍の華北進出と日本の中国政策について考える。
第14回	昭和戦前期の日本外交	日中戦争までの日本外交について総合討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。
配布史料を授業終了後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとう便利であろう。
箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016 年））
増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007 年）
井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003 年）
川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007 年）
劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006 年）
劉傑・川島真『1945 年の歴史認識』（東京大学出版会、2009 年）
劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を実施する。普段のレポートや討論への参加も成績評価の対象になる。試験 7 割、平常点 3 割。

【学生の意見等からの気づき】

講義に関する詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用する。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染防止対策として、Web 学習支援システムなどを利用する。授業方式や課題などを見落とさないように注意し、指示にしたがって学習を行ってください。

【Outline and objectives】

This lecture covers the domestic affairs and diplomacy of Japan in the Showa period. Congress and the military as well as the economic circle and the media influenced the formulation of foreign policy and the diplomatic negotiations. How did the Ministry of Foreign Affairs act before the Sino-Japanese War? How did diplomats' recognition and techniques influence Japanese diplomacy? We will think about the possibility of diplomacy in the era of war.

HIS300BE

日本古代史科学 I

春名 宏昭

授業コード：A3121 | 曜日・時限：水曜 5 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「続日本紀の史科学」と題して講義を行ないます。八世紀の日本は、当時先進の文化を誇った中国のような国家建設を目標に掲げて邁進していました。『続日本紀』を題材に史料への取り組み方を学び、日本古代史における歴史の流れ、あり方の把握を目指します。

【到達目標】

続日本紀の記事を数点取り上げ、史料へのアプローチの仕方を習得することができます。この授業を通して、奈良時代の基礎的な理解を身につけ、他の史料に対してもつねに興味を持って臨めるようになり、それを論理的に解析し正しい理解に到達できる技能を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

取り上げた記事を糸口に、その背後にある問題点を探り出し検証していきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組むことが必要です。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。

課題を課した場合は、次の授業でコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	続日本紀とはどのような史料か？
第 2 回	左右京尹の設置（1）	天平宝字五年二月丙辰朔条の紹介
第 3 回	左右京尹の設置（2）	左右京尹に対するわたしの理解
第 4 回	左右京尹の設置（3）	左右京尹の新たな性格分析
第 5 回	紫微内相と兵権（1）	天平宝字元年五月丁卯条の紹介
第 6 回	紫微内相と兵権（2）	紫微内相の性格分析
第 7 回	奈良から平安へ	藤原仲麻呂政権の評価
第 8 回	天平二年の太政官奏（1）	天平二年六月甲寅朔条の紹介
第 9 回	天平二年の太政官奏（2）	続日本紀の 3 つのテキスト
第 10 回	天平二年の太政官奏（3）	わずか 31 文字の史料の“奥行”
第 11 回	慶雲元年の公廩銀（1）	慶雲元年七月庚子条の紹介
第 12 回	慶雲元年の公廩銀（2）	公廩銀から見えてくるもの
第 13 回	税司主鑑（1）	大宝二年二月乙丑条の紹介
第 14 回	税司主鑑（2）	大宝令施行直後の地方政治

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた記事が含む意味を理解するためには、それぞれの記事に現れた事象の時代背景を知る必要があります。そのためには、どれでもいいですから参考書（奈良時代該当巻）を読んでみて下さい。著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。

この講義では、現在の通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを書いていきます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。

この講義の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

岩波書店・新日本古典文学大系『続日本紀』が基本です。他に一般啓蒙書として、中央公論社（文庫）・小学館（文庫）・集英社・講談社（文庫）から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波新書『シリーズ日本の古代史』、『岩波講座日本歴史』の該当巻があります。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点 30 %、レポート 70 %です。レポートで取り上げるテーマは学生各人で選んでよいことにしていますが、どのようなテーマを選んでも授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作ってください。 ” 自分で考える ” がキーワードです。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉日本古代政治史

〈研究テーマ〉日本古代の皇権と官制

〈主要研究業績〉

『律令国家官制の研究』（吉川弘文館）

『平城天皇』（吉川弘文館）

『皇位継承 歴史をふりかえり変化を見定める』（共著、山川出版社）

『〈謀反〉の古代史 平安朝の政治改革』（吉川弘文館）

【Outline and objectives】

This lecture is attended under the heading of “The world of Shokunihongi”. In the way of taking up some descriptions of Shokunihongi, we were to learn how to grapple with problems in order to understand how Japan changed in the ancient regime.

HIS300BE

日本近世史科学 I

松本 剣志郎

授業コード：A3124 | 曜日・時限：月曜 2 限

春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世史研究において、くずし字の読解能力を身につけていることは、研究の幅を大きく広げると同時に、学問をより深めるものとなる。本授業は、基礎的な読解能力を養成することを目的とする。あわせて基本的な近世文書の種類を覚えてもらいたい。

【到達目標】

- ①くずし字の読解能力を身につける。
- ②基本的な近世文書の種類を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用するかたちをとる。古文書のコピー Hoppii にアップするので、まずは自力で読解に取り組む（教室でプリントは配布しない）。授業時に割り当てるので、学生はこれを板書し、答え合わせをする。教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	くずし字の辞典について
第 2 回	古文書読解入門	近世史科学講義
第 3 回	検地帳読解（1）	数字を覚えよう
第 4 回	検地帳読解（2）	単位を覚えよう
第 5 回	武家屋敷組合名簿読解（1）	名前を覚えよう
第 6 回	武家屋敷組合名簿読解（2）	通称を覚えよう
第 7 回	領地宛行状読解	大名家領の安堵
第 8 回	年貢割付状読解	年貢請求書
第 9 回	年貢皆済目録読解	年貢領収書
第 10 回	宗門人別改帳読解	江戸時代の家族
第 11 回	五人組帳前書読解	百姓への規制
第 12 回	変体仮名読解	俳句をよむ
第 13 回	金子借用証文読解	年貢滞納
第 14 回	試験とまとめ	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、配布された古文書のコピーを辞書を引きながら予習すること。事後には、読めなかった字を必ず復習すること。とにかく古文書をながめる時間をたくさんとること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『新編古文書読解辞典』（柏書房）

『くずし字用例辞典』（東京堂出版）など

辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

まずは自分で辞書をひきながら読むことが大事です。

【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline and objectives】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing.

HIS300BE

日本近世史料学Ⅱ

松本 剣志郎

授業コード：A3125 | 曜日・時限：月曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な近世史料の読解能力を養うことを目的とする。さまざまなくずし字を解読すると同時に、読解した史料の意味を理解することが重要となる。

【到達目標】

- ①くずし字を解読することができる。
- ②読解した史料の意味を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は日本近世史料学Ⅰを履修済みであることを前提として授業を進める。Hoppii に古文書のコピーをアップするので、これにまずは自力で解読に取り組む。授業時に答え合わせし、教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。古文書解読の中級編として、近世の行政文書のほか、書状や発句など書体の異なる史料も対象とする。なお、近世ゼミの夏合宿で撮影した古文書をテキストとすることがある。また、現物古文書の整理作業を体験することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	発句読解	変体仮名
第 2 回	離縁状読解	三行半
第 3 回	触書読解（1）	ベリー来航
第 4 回	触書読解（2）	株仲間再興
第 5 回	武家文書読解（1）	御堀の管理
第 6 回	武家文書読解（2）	橋梁の管理
第 7 回	武家文書読解（3）	三方領地替（前半）
第 8 回	武家文書読解（4）	三方領知替（後半）
第 9 回	漢詩読解	七言絶句
第 10 回	書状読解（1）	松平容保書簡（前半）
第 11 回	書状読解（2）	松平容保書簡（後半）
第 12 回	日記読解（1）	自家年譜（前半）
第 13 回	日記読解（2）	自家年譜（後半）
第 14 回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布された古文書のコピーを、辞書を使って自力で読むこと。事後には、必ず復習すること。多くの古文書に触れることが重要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『新編古文書解読字典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

筆の動きをみるのが、古文書読解能力向上のためのポイントです。

【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline and objectives】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing.

HIS300BE

日本近代史科学

長井 純市

授業コード：A3126 | 曜日・時限：月曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・授業の概要：史料を通して日本近代史の種々相を学ぶ。
- ・目的：和紙に毛筆・草書体で書かれた史料の読解力を養うこと。

【到達目標】

到達目標：1) 日本近代史に関する幅広い知識を得る。2) 日本近代史研究に関わる史料の所蔵機関や利用法に関わる知識を得ること。3) 日本近代史研究に関わる史料の調査・収集に関わる知識を得ること。4) 日本近代史研究に関わる史料の読解力を養うこと。5) 情報・知識の調査・収集・分析・利用に関わる能力・技術を養い、高める手がかりを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・進め方：講義形式である。
- ・方法：受講生の能動的な学習促進と双方向的な授業運営のために、教員と受講生間の質疑応答、受講生グループの助け合い学習による草書体文字の翻刻作業を取り入れる。新型コロナウイルス感染防止策への対応が必要な場合には、教室での対面授業を ZOOM を使って同時配信する方式を採用する。リアクションペーパーにおける受講生の疑問や質問、コメントなどには、次回の授業冒頭あるいは学習支援システムにおいて対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要説明。
第 2 回	主な史料所蔵機関のウェブサイト	独立行政法人国立公文書館、外務省外交史料館、防衛省防衛研究所戦史研究センター、国立国会図書館など主な史料所蔵機関のウェブサイトの説明。
第 3 回	日本近代古文書読解（1）	第 1 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 4 回	日本近代古文書読解（2）	第 2 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 5 回	日本近代古文書読解（3）	第 3 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 6 回	日本近代古文書読解（4）	第 4 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 7 回	日本近代古文書読解（5）	第 5 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 8 回	日本近代古文書読解（6）	第 6 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 9 回	日本近代古文書読解（7）	第 7 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 10 回	日本近代古文書読解（8）	第 8 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 11 回	日本近代古文書読解（9）	第 9 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 12 回	日本近代古文書読解（10）	第 10 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 13 回	日本近代古文書読解（11）	第 11 回毛筆・草書体資料の読解トレーニング。

第14回 まとめ 授業総括と質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・準備学習：学習支援システムにアップロードされる授業プリントを事前にダウンロードして読んでおくこと。
- ・復習：授業プリントを読み直すこと。授業後、学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに掲示される毎回の授業要点を読むこと。
- ・授業テーマに関するウェブサイト（国立国会図書館電子展示会、アジア歴史資料センター、独立行政法人国立公文書館など）の関連コラムを読むこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・刊本としてのテキストは使用しない。
- ・毎回授業前に、授業の要点をまとめたプリントや史料プリント（国立国会図書館所蔵「寺内正毅関係文書」コピー版）を学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに添付ファイルでアップロードする。

【参考書】

- ・くずし辞典
- ・『日本近代の歴史』（吉川弘文館）全6巻
- ・アジア歴史資料センター、独立行政法人国立公文書館、国立国会図書館電子展示会の各ウェブサイトにおける日本近代史関連解説コラム。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点40%、試験60%（設題は、到達目標をふまえたものとする。参照可）。
- ・特別な事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には、あるいは試験を受験しない場合には、不合格の評価とする。
- ・新型コロナウイルス感染防止策に対応して教室での試験ができない場合には、レポートに切り替えることもある。

【学生の意見等からの気づき】

日本近代史に関する基礎的な知識の不足や草書体漢文調史料読解スキルの不足を感じている受講生がいることから、教員・受講生間の質疑応答や受講生同士の助け合い学習を積極的に取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用することのできるIT機器。
- ・ZOOM 授業を受講することのできるIT機器。

【その他の重要事項】

- ・「日本近代史」（春学期）との継続履修を強く推奨する。
- ・大学院の学部合同科目（「日本近代史研究Ⅱ」）である。
- ・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習や教育自習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
- ・新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業ができない場合には、授業内容を変更することがある。
- ・授業に関する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや「授業内掲示板」サイトで行うので、これらを頻繁に閲覧し、見落としがないようにすること。

【Outline and objectives】

This course has four main points. The first point is to get a basic knowledge about Japanese modern archives. The second one is to get an academic skill for reading old documents written in cursive style of Chinese characters in the Meiji era. The third is to study the Japanese modern history through reading old documents above. The fourth is to get clues for getting or improving the general skill of researching, gathering, analyzing and utilizing of information and knowledge each student of this class gets in his/her career.

HIS300BE

日本現代史料学

劉傑

授業コード：A3127 | 曜日・時限：金曜2限
秋学期・2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代史料の探し方、読み方を学び、史料のなかの日本外交を考える。具体的には、外交記録、日記、手紙、報告書、回想録など多様な史料の調査法、利用法などを習得する。

昭和12年、日本と中国は全面戦争に突入する。戦争の拡大と平行して展開された外交は、戦争そのものだけでなく、戦後日本のあり方にも大きな影響を与えた。外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。戦争の時代における外交の可能性について考える。

戦後の日本外交は対米関係を軸に展開され、日本は直接戦争に巻き込まれることなく今日の繁栄を築きあげた。戦後日本の政治家と外交官の外交理念を辿りながら、平和な国際環境を創出するための日本外交の戦後史を学ぶ。

【到達目標】

近現代の日本外交に関連する記録を解説し、近現代日本外交の特徴や、外交政策に影響する諸要素を史料のなかから読み解く方法を身に付けることができる。

史料の探し方、史料批判の方法、史料利用の方法などについて検討し、多様な史料を手がかりに、日本とアジア、世界とのかかわりかたを理解する。

また、討論を通じて、世界の中の日本を理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解説」する方法を学んでいく。授業中の質問に対しては、討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	昭和史研究と史料	昭和期史料の特徴を概観する。
第2回	日中戦争下の外交 (1)	史料を読み、日中戦争中の「和平工作」を考える。
第3回	日中戦争下の外交 (2)	「近衛声明」の意味とその影響について討論する。
第4回	外交官と戦争 (1)	外交官の日記を読み、その史料価値を考える。
第5回	外交官と戦争 (2)	外交官の報告を読み、その影響について分析する。
第6回	太平洋戦争下の外交 (1)	開戦をめぐる諸問題を外交官の報告で考える。
第7回	太平洋戦争下の外交 (2)	対中外交を軍人の報告書で読む。
第8回	太平洋戦争下の外交 (3)	占領地政権問題を日記で考える。
第9回	終戦外交 (1)	陸軍の終戦構想を記録で検証する。
第10回	終戦外交 (2)	外交記録で終戦を読む。
第11回	冷戦下の日本外交 (1)	メディアのあり方と冷戦について討論する。
第12回	冷戦下の日本外交 (2)	中国、台湾の公的文書をよみ、日本のアジア外交を考える。
第13回	日中国交回復とアジア外交の新展開 (1)	日中両国の史料を読み、日中関係の特質について討論する。
第14回	日中国交回復とアジア外交の新展開 (2)	日中の新聞記事を分析し、日本のアジア外交を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。
配布史料を授業後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

その他の参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとう便利であろう。
箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016年））
井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003年）

増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007 年）
川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007 年）
劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006 年）
劉傑・川島真『1945 年の歴史認識』（東京大学出版会、2009 年）
劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回授業時間内に討論か、小レポート課題を完成していただく。学期末にこれを参考にし（50 %）、試験（50 %）とともに成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義の詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用するなど、履修者によりよく内容を理解してもらうように努める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの通信機器。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染防止対策として、Web 学習支援システムなどを利用する。授業方式や課題などを見落とさないように注意し、指示にしたがって学習を行ってください。

【Outline and objectives】

In this lesson we will learn how to research and read historical materials of modern history of Japan. Also think about Japanese diplomacy in historical materials. Specifically, we will learn how to find and analysis documents such as diplomatic records, diaries, letters, reports, memoirs. In 1937, Japan and China started a general war. The diplomatic negotiations between Japan and China had a great influence not only on the war itself but also on the way of Japan after the war. We will discuss how did diplomats' perceptions and diplomatic approaches influence China-Japan relations? And think about the possibility of diplomacy in the era of war.

HIS200BE

東洋古代史

飯尾 秀幸

授業コード：A3135 | 曜日・時限：月曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、人類の誕生とともに居住単位・婚姻単位・経済単位として存在するが、歴史の各段階においてそれは変遷する。この授業においては、文化人類学・考古学の成果に学びつつ、婚姻単位としての家族が如何なる構造をもつものであったのかを中国古代史を対象として考える。

【到達目標】

家族とは、いかなるものかを 19 世紀～20 世紀における文化人類学の展開から理解し、説明できる。
また、集落・家屋といった考古学的研究の成果をどのように歴史学に取り入れるかを習得することができる。
史料の扱い方（漢籍と甲骨文字・青銅器銘文など）に精通することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

文化人類学の調査などを参考に、歴史学において家族をどう捉えたらよいかを考え、中国の新石器時代における家族を、とくに婚姻単位としての家族という観点から位置づける。
現代の家族問題と比較して、受講生自身の問題意識を高め議論を深めていきたい。
なおリアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	歴史学における空間（地域）を考える。	n 地域論を理解し、具体的に地域間の諸関係を考える。
第 2 回	歴史学における時間（時代区分論）を考える。	時代区分論を理解し、具体的に時代の画期を提示し、その変化の意味を考える。
第 3 回	核家族のイメージの再考	モン族（中国南部）、モン族（ヴェトナム北部）の集落構造・婚姻制度から歴史的家族を考える。
第 4 回	婚姻単位としての家族を考える。	文化人類学における家族の方法論から家族論を検討する。
第 5 回	経済単位としての家族を考える	社会経済史の議論から家族論を考える
第 6 回	歴史学が考える家族の成立と社会・国家との関係を検討する。	婚姻単位・経済単位としての家族が居住単位としての家族に合一することを家族の成立と定義する意味を考える。
第 7 回	国家と社会・家族の理論的展開を概観する。	社会と家族が国家支配と如何なる関係にあるのかを検討する。
第 8 回	中国考古学の成果、検討する。	中国文明の地域的多様性を考える。
第 9 回	姜寨遺跡の紹介	発掘された紀元前 4500 年ころの一つの集落の構造を考える。
第 10 回	ボロロ族の集落構造	レイストロースの調査に基づいて、ブラジルのボロロ族の集落構造・婚姻制度を紹介する。
第 11 回	姜寨遺跡からみた集落構造の意味	ボロロ族を参考に、仰韶文化期の集落構造を考える。
第 12 回	半坡遺跡、その他の仰韶文化期の遺跡の紹介	仰韶文化期のその他の遺跡から集落構造、婚姻制度を考える。
第 13 回	竜山文化期以降の集落遺跡の紹介と「家族」成立前史	新石器時代後半の集落と家屋の状況を考える。
第 14 回	授業内テストと春学期のまとめ・解説	歴史学、文化人類学での家族の扱い方をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国古代史をテーマとした概説書を読むことを予習として、知識を得てください。また授業中で歴史学、文化人類学などの研究書を紹介いたしますので、参照してください。とくに興味を引くテーマには積極的に検索して書物のありかを確認して調べていただきたい。
予習・復習は、講義 1 回につき 4 時間を標準とします。
また絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】

授業内テストを実施します。その成績評価を 80 %、平常点として 20 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することとに心がける。

【その他の重要事項】

質問は、授業中に原則として受けます。また初回の授業で E メールアドレスを提示しますので、いつでもメールでも質問してください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history , family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

HIS200BE

東洋中世史

宇都宮 美生

授業コード：A3136 | 曜日・時限：金曜 1 限

秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の生活に不可欠な水を通して、中国が水問題に対してどのように対処したのか、水をどのように有効利用したのかをみていく。これにより、近年頻発する日本の水害についても考えていきたい。

【到達目標】

水に関する中国人の活動に対し、それを生み出した要因と背景、それによる影響と発展について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物、遺構、古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献、地図、写真、絵、表などの資料の使い方を学習する。また、与えられた資料を使って、分析する方法を学ぶ。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	水問題	水問題と学習の意義
第 2 回	河川史 1	黄河
第 3 回	河川史 2	長江
第 4 回	河川史 3	渭水
第 5 回	河川史 4	洛水
第 6 回	運河史 1	運河の構造
第 7 回	運河史 2	運河の発展
第 8 回	穀倉	穀物の運搬と保管
第 9 回	船舶史	船舶の種類と発展
第 10 回	水軍史	水上の軍事行動
第 11 回	農業史	灌漑と水車
第 12 回	庭園 1	庭園の種類と発展
第 13 回	庭園 2	皇室庭園
第 14 回	水害	災害と防災

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で資料、論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。また、質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料については配布するが、レジュメは配布しない。

【参考書】

愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009 年改訂版
富谷至・森田憲司編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2016 年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』講談社、2005 年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と筆記試験 (70%、事前に問題を知らせる)

【学生の意見等からの気づき】

この授業では自分で書くことにより、「自分のノート」を作ってもらいたいので、写真撮影を禁じる。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（あれば青色）：作業をしてもらう。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces an understanding of Chinese history in respect to various issues on water. The aim of this course is to help students acquire an importance of water in life, city, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

HIS200BE

西洋古代史

後藤 篤子

授業コード：A3143 | 曜日・時限：金曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、2 世紀後半～5 世紀のローマ帝国の詳しい歴史を政治史を中心に学び、帝政後期のローマ社会を概観することで、ローマ帝国の「東西分裂」という表現や、「ローマ」対「ゲルマン」という二項対立的見方の妥当性について考えます。

【到達目標】

2 世紀後半～5 世紀のローマ帝国の政治と社会についての基本的知識を習得する。
帝政前期からの変化をもたらした諸要因について、自分で考えることができる。
ローマ帝国の「東西分裂」という表現や、「ローマ」対「ゲルマン」という二項対立的見方の妥当性について、自分で考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で進めますが、講義レジュメは原則として1 週間前に学習支援システムの教材欄にアップするので、受講者は事前によく目を通し、予習したうえで授業に臨むこと。教室授業は講義レジュメの補足説明と、学習支援システム上に設定する質問受付コーナーに事前に投稿される質問や、その場で出される質問・意見へのフィードバックを中心に進めます。グループディスカッションを行う回は各グループから討議内容を報告してもらい、最後に全体へのフィードバックを行う予定ですが、時間が足りない場合は学習支援システムを利用した報告提出とフィードバックに切り替えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	帝政前期ローマ社会の概要
第 2 回	「ローマの平和」の終焉	「五賢帝」時代末期からセウエルス朝期の政治史
第 3 回	「アフリカ人皇帝」の復讐？	セプティミウス・セウエルス帝の評価をめぐるグループディスカッション
第 4 回	3 世紀のローマ帝国 (1)	「軍人皇帝時代」の開始
第 5 回	3 世紀のローマ帝国 (2)	「軍人皇帝時代」の展開
第 6 回	「3 世紀の危機」？	「危機」の諸相。軍人皇帝への再評価をめぐるグループディスカッション。
第 7 回	「危機」の克服	ディオクレティアヌス登位からコンスタンティヌス帝死去までの政治史
第 8 回	「大きな政府」の出現	ディオクレティアヌス・コンスタンティヌス両帝の諸改革と帝政後期の社会
第 9 回	4 世紀のローマ帝国	コンスタンティヌス帝死去から「ゲルマン民族大移動」の開始まで
第 10 回	「ローマ」と「ゲルマン」	ローマ・ゲルマン関係史と「ゲルマン民族大移動」開始後の状況。
第 11 回	ローマ帝国の「東西分裂」？	4 世紀末～5 世紀初頭の政治史
第 12 回	5 世紀前半のローマ帝国	ローマとコンスタンティノープル
第 13 回	5 世紀後半のローマ帝国	テオドシウス朝断絶後の状況
第 14 回	まとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義レジュメは原則として1 週間前に学習支援システムの教材欄にアップするので、受講生は事前に目を通し、知らない人名や事項については『世界史辞典』（角川書店）等を利用してまず自分で調べてみる。そのうえで、不明点や疑問点は授業時の質疑応答で解決を図ること。授業後は講義や質疑応答の内容を復習し、まだ理解が不十分と思われる点や疑問点について、まず自分で講義時にとったノートや参考文献を利用して考えてみる。それでも残る不明点・疑問点については、学習支援システムの授業内掲示板等に設定する質問受付コーナーか、次回授業の質疑応答時間に必ず質問して解決するようにする。また、ディスカッションの素材は1 週間前に配布する講義レジュメに記載するので、よく読んで自分の意見を言えるようにしておくこと。本授業の予習・復習時間は各2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義概要と関連史料・図版等を記載したレジュメを、原則として講義の1 週間前に、学習支援システムの教材欄にアップします。

【参考書】

井上文則『軍人皇帝のローマー変貌する元老院と帝国の衰亡』講談社選書メチエ、2015 年。
ベルナール・レミイ『ディオクレティアヌスと四分統治』、大清水裕訳、白水社（文庫クセジュ）、2010 年。
ベルトラン・ランソン『コンスタンティヌス―その生涯と治世』、大清水裕訳、白水社（文庫クセジュ）、2012 年。
弓削達『永遠のローマ』講談社学術文庫、1991 年。
田中創『ローマ史再考―なぜ「首都」コンスタンティノブルが生まれたのか』NHK ブックス、2020 年。
その他の参考文献は、講義レジュメで随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（質問やディスカッションでの発言等、授業への積極的参加度）20 %、期末筆記試験 80 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は全科目がオンライン授業となり、それへの対応で授業準備に例年をはるかに上回る時間を要したため、予習時間を十分に確保できるようなタイミングで講義レジュメを事前アップできなかったことが、最大の反省点です。2021 年度は 1 週間前のアップを心がけ、諸般の事情で遅れる場合でも、2020 年度のような大幅な遅れにはならないようにします。

【Outline and objectives】

This course deals with the history of the Roman empire from the late 2nd century through the 5th century, considering such themes as the division of the Roman empire into the western and eastern parts, and the relationship between the 'Romans' and the 'Germans'.

HIS200BE

西洋中世史

小沼 明生

授業コード：A3144 | 曜日・時限：金曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際社会を理解するために不可欠な知識を中心に、古代ローマ世界の終わりにから 15 世紀までを扱います。巨大な文明の崩壊後、新しい世界の萌芽となる古代末から、キリスト教ヨーロッパの基礎を築いた中世初期、現代の国際関係のもととなる国民意識を生み出した中世後期の世界までを概観します。現代世界に通じる部分と異質な部分を合わせ持つ前近代の西洋世界の歴史を学ぶことを通じて、今の自分自身が置かれた位置を広い視野で考えてほしいと思います。

【到達目標】

この授業には二つの目的を設定します。一つ目は、異文化や異世界に対する理解と、自らの文化や世界に対する相対的な見方、そして歴史的なものの考え方を身につけることです。二つ目は、文献を収集、比較・分析し、そこから自分の見解を導きだし、表現できるようにすることです。前者については授業内容で、後者についてはレポートの作成を通じて学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では一回に一つのトピックを取り上げ、時代の流れの中に位置づけながら解説します。現代を生きる上でぜひ知っておいてほしい事件やことがらを厳選して紹介していきます。各授業の終わりに、日本語に訳された史料、つまり歴史を書く際に証拠として使われてきたテキストや画像、音楽などを取り上げ、その時代背景や作者の情報、意図などを自由に想像して考えてもらいます。続く授業でその史料の内容と背景を解説し、そこからどのような歴史像が作られてきたかを学びます。
フィードバックや質問は授業コメント欄にお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	西洋前近代の歴史を学ぶこと
第 2 回	ローマ世界の終焉	民族大移動と古代の終わり
第 3 回	フランク王国の成立と発展	カールの戴冠と西ヨーロッパ世界
第 4 回	ローマカトリックの伝播	聖歌の成り立ちから見る典礼の成立
第 5 回	聖職叙任権闘争	カノッサの屈辱から見えること
第 6 回	十字軍	西ヨーロッパの拡大とその目的
第 7 回	中世の世界観	地図から見る世界観の変遷
第 8 回	サンチャゴ巡礼とレコンキスタ	巡礼の書と巡礼地の発展
第 9 回	教会建築の変化	ゴシック建築の誕生
第 10 回	黒死病と死の舞踏	パンデミックとその原因・結果
第 11 回	百年戦争	中世的国家の変質
第 12 回	中世の終焉とルネサンス	ルネサンスの源流を探る
第 13 回	宗教改革	ウィクリフから、フス、ルターまで
第 14 回	まとめとレポート講評	テキストを批判的に読むこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の最後に次の回の授業で使う課題を渡します。課題の中のキーワードなどを参考に予習をしておくことを勧めます。
また、レポートの作業を分割して進めますので、毎週 4 時間ほどの準備時間を用意してください。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。授業ごとにプリントを用意します。

【参考書】

木下康彦ほか編『改訂版詳説世界史研究』山川出版社、2008 年

【成績評価の方法と基準】

学期中に簡単な小レポートを二回、そしてそれを踏まえた形で学期末にレポートを提出してもらいます。合計三回のレポートの評価と、出席状況および授業への参加を合計して最終的な評価を行います。なお、授業への参加については、授業内での課題への回答を見て評価します。配点は以下の通りです：
出席と授業参加： 30
レポート A： 10
レポート B： 20
レポート C： 40

【学生の意見等からの気づき】

毎回課題に回答してもらいますが、正解を求めるというより想像力を働かせて推理するという気持ちでやってみてください。

【学生が準備すべき機器他】

必須ではありませんが、課題の内容に限定して、授業中にスマートフォンなどでの検索を許可しますので、ネットにつながる状態で用意しておくといでしょう。

【Outline and objectives】

This is the lecture about European history focusing on the middle ages. The lecture, based on the basic knowledge of world history, begins with the post-Roman era and ends with the 15th century. Students in this class will get a historical point of view and the techniques to read historical texts critically.

HIS200BE

西洋近代史

中嶋 毅

授業コード：A3145 | 曜日・時限：水曜 4 限

春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代ロシアの政治社会を多面的に考察する。本講義では、ロシア帝国の形成から第一次世界大戦に至るまでのロシア近代史を概観し、ヨーロッパの政治発展の一類型としてのロシア世界を考察する。

【到達目標】

近代ロシア帝国の歩みを、主に政治社会史の観点から検討し、近代国家の特徴を比較考察する視角を習得する。また、ロシア近代史の経験を経験を近代世界の中に位置づける作業を通じて、歴史的思考を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。授業の最後に小課題を提示し、Hoppii で提出してもらう。その際、授業および課題作成にあたっての質問を随時記載してもらい、次回授業時までに回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ロシア帝国の形成 (1)	ビョートル 1 世と帝国の形成
第 2 回	ロシア帝国の形成 (2)	ビョートルからエカチェリーナへ
第 3 回	ロシア帝国の形成 (3)	エカチェリーナ 2 世とロシア帝国の発展
第 4 回	19 世紀前半のロシア帝国 (1)	ナポレオンを破った大国ロシア
第 5 回	19 世紀前半のロシア帝国 (2)	ニコライ 1 世と帝国の安定化
第 6 回	ロシア帝国の近代化 (1)	アレクサンドル 2 世の「大改革」
第 7 回	ロシア帝国の近代化 (2)	近代化の苦悩
第 8 回	近代ロシアの成熟	19 世紀末のロシア帝国
第 9 回	近代ロシアの危機	ニコライ 2 世のロシア帝国
第 10 回	第一次世界大戦とロシア帝国	総力戦への対応
第 11 回	二月革命	ロシア帝国から共和制ロシアへ
第 12 回	十月革命とボリシェヴィキ政権	社会主義ロシアへの転換
第 13 回	全体のまとめ (1)	近代ロシアの特徴 (1)
第 14 回	全体のまとめ (2)	近代ロシアの特徴 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近代ロシア史の概説書を読み、歴史の大まかな流れを理解する。また、授業の際に提示する課題に取り組み、復習や準備学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。配布資料を用いて授業を進める。

【参考書】

和田春樹編『世界各国史 22 ロシア史』（山川出版社、2002 年）。田中陽児・倉持俊一・和田春樹編『世界歴史大系・ロシア史』全 3 巻（山川出版社、1994-97 年）。参考文献リストは授業時間に配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業中に課する課題の提出（50 %）と学期末試験（50 %）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

An overview of modern history of Russia from the formation of the Russian empire to the First World War. The Russian world as a type of European political development will be considered.

HIS200BE

西洋現代史

古川 高子

授業コード：A3146 | 曜日・時限：月曜 3 限

秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史的考察力を養い、現代世界で生じている様々な事件や事柄を理解するために、国民国家、国民、民族、地域という視点から歴史を学ぶ。

【到達目標】

西洋近現代史において扱われる国民国家、国民、民族、地域といった概念で示される事象が具体的にどのようなものだったのか、またどのような意味を持っていたのかを理解する。そして、特に多言語地域における国民国家の形成や地球全体にまたがる人の移動とそれらの歴史的変容過程を学ぶことで、現在の諸問題の端緒を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・国民、国民国家、自由主義、国民主義、帝国主義等の諸概念に関する歴史学上の議論を紹介するとともに、多言語地域における国民形成に関する事例研究や政治文化等を交えて、西洋現代史の諸事象を国民や民族、地域といった視点で考察する。授業は講義を中心に進める。
- ・講義のレジュメは、前日までに学習支援システムを通じて配布するので、各自プリントアウトして、授業に持参し、参照にすること。
- ・講義において疑問に感じたことについては授業の最後に質問時間を設定するので、そこで回答する。できなかった質問については学習支援システムを通して全員に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	国民国家の諸問題	ネーション概念、国民国家、ネーション・ナショナリズム研究の紹介、地域概念等の解説
第 2 回	フランス革命と国民	フランス革命の意味、フランス革命と植民地支配、女性にとってのフランス革命
第 3 回	産業革命・社会問題	資本と労働、階級形成、社会問題、社会主義の思想、1848 年革命、ウィーンの労働者街区
第 4 回	自由主義と国民主義－事例研究（1）ハプスブルク帝国	19 世紀後半における国民形成運動、多言語使用地域、「民族」対立
第 5 回	帝国主義の時代	帝国主義、米西戦争、南アフリカ戦争他
第 6 回	世界をマクロとミクロに把握する	近代化論、従属論、世界システム論、エトノスという把握の仕方
第 7 回	人の移動と世界	大都市の成立、新大陸、移民の世紀
第 8 回	ヴェルサイユ体制と国民国家の制度化	第一次世界大戦前のネーションとナショナリティ、ウィルソンの 14 箇条、マイノリティ保護
第 9 回	ファシズム時代の国民主義と国民的抵抗	世界各地のファシズム、世界恐慌、反ファシズム
第 10 回	戦間期から第二次世界大戦直後までの国民形成－事例研究（2）子供をいかにして国民とするか	多言語地域、国民的帰属への無関心、ユダヤ教徒の子供、連合国による国民化政策
第 11 回	アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国	冷戦、アジア諸国の独立、アラブ地域の動向と中東戦争、アフリカ諸国の独立、ラテンアメリカの動向
第 12 回	冷戦の時代	ヨーロッパにおける冷戦、国民国家体制の普遍化、冷戦国家
第 13 回	新自由主義の時代	新自由主義の成立、グローバル・サウス、新自由主義のヘゲモニー
第 14 回	試験、まとめ	授業内筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示する参考書をできるだけ読み、国民、国民国家、民族あるいは地域といった概念や事例の理解を深めること。本授業の予習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に用いない。

【参考書】

参考書は授業中に適宜指示する。

- 但し、以下の参考書は本講義において重要なので可能な限り読んでおくこと。
- ・小沢弘明「東欧における地域とエトノス」歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題 II 1980-2000 年 国家像・社会像の変貌』（青木書店、2003）pp. 223-237.
- ・木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店、2014）.

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）および筆記試験（80 %）による総合評価を行う。

授業で学んだ事柄について、多くの参考書を読んで理解を深め、論点を抜き出してノートにまとめておき、それをもとに筆記試験に臨むこと。試験は暗記ではなく、思考力と論理力を求めるものとなるため、文章を正しく、論理的に書く練習をしておくこと。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Understanding the meanings and roles of nations, ethnic groups and areas in world history of 19. and 20. century.

Introducing ideas and discussions about nations, nation-states, and ethnic groups. Including some case studies, examining events in world history from the viewpoint of nations, nation-states, and ethnic groups.

HIS200BE

考古学概論／考古学概論（資格）

古庄 浩明

授業コード：A3152,A3855 | 曜日・時限：月曜 2 限

春学期・2 単位

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3855）で履修する。

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】

日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。
考古学的方法が発達する過程が理解できる。
考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主に学史的観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。

授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援室システムに課題を提出していただき、そのフィードバックも学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答も学習支援システムを利用する。資料も利用する。授業のプリントは「古庄浩明の講義ノート」(<https://wacoffee.blogspot.com/>) から各自ダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。
毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	考古学とは何か	考古学の本質
第 3 回	古代日本における考古学的認識	考古学的営為を試みた先人たち
第 4 回	近世日本における学術的展開	近代科学につながる学術的な先駆者たち
第 5 回	ヨーロッパ考古学の展開	古典考古学と先史考古学
第 6 回	層位学と型式学	学術的方法の整備
第 7 回	近代科学として導入された考古学	外国人による近代の考古学的営為
第 8 回	人種・民族論争と記紀	近代考古学を担った日本人研究者たち
第 9 回	実証主義研究の展開	貝塚研究と編年学派
第 10 回	戦時体制と考古学	言論統制と考古学
第 11 回	戦後考古学の光と影（1）	岩宿遺跡と登呂遺跡
第 12 回	戦後考古学の光と影（2）	大規模開発と遺跡破壊
第 13 回	現代と考古学（1）	関連諸科学と考古学
第 14 回	現代と考古学（2）	文化財保護行政と考古学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

古庄浩明 2021『第 2 版 考古学の世界－初めて考古学を勉強する方のために』三恵社
ISBN 978-4-86693-380-1 C1020 定価 1650 円（本体 1500 円＋税 10 %）

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を 50 % とし、期末試験による評価を 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【学生が準備すべき機器他】

ネット環境とデバイス（パソコン・スマホ・パッドなど）資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.

HIS200BE

史学概論／歴史思想（史学概論）

高澤 紀恵

授業コード：A3153,A2274 | 曜日・時限：木曜 1 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学とはどのような学問なのだろうか。過去に向き合うことはどのような意味があるのだろうか。そのために必要な作法は何だろうか。この授業は、東西の歴史家の営みに学びながらこうした問題と向き合い、歴史的思考を育み、自ら研究する基礎を獲得することを目標とする。授業の全体は A) 史学史篇と B) 実践篇にわけられる。この授業を通して、受講生は歴史学の方法論をめぐる書物を読み、報告し、議論することを期待されている。

【到達目標】

この授業は3つの目標を掲げる。

- ①歴史学を専門に学ぶ上で必要な史学史的な基礎を理解する。
- ②歴史学が今、直面する課題について考える。
- ③歴史学を主体的に学ぶための技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、報告、ディスカッション、講義の組み合わせで進める。受講生は、学期中に一回、設定した十のテーマから一つを選び、指定された文献を読んでレジュメを用意して報告をする。報告に基づいてグループ・ディスカッションを予定している。授業では、毎回、リアクション・ペーパーの提出を求める。フィードバックは、次回授業の冒頭に口頭で行う。

最後に、4000字のレポートの提出を求める。レポートに対する総括的講評を学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要の説明、テーマ毎グループ分け。
第 2 回	過去と向き合う	村上春樹『猫を捨てる』を題材に、過去と向き合う意味を考える。
第 3 回	歴史は役にたつ？	マルク・ブロックの『歴史のための弁明』を導きの糸に歴史学の有用性について考える。
第 4 回	史学史篇① 制度としての歴史学	制度としての歴史学が形成されるプロセスを学ぶ。
第 5 回	史学史篇② 日本における展開	日本において、日本史・東洋史・西洋史の三分が生まれた経緯を考える。
第 6 回	史学史篇③ 戦後歴史学の挑戦	敗戦後の日本の社会科学と歴史学の展開を考える。
第 7 回	史学史篇④ アナールの挑戦	1970年代に日本に大きな影響を与えたアナールの挑戦について考える。
第 8 回	史学史篇⑤ 記憶と歴史	1980年代以降の記憶をめぐる議論について考える。
第 9 回	史学史篇⑥ 現代歴史学への「転回」	英語圏で展開した言語論的転回と新しい文化史について考える。
第 10 回	史学史篇⑦ グローバル・ターン？	グローバル化の進展に伴う観察尺度の変化を考える。

第 11 回	実践篇① 史料を読む	史料の探し方、読み方を学ぶ。
第 12 回	実践篇② 事実と解釈	歴史研究の現場から、事実と解釈について考える。
第 13 回	実践篇③ 歴史を書く	自分で歴史を書くために必要な作法を考える。
第 14 回	総括討論	これまでの学びを通して見えてきた論点を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではグループ・ディスカッションを多用するので、課題テキストを読んだり、事前準備を求められることが多い。

報告は、おそらくグループ報告となるので、他のメンバーと一緒に作業をすることになる。担当週に集中して準備することになるが、平均すると各週の準備ならびに復習には週4時間を要する。

【テキスト（教科書）】

特に指定せず。適宜プリントなどを配布する。

【参考書】

・リン・ハント（長谷川貴彦訳）『なぜ歴史を学ぶのか』岩波書店、2019。

・ジョー・グルディ、D・アーミテージ（平田雅弘・細川道久訳）『これが歴史だ！ 21世紀の歴史学宣言』刀水書房、2017。

・ジョン・H・アーノルド『歴史』岩波書店、2003。ほか。

初回に参考文献表を配付する。

【成績評価の方法と基準】

授業での報告（40 %）＋レポート（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

今年度がはじめての担当であるため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを最大限利用するため、パソコンがあることが望ましい。

【Outline and objectives】

What characterizes history as an academic discipline? What does it mean to confront the past? What skills and attitudes should we learn?

This course aims to offer students opportunities to think about these problems through reading works of previous historians of the East and the West, nurture historical thinking, and acquire the ability to conduct historical research.

The course consists of two parts; the first treats historiography (A), and the second treats practical skills required in historical research (B). Students are expected to read, do presentations about, and discuss books and articles about historical methodology.

HIS200BE

日本史特講Ⅰ

中山 学

授業コード：A3154 | 曜日・時限：水曜 5 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業テーマ：享保改革期の医業政策

18 世紀前期から中期にかけて、江戸幕府は、支配の再強化を目的とした一連の政策を実施した。8 代將軍徳川吉宗の親裁によって実施された、いわゆる「享保改革」がそれである。この授業では、当時実施された政策うち、吉宗が特に意を注いだと考えられる医業分野の政策に注目し、当該政策が強力に押し進められた要因を探る。近世日本が、自己完結しえない世界の中に位置づいていたが故の政策展開であったという点に注視したい。

【到達目標】

享保改革期に実施された医業政策の内容とその特質を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

歴史資料（史料）を読み解きながら講義する。

なお、授業の内容理解を確かなものとするため、学習支援システムを利用して課題を出し、提出されたりレポートにコメントを付すなど、個別指導も実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	徳川吉宗の人物像 (1)	吉宗の出自と將軍職就任の事情（開始前に授業ガイダンスを実施）
第 2 回	徳川吉宗の人物像 (2)	將軍家の正統性観念と救済の秩序、そして吉宗の自覚
第 3 回	徳川吉宗の人物像 (3)	將軍家の正統性観念と救済の秩序、そして吉宗の自覚（続）
第 4 回	享保改革期の医業政策 (1)	政策実施の背景：都市社会の形成と薬材需要の高まり
第 5 回	享保改革期の医業政策 (2)	政策実施の背景：医学界の新機軸「古医方」の出現
第 6 回	享保改革期の医業政策 (3)	特殊人材の採用と薬草調査
第 7 回	享保改革期の医業政策 (4)	特殊人材の採用と薬草調査（続）
第 8 回	享保改革期の医業政策 (5)	和薬種改めの実施
第 9 回	享保改革期の医業政策 (6)	和薬種改めの実施（続）
第 10 回	享保改革期の医業政策 (7)	和薬種改めの実施（続）
第 11 回	医業政策の展開要因 (1)	「にせ薬種」問題
第 12 回	医業政策の展開要因 (2)	「にせ薬種」問題（続）
第 13 回	医業政策の展開要因 (3)	「にせ薬種」問題（続）
第 14 回	医業政策の展開要因 (4)	「にせ薬種」問題（続）／享保改革期医業政策の歴史的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書に基づく自習及び配布プリントをもとにした復習（56 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（資料を配付する）。

【参考書】

辻 達也『徳川吉宗 吉川弘文館 (1985 年)
安田 健『江戸諸国産物帳－丹羽正伯の人と仕事』晶文社 (1987 年)
新村 拓『日本医療史』吉川弘文館 (2006 年)

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50 %）、期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

この授業では近世史料を素材とします。このため講義内容はやや難しくなりがちですが、できるだけ平易な説明となるよう努めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、各自インターネットの使用を前提としたパソコンまたはタブレットを準備してください。

【その他の重要事項】

日本史特講Ⅳのテーマと関連します。

【Outline and objectives】

Understand the historical significance of medical policy promoted by Tokugawa Yoshimune.

HIS200BE

日本史特講Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3155 | 曜日・時限：金曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世前期（鎌倉時代から南北朝時代）の武士を始めとする人々に対する理解を深めるため、人物史の視点から学ぶ。武家などの政治権力との関わりをふまえつつ、特に仏教信仰に力点を置いて説明する。あわせて、史料を読解して史実を追究し、歴史像を描くという、歴史学の研究方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

平安時代後期から南北朝時代にかけての地方武士（御家人）について、在地領主としての活動のみならず、仏教信仰や文化活動からうかがえる心性を含めて、人物像を明確に描くことができる。日本中世の和様漢文史料を正しく読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

6 章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを用いて解説する。配布プリントとパワーポイントの文面については、事前に各章毎に「学習支援システム」の「教材」にアップロードする。授業の最後に、理解度を確認するため、小テストを実施する。小テストに記入された疑問点については、次の授業で回答する（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中世武士論の現在（1）	履修のガイダンスと平安・鎌倉武士論の概略
第 2 回	中世武士論の現在（2）	履修のガイダンスと平安・鎌倉武士論の概略
第 3 回	中世武士論の現在（3）	履修のガイダンスと平安・鎌倉武士論の概略
第 4 回	武蔵武士熊谷直実と鎌倉幕府（1）	熊谷直実の活動と武家政権
第 5 回	武蔵武士熊谷直実と鎌倉幕府（2）	熊谷直実の活動と武家政権
第 6 回	熊谷直実の出家と浄土宗（1）	出家の経緯と念仏者としての活動
第 7 回	熊谷直実の出家と浄土宗（2）	出家の経緯と念仏者としての活動
第 8 回	ある紀伊武士の出家と西大寺流（1）	出家の経緯と尾道浄土寺の創建
第 9 回	ある紀伊武士の出家と西大寺流（2）	出家の経緯と尾道浄土寺の創建
第 10 回	近江武士佐々木導誉と南北朝文化（1）	バサラ大名の文化活動と仏教信仰
第 11 回	近江武士佐々木導誉と南北朝文化（2）	バサラ大名の文化活動と仏教信仰
第 12 回	文字を拝む中世人（1）	梵字・名号・題目の礼拝と中世の浄土思想
第 13 回	文字を拝む中世人（2）	梵字・名号・題目の礼拝と中世の浄土思想
第 14 回	中世前期の武士と仏教文化	授業内容の総括（試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」の「教材」にアップロードされた配布プリントとパワーポイントの文面を基に予習する。ノート等を見直して復習する。また、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。各章毎にプリントを配布する。

【参考書】

『週刊朝日百科 週刊新発見！日本の歴史 21 鎌倉時代 4 鎌倉仏教の主役は誰か』（朝日新聞出版、2013 年）

その他は、授業時に各章毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テストの点数 28%、学期末試験の点数 72% の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席で、小テストが受けられない場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

各章の論点を最初に明示する。

【Outline and objectives】

Learn historical research methods of reading historical materials, pursuing historical facts, and drawing historical images.

HIS200BE

日本史特講Ⅳ

中山 学

授業コード：A3157 | 曜日・時限：水曜 5 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業のテーマ：徳川吉宗と書物
8 代将軍徳川吉宗は、いわゆる「享保改革」の主導者として著名である。その歴史的評価は、周知のごとく、主に幕府の組織改革、行財政改革において定着した感がある。だが、とくに行財政面で実績をあげたと評価される当の本人が真っ先に着手したのは、將軍家蔵書（御文庫）の目録の閲覧であった。この蔵書目録の閲覧以降、將軍家蔵書の保存・管理を使命とした書物方役人は激務を担い、吉宗の直接的指示のもと、20 年以上にわたってあらゆる分野の書物の校合、校勘といった作業、またはその補助作業に追われ続けることになる。要するに、吉宗は各種書物の真正なテキストの作成、あるいは証本の作成を組織的かつ大規模的に実施したと考えられるのだが、彼はなぜそのような作業に熱中したのか。授業では如上の事実について理解を深めるところから、吉宗政権の歴史的意義について考える。

【到達目標】

吉宗が徳川家蔵書の真正性を担保しようとした事実といかなる意義が認められるか論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

歴史資料（史料）を読み解きながら講義する。
なお、授業の内容理解を確かなものとするため、学習支援システムを利用して課題を出し、提出されたりレポートにコメントを付すなど、個別指導も実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	徳川吉宗の人物像 (1)	吉宗の出自と将軍職就任の事情（開始前に授業ガイダンスを実施）
第 2 回	徳川吉宗の人物像 (2)	「徳川実紀」の中の吉宗像
第 3 回	將軍家の文庫 (1)	御文庫と將軍家蔵書の沿革
第 4 回	將軍家の文庫 (2)	御文庫と將軍家蔵書の沿革（続）
第 5 回	將軍家の文庫 (3)	御文庫と將軍家蔵書の沿革（続）
第 6 回	吉宗と書物 (1)	徳川吉宗による実践的武家故実の研究
第 7 回	吉宗と書物 (2)	徳川吉宗による実践的武家故実の研究（続）
第 8 回	吉宗と書物 (3)	徳川吉宗による実践的武家故実の研究（続）
第 9 回	吉宗と書物 (4)	徳川吉宗による実践的武家故実の研究（続）
第 10 回	吉宗と書物 (4)	テキスト校合の内実（書物奉行下田師古の日記を読む）
第 11 回	吉宗と書物 (5)	テキスト校合の内実（書物奉行下田師古の日記を読む）（続）
第 12 回	吉宗と書物 (6)	テキスト校合の内実（書物奉行下田師古の日記を読む）（続）
第 13 回	吉宗と書物 (7)	テキスト校合の内実（書物奉行下田師古の日記を読む）（続）
第 14 回	まとめ	將軍家蔵書の歴史的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書にもとづく自習及び配布プリントをもとにした復習（56 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（資料を配付する）。

【参考書】

福井 保『江戸幕府の参考図書館 紅葉山文庫』郷学舎（1980 年）
小川剛生『日本史リブレット 78 中世の書物と学問』山川出版社（2013 年 3 刷）
その他、下田師古に関する研究論文等

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50%）、期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

この授業では近世史料を素材とします。このため講義内容はやや難しくなりがちですが、できるだけ平易な説明となるよう努めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、各自インターネットの使用を前提としたパソコンまたはタブレットを準備してください。

【その他の重要事項】

日本史特講Ⅰのテーマとも関連します。

【Outline and objectives】

Tokugawa Yoshimune used the books of Shogun Tokugawa to inspect many books including classical literature and made efforts to make those sentences and letters error free. It is the purpose of this lesson to think about what this historical fact means.

HIS200BE

日本史特講Ⅴ

友田 昌宏

授業コード：A3158 | 曜日・時限：金曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今から約 150 年前、日本は大変大きな変革を体験しました。明治維新です。ペリーの来航、つづく開国によって、日本はいやおうなく国際社会のなかに組み込まれることになりました。それに呼応するかたちで国内でも改革の気運が高まります。幕府・朝廷・諸藩、そして、庶民たち、あらゆる階層の人々が、大なり小なり国難に向き合って行動し、その結果、日本には、天皇を君主とする新しい政府が生まれ、その政府のもと様々な改革が行われます。この講義はペリー来航から西南戦争までの日本の国内政治に関して概観します。現在、日本は国内外に様々な問題を抱えています。150 年前の日本がどのような問題に直面し、そのなかで人々はいかに行動したのかを知ることは、私たちが現在の日本を深く知る上でも重要なことでしょう。

【到達目標】

- 1、ペリー来航から西南戦争にいたるまでの時代の経過が理解できる。
- 2、さまざまな勢力から多角的に時代を考察することができる。
- 3、どこか時代の流れの変わり目か、その前後で状況がどのように変わったのか理解できる。
- 4、現代の問題にリンクしてこの時期を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルスの感染状況によって授業は形態も内容もかわります（シラバスに掲げた授業内容は対面での授業を想定したものです）。対面での授業が可能な場合は、プリントを配布して講義形式で授業を行います。講義形式ですが、時折、意見を求めることがあります。折にふれてリアクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーにはコメントを入れて次の回に返却するかたちでフィードバックします。対面での講義が困難な場合は、基本的にオンデマンドでの授業となります。配布した教材をもとに各自学習し、その内容に関する課題を課します。課題については学習支援システムを用いてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ペリー来航の衝撃	これからの授業の概要を示したうえで、幕末の動乱の幕開けと言われるペリー来航が国内政治にどのような影響を与えたのかを考察します。
第 2 回	条約締結問題と將軍継嗣問題—諸藩・朝廷の対立—	通商条約の締結をめぐる幕府と諸大名・朝廷の対立がおこり、諸大名が將軍継嗣に介入、朝廷との結びつきを強めていく様相を探ります。
第 3 回	戊午の密勅と安政の大獄—井伊直弼の危機感—	条約調印への批判を安政の大獄で弾圧し、桜田門外の変で倒れた大老井伊直弼。彼は何に危機感をいだき、いかにして一連の政策に踏み切ったのか探ります。
第 4 回	公武合体と破約攘夷—諸藩の国事周旋活動—	公武合体により幕府が権威の再建を図ろうとするなか、薩長ら西南雄藩が国政への介入をはかり、国事周旋活動を展開します。ここでは薩長の国事周旋活動の特質を探ります。
第 5 回	分裂の解消にむけて—模索する国政のありかた—	文久 3 年 8 月 18 日の政変で長州藩が京都から駆逐され、新たな国政のあり方が模索されます。しかし、それは新たに幕府と薩摩藩など雄藩の対立を生み出しました。ここではその過程を考察します。
第 6 回	条約問題と長州処分問題	ここでは、長年の懸案であった条約問題がいかに解決されたのか、長州処分問題が幕府の内部にいかなる亀裂を生み、薩摩藩と長州藩との連合を決定づけたのかを探ります。
第 7 回	王政復古と王政復古	慶応 3 年、將軍徳川慶喜は朝廷に大政奉還、その 2 ヶ月後、薩摩藩は慶喜を排除する形で王政復古を断行、ここではその間の慶喜と薩摩藩の駆け引きを探ります。

発行日：2021/5/1

第 8 回	戊辰戦争（1）—維新官僚の台頭—	薩長と旧幕府との対立は、戊辰戦争に帰結します。ここでは戦争の過程において薩長の藩士層が新政府の実権を握っていく様相を探ります。
第 9 回	戊辰戦争（2）—奥羽越列藩同盟—	新政府は旧幕府とともに朝敵となった会津・庄内両藩の奥羽諸藩に命じます。これに対して、奥羽越諸藩は列藩同盟を結成し、やがて会津両藩とともに新政府軍と交戦します。ここでは奥羽越列藩同盟の形成過程とその性質を探ります。
第 10 回	廃藩置県への道—中央集権への道—	戊辰戦争に勝利した新政府は、藩への統制を強めていき、それは廃藩置県に帰結します。廃藩置県はどのような過程を経て実現したのかを探ります。
第 11 回	岩倉使節団と留守政府	廃藩置県後、岩倉具視ら一行が、欧米へと向かいます。一方、留守を預かった政府は改革を押し進めます。改革をめぐる両者の相違を考察します。
第 12 回	大久保政権の成立	明治 6 年政変、佐賀の乱、台湾出兵などの危機を乗り越え、政府内では指導権を握ったのは大久保利通でした。大久保政権の成立の意義を探ります。
第 13 回	自由民権と土族反乱	大久保政権の確立によって政府から排除された勢力、大久保政権の政策によって既得権益を失っていく土族は、不満は募らせます。その結果、自由民権運動と土族反乱という二つの反政府運動が生まれます。ここではこれら 2 つの運動の関係性と特質を探ります。
第 14 回	まとめ	これまでの授業を総括して明治維新とは何だったのか考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中紹介した参考文献をあらかじめ目を通して予習し、授業中に配布した資料をもとに復習をしてください。予復習に費やす時間はおおむね 4 時間とします。

【テキスト（教科書）】

とくに定めません。プリントを配布して講義します。

【参考書】

その都度紹介いたしますが、さしあたり青山忠正『明治維新（日本近世の歴史 6）』（吉川弘文館、2012 年）を挙げておきます。

【成績評価の方法と基準】

授業が対面で行われる場合は、リアクションペーパー（20 %）・期末試験（70 %）・授業に対する取り組み方（10 %）によって評価します。リモートの授業の場合は、定期的に課すレポートの内容（100 %）によって評価します

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

とくにリモートの場合はパソコンが必要になってくると思いますので、事前に手配していただければと思います。

【Outline and objectives】

Japan was embedded into the Western international system without any choices after Perry came from America to Japan in 1853 and the Tokugawa Shogunate entered into the Treaty of Amity and Commerce with five countries in 1858. Following the opening of the country to the world, the spirit of the domestic reform grew in Japan. Not only the Tokugawa Shogunate, but also the Imperial Court, the clans and the common people more or less faced national crisis and reacted to it. Therefore the new government was established under the Emperor and various reforms were carried out. This class focuses on The Meiji restoration, especially the domestic politics from the Perry's arrival in 1853 to the Seinan War in 1877.

It is important for us to know what crisis Japan faced and how the people reacted to it about 150 years ago, for understanding domestic and diplomatic problems that today's Japan have.

HIS200BE

日本史特講Ⅵ

米崎 清実

授業コード：A3159 | 曜日・時限：金曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本各地には文化遺産ともいえる近世の地方文書が伝来しています。近世の国家や社会を理解するために、地方文書の分析を通じた地域社会からアプローチする方法があります。授業では、地方文書の解説、分析方法を学ぶとともに、それらを通じた近世地域社会の成立、維持運営、展開について理解します。

【到達目標】

- ・地域史研究の意義を理解します。
- ・さまざまな近世の地方文書が作成され、伝来してきた意義を理解します。
- ・地方文書を解説し、分析できる力を修得します。
- ・地方文書の分析を通じて、近世の国家や社会を理解します。
- ・今日の街づくりや地域文化について考える視野を培います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主に関東の地方文書の解説、分析を通じて近世の地域社会の成立から近代移行期までを項目ごとに解説します。受講生自らが史料を解説し、主体的に考え、意見を述べてもらう双方向の授業運営を図ります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期			
回	テーマ		内容
第 1 回	ガイダンス		講義の内容と評価の方法、課題の説明、文化遺産としての地方文書、近世地域史研究の意義
第 2 回	近世の支配体制と地方文書		近世の支配体制、地方文書の成立、地方文書の種類
第 3 回	近世村落の成立と検地		検地帳の記載内容、検地帳の分析、検地の意義、郷から村
第 4 回	百姓の家		宗門人別帳の記載内容、宗門人別帳の分析、家の特徴、村内の家格
第 5 回	村の法・財政と村落運営		村議定、村入用、村役人の家、村役人制
第 6 回	村組と地域格差		村の中のムラ、村組の役割、村の中心、村役人をめぐる村組の対立
第 7 回	支配のしくみと地域社会		幕領支配のしくみ、中間支配機構の成立と役割、非領国地域の特質
第 8 回	百姓の年貢諸役		年貢諸役、年貢諸役を負担するしくみと意識
第 9 回	地域社会の身分集団		地域社会の身分集団、村を訪れる人々、村人と身分集団
第 10 回	村人の信仰と文化活動		村社会と寺院、村人の信仰、旅と参詣、村人の文化活動
第 11 回	村の祭りとは若者仲間		村の社会組織・祭祀組織、祭礼の秩序とその変容、若者仲間と地域意識
第 12 回	村社会の生業と百姓意識		村人の生業、商品生産の展開、救済と百姓成り立ち
第 13 回	村社会と家族の秩序		村落生活の変化と家族、家族への眼差し、家と村の存続
第 14 回	まとめ		近世から近代へ、異文化としての近世の地域社会、現代まで続く近世の地域社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布史料（活字にした近世の地方文書）を理解できるように、わからない文言などを辞書で調べて、授業に出席してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。資料を配布します。

【参考書】

木村礎『近世の村』（1980 年、教育社）、水林彪『封建制の再編と日本の社会の確立』（1987 年、山川出版社）、大石学編『多摩と江戸』（2000 年、けやき出版）、その他授業の中で適宜紹介します。大藤修『近世村人のライフサイクル』（2003 年、山川出版社）、水本邦彦『村—百姓たちの近世—』（2015 年、岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）、平常点（20％）

【学生の意見等からの気づき】

資料（配布資料）を用いて具体的に近世の地域社会について解説します。また、学生との意思疎通を図る双方向の授業運営を心がけます。

【担当教員の専門分野等】

日本近世・近代史。博物館学。文化政策学。

【Outline and objectives】

Local documents of Edo period, which can be regarded as cultural heritage exist in all part of Japan. In order to understand the nation and society of Edo period, there is a method to approach from local community through analysis of regional documents. In this course students learn the method of deciphering and analyzing the documents. And through the process, students comprehend formation, operation and maintenance of local communities of Edo period.

HIS200BE

日本史特講Ⅶ

山田 康弘

授業コード：A3160 | 曜日・時限：金曜 1 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学は単に「昔のことを知る」だけの学問ではない。歴史学は、過去を知り、過去と現代とを比較することによって、現代（私たち現代人が「当たり前」すぎて気づきにくい現代）をより深く理解していく、という学問である。また、歴史学は「この史料（データ）は信用できるのか」、「この史料からどのようなことを読み取ることができるのか」といったことを考えながら、事実によって裏付けられ、かつ、論理的につじつまの合った結論を考えていく—そのような学問でもある。そして、こうした「比較することで「当たり前」を相対化し、新たな気づきを得る」、「データを吟味・解釈し、そこから事実と論理に基づいた結論を導き出す」という歴史学の手法は、学生諸君が大学を卒業したあと、たとえばビジネスの世界などで活躍していく際に、きっと強力な武器になっていくことだろう。そこで本講義では、こういった歴史学の手法を学生諸君が身につけることができるよう、これを分かりやすく解説していく。

【到達目標】

歴史学の存在意義を認識するとともに、論理整合性と事実立脚性という歴史学の決まりごとを理解することができる。また、データ（史料）の正しい取り扱い方や、問題設定から歴史像の構築にいたるまでの手法を把握することができ、さらに、歴史学研究の「社会的使命」や、歴史学のもつ「限界」をきちんと理解したうえ、歴史学の隣接諸科学におけるさまざまな理論の使いなどを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

3章構成とし、講義形式で進める。配布プリントを使って解説する。授業の最後に理解度を確認するため、小テストを実施する。小テストに記入された疑問点については、次の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション—歴史学は何のためにあるのか？	「過去を知って何の役に立つのか」「過去から教訓を得られるのか」「過去を知って未来を予測できるのか」「一体、歴史学は何を対象としているのか」といったことを考える。
第 2 回	戦国時代とは何か（1）—応仁・文明の乱までの足利将軍たち。	初代将軍・尊氏から8代将軍・義政までの事績を概観し、「なぜ足利は政権が不安定だったのか」「応仁・文明の乱の原因は何か」「天皇はなぜ存続したのか」を考えていく。
第 3 回	戦国時代とは何か（2）—9代将軍義尚、10代将軍義植、11代将軍義澄の時代。	戦国初期に活躍した将軍たちを取り上げ、「将軍は無力だったのか」「明応の政変とはどのような事件か」「将軍たちは何と戦ったのか」などを考えていく。
第 4 回	戦国時代とは何か（3）—12代将軍義晴、13代将軍義輝の時代。	戦国中期に活躍した将軍に注目し、その事績を概観していくことで「将軍家はなぜすぐに滅亡しなかったのか」「将軍と戦国大名との関係はどのようなものだったのか」といった問題を考えていく。
第 5 回	戦国時代とは何か（4）—14代将軍義栄、15代将軍義昭と織田信長の時代。	最期の将軍義昭と織田信長との闘争を取り上げ、「義昭と信長の関係はいかなるものであったのか」「義昭とその同盟者たちは、なぜ信長を倒せなかったのか」などを考えていく。
第 6 回	戦国時代とは何か（5）—戦国社会全体の「構造」を考える。	隣接諸科学の知見を援用しながら、戦国社会全体の「構造」（骨組み）について見取り図を描き、将軍とは戦国社会のどこに位置づけられる存在だったのか、を考えていく。
第 7 回	戦国時代とは何か（6）—戦国と現代の「構造」を比較することで現代を知る。	ここまでの議論を纏めるとともに、「戦国時代を研究することは、現代においていかなる意味があるのか」を考える。

第 8 回	歴史学とはいかなる学問か（１）—歴史学の決まりごとは何か。	遅塚忠躬『史学概論』に導かれながら「歴史学とは何を明らかにする学問か」「歴史学の決まりごとは何か」「歴史学の限界はどこにあるのか」などを考えていく。
第 9 回	歴史学とはいかなる学問か（２）—歴史学と歴史趣味との違いは何か。	引き続き遅塚『史学概論』をもとに「構造とは何か」「比較にはどのような種類があるのか」「発展的、反省的、尚古的歴史学とは何か」などを考える。
第 10 回	歴史学の手法（１）—問題を設定し、史料を集め、批判し、選択していく。	「問題はどう設定すべきか」「研究の細分化問題とは何か」「一次史料とはいかなるものか」「史料批判する理由は何か」といったことを考える。
第 11 回	歴史学の手法（２）—考証によって事実を明らかにし、その「意味」を問う。	「考証とは何か」「事実と真実の違いとは」「なぜ考証で歴史学の作業は終わりではないのか」「素朴実在論とは何か」といったことを論じていく。
第 12 回	歴史学の手法（３）—理論などを援用しつつ、自分なりの「歴史像」を構築す。	「歴史学が踏み込めない領域とは」「歴史像構築の際に留意すべき点は何か」「歴史理論はなぜ必要か」「歴史学と文学はどう違うのか」などを考える。
第 13 回	歴史学の手法（４）—議論し合い、仮説を修正していく。	「議論は何のためにするのか」「議論の作法とは何か」「歴史学と社会科学とはどう異なるのか」といったことを考えていく。
第 14 回	まとめ	これまでの内容を整理し、「過去だけしか知らない」「現在だけしか知らない」は共に避けるべきであることを説く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリント、ノートを見直して復習する。また、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】

遅塚忠躬『史学概論』（東京大学出版会、2018年。初版は2010年）。山田康弘『足利義輝・義昭——天下諸侍、御主に候』（ミネルヴァ書房、2019年）。その他は、授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テストの点数40％、学期末試験の点数50％、平常点10％の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席で、小テストが受けられない場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

出席カードやリアクションペーパーなどで授業に関する疑問点などを書いてもらえれば、次回授業の際に取り上げていきたい。

【Outline and objectives】

Learn historical research methods of reading historical materials,pursuing historical facts, and drawing historical images.

HIS200BE

東洋史特講 I

飯尾 秀幸

授業コード：A3162 | 曜日・時限：月曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、居住単位・婚姻単位・経済単位として存在したが、歴史のある段階で、その三者が合一する。そのことをこの授業においては、家族の成立と考え、その家族の成立過程において、婚姻単位と経済単位とが居住単位としての家族と如何なる関係をもち、それらの関係がどう変容し、どのように三者が合一していったのかを、中国古代史を対象にして考える。

【到達目標】

考古学資料を歴史学としての扱い方を身に付ける。
甲骨文字・青銅器銘文（金文）をどう扱うかを習得する。
文字史料を読み込む力をつける。
家族を歴史的に把握する方法を得ることで、現代の家族の問題を考える視点を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

殷代における居住単位・婚姻単位・経済単位としての「家族」の変遷を、考古学の成果、甲骨文字、殷代青銅器銘文などを概観しつつ、中国の最古の「王朝」と呼ばれる時代の家族の形態を中心に、家族の在り方について考える。現代の家族問題と比較して、受講生の問題意識を高め議論を深めていきたい。なおリアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	家族とは何か	中国新石器時代の姜寨集落遺跡とブラジルのボロロ族集落を比較する（確認）
第 2 回	中国考古学の成果—青銅器時代	二里頭文化の前期・後期の紹介し、夏と殷について考える。
第 3 回	殷墟文化とその社会	殷代の祭祀区と墓葬区（小屯と侯家莊遺跡）を紹介し、殷代社会構造を考える。
第 4 回	甲骨文字の出土と甲骨文字の性格	甲骨文字の性格（祭祀と占いと政治）を考える。
第 5 回	殷代の政治と社会の構造	甲骨文字から見える殷代の政治方法と社会構造を考える。
第 6 回	殷代の「家族」についての諸学説の紹介	王位の継承についての二学説（王家存在説と王家不存在説）を紹介し、問題点を考える。
第 7 回	王家不存在説からみた王族グループの存在	王家不存在説から王族の構造を考える。王名・王妣名と太陽神話（10 個の太陽）を紹介する。
第 8 回	王家不存在説からみた王位継承法	王位継承の仮説から、王族グループの構造について考える。姜寨集落遺跡との比較（連続性）
第 9 回	王家不存在説への批判とそれへの反論としての殷代青銅器銘文の性格	親族称問題を紹介する。殷代青銅器銘文の分類から親族称問題を考える。
第 10 回	殷代青銅器銘文分類のうちの宝貝賜与金文の構造	宝貝賜与金文から青銅器作器者問題を考え、それが親族称問題と密接につながることを理解する。
第 11 回	殷代青銅器の種類と青銅器鑄造方法と青銅器鑄造集団の存在。	外范分割法の紹介。銘文と文様の鑄込み方を紹介する。
第 12 回	殷代青銅器作器者問題を考える事例紹介	鬲卣・鬲尊の比較から青銅器作器者問題を考える。
第 13 回	親族称問題と青銅器作器者問題のまとめ	王家不存在説という仮説が成立していることを確認し、家族構造の連続性説の意味を考える。
第 14 回	授業内テストとまとめ・秋学期の解説	各授業での質疑を含め、秋学期のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国古代史をテーマとする概説書を読んで知識を得てください。また興味を引いたテーマについては図書館などで研究書のありかを検索し、積極的な学びを実践していただきたい。
予習・復習は、講義 1 回につき 4 時間を標準とします。

絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】

授業内で資料・図版を配布する。

【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】

授業内テスト（80 %）、平常点（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することを心掛けたい。

現代の問題と関連づけて授業を進めることとしたい。

【その他の重要事項】

質問は授業内で原則受け付けます。またEメールアドレスを提示するので、質問などはメールにていつでも送信してください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history , family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

HIS200BE

東洋史特講Ⅱ

澁谷 由紀

授業コード：A3163 | 曜日・時限：金曜 1 限

春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、東南アジア近世史（14 世紀～ 19 世紀）を概説する。いわゆる東南アジア諸国とは、ASEAN + 1 の 11 か国をいう。現在、東南アジアは 1 つの地域として存在感を持っているが、それぞれ言語や宗教が異なっており、政治史を軸とした 1 本の歴史として「東南アジア史」を叙述することは難しい。このことは、歴史的に形成されてきた、東南アジア地域の特徴といえる。この授業では、東南アジアの域内・域外のさまざまな勢力との関わりあいのなかで、現在の東南アジア諸国の領土的枠組みが形成されていく過程を学び、それぞれの地域的特性を理解できるようにする。

【到達目標】

この授業では、高校の世界史では得られなかった新たな知識として、東南アジア近世史（14 世紀～19 世紀）に関する基礎的な知識を身につけることを目的とする。
歴史的な知識を基盤として、現在の東南アジア地域の様々な問題を筋道立てて理解することができるようにする。
欧米を介した知識ではなく、日本との直接的な関係において、アジア地域を見ることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回ごとに、講師が作成したレジュメ、参考資料を「学習支援システム」にて配布。内容を正しく理解できているかを確認するため、各回ごとに課題を出す（課題提出とフィードバックは「学習支援システム」を利用）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「東南アジア」地域とは	自己紹介、授業の進め方を説明する。「東南アジア」という地域概念が形成されてきた過程を概説する。
第 2 回	古代の東南アジア	東南アジアの古代史を概説する。
第 3 回	マラッカ王国	港市国家マラッカの形成過程と構造を概説する。
第 4 回	アユタヤ（タイ）	アユタヤ史の展開を追う。
第 5 回	北方「タイ人」諸王国	現在の東南アジアと中国、インドのあいだに広がる山間盆地の状況を見る。
第 6 回	タウングー朝ビルマと周辺地域	現在のミャンマー地域の 16～17 世紀の状況を見る。
第 7 回	ベトナム	現在のベトナム地域の 16～17 世紀の状況を見る。
第 8 回	島嶼部の港市国家群	東南アジア島嶼部の 16～17 世紀の状況を見る。
第 9 回	大陸部における「大国」の形成	18 世紀の大陸部東南アジアを概観する。
第 10 回	ポスト・アンコールのカンボジア	アンコール王都放棄後のカンボジア史の展開を追う。
第 11 回	オランダ東インド会社のジャワ島支配	18 世紀のジャワ島の状況を見る。
第 12 回	海域の分割と陸域の分割	19 世紀の島嶼部・大陸部東南アジアを概観する。
第 13 回	植民地支配下の東南アジア	植民地支配下での東南アジア社会の変容を概観する。
第 14 回	まとめ	一連の授業を総括し、理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を整理して論点をまとめ、疑問に思うところ、よく分からなかったところがあれば、質問できるようにまとめる（＊質問は学習支援システムを利用して受けつける）。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を基準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、担当教員が作成したレジュメ、参考資料を「学習支援システム」にて配布。

【参考書】

石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999 年、山川出版社
池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999 年、山川出版社
石井米雄他編『岩波講座東南アジア史 3 東南アジア近世の成立』2001 年、岩波書店

発行日：2021/5/1

桜井由躬雄他編『岩波講座東南アジア史 4 東南アジア近世国家群の展開』2001年、岩波書店
斎藤照子他編『岩波講座東南アジア史 5 東南アジア世界の再編』2001年、岩波書店

【成績評価の方法と基準】

平常点（各回の課題 40 %）、期末レポート（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This class is aim to understand the early modern history (14th~19th century) and culture of Southeast Asia.

HIS200BE

東洋史特講Ⅲ

芦沢 知絵

授業コード：A3164 | 曜日・時限：金曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。

中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展的側面も明らかにされつつある。

本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国经济史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、授業内で文献・史料の読解を行うため、ある程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第 2 回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第 3 回	清末の近代化①	開港と外国資本
第 4 回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第 5 回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第 6 回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第 7 回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第 8 回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第 9 回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第 10 回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第 11 回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第 12 回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第 13 回	改革開放と経済成長②	WTO 加盟とグローバル化
第 14 回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した参考文献や配布プリントをもとに知識と理解を深める。また、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013 年。（第 4・5 章）
久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会、2016 年。
丸川知雄『現代中国経済』有斐閣、2013 年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30 %

毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。

② 期末レポート 70 %

授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する場合がある。

【Outline and objectives】

This course introduces the history of the modern Chinese economy. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical process and problems of China's economic growth.

HIS200BE

東洋史特講Ⅳ

塩沢 裕仁

授業コード：A3165 | 曜日・時限：木曜 3 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の 9 割にもおよぶ期間都在置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	長安の都市と陵墓	長安の都市圏と皇帝陵墓
第 2 回	洛陽の都市と陵墓	洛陽が有する都市空間
第 3 回	漢の諸文化	馬王堆漢墓
第 4 回	後漢三国・北朝の都城	許昌と鄴都
第 5 回	六朝の都城	六朝の都城建康と貴族文化
第 6 回	遊牧都市文化	フフホト・盛楽・大同・洛陽の遺構と出土遺物
第 7 回	仏教文化 1	西域・敦煌・麦積山石窟
第 8 回	仏教文化 2	雲崗・龍門石窟
第 9 回	隋唐の長安	隋唐の都城長安と隋唐陵墓
第 10 回	隋唐の洛陽	煬帝・武則天の都城洛陽
第 11 回	法門寺出土遺物	唐代の金属工芸技術
第 12 回	青磁と曜変天目	越窯・汝窯・鈞窯・建窯
第 13 回	白磁	定窯と景德鎮窯
第 14 回	漆器	茶文化と漆器

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史 5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985 年）には目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。

あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline and objectives】

On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological data in China, we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

HIS200BE

西洋史特講 I

後藤 篤子

授業コード：A3168 | 曜日・時限：金曜 3 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローマ帝国の「衰亡」をめぐるのは、当時から現代に至るまで実に多くの見解が出されています。本授業ではローマ帝国「衰亡論」の歴史の概要を学ぶと同時に、それを通じて「歴史は今を映す鏡」と言われる所以を考えます。さらにグループ学習を通じて、他者の見解を批判的に読解してその問題点を発見する能力を養います。本授業での学びを通じて、昨今また盛んになっている「国家の衰亡」をめぐる種々の論議を批判的に読み解く力を習得することが、本授業の目指すところです。

【到達目標】

- ・「ローマ帝国衰亡論」の歴史について基本的知識を習得する。
- ・今日までに展開されてきた多様な「衰亡」原因論を批判的に考察し、それらの問題点を発見する能力を習得する。
- ・自分の見解を、他者に理解・納得してもらえるような形で口頭や文章で発表する、プレゼンテーション能力を習得する。
- ・質疑応答やディスカッションを通じて自分の見解を客観的に見直し、必要な修正等を実施することができる柔軟な思考力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は講義形式で進めますが、その間にグループ学習を進めてもらい、後半はグループ別発表と質疑応答、およびディスカッションを中心とします。学習支援システム上に設定する質問等受付コーナーに投稿される質問・意見等へのフィードバックは毎回の授業時に行う予定ですが、時間が足りないような場合は、数回分をまとめて学習支援システム上でフィードバックします。グループ発表へのフィードバックは当該授業内および学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、および期末レポート課題の説明と、参考文献リストの配布。
第 2 回	ローマ帝国概観	背景知識が不十分な受講者向けに、帝政期のローマの歴史と社会を概述
第 3 回	近代歴史学成立以前の「衰亡」論	古代ローマ人の衰退論～ギボン『ローマ帝国衰亡史』まで
第 4 回	ローマ帝国の「衰亡」をめぐる多様な見解 (1)	「民族移動」や自然的要因を重視する諸説をめぐって
第 5 回	ローマ帝国の「衰亡」をめぐる多様な見解 (2)	人間的要因や政治・軍事的要因を重視する諸説をめぐって
第 6 回	ローマ帝国の「衰亡」をめぐる多様な見解 (3)	「衰亡」という捉え方自体をめぐってー「古代末期」学派の出現と同派への批判
第 7 回	ローマ帝国の「衰亡」をめぐる多様な見解 (4)	近年の動向をめぐって
第 8 回	グループ発表に向けて	グループ毎の発表レジュメの作成と質疑応答
第 9 回	グループ発表と質疑応答 (1)	モミリアーノ論文・ジョーンズ論文の概要と、両者が考える「衰亡原因」についての批判的考察
第 10 回	グループ発表と質疑応答 (2)	弓削達氏が考える「衰亡原因」の概要と、それについての批判的考察
第 11 回	グループ発表と質疑応答 (3)	南川高志氏が考える「衰亡原因」の概要と、それについての批判的考察
第 12 回	グループ発表と質疑応答 (4)	J・シュミットが考える「ローマ帝国の衰退」の概要と、それについての批判的考察
第 13 回	ローマ帝国の「衰亡」をめぐって	各グループ発表を受けての全体討議。グループ別発表を終えての各自の感想の提出。
第 14 回	まとめ	教員による全体講評。期末レポートの提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義レジュメは原則として1週間前に学習支援システムの教材欄にアップするので、受講生は事前によく目を通していき、不明点や疑問点は授業時の質疑応答で解決を図るか、学習支援システム上でも質問を受け付けるのでそこに投稿すること。授業後に残った不明点や疑問点も、学習支援システムに投稿すること。

グループ学習は参考書欄に記載した4点のうち一つを選んで進めてもらいますが、グループ分けは受講者の希望に沿う形で行うので、グループ分けまでにどの参考文献を精読したいか、各自で決めておくこと。グループ別発表のレジュメ作成時間は授業内でも取りますが、それまでにグループで参考書の読み込みを進め、発表内容を協議しておく必要があります。したがって、本授業の準備・復習時間は計4時間が標準ですが、それ以上の時間を要するかもしれないことは承知しておいてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。講義形式で進める部分のレジュメは、原則として講義の1週間前に、学習支援システムの教材欄にアップします。

【参考書】

- (1) 古代学協会編『西洋古代史論集Ⅲ』東京大学出版会、1978年。
A. モミリアーノ「キリスト教とローマ帝国の衰退」(秀村欣二訳)
A. H. M. ジョーンズ「ローマ帝国の衰退」(杉村貞臣訳)
- (2) 弓削達『ローマはなぜ滅んだか』講談社現代新書、1989年。
- (3) 南川高志『新・ローマ帝国衰亡史』岩波新書、2013年。
- (4) ジョエル・シュミット『ローマ帝国の衰退』文庫クセジュ、2020年。
グループ学習で使用する上記4点以外の参考文献リストは初回時に配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（質問やグループ発表・ディスカッション時の発言等、授業への積極的参加度）20%、グループ学習を終えての感想（全員提出）20%、期末レポート 60%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度は、予習時間を十分に確保できるようなタイミングで講義レジュメを事前アップできなかったことが最大の反省点で、2021年度は1週間前のアップを心がけます。また、2020年度はZoomのブレイクアウトルーム機能を使ったグループ討議の時間も設けましたが、教員自身が不慣れであったためグループ毎の質問への対応に手間取るなど、あまりうまく運営できていなかったと思いますので、その点についても改善を図ります。

【Outline and objectives】

This course aims at learning the history of various opinions about "the decline and fall" of the Roman Empire, and thereby acquiring the basic ability for critical reading and logical thinking.

HIS200BE

西洋史特講Ⅱ

小沼 明生

授業コード：A3169 | 曜日・時限：金曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の西洋中世史では有名な事件やトピックを中心に紹介しましたが、後期のこの講義では西洋中世の社会構造や思考・行動の在り方を中心に見ていきます。時系列ではなく、社会を構成していた要素、つまり皇帝、国王、貴族、聖職者、都市、農民などに注目していきます。授業ごとに紹介する史料から、過去の社会を想像することを通じて理解を深めていきます。

【到達目標】

この授業には二つの目的を設定します。一つ目は西洋文化の基礎を作った時代である中世の歴史的知識を、またそれを通じて歴史的な見方・考え方を身につけます。二つ目は文献を収集、比較・分析し、そこから自分の見解を導きだし、表現できるようにすることです。前者については授業内容で、後者についてはレポートの作成を通じて学んでいきます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では一回に一つのトピックを取り上げ、時代の流れの中に位置づけながら解説します。西洋中世史を学ぶ上でぜひ知っておいてほしい事件やことがらを厳選して紹介していきます。各授業の終わりに、日本語に訳された史料、つまり歴史を書く際に証拠として使われてきたテキストや画像、音楽などを取り上げ、その時代背景や作者の情報、意図などを自由に想像して考えてもらいます。続く授業でその史料の内容と背景を解説し、そこからどのような歴史像が作られてきたかを学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	異世界としての中世・ルーツとしての中世
第2回	王と皇帝と教皇	中世的世界の成立とその本質
第3回	騎士と貴族の世界	貴族的社会と文化の成立と発展
第4回	修道院と修道士の世界 1	修道院の始まりとその発展
第5回	修道院と修道士の世界 2	托鉢修道会の成立と発展
第6回	ローマカトリック教会の発展	教会の構造とその発展
第7回	ローマカトリック教会の変質	教会分裂と公会議
第8回	都市の成立と発展	西洋における都市の成立過程とその特徴
第9回	手工業者と都市住民	手工業と手工業者の発展
第10回	ドゥームズデイブックと中世の農村	農村の形態と農民・領主関係
第11回	中世農村と農奴制	農奴制の成立と変化
第12回	西洋中世の貨幣と貨幣制度	貨幣単位の由来と交換関係、購買力
第13回	14世紀の危機	黒死病の流行と中世後期の世界
第14回	まとめとレポート講評	テキストを批判的に読むこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の最後に次回の授業で使う課題を渡します。課題の中のキーワードなどを参考に予習をしておくことを勧めます。

また、レポートの作業を分割して進めますので、毎週4時間ほどの準備時間を用意してください。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。授業ごとにプリントを用意します。

【参考書】

木下康彦ほか編『改訂版詳説世界史研究』山川出版社、2008年
甚野尚志『中世の異端者たち』世界史リブレット20、山川出版社、1996年
朝倉文市『修道院にみるヨーロッパの心』世界史リブレット21、山川出版社、1996年
河原温『中世ヨーロッパの都市世界』世界史リブレット23、山川出版社、1996年
堀越宏一『中世ヨーロッパの農村世界』世界史リブレット24、山川出版社、1997年など

【成績評価の方法と基準】

学期中に簡単な小レポートを二回、そしてそれを踏まえた形で学期末にレポートを提出してもらいます。合計三回のレポートの評価と、出席状況および授業への参加を合計して最終的な評価を行います。なお、授業への参加については、授業内での課題への回答を見て評価します。配点は以下の通りです：出席と授業参加：30

レポートA：10

レポートB：20

レポートC：40

【学生の意見等からの気づき】

毎回課題に回答してもらいますが、正解を求めるといより想像力を働かせて推理するという気持ちでやってみてください。

【学生が準備すべき機器他】

必須ではありませんが、課題の内容に限定して、授業中にスマートフォンなどでの検索を許可しますので、ネットにつながる状態で用意しておくといでしょう。

【Outline and objectives】

This is the lecture about European history focusing on the middle ages. Its time scope is from the 5th through the 15th century and we will work on the society and culture of each social stratum in this era; emperors, kings and nobles, the clergy and monks, citizens and farmers. Students in this class will get a historical point of view and the techniques to read historical texts critically

HIS200BE

西洋史特講Ⅲ

篠原 琢

授業コード：A3170 | 曜日・時限：金曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハプスブルク帝国の領域は、ハプスブルク帝室が戦争と婚姻によって相続した雑多な諸王国・諸地域の複合的な集積でしかなく、そもそも近代国家を構成する凝集力に欠けており、帝国末期には、国民主義が浸透し、言語紛争が絶えなかった。長い 19 世紀は、そもそも帝国が必然的に衰退する過程であった……。この種の議論は、集権的で同質的な「国民国家」Nation State を近代国家の理念型として想定し、ハプスブルク帝国を近代ヨーロッパの発展から逸脱した「非正常」とみなす視点を暗黙のうちに持っている。帝国の継承諸国では、社会主義体制下も含めて、それぞれの国家の「民族的」性格が強調されたため、この種の歴史観は、当然の前提とみなされることが多かった。

果たして帝国の 19 世紀史をそのように捉えることは妥当だろうか。授業では「中央ヨーロッパ」という歴史的世界の検討を行い、「帝国から国民国家へ」という歴史の方向性を具体的に見直す。ハプスブルク君主国の成立過程を概観した後、さらに若干の理論的・史学史的考察を行い、昨年度から引き続き「長い 19 世紀史」のなかで帝国史の再検討を行う。中心的に検討の対象とする地域は、バーメン（チェコ）諸邦とガリツィア（今日のポーランド南東部からウクライナ西部にかけての地域）である。

【到達目標】

18 世紀末から第一次世界大戦期までの「長い 19 世紀史」におけるハプスブルク君主国の歴史を概観しながら、「国民形成」、ナショナリズム、市民社会、帝國的秩序といったより一般的な歴史的テーマについて再検討を加える。ハプスブルク帝国史研究の現段階を理解するだけでなく、目的論的なヨーロッパ近代史の概念への批判的なアプローチを獲得することが授業の目標である。それを通して、現代世界の問題について、新たな歴史的視点を得ることを目指そう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を進める。授業中、史料や文献を使って、グループ・ディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	高校世界史と指導要領の中のハプスブルク君主国	高校教科書を中心に、講義で扱う地域（中央ヨーロッパ）がどのようにヨーロッパ史の中に位置づけられているのか、その記述の特徴を検討する。
第 2 回	ヨーロッパ史の中の「中央ヨーロッパ」	「東ヨーロッパ」として語られてきた地域を「中央ヨーロッパ」と捉え直すのはどのような意味があるか、考える。
第 3 回	ハプスブルク君主国の形成：神聖ローマ帝国とハプスブルク家	ハプスブルク家がオーストリア諸邦支配を確立し、ドイツ王・神聖ローマ帝国皇帝位を獲得する過程を概観する。
第 4 回	バーメン王国とフス派戦争	バーメン王国を例として、国王と議会との関係を考える。
第 5 回	30 年戦争期の国家変動	16 世紀初頭から 17 世紀にかけて、君主と諸身分（議会）との緊張関係は、宗教改革の影響を受けつつ、深刻化していった。オスマン帝国の拡大もこの時期の国家建設に大きな影響を与えている。30 年戦争期にハプスブルク君主国がどのように国家の凝集力を確保していったのか検討する。
第 6 回	帝国建設への道	啓蒙改革期以降、諸王国・諸領邦の集合体であったハプスブルク君主国は、国家の支配機構を整えながら、次第に帝国としての体裁を整えていった。ハプスブルク朝による国家建設過程を考える。
第 7 回	人民主権とネイション形成	ネイション形成を論じる前提として、人民主権論の展開を検討する。
第 8 回	ネイション形成の段階論	ナショナリストにとってネイションは太古より存在するものではあっても、歴史研究者には新しい現象である。ネイション形成の「段階論」を検討する。

第 9 回	「できごと」としてのネイションー National Indifference 概念の挑戦	ネイションを社会的文脈に依存するものとして考える新しい研究動向を検討する。
第 10 回	ポーランド分割と「ガリツィア王国」の成立	ポーランド分割によってハブスブルク君主国は「ガリツィア」を領有することになった。この「帝国辺境」の支配が、帝国支配の確立にどのように作用したのか考える。
第 11 回	「ポーランドの揺籃」としてのガリツィア	ガリツィアにおけるポーランド・ナショナリズムの成長を検討する。
第 12 回	1848 年革命をどのように考えるか	「諸国民の春」として論じられてきた 1848 年革命を帝国再編論から捉え直す。
第 13 回	「諸国民の社会」の形成	ネイション（国民社会、 National society ）の形成をペーメン、ガリツィアを比較しながら考える。
第 14 回	まとめ	ネイション・帝国・国民国家（ネイション・ステイト）について、「長い 19 世紀」の発展を再考する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に指示する。

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

グループ・ディスカッションの結果をレポートとして提出する： 30%

期末に提出する最終レポート： 70%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の指摘に基づいて、授業テーマの理解の基礎となる通史的解説を充実させた。

【学生が準備すべき機器他】

授業は基本的に同期型のオンライン授業として行う。史料・資料は **Hoppii** で配布する。オンライン (**Zoom**) で授業を行うため、授業に関心のある学生は必ず仮登録は行うこと。

【その他の重要事項】

授業が対象とする地域についての知識は必要ありません。ヨーロッパ近代史、ナショナリズム、国民国家などに関心のある方の受講を歓迎します。英文の論文を授業中に検討し、グループ・ディスカッションの材料としますので、意欲的な方々の参加をお待ちしています。

【Outline and objectives】

Habsburg Monarchy was a mere amalgam of defferent territories acquired and inherited by the house of Habsburgs through marriages and wars. Therefore it was anachronistic existence by itsself, lacking a potentiality to develop to an integrated modern state. The Long Nineteenth century was for it a process of decay leading to an inevitable dissolution, a process driven by nationalism, nationality conflicts... Such an argument is based on a view which presupposes a centralized homogeneous nation-state as a normality of modern state, and depicts history the Habsburg monarchy as an anormality deviated from the "normal" development of European modernity. As its succeeding states in Central and Eastern Europe legitimates their existing by stressing their "national" characters, such vision of history often constructed basic pattern of historical narrative. Can we still understand history of the Monarchy in such a way? In this course, first, we will briefly sketch a historical region "Central Europe", then the building of the Habsburg monarchy from the Middle age to the Enlightenment. After summarizing historiography of Habsburg monarchy and more important theoretical problems, we will investigate some of the most essential topics of the Monarchy in "the long 19th. century". Following the course last academic year, the main object of the analyse is history of Bohemian Lands and Galicia (today, south-eastern part of Poland and western Ukraine).

HIS200BE

西洋史特講Ⅳ

高澤 紀恵

授業コード：A3171 | 曜日・時限：水曜 2 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世西ヨーロッパ社会の基底で起こった変化を、「生存の条件」「社会的結合関係」「文化変容」「緊張と排除」という 4 つの視点から検討する。対象とする時期は 16 世紀から 18 世紀とする。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

近世ヨーロッパ社会史をテーマとするこの授業は、2 つの到達目標をもつ。ひとつは、16 世紀以降のヨーロッパの歴史を基底でゆっくり変化する人々の生活・宗教・意識の変化から追ひ、近代ヨーロッパの理解を深めることである。二つ目は、日常性に着目する社会史の方法と成果を学ぶことを通して、私たちの生きる時代と社会を相対化し、その歴史的特質を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、学生による報告、ディスカッションを組み合わせたクラスである。リアクション・ペーパーは毎回提出を求める。次回授業の冒頭で、学生のリアクションへのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会史とはなにか
第 2 回	映画『帰ってきたマルタン・ゲール』	次回、感想文を提出のこと
第 3 回	生存の条件	他者としての過去との出会い
第 4 回	社会的結合関係（1）	血縁的な結合
第 5 回	ディスカッション（1）	婚姻と家をめぐるって
第 6 回	社会的結合関係（2）	宗教的結合と地縁的結合
第 7 回	文化変容（1）	宗教改革とカトリック改革
第 8 回	文化変容（2）	民衆文化と時間・空間意識
第 9 回	文化変容（3）	文字文化の浸透
第 10 回	緊張と排除（1）	魔女
第 11 回	緊張と排除（2）	放浪者・貧民
第 12 回	緊張と排除（3）	ユダヤ人
第 13 回	ディスカッション（2）	近代と排除
第 14 回	まとめ	啓蒙のゆくえ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、テーマの一つを選び、報告（30 分）を準備すること。ディスカッションに際しては、事前に配布された資料について課題に対する自分の考えを A 4 一枚程度のレポートにまとめて持参すること。レポートはディスカッション終了後に提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに定めず

【参考書】

ナタリー・ゼーモン・デーヴィス『帰ってきたマルタン・ゲール—— 16 世紀フランスの偽亭主事件』平凡社ライブラリー、1993 年ほか。
参考文献表を最初の授業で配布する。

【成績評価の方法と基準】

報告への評価（40％）

ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（20％）

エッセイ形式の期末試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】

二〇一九年度は分厚い参考文献表を最初の授業に配布しましたが、受講生はあまり活用していないことに気がつきました。今年はリストを短くして必読文献に絞るほうが有益かと思います。

【Outline and objectives】

Social history is not a simple branch of history but a critical history in its own right. By grasping the society as a whole on the level of everyday experience, it illuminates every aspect of social life considered meaningful to each historian. In this course, participants are expected to make a presentation on a topic provided in advance, and engage in discussion.

HIS200BE

西洋史特講 V

高澤 紀恵

授業コード：A3172 | 曜日・時限：水曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市は、政治・社会・経済・宗教の変動の最先端にあり、新たな統治技術が生まれる場でもあった。2021 年度においては、パリという具体的な都市の歴史に即して、空間、建物、信仰の三点から中・近世における変化を分析する。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

中・近世都市の歴史をテーマとするこの授業は、三つの到達目標をもつ。ひとつは、「市民」、「公共性」、「代表」、「救済」といった概念が、どのような歴史的現実の中で育まれ、変容してきたかを理解することである。二つ目は、都市史研究の成果と方法を学び、自分の生活空間を学問的に検討する力を養うことである。三つめは、自分の課題意識に応じたレポート作成の技術を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

このコースは、講義を中心とするが、グループ・ディスカッションも行う。その場合は、事前に配布された資料をよく読み、A4 一枚程度に考えをまとめてレポートを作成すること。このレポートをディスカッションに持参し、提出のこと。レポートならびにディスカッションへのフィードバックは、授業内で行う。また学生のリアクションへのフィードバックは、次回の授業冒頭でまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	福澤諭吉から考える都市
第 2 回	空間を読む（1）	パリの三つの顔
第 3 回	空間を読む（2）	シテ島の中心性
第 4 回	空間を読む（3）	右岸と市民
第 5 回	空間を読む（4）	左岸と大学
第 6 回	ディスカッション	都市と大学をめぐって
第 7 回	建物を読む（1）	ノートル・ダムを読む
第 8 回	建物を読む（2）	サン・ポールを読む
第 9 回	ディスカッション	残るもの、失うもの
第 10 回	見えないものを読む（1）	教区と街区
第 11 回	見えないものを読む（2）	教区教会の役割
第 12 回	見えないものを読む（3）	教区における闘い
第 13 回	見えないものを読む（4）	都市と信仰、都市の信仰
第 14 回	まとめ	都市を考える、都市から考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中心のクラスであるが、ディスカッションに際しては事前に配布された資料を熟読の上、課題に答える A4 一枚程度のレポートを用意し、これを基にディスカッションを行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

吉田伸之、伊藤毅（編）『伝統都市 全四巻』東京大学出版会、2010 年。
高澤紀恵『近世パリに生きる——ソシアビリティと秩序』岩波書店、2008 年。
高澤紀恵、アラン・ティレ、吉田伸之編『パリと江戸—— 伝統都市の比較史へ』山川出版社、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40 %）、
エッセイ形式の期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

2019 年度のクラスでは、ディスカッションに際して多くの学生がよく考えて準備してくれたと思います。2020 年度は、オンラインで行いましたが、ほぼ毎回事前に課題を出してグループ・ディスカッションを行いました。学生たちは、積極的に参加してくれ、オンライン授業が充実したものとなりました。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出などは学習支援システムを活用しますので、パソコンを使える環境がのぞましい。

【その他の重要事項】

関心のある方は必ず仮登録をしてください。
ネット環境が整わない方は、メールで相談してください。

【Outline and objectives】

This course aims to help students understand the social and spatial transformation in early modern Paris, focusing on the following four topics: topography, architecture, and religion. This course consists of lectures and discussions. Students are expected to read assignments in advance.

HIS200BE

西洋史特講Ⅵ

大鳥 由香子

授業コード：A3173 | 曜日・時限：火曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年（2021 年）、アメリカ合衆国の歴史では初めて、女性が副大統領に就任した。カマラ・ハリス氏が副大統領に当選した昨年（2020 年）はまた、連邦レベルでの女性参政権が認められて 100 年の節目であった。本講義では 19 世紀後半からのアメリカ史をたどり、アメリカ政治における女性とジェンダーについて考察を深める。ジェンダーギャップという点からすると、日本よりもアメリカ社会の方が「進んでいる」という評価を下されることが多い。一方、アメリカ合衆国のなかには、人工妊娠中絶が厳しく規制される州、一夫多妻制が行われているコミュニティがあるなど、決して「アメリカの方が進んでいる」という一言では片付けられない側面もある。結局のところ、連邦レベルでの女性参政権の付与は、アメリカ政治をどのように変えたのだろうか。アメリカ政治をジェンダーの視点から分析すると、どのような変化が起きてきたのだろうか。なお、現代アメリカの政治情勢に鑑み、人種問題や中絶問題に関する事柄を多く扱うことになる。

【到達目標】

アメリカの政治文化における政治とジェンダーについての基礎的な知識を得る。英文の史料を解釈する能力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で進める。履修人数によっては、演習形式を取り入れる場合もあるが、毎週のリーディング課題に関するリアクションペーパーの提出は必須となる。また、日本語訳のない英語の史料の講読を課題とする週もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の紹介
第 2 回	19 世紀アメリカにおける女性と教育	女性参政権運動はどのように始まったのか。
第 3 回	ハル・ハウスの女性たち	参政権のない女性たちはどのように政治に関わったのか。
第 4 回	第一次世界大戦と女性参政権	アメリカ女性はなぜ戦争に協力したのか。
第 5 回	フェミニズムと産児制限運動	妊娠や出産をめぐる規制はどのように変化してきたのか。
第 6 回	ニューディールと女性たち	アメリカ女性は社会福祉にどのように関わっていたのか。
第 7 回	第二次世界大戦と女性の戦争参加	第二次世界大戦はアメリカ女性の暮らしをどのように変えたのか。
第 8 回	冷戦と女性	軍産複合体はアメリカ女性の暮らしをどのように変えたのか。
第 9 回	ジム・クロウ法への挑戦	黒人女性は何をどのように変えようとしたのか。
第 10 回	フェミニズムと女性の社会進出	1970 年代のフェミニズムはどのような法改正を要求したのか。
第 11 回	妊娠中絶をめぐる戦い	なぜアメリカで妊娠中絶は政治の争点になったのか。
第 12 回	女性の政治進出	ガラスの天井とは何か。女性の政治進出は何をどのように変えたのか。
第 13 回	同性婚論争	同性婚の権利はどのようにして認められたのか。
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。学生は授業の復習のほか、毎週のリーディングに関する課題を行ってもらいます。課題については次週の授業で解説を行う、また皆さんのコメントを取り上げるなどの形でフィードバックを行います。履修人数によっては、皆さんの提出課題に基づくディスカッションを授業内で行うことも予定しています。また、南北戦争期以降アメリカ史の基本的な流れを各自で抑え、授業内で行う小テスト（持ち込み不可）でアメリカ史に関する基本的な事項に関する定着を図ります。学期中に最低 1 本は授業内容に関するドキュメンタリーを視聴し、作品分析を行うレポートを執筆します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。資料については、適宜配布する。

【参考書】

リンダ・K・カーバー、ジェーン・シェロン・ドゥハート編著、有賀夏紀 [ほか] 編訳『ウィメンズアメリカ 資料編』（2000）
エレン・キャロル・デュボイス、リン・デュメニル著、石井紀子 [ほか] 訳『女性の目からみたアメリカ史』（2009）
有賀夏紀、小椋山ルイ『アメリカ・ジェンダー史研究入門』（2010）

【成績評価の方法と基準】

毎週の課題（履修者数によってディスカッションへの参加と貢献）： 30 %
中間レポート： 20 %
小テスト： 10 %
期末試験： 40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により該当せず

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する予定。

【Outline and objectives】

This course explores how women became enfranchised in the United States and how their formal participation in federal politics shaped twentieth-century American society.

HIS200BE

西洋史特講Ⅶ

遠藤 泰生

授業コード：A3174 | 曜日・時限：月曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に植民地時代から 19 世紀末までのアメリカ合衆国の歴史と文化を概観し、現代のアメリカ合衆国社会に見られるさまざまな社会規範の淵源を探ります。宗教やジェンダーの問題も出てくるでしょう。しかし、2020 年以来アメリカ社会を揺るがし、世界の耳目を集めてきた BLM(Black Lives Matter)の運動の背景を理解することにこの学期の授業は多くの時間を費やします。人種をめぐる緊張が世界大に広まっていることを意識し、アメリカ合衆国の歴史と世界の他国の歴史を比較の視野に収めながら、多元社会を生きる意味を学びます。

【到達目標】

学生はこの授業を受講することで、北米英領植民地が開かれて以来、出自を異にする多民族がアメリカ合衆国という国民国家に包摂されるまでの歴史を学びます。その際、時間の長さから見れば他国に比べ比較的短い歴史しか持たない合衆国が、建国以来わずか 100 年間で世界随一の工業生産力を誇る大国に成長し、民主主義の光と影を併せ持つ政治体制を築き上げるにいたった経緯をたどりま。一方で、誰をも平等に扱うという抽象的な国是のもと、伝統や因習を削ぎ落され、「アメリカ国民」への変容を余儀なくされた人々の苦しみも学びます。映画や絵画などの図像史料に触れながら、ヴィジュアルなアメリカ理解を培うことが学生には期待されます。また、課題図書や読書のレポートを準備する過程で、論文を記すための文章の構成や言葉遣いを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。学生とのインターアクティブな会話を重視し、各授業内に質疑の時間を必ず設けます。提出してもらった読書レポートにはコメントを付けて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入：アメリカ合衆国の近代史を学ぶ意義	歴史と記憶
第 2 回	先住民社会と英領北米植民地	映画『新世界』（2006）
第 3 回	政教分離：寛容と非寛容	合衆国憲法修正第一条
第 4 回	市民社会の形成：公共の成立	ベンジャミン・フランクリン著『自伝』（1793）
第 5 回	国際関係の中の独立宣言：独立と相互承認	アメリカ合衆国独立宣言
第 6 回	アメリカ女性運動の黎明：ジェンダーと政治	「所感の宣言」（1848）
第 7 回	西欧近代世界における奴隷	映画『アーミスタッド』（1997）
第 8 回	アメリカ合衆国の成立と黒人奴隷制度	トマス・ジェファソン著『ヴァージニア覚え書』（1785）
第 9 回	奴隷制度即時撤廃運動と環大西洋世界	フレデリック・ダグラス著『自伝』（1835）
第 10 回	たった一人の反乱	ヘンリー・D・ソロー『市民の反抗』（1849）

第 11 回	南北戦争のその記憶：事実と史実	アブラハム・リンカン「ゲチスバーグ演説」
第 12 回	アメリカン・ランドスケイプの成立	ハドソン・リヴァー派からカントリー派へ
第 13 回	“少年”の良心とその葛藤	マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』（1890）
第 14 回	連邦再建とジム・クロウ：周縁化される人種問題	映画『国民の創生』（1915）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での議論の要となる短い史料を毎週事前に配布するので、必ず読んでくること。英文も混じります。講義ノートを読み返し、問題点、不明点があれば、翌週の授業で質問をすること。映画は授業では抜粋しか見られないので、可能な限り全編を鑑賞する時間を設けること。

【テキスト（教科書）】

ヘンリー・D・ソロー著/飯田実訳『市民の反抗』（岩波文庫、1997）
マーク・トウェイン著/西田実訳『ハックルベリー・フィンの冒険 上・下』（岩波文庫、1977）

【参考書】

和田光弘『大学で学ぶアメリカ史』（ミネルヴァ書房、2014）

【成績評価の方法と基準】

- ・学期末論述テストー 60 %
- ・学期中に提出する読書レポートー 30 %
- ・白地図提出ー 10 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

授業時に随時、指示を出します。

【その他の重要事項】

アメリカ合衆国に関する事前の知識は何も必要ありません。オフィスアワーは設けませんが、質問は随時受け付けます。授業時間外に質問をしたい学生は必ずメールで事前の予約をすること。

【Outline and objectives】

We often look at issues related to ethnicity and race as irrelevant to our everyday life in Japan. In the 21st century, in which the globalization is an unavoidable trend, however, such a carefree attitude and insensibility towards diversity must be carefully scrutinized. In this class, you are expected to study history not as the dead past but as the living lesson to live with people of different color, gender, and belief.

HIS200BE

日本史特講Ⅹ

長井 純市

授業コード：A3201 | 曜日・時限：木曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・授業の概要：欧米人の見た 20 世紀前半期の大日本帝国と日本人の種々相を、日本滞在経験を有する欧米人、とりわけ米国人が残した英文の著述や公文書などの一節を読むことを通して、学ぶ。
- ・目的：1) 日本近代史全般に関わる知識を得、あるいは増やす。2) 今日の日本と将来の日本を考える手がかりを得る。3) 異文化との衝突や交流について考える手がかりを得る。

【到達目標】

到達目標：1) 日本近代史に関する英文資料の読解力を養い、向上させること。2) 英文資料の講読を通して、日本近代史全般に関する知識を得、理解を深めること。3) 欧米人の近代日本及び日本人に対する多様な見方や解釈を理解すること。4) 異文化との衝突や交流、共生について考える手がかりを得ること。5) グローバリゼーションという現象を多様な視点から考える手がかりを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・進め方：講義形式である。
- ・方法：受講生の能動的な学習を促し、また双方向的な授業運営に努め、受講生の授業後のコメントや疑問などを適宜授業内で取り上げ、受講生との質疑応答を取り入れる。教室での対面授業を行うが、新型コロナウイルス感染問題への対応策として教室での対面授業を ZOOM を利用して同時配信する方式を併用することもある。リアクションペーパーにおける受講生の疑問や質問、コメントなどには、次の授業冒頭あるいは学習支援システムにおいて対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要説明。
第 2 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（1）	英文資料—日本観と日本人観—
第 3 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（2）	英文資料—政治（1）—
第 4 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（3）	英文資料—政治（2）—
第 5 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（4）	英文資料—政治（3）—
第 6 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（5）	英文資料—経済—
第 7 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（6）	英文資料—産業—
第 8 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（7）	英文資料—植民地（1）—
第 9 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（8）	英文資料—植民地（2）—
第 10 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（9）	英文資料—文化（1）—
第 11 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（10）	英文資料—文化（2）—
第 12 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（11）	英文資料—生活（1）—

第 13 回 欧米人の見た大日本帝国 英文資料—生活（2）—
国と日本人（12）

第 14 回 まとめ 授業の総括と質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・準備学習：学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに授業プリントの英文資料を添付ファイルでアップロードするので、授業前に、それをダウンロードし、読んで和訳しておくこと。
- ・復習：授業プリントを読み直すこと。毎回の授業後、学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに授業の要点を掲示するので、それを読むこと。さらに、授業プリントの内容に関連する記事や参考書を読んでおくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

刊本としてのテキストは使用しない。毎回授業前に、英文資料プリントを学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに添付ファイルでアップロードする。

【参考書】

オリーブ・チェックランド『明治日本とイギリス』（法政大学出版局）
ジョセフ・ヘニング『アメリカ文化の日本体験』（みすず書房）
ポール・クロードル（奈良道子訳）『孤独な帝国日本の 1920 年代』（草思社）
中條忍『ポール・クロードルの日本』（法政大学出版局）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 40 %、試験 60 %（設題は、到達目標をふまえたものとする。参照可）。
- ・特別な事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には、あるいは試験を受験しない場合には、不合格の評価とする。
- ・新型コロナウイルス感染防止策として、教室での試験を行うことができない場合には、試験をレポートに切り替えることもある。

【学生の意見等からの気づき】

日本近代史に関する知識の不足を感じたり、英文の和訳や解釈に手間取ったりする受講生がいることから、受講生の学習の動機付けや意欲を高める質疑応答、受講生同士の助け合い学習などを活用する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用することのできる IT 機器。
- ・ZOOM 授業を受講することのできる IT 機器。

【その他の重要事項】

- ・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
- ・新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
- ・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、頻繁に閲覧し、見落とさないようにすること。
- ・担当教員宛の直接連絡にはメールを利用すること。そのメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

【Outline and objectives】

This course has three main points. The first point is to study the Japanese modern history through reading and translating English sentences extracted from the Foreign Relations of the United States or the books or articles written by American intellectuals in the early 20th century. The second one is to study the viewpoints on Japan and the Japanese people in modern times from the eyes of the Westerners. The third is to study the cultural exchange and conflicts between different cultures. Thorough this course students obtain ability and skill of critical thinking on the Japanese modern history.

HIS200BE

日本史特講Ⅹ

森田 貴子

授業コード：A3202 | 曜日・時限：火曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幕末期の開港によって、政治的・軍事的・経済的に近代化を迫られた日本は、明治以降、封建的な制度を撤廃し、近代的な制度を急激に形成した。多様な法律・規則が制定・改廃され、多くの社会的な変動と改革がなされた。本講義では、明治初年から第二次世界大戦までの日本について、制度変革の観点から、多角的に近代日本の社会を歴史的事実に基づき理解する。

【到達目標】

本講義は、明治初年から第二次世界大戦までの日本について、経済・社会・教育などの多角的な制度変革の観点から、日本の近代を歴史的事実に基づき理解し、広い視野と現代社会を主体的に考察する視角を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回テーマごとに、講義を進めながら、近代日本の諸制度について、考えていく。
毎回、リアクションペーパーを提出する。
授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーから良い意見や多く出された意見を取り上げて紹介し、議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的・進め方。歴史学の方法。現代社会について主体的に考察するための歴史学の持つ意義について。
第 2 回	土地制度（1）	近世期の土地制度
第 3 回	土地制度（2）	地租改正の実施
第 4 回	土地制度（3）	地租改正の意義
第 5 回	司法制度（1）	近世期の裁判制度
第 6 回	司法制度（2）	近代司法制度の確立
第 7 回	土地制度と司法制度（1）	近代司法制度と裁判の実態
第 8 回	土地制度と司法制度（2）	地主制
第 9 回	教育制度（1）	小学校の成立
第 10 回	教育制度（2）	小学校の確立
第 11 回	金融制度（1）	明治期の貨幣制度
第 12 回	金融制度（2）	国立銀行の設立
第 13 回	金融制度（3）	日本銀行の創設
第 14 回	試験とまとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・ニュースの経済面を、積極的に読むこと。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は、特に指定しない。
教場で、資料レジュメを配布する。

【参考書】

教場で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）と、試験1回（60％、持ち込み不可）による。

【学生の意見等からの気づき】

本年度は対面授業で実施する。

【その他の重要事項】

3分の2以上の出席は必須です。

【Outline and objectives】

This course aims for students to gain a good understanding of the Japanese modern age examining the historical facts about Japan from the beginning of the Meiji period to the Second World War from diverse perspectives, including laws, economy, society, education, and urban development.

HIS300BE

日本古代史科学Ⅱ a

山口 英男

授業コード：A3204 | 曜日・時限：火曜 5 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

正倉院文書と木簡を中心に、日本古代史料研究の課題、古代史料の特徴、歴史情報抽出の方法を学び考えます。史料のどこに注目したらよいかを知ること、史料の背後の世界へと視野が広がります。日本古代史を研究するための材料となる史料は、他の時代に比べて数が限定されている印象が強く、新たな検討の余地は少ないように思われがちです。しかし、周知の史料でありながら十全な検討がなされていないものや、研究の進展に応じた再調査・再検討が必要となっている史料が意外に多くあります。何よりも、正倉院文書や木簡など、当時の実務の現場で用いられた書面が大量に残されていることが、日本古代史料の特長です。現代に引きつけていえば、お役所の内部書類が外部に流出したようなものです。まさに「宝の山」といってよい史料群であり、分析されることを待っている情報がまだまだたくさんあります。これらをどのように分析するのか。記載内容（文字）を読み取るだけではなく、史料を「もの」として分析することで、古代史科学・古文書学の新たな知見が蓄積されて来ています。より多くの情報を史料から抽出することで、古代史研究の地平をさらに広げていくことが期待できます。本講義では、古代史料の「すがた・かたち」を検討しながら、史料の分類と分析の視角・手法を考え、古代史研究の新たな視野を展望します。

【到達目標】

古代史料研究の課題について理解する。
古代史料の特徴を知り、歴史情報を抽出するための視角と分析手法を身に付ける。
史料に対する目のつけどころ、問いかけ方を学ぶことで、史料の持つ豊かで多様な情報に近づくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式（対面授業）で進めます。
配布した史料プリントを使いながら、史料の分析とはどういう作業であるのか、その結果何がわかるのか、具体的な例を挙げながら解説します。
3回程度の講義のまとまりごとに、小レポートを提出してもらうことで、理解と認識の深まりを確かめながら進めます。小レポートについては、下記も参照してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義のねらいと進め方
第 2 回	古代の実務文書の面白さ	正倉院文書と木簡
第 3 回	古代史科学の課題と視角①	古代史料の概要と史料批判
第 4 回	古代史科学の課題と視角②	古代史料の特徴と分析視角
第 5 回	古代史科学の課題と視角③	実務官司の仕事と書面
第 6 回	古代史料に見る情報の定着と移動①	情報の記録・伝達と〈書類学〉という考え方
第 7 回	古代史料に見る情報の定着と移動②	仕事に用いる文書とメモ
第 8 回	古代史料に見る情報の定着と移動③	仕事の進行と成長する書面
第 9 回	木簡と帳簿①	木簡と古代史科学の関係
第 10 回	木簡と帳簿②	紙の書面と木簡
第 11 回	木簡と帳簿③	「食口」という方法と木簡
第 12 回	口頭伝達と書面の関係①	書面の背後に見える口頭伝達
第 13 回	口頭伝達と書面の関係②	口頭伝達の記録
第 14 回	口頭伝達と書面の関係③	「口状」の発見からわかった業務の実態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するテキストに目を通しておいください。また、講義の内容を、自分なりに文章に整理しておくことをすすめます。参考書や、講義中に紹介した研究文献にもできるだけ目を通してください。
本授業の準備・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので、講義に必ず持参してください。教科書は使用しません。

【参考書】

東原永遠男『正倉院文書入門』（角川学芸出版、2011 年）
市川理恵『正倉院写経所文書を読みとく』（同成社、2017 年）
山口英男『日本古代の地域社会と行政機構』（吉川弘文館、2019 年）
山口英男『正倉院文書に見える「口状」について』（佐藤信編『史料・史跡と古代社会』吉川弘文館、2018 年）
山口英男『写経所の機構』（犬飼隆編『古代の文字文化』竹林舎、2017 年）
山口英男『正倉院文書から見た「間食」の意味について』（『正倉院文書研究』13、2013 年）
東京大学史料編纂所編『日本史の森を行く』（中公新書、2014 年）
山口英男『正倉院文書に見える文字の世界』（国立歴史民俗博物館他編『古代日本と古代朝鮮の文字文化交流』大修館書店、2014 年）
正倉院文書マルチ支援（多元的解析支援）データベース SHOMUS・奈良時代大日本古文書フルテキストデータベース（東京大学史料編纂所 SHIPS データベース <http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/db.html>）
奈良文化財研究所 木簡庫データベース <http://mokkanko.nabunken.go.jp/en/>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期間中に提出してもらった複数の小レポートの内容によって行います。講義の進行に合わせて課題を出します。小レポートでは、講義の受講を前提に、講義内容の整理とその批判的論評を求めます。理解力（40％）、調査・考察力（30％）、文章力・独創性（30％）を基準に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートは、提出の翌週にコメントと評価を付して返却しますので、次のレポート作成の参考にしてください。これを繰り返すことで、文章のレベルや内容、説得力が確実にアップします。

【その他の重要事項】

インターネット等から文章を「剽窃」したレポートに対しては厳格な措置を取ります。他人の文章を盗み、あたかも自分の文章であるかのように人を欺く行為が許されないことを十分認識してください。

【Outline and objectives】

Learn research subjects on ancient historical materials in Japan, features of ancient historical documents, and the method of historical information extraction, focusing on Shosoin Document and Wooden Tablet.

HIS200BE

東洋考古・美術史

塩沢 裕仁

授業コード：A3209 | 曜日・時限：木曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の 9 割にもおよぶ期間が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	中国考古学の現状
第 2 回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物 1	仰韶文化と彩陶
第 3 回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物 2	竜山文化と灰陶、黒陶
第 4 回	文明多元論	河母渡・大地湾・夏家店・良渚文化
第 5 回	中国王朝の曙	二里头遗址と出土遺物
第 6 回	殷王朝の文化 1	偃師商城・鄭州商城遗址と出土遺物
第 7 回	殷王朝の文化 2	殷墟の甲骨と青銅器
第 8 回	周王朝の文化 1	周原の遺跡と出土遺物
第 9 回	周王朝の文化 2	東周洛陽の遺跡と出土遺物
第 10 回	春秋戦国の文化 1	曾公乙墓と出土遺物
第 11 回	春秋戦国の文化 2	曲阜孔廟と関連遺産
第 12 回	四川独自の文化	三星堆の遺構と出土遺物
第 13 回	秦初期の文化	天水・雍城の遺構と出土遺物
第 14 回	始皇帝の理想とその文化	始皇帝陵と兵馬俑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に參觀し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されていますので『ビジュアル版世界の歴史 5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985 年）などには目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。

あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline and objectives】

On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological datas in China,we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

HIS200BE

東洋史特講Ⅶ

水上 和則

授業コード：A3217 | 曜日・時限：木曜 1 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、中国陶磁史について行う。
アジアの大国である中国は、芸術・文化が早くから栄え、周辺諸地域へ影響を与えつづけた。本講義では、土器や陶器・磁器のもつ様々な生産の歴史や造形美について学習する。個々の作品に美しさを感じ、各時代の陶磁器から誕生の背景をよみ、一貫してながれる中国のやきものの歴史を学んでゆく。

【到達目標】

私たちの暮らしに無くてはならない“やきもの”に長い歴史のあることを学び、よく理解し、そのうえで身近な器の持つ美しさを再発見する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回講義を中心に行い、後半で画像提示をして陶磁作品鑑賞や講義の詳細解説を行う。

【授業形式】 基本的に対面授業を行う。
キャンパス入校ルールに従い、オンデマンド授業に切り変える場合もある。
フィードバックは基本的に授業内で行う。授業内で出来なかった質問等は、教員の学内メールにて受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国やきものの曙	新石器時代陶器を生んだ風土とその材料である黄土は、どの様にしてできたのだろうか。
第 2 回	中国の土器	仰韶文化のやきものは、肌理の細かな粘土を用いること、回転台を使つての仕上げ作業を行ない、初めて窯を用いて焼成することが行われるようになる。
第 3 回	漢魏の明器	春秋・戦国時代には、大勢の殉葬者を出すことが現世権力の保持のためにマイナス要因であるため、人に似せた人形である俑を副葬したという。
第 4 回	越州窯のやきもの	越国では、全国に先立ち漢代に瓷器が生産された。生産された製品は全国にもたらされ、瓷器焼造の技法は近隣の諸国に伝えられ次々に生産窯が現れた。
第 5 回	原料のはなし	“やきもの”の原料である粘土はどのように生まれ、地表のどこにあるのか。ここでは、やきもの原料について学んでゆく。
第 6 回	白瓷のはじまり	人々の白い焼物を望む声は強く、遠く殷時代にはすでに白陶として無釉の白い焼物が作られる。
第 7 回	定窯の白瓷	『定窯』は、唐代に始まり、宋代から金代に隆盛し、元代初期頃まで命脈を保つ、白瓷の焼造を専業とした中国を代表する名窯である。
第 8 回	天目茶碗	我が国茶の湯文化における天目茶碗は、中国点茶法導入期において重要な位置を占めている。天目と呼ばれる茶碗の形や釉色について学んで行く。
第 9 回	龍泉窯の青瓷	16 世紀の大航海時代にあった世界中の港町からは、景德鎮の青花瓷と共に龍泉窯青瓷が例外なく出土するという。
第 10 回	景德鎮のやきもの	陶瓷器に紋様を描くことが装飾の中心になると、景德鎮が世間で広く注目を浴び、以後景德鎮で創始された窯業技法が、全国の窯業生産に強い影響を与えることとなる。
第 11 回	大航海時代の青花 (染付け) 瓷器	景德鎮窯では、明代後期から清代初期に青花瓷や赤絵が作られた。貿易陶瓷として日本や朝鮮・東南アジア諸国にもたらされた。

第 12 回	意匠と年代	先進文化と共に中国から輸入された陶 器は、各国で常に倣製の対象となっ ていた。倣製から始まるやきもの文化 の、なかでも意匠について学んでゆく。 美術館・博物館での見学等、やきもの 鑑賞の楽しみの数々を紹介する この講義のまとめと学びの確認を行う。
第 13 回	鑑賞とたのしみ	
第 14 回	中国の陶磁器まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。事前に印刷テキストを
配布する。他に、逐次印刷物を配布するので、該当箇所を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
本講義用のプリントを配布する。

【参考書】
佐藤雅彦『中国陶磁史』平凡社 1978 年

【成績評価の方法と基準】
筆記試験を実施する。
期末試験 (75%)、平常点・その他提出物 (25%) を合計し評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更のため、アンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
考古学・中国陶磁史・陶芸に興味をもつ学生の受講を歓迎する。
本講義用ノートを準備して、細かく筆記することを求める。
「実務経験のある教員による授業」
陶磁成形・釉調合・窯技術など陶芸全般の実務経験がある。
学生各人の実技経験に応じ、やきものを身近に感じられるように指導を行う。

【Outline and objectives】
This lecture is about history of Chinese ceramics.
In China which was an Asian large country, art, culture prospered early.
And it was continued affecting the neighboring areas. We learn about the
history and the molding beauty of various production of porcelain.

HIS200BE

東洋史特講Ⅷ

松本 隆志

授業コード：A3218 | 曜日・時限：金曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古代地中海世界から説き起こし、アラビア半島での預言者ム
ハンマドの出現、中東地域への発展と分裂を経て、現在の私たちが知るところの「イスラーム」が形成されていった最初期のプロセスを学んでいきます。
本授業を通じて、受講生がイスラームの生成と展開についてその歴史背景も
含めて自分の理解を形成すること、そして自身の理解を文章で他者へ提示す
ることを学びます。

【到達目標】
この授業を通じて受講生は、高校の世界史教科書等では断片的な情報しか得
られないイスラームの生成と発展について、古代地中海世界に固有の信仰伝
統の文脈の中で理解を形成していくことになります。そうして形成された理
解を自分の言葉で語ることができるようになることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
古代以来の歴史背景から説き起こし、イスラームの誕生と展開、完成に至る
プロセスを時系列に沿って学んでいきます。毎回の授業は講師による講義と
受講生によるペーパーの作成・提出で構成されます。課せられるペーパーは
毎回の授業内容に関する論述です。次回の授業で前回提出のペーパーの内容
についてフィードバックをおこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、テーマの説明と意義、授 業の受け方について。
第 2 回	古代地中海世界の宗教伝 統	古代地中海世界の信仰伝統としての一 神教信仰について。
第 3 回	古代末期の地中海世界と アラビア半島	ビザンツ帝国とサーサーン朝の抗争 と、その時代のアラビア半島の位置付 けについて。
第 4 回	預言者ムハンマドと神の 啓示	預言者ムハンマドの生涯とイスラーム の誕生について。
第 5 回	預言者没後の指導者をめ ぐる試行錯誤の始まり	正統カリフ時代～第一次内乱に至る出 来事について。
第 6 回	統一の再生と崩壊	第一次内乱の経緯とウマイヤ朝の成立 について。
第 7 回	指導者の資格とは何か	第二次内乱前後の状況とウマイヤ朝の 再興について。
第 8 回	ウマイヤ朝の到達点	ウマイヤ朝最盛期の歴史的 position 付けと 問題点について。
第 9 回	ウマイヤ朝の衰退、対抗 勢力の胎動	ウマイヤ朝末期の状況とハーシミーヤ 運動について。
第 10 回	アッバース朝の確立	アッバース朝最初期の状況について。
第 11 回	革命をもう一度	アミーンとマアムーンの内乱について。
第 12 回	イスラームの完成、帝国 の限界	イスラームとアッバース朝カリフの関 係について。
第 13 回	イスラーム世界の確立	諸王朝の乱立とイスラーム世界確立の 関係について。
第 14 回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回配布する資料でその日の授業内容に関わる追加の参考文献を適宜紹介す
るとともに、次回内容に関わるキーワードを示していきます。追加文献に目
を通したり、提出したペーパーを再検討することが復習になります。
また、配布資料で示される次回のキーワードについて調べることが予習にな
ります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。
毎回授業資料を配布します。

【参考書】
・概説書
小杉泰、『イスラーム帝国のジハード』（講談社学術文庫）、講談社、2016 年。
菊地達也編著、『図説イスラム教の歴史』、河出書房新社、2017 年。
・工具書
大塚和夫ほか編、『岩波イスラーム辞典』、岩波書店、2002 年。
その他の参考文献は適宜配布資料に記載します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出のペーパー（60％）、期末試験（40％）
ペーパーについては毎回素点をつけ、その累積で評価します。
期末試験は論述試験となる予定です。
毎回のペーパーも試験も、ともに設問に対して自身の見解を論述するものになります。授業内容を踏まえて自分なりの見解・解釈を生み出すこと、それを論理的に文章で示すことが評価の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業であれば毎回の授業資料は紙で配布する予定だが、必要と判断した場合には学習支援システムを利用する場合もあり得る。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があります、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておいてください。

【Outline and objectives】

In this class, We will learn the process of the earliest period in which the "Islam" we know today was formed through the introduction to the religious traditions of the ancient Mediterranean world, the emergence of the Prophet Muhammad on the Arabian Peninsula, the development into the Middle East and the division of the community. The students of this class need to form their own understanding of Islam's generation and development, including its historical background, and to be able to present their understanding in writing to others.

HIS200BE

西洋史特講Ⅱ

大和久 悌一郎

授業コード：A3219 | 曜日・時限：水曜 4 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一次世界大戦期のイギリスを検討する。特に、前線のみでなく、銃後とされた国内の工場における動員について、社会史的観点から検討し、近代から現代への画期とされるこの時期の変化を、イギリス史の文脈に位置付けながら考察していきたい。史料としてはイギリス公文書館の政府関連資料および新聞や日記を利用する。

【到達目標】

イギリス近現代史の概説を把握することができる。また、第一次世界大戦についての知識を得るとともに、社会史、経済史、政治史、文化史それぞれのアプローチを整理することができる。またそれらを通して、現代における国家と社会との関係について、比較史的な議論を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回ごとにプリントを配布し、それに従って講義を進めていきます。また毎回ごとにリアクションペーパーでの質問・感想・意見などの提出を求めます。またいただいた回答については、次の回に解説や応答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	イギリスの地理について
第 2 回	イギリス史概説①	産業と帝国
第 3 回	イギリス史概説②	二度の世界大戦と福祉国家
第 4 回	イギリス史概説③	サッチャー主義以後の政治とコモンウェルス
第 5 回	第一次世界大戦概説	総力戦と銃後
第 6 回	イギリスにおける銃後の動員①	ロイド＝ジョージと経済政策
第 7 回	イギリスにおける銃後の動員②	大量生産と女性の労働
第 8 回	イギリスにおける銃後の動員③	賃金とストライキ
第 9 回	総力戦と社会①	労働と管理
第 10 回	総力戦と社会②	都市の変貌
第 11 回	総力戦と社会③	爆薬と医療
第 12 回	総力戦と社会④	家族とコミュニティの変容
第 13 回	まとめ	得たものと失ったもの
第 14 回	テスト	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にイギリス史の概説書を読んでおくこと。授業後はプリントの再読が望ましい。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40 パーセント、平常点 60 パーセント。平常点には、リアクションペーパーの回答も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Especially from 1960s, many historians try to analyze WWI in Britain, and one of topics is "home front", munitions factories and their workers and so on. And they discussed social change in Great War, or relationship between state intervention and social, economic, and political situation. So I will review and discuss these topics again, not only about social, economic, but also cultural aspects, with documents of the Ministry of Munitions and diaries, newspapers.

GEO200BF

地誌学概論（1）

小寺 浩二

授業コード：A3408 | 曜日・時限：火曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地誌学に関する基礎知識の習得と具体的な「自然誌」作成能力の育成

【到達目標】

「地理学」において、「系統地理学」と並んで重要な分野である「地誌学」の歴史や方法論などについての基礎知識を習得する。あわせて、具体的な地域を取り上げた「自然誌」を作成し、「地誌」作成の基礎能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業全体を通して、「地理学」および「地理学的概念」、「地理学的研究手法」において重要な役割を果たす「地誌学」の歴史、理論、手法などについての基礎知識が習得できるように構成している。

また、授業の流れに沿って指示される2つの「自然誌」作成と、その講評・課題提示によって、基本的な「自然誌」作成能力の育成を目指す。

さらに、データ処理や結果の図化、主題図の作成方法などについても講義し、レポート執筆能力の向上、論文作成技術の基礎を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	講義内容概略	授業計画と課題説明
第2回	地理学と地誌学	地理学の中での地誌学の位置づけ
第3回	地誌学の歴史	地誌学の発展の歴史と主要文献紹介
第4回	地誌学の学派・方法論	フランス・ドイツ・アメリカなどの学派と地誌の方法論
第5回	広域地誌	広域地誌の定義と事例
第6回	国家地誌	国家地誌の定義と事例
第7回	総合的地誌	総合的地誌の定義と事例
第8回	動態地誌	動態地誌の定義と事例
第9回	景観論	景観論とそれに基づいた地誌
第10回	行政界と自然界	地誌における地域界について
第11回	自然誌	総合自然誌と主題自然誌
第12回	自分誌	自分誌の定義と事例
第13回	歩く自然誌	実際の経験によって組み立てる地誌
第14回	画像・映像による地誌	様々な画像や映像を用いた地誌

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事をもとに、様々な地域の地誌をまとめる。

自分の成長と共に変化した空間認識の違いについて「自分誌」としてまとめる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景の中の自然地理「改訂版」』、古今書院
・配布プリント資料

【参考書】

・長谷川典夫（1994）：『地誌学研究－地誌学作成法とその実例』、大明堂
・山本正三・田中真吾・太田 勇（1973）：『世界の自然環境』、大明堂
・藤岡謙二郎ほか（1982）：『世界地誌』-改訂増補版-、大明堂
その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）課題、試験による総合評価。
平常点3割、課題3割、試験4割とする。

【学生の意見等からの気づき】

今までの学生からの意見などをもとに、教材を新たに作成し直した。毎回の講義の欠課からも修正していくつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

原則として、毎回、PowerPoint や映像資料を活用してわかりやすく説明する。様々な分布図の作成のためのGIS活用法についてもコンピュータを用いて示す。

【その他の重要事項】

地理学科2年生に配置された重要な科目である。「地理学」を理解する上で欠かすことのできない「地誌学」を基礎から学ぶ科目であると同時に、卒論に至る重要なステップであるという位置づけのもとに授業内容を構成している。資料の検索・収集法からデータ整理・解析法の基礎、レポート・論文執筆のノウハウも伝授する。こうした知識・技術の習得如何で卒論の質が大きく異なってくるので、現段階での前向きな学習を期待する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学

＜研究テーマ＞

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline and objectives】

Basic knowledge is acquired about the history of "topography science" and the methodology which are the important field as well as "systematic geography" in "geography". The "natural topography" I disqualified for an area in detail all together is made and the basis ability of the "topography" making is acquired.

GEO200BF

地誌学概論（2）

南 春英

授業コード：A3409 | 曜日・時限：金曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の到達目標は、講義を通して地誌学のアプローチを理解し、グローバル地誌とテーマ別地誌、比較交流地誌のアプローチを組み合わせ対象とする地域を説明できるようになることです。地域概念について理解し、空間スケールに着目しながら日本および世界の地理的多様性に関する知見を深めます。

【到達目標】

本講義を受講することによって受講者は、特定の地域の特性や構造、およびその変化について、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できることと、地域を科学的に見ることが出来るよう目指します。また、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布します。途中、授業理解の促進のために、DVD 等を使用する予定です。また、受講生には、授業後にペーパー（あるいは授業支援システム）を通して、感想・質問等のリアクションや課題の提出をお願いすることがあります。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	授業内容の説明
第 2 回	地誌学とは	地誌学の目的とアプローチ
第 3 回	地誌学と国際理解教育①	中国における地誌教育
第 4 回	地誌学と国際理解教育②	韓国における地誌教育
第 5 回	日本の地域を調べる①	郡上八幡町：水資源を利用したまちづくり
第 6 回	日本の地域を調べる②	九州における近代産業遺産
第 7 回	世界の多様性①	生活と環境
第 8 回	世界の多様性②	世界の肉文化
第 9 回	グローバル地誌①	現代世界のグローバル化地誌
第 10 回	グローバル地誌②	グローバリゼーションと日本
第 11 回	テーマ別地誌①	中国の多民族と文化の多様性
第 12 回	テーマ別地誌②	中国の都市化と課題
第 13 回	地域差①	自然環境と歴史からうまれた北京住民と上海住民の省民性
第 14 回	まとめ	授業内試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内外でレポート課題（授業外課題・小レポート課題等）に取り組んでもらいます。また、授業で紹介する参考文献については、自主的に読むことを求めます。

なお、本授業の授業外学習（レポート・準備・復習時間）は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。書籍や文献は授業のなかで随時紹介するので、積極的に読んでください。

【参考書】

時事的な社会情勢の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱っていきたい。
可児弘明ほか（1998）『民族で読む中国』朝日新聞社
河上税・田村俊和（2009）『日本からみた世界の地域 世界地誌概説』原書房
菊地俊夫（2011）『日本』朝倉書店
高井潔司・藤野 彰・曾根康雄（2012）『現代中国を知るための 40 章』明石書店
帝国書院編集部（2019）『図説地理資料 世界の諸地域 NOW』帝国書院
藤野 彰（2018）『現代中国を知るための 52 章』明石書店
矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店
立正大学地理学教室（2007）『日本の地誌』古今書院

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題）：40 %、期末試験（持ち込み不可）：60 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

多くの資料・データを提示することで、受講者自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となることを心掛けます。

【Outline and objectives】

This course introduces various fundamental knowledge of regional geography to students taking this course. The goal of this course are to obtain fundamental knowledge of various regions and to acquire the ability to generally and systematically consider various geographical phenomena.

GEO200BF

地球科学概論 I

糸倉 正展

授業コード：A3412 | 曜日・時限：火曜 3 限
春学期・2 単位
備考（履修条件等）：「地球科学概論 I」の受講者は原則として秋学期の「地球科学概論 II」も連続して受講し、1 年を通じて受講すること。
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球は生きていると言われるが、日本列島に住む我々は特に、地震や火山噴火といった現象を目の当たりにしてそれを実感していることだろう。本講義では「地球」がどのように誕生し、どのような歴史を辿ってきたのか、またどのような理（ことわり）で活動しているのか、そのダイナミクスを固体地球科学の観点から解説する。また地震や火山噴火の予測について説明し、地球科学が社会に貢献できる可能性とその限界についても理解してもらう。

【到達目標】
我々が住む地球がどのように生まれ、我々の祖先となる生物がどのように進化してきたのか、また潮汐や磁場のような地球規模の現象、プレートテクトニクス理論による地震や火山噴火など、地球にまつわる様々な事象を理解することを目標とする。また普段から地球科学に関するニュースに接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。毎回の授業においてリアクションペーパーや課題レポートを提出することで、授業内容の理解度が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として 14 回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義のテーマの説明と評価法などについて説明する。
第 2 回	宇宙の中の地球	宇宙論の変遷、太陽系の成因論、地球の成り方について説明する。
第 3 回	地球の概観 1	地球の形と大きさ、内部の構造などについて、どのように測るか説明する。
第 4 回	地球の概観 2	地球の磁場と潮汐について、そのしくみや地層に残された記録について説明する。
第 5 回	地球誕生からの歴史	地球誕生 46 億年の歴史を生命の進化とともに説明する。
第 6 回	プレートテクトニクス 1	プレートテクトニクスの概念とメカニズムについて説明する。
第 7 回	プレートテクトニクス 2	プレートテクトニクスの研究の歴史について、日本における受容と拒絶を中心に説明する。
第 8 回	地震の基礎 1	地震の種類、震度とマグニチュードの違いなどを説明する。
第 9 回	地震の基礎 2	地震のメカニズム、予測に関する様々な観測などを説明する。
第 10 回	地震の基礎 3	地震予知情報に関する説明を行う。
第 11 回	グループワーク（地震）	地震をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 12 回	火山 1	火山の種類や噴火メカニズムなどについて説明する。
第 13 回	火山 2	火山災害に関する説明を行う。
第 14 回	グループワーク（火山）	火山をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
普段から宇宙や地球、地震、火山に関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、レポート作成に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に定めない。関連する書籍や論文の重要なものは適宜紹介する。

【参考書】
西本昌司「改訂新版 地球のはじまりからダイジェスト-地球のしくみと生命進化の 46 億年」合同出版
http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product_id=487
泊次郎「プレートテクトニクスの拒絶と受容 戦後日本の地球科学史」東京大学出版会
<http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-060307-2.html>
糸倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>
大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版
<http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518>

【成績評価の方法と基準】
1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10 %）。
全 14 回（予定）の授業のうち 2/3 以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
以前はグループワークの実施と、そのディスカッション内容の発表会は週を分けて実施していたが、時間を空けるとディスカッション内容を忘れてしまうことと、発表会だけで 1 回の授業時間を丸ごと費やすのはもったいないという指摘から、両者を 1 回の授業内で効率よく行うこととした。

【その他の重要事項】
この授業はグループワークの班分けの都合から受講定員は 60 名程度とし、第 1 回の授業でそれ以上の受講希望者がいる場合は選抜を行う。
また地球科学概論 I の受講者は原則として秋学期の地球科学概論 II も連続して受講し、1 年を通じて受講すること。
本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。
教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline and objectives】
The ground motion of earthquakes and volcanic eruptions in the Japan Islands are giving a real sense of the living earth. This lecture explains how the earth has appeared and evolution, and how the earth's actions work from the point of view of solid earth science. Also, explain the forecast of earthquakes and volcanic eruptions and ask them to understand the possibilities and limitations of earth science to contribute to society.

GEO200BF

地球科学概論Ⅱ

穴倉 正展

授業コード：A3413 | 曜日・時限：火曜 3 限

秋学期・2 単位

備考（履修条件等）：この授業は原則として春学期の「地球科学概論Ⅰ」から連続して受講するもの以外は受講を認めない。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球表層の気圏、水圏・地圏それぞれで生じる現象は、我々人類に様々な影響を与えている。地震に伴う津波や地殻変動、また地球規模の気候変動やそれに伴うローカルな侵食・堆積などは、我々に災害をもたらすと同時に、様々な恵みをもたらしている。本講義では自然現象のメカニズムを説明するとともに、そこから生じる災害とそれに対する課題について議論をしていく。

【到達目標】

我々が目にする山や川、海岸の景色は、地球内部と外部の両面からの作用や人為的な作用によって形づくられていることを理解し、地球のシステムを知って自然を見る目を養うことで、地学現象と自然災害との関係を理解することを目指す。また普段から自然災害や防災対策に関するニュースに接してもらい、地球科学と社会との関係を考える姿勢を身につける。毎回の授業において出される課題に答え、また感想・質問を書いて提出することで、授業内容の理解度が評価され、論理的な思考能力と表現能力が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。

毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。

提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として 14 回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	津波 1	最初に秋学期の講義全体の内容について説明。 後半は津波に関する講義を行う
第 2 回	津波 2	津波発生のしくみ、津波の高さの定義、津波堆積物について説明する。
第 3 回	グループワーク（津波）	津波をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 4 回	地殻変動 1	地殻変動の観測方法や緩急様々な様式の地殻変動を紹介する。
第 5 回	地殻変動 2	地形や生物に記録された地殻変動の調査研究例を紹介する。
第 6 回	活断層	活断層の定義や活断層の活動で形成される様々な地形、地層について説明する。
第 7 回	グループワーク（活断層）	活断層をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 8 回	気候変動 1	10 万年スケールで繰り返してきた氷期と間氷期の歴史とそのメカニズムについて説明する。
第 9 回	気候変動 2	歴史的な気候変動や現在の地球温暖化について考える。
第 10 回	グループワーク（気候変動）	気候変動をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 11 回	侵食と堆積 1	地球表層で生じる外的作用としておもに山の侵食について説明。
第 12 回	侵食と堆積 2	地球表層で生じる外的作用としておもに川・平野・海岸の侵食・堆積について説明。
第 13 回	グループワーク（土砂災害）	土砂災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

第 14 回 防災教育と地球科学 地球科学の防災上の意義と社会的貢献について説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

津波、地殻変動、気候変動、土砂災害などに関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、そこから課題を抽出して自身の考えをまとめるクセをつけること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する重要な書籍や論文は講義中に紹介する。

【参考書】

杉村 新「大地の動きを探る」岩波書店
<https://www.iwanami.co.jp/BOOKS/11/7/1151980.html>
穴倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>
矢守克也「巨大災害のリスク・コミュニケーション 災害情報の新しいかたち」ミネルヴァ書房
<http://www.minervashobo.co.jp/book/b120801.html>

【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10 %）。
全 14 回（予定）の授業のうち 2/3 以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

以前はグループワークの実施と、そのディスカッション内容の発表会は週を分けて実施していたが、時間を空けるとディスカッション内容を忘れてしまうことと、発表会だけで 1 回の授業時間を丸ごと費やすのはもったいないという指摘から、両者を 1 回の授業内で効率よく行うこととした。

【その他の重要事項】

この授業は原則として春学期の地球科学概論Ⅰから連続して受講するもの以外は受講を認めない。

本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけでなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。

教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline and objectives】

Phenomena occurring in the atmosphere, hydrosphere and geosphere of the earth surface give human various influences. Tsunamis and crustal deformation associated with the earthquake, global climate change and the accompanying local erosion and sedimentation bring us not only disasters but also various blessings. This lecture explains the mechanism of such phenomena and also discuss associated disasters and its issues.

GEO200BF

自然環境論

羽佐田 紘大

授業コード：A3417 | 曜日・時限：火曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、主に日本の流域・沿岸域に焦点を当て、自然環境の変遷を理解し、人々の暮らしとの関係を考えていく。

【到達目標】

さまざまな地域の自然環境の成り立ちを把握し、人々との関係を理解できる。自分自身や周囲の人々と身近な自然環境とのかかわりについて考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めていく。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布する。配布資料は学習支援システムにもアップロードする。スライドやプリントに多くの図や写真などを示すことで、視覚的に理解できるように努める。また、地形図を用いた簡単な作業（授業時間内に実施）を行う。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、要望、質問など）を提出してもらう。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合がある。

※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、計画、評価方法等を説明する。
第 2 回	日本の自然環境	日本の自然環境（特に地形）を概説する。
第 3 回	気候変動と地形の成り立ち	流域・沿岸域の自然環境のうち、地形に着目してその成り立ちを解説する。
第 4 回	沖積低地の形成（1）	人々が多く暮らす沖積低地（沖積平野）を中心に、それを構成する地形とその成り立ちについて説明する。
第 5 回	沖積低地の形成（2）	人々が多く暮らす沖積低地（海岸平野）を中心に、それを構成する地形とその成り立ちについて説明する。
第 6 回	地形図からみる自然環境の変化	新旧地形図を読み取り、さまざまな地域の自然環境の変遷を考える。
第 7 回	流域・沿岸域と水害・治水（1）	関東平野を例に水害・治水の歴史について述べる。
第 8 回	流域・沿岸域と水害・治水（2）	濃尾平野を例に水害・治水の歴史について述べる。
第 9 回	流域・沿岸域と台風	伊勢湾台風を例に流域・沿岸域での台風による被害について考える。

第 10 回	流域・沿岸域と地震	沖積低地を中心に地震の影響を説明する。
第 11 回	流域・沿岸域の人為的影響	流域・沿岸域で行われてきた地形改変と、人間活動が及ぼす影響について説明する。
第 12 回	流域・沿岸域の管理・保全・利用	流域・沿岸域の管理・保全・利用状況を確認する。
第 13 回	熱帯・亜熱帯の自然環境：サンゴ礁とマングローブ	熱帯・亜熱帯の自然環境の例としてサンゴ礁とマングローブを取り上げ、人々の暮らしとのかかわりについて述べる。
第 14 回	まとめ	これまでの授業内容の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの授業内容を復習する。
日常の自然環境にかかわる話題や事柄に関心を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）、期末レポート（50%）、コメントの提出状況・内容（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

コメントシートの質問について、スライドを用いて説明していく。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意するなどオンラインで受講できる環境を整えておくことが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces mainly from geomorphological perspective about the natural environment of drainage basin and coastal zone in Japan.

GEO200BF

生物・土壌地理学及び実験 I

小川 滋之

授業コード：A3420 | 曜日・時限：火曜 1 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アジア、ヨーロッパ、オセアニアの寒帯から熱帯、乾燥帯など様々な地域の植生を取り上げ、その成因について気候や地質、地形、動物、人間生活などとの関係から考える。

世界中には植物が見られない地域はほとんどなく、どの地域でも何かしらの植物が景観の一部に含まれる。ただ見ていれば“植物”で終わるが、それぞれ地域ごとに特徴が異なる。こうしたことから、たとえば旅行でどこかの地域を訪れた時に、どんな植物が分布するのか、なぜ、そこに分布しているのかを少しでも考えられるようになれば観光地など地域への理解も深まる。このように植物から地域を理解する考え方を学ぶのがこの授業の目的である。

【到達目標】

- (1) 世界には様々な植生分布があることを理解すること。
- (2) その地域の気候、地質、地形などから植生分布を考えられるようになること、あるいは植生分布から気候、地質、地形などが考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義のみではなく、映像視聴や観察、実習を含む内容である。必要に応じて受講者から意見を募集、ディスカッションも交えて進行する。毎回の授業は、①前回復習と②質問や感想の紹介から始め、③今日の内容、最後に④次回予告と⑤小レポートという流れで行う。②質問や感想の紹介は、前回の授業に関する質問や感想を時間が許す限り答える。⑤小レポートは、授業内容に関連したものを課題し、授業終了までに解答する方法で行う。野外実習は、講義で紹介した植生分布を実際に観察し、現地での成因についてディスカッションをしてもらう。

対面での授業が難しい場合は、ミーティングアプリ Zoom によるオンラインでの講義を行い、観察や実験の方法も変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	植生地理学とはどのような分野なのか。
第 2 回	植生分布に影響を及ぼす要因	気候、地質、地形が植生分布に及ぼす要因を解説する。
第 3 回	アジアの植生① 極東ロシアと北海道との関係	北海道の植生の成り立ちから北東アジアの植生分布について解説する。
第 4 回	アジアの植生② 朝鮮半島と本州との関係	本州にみられる冷温帯林の特徴、世界的にも珍しいブナの純林が生まれた背景を解説する。
第 5 回	野外実習（変更あり）	東京近郊において植生分布を左右する要因を観察する。
第 6 回	アジアの植生③ 屋久島	縄文杉がみられる森林の成り立ちを気候と花崗岩による地質から解説する。
第 7 回	アジアの植生④ 沖縄島、台湾、香港	暖温帯と亜熱帯の常緑広葉樹林の違いと島嶼における植生分布の特徴を解説する。
第 8 回	アジアの植生⑤ 東南アジア	熱帯林の種類と特徴、フタバガキ科植物を中心に構成される森林の特徴を解説する。
第 9 回	ヨーロッパの植生① 北欧フィンランドとスコットランド	北欧の亜寒帯針葉樹林を事例をもとに、北東アジアの植生分布との関係を解説する。
第 10 回	ヨーロッパの植生② 自然植生とガーデン文化との関係	イングリッシュガーデンを事例に、ガーデン文化が生まれた背景と構造的な特徴を解説する。
第 11 回	ヨーロッパの植生③ 南フランス	地中海沿岸地域の植生分布と観光地の景観を解説する。
第 12 回	ヨーロッパの植生④ スペイン領カナリア諸島	大西洋のガラパゴスといわれる島を事例に、海洋島と乾燥地域の植生分布について解説する。
第 13 回	オセアニアの植生 ニュージーランド	脊梁山脈によって異なる植生景観と外来種問題、温帯多雨林と乾性低木林の特徴を解説する。
第 14 回	まとめ	重要ポイントを再確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の最後に次回内容の予告をする。次回、どのような地域を扱うのか事前に調べておくこと。準備学習・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用せず。毎回の授業で必要な資料を配布する。

【参考書】

地図帳があると役立つ。参考文献や資料は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点満点 + α （小レポートなど、50 点満点）で評価する。小レポートは、授業中にその回の内容に関わるテーマを出題して終了までに提出するという方法で行う。

オンライン授業の場合、期末試験あるいは代替レポート + 小レポートで採点する。小レポートの方法は、授業中に指示するが期限内での提出で出席とする。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業中に指示する。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。

野外実習は 5 月中に行う（変更あり）。

【Outline and objectives】

This class introduces basic thinking of vegetation geography. Objectives are to understand the following. (1) Factors affecting the distribution pattern of vegetation in polar, continental, temperate, tropical and dry climates of Asia, Europe and Oceania. (2) Relationship between vegetation, animal, human life and culture.

GEO200BF

生物・土壌地理学及び実験Ⅱ

小川 滋之

授業コード：A3421 | 曜日・時限：火曜 1 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は土壌地理学に関わる内容を扱う。前半は土壌の性質と構造、生成という土壌の基礎を学び、世界中にみられる土壌の分布と成因について考える。後半は、野菜種子との関係、有機農業、アジアの伝統農業など、比較的身近な農業分野における土壌の特徴を事例に学ぶ。土壌は、その地域の気候や地質、地形、植生などの影響を強く受けて成立したものであり、人間の生活や文化にも密接に関係しているといえる。しかし普段生活する中ではあまりなじみのない分野でもある。授業を通して、人間が生活する上で欠かせないものだとすることを理解してもらおうのが目的である。

【到達目標】

- (1) 土壌の必要性について考えられるようになる
- (2) 土壌はすべて同じではなく様々な種類があることを理解する
- (3) 何気なく食する野菜が生まれた背景を土壌との関係から理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義のみではなく、映像視聴や観察、実験実習を含む内容である。必要に応じて受講者から意見を集め、ディスカッションも交えて進行する。毎回の授業は、①前回復習と②質問や感想の紹介から始め、③今日の内容、最後に④次回予告と⑤小レポートという流れで行う。②質問や感想の紹介は、前回の授業に関する質問や感想を時間が許す限り答える。⑤小レポートは、授業内容に関連したものを課題し、授業終了までに解答する方法で行う。実験実習は、講義で紹介した土壌を実際に観察し、その成因や環境についてディスカッションをしてもらう。

対面での授業が難しい場合は、ミーティングアプリ Zoom によるオンラインでの講義を行い、実験実習の方法も変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	土壌地理学とはどのような分野なのか、講義の内容と目標を紹介。
第 2 回	土壌とは何か①	土壌の性質と構造。
第 3 回	土壌とは何か②	土壌の生成。異なる生成段階の土壌を室内で観察。
第 4 回	土壌の分布①	世界にみられる土壌分布とその分類方法とは。
第 5 回	土壌の分布②	日本列島の高山帯から温帯地域にみられる土壌分布。
第 6 回	土壌の分布③	日本列島の亜熱帯地域にみられる土壌分布。
第 7 回	土壌と農業①	農地の土壌環境、土壌の状態を診断する方法とは。
第 8 回	土壌と農業②	土壌と野菜種子との関係。
第 9 回	土壌と農業③	土壌にやさしい有機農業とは。
第 10 回	実験実習①（変更あり）	土壌の性質と構成を野外で観察。
第 11 回	実験実習②（変更あり）	様々な土壌を診断。
第 12 回	土壌と農業④	アジアの伝統農業とは、東南アジア山岳少数民族の事例から解説。
第 13 回	野菜の地理学	野菜は、どのように生まれて、どこから来たのか、野菜の伝播について解説。
第 14 回	まとめ	重要ポイントを再確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の最後に次回の内容について予告を行う。事前に授業テーマに関連する項目や対象地域について調べておくこと。準備学習・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。毎回の授業で必要な資料を配布する。

【参考書】

適宜、授業中に参考文献や資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点満点 + a（小レポート等、50 点満点）で評価する。小レポートは、毎回の内容に関わるテーマを講義中に課題して終了までに提出するという方法で行う。

オンライン授業の場合、期末試験あるいは期末レポート（100 点満点）+ 小レポートなど（50 点満点）で採点する。小レポートは、毎回の授業の最後に課題して締切日時までに提出するという方法で行う。なお、小レポートの提出をもって出席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業内で指示する。

【その他の重要事項】

オフシアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。

実験実習：11 月中に東京近郊あるいは室内で行う。

オンライン授業の場合、実験実習はオンラインで行うことを予定する。

【Outline and objectives】

This class introduces basic thinking of soil geography. Objectives are to understand the following. (1) Soil basics. (2) Soil distribution and factors influencing the soil pattern. (3) Relationship between agricultural soils and crops.

GEO200BF

気候・気象学及び実験 I

山口 隆子

授業コード：A3422 | 曜日・時限：火曜 1 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と日本の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、日本の身近な気候を中心に学ぶことにより、気候学的な観点から大気現象をとらえることが出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートについては、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	気候学とは？	気候の定義と時空間スケール（大気候・中気候・小気候）
第 2 回	気候の表現方法	気候要素と気候因子について
第 3 回	気温	気温の日変化と地面の熱収支
第 4 回	気圧	気圧とは何か
第 5 回	風	風が吹く仕組み
第 6 回	雲と降水	雨が降る仕組み
第 7 回	日本の気候の特徴	4 つの気団と気圧配置（総観気候学）、 気温、降水量、日照時間分布
第 8 回	日本の気候区分と気候誌	経験的気候区分と成因的気候区分
第 9 回	沿岸の気候	沿岸と内陸、海陸風
第 10 回	都市気候	ヒートアイランド現象
第 11 回	盆地の気候	盆地の気温と風
第 12 回	山岳の気候	山岳の気温と斜面温暖帯
第 13 回	局地風と気候景観	気象災害を引き起こす強風とフェーン現象
第 14 回	まとめ	春学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』。ベレ出版，261p。
仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第 4 版』。古今書院，144p。
森朗（2017）：『異常気象はなぜ増えたのか』。祥伝社，200p。
マーク＝マスソン（森島清監訳）（2016）：『気候』。丸善，198p。
古川武彦・大木勇人（2011）：『図解気象学入門』。講談社，301p。
小倉義光（2016）：『一般気象学 第 2 版補訂版』。東京大学出版会，320p。
水野一晴（2018）：『世界がわかる地理学入門』。筑摩書房，318p。
富田啓介（2017）：『はじめて地理学』。ベレ出版，284p。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・筆記試験：70 %、課題：30 %

【学生の意見等からの気づき】

講義資料は学習支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を学習支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を 2 年次で履修することが望ましい。なお、本科目「II」の受講にはその内容理解の点から、この「I」の履修を望む。さらに、本講義の受講生には予め 1 年次に「地学実験」を履修していることが望ましい。なお、実験等があるため履修上限人数は 48 名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of Japan to students taking this course.

GEO200BF

気候・気象学及び実験Ⅱ

山口 隆子

授業コード：A3423 | 曜日・時限：火曜 1 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【Outline and objectives】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of the world to students taking this course.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と世界の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、大気大循環をはじめとした世界の気候を中心に学ぶことにより、地球温暖化などの今日的課題を理解出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートは、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	気候を身近にとらえる（導入）	本授業全体の概要。気候に関する博物館、科学館。
第 2 回	大気大循環	大気大循環とは何か
第 3 回	世界の気圧分布、地上風系、海流	気圧分布、季節風、風成循環、熱塩循環
第 4 回	世界の気温分布	地球の放射収支から考える
第 5 回	世界の降水量分布	世界の水収支
第 6 回	世界の気候区分	様々な気候区分
第 7 回	世界の気候景観	気候帯ごとの気候景観
第 8 回	異常気象	エルニーニョとラニーニャを事例として
第 9 回	地球温暖化（1）	地球温暖化の現状と今後
第 10 回	地球温暖化（2）	地球温暖化による影響
第 11 回	酸性雨	大気汚染
第 12 回	砂漠化	砂漠化の実態
第 13 回	気候変動・古気候	第四紀の気候変化と歴史時代以降の気候変化
第 14 回	気候学を学び続ける 秋学期のまとめ（筆記試験）	どのように研究へと発展させていくか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』。ベレ出版，261p。
 仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第 4 版』。古今書院，144p。
 森朗（2017）：『異常気象はなぜ増えたのか』。祥伝社，200p。
 マーク＝マスソン（森島清監訳）（2016）：『気候』。丸善，198p。
 古川武彦・大木勇人（2011）：『図解気象学入門』。講談社，301p。
 小倉義光（2016）：『一般気象学 第 2 版補訂版』。東京大学出版会，320p。
 水野一晴（2018）：『世界がわかる地理学入門』。筑摩書房，318p。
 富田啓介（2017）：『はじめての地理学』。ベレ出版，284p。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・筆記試験：70 %、課題：30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を授業支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を 2 年次で履修することが望ましい。本科目「Ⅰ」を履修していることが望ましい。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験Ⅰ

小寺 浩二

授業コード：A3424 | 曜日・時限：木曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な基礎知識の習得を目指す。地域・課題としては、国内外の広範囲を対象とし、具体的な水問題に関する幅広い知識を習得する。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の基礎知識を身につけると同時に、水環境情報の検索・整理・解析の基礎能力を修得する。

また、具体的な地域の水のサンプリングから分析まで行い、その結果を空間解析した上で主題図として表現する方法まで学び、具体的な水環境問題に取り組む基本的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎水文学としての水収支・水循環の視点から、水の性質がその場所の環境とどのように反応しその場所に則した存在となるか、といった広範囲な水の性格を取り上げる。また、水文地理学的視点に立った水環境情報の整理・解析・表現法についても指導する。

毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。

また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋・陸水学の基礎	概要と授業計画 降水・浸透・流出・蒸発散の地域特性
第 2 回	河川の基礎	河川の水環境と調査法 水害・土砂災害と砂防・水資源の利用
第 3 回	湖沼の基礎	湖沼特性と集水域環境 湖沼の水収支・熱収支
第 4 回	地下水の基礎	水循環と地下水 地下水流動
第 5 回	雪氷の基礎	降雪・積雪・融雪現象
第 6 回	海洋の基礎	沿岸域・閉鎖性水域
第 7 回	研究・調査計画	具体的課題決定と準備
第 8 回	調査法の基礎と準備	現地調査準備
第 9 回	調査結果の整理と解析	調査記録簿・台帳・分布図
第 10 回	水質分析①	濾過・アルカリ度・COD
第 11 回	水質分析②	シリカ・主要溶存成分・TOC
第 12 回	分析結果の整理と解析	ヘキサ・トリリニアダイアグラム
第 13 回	様々な水質表現法	分布図の作成と解釈 土地利用変化と流出変化
第 14 回	調査結果の考察	GIS を用いた解析と考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺浩二（2019）：『自然地理学（海洋・陸水）』、法政大学通信教育部

【参考書】

・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏－海洋と陸水』、東海大学出版会、211p、¥2,625。
・新井 正（1994）：『水環境調査の基礎』、古今書院、168p、¥2,625。
その他 授業ごとに適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席・課題・試験の結果を総合して評価する。配点は、出席 3 割・課題 4 割・試験 3 割を原則とするが、授業中に実施する実験レポートや小テストを評価に加え、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

実験や実習に関する要望が多かったため、今年度は、適宜組み入れるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。あわせて海洋陸水学および実験Ⅱ・自然地理学演習（2）・地学実験・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline and objectives】

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical basic knowledge about the ocean and inland water science" which is the important one field. I make domestic and abroad wide range the subject and acquire wide knowledge about a water problem in detail as an area problem.

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験Ⅱ

小寺 浩二

授業コード：A3425 | 曜日・時限：木曜 4 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な知識の習得と応用能力の育成を目指す。講義の対象としては、国内外の具体的な課題を中心とする。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の研究課題の基礎的知識の習得と、具体的な課題に取り組む上での応用能力を身につける。

特に、①様々な水環境問題に関するレビュー、②具体的な資料の収集、③調査・研究法、④調査結果・収集データの整理、⑤各種データの解析、⑥結果の GIS を用いた表現などについて具体的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本分野における学習を深め、岩圏・水圏・気圏・生物圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水循環の過程における河川・湖沼などのあり方を、人間活動との関連を中心に、水収支・水循環の理論と応用から解釈する方法について紹介し、具体的な課題に取り組みながら考察を深める。

毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。

また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋・陸水学の理論と応用	海洋・陸水学の基礎を踏まえて高度な理論と応用を理解する。
第 2 回	陸水学の理論と応用	陸水学全般の理論と応用を理解する
第 3 回	河川学の理論と応用	流域特性と流域 GIS 物質収支モデル
第 4 回	湖沼学の理論と応用	湖沼の分類・熱収支・集水域の物質収支
第 5 回	地下水学の理論と応用	水循環と地下水の挙動
第 6 回	雪氷学の理論と応用	降雪・積雪・融雪
第 7 回	海洋学の理論と応用	沿岸海域・閉鎖性水域
第 8 回	研究・調査計画	先行研究と地域特性
第 9 回	現地調査法	観測機材の補正・準備
第 10 回	現地調査結果整理解析	記録簿・台帳
第 11 回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度・EC・pH
第 12 回	水質分析②	メンブラン濾過・シリカ・TOC・全窒素・全磷
第 13 回	水質分析結果整理解析	シュティフダイアグラム・トリリニアダイアグラム
第 14 回	総合的な解析・考察	GIS による分布図と解析・考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺浩二 (2019):『自然地理学（海洋・陸水）』, 法政大学通信教育部

【参考書】

・地学団体研究会編 (1995): 新版地学教育講座⑩『地球の水圏—海洋と陸水』, 東海大学出版会, 211p, ¥2,625
・新井 正 (1994):『水環境調査の基辞』, 古今書院, 168p, ¥2,625.
授業ごとに、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の実験・課題・試験を総合して評価する。配点は、実験 3 割、課題 4 割、試験 3 割を原則とするが、各授業に関する実験レポートや小テストを行ない、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

国内の事例だけでなく、国外についての要望もあったため、今年度は、国内・国外の具体的な調査・研究事例を扱う。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。海洋陸水学および実験Ⅰの履修を前提とし、あわせて自然地理学演習 (2)・地学実験・地理情報システム (GIS) などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline and objectives】

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical knowledge and upbringing of the application ability about the ocean and inland water science" which is the important one field. The content of the lecture will focus on specific domestic and international issues..

HUG200BF

社会経済地理学（1）

小原 文明

授業コード：A3426 | 曜日・時限：金曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は社会経済地理学の基礎的科目として開講するものです。本年度は都市における様々な問題を題材にして、都市の構造や変化、社会的側面などの諸相を考えていきます。具体的には、発生場所や時代、内容などの観点から多岐にわたる都市問題を分類し、その背景や要因を社会的・空間的観点から考えていきます。

【到達目標】

本講義を通じて、地理学の立場から都市に関わる基本的な概念を理解できるようになります。また、都市問題を考えることを通じて、都市に関わる様々な事象の関係性や因果関係を、地理的（＝空間的）な観点から捉える力を身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。前述の通り、都市における様々な問題を題材にして、都市の構造や変化、社会的側面などの諸相を考えていきます。講義形式の授業であるため、担当者による話題提供が中心となりますが、講義内容に対して受講生自らの考えを表明することが大切であることから、授業中ならびに授業外でレポート課題を課すことがあります。授業外のレポート課題では、受講生自身が調べ、分析・考察することが求められます。

なお、課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

今年度、本授業では基本的に対面形式の授業を行います。場合によっては、オンライン形式の授業になる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／都市の概念・成り立ち①	講義の方針・内容について／都市の概念・定義
第 2 回	都市の概念・成り立ち②	集落の成立
第 3 回	都市の概念・成り立ち③	都市の構造
第 4 回	都市問題①	都市問題の種類、発生場所
第 5 回	都市問題②	途上国の都市問題①
第 6 回	都市問題③	途上国の都市問題②
第 7 回	都市問題④	都心部の都市問題①
第 8 回	都市問題⑤	都心部の都市問題②
第 9 回	都市問題⑥	インナーシティの都市問題①
第 10 回	都市問題⑦	インナーシティの都市問題②
第 11 回	都市問題⑧	都市縁辺部の都市問題①
第 12 回	都市問題⑨	都市縁辺部の都市問題②
第 13 回	都市問題⑩	都市問題の時代的変遷
第 14 回	総括	まとめ・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示するレポート課題（授業内課題・授業外課題）に取り組んでもらいます。授業外のレポート課題では、実際に調査を行ってもらい、その上で分析・考察することを求めます。また、講義中に紹介する参考文献を積極的に読むことを期待します。なお、本授業の授業外学習（レポート課題・準備・予習・復習）は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】

本講義に関連する参考文献は講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート課題・授業外課題等）：30 %、筆記試験（持ち込み不可）：70 %。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容は、できるかぎり各回で完結するよう心掛けますが、受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces the urban structures and the urban problems to students taking this course.

The goals of this course are to understand causes and influences of urban problems and the basic geographical concepts, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

HUG200BF

社会経済地理学（2）**伊藤 達也**

授業コード：A3427 | 曜日・時限：火曜 2 限

春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業ではわが国の水問題を中心に全般的に学ぶとともに、自ら「身近な環境問題」を事例にレポートを作成することによって環境問題の現実の理解を目指します。

【到達目標】

授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。自らが作成するレポートからは、環境問題の現実を知り、より具体的に理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、DVD、PPT 等を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	講義概要と目的の紹介
第 2 回	環境問題を考える視角	環境とは何か、環境問題とは何かについて説明します
第 3 回	環境の中の水資源	水資源の特徴について説明します
第 4 回	水資源利用の歴史	水資源利用の歴史について説明します
第 5 回	ダム・河口堰計画の特徴と環境コスト	ダム・河口堰による水資源開発の方法と環境コストについて説明します
第 6 回	環境問題を考える視角	日本の環境問題を考える視角について長良川河口堰問題を中心に説明します
第 7 回	全国のダム・河口堰反対運動	ダム・河口堰反対運動について説明します
第 8 回	ダムと山村	ダムが山村に与えた影響について説明します
第 9 回	利根川の水問題	利根川の水利用の現況と問題点について説明します
第 10 回	脱ダムの地域再生	熊本県五木村の地域再生について説明します
第 11 回	長良川河口堰開門検討委員会	長良川河口堰開門検討委員会の活動について説明します
第 12 回	農業用水と地域社会	わが国における農業用水の特徴と地域社会について説明します
第 13 回	カッパと水辺環境保全・地域振興	地域社会に占めるカッパ等妖怪の果たす役割について説明します
第 14 回	水環境を取り込んだ生活再編成	授業をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。そこからレポートのテーマを探してください。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。レポート作成に 2 時間をあててください。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

参考書は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、レポート 30 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントの使用を基本とします。

【Outline and objectives】

The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in general, and aim to understand the reality of environmental problems by creating report on real environmental problem as examples.

HUG200BF

社会経済地理学（3）

片岡 義晴

授業コード：A3428 | 曜日・時限：木曜 3 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「山村」を対象にして、その問題点を多面的に学びます。

【到達目標】

山村の特色、山村政策・対策、集落の現在、山村の産業、地域づくりなど、日本の「山村」が抱える問題点に関する客観的な理解度が深化し、それを通して日本社会の構造（＝仕組み）の一端が理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

かつて「過疎化」が進む代表的な場所として「山村」はとらえられてきました。一時期、過疎化は緩和されたと思われましたが、近年再び過疎化は進み、「限界集落」という用語も使われ、それに加えて「地方消滅」の議論すら登場するようになりました。過疎化の進展と近年の動向、産業（林業、農業）の動向、集落の機能と役割、地域づくりの展開等を検討することを通して、現代山村が抱える問題点について明らかにしていきます。「限界集落」「地方消滅」等の流行の用語についても検討を加えます。

【課題等に対するフィードバック方法】

授業の初めに、前回までの授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかり取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の山村の現局面 (1)	「山村」の概念と山村問題の地域性
第 2 回	日本の山村の現局面 (2)	山村問題の構造（都市資本・政策、山村内部の関連性）
第 3 回	過疎化の進展と山村振興策 (1)	過疎化の進展過程
第 4 回	日本の山村の現局面 (3)	山村問題の構造（都市資本、政策、山村内部）
第 5 回	過疎化の進展と山村振興策 (2)	山村振興法、過疎法
第 6 回	限界集落・消滅集落 (1)	限界集落のとらえ方、集落の機能
第 7 回	限界集落・消滅集落 (2)	山村の「空洞化」と「限界集落」論の問題点
第 8 回	「平成の大合併」と山村	大合併の要因と山村の危機
第 9 回	山村の産業 (1)	日本林業の動向
第 10 回	山村の産業 (2)	環境問題への注目と林業振興策
第 11 回	山村の産業 (3)	中山間地域農業の現状
第 12 回	山村の産業 (4)	中山間地域等直接支払制度
第 13 回	地域づくり (1)	山村堰堤論（静岡県龍山村森林組合の事例）
第 14 回	地域づくり (2)	自分たちで命を守ろうとした村（岩手県旧沢内村の事例）
第 15 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「地方」に関する報道に注視して下さい。「地方」に関するニュースは、東京近郊に居住していると、新聞ではその「片隅」にしか見いだせません。また、報道されても極めて「牧歌的」に語られるか、あるいは危機窮まっているかのような極端なものが多いのも事実です。それらの真偽のほどは如何に、と考えながら情報収集して下さい。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。プリントを配布します。

【参考書】

小田切徳美（2009）『農山村再生－「限界集落」問題を越えて－』岩波書店（岩波ブックレット）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 100 % で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「山村問題」の解決策を提示することを、この授業ではめざしません。授業に対して「批判ばかりしている」という評価もしばしば受けます。しかし「客観的事実」を把握し、そのメカニズムを考えることから出発しない限り、真の意味での「解決策」にはなり得ないはずです。「安易」な解決策こそが、百害あって一利なしの、問題をより一層複雑化させている要因です。授業で「解決策」を示せるくらいなら、少なくとも日本からは、地域・社会問題など一掃されているはずです。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

Rural Problems in Japan.

GEO200BF

世界地誌（1）

狩野 真規

授業コード：A3443 | 曜日・時限：月曜 5 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この地域の成り立ちや日本との関係性ならびに近年の状況を踏まえつつ、オセアニアの地域的特徴について注目していく。それらを通じて、オセアニア地域の概観や地域の特徴について理解する内容とする。

【到達目標】

オセアニア地域における地理的特色を理解するとともに、分布図の見方やその説明のための表現方法などの獲得を目指す。具体的な到達目標としては、オセアニア地誌についてそれらを説明するのに必要なキーワードを交えた説明ができることや、対象地域に関する分布図やグラフから特徴を見出し、その説明ができることなどを目安とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

シラバス執筆段階では、教室での対面で講義を実施する予定である。基本的には講義冒頭で予習課題に即した小テストを実施し、その内容に関連した話題を配布資料（講義冒頭での配布のみで、Hoppii 等での配布はしない）を使いつつ講義形式で進めることとなる。講義の中では小テストの解答なども確認していくので、得点状況は講義内容から個々に判断できる形となる。場合によっては次回に全体に向けてその内容に関するフィードバックもする。講義終盤で回次のための予習課題を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オセアニアの概要	オセアニア地域の範囲を確認しつつ、その概要を紹介する。
第 2 回	オセアニアの歴史	人類の進出とその歴史からオセアニア地域の形成を考える。
第 3 回	オーストラリアの自然環境	オーストラリア大陸の自然環境とその成り立ちについて考える。
第 4 回	オーストラリアの農業・その 1	オーストラリアの農業、特に小麦生産について注目していく。
第 5 回	オーストラリアの農業・その 2	オーストラリアの農業、特に牛肉などについて注目していく。
第 6 回	オーストラリアの農業・その 3 + 鉱物資源	オーストラリアのコメ生産と鉱物資源の事態に迫る。
第 7 回	オーストラリアの工業	自動車産業を中心にその実態を考えていく。
第 8 回	ニュージーランドの自然環境・その 1	ニュージーランドの自然とその成り立ちについて考える。
第 9 回	ニュージーランドの自然環境・その 2	日本と比較しながらその自然環境を考える。
第 10 回	ニュージーランドの産業	ニュージーランドの農業などを見つめていく。
第 11 回	ニュージーランドの水河	かかる地域における水河の動きとその要因についてみていく。
第 12 回	洋上国家の成り立ち・その 1	小さな島における歴史からその成り立ちについて考える。
第 13 回	洋上国家の成り立ち・その 2	小さな島における経済からその問題点を探る。
第 14 回	オセアニアとは？	これまでの内容に関して振り返りをしていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回のための予習課題を提示するので、それに取り組むことが必須となる。Web でデータを確認したりするだけではなく、できるだけ文献を手にとって確認するようなことが必要になるとイメージしてもらいたい。それから、オセアニア地域についてまとめられた文献などを日常的に手に取って読んでおくことが理想である。また、高校で地理を履修していなかった場合はできるだけ高等学校の地理 B の教科書を全体的に読んで、その内容を把握することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

現段階では特に指定はしない。

【参考書】

由井浜省吾編（1991）世界地誌ゼミナールⅧ 新訂 オセアニア 大明堂
や 菊地俊夫・小田宏信 編（2014）世界地誌シリーズ 7 東南アジア・オセアニア 朝倉書店 などがある。これらについては目を通しておくといいが、その他については適宜授業時に紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

各回に実施する課題（小テスト・50%）と期末に実施するテスト（50%）の合計で評価する予定である。特にテストについては、講義内容に即したものとし、重要キーワードを押さえた形での内容理解をしているか、図表などからの読み取りができるかがカギとなる。欠席については評価から減点するので、講義への出席は重要である。公欠については所定の手続きをしている場合には考慮するので、必要な手続きをしっかりと行うことを求める。

【学生の意見等からの気づき】

これまで、毎回冒頭に実施する小テストについては、やや難しいとの意見があった。一方で、緊張感を保つことが出来たという意見もあった。講義以外の学習時間の確保の意味でも毎回の小テスト実施に関する取り組みについては踏襲していきたいと考えている。また、講義内の資料については、講義出席者と自己都合欠席者を同じ扱いにすることについての疑問の声があることを受け、Hoppii などへの公開はしない予定である。

【学生が準備すべき機器他】

状況が変わった時に備えて、授業支援システム（Hoppii）を利用できるようにしておくこと。特にオンライン講義に切り替わった際には、インターネットへの常時接続ができることが必要である。大学からの支援などが利用できることもあるので、各自で環境整備に努めていただきたい。

【その他の重要事項】

毎回小テストに関連する課題を提示するので、欠席した場合は各自で対応するように。基本的には次回向け課題の提示は講義内に限定し、Hoppii などを通じての資料配布はしない。特に初回講義での詳細説明を聞いていない場合は、注意すること。また、情勢の変化によっては試験の実施ができない場合も起こり得るので、その際には代替措置に切り替える可能性もある。

【Outline and objectives】

This course deals with the geographical characteristics of the Oceania area.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Obtain basic knowledge about the regional geography of the Oceania area.
2. Understand the relationship between Japan and the Oceania area from the viewpoint of the geography.

GEO200BF

世界地誌（2）

南 春英

授業コード：A3444 | 曜日・時限：金曜 3 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、北米の地域性と全体像について、地誌学の視点と方法に基づいて授業を行います。日本と深い関係を持つ北米地域を自然環境・歴史・産業・社会などの様々な視点から考察し、北米の地域性を理解するとともに、地誌学的な考え方を理解することを目的とします。北米地域の中でもアメリカ合衆国を中心に進めます。

【到達目標】

本授業は地誌学を理解し、地誌学的な視点から地域を理解することを目指します。また、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布します。また、受講生には、授業後にペーパー（あるいは授業支援システム）を通して、感想・質問等のリアクションや課題の提出をお願いすることがあります。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	授業内容の説明
第 2 回	北アメリカの概略①	自然環境
第 3 回	北アメリカの概略②	人口分布／アメリカ合衆国・カナダ・メキシコの関係性
第 4 回	アメリカ合衆国の地誌①	農業地域の形成と食料生産
第 5 回	アメリカ合衆国の地誌②	工業の展開
第 6 回	アメリカ合衆国の地誌③	移民と多民族社会の発展
第 7 回	アメリカ合衆国の地誌④	生活文化と生活様式
第 8 回	カナダの地誌①	歴史・文化
第 9 回	カナダの地誌②	産業の展開
第 10 回	メキシコの地誌①	歴史・文化
第 11 回	メキシコの地誌②	産業の展開
第 12 回	アメリカ合衆国と世界①	世界に影響を与えるアメリカ合衆国
第 13 回	アメリカ合衆国と世界②	日本との関係性
第 14 回	まとめ	授業内試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、授業で扱う地域を地図帳などで確認し、基本的な位置関係や地名を確認しておくことを求めます。授業内外でレポート課題（授業外課題・小レポート課題等）に取り組んでもらいます。また、授業で紹介する参考文献については、自主的に読むことを求めます。

なお、本授業の授業外学習（レポート・準備・復習時間）は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。読んで欲しい書籍や文献は授業のなかで随時紹介するので、積極的に読んでください。

【参考書】

時事的な社会情勢の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱っていきたい。
飯野正子・竹中豊（2010）『現代カナダを知るための 57 章』明石書店。
オリヴィエ・ダベース、フレデリック・ルオーほか（2018）『地図で見るラテンアメリカハンドブック』原書房。
クリスティアン・モンテス、バスカル・ネデレク（2018）『地図で見るアメリカハンドブック』原書房。
小塩和人・岸上伸啓編（2006）『朝倉世界地理講座—大地と人間の物語— 13 アメリカ・カナダ』朝倉書店。
国本伊代編著（2019）『現代メキシコを知るための 70 章』明石書店。
ジェームス・M. バーダマン（2020）『地図で読むアメリカ』朝日新聞出版。
田辺 裕監修（1999）『図説大百科世界の地理 4 中部アメリカ』朝倉書店。
田辺 裕・竹内信夫監訳（2008）『アメリカ ベラン世界地理体系 17』朝倉書店。
帝国書院編集部（2019）『図説地理資料 世界の諸地域 NOW』帝国書院。
矢ヶ崎典隆（2010）『食と農のアメリカ地誌』東京学芸大学出版会。
矢ヶ崎典隆（2011）『アメリカ（世界地誌シリーズ 4）』朝倉書店。
矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題）： 40 %、期末試験（持ち込み不可）： 60 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

多くの資料・データを提示することで、受講者自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となることを心掛けます。

【Outline and objectives】

This course introduces North American geography to students taking this course. The goals of this course are to be able to understand the basic geographical concepts and points of view, to analyze the causes, processes, influences and interrelationships of various phenomena of the areas, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

GEO200BF

世界地誌（3）

小寺 浩二

授業コード：A3445 | 曜日・時限：火曜 4 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学において、系統地理学と並ぶ重要な「地誌学」の基礎を理解し、中でも世界地誌・広域地誌の対象地域としてのアジアの具体的な地誌を学び、様々な地域特性とその地誌としての記述方法について学習する。まず、世界の中のアジアを理解し、つぎに、アジアの個々の地域について概観する。

【到達目標】

わが国と地理的にもっとも近いアジアの自然と、そこに暮らす人々の生活を理解する。気候・地形・植生・水環境など様々な自然環境の特徴を中心とした「自然誌」の理解を前提に、文化・社会的な特徴についても理解し、地誌の記述方法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

アジア全体の概観から各諸地域、個別の国の地誌を講義する。古くからの資料を活用しながらも、最新の研究成果なども紹介し、古くて新しいアジアの現況を示す。

また、具体的なデータなどから、自ら理解する工夫なども行い、「地誌の記述」についての理解も深めるよう指導する。

毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。

また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要・ガイダンス	講義の概要と授業の進め方について説明。
第 2 回	アジア総論（1） 世界の中のアジア概観	アジアの特殊性についての概要。
第 3 回	アジア総論（2） 位置・地質・地形	アジアの地理的位置・地質構造・大地形。
第 4 回	アジア総論（3） 河川・湖沼・気候	アジアの代表的な河川・湖沼と気候の特徴。
第 5 回	アジア総論（4） 植生・地域区分	アジアの植生の特徴と、地域区分を理解。
第 6 回	東アジア（1） 中国と台湾	隣国である中国と台湾について。
第 7 回	東アジア（2） モンゴル・韓国・北朝鮮・極東ロシア	中国と台湾以外の東アジアについて。
第 8 回	東南アジア（1） インドシナ半島	インドシナ半島の自然環境と諸国について。
第 9 回	東南アジア（2） 東南アジアの島嶼国	東南アジアの島嶼国について。
第 10 回	南アジア（1） 南アジア全域・インド	南アジア全域とインドの概要。
第 11 回	南アジア（2） インド以外の南アジア	スリランカ・パキスタン・バングラディッシュ・ネパールなど。
第 12 回	中央アジア（1） 中央アジア全域・ウズベキスタン・カザフスタン	中央アジア全域とウズベキスタン・カザフスタンの概要。

第 13 回	中央アジア（2） その他の中央アジア	キルギスタン・タジキスタン・トルクメニスタンなど。
第 14 回	西アジアの概要	イラン・イラク・サウジアラビア・トルコなど。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段からアジア全域の動きに注目し、テレビのニュースや新聞の記事には、つねに問題意識を持つようにしてほしい。特に復習に力を注いで頂きたい。

毎回の講義に対して、予習・復習をそれぞれ 2 時間、小レポートに関しては 3 時間程度、最終レポートに関しては、数時間以上は時間を確保して取り組むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

多田文男（1972）：『世界地誌 I（アジア）』、法政大学通信教育部、291p。
古い教科書であるため、新しい情報は、講義の度にプリントなどで紹介する。

【参考書】

河野通博編（1991）：世界地誌ゼミナール I『新訂 東アジア』、大明堂、242p。

岩田慶治編（1972）：世界地誌ゼミナール II『南アジア』、大明堂、212p。など。

講義の度に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み・課題・試験による総合評価。取り組み 3 割、課題 3 割、試験 4 割を原則とするが、その他小テストなどを行う場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

なし（新規担当であるため）

ただし、資料や映像などをなるべく多く活用してわかりやすい講義とする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline and objectives】

Even during understanding an important basis of "topography science" as well as systematic geography in a geography, an Asian topography in detail as a target area of the world topography and a wide area topography is learned and it's learned about a description method as various regional characteristics and the topography. First Asia in the world is understood and it next is surveyed about each Asian area.

GEO200BF

世界地誌（4）

伊藤 達也

授業コード：A3446 | 曜日・時限：火曜 2 限

秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア諸国の社会・経済的特徴とその変化、それぞれの国・地域が抱える問題の把握を旨とします。中でも日本と強い関係を持つ韓国に焦点を当てて、その社会変容、経済変化について考えていきます。授業は講義形式です。また、テーマに関連した DVD、PPT 等視聴覚教材を使用することにより、テーマの理解を深めます。

【到達目標】

韓国についての全般的で適切な理解を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、DVD、PPT 等を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロ	授業内容の説明
2	アジアと韓国（1）	アジア諸国の地理について解説する
3	アジアと韓国（2）	アジア諸国の経済成長の内容とメカニズムについて説明する
4	韓国の地理	韓国の人口の推移、中心都市・地域について説明する
5	韓国と日本の関係（1）	日本と韓国の歴史的関係を明らかにする
6	韓国と日本の関係（2）	日本人の韓国イメージと韓国人の日本イメージを明らかにする
7	韓国の政治と地域主義（1）	中央政府と地方政府の関係、役割分担について明らかにする
8	韓国の政治と地域主義（2）	歴代の大統領の業績について明らかにする
9	経済発展と財閥（1）	韓国の国土計画と経済発展の推移について明らかにする
10	経済発展と財閥（2）	韓国の経済発展を牽引した財閥について説明する
11	一極集中の国土形成	韓国の国土構造について明らかにする
12	韓国の経済問題	韓国が現在抱えている経済問題について明らかにする
13	韓国の社会問題	韓国が現在抱える社会問題について明らかにする
14	韓国の環境問題	韓国が現在抱えている環境問題について明らかにする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

韓国の基本的な地理（都市、道、河川、山等）については、事前に学習しておいてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

古田博司（2018）『「統一朝鮮」は日本の災難』飛鳥新社
 浅羽祐樹（2015）『韓国化する日本、日本化する韓国』講談社
 百本和弘（2015）『韓国経済の基礎知識』日本貿易振興機構
 裴 海善（2014）『韓国経済がわかる 20 講』明石書店
 大西 裕（2014）『先進国・韓国の憂鬱』中公新書
 古田博司（2014）『醜いが、目をそらすな、隣国・韓国！』WAC
 辺 真一（2014）『大統領を殺す国 韓国』角川書店
 浅羽祐樹（2013）『したたかな韓国』NHK 出版新書
 内山清行（2013）『韓国 葛藤の先進国』日経プレミアシリーズ
 朴 正雄著／本田務・青木謙介訳（2004）『韓国経済を創った男鄭周永伝』日経 B P
 洪夏祥著／宮本尚寛訳（2003）『サムスン経営を築いた男李健熙伝』日本経済新聞社

【成績評価の方法と基準】

定期試験で 100 % 評価を行います。試験では講義内容の理解の程度を問います。

【学生の意見等からの気づき】

テンポの良い授業を目指します。

【Outline and objectives】

The main aim is to recognize the economical feature and the problem of the Asian countries. I focus on inside and social and financial change of Korea where has a strong relationship with Japan. I deepen understanding of a theme by using audiovisual materials, ex PPT.

GEO300BF

地理学読図演習（1）**羽佐田 紘大**授業コード：A3449 | 曜日・時限：木曜 5 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国土地理院の 1:25,000 地形図をはじめとした地形図から、地形や土地利用を含めた環境に関する情報を読み取る技術、地図作業を通じて習得する。

【到達目標】

地形図から地形や土地利用を含めた環境に関する情報を正確に読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式と実習形式（地図作業、現地踏査）の組み合わせで実施する。毎回、テーマに沿った資料を配布し、内容を説明した上で地図作業を行い、地形図からさまざまな情報を読み取るための基本的な技術の習得を目指す。次回の授業開始時に前回提出された課題に対する解説を行う。

※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。
第 2 回	1:25,000 地形図の基本	地形図のあらまし、地図記号・方位・縮尺などを確認する。
第 3 回	1:25,000 地形図における起伏の把握（1）	等高線、尾根・谷の読み取りを行う。
第 4 回	1:25,000 地形図における起伏の把握（2）	地形断面図を作成する。
第 5 回	ハザードマップの作成（1）	等高線の読み取りに基づいてハザードマップを作成する。
第 6 回	ハザードマップの作成（2）	作成したハザードマップを基に、防災・減災対策について考える。
第 7 回	1:25,000 地形図における水文環境の把握（1）	水系図を作成する。
第 8 回	1:25,000 地形図における水文環境の把握（2）	集水域マップを作成する。
第 9 回	1:25,000 地形図における土地利用の把握（1）	土地利用図を作成する。
第 10 回	1:25,000 地形図における土地利用の把握（2）	土地利用の変遷を把握する。
第 11 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）。
第 12 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）（前回の続き）。
第 13 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）（前回の続き）。
第 14 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）（前回の続き）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。授業時間内にできなかった課題は宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業内で適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、課題（50%）により評価する。原則 3 分の 2 以上の出席がない場合は評価対象としない。また、現地踏査に参加していない場合は、原則として評価対象としない（正当な理由により参加できない場合は、別途レポートを課すなどの対応を行うので相談すること）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（12 色以上）、定規を持参する。

※対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意する、PDF ファイルをプリントアウトできるか、プリントをスキャンできるかを確認する（自宅にプリンターやスキャナーがなくても、コンビニエンスストアやスーパーマーケットにはそれらに対応したコピー機が設置されている）など、オンライン形式でも受講できる環境を整えておく。

【その他の重要事項】

現地踏査（授業計画の※）は、土曜日または日曜日を利用して日帰りで実施する。第 1 回目に日程調整を行う。なお、現地踏査や実習が中心であるため履修上限人数は 48 名とし、初回授業で選抜する。

【Outline and objectives】

This course deals with the technique to read information on the environment including the topography and land use using the topographical map of the Geospatial Information Authority of Japan.

GEO300BF

地理学読図演習（2）**羽佐田 紘大**授業コード：A3450 | 曜日・時限：**木曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地形図や地質図などのさまざまな地図から環境に関する情報を読み取る技術を習得する。

【到達目標】

地形図や地質図などから環境に関する情報を正確に読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実習形式（地図作業、現地踏査）と演習形式（発表）の組み合わせで実施する。資料を配布し、内容を説明した上で地図作業を行い、地形図からさまざまな情報を読み取っていく。その後、読み取れた情報に関する発表を行ってもらう。課題に対してその都度フィードバックを行う。

※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。
第 2 回	地形図読図の基本	地形図読図に関する基本的事項を確認する。
第 3 回	地形図以外の地図の読図	地形図以外のさまざまな地図の基本的事項を確認する。
第 4 回	グループによる読図（1）	グループごとに読図に使用する地図を準備する。
第 5 回	グループによる読図（2）	グループごとに読図を行う。
第 6 回	グループによる読図（3）	読図結果の発表準備を行う。
第 7 回	グループによる読図結果の発表（1）	グループごとに読図結果を発表する。
第 8 回	グループによる読図結果の発表（2）	グループごとに読図結果を発表する（第 7 回で発表したグループ以外）。
第 9 回	グループによる読図結果の発表（3）	グループごとに読図結果を発表する（第 7、8 回で発表したグループ以外）。
第 10 回	グループによる読図結果の発表（4）	グループごとに読図結果を発表する（第 7～9 回で発表したグループ以外）。
第 11 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）。
第 12 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）（前回の続き）。
第 13 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）（前回の続き）。
第 14 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）（前回の続き）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。授業時間内にできなかった課題は宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業内で適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、課題（50%）により評価する。原則 3 分の 2 以上の出席がない場合は評価対象としない。また、現地踏査に参加していない場合は、原則として評価対象としない（正当な理由により参加できない場合は、別途レポートを課すなどの対応を行うので相談すること）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（12 色以上）、定規を持参する。

※対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意する、PDF ファイルをプリントアウトできるか、プリントをスキャンできるかを確認する（自宅にプリンターやスキャナーがなくても、コンビニエンスストアやスーパーマーケットにはそれらに対応したコピー機が設置されている）など、オンライン形式でも受講できる環境を整えておく。

【その他の重要事項】

現地踏査（授業計画の※）は、土曜日または日曜日を利用して日帰りで実施する。第 1 回目に日程調整を行う。なお、現地踏査や実習が中心であるため履修上限人数は 48 名とし、初回授業で選抜する。地理学読図演習（1）を履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course deals with the technique to read information on the environment using various maps.

GEO300BF

自然地理学特講（2）

飯泉 佳子

授業コード：A3452 | 曜日・時限：月曜 5 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

水循環の動態・水質変化と水循環について学ぶ。陸水学、水文学に関わる様々な現象や社会情勢などについて、国内外の具体的な事例を交えながら幅広い知識を修得する。

【到達目標】

水循環の過程における地表水のあり方を人間活動との関連に基づき理解し、地球上にさまざまな形で存在する水の量と循環について修得し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

PowerPoint やプリントを活用して講義を進める。試験、リアクションペーパー、課題などに対しては、授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	湖の成因と湖盆形態	世界と日本の湖、湖・沼の定義
第 2 回	湖の水収支	水位変動、浸透湖
第 3 回	湖水の流動と循環	湖流、静振
第 4 回	湖水中の光条件	湖水の色、透明度
第 5 回	湖の水温構造	水温成層、温帯湖・熱帯湖
第 6 回	試験 (1)	到達度の確認
	湖の水質組成	pH、炭酸、塩分
第 7 回	回答	試験内容の解説
	湖の生産と富栄養化	湖の遷移、栄養塩
第 8 回	湖沼と河川の流域水循環	流域の土地利用、水収支
第 9 回	河川の流況と降雨-流出過程	ハイドログラフ、直接流出、基底流出
第 10 回	河川の水系と水温・水質	ホートンの法則、河川の水温と水質変化
第 11 回	気候変動と水資源・水環境	温暖化 hiatus と水温変化
第 12 回	気候変動と自然災害	災害、防災・減災
第 13 回	試験 (2)	到達度の確認
第 14 回	回答とまとめ	試験内容の解説と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

森和紀・佐藤芳徳『図説 日本の湖』朝倉書店 2015 年 第 1 版
村上哲生・花里孝幸・吉岡崇仁・森和紀・小倉紀雄（監修）『川と湖を見る・知る・探る—陸水学入門—』地人書館 2011 年 第 1 版
上記に加え、授業の中で紹介する

【成績評価の方法と基準】

試験（70%）、平常点（30%）

平常点は、課題とリアクションペーパーにより評価します
総合的に判断し、60 点以上を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆、定規などを使用する。詳細は、授業の中で指示する。

【Outline and objectives】

Main targets of this class are water cycle, chemical and physical dynamics of surface water. Students who take this class study limnological and hydrological basics and recent specific cases.

GEO300BF

自然地理学特講（3）

山口 隆子

授業コード：A3453 | 曜日・時限：火曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候学・生気象学を研究していくうえで必要となる環境気候学を学びます。

【到達目標】

環境と気候のとらえかたを学び、気候学に関する研究テーマを設定できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストを読み、各章についてレジュメの作成・発表を行います。
提出されたレジュメに対して、コメントを付けて返却します。
対面での講義が実施できない場合、レジュメの提出になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講生との講義内容に関する意見交換
第 2 回	明治時代の気候と気象災害	明治時代の気候や気象災害の様子を、過去のデータから読み解く。
第 3 回	地球温暖化の実態とメカニズム	地球温暖化の実態とは
第 4 回	ヒートアイランドの性質	ヒートアイランドの実態とは
第 5 回	都市気候をめぐる話題	都市気候とは
第 6 回	気候変動の信頼性に関する問題	観測データの均質性、統計的な方法
第 7 回	夏の局地風と広域ヒートアイランド	海陸風と広域ヒートアイランド
第 8 回	猛暑の実態とその長期変化	猛暑とフェーン現象
第 9 回	気候変動と降水の変化	日本の大雨の特徴と降水の変化の実態
第 10 回	都市が降水に与える影響	都市と降水の関係
第 11 回	観測準備	都市気候に関する観測の準備
第 12 回	観測	観測実施
第 13 回	解析	観測データの解析
第 14 回	まとめ	都市気候の仕組みと実態に関するまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメ作成に際し、参考文献を読み、まとめることも含みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤部文昭 (2012)：『都市の気候変動と異常気象』朝倉書店,161p.

【参考書】

講義内でその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表：50 %、レジュメ作成：50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline and objectives】

Learn the environmental climatology that is necessary for studying climatology and biometeorology.

HUG300BF

人文地理学特講（1）

小田 宏信

授業コード：A3455 | 曜日・時限：火曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業立地論と産業集積論をベースにした経済地理学の主要な関心事について、基本的な考え方と研究事例を紹介します。これを通じて、地理の見方、考え方を培い、地理学の立場から現代の経済社会をみつめる一助とします。

【到達目標】

1. 経済地理学の視点から、地域の発展と変容のメカニズムを理解できる。
2. 産業立地論や産業集積論の基本を理解できる
3. 産業立地と経済発展の関わりについて理解できる。
4. 地理学の観点から現代社会を見つめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オーソドックスな講義形式の授業です。

学習支援システムを通じた小課題の提出をお願いする予定です。フィードバックは授業時に口頭で、もしくは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	産業立地論の基本概念 ——距離と広がり	産業活動にとっての距離と広がりについて考えます。 → テキスト：序章、第 1 章 1 節
第 2 回	産業立地論の古典 (1) ——チューネンの農業立地論	チューネン理論の意義について考えます。 → テキスト：第 1 章 2 節 (1)
第 3 回	産業立地論の古典 (2) ——ウェーバーの工業立地論	ウェーバーの工業立地論について輸送費指向論を中心に紹介します。 → テキスト：第 1 章 2 節 (2)
第 4 回	産業立地論の古典 (3) ——クリスタラーの中心地理論	中心地論の基本的な考え方を学びます。 → テキスト：第 1 章 2 節 (3)
第 5 回	集積と外部経済の理論	ウェーバー、マーシャルやヴァーノンの古典的理解を中心に、産業集積論の基本的な考え方を学びます。 → テキスト：第 1 章 3 節、第 10 章 1 節
第 6 回	グローバル化のなかでのローカリゼーション —— ICT およびコンテナ産業を中心に	グローバル化の中で、ローカルなものもつ役割について考えます。 → テキスト：第 5 章 2 節 (1)、第 7 章 2 節 (3)、第 10 章 2 節 (1)、第 13 章
第 7 回	工業分散と企業内地域間分業 ——前グローバル化期までの日本を事例に	工業立地の分散と企業内地域間分業について、事例を通じて考えます。 → テキスト：第 1 章 3 節 (2)、第 5 章 1 節
第 8 回	グローバル生産ネットワークの形成 ——対外直接投資と多国籍企業の事業展開	直接投資の理論を紹介するとともに、日本の自動車メーカーを事例に、海外展開の実際を紹介します。 → テキスト：第 5 章 2 節 3 節、第 11 章
第 9 回	グローバルな商品流動と商品連鎖	グローバルな商品連鎖が途上国の発展の道筋に与える影響を考えます。 → テキスト：第 6 章

第 10 回	新興国の工業化と大都市問題	東南アジアを事例に工業化のプロセスを追い、それに伴う諸問題を考えます。 → テキスト：第 11 章
第 11 回	国民経済の地域間不均衡と都市群システム	地域格差の形成のメカニズムについて考えます。 → テキスト：第 2 章 2 節および第 9 章 2 節
第 12 回	大都市の衰退と再生、そして世界都市化	大都市圏のダイナミズムと世界都市化に伴う諸問題を考えます。 → テキスト：第 8 章および第 9 章 1 節
第 13 回	大都市のものづくり産業	東京を中心に大都市におけるものづくり産業集積の現代的意義を考えます。 → テキスト：第 7 章 2 節 (4) および第 10 章
第 14 回	まとめ	全体を振り返り、到達度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを用いて毎回の予習・復習を着実に心がけてください。復習用の課題が出た場合には、それに取り組んで下さい。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020 年。

このテキストの、序章、第 1 章、第 2 章、第 5 章、第 6 章、第 7 章、第 8 章、第 9 章、第 10 章、第 11 章、第 13 章の部分を扱います。

【参考書】

経済地理学会編『キーワードで読む経済地理学』原書房、2018 年。

小田宏信『現代日本の機械工業集積』古今書院、2005 年。

竹内淳彦・小田宏信編『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社、2014 年。

貝沼恵美・小田宏信・森島済『変動するフィリピン』二宮書店、2009 年。

杉浦芳夫編『空間の経済地理』朝倉書店、2004 年。

青山裕子ほか（小田宏信ほか訳）『経済地理学キーコンセプト』古今書院、2014 年。

菊地俊夫・小田宏信編『東南アジア・オセアニア』朝倉書店、2014 年。

加賀美雅弘編『ヨーロッパ』朝倉書店、2019 年。

矢ヶ崎典隆ほか編『グローバリゼーション』朝倉書店、2018 年。

サクセニアン, A. (山形浩生・柏木亮二訳)『現代の二都物語』日経 BP、2009 年。

サクセニアン, A. (酒井泰介訳)『最新・経済地理学』日経 BP、2008 年。

フロリダ, R. (井口典夫訳)『クリエイティブ都市論』ダイヤモンド社、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

平常時の小課題（60 %）と最終の到達度確認テスト（40 %）より評価します。

【学生の意見等からの気づき】

最初の方は抽象的でイメージしにくい部分もあるかも知れませんが、徐々に具体的な話になってきますので、しばらくご辛抱ください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

配布プリントは毎回、A4 で 4 ページないし 8 ページ分をお渡しします。ファイリングする小冊子となりますので、整理を心がけてください。

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to economic and industrial geography. Topic areas include economic globalization, spatial distribution of industrial sectors, multinational corporations, regional economic development, and illegal economic activities.

HUG300BF

人文地理学特講（2）

片岡 義晴

授業コード：A3456 | 曜日・時限：木曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食料自給率、農業政策、農業各部門（稲作、畜産、施設園芸等）等に関する問題を通して、現代日本の農業の実態を知ることをめざします。

【到達目標】

農業は土壌条件や気候条件に規定されているという、一見「地理学的」な説明を脱却して、世界の政治・経済の仕組み、それに規定された日本の農業政策、日本の経済動向を踏まえて、日本農業の実態に迫っていきます。例えば日頃飲む牛乳のパッケージに記載されている内容は日本の酪農の実態を反映した「具体的」なものであり、そうした身近な具体例を通して日本農業の実態に迫っていきます。それらを通じて日本農業の本質が理解できるようにになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

土壌条件や気候条件による農業の地域性とかいう、一見「地理学的」説明であるかのごとき、悪しき農業地理学を廃して、世界の政治経済の仕組み、そしてそれに従属、いや「ただ乗り」しようとする日本農政、経済界の思惑に翻弄され続けている日本農業を概観したいと思います。

【課題等に対するフィードバック方法】

授業の初めに、前回までの授業で提出されたりアクションペーパーからいくつかり上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の農業と環境 (1)	日本の食料自給率
第 2 回	日本の農業と環境 (2)	フードマイレージ
第 3 回	日本の農業と環境 (3)	バーチャルウォーター
第 4 回	戦後日本の農業政策 (1)	第二次世界大戦前から戦後復興期、高度経済成長期
第 5 回	戦後日本の農業政策 (2)	農業基本法農政から総合農政
第 6 回	戦後日本の農業政策 (3)	GATT・WTO 体制下農政
第 7 回	北海道農業 (1)	北海道農業の地域性と加工原料農産物への特化
第 8 回	北海道農業 (2)	北海道畑作の展開
第 9 回	北海道農業 (3)	北海道酪農と日本の酪農政策
第 10 回	稲作の変容	減反政策の展開と廃止
第 11 回	畜産業の展開 (1)	輸入飼料と飼料コンビナート
第 12 回	畜産業の展開 (2)	畜産インテグレーション・プロイラー生産を事例にー
第 13 回	施設園芸の展開	花卉園芸の展開
第 14 回	卸売市場の展開と農産物流通	卸売市場法の変化と形骸化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ニュース、新聞等の報道において、どれだけ食料・農業・農村に関する話題が示されているか、注意を向けて下さい。そしてそれらはいったい「誰」の立場に立脚しているものなのか、それを意識して報道に注意を向けるようにして下さい。「消費者の立場」という「立場」も、決して一様ではないのです。様々な「立場」の「消費者」が存在し、どの「立場」の「消費者」に立脚した議論なのか、それを確認しようとして下さい。

なお本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

梶原・江尻（2006）『現代の食と農を結ぶ』大月書店を一応の参考文献としますが、その他にも多数あるため、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述式試験）によって成績評価します（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料が多すぎるとの指摘がありますが、必要なものは提示せざるを得ません。資料の基となる一次資料の意義、限界についてもお話しできればと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

Agricultural problems under Japanese government's policies on agriculture.

HUG300BF

人文地理学特講（3）

小原 丈明

授業コード：A3457 | 曜日・時限：金曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は社会経済地理学の基礎的な内容を踏まえた上で、特に商業・流通にかかわる社会的・経済的事象について空間的観点から考える授業です。

具体的には、商業施設の立地展開や流通構造の変化、現代の社会問題について、各事例の理解を踏まえた上で、立地論などの理論や制度に関して考えていきます。

【到達目標】

本授業を通じて、商業・流通に関わる知識を得るだけでなく、近年の経済地理学（商業地理学・流通地理学）の動向を理解することができるようになります。また、諸事象を空間的に考える思考方法を修得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、地理学において商業・流通がどのようにして教育・研究の対象となっているかを整理した上で、前半では、特色のある幾つかの商業施設の立地や形態、産業構造などについて空間的に考察します。

そして、後半では、流通構造の変化についての理解をはかるとともに、社会や都市との関係性に留意して商業・流通業の置かれている現状を考えます。

本講義では、授業で扱う事象について受講生自身が考え、意見を表明することを重視します。それゆえ、授業内外で小レポート等の課題を課すことになるので、積極的に取り組むことを期待します。

また、課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

なお、本授業は基本的に対面形式で行いますが、場合によっては、オンライン形式となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／社会経済の変化と商業・流通	講義の方針・内容・進め方について／基礎的概念の整理、時代的变化
第 2 回	チェーンストアの立地展開（1）	百貨店
第 3 回	チェーンストアの立地展開（2）	スーパーマーケット
第 4 回	チェーンストアの立地展開（3）	コンビニエンスストア
第 5 回	チェーンストアの立地展開（4）	その他専門店
第 6 回	前半のまとめ：商業施設の立地	商業施設からみる立地論
第 7 回	流通構造の変化（1）	物流ネットワークの変化
第 8 回	流通構造の変化（2）	チェーンストアの流通構造
第 9 回	流通構造の変化（3）	第 1 次産業と流通
第 10 回	流通構造の変化（4）	第 2 次産業と流通
第 11 回	商業・流通をめぐる現代の諸問題（1）	中心市街地の空洞化
第 12 回	商業・流通をめぐる現代の諸問題（2）	買い物難民、フードデザート問題
第 13 回	商業・流通をめぐる現代の諸問題（3）	食の安全性
第 14 回	後半のまとめ：流通と社会	商業・流通からみる社会の変容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内外で課題を課します。授業外の課題では簡単な調査を行ってもらいます。また、授業の中で紹介した文献を積極的に読むことを期待します。なお、本授業の授業外学習（レポート課題・準備・予習・復習）は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、授業レジュメや資料はこちらで作成・準備し、配布します。

【参考書】

参考文献は講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小レポート課題等）：30 %、筆記試験（持ち込み不可）：70 %。授業内容を正しく理解した上で、論理的な思考の下での独創的な考えの表明、積極的な姿勢を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

できるかぎり各回で完結する講義内容となるように心掛けますが、受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。また、課題に対する受講生の成果をフィードバックすることを通じて、双方向的な授業になるよう心掛けます。

【Outline and objectives】

This course introduces social and economic phenomena, especially the location of various commercial facilities, the changes of distribution structure, and the social problems concerned with urban area to students taking this course. The goals of this course are to obtain the knowledge of commerce and distribution, to understand the trend of economic geography, and to acquire the way of geographical thinking.

HUG200BF

社会経済地理学（４）（エコツーリズム）

呉羽 正昭

授業コード：A3481 | 曜日・時限：月曜 5 限
 秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光地理学を理解するために必要な諸概念（観光・ツーリズムの概念や構造など）、さまざまな地域スケールでツーリズムに関する特徴について解説します。加えて、エコツーリズムやそれを包含する自然ツーリズムの時間的・地域的展開みられる諸特徴と問題点、将来の課題について、具体的な地域事例を示しながら解説します。

【到達目標】

この授業は、観光の概念および観光地理学の方法論を習得すること、自然環境と観光・ツーリズムとの関係について、新しいツーリズムの形態であるエコツーリズムについて、日本における自然ツーリズムの地域的特徴について理解することを目指す。ツーリズムやさらにそれを取り巻く生活・文化に関する地域的特色の理解を通じて、広い視野で現代社会を主体的に考察する視点を獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。理解を深めてもらうために、リアクションペーパーを活用します。準備学習のまとめに使用するとともに、講義内容に関する意見・質問も記入してもらい、不明点を次回以降の講義で説明することを通じて理解度を確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	観光の概念 —観光やツーリズムとは何か？	観光やツーリズムとは何かを解説します
第 2 回	観光・ツーリズムの構造 —観光・ツーリズムの要素と構造	観光・ツーリズムの要素や構造を解説します
第 3 回	観光地理学の概念 —概念および方法論	観光地理学の概念および方法論を解説します
第 4 回	観光地域の変容プロセス —モデルの解説	モデルに基づいて観光地域の変容プロセスを解説します
第 5 回	観光・ツーリズムの変遷 —古代～マスツーリズム時代～新しいツーリズムの出現	ツーリズムの変遷について解説します
第 6 回	自然環境と観光・ツーリズム —自然環境と観光・ツーリズムとの関係とその変遷	自然環境と観光・ツーリズムとの関係について解説します
第 7 回	エコツーリズムの定義 —エコツーリズムとは何か？	エコツーリズムとは何かを解説します
第 8 回	エコツーリズムの発展 —エコツーリズムの発展プロセス	エコツーリズムの発展プロセスを解説します
第 9 回	エコツーリズムの特徴と展望 —西表島や屋久島などにおけるエコツーリズム	西表島や屋久島などの事例をもとにエコツーリズムの特徴や課題を解説します
第 10 回	ジオツーリズムの特徴と展望 —国内外の事例	エコツーリズムに類似する点の多いジオツーリズムに関して、国内外の事例をもとに解説します
第 11 回	日本の自然ツーリズム (1) —避暑の地域的展開	避暑の地域的展開に関して解説します
第 12 回	日本の自然ツーリズム (2) —湯治・温泉ツーリズムの地域的展開	湯治・温泉ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第 13 回	日本の自然ツーリズム (3) —リゾートの地域的展開	リゾートの地域的展開に関して解説します
第 14 回	日本のルール・ツーリズム —ルール・ツーリズムの地域的展開	ルール・ツーリズムの地域的展開に関して解説します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に教員から示された次回講義のトピックに関する課題について、授業外に既存文献やインターネットなどで自ら調べます。その内容は次回講義の最初にリアクションペーパーにまとめます。講義後、リアクションペーパー記載内容が講義説明の中でどのように位置づけられるのかなどを自己確認します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中の説明で使用する図表が印刷された資料を配布します。参考文献は講義の中でトピックに応じて随時紹介します。

【参考書】

岡本伸之編 2001『観光学入門』有斐閣。
 溝尾良隆編 2009『観光学の基礎』原書房。
 (財) 日本交通公社編 2004『観光読本第 2 版』東洋経済新報社。
 真板昭夫・石森秀三・海津ゆりえ編 2011『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社。
 ビアス, D. 著, 内藤嘉昭訳 2001『現代観光地理学』明石書店。
 江口信清・藤巻正己編 2011『観光研究レファレンスデータベース』ナカニシヤ出版。
 呉羽正昭 2017『スキースポーツの発展プロセス：日本とオーストリアの比較研究』二宮書店。
 矢ヶ崎典隆・山下清海・加賀美雅弘編 2018『グローバリゼーション 縮小する世界』朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

この講義の目標に達したかどうかを期末試験（全体の 60 %）で評価します。また、毎時間提出してもらうリアクションペーパーの記載内容を評価して平常点（同 40 %）とします。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライド進行の速さについて注意します。

【Outline and objectives】

Instructor will explain various concepts necessary for understanding geography of tourism (concepts and structures of tourism and sightseeing, etc.) and features related to tourism on various regional scales. In addition, the instructor will explain various features, problems and future challenges of ecotourism and nature-based tourism that encompasses it, while showing specific regional examples.

HUG200BF

文化地理学（1）

中俣 均

授業コード：A3482 | 曜日・時限：金曜 1 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（人文）地理学の本流である（と私は考える）文化地理学について、古典的・基本的な知識や概念、方法を、学説史の中に適切に位置付けながら、解説する。

【到達目標】

（人文）地理学の本流である文化地理学について、古典的・基本的な知識や概念、方法を学ぶこと、とくに C.O.Sauer および Berkeley School の文化地理学の内容を理解することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

20 世紀前半に隆盛をみた C.O.Sauer を学祖とするバークレイ学派の文化地理学を中心に講義し、併せて日本における文化地理学の発生やその伝統についても触れる。教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	近代地理学の発生	文化地理学成立の背景
第 3 回	C.Sauer の文化景観論	文化景観形成モデルについて
第 4 回	C.Sauer の地理学—文化伝播について	農耕起源論など
第 5 回	文化地理学の五つのテーマ	文化地理学研究の手順
第 6 回	Sauer と Berkeley 学派	文化生態学の成立
第 7 回	文化生態学のモノグラフ	奄美諸島における「サトウキビ栽培と住民生活
第 8 回	照葉樹林文化論	日本版の文化生態学
第 9 回	日本列島の文化史（1）	先史時代の景観形成プロセス
第 10 回	日本列島の文化史（2）	水田稲作農耕の進展
第 11 回	日本列島の文化史（3）	米を基軸にした社会の展開と景観
第 12 回	日本列島の文化史（4）	高度成長期以降の社会変化と景観
第 13 回	Sauer の文化概念の問題点	素朴実証主義への批判
第 14 回	沖縄八重山のマラリア問題について	千葉徳爾の文化生態学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】

◎中俣均編著（2011）：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥3980。
◎高橋伸夫編著（1995）：『文化地理学入門』（東洋書林）¥2575。
◎中川正/森正人/神田孝治（2006）：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）¥2520。
また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の結果（70 %）と平常点（30 %）を成績判定の材料とする。平常点とは、数回提出してもらう課題レポートの成績のことである。

【学生の意見等からの気づき】

1 限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情（数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況）についても理解してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of classic Cultural Geography.

HUG200BF

文化地理学（2）

中俣 均

授業コード：A3483 | 曜日・時限：金曜 1 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（人文）地理学の本流である（と私は考える）文化地理学について、古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野の最新の知識や概念、方法を解説する。したがって、春学期の文化地理学（1）と内容的に深い関連をもつので、文化地理学（1）の履修を前提として講義を進める。

【到達目標】

（人文）地理学の本流である文化地理学について、古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野での最新の知識や概念、方法を学ぶことが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の講義を踏まえながら、1980 年代から顕著になってきた新しい「景観」概念と、いわゆる Cultural Turn(文化論的転回)を経た「新しい文化地理学」について紹介し、同時にそれらの具体的研究成果の意味なども探ってみたい。教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	春学期の復習と補足
第 2 回	Berkeley 学派の文化概念とその批判	素朴実証主義への批判
第 3 回	景観概念の再考・拡張・変化	景観の客観性への懐疑
第 4 回	主観の地理学 (1)	E.Relph と Yi-Fu.Tuan
第 5 回	主観の地理学 (2)	人文主義地理学
第 6 回	風水論 (1)	景観創造の主観の解説
第 7 回	風水論 (2)	日本の古代宮都の立地原理
第 8 回	風水論 (3)	現代に生きる風水
第 9 回	場所イメージ論	共同主観の形成過程
第 10 回	文化概念の再考	構築主義へ
第 11 回	競われる空間の意味	空間の意味の争奪戦
第 12 回	伝統文化の創造	Invented Tradition という考え方について
第 13 回	景観のイデオロギー性	民族・ジェンダー
第 14 回	新しい文化地理学	社会理論への接近

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】

◎中俣均編著（2011）：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥3980。
◎高橋伸夫編著（1995）：『文化地理学入門』（東洋書林）¥2575。
◎中川正/森正人/神田孝治（2006）：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）¥2520。
また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の結果（70 %）と平常点（30 %）を成績判定の材料とする。平常点とは、数回提出してもらう課題レポートの成績のことである。

【学生の意見等からの気づき】

1 限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情（数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況）についても理解してほしい。

【その他の重要事項】

できるだけ文化地理学（1）を履修したうえで登録・履修してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of contemporary Cultural Geography.

HUG300BF

人文地理学特講（４）

伊藤 達也

授業コード：A3489 | 曜日・時限：金曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の内容は名古屋大都市圏の成立、発展、現状、問題点を、特に経済的側面から解説していきます。そしてトータルとしての名古屋大都市圏の形成論理、存立メカニズムの理解を目指します。

【到達目標】

本講義の内容は名古屋大都市圏の成立、発展、現状を適切に理解することになることです。そして、トータルとしての名古屋大都市圏の形成論理、存立メカニズムの理解を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、DVD 等を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。授業とは別に「地域地誌」レポートを作成してもらいます。1 月に 1 日エクスカッションを実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	国際化社会	国際化社会の中での社会変容について説明します
2	国民経済と国家	現代における国家の役割について説明します
3	地域経済の成立	地域経済の成立メカニズムについて説明します
4	地域経済の成長原理	地域経済の成長メカニズムについて説明します
5	名古屋の成立	17 世紀初頭、城下町名古屋の成立について説明します
6	近代名古屋の出発	明治期の名古屋について説明します
7	名古屋の経済成長前期	明治後半の名古屋の産業（軽工業）発展について説明します
8	名古屋の経済成長後期	大正から昭和初期の名古屋の産業（重工業）発展について説明します
9	名古屋の歴史（DVD）	名古屋の産業発展と都市発展について、DVD で学習します
10	名古屋大都市圏の成立	戦後の経済発展の中での名古屋大都市圏の成立について説明します
11	東京一極集中の中の名古屋	名古屋大都市圏の現状について説明します
12	名古屋の社会地域構造	名古屋大都市圏の社会地域構造について説明します
13	名古屋の課題	現在の名古屋大都市圏の特徴と課題について説明します
14	1 日エクスカッション	東京を巡ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の一環で、レポートを作成します。テーマは授業中に説明しますが、「○○地域の地誌」の予定です。本授業の準備。復習時間に各 1 時間をあて、レポート作成に 2 時間をあてます。

【テキスト（教科書）】

使用しません。関連資料は授業中に配布します。

【参考書】

名古屋大都市圏研究会編（2011）『新版 図説名古屋圏』古今書院
佐藤正明（2005）『ザ・ハウス・オブ・トヨター自動車王豊田一族の百五十年ー』文芸春秋
砂川幸雄（1998）『森村市左衛門の無欲の生涯』草思社
城山三郎（1994）『創意に生きるー中京財界史ー』文春文庫
中田 実・谷口 茂編（1990）『名古屋ー第二の世紀への出発ー』東進堂
楳西光速（1962）『豊田佐吉』吉川弘文館

【成績評価の方法と基準】

成績は期末試験（70 %）とレポート（30 %）で行い、両者の合計が 100 % です。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生のコメントに耳を傾けた授業を行いたいと思います。

【Outline and objectives】

The content of this lecture is to properly understand the establishment, development, current situation, and problems of the Nagoya metropolitan area, especially from the economic aspect. And we aim to understand the formation logic and existence mechanism of the Nagoya metropolitan area as a whole.

GEO300BF

自然地理学特講（1）

羽佐田 紘大

授業コード：A3500 | 曜日・時限：火曜 3 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、自然地理学、特に地形学・堆積学分野の調査方法を修得していく。また、地形学での地理情報システム（GIS）の活用についても学んでいく。

【到達目標】

地形学・堆積学分野における地形や堆積物の観察・解析・分析方法を把握できる。

地形学にかかわる地理空間情報を GIS で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義および実習形式で進めていく。講義ではスライドを投影して説明していく。スライドに多くの図や写真を示すことで、視覚的に理解できるように努める。また、実習として、地形・地質の観察、堆積物の観察・分析、地質断面図作成、GIS を用いた地図作成等を行う。実習での成果をレポートとして提出してもらう。次の授業開始時に前回提出された課題に対する解説を行う。なお、実習形式を取り入れていることもあり、授業の進み具合に応じて授業計画を若干再調整する可能性もある。その際はその都度学習支援システムでお知らせする。

※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／日本の沖積低地	授業の概要、計画、評価方法等を説明する。日本における沖積低地の分布を解説する。
第 2 回	沖積低地での調査	沖積低地での地形学・堆積学的な調査について述べる。
第 3 回	沖積低地と沖積層（1）	沖積低地の地形について説明する。
第 4 回	沖積低地と沖積層（2）	沖積層の層序区分について説明する。
第 5 回	堆積相と堆積システム	堆積相と堆積システムについて解説する。
第 6 回	沖積低地と土砂供給	過去数千年間の土砂供給量の変化について説明する。
第 7 回	堆積物の観察・記載	実際に堆積物を観察し、読み取れる情報を記載する。
第 8 回	堆積物の分析	堆積物の目視での観察結果と泥分含有率の測定結果を比較する。
第 9 回	地質図（1）	地質図、地質断面図について説明する。
第 10 回	地質図（2）	地層境界線の描き方を解説する。
第 11 回	地理情報システムの活用（1）	取得したデータを GIS 上に取り込む。
第 12 回	地理情報システムの活用（2）	得られたデータを基に地図を作成する。

第 13 回	ボーリング柱状図と地下構造の復元	ボーリング柱状図に基づく地下構造の復原について解説する。
第 14 回	野外実習：地形・地質の観察・記録	実際に地形や地質を観察し、フィールドノートに記録する。野外での実施が困難な場合には、バーチャルで行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの授業内容を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（70 %）および平常点（30 %）により評価する。原則 1 / 3 以上の欠席者は評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

実物（地形や堆積物）に触れられる機会を増やすことを心掛けます。また、学生の受講環境に応じて、柔軟に対応できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

GIS アプリケーションを使用するため、各自 PC を所有していることが望ましい。各自の PC に QGIS 3.10 (<https://qgis.org/ja/site/forusers/download.html>) をインストールしてもらう予定である。

【その他の重要事項】

10 月か 11 月の土曜日もしくは日曜日に野外実習（関東圏の日帰り巡検）を実施する予定であるため、そのように心構えをしてほしい。第 1 回の授業で日程調整を行う。

【Outline and objectives】

This course introduces geomorphological and sedimentological survey methods and use of geographic information system (GIS) in fluvial-coastal plains.

GEO300BF

地理学史

中俣 均

授業コード：A3513 | 曜日・時限：金曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学という「思想」の発生と展開、およびその背景を、過去の時代の文脈に即して理解し、現在の、そして将来の地理学のありかたを模索するのが、地理学史を学ぶ意味であろう。本科目では、A.Humboldt 以降の近代地理学の歩みを概観し、現代の地理学の存立基盤について講義する。半期授業なので、網羅的というよりはトピカルにエピソードを取り上げていくが、それら個々のことがらにこだわるよりも、おおまかな「思想」の流れを理解することが大切である。

【到達目標】

近代地理学の歩みについて、おおよそのイメージを持てるようになるとともに、受講者各自の地理学的な関心のあり方が、そうした文脈の中のどこいったところに位置付けられるものかを自覚できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

近代地理学におけるパラダイム転換に寄与したと考えられるいくつかの人物や業績について、適宜具体的に挙げてその意味を考える。初めに、世界の地理学の歩みについて概観したあと、日本の、とくにアカデミズムの地理学の歴史を、いくつかの「論争」を題材にしながら講義する。なお、主題はもっぱら、人文地理学分野を中心としたものになろう。教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	Darwin と進化主義思想の浸透	サンゴ礁の多様性
第 3 回	自然環境決定論	ハンチントン気候決定論の問題点
第 4 回	景観概念の成立	関係から景観へ
第 5 回	Hartshorn の地理学方法論	地誌こそ地理学
第 6 回	Shaefer の「例外主義」批判	理論・計量地理学へ
第 7 回	Harris の都市の機能分類	計量地理学の盛衰
第 8 回	Relf の近代主義批判	没場所性
第 9 回	Tuan の Humanism	トポフィリア
第 10 回	空間論的転回	20 世紀末の地理学の革新
第 11 回	帝国大学の地理学	日本のアカデミズムの地理学
第 12 回	和辻哲郎と「風土」	「風土」概念の問題点について
第 13 回	砺波散村成立論争	日本の人文地理学の黎明
第 14 回	総まとめと整理	世界地理学の地理学と日本の

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の内容を、かならず振り返ってノートを整理しておくこと。また、できるなら各回のテーマに関連する原著論文を部分的にでもよいから読んでみようとする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しない。

【参考書】

- ◎杉浦芳夫 (1999)：『地理学の歴史 歴史の地理学』、『AERA MOOK 地理学がわかる』（朝日新聞社）
- ◎手塚章 (1988)：『地理学の伝統と革新』、中村和郎・高橋伸夫編『地理学講座 1 地理学への招待』（古今書院）
- ◎岡田俊裕 (2002)：『地理学史 人物と論争』（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

原則として学期末の筆記試験（持ち込み自由）の結果により成績を評価する（100%）。なお、継続的に授業に出席しなければ単位取得は覚束ないと心得てほしい。

【学生の意見等からの気づき】

普段の授業ではあまり登場しない地理学者や地理学概念が頻出するであろうから、そういったトピックを受講者自身の興味関心にできるだけ引きつけて理解できるように心がけてほしい。

【Outline and objectives】

This course deals with the brief history of Human Geography.

PSY100BG

心理学概論／心理学 1（心理学概論） 1

福田 由紀

授業コード：A3601,A2254 | 曜日・時限：火曜 4 限

春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の諸領域の基本的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることが本授業の目的です。それにより、日常生活において心理学的な見方が身につくでしょう。また、法政心理で学べる心理学分野の概略が理解できます。さらに、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①心理学の基礎知識が身につく。
- ②心理学的な見方ができる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。また、Hoppii を通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

また、COVID-19 感染症蔓延状況に応じて、オンデマンド授業を中心に行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、心理学的な見方	授業の進め方の説明、心理学的な見方とは
第 2 回	感覚・知覚	知覚の特性、視覚システムの特徴
第 3 回	行動の形成	遺伝－環境論争、人間の行動の特徴
第 4 回	学習理論とその応用	古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習
第 5 回	記憶とその変容	ワーキングメモリ、記憶の変容
第 6 回	読むことと書くこと	文章の理解と産出
第 7 回	思考	問題解決、人の思考のクセ
第 8 回	自他のこころの理解	自己意識の発達、心の理論
第 9 回	動機づけ	動機づけの機能と種類、ストレス
第 10 回	認知発達	ピアジェ・ヴィゴツキー・情報処理論的な考え方
第 11 回	集団の中の個人	集団の圧力、研究の倫理的な問題
第 12 回	帰属過程	帰属理論、帰属のバイアス
第 13 回	性格	性格の記述の考え方、性格測定法
第 14 回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

*次週の授業内容にあわせて、短い宿題が出ます。授業前に Hoppii から提出して下さい。

- 第 1 回 錯視を体験する。
- 第 2 回 ヒトの行動の形成に影響する要因を考え、書く。
- 第 3 回 自動的に行っている日々の行動を省察する。
- 第 4 回 自分の記憶術を振り返る。
- 第 5 回 行間を理解することを体験する。
- 第 6 回 覆面算と水がめ問題を体験する。
- 第 7 回 中間テストの準備を行い、自己評価する。
- 第 8 回 日常のストレス状態を省察する。
- 第 9 回 保存課題を体験する。
- 第 10 回 一人きりで一日を過ごせないことを省察する。
- 第 11 回 他者の行動の帰属を推測する。
- 第 12 回 性格テストを体験する。
- 第 13 回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

*受講した授業の内容に関して、小テストを Hoppii を通じて行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学要論-こころの世界を探る-」福田由紀編 培風館 2010 年

【参考書】

適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を 80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はオンデマンド授業が行われ、授業アンケートは実施されませんでした。そのため、2019 年度の授業のアンケート結果を紹介します。

約 8 割の受講生が「工夫していた」「授業を受けてよかった」と回答してくれました。ありがとうございます。自由記述を見ると、例年少なからずあった「スライドを移動が速すぎてメモ取れない」という不評コメントが減少し、「説明の速度がちょうどよかった」と改善されました。皆さんの授業改善アンケートが活かされた例ではないでしょうか！

【その他の重要事項】

今年度は対面授業を予定しています。しかし、COVID-19 感染状況により、他の形式の授業に変更される可能性があります。よって、大学からのお知らせに注意をしてください。また、上記の授業計画等が変更になる可能性もあります。受講希望者は、初回のオリエンテーションに必ず出席をしてください。あるいは Hoppii からのお知らせに気をつけてください。

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【初回授業】

初回授業はオンラインで行います。ZoomID は Hoppii の「お知らせ」を通じて行います。

また、初回授業時に受講者の数を確定したいと思います。この授業の受講希望者は、必ず、出席をしてください。初回授業に欠席した場合、受講できない場合がありますので気をつけてください。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn psychology widely. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding about psychology.

PSY100BG

心理学史／心理学 1（心理学史） 2

高砂 美樹

授業コード：A3602,A2255 | 曜日・時限：木曜 1 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では心理学の歴史を学びます。心理学が独立した学問として認められたのはまだ 120 年ほど前のことであり、それからもさまざまな変遷がありました。現在の心理学を当たり前のものと考えずに、人々が人間のこころや行動について考えるとはどういうことかをさらに深く理解するために、心理学の歴史と前史を学びます。

【到達目標】

この心理学史を受講することで、心理学の流れを理解することができます。19 世紀後半にまず欧米の大学で心理学を学ぶことが可能になりましたが、なぜその時代にならないと学べなかったのかを理解するために、まず 19 世紀までの前史を学びます。そのあとで心理学における 20 世紀の 3 大潮流を学び、「心理学の世紀」と呼ばれた 20 世紀の展開を学びます。これらの知識から、なぜ今の心理学が統計学や実験方法を使う一方で、個人の主観的な言説をデータとして利用しているのかについて理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを利用した講義が中心です。心理学史において有名な人物は必ずしも他の授業のなかで登場するわけではないので、そういう人々の生涯も含めて説明します。また授業内で「学習支援システム」を利用した課題が与えられます。この課題の解説は授業内で行うほか、同システムを利用したフィードバックが行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	心理学史を学ぶ意義と、心理学史の方法論について
第 2 回	心理学前史	心理学という語の由来と、中世・ルネサンス期の概観
第 3 回	心理学成立の 3 要因 (1)	19 世紀哲学と心理学への影響について
第 4 回	心理学成立の 3 要因 (2)	19 世紀における医学と生物学が心理学に与えた影響について
第 5 回	近代心理学の始まり	ドイツで始まった精神物理学と生理学的心理学について
第 6 回	大学における心理学の展開	アメリカにおける大学心理学の展開について
第 7 回	現場における心理学の拡大	アメリカを中心とした発達心理学や臨床心理学の始まりについて
第 8 回	日本における心理学の展開	19 世紀末の日本の大学における心理学の登場と、その後の展開について
第 9 回	20 世紀の 3 大潮流 (1)	行動主義について
第 10 回	20 世紀の 3 大潮流 (2)	精神分析について
第 11 回	20 世紀の 3 大潮流 (3)	ゲシュタルト心理学について
第 12 回	20 世紀後半の心理学の展開	臨床心理学と認知心理学について
第 13 回	社会における心理学の関わり	心理検査の拡大と資格について
第 14 回	まとめ	授業内容を理解しているかどうかのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は「心理学概論」の内容を理解していることを前提としています。それでも授業のなかで知らない概念が出てきた場合には、復習して理解してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。

【参考書】

サトウタツヤ・高砂美樹 2003 流れを読む心理学史 有斐閣アルマ
高砂美樹 2011 心理学史ははじめの一步 アルテ

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

1 年生の受講科目だと思って油断していると、上級生でも単位を落とすことがあります。他学部の履修者にも心理学の基礎知識を要求しますので、それを理解したうえで受講してください。

【学生が準備すべき機器他】

使う予定の資料（pptx）は Hoppii にあげておきますので、適宜、事前に自分でダウンロードして教科書代わりに使用してください。

【Outline and objectives】

The lectures on the basic history of psychology, including Japanese one, are given. The students are supposed to understand the background and the transition of trends of psychology from the late 19th to the end of the 20th century after the whole lectures.

PSY100BG

脳の科学

高橋 敏治

授業コード：A3619 | 曜日・時限：木曜 5 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

神経伝達物質から脳の高次脳機能まで、心理学の基礎となる脳の科学の基本的事項を学びます。精神生理学や精神薬理学など精神科臨床に関係する医師としての経験を活かし、心理学を学ぶ学生が知っておくべき脳科学の基礎知識や、認知科学の最新のトピックスを取り上げます。

【到達目標】

健康や臨床との関わりの中で、脳の役割の重要性を説明できるようにします。心、身体、自律神経、脳の各部位がそれぞれどのように結びつき、どのように反応するかを概略し、説明できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学を学ぶ上で最低限必要な脳の各部位の解剖、脳の生理的な働き、神経細胞の機能、最新の脳内の伝達物質などを学びます。心の働きと脳の基本的な関係を学習します。毎回の授業では、初めて触れる概念や用語が多くあります。前回の内容の振り返り、新規の内容、前回の知識のミニテストというように無理のない授業進行で進めます。授業内で行った試験、課題の模範解答や主な質疑応答は授業内で紹介し、解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	脳の研究の歴史、授業の形式の説明
第 2 回	大脳皮質 1	前頭葉、頭頂葉の部位や機能
第 3 回	大脳皮質 2	後頭葉、側頭葉の部位や機能
第 4 回	脳幹部 1	間脳、橋の部位や機能
第 5 回	脳幹部 2	中脳、延髄の部位や機能
第 6 回	小脳、運動系	小脳や運動経路（錐体路と錐体外路）の部位機能
第 7 回	大脳辺縁系 1	本能・感情の生まれる場所
第 8 回	大脳辺縁系 2	記憶のメカニズム
第 9 回	神経ニューロン 1	ニューロン細胞の機能、構成
第 10 回	神経伝達物質 1	神経伝達物質の種類
第 11 回	神経伝達物質 2	気分障害、ストレス障害、統合失調症と神経伝達物質の関係
第 12 回	脳科学のトピックス 1	男性と女性の脳の分化の仕組み、ミラーニューロンやデフォルトネットワークの問題を解説する
第 13 回	総合的な知識の復習	達成度テストの総合的な復習・まとめ
第 14 回	総合的な達成度テストの振り返り、脳科学のトピックス 2	総合的な達成度テストのまとめの解説、グリンパテックシステムとアルツハイマー型認知症との関係、睡眠との関係を解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。第 2 回～14 回 達成度テストで成果を確認するので復習してください。数回のレポート課題を実施します（脳の基礎知識の確認）。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。授業内に適宜プリントを配布します。

【参考書】

緑川晶・山口加代子・三村将（編）（2017）. 公認心理師カリキュラム準拠臨床神経心理学. 医歯薬出版株式会社, 東京.

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の中で 10 分程度の達成度テストを行い、復習します。また期末に試験を行い、評価は達成度テスト・レポート課題を含む平常点（50 %）と期末試験（50 %）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

78 人の受講者のうち 54 名から回答者を頂きました。4-5 の段階が、授業の工夫では 70 %、理解できたかで 52 %、履修してよかったかは 78 %の評価でした。授業外の学習時間は大半の人が 30 分から 120 分に含めましたが、一方でほとんど行っていない人もみられ (22 %)、授業外の課題学習などを工夫したいと思います。自由記述では、「毎回、授業中に前回の復習をして頂けたお陰で、内容理解に大きく繋がりました」、「達成度テストが復習になり勉強になった」、「リアルタイム形式だったので、より深い理解を得られた」、「1 回目で分からなかったり書ききれなくても 2 回目で理解しやすくなった」などのコメントの一方で、「難しかった」、「時々他の受講生のミュートが解除されている事があり不快だった」、「授業で習ったところが、課題のどこに反映されているのかが分かりにくかった」などのコメントも寄せられました。この授業で初めて接する専門用語が多く、知識内容も多く、入門編としてはややハードルが高いかもしれません。しかし、皆さんの意見を聞いて達成度テストだけでなく、前回の授業の復習がかなり知識の習熟度や理解に役立っていることを確認できました。オンライン授業の課題や資料の名称の付け方についてもっと検討してみたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC を使用して、パワーポイントを使用します。学習支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、学習支援システムの「お知らせ」を使用します。普段使用しているメールを学習支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】

【重要】新型コロナウイルスに関する状況を考慮して授業形態をオンライン授業などに変更する場合があります。皆さんの希望も調査したいと思いますので、初回の授業には必ず出席して下さい。

実施の順序については変更することがあるため、学習支援システムや授業の中で案内しますので、注意してください。

【オフィスアワー】シラバスの教員紹介に記載してあります。担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わって実務面の仕事をしています。この経験を生かし、脳と精神の関わりについて講義をします。

【Outline and objectives】

From the neurotransmitter to the higher brain function, we will learn basic matters of brain science which is the foundation of psychology.

PSY200BG

認知心理学

吉村 浩一

授業コード：A3620 | 曜日・時限：木曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の知覚を中心とする認知研究が、心理学の中でどのように行われているかの全体的流れを解説します。特に、知覚の中心的研究対象である視覚だけでなく、視覚と他の感覚様相との関係に焦点を当てます。

【到達目標】

「百聞は一見にしかず」という言葉に代表されるように、見ることほど確かなことはないようにいわれがちです。しかし、事象を公正に判断し、適切に表現する能力や態度を養うには、見ることをはじめ知覚し認知する人の心のはたらきの中に個人の経験や推測に基づく主観的枠組みが機能していることを学ぶ必要があります。それによってこそ、客観的に物事を捉え、広い視野に立ち物事を公正に判断する力をつけることができます。本授業では、知覚し認知するという心のはたらきを扱う認知心理学の概要を学ぶことにより、そのような能力の基礎を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

第 1 回目の授業は、オンデマンド方式で行いますので、学年暦で最初の授業時間までに Hoppii の「お知らせ」の通知を受けられるようにしておいてください。授業は対面とオンデマンドのハイブリッド方式で行う予定ですが、状況により変更する可能性がありますので、毎回、Hoppii の「お知らせ」に注意しておいてください。授業では、さまざまな画像の提示を必要とするためパワーポイントを頻繁に使います。

課題は毎回出しますが、回答の中から手本となるものを選び、授業支援システムでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	心理学の中で「認知」という考え方がどう位置づけられているかの概要説明
第 2 回	思考過程まで守備範囲とする認知心理学	素朴物理学やヒューリスティックなど人間特有の思考法の解説
第 3 回	情報論的アプローチ	認知心理学の重要な特徴であるコンピュータ・アナロジーの説明と人工知能研究との分かれ目の指摘
第 4 回	心のはたらきのモデル化	3 つのタイプのモデルの提示と構成概念との関係の解説
第 5 回	知覚とイメージ	イメージすることと知覚することの類同性を裏づける実験
第 6 回	知覚の病理	脳損傷による知覚機能の障害例を紹介し、脳機能が知覚することに関わり重要に関わっているかの理解を促す
第 7 回	目の構造	ヒトの目の構造の解説
第 8 回	眼球運動	視覚情報をキャッチするための目の動きの理解
第 9 回	逆さめがね実験 (1)	目から入る映像情報が逆さになるめがねを着けたときどのようなことが起こるか、さらにはそれを長期間着け続けることによりどのような変化が生じるかの事実を解説する
第 10 回	逆さめがね実験 (2)	上記の実験により生じる変化について、これまで心理学が行ってきた研究の解釈の紹介
第 11 回	視覚の優位	逆さめがね研究のように、視覚情報とそれ以外の感覚情報（触覚・聴覚・自己受容感覚など）が矛盾する情報を与えられたとき、原則的には視覚情報に沿う空間認知が章いこの解説
第 12 回	視覚の優位に反する知見	近年は、視覚の優位に反する事例が多く紹介されている。それらについての解説
第 13 回	資料に基づく議論の構築	心理学では実験を行うなど、取り組むテーマに関するデータを自ら生成し、それに基づいて議論を組み立て主張を行う。そのスタイルの意義についての解説

第 14 回 期末テストと全体の総括 期末テストを行った上で、その解説を中心とする全体の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマや内容について、毎回、課題を提示します。受講者はその課題について文献やインターネットで情報を収集し、一週間後に各課題に対する回答を提出してください。それを平常点とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

三浦佳世（編著）『現代の認知心理学 1：知覚と感性』2010（北大路書房）

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 % と期末テスト 30 % により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教材の配布が少ないとの指摘を受け、授業で使うパワポ資料を授業の前の週に教材としてアップして配布します。

【その他の重要事項】

この授業は、例年、秋学期に開講していますが、本年度は春学期開講となります。

【Outline and objectives】

This course deals with the cognitive processes of human, especially with perceptual system concerning vision and other modal systems.

PSY100BG

認知科学入門

田嶋 圭一

授業コード：A3621 | 曜日・時限：火曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

見る、聞く、言葉を話す、覚える、考える、他者とかかわるといった日常的に無意識に行われる知的活動を可能にする心の働きを、学際的な観点から追究する「認知科学」という学問について学びます。

【到達目標】

認知科学の歴史と、視覚・聴覚・言語・記憶・推論・社会的認知といった各部門の概略について、各自の具体的な経験を踏まえて他者に説明できるようにすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行いますが、適宜視聴覚教材・ミニ実験・動画などを盛り込む予定です。また、授業中に個別あるいはグループで課題に取り組んだり、コメントシートを作成することで、授業への能動的な参加が期待されます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次回の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。初回の授業は時間割通りにリアルタイムで Zoom を用いたオンライン授業を行います。授業に関する重要な説明および講義を行いますので、受講希望者は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明, 「認知科学」とはどんな学問か, 認知科学が対象とする「知的活動」とはどんな活動か
第 2 回	認知科学の歴史	心理学の略歴, 認知科学の誕生, 認知科学の諸分野
第 3 回	知覚	心への入口としての感覚と知覚, 感覚の範囲, 物理量と心理量の関係, 感覚のしくみと種類
第 4 回	視知覚	感覚の一般的特性, 形の知覚と知覚的体制化
第 5 回	視知覚と高次認知過程	奥行き知覚, 高次知覚過程（パターン認識, トップダウン処理とボトムアップ処理, 文脈効果）, 顔の表情認知
第 6 回	聴知覚	音の正体, 音の大きさ・高さ・音色の知覚, 聴覚情景分析
第 7 回	視聴覚の統合	選択的注意, 音声の知覚, 視覚と聴覚の統合
第 8 回	言語	言語とはどんなものか, 言語知識, 言語獲得
第 9 回	記憶	記憶の流れと区分, 短期記憶と長期記憶, 日常生活と記憶, 記憶の変容
第 10 回	知識	概念やスキーマとしての知識, 心的表象（世界を脳内でどのように表現しているか）, 命題や文の心的表象
第 11 回	思考	思考, 推論, 問題解決
第 12 回	情動	情動とは, 情動と脳, 情動を認知するためのメカニズム, 情動の変化を定量的に捉える
第 13 回	社会的認知	社会的認知とは何か, 社会的条件の影響, 対人認知, 認知科学の今後の展望
第 14 回	試験, 授業の総括	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップされた資料を読んだり、課題に取り組んだりすることで、毎回の授業の復習や理解度チェックを行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。レジュメ等の資料をエチュード経由で配布します。

【参考書】

行場次郎・箱田祐司（編）（2014）．新・知性と感性の心理 ―認知心理学最前線― 福村出版．
 鈴木宏昭（2016）．教養としての認知科学 東京大学出版会．
 内村直之・植田一博・今井みつみ・川合伸幸・嶋田総太郎・橋田浩一（2016）．はじめての認知科学 新曜社．
 大津由紀雄・波多野誼余夫（編著）（2004）．認知科学への招待 ―心の研究の面白さに迫る― 研究社．
 都築誉史（編）（2002）．認知科学パースペクティブ ―心理学からの 10 の視点― 信山社．
 大島尚（編）（1986）．ワードマップ：認知科学 新曜社．

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題 30%、中間テスト 20%、期末テスト 50%の割合で評価する予定です。原則として、正当な理由なく 4 回を超えて授業を欠席した場合、または期末テストを未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は授業改善アンケートが実施されませんでしたので、2019 年度のアンケート結果に基づいた気づきを以下に記します。
 回答者 88 名のうち、「履修してよかった」という問「5」または「4」と回答してくれた人が 79 名（90%、前年は 91%）、「理解できた」が 68 名（77%、前年は 81%）、「工夫されていた」が 82 名（93%、前年は 86%）でした。いずれも前年度と大きく変化はなく、おおむね高い評価をいただきました。授業内容、レジュメ、小テスト、グループワーク、いずれについても肯定的なコメントをたくさんいただきました。中には「素晴らしい授業」「先生が優秀」といった嬉しいコメントもありました。授業外学習時間については「1～2 時間」が 33%、「30 分～1 時間」が 41%、「ほとんど行っていない」が 23%でした。成績の 3 割を占める合計 4 回の小テストがあるため学期中も授業外で定期的に復習などをしていただいていた受講生が比較的多かったと考えられます。小テストの頻度・回数については「多すぎ」「少なすぎ」といった意見もありましたが、「ちょうどよかった」という意見が最も多かったです。「レジュメに余白が少なく、自分で補足を書き込むと見にくくなってしまいます」というコメントがありました。もっともなご意見ですが、余白を増やすと印刷枚数が増えるので、他のノートなどに補足を書き込んでもらうのが良いのかも知れません。授業中の教え合いの時間は好評でした。その場で理解度チェックができ学生同士で質問し合えるので、今後も続けたいと思います。遅刻者が入室するとコメントシートを渡すのに授業が中断されるので改善してほしいというご意見がありました。改善策を考えたいと思います。

【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】

This course introduces students to cognitive science, an interdisciplinary field that studies how the mind works, that is, the mental processes that enable people to engage in everyday activities such as seeing, hearing, using language, remembering, thinking, and interacting with others.

PSY200BG

発達心理学

渡辺 弥生

授業コード：A3622 | 曜日・時限：火曜 2 限
 春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフスパンを視野にいれながらも、本授業では、胎児期から、乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に、時間の経過とともに質的および量的に変化するさまざまな発達の特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、社会的に還元できる知識や探索のしかたを学ぶ。

【到達目標】

心の発達についておおまかにでも各時期における発達の特徴を説明できるようになることが望ましい。また、関心のある知見についてグループで議論したり、こうした知識をいかに生活の中で役立てていくかを考え、将来、実際に活かすことができるようになることを目標とする。

- （1）人間の発達についていくつかの理論を学ぶ。
- （2）人間の発達を明らかにしていくための研究にふれる。
- （3）生活のどのような部分に役立てられるかを意識し応用する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式であるが、人間の発達を実感できるようにビデオや DVD などの視聴覚教材を適宜用いていく。受講者には、各時間による積極的な発言や質問による参加を期待する。テキストを用いるので、事前に予習したり、復習することが必須である。授業の感想を毎回求める。☆例年、受講者数が多いので制限する可能性があることから、希望者は初回時には必ず出席すること。初回が終わり、受講者数が多いことから 2 回の仮登録までを履修者として、以降制限します。

課題のフィードバックについては、学習支援システムで実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	発達ということ	発達理論の枠組みの理解 「発達」が意味することや、研究方法、さらには、主要な理論の存在について認識する。
第 2 回	胎児の発達	お腹の中の赤ちゃんについて：胎児期に起きている神秘ともいえる変化について理解する。
第 3 回	感覚・知覚の発達	見える世界、聞こえる世界の理解：感覚や知覚が年齢とともにどのように変化するのかを理解する。
第 4 回	感情の発達	泣くから悲しい？ 悲しいから泣く？：当たり前と考えていたことが、実は明確でないことや、感情のメカニズムについて知る。
第 5 回	認知の発達	考えることの発達：考えるということの意味や、認知と感情、行動の関係について学ぶ。

第 6 回	言語の発達	ことばを覚える、ことばを使う：言葉の獲得や言葉の使用など、言葉の発達の様々な側面を理解する。
第 7 回	親子関係の発達	「ひとりでも泣かないよ」乳幼児期の親子関係を中心に、基本的な理論を習得する。
第 8 回	友人関係の発達	友人関係を築き維持すること：友人関係を築くこと、維持することなど、また、友人関係のトラブルへの対応などについて学ぶ。
第 9 回	知能の発達	頭が良いとはどういうこと？ 知能の概念や、それをどのように測定するかという点について理解する。
第 10 回	意欲・動機づけの発達	やる気のメカニズム：勉強嫌いや、無気力になってしまう原因などを考え、意欲的に学習するためのメカニズムを知る。
第 11 回	自我の発達	一生涯続く「自分とは何か：自我のめざめや自己意識の問題は生涯発達の軸になるテーマであるが、多くの理論を学ぶ。
第 12 回	性役割の発達	ジェンダーの獲得「男とは女とは」：生物学的な違いなのか後天的な違いなのか、いくつかの研究から考えてみる。
第 13 回	道徳性の発達	善悪の判断はどのように育つ？：道徳的な人とそうでない人は、発達の違いがあるのか。善悪の判断や、向社会的な行動のメカニズムについて知る。
第 14 回	発達障害の理解	発達障害の理解と対応：近年、明らかにされてきた障害の特徴について知るとともに、どのように支援していけるかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前日までに毎回、テキストの課題となる章を読み、テーマを理解する。知らない用語などは、自分で調べておくことが望ましい。テキストの図表から読み取れることを考え、わからないところを明確にしておく。わからないことは授業で質問するようにし、授業後は復習する。復習したことが理解されているかを確認するため、授業の最初に前の時間のレビューや質問に答えるようにするが、専門用語などについてまとめるようにする。予習復習には、各2時間かけるようにする。

【テキスト（教科書）】

『ひと目でわかる発達心理学』、渡辺弥生・西野泰代 編著（福村出版）

【参考書】

『子どもの「10歳の壁」とは何か？ 一乗り越えるための発達心理学』渡辺弥生著（光文社）

『発達心理学（シリーズ 心理学と仕事）』二宮克美・渡辺弥生編著（北大路書房）

『まんがでわかる発達心理学（仮）』（5月刊行予定）渡辺弥生監修（講談社）

【成績評価の方法と基準】

オンデマンド形式と対面のハイブリッド形式を予定していますが、その時の状況によって変更場合があります。支援システムを参考にしてください、

毎回のミニクイズの回答（正答かどうか）とおおよそ4回ごとのミニ課題2回の総合点で評価することとします。ただし、ミニクイズの回答の評価は全クイズ数の3分の2を回答した人を対象にします。ミニクイズの評価は40%です。ミニ課題は2つとも提出することが前提で、評価は全体の60%となります。

ミニ課題だけ提出、ミニクイズだけ回答だけでは、成績を評価しません。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の予習および復習ができるような課題を考える。

【学生が準備すべき機器他】

テキストを持参すること。授業支援システムに入ること。

【その他の重要事項】

授業支援システムに登録すること。初回を重視します。

【発達心理学】

<https://sites.google.com/site/emywata/Home>

【Outline and objectives】

From the viewpoint of lifelong development, including from infancy to elderly, we will attempt to understand the flow of research to date and research questions that have been previously clarified. We will aim to consider how to contribute to society by the researches.

PSY200BG

教育心理学

福田 由紀

授業コード：A3623 | 曜日・時限：火曜 4 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育心理学とは、教育における人間の営みに関する心理学です。教育心理学は、発達心理学や学習心理学、言語心理学、脳科学などの知見を教育に応用する学問です。毎日、皆さんが通っている「学校」という場を心理学的な観点から紹介していきます。また、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①教育心理学の基礎的な知識が身につく。
- ②学ばせる関係に関して、心理学的な観点から分析できる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。また、Hoppii を通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

また、授業のテーマにも記しましたが、教育心理学は応用心理学の一つです。そのために、心理学に対する基礎的な知識が必要です。具体的には、心理学概論といった授業を修得したレベルを考えています。また、授業では、時間の制約のために、基礎知識については扱いません。教科書の指定した箇所は、自分で読んでください。

加えて、COVID-19 感染症蔓延状況に応じて、オンデマンド授業を中心に行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・教育心理学とは	授業の進め方の説明、教育心理学の目標・対象・研究法、教育心理学への 3 つのアプローチ
第 2 回	円滑なコミュニケーションの実現のために	言語力と心の理解の発達
第 3 回	教える人と教わる人の関係	友人関係の発達、道徳性の発達
第 4 回	学習理論・記憶理論とその応用	自己意識の発達、他者理解の発達、円滑なコミュニケーション
第 5 回	深い理解とは	適応的熟達者、知識のネットワーク
第 6 回	読み書きからの学習	文章による学習、読解力、書くことの学習
第 7 回	学校不適応とその予防	いじめのメカニズム、いじめ防止策
第 8 回	上手に教える 1	授業過程、伝統的な教授法
第 9 回	上手に教える 2	最近流行の教授法、素朴概念への挑戦
第 10 回	上手に学ぶ	メタ認知、学習方略
第 11 回	知能と認知スタイル	知能検査の結果や認知スタイルを教室に活かす
第 12 回	学力と評価	最適な評価とテストの組合せとは
第 13 回	学習障がいとその支援	学習障がい、ADHD など
第 14 回	授業のまとめ、期末レポート提出	授業のまとめと期末レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

* 次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。Hoppii から提出して下さい。

- 第 1 回 自分の心の理解の発達と他者の心の理解の発達はどちらの方が早いと思いますか？ それとも同じくらいですか？ その理由は？
- 第 2 回 一番好きだった先生は、いつのどの教科、あるいは部活の先生でしたか？
- 第 3 回 記憶の定着は休息すると良くなるのでしょうか？ それとも、睡眠を取ると良くなるのでしょうか？ ヒントはコラム 3 !
- 第 4 回 使える知識にするためには、学習者にはどのような工夫が必要ですか？
- 第 5 回 読書の効用を 3 つ挙げてください。
- 第 6 回 生徒同士のいざこざをいじめに発展させないために、どうしたいと思いますか？ 自分の意見を書いてください。
- 第 7 回 どのような形式の授業が一番好きでしたか？

第 8 回 小集団に分かれての授業形式の良い点を 2 つと悪い点を 2 つ挙げてください。

第 9 回 添付ファイルを読んでください。記事の中に下線が引かれた部分が 2 か所あります。これらは、ある心理学的な概念を活用した具体的な例です。それぞれについて、その心理学的な概念は何でしょうか？

第 10 回 添付ファイルを開いて下さい。標準図形と全く同じ図形を選択図形 A から F の中から 1 つ選んでください。

第 11 回 テスト以外に生徒・学生の思考力をどのように評価をしたいかと思いませんか？

第 12 回 模擬期末試験問題を基礎問題と応用問題の二つを作成して下さい。

第 13 回 期末レポートの準備を行い、自己評価する。

* 受講した授業の内容に関して、小テストを授業支援システムを通じて行います。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「教育心理学 - 言語力からみた学び -」 福田由紀他 培風館 2015 年

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点 20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を 80% として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度の授業はオンデマンド授業でしたが、動画の内容や時間の設定等が良かったためか、皆さんから高い評価をもらいました。とてもうれしかったです。その例をいくつか紹介します。

- ・動画 1 つの時間が短いので集中力の持続につながった。
- ・階層構造を意識してノートを作れるようになった。自分のメモが大変見やすくなりました。
- ・授業以外でも役に立つ情報を得られました。
- ・小テストや宿題もあり、より理解が深まった。
- ・教育現場だけでなく、日常場面の具体例も挙げられており、理解しやすかったと思います。
- ・授業がとても丁寧な説明でわかりやすかったです！ 私は教職課程を履修しているので、将来にとても役立つ学習ができました！

【その他の重要事項】

今年度は対面授業を予定しています。しかし、COVID-19 感染状況により、他の形式の授業に変更される可能性があります。よって、大学からのお知らせに注意をしてください。また、上記の授業計画等が変更になる可能性もあります。受講希望者は、初回のオリエンテーションに必ず出席をしてください。あるいは Hoppii からのお知らせに気をつけてください。

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【初回授業】

初回授業はオンラインで行います。ZoomID は Hoppii の「お知らせ」を通じて行います。

また、初回授業時に受講者の数を確定したいと思います。この授業の受講希望者は、必ず、出席をしてください。初回授業に欠席した場合、受講できない場合がありますので気をつけてください。

なお、上記内容は 2021 年 3 月末現在の状況におけるお知らせです。変更がある場合は、Hoppii の「お知らせ」機能を用いてアナウンスします。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn educational activities in terms of psychological perspective. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding about educational psychology.

PSY200BG

学習心理学

押尾 恵吾

授業コード：A3624 | 曜日・時限：木曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の活動に不可欠な「学習」という現象を、心理学的に幅広く捉え、理解することがこの授業の目的です。

【到達目標】

単に心理学の知識として授業内容を覚えるのではなく、実際に自分自身の日常生活に応用できるように理解することを到達目標とします。また、そうすることで自分の生活を有意義なものにしていくという考え方を身につけてもらいたいと思います

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

条件づけという基礎的な学習理論から授業を始めますが、動物実験の結果は人間にも当てはまります。次に、主に教育場面における学習活動を客観的に捉え、動機づけや学習方略、メタ認知などについて学びます。また、知識の獲得過程として記憶のしくみの基礎を知り、自分自身の学習活動にも役立て下さい。講義形式の授業ですが、より深い理解を促すために、授業内容に関連した簡単な実験や質問紙を通じて、自分自身の学習過程についても見つめる機会をできるだけ提供します。授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、授業の中で取りあげ、全体に対してフィードバックを行います。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容と目標の確認
第 2 回	古典的条件づけ	〇〇恐怖症の原因
第 3 回	オペラント条件づけ	報酬と罰の使い分け
第 4 回	観察学習	暴力映像視聴の影響
第 5 回	動機づけの基礎	やる気のメカニズム
第 6 回	動機づけの応用	やる気のコントロール
第 7 回	記憶の分類	認知活動を支える記憶
第 8 回	作動記憶・手続記憶	短期記憶と長期記憶
第 9 回	記憶の理論を活かす	エピソード記憶獲得法
第 10 回	学習方略	自律的な学習のために
第 11 回	メタ認知と学習観	認知の認知を客観視
第 12 回	ここまでのまとめ	振り返りと理解度確認
第 13 回	レポート回収と解説	自己評価と動機づけ
第 14 回	授業の総括	到達目標自己評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間の復習を標準とします。復習として、毎授業の内容を A4 用紙 1 枚程度でまとめます。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムより、各回の授業資料を配布します。

【参考書】

「絶対役立つ教育心理学 実践の理論、理論の実践」 藤田哲也（編）(2007) ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

・平常点（55 %）…授業へ出席し、復習シートを作成して提出することを評価の対象とします。
・期末レポート（45%）…授業内容についての基本的な理解と、その授業内容を日常生活に応用できるレベルで理解できているかどうかの両者を主な評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる資料は授業支援システムより各自ダウンロードしてください。また、課題の提出についても授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】

In this class, students understand the phenomenon of "learning" necessary for human activities from a psychological point of view.

PSY200BG

言語心理学

福田 由紀

授業コード：A3667 | 曜日・時限：木曜 3 限
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトが文章を読む時に、どのようなことが頭の中で起きているか、言語心理学・脳生理学・認知心理学・教育心理学の研究の成果の知識や見方を得ることが目的です。また、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①言葉を読むときに何が起きているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
- ②①について他者に説明ができる。
- ③言葉の働きについて、心理学的な見方できる。
- ④聞きながらメモをとることができる。
- ⑤階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。適宜、様々な問題について作業をし、その内容を体験したり、グループで議論したりしてもらいます。

また、Hoppii を通じて、授業の前に宿題の提出、授業後に小テストへの回答をしてください。なお、授業の初めに、提出された宿題の内容に関して、全体に対してフィードバックを行います。

さらに、COVID-19 感染症蔓延状況に応じて、オンデマンド授業を中心にを行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、言語心理学の研究の対象とその目的	授業の進め方、心的表象の特徴と種類
第 2 回	言語力の発達	語彙の発達、読み書きの発達の概観
第 3 回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	言葉を使わないコミュニケーションの難しさの体験
第 4 回	単語認知に影響する要因	心的辞書、認知に影響する要因、材料を統制するとは？
第 5 回	処理過程からみた単語認知	ボトムアップ処理とトップダウン処理
第 6 回	文の理解：曖昧性の解消	ガーデンパス文、作業記憶量
第 7 回	文章の理解：対象と構成された知識	文章の何を理解するのか、読み手の推論の力
第 8 回	文章理解に影響する要因 1：既有知識	物語文法、物語スキーマ
第 9 回	文章理解に影響する要因 2：既有知識	スクリプト、視点
第 10 回	文章の理解モデル	状況モデル
第 11 回	状況モデルの新たな展開 1：モデルの深まり	最近の状況モデル研究
第 12 回	状況モデルの新たな展開 2：対象の広がり	メタ認知、自己概念、感情
第 13 回	状況モデルの新たな展開 3：日常生活への応用	広告の作成や教育
第 14 回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

* 次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前に Hoppii から提出して下さい。

第 1 回 モーラの概念を使えるようにする。

第 2 回 コミュニケーションにおける言葉とそれ以外の割合を考え、書く。

第 3 回 類似語を選定する。

第 4 回 規則語と例外語の例を書く。

第 5 回 ガーデンパス文を修正する。

第 6 回 Sacks の実験材料を読み、質問に答える。

第 7 回 桃太郎の物語の要約を書く。

第 8 回 行間を読むとは具体的にはどのようなことを指すかを書く。

第 9 回 Morrow et al. の実験材料である地図を記憶する。

第 10 回 文庫本には行間が空いている箇所がある。その理由を書く。

第 11 回 小説を読んだときの体験を書く。
 第 12 回 大学案内と車内広告作成におけるポイントを書く。
 第 13 回 期末テストの準備を行い、自己評価する。
 ＊受講した授業の内容に関して、小テストを授業支援システムを通じて行います。
 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
 「言語心理学入門－言語力を育てる－」福田由紀編 培風館 2012 年

【参考書】
 適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
 評価は、平常点 20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を 80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】
 2020 年度はオンデマンド授業が行われ、授業アンケートは実施されませんでした。そのため、2019 年度の授業のアンケート結果を紹介します。
 受講生の約 7 割が「工夫していた」「授業を受けてよかった」と回答してくれました。ありがとうございます。自由記述をみると、シャトルシートの記入が授業のメリハリになっている、自分でまとめられるので良かった等、好評でした。今後も続けていきますね。

【その他の重要事項】
 今年度は対面授業を予定しています。しかし、COVID-19 感染状況により、他の形式の授業に変更される可能性があります。よって、大学からのお知らせに注意をしてください。また、上記の授業計画等が変更になる可能性もあります。受講希望者は、初回のオリエンテーションに必ず出席をしてください。あるいは Hoppii からのお知らせに気をつけてください。
 文化審議会国語分科会臨時委員の活動を通して得られた広い視野から、本授業では言語活動をいっしょに考察していきます。

【実験参加へのお願い】
 授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【初回授業】
 初回授業はオンラインで行います。ZoomID は Hoppii の「お知らせ」を通じて行います。
 また、初回授業時に受講者の数を確定したいと思います。この授業の受講希望者は、必ず、出席をしてください。初回授業に欠席した場合、受講できない場合がありますので気をつけてください。

【Outline and objectives】
 The purpose of this course is to learn various activities of language in terms of psychological perspective. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding about psychology of language.

PSY200BG

社会心理学特講

島宗 理、高橋 敏治、田嶋 圭一、渡辺 弥生、福田 由紀

授業コード：A3687 | 曜日・時限：土曜 3.4.5 限（隔週）
 秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
 多様化、高齢化が急速に進む現代社会においては、わが国の歴史や文化に対する理解を深めながら、広い視野を持ち、自分とは異なる価値観や考え方を他者と共生していけること、すなわち、良識ある公民たることが求められます。
 本授業では、現代社会が直面している様々な問題を取り上げ、これに対する心理学からのアプローチを紹介します。

【到達目標】
 様々な社会的問題を、1) 先行研究や統計資料などのデータを活用して記述し、2) 多面的、客観的、主体的に考察し、3) 他者との議論を活かしながら、公正な判断を下せるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
 本授業は変則的な隔週のオムニバス形式で行います。2 ～ 3 回の授業時限を 1 単元とし、単元ごとに 1 つの社会的問題や課題を取り上げ、これに関連する心理学の研究や実践などについて担当教員が講義します。学生はこれをもとに、自らの考えをまとめ、授業内で討論します。さらに、自らの考えを他者に伝え、他者の考えを積極的に聞く練習をしながら、最終的に単元ごとにレポートを作成して提出します。

レポートの提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
 授業日と内容は以下の通りで、オンラインで授業を行う予定である。
 第 01 回（2021/10/02）持続可能な社会と心理学：講義（島宗）3, 4, 5 時限
 第 02 回（2021/10/16）現代社会における家族と心理学：講義（高橋）3, 4, 5 時限
 第 03 回（2021/11/06）異文化・言語と心理学：講義（田嶋）3, 4, 5 時限
 第 04 回（2021/11/20）危機予防の心理学：講義（渡辺）3, 4, 5 時限
 第 05 回（2021/12/04）共生社会における相互理解と心理学：演習（福田）3, 4 時限

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

秋学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	現代社会が直面する問題について概観し、本授業の進め方やレポート課題、成績評価方法などについて説明する。
第 2 回	持続可能な社会と心理学 (1)	資源や環境問題について、持続可能な社会を実現するための行動分析学からのアプローチについて解説する。
第 3 回	持続可能な社会と心理学 (2)	持続可能な社会を実現するための方法論についてチーム内で議論し、各自がレポートのアウトラインを作成する。
第 4 回	現代社会における家族と心理学 (1)	戦後の家族規範の変化、夫婦制家族・核家族化への変化、父系から母系家族への変化など、日本の家族の歴史的变化について考える。
第 5 回	現代社会における家族と心理学 (2)	家族の変化に伴い精神保健的な家族問題がいろいろと顕在化している。具体的には、アダルトチルドレンの問題、EE (Emotional Expression) 研究、家族学習会（家族ネット）、痴呆ケアの家族の問題、虐待と家族など危機に瀕した家族の問題を取り上げ、チームで発表議論する。
第 6 回	テーマ別調べ学習とレポート作成	ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入手し、レポートを作成する。
第 7 回	危機予防の心理学 (1)	いじめ、不審者侵入などあらゆる種類の学校危機に対する予防のあり方をエビデンスをもとに解説する。
第 8 回	危機予防の心理学 (2)	心理的な危機を予防するためにどのようなアプローチやプログラムが可能かを議論し、具体案を作成する。

第 9 回	共生社会における相互理解と心理学 (1)	既知知識がある場合と無い場合における相手とのコミュニケーションを体験して、共有された世界を構築するために何が重要なかを考える。
第 10 回	共生社会における相互理解と心理学 (2)	共有された世界を構築するために、どのような活動が必要かを体験を通して考える。
第 11 回	異文化・言語と心理学 (1)	言語はなぜ文字通りに伝わらないのか、しゃべっていないのになぜ伝わるのか、言語によって相手や自分にどのように気を配っているか、特に異文化間の違い注目しながら考える。
第 12 回	異文化・言語と心理学 (2)	異文化あるいは同一文化の相手と誤解なくかつ円滑に意思疎通を図るにはどのようにすればよいか、チームで議論し、レポート作成の準備を行う。
第 13 回	テーマ別調べ学習とレポート作成	ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入力し、レポートを作成する。
第 14 回	まとめ、質疑応答とレポート作成	授業全体を振り返り、チーム内でレポートの下書きを読み合い、意見交換する。必要に応じて講義担当教員へ質問し、最終的にレポートをまとめ、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内にも調べ学習などの時間とっておりますが、単元ごとに提出するレポートの作成には図書館へ行ったり、文献を検索したり、レポートを書く時間を確保しておきましょう。各単元のレポートにかかる時間は各単元ごとの復習 6 時間とレポート作成 6 時間の計 12 時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

参考文献を紹介します（以下は一例です）。

- Chance, P., & Heward, W. L. (2010). Climate Change: Meeting the Challenge. The Behavior Analyst, 33, 197 - 206.
- Abrahamse, W., Steg, L., Vlek, C., & Rothengatter, T. (2005). A review of intervention studies aimed at household energy conservation. Journal of Environmental Psychology, 25, 273-291.
- 山崎勝幸・戸田有一・渡辺弥生 (2013). 世界の学校予防教育 金子書房
- Brock, S.E., & Jimerson, S. R. (Eds.) (2012). Best Practices in School Crisis Prevention and Intervention 2nd edition, National Association of School Psychologists.
- 石原 邦雄 (2008). 家族のストレスとサポート 放送大学教育振興会
- 井出 祥子・平賀 正子 (2005). 講座社会言語科学〈第 1 巻〉異文化とコミュニケーション ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

テーマ別レポート（全 5 題）をそれぞれ 20 点満点で採点し、合計得点が満点（100 点）に占める割合で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

(2020 年度は未開講でした)

【その他の重要事項】

代表として島宗のオフィシアワーを掲載しております。他の教員のオフィシアワーについては各自が担当する授業シラバスを参照して下さい。

島宗のオフィシアワー：春学期は金曜 4 時限、秋学期は火曜 4 時限、場所はどちらも研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】

In today's rapidly diversifying and aging society, we need to be sensible citizens, who understand our country's history and culture, have a broad perspective, and are able to coexist with others who have different values and ways of thinking from our own. The purpose of this course is to learn research-based psychological solutions to various social problems that modern society is facing such as energy consumption, family issues, risk management at schools, communication and cross-cultural understanding.

PSY200BG

産業組織心理学

島宗 理

授業コード：A3721 | 曜日・時限：金曜 4 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業における様々な課題に心理学の知見を活かして取り組む方法を学びます。経営、マーケティング、商品開発、品質管理、販売管理、マネジメント、メンタルヘルス、リーダーシップとコーチング、安全管理、コンプライアンスなどをテーマに、組織を健全に運営するために役立つ考え方や研究について学びます。

【到達目標】

企業における課題をまず知ることから始めます。このため、日本の企業が直面している問題や取組を具体的に学びます。基本的なビジネス用語の意味を定義できるようになることも目標とします。その上で、消費者や社員の行動に影響を及ぼす心理学的な要因や介入方法について述べられるようになることを目標とします。たとえば、日本企業が東南アジア諸国における自社製品の販売を促進しようとするときに問題となることやその解決方法を論じられるようになることがこの授業の到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。毎回、前回の授業で学んだことをテストで確認します。

講義を通して、ビジネスや産業組織心理学の基本を理解し、重要なキーワードを覚え、使えるようになったかどうかを評価します。

毎回行うテストの得点は Google クラスでフィードバックします。授業全体の得点は学習支援システムを通じてフィードバックします。

【重要】新型コロナウイルス状況に応じて、この授業は対面とオンラインを組み合わせ実施します。授業内容にも変更があります。学習支援システムのこの授業科目のトップページで案内しますのでご確認ください。授業には Google Classroom を使います。授業コードも学習支援システムのこの授業科目のトップページでお知らせしますので、登録して受講してください。

学習支援システム： <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom： <https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容与方法、約束事を説明します。ビジネス心理学の概要について講義します。
第 2 回	小売業その 1：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。価格競争、市場（マーケット）、消費者心理、購入行動、貯蓄行動、投資行動、差別化、ブランド、機能のコモディティ化、売上げ、利益、利益率、費用、固定費、変動費、原価率、売上総利益率（粗利）
第 3 回	小売業その 2：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。ビジュアルマーチャンダイジング（VMD）、減価償却、コンサルティング、アウトソーシング、PB（プライベートブランド）、NB（ナショナルブランド）、OEM、ブランディング
第 4 回	テーマパークその 1：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。リピーター、同一性と新奇性、イノベーション、ブランド・ロイヤルティ、スイッチングコスト（感情的コミットメント、計算的コミットメント）、ロールプレイを用いた接客訓練、接客訓練の維持・般化促進のための強化、トークンシステム、トークンシステムを運用するさいの注意点、職務分析

第 5 回	テーマパークその 2：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。需産業と外需産業（日本の自動車会社は？）、市場調査（マーケティングリサーチ）、顧客満足度（CS：Customer Satisfaction）、定量分析、定性評価、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（金のなる木、花形製品、負け犬、問題児）、従業員満足度（ES：Employee Satisfaction）、ロイヤルティ	第 13 回	グローバル化とローカリゼーション	日本企業の海外進出に関して検討しながら、以下のキーワードについて学びます。グローバル化、ローカリゼーション、自社ブランド製品、有形無形の文化差、個人差、マーケティング・チャネル（コミュニケーションチャネル、流通チャネル、サービスチャネル）、AISAS モデル、BOP ビジネス、CSR
第 6 回	業績評価指標（KPI）とそのマネジメント	様々な業界の業績評価指標（KPI）を紹介します。これに関連して、経営目標（売上、利益、粗利、利益率など）、目標管理制度（MBO）、バランス・スコアカード（BSC）、PDCA サイクル（Plan-Do-Check-Action サイクル）などについて学びます。	第 14 回	まとめと振り返り	今学期の授業内容について振り返り、まとめます。
第 7 回	企業におけるメンタルヘルス	いわゆるブラック企業問題について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。5 大疾病（糖尿病、脳卒中、がん、心臓病、精神疾患）、努力報酬不均衡モデル、日本の雇用慣行（新卒者の一斉採用、専門性の軽視（入社後の研修や訓練を重視）、終身雇用、年功序列、ボーナスによる人件費調整）、休職や離職のリスク、労働基準法、法令違反、法令遵守、コンプライアンス、法令違反の例（残業代の未払い、上司によるパワハラ、長時間労働、不当解雇、退職勧奨）、労働契約書、就業規則、労働基準監督署、内部告発、是正勧告、労働組合（連合）と経団連、労使交渉、労災申請、福利厚生、従業員支援プログラム（EAP）、一次的、二次的、三次的予防（ストレスコーピング法、定期検診、ストレスチェックリスト、復職支援と再発予防）			
第 8 回	働きがいのある会社	働きがいをつくる方法を検討しながら、以下のキーワードについて学びます。休職や離職のリスク、職業紹介所、ハローワーク、採算ライン、損益分岐点、権限委譲、エンパワーメント、コーチング、OJT、Off-JT、人事評価（人事考課）、給与体系（賃金体系）、目標管理制度、ジョブローテーション、（復習）固定費、変動費、ワークライフバランス、人材の多様化（ダイバーシティ）、女性活躍推進			
第 9 回	特別講義（内容は未定です）	企業や団体で働く実践家をお招きし、組織における心理的な問題や対応などについてお話をうかがいます。			
第 10 回	広告とブランドづくりその 1	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ドラッカー、コトラー、マーケティング、ニーズ、ウォンツ、デマンド、名言されたニーズ、真のニーズ、名言されないニーズ、喜びのニーズ、隠れたニーズ、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、バリエーション、顧客価値の三本柱：QSP、マーケティング・チャネル、コミュニケーションチャネル、流通チャネル、サービスチャネル、サプライチェーンとサプライチェーンマネジメント、市場のセグメンテーション（C、T、F、M など）、AIDMA、ローランド・ホール			
第 11 回	広告とブランドづくりその 2	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ワトソン、バブロフ、間接推奨広告、古典的条件づけ（レスポンデント条件づけ）、単純接触効果、鋭敏化、要求特性のバイアス（実験者効果）、内観報告（質問紙法）の欠点、評価条件づけ、古典的条件づけの成立条件、AIDMA から AISAS/AISCEAS へ、商品価値、有形価値（プロダクト）、無形価値（ブランド）、行動経済学、行動分析学、対応法則、ブランディング、マーケティング調査とマーケティング戦略			
第 12 回	産業組織心理学は役に立つのか？	産業組織心理学の歴史や現状について解説します。			

HUG200BA

歴史地理学（1）

米家 志乃布

授業コード：A3819 | 曜日・時限：水曜 1 限
春学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理
本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世～近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 日本・世界における「遺産」の歴史について概要を説明します。2. 日本・世界における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。3. 日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。1～3について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。ビデオ鑑賞の感想については、授業内で紹介し、コメントをつけて返却します。
1 限の中規模授業のため、対面授業は隔週とし、学習支援システムでパワーポイントやプリント資料もアップします（感染予防のため紙では配布しません）。授業開始時間にも配慮します。なお、大学の方針や社会状況の変化などによって授業方法は変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・授業方法の説明、成績評価の基準など (履修希望者の人数により、対面授業の回数や開始時間を考えます)
第 2 回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論
第 3 回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に、日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第 4 回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ
第 5 回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第 6 回	奈良の歴史地理①	奈良市内の歴史遺産、特に、平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 7 回	奈良の歴史地理②	飛鳥・吉野の歴史遺産、特に、古代～中世の宗教遺産について学ぶ
第 8 回	京都の歴史地理①	都城の歴史、平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 9 回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造、歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第 10 回	伏見の歴史地理①	豊臣秀吉による近世城下町プラン、城下町の復元研究について学ぶ
第 11 回	伏見の歴史地理②	近代以降の酒造業の発展、現在のまちづくりについて学ぶ
第 12 回	大阪の歴史地理①	石山本願寺、豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備、徳川時代へ
第 13 回	大阪の歴史地理②	近代以降の大阪城の意義、大阪のまちづくり

第 14 回 歴史観光都市・観光地の 京都の祇園祭と現在
取り組み①

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。テレビの旅行番組を見たり、様々な旅行記などを読んで、様々な国や地域の観光の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしません。適宜、学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科や他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信します。それを見ることができるように、機器類を準備してください。

【Outline and objectives】

This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.

HUG200BA

歴史地理学（2）

米家 志乃布

授業コード：A3820 | 曜日・時限：水曜 1 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理

本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19 世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17 世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける 17 世紀～20 世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどういうものか、歴史地理学的方法を通して、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 蝦夷地・北海道について、歴史地理学的方法を通して学びます。2. 北方領土問題について学びます。3. 近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。北方領土問題やアイヌ民族の文化に関する映像を見て、感想を提出してもらいます。受講生のみなさんの感想は、授業内で紹介し、こちらでコメントして返却します。

1 限・中規模授業のため、対面授業は隔週とし、授業開始時間も配慮します。パワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します（感染予防のため紙での配布はありません）。

なお、大学の方針・社会状況の変化で授業方法を変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容および授業方法の説明、成績評価基準について 受講希望者の人数に応じて授業形態を考えます
第 2 回	地理的認識をめぐる歴史地理学	新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第 3 回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第 4 回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第 5 回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第 6 回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第 7 回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第 8 回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第 9 回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について、歴史地理学的方法で考える
第 10 回	北方領土問題①	北方領土問題の前史（フロンティアをめぐる日露関係）を学ぶ
第 11 回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係、北方領土問題を考える
第 12 回	千島列島（クリル諸島）の歴史地理	千島列島の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第 13 回	樺太（サハリン）の歴史地理	樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第 14 回	アイヌ民族の法的地位と研究資料	日本・ロシアにおける先住民族政策をおさえ、日本のアイヌ民族に関する歴史的資料の状況についておさえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民族に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】

米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報-日本北方地図史の再考』法政大学出版局。その他、必要に応じて、適宜資料を PDF ファイルで学習支援システムにアップします。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信します。それを見ることができるように、機器類を準備してください。

【Outline and objectives】

This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.

MAN200FA

キャリア・マネジメントⅡ（2019年度以降入学者）

MAN200FA

キャリア・マネジメントⅡ（2018年度以前入学者）

小川 憲彦

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアマネジメント論Ⅰの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。

また、この授業では各界の老若男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。

【到達目標】

- ①キャリア形成に関する知見を知っていること
- ②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメント論Ⅰの振り返り
第2回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第3回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第4回	採用活動の事例	具体的な企業の採用活動事例を紹介します。
第5回	ゲスト（大手メーカー新人）	新卒1年目で働く男性社員をゲストに呼び、学生生活、就職活動、1年目の仕事の様子について紹介してもらいます
第6回	ゲスト（専門職の若手女性）	資格職の仕事やキャリアについて、あるいは女性の働き方について紹介してもらいます
第7回	ゲスト（転職の多いベテラン男性）	5回ほど転職経験のある中年男性に様々な業界や転職について話を伺います
第8回	ゲスト（大手金融機関）	金融機関にも様々な職種がありますが、不動産関係を扱う管理職に話を伺います
第9回	ゲスト（保険業界と公共機関）	新卒時に大手生命保険会社に入社し、その後公務員の仕事に就いた30歳くらいの男性から話を伺います
第10回	ゲスト（大手化学メーカー）	現場の営業の仕事と本社のスタッフでの仕事について話を伺います。
第11回	ゲスト（旅行業界と人材紹介業界）	大手旅行代理店での仕事と、その後転職された人材紹介業界についてお話ししてもらいます
第12回	ゲスト（フリーランス）	組織に雇われて仕事をするのではなく、フリーランスで仕事を続ける50代の男性に話を伺います
第13回	ゲスト（商社）	商社の仕事、とりわけ海外での仕事について話を伺います
第14回	出世について	大企業での出世や昇進のメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

任意の宿題（レポートや読書）を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。

【参考書】

大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。

経営学科専門科目 300 番台 3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

エドガー・H・シャイン（著）・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー ―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プランニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験（50％）、平常点（50％：小レポート等含む）
- ・出席は取りませんが、時々講義中に適宜課題を出します。
- ・レポートも課題は任意ですが、内容が不十分であれば加点はしません。コピー、内容のないもの、不十分と思われるもの、読めないものなどは減点もあります。
- ・参加する際の注意事項（その他参照）が守られない場合、私の判断で大幅な減点や単位不認定があります。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

【その他の重要事項】

- ①各回の内容は前年度のもので。ゲストは毎年変更しています。
 - ②不適切な参加態度であると私がみなした場合、退会を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。
 - ③初回講義で具体的な注意など指示し、以降は無条件で②のような対応をします。
- 携帯電話の電源を切って鞆にしまう、写真をとらない、関係のないおしゃべりをしない等は基本です。
- 関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn a little advanced career theories and to think about your career development through the interactions with many guest-speakers who have diverse backgrounds;age, gender, position, occupation, and industry.

MAN300FB

経営組織論Ⅰ

長岡 健

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。

この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

- 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における「組織」の諸側面について、多面的かつ批判的に考察できる。
- 経営組織論の概念枠組と用語を用いて、組織における個人と集団の振る舞いや、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を理解し、説明することができる。
- 組織における個人と集団の活動や、現代社会における経営組織の活動を深く理解するための本質的な「問い」を、主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 全 14 回を zoom を使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）で行います。
- 一方向的なビデオ配信ではなく、双方参加型の授業運営を行います。

春学期の授業（経営組織論Ⅰ）では、「組織と個人の創造的関係」という視点から、関連する概念や理論をもとに、振る舞いの背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、「個人の振る舞い」「キャリア開発」「集団の振る舞い」「組織と個人の関係」という 4 つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2 週を 1 モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行います。受講者が主体的に考え、発言する機会をできる限り設けていく予定です。さらに、各モジュールの前後の授業では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第 2 回	個人の振る舞い (1)	仕事の中の「学習と成長」に関する基礎概念
第 3 回	個人の振る舞い (2)	組織における「モチベーション（動機づけ）」に関する基礎概念
第 4 回	事例研究 (1-1)	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第 5 回	キャリア開発 (1)	組織における「キャリア・デザイン」の基礎概念
第 6 回	キャリア開発 (2)	組織における「専門職」の意味／意義／位置づけ
第 7 回	事例研究 (1-2)	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第 8 回	集団の振る舞い (1)	経営学における「集団（グループ）」の意味／意義／位置づけ
第 9 回	集団の振る舞い (2)	組織における「創造的コラボレーション」の可能性と課題
第 10 回	事例研究 (1-3)	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第 11 回	組織と個人の関係 (1)	組織における「対話的コミュニケーション」の可能性と課題
第 12 回	組織と個人の関係 (2)	組織における「リーダーシップ」の基礎概念
第 13 回	事例研究 (1-4)	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第 14 回	ラップアップ	春学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

経営学科専門科目 300 番台 3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経営学の基礎的科目を履修していない受講者は、各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、『経営組織』（下記、参考書）の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。シラバスで指定したテキスト・参考書以外にも、それぞれのテーマに関連する文献を授業中に適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各テーマ（モジュールごと）に振り返りレポートを作成します（4 回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中 40 %）。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上に PDF ファイルでアップしますので、各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この 3 冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を授業中に紹介していきます。

- 金井壽宏 『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社
- ロビンス, S. P. 『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社
- グロービス経営大学院 『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

①テーマ（モジュールごと）の振り返りレポート（4 回）、②ゲスト講義へのコメント（4 回）、③最終レポート（1 回）により評価します。評価の割合は以下の通りとします。

【評価の内訳】

- 振り返りレポート（4 回）：40 %
- ゲスト講義へのコメント（4 回）：20 %
- 最終レポート（1 回）：40 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- zoom を使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください。
- 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、Twitter を活用する予定です。受講者は Twitter のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。
- 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

『経営学総論Ⅰ/Ⅱ』もしくは『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; 1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; 2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; 3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

The objectives of this course are 1) to deepen our understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and 2) to sharpen our insights into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

経営組織論Ⅱ

長岡 健

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。

この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

- 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における「組織」の諸側面について、多面的かつ批判的に考察できる。
- 経営組織論の概念枠組と用語を用いて、組織における個人と集団の振る舞いや、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を理解し、説明することができる。
- 組織における個人と集団の活動や、現代社会における経営組織の活動を深く理解するための本質的な「問い」を、主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 全 14 回を zoom を使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）で行います。
- 一方的なビデオ配信ではなく、双方参加型の授業運営を行います。

秋学期の授業（経営組織論Ⅱ）では、「組織変革とマネジメント」という視点から、関連する概念や理論をもとに、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、「組織構造」「組織文化」「社会と組織」「組織学習」という 4 つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2 週を 1 モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行います。受講者が主体的に考え、発言する機会をできる限り設けていく予定です。さらに、各モジュールの前後の授業では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第 2 回	組織構造 (1)	組織設計の視点と「ピラミッド型組織」の基本原則
第 3 回	組織構造 (2)	企業の組織形態と「フラット化・ネットワーク化」の進展
第 4 回	事例研究 (2-1)	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義
第 5 回	組織文化 (1)	「企業文化論」から見た「日本の経営」の特徴
第 6 回	組織文化 (2)	働き方とライフスタイルの変化（第四次産業革命と SDGs）
第 7 回	事例研究 (2-2)	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義
第 8 回	社会と組織 (1)	「ダイバーシティ・マネジメント」の可能性と課題
第 9 回	社会と組織 (2)	社会制度からの圧力に対する組織の対応と問題点
第 10 回	事例研究 (2-3)	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義
第 11 回	組織学習 (1)	組織変革を阻む要因とその対応方法
第 12 回	組織学習 (2)	「学習棄却（アンラーニング）」の意味と方法
第 13 回	事例研究 (2-4)	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義
第 14 回	ラップアップ	秋学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

経営学科専門科目 300 番台 3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経営学の基礎的科目を履修していない受講者は、各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、『経営組織』（下記、参考書）の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。シラバスで指定したテキスト・参考書以外にも、それぞれのテーマに関連する文献を授業中に適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各テーマ（モジュールごと）に振り返りレポートを作成します（4 回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中 40 %）。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上に PDF ファイルでアップしますので、各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この 3 冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を授業中に紹介していきます。

- 金井壽宏 『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社
- ロビンズ, S. P. 『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社
- グロービス経営大学院 『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

①テーマ（モジュールごと）の振り返りレポート（4 回）、②ゲスト講義へのコメント（4 回）、③最終レポート（1 回）により評価します。評価の割合は以下の通りとします。

【評価の内訳】

- 振り返りレポート（4 回）：40 %
- ゲスト講義へのコメント（4 回）：20 %
- 最終レポート（1 回）：40 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- zoom を使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください。
- 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、Twitter を活用する予定です。受講者は Twitter のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。
- 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

『経営学総論Ⅰ/Ⅱ』もしくは『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; 1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; 2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; 3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on. The objectives of this course are 1) to deepen our understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and 2) to sharpen our insights into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

MAN300FB

組織マネジメント論 I

3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

永山 晋

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業が学習するキーワードは2つある。「創造性」と「概念（コンセプト）」である。創造性はイノベーション創出の源泉であるため、組織の成長・生存にとって最も重要な要因の一つである。春学期では、創造性が高いアウトプットとはどのようなものなのか。創造性が高い人はどのような人か。どのように創造性を測定できるのか。創造性を左右する要因とは何なのか。このような疑問に対し、本授業は、創造性に関わる心理学、経済学、社会学の最新の学術的知見を提供する。秋学期では、「概念（コンセプト）」について学習する。概念は人が外界世界や自分の内部状態を知覚するうえで最も大きな役割を担う。概念をうまく扱えるか、優れた概念をつくれるかによって、組織のマネジメントが劇的に変化する。そこで本授業では、概念とは何か、概念が進化することとはどういうことか、なぜ進化するか、どのように優れた概念を創出できるかについて学習する。授業では教員によるスライドを使った講義に加え、授業内グループワーク、授業内実験も行う予定である。

【到達目標】

- (1) 創造性、概念に関わる基本的な理論、枠組みについて、「自分の言葉」で分かりやすく他人に説明できる。
- (2) ウェブ記事などで目にする現象、自分の身近にある現象について、理論的観点から分析的に考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は zoom を使い、リアルタイムで行う。適宜ブレイクアウトルームを通じたグループワークを行うため、PC 受講を必須とする。履修者は指定した Google Classroom に登録してもらう。授業の案内、授業で用いる資料についての案内は Classroom を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	創造性の基本	創造性の概要
2	創造性の基本	創造性とは何か？
3	創造性の基本	アイデアの組み合わせとは何か？ (1) グループワーク
4	創造性の基本	アイデアの組み合わせとは何か？ (2)
5	創造性の基本	創造的な人とは何か？ 認知・性格・行動
6	創造性のインプット	サーチ
7	創造性のインプット	チーム構成
8	創造性のインプット	ネットワーク
9	創造性のインプット	競争
10	創造性のインプット	環境
11	創造性のアウトプット	成功
12	ゲスト講師（日程はゲストの都合によって変更あり）	ゲスト講師による授業
13	総括	春学期授業内容の総括
14	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・該当箇所の事前配布資料が指定された場合、その資料を授業前に読み込んでおくこと。
- ・普段目にする情報に対し、学習した概念を通じて批判的に考察すること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。以下のウェブサイトからスライドを公開している。授業前後で内容を確認すること。

<https://www.susumu-nagayama.com/material>

【参考書】

- ・カウフマン, スコット・バリー・グレゴワール, キャロリン (2019) 『FUTURE INTELLIGENCE これからの時代に求められる「クリエイティブ思考」が身につく 10 の習慣』大和書房（野中香方子訳）。
 - ・グラント, アダム (2016) 『ORIGINALS 誰もが「人と違うこと」ができる時代』三笠書房（楠木健監訳）。
 - ・バーカス, デビッド (2014) 『どうしてあの人はクリエイティブなのか?』BNN 新社（プレシ南日子・高崎拓哉訳）。
 - ・ペントランド, アレックス (2015) 『ソーシャル物理学: 「良いアイデアはいかに広がるか」の新しい科学』草思社（小林啓倫訳）。
- 詳細は以下のウェブサイトに掲載。<https://www.susumu-nagayama.com/material>

【成績評価の方法と基準】

- ・6～8 回の小レポート：40 点
- ・オンラインのグループワーク：10 点（同じグループの学生からフリーライダーと報告された場合、参加しても 0 点。悪質な場合減点する可能性もある）
- ・期末テスト：50 点（感染症の状況に応じて期末レポートに切り替える場合もある）

【学生の意見等からの気づき】

グループワーク時にフリーライダー（発言をしないにも関わらず課題を提出するもの）が現れる場合があるとの報告を毎回受けている。そのためグループワークは、学生による相互評価を取り入れる。仮にフリーライダーの報告があった場合、事情を当人に確認し、相応の処置を行う。

【学生が準備すべき機器他】

- ・カメラ・マイク付き PC（とくにグループワーク時に必須）
- ・ある程度の速度が確保されたネット環境

【その他の重要事項】

- ・レポートの提出や連絡などは全て Google Classroom 上で行う。履修登録されるまでの間は学内システムも利用する。
- ・受講者の人数や関心によって学習トピックの内容や学習順序を一部変更する可能性がある。
- ・ゲスト講師による講義は 1 回～2 回行う。登場日程は直前になって確定する可能性もある。日程については確定し次第、Google Classroom と永山の個人ウェブサイトで連絡する。

【関連科目】

経営組織論 I / II、経営戦略論 I / II、組織行動論 I / II、中小企業論 I / II、製品開発論 I / II、技術管理論 I / II など

【Outline and objectives】

This course offers two keywords to be studied: "creativity" and "concepts". Creativity is one of the most important factors for the growth and survival of an organization because it is the source of innovation. In the spring semester, I ask the following questions; what does a highly creative output look like? What does a highly creative person look like? How can creativity be measured? What are the factors that influence creativity? To answer these questions, this class will provide the latest knowledge of psychology, economics, and sociology related to creativity. In the fall semester, students will learn about "concepts". Concepts play the biggest role in human perception of the external world and internal states. Handling concepts allows us to change the management of an organization dramatically. We will study what concepts are, what it means for them to evolve, why they evolve, and how we can create better concepts. I will give lectures using slides as well as group work and in-class experiments.

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業が学習するキーワードは2つある。「創造性」と「概念（コンセプト）」である。創造性はイノベーション創出の源泉であるため、組織の成長・生存にとって最も重要な要因の一つである。春学期では、創造性が高いアウトプットとはどのようなものなのか。創造性が高い人はどのような人か。どのように創造性を測定できるのか。創造性を左右する要因とは何なのか。このような疑問に対し、本授業は、創造性に関わる心理学、経済学、社会学の最新の学術的知見を提供する。秋学期では、「概念（コンセプト）」について学習する。概念は人が外界世界や自分の内部状態を知覚するうえで最も大きな役割を担う。概念をうまく扱えるか、優れた概念をつくれるかによって、組織のマネジメントが劇的に変化する。そこで本授業では、概念とは何か、概念が進化することとはどういうことか、なぜ進化するか、どのように優れた概念を創出できるかについて学習する。授業では教員によるスライドを使った講義に加え、授業内グループワーク、授業内実験も行う予定である。

【到達目標】

- (1) 創造性、概念に関わる基本的な理論、枠組みについて、「自分の言葉」で分かりやすく他人に説明できる。
- (2) ウェブ記事などで目にする現象、自分の身近にある現象について、理論的観点から分析的に考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は zoom を使い、リアルタイムで行う。適宜ブレイクアウトルームを通じたグループワークを行うため、PC 受講を必須とする。履修者は指定した Google Classroom に登録してもらう。授業の案内、授業で用いる資料についての案内は Classroom を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	概念の基本	前期の振り返りと秋学期の概要説明
2	概念の基本	概念の進化と N-Q シフト
3	概念の基本	概念の可視化
4	概念の理論	ミクロ：自由エネルギー原理
5	概念の理論	マクロ：文化進化論
6	概念をつくる	思考法のモデル（発散収束モデル）
7	概念をつくる	プレストをやってみる（グループワーク）
8	概念をつくる	概念の構造化と統合モデル
9	概念をつくる	バイアスブレイクをやってみる（グループワーク）
10	概念をつくる	集団による概念の統合
11	概念をつくる	メタストをやってみる
12	ゲスト講師	ゲスト講師
13	総括	グループワーク結果の振り返り、内容の総括
14	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ 該当箇所の事前配布資料が指定された場合、その資料を授業前に読み込んでおくこと。
- ・ 普段目にする情報に対し、学習した概念を通じて批判的に考察すること。
- ・ 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。以下のウェブサイトのスライドを公開している。授業前後で内容を確認すること。

<https://www.susumu-nagayama.com/material>

【参考書】

以下のウェブサイトのスライドを公開している。授業前後で内容を確認すること。

<https://www.susumu-nagayama.com/material>

【成績評価の方法と基準】

- ・ 6 ～ 8 回の小レポート： 30 点
- ・ オンラインのグループワーク： 20 点（同じグループの学生からフリーライダーと報告された場合、参加しても 0 点。悪質な場合減点する可能性もある）
- ・ 期末テスト： 50 点（感染症の状況に応じて期末レポートに切り替える場合もある）

【学生の意見等からの気づき】

グループワーク時にフリーライダー（発言をしないにも関わらず課題を提出するもの）が現れる場合があるとの報告を毎回受けている。そのためグループワークは、学生による相互評価を取り入れる。仮にフリーライダーの報告があった場合、事情を当人に確認し、相応の処置を行う。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ カメラ・マイク付き PC（とくにグループワーク時に必須）
- ・ ある程度の速度が確保されたネット環境

【その他の重要事項】

- ・ レポートの提出や連絡などは全て Google Classroom 上で行う。履修登録されるまでの間は学内システムも利用する。
- ・ 受講者の人数や関心によって学習トピックの内容や学習順序を一部変更する可能性がある。
- ・ ゲスト講師による講義は 1 回～ 2 回行う。登場日程は直前になって確定する可能性もある。日程については確定し次第、Google Classroom と永山の個人ウェブサイトで連絡する。

【関連科目】

経営組織論Ⅰ／Ⅱ、経営戦略論Ⅰ／Ⅱ、組織行動論Ⅰ／Ⅱ、中小企業論Ⅰ／Ⅱ、製品開発論Ⅰ／Ⅱ、技術管理論Ⅰ／Ⅱなど

【Outline and objectives】

This course offers two keywords to be studied: "creativity" and "concepts". Creativity is one of the most important factors for the growth and survival of an organization because it is the source of innovation. In the spring semester, I ask the following questions; what does a highly creative output look like? What does a highly creative person look like? How can creativity be measured? What are the factors that influence creativity? To answer these questions, this class will provide the latest knowledge of psychology, economics, and sociology related to creativity. In the fall semester, students will learn about "concepts". Concepts play the biggest role in human perception of the external world and internal states. Handling concepts allows us to change the management of an organization dramatically. We will study what concepts are, what it means for them to evolve, why they evolve, and how we can create better concepts. I will give lectures using slides as well as group work and in-class experiments.

MAN300FB

人的資源管理Ⅰ

佐野 嘉秀

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。一筋縄にはいきません。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個々人に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
2) 人材確保に関わる人事管理の領域として、①採用、②人材育成、③雇用区分、④配置転換、⑤昇進・昇格、⑥人事評価、⑦賃金管理などの領域について学ぶ。このうち、人的資源管理Ⅰでは①～③、人的資源管理Ⅱでは④～⑦を中心に学習することで、各領域に関する基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の授業です。「人的資源管理Ⅰ」「人的資源管理Ⅱ」ともに学習支援システム上の教材（スライド資料およびスライド資料を音声解説した映像資料）に基づく学習を基本とします。これをもとに各自学習を進めてください。また学習する領域の区切りごとに、小テストを受験して理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：「人的資源管理Ⅰ／Ⅱ」について	「人的資源管理Ⅰ／Ⅱ」の学習範囲、人的資源管理（HRM）の目的と担い手、等
2	人的資源管理（HRM）の考え方①：HRMの目的	経営学の中でのHRMの位置づけ、HRMの目的、等
3	人的資源管理（HRM）の考え方②：人事部とライン管理者	HRMの担い手、人事部とライン管理者の権限配分、人事部不要論の検討、等
4	人的資源管理（HRM）の考え方③：人事管理と人的資源管理	人事管理からHRMへ、HRMの考え方、人事管理とHRMの相違、等
5	採用管理①：採用計画と要員計画	採用管理のプロセス、採用管理と要員管理、要員管理のアプローチ、等
6	採用管理②：中途採用と新卒採用	中途採用の目的、新卒採用の合理性、企業特殊の技能と採用、等
7	採用管理③：人材募集の方法	多様な採用ルート、RJP（リアリステック・ジョブ・プレビュー）、等
8	人材育成①：HRMとHRD	HRMとHRD（人材育成）、技能の性格と人材育成、人材育成の方法、等
9	人材育成②：分業と教育訓練	分業と教育訓練、多能工と単能工、幅広いOJTと知的熟練、等
10	人材育成③：OJTとoff-JT	OJTとoff-JT、教育訓練の測定、OJTが機能する条件、等
11	人材育成④：教育訓練投資	「投資」としての教育訓練、教育訓練の費用、人材の定着と教育訓練、等

経営学科専門科目 300 番台 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

12	雇用区分①：雇用区分の多様化	雇用形態と雇用区分、雇用区分の多様化、限定正社員、等
13	雇用区分②：雇用区分の設計	雇用区分の理論、個別管理と雇用区分管理、雇用区分間の転換、等
14	学習成果の確認	オンラインでの授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は指定しません。学習支援システム上の教材をもとに学習を進めてください。

【参考書】

各自が自習するための参考書として、①佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理（第6版）』有斐閣アルマ、②今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（第3版）』日本経済新聞社をあげておきます。このうち①は、人的資源管理に関する基礎的な理解、②は発展的な理解に役立ちます。また、上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房に収められた「Ⅲ企業内キャリアと人事管理」の章は、担当教員による人的資源管理に関する解説であり、本授業の内容に対応しています。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストの受験による）： 30 %

期末試験： 70 %

春学期と秋学期ともに、小テストの受験による平常点と期末試験の得点をもとに成績を付けます。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。オンデマンドの教材による授業であるため、いっそう丁寧な説明をするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて教材を共有します。映像資料も含まれるので、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

春学期に開講する人的資源管理Ⅰと秋学期に開講の人的資源管理Ⅱの授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline and objectives】

Our objective is to Learn and understand basic human resource management theories and practices. We focus on HRM practices in Japan from comparative perspectives. HRM practices can be understood as a system. We are to focus on each area of HRM system respectively. Theories of HRM, wage system, appraisal, recruiting and selection, training and development, internal promotion and welfare are main areas of HRM.

人的資源管理Ⅱ

佐野 嘉秀

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。一筋縄にはいきません。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個人々々に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
2) 人材確保に関わる人事管理の領域として、①採用、②人材育成、③雇用区分、④配置転換、⑤昇進・昇格、⑥人事評価、⑦賃金管理などの領域について学ぶ。このうち、人的資源管理Ⅰでは①～③、人的資源管理Ⅱでは④～⑦を中心に学習することで、各領域に関する基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の授業です。「人的資源管理Ⅰ」「人的資源管理Ⅱ」とともに学習支援システム上の教材（スライド資料およびスライド資料を音声解説した映像資料）に基づく学習を基本とします。これををともに各自学習を進めてください。また学習する領域の区切りごとに、小テストを受験して理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	配置転換①：配置転換の機能	配置転換の種類、配置転換の機能、日本企業における配置転換、等
2	配置転換②：配置転換と人材育成	幅広い仕事経験と技能、配置転換の人材育成機能、配置転換の範囲、等
3	配置転換③：個人選択型の配置転換	個人選択型の配置転換、自己申告制度、社内公募制度、個人選択型への転換の背景と課題、等
4	社員格付け制度①：格付け基準の多様性	社員格付け制度と賃金制度、格付け基準の条件と多様性、2重のランキング・システム、等
5	社員格付け制度②：社員格付け制度の変化	年功制から職能資格制度へ、「能力主義」から「成果主義」へ、社員格付け制度の変化、等
6	昇進管理①：昇進の機能と実態	昇進の機能、「トーナメント移動」としての昇進、キャリアアップ、等
7	昇進管理②：「遅い」選抜	選抜のタイミングと機能、「遅い」選抜、日本型ファスト・トラック、等
8	昇進管理③：昇進の変化と専門職制度	組織のフラット化と昇進機会、「部下のいない管理職」、専門職制度の導入と変化、等
9	人事評価①：人事評価の設計と運用	人事評価の機能、人事評価の設計と運用、絶対評価と相対評価、等
10	人事評価②：評価基準の選択	多様な評価要素、「成果主義」と人事評価、目標管理制度、等
11	賃金管理①：賃金管理の機能	賃金管理の機能、動機づけ要因としての賃金、労使関係の安定と賃金管理、等

経営学科専門科目 300 番台 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

12	賃金管理②：賃金の総額管理と個別管理	賃金の総額管理と個別管理、能力給と職務給、「年功的」賃金プロファイルの普遍性、等
13	福利厚生	法定福利と法定外福利、福利厚生の機能と変化、等
14	学習成果の確認	オンラインでの授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は指定しません。学習支援システム上の教材をもとに学習を進めてください。

【参考書】

各自が自習するための参考書として、①佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理（第6版）』有斐閣アルマ、②今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（第3版）』日本経済新聞社をあげておきます。このうち①は、人的資源管理に関する基礎的な理解、②は発展的な理解に役立ちます。また、上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房に収められた「Ⅲ企業内キャリアと人事管理」の章は、担当教員による人的資源管理に関する解説であり、本授業の内容に対応しています。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストの受験による）： 30 %

期末試験： 70 %

春学期と秋学期ともに、小テストの受験による平常点と期末試験の得点をもとに成績を付けます。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。オンデマンドの教材による授業であるため、いっそう丁寧な説明をするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて教材を共有します。映像資料も含まれるので、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

春学期に開講する人的資源管理Ⅰと秋学期に開講する人的資源管理Ⅱの授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline and objectives】

Our objective is to Learn and understand basic human resource management theories and practices. We focus on HRM practices in Japan from comparative perspectives. HRM practices can be understood as a system. We are to focus on each area of HRM system respectively. Theories of HRM, wage system, appraisal, recruiting and selection, training and development, internal promotion and welfare are main areas of HRM.

MAN300FB

税務会計論 I

3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

大下 勇二

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎とその基本的な考え方を学習します。これにより、税務会計の基礎を修得し、財務会計との関係と考え方の違いを理解した上で、今日の企業課税の諸問題を的確に議論できる基礎的能力の涵養を目的とします。

【到達目標】

経営学部の学生として必要と思われる法人税の基礎、課税所得計算の基礎、益金の計算、原価配分を中心とした損金の計算など、法人税法における課税所得計算の基本的なフレームワークを理解し、財務会計と比較しながら税務会計特有の考え方を理解することを目標とします。これにより、法人課税上の諸問題を考え理論的に整理できる基礎的能力の修得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業はオンデマンド形式で進めていきます。学習支援システム上にアップロードする授業のコンテンツを視聴し、学習支援システム上の小テスト（第 1 回～第 14 回）を受ける形で学習します。また、必要に応じて、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定にしております。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	法人税の基礎 (1)	法人税の基礎を学習し、法人課税の基本的考え方を理解する。
第 2 回	法人税の基礎 (2)	法人税の基礎を学習し、法人課税の特徴を理解する。
第 3 回	課税所得計算の基礎 (1)	課税所得計算の基礎を学習し、財務会計の利益計算との関係を理解する。
第 4 回	課税所得計算の基礎 (2)	課税所得計算の基礎を学習し、課税取得計算の特徴を理解する。
第 5 回	売買損益等の計算 (1)	売上収益の認識等を中心に、売買損益計算の基礎を学習する。
第 6 回	売買損益等の計算 (2)	売上収益の原則的な認識基準に対する例外的な処理を学習する。
第 7 回	その他の収益の計算 (1)	受贈益、受取配当等 (前半) の営業外収益の計算の基礎を学習する。
第 8 回	その他の収益の計算 (2)	受取配当等 (後半) の営業外収益の計算の基礎を学習する。
第 9 回	売上原価の計算 (1)	売上原価の計算の仕組みを学習する。
第 10 回	売上原価の計算 (2)	棚卸資産の期末評価の考え方を学習する。
第 11 回	有価証券の譲渡原価の計算	有価証券の譲渡原価の仕組みを学習し、有価証券の期末評価の考え方を学習する。
第 12 回	固定資産の減価償却 (1)	減価償却計算の仕組み、償却の特例および取得原価の算定の考え方を学習する。
第 13 回	固定資産の減価償却 (2)	耐用年数、残存価額および償却方法の考え方を理解し、償却限度額の計算を学習する。
第 14 回	繰延資産の償却	税法上の繰延資産の考え方を学習し、税法固有の繰延資産を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義スライドまたはテキストで視聴前に予習または視聴後に復習をする形で進めて下さい。レポート、小テスト、最終テストなどの実施を予定しております。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義スライド (学習支援システムの「教材」にアップロード)、とオンデマンド映像
・大下勇二著『税務会計 I・II』(2019 年) 法政大学通信教育部テキスト (生協書籍部で取扱い)。

【参考書】

渡辺・山本著『法人税の考え方・読み方』税務経理協会
成松洋一著『法人税法 理論と計算』税務経理協会

【成績評価の方法と基準】

今期の成績評価の方法と基準は以下のとおりです。

1) オンデマンド映像の一定時間・進捗率以上の視聴が単位付与の条件となります。

2) 毎回、学習支援システム上の「テスト」で、小テスト (第 1 回～第 14 回) を受けてもらいますが、これを成績に反映します。

3) 課題レポートを提出してもらい、これを成績に反映します (1 回程度)。

4) 学習支援システム上の「テスト」で、最終テストを受けてもらい、これを成績に反映します。

【学生の意見等からの気づき】

小テストの結果を定期的に観察して、授業内容の理解をその都度確認する取り組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。学習支援システムの「お知らせ」「教材」「課題」「テスト」などを定期的に見るようにしてください。

【その他の重要事項】

本科目は会計関連の専門科目と密接に関連しています。1 年次の簿記入門 I/II、2 年次の会計学入門 I/II を履修しておくことが望ましく、また、平行して、財務会計論 I/II、国際会計論 I/II を履修し、会計学の基礎を理解しておく、本講義の理解がより一層促進されます。法人税等の税金関連の新聞記事をほぼ理解できるように頑張しましょう。

【Outline and objectives】

The objective of Tax Accounting is to understand the basic concepts and structures of corporate income tax in Japan.

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「税務会計Ⅰ」で会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎を学んだ上で、今日的な企業課税の諸問題を取り上げ、法人税課税の基礎的な考え方を学習します。

【到達目標】

新しい事業体の課税問題、給与の新しい支給形態、不良債権の償却、組織再編と企業集団化、経済活動の国際化など、今日的なテーマにそって、法人課税上の諸問題を考え理論的に整理できる能力の修得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、わが国法人税課税上、重要な問題となっている主要項目を、スライドに基づき解説する形で進めて行きます。オンデマンドによる映像を視聴した上で小テストを受け、理解の程度を確認しながら次に進みます。また、課題レポートを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	事業形態の多様化と課税問題	ベイ・スルー課税、パス・スルー課税を取り上げ、新しい事業体の出現により、いかなる課税問題が生じているかを学習する。
第 2 回	企業の社会的責任と交際費課税	交際費課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
第 3 回	企業の社会的責任と寄附金課税	寄附金課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
第 4 回	給与の支給形態の多様化と課税問題 (1)	最近の役員給与の支給形態の変化と課税の問題を学習する。
第 5 回	給与の支給形態の多様化と課税問題 (2)	役員給与の損金算入制限の考え方を理解し、役員給与の課税の問題を学習する。
第 6 回	不良債権の償却の課税問題 (1)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒損失の処理の考え方を学習する。
第 7 回	不良債権の償却の課税問題 (2)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒引当金の処理の考え方を学習する。
第 8 回	固定資産の減価償却-その 2(1)	増加償却・陳腐化償却、評価減の考え方を学習する。
第 9 回	固定資産の減価償却-その 2(2)	修繕費と資本的支出、除却、特別償却の考え方を理解する。
第 10 回	企業活動の集団化と課税問題 (1)	合併・分割・株式交換・株式移転等の組織再編税制の考え方を学習する。
第 11 回	企業活動の集団化と課税問題 (2)	グループ法人税制（グループ法人単体課税制度と連結納税制度）の特徴とその考え方を学習する。
第 12 回	企業活動の国際化と課税問題 (1)	国際課税の基礎理論を学習する。
第 13 回	企業活動の国際化と課税問題 (2)	国際課税の考え方を海外事業展開の例を用いて学習する。
第 14 回	企業活動の国際化と課税問題 (3)	移転価格税制、過少資本税制、タックス・ヘイブン税制等の基礎を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義スライドまたはテキストで視聴前に予習、または視聴後に復習する形で進めて下さい。レポート、小テスト、最終テストなどの実施を予定しております。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義スライド（学習支援システムの「教材」にアップロード）とオンデマンド映像
 ・大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ（第 2 版）』（2019 年）法政大学通信教育部テキスト（生協書籍部で取扱い）

【参考書】

・成松洋一著『法人税法 理論と計算』（最新版）税務経理協会
 ・渡辺淑夫著『法人税法』（最新版）中央経済社

・大河原健・マーク・キャンベル・水野正夫著『税務コストの減らし方』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

今期の成績評価の方法と基準は以下のとおりです。

- 1) オンデマンド映像の一定時間・進捗率以上の視聴が単位付与の条件となります。
- 2) 毎回、学習支援システム上の「テスト」で、小テスト（第 1 回～第 14 回）を受けてもらいますが、これを成績に反映します。
- 3) 課題レポートを提出してもらい、これを成績に反映します（1 回程度）。
- 4) 学習支援システム上の「テスト」で、最終テストを受けてもらい、これを成績に反映します。

【学生の意見等からの気づき】

小テストの結果を定期的に観察して授業内容の理解をその都度確認する取り組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。

【その他の重要事項】

本科目は会計関連の専門科目と密接に関連しています。春学期の「税務会計論Ⅰ」を履修しておくことが望ましく、税務会計の基礎を理解しておく、本講義の理解がより一層促進されます。法人税等の今日的な課税問題をほぼ理解できるように頑張りましょう。

【Outline and objectives】

The objective of Tax Accounting Ⅱ is to understand the problems of corporate income taxation in Japan.

ECN300FB

組織経済学

ECN301FB

組織経済学 I (2018 年度以前入学者)

奥西 好夫

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980 年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題など。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業に必要な教材は、学習支援システム（Hoppii）にアップするので、各自ダウンロードすること。

・対面授業が原則だが、コロナ感染の状況によっては困難が予想される。その場合は Zoom を用いて行う。アクセスに必要な ID、PW は Hoppii を通じて連絡する。最低限、事前に講義レジュメに目を通して参加すること。

・課題提出等も Hoppii を通じて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**Ⅱ 秋学期**

回	テーマ	内容
1.	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
2.	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
3.	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
4.	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
5.	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
6.	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
7.	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
8.	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
9.	組織デザイン (1)	・組織構造
10.	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
11.	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
12.	インセンティブ問題 (1)	・インセンティブの強度 ・ナッジ
13.	インセンティブ問題 (2)	・人事制度への応用
14.	インセンティブ問題 (3)	・賃金制度への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学生は、授業前に Hoppii にアップした講義レジュメや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業の間か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業レジュメ、参考資料等は Hoppii を通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997 年。組織経済学の包括的かつ基本的教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017 年。人事制度や組織デザインを扱っている。

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

3～4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005 年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題のエッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013 年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016 年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011 年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992 年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】

・定期試験は行わない。その代わり、学期中に 3～4 回程度の課題提出を行い、それらの合計点でコース全体の評価結果とする。ただし、各回のウェイトは課題に要する時間、難易度等によって異なる。

・課題の内容は、上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とし、講義の参考文献等を使った質問に対して答えてもらう。

・また、課題内容の告知から提出期限まで 2 週間程度の期間を設ける予定である。

【学生の意見等からの気づき】

・2020 年度は、全て Zoom を通じて行ったが、学生の顔が見えず、問いかへへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。

・今年度は、そうした問題を減らすよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

・授業は Zoom を用いて行う可能性が高いこと、また Hoppii へのアクセスが必須であるため、オンライン接続可能な PC ないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は I、II の通年開講授業だったが、2018 年度以降、新カリキュラムに合わせて I のみの開講となる。このため II の主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされる。ただし、それに該当する内容は、より詳細に GBP 用の「HRM I/II」（I は秋学期、II は春学期）でカバーする。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理 I/II」との重複履修は不可）。

・担当教員は、1980～89 年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline and objectives】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

MAN300FC

日本経営史Ⅰ

MAN300FC

日本経営史Ⅰ

二階堂 行宣

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19 世紀後半～20 世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。

・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。

・「各時代における経済・経営環境の変化 → ビジネス・チャンスの発生 → 企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。

・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。

・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。

①学習支援システム等から教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。

②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（2～3 回を予定／提出期限あり）を何度かこなす。

③学期末には、教室での定期試験を実施する予定。定期試験が実施できない場合は、学習支援システム上で期末課題を出題し、それに答える形で評価する。なお、期末課題は、試験日の代わりとして特定の日付を指定し、短期間のみ公開（数時間～数日程度）することを想定している。

・感染状況によって、運営方法を変更する場合があります。ただし、授業で扱う内容・トピックについては、このシラバスから変更する予定はありません。

・授業動画は、100 分 ×14 回の形でアップロードするのではなく、総時間が 1400 分以内になるように、適当な時間に切り分けてアップロードします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
2	幕末維新期の経営	概説：幕末維新期の日本経済
3	幕末維新期の経営	幕末維新期の新興商人：丁吟と吉村屋の発展
4	幕末維新期の経営	大店の明治維新：三井家と三野村利左衛門
5	幕末維新期の経営	海運業の発展：内海船と北前船
6	明治前期の経営	概説：明治前期の日本経済
7	明治前期の経営	政商の登場：三菱の創始者・岩崎弥太郎
8	明治前期の経営	政商の登場：住友の事業再編と広瀬幸平
9	明治前期の経営	企業家活動の組織化：「会社」の誕生と渋沢栄一
10	産業革命期の経営	概説：日本の産業革命
11	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三菱合資会社と荏田平五郎
12	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三井の財閥化と中上川彦次郎
13	産業革命期の経営	地方からの産業革命：安川敬一郎とその時代
14	まとめ	幕末～産業革命期のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に 18 世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。

・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。

・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

- ①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣、2004 年）。
- ②宮本又郎・阿部武司ほか『日本経営史 [新版]』（有斐閣、2007 年）。
- ③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会、2010 年）。
- ④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣、2011 年）。
- ⑤三和良一『概説日本経済史 近現代（第 3 版）』（東京大学出版会、2012 年）。
- ⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012 年）。
- ⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』（中央公論新社、2013 年）。
- ⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』（有斐閣、2016 年）。
- ⑨武田晴人『日本経済史』（有斐閣、2019 年）。

【成績評価の方法と基準】

・論述課題 60 %（実施回数で均等配分）、期末試験 40 %で評価します。単位取得には期末試験の受験を要件とします。

・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。

・科目の性格上、課題や試験はすべて論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説してほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。

・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。

・障害学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でのアップロードとします。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や諸連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。

・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末試験答案を評価する際、不正行為（他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む）には厳しく対処します。

・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。

https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【関連科目】

・産業史Ⅰ／Ⅱ

・日本経営論Ⅰ／Ⅱ

・日本経済論Ⅰ／Ⅱ

【Outline and objectives】

・Business History of Modern Japan.

・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.

・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.

MAN300FC

日本経営史Ⅱ

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FC

日本経営史Ⅱ

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

二階堂 行宣

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19 世紀後半～20 世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。

・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。

・「各時代における経済・経営環境の変化 → ビジネス・チャンスの発生 → 企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。

・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。

・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。

①学習支援システム等から教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。

②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（2～3 回を予定／提出期限あり）を何度かこなす。

③学期末には、教室での定期試験を実施する予定。定期試験が実施できない場合は、学習支援システム上で期末課題を出題し、それに答える形で評価する。なお、期末課題は、試験日の代わりとして特定の日付を指定し、短期間のみ公開（数時間～数日程度）することを想定している。

・感染状況によって、運営方法を変更する場合があります。ただし、授業で扱う内容・トピックについては、このシラバスから変更する予定はありません。

・授業動画は、100 分 ×14 回の形でアップロードするのではなく、総時間数が 1400 分以内になるように、適当な時間に切り分けてアップロードします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
2	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済①
3	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済②
4	第一次大戦期の経営	大戦ブームと企業者活動：鈴木商店と金子直吉
5	両大戦間期の経営	概説：1920～30 年代の日本経済①
6	両大戦間期の経営	概説：1920～30 年代の日本経済②
7	両大戦間期の経営	都市型産業の発展：小林一三と阪急
8	両大戦間期の経営	新興コンツェルンの発展：日本産業と日本窒素肥料
9	戦後期の経営	概説：復興から高度経済成長へ
10	戦後期の経営	概説：高度成長の終焉と日本経済
11	戦後期の経営	概説：バブルの発生と崩壊
12	戦後期の経営	大衆消費社会の到来
13	戦後期の経営	規制緩和によるビジネス・チャンス
14	まとめ	近現代日本のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に 18 世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。

・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。

・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣、2004 年）。

②宮本又郎・阿部武司ほか『日本経営史【新版】』（有斐閣、2007 年）。

③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会、2010 年）。

④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣、2011 年）。

⑤三和良一『概説日本経済史 近現代（第 3 版）』（東京大学出版会、2012 年）。

⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012 年）。

⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』（中央公論新社、2013 年）。

⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』（有斐閣、2016 年）。

⑨武田晴人『日本経済史』（有斐閣、2019 年）。

【成績評価の方法と基準】

・論述課題 60 %（実施回数で均等配分）、期末試験 40 %で評価します。単位取得には期末試験の受験を要件とします。

・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。

・科目の性格上、課題や試験はすべて論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説をしてほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。

・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。

・障害学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でのアップロードとします。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や諸連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。

・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末試験答案を評価する際、不正行為（他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む）には厳しく対処します。

・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。

https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【関連科目】

・産業史Ⅰ／Ⅱ

・日本経営論Ⅰ／Ⅱ

・日本経済論Ⅰ／Ⅱ

【Outline and objectives】

・Business History of Modern Japan.

・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.

・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.

MAN300FC

企業評価論 I

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FC

経営分析 I

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

高橋 美穂子

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の主たる目的は、企業を分析、評価するための手法を学ぶことにあります。授業では、企業の公表する財務会計情報や定性情報を用いて、企業を分析、評価するためのフレームワークを解説します。

【到達目標】

1. 企業活動と会計数値の関係が理解できる
2. 企業の特徴を捉える各種指標や財務比率の内容を理解し、計算できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインで行います。動画や配布資料のリンクは学習支援システム（Hoppii）上でお知らせしますので、授業開始までに必ず Hoppii に登録してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、経営分析、企業評価の意義
2	企業評価のフレームワーク	企業評価の全体像
3	情報収集	重要な情報とその入手方法
4	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
5	事業の理解（2）	企業戦略分析
6	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系
7	会計分析（2）	財務会計情報（システム）の限界
8	財務比率分析（1）	財務比率分析の視点
9	財務比率分析（2）	成長性の分析・収益性の分析
10	財務比率分析（3）	ROE の基本分解
11	財務比率分析（4）	利益率の分析
12	財務比率分析（5）	企業戦略と利益率の関係
13	財務比率分析（6）	回転率の分析
14	まとめ	春学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018 年
 ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年
 乙政正太著『財務諸表分析（第 2 版）』、同文館出版、2015。
 桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

公表されている財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き実際の財務諸表を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）を利用します。また企業の有価証券報告書をダウンロードし、財務比率の計算を行いますので、インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記 3 級程度（簿記入門 I / II、会計学入門 I / II）の内容は理解していることを前提に授業を進めますが、受講生からの要望があれば必要に応じて補足説明をします。

【関連科目】

財務会計論 I / II

【Outline and objectives】

The primary objective of this course is to teach students how to analyze and value business firms. Students learn an effective framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

MAN300FC

企業評価論Ⅱ

MAN300FC

経営分析Ⅱ

高橋 美穂子

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の主たる目的は、企業を分析、評価するための手法を学ぶことにあります。講義では、企業の公表する財務会計情報や定性情報を用いて、企業を分析、評価するためのフレームワークを解説します。

【到達目標】

1. 企業活動と会計数値の関係が理解できる
2. 企業の特徴を捉える財務比率の内容を理解し、計算できる
3. ROE と資本コスト、株主価値の理論的な関係が理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインで行います。動画や配布資料のリンクは学習支援システム (Hoppii) 上でお知らせします。授業開始前までに必ず Hoppii に登録してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**Ⅱ 秋学期**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
2	春学期の復習（1）	財務諸表の構成要素と体系
3	春学期の復習（2）	ROE の基本分解
4	収益性の分析（1）	ROE の上級分解（1）：純事業資産 利益率・有利子負債のコスト・レバ レッジの関係を理解する
5	収益性の分析（2）	ROE の上級分解（2）：純事業資産 利益率・純金融資産利益率・レバレッ ジの関係を理解する
6	収益性の分析（3）	ROE の上級分解（3）：純金融資産の 保有が ROE に与える影響を理解する
7	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成 長率を理解する
8	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係を理解す る
9	貸借対照表項目の予測	過去の比率に基づいて予測貸借対照表 を作成する
10	損益計算書項目の予測	過去の比率に基づいて予測損益計算書 を作成する
11	貨幣の時間的価値と割引 計算	貨幣の時間的価値、年金および年金型 投資商品の現在価値
12	資本コスト	資本コストの推定方法を学習する
13	株主価値評価理論	配当割引モデルと残余利益モデルを学 習する
14	まとめ	春学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容（特に講義中に行った練習問題や課題）が理解できるよう、復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018 年
ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年
乙政正太著『財務諸表分析（第 2 版）』、同文館出版、2015。
桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

公表されている財務諸表を用いて分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き実際の財務諸表を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (Hoppii) を利用します。また企業の有価証券報告書をダウンロードし、財務比率の計算を行いますので、インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記 3 級程度（簿記入門 I/II、会計学入門 I/II）ならびに企業評価 I（春学期）の内容を理解していることを前提に授業を進めますが、受講生からの要望があれば必要に応じて補足説明をします。分かりにくい点があれば、遠慮なく質問してください。寄せられた質問とそれに対する回答は Hoppii 上で共有します。

【関連科目】

財務会計論 I/II

【Outline and objectives】

The primary objective of this course is to teach students how to analyze and value business firms. Students learn an effective framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

MAN300FC

経営分析論Ⅰ

MAN300FC

経営分析Ⅲ

福多 裕志

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】

本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にほぼ焦点を絞り講義する。経営分析Ⅰでは、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。経営分析Ⅱでは、株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下における意思決定モデルを考察する。最終段階では「創出した会計情報の価値」を算出し、経済合理的意思決定のプロセスを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

1982年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい、いまいち!」などと判断を下す。そこで当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【重要】

コロナ状況下による授業形態情報や、学習支援システム上の「お知らせ」や「授業内掲示板」に掲載します。現時点での基本方針は、第1回目の授業（Zoon）を除き、キャンパス内での対面授業を予定しております。不明な点は、「授業内掲示板」へお寄せください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第2回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第3回	財務諸表の枠組み：BSとIS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第4回	財務諸表の枠組み：CFS	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第5回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標－流動比率、当座比率等の説明
第6回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標－自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第7回	効率性：その1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標－総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第8回	効率性：その2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第9回	収益性：その1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標－ROS、ROE、ROA等について説明
第10回	収益性：その2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第11回	損益分岐点分析の基本	固定費分解、最小二乗法
第12回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その1	損益分岐点比率、安全余裕率

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

- 第13回 損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その2
第14回 成長性および総括
- エクセル上での損益分岐点分析の展開
代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 青木茂男『要説 経営分析 五訂版』森山書店、2016年。
- 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995年。
- 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999年。
- 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002年。
- 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994年。
- 國貞克則『財務3表実践活用』(朝日新書)朝日新聞出版、2012年。
- 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996年。
- 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社、2006年。
- 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003年。
- 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80%、発表 20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis III' we focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis IV' decision-making process will be focused based on ratios discussed in the spring semester.

MAN300FC

経営分析論Ⅱ

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FC

経営分析Ⅳ

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

福多 裕志

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目のテーマは、いかなる組織にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、現実のデータを処理しながら着実に習得することである。

【到達目標】

本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、株価関連指標より学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

1982 年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい、いまいち!」などと判断を下す。そこで当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期講義計画および株価関連指標：その 1	一株当たり利益、株価収益率等の検討
第 2 回	株価関連指標：その 2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第 3 回	外国企業の財務諸表分析：その 1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第 4 回	外国企業の財務諸表分析：その 2	EDGAR より米国企業の財務情報入手し、日米企業の財務体質比較
第 5 回	総合評価：その 1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第 6 回	総合評価：その 2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第 7 回	経営分析の応用：その 1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第 8 回	経営分析の応用：その 2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第 9 回	経営分析の応用：その 3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第 10 回	経営分析の応用：その 4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第 11 回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第 12 回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理等の学習
第 13 回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第 14 回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

1) 青木茂男『要説 経営分析 五訂版』森山書店、2016 年。

- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995 年。
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999 年。
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002 年。
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994 年。
- 6) 國貞克則『財務 3 表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版、2012 年。
- 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996 年。
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第 2 版』東洋経済新報社、2006 年。
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003 年。
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010 年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80%、発表 20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PC を持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis III' we focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis IV' decision-making process will be focused based on ratios discussed in the spring semester.

日本経営論 I

金 容 度

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業システムの特殊性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

今年度の日本経営論 I はオンデマンド形式の映像講義を配信する（全 12 講）。ただ、4 月 7 日の初回授業（イントロダクション）と 7 月 14 日の最終授業はオンラインで行う。

オンデマンド講義の配信開始日は 4 月 14 日である。配信日程、アクセスの URL など、毎週レポートの提出締切については、学習支援システムの「お知らせ」と「教材」で案内する。

評価のために、①毎講レポート（10 回）と、②期末レポートの課題・設問は「学習支援システム」の「レポート」に設定する。

①の毎週レポートは、第 2 講～第 13 講の動画講義の各講配信期間中に、出される設問について書いて、指定された締切内に「学習支援システム」の「課題」に提出すること。

②の期末レポートも、5 月中に「学習支援システム」の「レポート」の「課題」で公開するので、課題内容と提出締切を確認して、締切まで作成して提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
2	「日本的経営特殊論」	間宏氏の議論を中心に、日本の企業経営の特殊性を強調する議論を検討する。
3	「日本的経営普遍論」	小池和男氏の議論を中心に、日本の企業経営の普遍性を強調する議論を検討する。
4	日本の経営についての海外からの議論 (1)	ジェームス・アベグレン氏とエズラー・ヴォーゲル氏の議論を中心に、日本企業についてのアメリカでの議論について講義する。
5	日本の経営についての海外からの議論 (2)	ウィリアム・オオウチ氏の Z 理論、バスカルとエイソスジェームス氏の議論について講義する。
6	戦後日本企業システムの特徴	企業内部の組織と活動、企業間関係などを中心に、日本の企業システムを考察する。
7	日米の労使関係史比較：「3 種の神器」は日本だけの特徴だったのか？	工業化初期と成長期の日米労使関係にどのような類似点が存在したかを講義する。
8	日米の企業システムの比較 (1)：1970 年代までの米企業システムを中心に	日米の共通点に注目して、19 世紀末から 20 世紀前半までの米大企業の特徴を描き出す。
9	日米の企業システムの比較 (2)：1980 年代以降の米企業システムを中心に	主に、1980 年代以降のアメリカ企業の変化を検討し、日本の企業経営への示唆点を検出する。
10	日韓の企業システムの比較	企業システムの日韓比較を行う。
11	日本の企業間取引の特徴：自動車産業の事例	戦後、日本の自動車部品取引の事例を取り上げ、日本の企業間関係の特徴を考察する。
12	日韓の企業間取引の比較：自動車産業の事例	韓国の自動車産業における企業間取引の歴史と特徴を検討した上で、日韓比較を行う。

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

13 企業集団

企業間関係の事例として企業集団を取り上げ、その特徴、機能、最近の変化を、市場性と組織性という視点から講義する。

14 まとめ

国際比較の成果を踏まえて、日本の企業経営の特徴と今後について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献は、講義動画の中だけでなく、適宜、「学習支援システム」にアップロードする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。参考文献は、毎回の動画講義資料中で提示し、その一部は授業支援システムにも掲載する。

【参考書】

<参考書>

①ジェームス・アベグレン (2004)『日本の経営』日本経済新聞社

②小池和男 (1991,2005)『仕事の経済学』(第 1 版及び第 3 版) 東洋経済新報社

③ウィリアム・オオウチ (1981)『セオリー Z』CBS ソニー出版

④ Lazonick, William (2009). Sustainable Prosperity in the New Economy, Upjohn Institute

⑤鈴木良隆・大東英祐・武田晴人 (2004)『ビジネスの歴史』有斐閣

⑥橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直 (2018)『現代日本経済第 4 版』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

日本経営論 I の成績評価基準は毎週レポート課題 50%(10 回 × 5% = 50%)、期末レポート 50%である。なお、動画講義の視聴時間が平均を著しく下回る場合は減点し、著しく上回る場合は加点をする。なお、視聴回数が平均を下回る場合は減点する。

【学生の意見等からの気づき】

授業関連の参考文献の提示を増やす。

【その他の重要事項】

関連科目は、日本経営史 I / II、戦略的意思決定論 I / II、技術管理論 I / II、中小企業論 I / II

【Outline and objectives】

The objective of this course is to understand more deeply business management, business strategy and organizational structure in Japan on the perspective of international comparisons. You will learn logical thinking and basic knowledge on Japanese management by lectures and discussions.

MAN300FD

日本経営論Ⅱ

金 容 度

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業システムの特殊性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本経営論Ⅱでは、市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視角から日本の企業間関係を考察する。具体的に、メインバンクシステム、企業間のものの取引（鉄鋼、自動車部品、半導体、液晶部材）を取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツである。
また、授業は原則的に、オンライン授業（ZOOM ソフトウェアを利用）で行うが、状況によって教室での対面授業を行うこともある。オンライン授業時には、授業招待 URL を授業の前日まで学習支援システムに登録する各自のメールアドレスに送る。毎週の授業は、講義とディスカッションシートに基づくディスカッションから構成される。ディスカッションは各自が提出したディスカッションシートに基づいて、2 週間に分けて行う。ディスカッションシートは 6 回提出することになる（学習支援システムの「課題」に提出）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	企業間関係をみる理由と視点	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義する。
2	日本の企業間関係の特徴と、企業間関係の日米共通点	日本の企業間関係の特徴を概観すると共に、国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
3	メインバンクシステム 1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
4	メインバンクシステム 2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
5	メインバンクシステム 3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
6	メインバンクシステム 4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
7	自動車部品の企業間取引 1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
8	自動車部品の企業間取引 2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1900 年代～1910 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
9	自動車部品の企業間取引 3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920 年代～40 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
10	自動車部品の企業間取引 4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
11	鉄鋼の企業間関係 1	「産業の米」といわれる素材、鉄鋼の企業間取引について検討する。
12	鉄鋼の企業間関係 2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が現れるかを考察する。
13	半導体の企業間関係	半導体の共同開発をめぐる企業間関係を考察する。
14	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が極めて高い液晶部材産業を取上げ、企業間取引を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献は、適宜、「学習支援システム」にアップロードするので、毎週、提示される次週の参考文献を読んでから授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。参考文献は、授業中に案内し、中で重要な文献は、学習支援システムの「教材」にも掲載する。

【参考書】

- ①金容度 (2021)『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造』有斐閣
- ② Kim,Yongdo(2015) The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd.
- ③金容度 (2006)『日本 I C 産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会
- ④浅沼萬里 (1997)『日本の企業組織革新的適応のメカニズム:長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

日本経営論Ⅱの成績評価基準は、期末レポート (70 %)、ディスカッションシートの提出 (30 % = 6 回 ×5%) である。なお、ディスカッション時、発言した場合は加点を、発言しなかった場合は、減点をする。

【学生の意見等からの気づき】

授業中、質問を受け付け、答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

関連科目は、日本経営史Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

The objective of this course is to understand more deeply business management, business strategy and organizational structure in Japan on the perspective of international comparisons. You will learn logical thinking and basic knowledge on Japanese management by lectures and discussions.

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

ECN300FD

ファイナンス論Ⅰ（2018年度以前入学者）

山崎 輝

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか？」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることが理解できるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主な目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」などのトピックを扱う予定です。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- ①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②先渡取引や先物取引のしくみや活用方法を説明できる。
- ③無裁定条件に基づく金融商品の価格決定理論がわかる。
- ④金融市場の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に連絡します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してよい）を用意してください。小テスト等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	金融・証券市場の基礎知識（1）	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第3回	金融・証券市場の基礎知識（2）	デリバティブ市場の概説
第4回	キャッシュフローと現在価値（1）	将来価値と現在価値の概念
第5回	キャッシュフローと現在価値（2）	複利、付利期間、割引因子などの概念
第6回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第7回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第8回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・パズル
第9回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第10回	先物取引（2）	先物価格の決定理論
第11回	債券と金利の関係（1）	債券価格と利回り計算
第12回	債券と金利の関係（2）	スプレッドレート、バーレート、LIBOR
第13回	先渡取引（3）	FRAとその活用方法
第14回	先渡取引（4）	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料を各自でダウンロードしてください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。

【参考書】

- ①岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- ②フィナンシャル・バンク・インスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2019 - 2020年版』、2019年、日本経済新聞出版社
- ③佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2019年、ビジネス教育出版社

市場経営学科専門科目 200 番台2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

④ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う定期試験（80％）と授業期間内の小テスト（20％）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】

This course provides students with an introduction to derivatives. It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle.

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

ECN300FD

ファイナンス論Ⅱ（2018年度以前入学者）

山 崎 輝

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。特に、最も重要なデリバティブである「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的となります。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例も詳しく説明します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「様々な相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買い付け（企業買収）の分析」などのトピックを扱う予定です。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- ①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②スワップ取引やオプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
- ③無裁定条件に基づく金融商品の価格決定理論がわかる。
- ④金融市場の簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に連絡します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**Ⅱ 秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	デリバティブ入門Ⅰの復習	現在価値、無裁定条件、先物取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第3回	スワップ取引（1）	IRSとその活用方法
第4回	スワップ取引（2）	通貨スワップとその活用方法
第5回	スワップ取引（3）	スワップレートの決定理論
第6回	オプション取引（1）	コールとプット、プット・コール・パリテイ
第7回	オプション取引（2）	オプションの活用方法
第8回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第9回	オプション価格理論（1）	1期間2項モデルによるオプション価格の算出
第10回	オプション価格理論（2）	リスク中立確率とデリバティブの価格評価
第11回	オプション価格理論（3）	Yahoo! JAPAN による ZOZO の株式公開買い付け
第12回	オプション価格理論（4）	2期間2項モデルによるオプション価格の算出
第13回	オプション価格理論（5）	動的複製ポートフォリオとデルタ
第14回	オプション価格理論（6）	ブラック・ショールズ理論の概説と最近の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料を各自でダウンロードしてください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。

【参考書】

- ①岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- ②フィナンシャル・バンク・インスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2019 - 2020 年版』、2019年、日本経済新聞出版社
- ③佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2019年、ビジネス教育出版社
- ④ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション

市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う定期試験（80 %）と授業期間内の小テスト（20 %）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での事例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】

This course provides students with an introduction to derivatives. It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学のモノの見方を通して、企業の意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の分析手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにする力をつけることを目指す。

具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、それに対応する現実の事例について、理論分析の結果と現実との一致や相違点について考察する。

I では、まず、より現実的な市場競争の構造である寡占市場を理論的に分析する方法を学ぶ。カルテルや価格差別など市場で実際に見られる競争政策上の問題についても理論的に分析する。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方・モノの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

全て講義形式で行う。講義はスライドを用いる。宿題として、授業で学んだ理論を企業の事例に応用する問題や、理論的な理解を問う問題を出題し、講義内容の理解を深める。

学習内容の確認のために、数回の宿題と中間試験、期末試験を行う。2021 年春学期は、原則録画した解説動画の配信で授業を進める。学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、受講者とインタラクションを持つ機会を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ミクロ経済学で「企業」「市場（産業）」「政府」はどのように扱われているか？ 企業の数と競争の度合いとの関係（市場集中度） 独占市場、完全競争市場、寡占市場とは？
2	ミクロ経済学の復習	企業は何を決めることができるのか？ 企業の利潤はどのように決まるのか？ 完全競争市場、独占市場それぞれのメカニズムを確認する。
3	独占	独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違いとは？ なぜ独占になるのか？（規模の経済・自然独占）
4	価格差別（1）	価格差別の定義と経済モデルの紹介
5	価格差別（2）	価格差別が市場競争に与える影響と競争政策
6	価格差別（3）	価格差別の現実の事例を理論的に分析する（携帯電話や飛行機チケットなど）
7	中間試験	これまでの学習内容について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う。
8	寡占（1）	数量を決定して競争する場合（クールノー競争）企業の数が変化していくと競争はどのように変わっていくか？
9	寡占（2）	価格を決定して競争する場合（ベルトラン競争） クールノー競争との違い
10	ゲーム理論（1）	ゲーム理論とはなにか？ ゲーム理論を使うとどのような分析が可能になるのか？
11	ゲーム理論（2）	いろいろなゲームの均衡を求める。
12	ゲーム理論（3）	ゲーム理論を用いて寡占市場における数量競争・価格競争を再考する。
13	競争政策と産業組織論・事例分析	競争政策の基礎を学ぶ。 現実の競争政策上問題とされた事件を産業組織論を用いて分析する。
14	問題演習	春学期に学んだ内容について練習問題を解き解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。

『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著 有斐閣 2018 年

『ミクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2018 年

『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004 年

『プラクティカル 産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013 年

『産業組織の経済学 第 2 版』長岡・平尾著、日本評論社、2013 年

『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016 年

『競争政策論 第 2 版』小田切宏之著、日本評論社、2017 年

『経営の経済学 第 3 版』丸山雅祥著、有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】

各回の授業で出題される演習問題（宿題）40 %

中間試験 10 %

期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業動画や資料は、学習支援システム上に掲載します。

宿題も、学習支援システムを通じて提出して頂きます。

学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの動画の視聴や宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していることを受講の前提とします。産業組織論 I と II は密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期の I の内容を前提として秋学期の II が進められます）

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門 I/II、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門 I/II、経営のための経済学

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.

Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

ECN300FD

産業組織論Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

大木 良子

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学のモノの見方を通して、企業の意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の分析手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにする力をつけることを目指す。

具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、それに対応する現実の事例について、理論分析の結果と現実との一致や相違点について考察する。

Ⅱでは、春学期の産業組織論Ⅰで学んだ内容を前提とし、製品差別化や垂直的な取引制限など現実によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを学ぶ。その中で競争政策上問題とされる行動について事例を通じて理解する。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方・モノの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようにすることを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

全て講義形式で行う。講義はスライドを用いて解説する。必要に応じて、ワークシートを用いて参加者に自主的に考察する時間を設ける。

学習内容の確認のために、数回の宿題と中間試験、期末試験を行う。録画した解説動画の配信で授業を進める場合、学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、受講者とインタラクションを持つ機会を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	近年競争政策上問題となった事例の紹介
2	競争政策の復習	競争政策と産業組織論の関係について、春学期に学習した内容を概観し、秋学期の内容の位置づけを確認する。
3	製品差別化と競争（1）	差別化の源泉は何か？（立地、ブランド）
4	製品差別化と競争（2）	垂直的な製品差別化の経済モデルの紹介
5	製品差別化と競争（3）	水平的な製品差別化の経済モデルの紹介
6	参入と退出	市場における企業の数はどうに決まるのか？
7	参入阻止	参入阻止と市場競争との関係
8	中間試験	参入阻止を可能にする企業の戦略 これまで学習した経済理論について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う
9	合併	合併の経済モデルの紹介、合併が市場競争に与える影響
10	研究開発と特許	技術開発・特許制度と市場競争との関係
11	垂直的な取引制限（1）	垂直的な取引制限とはなにか？ 競争政策上問題とされる具体的な事例の紹介
12	垂直的な取引制限（2）	様々な垂直的な取引制限と市場競争との関係を理論分析する
13	ネットワーク外部性（1）	ネットワーク外部性の定義とそれらが見られる具体的な市場の紹介（検索エンジンや SNS のビジネスモデル）
14	ネットワーク外部性（2）	プラットフォーム間競争と競争政策、最近の事例の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。

『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著 有斐閣 2018 年
『ミクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2018 年
『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004 年
『プラクティカル 産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013 年
『産業組織の経済学 第 2 版』長岡・平尾著、日本評論社、2013 年
『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016 年
『競争政策論 第 2 版』小田切宏之著、日本評論社、2017 年
『経営の経済学 第 3 版』丸山雅祥著、有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】

各回の授業で出題される演習問題（宿題）40 %

中間試験 10 %

期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業動画や資料は、学習支援システム上に掲載します。

宿題も、学習支援システムを通じて提出して頂きます。

学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの動画の視聴や宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していることを受講の前提とします。産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体像を理解するために、連続した履修を強く薦めます。（Ⅰの内容を前提としてⅡが進められます）

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.

Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワークについて仕組みや役割を体系的に理解することを目的とします。

【到達目標】

情報技術、通信技術の現状を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に解説します。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても取り上げて行きます。

この科目の授業は原則として、学習支援システム（Hoppii）と Google Classroom を使用してオンデマンド形式で行います。毎回の授業では学習支援システムで提示される教材（講義資料）の内容に沿って学習を進めてください。合わせて出題される課題などについて期限までに提出してください。

課題等についての講評は適宜、学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	コンピュータの発展	計算の道具としてのコンピュータの変遷について解説する。
2	デジタル表現とコンピュータ	コンピュータの内部処理について概観する。
3	情報の量	ビット、バイトといった情報の量の表わし方について説明する。
4	アナログとデジタル	アナログとデジタルの違いについて考察する。
5	情報のデジタル化	情報のデジタル化の考え方について解説する。
6	コンピュータの動作と仕組み	コンピュータの動作原理について概観する。
7	論理演算とコンピュータ	コンピュータ内で行われる論理演算について説明する。
8	基数の変換	数の表現方法として 10 進数・2 進数などの性質や変換の方法について解説する。
9	コンピュータ内部の数と文字の表現	数や文字の内部表現や符号化について解説する。
10	コンピュータの構成装置 (1)	演算装置、制御装置、主記憶装置の機能と役割について解説する。
11	コンピュータの構成装置 (2)	補助記憶装置、入出力装置の機能と役割について解説する。
12	周辺機器の接続とインターフェース	各種機器を PC へ接続するためのインターフェースについて説明する。
13	IC とデジタル回路	論理演算を基にしたデジタル回路とその集積回路 (IC) の基礎について解説する。
14	デジタル機器とデジタル家電	PC やスマートフォンと連携する各種の身の回りのデジタル家電を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定がある場合はその範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習をしておいてください。授業後は各自で授業内容の要点を整理してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。

【参考書】

授業の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（15 %）：毎回の授業で出題されるクイズや受講確認を提出してください。

課題レポート（15 %）：授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で 2 回程度出題します。

期末考査（70 %）：期末には期末レポートを作成して提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

資料スライドの構成や図表等の提示方法について工夫を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）と Google Classroom を使用します。

【関連科目】

情報学基礎 I / II

プログラミング言語 I / II

ネットワーク論 I / II

情報学発展 I / II

【Outline and objectives】

This course focuses on a variety of information technologies and communication networks. The course aims at systematic understanding on the mechanisms and roles of the technologies mainly based on computer.

COT300FD

情報技術論Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

入戸野 健

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワークについて仕組みや役割を体系的に理解することを目的とします。

【到達目標】

情報技術、通信技術の現状を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に解説します。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても取り上げて行きます。

この科目の授業は原則として、学習支援システム（Hoppii）と Google Classroom を使用してオンデマンド形式で行います。毎回の授業では学習支援システムで提示される教材（講義資料）の内容に沿って学習を進めてください。合わせて出題される課題などについて期限までに提出してください。

課題等についての講評は適宜、学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	ソフトウェアとプログラム	ソフトウェアの特性について解説する。
2	基本ソフトとカーネル	基本ソフト（オペレーティングシステム）とカーネルの役割について説明する。
3	プログラミング言語の概要	主要なプログラミング言語の種類と用途について解説する。
4	情報インフラストラクチャーと通信ネットワーク	情報インフラとしての通信ネットワークの変遷について概観する。
5	LAN とその発展	LAN や小規模なネットワークからその発展による広域化について解説する。
6	インターネットの構成と利用技術	インターネットの仕組みとその利用技術について解説する。
7	Web 技術と e コマース	Web によるサービスの展開方法を解説し e コマースの事例を考察する。
8	マルチメディアとその応用	マルチメディアに必要となる各種の技術について解説する。
9	コンピュータグラフィックスとその応用	コンピュータグラフィックスの技法を概観し各種分野への応用事例を紹介する。
10	移動体通信と携帯電話	スマートフォンや携帯電話等の移動体通信の仕組みを解説する。
11	情報とセキュリティ	高度情報化に伴う問題・課題と必要となるセキュリティについて考察する。
12	情報技術とインターネットビジネス	インターネットを利用したビジネスモデルを考察する。
13	経営組織と情報化	経営組織・活動の情報化について概観する。
14	応用と展望	IoT（モノのインターネット）や AI（人工知能）等の応用技術を考察し今後を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定がある場合はその範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習を行ってください。授業後は各自で授業内容の要点を整理してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。

【参考書】

授業の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（15 %）：毎回の授業で出題されるクイズや受講確認を提出してください。

課題レポート（15 %）：授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で 2 回程度出題します。

期末考査（70 %）：期末には期末レポートを作成して提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

資料スライドの構成や図表等の提示方法について工夫を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）と Google Classroom を使用します。

【関連科目】

情報学基礎Ⅰ/Ⅱ

プログラミング言語Ⅰ/Ⅱ

ネットワーク論Ⅰ/Ⅱ

情報学発展Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

This course focuses on a variety of information technologies and communication networks. The course aims at systematic understanding on the mechanisms and roles of the technologies mainly based on computer.

ECN300FD

経営のための経済学

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

ECN300FD

応用経済学 I

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

宮澤 信二郎

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業の経営者あるいは部門の責任者は、どのようなことに注意して、どのように行動したら良いのでしょうか。自社の製品をどのくらい、どのように生産したら良いのでしょうか。そのとき製品の価格はどのようになるのでしょうか。どのような人を雇って、どのように処遇したら良いのでしょうか。必要となるお金はどのように調達したら良いのでしょうか。この授業では、ミクロ経済学の考え方を企業の生産・販売、人事・組織、財務に関するさまざまな問題に当てはめる（応用する）、いわゆる、「企業の経済学」、「経営の経済学」について、その初歩を学びます。同時に、最適化理論、ゲーム理論、情報の経済学、契約理論といった理論の基礎を学びます。

【到達目標】

以下の 3 点をこの授業の到達目標とします。

- 1) 企業の生産・販売、人事・組織、財務に関して、どのようなことに注意して、どのような決定をすればよいのかについて自分の頭で考えられるようになる。
- 2) 関連する経済学の考え方、つまり、最適化、ゲーム、契約の理論に関して、その基本を押さえ、具体的な状況に当てはめて考えられるようになる。
- 3) 複雑な状況の本質を押さえて、より論理的に考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、各テーマについて、具体的な状況の例を挙げながら、基本的な考え方を説明します。説明にあたっては、概念図や簡単なグラフなどを用い、なるべく直観的に理解できるようにします。質疑・応答の時間を十分に取って、必要に応じて、簡単な例題を出題するなどして、受講者の理解度を確認しながら進めます。受講者は、毎回、授業内容の復習をすることが求められます。この授業は、当面の間、Zoom による双方向オンラインで実施します。具体的なオンライン授業の方法などは、開講日までに、学習支援システムに提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	企業の経営に関して、より深く考える必要があることについて考えます。
2	個人と企業の意思決定 (1) 便益と費用	様々な意思決定の場面における便益と費用を確認し、望ましい意思決定のあり方について学びます。
3	個人と企業の意思決定 (2) 時間とリスク	現在の結果と将来の結果の関係について学びます。また、将来の結果が不確実である場合の考え方について学びます。
4	個人と企業の意思決定 (3) ゲーム理論	ほかの人たちの動きを考慮したときに望ましい意思決定のあり方と、そのときにどのような結果が実現することになるのかについて学びます。
5	取引と交渉	どのようなときに取引をするのか、取引は何をもたらすのかについて学びます。
6	取引と情報	相手が知っていることを自分が知らなかったり、自分が知っていることを相手が知らなかったりすることが取引にどのような影響をおよぼすのかについて学びます。
7	取引と組織	どのような取引をどのような相手とするとどのようなことが起こるのかを検討することを通じて、組織のあり方について学びます。
8	採用 (1) シグナリング	学歴評価を例に、労働者の能力に関する情報の問題と採用上の工夫について学びます。
9	採用 (2) スクリーニング	コース別採用を例に、労働者の能力に関する情報の問題と採用上の工夫について学びます。
10	人材 (1) インセンティブ 契約	成果給の仕組みを例に、労働者の努力に関する情報の問題と待遇上の工夫について学びます。

11	人材 (2) 人的資本投資	能力開発における企業と労働者との利害関係と待遇上の工夫について学びます。
12	資金調達 (1) 負債	企業が必要な資金を調達する手段として負債を選ぶとき、どのような問題が起こり得るのかについて学びます。
13	資金調達 (2) 株式	企業が必要な資金を調達する手段として株式を選ぶとき、どのような問題が起こり得るのかについて学びます。
14	倒産と企業再建	企業が財務危機についてどのように考え、対応したらよいのかについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業内容の復習をしてください。それ以外では、他の授業の復習や新聞を読んだりニュースを聞いたりする中で、この授業で扱っている内容と関連がある話を探し、当てはめて考える訓練をしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣（2012 年）
神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社（2004 年）
柳川範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社（2000 年）
などです。必要に応じて授業中に追加を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

レポート（2 回）100 % で評価します。ただし、出席を前提として授業を進めますので、リアクションペーパーの提出がなかったり、実質的に授業へ参加していなかったりした場合には、成績評価の対象から外すことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

（同様科目の）昨年度までの授業中に回収したリアクションペーパーの記載内容を踏まえ、学生が興味を持つような内容を、より丁寧に説明しようと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業であるため、PC あるいはスマートフォン・タブレット等が必要となります。また、資料配布・課題提出に学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- 1) 今年度から、「応用経済学Ⅰ／Ⅱ」が「経営のための経済学」（旧カリキュラムの学生の場合は「応用経済学Ⅰ」に読み替え）に科目名が変わりました。変更に合わせて、扱う内容を絞るとともに、より直感的な理解を重視するような内容に変更する予定です。
- 2) 専門入門科目の「経済学入門」と「ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱ」（旧カリキュラムの学生の場合は専門基礎科目 A 群の「ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱ」）を履修していることが望ましいですが、履修していなくても理解できるように配慮します。
- 3) 関連する専門科目として、「産業組織論」、「組織経済学」、「コーポレートファイナンス入門」（旧「企業財務論」）、「金融論」、「日本経済論」、「国際経済論」などがあります。
- 4) 担当者は銀行において貸出業務に従事した実務経験を有しています。これに関連して、企業の資金調達（銀行借入を含む）に関する授業を行います。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn various applications of basic ideas of microeconomics on corporate management regarding (i) production and sales, (ii) personnel and organization, and (iii) corporate finance. You will also learn the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.

ECN300FD

応用経済学Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

宮澤 信二郎

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学の初級から中級レベルの講義と問題演習を実施します。
企業と消費者の行動と経済全体の動きについて、理論的に分析するためのスキルを身に付けることがこの授業の目的です。

【到達目標】

以下の点をこの授業の到達目標とします。
・企業と消費者の直面するトレードオフと望ましい意思決定のあり方について説明できる。
・企業と消費者の意思決定が経済全体にどのような帰結をもたらすことになるのかについて説明できる。
・経済学の考え方と分析手法を身近な問題を検討する際に応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、各テーマについて、具体的な状況について例を挙げつつ、ミクロ経済学の理論について講義します。その際、直感的な説明に加えて、数学的な説明も行います。必要な数学的知識は授業内で補足します。並行して、理解の定着と応用力を身に付けるため、問題演習を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的・内容・進め方などについて説明します。また、ミクロ経済学の入門的な内容に関する知識を確認します。
2	需要・供給と市場均衡	部分均衡分析の手法について学習します。
3	生産者の理論（1）費用最小化	生産技術が与えられたときに総費用関数がどのように決まるのかについて学習します。
4	生産者の理論（2）利潤最大化	生産技術が与えられてときに産出物の供給と投入物の需要がどのように決まるのかについて学習します。
5	小括（1）	2～4 回で扱った内容について確認します。
6	消費者の理論（1）	消費者の選好が与えられたときに、各財の需要がどのように決まるのかについて学習します。
7	消費者の理論（2）	労働供給や資金供給がどのように決まるのかについて学習します。
8	生産要素の市場	労働や資本などの市場に関する分析手法について学習します。
9	小括（2）	6～8 回に扱った内容について確認します。
10	一般均衡分析（1）	一般均衡分析の基礎を学習します。
11	一般均衡分析（2）	交換経済における一般均衡について詳しく学習します。
12	生産者の理論（3）独占	独占市場における企業行動について学習します。
13	生産者の理論（4）寡占	寡占市場における企業行動について学習します。
14	総括	この授業で扱った内容について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の後、授業内容の復習および宿題に取り組んでください。また、必要に応じて、「ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱ」で学習したことを復習するようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定ませんが、下記の参考書の一部を参照します。

【参考書】

マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第4版）』東洋経済新報社（2019 年）
神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社（2014 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）と期末テスト（50 %）で評価します。
平常点は授業と宿題への取り組み状況により評価します。出席しているだけでは評価できませんので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

理解を深め、応用力を身に付けてもらうため、問題演習に取り組んでもらうようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業であるため、PC あるいはスマートフォン・タブレット等が必要となります。また、資料配布・課題提出に学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- 1) この科目は 2018 年度以前に入学した学生向けの科目です。2019 年度以降に入学した学生は受講できません。
- 2) カリキュラム改編との関係で、授業で扱う内容は、昨年度以前のものから大きく変更されています。
- 3) 専門基礎科目 A 群の「ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱ」を受講済みであることを前提として授業を進める予定です。もし受講していない場合は、開講までに自習しておくことが望まれます。
- 4) 授業の細かなレベルや講義と演習バランスについては、受講者の要望に応じて調整します。

【Outline and objectives】

This class offers a series of lectures and exercises on microeconomics at the beginner to intermediate level.

The purpose of this class is to acquire the skills to theoretically analyze the behavior of businesses and consumers and the performance of the economy as a whole.

LAN100ZA

English Test Preparation for IELTS

Marcus LOVITT

Credit(s)：2 | Semester：春学期授業/Spring | Year：1～4

Day/Period：月 4/Mon.4

Notes：＜成績優秀者の他学部科目履修制度利用者＞ 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

English Test Preparation for IELTS is designed to teach language skills, effective test-taking techniques, and strategies for the IELTS examination.

【Goal】

This course is designed for students who are interested in improving their English test scores or who want to study in the United Kingdom, Australia or New Zealand in the future. Its purpose is to help you attain advanced command of English, which shall be reflected in your IELTS test scores.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 4”.

【Method(s)】

Students will learn effective strategies for increasing scores in each section of the IELTS through class discussion and exercises throughout the course. These include becoming familiar with the test format, understanding question types, and learning how to expand speaking and writing responses. Personal advice on methods of individual study (which is strongly recommended) will be given as required. As this is a skills-based course, emphasis will be placed on practical skills rather than class lectures. To this end, students will also participate in regular vocabulary and idiom quizzes, as peer review activities. Feedback on coursework will be given during class. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	・ Learn the characteristics of the IELTS exam and how it differs from other standardized tests
2	Writing I	・ Introduction to the writing section. The class will look at question types, scoring and test strategies ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
3	Speaking I	・ Introduction to the speaking section. The class will study question types, scoring and test strategies ・ Practice for Speaking Part 1 ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
4	Listening I	・ Introduction to the listening section. We will cover questions types, scoring and test strategies ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
5	Reading I	・ Introduction to the reading section. The class will cover question types, scoring and strategies ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
6	Writing II	・ Practice for writing task 1. The class will study language for summarizing data. ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
7	Mid-term examination; Speaking II	・ This class will consist of a short exam to test student progress ・ Practice for speaking part 2

8	Listening II	・ The class will undertake listening and summarizing exercises ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
9	Reading II	・ The class will do exercises for the reading section and practice techniques such as skimming and scanning ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
10	Writing III; Speaking III	・ Practice for writing task 2. The class will study opinion techniques, paraphrasing etc. ・ Practice for speaking parts 2 & 3 ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
11	Listening III; Reading III	・ Practice for listening tasks 3 & 4 ・ Practice for reading section (timed exercises, etc.) ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
12	Writing IV; Speaking IV	・ Review of the writing and speaking sections
13	Listening IV; Reading IV	・ Review of the listening and reading sections
14	Final Examination and Wrap-Up	Assessing the degree to which students understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

1. Pauline Cullen, Amanda French, et al. The Official Cambridge Guide to IELTS Student's Book with Answers with DVD-ROM. Cambridge English (Feb 27, 2014)
2. Cambridge Univ Press. IELTS 14 Academic Student's Book with Answers with Audio: Authentic Practice Tests (Jun 20, 2019)

【References】

1. Essential Words for the IELTS: With Downloadable Audio by Lin Lougheed Ph.D. Barrons Educational Series. Third edition (December 1, 2016)

【Grading criteria】

Assessment will be based on the following:

1. Class participation and homework (30%)
2. Mid-term exam / practice test (30%)
4. Final exam (40%)

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Not applicable

【Prerequisite】

None.

CAR100ZA

Professional Communication

Mark James BIRTLES

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Communication is one of the key skills employers look for in potential employees. The rapid diversification of global communications and the collapse of traditional professional working practices in the first two decades of the 21st century have made these skills even more salient; modern employers increasingly demand transferrable skills, interdisciplinary knowledge and an ability to address a diverse audience. At their very heart, these competencies are enhanced by an ability to understand, construct and manipulate written information in order to use them in a variety of situations.

[Goal]

Graduates with a good command of English are likely to end up in the global job market, so this course aims at giving students a competitive edge in their chosen career path. This course aims to help students prepare for the English-language job hunting process and provides an overview of the key professional communication styles, as well as a chance to see how these have a real application in the professional world.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

[Method(s)]

The first half of the course will look at the English-language job hunting process, from the identification of a suitable job advertisement to the creation of a cover letter and résumé (CV). Students will learn how to make their application documents stand out from the crowd and then take part in a mock interview for the job. These documents and skills can then be used in real-life job or internship applications. The second half of the course then aims to build familiarity in some of the key forms of professional communication, such as press releases, emails and business documents. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Job Hunting: Writing a CV I	Explanation of the features of a good résumé
3	Job Hunting: Writing a CV II	Producing an English language résumé
4	Job Hunting: The Cover Letter I	Explanation of the features of a good cover letter
5	Job Hunting: The Cover Letter II	Writing an original cover letter
6	Job Hunting: Preparing for an Interview	What will they ask?
7	Mock Job Interviews	Students will participate in a mock job interview with the instructor
8	Professional Writing: Style and Tone	Putting ideas into words quickly and concisely
9	Formal Emails	Striking the right tone in communication
10	Editing	Common errors and ways to improve written English
11	Press Releases	The basics of how to prepare information for publication
12	Reports	Communicating business information
13	Agendas and Minutes	Outlining standard layouts of everyday documents
14	Final Exam and Wrap Up	Written examination and summary

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No single textbook will be used; the instructor will provide materials.

[References]

Anderson, J. & Dean, D. (2014). *Revision decisions: talking through sentences and beyond*. Portland, US: Stenhouse Publishers.

Garner, B. (2012). *Harvard Business Review guide to better business writing*. Boston, US: Harvard Business Review Press.

Marsen, S. (2020). *Professional writing (fourth edition)*. London, UK: Palgrave Macmillan.

Strunk, W & White, E. (1999). *The elements of style (fourth edition)*. Boston, US: Allyn & Bacon.

[Grading criteria]

Class participation (10%), assignments (25%), CV and cover letter (20%), mock interview (20%), final exam (25%).

[Changes following student comments]

Following feedback from previous students, the example documents we look at will be from real companies (as opposed to fictional ones created for the course.)

[Equipment student needs to prepare]

A laptop will be required in many sessions. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

[Prerequisite]

None.

PRI100ZA

Statistics

Yuji OGIHARA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
 Day/Period : 水 3/Wed.3

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

In this course, students learn basic concepts and skills of statistical methods and data analysis.

【Goal】

The objective of this course is twofold. First, students learn basic concepts in statistics (e.g., mean, standard deviation, standard error, normal distribution, t-test and regression analysis). Second, practical skills for visualizing data and conducting appropriate statistical tests are introduced and students practice them using statistical software.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This is an introductory course on statistical methods and data analysis. It explains the basic ideas behind statistical testing and covers various statistical methods for survey and experimental data. Each class combines a lecture with hands-on exercises (free statistical software are used). In addition, an assignment is given after every class. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted assignments. Students are encouraged to ask questions and to be actively involved in the class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of course and requirements
2	Descriptive Statistics (1)	Introducing basic descriptive statistics (e.g., mean, median, mode)
3	Descriptive Statistics (2)	Introducing basic descriptive statistics (e.g., standard deviation, variance, standard error)
4	Correlation	The relationship between two variables
5	Population and Sample	Random sampling and distribution of population
6	Probability Distribution	Probability distribution and Z-score
7	Hypothesis Testing and Statistical Tests	Testing your hypothesis using statistical tests and sampling distribution
8	Regression Analysis (1)	Single regression analysis
9	Regression Analysis (2)	Multiple regression analysis
10	T-test (1)	Testing if the difference is significant
11	T-test (2)	Related and unrelated t-tests
12	Analysis of Variance	Introducing ANOVA
13	Categorical Data Analysis	Introducing categorical data analysis
14	Summary & In-class Exam	Overall summary and in-class exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are encouraged to review their lecture notes and handouts after each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【References】

References will be introduced in class.

【Grading criteria】

Students will be evaluated on the basis of participation and exercises (50%) and in-class exam (50%). No credit will be given to students with more than two unexcused absences.

【Changes following student comments】

None.

【Others】

This course is strongly recommended for students interested in various disciplines in social sciences.

Those who take and pass this course may be given priority in the enrollment of some of the psychology courses.

【Prerequisite】

None.

LANe100ZA

Translation

Sarah ALLEN

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 水 4/Wed.4

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

To improve Japanese-to-English translation and intercultural communication skills. Major emphasis will be placed on: 1) non-verbatim translation, 2) logical clarity, and 3) language accuracy and 4) intercultural communication.

【Goal】

Students will learn to how to: (1) choose the appropriate English when translating from Japanese to English (2) use natural, idiomatic English (3) convey information and meaning accurately, logically, and in the proper register.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This introductory-level course in Japanese-to-English translation will be conducted in a workshop style. Methods will include both sight translation and written translation. In sight translation, students will be called on, individually and in groups, to orally translate a text from Japanese to English on the spot. This will be followed by feedback, discussion, and write-up. Students will also complete translation exercises and submit written translations for homework and peer review. Material will be taken from newspaper and magazine articles, essays, and short literary and academic texts. Feedback on homework assignments will also be given in class in the form of discussion and examples.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation	Explanation of the course, short practice
2	What is a Translation?	Background & history of Japanese-to-English translation; short practice
3	Sight Translation (1)	In-class oral translation (1); identifying difficult areas
4	Sight Translation (2)	In-class oral translation (2); transitions
5	Translation Skills	What skills constitute competence?
6	Peer Review	Evaluating and editing; criteria
7	Kinds of Meaning (1)	Review; mid-term take-home exam
8	Sight Translation (3)	In-class oral translation (3); sentence structure
9	Sight Translation (4)	In-class oral translation (4); grammar
10	Kinds of Meaning (2)	Types of meaning and ambiguity; register
11	Sight Translation (5)	In-class oral translation (5); idiomatic usage
12	Sight Translation (6)	In-class oral translation (6); editing decisions
13	Discourse Genres	Tenses, clauses, complex sentences, style, structure
14	Summary	In-class final exam and wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are asked to read and complete all assignments before class and come prepared to share their translations and participate in class discussions and critique. Students may be asked to resubmit translation work after discussion and critique. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Handouts will be provided by the lecturer.

【References】

Hasegawa, Yuko. *The Routledge Course in Japanese Translation*. New York: Routledge, 2011.

Other references will be given in class.

【Grading criteria】

(1) Participation 20% (2) Homework 30% (3) Mid-term 25% (4) Final exam 25%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Dictionary

【Prerequisite】

None.

ART100ZA

Drama Survey

Tony DANI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 4/Fri.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course provides the student with an academic and practical backdrop to contemporary dramatic practice, with particular emphasis given to the study of devised theatre and improvisation.

[Goal]

By the end of this course, students will have:

1. Experienced various techniques required to create an original character through observation and improvisation
2. Increased their self-confidence and their ability to work as a team
3. Learnt how to use their imagination - more effectively - as a tool for creating their own scene or scenes

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

1. This course will employ a number of teaching methods relevant to the subject, ranging from activity based classes, group discussions, research assignments and culminating in student presentations.
2. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction, Overview and Homework Task	Selection procedure. Please note that students taking this course will also be required to prepare an introductory task for the following week. Full details will be given
2	Presentation of Homework	Individual presentations
3	Research Assignment	Students will research into, prepare, and write an assignment on an actor, play, movie or musical of their choice
4	Introduction to Improvisation in Theatre	Acting improvisation activities will be taught and students will have the opportunity to practice those activities with their classmates
5	Improvisation and the Actor	Students - working in groups - will create an improvised scene to present to the rest of the class
6	Theatre Activities	Students will be taught a series of theatre activities aimed at building trust, focus and a group dynamic
7	Theatre Activities	Students will be taught a series of theatre activities aimed at exploring how an actor can create a character through observation & other techniques
8	Character Development	Students will be required, for homework, to observe someone in as much detail as possible and that observation will then form the basis of their character development in successive classes
9	Character Development Research	Students will present their character observations in action at the start of class. Students will then be taught how to transform their observations into the creation of an original character

10	Character Development Towards Performance	Students will be given a partner with whom they will devise an original scene or scenes which explore the relationship between their 'characters'
11	Character Development Rehearsals	Students will be taught a series of rehearsal techniques which help explore and analyse their characters and their evolving scripts
12	Character Performances Rehearsals	Students will rehearse their evolving scripts
13	Character Performances	Performances will be given to the class
14	Final Performance Feedback	Wrap-up & Review. One to one feedback from your instructor will be given on your final performances. There will also be an opportunity for peer group and self evaluations

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must complete any homework tasks given prior to or following certain classes.

Please note: due to the practical nature of this course, the syllabus is subject to change and therefore students should be prepared for a certain amount of flexibility in terms of course content and deadlines. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Material - when necessary - will be provided by the instructor and distributed in class.

[References]

A list of related references - when necessary - will be provided by the instructor.

[Grading criteria]

Mid-term research assignment: 10%

Character development research assignment: 30%

Participation: 20%

Final presentation performance: 30%

Final presentation performance self-evaluation: 10%

[Changes following student comments]

Having come to the end of this academic year, one which was taught entirely remotely, I am now able to fully reflect on the experiences of my students and those of my own. I was particularly aware that I needed to offer more one-to-one feedback to my student's character research and performances. This is an issue which is particularly prevalent when teaching remotely on video communication platforms such as Zoom. I will endeavour to use the University's LMS - as well as face to face meetings - to communicate such feedback. Finally, I will continue to be open to modification, concerning my teaching methodologies and course content, in response to each class and the needs of individual students.

[Others]

My Drama Workshop and Drama Survey courses can be taken as independent courses or as ones which compliment, and feed into, each other. Also, please note that, with prior arrangement and availability, students can consult with their course instructor directly after class.

[Prerequisite]

None.

HIS100ZA

History of Modern Europe

Markus WINTER

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

The world we live in is a world of sovereign (nation-)states. It seems as if the states as we know them today have always been there, at least in some form. This course will examine this view and look at the major developments in Western history from the 18th to the 20th century that shaped our modern world:

The emergence of modern states, 1789, the idea of the nation and nationality; the Industrial Revolution; colonisation and imperialism; the idea of 'balance of power'; the onset of mass democracy; and two world wars.

[Goal]

1) Gain an in-depth understanding of the origin of European state-and-nation-building, its impact on the world, and how it still shapes our perceptions today; 2) Identify the major intellectual, economic, and political developments from 1789-1945; 3) understand how 'modernity' and 'modern life' took shape in Western Europe and why; 4) Train your academic writing and speaking skills.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course has three components: 1) The main component of the class is a series of lectures. 2) Each class will begin with a discussion part about the previous lecture and examine the larger developments and connections between lectures. 3) Lastly, at the end of the course, you will be asked to hand in a brief essay / give a presentation, depending on the number of students taking the course.

Feedback will be given to each individual student's graded work in writing.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	A State in the Middle Ages?	The creation of the sovereign state - what is 'sovereignty'?
2	Varieties of Absolutism	How 'absolute' was absolutism? The Tilly Thesis
3	1789: the Watershed	The French Revolution: causes, triggers and ramifications
4	1789: the Aftermath	The triumph of absolutism after 1789? Napoleon; liberalism; the 'Holy Alliance'
5	The Concert of Europe	The post-Napoleonic order: Balance of Power; the Great Powers; the system of Bismarck; the German question; the question of nationalism
6	Europe - an Anomaly?	Modernity; capitalism; the Industrial Revolution; Europe - an anomaly?
7	Review & Mid-term Exam	A short exam on the topics covered in the readings & the lectures so far
8	Nationalism and the Nation-State in the Nineteenth Century	The forging together of state and nation; the meaning of nationalism: the Gellner Thesis
9	Heart of Darkness	Colonisation; Orientalism; the internationalisation of the European order
10	Social Change	This lecture will look at the other side of the coin - the social changes created by all the previously studied political developments, such as changing gender and family roles, as well as the rise of the modern consumer economy

11	The Collapse of the Concert of Europe	Setting the stage for World War I: the growing complexity of the international system
12	'The Great War': World War I	Strategies, objectives & the uncertain outcome; 'total war'; the Treaty of Versailles
13	The Rise of Totalitarianism & World War II	Strategies, objectives & ramifications; the disenchantment of the world: the Holocaust
14	Great Expectations: Beyond the Nation-State?	The beginnings of a supranational European institutional order [DEADLINE: submit your final essay in both hard copy & digital copy]

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

1) Please read the assigned literature and take brief notes of the main arguments of the texts as preparation for the in-class discussion. 2) Brief country paper (ca. 5 pages) or presentation, due at the end of the term: Pick any European country you like and write about one specific aspect of its historical development that we address in this class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Merriman, John. (2010). *A History of Modern Europe* (Volume Two): From the French Revolution to the Present. New York: Norton & Company.

[References]

<http://legacy.fordham.edu/Halsall/mod/modsbook13.asp> A very useful collection of primary sources, such as letters from Marie Antoinette, the Declaration of the Rights of Man, or writings from von Metternich. Ordered according to topic (see menu bar on the left) & <http://avalon.law.yale.edu/default.asp> Similar to the Fordham collection, but listed chronologically.

[Grading criteria]

Participation: 20%; Mid-term exam: 30%; Country essay: 50%

[Changes following student comments]

Each lecture will start with a ca. 20 minute discussion of the main themes of the previous lecture.

[Prerequisite]

None.

HIS100ZA

History of Modern East Asia

Chris Hyunkyu PARK

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 4/Thu.4

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This course employs two perspectives to understand the histories of modern China, Japan, Korea, and Taiwan in the context of tradition and globalization from the late 19th century to the present. It examines the struggles of these four countries to preserve or establish their boundaries, identities, and cultures in a rapidly emerging modern world order. The course also looks at how individuals respond to and are shaped by the variety of modernity(ies).

The main questions that will be asked and addressed are:

What and why does the history of East Asia matter where capitalism has reached into all corners of the world and the term 'globalization' has become a cliché?

What are the major transformations and lines of continuity in East Asian history?

What factors in the historical development of modern China, Japan, Korea, and Taiwan explain changes and continuity?

【Goal】

This course has some basic goals including: 1) To familiarize students with some fundamental concepts of reconciliation, peace, and coexistence in a range of historical contexts; 2) To encourage students the capacity to analyze and to interpret historical theories and case studies in the local and global context of East Asia (China, Japan, Korea(s), and Taiwan) to ensure a transnational perspective; and 3) To help students develop an in-depth understanding of national, regional, and global dimensions in the makings of modern East Asia and interactions by shedding particular lights on human agency, nongovernmental organization, and local dynamics in East Asia to think critically about historical narratives.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

This course highly encourages students to engage in discussion and debate, and the capacity to interpret historical theories and case studies in the local and global context.

In addition, it is possible that some comments from the reaction papers may be introduced in class to elaborate on each lecture and to facilitate discussions.

Comments for assignments and the final reports are given through email.

Please check your university email account and Hoppii regularly to keep yourself updated.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course & Self Introduction	Description and explanation of the course
2	Decline of Chinese Hegemony, Rise of World Capitalism	lecture
3	Nationalism, Modernization & Reform I: China	Lecture and Discussion (Readings will be TBA)
4	Nationalism, Modernization & Reform II: Japan	Lecture and Discussion (Readings will be TBA)
5	Japan Builds an Empire: Revolution or Reactionary Reform?	Lecture and Discussion (Readings will be TBA)
6	Colonial Modernity and Imperial Subjects I: Korea	Lecture and Discussion (Readings will be TBA)
7	Colonial Modernity and Imperial Subjects II: Taiwan	Review Essay Due

8	Contested Histories: The Pacific War and its Legacies	Lecture and Discussion (Readings will be TBA)
9	Marxist-Leninist Revolution in East Asia I: North Korea (Case studies)	Lecture and Discussion (Readings will be TBA)
10	Marxist-Leninist Revolution in East Asia II: Mao's Revolution in China (Case studies)	Lecture and Discussion: "Edgar Snow, Red Star Over China: The Classic Account of the Birth of Chinese Communism."
11	Japan, South Korea, and Taiwan under U.S. Hegemony: Postwar and Postcolonial Nation Building I: Japan	Lecture and Discussion (Readings will be TBA)
12	Japan, South Korea, and Taiwan under U.S. Hegemony: Postwar and Postcolonial Nation Building II: South Korea	Lecture and Discussion (Readings will be TBA)
13	Japan, South Korea, and Taiwan under U.S. Hegemony: Postwar and Postcolonial Nation Building III: Taiwan	Lecture and Discussion (Readings will be TBA)
14	Conclusion: A History of East Asia in Global Perspective	Group Presentation and Discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

It is important to note that all assignments must be completed to pass the course, and all assignments must be completed on time or be marked down accordingly (for papers, five points per day late).

In addition to preparing for discussions, students are expected to read and review class materials before each class. It requires at least 2-3 hours to prepare for this class.

【Textbooks】

None.

【References】

Rebecca E. Karl, Mao Zedong and China in the Twentieth-Century World: A Concise History (Durham: Duke University Press, 2010)
Anita Chan, Richard Madsen, & Jonathan Unger, Chen Village: Revolution to Globalization (Berkeley: University of California Press, 2009)

Leo T.S. Ching, Becoming Japanese: Colonial Taiwan and the Politics of Identity Formation (Berkeley: University of California Press, 2001)

Andrew Gordon, A Modern History of Japan from Tokugawa Times to the Present (New York: Oxford UP, 2014)

John W. Dower, Embracing Defeat: Japan in the Wake of World War II (New York: W.W. Norton & Company, 1999)

Bruce Cumings, Korea's Place in the Sun: A Modern History (New York: W.W. Norton, 2005)

【Grading criteria】

Class Participation and Discussion: 30%, Presentation & Review Essay: 30% (in class presentation 15%, and a review essay 15%), Final Group Project: 40% (a group presentation 15%, and a final group report 25%)

【Changes following student comments】

n/a

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Others】

The additional readings will be distributed before class.

【Prerequisite】

None.

ART100ZA

Music Appreciation

Cathy Lynn COX

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 水 4/Wed.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブ
サイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注
意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

What is music, how is it made, and what does it mean to 'appreciate' it? In this course we will investigate these and other questions surrounding music-making and musical experiences. Each week students will participate in directed listening and other activities as we explore various genres of music with an emphasis on Western music traditions.

[Goal]

Students will be able to:

- (1) develop vocabulary to talk about music;
- (2) develop listening skills;
- (3) develop ability to interpret, appreciate, and critique music in a variety of forms and contexts.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The course is taught through a combination of lectures, guided listening sessions, musical activities, and group discussions. The course will facilitate self-learning through required weekly reading and listening assignments that will be assessed through short writing assignments, as well as collective learning through a final group presentation. Feedback will be given collectively in class or through the Learning Management System (Google Classroom), depending on the nature of the assignment. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course and requirements; selection evaluation
2	Music and Language	Music as a sound-based means of communication closely linked to poetry and oral storytelling traditions.
3	Melody	Investigation of modes & scales, melodic range, melodic contour, and melodic motion through analysis and creative activity.
4	Time and Rhythm	Music as a time-based artform that may be pulsed or unpulsed. Introduction to concepts of tempo, meter, beats, and syncopation.
5	Movement and Gesture	Dance rhythms and other musical traditions linked with physical movement and the body.
6	Timbre	Describing the 'sound' of sound: differences among instruments, voices, playing styles.
7	Texture	How different voices or instrument parts are woven together to create the fabric of music, layers of different sounds.
8	Studio production	Hearing and understanding contemporary sound production techniques.
9	Repetition and Form	Understanding various approaches to large-scale musical structure
10	The Art of Performance	Improvisation, interpretation, cover-versions and mashups.
11	Music Analysis 1	Student-led discussions and presentations of music analysis projects

12	Music Analysis 2	Student-led discussions and presentations of music analysis projects
13	Music Analysis 3	Student-led discussions and presentations of music analysis projects
14	Review and Wrap-Up	Review of topics and materials

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read assigned texts, listen to assigned recordings, and complete assigned writing and creative tasks. Students are also expected to find music examples to share with the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Required weekly reading and listening assignments will be made available by the instructor.

[References]

Schafer, R. M. (1992). *A Sound Education: 100 Exercises in Listening and Sound-Making*. Indian River, ON: Arcana Editions.
Small, C. (1998). *Musicking: The Meanings of Performing and Listening*. Middletown, CT: Wesleyan University Press.

[Grading criteria]

Class Participation: 40%,
Short Writing Assignments: 40%,
Group Presentation: 20%

[Changes following student comments]

Following student feedback, integrated opportunities for music-making activities.

[Equipment student needs to prepare]

Some in-class activities may require the use of computers, tablets or smartphones for the creation and/or playback of sound.

[Others]

Class materials and assignments can be accessed through Google Classroom.

[Prerequisite]

None

ART100ZA

Drama Workshop

Tony DANI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 4/Fri.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course provides the student with an introduction to the experiences of an actor in training and will focus on the performance of a section of a play or movie.

【Goal】

By the end of this course, students will have:

1. Experienced various techniques required to assist in the theoretical and practical analysis of dramatic text on its textual and subtextual levels
2. Increased their self-confidence and their ability to work as a team
3. Learnt how to create an original character based on the given and implied information from the given text
4. Learnt how to stage their play by way of scenery, music, effects and the theatrical technique of 'blocking'
5. Learnt the rudimentary approaches to directing and being directed

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

1. This course will employ a variety of teaching methods relevant to the subject, ranging from activity based classes, group discussions, research assignments and culminating in student presentations.
2. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Selection procedure. Please note that students taking this course will also be required to prepare an introductory task for the following week. Full details will be given
2	Student Introductions and First Task	Introductory task presentations.
3	Theatre Activities	Students will be taught a series of theatre activities aimed at building trust, focus and a group dynamic
4	Research Assignment, Casting & Partner Announcement	For the research assignment, students will research into, prepare, and write an assignment on an actor, play, movie or musical of their choice. It is also planned that students will be given their script and be told their acting partner for their final performance.
5	Text Workshop: the Actor in Training 1	How to work from a script into performance
6	Text Workshop: the Actor in Training 2	Continued: how to work from a script into performance
7	Read-through Commences	Each group will have the opportunity to hear each other's scenes with an initial reading clearly expressing an understanding of the script, the characters and their relationship to each other
8	Read-through Continues	Read-through continues
9	Rehearsals	Students will have the opportunity to rehearse their scripts. Guidance will be given on rehearsal and text analysis techniques
10	Rehearsals (Continued)	Students will have the opportunity to continue to rehearse their scripts

11	Technical Run-Through	Students will have the opportunity to practice their scripts with set, costume, makeup, sound, props and music
12	First Set of Performances	The first group of students will perform to the class
13	Second Set of Performances	The second group of students will perform to the class
14	Self and Peer Group Evaluations	Wrap-up & review. Students will have the opportunity to share their self and peer group evaluations with their fellow students and teacher in class. The evaluations will then be submitted at the conclusion of the class

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students must complete any pre and post class homework tasks. Please note: due to the nature of this course, the syllabus is subject to change and therefore students should be prepared for a certain amount of flexibility. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Material will be provided by the instructor and distributed in class.

【References】

A list of related references - when and if necessary - will be provided by the instructor.

【Grading criteria】

Mid-term research assignment: 10%

Script analysis research assignment: 30%

Participation: 20%

Final presentation performance: 30%

Final presentation performance self-evaluation: 10%

【Changes following student comments】

Having come to the end of this academic year, one which was taught entirely remotely, I am now able to fully reflect on the experiences of my students and those of my own. Based on feedback from my students for this course, I was made aware that I sometimes under-estimated the amount of time that was needed to complete certain activities and therefore, I will allow for more flexibility in the amount of time given in future classes. This is an issue which is particularly prevalent when teaching remotely on video communication platforms such as Zoom. Finally, I will continue to be open to the modification of my teaching methodologies and course content in response to each class and the needs of individual students.

【Others】

My Drama Workshop and Drama Survey courses can be taken as independent courses or as ones which compliment, and feed into, each other. Also, please note that, with prior arrangement and availability, students can consult with their course instructor directly after class.

【Prerequisite】

None.

ART100ZA

Manga Studies

Stevie Tongshun SUAN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 2/Thu.2

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This class will provide an introduction to the field of manga studies. Here we will explore how manga operates as a type of media, analyzing manga from a multidisciplinary perspective. This means that we will look at manga from a variety of different perspectives, including its modes of reading/viewing, economics, aesthetics, and political history while considering its place in Japanese society and abroad. We will learn what makes manga specific as a type of media and how that allows us to delve into its particularities. This includes examining how manga mediated different shifts in Japanese society, as we explore the differences in the major manga genres, and how they cover various topics, from gender to memory. Beyond the local, we will ask what manga made outside of Japan can tell us about global the spread of media. We will also ask what manga, a media form that developed from paper and print, can tell us about other issues regarding the digitalization of our world as it moves into new formats for the 21st century.

[Goal]

In addition to teaching the students information about manga, its surrounding cultures, and business practices, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn the specific history of manga; 2) how to analyze manga as media; 3) examine how manga interacts with other media and society; 4) explore how to critically engage with manga.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Classes will be lecture-based, with visual material such as clips of films and animation. Students will be asked to have group discussions and analysis on certain themes and specific manga. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based on the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their presentations and papers. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric provided to the students (by email or a handout). Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Manga or comics?
2	Manga's Visuals	Manga's visual language
3	Making Manga's History	Are there pre-modern manga?
4	Pre-war Manga	Manga in Meiji and Taisho Japan
5	Post-war Manga	Tezuka Osamu's legacy
6	Media Influences	Manga, cinema, and anime's interactions
7	Genres I	Industrial genres: mainstream manga
8	Genres II	Shōjo manga and gendered expression
9	Genres III	Gekiga and existential themes
10	Genres IV	Alternative manga
11	Digital Manga	Effects of changing formats
12	Global Manga	Manga made outside of Japan
13	Student Presentations I	Feedback and preparations for final paper

14 Student Presentations II Feedback and preparations for final paper, wrap-up of semester

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

[References]

Berndt, Jaqueline, editor. *Manga, Comics and Japan: Area Studies as Media Studies*. Vol. 156, *Orientaliska Studier*, 2018, <https://orientaliskastudier.se/tidskrifter/156-2/>.

[Grading criteria]

Participation 20%

Presentation 40%

Final exam 40%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Prerequisite]

None.

ART100ZA

Manga Studies

Stevie Tongshun SUAN

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 3/Fri.3

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This class will provide an introduction to the field of manga studies. Here we will explore how manga operates as a type of media, analyzing manga from a multidisciplinary perspective. This means that we will look at manga from a variety of different perspectives, including its modes of reading/viewing, economics, aesthetics, and political history while considering its place in Japanese society and abroad. We will learn what makes manga specific as a type of media and how that allows us to delve into its particularities. This includes examining how manga mediated different shifts in Japanese society, as we explore the differences in the major manga genres, and how they cover various topics, from gender to memory. Beyond the local, we will ask what manga made outside of Japan can tell us about global the spread of media. We will also ask what manga, a media form that developed from paper and print, can tell us about other issues regarding the digitalization of our world as it moves into new formats for the 21st century.

【Goal】

In addition to teaching the students information about manga, its surrounding cultures, and business practices, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn the specific history of manga; 2) how to analyze manga as media; 3) examine how manga interacts with other media and society; 4) explore how to critically engage with manga.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will be lecture-based, with visual material such as clips of films and animation. Students will be asked to have group discussions and analysis on certain themes and specific manga. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based on the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their presentations and papers. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric provided to the students (by email or a handout).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Manga or comics?
2	Manga's Visuals	Manga's visual language
3	Making Manga's History	Are there pre-modern manga?
4	Pre-war Manga	Manga in Meiji and Taisho Japan
5	Post-war Manga	Tezuka Osamu's legacy
6	Media Influences	Manga, cinema, and anime's interactions
7	Genres I	Industrial genres: mainstream manga
8	Genres II	Shōjo manga and gendered expression
9	Genres III	Gekiga and existential themes
10	Genres IV	Alternative manga
11	Digital Manga	Effects of changing formats
12	Global Manga	Manga made outside of Japan
13	Student Presentations I	Feedback and preparations for final paper
14	Student Presentations II	Feedback and preparations for final paper, wrap-up of semester

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Berndt, Jaqueline, editor. *Manga, Comics and Japan: Area Studies as Media Studies*. Vol. 156, Orientaliska Studier, 2018, <https://orientaliskastudier.se/tidskrifter/156-2/>.

【Grading criteria】

Participation 20%

Presentation 40%

Final exam 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

ART100ZA

Visual Arts

Shiho KITO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火 3/Tue.3

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Everyone takes photographs in some way or another, but not everyone is conscious of the responsibilities that come with it. How can we get better at taking photographs while respecting the subject, the medium and our own interests? In this course, we use cameras to explore 'documentary photography', how it developed from its inception to the present day, as well as the challenges it faces in an era of post-truth.

【Goal】

The course aims to foster a critical eye towards photographically generated images. Gaining insight into what documentary photography is/isn't, students will learn the basics of 'making' photographs (e.g. composition, shutter speed, aperture, lighting etc.) and gain practical experience in working with real-life subjects. Drawing upon these skills, students produce a project portfolio on a theme to be decided in class.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

This course uses a practice-based learning approach. Workshops, assignments and supporting lectures are employed to develop students' understanding of documentary photography from its beginnings to today. Students create an Instagram account for the course and post one photograph daily in response to a weekly class project. Final submission comprises a project portfolio, a written project statement, and evidence of participation (i.e., weekly assignments). Attendance is recorded weekly using visual media (e.g. photograph). Submission of assignments and mutual feedback are to be uploaded on Slack. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introducing the course and expectations
2	Composition	Learning about basic composition within photographs.
3	Lighting	Making use of available light and flash light.
4	Early Documentary Photographers	Discussing early issues for photography as a documentary medium and introducing its key practitioners.

5	Time, Clocks and Depth of Field	Exploring photography's relationship with time and creating / reducing depth in an image.
6	Document the Artists	Discussing the relationships between documentary and art in photography
7	Contemporary Documentary Photographers	Discussing contemporary issues for photography as a diverse range of practices and introducing key practitioners.
8	Documentary Concepts	Exploring and developing achievable documentary projects.
9	Project Proposals	Discussing and preparing project proposals.
10	Documentary Strategies	Exploring and developing strategies for documenting subjects.
11	Editing Selections	Exploring possibilities through pattern, sequence and narrative.
12	Peer Review	Assembling and reviewing draft portfolios with peer groups.
13	Final Portfolio Review and Submission	Reviewing final portfolios prior to submission.
14	Final Presentation and Wrap-up	Final students' presentation on their projects and feedback session.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students must regularly take photographs. Every week students are expected to participate in a weekly photo project on Instagram, which will be discussed in class. In order to do so, students are expected to create a new Instagram account and post a single image taken daily (7 days x 12 weeks = 84 images). They are also expected to use the photobook resource in the library and do assigned readings. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts and reading materials will be distributed in class.

【References】

Barthes, Roland (1993) *Camera Lucida: Reflections on Photography*, Vintage Classics.
 Batchen, Geoffrey (2011) *Photography Degree Zero: Reflections on Roland Barthes's Camera Lucida*, MIT Press.
 Berger, John (2013) *Understanding a Photograph*, Penguin Books.
 Fontcuberta, Joan (2014) *Pandra's Camera*, Mack.
 Gibson, David (2014) *The Street Photographer's Manual*, Thames & Hudson.
 Heng, Terence (2016) *Visual Methods in the Field: Photography for the Social Sciences*, Routledge.
 Lubben, Kristen (2014) *Magnum Contact Sheets*, Thames & Hudson.
 Meyerowitz, Joel and Westerbeck, Colin (2017) *Bystander: A History of Street Photography*, Lawrence King.
 Sontag, Susan (1977/2008) *On Photography*, Penguin Classics.
 Additional references will be provided by the instructor in class.

【Grading criteria】

Participation: this applies to daily posts (or multiple image posts for a project) to Instagram for weekly photo projects (minimum of 84 images total for projects). More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

Portfolio: each student must produce a portfolio (booklet) of 8-12 images selected from photographs made of one subject during the course. Students are free to choose their subject but it must be discussed with the instructor and peers. A written project statement will be required. A template for the portfolio will be provided.

Presentation: each student must make a short presentation (3 minutes) about their final projects.

The final grade is based on: Participation 30%, Presentation 20%, Portfolio 50%.

[Changes following student comments]

Changes have been made to help students to produce photographs of a higher conceptual and practical skill as well as design and present their projects.

[Equipment student needs to prepare]

Students will need a laptop, a camera (any mobile-phone cameras will do) and general stationary (e.g. pen, pencil, glue, tape, paperclips). Please note that the use of a smartphone camera is acceptable for this course. However, if you have regular access to a better camera, please bring it and the instructor will show you how to use it.

[Others]

Students are expected to come to class on time, participate and show interest.

The instructor is a practicing photographer/researcher whose work have been shown at international media and exhibitions.

[Prerequisite]

None.

ART100ZA

Topics in Arts: Fine Arts

Suzanne Carol MOONEY

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 1/Fri.1

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Drawing is at the root of expression and communication in fine art. Through this course, students gain a fundamental understanding of art, while also pushing the boundaries of drawing beyond a traditional understanding of the medium. The skills being taught start with traditional drawing methods, and throughout the course, the definition of drawing is expanded to include elements of photography, digital imaging, and computer code.

Fine art is often dismissed as purely subjective and beyond comprehension or academic interrogation. Through a structured, methodical approach to image-making, supported by a comprehensive introduction to basic theory, and examples of these methods in practice, students will gain the ability to hone in on an area of interest and apply drawing and image-making as a means of research or expression.

[Goal]

Learning how to 'look' is the biggest obstacle to successful drawing. Before even considering how to reproduce the appearance of an object or form, one must see beyond the obvious and the expected. Through active engagement in guided practical class activities and the production of an individual portfolio, students will gain an understanding of the potential of fine arts as a communicative tool, in addition to aesthetic experience and self-expression.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Students engage in weekly practical exercises supported by lectures introducing relevant artists and their works. Exercises take the form of drawing activities that ask students to visually explore an object/subject.

Working towards an individual approach, students produce a portfolio of drawings. In addition to a final portfolio of drawings, students are required to keep a weekly sketchbook and take part in presentations and discussions in class.

Students will receive direct feedback and critique in class, combined with regular written feedback or grades for assignments submitted online. For major assignments, a grading rubric will be provided and explained in detail.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction & doodling	Introduction to course content. Explanation of requirements and expectations. Short lecture on the history of drawing. Practical exercise: first drawings.
2	Gesture	Observing and rendering a subject in terms of line and feeling. Learn how to use quick sketching techniques. Ignore details to make drawings that capture the weight and pose of an object or person. Practical exercise: Gesture drawing.
3	Mark-making & tactility	Observing and rendering a subject in terms of controlled marks. Instruction on getting the full range of marks from your tools. Practical exercise: Mark-making.

4	Light & dark	Observing and rendering a subject in terms of light, shade and erasure. Positive and negative space Understanding light and form. Instruction on how to use dark and light shading to render form. Practical exercise: Shading.
5	Drawing in 3D	Exploring three-dimensional space with line: Wireframe drawing; Isometric drawing and linear perspective. Beginning a drawing without a drawing surface. Practical exercise: Perspective drawing.
6	Lines, angles, mathematics and logic	Study of the use of mathematics art. Practical exercise: Two-point perspective and patterns.
7	Light-painting	Making drawings using time and light. Considering photography in drawing and also the relationship between time and light in drawing image. Practical exercise: Drawing with light and drawing with shadows.
8	Pixel painting	Understand pixels and digital image data. Learn about correct scaling for screen and for print. Use layers to build complex digital images. Practical exercise: Editing scanned images.
9	Vectors	Using computer software/apps for making scalable drawings in a digital environment. Understand the difference between vector graphics and pixels, and the application of vector graphics in drawing, illustration and design. Practical exercise: Basics of vector drawing.
10	Visual coding	Code and creative programming in generative drawing. Instructional lesson in basic computer coding for generative drawing and motion graphics. Practical exercise: Editing and writing simple drawing programs.
11	Portfolio preparation	Table discussions reviewing drawings produced so far. Group Discussions.
12	Presentation preparation	Preparation for making video presentations about one artist and the role of drawing within their practice. Individual consultations and group work in preparation for individual video presentations.
13	Portfolio review	In class portfolio presentation and critique for all students. Individual presentations to the class.
14	The bigger picture	Individual presentations(continued) and considering the application of drawing beyond this course. Class discussion.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Students are be required to complete practical activities outside of class time.

In addition to class activities and regular notebook work, students will be required to spend time every week working towards their portfolio before the final review.

Research on an artist selected by the student will also be expected.

[Textbooks]

No textbook will be used

[References]

Winter, Roger (2008) On Drawing Rowman & Littlefield Publishers
Berger, John (1977) Ways of Seeing, Penguin Books. • Dexter, Emma (2005) Vitamin D: New Perspectives in Drawing. Phaidon Press.
The Drawing Projects: An Exploration of the Language of Drawing. Black Dog Publishing.
On Drawing, Roger Winter. Rowman & Littlefield Publishers, 2008

発行日：2021/5/1

【Grading criteria】

Participation and attitude - 25%

Tasks - 30%

Completed portfolio - 30%

Presentation - 15%

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

A sketchbook (A3) and notebook (A5-A4) with plain white paper.

Loose sheets of paper for quick sketching.

Basic drawing materials:

Pencils (ex. 2B, 4B, 6B)

Black ball-point pen

30cm ruler

Soft eraser

Charcoal or chalk pastels

A computer will be required for some classes.

Additional materials will be specified throughout the course as required.

【Prerequisite】

None.

ART100ZA

Topics in Arts: Visual Communication Design

Gary MCLEOD

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 土 2/Sat.2

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブ
サイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注
意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

Few images seen on walls and in public spaces are randomly created. Many are designed to grab our attention and make us want to do something, whether it be desire a car, a drink, a movie, or to share in an idea such as a political message or charity. Images always carry messages and this course explores such messages through the practice of making them.

【Goal】

During this course, we will learn how visual messages are conveyed through the acquisition of essential skills (e.g. use of grids, balance, rhythm, typography). We will also develop a working understanding of the impact that images have upon contemporary society. In doing so, the course aims to encourage students' critical awareness of the surrounding visual environment.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Blending theory and practice to introduce the basics of Visual Communication Design, the first part of the course looks at how and why we “read” images in different ways. The second part looks at supporting students through the process of designing a poster. To develop a contextual understanding of the subject, students also create a dedicated Instagram account for posting pictures of advertisements seen around Tokyo. Final submission comprises a final project (poster) and evidence of participation (Instagram posts). Attendance is recorded weekly using visual media (e.g. photograph). Feedback is given via dialogue and discussion of work in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Sight and Perception	Introducing the course and expectations.
2	Visual Cues	Looking at the many cues that the brain receives when looking at images and how to use them.
3	Visual Theories	Exploring theories associated with the act of seeing.
4	Visual Persuasion	Discussing the use of persuasion and the commonality of propaganda.
5	Visual Stereotypes	Exploring stereotypes within the contemporary visual landscape.
6	Visual Analysis	Analyzing images using Lester's six perspectives.
7	Visual Literacy	Discussion of advertisements in Tokyo.
8	Layout	Exploring the value of different layouts in design.
9	Typography	Exploring the history and use of typefaces for design.
10	Images	Looking at ways to reproduce/scale/multiply images within designs.
11	Colour	Exploring colour as a communicative decision for design.
12	Constructive Feedback	Getting feedback on poster designs.
13	Peer Review	Making final amendments and adjustments to designs.
14	Taking Responsibility	Discussing the future of advertisements.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to download and read assigned readings prior to lectures. Students are also expected to create a new Instagram account and post a single image taken daily (7 days x 13 weeks = 91 images). The project will require a number of hours spent outside of class in order to make the work. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Lester, Paul Martin (2014) *Visual Communication: Images with Messages*, Wadsworth Cengage Learning.

Additional handouts and reading materials will be will be uploaded on H'etudes or distributed in class.

【References】

Ambrose, Gavin and Harris, Paul (2011) *Basics Design 01: Format*, Fairchild Books.

Ambrose, Gavin and Harris, Paul (2011) *Basics Design 02: Layout*, 2nd Edition, Fairchild Books.

Ambrose, Gavin and Harris, Paul (2005) *Basics Design 03: Typography*, Fairchild Books.

Ambrose, Gavin and Harris, Paul (2006) *Basics Design 04: Image*, Fairchild Books.

Ambrose, Gavin and Harris, Paul (2007) *Basics Design 05: Colour*, Fairchild Books.

Berger, John (1977) *Ways of Seeing*, Penguin Books.

Frascara, Jorge (2004) *Communication Design: Principles, Methods, and Practice*, Allworth Press.

Triggs, Teal and Atzmon, Leslie (2017) *The Graphic Design Reader*, Bloomsbury.

Additional references will be provided by the instructor in class.

【Grading criteria】

Participation: this applies to class-activities, assigned readings and daily posts to Instagram. More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

Final Project: each student must produce and exhibit one poster design (A2 size) relating to a topic chosen in class.

The final grade is based on: Participation 40% and Final Project 60%.

【Changes following student comments】

Changes reflect feedback and suggestions. Thank you.

【Equipment student needs to prepare】

Students will need a laptop, a camera, a workbook (e.g. blank sketchbook/notebook), and general stationary (e.g. pen, pencil, glue, tape, paperclips). Students will also need access to a printer and know how to use it. Paper and other basic art materials may also be requested on a weekly basis.

【Others】

Being naturally creative is not a requirement for this course. However, students are expected to come to class on time, participate and show interest.

【Prerequisite】

None.

LIN100ZA

Contrastive Linguistics

Geraldo FARIA

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 水 2/Wed.2

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

In this course, you will learn how Contrastive Linguistics is defined as an academic subject. By drawing on topics related to variations within a language (i.e. dialects) or between related languages, this course provides an accessible and engaging overview of Contrastive Linguistics.

[Goal]

The development of practical skills through the acquisition of a basic knowledge of Contrastive Linguistics. Three main skills are emphasized: 1) finding similarities and differences between dialects or related languages; 2) compiling data for documentation and analysis; and 3) gaining basic knowledge of under-documented and endangered languages.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

After an introduction to the topics in the form of mini-lectures, examples from target languages are presented for discussion and analysis. This course contains assignments and writings outside of class, which may be presented in class. Note that the suggested topics may vary slightly depending on the number of registered students and their interests. Finally, submissions of assignments and their feedback will be via Google.docs (unless students are notified previously). Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

なし / No

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course and requirements
2	Concepts	Contrasts and similarities between dialects of a language and related languages
3	Diachronic Changes of a Language/Dialect 1	Examination of changes (sound variations): comparisons and contrasts
4	Diachronic Changes of a Language/Dialect 2	Examination of changes (lexical variations): comparisons and contrasts
5	Contrastive Descriptions	From speech sounds to discourse, seven types of contrasts will be examined
6	Phonological Contrasts	Various techniques will be introduced to examine intralingual and interlingual data. Midterm review quiz.
7	Contrasts between Writing Systems	Synchronic and diachronic examination of writing systems.
8	Morphological Contrasts	Diachronic and synchronic comparisons of data will help students to better understand two variants of intralingual and interlingual data
9	Lexicological Contrasts	Variations of word meanings intralingually and interlingually
10	Phraseological Contrasts	Variations of collocations will be examined cross-dialectally
11	Syntactic Contrasts	Structuring sentences across languages is examined to better describe and produce well-formed sentences in a second language
12	Textual Contrasts	Contrasting recorded diachronic oral stories

13	Presentations	Students will give short academic presentations
14	Consolidation	End-of-course assessment, feedback, and wrap-up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete weekly reading assignments before class and review previous handouts before the following class.

They should also organize their notes in the form of a notebook or computer file.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. The teacher will provide handouts, reading material, and links to online data.

[References]

Austin, Peter and Julia Sallabank. *The Cambridge Handbook of Endangered Languages*. Cambridge University Press, 2011 ISBN 9780521882156

Moravcsik, Edith. *Introducing Language Typology*. Cambridge University Press, 2013 ISBN 9780521193405

The teacher will suggest material appropriate to the students' projects and interests through either the Internet or reference books available at the university library.

[Grading criteria]

Grades will be based on exams (mid-term 30% and final 30%), assignments 30%, and participation 10%.

[Changes following student comments]

No feedback yet received.

[Equipment student needs to prepare]

Quick researches online are at times required; therefore, a laptop or smartphone may be used for such searches.

[Prerequisite]

None.

A willingness to tackle language-related puzzles.

EDU100ZA

Language Education in the Digital Era

Robert PATERSON

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 土 1/Sat.1

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course will aim to teach students the current best practices in educational technology for language learning with reference to teaching professionals. As such, we will explore pedagogical approaches to using technology as well as the actual educational technology apps and eco systems that can be used.

[Goal]

By the end of the course students should be able to:

- 1 - understand the Google educational eco systems for teachers and students,
- 2 - be able to use the Google apps and approaches for their project work in (4) below,
- 3 - work collaboratively in teams using the apps and tools in (2) above to complete the work in (4) below,
- 4 - create and design an appropriate project website that hosts students' multimedia work,
- 5 - maintain a personal reflective blog for the duration of the course and share it with the class and teacher.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 2" and "DP 4".

[Method(s)]

Some classes will have a mini demonstration of various ed-tech tools by the teacher followed by time for students to repeat the same actions by themselves. Other classes will teach various research techniques using technology, followed by longer periods of research time for students to gather information. All classes will have homework - sometimes design work, sometimes research work, sometimes written work, and sometimes commenting on the work of others. At the beginning of class feedback for the previous classes homework will be given by the teacher. All assignments will be done on Google Docs/Slides/Sites/Blogs and checked online at the start of the next class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Class Intro & Intro to Educational Technology	Students will be introduced to the class themes and told what apps / log ins and devices they need to take the course.
2	Schools of Thought in Educational Technology	This class will be an overview of the different philosophical and pedagogical schools of thought on educational technology in schools and colleges / universities.
3	Google in Education 1	This course will provide an overview of Google's apps and tools for education and the educational benefits it offers.
4	Google in Education 2	This course will provide a further overview of Google's apps and tools for education and the educational qualifications Google offers.
5	Other Ed-tech Players in Education	This course will provide an overview of other 3rd party apps and tools for education and the educational qualifications these other groups offer.
6	Educational Technology Pedagogies 1	This week we will explore in detail the first set of pedagogical approaches that use some of the apps / tools previously covered.

7	Educational Technology Pedagogies 2	This week we will continue to explore in detail the second set of pedagogical approaches that use some of the apps / tools previously covered.
8	Mobile Language Learning	Here we will examine mobile language learning - i.e. how mobile devices like tablets and smart phones can be used. We will cover the pros and cons of using these devices and the apps on them.
9	SNS in Education	Here we will examine SNS language learning - i.e. how SNS apps can be used. We will cover the pros and cons of using different SNS accounts and how to use them educationally.
10	Project Work 1	Here we will start the team project work. Each team will have a full digital portfolio of apps and tools and will have made a multimedia website using Google Sites.
11	Project Work 2	Continuation of Project week 1 above including guidance on how to give engaging presentations.
12	Project Work 3	Continuation of Project week 1 above.
13	Final Project Presentations 1	In these last two weeks the student groups will present their findings to the others in the class.
14	Final Project Presentations 2 & Feedback	Detailed feedback on all the course work.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

There will be some homework readings almost every week as well as the weekly blog writing and project work. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbooks - all materials will be supplied by the teacher.

[References]

No reference books - all materials will be supplied by the teacher

[Grading criteria]

Participation - 10%

Weekly blog work - 10%

Other weekly homework - 10%

In class performance - 10%

Final project work - 60% (website design - 10% / slideshow - 10% / video - 10% / presentation performance - 10% / written report - 20%)

[Changes following student comments]

Previous students from the academic 2020 year, gave the course very good feedback so I plan to keep it much the same.

[Equipment student needs to prepare]

All students will need a personal Gmail account as the Hosei ones have many things turned off. Also having your own laptop would be very useful. Alternatively, a tablet and smart phone would be okay.

[Others]

This course should be fun as you will be learning many things about technology in education that is not commonly taught to students. So come with an open mind and be ready to learn.

[Prerequisite]

None.

LIN100ZA

Second Language Acquisition

Junya FUKUTA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 水 4/Wed.4

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with an essential understanding of second language acquisition (SLA).

【Goal】

By the end of this course, students will:

- (1) Understand important concepts and theories in SLA research
- (2) Understand basic research methods in the SLA field
- (3) Learn the potential and limitations of applying SLA findings to second language teaching and learning

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

【Method(s)】

The course will be conducted via presentations by students, explanation of key terms by lecturer, discussion, and group work. Students are required to read an assigned chapter and give a presentation in each class. I strongly encourage students to make the effort to contribute to discussions by asking questions and sharing your own ideas. The content of presentations and discussions will be evaluated as "class participation". Feedback will be given on the content of the presentation and the students' comments on that occasion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientations	- Course overview
2	Introduction to SLA	- What is SLA?
3	Age	- On various age effects on SLA and critical period hypothesis
4	Crosslinguistic influence	- On L1-L2 linguistic transfer
5	The linguistic environment	- On the influence of environment on SLA
6	Cognition	- Information processing in psychological aspects of SLA
7	Development of learner language 1	- Cognitivist explanation
8	Development of learner language 2	- Development of syntax
9	Foreign language aptitude	- On the role of aptitude in SLA
10	Motivation	- Various aspects of motivation in SLA
11	Affect and other individual differences	- On individual differences such as personality, speaking styles, anxiety, willingness to communicate, and learning strategies
12	Social dimensions of L2 learning 1	- Sociocultural and interactionist approach
13	Social dimensions of L2 learning 2	- Process of socialization
14	Review and Concluding Remarks	- wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to read assigned chapters of the textbook, and to prepare to make a presentation several times in the class. This procedure is expected to take at least two hours each week.

【Textbooks】

Ortega, Lourdes. (2009). *Understanding second language acquisition*. London: Hodder. ISBN-13: 978-0340905593

【References】

Lightbown, Pasty M. & Nina Spada. (2013). *How Languages are Learned* (Oxford Handbooks for Language Teachers) 4th. Oxford University Press. ISBN-10: 0194541266

【Grading criteria】

Evaluations will be based on:

- (1) Class participation (30%)
- (2) Presentation (40%)
- (3) Final report (30%)

Note that no credit will be given to the students with more than two unexcused absences.

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

EDU100ZA

Comparative Education

Machiko KOBORI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 火 4/Tue.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course provides a range of global perspectives of motivational issues as core elements in second language (L2) education within the context of comparative education. Focusing on social, cognitive and educational aspects of motivational psychology, it explains the development of the motivational studies to learn second languages (L2s) and significant variables of L2 motivation within the global context. It also explains how they are affected by globalisation and local settings related to L2 learners such as their ethnic backgrounds, age, L2 learning conditions, etc., especially in the teaching of English (foreign languages). This course also studies how to put the related knowledge into practice: it gives an insight into collections of the related research studies ranging worldwide and is expected to stimulate debate on how to deal with motivational aspects effectively in L2 education.

【Goal】

Upon completion of this course, students should be able to do the following:

1. Understand theories of motivation and motivation to learn L2s.
2. Explain the core issues of different perspectives of motivation to learn L2s.
3. Examine the connection between L2 motivational theories, and global and local issues of L2 education.
4. Examine how the expertise of L2 motivation is effectively introduced to L2 education.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The presentation, final exam and writing assignment are required for the completion of this course; students are to choose one of the course topics and are required to make a presentation and submit a writing assignment on it. Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems (HOPPII and OATube).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guidance on Comparative education
2	The development of the L2 motivational studies (1)	Theories of motivation in psychology: classical perspectives
3	The development of the L2 motivational studies (2)	Theories of motivation in psychology: socio-psychological perspectives (1)
4	The development of the L2 motivational studies (3)	Theories of motivation in psychology: socio-psychological perspectives (2)
5	The development of the L2 motivational studies (4)	Theories of motivation in psychology: cognitive-psychological perspectives (1)
6	The development of the L2 motivational studies (5)	Theories of motivation in psychology: cognitive-psychological perspectives (2)
7	The development of the L2 motivational studies (6)	Theories of motivation in psychology: educational-psychological perspectives (1)
8	The development of the L2 motivational studies (7)	Theories of motivation in psychology: educational-psychological perspectives (2)
9	Global perspectives of L2 motivation (1)	Exploring cross-sectional studies
10	Global perspectives of L2 motivation (2)	Exploring longitudinal studies

11	Presentation (1)	Preparation for presentation: checking contents, materials, procedure and performance
12	Presentation (2)	Discuss and review (1)
13	Presentation (2)	Discuss and review (2)
14	Consolidation of Comparative education	Final exam and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Every week before attending class, students are required to comprehend the assigned readings.
2. Students are required to choose one of the related topics and write a reflective paper.
3. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

5. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2011). *Teaching and researching motivation*. Cambridge UP.

【References】

1. Apple, T. M., Silva, Da D., & Fellner, T. (eds.). (2013). *Language learning motivation in Japan*. Multilingual Matters.
2. Apple, T. M., Silva, Da D., & Fellner, T. (eds.). (2017). *L2 selves and motivations in Asian contexts*. Multilingual Matters.
3. Dörnyei, Z. (2005). *The psychology of the language learner*. LEA.
4. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (eds.). (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.
5. Dörnyei, Z. et al. (2006). *Motivation, language attitudes and globalisation: A Hungarian perspective*. Multilingual Matters.
6. Ushioda, E. (2013). *International perspectives on motivation: Language learning and professional challenges*. Palgrave Macmillan.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Presentation (30%)
3. Writing assignment (30%)
4. Final Exam (30%)

More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】

More frequent and detailed notices of class activities and tasks will be given in order to allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

【Equipment student needs to prepare】

PC

【Others】

None.

【Prerequisite】

None.

LANf100ZA

French A I

Masamichi SUZUKI

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 月 4/Mon.4

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位
 < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること。A と B をセットで履修すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This course is designed for beginners (or more advanced students). The aim of this course is to help students acquire basic skills of communication. In our epoch of "globalization", knowledge of only one foreign language (for example, English) is far from sufficient. By learning French, students will have more opportunities to work on the world stage.

【Goal】

The goal of this course is to develop basic daily communication skills: asking for information, answering questions, speaking about themselves, and understanding simple texts.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
 Will be able to gain "DP 3".

【Method(s)】

Mr.Okamura (French BI) and I will use the same text book (see below) and conduct the class in relay. The students will learn all basic skills - speaking, listening, reading and writing although learning of practical skills takes precedence in this course. (Mr. Okamura will rather focus on learning the grammar. It is therefore required that students attend both of the courses). Active participation is necessary not only for the acquisition of communicative skills through various means (e.g. role-playing), but for an understanding of French culture or that of other French-speaking countries.

Students will get information about the course by way of Learning Management System (LMS).

During the semester, the students are required to submit several assignments through LMS. They will get them back equally through LMS. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation - Initiation 1 Bonjour.	Greeting
2	Initiation 2 Je suis français.	Greeting
3	Lesson 1 Il s'appelle comment?	Introduction; Asking questions about people
4	Lesson 2 Qu'est-ce qu'elle fait dans la vie?	Asking about jobs
5	Lesson 2 Vous parlez anglais?	Expressions about jobs
6	Lesson 3 Vous connaissez Omar Sy?	Do you know...? 1
7	Lesson 3 Quelle langue est-ce qu'on parle au Canada?	Do you know ...? 2
8	Lesson 4 Qu'est-ce que vous aimez?	Expressing likes and dislikes
9	Lesson 4 Qu'est-ce que vous préférez, la mer ou la montagne?	Sunday
10	Lesson 5 Qu'est-ce que vous aimez faire le week-end?	Expressing what one wants to do

11	Lesson 5 Tu voudrais faire quoi ce week-end?	Telephone
12	Lesson 6 Vous aimez le golf?	Explaining preferences
13	Examination Lesson 6 Comment est-ce qu'elle est?	Examination Explaining preferences
14	Review of examination Lesson 6 Elle n'est pas sérieuse.	Review of examination Explaining preferences

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1st week: Review of greetings and preparation for the next lesson

2nd week: Homework and preparation for the next lesson

3rd week: Review of introductions and preparation for the next lesson

4th week: Review of expressions for jobs and preparation for the next lesson

5th week: Homework and preparation for the next lesson

6th week: Homework and preparation for the next lesson

7th week: Review of expressions of likes and preparation for the next lesson

8th week: Homework and preparation for the next lesson

9th week: Homework and preparation for the next lesson

10th week: Review of expressions for phone conversation and preparation for the next lesson

11th week Review of expressions for favorite activities and preparation for the next lesson

12th week: Homework and preparation for the next lesson

13th week: Review of presentation expressions and preparation for the examination

14th week: Total review

Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

Spirale nouvelle édition 『新スパラルー日本人初心者のためのフランス語教材』, Gaël Crépieux, Philippe Callens, 高瀬智子, 根岸純, アシェット・ジャポン (Hachette Japon), 2015 年

【References】

『英語がわかればフランス語はできる』久松健一、駿河台出版社、1999 年

French Demystified: A Self-Teaching Guide, Annie Heminway, McGraw-Hill, 2007

【Grading criteria】

Progress will be assessed by classwork and assignments. A term-end examination (including a listening test) will be held. Continuous assessment: 50%; term-end examination: 50%. If the term-end examination is not possible to organize, the grade will be given on the basis of the accumulation of assignments. Students must work routinely at home: they must read aloud expressions and sentences given in the textbook. They must be able to use them in oral or writing class activities. Active participation in role-playing is important.

【Changes following student comments】

Last year, Covid-19 forced me to rely uniquely on assignments for the evaluation of students' class performance; every-week submission seems to have caused some difficulties on both sides of the students and the instructor: delay of submission, submission of a wrong work, delay of feedback and so on. I will put more interval between two assignments so that the class organization might be easier.

【Others】

Students should also attend Mr.Okamura's course French BI.

【Prerequisite】

None.

【】

This course is designed for beginners (or more advanced students). The aim of this course is to help students acquire basic skills of communication. In our epoch of "globalization", knowledge of only one foreign language (for example, English) is far from sufficient. By learning French, students will have more opportunities to work on the world stage.

LANf100ZA

French A II

Masamichi SUZUKI

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 月 4/Mon.4

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位
< 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより
3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照
すること。A と B をセットで履修すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This course is designed for beginners (or more advanced students). The aim of this course is to help students acquire basic skills of communication. In our epoch of "globalization", knowledge of only one foreign language (for example, English) is far from sufficient. By learning French, students will have more opportunities to work on the world stage.

【Goal】

The goal of this course is to develop basic daily communication skills: asking for information, answering questions, speaking about themselves, and understanding simple texts. The students must make an effort to reach the level A1 of CEFR.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 3".

【Method(s)】

As in the spring semester, Mr. Okamura (French BII) and I will use the same text book (see below) and conduct the class in relay. The students will learn all basic skills - speaking, listening, reading and writing although learning of practical skills takes precedence in this course. (Mr. Okamura will rather focus on learning of the grammar. It is therefore required that students attend both of the courses). Active participation is necessary not only for the acquisition of communicative skills through various means (e.g. role-playing), but for an understanding of French culture or that of other French-speaking countries. Students will get information about the course by way of Learning Management System (LMS). During the semester, the students are required to submit several assignments through LMS. They will get them back equally through LMS.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation, Lesson 7 Quel âge avez-vous?	Speaking about oneself
2	Lesson 7 Vous avez quels cours le mardi matin?	University life
3	Lesson 8 Est-ce que vous avez une voiture?	Describing objects
4	Lesson 8 Excusez-moi, vous avez un stylo, s'il vous plaît?	In the class
5	Lesson 9 Le Louvre, qu'est-ce que c'est?	Describing sights
6	Lesson 9 Est-ce qu'il y a un restaurant italien dans le quartier?	Asking for directions
7	Lesson 10 Madame, qu'est-ce que vous faites demain?	Asking about activities
8	Lesson 10 Qu'est-ce que vous lisez en ce moment?	Asking for more details
9	Lesson 11 Est-ce que vous faites du sport?	Speaking about one's activities

10	Lesson 11 Quels sports est-ce que les hommes font en général en France?	Interview
11	Lesson 12 Tu habites avec ta famille?	Speaking about one's family
12	Lesson 12 Qu'est-ce que vous avez fait?	Past tense 1
13	Examination Lesson 13 Où allez-vous ce week-end?	Examination Asking about one's plan
14	Review of examination Lesson 13 Est-ce que vous êtes sorti ce week-end?	Review of examination Past tense 2

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1st week: Homework and preparation for the next lesson
2nd week: Homework and preparation for the next lesson
3rd week: Review of expressions for sightseeing and preparation for the next lesson
4th week: Review of expressions for directions and preparation for the next lesson
5th week: Review of expressions for activities and preparation for the next lesson
6th week: Homework and preparation for the next lesson
7th week: Homework and preparation for the next lesson
8th week: Homework and preparation for the next lesson
9th week: Reviews of expressions for family members and preparation for the next lesson
10th week: Reviews of expressions for E-mail and preparation for the next lesson
11th week: Review of expressions for destination and preparation for the next lesson
12th week: Homework and preparation for the next lesson
13th week: Reviews of the past tense and preparation for examination
14th week: Total review
Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

The same textbook that is used during the first semester:
Spirale, Nouvelle édition, Gaël Crépiaux, Philippe Callens,
Tomoko Takase, Jun Negishi, Hachette, 2015

【References】

『英語がわかればフランス語はできる』久松健一、駿河台出版社、1999 年
French Demystified: A Self-Teaching Guide, Annie Heminway,
McGraw-Hill, 2007

【Grading criteria】

Progress will be assessed by classwork and assignments. A term-end examination (including a listening test) will be held. Continuous assessment: 50%; term-end examination: 50%.

If the term-end examination is not possible to organize, the grade will be given on the basis of the accumulation of assignments. Students must work routinely at home: they must read aloud expressions and sentences given in the textbook. They must be able to use them in oral class activities. Active participation in role-playing is important.

【Changes following student comments】

Last year, Covid-19 forced me to rely uniquely on assignments for the evaluation of students' class performance; every-week submission seems to have caused some difficulties on both sides of the students and the instructor: delay of submission, submission of a wrong work, delay of feedback and so on. I will put more interval between two assignments so that the class organization might be easier.

【Others】

Students should also attend Mr.Okamura's course French BII .

【Prerequisite】

None.

【】

This course is designed for beginners (or more advanced students). The aim of this course is to help students acquire basic skills of communication. In our epoch of "globalization", knowledge of only one foreign language (for example, English) is far from sufficient. By learning French, students will have more opportunities to work on the world stage.

LANf100ZA

French B I

Tamio OKAMURA

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 水 2/Wed.2

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

< 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること。A と B をセットで履修すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

フランス語初級文法を学ぶ。時間のゆるすかぎりフランス語圏の社会・歴史・文化に関する情報を紹介する。

We study Elementary French grammar.

【Goal】

フランス語初級文法の修得。初級レベルのオーラル能力。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

授業開始日：4 月 22 日。French AI と連動し、教科書『Spirale Nouvelle édition』に関する文法を学習し、練習問題を解く。また『新版 3 段階チェック式フランス語トレーニング・コース』を使用し、体系的な文法学習を補う。各課終了ごとに小テスト (10 ～ 20 点満点) を行う。Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	ガイダンス	講義の趣旨や計画に関する説明。 Initiation(導入)。 -主語人称代名詞 -動詞 aller -男性形と女性形
2	Initiation のつづき	-動詞 être -動詞 aller -動詞 faire
3	Leçon 1	-否定文
4	Leçon 1	-疑問文
5	Leçon 2	-所有形容詞
6	Leçon 2	-名詞・形容詞の男性形／女性形
7	Leçon 3	-動詞 connaître -人称代名詞 on-定冠詞
8	Leçon 3	-定冠詞 1
9	Leçon 4	-動詞 préférer
10	Leçon 4	-定冠詞 2
11	Leçon 5	-不定法
12	Leçon 5	-vouloir の条件法現在
13	Leçon 6	-形容詞の男性形／女性形 2 -trouver の用法
14	期末テストと総括	期末テスト

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

前回の復習。ときどき宿題。各課終了ごとに小テストを出すのでその準備をすること。Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『Spirale スピラール』日本人初學者のためのフランス語教材 Nouvelle édition (アシェット・ジャボン、2015 年)
『新版 3 段階チェック式フランス語トレーニング・コース』(白水社、2003 年)

【References】

講義内で適宜指示する。

【Grading criteria】

授業内評価 40% + 期末試験 60%

具体的な方法と基準は、FrenchAI と擦り合わせ、学習支援システムで提示する。

【Changes following student comments】

授業内で復習できなかった宿題を評価後に返却する。

【Others】

『Spirale』という同一教科書を French AI と交互にレリーしながら使用するので、必ず French AI と合わせて履修すること。なお BI では『フランス語トレーニング・コース』も使用する。初回から 2 冊の教科書を使用するので、生協で購入しておくこと。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となる。

【Prerequisite】

None.

LANf100ZA

French B II

Tamio OKAMURA

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 水 2/Wed.2

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

< 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより
 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること。
 A と B をセットで履修すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

フランス語初級文法を学ぶ。

We study Elementary French grammar.

【Goal】

要点を身につけると同時に日常生活のテーマを通して、フランス語の会話を向上させる。さらに語学力とフランス文化についての知識を養うことを目指す。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

日本人教師とフランス人教師が行う授業です。テーマに即した会話のパターンを開き、語彙、文法を説明し、練習問題を繰り返す。そして、ペアでロールプレーなどを行い、フランス語を磨く。その上、フランスについての簡単な資料を使って、理解力を深める。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Révisions	復習
2	Leçon 7	自分について話す (年齢、学年)
3	Leçon 7	科目について話す 時間の使い方
4	Leçon 8	時間割について話す 持っているもの
5	Leçon 8	所有を表す
6	Leçon 9	物を借りる ある場所について説明し、 情報を求める
7	Leçon 9	名所について情報を求める 位置づける
8	Review & Test	中間テスト
9	Leçon 10	何をするか尋ねる、答える
10	Leçon 10	詳しくきく
11	Leçon 11	趣味・余暇について話す 頻度を表す
12	Leçon 11	習慣について話す
13	Leçon 12	家族について話す
14	Test & Wrap-up	テスト

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

宿題（書く練習をする） Preparatory study and review time for this class
 are 1 hour.

【Textbooks】

『Spirale スピラルー日本人初学者のためのフランス語教材 Nouvelle édition』
 (アシェット・ジャボン)

『新版 3段階式フランス語トレーニング・コース』（白水社）

【References】

授業内で適宜指示する。

【Grading criteria】

授業内評価 40 % + 期末試験 60 %

具体的な方法と基準は、French BI と擦り合わせ、学習支援システムで提示する。

【Changes following student comments】

授業内で復習できなかった宿題を評価後に返却する。

【Others】

『Spirale』という同一教科書を French A II と交互にレリーしながら使用する
 ので、必ず French A II と合わせて履修すること。初回から教科書を使用
 するので、生協で購入しておくこと。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となる。

【Prerequisite】

None.

LANs100ZA

Spanish A I

Taiga WAKABAYASHI

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 金 5/Fri.5

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位
 < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより
 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主修科目の履修上の注意を参照
 すること。A と B をセットで履修すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

This course begins with the Spanish alphabet. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting. The feedback for homework will be given through Hoppii Learning Assistant System.

While this class will be held on campus, please note that the first week will be offered online to avoid overcrowding the classroom. The Zoom URL for the first class will be announced on Hoppii Learning Assistant System before the semester begins. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
	Alphabet	The Spanish alphabet
2	Pronunciation and Accent	Rules of Spanish pronunciation and spelling
3	Gender, Singular and Plural	Masculine, feminine and neuter nouns of Spanish Singular and plural form of nouns
4	Definite and Indefinite Articles	Definite (“el”, “la”, “lo”) and indefinite (“un”, “una”) articles Their distinction and singular / plural forms
5	Adjectives I	Inflection of adjectives with vowel and consonant termination
6	Adjectives II	Inflection of adjectives which express place-names and nationalities Adjectives whose termination is omitted by inflection
7	Conjugation of the Verb “ser”	Conjugation of the verb “ser” which expresses nature and quality
8	Mid-term Exam Self-introduction	Practice of self-introduction in Spanish Asking and telling the place of origin
9	Conjugation of the Verb “estar” Expression of Existence	Conjugation of the verb “estar” which expresses state and condition The phrase “Hay ...” which expresses “There is ...”
10	Existence, Quality and State	How to differentiate among “ser”, “estar” and “hay” Prepositions and pronouns
11	Regular Indicative Conjugation of Verbs (present tense)	Rule of regular indicative conjugation of verbs with “-ar”, “-er” and “-ir” terminations

12	Expression of Time I Numbers I	Expression of time to say “at ... o'clock” Numbers from 1 to 12
13	Demonstrative Adjectives and Pronouns	Demonstrative adjectives (“este/a”, “ese/a”, “aquel/lla”) and pronouns (“esto”, “eso”, “aquello”)
14	Final Exam & Wrap-up	Final exam (written) Review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary using a dictionary.

Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）、2011 年、2205 円

【References】

A Spanish-Japanese dictionary is essential for Spanish learning. Students have to bring a dictionary to the class every week. Although a particular dictionary is not required, 『西和中辞典』（小学館） is recommended. Also an electronic dictionary is useful for quick look-ups. Other Spanish-Japanese dictionaries can be found on the web. For example:
<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【Grading criteria】

Evaluation is by midterm and final exam. Class participation and attitude towards learning will be taken into consideration.

Evaluation is as follows:

Class participation and attitude: 30%

Midterm exam: 30%

Final exam: 40%

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Spanish BI と同セメスターで履修すること。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となります。

【Prerequisite】

None.

【】

Basic Spanish grammar and conversation.

LANs100ZA

Spanish A II

Taiga WAKABAYASHI

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 5/Fri.5

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位
< 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより
3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照
すること。A と B をセットで履修すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

This course begins where “Spanish AI” and “Spanish BI” ended. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting. The feedback for homework will be given through Hoppii Learning Assistant System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) I	Class overview Irregular indicative conjugations of verbs in the present tense
2	Possessive Adjectives Numbers III	Prepositive possessive adjectives ("mi", "nuestro/a", "tu", "vuestro/a", "su") Numbers from 31 to 99
3	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) II Expression of Obligation and Necessity	Irregular indicative conjugations of verbs in the present tense Expression of obligation and necessity ("tener que ...")
4	Numbers IV Direct and Indirect Objective Pronouns	Numbers from 100 to 999 Direct and indirect objective pronouns ("me", "nos", "te", "os", "lo/le/la", "los/les/las")
5	Verb "gustar"	Use of the verb "gustar" which expresses "like (to) ..." or "love (to) ..."
6	Other Verbs of "gustar" Type	Verbs of "gustar" type whose subjective corresponds to things or matters
7	Reflexive Verbs Impersonal Expressions	Reflexive verbs whose objective corresponds to the subject Impersonal expressions with the reflexive pronoun "se"
8	Mid-term Exam Expression of Time II Expression of Weather I	Expression of time to say "It's ... o'clock" and "do ~ at ... o'clock" Expression of weather I
9	Regular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense)	Regular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense
10	Expression of Weather II	Expression of weather II
11	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense)	Irregular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense
12	Months	Names of months in Spanish

13	Regular and Irregular Indicative Conjugation of Verbs (preterite past tense)	Regular and irregular indicative conjugation of verbs in the preterite past tense
14	Final Exam & Wrap-up	Final exam (written) Review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）、2011 年、2205 円

【References】

A Spanish-Japanese dictionary is essential for Spanish learning. Students have to bring a dictionary to the class every week. Although a particular dictionary is not required,『西和中辞典』（小学館） is recommended. Also an electronic dictionary is useful for quick look-ups. Other Spanish-Japanese dictionaries can be found on the web. For example:

<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【Grading criteria】

Evaluation is by midterm and final exam. Class participation and attitude towards learning will be taken into consideration.

Evaluation is as follows:

Class participation and attitude: 30%

Midterm exam: 30%

Final exam: 40%

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Spanish BII と同セメスターで履修すること。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となります。

【Prerequisite】

None.

【】

Basic Spanish grammar and conversation.

LANs100ZA

Spanish B I

Yoshifumi Onuki

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 火 4/Tue.4

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位
 < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること。A と B をセットで履修すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

This course begins with the Spanish alphabet. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting.

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Guidance to the class
	Alphabet	Spanish alphabet
	Pronunciation and Accent	Rules of Spanish pronunciation and spelling
2	Gender, Singular and Plural of Nouns	Masculine, feminine and neuter nouns of Spanish
3	Definite and Indefinite Articles	Singular and plural form of nouns Definite (“el”, “la”, “lo”) and indefinite (“un”, “una”) articles Their distinction and singular / plural forms
4	Adjectives I	Inflection of adjectives with vowel and consonant termination
5	Adjectives II	Inflection of adjectives which express place-names and nationalities Adjectives whose termination is omitted by inflection
6	Conjugation of the Verb “ser”	Conjugation of the verb “ser” which expresses nature and quality
7	Self-introduction	Practice of self-introduction in Spanish Asking and telling the place of origin
8	Conjugation of the Verb “estar”	Conjugation of the verb “estar” which expresses state and condition
	Expression of Existence	The phrase “Hay …” which expresses “There is …”
9	Existence, Quality and State	How to differentiate among “ser”, “estar” and “hay” Prepositions and pronouns
10	Regular Indicative Conjugation of Verbs (present tense)	Rule of regular indicative conjugation of verbs with “-ar”, “-er” and “-ir” terminations
11	Expression of Time I	Expression of time: “at … o’clock”
	Numbers I	Numbers from 1 to 12

12	Demonstrative Adjectives and Pronouns	Demonstrative adjectives (“este/a”, “ese/a”, “aquel/lla”) and pronouns (“esto”, “eso”, “aquello”)
13	Numbers II	Numbers from 13 to 30 Questions and concerns about the content of the entire semester will be accepted for the final exam
14	Review and Final Exam	Review and Final Exam (written)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『スペイン語キックオフ』 泉水浩隆 (白水社)

【References】

『西和中辞典』 (小学館)

『わかるスペイン語文法』 西川喬 (同人社社)、2010 年

授業中の携帯電話やノートパソコンを利用するのオンライン辞書の使用は認められない

【Grading criteria】

Students evaluations are based on class participation (50%) and the final exam (50%). Participation and attitude will factor in the final grade.

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Spanish AI と同セメスターで履修すること。
2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となります。

【Prerequisite】

None.

【】

Basic Spanish grammar and conversation.

LANs100ZA

Spanish B II

Yoshifumi Onuki

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 火 4/Tue.4

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位
< 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより
3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照
すること。A と B をセットで履修すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

This course begins where “Spanish AI” and “Spanish BI” ended. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting.

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) I	Class overview
2	Possessive Adjectives Numbers III	Prepositive possessive adjectives ("mi", "nuestro/a", "tu", "vuestro/a", "su") Numbers from 31 to 99
3	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) II Expression of Obligation and Necessity	Irregular indicative conjugations of verbs in the present tense Expression of obligation and necessity ("tener que ...")
4	Numbers IV Direct and Indirect Objective Pronouns	Numbers from 100 to 999 Direct and indirect objective pronouns ("me", "nos", "te", "os", "lo/le/la", "los/les/las")
5	Verb "gustar"	Use of the verb "gustar" which expresses "like (to) ..." or "love (to) ..."
6	Other Verbs of "gustar" Type	Verbs of "gustar" type whose subjective corresponds to things or matters
7	Reflexive Verbs Impersonal Expressions	Reflexive verbs whose objective corresponds to the subject Impersonal expressions with the reflexive pronoun "se"
8	Expression of Time II Expression of Weather I	Expression of time to say "It's ... o'clock" and "do ~at ... o'clock" Expression of weather I
9	Regular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense)	Regular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense
10	Expression of Weather II	Expression of weather II
11	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense) Months	Irregular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense Names of months in Spanish

12	Regular and Irregular Indicative Conjugation of Verbs (preterite past tense)	Regular and irregular indicative conjugation of verbs in the preterite past tense
13	Differences between Indefinite and Preterite Past Tenses	Proper use and differentiation of the indefinite / preterite tenses Questions and concerns about the content of the entire semester will be accepted for the final exam
14	Review and Final Exam	Review and Final Exam (written)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Work to be done outside of class":
"Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『スペイン語キックオフ』 泉水浩隆 (白水社)

【References】

『西和中辞典』(小学館) 等

『わかるスペイン語文法』 西川喬 (同人社社)、2010 年
授業中の携帯電話やノートパソコンを利用するのオンライン辞書の使用は認められない

【Grading criteria】

Students evaluations are based on class participation (50%) and the final exam (50%). Participation and attitude will factor in the final grade.

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Spanish AII と同セメスターで履修すること。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となります。

【Prerequisite】

None.

【】

Basic Spanish grammar and conversation.

LANc100ZA

Chinese A I

Yuko TAKADA

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 水 3/Wed.3

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位
 < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること。A と B をセットで履修すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This is for learners with little or no prior knowledge of the Chinese language, or it is for those who are happy to start all over again.

【Goal】

You will learn basic skills enabling you to find out information and to make yourself understood in everyday situations.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

Topics include:

- Pronunciation of Chinese as romanized in *Pīnyīn* (拼音)
- Greetings and farewells
- Introducing oneself, friends and family
- Basic grammar of contemporary Chinese

In relation to the topics listed above, students will develop the following skills:

- Giving basic personal information
- Communicating through simple questions and answers
- Basic grammar terminology and structures.

Feedback on assignments will be given during class time or via email.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

なし / No

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and overview.
2	Lesson 1	Pronunciation of Chinese as written in <i>Pīnyīn</i> (拼音) 1
3	Lesson 3	Pronunciation of Chinese as written in <i>Pīnyīn</i> (拼音) 3
4	Revision and Consolidation 1	Revision and consolidation 1
5	Lesson 5	Greetings and introducing oneself
6	Revision and Consolidation 2	Revision and consolidation 2
7	Lesson 7	Basic grammar terminology and structures 2
8	Lesson 9	Basic grammar terminology and structures 4
9	Lesson 11	Basic grammar terminology and structures 6
10	Revision and Consolidation 3	Revision and consolidation 3
11	Lesson 13	Sentences with a predicate verb “shì” (是) 2
12	Lesson 15	Sentences with a predicate verb “yǒu” (有) 2
13	Lesson 17	The action-measure complement
14	Examination & Wrap-up	Generalization Examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Listening to the textbook CD, and doing preparation and review work. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

Chiyoshi Oishi. *Point Learning: Elementary Chinese Revised Edition*. Toho Shoten, 2010. (ポイント学習中国語初級 改訂版)

【References】

Materials will be provided by the instructor.

【Grading criteria】

Grading will be based on weekly tests (30%) and term-end exam (70%).

I believe that homework is an essential part of the study program for all students.

【Changes following student comments】

Using e-learning every week

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Chinese BI と同セメスターで履修すること。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となります。

【Prerequisite】

None.

【】

This is for learners with little or no prior knowledge of the Chinese language, or it is for those who are happy to start all over again.

LANc100ZA

Chinese A II

Yuko TAKADA

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 水 3/Wed.3

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

< 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより
 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること。A と B をセットで履修すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This is for learners who have already attended the Chinese AI course.

【Goal】

You will learn basic skills enabling you to find out information and to make yourself understood in everyday situations.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

Topics include:

- Numbers/time/dates
- Description of daily activities

In relation to the topics listed above, students will develop the following skills:

- Communicating through simple questions and answers
- Following instructions in the target language.

Feedback on assignments will be given during class time or via email.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

なし / No

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Lesson 19	Perfect aspect
2	Lesson 21	Past experiences
3	Revision and Consolidation 1	Revision and consolidation 1
4	Lesson 23	Adverbs
5	Lesson 25	Comparative sentences 2
6	Lesson 27	Nominal predicate sentences 2
7	Lesson 29	Adjectival clause
8	Revision and Consolidation 2	Revision and consolidation 2
9	Lesson 31	Modal complement
10	Lesson 33	Resultative complement
11	Lesson 35	Potential complement
12	Revision and Consolidation 3	Revision and consolidation 3
13	Lesson 37	Imperative sentences
14	Examination & Wrap-up	Generalization Examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Listening to the textbook CD, and doing preparation and review work.
 Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

Chiyoshi Oishi. *Point Learning: Elementary Chinese Revised Edition*.
 Toho Shoten, 2010. (ポイント学習中国語初級)

【References】

Materials will be provided by the instructor.

【Grading criteria】

Grading will be based on weekly tests (30%) and final exam (70%).

I believe that homework is an essential part of the study program for all students.

【Changes following student comments】

Using e-learning every week

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Chinese BII と同セメスターで履修すること。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となります。

【Prerequisite】

None.

【】

This is for learners who have already attended the Chinese AI course.

LANc100ZA

Chinese B I

Shota WATANABE

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 木 4/Thu.4

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位
 < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること。A と B をセットで履修すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

【Goal】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) Spring 学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を持ち、積極的に異文化を理解することができる。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
 Will be able to gain "DP 3".

【Method(s)】

・授業は基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト (約 20 分)、2. 前回の復習 (約 10 分)、3. テキストの学習 (約 40 分)、4. 問題演習・コミュニケーション活動など (約 30 分)。
 ・外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。
 ・この授業ではブレンド型学習 (教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法) を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。
 ・教員は小テストの添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することと随時フィードバックを行う。Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音 (一) [簡体字とピンイン]、発音 (二) [声母]
3	第三課あるいは第四課	発音 (三) [韻母]、発音 (四) [二音節語の声調 20 パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介 [您贵姓?]、動詞述語文 [你学习什么?]
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文 [北京大学很大]、名詞述語文 [我十八岁]
6	第九課あるいは第十課	主述述語文 [你哪儿不舒服?]、連体修飾語・連用修飾語 [一年级的学生都学外语]
7	第十一課あるいは第十二課	補語 [你每天看几个小时?]、動詞述語文 (一) [她是谁?]
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文 (二) [这是什么?]、動詞述語文 (三) [你有铅笔吗?]
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文 (四) [你家有几口人?]、動詞述語文 (五) [这儿有邮筒吗?]
10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文 (六) [请再念一次]、動詞述語文 (七) [去中国干什么?]
11	第十九課あるいは第二十課	完了態 [这本书你看了吗?]、変化態 [快要考试了]
12	復習	Spring 学期の学習項目の総復習
13	HSK1 級問題	HSK1 級問題の紹介・解説
14	総括	これまでの学習内容の総括を行う

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。

・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』(東方書店) 2010 年

【References】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華 (他) 2019 『實用現代漢語語法 (第三版)』北京：商務印書館
- ・相原茂 (他) 2016 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則 (他) 2019 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【Grading criteria】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【Changes following student comments】

文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ多く設けるよう心掛けたい。

【Equipment student needs to prepare】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【Others】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
- ・授業中に、HSK (中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定) の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ (<http://www.hskj.jp/>) も参照。
- ・必ず Chinese A I と同セメスターで履修すること。2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となる。

【Prerequisite】

None.

LANc100ZA

Chinese B II

Shota WATANABE

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 4/Thu.4

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位
< 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより
3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主権科目の履修上の注意を参照
すること。A と B をセットで履修すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

【Goal】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) Fall 学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に付ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を持ち、積極的に異文化を理解することができる。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

- ・授業は基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト (約 20 分)、2. 前回の復習 (約 10 分)、3. テキストの学習 (約 40 分)、4. 問題演習・コミュニケーション活動など (約 30 分)。
- ・外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。
- ・この授業ではブレンド型学習 (教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法) を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。
- ・教員は小テストの添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	既習項目の復習・確認	既習項目 (第一課～第二十課) の復習と確認
2	第二十一課あるいは第二十二課	経験態 [你去过海边儿吗?]、進行態・持續態 [你在做什么呢?]
3	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文 (一) [水饺好吃吗?]、形容詞述語文 (二) [明天比今天还热]
4	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文 (三) [比泰山高一点儿]、名詞述語文 (一) [今天几月几号?]
5	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文 (二) [现在几点?]、名詞述語文 (三) [这只手表多少钱?]
6	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮!]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
7	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語 [谁打得好?]、数量補語 [你打了几年网球?]
8	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]
9	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
10	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文 [让谁讲好呢?]、受身表現 [衣服都被淋湿了]
11	第三十九課あるいは第四十課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現文 [大楼门口出来了一个高个子]
12	復習	Fall 学期の学習項目の総復習
13	HSK2 級問題	HSK2 級問題の紹介・解説
14	総括	これまでの学習内容の総括を行う

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。

・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』(東方書店) 2010 年

【References】

有用な文法書として以下のものをあげておく。

- ・劉月華 (他) 2019 『實用現代漢語語法 (第三版)』北京: 商務印書館
- ・相原茂 (他) 2016 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京: 同文社
- ・守屋宏則 (他) 2019 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京: 東方書店

【Grading criteria】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【Changes following student comments】

文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ多く設けるよう心掛けたい。

【Equipment student needs to prepare】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【Others】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で燃るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
- ・授業中に、HSK (中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定) の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ (<http://www.hskj.jp/>) も参照。
- ・必ず Chinese A II と同セメスターで履修すること。2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となる。

【Prerequisite】

None.

LNG100ZA

English in the Movies

Megumi KOBAYASHI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 金 2/Fri.2

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブ
サイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注
意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

Movies are not just a source of entertainment, but can also serve as a great resource to raise awareness about language as well as its sociocultural contexts. In this course, you will be introduced to various aspects of language through movies, drawing examples primarily from English. Some topics include: language and society, regional dialects, accent stereotypes, language and gender, and language play, etc.

【Goal】

Upon completion of this course, students will:

- 1) Be familiar with some basic (socio) linguistic aspects of English and other languages
- 2) Become aware of various dialects of English and how they are used in movies
- 3) Have a more analytical perspective on language presented in movies

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

You will be assigned a set of reading materials in advance, which will provide some background information about the topic in focus. A comprehension quiz based on the reading will be given at the beginning of the class to make sure you have a basic understanding of the topic. Then the topic is explored with an additional lecture and presentations of selected movie clips, accompanied by pair/group work and discussions to promote further understanding. Toward the end of the semester, students will analyze a movie of their choice and present it in class. Feedback for assignments will be given either individually (paper/LMS) or shared during the class. Actual lesson plans and contents may be modified based on students' progress. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation	Course guidance, pre-course questionnaire
2	US vs UK English	Major two dialects of English (e.g., Love Actually)
3	Language and Social Class	Situation in the UK (My Fair Lady)
4	Language and Identity	Follow up of lesson 3 (My Fair Lady)
5	Language and Stereotypes	Accent representation in Disney movies (e.g., Lion King), race issues
6	Language and Ethnicity	World Englishes in movies (e.g., My Big Fat Greek Wedding)
7	Language and Gender	Female vs male speech (e.g., Legally Blond)
8	Language and Code	Language play, secret message (e.g., Harry Potter series)
9	Non-verbal Communication	Gestures, body language (e.g., Inglorious Basterds)
10	Language and Translation	Art of translation, misunderstanding between speakers of different languages (e.g., Lost in Translation, Spanglish)
11	Presentation (1)	Students groups will give presentations
12	Presentation (2)	Students groups will give presentations
13	Presentation (3)	Students groups will give presentations

14 Review

Submitting individual movie report, summing up the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the reading assignments before class. Much of the preparation for the end of the term presentation, as well as writing a reflection paper, must be done outside of class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Reading assignments and handouts will be provided by the instructor.

【References】

N/A (Suggestions for further readings will be provided in class).

【Grading criteria】

The final grade will be based on the following criteria: class participation 20%, quizzes 25%, reflection paper 25%, presentation 30%.

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

N/A

【Prerequisite】

None

SOC100ZA

Cultural and Ethnic Diversity in Japan

Kyung HEE HA

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 5/Thu.5

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course discusses and examines cultural and ethnic diversity in Japan as institutional, interpersonal and internalized experiences.

[Goal]

At the end of this course, you should be able to:

- Explain such concepts as race/ethnicity, nationalism, minority and diversity
- Explain historical and contemporary issues faced by the indigenous Ainu and Ryukyuan people, former colonial subjects and their descendants, as well as recent immigrants, refugees and asylum seekers
- Analyze various data sources including policies, legislations, historical facts, popular cultural production and personal narratives
- Understand and analyze a complex set of privileges we live with and how differently we are situated in the society accordingly
- Envision different ways to realize equality and equity

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Although the instructor will provide the basic framework in a lecture format, students are expected to actively participate in and contribute to class discussion. This includes asking questions, seeking clarification and offering your critical ideas and interpretation. In addition, a small group of 3-5 individuals will work on 1 presentation on weekly readings. Further directions will be given in class. Verbal and written feedback will be given on assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction: Myth of Homogenous Japan	Course overview, racial/ethnic composition of contemporary Japanese society
2	Understanding Identity, positionality, privilege	“White Privilege: Unpacking the Invisible Knapsack”
3	Defining Japaneseness	Hafu: The Mixed-Race Experience in Japan (2013)
4	Japan's Outcast Group: Buraku	Ian J. Neary, “Chapter 4: Burakumin in contemporary Japan” (pp. 59-83)
5	Japan's Indigenous Peoples	Richard M. Siddle, “Chapter 2: The Ainu Indigenous people of Japan” (pp. 21-39)
6	Japan's Imperial Legacies: Former Colonial Subjects and Their Descendants	Eika Tai, “Between Assimilation and Transnationalism: the debate on nationality acquisition among Koreans in Japan”
7	Post-1990s: Dawn of “multicultural coexistence” (tabunka kyosei) policy	Chikako Kashiawzaki, “Multicultural Discourse and Policies in Japan: An Assessment of Tabunka Kyo-sei,” The Gakushuin Journal of International Studies (2016), 3: 1-15.
8	Discussion: “multicultural coexistence” today	Assess your municipal government's “tabunka kyosei” program
9	“Bubble Economy” and New Japanese: Nikkei Brazilians and others from Latin America	Keiko Yamanaka. “Labor migration and circular diaspora formation by Japanese Brazilians in Japan” from Japan and Global Migration, 2003.

10	Gender and Migration	Naomi Chi, “Where Migration Meets Gender in Northeast Asia: Marriage Migrants and Domestic and Care Workers in Japan and South Korea” Public Policy Studies (2018), 12: 23-38.
11	Hate Speech and Hate Crime	Wooki Park-Kim, “Ethnic ‘Korean schools’ confront discrimination, hate speech and hate crime” in Cultural and Social Division in Contemporary Japan, 2019.
12	Review	Prepare for Final Exam
13	Guest Lecture	TBD
14	Final Exam and Wrap-Up	Assessing the degree to which students understand the subject

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Weekly reading and group project. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Complete all readings prior to attending class in order to make meaningful contribution to discussion.

[Textbooks]

Unless otherwise indicated, reading materials will be available online.

[References]

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

[Grading criteria]

Active Participation: 20%

Current Issue Presentation: 10%

Small Assignments: 20%

Presentation on Readings: 20%

Final Exam: 30%

[Changes following student comments]

The instructor will distribute assessment sheets to incorporate students' feedback.

[Equipment student needs to prepare]

None.

[Others]

Students are allowed 2 absences. These include medical reasons, job interviews, family emergency and train delays. If you arrive late or leave early, each will be counted as one ½ absence. If you miss 20 min of class time, it will be considered as 1 absence. 3 or more absences will result in not-passing. You must complete all the assignments to pass the course. Students with special needs should notify the instructor as early as possible, no later than the third week of the semester.

Our goal in this class will not be to memorize or master a series of clear-cut answers; rather, by engaging in lively discussions, we aim to hone our ability to ask critical questions so as to further develop our skills as writers, readers and thinkers. In order to create such a learning environment, students should speak to each other and the instructor with respect. Abusive and harsh language will not be tolerated.

[Prerequisite]

None.

PSY100ZA

Developmental Psychology

Sayaka AOKI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 月 3/Mon.3

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This course introduces basic topics/theories of developmental psychology, specifically focusing on how “typical” individuals develop from infancy to adolescence as well as sharing characteristics of individuals following “atypical” development. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of developmental psychology.

【Goal】

Through this course, students are expected to:

- understand how “typical” individuals develop from infancy to adolescence, in different aspects (cognitive and social/emotional)
- learn some fundamental theories proposed by developmental psychologists, such as Piaget, Vygotsky, and Bowlby
- acquire some knowledge about developmental disorders and childhood mental disorders, including autistic spectrum disorders, learning disorders, attention deficit and hyperactivity disorder (ADHD), Down's syndrome, etc.
- develop skills of analyzing daily personal and interpersonal phenomena from perspectives of developmental psychology
- increase skills for expressing ideas about human behavior in English, through oral discussions and reflection papers

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Each week, students will learn concepts/theories of developmental psychology through a lecture and an oral discussion. When sharing ideas during oral discussions, students are expected to integrate knowledge acquired through the lecture as well as their own insight from daily life experiences. At the end of each class, students are asked to write a brief reflection paper, which is graded and returned by the beginning of the next class, with a comment from the lecturer. In the reflection paper, students are also encouraged to ask questions, which are shared anonymously and answered in the next class. Exams are held in the middle and at the end of the semester.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Course overview
2	Human's early development	Development in infancy and early childhood
3	Cognitive development (1)	Piaget's theory
4	Cognitive development (2)	Vygotsky's theory
5	Cognitive development (3)	Development of information processing
6	Atypical development in cognitive functioning	Intellectual disability/Learning disorder
7	Mid-term exam & Review	Assessing the degree to which students understand the subject
8	Social emotional Development (1)	Development of emotional recognition and expression
9	Social emotional Development (2)	Theory of attachment
10	Social emotional Development (3)	Development of social interaction
11	Atypical development in social emotional functioning (1)	Autistic spectrum disorders
12	Atypical development in social emotional functioning (2)	Attention-deficit and hyperactivity disorder (ADHD)
13	Other atypical development	Other childhood disorders and review

14 Final exam & Wrap-up Assessing the degree to which students understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the course slides uploaded on the course website prior to attending the classes. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Reading assignments, including journal articles and book chapters, along with links to websites, will be uploaded on the course website.

【References】

Kipp & Shaffer (2013) *Developmental psychology: Childhood and adolescence*, 9th edition. Wardsworth publishing.

【Grading criteria】

Mid-term exam 35%; Final exam 35%;

Reflection paper 20%; Participation and discussion 10%

【Changes following student comments】

For some students, it seems difficult to learn a lot of new concepts. Therefore, to understand the contents fully, students are encouraged to ask questions when they are unsure about what they listened to/read.

【Prerequisite】

None.

CUA100ZA

Media Studies

Zeliha MUGE IGARASHI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 2/Thu.2

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

What are the effects of computers, cell phones, and television in our lives? Does the way we receive news or other information alter our perceptions of current events? Do our relationships with friends change depending on how we communicate with them, whether by phone, email, Facebook, Twitter, or LINE?

The way we interact is mediated by communication technologies. This class is an introduction to media studies focused on how media has evolved and how it has come to shape and transform the way we communicate.

[Goal]

1. Introduce the history of major media and communication technologies.
2. Provide students with theoretical frameworks to understand and interpret media's effects.
3. Build fundamental skills of media literacy.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Each course begins with a historical introduction for a better understanding of mass communication and its evolution.

We will discuss a variety of media forms (print, sound, film, internet), their evolution, and their impact on culture.

The last few weeks will focus on changing trends in media culture by looking at topics such as advertising, online gaming, and virtual reality. Classes will include analyses of various media forms throughout the semester. There will be a quiz at the end of each class.

Students are always encouraged to share their views and interesting media content during class or through the Google Classroom.

General feedback will be provided at the beginning of each class whereas individual feedback on assignments and quizzes will be provided through Google Classroom system. Students who prefer to submit assignments and exams through HOPPII should contact the lecturer to receive feedback during office hours or by e-mail.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Description of the course.
2	Introduction to Mass Communication	Introduction to the field of mass communication.
3	Media Literacy	An introduction and exercises analyzing various types of media.
4	Texts and Print	The historical evolution of the printing press and its significance.
5	News and Journalism	Early history of news journalism and its transformation.
6	Sound and Recording	Early history of sound recording and the music industry.
7	Intellectual Property and Piracy	Piracy and the music industry. Copyright, fair use, and sampling.
8	Early Film	The history of early film. From photography to motion pictures.
9	Contemporary Film	Genre theory and product standardization.
10	The Internet	The history of information revolution and online cultures.
11	Video Games	Gaming cultures and the virtual world.
12	Discussion Session	1. Internet addiction 2. Relation between democracy and the internet.
13	Advertising	Brand logic and persuasive strategies.
14	Final Exam & Wrap-up	In-class final exam and review.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students should complete assigned readings before each class and regularly review current news in the fields of media and technology (suggested sources to be provided by the instructor). Preparatory study and review time for this class is two hours per week.

[Textbooks]

The text book is available at the library but readings will be provided in pdf format through HOPPII and Google Drive.

[References]

Campbell, Richard, Christopher R. Martin, and Bettina Fabos. 2017. Media & culture: mass communication in a digital age. 11th edition. Bedford/St. Martin's.

[Grading criteria]

Participation 10%

Reports 20%

Quizzes 20%

Midterm Exam 25%

Final Exam 25%

[Changes following student comments]

None.

[Prerequisite]

None.

SES100ZA

Introduction to Environmental Science

Ayami OTSUKA

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This is an introductory course in environmental studies: the course introduces students to the basic knowledge of environmental science and environmental policy. Students will learn basic principles around natural scientific mechanism of specific environmental problems that are considered as most pressing of our time, such as water, waste, energy, climate change, and biodiversity. The lectures will also emphasize the socio-economic mechanism that are often at the root of the environmental problems. Through the case studies, the course also aims to introduce students to the UN 2030 Agenda for sustainable development on these issues. Mini tours on environmental facilities on/off campus will be arranged to help students connect the theories with the reality, if the situation allows.

[Goal]

Students will be able to

- explain basic scientific mechanisms of major environmental problems;
- explain the root mechanism why such environmental problems occurs; and
- gain perspectives needed to critically think about and seek solutions for these problems and bring sustainable society.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The course will be conducted in mixture of lecture-based learning and more active involvement of students in class discussions and group work. Students will engage in a group work on the topic of their choice which will be presented for lecture 5 through 10. There will also be mini discussions throughout the course. Feedback on students' work (on assignments and group work, etc.) is given in class and/or through the Hosei Learning Management System. Fieldwork and/or mini tours on environmental facilities may be arranged, if the situation allows. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Guidance	Setting the context: what is environment, environmental problems, and environmental studies?
2	Human activity and environmental problems	Origin of Environmental pollution in Japan
3	General mechanism of environmental problems	From environmental economics perspectives
4	Rise of environmental policies	Environmental policies (in Japan and International)
5	Water issues	Basic scientific mechanism, the current status, and typical countermeasures on the topic are covered (including student group presentation.)
6	Land and biodiversity	Basic scientific mechanism, the current status, and typical countermeasures on the topic are covered (including student group presentation.)
7	Waste management	Basic scientific mechanism, the current status, and typical countermeasures on the topic are covered (including student group presentation.)

8	Ocean	Basic scientific mechanism, the current status, and typical countermeasures on the topic are covered (including student group presentation.)
9	Climate change	Basic scientific mechanism, the current status, and typical countermeasures on the topic are covered (including student group presentation.)
10	Energy	Basic scientific mechanism, the current status, and typical countermeasures on the topic are covered (including student group presentation.)
11	Environmental assessment	Environmental impact assessment, life cycle assessment, and environmental valuation
12	Environmental activities by business community	Historical background, corporate social responsibility, ESGs
13	A road to sustainable development?	Balance between economic, social and environmental issues
14	Final exam & wrap-up	End of semester examination & course review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to work on reading assignments for lecture-based sessions. Students are also expected to review class materials after each class. The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each. There will be additional group work for group presentation (for lecture 5-10).

[Textbooks]

There is no set textbook for this course. Handouts and other relevant materials will be distributed by the instructor.

[References]

William P. Cunningham, Mary Ann Cunningham, Environmental science: a global concern (14th ed.), McGraw-Hill Education, 2018.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on

1. Class participation & homework assignments/quizzes (35%)
2. Group presentation and report (25%)
3. Exam (40%).

Students are required to meet satisfactory grade for each element to receive a grade. The group project is assessed on an individual basis.

[Changes following student comments]

n/a

[Prerequisite]

None.

MAN100ZA

Principles of Business Management

Maymay HO

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 5/Thu.5

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Principles of Business Management is an introductory course that brings students up to date on how business models are structured through the development of management science in the 21st Century. In this course we will also look at how companies develop and manage their strategic goals to meet long-term goals.

【Goal】

Using the critical thinking exercises and class discussions, students will be able to apply their knowledge to case-studies and group work. The skills they acquire through this course should prepare them to understand key technical terms and give them a better understanding of the world.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Principles of Management and Globalization	Introduction to the principles of management and globalization.
2	Mission, Strategy, Objectives and Organizational Structure	Discuss the mission, strategy, objective and organizational structure of a company.
3	Organisational Culture	Discuss the different types of organisation cultures.
4	Leadership	Discuss the different types of leadership styles.
5	Business Models I	What is disruptive Technology? Discuss about different business models using case studies of companies.
6	Business Models II	Analyse more examples of how Design Thinking was applied.
7	Decision Making and Control	Discuss how decisions are made and internal controls are in place to have a favourable outcome.
8	Review of Class Materials	Review of class materials.
9	Cashflow Management	Discuss the importance of cashflow and analyse a company's cashflow statement.
10	Organisational Behaviour	Discuss the types of organisational behaviour in a company.
11	Motivation	How do companies motivate employees? Discuss the different theories on how to motivate employees.
12	Human Resource Management	Discuss the role of human resource and discuss the strategies used by human resource to manage employees to meet long-term strategy.
13	Discussion and Review	Review of class materials
14	Wrap-up & Review of Class Materials	Review of class materials.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Additional reading on the daily news and related research articles are highly recommended. Homework will be given. Slides and related articles should be read before class.

【Textbooks】

Reference on reading materials will be provided in class. Electronic slides will be provided.

【References】

Reference on reading materials will be provided in class.

【Grading criteria】

15%Quizzes
15%Projects / homework
35%Midterm exam
35%Final examination

【Changes following student comments】

None.

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Others】

None.

【Prerequisite】

None.

TRS100ZA

Introduction to Tourism Studies

John MELVIN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火 5/Tue.5

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 : ○

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to provide students with an understanding of tourism. You will gain an overview of the scale, scope and organization of the tourism sector and consider the positive and negative impacts of tourism on destinations. Through a range of international case studies, we will learn about the development of destinations' natural, built and cultural resources and how these can be managed and enjoyed sustainably. Students will engage in additional learning opportunities such as in-class discussions and a group project, focusing on tourism-related issues at a particular destination. This includes consideration of how tourism may recover from the coronavirus pandemic in 2021 and beyond. As an introductory 100-level class, students will encounter some of the fundamental issues and theories relating to the study of tourism.

【Goal】

At the completion of this course, students should be able to:

1. Describe the structure and organisation of the tourism sector and the interrelationships between the various stakeholders (governments, local communities, companies, NGOs, etc.)
2. Identify processes to enable the sustainable development of a destination's natural, built and cultural resources
3. Identify factors facilitating the growth of travel and tourism at the global, national and local level
4. Discuss changes in consumer behaviour and the implications for tourism managers
5. Describe the impact of technology, particularly social media, on tourism

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information. Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through discussions and a group presentation. These are important elements of the course and will aid in your learning. The group presentation on a given case study will provide you with in-depth understanding of the unique challenges facing a destination. You will be required to analyze this and present your solutions and recommendations.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Setting the context: Understanding the interdisciplinary nature of tourism and its importance
2	The Structure and Organization of the Tourism Sector	Exploring the structure and organization of the tourism sector at the local, national & international level
3	Tourists: Who, What, Where, Why, How	Exploring different typologies of tourists & evolutions in tourists' motivations, decision-making and behaviors
4	Tourism Impacts in Developed and Developing Countries	Investigating how tourism can impact positively and negatively on host communities, economies and environments

5	Tourism: Sustainable Development	Examining the importance of sustainability & approaches on how to manage tourism more sustainably
6	Selling Dreams and Experiences: Tourism Marketing	Examining evolving theories of marketing, and the particular challenges of marketing services such as tourism
7	Tourism and Technology	Considering the impact of technology on the management & organization of tourism
8	Issues in Destination Management	Analyzing destination management from a case study on Venice, Italy
9	Event Tourism	Analyzing the role of events as a destination resource
10	Tourism Crisis and Disaster Management	Analyzing the vulnerability of tourism and how destinations can respond to disasters and COVID-19
11	Tourism in Japan	Examining the past, present and future development of tourism in Japan
12	Group Presentations	Student group presentations (topics will be assigned in class)
13	Future Developments in Tourism	Considering different scenarios how tourism may develop in the future
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be assigned individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. More details on evaluation criteria and assignments will be given in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】

Cooper, C., Fletcher, J., Fyall, A., Gilbert, D. and Wanhill, S. (2013 5th edition) *Tourism: Principles and Practice*. Harlow: Pearson Education
Cooper, C. and Hall, C. M. (2018) *Contemporary Tourism: An International Approach*. London: Goodfellow
The reference books are available in the university library and in the GIS Reference Room.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.

【Changes following student comments】

To encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Others】

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】

None.

TRS100ZA

Introduction to Tourism Studies

John MELVIN

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 1/Thu.1

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 : ○

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to provide students with an understanding of tourism. You will gain an overview of the scale, scope and organization of the tourism sector and consider the positive and negative impacts of tourism on destinations. Through a range of international case studies, we will learn about the development of destinations' natural, built and cultural resources and how these can be managed and enjoyed sustainably. Students will engage in additional learning opportunities such as in-class discussions and a group project, focusing on tourism-related issues at a particular destination. This includes consideration of how tourism may recover from the coronavirus pandemic in 2021 and beyond. As an introductory 100-level class, students will encounter some of the fundamental issues and theories relating to the study of tourism.

【Goal】

At the completion of this course, students should be able to:

1. Describe the structure and organisation of the tourism sector and the interrelationships between the various stakeholders (governments, local communities, companies, NGOs, etc.)
2. Identify processes to enable the sustainable development of a destination's natural, built and cultural resources
3. Identify factors facilitating the growth of travel and tourism at the global, national and local level
4. Discuss changes in consumer behaviour and the implications for tourism managers
5. Describe the impact of technology, particularly social media, on tourism

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information. Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through discussions and a group presentation. These are important elements of the course and will aid in your learning. The group presentation on a given case study will provide you with in-depth understanding of the unique challenges facing a destination. You will be required to analyze this and present your solutions and recommendations.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Setting the context: Understanding the interdisciplinary nature of tourism and its importance
2	The Structure and Organization of the Tourism Sector	Exploring the structure and organization of the tourism sector at the local, national & international level
3	Tourists: Who, What, Where, Why, How	Exploring different typologies of tourists & evolutions in tourists' motivations, decision-making and behaviors
4	Tourism Impacts in Developed and Developing Countries	Investigating how tourism can impact positively and negatively on host communities, economies and environments
5	Tourism: Sustainable Development	Examining the importance of sustainability & approaches on how to manage tourism more sustainably

6	Selling Dreams and Experiences: Tourism Marketing	Examining evolving theories of marketing, and the particular challenges of marketing services such as tourism
7	Tourism and Technology	Considering the impact of technology on the management & organization of tourism
8	Issues in Destination Management	Analyzing destination management from a case study on Venice, Italy
9	Event Tourism	Analyzing the role of events as a destination resource
10	Tourism Crisis and Disaster Management	Analyzing the vulnerability of tourism and how destinations can respond to disasters and COVID-19
11	Tourism in Japan	Examining the past, present and future development of tourism in Japan
12	Group Presentations	Student group presentations (topics will be assigned in class)
13	Future Developments in Tourism	Considering different scenarios how tourism may develop in the future
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be assigned individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. More details on evaluation criteria and assignments will be given in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】

Cooper, C., Fletcher, J., Fyall, A., Gilbert, D. and Wanhill, S. (2013 5th edition) *Tourism: Principles and Practice*. Harlow: Pearson Education
Cooper, C. and Hall, C. M. (2018) *Contemporary Tourism: An International Approach*. London: Goodfellow
The reference books are available in the university library and in the GIS Reference Room.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.

【Changes following student comments】

To encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Others】

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】

None.

FRI100ZA

Information Studies

Alfons JOSEF SCHUSTER

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 2/Fri.2

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

Information study is an interdisciplinary science with a wide range of interests and goals. A major element in the field is concerned with fundamental information processes such as the acquisition and collection of information, the classification and storage of information, the manipulation and retrieval of information, as well as the analysis, dissemination, usage, and maintenance of information. Although information has attained a very important role in the world around us, it is a concept that is very difficult to define. This course tries to familiarize students with the history and evolution of the field of information study. Students completing the course will recognize the aims and goals of fundamental information processes. They will learn to analyze, evaluate, and appreciate the value information study provides, and they will understand today's information society and modern technology from an information perspective.

【Goal】

By the end of the semester, students should: (i) be familiar with the history and evolution of the field of information study, (ii) understand fundamental information processes, (iii) have acquired an understanding about the notion of information from various points of view, and (iv) be able to reason about modern society and modern technology from an information perspective.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The main elements of the course are lectures, assignments, and in-class discussions. The lectures relate to the topics mentioned in the course schedule below. A class typically provides feedback and guidance on assignments. In addition, each class provides an opportunity for students to engage actively in a discussion related to current issues in information studies.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview and course requirements.
2	Information Society and Information Revolution (1)	A brief introduction to information society and the information revolution.
3	Information Society and Information Revolution (2)	A brief introduction to information society and the information revolution.
4	The Language of Information	Understanding data, information and knowledge. A roadmap of information concepts.
5	Mathematical Theory of Information	Shannon's interpretation of information.
6	Physical Information	Life and entropy.
7	Biological Information (1)	Genetic code and genetic engineering.
8	Biological Information (2)	Brains and artificial neural networks.
9	Economic Information	Interpretations of information from the point of view of game theory.
10	Information Ethics	Responsibility in information environments.
11	Modern Information Environments (1)	Complex systems, the Internet, cyberspace.
12	Modern Information Environments (2)	Big data, machine learning, and artificial intelligence.
13	Information Future	Possible directions of information culture and information society. Outlook.
14	Examination & Wrap-up	Final tips; final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

(1) Reading. Students are expected to read the course textbook and other materials carefully in order to acquire a thorough understanding of the ideas and concepts presented to them in class.

(2) Assignments. Students are given several assignments. These assignments are an important element in the course and contribute to the overall mark that a student may achieve.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Luciano Floridi, Information: A Very Short Introduction (Oxford: Oxford University Press, 2010) ISBN-13: 978-0-19-955137-8.

【References】

In addition to Floridi's book, we use newspaper and journal articles, science fiction short stories, videos, as well as other materials in this course.

【Grading criteria】

Assignments: 50%

Final Exam: 50%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Others】

None.

【Prerequisite】

None.

FRI100ZA

IT in Modern Society

Niall MURTAGH

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 火 4/Tue.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Students will acquire an historical overview of Information Technology, leading to a description of how IT affects us all in the modern world. The course will cover the early development of IT, including pioneers, places and ideas; we will look at case studies of major trends and companies; finally we will investigate the social and political influence of IT and the role of the humanities in IT. No specialized knowledge is required.

【Goal】

The goal is to give students an understanding of the role played by Information Technology in society. Topics will be discussed from a non-specialist viewpoint, but pointers will be provided for students who might work in the IT field in the future.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The classes will consist of lectures combined with interactive presentations and discussions by students. Time will also be given for personal guidance for students who choose to work on particular projects. Individual feedback will be provided after each student presentation.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Background to course and detailed objectives
2	Historical Background	From 19th century beginnings to the electronic age
3	Early Period of IT	From cash registers to the Turing Machine and the Enigma
4	The First Modern Computer	US or UK: where and when modern IT began
5	Silicon Valley (1)	Networks and protocols, DARPA and Unix
6	Silicon Valley (2)	Synergies, funding and mobility
7	Regions of Innovation	World's most innovative countries
8	Corporate Giants (1)	The early years: Apple, Microsoft, IBM, Oracle
9	Corporate Giants (2)	The new giants of the Net: Google, Amazon, Facebook
10	IT and the Humanities (1)	The social generation
11	IT and the Humanities (2)	Technology for language and art
12	Future Trends	Intellectual property
13	Presentations	Topics selected by students
14	Summary	Discussion and conclusions

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will prepare short reports on topics to be presented in class. Exercises will be given based on topics covered in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Notes and online tutorial links will be provided during class.

【References】

Watson, Ian. The Universal Machine: From the Dawn of Computing to Digital Consciousness. Copernicus, 2012.

Levy, Steven. In The Plex: How Google Thinks, Works, and Shapes Our Lives. Simon & Schuster, 2021.

The Four: The Hidden DNA of Amazon, Apple, Facebook, and Google. 2018, Scott Galloway.

【Grading criteria】

Students will be evaluated on the basis of project work consisting of submitted presentations (70%) and a quiz at the end of the semester (30%).

Attendance: To receive credit for the course students must provide a reason if absent three or more times in one semester.

【Changes following student comments】

Feedback from students will be encouraged throughout the course.

【Prerequisite】

This is an introductory course, so no prerequisite knowledge is expected.

SOC200ZA

American History and Society

Robert SINCLAIR

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月 2/Mon.2

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブ
サイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注
意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

This course will introduce students to the culture and society of the United States, focusing primarily on events of the 20th and 21st century. A central theme will be the idea of America as a place of unlimited possibility and opportunity. This idea presents the United States as a new type of social experiment, where true freedom is available and where everyone can look to a better future. As we examine this perspective on America, we will further explore the conflict between American ideals and social reality as seen in the tensions between continuity and change, individualism and community, consensus and diversity.

[Goal]

Students will acquire knowledge about various aspects of America and American life, including its history, geography and political system, as well as its economic, educational, social and foreign policy. Students can then expect to (1) acquire general knowledge of the society and people in contemporary America, (2) learn how America developed from a small British colony into a major superpower, and (3) examine the new realities facing America and its global influence.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Students will attend lectures, read related material and have two written examinations. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	America, idea vs. reality, organization of the course, selection exam
2	History (1)	Birth of a Nation, American Revolution and Constitution, Civil War, Reconstruction, Gilded Age
3	History (2)	Progressive Era, The New Deal, rise as a superpower, The Cold War, recent developments
4	Land and People	Native Americans, African Americans, immigration
5	US Political Institutions	The US Constitution, Federal Government, branches of government
6	US Religious Culture	US religions, church and state, religion and education
7	Review & Midterm Exam	Assessing the degree to which students understand the subject
8	US Education	The American education system, education and democracy, recent problems
9	US Economy	Economic Liberalism, social class and economy, the contemporary economy
10	US Foreign Policy (1)	Current attitudes, history of American foreign policy until WWI
11	US Foreign Policy (2)	History of American foreign policy to recent times
12	US Social Services	History of social services, organization, public vs. private services
13	US Culture: Arts, Sports and Leisure	History, the arts, sporting activities and leisure

14 Final Exam & Wrap-up Assessing the degree to which students understand the subject

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class participation and discussion. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Contemporary America. 4th edition, Russell Duncan and Joe Goddard, 2013, Palgrave Macmillan.

American Civilization: An Introduction, 7th Edition, David Mauk and John Oakland, 2017, Routledge.

[References]

A - Z of Modern America, Alicia Duchak, 1999, Routledge.

Oxford Guide to British and American Culture, Jonathan Crowther, 2005, Oxford University Press.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on a selection exam (10%) class participation (15%) and two exams (75%).

[Changes following student comments]

Some of the topics and readings covered in the class have been changed.

[Prerequisite]

None.

CUA200ZA

Cultural Studies

Zeliha MUGE IGARASHI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Cultural studies analyzes the relationship between representation and power. It provides a variety of theoretical perspectives to understand how culture in the form of film, advertising, fashion, music, everyday commodities, and other mediums combines with institutions of power in shaping how we communicate with others, interpret our social world, and formulate our identities. In this class we will analyze things such as how music becomes a communication tool; how the clothes you wear communicate your social status to others; and how discourse and ideologies formulate your ideas of race, gender, and beauty.

【Goal】

Equip students with a variety of theories through which to interpret and critique the language, symbols, and visual images that we encounter and unconsciously internalize in our everyday lives.

To examine how economics, politics, and culture exert power over what and how we think.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes consist of lectures and discussion. Much of class time is devoted to examining visual images, sound, and other media forms. Each class will introduce a major theory from cultural studies, which students will apply both individually and in groups to a particular cultural case study. There will be a quiz at the end of each class.

General feedback will be provided at the beginning of each class whereas individual feedback on assignments and quizzes will be provided through Google Classroom system. Students who prefer to submit assignments and exams through HOPPII should contact the lecturer to receive feedback during office hours or by e-mail.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	An introduction to cultural studies.
2	Theory I: Representation	Examination of different understandings of this keyword.
3	Theory II: Language and Linguistics	Ferdinand de Saussure and the language of signs(the signifier and the signified).
4	Theory III: Semiotics	Roland Barthes and semiotics. Four Steps to analyzing cultural objects.
5	Theory IV: Discourse	Michel Foucault and discourse.
6	Culture and Ideology	Louis Althusser and interpellation.
7	Capitalism, Economy, Marxism	Basics of Marxist theory.
8	Consumption and Identity	Relation between consumption and identity formation.
9	Popular Culture and the Culture Industries	The genre system and product standardization.
10	Ethnicity, Race, Nation	Self identity and social identity. Typing and stereotyping.
11	Sex, Gender, Body I: Femininities	Social construction of femininity and its reflection in the media.
12	Sex, Gender, Body II: Masculinities	Social construction of masculinity and its reflection in the media.
13	Kawaii Fashion and Culture	What is "kawaii"? What does "kawaii" do?
14	Final Quiz & Wrap-up	Concluding remarks and Quiz #2.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to read before each lesson and come to class prepared to discuss them. Preparatory study and review time for this class are two hours per week.

【Textbooks】

Readings will be uploaded to HOPPII and Google Drive.

【References】

Hall, Stuart, Jessica Evans, and Sean Nixon. 1997. Representation: Culture Representation and Signifying Practice, First Edition. Sage Publications Ltd. ISBN: 9780761954323.

Barker, Chris. 2012. Cultural Studies: Theory and Practice, Fourth Edition. Sage Publications Ltd. ISBN: 9780857024800.

Lewis, Jeff. 2008. Cultural Studies: The Basics. 2nd edition. Sage Publications Ltd. ISBN: 1412922305

【Grading criteria】

Participation 10%

Assignments 30%

Quizzes 20%

Mid-term 20%

Final 20%

【Changes following student comments】

None.

【Others】

Taking "Media Studies" class will be an advantage in student selection.

SOC200ZA

Sociology of Law

Kelesha NEVERS

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 土 2/Sat.2

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

Every aspect of our lives is directly or indirectly regulated by various laws. In this course, students are introduced to the study of law and society from a multidisciplinary and comparative perspective. We will discuss why people (and corporations and other institutions) obey or do not obey laws, and how they act when resolving disputes. We will also study in-depth the ways in which law shapes society, how society influences law, and effectively bringing about social changes.

[Goal]

Upon completion of this course, students should have a better understanding of the role of law in society, and its impact (or lack of it) on individuals as well as society as a whole. Students will learn to analyze and apply abstract principles, and organize new information and their thoughts. Through group discussion and student presentations, students will develop their skills of communication and cooperation, as well as experience the importance of peer-learning.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Throughout the semester, we will discuss specific topics related to law and social change, and the impact of law on society. Students will be expected to read materials concerning the basic concepts and ideas in sociology of law, attend and participate in classroom discussions, and complete assignments based on the readings. Students will also be required to make presentations, and engage actively in class discussion. Students also demonstrate their acquisition and mastery of the course content upon completion of the assessments. For assignments, discussions, and exams feedback is given in the form of comments which is available on the classroom online dashboard; during the lectures, students will also receive feedback to further clarify and develop conversations that arise from the lectures. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation	General introduction to the topics, objectives, and goals for the semester.
2	Learning the Basics	What is law? Sources and types of law. Functions of law. What is sociology of law concerned with?
3	Why Do (or Don't) We Obey the Law?	Incentive, Punishments and their effects; Evolution of Law
4	Theoretical Perspectives	Functionalism; Marxist/Conflict; Critical Legal Studies
5	Lawmaking	What is the relationship between law and society? What is the relationship between social structure, culture, and law?
6	Midsemester Exam	This proctored exam consists of a short essay, multiple choice, and fill-in the blank questions.
7	Sanctions and Social Control	Is law a tool for domination? How and why the law is mobilized
8	Conflict Resolution and Litigation	The process through which legal disputes emerge? Court and Social Change
9	Law and Social Change	How does law impact society? Should social change precede law reform?

10	Topics on Law and Social Change	Law as the cause of social change. Can we solve social ills by changing the law?
11	Topics on Law and Social Change	Can legal change effectively bring about social change?
12	Presentations	Student presentation(s) and class discussion. Topic to be decided based on the interests of the students.
13	Presentations and Wrap-up	Student presentation(s) and class discussion. Topic to be decided based on the interests of the students. We will also use this time to address any questions.
14	Final Exam	The proctored exam will consist of multiple choice, fill-in the blank, and short essay type questions.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are required to do the reading assignments before coming to class. In addition, reviewing class materials after every class will be a great benefit to your learning. Students should also allocate sufficient time to preparing for their assessments and presentations. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Class materials will be provided by the instructor and distributed in class. Readings will be taken from the following book(which you are not required to purchase): Vago, Steven and Barkan, Steven E. (2018). Law and Society (11th edition). New York, NY: Routledge.

[References]

Readings: These materials are posted on the classroom dashboard; any changes to this list will be announced in class and online. Encyclopedia of Law & Society: American and Global Perspectives - Sociology of Law, Sage Publication, Inc., pages 2-6; The Common Place of Law - Transforming Matters of Concern into the Objects of Everyday Life, Susan S. Silbey and Ayn Cavicchi, pages 556-565; Why People Obey the Law, Tom R. Tyler, Yale University Press, Pages 3-4, 6-7, 19-27; Law in Classical Social Theory - Durkheim and Marx; Contemporary Social Theory and Law - Critical Legal Theory; Lawmaking - Making Hate a Crime - Social Movement to Law Enforcement; Law and Social Change - Social Control; Law and Social Change - Discrimination, the Law - and Blacks in America

[Grading criteria]

Attendance and Preparation for class: 10%

Attendance will be taken each day. A preparation sheet is online - select a topic that interests you and sign-up for when you will lead the discussion for that topic of the day.

Participation: 25 %

Individual and group reflections during class, short written responses where you are asked to define key concepts and/or provide commentaries on videos and article excerpts on the discussion forum, feedback on the presentations

Midsemester Exam: 20 %

This exam covers all the materials discussed up until that point of the semester/midsemester assessment. A review of critical materials will be discussed prior to the exam.

Presentation: 20 %

This is a real-world current event analysis presentation. Students will work with a team to select and present on a topic of interest. The goal is to expand on theories and research discussed throughout the semester to take a position on an issue and discuss the impact on society.

What you need to submit:

Submit PowerPoint slides (10-15 slides maximum) that summarizes/current event, the class material that relates to the topic/current event, and any new research you discovered. The PowerPoint presentation should have a reference page with citations/links of those references (e.g. journal articles, newspaper articles, video links). Your presentations will be recorded and upload online, and will receive feedback from the instructor and students.

Final exam: 25 %

This exam covers all the materials discussed throughout the semester. A review of critical materials will be discussed prior to the exam.

[Changes following student comments]

In order to diversify opportunities for learning, a variety of approaches for the different learning styles are integrated throughout the semester. Feedback from the students will also be incorporated into the lessons and assignments.

[Equipment student needs to prepare]

Internet access (smartphone, tablet, computer).

[Others]

The schedule and format for this course is subject to adjustments (given the number of students who will eventually enroll in this class, students' interests, and/or university policies, etc.).

[Prerequisite]

None.

SOC200ZA

Sociology of Violence

Yuki NAKAMURA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金 4/Fri.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

In theory and in practice, it is necessary to understand violence to grasp the essential aspects of how individuals and societies work. Violence will be presented as social phenomena to explain the structural and individual aspects of it. The course will examine the different levels of violence through the theories of Zygmunt Bauman, Norbert Elias, Michel Foucault and Johan Galtung among others. It will focus on classical and contemporary sociological theories to familiarize students with traditional topics of concern as well as contemporary key issues.

【Goal】

Students will learn how to connect the methodologies and theories introduced in class by connecting them to current political issues and topics. As members of society, it is indispensable for students to understand themselves and their surroundings. Therefore, the main aim of the course will be to develop in students what C. Wright Mills called the “sociological imagination.”

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Each class will be divided into two parts: the introduction of the topic and the active learning section. By the end of the course, students will have developed the ability to connect social theories with real world problems.

Feedback will be given directly to every student after each task in verbal and/or written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is Violence?
2	Sociological Theory of Violence: Functionalist Theory	Violence will be analyzed from the functionalist perspective
3	Sociological Theory of Violence: Interactionist Theory	Violence will be analyzed from the interactionist perspective
4	Sociological Theory of Violence: Control Theory	Violence will be analyzed from the perspective of Control Theory in Sociology
5	Modernity, State Monopoly and the Civilizing Process	Norbert Elias' and Max Weber's work will be briefly discussed to show how processes of modernization enable the state to systematically control violence
6	Structural Violence and Perpetrator-less Crimes	Social injustice and perpetrator-less crimes will be presented as a form of structural violence throughout the theories developed by Johan Galtung
7	Bureaucracy and Violence	Bureaucracy and the Milgram experiment will be discussed to show how certain social mechanisms enable large-scale atrocities
8	The Problem of Agency	Reinterpretations of the Milgram experiment that emphasize individual action and its unintended consequences will be reviewed
9	Review and Mid-term Examination	Review and Mid-term Examination

10	Case Study: Homicide in Honduras	Recent developments and consequences of the high murder rate in Honduras will be analyzed with the theories and ideas that were presented during the first half of the course
11	The Lesser Evil	Depending on the method and circumstance, counter-measures for crime, terrorism, war and inequality may also be considered as violence. Academic arguments supporting the “lesser evil” view will be addressed
12	Perpetrators, Victims and Bystanders	The relationship between perpetrators, victims and bystanders will be explored by analyzing how social interactions change depending on the situation
13	The Problem of Accountability	The concept of “structure of unaccountability” developed by Masao Maruyama will be presented in relation to the way violence is done in large-scale organizations
14	Final Exam and Conclusion	Final Exam and Conclusion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Read the materials explained during class.

【Textbooks】

Arendt, Hannah. Eichmann in Jerusalem: A Report on the Banality of Evil. New York: Penguin, 2006.

Baert, Patrick. Social Theory in the Twentieth Century. Polity Press, 2004.

Bauman, Zygmunt. Liquid Evil. Malden, MA: Polity, 2016.

———. Modernity and the Holocaust. Cambridge: Polity, 1989.

Foucault, Michel. Discipline and Punish: The Birth of the Prison. Vintage, 2009.

Galtung, Johan. “Violence, Peace, and Peace Research” Journal of Peace Research. Vol. 6, No. 3: pp. 167-191. Sage Publications, 1969.

Vetlesen, Arne Johan. Evil and Human Agency: Understanding Collective Evildoing. Cambridge, UK: Cambridge UP, 2005.

【References】

Arendt, Hannah. Eichmann in Jerusalem: A Report on the Banality of Evil. New York: Penguin, 2006.

Baert, Patrick. Social Theory in the Twentieth Century. Polity Press, 2004.

Bauman, Zygmunt. Liquid Evil. Malden, MA: Polity, 2016.

———. Modernity and the Holocaust. Cambridge: Polity, 1989.

Foucault, Michel. Discipline and Punish: The Birth of the Prison. Vintage, 2009.

Galtung, Johan. “Violence, Peace, and Peace Research” Journal of Peace Research. Vol. 6, No. 3: pp. 167-191. Sage Publications, 1969.

Goldhagen, Daniel Jonah. Hitler's Willing Executioners: Ordinary Germans and the Holocaust. New York: Vintage, 1997.

Kekes, John. Against Liberalism. Ithaca: Cornell UP, 1997.

Vetlesen, Arne Johan. Evil and Human Agency: Understanding Collective Evildoing. Cambridge, UK: Cambridge UP, 2005.

Zimbardo, Philip. The Lucifer Effect: How Good People Turn Evil. Rider, 2009.

Zizek, Slavoj. Violence: Six Sideways Reflections. New York: Picador, 2008.

【Grading criteria】

40% mid-term exam, 40% final exam, 20% participation and course work

【Changes following student comments】

None

【Others】

Basic knowledge on Sociology will be assumed.

【Prerequisite】

None

SOC200ZA

Crime and Society

Kelesha NEVERS

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 土 1/Sat.1

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

The course will help students develop an understanding of the relationship between crime and society. The course explores how crimes are defined, explained, and controlled in society. An overview of the components of justice systems, their development, and processes are explored to offer a comparative approach. The topics in this course include crime trends, theories of crime and behavior, law enforcement, courts, corrections, and crime policy and prevention.

[Goal]

After completing this course students will be able to: Understand the relationships between crime and society; Identify significant crime and victimization patterns; demonstrate the role of theory in understanding crime; explore theoretical hypotheses and research support; Identify and define the roles and functions of law enforcement, the effectiveness of law enforcement strategies and challenges; Demonstrate an understanding of the importance of court systems, including the organization and processes of courts, and the participants in courtroom matters; Describe methods of sentencing and the goals of punishment and rehabilitation; describe the nature of incarceration and community corrections; Discuss the extent of juvenile crimes; describe the treatment of juveniles in the justice system.

Comprehend crime policies and prevention initiatives and challenges.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This is a lecture-based course that integrates activities to elicit student interaction. Throughout the semester, participation and discussion activities are also used to actively engage students. Students also demonstrate their knowledge of the content of the course upon completion of the assessments. Each assignment will receive graded feedback and comments on strengths and weaknesses of the submission (this will be available on the classroom online dashboard). During lectures, comments are given on students' insights to further clarify and develop our conversations. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview of the course
2	Learning the fundamentals	What is a Crime? Criminal Law and the Nature and Elements of Crime
3	Crime Trends and Rates	What do we know about patterns of violent and property crimes and victimization in Japan and the US?
4	Crime Trends and Rates	What is organized and corporate crimes and how accurate is the data?
5	Theoretical Insights	How do we attempt to explain crime with Classical, Structural and Social Process theories
6	Midsemester Exam	This proctored exam consists of a short essay, multiple choice, and fill-in the blank questions.
7	Law Enforcement	Crime and Law Enforcement role in discovery and control
8	Law Enforcement	Law of Arrest, Search, and Seizure
9	Court Systems and Processes	Pretrial and Trial Activities in Japan and the US
10	Court Systems and Process	Court Methods and Challenges

11	Corrections	Goals of Punishment and Rehabilitation; Community corrections and Reintegration
12	Presentations	Student presentation and class discussion. Topic to be decided based on the interests of the students. We will also use this time to address any questions.
13	Presentations and Semester Wrap-up	Student presentation and class discussion. Topic to be decided based on the interests of the students. We will also use this time to address any questions.
14	Final Exam	The proctored exam will consist of multiple choice, fill-in the blank, and short essay type questions.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There is no required textbook. The instructor used these books and other materials to develop the course content. Bui, L. and Farrington, D.(2019). Crime in Japan: A Psychological Perspective. Palgrave Macmillan. Liu, J. and Miyazawa, S.(Eds.). Crime and Justice in Contemporary Japan. Springer International Publishing, 2018. Schmaellegger, F. (2017). Criminal Justice Today: An Introductory Text for the 21st Century (14th Edition). Pearson Publishing. Reading materials will be provided by the instructor from books excerpts, journal articles, newspapers, and video footage.

[References]

Reading materials are available online. Outline of Criminal Justice in Japan, Supreme Court of Japan, pg. 4-5, Does Japan Have a Low Crime? Bui and Farrington, Pages 7-10; -Crime and Deviance in Japan; White-Collar Crime in US and Japan; Criminological Theories; Outline of Criminal Justice in Japan, Supreme Court of Japan. Any changes to this list will be announced online and in class.

[Grading criteria]

Attendance and Participation: Attendance will be taken each day. Participation involves informal talks that take place throughout the semester. Students will tell the class about an interesting (novel, strange) fact that you learned and how the topic relates to a class topic, current or historical events (12.5%).

Discussions: These short-written responses cover weekly topics (e.g. commentary on videos and/or article excerpts) and involve individual and/or group work (25%). Midsemester exam: Multiple-choice, open-ended, and/or fill in the blank questions that cover the lectures and readings (25%). Presentation: This is a real-world current event analysis presentation. Students will select and present on a topic of interest. The goal is to expand on theories and research discussed throughout the semester to address current events (12.5%). Final Exam: Covers all the materials discussed throughout the semester. A review of critical materials for the final will be discussed prior to the exam (25%).

[Changes following student comments]

Each semester feedback from students is taken into account to develop and change the content and method of instruction given the students' interests and an assessment of students' knowledge and skill levels.

[Equipment student needs to prepare]

Internet access a with smartphone, tablet, and/or computer.

[Others]

None

[Prerequisite]

Understanding Society or Introduction to Sociology

SOC200ZA

Media Effects

Zeliha MUGE IGARASHI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2～4

Day/Period : 木 2/Thu.2

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Media such as news, movies, and the Internet affect us both individually and socially. On the one hand media shapes our everyday lives at the individual level through our inspirations, career goals, and consumption patterns. On the other hand, at the social level, media can influence our perceptions on political decisions, leaders, economic performance, our global allies and/or enemies.

This course examines both of these individual and social effects of media, offering students a toolbox of terms and theories in order to recognize, analyze, and personally manage the pervasive effects of media in our lives.

【Goal】

Students will learn basic theories of media effects research.

These will allow students to recognize and analyze methods used by different types of media that they encounter in their everyday lives.

Through their group presentations, student will have the opportunity to put media effects in perspective and to discuss these with their classmates. Theme such as violence, consumer desire, nationalism, gender, and culture industries will be analyzed in detail.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course focuses on the impact of the mass media on individuals and society. An overview of the history of media effects research will be presented and dominant theories in the field will be introduced. Each course consists of both a lecture and discussion. Classes will also often include the textual reading of a particular media such as magazine advertisements, TV shows, films, or web pages.

Students should be eager to participate in class discussion and share their ideas and experiences. Students are required to submit three assignments and to present one of these in class.

General feedback will be provided at the beginning of each class whereas individual feedback on assignments and quizzes will be provided through Google Classroom system. Students who prefer to submit assignments and exams through HOPPII should contact the lecturer to receive feedback during office hours or by e-mail. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Description of the course.
2	Media as Medium	"The medium is the message" (McLuhan)
3	Media Effects	Introduction to media effects.
4	Media Influence	Brief historical overview of media influence on individuals and society.
5	Media Theory I	Cultivation Theory
6	Media Effect: Case Study I	Effect of Media. Violence and Sexuality. Assignment #1 due. Student presentations.
7	Media Theory II	Agenda setting and framing.
8	Student Presentations	Presentations on cultivation theory, agenda setting and framing.
9	Media Theory III	Uses and gratifications.
10	Media Effect: Case Study II	Anime, manga, and gaming in Japan. Student presentations on uses and gratifications.
11	Society Culture and Mass Media	Culture industries.

12	Media Effect in Japan	Idols and Japanese entertainment industry.
13	Group Discussion	Group discussion on media effects.
14	Wrap-up and Final Exam	Wrap-up and Final Exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to review class materials, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are two hours each per week.

【Textbooks】

There is no single textbook required for this course. Readings will be uploaded to HOPPII and Google Drive.

【References】

Jennings Bryant, Susan Thompson, and Bruce Finklea. (2013). Fundamentals of Media Effects. Second Edition. Waveland: Illinois.
Potter, James. (2012). Media Effects. Sage Publications: UK, India, Singapore.

【Grading criteria】

Participation 10%
Presentation 10%
Group Discussion 5%
Assignments 45%
Final Exam 30%

【Changes following student comments】

None.

【Others】

Taking Media Studies or Cultural Studies classes during fall semester will be an advantage if there is need for student selection.

【Prerequisite】

None.

ART200ZA

Asian Popular Culture

Stevie Tongshun SUAN

Credit(s)：2 | Semester：春学期授業/Spring | Year：2～4

Day/Period：金 1/Fri.1

Notes：＜成績優秀者の他学部科目履修制度利用者＞ 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This class will examine popular culture across Asia, focusing on the region of East Asia, specifically media and cultural practices in South Korea, China, Taiwan, and Japan. Over this semester we will examine how various media — music, film, TV dramas, and internet videos — are part of local cultural practices in each place. This will include an examination of their histories in the area, their connections to society, and what cultural practices they accompany. However, instead of focusing exclusively on different countries, we will concentrate on how these cultural products work across borders, operating transnationally. By close examination of the production, distribution, and consumption of these media across East Asia, we will discover surprising connections beyond the countries they are usually associated with. In other words, we will analyze the links between these countries that are facilitated by the media. With this in mind, this class will ultimately consider how media flows across national boundaries and engages with cultural regionalism.

【Goal】

In addition to teaching the students about contemporary East Asian societies and media, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn methodologies to examine popular culture from Asia; 2) explore the histories of various popular cultural products from Asia; 3) examine how cultural practices cross national boundaries and interact; 4) consider how these cultural products engage with regionalization in Asia.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will be lecture-based, with visual material such as clips of films and animation. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based off of the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their exams. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric provided to the students (by email or a handout). Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is Asian Popular Culture?
2	Transnational Flows of Music	Influences and interactions of American pop music in Japan
3	Transnational Production of Music	Transnational K-pop production
4	Commonality of Film Practices	Images of urban Asia in 1990s film
5	Film Adaptation Across Borders	Korean film adaptations in dialogue with global media
6	Sharing an Imaginary Beyond Nations	Contemporary animation in China
7	Fan Practices in Asia	Cosplay practices across China
8	Online Fan Cultures Across Asia	Online fandom and media in China and Japan
9	Dynamic Influences on TV Programs	Transnational components of puppet drama on Taiwanese TV

10	Communities of Craft Across Borders	Illustrators producing transnational imagery in South Korea
11	Regional Relations through Media	Adapting TV dramas across Asia
12	Student Presentations	Feedback and Discussion
13	Student Presentations	Feedback and Discussion
14	Student Presentations	Feedback and Discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Hunt, Leon, and Leung Wing-Fai. *East Asian Cinemas: Exploring Transnational Connections on Film*. Tauris, 2008.

Iwabuchi, Koichi, et al. *Routledge Handbook of East Asian Popular Culture*. 2017.

【Grading criteria】

Participation 20%

Presentation 40%

Final paper 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

ART200ZA

Japanese Popular Culture

Akiko MIZOGUCHI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 水 4/Wed.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Popular culture pervades our everyday experiences. Drawing on visual and cultural studies, we will look at the historical and theoretical study of visual culture as described in a book written for North American university students in the first few weeks. Then, we will look at the research involving specific examples of Japanese popular culture.

【Goal】

Students will learn to critically engage with, analyze and address various modes of Japanese popular culture in the global context.

Students will become familiar with theories of visual and cultural studies.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will combine lectures, discussions, and student presentations. In addition to reading critical and theoretical texts, students are expected to experience, or refer back to their past experiences with, cultural objects and practices in question, and analyze them in a global context in their final papers. Students will also conduct research for the final paper. Feedback to the comment cards will be given in the beginning of each class. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Defining visual and cultural studies
2	Theories 1: Images, Power, and Politics	Image and ideology, how we negotiate the meaning of images
3	Theories 2: Viewers Make Meaning	Reception and the audience
4	Theories 3: Spectatorship, Power and Knowledge	Appropriation and cultural production, gender and the gaze
5	Theories 4: Postmodernism, Globalization and Popular Culture	Producer's intended meanings, reflexivity and postmodern identity
6	Topics in Japanese Popular Culture 1	The Imperial Family and the media in postwar Japan
7	Topics in Japanese Popular Culture 2	Sports as popular culture Students hand in the topics of their final research projects

8	Topics in Japanese Popular Culture 3	Takarazuka and kabuki
9	Topics in Japanese Popular Culture 4	“Shôjo” in popular culture
10	Topics in Japanese Popular Culture 5	Anime fandom in the global context
11	Topics in Japanese Popular Culture 6	Japanese fashion (designer fashion and street fashion)
12	Research Workshop 1	Student presentations of final paper projects. Feedbacks 1
13	Research Workshop 2	Student presentations of final paper projects. Feedbacks 2
14	Summary	Revisiting basic theories of visual and cultural studies in relation to Japanese popular culture

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to complete reading assignments so that they are ready for class discussions. Students will be asked to speak about the weekly articles at least once during the semester.

Also, students will conduct research, write, and make class presentations. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Sturken, Marita and Lisa Cartwright. *Practices of looking: an introduction to visual culture*, 2nd ed. NY: Oxford University Press, 2009. (The assigned sections will be made available on Hoppii. Students will not be required to purchase a copy.)

【References】

Tobin, Joseph J. ed., *Re-Made in Japan: Everyday Life and Consumer Taste in a Changing Society*. New Haven and London: Yale University Press, 1992.

Richie, Donald. *The Image Factory: Fads & Fashions in Japan*. London: Reaktion Books, 2003.

Martinez, D.P. (ed.). *The Worlds of Japanese Popular Culture: Gender, Shifting Boundaries and Global Cultures*. Cambridge: Cambridge University Press, 1998.

Craig, Timothy J. (ed.). *Japan Pop!: Inside the World of Japanese Popular Culture*. NY: M.E. Sharp, 2000.

Yano, Christine R. *Pink Globalization: Hello Kitty's Trek across the Pacific*. Durham and London: Duke University Press, 2013.

【Grading criteria】

The final grade will be determined by evaluation in the following areas: (1) Contribution to class discussion and comment cards (50%), (2) Presentation of the final paper project (10%), (3) Final paper (minimum 700 words) (40%).

【Changes following student comments】

I have streamlined the theoretical contents.

【Others】

Do not miss the first class as a selection process may occur.

【Prerequisite】

None.

ART200ZA

Music and Culture

Cathy Lynn COX

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 水 3/Wed.3

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブ
サイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注
意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

What is the relationship between music and culture? How does culture shape music? How does music express culture? In this course we will investigate these and other questions surrounding music as a culturally defined phenomenon. Each week students will participate in directed listening related to a specific topic, drawing on examples from various musical traditions and practices from around the world.

【Goal】

Students will be able to:

- (1) develop vocabulary to talk about music;
- (2) develop an awareness and appreciation of various musics of the world;
- (3) develop an ability to recognize the role of music in their own cultural identity;
- (4) think critically about the complex cultural workings within a piece of music or musical practice.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course is taught through a combination of lectures, documentary-viewings and group discussions. The course will facilitate self-learning through required weekly reading and listening assignments that will be assessed through short writing assignments, as well as collective learning through a final group presentation. Feedback will be given collectively in class or through the Learning Management System (Google Classroom), depending on the nature of the assignment.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course and requirements; selection evaluation (enquete)
2	Basic Concepts of Music 1	Pitch, scales, modes, melody
3	Basic Concepts of Music 2	Rhythm, timbre, texture
4	Music and Ethnicity 1	Expression of ethnic identity through traditional forms of music-making
5	Music and Ethnicity 2	Complex expressions of ethnic identity or national culture through contemporary forms of music-making
6	Music and Gender	Traditional gender roles for music-making; Culturally defined roles of 'masculine' and 'feminine' as expressed in music.
7	Music and Spirituality	The role of music in religious rituals and traditions; Music as an expression of spirituality
8	Music and Community	Music as a tool for social interaction
9	Music and Marginalized Communities	Music as a tool of resistance against oppression
10	Music and War	Music for battle; Music as a celebration of war;
11	Music and Politics	Music as a tool for propaganda; Music for resistance and revolution
12	Group A Presentations	Final presentations by students in Group A with follow-up discussions
13	Group B Presentations	Final presentations by students in Group B with follow-up discussions
14	Final Review and Wrap-Up	review of topics and materials

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read assigned texts, listen to assigned recordings, and complete assigned writing tasks. Students are also expected to find music examples to share with the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Required weekly reading and listening assignments will be made available by the instructor.

【References】

Bakan, M. (2007). *World Music: Traditions and Transformations*, Second Edition. New York: McGraw-Hill.

Cornelius, S. and M. Natvig. (2018). *Music: A Social Experience*, Second Edition. New York: Routledge.

Milioto Matsue, J. (2016). *Music in Contemporary Japan*. New York: Routledge.

【Grading criteria】

Class Participation: 25%, Short Writing Assignments: 50%, Group Presentation: 25%

【Changes following student comments】

Following student feedback, added more time for learning and review of technical terminology as well as more time for certain reading assignments.

【Equipment student needs to prepare】

Some in-class activities may require the use of computers, tablets or smartphones for the creation and/or playback of sound.

【Others】

Class materials and assignments can be accessed through Google Classroom.

【Prerequisite】

None.

LIT200ZA

Performance Studies

Stevie Tongshun SUAN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2～4

Day/Period : 木 3/Thu.3

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This class will explore performance studies, an interdisciplinary field which uses various conceptions of performance to analyze the world around us. To perform can mean many things: to execute (to perform an action), to bring about (to perform a ritual: “I hereby pronounce the official beginning of the Olympics”), to judge (“how well did she perform at the Olympics?”). This includes performance in the traditional sense, such as in the theater, but also in everyday life, in our societies and daily practices of living, how we think about ourselves and our relationship to society: how are we performing when we use SNS or when we change our behavior with friends or family? How can thinking about the world as a series of performances allow us to analyze the news, public elections, gender, branding, and technology. Throughout the class we will be using Richard Schechner's textbook, developed to introduce Performance Studies, to guide the course. We will look at an overview of the major approaches used in the field, examine their theories, and explore how they can reveal important insights about our world.

【Goal】

In addition to teaching the students about the fundamentals to performance studies, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn various methodologies and theories about performance; 2) explore how to apply these concepts to other subject matter beyond the theater; 3) to learn how to articulate what, where, how, and why we are performing; 4) learn how to conduct analyses on various topics by applying the concepts from performance studies.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will be lecture-based, with visual material such as video clips. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Each week students will be assigned a section from Schechner's book. This reading will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based off of the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. At the end of the semester, students will be expected to do a short presentation on an assigned topic, and submit a final report on the topic of the presentation. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings as reflected in their presentation and paper. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric provided to the students (by email or a handout). Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is performance studies?
2	What is Performance?	Performance beyond the theatrical stage
3	Conceptualizing Performance	Ways of examining performances around us
4	Ritual Practices	Types of rituals across cultures
5	Modern Rituals	Regular practices in modern society
6	Playing and Performance	Thinking about “playing” beyond games
7	Philosophies of Play	Gradients of playfulness in various contexts
8	Performativity of Language	How are words active on us

9	Performativity of Gender	How gender is constituted as practice
10	Ways of Performing	Types of acting and their implications on us
11	Shifting Frames of Reference	Stages in everyday life and how they effect us
12	Intercultural Performances	Performance on the global stage
13	Student Presentations I	Student presentations
14	Student Presentations II	Student presentations; final paper submission

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Schechner, Richard. *Performance Studies: An Introduction*. 3rd ed., Routledge, 2013.

【References】

Bial, Henry. *The Performance Studies Reader*. 3rd ed., Routledge, 2013.

【Grading criteria】

Participation 20%

Presentation 40%

Final paper 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

LAN200ZA

Digital Writing and Publication

Mark James BIRTLES

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金 3/Fri.3

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Technological advances have pushed society toward an ever-more participatory global culture; we both consume and create vast quantities of the written word on our phones, laptops and tablets. These digital texts have expanded the definition of what we call writing and what we can do with it. This course will look more closely at how this kind of digital copy is produced and the way it impacts our daily life. Together, we will examine the planning, writing and publication stages of digital content creation, as well as the practical and ethical issues that are involved.

【Goal】

Frederich Nietzsche once said, “it is my ambition to say in 10 sentences what others say in a whole book,” and that is what we will aim to do: produce clear and concise written communication. As part of this process, we will:

- Examine how technology has profoundly altered traditional writing practices
- Learn how to deliver content to a brief, within set style guidelines
- Be engaged in the analysis and production of digital writing, both individually and as part of a team
- Consider the fundamentally new set of ethical issues the online world has created.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Digital Writing and Publication has a focus on quality rather than quantity; in today's digital world, information must be conveyed quickly and attractively. An assignment may be as short as 50 words, but students will learn how to make those 50 words count. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. We will look at practices that promote a collaborative approach toward a common goal via technology. Students will also learn industry-standard practices, such as writing to a specific style guide and for a specific audience. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Principles of Good Writing	This session will focus on the foundation of good copywriting practices
3	Identifying the Audience	Before we write a single word, we need to answer three questions: who is our audience? What do they need? What is our purpose?
4	Choosing a Voice and Writing to a Brief	This session will look at the importance of tone and examples of the kind of brief a writer may be given
5	AP Style	A close look at the importance of writing to a specific style, using the standard AP stylebook
6	Editing	A dive into the world of content editing
7	Review and Midterm Exam	Review and written examination of content thus far
8	Visual Style and Publication	An examination of the interplay between text, images, video and colour
9	Collaborative Working Practices I	Over the two sessions, students will work as a team to create original digital content

10	Collaborative Working Practices II	Over the two sessions, students will work as a team to create original digital content
11	Ethics of Digital Writing I	Current debates regarding ownership, copyright and fair use
12	Ethics of Digital Writing II	Current debates regarding standards and ethical codes
13	AI and the Future of Writing	Will the machines take over?
14	Final Exam and Wrap Up	Written examination and summary

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required in class, materials will be supplied by the instructor.

【References】

Anderson, J. & Dean, D. (2014). *Revision decisions: talking through sentences and beyond*. Portland, US: Stenhouse Publishers.
 Beach, R. (2014). *Understanding and creating digital texts: an activity-based approach*. Lanham, US: Rowman & Littlefield.
 Carroll, B. (2017). *Writing and editing for digital media (third edition)*. New York: Routledge.
 DeVoss, D., Eidman-Aadahl, E. and Hicks, T. (2010). *Because digital writing matters*. San Francisco, US: Jossey-Bass.
 Strunk, W & White, E. (1999). *The elements of style (fourth edition)*. Boston, US: Allyn & Bacon.

【Grading criteria】

Class participation 15%, assignments 15%, midterm exam 20%, collaborative project 25%, final exam 25%.

【Changes following student comments】

As requested, there will be more time given to completing the collaborative task.

【Equipment student needs to prepare】

Please bring a laptop computer to every class. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

【Prerequisite】

None.

LAN200ZA

Digital Writing and Publication

Mark James BIRTLES

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金 4/Fri.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Technological advances have pushed society toward an ever-more participatory global culture; we both consume and create vast quantities of the written word on our phones, laptops and tablets. These digital texts have expanded the definition of what we call writing and what we can do with it. This course will look more closely at how this kind of digital copy is produced and the way it impacts our daily life. Together, we will examine the planning, writing and publication stages of digital content creation, as well as the practical and ethical issues that are involved.

[Goal]

Frederich Nietzsche once said, “it is my ambition to say in 10 sentences what others say in a whole book,” and that is what we will aim to do: produce clear and concise written communication. As part of this process, we will:

- Examine how technology has profoundly altered traditional writing practices
- Learn how to deliver content to a brief, within set style guidelines
- Be engaged in the analysis and production of digital writing, both individually and as part of a team
- Consider the fundamentally new set of ethical issues the online world has created.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Digital Writing and Publication has a focus on quality rather than quantity; in today's digital world, information must be conveyed quickly and attractively. An assignment may be as short as 50 words, but students will learn how to make those 50 words count. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. We will look at practices that promote a collaborative approach toward a common goal via technology. Students will also learn industry-standard practices, such as writing to a specific style guide and for a specific audience.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Principles of Good Writing	This session will focus on the foundation of good copywriting practices
3	Identifying the Audience	Before we write a single word, we need to answer three questions: who is our audience? What do they need? What is our purpose?
4	Choosing a Voice and Writing to a Brief	This session will look at the importance of tone and examples of the kind of brief a writer may be given
5	AP Style	A close look at the importance of writing to a specific style, using the standard AP stylebook
6	Editing	A dive into the world of content editing
7	Review and Midterm Exam	Review and written examination of content thus far
8	Visual Style and Publication	An examination of the interplay between text, images, video and colour
9	Collaborative Working Practices I	Over the two sessions, students will work as a team to create original digital content
10	Collaborative Working Practices II	Over the two sessions, students will work as a team to create original digital content

11	Ethics of Digital Writing I	Current debates regarding ownership, copyright and fair use
12	Ethics of Digital Writing II	Current debates regarding standards and ethical codes
13	AI and the Future of Writing	Will the machines take over?
14	Final Exam and Wrap Up	Written examination and summary

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be required in class, materials will be supplied by the instructor.

[References]

Anderson, J. & Dean, D. (2014). *Revision decisions: talking through sentences and beyond*. Portland, US: Stenhouse Publishers.
Beach, R. (2014). *Understanding and creating digital texts: an activity-based approach*. Lanham, US: Rowman & Littlefield.
Carroll, B. (2017). *Writing and editing for digital media (third edition)*. New York: Routledge.
DeVoss, D., Eidman-Aadahl, E. and Hicks, T. (2010). *Because digital writing matters*. San Francisco, US: Jossey-Bass.
Strunk, W & White, E. (1999). *The elements of style (fourth edition)*. Boston, US: Allyn & Bacon.

[Grading criteria]

Class participation 15%, assignments 15%, midterm exam 20%, collaborative project 25%, final exam 25%.

[Changes following student comments]

As requested, there will be more time given to completing the collaborative task.

[Equipment student needs to prepare]

Please bring a laptop computer to every class. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

[Prerequisite]

None.

PSY200ZA

Applied Psychology

Sayaka AOKI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月 3/Mon.3

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

This course focuses on how psychology is applied in the field. Students will acquire new perspectives to analyze and conceptualize the world and themselves. They will also acquire some psychological skills that can be applicable in their daily life.

[Goal]

Upon completion of this course, students will have

- (1) learned some psychological concepts and theories that are applied in the clinical, educational, and workplace settings
- (2) acquired a basic knowledge about how one's psychological characteristics are assessed and mental and behavioral problems are treated, and
- (3) developed an array of skills that can be used to understand one's psychological characteristics and handle mental problems in daily life

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course is taught primarily through lectures and in-class activities. Students are expected to be engaged in. At the end of each class, students write a brief reflection paper, which will be graded and returned with feedback comments from the lecturer by the beginning of the next class. In the middle of the course, students are also asked to work on a small project. The course concludes with a final exam. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction of the course	How psychology is applicable in real settings
2	Assessment (I)	Overview of psychological assessment - How do we know ourselves?
3	Assessment (II)	Psychological tests (i)
4	Assessment (III)	Psychological tests (ii)
5	Assessment (IV)	Questionnaire
6	Assessment (V)	Interview
7	Assessment (VI)	Observation
8	Intervention (I)	Overview of psychological intervention - How do we change ourselves?
9	Intervention (II)	Cognitive behavior therapy
10	Intervention (III)	Dialectic behavior therapy
11	Intervention (IV)	Emotional control
12	Intervention (V)	Behavioral management
13	Intervention (VI)	Motivation control
14	Final Exam & Wrap-up	Final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are required to print out and read over the slides for the class in advance, which are uploaded on the class website. Reading assignments, links to relevant websites for the next class, will be also included in the last slide. Students are also expected to consider the answers for the essay questions in the final exam which are shared in the beginning of the course. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No specific textbooks are used; class materials are uploaded in the class website.

[References]

Salvia, J., Ysseldyke, J., & Witmer, S. (2012). *Assessment in special and inclusive education*, 12th ed. Belmont, CA, : Wadsworth/Cengage Learning.

Spiegler, M. D., & Guevremont, D. C. (2015). *Contemporary behavior therapy*, 6th ed. Belmont, CA, : Wadsworth/Cengage Learning.

[Grading criteria]

The following show approximate activity-by-activity percentage points toward your final course grade: (a) active participation, preparation, and engagement (10%); (b) Reflection papers and assignment (40%); (c) Final exam (50%)

[Changes following student comments]

For the final exam, students are expected to start preparation well in advance, as they need to develop their own answers by reflecting on their own lives. For this purpose, the questions are shared in the beginning of this course.

[Equipment student needs to prepare]

Class materials are uploaded on the class websites

[Others]

None

[Prerequisite]

None

ECN200ZA

Macroeconomics II

Alberto J Iniguez M

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
 Day/Period : 金 5/Fri.5

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course will provide students with more knowledge of the core theories in macroeconomics, particularly on the economics of open economies, unemployment, monetary growth and inflation, and the model of aggregate demand and supply. Moreover, the role of fiscal and monetary policy to stimulate the economy will be discussed.

To prepare students for embarking confidently on their journey in the world of economic analysis and for seriously analyzing the economic signals and data we all face daily to be able to justify views and opinions with sound economic reasoning.

[Goal]

By the end of this course, students should be able to:

1. Apply macroeconomic knowledge to analyze contemporary macroeconomic issues and real-world problems
2. Interpret macroeconomic issues and problems from the theoretical perspectives
3. Assess macroeconomic theories in terms of their policy implications
4. Articulate macroeconomic debates clearly, using both technical tools of analysis and an intuitive approach.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course will be mainly conducted through lectures, with analysis of appropriate case studies related to each topic. Students will be expected to read the required material prior to the lecture to discuss and solve problems in class. Assignments and related feedback will be given via the learning-management system. Additionally, midterm-exam feedback will be provided in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course (Syllabus)	Introduction to the course
	Independence and the Gains from Trade (Ch3)	International trade Absolute and comparative advantages
2	Consumers, Producers, and the Efficiency of Markets (Ch7)	Consumer surplus Producer surplus Market efficiency
3	Application: International Trade (Ch9)	The determinants of trade The winners and losers from trade
4	Open-economy macroeconomics (Ch31)	Case study The international flows of goods and capital The prices for international transactions
5	Open-economy macroeconomics (Ch31)	A first theory of exchange-rate determination
	Unemployment (Ch28)	Identifying unemployment Case study Job Search
6	Unemployment (Ch28)	Minimum wage laws Minimum wage laws Union and collective bargaining The theory of efficiency wages Problems
7	Review & midterm exam	Assess students' performance for the 1st half of the course (week 1-6).
8	Money Growth and Inflation -1 (Ch30)	The classic theory of inflation
9	Money Growth and Inflation -2 (Ch30)	The cost of inflation Case study

10	Aggregate demand and aggregate supply -1 (Ch33)	Economic fluctuations The aggregate demand curve The aggregate supply curve
11	Aggregate demand and aggregate supply -2 (Ch33)	The aggregate supply curve Two causes of economic fluctuations Problems
12	The influence of monetary and fiscal policy on aggregate demand (Ch34)	How monetary policy influences aggregate demand How fiscal policy influences aggregate demand
13	The short-run trade-off between inflation and unemployment (Ch35)	The Phillips curve Shifts in the Phillips curve
14	Review & final exam	Assess students' performance for the 2nd half of the course (week 8-13).

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the assigned materials (textbook/articles/cases) and to participate in class discussions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Mankiw, N. Gregory. *Principles of Economics*, 9th Asia Edition. Cengage, 2021. (ISBN-13: 978-981-49-1534-2). You must buy a MindTap access code as well to submit your assignments. (Required; sold as a bundle)

[References]

Blanchard, O. *Macroeconomics*, 8th Edition, Pearson, 2021. (ISBN: 978-0-13-489789-9)

Wheelan, C. *Naked Economics: Undressing the Dismal Science*, Fully revised and updated, WW Norton & Company, 2019. (ISBN: 978-0-393-35649-6)

[Grading criteria]

1. Participation: 10%
2. Homework: 25%
3. Midterm exam: 30%
4. Final exam: 35%

[Changes following student comments]

Students are encouraged to provide feedback and suggestion regarding the course. Constructive suggestion is appreciated and may be taken for course adjustment.

[Equipment student needs to prepare]

A calculator and a ruler are required.

[Others]

None

[Prerequisite]

Macroeconomics I (except for students who entered 2012 - 2015. All students who entered 2012 - 2015 can take this course.)

Students who have taken other economics courses need to discuss with the instructor for permission.

ECN200ZA

Microeconomics II

Maymay HO

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 水 4/Wed.4

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This is the second part to an introductory course in microeconomics. (See prerequisite below.)

In this semester, we will continue covering fundamental concepts and principles in microeconomics. This time, we will focus on producer and consumer theory and the labor market. In the first half of the semester, we will study firm behavior and market structures. In the second half of the semester, we will discuss consumer theory. The labor market and income determination will also be examined.

【Goal】

The intention of this course is to integrate theory and application. At the end of the course, students should grasp and be able to discuss fundamental concepts in microeconomics, i.e. how different market structures affect producers and consumers and how the labor market works. Students should be able to examine issues related to consumption, production, the labor market, income inequality, and poverty.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course	Introduction to the course Costs of production (Chapter 13)
2	Producer Theory (1)	Producer Theory (2)
3	Producer Theory (2)	Firms in competitive markets (Chapter 14)
4	Producer Theory (3)	Problem sets and practical applications (Chapters 13 and 14)
5	Producer Theory: Firms in Non-competitive Markets (1)	Monopoly (Chapter 15)
6	Producer Theory: Firms in Non-competitive Markets (2)	Monopolistic competition (Chapter 16)
7	Producer Theory: Firms in Non-competitive Markets (3)	Oligopoly (Chapter 17)
8	Producer Theory: Firms in Non-competitive Markets (4)	Problems sets and practical applications (Chapters 15, 16, and 17)
9	Review & Mid-term Exam	Review & In-class written exam
10	Consumer Theory (1)	Preferences and optimization (Chapter 21)
11	Consumer Theory (2)	Solving selected problems and applications in Chapter 21
12	Labor Economics (1)	Labor demand and supply
		Equilibrium in the labor market (Chapter 18); Determinants of wages
		Economics of discrimination (Chapters 19, 20)
		Problem sets and practical applications (Chapters 18, 19, and 20)

13 Discussion and Review Discussion and review.

14 Final Exam & Wrap-up Review & In-class written exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Readings- Students are expected to read the textbook chapters carefully and to prepare for the lecture. Special attention should be paid to understanding the tables and the graphs.

2. Short assignments- Students are at times given assignments to strengthen their understanding of the application of the concepts. Assignments will be presented and discussed in class.

3. Student Group Presentation- Students form groups to make a presentation on current issues relating to Japan's fiscal situation. Topics may include: Japanese government debt, tax measures, debt service, social security expenditures, or other government expenditures. Specific guidelines will be given in class.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Mankiw, Gregory. N. (2015) *Principles of Microeconomics*, 7th edition, Cengage Learning.

【References】

Other materials, if any, will be given by the instructor or shall be announced in class.

【Grading criteria】

Assignments and Class Participation: 25%

*The two lowest-graded assignments will not be included in the calculation of the final grade.

Student Group Presentation: 15%

Midterm Exam: 30%

Final Exam: 30%

【Changes following student comments】

The lecture schedule may be adjusted depending on the pace of the class or at the discretion of the instructor. Any changes will be announced in class.

【Others】

This course requires students to have a good understanding of mathematics and graphic analysis.

【Prerequisite】

Microeconomics I, Understanding Microeconomics or an equivalent introductory course in microeconomics or economics.

LIN200ZA

Teaching Pronunciation

Katsuya YOKOMOTO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月 5/Mon.5

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This course will cover the theoretical and practical aspects of pronunciation teaching. We will look at pronunciation variations, and explore possible obstacles that adults and children come across in speech perception and production. We will discuss how teachers can help students learn and understand the articulation of English sounds.

【Goal】

At the end of this course, students will be able to:

- (1) Understand and explain the articulation of individual sounds in English,
- (2) Understand and explain the basic rules about the connected speech, rhythm, and intonation in English,
- (3) Understand the common challenges that learners encounter in learning pronunciation in English, and
- (4) Apply the knowledge about the English pronunciation and learners' difficulties into pronunciation teaching.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course is offered through lectures and discussions in class. Handouts are provided in class, and students are expected to participate in all class activities actively. Individual members' contributions to group work are vital to successful learning. Please make sure to complete preparatory study to maximize your contributions to class members and therefore learning outcome. Good comments in group discussions will be introduced to the class for further discussions, and comments and explanations for tests will be given either in class or in a recording. Written feedback on microteaching will be given to individual students. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction: Pronunciation and pronunciation teaching	Variations in English Priorities in pronunciation teaching
2	The consonant system	Phonetic symbols of English consonants How to pronounce consonants in English
3	Teaching English consonants	Microteaching: Consonants Practical issues in teaching English consonants
4	The vowel system	Phonetic symbols of English vowels How to pronounce vowels in English
5	Teaching English vowels	Microteaching: Vowels Practical issues in teaching English vowels
6	Review: Teaching consonants and vowels	Review and midterm exam
7	Connected speech	What is connected speech? Reduction and linking in English
8	Teaching connected speech	Microteaching: Connected speech Practical issues in teaching connected speech
9	Stress	Word stress in English Sentence stress in English
10	Teaching stress	Microteaching: Word/Sentence stress Practical issues in teaching stress in English

11	Prominence and teaching prominence	Roles of prominence in English Practical issues in teaching prominence in English
12	Intonation in English	What is intonation in English? Expressing different meanings using intonation
13	Teaching prominence and intonation	Microteaching: Prominence and Intonation Practical issues in teaching intonation in English
14	Review: teaching beyond individual sounds	Review and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read handouts thoroughly and think about the questions and issues in the handouts before class. Students are also expected to refer to recommended readings when necessary as preparatory study for class discussion. If you miss a class, please make sure to contact your classmates or the instructor about lectures, discussions, and assignments. Students are expected to spend 2 hours for preview and 2 hours for review.

【Textbooks】

No textbook will be used.

【References】

Levis, J. M. (2018). Intelligibility, oral communication, and the teaching of pronunciation. Cambridge University Press.
 Murphy, J. (2013). Teaching pronunciation. TESOL International Association.
 Murphy, J. (Ed.). (2017). Teaching the pronunciation of English: Focus on whole courses. University of Michigan Press.
 Celce-Murcia, M., Brinton, D. M., Goodwin, J. M., & Griner, B. (2010). Teaching pronunciation: A course book and reference guide. Cambridge University Press.

【Grading criteria】

Participation (20%), Microteaching (20%), Midterm exam (30%), and Final exam (30%)

Students are expected to attend every class. When you have legitimate reasons for being absent, please notify your instructor of your absence prior to class. Being absent three times without reasonable notice will result in the failure of this course. Students will choose a teaching focus (e.g., consonants) for microteaching, and rubrics for microteaching will be provided in advance.

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Not applicable

【Others】

Students who are interested in teaching English and/or teaching pronunciation are welcome.

【Prerequisite】

None

LIN200ZA

Semantics and Pragmatics

Nobumi NAKAI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金 2/Fri.2

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

Semantics is the study of meaning in language. Pragmatics is the study of the ways people use language in actual conversations. The aim of this course is to provide students with an essential understanding of semantics and pragmatics, with examples drawn from English and Japanese.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- (1) Have a general understanding of the interface between semantics and pragmatics.
- (2) Understand key concepts and major theories in the fields.
- (3) Survey the wide range of semantic and pragmatic phenomena in all their richness and variety.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course begins by covering some essential issues of semantics. In subsequent lectures, we will discuss how the identification of the semantic contribution of words and sentences gets us only partway to understanding what an utterance means. The course is a combination of lectures, group discussions, and review exercises. Feedback will be given during class discussions as necessary.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview of <i>Semantics and Pragmatics</i>
2	An Overview of Semantics	Describes the components of linguistic meaning and introduces lexical and compositional semantics.
3	Lexical Semantics (1): The Meanings of Words	Examines the different ways that word senses could be represented in the mind of a language user and discusses the types of reference that words can have.
4	Lexical Semantics (2): Word Relations	Discusses the kinds of meaning relationships that exist between words.
5	Compositional Semantics (1): The Meanings of Sentences	Introduces propositions, truth values, and truth conditions, and discusses relationships between propositions.
6	Compositional Semantics (2): Putting Meanings Together	Introduces the Principle of Compositionality in more detail and discusses different ways that lexical meanings combine to give rise to phrasal meanings.
7	Practice (1)	Provides exercises, discussion questions, and activities.
8	Language in Context	Explores several ways in which context can affect the meaning of utterances, and introduces the idea of felicity in discourse.
9	Rules of Conversation	Discusses why conversation needs to follow rules, and introduces Grice's maxims for cooperative conversation.
10	Drawing Conclusions	Shows ways in which language users may employ context to convey or derive meaning that is not part of an utterance's entailed meaning.

11	Speech Acts	Outlines many of the jobs that speakers accomplish with language and the ways in which they accomplish them.
12	Presupposition	Discusses another precondition for felicity.
13	Practice (2)	Provides exercises, discussion questions, and activities.
14	Examination & Wrap-up	Semester-end exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to read the relevant reading materials carefully in advance so that they can actively participate in discussions. Practice problems will be assigned occasionally. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbooks are used. All reading materials will be provided in the classroom.

【References】

The following books will be helpful for a general understanding of the fields.

- (1) Cruse, Alan (2010)
Meaning in language: An introduction to semantics and pragmatics, Oxford UP.
- (2) Riemer, Nick (2010)
Introducing semantics, Cambridge UP.
- (3) Saeed, John I. (2015)
Semantics, John Wiley Inc.
- (4) Birner, Betty J. (2012)
Introduction to pragmatics, Wiley-Blackwell.
- (5) Senft, Gunter (2014)
Understanding pragmatics: An interdisciplinary approach to language use, Hodder Arnold/Routledge.
- (6) Loebner, Sebastian (2012)
Understanding semantics, Hodder Arnold/Routledge.

【Grading criteria】

Student evaluations are based on class participation (25%), in-class assignments (25%), and a final exam (50%). More than two unexcused absences will result in failure of the course. Attendance at the first class is mandatory.

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

The handouts are downloadable in PDF format.

【Others】

None.

【Prerequisite】

None.

LIN200ZA

Psycholinguistics

Mako ISHIDA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This course will cover the basic notions of psycholinguistics – how languages are acquired, learnt, used, and understood in daily situations. It primarily focuses on human speech communication – how auditory and visual information is processed and integrated in the human brain. We will explore research findings in linguistics, acoustics, psychology, and neuroscience.

【Goal】

There are three main goals:

- (1) Students understand the basic structures of language.
- (2) Students understand communication strategies including auditory and optical illusion.
- (3) Students understand the basic brain structure and functions for human speech communication.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

【Method(s)】

This course consists of lectures, discussions, pop-quizzes, and midterm/final reviews. Handouts and worksheets are provided in class. Students are expected to actively participate in class: take notes, be responsive to questions, and work in pairs and groups. Feedback for course contents and assignments will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What do we do when we communicate?
2	Language Acquisition	How did we acquire a first language?
3	Speech Communication 1	The basic components of language 1
4	Speech Communication 2	The basic components of language 2
5	Speech Communication 3	The basic components of language 3
6	Speech Communication 4	Ambiguity & Grice's conversational maxims
7	Checkpoint	Review and midterm exam
8	Communication Strategies 1	The cocktail party effect and McGurk effect
9	Communication Strategies 2	Slips of the ear, slips of the tongue, slips of the pen
10	Communication Strategies 3	Polite fictions & Sapir-Whorf hypothesis
11	Vocabulary and Memory	How many words do you need to know?
12	Neuroscience 1	The basic brain anatomy and language processing

13	Neuroscience 2	Short-term memory and long-term memory
14	Checkpoint	Review and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to review what was covered in class every week. If you miss a class, please be sure to contact your classmates or the course instructor about lecture notes and assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts and worksheets are provided in class.

【References】

Berninger, V.W., & Richards, T.L. (2002). Brain literacy for educators and psychologists. San Diego, CA: Academic Press.
Carroll, D.W. (2008). Psychology of language (5th edition). Belmont, CA: Cengage Learning/Wadsworth.
O'Grady, W., Dobrovolsky, M., & Katamba, F. (1996). Contemporary linguistics: An introduction. Essex: Pearson Education.

【Grading criteria】

Attitude and participation (20%), Pop quizzes (20%), Midterm exam (30%), Final exam (30%).

Please be sure to attend every class. Absence three times without prior and reasonable notice will result in the failure of this course. A delay can be counted as an absence. Pop quizzes are “open-notes” (not “open-book”), and they are intended to assess your comprehension of materials.

【Changes following student comments】

No particular change.

【Equipment student needs to prepare】

Not applicable.

【Others】

Students who are interested in human speech communication are welcome.

【Prerequisite】

None.

LIN200ZA

Topics in Applied Linguistics A: Linguistic Landscapes

Chie SAITO

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 4/Thu.4

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

The course will explore how linguistic landscapes reflect complicated relationships between language and society. Linguistic landscapes are defined by Landry and Bourhis (1997) as “the visibility and salience of languages on public and commercial signs in a given territory or region.” Linguistic landscapes is a concept in sociolinguistics to study languages visually used in multilingual societies. We may not perceive Japanese society as multilingual. However, when you look at language use on public signs, you will realize that you are surrounded by more than just one language. Because the function of linguistic landscapes is not only as an informational indicator but also as a symbolic marker, you can observe our ever-changing society through investigation of language use in signs. In the course, students will learn about the basic concepts of linguistic landscapes through lectures and literature reviews and will deepen their understanding by conducting their own research.

【Goal】

By the end of the course, students should be able to meet the following objectives:

- (1) Becoming aware of the presence of different languages and its meanings in public space,
- (2) Understanding how social, political, economic, and technological elements are embedded in linguistic landscapes,
- (3) Becoming familiar with the basic theories and methodologies of linguistic landscapes, and
- (4) Applying the knowledge to conduct individual research projects.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The main elements of the course are lectures, discussions, and student presentations. To begin with, the key concepts of linguistic landscapes will be explained. Next, the theories and methodologies of linguistic landscapes will be discussed through literature reviews. During the course, all the literature and extra materials are provided in class or on the course website. The students are encouraged to read the literature before attending a class. Interactive class participation is highly encouraged. Students will be required to carry out small-scale research projects in the field of linguistic landscapes and share their findings in class at the end of the course. Feedback is given both in class and through e-mail. Attendance at the first class is mandatory.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course description and requirements
2	Signage in Tokyo (1)	Terminology (what is linguistic landscapes?)
3	Signage in Tokyo (2)	Methodology (how to classify and analyze signs)
4	Signage in Tokyo (3)	Linguistic soundscapes, braille, and pictograms
5	Previous research (1)	Linguistic landscapes in Bangkok, Thailand
6	Previous research (2)	Linguistic landscapes in Kuala Lumpur, Malaysia
7	Previous research (3)	Linguistic Landscapes in Brussels, Belgium
8	Previous research (3)	Linguistic Landscapes in Montreal, Canada
9	New perspectives on linguistic landscape (1)	Errors in the use of English in LL in overseas
10	New perspectives on linguistic landscape (2)	Errors in the use of English in LL in Japan
11	New perspectives on linguistic landscape (3)	Application of linguistic landscapes as a learning tool in the classroom

12	Presentation Preparation	Discussing and preparing presentations (Research designs must be completed by this class)
13	Student Presentations (1)	Student in-class presentations
14	Student Presentations (2) Summary	Student in-class presentations Review the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the handouts beforehand for class participation and discussion. For giving presentations in class and writing end-term reports, students are required to conduct field research outside of class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

All handouts are posted on the course website.

【References】

Backhaus, P. (2007). *Linguistic landscapes. A comparative study of urban multilingualism in Tokyo*. Clevedon: Multilingual Matters.
 Gorter, D., Marten, H. F., & Van Mensel, L. (Eds.). (2011). *Minority languages in the linguistic landscape*. Springer.
 Shohamy, E., & Gorter, D. (Eds.). (2008). *Linguistic landscape: Expanding the scenery*. Routledge.
 Shohamy, E. G., Rafael, E. B., & Barni, M. (Eds.). (2010). *Linguistic landscape in the city*. Multilingual Matters.
 庄司博史, ベート・バックハウス, & フロリアン・クルマス. (2009). 『日本の言語景観』. 三元社.
 内山純蔵 (監), 中井精一, ダニエル・ロング (編). (2011) 『世界の言語景観 日本の言語景観-景色のなかのことは』. 桂書房刊.

【Grading criteria】

Class participation and attitude: 20%

Reflection paper: 20%

Presentation: 30%

Research report: 30%

【Changes following student comments】

Student constructive feedback will be taken into consideration.

【Prerequisite】

None.

MAN200ZA

Business Negotiation

Akio YAMAMOTO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火 4/Tue.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

The ability to negotiate with greater skill is what makes all the difference in business performance and also career advancement. This course aims to provide basic guidance to students who wish to live and work in a diversified global environment, and to achieve success in cross-cultural business negotiations based on the lecturer's extensive business experience in many countries.

[Goal]

(1) To help students develop skills and knowledge by learning key strategies for successful negotiation through exploring various situations.

(2) To understand each step in the negotiation process chronologically from preparation through performance.

(3) To help students develop negotiation tactics through case studies and role play activities in various business scenes.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3" and "DP 4".

[Method(s)]

In this course, students will learn basic negotiation theories, read and discuss case studies, and study how to react and respond in difficult negotiation scenarios in a diversified culture. Students are required to make an individual presentation based on his/her personal negotiation experience and submit a term paper describing such experiences at the end of the course. Feedback of presentations and term papers will be given to students by the lecturer during the lessons and in the class website. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course	Introduction of course outline, objectives, goal, teaching method and schedule
2	What is Negotiation?	Meaning and importance of negotiation in business as well as in daily life
3	Preparation for Negotiation (1)	Basic checklist of preparation for negotiation Bargaining power, win/lose options, dealing with difficult people
4	Preparation for Negotiation (2)	Different types of negotiation (position-based/interest-based) BATNA and ZOPA
5	Key strategies and tactics for negotiation (1)	Theory and role-play exercises on (1) Find out what the other party really wants (2) Think logically
6	Key strategies and tactics for negotiation (2)	Theory and role-play exercises on (3) Protect yourself with alternative tactics (4) Propose realistic plans
7	Key strategies and tactics for negotiation (3)	Theory and role-play exercises on (5) The silence is not gold
8	Improving negotiation style in business (1)	Negotiation styles in different countries How to achieve amicable negotiation (Key Point-1, role-play exercises)
9	Improving negotiation style in business (2)	How to achieve amicable negotiation (Key Point 2 & 3, role-play exercises)

10	Case study of business negotiation	Learn various types of claims in business and how to deal with claims in construction industry as a case study.
11	Student Presentations (1)	Individual presentation in English based on his/her personal experience of difficult negotiation (Group 1).
12	Student Presentations (2)	Individual presentation in English based on his/her personal experience of difficult negotiation (Group 2).
13	Student Presentations (3)	Individual presentation in English based on his/her personal experience of difficult negotiation (Group 3).
14	Review, Recap and Feedback	Review and feedback of the overall lessons and individual presentations. All students shall submit a term paper in English based on individual presentations.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to review class handout materials and find relevant material related to various kinds of negotiation to build arguments for discussions and a Q&A session. Also, each student needs to prepare for an individual presentation based on their personal experience of difficult negotiation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

[References]

William Ury. *Getting to Yes with Other Worthy Opponents* New York: Harper One, 2015.

George Siedel. *Negotiating for Success: Essential Strategies and Skills* New York: Van Rye Publishing, LLC, 2014.

Erin Meyer, *The Culture Map: decoding how people think, lead, and get things done across cultures* New York: Public Affairs, 2014.

[Grading criteria]

Participation in class, discussion, mini-presentation and Q&A (40%); individual presentation in English (30%); term paper in English based on individual presentation (30%).

[Changes following student comments]

The lecturer will provide more business negotiation tips based on 20 years of work experiences in various countries.

[Prerequisite]

None.

MAN200ZA

General Topics II: Business Ethics

Maymay HO

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 水 3/Wed.3

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

Business Ethics covers a variety of contemporary case studies which demonstrates the dynamics between what could be called opportunity and misconduct. Over the years this has led to conflicts of interest, even more regulation to try and separate rule-makers from the rule-enforcers and the players and, where that fails, often catastrophic results. This course aims to provide students to understand and deal with the fundamentals of ethics. We will look at various case studies to observe how companies operated within the grey area and/or have not acted responsibly in a highly competitive environment. This course will then delve into how companies have internal control processes in place to ensure that such fraud does not occur. Students are encouraged to gain awareness of the interconnectedness of organizations and nations in a globalized world and how their actions as managers will affect different stakeholders, nations and the world as a whole.

【Goal】

Using the critical thinking exercises and class discussions, students will be able to apply their knowledge to case-studies and group work. Skills they acquire through this course should prepare them to understand key technical terms and give a better understanding of the world.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction to Business Ethics.
2	Types of Fraud	Discuss types of corporate fraud.
3	Continuing Monitoring and Investigation	Discuss methods of continuing monitoring and investigation.
4	Risk Management - Sarbanes Oxley (SOX)	Discuss risk management and the key principles of SOX.
5	Enterprise Risk Management	Discuss the principles of enterprise risk management.
6	Review of Materials	Review of materials.
7	Regulatory Failure	Discuss regulatory failure using case study.
8	Auditors: Guardians or Helpers of Fraud	Discuss the role of auditors and their impact on fraud.
9	Companies which have Gone Under Due to Fraud	Analyse case studies on companies have unethical behaviour employees.
10	Bedazzled	Discuss how companies are setup to defraud the tax man.
11	Pharmaceutical Fraud	Discuss ethical behaviour in the pharmaceutical industry.
12	Cryptocurrency and CDO	Discuss the impact of cryptocurrency on ethics.
13	Discussion and Review	Discussion and Review.
14	Wrap-up, Review of Class & In-class Written Exam	Wrap-up, review of class & in-class written exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Additional reading on the daily news and related research articles are highly recommended. Homework will be provided. Slides and related readings are recommended before class.

【Textbooks】

Electronic slides will be provided.

【References】

Reading references will be provided in class.

【Grading criteria】

15%Quizzes
15%Projects / homework
35%Midterm exam
35%Final examination

【Changes following student comments】

None.

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Others】

None.

【Prerequisite】

None.

MAN200ZA

Organizational Behavior

Junko SHIMAZOE

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金 5/Fri.5

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

In this course, students learn (1) why modern organizations behave as they do, (2) how the behavior emerges from inside the organization, and (3) how exogenous forces influence formation of the behavior. Since studies of organizations are fundamentally cross-disciplinary, this course approaches organizations from sociological, social psychological, public policy, and psychological perspectives about organizational behavior. For the same reason, examples covered in this course include organizations in the public, private, and non-profit sectors. At the end of this course, students will develop a multifaceted view of their own to explain various problems of modern organizations.

[Goal]

This course has three goals. First, students are expected to understand scientific approach to study organizations. For example, what does it mean to study organizational behavior in a scientific manner? What are objects of studying, organizational structure, performance, routines, or interactions among people and organizations? How is it possible to explain relationship between behavior of people and organizational behavior? Second, students are expected to understand “organic aspects” of organizations. Organizations are more than machines whose structures and rules repeatedly generate intended results. Members interact with each other and in organizational contexts, from which unintended outcomes may emerge. In addition, organizations are influenced from temporal, geographical, and other environmental conditions. It is important for students to understand organizations as evolving and interactive actors with members and other organizations. Finally, students are expected to become able to explain problems caused by modern organizations in their own words. Regardless of career after graduation, organizations are everywhere in modern life, and students may encounter from minor to major issues caused both in and by organizations. It is essential for students to apply concepts that they learn in this course to organizational behavior that they observe in real life.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

In each class, I will assign readings to explore the topic of the next class. Finish them before class.

Active participation in class are required. In this course, we will use lectures by the instructor, audiovisual materials, discussion, and group presentations. The contents covered in class will go beyond assigned readings of the week. In the case of being unable to come to the class, send an e-mail in advance to the lecturer unless the reason is that you are sick.

In this course, students work together to study and make a presentation about organizational accidents. In the group presentation, explain the probable causes of the accidents and their implications to society using the knowledge from this course. Do not simply repeat what the internet sources, books, or other authorities say about the problems. Build your own explanation based on what you learn in this course. Students will receive feedback on their presentations in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	- Syllabus - What is OB? - Why does OB matter? - Diversity and its challenges
2	Diversity in an Organization	
3	Individual Differences #1	- Values - Personality

4	Individual Differences #2 Attitudes and Behaviors	- Perception - Work attitudes and behaviors - Psychological contract - Relationships at work - OCB
5	Motivating Work Environment	- Job design - Goal setting - Performance appraisals - Performance incentives
6	Motivation	- Maslow's Hierarchy - EPG theory - Theory X, Theory Y
7	Stress and Emotion at Workplace	- Stress - Stress process - Workplace stressors - Role demands - Outcomes of stress - Individual differences in experiences and managing stress - Organizational approaches to managing stress - Emotions - Emotional contagion - Emotions at work - Emotional labor
8	Groups and Teams	- Groups - Development stages - Cohesion - Problems of too much cohesion - Teams - Team roles - Types of teams - Designing effective teams
9	Decision Making	- Decision making - Ideal process - Reality - Game plan?
10	Organizational Accident and Learning	- Organizational accident - Risk vs. uncertainty - Normal accident - Organizational learning - Barriers to organizational learning - high-reliability organization
11	Power in an Organization Knowledge Management	- Power - Sources and conditions of power - Knowledge management - Intellectual capital - Organizational memory
12	Leadership Organizational Change	- Traits for leadership - Types of leadership - Process and forces of organizational change
13	Organizational Culture	- Organizational culture - Types of organizational culture - Why culture matters - Weakness of the strong culture - Strength of the adaptive culture - Organizational socialization - Outcomes
14	Group Presentation	- Presentations - Wrap-up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

In each class, I will assign readings to explore the topic of the next class. Students have to finish them before they come to the class. Students are also required to understand distributed materials in the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Organizational Behavior (online textbook available at <https://open.lib.umn.edu/organizationalbehavior/>)

[References]

N/A

[Grading criteria]

- Class participation (15%)
- Group presentation (40%)
- Final paper (45%)

[Changes following student comments]

N/A

[Equipment student needs to prepare]

N/A

[Prerequisite]

None

MAN200ZA

Marketing Research

Kayhan TAJEDDINI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 4/Thu.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This course will provide an introduction to market research as a business decision-making tool. The primary goal of this course is to equip students with an understanding of how market research can help them make business decisions and how they can transform research findings into actionable business insights. The course also aims to help students gain the ability to evaluate and interpret research designed and conducted by outside providers. During the course, we will discuss a wide range of research methods, including in-depth interviews, focus groups, surveys and modeling, and their application to the services and non-profit sectors. We will also discuss data sources and data collection methods. Students will have the opportunity to define a business problem, develop a research plan, collect and analyze data and present findings and their implications as a class project.

This course aims to help students:

- (1) Discuss what market research is and how, why, and when it's useful.
- (2) Identify a range of market research tools (e.g., focus groups, interviews, surveys), consider their strengths and weaknesses, and discuss when it would (and wouldn't) make sense to use each.
- (3) Use these tools to solve business problems and craft business strategies.

【Goal】

At the completion of this course, students are expected to be able to:

- (1) Understand the importance of marketing research
- (2) Formulate a research problem
- (3) Design a questionnaire
- (4) Collect respondent data
- (5) Enter respondent data into a computerized spreadsheet
- (6) Analyze respondent data with statistical software
- (7) Write a research report
- (8) Make a in-class presentation about the findings

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course will be lecture, case, and discussion based. The assignments are designed to help students build skills that cover scientific, information, and communication literacy. Effort will be made to make the class both challenging and exciting.

We will use a combination of text and cases to explore and apply the topics. It is vitally important that you come to class prepared and ready to discuss the topics. If you read and prepare the materials you will learn more during the discussions and will be successful at the assignments.

Regarding the presentation and case studies, it will be explained in the first class with all guidelines, expectations and standards. The strengths and weaknesses of each presentation and reports will be discussed individually.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	This session introduces the role of marketing research and the outline of this course.
2	Overview of Marketing Research Process	This session gives an overview of the process of marketing research and an introduction on research design.
3	Secondary Data and Research Question	This session explains the role of secondary data and how to clarify research question from secondary data.
4	Measurement	This session discusses measurement and measurement scales.

5	Data Gathering Instrument	This session introduces two important groups of data gathering instrument: (1) Survey and interview (2) Questionnaire.
6	Sample	This session discusses sample method and sample size.
7	Midterm Exam Basic Statistics	Midterm exam This session offers a crash course in basic statistics useful in marketing research.
8	Statistical Software	This session offers a crash course in how to use SPSS effectively.
9	Analyzing and Interpreting Data	This session introduces methods in analyzing and interpreting data: (1) Preparation and description (2) Exploring and displaying.
10	Analyzing and Interpreting Data	This is a follow up session of week 9 and introduces methods in analyzing and interpreting data: (1) Hypothesis testing (2) Measures of association.
11	Presenting Findings	This session discusses how to present findings by oral presentation and written report.
12	Review and Case Study	This session reviews the course contents by studying a complete case.
13	Student Presentation	Reserved for students to present their work.
14	Course Review Final Written Exam & Wrap-up	Course Review Final written exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Attendance is required at all scheduled class sessions, presentation and examinations. Students are expected to conduct their own project, write a report, and make a presentation. The project should begin after lecture 3. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Naresh K. Malhotra (2015) *Essentials of Marketing Research: A Hands-On Orientation*, Prentice Hall, ISBN-10: 0137066732 • ISBN-13: 9780137066735

- Alvin C. Burns, Ann Veeck, Ronald F. Bush (2016) *Marketing Research* (8th Edition)

【References】

Burns A. C. & Bush, R. F. (2014): *Marketing Research* 7/E, Prentice Hall, New Jersey.

【Grading criteria】

Quiz: 20%

Presentation: 20%

Midterm Exam: 20%

Final Exam: 40%

【Changes following student comments】

Not applicable

【Others】

This course is self-contained. Basic knowledge in statistics is desirable but not necessary.

【Prerequisite】

None

MAN200ZA

Entrepreneurship and New Ventures

Sean MICHAEL HACKETT

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火 1/Tue.1

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Entrepreneurship & New Ventures (ENV) is an active learning course centered on the fundamentals of entrepreneurship and entrepreneurial management. It is positioned as an entry point for students who think that they might want to start their own business “someday,” and want to learn about the startup process now. Specifically, the course is designed to help students develop a better understanding of how to generate and identify business opportunities, define potential business concepts, refine the business concepts through creativity and business modeling, translate the business concepts into minimum viable product definitions informed by design thinking and lean startup customer development approaches, and then prepare to drive sales of the product through an online presence.

[Goal]

The learning goal of this course is to acquire academic and practical knowledge about the fundamentals of entrepreneurship and entrepreneurial management. The primary learning objective of this course is to develop an entrepreneurial mindset. Additional learning objectives for this course include developing critical thinking, communication, leadership, teamwork, and ethical reasoning skills.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course is lecture and discussion-based, has an assigned reading every week, requires the use of an online journal, and uses group-driven experiential exercises to reinforce key concepts.

Preparation. Students must complete the assigned reading and write a journal entry about the reading before each class.

Class. In the first half of each class, there is a lecture. After the lecture, students break into groups in order to complete experiential exercises that are aimed at applying key concepts from the lecture and the assigned reading.

Review. After each class students are required to complete a journal entry describing their key takeaways from the class.

The Final Deliverable in the course is a Business Model Canvas and Executive Summary.

Feedback. Feedback is provided via the grade book feature in the Learning Management System (LMS) used by the Professor. Additionally, when warranted, comments are provided by the Professor via the LMS.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	The Fundamentals of Entrepreneurship	This session is an overview of the course.
2	Nuts & Bolts and Hypotheses Associated with Registering a Business in Tokyo	In this session we will discuss the basic requirements for registering a business in Tokyo. We will also consider the hypotheses founders must develop as they go through the registration process.
3	Opportunity Recognition & Evaluation	In this session we will consider how to evaluate whether an idea is just a thought exercise or it is a genuine business opportunity appropriate for us to pursue.
4	Creativity & Entrepreneurship	In this session we will consider when creativity is essential for an organization, and when it is unwelcome.

5	Segmenting, Targeting, Customer Value Propositioning, and Positioning	In this session we will discuss positioning (the effort to influence consumer perception of a brand or product) and customer value propositioning for targeted customer segments.
6	Business Models	In this session we will discuss business models.
7	Design Thinking & New Product Development	In this session we will discuss the design thinking process as it is applied to new product development.
8	Lean Start-Ups & The Business Model Canvas	The reading on Lean Startups for this session changed the way that entrepreneurship is taught and practiced.
9	Customer Experience	In this session we consider how good customer experience design and good website design can translate into more sales.
10	Leveraging the Cloud and Integrations	In this session we will learn about software as a service and web services automation and integration.
11	Go-To-Market Strategy	In this session we will consider the go-to-market strategy which is “an action plan that specifies how a company will reach customers and achieve competitive advantage.”
12	Social Media Marketing and Search Engine Optimization	In this session we will use a case study to explore the potential for using social media marketing and search engine optimization to compete against large enterprises.
13	Counterfeiting & System D	In this session we will discuss the logic of counterfeiters and the challenge of competing against them and System D (the informal economy).
14	Course Wrap Up	This session is a review of the course.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Before each class, participants complete the assigned reading(s) and then write their journal entry in the online journal tool provided by the professor. After each class, students summarize their key takeaways in another online journal entry. In accordance with MEXT guidelines for 2-credit courses, I recommend allocating at least 145 minutes to read the assigned reading, reflect, and write the pre-class journal entry before each class, and at least 145 minutes to review, reflect, and write the post-class journal entry after each class.

[Textbooks]

An online coursepack of readings from the repository at Harvard Business School Publishing will be created by the professor. The cost of the coursepack is approximately US \$42.50. Students who want to earn points for assignments that use coursepack readings must purchase the readings directly from Harvard Business School Publishing using the URL associated with the coursepack. (Note: Payments for the coursepack can be made with either a credit card or a debit card).

[References]

If you want to read a book before taking the class, I recommend The Lean Startup and/or The Startup Way, both by Eric Ries.

[Grading criteria]

LMS registration: 7 points (5%)
Class participation & attitude: 39 points (28%)
Journal entries: 48 points (34%)
Group Experiential Exercises: 22 points (15%)
Final deliverable: 25 points (18%)
Total available points: 141 (100%)
(% is rounded)

[Changes following student comments]

N/A

[Equipment student needs to prepare]

- A credit or debit card to pay for the online coursepack.
- A PC & internet connection.

[Others]

- **IMPORTANT:** This course does not use HOPPII. Instead, this course uses CANVAS, a global Learning Management System (LMS). If you would like an invitation to join this course on CANVAS, then, as a first step, please complete the APPLICATION FORM which is located at <https://hackettlabs.com/gis/>
- ESOP students bring an important international dimension to Department of Global and Interdisciplinary Studies (GIS) courses like this one. As long as seats are available, I welcome ESOP students who want to take this course.

発行日：2021/5/1

- **IMPORTANT:** It is my hope that this course can be taught in person (face-to-face). However, if circumstances require me to teach this course online and you want a link to join the Zoom Live Session 01 (i.e. the first class) then please visit <https://hackettlabs.com/gis/> and complete the APPLICATION FORM before the deadline specified on the website.

【Prerequisite】

None

MAN200ZA

Creative Industries

Stevie Tongshun SUAN

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 5/Thu.5

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

In this class, we will explore different elements of contemporary creative industries and their surrounding cultures in Japan. This will include examining the differing conceptions of creativity they enable, and how this is connected to changes in media technologies and business strategies. Over the course of the semester we will explore the history of the idea of creative industries, examining specific industries in Japan. We will be focusing on the areas that are currently promoted locally and globally as key cultural industries in Japan. This includes anime, manga, toys, and the character business, exploring how these industries interacted and influenced one another. We will then move on to see how this connects to other industries, such as tourism. Lastly, we will examine the Japanese fashion industry in detail. For each of these commercial industries, we will analyze their production, distribution, and consumption as we examine different approaches to branding and creativity.

【Goal】

In addition to teaching the students information on the cultural production, economics, and marketing of the creative industries, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) critically engage with the concept of creativity; 2) learn the history of different creative industries and their shifts in business strategies and marketing; 3) explore how these shifts reflect societal changes in Japan.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will be lecture-based, with visual material such as clips of films and animation, group activities and discussions on certain themes. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based off of the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their exams. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric provided to the students (by email or a handout).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What are Japan's creative industries?
2	Anime's Business Structure	History and technology
3	Media-mix and Marketing I	Case study I
4	Media-mix and Marketing II	Case study II
5	Media-mix and Marketing III	Anime tourism
6	(Re)Conceptualizing Creativity I	Creativity and branding
7	(Re)Conceptualizing Creativity II	Robots and creativity
8	Smartphone Games	Production and problematics
9	Kawaii Culture	Local and global branding successes
10	Fashion I	Fashion and lifestyle branding
11	Fashion II	Branding Japanese Americana
12	Student Presentations	Feedback and Discussion
13	Student Presentations	Feedback and Discussion

14 Student Presentations Feedback and Discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Steinberg, Marc. *Anime's Media Mix: Franchising Toys and Characters in Japan*. University of Minnesota Press, 2012.

Marx, W. David. *Ametora: How Japan Saved American Style*. Basic Books, 2015.

【Grading criteria】

Participation 20%

Presentation 40%

Final paper 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

TRS200ZA

Tourism Development in Japan

John MELVIN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火 3/Tue.3

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 : ○

[Outline and objectives]

Up until the end of 2019, inbound tourism to Japan was experiencing unparalleled growth. An increasingly diverse range of tourists had brought opportunities and challenges to tourism managers, yet 2020 saw a refocus on domestic tourism due to the global coronavirus pandemic.

After a consideration of historical tourism development, this course will examine a range of topical issues, including how Japan can take advantage of the Tokyo Olympics in 2021 and the impact of UNESCO World Heritage Site designation of Mt. Fuji. We will analyze different management and marketing of tourism in different prefectures. We will consider the factors behind the remarkable recovery of inbound tourism after the 2011 Great East Japan Earthquake and how Japanese tourism may emerge in 2021 and beyond.

[Goal]

Upon completion of this course students should be able to:

- 1) Understand how tourism in Japan has developed into its present form
- 2) Appreciate some of the key organizations involved in planning tourism in Japan
- 3) Consider destination management and how to harness the social and economic potential of tourism for revitalizing Japan at national and local level
- 4) Critically analyze prefectural and national government tourism management and marketing campaigns

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to discuss issues in small groups. A range of case studies can help students consolidate their learning by illustrating the lecture content with real examples.

In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a particular prefecture, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Considering the current state of Japanese tourism and recent trends
2	The Roots of Japanese Travel Culture and Tourism Development	Exploring the historical development and evolution of the tourism sector in Japan
3	Destination Management	Analysis of destination management approaches, and an introduction to some of the key institutions involved in tourism management and planning in Japan
4	Tourism as Economic and Social Lifeline	Exploring destination management, and the economic potential of tourism for local and regional development 'off the beaten track'
5	Tourism Marketing	Analyzing approaches to tourism marketing planning at national and prefectural level

6	Japan and Asia	Examining the current & historical connections with some of Japan's close neighbors, with a particular focus on South Korea. We will also consider how Japan is differentiating itself amid growing international competition for inbound tourists.
7	Tourism Resources: Events	Analysing how Japan's rich event calendar provides competitive advantage at local and international levels
8	Tourism Resources: Natural, Built and Cultural	Analyzing the tangible and intangible resources in Japan, with a particular focus on World Heritage Sites and how they are utilized for tourism purposes
9	Inbound Tourism	Historical and current trends in inbound tourism. Also a consideration of the management challenges of varying motivations and behaviors of different visitor groups.
10	Case Study	In-depth focus on destination management through a case study
11	Disaster Management and Recovery	Analyzing how destinations can manage disasters. The response to the Great East Japan earthquake in 2011 will be considered, as will the potential recovery from the coronavirus.
12	Group Presentations	Presentations on tourism in selected prefectures
13	Tourism Focus: Niche Tourism	Considering different forms of tourism including ecotourism, gastronomic tourism and cultural tourism related to anime, movies and TV shows
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be assigned reading as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

[References]

The reference book is available in the library and in the GIS Reference Room.

Funck, C. and Cooper, M. (2013) *Japanese Tourism: Spaces, Places and Structures*. Berghahn: New York

[Grading criteria]

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group project (30%)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures.

[Changes following student comments]

To encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

[Others]

Although not essential, students are encouraged to have taken (or concurrently take) the 100-level 'Introduction to Tourism Studies' course.

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

EDU200ZA

English Teaching in Primary School

Machiko KOBORI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 5/Thu.5

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course provides a range of perspectives of psychological, linguistic and educational theories for the teaching of English to primary pupils as young learners. Its purpose is to give an insight into the theoretical issues of primary pupils' second language learning (SLL), referring to primary modern foreign languages (PMFL), in particular, English as a foreign language (EFL). It also looks at practical issues in language teaching and learning: the global movement towards second language (L2) education in primary school. It is for students who want to learn about modern EFL pedagogy for young learners; it will encourage the students to develop their own perspectives on primary pupils' SLL with consideration to make consistency in L2 education from the primary to secondary levels.

【Goal】

Upon completion of this course, students should be able to do the following:

1. Understand the core issues of theories of primary pupils' SLL.
2. Explain different perspectives of the core issues of L2 education in primary school.
3. Examine the connection between the core issues of primary pupils' SLL and PMFL pedagogy.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The presentation, final exam and writing assignment are required for the completion of this course; students are to choose one of the course topics and are required to make a presentation and submit a writing assignment on it. Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems (HOPPII and OATube).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guidance on English teaching in primary school
2	Theoretical perspectives of PMFL (1)	Rationales of English Teaching in Primary School
3	Theoretical perspectives of PMFL (2)	Thinking and learning of young learners (1)
4	Theoretical perspectives of PMFL (3)	Thinking and learning of young learners (2)
5	Theoretical perspectives of PMFL (4)	SLL of young learners (1)
6	Theoretical perspectives of PMFL (5)	SLL of young learners (2)
7	PMFL pedagogical approaches (1)	Issues in curriculum development
8	PMFL pedagogical approaches (2)	Issues in four skills development
9	PMFL pedagogical approaches (3)	Issues in dynamics of language choice and use
10	PMFL pedagogical approaches (4)	Issues in assessing primary pupils
11	Presentation (1)	Preparation for presentation: checking contents, materials, procedure and performance
12	Presentation (2)	Discuss and review (1)
13	Presentation (3)	Discuss and review (2)
14	Consolidation of English teaching in primary school	Final exam and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Every week before attending class, students are required to comprehend the assigned readings.
2. Students are required to choose one of the related topics and write a reflective paper.
3. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

1. Cameron, L. (2001). *Teaching languages to young learners*. Cambridge University Press.

【References】

1. Coyle, D., Hood, P., & Marsh, D. (2010). *CLIL: Content and language integrated learning* (1st ed.). Cambridge University Press.
2. Curtain, H. & Dahlberg, A. C. (2005). *Languages and children: Making the match*. Pearson.
3. Ellis, G., Brewster, J., & Girard, D. (2002). *The primary English teacher's guide*. (New). Penguin English Guides.
4. Nikolov, M. (2009). *Early learning of modern foreign languages: Process and outcomes*. Oxford University Press.
5. 文部科学省 (2001).『小学校英語活動実践の手引き』開隆堂.
6. 文部科学省 (2017).『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編』開隆堂.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Presentation (30%)
3. Writing assignment (30%)
4. Final Exam (30%)

More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】

More frequent and detailed notices of class activities and tasks will be given in order to allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

【Equipment student needs to prepare】

PC

【Others】

None

【Prerequisite】

None.

POL200ZA

Political Theory

Kazuhiro WATANABE

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金 2/Fri.2

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

In this course we explore the history of Western political thought from antiquity to the present in view to gaining a comprehensive knowledge and understanding of historical developments of key political ideas that have shaped the world we live in.

【Goal】

Upon completion of this course, students should: 1) have a basic understanding of political thoughts by major figures in the Western history; 2) have familiarity with important political ideas and theories in connection with their historical backgrounds; and 3) have an ability to look at issues in current world politics in a historical perspective.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

In this course we begin with contemporary political theories and trace back through history to the legacy of the ancient Greeks mostly in reverse chronological order. Each class consists of a lecture and class/group discussion to follow. There will be some in-class/take-home tasks to facilitate students' understanding of the topic. Good comments in reaction papers will be introduced in the class and used in deeper discussions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of course and requirements
2	Contemporaries I	Analytic political philosophy: Rawls, Sen, Nozick, and Sandel
3	Contemporaries II	Continental political philosophy: Weber, Schmitt, and Arendt
4	Socialism	The age of ideologies: Marx, Lenin, Trotsky, Stalin, and Bernstein
5	German Philosophy and Nationstate	Ethical life: Kant, Fichte, and Hegel
6	American Independence and French Revolution	Turn of modern political principles: Jefferson, Hamilton, Burke, and Tocqueville
7	Enlightenment, Liberalism, and Republicanism in France	Development of modern political principles: Montesquieu and Voltaire

8	Enlightenment, Liberalism, and Republicanism in England and Scotland	Formation of modern political principles: Harrington, Bentham, Hume, and Mill
9	Absolutism versus Social Contract Theories	Rise of modern political principles: Bodin, Hobbes, Locke, and Rousseau
10	Renaissance and Reformation	Civic humanism and fall of the Catholic church: Machiavelli, Luther, and Calvin
11	Early and Medieval Christian Thoughts	Corpus Christianum: Augustine and Aquinas
12	Hellenistic to Roman	From Republic to Empire: Cicero, Seneca, and other Hellenistic philosophers
13	Ancient Greek	Polis and politics: Plato and Aristotle
14	Wrap-up	Assessing the degree to which students understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

In addition to completing reading assignments and preparing for discussion beforehand, students are expected to review class materials after each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There are no textbooks for this course. Class materials, including weekly handouts and other reading materials (typically excerpts from major classic texts or introductory books), will be uploaded on Hoppii.

【References】

Klosko, G. (2012). *History of political theory: An introduction Volume I: Ancient and Medieval* (2nd ed.). Oxford: Oxford University Press.

Klosko, G. (2013). *History of political theory: An introduction Volume II: Modern* (2nd ed.). Oxford: Oxford University Press. A full bibliography will be given to students at the beginning of the course.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on class participation including quizzes, discussions, and reaction papers (40%), in-class/take-home tasks (30%), and final essay (30%). More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】

More detailed instructions will be given for assignments so that students do not misunderstand the scope and focus of them. Also, more effective measures are to be implemented to facilitate classroom discussions.

【Equipment student needs to prepare】

Students should register their email address with Hoppii immediately after they decide to take this course, or before the second class of the semester at the latest. Visit Hoppii regularly for updates and class resources, as well as for the submission of assignments.

【Others】

Students who intend to register for this course are required to attend the first class. A screening survey will be conducted in the class if necessary.

【Prerequisite】

There is no prerequisite for this course.

POL200ZA

Japanese Politics

Jeffrey JAMES HALL

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火 6/Tue.6

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course provides an introduction to Japanese politics, economics, and society. It has four main focuses: 1) the emergence of Japan's postwar political system and the dominance of the Liberal Democratic Party, 2) Japan's rapid economic growth and its subsequent decline, 3) the role of citizen activism, interest groups, and bureaucracy in Japan's politics, and 4) major foreign policy issues facing Japan.

[Goal]

The goal of this course is to provide students with a broad overview of the issues and main questions surrounding the Japanese political, economic, and social system.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course will be structured around lectures. Each student will be expected to attend each week's class. There will be in-class discussions, so students are expected to express their opinions or ask relevant questions.

Although time will be given in class to answer these questions, the questions will be posted on Hoppii each week. Students will be expected to post answers to these questions.

The mid-term will involve a combination of in-class short answer questions, short essays, and a take-home paper assignment. The final exam will be a paper, to be turned in through the online system (Hoppii). Feedback: in the case of the in-class midterm exam, the professor will provide written feedback on the exam sheets, which will be returned to students with the grade details. In the case of assignments submitted on Hoppii, feedback will be included online when the assignment is graded.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Japan: The Emergence of The Modern State	Syllabus and requirements are introduced, together with some historical background on the emergence of the modern Japanese state
2	Historical Overview of Japanese Politics I	Meiji Period Politics
3	Historical Overview of Japanese Politics II	Late Meiji and Taisho democracy
4	Historical Overview of Japanese Politics III	The Pacific War and Japanese politics 1
5	Historical Overview of Japanese Politics IV	The Pacific War and Japanese politics 2
6	Historical Overview of Japanese Politics V	The American occupation
7	The politics of postwar Japan	Postwar politics in Japan 1 - discussing the rise of the LDP
8	Review & Midterm Exam	Assessing the degree to which students understand the subject and Midterm exam
9	The politics of postwar Japan 2	Discussing the power of the LDP and how it held power for so many years
10	The politics of postwar Japan 3 / Documentary	Discussing the changes in Japanese domestic politics since the 1990s. We will also watch a documentary about election campaigns in Japan.
11	Foreign Policy Issues (1)	A discussion of recent issues in Japanese foreign policy
12	Foreign Policy Issues (2)	A discussion of the U.S.-Japan alliance and Japan's foreign policy

13	Foreign Policy Issues (3) - Documentary	We will watch a documentary about Japanese political activism (and the Okinawa base issue)
14	Foreign Policy Issues (3)	Most current foreign policy issues in 2021

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Before each week's class, students are expected to read an assigned article (10 to 20 pages in length) and for some of the weeks.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Readings will be uploaded to Hosei's Online Management System (Hoppii).

[References]

The following books are not required reading, but can be useful as references.

Curtis, G. L. (1999). *The logic of Japanese politics: Leaders, institutions, and the limits of change*. New York: Columbia University Press.

Hayes, L. D. (2009). *Introduction to Japanese Politics*. New York: Routledge.

Samuels, R. J. (2008). *Securing Japan: Tokyo's grand strategy and the future of East Asia*. Ithaca: Cornell University Press.

Samuels, R. J. (2013). *3.11: Disaster and Change in Japan*. Cornell University Press.

Shinoda, T. (2013). *Contemporary Japanese politics: Institutional changes and power shifts*. New York: Columbia University Press.

Smith, S. A. (2016). *Intimate rivals: Japanese domestic politics and a rising China* / Sheila A. Smith. New York: Columbia University Press.

Stockwin, J. A. (2008). *Governing Japan: Divided politics in a resurgent economy*. Malden, MA: Blackwell Pub.

[Grading criteria]

Question Sheets, Documentary Reactions, and Participation: 20%

Midterm exam: 40%

Final Report: 40%

[Changes following student comments]

Greater weight has been added to the non-exam and non-report grades.

[Others]

Students who have completed General Topics II: Japanese Politics can not take this course.

[Prerequisite]

None.

POL200ZA

American Politics and Foreign Policy

Jeffrey JAMES HALL

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火 6/Tue.6

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course is designed to introduce students to the inner workings of American domestic and foreign policy. It will utilize historical and contemporary examples to help students understand how the United States rose to power and why it has acted in certain historical circumstances. Students will be expected to formulate their own opinions on the topics introduced so they can debate and discuss major issues.

[Goal]

- 1) Students are expected to develop an understanding of basic structure of the United States government.
- 2) Students are expected to gain knowledge of the ways in which different branches of the United States government interact and impact foreign policy.
- 3) Students are expected to understand and critically analyze how governmental and non-governmental factors (lobbyists, voter sentiment) influence American politics and foreign policy.
- 4) Students are expected to understand some of the political ideals that have influenced American politics since the country's founding.
- 5) Students are expected to develop their ability to engage in academic research and writing through the completion of short essays.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course will be structured around lectures.

There will also be discussion questions for each week's lecture topic. Although time will be given in class to answer these questions, the questions will be posted on Hoppii each week. Students will be expected to post answers to these questions.

Feedback: in the case of the in-class midterm exam, the professor will provide written feedback on the exam sheets, which will be returned to students with the grade details. In the case of assignments submitted on Hoppii, feedback will be included.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction to the founding of the United States
2	Foundations	The United States Constitution – The Federalists and debates over tyranny & democracy
3	Historical Background of American Political System 1	Explaining the functioning of the U.S. government through historical examples.
4	Historical Background of American Political System 2	Explaining the functioning of the U.S. government through historical examples.
5	Review & Midterm Exam	Assessing the degree to which students understand the subject and Exam: short-answer questions and a short-essay (online test via Hoppii)
6	The 2020 Election - Major Issues- Can Trump win?	This class will be held on the week before the 2020 Presidential election. We will discuss key issues that will influence the election result.
7	The 2020 Election -Analysis / American as an Empire	A short discussion of the 2020 election results, followed by a discussion of U.S. foreign policy in the early 20th century.
8	America as a Super Power - The Cold War	A discussion of America's domestic and foreign policy in the Cold War period

9	Civil Rights and Racial Discrimination	A discussion of the civil rights movement in the United States and continuing issues
10	America's Role in Asia	Focus on relations with Japan and the Cold War in Asia
11	The end of the Cold War - a Unipolar world?	A discussion of America's politics after the Cold War.
12	Politics in America today / Documentary 1	A short discussion of political campaigning in America today. We will view a documentary about presidential campaigns.
13	Politics in America today / Documentary 2	A focus on present day politics in America, with the viewing of a documentary about smaller scale politics.
14	Trump and America after 2020	Discussion of America under President Trump and issues to be faced in the next presidential term.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to have completed the readings before class. Expect roughly 15-20 pages of reading per week. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

All course reading materials will be uploaded to the course website.

[References]

The following books will prove to be good reference materials.

Herring GC. (2008). *From Colony to Superpower, U.S. Foreign Relations since 1776*. Oxford University Press.Grover WF, Peschek JG. (2009). *Voices of Dissent, Critical Readings in American Politics*. Addison-Wesley Longman.Ikenberry, G. J. (1999). *American foreign policy: Theoretical essays*. New York: Longman.Wasserman, G. (2015). *The Basics of American politics*. Boston: Pearson.Cox, Michael, and Doug Stokes. (2012). *US Foreign Policy*. Oxford: Oxford UP.

[Grading criteria]

Weekly Written Discussion Responses: 20%

Documentary Responses: 20%

Midterm exam: 30%

Final exam(report to be submitted on the course website): 40%

[Changes following student comments]

Documentary responses will replace reading responses to reduce the reading load for two weeks.

[Equipment student needs to prepare]

N/A

[Others]

Students who have completed General Topics II: American Politics and Foreign Policy can not take this course.

[Prerequisite]

None.

POL200ZA

Religion and Politics

Christopher KAVANAGH

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火 2/Tue.2

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course is designed to introduce students to the complex relationships between religion and politics drawing on cross-cultural case studies that range from the premodern to the contemporary period. The course takes a cross-disciplinary approach examining research from anthropology, sociology, psychology, and history. "Religion," as defined in the course, refers not only to doctrinal beliefs and formal institutions also to informal supernatural beliefs, ritual practices, and the various subcultures and social aspects associated with religious communities. The principal aim of the course is to explore how religions as cultural systems interact and affect political systems and nation-states. By the end of the course, students will have a greater understanding of the role that religious individuals, groups, and larger traditions play in politics.

[Goal]

By the end of the course, students will be able to: (1) analyze and discuss the roles that religion has played historically and cross-culturally in politics and public life; (2) understand the complex and diverse ways that religion and politics can interact; (3) critically evaluate scholarly research and media accounts that explore issues of religion and politics.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This courses will be taught primarily through a combination of lecture, class discussion, and small group discussion. Each class will include a lecture followed by a class/group discussion based on related readings. Over the course of the semester, students will be required to give two short oral presentations related to the topics covered during the classes. Presentations should be submitted with a script and students will receive written feedback.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Religion and Politics: Course Introduction and Overview	Introduction to the course and review of the syllabus.
2	The evolutionary role of religion in society	Defining religion and politics. Exploring the role of religion in human societies from a cultural evolutionary perspective. Discussing its role in enabling large scale cooperation.
3	Religion and the State: Compatibility, Conflict, and Convergence	An examination of the varied relationships between religions and states, drawing on historical and contemporary examples.
4	Secularization Thesis & Resurgent Religiosity	A critical assessment of the Secularization Thesis and alternative theories
5	Religious Identity & Intergroup Conflict (1)	Exploring the role of Buddhist nationalism and Hindu minority identities in Sri Lanka
6	Religious Identity & Intergroup Conflict (2)	Examining the role of religious identity in the Israel/Palestine conflict & Northern Irish 'Troubles'
7	Review & Mid-term Exam	Review and Midterm Exam
8	Religion and Social Issues: Evolution, Abortion, and Same-Sex Marriage	Investigating the role that religion plays in controversial social issues. Focusing on debates surrounding the teaching of evolution, abortion, and same sex marriage.
9	Religious Activism and Social Protest	Exploring the ability for religion to function as a source of activism including as an anti-state counter-hegemonic, emancipatory force.

10	Student Round Table: Buddhism, Shinto, and the role of religion in the Japanese State	Group presentation and follow up discussion exploring Buddhism and Shinto's role in Japanese Statecraft.
11	State Religion & War	Examining the role of state religions through a case study of State Shinto & Buddhist institutions involvement in WW2
12	Religious Extremism & Terrorism	A critical examination of the role that religious doctrines and personal beliefs play in terrorism.
13	Online Gurus, Conspiracy Cults, & New Political Movements	Reviewing new interactions between religion and politics in the contemporary world, especially in the online sphere.
14	Final Exam & Wrap-up	Course wrap up and final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete weekly reading assignments, participate in class discussions, and prepare two group presentations. Preparatory study and review time for this class is estimated to be at least 4 hours.

[Textbooks]

All readings will be distributed by the instructor.

[References]

Not Applicable

[Grading criteria]

Presentations 20%

Mid-term exam 20%

Final exam 30%

Weekly in-class responses 15%

Active participation 15%

[Changes following student comments]

The course content has been entirely revised due to a new teacher taking over the course.

[Equipment student needs to prepare]

Students will need to complete readings before each class. At various points in the semester, students should be prepared to lead and participate in discussions of ideas and concepts covered in readings.

[Prerequisite]

None.

POL200ZA

International Organizations

Ayako KOBAYASHI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金 3/Fri.3

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This course provides students with fundamental knowledge of International Organization, with a focus on the United Nations (UN), and the organization's three founding pillars, i.e., peace and security, human rights, and development.

【Goal】

At the end of this course, participants will be able to explain basic theories of International Organization, historical background, organizational development, and challenges in the crisis of multilateralism.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course is a combination of lecture and discussion sessions. It is reading-intensive, and students are expected to keep up with reading assignments to be prepared for lectures, in-class discussions, short essays, and a final report.

Participants are asked to do group activities in the part of human rights and development, as an expert describes we can learn these issues through experience.

The lecturer will give a feedback on a short essay in class one week after the submission deadline unless there is an emergency.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction: Why Do We Study International Organizations?	Course Introduction Course Contents Syllabus Overview Grading Criteria
2	Peace and Security (1)	Collective Security
3	Peace and Security (2)	Peacekeeping in the Cold War and its aftermath
4	Peace and Security (3)	Peace and Security since 1999 Protection of Civilians Robust Peacekeeping
5	Peace and Security (4)	Contemporary Challenges How to Search UN Documents
6	Human Rights (1)	The UN, Human Rights, and Humanitarian Affairs
7	Human Rights (2)	Classroom Activity 1 Mapping Human Rights
8	Human Rights (3)	Applying Human Rights Standards, and the Role of Experts and NGOs
9	Human Rights (4)	International Criminal Court Classroom Activity 2 Coffee and Human Rights (to be decided) Human Rights in the Future
10	Development (1)	Theories of Development in the UN
11	Development (2)	Human Development
12	Development (3)	Sustainable Development as a Process
13	Development (4)	Classroom activity 3
14	Conclusion	Revisiting the Three Pillars of the UN

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Thomas G. Weiss, David P. Forsythe, Roger A. Coate, and Kelly-Kate Pease, The United Nations and Changing World Politics [8th edition, Revised and Updated with a New Introduction], Routledge, 2020.

【References】

The lecturer will introduce helpful articles, books, and official documents in class.

【Grading criteria】

Short essays 45% (15% per essay x 3), Final report 55%

(1) Short essays: We will study three main pillars of the UN: peace and security, human rights, and development. Participants will write one short essay (400-800 words) on each pillar. Pick one important concept/theory/framework discussed in the lectures and explain it with specific examples.

(2) Final report: Pick one of serious global challenges (natural disaster, armed conflict, pandemic, poverty, climate change ...), and discuss it with a theory/framework/concept you learn in this course and/or specific examples either in the past or the present in a 1,000- to 2,000-word essay excluding references/bibliography. You should include UN or NGO documents, academic articles, and books. Do not depend exclusively on the internet for your research material. The final report should be analytical, not be descriptive.

*The instructor will have a preparation session on the final report at one of the class meetings in November, in which she will give detailed instructions and answer students' questions. Also, participants can ask questions by email before the deadline.

【Changes following student comments】

No feedback as this course starts in 2021.

【Others】

Office hours available by an email appointment.

【Prerequisite】

None.

ECN200ZA

Development Economies

Upalat KORWATANASAKUL

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木 1/Thu.1

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This course is an introduction to economic development with a particular emphasis on economic issues in East and Southeast Asia. Economic development is concerned with the advancement of the common good, the effective management of social problems, the meeting of human needs, and the equitable distribution of society's resources. As such, this course explores the economic and social factors that promote or hinder economic development and how these factors affect the well-being of individuals and communities in contemporary societies. This course will cover issues such as economic growth, agricultural development, food security, population, education, migration, poverty reduction, health and aging, and more.

【Goal】

1. To introduce students to the field of economic development with a strong emphasis on East and Southeast Asia;
2. To provide students with an understanding of the key concepts and issues related to economic development such as economic growth, agricultural development, food security, population, education, migration, poverty reduction, health and aging, among others; and
3. To encourage students to explore alternative paths of economic development that promotes the well-being of individuals and communities.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The course will be mainly conducted through lectures with analysis of appropriate case studies related to each topic. Students are expected to analyse real-life cases and make presentations to the class. Feedback will be given to students at the end of each presentation. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview
2	Growth and development over the long term	- Growth and development over the long term - Trade, growth, and distribution in Southeast Asia, 1500 – 1940 - A century of growth, crisis, war and recovery, 1870 – 1970 (Ch1-3)
3	Growth and development over the long term	Internal and external sources of Southeast Asian growth since 1970 (Ch4)
4	Food, agriculture, and natural resources	The dynamics of agricultural development and food security in Southeast Asia (Ch5)
5	Food, agriculture, and natural resources	Natural resources, the environment and economic development in Southeast Asia (Ch6)
6	Trade, investment, and industrialisation	- Global production sharing, trade patterns, and industrialization in Southeast Asia - Foreign direct investment in Southeast Asia - Regional trade agreements and enterprises in Southeast Asia (Ch7, 8, 9)

7	Review & Midterm Exam	Assess students' understanding of the 1st half of course materials (Week 1-6)
8	Population, labour, and human capital	The population of Southeast Asia (Ch10)
9	Population, labour, and human capital	Education in Southeast Asia: investments, achievements, and returns (Ch12)
10	Population, labour, and human capital	Internal and international migration in Southeast Asia (Ch13)
11	Poverty and political economy	The drivers of poverty reduction (Ch14)
12	Poverty and political economy	The political economy of policy reform: insights from Southeast Asia (Ch15)
13	Twenty-first-century challenges	Dual-burdens in health and aging: emerging population challenges in Southeast Asia (Ch16)
14	Final Exam & Wrap-up	Assess students' understanding of the 2nd half of course materials (Week 8-13)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the assigned materials (text-book/articles/cases) and to participate in class discussion. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Coxhead, Ian, "Routledge Handbook of Southeast Asian Economics" (Abingdon: Routledge, 18 Dec 2014), Routledge Handbooks Online.
Print ISBN: 9780415659949
eBook ISBN: 9781315742410
Adobe ISBN: 9781317586050

【References】

Additional references will be provided in the class.

【Grading criteria】

1. Class participation: 50%
2. Midterm exam: 25%
3. Final exam: 25%

* Class participation includes class attendance, group discussion, and presentation.

【Changes following student comments】

Students are encouraged to provide feedback and suggestion regarding the course. Constructive suggestion is appreciated and may be taken for course adjustment.

【Prerequisite】

None

SES200ZA

Environment and Development

Gregory TOTH

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火 6/Tue.6

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

We will first define “development” and “environment” from the most prominent perspectives (noting theory) and trace their formations, the overlapping portions of which will guide our exploration of related ethics and norms and their translation into international law. From this base, we will analyze the intersection of environment and development in various sectors and international efforts. After noting detractors, we will look forward towards the continued evolution (including potential divergence and convergence) of these concepts.

【Goal】

The purpose of this course is to introduce students to topics related to environment and development, including the contextual background and recent trends. Students will develop critical thinking and policy analysis skills through discussion of the various topics, as well as understandings of elements related to: international relations, international law, sustainability, socio-economic and political division, and related theory and philosophy.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

The course follows a lecture-discussion method. After the material for each unit has been introduced, students will have an opportunity to ask questions and make comments about the material. Feedback will be provided directly during discussion sessions in the form of leading (Socratic-esque) questions and in summaries of the common trends in the completed assignments. Individualized feedback will be given in response to final assignment and upon request.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Development Theory	Classical / contemporary in the context of the National, Regional, and International
3	The Environment	Values/Valuation, Eastern/Western perspectives, converging ethics
4	Environmental Law	Philosophical underpinnings, North/South perspectives, converging norms
5	Sustainable Development	United Nations et al., and implementing the precautionary principle
6	Official Development Assistance	Premises and politics, USAID, JICA, etc.
7	Global Institutions	World Bank, International Monetary Fund, etc.
8	Foreign Direct Investment	Purposes, pluses, and protections
9	Trade and Development	World Trade Organization, environmental impacts and protections
10	Agriculture and Development	World Food Program, Food and Agriculture Organization, sustainable technology, etc.
11	Anti-globalization and Post-development	Beyond detraction, proposed alternatives, theories, successes, and false starts
12	Environmental Law (revisited)	Fragmentation and convergence in environment and development (compatibility)
13	Presentations	Group format, Zoom presentations
14	Conclusion	Course retrospective (remaining presentations, as necessary)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Reading of materials identified (and often provided) by the instructor; preparation of discussion talking points and questions; group report/presentation.

【Textbooks】

There are no textbooks for this course.

【References】

Various references will be noted within the course materials.

【Grading criteria】

Students will be evaluated on the basis of class participation (40%) and a final review report/presentation (30/30%). Class participation will be judged based on attendance, preparation of questions/comments for discussion, and peer review during group work scenarios.

【Changes following student comments】

Students are encouraged to utilize the discussion time to speak in class.

【Equipment student needs to prepare】

None

【Others】

Instructor reserves the right to adapt this syllabus as they deem fit during the course.

【Prerequisite】

None.

SES200ZA

Society and Environmental Change

Ayami OTSUKA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金 2/Fri.2

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course considers various interactions between human being and the surrounding environment, including living forms within it. Such interaction eventually forms various cultures, and those cultures advanced human society in history. However, we have allowed the unprecedented Great Acceleration to occur, while we were enjoying such advancement. In this course, culture is considered as one of the domains as well as base layers of a society, and students are introduced to various culture and its environmental implications, which in turn affects the culture of the society. By looking at the connections to political and economic aspects, resolutions to building a sustainable society will be explored.

【Goal】

Students will be able to

- understand oneself as being shaped by the interaction between the socio-cultural context and resulting environmental changes;
- gain knowledge about the historical background on how the current unsustainable society has been shaped;
- acquire knowledge and insights about environmental implications on which our “sophisticated” lives are based; and
- acquire the basic concept and perspectives for future visioning for achieving sustainable society.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course will be conducted in mixture of lecture-based learning and more active involvement of students in class discussions and group work. Students also have the opportunity to work in a group project towards the end of the course. More specific instructions are given in class for group work. Feedbacks to students work (on assignments and group work, etc.) are given in class and/or through the Hosei Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Course guidance	What is environment? What is culture & society?
2	Our everyday life and the environment	Conceptual development of environment and history of environmental problems
3	Background issues for change 1	Urbanization and cultural transformation
4	Background issues for change 2	Population, economic development and limits to growth
5	Background issues for change 3	Sustainable development and globalization
6	Food culture and its environmental implications	Shrimp, Tuna, and Mushroom [group work]
7	Fordism as cultural imperialism	Fordism and consumerism, “Auto-pia,” fast-fashion, ICT
8	Counterculture and future visioning	Back-casting and typologies of social futures
9	Different cultures	Forest, Ladakh, and green capital and Islamic society
10	Social futures I	Transition town, de-growth, and benefits of inconvenience
11	Social futures II	Smart cities/Society5.0 and rural revitalization
12	Designing sustainable society I	Energy slave, norm culture, cultural evolution
13	Designing sustainable society II	Student presentation
14	Final exam & wrap-up	End of semester examination & course review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Reading and other assignments will be given as preparation for classes. Students are also expected to review class materials after each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. There will be additional group work for group presentation.

【Textbooks】

No textbook is specified. Handouts and other relevant materials will be distributed by the instructor.

【References】

Routledge international handbook of social and environmental change (1st ed.) edited by Stewart Lockie, David A. Sonnenfeld and Dana R. Fisher: Oxon-New York, 2014.

Others will be introduced in class.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on

1. Class participation & homework assignments/quizzes (35%)
2. Group project and presentation (30%)
3. Final exam (35%).

Students are required to satisfy at least 2/3 of each element to pass. The group project is assessed on an individual basis, which combines your self- and peer evaluation.

【Changes following student comments】

n/a

【Prerequisite】

None.

PHL300ZA

Readings in Philosophy

Robert SINCLAIR

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 3/Mon.3

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブ
サイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注
意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

The three main objectives of the course are to introduce: (i) some of the real-world problems of global justice and the moral and philosophical challenges they present, (ii) some of the main positions and arguments that philosophers have proposed in response to these problems, and (iii) the philosophical method of analyzing and evaluating these different perspectives and arguments. A larger aim is to show how philosophy can help provide analytical tools for both clarifying and addressing the problems of humanity. Some of the topics we will discuss include: world poverty and economic inequality, human rights and sovereignty, nationalism and cultural diversity, just war and humanitarian intervention, and boundaries and immigration.

[Goal]

Students will (1) develop a deeper understanding of the basic issues, concepts and viewpoints found in global ethics and global political philosophy, (2) explore how philosophical ideas apply to real life events and (3) learn to think critically and express their opinions accurately. The class provides students with the moral background for their studies in the related fields of political science, international relations and politics.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Students will attend lectures, read related materials and have two written examinations. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is this thing called global justice? Global justice as normative inquiry, Organization of the course, selection exam
2	World Poverty	Moral responsibility and global poverty, utilitarianism and rights-based approaches
3	Global Economic Equality	Global egalitarianism, justice as fairness, resources versus capabilities
4	Against Global Egalitarianism	Questioning global Egalitarianism, Rawls's laws of peoples
5	Nationalism and Patriotic Sentiments	The problem of nationalism, cosmopolitanism, patriotism and partiality
6	The Universality of Human Rights	The nature of human rights, universal rights, liberal rights
7	Review & Midterm Exam	Review
8	Human Rights: State Sovereignty, Culture and Gender	Possible conflicts between human rights and sovereignty, culture and gender
9	Just Wars and Humanitarian Intervention	Just war theory, military intervention
10	Borders: Immigration, Secession and Territory	Ethics of immigration, secession and territorial rights
11	Climate Change Justice: Sharing the Burden	Climate justice, subsistence, per capita emissions, who pays?

12	Global Democracy: Cosmopolitan Versus International	Problems with democracy, Alternatives? Cosmopolitan versus international
13	Conclusion	Real world problems, the need for a global theory of justice
14	Final Exam & Wrap-up	Review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class participation and discussion. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

What is This Thing Called Global Justice? Kok-Chor Tan, 2017, Routledge.

All required readings for the class are from this text. Any other class materials will be made available by the instructor.

[References]

International Ethics: Concepts, Theories, and Cases in Global Politics, 4th Edition, Mark R. Amstutz, 2013, Rowman and Littlefield.
The Global Justice Reader, edited by Thom Brooks, 2008, Wiley-Blackwell.

Global Ethics: An Introduction, Heather Widdows, 2014, Routledge.

More difficult, but useful, discussions of these issues can be found in the following articles from the Stanford Encyclopedia of Philosophy (<http://plato.stanford.edu/>): global justice, international distributive justice, globalization, cosmopolitanism, citizenship and many others.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on a selection exam (10%) class participation (15%) and two exams (75%).

[Changes following student comments]

Some small changes have been made to the topics covered in the class.

[Others]

This course is intended for the those new to the philosophical study of global justice, presupposing little or no background in philosophy.

[Prerequisite]

none.

ART300ZA

Art in the Real World

Suzanne Carol MOONEY

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 1/Fri.1

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Despite art being a part of human culture and civilisation for millennia, the art world is often looked upon as something outside of everyday life. In this course, we will examine how art and everyday life are intertwined. This will be followed by study on the forms art takes in contemporary society, the value of art, spaces for art, and case studies on how artists live and work in contemporary society.

[Goal]

Through this course, students will gain an understanding of the role of contemporary art in society.

An important aspect of this study is to comprehend the processes of creation and exhibition, the multifaceted approaches of artists, and also the infrastructure of the world of contemporary art in Japan and abroad, and how the art world is not distinct from the "real" world.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3" and "DP 4".

[Method(s)]

In addition to lectures on relevant topics, students will take part in practical exercises to gain first-hand knowledge and experience of the process involved in contemporary art-making. Students are guided through the practical creative processes of making original artworks such as:

- Drawing to communicate
- Curating a series of images to create a narrative
- Combining text and images to change meaning

Students will also research an artist working now, in the 21st century, and will make a presentation on the results of this research.

In addition to the above, students must keep track of their weekly learning by collating images and text in a class notebook, 2 pages (minimum) per week that are relevant to the course material.

For this class, preparatory study is 2 hours and review time is 2 hours. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction to the class outline and explanation of expectations. Workshop and group discussion on what art is and why it is important.
2	Art as communication	Sharing experiences through drawing. Practical activity to explore the communicative qualities of images.
3	Worthless art(?)	Artists with subversive approaches to value: Marcel Duchamp, Andy Warhol, Jeff Koons, Tracy Emin, etc.
4	Art with value	Group and class discussion on artworks with value for the 21st century
5	Connecting with the land	Artists who work directly in the landscape: Robert Smithson, Richard Long, Christo and Jean Claude, Nancy Holt, etc.
6	Originality: It's all been done before	Tracing the thread of an idea in art
7	Art as action	Performance art and happenings, activism as art, and the importance of documentation
8	A working artist	A visit from (or case study of) an artist, discussing their works and career

9	Text and Images: Making meaning	Study of examples from art and online media. Practical exercises in making meaning
10	Outside of the gallery system	Artist-led initiatives and unconventional art spaces in Japan and abroad
11	Curation as practice	How curation creates meaning. Planning a fictional exhibition.
12	Student Presentations I & discussion	On each student's artist of choice working in the world today
13	Student Presentations II & discussion	On each student's artist of choice working in the world today
14	Final discussion and review	Presentation of notebooks and group discussion on art in the real world

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to prepare a notebook and basic writing and drawing materials. Reading and preparation activities will be assigned on a weekly basis.

Students are also expected to visit at least one art exhibition and conduct research in preparation for a presentation (suggestions will be provided).

Students are also expected to use their notebook to keep a record ideas, samples of artworks, and other experiences throughout the semester. Preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Lecture slides/notes/other materials will be provided online.

[References]

Berger, John. *Ways of Seeing*, Penguin Books (1972)
 Sontag, Susan. *On Photography* (1977)
 Benjamin, Walter. *Art in the Age of Mechanical Reproduction* (1935)
 Debord, Guy. *The Society of the Spectacle* (1967)
 Krauss, Rosalind. *Sculpture in the Expanded Field* October, vol. 8, 1979, pp. 31 – 44.
 Shifman, Limor. *Memes in Digital Culture*, The MIT Press (2013)
 Foster, Hal. *Art Since 1900: Modernism, Antimodernism, Postmodernism*. London: Thames & Hudson (2004)

[Grading criteria]

Participation:

This applies to class activities, assigned readings, exhibition visit and regular contribution to the group discussions.

Weekly submitted responses:

This is a requirement to submit weekly assignments. Examples of weekly assignments are: Pages from your workbook; a written response to class contents, evidence of activities completed in class that week.

Presentation: each student must make a short presentation on a working artist within the context of the course.

The final grade is calculated as follows:

Participation 40%

Weekly submitted responses: 30%

Presentation 30%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

Students will need a laptop, a notebook (e.g. blank sketchbook/notebook), and general stationary (e.g. pen, pencil, glue, tape, scissors).

Details of other items required will be given as required.

[Others]

You do not need to be "good at art" or have previous practical experience in art to take this class.

What is essential for this class is to be curious and open-minded about what art can be, and to be willing to engage in discussions on topics that are new and, at times, challenging.

Students are expected to be punctual, participate in group discussions often, and to submit weekly responses on time through an online system.

[Prerequisite]

None.

ART300ZA

Film Studies

Andree LAFONTAINE

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 土 2/Sat.2

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the study and analysis of film. Over the course of the semester you will be exposed to key critical and theoretical approaches in film studies (genre, auteur theory, realism, formalism, etc.), in addition to gaining further knowledge into world cinema history and major film movements. All films screened in class are in their original language with Japanese subtitles.

【Goal】

(1) Students will learn the basic terminology of film form in order to describe and analyze films. (2) Students will learn the key concepts of film authorship and genre. (3) Students will gain an understanding of film history and major film movements. (4) Students will learn, practice, and improve their film writing skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1” and “DP 4”.

【Method(s)】

Each class consists of a lecture (50%), film clips (30%), and discussion (20%). There will also be two film screenings. Feedback on quizzes will be provided in class; feedback on written assignments will be sent via the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction: What is Film Studies?	Course overview and class discussion over questions such as "What is film?"; "What makes a film experience meaningful?"; "Why do we watch films?" etc.
2	Early Film History and Approaches to Film	A selection of early shorts (Lumière, Edison, Méliès) and film excerpts (D.W. Griffith, Edwin S. Porter, Mack Sennett).
3	Classical Hollywood, the Studio System, and Mise-en-scène	<i>Cleopatra</i> (Cecil B. DeMille, 1934, US); <i>Casablanca</i> (Michael Curtiz 1942, US).
4	Soviet montage, Russian Cinema, and the Kuleshov Effect	<i>Potemkin</i> (Sergei Eisenstein, 1925, USSR); <i>October</i> (Sergei Eisenstein, 1927, USSR).
5	Cinematography, Composing the Frame, and Authorship	Selection of Alfred Hitchcock clips.
6	Narrative Form I and Information Control	<i>Citizen Kane</i> (Orson Welles, 1941, US).
7	Narrative Form II, Camera Angle	<i>Do the Right Thing</i> (Spike Lee, 1989, US); <i>Seven Samurai</i> (Akira Kurosawa, 1954, Japan).
8	Editing, and Camera Movement, and the Long Take	Clips from <i>Touch of Evil</i> (Orson Welles, 1958) and <i>Spectre</i> (Sam Mendes, 2015).
9	New Hollywood and the Blockbuster Economy	Selections of short clips from early Martin Scorsese films. For their mid-term, students will watch a film in class and write a scene analysis to be submitted the following week.
10	Art Cinema and the Festival Circuit	Selection of clips from Michelangelo Antonioni films; <i>The Great Beauty</i> (Paolo Sorrentino, 2013, Italy).

11	Genre I: Melodrama, Colour, Affect	<i>Written on the Wind</i> (Douglas Sirk, 1945, US); <i>Far From Heaven</i> (Todd Haynes, 2002, US).
12	Genre II: Film Noir and Lighting	<i>Double Indemnity</i> (Billy Wilder, 1944, US).
13	Sound, Cinephilia, Discontinuity Editing, and the French New Wave	<i>Cléo de 5 à 7</i> (Agnès Varda, 1962, France).
14	Semester Recap and Final Exam Screening	For their final, students will watch a film in class and write an analytical essay.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

All readings will be provided by the instructor and made available online.

【References】

David Bordwell, Kristin Thompson and Jeff Smith, *Film Art: An Introduction* (McGraw-Hill, 2019); Kristin Thompson and David Bordwell, *Film History: An Introduction* (McGraw-Hill, 2018); Maria Pramaggiore and Tom Wallis, *Film: A Critical Introduction*, second edition (Pearson, 2008).

【Grading criteria】

Quizzes (5x10%): 50%

Scene analysis: 20%

Final analytical essay: 30%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

This is a paper-free class. Students will need to access class materials and submit assignments online. No electronic device is required in class, and students should refrain from using them during lectures, screenings, and class discussions.

【Prerequisite】

None.

SOC300ZA

Social Theory: Perspectives on Inequality

Yuki NAKAMURA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 5/Fri.5Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブ
サイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注
意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

Social inequality has always been a part of human society, and social scientists have invested much effort into “figuring out” why there is social inequality and how social inequality is sustained and reproduced. Earlier efforts focused mostly on socioeconomic inequality, while later endeavors explored racial, gender, sexual inequalities and their interconnections. These efforts resulted in classical and contemporary social theories on inequality. In this course, students will learn these theories, which are interesting in and of themselves, but more importantly, they will learn to think about inequality deeply and sophisticatedly.

【Goal】

In mastering the social theories covered in this course, students will hone their critical thinking skills, develop their own theories of various aspects of society and the world and consider solutions to lessen inequality. Students will acquire the skills to engage with complex ideas and think systematically and logically, and remaining aware of social injustices and problems. By the end of the course, students should be able to form and support their opinions with ease.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course is taught through a combination of lectures interwoven with short discussions, student presentations based on readings, and post-presentation discussions.

After the active learning section, the instructor will give feedback to each student personally in verbal or written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview of theories to be covered. Nature of the class. Course requirements.
2	The Trio in Classical Theories (1)	Karl Marx on social class
3	The Trio in Classical Theories (2)	Max Weber on social stratification
4	The Trio in Classical Theories (3) Yet Another View?	Emile Durkheim on the division of labor in society Ralph Dahrendorf's theory of the origin of inequality
5	Norms and Inequality The Cultural Turn in Social Theory?	Pierre Bourdieu's <i>Distinctions</i> and the significance of taste and lifestyle
6	Presentation and Discussion: A "Common Sense"	Student presentation and discussion on Davis and Moore's structural-functionalist theory and Tumin's critique
7	Theory and its Critique Race, Ethnicity and Inequality (1)	Theories related to racial inequality: The work of W.E.B. Du Bois, Michael Omi & Howard Winant, Joe Feagin
8	Race, Ethnicity and Inequality (2)	Theories related to racial inequality: Critical Race theories (CRT)
9	Student Presentation and Discussion	Student presentation and discussion of CRT
10	The "F" word: "Classic" Feminist Theories on Gender Inequality	What is feminism? Liberal Feminism: <i>the</i> feminist theory? Mary Wollstonecraft, John Stuart & Harriet Taylor Mill, and Betty Friedan

11	It's All Together Now: Race, Class and Gender	Black Feminist Standpoint Theory: Patricia Hill Collins Intersectional Theories: understanding multiple inequalities
12	Global Inequality	Dependency Theory and World-Systems Theory: Fernando Henrique Cardoso, Enzo Faletto and Immanuel Wallerstein
13	Basic Concepts and Theories	Student presentation based on theories introduced in class.
14	Theories on Inequality: One More Time	What have we learned? Where to go from here? Short presentation and discussions of "favorite concepts"

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Since the class is centered on reading and discussion, students are expected to do the readings before class and also review materials after each class. Every effort will be made to keep the amount of readings reasonable and enjoyable. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

The instructor will prepare materials to be distributed in class or downloaded from the university portal.

【References】

Grabb, Edward G. 2007. *Theories of Social Inequality*. 5th edition. Toronto, Canada: Thomson Nelson.

【Grading criteria】

Presentations (22%), reading assignments (40%), take-home examination (30%), class participation (8%).

【Changes following student comments】

Students were positive about the course, despite the rather heavy workload. However, to encourage students to engage more with the class materials, short discussions started to be integrated into the lectures in 2017.

【Others】

If you like to read, think and discuss, this is the course for you. If you have taken and liked courses in political theory, philosophy, cultural anthropology or other sociology courses, it's likely that you find this course enjoyable as well.

Aslo, students who have passed *Introduction to Sociology* will be given admission priority. All students who intend to enroll in this class have to attend the first class.

【Prerequisite】

None

SOC300ZA

Migration and Diaspora

Chris Hyunkyung PARK

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 5/Thu.5

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

Scholarship on diaspora has drastically increased in the last three decades, and the issues pertaining to immigration and exile, as well as nation-state, nationalism, citizenship, identity and belonging have been explored and examined through a lens of diaspora in various academic disciplines. The course will address various issues that constitute diaspora such as the process of transmigration, settlement, and creation of diasporic communities, as well as identity formation, cultural hybridization, and cultural/knowledge productions – all of which are informed by race, gender, sexuality, class, religion, language and others.

In so doing, the seminar will first locate the roots of diasporas. As early historical references of the Jewish diaspora and the Black diaspora suggest, the displacement of people and communities from the original homeland often involved both internal and external forces that rendered them “exiles” or “slaves” against their will. Similarly, more recent diasporas emerge as a result of conflicts, wars, colonization, decolonization and globalization that result dispersion of people as “immigrants,” “refugees” and “adoptees.” Situating diaspora in broader projects of nation-building and empire-building, the course will ask and complicate the questions not simply about who, but also when, how, and under what circumstances people become diaspora, as well as how they (re)construct diasporic subjectivity and identity. Finally, the course will have a special focus on women’s experiences and voices.

[Goal]

At the end of this course, you should be able to:

- Explain such concepts as nationalism, citizenship, identity and belonging
- Explain historical and contemporary issues faced by various displaced people categorized as “immigrants,” “refugees,” and “adoptees” in their process of transmigration, settlement, and creation of diasporic communities
- Analyze various data sources including policies, legislations, historical facts, popular cultural production and personal narratives
- Use intersectionality as a lens of analysis to discuss issues pertaining to identity formation

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Although the instructor will provide the basic framework in a lecture format, students are expected to actively participate in and contribute to class discussion. This includes asking questions, seeking clarification and offering your critical ideas and interpretation. In addition, a small group of 3-5 individuals will work on a project and present findings and analyses on a topic of their choice. Further directions will be given in class.

In addition, it is possible that some comments from the reaction papers may be introduced in class to elaborate on each lecture and to facilitate discussions.

Comments for assignments and the final reports are given through email.

Please check your university email account and Hoppii regularly to keep yourself updated.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Course Overview & Self-introduction	Introduction and course expectations. Four migration themes. Global stocks and flows
2	Definitional Questions: Diaspora	Migrant categories, return migration, migrants to citizens, diasporas and transnational communities.

3	Identity/ies for Diasporic Subjects	Why the poorest don't migrate: examining systems, links, chains, routes, networks and diverse migrant motivations.
4	"Military Wives"	Japanese women's departure, Becoming American, the "modernized subjects"
5	"To Save the Children"	Origin of International Adoption
6	Militarized Process of "Leaving"	How "refugee" subjects are created and mobilized through spaces and modernity.
7	War, Racism and Incarceration	Japanese American Internment Experience during WWII
8	Forced Identity	Representation of "Good" & "Grateful" Minority
9	Racialized as "Invisible Asians"	Korean Adoptees' Experience
10	Orphan with Two Mothers	Film: Liem, Deann Borshay, First Person Plural (2000)
11	Diasporic Homecoming	Homecoming experiences: Japanese Brazilians v. Japanese Americans
12	Between Home and Homeland	Film: Yang, Yonghi. Dear Pyongyang (2005)
13	Group Presentation I	Student presentation
14	Group Presentation II	Student presentation

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

In addition to preparing for discussions, students are expected to review class materials after each class, note down reflections on the videos shown in class, and do the prescribed readings. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Handouts, readings and other materials will be distributed in class and/or uploaded on online course management system.

[References]

Espiritu, Y. *Home bound Filipino American lives across cultures, communities, and countries*. UC Press, 2003.

[Grading criteria]

Participation: 30%

Reading and Writing Assignments: 20%

Presentation on Weekly Reading: 20%

Group Project: 30%

Students are allowed 2 unexcused absences. These include medical reasons, job interviews, family emergency and train delays. If you arrive late or leave early, each will be counted as one ½ absence. If you miss 20 min of class time, it will be considered as 1 absence. 3 or more absences will result in not-passing. You must complete all the assignments to pass the course. If you have special need, exceptions may be made. Contact the instructor no later than Week 3.

[Changes following student comments]

NA

[Equipment student needs to prepare]

NA

[Others]

Changes to the above class schedule may take place.

[Prerequisite]

Students who intend to enrol in this class are expected to have passed or taken Understanding Society or Introduction to Sociology. This prerequisite may be waived through consultation with the instructor.

ART300ZA

Special Topics I: Photography and Culture

Gary MCLEOD

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 土 2/Sat.2

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブ
サイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

How can photography help to understand the world around us? Can it support or shape the way in which we interact with it? This course looks at the role of photography in an increasingly digital and time-poor society. Through “rephotography”, a set of visual practices for expanding conversations about place over time, the course explores the dual pressures upon today’s camera users to evidence and record reality while embodying authentic acts of personal expression.

[Goal]

Students carry out an independent rephotography project from conception to publication under a broader research agenda to visually record time and place in Tokyo. Through producing a photo book, students will develop critical perspectives toward contemporary image-making while learning to articulate research methodologies and give constructive feedback.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course uses a practical approach. Workshops, assignments and supporting lectures are employed to develop students’ understanding of contemporary photography and improve critical skills regarding the production of images (i.e. visual literacy). Students produce and print a contact sheet of 36 photographs every week which is used for discussion in class. Final submission comprises a photo book and evidence of participation (12 submitted contact sheets). Attendance is recorded weekly using visual media (e.g. photograph). Feedback is given through ongoing dialogue between students and instructor during production of the contact sheets and photobook.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Slow Glass	Introducing the course and expectations.
2	Looking Again	Photographing the campus ‘in’ time.
3	The Landscape of Rephotography	Discussing rephotography as a diverse set of visual strategies.
4	Re-entering the Past	Discussing the relationship between rephotography and place.
5	Now and Again	Discussing the relationship between rephotography and time.
6	Conversations with the future	Sharing ideas for visually exploring time and place in Tokyo.
7	Photo Book Research	Analysing photo books in the university library.
8	Developing Strategies	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of strategies.
9	Developing Sequences	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of sequences.
10	Refining Selections	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of selections.
11	Expanding Horizons	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of outcomes.
12	Draft Photobook	Making preparations for producing a booklet.
13	Photobook Review	Reviewing reflection and notation in workbooks.
14	Final Photobook Review	Making final improvements to books prior to submission.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must regularly take photographs throughout the semester. Every week students are required to bring a contact sheet containing 36 photographs made during the week before, which will be discussed in class. They are also expected to use the photo book resource in the library and do assigned readings. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Handouts and reading materials will be will be uploaded on Hoppii or distributed in class.

[References]

Batchen, Geoffrey (2008) *William Henry Fox Talbot*, Phaidon.
 Berger, John (1977) *Ways of Seeing*, Penguin Books.
 Flusser, Vilém (2014) *Gestures*, University of Minnesota Press.
 Ruetz, Michael (2008) *Eye on Infinity*, Steidl.
 Ritchin, Fred (2013) *Bending the Frame*, Aperture.
 Sagami, Tomoyuki (2018) *YKTO*, Steidl.
 Tomiyasu, Hayahisa (2018) *TTP*, Mack Books.
 Watanabe, Toshiya. (2018) *Thereafter*, Steidl.

Additional references will be provided by the instructor in class.

[Grading criteria]

Participation: this applies to weekly contact sheets (minimum of 12) More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.
 Photo book: each student must produce a small photo book (min. 96 pages) that communicates ideas relating to the city and time.
 The final grade is based on: Participation 40% and Photo book 60%. As a variety of predictable and unpredictable factors are involved in the process of creating a photobook, evaluation considers a blend of concept, research, originality, visual communication ability and tenacity.

[Changes following student comments]

Changes have been made in response to student feedback, thank you.

[Equipment student needs to prepare]

Students will need a laptop with photo-editing software and a camera. Please note that the use of a smartphone camera is acceptable for this course. However, if you have regular access to a better camera (and wish to use it), please bring it and the instructor will show you how to use it.

[Others]

Being naturally creative is not a requirement for this course. However, students are expected to come to class on time, participate and show interest.

[Prerequisite]

None.

CUA300ZA

Comparative Media

Stevie Tongshun SUAN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

In this class we will explore how different media operate, exploring how various mediums — such as animation, cinema, visual art, theater, comics, and literature — allow us to see and understand the world in different ways. By using theories and methods developed for each media, we will gain a better understanding of how each media operates, and what it allows us to see or hides from our view. In order to keep some common ground, we will compare each of these media to a particular type of animation: anime. While comparing and contrasting these media, we will be analyzing specific anime works, detailing how they touch on topics such as societal critique, politics, gender, technology, spectatorship, geopolitics, and consumerism. Throughout the class we will be using Christopher Bolton's book, which compares anime to different media, to guide the course.

[Goal]

In addition to teaching the students about contemporary media and society, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn methodologies to analyze various media; 2) examine the specific operations of each media; 3) learn how to analyze the media's relationship to society; 4) explore how to conduct in-depth analyses of specific media works.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Classes will be lecture based, with visual material such as clips of films and animation. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Each week students will be assigned a section from Bolton's book. This reading will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based off of the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their exams. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric provided to the students (by email or a handout). Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Comparing media
2	Reading Anime	Methods for interpretation in relations to other media
3	Exploring Contemporary Visual Arts	Post-modernity and its relationship to media
4	Comics and Sequential Media	Considering adaptations: manga vs. anime versions
5	Live-Action Cinema	Cinema and the problems of "realism"
6	Usages of Cinema and TV	Media and its relationship to warfare
7	Serialized Media	Analyzing episodic narratives
8	Traditional Theater	Noh theater's narrative and performance patterns
9	Traditional Theater II	Bunraku and operations of puppets
10	Non-human Performances	Puppets and connection to concepts of cyborgs
11	Spectators and Media	Gender and viewership across media
12	Literature: Old Media, New Media	Fantasy and self-hood as presented in different mediums

13 Student Presentations Feedback and Discussion

14 Student Presentations Feedback and Discussion

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Bolton, Christopher. *Interpreting Anime*. University of Minnesota Press, 2018.

[References]

References to different online articles and other media will be provided in class.

[Grading criteria]

Participation 20%

Presentation 40%

Final paper 40%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Prerequisite]

None.

CUA300ZA

Media and Globalization

Stevie Tongshun SUAN

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

With Disney films and anime becoming popular all over the world, it is hard not to see animation as a dominant form of global media. But how can we explore animation in its global position? Focusing on animation from the U.S., Japan, as well as Europe and parts of Asia, in this class we will closely examine the particularities of animation, exploring different thematic topics that intersect with globalization. Throughout the semester we will be engaging with the aesthetics of animation, analyzing its history, production processes, and global presence. In the first section of the class, we will learn how animation functions as a certain type of technology, how it operates transnationally, and how this is representative of contemporary globalization. In the second section of the class, we will examine specific topics that are relevant to globalization, including the spread of culture, the ethics of globalization, and global environmental destruction. Utilizing the methods learned in the first section of the class, we will analyze how specific animations and genres grapple with these topics.

[Goal]

In addition to teaching students information about animation and globalization, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn methodologies to examine animation as a particular type of media; 2) explore many of the problems of globalization through the example of animation; 3) learn how to apply those methodologies to analyze how certain animations engage with the problems of globalization.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Classes will be lecture-based, with visual material such as clips of films and animation. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based off of the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their exams. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric provided to the students (by email or a handout).

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Media's part in globalization
2	Media Flows Across the World	Different ways of thinking about globalization
3	Transnational Production of Media	Animation production across national borders and Regions
4	Global History of Media	Transnational influences from Russia, US, and Japan
5	Global Expansion of Animation	Differences and similarities of consuming media in various locales
6	Animation as Global Technology	Effects of technology in the ways we see and think about globalization
7	Globalized Aesthetics	Implications of anime's globally recognizable stylistics
8	Animating Characters Differently	Disney's techniques vs. anime's techniques and their relationship to culture
9	Ethics of Global Actions	How animation considers diplomacy in an interconnected world

10	Local Folklore Gone Global	Traditional cultures in conflict with globalization
11	Ecology as a Global Issue	Environmentalism in various types of animation
12	A Technological Globe	Imagining a global world in cyberpunk animation
13	Student Presentations	Feedback and Discussion
14	Student Presentations	Feedback and Discussion

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

[References]

Appadurai, Arjun. *Modernity at Large: Cultural Dimensions of Globalization*. University of Minnesota Press, 1996.

[Grading criteria]

Participation 20%

Presentation 40%

Final paper 40%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Prerequisite]

None.

CUA300ZA

Media and the Nation

Stevie Tongshun SUAN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 1/Thu.1

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブ
サイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注
意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

In this class, we will explore how various media intersect with the idea of the nation in Japan. This will include engaging with the intersection of different media during the formation of the modern Japanese nation-state in the late 1800s. From this point of departure, we will move forward through Japanese history, exploring different media and how they operated in Japanese society at different times. We will examine print culture, from newspapers and wood-block prints, to comics and magazines, as well as moving-image media such as animation and live-action TV and film. Exploring their history, we will analyze some of their shifts over time, and how they reflect changes in their relationship to images of the nation in Japan. This includes how subcultural “otaku” media became official symbols of Japanese national culture, both locally and globally. After addressing this topic in detail, we will then return to more mainstream media, such as films and TV dramas and their relationship to shifts in Japanese society.

[Goal]

In addition to teaching the students about modern Japanese history, society, and media, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn methodologies to examine various media and their connection to Japanese society; 2) examine the specific dynamics of each media and their connection with the nation of Japan on a local and global scale; 3) develop how to analytically engage with the history of Japan and these media through the methodologies learned in class.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Classes will be lecture-based, with visual material such as clips of films and animation. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based off of the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their exams. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric provided to the students (by email or a handout). Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Nations and media
2	Imagined Communities	Newspapers and the early nation-state
3	Making National Arts	Theater and hanga's transformations in Meiji Japan
4	Wartime Media	Animation and film during the Taisho and Showa periods
5	Post-war Shifts	Shifting gender dynamics in popular genres from the 1960s and 1970s
6	From Niche to Mass	Anime and manga's rise to national fame from 1980s to early 200s
7	Media Stereotypes	Creating an image of otaku in the 1980s to early 2000s
8	Otaku in Transition	Shifting images of otaku in film in the 2000s

9	Otaku Consumption/Production	Conceptualizing different types of consumption patterns of otaku
10	National Visibility of Fujoshi	Rise of female otaku consumers in early 2000s
11	Post-Bubble TV	Celebrity and lifestyle in TV dramas in 1990s and 2000s
12	Making Japan's Food	Contemporary “food focused TV” in imagining the nation
13	Student Presentations	Feedback and Discussion
14	Student Presentations	Feedback and Discussion

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

[References]

Anderson, Benedict. *Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*. Verso Ed., 1985.

[Grading criteria]

Participation 20%

Presentation 40%

Final paper 40%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Prerequisite]

None.

CUA300ZA

Media Research

Kukhee Choo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 5/Tue.5

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

This course aims at helping students historicize and contextualize the socio-political and economic influences that media technology has had on our everyday lives and how that influence manifested itself in media representations. The study of media technology as material culture through its production, dissemination and uses has become more urgent as new forms of media are created faster than ever. In this course, students will analyze how media technology has developed throughout history and will further examine the pros and cons, social embracement and anxieties associated with each technology and their representations. Students will apply what they learn about the development of media technology and how it has been represented from a historical and socio-economic perspective and reflect it in their research projects.

[Goal]

By the end of the course, students will be able to,

- understand the history of media technology and its institutional development through their research projects
- learn theories regarding the development of media technology and learn how the technological development of media and its institutions has informed human perception, anxieties, body, gender and politics throughout history
- improve critical thinking ability about how the historical development of media technology has changed the institutional landscape as we know it and demonstrate that understanding by constructing strong arguments during class discussions

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The course will cover the historical development of media technology through required readings and watching relevant media examples. The class will be centered on student discussions related to the required readings and topics and the instructor will guide the discussions accordingly.

Comments/feedback for assignments (tests and reports, etc.) are given during office hours. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of media technology
2	Print culture	Printing press, nationalism, and communities
3	Photography	First photography, stereoscopic images, and historical understandings
4	Film	Invention of cinema, sound technology and aura
5	Film	Animation technology
6	Telephone	Telegraph wire, telephone and fear of connection
7	Radio	War and radio, commercialization and fan culture
8	Review & research project	Review & research project
9	Television	Postwar development, shifting concepts of time & space
10	Computers	Mediated technologies and fear
11	Video games	Reconfiguring spaciality and senses
12	Internet	Communities, democracy and networks
13	Digital divide	Wealth and technology, internet and human rights

14 Final research project Final research project & wrap-up & wrap-up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Students must read required readings before class. Each class will have about 30-80 pages of reading per class.

[Textbooks]

No text book required.

[References]

Anthony R. Fellow "Before the American experience"
 Benedict Anderson "Imagined communities"
 Shelton A. Gunaratne "Paper, printing and the printing press"
 "A brief history of photography"
 Walter Benjamin "The history of photography"
 Laura Schiavo "From phantom image to perfect vision"
 Geoffrey Batchen "Seeing and saying"
 Wheeler W. Dixon & Gwendolyn Foster "The invention of the movies"
 Charles O'Brien "Sound's impact on film style"
 Chris Pallant "Disney innovation"
 Bendazzi Giannalberto "Silent pioneers in animation"
 Paul Starr "The first wire, "New connections: Telephone, cable and wireless"
 Schantz "Telephonic film"
 Dean Juniper "The First World War and radio development"
 Randall Patnode "What these people need is a radio"
 Charlene Simmons "Dear radio broadcaster"
 Mitchell Stephens "History of television"
 John P. Robinson and Steven Martin "Of Time and Television"
 Michael Curtin "Organizing difference on global TV"
 Morrison & Krugman "A look at Mass and computer mediated technologies"
 Dinello "Machines out of control"
 Leonard Herman "Early home video game systems"
 Eugenie Shinkle "Video games, emotion and the six senses"
 William Galston "Does the Internet strengthen community?"
 Don Tapscott "The net generation and democracy"
 Natalie Fenton "The internet and social networking"
 Gene Marks "If I were a poor black kid"
 Toure "On Gene Marks 'If I were a poor black kid'"
 Joanna Goode "Mind the gap"
 Kevin O'Brian "Top 1% of Mobile Users Use Half of World's Wireless Bandwidth"
 Vinton G. Cerf "Internet Access Is Not a Human Right"

[Grading criteria]

Class participation (10%)
 Class readings summaries/presentation (or equivalent evaluation)(20%)
 Speaking up during class discussions (20%)
 Midterm research project (20%)
 Final research project (30%)

[Changes following student comments]

None.

[Equipment student needs to prepare]

Students are not allowed to use computers, tablets or smartphones in this class. They must bring hard copies of the required readings to class.

[Others]

The content of this syllabus may be subject to change.

[Prerequisite]

None.

MAN300ZA

Impact of Artificial Intelligence

Maymay HO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 4/Thu.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Artificial Intelligence (AI) has a profound impact on the business world in many ways, changing the way cities are run, the way we live and socialise through to the way we do business. This course focuses on how businesses use AI to make their businesses more profitable and customer experience better. In case-studies we will cover during this course we will analyse the impact and thereby also understanding businesses better. We will also observe that businesses employ data scientists to analyse data. These scientists use machine learning as part of their implementation of AI. So in the later part of the course we will delve deeper into Machine Learning so that we can better understand what data scientists do. Hence we are able to understand the “mechanics” of AI.

[Goal]

Using the critical thinking exercises and class discussions, students will be able to apply their knowledge to case-studies and group work. The skills they acquire through this course should prepare them to understand key technical terms and give a better understanding of the world.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction to Artificial Intelligence.
2	Robotics in Business	Introduction to Robotics in Business.
3	AI to Improve Customer Experience	Discuss on how AI improves customer experience.
4	AI to Allow Entrepreneurship	Discuss on how AI encourages entrepreneurship.
5	Review of Class Materials	Review of class materials.
6	AI to Drive Business Performance	Discuss how AI drives business performance.
7	AI in Healthcare	Discuss how AI drives in healthcare industry.
8	Hacking, Fraud and Cybercrime	Discuss the impact on hacking, fraud and cybercrime.
9	Machine Learning In Business and Regression Revisited	Revise the regression. Discuss machine learning in business.
10	Hands on Demonstration of R Language	Perform demonstration of R language.
11	Hands on Demonstration on Microsoft Machine Learning	Perform demonstration on microsoft machine learning.
12	AI and Current Affairs	Discuss AI and current affairs.
13	Discussion and Review	Discussion and review.
14	Wrap-up & Review of Class Materials.	Review of Class Materials.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the assigned readings and slides of the next class before each class. Also, in addition to the preparation for the final presentation, there will be homework during the course. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Additional reading on the daily news and related research articles are highly recommended.

[Textbooks]

Electronic slides will be provided.

[References]

References will be provided in class slides.

[Grading criteria]

15% Quizzes

15% Projects / homework

35% Midterm exam

35% Final examination

[Changes following student comments]

None.

[Equipment student needs to prepare]

None.

[Others]

None.

[Prerequisite]

None.

PSY300ZA

Community Psychology

Toshiaki SASAO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水 2/Wed.2

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course has been designed to provide a rigorous undergraduate-level introduction to the theories and methods of community psychology. Community psychology is concerned with person-environment interactions and the ways society impacts individual and community functioning. The field focuses on social issues, social institutions, and other settings that influence individuals, groups, and organizations. Community psychology aims to optimize the well-being of individuals and communities with innovative alternative interventions designed in collaboration with affected community members and with other related disciplines inside and outside of psychology. Students are expected to gain a comprehensive understanding of working knowledge and skills in community psychology, as practiced around the world.

【Goal】

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) to develop an understanding of the role of social-historical factors in the development of community psychological perspectives while dispelling the popular myth about the field;
- (b) to gain a working knowledge of different theoretical approaches for prevention of social and psychological problems in the community and begin to think about how these can be practically implemented and evaluated;
- (c) to critically analyze the community psychological literature; and
- (d) to appreciate professional careers and practices in community psychology.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course combines several different kinds of pedagogical strategies including lectures, class discussion, film discussion, and small group work. The requirements of the course include: (a) active participation, preparation, and engagement in class, (b) “Experiencing a Different Cultural Ecology (a field exercise, if classes held face-to-face)”, (c) Biography Paper, (d) Learning Logs (x2), (e) a take-home final. Feedback will be provided via individual face-to-face sessions and/or the Hoppi System.

Required Readings

Students are expected to come to class fully prepared to participate in class discussion and other activities. In order to do so, students are required to have read the readings for each module prior to coming to class sessions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction & Overview	Provides a course overview, expectations, & requirements
2	Community Psychology (CP): History, Values, & Assumptions	Introduces and discusses key historical events, values and assumptions in CP practice and research
3	Embracing Social Change	Discusses the nature of social change and theories
4	Empowerment	Introduces several empowerment models and theories of empowerment
5	Community and Citizen Participation	Discusses theoretical frameworks for community and citizen participation
6	Ecological and Environmental Approaches (1)	Introduces ecological models for understanding life space

7	Ecological and Environmental Approaches (2)	Discusses ecological interventions and a video presentation
8	Midterm Review	In-Class Review and/or Film Review
9	Appreciating and Affirming Human and Cultural Diversity	Discusses models of human diversity and interventions around the world
10	Prevention, Strengths & Promotion Approaches (1)	Discusses key concepts in prevention science
11	Prevention, Strengths & Promotion Approaches (2)	Introduces “best practices” in prevention interventions
12	Stress & Coping Approaches	Compare and contrast several clinical approaches to stress and coping with CP approaches
13	Social Justice Approaches	Introduces the idea of social justice for community psychology
14	Emerging Trends in Community Psychology	Ends the course with discussion on several recent trends and future directions in CP research and practice

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete all the reading assignments (if any), and are prepared to engage in class activities and discussion. The course requirements and assignments are explained above in the Method(s) section, but depending on the level of students' preparation and interest, chances are that some of the requirements may be subject to change slightly, if not entirely. Preparatory study and review time for this class are 3 hours each.

【Textbooks】

Class readings will be available online. Some of the chapters will be drawn from the following textbooks, and from American Journal of Community Psychology, American Psychologist, Journal of Community Psychology, etc.

Kelly, J.G. et al. (2004). *Six community psychologists tell their stories: History, contexts, and narratives*. Binghamton, NY: Haworth Press.

Jason, L. A. et al. (2019). Introduction to community psychology. Downloadable free of charge from <https://press.rebus.community/introductiontocommunitypsychology/>

【References】

Additional references will be introduced in class.

【Grading criteria】

The following show approximate activity-by-activity percentage points toward your final course grade: (a) Active Participation, Preparation, and Engagement (10%); (b) “Experiencing A Different Ecology” (25%); (c) Biography Paper (15%); and (d) Learning Logs (30%), and (e) Take-Home Final (30%).

【Changes following student comments】

From time to time during class sessions, ideas and opinions are solicited from students re the class structure and format.

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Others】

Please note that successful completion of general psychology, social psychology, clinical psychology, and/or a few psychology-related courses may be assumed and desirable, but not required.

【Prerequisites】

None.

PSY300ZA

Clinical Psychology

Keiko ITO

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 6/Tue.6

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

Major topics include definition, psychological assessment methods, psychotherapy approaches, along with the history of treatment and the role of science in clinical psychology. The course also explores some of the most common mental illnesses.

[Goal]

Major Course Objectives.

By the end of the course, you should be able to:

- Demonstrate an understanding of how clinical psychologists approach mental health from a biological, cognitive, and social perspective.
- Explain the importance of the scientist-practitioner model of clinical psychology.
- Describe the types of questions clinical psychologists ask and realize that appropriate research methods must be employed in order to answer them.
- Identify the major tasks and responsibilities of clinical psychologists as health care professionals.
- Engage with the ethical framework for the practice of psychology.
- Identify diversity issues as they relate to clinical psychology.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Through a series of lectures, readings, exercises, films, and group projects, this course introduces and provides a broad overview of the field of clinical psychology. 1. Final Project -presentation

The final project is to be completed in small groups of students (if you want to do it individually, you must clear it with myself). The goal of the final project is for students to research and present information about the topic of clinical psychology in class by using power-point slides. Projects will focus on and cover the specific topic of clinical intervention. Possible examples of the projects include: Person-centered therapy, Psychodynamics therapy, Humanistic & Existential Psychotherapies, Behavior therapy, Cognitive-Behavioral therapy, Child & Family therapy, Couple therapy, Psychopharmacology, etc.

The topic could be a specific issues in clinical psychology other than intervention, but those who wants to do so must consult myself in advance.

2.Movie Report: A list of movies will be provided in class.

3. Exams: There will be no exam, but a brief final paper will be assigned.

4. Research Article Summary: In order to help you develop your understanding of psychological findings and methodology, you will be required to complete a brief (2 to 5 pages) summary of a research article. Articles appropriate for this paper can be found on the website or in library. Use an article of interest to you as long as it is appropriate to the course content and relevant to the field of clinical psychology.

Insightful comments from reaction papers will be introduced in class and used in deeper discussions.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & Guidance.	What do clinical psychologists think and what models do we use?
2	History	The history of psychiatry and clinical psychology.
3	Group project discussion / Library research	Assessment of psychopathology and personality
	Overview of Assessment (1)	Projective tests personality test
4	Overview of Assessment (2)	Intelligence testing
		Neuropsychological assessment, behavioral assessment
		DSM & ICD 10

5	Major Psychiatric Disorder (1)	Anxiety disorder(includes panic/OCD / PTSD)
6	Major Psychiatric Disorder (2)	Mood disorder (depression / bipolar)
7	Major Psychiatric Disorder (3)	Schizophrenia
8	Developmental Disorders	ADHD Learning disorder Autistic syndrome
9	Culture Issues in Clinical Psychology	Multicultural counseling Therapists' culture identity development
10	Stress management	Stress and its coping methods
11	Clinical Interventions/ Therapies	Psychoanalytic Therapy, Person Centered Therapy, CBT, Behavior Therapy, and other psychological interventions
12	Group Project Presentation (1)	Topics in clinical psychology and its intervention (2)
13	Group Project Presentation (2)	Topics in clinical psychology and its intervention (3)
14	The Road to Becoming a Clinical Psychologist	Wrap up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

· Class Preparation: An active learning approach requires students to prepare the readings and assignments BEFORE class.

· Group Project: Students should expect to allocate time outside of class to meet with their group members to discuss/ prepare project assignment.

· Movie assignments: Write reflection essays on the movie.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

None.

[References]

· Class handouts will be provided in class.

· Supplemental readings will be provided in class.

· There will be an instructions session for how to find the research article assignment and articles to use in class.

· The APA Ethics Code including 2010 amendments can be downloaded for free directly from the APA website: <http://www.apa.org/ethics/code/index.aspx>.

[Grading criteria]

Participation: 20%

Reaction Papers: 10%

Movie Report (2): 10%

Group (or individual) Project: 35%

Research Article Summary: 10%

Final Report: 15%

Total: 100%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

Not in particular (there will be a power point presentation in class).

[Others]

Dates and contents of a class may change somewhat depending on our progress in covering the material.

Office hours (contact by email).

[Prerequisite]

None.

PSY300ZA

Psychology of Morality

Christopher KAVANAGH

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 1/Tue.1

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course is designed to introduce students to the major theoretical perspectives and empirical research on the psychology of morality. In recent decades there has been a renaissance in research exploring morality and its associated psychological aspects. Accordingly, this course will focus primarily on psychological research on morality from a variety of fields (including cognitive psychology, comparative psychology, social psychology, developmental psychology, and evolutionary psychology) but will also include discussion of related work in philosophy, animal behavior, economics, and neuroscience. The course is intended to provide an introductory overview to the psychology of morality while also addressing core questions, such as: What is morality? Where does it come from? Do humans have core innate moral intuitions or are they socially learned and culturally dependent? Is there evidence of morality in any other species? By the end of the course, the students will have a greater appreciation of potential answers to these questions and then ongoing debates that surround them.

[Goal]

By the end of the course, students should be able to: (1) recognise and understand the key terms and major theoretical approaches in the psychology of morality; (2) discuss relevant studies and identify the strengths and weaknesses in their methodology and theoretical models; (3) compare and contrast different psychological theories of morality and discuss their application to selected scenarios; (4) critically evaluate the key theoretical approaches and their potential relevance to everyday life and moral judgments.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course will be taught primarily through a combination of lectures and group discussion. In the first part of the class the lecture will introduce key topics and theories and the group discussions will focus on related readings and issues of debate that will be provided in advance. Over the course of the semester, students will be required to give two oral presentations exploring selected topics on the psychology of morality. The mid term and final exams will consist of questions that will evaluate what you have learnt from this course. Exam feedback will be provided via the Learning Management System.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Psychology of Morality	Introduction to the course and review of the syllabus. Defining morality.
2	What is morality?	Introducing key psychological theories of morality, including moral foundations theory.
3	Where does morality come from?	Exploring the evolutionary origins of morality.
4	Morality and religion	Examining the complex relationship between religion and morality.
5	Developmental Psychology and Morality (I)	Addressing the evidence for innate moral intuitions in infants.
6	Developmental Psychology and Morality (II)	Examining moral development trajectories through childhood and whether this varies cross culturally.
7	Mid-Term Exam & Review	Mid-Term Exam & Review
8	Emotions and Moral Judgments	Examining the role that emotional responses, especially disgust, play in determining moral judgments

9	Is morality unique to humans?	An examination of comparative studies of morality and what it tells us about human moral systems.
10	Acts vs. Persons, Intentions vs. Consequences	Exploring how we judge the morality of others and the role that intentions and consequences can play.
11	The role of punishment in morality	Examining the role of punishment in moral systems and how it influences psychological responses
12	Mind Perception and Moral Judgment	Examining the role that perceptions of mentality play in morality.
13	Morality and Politics	Exploring the role that moral sentiments play in determining political beliefs.
14	Final Examination & Wrap-up	The final exam covers all the topics from Week 1.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete weekly reading assignments, participate in class discussions, and prepare two group presentations. Preparatory study and review time for this class are at least 4 hours.

[Textbooks]

All readings will be distributed by the instructor.

[References]

Joshua Greene (2014). *Moral Tribes: Emotion, Reason and the Gap Between Us and Them* (English Edition), Penguin Books.
Valerie Tiberius (2014). *Moral Psychology: A Contemporary Introduction* (First Edition), Routledge Contemporary Introductions to Philosophy).

[Grading criteria]

Presentations 20%

Mid-term exam 20%

Final exam 30%

Weekly in-class responses 15%

Active participation 15%

[Changes following student comments]

The course content has been revised due to a new teacher taking over the course.

[Equipment student needs to prepare]

The lecture may be taught online. Student needs to make sure that they have the proper equipment (PC/tablet etc.) to join the meeting.

[Others]

None.

[Prerequisite]

You must have taken and received credits in at least 2 courses in psychology.

LIN300ZA

Syntactic Theory

Peter EVANS

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水 5/Wed.5

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

The study of syntax (in particular that of English) via investigation and experiment.

【Goal】

Two goals. First, an insight into the nature of syntax. Secondly, a better grasp of how to go about understanding phenomena in general that at first seem baffling, or in other words the acquisition of some aspects of scientific method via the careful examination of language.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

We use a textbook that does not presuppose a knowledge of linguistics but does assume that the reader has an intellectual curiosity and an appetite for language-related exercises and real thinking. This will be very much a “300-level” course, or anyway a course for thinking adults.

Students both submit work for assignments and get comments on this work via “Hoppii”.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Linguistics and syntax reintroduced
2	Phrase Structure Rules	Sentence-generation rules; phrase structure rules; tree diagrams
3	Hypothesized Grammars	Grammars as hypothesized by linguists; testing hypothesized grammars
4	Comparing Rules and Theories	Comparing rules that have different implications; comparing grammars that seem to have the same implications
5	Constituency	What constituency is and how to test for it
6	Trees and Tree Relations; Category	Syntactic trees; proforms; antecedents; c-command; categories of words (parts of speech) and of phrases, and category determination
7	Revising Grammars	Refresher in logic; experimentation; bug-fixing and refinements
8	Introducing the Lexicon; Features, Heads and Phrases	The categorial and the subcategorial; features and feature inheritance; exocentric phrases; theta-roles; modification

9	Complements and Adjuncts	Diagnostics for and complications in the distinction between complements and adjuncts
10	Complement Sentences (i)	Embedded sentences; the complementizers <i>that</i> and <i>whether</i> ; clauses versus sentences
11	Complement Sentences (ii)	Finiteness and the Tense feature; TP and CP
12	Invisible Lexical Items	Hidden subjects; dummy subjects; thematic structure
13	Noun Phrase Structure	Noun phrases with quasi-objects and subjects; N-bar and noun complements and modifiers/adjuncts
14	X-bar Theory	Preposition phrase modifiers and P-bar; generalizing across T-bar, N-bar, and P-bar for an abstract X-bar; implications of X-bar for language acquisition

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Reading with maximum concentration (without background music or other distractions), hard thinking, doing the various exercises, and probably also discussion with classmates of the content and exercises. Allow two hours a week for this. Also, weekly assignments, which consolidate what has been covered in class. An assignment might, as an example, ask students to think through the implications of two candidate syntax trees (diagrams of constituent structure) for the same one sentence, and thus to point out why one of the candidates should be discarded. Allow two hours a week for the assignment too.

【Textbooks】

Richard K Larson, *Grammar as Science* (Cambridge, MA: MIT Press, 2010; ISBN 978-0-262-51303-6)

【References】

No additional reading is required.

【Grading criteria】

Work done for assignments: 100%

【Changes following student comments】

Dropping the section on formal arguments (valuable but inessential), dropping the exercises-only weeks, and having not just part of evaluation by weekly assignments but all of it. This frees up a lot of class time: we can slow down in some places but nevertheless cover more material in the course as a whole than in previous years.

【Others】

● <http://tinyurl.com/theoretical-syntax> makes each class slideshow available to anyone, anywhere.

● Though the course has no formal prerequisite, students will need an interest in language and an appetite for a rigorous approach and for hard thinking.

【Prerequisite】

None.

LIN300ZA

Morphology: Building Words

Peter EVANS

Credit(s): 2 | Semester: 春学期授業/Spring | Year: 3~4

Day/Period: 水 3/Wed.3

Notes: <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

[Outline and objectives]

The formation of words, with particular reference to English. At first the subject may sound like etymology (the history of words), but it is not: native speakers have a considerable unconscious knowledge of word formation, even without any historical awareness.

[Goal]

As morphology is part of linguistics, the ultimate purpose of this course is that of linguistics: to help give you some insight toward the aim of understanding how the human mind works. As for “employability skills”, you’ll get practice in reading comprehension, gathering information and developing hypotheses; and you’ll also get a heightened and informed sensitivity to language that should help you in careers as diverse as law and copywriting.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Using weekly slideshows, we’ll go through the textbook, which is neither long nor hard to read. Rather than encouraging the mere learning of facts (sure soon to be forgotten), textbook and course both emphasize exercises, so that the reader is a *participant* in morphology rather than a mere spectator.

Students both submit work for assignments and get comments on this work via “Hoppii”.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Morphemes, words, lexemes and other confusables
2	Words, Dictionaries, and the Mental Lexicon	Conventions of published dictionaries versus the hypothesized structure of the mental lexicon; the published dictionary as resource
3	Lexeme Formation (i)	Morphemes, prefixes and suffixes, bound bases, formatives, etc
4	Lexeme Formation (ii)	Compounding: headedness, endo-/exocentricity, subordinate/attributive/coordinative compounds
5	Lexeme Formation (iii)	Conversion, infixes, internal stem changes, reduplication, etc

6	Productivity and Creativity	How a prefix or suffix may be newly added to a word or stem inconspicuously and successfully; how new words are created jokily (but rarely with lasting success)
7	Lexeme Formation (iv)	Infixes, circumfixes, parasynthesis, internal changes, reduplication, templatic morphology, subtractive processes
8	Inflection (i)	What inflection is; inflection for number, person, gender, case; accusative vs ergative case systems
9	Inflection (ii)	Inflection for tense, aspect, voice, mood, etc; inflectional classes; inflection versus derivation
10	Typology	How languages differ in morphology, and how they resemble each other
11	Words and Sentences	The relationship between morphology and syntax in certain kinds of construction; clitics; phrasal verbs
12	Sounds and Morphemes	The relationship between morphology and phonology in allomorphs; lexical strata (different phonological and morphological rules for different large sets of words)
13	Theories of Morphology (i)	What morphological rules are; “lexical integrity” (the immunity of morphology from syntactic operations)
14	Theories of Morphology (ii)	Blocking, affix ordering, bracketing (tree) paradoxes, affixal polysemy

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Reading the relevant pages of the textbook, doing exercises from the textbook (and its “challenges”), revising with the slideshow, finding other examples and real or apparent counterexamples. Allow two hours a week for this. Also, weekly assignments, which consolidate what has been covered in class. As an example, the assignment for the fourth week in 2020 asked students to do two things. First was to find nouns (such as *uncountry*) created by prefixing a noun with *un*. (This in turn required registering for, using, and familiarizing themselves with english-corpora.org.) Secondly, they had to consider the prefixes *re* and *de* in *report*, *deport*, *receive*, *deceive*, *remit* and *demit*, and decide whether these were the same as those in *rewash*, *rewind*, *reload*, or *debug*, *de-ice*, *derail*; and why they were or weren’t. Allow two hours a week for the weekly assignment too.

[Textbooks]

Rochelle Lieber, *Introducing Morphology*, 2nd ed (Cambridge: Cambridge University Press, 2016; ISBN 978-1-107-48015-5)

[References]

Bauer, Laurie, Rochelle Lieber, and Ingo Plag, *The Oxford Reference Guide to English Morphology*. Oxford: Oxford University Press, 2013.

Dixon, R. M. W. *Making New Words: Morphological Derivation in English*. Oxford: Oxford University Press, 2014.

Mattiello, Elisa. *Extra-Grammatical Morphology in English: Abbreviations, Blends, Reduplicatives, and Related Phenomena*. Berlin: De Gruyter Mouton, 2013.

Schmid, Hans-Jörg. *English Morphology and Word-Formation: An Introduction*. 3rd ed. Berlin: Erich Schmidt, 2016.

【Grading criteria】

Work done for assignments: 100%

【Changes following student comments】

Evaluation not by examination but instead by weekly assignments. This frees up a lot of class time, thereby allowing us to cover the course material in less of a rush.

【Equipment student needs to prepare】

Students aren't obliged to bring a computer, tablet, or smartphone. But their use in class is welcome at particular times and for particular class purposes (which of course don't include websurfing, emailing, tweeting, etc).

【Others】

● <http://tinyurl.com/gis-morpho> makes each class slideshow available to anyone, anywhere.

● Though the course has no formal prerequisite, students will need an interest in language, of course; also, a very basic understanding of linguistics (word categories, etc).

【Prerequisite】

None.

LNG300ZA

English in Asia

Megumi KOBAYASHI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 2/Fri.2

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

In this course, students will learn how English is used in Asia. The characteristics or features of English in selected countries in Asia are explored from the perspectives of World Englishes with special reference to socio-historical contexts and educational policies.

【Goal】

Upon completion of this course, students will:

- 1) Become aware of some of the major varieties of Asian Englishes.
- 2) Be able to understand some historical contexts for how English came to be used in Asia.
- 3) Be able to understand some educational contexts for how English is taught in Asia.
- 4) Be familiar with the idea of World Englishes.
- 5) Be able to reflect on their own use of English more objectively.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

You will be assigned a set of reading materials in advance, which will provide some background information about the issues in focus. A comprehension quiz based on the reading will be given at the beginning of the class to make sure you have a basic understanding of the topic. Then the topic is further explored with additional lectures as well as through pair/group discussions. Audio-visual materials (including movies) will also be introduced to provide actual samples. Toward the end of the semester, students will select a topic/country of their interest and make a presentation in class. Feedback for assignments will be given either individually (paper/LMS) or shared during the class. Actual lesson plans and contents may be modified based on students' progress.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation	Course guidance What is “World Englishes”?
2	English in Asia (1)	Overview (Southeast Asia and ASEAN)
3	English in India	Languages in India, historical background and the role of English, Samples of Indian English (e.g., English Vinglish)
4	English in Singapore	Languages in Singapore, historical background and the role of English, samples of Singlish
5	English in the Philippines	Languages in the Philippines, historical background and the role of English, samples of Filipino English (e.g., Bride for Rent)
6	English in Asia (2)	Overview (East Asia), Comparison of China, Korea, and Japan, introduction to the presentation
7	English in China/Hong Kong	Historical background and the role of English in China, English education, samples of Chinese English (e.g., Rush Hour)
8	English in Korea	Historical background and the role of English in Korea, English education, samples of Korean English (e.g., Please Teach Me English)
9	English in Japan	Historical background and the role of English in Japan, English education, samples of Japanese English (e.g., Last Samurai)
10	Presentation (1)	Student groups will give presentations

11	Presentation (2)	Student groups will give presentations
12	Presentation (3)	Groups of students will make a presentation
13	Presentation (4)	Student groups will give presentations
14	Review	Submit summary, summing up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the reading assignments before class. Much of the preparation for the end of the term presentation must be done outside of class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Reading assignments and handouts will be provided by the instructor.

【References】

Kachru, B.B., Kachru, Y., Nelson, C.L. (Eds.) (2006). *The handbook of world Englishes*. Malden, MA, USA: Blackwell.

Murata, K., and Jenkins, J. (Eds.) (2009). *Global Englishes in Asian contexts: current and future debates*. New York, NY: Palgrave.

Crystal, D. (2003). *English as a global language* (2nd ed.). Cambridge, UK: Cambridge University Press.

【Grading criteria】

The final grade will be based on the following criteria: class participation 20%, quizzes 25%, reflection paper 25%, presentation 30%.

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

Having a basic understanding of English dialects and sociolinguistics would be useful.

【Prerequisite】

None.

LIN300ZA

Language Policy

Geraldo FARIA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 水 2/Wed.2

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブ
サイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注
意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

In this course, you will learn how Language Policy is defined as an academic subject. This course will cover major concepts behind language policies. By drawing on various topics related to language variation (e.g. social class and gender), this course will provide an accessible and engaging overview of Language Policy.

[Goal]

The understanding of language policies that cause and result in linguistic mechanisms utilized by particular members of a given society so as to distinguish themselves from societal members. The broad goal of this course is to promote social understanding and justice in schools, communities, and corporations.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

After an introduction to the topics in the form of mini-lectures, examples of policies or general concepts will be presented for discussion, activity, and analysis. This course will contain assignments and writings outside of class, which may be presented in class. Note that the suggested topics may vary slightly depending on the number of registered students and their interests. Finally, submissions of assignments and their feedback will be via Google.docs (unless students are notified previously).

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course and requirements
2	Concepts	Language overview and policies that affect its use by members of a given society
3	Language Planning	Language policies prescribed by governments to standardize language use
4	Language and Social Class	Social stratification and linguistic differentiation within a society
5	Language and Geography	National languages (standard registers) versus dialects
6	Designing a Project Related to Language Policy	Preparation for a study (requirements, data, analysis, text production, and presentation)
7	Language and Gender	Constraints (types, consequences, and formation of gender-neutral language) imposed by the gender of speakers.
8	National Policies on Foreign Language Studies	Mid-term review quiz Implications of governmental regulations on the choice of foreign language studies
9	Multilingualism	The language of minority groups within a larger society
10	Endangered Languages and Fieldwork Studies	Assimilation, language death, linguistic and societal implications / Language policy research models
11	Migrations and Pidginization of Languages	Human migration and its effects on language (second language, linguistic transition, and the language of the next generation)
12	Profession-specific Registers	Specialized language as a means to distance groups from non-specialists
13	Presentations of group projects	Students will give short academic presentations, followed by feedback
14	Consolidation	End-of-course assessment, feedback, and wrap-up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete weekly reading assignments before class and review previous handouts before the following class. They should also organize their notes in the form of a notebook or a computer file. Students must choose a topic, and prepare a presentation with a handout, which will be delivered in class.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. The teacher will provide handouts, reading material, and links to online data.

[References]

Crystal, David. *The Cambridge Encyclopedia of Language*. Third Edition. Cambridge University Press, 2010 ISBN 9780521516983

Finegan, Edward. *Language: Its Structure and Use*. Harcourt Brace Jovanovich, 1992 ISBN 0729512681

Johnson, David. *Language Policy*. Palgrave MacMillan, 2013 ISBN 9781403911858

Pereltsvaig, Asya. *Languages of the World*. Cambridge University Press, 2014 ISBN 9780521175777

Yule, George. *The Study of Language*. Fifth Edition. Cambridge University Press, 2014 ISBN 9781107044197

The teacher will suggest material appropriate to the students' projects and interests through either the Internet or reference books available at the library.

[Grading criteria]

Grades will be based on exams (mid-term 30% and final 30%), assignments 30%, and participation 10%.

[Changes following student comments]

No feedback yet received.

[Equipment student needs to prepare]

A laptop or smartphone may be used to research an in-class assignment. Students may choose to take notes using their laptops.

[Others]

An enthusiasm to investigate (in)formal language policies that affect social justice globally.

[Prerequisite]

None

ECN300ZA

International Economics

Ayako SAIKI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 1/Tue.1

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This class is an advanced level course of that focuses on the concept of international economics. International economics is concerned with the consequences of international differences in productive resources and consumer preferences and the international institutions (the IMF, WTO, etc.) that oversee and regulate them. It seeks to explain the patterns and consequences of transactions and interactions between the inhabitants of different countries, including trade, investment and transaction. In this class, we focus on trade, but will also touch upon international finance.

Some knowledge of Economics is desired, but not required as long as you will put an extra effort. If you don't understand any concepts, please ask me immediately before falling behind.

I will make a detailed PPT so that you can understand the material. It is important that you do not fall behind. During the semester, there will be 4 quizzes (not pre-announced easy-so-solve mini test) which carries 5 points each (20 total) either before or after the class, depending on the schedule.

【Goal】

The intention of this course is to integrate theory and application of International Economics. At the end of the course, students should be able to read The Economist (UK) and understand the key concepts. Why trade occurs, how it affects our day-to-day lives, why countries sometimes take protectionist measure and who will gain/hurt from those measures, etc. I encourage active discussion in the class, and those who make comments and questions by raising hands during the class would get an extra one point.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The evaluation of your performance is based on the exam, an essay, and importantly, in-class participation (active engagement of the class). Submission of essays and feedback will be via the Learning Management System.

Students are expected to participate actively in class. The originality and critical thinking is highly welcome. Finally, students form groups to make a presentation at the end of the semester about financial crises and policy responses. (The lecture schedule may be adjusted depending on the pace of the class or at the discretion of the instructor. Any changes will be announced in class.) Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the course	Overview of International Economics and key subjects to cover in this class.
2	Overview of International Trade	Chapter 2 + Handout (TBA)
3	Ricardian Model	Chapter 3: We learn the first generation of theory of why trade occurs using the concept of relative productivity.
4	Specific Factors and Income Distribution	Chapter 4: We learn the income distribution effect of trade based on Ricardian Model
5	Heckscher-Ohlin Model	Chapter 5: We learn how relative factor abundance determines the trade.
6	Standard Trade Model	Chapter 6: We study standard trade model using relative supply and demand

7	Wrapping up	We re-learn the three trade models we covered
8	New trade model (1)	Chapter 7: We study new models of trade using network effect, increasing returns to scale. We also discuss the role of telecommunication and how they reduced the transaction cost.
9	New trade model (2)	Chapter 7: We study the importance of intra-industry trade; vertical integration/horizontal integration; global value chains, etc.
10	The impact of trade on income distribution	We study the real-world example of how trade affects income distribution using an example from India. Reference: Topalova (1999)
11	Trade and exchange rate	Chapter 17: We study how trade affect exchange rate, and vice versa.
12	Trade policy	Chapter 8: We study various tools countries employ to govern international trade (preferential trade agreement, tariffs, import quotas), and how WTO handles them.
13	The infant industry argument	Chapter 11: We learn how developing countries often protect certain industries they want to grow and succeed sometimes (fail sometimes)
14	Political economy and controversy of trade policy	Chapter 10 and 12: We will learn various political aspects of trade policy and discuss their pros and cons.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

The total study time outside of the class will be about 4 hours.

Two days before the lecture, I will post detailed PowerPoint slides and/or relevant materials of the lecture. You are expected to have a look at the slide before the class (you'll probably need approx. 1.5 hour) – no need to be able to understand everything, but it helps if you identify which part you have difficulties understanding, because other students might be having the same problem at the same part. If you Email me the day before the lecture which part you don't quite understand and you want me to focus on, I highly appreciate it. Then, after the class, you will need approx. 2.5-3 hours (it may have some fluctuation depending on the difficulty of the materials covered and your English proficiency). If you have any questions, do ask me anytime.

【Textbooks】

Required textbook: Krugman, Paul, Maurice Obstfeld and Marc Melitz. International Economics: Theory & Policy 10th ed. (Essex: Pearson Education Limited, 2015) There will be some copies of this textbook in the library.

(for Chapter 10) Topalova, P. (2010) Factor Immobility and Regional Impacts of Trade Liberalization: Evidence on Poverty from India, American Economic Journal: Applied Economics, vol. 2 (4) Oct 2010. Downloadable from <https://www.aeaweb.org/articles?id=10.1257/app.2.4.1>

*this will be used as a benchmark to get an idea of distributional impact of trade, and you do not have to understand all the Econometrics details.

【References】

There will be handout which will be distributed as the course progresses. But here is some interesting link you might want to check from time to time.

<https://www.imf.org/en/Publications/WEO> (IMF: World Economic Outlook

)

• <https://www.cia.gov/the-world-factbook/> (CIA World Factbook)

For those of you who are interested in more advanced reading, I would recommend:

- Caves, Frankel and Jones, “World Trade and Payments,” Pearson College Division (Used in Kennedy School of Government, Harvard university (MA Level))
- Rogoff and Obstfeld (MIT Press) “Foundations of International Economics,” The MIT Press. (Ph.D. Level, requires advanced math skills)

【Grading criteria】

There will be four non-preannounced mini test (not difficult), which carries 5 points each (20 Total)

Essay (30 points): deadline is the end of the semester, but I encourage you to start early, I will be happy to help you choosing a topic, finding a reference, structuring the paper, etc. PLEASE do not plagiarize. There is a software to detect plagiarized material and when there is a sufficient evidence, you will fail from the class.

Final exam (30 points),

Active participation in the discussion in the class (20 points, 1 points each time you make discussions/questions (needs to be a valid and relevant for the class, of course) It can go up to 30 points).

【Changes following student comments】

Students are strongly encouraged to provide feedback and suggestion regarding the course, either during the class or by Email/during office hours.

【Others】

(1) Attendance

Attendance is important in this course. There will be four quizzes (not pre-announced mini tests) during the semester.

(2) Academic Integrity

You are expected to be honest in all of your academic work. Allegations of alleged academic dishonesty will be subject to sanctions, including failing.

(3) Disability Statement

If you are a student who needs accommodations, please talk with me and present your letter of accommodation as soon as you can. In order to provide test accommodations, I need the documentation over 48 hours in advance; accommodation cannot be made retroactively. If you have questions about documenting a disability or requesting accommodations, please contact the Administration Office and talk to me immediately as the class starts.

【Prerequisite】

None

MAN300ZA

International Finance

Ayako SAIKI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 1/Tue.1

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

The course is an advanced class to learn key concepts of international finance. We cover topics such as foreign exchange market, exchange rate fluctuation, exchange rate regime, national income, the balance of payments, money flows and price levels; capital flows and rapidly internationally integrated financial markets; monetary and fiscal policy in open economies; international macroeconomic interdependence and policy coordination; supply relationships, inflation, and nominal anchors for monetary policy; currency unions, the determination of exchange rates in international money markets; and international portfolio diversification.

[Goal]

You should be able to apply theories we learn in the class in a real-world phenomenon, such as exchange rate movement, balance of payment crisis, financial globalization (goal: being able to understand the semi-annual IMF's World Economic Outlook, Chapter 1-3 for example)

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The evaluation of your performance is based on the exam, an essay (Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System) and importantly, in-class participation (active engagement of the class). Students are expected to participate actively in class. The originality and critical thinking is highly welcome. Finally, students form groups to make a presentation at the end of the semester about financial crises and policy responses. (The lecture schedule may be adjusted depending on the pace of the class or at the discretion of the instructor. Any changes will be announced in class.)

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the class	Overview of International Finance; The importance of studying this course; The key concepts that we will learn in this class.
2	National Income and Balance of Payments	Chapter 13: We will learn the basic concept of international accounting exercise; foreign transactions (BoP) and NIPA (dealing with both foreign and domestic account).
3	Exchange Rate Regimes (1)	Chapter 18: We will learn different exchange rate systems and how they have developed over time since the end of the World War II. - Relevant cases
4	Exchange Rate Regimes (2)	Chapter 19: We will assess to the benefits and costs of the world's largest currency union, Euro; Dollar's dominance and Chinese Renminbi's ambition to become the International Currency. Supplementary Reading: Frankel, J. (1999), No Single Currency Regime is Right for All Countries or At All Times, NBER WP, Downloadable from https://www.nber.org/papers/w7338
5	Exchange Rate Determination: An Asset Approach (1)	Chapter 14: We will learn the relationship between interest rate and exchange rate under the floating exchange rate regime. (No-Arbitrage Condition, Covered Interest Parity Condition)

6	Exchange Rate Determination: An Asset Approach (2)	Chapter 15: A continuation of Week 5.
7	Exchange Rate Determination: Purchasing Power Parity	Chapter 15: A continuation of Week 5. Chapter 16: We will learn one of the most popular and intuitive models to assess the long-term direction of exchange rate movement.
8	Purchasing Power Parity (2)	We learn the most basic and widely used model to assess the current exchange rate is over-valued or under-valued. Additional reading: The Economist, Burganomics https://www.economist.com/big-mac-index
9	Fixed exchange rate system	We learn how the central bank fix exchange rate, and why some countries adopt currency substitution.
10	Financial Globalization: Opportunity and Crisis	We will learn how the global financial markets are strongly connected, and its pros (such as being able to borrow from abroad) and cons (contagious financial crisis)
11	How to Regulate Financial Globalization	Sometimes excessive capital flows cause problem later on, especially for emerging economies. Material: Habermeier, K Kokenyne, A & Baba, C (2011). "The Effectiveness of Capital Controls and Prudential Policies in Managing Large Inflows," IMF Staff Discussion Notes 2011/014, International Monetary Fund.
12	Digital Currencies and the Future of Global Monetary System	The prevalence of digital currency such as Libra imposes policy challenges on policymakers around the globe. We will learn what they are and how they try to tackle the problem. Materials: https://www.imf.org/en/News/Articles/2020/10/30/sp103020-new-forms-of-digital-money https://www.youtube.com/watch?v=Qs-i_EO6OI&authuser=1 (watch only introductory part before the class)
13	Financial markets in advanced and emerging economies; the dollar's dominance in the world financial market	We will learn key differences between advanced and emerging economies' financial markets, focusing specially on the role of the dollar.
14	The Digital Disruption (Future of Finance)	- Cryptocurrencies - AI and automation - Universal Income - Brexit

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Two days before the lecture, I will post detailed PowerPoint slides and/or relevant materials of the lecture. You are expected to have a close look at the slide before the class (approximately 1.5 hour or so) - no need to be able to understand everything, but it helps if you identify which part you have difficulties understanding, because other students might be having the same problem at the same part. If you Email me the day before the lecture which part you don't quite understand and you want me to focus on, I highly appreciate it. Then, after the class, you will need approx. 2.5-3 hours (it may have some fluctuation depending on the difficulty of the materials covered and your English proficiency). If you have any questions, do ask me anytime.

[Textbooks]

Required textbook: Krugman P. R., Obstfeld M. and Melitz M. (2018). International Finance: Theory and Policy (11th Edition). Pearson Education. Some copies will be available from the library.

[References]

IMF: World Economic Outlook (semi-annual), especially Chapter 1-3
CIA World Factbook (Useful when writing an essay): <https://www.cia.gov/the-world-factbook/>
For students who want to study more:
- Caves, Frankel, & Jones (2007). World Trade and Payments (10th Ed)
- Rogoff and Obstfeld (1996), Foundations of international macroeconomics (standard Ph.D. level textbook, requires math skills).

I strongly recommend to subscribe/read The Economist (UK) and the Financial Times (UK)

[Grading criteria]

Quizzes (20 points), Essay (20 points: deadline is the end of the semester, but I encourage you to start early), Final exam (40 points), participation in the class (for every questions and comments, you will get one point).

When writing an essay, please do not plagiarize. There is a software for plagiarism detection, and when you do plagiarize, you will get the failing grade for this class.

[Changes following student comments]

Your feedback will be highly appreciated, either during the class, during my office hours (TBA), or Emails.

[Equipment student needs to prepare]

Not applicable.

[Others]

(1) Attendance is important in this course. There will be four quizzes (not pre-announced mini tests) during the semester.

(2) Academic Integrity

You are expected to be honest in all of your academic work. Allegations of alleged academic dishonesty will be subject to sanctions, including failing.

Disability Statement

If you are a student who needs accommodations, please talk with me and present your letter of accommodation as soon as you can. In order to provide test accommodations, I need the documentation over 48 hours in advance; accommodation cannot be made retroactively. If you have questions about documenting a disability or requesting accommodations, please contact the Administration Office and talk to me immediately as the class starts

Students who have taken Macroeconomics I or equivalent are preferred.

[Prerequisite]

None.

MAN300ZA

Supply Chain Management

Kayhan TAJEDDINI

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 5/Thu.5

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

Global supply chains interact with all facets of business and society. In this interdisciplinary course, students will gain a multi-faceted perspective on the global dimensions of today's business operations. Students will explore the interrelationships between global supply chains, logistics operations, society, and the environment. The study of business operations will be set in the context of social science theories and popular perspectives on the history, geography, structure and ethics of trade. Students will examine the impacts of current trade systems on both production and consumption regions and the human and environmental consequences of trade patterns.

[Goal]

1. For students to gain a multi-faceted perspective on the global dimensions of today's business operations through understanding how modern, global supply chains and logistics networks operate.
2. For students to understand the multi-disciplinary facets of how a global supply chain can be viewed, analyzed, and operated.
3. For students to explain multiple key social science theories and popular perspectives on the history, geography, structure and ethics of trade, and apply them to the analysis of supply chains.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The course will be lecture, case, and discussion based. The assignments are designed to help students build skills that cover scientific, information, and communication literacy. Effort will be made to make the class both challenging and exciting.

We will use a combination of text and cases to explore and apply the topics. It is vitally important that you come to class prepared and ready to discuss the topics. If you read and prepare the materials you will learn more during the discussions and will be successful at the assignments.

Regarding the presentation and case studies, it will be explained in the first class with all guidelines, expectations and standards. The strengths and weaknesses of each presentation and reports will be discussed individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introductory Session Operations and Productivity	Course description, objectives and expectations. Operations Strategy in a Global Environment
2	Project Management	Forecasting
3	Design of Goods and Services	Design of Goods and Services
4	Managing Quality, Statistical Process Control	Managing Quality, Statistical Process Control
5	Process Strategy and Sustainability	Process Strategy and Sustainability
6	Capacity and Constraint Management, Location Strategies	Capacity and Constraint Management, Location Strategies,
7	Midterm Exam	Midterm Exam
8	Layout Strategies	Layout Strategies
9	Human Resources, Job Design, and Work Measurement	Human Resources, Job Design, and Work Measurement
10	Supply-Chain Management	Supply-Chain Management
11	Outsourcing as a Supply Chain Strategy	Outsourcing as a Supply Chain Strategy
12	Inventory Management	Inventory Management

11	Aggregate Planning Material Requirements Planning (MRP) and ERP	Aggregate Planning Material Requirements Planning (MRP) and ERP
12	Short-Term Scheduling, JIT and Lean Operations	Short-Term Scheduling, JIT and Lean Operations
13	Maintenance and Reliability	Maintenance and Reliability
14	Course Review Final Exam	Course Review Final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete regular reading assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Jay Heizer, Barry Render, 2011, Operations Management, 10e

Principles of Operations Management, 8e

Pearson Education, Inc. publishing as Prentice Hall

ISBN-13: 9780135107263

[References]

Chopra, Sunil and Peter Meindl, *Supply Chain Management*, Sixth Edition, Pearson Education, Inc., Upper Saddle River, NJ, 2015.Johnsen, Thomas, Mickey Howard, and Joe Miemczyk, *Purchasing and Supply Chain Management: A Sustainability Perspective*, Routledge, 2014.

[Grading criteria]

Quiz: 20%

Presentation: 20%

Midterm Exam: 20%

Final Exam: 40%

[Changes following student comments]

Student requests and comments will be taken into consideration.

[Prerequisite]

None

TRS300ZA

Cultural Tourism

John MELVIN

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 2/Mon.2

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブ
サイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注
意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【Outline and objectives】

The phenomenon of cultural tourism exists in many forms and is regarded as one of the oldest forms of tourism. Defined as “*A form of tourism that relies on a destination's cultural heritage assets and transforms them into products that can be consumed by tourists.*” (du Cros & McKercher, 2015: p.6), this course will analyze the 4 elements within the definition: (i) Tourism, (ii) Utilization of Cultural Assets, (iii) Consumption of Cultural Tourism Experiences, and (iv) Tourists and the Host Community.

We will consider the importance of cultural assets: as a way to define and understand nations, as a manifestation of people's ethnicities and identities as well as a vital driver of tourism. To do so, we will analyze the role played by various stakeholders, such as governments, businesses, the media, NGOs and conservation organizations such as UNESCO & ICOMOS.

【Goal】

Upon completion of this course students should be able to:

- 1) Understand the various forms of cultural tourism
- 2) Understand the key organizations involved in providing and conserving cultural tourism at local, national and international level
- 3) Understand the role of cultural tourism in destination branding and marketing
- 4) Understand the role of cultural resources in forming people's national and local identity, and how these are preserved and managed
- 5) Understand the complexities of stakeholder relations in the management of cultural tourism resources

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to discuss issues in small groups. A broad range of case studies can help students consolidate their learning.

In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a particular destination, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Cultural Tourism (CT)	Introduction to the definitions of culture, different forms of CT and the diverse range of tangible & intangible CT resources
2	People: Cultural Tourists & Host Communities	Analyzing demand for CT and the role of CT in destination management & development. Also, considering the important socio-cultural role of CT from the host community's perspective.
3	Cultural Tourism and Authenticity	What is an 'authentic' experience? Considering the authenticity of tangible and intangible resources, and the importance of authenticity for visitors & local communities.
4	Impacts of Cultural Tourism	Considering the socio-cultural impacts of CT on host communities, culture & creativity as well as the economic impacts of CT
5	Culture & Nation Branding	Consider the strategic role of culture for developed & developing countries' tourism portfolios

6	Politics of Cultural Tourism & Dark Heritage Sites	Consider the impact of socio-political attitudes in how culture is interpreted and whose version of history prevails
7	World Heritage Sites 1	Consider concepts and definitions of heritage tourism, and the management of built and natural heritage resources
8	World Heritage Sites 2	Consider the value of heritage resources for host communities, and the management and preservation of heritage sites
9	Cultural Visitor Attractions	Consider the educational and conservational role of cultural visitor attractions. Also the range of management issues, including developing the visitor experience.
10	The Marketing of Cultural Tourism	Consider the challenges & issues relating to the marketing of CT
11	Food Tourism	Consider the role of food & drink as cultural resources, and using tourism to preserve local heritage
12	Group Presentations	Presentations on group case studies
13	Film- and TV-inspired Tourism	Consider the role of movies, TV and other media content as cultural resources, also the importance of accurate & artistic representations of local culture
14	Future of Cultural Tourism & Course Wrap Up	Considering how CT has evolved, and possible future trends

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be assigned reading as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Park, H. (2014). *Heritage Tourism*. London: Routledge

Students can purchase the paperback version or the e-book; alternatively, the e-book may be rented more cheaply for a fixed time from the publisher's website (more details to be provided in class).

Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】

du Cros, H. and McKercher, B. (2015). *Cultural Tourism* (2nd Edition). London: Routledge

Jimura, T. (2019). *World Heritage Sites: Tourism, Local Communities and Conservation Activities*. London: CABI

【Grading criteria】

1. Class participation & assignments (30%)
2. Group project (40%)
3. Term paper (30%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures.

To encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】

To encourage and reward cooperation and hard work, the group project will be assessed on an individual basis.

【Others】

Although not essential, this course will be easier for students who have taken other tourism-related courses, such as the 100-level 'Introduction to Tourism Studies' or the 200-level 'Event Management' course.

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

EDU300ZA

English Teaching in Primary School: Advanced

Tomoko SHIGYO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 1/Fri.1

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course is for students who want to know modern approaches based on second language learning theories to primary pupils: learning language construction, literacy, and assessment. It will also encourage students to develop a lesson plan of English at primary school with a consideration to make consistency in language education from the primary to secondary levels.

【Goal】

Upon completion of this course, students should be able to do the following:

1. Understand how children learn to read and write.
2. Understand how to link picture books with curriculum.
3. Develop curriculum of CLIL using picture books.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course looks at how children learn to read and write in the learning language and how teachers should design foreign language class to facilitate them to read and write by using picture books and CLIL. Each students are to create and submit lesson plans and demonstrate it in class. Feedback will be given on students' performance through the whole process of creating the lesson plan and conducting the micro-teaching session in each class, and its effectiveness will be reflected on by all students in class. The final assignment for the completion of this course is required to revise the lesson plans. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guidance
2	Issues in Children Learning L2: Literacy (1)	Phonological awareness and children's development
3	Issues in Children Learning L2: Literacy (2)	For starting to read and write in English
4	Issues in Children Learning L2: Picture books	Development of Children's literacy-picture books
5	Issues in Children Learning L2: Stories (1)	Learning through stories
6	Issues in Children Learning L2: Stories (2)	Language and stories

7	Lesson Planning (1)	Curriculum development (1)
8	Micro-teaching (1)	Micro-teaching (1), review and discuss(1)
9	Issues in Children Learning L2: CLIL	Introduction of CLIL
10	Issues in Children Learning L2: CLIL with picture books	CLIL and picture books
11	Issues in Children Learning L2: Assessment	CLIL and assessment
12	Lesson Planning (2)	Curriculum development (2)
13	Micro-teaching (2)	Micro-teaching (2), review and discuss(2)
14	Consolidation of English Teaching in Primary School: Advanced	Reflection & Summary

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week before attending class, students are expected to have completed the assigned readings. Students are required to choose a topic, prepare a presentation, and write a reflective paper. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Cameron, L. (2001). Teaching Languages to Young Learners. Cambridge University Press.

【References】

1. Coyle, D., Hood, P., Marsh, D. (2010). CLIL: Content and language integrated learning. Cambridge.
2. Dale, L. and Tanner, R. (2012). CLIL Activities: A resource for subject and language teachers. Cambridge University Press.
3. Mehisto, P. (2008). Uncovering CLIL: Content and language integrated learning in bilingual and multilingual education. MacMillan Education, Limited
4. Jalongo, M. R. (2004). Young children and picture books. Naeyc.
5. Fresch, M. J. and Hakins, P. (2009). The power of picture books: Using content area literature in middle school. NCTE.
6. 『生きる力を育む初等英語教育—津田塾大学からの提言』(2015) 吉田真理子・田近裕子(編著) 朝日出版社
7. 文部科学省(2017)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語活動・外国語編』開隆堂.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (30%)
2. Lesson demonstration (30%)
3. Final assignment (40%)

More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

PC

【Prerequisite】

None.

POL300ZA

Advanced Comparative Politics

Nathan GILBERT QUIMPO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 4/Fri.4

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This course seeks to broaden and deepen the students' knowledge of comparative politics. Integrating theories, concepts and approaches in comparative politics and case studies, the course blends country-to-country and thematic approaches. Comprehensive country studies help students in seeing similarities and differences among states and regimes around the world and in grasping and applying key theories and concepts. The course also provides students with a more thorough understanding of the contemporary discourses and debates on key topics studied in "Introduction to Comparative Politics," such as states and political systems, democratic and authoritarian regimes; political development; political culture; political processes; and the impact of globalization. The course also offers deeper discussions on some important issues or themes that may have been only cursorily covered in introductory politics or comparative politics courses, such as constitutions, branches of government, subnational government, elections and political parties. Government and politics, together with brief histories, of the following countries will be studied and compared: Japan, United Kingdom, Germany, United States, France, Russia, China, India, Mexico, Nigeria, Iran and possibly also Turkey.

【Goal】

The course aims to raise the students' knowledge and understanding of comparative politics to a more advanced level; to help them gain a stronger and more thorough grasp of the theories, concepts and approaches in comparative politics; and to help them develop their skills in examining real-world problems and issues more incisively and in presenting their positions more cogently, using theories and methods in comparative politics.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The course will consist mainly of lectures and open discussion. Students will be asked - and encouraged - to express their views on topics being discussed. Audio-visual aids (video clips, photos, maps illustrations) will be used to help make issues and events much more concrete and vivid to students, and to help stimulate discussion and debate. Feedback on assignments will be provided during class discussions, by email or through individual consultations. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Comparing government and politics; political systems (McCormick, ch. 1, 2)
2	Politics in Japan	Political systems (continuation); Ch. 6, McCormick + recent article on Japan
3	Politics in the United Kingdom	Ch. 3, McCormick + recent article on UK
4	Politics in Germany	Ch. 4, McCormick + recent article on Germany
5	Politics in the United States	Ch. 5, McCormick + recent article on US
6	Politics in France	Ch. 7, McCormick + recent article on France
7	Review & Exam	Assess to what degree students understand topics discussed; midterm exam
8	Politics in Russia	Ch. 12, McCormick + recent article on Russia

9	Politics in China	Ch. 13, McCormick + recent article on China
10	Politics in India	Ch. 8, McCormick + recent article on India
11	Politics in Mexico	Ch. 9, McCormick + recent article on Mexico
12	Politics in Nigeria	Ch. 10, McCormick + recent article on Nigeria
13	Politics in Iran	Ch. 14, McCormick + recent article on Iran
14	Politics in Turkey; Exam	Ch. 11, McCormick + recent article on Turkey; final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Before class, students should study the required readings and work on the assignment (individual or group) to be submitted. After class, and especially before an exam, students should review their notes, as well as check the notes provided by the instructor. Preparatory study is 2 hours for each class session, but group work may entail an additional 30 minutes.

【Textbooks】

John McCormick. 2020, *Cases in Comparative Government and Politics*, London: Red Globe Press,

【References】

- Andrew Heywood, 2019, *Politics*, 5th edition, London: Red Globe Press.
- G. Bingham Powell, Jr., Russell J. Dalton, Kaare W Strom, 2015. *Comparative Politics Today: A World View*, 11th edition, Essex: Pearson.
- Articles from journals, newspapers or magazines and chapters from other books.

【Grading criteria】

Participation in discussions: 40% of overall course mark.

Midterm exam: 30%

Final exam: 30%.

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

It is recommended that participants have taken at least a basic course in politics or an introductory course in comparative politics in previous semesters.

【Prerequisite】

None.

POL300ZA

Globalization and Political Change

Jenny De Asis BALBOA

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 3/Tue.3

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

This course aims to shed light on the current global political trends and transformations. In the second half of the decade of 2010s, we had seen an unexpected stream of political changes. It includes the election of Trump as US President and its costly legacy in the domestic and global politics, the emergence of populist and authoritarian leaders in Europe and Asia, the UK's vote for Brexit and the uncertainty after the referendum, the resurgence of far right movements in the US and Europe, the clash between climate change activists and deniers. Those events are thought to be the negative consequences of globalization, notably the deepening of inequality, the cultural clash, and the divide of values, which led to social and economic fragmentation and political turbulence. The perceived consequences of globalization—particularly the inequality, the deep cultural and values divide, and the global threats on national security—prompted various political actions and shifts that have profound implications on the political structure. Recently, the COVID-19 pandemic and the health and economic crisis it generated significantly changed our lives, while deepening the economic equality and tensions that we experienced before, and potentially exacerbating global divisions. These issues need thorough examination and reflection since they significantly affect our future, the future of democracy, and the rules-based international order. At the same time, we need to understand our options, as well as the appropriate choice of policy actions to counter the negative impacts of the social, economic and political changes.

[Goal]

In examining globalization and political change, the course aims to answer three questions: 1) What are the impact and consequences of globalization? 2) What are the recent trends in global politics? and 3) What is the future of globalization and politics?

Globalization has provided opportunities for international cooperation and for minor voices to be heard; however, it has also become a significant source of domestic and global friction and instability. Globalization has both positive and negative consequences. We need to understand how we can benefit from its positive impact, and as much as possible, work on how the positive benefits can be spread. Meanwhile, we also need to carefully study the negative impact, how they can be managed, reduced, or even eliminated.

This course will help you develop deeper understanding of contemporary political issues, and strengthen your ability in analyzing the political impact of crucial global events. In relation to these, we will engage in exercises that will improve your critical thinking skills, as well as help you effectively communicate your ideas and personal reflections of reading materials and current events. You will be writing reflective essays for your mid-terms and final examinations. We will also have Active Learning Tasks composed of class debates and individual student report to apply what you learned, and enhance your presentation skills.

To receive credit from the class, you need to attend the lectures, participate in the Active learning tasks, and pass the mid terms and final examinations, which require you to read and reflect on the materials provided.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

The class combines lectures with active learning tasks, such as debates and discussions. To make the class more lively and interesting, you are encouraged to participate actively and share your opinion regarding the topic of the day and the reading materials. The first half of the course tackles the nature, impact and consequences of globalization. The second half of the course examines the recent trends and future direction of globalization and politics.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. Insightful comments from reflective essays will be introduced in class and used in deeper discussions.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview of the Course	Week-by-week explanation of the course Explanation of class policy, Active learning tasks, and grading system.
2	Impact and Consequences of Globalization (a)	Definitions of globalization Debates on the nature and consequences of globalization.
3	Impact and Consequences of Globalization (b)	Globalization and inequality
4	Impact and Consequences of Globalization (c)	Global rift, resistance and backlash Active learning task 1: Class Debate on the Impact of Globalization
5	Recent Trends in Global Politics (a)	Rise of illiberal democracy
6	Recent Trends in Global Politics (b)	Rise of populist and authoritarian leaders
7	Recent Trends in Global Politics (c)	Brexit and the far right movement in Europe
8	Recent Trends in Global Politics (d)	Post-truth politics
9	Individual student report	Active learning task 2: Student Report
10	The Future of Globalization and Politics	Globalization in the Post-Covid World
11	New Policy Strategies (a)	Social Protection as a Critical Agenda in the Post-Covid World/ New Normal
12	New Policy Strategies (b)	Active learning task 3: Round Table Discussion on Globalization, the Pandemic and government strategies in handling the health and economic crisis
13	New Policy Strategies (c)	Strategies to counter populism, illiberalism and deniers of history and science

14	Review and examination	Wrap-up discussion Final examination	【Equipment student needs to prepare】 None. 【Prerequisite】 None.
	【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】 Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. The students are expected to read the assigned materials prior to class and conduct research for the active learning tasks. 【Textbooks】 Class materials will be provided by the Instructor. 【References】 Arendt, Hannah. 1967. Truth and Politics. The New Yorker. February 25, 1967. Accessed at https://www.newyorker.com/magazine/1967/02/25/truth-and-politics Frieden, Jeffry. 2017. The Politics of Globalization and Backlash: Sources and Implications. Conference Paper, American Economics Association, January 6, 2018. https://institute.global/policy/high-tide-populism-power-1990-2020 https://scholar.harvard.edu/files/jfrieden/files/the_political_economy_of_the_globalization_backlash.pdf Huntington, Samuel. 1991. Democracy's Third Wave. Journal of Democracy. Spring 1991. Huntington, Samuel. 2011. "The Clash of Civilizations?" In Essential Readings in World Politics. Mingst, Karen and Jack Snyder (eds). The Norton Series in World Politics. (pp. 159-166) Kyle, Jordan and Brett Meyer. 2020. High Tide? Populism in Power, 1990-2020. Tony Blair Institute for Global Change. Accessed at https://institute.global/policy/high-tide-populism-power-1990-2020 Milanovic, Branko. 2016. Global Inequality. Cambridge, Massachusetts, London: The Belknap Press of Harvard University Press. Chapters 1& 3. Milner, Helen. 2018. Globalization and its Political Consequences: The Effects on Party Politics in the West. APSA Conference Paper, 2018. https://scholar.princeton.edu/sites/default/files/hvmilner/files/milner_globalization_political_consequences.pdf Rodrik, Dani. 2000. "Has Globalization Gone Too Far?". In The Global Transformations Reader. David Held and Anthony McGrew (Eds). Polity Press. Chapter 28. Sen, Amartya. 2004. "How to Judge Globalism." In The Globalization Reader. Frank Lechner and John Boli (Eds). Blackwell Publishing Sen, Amartya. 2004. "Universal Truths: Human Rights and Westernizing Illusion". In Essential Readings in World Politics. Mingst, Karen and Jack Snyder (eds). The Norton Series in World Politics. Zakaria, Fareed. 1997. The Rise of Illiberal Democracy. Accessed at https://www.foreignaffairs.com/articles/1997-11-01/rise-illiberal-democracy		
	【Grading criteria】 Grading Criteria: 1) Midterms examination - 30% 2) Final examination - 30% 3) Active Learning Tasks - 30% 4) Class participation - 10% Notes: a) For the active learning tasks, other than applying what you learned in class, the activities also aim to enhance your presentation and team work skills. Excellent mark will be given to interesting presentations. b) Class participation – excellent mark will be given to those who raise relevant issues, contribute in class discussions in ways that reflect the reading materials, and treat the opinions of others with respect. 【Changes following student comments】 The active learning tasks may change depending on class size.		

POL300ZA

Peace Building

Aigul KULNAZAROVA

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水 4/Wed.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course explores the emerging field of peacebuilding in international relations, with a focus on the social, economic and political dynamics of war and peace, conflict prevention and resolution, use of force, and others. The course is designed for upper-level undergraduate students specializing in global studies, international relations, security and similar programs. Building on lectures, seminar discussions and conceptual/analytical reflections on the weekly readings, it aims to enhance understanding of critical issues and challenges related to international peacebuilding processes, as well as their transformation in today's global politics. Course readings are mainly selected from academic journals and research monographs. This is a student-centered course in which the student learning experience forms the core of each class.

【Goal】

By the end of the course, successful students will be able to link theory with policy issues. In particular, they will be able to:

- Explain various conceptual and theoretical frameworks of peacebuilding in international relations;
- Analyze the legal, political and ethical aspects of armed conflicts and their resolution in accordance with international law;
- Identify links between humanitarian interventions and prospects for sustainable peacebuilding;
- Understand the growing role of humanitarian factors as well as their specific challenges and constraints in post-conflict peacebuilding;
- Integrate knowledge, skills and competences in peace and conflict studies, international relations, international law, and the emerging field of peacebuilding;
- Enhance independent research skills, including academic writing, critical thinking and analytical presentation skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The teaching methods of this course will combine lectures and seminar discussions with active learning tools designed for each class. In addition, feedback will be provided after student presentations, discussions, debates, and group work (“good”, or “what needs to be improved”, etc.). Detailed written comments for the discussion and final term papers will be provided individually. These comments will be sent by email or posted on the designated course website within 1-3 weeks of submission. The class will meet once a week for 100 minutes. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Explanation of the course syllabus: weekly readings, assignments, grading requirements, etc. What is peacebuilding? Elements of peacebuilding
2	Peace and Peacebuilding in International Relations	Positive and negative peace Theoretical diversity (realism, liberalism, constructivism, cosmopolitanism, critical theory) Practical approaches to peace: preventive diplomacy, peacemaking, peacekeeping and peacebuilding
3	Conflicts	Definition of armed conflicts under international law Civil conflicts in the post-Cold War period Conflict analysis and conflict complexes
4	Prevention	What is conflict prevention? Early warning signs Instruments for conflict prevention
5	Mediation and Negotiation	Mediation Negotiation Peace agreements
6	Use of Force	General prohibition of the use of armed force Special cases of the use of armed force in response to mass atrocities: - UN Security Council: Chapter VII - UN General Assembly: "Uniting for Peace"
7	Humanitarian Intervention	Political and legal issues of humanitarian interventions - de lege lata and de lege ferenda Moral and ethical aspects of humanitarian interventions Structural problems of humanitarian interventions
8	Coercion and Enforcement	Sanctions Peacekeeping operations Peace enforcement: R2P Case study: The "New UN Peacekeeping" in Cambodia
9	Peacebuilding: International and Regional Frameworks	Role of international organizations The UN in peace processes Regional peacebuilding architectures
10	Peacebuilding: Local Contexts and Development	Role of "The Local" in peacebuilding Resources and processes Dilemmas of humanitarian relief
11	Peacebuilding: Human Security, Human Rights and Governance	Human security - human rights synergy: article 28 of the UDHR Dimensions of human security: UNDP Human Development Report 1994 Human security - peacebuilding nexus

12	Peacebuilding: Women and Security	Feminist approaches to peace and peacebuilding Human security, women's security and gender justice UN Security Council resolution 1325
13	Challenges of Peacebuilding for the 2020s and Final Case Study Presentations	New forms of violence Terrorism, revolution and unconventional warfare Gendering international affairs Climate challenges Global health: era of pandemics? Peer evaluation of final presentations
14	The Future of Peacebuilding and Final Case Study Presentations	Group discussion of course topics Peer evaluation of final presentations

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours per week. In addition, each assignment will require 2 to 5 hours of preparation each week, including discussion papers, final term projects and other activities.

[Textbooks]

There are no required textbooks for this course. Handouts and readings such as journal articles, primary and other texts will be posted on the department's website.

[References]

- Richard K. Betts, *Conflict After the Cold War: Arguments on Causes of War and Peace*, 5th ed. (Routledge, 2017).
- Henry F. Carey, *Peacebuilding Paradigms: The Impact of Theoretical Diversity on Implementing Sustainable Peace* (Cambridge University Press, 2020).
- Mary Kaldor, *New and Old Wars*, 3rd ed. (Cambridge : Polity, 2012).
- Aigul Kulnazarova and Vesselin Popovski, *The Palgrave Handbook of Global Approaches to Peace* (Palgrave Macmillan, 2019).
- Roland Paris, *At War's End: Building Peace after Civil Conflict* (Cambridge University Press, 2004).
- Oliver P. Richmond, *Peace in International Relations* (Routledge, 2006).
- Peter Wallensteen, *Understanding Conflict Resolution*, 5th ed. (Sage, 2019).

[Grading criteria]

Participation: 25%

Participation does not mean only attendance. It includes both consistent attendance and good preparation for class discussions based on weekly readings, lecture topics, and contributions to group activities. Active participation in class discussions, as well as critical assessment of the assigned course reading and peer interpretations are essential to ensure the success of the course and its learning outcomes.

Discussion Paper: 25%

In addition to weekly regular reading, each student will have to discuss 1-2 journal articles on designated days. Each student should critically discuss selected journal article(s) and submit core points on 3 double-spaced pages. The discussion paper should focus on the theoretical knowledge and empirical evidence related to the argumentation of the article(s), assess whether the author succeeds in his/her goals, and establish links to other topics.

Final Case Study Project: 50% (20% for presentation, 30% for paper)

The final case study project will have two parts: an in-class analytical presentation of the case study and a research paper. The presentation will be evaluated based on (1) content, (2) use of class readings and other literature, and (3) time management. Presentations will be scheduled for the 13th and 14th week of the semester. The research paper should focus on a specific aspect of conflict - prevention, intervention, resolution, post-conflict peacebuilding. It will be assessed based on (1) clear statement of the research question and argument, (2) ability to use evidence, (3) presentation of counter-arguments, counter-facts, etc. in support of the main thesis using both course materials and other sources. The paper format is 10 double-spaced pages, including references and notes. Final case study papers must be submitted by week 14. For each day of late submission of the paper, the grade will be reduced by 0.25 points.

[Changes following student comments]

Not applicable

[Equipment student needs to prepare]

PC for class use when needed (no smartphones and other digital devices will be allowed without permission)

[Others]

Final grade:

Please note that your final grade will be calculated based on your participation, discussion paper and final case study project (see, "Grading Criteria"). In no case will your final grade be assessed for just one component. In addition, failure to complete one of the components will result in course failure. Remember that your final grade is the accumulation of points earned during the semester. Please plan your learning goals ahead of time, including expected grades for the course.

Course syllabus:

This is an abridged version of the syllabus for prior reference. A detailed syllabus with weekly readings and assignments will be shared at the beginning of the semester.

Previous course participation:

Although no prerequisites are required for the course, previous participation in international relations and/or international law, international security, human rights, global politics is highly recommended.

[Prerequisite]

No course prerequisites are required.

POL300ZA

International Development Policy

Ippaita NISHIDA

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 4/Tue.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

International development policies have been formulated along two domains, one by the donor coordination group (i.e. providers of Official Development Aid), traditionally represented by the OECD-DAC and another at the multilateral agenda setting forum such as the United Nations. While both serve the purpose of advancing the lives of people and discussions are mutually-related, each has distinct interests and constraints. In this course, we aim to understand how international development policy/agenda is being formulated and what the current (and future) issues are. Specifically, students will explore (1) the rationale and evolution of development policies by the donor community, (2) the more holistic and people-centered agenda setting at the United Nations and (3) current policy debates on Sustainable Development Goals (SDGs) that will govern development agenda till 2030.

【Goal】

The course objectives are:

- 1) To enable students to assess the development policy debates from multiple aspects.
- 2) To make students able to differentiate development agenda formulation process at different stakeholder groups.
- 3) To equip students with the holistic understanding of the SDGs and their implications through groupwork.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This class will have lectures and interactive discussions, as well as group presentations. Active participation is expected. Students will undertake a final exam and have occasional short papers to write. Insightful comments from papers will be introduced in class and used in deeper discussions.

The course is composed of two parts. The first part (weeks 3-6) will have lectures on debates among traditional donors. In the second part (weeks 7-13), lectures will cover key discourses of the United Nations' adaptation of the Sustainable Development Goals, and students will make group presentations on selected topics from the SDG 17 goals. This year, we aim to assess the impact of COVID-19 on SDGs. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course outline, facts and trends *on-line
2	Overview of Discourse	History and institutions
3	Foreign Aid	Use of “aid” in foreign policy / tasking group presentation
4	ODA	Concept of “Official Development Assistance (ODA)”
5	Donor's Debate	OECD-DAC, aid financing, Shaping development debate
6	New Issues	Rise of new donors, state fragility, environment, etc.
7	United Nations	UN for development, People-centric approach
8	SDGs	Formulating the “Sustainable Development Goals (SDGs)”
9	Synthesis Discussion	Reconciling states' interests and global agenda
10	Group Presentation 1	SDGs / selected topics by two teams. Reciprocal critical appraisal, and exchanges with floor.

11	Group Presentation 2	SDGs / selected topics by two teams. Reciprocal critical appraisal, and exchanges with floor.
12	Group Presentation 3	SDGs / selected topics by two teams. Reciprocal critical appraisal, and exchanges with floor.
13	Group Presentation 4	SDGs / selected topics by two teams. Reciprocal critical appraisal, and exchanges with floor.
14	Final Exam & Wrap-up	In-class or take home. Review of the learnings.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Reading and writing assignments. Groupwork for presentation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course. Students are required to read handouts and suggested articles/chapters from the references.

【References】

Students are encouraged to read following references to further their understandings.

OECD (2006), *DAC in Dates: The History of OECD's Development Assistance Committee*(available online at www.oecd.org/dac/1896808.pdf)Lancaster, Carol (2007), *Foreign Aid: Diplomacy, Development, Domestic Politics*, University of Chicago PressUN Document, A/RES/70/1, 21 October 2015 *Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development* (available online at <http://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>)Sachs, Jeffrey D (2015), *The Age of Sustainable Development*, Columbia University PressWickstead, Myles A. (2015) *Aid and Development: A Brief Introduction*, Oxford University PressHynes, W. and S. Scott (2013), *The Evolution of Official Development Assistance: Achievements, Criticisms and a Way Forward*, OECD Development Co-operation Working Papers, No. 12, OECD Publishing (available at <http://dx.doi.org/10.1787/5k3v1dv3f024-en>)

【Grading criteria】

Class Participation: 20%

Occasional Assignment Papers: 25%

Group Presentation: 20%

Final Exam: 35%

【Changes following student comments】

Constructive comments and feedback from students are always welcomed and will be taken into consideration.

【Equipment student needs to prepare】

None in the class.

But, access to PC/electric device and Wi-Fi may be required, as the class may need to be held on-line (e.g. first class).

【Others】

In order for students to successfully complete the class, basic understandings of the development thoughts as well as international relations are needed. Thus, GIS students wishing to register for this class are recommended to have taken “Introduction to Development Studies” and/or “Development Studies”. Also, knowledge of international relations, international organizations and foreign policy will be of benefit.

Also, week 1 attendance is mandatory to register for this class.

【Prerequisite】

None(see “Others” for recommended classes).

SES300ZA

International Environmental Policy

Gregory TOTH

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 6/Mon.6

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

The world continues to face global environmental challenges – climate change, deforestation, biodiversity loss and pollution, among others. As a response, different international initiatives are being implemented, resulting in a variety of agreements, laws, regulations and other policy mechanisms. This course focuses on international environmental policy (IEP), and explores the motivations, challenges and opportunities of IEP actions, taking into consideration the role of multilateral organizations (e.g. the United Nations), governments, corporations, NGOs and local communities. The course includes in-depth analysis of particularly relevant IEP arrangements in the areas of agriculture, forestry, biodiversity, climate, urbanization and trade.

【Goal】

The main goals of the course are to:

- provide a basic understanding of current global environmental problems
- develop critical thinking regarding international policy mechanisms to tackle environmental problems
- enhance students' ability to understand the risk, uncertainty and complexity embedded in IEP
- to cultivate students' capacity to critically assess the motivations, challenges and opportunities related to IEP actions
- learn to work collaboratively with other classmates in the elaboration and presentation of a group project.
- improve basic professional skills regarding self-organization, planning, time management, and respect for diversity in points of view.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

The course consists of short lectures and interactive class discussions and presentations in which students address, from a critical perspective, the topics covered each week (prepared prior to class). At the end of the course, students have the opportunity to present their (group) project and discuss it in class. Feedback will be given through class discussion and in response to submitted assignments and individual requests.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Environment	Background of global environmental issues and efforts to curb them; local and indigenous communities
3	Environmentalism	History of environmental movement and significant milestones
4	Policy	What and how of policy analysis
5	Env. Policy -Government I	Role of global institutions, e.g., United Nations; WTO; etc.; Sustainable Development
6	Env. Policy -Government II	Deeper exploration of environmental treaties, agreements, conventions, etc., e.g., Convention on Biological Diversity, carbon credits
7	Env. Policy -Government III	International Environmental Law in action
8	Env. Policy - Private	Corporate Social Responsibility; Environment, Social, and Governance; Greenwashing
9	Env. Policy -Nongovernment	Importance of non-governmental organizations, e.g. CGIAR (Consultative Group on International Agricultural Research); Certification schemes

10	Agroforestry	Policy analysis of sustainable farming model and development impacts; carbon sequestration
11	Review	Preparations for presentations; question and answer
12	Student Presentations I	Students present their (group) project and discuss it with the class
13	Student Presentations II	Students present their (group) project and discuss it with the class
14	Conclusion	Reflections on the course and the way forward for int. env. policy

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Reading of materials identified (and often provided) by the instructor; Preparation of discussion talking points and questions; Group report/presentation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Global Environmental Politics 8th Edition,
by Pamela S. Chasek (Author), David L. Downie (Author)
(available and recommended in electronic format)
ISBN 9780367227623 / ASIN : B08P63C8G3
Published by Routledge

【References】

Various references will be noted within the course materials.

【Grading criteria】

Students will be evaluated on the basis of class participation (40%) and a final review report/presentation (35/25%). Class participation will be judged based on attendance, preparation of questions/comments for discussion, and peer review during group work scenarios.

【Changes following student comments】

Students are encouraged to utilize the discussion time to speak in class.

【Equipment student needs to prepare】

Computer

【Others】

Instructor reserves the right to adapt this syllabus as they deem fit during the course of the semester.

【Prerequisite】

none

POL300ZA

Global Political Economy

Nathalie CAVASIN

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水 1/Wed.1

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

We will examine the structure of the contemporary global political economy. Students will be introduced to the theories, debates and paradigms using case studies to develop an understanding of the global political economy. Students will also debate on the new political economy landscape of the Covid-19 pandemic, on climate change and energy policy among others topics. Specific attention will be put on the role of China and its increased participation in the global political economies and also on the recent trends regarding India's political economy.

【Goal】

Students through the assignments that are based on current events in the world (analysis with back up from recent news will be able to learn to express their opinions and develop their critical thinking skills). If we can use video conference tools such as Zoom, we may be able to have online discussions during the class time.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Each week in addition to readings to be done written assignments will be assigned. These written assignments are mandatory. Each student will also write a report every two weeks on a topic from the news in relation with the course contents topics. In addition, there will be an individual essay (topic to be decided later with the supervision of the professor) and a book review project to be written. Students will receive written feedback (eventually oral feedback and mini-discussion with the professor in class or through video conferences (using Zoom), depending on the numbers of students) by the professor. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview of the Course	Theories of global political economy (Chap. 1&2 of the Textbook)
2	Understanding the evolution of the world economy	Evolution of the world economy from the industrial revolution (Chap.3&4)
3	Post-war global economy	The global economy: from 1945 to today (Chap.5)
4	International trade patterns	International trade (Chap.6)
5	- Transnational production systems - Discussion on the impact of transnational corporations	Transnational production (Chap.7)
6	How the global financial system operates Decision on the topics for the essay-presentation project	The global financial system (Chap. 8)
7	- International Division of Labor - Analyzing women in the world economy	The international division of labor (Chap.9)
8	Understanding the notion of development today	Economic development (Chap. 11)

9	Discussion and debate Submission of the Book Review Essay - Submission (group 1)	Gender (Chap. 10)
10	What are the most challenging environmental issues today in the world? Essay-Presentation (group) Essay - Submission (group 2)	Global environmental changes (Chap. 12)
11	Ideas on global political economies Essay-Presentation (group) Looking at the security in political economy Essay - Submission (group 3)	Security (Chap. 14)
12	Essay-Presentation (group) How the domestic and international politics determine have an impact on the global economy is functioning Essay - Submission (group 4)	Theoretical perspectives on global political economy (Chap. 13)
13	Essay-Presentation (group) Submission of the last assignment (critical review of an academic paper)	Governing the global political economy I (Chap. 15)
14	Discussion on how the domestic and international politics determine have an impact on the global economy is functioning	Governing the global political economy II (Chap. 15)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Be always ready by preparing the pages of the readings given in advance before coming to the next class. Additional homework will be assigned such as preparing an update with a current affair in the world related to the discussion/class contents. It is expected to read newspapers and news magazines several times a week. Students will need to update themselves with current news to stay informed about key issues and debate both within Japan and in the world. Students should prepare the work for the essay and book review at the date defined in the course agenda table. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

O'Brien R., and Williams M., *Global political economy: evolution and dynamics*, London, Red Globe Press, 2016.

Additional materials will be distributed in class by the professor.

【References】

Examples of on-line websites to access the news:

- The New York Times
- The Guardian
- The Economist
- Foreign Affairs
- The Wall Street Journal
- Time
- Foreign Policy

【Grading criteria】

Participation and attitude(15%)

Participation (news debriefing report and one news report presentation) (20%)

Book Review (20%) (Submission by email on Class 9)

Essay (30%) (Submission by email from Class 9 to to 12(according to group number)

(Final: Written assignment- critical review of an academic paper) to be submitted by email during the class 13 (15%)

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

The professor may request that you use a computer, tablet or smartphone in order to access the Internet to prepare for the discussion or fact-check during the class. Otherwise such devices cannot be used.

発行日：2021/5/1

【Others】

Taking photos in class (the slides or notes on the board or in the class) is not allowed unless requested by Hosei University. Recording in class is not allowed.

【Prerequisite】

N/A

POL300ZA

International Law

Kiyoshi ADACHI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 2/Mon.2

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブ
サイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注
意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

【Outline and objectives】

This course aims to provide students with a basic understanding of international law, with a particular emphasis on the impact that international law instruments and practices have on national laws and policies. The course begins with an introduction to general principles of international treaty and customary law, examining important cases and doctrines that have developed over time. The first part of the course will conclude with a framework of analysis that students may consider in assessing both the respective merits and limitations of international law instruments. The second part of the course will look at how international law has attempted to shape the world we live in by examining selected areas where it has tried to influence human behavior, including security, human rights, the environment, health, trade/investment and other commercial issues, and the global commons.

【Goal】

At the end of the course, students should be able to have a basic understanding of international law instruments, with an emphasis on recognizing the impact and limitations of treaties in their historical, economic, social and political contexts.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

The course will be conducted using lectures, group discussion and one negotiation simulation exercise. Students are encouraged to submit paper outlines and drafts of the term paper for feedback by the end of June. The class will have the opportunity to provide feedback to each other after the simulation exercise. Students will need access to the Internet in order to access some of the cases, treaties and articles. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction to International Law	How Does International Law Differ from National Law? Sources of International Law Codified Treaty Law – By Whom, and How, are Treaties Made? Customary International Law – The <i>Paquete Habana</i> case
2	Treaties	A Brief History of Treaties The Vienna Convention Key Elements of Treaties – a Framework for Analysis
3	Treaties	A Brief History of Treaties The Vienna Convention Key Elements of Treaties – a Framework for Analysis
4	Treaties Related to Security and Humanitarian Issues	Treaties and Wars – Versailles, Potsdam and San Francisco The UN Charter The Geneva Convention The 1951 Refugee Convention and 1967 Protocol The Comprehensive Nuclear-Test-Ban Treaty

5	Treaties Related to Security and Humanitarian Issues	Treaties and Wars – Versailles, Potsdam and San Francisco The UN Charter The Geneva Convention The 1951 Refugee Convention and 1967 Protocol The Comprehensive Nuclear-Test-Ban Treaty Universal Declaration of Human Rights
6	Human Rights	International Covenant on Economic and Social Rights International Covenant on Civil and Political Rights Convention on the Elimination of All forms of Discrimination against Women
7	Mid-Term Examination	In-class examination
8	Health-related Treaties	The UN Drug Control Conventions (1961, 1971 and 1988) Framework Convention on Tobacco Control
9	Treaties on Economic, Commercial and related Issues	The WTO Agreements Multilateral Agreement on Trade in Goods Agreement on Trade-related aspects of Intellectual Property Rights Policy Space and Developing Countries Bilateral and Plurilateral Preferential Trade and Investment Agreements US, Japanese and European Bilateral Agreements, CPTPP Interface between Commercial and other Issues Case Study: Plain Packaging of Tobacco Products in Australia
10	Treaties on Economic, Commercial and related Issues	The WTO Agreements Multilateral Agreement on Trade in Goods Agreement on Trade-related aspects of Intellectual Property Rights Policy Space and Developing Countries Bilateral and Plurilateral Preferential Trade and Investment Agreements US, Japanese and European Bilateral Agreements, CPTPP Interface between Commercial and other Issues Case Study: Plain Packaging of Tobacco Products in Australia
11	Environmental Treaties	CITES, Convention on Biological Diversity, UNFCCC <i>Group Simulation Exercise</i>
12	Environmental Treaties	CITES, Convention on Biological Diversity, UNFCCC <i>Group Simulation Exercise</i>
13	Global Commons	Law of the Sea – UNCLOS and ongoing negotiations Outer Space, Antarctica
14	Wrap-Up	The Possibilities and Limits of International Law

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to attend classes and read weekly assignments ahead of the session for which it is assigned.
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Klabbers, *International Law*, Cambridge University Press.
case readings, treaty text, articles as assigned

【References】

Suggested reference material will be provided in class

【Grading criteria】

1 Mid-Term Examination 35%

1 Paper 40%

Group Work and Participation 25%

Class attendance will be reflected in the score for group work and participation.

【Changes following student comments】

n/a

発行日：2021/5/1

【Prerequisite】
None.

SOC300ZA

Law in a Globalizing World

Gregory TOTH, Kelesha NEVERS

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 6/Mon.6

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

As nations and peoples continue the trend of globalization, legal issues become increasingly more complex. This course provides an overview of this trend, investigating similarities, differences, changes, and challenges experienced by an array of stakeholders as new issues arise and views on existing issues converge in some ways and diverge in others. Specific discussion topics include, but are not limited to, human rights, crime, the environment, international institutions, and conflict of laws.

[Goal]

Upon completion of this course, students should be able to discuss and analyze the legal aspects of specific problems in a globalizing world. Through discussion and debate, students will develop their ability to grasp and analyze different opinions, as well as predict counter-arguments. Through the creation of a final report and related presentation, students will enhance their ability to develop and logically present their ideas, while reflecting on peer feedback.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3" and "DP 4".

[Method(s)]

This course will be taught through a combination of lecture- and seminar-style classes. Students are required to attend class prepared to participate in discussion. Students are also required to make one main and one or more smaller presentations and submit a final report on the topic of their main presentation, which should reflect class discussion and peer feedback. Instructor feedback will be given during class discussions, through commentary on errors and correct responses found in the assignments, and in response to individual requests. Assignments submitted on the online dashboard will receive individualized comments on the strengths and weaknesses of the submissions.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction (Toth)	Course guidance and general introduction to the role of law in a globalizing world. Overview of the discussion topics.
2	What is Law? What is Globalization? (Toth)	Defining law and globalization; What are the causes and impacts of globalization? International organizations
3	How does globalization of the law affect national legal systems? (Toth)	Hard law versus soft law; international organizations; reputational harm
4	Freedom of Expression and Religion (Toth)	Comparative analysis of free speech and the right to worship (or not) as one chooses.
5	Right to Life (Nevers)	Comparative analysis -death penalty; International declarations
6	Gender Issues (Nevers)	How does globalization change/impact gender roles? Empowerment; disenfranchisement
7	Crime and Enforcement (Nevers)	Comparison of criminal justice systems; Are we more or less safe in a globalizing world?
8	Humanitarian Law (Nevers)	Crime and punishment in war time
9	Right to a Healthy Environment (Toth)	Global treaties and other agreements protecting the environment; sustainable development
10	Freedom to Trade (Toth)	WTO and investment treaties; local and regional impacts; detractors

11	What does the future hold for globalization? (Nevers and Toth)	Fragmentation / Convergence; inevitability vs nationalization.
12	Presentations (Nevers and Toth)	Student presentation(s) and class discussion. Topics to be decided based on the interests of the students.
13	Presentations (Nevers and Toth)	Student presentation(s) and class discussion. Topics to be decided based on the interests of the students.
14	Wrap-Up the semester (Nevers and Toth)	Discussion and peer feedback

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are required to complete the reading assignments and prepare before class. Students are also required to do independent and collaborative work for their assignments. Preparatory study and review time for this class are two hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. The readings are available online.

[References]

Reading materials are available on the classroom dashboard.

[Grading criteria]

Detailed requirements concerning assignments will be given in class. The final grade is calculated based on preparation (20 %), participation (20 %), presentation (30 %), final report (30 %).

[Changes following student comments]

N/A.

[Equipment student needs to prepare]

Internet access (smartphone, tablet, laptop).

[Others]

Slight alterations might be made to this syllabus, taking into account the number and specific interests of students who decide to take this course.

[Prerequisite]

None

MAN300ZA

Financial Statement Analysis

Maymay HO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水 3/Wed.3

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

Financial Statement Analysis course is to study the dynamics of practical accounting - students are expected to learn how the environment affects the financial statements and how to glean information from the financial statements. In order for students to understand the corporate environment, students will cover topics on introduction to corporate taxation as well as contemporary issues such as corporate fraud, enterprise risk management, and Sustainability Reporting.

[Goal]

Students will be able to become familiar with reading and analyzing corporate financial statements. A fictitious company based on the real-world corporate financial statements are used for case studies in this course allowing students to see practical uses of ratios, taxation and International Accounting Financial Statements (IFRS) accounting standards to analyze corporate financial numbers. Furthermore, students will consolidate their understanding on how corporate environment will be affected by the impact of fraud, income tax, international taxation, enterprise risk management and sustainability reporting.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Revision of Basic Accounting Concepts	Revision of double entries and review of the financial statements format.
2	Revision of Basic Accounting Concepts	Revision of double entries and review of the financial statements format.
3	Using Financial Statements for Short-Term Analysis (1)	Apply ratios for a short-term financial analysis. Apply the technique of short-term financial analysis to the real corporate financial numbers.
4	Practical Analysis of Financial Ratios 1	Question practice on the use of financial ratios.
5	Practical Analysis of Financial Ratios 2	Question practice on how double entries affect the use of financial ratios.
6	Impact of Working Capital on Financial Ratios	Discuss the impact of working capital on financial ratios.
7	Impact of Working Capital on Financial Ratios	Question practice on working capital on financial ratios.
8	Revision on Ratios and How Impact Financial Ratios and Financial Statements.	Question practice.
9	Review of Lectures 1-8	Review of previous lectures 1-8.
10	Preparation of Cashflow Statement	Preparation of Cashflow Statement.
11	Review on the Preparation of Cashflow Statement	Review on the Preparation of Cashflow Statement.

12	Introduction to Income Tax	Discuss the tax system in Japan and how it impacts corporate behaviour
13	Corporate Fraud, Internal Controls and Sustainability Reporting	Corporate Fraud, Enterprise Risk Management and Sustainability Reporting.
14	Wrap Up & Review of All Lectures	Review of all lectures

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the assigned readings and slides of the next class before each class. Also, in addition to the preparation for the final presentation, there will be homework during the course. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

None. Electronic handouts and reading material will be provided.

[References]

None

[Grading criteria]

Projects / homework 20%,
Quizzes 15%, Mid-term exam 30%, and final examination 35%

[Changes following student comments]

N/A

[Equipment student needs to prepare]

None.

[Others]

None.

[Prerequisite]

Students are expected to have basic knowledge of accounting (e.g. Accounting: A6282).

MAN300ZA

Advanced Accounting

Noriaki OKAMOTO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 4/Fri.4

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 :

[Outline and objectives]

In this "Advanced Accounting" course, the main objective is to deeply consider selected accounting topics. They are 1) Globalization of Accounting (IFRS), 2) Conceptual Framework for Financial Reporting, 3) Fair Value Accounting, and 4) Accounting for Intangibles (including Goodwill). These are all globally contentious topics. Considering and discussing about these accounting matters will help students learn the current state of accounting.

[Goal]

Students will be able to learn the theories and standards in the selected areas of accounting. Real corporate financial statements are used for the case studies in this course. Also we will work on multiple-choice questions to gain practical knowledge.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

This course is taught through lectures, discussions and exercises. At my discretion, I may assign one or more mini-projects to be completed during, or outside of, the class. Students are encouraged to ask questions and to request that particular points be explained if they remain confused or uncertain about items discussed during the class. Feedback on the students' performance in the assignments during the course will be given regularly. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction and review	Review the basic framework of financial accounting (handouts/slides)
2	Basic financial statements and accounting standard setters ①	Review and discuss the basic financial statements (handouts/slides)
3	Basic financial statements and accounting standard setters ②	Understand global politics of accounting standard setting (handouts/slides)
4	Various financial statements and conceptual framework for financial reporting ①	Learn the basic conceptual basis for financial reporting (handouts/slides)
5	Various financial statements and conceptual framework for financial reporting ②	Discuss and analyze the conceptual framework for financial reporting (handouts/slides)
6	Various financial statements and conceptual framework for financial reporting ③	Discuss and analyze the conceptual framework for financial reporting (handouts/slides)
7	Time value of money and fair value accounting ①	Learn the theoretical basis of time value of money and fair value accounting (handouts/slides)
8	Time value of money and fair value accounting ②	Discuss and analyze the application of time value of money and fair value accounting (handouts/slides)

9	Time value of money and fair value accounting ③	Discuss and analyze the application of time value of money and fair value accounting (handouts/slides)
10	Accounting for intangibles ①	Understand current accounting standards for intangibles (handouts/slides)
11	Accounting for intangibles ②	Analyze intangibles on financial statements (handouts/slides)
12	Accounting for intangibles ③	Discuss and analyze current accounting for intangibles (handouts/slides)
13	Review exam	Comprehensive review exam
14	Final presentation	Final presentations (individual/group) and Q&A

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the assigned handouts (textbook chapters, etc.) before each class. Also, in addition to the preparation for presentations, there will be homework during the course. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Donald, E. Kieso, Jerry, J. Weygandt, and Terry, D. Warfield (2020), *Intermediate Accounting: IFRS Edition* 4th edition, Wiley.

[References]

Jae K. Shim, Joel G. Siegel, Nick Dauber, Anique A. Qureshi (2014), *Dictionary of Accounting Terms* 6th edition, Barrons Educational Series. Tokyo Chamber of Commerce and Industry (東京商工会議所) (2019), *BATIC 公式テキスト Subject 2* 2019 edition, Chuo-Keizai Group Publishing (中央経済社).

[Grading criteria]

Projects / homework 30%,

Class participation / discussion 30%, Review exam 20%, and Final presentation 20%

[Changes following student comments]

None

[Equipment student needs to prepare]

A calculator

[Others]

Purchasing the textbook is not required.

[Prerequisite]

Students are expected to have basic knowledge of accounting (e.g. Accounting: A6282).

ECN300ZA

Stock Investment

EYO Shiao Jia

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 2/Tue.2

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> 制度ウェブサイトより 3. 科目別の注意事項 (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This is an advanced level finance course that focuses on the concepts of stock investment: characteristics of stocks, the market, stock valuation and dividend policy. Students will also apply investment theories into practice based on a virtual stock market simulation.

【Goal】

The end goal of the class is to apply the strategies of stock investment into an actual stock portfolio based on a virtual stock market simulation.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course is taught primarily through lectures and discussions. Feedback is given during class, using tools such as HOPPII or email. Interactive class participation is encouraged.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction to the course
2	Basics of Stock Investing (1)	Setting up your virtual account Common approaches and risks
3	Basics of Stock Investing (2)	Snapshot of the market
4	Basics of Stock Investing (3)	Investing for growth and income
5	Investment Strategies (1)	Decoding company documents
6	Investment Strategies (2)	Analyzing industries
7	Investment Strategies (3)	Technical analysis (SMA, MACD)
8	Investment Strategies (4)	Technical analysis (Momentum, Volume and RSI)
9	Investment Strategies (5)	Portfolio discussion
10	Investment Strategies (5)	Ten signs of stock price increase and decrease
11	Financial Markets and Institutions	Types of financial markets
12	Distribution to Shareholders	Dividends versus capital gains
13	Stock Market Discussion	Stock market booms and crashes
14	Final Exam & Wrap-up	Assessing the degree to which you understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Read the chapters in the assigned reference book as well as textbook. Update and monitor your stock portfolio constantly. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used

【References】

Mladjenovic, Paul. *Stock Investing For Dummies*, For Dummies, 2016.
Rockefeller, Barbara. *Technical Analysis For Dummies*, For Dummies, 2019.
Brigham, Eugene, Houston, Joel F. *Essentials of Financial Management*, 3rd Edition, Cengage Learning Asia Pte Ltd, 2014.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (20%), portfolio report (40%), and one final exam (40%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

Students who are interested in taking this course must attend the first week of class. A selection process will be conducted during the first week prior to the enrollment of this course.

【Prerequisite】

Foundations of Finance or any Accounting classes.

LIT400ZA

Seminar: British Culture and Literature I

Mitsutoshi SOMURA

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 4/Fri.4, 金 5/Fri.5

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項 > (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6401, A6402 はセットで受講すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

Study in this seminar is interdisciplinary. Literature, society, and culture are directly or indirectly associated with each other. Culture is about the way of living for a particular group of people or society, including their ideas, customs and social behavior. Politics and economy in society affect culture very much, and vice versa. Britain is 'a foreign country - they do things differently,' so comparison will be made between two cultures, British and Japanese. Cultural issues in Britain concerning nation, migration, globalisation, family, religion, gender, ethnicity, class, and so on always become more political and controversial because of the plurality of their identities. Bearing these in mind, students will understand Britain in human terms, read modern literary works closely by referring to critical terms and theories, and cultivate an appreciation for literature. Students will read literary works, study modern British culture, conduct research, and write an essay.

[Goal]

Students will (1) further knowledge of the developments of society and culture in Britain after the 1980s, (2) learn how to read and appreciate literature in English, and (3) improve research and writing skills.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The seminar consists of lectures, students' presentations and discussion. Students are required to read the materials, make preparations for class, and deliver PowerPoint presentations both on the assignments and his/her essays in progress. Students will continue to research into a topic he/she chooses and complete an essay at the end of the academic year. Feedback is given by Hoppii. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Britain after the 1980s	Students' presentations, inquiries and discussion
3	Reading Literature	
3	Country and People 1	Students' presentations, inquiries and discussion
4	Reading Literature	
4	Country and People 2	Students' presentations, inquiries and discussion
5	Religion	Students' presentations, inquiries and discussion
6	Reading Literature	
6	Politics	Students' presentations, inquiries and discussion
7	Reading Literature	
7	Government and Regions	Students' Presentations, inquiries and discussion
8	Reading Literature	
8	Economy	Students' presentations, inquiries and discussion
9	Reading Literature	
9	Class	Students' presentations, inquiries and discussion
10	Reading Literature	
10	Welfare	Students' presentations, inquiries and discussion
11	Reading Literature	
11	Education	Students' presentations, inquiries and discussion
12	Reading Literature	
12	Family	Students' presentations, inquiries and discussion
13	Reading Literature	
13	Media	Students' presentations, inquiries and discussion
14	Reading Literature	
14	Course Review	Course review, students' inquiries, and discussion
	Reading Literature	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete assignments as instructed and prepare for class. Continue to research into his/her topic and write an essay. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Christopher, David. (2015). *British Culture: An Introduction* (3rd. edn.). London: Routledge.

Another textbook and reading materials will be specified at the beginning of the seminar.

[References]

Higgins, Michael, Clarissa Smith and John Storey. (eds.) (2010). *The Cambridge Companion to Modern British Culture*. Cambridge: CUP.

Abercrombie, Nicholas and Alan Warde. (2000). *Contemporary British Society* (3rd edn.). Cambridge: Polity Press.

Oakland, John. (2016). *British Civilization: An Introduction* (8th edn.). London: Routledge.

Stevenson, R. (2004). *The Oxford English Literary History Series*, v.12. 1960-2000: *The Last of England?*. Oxford: OUP.

Davies, Alistair and Alan Sinfield. (eds.) (2000). *British Culture of the Postwar: An Introduction to Literature and Society 1945-1999*. London: Routledge.

Childs, Peter and Mike Storry. (eds.) (1999). *Encyclopedia of Contemporary British Culture*. Abingdon: Routledge.

For detailed timeline in Britain 1947-2005 : http://www.bbc.co.uk/history/british/timeline/present_timeline_noflash.shtml

[Grading criteria]

Grades are based on class participation (50%), and a writing assignment (50%). More than two unexcused absences can result in failure of the course.

[Changes following student comments]

More time will be given for class discussion.

[Prerequisite]

Students should have completed *Introduction to English Literature*, *UK: Society and People* and *Contemporary British Culture*. If you haven't, contact the instructor.

LIT400ZA

Seminar: British Culture and Literature II

Mitsutoshi SOMURA

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
 Day/Period : 火 4/Tue.4, 火 5/Tue.5

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項> (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6403,A6404 はセットで受講すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

Study in this seminar is interdisciplinary. Literature, society, and culture are directly or indirectly associated with each other. Culture is about the way of living for a particular group of people or society, including their ideas, customs and social behavior. Politics and economy in society affect culture very much, and vice versa. Britain is 'a foreign country - they do things differently,' so comparison will be made between two cultures, British and Japanese. Cultural issues in Britain concerning nation, migration, globalisation, family, religion, gender, ethnicity, class, and so on always become more political and controversial because of the plurality of their identities. Bearing these in mind, students will understand Britain in human terms, read modern literary works closely by referring to critical terms and theories, and cultivate an appreciation for literature. Students will read literary works, study modern British culture, conduct research, and write an essay.

【Goal】

Students will (1) acquire knowledge of the developments of society and culture in Britain after the 1980s, (2) learn how to read and appreciate literary works in English, and (3) improve research and writing skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The seminar consists of lectures, students' presentations and discussion. Students are required to read the materials, make preparations for class, and deliver PowerPoint presentations both on the assignments and his/her essays in progress. Students will continue to research into a topic he/she chooses and complete an essay at the end of the academic year. Feedback is given by Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Reading Literature Cultural Timeline after the 1980s 1	Students' presentations, inquiries and discussion
3	Reading Literature Cultural Timeline after the 1980s 2	Students' presentations, inquiries and discussion
4	Reading Literature Heritage and Britishness	Students' presentations, inquiries and discussion
5	Reading Literature Literature 1	Students' presentations, inquiries and discussion
6	Reading Literature Literature 2	Students' presentations, inquiries and discussion
7	Reading Literature Literature 3	Students' presentations, inquiries and discussion
8	Reading Literature Literature 4	Students' presentations, inquiries and discussion
9	Cinema Reading Literature	Students' presentations, inquiries and discussion
10	Television and Radio Reading Literature	Students' presentations, inquiries and discussion
11	Popular Music Reading Literature	Students' presentations, inquiries and discussion
12	Art, Fashion and Architecture Reading Literature	Students' presentations, inquiries and discussion
13	Sports Reading Literature	Students' presentations, inquiries and discussion
14	Course Review	Course review, students' inquiries, and discussions

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete assignments as instructed and make preparations for class. Continue to research into his/her topic and write an essay. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Christopher, David. (2015). *British Culture: An Introduction* (3rd. edn.). London: Routledge.

Other textbooks and reading materials will be specified at the beginning of the seminar.

【References】

Higgins Michael, Clarissa Smith and John Storey. (eds.) (2010). *The Cambridge Companion to Modern British Culture*. Cambridge: CUP.

Abercrombie, Nicholas and Alan Warde. (2000). *Contemporary British Society* (3rd edn.). Cambridge: Polity Press.

Oakland, John. (2016). *British Civilization: An Introduction* (8th edn.). London: Routledge.

Stevenson, R. (2004). *The Oxford English Literary History Series*, v.12. *1960-2000: The Last of England?* Oxford: OUP.

Davies Alistair and Alan Sinfield. (eds.) (2000). *British Culture of the Postwar: An Introduction to Literature and Society 1945-1999*. London: Routledge.

Childs Peter and Mike Storry. (eds.) (1999). *Encyclopedia of Contemporary British Culture*. Abingdon: Routledge.

For detailed timeline in Britain 1947-2005: http://www.bbc.co.uk/history/british/timeline/present_timeline_noflash.shtml

【Grading criteria】

Grades are based on class participation (50%), and the academic essay (50%). More than two unexcused absences can result in failure of the course.

【Changes following student comments】

More time will be given for class discussion.

【Prerequisite】

Students should have completed *Introduction to English Literature*, *UK: Society and People* and *Contemporary British Culture*. If you haven't, contact the instructor.

LIN400ZA

Seminar: Diversity of English I

Yutai WATANABE

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 3/Fri.3, 金 4/Fri.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項 > (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6405,A6406 はセットで受講すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

With estimated 2.3 billion users, the global dominance of the English language is in no dispute. However, the language has developed a wide range of variations, depending on the social and cultural contexts where it was transplanted and the other languages it exists alongside. This seminar is concerned with the phonetic features of English(es) both in the Inner and Expanding Circles, while also shedding light on the speakers' language attitudes and ideologies. We start the spring semester by reviewing Kachru's (1985) three-circle model and Schneider's (2007) Dynamic Model of Postcolonial English. Then we focus on New Zealand English (NZE), one of the youngest Inner Circle varieties, examining how it is distinguishable from UK, US and Australian English. The latter part of the semester is devoted to the features of L2-accented English in the Expanding Circle.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- (1) understand the evolution and diversity of the English language,
- (2) recognise the phonetic features of NZE and L2-accented English, and
- (3) get used to analysing sound recordings for research purposes.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This seminar is presentation and discussion oriented: Students take turns to review a book chapter or journal article assigned by the instructor, noting key terms and concepts, which could be proactively studied by consulting reference materials. The other students in the class contribute to the discussion with their questions and observations. Detailed comments and suggestions for further study are provided at the end of each presentation. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	(1) Outlining the course content and instructional methodologies (2) APA style: In-text citations and references (3) Hosei and GIS libraries and online databases
2	Essential Phonetics	(1) IPA (2) Phoneme and allophones
3	Models of World Englishes (Part 1)	(1) The world's major languages (2) Indo-European language family (3) L1 and L2 English (4) Kachru's (1985) three-circle model of English
4	Models of World Englishes (Part 2)	(1) Limitations of Kachru's (1985) model (2) McArthur's (1987) model (3) Modiano's (1999) model (4) Svartvik & Leech's (2006) model
5	Sound Change of NZE in Progress (Part 1)	(1) Rhoticity (2) /l/ vocalisation (3) TR-affrication (4) Flapping /t/
6	Sound Change of NZE in Progress (Part 2)	(1) TH-fronting (2) Short front vowels (3) The NEAR/SQUARE merger

7	Formation of NZE Based on Schneider's Dynamic Model (Part 1)	(1) Outline of the model (2) Phase I (1790s-1840) (3) Phase II (1840-1907)
8	Formation of NZE Based on Schneider's Dynamic Model (Part 2)	Phase III (1907-1973)
9	Formation of NZE Based on Schneider's Dynamic Model (Part3)	(1) Phase IV (1973-1990s) (2) Phase V (1990s-)
10	NZ Accents in Films	Phonetic features observed in NZ films
11	English in the Expanding Circle	(1) Scandinavian-accented English and English in Scandinavia (2) Spanish-accented English and English in Spain/Latin America (3) Japanese-accented English
12	Indexicality of L2 accents	(1) Indexicality of Japanese-accented English in NZ (2) Identification of the provenance of speakers (McKenzie, 2015)
13	Attitudes towards L1 and L2 English	(1) Japanese students' attitudes (Sasayama, 2013) (2) Thai students' attitudes (McKenzie et al., 2016) (3) Norwegian students' attitudes (Rindal & Piercy, 2013)
14	Conclusion	(1) Review and final discussion (2) Preparation for seminar papers

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to read in advance the references posted on the course website and the handouts emailed by presenters. They also need to listen to and analyse sound recordings. Preparatory study and review time for this course are 4 hours each.

【Textbooks】

Hay, J., MacLagan, M., & Gordon, E. (2008). *New Zealand English*. Edinburgh University Press.Swan, M., & Smith, B. (Eds.). (2001). *Learner English: A teacher's guide to interference and other problems* (2nd ed.). Cambridge University Press.

【References】

Detailed references are listed on the website, while the following books will be helpful as a general introduction.

Melchers, G., Shaw, P., & Sundkvist, P. (2019). *World Englishes* (3rd ed.). Routledge.Trudgill, P., & Hannah, J. (2017). *International English: A guide to varieties of English around the World* (6th ed.). Routledge.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on presentation (70%) and class discussion (30%). More than two unexcused absences per semester will result in failure of the course.

【Changes following student comments】

The schedule and contents may be modified based on students' interests and needs.

【Equipment student needs to prepare】

The presentations are delivered using PowerPoint slides and Internet sources. The handouts are downloadable in PDF format.

【Others】

Successful applicants must be knowledgeable and enthusiastic about the seminar themes. It is essential that they have completed most 200-level linguistics courses, particularly *Sociolinguistics* and *English as a Lingua Franca* with good grades.

【Prerequisite】

No strict prerequisite is required.

LIN400ZA

Seminar: Diversity of English II

Yutai WATANABE

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 3/Fri.3, 金 4/Fri.4

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項> (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6407,A6408 はセットで受講すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

English is the most common international language in business, education and mass media, and is used by more than one billion people in the world as L2 speakers alone. The fall semester is dedicated to English in the Expanding Circle, particularly in mainland Europe and Japan. We compare the two regions in the users' ideologies and attitudes towards L1 English as the target in teaching/learning and English as a lingua franca (ELF). In the process of individual and/or collaborative research, we also discuss a number of sociolinguistic issues: the dichotomy between L1 and L2 speakers, the native-speakerism, plurilingual individuals in multilingual societies, CEFR, etc.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- (1) learn the current use of English in the Expanding Circle,
- (2) understand the tenet of English as a lingua franca,
- (3) develop a critical view of monolingualism as normal and bilingualism as unusual, and
- (4) get used to collecting and analysing data for research purposes.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This seminar is presentation and discussion oriented: Students take turns to review a book chapter or journal article assigned by the instructor, noting key terms and concepts, which could be proactively studied by consulting reference materials. The other students in the class contribute to the discussion with their questions and observations. Detailed comments and suggestions for further study are provided at the end of each presentation. Each student is expected to write a short or extended essay on their chosen topic towards the end of the 3rd or 4th year, respectively.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	Outlining the course content and instructional methodologies
2	Project Introduction	Introducing each research project
3	Native-speakerism and ELF	(1) Native-speakerism (Holliday, 2006) (2) Disadvantages of native-speakerism in ELT (Kirkpatrick, 2007) (3) ELF and reconceptualisation of English (Seidlhofer, 2011) (4) EFL vs. ELF (Seidlhofer, 2011)
4	Review	Review of previous studies
5	English in International Context	(1) English in international organisations (2) English in aviation and pop culture

6	Euro-English and Attitudes towards English in Mainland Europe	(1) Euro-English (Jenkins et al., 2001) (2) Conceptualising English in Europe (Motschenbacher, 2016) (3) EU teachers' views on ELF (Groom, 2012) (4) German and Swedish teachers' attitudes (Mohr et al., 2019)
7	English Education in Japan	(1) <i>The Suggested Course of Study in English</i> (2) CEFR and private-sector English tests for university admission (3) Sample analysis of high school textbooks (4) English as a medium of instruction (EMI) in universities
8	Current Use of English in Japan	(1) Business and employment (2) Media and show business (3) Linguistic landscapes
9	Preparation for seminar papers	Questions and suggestions
10	Students' Presentation (Part 1)	Oral presentation and discussion
11	Students' Presentation (Part 2)	Oral presentation and discussion
12	Editing (Part 1)	Support for writing papers
13	Editing (Part 2)	Support for writing papers
14	Conclusion	(1) Final discussion and future perspectives (2) Submission of the seminar papers.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to read in advance the references posted on the course website and the handouts emailed by presenters. They also need to listen to and analyse sound recordings. Preparatory study and review time for this course are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbooks are used. All handouts are posted on the course website, while additional materials will be provided in the classroom.

【References】

Detailed references are listed on the website, while the following books will be helpful as a general introduction.
Galloway, N., & Rose, H. (2015). *Introducing global Englishes*. Routledge.
Jenkins, J. (2015). *Global Englishes: A resource book for students* (3rd ed.). Routledge.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on class discussion (10%), presentation (30%) and a submitted essay (60%). More than two unexcused absences per semester will result in failure of the course.

【Changes following student comments】

The schedule and contents may be modified based on students' interests and needs.

【Equipment student needs to prepare】

The presentations are delivered using PowerPoint slides and Internet sources. The handouts are downloadable in PDF format.

【Others】

Successful applicants must be knowledgeable and enthusiastic about the seminar themes. It is essential that they have completed most 200-level linguistics courses, particularly *Sociolinguistics* and *English as a Lingua Franca* with good grades.

【Prerequisite】

No strict prerequisite is required.

EDU400ZA

Seminar: Language Teaching and Learning I

Machiko KOBORI

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 4/Tue.4, 火 5/Tue.5

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項 > (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6409,A6410 はセットで受講すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

The course is for students wanting to explore effective teaching and learning through giving an insight into the educational theory, lesson planning for educators, and educational specific skills within the context of the second language (L2) education. It focuses on issues affecting L2 motivation, especially in the language classroom, and different motivational strategies for fulfilling successful achievement in learning L2s. It explains how to elicit and maintain L2 learners' motivation, and provides opportunities for developing practical techniques that motivate language learners. It encourages students to examine, reflect on and discuss significant aspects of successful teaching and language learning. It encourages students to consider how they can contribute to learner achievement.

[Goal]

The course provides opportunities to:

1. explore challenging issues in language teaching and learning.
2. learn basic ideas for effective teaching.
3. acquire theoretical knowledge of motivational strategies in L2 education.
4. examine the connection between motivational strategies and L2 learning conditions.
5. examine how the expertise of motivational strategies are effectively introduced to L2 education.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

The presentation, writing assignment, and the related tasks and activities are required for the completion of this course; students are to choose one of the course topics and are required to make a presentation and complete a reflective paper. They are also required to plan their language courses/lessons and implement them in educational organisations. Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems (HOPPII and OATube). Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guidance on seminar I
2	Motivation and language learning (1)	The overview of the development of the L2 motivational studies
3	Motivation and language learning (2)	The overview of the L2 motivational studies of L2 learners: good learners
4	Motivation and language learning (3)	The overview of the L2 motivational studies of L2 learners: young learners
5	Motivation and language teaching (1)	Studies of L2 teachers (1)
6	Motivation and language teaching (2)	Studies of L2 teachers (2)
7	Motivation and language teaching (3)	Studies of L2 motivational strategies (1)
8	Motivation and language teaching (4)	Studies of L2 motivational strategies (2)
9	Motivation and language teaching (5)	Studies of L2 motivational strategies (3)
10	Motivation and language teaching (6)	Studies of creating lessons based on L2 motivational strategies (1)
11	Motivation and language teaching (7)	Studies of creating lessons based on L2 motivational strategies (2)

12	Presentation (1)	demonstration/observation,review and discussion (1)
13	Presentation (2)	demonstration/observation,review and discussion (2)
14	Consolidation	Review and discussion

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week before attending class, students are required to comprehend the assigned readings. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Dörnyei, Z. (2020). *Innovations and challenges in language learning motivation*. Routledge.

[References]

1. Dörnyei, Z. (2001). *Motivational strategies in the language classroom*. Cambridge UP.
2. Dörnyei, Z. (2005). *The psychology of the language learner*. LEA.
3. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.
4. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2011). *Teaching and researching motivation*. Cambridge UP.
5. Kyriacou, C. (2009). *Effective teaching in schools: Theory and practice*. Oxford UP.
6. Larsen-Freeman, D. & Anderson, M. (2011). *Techniques and principles in language teaching*. Oxford UP.
7. Schunk, D. H. (2016). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. (2nd ed.). Routledge.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Presentation (20%)
3. Writing assignment (40%)
4. Educational practices (30%)

More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

[Changes following student comments]

More advanced notice of assigned readings will be given in order to allow students to prepare for class discussions.

[Equipment student needs to prepare]

PC

[Others]

1. Students are required to practice L2 teaching targeting L2 learners at different ages and levels for assuring L2 motivational theories and strategies.
2. Information about schedules of visiting and running language courses/classes in schools, etc. are provided and discussed in the class.
3. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Prerequisite]

All or at least one of the courses presented below:

1. TESOL I, II, III, & IV
2. Comparative education
3. English teaching in primary school or advanced

EDU400ZA

Seminar: Language Teaching and Learning II

Machiko KOBORI

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
 Day/Period : 木 3/Thu.3, 木 4/Thu.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項 > (1) GIS 主修科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6411, A6412 はセットで受講すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

The course is for students wanting to explore effective teaching and learning through giving an insight into the educational theory, lesson planning for educators, and educational specific skills within the context of the second language (L2) education. It focuses on issues affecting L2 motivation, especially in the language classroom, and different motivational strategies for fulfilling successful achievement in learning L2s. It explains how to elicit and maintain L2 learners' motivation, and provides opportunities for developing practical techniques that motivate language learners. It encourages students to examine, reflect on and discuss significant aspects of successful teaching and language learning. It encourages students to consider how they can contribute to learner achievement.

【Goal】

The course provides opportunities to:

1. explore challenging issues in language teaching and learning.
2. learn basic ideas for effective teaching.
3. acquire theoretical knowledge of motivational strategies in L2 education.
4. examine the connection between motivational strategies and L2 learning conditions.
5. examine how the expertise of motivational strategies are effectively introduced to L2 education.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The presentation, writing assignment, and the related tasks and activities are required for the completion of this course; students are to choose one of the course topics and are required to make a presentation and complete a reflective paper. They are also required to plan their language courses/lessons and implement them in educational organisations. Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems (HOPPII and OATube).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guidance on Seminar II
2	Exploring L2 Motivation Research Studies (1)	Original text reading (1): review of the theoretical perspective of motivation and L2 learners
3	Exploring L2 Motivation Research Studies (2)	Original text reading (2): review of the theoretical perspective of motivation and L2 teachers
4	Exploring L2 Motivation Research Studies (3)	Original text reading (3): review of motivation and curriculum development
5	Exploring L2 Motivation Research Studies (4)	Researching L2 motivation (1)
6	Exploring L2 Motivation Research Studies (5)	Researching L2 motivation (2)
7	Exploring L2 Motivation Research Studies (6)	Essay writing: topics and methods (1)
8	Exploring L2 Motivation Research studies (7)	Essay writing: topics and methods (2)
9	Exploring L2 Motivation Research Studies (8)	Essay writing: topics and methods (3)
10	Exploring L2 Motivation Research Studies (9)	Essay writing: presentation and discussion (1)

11	Exploring L2 Motivation Research Studies (10)	Essay writing: presentation and discussion (2)
12	Exploring L2 Motivation Research Studies (11)	Essay writing: presentation and discussion (3)
13	Consolidation (1)	L2 motivational theories and research studies: review and discussion
14	Consolidation (2)	L2 motivation and language teaching: review and discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week before attending class, students are required to comprehend the assigned readings. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

1. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2011). *Teaching and researching motivation*. Pearson Education.
2. Creswell, W. J. & Creswell, J. D. (2018). *Research Design*. (5th ed). SAGE.

【References】

1. Dörnyei, Z., & Taguchi, T. (2009). *Questionnaires in second language research: construction, administration, and processing*. Routledge.
2. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.
3. Dörnyei, Z. (2020). *Innovations and challenges in language learning motivation*. Routledge.
4. Schunk, D. H. (2016). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. (2nd ed.). Routledge.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Presentation (20%)
3. Writing assignment (40%)
4. Educational practices (30%)

More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】

More advanced notice of assigned readings will be given in order to allow students to prepare for class discussions.

【Equipment student needs to prepare】

PC

【Others】

1. Students are required to conduct their own research investigation to complete their seminar paper.
2. Students are required to practice L2 teaching targeting L2 learners at different ages and levels for assuring L2 motivational theories and strategies.
3. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Prerequisite】

1. Seminar: Language Teaching and Learning I
2. All or at least one of the courses presented below:
 - a. TESOL I, II, III, & IV
 - b. Comparative education
 - c. English teaching in primary school or advanced

SOC400ZA

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I

Diana KHOR

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 4/Mon.4, 月 5/Mon.5

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項 > (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6413,A6414 はセットで受講すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

Race, class, gender and sexuality, nation and so on constitute our identities, shape our experiences, and constrain as well as enrich our lives. Importantly, they constitute interconnecting sources of inequality in society and in the world today. In this seminar, students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

[Goal]

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality". Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Since this course is a seminar, it is taught primarily through student presentations and discussions. Students deliver presentations on selected readings as well as on their own research. Further, they also engage in discussions based on critical reading of extant research and theories, as well as on current relevant social issues. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Overview	Getting acquainted Discussion of the goals of this seminar and the responsibility of each seminar member Explanation of seminar research, decision on topic, and individual research
2	Doing Social Research	Overview of social research
	Critiquing Academic Works	Learning to critique a journal article
3	Reading on Intersectionality (1)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
4	Reading on Intersectionality (2)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
5	Research Proposal	Student presentation of research interests and topics Learning to use library resources in research
6	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
7	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
8	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research

9	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (6)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Student presentations and discussion of research
14	Research Paper Presentations (2)	Student presentations and discussion of research

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them and other students. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

[References]

- Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.
- Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.
- Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.
- Berger, M. T., & Guidroz, K. (eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.
- Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.
- Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.
- Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

[Grading criteria]

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussant presentation (18%)

Critiques on readings (20%)

Research topic presentation and research paper presentation (14%)

Research paper (40%)

[Changes following student comments]

Students have been fully satisfied with the course, saying that it was intense but worthwhile. However, the instructor will check constantly with students to keep the workload reasonable.

[Prerequisite]

Students are expected to have passed Race, Class and Gender I. However, this prerequisite may be waived if a student has the equivalent academic background.

Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

SOC400ZA

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II

Diana KHOR

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 4/Mon.4, 月 5/Mon.5

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項 > (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6415,A6416 はセットで受講すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

Continuing with what they have learned in the spring semester in "Seminar: Intersectionality I", students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

[Goal]

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality".

Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This is a continuation of the seminar in the Spring semester, with the same emphasis but more time devoted to student research. The seminar research and readings, as much as possible, will be based on students' individual research interests. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Overview	Getting re-acquainted Reflection on what students have learned in the Spring semester
2	Research Workshop (1)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
3	Research Workshop (2)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
4	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
5	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
6	Research in Progress	Research paper progress report and help session Decision on individual research readings in the second half of the seminar
7	Seminar Reading (1)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality
8	Seminar Reading (2)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality
9	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research

12	Research Workshop and Consultation	Individual consultation and peer critique on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Research paper presentations and discussions
14	Research Paper Presentations (2)	Research paper presentations and discussions

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

[References]

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.
Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.
Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.
Berger, M. T., & Guidroz, K.(eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.
Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.
Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.
Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

[Grading criteria]

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussant presentation (18%)

Critiques on readings (20%)

Research-in-progress presentation, peer critique, and research paper presentation (14%)

Research paper (40%)

[Changes following student comments]

Students have been fully satisfied with the course, saying that it is intense but worthwhile. However, the instructor will check constantly with students to keep the workload reasonable.

[Prerequisite]

Students are expected to have passed Seminar: Intersectionality I. Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

PSY400ZA

Seminar: Self and Culture I

Yu NIIYA

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 3/Mon.3, 月 4/Mon.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項 > (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6417, A6418 はセットで受講すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

The focus of this seminar is on a deeper understanding and analysis of how the self and culture shape how we feel, think, and behave, by drawing on empirical literature in social and cultural psychology. Throughout the year, the seminar will meet twice a week. In the spring, class time will be devoted to group discussions on assigned readings that examine how research in social psychology can help improve societies afflicted with the current pandemic. Students will gain a comprehensive knowledge on factors that explain compliance with various restrictions, the psychology behind panic buying, how tension emerges between ingroups vs. outgroups, how people process self-threatening information, and how to alleviate stress, and increase well-being of the self and others, during the pandemic.

[Goal]

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) to learn how social psychology can help understand our behaviors and decisions via literature review and in-depth discussion;
- (b) to develop a working knowledge of different approaches and methods of social and cultural psychology;
- (c) to develop a deeper understanding of our own lives, using knowledge and wisdom gained through the seminar; and
- (d) to develop research skills and knowledge to apply selected social psychological theories to a real-life context.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course combines several different kinds of pedagogical strategies including student-led weekly class discussions, presentations, and small group projects. Students will receive written feedback on their weekly reaction papers. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Share course overview, expectations, & requirements
2	What can social psychology do to help manage the current pandemic?	Identifying topics and theories that can help understand and improve people's behaviors during a pandemic
3	What encourages people to comply with the restrictions?	Identifying personality and situational factors associated with compliance with social-distancing
4	Panic buying	Identifying the psychological causes and consequences of panic buying
5	To wear or not to wear masks	Explaining the motivation behind mask-wearing behaviors
6	Getting the right information	Explaining why people become defensive and skeptical about health-threatening information
7	What have you learned so far?	Students report on what they have learned so far and proposal for intervention research
8	Ingroups vs outgroups	Identifying why stressful situations cause tension between ingroups and outgroups
9	Making difficult decisions	Discussing how people make decisions about priorities
10	What helps us feel better?	Identifying factors that promote well-being during a pandemic

11	What helps others feel better?	Identifying factors that help promote others' well-being
12	Students' paper 1	Discussing students' research proposals
13	Students' paper 2	Discussing students' research proposals
14	Final Synthesis	What have we learned and what are the next steps?

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete all the reading assignments, write weekly reaction papers, and post them on the course website by the designated date. Those assigned to lead discussions will further prepare discussion questions. Students will also formulate a research question and a hypothesis, review relevant literature on the topic, design an experimental study, collect and analyze data, and write up a final report. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Harris, S. R. (2014). *How to critique journal articles in the social sciences*. Los Angeles, CA: Sage.

[References]

The weekly readings and other resources will be posted on the course website.

[Grading criteria]

Students are evaluated based on weekly reaction papers (20%), active participation in class discussion (30%), leading the discussion (20%), quality of research project (10%), and a final research paper (20%).

[Changes following student comments]

Some students felt rushed during the discussion. We will meet 2 periods in a row to allow more time for in-depth discussion.

[Equipment student needs to prepare]

Students must get the login information for PsycINFO database from the library.

[Prerequisite]

Students must have successfully completed one or more from the following: Statistics, Social Psychology I or II, and Quantitative Research Methods (Social Research Methods). Instructor's permission is required.

PSY400ZA

Seminar: Self and Culture II

Yu NIIYA

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 4/Mon.4, 金 2/Fri.2

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項> (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6419,A6420 はセットで受講すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

The focus of this seminar is on a deeper understanding and analysis of how the self and culture shape how we feel, think, and behave, drawing on the empirical literature in social and cultural psychology. Throughout the year, the seminar will meet twice a week. In the fall, both days will be devoted to group discussions on student led research. Third year students will design and prepare an experiment to be conducted the following year; fourth year students will analyze their data and write a research paper in APA-style. Students will receive guidance on each step of research, from identifying and refining a research question, conducting a literature review, to creating a questionnaire, analyzing data, and reporting the results.

【Goal】

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) to design and implement a small-scale empirical study on the basis of previous research and skills learned during the Spring Term;
- (b) to analyze and interpret collected data using statistical software (e.g., JASP, SPSS, R, HAD); and
- (c) to write up a research paper formatted in APA style (for fourth year students).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course combines several different kinds of pedagogical strategies including student-led weekly class discussion, presentations, and small group projects. Students will receive feedback on their research design in class, during the discussion. They will also receive written feedbacks on their papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Shares course expectations and goals
2	Developing a Research Proposal: A Review	Reviews the process of developing a research proposal
3	Refining Your Research Proposal (1)	Reviews and shares student research proposals
4	Refining Your Research Proposal (2)	Reviews and shares student research proposals
5	Preparing for Research Implementation	Discusses the procedural matters for implementing research
6	Research Debriefing & Feedback (1)	Shares and gets feedback on the progress of student research
7	Research Debriefing & Feedback (2)	Shares and gets feedback on the progress of student research
8	Analyzing and Interpreting Data (1)	Shares and gets feedback on data analyses
9	Analyzing and Interpreting Data (2)	Shares and gets feedback on data analyses
10	Analyzing and Interpreting Data (3)	Shares and gets feedback on data analyses
11	Writing and Presenting an APA Research Paper (1)	Reviews APA writing and engages in peer review
12	Writing and Presenting an APA Research paper (2)	Reviews APA writing and engages in peer review
13	Writing and Presenting an APA Research paper (3)	Reviews APA writing and engages in peer review
14	Research Presentation	Reviews the entire semester, and shares research findings

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to prepare their research outside class and bring materials to discuss in class. Third students will formulate research questions and hypotheses, review relevant literature on the topic, design an experimental study, prepare research materials, and write up a research proposal; fourth year students will collect and analyze data, and write up a research paper. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

None.

【References】

Readings and other resources will be provided on the course website. Additional references will be introduced in class.

【Grading criteria】

Students are evaluated based on active participation in class discussion (30%), progress on their research project (30%), and a research proposal for third year students or a final research paper for fourth year students. For the latter, students are required to go through at least three rounds of revisions, graded as follows: 5% for the first draft, 10% for the second draft, 25% for the final draft.

【Changes following student comments】

The seminar meets twice a week to allow students to keep their full concentration and to show their peak performance throughout the 100 minutes.

【Equipment student needs to prepare】

Students must get the login information for PyscINFO database from the library.

【Prerequisite】

Students must have successfully completed one or more from the following: Statistics, Social Psychology I or II, and Quantitative Research Methods (Social Research Methods). Instructor's permission is required.

POL400ZA

Seminar: International Relations I

TAKESHI YUZAWA

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 4/Thu.4, 木 5/Thu.5

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項 > (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6421, A6422 はセットで受講すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

This is an annual seminar course, examining major contemporary challenges and questions in international relations (IR). The first two decades of the 21st century have witnessed dramatic changes in international relations. It has become increasingly obvious that the relative power and influence of the United States over world politics are declining vis-à-vis new rising states, most notably China. At the same time, the legitimacy of Western liberal norms and values (such as democracy, the rule of law, and human rights) that have constituted an important feature of an American-led order are being challenged by the rise of alternative norms and values, supported by rising authoritarian states. This trend has been further reinforced by rising public distrust of existing political systems in many of western democracies (in particular the United States), mainly stemming from detrimental effects of economic globalization. In addition, the international political stage, which was previously dominated by states, has increasingly featured non-state actors, including non-government organizations, multinational corporations, and terrorist groups. The enormous growth of non-state actors poses serious challenges to the power and authority of the state. These drastic changes in the realm of IR pose the significant question: **What will be the shape of the world order in the 21st century?**

In order to address this question, this seminar will examine the following:

- 1) Shifts in power distribution among major states, including the United States, China, Japan, India, and the major European countries.
 - 2) Prospects for international institutions and global governance.
 - 3) The rise of non-state actors: the role of NGOs and multinational corporations in world politics.
 - 4) The political effects of economic globalization (The rise of populism and the decline of democracy in major countries)
 - 5) Competition among differing norms and values: disputes over democracy, capitalism, human rights, and self-determination in the Middle East, Africa, and East Asia.
- Seminar participants will examine these critical issues by utilizing major theories of IR.

[Goal]

The course objectives are:

- 1) To provide students with a background for eventual careers in fields (including work in government, international organizations, business, and the media) which require articulate, clear-thinking individuals with a grasp of contemporary international relations (IR);
- 2) To enable students to establish a firm foundation for studying IR at graduate level;
- 3) To enable students to demonstrate mastery of the subject matter of the course through the expression of relevant factual knowledge and the comprehension of relevant theory, deployed with appropriate analytical skill, as evidenced in discussion, oral presentation and written work.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The spring semester will have detailed discussion on topics relating to the main theme of this seminar. Extensive review of IR theories will also be conducted in the early weeks of the semester.

During the fall semester (and the summer camp), students will undertake their own research projects. Seminar members will also engage in some group work relating to their research topics, role-play, and simulation studies).

Students will be required to write several short essays (only in the spring semester) and one research paper during the course (submitting a research paper by the late January 2022). Students can choose any topics within the discipline of IR. Minimum length for the research paper is 4,000 words. Fourth-year students will concentrate on their dissertation projects during the year. Dissertation subjects can be on anything within the IR discipline. Minimum length is 8,000 words, excluding bibliography, but including notes, any appendices and tables.

Comments for assignments are given during class and office hours. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course outline
2	Review of IR Theories	Reviewing IR theories
3	Seminar Topic 1	Discussion on the assigned topic
4	Seminar Topic 2	Discussion on the assigned topic
5	Debate 1	Debate
6	Seminar Topic 3	Discussion on the assigned topic
7	Seminar Topic 4	Discussion on the assigned topic
8	Debate 2 and the Mid-term Presentation (4th year students)	Presenting preliminary research proposal
9	Seminar Topic 6	Discussion on the assigned topic
10	Seminar Topic 7	Discussion on the assigned topic
11	Debate 3	Debate
12	Seminar Topic 8	Discussion on the assigned topic
13	Seminar Topic 9	Discussion on the assigned topic
14	Debate 4/Final Research Proposal Presentation (Fourth-year students)	Presenting a research proposal

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to engage in detailed independent and group study in order to achieve their seminar tasks. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Students are required to pore over assigned readings specified by the lecturer.

[References]

Information relating to references will be provided during the course.

[Grading criteria]

Third year students: Essays (45%), Presentations and Discussions (35%), Debate (20%). Fourth year students: Class Contributions (20%), Mid-Term and Final Presentations (35%), Research Proposals (45%).

[Changes following student comments]

Handouts to be provided in a timely manner.

[Equipment student needs to prepare]

Course materials will be delivered via the Hoppii.

[Prerequisite]

Students wishing to take this seminar are required to have completed "Introduction to International Relations" or "World Politics" .

POL400ZA

Seminar: International Relations II

TAKESHI YUZAWA

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 4/Thu.4, 木 5/Thu.5

Notes : <成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項> (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6423,A6424 はセットで受講すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This is an annual seminar course, examining major contemporary challenges and questions in international relations (IR). The first two decades of the 21st century have witnessed dramatic changes in international relations. It has become increasingly obvious that America's relative power and influence over world politics are declining vis-à-vis new rising states, most notably China. At the same time, the legitimacy of Western liberal norms and values (such as democracy, the rule of law, and human rights) that have constituted an important feature of an American-led order are being challenged by the rise of alternative norms and values, supported by rising authoritarian states. This trend has been further reinforced by rising public distrust of existing political systems in many of western democracies (in particular the United States), mainly stemming from detrimental effects of economic globalization. In addition, the international political stage, which was previously dominated by states, has increasingly featured non-state actors, including non-government organizations, multinational corporations, and terrorist groups. The enormous growth of non-state actors poses serious challenges to the power and authority of the state. These drastic changes in the realm of IR pose the significant question: **What will be the shape of the world order in the 21st century?**

In order to address this question, this seminar will examine the following:

- 1) Shifts in power distribution among major states, including the United States, China, Japan, India, and the major European countries.
- 2) Prospects for international institutions and global governance.
- 3) The rise of non-state actors: the role of NGOs and multinational corporations in world politics.
- 4) The political effects of economic globalization (The rise of populism and the decline of democracy in major countries)
- 5) Competition among differing norms and values: disputes over democracy, capitalism, human rights, and self-determination in the Middle East, Africa, and East Asia.

Seminar participants will examine these critical issues by utilizing major theories of IR.

【Goal】

The course objectives are:

- 1) To provide students with a background for eventual careers in fields (including work in government, international organizations, business, and the media) which require articulate, clear-thinking individuals with a grasp of contemporary international relations (IR);
- 2) To enable students to establish a firm foundation for studying IR at graduate level;
- 3) To enable students to demonstrate mastery of the subject matter of the course through the expression of relevant factual knowledge and the comprehension of relevant theory, deployed with appropriate analytical skill, as evidenced in discussion, oral presentation and written work.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The spring semester will have detailed discussion on topics relating to the main theme of this seminar. Extensive review of IR theories will also be conducted in the early weeks of the semester.

During the fall semester (and the summer camp), students will undertake their own research projects. Seminar members will also engage in some group work relating to their research topics and class simulation studies (role play game).

Students will be required to write several short essays (only in the spring semester) and one research paper during the course (submitting a research paper by the late January 2022). Minimum length for the research paper is 4,000 words. Fourth-year students will concentrate on their dissertation projects during the year. Minimum length is 8,000 words, excluding bibliography, but including notes, any appendices and tables.

Comments for assignments are given during class and office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Revised Research Proposal I	Presenting revised research proposals
2	Revised Research Proposal II	Presenting revised research proposals
3	Newspaper Content Analysis I	Analyzing contemporary topics by utilizing IR theories
4	Role play I	A simulation and role play exercise
5	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
6	Mid-term Presentation on Research Papers (Third-year students)	Reporting progress on research papers
7	Mid-term Presentation on Dissertations (Fourth-year students)	Reporting progress on dissertations
8	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
9	Role play II	A simulation and role play exercise
10	Newspaper Content Analysis II	Analyzing contemporary topics by utilizing IR theories
11	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
12	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
13	Final Presentation on Research Papers (Third-year students)	Presenting research papers
14	Final Presentation on Dissertations (Fourth-year students)	Presenting dissertations

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to engage in detailed independent and group study in order to achieve their seminar tasks. For this reason, students are expected to organize study groups (sub-seminars) outside of class. This seminar will host a summer camp. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Students are required to pore over assigned readings specified by the lecturer.

【References】

Information relating to references will be provided during the course.

【Grading criteria】

Third year students: Research Papers (including Mid-Term and Final Presentations) (50%), Newspaper Content Analysis (25%), Role Play (25%).

Fourth year students: Role Play (10%), Dissertations (including Mid-Term and Final Presentations (90%).

【Changes following student comments】

Handouts to be provided in a timely manner.

【Equipment student needs to prepare】

Course materials will be delivered via the Hoppii.

【Prerequisite】

Students wishing to take this seminar are required to have completed either "Introduction to International Relations " or "World Politics."

TRS400ZA

Seminar: Tourism Management I

John MELVIN

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 4/Mon.4, 月 5/Mon.5

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項 > (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6425, A6426 はセットで受講すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【Outline and objectives】

While governments are quick to laud the economic benefits that tourists can bring, there are growing concerns about the impact of relentless growth of global tourism on the environment as well as the socio-cultural wellbeing of host communities. Driven largely by deregulation, globalisation and technological developments, the overarching focus on growth that has driven post-WW2 development is being increasingly challenged and questioned. From 2021, the post-coronavirus recovery offers a rare chance for the tourism industry to consider unsustainable business practices.

Adopting a lens of sustainability, this semester considers the management and marketing of tourism. Combining analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations, students will gain insights into the factors driving tourism development. Students will be introduced to different research methods, and will acquire the tools to critically investigate tourism in a context of their choice. This will form the basis of an extended research paper that will be the completed during the second year of the semester.

【Goal】

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The seminar consists of in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management. In the spring semester, students are introduced to some core texts and research and are encouraged to start to consider which areas they intend to focus on. In the fall semester, students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.

While some seminars will be instructor-led, students will play an increasing role in giving presentations & leading discussions on the Core Readings. As students' own research develops, they will give presentations on their research, and share their growing expertise with others.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the seminar; The importance of adopting sustainable approaches.
2	Seminar Reading 1	Considering first case study on tourism management
3	Seminar Reading 2	Considering second case study on destination management and marketing

4	Seminar Reading 3	Considering third case study on tourism marketing
5	Research Methods	Introduction to research methods in business
6	Seminar Reading 4	Considering fourth case study on the tourist experience
7	Seminar Reading 5	Considering fifth case study on destination management
8	Research Project	Discussion on students' topics and research questions
9	Seminar Reading 6	Considering sixth case study on destination management
10	Seminar Reading 7	Considering seventh case study on differentiation
11	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students' research projects
12	Presentations on Student Research Proposal 1	Presentations and discussions on students' own research
13	Presentations on Student Research Proposal 2	Presentations and discussions on students' own research
14	Final Discussion	Roundtable discussion on first-semester progress and expectations for the second semester

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students must complete the assigned reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge. Students may purchase the paperback version or the e-book from the publisher's website. Alternatively, the e-book version may be rented for a fixed time more cheaply. More details will be provided in class. Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

【References】

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE
McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

【Grading criteria】

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).
Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and Final Paper (50%).

【Changes following student comments】

Case studies will vary year to year depending on students' interests. While our 2020 field trip and summer trip were cancelled, hopefully the situation in 2021 will improve and we will be able to go. Students must submit weekly reports on the reading and self-assessing their seminar performance.

【Equipment student needs to prepare】

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

【Others】

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】

Seminar students should have taken some of the following Business & Economy courses: Introduction to Tourism Studies; Introduction to Business; Principles of Marketing; Marketing in Japan; Tourism Development in Japan; Event Management; Marketing Management. Seminar students must concurrently enroll in Services Marketing and/or Cultural Tourism (300-level courses).

TRS400ZA

Seminar: Tourism Management II

John MELVIN

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 4/Mon.4, 月 5/Mon.5

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項 > (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6427, A6428 はセットで受講すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

[Outline and objectives]

This seminar continues from the Tourism Management I seminar, though with a greater focus on students' independent research projects. In addition to a field trip, students are expected to conduct investigative research that will form the basis of an extended research paper to be completed during the second year of the semester.

Building on knowledge acquired in the Spring seminar on the management and marketing of tourism, the class content will continue to blend analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations on tourism management. These will vary from year to year based on students' research interests.

[Goal]

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Following on from the Spring semester, the seminar will continue to feature in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management in the form of discussion, presentation and writing. In the Fall semester, students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.

In order to get the most from each seminar, students must commit to undertake the reading assignments. Students will play an increasing role in leading discussions.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the Fall seminar; reflection on what students have learned in the Spring semester
2	Research Topic Presentation	Based on the research conducted in the Spring semester and over the summer break, students will present their research proposals (3rd year students) or research plans (4th year students) for this semester
3	Seminar Reading and Research Themes	Discussion on the focus of this semester's reading
4	Seminar Reading 1	Considering first case study on tourism management
5	Field Study Preparation	Preparation for the field study based on students' interests
6	Field Study (off-campus)	Conducting the field study at a tourism-related site
7	Field Study Feedback	Considering the field study findings
8	Research Project Progress Update	Research project progress report; discussion of readings
9	Seminar Reading 2	Considering second case study on tourism management

10	Seminar Reading 3	Considering third case study on tourism management
11	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students' research projects
12	Presentations on Student Research Projects 1	Presentations and discussions on students' individual research projects
13	Presentations on Student Research Projects 2	Presentations and discussions on students' individual research projects
14	Final Discussion	Roundtable discussion on second-semester progress and expectations for the second year

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must complete the assigned reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge. Students may purchase the paperback version or the e-book from the publisher's website. Alternatively, the e-book version may be rented for a fixed time more cheaply. More details will be provided in class. Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

[References]

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE
McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

[Grading criteria]

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and Final Paper (50%).

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to get the most benefit from the seminar.

[Changes following student comments]

Case studies will vary year to year depending on students' interests. While our 2020 field trip and summer trip were cancelled, hopefully the situation in 2021 will improve and we will be able to go.

Students must submit weekly reports on the reading and self-assessing their seminar performance.

[Equipment student needs to prepare]

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

[Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

[Prerequisite]

Seminar students should have passed Seminar: Tourism Management I.

MAN400ZA

Seminar: Entrepreneurship & Innovation I

EYO Shiao Jia

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 1/Tue.1, 火 2/Tue.2

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項 > (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6429,A6430 はセットで受講すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

In this seminar, students will learn theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation.

【Goal】

The goal of this seminar is to provide students with fundamental theories, and contemporary practices of entrepreneurship and innovation. Students will learn the importance of entrepreneurship and innovation to a country's economic growth. In addition, through case studies, students will learn how firms use innovation to create new products, new markets, new organizations, new business model and new industries.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This seminar introduces students to the concept of entrepreneurship and innovation. This is a growing economic field that positions knowledge, technology, entrepreneurship, and innovation at the center of the economic model. Through readings of academic journals and textbooks, students will learn the concepts, theories and research being done in this field. Key concepts related to this seminar include dimensions of innovation (product, process, radical, incremental, disruptive, open innovation); invention and commercialization of innovation; entrepreneurship; start-ups and venture capital; diffusion of innovation; and policy towards innovation. This course is taught primarily through presentations and discussions. Feedback is given during class time, using tools such as HOPPII and email. Students give presentations on selected readings as well as on their own research. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the seminar
2	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (1)	Schumpeter on innovation and entrepreneurship
3	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (2)	Innovation diffusion theories
4	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (3)	Case studies
5	Disruptive Innovation (1)	Understanding disruptive innovation and its impact
6	Disruptive Innovation (2)	Case studies Photography industry Medical industry
7	Disruptive Innovation (3)	Case studies Retail industry Entertainment industry
8	Disruptive Innovation (4)	Case studies Telecommunication industry
9	Open Innovation (1)	Understanding open innovation
10	Open Innovation (2)	Case studies
11	Open Innovation (3)	Case studies
12	Open Innovation (4)	Case studies
13	History's Best Examples of Business Transformation (1)	Final presentation and discussion
14	History's Best Examples of Business Transformation (2)	Reflection on what we have learnt

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading and preparation for discussion/presentation. Students are required to read the assigned readings adequately to be able to engage in active discussion in class. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used

【References】

Bessant, John and Tidd, Joe. *Innovation and Entrepreneurship*, 3rd edition. Wiley, 2015
 Christensen, Clayton. *The Innovation Dilemma*, Harvard Business Review, 2013
 Chesbrough, Henry. *Open Innovation: The New Imperative for Creating And Profiting from Technology*, Harvard Business Review, 2006
 Grant, Robert. *Contemporary strategy analysis: text and cases*, 9th edition, Wiley, 2016
 Other case studies from Harvard Business Publishing and journal articles.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (20%), case study presentations and discussions (50%) and a term paper (30%).

【Changes following student comments】

Not applicable

【Prerequisite】

Students who passed the interview process for the seminar.

MAN400ZA

Seminar: Entrepreneurship & Innovation II

EYO Shiao Jia

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 3/Tue.3, 火 4/Tue.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者> ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項> (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6431,A6432 はセットで受講すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

[Outline and objectives]

In this seminar, students will learn theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation.

[Goal]

This is a continuation of the seminar from the Spring semester. We will continue to learn concepts and theories related to entrepreneurship and innovation but more emphasis will be placed on case studies. Students will refine their skills in discussion and presentation. Students will also conduct their own research related to a theme in this seminar.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Students will further examine the theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation through case studies. Students will read and discuss papers and research conducted in this area. In the process, they will acquire tools and perspectives to formulate a research question and to apply what they have learnt to their own research. Feedback is given during class time, using tools such as HOPPII and email.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Review of theories we have learnt
2	Industry Analysis (1)	Industry attractiveness and Porter's Five Forces
3	Industry Analysis (2)	Case studies
4	Resources and Capabilities (1)	Case studies
5	Competitive Advantage	Case studies
6	Blue Ocean Strategy (1)	How to create uncontested market space and make the competition irrelevant
7	Blue Ocean Strategy (2)	Case studies
8	Technology-based Industries (1)	Strategies in technology-based industries
9	Technology-based Industries (2)	Case studies
10	National Innovation System (1)	Understanding innovation at a nation's level
11	National Innovation System (2)	Innovation and competitiveness
12	National Innovation System (3)	Case studies
13	Final presentation (1)	Presentations and discussion
14	Final presentation (2)	Reflection on what we have learnt

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week, there is work to do: reading and preparation for discussion/presentation. Students are required to read the assigned readings adequately to be able to engage in active discussion in class. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

No particular textbook.

[References]

Bessant, John and Tidd, Joe. *Innovation and Entrepreneurship*, 3rd edition. Wiley, 2015
Grant, Robert. *Contemporary strategy analysis: text and cases*, 9th edition, Wiley. 2016
Other case studies from Harvard Business Publishing and journal articles.

[Grading criteria]

Students will be evaluated based on class participation (20%), case study presentations and discussions (50%) and a term paper (30%).

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Prerequisite]

Passed Seminar: Entrepreneurship and Innovation I

MAN400ZA

Seminar: Global Strategic Management I

Takamasa FUKUOKA

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 3/Fri.3, 金 4/Fri.4

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項 > (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6433,A6434 はセットで受講すること。

他学部公開 : グローバル : 成績優秀 : ○ 実務教員 : ○

[Outline and objectives]

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on "Global Marketing Strategy", including the following fields: Intercultural Communication, Negotiation, Brand Management, Advertisement, PR, Decision Making, and Organization.

[Goal]

By the end of the seminar, students will: (a) gain academic knowledge of international / global business (b) learn "practical wisdom" by pursuing the reality (c) learn the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking (d) learn logical / critical thinking and effective presentation skills (e) develop and enhance strategic business planning skills.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through: (a) learning theoretical studies and case studies, (b) visiting companies and local areas, (c) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (d) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (e) approaching from manager's perspective, (f) making presentations and discussion based on "facts and data" and "experience", (g) participating in business contests.

In addition, we sometimes use case methods being currently used by the MBA program in western countries.

Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, 70% of this course will be held on campus, though at level 2, 50% will be held on campus.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Overview	Confirmation of the goals of this seminar and the responsibility of each seminar member
2	Research Method	Understanding of the Qualitative and Quantitative approach with various samples
3	Analysis of Management Strategy (1)	Understanding of the analysis methods for management strategy
4	Analysis of Management Strategy (2)	Understanding of the analysis methods for management strategy
5	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic view point
6	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
7	Case Study (3)	Discussion on the case study from the strategic view point
8	Library Tour	Learning of how to use the library database
9	Prior Research (1)	Presentation and discussion on the prior research
10	Prior Research (2)	Presentation and discussion on the prior research
11	Prior Research (3)	Presentation and discussion on the prior research
12	Presentation for Research Proposal (1)	Presentations and discussion on the individual research proposal

13	Presentation for Research Proposal (2)	Presentations and discussion on the individual research proposal
14	Wrap-up	Wrap-up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

- Students are expected to engage in sub-seminar to deepen understanding of the management strategy, analysis methods, business model, etc.
 - Students need to make good preparations for individual / group study
 - Students are encouraged to join the summer training camp
- Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor.

[References]

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

[Grading criteria]

Participation (presentation / discussion etc.) (40%)

Assignment (20%)

Interim Report (3rd year students) (40%)

Final Report (4th year student) (40%)

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer's global business experience.

[Prerequisite]

None.

MAN400ZA

Seminar: Global Strategic Management II

Sairan HAYAMA

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 4/Mon.4, 月 5/Mon.5

Notes : < 成績優秀者の他学部科目履修制度利用者 > ウェブサイトの 3. 科目別の注意事項 > (1) GIS 主催科目の履修上の注意を参照。授業開始前に事前面談が必要。A6435,A6436 はセットで受講すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

Following Global Strategic Management I, Global Strategic Management II is designed for more group discussion and puts emphasis on planning and conducting independent research based on what students learn in the spring semester. Students are expected to participate in a business contest in this course, work with companies / local governments, and conduct a field study.

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on Global Marketing Strategy, Cross-Culture Management, Intercultural Communication, Brand Management, Global Advertisement, Decision Making, and CSR Strategy.

【Goal】

By the end of the seminar, students will gain (1)academic knowledge about international / global business, (2) practical wisdom by pursuing the reality in business activities, (3) the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking,(4) logical / critical thinking ability and effective presentation skills, (5) the ability to develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through (1) learning theoretical studies and case studies, (2) visiting companies and local areas, (3) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (4) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (5) approaching from manager's perspective, (6) making presentations and discussions based on “facts and data” and “experience”, (7) participating business contests. Necessary feedback will be given for the diversified academic activities at the class meetings.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation and Introduction	Overview of the course guidelines for the fall semester and confirm the syllabus
2	Preparation for the Field Study	Preparation for the field study based on students' interest
3	Field Study (Outside the Campus)	Conduct of field study based on students' interest
4	Presentation and Discussion	Presentation and Discussion based on the findings in the field study
5	Presentation of your field study	Findings and Management Issues for your field study
6	Preparation of Business Plan Competition (1) — Marketing Analysis	Marketing analysis (analysis of the status quo)
7	Preparation of Business Plan Competition (2) — Planning	Planning from a strategic view point
8	Preparation of Business Plan Competition (3) — Presentation and Discussion	Presentation and discussion

9	Preparation of Business Plan Competition (4) — Final Presentation and Discussion	Revised presentation and discussion
10	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic viewpoint
11	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
12	Oral Presentation for Individual Research (1)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
13	Oral Presentation for Individual Research (2)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
14	Review for this course	Student will be asked to present for what they have learned in this course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・ Students are expected to engage in this course to deepen their understanding about global management strategy, analysis methods, business model, etc.
- ・ Students need to prepare for individual / group study and presentations.
- ・ Students are encouraged to join the summer training camp.
- ・ Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor if necessary.

【References】

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】

Participation (presentation / discussion etc.) — 40%

Assignment — 20%

Interim Report (3rd year students) — 40%

Final Report (4th year student) — 40%

【Changes following student comments】

N/A

【Prerequisite】

Global Strategic Management I

POL100NA

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・実例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

- 1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
- 2. 海外留学の実態について理解する。
- 3. 6～8人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
- 4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループにより JICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1） 小野澤	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグループ分けを行う。
第二回	我が国の国際協力 浅川	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGs を参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1） 西宮	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2） 浅川	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3） 浅川	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題 西宮	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に JICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4） 小野澤	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5） 小野澤	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャンペーン・デベロップメントについて考える。
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。

第十一回	グループ発表 講師全員（1）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表 講師全員（2）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表 講師全員（3）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評 講師全員	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点： 20 %。課題パワーポイント作成と発表課題 50 %、課題レポート：30 %。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。
2020 年は、コロナ禍のため Zoom を利用した遠隔での講義となった。この状況でも、ソフトウェアを駆使して、グループワークを実施した。本年は、状況をみて可能な限り対面での講義・グループワークが行えるようにしたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

授業には Powerpoint を使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説と SDGs 設定の背景の解説を主として行う。

【Outline and objectives】

This series of lectures presents the current state of Japanese-involved international cooperation for developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by looking at issues such as cultural differences. Focus is given to official development assistance (ODA) carried out by the government of Japan. A group project which reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required on top of regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her own global perspective.

POL100NA

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・実例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6～8人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留學生生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループにより JICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1） 小野澤	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグループ分けを行う。
第二回	我が国の国際協力 浅川	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGs を参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1） 西宮	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2） 浅川	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3） 浅川	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題 西宮	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に JICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4） 小野澤	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5） 小野澤	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャンペーン・デベロップメントについて考える。
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。

第十一回 グループ発表
講師全員（1）

第十二回 グループ発表
講師全員（2）

第十三回 グループ発表
講師全員（3）

第十四回 授業のまとめと講評
講師全員

調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点： 20 %。課題パワーポイント作成と発表課題 50 %、課題レポート：30 %。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。
2020 年は、コロナ禍のため Zoom を利用した遠隔での講義となった。この状況でも、ソフトウェアを駆使して、グループワークを実施した。本年は、状況をみて可能な限り対面での講義・グループワークが行えるようにしたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

授業には Powerpoint を使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説と SDGs 設定の背景の解説を主として行う。

【Outline and objectives】

This series of lectures presents the current state of Japanese-involved international cooperation for developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by looking at issues such as cultural differences. Focus is given to official development assistance (ODA) carried out by the government of Japan. A group project which reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required on top of regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her own global perspective.

POL100NA

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・実例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6～8人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループにより JICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1） 小野澤	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグループ分けを行う。
第二回	我が国の国際協力 浅川	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGs を参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1） 西宮	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2） 浅川	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3） 浅川	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題 西宮	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に JICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4） 小野澤	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5） 小野澤	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャンペーン・デベロップメントについて考える。
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。

第十一回	グループ発表 講師全員（1）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表 講師全員（2）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表 講師全員（3）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評 講師全員	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点： 20 %。課題パワーポイント作成と発表課題 50 %、課題レポート： 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。
2020 年は、コロナ禍のため Zoom を利用した遠隔での講義となった。この状況でも、ソフトウェアを駆使して、グループワークを実施した。本年は、状況をみて可能な限り対面での講義・グループワークが行えるようにしたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

授業には Powerpoint を使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説と SDGs 設定の背景の解説を主として行う。

【Outline and objectives】

This series of lectures presents the current state of Japanese-involved international cooperation for developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by looking at issues such as cultural differences. Focus is given to official development assistance (ODA) carried out by the government of Japan. A group project which reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required on top of regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her own global perspective.

ART100NA

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	25%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。現時点ではオンライン授業とする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	都市を視る目	都市図を読解する。
第 02 回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第 03 回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第 04 回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第 05 回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史的変容についての基礎知識を得る。
第 06 回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第 07 回	江戸の裏店屋	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第 08 回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第 09 回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第 10 回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第 11 回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第 12 回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第 13 回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第 14 回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 % と期末の論述試験 90 %。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【Outline and objectives】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

ART100NA

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	○			◎		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。現時点ではオンライン授業とする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	都市を視る目	都市図を読解する。
第 02 回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第 03 回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第 04 回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第 05 回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史的変容についての基礎知識を得る。
第 06 回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第 07 回	江戸の裏店屋	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第 08 回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第 09 回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第 10 回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第 11 回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第 12 回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第 13 回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第 14 回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 % と期末の論述試験 90 %。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【Outline and objectives】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

ART100NA

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。現時点ではオンライン授業とする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	都市を視る目	都市図を読解する。
第 02 回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第 03 回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第 04 回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第 05 回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史的変容についての基礎知識を得る。
第 06 回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第 07 回	江戸の裏店層	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第 08 回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第 09 回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第 10 回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第 11 回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第 12 回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第 13 回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第 14 回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 % と期末の論述試験 90 %。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【Outline and objectives】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

SES100NA

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていくことを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に 20 世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は 21 世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	○	○			◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○当面の間、学習支援システムを利用した資料の提供、課題の提示および提出、質問等の受付、を行う。ただし、学生の IT 環境を鑑みつつ、リモート授業も併用する。

○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定

○授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGs などの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及び IEA（国際エネルギー機構）の WEB サイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回、資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの小テストを含む受講状況（20%）により評価します。授業中実施する小クイズ総数によりこの比率は変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしします。

【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline and objectives】

The term “Anthropocene” was coined to suggest that the earth has been moving toward a new geological epoch, based on the recognition that humankind has been become a significant driving force for “changes of a global magnitude on the earth”. Human activities starting at the Industrial Revolution, such as economic activity, utilization of earth resources, transportation, telecommunication including population growth and so on, have rapidly developed and tremendously accelerated in particular since the last half of the 20th century and continue to accelerate even in the 21st century. Energy and material flow characterizing human activities continue to expand globally and their impact on the earth are emerging. Ultimately they leave many questions regarding the sustainable development of human society.

The objectives of this course are: to acquire basic knowledge of energy and the environment; to overview historically the relationship between human activities, centered on utilization of energy and resources, and the environment; to analyze the impact of human activities on the environment in terms of technologies, well-being and culture; to learn the framework to understand today’s energy and environmental issues.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていくことを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に 20 世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は 21 世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	○	○			◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○当面の間、学習支援システムを利用した資料の提供、課題の提示および提出、質問等の受付、を行う。ただし、学生の IT 環境を鑑みつつ、リモート授業も併用する。

○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定

○授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGs などの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及び IEA（国際エネルギー機構）の WEB サイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回、資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80％）及びテーマ/内容ごとの小テストを含む受講状況（20％）により評価します。授業中実施する小クイズ総数によりこの比率は変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしします。

【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline and objectives】

The term “Anthropocene” was coined to suggest that the earth has been moving toward a new geological epoch, based on the recognition that humankind has been become a significant driving force for “changes of a global magnitude on the earth”. Human activities starting at the Industrial Revolution, such as economic activity, utilization of earth resources, transportation, telecommunication including population growth and so on, have rapidly developed and tremendously accelerated in particular since the last half of the 20th century and continue to accelerate even in the 21st century. Energy and material flow characterizing human activities continue to expand globally and their impact on the earth are emerging. Ultimately they leave many questions regarding the sustainable development of human society.

The objectives of this course are: to acquire basic knowledge of energy and the environment; to overview historically the relationship between human activities, centered on utilization of energy and resources, and the environment; to analyze the impact of human activities on the environment in terms of technologies, well-being and culture; to learn the framework to understand today’s energy and environmental issues.

SES100NA

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていくことを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に 20 世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は 21 世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	○	○			◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○当面の間、学習支援システムを利用した資料の提供、課題の提示および提出、質問等の受付、を行う。ただし、学生の IT 環境を鑑みつつ、リモート授業も併用する。

○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定

○授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGs などの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及び IEA（国際エネルギー機構）の WEB サイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回、資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80％）及びテーマ/内容ごとの小テストを含む受講状況（20％）により評価します。授業中実施する小クイズ総数によりこの比率は変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしします。

【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline and objectives】

The term “Anthropocene” was coined to suggest that the earth has been moving toward a new geological epoch, based on the recognition that humankind has been become a significant driving force for “changes of a global magnitude on the earth”. Human activities starting at the Industrial Revolution, such as economic activity, utilization of earth resources, transportation, telecommunication including population growth and so on, have rapidly developed and tremendously accelerated in particular since the last half of the 20th century and continue to accelerate even in the 21st century. Energy and material flow characterizing human activities continue to expand globally and their impact on the earth are emerging. Ultimately they leave many questions regarding the sustainable development of human society.

The objectives of this course are: to acquire basic knowledge of energy and the environment; to overview historically the relationship between human activities, centered on utilization of energy and resources, and the environment; to analyze the impact of human activities on the environment in terms of technologies, well-being and culture; to learn the framework to understand today’s energy and environmental issues.

ジオロジカルエンジニアリング

山本 浩之

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジオロジカルエンジニアリングは、地質学と工学の境界領域の学問と位置づけられる。本講座では、主として土木構造物に分類されるダムやトンネル・橋梁などの建設といった、とくに社会基盤事業にかかわる技術者に必要な地盤工学（あるいは地質工学）の基礎と、それを応用する知識を養うことを目的としている。

【到達目標】

1. 土木構造物の基礎となる地盤について、その見方・考え方を習得する。
2. 調査・設計・施工の各プロセスにおける地盤評価の重要性とその方法・内容を理解する。
3. 地盤に起因するトラブルについて、評論家の立場ではなく、一技術者として倫理感や問題意識を持てるような思考力を培う。
4. 基礎岩盤の支持力や斜面の安定対策の見識を深め、簡易な安定計算ができるようにする。
5. 講義中に行う演習などによって、技術者としての文章表現力の基礎を習得する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 60%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

地質情報概論（0.5 回）は、学問領域における位置づけと、社会基盤事業とのかかわりを考える。
地質の基礎知識（1.5 回）は、岩盤の種類と成因、地質年代と特徴、岩種からの問題点のイメージを通じて、地質に対する理解を深める。
特別講義（2 回）では、「地球の動き／地震」「原子力発電所の地震・津波対策」を通じて、ジオロジカルエンジニアリングの最近の動向・トピックを紹介する。
地質調査・試験（1 回）では、ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験、地盤の分類（1 回）では岩盤の工学的分類法について理解を深める。
ダムと地質情報（2 回）、トンネルと地質情報（2 回）、構造物基礎と地質情報（1 回）では、重要な社会基盤事業であるダム、トンネル、橋梁の種類や施工方法、地質情報との関係を講義するとともに、貴重な実際の建設記録をDVDなどで紹介し、理解を深める。
のり面と地質情報（2 回）では、のり面の基本、設計方法、安定対策について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。
地すべりと地質情報（1 回）では、近年、ゲリラ豪雨や台風などによる災害が多発している地すべり地形的特徴と見方について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。
最終の講義では、上記 14 回の講義内容、演習、小論文に対する講評、解説も行う。
授業形態は、原則スライドショーで行い、毎回演習を実施する。なお、演習解答の提出を出欠の確認とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地質情報概論、地質の基礎知識 (1)	ジオロジカルエンジニアリングの講義内容、社会基盤事業とジオロジカルエンジニアリングとの関係。岩盤の種類と成因、年代と特徴、岩種からの問題点のイメージ。
2	地質の基礎知識 (2)	岩盤の風化・変質、地質構造。
3	特別講義 (1)	地震・活断層、津波、プレートテクトニクス、地震予知。
	「地球の動き／地震」の解釈の歴史的変遷、現状を理解する。	

4	地質調査・試験	ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験。
	代表的な地質調査・試験方法について知識を深める。	
5	地盤の分類（岩盤分類）	岩盤分類法、海外の岩盤分類。
	岩盤を定量的に区分する方法について理解する。	
6	ダムと地質情報 (1)	ダムの種類、ダムの基礎処理。日本で最も大きい黒部ダム施工事例。
	ダムの設計と施工方法を理解する。	
7	ダムと地質情報 (2)	ダムの歴史的発展、ダムの安定計算方法。
	ダムの設計と施工方法を理解する。	
8	特別講義 (2)	原子力発電所の地震対策、津波対策、再開方法。
	「原子力発電所の地震・津波対策について」最新の現状を理解する。	
9	トンネルと地質情報 (1)	トンネル・地下空洞の種類、施工方法、前方予測。
	トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。	
10	トンネルと地質情報 (2)	日本で最も長い青函トンネルと大規模トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。
11	構造物基礎と地質情報	橋梁の種類と発展、橋梁基礎の安定性に関わる施工事例。
	橋梁の歴史的変遷と橋梁基礎の安定性に関する考え方を理解する。	
12	のり面と地質情報 (1)	掘削のり面の基本、岩盤の異方性とのり面の安定性との関係。
	掘削のり面の基本と岩盤の異方性を通じて安定性を理解する。	
13	のり面と地質情報 (2)	掘削のり面の安定対策、直線すべりの安定計算。
	のり面の安定対策方法と設計方法を習得する。	
14	地すべりと地質情報	地すべり地形的特徴と見方、円弧すべりの安定計算。講義全般のキーワードの確認。
	地すべり地形的特徴と安定計算方法を習得する。	
	講義全般をまとめる。	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 教科書全体の通読、教科書 1 章地盤の地質の予習・復習
 2. 教科書 1 章地盤の地質の予習・復習
 3. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
 4. 教科書 2 章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
 5. 教科書 2 章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
 6. 教科書 3 章ダムと地質調査の予習・復習
 7. 教科書 3 章ダムと地質調査の予習・復習
 8. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
 9. 教科書 4 章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
 10. 教科書 4 章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
 11. 教科書 6 章基礎と地盤地質の予習・復習
 12. 教科書 7 章法面と地盤地質の予習・復習
 13. 教科書 7 章法面と地盤地質の予習・復習
 14. 教科書 7 章法面と地盤地質の予習・復習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

改訂新版「建設工事と地盤地質」著者：古部 浩・武藤 光・山本浩之・宇津木慎司、発行所：古今書院 を使用する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義で実施する演習問題（記述・作図・計算など）の提出により習得度を評価し、その合計から評価点（100 点満点）を算出する。
可否の基準は、100-90 点を S、89-87 点を A+、86-83 点を A、82-80 点を A-、79-77 点を B+、76-73 点を B、72-70 点を B-、69-67 点を C+、66-63 点を C、62-60 点を C-とし合格とする。59-0 点または欠席 4 回以上を D、未受講、採点不能を E とし不合格とする。
期末試験は実施しないが、演習の習得度によりレポート提出を求める場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の習得度を向上させるため、毎回の講義で行なう演習の時間配分を改善する。

【学生が準備すべき機器他】

三角関数付き電卓、目盛り付き三角定規、分度器を必携とする。

【その他の重要事項】

現役の建設会社に勤務する博士（工学）、技術士（応用理学）の資格を有する教員が、その経験と知識に則した地形・地質の観点から建設工事の着目点を講義する。

【Outline and objectives】

Geological engineering is a discipline combining geology and civil engineering. In this course, we will introduce the fundamentals of geotechnics (or geotechnical engineering) necessary for engineers involved in projects of social infrastructure, such as construction of dams, tunnels and bridges, which are mainly classified as civil engineering structures, and the knowledge to apply them.

DES100NA

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デザインとは人間の生活を肯定的にとらえ、また人間の生活をより良くしていくものである。それは人間が誕生し、自分たちどこに住めばよいかと考えたときからすでに始まっていると言えるだろう。

古くから営々と続く人間のものづくりから最先端のデザイン事例までを観察することから、それがなぜ生まれたのか、何が必要とされているのかを考え、ものの見方を養う。

授業内容は、いわゆるプロダクトデザインのみならず、芸術、建築、各種デザイン、映画、文学から社会現象まで、幅広いジャンルを歴史、現在に至るまでを、縦横に取り上げ、人間の創造活動全般を研究対象とする

【到達目標】

1) 「創造したい」という気持ちを育む。
2) 「創造」のために何が必要かということが認識でき、その方法を自分で探究することができる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Zoom による遠隔講義。課題提出、発表もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
4 月 7 日	ガイダンス	授業の進め方と注意事項など。
4 月 14 日	自宅制作のスタディ・課題 1	自分の顔を観察する。それを紙の上に再現してみる。自分の顔のデッサン。
4 月 21 日	自宅制作のスタディ・課題 2	描いたデッサンを元に、自分の似顔絵を描く。デフォルメして、顔の特徴を人にわかりやすく伝える。
4 月 28 日	課題のプレゼンテーションと自己紹介 1	描いたデッサンを元に、自分の似顔絵を描く。デフォルメして、顔の特徴を人にわかりやすく伝える。
5 月 12 日	課題のプレゼンテーションと自己紹介 2	Zoom で自分の作品を説明す
5 月 19 日	2020 年～21 年にかけてのデザイン・建築での新しい動き	TA の人の自己紹介、最近のデザイン界の動き、GW の課題など。
6 月 2 日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か? 前編	現在のレオナルド・ダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか? ダ・ヴィンチの功績をみる。
6 月 9 日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か? 後編	レオナルド・ダ・ヴィンチが現代に与えた影響について考察する。
6 月 16 日	千田勝フランスからのレクチャー	法政大を卒業してブルターニュで設計事務所を主宰する千田勝氏。現在パリで進行中の持続可能な社会をテーマにしたプロジェクトを紹介する。
6 月 23 日	西洋文化の源流ギリシアの神殿とその美術 1	ヨーロッパ文化の二大源流のひとつ、ギリシア文明を見る。パルテノン神殿が現代建築家に与えた影響。
6 月 30 日	西洋文化の源流ギリシアの神殿とその美術 2	ギリシア美術その他。シシリア、セリエンテの遺跡とその引用など。
7 月 7 日	都市の観察 1 ヤンゴン	政治的に不安定ではあるが、今アジアの都市として発展めまぐるしいミャンマー、ヤンゴン。都市化が進むということはどういうことかを具体的に見て考える。

7 月 14 日 都市の観察 2 フィンランド フィンランドの首都ヘルシンキを例に、ひとつの都市が持つ歴史的建造物から現代の建築家の作品、都市交通の現在までをみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート 40%、一部授業後の提出物 30%、平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

未定

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のときには、各自自分に合った画材を用意すること。また画像をスキャンして提出することがある。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、抽選でクラスの人数を 120 名ほどに限定する可能性がある。

最新情報を授業で紹介することもあるので、講義内容はテーマと同じになるとは限らない。また場合によっては前後することもある。

千田勝氏のレクチャーに関しては状況によっては開催できない、もしくはスケジュール変更の可能性あり。

【Outline and objectives】

What "design" is? Design takes a positive view of life. Design improves human being's life. It has already begun since the birth of mankind.

We will see not products but also art, architecture, literature, graphic design films and movements. Especially urban facilities like transportation, from ancient time to present, what we, human beings have created?

This lecture gives you new way of perspective.

DES100NA

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「デザインとは何か？」を考察する。

古くから営々と続く人間のものづくりから最先端のデザインまでを観察することから、それがなぜ生まれたのか、何が必要とされているのかを問う。授業内容は、いわゆるプロダクトデザインのみならず、芸術、建築、各種デザイン、映画、文学から社会現象まで、幅広いジャンルを縦横に取り上げ、人間の創造活動全般を研究対象とする。特に自分たちの身のまわりに存在する都市施設に関連することを主に、具体的な例からデザインの文化的側面を考察していくことを目的とする。

【到達目標】

- 1) 「創造したい」という気持ちを育む。
- 2) 「創造」のために何が必要かということが認識でき、その方法を自分で探究することができる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義が主。
実習、ワークショップも実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業のねらいと注意事項および教員紹介。
2	イントロダクション	自分が今何に興味を持っているのか？ 各自の自己紹介を含むキックオフを行う。
3	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か？	現在のダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか？ ダ・ヴィンチの功績をみる。
4	都市の観察	経済成長著しいミャンマー、ヤンゴンの街の観察から、デザインの意義を考える。
5	身のまわりの観察	毎日過ごしている自分のまわりをきちんと観察しているのか？ 法政大学市ヶ谷キャンパスをどう表現するか、地図を製作してみる。
6	講評	各自が製作した地図をお互いに講評する。
7	地図からデザインを探る ロンドン地下鉄路線図	1933年に作られたハリー・ベックの地下鉄路線図とグーグルマップの比較からデザインの意義を考える。
8	ロンドン交通局 C I のはじめ	フランク・ベックによるロンドン交通局のデザイン統合から、トマス・ヘザウィックの最新バスまで。
9	ニューヨークの地下鉄路線図と新車両	マッシュモ・ヴィネッリの路線図とロンドンの違い。 ニューヨークの地下鉄車両デザインの現在を探る。
10	パリのメトロにおけるデザインと文化	スプラグ・トムソンの車両からギマールのアールヌーボ駅舎。都市の地下利用の例をみる。
11	東京の地下鉄	昨年 90 年を迎えた東京メトロ。その成り立ちを考察する。杉浦非水のポスター、百貨店との関係。

12	その他の都市の地下鉄とデザイン	大阪、リオデジャネイロ、モスクワなど各都市独自の交通機関とそのデザインをみる。
13	ワークショップ	デザイン思考を取り入れた会社が現在おこなっているワークショップを実際に体験してみる。
14	主要テーマに沿った資料集めと、そのまとめ	これまでの授業の中から自分で興味を持ったテーマを選択する。そのテーマを研究するための資料を探し、内容を、自分の文章で表現する。結果はレポートとして授業後に提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート 50%、一部授業後の提出物 25%。出席点 25%

【学生の意見等からの気づき】

未定

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

This course discusses the question, "What is design?"

By looking at design from long-established means of producing items to today's state of the art, we question what ideas have been essential throughout.

Topics will not be limited to product design, but also cover a wide genres from art, architecture, all types of design, film, literature through to social phenomenon, researching all types of creative human endeavors. We aim to consider in particular themes related to urban institutions around us, from concrete examples to cultural perspectives.

DES100NA

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デザインとは人間の生活を肯定的にとらえ、また人間の生活をより良くしていくものである。それは人間が誕生し、自分たちどこに住めばよいかと考えたときからすでに始まっていると言えるだろう。

古くから営々と続く人間のものづくりから最先端のデザイン事例までを観察することから、それがなぜ生まれたのか、何が必要とされているのかを考え、ものの見方を養う。

授業内容は、いわゆるプロダクトデザインのみならず、芸術、建築、各種デザイン、映画、文学から社会現象まで、幅広いジャンルを歴史、現在に至るまでを、縦横に取り上げ、人間の創造活動全般を研究対象とする。

【到達目標】

- 1) 「創造したい」という気持ちを育む。
- 2) 「創造」のために何が必要かということが認識でき、その方法を自分で探究することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Zoom による遠隔講義。課題提出、発表もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
4月7日	ガイダンス	授業の進め方と注意事項など。
4月14日	自宅制作のスタジオ・課題1	自分の顔を観察する。それを紙の上に再現してみる。自分の顔のデッサン。
4月21日	自宅制作のスタジオ・課題2	描いたデッサンを元に、自分の似顔絵を描く。デフォルメして、顔の特徴を人にわかりやすく伝える。
4月28日	課題のプレゼンテーションと自己紹介1	Zoom で自分の作品を説明する。
5月12日	課題のプレゼンテーションと自己紹介2	Zoom で自分の作品を説明する。
5月19日	2020年～21年にかけてのデザイン・建築での新しい動き	TAの人の自己紹介、最近のデザイン界の動き、GWの課題など。
6月2日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か？ 前編	現在のレオナルド・ダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか？ダ・ヴィンチの功績をみる。
6月9日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か？ 後編	レオナルド・ダ・ヴィンチが現代に与えた影響について考察する。
6月16日	千田勝フランスからのレクチャー	法政大を卒業してブルターニュで設計事務所を主宰する千田勝氏。現在パリで進行中の持続可能な社会をテーマにしたプロジェクトを紹介する。
6月23日	西洋文化の源流ギリシアの神殿とその美術1	ヨーロッパ文化の二大源流のひとつ、ギリシア文明を見る。パルテノン神殿が現代建築家に与えた影響。
6月30日	西洋文化の源流ギリシアの神殿とその美術2	ギリシア美術その他。シシリア、セリエンテの遺跡とその引用など。
7月7日	都市の観察1 ヤンゴン	政治的に不安定ではあるが、今アジアの都市として発展めまぐるしいミャンマー、ヤンゴン。都市化が進むということはどういうことかを具体的に考えてみる。
7月14日	都市の観察2 フィンランド	フィンランドの首都ヘルシンキを例に、ひとつの都市が持つ歴史的建造物から現代の建築家の作品、都市交通の現在までをみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

リポート 40%、一部授業後の提出物 30%、平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のときには、各自自分に合った画材を用意すること。また画像をスキャンして提出することがある。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、抽選でクラスの人数を 120 名ほどに限定する可能性がある。

最新情報を授業で紹介することもあるので、講義内容はテーマと同じになるとは限らない。また場合によっては前後することもある。

千田勝氏のレクチャーに関しては状況によっては開催できない、もしくはスケジュール変更の可能性あり。

【Outline and objectives】

What "design" is? Design takes a positive view of life. Design improves human being's life. It has already begun since the birth of mankind.

We will see not products but also art, architecture, literature, graphic design films and movements. Especially urban facilities like transportation, from ancient time to present, what we, human beings have created?

This lecture gives you new way of perspective.

DES100ND

色彩論

大高 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が受け取る情報の8割以上が五感の「視覚」に頼っている。人が1日に触れる色の数は1000万色とも言われる。光・場所・メディア・材質など、様々な要因で変化する「モノ・色」が見えるしくみから、色がもたらす意味・効果・色彩情報・色彩計画表現に不可欠な「色彩の基礎」を学ぶ。

【到達目標】

講義では多角的な視点から、色彩の概念・本質・知識を理解する。また、講義をもとに課題制作（宿題）を通して微妙な色の識別判断の訓練や、色の認知、色彩表現技術を体感し、習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

色彩の知識があることと、色彩が使えることは異なる。テーマ毎の事例をパワーポイントで作成した教材を用いての講義を主に行い、視覚・記憶・現象による「様々な見え」をシミュレート体験し、コミュニケーションツールとしての色彩文化、色彩計画を学習する。手作業による課題制作（宿題）を通して、微妙な色の識別判断や色彩表現を、色の三属性 HVC（色相・明度・彩度）に基づいて、様々な色彩を体系的に把握する。また、段階的な色彩配色コンポジションの課題制作を通して、色彩をコントロールする能力を習得する。随時、発想練習、リアクションペーパー、アンケート等（宿題）を実施する。
・授業の初めに、提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対して講評する。
・授業の初めに、提出された発想練習、リアクションペーパー、アンケート等の集計を、全体に対してフィードバックする。
・課題等（宿題）の提出・受け取りは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、進め方と方法についての説明と確認
2	色彩の始まりと色彩学の基本	自然から学ぶ色彩と古代の色彩 光の干渉・回折などの光学研究の分野を切り開いたニュートンの光学 色彩感情・心理を最初に論じたゲーテの色彩論
3	色の成り立ちと HVC 表現	光と色の三原色 色の三属性 HVC（色相・明度・彩度） 色相環 ※課題 1：色相環配置
4	色彩の尺度	様々な色票 様々な業界のカラーチャートによる色の数値化表現 ※課題 1 の講評

5	色の見え・1	色の認知と行動 色覚説モデル 様々な順応・対比 補色・残像 明るさ・色の対比 ※課題 2：明度段階 光源による色の見え 色覚特性 安全と色彩 ※課題 2 の講評
6	色の見え・2	
7	色彩文化・1	西洋文化におけるカラーコミュニケーションの歴史 ※課題 3：HVC 識別
8	色彩文化・2	日本文化におけるカラーコミュニケーションの歴史 ※課題 3 の講評
9	情報と色彩	色彩心理 色彩戦略 ※課題 4：等色相断面図
10	風土と都市と色彩	環境色彩 スーパーグラフィック 景観法の色彩 ※課題 4 の講評
11	モノとコトと色彩	流行色 イロモノ家電 色の常識 色の可能性
12	イメージの色彩・1	テーマからの発想練習_1 ※課題 5：イメージからの色彩 配色コンポジション_1
13	イメージの色彩・2	テーマからの発想練習_2 ※課題 5 の講評 ※課題 6：イメージからの色彩 配色コンポジション_2
14	今期まとめ	全講義内容、課題の再確認 ※課題 6 の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・身の周りの色彩観察
・シラバスと「学習支援システム」の事前確認
・全 6 テーマの課題制作
・発想練習、リアクションペーパー、アンケート等の作成
・授業教材での復習
本授業の課題制作時間、発想練習等の作成、復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

【参考書】

特になし。
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

【成績評価の方法と基準】

・積極的な授業参加と取り組みによる平常点：45 %
・各課題の完成度：55 %
※未提出物がある学生、4 回以上欠席した学生は評価の対象としない（D 評価）。遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回と換算する。（ただし正当な理由がある場合は遅刻・早退、欠席ともその限りではない）

【学生の意見等からの気づき】

講義では色彩の基礎のほか、学生に身近な話題についても多角的な視点から毎年豊富に導入・改善を試みている。

課題を通して色彩認識が深まるため、学生が興味を持ち達成感を得られる課題内容としている。

【学生が準備すべき機器他】

- ・課題制作は手作業のため、ハサミやカッター、ノリなど紙を切り貼りするための道具を使用します。
- ・課題は「課題用紙のダウンロード（学習支援システム）」→「コンビニ等で出力」→「課題制作」→「コンビニ等でスキャン」→「課題用紙のアップロード（学習支援システム）」の作業が必要です。
- ・課題用紙の出力・スキャンなどでコンビニ等を利用する場合は、USB メモリが必要です。
- ・コンビニ等を利用する場合の費用は、6 課題で合計 1,000 円程度掛かります。
- ・課題制作で扱うデータは PDF、発想練習等で扱うデータは docx (Word) です。

【その他の重要事項】

- ・初回ガイダンスで、発想練習を実施する。
- ・課題等の提出物は学習支援システムでの提出、受け取りとする。
- ・授業の進捗、学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。
- ・プロダクトデザイナーとしてのメーカー勤務経験、デザインディレクターとしての現在の経験を活かし、多角的に幅広く色彩に関する講義を行う。

【Outline and objectives】

Over 80 percent of the information which humans receive rely on the perception known as "sight". It is said that everyday we encounter 10 million different colors.

From the sources of changing light and objects such as light, places, media and materials, students will learn the fundamental principles indispensable for describing the implications, effect, information and design of color.

DES300NA

英語表現技術

ベーカー ダンカン

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This English-language presentation course shows you how to create a short PowerPoint presentation efficiently then communicate it effectively

【到達目標】

To understand how simplicity leads to sophistication through key principles of effective design and communication

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	○	○	◎	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

A Process-based

B Medium = Message

C Preparation x Practice = PRESENCE

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Stage 1: Choosing your Topic	Brainstorming & mind-mapping
week 2	Stage 2: Researching	The Rule of 3 The Number 5
week 3	Stage 3: Outlining	5-part structure
week 4	Stage 4: Drafting	The elements of harmonious verbal and visual design: Typography P.A.R.C.
week 5	Stage 5: Refining	Editing: less > more Principles of Presence Presentation practice
week 6	Presentation Week	Class presentations
week 7	VforVendetta	Letter V : Number 5 Rule of 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 Researching your topic

2 Preparing presentation slides and handout

3 Practicing your presentation

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

1. The Presentation Secrets of Steve Jobs, Carmine Gallo

2. The Elements of Typographic Style, Robert Bringhurst

3. The Non-designer's Design Book, Robin Williams

【成績評価の方法と基準】

32% Preparation: meeting deadlines

34% Presentation: content and style

34% Quality of presentation delivery

【学生の意見等からの気づき】

Before, students had to choose a topic related to their major area of study

Now, you have freedom to choose topics which you are interested in

【学生が準備すべき機器他】

1 notebook computer / tablet

【Outline and objectives】

This course takes you through the 5 key stages of the creative process week-by-week with the objective that in week 6 all students are able to present their topic to their classmates

DES300NA

英語表現技術

ベイカー ダンカン

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This English-language presentation course shows you how to create a short PowerPoint presentation efficiently then communicate it effectively

【到達目標】

To understand how simplicity leads to sophistication through key principles of effective design and communication

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	90%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

A Process-based

B Medium = Message

[how to make and give presentations is taught through presentations]

C Preparation x Practice = PRESENCE

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Stage 1: Choosing your Topic	Brainstorming & mind-mapping
week 2	Stage 2: Researching	The Rule of 3 The Number 5
week 3	Stage 3: Outlining	5-part structure
week 4	Stage 4: Drafting	The elements of harmonious verbal and visual design: Typography P.A.R.C.
week 5	Stage 5: Refining	Editing: less > more Principles of Presence Presentation practice
week 6	Presentation Week	Class presentations
week 7	V for Vendetta	Letter V : Number 5 Rule of 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Researching your topic
 2. Preparing presentation slides and handout
 3. Practicing your presentation
- 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

1. The Presentation Secrets of Steve Jobs, Carmine Gallo
2. The Elements of Typographic Style, Robert Bringhurst
3. The Non-designer's Design Book, Robin Williams

【成績評価の方法と基準】

- 32% Preparation: meeting deadlines
34% Presentation: content and style
34% Quality of presentation delivery

【学生の意見等からの気づき】

Before, students had to choose presentation topics related to their major area of study

Now, you have freedom to choose any topic which interests you

【学生が準備すべき機器他】

You will need in every class of this course:

- 1.notebook computer / tablet

【その他の重要事項】

N/A

【Outline and objectives】

This course takes you through the 5 key stages of the creative process week-by-week with the objective that in week 6 all students are able to present their topic to their classmates

DES300NA

英語表現技術

ベイカー ダンカン

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This English-language presentation course shows you how to create a short PowerPoint presentation efficiently then communicate it effectively

【到達目標】

To understand how simplicity leads to sophistication through key principles of effective design and communication

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

A Process-based

B Medium = Message

[how to make and give presentations is taught through presentations]

C Preparation x Practice = PRESENCE

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Stage 1: Choosing your Topic	Brainstorming & mind-mapping
week 2	Stage 2: Researching	The Rule of 3 The Number 5
week 3	Stage 3: Outlining	5-part structure
week 4	Stage 4: Drafting	The hand-brain connection Slide design
week 5	Stage 5: Refining	Editing: less > more Principles of Presence Presentation practice
week 6	Presentation Week	Class presentations
week 7	Course Review	Feedback The Rule of 3, Number 5, and Letter V

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 Researching your topic

2 Preparing presentation slides and handout

3 Practicing your presentation

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

1. The Presentation Secrets of Steve Jobs, Carmine Gallo
2. The Elements of Typographic Style, Robert Bringhurst
3. The Non-designer's Design Book, Robin Williams

【成績評価の方法と基準】

32% Preparation: meeting deadlines

34% Presentation: content and style

34% Quality of presentation delivery

【学生の意見等からの気づき】

Before, students had to choose a topic related to their major

Now, you have freedom to choose any topic that you are interested in

【学生が準備すべき機器他】

1 notebook computer / tablet

【その他の重要事項】

N/A

【Outline and objectives】

This course takes you through the 5 key stages of the creative process week-by-week with the objective that in week 6 all students are able to present their topic to their classmates

GEO200NA

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これらにはどのような種類があり、どのようなことが分かり、どのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通じたコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

地図および GIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

今年度の授業はオンライン形式で行う。アクセスする URL は、学習支援システムの当該科目のお知らせメニューを参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点、線、面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査、報告
12	地域・都市の表現	調査、報告
13	地区の表現	調査、報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を使用

【Outline and objectives】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

GEO200NA

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これらにはどのような種類があり、どのようなことが分かり、どのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通じたコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。

【学習・教育到達目標との関連】

総合デザイン力：◎ 教養力：◎ 表現力：○

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎				◎		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

地図および GIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

今年度の授業はオンライン形式で行う。アクセスする URL は、学習支援システムの当該科目のお知らせメニューを参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点、線、面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査、報告
12	地域・都市の表現	調査、報告
13	地区の表現	調査、報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を使用

【Outline and objectives】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

GEO200NA

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これら空間情報の表現に必要なデータの種類にはどのようなものがあり、分析処理を通じてどのようなことが把握でき、結果をどのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通したコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。

【修得できる能力】

工学基礎学力：◎ 専門基礎学力：◎ 専門知識の活用・応用能力：○

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	40%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

地図および GIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

今年度の授業はオンライン形式で行う。アクセスする URL は、学習支援システムの当該科目のお知らせメニューを参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点・線・面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査、報告
12	地域・都市の表現	調査、報告
13	地区の表現	調査、報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を使用

【Outline and objectives】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

CST200NA

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考え。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	◎		◎		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組むこと中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク市）、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法については、下記のとおりとする。

- ①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：30%
- ②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：30%
- ③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：40%

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on oversea cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考え。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	40%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組むこと中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量的評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴

- 14 演習課題（3）持続可能な都市づくりにおける政策提
な都市づくりに向けての言レポートの発表
課題レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法は、下記のとおりとする。

①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：	30%
②課題レポート（2）：調査地区の定量的評価：	30%
③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：	40%

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on overseas cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

CST200NA

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考え。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組むことの中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴）
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法は以下の通り

- ①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：30%
- ②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：30%
- ③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：40%

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義をする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on oversea cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

DES300NA

公共空間デザイン及演習（2020年度休講）

竹内 豪、下吹越 武人、佐藤 康三、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方や技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○			○			○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン 1・2・3』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30 %）、最終成果物（70 %）。欠席 4 回以上は単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与 PC を用いて CAD またはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

CST300NA

公共空間デザイン及演習（2020年度休講）

竹内 豪、下吹越 武人、佐藤 康三、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の学部科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方や技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設設計・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン 1・2・3』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30 %）、最終成果物（70 %）。欠席 4 回以上は単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与 PC を用いて CAD またはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

DES300NA

公共空間デザイン及演習（2020年度休講）

竹内 豪、下吹越 武人、佐藤 康三、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の学部科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン 1・2・3』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30 %）、最終成果物（70 %）。欠席 4 回以上は単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与 PC を用いて CAD またはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

DES200NA

デザイン思想史概論（2019年度以降入学生）

高橋 美礼

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代および現代デザインを主軸に、デザイン史における様々な思想を俯瞰する講義です。モダンデザインへ至るまでに近代社会が獲得してきた技術力や社会制度にも触れつつ、アートとの関わりなど文化的な背景にも広く目を向けて解説します。

国内外のデザイン思想を遡ることで、デザインには思想が不可欠であることを学び、将来へ役立つデザインリテラシーを身につける一助としてください。

【到達目標】

・さまざまなデザイン・ムーヴメントの主要人物と作品を知り、その思想を学び、さらにそれぞれのムーヴメントの関連性についての知識を高めることで、今の自分の価値観や美意識を形成するルーツを再認識する。
・それぞれのデザイン・ムーヴメントの時代背景を学ぶことから、今という時代を考え、これからの時代におけるデザインの役割について、幅広い価値観を構築する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	30%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染防止対策に応じて、全授業をオンライン（遠隔授業）で行います。

zoom による講義を聴講して、毎回ミニレポートを提出してください。
ミニレポートで取り上げるテーマや課題は、授業中に発表しますので、聞き逃さないように注意しながら授業に集中してください。

zoom による講義では主にパワーポイントを使い、資料を共有しながら進めます。

授業の無断録画、無断スクリーンショットを禁止します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	モダンデザイン前史	産業革命までの社会と近代都市のはじまりを知る。ルネサンス時代以降、デザインという新しい概念が芽生えた時代背景まで遡る。
2	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-1	蒸気機関の発明による近代社会の変化と、その後数十年をかけて変化した欧州の人々の生活と思想を探る。
3	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-2	アーツ・アンド・クラフツ運動に見る、イギリスのゴシックリバイバルと、時代の日本やアメリカについて考える。
4	モダンデザインの成立と19世紀末-1	消費という概念の誕生とモダンデザインの成立。アール・ヌーボーに代表される新表現への希求を各国の様相から知る。
5	モダンデザインの成立と19世紀末-2	ウィーン分離派の影響と日本への波及。ブルジョアジーの台頭による社会構造の変化を知る。
6	工業化と量産化へ向かう社会-1	ユーゲントシュティール、AEG 社、バウハウスを実例に、芸術と産業の統合というモダンデザインの理念を読み解く。
7	工業化と量産化へ向かう社会-2	バウハウスと同時代の各国の動きを総覧しながら、2つの世界大戦間で揺らぎ、または登場した新興勢力について考える。
8	高度大量消費時代のはじまり	インダストリアルデザイナーが職業として成立したマシンエイジを中心に、大量消費時代の背景を読み解く。

9	工業デザインの確立-1	第二次世界大戦後のシャカ主義、ファシズム、デモクラシーといった価値観を通じてイデオロギーの時代に焦点を当てる。
10	工業デザインの確立-2	ミッドセンチュリーに代表される、科学技術とデザインの結びつきから興った動きを振り返る。
11	機能主義への傾倒	人間工学とデザインの結びつき、ラディカルデザインが強まる時代とアメリカの様式原理について。
12	ポストモダニズムへの動き	多元主義であり折衷主義、装飾性、多様性を取り戻した時代へ至る動きを知る。
13	ポストモダニズム	建築や装飾芸術分野におけるモダニズムの終焉と、その社会背景を探る。
14	ゼロ年代のデザインキーワード	1990年代から現在までのデザイン思想と潮流を、国内外の重要なキーワードとともに振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一般的な世界史と日本史の知識を反復し、デザインの歴史について書かれた本（参考書参照）を読んでください。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材はパワーポイントで用意します。
指定の教科書はありませんが、各講義内容に応じた資料がある場合は授業中に配布します。

【参考書】

「日本デザイン史」 監修：竹原あき子・森山明子 美術出版社
「世界デザイン史」 監修：阿部公正 美術出版社
「ヨーロッパ思想入門」 岩田靖夫 岩波書店

【成績評価の方法と基準】

最も重視するのは、毎回の授業後に提出してもらうミニレポートです。
ミニレポート： 80 %

—授業で取り上げたポイントへの理解度： 80 %のうちの2割
—各事象のつながり（デザイン史の理解度）： 80 %のうちの7割
—ミニレポートの読みやすさ、日本語の精度： 80 %のうちの1割

平常点： 20 %
—授業への出席（オンライン講義の聴講）はここで加点します。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業の動画（zoom の録画データ）は、概ね授業後 1 週間を目処に残しておきます。動画の無断録音、保存、再配布等は禁止しますので、見逃した場合は速やかに再視聴してください。

【学生が準備すべき機器他】

zoom による講義のスケジュール連絡、ミニレポート提出には学習支援システムを利用します。
ミニレポートはテキストデータでの提出を原則としますので、それに必要な機材・アプリを準備しておいてください。

【Outline and objectives】

This lecture provides an overview of various ideas in the history of design, with a focus on modern and contemporary design. While touching on the technical skills and social systems that modern society has acquired on the way to modern design, the lecture also looks broadly at the cultural background of design, including its relationship to art. By tracing back to domestic and international design philosophy, students will learn that philosophy is essential to design, and this will help them to acquire design literacy that will be useful to them in the future.

DES200NA

デザイン思想史概論（2019年度以降入学生）

高橋 美礼

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代および現代デザインを主に、デザイン史における様々な思想を俯瞰する講義です。モダンデザインへ至るまでに近代社会が獲得してきた技術力や社会制度にも触れつつ、アートとの関わりなど文化的な背景にも広く目を向けて解説します。

国内外のデザイン思想を遡ることで、デザインには思想が不可欠であることを学び、将来へ役立つデザインリテラシーを身につける一助としてください。

【到達目標】

・さまざまなデザイン・ムーヴメントの主要人物と作品を知り、その思想を学び、さらにそれぞれのムーヴメントの関連性についての知識を高めることで、今の自分の価値観や美意識を形成するルーツを再認識する。
・それぞれのデザイン・ムーヴメントの時代背景を学ぶことから、今という時代を考え、これからの時代におけるデザインの役割について、幅広い価値観を構築する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	30%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染防止対策に応じて、全授業をオンライン（遠隔授業）で行います。

zoom による講義を聴講して、毎回ミニレポートを提出してください。

ミニレポートで取り上げるテーマや課題は、授業中に発表しますので、聞き逃さないように注意しながら授業に集中してください。

zoom による講義では主にパワーポイントを使い、資料を共有しながら進めます。

授業の無断録画、無断スクリーンショットを禁止します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	モダンデザイン前史	産業革命までの社会と近代都市のはじまりを知る。ルネサンス時代以降、デザインという新しい概念が芽生えた時代背景まで遡る。
2	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-1	蒸気機関の発明による近代社会の変化と、その後数十年をかけて変化した欧州の人々の生活と思想を探る。
3	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-2	アーツ・アンド・クラフツ運動に見る、イギリスのゴシックリバイバルと、時代の日本やアメリカについて考える。
4	モダンデザインの成立と19世紀末-1	消費という概念の誕生とモダンデザインの成立。アール・ヌーボーに代表される新表現への希求を各国の様相から知る。
5	モダンデザインの成立と19世紀末-2	ウィーン分離派の影響と日本への波及。ブルジョアジーの台頭による社会構造の変化を知る。
6	工業化と量産化へ向かう社会-1	ユーゲントシュティール、AEG 社、バウハウスを実例に、芸術と産業の統合というモダンデザインの理念を読み解く。
7	工業化と量産化へ向かう社会-2	バウハウスと同時代の各国の動きを総覧しながら、2つの世界大戦間で揺らぎ、または登場した新興勢力について考える。
8	高度大量消費時代のはじまり	インダストリアルデザイナーが職業として成立したマシンエイジを中心に、大量消費時代の背景を読み解く。

9	工業デザインの確立-1	第二次世界大戦後のシャカ主義、ファシズム、デモクラシーといった価値観を通じてイデオロギーの時代に焦点を当てる。
10	工業デザインの確立-2	ミッドセンチュリーに代表される、科学技術とデザインの結びつきから興った動きを振り返る。
11	機能主義への傾倒	人間工学とデザインの結びつき、ラディカルデザインが強まる時代とアメリカの様式原理について。
12	ポストモダニズムへの動き	多元主義であり折衷主義、装飾性、多様性を取り戻した時代へ至る動きを知る。
13	ポストモダニズム	建築や装飾芸術分野におけるモダニズムの終焉と、その社会背景を探る。
14	ゼロ年代のデザインキーワード	1990年代から現在までのデザイン思想と潮流を、国内外の重要なキーワードとともに振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一般的な世界史と日本史の知識を反復し、デザインの歴史について書かれた本（参考書参照）を読んでください。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材はパワーポイントで用意します。

指定の教科書はありませんが、各講義内容に応じた資料がある場合は授業中に配布します。

【参考書】

「日本デザイン史」 監修：竹原あき子・森山明子 美術出版社

「世界デザイン史」 監修：阿部公正 美術出版社

「ヨーロッパ思想入門」 岩田靖夫 岩波書店

【成績評価の方法と基準】

最も重視するのは、毎回の授業後に提出してもらうミニレポートです。

ミニレポート： 80 %

—授業で取り上げたポイントへの理解度： 80 %のうちの2割

—各事象のつながり（デザイン史の理解度）： 80 %のうちの7割

—ミニレポートの読みやすさ、日本語の精度： 80 %のうちの1割

平常点： 20 %

—授業への出席（オンライン講義の聴講）はここで加点します。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業の動画（zoom の録画データ）は、概ね授業後 1 週間を目処に残しておきます。動画の無断録音、保存、再配布等は禁止しますので、見逃した場合は速やかに再視聴してください。

【学生が準備すべき機器他】

zoom による講義のスケジュール連絡、ミニレポート提出には学習支援システムを利用します。

ミニレポートはテキストデータでの提出を原則としますので、それに必要な機材・アプリを準備しておいてください。

【Outline and objectives】

This lecture provides an overview of various ideas in the history of design, with a focus on modern and contemporary design. While touching on the technical skills and social systems that modern society has acquired on the way to modern design, the lecture also looks broadly at the cultural background of design, including its relationship to art. By tracing back to domestic and international design philosophy, students will learn that philosophy is essential to design, and this will help them to acquire design literacy that will be useful to them in the future.

DES200NA

デザイン思想史概論（2019年度以降入学生）

高橋 美礼

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代および現代デザインを主軸に、デザイン史における様々な思想を俯瞰する講義です。モダンデザインへ至るまでに近代社会が獲得してきた技術力や社会制度にも触れつつ、アートとの関わりなど文化的な背景にも広く目を向けて解説します。

国内外のデザイン思想を遡ることで、デザインには思想が不可欠であることを学び、将来へ役立つデザインリテラシーを身につける一助としてください。

【到達目標】

・さまざまなデザイン・ムーブメントの主要人物と作品を知り、その思想を学び、さらにそれぞれのムーブメントの関連性についての知識を高めることで、今の自分の価値観や美意識を形成するルーツを再認識する。
・それぞれのデザイン・ムーブメントの時代背景を学ぶことから、今という時代を考え、これからの時代におけるデザインの役割について、幅広い価値観を構築する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	30%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染防止対策に応じて、全授業をオンライン（遠隔授業）で行います。

zoom による講義を聴講して、毎回ミニレポートを提出してください。

ミニレポートで取り上げるテーマや課題は、授業中に発表しますので、聞き逃さないように注意しながら授業に集中してください。

zoom による講義では主にパワーポイントを使い、資料を共有しながら進めます。

授業の無断録画、無断スクリーンショットを禁止します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	モダンデザイン前史	産業革命までの社会と近代都市のはじまりを知る。ルネサンス時代以降、デザインという新しい概念が芽生えた時代背景まで遡る。
2	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-1	蒸気機関の発明による近代社会の変化と、その後数十年をかけて変化した欧州の人々の生活と思想を探る。
3	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-2	アーツ・アンド・クラフツ運動に見る、イギリスのゴシックリバイバルと、時代の日本やアメリカについて考える。
4	モダンデザインの成立と19世紀末-1	消費という概念の誕生とモダンデザインの成立。アール・ヌーボーに代表される新表現への希求を各国の様相から知る。
5	モダンデザインの成立と19世紀末-2	ウィーン分離派の影響と日本への波及。ブルジョア階級の台頭による社会構造の変化を知る。
6	工業化と量産化へ向かう社会-1	ユーゲントシュティール、AEG 社、バウハウスを実例に、芸術と産業の統合というモダンデザインの理念を読み解く。
7	工業化と量産化へ向かう社会-2	バウハウスと同時代の各国の動きを総覧しながら、2つの世界大戦間で揺らぎ、または登場した新興勢力について考える。
8	高度大量消費時代のはじまり	インダストリアルデザイナーが職業として成立したマシンエイジを中心に、大量消費時代の背景を読み解く。

9	工業デザインの確立-1	第二次世界大戦後のシャカ主義、ファシズム、デモクラシーといった価値観を通じてイデオロギーの時代に焦点を当てる。
10	工業デザインの確立-2	ミッドセンチュリーに代表される、科学技術とデザインの結びつきから興った動きを振り返る。
11	機能主義への傾倒	人間工学とデザインの結びつき、ラディカルデザインが強まる時代とアメリカの様式原理について。
12	ポストモダニズムへの動き	多元主義であり折衷主義、装飾性、多様性を取り戻した時代へ至る動きを知る。
13	ポストモダニズム	建築や装飾芸術分野におけるモダニズムの終焉と、その社会背景を探る。
14	ゼロ年代のデザインキーワード	1990年代から現在までのデザイン思想と潮流を、国内外の重要なキーワードとともに振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一般的な世界史と日本史の知識を反復し、デザインの歴史について書かれた本（参考書参照）を読んでください。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材はパワーポイントで用意します。

指定の教科書はありませんが、各講義内容に応じた資料がある場合は授業中に配布します。

【参考書】

「日本デザイン史」 監修：竹原あき子・森山明子 美術出版社

「世界デザイン史」 監修：阿部公正 美術出版社

「ヨーロッパ思想入門」 岩田靖夫 岩波書店

【成績評価の方法と基準】

最も重視するのは、毎回の授業後に提出してもらうミニレポートです。

ミニレポート： 80 %

—授業で取り上げたポイントへの理解度： 80 %のうちの2割

—各事象のつながり（デザイン史の理解度）： 80 %のうちの7割

—ミニレポートの読みやすさ、日本語の精度： 80 %のうちの1割

平常点： 20 %

—授業への出席（オンライン講義の聴講）はここで加点します。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業の動画（zoom の録画データ）は、概ね授業後 1 週間を目処に残しておきます。動画の無断録音、保存、再配布等は禁止しますので、見逃した場合は速やかに再視聴してください。

【学生が準備すべき機器他】

zoom による講義のスケジュール連絡、ミニレポート提出には学習支援システムを利用します。

ミニレポートはテキストデータでの提出を原則としますので、それに必要な機材・アプリを準備しておいてください。

【Outline and objectives】

This lecture provides an overview of various ideas in the history of design, with a focus on modern and contemporary design. While touching on the technical skills and social systems that modern society has acquired on the way to modern design, the lecture also looks broadly at the cultural background of design, including its relationship to art. By tracing back to domestic and international design philosophy, students will learn that philosophy is essential to design, and this will help them to acquire design literacy that will be useful to them in the future.

ADE100NB

建築のしくみ

安藤 直見

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は建築を学び始める学生が建築のしくみ（物的構成）の基本を知ることとを目的としています。建築の形態構成・空間構成・ディテールとの関係を理解しながら、建築の主要な架構形式である鉄筋コンクリート壁式構造、鉄筋コンクリートラーメン構造、木造軸組構造、鉄骨構造の基本的なしくみについて学びます。

【到達目標】

建築にしくみに関する以下の知識の習得が目標です。

1. 鉄筋とコンクリート
2. 壁構造とラーメン構造
3. 基礎・壁・床・屋根・開口部・その他の各部の構成
4. 鉄骨の形状と接合方法
5. ガラスの構成
6. 木造の基礎・床組・軸組・小屋組
(以下、教科書の「はじめに」より)

建築のしくみは建築の技術の一端である。一つの考え方として、建築のしくみは先行したデザインの後からついていくものであり、しくみの積み重ねによってデザインが生まれることはないという考え方があると思う。その考え方に従えば、しくみを表す図面・模型よりも、細部の構成にはこだわらない 1 枚のスケッチこそが建築デザインにとってもっとも重要だということになる。そのことに間違いはないと思うのだが、だからといって、建築のしくみを学ばなくてもいいということにはならない。この先に描かれるであろう 1 枚のスケッチがどのようなしくみによって成立するかは未知のことであっていいが、現在の建築が（現代に多大な影響を与えた建築が）どのようなしくみによって成立しているかを理解することは、建築を学び始める学生にとって重要であるはずだ。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
			◎		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では「巨匠たちの住宅」（国内および海外の著名な建築）を題材として、その形態構成・空間構成と架構法・ディテールとの関係について学びます。

(以下、教科書の「はじめに」より)

本書の 2 章以降では、「住吉の長屋」、「サヴォワ邸」、「ファンズワース邸」、「白の家」といった 20 世紀を代表する住宅を実例として取り上げ、その形態・空間がどのような建築のしくみによって成立しているかを解説している。取り上げた住宅は、それぞれ、鉄筋コンクリート壁構造、鉄筋コンクリートラーメン構造、鉄骨構造、木造軸組構造という異なった構造形式でつくられている。それらは現代においても（変更：現在の）建築の主要な構造形式であるから、これらの住宅を学ぶことで、建築の主要なしくみがどのように形態・空間を構成しえるかを理解することができると思う。

さて、しかし、取り上げた住宅が、主要な建築のしくみを学ぶために適した実例であるかどうかという点には疑問の余地があるかもしれない。これらの住宅が、後に続く建築に、決定的な影響を与えた建築であることに間違いはないのだが、これらの住宅は、研ぎ澄まされた形態と空間をもつがゆえに、建築の特殊解（変更：例）だといえなくもないからだ。街にあふれる多くの建築では、建築を物的に構成する柱や壁が見えない部分に隠されていることが多いのだが、これらの住宅は、そういった建築とはいささか異なっている。

しかし、建築のしくみという視点（変更：観点）でいえば、4 つの住宅が、街にあふれる多くの建築とまったく異なっているわけではない。現代の建築技術は、産業革命以降に発展した工業技術に根ざしているから、4 つの住宅と街にあふれる多くの建築は同一の技術に基づいて成立している。両者が異なっているのは、4 つの住宅では、建築のしくみが至高の形態と空間に昇華しているという点だけだ。本書で取り上げる 4 つの住宅は、建築を架構する壁や柱の構成が建築の形態・空間を決定づけているという意味において「裸の建築」と呼ぶこともできると思う。これらの住宅は、「裸」であるからこそ美しい。建築のしくみを形態・空間と関連づけ、すなわち、建築のしくみを建築の美しさに関連づけて学んで欲しいことも本書のねらいである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	建築の主要な架構形式	ガイダンス
2	住吉の長屋 (1) : 鉄筋コンクリート壁構造による建築架構の概要	教科書 2 章 1 節～2 節（住吉の長屋と壁構造の概要）
3	住吉の長屋 (2) : コンクリート打放しと壁仕上げ、断熱材、建具の納まりなど	教科書 2 章 3 節（平面の構成）
4	住吉の長屋 (3) : 屋根の架構法など	教科書 2 章 4 節～5 節（断面と基礎、壁、床、天井、立面の構成）
5	サヴォワ邸 (1) : 鉄筋コンクリートラーメン構造による建築架構の概要	教科書 3 章 1 節～3 節（サヴォワ邸とラーメン構造の概要）
6	サヴォワ邸 (2) 構造壁と間仕切り壁などについて学ぶ	教科書 3 章 4 節～6 節（1 階・2 階・屋上の構成）
7	サヴォワ邸 (3) : による造作（開口部など）	教科書 3 章 7 節～9 節（立面・断面・窓の構成）
8	これまでのまとめ： 鉄筋コンクリート構造による建築の工事現場の事例	スライドレクチャー（予定）
9	ファンズワース邸 (1) 鉄骨構造による建築架構の概要など	教科書 4 章 1 節～2 節（ファンズワース邸と鉄骨構造の概要）
10	ファンズワース邸 (2) 鉄骨フレームのしくみなどについて学ぶ	教科書 4 章 3 節～4 節（鉄のフレームと床・屋根）
11	ファンズワース邸 (3) ガラスのディテール。カーテンウォールのディテールなど	教科書 4 章 5 節～7 節（ガラスの壁・階段・設備コア）
12	白の家 (1) : 木造軸組構造による建築架構の概要。ツーバイフォー構法、パネル構法などの概要	教科書 5 章 1 節～3 節（白の家と木造軸組構造の概要）

- 13 白の家(2)： 教科書 5 章 4 節～5 節（基礎と軸組、床組、軸組部材 床組）の名称と役割
- 14 白の家(3)： 教科書 5 章 6 節～8 節（軸組・小屋組、軸組構造の枠 小屋組・各部の構成）廻り、壁、床、天井の仕上げ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書該当部分の予習と復習が必要です。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「建築のしくみ／住吉の長屋、サヴォワ邸、ファンズワース邸、白の家」（安藤直見・柴田晃宏・比護結子著、丸善、2008 年）※
※この教科書は 1 年次配当科目（必修科目）である「デザインスタジオ 1（建築）」でも使用します

【参考書】

●安藤忠雄、安藤忠雄のディテール／原図集／六甲の集合住宅・住吉の長屋、彰国社、1984 年

●GA ディテール No.1 / ミース・ファン・デル・ローエ／ファンズワース邸／1945 - 50, A.D.A. EDITA Tokyo Co., Ltd., 1976 年

●篠原一男、白の家・上原通りの住宅、世界建築設計図集、同朋舎、1984 年

●篠原一男、住宅論、SD 選書 No.49、鹿島出版会、1970 年

(5) エドワード・R・フォード、巨匠たちのディテール、八木幸二監訳、丸善、1999 年

●安藤直見・石井翔大・浅古陽介・種田元晴、建築のカタチ: 3D モデリングで学ぶ建築の構成と図面表現、丸善、2020 年

●内田祥哉他、建築構法（第五版）、市ヶ谷出版社、2007 年

●建築構造ポケットブック（第 4 版）、共立出版、2006 年

●加藤道夫、建築における三次元空間の二次元表現／ショウジ『建築史』における軸測図の使用について、図学研究、第 32 巻 3 号、日本図学会、1998 年 9 月

●佐々木睦朗、私のベストディテール／接合部の痕跡を消す、日経アーキテクチュア No.709（2002 年 1 月 7 日号）

●サヴォワ邸／1931 / フランス／ル・コルビュジエ、バナナブックス、2007 年

●Jacques Sbriglio, Le Corbusier: La Villa Savoye, Foundation Le Corbusier, Birkhäuser, 1999

●Werner Blaser, Mies van der Rohe, Farnsworth House: weekend house, Birkhäuser, 1999

▼参考ホームページ

○ファンズワース・ハウス（アメリカ・イリノイ州）

： <http://www.farnsworthhouse.org/>

○フランス国立モニュメントセンター：

<http://www.monuments-nationaux.fr/>

○ル・コルビュジエ財団（パリ）：

<http://www.fondationlecorbusier.asso.fr/>

○ル・コルビュジエ アーカイブ（大成建設）：

<http://www.taisei.co.jp/galerie/archive.html>

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業にて実施する授業内テストにより評価します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

授業評価アンケートに「眠くなる」という回答がありました。「眠くならないような演出」として、何か手を動かすような演習を交えるようにします。なお、授業の前日には十分な睡眠をとってください。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で、学習支援システム（hoppii）を用いた「テスト」（演習）を実施します。「テスト」を受けるには、ノートパソコンまたはスマートフォンが必要となります。

また、授業時に、学習支援システムを通して、3D モデルの CG データ（スケッチアップのファイル）を配布します。CG データを参照すると、建築の構成がよくわかります。ノートパソコン等を用意して、CG データを参照してください。

【その他の重要事項】

この授業の題材とする 4 つの住宅のうちの「サヴォワ邸」（フランス・パリ近郊）と「ファンズワース邸」（アメリカ・シカゴ近郊）は文化財として一般に公開されているので、ぜひ実物を見に行ってください。

教科書では、4 つの住宅の図面・模型・CG（Computer Graphics）の製作方法について解説しています。ぜひ図面を描き、模型を作ってみてください。また、教室の中で建築の実物を工事することは不可能ですが、コンピュータ上でなら組み立てることができます。CG の制作にもチャレンジしてください。3 年次以上秋学期配当科目（選択科目）である「デジタルスタジオ」は、実在の建築の CG を制作する演習を含んでいるので、ぜひ受講をしてください。

【Outline and objectives】

This course aims to provide students, who have started construction studies, with knowledge of fundamental physical structures. Through understanding the relationship between form and spacial composition as well as framework and details in construction, students will learn the fundamental structures, such as reinforced concrete wall structure, reinforced concrete frame structure, wooden frame structure, and steel frame structure.

DES100ND

デザイン理論 (SD)

秋元 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は「今日におけるデザインの基礎講座」です。デザインが対象とする領域と事象の幅が大きく広がった現在において、「デザインという概念の基礎となっている考え方」と「個別解としてのデザインそれぞれを成り立たせている考え方」、すなわち「デザインの理論」を理解します。人間がより良く、希望をもって生きられる社会であるためにデザインが必要であり、デザインをする、という視点で、デザインと主体的に関わる姿勢を涵養することを目的としています。

【到達目標】

- ・今日の社会におけるデザインの基本的な位置づけや、デザインが社会の中でどのように解釈されているかを理解します。
- ・具体的なデザインの実践内容と担い手の想いなどを理解します。
- ・自らの活動にデザインの方法論を反映させていくための素地をつくります。
- ・デザインに対する省察的な態度を身につけ、デザインの担い手としての意識を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

デザインがどのような目的意識と意図のもとで、どのような「社会システム」として構築されているのか、社会において何が課題とされ、それに対してデザインとしてどういった提案ができるのか、デザインには何が期待されているのか、などの考察を促すために、多様なデザインの事例紹介を軸とした講義形式になります。様々な分野のグッドデザイン賞の受賞事例を事例に、そこから読み取れる目的性、意義、可能性などについて掘り下げていきます。授業で取り上げるデザインの事例やテーマは、なるべくその時々状況に則したものを選択していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／グッドデザイン賞の紹介	・講師自己紹介 ・本授業の内容展開のベースとなる「グッドデザイン賞」に関する説明（歴史、概念など）
2	社会の変化とデザインの変化	社会の変化と、デザインの対象及び目的の拡張との関係に関する考察
3	最新グッドデザイン賞から見るデザインの諸相	2021 年度グッドデザイン賞結果を題材にした話題展開
4	課題の解決とデザイン 1	今日のデザインに期待される課題解決指向について
5	課題の解決とデザイン 2	今日のデザインに期待される課題解決指向について
6	イノベーションとデザイン	新たな視点・発想・目的意識を伴ったデザイン
7	最新グッドデザイン大賞候補	グッドデザイン大賞候補デザインを通じて見えてくるもの、デザインの今日的なテーマや課題
8	福祉とデザイン	福祉的な視点とアプローチを伴ったデザイン
9	地域社会とデザイン	地域社会の活性を指向したデザイン
10	サービスとしてのデザイン 1	人間に対するサービス提供としてのデザイン
11	サービスとしてのデザイン 2	人間に対するサービス提供としてのデザイン
12	デザインへの批判的省察 1	デザインと「ユーザー」との関わり

- 13 デザインへの批判的省察 2 「人間中心」という今日のデザインにおける基礎的な考え方に対する批判的考察
- 14 最終まとめ 総括およびレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・つねに社会の動向、人々の関心、情報の流れを意識して捉えるようにしてください。デザインはそれらと密接不可分であり、「誰に対しても・どのようなことに対してもデザインが関わる」という認識のもと、自らが関心のある事象に対して「デザインの対象として捉えてみる／デザインがどのように関わるか探ってみる」という視点を持ち続けてください。

・授業内で紹介したデザインの事例について、積極的に追加情報を得て自らの関心事となるように心がけてください。

・2021 年 10 月末～ 11 月初旬に東京都内で開催する予定の、最新グッドデザイン賞受賞作の紹介イベントを観察することを勧めます。様々な領域と分野に広がっているデザインの最新の実践例に触れることができます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（授業時間内で指示することがあります）

【参考書】

特になし（授業時間内で指示することがあります）

【成績評価の方法と基準】

授業の期間中を通じて 1 ～ 2 回程度課すレポートの提出を主体に、授業への参加度も加えて総合的に判断して成績を決めます。レポートとして課す内容は、授業への参加度合いが著しく低い場合には対応が難しいテーマを想定しています。なお、テストは行わない予定です。

評価の内訳：
レポート提出（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに務めています。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの実施を予定しているため、対応できる通信環境と情報端末を用意してください。なおオンライン時は基本的にビデオ・マイクともオフでの実施で、動画再生といった通信環境に高負荷を及ぼすことは行いません。

【その他の重要事項】

・担当講師がグッドデザイン賞の事業運営に携わっているため、本授業で扱う内容は、基本的にグッドデザイン賞という固有の制度を通じたことがベースになる点を、前提条件として予め承知しておいてください。なお、グッドデザイン賞はデザインのあり方を定める絶対条件ではありません。すなわち「グッドデザイン賞に選ばれている＝デザインに関する絶対的な正解や正論」ではなく、あくまでもデザインについて理解し考えを深めていく上での、ひとつの相対的な見方と考え方が提示されていると理解して、授業に臨んでもらえるのがよいでしょう。その上で、自分自身はどのようなデザインのあり方に対してどのように考えるか、思考のきっかけとしてもらいたいと考えます。

逆に言うと、グッドデザイン賞という制度に対する根本的な疑問や不信感を強く持っていて、アレルギーを感じるような人への履修は薦めません。

・実技習得目的での、描写や造形や編集行為などに関する演習は実施しません。

・レポートを課す際は、原則的に提出締め切り日の一ヶ月前には予告を行います。またレポートは原則として授業支援システムを介してのデータでの提出・受取とします。

【Outline and objectives】

This course is provides a basic course in contemporary design. Participants will learn about the concepts that form the basis of design in this day and age, along with the individual principle components of design — that is, the “theory of design,” through various subjects of design, case studies, and more. In doing so, the goal is not master design-technic, but to foster within each participant the perspectives necessary to uncover social challenges and link them to solutions, as well as an awareness of design as a way to proactively build a more livable and hopeful society for all.

建築生理心理 1

川久保 俊

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築物は我々にとって重要な生活基盤、社会インフラである。特に住宅建築物は、我々の安全を守り、休息する場を提供し、子孫を育む重要な生活の場である。建築に関わる全ての関係者は、建築物を利用する側の「人」の立場から建物との関わりを捉え、建築物に「住まう」ために要求される各種条件を本質的に理解しておくことが必要である。そこで、本授業では住環境の概念、住居の備えるべき各種条件、居住者としての身体特性、身体の各部位の役割などを紹介し、建築生理心理の基礎を学習する。

【到達目標】

- ・住居が備えるべき諸条件を学ぶ。
- ・我々の人体反応の基礎を習得する。
- ・住環境が様々な場面で人体に影響を及ぼすことを学ぶ。
- ・居住者の健康を維持増進する上で、住環境を適切に整備することが重要であることを理解する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	◎	◎		○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では建築環境工学のうち、生理心理に係る事項を学習する。講義はPowerpoint等で作成した資料を利用して進める。講義内容や課題に対する質問はHoppiiの掲示板等で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	講義の設置目的、到達目標、概要の紹介
2	環境の分類、住環境の概念	環境の分類と住環境の概念整理。住環境の構成要素
3	都市・地域環境とその評価	住宅を取り巻く周辺環境の整備の意義。都市・地域環境の評価
4	住居の備えるべき条件(0)	伝統的住居に施された生活の工夫。住居が備えるべき各種要件の概要の理解
5	住居の備えるべき条件(1) - 「安全性」	日常安全（防犯、交通安全、生活安全など）
6	住居の備えるべき条件(1) - 「安全性（続）」	災害安全（火災、風水害、地震など） 公害防止、伝染病防止、自然環境の担保（通風、採光など）
7	住居の備えるべき条件(2) - 「健康性」	WHOによる健康の定義、シックハウス問題、アスベスト問題、ヒートショック問題
8	住居の備えるべき条件(2) - 「健康性（続）」	自宅の健康性評価。各種疾病の有病割合。オッズ比
9	住居の備えるべき条件(3) - 「利便性」	日常生活利便性、施設利便性、交通利便性、社会サービス利便性
10	住居の備えるべき条件(4) - 「快適性」	適切な環境制御。光環境、音環境、空気環境、温熱環境
11	住居の備えるべき条件(4) - 「快適性（続）」	非定常汚染質濃度、非定常室内温度の計算
12	住居の備えるべき条件(5) - 「持続可能性」	環境／社会／経済のトリプルボトムライン、世代間倫理、持続可能性の評価
13	住居の備えるべき条件(5) - 「持続可能性（続）」	環境配慮技術、サステナブルデザイン
14	住居の備えるべき条件(5) - 「持続可能性（続）」	持続可能な開発目標（SDGs）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義の中で膨大な数のキーワードに触れるため、帰宅後その内容を頭の中で整理、消化し、次回の講義までに復習をしてくること。また、講義中に重要な部分については計算問題やレポートを課すので、期末テストに備えて十分に応用能力を養っておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。独自に作成した講義資料を講義中に配布する。

参考書を複数例示するので、自身に合う参考書を入手して適宜予習・復習することをお勧めする。

【参考書】

「住環境-評価方法と理論」浅見泰司他（東京大学出版会）。
「建築環境工学」加藤信介、土田義郎、大岡龍三（彰国社）。
「しくみがわかる建築環境工学: 基礎から計画・制御まで」上野佳奈子、鍵直樹、白石靖幸、高口洋人、中野淳太、望月悦子。
「からだの地図帳」高橋長雄（講談社）。
「形と比例」岩中徳次郎（美術出版）。
「驚異の小宇宙・人体Ⅱ、脳と心」NHK取材班（NHK出版）。
「見えない空間性能」荒木睦彦（彰国社）。
「やさしい美術解剖図」J・シェパード（マール社）。
「心理学雑学事典」渋谷昌三（日本実業出版社）。

【成績評価の方法と基準】

講義中に課す課題（100%）によって判断する。課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度がはやい／遅いという声が減ってきたため、現状を維持しながら分りやすい授業を心掛ける。

【Outline and objectives】

Buildings are important infrastructure for us. Residential buildings, in particular, are important places of life that protect our safety, provide places to rest, and nurture our descendants. It is necessary for all parties involved in the construction to understand the relationship with the building from the standpoint of the people who use the building, and to have an essential understanding of the various conditions required to "live in" the building. Therefore, this class introduces the concept of the living environment, various conditions that a house should have, physical characteristics as a resident, roles of each part of the body, etc., and learns the basis of building physiological psychology.

ADE200NB

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1		presentation of projects by SANAA
Class 2	Alvaro Siza	presentation of projects by Alvaro Siza
Class 3	Toyo Ito	presentation of projects by Toyo Ito
Class 4	Herzog and de Meuron	presentation of projects by Herzog and de Meuron
Class 5	Fumihiko Maki	presentation of projects by Fumihiko Maki
Class 6	Rem Koolhaas	presentation of projects by Rem Koolhaas
Class 7	Arata Isozaki	presentation of projects by Arata Isozaki
Class 8	Steven Holl	presentation of projects by Steven Holl
Class 10	Yoshio Taniguchi	presentation of projects by Yoshio Taniguchi
Class 11	David Chipperfield	presentation of projects by David Chipperfield
Class 10	Kengo Kuma Office and Aoyama	tour guide of Kengo Kuma Office and other projects in Aoyama area
Class 12	Wang Shu	presentation of projects by Wang Shu
Class 13	Kengo Kuma	presentation of projects by Kengo Kuma
Class 14	Jean Nouvel	presentation of projects by Jean Nouvel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are asked to research the building they have selected in order to make a presentation. The presentation should be printed on an A1 sheet, with careful consideration given to the layout and contents.

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

No specific textbook is necessary.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

- Class Participation/Interest/Enthusiasm
- Quality of presentation materials
- Quality of English presentation and participation in discussion.

【学生の意見等からの気づき】

Fall 2014 was the first semester of this course.

ADE200NB

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class is about contemporary architecture and will be taught in English. Each class will alternatively analyze a contemporary Japanese and foreign practice by studying a number of their projects. The objective is to understand a variety of design strategies and to draw similarities between Japanese and foreign architects.

【到達目標】

This class requires simple presentations and aims to encourage students to think conceptually. Students will form pairs and introduce a new project for each class. The goal is to acquire English presentation skills and to think about communicating ideas through drawings.

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	90%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

For each class, a pair of students will be asked to present one project from the assigned architect. The presentation will require photographs, drawings, and other available resources. At least 1 illustration will be made by the students to demonstrate a critical aspect of the project. This illustration could be a diagram, sketch, or model, so long as it conveys an important idea.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	SANAA	presentation of projects by SANAA
Class 2	Alvaro Siza	presentation of projects by Alvaro Siza
Class 3	Toyo Ito	presentation of projects by Toyo Ito
Class 4	Herzog and de Meuron	presentation of projects by Herzog and de Meuron
Class 5	Fumihiko Maki	presentation of projects by Fumihiko Maki
Class 6	Rem Koolhaas	presentation of projects by Rem Koolhaas
Class 7	Arata Isozaki	presentation of projects by Arata Isozaki
Class 8	Steven Holl	presentation of projects by Steven Holl
Class 10	Yoshio Taniguchi	presentation of projects by Yoshio Taniguchi
Class 11	David Chipperfield	presentation of projects by David Chipperfield
Class 10	Kengo Kuma Office and Aoyama	tour guide of Kengo Kuma Office and other projects in Aoyama area
Class 12	Wang Shu	presentation of projects by Wang Shu
Class 13	Kengo Kuma	presentation of projects by Kengo Kuma
Class 14	Jean Nouvel	presentation of projects by Jean Nouvel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are asked to research the building they have selected in order to make a presentation. The presentation should be printed on an A1 sheet, with careful consideration given to the layout and contents.

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

No specific textbook is necessary.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

- Class Participation/Interest/Enthusiasm
- Quality of presentation materials
- Quality of English presentation and participation in discussion.

【学生の意見等からの気づき】

Fall 2014 was the first semester of this course.

【Outline and objectives】

This class is about contemporary architecture and will be taught in English. Each class will alternatively analyze a contemporary Japanese and foreign practice by studying a number of their projects. The objective is to understand a variety of design strategies and to draw similarities between Japanese and foreign architects.

ADE200NB

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築の分野について、多角的に学ぶ事ができる。また英語を聞き、話す機会を増やす事で実践的な英語力を身につける事ができる。

【到達目標】

This class has to be seen as a place of discussion and exchange about Architecture. The aim is to stimulate students to speak in English and to increase their conversation ability.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

For each of the 7 themes (14 classes) students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the group.

At the end of each themes, the following assignment will be explained in detail.

All conversation to be in English, all presentation materials to be submitted by PPT or PDF binder.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin part 1	With the help of the 'analysis tool' students will give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space.
Class 2	Place-site-origin part 2	-
Class 3	Graphic representation part 1	Learn the different graphic representations used by the architect. In the continuity of class 1 the students will be asked to choose a building from an architect they are interested in and to prepare or research graphic representations including: sketches, diagrams, axonometric, perspectives, site plan, plans, sections, details. One of the representations to be made by the students and to illustrate a key feature of the building - Students to elaborate on their building choice.
Class 4	Graphic representation part 2	-
Class 5	Contemporary architecture part 1	Based on previous classes teachings, the students will present a project from a selected list of Architects. Alvaro Siza OMA Lacaton & Vassal BIG SANAA Toyo Ito Jean Nouvel
Class 6	Contemporary architecture part 2	-
Class 7	City roaming part 1	From a pre-selected route, the students will give their impressions, their feelings according to the spaces crossed with the help of photographs or to illustrate key moments.
Class 8	City roaming part 2	-

Class 9 Micro Architecture part 1

The students will be asked to find a micro building which has been created in a left over space within the city.

Please prepare PPT with photographs, simple site plan (hand sketch is ok) and explanation of building particularity.

Class 10 Micro Architecture part 2

Class 11 Habitat part 1

After a discussion on the definition of the habitat, the students will search and investigate examples of housing which reconsider the stereotype of the house. Students will present at least 2 projects of housing (single or collective) and will explain how and why it reassess the question of the habitat.

Class 12 Habitat part 2

Class 13 Architecture and Literature part 1

The students will be given a short text (in English) from a prominent writer and poet. After reading at home the text will be discussed in class and the students will identify a clear program which they will use for the second part of the class.

Class 14 Architecture and Literature part 2

The students will present their architectural translation of the text using previous classes teaching. Evaluation will be made on the quality of the presentation, the visuals and the consistency of the approach.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

For each of the 7 themes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the group.

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

No specific textbook is necessary.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

1.50% Preparation of presentation materials
2.25% Discussion participation
3.25% Diligence, Enthusiasm

【学生の意見等からの気づき】

Comment after 2020 semester: some of the themes to be conducted in small group of students.

【その他の重要事項】

国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

【Outline and objectives】

DBE class will explore several fields of Architecture, such as:

- Reading and description of spaces
- Architectural representation tools
- Analysis and Conception

COS200NC

数値計算法

酒井 久和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学の分野において、数学を用いる場面は多岐にわたる。また、簡易な計算はプログラミングを習得することにより、計算ミス、作業時間の大幅な短縮が可能である。本講義では、基礎的な数値解析手法を学習するとともに、実務で必須となる Excel の高度利用として、マクロを利用したプログラミング技法を習得する。

【到達目標】

授業で紹介した数値解析手法を道具として活用し、Excel の効率的な使用法とプログラミング技術を習得することで、様々な工学問題が解けるようになるとともに、研究や実務での効率向上可能な技術を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	60%
(D) 専門基礎学力	40%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

工学分野の基礎的な数値解析手法として、ベクトルと行列、連立一次方程式の解法、非線形方程式の解法、補間、数値積分、数値微分を紹介する。1 週講義の後、翌週は前週の講義内容に関する演習を行うことにより、知識としての定着を図る。解析ツールとして Excel を使用する。

授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、Excel の基本的な使い方、マクロ	講義内容の紹介、講義で使用する Excel の基本的な使い方とマクロの使用方法についての解説する。
第 2 回	数値解析の基礎	数値解析の基礎として、アナログとデジタルの違い、有効数字について解説する。
第 3 回	関数の近似と補間	テーラー展開、補間について解説する。
第 4 回	演習	第 3 回講義内容に関する演習問題を解く。
第 5 回	微分	差分近似、3 点差分公式、5 点差分公式について説明する。
第 6 回	演習	第 5 回講義内容に関する演習問題を解く。
第 7 回	数値積分	長方形近似、台形近似、シンプソン公式について解説する。
第 8 回	演習	第 7 回講義内容に関する演習問題を解く。
第 9 回	非線形方程式	ニュートン・ラフソン法、2 分法、はさみうち法
第 10 回	演習	第 9 回講義内容に関する演習問題を解く。
第 11 回	ベクトルと行列	ベクトルの演算、行列の演算
第 12 回	演習	第 11 回講義内容に関する演習問題を解く。
第 13 回	連立一次方程式	ガウスの消去法、非線形連立方程式の解説
第 14 回	演習	第 13 回講義内容に関する演習問題を解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に演習課題の実施。数回の課題の提出を求める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊津野和行、酒井久和：Excel ではじめる数値解析、森北出版

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

演習課題の提出による評価 40%、期末試験 60% で総合的に評価する。4 回以上欠席したものは単位の取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を確認しながら授業を進めた結果、授業評価は総じて好評であったが、プログラミングが難しいとの意見があった。プログラミング能力を向上させるためには、プログラミングを行う回数が重要と考えるため、演習を増加させたい。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートパソコンを必ず持参すること。

【Outline and objectives】

The main objectives of the Numerical Calculation Method Program are the following:

- 1) Understanding of fundamental numerical calculation methods.
- 2) Utilization of Microsoft Excel.
- 3) Acquisition of skills for creating macros in Excel.

HUI200ND

インタフェースデザイン

土屋 雅人

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、各種電子機器の操作は複雑なヒューマンインタフェース（以下インタフェース）を通して行なわれることが多いため、インタフェースデザインの各種事例を通して、デザインに必要なヒューマンファクターを理解し、その体系的なデザイン手法を学習する。

【到達目標】

インタフェースデザインに必要なヒューマンファクターを理解する。
インタフェースの設計方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

インタフェースデザインは、ひとつひとつの操作を積み重ねる時間軸を持つことが特徴である。そのため、一連の操作を通して問題点を把握し、新たなデザインを提案するプロセスの実験が重要である。本授業では、身近な機器を題材にして、インタフェース設計ガイドラインやユーザビリティ評価手法等を導入し、「身体的」「認知的」「感性的」側面から、インタフェースデザイン方法論を体系的に学習する。授業の中では、前半にインタフェースの問題抽出と解決方法を事例を通して解説し、後半で自ら実製品のインタフェースデザインを演習的に体験する。複数の演習課題に対して、その特徴的なレポートを抽出し、授業の中で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の進め方、授業評価について説明する。
2	インタフェースデザインとは	インタフェースデザインの概論、歴史、手法等について解説する。
3	身の回りのインタフェース	事例を通してインタフェースデザインの重要性を解説する。
4	アンソロポメトリ	インタフェースに係わる人間工学的課題を解説する。
5	視覚・反応	視覚感覚の特性について解説する。
6	認知・判断1	人の認知について解説する。
7	知覚・認知・判断2	事例を通して人の情報処理の流れを解説する。
8	記憶・意思決定	記憶の特性と意思決定の特徴について解説する。
9	インタフェースデザインプロセス	インタフェースデザインのプロセスを解説する。
10	ユーザビリティ評価	事例を通してユーザビリティ評価を解説する。
11	ヒューマンエラー1	ヒューマンエラーの事例について解説する。
12	ヒューマンエラー2	ヒューマンエラーの構造について解説する。
13	インタフェースデザインの課題	課題の発表、評価を行う。
14	インタフェースデザインの将来	次世代の入出力デバイス等今後の方向性を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別講義では、講師の指示する課題を授業時間外に対応すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてテキストを配布する。

【参考書】

こんなデザインが使いやすさを生む、三菱電機デザイン研究所、工業調査会
ユーザビリティテスト、黒須正明、共立出版
デザインと感性、井上勝雄、土屋雅人他、海文堂出版
ユーザビリティハンドブック、共立出版

【成績評価の方法と基準】

各課題の達成度、および授業態度を総合して評価する。
授業の中でのインタフェースデザイン技術に関する課題を課し、その内容を評価に加える。

平常点（20 %）＋課題合計（40 %）＋試験（40 %）＝合計 100 %

【学生の意見等からの気づき】

指示した場合を除き、ノートパソコンによる講義録メモや、デジタルカメラによる授業資料撮影を禁止する。

【学生が準備すべき機器他】

課題によってノートパソコンを使用する（授業の中で指示する）。

【Outline and objectives】

Electronic devices need complicated human interfaces to perform high level functions in recent years, and interface design is becoming more important for the evaluation of products. Through various examples of interface design, we will study the human factors which are necessary for the design and learn systematic design methods.

MTL200ND

材料と構造のデザイン

竹内 則雄

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、外力の作用が構造物や機械（要素）などの実際の「もの」に対して、どのように影響するかを理解するための基礎的知識や解析方法を学ぶ。さらに、力やモーメントの作用によって構造物や機械（要素）がどのように変形し、内部にどのような力が発生するかを学ぶ。

【到達目標】

講義と演習をとおして、力やモーメントの釣り合いに関する原理を応用することができる能力を開発し、現実の構造物や機械部品などをデザインするための力学的解析が行えるようになるとともに安全性を評価できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義2コマ続きで1つのテーマの学習を行う。はじめに、レジメを用いて学ぶべき内容の解説を行い、その後、講義で学んだ知識をもとに演習を行う。演習時にはヒントを出すものの、自ら演習課題を解くことで、問題を解決するためのスキルを身につける。演習課題の解答は、授業中に解説したり授業支援システムに掲載する。また、レポートについては、添削の上返却する。なお、学生の理解度に応じて、次回講義の最初に追加説明を行うことがある。

授業中の演習は、授業中に解説する。また、宿題となった課題については、次の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	空間の力（1）	①空間における力 ②空間における合力 ③力の水平、垂直成分
2	空間の力（2）	前回の講義内容についての演習
3	空間の力の釣り合い（1）	①モーメントと外積 ②偶モーメントの合力 ③力の縮約
4	空間の力の釣り合い（2）	前回の講義内容についての演習
5	断面の性質（1）	①図心 ②断面諸量 ③断面の主軸
6	断面の性質（2）	前回の講義内容についての演習
7	材料の力学的性質（1）	①応力とひずみ ②フックの法則 ③弾性係数とポアソン比
8	材料の力学的性質（2）	前回の講義内容についての演習
9	組み合わせ応力（1）	①応力の座標変換 ②主応力 ③モールの応力円
10	組み合わせ応力（2）	前回の講義内容についての演習
11	はりのデザイン（1）	①断面力 ②断面力図 ③はりの応力度 ④はりの変形
12	はりのデザイン（2）	前回の講義内容についての演習
13	柱のデザイン（1）	①柱の種類 ②短柱 ③長柱 ④トラス構造
14	柱のデザイン（2）	前回の講義内容についての演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムを用いて事前に講義で使用するプリントを配布するので、各自で事前にダウンロードし、予め目とをし、下記の参考書等を用いて予習を行っておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストを pdf ファイルにしたものが学習支援システムに登録されているので必要に応じてダウンロード可能である。

【参考書】

R.C.Hibbeler：Statics and Mechanics of Materials, 2/e, Prentice Hall Intl. Edition

工業力学，材料力学，構造力学，応用力学などの参考書

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題（30%） 各テーマ毎に行う演習とその課題（レポート）をとおして、基礎的な理解度を評価する
理解度確認課題（50%） 全体を通して得た知識を活用して、応用問題を解決できる能力を評価する。
演習状況（20%） 決められた時間内に演習課題を処理する能力を評価する。

ただし、出席日数が全体の2/3に満たない学生は評価の対象外（E）とする。なお、1時間目に30分以上遅れて入室した学生に関しては、特別な理由が無い限り、その日は欠席扱いとする。

【評価基準】

履修の手引にに記載されているS～Eまでの12段階評価基準に基づく。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は添削して返却するので、指摘事項を確認し、復習しておくこと。

【学生が準備すべき機器他】

演習時に、関数電卓を使用するので、毎回持参すること。なお、携帯電話や、事務用の電卓では、計算できない課題もあるため、必ず、関数電卓を用意すること。試験の際にも関数電卓を使用する（試験の際にスマートフォンを持ち込むのは禁止）。

【その他の重要事項】

2021年度は、Zoomを使用し、リアルタイムに実施するオンライン授業を予定。授業内容は、録画して、各自で自習できるよう公開する。

【Outline and objectives】

In this program, students acquire basic knowledge and analytical methods on structural and materials mechanics in order to understand the effects of external forces on structures and machine elements. In addition, students acquire knowledge about deformation and internal forces when a load acts on structures or machine elements.

MEC300ND

熱と流れのデザイン（2020年度休講）

田中 豊

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身のまわりの物体は、運動したり、変形したり、状態（温度、圧力、体積など）が変化したりする。また製品をデザインするためには、こうした物体の力学的な特性や状態変化を十分に理解しておくことが重要である。

本授業のテーマは、まず最初に、このような物体の運動や変形、状態の変化を、自然科学や技術の変遷の中で、「熱」や「流れ」の力学として考える。次に、熱と流れに関する課題を取り上げ、シミュレーション等により自ら解決したり、その結果を可視化手法等により表現したりする。さらに、具体的な実習課題を通して、熱や流れに関する性質を製品のデザインに活かすことを学ぶ。

【到達目標】

- ・物体の運動や変形、状態の変化を「熱」や「流れ」の力学として理解できること。
- ・熱と流れに関する課題を計算やシミュレーション等により自ら解決したり、その結果を可視化手法等により表現したり説明したりできること。
- ・熱や流れに関する性質を製品のデザインに活かすことができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するため、授業の前半では、まず熱と流れの力学に関する自然科学や技術の変遷を紹介し、物体の変形にともなう力学的な諸問題を「流体」や「流れ」という概念でとらえ、流れの性質や数学的な表現を解説する。

次に授業の後半では、物体の熱の出入りにともない生じる状態変化を「熱学」という物体の巨視的な状態変化と仕事やエネルギーの概念でとらえ、熱の力学的な性質、熱力学の法則やパワーサイクルの考え方を概観する。

講義授業回毎に与えられたリアクションペーパーや演習問題を記入・作成し、提出する。また「流れ」と「熱」に関する理解度を確認するための2回の試験を行ない、途中までの理解度を評価する。

授業の最後では、熱と流れの可視化手法や測定手法を紹介し、数値シミュレーション結果の処理を行うための基礎事項を解説する。さらに具体的な実習課題や例題演習を通して理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	物体の運動と状態の変化	物体の運動や変形、状態の変化を「熱」や「流れ」の力学として理解する。熱や流れの力学を自然科学や技術の変遷の中で理解する。単位系とその考え方を理解する。 ・力学の学問体系 ・流れと熱の力学史 ・流体力学と熱力学 ・単位系とその考え方
2	流体の性質	変形しながら運動する物体（流体）に特徴的な性質を理解する。 ・圧力 ・密度と比重 ・粘性と圧縮性 ・静水圧 ・パスカルの原理と力増幅装置 ・浮力
3	連続の式と運動量保存則	流れの数学的な表現の中で重要となる連続の式と運動量保存則について、力学的な視点で理解する。 ・ニュートン力学 ・連続の式（質量保存則） ・運動量保存則
4	エネルギー保存則	前回に引き続き、流れの数学的な表現の中で重要となるエネルギー保存則を理解する。さらに圧力の測定方法や流れの表現方法（可視化手法）についても理解する。 ・エネルギー保存則 ・動圧と静圧 ・圧力の測定法 ・流れの可視化と表現法

5	粘性のある流れ・圧縮性のある流れ	流体に特徴的な性質である粘性と圧縮性について、その役割や基礎事項について理解する。 ・粘性の役割 ・非圧縮・粘性流れの基礎方程式 ・流れの相似則とレイノルズ数 ・層流と乱流 ・圧縮性流れの基礎方程式
6	管路内の流れ	工学的な流れの基本となる管路内流れについて、その基礎事項を理解する。 ・管路内流れ ・管摩擦損失 ・境界層
7	物体周りの流れ	流体中に置かれた物体に働く力や流れの様子についての基礎事項を理解する。 ・物体周りの流れ ・抗力と揚力 ・第1回～7回のまとめ ・理解度確認試験1
8	物質の熱力学的特性	物体の熱の出入りにともない生じる状態変化を「熱学」という物体の巨視的な状態変化と仕事やエネルギーの概念として理解する。 ・物体の状態変化 ・熱エネルギーと仕事 ・圧力と体積と温度
9	熱エネルギーの利用と熱の伝達	物体内の熱の伝わり方に関する基礎事項を熱の利用の観点から理解する。 ・伝熱 ・輻射 ・放射 ・伝導 ・対流 ・断熱
10	理想気体の状態変化と仕事	理想気体の状態変化と仕事に関する基礎事項を熱と仕事の等価性の関係で理解する。 ・理想気体の状態変化 ・熱と仕事
11	熱と仕事とエントロピー	熱と仕事とエントロピーに関する基礎事項を理解する。 ・熱と仕事とエントロピー ・熱力学の法則 ・準静的変化 ・可逆変化と不可逆変化
12	熱力学の法則とパワーサイクル	熱力学の法則と熱エネルギーを利用したパワーサイクルの考え方について理解する。 ・様々なプロセス ・熱力学の法則 ・熱機関の動作原理とパワーサイクル
13	様々な熱機関のパワーサイクル	身の周りの様々な熱機関をパワーサイクルの観点で理解する。 ・オットーサイクル ・ディーゼルサイクル ・スターリングサイクル ・ブレイトンサイクル ・ランキンサイクル ・ヒートポンプ
14	熱と流れの可視化・計測手法・画像処理まとめ	熱と流れの可視化や計測手法に関する基礎事項を例題と実習を通じて理解する。 ・熱と流れの可視化と例題実習 ・計測手法と例題実習 ・画像処理と例題実習 ・第8回～14回のまとめ ・理解度確認試験2 ・授業改善アンケートの記入

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認
返却されたリアクションペーパーの復習
配布・回収・返却した演習問題の復習
講義資料の内容の事前の確認と事後の復習
理解度確認試験の自己採点と評価結果の見直し・復習
レポートの作成
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適宜、プリントや演習問題を配布する。
すべての教材や演習問題、リアクションペーパーは授業支援システムを用いて電子媒体で配布する。

【参考書】

細井：教養・流れの力学，東京電機大学出版局
日本機械学会編・JSME テキストシリーズ：流体力学
日本機械学会編・JSME テキストシリーズ：熱力学

【成績評価の方法と基準】

- ・リアクションペーパーや演習問題（10 %）
授業中に配布されたリアクションペーパーや演習課題を，教員からの指示に従い，記入・回収し，結果を確認して，次回に返却する。その提出状況と記入結果を各回 10 点満点で評価する。各回の授業内容の理解と記入状況が評価の基準である。
- ・理解度確認試験（40 %）
2 回の理解度確認試験の結果を，それぞれ，100 点満点で評価する。理解度確認試験 1 では，第 1 回～7 回で行われた授業内容の「流れ」に関する力学的な理解が評価の基準である。理解度確認試験 2 では，第 1 回と第 9 回～12 回で行われた授業内容の「熱」に関する力学的な理解が評価の基準である。
- ・レポート課題（必要に応じて加点する）
第 14 回～15 回のレポートの提出状況と内容を各 10 点満点で評価する。実習課題のレポートでは，第 1 回～13 回で得られた知識を活用し，自らシミュレーション結果を可視化できること，また得られた知見を製品のデザインに活かせるようになったかが評価の基準である。
- ・最終試験（50 %）
試験期間中に期末試験を実施する。
最終的な成績評価は，上記のすべての結果から総合的に判断評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習の解答例の詳細な解説を行ってほしい旨の意見があったので，時間の許す限り解答例の解説を行う。
リアクションペーパーへの記入例は，講義終了後，授業支援システムを使って電子的にアップする。

【学生が準備すべき機器他】

大学から配布されたノート PC を使用する。

【その他の重要事項】

2021 年度より開講学年が 2 年から 3 年に，開講期が秋学期前半（C 期）から春学期前半（A 期）に変更になった。

【Outline and objectives】

Liquids and gasses can both be categorized as fluids. The first half of the lecture deals with fluid properties, fluid statics and fluid dynamics. The second half of the lecture deals with thermodynamics. Thermodynamics is the study of a substance's energy-related properties. The properties of a substance and the procedures used to determine those properties depends on the state and the phase of the substance. Through practical tasks, students learn to utilize the properties related to fluid dynamics and thermodynamics to product design.

SSS200ND

オペレーションズリサーチ

野々部 宏司

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペレーションズリサーチ（Operations Research, OR）とは、「実社会における問題解決や意思決定を支援するための数理的・科学的方法論や技法」を対象とする研究分野である。OR の幾つかの代表的テーマについて基礎知識・技能を学ぶ。

【到達目標】

- ・ Microsoft Excel のソルバー機能（Excel ソルバー）を用いて最適化問題を解くことができる。
- ・ 安定マッチングを理解している。
- ・ Excel を用いて簡単なシミュレーションを行うことができる。
- ・ 待ち行列理論の基礎を理解している。
- ・ 不確実性下での意思決定について、代表的な意思決定原理を理解している。
- ・ リスクのもとでの多段階意思決定にディシジョンツリーを利用することができる。
- ・ AHP を利用した意思決定を行うことができる。
- ・ ゲーム理論の基礎を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的なテーマとして、「数理最適化」「グラフ・ネットワーク」「シミュレーション」「待ち行列」「不確実性下での意思決定」「階層的意思決定法（AHP）」「ゲーム理論」を取り上げ、これらの基礎知識と代表的な手法について説明する。理解度確認のための演習（テーマによってはノートパソコンを使用）や小テストを適宜授業時間内に行う。また、授業外に行うべき課題を各テーマごとに課す。課題の回収や小テストの実施には学習支援システムを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的・進め方について説明した後、例題を示しながら授業で扱う内容の概説を行う。
2	数理最適化（線形計画法）	数理最適化とその代表的な手法である線形計画法について学ぶ。意思決定問題を最適化問題として定式化し、Excel ソルバーを用いてその問題を解く練習を行う。
3	数理最適化（整数計画法）	線形計画法よりも適用範囲が広い手法である整数計画法について、バイナリ変数の活用方法を含めて学ぶ。Excel ソルバーを用いた演習を行う。
4	割当て問題	数理最適化の応用例として割当て問題を取り上げ、例題を用いた演習を行う。また、安定マッチングについて学ぶ。
5	シミュレーション（決定論的シミュレーション）	問題解決や意思決定のためのシミュレーションについて学ぶ。決定論的シミュレーションの演習を Excel を用いて行う。
6	シミュレーション（確率的シミュレーション）	確率的シミュレーションについて、モンテカルロシミュレーションを中心に学ぶ。Excel を用いた演習を行う。
7	待ち行列（シミュレーション）	数理モデルを通して混雑や待ちの現象を解析し問題解決に役立てる手法として、待ち行列理論の基礎を学ぶ。とくにシミュレーションを用いた分析を行う。
8	待ち行列（理論的解析）	待ち行列理論の基礎を学ぶ。とくに M/M/1 待ち行列システムを中心に理論的解析について学ぶ。
9	不確実性下での意思決定（意思決定原理）	不確実性やリスクのもとでの意思決定原理について、代表的なもの（マクシミン原理、マクシマックス原理、ミニマックス後悔原理、ラプラスの原理、期待値原理、期待値・分散原理、最尤未来原理、要求水準原理）とそれらの性質について学ぶ。

10	不確実性下での意思決定（ディシジョンツリー・効用）	リスクのもとでの意思決定（とくに多段階の意思決定）に用いられる代表的なツールであるディシジョンツリー（決定木）、および人が感じる満足度を数値によって表す概念である効用について学ぶ。
11	AHP（階層的意思決定法）	評価基準が複数存在する中で、複数の代替案から 1 つ（もしくは幾つか）を選択したり代替案を順位づけたりするためのツールとして AHP（階層的意思決定法）について学ぶ。
12	ゲーム理論（非協力ゲーム）	ゲーム理論（複数の意思決定者が合理的な行動をとる状況を論理的に取り扱うための方法論）の基礎知識として、非協力ゲームの初歩について学ぶ。
13	ゲーム理論（混合戦略）	非協力ゲームの混合戦略について学ぶ。
14	演習課題（最終課題）	授業内容の復習を行い、各自で設定した問題に対して、OR の手法を適用する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ 事前学習（基礎知識の習得）
 - ・ 授業内容の復習
 - ・ 演習課題の実施と提出
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。資料を配布する。

【参考書】

- ・ 藤澤克樹・後藤順哉・安井雄一郎：「Excel で学ぶ OR」, オーム社, 2011.
 - ・ 今野浩・後藤順哉：「意思決定のための数理モデル入門」, シリーズ〈オペレーションズ・リサーチ〉5, 朝倉書店, 2011.
 - ・ 森雅夫・松井知己：「オペレーションズ・リサーチ」, 朝倉書店, 2004.
 - ・ 松井泰子・根本俊男・宇野毅明：「入門オペレーションズ・リサーチ」, 東海大学出版会, 2008.
 - ・ 高橋幸雄・森村英典：「混雑と待ち」, 朝倉書店, 2001.
 - ・ 藤田忠・熊田聖：「意思決定科学」, 第 2 版, 泉文堂, 2001.
 - ・ 宮川公男：「意思決定論—基礎とアプローチ」, 中央経済社, 2005.
 - ・ 渡辺隆裕：「図解雑学ゲーム理論」, ナツメ社, 2004.
 - ・ 逢沢明：「ゲーム理論トレーニング」, かんき出版, 2003.
- など、その他、授業内に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

演習課題の提出物により、以下の割合で評価する。

- ・ 演習課題（第 13 回まで）： 70%
- ・ 最終課題： 30%

ただし、授業を 4 回以上欠席した場合は評価の対象外（E 判定）とする。特別な理由がない限り 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間を有効に活用するため、基礎知識の習得や Excel を用いる演習の準備等については、一部を事前学習として課すことにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ edu2020 貸与ノートパソコン：演習・小テスト等に利用する。毎回持参すること。
- ・ 学習支援システム：お知らせの配信・資料やスライドの配布・課題の提示や回収・授業内小テスト等に利用する。

【Outline and objectives】

Operations Research (OR) provides mathematical tools for problem-solving and decision-making in real-world situations. In this course, students learn fundamental knowledge and skills in topics in OR.

DES300ND

デザインケーススタディ

佐藤 康三、土屋 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、複雑化するインダストリアルデザイン（以下 ID）の開発領域において、歴史的背景と開発コンセプトを、実際の製品事例を挙げながら、今日のデザインにとって重要な次の2つの領域に分け学習し今日のインダストリアルデザインの状況を具体的に理解し、今後のインダストリアルデザインのあり方を考察する能力を得ることを目標としている。

1＞デザインフォルム&ファンクション領域

2＞ニーズ分析、インタラクションデザイン領域

【到達目標】

ID の 1＞デザインフォルム&ファンクション領域、2＞ニーズ分析、インタラクションデザイン領域の開発範囲、開発視点を学ぶことより、ID をより深く理解し、今後の ID のあり方を考察する能力を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在インダストリアルデザインは工業デザインと翻訳されていますが、そのデザイン開発範疇は年々拡大し、複雑になってきています。さらに「デザイン」という語彙自体も広義・多義性を持っています。このことは、「デザイン」自体が高い創造性を重視している実学であり、様々な分野で今後益々重要になると注目されていることを示しています。この授業では、複雑化するインダストリアルデザイン開発領域を、実際の製品事例を挙げ歴史的背景、重要な開発コンセプトを含めたデザインにとって重要な2つの視点 1＞デザインフォルム&ファンクション領域、2＞ニーズ分析とインタラクションデザイン（ユーザーインタフェース（UI）領域に分け学習していきます。

授業は2つの視点のデザインケーススタディを、それぞれの専門教員からの各6回の講義と初回のガイダンス、最終回のプレゼンテーションからなります。

1＞デザインフォルム&ファンクション領域では、様々なフォルムを持つ製品デザインの開発概論、フォルム&ファンクション決定プロセス、生産技術とフォルム、時代背景とフォルム&ファンクション、機能進化とフォルム&ファンクション等を学んでいきます。

2＞ニーズ分析とインタラクションデザイン（UI）領域では、デザインの重要な要素となっているユーザーニーズ分析を多変量解析を用いて学習し、マーケットのニーズ分析方法とインタフェースのコンセプトプランニングを実例と通して学んでいきます。

それぞれの視点からのレポート課題が出ます。また、最終授業では、この授業で学習した内容を PPT でまとめプレゼンテーションしてもらいますので学習、復習をしっかりと行ってください。

「インタラクションデザイン」（担当土屋）ではノート PC を使いますので、必ず持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 佐藤康三 土屋雅人	この授業の要点、注意事項の説明をします。講義「フォルム&ファンクション」「インタラクションデザイン」の大きな2つの枠組の講義概要を説明。この授業の目標をよく理解すること。
2	フォルム&ファンクション-1 佐藤康三	Directivity of product design development in the 21st century (cloud computing) 1/2 21世紀に成り大きく変化する製造デザインの現場 クラウドコンピューティングと製品デザインの現状
3	フォルム&ファンクション-2 佐藤康三	Directivity of product design development in the 21st century (cloud computing) 2/2 21世紀に成り大きく変化する製造デザインの現場 ローカルモータースのデザイン戦略

4	フォルム&ファンクション-3 佐藤康三	The contents of product design development business & designer's position Milano fuori salone1/2 日本と欧州、米国におけるデザイナーとクライアントの関係、デザイン業務の違い。日本のフリーランスデザイナーと製造メーカー、地方自治体等の業務内容の実態 ミラノ国際家具見本市に見られる作品群解説 1/2
5	フォルム&ファンクション-4 佐藤康三	The case of a Japanese Self production”Q&C”Indoor article design(Self Production Plan) Milano fuori salone2/2 自主企画製品デザイン、製造、販売のあり方 実例サンプル”Q&C”の場合について ミラノ国際家具見本市に見られる作品群解説 2/2
6	フォルム&ファンクション-5 佐藤康三	Traditional production technology and design 日本の美意識。 日本の伝統産業、伝統技術とデザインの関係について
7	フォルム&ファンクション-6 佐藤康三	Transportation design Plan & Design 公共交通デザイン（超低床車両デザインの開発プロセスについて）
8	ニーズ分析-1 土屋雅人	「ニーズ分析」に関する講義、事例－1の学習 アイデア発想法と整理法の学習
9	インタラクションデザイン-1 土屋雅人	「インタラクションデザイン」に関する講義、事例－1の学習
10	ニーズ分析-2 土屋雅人	多変量解析手法の学習 「ニーズ分析」に関する講義、事例－2の学習
11	インタラクションデザイン-2 土屋雅人	身近な商品を題材としたニーズ分析 「インタラクションデザイン」に関する講義、事例－2の学習
12	ニーズ分析-3 土屋雅人	多変量解析を用いた商品コンセプトの創出 「ニーズ分析」に関する講義、事例－3の学習
13	インタラクションデザイン-3 土屋雅人	日常の問題の発見とニーズ分析 「インタラクションデザイン」に関する講義、事例－3の学習
14	インタラクションデザイン-4 土屋雅人	多変量解析を用いたサービスコンセプトの創出 「インタラクションデザイン」に関する講義、事例－4の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「フォルム&ファンクション」「インタラクションデザイン」講義の中核は人間創造活動であり、近代以降の職能として「デザイン」が存在するが、その職能が発生するまでの文化的文脈、近代産業革命以降の機械技術の発展等、近代・現代デザイン、建築、絵画、彫刻等様々な芸術の本質について、およびニーズ分析に基づくインタフェースデザインについて、多面的な学習をしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。5 回欠席および連続 3 回欠席の受講生は成績評価対象外となります。
遅刻は 2 回で 1 回の欠席扱いとなります。欠席一回につき－2 点、遅刻-1 点（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。）
「フォルム&ファンクション」では、成績は試験 100%です。
「インタラクションデザイン」では、成績は課題 40%、試験 60%です。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容をよく理解するためにも、参考図書等の紹介を行う。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC（Windows10）を用いる箇所がありますので、教員の指示に従ってください。

【Outline and objectives】

In this course, through consideration of historical background and concepts of industrial design (ID) history, we study the landscape of today's industrial design in the following two areas:

- 1) Design Form & Function Area
- 2) Needs Analysis, Interaction Design Area

The aim of this course is to obtain the ability to consider future methods of industrial design.

MAN300ND

情報システムデザイン

田岡 賢輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

企業活動で IT 利活用を推進して行くために、主として次のテーマについて考え、具体的な手法を習得する。

1. 情報システムを構成する要素とそれぞれの位置づけ、役割を理解する
2. 企業の実際のビジネスにおいて情報システムがどのように適用されているか？
3. 企業の実際の情報システムにおいてシステムデザインはどのように行われているか？
4. 効果的・効率的な情報システムの構築にはどのようにシステムデザインを行えばよいか？
5. AI、IoT、ビッグデータ等の新しい考えを情報システムにどう組み入れてゆくか？ また現在の社会の動向・課題にどう情報システムが応えてゆけるか？

【到達目標】

企業において情報システムデザインを行う一員として、企業の業務要件を正確に表現できるモデルを作成する。さらに作成したモデルを最新のテクノロジーを活用し、効率的・効果的な情報システムとして構築できる手法を習得する。また常に化する IT 環境と社会のニーズに対して、課題を捉えて整理し、どう対応すべきか自ら方針を策定出来るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

情報システムデザインを推進する方法を事例紹介・ケース演習・ケーススタディ等を通し、実務的な視点を加えながら検討する。受け身の講義だけではなく、出来るだけ自分で考えて双方向で議論し、演習やレポート提出は、個人単位とグループを組み合わせで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報システムデザインのための概念 業務をモデル化して理解する	・授業の進め方 ・情報システムデザインのための概念：モデル化 ・業務のモデル化による理解
第 2 回	情報システムを構成する要素とその位置づけを理解する	情報システムを構成する要素と位置づけ ・ハードウェア ・ソフトウェア ・ミドルウェア ・アプリケーションソフトウェア
第 3 回	企業におけるビジネス活動と情報システムを理解する (1)	企業における種々のビジネス活動とその他の情報システムを下記題材について理解する ・営業活動 ・顧客管理
第 4 回	企業におけるビジネス活動と情報システムを理解する (2)	企業における種々のビジネス活動とその他の情報システムを下記題材について理解する ・生産管理 ・財務会計
第 5 回	情報システムデザインの概要	・要件定義 ・基本設計 ・詳細設計
第 6 回	業務要件の理解と整理 (1)	それぞれについての概要を理解する 営業活動支援に関しての業務要件を理解して整理する
第 7 回	業務要件の理解と整理 (2)	生産管理に関しての業務要件を理解して整理する
第 8 回	基本設計-機能編 (1)	整理した業務要件から必要となる機能を洗い出して整理する
第 9 回	基本設計-機能編 (2)	機能を処理とデータの流れという形で理解して整理する
第 10 回	基本設計-データ編	要件を満たし機能を実現するためのデータを洗い出してデータベース設計を行う
第 11 回	基本設計-UI 編	要件を満たし機能を実現するためのユーザーインターフェース設計を行う

第 12 回	情報システムの開発手法	開発手法について新しい考えも含め理解する ・ウォーターフォール型 ・アジャイル開発 ・プロトタイプ開発
第 13 回	AI 等の活用等、情報システム技術の最前線について	新しい IT が情報システムにどのようにかかわるかを理解する ・ AI ・ IoT ・ビッグデータ
第 14 回	今日の社会環境における情報システムの課題	今日の社会環境において情報システムが抱える課題を理解する ・情報産業の現状と課題 ・新技術対応へ向けての IT 人材像 ・社会のニーズと情報システムの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

別途授業で指示

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

下記の組み合わせを予定

1. 授業でプリントを配布
2. 授業支援システムよりダウンロード

【参考書】

「高校数学でわかるディープラーニングの仕組み」(バレ出版 ISBN978-4-86064-602-8)

「BAM～可視化経営の実践～」(日経 BP 社、ISBN-4: 86130-227-7)

【成績評価の方法と基準】

下記により総合的に評価する。

1. 平常点（授業中の参加の度合、貢献度） 50%
2. 期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施、グループワークの実施方法等について、学生からの意見等を活かすことに努めている。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、エクセル、その他インターネット上のツール等を活用するためノート PC 必須
情報共有と課題に授業支援システムを活用

【Outline and objectives】

In this course students will learn about the following system design methods, used to promote usage/effectiveness of information systems in enterprises.

1. Elements of information systems and their roles.
2. How information systems are applied to actual businesses.
3. How design is practiced in information systems at enterprises.
4. What is effective and efficient design for information systems.
5. How new technologies like AI, IoT and Big Data are introduced in information systems. And how information system responds to current social needs.

DES300ND

プロダクトデザイン理論

佐藤 康三

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

A 期集中オンライン講義です。（火曜日 3 限、金曜日 2 限）

この授業では、プロダクトデザイン（以下 PD）の創造性にとって重点な要件の基礎理論を学ぶことが出来る。

人間の創造行為としての PD の歴史認識、社会的意義、デザインと機能の関係、PD と人間工学、PD に多く使用される素材と製造技術などを学習し、デザインと工学の関連性を理解することができる。

【到達目標】

インダストリアルデザインの近代～今日までの文化的文脈を理解する。
 プロダクトデザイン（PD）開発プロセス概要の理解。PD 企画の理解。PD フォームの理解。PD と素材、素材表面処理の理解。PD の量産、小ロット生産技術概要の理解を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

A 期集中オンライン講義です。（火曜日 3 限、金曜日 2 限）

講義ノートを必ずとる事：火曜日と金曜日は講義内容が変わります。

火曜日 3 限：プロダクトデザインの基礎技術編：PD 設計に必要な製品製造工法、素材、素材表面処理技術に関して学べます。

金曜日 2 限：プロダクトデザインの基礎歴史的な文脈編

現代のプロダクトデザインが成立するまでの近代デザインの歴史の文脈を学べます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・ 素材基礎 1	授業概要説明 素材基礎 1： PD でよく使用する基本素材 1
2	プロダクトデザインの文 化的文脈	プロダクトデザインの意味、文化的文脈の重要性、近代デザインの発生と発達について
3	素材基礎 2	素材の比重等素材特性について
4	産業革命とデザイン 新古典からアールヌー ボー	近代デザインの主なムーブメント 新古典主義について アールヌーボーからセザンヌの
5	からセザンヌ プラスチックについて	背景と意味、表現について 工業製品でよく使用されるプラス ティックの特性について
6	ディ・ステール ロシア構成主義 バウハウス	工業デザイン黎明期について ディ・ステール、ロシア構成主義の背 景と意味、表現バウハウスについて
7	新素材について	炭素繊維等の新素材特性と 製品デザインの関係について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義ノートを取り、内容について復習する

各回の講義ノートをまとめ講義ノートを充実させる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義進捗に合わせ適宜授業参考資料を配布する。

【参考書】

世界デザイン史、安倍公正監修：美術出版社：

PRODUCT AND FURNITURE DESIGN/Thames & Hudson/Rob Thompson

PROTOTYPING AND LOW-VOLUME PRODUCTION /Thames & Hudson/Rob Thompson

素材とデザインの教科書：日経デザイン編：日経 BP 社

デザイン、新・100 の法則：株式会社 BNK, William Lidwall, Kritina Holden, Jill Butter 著

マテリアルデザイン：彰国社、その他

【成績評価の方法と基準】

講義全体で 4 回以上の欠席および連続 3 回欠席の受講生は成績評価対象外となります。

遅刻は 2 回で 1 回の欠席扱いとなります。欠席一回につきー 4 点、遅刻-2 点（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。）

評価：

筆記試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

説明をよりゆっくと進める

【その他の重要事項】

■イタリア、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の文化的文脈基礎知識及び製造の基本技術を講義する。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn basic theory behind fundamental requirements in product design (PD) creativity.

MEC200ND

メカニカルデザイン（2019年度以降入学生）

山田 泰之

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物体と物体の動きの関係性を定める機構（メカニズム）に焦点をあて、幾何学や一般力学の基本原則を元に学ぶ。さらに、それらのメカニズムを利用したメカニカルシステムを、材料特性、加工、生産性などの多角的視点により具体化させるための基礎的、応用的知識と実践方法を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 基本的な機械の機構（メカニズム）が理解できる。
- 2) メカニカルデザインを具体化するために必要は材料、加工法等の実設計について理解できる。
- 3) 1) と 2) の学修を通じて、機械の機構を企画・設計（デザイン）する手法の基礎を理解し、応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

動きをとまらぬあらゆる製品には「機構（メカニズム）」が存在する。機構は製品を企画・設計（デザイン）するにあたり、エンジニアはもちろん、デザイナーも理解しておかなければならない重要な要素である。本講義では、リンク機構、カム機構、伝動装置、歯車、流体駆動、ロボットなど、主なメカニズムの基礎と、その具体化にかかわる材料や加工法の選定などを含めたメカニカルデザイン全般について学修する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに 設計基礎	・機械設計とは何か、身近な機械機構、 材料と加工法の事例紹介 ・図面と CAD を用いた機械設計と設計プロセス
第 2 回	機械要素	・機械要素や規格品の活用（締結要素や材料規格） ・構造と材料の選定について ・機械要素：ギヤ
第 3 回	伝達機構 カム機構 リンク機構	・柔軟伝達機構 ・カム機構 ・リンク機構、緩衝装置
第 4 回	液体伝達機構 アクチュエータ	・液体伝達要素 ・アクチュエータ ・中間課題
第 5 回	材料 構造	・様々な材料を利用したメカニカルデザイン ・機械の様々な構造
第 6 回	機械加工・工具 移動機構	・様々な部品の機械加工方法や道具の紹介 ・移動機構
第 7 回	応用的なメカニカルデザイン 期末課題	・応用的なメカニカルデザインについて紹介する。 ・期末課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) シラバスの内容を事前に確認する

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な教材、資料は随時で配信する。

参考図書の機構学（ISBN-13: 978-4627668911）は、

学内あるいは VPN 接続により、

電子書籍で閲覧可能です。

https://kinoden.kinokuniya.co.jp/hosei_u/bookdetail/p/KP00031635/

参考図書の基礎機械材料は図書館にあります。

【参考書】

- 1) 機構学 ISBN-13: 978-4627668911

- 2) 基礎機械材料 ISBN-13: 978-4563069216

【成績評価の方法と基準】

平常点・確認小テスト（30 %）

課題提出（70 %）

により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学習内容が、「実際にどのような商品や製品に応用され活用されているのかが、イメージできない」との指摘があった。事例紹介を増やし、学習内容と実社会で利用されている技術の関連付けを明確にししながら説明するよう心がける。

【その他の重要事項】

メーカー、公的研究機関で研究開発、産学官連携業務に携わった経験を持つ教員が、大学の研究成果や学問上の知識を、どのように実際の製品開発や設計に生かすかについて具体的に講義・演習を行う。

【Outline and objectives】

The theme of this course is to apply basic principles of geometry and general mechanics to various mechanical problems. Students will solve problems by modeling motion phenomena using simulation software and visualization techniques. Through the above process, they will understand the basics of methods for designing highly functional mechanisms through lectures and practical training.

HUI300ND

スマートマシンデザイン（2019年度以降入学生）（2021年度開講）

梅舘 拓也

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スマートマシンとは先端ロボット工学を応用した次世代の機械である。具体例として、人間型ロボット、自律分散型ロボット、視覚処理システム、産業用ロボット技術について、各分野の専門家が基礎から応用、将来の展望まで紹介する。

【到達目標】

ロボット工学の基礎と現状を把握し、生徒自らが今後の技術開発の展望を描けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、レポート課題（4回、7回、10回）、理解度を見る小テスト（11回、12回、13回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	2足歩行ロボットの研究の歴史について	2足歩行ロボット／ヒューマノイドロボットの研究の歴史を紹介し、技術の現状について述べる。
2	2足歩行と ZMP	2足歩行制御において重要な ZMP(ゼロモーメントポイント) の概念を説明し、これに基づいて歩行パターンを作る手法を具体的に説明する。
3	全身動作生成と安定化制御	ヒューマノイドロボットの全身バランスを考慮した動作生成法と歩行安定化制御の手法について説明する。またヒューマノイドロボット技術の今後の発展について展望を述べる。
4	シミュレータと制御システム	様々なロボット開発に役立つソフトウェアとして、Choreonoid と ROS について紹介する。
5	コントロールモーメントジャイロによる姿勢制御	人工衛星の制御技術、特に姿勢制御について概要を述べる。その中でコントロールモーメントジャイロの制御を、ロボットの運動学と関連させて紹介する。
6	モジュール型ロボット M-TRAN	モジュール型ロボットの歴史と、M-TRAN による運動制御、変形について紹介する。
7	世界の自律分散制御技術の動向について	モジュール型ロボットを含む、分散機械システムや、さらに広く自律分散システムについて、歴史と現状を概説する。
8	コンピュータビジョンの基礎と世界の動向	画像を使って世界の認識を行うコンピュータビジョンの歴史、基礎技術および実用化された応用技術を紹介する。
9	Versatile Volumetric Vision (VVV) 技術の紹介	産総研で開発された VVV というコンピュータビジョンシステムについてその技術体系の概要を紹介する。
10	ロボットとサイエンスフィクション	大勢のロボット工学者の原体験である SF に登場したロボット、人工知能を紹介し、その技術的、社会的な位置づけを考察する。
11	非駆動関節を有するマニピュレータの制御	非駆動関節（モータで駆動されない自由に回転する関節）を有するマニピュレータを動力学的性質を利用して制御する方法を紹介する。（講義後、小テストあり）
12	パワーアシスト技術	ロボット技術によって人間の身体的負荷を軽減するパワーアシスト技術および人間とロボットの協調作業に関する技術を紹介する。（講義後、小テストあり）
13	スピニング加工技術	回転する金属板をローラ工具で希望する形に成形するスピニング加工（へら絞り）に対するロボット制御技術の応用とその成果を紹介する。（講義後、小テストあり）

14 スマートマシン総括 レポートの総括、最新ニュースの紹介。学生からの質問受付など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4回、7回、10回の講義終了時に出題する課題のレポートを翌週提出すること。（11～13回はレポートのかわりに授業中に簡単な小テストを行う）
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【参考書】

梶田編著「ヒューマノイドロボット」オーム社
村田、黒河著「自己組織機械システムの設計論」オーム社

【成績評価の方法と基準】

出席、レポート、小テストに基づいて採点

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

本講義の履修に際しては線形代数と微積分に関する知識が必要。
履修条件として、2年次に「メカトロニクス」、「メカトロニクス演習」、「ロボットデザイン」、「機械の機構と設計」、「福祉工学」のうち少なくとも一つの科目を受講済みであること。
国立研究機関において研究員として勤務する教員が、ロボット工学の基礎から応用、将来展望について講義する。

【Outline and objectives】

Smart machines are the next generation of machines based on advanced robotics engineering. As examples, humanoid robots, autonomous distributed robots, vision processing systems, and industrial robot technologies will be explained by specialists of their field from fundamentals to future pathways.

FRI300ND

ゲームプログラミング（2019年度以降入学生）（2021年度開講）

岩月 正見

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、3次元コンピュータグラフィックス（3DCG）の技術がどのような原理によって実現され、いかにしてゲーム開発に応用されているかについて、ゲーム開発統合環境 **Unity** を用いて、実際に **3D** シーンを構築し、プログラミングを行いながら具体的に理解していく。また、**3D** オブジェクトに物理属性を与えたり、インタラクティブな操作を行ったりする手法についても学ぶ。

【到達目標】

本授業は、3DCG 技術を用いて自分のアイディアに基づくゲームや **3D** コンテンツを具体的に制作できるようになることを目標とする。特に、現在多くの開発者に利用されているゲーム開発統合環境 **Unity** を利用することにより、**3D** ゲームやインタラクティブな **3D** コンテンツが容易に開発できることを実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

チュートリアルビデオを見ながら、ゲーム開発統合環境 **Unity** の操作方法を学び、3DCG ゲームを開発するための具体的に制作しながら学んでいく。また、各チュートリアルの詳細な解説と補足説明も行い、使われている素材の入手方法や作成方法についても詳しく解説する。

5月6日以降に、オンライン授業の準備が整い次第、時間割に従って開講する。ただし、通信環境が整っていないったり、通信障害が発生して受講できなかったりしたとしても不利益が生じないように、授業は録画をして配信し、オンデマンドでも受講できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	3次元コンピュータグラフィックス（3DCG）とは	3DCG とは、コンピュータの中に3次元世界を作る「モデリング」、これを2次元映像として描画する「レンダリング」、動きを与える「アニメーション」の3つ技術から成り立っていることを具体例を示しながら解説する。
2	ゲーム開発統合環境 Unity の基礎	ゲーム開発統合環境 Unity のインストールを行い、各パネルの役割や操作方法の基本を学ぶ。
3	オブジェクトの物理属性と衝突判定	オブジェクトを剛体として、質量や反発係数などの物理特性を与える方法を学ぶ。また、オブジェクト間の衝突を判定する方法を学ぶ。
4	外部入力検出とプレハブ	キーボード入力によってオブジェクトを操作する手法を学ぶ。また、プレハブと呼ばれる使いまわしのできるプロトタイプオブジェクトを利用する方法を学ぶ。
5	オブジェクトの生成と消滅およびタイマー	スクリプトによってオブジェクトを動的に生成・消滅させる方法を学ぶ。また、ゲームに欠かせないタイマーを利用する方法を学ぶ。
6	オブジェクトの基本的な移動と力の与え方	オブジェクトの3次元的な移動方法を学ぶ。また、オブジェクトに力を与える方法を学ぶ。
7	演習	これまでの知識を総合してボーリングゲームを作成する。
8	マテリアル属性とオーディオの基礎	オブジェクトにテクスチャを貼る方法を学ぶ。また、オーディオを生成する方法を学ぶ。
9	ジョイントと矢印キーによる入力	複数のオブジェクトを結合したり、関節でつなぎ合わせる方法を学ぶ。また、矢印キーによる入力方法について学ぶ。
10	トリガー衝突判定と GUI およびカウンター	オブジェクトが衝突したことを通知するトリガーを使う方法を学ぶ。グラフィカルユーザインタフェース (GUI) を作成する方法とカウンターの使い方を学ぶ。

11	スクリプトによるコンポーネントの追加とシーンの切り替え	スクリプトによって、オブジェクトの属性を与えるコンポーネントを動的に追加する方法を学ぶ。また、ゲームの終了時などのためのシーンの切り替え方法を学ぶ。
12	スクリプトによるコンポーネント属性の調整およびローカル・グローバル座標	スクリプトによって、コンポーネント属性の内容を調整する方法を学ぶ。また、シーン中のローカル・グローバル座標について学ぶ。
13	オブジェクトへの視線追跡と IF 条件節	主オブジェクトを追跡する LookAt() 関数の使い方について学ぶ。また、IF 条件節について学ぶ。
14	最終作品発表	これまで学んだ知識を駆使して、各自オリジナル作品を制作し、発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミング（C#, C++, Java 等）の基礎を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定しない。講義資料を配布する。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（20 %）＋講義内での演習（40 %）＋最終作品（40 %）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の持ち込む PC によって動作に不具合や差が出るため、それらを配慮して演習を考える。

【学生が準備すべき機器他】

PC

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand how to create 3DCG game applications by using Unity, a cross platform game engine. Students will acquire game programming skills through exercises for creating various game scenes with a physics engine and interactive user interface.

HUI300ND

AR プログラミング（2019年度以降入学生）（2021年度開講）

岩月 正見

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

拡張現実感 (Augmented Reality: AR) と呼ばれる、現実世界と CG による仮想世界を融合できる最先端技術を利用することにより、インタラクティブで直観的な 3 次元情報を提示したり、3D 絵本やキャラクタなどをあたかも現実の物体であるかのように提示することが可能になる、本授業では、このような AR 技術を利用したコンテンツを実現する方法を実際に制作しながら学ぶ。

【到達目標】

本授業では、ゲーム開発統合環境「Unity」と AR ライブラリ「EasyARSDK for Unity」を用いて、AR 技術を利用したコンテンツを、実際にプログラミングしながら具体的に理解し、各自のアイデアに基づいてオリジナルの AR 作品を制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各自ノート PC を持参し、講義の中で、実際にプログラミングをしながら、拡張現実感の世界を理解し、様々な機能を実装できるようにする。理解度を把握するため、演習作品を提出し、最終成果物として各自のオリジナル作品を披露してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	3D-CG と現実との融合	仮想現実感、複合現実感、拡張現実感とは？ アニメから現実へ。
第 2 回	ゲーム開発統合環境 Unity の基礎	ゲーム開発統合環境 Unity のインストールと操作方法について学ぶ。
第 3 回	Unity 入門 (1)	キューブ型の物理オブジェクトを積み上げて、3 次元ブロックを作成する。
第 4 回	Unity 入門 (2)	ボールに力を与えて、ブロックを崩すプログラムを作成する。
第 5 回	Unity 入門 (3)	マウスクリックによりシューティングしてブロックを崩すプログラムを作成する。
第 6 回	Unity 入門 (4)	マウスクリックによりボールをつぎつぎに出現させ、
第 7 回	Unity 入門 (5)	カメラ（プレイヤー）視点からシューティングするプログラムを作成する。スクリプトによりオブジェクトを動的に生成して 3 次元ブロックを出現させるプログラムを作成する。
第 8 回	作品発表	これまで学んだことを使ってオリジナル作品を制作し、発表する。
第 9 回	EasyAR SDK for Unity 入門 (1)	Unity 状態で AR コンテンツを作成できる EasyAR SDK for Unity について概説し、サンプルプログラムを動作させてみる。
第 10 回	EasyAR SDK for Unity 入門 (2)	Unity 入門で作成した 3 次元ブロック崩しを AR コンテンツとして実装する。
第 11 回	EasyAR SDK for Unity 入門 (3)	Unity 入門で作成した 3 次元ブロック崩しを AR コンテンツとして実装する。
第 12 回	Mecanim 入門	Unity のキャラクタアニメーション作成ツール「Mecanim」の基礎について学ぶ。
第 13 回	MMD4Mecanim の AR コンテンツへの応用	MMD4Mecanim により作成したキャラクタアニメーションを AR コンテンツとして提示する方法を学ぶ。
第 14 回	最終作品発表	これまで学んだことの集大成として最終作品を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3DCG プログラミングの基礎を理解しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

Unity 入門書全般

【成績評価の方法と基準】

演習の提出状況 (60%) と最終作品 (40%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各種開発環境のインストール作業やその意義についてわかりやすく解説する必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC を持参すること。Web カメラが必須である。また、操作性を向上のため、マウスを持参した方がよい。

【Outline and objectives】

Augmented Reality(AR) technology with its ability to fuse real and virtual worlds through CG allows us to receive interactive and intuitive three-dimensional information from virtual objects in front of our eyes. In this class, students will understand how to create contents with AR technology by using the cross platform engine Unity and the AR SDK.

ADE200NA

サステナブルデザイン

出口 清孝

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候風土に応じて発達してきたヴァナキュラー建築がいかに低負荷な住宅であるかを学習し、自然エネルギーを利用した建築の実際について、原理や計画手法を習得しながら、環境保全に関する知識を身につける。

【到達目標】

- 1) 自然エネルギーを利用し環境に低負荷な手法の原理を理解する。
 - 2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
 - 3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
 - 4) 簡易な模型を用いて温熱環境の原理を理解する。
- これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを、を、到達目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	○	◎			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は「学習支援システム」と「zoom 等」による遠隔で行い、毎回の授業は、講義と演習とを交互に交えて進める。講義は、様々な気候に応じたヴァナキュラー建築とその環境工学的特徴について、写真と図によって紹介する。簡易な建物模型を用いて温湿度の計測も場合によっては行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	地下に住まう	トルコ・カッパドキアの洞窟型住居、チュニジア・マトマタの穴居住宅などの地下住居の実例から、環境的特性を知る。
2 回	地下途上の恒温性能	土壌の恒温特性の一例について、定量化を演習する。
3 回	風を取り入れて住まう	イラン・中央アナトリア地方ヤズドの「採風塔」のある住居、地下水路と貯水槽の採風塔による冷却など、通風による涼房特性を知る。
4 回	温度差（浮力）による換気	温度差換気を利用した住居を演習する。
5 回	高温・低湿度環境に住まう	砂漠気候の熱容量の大きい住居の住まい方と効果。カスバなどを通し、断熱・熱容量の特性を知る。
6 回	高床や水上型住居	インドネシアとタイの高床式住居、ボルネオの水上住居から、その環境特性を知る。加湿冷却の特性を演習により習得する。
7 回	厳寒地に住まう・夏と冬の季節の調和	モンゴルの厳寒期の環境、カナダスイットの住居イグルー、韓国のオンドルなどの実例を通し、蒸暑と厳寒の気候に対応した住居環境を知る。
8 回	蒸暑で厳寒気候に対応した住居	夏は蒸暑気候でかつ冬は厳寒気候に対応した住居形式を演習により習得する。
9 回	歴史にみる住まう技術	各国の歴史的住居形式の変遷を通し、環境技術を知る。
10 回	建物模型を用いた温熱環境の計測計画	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画を立てる
11 回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（1）	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画に基づき実験を行う。
12 回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（2）	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画に基づき実験を行う。
13 回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験結果	建物模型を用いた温熱環境の実験結果から、考察と対策について考える。
14 回	総合復習	講義・実験を通して得られた知見について報告し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関するプリントを配布する

【参考書】

『理科年表』（丸善）。
村上周三著、『ヴァナキュラー建築の居住環境性能』（慶応技術大学出版会）、
木村健一（編著）『民家の自然エネルギー技術』（彰国社）、
磯田憲生ほか（編）『CDブック ハウスクリマ』（海青社）など

【成績評価の方法と基準】

授業内に実施する演習を 20 %、試験またはレポートを 80 % 程度として総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【Outline and objectives】

In this course students will learn about sustainable systems harnessing vernacular buildings and low energy buildings.

ADE200NA

サステナブルデザイン

出口 清孝

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用し環境に低負荷な手法を学び、サステナブル（持続可能）な建築環境の創造に対する技術的な建築応用の習得を目的とする。気候風土に応じて発達してきたヴァナキュラー建築がいかに低負荷な住宅であるかを学習し、自然エネルギーを利用した建築の実践について原理や計画手法を習得する。

【到達目標】

環境を科学的にとらえる基礎的な理論を身に付け、自然エネルギーを利用した建築への応用手法を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は「学習支援システム」と「zoom 等」による遠隔で行う。毎回の授業は、講義と演習とを交互に交えて進める。講義は、様々な気候に応じたヴァナキュラー建築とその環境工学的特徴について、写真と図によって紹介する。簡易な建物模型を用いて温湿度の計測を行うことも検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	地下に住まう	トルコ・カッパドキアの洞窟型住居、チュニジア・マトマタの穴居住宅などの地下住居の実例から、環境的特性を知る。
2 回	地下途上の恒温性能	土壌の恒温特性の一例について、定量化を演習する。
3 回	風を取り入れて住まう	イラン・中央アナトリア地方ヤズドの「採風塔」のある住居、地下水路と貯水槽の採風塔による冷却など、通風による涼房特性を知る。
4 回	温度差（浮力）による換気	温度差換気を利用した住居を演習する。
5 回	高温・乾燥環境に住まう	砂漠気候の熱容量の大きい干しレンガ造住居の住まい方と環境工学的特徴を知る。
6 回	高床や水上型住居	インドネシアとタイの高床式住居、ボルネオの水上住居から、その環境特性を知る。加湿冷却の特性を演習により習得する。
7 回	厳寒地に住まう・夏と冬の季節の調和	モンゴルの厳寒期の環境、カナダイヌイットの住居イグルー、韓国のオンドルなどの実例を通し、蒸暑と厳寒の気候に対応した住居環境を知る。
8 回	蒸暑で厳寒気候に対応した住居	夏は蒸暑気候でかつ冬は厳寒気候に対応した住居形式を演習により習得する。
9 回	歴史にみる住まう技術	各国の歴史的住居形式の変遷を通し、環境技術を知る。
10 回	建物模型を用いた温熱環境の計測計画	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画を立てる。
11 回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（1）	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画に基づき実験を行う。
12 回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（2）	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画に基づき実験を行う。
13 回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験結果	建物模型を用いた温熱環境の実験結果から、考察と対策について考える。
14 回	総合復習	講義・実験をとして得られた知見について報告し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、講義に関するプリントを毎回配布する

【参考書】

『理科年表』（丸善）。他は必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内に実施する演習を 20 %、試験またはレポートを 80 % 程度として総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

遅刻する学生は履修する資格がないと思うこと。

【Outline and objectives】

In this course students will learn about sustainable systems harnessing vernacular buildings and low energy buildings.

ADE200NA

サステナブルデザイン

出口 清孝

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用し環境に低負荷な手法を学び、サステナブル（持続可能）な建築環境の創造に対する技術的な建築応用の習得を目的とする。気候風土に応じて発達してきたヴァナキュラー建築がいかに低負荷な住宅であるかを学習し、自然エネルギーを利用した建築の実際について原理や計画手法を習得する。

【到達目標】

環境を科学的にとらえる基礎的な理論を身に付け、自然エネルギーを利用した建築への応用手法を理解することを目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は「学習支援システム」と「zoom 等」による遠隔で行い、毎回の授業は、講義と演習とを交互に交えて進める。講義は、様々な気候に応じたヴァナキュラー建築とその環境工学的特徴について、写真と図によって紹介する。簡易な建物模型を用いて温湿度の計測も検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	地下に住まう	トルコ・カッパドキアの洞窟型住居、 チュニジア・マトマタの穴居住宅などの地下住居の実例から、環境的特性を知る。
2 回	地下途上の恒温性能	土壌の恒温特性の一例について、定量化を演習する。
3 回	風を取り入れて住まう	イラン・中央アナトリア地方ヤズドの「採風塔」のある住居、地下水路と貯水槽の採風塔による冷却など、通風による涼房特性を知る。
4 回	温度差（浮力）による換気	温度差換気を利用した住居を演習する。
5 回	高温・乾燥環境に住まう	査候気候の熱容量の大きい日干し煉瓦造住宅から、断熱・熱容量の特性を知る。
6 回	壁の断熱と熱容量	熱貫流・熱伝達・熱伝導を学習し、熱容量を生かした太陽熱利用の住居特性を演習する。
7 回	厳寒地に住まう・夏と冬の季節の調和	モンゴルの厳寒期の環境、カナダイヌイットの住居イグルー、韓国のオンドルなどの実例を通し、蒸暑と厳寒の気候に対応した住居環境を知る。
8 回	蒸暑で厳寒気候に対応した住居	夏は蒸暑気候でかつ冬は厳寒気候に対応した住居形式を演習により習得する
9 回	歴史にみる住まう技術	各国の歴史的住居形式の変遷を通し、環境技術を知る。
10 回	建物模型を用いた温熱環境の計測計画	建物模型を用いた温熱環境について、実験計画を立てる。
11 回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（1）	建物模型を用いた温熱環境について、実験計画にも続き実験を行う。
12 回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（2）	建物模型を用いた温熱環境について、実験計画にも続き実験を行う。
13 回	設備技術の歴史と変化	設備の歴史の変遷と現代的技術の比較を、演習を通して習得する。
14 回	総合復習	講義・実験を通して得られた知見について報告し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、講義に関する資料を事前に Web にアップする。

【参考書】

『理科年表』（丸善）。他は必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内に実施する演習を 20 %、試験またはレポートを 80 % 程度として総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

遅刻する学生は履修する資格がないと思うこと。

【Outline and objectives】

In this course students will learn about sustainable systems harnessing vernacular buildings and low energy buildings.

BME200NA
福祉工学（デザイン工）

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本概念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最新の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

後期

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測 1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測 2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測 3：電氣的計測	生体から電氣的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを解説する。
5	生活支援工学 1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学 2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学 3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。
8	生活支援工学 4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。
9	治療工学 1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学 2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学 3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学 4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要となる機械工学などの技術について講義する。

13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器に残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章としてまとめる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『メカ屋のための脳科学入門：脳をリバースエンジニアリングする』（日刊工業新聞社）
『バイオメカニズム・ライブラリー 表面筋電図』（東京電機大学出版局）
『基礎 福祉工学（ロボティクスシリーズ）』（コロナ社）
『ME の基礎知識と安全管理』（南江堂）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト（50%）、および期末のレポート課題（50%）で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、授業内容の改善に努めている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【Outline and objectives】

In the context of health welfare, students will learn about the roles which mechanical/electrical engineering and software engineering play. Through this, they will understand how engineering technology and understanding of human are essential factors in the development of the field.

BME200NA

福祉工学（デザイン工）

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本理念を理解する
2. 様々な技術の基本原則と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

後期

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測 1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測 2：生体の電氣的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電氣的現象について講義する。
4	生体計測 3：電氣的計測	生体から電氣的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを解説する。
5	生活支援工学 1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学 2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学 3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。
8	生活支援工学 4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。
9	治療工学 1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学 2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学 3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学 4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器に残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章としてまとめる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『メカ屋のための脳科学入門：脳をリバースエンジニアリングする』（日刊工業新聞社）
『バイオメカニズム・ライブラリー 表面筋電図』（東京電機大学出版局）
『基礎 福祉工学（ロボティクスシリーズ）』（コロナ社）
『ME の基礎知識と安全管理』（南江堂）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト（50%）、および期末のレポート課題（50%）で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、授業内容の改善に努めている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【Outline and objectives】

In the context of health welfare, students will learn about the roles which mechanical/electrical engineering and software engineering play. Through this, they will understand how engineering technology and understanding of human are essential factors in the development of the field.

BME200NA
福祉工学（デザイン工）

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本理念を理解する
2. 様々な技術の基本原則と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
○				◎		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

後期

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測 1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測 2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測 3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを解説する。
5	生活支援工学 1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学 2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学 3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。
8	生活支援工学 4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。
9	治療工学 1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学 2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学 3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学 4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器に残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章としてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『メカ屋のための脳科学入門：脳をリバースエンジニアリングする』（日刊工業新聞社）
『バイオメカニズム・ライブラリー 表面筋電図』（東京電機大学出版局）
『基礎 福祉工学（ロボティクスシリーズ）』（コロナ社）
『ME の基礎知識と安全管理』（南江堂）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト（50%）、および期末のレポート課題（50%）で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、授業内容の改善に努めている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【Outline and objectives】

In the context of health welfare, students will learn about the roles which mechanical/electrical engineering and software engineering play. Through this, they will understand how engineering technology and understanding of human are essential factors in the development of the field.

DES200NA

ランドスケープデザイン

小木曾 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土木的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上りの善し悪しを左右するとも言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的事業・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通し、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。さらに、ランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくりの実際を習得する目的で、ランドスケープの設計の手法からも学ぶ。

【到達目標】

本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例や論文等から多面的に学び、さらにランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくり設計手法を学び、都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	○	○	○	◎	○	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義はオンデマンドで授業と演習を行う。学習支援システムのオンラインでの講義で行う予定。講義関連 7 回、演習関連 7 回で構成する。第 14 回目の発表と講評はオンデマンドの予定ですが、状況により対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明をすると共に、ランドスケープデザインの授業と演習の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。
(3)	日本と世界の造園空間・庭園様式	日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。
(4)	ランドスケープデザインガーデン設計①（利用・美学・種類）	ランドスケープデザインの設計の中のガーデン設計に関する概要とその利用・美学・種類について説明をして知見を高める。

(5)	ランドスケープデザインガーデン設計②（敷地・環境・地割）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する分析として、敷地・環境・地割について説明をして、知見を高める。
(6)	ランドスケープデザインガーデン設計③（植栽・施設）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する重要な要素の植栽・施設に関して説明を行い、知見を高める。
(7)	ランドスケープデザインガーデン設計④（設計手法から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の中の主に平面図の全体的な設計手法を説明して、知見を高める。
(8)	ランドスケープデザインガーデン設計⑤（設計事例から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の事例から学び知見を高める。
(9)	ランドスケープデザインガーデン設計⑥（パース・材料から）	ランドスケープデザインガーデン設計の中のパースの技法を説明を行うと共に、造園材料の説明を行い、知見を高める。
(10)	造園樹木の形状と特性	造園樹木の形状と特性について、樹木を分類し、具体の樹木を通じ特性を学ぶ。
(11)	屋上・壁面・室内緑化の技術の本質	屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例からも学ぶ。
(12)	樹木の重要性和価値	ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木匠の仕事やランドスケープデザインの中での樹木の位置づけを学ぶ。
(13)	ドイツ集合住宅世界遺産	ベルリンにあるブリッツの集合住宅（世界遺産）のランドスケープはブルーノ・タウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を論文から学ぶ。
(14)	ランドスケープデザインガーデン設計⑦（発表・講評）	ランドスケープデザインガーデン設計の作品の発表と講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のや戸建て住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で観察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し

【参考書】

学習支援システムにアップした資料は講義前に必ず確認して講義を受けること。

【成績評価の方法と基準】

講義に関するレポート（40 %）、ランドスケープデザインガーデンプラン（60 %）による。欠席 4 回以上は原則として単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの授業アンケートを丁寧に受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義・演習に取り入れる。

【その他の重要事項】

独立行政法人都市再生機構及びURリンケージの勤務経験がある教員が、その経験を活かして、ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。また、登録ランドスケープ（RLA）の資格を取得している。

【Outline and objectives】

Urban and regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape design. In addition, we will learn from landscape design methods for the purpose of learning the basics of landscape design, the practice of gardening a house.

DES200NA

ランドスケープデザイン

小木曾 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土木的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上がりの善し悪しを左右すると言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的事業・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通し、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。さらに、ランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくりの実際を習得する目的で、ランドスケープの設計の手法からも学ぶ。

【到達目標】

本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例や論文等から多面的に学び、さらにランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくり設計手法を学び、都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	10%
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	20%
(E) 専門知識の活用・応用能力	10%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	5%
(H) 継続的学習能力	5%
(I) 業務遂行能力	10%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義はオンデマンドで授業と演習を行う。学習支援システムのオンラインでの講義で行う予定。講義関連 7 回、演習関連 7 回で構成する。第 14 回目の発表と講評はオンデマンドの予定ですが、状況により対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明をすると共に、ランドスケープデザインの授業と演習の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。

(3)	日本と世界の造園空間・庭園様式	日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。
(4)	ランドスケープデザインガーデン設計①（利用・美学・種類）	ランドスケープデザインの設計の中のガーデン設計に関する概要とその利用・美学・種類について説明をして知見を高める。
(5)	ランドスケープデザインガーデン設計②（敷地・環境・地割）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する分析として、敷地・環境・地割について説明をして、知見を高める。
(6)	ランドスケープデザインガーデン設計③（植栽・施設）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する重要な要素の植栽・施設に関して説明を行い、知見を高める。
(7)	ランドスケープデザインガーデン設計④（設計手法から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の中の主に平面図の全体的な設計手法を説明して、知見を高める。
(8)	ランドスケープデザインガーデン設計⑤（設計事例から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の事例から学び知見を高める。
(9)	ランドスケープデザインガーデン設計⑥（パース・材料から）	ランドスケープデザインガーデン設計の中のパースの技法を説明を行うと共に、造園材料の説明を行い、知見を高める。
(10)	造園樹木の形状と特性	造園樹木の形状と特性について、樹木を分類し、特定の樹木を通じ特性を学ぶ。
(11)	屋上・壁面・室内緑化の技術の本質	屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例からも学ぶ。
(12)	樹木の重要性和価値	ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木匠の仕事やランドスケープデザインの中での樹木の位置づけを学ぶ。
(13)	ドイツ集合住宅世界遺産	ベルリンにあるブリッツの集合住宅（世界遺産）のランドスケープはブルーノ・タウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を論文から学ぶ。
(14)	ランドスケープデザインガーデン設計⑦（発表・講評）	ランドスケープデザインガーデン設計の作品の発表と講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のや戸建て住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で視察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し

【参考書】

学習支援システムにアップした資料は講義前に必ず確認して講義を受けること。

【成績評価の方法と基準】

講義に関するレポート（40 %）、ランドスケープデザイナーデンプラン（60 %）による。欠席4回以上は原則として単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの授業アンケートを丁寧に受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義・演習に取り入れる。

【その他の重要事項】

独立行政法人都市再生機構及びUR リンケージの勤務経験がある教員が、その経験を活かして、ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。また、登録ランドスケープ（RLA）の資格を取得している。

【Outline and objectives】

Urban and regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape design. In addition, we will learn from landscape design methods for the purpose of learning the basics of landscape design, the practice of gardening a house.

DES200NA

ランドスケープデザイン

小木曾 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土本的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上りの善し悪しを左右すると言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的事業・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通じ、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。さらに、ランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくりの実際を習得する目的で、ランドスケープの設計の手法からも学ぶ。

【到達目標】

本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例や論文等から多面的に学び、さらにランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくり設計手法を学び、都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義はオンデマンドで授業と演習を行う。学習支援システムのオンラインでの講義で行う予定。講義関連 7 回、演習関連 7 回で構成する。第 14 回目の発表と講評はオンデマンドの予定ですが、状況により対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明をすると共に、ランドスケープデザインの授業と演習の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。
(3)	日本と世界の造園空間・庭園様式	日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。
(4)	ランドスケープデザインガーデン設計①（利用・美学・種類）	ランドスケープデザインの設計の中のガーデン設計に関する概要とその利用・美学・種類について説明をして知見を高める。
(5)	ランドスケープデザインガーデン設計②（敷地・環境・地割）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する分析として、敷地・環境・地割りについて説明をして、知見を高める。

(6)	ランドスケープデザインガーデン設計③（植栽・施設）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する重要な要素の植栽・施設に関して説明を行い、知見を高める。
(7)	ランドスケープデザインガーデン設計④（設計手法から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の中の主に平面図の全体的な設計手法を説明して、知見を高める。
(8)	ランドスケープデザインガーデン設計⑤（設計事例から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の事例から学び知見を高める。
(9)	ランドスケープデザインガーデン設計⑥（パース・材料から）	ランドスケープデザインガーデン設計の中のパースの技法を説明を行うと共に、造園材料の説明を行い、知見を高める
(10)	造園樹木の形状と特性	造園樹木の形状と特性について、樹木を分類し、具体の樹木を通じ特性を学ぶ。
(11)	屋上・壁面・室内緑化の技術の本質	屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例からも学ぶ。
(12)	樹木の重要性和価値	ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木匠の仕事やランドスケープデザインの中での樹木の位置づけを学ぶ。
(13)	ドイツ集合住宅世界遺産	ベルリンにあるブリッツの集合住宅（世界遺産）のランドスケープはブルーノ・タウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を論文から学ぶ。
(14)	ランドスケープデザインガーデン設計⑦（発表・講評）	ランドスケープデザインガーデン設計の作品の発表と講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のや戸建て住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で視察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し

【参考書】

学習支援システムにアップした資料は講義前に必ず確認して講義を受けること。

【成績評価の方法と基準】

講義に関するレポート（40 %）、ランドスケープデザインガーデンプラン（60 %）による。欠席 4 回以上は原則として単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの授業アンケートを丁寧に受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義・演習に取り入れる。

【その他の重要事項】

独立行政法人都市再生機構及び UR リンケージの勤務経験がある教員が、その経験を活かして、ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。また、登録ランドスケープ（RLA）の資格を取得している。

【Outline and objectives】

Urban and regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape design. In addition, we will learn from landscape design methods for the purpose of learning the basics of landscape design, the practice of gardening a house.

ADE300NB

建築フォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築という領域の中ではさまざまな実践がなされている。建築フォーラムでは毎回異なる講師に建築の最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルな建築を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつの建築を完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？
住まいとその設計との間のギャップとは？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは建築という分野のパーソンペクティブを形成するのには貢献するだろうし、さらに重要なのは自分が共感できる分野にめぐり合えるかもしれないということだ。

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを構成する。デザイン工学部 3 学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。

【到達目標】

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
 - 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
 - 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう
- 以上の技術を身につける。

【習得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○	◎					◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

建築フォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、
学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。建築および関連分野の第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするとところだが、14 回の連続性が持ち味の通常の授業と 1 回性の講演の繰り返しが特徴の建築フォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を 6 回の講演に参加することで徐々に身に付ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で 6 回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである（授業計画の項を参照のこと）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成 (1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成 (2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。

7	レポート作成 (3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成 (4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成 (5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成 (6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容をまとめ、レポートで授業支援システムに提出する。ワード文書の作成の基本をよく理解すること。レポートには適切な題名をつけること。引用であることを明示してあればレポート文中に他の文献などから引用することは無論 OK だが、ブログなどのインターネットからの不用意な「コピペ」は盗用となり、単位不認定となる場合があるので注意すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
6 回のレポート（講演メモ＋講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90 %）となる。質問タイムへの参加は TA が記録し、授業参加評価（10 %）として加点される。

【学生の意見等からの気づき】

建築フォーラムはオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、文化についての局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノート PC にメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

建築学科の学生は授業レポートを IAE サーバーに提出する。建築学科所属以外の学生の提出方法はガイダンスで指示する。
実務経験との関連：現役の建築家でもある複数の教員が建築をとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って 7 名の講師を選定し招聘している。

【Outline and objectives】

In the field of architecture many kinds of practices exist. This architecture forum each time invites different lecturers to report on the front-line of architecture, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What are the latest problems in structures?
How are architect organizations formed around the world?
How much effort is required to complete an entire building?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What gap exists between a house and its planning?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

ADE200NA

環境工学

出口 清孝

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築・都市をとりまく外界気象の特性を把握した上、快適な環境を創りだすための基礎理論と技術的手法について学習する。これにより持続可能な環境を創りだすための基礎理論と技術的手法を習得する。

【到達目標】

環境要素として、熱、空気、光、音、水の環境に関する基礎的な理論と応用力を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は遠隔（zoom）で行う。

1回の授業はテーマを明確にし、基礎理論の解説（講義）と演習により構成している。主体的に講義資料を理解し、演習を行い提出して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	外界気象	環境要因、気象要素、基本単位のしくみを理解する
2 回	空気環境：風力換気	大気の組成、室内環境基準、必要換気量、風力換気の理論を理解し、その応用を学ぶ
3 回	空気環境：温度差換気	温度差換気、換気効率の理論を理解し、その応用を学ぶ
4 回	熱環境：伝熱	伝熱の基礎理論をしっかりと理解し、その応用を学ぶ
5 回	熱環境：住宅の熱損失係数Q値	住宅からの総合的熱損失の理論を理解し、省エネルギーの指標であるQ値を求める
6 回	住宅の気密性能C値	住宅の内外圧力差と通風量との関係を理解し、C値を求める
7 回	結露	湿り空気と空気線図を理解し、壁体の結露を演習により習得する
8 回	総合温熱快適指標	総合的温熱快適指標であるPMV、ET*の理論を理解し、演習により評価手法を学習する
9 回	日照・日射	太陽放射の特性、年間を通した太陽位置の動きを理解し、建物による日陰を演習により学習する
10 回	視環境：測光量、光理論、色彩	光に関する基礎的測光量と単位を理解し、光に関する法則を演習により学習する
11 回	視環境：光理論、色彩	表色系であるマンセル表色系、XYZ表色系などを理解し、その応用を学習する
12 回	音の理論	音の物理的レベル、騒音レベル、ラウドネスなどを理解し、その応用を演習により習得する
13 回	音響	遮音・吸音・残響の理論と適切な音響の理論を理解し、その応用手法を学ぶ
14 回	環境評価	環境性能評価手法を理解し、その応用手法を学習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、シラバスを見て該当するテキストの内容を予習しておくこと。時間内で行う演習問題で分からなかったことは、十分に復習すること。環境に関連する新聞記事などにも関心をもつこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中俊六ほか、『最新 建築環境工学 [改訂 4 版]』、井上書院

【参考書】

『理科学年表』、丸善

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習 20%、期末試験 80% で総合して評価

【学生の意見等からの気づき】

内容が豊富で難しいと感じるようだが、基礎理論は建築、都市の他に適用できると考えられる。

【Outline and objectives】

In this course students will master subjects regarding indoor and outdoor environments: air environment and heat environment.

ADE200NA

環境工学

出口 清孝

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築・都市をとりまく外界気象の特性を把握した上、快適な環境を創りだすための基礎理論と技術的手法について学習する。これにより持続可能な環境を創りだすための基礎理論と技術的手法を習得する。

【到達目標】

次の点に関するしっかりとした基礎力を身に付けることを到達目標とする。
・環境工学に必要な単位を理解する。
・環境工学の主要な要因（外力）の理論を把握する：熱、空気、光、音。
・上記理論に基づき、安全で快適で、持続可能な環境を創りだすための技術手法を理解する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	40%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は遠隔（zoom）で行う。
1 回の授業はテーマを明確にし、基礎理論の解説（講義）と演習により構成している。主体的に講義資料を理解し、演習を行い提出して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	外界気象	環境要因、気象要素、基本単位のしくみを理解する
2 回	空気環境：風力換気	大気の組成、室内環境基準、必要換気量、風力換気の理論を理解し、その応用を学ぶ
3 回	空気環境：温度差換気	温度差換気、換気効率の理論を理解し、その応用を学ぶ
4 回	熱環境：伝熱	伝熱の基礎理論をしっかりと理解し、その応用を学ぶ
5 回	熱環境：住宅の熱損失係数Q値	住宅からの総合的熱損失の理論を理解し、省エネルギーの指標であるQ値を求める
6 回	住宅の気密性能C値	住宅の内外圧力差と通風量との関係を理解し、C値を求める
7 回	結露	湿り空気と空気線図を理解し、壁体の結露を演習により習得する
8 回	総合温熱快適指標	総合的温熱快適指標であるPMV、ET*の理論を理解し、演習により評価手法を学習する
9 回	日照・日射	太陽放射の特性、年間を通した太陽位置の動きを理解し、建物による日陰を演習により学習する
10 回	視環境：測光量、光理論、色彩	光に関する基礎の測光量と単位を理解し、光に関する法則を演習により学習する
11 回	視環境：光理論、色彩	表色系であるマンセル表色系、XYZ表色系などを理解し、その応用を学習する
12 回	音の理論	音の物理的レベル、騒音レベル、ラウドネスなどを理解し、その応用を演習により習得する
13 回	音響	遮音・吸音・残響の理論と適切な音響の理論を理解し、その応用手法を学ぶ
14 回	環境評価	環境性能評価手法を理解し、その応用手法を学習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、シラバスを見て該当するテキストの内容を予習しておくこと。時間内で行う演習問題で分からなかったことは、十分に復習すること。環境に関連する新聞記事などにも関心をもつこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中俊六ほか、『最新 建築環境工学 [改訂 4 版]』、井上書院

【参考書】

『理科年表』、丸善

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習 20%、期末試験 80% 程度で総合して評価

【学生の意見等からの気づき】

内容が豊富で難しいと感じるようだが、基礎理論は建築、都市やSDの学生にも応用できる。
内容が多少難しいとのアンケート書込みがあるが、復習をしっかりすれば十分理解できる。

【その他の重要事項】

演習には、関数付計算機を使用する場合もある。

【Outline and objectives】

In this course students will master subjects regarding indoor and outdoor environments: air environment and heat environment.

ADE200NA

環境工学

出口 清孝

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築・都市をとりまく外界気象の特性を把握した上、快適な環境を創りだすための基礎理論と技術的手法について学習する。これにより持続可能な環境を創りだすための基礎理論と技術的手法を習得する。

【到達目標】

環境要素として、熱、空気、光、音、水の環境に関する基礎的な理論と応用力を身につけることを到達目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
			◎		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は遠隔（zoom）で行う。

1回の授業はテーマを明確にし、基礎理論の解説（講義）と演習により構成している。主体的に講義資料を理解し、演習を行い提出して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	外界気象	環境要因、気象要素、基本単位のしくみを理解する
2 回	空気環境：風力換気	大気の組成、室内環境基準、必要換気量、風力換気の理論を理解し、その応用を学ぶ
3 回	空気環境：温度差換気	温度差換気、換気効率の理論を理解し、その応用を学ぶ
4 回	熱環境：伝熱	伝熱の基礎理論をしっかりと理解し、その応用を学ぶ
5 回	熱環境：住宅の熱損失係数Q値	住宅からの総合的熱損失の理論を理解し、省エネルギーの指標であるQ値を求める
6 回	住宅の気密性能C値	住宅の内外圧力差と通風量との関係を理解し、C値を求める
7 回	結露	湿り空気と空気線図を理解し、壁体の結露を演習により習得する
8 回	総合温熱快適指標	総合的温熱快適指標であるPMV、ET*の理論を理解し、演習により評価手法を学習する
9 回	日照・日射	太陽放射の特性、年間を通した太陽位置の動きを理解し、建物による日陰を演習により学習する
10 回	視環境：測光量、光理論、色彩	光に関する基礎の測光量と単位を理解し、光に関する法則を演習により学習する
11 回	視環境：光理論、色彩	表色系であるマンセル表色系、XYZ表色系などを理解し、その応用を学習する
12 回	音の理論	音の物理的レベル、騒音レベル、ラウドネスなどを理解し、その応用を演習により習得する
13 回	音響	遮音・吸音・残響の理論と適切な音響の理論を理解し、その応用手法を学ぶ
14 回	環境評価	環境性能評価手法を理解し、その応用手法を学習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、シラバスを見て該当するテキストの内容を予習しておくこと。時間内で行う演習問題で分からなかったことは、十分に復習すること。環境に関連する新聞記事などにも関心をもつこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中俊六ほか、『最新 建築環境工学 [改訂 4 版]』、井上書院

【参考書】

『理科年表』、丸善

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習 20%、期末試験 80% 程度で総合して評価

【学生の意見等からの気づき】

内容が豊富で難しいと感じるようだが、基礎理論は建築、都市やプロダクトデザイン他の分野にも応用できる。

【Outline and objectives】

In this course students will master subjects regarding indoor and outdoor environments: air environment and heat environment.

PRI200NA
数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	30%
(D) 専門基礎学力	30%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	40%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。
※学習支援システム上で諸連絡、講義教材揭示、課題提出等を行う。
※「授業内掲示板」で各種質問等を行ってください。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともとなる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布、正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。

11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容を Excel で乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ★事前に公開した講義資料を読んで予習し、準備学習をする。
 - ★講義内容と確認演習の復習を行い、課題を行う。
 - ★課題の解答を確認し、質問等があったら掲示板で連絡する。
 - ★実際のデータを授業内容をもとにエクセルで解析をし、考察をする。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※プリントを授業ごとに配布します。

【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといでしょう。
- ★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年）
- ★統計学演習（村上正康、安田正實 共著 培風館 2010年）
- ★統計学基礎（統計検定3級・2級対応） 日本統計学会
- ★統計学の基礎（栗栖 忠 他 裳華房 2017年）

【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント
テスト2：40パーセント。
課題・レポート課題：20パーセント。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし、必要な基礎事項を講義する。

【Outline and objectives】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

PRI200NA
数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
◎					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。
※学習支援システム上で諸連絡、講義教材揭示、課題提出等を行う。
※「授業内掲示板」で各種質問等を行ってください。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともとなる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布、正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。

13	統計数値実験	中心極限定理の内容を Excel で乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ★事前に公開した講義資料を読んで予習し、準備学習をする。
 - ★講義内容と確認演習の復習を行い、課題を行う。
 - ★課題の解答を確認し、質問等があったら掲示板で連絡する。
 - ★実際のデータを授業内容をもとにエクセルで解析をし、考察をする。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※プリントを授業ごとに配布します。

【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。
- ★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004 年）
- ★統計学演習（村上正康、安田正實 共著 培風館 2010 年）
- ★統計学基礎（統計検定3級・2級対応） 日本統計学会
- ★統計学の基礎（栗栖 忠 他 裳華房 2017 年）

【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント
テスト2：40パーセント。
課題・レポート課題：20パーセント。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし、必要な基礎事項を講義する。

【Outline and objectives】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。
※学習支援システム上で諸連絡、講義教材揭示、課題提出等を行う。
※「授業内掲示板」で各種質問等を行ってください。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともになる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布、正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容をExcelで乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ★事前に公開した講義資料を読んで予習し、準備学習をする。
 - ★講義内容と確認演習の復習を行い、課題を行う。
 - ★課題の解答を確認し、質問等があったら掲示板で連絡する。
 - ★実際のデータを授業内容をもとにエクセルで解析をし、考察をする。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※プリントを授業ごとに配布します。

【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するというでしょう。
- ★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年）
- ★統計学演習（村上正康、安田正實 共著 培風館 2010年）
- ★統計学基礎（統計検定3級・2級対応）日本統計学会
- ★統計学の基礎（栗栖 忠 他 裳華房 2017年）

【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント
テスト2：40パーセント。
課題・レポート課題：20パーセント。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし、必要な基礎事項を講義する。

【Outline and objectives】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

DES300NA
タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー（NPO等）、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○				◎		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2人の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネジメントについて概略を理解する	タウンマネジメントを行う組織について理解する。
2	タウンマネジメントのステークホルダー	地域におけるNPOの役割、NPO法人制度について理解する。
3	タウンマネジメントのステークホルダー（NPO法人）	NPO法人の設立と運営手法について理解する。
4	タウンマネジメントの管理形態	指定管理者制度について理解する。
5	タウンマネジメントの管理形態（指定管理者）	グループワーク（指定管理者制度の運用実態を把握する）
6	NPO法人によるタウンマネジメントの総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメント概要	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのタウンマネジメント事例	・都市施設のマネジメント ・都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	・日本版BIDの概要 ・都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの課題	・インフラとセットのマネジメント事例 ・神戸市、船橋市の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（Ⅰ）	タウンマネジメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（Ⅱ）	タウンマネジメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	・発表の進め方 ・提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	講義の総括 ・提出課題の発表 ・課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
 2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
 3. HPなどで事例検索
 4. 演習課題をまとめる
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

- ・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
- ・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
- ・「縮小まちづくり－成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポートにより評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意

- ・レポート（藤澤）40 %
- ・レポート（土屋）50 %
- ・発表（土屋）10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動をし、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

【Outline and objectives】

The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

DES300NA

タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー（NPO等）、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2名の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネジメントについて概略を理解する	タウンマネジメントを行う組織について理解する。
2	タウンマネジメントのステークホルダー	地域運営におけるNPOの役割、NPO法人制度について理解する。
3	タウンマネジメントのステークホルダー（NPO法人）	NPO法人の設立と運営手法について理解する。
4	タウンマネジメントの管理形態	指定管理者制度について理解する。
5	タウンマネジメントの管理形態（指定管理者）	グループワーク（指定管理者制度の実態を把握する）
6	NPO法人によるタウンマネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメントの概要	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマネジメント事例	・都市施設のマネジメント ・都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	・日本版BIDの概要 ・都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの課題	・インフラとセットのマネジメント事例 ・神戸市、船橋市の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（Ⅰ）	タウンマネジメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（Ⅱ）	タウンマネジメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	・発表の進め方 ・提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	タウンマネジメント講義の総括 ・提出課題の発表 ・課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成

3. HPなどで事例検索

4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

- ・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
- ・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
- ・「縮小まちづくり一成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意

レポート（藤澤）40%

レポート（土屋）50%

発表（土屋）10%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動を続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

【Outline and objectives】

The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

DES300NA

タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことを狙いとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー（NPO等）、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍している2人の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネジメントについて概略を理解する	タウンマネジメントを行う組織について理解する。
2	タウンマネジメントのステークホルダー	地域運営におけるNPOの役割、NPO法人制度について理解する。
3	タウンマネジメントのステークホルダー（NPO法人）	NPO法人の設立と運営手法について理解する。
4	タウンマネジメントの管理形態	指定管理者制度について理解する。
5	タウンマネジメントの管理形態（指定管理者）	グループワーク（指定管理者制度の運用実態を把握する）
6	NPO法人によるタウンマネジメントの総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメントの概要	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのタウンマネジメント事例	・都市施設のマネジメント ・都市インフラのマネジメント
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	・日本版 BID の概要 ・都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネージメント課題	・インフラとセットのマネジメント事例 ・神戸市、船橋市の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（Ⅰ）	タウンマネジメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（Ⅱ）	タウンマネジメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	・発表の進め方 ・提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	・講義の総括 ・提出課題の発表 ・課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
 2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
 3. HPなどで事例検索
 4. 演習課題をまとめる
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）

・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）

・「縮小まちづくりー成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート、発表により評価する。

- ・レポート（藤澤）40 %
- ・レポート（土屋）50 %
- ・発表（土屋）10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動し、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

【Outline and objectives】

The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

MTL200NA

マテリアルサイエンス

伊崎 健晴

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この 100 年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3 学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】

身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものづくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	30%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	10%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	銅・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	その他非金属材料	セラミックス・ガラスなど
9	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から 3 D プリントまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
13	総合討論	耐久性、寿命、環境負荷、LCA などのキーワードから、材料を見つめ直してみよう。
14	最終試験	自分ほどの材料を使って何を作りたいか？ 夢を膨らませて考えてみよう。 最終レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

改定

毎回の授業前に WEB を確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stage に掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第 1 回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】

改定

WEB 掲載資料内に記入。メーカーの HP に判りやすい説明や動画があります。判り易いメーカーの動画などを見つけたら、お知らせ下さい。

【成績評価の方法と基準】

改定

1. 最終テスト（レポート形式） 100 %

第 1 回目の講義で課題の内容を説明します。第 14 回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。

【Outline and objectives】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

MTL200NA

マテリアルサイエンス

伊崎 健晴

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この 100 年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3 学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】

身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものづくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	銅・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	その他非金属材料	セラミックス・ガラスなど
9	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から 3D プリントまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
13	総合討論	耐久性、寿命、環境負荷、LCA などのキーワードから、材料を見つめ直してみよう。
14	最終試験	自分はどの材料を使って何を作りたいか？ 夢を膨らませて考えてみよう。 最終レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

改定

毎回の授業前に WEB を確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stage に掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第 1 回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】

改定

WEB 掲載資料内に記入。メーカーの HP に判りやすい説明や動画があります。判り易いメーカーの動画などを見つけたら、お知らせ下さい。

【成績評価の方法と基準】

改定

1. 最終テスト（レポート形式） 100 %

第 1 回目の講義で課題の内容を説明します。第 14 回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。

【Outline and objectives】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

MTL200NA

マテリアルサイエンス

伊崎 健晴

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この 100 年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3 学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】

身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものづくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
◎				◎		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。
企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	銅・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	その他非金属材料	セラミックス・ガラスなど
9	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から 3D プリントまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
13	総合討論	耐久性、寿命、環境負荷、LCA などのキーワードから、材料を見つめ直してみよう。
14	最終試験	自分はどの材料を使って何を作りたいか？ 夢を膨らませて考えてみよう。 最終レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

改定

毎回の授業前に WEB を確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stage に掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第 1 回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】

改定

WEB 掲載資料内に記入。メーカーの HP に判りやすい説明や動画があります。判り易いメーカーの動画などを見つけたら、お知らせ下さい。

【成績評価の方法と基準】

改定

1. 最終テスト（レポート形式） 100 %
第 1 回目の講義で課題の内容を説明します。第 14 回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。

【Outline and objectives】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

ADE200NB

西洋建築史

稲益 祐太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、西洋の歴史的な建築や都市について学びます。建築はそれぞれの時代や地域における文化や社会のあり方を示しており、その発展・変容・多様化の歴史的背景と変遷を理解することは、建築に対する多面的な見方を養うことに繋がります。そして、先人たちの歩んできた道（過去）を学ぶことは、未来をつくることと言えます。そこでこの授業では、時代を追って西洋建築の様式とその成立と変容の背景を学びます。

【到達目標】

西洋建築の様式を理解し、建てられた時代や地域が見分けられるようになります。また、その成立の背景についても理解することができるようになります。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	◎		○		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。参考資料を配り、スライドで画像を投影しながら説明していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方について
2	古代ギリシア建築	西洋建築の原点、美の規範、オーダー、神殿、アクロポリスとアゴラ
3	古代ローマ建築	建設技術と材料の発達、建築空間の洗練、豊かな市民生活、人間のための空間、凱旋門、バシリカ、劇場、競技場、市場、浴場
4	古代地中海世界の都市	都市計画、広場、聖域、住宅、集合住宅、インフラ、ボンベイとオステイア
5	初期キリスト教建築とビザンチン建築	バシリカ形式、モザイク、集中式プラン、ドーム
6	イスラーム建築	モスク、ドーム、中庭建築、庭園、幾何学的構成、迷宮都市の構造、バザール、隊商宿
7	ロマネスク建築	修道院と巡礼教会、空間構成
8	ゴシック建築	大聖堂の象徴性、構造の美学、垂直性、ステンドグラス、光の演出
9	初期ルネサンス建築	フィレンツェ、ルネサンスの勃興とその背景、ブルネレスキの活躍、アルベルティ、パラッツォ、ヴィッラ、祝祭・演劇、パトロンと建築家
10	盛期ルネサンス建築と理想都市	万能の人、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ブラマンテ、古典主義の確立、集中式プラン
11	マニエリスム建築	マニエリスム 形式の組み替え・手法、ヴィニョーラ、ジュリオ・ロマーノ、パラディオ、ミケランジェロ
12	バロック建築 1	ローマ・バロック、バロックの背景、永遠の都ローマの都市改造、舞台としての都市空間、ベルニーニとボッロミーニ
13	バロック建築 2	他都市のバロック、多様なバロック、サヴォイア家トリノ、祝祭都市ヴェネツィア、レッツェ・バロック、シチリア南東部、ナポリ
14	新古典主義・歴史主義	理論、プロジェクト、実践、リヴァイヴァル、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

日本建築学会編『西洋建築史図集』彰国社【推薦図書】

陣内秀信他『図説 西洋建築史』彰国社
吉田綱市『西洋建築史』森北出版株式会社
ベグスナー『ヨーロッパ建築序説』彰国社
コストフ『建築全史』住まいの図書館

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course students will learn about historical European architecture and cities. Architecture is an expression of the culture and society of each period and region, and an understanding the historical background and transitional flow of developments/changes/diversification allows one to obtain a multifaceted point of view. Studying the (past) path travelled by our forerunners is how we build our future.

ADE200NB

日本建築史

高村 雅彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は Zoom を利用したオンラインで行います。それらの情報は逐一「学習支援システム」を利用し、履修者の大学メールアドレスに送信しますので確認するようにしてください。とくに、前後の授業の関係から移動が制限される場合は、授業の録画をオンデマンド方式で公開する可能性があります。以下に概要と目的を示します。
日本の建築の歴史を神社、寺院、廟、住宅、都市から理解し、それらが成立した背景を重点に考える。テーマは、上記の内容を各回において詳細に解説する。

【到達目標】

日本建築全般の基礎学力を身に着けることが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	◎			○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「建築史は、建築の歴史を学ぶためのものではなく、建築を学ぶために存在している」

本講では、日本の建築の歴史を見ながら、建築の歴史の大筋を把握するとともに、時代が超えても変わらない本質的なものが存在することを理解し、その様々な歴史的要素がいかに現代に受け継がれているかを論じてみたい。毎回、スライドを見ながら、視覚的に内容を把握し、次にその背景を捉えなおし本質的な意味を探る方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本建築史序説 講義全体の流れを理解する。	建築史の意義と目的、日本とアジアの建築の関係、なぜ今建築史か？
2	日本建築の特質 日本建築の特徴を概観し理解する。	「建物につくられた空間」と「空間につくられた建物」、羅列的、面的、洗練とは？
3	古代の形式化 神社の特徴とその成立背景を知る。	建築の誕生、神の社、神明、大社、遷宮、形式の確立、意味の継承、聖と俗、橋－柱－端－箸－梯。
4	外来文化の受容 仏教建築が求めた意味を探る。	仏教建築、法隆寺、薬師寺、東大寺、隋・唐の仏寺、雲中供養菩薩が語る意味、重力からの解放。
5	和様・大仏様・禅宗様 寺院建築の様式に隠された意味を考える。	架構と空間、重源と陳和卿、組物、伽藍配置の世界観、宋の建築技術、構造美とは？
6	近世の霊廟と宗教建築 江戸時代の意味を宗教建築から探る。	日光東照宮、善光寺、権現造り、生産力の進展、ブルーノ・タウト、歌舞伎座、仏壇、霊柩車、天海。
7	中間試験 どこまで理解できたかを自分で知る。	ここまでの内容による中間試験。
8	日本の都市 都城と城下町	日本の都市の歴史を知る。藤原京から平城京、平安京、そして城下町へ
9	風水都市・江戸と聖地・日光 江戸時代の都市計画に隠された風水を読み解く。	人がつくる風水、藤堂高虎、天海、見立ての富士山、宮内庁の陰謀。
10	都市の聖地 一水系と地質から読む都市の環境空間―「地質聖地論」の試み	見えない都市、新たな都市解説の方法を探る、聖地の意味論、環境空間を浮かび上がらせる
11	日本住宅の源流 日本の住宅のオリジナルを見る。	寝殿造り、空間の建築、宮殿との関係、中国建築との関係、対象から非対称へ、日本の変容へ。
12	住空間の変容と茶室 現代に結びつく住宅建築の歴史を知る。	書院造り、装置の建築、より自由で日本的なものへ、装飾と区画、現代日本住宅への影響。

13	文化財建造物の保存と修復 文化財保存の制度や実情を理解する。	保存の意義、移築保存、選定－解体－組立－再生へ。
14	総合質疑 日本建築の歴史とは何だったのかを探る。	これまでの講義を総合的に考え、日本の建築の歴史を再読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日本建築の歴史について興味を持つ。
 2. 参考文献などから、日本建築を調べてみる。
 3. 配布プリントの意味を再読する。
 4. 配布プリントの意味を再読する。
 5. 配布プリントの意味を再読する。
 6. 配布プリントの意味を再読する。
 7. これまでの配布プリントを再読する。
 8. 配布プリントの意味を再読する。
 9. 配布プリントの意味を再読する。
 10. 配布プリントの意味を再読する。
 11. 配布プリントの意味を再読する。
 12. 配布プリントの意味を再読する。
 13. 配布プリントの意味を再読する。
 14. 講義の内容を総合的に考え直してみる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布。

【参考書】

太田博太郎『日本建築史序説』彰国社、日本建築学会『日本建築史図集』彰国社。

【成績評価の方法と基準】

中間試験および期末記述試験の両方において 60 点以上を合格とする。

中間試験 50 %

期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

板書を適宜おこなう。

ゆっくり話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、教員は PC を使用するが、学生は用意する必要はない。

【Outline and objectives】

In this course students will consider Japan's architectural history from the beginnings of its shrines, temples, houses and cities. Topics will involve the detailed understanding of each of these areas.

ADE200NB

建築計画 1

岩佐 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築計画学とは建築設計において規範となる理論であり、人体寸法、動作特性、知覚、心理、文化的文脈、コミュニケーション、作業効率、社会制度など様々な決定根拠がその背景にある。

本講は建築設計初学者を対象とし、身近な事例を手がかりに建築空間とその決定原理の関係を理解するとともに、建築設計において適切に決定原理を適用するための基礎を学ぶ。

【到達目標】

- ・設計事例からその空間の意図を読み取るとともに、そこで行われる活動を想定する技術を身につける。
- ・建築空間を規定する原理や根拠を理解する。
- ・建築設計において適切に決定原理を適用するための基礎を身につける。
- ・設計根拠の導出を通して社会・文化と建築設計を接続して思考する視点を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	◎	○	◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・各回のテーマに従って解説と演習を行う。
- ・デザインスタジオと連携し、デザインスタジオで必要とされる知識や情報を適宜提供する。
- ・講義内で演習を行うため、講義と途中からの参加（遅刻）や離脱（早退）に対して補習課題が課される場合もある。
- ・講義の内容（順序）は変更になる可能性がある。
- ・「建築計画2」と併せて履修することが望ましい。

【追記4月19日】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日（木）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／建築設計と決定根拠	コンビニエンスストアに学ぶ空間の決定原理
第2回	住む1／住宅・住戸	生活の基本単位としての住まい
第3回	住む2／住宅・住戸	ライフスタイルの変遷と住戸計画
第4回	過ごす／バビリオン・週末住宅・余暇建築	趣味や嗜好が最大化される建築デザイン
第5回	育てる1／幼稚園・保育園・こども園	遊びと学びと成長を支える建築デザイン
第6回	育てる2／幼稚園・保育園・こども園	行動場面と建築デザイン
第7回	教える・学ぶ1／学校・ラーニングセンター	学びと学校の歴史
第8回	教える・学ぶ2／学校・ラーニングセンター	アクティブラーニングが変える学びの空間
第9回	知る1／図書館	情報と建築の歴史
第10回	知る2／図書館	知の広場としての図書館
第11回	交わる1／公民館	ビルディングタイプとそのプレイクスル
第12回	交わる2／公民館	屋根のついた広場、社会的包摂の場
第13回	移動と滞留／駅・ターミナル・商業施設	ショッピングモールからの気付き
第14回	まとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介したキーワードおよび建物事例についての理解を深めるために、授業後に各自で調べ、知識を整理・把握することが必要。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

必要な資料は適宜講義内で配布する。

【参考書】

建築計画教科書（彰国社）
コンパクト建築設計資料集成（丸善）
住宅特集、新建築、GA HOUSEなどの各建築雑誌

【成績評価の方法と基準】

- ・講義内の演習課題（50%）
 - ・事例研究レポート（50%）
- ※事例研究レポート未提出者は評価対象外とする

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

講義内でPCを利用する場合があるが、その際は別途指示をする。
講義内の演習で色鉛筆（12色程度）と細ペン（0.3～0.5mm）を使用するので持参すること。

【その他の重要事項】

- ・提出物に学籍番号・名前をきちんと記載すること。記載がない場合、評価不能（未提出扱い）となるので注意すること。
- ・IAEにレポート等を提出する際に、アップロード先（提出フォルダ）を間違える学生が散見されるので十分に注意すること。

【Outline and objectives】

Architectural planning is a normative theory in architectural design, which is based on various determinants such as human body dimensions, movement characteristics, perception, psychology, cultural context, communication, work efficiency, and social systems.

This course is intended for students who are new to architectural design, and will help them understand the relationship between architectural space and its determinants, using familiar examples as clues, and learn the basics of applying determinants appropriately in architectural design.

ADE200NB

建築計画2

岩佐 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築計画学とは建築設計において規範となる理論であり、人体寸法、動作特性、知覚、心理、文化的文脈、コミュニケーション、作業効率、社会制度など様々な決定根拠がその背景にある。

本講は「建築計画学1」で学んだ知識を更に発展させ、より広範な社会の仕組みや制度と建築空間の関係を理解するとともに、建築設計を通して社会に貢献していくための手法を学ぶ。

【到達目標】

- ・建築空間を規定する原理や根拠の理解を通して、建築と社会・文化とのつながりを学ぶ。
- ・空間の意図やそこで行われる活動を建築設計にフィードバックする技術を身につける。
- ・社会の課題解決の手法としての建築設計の役割を理解する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・「建築計画1」が履修済みであることが望ましい。
- ・各回のテーマに従って解説と演習を行う。
- ・デザインスタジオと連携し、デザインスタジオで必要とされる知識や情報を適宜提供する。
- ・講義内で演習を行うため、講義と途中からの参加（遅刻）や離脱（早退）に対して補習課題が課される場合もある。
- ・講義の内容（順序）は変更になる可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／建築設計と決定根拠	建築は仮説からできている
2	鑑る1／美術館・博物館・劇場	第4世代に向かう美術館建築
3	鑑る2／美術館・博物館・劇場	エクスペリエンスデザイン
4	鑑る3／美術館・博物館・劇場	娯楽と劇場の歴史
5	支える1／病院・福祉施設	制度と建築
6	支える2／病院・福祉施設	サービスで規定される建築
7	老いる／高齢者施設	ライフステージと建築
8	集う1／集合住宅・住宅地	社会の基盤としての住まい
9	集う2／集合住宅・住宅地	コミュニティと住まいの形
10	働く／オフィス・ラボ	効率の追求とワークプレイス
11	回復する／災害と建築	回復の場としての応急仮設住宅
12	参加する／参加とデザイン	建築家なしの建築
13	再生する／リノベーション建築	ストックとしての建築
14	まとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介したキーワードおよび建物事例についての理解を深めるために、授業後に各自で調べ、知識を整理・把握することが必要。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

必要な資料は適宜講義内で配布する。

【参考書】

建築計画教科書（彰国社）
コンパクト建築設計資料集成（丸善）
住宅特集、新建築、GA HOUSE などの各建築雑誌
建築と都市のパブリックスペース（鹿島出版会）

アクティビティを設計せよ（彰国社）

【成績評価の方法と基準】

- ・講義内の演習課題（50%）
- ・事例研究レポート（50%）
- ※事例研究レポート未提出者は評価対象外とする

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

講義内で PC を利用する場合があるが、その際は別途指示をする。
講義内の演習で色鉛筆（12色程度）と細ペン（0.3 ～ 0.5mm）を使用するので持参すること。

【その他の重要事項】

- ・提出物に学籍番号・名前をきちんと記載すること。記載がない場合、評価不能（未提出扱い）となるので注意すること。
- ・IAE にレポート等を提出する際に、アップロード先（提出フォルダ）を間違える学生が散見されるので十分に注意すること。

【Outline and objectives】

Architectural planning is a normative theory for architectural design, which is based on various determinants such as human body dimensions, movement characteristics, perception, psychology, cultural context, communication, work efficiency, and social systems.

In this course, students will further develop the knowledge gained in "Architectural Planning 1", understand the relationship between architectural spaces and broader social systems and institutions, and learn methods to contribute to society through architectural design.

ADE300NB

木造建築の構法

網野 禎昭

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、多数の伝統建築や現代の先端事例を多角的に分析し、木造建築の設計や開発に必要な知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

日本、欧州の伝統構法のしくみを理解する。さらに、これら伝統構法の発展形としての現代の諸構法や、さまざまな工業化木質材料を活用した構法についても理解する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	○			◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回、実際の木造建築事例をとりあげ、これらを建築設計、構造設計、物理設計、生産施工計画等の諸側面から総合的に分析する。標準的な構法よりも、よりイノベティブな事例の解説に重きをおき、学生諸氏の創造力を刺激する考えである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	民家 1	地域性と木造民家の形- 日本
2	民家 2	地域性と木造民家の形- 欧州
3	民家 3	地域性と木造民家の形- 欧州
4	歴史的木橋 1	グルーベンマン、バラードイオの橋 他、産業革命以前の木橋
5	歴史的木橋 2	グルーベンマン、バラードイオの橋 他、産業革命以前の木橋
6	現代の木橋 1	木造エンジニアによる木橋
7	現代の木橋 2	木造エンジニアによる木橋
8	現代の木橋 3	木造エンジニアによる木橋
9	塔	Gliwice, Pyramidenkogel, Sauvabelin, Korkeasaari の各塔他
10	大型スパン建築 1	梁架構、方杖架構、アーチ、トラス、 張弦梁等、様々なフレーム・システム
11	大型スパン建築 2	折板、吊屋根、シェル等、様々な面構 造システム
12	非戸建木造 1	木造集合住宅
13	非戸建木造 2	木造によるオフィス、学校建築などの 最新事例
14	木造研究	低質木材の活用 木質コンポジット材 非木材林産資源による建築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

木造建築の挙動を実感するために、「壁－ 1 グランブリ」の見学あるいは参加を勧める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

Timber Construction Manual

【成績評価の方法と基準】

期末試験結果（100 %）による。

【学生の意見等からの気づき】

写真や図版などの映像資料の質の充実
教員による実作の詳細解説

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業なので、各自 ZOOM をセットアップして授業に臨むこと。

【その他の重要事項】

建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline and objectives】

This course aims to provide the knowledge required for the designing of wooden structures, analyzing a range of diverse traditional and cutting-edge modern construction examples.

ADE300NB

空間の構造デザイン

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構造は建築に力学的安全性を与えると同時に、建築の造形とも大きく関わっている。また、建築構造を理解するには、解析・計算によるアプローチの他に、構造を概念として把握する必要がある。この授業では、様々な構造システムの発想と歴史的変遷、力学的メカニズム、造形上の問題、具体的実現例などを解説し、建築空間における構造デザインの意味についての理解を促す。

【到達目標】

建築物の基本骨格となる様々な構造要素および構造システムの概念をスケッチや図式等を用いて具体的に記述・表現できる程度の、建築家としての基礎的な素養を身につけることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎	◎		○			○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト「建築構造のしくみ」に従い、基本的には数式を一切使用することなく、さまざまな建築構造要素・システムについての基本概念を段階的に述べ、それらを応用した構造デザイン例を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	梁と柱（1）	梁の発生、梁のメカニズム、梁の種類と諸形式
2	梁と柱（2）	梁と柱の構造、マグサ構造、ラーメン構造
3	トラス（1）概説	トラスの原始的発想と現代的発想、迫り持ちトラスと梁トラス
4	トラス（2）メカニズム	迫り持ちトラスのメカニズム、梁トラスのメカニズム、ヒンジ、2次応力、不静定トラス
5	トラス（3）諸形式	平行弦トラスと小屋組トラス、ハウ、プラット、ワーレン、タウン、キングポスト、橋梁トラス
6	アーチ（1）概説	アーチの出現、組積アーチ、ヴォールト、スラスト
7	アーチ（2）メカニズム、諸形式	荷重支持のメカニズム、アーチの形状と荷重、静定・不静定アーチ、アーチの安定
8	ドーム（1）概説	アーチとドーム、パンテオン、組積ドームの発展
9	ドーム（2）メカニズム	球殻、経線応力、緯線応力、古代ドームと近代ドーム、テンションリング
10	シェル構造	曲面の分類、EP シェル、HP シェル、シェルのメカニズム、膜応力、応力攪乱
11	スペースフレーム	スペースフレームの定義、大量生産、骨組パターンの構成、ジオデシックドーム、B、フラウ、均質立体骨組、ジョイント
12	ケーブル構造	ケーブル構造の原理、1方向、2方向、放射方向、吊りケーブル、押えケーブル、コンプレッションリング
13	膜構造	膜構造、空気膜構造の原理、エアドームとエアアーチ、サスペンション膜、骨組膜
14	タワーと超高層建築耐震・免震・制振	タワーの変遷と構造システム、超高層建築の変遷と構造システム、耐震、免震、制振

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介された模範的構造デザイン例の見学あるいは建築雑誌等からの資料収集を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川口衛 他：建築構造のしくみ 力の流れとかたち 第 2 版（建築の絵本）、彰国社

【参考書】

授業内で適宜指示をする。

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

演習課題： 40 %（A ～ D の 4 段階評価で、未提出は D 評価）

定期試験： 60 %（試験の際、各自 A4 用紙 1 枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）

なお、5 回以上欠席したものは成績評価しない

【学生の意見等からの気づき】

模型を使用した説明の割合を増やす。

【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline and objectives】

At the same time as lending mechanical stability, structure is strongly related to a building's form. In order to understand building structure, in addition to approaches through analysis and calculation, comprehending structure as a concept is important. This course will develop understanding of the meaning of structural design in construction space through elucidating the concepts and historical transitions of various structural systems, mechanisms, problems related to form and solutions of real world problems.

ADE200NB

建築生理心理 2

川久保 俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理事象と身体との係わり、身体と建築物、建築空間、建築環境との係わりを深く理解する。特に、温熱環境、空気環境、音環境、光環境などの住環境が人体生理心理に及ぼす影響について学習する。

【到達目標】

・環境物理要素（建築物、建築空間、建築環境）とそれらに対する人体反応を明確に理解する
・建築士試験問題に関わる内容も多分に含まれることから、実務に役立つ知識・情報を習得する

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では建築環境工学のうち、生理心理に係る事項を学習する。講義はPowerpoint等で作成した資料を利用して進める。講義内容や課題に対する質問はHoppiiの掲示板等で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	講義の設置目的、到達目標、概要の紹介
2	データの取得、取扱い方法	実測、実験、シミュレーション、質問紙調査、サンプル数、バイアス、欠損値の取扱い
3	データの分析方法の基礎	欠損値処理、単純集計、クロス集計、各種回帰分析、主成分分析、因子分析、検定
4	健康維持増進に資する住環境（1）	健康維持増進の意義、ゼロ次予防、一次予防、住環境要素との係り
5	健康維持増進に資する住環境（2）	エビデンスに基づく健康阻害要因の把握
6	健康維持増進住宅の設計方法	住まいの健康診断、健康維持増進住宅設計ガイドライン
7	人体寸法とモジュール	各種人体寸法、モジュール、モジュラー・コーディネーション
8	生体電気とその計測・応用	生体電気、EEG、ECG、EMG、センサーによる信号測定と建築環境への応用
9	温熱・空気環境の基礎	環境側四要素と人体側二要素、各種温熱快適性指標（SET*、PMVなど）の原理
10	音・振動環境の基礎	人の聴覚の機構、音の原理、音の三要素、音の生理的・心理的作用、騒音・振動防止計画、快適音響空間
11	光・視環境の基礎	人の視覚の機構、色の原理、色の三要素、色の生理的・心理的作用、効果色、安全色、建築における色彩計画
12	対象と空間の知覚、印象評価	心理学に基づく対象知覚と空間知覚、奥行知覚、錯視現象、建築物における錯視利用の実例
13	快適空間設計	間取りの設計、廊下、寝室、ダイニングキッチン、水廻りの
14	サステナブルデザイン	環境品質、環境負荷、環境効率、CASBEE、持続可能な開発目標（SDGs）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に配布した資料にしっかりとノートをとっておき、帰宅後にその内容を毎回復習してからその次の講義に臨むこと。講義の内容で特に重要な部分については理解を深めるために適宜講義中に演習を課すので、当該部分については期末試験までにしっかりと理解し、前提条件等が変わっても対応できるような応用力を身につけておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。独自に作成した講義資料を講義中に配布する。

【参考書】

「住環境-評価方法と理論」浅見泰司他（東京大学出版会）
「建築環境工学」加藤信介、土田義郎、大岡龍三（彰国社）
「生活環境学」岩田利枝他（井上書院）
「しくみがわかる建築環境工学: 基礎から計画・制御まで」上野佳奈子、鍵直樹、白石靖幸、高口洋人、中野淳太、望月悦子。

【成績評価の方法と基準】

講義中に課す課題（100%）によって判断する。課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度がはい／遅いという声が減ってきたため、現状を維持しながら分かりやすい授業を心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

講義はプロジェクターにより関連情報を映写しながら進める予定。講義前半では貸与パソコンを用いた演習も予定している。

【Outline and objectives】

To deeply understand the relationship between physical phenomena and the body, and between the body and buildings, building spaces, and building environments. In particular, the effects of living environments such as the thermal environment, the air environment, the sound environment, and the light environment on human physiological psychology are studied.

ADE300NB

光・視環境

出口 清孝

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築における光環境として日照・日射、採光・色彩を対象とし、光や色に対する理論を学習し、人間の視覚特性を理解しながら、建築デザインに生かす手法を習得する。

【到達目標】

到達目標は下記の通り。

- 1) 太陽位置を把握して、日影や日照時間、日射熱量、建築の日射受熱量などの算定方法を習得する。
- 2) 測光量と単位、採光・照明の基礎理論を理解し、表色系を把握して色彩心理を基にした色彩計画などの応用手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○		◎			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は遠隔（zoom）で行う。

1回の授業はテーマを明確にし、基礎理論の解説（講義）と演習により構成している。予め、テキストの該当部分を予習し、主体的に講義を受けて理解し、限られた時間内で演習を行い、そのテーマを習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	光環境と地球環境	建築環境における光環境・視環境、地球環境との関係、地球熱バランス、温室効果、
2 回	太陽位置算定に必要な時刻表現	地方真太陽時、地方平均太陽時、中央標準時均時差
3 回	太陽位置の算定方法	太陽方位角、太陽高度、太陽赤緯
4 回	日影図	日影図、日影曲線、日影時間曲線
5 回	日差し曲線	日差し曲線、日照図表
6 回	各平面への日影	水平面・鉛直面への影、バルコニーなどの日影
7 回	日射量	直達日射、天空日射、全天日射、ブリーズソレーユ、日射遮蔽手法。ガラス、日射受熱量
8 回	光の物理表記と単位	光束、照度、光束発散度、光度、輝度
9 回	点光源による照度・均等拡散面の性質	入射の余弦定理、完全拡散面、反射、吸収、透過、拡散
10 回	光束法	光束法を用いた照明計画
11 回	マンセル表色系	色彩の基礎、マンセル表色系、オストワルト表色系、NCS表色系
12 回	X Y Z 表色系	R G B 表色系、X Y Z 表色系、xy 色度図
13 回	色彩調和理論	視覚心理、視認性・誘目性、色調、色彩調和理論、色彩計画
14 回	総復習	光環境・視環境の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での演習問題の復習を十分行っておくこと。さらに、身近な例を学習関連する新聞記事を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中俊六他著『最新 建築環境工学』、井上書院

【参考書】

『理科年表』、丸善

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習点：20%、期末試験点：80%の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】

- ・太陽光は地球環境と密接に関係しているので、その積もりで履修すること。
- ・光環境は、熱環境とも関連しているので、建築気候の熱環境の分野も復習すること。
- ・授業は遅刻をしないこと。学生証カードによる出欠は参照していない。
- ・日影図は、単純な幾何なのに従来から理解していない学生が多いので、注意すること。

【学生が準備すべき機器他】

関数の付いた電卓は必ず持参すること。

【Outline and objectives】

In this course students will learn the basic theory of solar radiation and sunshine, daylight and color, mastering their application for buildings based on the characteristics of human visual sense.

ADE300NB
音・振動環境

川久保 俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外部からの騒音に悩まされない住宅、響きが良いコンサートホール、声がよく通る教室等、建築物の設計に際して内部で実現される音環境への配慮は大変重要である。音は、人々に快感から不快感まで幅広い感覚刺激を呼び起こす。従って、機能、用途毎に音質が的確に対応していなければならない。そのためには音とは何かという基本的理解が必要である。また、音の取り扱いと振動の取り扱いに関しては類似する点も多いことから、講義の後半では振動現象に関する基礎についても学ぶ。本講義では、音・振動環境に関する基礎的な知識を習得し、その後空間形態、建築用途に対応する理想的設計要件を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

- ・音が物体の中を伝わる振動現象であるという物理現象を理解する。
- ・音、振動に関わる特徴的な単位、演算方法を習得する。
- ・吸音、遮音のための物性、構法などを基礎知識として理解する。
- ・建築設計の際に音・振動を考慮することが重要であることを認識する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	○		◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

建築物の用途ごとに相応しい音環境を形成しなければならない。そこで本講義では「音」の基本から学び、吸音、遮音の原理などを通して目的の空間用途への適応手法を理解する。また、近代文明の発達に伴って増加した公害（騒音、振動）などの評価法などを学ぶ。講義内容や課題に対する質問は Hoppii の掲示板等で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の設置目的、到達目標、概要の紹介
2	音波の定義と成立	振動の物理、音の物理、音波、波の表し方
3	音波のエネルギーの取り扱いと dB 尺度	音の強さ、音圧、dB 尺度、エネルギー密度、音の種類、スペクトル、ホワイトノイズ
4	dB 尺度の運用	dB の合成、分解、対数の基礎、対数公式の運用、レベルの合成・分解、レベルの計算方法および演習
5	音の伝搬と距離減衰	空間における音の伝搬および減衰過程
6	各種の音源からの距離減衰	点音源、線音源、面音源から放射される音の減衰
7	音の回折・屈折	障壁による減衰、防音手法、障壁による音の回折減衰、空気吸収による音の減衰
8	音を知覚する構造（１）	聴覚器官としての耳の機構、特性、外耳、中耳、内耳
9	音を知覚する構造（２）	音の三要素、ウェーバー・フェヒナーの法則、等ラウドネス曲線、心理音響効果
10	騒音	騒音の定義、種類、分類、測定方法、等価騒音レベル
11	騒音防止計画	音源対策、配置計画、遮音計画、吸音計画、吸音と遮音の違い
12	吸音の機構	吸音の特性、吸音率、吸音機構の種類と特性、施工上の注意、多孔質の吸音機構とその材料・構法、板状吸音機構とその材料・構法。ヘルムホルツの共鳴吸音機構とその材料・構法
13	遮音の機構	透過損失、質量則、二重壁の意味、コインシデンス効果、パネルの遮音効果
14	振動現象	振動の発生と伝搬のメカニズム、代表的な振動測定方法、振動加速度レベル、振動レベル、レベル計、周波数分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は暗記内容、計算問題ともに多いので講義終了後に知識定着のために各自帰宅後に内容を復習すること。建築士試験の問題として出題される内容も多く取り扱うことから、ここで知識を体系的に定着させておくことが望ましい。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。独自に作成した講義資料を講義中に配布する。

【参考書】

- 「生活環境学」岩田利枝他（井上書院）
- 「建築の音環境設計」日本建築学会設計計画パンフレット 4（彰国社）
- 「建築・環境音響学」前川純一著（共立出版）
- 「建築と環境の音響設計」前川純一訳（丸善）
- 「わかりやすい環境振動の知識」後藤剛史、濱本卓司（鹿島出版会）

【成績評価の方法と基準】

講義中に課す課題（100%）によって判断する。課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度がはやい／遅いという声が減ってきたため、現状を維持しながら分かりやすい授業を心掛ける。

【Outline and objectives】

It is very important to consider the sound environment that is realized in the design of buildings, such as houses that do not suffer from external noise, concert halls with good sound, and classrooms with a good voice. Sound evokes a wide range of sensory stimuli, from pleasure to discomfort. Therefore, the sound quality must accurately correspond to each function and application. This requires a basic understanding of what sound is. In addition, since there are many similarities in the handling of sound and vibration, students learn the basics of vibration phenomena in the latter half of the lecture. The purpose of this course is to acquire basic knowledge about sound and vibration environments and then to learn ideal design requirements corresponding to spatial form and architectural use.

ADE300NB

都市建築史（2019年度以降入学生）（2021年度開講）

高村 雅彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は原則、Zoom を利用したオンライン授業とします。お知らせ等は「学習支援システム」で周知するので確認するようにしてください。なお、新カリ「都市建築史」と旧カリ「近現代建築史」は読替の授業であり、授業内容も同じで、春学期開講期となります。以下に概要と目的を記述します。日本を含むアジアも近現代の都市と建築を対象に、それらがつくられた背景を理解する。また、現代建築のデザインに見られる歴史の稀薄性について、ディズニールランドなどを例に解説していく。テーマは、各回において、上記の内容ごとに見ていく。

【到達目標】

こうした講義を通じて、見た目だけではなく、都市や建築の本質を見ようとする姿勢を身に付けることが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	◎			○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「建築史は、建築の歴史を学ぶためのものではなく、建築を学ぶために存在している」

本講では、日本を含めたアジアに注目しながら、劇場、庭園、商業施設、遊園地の成り立ちについて、比較の視点を持ちながら見ていきたい。また、失われた都市と建築の歴史を知るために、絵巻物に描かれた世界の解説も行う。さらに、現代の日本の都市と建築が、いかに歴史的なつながりの中で成立しているのか、近代都市や娯楽施設の歴史を通して考えていく。各回、スライドを見ながら視覚的に把握し、その背景にある本質を解説する方法をとる。授業は三つのステージからなり、古代から近世の世界観、宇宙観、自然観、近代の建築と都市の象徴性、現代の排除の構造がテーマとなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス この授業では何を学ぶのかを理解する。	近現代のアジアにおける都市と建築の歴史をいかに考えるか？
2	アジアの劇場建築 近世以前の建築について、劇場を考える。	能舞台、歌舞伎の演劇空間、世界の演劇空間比較、演出効果、宇宙観
3	日本の能舞台 能舞台と劇場空間の歴史を解説する。	中世から近世への都市変容、洛中洛外図屏風、江戸図屏風、都市と自然
4	庭園文化の空間史 近世以前の建築について、庭園を考える。	ゆがめられた空間、日中欧庭園比較論、エロスと誕生、庭園の持つ意味、宇宙観。
5	絵巻物から読む都市世界Ⅰ 近世以前の都市について、絵巻物から比較する。	幕末の「弘化勸進能図」を解説しながら、劇場に秘められた世界観を見ていく。
6	絵巻物から読む都市世界Ⅱ 近世以前の都市について、絵巻物を読む。	『清明上河図』を読む、閉鎖型社会からの開放、中世都市の空間と人々の暮らし
7	東京の古代地形と文化的景観	神田明神から見えたもの、どこから江戸城は見えたのか、地形を読み込んで成立する江戸東京の聖地
8	疾走する城塞都市－香港 近代の都市とは建築の本質とは何かを学ぶ。	植民都市としての香港、ネオバロックとアールデコの対決、摩天楼対決、田園と都市、近代の理想
9	享楽のアジア近代－新世界 近代における民間側の都市と建築の理念を学ぶ。	理想としての近代、欲望の象徴としての塔、大阪新世界から浅草・上海を経て北京へ！
10	山下啓次郎と明治の刑務所 近代日本のアジアの関係を刑務所を通して知る。	明治の建築世界、薩長と出身地、明治に課せられた課題、文明国としての日本の誇示、近代デザイン

11	東京－都市美の戦後 現代に結びつく戦後の東京の都市美に課せられた役割を建築的に解説する。	戦後復興に夢見た「都市美」、失われゆく水辺空間、露店収容建築、水上居住者、時計塔、街路照明
12	広がる虚像の世界 現代のデザイン論についてディズニーを通して考える。	ディズニールランド、ラブホテル、マクドナルド、パチンコ、サティアン、ピーナスフォート
13	講義再読 古代から近世	世界観、宇宙観、自然観。
14	講義再読 近代から現代	建築と都市の象徴性とは。排除の構造。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 古代から近現代の都市と建築の歴史について興味を持つ。
 2. 配布プリントの意味を再読する。
 3. 配布プリントの意味を再読する。
 4. 配布プリントの意味を再読する。
 5. 配布プリントの意味を再読する。
 6. 配布プリントの意味を再読する。
 7. 配布プリントの意味を再読する。
 8. これまでの配布プリントを再読する。
 9. 配布プリントの意味を再読する。
 10. 配布プリントの意味を再読する。
 11. 配布プリントの意味を再読する。
 12. 自分自身で都市と建築の歴史を再読する。
 13. 自分自身で都市と建築の歴史を再読する。
 14. 講義以外のテーマについて自分で解説してみる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

高村雅彦編『アジアの都市住宅』（勉誠出版）、『清明上河図』を読む』（勉誠出版）

【成績評価の方法と基準】

期末記述試験 60 点以上を合格。
期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

板書を適宜おこなう。
ゆっくり話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

教員は毎回 PC を使用するが、学生は用意する必要はない。

【Outline and objectives】

In this course students will understand the background behind Japan and Asia's modern cities and architecture. In addition, in regards to the sparse design history of modern architecture, examples such as Disneyland will be examined. Topics will be assigned according to each of these areas.

NAS100NC

バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019年度以降入学生）

大山 聖一、小林 卓也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学的開発を自然との調和の中で実現するために必要な生物に関する基礎的な知識および、デザイン工学における化学的な諸問題に対処する上で必要な基礎知識を習得する。

【到達目標】

人間活動にともなう生態系の変化、生物や生態系から受けている恩恵、自然・生物保護活動の現状等、現在の人と自然との関係について理解する。また、デザイン工学で必要とされる化学の基礎概念とデザイン工学における化学の役割を理解する。デザイン工学分野の可能性について理解を深めるとともに、身近な課題を解決するために必要な思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。前半（7回）で生物・生態系、後半（7回）で化学に関する講義を実施する。講義には PowerPoint を使用し、講義資料は授業支援システムで公開する。講義では、適宜、演習問題を実施する（7回程度）とともに、グループ議論や発表等を行うことにより理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生命の成立、細胞、個体	生命の成立とそれを維持するためのエネルギーや物質の流れについて理解するとともに、生物の個体の成り立ちについて理解する。 ・生命と分子 ・代謝 ・細胞-組織-器官 など
2	個体群と生態系	生物と生物との間に成立する関係らびに生態系の構造と役割について理解する。 ・様々な個体群 ・生態系の本質 など
3	環境と生物の反応	環境と動物・植物の反応との関係について理解する。 ・反応メカニズム ・特徴的な反応 ・動物と植物の違い など
4	生物多様性	生物多様性の概念と維持のための課題について理解する。 ・遺伝子と形質 ・生物多様性の意味 ・国際動向 など
5	生物の機能とその利用	生物の能力や機能の利用例について概観するとともに、その重要性を理解する。
6	生物圏と人間活動	気候変動を始めとする生物圏に対する人間活動の影響についてその概要を理解するとともに、デザイン工学の可能性について考える。
7	生物・生態系を知るための技術	生物・生態系の状態や変化を知るために利用される観測技術や調査手法について理解する。
8	原子の構造、物質量と化学反応式	原子構造、物質の種類と構造、元素・単体・化合物について学ぶ。原子量・分子量・式量と化学反応式との量的関係、物質の状態変化、物質収支について学ぶ。
9	化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の化学結合と物質の関わりについて学ぶ。
10	物質の性質（1）気体	気体の性質、気体の法則と状態方程式、理想気体と実在気体等について学ぶ。
11	物質の性質（2）液体	液体の性質（溶解度、沸点上昇、凝固点降下等）について学ぶ。
12	物質の性質（3）固体	結晶構造と固体の性質等について学ぶ。

13 反応速度と触媒 化学反応速度と化学平衡、触媒のはたらきについて学ぶ。

14 酸・塩基と酸化還元 酸・塩基と酸化還元概念と反応の実際について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認、授業支援システムで公開する講義資料の予習、授業内での演習問題、実施した演習問題の復習を必要とします。授業 1 回あたりの準備学習・復習時間は、各 2 時間、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで公開する講義資料 (PowerPoint) を中心に進めるため、授業内で教科書は使用しません。講義のテーマによって知識レベルの個人差が大きくなるため、授業計画に沿って作成した資料を、講義の予習や復習用の補足教材として配布する場合があります。

【参考書】

「化学入門」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0570-6、「化学-基本の考え方を中心に-」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0334-4 など。その他、学習に有用な参考書がある場合には開講時に知らせます。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は 100 点満点とし、60 点以上を合格とします。成績評価の配点は講義内演習 30 %、期末試験 70 % として、それぞれの合計で最終評価とします。欠席 4 回以上の場合には単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

個人が授業参加ができるよう、グループワーク等において議論した結果の発言機会を設けるとともに、授業内で実施するアンケートに基づき授業テーマに関連した最新知見の紹介を行います。また、希望があった場合には、補講日等を利用して、成績評価対象としない学習機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義には PowerPoint を使用し、同 PowerPoint を授業支援システムで公開します。また、必要に応じて、予習・復習時に参考となる講義資料を、授業支援システムを利用して配布します。計算演習には関数電卓を使用します。教室のスクリーンが見難い場合があるので、受講時には貸与パソコンを持参することを推奨します。

【その他の重要事項】

現在もエネルギー環境分野の技術開発に従事する研究者が、自身の経験に基づいて、バイオ・ケミカルエンジニアリング（生物、化学、環境）の講義を行います。

【Outline and objectives】

In this course students will learn basic knowledge on biology and chemistry necessary for solving various problems in design engineering.

NAS100NC

バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019年度以降入学生）

大山 聖一、小林 卓也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学的開発を自然との調和の中で実現するために必要な生物に関する基礎的な知識および、デザイン工学における化学的な諸問題に対処する上で必要な基礎知識を習得する。

【到達目標】

人間活動にともなう生態系の変化、生物や生態系から受けている恩恵、自然・生物保護活動の現状等、現在の人と自然との関係について理解する。また、デザイン工学で必要とされる化学の基礎概念とデザイン工学における化学の役割を理解する。デザイン工学分野の可能性について理解を深めるとともに、身近な課題を解決するために必要な思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。前半（7回）で生物・生態系、後半（7回）で化学に関する講義を実施する。講義には PowerPoint を使用し、講義資料は授業支援システムで公開する。講義では、適宜、演習問題を実施する（7回程度）とともに、グループ議論や発表等を行うことにより理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生命の成立、細胞、個体	生命の成立とそれを維持するためのエネルギーや物質の流れについて理解するとともに、生物の個体の成り立ちについて理解する。 ・生命と分子 ・代謝 ・細胞-組織-器官 など
2	個体群と生態系	生物と生物との間に成立する関係らびに生態系の構造と役割について理解する。 ・様々な個体群 ・生態系の本質 など
3	環境と生物の反応	環境と動物・植物の反応との関係について理解する。 ・反応メカニズム ・特徴的な反応 ・動物と植物の違い など
4	生物多様性	生物多様性の概念と維持のための課題について理解する。 ・遺伝子と形質 ・生物多様性の意味 ・国際動向 など
5	生物の機能とその利用	生物の能力や機能の利用例について概観するとともに、その重要性を理解する。
6	生物圏と人間活動	気候変動を始めとする生物圏に対する人間活動の影響についてその概要を理解するとともに、デザイン工学の可能性について考える。
7	生物・生態系を知るための技術	生物・生態系の状態や変化を知るために利用される観測技術や調査手法について理解する。
8	原子の構造、物質量と化学反応式	原子構造、物質の種類と構造、元素・単体・化合物について学ぶ。原子量・分子量・式量と化学反応式との量的関係、物質の状態変化、物質収支について学ぶ。
9	化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の化学結合と物質の関わりについて学ぶ。
10	物質の性質（1）気体	気体の性質、気体の法則と状態方程式、理想気体と実在気体等について学ぶ。
11	物質の性質（2）液体	液体の性質（溶解度、沸点上昇、凝固点降下等）について学ぶ。
12	物質の性質（3）固体	結晶構造と固体の性質等について学ぶ。

13	反応速度と触媒	化学反応速度と化学平衡、触媒のはたらきについて学ぶ。
14	酸・塩基と酸化還元	酸・塩基と酸化還元概念と反応の実際について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認、授業支援システムで公開する講義資料の予習、授業内での演習問題、実施した演習問題の復習を必要とします。授業 1 回あたりの準備学習・復習時間は、各 2 時間、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで公開する講義資料 (PowerPoint) を中心に進めるため、授業内で教科書は使用しません。講義のテーマによって知識レベルの個人差が大きくなるため、授業計画に沿って作成した資料を、講義の予習や復習用の補足教材として配布する場合があります。

【参考書】

「化学入門」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0570-6、「化学-基本の考え方を中心に-」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0334-4 など。その他、学習に有用な参考書がある場合には開講時に知らせます。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は 100 点満点とし、60 点以上を合格とします。成績評価の配点は講義内演習 30 %、期末試験 70 % として、それぞれの合計で最終評価とします。欠席 4 回以上の場合には単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

個々人が授業参加ができるよう、グループワーク等において議論した結果の発言機会を設けるとともに、授業内で実施するアンケートに基づき授業テーマに関連した最新知見の紹介を行います。また、希望があった場合には、補講日等を利用して、成績評価対象としない学習機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義には PowerPoint を使用し、同 PowerPoint を授業支援システムで公開します。また、必要に応じて、予習・復習時に参考となる講義資料を、授業支援システムを利用して配布します。計算演習には関数電卓を使用します。教室のスクリーンが見難い場合があるので、受講時には貸与パソコンを持参することを推奨します。

【その他の重要事項】

現在もエネルギー環境分野の技術開発に従事する研究者が、自身の経験に基づいて、バイオ・ケミカルエンジニアリング（生物、化学、環境）の講義を行います。

【Outline and objectives】

In this course students will learn basic knowledge on biology and chemistry necessary for solving various problems in design engineering.

NAS100NC

バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019年度以降入学生）

大山 聖一、小林 卓也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学的開発を自然との調和の中で実現するために必要な生物に関する基礎的な知識および、デザイン工学における化学的な諸問題に対処する上で必要な基礎知識を習得する。

【到達目標】

人間活動にともなう生態系の変化、生物や生態系から受けている恩恵、自然・生物保護活動の現状等、現在の人と自然との関係について理解する。また、デザイン工学で必要とされる化学の基礎概念とデザイン工学における化学の役割を理解する。デザイン工学分野の可能性について理解を深めるとともに、身近な課題を解決するために必要な思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。前半（7回）で生物・生態系、後半（7回）で化学に関する講義を実施する。講義には PowerPoint を使用し、講義資料は授業支援システムで公開する。講義では、適宜、演習問題を実施する（7回程度）とともに、グループ議論や発表等を行うことにより理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生命の成立、細胞、個体	生命の成立とそれを維持するためのエネルギーや物質の流れについて理解するとともに、生物の個体の成り立ちについて理解する。 ・生命と分子 ・代謝 ・細胞-組織-器官 など
2	個体群と生態系	生物と生物との間に成立する関係らびに生態系の構造と役割について理解する。 ・様々な個体群 ・生態系の本質 など
3	環境と生物の反応	環境と動物・植物の反応との関係について理解する。 ・反応メカニズム ・特徴的な反応 ・動物と植物の違い など
4	生物多様性	生物多様性の概念と維持のための課題について理解する。 ・遺伝子と形質 ・生物多様性の意味 ・国際動向 など
5	生物の機能とその利用	生物の能力や機能の利用例について概観するとともに、その重要性を理解する。
6	生物圏と人間活動	気候変動を始めとする生物圏に対する人間活動の影響についてその概要を理解するとともに、デザイン工学の可能性について考える。
7	生物・生態系を知るための技術	生物・生態系の状態や変化を知るために利用される観測技術や調査手法について理解する。
8	原子の構造、物質量と化学反応式	原子構造、物質の種類と構造、元素・単体・化合物について学ぶ。原子量・分子量・式量と化学反応式との量的関係、物質の状態変化、物質収支について学ぶ。
9	化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の化学結合と物質の関わりについて学ぶ。
10	物質の性質（1）気体	気体の性質、気体の法則と状態方程式、理想気体と実在気体等について学ぶ。
11	物質の性質（2）液体	液体の性質（溶解度、沸点上昇、凝固点降下等）について学ぶ。
12	物質の性質（3）固体	結晶構造と固体の性質等について学ぶ。

13 反応速度と触媒 化学反応速度と化学平衡、触媒のはたらきについて学ぶ。

14 酸・塩基と酸化還元 酸・塩基と酸化還元概念と反応の実際について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認、授業支援システムで公開する講義資料の予習、授業内での演習問題、実施した演習問題の復習を必要とします。授業 1 回あたりの準備学習・復習時間は、各 2 時間、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで公開する講義資料 (PowerPoint) を中心に進めるため、授業内で教科書は使用しません。講義のテーマによって知識レベルの個人差が大きくなるため、授業計画に沿って作成した資料を、講義の予習や復習用の補足教材として配布する場合があります。

【参考書】

「化学入門」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0570-6、「化学-基本の考え方を中心に-」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0334-4 など。その他、学習に有用な参考書がある場合には開講時に知らせます。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は 100 点満点とし、60 点以上を合格とします。成績評価の配点は講義内演習 30 %、期末試験 70 % として、それぞれの合計で最終評価とします。欠席 4 回以上の場合には単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

個人が授業参加ができるよう、グループワーク等において議論した結果の発言機会を設けるとともに、授業内で実施するアンケートに基づき授業テーマに関連した最新知見の紹介を行います。また、希望があった場合には、補講日等を利用して、成績評価対象としない学習機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義には PowerPoint を使用し、同 PowerPoint を授業支援システムで公開します。また、必要に応じて、予習・復習時に参考となる講義資料を、授業支援システムを利用して配布します。計算演習には関数電卓を使用します。教室のスクリーンが見難い場合があるので、受講時には貸与パソコンを持参することを推奨します。

【その他の重要事項】

現在もエネルギー環境分野の技術開発に従事する研究者が、自身の経験に基づいて、バイオ・ケミカルエンジニアリング（生物、化学、環境）の講義を行います。

【Outline and objectives】

In this course students will learn basic knowledge on biology and chemistry necessary for solving various problems in design engineering.

CST100NC

生態学概論（2019年度以降入学生）**西廣 美穂**

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インフラ整備、都市計画、防災・減災対策などにおいて、工学的な視点だけでなく、その場にある自然環境を理解し、活かす視点をもてるように、基礎生態学、保全生態学に関する基礎知識を習得する。

【到達目標】

生態学の基礎的な知識を習得するとともに、その応用として、人間社会と自然環境とのかわり、持続可能な社会の形成のために必要とされる自然環境に関する知識や視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力 60%

(D) 専門基礎学力 40%

(E) 専門知識の活用・応用能力

(F) 総合デザイン能力

(G) コミュニケーション能力

(H) 継続的学習能力

(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。講義には Power Point を使用するとともに、適宜資料ファイルをアップロードする。また、各回授業終了時には、リアクションペーパーを提出することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ
2	自然選択による進化	適応の自然史、自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生活史におけるトレードオフ、生活史戦略のシンドローム
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスクと多様性
6	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然	里山や草原の利用と生物多様性、多様性と中程度攪乱説
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	気候変動と保全生態学	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系
11	グリーンインフラストラクチャ	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
12	都市生態系	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	グリーンインフラストラクチャ	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
14	ディスカッションと復習	グループディスカッション（受講人数等により具体的な方法は開講後に検討します）、主要な内容の確認と復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % 小レポート 30 %、期末レポート 40 %

上記 3 項目の合計点で評価し、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

習得すべき知識の復習と確認を、講義の最終回や試験だけでなく、授業時間内にも何回か行うこととする。復習に取り組みやすいよう、授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。必要に応じて指示する。

【Outline and objectives】

In this course students will learn basic knowledge on ecology necessary for solving various problems in design engineering.

MEC200ND

メカトロニクス

木村 文信

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メカトロニクスとは、機械工学（メカニズム）と電気電子工学（エレクトロニクス）の合成語で、機械を電気回路で賢く制御するシステムのことである。メカトロニクスを修学するにあたり、機械のしくみ、電気回路の動作だけでなく、ソフトウェアによる制御やシステム全体としての設計や運用など、広い専門知識が必要とされる。本授業では、メカトロニクスの各要素技術に関して、その概念を理解し、分野全体のイメージを把握することを目的とする。

【到達目標】

授業終了時点で以下のことを理解することを目指す。

- 1) メカトロニクスシステムの構成を把握する方法。
- 2) 機械要素の種類と用途。
- 3) 電気・電子回路部品の種類と用途。
- 4) アクチュエータ・センサの原理。
- 5) コンピュータ上での信号処理と計算。
- 6) 制御工学の基礎。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面式・オンラインのどちらかで実施する。

【対面式の場合】授業は基本的に板書と口述によって進められる。また、授業の内容が理解できているかを確認するため、適宜小テストを行う（基本的に各授業の最後に行う）。

【オンラインの場合】オンラインツールを用いてプレゼンテーション方式（スライド方式）で行う。授業内容の理解度の確認のため、各回で課題を出す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	メカトロニクスの概要	メカトロニクスの基本概念とその意義を解説し、それを踏まえ、メカトロニクスを支える基本技術とその体系について説明する。
第2回	メカトロニクスで必要となる数学・物理	メカトロニクスの各要素を理解する上で必要となる数学や物理（力学・電磁気学）を解説する。
第3回	アナログ電子回路－受動素子	アナログ電子回路を設計する上で必要となる知識・技術を解説する。主に受動素子を用いた直流および交流回路を対象とする。
第4回	アナログ電子回路－能動素子	能動素子を用いた、特定の機能を持った回路について解説する。各種能動素子がどのような原理で機能を発現しているかを含めて解説する。
第5回	アクチュエータの概要	メカトロニクスシステムで用いられるアクチュエータの概要と分類を解説する。また、システムを構成する際の選定基準について説明する。
第6回	アクチュエータの原理	主に電磁アクチュエータを対象として、動作原理について解説する。加えて、駆動に必要な信号などの計算方法を述べる。
第7回	センサの概要	メカトロニクスシステムを構成するために必要なセンサについて、概要と分類を説明し、システム構築のためのセンサの選定方法について述べる。

第8回	各種センサの計測原理	様々なセンサの紹介を行い、どのような原理で計測を行っているかを、出力信号の処理方法とともに解説する。
第9回	デジタル回路とコンピュータ	デジタル回路とコンピュータの基本的な構成と仕組みについて解説する。また、デジタル信号の通信方法を説明する。
第10回	アナログ信号とデジタル信号の相互変換	センサ・アクチュエータで使われるアナログ信号と、コンピュータが扱うデジタル信号がどのように変換されるかについて解説する。
第11回	機構の基礎	機械を構成する要素部品（機構部品）について、その種類と仕組み、用途について説明する。
第12回	機械の設計	機構部品を組み合わせ、機械的なシステムを構築する手法について説明し、そのシステムの運動伝達の計算方法を解説する。
第13回	制御工学の基礎	制御の基本概念、フィードバック制御の意味、古典制御理論と現代制御理論の違いと特徴等を説明する。
第14回	システム設計と開発の事例 まとめ	各種メカトロニクスシステムの応用事例・最先端の研究例などを紹介する。また総まとめとして、学習範囲の要点を再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校レベルの物理学（特に力学、電磁気学分野）を復習して望むとよい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

- ・三浦宏文（監修）「ハンディブック メカトロニクス」オーム社
- ・渋谷恒司「メカトロニクスの基礎」森北出版
- ・松本潔「設計者に必要なメカトロニクスの基礎知識」日刊工業新聞社

【成績評価の方法と基準】

平常点および授業中の小テストもしくは宿題の評価を40%、期末試験もしくは最終課題の評価を60%として総合評価点を算出して評価する。総合評価点を100点満点とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義の進行（板書等）が速いために理解が追い付けないことが無いよう、説明などの時間を多く取るとともに、講義外の時間でも質問を受け付けることができるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

筆記具とノート
パソコン

【その他の重要事項】

メカトロニクスに関する研究に従事している教員が、実際にメカトロニクスシステムを構築するために必要な技術を紹介しながら講義を進める。

【Outline and objectives】

"Mechatronics" is a multidisciplinary engineering field that includes mechanical engineering and electrical engineering to produce intelligent systems that control machines via electronic and information technologies. To understand mechatronics, a wide range of disciplines are required. In this lecture, students will acquire knowledge of each of the fundamental technologies of mechatronic systems and skills to apply it to real systems.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システム工学は、システムを成功裏に実現するための複数の分野にまたがるアプローチおよび手段である。1つのシステムは様々な要素と要素間の関係によって構成され、異なる工学分野の集合体といえる。現代では、情報通信、生産、流通、電力、ガス、水道、航空、宇宙、鉄道、金融、会社組織などの大規模システムなしでは、私達は到底生きていくことができない。

これらのシステムを実際に設計・構築するためには、要求定義に始まり、ハードウェア設計、ソフトウェア設計、構築、検証等のステップを踏んでいき、ようやくシステム運用の段階となる。いくつものステップをシステムチックに進めていくためには、そのシステムのモデルを作成し、科学的手法を活用できる高度な能力が求められる。学術・産業界の両方で求められているのは、日本の Society5.0、ドイツの Industrie4.0, Digital Transformation, Digital Twins, Cyber Physical Systems などの System of Systems を、一から設計し構築できる柔軟な能力である。時は今。システム工学の習得は必須のアイテムと言えよう。

本授業では、システムを設計構築するための手順を理解し、いくつかの手法を体験することで、実社会においてシステム工学を活用するための基本を習得することを目的とする。

【到達目標】

1. システムを設計、構築、実施・検証するための基礎的な手法を理解している。
2. ダイナミックシステムや確率システムの数理モデルが説明できる。
3. 手法の図やモデルを使って、システムの構造、機能、性能などを把握できる。
4. 実社会で使われるシステム構築のための基本的な考え方ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で実施するが、授業時間内に演習も行う。システム工学の理論は、数学や物理学を応用・展開することが多い。そこで、理解を深めるため、できるだけ具体的なシステム事例を紹介する。基礎的な手法については、演習課題を与え、簡易な実際のモデル化を体験する。演習課題を通じて、理論と実際の両面からシステムの本質をつかみ、システムを考える力を養うことができる。

システム工学では、問題を発見し、課題を設定し解決するスキルが重要である。しかし、問題に対する「正解」がないこともある。具体的な境界条件や制約条件を明らかにして、代替案を考え出し「最適解」を求めていくような基本的な演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	システム工学とは何か	複雑な人工システムを最適に設計し、構築するためには、問題を発見、課題を設定し、解決するプロセスが必要となる。それらのプロセスは、イノベーションの基本となる。なぜ、システムの視点や考え方が重要なのかを理解しよう。
2	システムの計画と評価	システム設計・構築を行うための手順、ライフサイクルマネジメントについて概要を理解する。プロジェクト計画とシステムの評価の各手法について学ぶ。
3	システムの要求定義	利害関係者の要求からシステム要求を作成し、システムの機能を分析する。システム要求では、システムが提供すべき機能と、システムが備えるべき性能、コストなどを定めることを事例で理解する。
4	システムアーキテクチャの構築	システムの機能・構造の考え方を学ぶ。目的に応じて、システムの図的な表現によってモデルを作成する。挙動については、状態遷移図を作成することにより理解を深める。

< 課題演習 (2) >

5 システムの安定性

システムを安定にする制御の基本となる考え方がフィードバック制御である。システム制御を表現するためにブロック線図とシステムの伝達関数を導入し、フィードバック制御によるシステムの安定性を解析する。

6 システム制御のモデリング

フィードバック制御器の1つとしてPIDコントローラのモデルを学ぶ。実際の倒立振り装置のシステム制御をモデリングしてみる。

7 システムの安全性

< 課題演習 (3) >
システムの安全性の概念の1つであるフェールセーフについて理解し、これを論理的・物理的なシーケンス制御システムとして設計・実装する。

8 モデルベース設計手法

システムモデルから、詳細設計を行い、制御プログラムを自動生成をする手法について理解する。実際の生産設備やロボットシステム制御を、映像や3次元シミュレーションモデルで視覚的に学ぶ。

9 確率システム

< 課題演習 (4) >
様々な事象に対して、確率的なルールを定義することでモデリングする手法を学ぶ。正規分布など各種分布の特徴や確率過程の基本について理解する。

10 統計的データ解析

Internet of Things によるデータ解析では、統計解析モデルが使われる。相関関係と因果関係の違いなどの基本的な考え方を学ぶ。機械学習による異常検知のモデルを事例で理解する。

11 システムの信頼性

< 課題演習 (5) >
信頼度や故障率を確率モデルで表現し、評価することを学ぶ。部品やサブシステムの構成により、信頼性を向上させる方法を理解する。

12 信頼性解析

システムの故障の原因やその影響を、システムチェックに追及する方法として、FMEA、FTA、およびリスク分析の手法を理解する。

13 ネットワークの性質

< 課題演習 (6) >
ネットワークとは、ノードとリンクによって構成されるシステムのモデルである。大規模なネットワークの特徴量を抽出することで、システム全体に現れる性質が把握できる。

14 ネットワークの構造

ネットワークの局所的な性質に着目し、構造がどのように構成されているかを学ぶ。ネットワークの様々なモデルについて概観し、実社会のネットワークがどのような特徴を持つかについて理解する。

< 課題演習 (7) >

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中でいくつかの課題演習が出されるので、自分の手で書き、自分の頭で考えることで、簡単なモデルを設計したり計算してみること。授業時間内では完成しないので、提出期日までの宿題とする。（次週の授業開始時に提出。期日厳守。）

将来、皆さんが社会人となったときに、手と頭を使って考えたことは、簡単に思い出すことができるので、とても役立つ。提出された課題レポートは講師が採点評価し、フィードバックを行うことで学習をさらに深めることができる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。授業に必要な資料は配布する。

【参考書】

機械工学便覧「生産システム工学」日本機械学会（2005年）丸善
橋本、石井、小林、大山共著「Scilabで学ぶシステム制御の基礎」（2007年）オーム社
室津、大場、米澤、藤井、小木共著「システム工学 第2版」（2006年）森北出版
大橋、島海、白山共著「システム理論Ⅱ」（2016年）丸善出版

【成績評価の方法と基準】

1. 授業に対する意欲・態度などの平常点を重視して、それに提出された課題演習の得点を総合して評価する。（期末試験はなし）
2. 平常点は、授業への出席状況や質問票の提出を反映する。

3. 成績評価は 100 点満点とし、平常点と課題演習の得点は各 50 % の配点とする。

【学生の意見等からの気づき】

モデリングのために数式を使うこともあるが、丁寧に、かつ、できるだけ学生にとってわかりやすいように講義をすすめていく。

【学生が準備すべき機器他】

1. パソコンで Excel やシミュレーションソフトを使うので、授業に持参すること。
2. 講義に使用するプレゼンテーション資料は、授業支援システムからダウンロードすること。
3. 課題演習は、授業支援システムからダウンロードすること。

【その他の重要事項】

メーカーの研究開発・商品開発部門に、35 年を超える勤務経験のある教員が、実社会での多数のシステム設計および開発プロジェクト遂行の経験に基づき、システム工学の基礎を講義する。

【Outline and objectives】

Systems engineering is a multi-disciplinary approach towards the successful creation of systems. A system consists of various related elements and combines different engineering fields. In modern society, we cannot survive without large-scale systems such as information communication, production, distribution, electricity, gas, water supply, aviation, space, railroad, finance, corporate organization etc.

In order to actually design and construct these systems, we start with the requirement definition and follow the stages of hardware design, software design, construction, verification etc, before finally arriving at system operation. In order to systematically advance through multiple stages, it is necessary to have advanced abilities at developing a model of the system and utilizing scientific methods. Both academia and industry need flexible capabilities to design and build a system of systems such as Society5.0 in Japan, Industrie4.0 in Germany, Digital Transformation, Digital Twins and Cyber Physical Systems from scratch. Now, it can be said that learning systems engineering is an indispensable item.

In this course, we aim to understand the procedure for designing and constructing the systems, and learn basic techniques to utilize systems engineering in the real world by practicing various methods.

MTL300ND

素材と機能

中丸 啓

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プロダクトやサービスを扱う際に様々な形で活用される素材のうち、特にスマートマテリアルと呼ばれる外部からの物理刺激に対して特性を変化を起こす素材について学びます。またマイコンなどと組み合わせ素材の物性を活用する技法やそれらを用いたインタラクション設計について実習を行います。授業を通じてデザイナーとして素材を活用したプロダクトやサービスを魅力的にプレゼンテーションできるように基礎スキルの習得を目指します。

【到達目標】

- ・素材を活用するための基礎となる工学的な知識を身につけます。どのようなスマートマテリアルが存在し、どのような原理で動作しているのかを理解できるようにします。
- ・素材の機能を理解するためのツールについて学びます。物性の測定装置や実利用の際に抑えるポイントについて学びます。
- ・素材の特性をデジタルプロダクトに活用するために物性を活用したインタラクションの基礎を実習形式で身につけます。
- ・素材の特性を活かしたプロダクトやサービスのアイデアやコンセプトを魅力的に伝えるプロトタイプとプレゼンテーションスキルの基礎を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

座学と実習を織り交ぜた形式を予定しております。
スマートマテリアルの紹介やその原理や先行活用事例の紹介を座学で行います。
教室で扱える素材に関しては実際にマイコンなどと接続し、その物性を活用したインタラクション設計を学習し、課題ではそれらを活用した題材に対してプロトタイプを行います。学習と実習の相互のプロセスで現象の理解とスキルの習得を深めます。
作成したプロトタイプやアイデアコンセプトはプレゼンテーションやデモの形で発表を行います。一部グループワークも予定しております。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	素材と機能	スマートマテリアルとインタラクション領域のイントロダクションを行います。 企業での活用事例などを紹介します。
2	素材と機能 スマートマテリアルの紹介	スマートマテリアルの様々な事例を紹介し、 インタラクションの形をグループワーク形式で議論します。
3	マテリアルインタラクション 1	素材の電気特性について学びます。またそれを活用することでインタフェースを作れることなどを体感します。
4	マテリアルインタラクション 2	マイコンと導電素材を活用して簡単な入力インタフェースを作ります。

5	マテリアルインタラクション 3	アウトプット機能としてのアクチュエーション事例を紹介し、 変形素材や視覚変化素材のデモなどします。
6	マテリアルインタラクション 4	アクチュエーション機能の応用をグループワーク形式で考えます。
7	IoT 入門	マイコンの信号をウェブを介して読み出して様々なデジタルサービスと接続する方法を学びます。
8	IoT 実習 1	入門の内容を元に活用し得るプロダクトやサービスをグループワークで考えます。
9	IoT 実習 2	グループワーク作業でプレゼンの準備をします。
10	IoT 実習発表	グループで検討したアイデアをそれぞれのチームで発表します。 チーム間でリフレクションを行います。 最終課題を発表します。
11	マテリアル活用技法の紹介	素材やプロセス技術のアクセスの仕方やノウハウについて座学で学びます。
12	マテリアルインタラクション実習	日本の産業の出発点とも言える古くから新しい産業。その形態が機能製品として複合材へ展開する。隙間があることは良いこと。
13	最終成果報告会 前半	最終課題の提案を各自プレゼンテーションします。
14	最終成果報告会 後半	プレゼンテーションの後半とさらに本領域を学びたい方向けのトピックスを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題やトピックスに応じて WEB など作品やツールの使い方を随時学んで行くことが臨まれます。

【テキスト（教科書）】

教科書は基本的には授業用のスライドを用います。受講人数に応じて授業で使うツールキットの配布を検討しています。

【参考書】

基本的にはウェブで集められる情報を扱います。領域が多岐にわたるので授業内で参考となる情報をサイトを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 講義での作品やプレゼンテーション 20%
2. グループワーク 30% （他科目の事例：自己評価やリフレクションを盛り込んでいる）
3. 最終課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

マイコンなどを活用したプロトタイプなどを行うため、PC が必要となります。
コロナなどの状況によっては ZOOM 講義がはいる可能性もあります。
ハサミや針などのツールが回になっては必要となります。

【その他の重要事項】

担当講師はメーカーの R&D 部門にて素材やデバイスの開発などに関わってきました。また海外のデザインスクールへの留学経験や新規事業の立ち上げ経験などがあり、現在も企業で新規素材を活用した技術開発や新規事業を担当しています。そのため、素材を活用したプロジェクトで工学とデザインがどのように関わっているかにフォーカスを当てた授業を予定しております。

マイコンなどを扱いますが、基本的に初めて扱う方を想定しています。電気回路の基礎（オームの法則や電子デバイスの機能）がわかっているとより好ましいです。

【Outline and objectives】

Among the materials used in various ways when handling products and services, we will learn about smart materials, which change their properties in response to external physical stimuli. Students will also learn how to use the physical properties of materials in combination with microcomputers and how to design interactions using these materials.

Students will acquire the basics to present products and services attractively using materials as a designer through practical training.

MAN200ND

コストマネジメント

飯塚 隼光

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専攻分野を問わず、コストマネジメントはみなさんがビジネスにかかわるうえで欠かせないスキルです。本授業では、コストの基本的な考え方や分析の方法を学びます。

【到達目標】

- ・コストマネジメントに必要なビジネスの考え方を正しく説明できること。
- ・コストの考え方を正しく説明できること。
- ・コストマネジメントのための基本的な分析ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は3部構成で、原則としてオンライン授業により進めます。第1に、そもそもコストとは何か、なぜコストおよびそのマネジメント活動が必要とされているのかを取り上げます。第2に、実際のビジネスの場でコスト概念がどのように認識され、コストマネジメントに関する活動がどのように行われているのかについて学びます。第3に、コスト概念を定義し、操作化し、それを作り込む過程を取り上げます。さらに、近年の情報技術を用いたコストマネジメントの取り組みについても紹介します。ディスカッションなどにより双方向で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	支出、費用、原価	・ある時点の財政状態を示すストック情報 ・ある期間の経営成績を示すフロー情報
2	貸借対照表の基本	・支出と費用（原価）の違い ・会社の財政状態を示す貸借対照表の読み方を学ぶ ・“資産”と“負債”という2種類の財産 ・流動と固定の区分 ・有形と無形の区分 ・減価償却
3	損益計算書の基本	・会社の経営成績を示す損益計算書の読み方を学ぶ ・現金主義と発生主義の違い ・損益計算の基本的な考え方（収益と費用の対応） ・目的に応じた損益の計算（営業損益、経常損益、純損益）
4	財務諸表の分析	・実数分析 ・安全性指標、収益性指標を用いた比率分析 ・実数分析と比率分析からどのようなことがわかるか？
5	第1部のまとめ	・1～4回目の理解度確認
6	原価計算の役割	・具体的なアクションをとるために必要な原価と収益の比較計算 ・目的に応じた原価計算について：製品原価計算と特殊原価調査
7	利益計画とCVP分析	・原価情報を活用してPDCA（計画、実行、評価、改善）のサイクルを回す方法を考えよう ・利益を獲得するには製品を何個作ればよいのか？どこまでコストをかけてよいのか？
8	原価計算の基本（その1）	・原価の測定と認識 ・製品原価計算の基本的な手続き：各製品の原価はいくらになる？
9	原価計算の基本（その2）	・CVP分析の復習：原価、営業量、利益の関係を考える ・CVP分析に有効な原価の計算：直接原価計算
10	第2部のまとめ	・6～9回目の理解度確認

11 原価管理の基本

- ・原価管理の3本柱：原価維持、原価改善、原価企画
- ・基準となる原価（標準原価）を活用してPDCAサイクルを回す方法を考えよう

12 原価の作りこみとライフサイクル・コスト

- ・原価低減のためのアクションにつなげるには？：責任会計の考え方
- ・原価はどの段階で管理するのがよいのか？：製品開発における原価の作り込み
- ・製品の生涯にわたって発生する原価とは？

13 原価企画の基本

- ・市場価格を出発点として原価を作り込む（市場志向の原価管理）
- ・機能向上と原価低減により製品の価値を高める（VE）
- ・職能を超えて連携する（職能横断的組織、プロジェクト実行チーム）

14 これからのコストマネジメント

- ・原価管理上の課題
- ・IoTデータを用いたコストマネジメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の積み重ねがとても重要なので、予習と復習を必ず行うこと。わからないところはその場で解決すること（授業での質問を歓迎します）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

岡本清・廣本敏郎・尾畑裕・挽文子（2008）『管理会計』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

理解度確認試験（2回実施予定）40%、最終試験40%、コメントの提出状況など20%を総合して評価します。なお、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更しています。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

質問時間の活用などにより、学修内容について理解を深められる場をさらに充実させたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

電卓を持参してください。

【その他の重要事項】

- ・みなさんの理解度や要望に応じて授業内容を変更することがあります。変更がある場合は学習支援システムでお伝えしますので、こまめに確認してください。
- ・前提知識は問いませんが、毎回の予習と復習がとても重要になりますので学修意欲のあるひとの受講を希望します。ビジネスに関心があるひととはぜひトライしてください。

【Outline and objectives】

Regardless of the applied field, cost management is an essential sector of any organization. In this course students will learn about the fundamental concepts and approaches towards cost.

MEC300NA

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的には **Taguchi Methods** として知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとして **SN 比** で評価することができる。**SN 比** が手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標である **SN 比** の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN 比 の前段として分散分析について述べる。
4	SN 比 の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術における SN 比 と評価	実験で重要な測定信頼性を SN 比 で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。

12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの課題あり。
課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山肇子：ベシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
（平常点： 60%、演習レポート： 40%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

【Outline and objectives】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

MEC300NA

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的には Taguchi Methods として知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのものの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとして SN 比で評価することができる。SN 比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標である SN 比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。

品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN 比の前段として分散分析について述べる。
4	SN 比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術における SN 比と評価	実験で重要な測定の信頼性を SN 比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。

課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山禰子：ベシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。

（平常点：60%、演習レポート：40%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

【Outline and objectives】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

MEC300NA

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的には **Taguchi Methods** として知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのものの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとして **SN 比** で評価することができる。**SN 比** が手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標である **SN 比** の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	10%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習、討論を通して学ぶ。品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算方法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN 比 の前段として分散分析について述べる。
4	SN 比 の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術における SN 比 と評価	実験で重要な測定の信頼性を SN 比 で評価する。

9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、 QC 7 つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
(毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める)

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山稔子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
(平常点：60%、演習レポート：40%)

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

【Outline and objectives】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

SSS300ND

プロジェクトマネジメント（SD）

村上 季史、永田 義昭

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択必修

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システムデザイン学科では「新しい価値を備えたシステムを創造しデザインする工学」を学びます。「創造」には、共通のゴールに向かって、複数の人間が協力し合って未知の分野に挑戦する行為が必要です。これが「プロジェクト」です。この授業では、そうしたプロジェクトの計画立案と遂行・コントロールについて、また繰返し行われる日常業務の進め方との違いについて、演習を交えて理解していきます。

【到達目標】

プロジェクト・マネジメントの基本概念と、コミュニケーション・ファシリテーションなどの基本スキル、ならびに **Activity List・WBS・CPM・EVM** などの技法について初歩を理解し、自分なりにプロジェクトを組み立てリードしていける能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は全部で 14 回で構成します。

第 1 回～第 2 回 プロジェクト・マネジメントの概要について解説します
 第 3 回～第 6 回 プロジェクトを遂行するヒューマンスキルを学びます
 第 7 回～第 13 回 プロジェクト計画の立案方法と実行・監視・コントロールの仕方を理解します
 第 14 回 グループ課題の発表と相互評価を行います
 なお、授業には演習を取り入れます。また、授業と並行してグループを組み、課題「プロジェクト計画演習」を 6 週間かけて進める宿題の形とします。授業を通して、クラスメイトと協力しながら、プロジェクト・マネジメントの手法を身につけ、演習とグループ課題で実践に結びつけて、本当に「使える」スキルとして身につけてもらいたいと期待しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（プロジェクトとは何か）	この授業の目標と全体のプロセスを理解します ・プロジェクトとは何か ・プロジェクトの進め方の全体像
2	ゴール・目的・目標	プロジェクトのゴール設定と「プロジェクト CHARTER」を学びます ・プロジェクトの成功と失敗 ・ゴール、目的、目標の違い ・演習 プロジェクト CHARTER をつくる
3	リーダーシップとマネジメント	リーダーシップとマネジメントの違い、また、プロジェクトマネージャーについて学びます。 ・リーダーシップとマネジメント ・プロジェクトマネージャーに求められるもの
4	コミュニケーション	日常生活の中でも実践できる、コミュニケーション力を上げるためのポイントを学びます。 ・プロジェクト遂行上のコミュニケーション ・コミュニケーションの目的とは？ ・コミュニケーション力の高い人とは？ ・コミュニケーション上手になるためには？ ・演習
5	ファシリテーション	ファシリテーションは話す力、聴く力、論理的思考力などのヒューマンスキルの総合技術であり、チームの成果を最大限引き出すことができます。グループ演習を通じてファシリテーションを活用した議論、意思決定を体験します。 ・ファシリテーションとは ・演習

6	モチベーション	他者と協働し、意欲を持って動いてもらうための動機づけについて理解します。 ・動機づけ理論 ・人は何で動くか
7	スコープ・WBS	プロジェクト・マネジメントの基礎であるスコープと WBS 作成について学びます。 ・スコープとは何か ・演習 Activity List と WBS をつくる ・グループ課題「プロジェクト計画演習」の説明
8	組織と要員	複数の人間が協力し合うために必要な組織のデザインを学びます。 ・企業の組織とは ・プロジェクト組織の分類 ・チームと役割
9	スケジューリング	プロジェクトの納期を守るためのタイム・マネジメントの基礎を学びます。 ・ロジックネットワークスケジュールの基礎 ・演習 クリティカル・パスを見つける
10	リスク	プロジェクト・マネジメントにとって最も難しい課題であるリスクについて考えます。 ・リスクとは何か ・リスクへの対応戦略
11	コスト	予算を守るためのコスト計画とコントロールについて学びます。 ・予算とはそもそも何か ・人のコスト ・見積の方法 ・演習 入札ゲーム
12	デザインと品質	顧客のニーズや期待に応える商品・サービスを提供するために、品質という観点で重要なポイントを学びます。 ・品質とは ・デザインとは ・品質目標の実現のために
13	進捗管理とアクション	プロジェクトの進捗管理と必要なアクションについて、実践的なテクニックを学びます ・プロジェクトの進捗管理 ・EVM ・変更管理
14	グループ課題発表	「プロジェクト計画演習」課題のグループ発表 ・動画・パワーポイントによる課題のグループ発表会 ・各班による相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習に重点を置いてください。個人課題は 1 時間程度要する内容を基準とします。また、グループで取り組む「プロジェクト計画演習」の際に時間外の準備が必要となります。なお、それ以外にも、研究でもサークル活動でも、あるいはバイトでもかまいませんから、人と共同して何かを達成する経験になるべく積んでおくことをお勧めします。これは本授業のみならず、卒業後にも必ず役に立つことです。

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありませんが、講義資料は PDF で授業支援システムに事前にアップします。

【参考書】

- 「世界を動かすプロジェクトマネジメントの教科書」佐藤知一・著（技術評論社）
若手エンジニアを主人公に、プロジェクトマネジメントの基本を解説しています。
- 「改訂 3 版 P2M プログラム&プロジェクトマネジメント標準ガイドブック」日本プロジェクトマネジメント協会・著（日本能率協会マネジメントセンター）
日本の団体が中心となり、プロジェクトとプログラムのマネジメントについて解説した書です。
- 「プロジェクトマネジメント知識体系ガイド第 6 版」Project Management Institute 著（PMI 東京支部）

現在最も世界的に影響のある標準体系の解説書です。PMP（Project Management Professional）資格受験のための必須の教科書です。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業への参加 (60%)

講義の中で教室内でグループ演習を何回か行います。プロジェクト・マネジメントは演習なしで理解することはほとんど不可能です。講義と演習への積極的な参加を成績評価の対象とします。

また、講義に関する質問やコメントを記したリアクションペーパーの提出も講義への貢献として成績評価の対象とします。

(2) グループ課題の発表 (40%)

この授業で学んだことをもとに、グループを作成し、各グループでプロジェクト構想を作り、その内容と遂行計画について発表してもらいます。実現可能性それ自体は問いませんが、実行手順についてはできるだけ具体的にイメージして作成してください。

「プロジェクト成果物の構想説明」、「プロジェクト計画書作成」、「プレゼンテーション」に合計 40 点を配点します。グループ課題は受講生全員が相互に採点する方式で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義への積極的な参加と講義内容への質問・意見により、理解を深め、「考える力」を成長させることを目標にしています。授業内容をきっかけに、自分の意見を持つようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は PDF の形で授業支援システムに事前にアップします。閲覧可能な機器を授業に持ってきてください。

【その他の重要事項】

現在、種々のプラント建設プロジェクトを経験したエンジニアが、基本知識の説明と自身の経験に基づいた解説や演習を行います。

【Outline and objectives】

In this course on system design, students will learn the engineering involved in creating and designing new innovative systems. Creating involves challenging undiscovered areas by facing common problems and collaborating with people. Students will understand how to plan, execute and control such projects as well as how they differ to real world duties through classes and practice.

BSP200GA

国際文化情報学の展開

松本 悟

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数制限あり

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、1 年次の「国際文化情報学入門」に続くものとして開設されたものである（ただし必修ではない）。本学部の4つのコース「情報文化・表象文化・言語文化・国際社会」の垣根を超えた共通テーマのもとで、ゲスト講師を含む複数教員によるオムニバス授業を行い、学際的かつ分野横断的な知識を身につける。今年度のテーマは「コロナ禍で再考する国際文化情報学」。今年度の全体コーディネーターは国際文化学部教員の松本悟が担当する。

【到達目標】

1. 本学部の四つの柱「情報文化」「表象文化」「言語文化」「国際社会」にまたがった、学際的な視座を得ることができるようになる。
2. SA、SJ、ゼミ活動、卒業論文・卒業制作などで必要となる国際文化情報学のより発展的な知識や考え方を身につける。
3. コロナ禍という直接体験や交流が困難な状況だからこそ、国際文化情報学 (intercultural communication) を多角的に考えることによって、国際文化学部の学びの意義を改めて考え直し説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

■オンデマンド授業：法政大学の「新型コロナウイルス感染症に対する行動方針」のレベルと関わりなくオンデマンド方式で行う。毎回 80-90 分程度の動画、もしくは音声入りパワーポイントの教材を視聴し、授業日後 3 日以内に短い課題に答える方法を取る。

■フィードバック：質問に対しては、学習支援システムの掲示板を通じて回答する。授業後課題に対しては、次回の授業の始めにまとめてフィードバックする予定。担当講師によっては、個別に学習支援システムを通じてフィードバックを行う。ただし、履修人数が多いことが予想されるため、個別にはフィードバックはしない。

■オムニバス授業：本科目は、毎回異なる教員（本学部教員とゲスト講師）が、それぞれの専門分野から講義をするオムニバス方式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	4/12 松本悟（国際文化学部教員・本科目コーディネーター）国際文化情報学とは何か	この授業の狙い、進め方、主な内容、課題などについて説明するとともに国際文化情報学について講義する。
2	4/19 佐々木一恵（国際文化学部教員）感染症対策の歴史	「腸チフスのメアリー」事件から、20 世紀初頭のアメリカ合衆国と感染症について考える。
3	4/26 大中一彌（国際文化学部教員）パノプティコンとペスト～感染症と自由～	古代ギリシアから新型コロナウイルスの感染拡大がみられる現代までを往復しながら、「感染症に対する戦い」と人びとの自由の相克について考える。
4	5/10 石森大知（国際文化学部教員）コロナ禍における文化人類学とフィールドワーク	文化人類学にとってフィールドワークはその生命線といえるほど重要である。しかし、このコロナ禍においてその実施は国内外を問わず大きな困難を迎えている。対面によらない人類学的調査の可能性を考える。
5	5/17 五箇公一（国立環境研究所 生態リスク評価・対策研究室 室長）コロナ禍にみる自然共生社会の意義	新型コロナウイルスのパンデミックによって、世界的な医療と経済の危機を我々は経験した。ウイルスと生物多様性という自然界の摂理を理解するとともに、生物多様性の持続的利用と管理を目指した自然共生社会のあり方が今問われている。今後の感染症リスク管理対策およびその基盤としての環境保全政策、社会変容はどうあるべきか、論考する。
6	5/24 和泉順子（国際文化学部教員）エストニアの電子政府から学ぶ文化情報学の役割と展開	エストニアで実現している情報通信環境や電子投票など電子政府に関する議論から文化情報学について考える。

7	5/31 稲垣立男（国際文化学部教員）コロナ禍での芸術表現／レクチャーパフォーマンスの試み	近年美術や演劇の分野で芸術表現としてのレクチャー＝レクチャーパフォーマンスが盛んに行われており、コロナ禍においていっそうそうした試みが増えてきたように感じられる。様々なアーティストによるコロナ禍での芸術表現を紹介しつつ、昨年度実施した私自身のオンライン授業を基としたレクチャーパフォーマンスを実際に行う。
8	6/7 高柳俊男（国際文化学部教員）コロナ禍と歴史学研究：SJ 国内研修の舞台を例に	人類は現在まで、多くの厄災を経験してきた。その歴史を過去にさかのぼる中から、現在を乗り切る知恵やヒントを、とくに国際文化学部の SJ (Study Japan) 国内研修の舞台である南信州を例に考えたい。
9	6/14 甲洋介（国際文化学部教員）私たちが挑まれている、もう一つのこと	デジタルトランスフォーメーション (DX) は、人と人の関わり方の大胆な変更を私たちに迫った。一方、私たちの心のディープな部分が渴きをうったえる。これは「あなたに会う」のとどこが違う。「他者と共存することの迫力」を再考する。
10	6/21 栗飯原文子（国際文化学部教員）コロナ禍と文学	文学は猛威をふるう感染症にどのように応答しうるのであるか。感染症を扱った過去の文学作品を振り返りつつ、コロナ禍のただなかで生み出された「いま、ここ」の作品から、わたしたちが学べることを考えたい。
11	6/28 宮崎桂（JICA ガバナンス・平和構築部長）コロナ禍で考える開発協力	開発協力とは何か、コロナ禍においてどのような課題に直面し、解決しようとしているのか、日本の開発協力の実施機関である JICA の取り組みを参照しつつ考察する。
12	7/5 新島彩子（難民支援協会 支援事業部ディレクター）日本で暮らす難民の現状と難民と接する際の留意点	難民とはどのような人たちかを概観し、日本で暮らす難民の現状、さらに、コロナ禍での難民と支援者が直面する課題を学ぶ。また、国際文化情報学の観点から、難民と接する際の留意点を考察する。
13	7/12 長嶺由衣子（東京医科歯科大学助教）コロナ禍が浮き彫りにした"伝わる"情報伝達～医療・介護の現場から	医療や介護を文化と考えると、inter-cultural な情報共有をどのように行っているかを、国際機関など海外での経験を交えて講義し、医療分野の情報の読み方について考える。
14	7/19 松本悟（国際文化学部教員・本科目コーディネーター）国際文化学部で学ぶ意義を改めて考える	海外や現場を訪れて直接体験することが難しい今、国際文化学部の学びの本質とは何か、この授業全体の講義を振り返りながら考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・担当講師によっては事前課題を前提に授業を進めるので、その場合は必ず事前課題の文献講読や映像視聴を行う。
・授業後課題を毎回課す。授業日後 3 日以内に短い文章で提出する。
・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、国際文化学部のホームページの以下の記述は必ず読んでおくこと。

●理念・目的

<https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/rinen/>

●ディプロマポリシー

<https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/policy/diploma/>

【参考書】

・事前に学習支援システムに掲示するか、授業の中で各講師が紹介する。
・鈴木靖/法政大学国際文化学部編（2013）『国境を越えるヒューマニズム』法政大学出版局。

【成績評価の方法と基準】

授業後課題の提出 60%、最終レポート 40%。授業後課題は、設問に適切に答えていない場合や極端に分量が少ない場合は減点する。最終レポートは、14 回の講義を国際文化情報学という切り口で論じるもので、到達目標 3 を念頭に置いている。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを用いるので、できるだけ早めに、遅くとも初回授業前には登録すること。
・パソコンと動画を視聴できるインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

本授業の一部は、実務経験のある講師がその経験をもとに講義を行う。講義内容は、それぞれの担当回の内容を参照のこと。

●宮崎桂さん：2020 年 9 月まで、日本の政府開発援助機関である国際協力機構 (JICA) のバンコク事務所長としてコロナ禍での開発協力に携わっていた。
●新島彩子さん：認定 NPO 法人難民支援協会で、日本にいる難民申請者などの Asylum Seekers の支援に携わっている。

●長嶺由衣子さん：社会学部卒業後医学部編入。沖縄の離島診療所勤務、国際機関の疫学調査などに従事。コロナ禍の現在は神奈川県で在宅医療に取り組んでいる。

●松本悟：NHK 記者を務めた後、NGO 職員としてラオスでの農村開発・森林保全活動、日本での開発政策の提言活動に携わってきた。2012 年度より法政大学教員。

【Outline and objectives】

This course aims at enabling students to acquire a broad range of perspectives about intercultural communication. By the end of this course, students will develop a deeper and critical understanding of intercultural communication through a series of lectures related to COVID-19.

PRI200GA

統計処理法**吉田 一星**

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、新聞、テレビ、インターネットなどを通してデータに日々接しています。これらの、大量で多様なデータの中から、必要なものを情報として抽出し、適切な解釈を与えることは決して容易なことではありません。統計学はデータを数値化し、客観的に分析・評価することで、本質を捉えようとするための方法論です。この科目ではそのような統計学の基本的な考え方について学んでいきます。具体的には、統計を学ぶために最低限必要な確率の知識、データを数値化する方法、数値を可視化する方法、数値を最終的に評価・解釈する方法等を習得していきます。

【到達目標】

- ・ 確率の計算方法を理解する
- ・ データの可視化（グラフ化）の方法を身につける
- ・ 基本統計量（平均、分散、相関等）の算出方法を理解する
- ・ データを解釈する方法を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業では、統計学の基本的な考え方を学んでいきます。統計を直感でなくデータに基づいて議論するために最低限必要な確率の定義やその使い方を丁寧に解説します。その確率の言葉を使って、観測したい現象を数値データとして表現し分析するための統計的な道具を、多くの具体例に適用します。

数学に興味がある人はもちろん、そうではない人でも、統計的な考え方が楽しめるようにしたいと思いますので、履修される方には授業への積極的な参加を期待します。

なお、授業をオンライン会議システムを用いてオンラインで実施する可能性があります。パソコン・スマートフォン・タブレットなど、オンライン授業に参加するための準備をお願いします。

毎回の授業の終わりに、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。次の回の始めの時間で、その宿題の解説を行い、理解度を確認します。

また、小テスト・期末試験（「成績評価の方法と基準」を参照）の採点について、単なる答え合わせでない内容の解説を行うための時間を十分確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと確率の基礎 1	授業の進め方についての説明・組合せ論的確率の意味
第 2 回	確率の基礎 2	場合の数
第 3 回	確率の基礎 3	場合の数の応用
第 4 回	確率 1	確率の定義
第 5 回	確率 2	確率の計算例
第 6 回	統計の基礎 1	数値データの表現方法
第 7 回	統計の基礎 2	データの代表値とその性質
第 8 回	統計の基礎 3	分散と標準偏差
第 9 回	2次元データの分析 1	散布図と相関係数
第 10 回	2次元データの分析 2	回帰分析
第 11 回	確率分布 1	確率変数と期待値
第 12 回	確率分布 2	二項分布
第 13 回	確率分布 3	正規分布
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。毎回の授業の終わりに、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。宿題は成績評価には使用しませんが、1 回の分量を少なめにしますので次の授業までに必ず自分で解いてきて下さい。

【テキスト（教科書）】

作成した資料を使って行います。

【参考書】

講義中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う小テストと期末試験の結果を元に総合的に評価します。配点の目安としては、小テスト 30%、期末試験 70%となります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特にオンライン会議システムで授業をオンラインで実施する場合、時間にゆとりを持たせて授業の進行・内容の説明を行います。オンライン授業では学生の皆さんからその場で発言・意思表示しやすいように、アンケートやチャットの機能を有効活用します。

【学生が準備すべき機器他】

講義時間で演習を行います。演習では計算を行いますので電卓などを持参するようにしてください。

【Outline and objectives】

In our daily life we find a large amount of data available through the internet and social media. It is often difficult to extract only necessary information from the various kind of massive data and interpret the information. Statistics is a methodology for quantifying and objectively analyzing data.

In this lecture, we will learn the basics of statistics including the following topics:

- Basic knowledge of combinatorics and probability
- Data visualization
- Basic statistics
- Method to interpret results of data analytics

HUI200GA

システム論

甲 洋介

サブタイトル：人と社会の営みを理解する、もう一つの視点

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● 『家族』も『人間』もシステム？

コンピュータや SNS ばかりがシステムではない。私たちの生活はたくさんの『システム』に囲まれている。電子マネーやオンラインショップがシステムという説明は頷けるとしても、家族や社会、国際食糧支援、チームスポーツ、コンビニもシステム、と云われたらどうだろうか。

暮らしや社会の意外な仕組みが、広い意味でのシステムとして、私たちの文化の中に様々な形態で組み込まれている。交通にしても、家族にしても、多国間関係にしても、うまく機能している間は人々は気にしない。その仕組みがシステムとしてうまくはたらかない時に問題として顕在化する。

● 「システムという考え方」を学ぶ

本講義を通じて、最初は複雑すぎて捉えられない事柄も、「システムという考え方」を用いて整理し、自分で系統立てて捉えることができるようになる。

システムとは何か。文化の中の様々な対象をシステムとして捉えることによって、考え方が変わる。

本講義では、暮らしの中の身近な例や、システムとして意識したことがない意外な例を取り上げながら、それがどのような意味でシステムなのか、解きはぐしていく。複雑な事柄も複数の構成要素が巧みに関係し合った現象として、理解が進む。対象の本質を浮かび上がらせ、改善策の考案へとつなげる。これを練習する。

● システムから世の中を見ると、いろいろな事が見えてくる

人が作ったモノだけでなく、『家族』や『社会』も一種のシステムである。たとえば『家族』とは何か、家族が家族でいようとする目的は何か、なぜ現在の形態になっているのか、一度は考えたことがあるかもしれない。あるいは、差別や階層など、他と区別するための概念が新たに生まれたり、消滅すると何がかわるのか。システムとして捉え直すと、それが社会の営みに対する *questions* を整理し、明確化することにもつながる。

社会にはさまざまな形でシステムが埋め込まれている。その様態は常に変化している。そして、そこにはシステムとしての役割の変化がある。それらを見える作業は面白い。なぜならその変化は、人間が暮らし方を変革してきた足跡そのものだから。

【到達目標】

社会、またはあなたが直面する一見複雑に見える問題に対して：

- ・それはどのような要素からなっているか
- ・その本質は何か、何を目的としているのか
- ・複数の要素間の相互関係はどうなっているか
- ・その問題は、解決可能な幾つかの小さな問題に分けて考えることができるか
- ・どのようにすれば解決に近づくことができるか

を、システムの考え方をを用いて、問題の構造を理解して、複数の視点から分析し、自分なりの答えを「系統立てて」導くまでの道筋を、自分で組み立てられるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

概ねつぎの流れに沿って各回の授業を構成する。

- (1) 前回のコメントシートを踏まえた解説、ディスカッション（約 15 分）
- (2) 講義形式で、題材を提示し、考え方・いくつかの視点を解説（65 分）
- (3) 小課題を演習し、質問応答、コメントシート作成（20 分）

講義と小課題の演習を組み合わせる。授業冒頭 (1) で前回をおさらいし、受講生のコメントシートを踏まえた解説で理解の深化を促し、各回の講義 (2) につなぐ。各自の内容理解を小演習 (3) で確認し、コメントシートとして提出する。この対話サイクルで授業を進める。

授業中の討議を通じて、他の意見を認めつつ自分のオリジナルな考えをまとめ、他者が理解できるよう論理的な説明を練習する。その成果を期末レポートで確認する。

※新型コロナウイルス状況により授業の進め方を修正せざるを得ない場合は学習支援システム等で周知する。その場合も上記の基本方針の効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	システムは難しくない。本講義の狙いと、進め方
第 2 回	システムは、あなたの身近にある	システムとはどのようなものか
第 3 回	暮らしの中のシステム	暮らしの中にある、様々なシステム
第 4 回	システム、という考え方	システム思考の基礎。複雑そうな事を、要素の間の関係性として捉え直してみる
第 5 回	大きな視野から、システムの要素を整理し、働きを分析する	システムの成果物、インプット・資源、環境条件、環境への副次的影響、の整理
第 6 回	人間の行為を、システムの視点から理解する	気まぐれに見える人間の行為も、システムから捉えると
第 7 回	システムの信頼性、可用性を高める	故障しないモノはない。しかしシステムのデザインを工夫すれば、信頼性、可用性を高められる
第 8 回	人と道具のシステム論 －文房具から宇宙旅行まで	人が何か目的をもって道具を使う、その状況をシステムとして捉えてみよう
第 9 回	社会というシステム ～個人から社会へ（パーソナルの理論）	社会は複雑に見える。社会をシステムとしてどう捉えるか
第 10 回	社会のシステム論 (1) －ルーマンの理論	オートポイエーシス概念を用いて、社会システム論を説明する
第 11 回	社会のシステム論 (2) －コミュニケーションの連鎖	ルーマンは、社会の複雑さや『分化』をどのように捉えるか
第 12 回	社会や文化に埋め込まれたシステムたち	人の住まう都市、地域コミュニティの生活を、システムとして再検討する
第 13 回	システムダイナミクス	システムダイナミクスを用いて、複雑な社会現象を、多様な見方から捉える
第 14 回	まとめ：暮らしから社会へ、人間社会から環境へ	まとめ、課題について、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の復習を兼ねて、小課題に取り組む。提出は主に学習支援システムを用いる。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。社会システムの理解には、ニュースにある社会問題の背景について、自分で考える日頃の習慣が役に立つ。

【テキスト（教科書）】

講義資料を提示し、テキストは使用しません。

【参考書】

・知恵の樹 ― 生きている世界はどのようにして生まれるのか（マツウラナ著、ちくま学芸文庫）1998

【成績評価の方法と基準】

- ・レスポンスシートや、授業・討議における積極的な貢献度合い（60 %）、
- ・期末レポートまたは期末試験（40 %）

で総合的に評価します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。基本事項の理解、記述の明確さ、答えを導くまでの論理性、必要に応じて多角的な視点から考察すること、が重要です。

【学生の意見等からの気づき】

「込み入った話になると難しい」との意見がありました。例示を増やし、分かりやすく解きはぐすことを心がけようと思います。

【関連科目】

「道具のデザイン」「文化情報空間論」と直接的に関連しています。また国際社会コース、表象文化コースの専門科目の基礎としても役立つように工夫されています。

【Outline and objectives】

This class allows you to learn basic principles of "System" theory. Each of you is expected to re-examine some social issues by performing "System thinking".

COT200GA

デジタル情報学概論

重定 如彦

サブタイトル：デジタル社会を生き抜くための基礎知識

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IT を過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることなく、正しく理解することが重要である。

デジタル情報化社会、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとに IT の本質を明確にし、わかりやすく述べる。

この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得ることを目指す。

情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】

デジタルとは何かについて理解する。

デジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。

デジタル情報化社会及び、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解する。

現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

上記の到達目標を達成するため、教科書である「デジタル情報学概論」の内容をもとにデジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。

授業の前半ではデジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。

具体的にはまず「デジタルとは何か」から始まり、デジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、デジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。

次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうデジタル技術について解説する。

各回の講義は PowerPoint と教科書を用いて行う。PowerPoint の資料は授業が行われる週の頭までに学習支援システムにアップロードするので各自予習を行うこと。

おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。

学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	授業の導入とデジタル	デジタルとは何か 情報の符号化 デジタルの利点と欠点
2 回	情報の伝達	インターネットにおける情報の伝達 データの圧縮。誤りの検出と訂正
3 回	情報通信	有線通信と無線通信 人工衛星を使った通信
4 回	安全な通信と暗号その 1	安全な通信の要件（機密性と安全性） 暗号の概要 共通鍵暗号と公開鍵暗号
5 回	安全な通信と暗号その 2	安全な通信の要件（認証と否認防止） 電子署名 認証局と公証局

6 回	デジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTML と XML
7 回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8 回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9 回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10 回	デジタルコンテンツ	パッケージメディア ネットワーク型デジタルコンテンツ 電子出版
11 回	電子報道、電子図書館、デジタルアーカイブ	電子報道 電子図書館 デジタルアーカイブ
12 回	3 次元 CG、デジタルマップと GIS	3 次元 GC デジタルマップと GIS
13 回	サイバービジネス	電子商取引 電子マネー・電子商取引のセキュリティ
14 回	ユビキタスコンピューティング、人工知能	ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタス ID 人工知能

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用する Power Point の資料（学習支援システムで配布する）

【参考書】

奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版（2000）、ISBN4-320-02994-1

<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/>

いくつかこの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、期末試験 50 %、レポート 40 %

「評価基準」

平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。

レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り（冬休み明けの最初の授業の日）までに提出すること。

期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

「リンクなどを使って実例をみせてもらえるとうわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。

また、2013 年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】

PowerPoint を使って資料を提示しながら授業を行う。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire broad knowledge of digital information society, and digital information technologies which support the digital information society.

FRI200GA

文化情報学概論

森村 修

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：情報倫理学

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：-

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：-

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問の「入門（introduction）」にあたる科目です。「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問です。そして、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出したり、文化現象を「文化情報」という角度から解釈し直したり、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したりすることを目指します。

2021 年度の本授業では、「エコロジー（＝生態学 ecology）ってなに?」というテーマで、様々な学問にアプローチすることによって、いろいろな角度から「生態学（＝エコロジー）」を考えていきます。ただ注意してもらいたいのは、最近流行の「環境に優しい」とか「自然との共生」を唱う「エコ」という意味での「エコロジー」ではないということです。

この授業の先導役として、天才的な知の巨人グレゴリー・ベイトソン（1904-1980）の思想を検討します。ベイトソンは民族学から精神医学、さらには動物行動学を研究しています。様々な学問を研究しながらも、それらの学問研究の中で、彼が取り組んでいる共通点は、「コミュニケーション」を「環境」との関係性の中で考察するということです。ベイトソンは、最初は「民俗学者」として東南アジアをフィールドワークの現場に選び、その地域の住民がどのようなコミュニケーションを行なっているかということを研究することから学者の道を始めました。その後、精神病院の患者がどのような「環境」に置かれると精神疾患を発症するかという問題を「コミュニケーション」と家族関係という角度から取り組み、患者の置かれた「家庭環境」から分析する「精神医学研究者」になりました。そして、動物のコミュニケーションを「環境」との関係で捉える一風変わった「動物行動学者」として、クジャやイルカの調査研究に加わったりしています。彼の思想遍歴を辿ることで、私たちの「文化情報学」のひとつのあり方が見えてくると思います。

《授業の目的》

そこで本科目では、ベイトソンの『精神の生態学』（1971）（Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, University of Chicago Press; Univ of Chicago PR 版, 2000）にちりばめられた様々なテーマを追求しながら、「人（自分と他人、親と子ども、など）の〈あいだ〉の「コミュニケーション」だけでなく、人と動物、人と人工物などの〈あいだ〉にも「コミュニケーション」を見出し、「コミュニケーションと環境との関わり」を考えていくことを目的とします。

そして「コミュニケーション」をめぐる「他者承認」の問題や、最近若者の間で話題になっている「コミュ障」問題や、実際の精神障害としての「コミュニケーション障害」を検討します。

さらにこの授業では、「精神の生態学」の影響を受けた、現代フランスの思想家フェリックス・ガタリ（1930-1992）の思想にも触れたいと思っています。彼は「精神の生態学」だけでなく、「社会の生態学」・「自然の生態学」を含めて、「三つの生態学（＝エコロジー）」を提唱しています。さらにガタリの真意は、現代における新しい「生態学」として「情報の生態学」があると上野俊哉氏（和光大学教授）が述べています。この「四つの生態学」までを考察することが目標です。

【授業の意義】

本科目の意義は、「文化情報学」の立場から「コミュニケーション」と「環境」との関係というテーマを検討することによって、「異文化コミュニケーション」や「異文化交流・異文化理解」という領域とは異なる仕方での「コミュニケーション」を考察できるようになります。

【到達目標】

・本科目の到達目標は、ベイトソンの「精神の生態学（ecology of mind）」という立場を学ぶことで、人間の文化、さらには動物の「文化」すらも含めて考察できる、より広い超域的思考を身につけることを目指します。
・「精神の生態学」の領域をさらに拡大し、現代フランスの思想家フェリックス・ガタリのいう「三つのエコロジー（精神のエコロジー、社会のエコロジー、自然のエコロジー）や「情報のエコロジー」（上野俊哉）も視野に入れて「コミュニケーション」という問題を考察することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に講義形式で行います。ただ、テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みたいと考えています。また、リアクションペーパーを用いることで、各自の文化観を聞くこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業を受ける上でのガイダンスと注意 点 ・授業概要説明
第 2 回	グレゴリー・ベイトソンとは誰か	・ベイトソン紹介 ・『精神の生態学』概要
第 3 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (1)	・「関係の力学」から文化の総体を見る
第 4 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (2)	・芸術の感動はどんな情報伝達によって得られるのか
第 5 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (3)	・人を統合失調症に引き込むコンテクストを探る ・「ダブルバインド」仮説とは何か？
第 6 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (4)	・イルカ研究に基づく「創造的ダブルバインド」論
第 7 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (5)	・コミュニケーションの発生と進化を考察する ・「コミュ障」とは何か？
第 8 回	ガタリ『三つのエコロジー』(1)	・三つの「エコロジー（生態学）」 (1)「精神のエコロジー」 ・ベイトソンの「精神の生態学」を新たに捉え直す
第 9 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (2)	・三つの「エコロジー（生態学）」 (2)「社会のエコロジー」 ・高度資本主義と社会との関係を問い直す
第 10 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (3)	・三つの「エコロジー（生態学）」 (3) 自然のエコロジー ・自然と社会の関係を問い直す
第 11 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (4)	・四つ目の「エコロジー」としての「情報のエコロジー」(by 上野俊哉)
第 12 回	「エコロジー」から「エコソフィー（生態哲学）」へ ①	・「エコソフィー」とは何か？
第 13 回	「エコロジー」から「エコソフィー（生態哲学）」へ ②	・助け合う動物たちは、どんなコミュニケーションをしているのだろうか？
第 14 回	まとめ	コミュニケーションは、難しいよねーでも、コミュニケーションしたいよね（本当かよ?）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがあるので、頭を柔軟にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・必要に応じて、ベイトソンのテキストのコピーや資料を配布します。

【参考書】

・グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』改訂第2版、新思案社、2000年
・Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, The University of Chicago Press, 2000
・フェリックス・ガタリ『三つのエコロジー』、平凡社ライブラリー、2008年
・上野俊哉『四つのエコロジー』、河出書房新社、2016年

【成績評価の方法と基準】

小テストなどを行うことで授業の理解度を確認し、学期末に試験（レポート）を課して、総合的に判断します。期末試験（30％）・小テストなどの授業内課題（70％）。

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします

※要注意

リアルタイム・オンライン授業の場合は成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

【注意点】

(1)「文化情報学」とは、狭い意味での「情報学（informatics）」や「情報科学（information science）」ではありません。
・「文化情報学」は、文化の「情報学」ではなく、「文化情報」の「学」を意味しています。したがって、「情報科学」のつもりで「情報学」を理解しないように。
(2) 私たちは、他の国の文化や他の国の人たちから学ぶだけでなく、動物や植物、地球環境から多くのものを学ぶ必要があります。こうした視点を確保するためにも「文化情報学」という考えは重要だと思います。

【注意点】

大人数にはならないとは思いますが、コミュニケーションの問題を真剣に考え学びたい人以外は、なるべく参加をご遠慮ください。
議論は大いに推奨しますが、仲間同士のコミュニケーションとしての「私語」は厳禁です。居眠りは、「コミュニケーション拒否」として考えますので、ご退室願います。

発行日：2021/5/1

【Outline and objectives】

This subject is an "introduction" of a new academic term "informatics of culture" advocated by the Faculty of Intercultural communication. In 2021, we will consider the question of "**What is the relationship between communication and its environment?!**" and we will examine the problems of "communication".

FRI200GA

情報産業論

鏡 明彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報産業の現状と展望

～国内外の放送サービスを通して今の情報産業を見つめ、将来を展望する～
 「情報産業」とは、収集、蓄積された情報をもとに、整理、加工、そして思考し、その結果を伝達、流通させ、社会を発展させる産業である。インターネットや関連機器の進展により、情報の伝達、流通を技術的に支える IT 産業が飛躍的に発展し、情報産業が担う領域は益々広がっている。今や技術の進展なしに情報産業の発展はないといえる。しかし、情報を伝える手段が変わっても、情報の本質は不変である。メディアの仕掛けに惑わされることなく、本物の情報を見分ける能力の獲得＝デジタルリテラシーの醸成が重要である。本授業では、国内外の放送コンテンツの提供サービスを題材にしながら、伝送路（放送、通信）をキーワードに、情報産業を俯瞰し、各種メディアサービスの現状を把握し、その将来を展望する。インターネット環境を基盤にした、スマート端末に代表される、よりパーソナルな通信メディアの進展と物との繋がりが広がる IoT や AI と共に、従来型のマスメディアである放送、新聞、雑誌の「ありよう」がどうなるのか？ それらのメディアの進展を展望するのにも本授業のテーマとする。

【到達目標】

- ・グローバル視点でのメディア動向把握とその中の個の重要性理解
- ・アナログからデジタルに移行した TV メディアの変遷の理解
- ・インターネットの進展に伴う IT 産業の理解
- ・放送と通信が連携しているメディアサービスの理解
- ・放送メディアが目指しているサービスの理解
- ・AI や IoT をはじめとする様々な新情報サービスの理解
- ・今の時代に求められるメディアリテラシーについての理解
- ・各種マスメディアの今後の展望についての理解
- ・国内外のメディア動向の理解
- ・国が進める施策の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
 コロナ禍の影響を受けている為、授業についてはリモート授業を基本としつつ、状況によっては、対面授業の実施も検討します。授業方法としては学習支援システムの掲示板や課題の項目を、毎週皆さんに実施内容をお伝えして進めていきます。必ず、学習支援システムの掲示板や課題の確認をお願いします。対面での授業を実施する際は、以下に掲載している方法で進めることになります。

基本的に、コロナ禍対策（消毒およびソーシャルディスタンスの確保等）を講じた上で、プロジェクターを使用して PC でのスライドや動画を活用します。題材は、国内外の最新情報を元に、適宜、インターネットの外部サイトに接続して具体的な事例を紹介。現在、自身の仕事でデジタル TV 事業のサービス開発を行っている観点から、出来るだけ現実的な題材を取り上げて、皆さんの意見を聞きながら授業を進めます。毎回、授業後に感想や質問をメモで提出してもらい、それについて次回の授業冒頭で答えていく形を基本とします。また、例年 5 月末に開催されている NHK 放送技術研究所（世田谷区砧）の一般公開が実施された場合、持ち出し授業としてそこに参加します。参加方法については、その時のコロナ禍の状況によって検討します。さらに、8K 技術などの放送外利用として、NTT が進める IOWN 構想などを題材に、将来の通信サービス環境やその世界観を取り上げます。合わせて、NHK が進めるスーパーハイビジョン（8K）やダイバースビジョン、インテグラル立体等の最新映像技術やサービスも紹介します。東京オリンピックに関連するメディアサービスも紹介予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	メディアの変遷	自己紹介及び今後の授業内容の説明と放送の歴史を通してメディアの変遷やトレンドについて触れる

第 2 回	放送と通信のサービスについて	放送、通信のサービスや連携について、その考え方や現代に至る変化の説明を行う。その中で、放送法についても触れる
第 3 回	放送局のコンテンツビジネス（オリンピック実施が決まれば、NHK が取り組むサービスを紹介）	NHK が進めるオンデマンドサービスや Web サービス、データ放送、ハイブリッドキャスト、同時再送信を通して、放送局の考えるコンテンツビジネスを俯瞰する
第 4 回	海外のコンシューマ向けサービスのトレンド	CES（家電の国際見本市）の展示内容等からピックアップして、海外のコンシューマ向けサービスのトレンドを紹介
第 5 回	海外の放送業界のトレンド	SXSW や NAB（全米放送機器展）の展示内容等からピックアップして、業界に関する最新情報を紹介
第 6 回	NTT が 2030 年をターゲットに進める IOWN 構想について	NTT が 2019 年 6 月に公表し、2030 年の実現をめざしている IOWN 構想について紹介
第 7 回	情報化社会の今後	IOWN 構想が実現することで情報化社会の世界がどのようになるのか今後を考える
第 8 回	放送メディアの今後（技研公開があった場合は持ち出し授業とする）	メディアサービスの状況を分析し、放送メディアの今後を考える
第 9 回	多様なネットサービスについて	ネットサービスやビッグデータなどの情報活用や、ドローン、Uber など個人に直接繋がるサービスの可能性について 5G も含め考える
第 10 回	ソーシャルメディアについて	Youtube、Twitter、facebook などに代表されるソーシャルメディアによる放送メディアへのインパクトを検証
第 11 回	多様化する端末の UI、AI、IoT について	スマート化する端末やそれに搭載される UI（ユーザインターフェース）や AI、さらに物等への搭載が進む IoT の活用について考える
第 12 回	情報化の光と影	一方的に送られてくる情報と検索して得られる情報、ユーザとして、その選択をどうするのか？ について考える
第 13 回	国の動き	総務省、経済産業省、文科省等の国の取り組み状況を紹介
第 14 回	前期授業のまとめとレポート課題の説明	半期を通して行った講義のまとめ、レポート用課題説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビ、ネット情報などに常に興味を持ち、直接触れることと合わせ、現状メディアのサービス展開について、日常的に理解を深めておく事。授業内で答えた質問や配布する資料について復習を通して理解を深めておく事。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（講義単位で資料を準備し、それを活用する）、合わせて、今回は NHK 等の番組を多く授業で視聴利用する。

【参考書】

テレビ番組、新聞、雑誌、書籍、インターネット上に流れている情報。授業の中で適宜、アクセス先を紹介。日常的に流れているテレビやインターネットのニュースをよく見ること。その上で自分の考えをまとめておくこと。

【成績評価の方法と基準】

コロナ禍の関係で、対面での授業が中々実施出来ない状況下においては、学習支援システムで提示する課題とリモート授業に基づいて感想文やレポートを提出してもらい、その内容によって評価するものとする。基本、感想文やレポート提出はマストとし、その上で内容を判断して評価を行う。また、対面授業が実施できるようになった場合でも、これまでと同じように以下の内容で評価する。

平常点 6 割、レポート 4 割で評価。レポート提出は必須。レポート提出は技研公開があった場合は 6 月上旬に 1 回と 7 月最後の授業で出題するテーマに関するレポート 1 回の計 2 回とする。レポート内容については、授業を通して得られた知識や情報をどのように理解して自分の考えにまとめているかと共に、なぜ、そのような結果となったかが分かりやすく伝わるように整理されて記載されているかを見て評価。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、講義の最後に、メモで授業の感想と質問を提出。感想や質問については、次の授業冒頭に取り上げ、質問内容に答えて理解の促進を図る。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

プロジェクターとインターネットを利用しながら、出来るだけ分かり易くビジュアル化した授業を行う予定。

【Outline and objectives】

In this lesson, we will look at the information industry based on the transmission path (broadcasting, communication), using the services of broadcasting contents both in Japan and abroad, and grasp the current state of various media services. And we will look into the future. Based on the Internet environment, what kind of impact will the development of personal communication media represented by smart terminals, IoT and AI have on broadcasting, newspapers, and magazines of the conventional mass media? I also think about the progress of those media.

FRI200GA

ネット文化論

神戸 雅一

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回講義のミニレポート提出者から抽選で履修者を決定します。抽選の結果は秋学期の履修登録期間までに学習支援システムのお知らせで通知します。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットがスマートフォン等のデバイスとともに発展し、我々の生活スタイルは大きく変化しています。このような社会を「ネット社会」と呼びます。ネット社会の特性とその本質を理解することは、現代社会の動向に対して主体的に活動するために重要です。

本講義では通信ネットワークやコンピュータスマートフォンを基盤とするインターネットの仕組みや歴史、その特性について扱います。また、ネット社会における、価値観、経済活動、合意形成、それを支える情報システムの重要性、知的財産権、プライバシー、倫理、技術について講義します。こうした内容を理解し、ネット社会を構築する文化についての多面的な思考を深めていきたいと思います。

本講義が対象とする領域は、極めて変化が激しいものです。社会的・技術的な課題も日々発生します。こうした課題に対する正解は必ずしも存在するわけではありません。したがって本講義は単なる知識の獲得のみを目的としません。社会で生じている事象の本質を捉え、自らの視点で解釈し、日常活動に対する思慮を深めることを主な目的とします。

【到達目標】

日々変化をするネット社会のなかで合理的な行動を行うために、自らにとって重要な情報の選択基準を持続的に構築する考え方の習得を目標とします。また、講義で扱われるネット社会の事例に対し、受講者自らの意見を論理的に説明することや課題を設定し解決案を検討することも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、リアルタイムオンライン講義で実施します。ネット文化に関する話題をプレゼンテーション形式で紹介します。プレゼンテーション形式での実施ですが、講義で紹介した話題に対し、受講者が問題意識を持って主体的に考えることを期待します。受講者からの質問については、随時受け付けます。また各回の講義の最後にも時間を設けますので疑問点や詳細に知りたい事項があれば、積極的に質問してください。

毎回の講義の開始時に、講義の内容に関連するミニレポートの題目を提示しますので、講義終了後に提出してください。講義の初めに、前回のミニレポートの内容を取りまとめ、受講者の方にフィードバックします。

期末に、ネット文化に関し、自らの意見を論じるレポートの提出を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ネットワークと文化の概要	ネットワークの基礎、ネットワーク構造と組織構造等の社会事象や文化の関係について講義します。
2	インターネットとパーソナルコンピュータの歴史	現代の情報化社会を支えるインターネット技術と応用の歴史とパーソナルコンピュータの歴史について講義します。
3	無線通信とコンピュータの歴史	情報化社会の新たな発展の契機となった携帯電話を中心とした無線通信とその応用事例について講義します。
4	ネットワークによる社会的価値の変化	携帯電話の普及によるネットワークの拡大のメカニズムとそれに伴う社会的価値の変化について講義します。
5	ネットワークと経済活動	インターネットの普及による経済活動の変化について、EC などのビジネスの事例を中心に講義します。
6	ネットワーク時代の情報サービス	ネットワーク化し高度化する情報サービスの概念とその効果や課題について多面的な事例を扱い講義します。
7	ネットワークとグローバル化	ネットワークの普及がもたらすグローバル化という変化について講義します。
8	ネットワークによるグローバル化の影響	グローバル化した社会およびグローバル化後の社会における人工知能等の技術の進展の影響について講義します。

9	ネットワークによる合意形成	ネットワークによる合意形成とイノベーションについて、政策決定や、企業内の合意形成の事例を交え講義します。
10	ネットワーク時代の知的財産権	特許、実用新案等の産業財産権ならびに著作権の概要とネットワークとの関係について日常生活における事例を交え講義します。
11	ネットワークとプライバシー	プライバシー保護の制度や運用事例を紹介し、ネットワークの普及に伴い新たに生じるプライバシー問題、対策について講義します。
12	ネットワークと情報倫理	ネット社会の情報倫理の概念と、制度、技術、運用による社会秩序について、身近な事例を提示し講義します。
13	ネットワーク社会を支える新技術	ネットワーク社会を支える新技術について、先進事例や企業、大学等で研究されている技術について講義します。
14	ネットワーク時代の情報システムの価値	ネットワーク化した情報システムが、どのように価値を付加し人々の生活を変えるのかについて講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回講義の際に本講義が対象とする領域および各回の講義テーマを紹介いたします。各回の講義テーマに関連する事象に日常的に関心を持ち、準備・復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。ネット文化に関係するニュースや Web サイト等を日頃から関心を持って読み聞き、そして考え、各回の講義終了時に提出するミニレポート、期末の課題に反映させてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。各回の講義に対して資料を配布します。

【参考書】

講義で紹介した内容についてさらに理解を深めたいという受講者のために各回の講義ごとに参考図書を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験の受験あるいはレポートの提出のいずれかを単位取得の条件とします。成績の評価基準は下記の比率に基づいて行います。

1. 期末試験または期末レポート：70%
講義を通じてネット文化論に関するテーマについて、自らの意見を論理的に記述してください。試験、レポートのどちらの方法にするかは、講義中にお知らせします。
2. 平常点：15%
講義への関心、参加度を評価し平常点とします。
3. ミニレポート 15%
毎回の講義内容を理解し、講義内容に即した設問に対して、自分の意見をミニレポートに記述し提出してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義後に提出いただくミニレポートの内容を、次の講義の冒頭に受講者の方にフィードバックします。これにより講師と受講者のインタラクションを図るようにしています。これ以外にも講義時に質問など議論したいことがあれば可能な限り応じます。積極的にチャット等を利用して声をかけてください。

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイムオンライン講義で実施するため、Zoom 等で講義を視聴できる受講環境をご用意ください。

【その他の重要事項】

本講義はリアルタイムオンラインで実施します。リアルタイムオンライン講義の内容の録画、公開はしません。リアルタイムで受講環境が確保できない場合は、各回の講義で使用するプレゼンテーション資料の大半を PDF で配布しますので、それをもとに講義の内容を学習してください。また、リアルタイムで講義を受講できない場合であっても、各回のミニレポートの期限内（講義日の当日）の提出をもって受講の履歴として確認することとします。

【Outline and objectives】

This course introduces a way of thinking to make appropriate decisions dealing with ever changing world. The goal of this course is to explain effects, problems and solutions for these problems of “information network society.”

Evolution of internet with computers, smart phones and other information technologies makes change our life style rapidly. We live in “information network society” supported by lots of internet technologies. You need to think essences of “information network society” continually and act independently for trends of modern world. This course deals with history of computers, internet, smart phones and these applications. It also distributes economy, decision making, intellectual properties, and privacy to estimate how to make smart decisions in everyday life. Internet technologies are changing our life style. Domains of this course are changing constantly. Internet technologies cause not only merits but also demerits for our lives. This course objects are to analyze and discuss about many social issues in our world.

ART200GA

表象文化概論

竹内 晶子、林 志津江、深谷 公宣、島田 雅彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「表象文化」とは人間が様々なメディアや方法によって創造する行為、またその行為を通じて生み出されたものを示します。各講義では、文学、美術、演劇、音楽、映像芸術、漫画などの領域を扱いますが、特定の分野にとらわれず芸術や文化、社会について横断的に検証していきます。それらの表現手法、歴史的変遷などを辿りながら、内包している意味、欲望、人々に与える影響などを解き明かしてゆくことを目指すのが「表象文化概論」です。

4 人の教員による 4 分野の表象を扱いつつ、表象文化論の基本について学ことを目的とします。

【到達目標】

この講義は、入門科目「国際文化情報学入門・表象文化コース」からつながる学びのプロセスとなります。この講義を通じて表象文化に関する多様な考え方を理解し、各専門科目でさらに踏み込んだ研究を継続することが望ましいと考えます。各講義を通じて各自の関心のある領域で今後の専門研究が進められるように導きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

初回は zoom で行い、担当教員が各自の講義について詳しく解説します。

第二回～第十三回までは、各担当教員が3回ずつオンライン上（オンデマンド方式）で講義を行います。課題は各教員から出され、フィードバックも各教員から行います。第十四回は対面で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 担当：全員	「表象文化概論」の 4 名の担当者全員がそれぞれの授業計画の概略と履修上の諸注意について説明します。
第 2 回	舞台表現論 (1) 声 担当：竹内晶子	声が舞台上で持つ力について考察する。
第 3 回	舞台表現論 (2) 声と日本演劇 担当：竹内晶子	日本演劇の特徴を、西洋演劇との比較を通じて考察する。
第 4 回	舞台表現論 (3) 所作 担当：竹内晶子	舞台上の所作と現実の所作は何か違うのか。記号学的に考察する。
第 5 回	欲望の音楽 (1)：私が主人公 担当：林志津江	「第九」という革命、「合唱」と「フィルハーモニー」と「グランドオペラ」
第 6 回	欲望の音楽 (2)：国民的音楽 担当：林志津江	音楽学校と録音術の発明、「クラシック音楽」と「ポピュラー音楽」の誕生
第 7 回	欲望の音楽 (3)：本当らしさ 担当：林志津江	人種と階級、ステレオタイプと「アイデンティティ」の在処
第 8 回	形式論：型通り、型破り 担当：島田雅彦	音楽、文学、哲学における形式について 起承転結、ソナタ形式と弁証法
第 9 回	空間論：仮想空間へ 担当：島田雅彦	想像上の空間についての考察 あの世 パラレルワールド ニッチ論
第 10 回	時間論：時間は存在しない 担当：島田雅彦	1日はいつから始まるか？ 時間軸について 因果律 多元宇宙論
第 11 回	身体とその臨界 (1) 担当：深谷公宣	フリーク・ショウにおける身体イメージの系譜をたどる。
第 12 回	身体とその臨界 (2) 担当：深谷公宣	文芸作品に見られる幽霊、妖精、動物、変身、仮面について概説する。
第 13 回	身体とその臨界 (3) 担当：深谷公宣	天使の「身体」について考える。／ケーススタディ：映画『ミスター・ロンリー』分析
第 14 回	表象文化概論発展編 担当：全員	四人の講師が、それぞれの研究分野について紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各担当教員が指示します。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業全体を通して用いるテキストはありません。

各担当教員が初回の講義時に指示します。

【参考書】

参考書については各担当教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

各担当者が担当回の成績を 25 点満点で示し、合計で 100 点満点で成績をつける。

平常点、課題、試験の割合や評価方法については、各教員が授業開始前までに伝える。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

担当者交代のため、該当しません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

初回のガイダンスにかならず出席してください。

【Outline and objectives】

This is an introductory course on the studies of culture and representation, structured around four major units taught by four different instructors: theater, photography, art, and music. It thus aims at fostering students' awareness of the wide range of the field, as well as introducing some of the basic concepts and approaches in the discipline.

DES200GA

メディアと情報

君塚 洋一

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるコミュニケーションを成り立たせるメディアと情報の特性とはたらきをさまざまな分野の考察を通して理解し、生活者として、また社会や市場への幅広い発信に携わる職業人として、メディアに対する姿勢とその活用の基礎を習得する。

【到達目標】

以下 3 点を目標とする。

- 1) 身の回りで起こるメディアを介したコミュニケーションのメカニズム、メディアのはたらきを自覚する。
- 2) 環境の監視、事業や制度の運営、文化の共有など、社会においてさまざまな目的のために行われるメディア・コミュニケーションの必要性和問題性の両面を学習する。
- 3) メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行えるようにする。あわせて、あらゆる社会的活動に不可欠となる他者からの理解と支持を得るための情報発信（PR＝パブリック・リレーションズ）の視点を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

21 年度、この科目は、原則としてオンライン授業で開講され、講義動画の配信（オンデマンド）によりすすめる。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー（小課題）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で

す。

メディア史やメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、SNS などの具体的な題材を通して、情報テクノロジーと社会・文化のあり方、生活者のメディア利用行動やリアリティ意識の変容、市場情報システム、IT 化の進むメディア産業の帰趨など、情報化社会とメディア・人間をめぐるさまざまな問題を考える。

また、著作権をはじめとした知的財産権の取扱いや、個人情報やプライバシーの保護、インターネット等メディアの活用において求められるモラルなど、情報倫理の問題についてもあわせて考えていく。

テーマに関連した資料映像を適宜鑑賞しながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義のテーマと履修上の注意
第 2 回	メディアとは何か-1	メディアとは何か？ 何がメディアになるのか？
第 3 回	メディアとは何か-2	何がメディアになるのか？ メディアの類型（タイプ）
第 4 回	コミュニケーションとは何か-1	「コミュニケーション」のさまざまなモデル、その成否を決める要因（1）
第 5 回	コミュニケーションとは何か-2	「コミュニケーション」のさまざまなモデル、その成否を決める要因（2）
第 6 回	情報（ニュース）-1	情報とは何か？ どんな要件を満たせばニュースになるのか？
第 7 回	情報（ニュース）-2	社会におけるニュースの役割・機能
第 8 回	ふりかえりレポート-1	マス・メディアの報道におけるニュースの要件
第 9 回	パブリック・メディア-1	プロパガンダ（宣伝）と広報（PR）
第 10 回	パブリック・メディア-2	近年の推奨コミュニケーションの問題
第 11 回	ソーシャル・メディア-1	環境の監視とジャーナリズム
第 12 回	ソーシャル・メディア-2	ソーシャル・メディアとは何か？ その普及と社会
第 13 回	メディア・リテラシー-1	ソーシャル・メディアの光と影
第 14 回	メディア・リテラシー-2	（1）ネット炎上の実態 （2）SNS での自己演出・アイデンティティ創出
第 15 回	メディア・リテラシー-3	共感をシェアするコミュニケーションとは？

第 13 回	メディア・リテラシー-2	社会をより適切に理解するコミュニケーションとは？ ・ポスト真実／フェイクニュースの拡散と影響など
第 14 回	まとめ ふりかえりレポート-2	社会の動きを適切にとらえ、コミュニケーションを行うためにメディアをどう使いこなすか？ ・情報源の識別／ファクトチェック／メディアと感情 ／メディアのはたらきをどう考えるか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 0) 復習として、動画講義のスライドと見比べつつ、配布資料をよく読んでおくこと。
- 1) テレビやインターネット、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について考える習慣を身につける。
- 2) あるメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手（媒体社、広告会社等）の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がける。
- 3) 前半の 1 回では、自分が注目したマス・メディアのニュース、まわりの人と話題にしたニュースをピックアップして提出し、授業の題材とする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用しない。

【参考書】

- ・石田英敬『大人のためのメディア論講義』ちくま新書、筑摩書房、2016 年
- ・ダニエル・ブーニユー『コミュニケーション学講義——メディアロジーから情報社会へ』書籍工房早山、2010 年
- ・鈴木みどり編『Study Guide メディア・リテラシー 入門編』リベラ出版、2000 年
- ・竹内郁郎・児島和人・橋元良明編著『新版メディア・コミュニケーション論 1』北樹出版、2005 年
- ・笠原和俊『フェイクニュースを科学する——拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ』化学同人、2018 年
- ・カリン・ウォール＝ヨルゲンセン『メディアと感情の政治学』勁草書房、2020 年
- ・立岩陽一郎、揚井人文『ファクトチェックとは何か』岩波ブックレット No.982、岩波書店、2018 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出（約 40 %）、ふりかえりレポート（2 回程度：約 60 %）を課す。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。ただし、7 ～ 8 割以上の小課題の提出、すべてのふりかえりレポートの提出を単位要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

メディアと情報について理論と実際の双方を扱うため、とりわけ前者はこの分野の基礎を習得した人でないとやや理解しにくいところがあるかと思う。より平易に伝える努力をする。

毎回、テーマに関わる映像資料、配布資料を用意しており、これらは理解の助けになっているようである。

また、メディア業界における実務について映像を中心に具体的に理解する回を設けているが、業界に関心がある人には好評のようである。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

メディアやさまざまな作品表現に興味を持つ学生の受講を希望する。メディア論についての基礎的知識を持っていることを前提とした中級者向けの講義を行う。

【受講上の留意点】

本科目は、講義動画、授業内課題、ふりかえりレポートの 3 つで成り立つ。テーマについて高い関心をもち、積極的なレスポンスと活動を行う意欲のある受講者を求める。

【Outline and objectives】

Students are advised to understand the characteristics and functions of media and information that make communication in modern society through consideration of various fields. And also they should learn the attitude towards media and the basis of their use as consumers, as future professionals engaged in broad dissemination to society and markets.

ART200GA

社会と美術

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、みなさんが接する機会の少ない新しい表現の世界についての見方や考え方に関するきっかけとなる様な入門的な内容の講義となります。特に、21 世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。また、演劇などのパフォーマンス・アーツ、音楽、建築などの表象の世界に関する様々な事例を参照し、社会と芸術との接点やその関係性について学びます。「芸術史と理論」（前半）、「社会と美術」（後半）の 2 つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

1. 芸術史と理論

社会と芸術について学ぶ上での基礎となる 18 世紀から 21 世紀の近現代の芸術の歴史と理論について学びます。

2. 社会と美術

社会や時代を映す鏡としてのメディアと芸術表現との関係について、具体例を交えながら学びます。

【到達目標】

講義では、過去から現在に至る美術史と現代社会と美術に関する身近な事例を紹介していきます。それらの事例より、

1. 美術史の営みを理解すること
2. 身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすこと

がこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

導入（10 分）

毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝ええるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

講義（40 分）

その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

レクチャー・パフォーマンス（30 分）

その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。

授業内レポート（20 分）

毎回の授業の最後に、講義やレクチャーパフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くこととなります。

授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）

・Zoom（ミーティング）

・Google Classroom、Google Form（授業内容の告知、授業全般に関するフィードバック、課題提出、）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/7	ガイダンス 社会と美術について	講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
4/14	芸術史と理論 1 近代美術の誕生（写実主義、印象派）	市民革命、産業革命とアート レクチャー・パフォーマンス 印象派のはじまり
4/21	芸術史と理論 2 アバンギャルドの時代Ⅰ（フォービズム、表現主義、キュビズム）	第一次世界大戦前のアート レクチャー・パフォーマンス ピカソとブラック
4/28	芸術史と理論 3 アバンギャルドの時代Ⅱ（未来派、ダダイズム、シュルレアリスム）	第一次世界大戦とアート レクチャー・パフォーマンス マルセル・デュシャン
5/12	芸術史と理論 4 アバンギャルドの時代Ⅱ（戦後美術）	戦後のアメリカ美術 抽象表現主義、ポップアート、ミニマルアート、コンセプチュアルアート

5/19 芸術史と理論 5
多文化の時代

5/26 芸術史と理論 6
コミュニケーションの時代

6/2 社会と美術 1
美術と教育

6/9 社会と美術 2
美術と批評

6/16 社会と美術 3
文化政策

6/23 社会と美術 4
政治とアート

6/30 社会と美術 5
ジェンダーとアート

7/7 社会と美術 6
環境とアート

7/14 ワークショップ

多文化主義とアート
YBA とリレーショナル・アート
ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist とリレーショナルアート）についての理解を深める。
レクチャー・パフォーマンス
多文化主義とアート
参加型アート
ソーシャリー・エンゲージド・アート
レクチャー・パフォーマンス
ヨーゼフ・ボイス
バウハウスとブラックマウンテンカレッジ
ABR（教育と美術）
アートベースリサーチ
レクチャー・パフォーマンス
ブラックマウンテンカレッジの芸術教育
美術批評の起源
戦後の美術批評
美術批評の現在
レクチャー・パフォーマンス
批評家について
文化と法律
文化を支える仕事
レクチャー・パフォーマンス
ミュージオロジー
第二次世界大戦中の文化政策
プロパガンダ
社会主義と美術
レクチャー・パフォーマンス
社会主義美術
ジェンダー、トランスジェンダーの課題
レクチャー・パフォーマンス
マリナ・アブラモビッチ
環境問題とアート
ランドアート
エコロジー
レクチャー・パフォーマンス
アンディ・ゴールズワージー
フィードバックとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウィルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますが、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019
『現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで 世界と日本の現代美術用語集』美術出版社、2009 年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014 年
高階秀爾『カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002 年
辻惟雄『カラー版 日本美術史』美術出版社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

美術を学ぶためには、体験的かつ分析的な物の見方が必要でしょう。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）
2021 年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。
授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。
1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30 分程度のものを 2、3 本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

オンラインミーティング・講評会

リクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【Outline and objectives】

"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.

1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.

2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.

ART200GA

メディアと社会

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：席数を超えた場合選抜

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは現在様々なメディアに接する環境にあり、それらを通じて個人や社会とつながることを可能にしています。一方でメディアの利用によって引き起こされる様々な問題もあり、多様化した現代のメディアについてよりいっそう理解を深める必要があります。

国際文化学部基幹科目「メディアと社会」では、メディアが社会のなかでどのような役割を担っているのか、将来メディアはどのようなものになるべきなのか、映像資料などの具体例を交えて読み解いていきます。

「現代メディア史」「メディアと社会」「メディアと表象」の3つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

・メディアの歴史

古代から現代までのメディアの変遷と歴史について学びます。

・メディアと社会

社会の中で機能するメディアやその問題点について明らかにしていきます。

・メディアと表象

メディアという観点から様々な表現を読み解いていきます。

【到達目標】

授業では、過去から現在に至るメディアと社会に関する身近な事例を紹介していきます。身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

導入（10分）

毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

講義（40分）

その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

レクチャー・パフォーマンス（30分）

その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。

授業内レポート（20分）

毎回の授業の最後に、講義やレクチャーパフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くことになります。

授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）

・Zoom（ミーティング）

・Google Classroom、Google Form（授業内容の告知、授業全般に関するフィードバック、課題提出、）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
9/23	オリエンテーション	講義内容 教科書・参考書 評価基準など
9/30	メディアの歴史 1 絵画から文字へ	文字の誕生とその発達史について
10/7	メディアの歴史 2 文字の進化	活字（印刷）の発明と近代文化に与えた影響について
10/14	ワークショップ 1	ワークショップ・絵画と文字
10/21	メディアの歴史 3 印刷の誕生	印刷技術のもたらす社会の変化 レクチャーパフォーマンス 「Helvetica」
10/28	メディアの歴史 4 マスメディア（新聞、雑誌、ラジオ、テレビ）	マスメディアについて レクチャーパフォーマンス 「テレビの世界」
11/11	ワークショップ 2	ワークショップ・マスメディアについて

11/18	メディアの課題 1 マクルーハンのメディア論	マクルーハンの理論 レクチャーパフォーマンス 「メディアはメッセージ」
11/25	メディアの課題 2 インターネット	地域社会を取り巻くメディアの役割と課題
12/2	ワークショップ 3	モダンアートと新しいメディア
12/9	メディアと社会 1 企業とメディア	建築とメディア、デザインとメディアについて
12/16	メディアと社会 2 戦争とメディア	インスタレーション、パフォーマンス、リレーショナル・アートなどについて
12/23	メディアと社会 3 メディアとアミューズメント	料理をめぐるメディア論 日本におけるクリスマスについて
1/13	メディアと社会のまとめ ワークショップ 4	メディアと社会をめぐるディスカッション ワークショップ・メディア批評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますが、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

マーシャル マクルーハン『メディア論—人間の拡張の諸相』みすず書房、1987 年
吉見俊哉『メディア文化論—メディアを学ぶ人のための 15 話』有斐閣、2004 年
ジョン・A. ウォーカー、サラ チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門—美術史を超えるための方法論』晃洋書房、2001 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

メディアに関する複雑な問題点について、わかりやすく教えていきたいと思っています。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021 年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30 分程度のものを 2、3 本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

オンラインミーティング・講評会

リクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【Outline and objectives】

We can connect with individuals and society through media. On the other hand, there are various problems caused in the course of these connections, so we need to deepen our understanding of diversified media.

This course will explore what role media has in society, how future media should be, and concrete examples such as video materials.

ART200GA

身体表象論

深谷 公宣

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員 60 名。それを超えたら選抜

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

視覚芸術・文化に表現された身体を手がかりに、身体を見る／見せるとはどのようなことかについて学ぶ。身体と社会の境界が歴史的・文化的に規定されていることを確認し、人間の身体を社会的にどのように位置付ければよいのか、受講生が自分なりの考えを構築できるようにする。

【到達目標】

- ・芸術、文化における身体運動の表象形式を理解することができる。
- ・身体表象の特徴を、歴史的、社会的に位置付けることができる。
- ・作品に表現された身体に関する自分なりの見方を構築し、作品を批評・分析・記述することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は授業の最後、または授業後に、リアクション・ペーパーを執筆して提出する。
- ・リアクション・ペーパーに対しては、必要に応じてコメントを付し、毎回、提出者全員に返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 絵画における身体（1）	授業で考察する問題点の紹介。基本となる概念や用語の説明。参考文献の紹介。遠近法、聖母子像について考える。ジョット、ラファエロなど。
2	絵画における身体（2）	ヴィーナスの表象について考える：ボッティチェリ、ティツィアーノ、ジョルジョーネ、マネなど。
3	彫刻における身体（1）	ルネサンス期から近代までの彫刻の身体表現について考える。ミケランジェロ、ベルニーニなど。
4	彫刻における身体（2）	日本における仏像の歴史と特徴的な姿勢について紹介する。
5	演劇における身体（1）	俳優という存在のあり方について考える。スタニスラフスキー・システム、鈴木メソッドなど。
6	演劇における身体（2）	パフォーマンスにおける身体と性のあり方について考える。シェイクスピア、宝塚、ダムタイプなど。
7	写真における身体（1）	肖像写真における顔、表情と「自己」について考える。アウグスト・ザンダー、ダイアン・アーバス、シンディ・シャーマンなど。
8	写真における身体（2）	写真における身体の位置と構図との関係について考える。アンリ＝カルティエ・ブレッソン、ロバート・フランクなど。
9	映像における身体（1）	映像における身体運動を理解するため、基本的な撮影技法と照明技法を紹介する。
10	映像における身体（2）	日本人の身体を映像に写すということについて具体例を用いながら考える。小津安二郎、溝口健二など。
11	服飾と身体（1）	西洋近世以降の服飾の歴史の変遷を振り返る。
12	服飾と身体（2）	日本の服飾の歴史の変遷を振り返る。
13	漫画と身体	日本の漫画の身体表象の特徴の事例を考察する。手塚治虫、萩尾望都、大友克洋など。
14	まとめ：モードと身体	「モード」について考察することにより、授業全体を振り返る。ボードレール「現代生活の画家」など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記【参考書】に記載の資料を出来るだけ読むように努める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

小林康夫『表象文化論講義 絵画の冒険』（東京大学出版会）
 諸川春樹他『彫刻の解剖学―ドナテッロからカノーヴァへ』（ありな書房）
 清水真澄『仏像の顔』（岩波新書）
 飯沢耕太郎『写真美術館へようこそ』（講談社現代新書）
 西村清和『視線の物語 写真の哲学』（講談社メチエ）
 森村泰昌『美術の解剖学講義』（ちくま学芸文庫）
 ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』（晃洋書房）
 蓮實重彦『監督 小津安二郎 [増補決定版]』（ちくま学芸文庫）
 ジル・ドゥルーズ『シネマ』（1・2）（法政大学出版局）
 矢田部英正『たたずまいの美学』（中公文庫）
 スーザン・ソントグ『反解釈』（ちくま学芸文庫）
 四方田犬彦『漫画原論』（ちくま学芸文庫）
 鷲田清一『モードの迷宮』（ちくま学芸文庫）
 ジョン・バージャー『イメージ』（PARCO 出版）
 ダムタイプ『メモランダム 古橋悌二』（リトルモア）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%: 当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
 学期末レポート 50 % : 身体表象に関するトピックについて分析的に考察し、考察の結果を丁寧に記述することができているかを評価。
 この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Through examining a form of body representation in visual art and culture, this course aims to introduce students to the way of viewing or showing the human body. With the idea of a historically or culturally defined boundary between the body and society, students will develop their own way of viewing human body from a social perspective.

LIT200GA

比較文化

竹内 晶子

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
オリエンリズム、ジェンダー論、構造主義、文化人類学などの「理論」の基礎を学ぶとともに、それらの理論を映画、オペラ、日本人論、和歌、俳句、連歌、英詩、ハイパーテキスト文学作品、能、モダニズム演劇、など実際の作品の比較分析に応用していきます。

【到達目標】
比較文化にあたって、単なる相違の指摘に留まらず、より深い社会的・文化的な背景の考察へと思考を深めていくときに役にたつのが、様々な「理論」です。この授業では、文化について考えるにあたって我々を助けてくれるいくつかの理論をとりあげ、具体的な作品分析への応用を通じてその理解を深めます。授業での学びを通じて、学生は、ジャンル・時代・言語等を異にする文化の作品間の比較文化的な分析ができるようになるとともに、オリエンリズム、ジェンダー論、構造主義、文化人類学などの理論を理解し、作品分析に応用できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はオンライン（オンデマンド方式）で行います。ただし、単に漫然と講義（ナレーション付き PPT）を聞くだけの授業ではありません。課題テキストを読み、あるいは前回の授業で鑑賞した作品を分析して、SQ（Study Questions）への答えを次回授業前に提出することが必須です。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、文化と文化の間の差異をより深く考えるための素材と思考ツールが身に着く筈からです。授業内では皆さんが提出した回答をとりあげて、様々な視点をまとめていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	初回説明	授業の概要を説明する。オリエンリズムについて理論的な説明を行う。
2	オペラ『蝶々夫人』台本分析	オペラ『蝶々夫人』の台本にみられる日本人像を分析した後、オペラの映像を抜粋で鑑賞する。
3	オペラ『蝶々夫人』映像分析	先週鑑賞した映像にみられる日本人像を、オリエンリズムの観点から分析する。
4	ルース・ベネディクト『菊と刀』	日本人論の古典といわれる『菊と刀』をとりあげ、その方法論および論の立て方にみられるオリエンリズムを分析する。
5	アニメ『リトル・マーメイド』にみるジェンダー観	アニメ『リトル・マーメイド』の抜粋を鑑賞し、そこにどのようなジェンダー観が見られているか考える。
6	アニメ『リトル・マーメイド』と家父長制	上記作品にみられたジェンダー観がどのように家父長的価値観を反映しているのかを分析し、他の類似した事例をとりあげて議論する。
7	アニメ『アナと雪の女王』にみるジェンダー観	『リトル・マーメイド』と比較しつつ、ディズニーアニメにおける女性像・男性像の変遷を、ジェンダー論を用いながら分析する。
8	言語と構造主義（1）欧米の詩	ヤコブソンの「詩的原理」論を応用しながら、現代のポップカルチャーにまでみられる欧米の「韻律」を考える。
9	言語と構造主義（2）和歌と連歌	ヤコブソンの「詩的原理」を大枠として、欧米の韻律と比較しながら日本の和歌における修辞法を考える。
10	連歌とハイパーテキスト詩	ロマン主義的な作者観と対比しつつ、中世の連歌活動と現代のハイパーテキスト詩を比較考察する。
11	モダニズムと俳句	英米詩の革新運動であったイマジズム運動をとりあげ、俳句からの影響と相違を考察する。

12	能とイェイツ	欧米演劇のモダニズム運動における能の影響を、イェイツの能受容を中心に考察する。
13	文化人類学と「娯楽」（1）理論編	ギアツ、ターナーらの諸理論をとりあげ、文化活動、娯楽活動に関する彼らの定義を比較する。
14	文化人類学と「娯楽」（2）応用編	様々な娯楽活動をとりあげ、上記の諸理論をそれらの分析に応用する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・視聴覚教材や課題として出されたテキストに関する毎週の課題（Study Question）を、学習支援システムで提出する。締め切り厳守。
・四回以上課題を出さなかった場合、単位修得の権利を失います。
・本授業の準備・復習時間は、約4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムを通じて配布する。

【参考書】
エドワード・サイード『オリエンタリズム』（平凡社ライブラリー、1993）
その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
・毎週の課題（Study Question）：100%
・100 点満点で 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業内で、学生の回答例を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
学期中、課題として各自にアニメ映画「リトル・マーメイド」（1989）を視聴してもらいます（オンラインでレンタル可）。レンタル代（媒体によって異なるが、300 円前後）は学生の負担となります。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to familiarize students with several basic social/cultural/literary theories, from orientalism to feminism, structuralism, and theater anthropology, that will serve the theoretical frameworks for their further comparative cultural studies.

PHL200GA

現代思想

森村 修

サブタイトル：マルクス『資本論』をエコロジー的な視点で読み直す

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本授業は「現代思想（contemporary thought）」という科目名がついているが、ただ単に「現代の流行の思想」を学ぶだけが目的ではない。私たちが生きている「同時代（contemporary）」で起こる出来事や物事の、「起源」や「本質」について「哲学的に考えること（philosophical thinking）」が「現代思想」という科目の目的である。

2021 年度は、現代の若手経済思想家の斎藤幸平氏（1987-）の『大洪水の前に——マルクスと惑星の物質代謝』（2019）と最新刊の新書『人新世の「資本論」』（2020）を基本的なテキストとして用いて、21 世紀の現在における資本主義とエコロジーの問題を考察する。

斎藤氏は、31 歳（2020 年現在でも、34 歳!）のときにマルクス研究界最高峰のドイッチャー賞を受賞した新進気鋭の経済思想研究者である。彼は、150 年前に出版されたマルクスの『資本論』の中に、エコロジー的な資本主義批判の思想を見出す。そして彼の指摘で注目するのは、最近、各国政府や大企業が推奨し、巷でも流行（？）している「SDGs（持続可能な発展目標）」について辛口のコメントをしていることである。彼によれば、「SDGs」を達成しても、気候変動を止められないということだ。そこまで私たちが生きる「現実」は危機的であり、「豊かな生活」がいかに環境を破壊していることを直視する時期に来ている。

本授業では、21 世紀の環境破壊が進む現実に、どのようにマルクスのエコロジカルな思想を生かせるかを考えることで、私たちの日常生活に当たり前の資本主義的な経済が自然環境に悪影響を与えているか、結果的に、私たちの生き方も厳しくさせているかを考察する。

【授業の目的】

本授業では、私たちが生きている現在が、どのような思想状況にあるかという問いを検討することを通じて、現代社会における知と社会状況との関係を思想的に分析することを目的とする。2021 年度は、斎藤氏の『資本論』解釈に基づいて、資本主義的な経済発展とエコロジーとの関係を改めて哲学的に問い直すことを目的とする。

【到達目標】

- 「哲学的に考えること（philosophical thinking）」ができるようになる。
- 私たちが生活することが、いかに自然環境を破壊していくことにつながるかを学ぶことができる。
- 本当の「哲学の問い」を探り、その問いに答える努力のなかで、生き方をもう一度捉え直し、自分が何をなすべきかを、ひとり一人考える力を身につけていくことができるようになる。
- マルクスがいかに優れた「哲学者」であり、時代遅れの思想家ではないことを知ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的には講義形式で授業を行う。必要に応じて、学生との議論を行う。また、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション——「SDGs は「アヘン」である」	・授業の概要説明 ・「SDGs は「アヘン」である」
2	第一部 経済学批判とエコロジー 第 1 章 労働の疎外から自然の疎外へ	・マルクス疎外論の再検討 ・「疎外」は哲学的カテゴリーなのか？
3	第一部 経済学批判とエコロジー 第 1 章 労働の疎外から自然の疎外へ②	・人間と自然の本源の統一の解体

4	第一部 経済学批判とエコロジー 第 2 章 物質代謝論の系譜学①	・あらゆる富の素材としての自然 ・物質代謝論の起源をめぐって
5	第一部 経済学批判とエコロジー① 第 2 章 物質代謝論の系譜学②	・人間学的唯物論の限界 ・『要綱』における生理学
6	第二部 『資本論』と物質代謝の亀裂 第 3 章 物質代謝論としての『資本論』①	・歴史を貫く物質代謝としての労働過程 ・価値と物象化
7	第二部 『資本論』と物質代謝の亀裂 第 3 章 物質代謝論としての『資本論』②	・素材とかたちの弁証法 ・資本主義的生産による物質代謝
8	第二部 『資本論』と物質代謝の亀裂 第 4 章 近代農業批判と抜粋ノート①	・『資本論』とリービッヒ ・農芸化学と大地の問題
9	第二部 『資本論』と物質代謝の亀裂 第 4 章 近代農業批判と抜粋ノート②	・環境帝国主義とグローバル環境危機
10	第三部 晩期マルクスの物質代謝論へ 第 5 章 エコロジーノートと物質代謝論の新地平①	・『資本論』とリービッヒ再考
11	第三部 晩期マルクスの物質代謝論へ 第 5 章 エコロジーノートと物質代謝論の新地平②	・気候変動と文明の危機
12	第三部 晩期マルクスの物質代謝論へ 第 6 章 利潤、弾力性、自然①	・資本の有機構成
13	第三部 晩期マルクスの物質代謝論へ 第 6 章 利潤、弾力性、自然②	・自然の弾力性
14	第三部 晩期マルクスの物質代謝論へ 第 7 章 マルクスとエンゲルスの知的関係とエコロジー	・〈マルクスに還れ!〉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業前に、基本的なテキストを必ず読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- 斎藤幸平『大洪水の前に——マルクスと惑星の物質代謝』、堀之内出版、2019 年
- 斎藤幸平『人新世の「資本論」』、集英社新書、2020 年

【参考書】

- 斎藤幸平『カール・マルクス 資本論』NHK100 分 de 名著、NHK 出版、2021 年
 - カール・マルクス『資本論』、岩波書店・他
- ※ それ以外の参考書については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- 期末レポート（30 %）
 - 平常点（70 %）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
- ※ 成績評価の方法と基準については、あくまで対面式授業の場合であり、リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法ならびに基準が変更されるので注意が必要。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

※ リアルタイム・オンライン授業に際しては、インターネット環境が整っていること、そのための機材が用意されていることが必須である。

【その他の重要事項】

- 本科目は、「基幹科目」として、表象文化コースに配置されているが、コースの分類に関わらず興味のある学生に積極的に参加してもらいたい。
- テキストが比較的高価であったり、テキストが英語を含む外国語を用いる場合、授業に参加する学生が激減する傾向にある。何が自分にとって必要かつ重要であるか、根本的に問い直してもらいたい。
- テキストの選定や興味については学生の要望に応えることもありうるので、第 1 回目の授業には必ず参加すること。

【Outline and objectives】

The purpose of the subject "modern thought" is to acquire the philosophical thinking about "origin" and "essence" of events and things occurring in the contemporary society where we live in. Therefore, although this class has the subject name "contemporary thought", it does not have the only purpose of learning the "thought of modern trends"

In the class in 2021, we will examine the relationship between capitalism and ecology in the present 21st century, using as a basic text "Before the Great Flood: Marx and the Material Metabolism in the Planet" (2019) by Kohei Saito (1987-), a young contemporary economic thinker.

LIN200GA

異文化間コミュニケーション

江村 裕文

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異なった文化を背景にひきずった個人同士が出会い、互いに理解しあえる関係を築く、というのが、外国人との交流なり異文化間コミュニケーションに対してみなさんが抱くイメージなのではないかと思う。

異文化を理解するのは、口で言うほど容易ではない。

異文化者が出会ったとき、それぞれの背景の文化が異なることが原因でどうすることが起こってくるのか。最悪のコミュニケーション・ブレイクに陥らないためには、どうしたらいいのか。自らの体験に基づきながら事例を紹介している直塚玲子の著作をテキストにして、異文化（間）が抱える諸問題に触れていきたい。

【到達目標】

異文化間の具体的な問題としてどういうことが起こるかを事例を通じて知ったうえで、自分がそういう場に遭遇した場合に、適切に対処し、問題を最小限に食い止め、可能であれば「相手」との interaction を通じて関係を改善できるという能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講では、まず鈴木著の著書にある、「文化」とは何か、についての考察をすすめて「文化」に関する理解を共通にし、その上で、日本人と（特に欧米の）外国人がコミュニケーションをする上での諸問題について、直塚玲子『欧米人が沈黙するとき』にあげられている事例や、さらに、可能であれば、上級生の S A 体験者からの体験談やさまざまな具体的な問題点を持ち寄りながら、討論や考察をすすめていきたい。

また個々の具体的な事例に関しては、授業内でフィードバックしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・テキスト紹介・報告箇所割り当て	授業の進め方およびテキストについて解説し、テキストの報告箇所について割り当てる
2	「文化」について	「文化」をどうとらえるかについて講義する
3	「欧米人が沈黙するとき」①	「私と異文化との出会い」講読と解説
4	「欧米人が沈黙するとき」②	「この間はどうも」 －感謝の気持ちのあらわし方
5	「欧米人が沈黙するとき」③	「すみません」 －人間関係の潤滑油
6	「欧米人が沈黙するとき」④	「何もありますが…」 －謙遜表現をめぐって 「どうぞよろしく」 －不当な義務
7	「欧米人が沈黙するとき」⑤	「プライベートな質問」 －プライバシーとは 「一杯飲みにいきませんか」 －誘い方・断り方

8	「日本人が沈黙するとき」①	「夜遅くまで、ご熱心な練習ですこと」 －苦情の述べ方 「イエスですか、ノーですか」 －婉曲表現
9	「日本人が沈黙するとき」②	「ご意見をどうぞ」 －タテマエ 「窓を開けてもいいですか」 －責任回避
10	「日本人が沈黙するとき」③	「根回し」 －時間の浪費？ 「酒とコミュニケーション」 －日本的契約
11	討論「異文化間コミュニケーション」のために	S A を経験した上級生の経験を踏まえて、異文化コミュニケーションにおける問題点を共有する
12	討論「異文化間の諸問題をどう解決するか」	授業の内容を踏まえて、「異文化」をどう乗り越えていったらいいか考える
13	討論「日本文化と異文化」	自分が日本文化の体現者であるということ、異文化を理解することにおける問題点を考える
14	討論・議論	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「テキスト」を読む時間においては、割り当てられた個所について報告準備を行い、その内容に関する疑問点や関連して討論してほしい内容、コメント等を用意すること。

「討論」に関しては、設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披露できるように情報収集等を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは以下の二点

鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書

直塚玲子『欧米人が沈黙するとき』大修館書店

【参考書】

授業中に適宜紹介の予定である。

【成績評価の方法と基準】

原則、「平常点」40点、レポート60点の合計100点で評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

S A 体験者の上級生の体験談が聞きたいという、特に一年生からの要望が多いので、その機会をもう少し多くしたい。

「今回の課題図書を読んで国際文化学部において学ぶべきことの概観が漸く見えたように思える。これから自分の専門分野を見つめる上で基礎的な視野を得ることができた。」（1年生）

「私が S A プログラムで直面した問題には日本人の特有さがあったということに授業・レポート作成を通して気づかされた。」（3年生）

以上是最終レポートに書かれた一部である。この授業には、学ぶ側の姿勢次第で、より豊かな学びの可能性があるかと確信している。

【その他の重要事項】

この授業は「コミュニケーション」の授業である。コミュニケーションが苦手な学生の積極的参加は評価するが、コミュニケーションを最初から拒否する姿勢で授業に臨む、たとえばずっと寝ているとか、は教室内に存在していないと判断する。コミュニケーションは知識よりも実践である。

【Outline and objectives】

In this class, "Intercultural Communication" or "Cross Cultural Communication", we are going to treat the following issues,

1 What is Culture,

2 What are Cultural differences,

3 How is the Communication between different Cultures possible.

For to know how other Cultures are leads us to know how our own Culture is.

In this class, we will understand the way to communicate with owners of different Cultures.

SOS200GA

国際関係学概論 I

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際」を掲げた学部や講義は多様にあり、国境を越えた動きには Global、Transnational などの表現もあります。あらためて「国際関係」とは何であり、どのように研究されてきた/するのでしょうか。この問いを念頭に置きながら、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた/いるか、と同時に、その「国際関係」がどう認識、分析されてきた/いるかを理解することで、国際関係学の視点と方法を学び、現代世界への理解と取り組みにつなげます。対象時期は近代国際関係の成立から第一次世界大戦までとし、「国際関係学概論Ⅱ」の前提となる内容となります。

【到達目標】

- ①国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつ。
- ②現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点）から理解できるようになる。
- ③①、②を踏まえ、国際関係の事象、問題について、自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①オンラインでの講義とする。テキストは予め読み、レジュメや資料は、教員からの指示に応じて事前に、あるいは授業中にダウンロードして閲覧、視聴する。
- ②毎回リアクションペーパーを提出してもらう。
- ③国際情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。
- ④授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。
- ⑤授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
- ⑥提出物で注目すべきコメントや質問があれば紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。
2	「国際関係」とは	近代国際関係の成立、Western State System の特徴を理解し、現代国際関係との異同を学ぶ。
3	市民革命、国民国家の登場と国際関係①	国民国家（nation state）の成立をもたらした市民革命、「市民」、「階級」の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。
4	市民革命、国民国家の登場と国際関係②	国民国家（nation state）及び nation という actor の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。

5	帝国主義と国際関係①「つながる/つなげられる」	ヨーロッパの資本主義発展を原動力とする世界分割、植民地支配、人の移動がもたらした世界の一体化の特徴を学ぶ。
6	帝国主義と国際関係②「へだてる/へだてられる」	世界の一体化が生み出した世界の「分断」を、現代世界のグローバリゼーションとの関係性理解する。
7	帝国主義と国際関係③国際関係研究への視座	「植民地」、「帝国主義」を対象とする当時の研究から、国際関係認識や分析を学ぶ。
8	近代国際関係と「民族」- 実態と概念①	主権国家形成との関わりから「民族」の実態と概念を学ぶ。
9	帝国主義と「民族」- 実態と概念②	帝国主義時代を基点とする国際関係の変化のなかで「民族」の実態と概念を学ぶ。
10	帝国主義と「民族」- 実態と概念③	現代世界の「民族」をめぐる諸問題を踏まえて、実態と概念を整理する。
11	第一次世界大戦と国際関係①近代国際関係の再編	人類初の「総力戦」と国際関係再編との関係を、民族運動、社会主義運動、社会の変化を中心に学ぶ。
12	第一次世界大戦と国際関係②国際組織と安全保障	国際連盟の成立、戦争の違法化、安全保障を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
13	第一次世界大戦と国際関係③植民地支配体制の再編	委任統治制度を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
14	総括	春学期の授業を総括し国際関係学概論Ⅱにつなげる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①授業内容はテキストを中心に、提示された参考文献を読む。わからないことは自主的に調べる。
- ②関心があることを1つ持って授業に臨む（SA 先や卒業研究などに関連させるとよい）。
- ③新聞や報道サイトは毎日目を通す（但し、まとめサイトは厳禁）。
- ④予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
 岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
 梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002年。
 川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍㈱、2003年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物の内容を総合して 50%。セメスター末のレポート 50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。
- ②提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

前年度担当していないため情報をもたない。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のため、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業では Zoom を使う予定であり、提出物は学習支援システムを通じて提出してもらう。
- ・授業内容によっては動画や画像を配信したり、グループディスカッションを行うため、有線接続など安定的な接続環境で、通信容量に制限のない状態にしておくのが望ましい。
- ・本授業では、高校で世界史を選択した/しないは関係ありません。現代世界を理解するためには「歴史」を、そして「歴史」から学ぶことは不可欠という姿勢で臨んでください。

【Outline and objectives】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Study has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from the Peace of Westphalia to World War I.

It is strongly recommended that this course be taken before taking "Introduction to International Study II".

SOS200GA

国際関係学概論Ⅱ

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際」を掲げた学部や講義は多様にあり、国境を越えた動きには Global、Transnational などの表現もあります。あらためて「国際関係」とは何であり、どのように研究されてきた/するのでしょいか。この問いを念頭に置きながら、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた/いるか、と同時に、その「国際関係」がどう認識、分析されてきた/いるかを理解することで、国際関係学の視点と方法を学び、現代世界への理解と取り組みにつなげます。対象時期は第二次世界大戦から現在までとし、「国際関係学概論Ⅰ」の内容を前提に進めます。

【到達目標】

- ①国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつ。
- ②現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点）から理解できるようになる。
- ③①、②を踏まえ、国際関係の事象、問題について、自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①オンラインでの講義とする。テキストは予め読み、レジュメや資料は、教員からの指示に応じて事前に、あるいは授業中にダウンロードして閲覧、視聴する。
- ②毎回リアクションペーパーを提出してもらう。
- ③国際情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。
- ④授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。
- ⑤授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
- ⑥提出物で注目すべきコメントや質問があれば紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。「国際関係学概論Ⅰ」との関連を説明。
2	第二次世界大戦と国際関係①	ヴェルサイユ・ワシントン体制が崩壊する戦間期を踏まえ、第二次世界大戦の特徴から国際関係のなかで捉える。
3	第二次世界大戦の終結と国際関係①	国際連合の設立、人権の重視、戦争責任をめぐる国際法の変化を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
4	第二次世界大戦の終結と国際関係②	信託統治制度の創設を中心に、植民地なき植民地体制が今なおもたらす問題を学ぶ。

5	冷戦と国際関係①—冷戦の始まり	冷戦の定義、IMF・GATT 体制、冷戦的思考から冷戦体制の特徴を学ぶ。戦後国際関係研究の特徴をみる。
6	冷戦と国際関係②—核開発	東西両陣営の核開発競争から国際関係を捉え、現在に続く核問題を学ぶ。
7	冷戦と国際関係③—植民地独立への介入と「熱戦」	中華人民共和国の成立、植民地独立の動きに米ソが介入した事例を中心に冷戦体制の特徴を学ぶ。
8	冷戦体制の浸蝕と国際関係①—第三世界の台頭と南北問題	A・A 会議、非同盟運動、新国際経済秩序など南北問題をめぐる第三世界の動きから国際関係の特徴を学ぶ。
9	冷戦体制の浸蝕と国際関係②—南北問題”解決”をめぐる「開発」、「発展」概念の問い直しを中心に国際関係認識と分析の特徴を学ぶ。	南北問題”解決”をめぐる「開発」、「発展」概念の問い直しを中心に国際関係認識と分析の特徴を学ぶ。
10	冷戦体制の浸蝕と国際関係③—核軍縮、東西両陣営内の変動	キューバ危機を契機とする核軍縮への動き、東西両陣営内の亀裂を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
11	冷戦体制の崩壊と国際関係	冷戦体制の崩壊過程と崩壊後に持ち越された国際関係の問題を学ぶ。
12	ポスト冷戦体制とグローバル化	ポスト冷戦体制の国際関係を、9.11 やグローバル化の諸問題から理解する。
13	グローバル化の下で「国際関係」を問う	受講生の関心に基づきトピックスを定める。
14	まとめ	秋学期の授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①テキストを中心に、提示された参考文献を読む。わからないことは自主的に調べる。
- ②関心があることを1つ持って授業に臨む（SA 先や卒業研究などに関連させるとよい）。
- ③新聞や報道サイトは毎日目を通す（但し、まとめサイトは厳禁）。
- ④予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993 年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003 年。
 岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003 年。
 梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002 年。
 川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍㈱、2003 年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物の内容を総合して 50%。セメスター末のレポート 50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した者を合格とする。
- ②提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

前年度担当していないため情報がない。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のため、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業では Zoom を使う予定であり、提出物は学習支援システムを通じて提出してもらう。
- ・授業内容によっては動画や画像を配信したり、グループディスカッションを行うため、有線接続など安定的な接続環境で、通信容量に制限のない状態にしておくのが望ましい。

・本授業では、高校で世界史を選択した/しないは関係ありません。現代世界を理解するためには「歴史」を、そして「歴史」から学ぶことは不可欠という姿勢で臨んでください。

【Outline and objectives】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Studies has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from World War II to today. "Introduction to International Studies I" is highly recommended for those who take this course.

SOC200GA

国家と民族

石森 大知

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本人とは何だろうか。今日、私たちはそれほど意識することなく、国家や民族の枠組みを受け入れているかもしれない。とはいえ、これらは近代西洋で発明された後、「普遍的」な枠組みとしてグローバルに浸透ないし強要されたものでもある。本授業では、日本を含むアジア太平洋地域の事例に基づき、主に国家と民族の枠組みが人々の自己意識や社会関係をどのように変化させてきたのか考察する。

【到達目標】

- ・人種、民族や国民、エスニシティ、ナショナリズムなどの概念内容およびそれらが歴史的に構築されてきた過程を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる自己／他者の理解に関する洞察力を身に付ける。
- ・アジア太平洋地域における脱植民地化過程を学ぶとともに、現代のナショナリズムの動向を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は【オンデマンド型】で行う予定です（変更の場合は学習支援システムを通して事前に連絡します）。
- ・履修生のみなさんには学習支援システムを通して配信される授業資料を用いた学習を行っていただきます。
- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	人種と民族	近代における「人種」の生成
第3回	民族・エスニシティ・国家	その基本的な理論と概念を学ぶ
第4回	近代日本の国家形成	天皇主権と国家神道
第5回	国家のなかの家族	日本型「近代家族」の変遷
第6回	多文化主義と「多文化共生」	多文化主義の比較検討
第7回	王、チーフ、ビッグマン	多様なリーダーシップのあり方
第8回	植民地からの独立	太平洋の脱植民地化
第9回	民族紛争を読み解く	ポスト植民地国家の新たな戦争
第10回	先住民としての権利	アジア太平洋の先住民運動とアイヌの人びと
第11回	国家から逃避する人びと	ゾミア（東南アジア山間地帯）への視点
第12回	観光開発と国家	ハワイにおける「楽園」の創造
第13回	環境破壊と国家	グローバル化のなかの森林資源
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や地域研究の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。
 丹羽典生・石森大知編『現代オセアニアの〈紛争〉—脱植民地期以降のフィールドから』昭和堂、2013 年。
 ジェームズ・C・スコット『ゾミア—脱国家の世界史』佐藤仁監訳、みすず書房、2013 年。
 ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』白石隆・白石さや訳、書籍工房早山、2007 年。
 小熊英二『単一民族神話の起源—「日本人」の自画像の系譜』新曜社、1995 年。

【成績評価の方法と基準】

レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【その他の重要事項】

- ・学期中にシラバスや授業計画の変更が余儀なくされた場合は学習支援システムで周知します。
- ・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、国家と民族について文化人類学的視点から講義を行います。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic concepts and theories of nation, ethnicity and nationalism from the perspective of cultural anthropology. We will examine how nation is defined and how people use this concept for nation-building, economic development and welfare policy. We also deepen the understanding of theoretical perspectives with abundant empirical studies from Asia-Pacific regions, including Japan.

LIN300GA

世界の言語 I

興石 哲哉

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の数多くの言語のうち、この授業では、インド・ヨーロッパ語族（印欧語族）の言語について考察していきます。この語族の言語は世界中に広がっている、今では全ての大陸で話されています。この語族がどのようにしてできたのか、どのようにこの語族の言語が変化してきたのか、特徴はどのようなものか、世界の言語の中でどのような位置にあるのかについて知ることが、本科目のテーマです。

【到達目標】

具体的には、以下の5つです。

- 1) インド・ヨーロッパ語族の言語について、その全体像を把握すること。
- 2) インド・ヨーロッパ語族について、その歴史を知ること。
- 3) インド・ヨーロッパ語族の言語の研究の方法や背景について知ること。
- 4) 他の語族とインド・ヨーロッパ語族の関係について知ること。
- 5) 一般的に、言語の歴史・構造について、知識を得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

・授業は、基本的にシラバスに基づき、リアルタイム・オンラインの講義形式で進めていきます。履修者の知識等により、内容には修正を加えることがあることを予めご了承ください。

・授業は全て事前に用意したスライドを用いたプレゼン形式で行います。同スライドは予めダウンロード可能です。さらに、背景が白いものを事前に用意しそれを事前にプリントアウトした上で授業に持参して書き込みをすれば、自分だけのノートとしての機能をもたせることも可能です。

・他の対面授業への出席等でリアルタイムに受講できない場合には、授業の録画動画等にて対応しますが、その方法等については、別途お知らせします。

・「学習支援システム」を多用し、事前、事後の学習も可能な限り支援していきます。

・課題等に対するフィードバックは、基本的に「学習支援システム」を用いますが、状況に応じて、個人メール等で行うこともあります。

・各回に可能な限り前回のフィードバックを行い、さらに最終回では、それまでの授業のまとめ、復習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	・はじめに ・ヨーロッパとは？ ・最近のヨーロッパの傾向 ・比較の視点	授業のやり方について、概略を説明し、ヨーロッパについて学び、比較することの意味について学びます。
2	・地球単位で言語を考える ・英語で-a で終わる語 ・ある童話から ・欧米と日本	地球単位で言語を考えることを実際の例をいくつか見ながら考えます。
3	・Parallel text の意味	言語を比較する際の材料として、parallel text と呼ばれるものを使用することがあります。様々な例を使い、実際に言語の比較を行っていきます。印欧学という学問がどのように発達してきたか、歴史的な背景を見ながら考えていきます。
4	・印欧学の発達 ・印欧祖語 ・歴史的な背景	言語観の類似をどのように説明するか考えていきます。印欧語族の語派について見ていきます。初回は、Indo-Iranian, Armenian, Albanian についてお話します。
5	・言語間の類似 ・音対応 ・貨幣と切手 ・個々の語派	印欧語族の個々の語派について、引き続き見ていきます。今回は、Baltic, Slavic, Hittite, Tocharian, Hellenic, Italic の各語派についてお話します。
6	・個々の語派（続き）	

- ・英語へのラテン語の影響
- ・個々の語派（続き）
- ・非印欧諸語
- ・Grimm's Law

- ・Grimm's Law（続き）
- ・Verner's Law
- ・Centum vs. Satem
- ・音対応と言語再建

- ・言語の語彙
- ・歯擦音化
- ・The letter C in English

- ・ヨーロッパの地勢
- ・印欧祖語はいつ話されていたか？

- ・印欧祖語はどこで話されていたか？

- ・印欧祖語はどこで話されていたか？（続き）
- ・印欧祖語の史的発達

- ・印欧祖語の史的発達（続き）
- ・ヨーロッパ早わかり
- ・現在の欧州言語事情
- ・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、前回の内容を復習しながら、新しい内容に進みます。基本的な用語を習得し、方法論を理解しながら、参考文献等を読んで授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものを考えてはいません。適宜、プリントなどを配布、提供いたします。

【参考書】

授業中、随時指定いたしますが、とりあえず以下のものを挙げておきます。泉井久之助 (1968). 『ヨーロッパの言語』。東京：岩波書店。【古いですがよい本です。基本的にこの本の内容は、かなり本科目の内容と重なります。】風間喜代三 (1978). 『言語学の誕生』。東京：岩波書店。

マルティネ、アンドレ、神山孝夫訳 (2003). 『「印欧人」のことは誌—比較言語学概説—』。東京：ひつじ書房。

Chapters 1 & 2 from Denning, K, B. Kessler, and William R. Leben (2007). *English Vocabulary Elements*. Oxford: Oxford University Press. Chapters 2 & 3 from Stockwell, Robert & Donka Minkova (2001). *English Words: History and Structure*. Cambridge: Cambridge University Press.

Diamond, Jared (1997). *Guns, Germs and Steel*. London: Caggo & Windus.

【成績評価の方法と基準】

試験の結果 (100%) に基づき成績を出します。人数が多すぎる場合、授業への参加度を見ることは現実的ではないため、現段階では平常点は設定していませんが、人数を見て場合によっては平常点を加味します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

隔年開講のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スクリーン等を用います。

【その他の重要事項】

高校の時に用いた、いわゆる学習者用英和辞書ではなく、語源欄が充実している英語の辞書を用意して、関連の語などについて調べるようにしてください。授業でもお話ししますが、英語は西欧の諸言語を知る上で、非常に重要な言語ですので、何かと授業でも話す機会が多くなります。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、学部専門教育科目の（４）言語科目に属し、ことばを成り立たせているさまざまな要素について学ぶものです。「世界の言語 II」と交替で隔年開講され、2 年生以上が履修できます。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to get a general idea of Indo-European languages. Specifically, by the end of the course, you should:

- become acquainted with the European languages in general,
- have enough knowledge about the their historical background,
- become acquainted with the basic knowledge about Indo-European studies and the backdrops of its development.
- have general knowledge about the relationship between Indo-European languages and other language families.
- begin to develop a general knowledge of linguistic history and structure.

LIN300GA

世界の英語

小中原 麻友

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル社会の現在、「英語」ほど広範に使用されている言語はありません。しかし、その「英語」とは一体どのようなものなのでしょうか。World Englishes や English as a lingua franca という言葉を聞いたことがありますか。英語の国際的普及は、地域の社会的要因に関連して多様化した様々な英語変種を生み出しました。英・米・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの各英語だけでなく、インド、シンガポール、タイ、マレーシア等のアジア諸国でも多様な「英語変種」が存在し、これらは World Englishes（世界の英語たち）と複数形で呼ばれています。また、グローバル化の進展はビジネスや教育上の国際交流・協力の急速な拡大をもたらし、そのような現場で英語は言語文化の異なる者同士のコミュニケーションにおいて「共通語（a lingua franca）」として幅広く使用されています。本講義では、これら World Englishes と English as a lingua franca という2つの視点から、一見自明とも思われる世界における「英語」の実態について迫っていきます。

学期前半では、社会及び言語使用へのグローバル化の影響と英語の国際的普及の過程を概観した後、特に英米などの英語を母語とする国々とアジア諸国において多様化した英語変種の言語的特徴について、その歴史及び文化的背景にも触れながら学んでいきます。その後、学期後半では、植民地化の遺産や標準語イデオロギー、英語母語話者信仰等の概念や現象についての学習を通して、英語を取り巻く問題について理解を深め、更にはヨーロッパやアジア諸国での実際の事例研究を取り入れながら、ビジネスや高等教育等の国際的な場において言語文化を異にする者同士が、英語を共通語として使用してどのようにコミュニケーションを図っているのかについて、特にコミュニケーション・ストラテジーの使用を中心にその特徴を学んでいきます。最終的には、学習内容に基づき、グローバル社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について批判的に考察できるようになることを目指します。

【到達目標】

1. 国際的普及によって多様化した英語変種の地域的特徴（音声の仕組み、および文法等）とその歴史の変遷の背景について理解し、まとめることができる。
2. 国際共通語としての英語でのコミュニケーションの実態や特徴についてまとめることができる。
3. 標準語イデオロギーや英語母語話者信仰などの「英語」を取り巻く問題とその重要性について説明することができる。
4. 上記 1-3 を踏まえた上で、グローバル社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【重要1：受講者の選抜について】

- ・受講希望者多数の場合は、初回授業に選抜を実施します。
- ・受講を希望する学生は、必ず初回授業に参加し、選抜・導入アンケートを提出してください。選抜を実施した場合、その結果は初回授業終了後、速やかに、各学生にメール等で通知します。

【重要2：初回授業の授業形態について】

- ・本講義は原則対面で実施予定ですが、特に、受講者数が定まらない初回授業は、三密回避のために、【Zoom リアルタイム配信】で授業を実施します。
- ・リアルタイム配信の授業への参加が難しい場合は、【事前に担当教員までメール連絡】をしてください（用件に加え、学年、学籍番号、氏名、明記のこと）。授業終了後、初回授業当日の録画を配信するとともに、授業開始前にメール経由で初回授業の代替となる課題（授業内容に関連する簡単なクイズとアンケート【暫定】）を提示します。この課題を当日中に提出することで、初回授業に参加とカウントします。

【重要3：第2回以降の授業形態について】

- ・初回以外の回の授業については原則対面を予定していますが、必要があれば、コロナ禍や履修者の状況を考慮しながら、適宜、Zoom リアルタイム配信に切り替えることも検討します。
- ・その際は、事前に通知しますので、リアルタイム配信授業に参加できないことが最初から分かっている場合は、当日の授業開始前までに担当教員にメール連絡をしてください。また、当日のインターネット接続状況が好ましくないなど問題が発生した場合も、すぐにメール連絡をするようにしてください。

・リアルタイム配信授業に参加できない履修者がいる場合、当日の授業を録画し、授業終了後に配信します。この場合、動画を視聴し、当日分のコメントシートを翌日までに提出することで、授業への参加とカウントします。翌日までに提出できない特別な理由がある場合は、担当教員にメールで相談してください。

【重要4：Google Classroom の使用について】

- ・課題の提示や提出、フィードバックなどには、「授業支援システム」ではなく、「Google Classroom」を使用します。法政大学の Gmail アカウントで利用が可能です。Google Classroom のクラスページへのアクセス方法は、学期開始前までに「授業支援システム」でお知らせします。履修を希望する場合は、授業開始前までに「Google Classroom」上で当該クラスへの【参加】を済ませておくようにしてください（一度登録しても、後から参加を取り消すことが可能ですので、履修を迷っている場合でも参加登録して問題ありません）。
- 【その他】
- ・授業は、PPT とオンライン上で配布するワークシートを使用した講義の他、グループ・ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション、リスニング等の活動も取り入れて進めます。
- ・授業ごとに提出するコメントシートに、個別にフィードバックを行います。良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の紹介・履修条件、導入（選抜）アンケート
【Zoom】		
第 2 回	講義・ディスカッション	The influence of globalization: Linguistic diversity and English users
【対面】	(1)	(グローバル化の影響：言語的多様性と英語使用者)
第 3 回	講義・ディスカッション	The global spread of English
【対面】	(2)	(英語の地球規模の普及)
第 4 回	講義・ディスカッション	Diversification of English and preparation for group presentations
【対面】	(3)	(英語の多様化、グループプレゼン準備)
第 5 回	グループ・プレゼンテーション	Varieties of English (1): Englishes in the UK, the US, and Canada
【対面】	(1)	(英語変種 (1) : イギリス、アメリカ、カナダの英語)
第 6 回	グループ・プレゼンテーション	Varieties of English (2): Englishes in Australia, New Zealand, India, and Thailand
【対面】	(2)	(英語変種 (2) : オーストラリア、ニュージーランド、インド、タイの英語)
第 7 回	グループ・プレゼンテーション	Varieties of English (3): Englishes in Vietnam, Malaysia, Singapore, and Indonesia
【対面】	(3)	(英語変種 (3) : ベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシアの英語)
第 8 回	グループ・プレゼンテーション	Varieties of English (4): Englishes in the Philippines, China, Hong Kong, and Korea
【対面】	(4)	(英語変種 (4) : フィリピン、中国、香港、韓国の英語)
第 9 回	講義・ディスカッション	The legacy of colonialism, native speakerism and standard language ideology
【対面】	(4)	(植民地化の遺産、英語母語話者、標準語イデオロギー)
第 10 回	講義・ディスカッション	English as a lingua franca (ELF) communication (1): Introduction
【対面】	(5)	(共通語としての英語 (ELF) でのコミュニケーション (1) : 導入)
第 11 回	講義・ディスカッション	ELF communication (2): Communication strategies (CS) for supporting meaning-making
【対面】	(6)	(ELF でのコミュニケーション (2) : 話し手の発話を支援するコミュニケーション方略)
第 12 回	講義・ディスカッション	ELF communication (3): CS for coping with communication problems
【対面】	(7)	(ELF でのコミュニケーション (3) : コミュニケーション上の問題に対処する方略)
第 13 回	講義・ディスカッション	ELF communication (4): CS for facilitating communication
【対面】	(8)	(ELF でのコミュニケーション (4) : コミュニケーション上を促進する方略)

第 14 回 期末試験（あるいは期末 期末試験の実施（あるいは期末レポート
【対面】 レポート）、および総括 トの提出）とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

<準備学習>

・リーディング課題（第 3 回、10 回授業開始時まで；全 2 回予定）：指定の資料を読み内容を把握し、まとめる。

・フィールドワーク（第 2 回、10 回、13 回授業開始時まで；全 3 回予定）：授業前までにインストラクションに沿って簡単なデータ収集・分析を行い、それに基づき考察を書く。ただし、第 3 回のフィールドワークは感染症の状況によっては実施しない可能性あり。

・グループ・プレゼンテーション準備（第 5 ～ 8 回授業開始時まで）：グループごとのプレゼンテーションの準備を行う。プレゼンの準備には、原則、学術的な図書や論文、あるいはウェブサイトを使用し、学術的根拠に基づいていない個人の作成したウェブサイトやブログ等は使用しないこと。

<復習>

・中間レポート（第 7 回；全 1 回予定）：第 1 回～ 4 回までの学習内容のまとめと考察を書き、締め切り日までにオンラインで提出する。

・その他、期末試験（あるいはレポート）に向け、適宜、復習する。

【テキスト（教科書）】

・教科書指定なし。ただし、以下の新書の一部を第 2 回のリーディング課題として使用予定。図書館にも所蔵はありますが、図書館へのアクセスが難しい学生については購入することを推奨します。

→ 久保田竜子, 2018. 『英語教育幻想』. 筑摩書房, 東京. (参考: アマゾンにて新書 902 円、Kindle 770 円)

・その他、テーマごとに参考文献を紹介しします。配布資料やスライドは、原則英語です。

・授業の PPT は、授業終了後に、オンライン上で公開します。

【参考書】

< World Englishes と English as a lingua franca についての背景知識 >

1. Crystal, D. (2003). English as a global language (2nd ed.). Cambridge: Cambridge University Press.

2. Galloway, N., & Rose, H. (2015). Introducing global Englishes. London; New York, NY: Routledge.

3. Jenkins, J. (2015). Global Englishes: A resource book for students (3rd ed.). London; New York: Routledge. (Companion website: <http://www.routledgetextbooks.com/textbooks/9780415638449/default.php>)

4. Jenkins, J., Cogo, A., & Dewey, M. (2011). Review of developments in research into English as a lingua franca. Language Teaching, 44(03), 281-315.

5. Kirkpatrick, A. (2007). World Englishes paperback with audio CD: Implications for international communication and English language teaching. Cambridge, UK; New York: Cambridge University Press.

6. Murata, K. (2015). Exploring ELF in Japanese academic and business contexts: Conceptualisation, research and pedagogic implications: Routledge.

7. Murata, K., & Jenkins, J. (2009). Global Englishes in Asian contexts: Current and future debates. Houndmills ; New York: Palgrave Macmillan.

8. Seidlhofer, B. (2011). Understanding English as a lingua franca. Oxford: Oxford University Press.

9. Trudgill, P. & Hannah, J. (2002). International English: A Guide to the Varieties of Standard English (4th ed.). London: Arnold.

10. 唐澤一友. (2016). 『世界の英語ができるまで』. 東京: 亜紀書房.

11. 末延岑生. (2010). 『ニホン英語は世界で通じる』. 東京: 平凡社.

12. 田中春美, 田中幸子 (2012). 『World Englishes - 世界の英語への招待』. 京都: 昭和堂.

13. 鳥飼玖美子 (2011). 『国際共通語としての英語』. 東京: 講談社.

14. 本名信行 (2002). 『事典アジアの最新英語事情』. 東京: 大修館.

15. 本名信行 (2003). 『世界の英語を歩く』. 東京: 集英社新書.

<リスニング教材>

1. 榎本園鉄也 (2012). 『インド英語のリスニング』. 東京: 研究社.

2. 榎本園鉄也. (2016). 『インド英語のツボ: 必ず聞き取れる 5 つのコツ』. 東京: アルク.

3. 柴田真一. (2016). 『アジアの英語』. 東京: コスモビア.

4. ジョセフ・コールマン著、渡辺順子訳 (2008). 『いろいろな英語をリスニング』 東京: 研究社.

5. 鶴田知佳子、柴田真一 (2008). 『ダボス会議で聞く世界の英語』. 東京: コスモビア.

6. 平本照磨 (2010). 『究極の英語リスニング Worldwide』. 東京: アルク.

7. 里井久輝 (2019). 『世界の英語リスニング』. 東京: アルク

<参考ウェブサイト>

1. ACE. (2013). The Asian Corpus of English. Retrieved 23rd September 2014 <http://corpus.ied.edu.hk/ace/index.html>

2. IDEA (2017). International Dialects of English Archive. Accessed 20th September 2017 from <http://www.dialectsarchive.com/dialects-accent>

3. Sekiya, Yasushi, Kawaguchi, Yuji, Saito, Hiroko, Yoshitomi, Asako, Yazu, Norie, & Marphey, Phillip. (2006). World Englishes: English modules dialog based on research into sociolinguistic variation [Shakai gengogakuteki heni kenkyuu ni motoduita eigo mojururu] Retrieved 16th August 2016, from <http://labo.kuis.ac.jp/module/index.html>

4. VOICE. (2013). The Vienna-Oxford International Corpus of English (version 2.0 Online). Retrieved 23rd January 2013 from <https://www.univie.ac.at/voice/>

【成績評価の方法と基準】

<平常点： 5% >

・「平常点」とは、出席率でなく、授業内活動や質疑応答などへの積極的な貢献度を意味します。ただ教室に「いる」だけでは参加したことになりませんので、ディスカッションに積極的に貢献して下さい。

・遅刻 2 回（電車遅延は除く）で、欠席 1 回とみなします。

<授業内外課題： 45% >

・リーディング課題やフィールドワーク、リアクション・ペーパー、グループ・プレゼンテーションでの学習内容の理解度と考察内容を総合的に評価します。

<試験： 50% >

学期末（第 14 週）に試験（あるいはレポート提出）を行い、学習内容の理解度や考察・意見内容を総合的に判断します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

音声データ、録画データ等を使用して、実際に多様な英語、そのような英語での実際のコミュニケーションを聞く機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

・グループ・プレゼンテーションの際は、各自で持参した PC を使用することが望ましいですが、それが難しい場合は、こちらで共有 PC を用意します。

【その他の重要事項】

授業中は、適宜ノートを取って下さい。ただし、ノートをとることよりも講義の内容に集中して、そのテーマについて自ら考えるようにしてください。「覚える」のではなく、「考える」ことが重要です。皆さんの意見を聞いて回りたいと思います。答えに正解・不正解はありませんので、積極的に意見交換することを期待します。

【Outline and objectives】

In the era of globalization, English is one of the dominant tools of intercultural communication among people from diverse linguistic and cultural backgrounds. How does such a communication look like? The aim of this course is to reconsider 'English' from the perspective of World Englishes and English as a lingua franca. Through this course, you will have the opportunity to understand features of varieties of English particularly in Asian countries as well as features of intercultural communication in English as a lingua franca settings. On the basis of the knowledge you acquired, you will then reconsider the role of English in the globalized world and English communication ability necessary for surviving in such a world.

COT200GA

メディア表現法

菊池 司

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：特になし、希望者多数の場合のみ選抜に
 します。初回の授業に出席すること。

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Photoshop の応用テクニックをいろいろ学ぼう

PC を使ったマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習を交えて学習する。とくにコンピュータ上でのメディアデータの特性とコンピュータによる画像処理、図形処理について表現・変換などの知識を身につける。Photoshop を基本ツールとして画像レタッチの諸技法を学ぶ。自ら写真を撮影し、いくつかの課題制作に取り組み。見やすい作品づくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得し、実習作品の表現に応用する。これらを通じて情報メディアの活用とメディアデータの処理技法を学習し、Web やパッケージメディアの視覚面をどのように活かすことができるかも学ぶ。セメスタ中の課題をクラス全体で合評することでお互いの作品の良いところを学び、質の高い制作を目指す。

【到達目標】

Photoshop の応用技法を習得し、デザイン、配色の基礎を修得し、PC 上の画像処理とデジカメ、プリンタ等の周辺機器との関係を理解することで、デジタルマルチメディアの特性を活かした中級以上の作品制作ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

●作品制作の理論と技法（講義と実習）

・デザインの基礎と Photoshop の応用技法

・画像のメリハリ、色のバランス、カラーチャンネル活用

・レイヤー、マスク、フィルタの技法

・コラージュ、モンタージュの技法：遠近感、光の表現、Photo-realistic な作品作りに必要な写真理論

・DTP に向けてのスキナ、プリンタの利用法

●クリティーク（合評）と制作メモの提出

各自の作品を全員が批評し、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

・デジタル写真のリタッチ

・ポスター作り（Photoshop + 大判プリンタ・Web）

・写真表現の作品化（アルバム・Web）

・自由なテーマによる最終課題（Photoshop + 大判プリンタ・Web）

●大事にしたいこと

・誰もが自分だけの something を持っている。みんなで学ぼう。

・マルチメディアデータとリアルなモノの関係性を常に考えよう。

・「コンピュータに簡単に取り込めない世界」を大事にしよう。

・感性だけでは作品は作れない。知識、技法、批評精神を持とう。

なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	メディアデータと情報活用	メディアデータの特性（音声、音響、文書・画像・映像）、コミュニケーションのデザイン、制作環境について学ぶ。
2	デザインの基本原則	CRAP の原理（近接、反復、整列、コントラスト）を学ぶ。
3	デザインの基本原則の応用	前2回の講義内容と既存の Photoshop の基礎知識を活用して、自由課題で制作したポスター作品を持ち寄り、クリティーク（合評）をおこなう。
4	タイポグラフィの原理	欧文・和文フォントの特性を歴史的変遷を通じて学びレイアウトの基礎を理解する。

5	メディア処理ソフトウェアの実際－画像レタッチソフト（Adobe Photoshop Elements）	サービスプリントをスキャンしたイメージデータを素材に基本的なレタッチ技法と必要なツールを復習する。
6	Web のためのデジタルイメージ、写真帳制作の課題と合評	ヒストグラムデータの活用法に慣れる。Web アルバム制作に必要な知識と技法を作品制作に活かす。
7	イメージの取り込みと調整	デジカメ写真、スキャン画像、フレームキャプチャ、PC 画面コピーなど元画像の特性の違いに応じたイメージ素材の取り扱いを学ぶ。
8	レイヤーの技法	レイヤーを多用した作品実習を通じて素材どうしのなじませ方、立体感、奥行き感の作り込みを学ぶ。
9	画質の調整、シェーディングとブレンディング（前編）	写真の断片と描画の組み合わせによるコラージュ作品の制作実習を通じて、選択範囲のさまざまな調整、コントラスト、焼き込みとレイヤーの技法を学ぶ。
10	画質の調整、シェーディングとブレンディング（後編）	第9回に引き続き、制作実習の後半。
11	コラージュ、モンタージュのための技法	さまざまな遠近法、解像度と粒状性、輪郭や色味の変化、光の方向性などコラージュ、モンタージュ作品のための技法を学ぶ。
12	色の扱い：カラー、モノクロ、DuoTone	RGB、HSB、CMYK などカラー表色系の関係、セピア系、シアン系などのモノクローム調色、スポットカラー、DuoTone などの表現技法を学ぶ。
13	色の扱い：制作編	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質の比較。
14	最終課題とまとめ	自由課題による最終課題を制作しクラス全員による合評。全作品、制作メモ、クラス全員による作品合評をまとめたポートフォリオの作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の中で習得した制作知識と実習課題を各自の作品制作に活かすためには十分な練習が必要となる。カフェテリアでのマルチメディア PC を活用してテクニックを「手に覚えさせる」時間外の予習復習を励行します。自由課題による制作には、オリジナルの写真を含めることを求めるのでデジタルカメラやスマートフォンを携帯し、作品作りのアイデアとなる素材さがしを常日頃から心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

制作テキスト（必要部分の和訳プリント配布）：Adobe Photoshop5.5 and Illustrator8.0 Classroom Book, Adobe Press(2000), ISBN 0-201-65900-X

制作テキスト（必要部分のみをプリント配布）：Gregory Haun, "Photoshop Collage Techniques", Hayden(1997), ISBN 978-1568303499

デザイン論テキスト（初版を参照するため、必要部分のみをプリント配布）：R・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ（1998）、ISBN 4895630072

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。ほかにマルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 を挙げておく。撮影技法については、キット タケナガ（著）東京写真学園（監修）、「デジタル写真の学校」、雷鳥社（2005）、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の積極性,30%）、クリティーク（課題作品の相互批評,15%）、課題ならびにマルチメディア作品制作（35%）、ePortfolio(個人の作品集づくり, 20%) を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは、積極的な授業参加。すなわち表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、作品に添付する制作メモ、合評に参加しお互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心などが、授業参加の平常点として参入される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実習課題の内容とバラエティを検討し、中級テクニックの訓練単元を増やした。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。作品作りのテクニックだけではなく作品性の追求や作品批評を言語化することの重要性をさらに意識できるような授業運営を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

素材撮影のためにデジタルカメラが必要。（デジタルカメラは学部資料室、情報カフェテリアにて貸出可能）

光学性能では遜色ないスマートフォンの使用も認めるが、できれば絞り、シャッター速度、露出補正など撮影条件を細かく設定できるデジタルカメラによる撮影を心掛けて欲しい。

制作のためのフォトプリント用紙、CD-R など、課題に応じて若干のメディアが必要。ポスター印刷出力の校正と確認のためにプリンタを使用する。提出作品は ePortfolio にて保存公開する。

【その他の重要事項】

情報系教員によるクラス授業とマルチメディア制作実習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

【資格を目指す人のために】 本講義の参考書はマルチメディア検定ベーシック対応の標準テキストであり、すぐれた独習書である。

実務経験のある教員による授業：

コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディアの制作に関する実習を行う。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）。未修者の履修希望については担当教員の判断による。

写真の技法については「マルチメディア表現法」の履修をお薦めする。Photoshopの応用技法については本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」など。

【Outline and objectives】

This is an intermediate level workshop on Adobe Photoshop retouch and creative techniques for any students who has acquired basic knowledge and techniques in Photoshop. The course is organized of class workshops, weekly or biweekly assignments, and mutual critique.

COT200GA

プログラミング言語基礎

和泉 順子

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数制限あり

備考(履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システムを構築する上で必要なプログラミングには様々な言語が用いられている。本講義ではオンライン併用環境であることを考慮し、使用言語を **JavaScript** とする。ただし、基本的なプログラミング言語とも云える **C** 言語についても、データ型の概念、配列、関数、ポインタ、ファイル操作などのプログラミングに関する基本事項を学ぶために適宜補足として取り入れる。**JavaScript** や **C** 言語を実際に使いながら基礎的な概念を学び、簡単なプログラムを作成する能力を修得する。

【到達目標】

プログラミングの基本構成として記述/実行方法や基本的な文法を理解し、簡単なプログラムを作成する能力を修得する。
具体的には、プログラミングで用いる用語や概念を理解し、独力でプログラミングに関する本を読んで理解できるようになること、かつ簡単なアルゴリズムを学習することで簡単なプログラムを実装できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、(1) プログラミング言語仕様や構造の理解、(2) 具体的な文法の学習、(3) プログラムの実装とデバッグ、というプログラミングの段階的な学習を行う。すべて計算機を使用した実習形式で行い、課題作成をとおして学習結果を確認する。
春学期の少なくとも前半はオンライン併用での開講が予想される。学期途中での授業形態の変更やそれにとまなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。
課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に **Google Classroom** 等も用いる場合もある。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業の進め方、目的などを確認する
2	JavaScript 概説	JavaScript のプログラム（ソースコード）を記述するための環境（実装環境）および実行環境を確認する
3	変数、データ型	使用できる変数の使い方、使用できるデータの型、宣言の仕方について学習する
4	演算子と式	代入式、算術演算子、インクリメント/デクリメント演算子、代入演算子、関係演算子の用法を学ぶ
5	文とブロック	文とブロック、局所変数と大域変数の用法を理解して、使用する
6	条件分岐	if 文用法を学習し、具体的問題を作成してみる
7	繰り返し	for 文、 while 文の構造を学習し、問題に適用する
8	基本的なアルゴリズム（1）	並べ替えを例に、同じ問題であっても対応するアルゴリズムが複数あることを学ぶ
9	基本的なアルゴリズム（2）	アルゴリズムを学んだ上で、それをコードとしてどう表現するのかを学習し、試す
10	アルゴリズムの実装	データの並べ替えを行う簡単なプログラムを実装する
11	関数（1）	関数の概念と文法（形式）を学ぶ
12	関数（2）	実際に自分で関数を作ったり、すでに用意されている関数を使ったりして、目的を達成するコード作成を目指す

13	標準入出力、外部ファイル	JavaScript ではあまり扱わないが、他言語で一般的に利用される標準入出力や外部ファイル入出力の概念を学習する
14	テストと授業のまとめ	授業での学習内容について、理解度を確認するためのテストを行う。また、テストの解説を行うことで授業をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を復習し、課題を提出する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義内で適宜連絡する。

【参考書】

必要に応じて講義内で適宜連絡する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点（授業に対する貢献など）20%、課題 30%、期末テスト 50%、で行う。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
学期末までに完全対面授業にならなかった場合、期末テストの実施が困難な可能性が高い。その場合は、小テスト・課題・レポートを基準に、掲示板などでのコメントや情報共有を平常点として加点する予定である。詳細は初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

理解を深めるため、授業進度を適宜調整する。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機/パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には **Windows** でも **macOS** でも構わないが、テキストエディタを用いることを前提としている。
オンライン併用の場合は、実習の質問対応も含めて適宜 **Zoom** あるいは **Webex** を用いる可能性がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

初回の授業に必ず出席すること。
情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。
受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。

【前提科目】

情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。

【Outline and objectives】

We will focus on the programming language specification and syntax of JavaScript and C language, which is one of the most famous programming languages, and learn the basics concepts related to programming.

HUI200GA

仮想世界研究

甲 洋介

サブタイトル：手ごたえのない現実、なぜか生きやすい仮想世界
配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会の重要なテーマとして「仮想世界」を取り上げる。受動的に講義を受けるのではなく、「仮想世界」の問題に対して、受講生が主体となって具体的な視点を用いて検討できるよう、工夫されている科目である。

● 手ごたえのない「現実」 vs. リアルな「仮想世界」

ヒトはかつて仮想世界を作り出した。気がつく、現実と仮想との境界はますます曖昧になってきたと感じられる。

その一方で、私たちの生活のさまざまな場面で、“手ごたえ”＝リアリティ（現実感）が薄れつつある、とも指摘される。私たちの日常生活は、仮想世界が浸透することによって何が『変化』し、どのように『拡張』されたのか。そして、それは問題なのか。

● つながっているフリは寂しい？ でも親密なのはもっと怖い

「情報」を軸とする変革の波は、私たちの考え方や生活に対して、静かに、深く影響を与え続けている。しかし、私たちはこの変化の意味を十分に把握しているとは言えない。仮想世界がもたらす意味を問い直す。

仮想世界の問題は、SF や物語ではない。私たちの生活に現実に起きている現象である。本講義を通じて受講生は、『ヒトは原初から巧みに仮想（バーチャル）な世界を作り出し、つきつぎに自分の限界を超えてきた動物である』ことに気づく。この現象の論点を見究め、洞察することを目指している。そして、新たな仮想世界を造り始めることだろう。

【到達目標】

そもそも「仮想世界」は、なぜ生み出され、人間にとってどのような意味を持つのだろうか？

本科目の履修を終えると、次の事柄について基本用語を用いて言及できるようになる

- 仮想世界における「私」、それは「本当の」私なのか？
- 手ごたえのない現実世界と、妙にリアルな仮想世界、というパラドックス
- 「仮想現実感」(VR) の構成要素と基本的な考え方
- VR の、社会のさまざまな側面への浸透
- 仮想世界はなぜ生まれ、どのような意味を持つのか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業の各回では、具体的なトピックが取り上げられ、自分たちの身の回りに起きている具体的な現象を例に取りながら、仮想世界の問題を考える手掛かりが提供される。

● 現実世界における生きにくさの実感が増していく中、なぜか仮想世界は“生きやすい”。現実世界のリアリティの希薄化が指摘される一方で、仮想世界のリアリティは増していくように感じられる。

仮想世界は、技術者が勝手に作り出した世界ではない。仮想世界の構築は、あなた自身の欲望が関与している。そうだとしたら、私たちは仮想世界に何を求め、私たちの何を変化させ、仮想世界と共にこれからをどう生きようとしているのか。問い直す必要がある。

● 授業冒頭で前回のおさらいと受講生のコメントを踏まえた解説を加えながら、各回のトピックにつなぐ。授業後半では受講生どうしの討議を促しながら解説を加え、問題に切り込む論点を提示し、受講生がさらに問題意識を育てる工夫をする。その成果を最終レポートまたは期末試験において、総合的にまとめる。

※新型コロナ感染状況によって進め方を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ネットは、不思議と生きやすい－それはなぜ？
2	仮想世界への誘い	ネットでつながり、戸惑う－なぜか寂しい
3	仮想世界における「私」	仮想世界の私、それは仮面の私。それともホントの私？

4	仮想世界における「こころ」	戸惑いから受容へ－ネットで恋した相手、それは○○だった
5	仮想世界における「こころ」②	仮想世界が、現実よりリアリティを感じる
6	【グループ討議】仮想世界と付き合う	仮想世界とのアイロニカルな距離感と、没入
7	現実を、仮想空間に取り込む方法	コンピュータグラフィックスの基礎
8	仮想現実とは何か	バーチャルリアリティ（VR）の基本概念
9	仮想現実とは何か：理論	仮想現実（VR）の構成要素
10	仮想現実とは何か：方向性	仮想現実（VR）技術の様々な分野への応用
11	仮想現実の応用	仮想現実（VR）の様々な分野への応用
12	仮想現実の応用：社会が変わる	手ごたえのない経済、手ごたえのない戦争
13	【グループ討議】ヒトの欲望と仮想世界	ヒトの欲望を吸収し、膨張しつづける仮想世界
14	まとめ	現実？ 仮想世界を生きる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コメントシートも含め、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・「接続された心」"Life on the Screen" (S. タークル、早川書房)
- ・国際会議 ACM SIGGRAPH DVD (Association for Computing Machinery)
- ・「2001 年宇宙の旅」(A.C. クラーク, S. キューブリック脚本, ワーナー社配給)
- 他、M・ミンスキーのインタビュー記録など、講義で適宜指示をする。

【参考書】

- ・アニメ：「攻殻機動隊～GHOST IN THE SHELL」
- ・映画：「惑星ソラリス」(アンドレイ・タルコフスキー)
- ・"Alone Together" (S.Turkle, Basic Books 出版)
- 担当教員の研究プロジェクトや国際学会の資料など、タイムリーなトピックを紹介することがある。 他は、開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポートまたは試験 (60 %)
 - ・授業・討議における積極的な貢献度合い（発表、コメントシートを含む）(40 %)
- を総合して評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

『仮想世界におけるこころ』の問題に、受講生の関心が高いことが分かった。受講生どうしの討議の時間を十分に取れるように図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に学習支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。
本講義では、討議に積極的に参画し、参加者の協同作業を通じて自らの問題意識を育てる姿勢が重要になる。

【履修条件】

「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

- ・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」「こころの科学」と組み合わせて受講すると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。
- ・「メディア情報基礎」を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】

This class addresses the enlargement of "Virtual World," as one of the essential issue of our modern society. It allows you to understand and further explore a set of key concepts: (1) the virtuality vs. the reality," (2) the issue of "self and identity" within cyber spaces, and (3) how to cultivate this society which integrates virtual and real worlds.

FRI200GA

社会とデータサイエンス

和泉 順子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報化社会が発展・普及していく中で、様々なものがデジタル化されインターネットに接続されつつある。この授業では IoT（Internet of Things）やビッグデータ等に関連するデータサイエンスというキーワードから、パソコンで作成するデータだけでなくセンサや人の行動、公的機関からの公開情報等から得られるデータがどこでどのように利活用されているのかを学ぶ。また、データサイエンティストとはどんな人材なのかを議論しながら、様々なデータの性質や扱い方、可視化等を統計学等の観点から学び、実践する。

【到達目標】

ビッグデータ、IoT、オープンデータ、といった言葉で表現される膨大なデータの利活用としてデータサイエンスのいくつかの事例と、そこから作られる情報や価値について学ぶ。個々のデータの具体的な内容ではなく、異なる内容や形式を持ったデータに共通する性質や、データを正しく扱うために情報科学だけでなく心理学や社会学など社会科学分野にも重要な統計学などを学ぶ。また、同じデータでも可視化の方法によって伝わり方が違う事を学び、実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義は計算機を使用した実習形式で行い、授業内のプレゼンテーション、小テストおよびレポートにより学習結果を確認する。
春学期の少なくとも前半はオンライン併用の開講が予想される。学期途中での授業形態の変更やそれにとまう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。
課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる場合もある。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の説明、社会におけるデータサイエンスの重要性について
2	IoT とビッグデータ	IoT（Internet of Things）とは何か、ビッグデータの利活用事例を学ぶ
3	オープンデータの活用	公開されているオープンデータがどのように活用されているかを学び、自ら調べる
4	仮想空間のプライバシー	デジタルな空間、あるいはインターネット上におけるプライバシー確保に必要な技法の一部を学ぶ
5	統計処理の意味	データを抽出して価値を創出するために、どのような統計手法があるのかを学ぶ
6	統計分析の意味	統計処理したデータの分析から何が分かるのか、それが何に役立つのかを学ぶ
7	データの種類と尺度	4つの尺度と利用可能な測定値、および相関について学ぶ
8	統計の基本と実践（1）	平均値と中央値、正規分布、分散、標準偏差の意味について学ぶ
9	統計の基本と実践（2）	正規分布と確率について学ぶ
10	統計の基本と実践（3）	仮説検定の種類と考え方を学ぶ
11	データの可視化	同じデータでも可視化の違いによって印象や伝わり方が異なることを学ぶ。また、データを説明するために適切なグラフは何かを学ぶ
12	データサイエンスの実践	自分の興味のあるオープンデータから適切な統計手法を用いてデータを読み取り表現する

13	プレゼンテーション	自分が調べ、読み取り、表現したことを授業内で発表する
14	議論と考察、授業のまとめ	授業内で扱ったデータについて質問を通して改善の余地を議論・考察する。また授業のまとめを行い、授業内に簡単なレポートを作成、提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計学をはじめ数学の知識を多少使うため、各自の理解度に応じて適宜予習復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指定する。

【参考書】

授業内で適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 20%、小テスト 20%、プレゼンテーション 30%、レポート 30%で総合的に行う。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、Excel でデータ分析ができる環境を前提としている。
オンライン併用の場合は、最終課題となるプレゼンテーションは Zoom あるいは Webex を用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

受講者が多数の場合は、抽選で選抜する場合がある。
詳細は学習支援システムを参照し、初回授業資料を必ず確認すること。
授業内容は、「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」の内容を概ね理解していることを前提に進みます。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn how data which would be obtained from not only the data created by the personal computer but also various sensors, the behaviour of the person, and the public information opened by the public institutions as the "open data" is being utilised in social activities. The keywords are "data science", "IoT (Internet of Things)", "open data", and "big data".

Learn and practice the handling and visualisation of various data.

HUI200GA

道具による感覚・体験のデザイン

甲 洋介

サブタイトル：カラダの『体験』から空間をデザインする

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「体験」という個人的な出来事を、受講生がアタマとカラダを使って「体験し直す」ことを目指す科目である。

● 日常の体験こそ面白い

おそらくあなたが体験という言葉から連想するのは、可笑しい体験、驚いたこと、つらかったこと、忘れられない事など、ほとんどが非日常的な体験であろう。しかし体験の本質に迫りたいなら、むしろ、日常の体験の豊かさにこそ目を向けるべきである。本講義によって受講生は、一見些細に思える日常の体験においてさえ、身体のださやかな感覚は研ぎ澄まされ、わずかな世界の変化を感じ取り、豊かな感情が湧き起こり、体験が生み出されていくさまを理解できるようにする。

● 「体験」から、空間をデザインする

今年度は、「空間の体験」を取り上げる。本講義を通じて受講生は、人間は他人との間にある距離・空間を絶妙にコントロールしながら、互いに巧みな空間行動をしていることを理解できるようになる。たとえばキャンパス、カフェ、エレベーターなど、多くの人々が行き交う場は、人間の空間行動の特性を観察し、解析するには格好の空間である。

身体は空間を感じ、体験を生み出す。空間のデザインによって、そこでの体験はどのように変化するか。この理解をベースにし、日常の空間をデザインし直すことに取り組む。たとえばもっと快適に安らげるように、あるいはもっと自然な集中ができるように。

● 体験をデザインする、ということ

「経験」「体験」(experience) が今ほど注目される時代はない。一方で「経験の危機」も指摘される。仮想世界の浸透も手伝って、私たちの「体験」はかつてない速度で変化が進み、どこまでが体験なのか、その境界はますます曖昧になりつつある。例えば、自分の身体と感覚を使って実際に体験していない出来事であっても、“あたかも体験したかのように”受け入れていることに気づく。本講義を通じて、この現象を、デザインの視点から批判的に問い直すことになる。

【到達目標】

受講生はつぎの3つについて、基本用語を使って簡潔な説明ができるようになる。

- 1) 体験するとはどのようなことか
- 2) 人間は、どのように空間を身体で感じ、感情を働かせながら、人との距離や空間を互いに調節し、巧みな空間行動をしているか
- 3) 空間の体験は、その空間のデザインによってどのように変化するか。そして、これらの知識を用いて具体的対象に対して基本を実践できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義と、実際に手を動かすデザイン・ワークショップを組み合わせて展開させる。講義で取り上げる3つのテーマ、およびワークショップの概要は次の通りである。各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回内容のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。

● 【講義の3つのテーマ】

- (a) 身体と感覚、体験すること
- (b) 空間を体験する。道具によって空間の体験を作る
- (c) 身体の観点から、感覚・体験装置を再考する

● 【デザインワークショップ】

さらに上記テーマのうち (b) 空間体験に焦点を絞って、街角のカフェ、店、学校、オフィス空間、住宅内のリビングルームなど具体的な空間を例にとり、デザインワークショップによる実践を通じて理解する。

※新型コロナウイルス感染状況によってワークショップの内容を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。制作など実践の効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の狙い、構成、進め方のガイダンス
第2回	[A] 身体、感覚、体験	体験と身体。自然との境界としての身体・感覚
第3回	感覚と体験	感覚を体験する。直接体験と間接体験
第4回	感情の科学：感情をとともなう体験	感情を体験する。感情を伴う体験のメカニズム
第5回	[B] 人間の空間行動と空間体験のデザイン	カラダで空間を感じる（視・聴・多感覚）
第6回	人間の空間行動	観察しよう。人間が見せる面白い空間行動
第7回	人間の空間行動～パーソナルスペース	空間行動は、文化の中に組み込まれている
第8回	デザインワークショップ1	からだが「空間を体験する」
第9回	[C] 身体から、感覚・体験装置を問い直す	体験 experience から、空間をデザインする
第10回	空間の体験 ～道具によって空間の体験を作る	学校という空間、カフェという場所。空間体験から考え直す
第11回	身体からみた『日本庭園』～日本庭園のふしぎ	身体を覚醒させる装置としての日本庭園。時間的な連続性
第12回	デザインワークショップ2	カフェ、オフィス、学校、[場所]のデザイン、発表と討議
第13回	空間体験の仮想化	現実と仮想体験の融合。スヌーズレン。仮想現実 VR、拡張現実 AR、ミックスリアリティ MR、代替現実 SR
第14回	まとめ：身体、感覚、体験 -revisit-	生きた空間。経験としての芸術。経験の危機

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・デザイン課題、発表のための資料づくりがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回時に指示をする。

【参考書】

- ・「経験としての芸術」(J. デューイ) 講談社学術文庫, 2004
- ・「かくれた次元」(E.T. ホール) みすず書房, 1970
- ・「空間の経験—身体から都市へ」(Y.F. トゥアン) ちくま学芸文庫, 1993

【成績評価の方法と基準】

- ・レポート、作品制作 (50 %)
 - ・コメントシート、発表、討議への積極的な参画、平常点 (50 %)
- この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

履修者からの要望が多い、建築空間での事例研究を増やそうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、コメントシート・課題提出等に学習支援システムを利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

講義を言葉で理解するだけでなく、日常のあらゆる機会をとらえて、身体と感性を駆使して理解しよう。面白い建築を訪ねたり、街の人々の空間行動を新しい視点からウォッチングしたり、日本庭園に仕掛けられた身体体験を批評的に味わったり、間の中で海辺の波音にじっと耳をすます体験が役に立つ。教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

【関連科目】

「道具のデザイン学」「こころの科学」「仮想世界研究」と組み合わせで受講することが望ましい。多角的に洞察できるようになり、面白くなる仕組みになっている。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

P Cおよび、DVDデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用し、講義形式とワークショップを組み合わせた授業を展開する。

【Outline and objectives】

This class allows you to learn "experience" concept and the design of "feeling" and "experience". This year, we will focus on the design of spatial experience.

COT300GA

メディアアートの世界

菊池 司

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアアートの作品世界を知り、自作のプログラムでメディアアートの作品制作を体験しよう

本講義では芸術表現のためのプログラミング言語 Processing のプログラム（スケッチ）基礎を学ぶ。またメディアアート作品の芸術論集を手がかりに、様々な作品例とそれらの構成手法を並行して学ぶことにより、メディアアートのためのビジュアルな表現手法を習得する。また現代的な潮流となりつつある p5.js 環境での Processing 流プログラムの Web 環境での実装についても学ぶ。

【到達目標】

メディアアート作品の鑑賞のための技術的な枠組みと批評言語を理解できる。Processing の制作環境での描画や対話機能を身に付け、メディアアートのための表現手法の基礎を習得する。

IoT や Maker ムーブメントなど Web と現実世界が交差する今日的な環境、身の回りにある生活の道具がネットにつながるこれからの生活環境について理解し視野を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【注意】今学期は情報教室における対面授業は当面できないため、学期中に授業計画を変更していくことが想定され、変更がある場合は学習支援システムで周知する。

●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）

Processing プログラミング環境を活用して、入門書の単元に沿った実習課題に取り組む。習得知識をすぐに応用して理解度確認のための作品作りに取り組む。成果物を自分のスマートフォンなどでも動かしてみる。

● ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション： Processing 入門	Processing とは何か、その開発の経緯と現在の動向を学ぶ。
2	Processing の基礎（1）： 簡単な実例	基本図形の描画など単純な例題から Processing プログラミングの基礎を習得する。
3	Processing の基礎（2）： 基本描画	描画順序を理解する。描画スタイルを学ぶ。
4	Processing の基礎（3）： 変数と制御構造	変数の概念を理解し、繰り返し演算などスケッチの制御構造と使用方法を学ぶ。
5	ユーザーインターフェース 【制作課題 1】	マウス追従、キーボード入力などユーザの GUI 操作をスケッチに利用する技法を学ぶ。 【課題 1】習得した技法を総合して写真コンテンツの Web を制作する。
6	描画の操作：移動、回転、拡大縮小	移動、回転、拡大縮小など描画内容の操作方法、およびそれらの操作を部品化してまとめる技法を習得する。
7	メディアデータの扱い	イメージやムービーなど外部メディアデータの読み込みとスケッチでの利用法を学ぶ。
8	アニメーション：動きの演出 【制作課題 2：学習成果のまとめと Web 化の検討】	動画のトゥイーン技法、ランダム化、時間構造の処理、周期的運動など動画演出の技法を学ぶ。 【課題】学習成果を活用して Processing 作品を制作する。p5.js による Web 化を試みる。

9	関数	関数の仕組みを理解し、各種描画処理や再利用される機能の部品化を学ぶ。
10	オブジェクト 【学期末課題の構想】	オブジェクトの概念を理解し、スケッチ内容の概念的な構造化の考え方を学ぶ。 【課題】学期末の制作物について構想を開始する。
11	配列	配列の概念を理解し、オブジェクトへの適用などスケッチでの使用を学ぶ。
12	外部データ、ビッグデータ	表データ、JSON 形式の外部データ、API 経由でのインターネットの各種サービスデータの利用技法を学ぶ。 【課題】制作物の実装方法の構想発表。マイク音声などリアルタイムデータの取り込み、Arduino マイコンとの連携方法、物理世界との接続を学ぶ。
13	リアルタイムデータ、デバイス連携	学習内容をまとめ、可能な限り網羅的に盛り込んだ作品を制作し、授業内で発表、相互批評する。
14	まとめ：最終課題の発表と相互批評	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディアアートの制作には多くの技術的なポイントがある。これらの問題を取り越えて作品の構成技法を習得するには場数を踏むことが重要です。また授業内で単元として学習する各種の技法を実際のコンテンツ制作に応用する場面ではさまざまな可能性があるため、受講生はかならず授業時間外に自らのアイデアを Processing 作品に応用する練習を行って欲しい。同時に学習成果の表示環境として各自の端末を積極的に検証に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Casey Reas (著)、Ben Fry (著)、船田 巧 (翻訳)、「Processing をはじめてよう 第2版 (Make: PROJECTS)」、オライリー・ジャパン (2016)、ISBN-13: 978-48731117737

【参考書】

【p5.js プログラミング】

Benedikt Gross (著)、Hartmut Bohnacker (著)、Julia Laub (著)、津深貴之 (監修)「Generative Design with p5.js — ウェブでのクリエイティブ・コーディング」、ピー・エヌ・エヌ新社 (2018)、ISBN-13: 978-4802510974

【メディアアートのためのプログラミング】

Hartmut Bohnacker (著)、Benedikt Gross (著)、Julia Laub (著) 他、「Generative Design — Processing で切り拓く、デザインの新たな地平」、ピー・エヌ・エヌ新社 (2016)、ISBN:978-4802510134

【ジェネラティブ・アート】

マット・ピアソン (著)、Matt Pearson (著)、久保田 晃弘 (監修)、沖 啓介 (翻訳)、「[普及版] ジェネラティブ・アートの Processing による実践ガイド」、ピー・エヌ・エヌ新社 (2014)、ISBN-13: 978-4861009631

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の積極性、20%）、中間課題（30%）、最終課題（40%）、相互批評（10%）を日安にすべてを総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目なので過去年度からの気づきはとくにないが、プログラミング初心者にも活用できるよう演習課題を設定し Processing の可能性を理解してもらえるよう優れた作品の紹介に努める。身近に利用できる PC と Web 環境で、学習成果の理解に役立つような授業を目指したい。そのなかで IoT や Maker ムーブメントなどの動向も十分に取入れた内容を盛り込む。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室において授業を行う。各自の PC や携帯端末を実習の検証に活用する。

ePortfolio(HOPS) に学習成果を蓄積する。

【その他の重要事項】

自分できざまな工夫をこらして動きのあるメディア作品を制作するのは楽しいものです。コンピュータとインターネットを自己表現の仕掛けとして使いこなそう。

情報系教員によるクラス授業であり、Web を基盤とする ICT の活用実習、ならびに発見型学習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

実務経験のある教員による授業：

コンピュータ関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピュータを使用したメディア表現手法について講義する。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を履修していることを前提とする。

関連科目：「デジタル情報学概論」、「プログラミング言語基礎」

【Outline and objectives】

This course deals with introduction to creative coding with Processing programming language. In addition, p5.js is practiced to extend presentation and interaction in contemporary web-based context. Students will learn media art in contemporary environment and learn art of programming for creativity as well as creativity through programming.

LANe300GA

英語アプリケーションⅥ

ラスカイル L. ハウザー

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること
 備考（履修条件等）：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Though Canada is the second largest country geographically in the world, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. In the Canadian Life course, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal Peoples, Canadian Arts, Multiculturalism and English/French Culture.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Canadian Life course explores Canadian culture and lifestyle and Canada's development as a nation. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic, (b) Canadian fact sheet questions and answers, (c) a guided topical conversation, and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

This class will be conducted online in principle until further notice. Details will be communicated via the Learning Managing System. Though Canada is the second largest country in the world geographically, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. During the course of the semester, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal peoples, Canadian arts, multiculturalism and English/French culture. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic, (b) Canadian fact sheet questions and answers, (c) a guided topical conversation, and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Canadian Geography	Conversation: 'I'm good at Canadian facts!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #1 Discussion Topic and Presentation
Week 3	Regions of Canada - The Maritimes Slideshow	Conversation: 'I'm a new immigrant to Canada!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #2 Discussion Topic and Presentation
Week 4	Regions of Canada - Quebec/Ontario Slideshow	Conversation: 'The Polar Bear Dip' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #3 Discussion Topic and Presentation
Week 5	Regions of Canada - The Prairies Slideshow	Conversation: 'Canoeing the Nahanni!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #4 Discussion Topic and Presentation

Week 6	Regions of Canada - Western Canada Slideshow	Conversation: 'This weather is amazing!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #5 Discussion Topic and Presentation
Week 7	Canadian Art - The Group of Seven	Conversation: 'Canada's National Sport?' Canada Fact Sheet: Week #6 Discussion Topic and Presentation
Week 8	Canadian Art - Norval Morrisseau	Conversation: 'What's your favourite Canadian city?' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #7 Discussion Topic and Presentation
Week 9	Canadian Music - Celtic Music	Conversation: 'Nova Scotia Bound!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #8 Discussion Topic and Presentation
Week 10	Canadian Music - Leonard Cohen, Buffy Saint-Marie	Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #9 Discussion Topic and Presentation
Week 11	First Nations People	Conversation: 'Canadian exports: I need some help!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #10 Discussion Topic and Presentation
Week 12	First Nations People	Skiing Mt. Whistler' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #11 Discussion Topic and Presentation
Week 13	Multiculturalism	Conversation: 'Quebec City Winter Carnival!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #12 Discussion Topic and Presentation
Week 14	Quebec	Conversation: 'Toronto has really changed!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #13 Discussion Topic and Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation topics are to be researched outside class. A visual component is required for all presentations. Weekly conversations and Fact Sheet questions and answers are to be studied and practiced before class for fluency. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor prior to research. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

Students will be graded on their
 1. Bi-weekly presentations - 70%
 2. Weekly quizzes - 30%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Though Canada is the second largest country geographically in the world, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. In the Canadian Life course, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal peoples, Canadian arts, multiculturalism and English/French culture.

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Mantener y elevar el nivel del idioma español que los alumnos han logrado hasta el momento.

Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible: comprensión y expresión, oral y escrita, gramática y vocabulario.

【到達目標】

Mejorar su capacidad comunicativa en el idioma español.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Planteamiento del curso. Exposición sobre la experiencia con el español.
2	Aplicación	La primavera. Inicio del curso académico y del año laboral. "Ohanami".
3	Aplicación	En la consulta del médico. Síntomas, dolencias, etc.
4	Aplicación	Biografía de personajes históricos.
5	Aplicación	El campo y la ciudad. Cambio de vida de un medio a otro.(Pret. imperfecto) Debate
6	Aplicación	Cocina. Recetas. Platos diversos.
7	Aplicación	De compras. Precios, colores, tallas, etc.
8	Aplicación	Días de muy buena suerte y de muy mala suerte. Debate.
9	Aplicación	La emigración. La vida en el nuevo país.La vuelta a las raíces. Debate
10	Aplicación	Música e idioma de los pueblos originarios de Sudamérica
11	Aplicación	Proyección de una película
12	Aplicación	Cómo cambia la vida de las personas. O no cambia. La lotería.
13	Aplicación	Entrevista a un hispanohablante
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar. 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (50%)

- La participación activa de los alumnos en las clases (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline and objectives】

Maintaining and raising the level of the Spanish language that students have achieved during study abroad program in Barcelona.

The objective that we propose is to prepare students so that those who wish to take the DELE exam can pass it and obtain the corresponding diploma.

We will try to reinforce the language skills as much as possible: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Este curso está dirigido par aquellos estudiantes que han adquirido suficientemente los conocimientos básicos del idioma español. Aplicando sus conocimientos previos y nuevos serán capaces de redactar textos narrativos cortos.

Cambios que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible: comprensión y expresión, oral y escrita, gramática y vocabulario.

【到達目標】

Al finalizar el curso los estudiantes serán capaces de redactar un texto narrativo corto.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

Para conseguir los objetivos trazados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso de los cuentos propuestos en el libro de texto. Además, al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Presentación del curso	Presentación del curso y la explicación de método de evaluación. Exposición de los estudiantes sobre su experiencia con el idioma español.
2	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto. Lectura y análisis del cuento
3	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto. Hablar del club al que integra.
4	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto Redacción de cuando era estudiante de instituto
5	Aplicación "Mis galletas"	Pretérito indefinido Lectura y análisis del cuento
6	Aplicación "Mis galletas"	Hablar sobre lo que se hizo la semana pasada. Escribir un texto usando el pretérito indefinido.
7	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Pretérito perfecto y pluscuamperfecto. Lectura y análisis del cuento
8	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Hablar de lo que se hizo esta semana.
9	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Redacción de un usando el pretérito pluscuamperfecto.
10	Aplicación "El último trabajo"	Lectura y análisis del cuento. Pretéritos de indicativo
11	Aplicación "El último trabajo"	El relativo "que" y "que"
12	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Lectura y análisis del cuento.El reflexivo "se"

13	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Hablar de la comida favorita. Escribir una receta
14	Examen final	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar. 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CUENTAME 8 cuentos para disfrutar aprendiendo español.

Nivel intermedio

Editorial Asahi

【参考書】

Concretamente ninguno

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (50%)
- La participación activa de los alumnos en las clases (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline and objectives】

This course is aimed at those students who have sufficiently acquired the basic Spanish grammar and conversation skills. Applying their previous and new knowledge they will be able to write narrative texts. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as much as possible are below : comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Este curso está dirigido par aquellos estudiantes que han adquirido suficientemente los conocimientos básicos del idioma español. Aplicando sus conocimientos previos y nuevos serán capaces de redactar textos narrativos cortos.

Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible: comprensión y expresión, oral y escrita, gramática y vocabulario.

【到達目標】

Al finalizar el curso los estudiantes serán capaces de redactar un texto narrativo corto.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

Para conseguir los objetivos trazados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso de los cuentos propuestos en el libro de texto. Además, al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Presentación del curso y la explicación de método de evaluación. Exposición de los estudiantes sobre su experiencia con el idioma español.
2	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Lectura y análisis del cuento. El reflexivo "se"
3	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Hablar sobre la comida favorita. Receta de cocina
4	Aplicación "La morcilla"	Lectura y análisis de cuento Introducción al presente del subjuntivo
5	Aplicación "La morcilla"	Hablar sobre deseos y anhelos.
6	Aplicación "La morcilla"	Opiniones sobre diversos temas de la actualidad
7	Aplicación "La morcilla"	Escribir una carta a un amigo.
8	Aplicación "El pintor Nocha"	Lectura y análisis del cuento Futuro/condicional
9	Aplicación "El pintor Nocha"	Hablar sobre su futuro
10	Aplicación "El pintor Nocha"	Hacer suposiciones del futuro.
11	Aplicación "El rabino"	Lectura y análisis del cuento
12	Aplicación "El rabino"	Pretéritos imperfecto y pluscuamperfecto de subjuntivo.
13	Aplicación "El rabino"	Hablar sobre lo que harán con el español aprendido
14	Aplicación	Examen final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar. 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CUÉNTAME 8 cuentos para disfrutar aprendiendo español.

Nivel intermedio

Editorial Asahi

【参考書】

Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (50%)

- La participación activa de los alumnos en las clases (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline and objectives】

This course is aimed at those students who have sufficiently acquired the basic Spanish grammar and conversation skills. Applying their previous and new knowledge they will be able to write narrative texts. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as much as possible are below : comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Mantener y elevar el nivel del idioma español que los alumnos han logrado durante su estancia en Barcelona será el objetivo de cada una de nuestras clases.

Campos que vamos a tratar y destrezas que vamos a intentar reforzar lo más posible: comprensión y expresión, oral y escrita, gramática y vocabulario.

【到達目標】

Mejorar su capacidad comunicativa a través del idioma español.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Planteamiento del curso. Exposición sobre la experiencia con el español.
2	Aplicación	La migración. Latinos en Japón
3	Aplicación	Países muy diferentes. Vida, costumbres, cultura. Debate.
4	Aplicación	Cuentos tradicionales de terror del mundo hispano
5	Aplicación	Proyección de una película.
6	Aplicación	Bromas y equivocaciones graciosas, refranes, etc.
7	Aplicación	Comida peruana. Receta de cocina.
8	Aplicación	El sistema educativo. Debate.
9	Aplicación	Fiestas populares de Japón (obon) y del mundo hispano
10	Aplicación	La coca no es cocaína.
11	Aplicación	Canciones. Letra de algunas.
12	Aplicación	Cantantes de música popular de España e Hispanoamérica.
13	Aplicación	La Navidad El Año Nuevo y sus celebraciones. Tradiciones y costumbres.
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparar las clases y repasar. 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

Concretamente, ninguno.

【成績評価の方法と基準】

- Los exámenes (70%)

- La participación activa de los alumnos en las clases (30%)

秋学期もオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更となり、「オンラインによる平常点（小テストや課題含む）と学期末のオンラインによる課題や試験による総合評価」とする。Con base en este método de evaluación de calificaciones, se aprobarán aquellos que hayan alcanzado el 60% o más del objetivo de logro de esta clase.

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline and objectives】

Maintaining and raising the level of the Spanish language that students have achieved during study abroad program in Barcelona.

The objective that we propose is to prepare students so that those who wish to take the DELE exam can pass it and obtain the corresponding diploma.

We will try to reinforce the language skills as much as possible: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

HUI200GA

情報コミュニケーションⅠ

甲 洋介

サブタイトル：ユーザの体験を考え、デザインする実践ワークショップ

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講状況により選抜することがあります
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体験をデザインする「面白さ」と「奥深さ」を、実践的に学ぶ科目

わたしたちの日常生活はたくさんの道具であふれている。日常生活で出会う道具には文房具のような小さなモノからアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。

このワークショップでは、「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」という2つのテーマに取り組む。道具をデザインするという一見難しく思える課題を、手法の習得と実践の両方をバランスよく配置して、実践的に学べる科目である。

● ユーザーを調べ、道具をもっと使いやすくデザインする

講義の前半では、「道具の使いやすさ」に着目する。

日常に溢れている道具を、人間にとって使いやすいものにするにはどのようにすればよいのか？ その手掛かりは、ユーザの特性と、ユーザに起こっている出来事の的確な理解にある。使いやすさの観点から道具を改良する具体的な方法論を、実習を通じて学ぶ。

● 新しい、近未来の道具をデザインする

講義の後半では、「新しい近未来の道具のデザイン」に着目する。

まだ存在しない未来の道具をデザインするにはどのようにすればよいのか？ その手掛かりはユーザーの潜在的なニーズの把握にある。利用者の生活が豊かになるような近未来の道具を考案し、コンセプトをデザインするための方法論を、実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

「道具をもっと使いやすくデザインすること」と「新しい近未来の道具をデザインすること」、この2つをテーマとして、デザイン手法を実践的に学ぶ。

● 2つのテーマでは学習内容が異なる。各テーマの基礎となる基本的な考え方、理論、調査計画の立て方、評価方法、データ収集方法、分析方法を学び、実践できるようになる

● グループワークの進め方、結果のまとめ方、成果発表の技法を学び、実践できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」、この2つのテーマについて、具体的なデザイン手法の基礎を学び、実践する。授業は、講義とワークショップを組み合わせる。また受講者の学習状況や実践力をコメントシート等によって把握し、進め方に反映する。

● 前半では、身近で気になる道具を1つ取り上げ、利用者にとってより使いやすい道具に改良するための方法論を、実験実習によって実践的に学ぶ。道具の使いにくさの問題現象を分析・整理し、システム改良を行うための認知工学的な方法論とその考え方を、グループワークによる実験実習を通じて習得する。

● 後半では、具体的な利用者の日常生活のある場面に着目し、利用者の生活をさまざまな角度から分析することにより、利用者の生活を豊かにする具体的な道具を1つ考案し、コンセプトを明確化させていく作業をグループワークを通じて行う。

● 各テーマごとに、受講生またはグループによる成果発表の機会を設ける。グループワークや成果発表では、受講生どうしの討議を促すとともに解説を行い、さらに改良アイデアを深められるように工夫する。
※新型コロナ感染状況によってはワークショップの進め方を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。実習やグループワークの実践的な効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「道具の使いやすさ」とユーザー中心のデザイン技法
2	道具の使いやすさ	道具の使いやすさ評価の基本を学ぶ（理論編）

3	道具の使いやすさ評価（実験計画編）	使いやすさ評価実験の計画を立てる
4	道具の使いやすさ評価（準備編）	「道具の使いやすさ評価」に用いる実験手法の実習と、実験準備
5	道具の使いやすさ評価（実験編）	「道具の使いやすさ評価」を実験実習する
6	道具の使いやすさ改良（分析・考察編）	実験データを分析し、それに基づいて道具の具体的な設計改良を考案する
7	道具の使いやすさ改良（提言編）	道具を改良する具体的な提案と資料を準備する
8	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、道具を使いやすくする改良事例を互いに学ぶ
9	デモンストレーション	ヒューマンインタフェースの新しい潮流
10	新しい近未来の道具（ブレインストーミング）	ある具体的な人物の、具体的な生活場面を切り出す
11	新しい道具のデザイン（分析編）	利用者特性と具体的なニーズを分析する
12	新しい道具のデザイン（アイデア編）	要求分析から、道具を発想する
13	新しい道具のデザイン（提言編）	要求分析から、新しい道具の提言を練る
14	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、近未来の道具の発想例を互いに学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。授業時間外に観察や調査の実施、レポート作成などの活動が含まれる。

【テキスト（教科書）】

・「人間計測ハンドブック」第3章（認知心理過程の計測）（朝倉書店、産業技術総合研究所編）2013.

・ユーザインタフェースと認知モデル（甲洋介、人工知能学会論文誌）

【参考書】

・International Encyclopedia of Human Factors and Ergonomics. W. Karwowski (Ed.) 2nd Edition,(Taylor & Francis) 2006.

・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017

・「デザイン思考が世界を変える〔アップデート版〕」（ティム・ブラウン著、早川書房）2019

・「プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する」（JIDA 編、ワークスコーポレーション）2014.

他については講義開始時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

・コメントシート、討議、発表、グループワークにおける貢献度合いなど 50%

・課題レポート、プロトタイプなど制作物 50%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。課題レポートの未提出者は単位認定できない。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションが有益とのコメントを踏まえ、講義とグループ実習を効果的に組み合わせて、より深く学べるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、コメントシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にはアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

本科目では、グループワーク中心の発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

【情報コミュニケーション共通のテーマ】

本学部には、情報コミュニケーションⅠ～Ⅲ、SAにおけるプロジェクト等、文化情報学を实践するさまざまな機会が用意されている。

情報コミュニケーション科目では、文化情報学における重要な主題を選び、その基本となる考え方、課題解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。情報実習室の機材・設備を活用した実験・実習を通じ、ICT活用スキルに加えて、実験の計画、分析、専門文献調査、考察、報告など方法論的訓練を行う。

【前提科目と関連科目】

「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を履修済みであること。

「道具による感覚・体験のデザイン」「こころの科学」を合わせて履修することで、知識と実践の相乗効果が得られる。

「情報コミュニケーションⅡ・Ⅲ」と合わせて履修する事で学習効果が得られる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

情報実習室で開講する場合は、PCおよび、DVDデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を使用する。

【Outline and objectives】

This class provides you with a unique "Design Workshop" which allows you to actively learn: (1) how to re-design everyday artifacts by the "User-centred Design" methodology, and (2) how to create ideas of conceptual designs of a near-future artifact.

COT200GA

情報コミュニケーションⅡ

和泉 順子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：実習設備の許容人数を超えた場合に行う
 備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化研究と成果発表の方法を身に付ける

【情報コミュニケーションⅠ～Ⅲ共通テーマ】

文化情報学のいくつかのテーマについて情報スキルの重点的訓練を行う。コンピュータ設備を用いた実験・実習を通じて実験計画・結果分析・専門文献調査・考察・報告など方法的訓練を行う。

【情報コミュニケーションⅡの学習の目的】

本講義の前半において、Study Abroad 環境すなわち在外環境におけるネットワークの実践的スキルと問題解決の方法を学ぶ。本講義の後半では、文化情報編集のツールを取り上げる。Weblog や Web サイト構築、小冊子の編集を例に、SA 等の在外環境も含めた総合的な情報発信の有効性を学び、Web 環境での有機的な情報共有を体験することを目的とする。

【到達目標】

SA や卒業研究などのフィールドワークにおける異文化研究を成功させるために、文化情報の調査研究の方法論を身に付ける。インターネット環境を十全に活用し、学習成果を公開し蓄積する。現地調査で得られた知見や体験をリアルタイムに共有することでネット社会にフィードバックできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半に在外環境におけるインターネットの実践スキル、調査研究の方法論を学び、その上で情報機器を用いた文化研究成果の発信と共有を試すことになる。全体を通して SA 等で収集したデータや研究成果の取りまとめを念頭に、何を文化研究するかを考え続けるクラスとして機能させることを目指す。在外環境での活動を想定した課題実習や協働学習を取り入れる。課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる予定である。授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。春学期の少なくとも前半はオンライン併用での開講が予想される。学期途中での授業形態の変更やそれにとまう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（全体） インターネットの仕組み	科目内容のガイダンス（全体） インターネットの仕組みを復習し、現状の使われ方（IP アドレス枯渇とその対応技術、無線 LAN の利欠点等）を学ぶ。
2	ネット社会の情報構造	IP アドレスの種類やドメイン名との関係、名前解決の仕組みを理解し、ドメイン情報を実習により確認する。
3	情報活用のための実践知識（1）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題を考える。
4	情報活用のための実践知識（2）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題と対処法を学ぶ。
5	ネットワークスキルのまとめ	ネットワークスキルの学習成果をクラス討議を通じて総括し、外国での快適な情報活用のポイントと問題点を理解する。
6	フィールドワーク入門	現地での文化研究とは何か、在外環境での調査法について理解を深める。研究計画の立て方を学ぶ。
7	文化研究にむけての準備	各受講者による文化研究の個人テーマを持ち寄りクラス討議によりアイデア出しを行う。以後の授業では調査テーマや方法論についてのブラッシュアップを継続する。

8	学習成果の蓄積・共有方法の検討	在外環境での Web ベースの情報活用の有用性を認識する。SA での研究活動の検討着手。
9	学習成果の公開方法の検討	研究テーマに沿った調査計画とその中間報告を行う。SA 個人研究テーマのクラス討議。
10	学習成果の公開とその対応	調査研究の結果は、誰を対象にどのように公開するのかを検討し、準備する。
11	情報共有の手法	調査研究途中での各研究テーマのデータ蓄積やコメントの共有手法を確認する。SA 個人研究の問題点把握とグループワークの検討。事前調査事項の洗い出し。
12	情報活用の応用と具体的な制作	具体的な成果物（研究成果の公開）制作に取り組む。SA 研究計画の事前検討結果と問題点の報告。
13	研究計画の確認と成果の公開	事前に立てていた研究計画の確認と同時に調査研究成果を公開し、互いに議論する準備を行う。SA 研究計画の詳細化と最終的な検討。
14	全体のまとめ	学習成果の発表。事前学習成果と SA 研究計画との接続。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実験実習科目」として、いずれの担当においても教室外での課題活動が含まれる。具体的には以下のような課題を通して、適宜学習することが求められる。

1. (SA 準備として) 個人研究テーマの構想着手、在外インターネット環境の事前調査
2. 学外、学内でのインターネット接続、Web アクセス
3. 各種トラブルシューティング、レポート作成
4. (必要に応じて) Web 外部公開申請書提出、個人研究テーマの検討
5. 学外からの学内サービス（図書館の文献検索を含む）の確認
6. 授業内の未了実習項目の完了、個人研究の計画書、携行 AV 機器の準備着手
7. 個人研究、グループワークの実施計画の検討ミーティングと報告書作成
8. 学外における調査研究データの蓄積・管理・共有の確認、研究課題検討ミーティングの続行と報告書作成、検討結果にもとづく事前調査

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

佐藤郁哉、「フィールドワーカー書を持って街へ出よう」、新曜社；増訂版（2006/12/20）ISBN 978-4788510302
 水谷正大、「インターネット時代のコンピュータリテラシー」共立出版（1996）、ISBN4-320-02842-2

【成績評価の方法と基準】

授業参加（30%）、コンテンツ作成（40%）、実習課題（20%）、発表（10%）を目安とする。
 この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

情報機器やネットワーク環境など、実際の在外学習環境は年々変化する。これらの変化に対応して実習や事前学習の内容の改良を続ける。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上の資料を使用して進める。
 オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、PC を用いて作業することを前提とする。

最終課題となる発表や授業の補足は Zoom あるいは Webex を用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
 したがって、授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

SA をはじめ、フィールドワークとしての研究課題は文化情報の実践的研究の場であり、本講義はその有効な事前準備としても役立つものです。
 Web を基盤とする高度な ICT の活用実習ならびにグループワーク中心の発見型学習を通じて、本科目では学生の就業力育成を支援します。

【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を前提とする。
 SA 環境での実習内容と密接に関連するので「ネットワーク基礎」を並行履修すること。

【Outline and objectives】

In the first half of this class, you will learn practical skills and troubleshooting tips of digital network communications.
 The second half of this class will cover how to use some tools for editing cultural information.

DES200GA

情報コミュニケーションⅢ

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：席数を超えた場合選抜
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報コミュニケーションⅢ」は、情報デザインに関する入門的、実験的な実習授業です。ロゴタイプやシンボルマーク、ピクトグラムやイラストレーションなどのデザインやアートに関わる基本的なトレーニングを行います。作品制作と並行して行う毎回のレクチャーを通じて、デザイン概念と視覚言語に関する理解を深めます。対面授業では、多くのアーティストやデザイナーに使用されているクリエイティブ系ソフト Adobe Illustrator、Adobe Photoshop の基本的な使い方を学びます。（授業を遠隔で実施する場合については、手描きもしくは Powerpoint で代用します。）

【到達目標】

作品制作を通じて、人と人とのコミュニケーションを円滑にする視覚表現の基礎的なトレーニングを行います。加えて創作活動全般にも通じるクリエイティブな造形表現に必要な知識や感覚、技術を養います。絵を描くことに苦手意識のある人や、デジタルでの写真加工やデザイン制作が初めての人も難しく考えずに、積極的に手や体を動かすことで作ることの楽しさを体験します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。この授業では視覚言語の基本となる

1. ロゴタイプとシンボル（タイポグラフィについて）
2. ピクトグラム（インフォグラフィックスについて）
3. イラストレーションとデザイン（グラフィックデザイン）

の3つのテーマで、課題制作を進めます。課題に取り組む際には課題の意義や進め方について講義します。また課題制作のためのポイントとなる点や描くための材料や道具、ソフトの使い方について説明をします。各課題の最後にはお互いの作品を鑑賞し（プレゼンテーション）、講評会（フィードバック）を行います。

授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。
・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）
・Zoom（ミーティング）
・Google Classroom、Google Form（課題提出と課題に関するすべてのフィードバック）
・Miro（コラボレーション）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明 教科書・参考資料 評価基準など
2	ロゴタイプとシンボル 1/3	課題の説明、講義 タイポグラフィについて
3	ロゴタイプとシンボル 2/3	課題制作 1 文字による表現
4	ロゴタイプとシンボル 3/3	課題制作 2 図形による表現
5	ピクトグラム 1/3	課題の説明、講義 インフォグラフィックスについて
6	ピクトグラム 2/3	課題制作 1 色彩について
7	ピクトグラム 3/3	課題制作 2 複雑な図形
8	作品の講評	作品のプレゼンテーション 講評 次回の課題説明
9	イラストレーションとデザイン	課題制作 1 デザインのアイディア

10	イラストレーションとデザイン	課題制作 2 デザインに必要な要素
11	イラストレーションとデザイン	課題制作 3 レイアウトと構図
12	イラストレーションとデザイン	課題制作 4 作品の仕上げ 1
13	イラストレーションとデザイン	課題制作 5 作品の仕上げ 2
14	作品の講評	作品のプレゼンテーション 講評 授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

街の中のサインやポスター、本や雑誌、様々なプロダクツなどについて、視覚的な情報伝達の方法やデザインの工夫などを意識して読み解いてください。大学近郊の美術館やギャラリーなどで、さまざまな作品を鑑賞するのも良いと思います。

また、人工物だけでなく自然物にも目を向け、美しいと思う物をスマホやデジタルカメラ等で撮影しストックしておいて下さい。制作の材料として使用します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

永井 弘人「デザイナーになる！ 伝えるレイアウト・色・文字の大切な基本と生かし方」エムディエヌコーポレーション
原研哉「デザインのデザイン」岩波書店
ロビン・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」マイナビ出版
坂本伸二「デザイン入門教室〔特別講義〕確かな力を身につけられる ～学び、考え、作る授業～」SB クリエイティブ

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ソフトの操作や専門用語について、わかりやすく解説してきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

PC、スマートフォンの他、スケッチブック（ノート可）や鉛筆など、絵を描くための材料が必要となります。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）
2021 年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境
PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。みなさんの受講環境が一定でないため、講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、10-15 分程度のを 2、3 本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い
対面授業とオンライン授業では学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。ただし、大学と自宅での受講環境の違いを考慮し、使用するソフトなどが変わることになります。

課題
受講後、Google Form でデザインの实習課題と簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価
実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。
質問・相談
質問や相談については Google Classroom を使ってください。
オンラインミーティング・講評会
リクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【Outline and objectives】

This course is introductory and experimental on design and art. Learn basic usages of creative software, such as Adobe Illustrator, Adobe Photoshop which are used by many artists and designers.

Moreover, students experience design creation such as logotypes, symbol marks, pictograms and illustration.

Students also deepen their understanding of visual language through lectures concurrently with creating artworks.

FRI300GA

情報アプリケーション I

重定 如彦

配当年次／単位：3～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考(履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットの発達により、ウェブページを取り巻く技術は近年ますます発展しており、その重要性も増している。近年では、どのような職業であれ、ウェブページの技術と無縁の職業はありえないと言っても過言ではないだろう。ウェブページを記述する HTML は近年新しいバージョンが作られ、その表現力が増している。本授業では最新の HTML5 をベースに、CSS や Javascript などを用いて表現力の高いウェブページを作るための技法について学ぶ。Javascript や CSS の技術を使えば、アニメーションを表示することも簡単にできるようになっている。最終的には HTML5 を使って簡単な 3D グラフィックスを表現する方法を学び、迷路のウェブページを構築できることをめざす(完成例としては <http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/software/maze/maze.html> を参照のこと。3D の迷路を見るにはページの「webgl を使って描画する」をチェックする。

【到達目標】

ウェブページを記述する言語である HTML について理解し、自分でウェブページを作成できるようになる。
CSS を使って表現力の高いウェブページを作成できるようになる。
Javascript を使って動きのあるウェブページを作成できるようになる。
Three.js を使って 3D グラフィックスを使ったウェブページを作成できるようになる。
インターネット環境で応用力のある豊かな情報発信能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
授業の前半で HTML などに関する説明の講義を行い、授業の後半でテキストエディタとウェブブラウザを用いて実際にウェブページを作成する実習を行う。
学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	HTML5	HTML5 とはどういうものかについて学ぶ HTML の基礎知識について学ぶ
2	タグその 1	見出し、段落、箇条書きなどの HTML の基本的なタグについて学ぶ
3	タグその 2	その他の HTML の代表的なタグについて学ぶ
4	CSS	スタイルシートについて学ぶ
5	Javascript	Javascript の基礎について学ぶ
6	Javascript を使ったグラフィックス	HTML の Canvas タグと Javascript を使ったグラフィックスについて学ぶ
7	Three.js	Javascript の 3D グラフィックスのライブラリである Three.js について学ぶ
8	3D グラフィックスの基礎	3D グラフィックスの基礎について学ぶ
9	3D グラフィックスアニメーション	3D グラフィックスのアニメーションについて学ぶ
10	迷路の表現方法	コンピュータで迷路をどのように表現するかについて学ぶ
11	迷路の 2D グラフィックス	コンピュータで表現した迷路を 2D グラフィックスで表現する方法について学ぶ
12	迷路の 3D グラフィックス	コンピュータで表現した迷路を 3D グラフィックスで表現する方法について学ぶ

13	迷路の自動生成	ランダムな迷路をコンピュータに自動生成させる方法について学ぶ
14	迷路の中を動き回る	コンピュータが作成した迷路内を動き回る方法について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、授業が終わった後に復習を行うこと。
また、最終課題として自分のオリジナルの迷路のページを作成する課題を課すので、各自締切（最後の授業の 1 週間後）までに制作を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10% 課題 40% 最終課題（迷路の課題） 50%

課題は授業内で適宜指示する。

最終課題をもって定期試験の代わりとするので、試験は行わない。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを使って授業を行う。

【その他の重要事項】

プログラミングやウェブページ関連の授業を受講していることが望ましいが、やる気があればプログラミングの経験が無くても歓迎する。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire skills and knowledge about web technology such as HTML5, CSS and Javascript.
At first, this class learns about HTML5 and CSS, and create simple web page. Next, this class learns about javascript and create a interactive web page of 2D maze game. Finally, this class learns about webgl technology and create web page of 3D maze game.

HUI200GA

こころの科学

甲 洋介

サブタイトル：こころが生み出す「体験のリアリティ」

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● 感動の想い出は、なぜかスローモーション

あなたが日々体験している「あなたのこころがはたらいている、という実感」を手掛かりにして、「こころ」という不思議なはたらきと、その面白さを様々な角度から理解することを目指す科目である。

● 「こころ」がはたらいている、と実感するのはどんな時？

「こころ」とはいったい何だろう。「こころ」についてよく知っているつもりなのに、いざ説明しようとするとうまく説明できない。なぜなら、ふだん私たちは、自分の「こころがはたらいている」ことをあまりにも当然に考えているから。

しかし、「こころ」がうまくはたらかない時や、あなたにとって初めての事、思いもよらない事に出会った時、その「存在」に気づかされる。よく観察すると、世の中は「こころ」によって予想外の現象が実に多く発生している。

● 「こころ」とはいったい何だろう

「こころ」のしくみを理解する上で基本となる「感情がわく」「気づく」「覚える」「わかる」「誤る」「問題を解く」に着目し、解説を加える。学術的な説明の前に、一人ひとりの「リアルなこころの体験」を整理することから出発しよう。大切なのは、こころがうまく機能している状態だけでなく、上手くはたらかない現象にも光をあてる、ことである。

ロボットや人工知能の分野では「こころを作ってみる」試みが急速に進む。一方で、「こころ」の探求は、単一の学問領域だけで本質に迫るのは難しい。心理学に加え、脳科学、人類学や言語学など様々な角度からアプローチが試みられ成果を上げている。「こころの科学」では、関連領域の知見を踏まえ、学際的な視点から「こころの科学」の基礎を学ぶ。

【到達目標】

・感情がわく、気づく、わかる、覚える、誤る、問題を解く等、「こころ」のしくみを理解する上で基本となる事柄について、その要点を説明できるようになる

・感情の役割、アフォーダンス概念など、講義で解説される基本主題について、それらが「こころの理解」にどのような新たな視点を与えるのか、その意義を簡潔に述べることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

「こころ」のはたらきとして、感情がわく、気づく、覚える、わかる、誤る、問題を解く、に着目し、関連分野の知見を整理して一つ一つ解説を加える。学術的な説明だけでなく、一人ひとりの「リアルなこころの体験」を整理することにも力点を置く。

こころがうまく機能している状態だけでなく、こころが上手くはたらかない現象にも着目する。たとえば、「記憶する」だけでなく「忘れる」重要性、「わかる」だけでなく「間違える」プロセスにも着目する。それによって「こころ」の理解は面白くなるし、奥深さを学べる。

各講義の最初に、受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説を行い、また後半はできる限り受講生どうしの討議の機会を設け、受講生の理解がさらに深まるように工夫する。

※新型コロナ感染状況によって授業の進め方を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義のアウトラインと進め方
2	こころについて、どのような理解を目指すのか	「こころのはたらき」を理解するための枠組みを、準備する
3	気づく、対象を捉える、気づいていないのに分かっている	感覚から知覚、知覚から認知へ、意識、潜在認知
4	間違える、「間違え」から分かるこころ	誤りの心理学

5	覚える、忘れる、わたしが「私」であり続ける不思議	記憶のしくみ、誤って覚える、忘却する
6	わかる、知らない、わからない	概念の形成、知識獲得と学習、言語の役割
7	考える、問題を解く	『問題』とは何か、問題解決する、推論する
8	感情が生まれる、感情をはたかせる ～感情の役割の発見へ	感情の彩り、人類に共通する感情、感情を生み出す仕組み
9	感情に促される、影響される、感情があふれる、生まれない	感情の果たす役割、感情の障害
10	脳からみた、こころ 人工物ではたらく、こころ	ニューラルネットワークと、人工知能
11	環境に拡がる、こころ	生態学的視覚論（ギブソン）の基本的な考え方
12	生態学的知覚論という挑戦	アフォーダンス、生態学的視覚論からの問題提起
13	社会・文化に埋め込まれた、こころ ～個人から社会の視点へ	状況に埋め込まれた学習、正統的周辺参加、社会的実践としての学習
14	総合討議と、まとめ	「こころ」について再考する ～こころの哲学から、ゲストをお迎えして

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コメントシート作成を含め、準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

・日常と非日常からみる こころと脳の科学（宮崎真ほか著、コロナ社）2018
・環境に拡がる心―生態学的哲学の展望（河野哲也著、勁草書房）2005

【成績評価の方法と基準】

・コメントシート、討議への参画、小レポートを含む平常点 40%

・課題レポートまた期末試験 60%

を総合的に評価し、評定を決める。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実際の現象を理解しやすいように、できる限り実験例や具体例の提示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

コメントシート、課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後に確認すること。

【関連科目】

・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」と組み合わせて受講すると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。
・「こころとからだの現象学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる。

【Outline and objectives】

This class allows you to learn basics of science of the mind. It also aims to provide you with a new perspective of the mind,by re-examining your real-world experiences in your "mind".

FRI300GA

ゲーム構築論

重定 如彦

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、情報学を適用したモノづくりの面白さと難しさをコンピュータゲームのモノづくりを通して学ぶ。コンピュータにはワープロ、メールソフト、ウェブブラウザ、ゲームなどありとあらゆるソフトウェアがあり、我々は日々それらの他人が作成したソフトウェアを利用しているが、これらのソフトウェアが実際にどのようにして作られているかについて知っている人はあまりいないのが現状である。そのためコンピュータで何かを行う場合、他人の作成したソフトウェアを探して利用する必要があるが、そのようなソフトウェアが見つからなければあきらめるしかない。

実際にはプログラミングを学ぶことで、簡単なソフトウェアであれば必要に応じて自分で作ることができるようになる。つまり、コンピュータのソフトウェアの消費者から、コンピュータのソフトウェアの生産者になることができるようになるのである。

日常にあふれるコンピュータのソフトウェアはどのようにして作られているのか？ 本授業ではソフトウェアの中でも親しみやすいコンピュータゲームのプログラミングの観点から具体的な方法論を、実験実習を通じて学ぶ。

コンピュータゲームの題材としては主に、**占いや数当てゲーム**などの初歩的なものからはじめ、最終的には**マインスイーパー**や**テトリス**などの知名度の高いゲームを扱う予定である。

【到達目標】

コンピュータゲームのモノづくりを通じてコンピュータのソフトウェアがどのようにして動いているかを理解し、自分の力で簡単なソフトウェアを作り出すことができるような実践的な能力を身に付けることを目指す。

2015 年度の本授業の学生の作品を e ポートフォリオにまとめておいたので、以下のアドレスから参考にしてほしい（TABS→ ページの順でクリックすると一覧を見ることができる）。<http://vp.fic.i.hosei.ac.jp/mahara/group/view.php?id=188>

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業ではコンピュータプログラミングの入門用語として Javascript を用いたソフトウェア制作の実習を行う。様々なソフトウェアの制作を通じてプログラミングの基本となる考え方、課題、解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。

前半では、「占い」、「数当てゲーム」といった簡単なゲームを扱うことによってプログラミングの基礎を学ぶ。

後半では「マインスイーパー」や誰もが知っている「テトリス」などといった複雑なゲームを扱うことでコンピュータのソフトがどのような考え方によって作られているかについて学ぶ。

実際に取り上げるゲームの題材は学生の興味と理解に合わせて臨機応変に取り上げる予定であり、学生の要望によっては他の題材を取り上げる可能性もある。下記の授業計画は上記の題材を取り上げた場合の計画である。

授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法をとる。

学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	プログラミングとはどういうものかについて学ぶ。Jaascript の基礎について学ぶ
2	占い	変数、乱数、条件分岐について学び、占いのゲームを作成する
3	数当てゲームその 1	変数を使って回数を数える方法について学び、数当てゲームを作成する
4	数当てゲームその 2	数当てゲームを完成させる

5	マインスイーパーその 1	配列変数について学び、マインスイーパーの盤面をどのように表現するかについて学ぶ
6	マインスイーパーその 2	グラフィックスについて学び、マインスイーパーの画面の表示方法について学ぶ
7	マインスイーパーその 3	マウスイベントについて学び、画面上をクリックすることによってマインスイーパーのマスを開く方法について学ぶ
8	マインスイーパーその 4	マスを開いた際の処理、旗の処理、ゲームのクリアの判定方法について学ぶ
9	マインスイーパーその 5	マインスイーパーを完成させる
10	テトリスその 1	テトリスの盤面を表現する方法、様々な種類のブロックをどのように表現するかについて学ぶ
11	テトリスその 2	ブロックの移動、回転の方法について学ぶ
12	テトリスその 3	ブロックがくっついた時の処理、ブロックを消す方法について学ぶ
13	テトリスその 4	ブロックを時間経過によって移動させるというアニメーションの手法を学ぶ
14	テトリスその 5	その他、点数、ゲームオーバーなどテトリスに必要な機能を実現する方法について学び、ゲームを完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布する資料の予習復習し、各自制作の実習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回 Word の資料を学習支援システムで配布する

【参考書】

必要に応じて授業内で説明する

【成績評価の方法と基準】

平常点 10% 課題 90%

課題は授業内で適宜指示する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

進め方が早すぎてわからなくなることがあったという意見があったので、早くなりすぎないように注意したい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。授業は、教卓機パソコン画面上のテキストを使用し、各種ソフトウェア等を用いて進める。

【その他の重要事項】

熱意があればプログラミングの未経験者でもテトリスを完成させることが可能です。プログラミングやコンピューターゲームに興味がある方ぜひ受講してみてください。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn the enjoyment and difficulty of creating computer software by applying informatics.

The theme of computer software is entertainment. Starting from simple fortune telling software, this class deals with number guessing game, minesweeper, and tetris.

PHL300GA

こころとからだの現象学

森村 修

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

こころとからだの関係を考える

あなたたちには「こころ」が「あります」か？多くの人が「こころがある」と答えると思います。それでは、次の質問です。「それでは、あなたが言うように「こころがある」ならば、それは「どこにあります」か？」。ほとんどの人が「頭にある」、より正確には「脳にある」と答えるかもしれません。それでは、「こころが頭（脳）にある」ならば、こころと脳とは、どのように関係していますか？。「こころがある」と答えた人に質問します。それでは、「こころは見えたり触れたり、知覚できたりしますか？」。もしも「こころ」が見えたり触れたりできないのに、あなたはどのようにして「ある」と言えるのでしょうか？あなたは「自分で体験しているから」と答えるかもしれません。それでは、「自分で体験するから」「こころはある」のですか？それでは尋ねますが、「あなたの体験は、あなたの「どこで」するのでしょうか？こころで体験するのですか？からだで体験するのですか？

私たちは、「こころがからだにある」とか「こころを持っている」と日常生活の中で疑問を持たずに漠然と信じています。ただ、哲学はこうした常識を徹底的に疑います。何も前提にしないこと、それが哲学的立場としての「現象学」のモットーです。そこで「こころとからだの現象学」という本科目は、「こころとからだ」を考え、それらがどのように結びついているのか（結びついていないのか）について徹底的に追求していきます。

「こころ」は存在しない

人間が思考する能力が始まって以来、「こころ」（魂）について徹底的に考えられました。それにもかかわらず、「こころ」を十分に理解できたという学説は、自然科学も含めて存在しません。いまだに、「こころ」と「からだ」の関係すら明らかになったとは言えません。「こころとからだの現象学」では、「こころの哲学」の歴史から様々な哲学者の見解をおさらいし、「こころの哲学」が具体的にどのような問題に取り組んできたかを学びます。そして、20 世紀後半から現在に至るまで、認知科学や「こころの科学」と言われる分野と交流をしながら、新しい「こころとからだの哲学」を学んでいきます。

2021 年度は、新進気鋭の若手哲学者マルクス・ガブリエルの「私」は脳ではない—— 21 世紀のための精神の哲学」（2019）を取り上げ、「こころ」と「脳」との関係を考えていきます。

【到達目標】

- ・「こころの哲学」の歴史を学ぶことにより、「こころとからだ」の関係について、哲学的に説明できるようになる。
- ・哲学的な立場としての「現象学」の基礎を学ぶことができる。
- ・「こころとからだの現象学」を通じて、科学的にアプローチする「こころの科学」との関係性を明らかにすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

本科目は、原則的には講義形式で行いますが、人数が多くない場合は演習形式も取り入れていきます。必要に応じて受講生たちから積極的に意見を聞くなどして、受講生 1 人ひとりが自分の「こころとからだの関係」に対して自覚的になるように、授業を進めます。というのも、**現象学という哲学の立場は、主観的体験を重視し、自らの体験に基づいて哲学的な問いを立てていく哲学の立場**だからです。

【授業の方法】

授業は、基本的には、ガブリエルの本に即して授業をしていく予定です。事前に必要な箇所を読んで、授業の準備をしてくださると理解が進みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 講義の概略と進め方	こころとからだについての基本的な考え方
2	序論 (1)	ガブリエルにとって、「精神」とは何か？ ——意識の哲学と神経哲学
3	序論 (2)	精神の自由を守るために ——脳中心主義批判

4	第 1 章 (1)	「精神哲学」では何をテーマにするのか？ —— Philosophy of Mind（こころの哲学）は本当に「こころ」を扱うか？
5	第 1 章 (2)	精神哲学と社会との関係 ——社会的存在としての人間
6	第 2 章 (1)	意識とは何か？ ——意識はどこから来るのか？
7	第 2 章 (2)	意識は科学で解明できるか？ —— 神さまの視点
8	第 3 章 (1)	自己意識とは何か？ ——「私」は誰？
9	第 3 章 (2)	脳は「私」と呼べるか？ ——コンピュータと脳
10	第 4 章 (1)	「私」とは誰？ ——「私」は物質である
11	第 4 章 (2)	「私」の知らない「私」 ——無意識は「私」なのか？
12	第 5 章 (1)	「自由」の主体とは何か？ ——「私」は自由か？
13	第 5 章 (2)	精神の自由を確保するために ——人間に尊厳はあるか？
14	総合討議と、まとめ ——授業内レポート	ガブリエルの「精神の自由」は養護可能か？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストとして提示しているガブリエル『「私」は脳ではない』を事前に読んで、簡単なレジュメを書いて、提出できるように準備しておいてください。レジュメの形式などについての諸注意は、最初の回にアナウンスします。
- ・レジュメには、疑問・質問などを、三つ以上書くようにしてください。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

マルクス・ガブリエル『「私」は脳ではない—— 21 世紀のための精神の哲学』、講談社選書メチエ 710、2019 年（必須）2100 円＋税

【参考書】

- ① Markus Gabriel, ICH IST NICHT GWHIRN: Philosophie des Geistes für das 21. Jahrhundert, ullstein, 2015. (ドイツ語)
 - ② Markus Gabriel, I AM NOR A BRAIN: Philosophy of Mind for the Twenty-First Century, 2017. (英語)
 - ③ Markus Gabriel, Pourquoi je ne suis pas mon cerveau, Traduit de l'allemand par Georges Sturm avec la collaboration de Sibylle M. Sturm, JClattès, 2017. (仏語)
- ※これらは、テキストの原書（ドイツ語）、英訳、仏訳です。これらについては、授業内で随時コピーして配布する予定です。
- これ以外にも、ガブリエルの本として
- ④マルクス・ガブリエル『なぜ世界は存在しないのか』講談社選書メチエ 666、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (40%：討議への参加、レジュメを含む)
- ・課題レポート (60%)。

以上を総合的に評価し、評定を決める。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

※リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準に変更がある。

【学生の意見等からの気づき】

「こころとからだ」の関係について考えることは、簡単なようでとても難しいので、なるべく具体的な経験をもとに議論を進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパー、課題提出等に授業支援システムを利用することがある。授業前後に確認すること。

【関連科目】

・「こころの科学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる（甲先生）。

・「文化情報概論」や「文化情報の哲学」などと基本的なモチーフは共有しているので、これらとともに受講することが望ましいです。「概論」はこころとコミュニケーションの関係をテーマにしていますし、「文化情報の哲学」は、東洋思想の観点から「こころ」と「からだ」の探究をします。

【Outline and objectives】

In this class, through the history of "phenomenological philosophy", we will confirm how "the relationship between mind and body" has been discussed and examine what kind of problems the phenomenological philosophy has tackled concretely. And from the latter half of the 20th century to the present, we will learn a new "phenomenology of mind and body" evolving under the influence of cognitive science and "mental science".

HUI200GA

道具のデザイン学

甲 洋介

サブタイトル：うまくデザインすると、暮らしがもっと楽しくなる
配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：ヒューマンインターフェイス論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

旧：ヒューマンインターフェイス論の修得者は履修不可

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● 道具をうまくデザインすると、暮らしはもっと心地よいものになる

日常生活を観察すると、私たちはさまざまな道具に囲まれている。人間は道具を次々に作り出すことによって身体的・感覚的・知的な限界を超えてきた。しかし現実には甘くない。高齢者や初心者をはじめ、使い方がよく分からないので新しい道具を諦めてしまう例も多いのである。暮らしの道具を使いやすくすることは、その人の生活をもっと豊かで快適なものにすることに直結する。道具のデザインは重要である。

● では、どうデザインするか？

それには基本がある。本講義では、道具を利用者にとって使いやすく、魅力的なものにするための方法論「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方から、デザイン手順までを実践的に学べる。それは、デザインする際の主役である「ユーザ」について深く理解し、特性を分析する作業から始まる。

「モノづくり」、特に道具・家具・文具のデザインに興味のある皆さんの参画を期待する。

文化や特性が異なるために摩擦が生じるのは人種や民族間だけではない。ロボットを始め、人が造った人工物と人間も、材質や見かけだけでなく、知的能力、言語コミュニケーション能力、感覚、情動などさまざまな側面において異なっている。このため、人工物と人間の間でも様々な摩擦が生じる。このことを学ぶことは、これからの社会にとって重要な、人と人工物の共生の問題を考えることにも繋がっていく。

● ある時代をリードする道具をどのようにデザインするのか。このことが文化を築く視点から見た時、きわめて重要な問題であることに受講生は気づくだろう。このような発展的な課題について考える基礎も身につくはずである。

【到達目標】

デザイン手法の基礎知識を身につけ、魅力ある企画書を作ってみよう！

・使いやすい道具をデザインするための方法論、「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方、デザインの基本原則から、ユーザ特性の分析方法、デザイン手順まで、実践的に説明できるようにする。
・最終課題に取り組むことで、道具・商品・サービスのデザイン案を、利用者のエクスペリエンス (experience=体験) の観点からデザインし、企画書を提案できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

日常生活を豊かで暮らしやすくする「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」*User Experience Design* を、基本から実践までを体系的に学ぶ。各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。発表会では受講生どうしの討議を促すとともに解説を行い、さらに改良アイデアが得られるように工夫する。

● 前半は、道具のデザインの基本的な考え方を学ぶ

暮らしの中の道具をもっと使いやすいものにするには、まず人間の興味深い特性を知ろう。たとえば、人間は覚えたことをすぐに忘れる。思い込みによって深刻な誤りを起こすこともある。人間のそういった諸特性を考慮してデザインすると、道具に囲まれた日常の暮らしがもっと楽しいものになる。

● 「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の手法を学び、実践する

後半では、具体的なデザイン方法論の基本から実践手順までを学ぶ。受講生それぞれが、日常生活を豊かに暮らしやすくする道具・商品・サービスをテーマに、デザイン実習に取り組む。

※新型コロナ感染状況により進め方を修正する場合は、学習支援システム等で周知する。その際も実践的な学習効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	『暮らし』をシナリオに書いてみよう	日常生活の道具に着目し、「暮らしのシナリオ」を描く
2	なぜ使いにくいモノが暮らしにあふれるのか	デザイナーだって、利用者に喜んでほしい
3	使いやすい道具は生活を快適にする	決め手は、ヒトと道具のコミュニケーションのデザインだ
4	ユーザの心理学	ユーザの認知過程・道具の「使いにくさ」を科学的に解析する
5	ヒューマンエラー	ヒトは間違えやすく、思い込みが強く、新しい事をなかなか覚えられない動物である
6	道具の使いやすさ	「使いやすさ」を定義する。ユーザビリティの国際規格
7	「人間中心のデザイン手法」 <i>User-Centered Design (UCD)</i> ①	ユーザの特性を理解し、体験 (<i>experience</i>) をデザインする、という考え方
8	「人間中心のデザイン手法」②	<i>UCD</i> の基本原則を学ぶ
9	「人間中心のデザイン手法」③	デザインの流れと、具体的な手順
10	道具のデザイン実習①	魅力ある商品の企画書を作る
11	道具のデザイン実習②	ユーザ・ニーズとシナリオに基づくデザイン
12	道具のデザイン実習③	ユーザの快適な体験 (<i>experience</i>) をデザインする
13	道具のデザイン実習④	道具の使いやすさの評価技法
14	デザイン案の発表会	受講生によるデザイン案の発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で学習した方法論に沿ってデザイン実習を行い、その成果を企画提案レポートとして仕上げる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・「誰のためのデザイン」(D.A. ノーマン、新曜社) 2015

・「人間計測ハンドブック」(甲ほか、朝川書店) 2013

他については適宜指示する。

【参考書】

・「ユーザーインタビューをはじめよう」(ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社) 2017

・「ユーザビリティエンジニアリング」(樽本徹也、オーム社)2014

・NPO 人間中心設計推進機構：<http://www.hcdnet.org/>

【成績評価の方法と基準】

・コメントシート、授業・討議における積極的な貢献度合い 50%

・発表とレポート 50%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による互いのデザイン企画案の発表会が、大いに刺激になる、との感想が寄せられる。私もそれを楽しみにしている。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、コメントシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。

実務経験のある教員による授業：

情報関連企業のデザイン部門・技術顧問として実践してきた教員がデザイン学を手ほどきする。

【履修条件】

・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

・「こころの科学」「道具による感覚・体験のデザイン」「システム論」と組み合わせると、知識が関連し合って面白くなる仕組みになっている。

・「情報コミュニケーションⅠ」がユーザーエクスペリエンス・デザインの実践ワークショップになっている。これと併行履修すると、基本知識と実習を、効果的に学習できる。

・本科目のテーマは、「文化情報空間論」において発展されていく。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

PC、プロジェクター等の視聴覚設備を活用する。

【Outline and objectives】

This class allows you to learn basic principles of the "User-Centered Design" and how to conduct concrete design steps using the "User-Centered Design" methodology.

COT200GA

情報セキュリティとプライバシー

和泉 順子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC や携帯電話などのようにネットワーク接続する情報機器を使用する際、ウィルスなど意図しないプログラムを引き込んで、被害にあうことがある。情報技術が社会基盤となり、広く一般に利活用される一方で、セキュリティや個人情報保護等の問題も広く認識されるようになってきた。この授業では、身近に利用している情報サービスに対するリスクや脅威を学習し、情報セキュリティやプライバシー、および匿名性に関する議論を行い、有効にネットワークを使用するため、ネットワークユーザー個人として、あるいは組織のネットワーク管理者としての基本的な知識と情報管理技術を身につけることを目標とする。

ネットワーク上のウィルス等の脅威から身を守るためには、ファイアウォールやアンチウィルスソフト等に代表される情報システムの手法と、ルールや法律によりそれを抑止する手法がある。両者を解説する。

【到達目標】

- ・ PC 等、個人用情報機器を利用する上で、必要な情報セキュリティ知識を身につける。
- ・ より高いセキュリティを実現する方策を立案できる。
- ・ セキュリティを守るためにどのような社会制度があるかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業形態として完全に対面授業になるかどうか不明であるため、授業計画や授業実施方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。初回授業に必ず出席し、各クラスでの授業の進め方を確認すること。講義中心に進めるが、一部で情報端末による実習を取り入れる。課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる予定である。授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の構成と進め方、および学習環境について説明し、スケジュール、テキスト等の紹介する。
2	自分の PC を守る	アンチウィルスソフト、ファイアウォール、アップデート。
3	アタックのパターン (1)	個人 PC を狙う攻撃。「強い」パスワードとは。コンピューターウィルスやパスワードクラッキング。
4	アタックのパターン (2)	WEB を使う攻撃。クロスサイト・スクリプティング、DNS キャッシュポイズニング。
5	仮想世界の「名前」	情報サービス上で用いている「名前」とプライバシー、匿名。
6	アクセス制限と効果	ファイアウォールとは。データアクセスの制限の必要性和その手法。
7	暗号とは (1)	暗号の歴史と基礎理論。ハッシュ、電子署名などその応用。
8	暗号とは (2)	公開鍵暗号法の原理と実践。
9	電子署名と認証	電子署名とは。SSH によるネットショッピング。
10	コンテンツ配信と著作権	著作権者の利益保護。
11	組織としてのセキュリティ対策 (1)	情報漏洩の事例紹介。
12	組織としてのセキュリティ対策 (2)	CSIRT の必要性和その適応範囲。
13	法制度による情報安全対策	国際的なサイバー犯罪に関する法規・法律。
14	期末試験、授業のまとめ	授業内容の理解度を確認するための試験を実施。情報セキュリティの考えかたの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会生活を送る上で、情報セキュリティとしてどんなリスクや脅威があり、そのためにどんな対策があるのか意識する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に必要としない。

【参考書】

特に必要としない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%) と課題（またはレポート）(30%)、期末テストの成績 (50%) を併用した評価を行う。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

学期末までに完全対面授業にならなかった場合、期末テストの実施が困難な可能性が高い。その場合は、小テスト・課題・レポートを基準に、掲示板などのコメントや情報共有を平常点として加点する予定である。詳細は初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の習熟度に応じて、授業の進度や課題の難易度は適宜調整しながら進める予定である。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。

基本的には Windows でも macOS でも構わないが、CUI コマンドによる基本的なファイル操作ができる環境（コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種 shell が利用できる環境）を前提としている。

オンライン併用の場合は、最終課題となるプレゼンテーションは Zoom あるいは Webex を用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。

授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

受講者が多数の場合は、抽選で選抜する場合がある。

詳細は学習支援システムを参照し、初回授業資料を必ず確認すること。

授業は「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」の内容を概ね理解していることを前提に進めます。また、授業内容に関連するので「ネットワーク基礎」の履修、あるいは並行履修を推奨します。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the risks and threats to the information services that we are using closely. We will also discuss information security, privacy, and anonymity, with the goal of acquiring basic knowledge and skills for information management.

BIO200GA

文化と生物

島野 智之、岡西 政典、川上 裕司、松崎 素道、黒沼 真由美

サブタイトル：生活にいかす生物との関わり

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：バイオインフォマティクス

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：旧：バイオインフォマティクスの修得者は履修不可

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化という視点からみた生命の実像を学ぶ。

内容は大きく2つに分けて、(I-II)「ヒトを取り巻く文化と生物」と、(III-IV)「生物それ自体とその進化」について講義を行う。分野は衛生学、美術、生物学、農業にわたり、生物情報をどのようにヒトが利用しているのかを学ぶ。

【到達目標】

ヒトの生活と生物にまつわる歴史、文化そして、現代的な問題を解決する方法について、考え理解する。生物の多様性や進化について、考え理解する。現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている。ここでは、生命活動における情報（主に遺伝情報）の特徴とその役割について、現代生物学の手法を体験し、現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義はあらかじめ、文系学生にも分かりやすい内容と説明を行う。講義はオムニバス形式で、それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます。11 回までは、講義が中心ですが、特に、5-8 回は、討議などといったアクティブラーニングの手法もちいします。随時、ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します。最後の実習（12 回以降）は、実際にパソコンのソフトを用いて、外部の生物学専門機関が公開している種々のサービスを利用して行います。

メールの添付などの方法で課題等に対するフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) ヒトの生活環境と生物 (1) 食文化と微生物 担当教員：川上	講義内容のあらすじ ①善玉菌と悪玉菌とは何か（細菌・真菌・ウイルスの違い）、②食中毒とは何か、③発酵食品に利用される微生物と食文化の発展について
2	(I) ヒトの生活環境と生物 (2) 健康的な食生活と微生物 担当教員：川上	①プロバイオティクスとは何か、②食同源は健康的な食生活の基本、③人類の食糧難を引き起こす昆虫と救う昆虫（農業・食品害虫と昆虫食）について
3	(I) ヒトの生活環境と生物 (3) 住まいと害虫 担当教員：川上	①主な衛生害虫・衣類害虫・家屋害虫とその生態、②ダニ・昆虫アレルギーについて、③殺虫剤と害虫対策法
4	(I) ヒトの生活環境と生物 (4) 住まいと微生物 担当教員：川上	①病原体としての細菌・真菌（カビ）、②真菌アレルギーについて、③殺菌剤と IPM（総合的有害生物管理）による対策法
5	(I) ヒトの生活環境と生物 (5) 文化財を害虫やカビから守るためには 担当教員：川上	①文化財の保存科学現状と問題点、②カビ被害の実態と対策、③害虫被害の実態と対策
6	(I) ヒトの生活環境と生物 (6) 地球環境と微生物～歴史を作る影の立役者～ 担当教員：川上	①感染症と人類の歴史、②ハンセン病と日本の歴史、③地球環境と農業分野への活用
7	(II) 生物と生態系 (1) 生物と生態系 担当教員：松崎	生態系とは、共生による生物進化、地球環境の改変、ヒトと生態系
8	(II) 生物と生態系 (2) 生態系における寄生と共生 担当教員：松崎	寄生生物が生態系で占める位置、生態系改変、宿主操作、食文化との関わり

9	(III) 動物とは？ (1) 生き物のなかでの動物の位置 担当教員：岡西	生き物の体系と、私達人間が含まれる「動物」とは何か？を考える。①生き物とは何か、②動物とは、③生態系の中の動物の食物連鎖における位置、④新たな動物学の研究。
10	(III) 動物とは？ (2) 新種の発見 担当教員：岡西	①生き物に名前をつけるということ、②生き物を名前をつけて認識する、③分類学とは何か。
11	(III) 動物とは？ (3) 新種に名前をつけるということ 担当教員：岡西	①名前とはなにか、②学名とは何か、③新種はいつみつかるか、④どの様に新種に名前をつけるか
12	(III) 動物とは？ (4) 未発見の生物を発見するために、冒険に出よう。 担当教員：岡西	①船で海で未知な生物を捕獲する、②深海で未知な生物を捕獲する、
13	(IV) 生物の進化を推定する (1) 塩基配列情報によって進化を推定する。 担当教員：島野	生物の塩基配列情報から、実際に系統樹を作成する（生物進化の推定を行う）DNA 情報をテキスト配列として、操作して、様々な生物の塩基配列情報を扱う
14	(V) 無脊椎動物解剖学 (1) 無脊椎動物の体の仕組み 担当教員：黒沼	地球上で繁栄している無脊椎動物である節足動物の定義をおさらいし、様々な形態や筋肉のつき方、動きを比較する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、生物学だけでなく、情報科学、人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので、学生自身も普段から情報という視点で、様々な知識を相互に関連させて理解し、柔軟な思考ができるように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義テーマに合致する市販のテキストはない。個人的に作成した講義資料を使用する。

【参考書】

講義資料の最後に参考書のリストが掲げてある。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

基本は講義・実習の最後に提出してもらったレポート（60%）だが、この他に講義内で提出してもらった様々な文書（ビデオ等の感想、小テストなど）(40%) も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度、カリキュラムを大幅に改訂し、国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている。引き続き、改善につとめている途中である。

受講生の数にもよるが、少数の場合は、個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器を使用します。パソコンにインストールされているソフトを元に、実習します。遺伝子データベース <http://www.ddbj.nig.ac.jp/searches-j.html> を使います。

【その他の重要事項】

情報実習室で行うことに注意してください。

【Outline and objectives】

The contents are how human beings use biological information through hygiene, art, biology and agriculture in culture.

BIO200GA

文化と環境情報

島野 智之、佐々木 美貴、中西 由季子、忽那 賢志、塚田 訓久

サブタイトル：人間社会や文化が、生態系とどのように関わっているのか

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物は、それぞれの生活環境に適した結果、多様性に富んだ進化の道を進んできている。多様な環境条件下で生活しているヒトは、環境に適応するためにさまざまな技術や思考を創造してきた。人間の活動と環境の相互作用によって構築される文化に着目し、自然科学及び人文社会科学の多面的な視点から、ヒトを取り巻く環境から得られる情報と文化の成り立ちや持続可能な社会について学ぶ。

【到達目標】

人間社会や文化が、生態系とどのように関わっているのかについて考え理解する。現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている。ここでは、生態系、地球環境と、人間生活、食文化、病気などについて、現代生物学、栄養学、医学、保全生態学の観点から現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義はやわらかく、文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う。講義はオムニバス形式で、それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます。講義が中心ですが、討議なども入れたアクティブラーニングの手法もちいます。随時、ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します。メールの添付などの方法もちいて課題等に対するフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) 持続可能な社会づくりと食文化 (1) 2020 SDGs 担当教員：中西	講義内容のあらすじ 「2030 SDGs（ニエゼロサンゼロ エス ディーゼズ）」を通じて、17 の大きな目標を我々の世界が達成していく。現在から 2030 年までの道のりを体験し、SDGs の本質を体感する。 ① 2030SDGs カードゲーム、② 17 の目標、③ 196 のターゲット、④ 232 のインジケーター、⑤ SDGs の本質 なぜ、私たちの世界にとって SDGs が必要であるのか、SDGs があることでどのような可能性が広がるのかについて、ダイアログを活用したワークショップを通して理解を深める ① 2030SDGs、② SDGs の必要性、③ SDGs の可能性、④見える化、⑤ SDGs の本質
2	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (2) ワークショップ 担当教員：中西	「SDGs de 地方創生」を通じて、SDGs を「まちづくり」や「地方創生」の身近な「プロジェクト」に引き寄せながら「自分事として体感」する。地域で暮らす市民、事業者、NPO、自治体など地域の様々なステークスホルダーが、持続可能なまちづくり【地方創生 ×SDGs】の目標実現に向けたプロセスを疑似体験する。 ①「SDGs de 地方創生」、②まちづくり、③地方創生、④人口減少
3	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (3) SDGs de 地方創生 担当教員：中西	

4	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (4) 連鎖関係や地球の限界、その他 担当教員：中西	世界や日本で起こっている様々なできごとの連鎖関係や地球の限界（プラネタリーバウンダリー）、エコロジカルフットプリント、バイオキャパシティー、アースオーバーシュートデーなどとの関連について理解を深める。 ①連鎖、②プラネタリーバウンダリー、③エコロジカルフットプリント、④バイオキャパシティー、⑤アースオーバーシュートデー
5	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (5) SDGs を題材にしたイノベーション 担当教員：中西	金沢工業大学が開発した THE SDGs Action card-game「X（クロス）」を通して、SDGs を題材にイノベーションを体験する。トレードオフカードはSDGs の 17 個の各ゴールにおけるトレードオフの問題が描かれており、トレードオフを手持ちのリソースカードカードを使って解決していく。 ① X(クロス)、②トレードオフ、③社会問題解決、④イノベーション
6	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (6) SDGs と食の視点 担当教員：中西	SDGs の目標の一つに「3. すべての人に健康と福祉を－健康的な生活に不可欠な栄養－」がある。生産から流通、製造、加工、教育、消費まで幅広い分野にかかわり、我々の生命活動を支える食の視点から、持続可能な社会について理解を深める。 ①フードマイレージ、②食品ロス、③栄養、④健康、⑤安全
7	(II) 感染症と日本社会 (1) エイズと社会 担当教員：塚田	①「エイズ」ってなんだろう ②「エイズ」と向き合うことでみえてくるもの
8	(II) 感染症と日本社会 (2) 新興感染症 担当教員：忽那	①新型コロナウイルス感染症とは？ ②新型コロナウイルス感染症とリスクコミュニケーション ③新型コロナウイルス感染症が社会に与えた影響
9	(III) 食環境と文化 (1) 食生活の変遷 担当教員：中西	①世界における微量栄養素欠乏症、②栄養改善の手法－栄養補給、栄養強化、食の多様性、③栄養強化食品の開発
10	(III) 食環境と文化 (2) 味わう・塩梅 担当教員：中西	①美味しいは、何でできている？ ②美味しさの東西比較、③ユネスコ無形文化遺産「和食：日本人の伝統的な食文化」
11	(IV) 地球環境の変化とヒト (1) 進化の駆動 担当教員：島野	地球の環境変化、つまり、数回の全球凍結と酸素濃度の急激な上昇による生物の進化について
12	(V) 自然環境と文化 (1) 保全・再生 担当教員：佐々木	水辺の環境である湿地とその保全や利活用を推進するラムサール条約について学ぶ。 さらに、新潟市佐潟の「潟普請」、習志野市谷津干潟の「アオサ対策」などの事例に即して、湿地の保全や再生にかかわる文化について考える。
13	(V) 自然環境と文化 (2) wise use（ワイズユース） 担当教員：佐々木	ラムサール条約が推進するワイズユース（賢明な利用）について学ぶ。さらに、大崎市の「ふゆみずたんぼ米」、檜枝岐村の尾瀬や温泉による観光、豊岡市の「環境経済戦略」などの事例に即して、ワイズユースにかかわる文化を考える。
14	(V) 自然環境と文化 (3) CEPA 担当教員：佐々木	ラムサール条約が進める CEPA（コミュニケーション、力量形成、学習・教育、普及活動）について学ぶ。さらに、高島市の「ふるさと絵屏風」、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議の「学習・交流会」、日本湿地学会の活動などの事例に即して、CEPA にかかわる文化を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、生物学だけでなく、情報科学、人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので、学生自身も普段から情報という視点で、様々な知識を相互に関連させて理解し、柔軟な思考ができるように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義テーマに合致する市販のテキストはない。作成した講義資料を使用する。

【参考書】

講義資料の最後に参考書のリストが掲げている。

【成績評価の方法と基準】

基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート（60%）だが、この他に講義内で提出してもらう様々な文書（ビデオ等の感想、小テストなど）(40%) も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている。引き続き、改善につとめている途中である。

発行日：2021/5/1

受講生の数にもよるが、少数の場合は、個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい。

【Outline and objectives】

How human society and culture are related to the ecosystem

FRI300GA

コネクション・デザイン

川村 たつる

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：ハイパーテキスト論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員 45 名 定員を超えた場合は選抜を行います。詳細は学習支援システムで通知します。

備考（履修条件等）：旧：ハイパーテキスト論の修得者は履修不可

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及、シェアリング・エコノミーやサブスクリプション方式等の台頭により、人と人の繋がり方、人と物・事との関係が変化しており、さまざまな価値の変容が起きてきています。このような時代に、家庭や仕事場とは別の第三の居場所（サードプレイス）は、どのような場所であるのかを受講者それぞれが考察しながら、これからの「繋がり方」を考えていきます。

【到達目標】

受講者それぞれが、授業内で提示された事例を「現代の日本人にとってのサードプレイスとは？」という視点から考察していきながら、現代社会における人と人、人と物・事などのこれからの「繋がり方」を再考察できることを目指しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■人数制限・選抜

本年度は、対面授業の際の三密をさけるため、受講者数を 45 名とします。この人数を超える場合は、選抜を行います。

※選抜を行う場合は、事前に授業支援システムで登録者に連絡を行います。

■授業の進め方

①授業各回の内容に対するリアクションを受講者が授業後に授業支援システムへ提出。それらのリアクションの中から全体で共有したい内容をリアクション集としてまとめ、次週に全受講者へ配布し共有します。

②課題のレポート提出は、中間レポートと最終レポートの計 2 回提出。いずれのレポートもレポート集としてまとめて、全受講者へ配布を行い、意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	現代における人と人の繋がりを考える
第 2 回	考察 1	「サードプレイス」を考える
第 3 回	考察 2	「これからの住まいの在り方」を考える
第 4 回	考察 3	「シェアリングエコノミー」を考える
第 5 回	考察 4	「サブスクリプション社会」を考える
第 6 回	考察 5	「キャッシュレス社会」を考える
第 7 回	中間レポート提出	中間レポートの提出/後日、全レポートを PDF にまとめて全受講生に配布
第 8 回	中間レポートについての意見交換	他の受講生の中間レポートを読み、意見交換を行う
第 9 回	考察 6	「ネットワーク」を考える
第 10 回	考察 7	「ソーシャルネットワーク」を考える
第 11 回	考察 8	「人と人との繋がり方」を考える
第 12 回	考察 9	「ダイアログとモノログ」を考える
第 13 回	最終レポート提出	最終レポートの提出/後日、全レポートを PDF にまとめて全受講生に配布
第 14 回	最終レポートについての意見交換	他の受講生の最終レポートを読み、意見交換を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業内容へのリアクションは、授業後に授業支援システムで提出。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

『インターネットの心理学』パトリシア・ウォレス（NTT 出版/2018 年）、『新ネットワーク思考』アルバート＝ラズロ・バラバシ著（NHK 出版/2002 年）、『複雑な世界、単純な法則』マーク・ブキャナン著（草思社/2005 年）、『つながっているのに孤独』シェリー・タークル著（ダイヤモンド社/2018 年）、『サードプレイス—コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』レイ・オルデンバーグ著（みすず書房/2013 年）、『オープンダイアログとは何か』斎藤 環著＋訳（医学書院/2015 年）等。

【成績評価の方法と基準】

課題（中間・最終レポート）に対して受講者自身がどのようなにアプローチができたかを評価（60%）。

また、各授業回に提出される「授業に対するリアクション」と最終的に提出される最終レポートの内容から、授業の理解度を平常点として評価（40%）。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

※授業の内容に関係のない会話やスマートフォンや PC の操作、他の受講者への迷惑な行為に関しては厳しく対処します。

【学生の意見等からの気づき】

現在の社会の状況を踏まえた上でテーマを考察できるように、紹介する事例の選択や授業の進め方を工夫していきたい。

【Outline and objectives】

While considering social networking services, sharing economy, new forms of social equipment, etc., we consider the possibility of the current “Third Place” in Japan.

DES200GA

情報の編集論

川村 たつる

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：情報編集論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：定員 40 名 定員を超えた場合は選抜を行います。定員 45 名 定員を超えた場合は選抜を行います。詳細は学習支援システムで通知します。

備考（履修条件等）：旧：情報編集論の修得者は履修不可

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半では、映画を題材に、そのストーリーや登場人物、プロットの抽出・分析等を各自が行い、物語を構成している「情報の意味」を考察していきます。後半では、普段何気なく見ている広告やコマーシャルを構成している要素（情報）を分析しながら、それぞれの「情報の意味」を考察していきます。これらの考察を通して、「情報の編集」を学んでいきます。

【到達目標】

受講者それぞれが「情報の意味」を再考察し、表現することにおいてより効果的な「情報の編集」を試みることができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■人数制限・選抜

本年度は、対面授業の際の三密をさけるため、受講者の人数制限を 40 名とします。この人数を超える場合は、選抜を行います。

※選抜を行う場合は、事前に学習支援システムで登録者に連絡を行います。

■授業の進め方

①前半の第2回から第7回までは、各自選定をした映画作品を題材に「物語の分析」を行います。

※選定してもらう映画作品は、何度も見直しをする必要があるため、DVD 等を購入し手元にある映画作品、またはストーリーミングで繰り返し視聴できる映画作品を選んでください。

※物語の抽出/分析作業は、Excel で作業を行い提出。Excel 作業における最低限のセルの扱い（セルの挿入・削除・サイズ変更・着色など）が必要。

②後半の第8回から第14回までは、広告（ポスターや新聞、雑誌等の静止画広告）、コマーシャル（映像作品）、商品パッケージ（販売される商品を入れる箱や袋）を題材にします。

自分が最近気になっている広告やコマーシャル、パッケージを持ち寄って受講者全員で見て考える回と、こちらから提供する資料を見て考える回をセットで進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「情報」とは何か？
第2回	物語の分析1	「物語」のストーリーと登場人物の抽出
第3回	物語の分析2	「物語」のストーリー分析
第4回	物語の分析3	「物語」の登場人物分析
第5回	物語の分析4	「物語」のプロット分析
第6回	物語の分析5	「物語」の見えない情報の分析
第7回	物語の分析6	作品に関わる広告の収集と分析
第8回	広告と情報1	「広告」の中にある情報とは
第9回	広告と情報2	「自分が最近気になる広告」を持ち寄って考える
第10回	広告と情報3	「広告」という情報
第11回	広告と情報4	「自分が最近気になるコマーシャル映像」を持ち寄って考える
第12回	広告と情報5	「コマーシャル映像」という情報
第13回	商品と情報1	「自分が最近気になる商品パッケージ」を持ち寄って考える
第14回	商品と情報2	「商品パッケージ」という情報

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前半の「物語の分析」は、各自で選定した映画作品の分析を授業外で行い、ステップ事に提出し、進行状況の確認を行います。

後半の「広告と情報/商品と情報」は、各自が普段の生活の中で気になったものを持ち寄り、受講者全員で閲覧の上、意見交換を行います。

各授業内容へのリアクションは、授業後に学習支援システムで提出。

また、全授業終了後に最終レポートの提出を行います。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

「情報物語論」金井明人/川村洋次/小方孝著（白桃書房/2018 年）、「知の編集工学」松岡正剛著（朝日文庫/2001 年）、「情報の歴史」松岡正剛監修（NTT 出版/1990 年）、「Design Rule Index ーデザイン、新・100 の法則」ウィリアム・リドウエル/クリスティーナ・ホールデン/ジル・バトラー共著（BNN/2004 年）等。

【成績評価の方法と基準】

課題に対して受講者自身がどのようなアプローチができたかを評価（60%）。また、各授業回に提出される「授業に対するリアクション」と最終的に提出される最終レポートの内容から、授業の理解度を平常点として評価（40%）。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

※授業の内容に関係のない会話やスマートフォンや PC の操作、他の受講者への迷惑な行為に関しては厳しく対処します。

【学生の意見等からの気づき】

新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生自身で再考察できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline and objectives】

Think about the meaning of information while reading information in advertisements and products, and information in novels and movies.

FRI200GA

文化情報の哲学

森村 修

サブタイトル：東洋の心身論からみた「こころ」と「からだ」

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

本科日は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問を哲学的に基礎づけるための科目です。そもそも「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問として新しく構築するために考案された学問です。この学問では、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出し、「文化情報」として編集しなおして解釈し、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したり、さらにそれらの〈意味〉や〈価値〉を付加して新しく発信することを目指します。

それでは、なぜ「文化情報学」を学ぶ必要があるのでしょうか。私たちは動機をもって物事に取り組むことで、手に入れたい「文化情報」を取捨選択できます。そうすることで不必要な情報を誤って手に入れることが減ったり、害悪になる情報を鵜呑みすることを少しでも減らしたりすることができるようになります。

しかしそのためには、取捨選択するための「自己=自分 (self)」としての「主体性=主観性 (subjectivity)」が確立している必要があります。それでは、そもそも「私 (自分)」とは何でしょうか。「私」はどのような存在で、どうして存在しているのでしょうか。あるいは、「私」はどうして「他者 (the other)」とは異なるのでしょうか。これらは哲学的な難問です。「私」とか「主観」とかを問うと、これらの根本的で哲学的な問いが立ちはだかってきます。

そこで、本授業では、まずは「私」あるいは「自己」を構成していると考えられている「こころ」と「からだ」に焦点を当てて考えてみます。その際に、東洋思想の観点から考察することにします。というのも、私たちが日常生活で感じている「こころ」と「からだ」のあり様が、西洋文化の中で育まれた（西洋）哲学とかなり異なっているからです。

【授業の目的】

そこで、本授業では、湯浅泰雄の『身体論——東洋の心身論と現代』（1990）を取り上げ、東洋思想における心身論が、西洋哲学における「心の哲学」とどのように異なるかを明らかにしていくことを目的とします。その際に、湯浅自身がそうであったように、「比較哲学 (comparative philosophy)」的に考察することが目指されています。

【到達目標】

- (1) アジア地域の様々な文化から生み出された「心身関係」を、現代の視点で考えることができる。
- (2) 21 世紀を生きる私たちにとって、「哲学する」ことがいかに重要であるかを学ぶことができる。
- (3) 哲学的思考を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

テキストの読解を基本にする。さらに教員による解説を行ない、受講生と討議していく。また、リアクションペーパーなどを使用することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本科目の意図の説明など
2	序説①——研究の目的と問題の外観	・日本の思想の中で、「こころ」と「からだ」の関係はどのように論じられてきたか？
3	第 1 章 近代日本哲学の身体観①	・「人と人との間」における「空間」と「身体」——和辻哲郎の倫理学を通して考察する
4	第 1 章 近代日本哲学の身体観②	・日本最初の独創的哲学者の西田幾多郎の身体についての考察 ・行為的直観とは何か
5	第 1 章 近代日本哲学の身体観③	・西田幾多郎の身体観 (1) 「有」から「無」へ (2) 「場所」とは何か？ ・東洋思想研究の態度と方法

6	第 2 章 修行と身体①	1. 修行とは何か？ ・インド、中国、日本の仏教における戒律と修行について
7	第 2 章 修行と身体②	2. 芸道論 (1) 歌論における稽古と修行 (2) 世阿弥における「わざ」と「心」
8	第 2 章 修行と身体③	3. 道元 (1) 禅の実践 (2) 参禅における心身関係 (3) 心身脱落とは何か？
9	第 2 章 修行と身体④	4. 空海 (1) 密教のインドの性格 (2) 身体と性の問題 (3) マンダラに見られるエロスの昇華 (4) 即身成仏とは何か？
10	第 3 章 東洋の心身論の現代的意義①	1. 現代の哲学的な心身論とその問題点① ・ベルクソンの運動的図式 ・メルロ＝ポンティの身体的図式 ・情動の問題 ・情動の問題知覚と記憶との関係
11	第 3 章 東洋の心身論の現代的意義②	2. 心身関係の二重構造 ・表層の構造と基底の構造
12	第 3 章 東洋の心身論の現代的意義③	3. 心身関係の日常的理解の逆転
13	第 4 章 東洋の瞑想の領域①	1. 心理療法と修行の比較考察
14	第 4 章 東洋の瞑想の領域② 結論	2. 形而上学と心身論 3. まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業でテキストを読解するため、受講者は事前にテキストを読んでおく必要がある。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
- ・授業前に、該当箇所について、3 点以上の質問を用意すること。

【テキスト（教科書）】

1. 湯浅泰雄「身体論——東洋の心身論と現代」、講談社学術文庫、1990 年
2. YUASA Yasuo, *The Body: Toward an Eastern Mind-Body Theory*, ed. by Thomas P. Kasulis, translated by NAGATOMO Shigenori and Thomas P. Kasulis, State University of New York Press, 1987.

【参考書】

- ・授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート (50 %)
- ・平常点 (50 %)
- ※ この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする
- ※要注意【変更】
- リアルタイム・オンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・リアルタイムオンライン授業の場合には、インターネットなど授業に関係する機材を用意しておいてください。

【その他の重要事項】

- ・本科日は、哲学的思考の訓練の場であることを銘記すること。自分でいろいろと考えることが哲学の初歩である。

【哲学することの姿勢について】

- ・本授業は、テキストを一文一文読解していく原書講読のスタイルをとる哲学の授業である。
- ・哲学の鍛錬で最も重要なことは、第一にテキストを正確に読めること、第二に、正確なテキスト理解の上に、自らの解釈を組み立てること、第三に、自らの解釈が何を根拠にしているかを明らかにできること、である。

【他の科目との関連】

- (1) 「文化情報学概論」とは「文化情報学」という点で大きく重なり合います。
- (2) 2021 年度の「こころとからだの現象学」は、まさに心身関係論を扱っています。
- (3) リベラルアーツ科目「倫理学 L II」では、「ケアの形而上学」について語られています。そこで、心身関係の議論があります。

【Outline and objectives】

This class aims to examine various aspects of various cultures as philosophical problems from the viewpoint of the "informatics of culture".

In this class, we will examine the "mind" and "body," which are thought to constitute us, from the perspective of Eastern thought, and clarify that the way we perceive the "mind" and "body" in our daily lives is different from the (Western) philosophy nurtured in Western culture. Purpose of the class

The purpose of this class is to clarify how the theory of mind and body in Eastern thought differs from the "philosophy of mind" in Western philosophy by taking up Yasuo Yuasa's "The Body: Toward an Eastern Mind-Body Theory". In doing so, we aim to examine it from a "comparative philosophy" perspective, as Yuasa himself did.

SES300GA

ソーシャル・プラクティス

稲垣 立男

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：情報デザイン

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

備考（履修条件等）：※ 2021 年度は、国際文化学部生のみ 2～4 年を対象とする。旧：情報デザインの修得者は履修不可

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャル・プラクティス」では、ソーシャル・プラクティスあるいはソーシャル・エンゲージド・アートと呼ばれる環境や政治、あるいはコミュニティやジェンダーなど、様々な社会的問題に直接働きかける美術の分野について学びます。

社会と直接関わるような現代美術のアプローチに関する理論と実践についてのワークショップ形式の実習を行います。

【到達目標】

この授業では、下記の 3 つのテーマで実習を行います。

1. 環境と社会
2. コミュニティ
3. ポリティカル・イシュー

自分たちを取り巻く様々な社会的な課題を捉え直し、調査を基に自分なりに課題を設定して作品として表現する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができると期待されるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

実習では、いくつかの社会的問題をテーマとして仮想のアート・プロジェクトを実施、グループワークでの調査やディスカッションを経て、様々な発表形式による作品制作を行います。

1. ワークショップの冒頭に課題と関連した社会的課題に関する解説と、美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。
 2. 次に資料や大学内外のフィールドワークを通じて課題を探ります。
 3. 最後に各自が資料調査やフィールドワーク、ディスカッションを経て、作品制作（プレゼンテーション）に取り組みます。
- 授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。
- ・ Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）
 - ・ Zoom（ミーティング）
 - ・ Google Classroom、Google Form（課題提出とそのフィードバック、質問など）
 - ・ Miro（コラボレーション）
 - ・ Flip grid（映像制作、コラボレーション）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
9/21	オリエンテーション	授業の概要 ソーシャル・プラクティスについて
9/28	ワークショップ 1 環境と社会-1	講義とディスカッション 地球温暖化、原発問題、海洋汚染など
10/5	ワークショップ 1 環境と社会-2	調査とプレゼンテーション パワーポイントによる作品のプレゼンテーション
10/12	ワークショップ 1 環境と社会-3	作品制作 1 レクチャー・パフォーマンスによる作品制作とディスカッション
10/19	ワークショップ 1 環境と社会-4	作品制作 2 レクチャー・パフォーマンスによる作品制作とディスカッション
10/26	ワークショップ 2 コミュニティ-1	講義とディスカッション コミュニティの崩壊、移民、難民問題など
11/2	ワークショップ 2 コミュニティ-2	調査とプレゼンテーション ポスターによるプレゼンテーション
11/9	ワークショップ 2 コミュニティ-3	作品制作 1 映像による作品制作とディスカッション

11/16	ワークショップ 2 コミュニティ-4	作品制作 2 映像による作品制作とディスカッション
11/30	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー-1	講義とディスカッション ジェンダー、貧困問題、表現の自由など
12/7	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー-2	調査とプレゼンテーション 企画書によるプレゼンテーション
12/14	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー-3	作品制作 1 パフォーマンス、インスタレーションによる作品制作とディスカッション
12/21	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー-4	作品制作 2 パフォーマンス、インスタレーションによる作品制作とディスカッション
1/18	フィードバック	授業全体を俯瞰し、各課題の意義についてディスカッションします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、ニュースや新聞で話題となる時事問題、地域社会の問題、個人と社会の問題など、様々な社会問題について関心を持つこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

Benjamin R. Brinkmann: *Contemporary Ethnographic Practice* (Berg Pub Ltd)

パブロ・エルゲラ『ソーシャル・エンゲイジド・アート入門 アートが社会と深く関わるための 10 のポイント』フィルムアート社、2015 年
アート&ソサイエティ研究センター SEA 研究会『ソーシャル・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践 芸術の社会的転回をめぐる』フィルムアート社、2018 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

作品のアイデアから制作までのプロセスを丁寧に学んでいきましょう。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021 年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトには授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30 分程度のを 2、3 本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後に実習課題、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【Outline and objectives】

We learn a field of art that works directly on various social issues, such as social practice or environment and politics, called socially engaged art in this course. We will engage in the theory and practice of contemporary art on such an approach. In practical training, we will carry out virtual art projects with the theme of some social problems, work through groupwork surveys and discussions, and produce works in various presentation formats.

ART300GA

パフォーマンスの美学

森村 修

サブタイトル：〈からだ〉の美学—写される〈からだ〉・加工される〈自己〉、そして構築されるセクシュアリティ

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：パフォーマンス・スタディーズ

旧科目との重複履修：×

毎年／隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数制限あり・選抜試験

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、「美学=感性学 (aesthetics)」の立場から、文化的・政治的・社会的な文脈で身体を用いて表現された「パフォーマンス (performance)」の「美しさ」を追求することです。

2021年度では、私たちの〈からだの美しさ〉に着目しながら、〈からだ〉がどのように表現されてきたかを「ボディ・スタディーズ (Body Studies)」の観点からアプローチすることを試みます。その際に、特に「セクシュアリティとパフォーマンス」というテーマで、特定のアーティストが「パフォーマンス・アート」の手法を用いて、積極的に自らの性／アイデンティティを問題にしていることを考察します。

【到達目標】

- (1) アートについて、既成の価値観・マスメディアの流す価値観に対する、批判的視点を身につけることができる。
- (2) 自らの価値観を問い直し、新たに刷新するための表現手段を具体的に説明することができる。
- (3) 高校までの芸術教育や制度的なアート認識を新たに問い直し、自らの視点で「パフォーマンス」や、パフォーマンスを用いたアートについての鑑賞方法や参加方法について、説明できる。
- (4) アートの領域の内部で生じた、20世紀以降のさまざまな変遷を辿ること、
「前衛芸術」のあり方について、現在のパフォーマンス・アートのあり方を予測することができる
- (5) 「パフォーマンス・スタディーズ」の基本について学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

- ①基本的には、「講義形式」で行うが、受講生との積極的な対話や討議を行います。
- ②パフォーマンス・スタディーズに関わる代表的な映像作品（実験映像・映画・演劇の記録など）を上映する。そこで、諸作品について、さまざまな解釈をしながら、授業参加者と討議していきます。
- ③必要に応じて、課外活動としてフィールド・ワークも考えています（自由参加）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義の目的と概要についての解説を行う。
2	Body Studies の基礎①	・Body Studies と Performance との関係について概観する
3	Body Studies の基礎②	・被写体としての〈からだ〉について考察する。
4	Body Studies の応用① ——フェミニズムとパフォーマンス①	・表現される〈からだ〉をセクシュアリティから考える
5	Body Studies の応用② ——フェミニズムとパフォーマンス②	・〈からだ〉を痛めつけることから見えてくるもの
6	Body Studies の現在①	・〈からだ〉に映し出されるアイデンティティを考える
7	Body Studies の現在②	・〈からだ〉に刻まれた記憶と痛み
8	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ①	・〈自分〉を映し出すこと——セルフ・ポートレート
9	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ②	・〈日常〉を切り取ること——スナップ写真の〈顔〉
10	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ③	・〈はだか〉ってキレイだけじゃバイよね？ ——アートか猥褻か
11	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ④	・激痛に耐え傷つく身体・傷みとしての〈癒し〉——ポップ・フラナガン「スーパーマゾヒスト」

12	レフ・マノヴィッチのインスタグラムの美学①	・テクノロジーと身体 ・ニューメディアの美学
13	レフ・マノヴィッチのインスタグラムの美学②	・身体を表象する ・インスタグラムと身体表象
14	まとめ	・これからの Body Studies と Aesthetics of performance

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

パフォーマンス・スタディーズは、1980年代に登場した新しい研究です。日常性の中に潜む様々なパフォーマンス（言語的な物語に始まり、演劇やダンスなどの身体表現や、祭祀や儀礼などの文化的儀式など）に注意を向け、概念化し、言語表現にもたらすことで、パフォーマンス・スタディーズそのものの裾野の広がりを注視してもらいたいです。また、〈からだ〉に特化した Body Studies は、Performance Studies のひとつの方向性を示しています。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に、特定のテキストは用いません。

授業内で配布するテキストの抜粋などを用いて、事前に読んできてもらうことを考えています。

【参考書】

Margo DeMello, *Body Studies: An Introduction*, Routledge, 2014.

マーゴ・デメッロ『ボディ・スタディーズ——性、人種、エイジング、健康／病の身体学への招待』、晃洋書房、2017年

【成績評価の方法と基準】

【成績評価】

①授業内での積極的な議論参加、発言・質問など（25％）

②期末レポート（75％）

【評価基準】

- ①作品を読んだり、見たりする際に、積極的に自らの意見を表明すること。表現することが、本講義にとって重要な評価基準になっている。
- ②期末レポートは、あくまで「批評 (critique)」が求められている。単なる感想・意見では評価できない。「批評文」には、一定の「規準 (criterion)」が前提されている必要がある。
- (1) 自分自身の「評価規準」が明確であること。
- (2) 自らの「評価規準」に照らして、自分の意見・主張が明確に述べられていること
- (3) 自分の意見・主張を読み手に説得的に表現できていること
- (4) 自分の表現が自分勝手な思い込みによる羅列ではなく、きちんと論理的に組立てられて述べられていることこの成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

・本講義がめざしているのは、パフォーマンス・スタディーズや Body studies を学ぶことによって、受講生自らが自分の美意識や価値観を問い直すことである。それゆえ、パフォーマンスという概念の検討を通じて、参加者全員に、既成の価値観やマスメディアが大量に流す情報に対する批判的な姿勢が求められている。それゆえ、本講義では、自らの価値観を積極的に打ち破る勇氣をもつ学生の参加を望む。

・インターネットやマスメディアに毒された価値観をいったん破壊して、新しい美意識や価値観を構築するきっかけを掴むことが本講義の真の目的である。

・本科目は「表象文化」の科目群に位置づけられているが、本科目が重視する「現前性 (presentation)」は「表象 (representation)」概念の批判を含んでいることに注意すべきだろう。「現前性」にとって重要なのは、「[現場性]・[直接性]・[現在性]」に特化した「パフォーマンス性 (performativity)」であり、「いま・ここ」を最大限重視するアート作品に積極的に関与し、参加する態度であることを明記しておきたい。

・「表象文化概論」(特に、森村担当分) も合わせて受講することで、「パフォーマンス・スタディーズ」が、いわゆる「表象文化」を批判する視座をもつことを確認してもらいたい。

【受講上の注意】

- ・授業に積極的に参加し、自らの価値観を問う実践（パフォーマンス）を行わない学生の参加は遠慮してもらいたい。
- ・受講生多数の場合は、初回の授業で選抜すること考えているので、初回の授業には必ず出席すること。初回の授業に参加しないものは、受講を認めない場合もあるので、要注意。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to pursue the "beauty of performance" expressed in the cultural, political and social context from the standpoint of "aesthetics". In 2020, we will try to approach from the viewpoint of "Body Studies" how Body has been expressed while paying attention to the < beauty of the body > .

ART300GA

サブカルチャー論

島田 雅彦

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超過した場合は選抜

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブカルチャーは新興の文化流行として、大衆文化や通俗趣味に分類されるが、表現者たちにより洗練が加えられ、いつしかメインカルチャーとなってゆく。文学、美術、音楽、漫画、映画、旅行、衣食文化、政治、科学あらゆるジャンルを横断し、文化流行全般の考察を通じ、コミュニケーション能力の土台にもなる雑多な教養を身につける。とりわけ、技術論に焦点を当て、文化の様態の変容を時代ごとに考察する。

【到達目標】

イデオロギーや哲学の代わりにキャラクターやコピイがものをいう現代、政治も文化も素人が担い手になってゆく風潮を踏まえ、柔軟な批評精神を獲得し、サブカル全般に関する教養の底上げを図ると同時に、先人の斬新な発想の秘密に迫る。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進めるが、質疑応答や議論にも時間を割き、履修者のコメントや発表をも取り入れながら、対話的に行いたい。文化流行全般に興味のある学生、「オタク」や「マニア」の参加も歓迎する。豊富な画像、映像をサンプルとして、見せつつ、歴史的な背景を踏まえることで、各ジャンルの未来に対する提言を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	サブカルチャーの定義	概論
2	モダニズム	モダニズムの定義。テクノロジーとの関わり。モダニズム時代の芸術運動の展開とその検証。
3	複製技術	黎明期の映画と産業としての発展の歴史。複製技術の進化とオーラの消滅
4	江戸町人文化	日本のサブカルチャーの原点としての江戸。好色一台男に見る江戸風俗。
5	アマチュアリズム	素人の手習い。趣味とサブカル。日曜画家。若者バカ者よそ者の力。素人の乱。
6	エロ・グロ・ナンセンス	コミックス、ヤクザ、風俗産業の揺籃としての戦後の焼跡闇市。
7	カウンターカルチャー	1960年代のアメリカのカウンターカルチャーの研究。ヒッピー、サイケデリック、ゲイ・レボリューションなど。
8	漫画史	漫画独特の表現について。コミック進化論、多様性獲得に向けて。
9	徘徊・巡礼・観光	遊歩の思想。物見遊山の哲学。もてなしの文化。接待の流儀。テーマパークとしての都市、京都、ヴェネチア。
10	都市空間と仮想空間	住まいの変容。空間論。パラレルワールド。生息域（ニッチ）研究。
11	食文化の多様性	グルメという思想。越境する胃袋。
12	科学と迷信	マッドサイエンス。自然科学のサブカル化。スピリチュアル。文化流行。都市伝説。不老不死。AI。
13	メディアと政治	ポピュリズム 政党政治、代表制のゆくえ。デマ、陰謀説。ナショナリズム
14	まとめと質疑	まとめと全テーマに基づく質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での議論に参加すべく、質問を用意したり、得意分野での鑑賞を個人的に熱心に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教室で指示する。

【参考書】

教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間に予告して、筆記試験を行うが、議論への積極的参加も評価されよう。評価基準は平常点 20 %、レポート 80 % とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答、討論への積極的参加を促す。

【Outline and objectives】

Subculture is classified as popular culture and popular hobby as an emerging culture epidemic, but it becomes somewhat mainstream culture as sophistication is added by expressers. Crossing all genres across literature, art, music, cartoons, movies, travel, fashion and food culture, politics, and science, we acquire miscellaneous culture that will also serve as the foundation of communication skills through consideration of cultural epidemics in general. Especially focusing on technology theory, we consider the transformation of the form of culture by the age.

ART300GA

メディア表現ワークショップ1

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表現活動に繋がるフィールドワークに関する実習授業です。各実習はワークショップ形式で行います。
教室や大学の構内外を 3 つのテーマ（カメラを持って旅に出よう。スケッチブックに記録しよう。動きや音を拾うことから。）によるフィールドワークを行い、その成果をプレゼンテーションします。

【到達目標】

みなさんは課題を通じて様々な表現活動に通じる取材・調査方法や様々なメディアを使った表現方法を学びます。
各課題に取り組むにあたっては、自由な発想、臨機応変な対応が必要となります。柔軟な姿勢で（楽しんで）課題に取り組んでください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
下記の3つの内容に基づいて、制作実習をします。

- 第1 課題 カメラを持って旅に出よう。
記録としての写真について、多様なテーマを通じて体験的に学びます。
- 第2 課題 スケッチブックに記録しよう。
スケッチブックに、様々な現象や感情などを記録をしていきます。
- 第3 課題 動きや音を拾うことから。
拾った動きや音をきっかけとして、何かを始めてみます。
お互いの作品についてディスカッションしながら制作を進めます。また、授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。
・Zoom（ミーティング）
・Google Classroom、Google Form（課題提出とそのフィードバック、質問など）
・Miro（コラボレーション）
・Flip grid（映像制作、コラボレーション）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/12	オリエンテーションと選抜試験	授業内容の説明 教科書・参考資料 評価基準など
4/19	第1 課題 カメラを持って旅に出よう。	課題説明 講義 記録としての写真
4/26	第1 課題 カメラを持って旅に出よう。	課題制作 ※ 2 回にわたって作品に取り組む。
5/10	第1 課題 カメラを持って旅に出よう。	課題制作
5/17	第1 課題 カメラを持って旅に出よう。	講評会 プレゼンテーションとディスカッション
5/24	第2 課題 スケッチブックに記録しよう。	課題説明 講義 スケッチの技法
5/31	第2 課題 スケッチブックに記録しよう。	課題制作 ※ 2 回にわたって作品に取り組む。
6/7	第2 課題 スケッチブックに記録しよう。	課題制作
6/14	第2 課題 スケッチブックに記録しよう。	講評会 プレゼンテーションとディスカッション
6/21	第3 課題 動きや音を拾う。	課題説明 講義 音や映像による記録
6/28	第3 課題 動きや音を拾うことから。	課題制作 ※ 2 回にわたって作品に取り組む。
7/5	第3 課題 動きや音を拾うことから。	課題制作

7/12 第3 課題 動きや音を拾うことから。 講評会
プレゼンテーションとディスカッション

7/19 講評会 3 つの課題の総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでにあまり経験してこなかった表現の基となる取材活動に取り組みます。また、調べることに積極的な人、面白いことを知ることが好きな人は受講してみてください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019
藤田 結子『現代エスノグラフィー：新しいフィールドワークの理論と実践（ワードマップ）』新曜社、2013 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんにとってわかりやすく、取り組みやすい課題とします。
楽しい授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

スケッチブック及び iPhone や Android などの携帯端末が必要となります。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021 年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30 分程度のものを 2、3 本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後に課題、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【Outline and objectives】

This is a practical course about fieldwork leading to expression activities. Each practice is done in a workshop format.

Fieldwork is conducted according to three themes inside and outside the classroom and university premises, and the results are presented.

ART300GA

メディア表現ワークショップ2

島田 雅彦

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

書くことと読むことは表裏一体だが、書く技術の研究を通じ、読み巧者になる手もある。事例を挙げつつ、実作者の立場から小説、エッセイ等の書き方ABCを伝授する。メールから企画書、報告書、論文、創作、これら全ては特定のセオリーに基づいているので、これらを踏まえつつ、説得力や感動を与える手法に触れ、実作を通じて、文章表現の向上を図る。

【到達目標】

半期の授業を通じ、受講生は表現意欲や批評意識を刺激されるだろう。自己を語るコトバ、他者とのコミュニケーション能力を磨き上げるには、創作を実践することがショートカットになる。創作のエクササイズを重ねれば、説得力のある企画書の書き方、他者の関心を誘うプレゼンテーションの仕方自ずと身につけられる。学生はそのスキルの獲得を目指し、課題をこなすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式を取るが、折々の課題に対する講評を交え、履修者との対話形式も随時とる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	執筆のエンジン	人はなぜ書かずにはいられないのか？
2	日記の書き方	日常の研究
3	物語の構成	起承転結のマジック
4	キャラクター作り	無個性 奇怪な普通人、気弱な英雄
5	メメント・モリ	死のデザイン 人はいかに死を受け入れ、解釈してきたか？
6	旅と文学	ロード・ノベル 放蕩息子の帰還
7	時間の処理	文学における独自の時間軸について
8	語り手は誰か？	私、吾輩、彼、伯爵夫人？
9	お金の話	信用制度、借金、フィクションとしての通貨
10	メタファーの戦略	模倣、置換、象徴、スイートハート
11	小説のトポロジー	現代小説の8割は東京が舞台
12	恋するものの普遍性	求愛のもっとも洗練された手段としての詩
13	素材の考察	想像力の源泉としてのマテリアル
14	まとめ、質疑応答、レポート提出	学んだことの集大成としての創作の完結指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時、テーマに沿った短文を書き、その講評を受ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『小説作法ABC』 島田雅彦 新潮選書2009

【参考書】

『深読み日本文学』 島田雅彦 集英社インターナショナル新書2018

【成績評価の方法と基準】

折々のレポートと期末の創作70%、平常点30%この成績評価の方法のもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップにふさわしい実践的指導に呼応する履修者の積極参加。より活発な対話を心がける。

【Outline and objectives】

Writing and reading are inseparable, but there are also people who become good readers through training of writing skills. Touching several examples, Students can acquire the ABC of how to write novels, essays etc, from the real author's standpoint. Based on a specific theory which is common to all of the projects, reports, papers, creative writings and e-mails, we will touch on effective methods that give persuasive power and sympathy, and improve the expression of sentences through actual work.

ART300GA

五感共生論

川村 たつる

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員 40 名 定員を超えた場合は選抜を行います。定員 45 名 定員を超えた場合は選抜を行います。詳細は学習支援システムで通知します。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人は物・事をどのように認識しているのかを、視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚の相互の関係を考察していきながら学んでいきます。

【到達目標】

それぞれが自身の視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚の再確認を通して、人の身体感覚を再考察できることを目指しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】**■人数制限・選抜**

本年度は、対面授業の際の三密をさけるため、受講者の人数制限を 40 名とします。この人数を超える場合は、選抜を行います。

※選抜を行う場合は、事前に学習支援システムで登録者に連絡を行います。

■授業の進め方

「視覚」「聴覚」「触覚」を中心に、下記の①②をセットで進めていきます。

①五感それぞれにまつわる事例紹介や簡単な実験を通して受講者自身が「感覚」を再考察し、その考察を参考にしながら課題制作を行います。

②提出された課題作品は全体鑑賞会において全受講者で鑑賞し、自身と他者の着眼点の違いや表現方法の違いなどを考察していきます。

※課題の内容は、身近な材料を使った簡単な工作のようなものをイメージしてください。

※課題制作に関しては、表現技術の出来・不出来を評価するものではなく、設定されたテーマをどのように理解し、考え、表現しようとしたのかに重点を置いて評価します。

※課題に対しての個別のフィードバックは行いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	人と感覚の関係を考える
第 2 回	視覚 1	視覚に関する事例から考える
第 3 回	視覚 2	錯覚・錯視という事例から考える
第 4 回	視覚 3	「見る」ということ・「見える」ということを考える
第 5 回	作品鑑賞会 1	課題 1 で提出された作品を全員で鑑賞
第 6 回	聴覚 1	聴覚に関する事例から考える
第 7 回	聴覚 2	「聞く」ということ・「聞こえる」ということを考える
第 8 回	作品鑑賞会 2	課題 2 で提出された作品を全員で鑑賞
第 9 回	触覚 1	触覚に関する事例から考える
第 10 回	触覚 2	「触る」ということ・「触れている」ということを考える
第 11 回	作品鑑賞会 3	課題 3 で提出された作品を全員で鑑賞
第 12 回	味覚	味覚について考える
第 13 回	嗅覚	嗅覚について考える
第 14 回	まとめ	自身の感覚を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。

課題の制作は、各自授業外で行うこととします。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

『錯覚の世界』 ジャック・ニオ著（新曜社/2004 年）、『顔を科学する』山口直美・柿木隆介編（東京大学出版会/2013 年）、『触覚の心理学』ダーヴィット・カット著（新曜社/2003 年）、『触覚の心理学』田崎権一著（ナカニシヤ出版/2017 年）、『味覚の科学』 齊藤幸子・小早川達著（朝倉書店/2018 年）、『「おいしさ」の錯覚』 チャールズ・スペンス著（角川書店/2018 年）等。

【成績評価の方法と基準】

課題に対して受講者自身がどのようなアプローチができたかを評価（60%）。

また、各授業回に提出される「授業に対するリアクション」と最終的に提出される最終レポートの内容から、授業の理解度を平常点として評価（40%）。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

※授業中に授業と関係ない作業を行うこと、他の受講生への迷惑となる行為を行うことに対しては、厳しく対処します。

【学生の意見等からの気づき】

新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを自身で再考察できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline and objectives】

While considering the mutual relations of the five senses, think about how people perceive objects and things.

ART200GA

映像文化論

岡村 民夫

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員 60 名。それを超えたら選抜

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スタジオジブリ結成以前の高畑勲・宮崎駿のアニメ映画を、欧米のアニメ映画と比較しながら、主に彼らの作品のスタイルや映画史・アニメーション史上の位置を学習する。

【到達目標】

1950 年代～1980 年代前半の日本のアニメの映画史・アニメの特徴や制作体制について学び、現代のアニメ状況がどのように生まれたのかを知ることができる。また、ストーリーづくりだけでなく、ストーリーをどのように表現するかが大事であるということを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

毎週、アニメ映画の制作体制、表現技術、スタッフ、制作体制などについての講義と、実作の抜粋の鑑賞を行う。そして鑑賞した映画について気づいたことをコメントシートないし宿題に書いてもらう。それらのフィードバックは授業および hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションおよび映画史概観	授業の内容、進め方について説明すると同時に、映画の歴史を概観する。
第 2 回	東映動画 1	『白蛇伝』 『安寿と厨子王』 『ガリバーの宇宙旅行』
第 3 回	東映動画 2	『太陽の王子 ホルスの大冒険』 『長靴をはいた猫』
第 4 回	高畑勲・宮崎駿に影響を与えたアニメ	ポール・グリモー レフ・アタマールノフ
第 5 回	『ルパン三世』第一シリーズ	「雨の午後はヤバイぜ」 「ジャジャ馬娘を助けてせ！」
第 6 回	『パンダコパンダ』二部作	『パンダコパンダ』 『パンダコパンダ 雨ふりサーカス』
第 7 回	日本アニメーション 1	『アルプスの少女ハイジ』
第 8 回	日本アニメーション 2	『母をたずねて三千里』 『赤毛のアン』
第 9 回	NHK 初のアニメ	『未来少年コナン』
第 10 回	宮崎駿の映画第一作	『ルパン三世カリオストロの城』
第 11 回	高畑勲の日本帰郷	『じゃりン子チエ』 『セロ弾きのゴーシュ』
第 12 回	『アニメージュ』とともに	漫画『風の谷のナウシカ』と映画『風の谷のナウシカ』
第 13 回	高畑勲・宮崎駿に影響を与えた映画 2	溝口健二 デシーカ ジョン・フォード 黒沢明
第 14 回	まとめ	学んできたことを振り返って補い、レポートに備える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
授業で部分的に観た映画を、できるかぎり自主的に鑑賞することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

随時、プリントを配布します。

【参考書】

高畑勲『映画を作りながら考えたこと』岩波文庫

宮崎駿『出発点』徳間書店

叶精二『宮崎駿全書』フィルムアート社

ステファヌ・ルルー『シネアスト宮崎駿 奇異なもののボエジー』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）とレポート（60 %）。

平常点は出席だけでなく、コメントシートや宿題を通して評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

なおコメントシートや宿題のフィードバックは、hoppii や授業を通じて行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業時に積極的に意見を求める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

遅刻・早退厳禁。就活による欠席も原則として認めない。

初回にオンラインで選抜テストを実施するので、必ず出席し試験を受けること。

【旧科目との重複履修】

なし。

【Outline and objectives】

In this class, we study Isao Takahata and Hayao Miyazaki's work before the foundation of Studio Ghibli, through the position of their style and the history of film, in comparison with occidental animation films.

ART200GA

写真論

丹羽 晴美

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、デジタルが主体となった写真について 19 世紀中頃の発明前後の歴史的背景から見直し、人間の知覚を拡張したメディアとして検証する。具体的に作品や作家論にも触れ、写真表現の可能性を考察すると共に、あたりまえになっている「見る」という行為を再考する。

【到達目標】

写真について、メディアと技術の両側面から基礎的な論点を把握し、歴史や他分野との関係について考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

主にプロジェクションによる講義を実施。19 世紀から現在まで、発達する写真メディアと他分野へ与えた影響などを個々の状況をみながら考える。実際に展覧会を予習・鑑賞して、レポートを提出する回も設ける。課題に対するフィードバックは講義内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	写真というメディア：写真メディアを見直す	今、あまりにも身近になっている「写真」というメディアを再考する。
第 2 回	写真誕生前夜：19 世紀の状況を見直す	様々なメディアが発明された 19 世紀を再考し、写真が発明される前の知覚を考える。
第 3 回	写真誕生：写真発明によって何が変わったか	19 世紀半ば、写真発明に伴い何が起り、社会状況にどのような影響があったかを考察する。
第 4 回	作家論 1：現在と異なる写真技法を使った作家について	19 世紀半ば、当時の最先端メディアを使った作品、作家は何を工夫し、何を獲得したか。
第 5 回	写真メディア史 1：写真発達史とその背景	写真の発展に伴い、情報伝達にどのような影響があったか。
第 6 回	写真メディア史 2：写真技術史とその影響	写真技術が発達するとは、社会的にどのようなことなのか。現代への影響も考える。
第 7 回	写真と絵画：表現としての写真	写真の登場は美術史に多大な影響を与えた。その様子写真表現を考察する。
第 8 回	作家論 2：写真独自の表現とは何か	表現として独立した写真は何を目指したか、具体的な作品を観て考える。
第 9 回	ドキュメンタリー 1：ドキュメンタリーの中で果たした役割	写真の大きな特性である記録性は歴史の中で大きな役割を果たした。その変遷の考察。
第 10 回	ドキュメンタリー 2：ドキュメンタリー写真の反省点と可能性	撮る者と観る者の意識によっては、写真は功罪となる。その反省点と今後の可能性。
第 11 回	作家論 3：記録と表現の狭間	記録することと、自分の意思を表すことの狭間で作家達が何を表現しているかを考察。
第 12 回	現代の写真：写真でしかできない表現を目指す現代の写真	写真の特性を生かした様々な表現は、時に特異に見える。その中に隠された意図とは何か。
第 13 回	見えないもの：『見えるものと見えないもの』	メルロ＝ポンティの視覚論を引用しながら、写真がもたらした知覚を考察。
第 14 回	写真がもたらした知覚	全講義のまとめ。写真論、作家論、作品論などから様々な視覚効果を考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「作家論」講義には、実際に展覧会を観てレポートをまとめる回が含まれている。講義内に課題展覧会の予習を行い、レポート提出までは約 2～3 週間の猶予を設ける。「作家論」講義時期は現時点での予定。詳細は講義内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義内に指示

【成績評価の方法と基準】

レポート提出 2 割、期末試験 8 割この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実際に行われている展覧会やイベントなどの情報照会が好評であったため、積極的に講義内で紹介していく予定。

【その他の重要事項】

講義の進行状況により、内容変更あり。

【Outline and objectives】

This course studies how photography widened human perception while rethinking the history of development of the media from the mid-19th century. As we see various photographic works, we examine the way of seeing.

ART300GA

演劇論

竹内 晶子

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミュージカルも、テレビドラマも、映画も、オペラも、人形劇も、能も、歌舞伎も、宝塚も、演劇の一つです。音楽・美術・文学・舞踏を含む総合メディアである演劇は、古今東西の人間達の娯楽の中心に常にありました。この授業では日本の古典演劇と近代西洋演劇との比較を軸に、演劇を構成する様々な要素、演劇を取り巻く様々な問題について考察します。その中で世界の演劇の多様なあり方や、基本的な演劇理論の応用を学ぶことにもなるでしょう。「なぜ我々／自分は演劇を見るのか」。様々な切り口から演劇を分析しながら、学生の一人一人がこの問への答えを探っていくことになります。

【到達目標】

- ・近代西洋演劇と対比した、日本古典演劇の特徴を理解する。
- ・基本的な演劇理論を理解し、実作品の分析に応用できるようになる。
- ・時代や文化、ジャンルを異にする多様な演劇作品の比較分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

(a) 様々な演劇形態の説明、(b) 基本的演劇理論の解説、(c) 台本読解や DVD 鑑賞とその分析、を交互に行っていきます。自分の頭で分析しながら観る・読む・聞く態度が、受講者には求められますので、毎週の課題 (SQ) を期日までに提出することが必須です。単に DVD を漫然と観て講義を聞くだけの授業ではありません。

基本的に授業は zoom 上で行いますが、オンライン上で手に入らない視聴覚教材を鑑賞する回は対面で行います。授業では皆さんの課題への回答を紹介し、様々な視点を共有していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	授業説明
第二回	演出が可能にすること I	鑑賞と分析
	：ゼッフィレッリ版、映画版演の「蝶々夫人」	
第三回	演出が可能にすること II	鑑賞
	：映画版、浅利圭太版の「蝶々夫人」	
第四回	演出が可能にすること III	議論、分析
	：映画版、浅利圭太版の「蝶々夫人」	
第五回	演出が可能にすること IV	鑑賞、議論、分析
	：モンティ版、ウィルソン版の「蝶々夫人」	
第六回	日本の古典演劇 I	文楽、歌舞伎の歴史、
第七回	日本の古典演劇 II	能の歴史、二層のコミュニケーション
第八回	日本の古典演劇 III	能、文楽、歌舞伎の「所作」
第九回	能と西洋演劇	モダニズム運動と能
第十回	異性装 I	シェークスピア他、西洋演劇史における異性装
第十一回	異性装 II	歌舞伎など、日本芸能史にみる異性装
第十二回	異性装 III	宝塚の「男役」が可能にするもの
第十三回	古典演劇と現代の舞台	『王女メディア』『ジーザス・クライスト・スーパースター』他
第十四回	学生発表	新才能・新作歌舞伎・新作宝塚

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の SQ (Study Questions) への回答を、期限内に提出すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料を用いる。

【参考書】

毛利三彌『演劇の詩学 劇上演の構造分析』相田書房、2007 年。

【成績評価の方法と基準】

- ・課題 (SQ)：50%。締切厳守。4 回以上課題を提出しなかった場合は、単位取得の権利を失います。
- ・積極的な授業参加：20%
- ・期末試験 30%
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の課題への回答を授業で紹介します。

【その他の重要事項】

- ・必ず初回授業 (zoom) に参加すること。履修を希望する学生が多い場合には、選抜を実施します。
- ・対面の回と zoom の回とが混在するので、学習支援システム上で発表する指示に気をつけること。

【Outline and objectives】

Students will learn some basic theater theories and analyze Japanese traditional theater in comparison with modern Western theater.

ART300GA

空間デザイン論

前田 尚武

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員 40 名

備考（履修条件等）：2021 年 9 月に履修希望者の受付を行う。定員超過の場合は選抜を実施する。詳細は、学習支援システムのお知らせを参照すること（2021 年 8 月以降に掲載予定）。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「空間」は、都市、建築、アート、グラフィック、映像などさまざまなデザイン手法が駆使されたメディアである。各々の領域で論じられている「空間」を講義と体験を通して多角的に理解し、空間デザインを表現・伝達する理論的かつ実践的な方法論を学ぶ。

【到達目標】

本講座は、デザインの制作技術を得得するのではなく、空間デザインを操るリテラシーを高めるとともに、空間が背負う社会的・文化的背景や文脈を理解し、表現・伝達する力を養うことが目標である。講義を通して理論を学び、フィールドワークでは第一線で活動している訪問先の研究者、学芸員、デザイナー、建築家などの生の声と空間の実体験から、様々な立場で建築、都市、アートに関わる際の実践的な理論を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講座は、一級建築士であり学芸員である講師がこれまで企画、設計、デザインを手がけた都市開発、建築、展覧会等を主たる題材に、舞台裏での経験と実例を基に空間デザインの理論と実務を講義する。また、講義に連動してフィールドワークを積極的に実施し、訪問先の研究者、学芸員、デザイナー、建築家などからのヒアリングも行う。訪問先との調整を行った上で下記各講座を再編し、日時、場所を決定し事前に周知する。講義の進行状況、登録人数等により、講義内容、フィールドワークの調査先、日程等は変更になる可能性があり、オンラインで実施することもある。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーから良いコメントを紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全体のガイダンス。テーマ、目標、スケジュールなど。
第 2 回	講義「アートと空間 1：現代美術のインスタレーションと空間デザイン」	現代美術における空間表現：インスタレーション作品の制作過程から様々な展覧会での空間構成や照明デザインまで舞台裏を解説。
第 3 回	講義「アートと空間 2：美術館・博物館建築論」	いま、美術館に求められる空間とは何か。企画、展示、運営など多角的な視点から美術館・博物館を考察する。
第 4 回	講義「アートと空間 3：エリアマネジメントとアート」	近現代における環境芸術としてのアートが都市において果たしてきた役割といま求められているものは何かを解説。
第 5 回	フィールドワーク 六本木ヒルズのパブリックアートと森美術館	都市とアートの関係から現代美術の展示手法、展示空間のデザインまで実例をもとに解説する。
第 6 回	フィールドワーク 六本木ヒルズのパブリックアートと森美術館	都市とアートの関係から現代美術の展示手法、展示空間のデザインまで実例をもとに解説する。
第 7 回	講義「都市と空間 1：現代都市デザインの萌芽」	戦後の復興都市計画から 60 年に起きた建築運動メタボリズムから高度経済成長期に日本の建築家たちが描いた未来都市を紹介。
第 8 回	講義「都市と空間 2：都市デザインの未来」	70 年の大阪万博から六本木ヒルズなど現代日本の都市デザインの実験的試みを俯瞰し、都市空間の将来像を考える。
第 9 回	フィールドワーク（オンライン）京都市京セラ美術館	講師が企画し、開催中の「モダン建築の京都」展をオンラインで解説。京都に多数現存するモダン建築を通して日本の都市と建築の近代化を解説。

第 10 回	フィールドワーク（オンライン）京都市京セラ美術館	現存する美術館建築として最も古く、2020 年にリニューアル開館した京都市京セラ美術館。改修から現在まで携わった講師がオンラインで解説。日本建築の魅力を再発見し、国際的に伝えようとした明治の建築家・建築史家の軌跡を紹介し、伝統継承の問題を考える。
第 11 回	講義「伝統と空間 1：日本建築の発見」	日本建築の影響がみられる国内外の近現代の建築作品の数々を読み解き、木組の構成美、民家、茶室まで多様な日本建築の特質を継承している現代建築を紹介し、空間デザインの未来を考える。
第 12 回	講義「伝統と空間 2：日本建築のグローバルズムと多様性」	講義で学んだ建築の理論を実空間を通して体験し理解を深める。
第 13 回	フィールドワーク 江戸東京たてもの園	講義で学んだ建築の理論を実空間を通して体験し理解を深める。
第 14 回	フィールドワーク 江戸東京たてもの園	講義で学んだ建築の理論を実空間を通して体験し理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義期間中の講義およびフィールドワークを通してテーマを設定し、レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業時に随時配布、紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への取り組み、レスポンス・シートの記述）と、レポートの合計。評価基準は平常点 50 %、レポート 50 % とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

フィールドワーク訪問先の美術館、博物館等の入館料が必要。

【その他の重要事項】

●講義日程

土曜日 3・4 限 2 コマ連続開講（原則隔週）を予定しており、詳細日程は、2021 年夏をめどに決定し、学習支援システムで周知する。

●講師略歴

前田尚武（まえだ なおたけ）

一級建築士／学芸員。1994 年、早稲田大学大学院修了。2003 年から 15 年間、森美術館に在籍し、「メタボリズムの未来年展」、「建築の日本展」など建築展を企画。現在、京都市京セラ美術館企画推進ディレクター。国内外の美術館・博物館の建築設計、展示企画やデザインに携わっている。一連の建築展企画で 2019 年度日本建築学会文化賞受賞。

【Outline and objectives】

“Space” is a media in which various design methods such as city, architecture, art, graphic, image etc. are utilized.

Understand the meaning of “Space” discussed diversely in each area through lectures and experiences and learn the theoretical and practical methodology of how to present and transmit space design.

LIT300GA

世界の中の日本文学

岩川 ありさ

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【2021.1.19 更新】これまで、世界文学の「正典（カノン）」は、日本文学、イギリス文学、アメリカ文学、フランス文学、ドイツ文学というように、国別、言語別で編纂されることが多かった。しかし、一つの国、一つの言語に限定される文学の捉え方から、世界の中で文学を幅広く捉える「世界文学」という概念も広まっている。「母語」の外に出て創作する作家たちが多く生まれている現在において、世界文学の視点は文学研究に欠かせない。この授業では、「世界の中の日本文学／日本文学の中の世界」をテーマにして、世界文学の基礎的な知識や近代日本文学の歴史を学びながら、現代社会の重要なトピックと文学を繋げるための視座を身につける。

【到達目標】

1、世界文学についての基礎的な知識や理論を身につけ、具体的な日本文学のテキストを分析できるようになる。
2、日本文学を通して世界を見つめ、歴史や社会と文学との関係性について自分の考えをまとめられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

4/9 授業開始。フルオンデマンド授業の講義形式で進めます。新型コロナウイルス感染症拡大との関係で、Youtube での限定配信や学習支援システム (Hoppi) の機能を併用して進める予定です。学期中はいつでも動画を見ることがができます。

フィードバックは Hoppi で受付け、授業中に回答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	4/9 イントロダクション —世界の中の日本文学—	デイヴィッド・ダムロッシュ『世界文学とは何か？』（秋草俊一郎、奥彩子ほか訳、国書刊行会、2011 年）を中心に、理論的な側面について学びます。また、多和田葉子、リービ英雄の翻訳について触れます。 *オンラインで実施の場合は、youtube での限定配信を行います。詳しくは学習支援システムの「お知らせ」を見てください。オンラインになった場合、学習支援システムの「教材」にレジュメをアップロードし、講義動画の URL を書きます。
第 2 回	4/16 3 つのノーベル文学賞スピーチから考える「日本文学」	「日本近代文学」の誕生から、川端康成 (1968)、大江健三郎 (1994)、カズオ・イシグロ (2017) のノーベル文学賞受賞記念スピーチを中心としながら、「日本文学」がどのようなものとして想像されているのかについて考えます。
第 3 回	4/23 エクソフォニーの文学	エクソフォニーという概念について学びます。
第 4 回	5/7 ヒロシマ・ナガサキの文学	ヒロシマ・ナガサキをめぐる文学について学びます。
第 5 回	5/14 ホロコーストと文学・文化 (1)	クロード・ランズマン「ショア」やショシャナ・フェルマンらの著作、ホロコースト否定論と証言の時代に関する文献を通じて、ホロコーストと文学・文化について考えます。

第 6 回	5/21 ホロコーストと文学・文化 (2)→ 課題レポート 1 (30%) 800-1,200 文字程度	「否定と肯定 (Denial)」(監督・ミック・ジャクソン、2016) を通してホロコースト否定論について学びます。 *「否定と肯定 (Denial)」は、youtube、amazon prime、u-next、google play 等でレンタルできます。 *以下の記事も参考になります。>「『否定と肯定』 歴史を否定する人と同じ土俵に乗ってはいけない」The Asahi Shinbun Global +, 2017.12.7 https://globe.asahi.com/article/11532409 夏目金之助と原子力の百年について考えます。 東日本大震災後の文学について考えます。 戦争と記憶をめぐる問題について考えます。 映画「この世界の片隅に」(片渕須直監督、2016) を通して、戦争を伝えるということについて考えます。 アリストテレス、E.M. フォースター、ウラジミール・プロップ、ジュラル・ジュネットらの著作を紹介しながら、物語について考えます。 文学とケアについて学びます。 病の表象について考えます。また、自らの傷ついた経験について語る語り手について考えます。 まとめを行います。
第 7 回	5/28 3.11 と文学 (1)	
第 8 回	6/4 3.11 と文学 (2)	
第 9 回	6/11 戦争と記憶 (1)	
第 10 回	6/18 戦争と記憶 (2)→ 課題レポート 2 (30%) 800-1,200 文字程度	
第 11 回	6/25 物語とは何か？	
第 12 回	7/2 文学とケア	
第 13 回	7/9 病の表象、傷ついた物語の語り手	
第 14 回	7/16 まとめ → 課題レポート 3 (40%)。2,000 文字程度	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムから課題の提出が必要です。十分な分量で書いてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・PDF のレジュメを学習支援システムから配布します。
・Amazon Prime、NETFLIX などサブスクリプションで手に入るものを中心とした動画を見て課題にとりくんでもらいます。

【参考書】

世界文学やエクソフォニーについては以下の本を参照してください。
落ち着いた頃に気になったら読んでみてください。
デイヴィッド・ダムロッシュ『世界文学とは何か？』秋草俊一郎、奥彩子ほか訳、国書刊行会、2011 年
フランコ・モレッティ『速読—〈世界文学システム〉への挑戦』秋草俊一郎ほか訳、みすず書房、2016 年
ダニエル・ヘラー＝ローゼン『エコラリアス—言語の忘却について』関口涼子訳、みすず書房、2018
リービ英雄『日本語を書く部屋』岩波現代文庫、2011 年
多和田葉子『エクソフォニー』岩波現代文庫 2012 年

【成績評価の方法と基準】

以下の 3 つのレポート課題で採点します。詳しくは、学習支援システムでお知らせします。
・レポート課題 1 第 6 回「否定と肯定 (Denial)」(監督・ミック・ジャクソン、2016) を観てのレポート課題 (30%) 800-1,200 文字程度
*「否定と肯定 (Denial)」は、youtube、amazon prime、u-next、google play 等で見るができます。レンタル等に 100-400 円程度必要です。
・レポート課題 2 第 10 回 「この世界の片隅に」(片渕須直監督、2017) を観てのレポート (30%) 800-1,200 文字程度
*「この世界の片隅に」は、netflix、youtube、amazon prime、u-next、dtv などで見られます。レンタルに、100-400 円程度必要な場合があります。
・レポート課題 3 具体的な文学テキストを対象として、この講義を踏まえたレポートを提出してください。詳しくは授業内で説明します。(40%)。2,000 文字程度
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

新型コロナウイルス感染症拡大の中で、積極的に授業に参加した。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムからコメントを打ち込んでもらうので、パソコンやタブレットなどの端末。

【その他の重要事項】

受講者は必ず初回授業で授業支援システムの名簿登録をしてください。

【Outline and objectives】

This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about World literature. We will mainly focus on theories of David Damrosch. We will examine the relationships of literature and social and historical problems. By the end of this course, students will develop a deeper understanding of World literature.

ARSx200GA

世界とつながる地域の歴史と文化

高柳 俊男

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：選抜
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、2012 年度から夏休みに長野県南部の飯田・下伊那地域で実施している「S J 国内研修」（S J = Study Japan）に参加する留学生・ボランティア補助員および希望する一般学生を主対象に、その事前学習用として開講されるものである。

「S J 国内研修」とは、一般学生の S A に相当するもので、地方の中山間地域での諸活動を経験することで、留学生にとっての S A とも言えるこの日本を、東京からの発想とは別に、地方の視点でも考えうる目を養うことを趣旨としている。

したがって、この授業の目標も、飯田・下伊那地域の歴史・社会・文化・民俗・自然などについて、一通りの前提知識を身につけることで、8 日程度の「S J 国内研修」を有意義に送れるようにすることにある。国際文化学部の研修であることに鑑み、とりわけこの地域における国際化や異民族との関係、および文化に重点を置きながらみていく。

【到達目標】

授業の進展につれ、南信州の中山間地域の飯田・下伊那にも、東京とはまた異なる歴史・文化・自然があり、固有の国際関係があることが理解できるであろう。最終的には、「S J 国内研修」に際して探求すべき自分なりのテーマをみつけ、夏休み中の自己学習を経て、研修本番につなげられるようにすることが目標である。

「S J 国内研修」に参加せず、単なる一授業として受講することも可能だが、そうした受講者にとっては、飯田・下伊那を例に、日本のなかに存在する多様性や多文化を考える視点を得ることが到達目標となる。そこで得られた視点やアプローチは、日本の他地域を考える際にも有効に機能するであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

教員による講義が中心だが、受講生に随時発問しながら進める。関連する映像の上映も、毎回織り交ぜる。

特定の地域の細かな事実にとことんこだわるが、それは「個別を極めることを通して普遍に至る」こと、すなわちこの授業のタイトルのように、「飯田・下伊那から日本がみえる、世界とつながる」ことを具体的に知るためである。そのためには最低限、理解すべき事項は理解し、覚えるべき固有名詞（地名、人名など）は覚えていただく。

毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などを「コメントシート」に書いてもらい、それを次の授業冒頭で活用するなど、双方向的な授業になるよう心がけたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	本授業と「S J 国内研修」の概要を説明する。受講希望者数によっては、選抜を実施することもあるので、初回の授業に必ず出席すること。
第 2 回	飯田・下伊那の概況①	飯田・下伊那地域にある 1 市 3 町 10 村について、行政区分、地形、気候、交通、物産などの概況をみていく。天竜川の果たした役割や、愛知県東部・静岡県西部との県境を越えたネットワーク（三遠南信）についても考える。
第 3 回	飯田・下伊那の概況②	前回に続いて、飯田市の成り立ちを考える。1937 年に成立した当初の市域に、1950 年代以降、周辺の 15 の自治体が合併していまの飯田市が形成されていることの意味、言い換えれば飯田市の統一性と多様性を具体的に考察する。

第 4 回	飯田・下伊那の歴史	飯田・下伊那地域が経てきた歴史の概要を、古代から現代まで通史的に学ぶ。戦後史部分では、飯田市のアイデンティティの根幹にも関わる飯田大火、りんご並木、三六災害について知る。現在の J R 飯田線、とくに旧三信鉄道の建設史を、アイヌの測量士カネトや朝鮮人労働者に焦点を当ててみていく。飯田駅前に記念碑が建つ伊原五郎兵衛についても知る。前回学んだカネトについて、近年、住民自身により飯田線沿線各地で上演されている合唱劇『カネト』を DVD 鑑賞しながら、再度考える。
第 5 回	飯田線建設史①	1930 年代以降、この地域から多数渡って行った満蒙開拓団や満蒙開拓青少年義勇軍について、その史実と背景を学ぶ。前回学んだ満蒙開拓青少年義勇軍について、そのテーマでつくられたアニメ『蒼い記憶』を DVD 鑑賞しながら、再度考える。
第 6 回	飯田線建設史②	現在、この地域の人々が、満州移民の歴史やその結果として生まれたいわゆる中国残留孤児・中国帰国者のことを、どう後世に伝えようとしているかを、阿智村に開館した満蒙開拓平和記念館などを例に探る。また、「残留孤児の父」と称される阿智村の長岳寺住職、山本慈昭についても知る。
第 7 回	満州移民の歴史①	外国人が増え、市として外国人集住都市会議に参加している飯田市における外国人の実態や、国際化・多文化共生の取り組みについて考察する。平岡ダム建設における外国人労働の歴史を、後世に正しく伝えようと努める天龍村の姿勢についても、あわせて考察する。
第 8 回	満州移民の歴史②	人形淨瑠璃や歌舞伎など、この地域に残る各種の伝統民俗芸能や、それをもとにした現在の文化イベントについて知る。とりわけ、飯田市内で活動する黒田人形・今田人形について、映像で確認する。
第 9 回	満州移民の歴史③	この地域の特色ある文化活動として、通巻 1000 号超の歴史を誇る郷土雑誌『伊那』の刊行や、活発な公民館活動について知る。あわせて、写真や童画で庶民の生活を記録してきた阿智村の熊谷元一についてもみていく。
第 10 回	飯田・下伊那の多民族共生の現在	この地域ゆかりの文化人のうち、法政大学で学んだり教えたりした経験をもつ 松嶋十・西尾実・森田草平 3 人の文化人について、母校教育の観点も含めて取り上げる。
第 11 回	飯田・下伊那の文化①	早くからグリーンツーリズム、エコツーリズム、都市農村交流などを唱え、実践してきた飯田市の取り組みについて知る。山村留学がこの地域に果たしている役割や、1970 年に廃村となった大平宿の保存活用運動についても探る。地域おこし協力隊など、若者による地域活性化の活動にも触れる。
第 12 回	飯田・下伊那の文化②	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 毎回配付するプリントに、「自習課題」を載せる。同じ内容は、ネット上の学習支援システムにも掲載する。これは自習であって、必ずしも提出義務はないが、提出すれば、就職活動などによる欠席を補う参考資料として加味する。可能な限りチャレンジして、学んだことをより深く考察し、定着させることを推奨する（提出期限：ネットへのアップから 2 週間後）。 授業期間中に例年、この授業と関連した学部イベントを実施するので、ぜひ参加してほしい。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
第 13 回	飯田・下伊那の文化③	【テキスト（教科書）】 特定のテキストは使用せず、学習内容に即したプリントを毎回、A 3 で 1 枚程度配付する。各回のプリントはファイルないし合冊にしておいて、実際の研修の場にも持参して活用すること。 留学生に、かつては自習用として、しんきん南信州地域研究所『いいだ・南信州 大好き』（2010 年）を当方で用意していたが、絶版で入手が難しくなっている。資料室に複数あるので、そちらで適宜利用してほしい。
第 14 回	まちづくりや自然との共生	【参考書】 授業の中で適宜指示する。それらの大半は、B T 20 階の国際文化学部資料室および書庫に配架された「飯田・下伊那文庫」（書籍 2,000 冊以上、映像 DVD 約 350 点所蔵）に収められているので、大いに利用してほしい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配付するプリントに、「自習課題」を載せる。同じ内容は、ネット上の学習支援システムにも掲載する。これは自習であって、必ずしも提出義務はないが、提出すれば、就職活動などによる欠席を補う参考資料として加味する。可能な限りチャレンジして、学んだことをより深く考察し、定着させることを推奨する（提出期限：ネットへのアップから 2 週間後）。

授業期間中に例年、この授業と関連した学部イベントを実施するので、ぜひ参加してほしい。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、学習内容に即したプリントを毎回、A 3 で 1 枚程度配付する。各回のプリントはファイルないし合冊にしておいて、実際の研修の場にも持参して活用すること。

留学生に、かつては自習用として、しんきん南信州地域研究所『いいだ・南信州 大好き』（2010 年）を当方で用意していたが、絶版で入手が難しくなっている。資料室に複数あるので、そちらで適宜利用してほしい。

【参考書】

授業の中で適宜指示する。それらの大半は、B T 20 階の国際文化学部資料室および書庫に配架された「飯田・下伊那文庫」（書籍 2,000 冊以上、映像 DVD 約 350 点所蔵）に収められているので、大いに利用してほしい。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出する「コメントシート」に反映された授業に取り組む姿勢 40 %、途中での中間課題 20 %、学期末のレポート 40 % を目安とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

とくにS J 国内研修に参加せず、1つの授業として受ける人には、「一地域のことをなんでこんなに細かく学ぶのか？」という疑問があるかもしれない。ただし、「個別を極めることを通して普遍に至る」というアプローチは、他の分野にも応用が利くと思われる。

また、自国のことを知り、外国人にも伝えられることは、国際人にとっての重要な要素であろう。

【学生が準備すべき機器他】

上述のように、学習支援システムをもう一つの教室として活用する。

【その他の重要事項】

「S J 国内研修」に参加する人は、どのような形であれ、この事前学習授業の履修が前提条件になる。研修の参加経費や単位の有無は、参加資格によって異なるので、詳細は「履修の手引き」の該当頁を参照のこと。

ボランティア補助員の選抜や、一般参加者への奨学金支給の可否の決定は、事前学習における意欲や成果をもとに、6月末から7月上旬に行なう予定である。

「S J 国内研修」に参加しない人の受講も認めるが、受講者数によっては選抜を行なうことがあるので、第1回目の授業に必ず参加すること（やむを得ず来られない場合は、事前にメールで連絡を入れること。アドレスは「履修の手引き」の「教員紹介」欄参照）。

【選抜の有無】

「その他の重要事項」欄にも記載されているように、留学生、およびS J 参加への強い意欲を有する一般学生を優先し、教室の収容人員を超えた場合は初回授業で選抜を行なうことがある。

【Outline and objectives】

This course is primarily designed for students who participate in the SJ(Study Japan) program in summer session. Therefore this class aims to gain a basic understanding of history, culture, and ethnic issues of South Nagano, where the SJ program is implemented.

Students who will not participate in the SJ program are also able to take this class.

ARSa300GA

スペイン語圏の文化 I

久木 正雄

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位
旧科目名：スペイン語圏の文化 I（多言語国家スペイン）
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数枠を 30 名とし、それを超えた場合は抽選とする
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、スペインの歴史と、そこに生きる人々が織り成す社会、そして彼らが生み出した有形・無形の文化遺産について学ぶ。とりわけ、スペインを構成する諸地域と言語・民族の多様性と、それらの歴史的重層性への理解を得ることを目的とする。また、バルセロナ大学への SA に参加する 2 年生は、バルセロナとカタルーニャへの理解と関心を、空間的にも時間的にも広い視野の中で深めてもらいたい。

【到達目標】
スペインの歴史・文化・社会が放つ多彩な魅力と、そこに付随する諸問題への理解と関心を深め、各自の考えをプレゼンテーションやレポートに言語化することができるようになる。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業は、受講生の中から予め定めた担当者を主体として、各回のテーマに関するプレゼンテーションと議論を中心に行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	スペイン史概説（先史時代～中世）	スペインの自然環境（地勢と気候）と、先史時代から古代・中世までのスペイン史（イベリア史）への理解を得る。
3	スペイン史概説（近世・近代）	国家と地域との関係に留意しながら、近世と近代のスペインに関する通史的な理解を得る。
4	スペイン史概説（現代）	内戦とフランコ体制期を中心として、自治州国家体制へと至るスペイン現代史（20 世紀）に関する理解を得る。
5	スペインの諸言語	スペインで用いられている諸言語と、それらの歴史的・政治的位置への理解を深める。
6	宗教と人々（前近代）	「三宗教の共存」と称される中世スペインの宗教的・民族的多様性と、近世以降の展開への理解を深める。
7	宗教と人々（近現代）	カトリック教会と国家、社会、そして人々との関係について、近現代を中心に考察する。
8	祝祭	いわゆる三大祭りを題材として、地域ごとに趣を異にするスペインの祝祭への理解を深める。
9	伝統芸能	フラメンコと闘牛を題材として、それらの地域性と「国民的」な伝統芸能としての側面について考える。
10	都市と建築	バルセロナに焦点を当てて、都市計画とアントニ・ガウディの建築に代表される文化とその背景への理解を深める。
11	内戦と芸術	内戦とその記憶の問題について、文学、絵画、映画といった芸術作品との関係の中で考える。
12	サッカー	スペインの国民的なスポーツと言えるサッカーの、娯楽としての側面と政治的な側面について考える。
13	スペインと日本	今日でも官・民のさまざまなレベルにおいて密接な係わりをもつ、スペインと日本との関係への理解を深める。
14	世界の中のスペイン	ヨーロッパの一国としての、そしてスペイン語圏の一国としての、現在のスペインの姿について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、事前に指示したテキストの範囲または配布した資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
立石博高（編著）『概説 近代スペイン文化史— 18 世紀から現代まで』ミネルヴァ書房、2015 年、本体価格 3,200 円、ISBN9784623066759。

【参考書】
- 田澤耕『カタルーニャを知る事典』平凡社新書、2013 年、本体価格 860 円、ISBN9784582856743。
- 田澤耕『物語 カタルーニャの歴史—知られざる地中海帝国の興亡 増補版』中公新書、2019 年、本体価格 920 円、ISBN9784121915641。
- 立石博高『スペインにおける国家と地域—ナショナリズムの相克』国際書院、2002 年、本体価格 3,200 円、ISBN9784877911140。
- 立石博高『歴史のなかのカタルーニャ—史実化していく「神話」の背景』山川出版社、2020 年、本体価格 2,750 円、ISBN9784634151628。
- 立石博高・内村俊太（編著）『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、本体価格 2,000 円、ISBN9784750344157。
- エドゥアルド・メンドサ（立石博高訳）『カタルーニャでいま起きていること—古くて新しい、独立をめぐる葛藤』明石書店、2018 年、本体価格 1,600 円、ISBN9784750347578。
その他、教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
議論への参加度： 30 %、プレゼンテーション： 30 %、学期末レポート： 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーションでプロジェクターを使用する場合には、接続用の PC は各自が用意すること。

【その他の重要事項】
この授業は春学期で完結し、秋学期開講の「スペイン語圏の文化 II」との直接の連続性はない。

【Outline and objectives】
This course is designed to provide students with a basic understanding of several aspects of Spain and its regions: histories, societies and cultures.

LIT300GA

英語圏の文化Ⅴ（文学と社会Ⅱ）

北 文美子

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数制限・選抜あり

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18世紀から20世紀にかけての英語圏（イギリスとアイルランド）の文学作品を取り上げ、各作品の社会的・文化的・歴史的背景を考察しながら、文学を理解するうえでの知的視野を広げることをめざします。

【到達目標】

それぞれの文学作品にうかがえる文体・人物造型・風景描写などを仔細に検討することで、時代の思想を読み解き、近代・現代における文学と社会のつながりについて理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います（オンデマンド教材）。毎回講義内容に対する各自の理解を確認するため、授業で扱った作品の引用をテキスト分析し、リアクション・ペーパー（課題）としてまとめ、提出してもらいます。レビュー・ウィークにリアクション・ペーパーをもとにしながら内容の復習をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション	コース概要について説明します。
2 回	デフォーと近代資本主義	『ロビンソン・クルーソー』と資本主義社会の合理精神について考察します。
3 回	メアリー・シェリーと近代ロマン主義	『フランケンシュタイン』とロマン派の興隆について考察します。
4 回	マックファーソンとケルティシズム	『オシアン』とケルティシズム、オリエンタリズムとの関係を考察します。
5 回	マシュー・アーノルドと帝国主義	『ケルト文学研究』とビクトリア朝時代の帝国主義、社会ダーウィン主義について考察します。
6 回	バーナード・ショーと地方主義	『ビッグマリオン』とビクトリア朝の標準英語化の動きについて考察します。
7 回	レビュー	リアクション・ペーパーを返却し、前半のまとめをします。
8 回	イエイツと民族主義	『ケルトの薄明』と民話蒐集の政治的意図について考察します。
9 回	ジョイスとモダニズム	『ユリシーズ』とモダニズム運動について考察します。
10 回	ベケットとポストモダニズム	『モロイ』とポストモダニズム思想について考察します。
11 回	アンジェラ・カーターとフェミニズム	『血染めの部屋』とフェミニズム思想、童話の脱構築について考察します。
12 回	ブライアン・フリールとポストコロニアリズム	『トランスレーションズ』とアイルランドの植民地経験について考察します。
13 回	レビュー	リアクション・ペーパーを返却し、後半のまとめをします。
14 回	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回取り上げる作品を原書あるいは翻訳で事前に読んでおいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回、プリントを配布（配信）します。

【参考書】

適宜、授業内（オンデマンド教材）あるいは学習支援システムの「お知らせ」などで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、リアクション・ペーパー（60%）

試験（40%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

参考文献の紹介に加えて、内容についての簡潔な解説も付け加えます。

【Outline and objectives】

This course aims to deepen the understanding of British and Irish Literature from the 18th century to the 20th century, and to examine social, cultural and historical backgrounds of each literary work.

ART200GA

異文化と身体表現

深谷 公宣

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：受講希望者数が教室の収容人数を超えたら選抜

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いくつかの舞踊の発生の経緯、発展のプロセス、文化的意義について学ぶ。身体運動のメカニズムや表現技法を細かく分析するのではなく、宗教、性、習俗、観光化といった身体にまつわる社会的な問題を、舞踊を通して、異文化という視点から理解する。

【到達目標】

・舞踊の歴史的・文化的背景を叙述することができる。
 ・諸地域ごとの舞踊の知識を踏まえつつ、日本の能、歌舞伎、文楽等の特徴を、日本文化を知らない人に対して説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・資料を元に講義する。受講者は授業の最後に、または授業後に、リアクション・ペーパーを執筆し、提出する。
 ・リアクション・ペーパーに対しては、必要に応じてコメントを付し、毎回、提出者全員に返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・ポリネシア（1）	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語等の紹介。ニュージーランドのハカの歴史・文化的特徴について。
2	ポリネシア（2）	フラの歴史・文化的特徴について。
3	南米	アルゼンチンのタンゴ、その他、中南米の舞踊の歴史・文化的特徴について
4	北米・ヨーロッパ（1）	アイリッシュ・ダンスの歴史・文化的特徴について
5	ヨーロッパ（2）	フラメンコの歴史・文化的特徴について
6	ヨーロッパ（3）	ワルツの歴史・文化的特徴について
7	アジア（1）	インド舞踊の歴史・文化的特徴について
8	アジア（2）	京劇の歴史・文化的特徴について
9	アジア（3）	インドネシア、特にバリ島舞踊の歴史・文化的特徴について
10	日本（1）	能と狂言の歴史・文化的特徴について
11	日本（2）	歌舞伎の歴史・文化的特徴について
12	日本（3）	文楽の歴史・文化的特徴について。文楽協会助成金削減問題
13	プレゼンテーション	身体表現の文化的側面について、受講者有志によるプレゼンテーションを行う。
14	まとめ	授業のまとめと参考文献の紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記【参考書】に記載の書籍を読むように努める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

ジェラルド・ジョナス『世界のダンスー民族の踊り、その歴史と文化』（大修館書店）
 邦正美『舞踊の文化史』（岩波新書）
 渡辺保『日本の舞踊』（岩波新書）
 渡辺保『身体は幻』（幻戯書房）
 三隅治雄『踊りの宇宙ー日本の民族芸能』（吉川弘文館）
 舞踊教育研究会『舞踊学講義』（大修館書店）
 矢口祐人『ハワイとフラの歴史物語』（イカロス出版）
 生明俊雄『タンゴと日本人』（集英社新書）
 山下理恵子『アイルランドでダンスに夢中』（東京書籍）
 有本紀明『フラメンコのすべて』（講談社）
 加藤雅彦『ウィンナ・ワルツーハプスブルグ帝国の遺産』（NHK ブックス）

宮尾慈良『舞踊の民族誌ーアジア・ダンスノート』（彩流社）

宮尾慈良『これだけは知っておきたい 世界の民族舞踊』（新書館）

皆川厚一『インドネシア芸能への招待ー音楽・舞踊・演劇の世界』（東京堂出版）

魯大鳴『京劇入門』（音楽之友社）

白洲正子『能の物語』（講談社文芸文庫）

『野村萬斎 What is 狂言？』（檜書店）

Patricial Leigh Beam, World Dance Cultures: From Ritual to Spectacle. Routledge.

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %：当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

学期末レポート 50 %：異文化と舞踊に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

A survey course that studies a wide range of dance across cultures and time periods. We will explore the process of its development and the cultural values. Instead of analyzing the details of body mechanics, this course will focus on the social dimensions of dance in terms of religion, sex, habits, tourism and try to elicit its intercultural aspects.

ARSk300GA

人の移動と国際関係Ⅲ（アジア・太平洋）

村川 庸子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：移民研究Ⅲ（アジア・太平洋）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：旧：移民研究Ⅲ（アジア・太平洋）の修得者は履修不可

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、人の国際的な移動により異文化間の深刻な摩擦が生じるケースが増加している。本講義では、アメリカの移民政策の歴史や現状を日本や西欧諸国のそれと比較することで、異文化を理解すると同時に自国の文化を客観的に眺めるための通文化的かつ複眼的な視点を身につける。現実の摩擦が生じた場合にも、偏りのない分析と健全な批判精神を育てる能力を養うことを目的とする。

【到達目標】

1)「移民の国」であるアメリカの移民政策と市民権制度の歴史を概観し、2)それらが現代のアメリカ社会でどのような意味をもつのか検討し、3)西欧諸国の政策・現状と比較し、4)少子高齢化の中、入管法の改正により「移民」導入に舵をきった日本の政策の現状と今後の課題を検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・本年度は Zoom による同時双方向型の講義形式の授業を中心に行う。
- ・事前に授業資料を掲示し、授業内で予習・復習の課題を課す。
- ・米国での人種差別の問題や日本の外国人労働者問題などグループディスカッションの時間を設けたい。
- ・講義の感想や質問事項を逐次受け、次回にそれについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入－国際的労働力移動を学ぶ意味	国際的労働力移動の現状
2	国境を超えること 国境を超えること 各国の入国管理政策	各国の入国管理政策
3	日米の国籍・市民権制度	市民権制度の比較－アメリカの場合
4	日米の国籍・市民権制度	市民権（国籍）制度の比較－日本の場合
5	事例：日系アメリカ人の強制収容	市民権制度の狭間で
6	アメリカの不法入国者	Donald Trump の不法移民政策
7	グローバルシステムの変化と国際労働力移動	国際労働力移動の何が変化しているのか？
8	世界の移民問題－UK の場合	イギリスのEU離脱との関連で考察する
9	世界の移民問題－フランスの場合	テロと移民二世来日東南アジア人について言及する
10	世界の移民問題－フランスの場合	多文化社会の抱える課題
11	世界の移民問題－ドイツの場合	メルケル首相の移民・難民政策
12	トランプ大統領の移民政策－その後	アメリカの移民政策と世界
13	日本の「外国人」政策の現状と課題	日本の見えざる人種・民族差別
14	終章	世界のナショナリズムと移民問題の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に指示した史料を読んでくる。
- ・今回の復習事項と次回の予習事項、質問事項につき、与えられた課題をペーパーに記入して次回に提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、かなり大量の資料を指示する予定。

【参考書】

- ・各回に指定する。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の課題提出～30 %。
- ・到達目標の 1)、2)、3)、4) が、どの程度できているかを期末テストによって判定する～70 %。
- この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度が初めての担当なので記載すべき情報がない。

【Outline and objectives】

Over several decades, immigration has transformed not only the United States but many places from the European nations, Middle Eastern states and developing nations. Why do people migrate across international borders? How have these countries treated these people and what have happened? In this lecture, we examine the policies and their influences on the local communities.

OTR200GA

インターンシップ事前学習

石森 大知、北 文美子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、学生が「国際文化学部で親和性のある企業・団体の第一人者によるプロフェッショナルな仕事」を理解し、今後の就職活動などに活かすことにあります。複数の外部講師ら登壇する「オムニバス授業」です。

本学部学生の中には、卒業後どのような仕事に就くのか、就けるのかという点について不安に思っている学生もいるかもしれません。本授業を通じて、学生は幾つかの業界は国際文化学部との親和性が高いものであることを理解するでしょう。

本授業では、そうした業界の第一線で働く経験豊富な講師による授業を見聞することで、学生はそれぞれの業界・企業・団体の仕事の内容と将来の展望を知ることができます。

【到達目標】

- 1) 国際文化学部に関連する企業・団体の第一線で活躍される外部講師らによる講義を通じて、学生は各職種の特徴・問題などを学ぶことができる。
- 2) 実社会で生きるとはどういうことかを、最新のデータや体験談を交えて学ぶことができる。
- 3) 国際文化学部と親和性の高い企業・機関に関する生の情報を収集することで、「インターンシップ」という就業体験や就職活動などの準備にも活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は、基本的に【オンデマンド型】となります（外部講師のご意向により変更の可能性もありますが、その都度連絡します）。
- ・初回を除いて、外部講師によるオムニバス授業です。各回ではパワーポイントなどを用いながら、各企業・機関・団体の活動やインターンシップ制度などについて講演して頂きます。
- ・各授業の最後には、質疑応答時間を設け、学生からの意見・質問を受け付けます。コメントシートは毎回、授業時間内に記載してもらいます。
- ・コメントシートにおける質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・本授業の目的・方法の説明
4 月 8 日	北文美子・石森大知	・成績評価の詳細
第 2 回	榎本裕洋氏（丸紅株式会社、チーフ・エコノミスト）	総合商社とは何か
4 月 15 日		
第 3 回	堂前清隆氏（株式会社 インターネットイニシアティブ、広報部、副部長）	携帯電話・スマートフォンの市場と 5G について
4 月 22 日		

第 4 回	森紀人氏（㈱ ANA 総合研究所、総括主席研究員）	航空産業の特性と挑戦
5 月 6 日		
第 5 回	井上瞳氏（株式会社 リコー、サステナビリティ推進本部）	リコーの社会課題解決と異文化理解
5 月 13 日		
第 6 回	早坂文宏氏（毎日新聞 社、採用・研修センター室長）	新聞ジャーナリズムの現状と就活の現場
5 月 20 日		
第 7 回	松木真也氏（株式会社 テレビ朝日、コンテンツ編成局放送基準担当局長）	テレビを取り巻く環境の変化
5 月 27 日		
第 8 回	シムカート・ビョルン氏（公益社団法人アムネスティ・インターナショナルジャパン、キャンペーン・コーディネーター）	気候変動から人権を守るボランティア活動
6 月 3 日		
第 9 回	代島裕世氏（サラヤ株式会社、コミュニケーション本部、本部長）	SARAYA の SDGs ビジネス
6 月 10 日		
第 10 回	畑中晴雄氏（花王株式会社、ESG 戦略部、部長）	Kirei Lifestyle Plan : 花王の ESG 戦略と具体的な取組
6 月 17 日		
第 11 回	松本悟氏（法政大学、国際文化学部、教授）	惜しまれて転職したい—記者、NGO、大学教員としての 30 年
6 月 24 日		
第 12 回	松山匡延氏（M-wing 合同会社、代表）	国際協力事業におけるインターンシップについて
7 月 1 日		
第 13 回	神野齊氏（株式会社 石書店、編集部、部長）	出版の今：縮む世界と広がる世界
7 月 8 日		
第 14 回	大城勝浩氏（株式会社 朝日広告社、デジタルメディアセンター、センター長）	広告会社のホンシツ
7 月 15 日		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の配布資料については、確りと再読すること。
- ・興味のある講師のテーマや職種については、図書館などで関連する文献を調べ、できるだけ視野を広げること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・なし。
- 授業内において関連資料を配布します。

【参考書】

- ・随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・「平常点（出席＆コメントシート）60 %」と「期末レポート 40 %」による総合評価。
- ・授業終了後約 1 週間後にレポートの提出。分量・提出方法などについては、授業において詳しく説明します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・例年、各授業の最後には質疑応答の時間をとっている。しかし、必ずしも毎回意見や質問が出るわけではない。そのため、もしも質問が出ない場合には、改めて補足説明をお願いしたり、適宜学生に当てたりするなど、今後も授業運営を工夫する。

【その他の重要事項】

注意事項：

「インターンシップ事前学習」という授業名称ではありますが、本授業は各業界におけるインターンシップに直結したものではありません。

【Outline and objectives】

This course aims to introduce professional works which have affinity with edutaions and reseaches in the Faculty of intercultural communication. In this course, each lecture will be given in omnibus format, mainly by lecturers who work in some japanese company or international organization.

Students taking this course will be able to understand the difference of activities in each company or international organization. In doing so, they will know what and how to prepare for participating to internship programs or job hunting in the futur.

COT200GA

デジタル情報学概論

重定 如彦

サブタイトル：デジタル社会を生き抜くための基礎知識

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IT を過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることなく、正しく理解することが重要である。

デジタル情報化社会、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとに IT の本質を明確にし、わかりやすく述べる。

この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得ることを目指す。

情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】

デジタルとは何かについて理解する。

デジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。

デジタル情報化社会及び、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解する。

現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

上記の到達目標を達成するため、教科書である「デジタル情報学概論」の内容をもとにデジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。

授業の前半ではデジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。

具体的にはまず「デジタルとは何か」から始まり、デジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、デジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。

次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうデジタル技術について解説する。

各回の講義は PowerPoint と教科書を用いて行う。PowerPoint の資料は授業が行われる週の頭までに学習支援システムにアップロードするので各自予習を行うこと。

おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。

学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	授業の導入とデジタル	デジタルとは何か 情報の符号化 デジタルの利点と欠点
2 回	情報の伝達	インターネットにおける情報の伝達 データの圧縮。誤りの検出と訂正
3 回	情報通信	有線通信と無線通信 人工衛星を使った通信
4 回	安全な通信と暗号その 1	安全な通信の要件（機密性と安全性） 暗号の概要 共通鍵暗号と公開鍵暗号
5 回	安全な通信と暗号その 2	安全な通信の要件（認証と否認防止） 電子署名 認証局と公証局

6 回	デジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTML と XML
7 回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8 回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9 回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10 回	デジタルコンテンツ	パッケージメディア ネットワーク型デジタルコンテンツ 電子出版
11 回	電子報道、電子図書館、デジタルアーカイブ	電子報道 電子図書館 デジタルアーカイブ
12 回	3 次元 CG、デジタルマップと GIS	3 次元 GC デジタルマップと GIS
13 回	サイバービジネス	電子商取引 電子マネー・電子商取引のセキュリティ
14 回	ユビキタスコンピューティング、人工知能	ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタス ID 人工知能

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用する Power Point の資料（学習支援システムで配布する）

【参考書】

奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版（2000）、ISBN4-320-02994-1

<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/>

いくつかこの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、期末試験 50 %、レポート 40 %

「評価基準」

平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。

レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り（冬休み明けの最初の授業の日）までに提出すること。

期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

「リンクなどを使って実例をみせてもらえるとうわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。

また、2013 年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】

PowerPoint を使って資料を提示しながら授業を行う。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire broad knowledge of digital information society, and digital information technologies which support the digital information society.

HUI200GA

仮想世界研究

甲 洋介

サブタイトル：

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会の重要なテーマとして「仮想世界」を取り上げる。受動的に講義を受けるのではなく、「仮想世界」の問題に対して、受講生が主体となって具体的な視点を以て検討できるよう、工夫されている科目である。

● 手ごたえのない「現実」vs. リアルな「仮想世界」

ヒトはかつて仮想世界を作り出した。気がつくと、現実と仮想との境界はますます曖昧になってきたと感じられる。その一方で、私たちの生活のさまざまな場面で、「手ごたえ」＝リアリティ（現実感）が薄れつつある、とも指摘される。私たちの日常生活は、仮想世界が浸透することによって何が「変化」し、どのように「拡張」されたのか。そして、それは問題なのか。

● つながっているフリは寂しい？ でも親密なのはもっと怖い

「情報」を軸とする変革の波は、私たちの考え方や生活に対して、静かに、深く影響を与え続けている。しかし、私たちはこの変化の意味を十分に把握しているとは言えない。仮想世界がもたらす意味を問い直す。仮想世界の問題は、SF や物語ではない。私たちの生活に現実に起きている現象である。本講義を通じて受講生は、『ヒトは原初から巧みに仮想（バーチャル）な世界を作り出し、つぎつぎに自分の限界を超えてきた動物である』ことに気づく。この現象の論点を見究め、洞察することを目指している。そして、新たな仮想世界を造り始めることだろう。

【到達目標】

そもそも「仮想世界」は、なぜ生み出され、人間にとってどのような意味を持つのだろうか？
本科目の履修を終えると、次の事柄について基本用語を用いて言及できるようになる

- 仮想世界における「私」、それは「本当の」私なのか？
- 手ごたえのない現実世界と、妙にリアルな仮想世界、というパラドックス
- 「仮想現実感」(VR) の構成要素と基本的な考え方
- VR の、社会のさまざまな側面への浸透
- 仮想世界はなぜ生まれ、どのような意味を持つのか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
授業の各回では、具体的なトピックが取り上げられ、自分たちの身の回りに起きている具体的な現象を例に取りながら、仮想世界の問題を考える手掛かりが提供される。

● 現実世界における生きにくさの実感が増していく中、なぜか仮想世界は「生きやすい」。現実世界のリアリティの希薄化が指摘される一方で、仮想世界のリアリティは増していくように感じられる。
仮想世界は、技術者が勝手に作り出した世界ではない。仮想世界の構築は、あなた自身の欲望が関与している。そうだとしたら、私たちは**仮想世界に何を求め、私たちの何を変化させ、仮想世界と共にこれからをどう生きようとしているのか**。問い直す必要があろう。

● 授業冒頭で前回のおさらいと受講生のコメントを踏まえた解説を加えながら、各回のトピックにつなぐ。授業後半では受講生どうしの討議を促しながら解説を加え、問題に切り込む論点を提示し、受講生がさらに問題意識を育てる工夫をする。その成果を最終レポートまたは期末試験において、総合的にまとめる。

※新型コロナ感染状況によって進め方を変更することがある。その場合は学習支援システム等で周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ネットは、不思議と生きやすいー それはなぜ？
2	仮想世界への誘い	ネットでつながり、戸惑うー なぜか寂しい
3	仮想世界における「私」	仮想世界の私、それは仮面の私。それともホントの私？

4	仮想世界における「こころ」	戸惑いから受容へー ネットで恋した相手、それは○○だった
5	仮想世界における「こころ」②	仮想世界が、現実よりリアリティを感じる
6	【グループ討議】仮想世界と付き合う	仮想世界とのアイロニカルな距離感と、没入
7	現実を、仮想空間に取り込む方法	コンピュータグラフィックスの基礎
8	仮想現実とは何か	バーチャルリアリティ（VR）の基本概念
9	仮想現実とは何か：理論	仮想現実（VR）の構成要素
10	仮想現実とは何か：方向性	仮想現実（VR）技術の様々な分野への応用
11	仮想現実の応用	仮想現実（VR）の様々な分野への応用
12	仮想現実の応用：社会が変わる	手ごたえのない経済、手ごたえのない戦争
13	【グループ討議】ヒトの欲望と仮想世界	ヒトの欲望を吸収し、膨張しつつける仮想世界
14	まとめ	現実？ 仮想世界を生きる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コメントシートも含め、本授業の準備学習・復習時間は各2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・「接続された心」"Life on the Screen" (S. タークル、早川書房)
- ・国際会議 ACM SIGGRAPH DVD (Association for Computing Machinery)
- ・「2001 年宇宙の旅」(A.C. クラーク、S. キューブリック脚本、ワーナー社配給)
- 他、M・ミンスキーのインタビュー記録など、講義で適宜指示をする。

【参考書】

- ・アニメ：「攻殻機動隊～GHOST IN THE SHELL」
- ・映画：「惑星ソラリス」(アンドレイ・タルコフスキー)
- ・"Alone Together" (S.Turkle, Basic Books 出版)
- 担当教員の研究プロジェクトや国際学会の資料など、タイムリーなトピックを紹介することがある。 他は、開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポートまたは試験 (60 %)
 - ・授業・討議における積極的な貢献度合い（発表、コメントシートを含む）(40 %)
- を総合して評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

『仮想世界におけるこころ』の問題に、受講生の関心が高いことが分かった。受講生どうしの討議の時間を十分に取れるように図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に学習支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。
本講義では、討議に積極的に参画し、参加者の協同作業を通じて自らの問題意識を育てる姿勢が重要になる。

【履修条件】

「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

- ・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」「こころの科学」と組み合わせて受講すると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。
- ・「メディア情報基礎」を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】

This class addresses the enlargement of "Virtual World," as one of the essential issue of our modern society. It allows you to understand and further explore a set of key concepts: (1) the virtuality vs. the reality," (2) the issue of "self and identity" within cyber spaces, and (3) how to cultivate this society which integrates virtual and real worlds.

FRI200GA

文化情報学概論

森村 修

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：情報倫理学

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：-

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：-

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問の「入門（introduction）」にあたる科目です。「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問です。そして、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出したり、文化現象を「文化情報」という角度から解釈し直したり、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したりすることを目指します。

2021 年度の本授業では、「エコロジー（＝生態学 ecology）ってなに?！」というテーマで、様々な学問にアプローチすることによって、いろいろな角度から「生態学（＝エコロジー）」を考えていきます。ただ注意してもらいたいのは、最近流行の「環境に優しい」とか「自然との共生」を唱う「エコ」という意味での「エコロジー」ではないということです。

この授業の先導役として、天才的な知の巨人グレゴリー・ベイトソン（1904-1980）の思想を検討します。ベイトソンは民族学から精神医学、さらには動物行動学を研究しています。様々な学問を研究しながらも、それらの学問研究の中で、彼が取り組んでいる共通点は、「コミュニケーション」を「環境」との関係性の中で考察するということです。ベイトソンは、最初は「民俗学者」として東南アジアをフィールドワークの現場に選び、その地域の住民がどのようなコミュニケーションを行なっているかということを研究することから学者の道を始めました。その後、精神病院の患者がどのような「環境」に置かれると精神疾患を発症するかという問題を「コミュニケーション」と家族関係という角度から取り組み、患者の置かれた「家庭環境」から分析する「精神医学研究者」になりました。そして、動物のコミュニケーションを「環境」との関係で捉える一風変わった「動物行動学者」として、クジラやイルカの調査研究に加わったりしています。彼の思想遍歴を辿ることで、私たちの「文化情報学」のひとつのあり方が見えてくると思います。

《授業の目的》

そこで本科目では、ベイトソンの『精神の生態学』（1971）（Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, University of Chicago Press; Univ of Chicago PR 版, 2000）にちりばめられた様々なテーマを追求しながら、「人」と人（自分と他人、親と子ども、など）の〈あいだ〉の「コミュニケーション」だけでなく、人と動物、人と人工物などの〈あいだ〉にも「コミュニケーション」を見出し、「コミュニケーションと環境との関わり」を考えていくことを目的とします。

そして「コミュニケーション」をめぐる「他者承認」の問題や、最近若者の間で話題になっている「コミュ障」問題や、実際の精神障害としての「コミュニケーション障害」を検討します。

さらにこの授業では、「精神の生態学」の影響を受けた、現代フランスの思想家フェリックス・ガタリ（1930-1992）の思想にも触れたいと思っています。彼は「精神の生態学」だけでなく、「社会の生態学」・「自然の生態学」を含めて、「三つの生態学（＝エコロジー）」を提唱しています。さらにガタリの真意は、現代における新しい「生態学」として「情報の生態学」があると上野俊哉氏（和光大学教授）が述べています。この「四つの生態学」までを考察することが目標です。

【授業の意義】

本科目の意義は、「文化情報学」の立場から「コミュニケーション」と「環境」との関係というテーマを検討することによって、「異文化コミュニケーション」や「異文化交流・異文化理解」という領域とは異なる仕方での「コミュニケーション」を考察できるようになります。

【到達目標】

・本科目の到達目標は、ベイトソンの「精神の生態学（ecology of mind）」という立場を学ぶことで、人間の文化、さらには動物の「文化」すらも含めて考察できる、より広い超域的思考を身につけることを目指します。
・「精神の生態学」の領域をさらに拡大し、現代フランスの思想家フェリックス・ガタリのいう「三つのエコロジー（精神のエコロジー、社会のエコロジー、自然のエコロジー）や「情報のエコロジー」（上野俊哉）も視野に入れて「コミュニケーション」という問題を考察することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に講義形式で行います。ただ、テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みたいと考えています。また、リアクションペーパーを用いることで、各自の文化観を聞くこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業を受ける上でのガイダンスと注意 点 ・授業概要説明
第 2 回	グレゴリー・ベイトソンとは誰か	・ベイトソン紹介 ・『精神の生態学』概要
第 3 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (1)	・「関係の力学」から文化の総体を見る
第 4 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (2)	・芸術の感動はどんな情報伝達によって得られるのか
第 5 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (3)	・人を統合失調症に引き込むコンテクストを探る ・「ダブルバインド」仮説とは何か？
第 6 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (4)	・イルカ研究に基づく「創造的ダブルバインド」論
第 7 回	ベイトソン『精神の生態学』読解 (5)	・コミュニケーションの発生と進化を考察する ・「コミュ障」とは何か？
第 8 回	ガタリ『三つのエコロジー』(1)	・三つの「エコロジー（生態学）」 (1)「精神のエコロジー」 ・ベイトソンの「精神の生態学」を新たに捉え直す
第 9 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (2)	・三つの「エコロジー（生態学）」 (2)「社会のエコロジー」 ・高度資本主義と社会との関係を問い直す
第 10 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (3)	・三つの「エコロジー（生態学）」 (3) 自然のエコロジー ・自然と社会の関係を問い直す
第 11 回	ガタリ『三つのエコロジー』読解 (4)	・四つ目の「エコロジー」としての「情報のエコロジー」(by 上野俊哉)
第 12 回	「エコロジー」から「エコソフィー（生態哲学）」へ ①	・「エコソフィー」とは何か？
第 13 回	「エコロジー」から「エコソフィー（生態哲学）」へ ②	・助け合う動物たちは、どんなコミュニケーションをしているのだろうか？
第 14 回	まとめ	コミュニケーションは、難しいよねーでも、コミュニケーションしたいよね（本当かよ?）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがあるので、頭を柔軟にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・必要に応じて、ベイトソンのテキストのコピーや資料を配布します。

【参考書】

・グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』改訂第2版、新思案社、2000年
・Gregory Bateson, *Steps to an Ecology of Mind*, The University of Chicago Press, 2000
・フェリックス・ガタリ『三つのエコロジー』、平凡社ライブラリー、2008年
・上野俊哉『四つのエコロジー』、河出書房新社、2016年

【成績評価の方法と基準】

小テストなどを行うことで授業の理解度を確認し、学期末に試験（レポート）を課して、総合的に判断します。期末試験（30％）・小テストなどの授業内課題（70％）。

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします

※要注意

リアルタイム・オンライン授業の場合は成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

【注意点】

(1)「文化情報学」とは、狭い意味での「情報学（informatics）」や「情報科学（information science）」ではありません。
・「文化情報学」は、文化の「情報学」ではなく、「文化情報」の「学」を意味しています。したがって、「情報科学」のつもりで「情報学」を理解しないように。
(2) 私たちは、他の国の文化や他の国の人たちから学ぶだけでなく、動物や植物、地球環境から多くのものを学ぶ必要があります。こうした視点を確保するためにも「文化情報学」という考えは重要だと思います。

【注意点】

大人数にはならないとは思いますが、コミュニケーションの問題を真剣に考え学びたい人以外は、なるべく参加をご遠慮ください。
議論は大いに推奨しますが、仲間同士のコミュニケーションとしての「私語」は厳禁です。居眠りは、「コミュニケーション拒否」として考えますので、ご退室願います。

【Outline and objectives】

This subject is an "introduction" of a new academic term "informatics of culture" advocated by the Faculty of Intercultural communication. In 2021, we will consider the question of "What is the relationship between communication and its environment?! " and we will examine the problems of "communication".

LAW200HA

民法法 I

中川 義宏

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法の一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に契約法と不法行為法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争を解決する際の拠り所となる民法について、主に契約法と不法行為法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第 2 回	民法入門	民法の全体構造を概観し、民法の体系的な理解を図る。
第 3 回	民法総則 (1)	民法の総則規定である、権利の主体（自然人・法人）、物、意思表示による権利変動について学習する。
第 4 回	民法総則 (2)	民法の総則規定である、意思表示の瑕疵（心裡留保、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫）、契約の不当性について学習する。
第 5 回	民法総則 (3)	民法の総則規定である、無効と取消し、代理、時効について学習する。
第 6 回	物権	民法の「物権法」と呼ばれる領域に関し、物権の意義と種類、物権変動、占有権・所有権について学習する。
第 7 回	担保物権	民法の「担保物権法」と呼ばれる領域に関し、担保物権の意義と種類、抵当権について学習する。
第 8 回	債権総論	民法の「債権法」と呼ばれる領域に関し、債権関係とその内容、債務の不履行、弁済、相殺、債権譲渡、保証債務について学習する。
第 9 回	契約 (1)	民法を理解するうえで大切な「契約法」と呼ばれる領域に関し、契約の意義と種類、契約の成立、契約の解除について学習する。
第 10 回	契約 (2)	民法に規定された「典型契約」のうち、贈与、売買、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用について学習する。
第 11 回	事務管理・不当利得	民法の「事務管理」、「不当利得」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨について学習する。
第 12 回	不法行為 (1)	民法の「不法行為法」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨、要件について学習するとともに、プライバシー侵害、名誉棄損に関する裁判例を概観する。
第 13 回	不法行為 (2)	民法の「不法行為」の一類型である、使用者責任、工作物責任、製造物責任について学習する。
第 14 回	試験及び解説（実施できないときは民法法 I のまとめ）	試験を実施し、その解説をしながら、民法法 I の総括、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

民法（全）【第2版】（著者：潮見佳男、発行所：有斐閣、定価：4600円＋税）。

【参考書】

六法。

【成績評価の方法と基準】

講義の第14回目に期末試験を行い（実施できない場合はレポート課題）、成績評価はこの期末試験（又はレポート課題）と平常点（小レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験（又はレポート課題）50点、平常点50点の100点満点のうち60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Through the study of “civil law”(mainly contract law and tort law), we can get the legal mindset. We will learn about trials as appropriate.

LAW200HA

民法Ⅱ

中川 義宏

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法の一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に親族法と相続法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争・家事紛争を解決する際の拠り所となる民法の中の親族法と相続法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・法学入門	法学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第2回	民法・家族法入門	民法の全体構造を概観し、その中の家族法（親族法と相続法）の基礎を学習する。
第3回	親族・戸籍と氏	民法の「親族法」と呼ばれる領域に関し、その基本的概念となる親族、戸籍と氏の考え方について学習する。
第4回	婚姻(1)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の意義、婚姻の成立要件、婚姻の効果について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第5回	婚姻(2)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の無効と取消し、夫婦財産制について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第6回	離婚、内縁・事実婚	民法が規定する親族法のうち、離婚の方法（協議離婚、調停離婚等）、内縁・事実婚の意義について学習するとともに、離婚に関する裁判例を概観する。
第7回	親子（実親子関係）(1)	民法が規定する親族法のうち、実親子関係（母子関係、父子関係）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。
第8回	親子（実親子関係）(2)	民法が規定する親族法のうち、嫡出子、婚外子（非嫡出子）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。
第9回	養子	民法が規定する親族法のうち、養子の種類（普通養子、特別養子）、養子縁組の要件と効果、離縁について学習する。
第10回	親権、後見・保佐・補助、扶養	民法が規定する親族法のうち、親権の内容、制限行為能力（未成年・後見・保佐・補助）の制度、扶養について学習する。
第11回	相続の開始と相続人、相続の効力	民法が規定する相続法のうち、相続の開始と相続人、相続の効力（相続財産の包括承継、遺産共有、相続分、遺産分割）について学習する。
第12回	遺言、遺贈	民法が規定する相続法のうち、遺言制度と遺言の方式（自筆証書遺言、公正証書遺言、秘密証書遺言）、遺言の執行、遺贈について学習するとともに、遺言に関する裁判例を概観する。

第 13 回	配偶者居住権、遺留分	民法が規定する相続法のうち、配偶者居住権、遺留分の意義について学習するとともに、遺留分に関する裁判例を概観する。
第 14 回	試験及び解説（実施できないときは民事法Ⅱのまとめ）	試験を実施し、その解説をしながら、民事法Ⅱの総括、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

民法（全）【第 2 版】（著者：潮見佳男、発行所：有斐閣、定価：4600 円＋税）。

【参考書】

六法。

【成績評価の方法と基準】

講義の第 14 回目に期末試験を行い（実施できない場合はレポート課題）、成績評価はこの期末試験（又はレポート課題）と平常点（小レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験（又はレポート課題）50 点、平常点 50 点の 100 点満点のうち 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Through the study of “civil law”(mainly family law and law of succession), we can get the legal mindset. We will learn about trials as appropriate.

LAW200HA

刑法の基礎

渡辺 靖明

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「刑法」とは、「犯罪」と「刑罰」とを定めた法律（公的ルール）のことです。それでは、どのような行為が「犯罪」として処罰の対象となるのでしょうか。また、その前提となる刑法の原則とはどのようなもののでしょうか。この授業では、これらについて具体的な事例をつづりてまなび、刑法の社会における意義と役割とを考えます。

新型コロナ・ウィルスの世界規模での感染拡大によって、私たちは、「新しい生活様式」に順応することがもてられています。ワクチンの開発によって脱コロナへの光がすこしみえてきたとはいえ、まだまだいろいろと先がみとせず、不安な日々をおくっている人もおおいでしょう。

もっとも、新型コロナ発生前から、私たちの現代社会は、環境の変動、AI の加速度的な発展などにより、VUCA とよばれる、変動し、不確実、複雑で曖昧な時代にはいつていると指摘されていました。つまり、私たちの未来は、予測不可能で不透明なものになっているというのです。

そのような VUCA 時代において未知の課題に対応するためには、これまでの価値観や伝統にとらわれず、新しく多様な発想がもてられているともいわれています。そのような発想を伸ばし育てるには、私たちの個性をより一層尊重し、多様性を重視する社会にならなければならないというのです。

しかし、そうだとすると、個性の尊重と多様性の重視は、他の人や社会にどんなに迷惑をかけても、自分さえ幸せで自由でありさえすればいいということとおなじ意味でしょうか。

たとえ予測不可能で先行き不透明な時代であっても、私たちがお互いに助けあい、誰でも幸せに生きていける「共存の社会」が理想だとすれば、そのために変わらず守るべきものとは何かをよく理解しておく必要があるのではないのでしょうか。

刑法は、このことを考えるうえでうってつけの法律です。何しろ、いまの日本の刑法ができたのは 1907 年であり、110 年以上基本的小おきな改正をされることなく、現在でも重要な法律として通用しているからです。

それでは、この「古い」刑法が、いまも変わらず守るべきものだと考えていることとは一体何でしょうか。また、このことを前提として、現代の社会で、刑法（あるいは法）でできることと、できないこととは何でしょうか。そしてその理由とはどのようなものなのでしょうか。

刑法の概要をまなぶことをつづりて、こうしたことを理解することは、VUCA 時代でも他の人と仲良く共存しながら誰もが幸せに生きていくためのヒントになるかもしれません。

【到達目標】

法と倫理・道徳との異同、刑法の意義・役割・限界、刑罰の目的や刑法と他の法律との関係をふまえて、刑法の一般原則および犯罪の一般的・個別的な成立要件等や、さらにこれにかんする判例（裁判所の判断）および学説の議論を理解し、これらの基礎知識を修得することが、この授業の到達目標です。

レジュメには、〔確認問題〕・〔検討問題〕を適宜もうけます。基礎知識修得の目安は、その各問題の解答と理由とを理解し、それを文章（言語）できちんと説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、遠隔授業での講義となる予定です。

各回ごとに、講義録音とレジュメをアップし、具体的事例について検討して、各回のテーマごとの理解をはかります（第 1 回はレジュメのみアップする予定）。

録音は、OATube にアップする予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「刑法」とは何か。	法（律）の意義、法の体系および「刑法」の意義をまなぶ。
第 2 回	殺人罪①－犯罪の一般的成立要件	犯罪の一般的成立要件および刑法における人の「生」と「死」をめぐる議論などをまなぶ。
第 3 回	殺人罪②－犯罪の故意・過失	犯罪の故意と過失、故意犯処罰の原則、責任主義などについてまなぶ。

発行日：2021/5/1

第 4 回	殺人罪③－罪刑法定主義	胎児性致死傷と罪刑法定主義との関係などをまなぶ。
第 5 回	傷害罪	傷害の意義および傷害と傷害致死との関係（刑法の因果関係）などをまなぶ。
第 6 回	自殺関与・同意殺人罪	刑法における被害者の同意の意義および同意の有効性と刑法の最終手段性の原則との関係などをまなぶ。
第 7 回	安楽死・尊厳死	終末期医療における安楽死・尊厳死と刑法との関係などをまなぶ。
第 8 回	刑罰論	刑法の刑罰と民法の損害賠償・行政法の行政処分との違いや、国家が市民に刑罰を科すことの正当な根拠をめぐる議論などについてまなぶ。
第 9 回	脅迫罪・強要罪・監禁罪、強制わいせつ罪・強制性交等罪	意思決定の自由、性的自由に対する罪の基礎をまなぶ。
第 10 回	住居侵入罪	住居権・住居の平穏に対する罪の基礎をまなぶ。
第 11 回	名誉毀損罪・侮辱罪真実性の証明による免責	名誉に対する罪の基礎および刑法における名誉の保護と表現の自由の保障との関係をまなぶ。
第 12 回	財産に対する罪	財産に対する罪の共通原則および個別の犯罪の基礎をまなぶ。
第 13 回	放火罪・偽造罪	放火罪（公共危険犯）、偽造罪（取引の安全に対する罪）の基礎をまなぶ。
第 14 回	賄賂罪	汚職の罪（国家の作用に対する罪）の基礎をまなぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメや刑法の参考書等で予習・復習をする。とくに復習時には配布レジュメ中の各事例や〔確認問題〕・〔検討問題〕を中心に理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

なし。配布レジュメを使用します。

【参考書】

とくに指定はしません。おすすめの参考書は、開講時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業であつかった基礎知識を問う期末の最終レポート 80 %、適宜評価する小課題 20 % の総合評価でおこなう予定です。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度も録音聴講形式の遠隔授業でしたが、受講生からは、はじめはこの形式で理解ができるか不安だったものの、最終的には刑法の基礎知識が深くまなべた、録音形式なのでわからないところは繰り返し確認できたのでよかったという感想を書いてくれた人もすくなくありませんでした。

その一方で、講義録音の聴講数は、小課題や最終レポートの提出期限前に集中することもおおかったです。

ゆとりをもって聴講でき、一層理解のしやすい講義となるように努力をかせねたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで、レジュメや課題・レポートの提示をします。

また、ネットをつうじて講義録音を聴講できることが受講の前提となります（OATube の視聴方法については、開講時に支援システムをつうじて連絡します）。

【その他の重要事項】

「憲法の基礎」、「行政法の基礎」、「民事法Ⅰ・Ⅱ」等の他の法律系科目もあわせて履修しておく、「刑法の基礎」の授業内容の理解が一層深まるでしょう。また、秋学期開講の「環境法Ⅳ」（環境刑法）では、主として環境犯罪についてまなびます。「刑法の基礎」を履修しておけば、「環境法Ⅳ」の授業の内容をより深く理解できます。

なお、刑法にかぎらず、法律学は、条文、判例、学説の理解が基本です。これらを十分に理解せずに、自分のこれまでの断片的な知識・経験による見解だけを一方的に主張しても、法律をまなんだことにはなりません。受講に当たり、またレポートの作成・提出時には、このことをよく理解しておいてもらいたいと思います。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

What kind of action is subject to punishment as a crime? What is the basic principle of criminal law to consider crime and punishment? We will learn it through concrete examples. And we will think the meaning and role of criminal law in society.

LAW300HA

環境法Ⅳ

今井 康介

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題について法律的なアプローチを行う場合、3 つのアプローチがあります。民法的なアプローチ、行政法的なアプローチ、そして刑法的なアプローチです。各アプローチには、それぞれの原則や理論、メリット・デメリットがあります。

環境法Ⅳの授業では、刑法的なアプローチ、特に刑事罰の独自性、特殊性、有効性、そしてその限界を扱います。

環境刑法の基本的な問題や現在の制度の問題点等を学ぶことにより、自らが将来、会社や企業で環境犯罪を行わないようにするだけでなく、多角的な視点から環境問題や環境法制を考えられるようになることが、最終的な目的です。

【到達目標】

例えば、山の中にいらなくなったパソコンを捨ててくるのは、不法投棄（廃棄物処理法違反）です。それでは、自分の敷地の一角に放置しておくのは、犯罪なのでしょうか？ 燃えるゴミと燃えないゴミを分別しないで捨てたら捕まるのでしょうか？ コンビニのゴミ箱に家のゴミを捨てきたら犯罪なのでしょうか？ 従業員が環境犯罪を犯した場合、会社や会社の社長は処罰されるのでしょうか？

この授業を受講すると、これらの場合にどのように考えるべきかが分かるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式での授業になります。授業では、適宜、身近な問題を例にして、考えながら講義を受けてもらえるようにします。

教科書や参考書については、第 1 回の講義で詳しく案内します。講義で配る配付資料は、授業支援システムで公開しています。多くの法律が登場するので、適宜、六法やインターネットで法律の条文を参照してください。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス スタート環境刑法	授業の進め方、評価方法についての説明します。 環境刑法はどのような学問か、どのような特色があるか、なぜ環境刑法を学ぶのか、環境刑法を学ぶと将来どのような場合に役に立つかについて説明します。
第 2 回	環境刑法の基礎理論	法律とはどういうものか、法律に違反するとどうなるのかを学びます。また、刑罰はなぜ科されるのか、どのような環境を保護するために刑罰は利用されるのかを学びます。
第 3 回	動物の保護	2019 年に改正のあった、動物愛護法を中心に、なぜ動物を保護するのか、人間が作る法律は、本当に動物を保護しているのかという点を学びます。
第 4 回	水の保護	我々の飲料水や、川の水質はどのように保護されているのかを学びます。また浦安事件などの、水質汚濁事件も学びます。
第 5 回	大気の保護	大気汚染とは、どのようなものか、大気汚染に対し法律はどのような対応をしているか、アスベストによる大気汚染規制を学びます。
第 6 回	土の汚染	土壌汚染とは、どのようなものか、農用地の汚染と市街地の汚染は何が違うか、豊洲市場の移転で問題となった土壌汚染とはどのようなものかを中心に、土壌汚染対策法の罰則を学びます。
第 7 回	廃棄物の処理①	廃棄物の処理を規制しなければいけない理由を、廃棄物関連の事件から学びます。また、行政対象暴力事件についても学びます。

第 8 回	廃棄物の処理②	廃棄物処理法が規制している「廃棄物」とは何かについて学びます。
第 9 回	廃棄物の処理③ + 会社の罰則（法人処罰）	廃棄物の不法投棄や焼却は、いつから禁止されているのか、どのような行為が禁止されているかを学びます。また、会社をどのように処罰するのか、会社はどれくらい重く処罰されるのかを学びます。
第 10 回	廃棄物の処理④ + 現代社会における環境犯罪対策	工場や企業が注意すべき、廃棄物を受け渡しする際の罰則について取り扱います。また、環境保護法制をサポートする組織犯罪処罰法や課税通報を学びます。
第 11 回	環境犯罪の捜査と刑事裁判の仕組み	誰が環境犯罪を捜査するのか？ どのタイミングで捜査するのか？ 逮捕とは？ 被疑者となった場合に何が出来るのか？ 刑事裁判はどのように進むかを学びます。
第 12 回	有罪判決と有罪判決後の問題	裁判で有罪判決を受けた場合、さらに争うことが出来るか、有罪判決を受けるとどのような影響があるか、さらに廃棄物再審事件を題材として、環境犯罪の司法実務の問題を探ります。
第 13 回	総復習と補足	12 回の講義までで終わらなかった箇所や補足が必要な箇所を取り上げます。また 2021 年に発生した事件を取り上げて、環境刑法の視点から、実際の事件を分析します。
第 14 回	試験・まとめと解説	学生からの質問に回答した後、評価のための試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前あるいは講義の後に、テキストの該当部分を読むと理解が深まります。

環境問題は、よくニュースになります。そのため、報道された環境問題をテーマにして、何が法律的に問題なのか考えると、この講義がよりいっそう実り豊かなものになります。本授業の準備学習・復習時間は、大学設置基準に鑑み、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

今井康介『ニュースから読み解く環境刑法 入門編』（大日本法規、2019 年）、2000 円（税抜）、ISBN:978-4991111600 を使用する予定です（改訂が予定されています）。詳しくは、初回の授業時に指示します。

【参考書】

環境刑法の重要問題を取り上げた参考書として、長井圓編『未来世代の環境刑法 1 Textbook 基礎編』（信山社、2019 年）、4200 円（税抜）、ISBN:978-4797286748 をおすすめします。講義の後に同書を読むと、より一層深い理解をすることが出来ます。その他の参考文献については、初回の授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として講義の最後に行う授業内試験で評価します。場合によっては（履修者の数が多くない場合）、レポートや課題等も加味して、判断します。詳しくは、初回の講義の際に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

反響の強かった、身近な環境問題を取り上げられるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

環境刑法を理解するためには、刑法の基礎知識が必要になります。それゆえ、本講座の受講生には、春学期に開講される「刑法の基礎」（渡辺靖明先生）の履修をおすすめしています。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

There are three legal approaches.

In this lesson, we deal with the peculiarity of the criminal approach, identity and its limitations.

The goal of this lesson is to learn the basics of the environmental criminal law and to think about environmental problems from the perspective of penalties.

LAW300HA

労働環境法

水野 圭子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電通自殺事件に象徴されるように、労働の場において、労働時間、休憩、休暇といった労働条件によって形成される労働環境は極めて重要な問題を提起しています。このような労働者の健康、安全衛生、労働災害といった従来からの問題だけではなく、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、マタニティーハラスメントなど人格権に対する対策、少子高齢化社会を念頭に置いたワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境、障害を持つ労働者に対する合理的配慮など様々な新しい問題にも労働環境といった観点から考察することが求められています。パンデミック禍の感染症予防対策が取られる中、労働と環境がどのように変化するかという点についても検討する。このような労働環境を形成する法律と判例について基本的な知識と理解を習得することを目的とします。

【到達目標】

1. 「労働環境法」とかかわりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解する。
2. 「労働環境法」と関わりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題（ワークルール検定・法学検定レベル）を解答できるようにする。
3. その次の段階として、「労働環境法」と関わりのある労働法上の法規制および重要な判例について、社会保険労務士・労働基準監督官の試験程度の問題についても、難易度が高くないものであれば、解答できるようにする。
4. 「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例について、論理的に解説できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナウイルス感染症（COVID - 1 9）の感染拡大防止のため、本講義は、オンライン ZOOM での開講となります。基本的には、教科書と配布レジュメに沿って講義形式で授業を行います。そのほか 1. 2 回程度、ドキュメンタリーといった視聴覚教材を利用します。この場合は、リアクションペーパーの提出を求めます。また、今年度は、労災事件を担当した弁護士の方に話を聞くといった実践的な機会を設ける予定です。

履修人数がそれほど多くないのであれば、講義内において、ブレイクアウトルームを利用したグループディスカッションを予定しています。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、「労働環境法」はどのような分野を対象とするか。パンデミック下における労働環境法とは	講義の進め方や評価方法の説明。「労働環境法」「労働法」の簡単な全体像の説明。
第 2 回	労働法の基礎知識と労働環境を構築する労働法の仕組み	「労働環境法」を履修するにあたって必要な最低限度の法学に関する知識についての説明。労働環境を作る労働条件がどのようにまもられているのか。
第 3 回	過労死や過労自殺の発生原因とその予防について	過労死・過労自殺とはどのようなものか。どのように予防するのか。過労死・過労自殺の事例検討
第 4 回	労働時間制度の概略・休憩時間、休日	労働時間規制について 法定労働時間と時間外労働 法定休日について
第 5 回	労働時間制度と休息の確保 休息時間・休日・休暇、柔軟な労働時間制度と休息	休息時間・休日・年次有給休暇すなわち休むことについて。変形労働時間制やみなし労働時間制などの多様な労働時間規制と休息について
第 6 回	労働者災害補償保険法（制度概要・業務災害	労災保険は誰が保険料を払い、どのような場合に労働者に保険が給付されるのか。過労死や過労自殺の問題と労災認定の基準について

発行日：2021/5/1

第 7 回	過労自殺について 講演	電通事件を担当した弁護士の話を開く (都合により 7 回から日程が変更されることがあります)
第 8 回	少子化対策に成功した諸外国のワークライフバランス政策	少子高齢化の問題と女性の社会進出と労働環境の整備、社会的な影響について検討する少子化を克服することができた国では、どのような政策がとられてきたのか検討する
第 9 回	障害・マイノリティと労働環境・障害者雇用	現実生じている労働力不足に対して、どのような労働政策が行われているのか障害者雇用について検討する。また障害を持った労働者に対する合理的配慮等について検討する
第 10 回	高齢者雇用と外国人労働者	労働力不足と社会保障といった観点から、高齢者雇用と外国人労働者の雇用について検討する
第 11 回	人格権侵害とハラスメントセクシャルハラスメントとマタニティハラスメント	セクシュアル・ハラスメント、マタニティハラスメントに対する法的規制と判例
第 12 回	人格権侵害とパワーハラスメント	パワーハラスメントに対する法規制と判例
第 13 回	科学技術の発展と就労の変化	加速する IT 技術の発展や通信、運輸の変化によって、労働はどのように変化しているのか。
第 14 回	パンデミックと労働	コロナ感染症の予防対策の中で、失業対策や雇用保障などどのような労働政策がとられたのか検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の終わりに、次回の該当箇所を指示するので。予習として、教科書の該当する部分を熟読し講義に臨むよう準備すること。また、指示された判決については、図書館の判例データベース（D1-Law）を利用し実際に判決を読むことが望ましい。復習として、配布されたレジュメ、資料を確認し、理解すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋賢司『労働法講義 第 2 版』

(中央経済社 2018 年) 3800 円 改定がある場合は、新しいものを準備してください。

六法を用意すること。六法は今年度のものを準備してください。六法についてはガイダンスでも説明します。

【参考書】

1. 浜村彰ほか『ベーシック労働法（第 8 版）』（有斐閣、2020 年）2090 円

【成績評価の方法と基準】

授業に付随して行われる小テスト（労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題（ワークルール検定・法学検定レベルを予定している）（40 %）とレポート（「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例について論述したもの）60 %による評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

近年の経済的な変動や労働環境の変化もあり、学生の皆さんからは、労働法に対して、とくにアルバイトや労働時間関係など、身近な労働問題に対して強い関心が寄せられている。有給休暇の取得や時間外労働に対する割増賃金未払い、ハラスメントやなど、実用的な法知識についても同様である。

このような点についても、各単元において対応することとしたい。

その一方で、コロナ下での解雇など今現在起きている労働問題にも強い関心が寄せられた。このような最新の問題についても、言及することを心掛けたい。

【その他の重要事項】

講義内容は、受講者の問題関心や質問、理解度に応じて、適宜変更する場合がある。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

As symbolized by the Dentsu suicide case, the working environment created by working conditions such as working hours, breaks and annual paid vacations poses a very important issue in the workplace. Measures to address not only conventional issues such as mental and physical health of workers, but also human rights such as power, sexual, and maternity harassment are also required to be considered from the viewpoint of improving the working environment.

In an aging society with a declining birthrate, a work environment with a good work-life balance is required. In addition, rational consideration for workers with disabilities is also an issue that has been required in recent years. These new issues will also be considered from the perspective of improving the working environment. We will also consider how labor and the environment will change as coronavirus infection prevention measures are taken. The aim is to acquire basic knowledge and understanding of laws and precedents that form such a working environment.

POL300HA

自治体環境政策論 I

小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策学の視点で、都市空間における自然環境の保全、ヒートアイランド対策、下水道政策、都市公園政策など、自治体環境政策に関する多様なテーマについて検討する。さらに地域の未来を考えるために、第 2 次大戦後から現代までの自治体環境政策史について検討する。トピックとして、公害規制、廃棄物処理、都市の開発コントロール、景観政策、アーバンデザインなどを取り上げる予定である。この授業の目的は、学生が自治体環境政策の基礎知識や政策型思考について学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・地域環境政策と自治体の役割について理解する。
- ・現代史と地域の未来への広い視野を形成する。
- ・地域の課題発見や課題解決に関する政策型思考を身につける。
- ・地域人（市民、自治職員、NPO 関係者、事業者など）としての知的感受性を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。リアクションペーパー（感想や意見）等の提出と応答やミニレポートの提出と講評については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「掲示板」）を活用しながら、授業の冒頭でも言及する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

※ 2021 年度春学期における授業の実施形態に即して変更する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション～そもそも「政策」とは何だろうか？	イントロダクションとして、自治体環境政策が公共政策であることをふまえて、「政策」の概念とその基本構造を確認する。
第 2 回	自治体政策の風景	環境政策を含む自治体政策を風景に喩えて、体系性と総合性という視点から構図を確認する。
第 3 回	都市の緑を守る	都市空間における緑地保全について、里山、宗教空間、農地などの緑資源について検討する。
第 4 回	都市の緑を創る	都市空間における公共施設や民間施設の緑化について検討した後、現代都市の緑戦略の方向性について総括する。
第 5 回	都市の水辺と地域の総合プロデューサー	都市空間における水辺環境の保全、水と緑を一体的にとらえる都市環境政策と自治体の役割について検討する。
第 6 回	自治体政策のドラマと問題構造	自治体政策をドラマに喩えて、政策過程のモデルと、政策が対象とする公共問題の構造について確認する。
第 7 回	ヒートアイランドの問題構造と都市政策	21 世紀の都市問題であるヒートアイランドを手がかりとして、公共問題の構造と政策アプローチについて検討する。
第 8 回	自治体環境政策と社会資本整備～下水道	自治体環境政策における社会資本整備として、下水道について検討する。
第 9 回	自治体環境政策と社会資本整備～都市公園	自治体環境政策における社会資本整備として、都市公園について検討する。
第 10 回	自治体環境政策と環境規制	廃棄物や公害をケースとしながら、自治体環境政策における環境規制について検討する。
第 11 回	第 1 世代の自治体環境政策と高度経済成長の時代	高度経済成長期において都市の「生活環境の防衛」を目的として登場した第 1 世代の自治体環境政策について、当時の社会情勢とともに検討する。
第 12 回	地域の「環境再生」への挑戦	環境破壊の世紀であった 20 世紀に対して、21 世紀の課題である地域の「環境再生」と政策について検討する。

第 13 回	第 2 世代の自治体環境政策から現代の景観政策へ	1960 年代後半から 80 年代において、地域空間の質の高めるために登場した第 2 世代の自治体環境政策について、歴史的町並み保全を中心について検討し、さらに現代の景観政策に言及する。
第 14 回	アーバンデザインから考える都市の未来	第 2 世代の自治体環境政策の時代から始まったアーバンデザインについて、横浜の政策実践を回顧しながら、都市の未来について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする）。

- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読む。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
- ・ミニレポートを作成する。
- ・参考文献を読む。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（85 %）＋参加姿勢（5 %）＋ミニレポート（10 %）で評価する。

※ 2021 年度春学期における授業の実施形態に即して、レポート試験への切り替え等の変更の可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

- ・地域社会や自治体を通して現代社会を理解する機会になるようです。
- ・授業全体の構成、内容と分量、進行スピード、配布資料、パワーポイントなどの活用については、再考しながら継続的に改善を図っていききたいと思います。
- ・対話型授業を取り入れながら、学生の思考を促す工夫をしていきたいと思えます。
- ・2020 年度については、Zoom のチャット機能をかなり活用し、学習支援システムの「揭示版」を補完的に利用しましたが、2021 年度については、授業の実施形態の変更をふまえた対応を検討します。

【その他の重要事項】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを強く推奨します。
- ・ローカル・サステイナビリティコースの他のコースコア科目をあわせて履修することを推奨します。
- ・ローカル・サステイナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで履修する学生にとっても、地域社会に関連するテーマや「持続可能な地域社会」を理解するためには、自治体政策に関する基礎知識は必須です。
- ・「自治体環境政策論Ⅰ」と「自治体環境政策論Ⅱ」は連続しており、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

In this class, from the viewpoint of public policy studies, we will examine the various themes about the environmental policy of local government, such as preservation of the natural environment in urban space, control of "Heat island", sewer policy, city park policy. Furthermore, in order to consider the future of the community, we will explore the history of local environmental policy from after the Second World War to the present age. The topic to take up will be pollution regulatory, waste administration, control of urban development, local scene preservation policy, urban design, etc. The purpose of this class is for students to learn about the basic knowledge of local environmental policy and the method of a policy ideation.

POL300HA

自治体環境政策論Ⅱ

小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「持続可能な地域社会」に向けた自治体政策について総合的に検討する。特にグローバルな政策や再生可能エネルギー政策、環境政策統合、SDGs、交通政策、都市の持続可能性リスク、循環型社会の構築など、近年の重要なテーマに焦点を合わせる。この授業の目的は、学生が、「持続可能な地域社会」の創造への自治体の役割や政策型思考について学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・「持続可能性」、「持続可能な地域社会」の含意について理解する。
- ・「持続可能な地域社会」に向けた自治体政策の動向について理解する。
- ・地域の持続可能性課題の発見や解決に関する政策型思考を身につける。
- ・地域人（市民、自治体職員、NPO 関係者、事業者など）としての知的感受性を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。リアクションペーパー（感想や意見）等の提出と応答やミニレポートの提出と講評については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「揭示版」）を活用しながら、授業の冒頭でも言及する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

※ 2021 年度秋学期における授業の実施形態に即して変更する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション～「持続可能な地域社会」とは？	イントロダクションとして「持続可能性・持続可能な発展」という概念を確認しながら、「持続可能な地域社会」という政策理念について検討する。
第 2 回	「持続可能な地域社会」の多様性～都市の「変容」と過疎地域の「存続」	「持続可能な地域社会」の社会像の多様性を確認しながら、「変容」と「存続」という 2 つの方向性を提示する。
第 3 回	「グローバル」言説を再考する	「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説を再考しながら、政策規範として再構成する。
第 4 回	第 3 世代の自治体環境政策～地球温暖化の「緩和策」	グローバルな時代における第 3 世代の自治体環境政策として、地球温暖化の「緩和策」について検討する。
第 5 回	第 3 世代の自治体環境政策～地球温暖化への「適応策」	グローバルな時代における第 3 世代の自治体環境政策として、地球温暖化への「適応策」について検討する。
第 6 回	地域分散型エネルギーシステムと自治体政策	東日本大震災を契機として全国各地で始まった自治体のエネルギー政策の動向について検討する。
第 7 回	責任共有の政策論理と自治体政策	「環境ガバナンス」にかかわる多面的な主体（自治体、市民、企業、NPO など）による責任共有とマルチステークホルダー・プロセス、地域間の責任共有と自治体間の政策協調・政策連携について検討する。
第 8 回	持続可能性の多面的構成と「持続可能な地域社会」への政策規範・政策課題	持続可能性の環境的側面、経済的側面、社会的側面などの多面的構成を確認しながら、「持続可能な地域社会」に向けた包括性・統合性という政策規範について、地域における具体的な政策課題とともに検討する。
第 9 回	「環境政策統合」と自治体政策のイノベーション	「持続可能な地域社会」に向けて多様な政策領域を視野に入れる「環境政策統合」の考え方と、具体的な政策実践について検討する。
第 10 回	SDGs と自治体政策	国連で採択された SDGs の自治体政策への反映について検討する。

発行日：2021/5/1

第 11 回	「持続可能な都市」への政策動向	「持続可能な都市」に関するヨーロッパの提唱や国内の動向を確認した後、政策実践のケースとして、地域交通政策などについて検討する。
第 12 回	21 世紀における都市の持続可能性リスクと政策的対応	「持続可能な都市」というコインの裏側にある災害や、人口減少社会における「縮小都市」など、長期的な都市の持続可能性リスクとその回避について検討し、空き家対策やコンパクトシティ政策などにも言及する。
第 13 回	都市と農山漁村の地域間連帯への政策的展望	過疎地域の持続可能性問題を再確認し、都市－農山漁村の地域間連帯の動向とともに、生態系サービスや地域間の相互依存関係をふまえて、今後の政策のありかたについて展望する。
第 14 回	循環型社会への自治体の政策責任	循環型社会への移行に関する自治体の政策責任と政策展開について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外活動を行う（この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする）。

- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読む。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
- ・ミニレポートを作成する。
- ・参考文献を読む。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（85 %）＋参加姿勢（5 %）＋ミニレポート（10 %）で評価する。

※ 2021 年度秋学期における授業の実施形態に即して、レポート試験への切り替え等の変更の可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

- ・各地の事例について、地方紙の記事をまとめて配布し紹介していますが、最新動向を理解する方法として役立つようです。
- ・授業全体の構成、内容と分量、進行スピード、配布資料、パワーポイントの活用については、再考しながら継続的に改善を図っていききたいと思います。
- ・対話型授業を取り入れながら、学生の思考を促す工夫をしていきたいと思っています。
- ・2020 年度については、Zoom のチャット機能をかなり活用し、学習支援システムの「揭示版」を補完的に利用しましたが、2021 年度については、授業の実施形態の変更をふまえた対応を検討します。

【その他の重要事項】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。
- ・ローカル・サステイナビリティコースの他のコースコア科目を合わせて履修することを推奨します。
- ・ローカル・サステイナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで学ぶ学生にとっても、地域社会に関するテーマや「持続可能な地域社会」について理解するためには、自治体政策に関する知識は必須です。
- ・「自治体環境政策論Ⅰ」と「自治体環境政策論Ⅱ」は連続しており、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

In this class, we will examine the public policy of local government synthetically towards “Sustainable community”. Especially, we will focus on some important themes in recent years, such as “Glocal policy”, renewable energy policy ,environmental policy integration, ”SDGs”, sustainability risk of urban society, traffic policy, construction of a recycle-oriented society ,etc.The purpose of this class is for students to learn about the role of local government for creating “Sustainable community”, and the method of a policy ideation.

POL300HA

エネルギー政策論

菊地 昌廣

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 6/Wed.6

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なエネルギー資源の選択、エネルギー利用による地球温暖化、エネルギー資源の価格変動など、多様化する社会問題と経済問題に如何に対処すべきか等の課題、我々の生活の基盤となる電気エネルギーの自由化を踏まえた安定供給確保等の課題を踏まえて、将来のエネルギー政策を国際的、国内的視野に立って議論する。

【到達目標】

- ①エネルギーの基本的技術構造の説明能力を習得する。
- ②社会構造とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ③国内政治とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ④エネルギー需給構造について国際的要因の説明能力を習得する。
- ⑤エネルギー政策立案時の視点や立案のポイントを理解する。
- ⑥質疑応答・討論によりエネルギー問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

エネルギーに関する基本的な要素を理解した後、社会問題とエネルギー利用に関連した課題、国内政治とエネルギー需給に関連した課題、エネルギーの国内需要と供給に関連する国際的な課題を議論する。最後にエネルギー政策立案の考え方を習得する。講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。講義に使用するパワーポイント資料は、事前に学習支援システムを介して配信する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義内容の概観	授業のテーマと到達目標等本講義の意義について説明する。また、現在のエネルギー利用の実態と付帯する社会問題、経済問題等本講義の議論点について概括するとともに、エネルギーを議論するときの基礎となる各エネルギーの供給メカニズムや利用時のエネルギー損失等、議論の背景となる要因について議論する。
第 2 回	エネルギー消費と産業構造	GDP とエネルギー消費の関係等、社会生活とエネルギーとの係わりについて解説すると共に資源から利用可能な状態までの国際的なエネルギー需給バランス等、エネルギーライフサイクルとエネルギー利用の産業構造について議論する。
第 3 回	省エネルギーとエネルギーミックス（再生可能エネルギー、新エネルギー）	エネルギー利用効率向上のために採られてきた省エネルギー対策と国際社会から自立した化石燃料に依存しない持続可能な再生可能エネルギーや新エネルギーの活用について議論する。
第 4 回	新たなエネルギー資源開発や化石エネルギー価格の変動要因	シェールガス、シェールオイル、メタンハイドレードなど新エネルギー資源の確保問題や、国際経済成長戦略と原油、天然ガス、石炭などの在来型化石燃料の価格変動要因との関連について、最近の情勢を分析しつつ議論する。
第 5 回	エネルギー安定供給（エネルギーセキュリティ）	エネルギー政策の一つの要素であるエネルギーセキュリティ問題について、歴史的経緯や考慮すべき要素を議論する。
第 6 回	エネルギー政策の歴史とエネルギー関連法令	近代産業発展に伴って採用されてきた我が国のエネルギー政策を解説すると共に現在のエネルギー関連法令について議論する。

第 7 回	エネルギー税制	国家がエネルギー政策を推進するためには、その資金が必要であり、資金確保のための適切な税制とその用途、活用法の実態を議論する。
第 8 回	電力自由化政策と電力自由化のメカニズム	電力を含むエネルギーは公共財としての側面を有しているが、福島原発事故以降採られてきた電力自由化の動きと、国民に安定的な電力供給体制構築のためのエネルギー価格を構成する要素を議論する。
第 9 回	エネルギー利用とリスク	地球温暖化から派生する気候変動や食糧問題等を踏まえて、エネルギーを国際社会が安心安全な環境で使用するために配慮すべきエネルギー利用形態とそのリスクについて、京都議定書と昨年のパリ合意の内容を比較しつつ議論する
第 10 回	国際戦略としてのエネルギー需給問題	資源小国である我が国は海外からの供給を前提としていることから、原油価格変動に注視している状況にあり、世界のエネルギー供給戦略と我が国の利用戦略について歴史的視点から議論する。
第 11 回	エネルギー政策立案のメカニズムと政策の方向性	エネルギー基本計画策定、実施関連法令立案等具体的なエネルギー政策を立案するためのメカニズムを紹介すると共に今後の国内エネルギー政策の方向性について議論する。
第 12 回	エネルギー産業を介した地方創生方策	エネルギー基本計画により再生可能エネルギーなどの活用の活性化が推進されており、このような産業を介した地方創生のための方策について議論する。
第 13 回	将来のエネルギー需給予測と消費展望	将来の内外のエネルギー需給予測を世界各国の経済発展との関連で解説すると共に、今後の世界エネルギー需給についての将来展望について議論する。
第 14 回	講義内容のレビューと質疑応答	これまでの講義内容をレビューし、質疑応答を行うことにより、講義内容の理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
毎回の講義で使用する資料等を必ず予習・復習をすること。
授業日前に次回講義で使用する資料を授業支援システムを介して配信する。受講生は、授業支援システムへ登録し、資料の受領が行えるようにしておくこと。受講日までにはその内容をよく予習することを求める。
エネルギー問題に関する報道内容等に留意し、講義の論点についての事前の情報収集が授業内容の理解を促進させる。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【参考書】

本講義を受講するに当たって、以下の文献を推奨する。

- 1) 十市 勉（2005）『21 世紀のエネルギー地政学』（産経新聞出版）
- 2) 小池康郎（2011）『文系人のためのエネルギー入門』（勁草書房）
- 3) 三浦隆利、他（2008）『エネルギー・環境への考え方』（養賢堂）
- 4) 藤原淳一郎（2010）『エネルギー法研究』（松岳社）
- 5) エネルギー・経済統計要覧、日本エネルギー経済研究所（最新年度版）
- 6) その他、エネルギー白書等政府刊行物

【成績評価の方法と基準】

平常点：10 点

期末試験結果 90 点（論述式試験による）

【学生の意見等からの気づき】

自らエネルギーに関連する内外の動きを敏感にとらえ、事前に学習支援システムで配布する講義レジュメ内容を予習しておくことが受講に効果的である。

【学生が準備すべき機器他】

事前に学習支援システムで配信する講義レジュメのプリント。

【その他の重要事項】

学習支援システムを有効に活用する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Through learning of histories and energy statistic data, to consider the energy policy to be used in future world.

POL300HA

地球環境政治論

横田 匡紀

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

パリ協定、気候変動問題の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？地球環境問題への解決や SDGs に向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、パリ協定、気候変動問題、SDGs、トランプ政権などの事例をとりあげるとともに、国際関係論、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みを理解していくことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員として SDGs や持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

【到達目標】

- ・パリ協定、気候変動問題、SDGs などを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境 NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
- ・SDGs やプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を理解できるようになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベルごとの多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。
- ・トランプ政権による地球環境政策への影響を理解できるようになる。
- ・貿易と環境、環境と安全保障といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、国際関係論やグローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、NGO、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題や SDGs など）に取り組む、どのような成果と課題があるのかを確認していく。また講義の各論点と SDGs との関連についても言及し、SDGs に対する理解を深めることができるように配慮する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	なぜ地球環境政治論を学ぶのか：人類世、地球の限界
第 2 回	地球環境ガバナンスの展開	地球環境政治の歴史的展開：国連人間環境会議から SDGs まで
第 3 回	気候変動ガバナンス（1）	パリ協定などの気候変動ガバナンスの概要
第 4 回	気候変動ガバナンス（2）	気候変動ガバナンスの新たな展開：気候正義、気候安全保障、ダイバーストメント
第 5 回	地球環境ガバナンスの課題（1）：生物多様性と化学物質管理の問題をめぐるグローバル・ガバナンス	名古屋議定書などの生物多様性や水俣条約などの化学物質管理をめぐるグローバル・ガバナンスの概要
第 6 回	地球環境ガバナンスの課題（2）：SDGs、プラスチック	SDGs やプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を学ぶ
第 7 回	欧州の環境ガバナンス	先進的な環境政策をとる欧州での環境ガバナンスの展開：規範パワー、排出量取引、再生可能エネルギー、REACH
第 8 回	アジアの環境ガバナンス	アジア地域の環境ガバナンスの動向：黄砂、酸性雨、PM2.5、煙霧（Haze）
第 9 回	地球環境ガバナンスにおけるアメリカ	アメリカの地球環境外交：オバマ政権、トランプ政権、バイデン政権、エネルギー政策、環境正義

発行日：2021/5/1

第 10 回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス (1)	NGO や企業などの非国家アクターの役割：地球環境条約に関わる活動
第 11 回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス (2)	NGO や企業などの非国家アクターの活動の新たな展開：CSR、FSC、MSC、ESG 投資など
第 12 回	地球環境ガバナンスにおける日本の役割	日本の地球環境外交：持続可能な発展、地球サミット、京都議定書、名古屋議定書、水俣条約
第 13 回	地球環境政治の見方 (1)	リアリズムとリベラリズム
第 14 回	地球環境政治の見方 (2)	コンストラクティヴィズム、グローバル・ガバナンス論、パワートランジション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
講義の各項目について理解できるようにしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄編『国際関係論（第 3 版）』弘文堂、2018 年

【参考書】

環境経済・政策学会編『環境経済・政策学事典』九善出版、2018 年
リチャード・E. ソーニア、リチャード・A. メガング編『グローバル環境ガバナンス事典』明石書店、2018 年

竹本和彦編『環境政策論講義』東京大学出版会、2020 年

高橋洋『エネルギー転換の国際政治経済学』日本評論社、2021 年

亀山康子『新・地球環境政策』昭和堂、2010 年

亀山康子・森晶寿編『グローバル社会は持続可能か』岩波書店、2015 年

新澤秀則・高村ゆかり編『気候変動政策のダイナミズム』岩波書店、2015 年

角倉一郎『ポスト京都議定書を巡る多国間交渉』法律文化社、2015 年

小西雅子『地球温暖化は解決できるのか』岩波ジュニア新書、2016 年

小西雅子『地球温暖化を解決したい』岩波書店、2021 年

太田宏『主要国の環境とエネルギーをめぐる比較政治』東信堂、2016 年

宇治裕紗『環境条約交渉の政治学』有斐閣、2019 年

蟹江憲史『持続可能な開発目標とは何か』ミネルヴァ書房、2017 年

蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』中公新書、2020 年

鄭方婷『重複レジームと気候変動交渉』現代図書、2017 年

ナオミ・クライン『これがすべてを変える 上・下』岩波書店、2017 年

J. リフキン『グローバル・グリーン・ニューディール』NHK 出版、2020 年

齊藤幸平『「人新世」の資本論』講談社現代新書、2021 年

村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015 年

中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013 年

大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣、2013 年

三船恵美『基礎から学ぶ国際関係論（改訂版）』泉文社、2015 年

大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016 年

西谷真規子・山田高敬編『新時代のグローバル・ガバナンス論』ミネルヴァ書房、2021 年。

今井宏平『国際政治理論の射程と限界』中央大学出版部、2017 年

山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008 年

鈴木基史『グローバル・ガバナンス論講義』東京大学出版会、2017 年

西谷真規子編『国際規範はどう実現されるか』ミネルヴァ書房、2017 年

【成績評価の方法と基準】

課題類の提出を前提として、期末試験 90 %、平常点 10 % で評価する。期末試験については、オンディマンドのため、期末試験はレポートテストになる。平常点については、毎回の小課題の提出とその内容について判断する。小課題のフィードバックについては、学生からのリクエストに応じて授業サイト上で行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生のペースに配慮すること。

【その他の重要事項】

講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いていきます。
進度により講義内容を変更することがあります。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

For better understandings of sustainable world society, this course aim to provide a wide range of knowledge about global environmental politics from viewpoints of discipline of the International Relations Course topics.

- ・History of global environmental governance.
- ・Global climate governance(The Kyoto Protocol, The Paris Agreements).
- ・Global biodiversity governance.
- ・Global chemical governance.
- ・Global environmental governance of SDGs and Plastic issue
- ・Environmental governance of the European Union.
- ・Environmental governance in Asia
- ・Environmental policy in the U.S.
- ・Transnational environmental governance (Non-state actors, NGOs, Business and local actors).
- ・Japan's global environmental diplomacy.
- ・Theories of global governance (Realism, Liberalism, Constructivism and Global governance)

MAN200HA

現代企業論

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGs やパリ協定の登場によって、化石燃料依存型経済から脱炭素経済への移行が求められています。企業は SDGs を達成する上で重要なパートナーと位置づけられており、企業が果たすべき役割はこれまで以上に拡がりをみせています。この授業では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球環境問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、知識集約型社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社制度と様々な経営課題に立ち向かう企業の姿勢を理解し、SDGs が求める持続可能な社会における企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（気候変動、SDGs、脱炭素等）に関する基本理論の説明と様々な業種の企業事例をケーススタディとして取り上げます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 企業とは何か ケーススタディ①サントリ	講義の目的・進め方 株式会社の基本機能 ケーススタディ：スポーツドリンク開発
第 2 回	製品・サービスの提供 ケーススタディ②本田技研工業	市場における優位性の獲得 ケーススタディ：ステーションワゴン開発
第 3 回	株式会社の仕組みと課題 ケーススタディ③キヤノン	株式会社は誰のものか ケーススタディ：デジタルカメラ開発
第 4 回	大企業の機能と専門経営者の誕生 ケーススタディ④スズキ	所有と経営の分離 ケーススタディ：原付自転車開発
第 5 回	企業規模の拡大と組織 ケーススタディ⑤ヤマハ	規模の利益と経営の効率化 ケーススタディ：電子楽器開発
第 6 回	日本の経営の構造 ケーススタディ⑥黒川温泉（熊本県）	日本の経営の成果と課題 ケーススタディ：温泉リゾートの再生
第 7 回	経営管理の理念と機能 ケーススタディ⑦日清食品	マネジメントの実際 ケーススタディ：カップめん開発
第 8 回	外部講師による特別講義	企業担当者による講義（詳細内容が確定次第、学習支援システムに掲載します）
第 9 回	デジタル革命と企業経営 ケーススタディ⑧ミツカン	AI・IoT の活用と経営変革 ケーススタディ：食品開発
第 10 回	競争戦略とマネジメント ケーススタディ⑨ジブリ	市場競争力の本質 ケーススタディ：アニメーション制作
第 11 回	製品開発戦略 ケーススタディ⑩海洋堂	製品開発のコンセプトとプロセス ケーススタディ：食玩開発
第 12 回	サステナビリティ経営① ビジネスの脱炭素化 ケーススタディ⑩家庭用 VTR を巡る企業間競争	パリ協定の内容 脱炭素化を巡る国内外の企業動向 ケーススタディ：VHSvs ベータマックス
第 13 回	サステナビリティ経営② SDGs と ESG 投資 ケーススタディ⑩ビールを巡る企業間競争	SDGs の概要 非財務情報を反映した企業評価のあり方 ケーススタディ：キリン vs アサヒ

第 14 回 社会から選ばれる企業とは何か
日経ストックリーグへの挑戦
ブリーフドリブン消費者の頭脳共感と信頼の経営
学生が選ぶサステナビリティ企業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料や参考書を使用して必ず復習をして下さい。新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけて、どのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

Naoya.HASEGAWA（2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGs で読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂、2021 年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶ ESG 経営』文真堂、2019 年

長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂、2018 年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017 年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂、2016 年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：15 %

期末試験：85 %

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

経営学の初学者を対象にケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財)国際金融情報センターに外向し、カントリーリストや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【関連視角】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline and objectives】

The emergence of the SDGs and the Paris Agreement have called for a shift from a fossil fuel-based economy to a decarbonized economy.Companies are positioned as key partners in achieving the SDGs, and the role they need to play is expanding more than ever.This lecture focuses on various issues surrounding companies, based on the changes in the external environment, such as the end of the age of mass production and mass consumption, the growing An overview of corporate management, taking up contemporary issues.

MAN200HA

経営学入門

金藤 正直

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、企業の実践的課題に対する解決策を理論的に明らかにすることが中心となる。しかし、その課題や解決策は、企業外部の経済環境の変化によって比較的短いスパンで様変わりしやすく、また、多様に存在する。そこで、本講義では、内容のポイントを絞って、体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、理論的な内容だけではなく、企業の実践的取組みについても触れるために、企業が実際にどのような方針（戦略）を立て、その方針に基づいてどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、配布資料をもとに進めていくが、各講義の内容に関連する映像資料や新聞・雑誌記事も活用し、その中で取り上げられている企業のビジネスモデルの特徴やその課題について履修者と一緒に検討していくとともに、その解説も行う。なお、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 企業と経営－経営学とは何か－	講義の内容・進め方とともに、経営学を学ぶことの意義を説明する。
第 2 回	企業の種類－企業と何か－	企業の種類を説明する。
第 3 回	経営戦略－概念と特徴－	経営戦略の概念や特徴を説明する。
第 4 回	経営戦略－種類と策定方法－	経営戦略の種類とその策定方法を説明する。
第 5 回	経営戦略－新たな企業戦略の意義と内容－	現在企業に求められている新たな経営戦略（環境戦略、サステナビリティ戦略、地域戦略）を説明する。
第 6 回	経営組織－概念と種類－	経営組織の概念とその種類（形態）を説明する。
第 7 回	経営組織－形態と特徴－	経営戦略の形態（基本と応用）とその特徴を説明する。
第 8 回	経営組織－新たな組織の展開－	第 5 回の経営戦略を実現していくための新たな経営組織（サプライチェーン、産業クラスター、コラボレーション）を説明する。
第 9 回	経営管理－機能と仕組み－	経営管理の 2 つの機能（経営機能と管理機能）とともに、企業経営の管理技法を説明する。
第 10 回	経営管理－経営資源の管理①－	企業の人的資源である「ヒト」、材料や仕掛品などの「モノ」の管理方法を説明する。
第 11 回	経営管理－経営資源の管理②－	企業経営をうまく実施するうえで重要な役割を果たす会計（「カネ」）や「情報」の管理方法を説明する。
第 12 回	ケーススタディ①	日本企業の実践的な取り組み（実践的事例）を説明し、その内容を理解する。
第 13 回	ケーススタディ②	第 12 回の内容について、第 11 回までの講義内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。
第 14 回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動など）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配布資料を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の 2 点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50 %）
- ②期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明してもらう場合もありますので、メモできるもの（付箋など）も持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ①配付資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ②必要に応じて新聞・雑誌記事などのコピーも配布します。
- ③質問などは電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method in companies.

MAN200HA

環境経営と会計

金藤 正直

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、企業などの組織が行った経済活動の状況を定量的に測定し、この結果を情報利用者（企業内外のステークホルダー）に伝達するための情報システムである。その領域は、ミクロ会計（家計、企業、政府を対象とした会計）、メゾ会計（地域を対象とした会計）、マクロ会計（国を対象とした会計）の3つに分類される。本講義では、ミクロ会計のうち、企業を対象とした会計をもとに、環境会計またはサステナビリティ会計を学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業会計の基礎的なフレームワークを学習した後、環境経営やサステナビリティ経営の財務的・非財務的内容を理解し、分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、企業会計（財務会計や管理会計）、環境会計、サステナビリティ会計の機能や構造を、環境省や GRI（Global Reporting Initiative）などで公表されているガイドラインや、有価証券報告書、環境報告書、サステナビリティ報告書、統合報告書を利用しながら理解することを目指す。また、必要に応じて関連する新聞や雑誌記事などを配布し、会計の仕組みをより詳細に理解していく。なお、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 企業経営と会計－会計学とは何か－	講義の内容・進め方とともに、会計学を学習することの意義を説明する。
第 2 回	会計の基礎概念と基本的技法	会計の基礎概念と基本的技法を説明する。
第 3 回	会計の仕組み①－貸借対照表の特徴と仕組み－	貸借対照表の特徴と構成要素（資産、負債、純資産）を説明する。
第 4 回	会計の仕組み②－損益計算書の特徴と仕組み－	損益計算書の特徴と構成要素（収益、費用）を説明する。
第 5 回	経営分析の方法	経営分析の必要性と、分析方法を説明する。
第 6 回	ケーススタディ①	第 2 回から第 4 回までの講義内容をもとに、企業の会計情報を分析し、その結果を説明する。
第 7 回	環境経営と環境会計	環境会計の概念と基本的機能、また、第 5 回までの講義内容との関係を説明する。
第 8 回	環境会計情報①	環境保全コストの定義、内容、測定方法を説明する。
第 9 回	環境会計情報②	環境保全効果と経済効果の定義、内容、測定方法を説明する。
第 10 回	環境経営分析	環境会計情報を活用した経営分析の方法を説明する。
第 11 回	ケーススタディ②	第 7 回から第 10 回までの講義内容をもとに、企業の環境会計情報を分析し、その結果を説明する。
第 12 回	環境会計情報の開示方法	環境会計の情報開示の意義とその方法（開示媒体）を説明する。
第 13 回	新たな環境会計 サステナビリティ会計	新たな環境会計（マテリアルフロー・コスト会計など）と、サステナビリティ経営のための会計システムを説明する。
第 14 回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、今後の活動（ゼミナール活動など）で必要とされる研究・調査の方法の基礎基本を身に付けてもらうために、配布資料を用いて会計学の専門的で難解な用語、概念、技法を平易に説明し、解説するだけでなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけでなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50 %）
- ②期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合がありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to learn environmental accounting and sustainability accounting based on the framework of corporate accounting.

ECN200HA

公共経済学

小田 圭一郎

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、ミクロ経済学の基礎理論に基づき、公共政策を分析するための基本的フレームワークを身につける。

【到達目標】

学生は、市場経済における公共部門の役割について学ぶ。

具体的には、以下の事項を説明できる：

- ・市場経済の利点（厚生経済学の基本定理）と限界（市場の失敗）
- ・公共財の効率的配分
- ・外部性の市場的解決
- ・環境問題の市場的解決方法としての環境税と排出権取引
- ・情報非対称性問題へのゲーム理論的解決方法の基礎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。数回程度の課題を課す。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	公共経済学の概観と授業の進め方
第 2 回	ミクロ経済学①	最適化問題の定式化
第 3 回	ミクロ経済学②	厚生経済学の基礎
第 4 回	市場の失敗	市場メカニズムが適切に機能しない状況
第 5 回	公共財①	定義・効率的配分条件
第 6 回	公共財②	リンダール均衡、クラークメカニズム
第 7 回	ゲーム理論	ゲーム理論の初歩
第 8 回	外部効果①	定義、コースの定理
第 9 回	外部効果②	市場的解決方法
第 10 回	環境政策①	環境問題の定式化
第 11 回	環境政策②	環境税と排出権取引
第 12 回	情報非対称性問題①	情報非対称性問題の一般的考え方
第 13 回	情報非対称性問題②	環境政策における逆選択問題の定式化
第 14 回	試験・まとめと解説	試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、ミクロ経済学の初歩について適宜復習を行うとともに、毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社。
佐藤主光（2017）『公共経済学』新世社。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」記載事項の理解度に応じて評価を行う：

- ・期末試験（80%）
- ・課題（20%）

【学生の意見等からの気づき】

分析の基礎となる諸概念について直観を与えるような説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料配布・課題提出を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course will introduce students the basic ideas of public economics. Students will develop theoretical knowledge for analyzing public policies.

MAN300HA

環境ビジネス論

竹ヶ原 啓介

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題と経済との関わりを考える題材として「環境ビジネス」を取り上げる。再生可能エネルギー、省エネ、資源リサイクル、環境リスク管理など、様々な分野で展開される企業活動の分析を通じて環境問題を捉え直すことにより、環境と経済の関わりについて複眼的な考察出来るようになることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討すると共に、実際に企業分析を体験することで理解を深めていく。

【到達目標】

環境ビジネスの視点から多様な企業活動を観察することで、環境問題に関する総合的な理解を深めるとともに、企業のビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。様々な企業情報に触れつつ、汎用性の高いツールとしてファイナンスや経営学の基本的な視点を学ぶことで、「企業を見る目」を養い、様々なビジネスモデルを検討する際に、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。また、企業分析と発表・フィードバックを経験することで、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

環境ビジネスについて、市場規模や構成、雇用などを巨視的な視点から理解すると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、水、自然資本保全など主要なテーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析しつつ学習する。併せて、ファイナンスの基本的な考え方、基礎的な分析ツールを知ることにより、汎用性のある知識の習得を目指す。また、個別企業分析とプレゼンを担当することで、実際の企業を素材に環境ビジネスの実像に触れるとともに、教員からのフィードバックを通じてプレゼンテーション能力の涵養を図る。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第 2 回	環境ビジネス概論	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模など全体像の把握を行うと共に、分析のフレームワークについての知識を整理する。
第 3 回	環境と金融①	近時注目を集める環境金融の考え方を理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことにより、各論以降の検討に向けた基礎を構築する。
第 4 回	環境と金融②	前回の続き。NPV、IRRなどの考え方、キャッシュフロー表の構成などの基本を理解する。
第 5 回	環境と金融③／プレゼンチーム分けと事前ミーティング	前回の続き。また、講義後半で行う企業分析のチーム分けを確定し、チームメンバーの顔合わせを行う。
第 6 回	ケース 1：再生可能エネルギービジネス 1	太陽光発電や風力、バイオマスを素材に、再生可能エネルギービジネスについて、その事業性や普及に向けた課題等を考える。
第 7 回	ケース 2：省エネビジネス	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCOなどを通じて、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。
第 8 回	ケース 3 3R ビジネス 1／企業分析プレゼン①	規制が作り出した巨大産業であるリサイクルビジネスの基本構造を理解し、容器包装や金属など具体的な事例を踏まえて成功モデルを探る。なお、今回から講義の後半に企業分析・プレゼンを実施する予定。

第9回	ケース3 3Rビジネス2／企業分析プレゼン②	前回の続き。
第10回	ケース4：環境リスク管理ビジネス／企業分析プレゼン③	法規制導入を機に拡大が期待されながら、予想とは異なるパスを辿った土壌・地下水汚染対策ビジネスの基本構造を理解し、成功モデル・戦略を探る。希少化する淡水資源と人口増加をバランスさせる切り札として期待される水ビジネス。国内では下水道インフラの更新、海外では新興国への進出による成長が期待されているビジネスの現状と展望を考える。
第11回	ケース5：水ビジネス／企業分析プレゼン④	
第12回	ケース6：自然資本・生物多様性保全ビジネス／企業分析プレゼン⑤	自然資本／生物多様性という概念と、これをビジネスと接続する視点を確認しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、関連ビジネスについて考える。
第13回	ケース7：ESG投資と環境ビジネス1／企業分析プレゼン⑥	欧米の長期投資家を嚆矢に、現在我が国でも影響力を強めている ESG 投資など「環境金融」の機能について考える。
第14回	まとめ／企業分析プレゼン⑦	前回の続きと全体の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ファイナンスを含めて予備知識は一切不要です。復習による定着を重視して下さい。自分が関心を持つ業界／企業が環境問題にどう関わっているか、という問題意識をもって講義に臨めば得るものが多いでしょう。講義が大企業等を素材にすることが多い分、毎回ベンチャー企業等を素材とするミニレポートを課題として課します（次回までに提出）。また、チーム又は個人で企業の環境ビジネスを分析・プレゼンしてもらいます。質疑、講師や他の受講生からのフィードバックを含め、過去の受講生の多くが、この経験が有用だったと振り返っています。毎回の準備学習・復習と宿題対応で1時間程度を標準としますが、これとは別にプレゼン準備には相応の時間が必要です。こうした分析・プレゼン資料作成作りへの積極的な参加が必要です。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、担当教員が作成したレジュメや参考資料を授業支援システム等を通じて配布します。講義は、基本的にこのレジュメを参照しながら行われるので、受講する学生は忘れずに持参するようにして下さい。また、毎回課す課題は、当日教室で配布します。

【参考書】

環境省 環境経済情報ポータルサイト
http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html
 このほか、講義において適宜紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

この講義では、一方通行の座学ではなく、ディスカッション等を通じた知識の定着を重視しており、授業に出席することが評価の大前提となります。そのうえで、企業分析・プレゼンテーション（40%）、毎回課すベンチャー企業などの環境ビジネスを素材とする課題（40%）、講義でのディスカッションへの貢献度（20%）などに基づき、総合的に判断します。なお、プレゼンテーション等に関して個別に指導を行う関係上、受講希望者が多い場合には人数調整を行うことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼン後の振り返りなど、ディスカッションや対話の時間をより充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出には原則として授業支援システムを利用する。プレゼンテーション作成にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

講義の性格上、オンデマンドのオンライン方式にはなじまないため、2021年度秋学期は対面式を予定しています（感染状況次第では変更の可能性あり）。分析・プレゼン社数は受講生数に応じて増減しますが、例年は6～7件程度を実施しています。教員は現役の銀行役員であり、環境ビジネスの調査企画、ESG評価等に関する実務経験を有しているほか、数多くの政府委員会に委員として参加しています。本講義は、こうした経験を基に構成されたプログラムです。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to consider the relationship between environmental issues and the economy from the aspect of "environmental business." By rethinking environmental issues through analysis of corporate activities conducted in various fields such as renewable energy, energy saving, resource management, environmental risk management, etc, we aim to provide a multi-faceted view of the relationship between the environment and the economy.

SOC200HA

NPO・ボランティア論

新田 英理子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分がより良くありたいと願うように、社会をより良くしたいと願うときに、ボランティア、NPO（Nonprofit Organization）について、多面的、多角的に理解していることで、社会との向き合いの幅を広げることができます。日本において、NPO が一般的になってきたのは、ここ 20 年ほどです。ボランティアは、「奉仕」を越えて、ソーシャルグッド、ソーシャルビジネス、NPO の担い手として、ますます注目を集めています。また、NPO・ボランティアと親和性の近い言葉として、市民社会・市民という言葉があります。この授業では、NPO やボランティアを多角的、多様に理解すると同時に、SDGs 達成に向けて活動する、NPO の実践者、ボランティアの実践者からの情報提供も受けます。それらを通じて、ひとりひとりが、市民として、社会とどのように向き合い、関わっていくのか、理解を深め、考える機会とします。

【到達目標】

- ・NPO の意味、役割、これまでの歴史、運営や財源、行政や企業との関係などについて理解を深めるとともに、現代社会の持続不能性と持続可能性について考えます。
- ・ボランティアの意味、役割、これまでの歴史、NPO との関係について理解するとともに、SDGs とボランティア、SDGs と市民について、考えます。
- ・NPO・ボランティアが取り組んできた課題への理解を通して、社会の変化や現代社会の課題について問題意識をもち、自分たちひとりひとりができることについて考えます。
- ・今後のより良い社会のあり様を、どのように考えていけばよいのか。市民一人ひとりが、社会とどのように向き合い、関わるべきか、学生自身も含めて考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・原則として各回ごとに、テーマにそった講義を行います（ZOOM のときは、ブレイクアウトセッションを行います）。
- ・毎回、小グループで話し合い、グループの意見をリアクションペーパーに書き、提出してもらいます。
- ・毎回、リアクションペーパー（感想・質問・意見）を提出してもらいます。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。
- ・リアクションペーパーの質問については、次々回の授業の冒頭でコメントし、前回授業の振り返りの時間をとります。また、リアクションペーパーの意見等をもとに、学生からも意見を出してもらい、学生間で様々な視点や考えを学びあいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ボランティア、NPO、SDGs に関する基礎知識	・授業の目標、内容、進め方についての説明 ・私たちの生活と、持続可能性
第2回	NPO の基礎知識～NPO とは何か	・NPO 歴史的背景 ・NPO の意味と意義 ・日本社会におけるNPO 種類（NPO、NGO、CSO など）
第3回	SDGs の基礎知識～SDGs とは何か	・SDGs の歴史的背景 ・SDGs の意味と意義 ・SDGs の担い手としてのNPO、ボランティアの意味
第4回	ボランティア・ボランティア活動とは何か？	・ボランティアの歴史的背景 ・ボランティアの意味と意義 ・個人、組織や法人格とは
第5回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して①	差別/格差の問題と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例（LGBT 等）を通して、持続可能性について考える
第6回	ソーシャルビジネスとソーシャルグッド	・ソーシャルビジネスとは ・営利、非営利をNPO から見るとは ・NPO 法の制定過程 と他の法人制度との比較
第7回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して②	環境問題（プラスチックごみ問題）と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例（クリーンアップ等）を通して、持続可能性について考える

発行日：2021/5/1

第 8 回	NPO・ボランティアの 実践～事例を通して③	生物多様性と向き合う NPO・ボラン ティアの実践事例（希少種保全等）を 通して、持続可能性について考える ・市民社会とは ・行政組織や企業組織との違い ・中間発表
第 9 回	市民社会とは何か 中間発表	
第 10 回	NPO・ボランティアの 実践～事例を通して④	外国にルーツをもつ人たちが抱える問 題と向き合う NPO・ボランティアの 実践事例（学習支援等）を通して、持 続可能性について考える
第 11 回	NPO・ボランティアの 実践～事例を通して⑤	貧困/格差の問題と向き合う、NPO・ ボランティアの実践事例（路上生活者 支援）を通して、持続可能性について 考える
第 12 回	パートナーシップ	・パートナーシップによって課題を解 決するとは ・NPO・ボランティアにとってのパー トナーシップの概念を理解する 全体を通しての授業の振り返り ・半期を通じて、調べてきた NPO・ボ ランティア活動の発表
第 13 回	授業の振り返りと発表①	全体を通しての授業の振り返り ・半期を通じて、調べてきた NPO・ボ ランティア活動の発表
第 14 回	授業の振り返りと発表② と補足	・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします
・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
・各回のレジュメ（パワーポイント資料）配布するので、授業後、各自授業内
容を振り返り内容をよく理解し、自分なりの考えを整理していただく。疑問
点等があれば、次回授業のリアクションペーパーで提出してください。
・欠席した場合も授業支援システムからレジュメをダウンロードして授業内容
を把握しておくこと。
・参考書等で授業内容と関連する内容を読み、考察を深めること。
・各自で、関心のある分野の NPO の事例をインターネット等で調べたり、N
PO 支援センターなどで情報収集したり、実際にボランティア参加してみる
ことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

「基本解説。そうだったのか SDGs」SDGs 市民社会ネットワーク発行 1000 円
「知っておきたい NPO のこと基本編」日本 NPO センター発行 500 円
その他、授業内でも紹介します。授業で聞くだけでなく、参考書のいずれか
を購入するか、各自で NPO に関する本や小冊子入手し、授業とあわせて
理解や考察を深めるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発言、リアクションペーパーの提出、参加姿勢など）：40 %
テスト・レポート：60 %
なお、原則として、4 回以上欠席した者は、成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

・現在も SDGs を達成するために活動している CSO のネットワーク組織で
活動をしています。
・また、20 年間、NPO として NPO を支援し、活動を行ってきた経験をも
とに、具体的な事例や体験談を交えて授業を行います。
・学生による発表を随時取り入れたいと思いますので、授業計画を一部変更す
ることもあります。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this class, we will receive reports from NPO/volunteer practitioners, who understand NPOs and volunteer work from multiple points of view. Through such experiences, students in this class will have opportunities to deepen their understanding of such work and consider how they want to engage with society as citizens.

SOC300HA

地域福祉論

宮脇 文恵

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 自らが「地域住民」として、地域を「暮らしたい場所」とするための、住民参画と主体形成について学ぶ。
2. 地域において、誰もが仲間はずれにされないための技法について学ぶ。

【到達目標】

人は誰もが、幸せでありたいと漠然と願っている。それは、自分が暮らしたい場所、豊かな人間関係に囲まれ、他者から必要とされ、充実した毎日を送り、「生きていてよかった」と思えるようになることであろう。その一方で、「幸せになれなくても仕方がない」とされるマイノリティが存在する。地域福祉は、地域に暮らす一人一人が「幸せだ」「生きていてよかった」と思えることであり、そのためには、住民自身が「我が町を、住んで都にする」という意識を持ち、自分ができることを働きかけていくことが求められる。本講義では、そのための基礎的な知識として、福祉的なニーズを抱える人々に対する理解と、地域に存在する社会資源、助け合う方法などについて理解を深めていく。そのことをもって、自らが地域社会に働きかけていく意識を醸成し、実践していく力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンド授業です。地域福祉とは、「地域に暮らす一人一人が幸せになることであり、そのためのしきみをつくり、お互いに働きかけ合っていくこと」である。では、どんな人が大変な思いをしているのか、どうすれば自分らしく暮らしていくことができるのか。子ども・障害のある人・高齢者・貧困など生活困窮者・制度のはざまにあってサービスを使えない人（ゴミ屋敷、ひきこもり、LGBT、外国人移住者など）などへの理解を深め、地域で支え合うための技法と、地域社会を変革していく福祉教育実践や地域福祉計画について学ぶ。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認
第 2 回	地域福祉とは何か	地域福祉の理念を学び、国際生活機能分類（ICF）に基づいて、「本人と他者（地域社会）との関わり」を考える。「どんな人でも社会から仲間はずれにしないで、社会の方を変えていく」というノーマライゼーションと、お互いを地域社会の中で認め合って共存していく「ソーシャルインクルージョン」についてまなぶ。
第 4 回	町に暮らす人々(1)～認知症と地域社会～	認知症高齢者、若年性認知症当事者の事例から、認知症への理解と地域社会の関わりを考える。
第 5 回	街に暮らす人々(2)～高齢者と地域社会～	介護保険と高齢者を取り巻く現状をとりあげ、地域社会の関わりを考える。
第 6 回	街に暮らす人々(3)～子ども・家庭と地域社会①～	児童虐待を中心としてとりあげ、地域社会の関わりを考える。
第 7 回	街に暮らす人々(3)～子ども・家庭と地域社会②～	子どもの愛着形成・社会的養護とそのアフターフォロー、子ども・家庭の貧困をとりあげ、地域社会との関わりを考える。
第 8 回	街に暮らす人々(4)～生活困窮者と地域社会～	野宿生活者の現状と社会の偏見、地域における支援の取り組みについて学ぶ。
第 9 回	差別と偏見を見つめる	ナチスによる障害者虐殺、日本におけるハンセン病患者隔離政策などから、地域における差別の歴史を学ぶ。
第 10 回	街に暮らす人々(5)～障害者と地域社会①～	これまで差別されてきた障害のある人について、身体障害・知的障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第 11 回	街に暮らす人々(5)～障害者と地域社会②～	これまで差別されてきた障害のある人について、精神障害・発達障害を中心に地域社会との関わりを考える。

第 12 回	街に暮らす人々(6)～ LGBT と地域社会～	15 人に 1 人と言われる LGBT への理解と、地域社会で共に生きる方策を 探る。
第 13 回	地域福祉の推進主体)～社 会福祉協議会、社会福祉 法人、NPO、民生委員・ 児童委員、保護司	住民の福祉意識、在宅福祉サービスの 構造、地域福祉の主体形成、福祉教育 と教育福祉、福祉教育の展開における 留意点地域福祉を推進する中心の団体 について、学ぶ地域福祉を推進する NPO、地域の期待される人材について 学ぶ地域福祉の主体形成、見通しを立 てて地域を作る計画のあり方を学ぶ。
第 14 回	地域福祉推進における住 民参画～福祉教育、地域 福祉計画、ソーシャルサ ポートネットワーク	住民参画の方法として、福祉教育と地 域福祉計画をとりあげ、住民の福祉意 識の醸成と、見通しを立てて地域を作 る計画のあり方を学ぶ留意点を学ぶ。 また、地域住民の身近な支え合いとし て、ソーシャルサポートネットワーク について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
授業時間内、また、課題において視聴覚教材を多用します。
高齢者、子ども連れの親子、障害のある人などを始めとして、野宿者、ひきこもり、性的マイノリティ、外国人など、社会の中で居づらさを感じる人たちが実はたくさんいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。メディアの中の話題もチェックしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜資料を紹介していく。

【参考書】

くさかり樹『ヘルプマン！』1～27 巻（講談社）、『ヘルプマン！！』1～10 巻（朝日新聞）
さかたのり子・穂実あゆこ『児童福祉司一貫田逸子』（青泉社）
柏木ハルコ『健康で文化的な最低限度の生活』（小学館）他
随時、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業映像の視聴と課題）が 40%、途中に取り入れる小レポート（主に映像に関するもの）が 10%、学期末レポート 50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材については、古典的な教材と、さらに新しい視聴覚教材を合わせて活用する。

【学生が準備すべき機器他】

配布した資料は、その時間だけではなく、その後の授業でも振り返りながら使うので、地域福祉論用のファイルを用意して、必ず日付を明記して綴じておいてください（あとからいただく「いつ配布されたか教えてほしい」という声には答えません）。

レポートの提出は、かなり早いうちから授業支援システムを使用しますので、使えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

授業についてのご意見を反映して授業を展開することもあります。そのため、シラバスの順番が入れ替わったり、新たな項目が加わることもあります。授業は、映像を視聴し、それと共に課題に取り組み、その双方を持って出席とします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科日は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is a course on local welfare community. We deepen our understanding of difficulties of children, people with disabilities, elderly people, poor people and people who cannot use adequate social service in between different institutions/social services (such as inhabitants of “garbage residence”, “hikikomori” (isolating oneself from society), LGBT, foreign migrants etc.). Students will learn the techniques to support those people and analyze the welfare education practices and regional welfare plans that will transform the community.

SOC300HA

地域コモンズ論

船戸 修一

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 6/Fri.6

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「草原・森林・牧草地・漁場などの資源を共同で利用・管理する仕組み」または「共同で利用・管理する資源そのもの」は「コモンズ」と呼ばれる。この授業では、具体的な事例から、このような資源がどのように利用・管理されてきたのか、そして現在どのような利用・管理状況にあるのかを説明する。そのうえで今後の地域社会における自然環境や資源の共同利用・共同管理のあり方について考える。

【到達目標】

まず、コモンズ研究がどのような背景で成立し、どのように発展してきたのかを理解する。次に、様々な地域資源やそれに關する実践活動から資源の持続可能な利用や地域社会の持続可能性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、主に講義形式で進める。また授業内容についてのリアクションペーパーを授業終了後回収する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コモンズとは何か？ (1)	コモンズの定義について説明する。
第 2 回	コモンズとは何か？ (2)	コモンズ研究がどのような実践的課題を背景に進められてきたのかを説明する。
第 3 回	地域社会と資源	日本の農山村と地域資源との関係性について説明する。
第 4 回	日本のコモンズ (1) 入会地	入会地の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第 5 回	日本のコモンズ (2) 農業用水	農業用水の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第 6 回	日本のコモンズ (3) 棚田	棚田の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第 7 回	日本のコモンズ (4) 里山	里山の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第 8 回	人と野生動物 (1) マタギ	狩猟を生業とするマタギの自然観を踏まえ、人間と自然のかかわりについて説明する。
第 9 回	人と野生動物 (2) 獣害と狩猟	野生動物による農業被害問題を踏まえ、狩猟による動物資源の利用・管理について説明する。
第 10 回	限界集落と集落維持	「他出子」という人的資源も「コモンズ」に位置づけたうえで、その資源による農山村維持の可能性について説明する。
第 11 回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (1)	グローバル化による食料の不平等分配を踏まえ、食料の生産・消費について説明する。
第 12 回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (2)	資源枯渇が危惧されるウナギ・マグロ・クジラなどの現状を踏まえ、漁業資源の利用・管理について説明する。
第 13 回	コモンズ研究の整理	今後のコモンズ研究の可能性と課題について説明する。
第 14 回	「コモンズ論」のまとめと振り返り	これまでの授業内容を振り返り、それを再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は、授業内容や配布プリントの内容について復習しておくこと。そのうえで、授業で紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習を望む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】

参考文献は授業で毎回紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポートの内容を 90 %、授業後に課すリアクションペーパーの内容を 10 % として評価する。なお受講者の人数次第では評価方法を変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加と授業理解を促すために、毎回授業終了後にリアクションペーパーを課したい。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This class engages with studies on “commons.”

SOC300HA

NGO活動論

小野 行雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界が直面する問題を理解し、NGOの活動する場と方法を確認した上で、日本のNGO、国際NGO、「途上国」NGO等の現状を把握し、市民社会におけるNGOの役割、市民としての自分の役割について考える。

【到達目標】

- 1 世界の人々が直面している問題とそれら相互のつながりについて体験的に理解する
- 2 NGOと市民社会に関する歴史と現状を理解し、広い視野で世界の人々のつながりを考えられるようになる
- 3 NGO活動を通して自ら世界に関わろうとする積極性と市民性を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ワークショップとディスカッションによるグループワークを中心に進める。自ら学び、自ら主体的に関わり、自ら進み行きを決める「参加」があらゆる場面での大きな柱となる。毎回積極的に体験し、意見を交換し、調査し発表する姿勢が求められるため、受動的な意識態度では受講できない。映像資料も多用する。

毎回授業後は学習システムを利用してふりかえりレポートを提出することを必須とする。次の授業では、それをめぐる意見交換を行いながら先に進める。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション NGOの基礎	グループづくりワークショップ NGOについての基礎情報確認ワークショップ
第 2 回	NGO活動の基礎－支援の方法	インド山岳民族をめぐるワークショップ「ドンゴリアコンドの人々」とグループ討議
第 3 回	NGO活動の基礎－開発と近代	インド山岳民族の事例をめぐる介入と近代化についてのグループ討議
第 4 回	NGO活動の基礎－グローバルイゼーションの影響	インド・ラダック開発に関わるビデオ視聴とグループ討議
第 5 回	NGO活動の基礎－緊急支援	フィリピン緊急支援事例についてグループ討議
第 6 回	NGO活動の基礎－地域支援	フィリピン地域支援をめぐるワークショップ「24 人にインタビュー」とグループ討議
第 7 回	NGOの理論	NGOの分類枠組みについて学ぶ
第 8 回	NGOシミュレーション 1	フィリピン地方題材のドキュメンタリー視聴とグループによる支援の検討
第 9 回	NGOシミュレーション 2	グループによるフィリピン支援NGO設立を想定した計画作成
第 10 回	NGOシミュレーション 3	グループによるフィリピン支援NGO設立を想定した計画発表
第 11 回	NGO事例研究－日本のNGO 2	その他日本NGOについてグループによる事例調査と発表および講義
第 12 回	NGO事例研究－国際NGO	国際NGOとNGOネットワークについてグループによる事例調査と発表および講義
第 13 回	NGO事例研究－「途上国」NGO	「途上国」NGOについてグループによる事例調査と発表および講義
第 14 回	NGOの役割	NGOの社会的役割および社会との関わりについて講義とグループ討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回渡される課題ペーパーを読むこと。次の回の最初に、そのペーパーを巡って討論を行うこととする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの参加度および毎時間のレポートを重視する。
平常点 (発表等)40%、毎時間のレポート 40%、期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

毎時間 10 分程度のレポート作成の時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間内でインターネットを使った事例調査を行うため、ネットにつながるパソコンまたはスマートホン持参が必須となる。

【その他の重要事項】

グループワークを中心とするので、主体的学習意欲があること、積極的にコミュニケーションをとる意志があることが必須条件である。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Understanding modern issues of the world and situations of NGOs.
Thinking of roles of NGOs and our own in the civil society, and
developing the positive attitude toward the participation.

SHS300HA

科学技術社会論

詫間 直樹

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術のアウトプットは、社会に多大な正負両面の影響を与える。逆に、研究費の調達や人材の供給、研究活動の社会的承認などを巡って、社会の側から科学技術への影響も存在する。従って、科学技術と社会は相互に影響を及ぼしながらお互いを形成していくのであり、このようなプロセスを「共進化」と呼ぶ。この「共進化」のプロセスを解明し、関連する問題点を広く知らしめることが、科学技術社会論の使命の一つである。

本授業では、こうした科学技術と社会の相互作用を理解するために有用な諸概念を学ぶとともに、それらの概念を用いて具体的事例を理解する能力を養う。

【到達目標】

科学技術と社会との関わりを理解するために有用となる概念を学ぶとともに、それらを用いて具体例事例を論じる能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

科学技術社会論の様々な重要概念がコンパクトにまとめられている優れたテキストー 平川秀幸著『科学は誰のものなのか 社会の側から問い直す』（NHK 出版生活人新書、2010 年）をベースとして、重要概念と関連事例の解説を行う。

また、質疑応答を適宜行う。そのために、テキストの各章について当番を複数決めておく。当番になった者は、講師や他の学生からの質問に答えられるように準備してきてもらう。

また、毎回、授業の終了後にリアクションペーパーを提出してもらう。授業中に触れたトピックの中から一つ選んで、ごく簡単な考察をしてもらう。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	当科目の目的と背景、授業の進め方についての説明。科学技術と社会の相互作用についての簡単な説明。
第 2 回	「統治」から「ガバナンス」へ（その 1）」 （テキスト対応箇所：第 2 章序盤）	なぜ今ガバナンスなのか、科学技術ガバナンスの登場、日本の転機：1995 年、双方向なコミュニケーション、ほか。
第 3 回	「統治」から「ガバナンス」へ（その 2）」 （テキスト対応箇所：第 2 章中盤）	参加型テクノロジーアセスメント、市民が参加するコンセンサス会議、市民陪審とシナリオワークショップ、ほか。
第 4 回	「統治」から「ガバナンス」へ（その 3）」 （テキスト対応箇所：第 2 章終盤）	BSE 問題が引き起こした「信頼の危機」、理解から対話・参加へ、「アウェー」としてのサイエンスカフェ、ほか。
第 5 回	科学技術は「完全無欠」か（その 1）」 （テキスト対応箇所：第 3 章序盤）	「地震予知は困難」と認めた科学者たち、水俣病を悪化させた完璧主義、実験室の科学はまだ途半ば、知識の品質管理、「ファイナルアンサー」までのさらなる道のり、ほか。
第 6 回	科学技術は「完全無欠」か（その 2）」 （テキスト対応箇所：第 3 章中盤）	それでも残る科学の不確実性、不確実性における二つの無知（Known Unknowns と Unknown Unknowns）、科学知識の制約、理想化にともなう不確実性、ほか。
第 7 回	科学技術は「完全無欠」か（その 3）」 （テキスト対応箇所：第 3 章終盤）	誠実な科学者は白黒つけられない、理想系と現実系とのギャップ、ほか。
第 8 回	科学技術と社会のディープな関係（その 1）」 （テキスト対応箇所：第 4 章序盤）	科学技術と社会のかかわりをどう見るか、「共生」という考え方、科学技術の純潔主義、研究開発の国家総動員体制、ほか。

第 9 回	科学技術と社会のディープな関係（その2） （テキスト対応箇所：第4章中盤）	「価値中立的な科学技術」から「善い科学技術」へ、人工物に埋め込まれた政治性（アーキテクチャの権力、環境管理型権力）、ほか。
第 10 回	科学技術と社会のディープな関係（その3） （テキスト対応箇所：第4章終盤）	「緑の革命」の光と影、作動条件への不適合、技術の囲い込み症候群、利益構造の不平等、構造的問題としての市場の力、ほか。
第 11 回	科学の不確実性とどう付き合うか（その1） （テキスト対応箇所：第5章序盤）	リスク論争で問われるものは？、調べる人が変わればデータも変わる、価値基準をどこに置くか、ほか。
第 12 回	科学の不確実性とどう付き合うか（その2） （テキスト対応箇所：第5章中盤）	拳証責任が映し出す利害の対立、遺伝子組換え作物の環境影響、拳証責任の逆転、評価基準を変えた政治的・社会的理由、ほか。
第 13 回	科学の不確実性とどう付き合うか（その3） （テキスト対応箇所：第5章終盤）	事前警戒原則、欧州組換え作物規制が示唆するもの、問いのフレーミングと答えの解釈、価値中立性を再定義する、とるべきリスクと避けるべきリスク、「賭け」を「実験」に変える知恵、ほか。
第 14 回	知ることと、つながること （テキスト対応箇所：第6章）	どうやって科学技術問題に関わるのか、次の一歩が踏み出せない、「一人一人の心がけ」でよいのか、不自然な省略、知的協働のアクションチャート、信頼できる資料の見つけ方。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
・テキスト（平川秀幸著『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す』（NHK 出版生活人新書））の該当箇所を事前に読んできてもらう。
・授業時間中に理解を深めるため Q&A の時間を適宜とるが、そのために、テキストの各章について当番を複数決めておく。当番になった者には、講師や他の学生からの質問に答えられるように、特に入念に準備してきてもらう。
（本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間が標準とされている。）

【テキスト（教科書）】

平川秀幸『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す—』、NHK 出版生活人新書、2010 年。
本授業を履修する者には、教科書を購入し、毎回の授業時に持参することを義務付ける。
（紙媒体は品切れなので、電子書籍を購入されたい。）

【参考書】

必要に応じて、参考になる文献やウェブサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 40%、中間レポート 20%、期末レポート 40%。
・平常点は、毎回提出してもらうリアクション・ペーパーをもとに採点する。白紙提出は大幅な減点となるので注意すること。
・中間レポートの概要：身近にある、製作者の意図が埋め込まれている人工物の事例およびユニバーサルデザインの事例を探し、その写真を撮ってきてもらう。
・期末レポートの概要：テキストに関連する好きなトピックを選び、そのトピックに関連する文献を選んでその概要を紹介してもらった後、自説を展開してもらう。A4 用紙 5 枚程度。

【学生の意見等からの気づき】

気候変動問題に関して「一人一人の心がけ」ではダメだということを伝えていますが、十分に伝わっていないように見受けられるので、今年度はさらに強調していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

教科書は、紙媒体が品切れなので、電子書籍を購入してもらうことになる。（紙媒体を好む場合は、古本がまだ売られていれば、そちらを購入してもよい。）電子書籍を購入・使用する場合は、プラットフォームとなる端末（kindle 端末やスマートフォン、パッド、PC など）も毎回の授業に持参してもらうことになる。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Outputs of S&T (science and technology) have both positive and negative impacts on society. Conversely, society has impacts on science and technology through funding of research and so on. Thus, S&T and society influence and co-produce each other. We call such process "co-evolution."

STS (Studies on Science, Technology and Society) is engaged in the mission of elucidating this "co-evolution" process and pointing to the problems related to it.

The objective of this course is to provide students with useful concepts to understand such co-evolution process, and to cultivate students' abilities to apply these concepts to concrete examples.

SOC300HA

社会開発論

新村 恵美

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会においても日本においても、経済優先の開発の反省から「社会開発」の重要性がたびたび再確認されてきた。開発、国際協力分野における社会的側面の重要性は SDGs の随所に見られる。しかし SDGs で言及されるように、「社会開発」は「経済開発」と対立するものではなく、広い定義で捉えることができるだろう。本科目では、SDGs、世界の現状、社会開発の枠組みを学び、先進国の私たちの役割を考察する。

【到達目標】

下記の 3 点を到達目標とする。

- 1、SDGs に関連づけながら、社会開発の概念、扱うテーマについて、理論と実践の両方を往復することで基本的な知識を習得する。
- 2、途上国と先進国、当事者と支援者、というような二項対立ではなく、また自分と違う立場にある人びとを他者化することなく、「貧困」を理解することを目指す。
- 3、想像力を駆使して、社会開発が人間に変化をもたらすものであることを、実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

大きく 3 セクションに分ける。第 1 に、社会開発の概要として、様々な理論や国連・政府の枠組みから社会開発を概観する。第 2 に、社会開発で取り上げられる課題を分野別に理解し、最後に社会開発とそれによる社会変容の事例を取り上げて検討する。各回で、SDGs の関連する目標に照らし合わせ、それぞれの指標も確認する。授業計画の内容欄に、該当する SDGs の目標番号 [] で記す。

学生自身の主体的な考察を促すため、提出した課題レポートをグループワークで共有し、全体発表なども行うほか、シミュレーションゲームや簡単なワークショップなども取り入れる。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 社会開発の概要 1 定義と背景	本講義の全体像の紹介、オリエンテーションを行い、「社会開発」の概念を整理する。【SDGs 全体】
2	社会開発の概要 2 国連と SDGs	国連の SDGs の枠組み、内容と指標を概観する。【SDGs 全体】
3	社会開発の概要 3 国連と人間開発	国連の「人間開発」の概念を学び、人間開発指数 (HDI)、ジェンダー開発指数 (GDI) などの主な国際指標を理解する。【SDGs #1, 2, 3, 4 & 5】
4	社会開発の概要 4 日本政府による社会開発	社会開発を行う主体としての、国際機関、各国政府の活動について概観する。【SDGs #17】
5	社会開発の概要 5 市民、NGO	NGO の活動について、その種類・形態・財政・人材などを検討する。【SDGs #16】
6	社会開発の分野 1 途上国の貧困	バングラデシュのストリートチルドレンの「ことば」を手掛かりに貧困を想像し理解し、NGO の取り組みから社会開発の役割を検討する。【SDGs #1 & 11】
7	社会開発の分野 2 日本の貧困	日本を含めて先進国における貧困について、OECD や ILO のデータを検証し現状と要因を考察すると同時に、途上国の貧困との相対化を図る。【SDGs #1】
8	社会開発の分野 3 格差を体験する	なぜ社会開発が必要なのか。ゲームを通して格差を体験し、考察する。【SDGs #10】
9	社会開発の分野 4 フェアトレード	「不公正な」貿易は途上国において何をもたらしているのか。ファストファッションを題材に考える。【SDGs #8 & 10】

10	社会開発の分野 5 人口問題と国際協力	高齢社会においても途上国においてもそれぞれ喫緊の課題である人口問題の概観し検討する。【SDGs #3 & 5】
11	社会開発と社会変容 1 教育・識字の役割	貧困の悪循環を断ち切る一つの方法として、「識字」を足がかりに、人びとが力をつけることの意味を確認することを通して、社会開発がもたらす変化を学ぶ。【SDGs #4】
12	【グループ発表】 課題レポートの発表	課題で取り組んだ内容について、グループに別れて話し合い、発表する。
13	社会開発と社会変容 2 ネパールの債務労働者	ネパールの債務労働者の解放の事例を取り上げ、当事者による社会運動と NGO 等による社会開発の役割について考える。【SDGs #8】
14	まとめ	全体の内容のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習します（特に重要な点は、授業動画でも強調します）。
各回の配布資料にテーマに関連する参考図書や参考文献一覧を掲載するので、関心のあるテーマについて、クリティカル（批判的）な読解を試み、理解を深めます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めず、授業ごとに内容に沿って教員が作成した資料をリンクします。
授業内容が依拠する引用文献は、資料にリスト化します。

【参考書】

佐藤寛ら編（2007）『テキスト社会開発—貧困削減への新たな道筋』日本評論者
高柳彰夫・大橋正明編（2018）『SDGs を学ぶ-国際開発・国際協力入門』法律文化社
南博・稲場雅紀（2020）『SDGs-危機の時代の羅針盤』、岩波書店

【成績評価の方法と基準】

中間レポート： 30%
期末試験： 40%
毎回の授業での記述:30%

【学生の意見等からの気づき】

2016 年度より担当しています。2020 年度のオンデマンド授業では、毎回の提出物で「他の学生との考えも知りたい」という希望が複数の学生からあったため、提出された中間レポートの内容を題材に、履修生どうして互いにコメントをする機会を作りました。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is to learn the theory and practice of social development. It is structured as follows:

- 1) Students will review the definition and the history of social development, the theories influenced social development, as well as the actors of social development such as government, international agencies, NGOs, etc..
- 2) Specific issues on social development are examined according to the Sustainable Development Goals (SDGs).
- 3) Several case studies are introduces so that students can discuss on the practice of social development. Students are expected to be cooperative and active during the group discussions and presentations.

LIT200HA

日本詩歌の伝統

日原 傳

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

定型詩の実作を指導する授業である。実作に関しては「俳句」を主とするが、「短歌」「川柳」等を実作する機会も設ける予定である。

【到達目標】

- ・「俳句」の定型詩としての規則を理解する。
- ・定型詩の創作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・「切字」「取り合わせ」といった俳句に関する技法について理解し、実作に応用する。
- ・日本の詩歌の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回テーマを設けて、日本の詩歌作品を紹介し、鑑賞する。同時に参加者にはほぼ毎回俳句の実作を提出してもらう。提出してもらった作品のなかの秀作、問題作も鑑賞の対象とする。また、「色」「数字」「食べ物」といった切り口から先人の作品を鑑賞する機会も設け、実作の参考に供したい。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。
※ 2021 年度はオンデマンドで授業を行なう予定である。
※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	俳句の三要素	俳句の約束事～定型・季語・切字
第 2 回	季語の重層性	俳句のみなもと（和歌・連歌・俳諧）、俳諧の発句、季題と季語、歳時記の世界／実作（俳句）
第 3 回	切れについて	切字のはたらき、「一物仕立て」と「取り合わせ」／実作（俳句）
第 4 回	座の文学 I	松尾芭蕉の場合／実作（俳句）
第 5 回	座の文学 II	正岡子規の場合／実作（俳句）
第 6 回	子規の俳句革新	子規の生涯、子規山脈、「写生」について、吟行という作句法／実作（俳句）
第 7 回	短歌と俳句	短歌と俳句の違い／実作（短歌・俳句）
第 8 回	漢詩と俳句／俳句と川柳	漢詩の影響を受けた俳句、俳句と川柳の違い／実作（俳句・川柳）
第 9 回	子規の後継者（碧梧桐と虚子）	碧梧桐と虚子、新傾向俳句・自由律俳句、「ホトトギス」黎明期／実作（俳句）
第 10 回	虚子とその弟子たち	「ホトトギス」黄金期、4 S、秋桜子の「ホトトギス」批判、連作、新興俳句運動／実作（俳句）
第 11 回	戦後の俳句	社会性俳句・前衛俳句・伝統回帰／実作（俳句）
第 12 回	現代俳句 I	鑑賞（攝津幸彦・田中裕明など）／実作（俳句）
第 13 回	現代俳句 II	鑑賞（平成・令和に詠まれた俳句）／実作（俳句）
第 14 回	国際俳句	外国の歳時記、鑑賞（国際俳句）／実作（俳句）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義で紹介された資料を導きに自分の好きな作家をみつけ、その作品を読む。
- ・自作の俳句（毎回 2～3 句ほど）を作って提出する。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者が作成した資料を配布する。

【参考書】

小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書）
山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書）
『合本 俳句歳時記 第五版』（角川書店）
平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫）
藤田湘子『実作俳句入門』（立風書房）
片山由美子ほか『俳句教養講座』第 1～3 巻（角川学芸出版）
日原傳『365 日入門シリーズ㉞ 素十の一句』（ふらんす堂）
佐藤和夫『海を越えた俳句』（丸善ライブラリー）
Hiroaki Sato『One Hundred Frogs』（Weatherhill）

馬場あき子・黒田杏子監修『短歌・俳句同時入門』（東洋経済新報社）
岡井隆『短歌の世界』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加姿勢・提出作品）50 %
期末試験またはそれに代わる最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

提出された実作を素材として解説する時間を多くとりたい。

【関連の深いコース】

人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース、

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write haiku poems.

ART200HA

比較演劇論 I

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

演劇の各ジャンルについて基本的な教養を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

*大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

基本用語の解説もしながら、東西のさまざまな演劇ジャンルを考察するので、とても密度の濃い講義形式となります。比較考察の軸は、つねに日本の伝統芸能です。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いています。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、志望理由を簡潔に書いていただきます。それにより選抜を行う可能性もあります。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第 2 回	歌舞伎海外公演（1）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第 3 回	歌舞伎海外公演（2）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第 4 回	何もない空間	能やギリシャ悲劇を対象に、観客の想像力について考えます。
第 5 回	歌舞伎舞台の大仕掛け	回り舞台、花道、せり、など、歌舞伎舞台の仕掛けを学びます。
第 6 回	歌舞伎の音	歌舞伎の音楽、効果音、間について考えます。
第 7 回	歌舞伎のせりふ	間かせどころのせりふを例として、歌舞伎のせりふの特徴を学びます。
第 8 回	歌舞伎と能の視覚効果	歌舞伎と能について、演技の型、舞台構造、衣裳 vs. 装束、化粧 vs. 面などの観点から、対照的に考察します。
第 9 回	古今東西の劇的葛藤と情感	論理性 vs. 感性という観点から、東西の伝統演劇を考察します。
第 10 回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（1）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。
第 11 回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（2）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。
第 12 回	歌舞伎と文楽	歌舞伎と文楽の『熊谷陣屋』を比較考察します。
第 13 回	総括	春学期の学習内容の復習をします。期末試験の勉強のしかたについても説明します。
第 14 回	期末試験（記述式）と復習	13 回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライドを初めとして、配布資料・URL および関連動画については、必ず予習・復習をしてください。
日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。そのための個別の質問も歓迎します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義スライドほか、プリント教材。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ―日本人の美意識―』 TBS プリタニカ
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】 40%

参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します。）

ジャーナル（各回の講義内容について考えたことを簡潔にまとめて、学習支援システムまたは Google Classroom に提出していただきます。）

【期末試験】 60%

参照不可の記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

BT0309 教室にて実施する。

学習支援システム、Google Classroom を利用する。

【その他の重要事項】

- ・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。
- ・2011 年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。
- ・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favour or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures.

ART300HA

比較演劇論Ⅱ

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

春学期講義「比較演劇論Ⅰ」で学んだ理論的枠組みを土台に、さまざまな演劇作品・関連芸術への鑑賞眼を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演劇各ジャンル・関連芸術の代表的な作品について鑑賞・解説し、受講者の鑑賞眼を養います。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いていただきます。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明します。
第 2 回	歌舞伎海外公演（3）	平成中村座海外公演について考察します。
第 3 回	劇場とは何か	芸能の「場」と観客の想像力について考察します。
第 4 回	ギリシャ悲劇：ソフォクレス作『オイディプス王』	オイディプス王の物語とギリシャ悲劇の特色を学びます。
第 5 回	ジャンル横断的考察（1）	能と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 6 回	ジャンル横断的考察（2）	文楽と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 7 回	ジャンル横断的考察（3）	歌舞伎と落語：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 8 回	ジャンル横断的考察（4）	歌舞伎と映画：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第 9 回	翻案劇とは何か	日本におけるシェイクスピア受容を中心に、ジャンルとしての翻案劇のあり方を考察します。
第 10 回	東西の流血シーン	ヨーロッパの演劇と比較して、歌舞伎の「殺し場」の特徴を考えます。
第 11 回	歌舞伎の理想美	歌舞伎を軸として、演劇におけるリアリズムと様式表現について考えます。
第 12 回	演劇の季節感	歌舞伎の「芝居年中行事」について、代表的な作品を考察します。
第 13 回	伝統とは何か	東西の伝統演劇の比較考察をまとめます。期末試験の勉強のしかたについても説明します。
第 14 回	復習と期末試験	13 回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度・鑑賞力を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライドを初めとして、配布資料・URL および関連動画については、必ず予習・復習をしてください。

日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。オンラインでも楽しめる動画があります。講義でもご紹介します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義スライドほか、プリント教材。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ―日本人の美意識―』 TBS プリタニカ
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】 40%

参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します。）

ジャーナル（各回の講義内容について考えたことを簡潔にまとめて、学習支援システムまたは Google Classroom に提出していただきます。）

【期末試験】 60%

参照不可の記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。ただし、学習の分量は多いので、2013年度以降の「比較演劇論Ⅱ」では、春学期の「比較演劇論Ⅰ」の単位取得をしない学生は履修は認めていません。

【学生が準備すべき機器他】

BT0309 教室での授業です。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも演劇情報を提供します。
・2011 年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。
・春学期の「比較演劇論Ⅰ」の単位取得をしていない学生は履修は、一切認められません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favour or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures.

CUA200HA

環境人類学Ⅰ

高橋 五月

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅰでは、人間と自然の関係について探求してきた人類学者たちによる民族誌や理論を参照しながら、様々な文化的背景をもとに多様に存在する人間と環境の関係について学びます。また、環境人類学的アプローチを用いて身近な環境問題について議論し、文化的側面を理解することの重要性についての理解を深めます。

【到達目標】

本講義では、身近な環境問題について文化人類学的アプローチを利用しながら再考することで、人間と環境の関係についての知識とグローバルな視点を深めることに加え、クリティカルシンキングを養うことを目的にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は映像資料を随時活用しながら行います。また、講義では毎回講義内容に関連した「お題」を通して学生にクリティカルシンキングの機会を与えます。具体的には、学生は「お題」に対する自らの考えを述べるだけでなく、次回講義で紹介される回答例を通して他学生の多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明します。
第 2 回	環境人類学とは？	環境人類学とはどんな分野なのかについて紹介します。
第 3 回	文化生態学とは？	環境人類学の「父」であるジュリアン・シュチュワードの研究を紹介します。
第 4 回	民族生態学とは？	人間と環境の関係を民族学的に考察する研究を紹介します。
第 5 回	生態人類学とは？	ロイ・ラバポートによる宗教儀式と生態との関係についての研究を紹介します。
第 6 回	狩猟採集文化	狩猟や採集という文化を通して人間と環境の関係について講義します。
第 7 回	中間試験	中間試験を行います。
第 8 回	複合社会	文化的変容が人間と環境の関係に与える影響について講義します。
第 9 回	地下環境	鉱物採取（石炭、ウラン、石油、ダイヤモンド）と環境問題との接点を講義します。
第 10 回	地球温暖化	気候変動が人間と環境に与える影響について講義します。
第 11 回	人口と環境	人口の増減が人間と環境の関係に与える影響について講義します。
第 12 回	生物の多様性	生物多様性が人間と環境の関係に与える影響について講義します。
第 13 回	消費者文化	大量消費社会が生み出す環境問題について講義します。
第 14 回	期末試験	期末試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。（準備学習）詳しい授業計画を授業第 1 回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に紹介します

【参考書】

パトリシア・K. タウンゼンド著、岸上 伸啓・佐藤 吉文訳『環境人類学を学ぶ人のために』世界思想社

【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30％）、中間・期末筆記試験（70％）。

【学生の意見等からの気づき】

講義で使用するスライドをもとにした「レジュメ」を支援システムにて公開しています。ただ、これは講義の要点が書かれているだけのものですので、学生各自で授業メモをとり、自分なりのレジュメを完成させてください。映像資料も利用しながらの授業が好評だったので、今後も同様のスタイルで授業を進めたいと思います。

リアクションペーパーの回答例紹介コーナーは他学生や教員の意見を聞くことができますので楽しく、より深く考える機会になるという意見をたくさんいただいたので、今後も続けていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学Ⅰでは、資料配布、お知らせ配信、定期試験、リアクションペーパー提出は全て Hoppii（学習支援システム）と Google クラウドスループームを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

"Environmental Anthropology I" is an introductory course to learn environmental anthropology and related discussions on human-environment relations.

CUA300HA

環境人類学Ⅱ

高橋 五月

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅱでは、「サステナビリティ」をキーワードに、持続可能性とは何か、持続可能社会の実現のために過去にどのような方策が取られ、現在どのような課題が生じているのか、事例と人類学的アプローチをもとに講義し、議論します。

【到達目標】

本講義の目的は、持続可能な社会の「作り方」を教えることではありません。本講義は、様々な事例や理論をもとに、クライスミットと議論しながら、学生が自分なりに「サステナビリティ」のあり方について考え、探求するためのツールを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

関連文献と映像資料を随時活用しながら講義を行います。また、講義では毎回講義内容に関連した「お題」を通して学生にクリティカルシンキングの機会を与えます。具体的には、学生は「お題」に対する自らの考えを述べるだけでなく、次回講義で紹介される回答例を通して他学生の多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明します
第 2 回	サステナビリティとは？（1）	サステナビリティの概念の誕生とその歴史的背景について講義します
第 3 回	サステナビリティとは？（2）	持続可能な社会とは何か？ これまで実行された方策とその課題について講義します
第 4 回	コモンズ（1）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」について講義・議論します
第 5 回	コモンズ（2）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」と関連した文化人類学的議論について講義・議論します
第 6 回	持続可能な農業	農業技術発展と環境変化の関係、遺伝子組み換え作物の生態的影響について講義・議論します
第 7 回	中間試験	中間試験を行います
第 8 回	持続可能な水産業	水産資源の枯渇や海洋汚染などの問題と持続的な水産業について講義・議論します
第 9 回	生物多様性とは？	気候変動に関する文化・政治的問題、自然エネルギーにまつわる文化人類学的議論について講義・議論します
第 10 回	里山・里海	里山・里海が目指すサステナビリティの意味やあり方について講義・議論します
第 11 回	災害	災害とサステナビリティの関係について講義・議論します
第 12 回	エネルギー	エネルギー問題をもとにサステナビリティの意味やあり方について講義・議論します
第 13 回	アンソロポシオン	アンソロポシオンとは何か、地球環境にもたらした人類の影響について探求する最新の人類学的研究について講義・議論します
第 14 回	期末試験	期末試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）詳しい授業計画を授業第 1 回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。
（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配付します

【参考書】

授業中に提示します

【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30％）、中間・期末筆記試験（70％）。

【学生の意見等からの気づき】

大教室の授業なのですが、リアクションペーパーなどを活用して学生同士の意見交換ができるように工夫しています。自分の考えをまとめたり、他学生の意見を知ることを楽しんでくれた学生が多かったのは嬉しいです。今後もできるだけ意見交換ができる時間を授業中に設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学Ⅱでは、資料配布、お知らせ配信、定期試験、リアクションペーパー提出は全て Hoppii(学習支援システム) と Google クラウドスルーームを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This lecture course is designed to introduce a variety of cases that people are intended to promote sustainability, and provide opportunities for students to think critically about socio-cultural dimensions of "sustainability."

BSC200HA

サイエンスカフェⅠ

石井 利典

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境の科学を正しく理解するためには化学の基礎知識が不可欠です。今後の環境の学習に役立てられるように、高校の「化学基礎」と「化学」の復習にまず取り組みます。さらに、よりクオリティーの高い日常生活を得るために役立つ身近な化学についてもできるだけ理解を深めていきます。

【到達目標】

高等学校で履修する「化学基礎」と「化学」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を履修するときに必要とする、基礎化学理論を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

化学の基本的な理論、必要な数値計算法、知っておくべき物質の構造と性質を問題演習を中心に解説します。

2021年度の授業は、すべてオンラインでの開講になります。春学期開講後に、授業形態を変更する場合には、授業内または学習支援システムで予告します。提出された課題（確認テストなど）からいくつかのポイントを取り上げ、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	第1章 原子とは何か	原子の構造と性質、化学結合と分子間力
第2回	第2章 化学変化と量的関係	物質質量、化学反応式
第3回	第3章 酸と塩基	溶液 pH の計算、酸と塩基の反応、中和滴定
第4回	第4章 酸化と還元（1）	酸化剤と還元剤の反応、酸化還元滴定
第5回	第4章 酸化と還元（2）	COD（化学的酸素要求量）値およびDO（溶存酸素量）値の測定原理
第6回	第5章 有機化学の基礎（1）	有機化合物の命名法、異性体、有機化合物の構造と性質
第7回	第5章 有機化学の基礎（2）	炭化水素の反応、アルコールの反応、エステル・アミドの構造
第8回	第6章 身近な有機化合物（1）	脂肪酸の種類、脂肪と脂肪油
第9回	第6章 身近な有機化合物（2）	単糖類、二糖類、多糖類の構造と性質
第10回	第6章 身近な有機化合物（3）	アミノ酸、タンパク質の種類と立体構造
第11回	第6章 身近な有機化合物（4）	合成繊維、合成樹脂、合成ゴム
第12回	第7章 酵素	酵素、補酵素、補欠分子族のはたらき
第13回	第8章 核酸	DNAとRNAの構造、遺伝子発現のしくみ
第14回	期末テスト、まとめ	第1回講義～第13回講義の内容に関する筆記テスト、およびまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。毎回の授業で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。授業終了後に10分間程度で解答できる確認テストをオンラインで実施します。提出は必須ではありませんが、提出されたものについては採点し、成績評価時に加点します。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを使用します。授業で取り扱うすべてのプリント類は、学習支援システムまたは Google classroom から各自ダウンロードしてください。

【参考書】

高等学校で使用している『化学基礎』と『化学』の教科書（出版社は問わない）を入手することが望ましい。

入手先は、<http://www.textkyoukyuu.or.jp/kaiin/tokuyaku13.html>

【成績評価の方法と基準】

オンラインで実施する確認テスト（１０分間程度で解答）（２０％）、オンラインで実施する期末テスト（指定日時の時間内に６０分程度で解答）（６０％）、課題レポート（８００字程度 × ２）（２０％）の合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境科学に関連するテーマとともに、日常生活で体験する身近な科学に関するテーマもさらに多く取り扱ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよび Google classroom にアクセスできる情報機器と通信環境が必要です。

【その他の重要事項】

「自然環境科学の基礎（化学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course provides an interdisciplinary introduction to environmental science in a chemical perspective. Central theme is the interaction between life and the environment. The course is suitable for students who plan further study in this field, also suitable for students without basic knowledge of environmental chemistry .

BLS200HA

サイエンスカフェⅡ

宮川 路子

配当年次／単位：１～４年／２単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、高校の生物学の知識を基本としながら、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

【到達目標】

学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をはぐくむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。
学生がこれから生きていく上で重要な健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

細胞、血液、筋・骨格系、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。
講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第 2 回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。細胞の分化と分裂、組織。 ビデオ鑑賞
第 3 回	血液について	血液の働き 免疫について ビデオ鑑賞
第 4 回	呼吸器	呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。 呼吸器の病気。
第 5 回	循環器	循環器系の構造と働き。 心臓について。 血管について。 循環器系の病気。
第 6 回	消化器（１）	消化器を構成する器官。 口腔、食道、胃、腸 消化器系の働きと病気 ビデオ鑑賞
第 7 回	消化器（２）	肝臓の構造と機能 ビデオ鑑賞
第 8 回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能 関節の仕組みと働き 筋収縮について ビデオ鑑賞
第 9 回	泌尿器	腎臓の構造と機能 尿について ビデオ鑑賞
第 10 回	生殖	生殖の仕組み ビデオ鑑賞
第 11 回	神経	神経の仕組みと働き 中枢神経系と末梢神経系 神経伝達のメカニズム 神経の病気 ビデオ鑑賞
第 12 回	感覚・知覚	聴覚・平衡感覚 嗅覚、味覚、皮膚感覚 内臓感覚
第 13 回	感覚・知覚	視覚について ビデオ鑑賞
第 14 回	発達・まとめ・期末試験・解説	発達の成り立ち 赤ちゃんの発達 ビデオ鑑賞・まとめ・期末試験・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。
関連の話題についての知識を収集する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に授業内試験を行う（100 %）。持ち込みは不可。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果などを反映させた授業改善を行うものとする。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【その他の重要事項】

「自然環境科学の基礎（生物学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is designed to help students acquire extensive knowledge of histology, anatomy, and physiology by learning the morphology and mechanisms of the human body and applying the foundation of high school-level biology.

This course provides students with the knowledge required to comprehend the mechanisms and function of their own bodies and to enhance their health.

BAB200HA

サイエンスカフェⅢ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係、さらには人間との関わりを含めて理解する学問です。生態学の基礎をわかりやすく学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、主に日本における生き物を中心とした自然の仕組みについて、基本的な知識と俯瞰的な視点を身に付けます。

【到達目標】

以下の 3 点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①野生生物の生活と生存戦略
- ②生物の進化と適応
- ③生物多様性の意義

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

「動植物の生態」、「生物と環境との相互作用」、「進化と適応」、「動物の行動生態」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第 2 回	鳥類の生態 1	鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係、取り巻く問題
第 3 回	鳥類の生態 2	渡り鳥、日本の鳥類相、特徴的な鳥の紹介
第 4 回	植物の生存戦略	種子の散布、身近な植物、環境に対する生存戦略
第 5 回	昆虫の世界	昆虫の特徴、素数ゼミ、水生昆虫、社会性昆虫
第 6 回	日本の哺乳類	シカとカモシカ、クマとブナ、イノシシと人の関係
第 7 回	生物の進化 1	古生代までの生物進化の歴史、大絶滅と大進化
第 8 回	生物の進化 2	恐竜の誕生と絶滅、哺乳類と人間の登場、大進化はなぜ起こるか
第 9 回	自然選択と適応	適応とは、自然選択とは、適応のための様々な生存戦略
第 10 回	動物の行動生態	なわばり行動、社会行動、個体数の変動、群集生態
第 11 回	海洋と沿岸の生物 1	クジラとイルカ
第 12 回	海洋と沿岸の生物 2	海から陸への物質輸送、海鳥、サケと海洋環境、サンゴ礁
第 13 回	生物多様性	生物多様性とは、レジリエンス
第 14 回	保全生態学	生態学を保全にどう生かすか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業においては期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。さらに理解を深めたい場合は自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

「自然環境科学の基礎（生態学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this lecture, students will explore the sustainable relationship between humans and nature through learning the basic ecology such as organic evolution, wildlife and ecosystems in Japan.

PLN200HA

気候変動論Ⅰ

松本 倫明

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことがらを深く学ぶ。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。具体的には（１）気候変動科学のこれまでの経緯、（２）温室効果、太陽放射、アルベド等の気候システムの基礎、（３）温暖化予測の概要、（４）大気と海洋の循環と熱収支、（５）炭素循環、（６）簡単な温室効果モデルについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。スライドを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。またビデオ教材を用いる。この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第 2 回	地球温暖化の概要（１）	いくつかの観測結果を概観する。世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第 3 回	地球温暖化の概要（２）	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第 4 回	地球温暖化の概要（３）	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第 5 回	地球温暖化の概要（４）	将来取り得る選択肢についての議論
第 6 回	大気の構造	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第 7 回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第 8 回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第 9 回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。
第 10 回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気の窓、アルベド、温室効果など。
第 11 回	温室効果	温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線吸収と放射など。
第 12 回	放射平衡	大気が多層モデルによって温室効果の理解を深める。
第 13 回	炭素循環	二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。
第 14 回	まとめ	授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中や Hoppii を用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が 70%、ミニテストが 30%である。履修者数が多い場合には、グループによるディスカッションを行い、ディスカッションの内容を成績に反映する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students learn scientific knowledge about climate change. In the spring semester, we focus on the introduction of climate change and the basic knowledge of the climate system.

EAE200HA

気候変動論Ⅱ

松本 倫明

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見を学ぶ。

秋学期では、地球温暖化の実際と影響について深く学ぶ。さらに、地球誕生から現在までの気候変動について学び、地球温暖化の理解を深める。また、昨今の地球温暖化をめぐる動向についても学習する。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。具体には（１）気温の変化とその測定方法、（２）温室効果ガスの増加とその原因、（３）エアロゾルの影響、（４）降水・積雪への影響、（５）海洋への影響、（６）気候変動の予測と不確実性、（７）古気候学について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。最新の研究や観測の結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。

気候変動論Ⅰを履修した後にこの授業を履修することを推奨する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第 2 回	平均気温の変化（１）	温度の測定方法を紹介する。気温分布の季節変化と長期傾向を理解する。
第 3 回	平均気温の変化（２）	長期傾向を抽出するための統計処理の方法を理解する。ヒートアイランドについても補説する。
第 4 回	温室効果ガス（１）	温室効果ガス濃度分布と季節変化、長期傾向を理解する。
第 5 回	温室効果ガス（２）	排出量の推移、排出源、吸収源、海洋との交換を理解する。
第 6 回	エアロゾル	火山とエアロゾルの排出、人為的なエアロゾルの排出、アルベドと気候への影響。
第 7 回	降水量	降水量と水蒸気量の変化を世界平均と日本の場合について学ぶ。
第 8 回	雪氷	氷河の後退、北極海と南極の海水、気候への影響について学ぶ。
第 9 回	海洋・海面水位	気候システムにおける海洋の役割、海面水位変化の分布について学ぶ。
第 10 回	予測の方法	地球温暖化予測の方法について学ぶ。気候システムの概要、アンサンブル平均など。
第 11 回	予測の結果	地球温暖化予測の結果（気温、海面水位、降水量、異常気象、日本への影響など）を概観する。
第 12 回	古気候学	様々なスケールにおける気候変動を考える。小氷期、中世の温暖期、氷期、間氷期、氷河期など。
第 13 回	緩和策・適応策	地球温暖化に対する緩和策と適応策を簡単に紹介する。
第 14 回	まとめ	講義をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中や Hoppii を用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が 70%、ミニテストが 30%を予定しているが、途中で簡単なレポート課題を課すことがある。履修者数が多くない場合には、グループによるディスカッションを行い、ディスカッションの内容を成績に反映する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

ミニテストでは携帯電話やスマートフォンを用いる。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students learn scientific knowledge about global warming. In the fall semester, we lean on the detail of climate change.

DES300HA

自然環境政策論Ⅰ

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の 2 点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
- ②人間による影響を減らすために取り組まれている主な保全対策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第 2 回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第 3 回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第 4 回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第 5 回	陸水域をめぐる諸課題	河川・湖沼生態系の特性、水生生物、富栄養化と水質問題
第 6 回	島嶼をめぐる諸課題	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第 7 回	自然環境をめぐる難題：貴重種 1	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第 8 回	自然環境をめぐる難題：貴重種 2	種の保存法に関する事例、種の再導入など
第 9 回	自然環境をめぐる難題：外来種 1	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第 10 回	自然環境をめぐる難題：外来種 2	最近の動向、根絶事例、淡水における外来種問題など
第 11 回	日本の自然環境保全政策 1	ワイルドライフマネジメント
第 12 回	日本の自然環境保全政策 2	自然公園、自然環境保全地域など
第 13 回	自然の再生	自然再生とは、近自然河川工法、自然再生事業など
第 14 回	里山と生物多様性	里山の特徴と変貌、生物多様性とは、生態系サービス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業においては期末試験により評価します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this lecture, students will understand the current conditions of the natural environment and learn issues of biodiversity such as endangered species and alien species, and basic nature conservation policy in Japan.

DES300HA

自然環境政策論Ⅱ

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的・経済的な取り組みの考え方とその実際
- ②諸外国における取り組みの事例とその仕組み
- ③国際条約など国際的な枠組みによる保全

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国における特徴的な保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「経済的なアプローチ」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化など
第2回	自然との共生と軋轢	日本における動物・水と人との関わり、開発と自然保護の対立
第3回	環境影響評価 1	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第4回	環境影響評価 2	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント
第5回	法によらない保全メカニズム	生態学と環境計画、自然環境保全指針などの地域ビジョン、NPOによる取組事例、協定等の自発的手法
第6回	海外の自然環境政策に学ぶ 1	フランスの地方自然公園とエコミューゼ、ドイツのビオトープ
第7回	海外の自然環境政策に学ぶ 2	イギリスのナショナルトラスト・グラウンドワーク、日本のトラスト活動
第8回	海外の自然環境政策に学ぶ 3	欧州の農業環境政策、環境支払い
第9回	国際的な取り組み 1	ラムサール条約、世界遺産条約、生物多様性条約
第10回	国際的な取り組み 2	ワシントン条約と象牙問題の事例
第11回	国際的な取り組み 3	世界農業遺産、ジオパーク
第12回	生物多様性と経済	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、生物多様性オフセット、自然資本
第13回	エコツーリズム	エコツーリズムとは、管理型観光と自主型観光
第14回	地域資源の活用	自然の価値を高める経済的な循環事例、地域づくりに生かす試み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業においては期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this lecture, students will learn social, international and economic measures and possibilities of future new policies for nature conservation and sustainable use of the natural resources.

SOM300HA

衛生・公衆衛生学Ⅰ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術の探究である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を追及し、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座においては、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

【到達目標】

各種の健康問題の実情を学び、学生が取るべき健康行動について考えていく。たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、アルコール摂取により体に何が起るのかを知り、飲酒に関わる問題を引き起こさないためにどのような健康行動を身に着けていくべきかについて具体的にその方法を考えることができるようになる。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。

春学期はオンラインとオンデマンドの組み合わせの開講となる。具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え、予防医学の基本的概念・予防医学の基礎について
第 2 回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第 3 回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患、生活習慣病の予防について
第 4 回	ライフスタイルと生活習慣病③	生活習慣病各論
第 5 回	ライフスタイルと生活習慣病④	生活習慣病各論
第 6 回	喫煙の健康影響①	タバコの害、法的規制、社会の取り組み
第 7 回	喫煙の健康影響②	喫煙による疾病、禁煙について
第 8 回	アルコールの健康影響①	アルコールの健康被害について
第 9 回	アルコールの健康影響②	アルコール依存症について
第 10 回	少子・高齢化社会における健康問題①	少子・高齢化社会の健康問題
第 11 回	少子・高齢化社会における健康問題②	介護問題、高齢者虐待
第 12 回	児童虐待	児童虐待の現状と対策
第 13 回	感染症	性感染症・食中毒
第 14 回	まとめ・期末試験	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜学習支援システムにアップする。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートで行う（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

大人数のため、おしゃべりがうるさいことがあるが、適宜注意をして静かに講義が進められるように配慮する（対面式で行う場合）。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Public health is the science and art of preventing disease and promoting human health. The history of public health began with the prevention infectious diseases and developed into the prevention of lifestyle-related diseases, such as cardiovascular diseases, severe cardiac diseases, malignant tumors, and diabetes, and establishing the relationship between causation and one's living environment. Moreover, the science of public health has extended into the epidemiology of health, and studies to establish the policies that encourage health maintenance and improvement.

SOM300HA

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその 3 本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。

【到達目標】

本講座では、学生は疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、さらには対策を講じていく過程を学習する。これにより、学生は日々の生活の中で触れる健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。さらに、日本の医療の現状について学び、患者としての適切な受療行動を考える。また、生命倫理の諸問題について取り上げ、いかに生き、いかに死ぬかについて考えていく。特に終末期医療についての知識を身につけることによって、将来、家族や自分が終末期を迎えたときにどのような医療を受け、いかに死を迎えるかを話し合い、決定する機会を持ち、実施することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について、特に近年社会において注目されている各種保健の問題点について学習する。授業は講義形式で行う。

さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。実際にスクリーニングプログラムの評価法を学び、健康診断の意味を考える。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	衛生・公衆衛生学概論	衛生・公衆衛生学Ⅱで学ぶ内容を紹介し、学ぶ意義について考える。
第 2 回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第 3 回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第 4 回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える。 計算問題
第 5 回	水俣病について	ビデオ鑑賞・感想文提出
第 6 回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第 7 回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第 8 回	環境保健	環境と健康
第 9 回	社会保障	日本の医療制度について
第 10 回	生命倫理①	医の倫理 医療崩壊 患者と医師の権利と義務
第 11 回	生命倫理②	安楽死・尊厳死 医療訴訟
第 12 回	生命倫理③	遺伝子関連問題 遺伝病、色覚異常
第 13 回	生命倫理④	終末期について 映画鑑賞（死について考える） 感想文提出
第 14 回	授業内試験	試験を実施し、その後講義全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業後に復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

【参考書】

必要な場合には開講時に指定する

【成績評価の方法と基準】

レポート（90％）。

映画の感想文の提出を平常点として評価する（10％）。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の講義のため、騒がしいことがあったが、適宜注意を促して静かな環境で講義を進められるように努力する（対面の場合）。

【学生が準備すべき機器他】

双方向性の講義を試験的に実施するために、SNS が利用可能な PC、タブレット、スマートフォンなどを利用予定である。

【その他の重要事項】

衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが望ましい。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The aim of public health is health promotion and disease prevention by fully developing the physical and mental abilities of people to protect them from diseases. This is sociology developed from medicine. Health, medical care, and welfare are the three pillars of public health. Practical activities of public health require continuous education and organizational community efforts. In this lecture, we offer students the opportunity to learn important knowledge on public health to live a healthy life.

SOM300HA

衛生・公衆衛生学Ⅲ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。現在、我が国においては、年間の自殺者数が 1998 年から 14 年間連続して 3 万人を超えていた。現在減少傾向であり、2019 年には 2 万人を切ったが、いまだ若者の自殺は横ばい傾向となっており、対策が求められている。また、精神的な問題を抱える人の数は大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。

本講座では、とくに精神関連の話題を取り上げ、メンタルヘルスについての幅広い知識を身につけていくことを目的としている。

【到達目標】

精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようにする。ものの考え方を変えることによって、精神を健康に保つ方法を身につける。栄養療法によって精神疾患を防ぎ、改善する知識を身につける。精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除くことも目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインとオンデマンドの組み合わせの講義となる。具体的な講義の方法などは、学習支援システムで提示する。

必要な資料は学習支援システムにアップする。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第 2 回	精神保健 メンタルヘルスケア①	生涯にわたる精神保健の必要性について 精神保健福祉とその対策 自殺について
第 3 回	メンタルヘルスケア②	産業保健におけるメンタルヘルスケア 過重労働、過労自殺、過労死
第 4 回	メンタルヘルスケア③	ストレスについて 快適職場について
第 5 回	精神障害①	睡眠障害 よい睡眠をとるために大切なこと
第 6 回	精神障害②	気分障害について うつ病、双極性障害
第 7 回	精神障害③	新型うつ病について
第 8 回	精神障害④	摂食障害について
第 9 回	精神障害⑤	不安障害
第 10 回	精神障害⑥	統合失調症
第 11 回	精神障害⑦	発達障害
第 12 回	精神障害の栄養療法①	精神障害に対する栄養療法の実際について（有効な疾患）
第 13 回	精神障害の栄養療法②	精神障害に対する栄養療法の実際について（サプリメント）
第 14 回	授業内試験	試験を実施し、その後講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業後に復習を行う。新聞をよく読む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こころの「超」整理法 宮川路子 中央経済社 2012 年
参考資料を適宜配布する。

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートで行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義のため、騒がしいことがあるが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。

【学生が準備すべき機器他】

双方向性の講義を試験的に実施するために、SNS が利用可能な PC、タブレット、スマートフォンなどを利用予定である。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In Japan, the number of suicide in the year had been over 30,000 for 14 consecutive years since 1998. Although it is currently on a downward trend, many people still lose their lives by suicide. In addition, it is said that the number of people who have mental problems has increased greatly. However, it is regarded as a problem that these people are not appropriately treated by psychiatry medicine.

The purpose of this lecture is to acquire a wide range of knowledge about mental health. Students can aware of their own or their family's mental disorders in the early stage. Students also learn how to be mentally stable by changing the way of thinking and also support it by nutrition therapy.

GEO200HA

自然災害論

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害をもたらす自然現象をなくすことはできない。リスクに配慮した防災力の高い持続可能な地域社会の構築に向け、多角的なアプローチが求められる。「いつ」「どこで」「何が」起こり得てその地がどうなるのか。人間社会は「その時」にどう備えるか。事例やメカニズム、リスクを検証し、災害の自然的・社会的背景をさぐる。

【到達目標】

自然災害リスクを決定づける要因を説明できる。
災害の実例を挙げ、その特徴を自然・社会の両面から具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。前半は主に自然界のもたらすハザードを扱い、後半はそれを踏まえて人間社会のあり方を見つめなおす。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自然災害と防災	自然災害とは、自然災害リスク、防災とは
第 2 回	土地条件評価	地形、表層地盤、土地条件に関する情報
第 3 回	地震発生予測	地震とは、地震の起こる場所、地震発生繰り返しモデル、長期評価
第 4 回	地震災害の諸相（1）	地殻変動、地震動、液状化
第 5 回	地震災害の諸相（2）	地震火災、津波、津波火災
第 6 回	火山災害の諸相	活火山の分布、火山噴火とは、火砕流、山体崩壊、溶岩流、噴石、火山灰
第 7 回	気象災害の諸相	降水量とその季節性・地域性、豪雨と積乱雲、台風、高潮、大雪
第 8 回	土砂災害の諸相	斜面崩壊（表層崩壊・深層崩壊）、地すべり、土石流
第 9 回	土地利用と社会基盤（1）	災害危険区域、津波災害警戒区域、防潮堤、かさ上げ、高台移転
第 10 回	土地利用と社会基盤（2）	耐震基準と耐震等級、活断層の直上とその近傍
第 11 回	防災気象情報	災害種と予測可能性、伝達手段、特別警報、気象警報・注意報、緊急地震速報、津波警報・注意報、噴火警報・注意報
第 12 回	避難	避難情報、避難場所、避難所
第 13 回	災害の歴史・災害経験の継承	記録と記憶、災害史、碑、震災遺構
第 14 回	ハザードマップと防災教育	ハザードマップとは、想定、災害図上訓練（DIG）、津波と避難、学校、地域

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
自然災害と防災に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）・期末レポート（60％）。平常点はリアクションペーパーによって評価する。期末レポートは、（1）自然災害リスクを決定づける要因を説明できるか、（2）災害の実例を挙げ、その特徴を自然・社会の両面から具体的に記述できるか、を問う。

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Natural phenomena that cause disasters have occurred repeatedly, and will also occur in the future. We have to improve our approaches in all aspects for building resilient and sustainable societies. We examine sciences of natural disasters caused by earthquakes, tsunamis, volcanic eruption, heavy rain, and slope failures, and then discuss land use, social infrastructures, use of disaster information, evacuation, hazard map, and education, for reducing natural-disaster damages.

DES300HA

自然環境論Ⅳ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間活動との持続的な調和を探究するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、地理的視点と生態系の違いの視点から、地球上の自然環境全体について理解を深めるとともに、人間活動による影響とツーリズムなどを通じた共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考察することを目的とします。

【到達目標】

以下の 4 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①生物地理とバイオーム（生物群の違い）の理解
- ②世界の各地域ごとの生物と生態系の特徴と、取り巻く問題
- ③森林・湿地・海洋・都市における自然と人との共生
- ④生物や自然を対象としたツーリズムとその課題

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「生物地理とバイオーム」、「世界の各地域における生物多様性」、「森林・湿地・海洋・都市における人と自然の共生」、「自然を対象としたツーリズムの可能性」などについて学びます。最近の話題やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づく生物多様性保全のあり方を考える能力を高めていきます。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点でみる自然、生物地理とバイオーム
第 2 回	北米の自然	北米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 3 回	中南米の自然	中南米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 4 回	オセアニアの自然	オセアニアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 5 回	アジアの自然	アジアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 6 回	ロシアとヨーロッパの自然	ロシア・ヨーロッパの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 7 回	アフリカの自然	アフリカの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 8 回	極地の自然	極地の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 9 回	大洋の島々の自然	主に海洋島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 10 回	森林における人と自然との共生	熱帯林の管理と利用を取り巻く現状と諸課題
第 11 回	湿地における人と自然との共生	湿地の管理と利用を取り巻く現状と諸課題
第 12 回	海洋における人と自然との共生	海洋生物と人間との関わりを取り巻く現状と諸課題
第 13 回	都市における人と自然との共生	都市の自然と人間との関わりを取り巻く現状と諸課題
第 14 回	まとめ	生物や自然を対象としたツーリズムの可能性と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を持ちよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業においては期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

基礎的な知識や理解としてサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to understand the wildlife and ecosystems on the earth from the viewpoint of geography and biome, and to learn about the impact to nature by human activities and the harmonization between human and nature in future.

CAR200HA

キャリア入門

長峰 登記夫

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Almost all the students will start working after graduation. For that, the students will discuss and learn what the job career is, how they will make it and why they should learn it.

【到達目標】

This class aims to give students an opportunity to study in English what the job career is, why they should learn it, and how it should be made. By so doing, students will become able to consider about their own careers and understand issues regarding career making so that they can better make their own careers in the future.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

This class will be run in English and basically in the form of lecture. However, if the number of students is not large, discussion will be an essential part of the class. The lecture will take up various topics in regard to career making. Students are supposed to read materials in advance, prepare to ask questions and answer the questions asked by the lecturer. Also, students will be required to make presentations in class. The lecture will deal with issues mainly in Japan and partly English speaking countries focusing on career making in the global stage. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Intorduction to career studies	What career studies are will be discussed.
week 2	Why career studies?	It will be discussed why we should study job careers.
week 3	English words and expressions for career studies	Before the start of career studies, students will check English words and expressions needed for career studies. This will be continued for 10 to 15 minutes in the subsequent three sessions.
week 4	Japanese employment practices (1)	The basic features of Japanese employment practices will be discussed. This will be particularly important for students who will try to find a job in Japan or at a Japanese company overseas.
week 5	Japanese employment practices (2)	The lecture will give an overview of how Japanese students find a job.
week 6	International students at Hosei	Students will look at international students studying at Hosei and Hosei students studying overseas and think why they are studying overseas.
week 7	How to make a job career (1)	Students will briefly learn how people make a job career in Japan and in the overseas students' home countries.
week 8	How to make a job career (2)	Students will briefly learn how people make a job career in the global stage.
week 9	Career changes	Students will think about career changes they may face and experience in life.
week 10	Women's career and its international comparison	Women's career is different from men's and the difference varies from country to country. Students will learn why it is so.

week 11	What will be my career? (1)	Presentation by students about their own career in the future.
week 12	What will be my career? (2)	Continued from the previous week.
week 13	Employment situation in the global business area in Japan	Employment situation in the global business area will be discussed. Or if available, a guest speaker may be invited and talk his/her job experience.
week 14	Final examination or essay and comments.	Final examination or essay and comments on it.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are supposed to read provided materials carefully in advance and make clear what they cannot understand and should be ready to ask questions about them, answer questions asked by the lecturer or make comments on the lecturer's talk. They are also supposed to review what they learned in each class. The usually expected time for the preparation and review of the study in class is two hours each.

【テキスト（教科書）】

Reading materials are provided from time to time prior to the lectures. This class does not use a particular textbook.

【参考書】

References will be presented at the beginning of the class.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will be made by short exams (20%), a final exam or an essay (70%) and participation in the discussion in class (10%). Students will frequently have a short exam in class. Also, the final exam will be conducted in the final session or students instead may be required to submit an essay of around 3,000 words. It will be decided in the class in consideration of some factors such as the number of students.

【学生の意見等からの気づき】

The lecturer, if conditions allow, will try to invite one or two guest speakers because students are interested in listening to talk by people who have various job experiences including work experiences overseas or work experiences in English in Japan.

【学生が準備すべき機器他】

Nothing.

【その他の重要事項】

Japanese students have been learning English for many years. This class will offer a challenging opportunity to learn job careers in English, not to learn the English language itself. Those who intend to take this subject must attend the first class and follow the instructions from the lecturer. Students also must bring their results of English language proficiency tests such as TOEFL, TOEIC, Eigo-kentei Shiken or other similar tests. If the number of students who intend to take this subject is more than 15 at the first class, priority will be given to the students of the Faculty of Sustainability Studies and some sort of selection will be made for students from the other Faculties and courses.

【関連の深いコース】

関連の深いコースは「サステナブル経済・経営コース」と「ローカル・サステナビリティコース」です。コースについては履修の手引き「7.1 コース概要」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Almost all the students will start working after graduation. For that, the students will discuss and learn what the job career is, how they will make it and why they should learn it.

ASS300HA

食と農の環境学 I

西川 邦夫

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生が現代日本の農業及び農業政策について、農業経済学・農政学の立場から理解することを目的とする。理論・実態・国際比較の視点から、多面的に日本農業・農政を理解することを試みる。経済発展段階が先進国段階に到達するとともに、メガ FTA の締結等による貿易自由化が進む中で、農業という産業が国民・地域経済にどのような意義を持つのか、学生は学修する。

【到達目標】

学生が、①農業経済学・農政学の基本的な知識を身につけるとともに、②日本農業が抱える問題点、今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持ち、③論理的に表現することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

後日公表する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ：現代日本の農業問題	先進国段階に到達するとともに、貿易自由化が進む中で、日本農業が直面している問題と取るべき政策について理論的に解説する。
第 2 回	国際農産物貿易交渉の展開過程	1980 年代の GATT ウルグアイ・ラウンドから近年の FTA に至る過程を、世界経済構造の転換に注目しながら解説する。
第 3 回	TPP・日米貿易協定と日本農業	日本も参加した TPP 及び日米貿易協定の交渉過程において、国内・国際的にどのような政治経済的特質が見られたのか検証する。
第 4 回	アメリカ農業の歴史と現状	日本にとって政治的・経済的につながりが強いアメリカの農業について、歴史と現状を多面的に概説する。
第 5 回	アメリカとカリフォルニアの稲作	日本の稲作にとって潜在的な競争相手であるカリフォルニア州の稲作の実態と課題について、水問題への対応に注意を払いながら検討する。
第 6 回	国際農産物市場の現局面と日本の食料安全保障	国際農産物市場の現局面と、日本の農産物貿易の状況を、食料安全保障に注意を払って解説する。
第 7 回	日本経済の構造転換と食料消費	日本経済の構造転換の影響を受けた家計と食料消費の関係を、主食であるコメを中心に考察する。
第 8 回	日本農業の構造変動と多様な担い手	農業構造変動の到達点と新たに形成されつつある農業の担い手について、地域的な多様性や農地政策改革に注目して検討する。
第 9 回	農業労働力の脆弱化と確保のための課題	農業労働力の高齢化・引退と、新規参入者等による確保の動きについて解説する。
第 10 回	農業者に対する支援システム	農業者を支援してきた農業協同組合と協同農業普及事業について、実態と課題を他の先進国の事例とも比較しながら解説する。
第 11 回	農業の多面的機能と生態系サービス	農業が発揮する経済的機能以外の様々な機能やサービスを、環境経済学の理論的フレームワークや実例を用いて解説する。
第 12 回	条件不利地域農業と農山村政策	農業の多面的機能を多く担いながらも、衰退と再生の動きが交錯するのが日本の農山村である。農山村再生のために求められる政策について検討する。

第 13 回	食品安全問題の理論と政策	消費者の食への安心・安全意識への高まりと対応する政策の枠組みを、流行している家畜疾病にも注意を払いながら解説する。
第 14 回	エビローグ：現代日本の農業政策	これまでの講義の内容を総括するとともに、求められる政策について展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。学生は、授業の前に学習支援システムにアップされる講義資料を予め読んでおく、また授業後に見返しておく。また、授業中に紹介される参考書を読むことも推奨される。興味関心を養うために、学生は新聞で農業関係の記事があったら読んでおくことも望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。資料を事前に学習支援システムにアップするので、各自プリントアウト等をして授業に臨むこと。授業内では配布しない。

【参考書】

- ①田代洋一『農業・食料問題』、大月書店、2012 年（本体 2,600 円＋税）。
- ②速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』、岩波書店、2002 年（4,200 円＋税）。
- ③山崎亮一『農業経済学講義』、日本経済評論社、2016 年（本体 2,800 円＋税）。
- ④農林水産省『食料・農業・農村白書』（各年版）（www.maff.go.jp/j/wpaper/）。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100 %（レポートの内容は授業内で指示する）。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを適宜導入、学生との双方向の授業を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料を授業の前に学習支援システムにアップするので、定期的にチェックをすること。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科日は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This class aims that students become to understand the agriculture and agricultural policy of the contemporary Japan which has arrived at the stage of developed countries from the perspectives of agricultural economics and agricultural politics. This class tries to understand various aspects of the agriculture and agricultural policy in terms of theory, history, current status and international comparison. Students can finally understand significances agriculture have as an industry under the stage of developed country and the progress of trade liberalization caused by mega FTAs.

ASS300HA

食と農の環境学Ⅱ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の経済を支える「地域資源」とその利用システム、地域資源を利用管理する基礎集団としてのイエやムラについて、近世から現代までの歴史をふまえて理解することを目的とします。

【到達目標】

「食」と「農」の議論の前提となる農村社会の歴史と現状を理解し、循環型社会のシステムや、持続可能な社会のあり方、豊かなコミュニティの形成などについて考える基礎知識を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

映像資料や受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	地域資源から考えるローカリズムとグローバリズム
第 2 回	「社会的共通資本」としての地域資源	豊かな社会、持続可能な社会を考えるための基礎的視点を得る
第 3 回	伝統的環境観と地域資源利用システム	自然環境と社会環境、「環境観」をめぐる時代の変化について考える
第 4 回	近世農業の確立と農村社会の形成	ムラの誕生と百姓の時代、農業技術と地域資源利用の関係について考える
第 5 回	ムラの構造と論理	共同と共有の論理、ソーシャルキャピタル論について考える
第 6 回	イエの構造と論理	伝統家族と近代家族、家族経営における女性、子ども、高齢者の役割について考える
第 7 回	日本社会の地域的多様性	環境、文化、社会から地域の多様性を示し、「地域づくり」を考え実践するための知識を共有する
第 8 回	農村と都市の歴史的変遷と現代社会	現代社会形成の背景となる農村と都市の関係について考える
第 9 回	家族・地域・産業の関係と展開についての史的分析	第一次、第二次、第三次産業の歴史的変遷とその影響を考える
第 10 回	戦後改革と農山漁村の変化	農地改革、農業基本法の影響、食と農の戦後史について考える
第 11 回	高度経済成長期と農山漁村の変化	岐路に立つ日本の農山漁村、ニュータウンの形成、人間と環境の関係変化について考える
第 12 回	国土開発と地域構造	「地域」が個性を失っていく背景としての国土開発の歴史を論じ、地域の個性について考える
第 13 回	暮らしの再編と新たなコミュニティ	近年の暮らしと地域の再編について考える
第 14 回	ローカリズムとグローバリズム	「グローバル」という視点の可能性について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。「食」や「農」に関わる新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義で配布する資料を用います。

【参考書】

- ・湯澤規子『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』古今書院、2009 年
- ・湯澤規子「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016 年、57-72 頁
- ・湯澤規子「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2018 年、104-113 頁

・湯澤規子『胃袋の近代―食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018 年
・湯澤規子『7 袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019 年
その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %、期末試験（用語説明 30 %、論述 30 %程度）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
食と農に関する身近な話題を入口にして、農村社会を考えるいくつかの基本的な理論を紹介します。やや難しい理論も分かりやすく伝えるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【関連の深いコース】
履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】
Regarding the "local resources" that support the local economy, its utilization system, and Ie and Mura as a basic group that uses and manages local resources, consider the history from early-modern period to today.

ASS300HA

食と農の環境学Ⅲ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「食」と「農」からみた社会と経済の歴史を論じ、現代社会と未来を考える視座を得ることを目的とします。

【到達目標】
フィールドワークにもとづいた地域経済学の研究を中軸に据え、地理学、歴史学、人類学、社会学、民俗学などの知見と成果を加えた、多面的かつ複眼的な視点から、食と農の問題を考えることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者からのリアクションペーパーを活用し、可能な限り、対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション―1 番身近な SDGs	地球と人類の課題として「幸せ」と「豊かさ」を実現する社会について考える
第 2 回	食と農の現代的課題―アフリカとインドと日本の現場から	身近な現代的課題から食と農と SDGs について考えるきっかけを得る
第 3 回	環境を考える「環」の視点―私たちは何者なのか	食べるという行為をみつめると、どのような社会の様相が見えてくるのかを考える
第 4 回	近世日本の食と農と環境―下肥の世界	近世日本の人びと、食と農と環境の関係について考える
第 5 回	近代日本における循環構造の再編―都市化と疫病と衛生観	都市化と疫病と衛生観について考える
第 6 回	戦後日本の環境行政―清掃事業をめぐって	戦後日本の食と農と環境の関係史を清掃事業から考える
第 7 回	現代日本の食と農と環境―「環」の世界は今	現代日本の現状を再考する
第 8 回	講義前半についてのオープンダイアローグ	リアルタイムの双方向講義として、簡単なワークショップを実施する予定
第 9 回	食べものはどこから来たのか―「種子」から考える	現代の食と農について考える
第 10 回	食べものとは何か（1）―胃袋と社会	地域社会事業と食と農の関係について考える
第 11 回	食べものとは何か（2）―土と農業	山形県山形市の米農家の戦後史を事例に、戦後農政と農村について考える
第 12 回	食べものはどこへ行くのか（1）―食の再考	食べもの、食べること関わる現代社会の状況を把握する
第 13 回	食べものはどこへ行くのか（2）―食の可能性	食と農と環境の今後の展望を考える
第 14 回	私たちはどこへ行くのか	講義内容を総括し、今後の課題を議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義内容に関連する新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち考察を深めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 30 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義で配布する資料を用います。

【参考書】
・湯澤規子『胃袋の近代―食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018 年
・湯澤規子『7 袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019 年
その他、随時紹介します。
・湯澤規子『ウンコはどこから来てどこへ行くのか―人糞地理学とはじめ』ちくま新書、2020 年
・佐藤大介『13 億人のトイレ―下から見た経済大国インド』角川新書、2020 年

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（50 %）、期末レポート（50 %）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な史料を用いた講義が好評でしたので、引き続き活用したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will discuss the history of society and economy from the viewpoint of "food" and "agriculture", it aims to obtain a perspective to think about modern society and the future.

CAR100MA

労働法

基幹科目

砂押 以久子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・4 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、雇用をめぐるさまざまな問題を法制度の観点から考察し、社会で働く上で必要な知識を習得することを目的とします。

【到達目標】

現在、雇用をめぐる問題が山積しています。中でも、長時間労働に関しては、長時間働くことで健康を害するばかりでなく、人としてのプライベートライフをもちにくくさせたり、家庭等の事情で長時間労働を行うことができない一定の労働者をキャリアシステムから排除してしまうなど、さまざまな問題が引き起こしています。近年、過労によるうつ病自殺の事件が大きく報道されるに至り、長時間労働が社会的問題として広く認識されるようになりました。このような状況下において「働き方改革」が推し進められています。

また、非正規雇用の問題も近時意識されている問題です。非正規従業員のデメリットは、単に賃金が安いというだけにとどまらず、仕事を通してスキルアップするという重要な機会を逸することでもあります。スキルアップはキャリアアップの前提となるので、この状況が経済的格差をより一層助長しているといえます。このような非正規従業員の問題は看過しえない問題といえます。現在、非正規雇用の問題に関しては、さまざまな法規制がなされています。

この授業では、労働法が労働者保護の観点からどのような制度を用意しているのかについて学びつつ、上記のような雇用をめぐる問題がいかに解決が図られるべきか検討し、今後のわが国の雇用のあり方を考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態としては、講義形式を用います。授業の具体的内容については、授業計画に示します。

テーマによっては、授業内にリアクションペーパーの提出を求めます。提出してもらったリアクションペーパーに関しては、次回の授業において可能な限りすべて取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらに議論を深めることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	労働法とは何か	雇用に関する大まかなルールを示します。働く上での疑問点について考えてもらいます。
2	労働法はどのように労働者を保護しているのか	働く上での疑問点について、労働法がどのような制度を用意しているのかについて示します。
3	労働法が誕生した経緯と現代に残された問題	戦前の雇用における弊害はいかなるものであったか、戦後労働者はどのように保護されるようになったか、現在においても同様の問題は本当に生じていないのか検討します。
4	労働契約の成立	採用内定取消しなどの問題を取り上げ、採用内定等の法的性質を学びます。
5	賃金・労働時間法制（1）	賃金保障がどのように図られているか学びます。労働規制に関して具体的な問題を検討します。
6	労働時間法制（2）	長時間労働によりどのような問題が生ずるかについて学びます。
7	労働時間法制（3）	長時間労働はどうしたら改善できるかについて考えます。
8	労働時間法制（4）	残業代が支払わない人々について考えます。
9	ワーキングライフとプライベートライフ	仕事と生活の調和を図るため、どのような制度が設計されているのかについて学びます。
10	男女平等	男女差別のない職場とはどのようにしたら構築されるのかについて検討します。
11	懲戒制度	会社の秩序を乱した場合の制裁措置について学びます。
12	正規雇用と非正規雇用	いわゆる正社員と有期雇用契約の違い及びその問題について検討します。
13	セーフティーネット	わが国のセーフティーネットの在り方と問題について検討します。
14	まとめ	授業の内容が理解できたかについて確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを現実の問題として受け止め、雇用社会はいかにあるべきか常に考えることを心掛けてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅倉むつ子・島田陽一・盛誠吾『労働法〔第6版〕』有斐閣アルマ

【参考書】

菅野和夫『労働法〔第12版〕』弘文堂
別冊ジュリスト『労働判例百選〔第9版〕』有斐閣
『労働法の争点』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を実施します。
平常点（授業内発言・リアクション・ペーパーなど30％）と試験の点数（70％）によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を用いるとともに、内容をより理解しやすいようにプリント等の資料を配布するなどして、授業を進めていきます。あまりテーマが多岐にわたりにすぎないよう、中心的テーマに絞り授業を展開したいと考えています。取り上げるテーマに関しては、具体的に生じている問題を指摘したうえで、法的に何が問題となっているか、どのように解決が図られるべきかについて検討します。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じ DVD・ビデオ教材を用います。

【その他の重要事項】

授業の進行状況により取り上げるテーマの順序が多少前後したり、その時々
の雇用情勢により取り上げるテーマが変更になる場合があることを予め了承
いただきたいと思います。

【Outline and objectives】

The objectives of this class is to focus on getting the fundamental and useful legal knowledges - especially labor law related matters - in real business world.

BSP100MA

ファシリテーション論

基幹科目

鈴木 まり子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・6 | 配当年次：1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が何か目的をもって集ったとき、お互いの違いを厄介な問題としてではなく、新たな創造のための豊かさとして活かすには、皆が安心して参加できる場づくりが必要です。人は自ら関わっていく中で、他人事だった課題も自分事となり、主体性を発揮し始めます。この授業では、様々な課題が山積みの現代において、会議やワークショップや組織変革の現場で、対話を育み共創や協働を促進する参加型の場づくりのためのコミュニケーション技法「ファシリテーション」を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、会議、話し合いなど参加型の場におけるファシリテーションに対する知識と手法を身につけることを目的とします。ファシリテーションの定義や効果が理解でき、会議、ワークショップ、話し合いを有意義に進めることができる対話や議論のスキルを身につけることができます。また、話し合いのファシリテーションにとどまらず、社会的課題の解決に向けた事業や組織の支援・促進において、どのような知恵と技術が必要となるのか事例を通して理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

リアルタイムでのオンラインでの開講となる。指定した教科書に従って、講義と演習を組み合わせる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。リアクションペーパー等における気づきや問いかけは授業内で共有し、お互いから学べるプロセスをつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オンラインでの参加型 授業の進め方	オリエンテーション（授業の進め方）【講義】オンラインで参加型の場が求められる背景。ファシリテーションとは。 【演習】チェックイン
2	「ともに社会をつくる 関係」を育むソーシャル・ファシリテーションとは	【講義】ソーシャル・ファシリテーションについて。 【演習】ファシリテートされた体験を振り返る
3	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をつくる」空間のデザイン：「しつらえ」を意識し、工夫する	【講義】空間のデザイン：フォーメーション、グループサイズ 【演習】多様な場づくりから学ぶ
4	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をつくる」オリエンテーション、チェックイン	【講義】オリエンテーション：話し合いを方向づける 【演習】事例をもとに、オリエンテーションを考える

5	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」発問	【講義】 発問：「答え」ではなく「問い」を考える 【演習】 考えを深める/広める「問いかけ」をし合う
6	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」可視化	【講義】 可視化：書きながら、見ながら話し合う 何をどう可視化するのか 【演習】 議論を可視化する
7	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」意見の吟味を促す	【講義】 意見の吟味：合意形成に向けての基本的な働きかけ 【演習】 グループでの合意形成を体験
8	話し合いのファシリテーション：オンライン・ファシリテーション	【講義】 オンラインならではの特徴を理解したうえでのスキルとは 【演習】 オンライン・ファシリテーター体験
9	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン① プログラムデザインの手法を学ぶ	【講義】 プログラムデザインとは 【演習】 プログラムデザインを考えるワーク①
10	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン② ワークショップを企画する	【演習】 プログラムデザインを考えるワーク② グループに分かれてワークショップのテーマを話し合う
11	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン③ ワークショップを開催する	【演習】 プログラムデザインを考えるワーク③ グループで考えたワークショップを実践する
12	ソーシャル・ファシリテーションに必要な働きかけ	【講義】 ソーシャル・ファシリテーションに必要な「話し合いのファシリテーション」以外の働きかけとは
13	キャリア・デザインとファシリテーション：実践事例から学ぶ	【講演と質疑応答】 ソーシャル・ファシリテーターからリアルに実践事例を学ぶ
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今、現在、身近にある話し合い（サークル、ゼミなど）や参加したワークショップは、どのような場になっているか意識してきてください（楽しい、有意義、つまらないなど）また、授業で学んだファシリテーションのスキルと考え方を実践し、その気づきや疑問を次の授業に持ってきてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ソーシャル・ファシリテーション「ともに社会をつくる関係」を育む技法
共著：徳田太郎、鈴木まり子
北樹出版
2021 年
1600 円（消費税別）

【参考書】

「ファシリテーション～実践から学ぶスキルとこころ」 共著鈴木まり子他 岩波書店
「深い学びを促進する：ファシリテーションを学校に！」 青木将幸 ほんの森出版、2018 年
「はじめてのファシリテーション」 鈴木康久他、昭和堂、2019 年
「オンライン会議の教科書：意思決定のスピードをあげるファシリテーション・スキル」 朝日新聞出版、2020 年

【成績評価の方法と基準】

演習への参加度・振り返りシート・レポート・期末試験によって総合的に評価します。前者は、態度だけではなく、振り返りシートに意見・感想を記入してもらい、これも評価対象とします。

演習への参加度 30 %、振り返りシート 10 %、レポート 20 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

実際にゼミやサークル活動、就職活動などでのファシリテーションの実践から生まれた疑問にもテキストと照らし合わせながら解決策を探る時間も確保する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイムのオンライン事業を予定しているので、通信環境が良いことが望ましい。また、グループでの話し合いが多いため、講義以外はカメラ on、マイク on を求めるため、PC の場合もカメラ（外付けウェブカメラなど）機能が必要である。

【その他の重要事項】

◎演習を中心にした授業です。オンラインでリアルタイムに開催します。

◎鈴木まり子ファシリテーター事務所代表。企業・自治体・NPO 等において、会議、ワークショップ等のファシリテーターの実務経験あり。それに関連して、多様な分野の事例をもとに、ファシリテーションに対して具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline and objectives】

Today, where various issues are piled up, when people gather for the purpose of solving the problem, we need to consider place-making where everyone can participate safely and comfortably in order to respect the differences between each other and make use of it as the wealth for new idea and creation.as people are involved in themselves, the issues that are other people's affairs become their own things, and people start to demonstrate their initiative.in this course, we will learn the "facilitation," as communication skills and mind for creating participatory place-making which can encourage dialogue and promote collaboration at conferences, workshops and organizational development process.

BSP100MA

若者の自立支援

基幹科目

大山 宏

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子ども・若者の貧困への注目や、若者の就労支援の社会的課題としての位置づけ等、近年は若者支援に対する社会的関心が高まっている。その背景には現代日本の社会構造により引き起こされる若者の困難状況があり、そうした状況下にある若者がどのように社会と関わっていくことを想定するかが問われている。しかし一方で、自立した若者のあるべき姿については、個人の努力で達成すべきものとみなされがちでもあるが、若者支援の実践では若者に対しては経済的な観点のみにとどまらない、包括的な支援が求められているといえる。この講座では、若者が陥っている困難状況について具体的な事例等を用いながら知り、若者が社会とどのように関わっていくべきかを考えることを通し、若者に対してどのような支援が必要なのか検討する。

【到達目標】

1. 若者の社会的な困難状況の実態と、その社会構造的背景について理解する。
2. 若者支援のあり方に対する、同時代を生きる若者としての自らの視点を獲得する。
3. 若者支援の具体的なプログラムを試作することを通して、若者支援の実践について知り、その現状と課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態については基本的に対面で行うことを想定するが、コロナの影響を受けての大学の方針等によってオンライン形式になることも考えられる。その場合、授業で使用する URL 等は別途連絡をする。

また、授業の最後に毎回リアクションペーパーの課題を出すこととする。提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、次の授業のはじめに全体に対してフィードバックを行う。

授業の進行度に応じてアクティブラーニング（ディスカッション等）を実施する可能性があるが、これはオンラインでの授業環境を含め、授業の様子を見ながら判断する。

この他、授業の進め方については適宜変更を行う場合がある。その場合、授業内での告知の他、学習支援システム等を活用して周知するので、連絡はこまめに確認しておくことを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の内容や進め方について
第 2 回	若者支援の目的	若者支援の目的と各種政策・実践のキーワード
第 3 回	若者の生きづらさ	若者の生きづらさの諸相
第 4 回	生きづらさの構造	日本型青年期・関係性の貧困・居場所
第 5 回	生きづらさの根幹	生きづらさについての具体的検討
第 6 回	支援対象の設定	支援の対象をどのようにとらえるか
第 7 回	支援の双方向性	支援という行為の構造について
第 8 回	若者との対話	支援時の具体的な諸相
第 9 回	若者による支援	若者自身による取り組みの位置づけ
第 10 回	社会への参画	若者と社会の関係性について
第 11 回	若者支援の実践	事例を用いた具体的検討
第 12 回	若者支援事業の広がり	対応すべき課題の多様さについて
第 13 回	支援の構想	具体的な支援手法の検討
第 14 回	総括	自立の要件
	若者の自立支援とは	若者支援の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の経験に照らし合わせながら、若者に必要な支援について考える。参考書としてあげた文献を読んでおく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

『〈学校から仕事へ〉変容と若者たち』乾彰夫・青木書店
 『二極化する若者と自立支援』宮本みち子・小杉礼子編著・明石書店
 『若者の居場所と参加』田中治彦・荻原建次郎編著・東洋館出版社
 『子ども・若者の参画』子どもの参画情報センター編・萌文社
 『若者と社会変容』アンディ・ファアロング/フレッド・カートメル・大月書店など。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー・オンライン授業での様子）：40%

レポート：60%

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を元にした検討等、イメージしやすいよう伝えていく。
 また、前年度は毎回の授業で提出してもらったリアクションペーパーに対する返しを重点的に行い、授業のやる気につながったという声が多く寄せられたため、今年度も継続していく。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【Outline and objectives】

The difficult situation of young people is at the core of a social issue "young people's independence".

In this lecture, you can study about the difficult situation of young people from specific case, and can consider the method of youth support.

CAR100MA

職業選択論 I

基幹科目

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：木・4 | 配当年次：1～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では働くこと・職に就くことを、アルバイト、就職活動、初期キャリアにわたって考えます。

なぜ日本では職種を限定しない就職が一般的なのか。企業は経験者ではない新卒者に何を期待しているのか。アルバイトの劣悪な処遇や、正社員の長時間労働が、なぜ起きてしまうのか、どう対処できるのか。そういった問題を考えていくことを通して、若者の学校から職業への移行過程を、若者と企業、双方の視点から理解し検討できるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

個人のキャリアの上でも大きな節目となる「学校から職業への移行期」の意義と課題を、一歩引いた俯瞰的な視点で多面的に捉えられるようになる。大学生の就職と初期キャリアに関する論点を適切に理解し、自らの就職にも生かしていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを授業内外で書きます。書くことを通して自分の考えを整理してください。ミニ・レポートの主な内容は今回の授業でフィードバックし、多面的なものの見方を促すと共に理解を深めます。中間と期末、2回のレポート課題を出します。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス／各自の問題意識の論述	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介／各自の問題意識の論述
2	各自の問題意識の共有	就職と初期キャリアをめぐる各自の問題意識の共有
3	大卒労働市場の現状	卒業生の進路状況／新規採用と中途採用の違い／早期離職
4	ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用	それぞれの特徴とワークライフバランス上の課題
5	キャリア教育とインターンシップ	キャリア教育と職業希望／インターンシップの目的・現状・課題
6	職業興味と職業適性	職業興味、職業適性と能力の関係
7	アルバイトから働き方を考える	アルバイト就労の現状、アルバイトと労働法
8	職場の問題への向き合い	アルバイト職場の改善に向けて／労働組合とは
9	就職プロセスと労働条件	就職プロセスと就職支援会社の役割、労働条件への着目の必要性
10	「まともな働き方」とワーク・ライフ・バランス	長時間労働問題への視点
11	労働条件と労働契約	労働契約としての就職／内定・就職をめぐるトラブルと関係法令、対処法
12	就職活動における客観情報の活用（1）	「就職四季報」の活用
13	就職活動における客観情報の活用（2）	各種データベースの活用
14	初期キャリアとリアリティ・ショック／セーフティネットと転職	初期キャリアの課題／社会保障／転職状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB 版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。課題レポート執筆に向けては、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/
・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就職トラブル Q & A』旬報社
・東洋経済新報社編『就職四季報 総合版』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

授業内外で6回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と中間レポート（配点 20 点）、期末レポート（配点 40 点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が0～2回の学生や、ミニ・レポートまたは課題レポートの代筆・盗用が判明した学生には、単位を付与しない（E 評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からは、就職活動に役立った、アルバイトの働き方を見直すきっかけとなった、といった感想がみられる。今後もタイムリーな話題をとりあげていきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメは学習支援システムに事前に掲載する。各自、プリントアウトするなどして準備すること。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず確認すること。

【Outline and objectives】

This course has been designed to provide a basic understanding of the School-to-Work transition. Main topics are characteristics of Japanese School-to-Work transition, career decision, labor problems and labor laws.

CAR100MA

ライフコース論

基幹科目

高崎 美佐

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：水・3 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアをデザインするためには、一般的な人生の段階と各段階における課題を知る必要があります。この授業では、ライフコースの概念を学んだうえで、就学、就職、結婚、子育て等を経て高齢期にいたるまでの重要なライフイベントに着目し、①個人と社会の相互作用の中で生じるキャリアのパターンの多様性を理解し、②個人の生き方やそれに影響を及ぼす社会システムを検討することを目的とします。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の1～3です。

1. ライフコースの変化を時代背景と関連させて、説明できるようになる
2. 日本のライフコースの特徴を社会システムと関連させて説明できるようになる
3. ライフコースの視点から日本の社会問題について考察できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

<授業形態>

この授業は、対面で行うことを想定しています。

<授業の進め方>

講義を中心としますが、受講者のみなさんからトピックを提供してもらったり、発表をしてもらったりします。

<授業後>

リアクションペーパーの提出を求めることがあります。

<課題等に対するフィードバック方法>

課題やリアクションペーパーに記載された内容・コメントを次の授業内で取り上げ、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ライフコースとは	・ 授業の概要や進め方についての説明 ・ ライフコースの概念
2	ライフサイクルからライフコースへ	・ ライフサイクルと発達段階モデル ・ ライフコースを捉える背景
3	ライフコース論の基礎的な概念	ライフコースを捉える視点：ライフコースへのアプローチ方法
4	児童期から青年期	児童期から青年期に関する変化と課題
5	青年期から成人期	学校から職業への移行とその変化
6	成人期（家族形成）①	結婚と結婚をめぐる変化
7	成人期（家族形成）②	出産行動の変化とその背景
8	ジェンダーとライフコース	ジェンダーによるライフコースの特徴
9	雇用システムと働き方	・ 雇用システムの特徴 ・ 働き方と雇用システム
10	女性の就業	女性の働き方の現状とその背景
11	男性の就業	男性の働き方の現状とその背景
12	就業形態とライフコース	正規・非正規といった就業形態の違いによるライフコースの特徴

13	高齢期	高齢期の就業 就業から引退へ
14	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

ライフイベントやライフコースについての知識を得たり考えさせられたりするようなニュース、新聞・雑誌の記事、書籍などを見つけられるようアンテナをはってください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

安藤由美（2003）『現代社会におけるライフコース』日本放送出版協会

嶋崎尚子（2008）『ライフコースの社会学』学文社

岩上真珠（2013）『ライフコースとジェンダーで読む家族』有斐閣

武石恵美子（2016）『キャリア開発論』中央経済社

その他、授業の中でテーマに沿った参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、以下の3つで行います。

①授業参加度（発言とクラスへの貢献）	30 %
②リアクションペーパーなどの提出	30 %
③最終課題（レポート 1000～2000 字程度を想定）	40 %

①発言や資料提供などによるクラス全体の学びへの貢献を指します。

②授業後のリアクションペーパーなどの提出状況を指します。

③最終課題のテーマは12回の授業中に提示します。

※②③は期限厳守です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する連絡、授業資料の提示は学習支援システムにて行う予定です。連絡事項がある場合は、講義前日（火曜日）午前中を目途に授業に関する連絡を行います。確認の上、授業に臨むようお願いします。

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画を調整する可能性があります。

【Outline and objectives】

For designing our career, it is necessary to know the factors that influence the career. In this course, we will focus on major life events and consider that factors through the perspective of a life course.

The purpose of this class is following two points.

1. To learn concept of life course
2. To think and learn about what affect individuals life course

CAR100MA

生活設計論Ⅰ（社会保障） 基幹科目

上田 将史

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生には“想定外”がつきものであり、これがスバイスとなり、人生がより豊かなものとなることも珍しくありません。しかしながら、病気や怪我・ハイリスク妊娠・障害・老化・失業・死別などの生活上のリスクについては、一定の知識や備えが必要となります。

我が国の社会保障は、生活の安心や安定のために、各種制度等でリスクを相互に分散し（共助）、さらに対応困難な困窮などの状況に対して受給要件を定め生活保障を行う（公助）ことで、個人の努力（自助）を補完する仕組みを持っています。

昨今の災害や新型コロナの感染拡大等により、日常がリスクと隣り合わせであることをあらためて感じている方も多いのではないのでしょうか。本講義では、代表的な社会保障についての基本的な知識を身に着けるとともに、事例等を踏まえながら、困難な問題を抱える方々への支援を行うソーシャルワークやコミュニティ心理学の価値や方法論について学びます。

とりわけ心の問題については、社会的認知こそ広がってきたものの、偏見や差別等も背景にあり、他の障害等と比べ福祉施策が遅れていると言われます。この精神保健の課題についても理解を深めるとともに、少子高齢化による社会保障費の増大を抑制し、複雑化・多様化する福祉ニーズに対応するために国が進める地域包括ケアシステムの構築についてもふれ、誰もが暮らしやすい社会について考えます。

【到達目標】

- ・リスクに耐え得る生活設計を立てるための手がかりを得る。
- ・社会保障制度の目的や機能を理解し、人に説明できるようになる。
- ・ソーシャルワークやコミュニティ心理学の基本的な価値や方法を学び、困難な問題への対処方法の幅を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・この授業は講義形式と演習形式を組み合わせる。
- ・講義形式での情報提供と問題提起などを行い、これを踏まえ、グループディスカッション等を行う。講義内容の理解を深め、実際の生活に関連付けて考えられるよう、適宜ワークや動画視聴の時間なども設ける予定である。
- ・リアクションペーパー等における示唆に富んだコメントや質問については、授業の冒頭等で、適宜、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等に関する説明を行う。
第 2 回	社会構造とライフスタイルの変化	少子高齢化、情報化等を背景にした社会構造とライフスタイルの変化について考察する。
第 3 回	社会保障制度の概要	社会保障制度の概要、民間保険との違い等を確認し、本講義のテーマを概観する。
第 4 回	生活保護	最低限度の生活を維持できなくなった場合の扶助について理解する。
第 5 回	生活困窮者自立支援制度	生活保護に至る前段階の自立支援策の意義と課題を考察する。
第 6 回	障害者福祉①	障害者総合支援法、障害福祉サービスの概要を理解する。
第 7 回	障害者福祉②	自立支援医療、障害年金、障害者手帳など、心身の不調により障害を抱えた場合の制度を理解する。
第 8 回	介護保険制度①	介護保険制度の概要と、介護保険サービスの概要を理解する。
第 9 回	介護保険制度②	育児・介護休業法で定められた仕事と介護の両立のための制度等を理解する。
第 10 回	医療保険制度	医療保険制度の概要、高額療養費制度、保険外併用療養費制度など、医療費の負担軽減に関する制度を理解する。
第 11 回	年金制度	「高齢」、「あるいは「死亡」「障害」など万が一に備える年金制度の概要を理解する。
第 12 回	雇用保険制度、労働者災害補償保険	失業・雇用継続等に関する保険制度について理解する。

第 13 回 権利擁護

高齢者・障害者虐待、悪徳商法・特殊詐欺等にかかる制度、成年後見制度など、主に社会的弱者の権利を擁護するための制度を理解する。

第 14 回 地域包括ケア、地域共生社会

「4 つの助（自助・互助・共助・公助）」の基本的な考え方とそれぞれの関係性を理解し、誰もが暮らしやすい社会について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

事前学習：シラバスで次のテーマを確認し、そのテーマに関する最近の話題を調べる。

事後学習：講義で学んだことが、社会の中でどのように位置づけられ、どのような課題を持っているかについて考察する。また、提示された参考文献等に目を通す。

【テキスト（教科書）】

パワーポイント等で作成した資料を配布する。

【参考書】

適宜、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30 %）、期末レポート（30 %）、各回の課題への取り組み（40 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の感想・要望、社会情勢を見ながら講義内容を調整していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

講義形式については、新型コロナ感染予防対策等を踏まえ、調整していきます（ディスカッションは行わない、ソーシャルディスタンスを保ち、最低限のやり取りにする等）。

【Outline and objectives】

Japan's social security has a mechanism to complement individual efforts (Self-help) by dispersing risks with each other through various systems for the security and stability of life (mutual assistance) and providing livelihood security for situations that are difficult to deal with, such as poverty (public help).

In this lecture, students will acquire basic knowledge about representative social security systems and learn about the values and methodologies of social work and community psychology to support people with problems based on actual case examples.

It is said that welfare measures for mental disorders are behind those for other disorders. We will deepen our understanding of these mental health issues and the construction of a comprehensive community care system and think about a society where everyone can live comfortably.

CAR100MA

生活設計論Ⅱ（生活設計） 基幹科目

林 奈生子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・3 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生 100 年時代、もし、「お金」の知識がなかったらどのような人生になるのでしょうか。長い人生の道のりで重要なことは、経済的な裏付けをどのように築けるかということです。経済的な裏付けがあれば、思いを行動に移すことができ、そのことにより自身の想像する未来に近づくことができます。ここでいう経済的な裏付けとは「お金」のことであり、「お金」は「仕事」によって得られます。そして、「お金」の使い方も「仕事」の選び方も自身の「価値観」によるところが大きい。そのように考えていくと、「お金」「仕事」「価値観」とは、自身がどのように社会と向き合っていくかという問題でもあります。本授業では、「お金」「仕事」「価値観」をキーワードにして、それらがどのようにライフデザイン、ライフプラン、キャリアプランにかかわっているのかを考えます。

【到達目標】

本授業では、「お金」「仕事」「価値観」の関係性を理解したうえで、自身の生活設計を立案できることを目標とします。そのために、①ライフデザイン、ライフプラン、キャリアプランの意義 ②それらと「お金」の関係性 ③生活するうえで知っておきたい金融商品の知識 ④仕事を選ぶ際の留意事項 ⑤未来社会の予測 などについて考え学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、研究課題や意見発表により進めます。

*授業運営などにかかわる情報は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
*授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。

*学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問を掲示できるトピックを設ける予定です。なお、質問が、受講生が共有すべき内容の場合は【お知らせ】にて回答します。

*第 12 回の研究課題については第 13 回のプレゼンテーションにて学生同士の意見交換を行います。

*オンライン授業の場合は授業運営などにかかわる情報を学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

*授業計画の回、日程は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション～キャリアデザイン学部卒に期待されること～	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。また、キャリアデザイン学部の皆さんに学んでもらいたいことについてコンサルタントの視点から話します。
2	生活設計の考え方と必要性	人生は思い通りにいくのか？「仕事・お金・生活」の関係性を知り、生活設計の考え方と必要性を学ぶ。
3	ライフプランとファイナンスプランの関係	人生にはどの位のお金がかかるのか。自身のライフプランを考え、生涯でいつ、どのようにお金が必要になるのかについて学ぶ。
4	お金の使い方と価値観の関係性	家計分析を通し、その特ちょうから現在の自身が何を大切にしているのか、価値観がどのようにお金の使い方に関与しているのかを知る。
5	予算の立て方	予算を立てることの意義と具体的な予算の立て方について学ぶ。
6	お金の基本知識	お金にかかわる基本用語とその意味を学び、金融商品を選ぶ際の留意事項を知る。
7	貯蓄型金融商品	最も身近で代表的な元本保証の金融商品について、その特ちょうと使い方を調べる。
8	リスクとリターン	具体的な金融商品を通してリスクとリターンの基礎知識を学ぶ。
9	ポートフォリオの考え方	金融商品の組み合わせ方や借入金の返済方法などについて学ぶ。

10	企業活動と消費者	企業活動と消費者の関係を整理し、「働くとは何か」「消費するとは何か」について考える。
11	仕事の選び方と生活設計	「組織・マネジメント・求められる人材」について学び、仕事をどのように選ぶべきかを考える。
12	研究課題「未来予測と自身のライフプラン」	いくつかの未来社会を予測するなかから、自身が目指すべきライフプランを考える。
13	研究課題のプレゼンテーション	第 12 回の研究結果を発表し意見交換をする。
14	まとめとレポート提出の説明	本授業全体の総括を行う。また、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットなどで発信される情報を、自身の生活に関連づけて考える習慣を身につけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】

必要な場合は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート提出：70%、平常点（学習状況、参加度、意見発表など）：30%とします。

レポート提出の詳細は次の通りです。

1. レポートのテーマ：学習支援システム【課題】にて告知します。

2. 言語：日本語

3. 字数、フォント、ポイント：400 字以上 600 字以内、フォント指定なし、ポイント 10.5

4. 提出期間：2022 年 1 月 13 日 14 時 50 分から 2022 年 1 月 20 日 14 時 50 分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

5. 提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムを通して提出

6. 留意事項

(1) レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。

(2) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。

(3) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。

(4) テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。

(5) レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度の「生活設計論Ⅱ」の全授業終了後、受講生にアンケートをとり本授業への率直な意見を述べてもらいました。それらをまとめた結果が以下です。

1. ライフデザインと「お金」について

「初めて自分が将来目指している生活を真剣に考えることができた」「今後の人生に思っていたよりもお金が必要だということが自覚できた」「将来どのくらいお金が必要なのか、どのくらい稼ぐことができるのかを考えることができて良かった。そのために今どのくらい貯蓄すべきか、どのくらい使っていくのかなど、お金についていろいろ考えるきっかけとなった」「今後生きていくうえで自分がどんな人間になりたいのか、どんな人生を歩みたいのかといったことはお金と深くかかわると思った」「満足度の高い生活を送るためにはライフプランが重要であると感じた」

2. 「お金」や金融商品の知識について

「金融商品の授業が印象的だった。しっかりと勉強を重ねないと損失につながるという考えに変わった」「お金の知識を身につけることは、お金のリスクや問題から自分を守ることにつながるためとても大切なことだと感じた」「資産運用について自分で調べると情報量が多くてわからなくなってしまうが、今回自分の中で情報をシンプルに整理することができた」「金融商品に関しては興味があっても他人に気安く聞けるものでもないで今回学べてよかった」

3. 仕事の選び方について

「商品にもライフサイクルがあることが印象的だった」「自分の価値観と企業目的の関係を考えたことで、就職するにあたり新しい観点を得たような気がした」

4. 未来予測と自身のライフプランについて

「人前で発表するのは非常に緊張したが、自分を成長させるいい機会になった」「自分の考え方とは違う考え方を聞くことで、自分には思いつかなかった、知らなかった事柄について考えることができた」「自分の未来について大枠は考えていたが、『未来の社会で生活する』という条件が抜けていた将来像であったことが分かった。貴重な経験になった」「自分の考えていることを発表するために文章化することが難しかった」

5. 授業運営や改善点について

「対面授業でないことが残念だった」「学生同士で話し合う機会があると意見交換もでき面白いと感じた」「ストレスのない授業だった」「オンライン授業ではそれぞれの環境で受講中の応答に難しい場合があるため、学習支援システムを活用したほうが良かった」「対面授業でいろいろな話をしながら進めたかった」「他の講義と違って『ザ・キャリアデザイン学部の講義』という感じだった」「オンライン授業でも前のめりで受講できた」

アンケートに答えて頂いた学生の皆さんありがとうございました。大変貴重な意見を聞かせていただきました。本アンケート結果より、受講生が大変真摯な態度で受講していたことが改めてわかりました。今後も、受講生の期待にそのような授業内容、運営にしたいと考えています。具体的には、オンライン授業での ①受講生同士の意見交換や交流ができるような運営方法 ②それぞれの環境に合わせた対応－を工夫していきたいと考えています。対面授業では、従来にも増してグループワーク、意見交換、受講生同士の交流を図ります。いずれにしても、今後も受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促す授業を目指したいと思っています。

【その他の重要事項】

<講師について>

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティング、ファイナンシャルプランナーの経験をもつ教員が、わかりやすく実践的に講義を行います。

【Outline and objectives】

In this lecture, you will learn "work", "money" and "life design". The first half of the lecture will focus on the significance and importance of life design in this era, the money spent on life, how to budget and manage money, basic knowledge of financial products, risks and returns. The second half of the lecture focuses on work. We discuss issues of corporate activities, job selection, teamwork, and communication. This course will deepen your understanding through lectures, group discussions and presentations, writing reports, and creating a life plan chart.

CAR100MA

キャリアモデル・ケーススタディ 基幹科目
イ

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：水・3 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な人のキャリア形成過程の実例を元に、各個人のキャリア形成について考える機会を提供する。また複数のキャリアモデルを知ることを通じて、キャリア形成とは何かという問題についても学ぶ。本講義では特に、いわゆるビジネス「以外」の職業人を重点的にケーススタディを行う予定である。

【到達目標】

多様な社会人のキャリアに関するケースを聞く事を通じて、キャリア形成の過程について学ぶことを目標とする。合わせて単に話を聞くだけではなく、その話にいかに関心すべきか、予備情報としてどのような情報を予め入手しておくべきかなどを解説する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初の 3 回でインタビュー法などのケーススタディの聞き方についての講義を行う。そのため履修を希望する者は必ず初回から出席すること。初回～3 回目までは授業の基本的な進め方について説明及び実習を行うので、これらを受けていない場合は単位を取得が不可能となる。その後でゲストによるキャリアモデルの話聞いた上で、その振り返りを通じてキャリア形成に関する理解を深める。なお、ゲストの講演の回も含め、各回に内容に関する小レポートを課す予定なので、その覚悟を持って受講すること。また下記の授業計画はゲストのスケジュールによって変更の可能性があるので注意すること。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、この授業の目的を説明する。
第 2 回	ケーススタディとは	研究法の 1 つとしてのケーススタディとは何か、その特徴と意義について解説する。
第 3 回	下調べの方法	インタビューを実施する前に必要な調査について解説する。
第 4 回	インタビュー術	インタビューとは何か、どのようなスキルが必要かについて解説する。
第 5 回	ゲスト講師①	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 6 回	ゲスト講師②	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 7 回	ゲスト講師①②の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。
第 8 回	ゲスト講師③	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 9 回	ゲスト講師④	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 10 回	ゲスト講師③④の振り返りとキャリアモデルレポートの書き方	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。
第 11 回	ゲスト講師⑤	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 12 回	ゲスト講師⑥	ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 13 回	ゲスト講師⑤⑥の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。
第 14 回	キャリア研究への展望	これまでの講演内容をケーススタディとして活用する方法について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゲスト講師について事前下調べを必ず行うこと。下調べ → インタビュー → 解釈という一連の流れのなかで学習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。またゲスト講師を相手にインタビュー役を全員にやって貰う予定なので、その覚悟を持つ者のみ受講するように。

【テキスト（教科書）】

特になし。レジュメを配布する。

【参考書】

特になし。必要な場合は適宜知らせる。

【成績評価の方法と基準】

各回の課題レポート（70%）と授業への参加度（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のリアクションペーパーを通じて学生の要望を反映させる。

【その他の重要事項】

履修希望者は必ず初回から出席すること。初回～3回までも欠席した場合は、単位の取得は不可となる。

【Outline and objectives】

Students will learn various careers and how to conduct interview. Especially, it is focused on the methods of case study and practice of interview.

CAR100MA

キャリアモデル・ケーススタディ 基幹科目

梅崎 修

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：木・2 | 配当年次：1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分のキャリアをデザインするにあたって、模範となるべき人の生き方、働き方の事例を学び、そこから自分のモデルを作ることは有効な方法である。本講義では、様々な職場で実際に働く職業人の方々に教壇にお呼びして、仕事経験（キャリアヒストリー）を聞く。具体的な仕事の経験から、学生がどのようなキャリアを選び、そのためにどのような努力を行うべきかを学ぶ。

【到達目標】

ビジネス、地域活動などで活躍する社会人と対話することで、社会人経験を間接的に理解する。また、そのような社会人の経験を引き出す話の聴き方やインタビュー術について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初に、この授業を受ける上で必要なヒアリング術とインタビュー術を講義する。インタビュー術を使ってゲスト講師のキャリア経験を聞き出す。この授業は、春学期に二つの授業が開講されるが、ゲスト講師は異なる。課題等の配布は「学習支援システム」、提出は授業内で行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。現在、対面での授業を予定していますが、コロナの感染状況やゲスト講師の方の基礎疾患などを踏まえてオンラインで講義することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、この授業の目的を説明する。
第2回	聴く力とは？	キャリアの語りを聴き出すには聴く力と共感する力が必要である。その必要性を理論的に説明し、体験する。
第3回	下調べの方法	キャリアに関する下調べ文献を説明する。自伝、伝記、オーラルヒストリーなどの文献資料を紹介する。
第4回	インタビュー術	インタビュー時における身体的スキルを説明する。インタビュー映像も見る。
第5回	ゲスト講師①	NPO分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第6回	ゲスト講師②	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第7回	ゲスト講師①②の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。特に組織論の観点から検討を行う。
第8回	ゲスト講師③	プロフェッショナル職種のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第9回	ゲスト講師④	官庁分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第10回	ゲスト講師③④の振り返りとキャリアモデルレポートの書き方	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。民間企業以外のキャリアを議論する。またこれまでのキャリアトークの解釈を前提に、キャリアモデルレポートを作成する方法を講義する。
第11回	ゲスト講師⑤	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第12回	ゲスト講師⑥	起業家のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第13回	ゲスト講師⑤⑥の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。これまでの多様なゲスト講師も振り返りながら、キャリアの多様性を議論する。
第14回	キャリア研究への展望	これまでのまとめと、キャリアインタビューを使った研究を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゲスト講師について事前下調べを必ず行うこと。下調べ → インタビュー → 解釈という一連の流れのなかで学習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。レジュメを配布する。

【参考書】

永江朗『インタビュー術！』（講談社現代新書）

阿川佐和子『聞く力 心をひらく 35 のヒント』（文藝春秋）

マルコ社『プロカウンセラーの聞く技術・話す技術』（サンクチュアリ出版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（50 %）と最終講義日に提出するレポート（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

振り返りなど、業界や職業知識の解説を適宜行い、理解を深められるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。PC の持ち込みは可能

【その他の重要事項】

。

【Outline and objectives】

To designing our career, we learn examples of how to live and work for model people.

Making an image of your career is an effective way to career design.

In this lecture, we invite people who actually work in various workplaces to the teacher and listen to work experience (career history).

From specific work experience, students learn what kind of career to choose and what kind of effort can be done for that.

EDU200MA

外書講読 A（発達・教育）

展開科目

福田 紀子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権に基づいた社会のより良い変化（開発）に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準（スフィア基準／Sphere Standards）、SDGs のテキストから、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した“価値観＝大切にしているもの”に近づきたいと思います。

特に世界で脅威となった「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」に私たち自身の生活が大きく影響される今、関連する「人道支援の国際基準 スフィア基準（Sphere Standards）を学ぶことから始めたいと思います。特にその中の Coor Humanitarian Standard から公共サービスの質と説明責任について人道支援のコンテキストから学びます。他にも参加とコミュニケーションに関するテキストを順次読んでいきます。

また特に日本での参加の文化を阻害するものについては Conflict Resolution を学びながら考えます。

【到達目標】

- 1）国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材、報告書等から、人権、参加とエンパワメントに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2）人権尊重の思考と行動枠組、ジェンダー等、社会の公正な運営方法（Governance と Accountability）に必要な思考と行動のスキルを 自分の生き方くらし方、社会の現実と関連させながら理解し実践する。
- 3）参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、授業内で配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会があります。授業はレジュメを中心に配布資料の翻訳や概説、ワークシートによる自分の感覚や考えを示し、そこから考える活動を行いながら進めていきます。毎回提出いただくフィードバックシートのコメントの中からも、議論を展開したり、関連情報について取り上げていきます。その中でのディスカッション、フィードバックは日本語で行います。課題提示・提出はメール、学習支援システムを使用します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation self-introduction Humanitarian- Standards-and- Coronavirus-2020- ONEPAGER	〈この授業の進め方〉 この授業の進め方、評価について。人権とは。人道支援の国際基準スフィア基準関連の文書を読みます
2	Disaster & Humanitarian Response Basic Concept and Background	災害とは何か 人道支援とは何か 人道支援の背景 ～歴史と国際基準
3	Sphere Standard 1 Sphere's structure 4 Principles of Humanitarian Response	スフィアの構造と 前提となる人道支援の4原則について
4	What's Sphere ～ Vulnerability and Capacity	「スフィアとは」 ～脆弱性と能力について
5	Gnerder Issue ～ Image and reality	人権問題の共通理解としてジェンダーの課題について
6	Sphere Handbook' quality & Accountability with CHS ①	人道支援団体の国際基準 Spherega が示すサービスの質と“アカウンタビリティ”を必須基準（CHS）から学びます。①～③

7	Sphere Handbook' quality & Accountability with CHS ②	人道支援団体の国際基準 Spherega が示すサービスの質と“アカウンタビリティ”を必須基準（CHS）から学びます。④～⑥
8	Sphere Handbook' quality & Accountability with CHS ③	人道支援団体の国際基準 Spherega が示すサービスの質と“アカウンタビリティ”を必須基準（CHS）から学びます。⑦～⑨
9	Activity ～ a case of the Shelter for affected people on Disaster	日本の避難所の場面から CHS の課題と対応を考えます
10	Communication & Participation ① w/Communication Tool Box	テキストからコミュニケーションの考え方やスキルを学びます（前編）
11	Communication & Participation ② w/Communication Tool Box	テキストからコミュニケーションの考え方やスキルを学びます（中編）
12	Communication & Participation ③ w/Communication Tool Box	テキストからコミュニケーションの考え方やスキルを学びます（後編）
13	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ①	市民社会を活性化するために必要な知識・スキル・姿勢と参加を阻害する要因について考えます
14	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ②	日本における参加を阻害する文化価値観を超えるため変化の要因やアドボカシーについて考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と小グループ/パートナーとの発表の準備が必要となります。国際的な出来事、国際協力活動、身近な社会の課題に関心を持ち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に購入の必要はありません。教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

【参考書】

The Sphere Handbook
Sphere-Handbook-2018-EN.pdf
(参考) Sphere-Handbook-2018-Japanese.pdf
Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)
Communication Tool Box ~ Practical Guidance for Program Managers to Improve Communication with participants and Community Members, Catholic Relief Service,2013
<https://resourcecentre.savethechildren.net/node/13717/pdf/communication-toolbox.pdf>
Participation Handbook for Humanitarian Field Workers;
http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf
『2030 年未来への選択』（西川潤）
『ワールドスタディーーズ-教え方学び方ハンドブック』『参加型で考える 1 2 のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）
『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、各回授業のふりかえりシート 40 %
翻訳課題 25 %
発表、成果（対面授業の場合模造紙作業、オンラインの場合の記録など） 10 %、
レポート 25 %

【学生の意見等からの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じるときもあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと願います。
ファシリテーターの実践はより主体的な学習へのコミットメント（内容理解、スキルと態度）を高める機会としていってください。

【その他の重要事項】

国際合意の文書は完成された概念やタマエではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準には人権感覚の基本とも言える考え方と現実の対応が示されています。Accountability など、慣れないコンセプトもあるかもしれませんが、身近なコミュニティでも、国際的な合意の文脈を理解する為にも必要かつ応用可能なものとして学んでいきましょう。

また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。全体に分担したテキストのプレゼンテーションやフィードバックなど授業への出席を重視します。部活等の欠席の理由は特別な場合を除き特に考慮しませんので、規定の出席確保を前提に授業に望んで下さい。

【Outline and objectives】

The objective of this class would be getting the Basic Concepts for understanding Citizen's Activism on Rights Base Approach for Social Justice with International Standard, Agreements and Methods.
Students are expected to read the materials/assignments to translate/summary/analyze/apply into your own situation.
Main text would be the Sphere Standards-Humanitarian Charter and Minimum Standards of Humanitarian Response.

EDU200MA

外書講読B（発達・教育） 展開科目

長岡 智寿子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、今日の国際教育開発の現状と課題について、私たち人間の生涯に渡る学びの様相を把握することを念頭に、社会的な視点から検討するものである。具体的には、本講義の内容に即した英文資料の他、関連する文献資料、映像資料なども活用しながら、理解を深めていく。

【到達目標】

本講義では、英文資料を中心に、広く国際社会における教育活動の動向を把握するとともに、子どもからおとなまであらゆる人々を対象とする生涯学習の活動について、その今日的課題を問い直すことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
- ・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介するとともに、さらなる議論に活かします。
- ・授業内で求めた課題や小テストに対する講評や解説も行い、大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義全体の概要説明
第 2 回	Background : data and development	生涯学習に関する歴史的経緯の把握、内容理解
第 3 回	Literacy is the human rights	人権の観点から理解する
第 4 回	Literacy learning & development	読み書きの学びの重要性を社会的視点から理解
第 5 回	Stories of imagination (1) Social participation	Raising voices; peaking up for participation
第 6 回	Stories of imagination (2) Life skill	Literacy and Life s kills
第 7 回	Stories of imagination (3) human rights	About employment rights with literacy for poor women
第 8 回	Stories of imagination (4) Minority	Women and Literacy in post-conflict
第 9 回	Stories of imagination (5) Knowledge for safe	Children's nutrition and literacy learning
第 10 回	Stories of imagination (6) Learning for life	Literacy and learning for young women

第 11 回	Stories of imagination (7) Learning for health	Learning reading, writing and health
第 12 回	Stories of imagination (8) Social empowerment	Community Empowerment
第 13 回	Challenges and solutions	Share and discussion for future
第 14 回	まとめ（試験、解説）	本講義全体を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、授業の際に説明する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介する。

【参考書】

- ・『Literacy and Women's Empowerment: Stories of Success and Inspiration』, UNESCO Institute for Lifelong Learning, 2013
- ・『Quality Assurance Toolkit for Open and Distance Non-formal Education』, Commonwealth of Learning, 2012

【成績評価の方法と基準】

試験（60 %）、授業内での課題（20 %）、出席（20 %）により、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の際に、質問、意見等を記載してもらい、フィードバックを行える体制を整えていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

積極的に理解を深めていけるように、質問や意見等を望みます。

【Outline and objectives】

In this lecture, we aim at grasping the issue of lifelong learning from a sociological point of view, taking as examples the current situation and problems of international education development today. Specifically, we will deepen our understanding by utilizing related literature materials as well as English textbooks that conform to the contents of this lecture.

PSY200MA

生涯発達心理学Ⅰ

展開科目

松浦 千春

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、人は生まれてから死ぬまで生涯発達していくことを踏まえて、乳児期、幼児期、児童期、思春期、それぞれの発達特性について学ぶ。また、これまでの知見を、子育てや教育を含めた生活の中で、どのように活用していくことができるのか、事例を通して考える。

【到達目標】

- (1) 乳児期から思春期までの発達特性について、心理学的な視点から述べることができる。
- (2) 乳児期から思春期までの発達特性をもとに、子育てや教育上の事例への対応を考えることができる。
- (3) 自己理解、他者理解を含め、日常生活にどのように活用することができるかを意識しながら学び続ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・原則オンライン「リアルタイム型」で実施します。状況に応じて「オンデマンド型」を取り入れます。「オンデマンド型」になるときには学習支援システムを通して連絡をします。
- ・資料は学習支援システムを通して配布します。
- ・課題へのフィードバックは、提出された回答の中から複数取り上げ、全体へ行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	発達とは	心理学よりみた人間の発達を概観する
第 2 回	新生児期・乳児期の発達①概要	新生児期・乳児期の発達特性について学ぶ。
第 3 回	新生児期・乳児期の発達②事例	新生児期・乳児期の発達特性をもとに、事例の背景や対応を考える。
第 4 回	幼児期の発達①概要	幼児期の発達特性について学ぶ。
第 5 回	幼児期の発達②事例	幼児期の発達特性をもとに、事例の背景や対応を考える。
第 6 回	児童期の発達①概要	児童期の発達特性について学ぶ。
第 7 回	児童期の発達②事例	児童期の発達特性をもとに、事例の背景や対応を考える。
第 8 回	思春期の発達①概要	思春期の発達特性について学ぶ。
第 9 回	思春期の発達②事例	思春期の発達特性をもとに、事例の背景や対応を考える。
第 10 回	発達障害①概要	発達障害の概念について学ぶ。
第 11 回	発達障害②事例	発達障害の事例に触れる。
第 12 回	幼児期・児童期の事例	第 11 回目までに学んだことなどをもとに、幼児期・児童期の事例について、背景や対応を考える。
第 13 回	思春期・青年期の事例	第 11 回目までに学んだことなどをもとに、思春期・青年期の事例について、背景や対応を考える。
第 14 回	まとめ・試験	授業内試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容、配付された資料、紹介された資料と、自分自身の興味関心とを繋げながら、理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

指定のテキスト（教科書）はありません。

【参考書】

必要な資料、参考になる資料などは、授業の中で配布したり、紹介したりします。可能な限り学習支援システムを通して配付可能なもの、ウェブ上で閲覧可能なものを選択します。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの課題提出（11 回・55 %）・試験あるいはレポート（1 回・45 %）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度同様、動画、音声などの視聴覚教材を用います。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料の配布、課題の提出には、学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】

- ・授業を受けるにあたり、情報保障をはじめ、何らかの支援が必要な場合には、適宜申し出てください。事前に記録してある動画には字幕あるいは書き起こしを添える予定です。
- ・授業者は発達支援の臨床が専門のフリーランスです。私設の支援室を設け、0 歳から 15 歳の子どもたちに携わっています。また、都内の小中学校を訪問し、支援者への助言をしたり保護者向の方向向けの講演会などで家庭内での具体的な関わり方について提案したりしています
- ・授業がどのような形態で実施されても、この授業の到達目標に変更はありません。理解を深め、知識の活用を幅を広げてください。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn about the developmental characteristics of infancy, early childhood, childhood, and adolescence, based on the fact that people develop throughout their lives from birth to death. We will also consider through case studies how we can apply the knowledge we have gained so far in our daily lives, including child rearing and education.

PSY200MA

生涯発達心理学Ⅱ

展開科目

廣川 進

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：水・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は生（誕生）から死に至るまでどのように発達し変化するか、それぞれの人間の発達段階に沿っての発達課題とその発達特性を心理学的な視点より研究する。また同時に人間の発達とキャリア発達の観点からも研究することによって、キャリア発達は人間の生涯を通してどのように変化し発達するかについても研究する。

秋学期は成人期から老年期、人間の人生の終末の死までの発達を取り上げ、それぞれの発達課題を研究し、発達課題が達成できない場合にはどのような発達上の問題が発生するかについても研究する。学生自身が自己、家族、他者との関係を発達の軸から振り返り、課題を明らかにすることでさらなる成長発達をすることができる。

【到達目標】

学生がその青年期から死に至るまでの生涯発達、その特性を深く理解し、自分の今後のライフキャリアを展望するための気づきを得ることができる。生涯発達心理学で使われるキーワードとその概念、具体例についての知識理解ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期と秋学期の通年を通して、人間発達の道筋とそれぞれの発達ステージにおける発達特性と発達課題について理解する。コロナの状況を踏まえて、当面の授業はオンデマンド形式で行う。パワポを説明する講師の動画を視聴して、毎回400字程度の簡単な感想・レポートを提出する形式が中心となる。詳しくは HOPPII をご参照ください。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	発達段階と発達課題について考える	各発達段階の発達特性とその発達課題について概論的に学ぶ
第 2 回	アイデンティティとは	エリクソンのライフサイクル（心理社会的発達）理論やモロトリアムについて、具体例とともに学ぶ
第 3 回	思春期青年期の課題	フロイトの精神分析、心の構造論、フロスの分離個体化などを学ぶ
第 4 回	ひきこもりについて	ひきこもりの実態をデータから把握し、事例からその要因についてさまざまな観点から検討する
第 5 回	精神分析と心理テスト	心理テスト エゴグラムを自らやって自己理解を深める
第 6 回	男性の発達、父性の観点	「鬼滅の刃」から父性について考える
第 7 回	中年期危機と発達課題	小説『最後の家族』（村上龍）から中年危機が家族全員にあたえる影響、崩壊から再生について考える
第 8 回	女性の発達、母性の観点	アイデンティティの2つの軸、個としての達成／関係性における他者のケア、自己実現の援助を学ぶ
第 9 回	「語り」と発達	自己の人生を語る「自己物語」がアイデンティティをつくり、傷つきからの回復を支えることを事例から学ぶ
第 10 回	成人期の発達とキャリア発達	成人期以降のキャリア発達の特性、キャリアの転機、危機について学ぶ
第 11 回	初期～中期キャリア発達	中年期のキャリアの転機、危機、役職定年、定年と生涯キャリアについて考える
第 12 回	老年期の発達課題	「老年的超越」について学ぶ
第 13 回	人間の死とその心理学的特性 死の意味	死をめぐるさまざまな課題について学ぶ、人間にとって死とは何か、その意味を考える
第 14 回	ストレスマネジメント	発達段階ごとの課題とストレスを理解し、適切に対処する方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連図書の予習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使うパワポの資料はその都度、HOPPII に上げます。参考文献もその都度紹介します。

【参考書】

- ・発達心理学入門Ⅰ（乳児・幼児・児童）無藤隆編 東京大学出版会
- ・発達心理学入門Ⅱ（青年・成人・老人）無藤隆編 東京大学出版会
- ・アニメに学ぶ心理学「千と千尋の神隠し」を読む（愛甲修子）言視舎
- ・父滅の刃～消えた父親はどこへ アニメ・映画の心理分析～（樺沢紫苑）みらいパブリッシング
- ・＜ほんとうの自分＞のつくり方 （榎本博明）講談社現代新書
- ・私とは何か 個人から分人へ（平野啓一郎）講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

毎回の感想レポート（60 %）

期末レポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

臨床的な具体例の紹介や映画、ドラマ、物語などを適宜使って、生涯発達心理学の概念が理解しやすくなるように工夫する

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド形式の授業を受講できる環境、端末

【その他の重要事項】

青年期から死に至る発達過程を心理学的側面から研究することを通して、自分自身がどのように今まで発達してきたのかについて自己理解をすると同時に、人間の発達、成長にはどのような因子が大きな影響を与えているのかについて、深く考えるきっかけにし、人間理解、キャリア発達理解をさらに深めてください。

【Outline and objectives】

This course will help you to understand human development across the life span, comprehensive view of the individual at each stage of growth, from the point of biological, cognitive, social and emotional aspects of growth .

We will study about adolescence(12-20), young adulthood(20-40), middle adulthood(40-65), late adulthood(65-) in the fall semester.

We also study what developmental problems occur if developmental tasks can not be achieved. Students will be able to reflect on their own relationships with themselves, their families, and others from a developmental perspective. By doing so, Students themselves can do growth and development.

PSY200MA

臨床教育相談論Ⅰ

展開科目

飯野 雄大

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：金・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもたちへ教育相談を行っていく上で必要な知識の習得と子どもと関わる現代的な問題の理解をテーマとする。主に乳幼児期から青年期までの発達を理解し、幅広い意味での教育現場で起こる問題を読み解くための考え方を学ぶ。

【到達目標】

- (1) 教育相談を行っていく上で必要な心理学的知識を習得する。
- (2) 現場で起こっている諸問題を理解する。
- (3) 心理学の知識や見方を用いて教育現場の問題を自分なりに考えることができるようになることの 3 点を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 1. 人の発達と教育相談（第 2 回から第 7 回）。
 - 2. 乳幼児期の諸問題と教育相談（第 8 回から第 11 回）
 - 3. 児童期から青年期の諸問題と教育相談（第 12 回から第 14 回）
- 授業時間開始前に毎回、学習支援システム上に資料及び課題を提示する。課題に関しては 5 日後を提出期限とする。各自資料を読み、指示された作業等を行って学習をすること。質問は学習支援システム上の掲示板を活用する。毎回の課題の提出及び最終レポートを実施する予定である。毎回の課題内容については、次回以降の授業で解説を行う。また、そのさい質問と記入いただいた内容についてもいくつか取り上げ、無記名で内容を紹介し授業内でコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、到達目標、講義形式、講義の進め方、導入にあたって必要な事項を解説する。
2	教育相談の現場と対象	教育相談はどのような場で、どのような人を対象として行われているのだろうか、教育相談の現場を概観する。
3	人の発達と特徴を知る① ：認知発達	人はどのように世界を認識しているのか、視覚的な認知の発達と特徴を学ぶ。
4	人の発達と特徴を知る② ：アタッチメントと対人関係の発達	人と人が関係を作るとはどのようなことなのか、愛着などの関係性の発達と特徴について学ぶ。
5	人の発達と特徴を知る③ ：社会性の発達	「空気が読める」「相手の立場を理解する」とはどのようなことか、メタ認知や社会性の発達について学ぶ。
6	人の発達と特徴を知る④ ：自己の発達	「自分はいつも失敗ばかり」「自分はいつも損な役回りで」といった現実を偏って捉えてしまう認識の特徴を学ぶ。
7	人の発達と特徴を知る⑤ ：知能の発達	知能（IQ）とはどのようなものか、教育現場でどのように用いられているのかを学ぶ。
8	発達の障害と教育相談	発達障害をはじめとした様々な障害の特徴について学ぶ。
9	乳幼児期の教育相談①： 虐待の理解と対応	虐待の実態と特徴について学ぶ。
10	乳幼児期の教育相談②： 育児相談・発達相談・園内及び就学の相談と支援	子どもの育児や発達についての保護者の相談の実際を学ぶ。また、保育園・幼稚園での支援と学校への入学にかかわる相談について学ぶ。
11	児童期から青年期の諸問題と教育相談①：いじめの理解と対応	学校現場でのいじめについて、その実態と背景について考える。
12	児童期から青年期の諸問題と教育相談②：不登校の理解と対応	学校現場での不登校の問題について、その実態と背景について考える。
13	児童期から青年期の諸問題と教育相談③：反社会的行動の理解と対応及び思春期の進路相談	学校での問題行動とその背景について考える。また青年期における進路相談に関してもふれる。
14	まとめ・振り返り	これまでの講義内容をまとめ、学校で起こる諸問題の基本的な内容と教育相談の機能について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・自分自身の小学校や中学校、高等学校などの学校経験から、印象に残っているエピソードを思い出しておく。
- ・子どもに関するニュースに注目し、目を通しておく。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。
テキストは指定しない。

【参考書】

古屋喜美代・関口昌秀・萩野佳代子（編） 2013 児童生徒理解のための教育心理学 ナカニシヤ出版
本郷一夫・金谷京子（編） 2011 臨床発達心理学の基礎 ミネルヴァ書房
浜谷直人・三山岳（編） 2016 子どもと保育者の物語によりそう巡回相談：発達がわかる、保育がおもしろくなる ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

毎回の小レポート（4 割）と最終レポート（6 割）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な例や実体験を通して相談活動の基礎を学べるようにする。

【授業中に求められる学習活動について】

C,D,E

【Outline and objectives】

This course deals with the child development and educational problem. The aim of this course is help students acquire an understanding of the fundamental principles of educational counseling.

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：金・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床教育相談論Ⅰを土台にしながら、どのようなアプローチを使いながら相談を進めていけばよいのかを実践的に学ぶ。特に、子どもの問題を捉えるアセスメントの視点と子どもの問題に多角的にアプローチできる視点を学ぶ。

【到達目標】

理論を踏まえながら、教育相談の実際を理解する。教育相談の流れを、イメージできるようにする。子どもの問題状況を理解し、その状況に合わせて相談の目標を意識できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

1. 教育相談に関する基本的な技法の理解（第 2 回から第 5 回）。
2. 教育相談でのアセスメントと対処（第 6 回から第 11 回）
3. ケーススタディを通じた教育相談の理解（第 12 回から第 14 回）
教育相談に関する技法などの講義と、事例を読んで各自で考えたり分析をしたりすることを通して、教育相談に関する諸問題を理解と対応について学ぶ。授業時間開始前に毎回、学習支援システム上に資料及び課題を提示する。課題に関しては 5 日後を提出期限とする。各自資料を読み、指示された作業等を行って学習をすること。質問は学習支援システム上の掲示板を活用する。毎回の課題の提出及び最終レポートを実施する予定である。
毎回の課題内容については、次回以降の授業で解説を行う。また、そのさい質問と記入いただいた内容についてもいくつか取り上げ、無記名で内容を紹介し授業内でコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、到達目標、講義の形式、講義の進め方、導入にあたって必要な事項を解説する。
2	コミュニケーションの基本	相談を行う上で基本的なコミュニケーションの技法について概観する。
3	関係性による相談の変化と相談活動における倫理	誰かに相談するということは、どういうものか体験を通して学ぶ。また、相談を行っていくうえでのプライバシーの保護、守秘義務といった倫理について学ぶ。
4	他者の話を聴く	他者の気持ちを意識しながら、傾聴するとどのようなものかを実習を通して学ぶ。
5	問題が起きている状況を理解する	問題状況を理解するためにどのような情報を収集し、どのように理解すればよいのかを学ぶ。
6	児童・生徒を理解する	児童・生徒を理解するとはどういうことか、基本的な技法について学ぶ。
7	アセスメントの技法① 知能検査	人を理解する技法のひとつである発達・知能検査について学ぶ。IQ を理解する。
8	アセスメントの技法② 性格検査	人を理解する技法のひとつである性格検査について学ぶ。類型論、特性論について知る。
9	障害への支援	特別支援教育など学校で障害児を支援する方法を理解する。
10	関係機関との連携及び ケーススタディの方法	教育現場と関係する病院や児童相談所といった機関とどのように連携していけばよいかを、各機関の特徴とともに学ぶ。また次回以降のケーススタディの方法を学ぶ。
11	ケーススタディ①幼児期	事例を検討しながら問題への対処を考える。特に幼児期の問題について取り扱う。
12	ケーススタディ②児童期 及び学校現場	事例を検討しながら問題への対処を考える。特に学校現場での問題について取り扱う。
13	ケーススタディ③虐待・ 障害	事例を検討しながら問題への対処を考える。特に障害にかかわる問題について取り扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で学んだ内容を復習した上で、次の授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。テキストは指定しない。

【参考書】

鈴木・大橋・能智（編） 2015 ディスコアの心理学 ミネルヴァ書房
浜谷直人（編） 2009 発達障害児・気になる子の巡回相談—すべての子どもが「参加」する保育へ— ミネルヴァ書房
浜谷直人（編） 2013 仲間とともに自己肯定感が育つ保育—安心のなかで挑戦する子どもたち—
浜谷直人・三山岳（編） 2016 子どもと保育者の物語によりそう巡回相談：発達がわかる、保育がおもしろくなる ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出と最終レポートで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

継続して具体的な事例を紹介しながら学べるようにしていきたい。分かりやすく、質問しやすい環境を工夫していく。

【授業中に求められる学習活動について】

C,D,E,F,G

【Outline and objectives】

This course deals with the counseling method and case study.It also enhances the development of students' skill in case discussion and problem solves.

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅠ 展開科目

廣川 進

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアカウンセリングはキャリア開発、キャリア形成において、問題を抱える人達を支援する大切なカウンセリングです。キャリアカウンセリングは、カウンセリングの中でも、「育てる、開発するカウンセリング」として位置づけられます。キャリア教育の中での生徒、学生達の相談、未就業者の相談、再就職の支援、組織・企業内でのキャリア形成の相談など、多様な場面で求められている大切なカウンセリングです。この授業を受講することによって、学生はまず、キャリアカウンセリングとは何かを理解し、そのためには、どのような支援を行うか、キャリアカウンセリングの進めかたの具体的なステップ、傾聴技法などについて理解することを授業の到達目標とします。

【到達目標】

学生はキャリアカウンセリングとは何かを理解し、その歴史、キャリアの理論、キャリアカウンセリングの担当者に求められる要件などに対する理解ができるようになることを達成目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の録画動画を配信するオンデマンド型で当面行います。HOPPII で毎週必ず確認のこと。

授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。キャリアに関する問題解決を効果的に支援するためには、その背景となるキャリア理論、カウンセリング理論などを理解した上で、相談者のキャリア開発やキャリア形成の支援のために情報提供、助言指導などが必要になります。相談者がどのようなキャリア上の問題を抱えているのか、傾聴しながら、相談者を理解し、支援することが欠かせません。そのためには、キャリアカウンセリングは、具体的にどのように展開をしたらよいのか、そのステップはどのような過程をたどるのか、事例を取り上げて研究し、具体的な支援の方法を理解します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コロナ禍という変化とキャリア転機	コロナ禍という変化の時代において、キャリア発達とは何か、キャリア支援とは何か、キャリアサポートはなぜ必要なのかについて学ぶ
第 2 回	キャリア理論では変化への適応をどう捉えるか	変化対応力からみたクランボルト、ジェラット、シュロスバーク等の理論の紹介
第 3 回	なぜ今キャリアカウンセリングなのか	ワークシートに記入しながら見つけた自分のキーワードを仕事につなぐ考え方を取り入れる
第 4 回	あらためてキャリアカウンセリングとは何か	キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、キャリア形成支援等の違いについて検討する
第 5 回	来談者中心療法	ロジャースの来談者中心療法、傾聴、受容共感、無条件の肯定的配慮などについて
第 6 回	ゲスト講師	企業の人事部で採用責任者を担当していた経験と事例の紹介
第 7 回	キャリアカウンセリングのプロセス	キャリアカウンセリングのプロセスを逐語録により具体的に検討する
第 8 回	ゲスト講師	ヤングハローワークでの経験からの事例紹介
第 9 回	自律型キャリア、嫌われる勇氣、同調圧力	日本において自律型キャリアを根付かせていくために必要なマインドとスキルと行動について考える
第 10 回	キャリア自律を阻むもの	キャリア自律の阻害要因について考える
第 11 回	ゲスト講師	大学のキャリア相談員から大学生に多く見受けられる事例の検討課題を提示しレポートを課す
第 12 回	ゲスト講師	前回の事例検討課題に対する解説を行う
第 13 回	キャリア転機とストレスマネジメント	転機にはストレスが掛かりやすいのでうまく対処する方法を解説する

第 14 回 まとめ

期末レポートの課題のポイントの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を紹介する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宮城まり子著「キャリアカウンセリング」2002、駿河台出版社

【参考書】

宮城まり子著「心理学を学ぶ人のためのキャリアデザイン」2007、東京図書

木村周著「キャリアカウンセリング」1997、雇用問題研究会

平野光俊「キャリア・ディベロップメント」1994、文真堂

【成績評価の方法と基準】

毎回のレポート（60％）

期末レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】

授業の展開、スピードを学生理解に合わせて調整する

【学生が準備すべき機器他】

オンライン配信の授業の動画を視聴できる環境と端末

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

After taking this course, you will be able to understand career counseling and development theories,including the following:

・interrelationships among and between work, family, and other life roles and factors,

・ career counseling processes, techniques, and resources

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅡ 展開科目

高橋 浩

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：月・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアカウンセリングⅠでは主にキャリア理論、キャリアカウンセリング理論を学び、それを踏まえてキャリアカウンセリングⅡではキャリアカウンセリングの現場での事例紹介、事例検討などの活動を組合せて理解を進める。

【到達目標】

- ・キャリアカウンセリングの実際の展開について理解する
- ・カウンセリングの基本的理論について理解する
- ・キャリアカウンセリングが活用されている領域、分野での具体的な実施内容や事例を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Zoom を用いたリアルタイム型のオンライン授業です。事前に、提示した資料でカウンセリング理論を学習をしてもらいます。授業当日はキャリアカウンセリングの事例を題材にして、カウンセリング理論に基づいたアプローチについて学びます。この時、グループディスカッションや発表などを行う場合があります。授業後はミニレポートを提出してもらいます。授業の初めに、前回の授業で提出されたミニレポートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアガイダンス等との比較から考える
第 2 回	キャリアカウンセリングの進め方	キャリアカウンセリングを進める 6 つのステップについて学ぶ
第 3 回	カウンセリングの実際 傾聴 来談者中心療法	キャリアカウンセリングで使える代表的な理論について学ぶ（～第 10 回） 傾聴、受容、共感を学ぶ
第 4 回	認知行動療法	認知行動療法について学ぶ
第 5 回	精神分析	精神分析について学ぶ
第 6 回	アドラー心理学	承認欲求にとらわれすぎない生き方働き方を学ぶ
第 7 回	ブリーフセラピー	問題志向／解決志向カウンセリングを学ぶ
第 8 回	マイクロカウンセリング	マイクロ技法の階層表をもとに包括折衷的カウンセリングについて学ぶ
第 9 回	グループ・アプローチ	グループワークの効果を体験する
第 10 回	ナラティブ・アプローチ	ナラティブ・アプローチについて実習を交えて学ぶ
第 11 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー学校	キャリアカウンセリングの活用分野について学ぶ（～第 14 回）学校での事例検討
第 12 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー企業	企業内での事例検討を行う
第 13 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー就労支援	就労支援機関での事例検討を行う
第 14 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー多様性（ダイバーシティ）	女性、障害者などのキャリア開発の支援の事例検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に提示した各種カウンセリング理論の資料を学習してもらいます。授業後は学習したことについてのミニレポートを提出してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにて事前に資料をダウンロードして取得できるようにする。

【参考書】

- ・「キャリアカウンセリング」宮城まり子 駿河台出版社
- ・「キャリア・コンサルティング 理論と実際 カウンセリング、ガイダンス、コンサルティングの一体化を目指して」木村周 社団法人 雇用問題研究会
- ・「新時代のキャリアコンサルティング キャリア理論・カウンセリングリ理論の現在と未来」労働政策研究・研修機構（編）独立行政法人 労働政策研究・研修機構

【成績評価の方法と基準】

各授業でのミニレポート 40 % 期末課題 60 %

（オンライン授業ではミニレポートの提出をもって出席とする）

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムでの質疑についてもリアルタイムで取り上げ補足を行った。事前学習を応用して深く検討できるような双方向の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

After taking this course, you will be able to understand career counseling and development theories, including the following:

- ・interrelationships among and between work, family, and other life roles and factors,
- ・career counseling processes, techniques, and resources

In the fall semester, we will study case studies of employment support, and workplace support.

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅢ 展開科目 (ケーススタディ)

宮脇 優子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：金・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアカウンセリングの様々な事例（ケース）を学習することによってキャリアカウンセリングの実践について学び、キャリアカウンセリングの意義や方法について理解することを目的とする。

まずは、キャリアカウンセリングの基礎的な事項－その独自性や起源・発展の経緯、現代社会においてキャリアカウンセリングが求められている背景・ニーズを学ぶ。

次に、キャリアカウンセラーに求められる能力（技能）や要件、キャリアカウンセリングの具体的な進め方、心理アセスメントや心理学理論の応用を学ぶ。その上で、様々なケースについて学習し、実践への理解を深めることとする。

【到達目標】

・キャリアカウンセリングの基礎的な事項について理解できる

・キャリアカウンセリングのケーススタディを通して

①現代社会の様相、特に働く人々が抱える心理的問題、キャリアカウンセリングへの社会的ニーズを理解できる

②キャリアカウンセリングのケースの見立て方、援助方法の理解・習得ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを利用したオンデマンド方式の授業形式をとり、以下のような進め方になります。

・各回の講義資料を学習支援システムに配信。その資料を読み学習し、各回の課題を学習支援システムに提出していただきます。次回の授業で前回提出された課題についてのフィードバックを行います。質問等についての回答は、学習支援システム上に掲載もしくは配信し、共有します。

・各回に提出する課題は、小レポートとなります。

・第 10 回の講義内容（心理アセスメント）に関連して、希望者はアセスメントツールを体験（可能な情勢であれば、キャリア情報ルームにて希望者はキャリア・インサイトを受検）していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアカウンセリングの定義、他の隣接領域との違いを学ぶ。
第 2 回	カウンセリングの起源と発展	カウンセリングの誕生の背景、キャリアカウンセリングの発展の経緯を学び、キャリアカウンセリングの特徴を理解する。
第 3 回	働く人を取り巻く環境変化とキャリア支援	社会経済・雇用環境の変化の経緯を知り、現代においてなぜキャリア支援が必要とされているのか、支援者であるキャリアカウンセラーへの期待、果たせる役割について学ぶ。
第 4 回	キャリアカウンセラーに必要なとされる能力	キャリアカウンセラーに必要なとされる能力（技能）、要件について学ぶ。
第 5 回	キャリアカウンセリングの具体的展開	キャリアカウンセリングはどのように行われるのか、具体的な進め方、実践方法を学ぶ。
第 6 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ①	ケースの読み取り方、カウンセラーの見立て方を学ぶ。
第 7 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ②	C.R. ロジャーズの理論を学び、若者への就職支援のケースを考察する。
第 8 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ③	キャリア・チェンジを伴う転職支援のケース、職場の人間関係に悩むケースを考察。心理学理論を応用したアプローチを学ぶ。
第 9 回	子育てしながら働く女性への支援	子育てしながら働く女性の現状と支援を学ぶ。
第 10 回	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの活用/ケーススタディ④	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの意義、効果的な活用方法及び職業選択理論を学び、心理アセスメントを活用したケースにて理解を深める。
第 11 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑤	職業性ストレスモデルを学び、職場不適応のケース①を考察する。

第 12 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑥	ストレス、ストレス・コーピングを学び、職場不適応のケース②（管理職編）を考察する。
第 13 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑦	職場におけるメンタルヘルス問題への対応、組織開発とキャリアカウンセリングについてケースを通して学ぶ。
第 14 回	まとめと振り返り	これまでの授業の振り返り及び各回に提出された課題内容についての講評、総括のフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に設定された課題（小レポート）を作成し、学習支援システムに提出していただきます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「働く人へのキャリア支援～働く人の悩みに応える 27 のヒント」

宮脇優子編著 金剛出版

【参考書】

「キャリアカウンセリング入門 人と仕事の橋渡し」

渡辺三枝子＋ E.L. ハー著 ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への取り組み姿勢：小レポート課題の提出状況とその内容）

50%

期末レポート課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

今年度は、より理解しやすい授業コンテンツを目指してさらなる工夫を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料（powerpoint/音声あり）の読み取り・学習のためにパソコンを必要とします。

【その他の重要事項】

担当教員は、人事・教育関連を生業とする民間企業での勤務を経て、民間企業、公的機関において働く人を支援するカウンセラーとして活動を開始し、現在に至っている。キャリアカウンセラーとしての 18 年の経験で支援してきた人は 5,000 人を超える。

これまでの経験をふまえて、今、現実社会で発生している働く人の様々な心理的問題、そしてキャリアカウンセラーの援助の実践について、授業の中で紹介しながら進めていきます。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to understand the importance and methods of career counseling.

The first phase is to understand the basics of career counseling, i.e. its history and the reason why career counseling is required in today's society.

The second phase will focus on the requirements for being a career counselor and the counseling procedures as well as the psychological assessment and the application of psychological theories in this field.

Lastly, we will examine its practical usage by looking into various cases.

EDU200MA

学校論Ⅰ（キャリア形成） 展開科目

松尾 知明

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・1 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校とはどのような場所か、学校で私たちは何を学ぶのか、教師とはいかなる仕事かなど、本授業ではキャリアを形成する場・仕事の場としての学校について考えたい。社会が大きく変化し、教育課題が山積する中で、ライフコースと学校、特別なニーズと学校の視点から、学校とキャリアについて考察する。

【到達目標】

キャリアを形成する場、仕事の場としての学校についての基礎的な知識を得るとともに、自分自身の学校体験を振り返るとともに、理想の学校の企画書を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は Zoom で行い、学習支援システムを活用する。学校というものをキャリア形成の場及び仕事の場という 2 つの側面から捉え、ライフコースと学校、特別なニーズと学校といったテーマに従って追究していく。本授業では、文献や動画などをもとに、グループで意見交換するとともに、テーマの内容について講義を行う。また、学校と私についての発表レジュメ、理想の学校についての企画書を作成し、発表する。授業のなかで課題についての記述をいくつか取り上げフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	学びとは何か	学びの場としての学校
3	ライフコースと学校(1)就学前	就学前の学校・施設での学びとは
4	ライフコースと学校(2)小学校	小学校での学びとは
5	ライフコースと学校(3)中学校	中学校での学びとは
6	ライフコースと学校(4)高等学校	高等学校での学びとは
7	学校と私	学びの履歴
8	理想の学校を構想する	枠組みと構想
9	特別なニーズと学校(1)多様なニーズ	多様なニーズと夜間学校
10	特別なニーズと学校(2)グローバル化	グローバル化と学校
11	特別なニーズと学校(3)不登校	不登校とフリースクール
12	特別なニーズと学校(4)問題行動	問題行動と学校
13	理想の学校を提案する	発表と質疑
14	授業のまとめ	授業の振り返りとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。また、担当のテーマについて調べ、課題に答えたり、レポートを執筆したりする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文献、資料などは指定または配布する。

【参考書】

文部科学省「学習指導要領」。
荻谷恒彦『学校って何だろう－教育の社会学入門』ちくま文庫、2005 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加の姿勢（30 %）、課題（50 %）、テスト（20 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の構成や進め方について工夫する。

【Outline and objectives】

What is a school? What do we learn at the school? What kind of work does the teacher engage at a school? This class explores the school as a place for career formation as well as occupation. As society changes dramatically and educational issues pile up, various themes around the school and careers are examined from the viewpoints of life courses as well as special needs.

EDU200MA

学校論Ⅱ（キャリア形成） 展開科目

大塚 類

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生の初期の大部分を学校で過ごす、という現代社会を生きる以上、キャリア形成に対する学校生活の影響は非常に大きい。学校教育の意味と課題もそこには含まれている。そこで本授業では、本講義は「学校に行くこと／行かないこと」がキャリア形成に及ぼす影響を、一般論だけではなく、個々の生徒一人ひとりの具体的なエピソードを分析するなかで考える。また、教育を「学問」として探求するための手法として、データをつなぎ合わせ、教育問題が具体的に人間のキャリア形成に及ぼす影響について考えることを目指す。

【到達目標】

学校生活のキャリア形成に関する文科省、厚労省の示すデータを読み取れるようになることを目指す。
実際の学校生活に関する事例を読み、自分の意見を表現できるようになることを目指す。
以上の目標を実現することで、学校教育および学校生活がキャリア形成においてどのような影響を与えているのかを多様な観点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

感染症の蔓延状況にもよりますが、Zoom でのライブ型配信と、その授業を録画したオンデマンド型配信（学習支援システムで URL 掲示）を組み合わせで実施します。
なお授業内容については、受講生のニーズ等に合わせてシラバスから変更がありますので、ご了解ください。
本授業では基本的に毎回、講義（80 分程度）とグループでのディスカッション（20 分程度）を実施します。論理的な知識の習得をしたうえで、具体的な分析をおこない、学術的な知見が、現実の具体的な学校現場を理解するうえでどのように有用なのかを理解することを目指します。
授業後には毎回、オンラインリアクションペーパーを書き、その時間ごとに何を理解したのかを表現します。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かします。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要と進め方についての説明
2	学校と他者のまなざし	視線触発という概念を導入し、学校における共同生活の中で他者のまなざしに苦痛を感じるひとの事例を取り上げて考えます。
3	学校における非行	講義者が体験した小学校における非行事例を紹介し、非行の背景にある子どもたちの思いについて考えます。
4	学校と虐待	学校で虐待を見つけ、対処する難しさについて事例と共に考えます。
5	無敵の人を生み出す学校	無敵の人という概念を導入し、目立たない子どもたち・声を挙げられない子どもたちへのケアについて事例に基づき考えます。
6	学校と場面緘黙	場面緘黙について事例と共に考えます。
7	スクールカウンセラーと不登校	不登校について、スクールカウンセラーの語りと共に考えます
8	不登校サバイバーの語り	学齢期における不登校を乗り越えて大学生になったひとたちの語りに基づき、不登校について改めて考えます。
9	児童養護施設の子どものたちにとっての学校	児童養護施設について学んだうえで、そこで暮らす子どもたちにとっての学校について事例に基づき考えます。
10	先生の多忙さ	先生の多忙さという問題について実際の事例に基づき考えます。
11	保護者にとっての学校	学校に関する保護者の語りを手がかりとして、学校と保護者との関係について考えます。

12	優等生の生きづらさ	優等生であることを自覚している人の語りを手がかりに、それぞれの立場での生きづらさがあることに目を向けます。
13	過保護に育てられる生きづらさ	過保護な家庭で育つことがキャリア形成にもたらす負の実態を事例をもとに読み解きます。
14	本講義のまとめ	本講義全体についてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として事例を読んでみてください。その場合は事前に掲示します。
授業後にオンラインリアクションペーパーを書いてもらうので、毎回の授業の復習も兼ねて取り組んでください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

大塚類・遠藤野ゆり共編著（2014）『エピソード教育臨床 生きづらさを描く』創元社
その他は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

オンラインリアクションペーパー 50 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

受講生の興味関心に応じて授業の内容等は若干の調整をおこないます。

【Outline and objectives】

As we spend most of our early life at school, the influence of school life on our career development is very great. The significance and problems of school education are included therein. Therefore, in this class, in this classes we think about the influence of "going to school / not going" on career formation not only in the general theory but also in analyzing each concrete episode of each individual student. As a method to explore education as "academics", we aim to think about the influence of educational problems on human career formation concretely by joining data.

EDU200MA

学校論Ⅲ（キャリア教育） 展開科目

児美川 孝一郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本におけるキャリア教育の現状と課題

【到達目標】

- ① キャリア教育とはなにか、その教育方法はいかにあるべきか、なぜキャリア教育が必要なのか等について、基本的な概念や考え方を理解する。
- ② 日本におけるキャリア教育の登場と展開の経緯について、基本的な事実、データ、社会的背景等を知るとともに、現状における問題点や課題を適切に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

※ 2021 年度の本授業は、学習支援システムを活用した資料配信を軸にしなが、Zoom によるリアルタイム・オンライン授業を補佐的に組み合わせて実施する。

講義形式の授業であるが、可能な範囲で、受講者からの質疑や意見を求めたり、小課題の提出を求めたりする。

諸外国におけるキャリア教育の展開について、比較研究的な視点を持つことは重要であるが、本授業の対象は、主要には日本の学校教育におけるキャリア教育である。諸外国の事例については、日本との対比において参考になる点を示唆するにとどめる。

本授業の守備範囲は、日本におけるキャリア教育の歴史、理論、政策、学校レベルにおける施策である。

提出されたリアクションペーパーや課題等へのフィードバックは、次の授業の最初にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業計画について概説するとともに、基本概念である「キャリア教育」について、本講義における共通理解の前提を確める。
2	職業教育からキャリア教育へ	内外のキャリア教育の成立史を概説し、職業教育とキャリア教育との異同について解説する。
3	権利としてのキャリア教育	いま、なぜキャリア教育が必要なのかという点とかわかって、権利としてのキャリア教育について解説する。
4	日本における職業指導と進路指導	戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史について概説し、それぞれの時期における特徴や問題点について考察する。
5	進路指導改革としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のひとつとして、1990 年代前半の進路指導改革の動きについて概説する。
6	若年就労支援策としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のもうひとつとして、政府レベルでの若年就労支援策の展開について概説する。
7	日本のキャリア教育の現状と課題	キャリア教育の登場以降の学校現場における取り組みを概観し、その特徴と問題点について考察する。
8	職場体験・インターンシップ	キャリア教育への取り組みとしての職場体験・インターンシップについて、現状と課題を考察する。
9	進路指導としてのキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての進路指導について、現状と課題を考察する。
10	教科教育を通じたキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての教科を通じてのキャリア教育について、現状と課題を考察する。
11	キャリア教育を志向した教育課程づくり	キャリア教育を志向した教育課程づくりについて、学校の事例等も示しつつ、考察する。
12	キャリア教育の担い手と組織体制	キャリア教育の担い手と学校内の組織体制のあり方について、現状と課題を考察する。

13	外部との連携	キャリア教育をすすめていくうえで不可欠な外部との連携について、いくつかの事例を踏まえて、考察する。
14	これからのキャリア教育	諸外国におけるキャリア教育への取り組みを紹介しつつ、日本のキャリア教育の現時点での到達点を確認し、今後の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業内容については、前回授業時に予告されるので、自分なりの問題関心を深め、事前に資料・データ等を調べたうえで、授業にのぞむこと。

それぞれの授業時に紹介される参考文献については、自主的に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』明石書店
 児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」でなくなったのか』日本図書センター
 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書
 児美川孝一郎『夢があふれる社会に未来はあるか』ベスト新書
 授業時にも、随時、紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）

学期末試験またはレポート提出（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講者に対するフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】

この授業は、情報の読解・分析力、課題発見・解決力の養成につながる諸課題を、授業運営の中に組み込んでおり、広い意味での受講生の就業力育成に資する。

【Outline and objectives】

This course introduces the current condition and issues of career education in Japan.

EDU200MA

学校論Ⅳ（キャリア教育） 展開科目

寺崎 里水

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校と社会の関係について教育社会的な観点から学び、キャリアの多様性と今日的課題について考える。具体的には、学校教育やキャリアに関する今日の社会事象を、先行研究がどのように「問題」として設定し、議論してきたのかについて学ぶ。

【到達目標】

- ①適切な官公庁統計を探し、内容を理解して利用することができる。
- ②社会事象に対してどのように「問い」が立てられているのか、その立場の違いを理解できる。
- ③他者と協働して行うグループワークを学びの機会として活用できる。
- ④これらの具体的なスキルを通して、学校に主眼を置きながら、社会的な条件によってキャリア形成やキャリア教育の課題が多様であることを理解し、よかれと思ってしていることが、意図せざる結果をうむ可能性があることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面講義とグループワークを用いる。グループワークへの参加は単位取得のための必須条件とする。そのうえでグループごとにレポートを提出する。グループワークに対するフィードバックは、優れた成果を次の講義の冒頭で紹介する形で行う。最終レポートは中間報告時にフィードバックを行う。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明、授業の概要と目的の理解。
第 2 回	社会構造と私たち	「自分の考え」が社会や大人の受け売りになっている可能性に気づき、自分が当たり前だと思っていることを問い直すきっかけをつかもう。
第 3 回	教育と労働力	「規律正しい、訓練された、質のよい労働者」を育てるための学校教育、という目で学校を見てみよう。
第 4 回	グループワーク：100 人の中卒者	官公庁統計データを使って自分自身のキャリアを振り返るグループワーク。
第 5 回	教育格差	地位達成ゲームの今日の状況を読み解こう。
第 6 回	都会と地方	地方にとどまる若者たちをきっかけに、トラッキングについて考える。
第 7 回	グループワーク：教育機会の格差とキャリア形成	官公庁統計をもとに教育機会やキャリア形成の格差について考えるグループワーク。
第 8 回	キャリアイメージの男女差	「男らしい」子育てと女性のフルタイム就労との関係を見てみよう。
第 9 回	学校内部メカニズム	学校のなかの隠れたカリキュラムと進路分化について考える。
第 10 回	グループワーク：男の子の国と女の子の国	子供の頃から見てきた「成功の物語」と現実のギャップを鋭くえぐろう。
第 11 回	小括	グループワークで出てきた論点を整理し、期末レポート執筆課題をみつめる。グループごとの作業
第 12 回	グループワーク①今まで例外的とされてきた事例から、キャリア教育の新しい展開を考える。	
第 13 回	グループワーク②今まで例外的とされてきた事例から、キャリア教育の新しい展開を考える（続）	グループごとの作業の途中経過発表
第 14 回	発表とまとめ	グループワークの成果についてグループごとにレポートをまとめ、提出する。全体の授業の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワーク課題に取り組むためには、一定の授業時間外の予習が必要である。事前に指定された準備をしないグループワークに十分に参加できないので注意すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。グループワークのフィードバックについて、次の授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

グループワーク 3 回 60 %、最終グループレポート 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

自分のすぐ隣にいるかもしれない「普通」の人が抱えているキャリア形成上の大きな問題について理解してください。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業時に授業の進め方について詳しい説明をするので必ず参加してください。

【Outline and objectives】

In this class we are going to learn about the relationship between school and society from the viewpoint of educational sociology and to consider the diversity of today's issues and careers.

EDU200MA

メディア教育論Ⅰ

展開科目

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：木・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、ユネスコの「メディア情報リテラシー」のカリキュラムに基づく理論を学び、メディア分析を行う。具体的には、授業前半で、メディア情報リテラシー教育の重要な概念（シチズンシップ、メディア・情報言語、リプレゼンテーションなど）に関する理論的背景を学ぶ。授業後半では、グループで特定テーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでグループのプレゼンを行うことにより、メディア情報リテラシーの知識やスキルを包括的に習得する。

【到達目標】

多様なメディアの分析を通じて、メディア情報リテラシー教育における 4 つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につけることができる。

グループ活動では、プレゼン資料やおしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

シチズンシップ、メディア倫理、メディア・情報のリプレゼンテーションなど、メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景を、演習を通じて学ぶ。授業の後半では、グループでテーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでプレゼンテーションを行う。なお、グループとテーマについては、履修者が確定した時点でアンケート調査・調整を行い、決定する。

アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、私のメディア史
2	メディア研究の方法	メディア情報リテラシー教育（MILE）の基本概念と分析モデル
3	MILE とシチズンシップ①	メディアの機能と多様性（メディア・リテラシー、図書館リテラシー、コンピュータ・リテラシー、他）
4	MILE とシチズンシップ②	表現の自由と情報の自由、情報へのアクセス
5	メディア倫理①	ジャーナリズムと社会（言論の自由の歴史、プロパガンダ、新聞統制）
6	メディア倫理②	ニュースの価値、報道の価値（なにがニュースになるのか）
7	メディア・情報のリプレゼンテーション①	ニュース報道とイメージの力（ビジュアルの力）
8	メディア・情報のリプレゼンテーション②	多様性とリプレゼンテーションにおけるメディア・コード
9	課題 グループ活動①	グループごとに、各自がテーマについてメディア別に分析した内容をつきあわせる作業を行う。
10	グループ活動②	グループごとに多様性、シチズンシップ、プロパガンダについて、ディベートの内容を整理し、パワポにおおざっぱにまとめる。
11	グループ活動③	グループごとに、プレゼンテーションに関する最終打ち合わせをする。プレゼン資料、おしゃべり原稿の確認など。
12	研究発表① 多様性	多様性に関するテーマのメディア分析 グループ発表 (1)、全体討論、振り返り
13	研究発表② 若者とシチズンシップ	若者とシチズンシップに関するテーマのメディア分析 グループ発表 (2)、全体討論、振り返り

14 研究発表③ プロパガンダ プロパガンダに関するテーマのメディア分析
グループ発表 (3)、全体討論、振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

状況によって、グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。

パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。授業のレジュメ、参考文献等は、その都度授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

個人の課題（分析）提出物（30 %）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む）、授業の出席・参加貢献度（20 %）、個人レポート（50 %）によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ学習でのコミュニケーションツールとして、CQ コモンズのグループウェアを用意したが、気軽には使えないとのこと。簡単なコミュニケーションには、LINE の活用も推奨する。

【学生が準備すべき機器他】

基礎的なパソコンスキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】

本授業を受講する際は、「メディア教育論Ⅱ（メディアと教育Ⅱ）」をセットで履修することが望ましい。

本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室 H を使用している。定員は 26 名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。

最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業 2 回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline and objectives】

Students will learn the theory and practices of "Media and information literacy" that are based on the curriculum of the UNESCO, analyze real media and information contents, and lead presentations/discussions/debates in a group. Examples include the theoretical background of media and information literacy concerning citizenship, media, information language, representation, and so on.

EDU200MA

メディア教育論Ⅱ

展開科目

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マルチメディアを活用したグループによる協働活動を通じて、様々なメディア文化の様式を理解し、メディアの読み解きや制作に関する基礎的なスキルを学ぶ。特に、デジタルストーリーテリングの動画制作を通じてメディアの批判的分析と創造を目指す。

【到達目標】

デジタルストーリーリングの制作を通じて、メディア情報リテラシー教育における4つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景及び実際の学びながら、グループで決定したテーマについて各自がメディア制作（デジタルストーリーリング等の動画）を行い、プレゼンを行う。毎回講義とグループワークを組み合わせる。テーマについては、2・3 回目の授業でアンケート調査を行う。

アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学行動方針レベルが2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、メディア情報リテラシー教育（MILE）とは何か
2	メディア情報言語①	多様なメディア情動的テキストのなかのコードとときまり
3	メディア情報言語②	海外の動画、HP、ポスターで使われるコードの分析と評価
4	広告①	広告規制の分析と適用、収益モデルとしての広告
5	広告②	パブリック・サービス・アナウンスメント（PSA）とはなにか（分析と企画）
6	新旧のメディア①	メディアの歴史、新旧メディアの違い、グループ活動（絵コンテ、ストーリー展開）
7	新旧のメディア②	民主主義社会におけるニュー・メディアの可能性と弊害、グループワーク（ストーリー展開）
8	課題制作①	グループによる素材集め（ビデオ・写真撮影等）
9	課題制作②	グループによるプレゼン資料（パワポ）の作成および動画やデジスト等の制作
10	課題制作③	グループ発表の最終確認（パワポ・動画やデジスト等の最終確認）
11	課題発表①	課題のグループ発表（1）、全体討論（何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする）
12	課題発表②	課題のグループ発表（2）、全体討論
13	課題発表③	課題のグループ発表（3）、全体討論
14	メディアと教育に関する総まとめ	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。

パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし、適時参考資料・レジメを授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

個人による課題制作物（個人のデジスト・動画作品、他授業での課題）（30 %）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む）、授業への参加・出席（30 %）、個人レポート（40 %）によって総合的に評価する。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視され、出席は 80 % を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 4 回以上の欠席）のものは、「グループによる課題制作物、プレゼン、授業への参加・出席（30 %）」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。本授業は「必修」ではないため、欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア（CQ Commons）上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【学生が準備すべき機器他】

基礎的なパソコン・動画作成スキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】

・授業では授業用グループウェアを教員及び学生同士（海外の学生も含む）のコミュニケーションツールとして活用する。

本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室 H を使用している。定員は 26 名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。

最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業 2 回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline and objectives】

Students will analyze media and information contents and create digital-story telling (DST) videos. Producing DST videos through group activities, students acquire the frame of “5Cs” in media and information literacy such as critical thinking, creation, communication, collaboration and global citizenship.

EDU200MA

【2013 以前入学生用】教育マネジメントⅠ

EDU200MA

【2014 以降入学生用】教育マネジメントⅠ 展開科目

福畠 真治

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本来、「教育」というものは、その対象や目的・手段すべてにおいて自由かつ多種多様であり、そこにただ一つの「正解」というものは存在しません。しかしながら、それは（特に学校現場において）教育活動が「何でもアリ」ということも異なります。実際の教育活動の現場において、一貫した方針や計画を立てることなく行き当たりばったりのものであったり、国や自治体の教育政策が目先のできごとへの対応ばかりであったりすると、教育という営みはそもそも成り立たなくなってしまう。したがって、これまで教育学研究（特に教育経営学）の中で様々議論されてきたことや、現在の制度の意義や仕組みを学ぶことによって、学校組織の活動を俯瞰的に捉えられるようになることが本講義の目的の一つになります。

その際に、本講義ではその切り口として、マネジメント一般でよく用いられる「ヒト・モノ・カネ・情報」という視点を採用します。「ヒト＝教員」が学校組織の中でどのような役割を担いながら教育活動を行っているのか、それを「ヒト＝管理職・ミドルリーダー」がどのように支えているのか、そうしたヒトの集まりである組織の特徴や文化、組織活動の基盤となる「カネ＝資源」、そして学校組織内外に影響を及ぼす「情報」、それぞれについて互いに議論をしながら、理解を深め合っていきたいと考えています。

そももう一つの目的は、そうして得られた知見や自身の考えを、これまでの自身の経験と組み合わせることで、教育活動全体を「自分ごと」として捉えていく力を養うことです。その際に、本講義では「母校研究」を通じて、自身が学んできた事柄をこれまでの自身の経験と組み合わせ、「教育をマネジメントする」ことをより深く考察し、「自分ならではのアイデアや捉え方」を身に付けてもらいます。

そうして得られた自身の考え方や姿勢は、教育現場にとどまらず、あらゆる組織における活動にも役立てるものであると考えています。

【到達目標】

本講義では、主に学校経営に関する様々な事象を、「ヒト・モノ・カネ・情報」の視点で捉えた上で、そこで得られた知見や視点を、自身のこれまでの教育に関する経験と組み合わせることで、「自分ならではのアイデアや捉え方」を生み出すことを目指します。

具体的には、本講義で提示された組織に関する様々な枠組みを基に、自身が選択した事例について必要な情報・データを収集・編集して、レポートにまとめることが求められます。また、レポートの内容は、単なる情報の提示だけでなく、上記「授業の概要と目的」の課題に対する一定の示唆の提示を行うことが望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・本講義前半では、講義を中心として主に学校経営に関する学習を行い、後半に「母校研究」を通じてそれら理論・情報をこれまでの自身の経験と組み合わせ、より深い考察を進めていきます。個人の研究やスキル獲得は、各回におけるグループワークなどの協働作業を組み込んで行われます。

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対して紹介とフィードバックを行います。また、内容によっては、さらなる議論につなげます。

・授業方法は、基本的には（1）Zoom を使用してのオンライン授業・（2）資料等の掲示による課題提出、の 2 通りの方法で進めていく予定です。

「（1）Zoom を使用してのオンライン授業」に関して、授業用の URL は授業日までに学習支援システムで掲示します。

「（2）資料等の掲示による課題提出」に関して、資料等は授業時間開始前までに、学習支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方
第 2 回	学校組織の特徴	「組織」とは何か、一般的な組織と学校組織の違い
第 3 回	学校が直面している課題	いじめ問題、子どもの貧困、ICT 教育の推進など
第 4 回	国際調査から日本の教育の特徴を知る	PISA 調査・TALIS 調査の結果からデータの読み取り
第 5 回	学校での「働き方」①	教員の職務内容、同僚性・「チーム学校」の考え方

第 6 回	学校での「働き方」②	教員の養成・研修と評価・職能成長
第 7 回	授業を「マネジメント」する	学習指導要領とカリキュラムマネジメント
第 8 回	学校の組織文化・リーダーシップ	組織文化・リーダーシップの類型やそれぞれの特徴
第 9 回	学校のモノとカネ	教育財政の仕組み、教員の給与、学校の資源管理

第 10 回	あらゆる変化・危機に対応する「組織」	学校安全・組織のレジリエンスについて
第 11 回	「母校研究」～自分の学校で考える～①	自分の学びのキャリアをふり返り、テーマを立てる
第 12 回	「母校研究」～自分の学校で考える～②	講義で得た知見等を用い、受講者と意見交換しながら、調査を進める
第 13 回	レポートの書き方	レポート課題の説明、レポートの書き方について
第 14 回	本講義のまとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「母校研究（調べ学習）」の準備と実施、指定された文献や資料などの読了、レポートの作成が求められます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文献・資料などは、該当授業ごとに指定または配布します。

【参考書】

福澤一吉『議論のレッスン』生活人新書（NHK 出版）
伊丹 敬之『創造的論文の書き方』有斐閣
小川 正人・勝野 正章『教育行政と学校経営』放送大学教育振興会
アンドリュース・ゾリ、アン・マリー・ヒーリー、須川 綾子（翻訳）『レジリエンス 復活力ーあらゆるシステムの破綻と回復を分けるものは何かー』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

各授業におけるリアクション・ペーパー（30 %）、レポート提出（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出等のために、学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

One of the objectives of this lecture is to gain a bird's eye view of the activities of school organizations by learning what has been variously discussed in pedagogical research (especially in educational management) and the significance and structure of current educational systems.

This lecture will adopt the perspective of "people, goods, money, and information," which is often used in management in general, as its starting point. And we will discuss the roles of "people (teachers)" in school organizations and how they are supported by "people (managers and middle leaders)," the characteristics and culture of the organization as a collection of people, "money (resources)" as the basis of organizational activities, and "information" that influences both inside and outside the school organization.

Another purpose is to develop the ability to view educational activities as a whole as "one's own affair" by combining the knowledge and ideas gained in this lecture with one's own experiences to date. Then you will combine what you have learned through "research on your alma mater" with your own past experiences, consider "managing education" more deeply, and acquire "ideas and ways of thinking that are unique to you". I believe that the ideas and attitudes you gain will be useful not only in the field of education, but also in the activities of any organizations.

EDU200MA

【2014 以降入学生用】教育マネジメントⅠ

展開科目

EDU200MA

【2013 以前入学生用】教育マネジメントⅠ

福畠 真治

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本来、「教育」というものは、その対象や目的・手段すべてにおいて自由かつ多種多様であり、そこにただ一つの「正解」というものは存在しません。しかしながら、それは（特に学校現場において）教育活動が「何でもアリ」ということも異なります。実際の教育活動の現場において、一貫した方針や計画を立てることなく行き当たりばったりのものであったり、国や自治体の教育政策が目先のできごとへの対応ばかりであったりすると、教育という営みはそもそも成り立たなくなってしまう。したがって、これまで教育学研究（特に教育経営学）の中で様々議論されてきたことや、現在の制度の意義や仕組みを学ぶことによって、学校組織の活動を俯瞰的に捉えられるようになることが本講義の目的の一つになります。

その際に、本講義ではその切り口として、マネジメント一般でよく用いられる「ヒト・モノ・カネ・情報」という視点を採用します。「ヒト＝教員」が学校組織の中でどのような役割を担いながら教育活動を行っているのか、それを「ヒト＝管理職・ミドルリーダー」がどのように支えているのか、そうしたヒトの集まりである組織の特徴や文化、組織活動の基盤となる「カネ＝資源」、そして学校組織内外に影響を及ぼす「情報」、それぞれについて互いに議論をしながら、理解を深め合っていきたいと考えています。

そももう一つの目的は、そうして得られた知見や自身の考えを、これまでの自身の経験と組み合わせることで、教育活動全体を「自分ごと」として捉えていく力を養うことです。その際に、本講義では「母校研究」を通じて、自身が学んできた事柄をこれまでの自身の経験と組み合わせ、「教育をマネジメントする」ことをより深く考察し、「自分ならではのアイデアや捉え方」を身に付けてもらいます。

そうして得られた自身の考え方や姿勢は、教育現場にとどまらず、あらゆる組織における活動にも役立てるものであると考えています。

【到達目標】

本講義では、主に学校経営に関する様々な事象を、「ヒト・モノ・カネ・情報」の視点で捉えた上で、そこで得られた知見や視点を、自身のこれまでの教育に関する経験と組み合わせることで、「自分ならではのアイデアや捉え方」を生み出すことを目指します。

具体的には、本講義で提示された組織に関する様々な枠組みを基に、自身が選択した事例について必要な情報・データを収集・編集して、レポートにまとめることが求められます。また、レポートの内容は、単なる情報の提示だけでなく、上記「授業の概要と目的」の課題に対する一定の示唆の提示を行うことが望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・本講義前半では、講義を中心として主に学校経営に関する学習を行い、後半に「母校研究」を通じてそれら理論・情報をこれまでの自身の経験と組み合わせ、より深い考察を進めていきます。個人の研究やスキル獲得は、各回におけるグループワークなどの協働作業を組み込んで行われます。

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対して紹介とフィードバックを行います。また、内容によっては、さらなる議論につなげます。

・授業方法は、基本的には（1）Zoom を使用してのオンライン授業・（2）資料等の掲示による課題提出、の 2 通りの方法で進めていく予定です。

「（1）Zoom を使用してのオンライン授業」に関して、授業用の URL は授業日までに学習支援システムで掲示します。

「（2）資料等の掲示による課題提出」に関して、資料等は授業時間開始前までに、学習支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方
第 2 回	学校組織の特徴	「組織」とは何か、一般的な組織と学校組織の違い
第 3 回	学校が直面している課題	いじめ問題、子どもの貧困、ICT 教育の推進など
第 4 回	国際調査から日本の教育の特徴を知る	PISA 調査・TALIS 調査の結果からデータの読み取り
第 5 回	学校での「働き方」①	教員の職務内容、同僚性・「チーム学校」の考え方

第 6 回	学校での「働き方」②	教員の養成・研修と評価・職能成長
第 7 回	授業を「マネジメント」する	学習指導要領とカリキュラムマネジメント
第 8 回	学校の組織文化・リーダーシップ	組織文化・リーダーシップの類型やそれぞれの特徴
第 9 回	学校のモノとカネ	教育財政の仕組み、教員の給与、学校の資源管理

第 10 回	あらゆる変化・危機に対応する「組織」	学校安全・組織のレジリエンスについて
第 11 回	「母校研究」～自分の学校で考える～①	自分の学びのキャリアをふり返り、テーマを立てる
第 12 回	「母校研究」～自分の学校で考える～②	講義で得た知見等を用い、受講者と意見交換しながら、調査を進める
第 13 回	レポートの書き方	レポート課題の説明、レポートの書き方について
第 14 回	本講義のまとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「母校研究（調べ学習）」の準備と実施、指定された文献や資料などの読了、レポートの作成が求められます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文献・資料などは、該当授業ごとに指定または配布します。

【参考書】

福澤一吉『議論のレッスン』生活人新書（NHK 出版）
伊丹 敬之『創造的論文の書き方』有斐閣
小川 正人・勝野 正章『教育行政と学校経営』放送大学教育振興会
アンドリュース・ゾリ、アン・マリー・ヒーリー、須川 綾子（翻訳）『レジリエンス 復活力ーあらゆるシステムの破綻と回復を分けるものは何かー』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

各授業におけるリアクション・ペーパー（30 %）、レポート提出（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出等のために、学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

One of the objectives of this lecture is to gain a bird's eye view of the activities of school organizations by learning what has been variously discussed in pedagogical research (especially in educational management) and the significance and structure of current educational systems.

This lecture will adopt the perspective of "people, goods, money, and information," which is often used in management in general, as its starting point. And we will discuss the roles of "people (teachers)" in school organizations and how they are supported by "people (managers and middle leaders)," the characteristics and culture of the organization as a collection of people, "money (resources)" as the basis of organizational activities, and "information" that influences both inside and outside the school organization.

Another purpose is to develop the ability to view educational activities as a whole as "one's own affair" by combining the knowledge and ideas gained in this lecture with one's own experiences to date. Then you will combine what you have learned through "research on your alma mater" with your own past experiences, consider "managing education" more deeply, and acquire "ideas and ways of thinking that are unique to you". I believe that the ideas and attitudes you gain will be useful not only in the field of education, but also in the activities of any organizations.

EDU200MA

【2013 以前入学生用】教育マネジメントⅡ

EDU200MA

【2014 以降入学生用】教育マネジメントⅡ 展開科目

福島 真治

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育産業、教育 NPO、高等教育機関などを対象に教育業界研究を行う。教育業界についての動向を捉えるとともに、組織マネジメント論の視点に立ち事例研究を進めることで、それぞれのアクターごとの組織運営の特徴を把握する。また、それぞれを独立して捉えるだけでなく、「チーム学校」の文脈で「それぞれがその特質を活かして連携するにはどのような点を考慮すべきか」という課題にも挑戦する。

【到達目標】

教育産業、教育 NPO、高等教育機関等、教育業界研究の動向を捉え、組織マネジメント論の枠組みをもとに、選択した事例について必要な情報を収集しデータを編集して、レポートにまとめることができる。また、レポートの内容は、単なる情報の提示だけでなく、上記「授業の概要と目的」の課題に対する一定の示唆の提示を行うことが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・教育業界を、教育産業、教育 NPO、高等教育機関に分けて、その概要や動向を捉え、組織マネジメント論の視点に立ち事例を検討する。教育業界に関するグループワーク、教育業界研究のレポート、プレゼンテーションを行う。
・本授業は、基本的には（1）対面授業・（2）資料等の掲示による課題提出、の2通りの方法で進めていく。「（2）資料等の掲示による課題提出」に関して、資料等は授業時間開始前までに、学習支援システムにアップする。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対して紹介とフィードバックを行う。また、内容によっては、さらなる議論につなげる。
・課題等の提出に関しては、「学習支援システム」を通じて行う。
大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・テーマ（教育業界の概要と意義について）説明
第 2 回	学校が抱える問題	教員の多忙化など、学校経営に関わる諸問題についての説明
第 3 回	世界から見た日本の教育	国際調査結果を概観した上での、日本と諸外国の教育制度比較
第 4 回	組織マネジメントに関する理論と政策	分析の枠組みの提示（組織マネジメント理論とチーム学校に関する政策紹介）
第 5 回	教育産業とは	概要・事例：ライフイズテック
第 6 回	教育 NPO とは	概要・事例：カタリバ・東京シュール
第 7 回	高等教育機関とは	概要・事例：法政大学
第 8 回	事例調査	教育に関するアクターの中で、特徴的な取り組みや組織運営をしている事例を取り上げ、議論する
第 9 回	調査手法に関して	質的調査を中心に、調査の計画・実行のプロセスの説明
第 10 回	研究レポートの書き方(1)	レポート作成の構成と進め方（先行研究・RQ・分析枠組・結果の提示と解釈）
第 11 回	研究レポートの書き方(2)	論文体裁について（段落構成、引用の仕方、参考・引用文献の書き方）
第 12 回	発想法	「良い問い」を生み出すための様々な手法の紹介とその実践
第 13 回	レポートについての途中経過報告	レポートの進捗に関しての個人発表と、それに関する議論
第 14 回	授業のまとめ	振り返りと学校教育と学校外教育の連携に関する議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。担当テーマのレジュメを作成し発表準備をする。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文献、資料などは、該当授業ごとに指定または配布する。

【参考書】

伊丹 敬之『創造的論文の書き方』有斐閣

小川 正人・勝野 正章『教育行政と学校経営』放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、課題・チーム発表レジュメ及び発表（30 %）、研究レポート及び発表（40 %）、をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・配布した資料を基に、口頭でその説明を行っていく形式が多かったが、より理解しやすくなるよう、スライドや映像資料を積極的に用いながら授業展開していくことを心掛ける。
・どの回においても、適度にグループワークを挟みながら進めており、学生からもおおむね好評であったため、ワークの内容を細かく変えながら、今後も続けていく。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを使用するが、使用の範囲は状況により判断する。

【Outline and objectives】

You make a study of educational industry such as educational NPO and institutions of higher education. You will become to be able to comprehend each feature of organizational management by grasping trend of educational industry and conducting some case studies from the point of view of the organizational management theory. Besides, you challenge the task “What kind of points should we consider in order to cooperate with one another as making the most of each specific character?”.

EDU200MA

【2014 以降入学生用】教育マネジメントⅡ

展開科目

EDU200MA

【2013 以前入学生用】教育マネジメントⅡ

福畠 真治

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育産業、教育 NPO、高等教育機関などを対象に教育業界研究を行う。教育業界についての動向を捉えるとともに、組織マネジメント論の視点に立ち事例研究を進めることで、それぞれのアクターごとの組織運営の特徴を把握する。また、それぞれを独立して捉えるだけでなく、「チーム学校」の文脈で「それぞれがその特質を活かして連携するにはどのような点を考慮すべきか」という課題にも挑戦する。

【到達目標】

教育産業、教育 NPO、高等教育機関等、教育業界研究の動向を捉え、組織マネジメント論の枠組みをもとに、選択した事例について必要な情報を収集しデータを編集して、レポートにまとめることができる。また、レポートの内容は、単なる情報の提示だけでなく、上記「授業の概要と目的」の課題に対する一定の示唆の提示を行うことが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・教育業界を、教育産業、教育 NPO、高等教育機関に分けて、その概要や動向を捉え、組織マネジメント論の視点に立ち事例を検討する。教育業界に関するグループワーク、教育業界研究のレポート、プレゼンテーションを行う。
・本授業は、基本的には（1）対面授業・（2）資料等の掲示による課題提出、の 2 通りの方法で進めていく。「（2）資料等の掲示による課題提出」に関して、資料等は授業時間開始前までに、学習支援システムにアップする。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対して紹介とフィードバックを行う。また、内容によっては、さらなる議論につなげる。
・課題等の提出に関しては、「学習支援システム」を通じて行う。
大学行動方針レベルが2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・テーマ（教育業界の概要と意義について）説明
第 2 回	学校が抱える問題	教員の多忙化など、学校経営に関わる諸問題についての説明
第 3 回	世界から見た日本の教育	国際調査結果を概観した上での、日本と諸外国の教育制度比較
第 4 回	組織マネジメントに関する理論と政策	分析の枠組みの提示（組織マネジメント理論とチーム学校に関する政策紹介）
第 5 回	教育産業とは	概要・事例：ライフイズテック
第 6 回	教育 NPO とは	概要・事例：カタリバ・東京シュール
第 7 回	高等教育機関とは	概要・事例：法政大学
第 8 回	事例調査	教育に関するアクターの中で、特徴的な取り組みや組織運営をしている事例を取り上げ、議論する
第 9 回	調査手法に関して	質的調査を中心に、調査の計画・実行のプロセスの説明
第 10 回	研究レポートの書き方(1)	レポート作成の構成と進め方（先行研究・RQ・分析枠組・結果の提示と解釈）
第 11 回	研究レポートの書き方(2)	論文体裁について（段落構成、引用の仕方、参考・引用文献の書き方）
第 12 回	発想法	「良い問い」を生み出すための様々な手法の紹介とその実践
第 13 回	レポートについての途中経過報告	レポートの進捗に関しての個人発表と、それに関する議論
第 14 回	授業のまとめ	振り返りと学校教育と学校外教育の連携に関する議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。担当テーマのレジュメを作成し発表準備をする。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文献、資料などは、該当授業ごとに指定または配布する。

【参考書】

伊丹 敬之『創造的論文の書き方』有斐閣
小川 正人・勝野 正章『教育行政と学校経営』放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、課題・チーム発表レジュメ及び発表（30 %）、研究レポート及び発表（40 %）、をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・配布した資料を基に、口頭でその説明を行っていく形式が多かったが、より理解しやすくなるよう、スライドや映像資料を積極的に用いながら授業展開していくことを心掛ける。
・どの回においても、適度にグループワークを挟みながら進めており、学生からもおおむね好評であったため、ワークの内容を細かく変えながら、今後も続けていく。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを使用するが、使用の範囲は状況により判断する。

【Outline and objectives】

You make a study of educational industry such as educational NPO and institutions of higher education. You will become to be able to comprehend each feature of organizational management by grasping trend of educational industry and conducting some case studies from the point of view of the organizational management theory. Besides, you challenge the task “What kind of points should we consider in order to cooperate with one another as making the most of each specific character?”.

EDU200MA

教育政策

展開科目

村上 純一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：月・1 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「教育」と「政策」とを結びつけて考える機会は、日常ではあまり多くないかもしれません。しかし、実際にはほとんどの教育活動は「政策」として策定され、それに則って実施されています。この授業では、教育に関する今日の「政策」を俯瞰し、そこに込められた目的や実施上の課題、今後の政策展望などを考えていきます。人のライフキャリアの視点も踏まえ、保育・就学前教育に関する政策から生涯学習政策までの段階に沿いながら今日の教育政策を考察したのち、今日における教育に関する諸問題をそれに関連する政策の観点から考え、理解を深めていきます。

【到達目標】

以下の各点について、当事者の視点で考え、理解できるようになることが目標です。

- 1) 今日の教育政策における課題・問題点
- 2) 公教育をめぐる諸政策の望ましい在り方
- 3) 個々人のライフキャリアにおける各学校段階の意義・役割

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業はオンデマンドでのオンライン講義形式で行います。学習支援システムを活用した質疑応答なども取り入れ、教員の講話一辺倒ではなく双方向のやり取りもある授業となるように努めていきます。また映像資料等も適宜ご紹介し、視聴覚教材を通じた理解の深化も図っていきます。各回の授業においていただいたご質問は翌週の授業でご紹介することでフィードバックし、受講生間でも共有して更なる理解の深化に繋げていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「政策とは何か」を、教育と関連づけて考える。
第 2 回	キャリア教育政策①（進路指導改革としてのキャリア教育政策）	キャリア教育政策草創期の「進路指導改革としてのキャリア教育政策」を概観する。
第 3 回	キャリア教育政策②（職業的・社会的自立のためのキャリア教育政策）	主として 2000 年代以降のキャリア教育政策を、「若者の職業的・社会的自立」の観点から概観する。
第 4 回	保育・就学前教育政策	幼保一元化等の近年の政策動向とも絡めて、保育・就学前教育をめぐる政策を理解する。
第 5 回	初等中等教育政策	初等中等教育（小中高）段階における政策を、教育課程・教員・財政などの視点から理解する。
第 6 回	高等教育政策	大学入試改革など近年の諸改革も含め、高等教育をめぐる政策の変遷を理解する。
第 7 回	社会教育・生涯学習政策	学校外での学び、大人の学びをめぐる政策の動向を理解する。
第 8 回	今日のカリキュラム改革	最新の学習指導要領改訂や道德の「特別の教科」化など、教育課程・カリキュラムに関する最新の政策動向を理解する。
第 9 回	学校の「安心・安全」に関する政策	教育現場の「安心・安全」を守るための政策上の工夫や課題を考える。
第 10 回	いじめ問題に関する政策	「いじめ防止対策推進法」など、いじめ問題をめぐる政策の動向を理解する。
第 11 回	不登校・「子どもの貧困」をめぐる政策	不登校や「子どもの貧困」対策として策定・実施されている諸政策を理解する。
第 12 回	学校の「働き方改革」	教員の過酷な勤務実態と、その改善方策として考案されている政策について理解する。
第 13 回	少子化に関する教育政策	学校統廃合など、少子化に関連する教育政策について理解する。
第 14 回	授業のまとめ	授業全体をふりかえり、今日の教育政策のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回、次の回の内容に関する予習課題を提示します。それに取り組んだ上で授業に参加するようにしてください。また各回の資料の末尾には関連する参考文献リストを添付します。1 冊以上は必ず目を通すようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。各回、スライド資料を配布します。

【参考書】

資料の末尾に、各回の内容に即した参考文献リストを添付します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと学期末レポート、2 つのレポート課題を総合して行います。比率は中間レポート 40 %、期末レポート 60 %です。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業アンケートでは、授業動画の音量が小さかったり、時々早口になって聞きとりにくかったりすることがあったというご感想をいただきました。受講生にとって理解しやすいスピード・ボリュームでの授業を心掛けていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

It seems to be unusual to think about education as a content of public policies. However, almost all of the educational activities are planned as 'policy', and are implemented as such. In this lesson, we overview the educational policies of contemporary Japan and think of their purposes and issues. First, we treat the policy about nursing and pre-school education.

Second, we treat the policy about school education. And, at last, we treat the policy about lifelong education. From the viewpoint of life stages, we consider the public policies of Japanese education.

EDU200MA

現代教育思想

展開科目

岩本 俊一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における教育的諸問題ならびに諸課題を教育の論理に即して分析し、これを通じて教育的なものの見方・考え方ができる力を培うことができるようになることを本講義の概要・目的とする。

【到達目標】

一億総教育評論家と言われるほどに現代社会に流布する常識的な教育論から脱し、現代社会が抱える教育的諸問題を教育の論理に即して理解する手がかりを得ること、そしてさらにそうした諸問題を教育独自の視点の下に考えることができるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式によって行うことを基本とするが、質疑応答の機会を適宜設ける。課題等を課した場合には、その提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに 一本講義の概要とねらい	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第 2 回	序論－教育的なものの見方と考え方について	教育的なものの見方・考え方とはどのようなことか、またその基礎となる教育の論理とはどのようなことかについて論じる。
第 3 回	教育の思想と教育学	人権思想の発展と教育学の成立について
第 4 回	現代社会における教育の諸問題 (1)－「ゆとり教育」と「学力」の問題	あるべき「ゆとり教育」について論じる。
第 5 回	現代社会における教育の諸問題 (2)－公教育における道徳教育の問題	近代公教育における世俗性（ライシテ）の原則と道徳教育の可能性について論じる。
第 6 回	現代社会における教育の諸問題 (3)－「特別の教科 道徳」の問題	上記5を踏まえ、「特別の教科 道徳」（「道徳」の教科化）の問題について論じる。
第 7 回	現代社会における教育の諸問題 (4)－教員養成の問題	教師の「資質」向上をめぐる問題－日本における教員養成政策の変質について論じる。
第 8 回	教育におけるヒューマンイズムの探究 (1)－近代教育思想の展開	近代教育思想の本質とその史的発展について論じる。
第 9 回	教育におけるヒューマンイズムの探究 (2) 子どもの発見	ルソーにおける「子どもの発見」の意味について論じる。
第 10 回	教育におけるヒューマンイズムの探究 (3) ルソーの教育思想の継承と課題	ルソーの教育思想の現代的継承の在り方について論じる。
第 11 回	教育における体罰の問題 (1) 体罰肯定の思想の問題	体罰肯定論－体罰は教育的情熱の発露である－の本質的問題点について論じる。
第 12 回	教育における体罰の問題 (2) 体罰克服の論理	体罰批判の思想を手がかりにして体罰克服の論理を論じる。
第 13 回	本講義を振り返って（質疑応答）	本講義の内容などについて質疑応答を適宜交えてまとめる。
第 14 回	まとめと試験	授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の後に内容をまとめるなど、復習を通じて理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない。

【参考書】

参考文献については必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に行われる試験 100 %で評価する。

平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】

指摘された点については、予測された点多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。

ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline and objectives】

In this class we will examine the issues and challenges surrounding education in present-day society using a pedagogical framework.

The purpose of this examination will be to cultivate the students' ability to conceptualize and think from a pedagogical standpoint.

EDU200MA

生涯学習論Ⅲ（成人教育論Ⅰ） 展開科目

森本 扶

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：木・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代において、人々の学びの場や機会が大きく広がっている。学校教育がとらえる学習概念を超えて、生涯を通じた大人による学びの場づくりが、現代的課題（市民参画、識字、多文化共生、環境問題など）に対応するために不可欠となっている。授業では、現代的課題に対応する大人の学びの場づくりの諸相について理解し、その問題解決に向けて、社会教育・生涯学習がもつ可能性について考察していくことを目的とする。

【到達目標】

社会教育・生涯学習にまつわる現代的問題群を把握し、社会教育・生涯学習行政・制度がそうした問題にどのように対応してきた（している）のかを理解し、さまざまな社会教育・生涯学習実践がもつ意義や課題について解釈できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には毎回教官が用意するプリントをもとに講義形式で進めていく。適宜メモが必要であればとること。時折映像学習を取り入れる。実施方法は基本的に「Hoppii と Google Classroom を使ったオンラインによる録画動画配信（オンデマンド型）」で行います。したがって、開講時間（木曜 4 限）に拘束されるものではありません。具体的には以下です。

- ①毎週、授業時間（木曜 4 限）にあわせて、資料を Hoppii の「教材」に、授業動画を Google Classroom にアップロード
- ②木曜～土曜にかけて資料と動画を使って各自で学習
- ③土曜までにリアクションペーパー（考察や疑問点など）を Hoppii の「課題」にて提出（次回授業動画で詳しくフィードバック）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標・方法・計画を説明
第 2 回	大人の生活とボランティアによる学習	物質的豊かさから精神的豊かさへ、学習・文化活動の広がり、ボランティア活動への関心の広がりボランティア学習など
第 3 回	市民参画型社会とボランティア・NPO・NGO	市民セクターへの注目と NPO の登場・その実態と課題、グローバル化社会における NGO の役割など
第 4 回	企業内教育やリカレント教育による人材開発と生涯学習	OJT・Off-JT・自己啓発、学び直しとリカレント教育の現代的意義など
第 5 回	社会貢献活動を通じた生涯学習	企業労働とは異なる体験を求める会社員たちの姿
第 6 回	教育の「保障」・「補償」としての識字教育	国際的な識字問題の背景と現在、（自主）夜間中学という場の意味など
第 7 回	多文化共生・地域国際交流が切り拓く未来	在留外国人の増加と多国籍化、グローバル化社会と地域国際交流という課題、多文化共生教育の取り組みなど（自主）夜間中学の実際の取り組み、地域国際交流の実際の取り組み
第 8 回	識字教育や多文化共生・地域国際交流の取り組み	発端としての自然保護教育、公害問題
第 9 回	環境問題と持続可能な社会づくりのための生涯学習	学習と環境教育、環境教育思想の国際的展開、今日的環境教育の展開など
第 10 回	大人の学びと開かれた大学	University extension の歴史的伝統、生涯学習社会における高等教育機関の役割、開かれた大学と地域づくりの可能性など
第 11 回	地域における社会教育施設の役割	多様化する学習施設の現状
第 12 回	学芸員による学びのプロデュース	公民館・図書館・博物館の歴史・役割 資料収集、研究、展示のプロとしての学芸員の姿、文化の発信から交流の拠点としての博物館の模索
第 13 回	生涯学習の学習論と学習を支援すること	生涯学習の学習論の系譜について。 ノールズの成人学習論、メジローの認識変容論、エンゲストロームの拡張的学習論など

第 14 回 広がる社会教育・生涯学習の仕事 「民主主義の啓蒙普及」としての社会教育の仕事の歴史や、今日的な社会教育・生涯学習支援のあり方・力量形成など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・下記参考書や新聞等において扱われる社会教育・生涯学習の関連記事に関心を持ち、記事等を収集し感想や意見をまとめておくこと。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、120 分程度。
・社会教育・生涯学習の用語についての理解を深めるよう、復習に努めること。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、120 分程度。
・講義の内容を参照しながら、自分自身の自己実現のために自らの生き方を考えること。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、どれだけ取り組みんでも構わない。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

佐藤一子編（1998）『生涯学習と社会参加』東京大学出版会
川野辺敏・山本慶裕編著（1999）『生涯学習論』福村出版
鈴木真理編（2003）『シリーズ 生涯学習社会における社会教育 1～7』学文社
佐藤一子編（2003）『生涯学習がつくる公共空間』柏書房
佐藤一子（2006）『現代社会教育学』東洋館出版社
上田幸夫・辻浩編著（2009）『現代の貧困と社会教育』国土社
鈴木真理・梨本雄太郎・永井健夫編著（2011）『生涯学習の基礎』学文社
社会教育・生涯学習辞典編集委員会編（2012）『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店
佐藤一子編（2015）『地域学習の創造』東京大学出版会
手打明敏・上田孝典（2017）『〈つながり〉の社会教育・生涯学習』東洋館出版社

【成績評価の方法と基準】

映像学習時の感想文（10 点 × 3 = 30 点）、期末レポート（70 点）およびリアクションペーパーの内容（+ a）による総合評価を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

学校以外の実社会における教育・学習の多様性に気づいたとの意見をふまえ、教育・学習の具体例を示し、新聞やビデオ等の教材なども使いながら、履修者自らの今後の自己実現に資するような授業を展開していく。

【Outline and objectives】

In the present age, people learning places and opportunities are spreading widely. Beyond the learning concepts that school education catches, the creation of a place for learning by adults throughout their lives is essential to respond to contemporary issues. In the class, we aim to understand the various aspects of adult learning places to respond to contemporary issues, and to consider the possibility of social education and lifelong learning towards solving the problem.

EDU200MA

生涯学習論Ⅳ（成人教育論Ⅱ） 展開科目

朝岡 幸彦

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：月・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯学習は多様な担い手によってとりくまれている。学習機会の供給側（組織者・学習機会の提供者）の内容編成や展開の方法を中心に、歴史的、実践的、システムの理解を深め、学習支援の専門性を理解することをねらいとする。

【到達目標】

成人教育をプログラム編成する学習支援者としての専門性を理解し、実際にプログラムを作成する方法・技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

生涯学習の分野では、大学や公共機関とともに、民間の担い手が幅広く活動している実態をふまえ、生涯学習を推進・支援する課題に焦点をあてて考える。これらを通じて学習支援とは何かを考え、実際に学習プログラムを作成し、学習支援の専門性について理解を深める。
毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。
この授業はオンデマンド型・オンライン授業（Zoom で録画したものを授業日に降に Hoppi に掲載）です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育・生涯学習の講座	生涯学習において学習講座とは何か、本授業のねらいと授業計画の概要及び評価について説明する。
2	講座のつくりかた①	学習テーマの設定、学びを深めるプログラムの構成について考える。
3	講座のつくりかた②	講座の準備と運営のポイント、講師や職員の役割について考える。
4	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習①	S. ピンカーらの思想を手がかりに、現代社会の課題と「進歩」について考える。
5	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習②	SDGs とその背景を学ぶことで、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
6	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習③	SDGs ゴール1「貧困をなくそう」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
7	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習④	SDGs ゴール2「飢餓をゼロに」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
8	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習⑤	SDGs ゴール3「すべての人に健康と福祉を」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
9	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習⑥	SDGs ゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
10	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習⑦	SDGs ゴール6「安全な水とトイレを世界中に」を題材に、社会教育・生涯学習が SDGs にどのように取り組むのかを考える。
11	SDGs に向き合う社会教育・生涯学習⑧	SDGs ゴール4「質の高い教育をみんなに」の視点から、これまでのレポートクリニックを行う。
12	講座のつくりかた③	幅広く伝える広報・宣伝の方法について考える。
13	講座のつくりかた④	講座終了後の支援、学びを拓く事業評価の視点について考える。受講者が作成した講座企画案について、発表・講評しながら「よい講座」について考える。
14	教室内期末レポート作成	授業の振り返りをふまえて、課題に即してレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの講読。

授業時ごとに簡単な課題レポート（ワークシート）を作成する。

授業後半に地域課題や学習ニーズについて、データを収集し、各自が講座企画案を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

阿部治・野田恵編著『SDGs の教育 I 貧困・食料・健康と福祉・ジェンダー・安全な水』学文社 2019 年

【参考書】

朝岡・飯塚・井口・谷口編『講座づくりのコツとワザ』国土社 2013 年
社会教育推進全国協議会『社会教育の“しごと”』2005 年
日本社会教育学会編『学びあうコミュニティを培う』東洋館出版社 2009 年
佐藤一子著『現代社会教育学』東洋館出版社 2006 年

【成績評価の方法と基準】

課題のうち①及び④は授業実施日より 5 日以内に提出し、②及び③は課題発題日から提出指定日までに提出してください。

①テキストから課題レポート（ワークシート） 60 %

②学習プログラム作成 20 %

③学習プログラムのポスター作成 10 %

④期末レポート 10 %

【学生の意見等からの気づき】

実際に生涯学習の事業計画を作成する作業をつうじて、単にアイデアだけではなく実際に学習を支援する専門性とは何か、実態に即した気づきがある。グループワークを導入して事業計画のポイントを共有することが重要である。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。

【その他の重要事項】

学習プログラムを必ず作成して提出してください。

【その他】

授業中に出題される課題を提出すること。

【Outline and objectives】

Lifelong learning is engaged by various stakeholders. This class will cover subjects mainly related to the content organization and the development process. Participants of this class will understand the expertise of learning support in a historical, practical and systematical way.

HIS200MA

学習の社会史 A

展開科目

山口 真里

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもはいつの時代にも存在しますが、子どもへのまなざしや社会における位置づけは時代や地域により異なります。同様に、子どもが何を学ぶべきか、その学びがどのように行われるかも一様ではありません。たとえば私たちの社会では、すべての子どもが学校に通って一定の内容を学ぶことが制度化されていますが、こうした学校中心の教育が始まったのは近代になってからのことです。

この授業では、西洋教育史をベースに、子どもにどのようなまなざしが向けられ、学びがどう遂行されてきたのか、また、子どもの学習機関としての学校がいかに成立し発展してきたのかを検討します。そして、私たちの社会で当たり前になっている子ども観や教育、およびそれが抱える問題と、それらの歴史がどのように関わっているのか、深く掘り下げて考えていきます。そうした考察を重ねることで、各自が現在の教育を多角的にとらえ、これからの学びを構想する視点を獲得することを目指します。

【到達目標】

- ・西洋における子ども観や学びの変遷を、その背景にある歴史事象と共に説明できる。
- ・授業で学んだことを生かし、広い視野で現在の教育問題を考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・リアルタイム型のオンライン授業（Zoom 使用）を予定しています。
- ・授業資料を提示しながら授業を進めます。
- ・必要に応じて、Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いたグループディスカッションを行い、受講生同士で意見交換します。
- ・授業内容の理解を深めるために、学習支援システムを利用したリアクションペーパーを実施します。
- ・提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げてフィードバックし、他の受講生がどのように考えたのか共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要や評価の方法の説明 基礎的な概念の説明
第 2 回	近代以前の子育てと徒弟制	中世の共同体における子育て 徒弟制による世代間伝達
第 3 回	中世ヨーロッパの教育	キリスト教教育と大学の誕生 中世における子どもの生活
第 4 回	近代における子どもの発見	近代以前の子ども観とその転換 人口変動と子どもへのまなざしの変化
第 5 回	近代教育思想の形成	ルソー『エミール』の子ども観 コメニウス、ロックの教育思想
第 6 回	近代家族の出現	前近代の家族と子ども 近代家族と子どもの教育
第 7 回	家庭、主婦の誕生と子どもの教育	家庭における女性の位置づけ 女子の教育
第 8 回	子どもと労働	工業化以前の子どもの労働 産業革命と子どもの労働
第 9 回	近代学校の成立と子どもの学び	近代以前の学校 産業革命と近代学校の出現
第 10 回	民衆学校の進展と義務教育	国民教育の成立過程 労働者階級の子ども期の成立
第 11 回	子どもの福祉と教育	保護の対象としての子どもと救済事業 権利主体としての子どもと「子どもの権利条約」
第 12 回	子どもの世紀	「子ども中心主義」と新教育運動 エレン・ケイ『子どもの世紀』
第 13 回	現代の子どもの学びと諸問題	多様化する家族と学校の抱える諸問題 子どもをとりまく諸問題と子ども観の変容
第 14 回	振り返りとまとめ	これまでの復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・配布資料を用いて授業を予習復習し、知識の定着を図ります。
- ・リアクションペーパーを通して授業内容の理解と発展的な考察を深めます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、授業資料を配布します。

【参考書】

授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 60 %、リアクションペーパー 30 %、授業への貢献・平常点 10 % を基準に総合的に評価します。
なお、総授業回数の 2/3 以上の出席を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からのフィードバックを重視して、引き続き授業運営を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布や課題提出に学習支援システム等を利用します。パソコン等、対応できる情報機器を準備してください。

【Outline and objectives】

Views on child depend on time or region, and therefore what kind of learning is encouraged to children and how to do it is also diverse. For example, in the West and Japan, it is modern time that the school began to play a central role in education.

In this class, based on the history of Western education, we will examine childhood and the education of children, and how the school as a child's learning institution has been established and developed.

Then, we will consider the relations between these histories and childhood, the education and problems they have in our society.

And it is the goal that each of us makes their meanings relative and to gain a perspective to conceive of the future.

HIS200MA

学習の社会史 B

展開科目

寺崎 里水

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会を特徴づける要因のひとつとして学習、学歴、試験といった事柄に注目し、個人的なものと考えられている学習意欲が、学歴や試験、学校、学習集団といった社会的なものといかに関わっていったのかを考察する。日本史、日本教育史について、議論の土台となる基礎的な知識を共有するために、復習的に振り返る。

【到達目標】

授業中に学んだ概念、理論をいかし、歴史的事象を説明できる。
日本史、日本教育史の基礎的な知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンラインで授業を行う。あらかじめ指定した文献や資料をもとにオンデマンドで講義を行うが、知識の定着を促すため、ワークシートや小テストを課す場合があること、授業内容に対する質問を掲示板で授業時間内に受けることから、原則として授業時間（リアルタイム）にアクセスすることを求める。また、講義内容によっては、リアルタイムオンラインで、相互の議論を求める場合がある。その場合は事前に告知する。
課題提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法について説明する。社会史とはなにかについて学ぶ。
第 2 回	近代化の影響	日本の近代化を、個人と家族、地域共同体、国家の関係がどのように変質したのかという観点から学ぶ。
第 3 回	近代以前の社会と学習	古代、中世、近世における諸制度と教育機関について学ぶ。とりわけ、近世における経済の発展と庶民の学習に重点を置く。これらを通して近代以降の個人と学習の関係の理解を深める。
第 4 回	試験の社会史	近代日本社会において、試験というシステムがどのように浸透していったのか考える。
第 5 回	学歴の社会史	学歴がなぜ重要視されるようになったのかについて、近代的職業の発達との関連から理解する。
第 6 回	競争と管理の学校史	学校という仕組みのなかに「競争」や「管理」がどのように浸透していったのかを学ぶ。
第 7 回	運動会、ブルマーの社会史	体育と近代の関係を考える。
第 8 回	家庭、主婦の誕生	女性と社会の関係について、家庭、主婦といったことばを手掛かりに考える。
第 9 回	教育家族の誕生	教育熱心な親の誕生、学校と親の関係の変化について考える。
第 10 回	近代化以降の社会の発展と学校教育制度の整備	明治維新後の学校教育制度の整備、発展について、これまで学んだことを制度的に跡付けるかたちでまとめる。とくに産業構造との関係に主眼を置く。
第 11 回	太平洋戦争後の制度改革と教育	戦後の制度改革から今日までの流れを概観しながら、教育制度の変化を学ぶ。
第 12 回	地方都市と教育	近代化以降広がる貧富の差、地方都市と大都市との格差などがどのように政策課題として扱われてきたのかを学ぶ。
第 13 回	大衆と教育	勤労青年と学歴エリートの差に注目しながら、働きながら学ぶ集団の誕生とその意義について学ぶ。
第 14 回	まとめと試験	我々はなぜ学ぶのかについて考え、全体の振り返りを行う。 授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定文献の精読、配布プリント課題を必須とする。日本史の知識が必須なので、各自高校までの内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。必要に応じて指示する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の振り返りミニテスト 40 %、試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の反応を大切にしながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This class aims for students to acquire advanced knowledge about Japanese history through keywords such as school, learning, examination, and family.

EDU200MA

教育社会学 I

展開科目

筒井 美紀

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：木・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、「教育を教育のなかだけで考えない」発想力と、それを支える知識・理解力をパワーアップし、自他のキャリアデザインについて自信をつけます。しかるべき知識と理解力を地道に身につけないと視野が広まらず、どこか自分に自信がないまま。これは多かれ少なかれ、多くの人に当てはまる。そんな自分の殻を突き破ろう。

【到達目標】

- ・「教育のべき論」に飛びつかない——社会的現実を質的／量的データで捉える「ディテール力」の基礎を磨きます。
- ・「社会」のパーツを掘り下げる——「社会」とは天下国家とは限らない。家族、友人関係、バイト先、大学、将来の職場・職業・産業、家族・世帯・地域、AI 化・・・大事な知識と理解を身の回りのことから徐々に広げ、教育と結びつけて考える力を養います。
- ・どんな社会で生きてゆきたいか——自分なりのビジョンを創り上げます。
- ・オンライン・リサーチ力を身につける——ポストコロナ時代、より重要なスキルに！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【授業形態】

2020 年度に引き続き履修者が 50 人以上と見込まれるため、zoom によるリアルタイム型授業を行います。zoom URL は学習支援システムを参照のこと。ブレイクアウトセッションによる学生同士の知識・考察のシェアも毎回行ないます。

【進め方】

この授業は反転授業方式です。指定テキストを読み、この予習レジュメの Question を毎回こなして「授業に参加」のこと。授業は、指定テキストに書かれていることをなぞるではありません。それを発展させ深めます。レポートはコメントを入れて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「森全体」を見渡す
第 2 回	中学校長「二人以上産む最も大切」—どう思う？	社会科学の表現作法を理解する
第 3 回	ダメダメ ES に「ツッコミ」を入れる（第 2 章）	ディテールに普遍性が宿ることを理解する
第 4 回	わが子を未熟にする大人（第 3 章）	「親を突き放す優しさ」について考える
第 5 回	大人が言う「失敗を恐れるな」を信じられる？	教育・業と内的規準の関係を考察する
第 6 回	「キャリア教育」とどう付き合うか？（第 1 章）	キャリア教育の社会的背景を理解する
第 7 回	学部と職業は関係あるの？（第 4 章）	労働と生活の基礎用語を知る
第 8 回	表やグラフの記述と考察（第 4 章）	「見たらわかるでしょ」は禁物、reader-friendly な書き方を学ぶ
第 9 回	給料 2 割減、週 20 時間労働を選ぶ？（第 4 章）	ワーク・ライフ・バランスを実存から考える
第 10 回	どうしても働かなきゃダメ？（第 5 章）	「労働の道德化」について理解する
第 11 回	愛嬌たっぷり先生ロボットは有能か？（第 6 章）	AI の社会的インパクトを考察する
第 12 回	社会には扶けてくれる他者がいる（第 7 章）	支援機関の知識を得て、背負える分だけ背負えばよいことを理解する
第 13 回	期末レポートに向けて	オンラインリサーチの方法を学ぶ
第 14 回	どんな社会で生きてゆきたいか（第 8 章）	習得した知識を総合し自己の社会ビジョンを提示する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私の授業は反転授業方式です。予習レジュメの Question ををこなして授業参加のこと。本授業の準備学習・復習時間は計 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀（2016）『自分の殻を突き破るキャリアデザイン——就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣

【参考書】

筒井美紀（2014）『大学選びより 100 倍大切なこと』ジャパンマニスト社

【成績評価の方法と基準】

中間レポートが 30 %、期末レポートが 70 %

【学生の意見等からの気づき】

みなさん、授業と一緒に楽しみましょう。

【Outline and objectives】

In this class the students are to learn "not to think about education only within education" and to master basic understandings of relevant knowledge and concepts, in order to be confident of career design. Let's get breakthrough.

EDU200MA

教育社会学Ⅱ

展開科目

筒井 美紀

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：木・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

周知のとおり日本社会では、教育・福祉・労働・生活をはじめとしたさまざまな領域で、歪み・軋みが生じています。では一体、どのように再創造していけばよいのでしょうか。現在、自治体と地域が、就労困難者に対してどのような支援や教育訓練を展開しているのかを具体的に学ぶなかで、それをデザインしてゆきます。

【到達目標】

就労困難者への支援や教育訓練というと、「どんなふうに接したら／教えたらいいか」という対人関係の次元が浮かぶことが多いでしょう。これと同時に知恵を絞らなくてはならないのは、人・モノ・かね・情報といった諸資源をどのようにネットワーク化すればよいか、です。このクラスでは、ミクロな次元から、ビジネスや NPO や地域社会、組織や制度へと視野を広げます。加えて、ポストコロナのこの時代、オンラインリサーチ力はますます重要に。この力を鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【授業形態】

履修者数が 50 人未満と予想されるため、原則対面で実施します。ただし、コロナ状況によっては、zoom によるリアルタイム授業に切り替える可能性もあります。

【進め方】

毎回、最初の 1/5 が前回リアベへのリブライ・解説、真ん中の 2/5 が班での議論、最後の 2/5 がミニ発表と筒井の発展的解説、というスタイルです。毎回、ざっくりとした予習課題があり、それをやったうえで身体を教室に運ぶこと。すると班での議論のレベルが上がって盛り上がり、充実感が得られ、実力がつきます。

レポートはコメントを入れて返却します。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	森全体を見渡す日
2	自治体による就労支援とは何か	筒井・櫻井・本田編著（2014）の序章を読み、左記を理解する
3	国の福祉政策・労働政策はどう変わってきたか	筒井・櫻井・本田編著（2014）の第2章を読み、左記を理解する
4	シングルマザーを支援する飲食店	前掲書の第9章を読み、福祉と経営を「両立」させることについて議論する
5	横浜市の生活保護受給者への就労支援	前掲書の第3章第3節を読み、生活保護受給者への就労支援について議論する
6	社会調査と分析のコツ	調査で得たデータがどのように分析・加工され論文となるかを理解する
7	就労支援の民間委託	前掲書の第4章を読み、就労支援の民間委託について議論する
8	豊中市の生活保護受給者への就労支援	前掲書の第8章を読み、自治体の福祉部門と労政部門の連携の難しさについて議論する
9	就労支援の「出口」をどう創るか	前掲書の第7章を読み、中小企業支援について理解する
10	地域のニーズを掘り起こす	前掲書の第10章を読み、ニーズを雇用創出と就労につなげる仕掛けを理解する
11	高齢者と生きづらい若者をつなぐ	前掲書の第5章を読み、協同労働について議論する
12	中間的就労／社会的就労、半福祉・半就労とは何か	前掲書の序章を読み、左記について考察を深める
13	誰もが働き、生きていける社会とは	前掲書の終章を読み、左記について議論する
14	試験の傾向と対策	データ読解に基づく考察展開の書き方を習得する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私の授業は反転授業方式です。テキストを毎回1章読み、予習レジュメの「問い」を解くという準備をして授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著（2014）『就労支援を問い直す——自治体と地域の取り組み——』勁草書房。

【参考書】

授業中適宜指示

【成績評価の方法と基準】

自分が住む自治体の就労支援政策に関する中間レポート 30 %（添削して全員返却）、期末論述試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

毎年この授業の履修者は、将来、教育や支援に関わる仕事に就きたい人、自治体職員を目指す人、教師になりたい人、どんな社会で生きてゆきたいか自分なりのビジョンを確立したい人——などが多いです。

【Outline and objectives】

The Japanese society has been dysfunctioning in the various areas such as education, welfare, labour and life. Then, how should recreate it? The students are to learn how to design better societies through reading and discussing the efforts by some municipalities and local organizations for support of the people with difficulties in work.

EDU200MA

教育経済学

展開科目

荒木 宏子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済学の基礎的な考え方や分析手法を用いて、教育に係る諸問題、とりわけ、皆さんにとって身近な学校や大学での教育の役割や効果について考察を深めることを目的とする。皆さんはなぜ大学へ進学したのでしょうか？なぜ政府は税金を用いて学校を運営するのでしょうか？大学の学費を無償化すると何がおこるのでしょうか？皆さん自身や、さらに次の世代の学び方に係るこれらの問いに対し、論理的な考察を深めるための道具として、経済学の基礎的な概念や手法を学びましょう。

【到達目標】

本講義の主な到達目標は2つあります。ひとつは、皆さんにとって身近な学校教育や大学教育に係る諸問題に対する考察を深めることで、自分の大学生活をとらえなおすきっかけを得ること。もうひとつは、経済学的なものの見方、分析の仕方を身につけ、教育のみでなく広く社会問題を論理的に考察する力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

座学（インプット）に限らず、皆さんからのコメント発表などを、受講人数に応じて取り入れます。座学形式の講義の回も、演習問題やリアクションペーパーの提出を求めます。講義への積極的な参加が求められることを念頭に、履修を決断してください。また、講義期間における、新型コロナウイルス感染症にかかる様々な状況と講師の健康問題等を踏まえ、オンラインでの講義実施（原則、講義時間リアルタイムでの zoom 配信の予定）を含める可能性があります。講義形式については、都度、学習支援システムや講義内にてご説明をします。

課題等に対するフィードバック方法：受講人数にもよりますが、基本的に、レポート等の課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。受講人数が多くなった場合などには、授業時間内やオフィス・アワーを別途設けるなどして、適宜、課題等に関する講評や解説をまとめて行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	教育を経済学で考える。受講希望理由書の提出。
第 2 回	教育の経済学のはじまり	なぜ人は教育を受けるのか？教育の効果やその在り方を経済学的に考える。本講義全般の問題意識。
第 3 回	教育・学歴の経済学的効果（1）	なぜ大学へ行くのか？「消費」と「投資」。人的資本理論をベースに教育の収益率を考える。
第 4 回	教育・学歴の経済学的効果（2）	あなたの大学進学が、「あなた」や「社会」にもたらす経済学的メリット。
第 5 回	教育・学歴の経済学的効果（3）	なぜ大卒者の所得は中高卒者より高いのか？経済学的概念からその理由を考える。
第 6 回	教育の効果に係る経済学的実証分析（1）	世界における教育経済学の系譜と実証研究の紹介。
第 7 回	教育の効果に係る経済学的実証分析（2）	教育・職場での学びが賃金や働き方、仕事以外の生活に与える影響。
第 8 回	コメント発表、討論	講義前半の論点、トピックに係るレポートの提出、コメント発表など。
第 9 回	教育政策の経済学的評価（1）	二つの評価基準：効率性と公平性。
第 10 回	教育政策の経済学的評価（2）	教育の効果とは何か？学力の伸びとは何か？
第 11 回	教育政策の経済学的評価（3）	日本、世界における実証分析の紹介①カリキュラム効果、少人数学級。
第 12 回	教育政策の経済学的評価（4）	日本、世界における実証分析の紹介②学費無償化、教育バウチャー。
第 13 回	教育は何をもたらすのか？	教育への公費支出の意義、教育費支出の国際比較、教育が社会の効率・公平にもたらす影響。
第 14 回	講義のまとめ。期末レポートについて。	講義のまとめと、期末レポートの提出に係る質問等の時間を設ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講人数に応じ講義の形式が変わるため、あくまで想定ですが、下記のような予習、復習を求める可能性があります。
・講義で取り上げた内容に関わる論文、新聞や学術雑誌などでの論考を探し、筆者の主張をまとめた上で、講義で身に着けた観点から自身の考察を述べるレポートの作成。
・講義内容に係る演習問題の回答や、自身の考察をまとめたレポートの提出。
・講義内で上記の発表を行う可能性もあります。
・自主的に課題に取り組む姿勢が求められます。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに用いません。

【参考書】

授業の中で、適宜紹介し、必要に応じて参考資料を作成し配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点：45 %程度（中間レポートや講義内での演習問題・リアクションペーパーへの回答。講義での意見などの積極的な参加。）
期末テストまたはレポート：55 %程度

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

この講義では、経済学の基礎的な概念や分析手法を学習しますが、高校数学以上を用いた解説などを行う予定はありません。予備的な数学の学習などは特に必要ありません。受講人数や参加者の希望により講義内容や形式を一部変更する可能性があります。このため、履修希望者は、第1回の講義に出席し、ガイダンスを聴くとともに、受講希望理由書（200～400字）を学習支援システムより提出していただきます。提出方法は、講義開始の一週間ほど前に学習支援システムよりアナウンスいたします。第1回の講義に出席できない方で履修を希望する方は、事前にメール（hiroko.araki.45@hosei.ac.jp）にて連絡をください。

【Outline and objectives】

In this course we'll learn to employ basic methods in Economics to analyze several subjects on education, with a special focus on topics that are familiar to everyone, such as the role of education and its impact on society and the individual. Why did you decide to enter the University? Why does the government fund the management of schools with taxes? What would happen if education became free for everyone? Economics provides a set of tools for answering to these and many other related questions in a logical way, so let's learn about them.

MAN200MA

外書講読 A (ビジネス)

展開科目

中野 貴之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：水・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文やレポートを執筆する際など、私たちはいろいろな文献を読みます。その際、日本語で書かれた文献だけでなく、英語で書かれた文献まで自由に読めると、私たちが獲得できる知識の範囲は大幅に広がります。この授業では、一人で英語文献を読むのに必要な力を養うことを目的とします。

【到達目標】

英語で書かれた専門的な文献（ジャーナルの文献）を、一人で読めるようになることが目標です。受講者のレベルに合わせて授業内容を編成しますので、英語に苦手意識を持っている人もぜひ受講してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、受講者を指名して、英語文献の解釈または要約を発表してもらいながら進めていきます。取り上げる英文は平易です。科目の性格上、履修可能者数を 30 名に制限します。当該制限数を超過した場合には選抜を行うので、履修を希望する人は必ず第 1 回目の授業に必ず出席してください。

なお、受講者の発言に対して教員が随時コメントし、それらのフィードバックを通じて英文解釈能力の向上および専門知識の獲得を目指していきます。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。また、受講者の英語能力を評価します。
2	Supply and Demand (The World of Economics)	"Supply and Demand"に関する文献を読みます。
3	Japanese Economy(1)	pp. 5-8 を読みます。
4	Japanese Economy(2)	pp. 8-14 を読みます。
5	Japanese Economy(3)	pp. 19-23 を読みます。
6	Japanese Economy(4)	pp. 23-32 を読みます。
7	Japanese Economy(5)	pp. 37-43 を読みます。
8	Japanese Economy(6)	pp. 49-56 を読みます。
9	Japanese Economy(7)	pp. 56-67 を読みます。
10	Berger and Ofek(1995)(1)	多角化の理論を勉強した上で、最初の 1 頁を読みます。
11	Berger and Ofek(1995)(2)	次の 1 頁を読みます。
12	Berger and Ofek(1995)(3)	最後の 2 頁を読みます。
13	Berger and Ofek(1999)(1)	最初の 2 頁を読みます。
14	Berger and Ofek(1999)(2)	後半の 2 頁を読みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語に親しむ機会を増やしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、次のとおりです。

①授業における発言、提出物: 80%

②定期試験: 20%

【学生の意見等からの気づき】

英語を深く読むことができたという意見が多かったので、これまでの方針を継続していきます。受講者はやる気のある人が多いので、教員としてもやりがいのある授業です。

【その他の重要事項】

・英文による学術文献を地道に読んでいく授業ですので、授業に先立つ予習は必須です。当初、文法の解説も行いながら逐語訳を行っていますが、軌道に乗ってきたら、論旨をおさえる形態に変更し、進度を速めます。これらは、受講者の発表によって行うので、積極的に参加してください。

・日本語の世界は「狭い」、海外には「広い」世界が広がっていることを、海外の文献を読むことによって知る機会になれば幸いです。

・受講希望者が 30 名を超えた場合には、受講者の選抜を行います。このため、初回の講義には必ず出席してください。

【Outline and objectives】

If we can read not only Japanese but also literature written in English, the range of knowledge that we can acquire will be greatly expanded. In this lesson, we aim to cultivate the power needed to read the economic literature written in English alone.

MAN200MA

外書講読B（ビジネス）

展開科目

杉原 弘恭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネスに必要な知識の基礎を学びつつ、世界標準化してきている英米のビジネス様式の背景を探ります。Steve Jobs が「アップルは Technology と Liberal Arts の交差点にしようとする」と述べたとき、どれだけの方が理解できたでしょうか？ 翻訳では異訳されてしまいました。また英文契約書が似た意味の動詞を並べて使う意味は？ 原文で理解する意味がそこにあります。また、アメリカでは民間企業でありながら、環境や社会分野での公益提供する Benefit Corporation という新しい会社制度が成立しています。この制度による会社では、そのような対外的な役割を社員の内発的動機づけ Drive や Caring 概念と同期させようとしている傾向が見受けられます。企業をとりまく国際的なマクロ情勢から人間のありようまでを立体的に理解すべく、原典を参照しながら進めて行きます。

【到達目標】

ビジネスに必要な概念をその背景と共にマスターし、キャリアデザインの基本に位置するモチベーション 3.0 などの考え方を理解することを目指します。これらが capable communication, ひいてはいのちの経営の参考になれば幸いです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Reading English Materials on Business です。オンデマンドとし、毎回支援システムの「教材」で配布する講義資料を読み、Reaction Paper（成績評価の項参照）を提出してください。それに対する feedback は主に次の回の冒頭で行います。個別資料は詳細に記述しています。なぜ目で読むことが大事かは第 1 回目の資料でわかります。英語による Communication のための基礎知識、各種用語、短文の原典（原則対訳付き）を学んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際ビジネスの背景にある違いは何から？	Common law と大陸法を知ろう。
第 2 回	英語と日本語の communication 構造	3 層構造を意識する。英文契約書の世界観を知る。
第 3 回	日米欧の経営目的の違いと責任	Liberal Arts と Servile Arts の反映を知る。
第 4 回	4 Management とは 1	経営とは、Supply chain と Value chain, Marketing 等を理解する。
第 5 回	Management とは 2	MBO-S, Co-creation 共創などを理解する。
第 6 回	21 世紀の会計	財務諸表の基礎知識と現在行われている未来志向の会計を知る。
第 7 回	3 つの失敗と組織	市場・政府・ボランティアの失敗、統計の歴史を知る。
第 8 回	21 世紀の会社	会社の基礎知識と Benefit Corporation 等を知る。
第 9 回	AI と雇用	AI の基礎知識と雇用を知る。
第 10 回	働き方 1	非正規雇用のなぜ？ 国際収支、国際法などとの関係を知る。
第 11 回	働き方 2	日米効用慣習比較、変わりゆく日本の雇用慣行を理解する。 Motivation と Brain Science を知る。
第 12 回	経済体制と政治体制	資本主義と社会主義、対応する制度、協同組合とは？

第 13 回 開発経済

最貧国から抜け出すためには？ ビジネス、マネジメントとの関係を知る。

第 14 回 1)The Economist の記事を読み解く 2)Test

1) 応用編：アメリカを理解する、国際貿易などを知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語では専門用語らしい翻訳語が、原語では日常用語であったりすることがままあります。日頃から他に意味はないのか？ Why? What if?（もし～としたらどうなるだろうか）などと考えるクセをつけるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間が標準です。

【テキスト（教科書）】

支援システムの「教材」で、毎回講義録を配布します。

【参考書】

適宜紹介します。関連の国家試験「IT パスポート」には、（本講義を含めて）辞書代わりににも使える『よくわかるマスター IT パスポート試験対策テキスト』（FOM 出版）がお奨めです。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義の Reaction Paper の提出（「テスト/アンケート」を使用、設問下記）80%、最終回の Test(Reaction Paper 方式)20%を予定。

1) 今回の講義で重要だと思われたことは何ですか？（箇条書き）

2) 1) に関する考察・質問・感想・要望など質問

【学生の意見等からの気づき】

図解の説明を詳しくするほか、資料の読みやすさに留意します。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

関連資格： IT パスポート（一番取得しやすい国家試験で、毎月 PC 受験可能）

IT 化した社会で働く社会人に必要な情報・経営・財務分析の基礎知識を持っているかを、国が認定するもので、エントリーシートの項目に取得の有無を入れる企業が増えてきています。本授業で得た知識が活かされます！

【Outline and objectives】

Reading English Materials on Business: What is the meaning of liberal arts as Steve Jobs said, "Apple always try to be at the intersection of technology and liberal arts"? Why does a English contract agreement employ overlapping verbs? What is a benefit corporation in the United States? We will explore their roots and senses of meaning for the sake of capable communication.

MAN200MA

職業選択論Ⅱ

展開科目

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、多様な雇用形態の現状と課題、男女の働き方の現状と課題を考えます。これらは相互に関係しています。働き方の変化は、特に若い世代に大きな影響を与えます。20 代に直面するかもしれない労働問題への理解を深め、現実的な職業選択のあり方をみずから考えられるようになること、さらに、多様な働き方の改善に社会人として自らかかわっていきけるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

雇用形態の多様化および、それが若年期のキャリアに及ぼす影響を理解する。男女の働き方の現状と課題を理解する。
 <まともな働き方>を志向し、実現していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業では現在の若年労働市場や働きかたの現状と問題点の理解をより一層重視します。春学期と同様に、授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを適宜書きます。雇用をめぐる現状を理解した上での考察であることを春学期以上に重視します。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックします。中間レポートと期末レポートの執筆を求めます。授業はオンライン（オンデマンド方式）で行う予定です。詳しくは学習支援システムにて指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介
2	正規雇用と非正規雇用	正規雇用と非正規雇用の違い／雇用契約と処遇
3	雇用ポートフォリオと不本意非正規	雇用ポートフォリオ／多様な働き方の現状と課題
4	企業と労働者の双方から見る非正規雇用	調査結果から見る多様な働き方
5	非正規雇用の処遇改善	無期転換と同一労働・同一賃金
6	派遣労働を考える	派遣労働の特徴と問題点
7	雇用によらない働き方	雇用によらない働き方の特徴と課題
8	中間レポート振り返り	中間レポートの解説
9	長時間労働とワーク・ライフ・バランス	残業の法的根拠と長時間労働の実態、夫婦の生活時間・仕事時間
10	男女の働き方とワークライフバランス（1）	男女雇用機会均等法、育児・介護休業法などの法制度と実態
11	男女の働き方とワークライフバランス（2）	コース別雇用管理、就業継続をめぐる課題
12	男女の働き方とワークライフバランス（3）	事例から見る企業の実情
13	離職・転職を考える	長期安定雇用と転職の現状
14	雇用の保障とキャリアの保障	キャリア権、仕事の限定と無限定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB 版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。課題レポート執筆に向けては、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

- ・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
- ・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
- ・濱口桂一郎（2015）『働く女子の運命』文春新書
- ・森岡孝二（2015）『雇用身分社会』岩波新書
- ・川人博（2014）『過労自殺 第二版』岩波新書
- ・久原穂（2018）『働き方改革』の嘘』集英社新書

・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/
 ・石田真・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就活トラブル Q & A』旬報社

【成績評価の方法と基準】

随時、計 4 回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と中間レポート（配点 20 点）、期末レポート（配点 40 点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が 0～1 回の学生や、いずれかのレポートに代筆や剽窃などの不正行為が判明した学生には、単位を付与しない（E 評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からは、キャリア形成について考えさせられた、身近な問題を考えさせられた、といった感想が見られる。働き方をめぐる現在の変化と皆さんの働き方との関係を、より理解できるように、努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの受講環境を整えておくこと。具体的には、学習支援システムにて指示する。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方、ミニ・レポートについて、中間レポートおよび期末レポートについて等の説明を行いますので、必ず出席すること。「職業選択論Ⅰ」を受講した上での受講が望まれる。

【Outline and objectives】

This course has been designed to provide a basic understanding of the changing labor market and work styles. Main topics are diversification of employment types, long hours of work, work-life-balance, and gender equality.

MAN200MA

人材育成論 I

展開科目

西村 純

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材育成論 I では、ヒトが企業社会の中で多様なキャリア形成を通じて多様な職業能力を獲得することの意義と方法、課題などについて学びます。業種に関わらず事業のサービス業化が進む現代において、組織は人的資源の活用と育成抜きには活動が成り立ちません。他方大半の人々は組織に関わって働くことで生計を維持しています。そこで重要となるのは、ヒトが人材として育成され、また成長していく環境です。その環境の中で人材がキャリア形成を通じて職業能力を形成する現状と課題を学ぶのがこの授業の到達目標及びテーマとなります。

【到達目標】

- (1) 日本の人材育成の方法とその特徴について理解し、そのメリット・デメリットについて自分の言葉で説明することができるようになる。
- (2) 企業が実施する教育訓練がスキル形成やキャリア形成に及ぼす影響を理解し、あわせて労働市場とキャリア形成が多様化している現状とそこで生じている課題についての認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

人材育成論 I では、人材育成について①職業能力を身につける方法（仕事の実践経験、座学など）、②人を育てるために企業が取り組んでいる環境整備（人事・賃金制度や職場環境など）、③社会環境と企業の人材育成の関係について学びます。人材育成論 I では主に企業側から見た人材育成について学びます。授業は講義形式で行います（オンライン）。オンデマンド方式を予定しています。講義の中でコメントペーパーの提出を求めることがあります。コメントペーパーの中からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方や参考文献の指示方法などについての説明
第 2 回	日本の人材育成システムの特徴—国際比較の視点から	国際比較の視点から日本の人材育成の特徴について学ぶ
第 3 回	能力開発とキャリア—これからのキャリア形成	これまでの雇用慣行と能力開発の基本パターンや能力開発の方法について学ぶ
第 4 回	技術革新と技能の変化	技術革新によって企業が求める能力に生じた変化について学ぶ
第 5 回	転職とキャリア形成	転職によるキャリア形成のメリット・デメリットについて学ぶ
第 6 回	性別とキャリア形成	性別職域分離が生まれる背景やそれがキャリア形成にもたらす影響について学ぶ
第 7 回	若者のキャリア形成	若年者のキャリア形成の現状と課題について学ぶ
第 8 回	非典型労働者のキャリア形成	非典型労働者のキャリアや人材育成について学ぶ
第 9 回	高齢化とキャリア形成	高齢化に伴うキャリア形成の変化や課題について学ぶ
第 10 回	ホワイトカラーのキャリア形成	事務系・技術系ホワイトカラーのキャリア形成の特徴や課題について学ぶ
第 11 回	中小企業の労働者のキャリア形成	中小企業の労働市場の特徴や人事管理の特徴について学ぶ
第 12 回	ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成	仕事と家庭の両立が困難な背景やその解決に向けた取組について学ぶ
第 13 回	失業	失業者への再就職支援について学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	講義の内容を振り返り、日本の人材育成の特徴や課題についてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学（改訂版）』有斐閣（2014 年）

【参考書】

佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂（2011 年）

佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣（2016 年）

守屋貴司・中村艶子・橋場俊展『価値創発 (EVP) 時代の人的資源管理:Industry4.0 の新しい働き方・働かせ方』ミネルヴァ書房（2018 年）

【成績評価の方法と基準】

期末の定期試験（80%）

授業中に出すレポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更のためフィードバックできません

【その他の重要事項】

質問等は講義資料に記載するメールアドレスにて受け付けます。

【Outline and objectives】

In this class, students can learn the importance and the way how employees develop their vocational skills and abilities in each organisations. Under the trend toward service economy, human resource development may be indispensable for business activities of firms, while employees also depend on firm to maintain their lives. Main purpose of this class is to learn about environment in which firm train employees and employees develop their skill.

MAN200MA

人材育成論Ⅱ

展開科目

池田 心豪

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材育成論Ⅱでは、人材育成論Ⅰと同様、ヒトが企業社会の中で職業能力を形成することの意義と方法、課題などについて学びます。

【到達目標】

人材育成論Ⅰでの基本理解を踏まえて、性別等労働者の属性別、また業種別、職種別、雇用形態別といったさまざまな切り口から人材育成の実態と課題を認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Zoom を使ったオンライン授業とします。各回の課題について、授業の前半でグループディスカッションを行い、その結果を発表してもらいます。その内容について講師が解説・コメントを加えることで、理解を深めるようにします。

人材育成論Ⅱでは、人材育成論Ⅰで学んだ枠組みをベースにした多様性やバリエーションを書く論的切り口から学びます。雇用形態（正社員とパート、契約、派遣などの非正規）、ホワイトカラー（事務系と技術系）とブルーカラー、大企業と中小企業、男性と女性 若年、中高年者などは各論的切り口の例です。

また人材育成論Ⅰでは主に企業組織の側からみた能力開発や人材育成をみてきました。これに対して、人材育成論Ⅱでは主に働く側からみた「育成」（＝長期の育成としてのキャリア形成）の視点を重視します。同時に人材育成の環境変化をできるだけリアルに把握するために、各種の統計データや調査結果を読み取ることも重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：人材育成論Ⅰの復習と人材育成論Ⅱのねらい	前期の授業内容について受講内容を振り返りながら、後期の問題意識を育てる。
第 2 回	企業の人事管理と人材育成	採用・配置・異動・昇進を通じた人材育成について概要を学ぶ
第 3 回	組織の論理と個人のキャリア	個人のやりたい仕事と会社がやらせたい仕事の関係について学ぶ
第 4 回	日本企業の人材育成の特徴	海外の企業との比較を通じて日本企業の特徴を理解する。
第 5 回	転職型キャリアと能力開発	転職者の能力開発機会について企業内・企業外双方の視点から学ぶ
第 6 回	多様な人材の育成	パート・アルバイト等の非正規社員を含めた人材育成のあり方について学ぶ。
第 7 回	中小企業の人材育成	大企業との対比を通じて中小企業の人材育成の特徴を理解する。
第 8 回	タレントマネジメント	「タレントマネジメント」概念の概要とその背景を学ぶ
第 9 回	若年層の定着と育成	若年層の初期キャリアについて人材育成の観点から学ぶ。
第 10 回	リーダーを育てる	企業経営を牽引する人材の育成について学ぶ。
第 11 回	ライフイベントと人材育成	育児や介護等で働き方に制約のある人材の育成について学ぶ。
第 12 回	プロフェッショナル人材の育成	専門・技術職の人材育成について学ぶ。
第 13 回	学校教育と人材育成	学校教育が企業の人材育成とどのようなかかわりを持っているかを学ぶ。
第 14 回	人材育成論Ⅱの総括	後期の授業の要点をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書・参考文献等を通じて、各回のテーマについて予備的な学習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤厚『組織のなかで人を育てるー企業内人材育成とキャリア形成の方法』有斐閣 2016 年

【参考書】

佐藤博樹・藤村博之・八代充史著『新しい人事労務管理第 5 版』有斐閣 2015 年、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣 2004 年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂 2011 年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 70 % + 中間レポート 20 % + 授業での発言・発表 10 % = 100 %

新型コロナの影響で学期末試験を大学の教室で行えない可能性を考慮し、期末試験は行わないこととします。代わりに期末レポートを課します。中間レポートは学期中に授業の中で課題として出すレポートです。授業の進捗に応じて 1～2 回程度を予定しています。

【学生の意見等からの気づき】

ほぼ毎回の授業で Zoom を使ったオンラインのグループディスカッションをしますので、遅刻は厳禁とします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the significance, method, problems on human resource development in companies.

MAN200MA

産業・組織心理学Ⅰ

展開科目

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：木・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学は、人が働くことを通じて経験する現象について心理学的視点から明らかにしようとするものです。本授業では、講義を通じて産業・組織心理学の主要概念について理解すること、理解を通じて働く人々や自らのキャリアをより良いものとする視点を獲得することを目的とします。

【到達目標】

本授業の到達目的は以下の2点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要概念について理解し、日常の現象についてそれらの概念を用いて説明できるようになること。
- (2) 産業・組織心理学の知見を用いて、自らのキャリアについて展望を持てるようになること。
- (3) 産業・組織心理学の視点から、職場のマネジメントの問題点とその改善策を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業はオンライン形式、かつオンデマンド型とリアルタイム型を組み合わせる形で行います。オンデマンド型とリアルタイム型それぞれの回数は7回程度を予定しています。

オンデマンド回では、あらかじめ録画した動画を配信します。一方、zoomを用いたリアルタイムでの双方向型の授業では、木曜2限にzoomを使った授業を行います。

原則として隔週で、オンラインとオンデマンドを実施しますが、外部講師によるご講演（オンライン）のご予定により、変更が生じる可能性があります。詳しくは第1回の授業の際に説明します。

また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要や進め方、ならびに履修上の注意事項について説明します。
第2回	モチベーション①	モチベーションの内容理論：何がモチベーションを高めるのか
第3回	モチベーション②	モチベーションの過程理論：
第4回	リーダーシップ①	古典的リーダーシップ理論
第5回	リーダーシップ②	今日的なリーダーシップ理論：個別的な関係性の重視
第6回	公平性	公平性の諸理論：人が「公平さ」を感じる仕組み
第7回	職場のコミュニケーション①	コミュニケーション・職場とは何か
第8回	職場のコミュニケーション②	職場のコミュニケーションがもたらす功罪
第9回	個人と組織の関係性①組織社会化	組織への適応としての組織社会化
第10回	個人と組織の関係性②組織コミットメント	個人の組織に対する関与：人が組織にとどまる理由
第11回	個人と組織の関係性③組織エンゲージメント	組織と個人双方が高めあう関係
第12回	個人と組織の関係性④心理的契約	組織と個人の間の暗黙の関係
第13回	個人差を理解する	違いをもたらす要因としてのパーソナリティ
第14回	働きがいと働きやすさ	働きがい・働きやすさを高める仕組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌記事に目を通し、働く人々にとって現在どのようなことが問題になっているかについて知識を獲得するようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

山口裕幸・金井篤子編

『よくわかる産業・組織心理学』2007年、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

ミニ課題（原則毎回） 40 %

途中課題（3回） 30%

期末課題（1回） 30%

いずれも学習支援システム上に提出です。課題は、授業内容についての理解度ならびに、学習した事項に基づいた応用問題です。システムトラブル以外での提出遅延は不可です。

【学生の意見等からの気づき】

zoomでの授業実施時に、これまで授業内容に関する質問を適宜チャットに書き込むようにしていましたが、質問を書き込む時間を取るようになります。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる資料を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】

授業計画は予定となります。1-2回外部講師による講演が入る可能性ならびに進捗状況による変更の可能性あります。

【Outline and objectives】

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, that studies human behavior in the workplace, specifically focusing on managing, supporting employees and aligning employee efforts with business needs..

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

MAN200MA

産業・組織心理学Ⅱ

展開科目

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を説明できるようになること
- (2) 組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
- (3) 自らのキャリアを考える上で重視する人材マネジメントについて語れるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業はオンライン形式、かつオンデマンド型とリアルタイム型を組み合わせる形で行います。オンデマンド型とリアルタイム型それぞれの回数は7回程度を予定しています。

オンデマンド回では、あらかじめ録画した動画を配信します。一方、zoomを用いたリアルタイムでの双方向型の授業では、木曜2限にzoomを使った授業を行います。

原則として隔週で、オンラインとオンデマンドを実施しますが、外部講師によるご講演（オンライン）のご予定により、変更が生じる可能性があります。詳しくは第1回の授業の際に説明します。

また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第2回	キャリアを理解する①	初期キャリアにおいて重要になる職業興味
第3回	キャリアを理解する②	発達段階から捉えるキャリア
第4回	キャリアを理解する③	内的キャリアと外的キャリア
第5回	キャリアを理解する④	キャリアの転機をマネジメントする
第6回	キャリアを理解する⑤	キャリアをサポートする仕組み
第7回	能力を高める①	仕事経験を通じた学習
第8回	能力を高める②	仕事をもたらす一皮むけた経験
第9回	能力を高める③	斜め上の関係：先輩が後輩を支援するメンタリング
第10回	能力を高める④	チームとして機能する職場の力
第11回	健康に働く①	仕事を通じたストレスを理解する
第12回	健康に働く②	企業におけるメンタルヘルスに関する取り組み
第13回	今日のトピックス①	ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
第14回	今日のトピックス②	ダイバーシティとしての女性活用の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」と、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

金井壽宏 働くひとのためのキャリア・デザイン 2002年 PHP 新書
守島基博 人材マネジメント入門 2004年 日経文庫

【成績評価の方法と基準】

ミニ課題（原則毎回） 40 %
途中課題（3回） 30 %
期末課題（1回） 30 %

いずれも学習支援システム上に提出です。課題は、授業内容についての理解度ならびに、学習した事項に基づいた応用問題です。システムトラブル以外での提出遅延は不可です。

【学生の意見等からの気づき】

zoomでの授業実施時に、これまで授業内容に関する質問を適宜チャットに書き込むようにしていましたが、質問を書き込む時間を取るようになります。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いるPPTを事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】

1-2 回外部講師による講演を実施する可能性があります。

【Outline and objectives】

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, especially career development, mental health and diversity management. These are very important topics to future human Resource Management.

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

MAN200MA

キャリア開発論

展開科目

武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：木・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。つまり、個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえます。そのために、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。近年話題のトピックである、「キャリア自律」、「ダイバーシティマネジメント」、「ワークキャリアとライフキャリアのバランス」などを重点的に取り上げます。

【到達目標】

授業を通じて、ビジネスキャリア開発に関する基礎的な理論や知識を習得すること、キャリア開発が企業の人事管理はもとより社会の構造と関連していることについての視点をもつこと、ビジネスキャリア開発の背景にある社会構造について理解すること、を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、ビジネスキャリア開発に関連して、理論等の概説や講義を中心に進めます。
本授業はオンラインで実施し、「オンデマンド」を中心にして「リアルタイム型」を 3-4 程度含める予定です。具体的な予定は、第 1 回の授業で説明するとともに、学習支援システムで連絡をします。
「オンデマンド」の授業では、原則として、テキストと配布資料による学習、動画での説明、を組み合わせで実施します。
毎回出席確認のためのテストもしくはコメントを学習支援システムで提出してください。授業日から 3 日以内の提出を出席とみなします。
授業で使用する資料等は、「学習支援システム」において受講登録者に授業の前に提供します。
課題等に対するフィードバックに関しては、出席確認のためのテストやコメントについては、次の回に授業でフィードバックします。また、授業内で実施するテスト等についても、適宜授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、キャリア開発概論	授業のオリエンテーション、キャリア開発概論
2	キャリア開発とは何か	ビジネスキャリア開発の現状
3	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体は企業か個人か、キャリア開発の主体についての考え方を整理する
4	経営環境とキャリア自律	日本のキャリア開発や働き方の現状、その背景にある日本的雇用システムとその変化の動向
5	ダイバーシティ経営	キャリア開発の新しい動向であるダイバーシティ・マネジメント
6	正社員の多元化とキャリア	正社員の働き方の現状、多元化の動向
7	確認テスト（前半）	授業内に学習支援システムでテストを実施
8	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方をめぐる問題
9	女性のキャリア開発	女性のキャリアをめぐる課題、政策
10	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発の課題
11	介護責任とキャリア開発	介護と仕事の両立、育児との違い
12	非正規雇用とキャリア開発、ブラック企業問題	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題、ブラック企業問題
13	確認テスト（後半）	授業内に学習支援システムでテストを実施
14	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使う資料は学習支援システムを通じて事前に提供します。それをプリントアウトして授業に臨むと円滑に進めます。

【テキスト（教科書）】

テキストは、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う』（2016 年、中央経済社）です。

テキストがあることを前提にして授業を進めるので、必ず購入等をお願いします。

【参考書】

それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、テキストに参考文献が掲載してあります。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。また、授業に関連する内容で文献を知りたいという希望があればいつでも質問をしてください。

【成績評価の方法と基準】

当初定期試験を予定していましたが、試験は実施しません。

評価は、出席（提出された内容も含む）6 割、レポート 4 割で評価します。出席は、毎回授業の終わりに課題や簡単なテストをしてもらい、それで確認します。内容についても評価の対象です。提出期限は土曜日まで、となります。レポートは 2 回提示する予定です。レポートにおいて剽窃が判明した時点で「D 評価」とします。どれだけ出席をしても D 評価になるので、気を付けてください。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からの質問には丁寧に対応しますので、質問があれば積極的にお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

授業はパワーポイントと音声で実施するので、それを受信できるようにしてください。

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will examine how a personal business carrier is developed in the relation with social structure and the employment system. In addition, they will understand a theoretical frame about career development and learn a viewpoint, methodology to approach the current situation of the career development. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.

MAN200MA

リーダーシップ論

展開科目

佐野 達

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・1 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーダーシップに関しては、これまで多くの研究が蓄積されておりリーダーシップ・セオリー・ジャンクルとよばれている。また現代社会において組織・集団などさまざまな場面でのリーダーシップの発揮が期待されており、リーダーシップを有する人材が求められている。

本講義では、リーダーシップ研究の多様なアプローチを紹介し、リーダーシップの基本的な知識を習得してもらう。また、個人と集団の相互影響やリーダーとフォロワーの関係性について講義・演習を通じて考える。本講義を通じて今後どのように自分自身のリーダーシップを開発していくかについて考えてほしい。

【到達目標】

- ・リーダーシップ研究の基礎を理解できる。
- ・グループ・ダイナミクス研究の基礎を理解できる。
- ・リーダーシップやグループ・ダイナミクスの知識を実践する方法について考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- オンライン授業（同時双方向型）を基本とする。
- ・ZOOM 等のオンラインツールを用いて講義形式で行う。
- ・一部の講義では、可能な範囲でグループディスカッションやグループ・ワークを行う予定である。なお、演習ではワークシートを記入し提出する。
- ・課題のフィードバックとして、全体的な概要について講義で解説する。
- ・受講者数等によって変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方や評価方法などについて説明する
第 2 回	リーダーシップとは	あなたが考えるリーダーシップとは？ リーダーシップの定義を紹介する
第 3 回	リーダーシップ研究①特性論	特性アプローチによる研究を紹介する
第 4 回	リーダーシップ研究②行動論	行動アプローチによる研究を紹介する
第 5 回	リーダーシップ研究③条件適合理論	条件適合アプローチによる研究を紹介する
第 6 回	新たなリーダーシップ研究④	交流的アプローチによる研究を紹介する
第 7 回	新たなリーダーシップ研究⑤	組織文化とリーダーシップ、変革型リーダーシップ研究を紹介する
第 8 回	新たなリーダーシップ研究⑥	組織文化とリーダーシップ、変革型リーダーシップ研究を紹介する
第 9 回	新たなリーダーシップ研究⑦	サーバント・リーダーシップ研究を紹介する
第 10 回	メンタリング	リーダーシップとメンタリング、多様性とリーダーシップについて紹介する
第 11 回	グループダイナミクス	個人と集団の相互影響について紹介する。
第 12 回	演習①	ケーススタディ・グループワーク等を行う
第 13 回	演習②	ケーススタディ・グループワーク等を行う
第 14 回	まとめ	講義のまとめを行う。なお、この回に期末試験を実施することがある

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の理解を深めるため事前に参考書等を読んで参加すること

【テキスト（教科書）】

【新版】グロービス MBA リーダーシップ, グロービス経営大学院,(ダイヤモンド社;2014)

【参考書】

最強のリーダーシップ理論集中講義, 小野善生, (日本実業出版社)

リーダーシップ入門, 金井壽宏, (日本経済新聞社)

M.M. チェーマーズ, リーダーシップの統合理論 (北大路書房)

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験 (60 %)

- ・授業内課題ワークシート・レポート等 (40 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業（同時双方向型）に必要な機器

・情報機器（パソコンもしくは大型のタブレット PC を推奨）

・オンライン上でのグループディスカッション等でマイク（Web カメラ付を推奨）を使用する。

・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

・授業中の私語は厳禁する。違反した場合退場を命ずることがある。

・授業内容により、講義をインタラクティブに進めることがある。皆さんの積極的な授業参加を期待する。

【Outline and objectives】

Leadership is the ability to influence a group of people towards a goal. This Leadership class, focuses on understanding seminal and contemporary leadership theories and principles, and also groupdynamics.

In this class students will be aware of their own leadership capacities through worksheet, groupwork and reflection. So, active participation in your own leadership growth will be needed.

MAN200MA

経営統計論 A（心理データ） 展開科目

北村 康宏

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：金・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

注意：

この授業では、産業場面をはじめとする様々な場面の実態把握に重要な役割を果たす統計スキルについて学びます。このようなスキルは各種職業の適性検査、心理テスト、ストレスチェックなどの個人差把握や安全対策の効果測定、意識調査など職場全体の傾向把握で活用されます。実施の際には、調査対象者の行動データや質問紙への回答データを集約し、得られたデータを集計・統計処理を通じて、仮説の検証や傾向を把握するという方法が採られます。この一連のプロセスや、得られた結果の解釈方法を、講義や実習（excel 等のソフトを使用する）を通じて習得します。

【到達目標】

統計データ・統計調査に関する知識を獲得する。
質問紙の作成・データ収集・統計処理など、調査に必要な手続きができるようになる。
代表的な統計分析手法のねらいや仕組みを理解する。
目的やデータに応じた、適切な統計手法を選択できるようにする。
分析結果を正確に解釈（記述）できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、質問紙調査とは何かについて事例を用いながら学習します。その後、質問紙調査の一連のプロセスを統計処理のスキルを含めて獲得していきます。まず、調査のデザイン・調査票の作成・データ取得・集計に関する手順を学びます。次に、得られたデータの整理方法（例：サンプル数、平均値、標準偏差）のスキルを、実習を通じて獲得し、そこから得られる情報とその解釈を学習します。その後、目的に応じたデータ分析を紹介します。質問紙調査においてよく用いられる分析手法として、集団間の比較のための分散分析、変数間の因果関係を把握するための回帰分析、回答者を分類するためのクラスタ分析、質問項目を集約するための因子分析などが用いられており、これらを学んでいきます。また得られた分析結果の解釈スキルの獲得を通じて、信頼性と妥当性の考え方について学習します。毎回、授業の理解度を確認するためのミニテストを課します。ミニテストの解説や回答に対するフィードバックは、次の授業の冒頭で行います。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の目的、授業の進め方等についての説明
第 2 回	質問紙調査	質問紙調査の目的や方法・プロセス・データ整理について、事例を用いた説明
第 3 回	相関と因果	二つのデータの関係性についての解説と実習
第 4 回	平均の比較（1）	回答者集団の差を見出す分散分析を実習
第 5 回	平均の比較（2）	複数の集団間の差を見出す多重比較の方法を実習
第 6 回	回帰分析	データの関連性をモデル化する回帰分析を学習
第 7 回	重回帰分析	複数変数を用いた重回帰分析についての実習
第 8 回	クラスタ分析	回答者の分類方法であるクラスタ分析の解説と実習
第 9 回	因子分析（1）	心理テストなどで用いられる因子分析についての解説
第 10 回	因子分析（2）	データを用いた因子分析の具体的な手続きについての実習
第 11 回	因子分析（3）	分析のコツや信頼性・妥当性の検証方法について解説
第 12 回	信頼性と妥当性	調査手法や分析結果の質について解説
第 13 回	データの解釈	得られたデータの解釈に関する解説
第 14 回	まとめと今後の展望	本授業で学習した内容の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習が時間内に終了しなかった場合、次の授業までに取り組んでおく必要があります。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

小塩真司「SPSS と Amos による心理・調査データ解析 [第 2 版]」
田尾雅夫・若林直樹「組織調査ガイドブック」
斎藤美穂「事例による認知科学の研究入門：R コマンドの活用法と論文の書き方」

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに理解度確認のためのミニテストを課します。また、学期末にレポート課題を課します。以上の合計によって 100 満点にて評価を行い

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本授業を円滑に進行するために授業支援システムを利用しますので、操作に慣れておいてください。

【その他の重要事項】

クラス（教室）の収容人数を超える履修希望が見込まれる場合には、初回に抽選等の方法によって選抜を行います。そのため、必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】

Through this course, students will learn introductory statistics (basic statics, correlations, anova, linear regression analysis, factor analysis and hypothesis testing(t-test)) in business fields, especially on the perspective of safety psychology. Furthermore, Students will learn basic concepts of using statistical models to draw conclusions from survey data.

MAN200MA

企業会計論

展開科目

松本 徹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「黒字決算」、「売上」、「利益」などの用語を聞いたことがあるでしょうか。これらは、就職活動の際に企業の業績・現状を調べたり、あるいは、企業で働く際には必須の知識です。ビジネスキャリアを企業で積んでいく人たちにとっては、これらは一生付き合っていく知識です。この授業では、こうした企業会計の基礎知識を、広く学んでいきます。

【到達目標】

この授業の目標は、企業会計の全領域について、広く浅く学ぶことです。企業会計は、①財務会計（企業の成績を外部に報告すること）、②管理会計（社内で従業員の業績を測ったり、経営戦略を練ったりするために会計を用いること）、③監査（企業の不正を防ぐこと）、④税務会計（企業が法人税を支払うしくみ）および⑤財務分析（企業の成績表を分析し経営戦略に用いること）等に分けられます。これらのすべての領域を学ぶことによって、この授業が終了するときには、企業の活動がはっきりと理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まずは講義プリント（テキストの要約や学習する章に関連する基本的会計用語・時事問題など）の穴埋めをして、その時間に学ぶ概略を理解してもらいます。その際は各自で会計用語や日本経済新聞などのデータを調べることも必要となります。次にそれに基づいて授業内ミニテストを解いて応用力を養ってもらいます。その際に出題される内容は、就職の際にも威力を発揮する現実的な役立ちを意識した問題も含まれます。なおこの講義は、オンライン・オンデマンド型で実施します。つまりそれぞれがいつ学習するかは問いませんが、授業内ミニテストの期限があるため、それに合わせて計画的に学習することが必要になります。課題の総評等については、適宜ポータルサイトを通じて紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	会計の守備範囲	企業会計の対象について学びます。
3	損益計算書 (1)	損益計算書の表示方法について学びます。
4	損益計算書 (2)	収益、費用の測定方法について学びます。
5	貸借対照表 (1)	貸借対照表の表示方法について学びます。
6	貸借対照表 (2)	資産、負債、純資産の評価方法について学びます。
7	会計を取り巻くルール (1)	金融商品取引法、会社法および法人税について学びます。
8	会計を取り巻くルール (2)	会計基準について学びます。
9	会社で生じるコスト	原価計算の基礎を学びます。
10	経営者を助ける会計	予算管理や意思決定をはじめ、管理会計の基礎を学びます。
11	不正防止と会計	公認会計士による監査などについて学びます。
12	会社の支払う税金	法人税の計算について学びます。
13	就職活動を意識した企業分析	就職活動を意識した企業分析について学びます。
14	本講義のまとめ	本講義の学習内容について要約・整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本経済新聞をはじめ、企業の決算に関する記事に注目すると、企業会計に対する理解が進展します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木一司『会計学はじめての一步』第 2 版 中央経済社 その他、必要に応じて講義プリントなどを配付します。

【参考書】

黒川保美『会計学を面白く学ぶ』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %（授業内ミニテスト等）により評価します。期限後の提出については評価しません（大規模なシステム障害以外は、遅れは個人の事情となり考慮しません）ので、期限厳守で早めに取り組むことが必要です。また各自に論じてもらうような設問の場合、他の人とはほぼ同じ答案とみなされる場合やテキストなどの丸写しは不正行為などとみなし得点を与えませんので、自分で調べ自分の言葉で書きましょう。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな会計を学習するため、項目によっては初めて聞く言葉も多いとの意見がありました。そのため、よりわかりやすく身近な事例を取り上げるよう心がけます。

【Outline and objectives】

Basic knowledge of business accounting of the sales and the benefit will be learned at this session. This tuition's purpose is to learn about the reach of the financial accounting and all of wide business accounting as well as a management accounting.

It'll be also useful in case of job hunting.

MAN200MA

経営統計論 B（企業データ） 展開科目

中野 貴之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：水・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、大量の経営・企業データを、パソコンを用いて、整理、集約および分析する方法を学びます。Excel の基本操作から開始し、最終的には、統計学における基本的な検定方法および回帰分析まで学びます。使用するデータは、主に利益および売上等の経済・企業データですが、本演習で獲得できる分析方法は、分野に拘わらず、広く役立ちます。

【到達目標】

統計学の基礎知識を身に付けるとともに、統計を用いた専門的論文を読めるように指導します。高度な統計学は扱いません。あくまで統計分析の基礎を、実践で使えるようになることを目標に置きます。また、経済・経営のデータに精通できるように指導します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報実習室にて、演習形式にて行います。パソコンを用いた分析ですので、統計分析の楽しさを体験しながら、自然に分析手法が身についていくと思います。また、経済・経営のデータに精通できるようになります。また、レポートの提出を求めています。受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	エクセルの基本操作	企業データの処理の基礎として、エクセルの基本操作について学びます。
3	記述統計 (1)	中心的尺度（平均、中位数、最頻値）について、企業データを用いて学びます。
4	記述統計 (2)	ちらばりの尺度（レンジ、分散、標準偏差）について企業データを用いて学びます。
5	記述統計 (3)	標準化（Z 値）について学びます。企業データの大小を相対的に理解できるようになります。
6	記述統計 (4)	2 変量の相関について学びます。企業データの関連性について理解できるようになります。
7	回帰分析 (1)	単回帰について学びます。企業データを一次関数により理解できるようになります。
8	回帰分析 (2)	重回帰について学びます。企業データの決定要因を大変量により理解できるようになります。
9	回帰分析 (3)	ダミー変数、交互作用項について学びます。企業データの決定要因をより詳しく理解できるようになります。
10	回帰分析 (4)	回帰診断について学びます。企業データの回帰結果を正しく診断できるようになります。
11	回帰分析 (5)	回帰分析を用いた、研究論文を読みます。企業データを用いた論文を正確に読めるようになります。
12	各種検定 (1)	平均値、平均差の検定等について学びます。企業データが有意に異なるかどうかについて理解できるようになります。
13	各種検定 (2)	分散比の検定、カイ二乗検定等について学びます。企業データの分散や比率が異なるかどうかについて理解できるようになります。
14	各種検定 (3)	回帰係数の検定について学びます。企業データの回帰の検定について理解できるようになります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さまざまな授業で統計データが取り扱われることが多いと思いますので、それらに関心をもちつつ本講義を受けると、一層効果が高まります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業における発言、取り組み: 30%
- ②授業内および期末レポート: 70%

【学生の意見等からの気づき】

統計学を理解できてよかったという意見が多いので、引き続き受講者に有用な授業を行っていきます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行い、パソコンを用いた演習を行いながら分析手法を身につけていきます。

【その他の重要事項】

- ・本講義は、「キャリア研究調査法（量的調査）」の実践編という位置づけにあります。新しい上級の知識を獲得するというよりは、基礎を十分に復習し、実践を積んで実際に自分で分析できるようになることが目的です。
- ・統計の基礎からはじめていくので、「キャリア研究調査法（量的調査）」を履修していない人でも大丈夫です。
- ・なお、本講義は情報実習室で行うため、履修人数に制限があります。初回の講義には必ず出席してください。履修制限を超えた場合には抽選を行います。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will learn how to analyze corporate data using a computer. Start with the basic operation of MS - Excel, and finally learn the basic test method and regression analysis in statistics. The data used is mainly economic and corporate data such as profit and sales.

MAN200MA

経営組織論Ⅰ

展開科目

梅木 眞

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月・1 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の生活は企業を中心としたさまざまな組織に支えられている。また、我々自身も組織の一員として働き、キャリアを形成している。春学期はミクロな視点＝組織の中の個人に焦点を当てて学んでいく。

【到達目標】

組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。将来企業組織などの一員として、働く人々の生産性を高めるために必要な知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大学の指針に基づき、オンライン（オンデマンド）、講義形式で開講する。学習支援システムを用いて資料の提示・フィードバックなどを行う。ただしコロナ情勢の変化にともなう授業方針の変更があった場合、シラバスの修正を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	個人行動の基礎	企業で働く人々の価値観や態度についての理解を深める
3	個人行動	従業員のものの見方（認知システム）や学習について理解を深める
4	働く人のパーソナリティ	パーソナリティの類型化と人間の感情
5	働く人の感情	パーソナリティや感情を、職務との関連で理解する
6	動機付けの基礎	初期の動機付け理論
7	動機付け理論（1）	現代の動機付け理論/マクレランド理論他
8	動機付け理論（2）	現代の動機付け理論/職務設計理論他
9	動機付けの実践（1）	動機付けの実践/MBO（目標による管理）他
10	動機付けの実践（2）	動機付けの実践/職務設計理論他
11	個人の意思決定（1）	意思決定のメカニズム：合理的意思決定と現実の意思決定
12	個人の意思決定（2）	意思決定の改善のためのツール：どうすれば生産性の高い意思決定を行うことができるか
13	集団行動（1）	集団に関する基礎、グループ・ダイナミクス
14	集団行動（2）	集団による意思決定のメカニズム、どうすれば組織的に良い意思決定を行うことができるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。

皆さんが所属している集団や、これから就職するであろう組織をイメージしながら受講すると、理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ステイブ P. ロビンズ（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上でレポート課題を複数回課し、評価の対象とするので、指示に従ってください。なお、課題評価の際にはテキストや講義内容がきちんと反映されていなければ評価の対象外とする。なお、課題は 2 回程度とし、中間課題 50 %、最終課題 50 %、合計 100 点で評価する予定である。成績評価基準は以下の通りである。

A+

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる

A-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる

B-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。

C 以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。

D 以下

組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

【学生の意見等からの気づき】

学生によってスピードが速すぎる/遅すぎるという指摘がありました。授業の際には確認を取りながら進行していきますが、皆さんの協力をお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて参考資料を配布する場合がありますので、指示に従ってください。

【Outline and objectives】

Our lives are supported by various organizations. We work as a member of the organization and form a career. In Spring term, we focus on individuals within the organization.

MAN200MA

経営組織論Ⅱ

展開科目

梅木 眞

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：月・1 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトを動かし、組織を動かし、成果を出していくためにはどうすれば良いか。機能不全に陥った組織をどうすれば良いか。秋学期は集団、組織、組織間レベルの分析に焦点を当てていきます。

【到達目標】

組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大学の指針に基づき、オンライン（オンデマンド）、講義形式で開講する。学習支援システムを用いて資料の提示・フィードバックなどを行う。ただしコロナ情勢の変化にともなう授業方針の変更があった場合、シラバスの修正を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	チーム	チームを理解する
3	コミュニケーション（1）	コミュニケーションのメカニズム
4	コミュニケーション（2）	コミュニケーションの阻害要因と改善メカニズム
5	リーダーシップ（1）	初期のリーダーシップ理論
6	リーダーシップ（2）	現代のリーダーシップ理論
7	パワーと組織内政治	組織内で行使される力
8	コンフリクト	コンフリクトの定義・分類・活用
9	交渉	組織内外における交渉のメカニズム
10	組織構造	組織構造の基礎と組織デザイン
11	組織文化	組織文化の類型化・文化の形成と業績との関連
12	人材管理	採用・育成・業績評価
13	組織変革と組織開発（1）	組織変革の基本
14	組織変革と組織開発（2）	変革のマネジメントと組織開発の具体的手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。自分だったらどのように考え、行動するか、常に自身に置き換えて考えながら講義に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スティーブン P. ロビンズ（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上でレポート課題を複数回課し、評価の対象とするので、指示に従ってください。なお、課題評価の際にはテキストや講義内容がきちんと反映されていなければ評価の対象外とする。なお、課題は 2 回程度とし、中間課題 50 %、最終課題 50 %、合計 100 点で評価する予定である。成績評価基準は以下の通りである。

A+

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる

A-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる

B-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。

C 以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。

D 以下

組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

【学生の意見等からの気づき】

適切なスピードでの講義を心がけていきますので、皆さんの協力をお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

参考資料を学習支援システムを用いて配布する場合があります。指示に従ってください。

【Outline and objectives】

In this lecture, we study how to influence people, manage organization, and achieve its goal. We focus on group, and organizational, and inter-organizational level.

MAN200MA

戦略経営論Ⅰ

展開科目

木村 琢磨

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

※本授業はオンデマンド動画により行います。
 本講義では、経営学の視点を中心とし、多くの社会人のキャリアデザインの場となる企業の戦略形成や戦略の内容を分析・理解するためのフレームワークを習得することを目的とする。具体的には、企業の経営戦略がどのようなプロセスで決定され、実行されるのか、そのプロセスでどのような課題が生じるか、を分析・理解するためのフレームワークと分析方法を学ぶ。

【到達目標】

以下の能力を習得することにより、戦略経営に関する仮説構築力、データの収集力および分析力を養う。
 ・経営戦略の立案に関する主な理論的フレームワークを理解し、説明できる。
 ・経営戦略の基本的な概念を学術的定義に基づいて説明できる。
 ・経営戦略の理論に基づいて実際の事例を説明できる。
 ・戦略立案のためのデータ分析の主要な方法に関して理論的な説明ができる。
 ・データ分析に用いる基本的な統計用語を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業はオンデマンド動画により講義形式で行う。メイン教材（スライド動画）と予習用教材（文書ファイル）および掲示板等での Q&A を中心として進める。

第 13 回はリアルタイム配信（Web 会議）による Q&A セッションの実施を予定。

課題へのフィードバックは学習支援システム上で行う。選択式は正誤フィードバックを各自に押し送り、記述式は回答傾向に基づき要点をまとめて受講生全員に一括して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の概要と学習方法・成績評価方法について。
第 2 回	価格戦略	利益と費用、最適価格の考え方、価格と価値の関係。
第 3 回	競争戦略	事業戦略の理論（差別化戦略、コスト・リーダーシップ戦略、集中戦略）および事例。
第 4 回	資源ベース視点	資源ベース視点による戦略の考え方、事例。
第 5 回	企業戦略	成長戦略としての多角化戦略の理論。
第 6 回	SWOT 分析	SWOT 分析の方法。例題による実践。
第 7 回	第 1～第 6 回の総括・理解度確認	第 1～第 6 回の要点の理解度を選択式回答と記述回答により確認
第 8 回	ビジネス・アナリティクス	企業経営におけるビッグデータの活用。アナリティクスとは何か。
第 9 回	A/B 分析	カイ自乗検定による施策効果の比較に関する理論と実践例。
第 10 回	記述的アナリティクス	非階層クラスター分析（k 平均法）による顧客のセグメンテーション（理論と実践例）
第 11 回	予測的アナリティクス（1）	重回帰分析による適正価格の予測（理論と実践例）
第 12 回	予測的アナリティクス（2）	ロジスティクス回帰分析による購買契約解除者の予測（理論と実践例）
第 13 回	Q & A セッション	第 8～第 12 回の要点解説と質疑応答
第 14 回	第 8～第 13 回の総括・理解度確認	第 8～第 13 回の要点の理解度を選択式回答と記述回答により確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習用教材と講義スライドによる事前学習（各回の授業はこれらの事前学習をしている前提で行う）。
 ・講義内容の復習（各回。授業は前回までの内容を復習しているものとして行う）。
 ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義スライド、予習用教材（学習支援システム上にて配付）

【参考書】

学習支援システムにて参考文献一覧を配付するので参照すること

【成績評価の方法と基準】

中間試験（配点 50 %）
 期末試験（配点 50 %）
 実施形式：選択式・記述式。参照可
 評価基準：

- ・経営戦略の立案に関する主なフレームワークを論理的に説明できること。
- ・学術的定義に基づいて経営戦略の基本概念を説明できること。
- ・経営戦略の理論に基づいて実際の事例を説明できること。
- ・ビジネス・アナリティクスの主要な方法に関して理論に説明できること。
- ・データ分析に用いる基本的な統計用語を説明できること。

【学生の意見等からの気づき】

・一昨年度までは基礎的内容のみであったが、昨年度から授業外での事前学習を前提とし、より発展的な内容を追加した。そのため全体としてインプットすべき量が昨年度に比べて増えている。
 ・調査法（特に量的調査法）の知識がビジネスにどのように応用されるかを理解できるよう、分析の実践例を講義内容に含めた。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する諸連絡や参考資料の配付は学習支援システムにより行う。

【その他の重要事項】

・授業内課題の提出は学習支援システムを使用して行うため、スマートフォンまたは PC の持参を推奨。希望者には紙媒体で行うので申し出ること。
 ・提出課題の回答内容において他の学生と著しい類似性が見られたときは、該当する学生に対して別途、口述試験により理解度の確認をする場合がある。

【Outline and objectives】

This course focuses on some of the essential issues in strategic management. It will cover basic analytical approaches and some practical examples of firms. It is consciously designed with a technological and global outlook since this orientation in many ways highlights the significant emerging trends in strategic management. The course aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and pragmatic analytical methods that can work as guides to formulate and implement strategies on corporate, business, and functional levels.

MAN200MA

戦略経営論Ⅱ

展開科目

堀田 治

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経営学と心理学の視点を中心とし、多くの社会人のキャリアデザインの間となる企業の戦略形成と実行に用いるフレームワークを習得することを目的とする。具体的には、マーケティング戦略の基本的考え方、消費者理解のための理論を学ぶことにより、戦略構築の理論的基盤を習得する。また、直近の事例に触れ、現実に行き起きている事象を捉えることにより動的戦略論を学び、さらに企業の社会的責任についての新しい潮流についても学習する。

【到達目標】

以下の能力を習得することにより、マーケティング、消費者行動および戦略経営に関する説明力、仮説構築力を養う。

- ・マーケティング戦略の基本概念を説明できること。
- ・消費者行動論の主な理論やモデルを用いて消費者戦略を説明できること。
- ・経営戦略の理論に基づいて実際の事例を理解できること。
- ・企業の社会的責任の基本的な用語を説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

初回ガイダンスはリアルタイムのオンラインで教員紹介をしたのち、講義概要を説明する。第2回以降は講義用スライドと講義資料を事前配布し、当日授業の属する週の木曜日までに小課題（出欠を兼ねる）を提出してもらう形で進める。リアクションペーパーにおける良いコメントは紹介し、全体に対してフィードバックを行う。質問はメールで受け付ける（詳細は【その他の重要事項】を参照のこと）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の概要と学習方法・成績評価方法について
第2回	環境分析	PEST 分析／3C 分析／Five Forces
第3回	ポジショニング・ビュー	不確実性の時代の戦略とは ポジショニングを可視化する
第4回	マーケティング戦略	STP と 4P による製品戦略事例 リレーションシップ・マーケティング と事例／サブスクリプションへの事業 展開と事例
第5回	消費者認知心理	認知とは／システム1とシステム2
第6回	消費者戦略 (1)	ヒューリスティクス／知覚リスク
第7回	消費者戦略 (2)	多属性態度モデル／購買意思決定
第8回	戦略的コミュニケーション	関与と知識／認知的不協和理論 戦略 PR ／ SNS とインフルエンサー
第9回	社会的消費者行動	自己制御／単純接触効果 ステレオタイプと非購買層戦略／クチ コミ
第10回	経営戦略 (1) IT、IoT 技術による経営 戦略の近年の傾向	プラットフォーム戦略／マッチングビ ジネス
第11回	経営戦略 (2)	事例（GAFA ほか） ダイナミック競争戦略論と事例
第12回	経営戦略論の進展 業績管理 KPI と BSC	ダイナミック・ケバビリティとは KPI マネジメント／ KPI の戦略への 組み込み／事例
第13回	企業の社会的責任 (1)	非財務の指標／顧客・業務プロセス、 従業員の学習と成長
第14回	企業の社会的責任 (2)	CSR（企業の社会的責任）とは／ CSV（共有価値の創造）とは SDGs と ESG 投資 コンプライアンス／フィランソロピー ／企業統治 芸術支援の事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・自習用教材および講義スライドによる学習。
・小課題と最終レポートを書くため、資料および講義スライドの繰り返し学習による講義内容の復習。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

授業支援システムにて参考文献一覧を配付するので参照すること

【成績評価の方法と基準】

授業時の課題提出内容 配点 40 %

平常点として小課題回答を提出する。

学期末レポート 配点 60 %

評価基準：

- ・マーケティング戦略の基本概念を説明できること。
- ・消費者行動論の主な理論やモデルを用いて消費者戦略を説明できること。
- ・経営戦略の理論に基づいて実際の事例を理解できること。
- ・企業の社会的責任の基本的な用語を説明できること。

【学生の意見等からの気づき】

新開講科目のため省略

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する諸連絡や参考資料の配付は学習支援システムにより行う。

【その他の重要事項】

- ・戦略経営論Ⅰを履修済であることが望ましい。
- ・質問はメールで受け付け、必要に応じてオンラインで面談も行います。教員アドレスは第1回講義資料に記載します。
- ・最終レポートに加え、小課題への回答が必須です。
- ・小課題提出が出欠を兼ね、出席が少ない場合は採点対象外となります。

【Outline and objectives】

This course focuses on some of the essential issues in strategic management. It will cover basic marketing strategies and consumer behavior theories, and some practical examples of firms. The course is designed to learn dynamic strategy theories by touching on the latest cases, and also learn about new trends in corporate social responsibility. The course aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and pragmatic methods that can work as guides to formulate and implement strategies on corporate, business, and functional levels.

MAN200MA

経営分析論 I

展開科目

中野 貴之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業は、貸借対照表および損益計算書等を公表しています。企業を理解するには、これらの会計報告書を読むことは必須です。この授業では、貸借対照表・損益計算書がどのように作られているのか、その基礎を学びます。さらにそれらの分析方法の基礎を学びます。

【到達目標】

貸借対照表、損益計算書はなぜ公表されているのか、またどのように作られているのか、さらにそれらの分析方法の基礎を習得することを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、オンラインで実施します。Zoom によるライブ授業とオンデマンドを併用していきますが、詳細については、適宜、Hoopi を通じて連絡するので、確認してください。なお、授業は指定テキストを用いるので、生協等を通じて購入しておいてください。また、レポートの提出を頻繁に求めています。受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	現代社会と会計の役割	会計の社会的な意義などについて学びます。
3	簿記・会計の基礎概念	簿記および会計の基礎概念について学びます。
4	複式簿記の基本的手続	会計の記帳、計算方法を学びます。
5	株式会社の機関	株式会社の機関について学びます。
6	日本の企業会計制度	日本の企業会計制度について学びます。
7	損益計算書 (1)	費用収益、営業損益計算について学びます。
8	中間レビュー	第 7 回までの学習内容についてレビューを行います。
9	損益計算書 (2)	経常損益計算、純損益計算、当期業績主義と包括主義、損益計算書の課題について学びます。
10	貸借対照表 (1)	貸借対照表の意義、貸借対照表項目の区分と配列、資産の部について学びます。
11	貸借対照表 (2)	負債の部、純資産の部、貸借対照表の課題について学びます。
12	財務諸表を活用する (2)	効率性、安全性、成長性分析について学びます。
13	財務諸表の分析	財務諸表分析の基礎を概観し、簡単な分析を行います。
14	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・復習をこまめに行うことが知識の定着に有効です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日本大学会計学研究室編『はじめての会計学（第 6 版）』森山書店

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次のとおりです。

(1) 大学の教室で定期試験を実施できる場合（原則）

① （参照不可）定期試験: 90%

② 授業内の Quiz、レポート: 10%

(2) 大学の方針により、大学の教室で定期試験を実施できない場合

① オンラインによる試験: 50%

② 授業内の Quiz、レポート: 50%

【学生の意見等からの気づき】

・抽象度の高い概念について、具体的な事例を用いた説明をすることを心がけます。

・また、事例を多く取り上げ、受講者が主体的に取り組めるように工夫します。

【その他の重要事項】

・「企業会計論」を学ぶと、本講義の内容を一層よく理解できます。

・本講義は、経営分析 II の基礎となります。会計学は専門性が高いですが、一度身に着けると、ずっと使うことができるやりがいのある勉強です。

【Outline and objectives】

Listed Companies publish financial statements. It is essential to be able to read these financial statements in order to understand companies. In this lesson, you will learn the basics of how the balance sheet and the income statement are made. We will also learn the basics of analysis methods.

MAN200MA

経営分析論Ⅱ

展開科目

中野 貴之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：月・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

・経営分析の方法は、米国を中心に体系的に発展してきているため、専門性が高く、難しいと感じるかもしれません。その理解には、積み重ねが重要ですので、遅刻・欠席をしないように心掛けてください。

【Outline and objectives】

This lecture aims at mastering method of business analysis.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、「経営分析論Ⅰ」の続きです。具体的な企業分析の手法の習得、また、現実的な場面への適用が主な内容です。

【到達目標】

経営分析論Ⅰの続きですが、本講義は経営分析を独力で行うことができるようになることが目標です。それには練習が必要です。したがって、経営分析論Ⅰに比べ作業量が多く、大変ですが、よりやりがいもあります。経営分析は、ビジネスパーソンにとって必須ですので、この授業にまじめに取り組めば大学卒業後もずっと使うことができる有用な知識を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていききますが、経営分析の演習を多く行っていきます。また、分析のレポートを作成してもらい、フィードバックをしながら、分析能力を高めていきます。このため、受講者が主体的に取り組む授業として位置づけられます。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	会計情報をめぐる制度および当事者	会計情報をめぐる法規および諸基準、ならびに、公認会計士、税理士および税務当局等の役割について学びます。
3	有価証券報告書の利用	上場企業の代表的な情報源である、有価証券報告書の収集方法と内容を理解します。
4	記述情報の分析	有価証券報告書等の記述情報（非財務情報）の分析方法について学びます。
5	収益性の分析（1）	資本利益率を基礎として、企業全体の収益性分析について学びます。
6	収益性の分析（2）	投下資本別に収益性分析を詳しく行う手法について学びます。
7	収益性の分析（3）	セグメント情報の分析について学びます。
8	中間レビュー	第7回までの講義内容についてレビューします。
9	収益性の分析（4）	効率性分析について学びます。
10	生産性分析	付加価値の概念および生産性分析について学びます。
11	安全性の分析（1）	貸借対照表に基づく安全性分析について学びます。
12	安全性の分析（2）	企業の事業リスク、財務リスクの分析について学びます。
13	会計情報と証券市場	会計情報と証券市場の関係について学びます。
14	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業外で経営分析を行うことが習得の早道です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日本大学会計学研究室編『はじめての会計学（第6版）』森山書店

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次のとおりです。

- ① 定期試験（参照不可）：60%
- ② 平常点（授業内のレポート、Quiz）（40%）

【学生の意見等からの気づき】

演習に積極的に取り組むように、レポートのフィードバックを積極的に行うようにします。

【その他の重要事項】

・「企業会計論」を学ぶと、本講義の内容を一層よく理解できます。同科目を履修済でない場合には、同時履修することを勧めます。

MAN200MA

【2013 以前入学生用】アント
レプレナーシップ論Ⅰ

MAN200MA

【2014 以降入学生用】アント
レプレナーシップ論Ⅰ 展開科目

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目指している。新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。大手企業へ就職、起業家を志す者いづれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】

- ①新規事業の創造に必要なイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。講義・講義では After コロナの社会の変化、業界トレンドに関する情報も提供する。企業がコロナの影響を受けてどのような課題に直面しているのかに触れ、新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。授業でのリアクションペーパーは Google フォームへの入力によって提出とし、フォームへの入力を持って出席を確認する。学生同士のフィードバックに関してはメールにて展開する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義 1	After コロナの社会について。価値観の変化やこれからの社会・産業に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義 2	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 1
第 4 回	ワークショップ 1- 1	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 5 回	ワークショップ 1- 2	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする
第 6 回	発表・振り返り 1	社会人・起業家に対してアイディアを発表する
第 7 回	講義 3	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 2
第 8 回	ワークショップ 2- 1	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 9 回	ワークショップ 2- 2	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする
第 10 回	発表・振り返り 2	社会人・起業家に対してアイディアを発表する 2
第 11 回	講義 4	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 3
第 12 回	ワークショップ 3- 1	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 13 回	ワークショップ 3- 2	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする

第 14 回 発表・振り返り 3

社会人・起業家に対してアイディアを発表。アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News など事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ ビジネスプラン（発表・資料）20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業のオンライン化に伴って連絡手段が難しいとの意見をいただいています。メール等での連絡をスムーズにするため、履修希望者には事前に Google フォームでのアンケートに回答してもらう予定です。

【学生が準備すべき機器他】

【履修の条件】

- 1：自分の PC を持っていること
～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
- 2：自宅等で WiFi 環境があること
～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
- 3：Google アカウントを作ること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業を行ってもらいます。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答いただきます。起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to foster entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurial managers who start new businesses at large companies). In this class students will understand the abilities required as an entrepreneur by going through the case of new business creation.

For those seeking employment at major companies or to become an entrepreneur, this class, through group working, will also cultivate the mindset and learn how new businesses are created.

MAN200MA

【2014 以降入学生用】アント
レプレナーシップ論Ⅰ 展開科目

MAN200MA

【2013 以前入学生用】アント
レプレナーシップ論Ⅰ

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目指している。新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。大手企業へ就職、起業家を志す者いづれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】

- ①新規事業の創造に必要なイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。講義・講義では After コロナの社会の変化、業界トレンドに関する情報も提供する。企業がコロナの影響を受けてどのような課題に直面しているのかに触れ、新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。授業でのリアクションペーパーは Google フォームへの入力によって提出とし、フォームへの入力を持って出席を確認する。学生同士のフィードバックに関してはメールにて展開する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義 1	After コロナの社会について。価値観の変化やこれからの社会・産業に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義 2	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 1
第 4 回	ワークショップ 1- 1	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 5 回	ワークショップ 1- 2	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする
第 6 回	発表・振り返り 1	社会人・起業家に対してアイディアを発表する
第 7 回	講義 3	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 2
第 8 回	ワークショップ 2- 1	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 9 回	ワークショップ 2- 2	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする
第 10 回	発表・振り返り 2	社会人・起業家に対してアイディアを発表する 2
第 11 回	講義 4	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 3
第 12 回	ワークショップ 3- 1	グループディスカッションでアイディアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 13 回	ワークショップ 3- 2	グループディスカッションで個人のアイディアをアウトプットする

第 14 回 発表・振り返り 3

社会人・起業家に対してアイディアを発表。アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News など事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ ビジネスプラン（発表・資料）20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業のオンライン化に伴って連絡手段が難しいとの意見をいただいています。メール等での連絡をスムーズにするため、履修希望者には事前に Google フォームでのアンケートに回答してもらう予定です。

【学生が準備すべき機器他】

【履修の条件】

- 1：自分の PC を持っていること
～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
- 2：自宅等で WiFi 環境があること
～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
- 3：Google アカウントを作ること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業を行ってもらいます。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答いただきます。起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to foster entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurial managers who start new businesses at large companies). In this class students will understand the abilities required as an entrepreneur by going through the case of new business creation.

For those seeking employment at major companies or to become an entrepreneur, this class, through group working, will also cultivate the mindset and learn how new businesses are created.

MAN200MA

【2014 以降入学生用】アント
レプレナーシップ論Ⅱ

展開科目

MAN200MA

【2013 以前入学生用】アント
レプレナーシップ論Ⅱ

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目指している。コロナ後の世界で何が求められるのか新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。

大手企業へ就職、起業家を志す者いづれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】

- ①新規事業の創造に必要なイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べるができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

後期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。

ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義では **After** コロナの社会の変化、業界トレンドに関する情報も提供する。企業がコロナの影響を受けてどのような課題に直面しているのかに触れ、新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。

授業でのリアクションペーパーは Google フォームへの入力によって提出とし、フォームへの入力を持って出席を確認する。学生同士のフィードバックに関してはメールにて展開する予定。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義 1	After コロナの社会について。価値観の変化やこれからの社会・産業に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義 2	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 1
第 4 回	ワークショップ 1- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 5 回	ワークショップ 1- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する 1
第 7 回	講義 3	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 2
第 8 回	ワークショップ 2- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 9 回	ワークショップ 2- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・考えを発表する
第 11 回	講義 4	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 3
第 12 回	ワークショップ 3- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 13 回	ワークショップ 3- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする

第 14 回 発表・振り返り

社会人・起業家に対してアイデアを発表。アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News など事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ ビジネスプラン（発表・資料）20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業のオンライン化に伴って連絡手段が難しいとの意見をいただいています。メール等での連絡をスムーズにするため、履修希望者には事前に Google フォームでのアンケートに回答してもらう予定。

【学生が準備すべき機器他】

- 1：自分の PC を持っていること
～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
- 2：自宅等で WiFi 環境があること
～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
- 3：Google アカウントを作成すること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業を行ってもらいます。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。

授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答いただきます。

起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to foster entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurial managers who start new businesses at large companies). In this class students will understand the abilities required as an entrepreneur by going through the case of new business creation.

For those seeking employment at major companies or to become an entrepreneur, this class, through group working, will also cultivate the mindset and learn how new businesses are created.

MAN200MA

【2013 以前入学生用】アント
レプレナーシップ論Ⅱ

MAN200MA

【2014 以降入学生用】アント
レプレナーシップ論Ⅱ 展開科目

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目指している。コロナ後の世界で何が求められるのか新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。

大手企業へ就職、起業家を志す者いづれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】

- ①新規事業の創造に必要なイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べるができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

後期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。

ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義では **After** コロナの社会の変化、業界トレンドに関する情報も提供する。企業がコロナの影響を受けてどのような課題に直面しているのかに触れ、新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。

授業でのリアクションペーパーは Google フォームへの入力によって提出とし、フォームへの入力を持って出席を確認する。学生同士のフィードバックに関してはメールにて展開する予定。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義 1	After コロナの社会について。価値観の変化やこれからの社会・産業に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義 2	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 1
第 4 回	ワークショップ 1- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 5 回	ワークショップ 1- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する 1
第 7 回	講義 3	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 2
第 8 回	ワークショップ 2- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 9 回	ワークショップ 2- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・考えを発表する
第 11 回	講義 4	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 3
第 12 回	ワークショップ 3- 1	グループディスカッションでアイデアをアウトプットし、ブラッシュアップする
第 13 回	ワークショップ 3- 2	グループディスカッションで個人のアイデアをアウトプットする

第 14 回 発表・振り返り

社会人・起業家に対してアイデアを発表。アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News など事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ ビジネスプラン（発表・資料）20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業のオンライン化に伴って連絡手段が難しいとの意見をいただいています。メール等での連絡をスムーズにするため、履修希望者には事前に Google フォームでのアンケートに回答してもらう予定。

【学生が準備すべき機器他】

- 1：自分の PC を持っていること
～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
- 2：自宅等で WiFi 環境があること
～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
- 3：Google アカウントを作成すること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業を行ってもらいます。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。

授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答いただきます。

起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to foster entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurial managers who start new businesses at large companies). In this class students will understand the abilities required as an entrepreneur by going through the case of new business creation.

For those seeking employment at major companies or to become an entrepreneur, this class, through group working, will also cultivate the mindset and learn how new businesses are created.

MAN200MA

職業キャリア論

展開科目

松浦 民恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、職業に関する基礎的な知識を身につけ、職業と社会・労働市場・企業・個人との関係について理解した上で、個別の職業に関する情報収集や意見交換を通じて、今後の職業キャリアについて考えることです。

【到達目標】

以下を到達目標とします。

- ①「職業」に関する基礎的な知識や考え方を理解すること
- ②「職業」と社会・労働市場・企業・個人との関係を理解すること
- ③個別の「職業」や「職業キャリア」に関する検討を通じて、今後の職業キャリアに向けての気付きや示唆を得ること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ①全回オンラインによる授業となります。初回とゲスト招聘の回（全体のなかで2回程度）は同時双方向型、それ以外は原則としてオンデマンド方式（音声配信型）を予定しています。
- ②オンデマンド方式（音声配信型）の回については、毎回学習支援システムにレジュメ（PDF ファイル）、音声データ（説明の録音）を、授業の週の月曜日にアップします。レジュメをご覧くださいながら音声データを聞く形で授業を受講してください（音声 URL の有効期限は授業日後2週間とします。有効期限内であれば、授業時間中に限らず、ご都合の良い時に受講頂いて結構です）。
- ③同時双方向型の回については、授業時間の5分前にオンライン接続可能な状況（Zoom を予定）としますので、時間までにオンラインでご入室ください。
- ④計3回、授業内容の補強、もしくは授業の理解度をはかるレポートを、学習支援システムを通じてご提出いただきます。ご提出頂いたレポートに関して、3回それぞれについて、授業のなかで講評・フィードバックを行います。
- ⑤受講の状況やゲストのスケジュールなどによって、授業計画を一部変更することがあります。学習支援システムで告知しますので、ご確認いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション (同時双方向型)	①授業のオリエンテーション ②職業についてのイントロダクション ③レポート（1）の説明
第 2 回	社会環境変化と職業 (音声配信型)	①社会環境変化が職業キャリアに与える影響 ②社会環境変化と職業キャリアについて考える
第 3 回	デジタル革新と職業 (音声配信型)	①デジタル革新の動向 ②デジタル革新が職業に与える影響について考える
第 4 回	職業と人材のマッチング (音声配信型)	①職業と人材のミスマッチの現状 ②職業と人材のマッチングのための仕組み
第 5 回	職業と組織・倫理 (音声配信型)	①レポート（1）に対するフィードバック ②組織の中で働くということについて考える
第 6 回	職業人の講話 (同時双方向型)	③レポート（2）の説明 ゲストスピーカー（職業人）の講話と意見交換
第 7 回	日本的雇用システムと新卒採用 (音声配信型)	①日本の雇用システムの現状と課題 ②新卒採用の今後について考える
第 8 回	職業教育と職業能力評価 (音声配信型)	①職業教育、職業資格と職業能力評価の概説 ②企業における人材育成の現状と課題
第 9 回	職業キャリアに関する理論 (音声配信型)	①レポート（2）に対するフィードバック ②職業キャリアに関する主な理論の概説
第 10 回	ジェンダーと職業 (音声配信型)	③レポート（3）の説明 ①職業選択におけるジェンダーの影響 ②女性のキャリアについて考える

第 11 回	販売や営業の仕事 (音声配信型)	①販売と営業 ②営業職の仕事とキャリア
第 12 回	人事の仕事 (音声配信型)	①人事の職業観 ②人事の仕事とキャリア
第 13 回	公共的な仕事～公務員を事例として (音声配信型)	①公務員の職業観 ②公務員の仕事とキャリア
第 14 回	授業の振り返り (音声配信型)	①レポート（3）に関するフィードバック ②これまでの授業の補足とポイントの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポートの執筆・提出が3回（4月末、5月末、6月末メ切）あります。レポートは各回1500字～2000程度を想定しています。本授業の準備・復習時間は、参考文献等の購読も含めれば4時間程度となります。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。授業の資料（レジュメ）は授業の週の月曜日に学習支援システムにアップします。

【参考書】

阿部正浩・菅万理・勇上和史『職業の経済学』（中央経済社、2017 年）。阿部正浩・前川孝雄「5 人のプロに聞いた！ 一生モノの学ぶ技術・働く技術」（有斐閣、2017 年）。上記以外については、授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート3回を各30点（計90点）満点（各20点標準）、リアクションペーパーやゲスト招聘時等の質問・意見交換を10点満点（特に良いものに加算）で評価します。レポートに関しては、分析・考察の深さ、論理的な説明力、理解の正しさ、着眼点等のオリジナリティ、を評価します。参考文献などから引用いただく場合は、引用部分と自身の考えについて記述した部分が、峻別できるように記述してください（それができているかどうか評価対象とします）。レポートの提出期限はそれぞれ4月末、5月末、6月末を予定しています。各月初旬にはレポート課題を告知し、学習支援システムを通じてご提出いただきます。レポート未提出は、1回でもかなりの確率で、2回に及んだ場合は確実に不可となりますので、必ず期限までにご提出頂きますようよろしくお願い申し上げます（アクセス集中などの危険がありますので、リスクマネジメントとして、遅くとも締切前日までにはご提出ください）。

【学生の意見等からの気づき】

職業の内容が体系的に理解できるように、授業の構成を検討したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、パソコン等の情報機器。オンライン接続環境。

【Outline and objectives】

This course has purposes: students obtain the fundamental knowledge about job, understand the relationship between job and society, labor markets, companies and individual persons, and then think about future career experience through gathering information about each job or sharing opinions.

ECN200MA

労働経済学

展開科目

梅崎 修

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分を取り巻く社会環境、特に労働市場の状況を理解することは、キャリアを形成する上で非常に重要となります。そこで、この講義では労働経済に関するテキストを利用しながら、現在の日本の労働市場の状況と歴史を理論と現実の双方から学んでいきます。なお、授業の中ではキャリア形成を研究するうえで有効な統計データの内容や労働問題の時代背景についても学習し、理解を深めていきます。

【到達目標】

ビジネスキャリアを関連する経済理論や社会環境を読みこなす能力を身につける。データを理解し、分析事例、労働問題を読み解くことはもちろんであるが、同時に労働経済学の主要な概念を理解し、人間が、どのような社会環境の中で、どのようにキャリア選択を行っているかを説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、（１）テキストを使用し、一つのトピックスに関して、仕事映画の紹介します。（２）その解説を前提に続いて、経済理論や時代背景、社会問題を解説します。（１）はオンライン、（２）はオンデマンドでの授業を考えております。労働問題を参加学生と一緒に考察することを目指します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と経済学を学ぶ意味、仕事映画について説明。
第 2 回	新規学卒労働市場の事例	仕事映画「何者」を紹介し、自分を「売る」とは何かを解説する。
第 3 回	新規学卒労働市場の理論と実証	前回の講義を続けて、新規学卒市場に関する研究を説明する。
第 4 回	現場主義の改善活動の事例	仕事映画「スーパーの女」と「県庁の星」を紹介し、企業の競争力を支える人材マネジメントを解説する。
第 5 回	現場主義の改善活動の理論と実証	第 4 回に続いて、企業の競争力と人材マネジメントに関する研究を説明する。
第 6 回	仕事配分と昇進システムの事例	仕事映画「ワーキング・ガール」と「9時から5時まで」を紹介し、昇進と昇格のメカニズムを解説する。
第 7 回	仕事配分と昇進システムの理論と実証	第 6 回に続いて、仕事配分と昇進システムに関する研究を説明する。
第 8 回	ワークライフバランスの事例	仕事映画「下町の太陽」を紹介し、女性のキャリアデザインやワークライフバランスについて解説する。
第 9 回	ワークライフバランスの理論と実証	女性のキャリアデザインやワークライフバランスに関する研究を説明する。
第 10 回	雇用社会の誕生の事例	仕事映画「スーダラ節 わかつちやいるけどやめられねえ」を紹介し、雇用社会の形成を解説する。
第 11 回	雇用社会形成の理論と実証	雇用社会形成の歴史研究を説明する。
第 12 回	自己投資と転職の事例	仕事映画「マイレージマイライフ」を紹介し、自己投資と転職に関して解説する。
第 13 回	自己投資と転職の理論と実証	自己投資と転職に関する研究を説明する。
第 14 回	様々なキャリア	これまでの授業を振り返り、今後の雇用社会を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備は特に要りませんが、授業後にテキストを読み直してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

梅崎修・松繁寿和・脇坂明『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』（有斐閣）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業内作業（40%）と学期末のレポート（60%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

企業事例も授業の進捗に合わせて紹介する。今回から、映画を使って事例を紹介し、その上で理論や実証を説明するという授業を試みる。仕事経験が少ない学生に対して、職場の現実を伝えつつ、労働経済学を学んでもらう。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等で学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

この講義では、労働経済学者による仕事映画解説を学びながら、労働市場、企業組織、人事労務管理の仕組みについて学びます。毎回出席し、労働問題を把握しつつ、学問の考え方を身につけて下さい。

【Outline and objectives】

It is very important to understand the social conditions surrounding us and the labor market in building our careers. The purpose of this lecture is to understand the current Japanese labor market from both theory and reality by using text in this field. In the lecture, although the economic models are used, it assumes mathematics at junior high school level. In addition, we learn contents of statistical data which is related with career development and methods to use it, and the historical background of labor issues.

MAN200MA

シティズンシップ論

展開科目

榎並 利博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●授業概要

IT/ICT から AI/IoT の時代へ、技術革新はグローバル化やスーパー資本主義をますます加速し、GAFA などの巨大 IT 企業が世界を支配し始め、政治は米国や Brexit に見られるように保護主義的色彩を濃くしている。国家という枠組みが揺らぐ中で、市民はどのような問題意識を持ち、自律した個人として地域や社会をどのように変革していくべきか、日本や米国における事例・行動理論、現場での実践や技術革新がもたらす新たな動きなどを含め、相互の議論を通じてシティズンシップとは何かを追求していく。

●目的

シティズンシップとは何かを理解し、地域や社会における課題の発見のしかた、ビジョンの作り方、行動の方法などを学び、地域や社会の変革を実践できる人材になる。

【到達目標】

- ・シティズンシップについて自分なりの考え方を持つ
- ・地域や社会における課題の発見方法を身につける
- ・地域や社会を変革するための行動原理を理解し、実際の行動・実践へと結実させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・新型コロナウイルスの影響により、本授業はオンラインの「オンデマンド型」で実施します。
- ・具体的には、講義・討論中心の授業ではなく学習支援システムによる授業を行います。（学習支援システムによる教材の提供、課題レポートの提出、フィードバックなど）
- ・授業日当日に講義資料と解説資料を学習支援システムにアップロードします。
- ・その講義資料と解説資料をダウンロードして学習し、そこで提示された課題について課題レポートを提出してもらうことで授業を進行していきます。
- ・課題レポート提出は出席確認のためであり、過度な負担にならないようにします。
- ・なお、提出された課題レポートについては、よく理解できている点や不十分な点を取り上げたコメントを全員にフィードバックし、授業の理解を深めてもらいます。
- ・そのほか、学習支援システムを通じた双方向の議論なども行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自律した個人と世の中を取り巻く動向	授業全体の流れを説明するとともに、地域や社会の変革実現のために、世の中を取り巻く動向を把握する。グローバル化、技術革新、地域ガバナンス、人間の行動原理、現代の理念など。
第 2 回	シリコンバレーとその本質を探る	シリコンバレーの再生、本質はハイテクではない、市民中心のエクイティ文化とは何か、エクイティ文化を醸成するもの

第 3 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ①	背景としてのサステイナブル・コミュニティ、スチュワードシップという概念、対立が価値を生み出すという考え方（価値の相克）
第 4 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ②	価値を生み出す個人とコミュニティの対立および信頼と説明責任の対立。その事例と行動原理。
第 5 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ③	価値を生み出す経済と地域社会の対立および人と地域の対立。その事例と行動原理。
第 6 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ④	価値を生み出す保守と変革の対立および理想主義と現実主義の対立。その事例と行動原理。
第 7 回	地域を変革するツールとしての情報技術	地域産業政策の現状とその限界、社会・地域を変革するツールとしての IT、技術革新（IT）の可能性と課題
第 8 回	地域を変革する有効な IT モデルとエクイティ文化	3 つの成功事例と 2 つの失敗事例から探る IT による活性化の条件、地域経済活性化 5 段階モデルとエクイティ文化の関係
第 9 回	地域資源とイノベーション・創造性、エクイティ文化	地域資源とイノベーション事例（第一次産業、新エネルギー、健康福祉分野）、イノベーション・創造性の本質とエクイティ文化
第 10 回	地域・社会を動かす：地方活性化レストラン	地方活性化レストランを作る、コンセプトや仲間づくりなど地域を動かす行動の実践とそこで起きた問題
第 11 回	地域・社会を動かす：マイナンバー	マイナンバーを実現する、ビジョン・情報発信・仲間づくりなど社会を動かす行動の実践とその現状
第 12 回	新しい動き：地域課題を発見するツール（RESAS）	地域・社会の課題を発見するツールの登場とその活用方法 技術革新がもたらすデータやツールのオープン化と強化された市民
第 13 回	新しい動き：シビックテック	技術革新で力を持った市民の登場、個人および団体としての市民の新たな動きとシティズンシップ
第 14 回	新しい動き：AI/IoT や Society5.0、スマートシティなど	AI/IoT や Society5.0 など技術革新は新たなフェーズへ、人権における自由権と社会権の対立とシティズンシップの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の学習時間は準備・復習・課題レポートを含め、各回 2 時間を標準とします。
- ・なお、第 3 回から第 6 回は『社会変革する地域市民—スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』、第 8 回から第 10 回は『地域イノベーション成功の本質』のテキスト（教科書）を事前に学習してください。

【テキスト（教科書）】

・『社会変革する地域市民—スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』著者：D. ヘントン、K. ウォレッシュ、J. メルビル、監修：小門裕幸、翻訳：榎並利博、今井/路子、第一法規 2005 年 1 月
・『地域イノベーション成功の本質』著者：榎並利博、第一法規 2014 年 8 月

【参考書】

- ・『サステイナブル・コミュニティ—持続可能な都市のあり方を求めて』著者：川村健一、小門裕幸、学芸出版 1995 年
- ・『エンジェル・ネットワーク—ベンチャーを育むアメリカ文化』著者：小門裕幸、中央公論社 1996 年
- ・『クリエイティブ・クラスの世紀』著者：リチャード・フロリダ、翻訳：井口典夫、ダイヤモンド社 2007 年
- ・『フラット化する世界』著者：トーマス・フリードマン、翻訳：伏見威蕃、日本経済新聞社 2006 年
- ・『勝者の代償』著者：ロバート・ライシュ、翻訳：清家篤、東洋経済新報社 2002 年
- ・『アジアの都市間競争』著者：小森正彦、日本評論社、2008 年
- ・『都市の経済学』著者：ジェーン・ジェイコブズ、翻訳：中村達也、谷口文子、TBS プリタニカ 1986 年

そのほか、授業の中で適宜参考となる書籍や URL を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での学習状況）40 %、最終レポート 60 %を目途に評価します。100 点満点で、60 点以上が合格。

※平常点（授業での学習状況）は、講義ごとに毎回提出してもらう課題レポートの提出状況で評価します。また、最終レポートは講義の最後に提出してもらいます。最終レポートは最後の講義で指示しますが、これを提出しないと合格点に達しませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

課題レポートの提出等は、学習支援システムから「テキスト入力」で行ってもらいます（形式の不備等が生じるため、ファイル添付による提出は認めません）。そのため、あらかじめ Word 等で文書を作成したうえ、それをコピー＆ペーストでテキストボックスに入力するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料等のダウンロード、課題レポートの提出等で PC が使用可能であること（Word、電子メールなど）。新型コロナウイルスの影響により対面授業ができないため、学習支援システムを使用して授業を進行していきます。

【その他の重要事項】

シティズンシップの行動原理の研究や理論のモデル化のほか、「地域を動かす」・「社会を動かす」という実践や実務の経験を踏まえ、シティズンシップとは何かを追求していきます。社会に出て自ら実践を行う場合、必ず役に立つ内容だと確信しています。

【Outline and objectives】

In the era of AI/IoT from IT/ICT, technology accelerates the globalization and the super capitalism, big IT companies like GAFA begin to govern the world, and politics is more economically protectionist trend like U.S. and Brexit. Now, while the framework of nation is more ambiguous, we must pursue to think what kind of awareness we should have, how we should change the world as a citizen, and what the citizenship is during mutual discussion, learning the samples or theories of Japan and U.S., the actual practices, and the new trends by technology evolution.

The objectives are the followings.

- ・ Understand the citizenship
- ・ Learn how to find agenda of the society, how to make a vision, and how to act
- ・ Be the person who can change the neighborhood, the society, and the world

MAN200MA

生産システム論

展開科目

小林 哲也

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済において大きな影響力を持っている製造業は、かつて圧倒的な国際競争優位を確保していました。しかし、現在では、その競争優位を失いつつある分野も存在します。そこで、本講では、製造業とは何かを理解し、日本産業における競争優位がいかに成立してきたのかを紹介することで、日本において製造業がなぜ重要であるのかを理解することを目的とします。さらに競争優位の源泉の 1 つでもある生産システムに焦点を当てて、その内容を紹介することで、なぜ、日本の製造業がグローバル競争優位を確保できたのかを理解することを目的とします。

【到達目標】

製造業の基本的な概念を理解し、生産システム全体を見ることで、製造業が置かれているポジションを理解します。その結果としてなぜ製造業が日本において重要な産業であるのかを理解します。一方で、日本の製造業が直面している問題を具体的に解説し、グローバル経済の拡大や、少子高齢化の問題など製造業が直面する課題を例示しながら、どのような対応が必要なのかを理解することを目的とします。これらのことを理解することで、日本における製造業のポジショニングとその役割を理解し、日本経済の置かれている現状を理解し、さらに製造業が日本経済に与える影響と重要度を理解することが目標です。これによって、日本経済に与える産業の役割を理解することで、自らのキャリアを自ら考えることができるようになることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業はオンライン上でオンデマンド方式によって進めます。具体的には、資料を配布し、その内容を皆さん自身に理解していただいたのちに、クイズに回答していただく形の授業を展開します。具体的な内容としては、いくつかの製造業を取り上げ、どのような状況にあるのか、その際の課題も紹介します。また、日本経済やグローバル経済における日本製造業が置かれている状況を解説します。さらに、製造業の競争力の源泉でもある生産システムとは何かを歴史的な視点や講師の実務経験に基づく内容も含めて解説します。以上を通じて製造業の概要と生産システムを理解してもらいます。なお、皆さんの授業への参加の状況を図る物差しとして各回に小クイズを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の解説と授業の進め方、評価の方法などを解説します。さらに、製造業が置かれている状況を簡単に解説し、現在の産業の状況を理解できるようにします。
第 2 回	日本産業の変遷	日本の産業構造の歴史的変化を振り返り、その中で製造業の役割がどのように変化してきたのかを理解できるようにします。
第 3 回	鉄鋼業	素材型産業の代表例でもあり、他の産業の基盤の 1 つでもある鉄鋼業とは何かを理解できるようにします。
第 4 回	金型産業	素材型産業の代表例でもあり、加工組み立て産業において欠かせない産業の 1 つである金型産業とは何かを理解できるようにします。
第 5 回	自動車産業	日本産業のリーディング・インダストリーでもある自動車産業の状況と競争優位の背景を理解できるようにします。
第 6 回	分業と大量生産	生産システムを理解する上で、基本的な概念となる分業とそれを基にした大量生産の基本的な概念を理解できるようにします。
第 7 回	フォード生産方式	生産システムの基本的考えであり、現在の生産システムの基にもなっているフォード生産システムを理解できるようにします。
第 8 回	大量生産方式の発展	フォード生産システムが競争優位を喪失した背景を、GM の経営手法を例に理解できるようにします。

第 9 回	日本的なシステム	日本自動車産業を例に、「日本的な経営・生産システム」とは何かを理解できるようにします。
第 10 回	製造業のグローバル展開と生産システムの移管	日本製造業のグローバル展開に伴う、日本的な生産システムの海外移転の状況やその際の課題を考えられるようにします。
第 11 回	グローバル競争環境の変化	グローバル経済の拡大によって変化した競争環境が、日本の製造業にどのような影響を与えたのかを理解できるようにします。
第 12 回	情報通信産業が製造業に与えた影響	IT 革命以降、急速に進展してた情報通信産業の発展が、製造業にどのような影響を与えたのかを理解できるようにします。
第 13 回	製造業の労働・人材育成の現状と課題	バブル経済の崩壊以降、長期化する経済の低迷によって深刻化する労働問題と少子高齢化の進展によって課題となる人材育成の問題を生産という観点から理解できるようにします。
第 14 回	競争環境の変化が日本製造業に与えた課題とその対応	競争環境の変化によって、日本製造業の競争優位の源泉に影響を与えたといわれている背景とその課題を理解できるようにします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習としては、シラバスに即して各回の授業について、新聞や雑誌、インターネットなど通じて、各種情報を仕入れておいてください。また、参考文献に目を通しておいてください。資料を事前に学習支援システムを通じて配布しますので、必ず読んでおいてください。

事後学習としては、授業後に小クイズに回答してください。授業内容の理解を測る物差しとしても利用させていただきます。さらに、授業を振り返り、内容を確認、理解しておいてください。また、疑問があれば疑問点を抽出しておいてください。標準的な予習・復習時間は 4 時間以上となります。疑問点は必ず講師に確認してください。質問は担当教員宛にメールで送っていただくか、学習支援システム内で行ってください。その後、担当教員よりフィードバックします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

必要に応じて授業時に具体的に指示しますが、さしあたり、三菱総合研究所『日本産業読本』東洋経済新報社
経済産業省『製造基盤白書（ものづくり白書）』
経済産業省『通商白書』
大野耐一『トヨタ生産方式』ダイヤモンド社
ヘンリー・フォード『薬のハンドル』中公文庫
アルフレッド・スローン『GM とともに』ダイヤモンド社
フレデリック・F・テイラー『科学的管理法』ダイヤモンド社
安部哲夫他『アメリカに生きる日本の生産システム』東洋経済新報社
小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社
などを事前学習として読んでおいてください。

【成績評価の方法と基準】

小クイズによる授業への参加状況 (30%)、期末レポート (70%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「産業」という経済に関係する授業ですが、経済学の基本的な枠組みを学んでいない学生の皆さんも理解できるように、経済学の基本的な考え方を具体的に授業内でも説明するように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使って授業を行いますので、授業開始前までに利用方法を確認して、オンライン授業に参加できる環境を整えておいてください。小クイズも学習支援システムを通じて対応していただきます。

【Outline and objectives】

Manufacturing, which has a significant impact on the Japanese economy, once secured an overwhelming international competitive advantage. However, there are areas where the competitive advantage is losing now. The purpose of this course is to understand why manufacturing is important in Japan by understanding what manufacturing is and how competitive advantage in Japanese industry has been established. In addition, by focusing on the production system, which is one of the sources of competitive advantage, and introducing its contents, we aim to understand why Japanese manufacturing was able to secure a global competitive advantage.

MAN200MA

国際経営論

展開科目

森 直子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・6 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ダイナミックにグローバル展開されるビジネスとその背景とはどのようなものかの基礎知識を学びます。また、個々の経営手法を覚えることに終始せず、国際的な企業経営の理解を出発点として現代社会そのものを広い視野で捉える訓練をします。

【到達目標】

企業活動のグローバル化の基本的な歴史や現状、捉え方を理解するとともに、国際ビジネスを形成する多様で複雑な要素、背景を知ること、国際人としての視野・視点を獲得することをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は、基本的に Zoom を使ったオンライン授業形式で進めます。ただし、学習支援システムでレジュメと短い動画を配信するオンデマンド授業の回もあります。授業の進め方の詳細が書いてあるので、必ず第 1 回のレジュメを読んでください。全授業を通して決まったテキストを使わず、毎回の授業で教材レジュメを配布し、その回のテーマについて、事例をなるべく多く使った説明をします。そのうち 1 回は国際人材についての特別講義をおこなう予定です。この回で、グループディスカッションをしたいと思います。毎回の授業で短い課題（テスト）への回答を求めます。その際に、授業へのリアクションも書いてもらいます。また、月に 1～2 回は課題（テスト）の代わりに短い授業のまとめの提出を課します。さらに学期末レポートを課す予定です。課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際経営論を学ぶということ ーグローバル社会に生きるために	授業の概要説明
第 2 回	国際経営論の基礎知識	多国籍企業論から始まった国際経営論を学ぶ
第 3 回	企業活動の国際化の歴史	貿易と海外直接投資、製造業からサービス産業の国際展開へ、IT 化社会以降のグローバルな企業活動
第 4 回	生産システムの国際展開	プロダクトサイクル理論、生産クラスター、国際分業
第 5 回	国際マーケティング	競争優位の考え方、市場のグローバル化と現地市場への適応化
第 6 回	国際人的資源管理	グローバル展開する組織構造、人材・制度の多様性・異文化経営
第 7 回	国際 M & A	「時間を買う」国際戦略提携、国際的な企業買収の動向と課題
第 8 回	研究開発と国際経営	R&D と立地問題、国際標準化戦略、知的財産権の国際管理
第 9 回	日本企業による国際経営の展開	世界のなかでの日本企業、日本的経営・生産システムの海外移転、グローバルネットワークと中小企業
第 10 回	ベンチャーと国際ビジネス	情報ネットワーク時代の「最初から世界を狙う」起業
第 11 回	国際協力と国際ビジネス	ODA 事業と国際ビジネスの関係、BOP ビジネス、ソーシャルビジネス
第 12 回	アジアと国際ビジネス	新興国における国際ビジネスの変遷、地域経済統合の影響
第 13 回	【特別講義】「国際人」とは何か	“使える”人材に留まらない、真に国際社会で活躍する人になるために
第 14 回	激動の時代のグローバルビジネスを考える	視野を広げるためのさらなるヒント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献について図書館等を活用して読む。新聞・雑誌（オンライン配信含む）等で国際ビジネスのニュースに目を通し、企業活動のグローバル化に関する知識を高める。可能であれば、関連の学術論文にも目を通す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にちいず、担当教員が作成した教材レジュメを配布する。

【参考書】

大石芳裕（2017）『実践的グローバル・マーケティング』シリーズ・ケースで読み解く経営学 2、ミネルバ書房
吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和編（2013）『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣
江夏健一・桑名義晴編著、IBI 国際ビジネス研究センター著（2012）『理論とケースで学ぶ国際ビジネス 3 訂版』同文館出版

【成績評価の方法と基準】

（1）授業への積極的な貢献 60 %
（2）学期末レポート 40 %
※学期末レポートだけでは、単位はもらえません。
※（1）の内訳：
各回の授業後に課題への回答提出 17 %
計5回提出する「授業のまとめ」 30 %
授業への積極的なフィードバックなど貢献点 13 %

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、事例を挙げて授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

事前に経済学や経営学の知識がない学生でも履行できるような内容です。しかし、授業で得た情報を元に、自分で知識を深める努力が必要です。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn the background of global business unfolding all over the world. In the rapidly and dynamically transforming world business environment, companies constantly keep selecting optimal solutions for their management methods. To understand such trends and situations, students need to acquire abilities to grasp the current state of the market and society. Therefore, instead of memorizing individual business management methods for global business, students are expected to reinforce their ability to perceive the contemporary business world from a broad perspective with the understanding of international corporate management as a starting point. Students are also expected to obtain important viewpoint as the internationally minded person with learning basic history and present conditions of the globalization and complicated factors forming an international business.

ECN200MA

日本経済論

展開科目

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：月・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990 年代末以降、日本経済はその凋落が頻繁に叫ばれ、「失われた 20 年」といった言葉がメディアを賑わせた。こうした議論は、あたかもそれまでの日本経済が一貫して順調な経済発展を遂げてきたかのような歴史理解を前提としているようにもとれる。しかしながら、戦後日本経済をめぐる議論を辿ると、高度経済成長以降、常に日本経済の危機という問題意識は繰り返し登場してきた。では実際のところ、そうした歴史的な経路をたどり、この国の経済の動向をみたときに直面する、この国の課題は何なのだろうか。本講義では、戦後日本経済の変化の文脈を理解することで、地に足をつけて今日の日本経済を観察しつづけることができるようになることを目指す。

【到達目標】

・私たちが生きる日本社会における経済のありようを、歴史的な文脈の延長上に位置付けて理解することができるようになる。
・戦後日本経済の時代ごとの特徴を明確に説明できるようになる。
・現代日本経済をめぐる様々な論評や通説に対して、自分なりの考えを論理的にまとめることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業前半 80 分を教員による講義とし、後半 20 分は教員・学生間でのディスカッションやフィードバックに充てる。2 日前を目処に、翌週の講義スライドを所定の Dropbox フォルダにアップしておくので、受講者は指定された教科書の該当箇所とあわせて、授業準備に活用してほしい。授業終了後、毎回コメントペーパーを提出してもらう。講義についての質疑応答は、Google form および Google document を用いて収集・共有する。
大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方と全体の講義概要について説明をおこなう。
第 2 回	戦後改革と復興	戦時の変化と戦後改革のインパクト、経済改革、労働改革、経済復興の流れについて解説する。
第 3 回	高度成長のメカニズム 1	高度成長の概要と、産業政策の効果について解説する。
第 4 回	高度成長のメカニズム 2	メインバンクシステム、および大企業のガバナンス構造の確立（安定株主化）について解説する。
第 5 回	高度成長のメカニズム 3	同時期に輸出世界一となった鉄鋼業について解説する。あわせて、同時期に日本社会に現出した大量消費社会の到来、およびエネルギー革命について解説する。
第 6 回	石油危機と安定成長への転換 1	石油危機が日本経済にもたらしたインパクトについて概説し、赤字国債の問題と、同時期にこれと並行して生産台数世界一となった自動車産業について解説する。
第 7 回	石油危機と安定成長への転換 2	製造業、そして日本経済を下支えた下請制のしくみについてふれ、当時の日本企業の国際競争力について解説する。
第 8 回	バブルの形成と崩壊 1	バブル経済と同時期に進展した産業構造の転換について触れ、債券大国化していく日本を概観する。
第 9 回	バブルの形成と崩壊 2	金融自由化、金融ビッグバンについて解説する。
第 10 回	バブルの形成と崩壊 3	トヨタ生産システム、流通革命について解説する。
第 11 回	長期停滞と日本型企業システムの転換 1	1990 年代以降の日本経済の長期停滞と、日本型企業システムの転換についてその概要を解説し、あわせて財政赤字の深刻化と東アジアの成長について解説する。

第 12 回	長期停滞と日本型企業システムの転換 2	長期不況の苦境の中で新たなビジネスモデルを探索する日本の企業経営者、流通再編と情報化のインパクト、そして企業制度改革と企業組織の変化について解説する。
第 13 回	長期停滞と日本型企業システムの転換 3	日本企業の対外進出、日本型企業システムの転換、そしてアベノミクスの制作的評価について検討を行う。
第 14 回	まとめ	これまでの授業の内容を振り返り、あわせて期末課題について解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、事前にテキストを読んできていることを前提に進める。毎回の講義内容で質問や追加の議論を必要とする場合は、教員指定の Google form を介して質問をおこなうこと。毎回の授業後にはコメントペーパーを提出することを必須とする。

【テキスト（教科書）】

橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齊藤直『現代日本経済【第 4 版】』（有斐閣アルマ、2019 年、2,800 円+税）

【参考書】

沢井実・谷本雅之『日本経済史 近世から現代まで』（有斐閣、2016 年、3,700 円+税）

宮本又郎・阿部武司・宇多川勝・沢井実・橋川武郎著『日本経営史 江戸時代から 21 世紀へ』（有斐閣、2007 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験：戦後日本経済の歴史的な変遷について史実に基づいて論理的に記述できるかどうか、およびそれらの経緯を踏まえた上で日本経済の課題について考察できるかどうかを筆記試験を通じて評価する（50 %）。
中間試験：講義内容前半の理解度をチェックする。（20 %）
平常点：授業における発言、コメントペーパーの提出を評価する（30 %）。

【学生の意見等からの気づき】

コメントペーパーへのレスポンスを授業冒頭に行い、フィードバックとする。

【学生が準備すべき機器他】

各自、大学で付与される Google アカウントおよび関連アプリを利用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

Since the end of the 1990s, the decline of the Japanese economy has been frequently cited, and terms such as "the lost 20 years" have dominated the media. Such discussions seem to share the assumption that the Japanese economy has consistently achieved steady economic development up to that point. However, the history of the postwar Japanese economy shows that claims of a crisis in the Japanese economy have appeared many times since the end of country's rapid economic growth. So, what are the actual challenges facing the country when we follow such a historical path and look at the economic trends of the country? In this lecture, we aim to understand the context of the changes in the postwar Japanese economy, so that we can continue to carefully observe the Japanese economy today.

ECN200MA

産業論

展開科目

青木 成樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：土・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんが大学を卒業し、働くことには大きく 2 つの意味があると思います。一つは、自分の労働力を供給し、その対価としての賃金・給与を得て、生活の手段とすることです。もう一つは、自分の労働が企業などの活動を通して社会に新たな価値を創出することです。働くことは、個人にとって、企業にとって、そして社会にとって意味のあることです。

本授業では、皆さんの労働が新たな価値を生み出す土俵である日本の産業について、①産業構造の全体像と変化、②主要産業の特徴・変化や③主要企業の特徴等、多様な観点から学びます。

【到達目標】

本授業を通して、以下の 5 点について理解を高めることを目標とする。

- ①我が国の産業構造に大きな影響を与える要因が理解できる
- ②我が国の産業構造の変化について定量的に理解できる
- ③「主要産業」について産業全体の動向と主要企業の動向というマクロとミクロの視点からの理解ができる
- ④我が国産業におけるモノづくり（製造業）とサービスの相互依存性に関する理解ができる
- ⑤イノベーションの意味と意義の理解ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

産業論は、マクロ経済（一国の経済動向）とミクロ経済（企業や消費者の経済行動）の中間に位置する学問領域である。授業については、毎回のテーマに沿って、パワーポイント資料で説明する。全 14 回の講義内容は大きく 4 つに分けて行う。最初の 3 回（第 1 回～第 3 回）では、戦後の我が国産業構造の変遷や今後の産業構造に影響を与えるソーシャルトレンドについて学ぶ。次の 2 回（第 4 回～第 5 回）では、世界的な分析ルーツである「産業連関表」を用いて日本及び地域の産業構造を定量的に把握・分析する。次の 6 回（第 6 回～第 11 回）では、我が国の主要な産業分野について、当該分野の動向や主要企業の動向について学ぶ。次の 2 回（第 12 回～第 13 回）は、イノベーションについて学び、最後（第 14 回）に全体のまとめを行う。
なお、学生からの質問に対しては、授業各回の最後の 5 分間をとり Q % A に充てる（対面型の場合）、もしくはメールでの出席確認の際、質問も取り入れ、メールで返答する形（オンラインの場合）とし、学生との対話に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、我が国の産業構造の特徴	我が国の産業の見方について学ぶ。また、戦後の我が国の産業の変化について概観し、同時に足元のコロナウイルスのマクロ的影響について学ぶ。
2	少子高齢化	我が国の産業に影響を与える諸要因のうち、人口構造（少子高齢化）を取り上げ、その意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。
3	グローバル化	我が国の産業に影響を与えるもう一つの大きな要素であるグローバル化を取り上げ、その意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。
4	産業連関分析の概要	産業についての国際的な分析ツールである産業連関表（Input-Output Tables）について学ぶ。
5	産業連関表から見た我が国及び地域の産業構造	令和元年に公表された「平成 27 年産業連関表」を用いて、我が国及び地域経済の産業構造の特徴を定量的に学ぶ。
6	主要産業の動向（農業）	グローバル化の進展の中で、再び脚光を浴びている農業について、戦後の推移と最近の動向（農業の 6 次産業化、等）について学ぶ。
7	主要産業の動向（自動車産業）	戦後のリーディング産業である自動車製造業について、国際事業展開の動向、環境問題への取組、EV 化の動きや競争力向上に向けた取り組み等を学ぶ。
8	主要産業の動向（電気機械産業）	自動車産業とともに戦後の我が国産業社会をけん引してきた電器産業について、20 世紀末からの低迷と最近の復活の動向について学ぶ。

9	主要産業の動向（商業）	生活に密着した産業として商業、とりわけコンビニ業界の成長・発展と最近の動向について学ぶ。
10	主要産業の動向（情報関連産業）	我が国の 20 世紀から 21 世紀にかけての成長産業である情報関連（IT）産業の動向、とりわけ、成長産業として発展した要因について学ぶ。
11	主要産業の動向（健康関連産業）	今後期待される成長産業として健康関連産業の動向について学ぶ。健康関連産業は、医薬品、介護、医療サービス等多様であるが、今年度は医療機器産業を中心に学ぶ。
12	イノベーション	研究開発の成果やノウハウを製品化・商品化し、SDG s に代表される社会的課題の解決や生活の利便性を向上するという意味でのイノベーションの考え方や類型、具体的な事例について学ぶ。
13	中小企業、ベンチャー企業	イノベーションの推進の主体として、大手企業に加え特徴ある中小企業群やベンチャー企業について具体的事例について学ぶ。
14	まとめ	我が国の産業の特徴について、マクロとミクロの観点から振り返り、重要なポイントを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を効果的に学ぶためには、経済の仕組みについて関心をもって頂くとう理解が早いと思います。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメ（PPT）を配布致します。

【参考書】

以下、順不同（五十音順）

- ①伊神満『「イノベータのジレンマ」の経済学的解明』日経 BP 社（2016 年）
- ②入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社（2019 年）
- ③岩井克人『経済学の宇宙』日本経済新聞社（2015 年）
- ④価値総合研究所『地域経済循環分析の手法と実践』ダイヤモンド社（2019 年）
- ⑤木村公一朗（編）『東アジアのイノベーション』作品社（2019 年）
- ⑥楠木健『ストーリーとしての競争戦略』東洋経済新報社（2010 年）
- ⑦経済産業省中小企業庁編『中小企業白書』各年版
- ⑧経済産業省・厚生労働省・文部科学省編『ものづくり白書』各年版
- ⑨小峰隆夫『人口負荷社会』日本経済新聞社（2010 年）
- ⑩小室直樹『危機の構造』ダイヤモンド社（1976 年）、中公文庫から 1991 年に再刊
- ⑪田瀬和夫『SDG s 思考』インプレス（2020 年）
- ⑫ H. チェスブロウ『オープンイノベーション』産業能率大学出版部（2004 年）
- ⑬富山和彦『なぜローカル経済から日本は魅えるのか』PHP 新書（2014 年）
- ⑭中沢孝夫・藤本隆宏・新宅二郎『ものづくりの反撃』ちくま新書（2016 年）
- ⑮原文人『「公益」資本主義』文春新書（2017 年）
- ⑯日立東大ラボ『Society5.0』日本経済新聞社（2018 年）
- ⑰丸幸弘、尾原和啓『ディープレック』日経 BP 社（2019 年）
- ⑱宮川努『生産性とは何かー日本経済の活力を問いなおす』ちくま新書（2018 年）
- ⑲三宅秀道『新しい市場のつくりかた』東洋経済新報社（2012 年）
- ⑳吉川洋、『いまこそ、ケインズとシュンペーターに学べ』ダイヤモンド社（2009 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %

毎回の授業のあと、授業についての感想・意見をメールにて講師あてに送り、そのことをもって出席にカウントする。

期末レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

今年で本講義は 10 年目である。最も受講者が多かった 2014 年度の授業改善アンケート調査をみると、「知識が身についた」（86.2 %）、「新しい発見があった」（41.4 %）、「進路選択に役立った」（10.3 %）の回答は全学部平均（各々 72.9 %、26.6 %、4.2 %）を上回った。一方、「授業難度が適切であった」「学生間の交流があった」については全学部平均を下回っている。このことから、本年度については上記『到達目標』に掲げた 5 つの目標を意識しながら、より明確な説明を心がけ、また毎回授業の終わり 10 分程度を質疑応答の時間に充て、意見交換の場を設けたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

私は 1985 年に長銀経営研究所に入社して以降、民間のシンクタンクで約 35 年に渡り国や地方行政の産業政策の調査に係ってきた。その体験をベースに皆さんと一緒に学んでいきたいと思います。現時点でアドバイスすることがあるとすれば以下です。

- ①「論点」を把握することの重要性。本講義では、社会における現象をやさしく説明するとともに、現象の背景にある問題の構造を多角的な視点で捉える事が出来るような講義にしていきたいと考えている。
- ②産業社会の現象を見る際、常に「需要」と「供給」の観点から見る癖を身に付けていただきたい。
- ③本講義でも難しい用語や概念が多く出てくると思います。その際、是非、「自分の」言葉で友人に話しかけて（議論して）下さい。やさしいことをやさしく説明するのは簡単です。難しいことを難しい言葉で説明することも、それほど難しくありません。しかし、難しいことをやさしい言葉で説明することは、非常に難しく、かつ重要なことだと思います。

④与えられた問題を解くことは、もちろん重要であるが、みなさんが社会人になってより求められるのは、問題を自分なりに設定・設計する能力、いわゆる企画設計力＝デザイン力だと思います。

【Outline and objectives】

I think that graduating from university and working has two main purposes. One is to supply labor and obtain wages and salaries in return for use as a means of living. The other is that your workforce creates new value in society through activities such as companies. Working is meaningful for individuals, for companies, and for society.

In this class, you will learn about the Japanese industry, where your labor creates new value, from a variety of perspectives, such as 1) the overall picture and change of the industrial structure, 2) the characteristics and changes of major industries, and 3) the characteristics of major companies. Learn.

MAN200MA

マーケティング論

展開科目

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新たな商品の開発、顧客満足の向上といった企業活動においてなくてはならないマーケティングの理論を学び、実際の企業の活動を理解します。

【到達目標】

授業は、①マーケティングに関する基本的な用語を説明できる②マーケティングに関する一般的な知識を習得し、その役割と基本的な理論を理解する③社会のなかで実践されているマーケティング活動を理論と結びつけながら理解する、の3つを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義は、マーケティングに関する基礎的な知識を修得することを目的とします。社会では様々な企業や事業体が活動をしています。企業や事業体は、社会に価値あるものを提供して、その対価として利益を得て継続的に存続していきます。社会に対して新しい価値を創意工夫して提供していくという活動をマーケティングというフレームワークを使って理解していきます。マーケティングの基本的な考え方やフレームワークを1つずつ取り上げていきます。実社会と密接に結びついた現場の学問ですので事例を出しながら説明していきます。マーケティング論の入門として、幅広く知識を修得するように身近な話題を入れながら、わかりやすく説明したいと思います。可能な限りゲストを迎えて話を聞く機会を設けたいと考えていますが（web上でのミーティングになります）、シラバスに書いてあるゲスト招聘が不可能になる可能性があります。状況が流動的ですので、もし可能な状況になればゲストの授業をweb上で実施します。授業時の質問、コメントに関してはその場で回答する、あるいはHoppiiの掲示板を使ってフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マーケティングという考え方	授業の中心的概念であるマーケティングというものが、どのような活動なのかを理解します。
2	セグメンテーションとターゲティング	セグメンテーション（市場細分化）とターゲティングの重要性について考えます。
3	ポジショニング	競争していくにあたって自分の立ち位置を決めるプロセスを説明します。
4	マーケティング・ミックス	マーケティング・ミックスとそれらを統合的にマネジメントしていく考え方について説明します。
5	プロダクト	製品コンセプトや顧客のベネフィットについて考えます。またアイデア発想のワークを行います。
6	コミュニケーション（プロモーション）	企業のプロモーションについて説明します。
7	プライシング	いろいろな価格決定のアプローチを紹介していきます。価格決めのグループワークでプライシングのポイントを理解します。
8	チャネル（プレイス）	どのような製品であればどのような店舗で売ったらいいのか、どのようなチャネルが有効なのかを考えます。
9	消費者心理と消費者行動	消費者行動の理論的な解説とマーケティングとの関わりについて説明します。
10	顧客リレーションシップ	顧客満足と顧客価値はどう違うのか、顧客満足の向上はなぜ大切なのかを説明します。
11	マーケティング・リサーチの実際	ゲストスピーカーからマーケティングの実際について話を伺います。（予定：マクロミル）
12	ブランドマネジメント	ブランド、信頼がいかにマーケティングに影響を与えるかを説明します。
13	ブランドマネジメントの実際	ゲストスピーカーからブランドマネジメントの実際の話を伺います（予定：ソニークリエイティブプロダクツ）

14 試験・まとめと解説

web でテストを実施します。
ここまでの話を総括して、これから未来のマーケティングを展望します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。多くの事は話で説明しますので、ノートは単に板書やスライドを写すだけではなく、自分で工夫して作成するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指示しませんが、参考書に沿った授業内容となります。

【参考書】

和田充夫他『マーケティング戦略 第4版（有斐閣アルマ）』2012、有斐閣。
フィリップ・コトラー・ケビン・レーン・ケラー『マーケティング・マネジメント基本編 第3版』2013、ピアソン・エデュケーション。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①マーケティングに関する一般的知識を習得したか②マーケティング理論を十分理解し、説明することができるか③社会におけるマーケティングの役割を理解し、実際のマーケティング活動を理論に関連付けて説明することができるか、の3点を試験によって評価する方法で行います。成績評価は、webでの試験60%、授業毎の小テスト40%の割合です。成績評価は合計で100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

講義で使用する動画およびスライド資料の配付については googleclassroom、学習支援システムを使用しておこないます。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システム、googleclassroomを使用します。
クリッカー、webでの小テストを実施しますので、スマートフォン、タブレット、PCなど手段はいづれでも結構ですので、インターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【Outline and objectives】

Learn the essential marketing theory in corporate activities such as developing new products and improving customer satisfaction.

MAN200MA

流通・マーケティング戦略論 展開科目

小川 浩孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・2 | 配当年次：2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで、グローバリゼーション、IT 革命、働き方改革、多様性、社会持続性への注目などが、流通・販売・マーケティングのあり方に大きな変化をもたらしてきた。さらに今回のパンデミックや近年の自然災害多発は、全ての個人・企業・組織にそれまでとは全く異なる次元の変化をもたらし、存在や活動のあり方を根本的に見直すべき状況を作り出している。そして、それらの変化のうねりはさらに加速しているように見える。そのような状況の中、どのような業種・業態・職業・地位であっても必須となる IT を軸とし、新しい流通・販売・マーケティングのあり方を全員で共に考え、変化を先取り変化とともに前に進める視点や考え方を身につける。さらに、将来実務で成果を出すのに役立つスキルの基本概念と知識・経験を習得する。

【到達目標】

- ① 国内外の流通・販売業の成り立ち、付随する流通戦略、B 2 B/B 2 C マーケティングの基本概念・進化の歴史を理解する。
- ② 流通業・販売業（あるいは企業経営）に起きている劇的な変化を、消費者としてのこれまでの経験や社会人として目指す方向と照らし理解し、将来を見通す視点と考え方を獲得する。
- ③ 世界普及率 No.1 と言われる EC ツール「Shopify」を用いて、実際にネットショップを立ち上げ運用するグループ実習を行い、実務家・起業家として理解しておくべき基礎的な知識と経験を身につける。

授業の中で十分理解ができるよう、都度質問に答える。実習の場合は作業していく上での質問や疑問に対して都度回答する。また実習にあたってのチームワークやリーダーシップ、成果物のクオリティーなどを EC 専門家も交えて評価することによって、学習目標が十分達成されるようサポートする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初の数回は主にテキストや資料を用いた講義形式で行う。その後は EC 専門家数名による講義とグループ学習・グループ実習を行う。各グループは 5 名程度で構成し、それぞれのグループが興味のある商品やサービスもしくは中小企業などの商品やサービスを選び、それらを販売するための EC サイトを構築し運用する実習を行う。なお、EC サイトの構築・運用にあたっては、Shopify Japan 社員および EC 専門家によるアドバイスやサポートが受けられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	流通・販売チャンネルとは	国内外における流通・販売チャンネルの進化過程を歴史に沿って概観する。
第 2 回	流通戦略とマーケティング（1）	流通戦略と流通におけるマーケティング活動を理解する。 EC 構築プロジェクトの概要とグループ分け。
第 3 回	流通戦略とマーケティング（2）	B 2 B と B 2 C マーケティングの共通点と相違点を理解する。

第 4 回	流通・販売における国内・海外の成長業態・企業と、衰退業態・企業（1）	同じ業界にあっても、成長している業態・企業と、衰退している業態・企業はどこかを幅広い業種の中から取り出し、分類する。
第 5 回	流通・販売における国内・海外の成長業態・企業と、衰退業態・企業（2）	成長企業と衰退企業の流通戦略やマーケティング戦略における共通点と相違点を見出す。
第 6 回	流通から見た E コマースの役割と実店舗	オムニチャネル概念を理解する（EC 専門家による講義と講師の解説）。
第 7 回	E コマースの種類	モール・カート・海外販売などの違いを理解する（EC 専門家による講義と講師の解説）。
第 8 回	E コマースの形態	BtoB, BtoC, DtoC などの流通形態を実例をもとに理解する（EC 専門家による講義と講師の解説）。
第 9 回	E コマースの活用	地方や中小企業でどのように E コマースを活用できるのかを考える（EC 専門家による講義と講師の解説）。
第 10 回	E コマースにおける販売プロプロセス	E コマースで商品を販売していく流れを知る（EC 専門家による講義と講師の解説）。
第 11 回	EC 店舗のコンセプトや戦略立案	EC 開設に向けての店舗コンセプトや戦略決定のための重要なポイントを知る（EC 専門家による講義と講師の解説）。
第 12 回	Shopify 基本設定や構築手順の解説	世界普及率 No.1 のツールと言われる Shopify の基本設定や構築手順の説明（Shopify Japan 社員による講義と講師の解説）。
第 13 回	EC における販売チャネルの種類と運営	EC 販売チャネルの種類（Instagram など）と実際に運営していくにあたって、どのようにマーケティングを行うか、マーケティングの重要性を理解する（EC 専門家による講義と講師の解説）。
第 14 回	グループ発表とレビュー	グループ実習で作成した EC サイトの発表と専門家による講評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

EC サイトを構築するグループワークがあります。グループワークは感染拡大防止策を遵守しながらオンラインもしくはオフラインで行います。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】

『流通チャネルの転換戦略』V. カストゥーリ・ランガン著、小川孔輔監訳、小川浩孝訳、ダイヤモンド社
『誰がアバレルを殺すのか』杉原淳一・染原睦美著、日本経済新聞出版
『SHOE DOG（シュードッグ）— 靴にすべてを。』フィル・ナイト著、大田黒奉之訳、東洋経済新報社
『いかなる時代環境でも利益を出す仕組み』大山健太郎著、日経 BP

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%
EC 構築プロジェクトの過程と成果 70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

PC、スマートフォン

【Outline and objectives】

Until now, things like Globalization, IT revolution, Work Style reform, Diversity, Sustainability have brought significant changes in Distribution/Sales and Marketing.

Pandemic and Natural disasters have brought even more substantial changes to each person/corporation/organization and forced us to change ourselves and the way we act. These changes also seem further accelerating right now.

Under such environment, no matter where to work at any position, all students are invited to think together about new way of Distribution/Sales/Marketing and acquire broader perspective to live with the current changes and lead the changes. Furthermore, they will acquire skills and knowledges that would be useful for them in the future after graduation.

MAN200MA

流通・サービスビジネス論 展開科目

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：木・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

流通ビジネスとサービスビジネスを理解するための知識と理論を修得することを目的とします。流通ビジネス、サービスビジネスのしくみや特徴を学問的な枠組みのなかから理解していきます。サービス経済化が進んでいく、これからの日本を含めたグローバル社会を見据えて、私たちが働くことになるビジネス環境の理解を深めます。将来を見据えて、自らのキャリアを考えていくうえで必要となるビジネス環境、ビジネス・システムを深く理解することを目指します。

【到達目標】

受講者が①流通・サービスビジネスに関する基本的な用語を説明できること②流通・サービスビジネスに関する一般的な知識を習得し、その経営のしくみを理解し説明できること③流通・サービスビジネスに関する実際の現象や出来事を理論と結びつけながら理解できることの3点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

身近なところの具体的事例から流通・サービスビジネスを理解できるよう授業を構成しますので、流通ビジネス・サービスビジネスについては特段深い知識はなく、初めて触れる学生を前提としておこないます。ただし、ビジネスキャリア領域の入門科目、マーケティング論などのビジネス系の基礎的な授業は最低限履修していることを推奨します。

要所でゲストを招いてビジネスの実態を理解する機会を設けます。それにより理論と実態がどのようにつながるのかを理解していきます。

また、Webの株式売買システムを利用して上場している流通・サービス関連の企業分析を行うワークを組み込みます。特別な知識を必要とはしませんが、課題をこなすためには自宅ないし学校でインターネットにアクセスできる環境があることが前提です。

授業の質問やコメントに関しては、Hoppiiの掲示板機能を使ってフィードバックします。

また、オンライン同期型授業時に全体に対してフィードバックを行います。

個人へフィードバックは課題サイトでコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	流通ビジネス全体解説 (流通の役割・小売業態)	流通が社会において、なぜ必要であるのかを考えます。 小売業態とは何かを解説します。代表的な業態である百貨店（デパート）を取り上げそのビジネスの特徴について解説します。
2	流通・サービス企業研究 の進め方（導入編）	株式取引システムを使った企業研究について解説します。
3	チェーンシステム	総合スーパー・コンビニエンスストアを題材にチェーンシステムを理解します。
4	SPA とサプライチェーン マネジメント	SPA のビジネスを支えるサプライチェーンのしくみとともにユニクロ、H&M のビジネスを解説します。
5	EC ビジネス	インターネットを使った流通ビジネスについて解説します。
6	流通・サービス企業研究 の進め方（展開編）	株式取引システムを使った企業研究で分析を発展させるための視点を提供します。
7	サービス・ビジネス全体 解説（サービスの特性と ビジネス課題）	モノとの対比によって形のないサービスという概念を理解します。
8	多様なサービスビジネス (人的サービス、物的サービス)	人的サービスの特徴と課題について説明します。身近なヘアサロン、飲食サービスなどを題材に解説します。物的サービスの特徴と課題について説明します。物的サービスの特徴と課題について説明します。プライダルサービス、ホテルなどを取り上げます。
9	多様なサービスビジネス (コンテンツサービス、金融サービス)	映画、音楽などのコンテンツを提供するサービスの特徴を解説します。金融サービスの特徴を解説します。

10	シェアリングエコノミー・AI とこれからのビジネス	近年、成長著しいシェアリングビジネスの特徴をシェアリングエコノミーの考え方とともに解説します。
11	株取引システムを使った企業研究成果（流通分野）の講評とプレゼン1	流通分野の企業研究成果を全体で共有し、講評します。
12	株取引システムを使った企業研究成果（サービス分野）の講評とプレゼン2	サービス分野の企業研究成果を全体で共有します。
13	株取引システムを使った企業研究成果（先端分野）の講評とプレゼン3	先端分野の企業研究成果を全体で共有します。
14	試験・まとめと解説	web 上でテストを実施して、授業全体のまとめと解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。さらに流通・サービスビジネスの多くは身近に利用するものばかりです。このビジネスはどのように成り立っているのか、自分はなぜこのお店で買い物をするかを深く考えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指示はしません。

【参考書】

特に指示はしません。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①流通・サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか、②流通・サービスビジネスのしくみを十分理解し説明することができるか、③社会における流通・サービスビジネスの役割を理解し、現実の商業の諸問題を流通理論に関連付けて説明することができるかを試験によって評価する方法で行います。期末の web テスト 40%、授業ごとの小テスト 20%、企業研究レポート 40%の割合で評価します。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

動画や講義用スライドを学習支援システム、googleclassroom にアップロードをします。学習支援システムやメールで質問に答えます。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、質問への回答などに学習支援システムおよび googleclassroom を使用します。クリッカー、web でのテストを行いますのでスマートフォン、タブレット、PC などインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】

＜実務経験のある教員による授業＞
スモールビジネスのコンサルティング経験から得られた知見に基づいて、実際のビジネスにどのように理論的枠組みが応用できるかを解説します。

【Outline and objectives】

This course aims to acquire knowledge and theory to understand the distribution business and the service business.
Understand the structure and features of the distribution business and service business from an academic framework.
Focusing on the future, we aim to deeply understand the business environment and business systems necessary for thinking about your career.

MAN200MA

就業機会発見実務

展開科目

田辺 康広

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「就業機会を増やす人、そうでない人の違いは何か」「ビジネス機会を作る人とは」を考え、自らのエンプロイアビリティやアントレプレナーシップを高める機会とする。

【到達目標】

労働市場や時代の理解を深める手法、自己理解を促進したり点検したりする手法について理解し、自己の社会的役割認識やエンプロイアビリティを高める機会とする。また、キャリアデザイン学部出身者として強みとなる「人のエキスパート」（という実務家）とは何か、について思索する時間も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

エンプロイアビリティやアントレプレナウアーシップの認識を高めるため、①職場、職業等の概念を理解する②キャリア理論で学んだ自己理解手法を演習を通じて確認し、自らのキャリア形成に資する体験とする③模擬採用面接等の体験を通じて自己理解を深める④エンプロイアビリティや職場・チーム運営を高めるための各種スキルトレーニングをアクションラーニングメソッドを用いて行う。グループ演習が多いので出席することが必須。試験は実施（オープンブック方式：電子機器を除いて持ちこみ可）。試験問題のテーマはオリエンテーションの回で案内予定。フィードバックに関しては、学生から提出された課題や質問に対し講師は必要に応じてコメントをつけて返信します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方
第 2 回	自己理解 1（自分点検の方法）	社会的成熟を果たしていくためには常に自分を点検する姿勢が必要であるという点、と点検ポイントについて理解する。
第 3 回	自己理解 2（特性因子理論より）	RIASEC の理論（ホランド）の理解を通じて自己理解への啓発的体験とする。
第 4 回	自己理解 3（発達理論より）	「ライフライン」（スーパー）ワークシート記入を通じて自分の中に形成しているキャリアドライバーを見つめ、自己理解への啓発的体験とする。
第 5 回	自己理解 4（トランジションの対応として）	4S 理論（シュロスバーク）を背景に、具体的事例（ケース）を用いて、キャリアの節目に対応する手法を学び、自己理解への啓発的体験とする。
第 6 回	職業理解 1（採用）	採用に際して重要視しているものを日米で比較し、理解する。また、創業を志す人の特性についても思索する。
第 7 回	職業理解 2（職務）	ジョブ（職務）の概念を理解し、ジョブ（職務）を中心として人事制度ができあがっていることを理解する。
第 8 回	職業理解 3（組織）	組織とは何か。組織を構成する 3 要素とは何か。活性化している組織とそうでない組織を分けているものは何か、などについて理解する。
第 9 回	職業理解 4（職場コミュニケーション）	職務遂行でコミュニケーションを円滑にするにはどのようなことに気をつけたらよいかを理解する。
第 10 回	一歩先行く就活 1（応募書式）	応募書式記入のポイントを記入演習を通じて理解する。
第 11 回	一歩先行く就活 2（説明会、グループ討議）	説明会での姿勢や態度、行動と「グループ討議」のポイントを理解する。
第 12 回	一歩先行く就活 3（グループ面接）	「グループ面接」のポイントを理解する。
第 13 回	一歩先行く就活 4（個人面談）	自己を語るうえで気をつける点を理解する。
第 14 回	振り返り	13 回のセッションを通じて自己のエンプロイアビリティは高まったか、振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業の後、課題を出し提出していただきます。本授業の準備学習・復習時間は計 1 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

仕様教材は格納してあります。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験、および課題提出による。

期末試験はオープンブック方式（電子機器以外は持ちこみ可）で、論文 2 問です。テーマは第 1 回目の授業でお知らせします。

配点は設問 1（満点 60 点）、設問 2（満点 40 点）とし、計 100 点満点として採点します。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業（オンデマンド方式）を基本とします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

キャリアデザイン学部は、一人ひとりが自分の持つ価値観を探索したり、自分の強い部分や弱い部分を素直に見つめたりすることを通して、強い自分を発見する、強い自分を作ることを目的にしています。そのために重要なことは自分を理解することです。加えて、未来へのイメージネーションを働かせることです。今、未来が見えていなくても大丈夫です。学生時代にもがき、悩み、思索する体験こそ、意義や意味があるのです。キャリアデザイン学部は「社会における自分の役割は何か」「そのために何をすべきか」を考える機会を提供します。そのような機会や環境を活かして、時代認識を持ち、強くてしなやかな自分をプロデュースしてください。専門性はあとから自ずとついてきます。そしてこのような人材こそ、激動の時代に立ち向かう現在の企業や教育機関が渴望している人材なのです。信頼できる自分に出会い、時代が求めているキャリアデザイン学部の卒業生としての誇りを持って社会に巣立っていただきたい、と考えています。

【Outline and objectives】

This program provides an opportunity to think about "What is the difference between those who increase job opportunities and those who do not?" and "Who creates business opportunities?"

SOC200MA

外書講読 A（ライフ）

展開科目

門脇 仁

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の情報をいかに読み解き、研究やビジネスに活用するか。それにはまず、外国語の資料を正確かつ効率的に読みこなすスキルが必要となる。この講義では、海外ニュース、インターネットサイト、報告書、映像、広告、ルポルタージュなどの英文を毎回 1 本ずつ取り上げ、その訳読を通して、外国語による情報分析や調査の基礎的ノウハウを習得する。また、音声教材の使用によってリスニング能力も高め、耳から得られる海外情報の活用にも慣れる。

【到達目標】

外国語のパスセージを理解し、地球規模の情報を手際よく収集できる能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、パワーポイント資料によるレジュメを使って授業を行う。オンライン授業の期間は、レジュメの各ページ下のノート欄に、通常の授業で話すことを要約して記載しておく。それをよく読み、各頁の要点や図表も理解しながら読み進め、練習問題も解いてみる。また、A 4 版 1 枚程度の平易な英文資料を次回授業までの課題文とする。翌週の授業でその資料の訳読を示し、英語による情報の収集と理解についての解説も加える。以上 2 種類の教材は、学習支援ツールの「教材」のボックスに毎回アップしておく。また、情報を耳から吸収することにも重点を置き、インターネットで入手できる音声テキストも随時紹介する。さらに外国語学習法も併せて指導するので、文法や語彙の復習・再強化を目的とする学生も受講可能。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法。
2	インタビューの英語	国際舞台で活躍する人々の英語インタビューをテキストに、聴き取りと読み解きの重点を学ぶ。
3	海外の情報ソース	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計に基づく一次情報のソースを知り、活用する方法を身につける。
4	グローバルイシューの読み解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチについて考察した文章を読み解く。
5	ルポルタージュの英語	National Geographic 誌のルポルタージュを参考に、科学的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
6	字幕の英語	映画やニュースの字幕を活用し、音声と文字を同時に活用しながら情報収集をするコツをつかむ。
7	ラジオの英語	VOA Special English や CNN Student News をテキストに、音声情報の活用方法を身につける。
8	語彙・読解力・リスニング力の相乗効果	音声の導入で語彙を増やし、同時に速読力も高めるためのトレーニング方法を解説。
9	ネイチャーライティングの英語	自然描写の中に思索と想像力の根源を探究するネイチャーライティングの鑑賞方法。Annie Dillard の Teaching a Stone to Talk を使用。
10	広告媒体の英語	商品広告、求人広告、テレビ CM などの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。
11	TOEIC/TOEFL の活用方法	ETS (Educational Testing Service) が行なう英語試験 TOEFL iBT や TOEIC L&R を参考に、英語による情報伝達の基本を学ぶ。

12	海外に紹介された日本	日本の伝統文化が英語でどのように紹介されているかを見ることにより、海外における異文化理解の現状と課題を展望する。
13	個人発表①	これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
14	個人発表②	これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
毎週、次回の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。授業支援システムに課題文を掲載することもあるが、毎回ではないので、授業には必ず出席すること。

【テキスト（教科書）】

各回の授業で資料を配布。

【参考書】

『エコカルチャーから見た世界ー思考・伝統・アートで読み解く』（門脇仁著、ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50%、平常点 50%。特にリアクションペーパーの内容を重視。

【学生の意見等からの気づき】

リスニングの方法についての分析的な解説が参考になるという学生が多いので、今年度も取り入れる。また、映像のナレーションやラジオ番組といった英語音声も併せて活用して行く。

【学生が準備すべき機器他】

PC（教室への持参は不要）

【その他の重要事項】

背景知識や参考事例をなるべく多く用いて、分かりやすい説明に努めるので、受講者も積極的に授業に参加すること。

【Outline and objectives】

How can we understand information around the world and make use of it for our study or business? The most important process for that is to acquire ability to read foreign documents correctly and efficiently. In this lecture, we will pick up an English passage to read each week, and learn how to research or analyze information in foreign language. In addition, we will introduce audio materials in order to improve our listening skill and be used to thinking, understanding or learning through spoken English.

SOC200MA

外書講読 B（ライフ） 展開科目

門脇 仁

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：月・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を動かす情報はいかに発信され、伝達されていくのか。海外の情報にどうアプローチすれば、自分の研究やビジネスに役立てることができるのか。それにはまず、外国語によるさまざまな情報を吸収し、速く正確に処理するスキルが必要となる。この講義では、インタビュー、ルポルタージュ、講演、報告書、宣伝広告などの多様な英文を取り上げ、その訳読を通して英語による情報収集や調査の基礎的ノウハウを習得する。

【到達目標】

英語の文章を読み、音声を聴き取ることで、地球規模の情報を手際よくキャッチする能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。履修者は、読解・聴解の目安となる数値目標（速読スピード、TOEIC スコアなど）を自分で定め、半年間の授業でそれをクリアできるようにしていくことが推奨される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回 A 4 版 1～2 枚程度の平易な英文資料を配布し、翌週までにそれを読んでおくことを課題とする。講義では、課題文で取り上げる分野の背景や情報収集法、構文の読み解き、語彙と音声についてのアドバイスなどと併せて訳読を実践する。外国語の効果的な学習法や、リスニングの実践訓練も指導するので、文法や語彙を復習・再強化する必要のある学生も受講可能。大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法。
第 2 回	エッセー・伝記の読解	平易に書かれたオートバイオグラフィー（自伝）の一部を課題文とし、英文の情報構造を踏まえて内容を速く正確に読む方法を実践する。
第 3 回	海外ニュースの核心	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計にもとづく情報ソースにさかのぼり、一次情報を活用する方法を身につける。
第 4 回	インタビューを読む	英文雑誌のインタビュー記事を通じて、話者の強調する論点のつかみ方、口語英語のニュアンスなどを学び取る。
第 5 回	字幕英語の活用	洋画の一部を視聴し、英語字幕を活用したリスニングと読解の相乗的な強化法を学ぶ。
第 6 回	グローバル 이슈 の読み解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチを探究。ここでは英字新聞の記事の読み方を学ぶ。
第 7 回	個人発表①	この時点までの授業で最も参考になった知識にもとづき、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
第 8 回	ルポルタージュの視点	National Geographic 誌のルポルタージュを参考に、科学的・歴史的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
第 9 回	ラジオの英語	平易な海外ラジオ番組をディクテーションし、音声の導入で語彙を増やしながら速読力も高めるトレーニング法を実践する。
第 10 回	プレゼンテーションの聴き方	TED Conference で行われている各種の講演を題材に、英語でのプレゼンテーションを聴き取る方法や、よく用いられる表現などを知る。
第 11 回	TOEIC の活用	TOEIC の各パートで出題される問題文を取り上げ、英語のリスニング力と読解力をともに向上させる日常的なトレーニング方法を習得する。

第 12 回	メッセージを読み解く	昨年ノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランをはじめ、海外ポップアーティストの歌詞を重視した音楽に注目し、表現や伝達のメカニズムを探る。海外の商品広告、求人広告、テレビCMなどの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。
第 13 回	広告の英語	これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
第 14 回	個人発表②	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
毎週、次回の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で配布するレジュメと課題文がテキストとなる。

【参考書】

グローバルな問題や情報へのアプローチについては、下記の書物をサブテキストとし、授業で指定のあった回に持参すること。
『エコカルチャーから見た世界』（門脇仁著、ミネルヴァ書房刊）

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（50％）、平常点（50％）
リアクションペーパーの内容を特に重視する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業を受講して読解力とリスニング能力が相乗的に高まったという学生の声が多い。今年度もこの点を一層重視し、できるだけ多様な情報を目と耳の両方から取り入れることができるようトレーニングする。またリアルタイムに進行している出来事や、時流に即したテーマを盛り込むことが履修者のモチベーション向上につながるのを、これまでよりも一層現代的な視点を強化し、新鮮な情報を迅速に処理するノウハウに主眼を置く。さらに、受講者の英語力と要望に合わせてカリキュラム内容や指導レベルを微調整し、最適な授業を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

教室設置のPC、プロジェクター、DVDプレーヤー、音響機器等を使用するので、個人発表者以外は機器の準備は不要。

【その他の重要事項】

全てのコースのベースとなる科目です。

【その他】

課題文の全訳を自分の解釈と照らし合わせ、理解度の向上に役立てる。ディクテーションもできるだけ毎回行うので、リスニング能力のアップをその都度チェックする。

【Outline and objectives】

How is information sent and shared to move our society? How can we access it to make use of them for study or business? To make it possible, we need some skills for collecting various information in foreign language and dealing with it quickly and properly. In this class, through reading various types of English writing such as essay, interview, reportage, presentation, bulletin, advertisement, etc., you would acquire fundamental knowledge to collect information and use it for your research.

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅰ

展開科目

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月・3 | 配当年次：2～4年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつつ暮らしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通しまた異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】

- （1）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- （2）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、本授業はオンライン型の授業となります。初回授業はZoomによるリアルタイム方式とし、以後のリアルタイム方式／オンデマンド方式の割合については、学習支援システムにて提示します。

初回授業におけるZoomへのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／前近代・近代・現代における家族と絆	授業の到達目標・テーマ、概要・方法 揺／生計をとる者＝家族と見なしていた時代について知り、現代家族を相対化する
第2回	前近代・近代・現代における結婚と＜子ども＞の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、＜子ども＞へのまなざしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第3回	性別役割分業の歴史の変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する
第4回	宗教から見た西欧の歴史の変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第5回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する
第6回	19世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する
第7回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第8回	官僚制の歴史の変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第9回	地理的世界の拡大とネットワーク化の変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第10回	時代の変化と少年犯罪のまなざし方の変化	第3回の＜子ども＞の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する

第 11 回	歴史と社会を見る目 (1)	コミュニティの健全性に関するデュルケームの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う
第 12 回	歴史と社会を見る目 (2)	伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する
第 13 回	歴史と社会を見る目 (3)	ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
第 14 回	まとめ・総括	歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1 回 1 回の授業からコミュニティに应用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のペースをつくることです。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験もしくは期末レポート（70%）、平常点（30%）。
期末試験もしくは期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、試験もしくはレポートの達成度の状況を基準とします。
平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。
春学期末の時期に、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、試験かレポートかを決定し、学習支援システムにてお知らせいたします。
欠席時間数が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。
なお、欠席時間数については、自己管理をお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline and objectives】

Humans always form communities whenever they are, wherever they go. How our today's life, our daily interactions and social phenomena, are similar to, or unique from, community dynamics in other ages and regions? This class covers the basic viewpoints and ideas on sociology and then utilizes comparative sociology techniques to deepen understandings on given themes through historical and regional comparisons.

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅱ

展開科目

佐藤 恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：月・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしていきます。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、本授業はオンライン型の授業となります。初回授業は Zoom によるリアルタイム方式とし、以後のリアルタイム方式／オンデマンド方式の割合については、学習支援システムにて提示します。

初回授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1 つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／子ども問題の歴史	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／「最近の子どもは〇〇が問題だ」というまなざし方（社会病理的見方）の歴史を把握する
第 2 回	近代社会とアイデンティティ	アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する
第 3 回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第 4 回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第 5 回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第 4 回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する
第 6 回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する
第 7 回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第 6 回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第 8 回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第 9 回	社会史的視点 (1)	19 世紀末から 20 世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第 10 回	社会史的視点 (2)	20 世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第 11 回	社会史的視点 (3)	戦後の流行歌を取り上げ、大衆生活の様相について理解する

第 12 回	社会史的視点（4）	血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる
第 13 回	歴史と社会の再生産	第 12 回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第 5 回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する
第 14 回	まとめ・総括	比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1 回 1 回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のペースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験もしくは期末レポート（70%）、平常点（30%）。

期末試験もしくは期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、試験もしくはレポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。

秋学期末の時期に、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、試験かレポートかを決定し、学習支援システムにてお知らせいたします。

欠席時間数が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline and objectives】

How our internal aspects and external behaviors affect, and at the same time are influenced by, the survival of society and history? This class follows the comparative sociology methodologies introduced in Community & Society I to further explore communities and people's daily life through historical and regional comparisons. In Community & Society I, we looked at the overall flow of human history. In this class, we focus on ages closer to our time as the subject of comparison.

SOC200MA

家族論

展開科目

齋藤 嘉孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本における家族を扱い、その中でもキーワードを『多様性／多様化』とする。また『多様性／多様化』の是非について考え、個人と社会にとっての家族のあり方について考える。

【到達目標】

本講義の目標は、2 つである。①家族という問題を、常識や自らの経験の中での理解を超え、家族社会学を基盤として、統計的実態・事例・政策／制度・研究知見などを題材に『多様性／多様化』の内実を理解する。②家族とは個人のキャリアが発展するフィールドであり、家族を知ることは自らのキャリアをデザインすることに役立つと思われるため、職場や地域コミュニティとの関係も視野に入れつつ、受講者が自らのキャリアをデザインするためのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、就労・結婚・出産・子育て・離婚・介護などの典型的なライフイベントに注目し、受講者自身がこれまでの家族生活を整理したり、今後の家族生活をデザインしたりするための題材を提供する。また応用的論点として、男女の差異や平等性をめぐるジェンダー、家族を取り巻く地域コミュニティ、欧米や発展途上国あるいは前近代社会との比較、家族の機能不全としての虐待や諸問題に対応する政策・制度や支援職に言及する。必要に応じて、視聴覚資料・DVD・ビデオ教材などを使用する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす予定である。なお、2021 年度はオンライン形式での実施予定であり、オンデマンド型とリアルタイム型を併用する予定。初回から学習支援システムを確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、進め方等
2	親子関係①	児童虐待の現状
3	親子関係②	文化的再生産、子どもへの親の影響
4	親子関係③	今どきの親の抱える問題
5	男女と結婚生活①	パートナーの選定、結婚事情
6	男女と結婚生活②	家事・育児、就労、専業主婦
7	男女と結婚生活③	夫婦関係
8	“ふつうの人生” から外れること①	未婚・晩婚
9	“ふつうの人生” から外れること②	無子夫婦、不妊
10	離婚や一人親家庭①	離婚の現状・社会的背景、その影響
11	離婚や一人親家庭②	一人親家庭の現状、関連諸制度
12	高齢者と家族	独居・同居、介護、虐待
13	国際比較	他社会や歴史性、現代日本の客観視
14	まとめ	家族生活のキャリアデザインに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、指定された課題を遂行すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『親になれない親たち』（斎藤嘉孝、2009 年、新曜社）

【参考書】

・『よくわかる現代家族』（神原文子・杉井潤子・竹田美和編著、2009 年、ミネルヴァ書房）
・『論点ハンドブック 家族社会学』（野々山久也編、2009 年、世界思想社）
・他は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（40%）・小レポート（10%）・期末試験（50%）と総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の視線に立った家族論を展開したい。

【その他の重要事項】

受講者の希望等によって、上記の予定が若干変更される可能性がある。

【Outline and objectives】

This course deals with contemporary families in Japan, especially, in terms of such keywords as "diversity." We think of how the families work for individuals and the society.

SOC200MA

若者文化論

展開科目

玉川 博章

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：金・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在社会において、エンタテインメントメディアは政治、経済的な側面を持ちながら、多くの人に受容され若者文化を創り上げてきました。本講義では、メディアの送り手の産業的側面（産業構造やビジネスモデル）と、その受容者の消費の両面に焦点を当てます。日本の 1960 年代以後の若者文化を、雑誌やテレビなどのマスメディアと、そこにかかわる広告や消費なども視野に入れ、分析していく。その際には、ポストフォーディズムやリキッドモダニティなど社会学にて議論されている現代社会の変化を前提に、我々を取り巻く日本の音楽・出版、映画などのエンターテインメント、キャラクター、アイドルを事例としたメディアの消費社会論から若者文化を考えます。

【到達目標】

日本の 1960 年代以後の若者文化を中心に、その特徴と背後で深く関係するメディアと政治、経済、文化の関係性を理解し、社会学や社会批評、文化批評などの学説を身につけることで、作品そのものやメディア産業のみにとらわれない社会に対する批判的思考ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

今年度はオンライン授業となり、オンデマンド形式で授業をします。動画ないし資料や論文の各自の購読を組み合わせた形態を予定しています。基本的に講義形式（のオンライン化）となり、資料配付をした上で、視聴覚資料も織り交ぜながら、事例や学術的な分析・理論などを紹介していく。また、簡単なレポート、感想などの課題を適宜実施したい。提出課題については、代表的な内容等を次回・次々回に紹介しコメント等も付加してフィードバックとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション メディアと若者文化（サブカルチャー）	授業概要説明と若者文化・サブカルチャーとは何なのかを先行研究も踏まえ紹介
第 2 回	文化と消費消費社会論の基礎	若者文化分析の基盤となる文化と消費の関係性についての顕示的消費や文化資本の概念を紹介
第 3 回	物語消費論	大塚英志による 1980 年代若者文化を分析した物語消費論を紹介
第 4 回	80 年代のパブル・消費文化	1970～80 年代の若者文化の象徴的事例である「新人類」などバブル文化と雑誌やメディアとの関係性
第 5 回	80 年代における「オタク」と消費文化	1980 年代における「新人類」と「オタク」という対照的サブカルチャーの対比的分析と烏宇宙化・若者文化の細分化について
第 6 回	現代社会における文化とブランド、キャラクタービジネス	消費社会論とここまでの事例分析を踏まえて、ブランドや権利ビジネスとメディアや文化との関係を考察
第 7 回	後期近代の概論 ポストフォーディズム、リキッドモダニティ	現代社会の変化を捉える学説であるポストフォーディズムやリキッドモダニティの議論について学ぶ
第 8 回	メディアミックス① 手塚など	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1960 年代の子供向けアニメと広告・消費、文化との関係を分析
第 9 回	メディアミックス② 角川商法（映画と出版）	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1970-80 年代の映画と出版、音楽との関係を分析
第 10 回	メディアミックス③ 角川（アニメ・ゲーム・コミック）とネットによる参加型モデル	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1980 年代～2000 年代のアニメ・マンガについて
第 11 回	サブカルチャーにおける文化と趣味と消費	ネット時代における若者文化について、これまでの議論を総括しつつ考察する
第 12 回	日本のサブカルチャーとしてのアイドル	アイドル文化が戦後～現在の社会状況においてどのように考えられるのかを分析
第 13 回	コミュニケーションと消費：ブランド、ネット文化、アイドル	モノから体験、コミュニケーションへと変化する消費と若者文化について

第 14 回 まとめ サブカルチャーと これまでの授業内容の整理と発展的議論
後期近代 論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に配付資料や受講時にとったメモ・ノート等を利用して復習し、授業で紹介した視聴覚資料や事例などについてインターネットなどで調べ確認、視聴すること。また、授業で取り上げた映像作品を鑑賞してみるとよいと思います。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
また、指示をした場合には予習として事前に資料等を閲覧・視聴する、課題の指示をした場合には自宅で作業し提出すること。

【テキスト（教科書）】

原則的に資料を配布する予定。

【参考書】

大塚英志『物語消費論』、マーク・スタインバーグ『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』、北田暁大・解体研編著『社会にとって趣味とは何か』、宮台真司『制服少女たちの選択』など。他にも講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加・提出物（小テストや感想、小レポート等提出課題）50 % + 試験（または期末レポート）50 %
試験・期末レポートは授業で説明した社会学や文化研究の概念を理解した上で若者文化を分析できるかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはなし

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド方式の授業に対応出る環境はあたりまえですが必須。

【Outline and objectives】

Entertainment media and youth culture has a political and economic side, and has been accepted by many people. This lecture will focus on both the industrial side (industrial structure and business model) and the consumption of its audience. We will analyze Japanese youth culture since the 1960s, including mass media industry such as magazines and television, as well as advertising and consumption. In this lecture, referring to modern society theories such as Post-Fordism and liquid modernity, we think about youth culture and entertainment such as movies, anime characters, and idols from the theory of consumer society.

SOC200MA

世代間交流論

展開科目

安田 節之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：月・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世代間交流の考え方と役割と取り組みについて学び、地域課題の解決策としての世代間交流プログラムのあり方について考える。

【到達目標】

- ①世代間交流の背景と活動のあり方が分かる。
- ②地域や社会の課題と連動した世代間交流の意義が分かる。
- ③世代間交流プログラムの開発と評価方法が分かる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会的なつながりの目的と方法が変化し続ける現代社会において、これまで個人と家族あるいは地域とのつながりを形成するうえで主な役割を担ってきた世代間交流のあり方も変化してきている。この授業では、世代間交流の背景にある考え方をまず学び、それがどのような肯定的な効果をもたらすことが可能なのかについて検討する。そして、新たな世代間交流の活動を創造する意義と方法について世代間交流プログラムという視点から考える。演習としてグループワークを行いますので、他の学生との積極的なコミュニケーションが必要となります。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。この授業はオンライン（リアルタイム型）での実施を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明、評価方法の説明など。
第 2 回	理論的背景①	学際的視点から世代間交流を学ぶ（事例：駄菓子屋）。
第 3 回	理論的背景②	世代間交流におけるソーシャルキャピタルの役割を検討する。
第 4 回	理論的背景③	多様な交流のあり方とアイデンティティ（事例：シェアハウス）。
第 5 回	理論的背景④	高齢者のサクセスフルエイジングの視点から捉えた世代間交流についてを学ぶ。
第 6 回	実践的課題①	世代間交流の視点から社会課題を検討する（演習：問題分析ワーク）。
第 7 回	実践的課題②	世代間交流のために必要なコミュニケーション技法を学ぶ。
第 8 回	世代間交流プログラムの開発①	プログラムの実施背景と活動方針の検討（演習：ゴール設定）。
第 9 回	世代間交流プログラムの開発②	ロジックモデルの枠組みから世代間交流プログラムを捉える（演習：ロジックモデル開発①）。
第 10 回	世代間交流プログラムの開発③	ロジックモデルを完成し運営方法を検討する（演習：ロジックモデル開発②）。
第 11 回	世代間交流プログラムの評価①	世代間交流のプロセスと成果・効果を検討する（演習：アウトカムとデータ収集計画の計画）。
第 12 回	世代間交流プログラムの評価②	効果検証を行うための評価クエスチョンおよび評価デザインを考案する（演習：評価クエスチョンの設定）。
第 13 回	世代間交流プログラムの評価③	プログラムの開発および評価計画についての発表を行う。
第 14 回	まとめ	授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の指定箇所を必ず読んだうえで授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料等を使用する。

【参考書】

「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために（ワードマップ）」（安田節之、2011、新曜社）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50 %）、グループワーク（演習参加・発表・レポート作成）（30 %）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（20 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

大教室における授業でも、コメント票作成などを通して学生の能動的参加を促すようにする。グループワークではより効率的な運営を行う。

【Outline and objectives】

This class focuses attention on understanding intergenerational theory and methods of developing programs related to intergenerational issues in the communities that we live.

SOC200MA

身体表現論

展開科目

叶 雄大

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火・1 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演劇的手法のエクササイズを通して、自己の感性を磨き、自己の表現を再発見する。また様々な表現方法を体験することで、コミュニケーションについて考える。

【到達目標】

感性と感覚を磨き、自己発見・他者理解・想像・コミュニケーションの力を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

身体を動かすエクササイズの中で、感覚や身体に集中し自分自身の能力を再確認する「自己発見」を第一期として、想像の活動を通じて他者との表現の違いや考え方を知る「他者理解」を第二期。グループディスカッションやインプロヴィゼーションの活動からのグループ創作から「共感・共有・伝え合う」事と「コミュニケーション」について考える第三期。第四期ではそれらのまとめとして、「多様性」や「生きる力」について考え、テーマを定めた「創作創造」を体験する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。・課題等の提出・フィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と全体の流れ等の概要を説明。
第 2 回	ウォーミングアップ	表現をするための身体と心のコンディショニングを整えるエクササイズ。
第 3 回	身体・感覚①	身体をつかった表現を体験。
第 4 回	身体・感覚②	感覚の一つを遮断する事で他の感覚に集中するエクササイズを体験。
第 5 回	身体・感覚③	リズムや音・音楽を使ったエクササイズを体験しグループでの創作を行う。
第 6 回	コミュニケーション教育とは	小学校や中学校での表現活動プログラムの講義。
第 7 回	コミュニケーション	コミュニケーションのエクササイズを体験
第 8 回	声・距離	他者との違いを楽しみながら、自身の特徴を知る
第 9 回	インプロヴィゼーション①基礎	見立て遊びや創作の基本などのインプロヴィゼーションワークショップを体験。
第 10 回	インプロヴィゼーション②言語・文章（主に座学）	言葉の表現と劇作法の基礎エクササイズ。
第 11 回	インプロヴィゼーション③非言語	言語を用いない表現を体験しグループ創作を行う。
第 12 回	グループ創作	グループごとに作品テーマを決め、短いパフォーマンスを創作。
第 13 回	グループ創作：発表	グループごとに創作した作品を見せ合い、話し合う。
第 14 回	まとめと試験	全体のまとめと試験課題（30分程で課題に対して自由筆記のレポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業内にフィードバックペーパーを提出。返却は行わないので、提出前に写真を撮るなど記録を残しておく事。記録を元に授業で学んだ事を普段の生活に応用し、身体や感覚を意識して生活する事。その経験を含めたレポートを最終回の課題をふまえて作成・提出。また学期の途中で授業に関連した課題からレポートを提出。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない 必要に応じて適宜資料を配布。

【参考書】

特に使用しない 必要に応じて適宜資料を配布。

【成績評価の方法と基準】

実技中心の授業のため、原則として1/5以上欠席すると単位取得は不可とする。授業への参加姿勢70% レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

動きやすい服装で参加のこと（体操着・レオタード等の着用の必要はない）。授業後にミニレポートがあるため筆記具を持参してください。

【その他の重要事項】

頭で考えるよりも体験を通して気がついた事、感じた事を元に自分自身の表現方法を発見していきましょう。なお、教室のサイズにより、受講者数を制限（選抜）することがあります。履修希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください。

【Outline and objectives】

Beginner level of 'Drama in Education'.

Experience various expression methods.

SOC200MA

地域文化論

展開科目

緑川 岳志

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：土・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会がこれから課題となってくることは何かについて、様々なデータや研究を通じて、一緒に探っていきます。特に歴史、経済、社会、法律の各視点から、生活者の変化、文化の変容を見つめます。授業に参加される方には、それぞれ自分の住んでいる市区町村の「地域政策課長」になって、発言やグループワークを行っていただきます。グループワークは全体のうち3回となります。対象は、日本国内になります。

【到達目標】

自分の住んでいる街の地域政策をマクロ、ミクロ視点で理解することで、これから必要になる地域文化施策はなにかを提言することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講座は、50 名以下のため対面で行う予定です。社会環境の状態に合わせてオンラインに切り替える場合があります。学生は、自分の住んでいる市区町村の地域政策課長になっていたで、毎週レポートをまとめ授業に参加いただきます。すべての分析や検討について、地域政策課の課長としての意見が求められます。レポートについては、各自の発表後、授業内でフィードバックを実施します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	＜講義形式＞本講義は地域文化施策をする当事者になって参加をすることが前提であることを中心にガイダンスを行います。
第 2 回	地域文化の歴史と現在	＜講義形式＞地域文化はだれのためのものかを歴史を振り返りながら確認していきます。
第 3 回	地域文化を残す、地域文化を創る	＜講義形式＞地域文化の創成がどのように生まれて、どのように継承されてきたかを確認します。
第 4 回	地域コミュニケーションの成り立ち方	＜講義形式＞地域文化施策に必要な広報活動および生活者同士のコミュニケーションの活性化施策を歴史背景も踏まえて確認します。
第 5 回	地域の課題：高齢者福祉、医療から文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、福祉や医療の問題点と歴史的視点も入れてその施策について話し合います。
第 6 回	地域の課題：教育、スポーツから文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、教育やスポーツ振興の問題点とその施策について歴史的視点も入れて話し合います。
第 7 回	地域の課題：防犯、防災から文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域の安心安全にまつわる問題点とその施策について歴史的視点も入れて話し合います。
第 8 回	地域の課題：外国人、異文化住民から文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域に生活する外国人との異文化交流の問題点とその施策について歴史的視点も入れて話し合います。
第 9 回	地域の課題：財源の確保	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域文化施策を行う際の重要な財源を確保していくアイデアを考えます。
第 10 回	地域の課題：地域文化の広報施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域文化施策の広報活動について歴史的視点も入れて話し合います。
第 11 回	SECI モデル（暗黙知と共有知）の活用について	＜講義形式＞地域文化施策に必要な知の共有化について、SECI モデルについて習得します。

発行日：2021/5/1

第 12 回	地域文化ランキングの指標づくり（グループワーク）	<ワークショップ>グループワークで、地域文化度の高い街はどんな街か、指標作りをしていただきます。
第 13 回	地域文化ランキングワークショップ（グループワーク）	<ワークショップ>グループワークで、地域文化度の高い街はどんな街か、指標作りの発表資料を作成いただきます。
第 14 回	期末・まとめ	<最終レポートの提出>担当した地域の課題と解決策について提言を行います。（レポート型）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が住んでいる市区町村の施策やデータを事前に調べて参加します。そのため、セッションおよびグループワークの回は、毎回宿題が課されます。宿題のプレゼンテーションがあり、10 月、11 月のタイミングは特に分量が増えます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布いたします。

【参考書】

「実践ソーシャルイノベーション - 知を価値に変えたコミュニティ・企業・NPO」
著：野中 郁次郎 出版社：千倉書房

【成績評価の方法と基準】

講義への参加および期末試験とワークショップの内容で評価します。
・平常点：35 %
・セッション&ワークショップ：55 %
・期末試験：10 %（期末試験はなく、レポート提出となります）

【学生の意見等からの気づき】

講師は、リクルートや毎日新聞社で地域活性化事業を行ってきた実業家です。他大学では、社会実装を研究テーマとしてマーケティング領域を中心に教員としても従事しています。論文やネット情報ではなく、リアリティのある現場の話を交えながら講義やワークショップを進めます。なお、本講座は、土曜日開講で課題・宿題も多いため受講者数は多くありませんのでゼミナール形式でワークを進めております。受講者数が少ない場合は後半のセッションの「グループワーク」を個人ワークに変更します。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（パソコン）およびパワーポイントや Keynote といったプレゼンテーションソフトが必須となります。

【その他の重要事項】

リアルな会議を想定したワーキングを行います。講義自体はオンラインで行います。考える力を養いますので、毎度の宿題と講義への出席が必須となります。

【Outline and objectives】

We will explore what the community is going to be in the future through various data and your research.
In particular, from the viewpoints of history, economy, society, and law, we look at changes in people, changes in culture.
In this lesson, we will become the "Regional Policy Division Manager" of the municipalities where you live and speak group work.

SOC200MA

アイデンティティ論

展開科目

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生における「アイデンティティ」とは何か、どのように発達し、人生にどのような影響をあたえるのかを理解する事が本講義の目的である。個人的アイデンティティと社会的アイデンティティの両面からアイデンティティをどのように形成・獲得し、またそれから意識的・無意識的にどのような影響を受けるのかを学び、将来のキャリアデザインに活用できる知識の獲得を目指す。

【到達目標】

受講者が自分や他人のキャリアデザインを行う際に、アイデンティティの影響を考慮に入れて検討し、それを活用出来るようになる事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本年度は毎回オンデマンド型オンライン授業形式となる予定である。学習支援システムに各回の指示を掲載するので、各自で確認の上、課題を提出するという形式で行う予定。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のスケジュール、内容、形式、評価方法及びアイデンティティについて学ぶ事の意義について説明する。
第 2 回	アイデンティティ研究の諸相	アイデンティティに関するこれまでの主な議論を紹介する。
第 3 回	アイデンティティの形成・発達	発達心理学の観点からアイデンティティ及びモラトリアムについて解説する。
第 4 回	社会的アイデンティティの理論と代表的研究	社会心理学における自己及び社会的アイデンティティに関する代表的理論とその研究成果をレビューする。
第 5 回	社会的アイデンティティ（グループダイナミックス）	集団の一員となることで生じるアイデンティティの変化が、社会的促進・抑制や集団思考に与える影響を解説する。
第 6 回	社会的アイデンティティ（協力・援助）	援助行動における自己像と社会的アイデンティティによる促進効果について、これまでの研究成果を解説する。
第 7 回	社会的アイデンティティ（集団間関係・①）	集団成員となることで他の集団と対立的になる心理過程及びその解決に関する研究成果を解説する。
第 8 回	社会的アイデンティティ（集団間関係・②）	集団成員となることで他の集団と対立的になる心理過程及びその解決に関する研究成果を解説する。
第 9 回	政治とアイデンティティ	投票行動や政治的態度、社会的信念などに対するアイデンティティの影響について解説する。
第 10 回	文化とアイデンティティ	相互協調的自己と相互依存的的自己など、自己とアイデンティティに関する文化差と、それによって生じる人間関係への影響について解説する。
第 11 回	差別とアイデンティティ	性別、人種、年齢（例えば世代論）等に関する偏見や差別とアイデンティティの関係について解説する。
第 12 回	過激化とアイデンティティ（1）	人々の過激な行動に対するアイデンティティの影響について解説する。
第 13 回	過激化とアイデンティティ（2）	人々の過激な行動に対するアイデンティティの影響について解説する。
第 14 回	まとめと総括	講義内容についての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で、次の授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】

脇本竜太郎編著/熊谷智博・竹橋洋毅・下田俊介共著『基礎からまなぶ社会心理学』サイエンス社 2014

【成績評価の方法と基準】

本年度は毎回オンデマンド型オンライン授業形式となる予定。課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には課題＋質問で 50 %、学期末試験（試験期間に実施予定。場合によってはレポート課題）50 %の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

一部課題は windows P C を利用する場合があるので、利用環境を整えておくこと。

【Outline and objectives】

Students will learn theories concerning "identity" from social psychology perspective. Especially, it is focused on social identity theory and group dynamics.

SOC200MA

余暇集団論

展開科目

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの日常生活、そして人生において「余暇」とはどのような意味や機能があるのかについて、単なる個人的経験としてだけではなく、社会集団の活動としての側面も交えて解説する。更には余暇に対する心理学的研究法を紹介し、心理的メカニズムからの理解を深め、特に観光旅行に焦点をあて、余暇研究の具体的な応用方法について解説する。

【到達目標】

人生における「余暇」について、日本における活動の現状、考え方の変遷について学ぶ。更には余暇活動を研究するための理論と方法について解説し、将来における余暇活動の発展に利用可能な知識の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本年度はオンデマンド型オンラインでの開講となる。具体的実施法については学習支援システムでその都度提示する。授業各回における課題の提出を必須とする。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全体の内容や到達目標について説明する。
第 2 回	余暇とはなにか	余暇の種類と現状について解説する。
第 3 回	余暇と社会	人々の社会生活における余暇の意義について解説する。
第 4 回	余暇に関する諸理論	余暇に関する研究のなかで、代表的な理論について解説する。
第 5 回	余暇の心理①	余暇に関する心理のうち、動機と満足に関する知見を解説する。
第 6 回	余暇の心理②	余暇活動が持つ発達と社会化への影響について解説する。
第 7 回	余暇の心理③	余暇活動とパーソナリティの関係について解説する。
第 8 回	余暇の心理④	余暇活動から得られる「利得」の側面について解説する。
第 9 回	余暇の心理学的研究法	余暇に関する研究法として、心理学ではどのようなやり方があるか、例を挙げて解説する。
第 10 回	観光旅行の研究法	余暇活動のうち、観光旅行に焦点をあて、どのように研究可能であるかを解説する。
第 11 回	観光旅行の動機	観光旅行を行う人は、どのような動機を持っているのか、研究結果に基づいて解説する。
第 12 回	観光旅行の意思決定	観光旅行の計画・実施の際にはどのような意思決定が行われているのか、研究結果に基づいて解説する。
第 13 回	観光旅行での活動と経験	観光旅行ではどのような活動が行われ、それが人々に同様な経験として記憶されるのか、研究結果に基づいて解説する。
第 14 回	まとめ	講義内容についての振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で、次の授業に臨むように。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】

瀬沼克彰・園田碩哉（編）日本余暇学会（監修）「余暇学を学ぶ人のために」世界思想社、2004

【成績評価の方法と基準】

本年度は毎回オンデマンド型オンライン授業形式となる。課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には課題＋質問で50%、学期末試験（試験期間に実施予定。場合によってはレポート課題）50%の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

一部課題はPCが必要となるので、利用できる環境を整えておくように。

【Outline and objectives】

Students will learn theories concerning "lecture" from social psychology and sociology perspective. Especially, it is focused on theories, history, and methods of the lecture study.

SOC200MA

NPO論

展開科目

山口 佳子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・2 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPOは地域社会のニーズに応える社会サービスの創り手として、社会的課題の解決と組織が掲げたミッション（使命）の実現に向けて大きな役割を果たすことが期待されています。しかし、現状として、多くのNPOが「人材・資金・事業・情報等」のマネジメントに課題を抱えています。本講義では具体的な事例を通して、NPO活動を発展させるためのマネジメントの向上について、そのあり方や課題を考察します。

【到達目標】

NPO／非営利組織についての基本的な知識を習得することに合わせて、その現状と社会的意義について理解を深めることを目標とします。今期はオンラインでの実施となるためグループワークは行わず、ワークシート型の課題を通してNPOの事業を考え、事業計画書の作成までを行えるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマを決めたオンデマンドでの講義を実施する予定です。講義ではリアクションペーパーの提出を求め、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。リアクションペーパーへのフィードバックは毎回講義内でいくつかとりあげコメントとして返しますが、個別の質問等にもできるだけ対応したいと思います。その他、初回アンケートにより、授業テーマに若干の変更があり得るほか、オンラインでのフィールドワークやゲスト講師による講義を行います。なお、ゲスト講師による講義は、場合によってはリアルタイムで行う可能性があります。その場合は事前に参加者の確認をとるようにとめます。基本的に、講義の内容、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：	本授業全体の概要確認。参加者の関心事項についてのミニアンケートも行うので、受講希望者は必ず出席のこと。
第2回	NPOの基礎知識	NPOの意味や意義、NPOとNGOの違い、非営利の意味などについて理解する。
第3回	NPOの社会的役割	日本における市民社会の歴史を知り、NPOの社会的役割について理解する。
第4回	コロナ禍におけるNPOの活動について	コロナ禍におけるNPOの活動実態と社会的ニーズについて紹介し、その具体的な活動について理解する。
第5回	市民活動やNPOの現在	市民活動やNPO、またコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの最新事例の紹介する。
第6回	NPOと行政との協働①	NPOと行政の関係を学ぶとともに、「協働」の具体的事例を紹介する。
第7回	NPOと行政との協働②	実際にNPOで活動する人物の話を通して、具体的事例をもとに、NPOの社会的役割を考える。
第8回	アートにおけるNPOの現在①	アートを通じたNPOの活動を学ぶとともに、具体的事例を紹介し、社会的役割について考える。
第9回	アートにおけるNPOの現在②	実際にNPOで活動する人物の話を通して、具体的事例をもとに、NPOの社会的役割を考える。
第10回	フィールドワーク	劇場や美術館などのアートNPOと行政との協働の現場に実際に足を運び、イベント等を体験する。（オンラインでの実施を予定）
第11回	NPOの組織と運営について①	NPOの組織運営について学び、その課題について理解する。
第12回	NPOの組織と運営について②	NPOが法人化されるまでの具体的な過程について学び、設立の基礎を学ぶ。
第13回	「with コロナ時代」の社会貢献の可能性	「with コロナ時代」において新しい社会貢献活動の形を模索すると共に、ワークシートを用いて、自身の興味のあるNPOの活動を考える。

第 14 回 授業のまとめ・最終課題 これまでの講義のまとめと最終課題についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、授業であつかう事例に関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。授業支援システムを用いて随時資料を配布する。

【参考書】

講義において、必要に応じていろいろと紹介します。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの講義となるため、授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（60%）と最終課題（40%）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインベースの講義になるため直接お会いする機会がつかれませんが、希望者には zoom など質問をしていただく機会もつくりたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【その他の重要事項】

アート NPO の立ち上げから 12 年間代表理事をつとめています。組織の運営、および様々な行政・民間企業等との協働について具体的な事例を通して、学生の皆さんと共にこれからの NPO の在り方について考えていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

NPO creates service in response to the needs of the community, solution and the organization of the social problem raised. NPO is expected to play a key role in solving the social problems and for the realization of the mission organized by them. However, many NPOs have problems with managing (human resources, funds, business, information, etc.) as a present situation. We are facing many objectives to be solved in the future as our challenge. In this course, we will examine the way and problem about improving management to develop NPO activities thorough concrete example.

SOC200MA

公共サービス論

展開科目

前浦 穂高

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共サービスとは何か？と問いかけられたら、皆さんはどのようなサービスを思い浮かべるだろうか。詳しくは授業で説明するが、公共サービスは、皆さんが思い浮かべる以上に多種多様であり、また、私たちの日常生活及び社会生活に欠くことのできないものである。しかし、私たちは公共サービスについて知らないことが多いのではないだろうか。公共サービス論の授業では、受講者の皆さんと今後の公共サービスのあり方について考えたい。

【到達目標】

公共サービスに対する理解を深め、今後の公共サービスのあり方について、受講者が明確な考えを持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ZOOM によるオンライン授業（講義形式）を行う。基本はリアルタイムとするが、場合によってはオンデマンドになる場合もある。具体的には学習支援システムで指示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要説明 公共サービスの定義
第 2 回	公共サービスの提供と評価 (1)	公共サービスと公共政策の手段 公共サービスを提供する仕組み
第 3 回	公共サービスの提供と評価 (2)	公共サービスを評価する仕組み
第 4 回	政府と市場の役割分担 (1)	民間委託の歴史・現状・課題
第 5 回	政府と市場の役割分担 (2)	市場化テスト 公共サービス改革法のインパクト
第 6 回	政府と市場の役割分担 (3)	指定管理者制度の背景・現状・課題
第 7 回	政府と市場の役割分担 (4)	民営化の歴史と現状 (3 公社の民営化、郵民営化)
第 8 回	働く環境の変化と人事行政 (1)	地方公務員を取り囲む環境の変化 人事管理制度とその実態
第 9 回	働く環境の変化と人事行政 (2)	給与構造改革 能力・実績主義の浸透：人事処遇の個別化の進展
第 10 回	働く環境の変化と人事行政 (3)	非常勤職員の活用と課題 正規職員と非常勤職員との均衡処遇
第 11 回	公共サービスの現状 (1)	資金交付行政
第 12 回	公共サービスの現状 (2)	子育て行政
第 13 回	公共サービスの現状 (3)	水道事業
第 14 回	これまでの授業内容の整理とまとめ	これまでの授業内容の振り返り 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り扱うテーマには、時事問題が含まれる。ニュースを見たり、新聞を読んだりしておくといい。また授業を受講するために、前の講義内容を復習しておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

本授業では、テキストは指定しない。

【参考書】

- ・秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉（2017）『公共政策学の基礎 新版』有斐閣ブックス。
- ・井上雅雄＋立教大学キャリアセンター編（2008）『講義 仕事と人生』新曜社。
- ・外山公美他著（2014）『日本の公共経営』北樹出版。
- ・磯崎初仁・金井利之・伊藤正次（2014）『ホーンブック 地方自治 [第 3 版]』北樹出版。
- ・岩崎馨・田口和雄編著（2012）『賃金・人事制度改革の軌跡—再編過程とその影響の実態分析』ミネルヴァ書房。
- ・大谷基道・河合晃一編著（2019）『現代日本の公務員人事——政治・行政改革は人事システムをどう変えたか』第一法規。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末レポートで決定する。出席の取り扱い、学生の意見を聞いて決定する。出席をとらない場合は、期末レポート 100 %、出席をとる場合は、期末レポート 85 %、平常点 15 % という配分を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業になるため、授業の進め方や内容に関する質問等はメールで受け付ける。
教員のメールアドレスは、最初の授業で知らせる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

Through this class, students learn about public service.
The public service is indispensable to our everyday life.
Therefore I want to think about future public service with students.

SOC200MA

アート・マネジメント論

展開科目

山口 佳子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のシステムや価値観が大きく変化しつつある今日、わたしたちの生き方や考え方、働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとって生み出されるアート、もしくはアートの必要な要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていきます。

【到達目標】

わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「する人」（アーティスト）と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々を「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマを決めたオンデマンドでの講義を実施する予定です。講義ではリアクションペーパーの提出を求め、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。リアクションペーパーへのフィードバックは毎回講義内でいくつかりあげコメントとして返しますが、個別の質問等にもできるだけ対応したいと思います。その他、初回アンケートにより、授業テーマに若干の変更があり得るほか、オンラインでのフィールドワークやゲスト講師による講義を行います。なお、ゲスト講師による講義は、場合によってはリアルタイムで行う可能性があります。その場合は事前に参加者の確認をとるようにつとめます。基本的に、講義の内容、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明と第 2 回目以降の授業内容に必要なアンケートを行う。
第 2 回	コロナ禍におけるアートの現状	コロナ禍における文化芸術の現状について知り、マネジメントの役割への理解を深める。
第 3 回	アート・マネジメントとは何か	アート・マネジメントの成り立ちについて概説する。
第 4 回	アートと国家	日本の文化政策の経緯をたどり、現状の課題について探る。
第 5 回	アートと地方自治体	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第 6 回	アートと社会	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第 7 回	アートと企業①	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられてきたか、歴史的事例を学ぶ。
第 8 回	アートと企業②	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第 9 回	フィールドワーク	オンラインにより、劇場や美術館などのアートの現場に実際に足を運び、現場の課題や問題点について調査・検討を行う。
第 10 回	アートの現場と市場	芸術文化の組織経営の実際について学ぶ。
第 11 回	アートにおける様々なキャリア①	芸術文化施設での仕事にとどまらないアートやコミュニティに関わる職業のキャリア形成について、具体的な事例を学ぶ。
第 12 回	アートにおける様々なキャリア②	実際にアートに関わる職業に携わるゲストを招き、具体的な活動やそこの課題や問題点を学ぶ。

第 13 回	アートと法・制度	日本における文化芸術を取り巻く法律や制度について概説する。
第 14 回	授業のまとめ・最終課題説明	これまでの講義のまとめと最終課題についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場についてリサーチし、現代の日本におけるアートの諸様相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりすることが求められます（フィールドワークはすべてオンラインになります）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業中に資料を配布やリンク先の指示を行います。

【参考書】

『アーツ・マネジメント概論 三訂版』小林真理・片山泰輔・伊藤裕夫・中川幾郎・山崎稔恵、水曜社（2009）
『文化政策の現在』小林真理編、東京大学出版会（2018）
※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの講義となるため、授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（60%）と最終課題（40%）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインベースの講義になるため直接お会いする機会がつかれませんが、希望者には zoom などでも質問をしていただく機会もつくりたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出等に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【Outline and objectives】

Today, social systems and values are changing fast and drastically, so "creativity" or creative thinking is strongly required in our way of life, way of thinking and way of working. In such circumstances, the art or anything artistic created from free thinking and expression is attracting more attention than ever. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will analyze its social and economic value which has been emphasized in recent years in a multilateral way and will clarify the position and significance of art in our society.

SOC200MA

文化経営論

展開科目

武田 知也

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年 2 月 26 日、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から芸術文化事業は「不要不急」のものとして、スポーツイベントなどと共に開催や活動の自粛を政府から要請されました。一方で、芸術文化を希求する多くの人たちからも声があがり、これを機に日本社会における芸術文化の立ち位置が改めて可視化されたとも言えます。本授業では、この状況で起きたいくつかの事例を参照しながら日本における芸術文化の現在地を紐解くところからはじめ、芸術と社会の関わりを考察していきます。

【到達目標】

芸術文化を担う様々な主体（創り手・企業・行政・NPO 等）の現状、取り組み事例、その背景や歴史を概観した上で、芸術と社会をつなぐマネジメント・プロデュースの視点から学修します。芸術そのもの、クリエイティブ産業、まちづくり、福祉、教育など芸術文化と学生自身の生活との多岐にわたる関わりに新たな気づきを獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンデマンドでの講義を予定しています。毎回リアクションペーパー（小レポート）の提出を求め、授業の理解度、社会的な問題意識や関心を把握しながら進みます。また、授業の初めに、リアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。初回のみリアルタイム型のオンライン授業とし、概要の説明と意識調査を主としたアンケートを行いますので必ず出席してください。ヴァーチャルあるいはリアルでのフィールドワークを課すことも検討していきます。具体的には、授業支援システム内で随時指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と進め方について説明する。
第 2 回	コロナ禍と芸術文化	新型コロナウイルスによって様々な影響を受けた芸術文化事業の状況を概観する
第 3 回	芸術文化と文化政策①	芸術文化と文化政策の関わりを知る。文化政策の成り立ち、歴史を概説。
第 4 回	芸術文化と文化政策②	オリンピックを軸として振興を目指してきた 2020 年までの最新の文化政策の動向を探る。
第 5 回	芸術文化と行政（地方自治体）	都市と芸術文化（創造都市）、まちづくり、地域活性化との関わりを学ぶ。
第 6 回	芸術文化と企業	産業としての芸術文化、また企業メセナを中心とした企業による芸術文化支援、関係を学ぶ。
第 7 回	芸術文化と NPO、	芸術文化を通じた NPO の多彩な活動
第 8 回	ソーシャルアクション フィールドワーク	ここまでの学びを通じた、オンライン、あるいはリアルでのフィールドワークを行う。特徴や課題を調査、検討する。（フィールドワークの具体的内容については授業内で指示）
第 9 回	アーティストという存在—アーティストとは何か①	そもそもアーティストとは誰か？なにをする人たちのなか？アーティストという存在を考える

第 10 回	アーティストという存在—アーティストとは何か②	舞台芸術を中心とした多彩なアーティストの作品群を通して、社会との交わりを考察する
第 11 回	芸術文化とマネジメント・プロデュース①	芸術文化にまつわる「お金」の構造、仕組みを学ぶ（主に舞台芸術）
第 12 回	芸術文化とマネジメント・プロデュース②	マネジメント、プロデュースの実践を知る（主に舞台芸術）
第 13 回	芸術文化とキャリア形成	芸術文化と関わる多様なキャリア形成と課題を知る。
第 14 回	授業内試験 まとめと解説	自身と芸術文化の関わりについて考察をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した事例について実際の展開を調べたり、芸術文化事業（劇場、美術館、ライブ、フェスティバル等）の現場に足を運び、フィールド調査を行い、レポートにまとめてもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、授業中に資料の送付、読むべきリンク先の指示をします。

【参考書】

授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

最終試験（30 %）と授業内の小レポート、課題レポートなどの平常点（70%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初めて担当するためデータなし

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレット、授業システムへの登録

【その他の重要事項】

新卒時は法政大学からアートNPOに就職し、その後フェスティバル/トーキョー（国際舞台芸術祭）、ロームシアター京都（公立劇場）、さいたま国際芸術祭2020（国際芸術祭）などで、企画・制作、キュレーターなどを行ってきました。

そのような経験を元に、現在の文化芸術を取り巻く状況と学生諸君の生活との接点を見出すような授業を展開できればと考えています。

【Outline and objectives】

On February 26, 2020, the Japanese government requested that the arts and culture are "unnecessary and Unurgent" from the perspective of preventing the spread of the COVID-19 infection, and that it should be activities should be refrained from being held along with sporting events. On the other hand, many people who want art and culture have also raised their voices, and it can be that this was an opportunity to re-visualize the position of art culture in Japanese society.

In this class, we will start by unraveling the current location of art and culture in Japan while referring to some cases that occurred in this situation, and then consider the relationship between art and society.

SOC200MA

メディア文化論

展開科目

堤 信子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：水・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、テレビ、ラジオ、雑誌などによるメディア文化の歴史と現状について各メディアの具体的な事例をもとに紐解いていく。今日、メディアは、作り手と受け手の相互コミュニケーションを大事にしていこう傾向にあり、メディアの受け手もメディア文化形成の一端を担っているといえる。また、ソーシャルメディアの隆盛により、メディアを創り出し、様々な日常を発信していくことができる。そこで本講義では、メディア文化の展開を学ぶだけでなく、アナウンサーなどの表現者としての技術や、多種多様なメディアを創り出していく手法も実践的に学んでいく。

【到達目標】

各種メディアの中身を理解することにより、今後ますます多種多様になっていく各種メディアとの関わり方を学ぶことができる。また、オンラインを通してのプロのアナウンサーの指導により、各自の表現力、コミュニケーション力の向上をも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンライン授業で、リアルタイム型を予定しています。オンラインですが、表現力を磨くための演習も取り入れます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：メディア文化とは？	われわれのまわりに存在する主要メディアに着目し、メディア文化を捉える視座を確立する。全講義内容の解説や、アンケートの実施も。
第 2 回	メディア文化の源流：雑誌、ラジオ、テレビ	雑誌、ラジオ、テレビの主要メディアの歴史的経緯を理解する。
第 3 回	雑誌メディアの文化論	週刊誌、月刊誌何例かを取りあげ、雑誌の成り立ちや紙面構成などを分析していくことで、雑誌によるメディア文化形成を読み解く。
第 4 回	ラジオメディアの文化論	ラジオ番組の何例かを取り上げ、その歴史的経緯を分析し、またラジオに関する DVD 視聴などを通し、ラジオによるメディア文化形成を読み解く。
第 5 回	テレビメディアの文化論①	朝のレギュラー番組を取り上げ、番組に携わるスタッフ、出演者などの役割、生放送の仕組み、そして視聴率の裏側を知ることで、メディアにおけるテレビの立場を紐解く。
第 6 回	テレビメディアの文化論②	人気バラエティー番組を取り上げ、その内容や裏側を分析していくことで、テレビによるメディア文化形成を読み解く。
第 7 回	メディアを作る：ビジネス本やエッセイ本の事例	『ありがとう上手の習慣』や「旅靴 いっぱいシリーズ」の制作秘話を交え、取材や執筆のルール、出版までの流れを知ることを通し、書籍メディアを理解する。
第 8 回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談 1	雑誌や新聞、通信社などの現場で働くプロをゲストにお迎えし、メディアのあり方、現場での仕事の内容などについて理解する。
第 9 回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談 2	雑誌や新聞、通信社などの現場で働くプロをゲストにお迎えし、メディアのあり方、現場での仕事の内容などについて理解する。
第 10 回	ウェブメディアの文化論	ウェブメディアの特徴や今後の可能性を洞察し個人の関わり方を考える。編集長をゲストに迎えることも。
第 11 回	アナウンサー対談	現役アナウンサーをゲストに迎え、その仕事の裏側、心構えなどについて、同じくアナウンサーである講師と対談する。

第 12 回	アナウンサーに学ぶ情報の伝え方	アナウンサーなどのメディアにおける出演者が身につける技術の一つ、発声やプレゼン方法などの基礎を学ぶことで、表現力を身につける。
第 13 回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談 3	テレビ、ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。
第 14 回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談 4	テレビ、ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時々、リポート提出もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は、使用しない予定です。
配布資料中心です。

【参考書】
堤信子著「100人中99人に好かれるありがとう上手の習慣」ディスカヴァー 21
堤信子著「旅鞆いっぱいバリ・ミラノ」本の泉社
「旅鞆いっぱい京都・奈良」エイ出版社
「旅鞆いっぱいバリふたたび」実業之日本社
「旅鞆いっぱい京都ふたたび」実業之日本社
「東京文具雑貨散歩～旅鞆いっぱいの東京」辰巳出版

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業の感想文や出席） 40%と 課題レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】
オンラインでも、なるべく学生の声を聞けるよう工夫した授業にしていきたいと思っています。
テレビやラジオなどの番組に使用されている台本や原稿などにも実際に触れる機会を引き続き作っていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントや DVD 映像などを見せたりするので、スクリーンを使用します。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will understand the history and current status of media culture by television, radio, magazines etc. based on concrete examples of each media. Today, the media tends to cherish mutual communication between creators and recipients, and it can be said that media recipients also play a part in media culture formation. Also, with the rise of social media, it is possible to create media and transmit various daily life. Therefore, in this lecture, in addition to learning the development of media culture, we will also practice the techniques as an announcer and other expressors, as well as the methods to create a wide variety of media.

SOC200MA

文化マーケティング論

展開科目

横石 崇

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：金・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化志向のマーケティングの考え方と方法について学ぶ。
文化化する産業と、産業化する文化。社会の変化にともない、消費者の価値観や消費動向が急速に変化する現代において、文化と産業が重なる領域は、企業が消費者と良好な関係を築く上で、今後益々重要視されることが予測される。

今後さらに複雑化するマーケティング領域においては、事業性検討、戦略策定や製品開発などの具体的アプローチの検討はもちろん重要だが、それ以前にある社会的意義などの部分を深く考察する、コンセプト開発の能力が求められる。この授業では、現代の社会背景を踏まえ、なぜ文化志向のプロダクトやプロジェクトが世の中に必要とされるのかを考える力と実行できる力が身につく授業としたい。

【到達目標】
キャリアデザイン、コミュニケーションデザインの視点から文化マーケティングについて考察し、近い将来にこの分野で生き、働く上で有意義な考え方や方法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
マーケティング、文化を全体的・動的にとらえるとともに、相互の結合を図る。マーケティングの基礎知識に加え、講師の事例紹介や、文化とマーケティングが重なる領域で活躍する実践者をゲストに迎えた講義およびディスカッションを「リアルタイム型」の授業にて行なう。授業ごとに授業内レポートや課題の提出を指示し、良いコメントや内容は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。Zoom でのチャット機能を多用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業全体の説明
第 2 回	文化マーケティングとは	文化マーケティングが重視される背景と基礎概論
第 3 回	文化マーケティング基礎の理解①	マーケティングの考え方（ポジショニング戦略）
第 4 回	文化マーケティング基礎の理解②	マーケティングの考え方（ブランディング戦略）
第 5 回	文化マーケティング基礎の理解③	マーケティングの考え方（エンゲージメント戦略）
第 6 回	文化マーケティング事例紹介①	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（コミュニティ領域）
第 7 回	文化マーケティング事例紹介②	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（広告・メディア領域）
第 8 回	文化マーケティング事例紹介③	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（アート・エンタテインメント領域）
第 9 回	職業・仕事としての文化マーケティング①	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（コミュニティ領域）
第 10 回	職業・仕事としての文化マーケティング②	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（広告・メディア領域）
第 11 回	職業・仕事としての文化マーケティング③	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（アート・エンタテインメント領域）
第 12 回	文化マーケティングを実践するためのキャリアプランニング	企業や地域との関わり方や就労方法について
第 13 回	振り返り、授業内レポートの事前解説	授業内レポートのポイント解説、解答事例の紹介
第 14 回	授業内レポートの実施及び解説	授業内レポートの解説、授業内レポートの実施（参考資料持ち込み可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で紹介した事例について実際の展開を調べ、可能な範囲でフィールド調査を行う。授業内で紹介した参考文献を読む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加 70%、授業内レポートの提出 30%）

【学生の意見等からの気づき】

前年度と同様に「リアルタイム型」でのオンライン授業を行う。好評だった双方向性を重視したチャット機能などを多用するものとする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレット

【Outline and objectives】

Learn about culture-oriented marketing thinking and methods. Industry to culture and culture to industrialize.

In today's world where consumer values and consumption trends are rapidly changing due to social changes, the area where culture and industry overlap is to be emphasized more and more in the future as companies build good relationships with consumers. Is predicted. In the field of marketing, which will become even more complex in the future, it is important to consider business approaches, concrete approaches such as strategy formulation and product development, but of course the ability of concept development to deeply consider social significance etc. Is required.

In this class, why is it based on the modern social background? For what? for whom? I would like the class to have the power to think whether culture oriented marketing is needed in the world.

SOC200MA

ブランド創造論

展開科目

石原 篤

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：木・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物や情報にあふれた時代に、人は何を基準に物を買ったり、情報を取捨選択していくか。ブランドは人の気持ちを動かしたり、行動を生み出していく上で大きな役割を果たしています。この講義では、ブランドとは何か、ブランドをどうつくるか、などを論理的な観点だけでなく、ブランドづくりの現場の実態や実情なども踏まえながら学んでいきます。また、企業のマーケティング活動におけるブランドのあり方・つくり方を理解するだけでなく、受講生が人としての自身のブランドをどのようにつくり上げていくかを学ぶことも目的とします。

【到達目標】

- ①ブランドとは何かを理解し、説明できる。
- ②ブランドづくりのアプローチを理解し、実践してみる。
- ③ブランドづくりに必要な合意形成ツール「企画書」の作成方法を、身につける。
- ④正解のない多様性の時代の中で、セルフブランディングの重要性を理解し、実践してみる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ブランド創造における論理、事例紹介を中心に講義を進めていきます。
 - リアリティのあるブランドづくりを学ぶために、広告業界・アパレル業界・飲食業界でブランド創造に従事する方や、ユーチューバーとして活動される方をゲストに招き、お話を伺います。（ゲストは変更になる可能性があります）
 - 授業はリアルタイム型のオンライン授業をベースとしますが、ゲスト講師を招く授業については対面授業になります。具体的には学習支援システムで指示いたします。
 - 授業後には適宜アンケートの回答をお願いします。アンケートでいただいたコメントは次回以降の授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
 - 講義の後半には、現在講師がブランド創造を行なっている事案を題材にした実習を行います。
 - 課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
 - 講義は、博報堂出身で現在もクリエイティブディレクターとして活動する教員が勤めます。
- 大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介、講義の狙いと授業計画の説明、講義に期待するアンケートの回答
第 2 回	ブランド創造概論	ブランディング、マーケティング、コミュニケーションなどのキーワードの実践的な分類と関係性
第 3 回	ブランド創造史	1980 年から 2020 年まで 40 年間にわたる日本のブランディングの変遷
第 4 回	ブランド創造とアートディレクション	ブランドづくりにおけるアートディレクションという方法論 （ゲスト）株式会社アンドディ アートディレクター 小栗卓巳氏

第 5 回	社会と接続するブランド創造	ブランドづくりにおけるPR（パブリックリレーションズ）という方法論 ゲスト）株式会社HASHI クリエイティブディレクター 橋田和明氏
第 6 回	ブランド創造の新しい潮流	近年の社会環境とコロナ渦におけるブランド創造の変化
第 7 回	ライフスタイルのブランド創造	物を売るだけではなくライフスタイルを提案する「ニコアンド」のブランドづくり ゲスト）株式会社アダストリア ニコアンド営業部長 村上亮氏
第 8 回	地域のブランド創造	埼玉県民に愛される「山田うどん食堂」のブランドづくり ゲスト）山田食品産業株式会社 営業部営業企画課 部長 江橋丈広氏
第 9 回	人を中心にしたブランド創造	YouTube チャンネル「バオバオチャンネル」のブランドづくり ゲスト）ユーチューバー・株式会社ハクシ代表 ぶんけい氏
第 10 回	ブランド創造実習 1	実習「ビジネスマン向けのダンススクールのブランドづくり」オリエンテーション
第 11 回	戦略とアイデアのつくり方	ブランドづくりをしていくための戦略構築とアイデアのつくり方
第 12 回	企画書のつくり方	ブランドづくりに関わる人々と合意形成していくための「企画書」の作成方法
第 13 回	ブランド創造実習 2	実習「ビジネスマン向けのダンススクールのブランドづくり」発表と講評 ※国内外で活動するプロダンサーの方がゲスト講師として参加予定
第 14 回	セルフブランディングのススメ	ブランド創造に関わる働き方と受講生自身のセルフブランディングの方法論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

通常講義では適宜事前課題の出題、授業前後のアンケートを行います。また、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。実習においては、授業時間外の個人ワークとして、リサーチ、アイデア出し、企画書制作などを行なっていただきます。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

- これからの「売れるしくみ」のつくり方 グラフィック社 石原 篤 著
- クリエイティブ合気道 アスキー 箭内 道彦 著
- 嶋浩一郎のアイデアのつくり方 ディスカヴァー・トゥエンティワン 嶋浩一郎 著
- カイトイ新書 秀和システム 博報堂ヒット習慣メーカーズ 著・中川 悠 編著
- 佐藤可士和のクリエイティブシンキング 日経ビジネス人文庫 佐藤 可士和 著

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%

実習課題の提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

In an era filled with goods and information, what are the criteria people use to buy goods and sort out information? Brands play a significant role in moving people's feelings and producing actions. In this course, students will learn what brands are and how to create a brand from a logical point of view and based on the actual state and condition of brand-making sites. This course aims not only to know how to create a brand in corporate marketing activities but also to learn how students can create their brand as individuals.

SOC200MA

産業文化論

展開科目

上原 義子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：水・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、文化と産業の関係を色々な角度から見ていくものである。文化は長い人類の歴史の中で、様々な地域で、多方面から育まれてきた。また、人の暮らしは基本的に高度に分業化された経済的諸活動の結び付きによって成り立っており、そこに産業が育まれてきた。本講義では、こうした人々の関りから生まれてきた叡知と個性である産業と文化が、これまでどのようなものを織り成してきたのかについて多方面から検討する。そのため、講義の各回だけをピンポイントで見ると毎回全く関連性がないように思えてしまうこともあるが、それは多文化という言葉が示すように、文化というものが実に様々な特色を持っているからこそである。本講義では、こうした多種多様な文化を産業ベースで見えていくことで一定の枠組みを考えていくことを狙いとしている。なお、授業内で扱える分野には限りがある。学生諸君には是非この講義を興味関心のきっかけとして、より発展的な学習へと進んでもらいたい。

【到達目標】

- 1、文化を通して産業を考える
- 2、産業を通して文化を考える
- 3、日本の文化と産業の関係性について知識を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業はオンデマンド型を基本とします。適宜リアクションペーパー等を活用し、良いコメントは授業内で紹介するなどします。※今年度は、コロナ対応として変則的な授業が予測されます。具体的ことは学習支援システムや授業内で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の全体像と狙い、授業の進め方、試験制度、レポート課題、評価の仕方
第 2 回	様々な文化と産業	日本の文化と産業や海外の文化と産業について、基礎的な知識を得る。
第 3 回	日本の産業文化（1）	日本を代表する観光地・京都の舞妓の育成制度を事例に、日本の観光産業と文化的背景を考える
第 4 回	日本の産業文化（2）	雇用者と従業員を取り巻く組織文化－サービスマーケティングの視点から
第 5 回	日本の産業文化（3）	日本のモノ作り文化と産業
第 6 回	日本の産業文化（4）	日本の伝統産業の成り立ちと現在一藩の殖産から産業集積へ
第 7 回	日本の産業文化（5）	これまでの日本の産業を支えてきた組織文化と日本の経営
第 8 回	日本の産業文化（6）	伝統的工芸品に関する産業論と芸術論
第 9 回	日本の近代産業（1）	日本の経済成長を支えた風土－流通チャネルの視点から
第 10 回	日本の近代産業（2）	環境問題と文化、産業
第 11 回	日本の近代産業（3）	観光産業と文化
第 12 回	日本の将来的産業文化	グローバル化と日本の文化－観光立国としての日本を事例に
第 13 回	ヒトの進化と文化	協力と罰の生物学 流通チャネル構造と機会主義 ネットワーク
第 14 回	今学期のまとめ	この授業を踏まえてこれから修得してもらいたいこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は文化という複雑で多面的なことを産業という側面から切り込むものである。そのため多分野を横断的に扱うので、受講生自らも自発的に関連領域を調べる必要がある。信頼のおける情報源から多くの知識を得て考えを深めてほしい。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義内で適宜紹介する。

【参考書】

講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 100%

※2021年度は、コロナ対応として、レポート評価とする予定です。詳細は授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントが見られる機器

※ 2021 年度は、コロナへの対応が必要になります。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This lecture studies the relationship between culture and the industry from various viewpoints. The culture has been brought up in various areas and from numerous aspects for a long period of human history. The human life basically consists of highly decentralized economic activities and in such a place the industry has been brought up. In this lecture, we consider what the wisdom that was born from the entanglement among people and characteristic industry and culture make from numerous aspects.

Therefore, one may miss the relevance completely when each lecture is seen separately. However, as is seen in the term ‘multi-culture’, the reason is that the culture has indeed a wide variety of aspects. In this lecture, we focus on such a culture that has many kinds of viewpoints from the basis of wide variety of industries. Notice that there exists a limit of the number of fields we can treat in this lecture. We expect students to further progress and possess the interest in this occasion.

SOC200MA

多文化社会論 I

展開科目

小田 昌教

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：金・5 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる「グローバル人材」について書かれた本をみると、「異文化理解」は、グローバル人材に求められる「グローバル・マインドセット」であり、かつまた、グローバル人材に欠かすことのできない「ビジネススキル」いわれ、その重要性が指摘されています。なぜなら、2010 年代の現在でもなお、多くの国と地域では、異文化に対するさまざまな偏見や差別があり、そうした文化の摩擦や衝突が、しばしば紛争やテロリズム、ヘイトスピーチを生み出し、人種差別や排外主義などの問題をひきおこしているからです。とりわけ複数の異文化が混在する「多文化社会」ではそれが顕著にみられます。しかし、それはなにも外国だけの話ではありません。多文化社会化が進んでいる日本も決して例外ではなく、いまや異文化理解は、誰にとっても必要なマインドセットであり、現代を生きるために欠かすことのできないスキルです。

【到達目標】

この授業では、「異文化理解」だけでなく、多文化社会で生きてゆく上で知っておきたい教養として、「ステレオタイプ」「ヘイトスピーチ」「ヘイトクライム」「文化表象」「レイシズム」「オリエンタリズム」「文化相対主義」「多文化共生」といったことばの意味とその実例を、さまざまな映画や映像を通して学び、それを通して、多文化コミュニケーションのできる能力とリテラシーを身につけることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

今学期は、Zoom を使った「双方向型リアルタイムのオンライン授業」を行います。URL とパスワードは以下のとおりです。

<https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/2042206226>

556628

この授業の目的は、次の5つです。①オーセンティック・ラーニング ②クロスカルチャラル・ラーニング ③アンチバイアス・ラーニング ④メディアコンピテンシーラーニング ⑤エビデンス・ベースド・ラーニング

この授業の内容は4つのパートに分かれています。

【A：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇】

最初のパートでは「異文化理解」のむずかしさを、それとは逆の「異文化誤解」の実例をみることで学びます。具体的には、みなさんにとってなじみのある日本文化が、二〇世紀から現在までの映画や、様々なメディアの中でどのように表象されてきたかを見てゆき、文化がいかに誤解されやすいものであるかを学びます。

【B：さまざまな視点からみた日本の文化】

このパートでは、日本の作家や表現者たちをはじめ、インバウンドや日本在住の外国人など、さまざまな視点からの日本文化の表象のされ方、語られ方を学びます。また近年、日本政府が海外にむけて展開している「国策としてのクールジャパン」についても考えます。

【C：レイシズムの過去と現在】

異文化に対する偏見や差別の多くは、レイシズムやエスノセントリズム、ステレオタイプや排外意識などから生まれます。このパートでは、多文化社会アメリカにおけるレイシズムの過去と現在、そして、日本におけるヘイトスピーチを通して、それらにどのように向かいあえばよいのかを学びます。

【D：「文化相対主義」と「多文化共生」～多文化社会のいまと未来】

多文化社会のリテラシーとして最も重要なものに、「文化相対主義」と「多文化共生」という概念があります。高校の教科書では「文化相対主義」は「文化の多様性や異質性、価値観の相対性を前提とすること」と説明され、「多文化共生」は「たがいをあるがままに受け入れ、違いを認め、人間として尊重しあいながらともに生きてゆくこと」と説明されています（第一学習社「高等学校倫理」）。これを記号学者のツヴェタン・トドロフは「平等のもとで差異を生きたこと」ということばで表現し、また、詩人の金子みすずの「みんなちがって、みんないい。」にもその考えをみてとることができます。このパートでは、文化相対主義を概念ではなく、現実として生きている人たちの存在を知るとともに、すでにさまざまなメディアやジャンルではじまっている多文化共生の具体的なとりくみと未来のヴィジョンを学びます。

授業で使用する教材は「学習支援システム」で配布します。授業では毎回、リアクションペーパーを使用します。授業内での質問は Padlet で行います。<https://padlet.com/illcommonzoo/f5dfkupo0vhc8jn>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

1	テーマ 【ガイダンス】多文化リテラシーチェックとアクティヴ・ラーニング	内容 ・Airbnb 事件 (2017 年) ・全日空「羽田国際線大増便CM」(2014 年) ・浦和レッズサポーター・ヘイトスピーチ横断幕事件 (2014 年) ・ユナイテッド航空事件 (2017 年) ・ザイン制作「ラマダーン月のほんとうの意味 2017 年」 ・映画「チート」(1917 年) ・映画「ティファニーで朝食を」(1961 年) ・映画「007 は二度死ぬ」(1961 年) ・映画「東京画」(1985 年) ・映画「ブラックレイン」(1989 年) ・映画「ミスターベースボール」(1992 年) ・映画「ロスト・イン・トランスレーション」(2003 年) ・映画「キルビル」(2003 年)	とその歴史
2	A－1：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇1 映画のなかのニッポン文化	海外のTVCMやMVに見るニッポン文化 サムライ、ニンジャ、ゲイシャ、キモノ、ヤクザ、寿司、蕎麦、相撲、ネオン、カワイイ、カタカナ プロパガンダアニメとSF映画に見るニッポン文化 ・ダン・ゴードン「ボパイ～ばかなジャップ」(1942 年) ・レオン・シュレジンガー「ルーニー・チューンズ～トキオ、ジョキオ」(1943 年) ・NHK「憎しみはこうして激化した～戦争とプロパガンダ」(2015 年) ・エレクトリック・アーツ社「コマンド&コンカー レッドアラート3」(2008 年) ・ジェームズ・マンガールド「ウルヴァリン SAMURAI」(2013 年) ・マシオカ「HEROES」(2006 年) ・小島淳二「日本の形」(2006 年) ・田中健一「ジャパン ストレンジな国」(2010 年) ・村上春樹「カタルーニヤ文学受賞記念スピーチ」(2011 年) ・ジョージ・タケイ「GAMAN」(2011 年) ・国土交通省「ビジット・ジャパン・キャンペーン」(2003 年) ・日本オリンピック委員会「IOC 総会プレゼンテーション」(2013 年) ・きやりーばみゅばみゅ「にんじやりばんばん」(2013 年) ・日清食品「SAMURAI」(2014 年) ・「ゴースト・イン・ザ・シェル」(2017 年) ・地味「外国人が日本に来て撮った wktk 動画集」(2008 年) ・sknb「スーベニアオブジャパン」(2012 年) ・マカロン・チャンネル「外国人の視点で捉えた日本映像が秀逸すぎる」(2014 年) ・アダム・マイヤー「ステンレス」(2013 年) ・ベトリ・ストロベリ「ア・ライフ・イン・ジャパン」(2010 年) ・ロコハマ「在日黒人男性から日本人へのオープンレター」(2015 年) ・カメル・アメット「ゴッド・イン・ニューヨーク」(2007 年) ・マイケル・ブラウン射殺事件 (2014 年) ・フレディ・グレイ死亡事件 (2015 年) ・チャールストン米黒人教会銃乱射事件 (2015 年) ・大統領候補ドナルド・トランプ問題発言 (2015 年)	・日本テレビ「21 世紀への伝言 キング牧師」(2000 年) ・PBS 制作「分断されたクラス」(1985 年) ・ABC 制作「あなたならどうする～人種差別の実験」(2003 年-) ・NY タイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012 年) ・映画「スワロウテイル」(1996 年) ・映画「サウダーズ」(2011 年) ・ブラッド・ブラッドフォード「ハーブじゃないんだ」(2012 年) ・kanadajin3「WHITE JAPANESE PEOPLE - 白人系日本人」(2013 年) ・リンダ三世「愛犬アンソニー」(2013 年) ・ボンジュノ「シェイキング東京」(2008 年) ・映画「HAFU」(2013 年) ・西倉めぐみ「私は「半分日本人」ではなく「半分外国人」とみなされる」 ・ヒリス&ブル研究所「生命の樹」(2005 年) ・NY タイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012 年) ・モ・モンド社「The DNA Journey」(2016 年) ・アシュラ・K・ルグイン「ゲド戦記を観て」 ・マックルモア&ライアン・ルイス「セイムラヴ」(2013 年) ・アド・カウンシル「Love Has No Labels」(2015 年-2017 年) ・アップル社「ブライド」(2014 年) ・ハイネケン社「Worlds Apart OpenYour World」(2017 年)
3	A－2：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇2		
4	A－3：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇3		
5	B－1：日本人が海外に向けて語る日本文化の形と謎とその精神		
6	B－2：「クールジャパン」と「セルフ・オリエンタリズム」「テクノオリエンタリズム」		
7	B－3：インパウンドの視点から見た日本の文化		
8	B－4：日本で暮らす「ガイジン」の視点から見た日本の文化		
9	C－1：多文化社会アメリカにおける人種差別とヘイトクライム		
10			
11	C－3：いま・そこにあるレイシズムと向かいあう		
12	D－1：同時代のメディア表現にみる日本のリアルと多文化状況		
13	D－2：「HAFU」の視点から見た日本の多文化状況とその未来		
14	D－3：平等のなかで差異を生きること、多文化社会と民主主義の精神		
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 授業内で指定した PDF や動画を授業時間外にみてください。予習と復習はそれぞれ2時間程度です。			
【テキスト（教科書）】 教科書は使いません。授業ごとに、PDF を配布します。			
【参考書】 参考書は使いません。授業ごとに、必要な資料をプリント配布します。			
【成績評価の方法と基準】 学期末に実施する「アクティヴ・ラーニング方式」のテスト課題で評価します (100 %)。テストの方法については、最初の授業でくわしく説明します。 評価の基準は次の5つです。①オーセンティック・ラーニング ②クロスカルチャル・ラーニング ③アンチバイアス・ラーニング ④メディアコンピテンシーラーニング ⑤エビデンス・ベースド・ラーニング			
【学生の意見等からの気づき】 授業改善アンケートで「とてもわかりやすい」と好評だった映像資料や映像教材をさらに充実させます。授業は、シラバスのスケジュールに沿って進めますが、開講中、この授業と関係する事件や出来事が起きた場合などには、それに対応して、リアルタイムのニュースやトピックをとりあげながら、臨機応変に授業を進めてゆきます。			
【学生が準備すべき機器他】 パソコン、スマートフォン、WIFI ルーター、ネット回線 (WEB カメラやマイクは不要です)			

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定した PDF や動画を授業時間外にみてください。予習と復習はそれぞれ2時間程度です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使いません。授業ごとに、PDF を配布します。

【参考書】

参考書は使いません。授業ごとに、必要な資料をプリント配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に実施する「アクティヴ・ラーニング方式」のテスト課題で評価します (100 %)。テストの方法については、最初の授業でくわしく説明します。評価の基準は次の5つです。①オーセンティック・ラーニング ②クロスカルチャラル・ラーニング ③アンチバイアス・ラーニング ④メディアコンピテンシーラーニング ⑤エビデンス・ベースド・ラーニング

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートで「とてもわかりやすい」と好評だった映像資料や映像教材をさらに充実させます。授業は、シラバスのスケジュールに沿って進めますが、開講中、この授業と関係する事件や出来事が起きた場合などには、それに対応して、リアルタイムのニュースやトピックをとりあげながら、臨機応変に授業を進めてゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン、WIFI ルーター、ネット回線 (WEB カメラやマイクは不要です)

【その他の重要事項】

この授業では、教材として、たくさんの映画や映像作品を紹介しますが、授業時間の制約があるため、作品を全編通して見ることがありません。したがって、授業で紹介した映像のなかで興味を持った作品があれば、図書館やレンタルショップ、YouTubeなどを積極的に活用して、各自で全編を通して見るように心がけてください。また授業で映像を見ているときは、映画館と同じく、まわりの人たちの学習のさまたげにならないよう、私語や携帯電話、スマートフォンなどの使用はひかえてください。ただし、授業中に今すぐネットで検索したいことや、メモしておきたいことがあるときだけは、使用してもかまいません。

【授業中に求められる学習活動について】

A、C、D、E、F

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to acquire multicultural literacy skills.

SOC200MA

多文化社会論Ⅱ

展開科目

金 泰植

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月・2 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の日本社会は新たな労働力としての外国籍住人の増加により、多文化社会としての側面をより一層強めている。しかし日本の多文化状況がどのように作られたかに対する省察は少なく、多文化社会に対する排外主義的な動きも起きている。本講義は、戦後日本の最大の「外国人」集団であった在日コリアンを中心としながらもその他のルーツを持つ人たちも射程としながら、日本の多文化社会がどのように作られ、どのような課題を抱えているかについて考える。

【到達目標】

日本の多文化状況がどのように作られたかについて日本と東アジアの近現代史の中で捉え、日本社会の中にある多様なルーツを持つマイノリティたちが直面している問題を知り、日本社会の問題として考え、受講生が全ての人が尊重される社会の形成のためのアイディアを持つようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業はリアルタイム型とオンデマンド型を組み合わせる。具体的には学習支援システムで指示をする。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業ガイダンスおよび「帝国の拡張と多文化状況の出現」について
第 2 回	日本の朝鮮植民地統治と在日コリアンの誕生	日本の「外国人」問題の起源とも言える在日コリアンについて
第 3 回	戦後日本の外国人政策について	サンフランシスコ講和条約。包摂と追放の対象としての外国人
第 4 回	「密航」と大村収容所	戦後も続いた朝鮮半島からの密航と日本の入国管理体制について
第 5 回	在日コリアンの教育	民族学校の誕生と学校閉鎖令、民族学校と朝鮮学校、韓国学校への整備
第 6 回	日韓条約	在日コリアンの法的地位問題を中心に
第 7 回	多文化共生と市民社会	川崎を中心とした市民社会における多文化共生のための取り組みについて
第 8 回	在日中国人	渡航、日本での生活、教育について
第 9 回	日系ブラジル人	渡航、日本での生活、教育について
第 10 回	日本の入管制度について	成り立ちと、現在入国管理施設に収容されている外国人たちの人権問題について
第 11 回	韓流と嫌韓流の狭間で	韓国ブームと排外主義が在日コリアンに与えている影響について
第 12 回	ヘイト・スピーチ	外国人に対するヘイト・スピーチと、これを規制するための運動と条例について
第 13 回	技能実習生制度について	外国人技能実習生制度の問題点について
第 14 回	国際機関がみた日本	国連人権委員会などの勧告からみた日本の多文化状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業時に次の授業の内容について告知するので、事前にそのトピックについて調べて、授業後にリアクションペーパーに授業での気づきや持つに至った質問などを書けるように準備すること。なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定のテキストはない。毎回資料を配布する。

【参考書】

田中宏『在日外国人第三版』（岩波新書）、師岡康子『ヘイト・スピーチとは何か』、月刊『イオ』編集部『日本の中の外国人学校』

【成績評価の方法と基準】

期末試験はレポートの作成とし 70 %、授業のリアクションペーパー（メールなどで提出）を特に重視した平常点 30 % の配分とする。レポートは論理の整合性を重視する。不適切なデータの引用などは厳しく採点する。また独創的な意見や着眼点は高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で扱った内容について初めて知ったがとても衝撃を受けたという反応が多かったが、事前知識がないと思われる項目については丁寧な説明を心がける。また映像資料などわかりやすかったとの意見が多かったため、積極的に活用する。今学期もオンラインで授業が行われるため、学生とのコミュニケーションを取れるようにポータルサイトを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

初回の授業時にアンケートを行い、その結果を元に講義の計画の一部を柔軟に変更することがある。

【Outline and objectives】

In today's Japanese society, the aspect of a multicultural society has been further strengthened by the increase in foreign residents as a new workforce. On the other hand, there are also extrinsic movements against foreigners. This lecture will examine how Japanese multicultural situations were created, focusing on Korean residents in Japan. The purpose of this lecture is to consider the issues facing Japanese society.

SOC200MA

多文化社会論Ⅲ

展開科目

加藤 丈太郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・5 | 配当年次：2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に人の移動が活発になり、移民・難民の数は増え続けている。一方、アメリカ・メキシコ国境間への壁の建設、ヨーロッパでの極右政党の台頭に象徴されるように、受け入れ社会における移民・難民への憎悪も増している。

コロナ禍が起きるまでは、日本における「在留外国人」数は2012年以降、過去最高を更新し続けてきた。2019年4月から日本政府は「特定技能」人材の受け入れを開始した。5年間で34.5万人を受け入れる目標が設定されている。しかし、彼・彼女らが家族を帯同することは原則として認めていない。さらに、移民政策は取らないと強調している。

コロナウイルスの影響を受け、一時的に在留外国人数は減少するかもしれない。しかし、中長期で少子高齢化を捉えるならば、外国人（移民）を受ける議論は避けては通れない。また、課題解決の方策が必要とされる。

本授業では、日本における移民・難民の受け入れの状況を踏まえ、多文化社会のあり方を考える。

【到達目標】

- ・日本の移民・難民の受け入れ状況を理解する。
- ・「多文化社会」を自身の経験に引き寄せて理解し、授業で身につけた知識を元により発展させて考えられるようになる。
- ・国や地方自治体の施策を分析する視座を身につける。
- ・将来、企業、NGO/NPO、国際機関等で働く際に必要となるクリティカルシンキング・想像力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

<オンライン（ライブ授業）で実施する>

本授業は、講義とワークショップから構成される。

また、例年、受講者数が多い科目のため、感染症対策下での大学の教室準備の都合上、Zoomを用いたオンライン（ライブ授業）での実施となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション (講義内容・評価基準等の説明) 移民・難民とは(用語の定義) アイスブレイク (TAKOトーク)	講義内容、評価方法等を説明する。 本授業での「移民」・「難民」の定義を共有する。 受講者同士の自己紹介を行う。
第2回	日本の出入国在留管理政策の現在(講義)	日本の出入国在留管理政策において、今後どのような課題が想定されるのかを解説する。

- 第3回 ピンチをチャンスに―「多文化」を拓ける (ゲストスピーカーによる講演) 外国人を主な対象とした人材派遣を起点に、多文化保育、バイリンガルの家事代行など多様な事業にチャレンジしている企業が存在する。コロナ禍というピンチをどのようにチャンスに変えようとしているのか、株式会社アンサーノックスの取り組みを伺う。
- 第4回 「多文化社会」(多文化共生)とは(講義とワークショップ) 日本版「多文化社会」ともいえる「多文化共生」概念の変遷を知る。移民と日本人が登場する映像を複数見た上で、「多文化共生」に照らして、その課題を分析する。
- 第5回 在日コリアン：差別・ヘイトスピーチとの闘い(講義) 在日コリアンがいかに差別とヘイトスピーチと闘ってきたのかを知る。
- 第6回 日系ブラジル人と外国につながる子どもが抱える課題(講義) 1990年代以降に受け入れが進んだ日系ブラジル人を巡っては様々な課題が提起されている。特に子どもの教育・若者の進学における課題について考える。
- 第7回 技能実習生と特定技能人材(講義) 技能実習制度は国際貢献か労働力補充の手段なのか。多面的に制度を見る。また、コロナ禍で技能実習生が抱えた困難も説明する。特定技能制度の現状も分析する。
- 第8回 留学生における課題と将来のキャリア構築(講義) 多くの留学生が日本での就職を希望している。現行の制度で日本での留学生のキャリアの構築は可能かを考える。
- 第9回 Let me talk! : 私の「多文化」体験(ワークショップ) 日本で受講者自身が体験した「多文化」体験を掘り起こし、発表をする(発表は5名程度とする。残りの方はレポートを提出する。)
- 第10回 難民がつくる新しい社会(講義) 日本において難民受け入れ数が少ないのはなぜかを考える。また、母国でのクーデター後の在日ミャンマー人の声も紹介する。
- 第11回 「不法」を生きる非正規移民(講義) もし、あなたに在留資格がなかったらどうやって生きて行くのか。当事者の経験から考える。
- 第12回 多文化社会の実現に向けて：地方自治体の施策を知る(講義) 多文化社会の実現のためには、国に加え、実際に移民が居住する地方自治体の役割も重要である。地方自治体の施策の概要を把握する。
- 第13回 プレゼンテーション①：地方自治体における多文化社会に関する施策を分析し、その課題を挙げる(ワークショップ) ご自身の出身地・居住地・好きな場所などから、地方自治体を選定し、「多文化共生推進プラン」などの施策を調べ、地域の実情と照らした際に課題が何であるかを明らかにする。(①・②合わせて発表は7名程度とする。残りの方はレポートを提出する。)
- 第14回 プレゼンテーション②：地方自治体における多文化社会に関する施策を分析し、その課題を挙げる(ワークショップ) ご自身の出身地・居住地・好きな場所などから、地方自治体を選定し、「多文化共生推進プラン」などの施策を調べ、地域の実情と照らした際に課題が何であるかを明らかにする。(①・②合わせて発表は7名程度とする。残りの方はレポートを提出する。)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・Google Classroom に掲示される講義資料に予め目を通すこと。興味を持った内容についてはインターネット、新聞データベースなどを用いて調べてみる。

- ・「日本における私の多文化体験」というタイトルで、発表(12分程度) or レポート(2,000字程度)を課す。＜第9回＞
- ・「地方自治体における多文化社会に関する施策」に関するプレゼンテーション(15分程度) or レポート(3,000字程度)を課す。＜第13回・第14回＞

【テキスト(教科書)】

Google Classroom を通じて講義資料共有する。

【参考書】

- ※読みやすいものを挙げている。興味があるものはぜひ手に取って読んでみて欲しい。
- 川村千鶴子他編(2021、近刊)『気づき愛―多文化共創社会 Global Awareness』都政新報社
- 塩原良和(2013)『共に生きる―多民族・多文化社会における対話』弘文堂、978-4335501241
- 芹澤健介(2018)『コンビニ外国人』新潮社、978-4106107672
- 西日本新聞社(2020)『増補 新移民時代―外国人労働者と共に生きる社会へ』明石書店、978-4750350691
- 松尾慎編著(2018)『多文化共生 人が変わる、社会を変える』にほんごの凡人社、978-4893589521

【成績評価の方法と基準】

- 平常点 28%(2%×14回)
- * Zoom 上に「学籍番号・氏名」(あだ名は不可)を明示しておくこと
- 第9回(発表 or 中間レポート)の内容 30%
- 第13回/第14回(プレゼンテーション or 最終レポート)の内容 42%
- 評価基準は以下を中心とする。詳しくは授業内で説明する。
- ・主張は明確か、主張を支える根拠は十分か
- ・構成は明瞭か
- ・パワーポイントは分かりやすいか or 読み手を意識してレポートの書式が整えられているか
- ・時間管理が出来ているか or 字数は守られているか
- ・(第9回)経験を掘り下げられているか
- ・(第13回/第14回)様々なソースを調べているか
- ＜フィードバックの方法＞
- * 毎回、Google Classroom を用いて、質問・コメントを受け付ける。寄せられた質問・コメントには翌週の授業の冒頭でフィードバックを行う。
- * 発表/プレゼンテーションについては授業内でフィードバックを行う。
- * 中間レポートについては、模範レポートを2編選び、何が評価されたのかを解説することで、全体にフィードバックを行う。
- * 最終レポートについては、フィードバックのタイミングが授業終了後となるため、模範レポート2編へのコメントを個人情報伏せた上で全体にメールで送る予定である。

【学生の意見等からの気づき】

- ・例年、受講者は初めて出会う他学部、他学年の受講者とのワークショップに楽しみながら取り組んでいる。今年度においても、オンラインという制約はあるが、その中でも新たな出会いを楽しんで欲しい。
- ・例年、ゲストスピーカーの講演がとても好評である。現場の声を聞いていただく機会として今年も設置する。
- ・受講者の自主性を重んずるため、本授業は平常点を問うてこなかった。しかし、昨年度、一昨年度の受講者の声を受け、今年度は平常点を評価基準に設ける。また、その評価は厳しく行う。

【学生が準備すべき機器他】

- ・パソコン(カメラも必要となる)
- ・インターネット接続が可能な環境
- ・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォンにzoomのアプリをインストールしておくこと。
- ・本授業はワークショップを多く含むため、カメラ ON を推奨する。

【その他の重要事項】

- ・本授業はZoomを用いて「ライブ授業」で行う。
- ・本授業は＜4月7日(水)16:50～18:30＞が初回となる。
- ・オンライン授業へのアクセス方法について「学習支援システム」を通じて連絡するので、確認すること。(確認できない場合は、メールで問い合わせること。)
- 担当教員メールアドレス 加藤 jotarok@aoni.waseda.jp

・今年度は平常点を評価に含む。長期入院が必要となる病気・怪我、忌引以外、救済措置は一切取らない。授業のライブ感を大事にしたい。よって、昨年、緊急時対応として行っていた YouTube の後日配信も今年も行わない。欠席者・未提出者への代替の課題も原則として出さない。就職活動等で多数の欠席が予想される場合、本授業の履修は勧めない。本授業で何らかの学びを得たいと思う方のみ履修登録をすること。

・講義時は、分からない点、より深めたい点を担当教員に質問すること。(チャット、手を挙げてのマイク ON いずれも OK)

・皆さんがアウトプットを出せば出すほど、学びが深まり、授業が面白くなる。私も受講者と共に学ぶことを楽しみにしている。

「実務経験のある教員による授業」該当

日本の外国人支援 NGO・NPO で外国人相談に当たってきた。受講者には移民・難民について字面だけではなく、リアリティを持って考えてもらうことを目指す。

【Outline and objectives】

This subject considers "Multi Cultural Society" through life of migrants and refugees in Japan. The lecturer intends to educate students to mediate and coordinate conflicts regarding migrants and refugees. Students develop their critical thinking and imagination to others by various activities such as presentation and workshop .

ARSx200MA

アジア社会論 I

展開科目

趙 宏偉

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：木・1 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジアの国々、人々の生き方を知るには、彼らの地理と歴史の空間と時間の中での営みを知ることが重要である。発展のプロセスは、各地域社会の人びとの生活、宗教、意識を基盤として繰り広げるものである。この講義はアジアの国々について、地政学の観点を取り入れながら、その国の発展を中心に、政治、社会、文化も語る。受講者は国際知識を増やし、とりわけ日本が立地するアジアに対する知識と意識を養う。

【到達目標】

東南アジア諸国を中心に、その政治と経済、社会と文化の基礎的な知識を得、地図、年表、文献、文化遺産、地球儀などを活用して地理と歴史を把握し、日本と比較し関連付けて考察する。公民教育における本授業の意味は、アジアの国々の政治と経済、社会と文化について地政学の観点から学習し、国際化し続く日本社会と国際社会の中で広い視野をもちながら主体的に生きることを心得ることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

コロナの流行期において、春学期はオンラインでリアルタイム型で授業を行う。学習支援システムで指示する。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンラインリアルタイム型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を指示する、学習支援システムで提示する。

授業は教員の講義を中心とするが、質疑応答の時間を設ける。なお、去る一週間の国際時事問題を 15 分ほどの時間を利用して解析する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明、テキスト授業と国際時事問題	地図をもとに授業で扱う国の位置関係を把握し、授業のテーマと課題意識を共有する
第 2 回	台湾 主体的発展とその対外関係	台湾は大陸を経済発展の舞台としながら、国際社会とは表関係と裏関係のギャップが大きい。
第 3 回	香港、自由度世界一の国際都市	自由度世界一の香港と共産党統治の中国大陆との複雑な関係。
第 4 回	アセアンとアジア、世界	アセアンとは何か。アセアン+3+6、東アジア首脳会議、RCEP とは何か。
第 5 回	ベトナム、社会主義と開放経済	統一戦争、軍事拡張、社会主義の低開発から高度成長期へ移行。
第 6 回	シンガポール、儒教治国	儒教政治・文化と経済発展。
第 7 回	マレーシア、多民族、多宗教の共存	マレーシア、多民族、多宗教でありながらの政治安定と共存経済
第 8 回	インドネシア、2 億人の政治発展と経済開発	発展における軍政と民主主義
第 9 回	タイ、微笑みの国	微笑みの対外関係、王政の下での軍政と民政の頻繁な交代
第 10 回	フィリピン、戦わない国	スペイン、米国、日本、独立、カトリック、独裁と民主主義、紆余曲折の中でののんびりとした発展。
第 11 回	カンボジア 強権の国家と温厚な国民	仏日米中ベトナム等諸外国に強いられ、苦難を耐え抜いて、自主と発展を歩む。
第 12 回	ミャンマー 発展に目覚めた後発国	植民地、仏教、多民族、社会主義、軍政から発展を目指す普通の国に。
第 13 回	日本とアセアン	日本とアセアンの歴史と現在
第 14 回	総括	春学期のテキスト授業と同期間の国際問題を総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に教科書を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書 池上彰『東南アジア ASEAN の国々』小学館、2019 年。1400 円。

【参考書】

エズラ・ヴォーゲル『ジャパン・アズ・ナンバーワン』TBS ブリタニカ、1979 年。
エズラ・ヴォーゲル『ジャパン・アズ・ナンバーワン—それからどうなった』
たちばな出版、2000 年。
岩崎育夫『入門東南アジア近現代史』講談社現代新書、2017 年。
趙宏偉他『中国外交の世界戦略』明石書店、2011 年。
同上『中国外交史』東京大学出版会、2017 年。
趙宏偉『中国外交論』明石書店、2019 年

【成績評価の方法と基準】

1, 授業態度、授業への積極的な参加と貢献 (40 点)、2, 学期末試験 (60 点) により総合的に評価します。
2, 春学期はオンラインでの開講となり、成績評価の方法と基準の変更もあり得る。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳禁、出席のチェックを厳格に行う。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

この科目はアジアの知識を習得することにより、情報収集力・分析力、情報判断・行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】

Asian Society I

The lecture talks about the politics, economics, society and culture of each country, taking into consideration the geography of Asia, the space and time of history, and the geopolitical perspective. Participants will increase international knowledge and, in particular, develop knowledge and awareness of Asia where Japan is located.

ARSx200MA

アジア社会論Ⅱ

展開科目

趙 宏偉

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・1 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア社会論Ⅰで学修したアジアの国々についての知識を踏まえて、アジア社会論Ⅱでは諸国間の国際関係について教授する。アジア太平洋地域の国際システム及び各国間の外交は、中国と諸外国との関係を手がかりに、その基礎知識を総合的に講義する。受講者はアジア太平洋の国際問題について知識を増やし、自らの問題関心と理解を深める。
教員の講義を中心とするが、質疑応答の時間を設ける。なお、授業のはじめの 15 分ほどの時間に、去る一週間の国際時事問題を解析して受講者の国際知識を増やし国際社会に対する関心を養う。

【到達目標】

アジア太平洋地域という地理の空間と歴史の時間における国際関係を 1990 年代以来のプロセスを中心に把握することは、授業の到達する目標である。地図、年表、統計資料、文化遺産、地球儀などを活用し、そして日本と比較し関連付けて考察する。公民教育における本授業の意味は、アジア太平洋という国際社会の面々を地政学の観点から学習し、国際化し続く日本社会と国際社会の中で広い視野をもちながら主体的に生きることを心得ることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンラインリアルタイム型授業を行う。学習支援システムで指示する。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンラインリアルタイム型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を学習支援システムで指示する。

授業は教員の講義を中心とするが、質疑応答の時間を設ける。なお、去る一週間の国際時事問題を 15 分ほどの時間を利用して解析する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	地図をもとに授業で扱う国の位置関係を把握し、授業のテーマと課題意識を共有する
2	国際関係学におけるアジア	国際関係のなかでアジアをどう捉えるか
3	朝鮮戦争	朝鮮戦争における朝鮮半島と米中ソ
4	東南アジア諸国の独立とアジア太平洋の国際関係	1950 年代の東南アジアと国際社会
5	ベトナム戦争と東アジア	インドシナ問題と米中ソ
6	中ソ関係	中ソ、同盟から敵対へ
7	米中関係	敵対から和解へ
8	日中関係 1	1972 年の国交正常化までの歴史
9	日中関係 2	国交正常化後の日中友好の時代、1990 年代まで
10	日中関係 3	日中対立の時代、2000 年から
11	中国外交と上海協力機構	中国・ロシア・中央アジア・西アジア協力体制
12	アセアンとアセアン共同体の成立	アセアンと日中韓米との関係
13	東北アジアの国際関係	北朝鮮核問題を巡っての関係国の国際関係
14	日中露関係の歴史と現在	日中露間の合従連衡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎日『日本経済新聞』の国際ニュースに目を通すこと、授業前に教科書を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

趙宏偉 他著『中国外交の世界戦略—日米アジア攻防の 30 年』明石書店、2011 年。
進藤榮一『東アジア共同体をどう作るか』筑摩新書、2007 年。
益尾佐知子、青山瑠妙、三船恵美、趙宏偉『中国外交史』東京大学出版会 2017 年。毛里和子『現代中国外交』岩波書店、2018 年。
趙宏偉『中国外交論』明石書店、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

授業態度、授業への貢献度（40 点）を求め、学期末に筆記試験を行う（60 点）。

【学生の意見等からの気づき】

私語の禁止、携帯弄りの禁止、出席のチェックを厳格に行う。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

この科目は国際関係の知識を習得することにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】

Asian Society II

The lecture will teach comprehensively the basic knowledge of international relations in the Asia-Pacific region and diplomacy of each country based on the Chinese diplomacy. Students will increase their knowledge of international issues in Asia Pacific and deepen their own interests and understanding.

ARSx200MA

国際関係論 I

展開科目

趙 宏偉

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は現代の国際関係、その理論、地理、歴史、時事を踏まえて講義する。中国と各国との国際関係を手がかりに文明論からリアリズムまで様々な視点から国際社会における国家間、パーソン間のドラマを観察する。受講者は国際社会についての見方、国際問題の解け方、国際社会における人間の生き方を学ぶ。人びとはその生活、宗教、意識を基盤として地理と歴史の中で政治、経済、文化さまざまなしくみを形成し、人間は具体的な国のみならず、国際社会のしくみの中でさまざまな生き方を営んできた。人間が作り、かつ暮らしている国際社会のしくみを知り、そしてそんな国際社会を生きる人間の営みを考察する。そのことは一国にとどまらないキャリアデザインを考える人に限らず、国際化している現代社会を生きる我々一人ひとりのキャリアデザインにとって重要である。

【到達目標】

国際関係学の諸理論を知り、その基本を習得することはまずの目標である。そのうえ、地理の空間と歴史の時間に繰り広げられている国際関係の局面局面を地図、年表、文献資料、文化遺産、地球儀などを活用してその地理と歴史を把握し、日本と比較し関連付けて考察する。公民教育における本授業の意味は、国際社会における政治と経済、社会と文化について学習し、国際化し続く日本社会と国際社会の中で広い視野をもちながら主体的に生きることを心づけることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンラインでのリアルタイム型授業を行う。学習支援システムで指示する。授業のはじめの 15 分ほどの時間に、去る一週間の国際時事問題を解析して受講者の国際知識を増やし国際社会に対する関心を養う。教員による講義を中心とするが、質疑応答の時間を設ける。各回の授業内容や課題は授業支援システムで指示する。

授業の初めに前回授業に提出されたリアクションペーパーを 2、3 取り上げて講評する。全体に対してフィードバックを行う。さらなるディスカッションに生かす。課題の提出とフィードバックは学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業の進め方や課題を含めて説明する
2	国際関係学の視点（1）	国際関係学の理論
3	国際関係学の視点（2）	国際関係学の方法論
4	国際関係学の視点（3）	国際関係学の学説
5	国際関係学の視点（4）	質疑応答を中心とした基礎概念の復習
6	ユーラシアの国際関係	対立から協調へ、北方の国際協調体制
7	アジア共同体と日米	政治・経済・文化の観点から現状を分析する
8	東北アジアの国際関係	朝鮮核問題を中心とする地域の国際関係
9	日本、ソ連・ロシア、中国のトライアングル関係	戦後史を踏まえた現状の理解
10	日中関係と日中韓トライアングル	国内政治と国際政治の連関の理解
11	日中関係と日米中のトライアングル	グローバル・リーダーシップの競争
12	習近平の世界戦略	国際社会における中国の論理と行動
13	米中露トライアングル関係と日本	国際関係秩序と国際法の視点からの考察
14	総括と思考	日中関係を国民意識、国家意識から考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎日『日本経済新聞』の国際ニュースに目を通すこと、授業前に教科書を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

趙宏偉『中国外交論』明石書店、2019 年。

【参考書】

入江 昭『グローバル・コミュニティ』早稲田大学出版部、2005 年。
ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』NTT 出版、1997 年。
ジェラード・デランティ『コミュニティ グローバル化と社会理論の変容』NTT 出版、2006 年。

益尾佐知子、青山瑠妙、三船恵美、趙宏偉『中国外交史』東京大学出版会、2017 年。

【成績評価の方法と基準】

授業態度、平時での授業への貢献度を求め（40 点）、学期末に筆記試験を行う（60 点）。
春学期はオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準の変更もあり得る。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

私語と携帯弄りの禁止、出席のチェックを厳格に行う。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

この科目は国際関係の知識を習得することにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】

International relations theory I
This class gives lectures on contemporary international relations, based on its theory, geography, history and current events. Observe the drama between nations and people in international society from various viewpoints from civilization theory to realism with clues on international relations between China and each country. The students learn how to look at the international community, how to solve international problems, and how people live in the international community.

ARSx200MA

国際関係論Ⅱ

展開科目

趙 宏偉

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：月・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義は永遠な隣人である東アジアと現代中国をその地理と歴史を踏まえて語る。受講者は共生してきた日本と隣国、そして共生していかなければならない日本人と隣人たちの多様な生き方、とりわけ近現代中国について思考し思考力を高める。

【到達目標】

中国という事実を知り、自分なりの見方を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業はオンラインでリアルタイム型授業を行う。学習支援システムで指示する。
この授業はアジアという地理空間と歴史時間における中国の近現代史を講義する。また、日々に発生する時事問題を事例に取り上げて講義し、国際社会、東アジア、現代中国を見る目を鍛えていく。授業のはじめの 15 分ほどの時間に、去る一週間の国際時事問題を解析して受講者の国際知識を増やし国際社会に対する関心を養う。教員による講義を中心とするが、質疑応答の時間を設ける。各回の授業内容や課題は授業支援システムで指示する。
授業の初めに前回授業に提出されたりアクションペーパーを 2、3 取り上げて講評する。全体に対してフィードバックを行う。さらなるディスカッションに生かす。課題の提出とフィードバックは学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業説明	教科書、進め方等を説明
2	現代中国の成立	1949 年前後
3	朝鮮戦争と台湾問題	東アジア冷戦
4	「大躍進」前後	中国経済の失敗
5	中ソ論争と核武装	中国・ソ連関係
6	文化大革命	中国の内乱
7	ニクソン訪中と日中国交	米中関係の変化
8	毛沢東時代の終焉	混乱中国の閉幕
9	改革開放と鄧小平	経済発展の時代
10	教科書問題と靖国問題	日中関係の問題
11	天安門事件と天皇訪中	中国の独裁政治
12	香港返還と台湾問題	中国の統一問題
13	世界大国への飛躍	超大国への驚進
14	中国の民族問題	民族紛争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎日『日本経済新聞』の中国関係ニュースに目を通すこと、授業前に教科書を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

並木頼壽、杉山文彦編（趙宏偉執筆）『中国の歴史を知るための 60 章』明石書店、2011 年。2000 円。

【参考書】

朝日新聞社取材班『歴史は生きている 東アジアの近現代がわかる 10 のテーマ』朝日新聞出版、2008 年。
岡崎雄児『最新中国を知るキーワード 99』同学社、2008 年。
堀敏一『東アジア世界の歴史』講談社、2008 年。
益尾佐知子、青山瑠妙、三船恵美、趙宏偉『中国外交史』東京大学出版会、2017 年。
趙宏偉『中国外交論』明石書店、2019 年。
中国研究所（一般社団法人）編『中国年鑑』各年号、明石書店。

【成績評価の方法と基準】

出席と授業態度、授業への貢献度を求め（40 点）、学期末に筆記試験を行う（60 点）。

【学生の意見等からの気づき】

私語と携帯弄りの禁止、出席のチェックを厳格に行う。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

この科目は近現代中国の知識を習得することにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】

International relations theory II

The lecture talks about eternal neighbors East Asia and modern China based on its geography and history. The students think and think about the various ways of living of Japan and neighboring countries that have coexisted, the Japanese and the neighbors who have to coexist, in particular the modern China, in particular

ARSx200MA

国際地域研究 I

展開科目

福井 令恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：木・1 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、従来の国家の枠組みだけでなく「地域」という枠組みの重要性が増している。本コースでは、グレートブリテン島およびアイルランド島にある社会を対象に、「地域」という概念の理解を深め、さらに地域間の関係性を学ぶ。具体的には、イングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランド・アイルランドの社会を、それぞれの関係性に注目しつつ、理解する。これらの社会を自分とはまったく無関係の社会としてではなく、私たちがつながりのある、同時代の社会である点を実感できるよう授業を行う。

【到達目標】

授業を通じて「地域」・「国家」の概念について検討し、多様性をもつ社会を理解できるようになることを目標にする。具体的には、アイルランド島とグレートブリテン島の諸地域について、それぞれの関係性に注目しながら、歴史・社会構造をふまえつつ理解することを目指す。加えて、対象社会や人々について多面的な理解が可能となることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンラインで授業を進めます。授業は、オンデマンドとリアルタイムで実施する回があります。具体的には学習支援システムで指示しますので、受講希望者は必ず確認するようにしてください。

毎回授業後にはリアクションペーパー等の提出をしてもらう予定です。リアクションペーパー等における良いコメントや重要な質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方・方針について	地域研究とはどのような学問なのか、また授業の方針と各回の内容を説明する。日本に住む私たちにとって、他の国・地域を学ぶ重要性について考える。
第 2 回	地域とヨーロッパ	「国家」の絶対的な地位が揺らぎ、国家を超える組織や機構、運動の果たす役割の重要性とともに、下位レベルの「地域」の重要性が増してきた。ここでは、ヨーロッパと地域について、多層化と再編をキーワードに考える。
第 3 回	イギリスを構成する諸地域	「地域」という概念をもとにイギリス（UK）の諸地域を捉えることの意義を考える。イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランド、北アイルランドについて、それぞれの地域について私たちが知っている事やイメージについて、それらがどこから得られているのか考える。
第 4 回	イングランド社会・文化①	イギリス（UK）内の「地域」の独自性・独立性について検討する。中心的な位置づけにあるイングランドについて学ぶ。
第 5 回	イングランド社会・文化②	グレートブリテン島の他の諸地域およびアイルランド島の地域などとの関係からイングランド問題を考える。
第 6 回	ウェールズ社会・文化	ウェールズ社会・文化は、他の諸地域と比較して、私たちの意識の中でその存在感がやや薄いかもしれない。その理由を歴史背景に言及しつつ考える。また、言語に注目し、ウェールズ社会と文化について考察する。
第 7 回	スコットランド社会・文化①	スコットランド社会の現在を考える。特にイングランドとの関係性から検討する。
第 8 回	スコットランド社会・文化②	近年の独立機運の高まりや EU との関係性について考える。
第 9 回	イギリスのまとめ	地域という観点から、イギリス社会が抱える課題について考える。

第 10 回	アイルランド社会・文化 ①	アイルランドの国としての成り立ちについて、学ぶ。イギリスとの関係、文化とナショナリズムの関係について解説する。
第 11 回	アイルランド社会・文化 ②	アイルランドとアメリカとの関係について、歴史的なつながり、現在の関係について考える。
第 12 回	アイルランドの二つの国	北アイルランドの成立期である 1920 年代のアイルランドの独立と南北分断から、第二次世界大戦までの歴史・社会状況を説明する。なぜ、現在アイルランド島に二つの国があるのか理解する。
第 13 回	アイルランドのまとめ	イギリス、EU との関係から、考える。
第 14 回	まとめ	まとめ・試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した資料、関連文献を読む。

授業後にはリアクションペーパーの提出をする。また、数回程度ミニレポートの提出があるので、授業内容を復習をし、自分の言葉で説明できるようにすること。

課題レポート執筆に向けては、関連文献を読み、適切な準備を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義に関連した資料を配布するため、テキストは指定しない。

【参考書】

長谷川貴彦、『イギリス現代史』、2017 年 岩波新書。
井野瀬 久美子編、『イギリス文化史』、2010 年、昭和堂。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ミニレポートなど課題・リアクションペーパーの内容、期限を守った毎回の課題提出等）：50 %

期末試験（論述式）：50 %

* 欠席が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

身近な例を使って理解を促進するという方法を継続していく。

【その他の重要事項】

* 受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。

* 初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修希望者は必ず参加すること。

【Outline and objectives】

In this course, we reconsider the concepts of “region” (or “sub-nation”) and “nation state” by examining the cases of the UK and Ireland. We will also focus on the relationship between these sub-nations (England, Wales, Scotland, and Northern Ireland). Through examining these societies, we aim to understand the societies in the UK and Ireland from various perspectives.

ARSx200MA

国際地域研究Ⅱ

展開科目

福井 令恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・1 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異なる文化、ナショナル・アイデンティティ、歴史観をもつ住民集団の「共生」のあり方について考える。具体的にはイギリスとアイルランドという地域のなかの、「ひとつの国」・独自の地域である北アイルランドを事例として中心的にとりあげつつ、＜異＞文化と＜異なる＞国家帰属意識を持つ住民集団が対立しつつも、ともに生きるという現代的な課題について考察する（北アイルランドの事例以外の地域の例も必要に応じて言及する予定である）。北アイルランドの住民の歴史的・文化的な帰属意識は、しばしば国境を超える点にも注目する。

【到達目標】

現代社会において私たちは、多様な文化的・社会的バックグラウンドを持つ人々とともに同じ場所で暮らしている。異なる文化や歴史観をもつ人々と「共に暮らす」というのは、往々にして緊張関係や対立を伴う。主として北アイルランドの紛争後社会を事例にし、長年の対立関係のなかで暮らす人々がどのように困難な取り組みに向き合っているのか、またそこでのあらたな課題について、社会構造を踏まえ理解する。コースの最後には、他者への理解を深め、より良い関係を構築するためにどのような点が重要なのか、自分の考えをまとめ、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと配布資料による講義を中心とします。ただし、授業内でグループワークをする可能性があります。また、毎回リアクションペーパーの提出をしてもらう予定です。リアクションペーパー等における良いコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

本シラバス作成時点では対面での講義を予定していますが、今後の状況次第では、変更の可能性があります。変更がある場合は学習支援システム等で提示します。

なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更する可能性があります。

大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方・方針 北アイルランドという場について	授業のねらいと具体的な進め方、評価方法・また対象地域の概要について説明する。
第 2 回	＜異なる＞住民集団間関係	北アイルランドを具体例として、異なるナショナル・アイデンティティをもつ二つの住民集団の関係性と「多文化社会」について考える。
第 3 回	歴史と社会背景	対立してきた住民集団間の関係と紛争の背景にある歴史・社会構造について理解する。
第 4 回	国家の境界とその間	アイルランド、イギリス、北アイルランドの関係を考える。
第 5 回	集合的帰属とアイデンティティ	どのような仕組みで平和合意が可能になったのか。「国籍」と帰属意識について考える。
第 6 回	レビュー	前半のまとめを行う。
第 7 回	文化とナショナリズム	文化とナショナリズムの関係に浮いて、事例をもとに考える。
第 8 回	階級・文化・紛争経験の関係	どんな人が紛争の影響をより強く受けるのか考える。
第 9 回	北アイルランド社会と紛争経験の表象	「当事者」は何を考えているのだろうか。「壁画」というコミュニケーションメディアから考える。
第 10 回	学校教育制度と教育の分断	北アイルランドの教育制度から、分断状況の現状について学ぶと同時に、分断社会を超えるための試みと課題について考える。
第 11 回	学校教育と＜歴史＞	学校で学ぶ歴史教育について検討し、現状と課題について学ぶ。

第 12 回	観光と紛争後社会	和平合意後に急速に進んだ観光から、観光地のイメージの形成を考える。また、紛争の痕跡を「見学する」という観光客の行為の意味についても検討する。
第 13 回	北アイルランドと EU、英国、アイルランド	イギリスの EU 離脱において、鍵となるアイルランド国境問題から、歴史背景・社会構造を学ぶことの重要性を理解する。
第 14 回	まとめ	まとめ・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した資料、関連文献を読む。
授業後にはリアクションペーパーの提出をする。また、学期中数回程度ミニレポートの提出があるので、授業内容を復習をし、自分の言葉で説明できるようにすること。
課題レポート執筆に向けては、関連文献を読み、適切な準備を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業ではほぼ毎回プリント資料を配布します。

【参考書】

・尹 慧瑛 『暴力と和解のあいだ 北アイルランド紛争を生きた人びと』 2007 年 法政大学出版社。
・福井令恵、『紛争の記憶と生きる：北アイルランドの壁画とコミュニティの変容』、2015 年、青弓社。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的参加、リアクションペーパーの内容）およびミニレポート等課題： 50 %
期末試験（論述式）： 50 %
*なお、原則として欠席数が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

身近な例を使って理解を促進するという方法を継続していく。

【その他の重要事項】

*受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。
*初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修希望者は必ず当日確認すること。
*本コースは、春学期とは別個の独立した科目だが、授業の中で春学期の授業を前提とする場合もあるため、国際地域研究Ⅰを受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】

In this course, we consider how people with different cultures and ethnic backgrounds in society live side by side, by exploring the case of Northern Ireland. After 30 years the conflict between two groups (Protestant/Catholic, Unionist/Nationalist), a peace agreement was reached. The society has been tackling important issues to eliminate social, economic, and cultural segregation. We will use the lessons learned from their efforts and see if and how they are important for our society.

CAR200MA

【2013 以前入学生用】職業能力ベーシックスキルⅠ

CAR200MA

【2014 以降入学生用】職業能力ベーシックスキルⅠ

展開科目

島村 泰子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異なる年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくよい基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。
基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション（話す、聴く、文章で伝える、メールの基本）、②ビジネスマナー（挨拶、敬語、礼儀）、③人間関係の築き方（報道相、多様性を受け入れる、コンセンサス）、④プレゼンテーション等（個人の発表及びチーム発表）をとりあげます。
学生の理解力を向上させるためにも、初回の授業で意欲等を確認させてもらいますので、履修希望者は初回に必ず出席してください。

【到達目標】

本授業の目標です。
①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得し、行動できる。
③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は、講義と実習（各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー）形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。
初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、演習単位にチーム編成をします。
フィードバック方法は、授業単位にリアクションペーパーや宿題を提出してもらい、よい内容やコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
演習実施では、チームでの発表や受講者間のコメントによる双方向評価を行い、受講者間での気づきや成長に繋がります。
全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。
実施方法は、月曜日 3 限目に Zoom で「リアルタイム型・オンライン授業」で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	受講概要（ビジネスコミュニケーションとマナー）と目標、授業の進め方、注意事項の説明。受講動機の確認。
第 2 回	社会人と学生の違い	ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーが必要な理由について考えて理解を深める。
第 3 回	意思を伝える話し方	話す目的は？ 相手の立場にたって、伝えるように話すポイント、敬語について学ぶ。
第 4 回	状況にあわせたききかた	3つの「きく」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築くききかたを学ぶ。
第 5 回	スピーチ実習	第 2 回～第 4 回の成果として 1 分間スピーチの実施。
第 6 回	情報伝達	報・連・相とは？ 指示の受け方とメモの取り方。 情報の収集方法。事実と自分の考えを切り分けることの重要性を学ぶ。事例検討。
第 7 回	読み手に伝わる文章	わかりやすい文章の書き方について学ぶ（よくある間違いやビジネス文書とメールの書き方）。
第 8 回	挨拶と身だしなみと態度	第一印象の重要性、挨拶のしかた、敬語の使い方など基本動作と TPO に合わせた身だしなみについて学ぶ。

発行日：2021/5/1

第 9 回	面談、訪問、電話のマナー	インターンシップや就職活動を意識して、面談時、訪問時のマナー、電話でのマナーとアポイントの取り方等を学ぶ。
第 10 回	人間関係のマナー	目上の人への対応、失敗したときの対応など、人間関係を築くためのマナーを学ぶ。また、事例を通して議論を行う。
第 11 回	コンセンサスを得る	【グループワーク】テーマについて話し合い、コンセンサスを得る体験学習で、理解を深める。
第 12 回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】構成・話し方などポイントを理解して第 11 回で話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・準備を行う。
第 13 回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】第 12 回で作成した資料で、プレゼンテーションをおこなう、プレゼンテーション力を身につける。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業全体のまとめと理解度を試験で確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料をその都度配布します。

【参考書】

授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①単位取得に必要な出席回数は出席してください。「出席票」での確認及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合 20 %
②受講態度（積極的に参加しているか・宿題の提示・発表内容等）50 %、最終回に実施する理解度テスト 30 %
授業に集中できない人や積極的に参加できない人は受講希望しないでください。授業中もマナーを注意しますので、遵守してください（授業に関係のない雑談、スマホ使用、理由のない遅刻等禁止）。
注）月曜日の 3 限目に Zoom で実施します。資料や連絡事項は、事前に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で、企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで実施のため、情報機器（パソコン・ネットワーク環境）を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所で受講し、発言できる環境にしてください。

【その他の重要事項】

本授業は実務経験のある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT 企業等に携わっています。それに伴い、業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。

【Outline and objectives】

Basic career skills I

The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.

Students who want to take this course should take the first lesson.

CAR200MA

【2014 以降入学生用】職業能力ベーシックスキル I

CAR200MA

【2013 以前入学生用】職業能力ベーシックスキル I

島村 泰子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異なる年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくよい基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。
基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション（話す、聴く、文章で伝える、メールの基本）、②ビジネスマナー（挨拶、敬語、礼儀）、③人間関係の築き方（報連相、多様性を受け入れる、コンセンサス）、④プレゼンテーション等（個人の発表及びチーム発表）をとりあげます。
学生の理解力を向上させるためにも、初回の授業で意欲等を確認させてもらいますので、履修希望者は初回に必ず出席してください。

【到達目標】

本授業の目標です。

- ①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
- ②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得し、行動できる。
- ③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は、講義と実習（各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー）形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。
初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、演習単位にチーム編成をします。
フィードバック方法は、授業単位にリアクションペーパーや宿題を提出してもらい、よい内容やコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
演習実施では、チームでの発表や受講者間のコメントによる双方向評価を行い、受講者間での気づきや成長に繋がります。
全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。
実施方法は、月曜日 3 限目に Zoom で「リアルタイム型・オンライン授業」で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	受講概要（ビジネスコミュニケーションとマナー）と目標、授業の進め方、注意事項の説明。受講動機の確認。
第 2 回	社会人と学生の違い	ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーが必要な理由について考えて理解を深める。
第 3 回	意思を伝える話し方	話す目的は？相手の立場にたって、伝わるように話すポイント、敬語について学ぶ。
第 4 回	状況にあわせたききかた	3つの「きく」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築くききかたを学ぶ。
第 5 回	スピーチ実習	第 2 回～第 4 回の成果として 1 分間スピーチの実施。
第 6 回	情報伝達	報・連・相とは？指示の受け方とメモの取り方。 情報の収集方法。事実と自分の考えを切り分けることの重要性を学ぶ。事例検討。
第 7 回	読み手に伝わる文章	わかりやすい文章の書き方について学ぶ（よくある間違いやビジネス文書とメールの書き方）。
第 8 回	挨拶と身だしなみと態度	第一印象の重要性、挨拶のしかた、敬語の使い方など基本動作と T P O に合わせた身だしなみについて学ぶ。

第 9 回	面談、訪問、電話のマナー	インターンシップや就職活動を意識して、面談時、訪問時のマナー、電話でのマナーとアポイントの取り方等を学ぶ。
第 10 回	人間関係のマナー	目上の人への対応、失敗したときの対応など、人間関係を築くためのマナーを学ぶ。また、事例を通して議論を行う。
第 11 回	コンセンサスを得る	【グループワーク】テーマについて話し合い、コンセンサスを得る体験学習で、理解を深める。
第 12 回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】構成・話し方などポイントを理解して第 11 回で話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・準備を行う。
第 13 回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】第 12 回で作成した資料で、プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業全体のまとめと理解度を試験で確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料をその都度配布します。

【参考書】

授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ①単位取得に必要な出席回数は出席してください。「出席票」での確認及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合 20 %
 ②受講態度（積極的に参加しているか・宿題の提示・発表内容等）50 %、最終回に実施する理解度テスト 30 %
 授業に集中できない人や積極的に参加できない人は受講希望しないでください。授業中もマナーを注意しますので、遵守してください（授業に関係のない雑談、スマホ使用、理由のない遅刻等禁止）。
 注）月曜日の 3 限目に Zoom で実施します。資料や連絡事項は、事前に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で、企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで実施のため、情報機器（パソコン・ネットワーク環境）を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所で受講し、発言できる環境にしてください。

【その他の重要事項】

本授業は実務経験のある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT 企業等に携わっています。それに伴い、業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。

【Outline and objectives】

Basic career skills I

The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.

Students who want to take this course should take the first lesson.

CAR200MA

【2013 以前入学生用】職業能力バースキックスキルⅡ

CAR200MA

【2014 以降入学生用】職業能力バースキックスキルⅡ

展開科目

島村 泰子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：月・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通して、自分の社会人・職業人生をイメージし、就職活動に結びつけます。【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポイントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びます。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方など企業の実態を知り、社会人との交流を行います。3 年次末から本格化する就職活動を「シミュレーション」として先取ることで、その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙いです。

【到達目標】

本授業の目標です。

- ①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
- ②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
- ③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
- ④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
- ⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。

【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企業についてキャリア・センターなどを利用し調査した結果を発表します。自分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の業界理解を上げることができます。

【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期～大学生活、強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になります。

上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成を行い、第 13 回の模擬面談を臨場感をもって体験できます。

学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業となります。

フィードバック方法は、宿題や授業中の発表や生産物に対してコメントを行います。全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。

大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	自己紹介・授業内容、身につけておくべきスキルについて理解する。 就職活動までのキャリア・デザインの流れを理解する。
第 2 回	【仕事理解】 「業界・職種・企業」の情報収集方法	業界・職種・企業情報の集め方・調べ方を理解する。文系・理系に関わらずの活躍する職場や、多様な採用経路と今後のキャリア形成についても理解する。
第 3 回	【仕事理解】 希望の「業界・職種・企業」の検討	第 2 回の講義から、希望する業界を決めてグループに分かれる。研究する業界・企業の絞込みと計画を立てる。業界の企業間競争、学歴構成や雇用区分について検討する。
第 4 回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を上げて考えてみる。
第 5 回	【仕事理解】 キャリアセンター活用スキル	【グループワーク】 第 3 回に検討した企業の調査を開始する。キャリアセンター訪問して、キャリアセンターの利用方法を学ぶ。また、個別に企業の情報を調べ分析する。

発行日：2021/5/1

第 6 回	【仕事理解】 発表準備	【グループワーク】 「業界・職種・企業」の発表資料作成、 プレゼン準備を行う
第 7 回	【OB・OG・社会人の講 話】①	社会人から、就職活動の方法やポイン トを学ぶ。社会人への質問の仕方、対 話をを通して業界を理解する。
第 8 回	「業界・職種・企業」研究 の発表	役割分担を決めてプレゼンテーション を実施する。他グループの発表も参考 にし、他業界に興味を拡げることや調 査の視点を学ぶ。
第 9 回	【自己理解】 キャリア・プランシート の作成	自己理解を深める方法を学ぶ。幼少期 から現在に至るまでの出来事や転機か ら、自分の強みや弱みの分析、アピー ルポイントを探す。
第 10 回	【OB・OG・社会人の講 話】②	社会人から、企業におけるキャリア デザインの考え方を学び、自己の棚卸 に活用する。
第 11 回	【自己理解】 キャリア・プランシート の完成と履歴書作成	第 9 回で作成したキャリア・プラン シートを元に模擬面談の準備を行う。 「履歴書・自己紹介書」を作成する。
第 12 回	志望動機作成 エントリーシート作成	志望企業の選定と志望動機作成ポイン トを学ぶ。 業界研究と自己分析を深め、志望動 機、エントリーシートを作成する。
第 13 回	模擬面接	「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を 用いて、模擬面接を体験する。面接す る側、される側を体験することで、面 接のポイントや書類の書き方の重要性 を理解する。
第 14 回	試験・まとめと解説	社会人に必要な権利と義務の理解。授 業全体のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、
授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。
自己理解においては、内省することや文章化、模擬面談の準備の時間は各自
必要になります。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

【参考書】

『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 20 %、「業界・職種・企業」研究の発表 30 %、模
擬面接及び資料内容 30%、最後の確認試験 20 %を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行
います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職
業能力の実践を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

業界研究をする場合は各自 PC の持参、またはキャリアセンターを利用して
ください。
グループに分かれて調査研究も実施しますので、Zoom 等を活用できるように
しておいてください。

【その他の重要事項】

「職業能力ベースシックススキルⅡ」からの受講も可能です。履修希望者は、必ず
初回に参加してください。受講生に主体的に行動してもらう授業です。
本授業は実務経験がある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジ
ニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタルタントと
して、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT 企業等に携わっています。
業界の特徴や企業側の視点を含めて情報提供を行います。

【Outline and objectives】

Basic career skills Ⅱ
The purpose of this course is to develop practical career skills which are
necessary for job-hunting and internship activity. Through activities
like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy,
old girl and working person, you can get the images of your working-life
or occupational life and link these images to job-hunting.
Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-
point, weak-point), presentation of yourself.
Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or
businesses in which you are interested
Lecture given by old boy, old girl and working person : way of
job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way
of work of woman, having an interaction with working person

CAR200MA

【2014 以降入学生用】職業能 力ベースシックススキルⅡ

CAR200MA

【2013 以前入学生用】職業能 力ベースシックススキルⅡ

島村 泰子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：月・3 | 配当年次：2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能
力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通
して、自分の社会人・職業人生をイメージし、就職活動に結びつけます。
【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポ
イントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、
インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びま
す。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方な
ど企業の実態を知り、社会人との交流を行います。
3 年次末から本格化する就職活動を「シミュレーション」として先取ることで、
その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙いです。

【到達目標】

本授業の目標です。

- ①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
- ②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
- ③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリア
の考え方を学ぶことができる。
- ④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
- ⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。
【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企
業についてキャリア・センターなどを利用し調査した結果を発表します。自
分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の
業界理解を拡げることができます。
【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期～大学生生活、
強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になり
ます。
上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成
を行い、第 13 回の模擬面談を臨場感をもって体験できます。
学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業
となります。
フィードバック方法は、宿題や授業中の発表や生産物に対してコメントを行
います。全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで
行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	自己紹介・授業内容、身につけておく とよいスキルについて理解する。 就職活動までのキャリア・デザインの 流れを理解する。
第 2 回	【仕事理解】 「業界・職種・企業」の情 報収集方法 各業界の内容と求められ る職業能力について	業界・職種・企業情報の集め方・調べ 方を理解する。文系・理系に関わらず の活躍する職場や、多様な採用経路と その後のキャリア形成についても理解 する。
第 3 回	【仕事理解】 希望の「業界・職種・企 業」の検討	第 2 回の講義から、希望する業界を決 めてグループに分かれる。研究する業 界・企業の絞り込みと計画を立てる。業 界の企業間競争、学歴構成や雇用区分 について検討する。
第 4 回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味が ある職業を確認する。職業の興味から 業界を拡げて考えてみる。
第 5 回	【仕事理解】 キャリアセンター活用ス キル	【グループワーク】 第 3 回に検討した企業の調査を開始す る。キャリアセンター訪問して、キャ リアセンターの利用方法を学ぶ。 また、個別に企業の情報を調べ分析す る。

第 6 回	【仕事理解】 発表準備	【グループワーク】 「業界・職種・企業」の発表資料作成、 プレゼン準備を行う
第 7 回	【OB・OG・社会人の講 話】①	社会人から、就職活動の方法やポイン トを学ぶ。社会人への質問の仕方、対 話をを通して業界を理解する。
第 8 回	「業界・職種・企業」研究 の発表	役割分担を決めてプレゼンテーション を実施する。他グループの発表も参考 にし、他業界に興味を拡げることや調 査の視点を学ぶ。
第 9 回	【自己理解】 キャリア・プランシート の作成	自己理解を深める方法を学ぶ。幼少期 から現在に至るまでの出来事や転機か ら、自分の強みや弱みの分析、アピー ルポイントを探す。
第 10 回	【OB・OG・社会人の講 話】②	社会人から、企業におけるキャリア デザインの考え方を学び、自己の棚卸 に活用する。
第 11 回	【自己理解】 キャリア・プランシート の完成と履歴書作成	第 9 回で作成したキャリア・プラン シートを元に模擬面談の準備を行う。 「履歴書・自己紹介書」を作成する。
第 12 回	志望動機作成 エントリーシート作成	志望企業の選定と志望動機作成ポイン トを学ぶ。 業界研究と自己分析を深め、志望動 機、エントリーシートを作成する。 「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を 用いて、模擬面接を体験する。面接す る側、される側を体験することで、面 接のポイントや書類の書き方の重要性 を理解する。
第 13 回	模擬面接	
第 14 回	試験・まとめと解説	社会人に必要な権利と義務の理解。授 業全体のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、
授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。
自己理解においては、内省することや文章化、模擬面談の準備の時間は各自
必要になります。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

【参考書】

『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 20 %、「業界・職種・企業」研究の発表 30 %、模
擬面接及び資料内容 30%、最後の確認試験 20 %を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行
います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職
業能力の実践を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

業界研究をする場合は各自 PC の持参、またはキャリアセンターを利用して
ください。
グループに分かれて調査研究も実施しますので、Zoom 等を活用できるように
しておいてください。

【その他の重要事項】

「職業能力ベーシックスキルⅡ」からの受講も可能です。履修希望者は、必ず
初回に参加してください。受講生に主体的に行動してもらい授業です。
本授業は実務経験がある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジ
ニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントと
して、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT 企業等に携わっています。
業界の特徴や企業側の視点を含めて情報提供を行います。

【Outline and objectives】

Basic career skills Ⅱ

The purpose of this course is to develop practical career skills which are
necessary for job-hunting and internship activity. Through activities
like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy,
old girl and working person, you can get the images of your working-life
or occupational life and link these images to job-hunting.
Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-
point, weak-point), presentation of yourself.
Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or
businesses in which you are interested
Lecture given by old boy, old girl and working person : way of
job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way
of work of woman, having an interaction with working person

LANe100MA

国際コミュニケーション語学
(英語Ⅰ)

Robert Durham

単位数：1 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：金・2 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるよう
になることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャ
リアに役立つでしょう（詳細は以下の英文の記載を読んでもください）。

During this SPRING Semester/Pandemic, we will be using
'ONLINE Learning' to study together, via Skype/Zoom.

Please prepare your computer/FAST HOME
Wi-Fi/headset/microphone/ FREE Skype/ FREE Zoom/ FREE
'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we
meet.

Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet
Bandwidth/speed.

【到達目標】

The goal of this Spring course is to get students to speak, listen,
read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English.
Some grammar-correction of assignments/submissions will be
necessary. Assignment-revising will also be necessary, during
Online Learning.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの
能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示さ
れた学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged with a variety of English-listening
activities, English video activities, and English 'conversation'
activities. Pair English-speaking activities will often be used, for
practice.

Feedback about student answers will be given by the teacher,
DURING classes. If students would like additional feedback:
please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.]	Introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto.
第 2 回	Introducing yourself, part 2...using fictional identities & occupations.	Speaking pairwork, using introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto.
第 3 回	"What are your plans for Golden Week?" [Future tense practice, in polite 'EQ' English.]	Speaking pairwork: explaining plans for Golden Week, using polite English.
第 4 回	"How was your Golden Week?"	Many adjectives will be introduced & practiced in pairs, to describe vacations/ events/ etc.

第 5 回	"How are you?" / "How are you doing?"	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How's it going?"
第 6 回	Further practice, re: "How goes it?"	More spoken English pairwork practice, re: "How are you doing?"
第 7 回	Video documentary or News clips, with questions about it.	Students will learn how to express opinions in English, about a video Current Affairs topic.
第 8 回	"How often do you _____?"	Pair practice in spoken English, to explain FREQUENCY of doing things such as eating some kinds of food; buying certain items; exercising; and so on.
第 9 回	Asking & giving street directions, in spoken English.	Pair practice about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.
第 10 回	Further practice, re: asking for/giving street directions.	Pair practice, part 2: how to ask/tell about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.
第 11 回	Video/ News activity, with questions about that video clip. "What are your hobbies?"	Students will watch a News or documentary video clip...and will be asked to discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English. / Students will write down, and then pair-practice, culturally-acceptable answers about their hobbies, in smooth spoken English.
第 12 回	Review & practice of all topics studied and practiced during the semester.	Review & practice for the Spring Speaking Exam.
第 13 回	Speaking examination about all of the topics we studied during the semester.	Speaking examination, re: all of the topics studied during the semester.
第 14 回	"What are your plans for the Summer Break?"	Pairwork, to ask & answer about students' plans, re: Summer Break.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke"]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students.

【参考書】

—

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 35%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); class participation/motivation (20%); and homework (20%).

IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN A CREDIT(S) FOR THIS CLASS.

【学生の意見等からの気づき】

—

【学生が準備すべき機器他】

Students will need 'ONLINE Learning' equipment: a computer; fast HOME Wi-Fi (NOT cafe Internet); FREE downloads of Skype & Zoom; computer microphone; AND headphones/earphones. [Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.]

Please prepare your computer/ FAST HOME Wi-Fi/ headphones/microphone/ FREE Skype account/ FREE Zoom account/FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.

Please set up your FREE gmail address with a 'Romaji' name such as 'KenTanaka@gmail.com', so that we can use Google Classroom. [Yes, you CAN set up a SECOND, free, 'Romaji' gmail address: it's easy.]

Please e-mail your teacher, LONG before our class starts, at tonydur2020@gmail.com.

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; and please speak together with your classmates, using lots of 'small talk' & good 'EQ' ['kokoro no chinoshisu'].

If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN COURSE CREDIT.*

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】

This SPRING course will assist students to more speedily & smoothly communicate in English that will be useful in their futures...and in their careers.

Please prepare your computer/FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/FREE Skype/FREE Zoom/FREE 'Romaji' gmail accounts; & please test them WELL, long before we meet.

Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

LANe100MA

国際コミュニケーション語学
(英語Ⅱ)

Robert Durham

単位数：1 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：金・2 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるようになることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャリアに役立つでしょう（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

During this Fall Semester/Pandemic, we will be using 'ONLINE Learning' to study together, via Skype/Zoom. Please prepare your computer, FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/FREE Skype/ FREE Zoom/ FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.

Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

【到達目標】

The goal of this course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English. Some grammar-correction of assignments/submissions will be necessary. Assignment-revising will also be necessary, during Online Learning.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged to integrate their skills in English listening, speaking, reading, & writing in an advanced manner, via exposure to authentic English materials such as English News videos & audio, and inspirational video/audio talks (including TED Talks). Students will then be required to practice their English communication skills via pair practice conversations with their classmates & professor.

Feedback about student answers will be given by the teacher, DURING classes; and sometimes via e-mail. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	*[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.]* "How was your Summer Break?"	Pair-practice, re: a range of adjectives about students' five Summer Break activities/ Past Tense, in smooth, spoken English.
第 2 回	Introducing yourself, in spoken English. Pricing items in English; & answering questions about prices in English. PLUS: "Students will introduce themselves to each other in modern English, via Online video/audio 'chat'.	Students will be asked about prices of common items, in English; and will be asked to verbally answer such questions in spoken English.
第 3 回	Asking & answering about subway/train directions, in English.	Students will learn and practice how to reply to requests for subway/train directions, in spoken English.
第 4 回	Hallowe'en, part 1: what are Hallowe'en customs; and in what countries has Hallowe'en traditionally been celebrated?	Students will be asked to investigate, write down, and discuss Hallowe'en traditions, in English.
第 5 回	Hallowe'en, part 2: Using 'would' & 'will'.	Students will pair-practice correct use of 'would' + past tense, & 'will' + future tense, to describe possible Hallowe'en costumes & activities.

第 6 回	"The Seven W's": (Who...?/What...?/When...?/Where...?/Why...?/Which...?/ How...?)	Students will learn how to verbally answer, & reply in smooth English, to questions about "the 7 W's".
第 7 回	"What would you do, if _____?"	Students will learn how to reply verbally to questions about what they would do, in a variety of situations, in spoken English. Students will practice how to verbally use polite ways of asking, in English; AND about telling time(s).
第 8 回	"What time is it?", & "Could you please tell me what time it is...?"	Students will be asked to suss out traditional Thanksgiving customs...& to explain them in spoken English.
第 9 回	Thanksgiving customs (& discussion in English), re: Thanksgiving customs in the U.S.	Students will be asked to write down, and then to pair-practice in spoken English, five things that they are thankful for.
第 10 回	"What are five things that YOU are thankful for?"	Students will watch/listen to an English video/song about Christmas; and will be asked to answer questions in written/spoken English.
第 11 回	Christmas customs & video/listening exercises, in English.	Pair practice: students will be asked to write down & then practice verbally (in English) their Future plans for Christmas/ OhShoGatsu.
第 12 回	"What are your plans for Christmas/ OhShoGatsu?"	Speaking exam: students will be asked to reply, in detail (& in smooth, spoken English) about a variety of topics which were learned in the Fall 2021 semester.
第 13 回	Exam, re: all topics that students learned and practiced during the Fall 2021 semester.	Students will be asked to write down adjectives and explanations about their five OhShoGatsu/Christmas activities.
第 14 回	"How was your Christmas/ OhShoGatsu Break?"	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke"]; please learn to wake up early, and to arrive in [ONLINE] class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

A textbook might be chosen, depending on students' levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students. In addition, some News videos & TED Talks may be assigned as in-class or at-home viewing (with questions about those videos).

【参考書】

-

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 35%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); class participation/motivation (20%); and homework (20%).

IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN A CREDIT(S) FOR THIS CLASS.

【学生の意見等からの気づき】

-

【学生が準備すべき機器他】

Students will need 'ONLINE Learning' equipment: a computer; fast HOME Wi-Fi (NOT cafe Internet); FREE downloads of Skype & Zoom; computer microphone; AND headphones/earphones. [Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.] Please prepare your computer/ FAST HOME Wi-Fi/ headphones/ microphone/ FREE Skype account/ FREE Zoom account/FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet. Please set up your FREE gmail address with a 'Romaji' name such as 'KenTanaka@gmail.com', so that we can use Google Classroom. [Yes, you CAN set up a SECOND, free, 'Romaji' gmail address: it's easy.] Please e-mail your teacher, LONG before our class starts, at tonydur2020@gmail.com.

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; and please speak together with your classmates, using lots of 'small talk'.

If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. *

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】

This Fall course will assist students to more speedily & smoothly communicate in English that will be useful in their futures...and in their careers.

Please prepare your computer/FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/FREE Skype/FREE Zoom/FREE 'Romaji' gmail accounts; & please test them WELL, long before we meet. Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

LANe100MA

国際コミュニケーション語学
(英語Ⅲ)/Foreign Language
Exercise (English Ⅲ)

※ GO 科目

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：金・3 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なトピックについて、短いながらも、効果的・説得力のあるプレゼンテーションができるようになることを目指します。スピーチの方法を基礎から学び、自信をもってプレゼンテーションを行うことができるようにしましょう（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

To learn how to deliver short, effective speeches in English on a variety of topics.

【到達目標】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. The goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The students will learn about the 3 messages involved in making effective speeches & presentations: The physical message, the visual message, and the story message. The students will view and discuss model speeches and make their own speeches based on the demonstrations. The students will develop confidence in delivering effective speeches and presentations.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Extemporaneous speeches	Ice breakers Course objectives Vocabulary management
Week 2	The Physical Message Unit 1 Posture & Eye contact	pp.9-17 DVD Episode 1 Prepare info. speech quadrant
Week 3	The Physical Message Unit 2 Gestures Unit 1 quiz Give informative speech	pp18-27 DVD Episode 2 Prepare layout speech grid
Week 4	The Physical Message Unit 3 Voice Inflection Unit 2 quiz Give layout speech	pp28-38 DVD Episode 3 Prepare storyboard & visuals
Week 5	The Visual Message Unit 4 Effective Visuals Unit 3 quiz Give demonstration speech	pp.40-50 DVD Episode 4 Prepare 2-country comparison charts
Week 6	The Visual Message Unit 5 Explaining Visuals Unit 4 quiz Explain 2-country comparison charts	pp.51-56 DVD Episode 5 Prepare explanations for 2-country speech
Week 7	Unit 5 quiz Give 2-country comparison speech & Peer Review	Review Units 1-5
Week 8	The Story Message Organization of a speech	pp57-61

Week 9	The Story Message Introduction Unit 6 quiz	pp62-68 DVD Episode 6 Prepare storyboard for product speech
Week 10	The Story Message The Body: evidence & transitions Unit 7 quiz Explain introduction for product speech	pp.69-86 DVD Episode 7 Prepare storyboard and charts for product speech
Week 11	The Story Message The Conclusion Unit 8 quiz Explain body of product speech	pp.87-95, DVD Episode 8 Prepare conclusion for product speech
Week 12	Watch full Presentation & Peer Review Unit 9-10 quiz	Prepare for final presentations
Week 13	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)
Week 14	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes) Course review & wrap up	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review material in book, Prepare for end of section quizzes, Prepare information and visuals to make speeches in class 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech: New Edition, Basic Presentation Skills for Beginners

New edition 2009, Harrington, LeBeau

ISBN 978-4-7773-6271-4

【参考書】

Speaking of Speech: New Edition, Basic Presentation Skills for Beginners

New edition 2009, Harrington, LeBeau

ISBN 978-4-7773-6271-4

【成績評価の方法と基準】

Quizzes-20%

Homework-15%,

Participation 20%

Presentations 45%

*In principle, no more than three absences per term are allowed

【学生の意見等からの気づき】

More practice on eye contact and use of visual aids.

【学生が準備すべき機器他】

OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【その他の重要事項】

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a listening and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】

Learn how to organize and deliver effective speeches and presentations, Listen to and take notes on other students' speeches and model speeches, Evaluate and offer peer feedback on classmates' speeches,

LANe100MA

国際コミュニケーション語学 (英語Ⅳ)/Foreign Language Exercise (English Ⅳ)

※ GO 科目

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：金・3 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカデミック・スキル（講義などのディスカッションの仕方、聞き方、ノートを取り方、話のまとめ方など）を学び、伸ばします。講義などで使われる言葉も学びますので語彙力の向上にも役立ちます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

Discussion skills, listening & note-taking, presenting, building vocabulary

【到達目標】

In this course, students will learn key vocabulary related to each topic covered, develop listening and note taking skills by listening to academic lectures. Additionally, students will develop their speaking skills in expressing opinions, agreeing/disagreeing, confirming/clarifying. Students will also work on expressions for leading and participating in discussions as well as presenting on topics researched.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The students will discuss the topics for each unit in groups or pairs and then study some of the related vocabulary. Then students will take notes while listening to a short academic lecture on the topics. The students will then review, discuss, and summarize the points mentioned in the lecture. At the conclusion of each unit, there will be a review test, and research assignments on the topics introduced in the lecture for discussion or to present later.

Feedback on speeches, homework assignments, and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Unit 2a Culture shock Preview key words & lecture structure	Ice Breakers Introduce topic Preview vocabulary Lecture topic and organization Listen to lecture and outline main points
Week 2	Unit 2a culture shock Review lecture contents & check understanding	Finish lecture & outline Practice summarizing from outline Discuss lecture topic Review for Quiz
Week 3	Quiz and review Unit 2a Discussion on lecture theme	Unit 2a quiz Begin Unit 2b
Week 4	Unit 2b Third-Culture Kids Preview key words & lecture structure	Preview vocabulary Defining key terms Listen to lecture and outline main points
Week 5	Unit 2b Third-Culture Kids Review lecture contents & check understanding	Finish lecture & outline practice summarizing from outline Discuss lecture topic Get research assignment for presentation on culture shock/differences
Week 6	Quiz and review Unit 2b Discussion on lecture theme	Unit 2b quiz Speeches on Culture shock/differences Begin Unit 3a
Week 7	Unit 3a New diets Preview key words & lecture structure	Preview vocabulary Signal Phrases Listen to lecture and outline main points

Week 8	Unit 3a New diets Review lecture contents & check understanding	Finish lecture & outline Practice summarizing lecture from outline Discuss lecture topic Review for 3a quiz
Week 9	Quiz and review Unit 3a Discussion on lecture theme	Unit 3a quiz Begin 3b Food Addictions Preview vocabulary
Week 10	Unit 3b Food Addictions Preview key words & lecture structure	Expressing opinions Finish lecture & outline Practice summarizing lecture from outline Get research assignment for presentation on diet & health
Week 11	Unit 3b Food Addictions Review lecture contents & check understanding	Presentations on health and diet Finish lecture & outline Practice summarizing lecture from outline
Week 12	Quiz and review Unit 3b Discussion on lecture theme	Unit 3b quiz Discuss lecture Begin 4a High/Low Context communication
Week 13	Introduce Unit 4a Unit 4a High/Low context Review key words & lecture structure	Preview vocabulary Quiz Unit 4a Summarizing discussions Listen to lecture and outline main points
Week 14	Unit 4a High/Low context Review lecture contents & check understanding Quiz 2a-4a	Quiz Unit 4b Discussion on communication styles

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review vocabulary, Prepare for end of chapter tests, Further research on topic, Plan to present findings to class or small groups. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Contemporary Topics Intro: Academic Listening and Note-Taking Skills. Clement, Lennox, & Rost
ISBN 13: 9780132075176

【参考書】

Contemporary Topics Intro: Academic Listening and Note-Taking Skills. Clement, Lennox, & Rost
ISBN 13: 9780132075176

【成績評価の方法と基準】

Quizzes-55%
Homework-15%,
Participation 10%
Presentations 20%

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on expressing opinions and responding to other's opinions

【学生が準備すべき機器他】

【教室必要備品】 OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】

In this course, students learn and practice note taking strategies by listening to lectures. They also will discuss the topics introduced in each lecture and conduct further research on the topics to present in class.

LANe100MA

国際コミュニケーション語学
(英語Ⅴ)/Foreign Language
Exercise (English Ⅴ)
※ GO 科目

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：木・3 | 配当年次：1～4 年

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の伝えたいことをより正確に表現し、相手に伝わる英文を書くことができることを目指します。伝わる書き方にはコツがあるので、そのコツも学んでいきます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

The objective of the course is to consolidate the knowledge of English language and grammar learned in secondary school and develop their ability to express themselves more freely in writing

【到達目標】

After taking this course, the students should have learned the following:

1. the concept of the paragraph with reference to its unity, coherence, and structure, including topic sentences, various types of supporting sentences, and concluding sentences
2. the mechanics of typing and formatting a composition
3. how to edit one's own and others' compositions
4. how to effectively complete a timed writing task

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students in this course will work individually on writing preparation activities and actually writing their own descriptive and persuasive paragraphs.

Student will also collaborate with students in pairs or groups to compare ideas and peer review each other's writing in terms of grammar, unity and cohesion of writing.

Students will also be tested on the material taught in the course, including two timed writing exams.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Sentences & Paragraphs	Components of sentences and paragraphs
第 2 回	Topic sentences Descriptive paragraphs	Preparation to write a descriptive paragraph
第 3 回	Concluding sentences Adjectives Conjunctions	Components of effective concluding sentences Using adjectives and conjunctions in sentences
第 4 回	Feedback on 1st draft of descriptive paragraph	Review and recommendations on 1st draft
第 5 回	Homework test 1 Using "although" Submit 2nd draft of descriptive paragraph	Preparation for peer review Test on homework exercises How to use "although" in sentence
第 6 回	Writing test Feedback on 2nd draft	In-class timed writing test
第 7 回	Test feedback Paragraph development Persuasive paragraphs	Pre-writing for 3rd writing assignment How to develop paragraphs
第 8 回	Benefits and consequences Outlines	Including benefits, consequences, and results in paragraphs Using outlines to organize ideas
第 9 回	Cause & effect	Including causes and effects in paragraphs Prepare outline for 3rd writing assignment
第 10 回	Paraphrasing Supporting sentences outside sources	Practice paraphrasing Including outside sources in writing Citing sources correctly in paragraphs

第 11 回	3rd writing assignment Using conditional sentences Making comments	Submit 3rd writing assignment Practice using conditionals as support Commenting on ideas in writing
第 12 回	Homework test 2 Thesis statements Introductions	Structure of thesis statements Structure of introductory paragraphs Peer review of 3rd writing assignment
第 13 回	Review and feedback writing 3	Review and feedback on 3rd writing assignment Prepare for final writing assignment
第 14 回	Final In-Class writing test	Timed writing: 2 Persuasive paragraphs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework exercises contained in the course handouts

Assigned writing drafts (typed, correctly formatted, and printed out for submission in class) 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading material will be provided by the lecturer

【参考書】

<http://my.vocabularysize.com/><http://quizlet.com>www.englishgrammar.org

【成績評価の方法と基準】

Participation in class: 10%

Two in-class quizzes on the homework: 20%

Three submitted writing assignments: 50%

Final in-class writing test: 20%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on prewriting activities and effectively supporting topic sentences & thesis statements, paraphrasing & citing outside sources.

【学生が準備すべき機器他】

Submitted writing assignments must be typed, formatted correctly, printed out and ready for submission at the beginning of class. Points will be deducted for late submissions.

【その他の重要事項】

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a writing and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】

Develop the skills necessary to write and correctly format effective paragraphs and to write multi-paragraph essays within a set time frame

CAR200MA

就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合-

梅崎 修、上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・4 | 配当年次：2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄附講座です。毎回、職場の最前線で活躍する労働組合関係者をゲスト講師としてお招きし、労働組合の活動について事例を交えながら講義してもらいます。働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、企業情報や業界情報を交えながら講義してもらいます。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどうのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場の最新情報を開けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。2021 年度は対面を予定しておりますが、コロナウィルスの感染状況に応じてオンライン・リアルタイム（Zoom を利用）での開講となる可能性もあります。具体的なオンライン授業の方法などは第 1 回の授業で説明します。受講を考えている学生は、第 1 回目授業を必ず受講をしてください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、法政大学の web サイト上にある「学習支援システム」において、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認してから授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】	担当教員から授業の導入、「労働組合とは何か」を理解する
2	【開講の辞】 連合寄附講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起①】 「働くこと」について考える～労働組合の役割と意義～	【開講の辞】 連合寄附講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいこととは何かを理解してもらう。 【課題提起①】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学ぶ。
3	【課題提起②】 いま働く現場で何が起きているのか～労働相談からみた若者雇用の現状～	労働相談事例の中から、若者の声を中心に紹介することで、現在職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割について理解してもらう。
4	【ケーススタディ①】 労働組合の役割と組合役員の活動 ～現場の意見集約から職場の課題改善をめざす～	労働組合は、仕事や働き方に関する組合員の不満・要望にどのように対応しているのか。どのような方法で現場の意見集約を行い、職場の課題改善に努めているのか。労働組合の苦情処理・日常活動の取組み事例を通して、「職場こそ原点」といわれる労働組合の果たす役割と意義について考える。

発行日：2021/5/1

5	【ケーススタディ②】 非正規労働者の組織化と 処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規労働者の組織化や処遇改 善が必要なのか。流通産業を事例に、 非正規労働者の課題を考える
6	【ケーススタディ③】 労働時間の短縮に向けた 取り組み	働く人が健康で安心して暮らすための 課題は何か。長時間労働は正や休暇 取得の促進など、労働時間の短縮に向 けた取り組み事例から考える。
7	【ケーススタディ④】 雇用と生活を守る取組 み	技術革新やグローバル化が進む中、働 く人の雇用や生活はどうなるのか。企 業組織再編や倒産時などにおける中小 企業労組の取り組み事例、ものづくり 産業における熟練技能継承支援の取 組み事例、外国人労働者を取り巻く実 情等について考える。
8	【ケーススタディ⑤】 男女がともに働きやすい 職場づくりに向けた取組 み	男女がともに活き活きと働き続けるた めの課題や具体策とは何か。職場の環 境改善や当該課題の解決に取り組む事 例から考える。
9	【ケーススタディ⑥】 公務労働の現状と公共 サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の 働き方の現状はどうなっているのか。 公務職場の現状・課題と良質な公共 サービス（新しい公共）の実現に向け た取り組み事例から考える。
10	【課題への対応①】 国際 労働運動の役割 ～グ ローバリゼーションへの 対応	進行するグローバルゼーションに労働 組合はどのように対応しているのか。 国際労働機関との関わり、多国籍企業 問題に対する取り組み、労働分野の開 発協力活動などの事例を聴き、国内だ けでは解決できない課題に対する労働 組合の国際的な役割について考える。
11	【課題への対応②】 労働諸条件の維持・向上 に向けた取り組み	労働組合は、働く者の労働条件の維 持・向上に向けて、どのように取り組 んでいるのか。なかでも代表的な取 組みとして挙げられる「春闘」は、な ぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合 の取り組みから考える。
12	【課題への対応③】 労働者保護ルールの堅 持・強化に向けた取組 み	働く者を守るために、労働組合は働き 方に関わる法改正にどのように関わっ ているのか。健康・安全確保のための 労働時間制度の見直しや、雇用形態に 関わらないすべての働く者の雇用安 定・処遇改善に向けた取り組みから考 える。
13	【論点整理】 「働くということ」と労働 組合	ケーススタディーを振り返り、それぞ れの課題と労働組合の役割の確認を行 う。
14	【修了講義】 連合運動の現在と未来～ これから社会へ出る皆さ んへ～	すべての働く者が安心してくらすこと ができる社会の実現に向けて、連合・ 労働組合は何をすべきか。連合の課題 認識を聴いて、これからの社会や働き 方、連合運動の役割について具体的に 考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業時に全 14 回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業
界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復
習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席（コメント内容含む）が 50 %、レポートが 50 %。
出席を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【Outline and objectives】

This course is provided by RENGO, the Japanese Trade Union
Confederation.

Every time, the guest lecturer who is active in a labor union will lecture
on labor circumstances and the industry trend. This class will be the
very valuable opportunity when students can understand the latest
information about the work place.

CAR300MA

就業応用力養成 I

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：土・1 | 配当年次：3～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必
須の知見（アカデミックスキル）を認識し、社会への応用力に発展させる時
期です。

この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビ
ジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践
知の修得・発揮を目指します。

企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、
なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』で
あり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。

＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課
題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。
つまり、就職力は就業応用力の一部（発揮）ともいえます。

【到達目標】

修得すべき 7 つのチカラ

1. 社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
⇒ 組織を効率よく運営参画するスキル
⇒ 社会規範となる倫理観
2. 他者を説得できるロジカルシンキング
⇒ データの収集（質問票調査）を行い定量調査スキル
⇒ フィールドワークによる定性調査スキル
⇒ 定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
3. 他者を動かすコミュニケーション力
⇒ 共感・質問・提言する個別対人スキル
⇒ カウンセリング・コーチング・コンサルティング
4. 組織を動かすコミュニケーション力
⇒ 社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
⇒ チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
5. 組織を活性化するリーダーシップ
⇒ モチベーション・マネジメント
⇒ 4 つの状況対応型リーダーシップ
6. 社会で未知の道を拓くチカラ
⇒ キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
⇒ 自分自身の 20 代のキャリアプランの作成
7. 社会を生き抜くための実践知
⇒ 暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
⇒ メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。
PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。
履修人数によりですが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企
業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。
公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視
します。

授業では毎回アクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを
行います。

大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで
行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデ ミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部のアイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力
2	大学と企業のミスマッチ 研究 社会の求める人材とは メタ認知とパラ認知の理 解	グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレンストーミング

3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリーシート解析
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは
5	商社事例研究－1 半導体業界 世界を制した経営者	起業者精神 ・ベンチャー企業経営 ・株主重視経営 ・資金調達力
6	商社事例研究－2 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
7	社会人ケーススタディー1 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用する BtoB 技術 知られざる世界の優良企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノづくりの魅力 企業提案ワークショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）－1 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディー2 資格と大学生のキャリア エンタメ音楽業界 経営企画の仕事とは	社会で通用する人材 ・米国公認会計士講話 ・採用担当者の視点 ・求められる人材像 ・状況対応型キャリア
12	プロジェクトベースラーニング（PBL）－2 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力
13	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）－3 課題発表	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。

＊事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点

・受講態度（発言数・発言内容）	⇒ 30点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）	⇒ 30点
・グループワークでの貢献度	⇒ 30点
・期末テスト	⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。

この他に、1000～2000 字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評点が 60 点以上を合格とします。

（欠席が 3 回以上の者は成績評価対象外）

＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート＆プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立つとのこと。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。
レポート＆プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。
PC は大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。

文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline and objectives】

The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.

I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

CAR300MA

就業応用力養成Ⅱ

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：土・1 | 配当年次：3～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。

＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】

どんな問題に直面しても、なんとかかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の8つの力を修得します。

1. 事実をベースに語る提言力（事実と意見を峻別する）
2. 3つの分析手法力（時間・空間・実験分析）
3. 知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
4. 問題解決の視点力（What? Why? How?）
5. 構造分析の要素考察力
6. マクロとミクロの視点を統合力（定量と定性調査力）
7. 一次情報に触れる取付力（但、百聞一見を盲信しない）
8. 上記のスキルを統合・応用する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行います。PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。履修人数によりですが、グループワークを中心に言い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。授業では毎回アクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	8つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 企業目線を理解する	社会が求める人材要件と大学で学ぶ力の比較検討 ・統計の見方と誤解 ・課題発見力
3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには（ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル研究－1 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	21世紀の生き方へ ライフスタイル研究－2 パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解

7	課題レポート&プレゼンテーション－1 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
8	ライフスタイル研究－3 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力（ビデオ教材）	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）－1 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラーニング（PBL）－2 学生目線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	チームビルディング 企業研修型ワーク ショッパ（一部英語で実施）	事例研究 ・女性総合職の問題 ・女性のキャリア事例 ・リーダーの役割
13	課題レポート&プレゼンテーション－2 法政大学の実践知とは 総長への提言	良いレポートの事例紹介 ・文学的表現力 ・社会学的表現力 ・真の個性あるレポートとは
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）－3 課題発表 社会への発信	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。

＊春学期「就業応用力養成Ⅰ」の履修が望ましいですが、事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点
・受講態度（発言数・発言内容）⇒30点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒30点
・グループワークでの貢献度⇒30点
・期末テスト⇒10点

上記配点は原則として加点方式で行います。授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。この他に、1000～2000字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。総合評価が60点以上を合格とします。（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）
＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視します。特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートへの書き方にも役立ったとのことです。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。レポート&プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。大学用意のPCを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline and objectives】

"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.

Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.

I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

MAT200XE

数論

安田 幹

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは整数論です。到達目標は、1. 初等整数論として整数の基本的な性質を理解する、2. 初等整数論の一般化としてガウス整数や多項式環の基本的な性質を理解する、です。これらを通して、抽象的な数学概念を具体的な対象に適用する能力を修得します。また初等整数論の応用としてRSA暗号を学びます。

【到達目標】

前半の授業では、初等整数論として、倍数と約数、ユークリッドの互除法、一次不定方程式、素因数分解、合同と剰余類、一次合同式、オイラーの定理、フェルマーの小定理、RSA暗号への応用を学びます。
後半の授業では、初等整数論の一般化のための抽象代数学への入門として、ガウス整数や多項式などの可換環を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にはオンラインでの授業とします。
・配布・提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
・毎回、講義資料を配布するので、各自、自習して下さい。
・適宜、小レポートを出題するので、オンラインにて提出して下さい。
・また、毎回、リアクションペーパー（形式自由の感想文）を提出して下さい。
・講義資料や小レポート課題に関するコメントや、その他リアクションペーパーに書かれた良いコメントは、問題の無い範囲で紹介し（誤記や誤問などの指摘は速やかに公開して訂正します）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初等整数論の基礎	初等整数論の概要、約数、倍数、公約数、公倍数について学びます。
2	ユークリッドの互除法	ユークリッドの互除法について学びます。
3	一次不定方程式	一次不定方程式とその解法について学びます。
4	合同と剰余類	合同と剰余類、一次合同式とその解法について学びます。
5	連立一次合同式と中国剰余定理	連立一次合同式とその解法、中国剰余定理について学びます。
6	オイラーφ関数とオイラーの定理	オイラーφ関数とオイラーの定理について学びます。
7	素数と素因数分解	素数とその性質、素因数分解について学びます。
8	フェルマーの小定理の一般化とRSA暗号	フェルマーの小定理の一般化とRSA暗号について学びます。
9	ガウス整数の割り算	ガウス整数の定義と割り算について学びます。
10	ガウス整数の素因数分解	ガウス整数の素因数分解について学びます。
11	多項式の割り算と因数分解	一変数有理係数多項式の割り算と因数分解について学びます。
12	可換環	可換環の定義と例について学びます。
13	演習	演習を行います。
14	授業のまとめ	講義内容の復習とまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とします】前回までの講義内容を復習し理解しておいて下さい。適宜、演習問題を中心とした小レポート課題を実施します。小レポートの答えは次回の授業までに提出して下さい。クラスの到達度を見ながら、必要に応じて応用問題を中心とした追加レポートを実施します。また必要に応じて応用問題を中心とした最終レポートを実施します。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

代数学Ⅰ 群と環、桂利行、東京大学出版会
群論への30講、志賀浩二、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

小レポートの得点（50%）および期末試験の得点（50%）を基本として合格・不合格の評価を行います。必要に応じて実施する追加レポートおよび最終レポートは、合格者を対象に、小レポートおよび期末試験それぞれの満点を越えない範囲でそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】

定義・定理・証明もきちんと行いますが、学生の皆さんが実際に問題が解けるようになり情報工学に活用できるスキルが身に付くような授業内容となるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This class is on number theory. The goals are: 1) to learn basic properties of integers, which are usually taught as “elementary number theory,” and 2) to learn definitions and properties of Gaussian integers and the ring of polynomials, which are usually taught as the generalization of elementary number theory. We improve our skills on how to apply mathematical abstract concepts to concrete contents. Also, as an application of elementary number theory we learn the RSA encryption algorithm.

COT200XE

プログラミング言語 J A V A

藤浦 豊徳

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、Web アプリケーションから組み込みアプリケーションまで幅広く使用されている、オブジェクト指向プログラミング言語である Java 言語について学習します。
今日用いられるほとんどのプログラミング言語はオブジェクト指向です。したがって、本講義から得られた知識は、多くのプログラミング言語の学習や、プログラムの理解に活用できます。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向に基づいた基礎的な Java アプリケーションのソースコードを理解・修正できる
- ・新たな Java アプリケーションを独力で設計およびソースコードを記述できる
- ・Java を用いてインターネット上のデータを扱うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、大きく、前半と後半の二つに分けられます。
前半では、プログラムの作成に必要なオブジェクト指向の概念、および文字列処理や日付処理などの Java 言語固有の内容 (JavaSE API) を学びます。Java の言語仕様を、教科書に沿ったいくつかのテーマに分けて学びます。その上でテーマを踏まえた演習プログラムの完成を目指すことにより、理解を深めます。
後半では、前半で学んだ知識を活用し、インターネット上にあるデータを題材とし、Java を用いて取得・加工する方法を学びます。
まず、インターネット上にある REST API を活用したデータの取得方法を理解します。次にそのデータの構造を理解するとともに、Java における取り扱い方法を学びます。その後、必要なデータを取得するアプリケーションの完成を目指します。アプリケーションの完成に必要な各構成要素を講義内の演習や課題として作成し、その解説を行うことで講義を進めていきます。各講義の終わりには復習のための宿題を課します。次回までに提出してください。
フィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概説・開発環境の準備・システムの利用ガイド	授業内容の説明、各自 PC の開発環境の整備、学習支援システムの使い方、簡単な演習を実施
第 2 回	基本的な書き方	Java の基本的な記法、および、クラスとメソッドの概要を理解するとともに、その書き方を習得
第 3 回	型	型として、プリミティブ型と参照型があることを理解する。クラスの作り方と、クラスの性質を理解することで、その使い方を習得
第 4 回	配列とコレクション	複数のデータを扱う方法として、配列、List、Map 等を理解することで、その使い方を習得
第 5 回	例外	例外として、検査例外、実行時例外、エラーがあることを理解することで、try-catch 構文を理解し適切に補足する方法を習得
第 6 回	文字列	文字列の操作方法と文字コードの概要を理解することで、文字列操作方法を習得
第 7 回	日付処理	日付の扱い方を理解・習得
第 8 回	ファイル操作とデータ形式	ディスクにあるテキストファイルの読み込み方を理解する。また、テキストファイルのデータ形式について理解する。
第 9 回	構造化データ JSON	JSON の各ファイル形式の概要を理解する。その上で、JSON ファイルの読み込み方を習得する。

第 10 回	ネットワークからの取得と、周辺ツール	外部から HTTP で取得したデータを取得する方法を理解し、習得する。また、Maven、Javadoc と、jackson の使い方 (databind) を理解し、習得する。
第 11 回	構造化データとオブジェクト	市中にある JSON API の構造を理解するとともに、構造とクラスの対応付けを理解する。市中にある JSON API からデータを取得するとともに、必要な情報を抽出するアプリケーションを作る。
第 12 回	構造化データとオブジェクト	Java オブジェクトのシリアライズについて理解し、JSON データとの関係を理解する。
第 13 回	これまでの復習	ここまで学習した内容の復習
第 14 回	プログラミング言語の今昔	プログラミング言語の歴史と、現在用いられることが多いプログラミング言語の概要。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】毎回の授業で課される宿題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

「プログラミング言語 JAVA」 谷本心、阪本雄一郎、岡田拓也、秋葉誠、村田賢一郎 著、Acroquest Technology 株式会社 監修 技術評論社発行 2980 円

【参考書】

「15 時間でわかる Java 集中講座」 宮下明弘、工藤雅人、原田僚著 井上誠一郎監修 技術評論社発行 2680 円
・Java の言語仕様をかりやすく解説している。
「新・明解 Java 入門」柴田望洋著 ソフトバンククリエイティブ発行 2700 円
・プログラミング初心者向けのテキスト

【成績評価の方法と基準】

・授業の内容を理解していることを確認するための最終試験 (50%)
・ソースコードの修正・独力での作成を確認するための授業後のレポート課題 (50%)
オンライン、対面形式ともにこの評価方法を利用します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義および演習では、Eclipse という統合開発環境を用いて、プログラムを作成します。大学から貸与されているノート PC を必ず毎回各自持参してください。なお、他学科からの履修などの理由で、PC に Eclipse がインストールされていない場合があります。第一回の授業でフォローする予定ですが、できれば授業開始までに Eclipse をインストールしておくことをお勧めします。
<https://mergedoc.osdn.jp/>
<https://www.eclipse.org/>
Eclipse が動く PC であれば、大学から貸与されたノート PC でなくてもかまいません。また、この場合には Windows でなくてもかまいません。
演習と宿題の提出には授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

本講義では、C 言語などで手続き型言語を学んだことがあり、C++言語などでオブジェクト指向の概要を理解していることを前提とします。
企業において、社内のソフトウェア開発業務を支援している研究者が、開発現場で用いられている Java 言語の基礎について講義するとともに、簡単なプログラミングを行います。講義の終盤では、近年よく用いられている他の言語について、概要を講義する予定です。
オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。

【Outline and objectives】

In this class, you learn about the Java language, an object-oriented programming language that is widely used from Web applications to embedded applications.
Most programming languages today are object-oriented. Therefore, the knowledge gained from this lecture can be applied to learning other programming languages.

COT200XE

プログラミング言語 J A V A

藤浦 豊徳

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、Web アプリケーションから組み込みアプリケーションまで幅広く使用されている、オブジェクト指向プログラミング言語である Java 言語について学習します。

今日用いられるほとんどのプログラミング言語はオブジェクト指向です。したがって、本講義から得られた知識は、多くのプログラミング言語の学習や、プログラムの理解に活用できます。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向に基づいた基礎的な Java アプリケーションのソースコードを理解・修正できる
- ・新たな Java アプリケーションを独力で設計およびソースコードを記述できる
- ・Java を用いてインターネット上のデータを扱うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、大きく、前半と後半の二つに分けられます。

前半では、プログラムの作成に必要なオブジェクト指向の概念、および文字列処理や日付処理などの Java 言語固有の内容 (JavaSE API) を学びます。Java の言語仕様を、教科書に沿ったいくつかのテーマに分けて学びます。その上でテーマを踏まえた演習プログラムの完成を目指すことにより、理解を深めます。

後半では、前半で学んだ知識を活用し、インターネット上にあるデータを題材とし、Java を用いて取得・加工する方法を学びます。

まず、インターネット上にある REST API を活用したデータの取得方法を理解します。次にそのデータの構造を理解するとともに、Java における取り扱い方法を学びます。その後、必要なデータを取得するアプリケーションの完成を目指します。アプリケーションの完成に必要な各構成要素を講義内の演習や課題として作成し、その解説を行うことで講義を進めていきます。各講義の終わりには復習のための宿題を課します。次回までに提出してください。

フィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概説・開発環境の準備・システムの利用ガイド	授業内容の説明、各自 PC の開発環境の整備、学習支援システムの使い方、簡単な演習を実施
第 2 回	基本的な書き方	Java の基本的な記法、および、クラスとメソッドの概要を理解するとともに、その書き方を習得
第 3 回	型	型として、プリミティブ型と参照型があることを理解する。クラスの作り方と、クラスの性質を理解することで、その使い方を習得
第 4 回	配列とコレクション	複数のデータを扱う方法として、配列、List、Map 等を理解することで、その使い方を習得
第 5 回	例外	例外として、検査例外、実行時例外、エラーがあることを理解することで、try-catch 構文を理解し適切に補足する方法を習得
第 6 回	文字列	文字列の操作方法と文字コードの概要を理解することで、文字列操作方法を習得
第 7 回	日付処理	日付の扱い方を理解・習得
第 8 回	ファイル操作とデータ形式	ディスクにあるテキストファイルの読み込み方を理解する。また、テキストファイルのデータ形式について理解する。
第 9 回	構造化データ JSON	JSON の各ファイル形式の概要を理解する。その上で、JSON ファイルの読み込み方を習得する。

第 10 回	ネットワークからの取得と、周辺ツール	外部から HTTP で取得したデータを取得する方法を理解し、習得する。また、Maven、Javadoc と、jackson の使い方 (databind) を理解し、習得する。
第 11 回	構造化データとオブジェクト	市中にある JSON API の構造を理解するとともに、構造とクラスの対応付けを理解する。市中にある JSON API からデータを取得するとともに、必要な情報を抽出するアプリケーションを作る。
第 12 回	構造化データとオブジェクト	Java オブジェクトのシリアライズについて理解し、JSON データとの関係を理解する。
第 13 回	これまでの復習	ここまで学習した内容の復習
第 14 回	プログラミング言語の今昔	プログラミング言語の歴史と、現在用いられることが多いプログラミング言語の概要。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】毎回の授業で課される宿題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

「プログラミング言語 JAVA」 谷本心、阪本雄一郎、岡田拓也、秋葉誠、村田賢一郎 著、Acroquest Technology 株式会社 監修 技術評論社発行 2980 円

【参考書】

「15 時間でわかる Java 集中講座」 宮下明弘、工藤雅人、原田僚著 井上誠一郎監修 技術評論社発行 2680 円
・Java の言語仕様をかりやすく解説している。
「新・明解 Java 入門」柴田望洋著 ソフトバンククリエイティブ発行 2700 円
・プログラミング初心者向けのテキスト

【成績評価の方法と基準】

・授業の内容を理解していることを確認するための最終試験 (50%)
・ソースコードの修正・独力での作成を確認するための授業後のレポート課題 (50%)
オンライン、対面形式ともにこの評価方法を利用します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義および演習では、Eclipse という統合開発環境を用いて、プログラムを作成します。大学から貸与されているノート PC を必ず毎回各自持参してください。なお、他学科からの履修などの理由で、PC に Eclipse がインストールされていない場合があります。第一回の授業でフォローする予定ですが、できれば授業開始までに Eclipse をインストールしておくことをお勧めします。
<https://mergedoc.osdn.jp/>
<https://www.eclipse.org/>
Eclipse が動く PC であれば、大学から貸与されたノート PC でなくてもかまいません。また、この場合には Windows でなくてもかまいません。演習と宿題の提出には授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

本講義では、C 言語などで手続き型言語を学んだことがあり、C++言語などでオブジェクト指向の概要を理解していることを前提とします。企業において、社内のソフトウェア開発業務を支援している研究者が、開発現場で用いられている Java 言語の基礎について講義するとともに、簡単なプログラミングを行います。講義の終盤では、近年よく用いられている他の言語について、概要を講義する予定です。オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。

【Outline and objectives】

In this class, you learn about the Java language, an object-oriented programming language that is widely used from Web applications to embedded applications. Most programming languages today are object-oriented. Therefore, the knowledge gained from this lecture can be applied to learning other programming languages.

MAT200XG

複素関数論

西村 滋人

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

微積分で学んだ実変数の三角関数、指数関数等を複素変数に拡張するところから始めて、複素関数の微分や積分について学ぶ。とくに応用上大切な有理関数の積分について、負幂を許して冪級数に展開し、閉曲線に沿って項別積分することによって、積分の計算が留数の計算に帰着されることを示す。

【到達目標】

- (1) 複素初等関数の取り扱いに習熟する。
- (2) 留数を計算して複素関数の積分を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

資料配信型。4月21日より開講。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	複素数の定義と四則演算	複素数の取り扱いについての簡単な復習。
2	複素指数関数	指数関数の複素変数への拡張。
3	複素三角関数	三角関数の複素変数への拡張。
4	対数関数と無理関数	対数関数の複素変数への拡張。
5	Cauchy-Riemann の方程式	複素微分可能性が複素関数の実部と虚部に課す制約の説明。
6	複素積分	複素関数の積分が複素平面上の線積分として導入されることの説明。
7	コーシーの積分定理	閉曲線に沿った積分が零になるための条件の考察。
8	コーシーの積分表示	積分定理から導かれる正則関数およびその導関数の積分表示式の説明。
9	整級数展開	正則関数のテイラー級数展開、ならびに負幂を許したローラン級数の導入。
10	一致の定理	整級数展開についての補足。関数関係不変の原理。
11	特異点	ローラン級数の主要部の考察。除去可能特異点、極、真性特異点の特徴づけ。
12	留数定理	留数の求め方と複素積分の計算。
13	複素積分の応用	有理関数の無限積分など実積分の計算への応用。
14	期末試験・まとめと解説	講義内容の理解の評価。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】計算練習は十分な量を各自でこなしておくこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

田代嘉宏、複素関数要論、森北出版。
E. クライツィグ、複素関数論（技術者のための高等数学）、培風館。

【成績評価の方法と基準】

学力試験 100 %

ただし、教室講義が再開できない場合は、オンラインで課題を提出してもらってそれを成績評価に取り入れます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

In this course we will learn differentiation and integration of functions in one complex variable.

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工学で基本的な常微分方程式を解くときに必要になる変数分離・変数変換・ラプラス変換・ヘビサイドの演算法・ミクシンスキーの演算法などによる方法の導出・計算を、例題を使って講義する。授業内小テストをおこない、学生に解の計算、並びに、解法の導出をさせて、自らの解の計算力、解法の導出力を吟味させることによって、習得の程度を把握させて、常微分方程式に関する解法のテクニックを習得させる。

非対面授業について。Zoomによる講義、並びに、授業教材を授業支援システムにアップロードすることで、本学期的本授業は始まる。テキストと授業教材（レジメ）を参考に演習問題を解いて学習支援システム「課題」欄にレポート提出して下さい。質問はレポートに記して下さい。レポートはpdfヘイメーjisキャナー、スマートフォンで写真をjpgなど手書きのものをデジタル化したファイルで提出して下さい。

【到達目標】

学生が、理工学で基本的な微分方程式を解くための計算を容易にできるようにする。学生が理工学で基本的な微分方程式の解法の導出できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

理工学で基本的な微分方程式の解法の導出並びに計算方法を例題を使って講義する。基本的な微分方程式の計算問題、解法の導出問題を授業内小テストとして解かせて提出させる。適時、提出された課題に対してフィードバックを行う。適時、学習等の実施内容に対してフィードバックを行う。適時、質疑によって受講生の疑問にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	微分方程式とその解	微分方程式の解の分類と与えられた関数の満たす常微分方程式を求めることについて講義する
第2回	変数分離形・同次形	変数分離形・同次形の微分方程式の求積解法について講義する
第3回	完全微分方程式	微分形式の微分方程式が完全である条件と求積解法について講義する
第4回	1階線形微分方程式	ベルヌイの微分方程式の求積解法リッカチの微分方程式の求積解法について講義する
第5回	1階線形微分方程式	グランベールの微分方程式の求積解法クレローの微分方程式の求積解法について講義する
第6回	2階線形微分方程式	同次形の求積解法について講義する
第7回	2階線形微分方程式	非同次形の求積解法について講義する
第8回	ラプラス変換の計算法 則・ラプラス変換の線形性、相似性、移動法則	ラプラス変換の線形性、相似性、移動法則について、講義する

第9回	ラプラス変換の計算法 則・ラプラス変換に関する微分法則、積分法則について講義する	ラプラス変換に関する微分法則、積分法則について講義する
第10回	ラプラス変換の計算法 則・合成積、不連続関数のラプラス変換	合成積、不連続関数のラプラス変換について講義する
第11回	ラプラス変換の計算法 則・逆ラプラス変換並びに部分分数	逆ラプラス変換並びに部分分数について講義する
第12回	ラプラス変換の計算法 則・ヘビサイドの展開	ヘビサイドの展開について講義する
第13回	ヘビサイドの演算子	ヘビサイドの演算子の算術について講義する
第14回	ヘビサイドの演算子法 の微分方程式への応用	ヘビサイドの演算子法の微分方程式への応用について講義する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業、テキスト、配布したプリントの内容で、わからないことがあったならば、紹介した参考書・その他も援用して、次週の授業までに質問事項などとしてまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

・応用微分方程式 平松豊一・長坂建二 共著 日新出版（2000年）
本体 2600円

【参考書】

・初等応用解析 安藤四郎・長坂建二・平野鉄太郎 日新出版（1991年）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 90%、授業内演習 10%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内小テストの時間を十分とりたい。

【Outline and objectives】

The aim of our course is to help students acquire the necessary knowledge and skills to solve ordinary differential equations, by the methods of separation of variables, changing of variables, power series and so on. In our course, we give participants the mathematical exercises to calculate the solutions by hand. And our course also deal with the ordinary differential equations in the introduction to mathematical physics.

MAT200XB

応用解析（機械）

清水 朝雄

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工学で基本的な偏微分方程式の境界値・初期値問題の解法を数学サイドから講義する。解くために必要になる数学的な方法の導出、例題を使つての問題の解の算出法について講義する。特にフーリエ級数による解法を重点的に扱う。授業内小テストをおこない、学生に自分の解の計算力、解法の導出力を自ら吟味させることによって、習得の程度を把握させて、理工学における基本的な偏微分方程式の境界値・初期値問題に関する解法のテクニックを習得させる。非対面授業について、Zoom による講義、並びに、授業教材を授業支援システムにアップロードすることで、本学期的本授業は始まる。テキストと授業教材（レジメ）を参考に第一回演習問題を解いてレポート提出して下さい。質問はレポートに記して下さい。レポートは pdf ヘイメーシスキャナー、スマートフォンで写真を jpg など手書きのものをデジタル化したファイルで提出して下さい。

【到達目標】

学生が、自ら、フーリエ級数に関する計算力・応用力を向上させることができるようにする。学生が、理工学にあらわれる基本的な偏微分方程式の境界値・初期値問題を容易に解くことができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

フーリエ級数に関する方法の導出、例題を使った計算方法等を講義する。学生にフーリエ級数についての計算、応用、解法の導出についての問題を授業内小テストで解かせて提出させる。適時、提出された課題に対してフィードバックを行う。適時、学習等の実施内容に対してフィードバックを行う。適時、質疑によって受講生の疑問にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	周期関数	区分的に滑らかな周期 2π の関数のなす内積空間について講義する。
第 2 回	フーリエ係数	フーリエ係数の定義・計算、奇関数、偶関数の場合のフーリエ係数の計算について講義する。
第 3 回	フーリエ級数	フーリエ級数の定義、性質について講義する。
第 4 回	有限三角級数、ベッセルの不等式、パーセヴァルの等式	フーリエ級数の有限和の性質、ベッセルの不等式、パーセヴァルの等式について講義する。
第 5 回	フーリエ級数の収束	フーリエ級数の基本定理について講義する。
第 6 回	関数項関数	フーリエ級数などの関数項級数の一般的性質について講義する。
第 7 回	フーリエ級数と項別微分、項別積分	フーリエ級数の項別微分、項別積分について講義する。
第 8 回	一般の周期関数のフーリエ展開	一般の周期関数に関するフーリエ級数について講義する。
第 9 回	フーリエ余弦級数、フーリエ正弦級数	フーリエ余弦級数、フーリエ正弦級数について講義する。

第 10 回 波動方程式の混合問題 波動方程式の混合問題について講義する。

第 11 回 波動方程式の解法 波動方程式を変数分離法ならびにフーリエ級数で解くことについて講義する。

第 12 回 熱方程式の混合問題 熱方程式の混合問題について講義する。

第 13 回 熱方程式の解法 熱方程式を変数分離法ならびにフーリエ級数で解くことについて講義する。

第 14 回 ラプラス方程式 ラプラス方程式を変数分離法ならびにフーリエ級数で解くことについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業、テキスト、配布したプリントの内容で、わからないことがあったならば、紹介した参考書・その他で、次週の授業までに質問事項等としてまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

・応用微分方程式 平松豊一・長坂建二 共著 日新出版（2000 年）
本体 2600 円

【参考書】

・初等応用解析 安藤四郎・長坂建二・平野鉄太郎 共著 日新出版（1991 年）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 90%、授業演習 10%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内小テストの時間を十分とりたい。

【Outline and objectives】

The aim of our course is to help students acquire the necessary knowledge and skills to solve the partial differential equations with the significance in the introduction to the elementary mathematical physics. In our course, we give participants the mathematical exercises to calculate the solutions by hand. Our course mainly deal with Fourier series with the applications in the introduction to mathematical physics.

MAT200XD

複素関数論（電気）

塚田 和美

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変数の範囲を複素数に拡張した関数を扱う複素関数論の初歩を学ぶ。

【到達目標】

複素数の性質、複素関数、複素積分、複素微分、コーシーの積分定理と積分公式など複素関数論の基礎的な概念や事実を理解し、基本的な計算を行えること、並びに自身の専門分野に応用できる力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	複素数と四則演算	複素数の四則演算、共役複素数、絶対値、偏角について知る。
第 2 回	複素平面	複素数の代数的性質と複素平面の幾何的性質との対応を理解するとともに図形への応用力を養う。合わせて複素平面の領域に関する基本概念を学ぶ。
第 3 回	複素関数	多項式関数、分数関数などについて複素関数としての性質を理解し、複素関数の扱いに慣れる。
第 4 回	正則関数	複素関数の連続性や微分の定義を学ぶ。正則関数の判定条件として、コーシー・リーマンの方程式を導く。
第 5 回	基本関数の性質 (1)	指数関数、三角関数、双曲線関数について複素関数としての定義、性質を知り、正則関数であることを確認する。
第 6 回	基本関数の性質 (2)	対数関数、一般のべき関数、逆三角関数について複素関数としての定義、性質を知り、正則関数であることを確認する。
第 7 回	複素積分	複素積分の定義を理解し、計算方法を習得する。
第 8 回	コーシーの定理とその応用	正則関数に関するコーシーの積分定理を理解し、この定理を利用した積分の計算方法を習得する。
第 9 回	コーシーの積分公式	コーシーの積分公式とその拡張を学び、具体例を通じて理解を深める。
第 10 回	コーシーの積分公式の応用	コーシーの積分公式とその拡張を利用した複素積分の計算例を学び、計算方法を習得する。
第 11 回	べき級数、テイラー展開	べき級数の収束条件、正則関数のテイラー展開について知り、基本関数のテイラー展開を求める。
第 12 回	ローラン展開	孤立特異点でのローラン展開について知る。具体的な関数のローラン展開の求め方を習得する。
第 13 回	特異点と留数定理	特異点の分類、留数の導入、留数定理を知る。留数定理の応用例を学ぶ。
第 14 回	総合演習	講義の要点の復習と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと。授業の復習として、授業で学んだ基本的な概念や事実について自分が納得できるように理解すること、また演習問題を実際に解いてみて理解を確認することも大切である。

【テキスト（教科書）】

複素関数論

辻良平、柳原二郎他共著

森北出版

【参考書】

授業内容に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

複素数の性質、複素関数、複素積分、複素微分、コーシーの積分定理と積分公式を理解し、基本的な計算方法や応用する力が身についたかどうかを期末試験で判断する。

期末試験の結果を 75 %程度、演習、小テスト等の平常点を 25 %程度とし、総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題演習とその解説を効果的に実施する。

板書を効果的にを行い、学生がより効率的に理解できるよう工夫する。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline and objectives】

Learn the basics of the complex function theory.

MAT200XD

応用数学（電気）

鳥飼 弘幸

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の多くの分野の基礎となる微分方程式の解法を学ぶとともに、簡単な物理現象を微分方程式を使って解析する方法について学ぶ。

【到達目標】

1. 典型的な1階微分方程式の解法を理解し、物理現象の解析への応用を理解する。
2. 定数係数線形微分方程式の解法を理解し、具体的な問題を解くことができる。
3. ラプラス変換を用いて微分方程式を解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行うが、講義中に小テストを実施しその解説にあてる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	微分方程式とは何か	微分方程式の導出の例や微分方程式からわかることの例を知る
第2回	1階線形微分方程式（1）	変数分離形微分方程式の解法を理解するとともにその応用を知る
第3回	1階線形微分方程式（2）	1階線形微分方程式の解の公式を導く
第4回	1階線形微分方程式（3）	完全微分方程式の解法を理解するとともにその応用を知る
第5回	定数係数2階線形微分方程式（1）	同次方程式と非同次方程式、定数係数2階線形微分方程式の解空間の構造を理解し解法の一般論を知る
第6回	定数係数2階線形微分方程式（2）	定数係数線形同次微分方程式の解法を理解する
第7回	定数係数2階線形微分方程式（3）	消去法を用いて定数係数2階微分方程式の解法を理解する
第8回	定数係数2階線形微分方程式（4）	定数変化法による定数係数2階微分方程式の解法を理解する
第9回	線形微分方程式の応用	線形微分方程式の応用を知る
第10回	ラプラス変換（1）	ラプラス変換の定義および基本性質を知る
第11回	ラプラス変換（2）	基本的な関数のラプラス変換の求め方を理解する
第12回	ラプラス変換の応用	ラプラス変換を応用した初期値問題の解法を理解する
第13回	定数係数連立線形微分方程式	定数係数連立線形微分方程式の解法に触れる
第14回	微分方程式の応用	様々な微分方程式の応用を知る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業中に小テストを行う場合がある。その準備として事前に解いておくべき問題を指定するので解いておくこと。

【テキスト（教科書）】

矢野・石原共著、新装版 解析学概論、裳華房

（昨年まで発売されていた古い版の「矢野・石原共著、解析学概論（新版）、裳華房」も内容は同一なので使用可能）

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）と、講義中に出題されるレポート及び中間試験（40%）で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Differential equations are used in various fields of science and engineering.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of solving methods of differential equations and analysis methods of simple physical systems by differential equations.

MAT200XD

確率統計（電気）

斉藤 利通

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電気電子工学における各種データ処理やその理解のために、確率統計の基礎力を養成する。

【到達目標】

講義、例題、演習。

対面授業の場合は、各自の演習問題や例題への直接コメントします。オンライン授業の場合は、各自が提出した演習問題へのコメント（フィードバック）を学習支援システム（Hoppii）を通じて行います。詳細は Hoppii の記載事項を熟読してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本事項の講義、基礎問題の演習、質疑応答、節目での復習、総復習等を、学生の理解のレベルに応じて適用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	確率関数	イントロ、ヒストグラム、基本統計量
2	確率関数	二項分布
3	確率関数	ポアソン分布
4	情報理論入門	エントロピー、ハフマンコード
5	確率密度関数	正規分布
6	確率密度関数	中心極限定理
7	推定一検定	母集団比率、標準正規分布
8	推定一検定	母分散、 χ^2 二乗分布
9	推定一検定	母平均、t 分布
10	神経回路	ニューロンモデルと学習、神経統計力学
11	相関	相関係数
12	相関	回帰直線
13	相関	主成分分析
14	総復習	重要事項のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書の復習

【テキスト（教科書）】

和達、十河：キーポイント確率統計、岩波書店

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

定期試験

【学生の意見等からの気づき】

重要な基礎事項は、学力不足の学生にも理解できるように説明する。

【Outline and objectives】

In order to understand data processing technique and feature extracting technique in electrical and electronica engineering, this lecture studies basic concepts of probability and statistics.

MAT200XD

基礎数値解析

堀端 康善

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを利用した、数値計算について

【到達目標】

最も基本的で重要なアルゴリズムを学び、演習を通して身につけることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

数値シミュレーションの基礎となっている、計算機による数値解析法について学ぶ。講義内での演習問題、提出されたレポートの課題については、適宜解説を行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	計算機による数値計算1	計算機における数値の表現
第2回	計算機による数値計算2	丸め誤差、情報落ち、桁落ち
第3回	連立1次方程式の数値解法（直接解法）1	ガウス消去法
第4回	連立1次方程式の数値解法（直接解法）2	LU分解
第5回	連立1次方程式の数値解法（直接解法）3	修正コレスキー分解
第6回	連立1次方程式の数値解法（反復解法）1	ヤコビ法、ガウス・ザイデル法、SOR法
第7回	連立1次方程式の数値解法（反復解法）2	共役勾配法
第8回	連立1次方程式の数値解法（反復解法）3	前処理について
第9回	連立1次方程式の数値解法（反復解法）4	前処理つき共役傾斜法
第10回	連立1次方程式の数値解法（反復解法）5	不完全コレスキー分解
第11回	連立1次方程式の数値解法（反復解法）6	双対共役勾配法
第12回	常微分方程式の数値解法（初期値問題）1	離散化、オイラー法、後退型オイラー法
第13回	常微分方程式の数値解法（初期値問題）2	台形則、蛙飛び法
第14回	常微分方程式の数値解法（初期値問題）3	ルンゲ・クッタ法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】レポート提出。

【テキスト（教科書）】

使用せず。

【参考書】

(1) 川上著、“数値計算（理工系の数学入門コース 8）”、岩波書店

(2) E. クライツィグ著、“技術者のための高等数学 5 数値解析”、培風館

(3) 河村著、“数値計算入門”、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

レポート課題

授業出席を前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

内容を精選する。

【Outline and objectives】

Numerical methods for engineering applications.

西村 征也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質点系の力学や流体力学の応用分野の一つである、プラズマ物理について学ぶ。プラズマとは、イオン集団と電子集団が混在する媒質のことであり、工学や理学の様々な分野で重要な役割を演じている。前半では、電磁場中の単一荷電粒子の運動について学ぶ。後半では、プラズマ流体と電磁場の相互作用について学ぶ。

【到達目標】

- ・電磁場中の単一荷電粒子の運動を計算することができる。
- ・プラズマの流体方程式の導出方法を説明することができる。
- ・プラズマの流体方程式を用いて、プラズマ中の波動の分散関係を導出することができる。
- ・プラズマの平衡と不安定性の考え方を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

4/7(水) から授業支援システムにて講義資料の公開を開始する。毎回、理解を深め疑問を解消するために演習を行い、その答案を解答フォーマット（word ファイル）に記入し、これをレポートとして授業支援システムの「課題」に提出する。課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、プラズマとは	授業内容の説明 プラズマの定義 プラズマの応用分野 水素プラズマの核融合反応
2	サイクロトロン運動	サイクロトロン周波数 ラーマ半径
3	ミラー磁場による捕捉	ミラー力 磁気モーメントの保存
4	磁場閉じ込め	地球磁気圏 磁場閉じ込め装置
5	流体力学の考え方	速度場と圧力場 オイラー微分とラグランジュ微分
6	流体の運動方程式	連続の式と流体の運動方程式の導出 音波の分散関係
7	復習	復習問題 アンケート
8	二流体方程式	イオンと電子の流体方程式 Maxwell 方程式との連立
9	プラズマ振動	プラズマ周波数 ラングミュア波の分散関係
10	MHD 方程式	MHD 方程式の導出
11	アルフベン波	アルフベン波の分散関係
12	平衡と不安定性	平衡・不安定性の概念 不安定性の種類
13	プラズマ研究の最前線	核融合プラズマ 宇宙プラズマ
14	復習	復習問題 アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・多くの数式を用いるので、物理的な概念と数式との関係が理解できるまで、よく復習しておくこと。
・演習問題は解答例を配布する。試験に臨むに当たって、演習問題は必ず解けるようになっておくこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考書を指定する。

【参考書】

プラズマ物理入門（F.Chen 著・内田岱二郎訳 丸善）
連続体の力学（巽友正著 岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

レポート（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。必要な教材は、授業支援システムにて共有する。

【Outline and objectives】

This course introduces plasma physics as an application field of particle dynamics and fluid dynamics to students taking this course.

MAT200XE

応用数学（情報）

陸名 雄一

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然科学や社会科学における多くの現象が微分方程式によって表現されており、微分方程式に関する知識・解法の修得は現代科学を学ぶ者にとって欠かせないものになっている。当科目では、基本的な常微分方程式の解法を修得する。

【到達目標】

- 1. 常微分方程式の基本的な解法を身に付ける。
- 2. その実行に必要な計算力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	常微分方程式	常微分方程式を定義し、その意義について解説する。
第 2 回	常微分方程式の解	常微分方程式の解の存在定理について解説する。
第 3 回	変数分離形	変数分離形の解法について解説する。
第 4 回	同次形	同次形の解法について解説する。
第 5 回	一階線形	一階線形の解法について解説する。また、定数変化法を紹介する。
第 6 回	完全微分形	完全微分形の解法について解説する。
第 7 回	一階微分方程式のまとめと演習	第 1 回から第 6 回までのまとめを行い、演習を実施する。
第 8 回	線形空間・アフィン空間	線形微分方程式を理解する為に必要な線形代数学を復習し、線形写像のファイバーの構造定理について解説する。
第 9 回	線形微分方程式の解空間	線形常微分方程式の解空間の構造について解説する。
第 10 回	微分演算子・斉次形	微分演算子を定義し、これを用いた斉次形定数係数線形常微分方程式の解法について解説する。
第 11 回	逆演算子・非斉次形	逆演算子を導入し、これを用いた非斉次形定数係数線形常微分方程式の解法について解説する。
第 12 回	定数変化法	定数変化法による線形常微分方程式の解法について解説する。
第 13 回	級数解法	常微分方程式の級数解法について解説する。
第 14 回	線形微分方程式・級数解法のまとめと演習	第 8 回から第 13 回までのまとめを行い、演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはない。学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示された演習問題を解く等して、計算の技術を身に付けて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

相談に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は常微分方程式の基本的解法の理解度・実践力を試験成績（評価配分 10.0%）をもとに決定するが、提出課題の成績・受講態度も判断材料とする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【学生の意見等からの気づき】

演習を増やしたい。

【その他の重要事項】

通知・資料提供の手段として「学習支援システム」を使用する。確認を怠った場合に生じる不利益については、一切関知しない。担当教員への連絡方法については、当科目の「講義ガイダンス（第 1 回授業にて実施）」にて指定した方法のみ有効である。

【Outline and objectives】

This course deals with the fundamental concepts of ordinary differential equations and the basic way of solving them.

MAT200XE

応用解析（情報）

陸名 雄一

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フーリエ級数・フーリエ変換・ラプラス変換の基礎事項を概説する。基本理論の理解と併せて、微分方程式・積分方程式への応用に必要な計算力を修得する。

【到達目標】

1. フーリエ級数の基礎理論を理解し、その計算法を身に付ける。
2. フーリエ変換の基礎理論を理解し、その計算法を身に付ける。
3. ラプラス変換の基礎理論を理解し、その計算法を身に付ける。
4. これらの微分方程式・積分方程式への応用について理解し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	フーリエ級数の定義	フーリエ係数・フーリエ級数を定義し、その意義について解説する。
第2回	フーリエ級数の性質	フーリエ級数の基本的性質について解説する。
第3回	フーリエ級数の計算	フーリエ級数の計算技術について解説する。
第4回	複素フーリエ級数・フーリエ級数の収束	フーリエ級数の複素形について解説する。また、フーリエの収束定理・パーセバルの等式について解説する。
第5回	フーリエ級数のまとめと演習	第1回から第4回の内容についてまとめ、演習を実施する。
第6回	フーリエ変換の定義と性質	フーリエ変換を定義し、その性質について解説する。
第7回	フーリエ変換の計算	フーリエ変換の計算技術について解説する。
第8回	フーリエ変換のまとめと演習	第6回から第7回の内容についてまとめ、演習を実施する。
第9回	ラプラス変換の定義と性質	ラプラス変換を定義し、その性質について解説する。
第10回	ラプラス変換の計算	ラプラス変換の計算技術について解説する。
第11回	ラプラス逆変換	ラプラス逆変換を定義し、その性質について解説する。
第12回	ラプラス逆変換の計算	ラプラス逆変換の計算技術について解説する。
第13回	ラプラス変換・逆変換の応用	微分方程式・積分方程式のラプラス変換による解法について解説する。
第14回	ラプラス変換のまとめと演習	第9回から第13回の内容についてまとめ、演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはない。学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示された演習問題を解く等して、計算の技術を身に付けて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

相談に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績はフーリエ級数・フーリエ変換・ラプラス変換の理解度・計算力を試験成績（評価配分100%）をもとに決定するが、提出課題の成績・受講態度も判断材料とする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【学生の意見等からの気づき】

演習を増やしたい。

【その他の重要事項】

通知・資料提供の手段として「学習支援システム」を使用する。確認を怠った場合に生じる不利益については、一切関知しない。担当教員への連絡方法については、当科目の「講義ガイダンス（第1回授業にて実施）」にて指定した方法のみ有効である。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of Fourier series, Fourier transformations, and Laplace transformations.

MAT200XF

複素関数論（経営）

神谷 亮

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複素関数とは、複素数を変数とし、複素数値を返す関数のことである。複素関数に対しても極限を用いて微分可能性が定義されるが、特に各点で微分可能である複素関数を正則関数と呼ぶ。正則性は「各点で微分可能である」というだけの性質であるが、実数の場合と異なり実はとても強い条件であり、例えば、正則関数は各点でべき級数に展開できたり、領域の一点の近くの関数の値だけで、全体での振る舞いが決まってしまう。関数の定義域を複素数の世界にまで広げることにより、実数の世界でだけ考えていたときよりも関数の特性が明確になることも多い。例えば、煩雑であったり技巧的であったりした実関数の定積分の積分も、複素領域における特異点の情報を利用することにより、驚くほど簡単に計算できたりする。

この講義では、上に述べた性質を含む複素関数の基本的かつ重要な性質を学び、複素数の一変数関数の微分積分を理解し計算できるようになりたい。

【到達目標】

- (1) 複素数の表し方と計算規則を理解する。
- (2) 有理関数、三角関数、指数関数をはじめ、基本的な複素関数の値や極限を計算できる。
- (3) 正則性、複素解析性、複素線積分、孤立特異点、留数など、基本的な用語の定義を理解する。
- (4) 講義で扱う、正則性と関係する重要な性質（コーシー・リーマンの関係式、コーシーの積分定理、コーシーの積分公式、留数定理など）を理解し、具体的な設定のもとで利用できる。
- (5) 留数定理の利用により、実関数の積分を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

複素数の性質、複素関数、複素関数の微分（指数関数、三角関数、対数関数）、コーシーの積分定理と積分公式、整級数展開（テーラー展開）、ローラン展開、留数定理とその応用を主に講義する。授業は講義と演習を組み合わせる。

資料配布・課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	複素数と四則演算	複素数の四則演算、共役複素数、絶対値、複素平面について説明する。
第 2 回	複素数の極形式、複素数における極限	複素数の極形式、偏角の性質、ド・モアブルの定理を説明する。 また、複素数における極限概念を導入する。
第 3 回	複素関数の導入、複素微分と正則性	複素関数の微分を定義し、コーシー・リーマンの方程式を導く。
第 4 回	基本的な正則関数とオイラーの公式	複素関数としての指数関数や三角関数を定義し、それらを含むいくつかの複素関数について、コーシー・リーマンの関係式を用いてその正則性を調べる。
第 5 回	べき級数と複素解析関数	べき級数の収束半径について説明し、収束円板における正則性と項別微分定理を導く。また、複素解析性を定義する。
第 6 回	複素関数の積分	線積分、複素関数の積分を定義その計算を行う。

第 7 回 コーシーの積分定理

グリーンの定理を用いてコーシーの積分定理を導く。正則関数の複素積分が積分路に依らないことを説明し、その応用についても説明する。
第 7 回までの内容について講義時間内で中間試験を行い、答案回収後、解説する。

第 8 回 中間試験

第 9 回 コーシーの積分公式

コーシーの積分公式とその拡張を説明し、複素積分の計算は多くの場合微分に帰着できることを説明する。
複素解析性と正則性の同値性、最大値の原理等を示す。

第 10 回 複素解析関数の性質

第 11 回 ローラン展開

孤立特異点をもつ複素関数のローラン展開を述べ、その計算例を与える。

第 12 回 孤立特異点の分類と留数定理

孤立特異点の分類と留数定理を説明する。

第 13 回 留数定理の応用例

留数定理の応用として実積分を計算する。

第 14 回 まとめ

これまでに学んだ複素関数論の全体像を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。
大学ですでに学んだ微分積分学を復習しておく。
各回の復習は、以下の要領で行う。最低でも（3）までは行いたい。
(1) 講義で学んだ用語の定義を説明できるようにする。
(2) 講義で扱った命題・定理の主張を説明できるようにする。定理の利用例を挙げてみる。定理の証明の要点をまとめる。
(3) 講義資料に記載の演習問題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

講義資料を学習支援システムで配布する。

【参考書】

- 「基礎解析学コース 複素解析」矢野健太郎・石原繁 共著（裳華房、1995 年）
「理工系の数理 複素解析」谷口健二・時弘哲治 共著（裳華房、2013 年）
その他の参考書は、講義資料内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題点 25%、中間試験 25%、期末試験 50% を基本に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

質問は授業中またはその前後に直接、および随時メールで受け付けます。

【Outline and objectives】

To understand the concept of differentiation and integration of functions in the complex domains

MAT200XF

数値解析（経営）

小林 健太

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代においてコンピュータシミュレーションは、自然科学や工学、社会科学から医療に至るまで様々な分野で用いられ、我々の生活を基礎から支えている。授業では、コンピュータシミュレーションを行う際、現象を記述する方程式をどのようにして計算機上で計算すればよいのか、また、元の問題の解と計算機で計算した解にはどのような関係があるのか等、数値計算にまつわる諸問題について説明する。一つの単元が終わるごとに演習を行い、実際にコンピュータプログラムを作成する。

【到達目標】

さまざまな方程式の数値解法を理解し、さらに実際に計算機上でプログラムを組み、数値計算結果を得ることができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とプログラミングの演習を交互に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	数値解析の概要、計算環境などの紹介
第 2 回	連立一次方程式 1	行列とベクトル、連立一次方程式の復習、ガウスの消去法の原理の概要
第 3 回	連立一次方程式 2	行列やベクトルのノルム、ヤコビ法の収束について
第 4 回	プログラミング演習 1	連立一次方程式に関する数値計算演習
第 5 回	非線形方程式	二分法、ニュートン法の原理
第 6 回	プログラミング演習 2	非線形方程式に関する数値計算演習
第 7 回	数値積分	中点則、台形則、シンプソン則の誤差評価、周期関数に対する台形則
第 8 回	プログラミング演習 3	数値積分に関する数値計算演習
第 9 回	常微分方程式 1	常微分方程式の解説
第 10 回	常微分方程式 2	オイラー法、修正オイラー法、ルンゲクッタ法の紹介、オイラー法の収束証明
第 11 回	プログラミング演習 4	常微分方程式に関する数値計算演習
第 12 回	偏微分方程式 1	熱方程式の紹介
第 13 回	偏微分方程式 2	熱方程式に対する陽解法、陰解法、クランク・ニコルソン法
第 14 回	プログラミング演習 5	偏微分方程式に関する数値計算演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】線形代数、微積分、微分方程式、プログラミングなど、いずれも大学初年度程度の知識を仮定する。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、講義資料を電子媒体で配布する。

【参考書】

数値解析について詳しく知りたい場合は以下を参考にすること

森正武「数値解析」（共立出版）

齊藤宣一「数値解析入門」（東京大学出版会）

皆本晃弥「C 言語による数値計算入門」（サイエンス社）

【成績評価の方法と基準】

（１）４～６回程度のレポート課題（５０％）

（２）期末試験（５０％）

を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって理解が難しい箇所は資料を改善したり等の対応を行った。

【学生が準備すべき機器他】

自己の PC や大学の共同設備などプログラミング（C 言語等）をできる環境の準備。

【その他の重要事項】

授業における演習ではプログラミング言語として C 言語を用いるが、レポート課題については好きな言語を用いてよい。ただし、言語によっては使用する機能に制限を設ける場合がある。

【Outline and objectives】

Learn the computational and theoretical method to solve mathematical problems in social science, natural science, engineering, etc.

MAT200XF

応用数学（経営）

磯島 伸

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

常微分方程式とは、1 変数の未知関数とその導関数が満たす方程式であり、理工学の様々な場面で登場する。この授業では、基本的な常微分方程式の解法を学ぶ。

【到達目標】

基本的な常微分方程式の解法を理解し、その実行に必要な計算力を身につける。

具体的には次の通りである。

- 1) 種々の 1 階常微分方程式を解けるようになる。
- 2) 定数係数 2 階線形微分方程式を解けるようになる。
- 3) 定数係数連立微分方程式を解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的な常微分方程式の解法を講義形式で解説する。講義内容に対応する演習課題を毎回出題してその理解と定着を図る。

課題の出題やそのフィードバックは、学習支援システムを通して行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	微分方程式の基礎用語
2	1 階微分方程式 (1)	変数分離形および同次形方程式の解法
3	1 階微分方程式 (2)	1 階線形方程式およびベルヌーイの方程式の解法
4	1 階微分方程式 (3)	全微分方程式の解法
5	2 階線形斉次方程式 (1)	線形方程式の基礎事項、特性解が相異なる 2 実数の場合の解法
6	2 階線形斉次方程式 (2)	複素数、特性解が共役な複素数の場合の解法
7	2 階線形斉次方程式 (3)	特性解が実 2 重解の場合の解法、 n 階方程式
8	線形方程式の一般論	解空間の線形性、解の重ね合わせ
9	2 階線形非斉次方程式 (1)	未定係数法による解法 (非同次項が基本解でない場合)
10	2 階線形非斉次方程式 (2)	未定係数法による解法 (非同次項が基本解の場合)
11	連立微分方程式 (1)	対角化による解法 (固有値が相異なる実数の場合)
12	連立微分方程式 (2)	対角化による解法 (固有値が複素数・重複する実数の場合)
13	連立微分方程式 (3)	行列の指数関数による解法
14	総括	総合演習または課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題に取り組む。

必要に応じて微分積分学・線形代数学の復習を行う。

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

泉英明 著『コア・テキスト 微分方程式』（サイエンス社）

バージェス、ボリー 共著『微分方程式で数学モデルを作ろう』（日本評論社）

寺田、坂田、曾布川 共著『演習と応用 微分方程式』（サイエンス社）

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の成果 20 %、期末試験 80 %の割合で、種々の常微分方程式の解法を習得したか評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

An ordinary differential equation is an equation that one unknown function and its derivatives satisfy, and appears in various science and engineering scenes. In this lesson, you learn the solution of basic ordinary differential equations.

APC100YC

グリーンケミストリ

渡邊 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グリーンケミストリとは“環境にやさしいものづくりを目指す化学”である。現在の経済発展による豊かさを追求する社会経済システムには限界があり、今後は持続可能な循環型社会経済システムへ変革していく必要がある。資源・エネルギーは可能な限り循環させ、環境負荷をできる限り小さくすることが望まれている。ものづくりにおいては、優れた材料特性を持つとともに、低環境負荷な設計や合成プロセス、廃棄物の再資源化などが求められている。本授業ではグリーンケミストリの 12 箇条の概念を具体的な例を挙げて解説するとともに、過去と現在の環境問題、省エネを含めた定量的な取り扱い、廃水の再生法、廃棄物の再資源化方法、個々の環境物質の測定法、及びエコマテリアルについて解説する。

【到達目標】

この授業では、グリーンケミストリの概念を理解するとともに、これまでの環境汚染や公害問題の歴史、汚染化学物質の性質について学ぶ。さらに省エネルギー、省資源を含め再生可能なシステム、メカニズムを理解することで、身近な具体的な環境問題について化学的知見に基づき応用可能な能力を身に付けることを目標としている。

以下に達成目標を記す。

1. グリーンケミストリの概念について例を挙げて説明できる。
2. これまでの環境汚染および公害の歴史を説明できる。
3. 環境の現状と対策について説明できる。
4. 環境汚染物質の種類やそれらの特性および省エネを含めた定量的な取り扱いができる。
5. 廃水の再生法、廃棄物の再資源化方法について説明できる。
6. 個々の環境物質の測定法を説明できる。
7. エコマテリアルについて例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、5 回以上のアクティブラーニング（演習または発表）を実施する。アクティブラーニングで実施した演習問題を含む聴講ノートを提出してもらう。小テストは 2 回実施し、レポートも 2 回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	本講義の全体的な説明、グリーンケミストリとは	本講義の全体的な説明とグリーンケミストリの概念（12 箇条）について説明する。
2	環境問題の歴史	これまでの環境問題および公害の歴史について 4 大公害病を中心に説明する。
3	環境保全に関する法律	環境基準について説明する（アクティブラーニング（演習））。
4	環境における化学物質の挙動（1）	大気圏における化学物質の挙動について説明する。
5	環境における化学物質の挙動（2）	土壌圏、水圏における化学物質の挙動について説明する。（アクティブラーニング（演習））
6	環境の現状と対策について（1）	大気環境の現状と対策について説明する。
7	環境の現状と対策について（2）	水環境と土壌環境の現状と対策について説明する。（アクティブラーニング（演習））
8	廃棄物の再資源化	都市資源としての廃乾電池などやバイオマスについて、それらの再資源化について説明する。
9	環境汚染物質の測定法－大気、水質、土壌中の汚染物質の測定法	主な環境測定法について説明する（アクティブラーニング（演習））。
10	グリーンケミストリの 12 箇条について例を挙げて解説（1）－1～6 条	グリーンケミストリの 12 箇条の中の 1～6 条に関係するものについて例を挙げて解説する。（アクティブラーニング（発表））

11	グリーンケミストリの 12 箇条について例を挙げて解説（2）－7～12 条	グリーンケミストリの 12 箇条の中の 7～12 条に関係するものについて例を挙げて解説する。（アクティブラーニング（発表））
12	環境とエネルギー省エネも含めた定量的な取り扱い	原子力エネルギー、新エネルギー（太陽光、太陽熱、風力、バイオマス、地熱）、燃料電池について説明する。
13	エコマテリアル－環境負荷の少ない機能性材料について	エコマテリアルについて、光分解性、生分解性プラスチック、多孔質材料について説明する。（アクティブラーニング（演習））。
14	まとめ	本講義全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】環境を化学の視点から捉えることから、化学の基礎を十分理解しておく必要がある。そのためには、基礎となる高校の化学の習得および大学 1 年での化学を並行して学習しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

J. E. Andrews et al.“An Introduction to Environmental Chemistry”Blackwell Pub., “環境化学概論”田中稔ら、丸善, “環境と化学 グリーンケミストリー入門”荻野和子ら、東京化学同人, “陸水環境化学”藤永薫ら、共立出版, “環境白書”環境省編。

【成績評価の方法と基準】

演習問題を含む聴講ノートの提出（10%）、小テスト（20%）、レポート（20%）、期末テスト（50%）で評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Green chemistry is the study of chemical products and processes that reduce or eliminate the generation of substances hazardous to humans, animals, plants, and the environment. This course covers basic fundamentals of green chemistry, through the 12 design principles of green chemistry, and explores relevant examples of their practical use in commercial applications.

BOA100YD

環境と人間

越智 英輔、街 勝憲

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会で問題となっている環境がもたらすヒト生体への影響について学ぶ。現在、人類をとりまく生活環境、社会環境の変化が著しい。そこで、様々な環境の変化のうち特に運動・身体活動の観点から考察し、生体への影響をマクロ・ミクロ的視点から学習する。

【到達目標】

様々な環境やその変化がヒト生体に及ぼす影響について理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、生体に関する基礎的な内容を解説する一方で、環境と人間との関係の具体例を概説する。最新時事の話題を取り上げる場合があるため、講義内容の一部変更があり得る。但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン・オンデマンド型授業となる場合は、詳細について「学習支援システム」にて周知する。また、授業中に出された質問等に対するフィードバックは、次回授業の冒頭に解説することで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに、講義の概要	環境と人間との関連性を概観する
2	環境が人間に及ぼす影響	不活動、加齢、無重力
3	1 環境が人間に及ぼす影響	運動不足
4	2 環境が人間に及ぼす影響	トレーニング環境
5	3 環境が人間に及ぼす影響	暑熱、寒冷、低酸素環境
6	4 環境が人間に及ぼす影響	食栄養環境
7	4 環境が人間に及ぼす影響	森林環境
8	5 現代の環境問題 1	大気、オゾン層破壊
9	現代の環境問題 2	話題の環境問題、化学物質
10	現代の環境問題 3	温暖化
11	身近な環境を考える 1	グループ討議
12	身近な環境を考える 2	プレゼン準備
13	身近な環境を考える 3	プレゼンテーション、解決法について
14	試験	配布資料、参考図書から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義内容に関連する参考書などを読み、関連事項の概要の把握に努める。また、講義中に紹介される参考図書は、関心の深い図書を選択して、内容の理解に努める。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて授業支援システム、または授業中に資料を配付する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

1) 平常点およびレポートやプレゼンなど: 50%

2) 学期末レポート: 50%

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

資料調査やプレゼンなど自主的な学習を重視する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼン授業時には貸与パソコンを持参すること。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn about the influence of various types environment on humans, which becomes an important problem in modern life.

PPE100YA

植物薬理学

三富 正明

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食糧増産に貢献している植物薬理剤（農薬）について、その開発の歴史、農薬の種類、作用機構、製剤技術、法的規制、農薬の安全性評価、環境評価と規制等について学び、農薬に関する幅広い専門知識を学ぶ。

【到達目標】

農薬に関する専門知識を学び、環境に対する影響、食の安全に関する項目を学習して、植物保護における農薬の必要性和役割を理解する。実現場で正しく農薬を使用できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

初回講義で、農薬の役割、安全性、規制法の概要を解説する。各論として、農薬の種類と作用機構、製剤の種類についての講義を行う。また、農薬の使用による薬剤抵抗性・耐性菌の出現とその対応策についての講義を行う。更に、環境影響や生態毒性に関する概論を説明して、環境と調和した使用方法について講義する。フィードバックとして、授業の初めに前回の授業内容の再確認を行う。

なお、講義に用いる資料は「教材」より配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	農薬の必要性	農薬の歴史、役割、種類、使用方法
第 2 回	農薬の法制度	農薬取締法等の解説、農薬登録の仕組み
第 3 回	農薬の安全性評価	食品農薬残留に係わる農薬の安全性評価と法規制
第 4 回	殺菌剤の種類	殺菌剤の作用機構、分類
第 5 回	殺虫剤の種類	殺虫剤の作用機構、分類
第 6 回	除草剤の種類	除草剤の作用機構、分類
第 7 回	植物生育調節剤の種類	植物生育調節剤の作用機構、分類
第 8 回	農薬の製剤	農薬製剤の種類、使用方法
第 9 回	農薬抵抗性害虫・耐性菌	農薬使用に伴う抵抗性害虫・耐性菌の発生
第 10 回	植物保護の新技術	物理的防除、生物的防除、天敵利用による防除、有機農法
第 11 回	農薬と組換え植物	遺伝子組換え植物と農薬の役割
第 12 回	農薬の環境動態	農薬の土壌、大気、水系における挙動と規制
第 13 回	農薬の生態影響評価	環境生態に対する影響と規制
第 14 回	新規農薬の開発	開発手順、探索研究、知的財産権

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 特になし

【テキスト（教科書）】

講義時に配布する資料を用いて授業を行うので、教科書は特に指定しない。

【参考書】

難波成任監修「植物医科学」（養賢堂）
梅津憲治著 「農薬と食の安全・信頼」（日本植物防疫協会）
佐藤仁彦、宮本徹編「農薬学」（朝倉書店）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）および平常点（30 %）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が理解しやすいように、配布する資料の記載を工夫する。講義で使用した専門用語を平易に解説して、講義全体の理解が深まるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Learn about various aspects of pesticides benefiting increased food production, such as their development history, types of pesticide, mode of action, formulation technologies, legal restrictions, safety evaluation methods, environmental assessments and regulations, etc., and obtain a wide range of basic knowledge concerning pesticides beneficial for food production.

PHY100YC

物理学概論 I

金沢 育三

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。本講義では、物理学の中でも特に基礎的な分野である、力学と熱力学について学ぶ。力学は、力と運動に関する学問であり、物理学で必要な思考法や数学的技術を多く含んでいる。一方、熱力学は、熱に関する学問であり、車を動かす動力や気象現象を理解するには無くてはならない。

【到達目標】

- ・力学では、力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。
- ・熱力学では、熱と温度の関係、分子運動と熱との関係、熱力学の法則について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

春学期は オンラインでの開講となる。それにとめない、各回の授業計画の変更については 学習支援システムで その都度提示する。本授業の開始日は 4 月 10 日とし、この日までに、具体的なオンライン授業の方法など学習支援システムで提示する。このような状況ですので、教科書を中心にすすめる予定ですので、必ず、教科書を用意しておいてください。1 週間後を締め切りとして、課題レポートをだしますが、締め切り後の授業で、解答等の補足説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	物理学概論序論	微積分とベクトルを用いて運動を表現する方法を学ぶ。
第 2 回	質点の運動学 (1)	運動を数式で表現する
第 3 回	質点の運動学 (2)	微分・積分を用いた運動の表現
第 4 回	質点の力学	運動の法則
第 5 回	質点の運動 (1)	自由落下など
第 6 回	質点の運動 (2)	単振動
第 7 回	仕事とエネルギー	仕事の定義、力学的エネルギー保存則
第 8 回	演習	力学の演習
第 9 回	熱と温度 (1)	熱平衡状態と温度
第 10 回	熱と温度 (2)	経験温度と熱力学的温度
第 11 回	熱と温度 (3)	気体の分子運動論
第 12 回	熱力学 (1)	熱力学第一法則
第 13 回	熱力学 (2)	熱力学第二法則
第 14 回	演習	熱力学の演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書、参考資料等を復習し、例題等を解く。

【テキスト（教科書）】

物理学 小出昭一郎 裳華房

【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房

【成績評価の方法と基準】

総括レポート（60%）と授業での学習状況（課題レポート）等（40%）により 総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を増やし、講義内容を効果的に身につけられるようにする。

【Outline and objectives】

Physical laws govern the physical world around us, which are, of course, strongly related to the phenomena of life and chemistry. In this class, we learn the basics of physics. In particular, we aim at learning mechanics and thermodynamics.

PHY100YC

物理学概論 I I

金沢 育三

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目標とする。物理学の中でも、特に電磁気学について学ぶ。電磁気学は、電気・磁気現象に関する学問であり、様々な電化製品や情報通信システムの基礎となっている。

【到達目標】

電磁気現象の基本である静電場、電位、静電容量、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義と演習により進める。1 週間後を締め切りに、レポート課題をだします。締め切り後の授業で、課題の解答等の補足説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	静電場（1）	クーロンの法則
第 2 回	静電場（2）	静電場、電気力線
第 3 回	静電場（3）	ガウスの法則
第 4 回	静電場（4）	静電ポテンシャル
第 5 回	静電場（5）	コンデンサーと静電容量
第 6 回	演習（1）	静電場に関する演習
第 7 回	静磁場（1）	オームの法則
第 8 回	静磁場（2）	電流と静磁場
第 9 回	静磁場（3）	ビオ・サバールの法則
第 10 回	静磁場（4）	アンペールの法則
第 11 回	電磁誘導	ファラデーの法則
第 12 回	電磁波	マクスウェル方程式
第 13 回	演習（2）	静磁場に関する演習
第 14 回	量子力学	光子量子仮説と量子力学の誕生

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書を復習する。教科書の例題を解く。

【テキスト（教科書）】

物理学, 小出昭一郎 裳華房

【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房

【成績評価の方法と基準】

期末テストあるいは 総括レポート（80%）と学習状況（課題レポート等）（20%）により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を増やし、講義内容を効果的に身につけられるようにする。

【Outline and objectives】

Physical laws govern the physical world around us, which are, of course, strongly related to the phenomena of life and chemistry. In this class, we learn the basics of physics. In particular, we aim at learning electromagnetism.

APC100YB

グリーンケミストリ

加藤 尚之

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グリーンケミストリは「環境にやさしいものづくりの化学」であり、グリーン・サステナブル・ケミストリとも呼ばれている。地球は誕生から 46 億年かけて生命が快適に住めるような自然環境を築いてきた。人類は約 6,500 万年前に誕生したと考えられているが、人間は産業革命以後わずか 250 年で地球環境を大きく変化させた。またそこには化学反応が大きく関わっている。目的物質だけに目がいて、その結果放出された副生成物は環境汚染物質として公害の原因物質となった。グリーンケミストリでは、化学の観点から環境を捉え、人体や生態系に対するリスクの低減と環境負荷の少ない化学反応の開発やエネルギー問題などについて学ぶ。それを理解するためには、地球がどのように誕生したかを知ることは重要であり、現在地球を取り巻いている様々な環境問題について十分理解することが必要である。

【到達目標】

過去の公害問題を知り、現代の環境問題についてそのメカニズムを化学的に説明でき、解決するための知識を習得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

日常的に何らかの環境問題が話題となっていることから、見聞きする機会が多い事項である。個々人がもっている環境に対する基礎知識をより深め、化学の観点から環境問題が理解できるように学習する。毎回講義資料をプリントにして配布する。また自学自習が行えるように適宜演習問題や課題を与え、初回の講義で前回の問題の解説や課題についてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	グリーンケミストリ概説	グリーンケミストリとは、グリーンケミストリにおける 12 原則について解説、地球誕生について解説
第 2 回	過去の公害問題	公害とは、何故起こったのか、現代の環境問題について解説
第 3 回	大気汚染	大気汚染物質とは、それに関係する環境問題について解説
第 4 回	酸性雨	酸性雨のメカニズム、その影響と現状について解説
第 5 回	オゾン層の破壊	発生のメカニズム、光化学反応、生体に及ぼす紫外線の影響について解説
第 6 回	放射線	放射線とは、放射線被爆、半減期について解説
第 7 回	地球温暖化	地球温暖化のメカニズム、温室効果ガス、地球温暖化の影響について解説
第 8 回	森林の減少・砂漠化	森林減少および砂漠化の原因、人間生活への影響について解説
第 9 回	ダイオキシン	ダイオキシン発生のメカニズム、ダイオキシン汚染の現状と生物への影響について解説
第 10 回	水環境	水について知る、水質汚濁の現状と対策、環境基準と排水基準について解説
第 11 回	環境微生物問題	温泉を知る、温泉での微生物問題について解説
第 12 回	エネルギー問題	エネルギー問題を理解し、現状と未来のエネルギーについて解説
第 13 回	プラスチックとリサイクル	プラスチックとは、プラスチックと環境問題、廃棄物のリサイクルについて解説
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】グリーンケミストリでは、環境問題に関わっている物質と化学との関係が深いことから、大学 1 年で学ぶ化学基礎の内容を十分に理解しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

講義内容が一冊の教科書で対応できないため教科書は使用しない。毎回講義に則した資料を配布するので、各自必要に応じて参考書を参照する。

【参考書】

- ①「グリーンケミストリー 社会と化学の良い関係のために」共立出版、日本化学会編、御園生 誠著
- ②「化学環境学」裳華房、御園生 誠著
- ③「グリーンテクノロジー」丸善、北島 昌夫、山本 靖、佐野 健二共著
- ④「元素と周期律」裳華房、井口 洋夫著

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20%
期末テスト 40%
レポート 30%
上記に授業平常点 10%を考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn the global environmental problems and to consider how to establish the sustainable environment and energy from the standpoint of chemistry.

環境と人間

長谷川 敬洋、平塚 二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境はすべての生命の生存基盤であり、私たち人類はその恵みに支えられてこそ健康で文化的な生活を送ることができます。しかし、人類が与える負荷によって限りある地球環境が損なわれつつあり、現在の社会経済活動やライフスタイルを続けると、取り返しのつかない影響を及ぼすことは明白です。こうした状況に対処するには、人間と環境との相互作用について正しく認識し、実際の行動に生かしていく必要があります。

明治中期以降の近代産業の発展に伴い悪化していた私たちの身近な環境は、先人たちの努力によりかなり改善しました。このため、環境問題といっても、遠い世界で起きていること、または自分が扱うには大きすぎる問題であり自分以外の誰かによって解決されるべきものかと思いがちです。しかし、私たち一人一人の行動が世界中の環境問題に大きな影響を与えている事実を認識し、自分たちの目が届く範囲のみならず、他国や将来世代の影響を想像できるようになる必要があります。

この講義では、主要な環境問題を知識として学ぶことはもちろん、それらをテーマとして科学的・論理的な思考過程を経て自らの考えをまとめられるようになることを目指します。

【到達目標】

本講義では、次の3つの目標を達成することを目指します。

1. 主要な環境問題について学ぶこと。
2. 課題に直面した時に、科学的知見に基づき是非を判断し、解決策を多角的に模索し、説明できるようになること
3. 自分とは異なる集団（年代、国、過去・将来世代）の立場を想像できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

- ・最初と2回目の講義は、講義全体の概説と環境問題全般について説明します。これらの講義は履修登録前ですので、成績評価には反映しません。
- ・その後は、5つの環境問題をとりあげます。それぞれのテーマを2週にわたって扱い、1週目の講義では、そのテーマに関する知識を講義により学び、2週目（翌週）の講義では、数名の学生でグループを作り、そのテーマに沿った課題を題材に、グループごとに議論と発表を行います。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況により、オンライン（zoom）か登校により講義を行います。なお、オンライン・登校の如何にかかわらず、グループディスカッションを多用しながら学んでいただきます。
- ・課題やレポート等の提出は、原則として、メールで行います（メールアドレスは、別途、学習支援システムを通じてお知らせします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義の概要や進め方を紹介する
2	環境問題の俯瞰	過去から現在に至るまでの環境問題について俯瞰する
3	問題の解決方法	問題解決に活用可能な思考過程や議論の進め方（グループワークの進め方）について学ぶ
4	テーマ別課題1：公害	日本が経験した激甚な公害について学ぶ
5	テーマ別課題1：公害（グループワーク）	グループワークを通じて、公害問題をなぜ防ぐことができなかったのかを考える
6	テーマ別課題2：廃棄物・リサイクル	我々自身が出すごみが、どのような問題を生じさせているか学ぶ
7	テーマ別課題2：廃棄物・リサイクル（グループワーク）	グループワークを通じて、廃棄物・リサイクルが引き起こす問題を考える。
8	テーマ別課題3：気候変動	気候変動問題について、科学的知見や国際交渉について学ぶ
9	テーマ別課題3：気候変動（グループワーク）	模擬交渉を通じて、気候変動の国際交渉を体験する
10	テーマ別課題4：原発事故	原発事故により生じた放射性汚染について学ぶ
11	テーマ別課題4：原発事故（グループワーク）	グループワークを通じて、福島原発事故の影響を説明する方法を考える。

12	テーマ別課題5：持続可能な開発	持続可能な開発に関する国内外の取り組みを学ぶ。
13	テーマ別課題5：持続可能な開発（グループワーク）	グループワークを通じて、持続可能な開発に向けた取り組みを考える。
14	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- ・課題図書については、あらかじめ、購読してきてください。
- ・グループワークは、前週の講義内容をもとに行いますので、配布資料があれば持ってきてください。

【テキスト（教科書）】

書名：FACTFULNESS(ファクトフルネス) 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣
著者名：ハンス・ロスリング他
出版社：日経 BP
出版年：2019年

【参考書】

指定しません（必要に応じて、講義において示します）

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績評価は、①講義への貢献50%、②グループワークへの貢献20%、③レポート30%の割合で評価します。
①講義への貢献：講義やグループワークの発表時などにおいて、クラス全体に大きな貢献をする発言（新たな問題を提起するもの、視点を転換するもの、交通整理をするもの、意見集約するものなど）を評価します。なお、オンライン講義における「チャット機能」による発言は、「講義への貢献」になりえることは少ないため、基本的には評価対象外です。
②グループワークへの貢献：グループワーク作業において、グループワーク内での議論への貢献を評価します。
③レポート：レポート課題に対する内容を評価します。
※この他、ボーナスポイントとして、レジュメ発表者には1回につき10ポイントを加点します（レジュメに対する質問等は、上記①「講義への貢献」の一環として評価します）。
※※なお、最初の2講義は履修登録前ですので、それらの講義の内容は成績評価には反映しません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度までの講義アンケート結果（※）を踏まえて、引き続き、グループワークを重要視するとともに、課題図書を設定してより充実した学習効果を目指します。
※過去の講義アンケート：受講生の声
設問1：この授業では、積極的な工夫がされていましたか（5点満点）
本講義の平均：4.76、科目主催別の平均：3.89
設問2：この授業に関しては、授業時間につき、平均してどれくらいの授業外学習をしていますか
本講義の平均：1.29、科目主催別の平均：2.19
※回答1：ほとんど行っていない
回答2：週30分以上1時間未満
回答3：週1時間以上2時間未満

設問3：この授業内容を理解できましたか（5点満点）

本講義の平均：4.53、科目主催別の平均：3.62

設問4：この授業を履修してよかったと思いますか（5点満点）

本講義の平均：4.59、科目主催別の平均：3.87

設問5：この授業を履修して、よかった点や改善してほしい点等を記入してください

- ・必修にするべき授業だと思います。
- ・環境に関する知識はもちろん、その他社会に出る上での実践力が学べました。
- ・グループワークを通して学部内の仲が深まりました!
- ・SDGカードやグループワークを通して、現在の環境問題などについて楽しく学ぶことが出来た。
- ・面白い授業だった。
- ・発言をしなければならないというのは結構いいことかなって思った。
- ・普段自分たちはこのような環境問題に対して、ただびーびー言っていたけどが、実際に政策など考えると、こんな少人数でも意見の対立が生じたりして、本当難しいなって思いました。しっかり環境問題に関心を示す必要があるなと思いました。
- ・最初のガイダンスのときに質問する人いなくて質問しない欠席になりますよって言っていたけれど授業の進め方についての質問なくて欠席になるのはどうかと思った。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

The environment is the fundamental platform of all life, and our healthy and cultural life are fully supported by their grace. The capacity of the environment, however, is being undermined by the burdens of mankind, and continuing socio-economic activities and lifestyles will have irreversible effects on the environment. To cope with this situation, it is necessary to correctly understand the interaction between humans and the environment and apply it to actual actions.

Thanks to the efforts of the past, the environment around us has improved considerably. For this reason, you may feel that environmental problems occur somewhere else in distance, and be solved by someone else other than yourself as issues are too big to deal with. But we need to recognize that each of our actions has a significant impact on the environment around the world. With the recognition, we also have the imagination not only for the environment around us but also for other countries and future generations.

In this lecture, you will not only learn about various environmental issues, rather you will acquire the ability to summarize your ideas with logical thinking and scientific knowledge, and improve your ability of imagination which is important to deal with environmental issues.

PHY100YB

物理学概論 I

金沢 育三

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。本講義では、物理学の中でも特に基礎的な分野である、力学と熱力学について学ぶ。力学は、力と運動に関する学問であり、物理学に必要な思考法や数学的技術を多く含んでいる。一方、熱力学は、熱に関する学問であり、車を動かす動力や気象現象を理解するには無くてはならない。

【到達目標】

・力学では、力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。
・熱力学では、熱と温度の関係、分子運動と熱との関係、熱力学の法則について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

春学期は オンラインでの開講となる。それにともない、各回の授業計画の変更については 学習支援システムで その都度提示する。本授業の開始日は 4月12日です。オンライン授業ですので、必ず、教科書を用意してください。1週間後を締め切りとして、レポート課題をだします。締め切り後の授業で解答等の補足説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	物理学概論序論	微積分とベクトルを用いて運動を表現する方法を学ぶ。
第2回	質点の運動学 (1)	運動を数式で表現する
第3回	質点の運動学 (2)	微分・積分を用いた運動の表現
第4回	質点の力学	運動の法則
第5回	質点の運動 (1)	自由落下など
第6回	質点の運動 (2)	単振動
第7回	仕事とエネルギー	仕事の定義、力学的エネルギー保存則
第8回	演習	力学の演習
第9回	熱と温度 (1)	熱平衡状態と温度
第10回	熱と温度 (2)	経験温度と熱力学的温度
第11回	熱と温度 (3)	気体の分子運動論
第12回	熱力学 (1)	熱力学第一法則
第13回	熱力学 (2)	熱力学第二法則
第14回	演習	熱力学の演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】教科書を復習する。教科書の例題を解く。

【テキスト（教科書）】

物理学 小出昭一郎 裳華房

【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房

【成績評価の方法と基準】

総括レポート（60%）と学習状況（課題レポート）（40%）等により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を増やし、講義内容を効果的に身につけられるようにする。

【Outline and objectives】

Physical laws govern the physical world around us, which are, of course, strongly related to the phenomena of life and chemistry. In this class, we learn the basics of physics. In particular, we aim at learning mechanics and thermodynamics.

PHY100YB

物理学概論 I I

金沢 育三

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目標とする。物理学の中でも、特に電磁気学について学ぶ。電磁気学は、電気・磁気現象に関する学問であり、様々な電化製品や情報通信システムの基礎となっている。

【到達目標】

電磁気現象の基本である静電場、電位、静電容量、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義と演習により進める。1 週間後を締め切りとして、レポート課題をだします。締め切り後の授業で、解答等の補足説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	静電場（1）	クーロンの法則
第 2 回	静電場（2）	静電場、電気力線
第 3 回	静電場（3）	ガウスの法則
第 4 回	静電場（4）	静電ポテンシャル
第 5 回	静電場（5）	コンデンサーと静電容量
第 6 回	演習（1）	静電場に関する演習
第 7 回	静磁場（1）	オームの法則
第 8 回	静磁場（2）	電流と静磁場
第 9 回	静磁場（3）	ビオ・サバールの法則
第 10 回	静磁場（4）	アンペールの法則
第 11 回	電磁誘導	ファラデーの法則
第 12 回	電磁波	マクスウェル方程式
第 13 回	演習（2）	静磁場に関する演習
第 14 回	量子力学	光量子仮説と量子力学の誕生

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書を復習する。教科書の例題を解く。

【テキスト（教科書）】

物理学 小出昭一郎 裳華房

【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房

【成績評価の方法と基準】

期末テスト あるいは 総括レポート（80%）と学習状況（課題レポート等）（20%）により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を増やし、講義内容を効果的に身につけられるようにする。

【Outline and objectives】

Physical laws govern the physical world around us, which are, of course, strongly related to the phenomena of life and chemistry. In this class, we learn the basics of physics. In particular, we aim at learning electromagnetism.

MAC300YC

高分子化学

渡辺 敏行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高分子の特徴を理解し、その利用方法を学習する。
様々な高分子の合成法について学ぶ。

【到達目標】

高分子の定義を理解しているか。
高分子の原料と化学構造の関係を理解しているか。
立体規則性を理解しているか。
平均分子量を理解しているか。
重縮合を理解しているか。
重付加、付加縮合を理解しているか。
ラジカル重合を理解しているか。
ラジカル重合を理解しているか。
イオン重合を理解しているか。
開環重合を理解しているか。
生体高分子の特徴を理解しているか。
立体規則性重合を理解しているか。
生体高分子の特徴を理解しているか。
導電性高分子の電気伝導の原理を理解しているか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

教科書および授業支援システムの資料をベースにすすめる。授業中ではレ
ポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	高分子の利用方法	高分子がどのように世の中で活用され ているかを解説する。
2	高分子とは	高分子（ポリマー）とは何か？ その 特徴を学ぶ。高分子の定義、高分子の 化学構造と高分子の用途を知る。
3	高分子化学の歴史	高分子の歴史を伝え、学問としての確 立過程と有機材料として日常生活との 関りを広く理解する。高分子の原料と 化学構造を学ぶ。
4	立体特異性	五大汎用高分子、エンジニアリングプ ラスチックについて学ぶ。立体配置、 立体配座とは、高分子特有の立体規則 性（iso, syndio, atact）を実例に基づ き説明する。
5	高分子の特性・分子量	高分子の特性と平均分子量（Mn, Mw） の考え方を説明し、高分子の分子量測 定法を示す。
6	結晶性と結晶構造	結晶、非晶、液晶の違いについて解説 する。高分子の結晶構造がどのように して決まるかを解説する。高分子の密 度を結晶構造から求める。
7	熱的性質	高分子のガラス転移温度、融解現象に ついて解説する。耐熱性高分子の分子 設計法を熱力学的に理解する。
8	まとめ 1	前半の授業のまとめを行う。
9	重縮合、重付加、付加縮 合	反応度と分子量の関係、化学平衡、重 縮合の速度論、分子量分布、重縮合高 分子の具体例について学習する。重付 加および付加縮合について学習する。
10	ラジカル重合	付加重合（連鎖重合）について学習す る。ラジカル重合の素反応、速度論、 重合度と連鎖移動について学習する。
11	イオン重合	アニオン重合、カチオン重合、イオン 重合の速度論について学習する。
12	遷移金属触媒重合、開環 重合	チーグラール・ナック重合、開環重合の 特徴、開環重合性、について学習する。

13	ラジカル共重合	ラジカル共重合の速度論的取り扱い、 共重合組成式と Q-e スキームについ て学習する。 共重合によって得られる構造について も学習する。
14	生体高分子&導電性高分 子	生体高分子の化学構造と特徴を学習す る。導電性高分子の電気伝導の原理を 学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業中に
指定された課題を次の授業までにレポートとして提出すること。

【テキスト（教科書）】

はじめての高分子化学 井上祥平著 化学同人 (2006)
ISBN 978-4-759-81075-2

【参考書】

高分子化学 合成編 中條善樹、中健介 著
丸善株式会社 ISBN978-4-621-08259-1
液晶・高分子入門 竹添秀男、渡辺順次著、裳華房 (2004)

【成績評価の方法と基準】

試験とテストおよびレポートの合計点より総合的に判断する。
(中間試験+期末試験) 80 点満点、(レポート) 10 点満点、(平常点) 10 点満点

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じて演習問題を課す。

【その他の重要事項】

ビデオ教材、Power point、講義実験などにより、理解を深める。

【Outline and objectives】

Understand the characteristics of polymers and learn how to use them.
Learn about synthetic methods of various polymers.

MAC200YC

環境安全化学

大波 英幸、福島 由美子

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模で直面している様々な環境問題の原因と影響を把握すると共に、環境汚染と化学物質との関わりを理解してもらう。また、身近に存在する化学物質等のヒトの健康や環境に及ぼすリスクやその評価手法を理解することにより、環境汚染問題の解決・防止のための基礎的知識を得ようとするものである。さらに、菌や黴などが関係する水環境衛生学の基礎知識を習得することを目標とする。

【到達目標】

環境問題の現状と課題を把握するとともに、水環境衛生について考える知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

2人の教員で授業は行う。また、1～5回の5週是水環境衛生学で微生物による水汚染対策について学習し、その期末試験がB評価以上で、且つ全体の成績評価がC以上の場合、「水利用設備環境衛生士」の資格取得優待となる。6～14回の9週は、様々な環境問題の原因と影響を把握すると共に、環境汚染と化学物質との関わりを学習する。

課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	水環境衛生序論	微生物が起因する諸問題について解説
第2回	水環境微生物	水利用設備で問題になる菌について解説
第3回	水環境設備（1）	水利用設備の具体的な汚染と対策について解説
第4回	水環境設備（2）	水利用設備の具体的な汚染と対策について解説
第5回	まとめ	その他水利用設備の汚染と対策・全体のまとめ
第6回	ガイダンスと環境安全化学の関連法令など	授業の概要と進め方、および環境安全化学の関連法令等について
第7回	環境汚染（公害問題）と化学物質	日本の公害問題の歴史（原因と影響など）
第8回	地球温暖化（ヒートアイランド）とオゾン層破壊	・地球温暖化などの気温上昇に関連する環境問題の原因と影響 ・オゾン層破壊の原因と影響
第9回	様々な大気汚染	PM2.5、NO _x 、SO _x 、酸性雨などの大気汚染の原因と影響
第10回	土壌環境汚染	土壌汚染の原因と影響
第11回	水環境問題	水質汚染・汚濁の原因と影響
第12回	廃棄物問題	廃棄物と残留性有機汚染物質の原因と影響
第13回	エネルギー資源	エネルギー資源と環境問題について
第14回	まとめ	6～13回の講義のまとめなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
化学と環境について現在各自が問題意識としている点を考えておくこと。

【テキスト（教科書）】

パワーポイント資料等を必要に応じて電子媒体などで配布する。
またテキストに準ずるものについては、授業中に適宜紹介する。

【参考書】

参考となる書籍等は授業中に適宜紹介する。

・環境社会検定試験（eco検定）の公式テキスト：環境に係る問題等が網羅的に示されており入門書としておすすめ。

【成績評価の方法と基準】

1～5回（5週）については、期末テスト等を統合して全体の1/3で成績評価する。

6-14回（9週）については、出席と毎回の演習問題等を総合して全体の2/3で成績評価する。

最終的に両評価を合計して成績判定を行う。

【学生の意見等からの気づき】

膨大な内容をできるだけ分かり易く解説したい。

【その他の重要事項】

講義全体の内容は変わらないが、進行状況によっては講義内容の順番などを変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

Understand the cause and effect of various environmental problems occurring on a global scale. Understand the relationship between environmental pollution and chemical substances. Obtain basic knowledge for solving and preventing environmental pollution problems. In addition, acquire the basic knowledge of water environment hygiene related to bacteria and fungus.

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国でも発展途上にあった高度経済成長期の頃には、「公害」と呼ばれた様々な環境問題があった。この頃の経験は、今も我が国の環境を守るためにはもちろんのこと、先進国を追いかけて発展を望む国々における同種の問題の解決に大なり小なり役に立っている。この「公害」と呼ばれた環境問題の特徴は、原因と結果のつながり、および被害者と加害者が明かなことである。しかし、時代が進むにつれてこのような因果関係の明快さは失われつつあり、現代では一人一人が被害者であると共に、問題を生じる加害者となっている。特に近年では、温室効果ガスの問題や PM2.5、マイクロプラスチックなど、国境を越えて広がる汚染物質に対して従来とは異なるアプローチが求められている。つまり、これらの問題は単一の自然科学のカテゴリーに収まるものではなく、エネルギーや遺伝学を含めた総合的な自然科学、そして経済・政治といった社会科学の問題であり、これらの知見の統合なくしては何も解決できないのである。

そこで、「環境科学」という学問がある。本講義では、まず人類の発展と共に変遷してきた環境問題を題材に基礎を学ぶ。そして環境を安全に保つこととは何か、我々が現在直面している、あるいは子孫が直面するかもしれない環境問題について解決・回避のために何が必要なのかなどについて考察を深める。さらに、近年 SDGs と呼ばれる国際的な取り組みの一環として企業活動を巻き込んだ環境保全への関心が高まっている。企業活動の正当性、継続性を担保するために必須の取り組みといてもよいかもしれない。本講義では、このことに関連した「情報」の収集と分析、および発信のための基礎を習得する。

【到達目標】

1. 種々の環境問題に関する基礎的な知識を身につける、
2. 歴史的、科学的視点の双方から問題の本質を知る、
3. 他人の考えとのギャップを知り、問題解決のための方向性を見出す

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義は本シラバスに示した内容に沿って進めていく。可能であれば対面での講義を志向するが、コロナウイルスに係る状況次第では実施できない可能性がある。このため、グループディスカッションを除く全 11 回分の講義資料を順に週に 1 度程度の頻度で学習支援システムにアップロードする。また、これを補足するために、重要な点について主としてオンデマンド方式によるバーチャル講義を行う。第 12 回～14 回講義は、グループディスカッションとする。こちらも対面での実施を志向するが、できない場合には WEB (ZOOM) を介して実施する。7～8 人の小グループに分かれて、与えるテーマについて学生同士意見を交わしてもらい、情報の収集・分析・発信の方法を身につける。また、テーマに関して収集した情報の違いや、同じ情報に接したときでも他我のとらえ方の違いなどを知る。

受講生はこれらの後、課題とするレポートを提出して成績評価を受ける。レポートは、講義回ごとに課すものと学期の終わりに課すものの 2 種類とする。講義回ごとに課すものは資料末尾の演習問題として示すテーマから一つ選択して提示から 2 週間以内に提出する。学期の終わりに課すものは、ディスカッションの内容を要約した上で、テーマに関する意見の他我の違いを明示する形式とする。なお、質問は 4 月 1 日以降、メール（宛先： toshihiro.yoshihara.65@hosei.ac.jp）にて随時受け付ける。簡潔に要点をまとめて投稿していただきたい。できる限り迅速に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと概要	授業の概要と進め方、成績評価などについて概説する。また、環境とは何かについて考える。
2	環境を形作るもの	元素、化合物、計量単位などについて。今後の授業において必要な化学の基礎を思い出す。特に近年話題となっているレアアースについて知る。
3	環境と生態系Ⅰ	生態系とは何かについて学ぶ。特に、土地の生産性とは何かを考える。
4	環境と生態系Ⅱ	なぜ多様性が生じたのか、多様性を守る価値とは何か、種の進化と絶滅を学ぶ。また、SDGs と LCA について概説する。

5	大気汚染Ⅰ	大気の構造、構成要素と循環、公害と呼ばれたかつての大気汚染について学ぶ。
6	大気汚染Ⅱ	オゾン層の破壊、温室効果ガスと地球温暖化について学ぶ。また、エネルギー問題、食糧問題（フードマイレージ）との関わりを知る。
7	水の汚染Ⅰ	水の物理・化学的性質と生命の発生について学ぶ。また、水の循環、水質とは何か、および水の利用にかかわる問題（水利権、仮想水）について知る。
8	水の汚染Ⅱ	水の汚染、富栄養化、生物濃縮、環境ホルモンについて学ぶ。
9	水の汚染Ⅲ	酸性雨の問題について、森林の役割・衰退と環境への影響について学ぶ。
10	土の汚染Ⅰ	土とは何か、土の構成成分と構造・機能、土の汚染（金属・農業による汚染）、砂漠化について学ぶ。
11	土の汚染Ⅱ	植物における養分の吸収・蓄積とカドミウム・セシウム等の非必須元素の吸収と蓄積・耐性、およびこれらに関する分子機構について学ぶ。また、植物を使って土をきれいにする方法＝ファイトレメディエーションについて知る。
12	グループディスカッションⅠ	グループディスカッションへの導入（KJ 法について、ディスカッション手法の例示・実際）。
13	グループディスカッションⅡ	ディスカッションの継続、発展（新たな視点の追加）。
14	グループディスカッションⅢ	ディスカッションのまとめと要旨の発表、成績の基礎となるレポートについて。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】毎回のテーマについて、事前にキーワード検索を行ったり参考書を読んだりして、下調べを行うこと（15～30 分）。講義のあと改めて参考書・参考文献を読むことも得られた知識の確認に有効。また、復習のために講義のあとレポートを課すことがある。

【テキスト（教科書）】

講義において常時使用する教材としてのテキストは指定しない。

【参考書】

吉原利一編 地球環境テキストブック 環境科学 オーム社¥3300 に準拠した形で講義を進める（講義はこの情報を更新する形で進める）。また、別途講義において単元ごとに参考となる文献を示す。

【成績評価の方法と基準】

授業の進め方と方法において示したように、成績評価はレポートの提出によって行う。レポートは、講義回ごとに課すものと学期の終わりに課すものの 2 種類とする。課題は各回配布資料に示す。レポートの採点においては、①正確な情報と分析に基づくこと（主な出典の明記等）、②テーマに回答した論旨の明確さ・一貫性・新奇性、③文章の読みやすさ（誤字脱字等がないこと、表現力）、の 3 項目をそれぞれ 5 段階で評価し、レポート別にその点数を合計する（最大 15 点）。科目としての成績評価では、講義回ごとのレポートの平均点と学期末のレポートの点数を 50 : 50 として総合する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度より開始した講義であるがアンケート結果なし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等情報機器。資料配布等に学習支援システムを使用。

【その他の重要事項】

樹木医としての活動や東京電力福島原子力発電所事故における帰還困難区域でのフィールドワークを行った経験などを伝える。また、投稿論文等に掲載された自らが得たデータを多く引用する。

【Outline and objectives】

Even in developed countries, they had caused many environmental problems so called “pollution(s)” during their economically/idealistically immature eras. These experiences are now useful not only to keep their domestic environments, but also to solve similar problems in developing countries. A common specificity of such “pollution(s)” is a clear relationship between the cause and the result and/or between the perpetrator and the victim. However, in this time, such a clear relationship would be disappeared and all humankind is simultaneously a perpetrator and a victim when we face to newly happening environmental problems, such as greenhouse gas problems, PM2.5, and micro-plastics. We are still seeking for the way to solve them, which may stand on a different approach than ever.

Studying the environmental sciences could lead us to the answer. It is not a sole but a total natural science, and sometimes includes social sciences like economy, politics, and cultural anthropology. Here, this lecture provides you a basis of “the environmental sciences” (e.g., history of “pollution(s)” and how mankind solve the problems). In addition, the lecture may promote you to deepen your mind, what is the safety in environment and how to solve environmental problems at the present time and/or in future we will face.

渡邊 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「分析化学」とは化学的な現象や物理的な現象を利用して、物質の組成や状態を探索する方法を学ぶ科目である。それらの現象がどのように分析に生かされているかを勉強してもらいたい。授業では、大学で学ぶ必要のある範囲の基礎分析化学を中心に講義・演習を行い、高級技術者、研究者としての基礎的な分析化学の知識を習得する事を目標とする。さらに環境分析に必要な重要な機器の一部を取り上げて機器分析化学の基礎を習得することも目標とする。

【到達目標】

1. 酸塩基反応と中和滴定について理解し計算することができる。
2. 沈殿形成について、溶解度積の観点から理解でき、計算することができる。
3. 錯形成反応を酸塩基反応として理解でき、滴定の計算をすることができる。
4. 酸化還元反応と滴定について、化学反応を理解し計算することができる。
5. 環境分析に用いる機器の原理と特徴を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、5 回以上のアクティブラーニング（演習または発表）を実施する。小テストは 2 回実施し、レポートも 2 回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。授業中に実施する演習や発表について、学習支援システムを用いてフィードバックすると共に教員が学生に問いかけを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	この科目の授業概要	授業の進め方、予習と復習、評価方法について解説する。 化学における分析化学の役割（化学分析は、社会で何に役立っているかを考える。）について解説する。
2	測定値の精度および正確度、化学式量とモル、溶液と濃度、電解質の溶液とイオンの活量	化学分析における測定値の正しい取扱い方（精度、正確度、標準偏差など）、分析化学で用いる単位、イオンと活量について学ぶ。
3	酸塩基反応と酸塩基滴定（1）	酸塩基の定義とその内容、電離平衡について学ぶ。
4	酸塩基反応と酸塩基滴定（2）	強塩基と弱酸の中和滴定および強酸と弱塩基の中和滴定曲線について学ぶ。
5	酸塩基反応と酸塩基滴定（3）	塩の加水分解、電解質溶液の pH 計算法、指示薬の働きについて学ぶ。アクティブラーニング（演習）を実施する。
6	第 1 回小テスト 沈殿と重量分析（1）	第 1 回小テストを実施する。 沈殿の生成機構、溶解度積について学ぶ。
7	沈殿と重量分析（2）	水酸化物の沈殿と硫化物の沈殿生成を pH の面から考える。アクティブラーニング（演習）を実施する。
8	錯化合物とキレート滴定（1）	配位結合を酸塩基反応ととらえる。キレートの種類を学ぶ。
9	錯化合物とキレート滴定（2）	EDTA のキレート滴定の条件および金属指示薬の働きについて学ぶ。アクティブラーニング（演習）を実施する。
10	第 2 回小テスト 酸化還元反応と酸化還元滴定（1）	第 2 回小テストを実施する。電極電位とネルンストの式、酸化還元滴定の条件について学ぶ。
11	酸化還元反応と酸化還元滴定（2）	酸化還元電位（大小）の理解とその活用について学ぶ。アクティブラーニング（演習）を実施する。
12	機器分析（1）	クロマトグラフィーの原理と特徴について学ぶ。アクティブラーニング（演習または発表）を実施する。
13	機器分析（2）	紫外可視分光光度法、原子吸光分析法及び発光分光分析法の原理と特徴について学ぶ。検量線による濃度計算を行う。アクティブラーニング（演習または発表）を実施する。

14 まとめ

本授業を振り返り、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】分析化学は基礎学問であり、無機化学、有機化学、物理化学の基礎知識が必要となるので高校化学の知識をしっかり身につけておくことが重要である。

【テキスト（教科書）】

分析化学の基礎 木村優、中島理一郎 共著、裳華房

【参考書】

クリスチャン分析化学 I 基礎編

【成績評価の方法と基準】

講義記録（10%）、レポート（20%）、小テスト（30%）、定期試験（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【Outline and objectives】

Analytical chemistry is the study of methods of separation, identification and quantification of the chemical composition and structure of materials through chemical and physical phenomena. This course covers the basis of fundamental analytical chemistry, through the study of treatment of experimental error, acid-base equilibria, solubility equilibria, complexation equilibria, and oxidation-reduction equilibria. It also enhances the development of students' skill in carrying out an analytical chemical experiment. Other topics addressed include the basis of fundamental instrumental analytical chemistry, the basic principles of UV visible spectroscopy and different kinds of chromatography.

APC200YC

バイオエンジニアリング

稲本 進

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイオプロセスに関する基礎知識を習得し、定量的な解析および設計を行うための基礎能力を養うとともに、実例を通じてバイオ技術の現状を学習する。特に、食品や医薬品の製造に関連したプロセスを生物化学工学的立場から論ずる。

【到達目標】

- 1) 酵素や微生物など生体触媒の特徴について理解する
- 2) 生体触媒の応用について具体例を知る
- 3) 生体触媒を利用する反応の速度論の基礎を理解する
- 4) 生体触媒を利用するための反応器および操作法の基礎を理解する
- 5) 生体触媒を改良するためのバイオ技術について習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

酵素や微生物など生体触媒の特徴や応用例、反応速度論、反応器の形式や操作論、生体触媒の改良に用いられるバイオ技術など、バイオプロセスに関する基礎知識を講述する。講義はオンラインのライブ配信で行い、毎回課題を出します。課題の提出は「学習支援システム」を通じて行い、その答え合わせは次の講義の中で行う予定です。なお、状況が改善すれば対面授業を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論／食品や医薬品の製造に見るバイオプロセス	食品や医薬品の製造に関わるバイオプロセスを紹介する
2	バイオサイエンスの化学的基礎（1）	生体を構成する主な物質群、特に糖、アミノ酸、タンパク質、脂質などについて講述する
3	バイオサイエンスの化学的基礎（2）	生体を構成する主な物質、特にDNAやRNAの性質、それらからタンパク質が合成される過程について講述する
4	生体触媒の特徴（1） 酵素	生体触媒としての酵素の特徴について講述する
5	生体触媒の特徴（2） 微生物、動物細胞、植物細胞、ウイルス	生体触媒としての微生物と動物細胞と植物細胞とウイルスの特徴について講述する
6	酵素・微生物を利用するバイオプロセス：エネルギー関連のプロセスを例として	酵素を利用するバイオプロセスの具体例として、バイオエタノール製造、藻類バイオ燃料、バイオ電池について紹介する
7	酵素反応速度論（1） ミカエリス・メンテンの式	ミカエリス・メンテンの式を中心として、酵素反応速度論の基礎を講述する
8	酵素反応速度論（2） 酵素反応の阻害	酵素反応の阻害について、各種の様式とその速度論を講述する
9	細胞が関与する生化学反応速度論	微生物の増殖速度とその影響因子について講述する
10	バイオリアクターの形式と操作設計	（1）酵素反応リアクターの各種形式とその特徴、形式別の操作設計の基礎および、（2）生体触媒の固定化法について講述する

11	生体触媒の制御と改良 技術（1）代謝制御発酵	バイオインダストリーで重要な代謝制御発酵とそこで用いられる育種技術について講述する
12	生体触媒の制御と改良 技術（2）遺伝子組換え技術	生体触媒の改良に使われる遺伝子組換え技術の基礎を講述する
13	生体触媒の制御と改良 技術（3）ゲノム科学の進歩	ゲノム編集や次世代DNAシーケンサーなど最新のゲノム科学で用いられる技術の基礎を講述する
14	まとめ	今までの講義内容の補足と復習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
準備学習は必須ではないが、復習は必ず行うこと。各回の授業内容に応じて、別途課題を与える。本授業の復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業前に授業支援システムに講義資料をアップするのでダウンロードしてください。

【参考書】

Essential 細胞生物学 原書第4版（中村 桂子, 松原 謙一・翻訳）
南江堂
新版生物化学工学（海野肇／中西一弘／白神直弘／丹治保典・著）講談社サイエンティフィク
生物反応工学（山根恒夫・著）産業図書
新生物化学工学 第3版（岸本通雅／堀内淳一／藤原伸介／熊田陽一・著）三共出版

【成績評価の方法と基準】

成績評価は各回の課題（約40%）、レポート（約10%）および期末試験（約50%）を総合して評価する。但し、出席が半分以下の場合、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年ははじめてZoomを用いたオンラインのライブ配信で講義を行った結果、講義が時間どおりに終わらないこともあったので、講義時間を延長しないようにする。また課題の答え合わせをもう少し時間をかけてやることにする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn the basic knowledge about bioprocesses. To this end, students will learn examples of various bioprocesses as well as methods for their quantitative analysis. The course focuses especially on processes for the production of food and medicine from the aspect of biochemical industry.

MAC200YC

物質構造化学

緒方 啓典

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、物質の様々な性質を理解するうえで必要とされる結晶構造学の基礎を理解し、結晶構造を記述する上で必要な事項について学ぶとともに、X線回折法による結晶構造解析の測定法と原理を理解し、実際の測定・解析方法について学ぶ。

【到達目標】

授業の到達目標

- 1) 結晶構造を理解する上で必要な事項、用語を理解し、それらを用いて結晶構造を記述することができる。
- 2) 結晶中に存在する対称性および対称操作について理解し、3 2 結晶点群の対称性を分別する。また、空間群を理解し、結晶構造の表記法について学ぶとともに、結晶学パラメータに基づいて回折強度を計算する方法を学ぶ。
- 3) X線回折法による結晶構造解析の測定法と原理を理解し、実際の測定・解析に応用できる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

物質の結晶構造は、物質のさまざまな性質と密接に関連している。物質の持つ様々な機能を理解し、新規物質開発等、材料化学の研究を行う際には、自ら合成した物質の結晶構造を解析する能力が必要とされる。本講義では結晶構造の基礎を系統的に学び、X線回折法に代表されるいくつかの構造解析法の基礎理論および応用について学ぶ。

具体的な授業の実施方法については、学習支援システムを通して適宜提示します。

本講義は環境応用化学科の主要専門科目および「物質創成化学コース」の推奨科目です。（本講義の内容を理解するためには、有機化学、無機化学、物理化学に関する講義を受講しているか、それらの内容を理解していることが必要です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の概要説明、結晶構造解析の重要性について述べる。
2	結晶学の歴史	結晶学の歴史、有理指数の法則、晶帯則、対称性の発見、X線結晶学の歴史について学ぶ。
3	結晶格子と単位格子	結晶の要素、対称性と対称操作、対称要素、単純格子と複合格子、晶系、ブラベ格子、結晶の面指数および方向指数について学ぶ。
4	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-01	結晶中で許される対称操作と表記方法、非対称単位、対称操作の組み合わせと点群、空間群について学ぶ。
5	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-02	対称操作の組み合わせと点群、結晶系との関係、表記方法、図示の方法について学ぶ。
6	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-03	対称操作の組み合わせと空間群、結晶系との関係、表記方法、図示の方法について学ぶ。
7	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-04	分率座標、占有率、Z 値について学び、具体的な物質について結晶構造の表記方法について学ぶ。
8	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-05	International Tables for Crystallography の見方について学ぶ。
9	回折現象を理解するための数学	ベクトルの内積、外積、三重積、フーリエ級数とフーリエ変換、関数の畳み込み等について学ぶ。
10	X線の散乱と回折-01	原子によるX線の散乱、原子散乱因子、結晶によるX線の回折、結晶構造因子について学ぶ。
11	X線の散乱と回折-02	ブラッグの条件、逆格子の概念とエワルド球の関係について学ぶ。
12	X線回折法による結晶構造解析の原理-01	回折強度と結晶構造因子の関係、消滅則、熱振動の表し方（温度因子）等について学ぶ。

13	X線回折法による結晶構造解析の原理-02	位相問題、フーリエ合成、構造精密化等、実際の結晶構造解析の手順に沿った基礎事項について学ぶ。
14	X線回折法による結晶構造解析の実際	単結晶試料および粉末試料について実際の結晶構造解析の流れの実例を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業で使用する資料 (ppt) は事前に授業支援システムを通じて受講者に配布を行う。受講者は事前にそのファイルをダウンロードし、目を通すとともに、参考書の関連ページを読んでおくこと。授業には資料をプリントアウトして持参すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、項目ごとに資料を配布する。

【参考書】

・「X線構造解析」、早稲田嘉夫・松原英一郎著、内田老鶴園
 ・「X線結晶構造解析」大橋裕二著、裳華房
 ・「結晶化学」基礎から最先端まで 大橋裕二著 裳華房
 など

【成績評価の方法と基準】

小テストおよび最終試験の結果を元に総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解の度合いを見ながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる資料は事前に授業支援システムを通じて配布する。

【その他の重要事項】

講義のキーワード：結晶構造、対称性、単位格子、ブラベ格子、点群、空間群、X線、回折、実格子、逆格子、構造因子、フーリエ変換、電子密度分布
 自然科学分野の国立研究機関で勤務経験を持つ教員が、その経験を生かして結晶化学の基礎的知識について講義を行う。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to present the basic concepts needed to understand the crystal structure of materials. Fundamental concepts including lattices, symmetries, point groups, and space groups will be discussed and the relationship between crystal symmetries and physical properties will be addressed. The theory of X-ray diffraction by crystalline matter along with the experimental x-ray methods used to determine the crystal structure of materials will be covered.

APC200YC

機器分析学

古田 悦子

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主要な機器分析法を原理、機構、実例を示しつつ、実験実習で使う機器の根本原理を学ぶ。種々の分析法の特徴を示し、将来用いるべき分析法の判断材料を提供する。

【到達目標】

学生は、主要 14 分析法について、以下の項目を学ぶ。①物理的原理を理解する、②試料の最適形態は固体・液体・気体のいずれか、③どのような元素、化合物あるいは化学形状に対して適用できるか、④分析感度はどの程度なのか、⑤結果の出力方法と解析法を学び、⑥その結果から得られる情報の特徴など、各分析法のメリットとデメリットを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義する。（リモート授業になった場合は、ZOOM を利用する。）主要部分資料は、当日配布する。（ZOOM の場合、資料は前日までに、Hoppii にアップする。）演習問題を課す。作成を必須とする「機器分析法のまとめ：excel file」を随時提出してもらい、記載に不適切な部分があった場合、全受講者に対し、どのように記すべきかを指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	今後の進め方等、注意事項 分析とは何か	分析の目的や陥りやすいミス、正しい実験法や数値処理など、既に学んでいるはずの内容の確認を行う
2	光検出の基礎	多くの機器分析法の基礎となる光検出の基礎を学ぶ（放射線と放射能の基礎、壊変、放射平衡、放射性物質の性質、線量測定、放射線計測等）
3	放射化分析	主要中性子放射化分析法 3 種類の原理と実例、メリットデメリット
4	紫外可視分光法	可視紫外分光法の原理、ランベール・ベールの法則、分光装置、可視紫外光の分子による吸収とメリットデメリット
5	蛍光光度分析法	蛍光の原理、蛍光光度計、旋光分析、蛍光分光法の応用とメリットデメリット
6	原子吸光光度分析法・発光分析法	原子スペクトル、原子吸光分析、分光計のメリットデメリット
7	X 線分析法	X 線回析、X 線イメージング、X 線分析法の原理、メリットデメリット
8	赤外分光法とラマン分光法	赤外吸収スペクトルと格子振動、双極子モーメント、フーリエ変換分光法、赤外光源、検出器、ラマン散乱と分極率、ラマン活性、各々のメリットデメリット

9	核磁気共鳴分析	磁気共鳴のスペクトル、化学シフト、シグナルの分裂、有機物の構造解析とメリットデメリット
10	ガスクロマトグラフィー	クロマトグラフィーの歴史と発展、原理と特徴、ガスクロの詳細、メリットデメリット
11	液体クロマトグラフィー	ガスクロマトグラフィーとの相違、メリットデメリット
12	キャピラリー電気泳動	電気泳動とクロマトグラフィーの相違、キャピラリーの意味、メリットとデメリット
13	質量分析	質量分析の原理とイオン化、分離分析との組み合わせ、メリットデメリット
14	電気化学的測定	電気化学の基礎、測定原理、pH メータ等の実際、メリットとデメリット

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各機器分析法の重要事項（基礎原理、検出器、試料形態、メリット、デメリット）を excel にまとめる、演習問題を解く、の繰り返し。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。参考図書は、初回に案内する。各回、主要ポイントを記したレジュメ（プロジェクトするパワーポイントの一部）を当日配布する。（リモート授業の場合、前日までに Hoppii にアップする。）

【参考書】

化学新シリーズ「機器分析入門」赤岩英夫／編 赤岩英夫／〔ほか〕執筆 出版社名 裳華房、物質工學入門シリーズ「基礎からわかる機器分析」加藤正直、内山一美、鈴木秋弘著
その他、「機器分析学」関連図書

【成績評価の方法と基準】

試験週間に試験を行う。試験日当日に、毎回の授業後に書き溜めた excel file を提出する。これら提出物と、出席回数を総合して評価する。（リモート授業の場合、試験に代えて、レポートとする。）評価は、対面授業により試験を行う場合は、試験の配点 50 %、平常点 15 %、excel file 35 % とする。リモート授業の場合、レポート：40 %、excel file：40 %、平常点：20 % とする。良くできたレポートは加点し、提出はされたが、内容に重大な欠陥があったレポートおよび excel file は減点とする。

【学生の意見等からの気づき】

自分用の excel(各機器分析法のまとめ) を作製させる。毎回 演習問題の課題を出し、解法の解説により、授業内容をフォローする。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

excel に記すべき内容は、は第一回目に説明する。毎回、整理・充実させるための復習が、必要である。

【Outline and objectives】

Main chemical analysis methods, both of qualitative and quantitative, are introduced. Additionally, examples are shown to understand their merits and demerits of each method. This lecture is useful for your future analysis.

APC200YB

機器分析学

黒田 裕、野口 恵一、加藤 敏代

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義では、核磁気共鳴分光法（NMR）、X線結晶構造解析、電子顕微鏡観察などの計測法及びそれら生体高分子への応用について解説する。

【到達目標】

機器分析法の原理と生物試料への応用の基本的な考えを理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと板書を使用する。パワーポイントファイルを配布し、説明をする。説明に基づいてメモを取ることが期待されている。質問は、授業中及び授業後に受け付ける。オムニバス形式。授業時間の最後に小テストを行い、次回の授業のはじめに解説や授業の補足説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	蛋白質構造の基礎と計測法	アミノ酸、2次構造、3次構造など（野口）
第2回	核磁気共鳴 (NMR)	基本原理、スペクトルから得られる情報（加藤）
第3回	核磁気共鳴 (NMR)	基本原理、スペクトルから得られる情報（加藤）
第4回	核磁気共鳴 (NMR)	ペプチド、低分子化合物、スペクトルから得られる情報（加藤）
第5回	核磁気共鳴 (NMR)	ペプチド、低分子化合物、スペクトルから得られる情報（加藤）
第6回	核磁気共鳴 (NMR)	タンパク質研究への応用（黒田）
第7回	核磁気共鳴 (NMR)	タンパク質研究への応用（黒田）
第8回	最近の研究課題から及び前半テスト	講師の研究の紹介（黒田）
第9回	X線結晶構造解析基本原理	X線の発生、結晶によるX線の回折（野口）
第10回	X線結晶構造解析基本原理	結晶構造解析の方法（野口）
第11回	X線結晶構造解析の実例	蛋白質の構造解析の実例紹介（野口）
第12回	TEM/SEM	電子顕微鏡の原理（野口）
第13回	TEM/SEM	電子顕微鏡観察の実例紹介（野口）
第14回	最近の研究課題から及び後半テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業支援システムで配布したプリント資料を受講後に復習する。宿題・レポートの提出は成績評価に使用する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

- 1) 「いきなりはじめる構造生物学」(神田大輔著、学研メディカル秀潤社)
- 2) 「分析化学実技シリーズ 機器分析編3 NMR」(田代充・加藤敏代 著、共立出版)

【成績評価の方法と基準】

出席点 (20%)、小テストとレポート及び宿題 (20%)、前半と後半のテスト (60%、再試験なし)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The objectives of this class are to learn the basic principles of structure determination of biomacromolecules by NMR spectroscopy, X-ray diffraction method and electron microscopy. It is important for all students to have an understanding of the basis, strengths, precision and limitations of these technique.

APC200YB

バイオエンジニアリング

萩原 知明

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイオプロセスに関する基礎知識を習得し、定量的な解析および設計を行うための基礎能力を養うとともに、実例を通じてバイオ技術の現状を学習する。特に、食品や医薬品の製造に関連したプロセスを生物化学工学的立場から理解する。

【到達目標】

- 1) 酵素や微生物など生体触媒の特徴について理解する
- 2) 生体触媒の応用について具体例を知る
- 3) 生体触媒を利用する反応の速度論の基礎を理解する
- 4) 生体触媒を利用するための反応器および操作法の基礎を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

酵素や微生物など生体触媒の特徴や応用例、反応速度論、反応器の形式や操作論など、バイオプロセスに関する基礎知識を講述する。毎回の授業の最後に小テスト（クイズ）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論／食品や医薬品の製造に見るバイオプロセス	食品や医薬品の製造に関わるバイオプロセスを紹介する
2	バイオサイエンスの化学的基礎	生体を構成する物質の化学的性質について講述する
3	生体触媒の特性（1）酵素	生体触媒としての酵素の特徴について講述する
4	生体触媒の特性（2）微生物・動植物細胞	生体触媒としての微生物や「動植物細胞の特徴について講述する
5	酵素を利用するバイオプロセス（1）異性化糖の製造を例として	酵素を利用するバイオプロセスの具体例として異性化糖の製造を紹介する
6	酵素を利用するバイオプロセス（2）固定化酵素・非水系における酵素反応	固定化酵素や非水系における酵素反応を利用するバイオプロセスの例を紹介する
7	微生物を利用するバイオプロセス	微生物を利用するバイオプロセスについて、具体例を紹介する
8	酵素反応速度論（1）カエリス-メンテンの式	ミカエリス-メンテンの式を中心として、酵素反応速度論の基礎を講述する
9	酵素反応速度論（2）少し複雑な酵素反応の速度論	二基質反応など、少し複雑な酵素反応系の速度論を講述する
10	酵素反応速度論（3）酵素反応の阻害	酵素反応の阻害について、各種の様式とその速度論を講述する
11	細胞に関連する生化学反応速度	微生物の増殖速度とその影響因子ならに基質と生産物の変化速度の基本的考え方について講述する
12	バイオリアクターの形式と反応操作設計の基礎	酵素反応リアクターの各種形式とその特徴について講述する
13	微生物を利用するバイオリアクターの設計と操作	微生物を利用するリアクターの形式と操作について、特に廃水処理に利用される活性汚泥法を例として、連続培養法の基礎を講述する
14	バイオセンサー	バイオセンサーの原理・特徴とその具体例について講述する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】準備学習は必須ではないが、復習は必ず行うこと。特に、授業時に実施した小テストの内容については十分に理解しておくことが、単位取得のためには必要である。各回の授業内容に応じて、別途課題を与えることがある。

【テキスト（教科書）】

授業時に資料プリントを配布する。配布した資料は授業後に WEB にてダウンロードできるようにする。

【参考書】

新版生物化学工学（海野肇／中西一弘／白神直弘／丹治保典・著）講談社サイエンティフィック
生物反応工学（山根恒夫・著）産業図書

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）と小テスト（20%）を総合して評価する。30 分を超える遅刻をした授業日の小テストの点は評価に加えない。
期末試験を受験するためには 3 分の 2 以上の出席が必要である。3 分の 2 以上の出席が認められない場合は、仮に期末試験を受験しても、不可とする。出席の確認は、カードリーダー（出席管理システム）と小テストへの回答の両方で行う。両方で出席が確認できた場合のみ、出席したものと判定する。

【学生の意見等からの気づき】

小テストに加えて課題を出す、動画を積極的に使用することにより、理解をより深化できるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・交通機関の遅延等で授業の出席が遅れた場合は、交通機関の発行する遅延証明書を授業終了時に必ず提出すること。

・3 分の 2 以上の出席が認められない場合は、仮に期末試験を受験しても、不可とする。

・「学生証を忘れたのでカードリーダーでのチェックができません。」「カートリーダーと小テストの両方での出席確認が必要だということは知りませんでした。」「小テストへの回答だけで大丈夫だと思っていました。」「出席管理システムのチェックだけで大丈夫だと思っていました。」等の言い訳は一切考慮しない。

【Outline and objectives】

The aims of this class are:

(1)To learn the fundamentals of bioprocess for quantitative analys and design of the process.

(2)To understand the current status of biotechnology application for practical production.

(3)To understand the bioprocess in food and pharmaceutical industries from the view point of biochemical engineering

MAC200YB

分析化学

加治 大哉

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命物質や環境物質を正しく評価するために必要な分析化学の基礎を学習する。

【到達目標】

データの取り扱い方、化学平衡、抽出分離など、生命科学研究に用いる分析手法の原理を解説し、将来的に研究を遂行していくために必要な知識の習得を到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

（１）生命科学や環境科学をはじめ、様々な分野の基礎となる分析化学の基礎を学習する。

（２）必要に応じてプリントを配布するとともに、スライドによる講義を行う。

（３）課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方解説
第 2 回	データの取り扱い（１）	誤差について
第 3 回	データの取り扱い（２）	誤差の伝搬、有効数字
第 4 回	平衡（１）	平衡の移動
第 5 回	平衡（２）	活量・デバイヒュッケル則
第 6 回	酸塩基平衡（１）	酸と塩基（１）
第 7 回	酸塩基平衡（２）	酸と塩基（２）
第 8 回	酸塩基平衡（３）	共通イオン効果
第 9 回	溶解度平衡	溶解度積
第 10 回	錯イオン平衡	安定度定数
第 11 回	酸化還元平衡	酸化と還元
第 12 回	電気化学	ネルンストの式
第 13 回	分離・抽出	分配係数
第 14 回	分光法	分光法の基礎・ランベルトベール則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 各回テーマが変わるので、授業後の復習により知識を確実にすることが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

黒田六郎他「分析化学」裳華房

R.A. Day Jr., A.L. Underwood 共著「定量分析化学」培風館

宗林由樹・向井浩「新・物質科学ライブラリ⑦ 基礎分析化学」サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、平常点（20%）、試験では講義ノート、講義で配布したプリントおよび関数電卓のみ持ち込み可。（対面式による期末試験を行わない場合、レポート課題により成績評価を行う。）

【学生の意見等からの気づき】

プリントを必要に応じて配る。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

生命機能学科および応用植物学科 2、3 年および環境応用化学学科を対象とする。

【Outline and objectives】

This class is learned about a basis of analytical chemistry, for understanding about bioscience and applied chemistry.

MAC300YC

物質機能化学

緒方 啓典

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質の持つ様々な物性や機能は、物質の電子状態、結晶構造、凝集状態等と密接に関連している。物質の持つ様々な機能を理解し、新規物質開発等、材料化学の研究を行う際には、それらの機能がどのようなメカニズムで生じているか基礎的な知識が必要とされる。本講義では物質を構成する原子・分子・電子の状態、エネルギーの観点から物質の持つ様々な機能の発現メカニズムと具体的な機能性物質への応用例について学ぶ。本講義は環境応用化学科の「物質創成化学コース」の推奨科目です。本講義の内容を理解するためには、物理化学、有機化学、無機化学等、化学の専門科目を受講しているか、それらの内容に関する基礎知識を持っていることが必要です。

【到達目標】

物質のもつ様々な性質（物性）について理解する。
物質の電子状態について理解する。
物質の構造、電子状態と物性の関係を理解する。
新規機能性物質開発の基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

授業の進め方については、学習支援システムを通して適宜提示します。授業の資料は各自ダウンロードし、印刷したものをみて自習してください。さらに、参考書等を用いて自分で調べたことなど適宜書き込みを行い、自分のノートを作成してください。授業内容について不明な点がありましたら、いつでもメールで質問を受け付けています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス-講義概要	ガイダンスにて講義概要の説明を行う。
2	物質の階層性と機能性-電子-原子-結合-凝縮状態が生み出す機能性	電子-原子-結合-分子間相互作用の観点から、凝縮状態が生み出す機能性について学ぶ。
3	機能性から見た物質-物質の力学的性質-01-	物質の硬度の起源、力学的性質の表記方法、弾性変形と塑性変形について学ぶ。
4	機能性から見た物質-物質の力学的性質-02-	弾性変形および塑性変形の微視的メカニズム、マルテンサイト変態と超弾性等について学ぶ。
5	機能性から見た物質-物質の熱的性質-01-	ミクロから見た熱と温度、固体の熱的性質を支配する因子、固体の熱容量と熱伝導率の微視的機構について学ぶ。
6	機能性から見た物質-物質の熱的性質-02-	固体の熱膨張と融点の関係、低熱膨張合金等、応用例について学ぶ。
7	機能性から見た物質-物質の電気的性質-01-	物質の電気的性質とバンド構造について学ぶ。
8	機能性から見た物質-物質の電気的性質-02-	金属および超伝導体の性質およびメカニズムについて学ぶ。
9	機能性から見た物質-物質の電気的性質-03-	半導体の電子的性質について学ぶ。
10	機能性から見た物質-物質の電気的性質-04-	半導体の応用例について学ぶ。
11	機能性から見た物質-物質の光学的性質-01-	物質のさまざまな光学的特性の現象論について学ぶ。
12	機能性から見た物質-物質の光学的性質-02-	ミクロな観点から見た光学的特性のメカニズムについて学ぶ。
13	機能性から見た物質-物質の磁気的性質-01-	物質のさまざまな光学的特性の現象論について学ぶ。
14	機能性から見た物質-物質の磁気的性質-02-	前回に引き続き、ミクロな観点から見た磁性のメカニズムと磁気的相互作用について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】事前に学習支援システムを通して配布されるプリントおよび下記参考書等を用いて準備学習および復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、項目ごとに資料を配布する。

【参考書】

「物性化学」：松永義夫著 裳華房
「固体の電子状態と化学」：P.A.COX 著（魚崎浩平他訳） 技報堂出版
「分子結晶」：J.D.Wright 著 化学同人
「物性論入門」：石井晃著 共立出版
「現代物性化学の基礎 -化学結合論によるアプローチ-」：小島憲道編 講談社
「化学者のための電気伝導入門」：小林浩一著 裳華房
「実験化学講座第5版 27巻 機能性物質」
「固体有機化学」小林啓二、林直人著 化学同人 等

【成績評価の方法と基準】

授業中に実施する小テストおよび最終試験の結果を元に総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解の度合いを見ながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

講義に必要な資料は全て学習支援システムを利用して配布を行う。

【その他の重要事項】

本講義は環境応用化学科の「物質創成化学コース」の推奨科目となっています。将来、新物質の開発や材料化学に関する研究開発に興味がある学生は履修することをお勧めします。

【Outline and objectives】

This course is designated in the order of firstly studying important fundamental theories for understanding materials. This course offers a description of how the mechanical, thermal, electronic, optical and magnetic properties of materials originate from their electronic and molecular structure and how these properties can be designed for particular applications.

MAC300YC

物質変換化学

奥村 和

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のような物質文明に生きる私たちにとって、化学反応を利用した物質変換技術は必要不可欠な技術である。地球温暖化抑制や資源枯渇対策が急務となっている現代社会にとって、効率的に化学物質を製造する技術こそ、地球環境保全に必要な不可欠な技術といえる。実用化されている化学反応のほとんどは触媒反応が採用されている。触媒には反応速度の加速・減速を通して、目的とする特定の反応のみを効率的に促進させる機能がある。従って触媒技術は人間生活に必要なさまざまな化学物質の効率的な製造技術として重要な位置を占めてきた。一方、環境に悪影響を及ぼす化学物質を分解除去する目的にも大いに用いられている。本講義では、実用化されているものから将来の実用化が期待されているものまで、いくつかの化学工業や環境浄化に用いられる触媒技術を取り上げながら解説し、現在社会における触媒を用いた物質変換技術の重要性やその内容を学生が理解する。

【到達目標】

触媒を用いた反応プロセスを例に挙げ、触媒の性能（活性、選択性）や反応機構に関する知識や考え方を学生が習得する。触媒の定義、種類、理論、役割、評価法など触媒に関する基礎的な知識や考え方を学生が習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業計画に従い、教室における講義を主体として進行する。授業時間内にレポート等の課題をを求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたレポートからいくつかの解答例を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	触媒の種類と歴史	触媒の分類および歴史に関する解説
2	不均一系触媒の概要と解説	アンモニア合成を例にした不均一系触媒の概要と特徴に関する解説
3	触媒反応の方法	触媒反応の方法と触媒活性の評価方法に関する解説
4	吸着 1	吸着のメカニズム、物理吸着と化学吸着の違いと特徴に関する解説
5	吸着 2	吸着等温式、吸着熱、比表面積の計算に関する解説
6	反応速度	速度定数、反応次数、活性化エネルギーなどの求め方に関する解説
7	触媒調製	触媒の調製方法に関する解説
8	キャラクターゼーション技術	触媒の組成や構造などを決定する方法に関する解説
9	石油精製	原油から化学品にいたる石油の分離および反応プロセスに関する解説
10	接触分解と脱硫	石油の接触分解と脱硫における反応、触媒、機構に関する解説
11	金属触媒	金属触媒の特徴と触媒作用に関する解説
12	酸化物触媒	酸化物触媒の活性、生成熱と触媒活性に関する解説
13	環境触媒	自動車排ガス浄化触媒の種類と触媒作用に関する解説
14	均一系触媒反応	均一系触媒の代表例と反応メカニズムに関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生が参考書や講義ノートを利用した予習・復習をおこなう。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『新しい触媒化学＜新版＞』、菊地英一ら著、三共出版、2,940 円

【参考書】

『触媒化学（化学マスター講座）』、江口浩一ら著、丸善出版、3,672 円
『触媒化学 ―基礎から応用まで―』（エキスパート応用化学テキストシリーズ）田中庸裕ら著、講談社、3,240 円

【成績評価の方法と基準】

試験の結果（70 %）を主とし、これに平常点（30 %）を加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容の理解を深めるための復習の機会を充実する。

【Outline and objectives】

For us living in substance civilization like present, material conversion technology using chemical reaction is indispensable technology. For modern society in which global warming prevention and resource depletion countermeasures are an urgent task, technologies for efficiently manufacturing chemical substances are indispensable technologies for protecting the global environment. Most of the chemical reactions that have been put to practical use are catalytic reactions. The catalyst has a function of efficiently promoting only a specific reaction of interest through acceleration / deceleration of the reaction rate. Therefore, catalyst technology has occupied an important position as an efficient manufacturing technology of various chemical substances necessary for human life. On the other hand, it is also used for the purpose of decomposing and removing chemical substances which adversely affect the environment. In this lecture, we will explain from practical use to what is expected to be put to practical use in the future, taking up some chemical industry and catalyst technology used for environmental purification, Understand the importance of conversion technology and its contents.

MAC300YC

物質循環化学

明石 孝也

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球上においては様々な物質が変質を起しながら循環をしている。本授業では、主に鉱物資源循環の観点から、物質循環学を学ぶ。本授業で得られる知識が、環境に配慮した循環型社会の理解や構築に役立つことを望む。

【到達目標】

無機工業化学と化学工学を軸に、地球上における鉱物資源の物質循環を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

教科書を中心として、板書とスライドを用いた講義を行う。基本的に毎回の授業中に演習を行い、授業内容の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論（地球と人類、経済）、放射性炭素年代測定法	地球と人類との関わりについて講義する。環境経済学に関しても触れる。また、放射性炭素年代測定法を理解する。
2	地球の放射年代測定（アイソクロン法）	地球の年代測定のためのアイソクロン法を学ぶ。
3	固体地球の構成	固体地球の構成とともに、どのようにしてその構成を明らかにしたかを紹介する。
4	鉱物の構造 (1)	鉱物の種類と鉱物結晶の対称性について学ぶ。
5	鉱物の構造 (2)	鉱物の結晶構造について学ぶ。
6	火成岩	火成岩とその生成機構について学ぶ。
7	変成岩	変成岩とその生成機構について学ぶ。
8	堆積岩	堆積岩とその生成機構について学ぶ。
9	地球の変動	地球の変動、主にプレートテクトニクスについて学ぶ。
10	地球の誕生と進化	地球の誕生と進化について学ぶ。
11	生命の誕生と進化	生命の誕生と進化および大量絶滅事変について学ぶ。
12	鉱物・エネルギー資源	地球における鉱物・エネルギー資源の生成過程について学ぶ。
13	流体シミュレーション（1次元）の基礎	1次元の流体シミュレーションを行う。
14	流体シミュレーション（2次元）への導入	2次元の流体シミュレーションの導入を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

前回までの講義内容を復習して、理解を深めておくこと。また、授業の進捗状況に合わせて、次の演習で出題される範囲を予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

「地球・環境・資源—地球と人類の共生をめざして— 第 2 版」

内田 悦生・高木 秀雄編 高木 秀雄・山崎 淳司・円城寺 守・小笠原 義秀・太田 亨・守屋 和佳・内田 悦生・大河内 博・香村 一夫著、ISBN:978-4-320-04734-1

【参考書】

現代地球科学入門シリーズ 9 巻「地球のテクトニクス I 堆積学・変動地形学」共立出版

現代地球科学入門シリーズ 11 巻「結晶学・鉱物学」共立出版

現代地球科学入門シリーズ 12 巻「地球化学」共立出版

現代地球科学入門シリーズ 15 巻「地球と生命—地球環境と生物圏進化—」共立出版

現代地球科学入門シリーズ 16 巻「岩石学」共立出版

【成績評価の方法と基準】

試験、演習問題、授業へ取り組み姿勢により、総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

オンラインテスト実施時のネットワークトラブルが何件か生じた。2021 年度もオンラインテストを実施することになった場合には、2020 年度の経験を活かしたい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【その他の重要事項】

無機工業化学と化学工学を軸にした物質循環化学の講義を行っている。また、鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、その経験を活かして、資源や化学工学の観点からの講義も行う。

【Outline and objectives】

During various materials are circulating on the earth, the character of the materials, such as shape, microstructure, phases, and crystal structure, are changing. This class mainly focuses on the circulation of mineral resources on the earth. The knowledge will help us to understand and create recycling-oriented and sustainable society,

APC300YA

バイオマテリアル

湯田坂 雅子

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイオマテリアルは材料科学と生物学の融合領域を扱うため、材料と細胞あるいは組織との相互作用を理解することが重要である。この授業では、バイオマテリアルの化学・物理、バイオマテリアルに対する生体応答、さらに実用化の現状に関して広く学ぶことによりバイオマテリアル研究開発に役立つ知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

バイオマテリアルサイエンスでは、人工心臓などのようなマクロサイズなものから、薬剤送達システムといったミクロサイズのものまでを対象として研究・開発が進められている。そこで使われている材料は、金属などの無機物、高分子などの有機物、細胞など多種類に及んでいる。本授業では、こうした現状を理解すること、バイオマテリアルに関する基礎知識を獲得すること、それにより医療の発展に貢献できる能力を獲得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義は主にパワーポイントを使って行い、内容は教科書に沿って進める。リアクションペーパーあるいは課題解答を提出してもらい、それらのフィードバックを次回授業または学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、生体の仕組み	バイオマテリアルサイエンスの概観：分子から細胞、組織、臓器まで。
第 2 回	バイオマテリアル	金属・セラミックス・炭素材料（物理化学的基礎、生体応用に適した特徴）
第 3 回	バイオマテリアル	高分子材料（合成と構造、生体応用に適した高分子）
第 4 回	生体由来バイオマテリアル	細胞外マトリックス、機能性タンパク質からみた細胞と組織の機能
第 5 回	バイオマテリアルの性質	バイオマテリアルの物理的特性（力学、熱、表面）と生体応答
第 6 回	バイオマテリアル形状	バイオマテリアルの成型加工や微粒子作製と生体適合性。
第 7 回	生体応答	生体適合性、炎症反応、免疫応答。
第 8 回	医療機器	人工臓器、医療機器と材料
第 9 回	ドラッグデリバリーシステム	薬物送達システム（DDS）の必要性、DDS 作製、体内動態、薬剤徐放、ターゲティング
第 10 回	再生医療	再生医療の現状
第 11 回	免疫系	免疫細胞の種類と役割。（参考書「図解 免疫学入門」）
第 12 回	バイオマテリアルに必要な解析技術	生物学的解析技術
第 13 回	診断とバイオマテリアル	生化学検査とイメージング
第 14 回	診断とバイオマテリアル	生化学検査とイメージング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】バイオマテリアルと生体の相互作用では免疫応答がカギとなるので「図解 免疫学入門」にも目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

「バイオマテリアルサイエンス 基礎から臨床まで 第 2 版」東京化学同人（山岡哲二、他）、2018 年、価格 2600 円＋税）をテキストとして使用し、このテキストにそって授業を行う。

【参考書】

「図解 免疫学入門」東京化学同人（David Male 著、山本和夫訳）、2018 年、価格 2300 円＋税

【成績評価の方法と基準】

主に記述式の試験によって成績評価する。中間試験と期末試験をそれぞれ 1 回行う。点数配分は、試験（80%）、平常点（20%）の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

授業はテキストに沿って行うが、免疫系については適宜解説を追加する。

【学生が準備すべき機器他】

講義に関連した補助プリントがある場合には、授業支援システムを通じて事

前あるいは事後に配布する。

【Outline and objectives】

Since bio-material deals with the interdisciplinary area of material science and biology, it is important to understand the interaction between materials and cells or tissues. In this class, students will learn chemistry and physics of bio-materials, response of biological systems to the bio-materials, and recent advances of bio-materials application to medical science. The knowledge obtained from these learning will be useful to develop the research and application of new bio-materials.

MAC300YB

分子エレクトロニクス

照井 通文

開講時期：春学期集中/Intensive(Spring)
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学
生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
分子エレクトロニクスデバイスの基礎：
有機物質の基礎概念、有機機能物質の概観を把握し、具体的なデバイス例に
もとづき、構造化技術、有機ナノデバイスの基礎と応用を理解する。
【到達目標】
分子エレクトロニクスデバイス実装例から、「材料としての機能性分子開発」
と「デバイスとしての機能発現」、そして「デバイスを実現するための技術開
発」を総合的に把握し、関連する物理、化学を理解することを目標とする。具
体的には量子力学、電磁気学、固体電子論等の基礎を復習するとともに分子
エレクトロニクスという実応用例においてどのような意味があるのかを理解
する。大学での基礎物理を履修済みであることが望ましい。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
有機物質の多様な物性を理解し、機能物質としての応用、有機分子デバイ
スの開発の背景、特に有機分子エレクトロニクスの例を講述する。
分子エレクトロニクスに関連する分野（物理、化学、光学、ナノテクノロジー
等）の理解のために適宜演習を行なう。また最近のホットトピックスも交えて
講述する。
課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No
【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	教師自己紹介、授業の到達目標および テーマ、キーワード、授業についての 注意。
2	有機デバイスの歴史と概 観	導電性有機分子の発見から現在の有機 エレクトロニクス機器までの有機機能 材料と研究開発の歴史と概観。
3	有機機能物質の構造と性 質	物質（分子）の構造と機能の関係。
4	ナノテクノロジー I	ナノテクノロジー概観。
5	ナノテクノロジー II	分子エレクトロニクスとナノテクノロ ジー。
6	分子観測、計測	走査型探針顕微鏡。
7	ナノ構造作製	分子設計、自己組織化、薄膜作製、ナ ノ加工技術。
8	単一電子トンネリングデ バイス (SET) I	単分子エレクトロニクス概観。クーロ ンブロッケイド。ナノ電極作製。金属 ナノ粒子。
9	SET II	スイッチング素子、フォトクロミック 分子。
10	SET III	ワイヤー分子、励起状態とトンネリ ング。
11	光デバイス I	光物性、液晶、偏光。
11	光デバイス II	電気光学効果とデバイス開発。光変調 器。
12	ナノバイオデバイス	新規デバイスアーキテクチャ、バイオ 分子。
14	試験	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業後の
復習だけでなく、これまでに履修している科目の復習をしておくことが重要。
これまでの物理、化学等の復習。特に量子力学、電磁気学、固体物理等の入
門書などに目を通しておく。
【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に定めない。
【参考書】
量子力学、電磁気学に関するもの。基礎部分の理解が求められるので、流通し
ているものであれば良い。その他については必要があれば講義中に紹介する。
【成績評価の方法と基準】
試験により評価する。講義中に例題、演習を適宜行う。試験はそれに準じた
内容とする。演習そのものは評価に加味せず、試験 100%の配分とする。詳
細は導入ガイダンスにおいて説明する。

【学生の意見等からの気づき】
理解を深めるために演習の時間を設ける。書き取りの時間を適切にする。
【学生が準備すべき機器他】
講義形式で授業を進める。プレゼンテーションツール（パワーポイント等）を
使用する。
【その他の重要事項】
授業中の質問は随時可能。質問はメールでも受け付ける。授業中の私語は厳
禁であるが、演習等においては周りの受講生と議論することを許している。
【Outline and objectives】
Molecular Electronics Device:
Basic concept of an organic molecule, Overview of Organic functional
materials,
device fabrication techniques, application of an organic nano-device.

BLS300YB

蛋白工学

常重 アントニオ

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to give students a succinct, yet solid knowledge of proteins, and the many techniques to alter and produce them, with special emphasis on the design of structures with . Starting from a presentation of their basic physicochemical properties. The course will emphasize on the various techniques applied, ranging from chemical modification in already known proteins to the design and creation of new protein motifs.

【到達目標】

The enrolled student will learn first the basic physico-chemical properties and functions of proteins, including those of amino acids and peptides. Later, the student will learn the different goals of protein engineering and its basic techniques and applications.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

Classes will be conducted in the form of lectures. Handouts will be available through the Hoppii system. Therefore, in most cases, bringing a personal computer to classes is greatly advised.

As assessment of learning, homework will be assigned periodically. Solution and commentaries of solutions as feedback will be explained in the following session.

Submission of reports will be done electronically. Active participation of students is encouraged.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction.	Proteins. Scope of this course.
2	Structure of proteins (I).	From amino acids, to peptides, proteins, and protein macro-complexes.
2	Structure of proteins (II).	Physicochemical properties of proteins. Stabilization forces of protein structures.
4	Structural analysis of proteins. Chemical modifications of proteins.	Learning from nature. Use of databases. Visualization of protein structures. Use of chemical labels.
5	The core of this course.	How to design and create proteins from scratch. Stabilization forces for protein constructs.
6	Recombinant proteins.	From point mutations to "brand-new" proteins.
7	<i>De novo</i> Design of Proteins (I).	Helical wheel and the creation of the first synthetic protein.
8	<i>De novo</i> Design of Proteins (II).	Protein production without an organism. Chemical basis for protein synthesis.
9	<i>De novo</i> Design of Proteins (III).	The Merrifield method of protein synthesis.
10	Protein Denaturation.	The thermodynamics of denaturation.
11	Protein Refolding.	The still unsolved problem of protein refolding.
12	Monoclonal Antibodies.	Basic immunology. How this technique lead to a Nobel Prize.
13	Proteins in Bio-Medicine.	Introduction of engineered proteins with applications in Medicine.
14	The Future of Protein Engineering	Beyond the helix bundle motif.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

Prior classes, handouts and references will be distributed through the system Hoppii. The enrolled student is encouraged to read the provided material before classes.

【テキスト（教科書）】

The textbook shown below can be used as a textbook, although this does not cover all the topics presented in class.

改訂「酵素－科学と工学」虎屋哲夫等，講談社 （2012）

【参考書】

Handouts and references will be available in digital form from the system Hoppii.

【成績評価の方法と基準】

Final exam (or equivalent): 50%; assignments and reports: 25%; active participation in class: 25%.

【学生の意見等からの気づき】

Due to the current COVID-19 pandemic, this course has been implemented for real-time online delivery, that allows attendance of students from overseas locations. Should conditions permit, in addition to the online format, in-person classes can be implemented.

The syllabus for the current year has been updated to focus on selected points that required more emphasis.

【学生が準備すべき機器他】

Personal computer to access the Hoppii systems. All references will be made available in digital format.

【Outline and objectives】

This course is designed to give students a succinct, yet solid knowledge of proteins, and the many techniques to alter and produce them, with special emphasis on the design of structures with . Starting from a presentation of their basic physicochemical properties. The course will emphasize on the various techniques applied, ranging from chemical modification in already known proteins to the design and creation of new protein motifs.

APC300YA

生物有機化学

芝 清隆

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物を、その構成材料である生体高分子や、生体高分子の働きを通して、化学的な視点から理解する能力を身につける。生化学、分子生物学、遺伝子工学の基本となる学問分野で、また、生物を物質の進化という時間軸で考える学問でもある。具体的には、タンパク質、脂質、糖などの細胞を作る物質、遺伝情報伝達の仕組み、生体膜、代謝や酵素反応などの理解を深める。

【到達目標】

細胞がどのような有機化合物で構成されており、それがどのように合成され、またどのように生命情報を生み出すかを理解する。特に、生命の進化との関係を理解し、無機物と有機物との違いを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

教科書に沿った授業をおこなうが、該当する教科書の章はあらかじめ予習していることを前提として進める。教科書とは違って視点での説明をおこなう、関連したトピックを紹介するなどの、理解を深めるための工夫をした授業内容を予定している。授業の初めに、前回の授業で提出された質問票からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	細胞から構成される生命 (1)	教科書の第 1 章相当部分。 生物の構成単位としての細胞を、生命の起源と進化とのからみで学んでいく。
2	細胞から構成される生命 (2)	教科書の第 1 章相当部分。 細胞の内部構造をその機能、構成物質と共に学んでいく。
3	細胞を構成する化学化合物 (1)	教科書の第 2 章相当部分。 細胞を構成する分子の分類と構造・特徴を学んでいく。
4	細胞を構成する化学化合物 (2)	教科書の第 2 章相当部分。 細胞を構成する分子の合成を、天然・人工の両面から学んでいく。
5	生命情報とは何か (1)	教科書の第 3 章相当部分。 DNA から、RNA、タンパク質へと いった遺伝情報の流れを学んでいく。
6	生命情報とは何か (2)	教科書の第 3 章相当部分。 「遺伝情報」と「生命情報」を進化の観点から考えていく。
7	生体膜構造	教科書の第 4 章相当部分。 細胞としての単位を区切る、生体膜の構造と構成分子を学ぶ。
8	コンパートメントを形成する生体膜	教科書の第 4 章相当部分。 遺伝情報の成立と生体膜による細胞単位の区切りについて学ぶ。
9	細胞小胞と生命情報	教科書の第 4 章相当部分。 細胞の内部や外部に存在する膜構造物と生物情報との関係について学ぶ。
10	細胞とエネルギー	教科書の第 5 章相当部分。 細胞、あるいは生物のエネルギーの収支について学ぶ。
11	酵素と化学反応	教科書の第 6 章相当部分。 生物活動と酵素反応との関係を学んでいく。
12	いろいろな実験法 (1)	教科書の第 7 章相当部分。 生化学、分子生物学のいろいろな実験法のオーバービュー。
13	いろいろな実験法 (2)	教科書の第 7 章相当部分。 医療の診断、治療の現場で生物有機化学の知識がどのように使われているかをオーバービューする。
14	まとめと試験	これまでの授業のおさらいと、まとめ。 理解度の確認の試験を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】受講者はあらかじめ、教科書の相当する章を、十分に予習していることを前提に授業をおこなう。

【テキスト（教科書）】

入門 生化学（裳華房）著者 佐藤健
プリント版：2,640 円
電子版：2,508 円
(2021 調べ)

【参考書】

細胞の分子生物学（ニュートンプレス）（翻訳版）
遺伝子の分子生物学（東京電機大学出版局）（翻訳版）
ただし、いずれも高価なものであるため特に買わなくてもよい。図書室などで必要部分を読めばよい。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70 %、期末テスト 30 %を予定しているが、授業開始日での授業形態（オンライン等）により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容は、履修者の理解度を確認しながら、基礎的な内容を取り入れるなど柔軟に対応する。

【Outline and objectives】

Biochemistry enhances the molecular-based understanding of biological systems and phenomena. Knowledges of biochemistry is necessary to understand the recent advanced-biological science. Aims of this lecture is to gain knowledges of bio-molecules such as proteins, lipids, sugars, and genetic transcription, bio membrane, metabolism, and enzyme reaction.

AGC300YA

食品科学

三浦 豊

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が生きていくうえで不可欠である食品について、化学的・生物学的側面から学習することで、生命にとって食品とは如何なるものであるかを理解する。また講義で得られた知識をもとに学生諸君の食生活を見直し、健康な生活を送るための指針とすることを目標とする。さらに食品を取り巻く法的、社会的、産業的な動向についても理解を深めることを目標とする。

【到達目標】

日常摂取している食品がどのような成分から構成されており、我々の健康維持とどのように関わっているか、という点に関して理解し、考える機会を持てるようになることが目標である。具体的には、我々は何のために食品を摂取するのか、食品はどのような成分から構成されているのか、食品成分はどのような化学的性質を有しているのか、食品成分が生体にどのような影響を及ぼすのか、を理解し、食品と生体とのかかわりを総合的に理解することも目標とする。また最終的には講義で学習した内容を日々の食生活に生かしていけるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義の前半では食品に含まれる成分について、その分類、化学構造、生物機能を順次学習する。食品中には栄養素と非栄養素が含まれているため、5大栄養素と非栄養素について順次解説を行う。中間テストを挟み、講義後半では、食品と健康との関わりについて学習する。具体的には食品と病気（メタボリックシンドローム、糖尿病、癌）との関連を学習する。講義は配布するプリントに基づき実施する。課題等の提出やそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。さらに最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説を行い、最終試験に向けた学習の指針も解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を解説し、食品と生命の関わりについてオーバービューすると同時に最新のトピックスを紹介する。
第2回	食品成分の化学1	食品成分中の糖質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第3回	食品成分の化学2	食品成分中のアミノ酸、ペプチド、タンパク質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第4回	食品成分の化学3	食品成分中の脂質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第5回	食品成分の化学4	食品成分中のミネラルと水溶性ビタミンについて化学的な側面と生物機能を講義する。
第6回	食品成分の化学5	食品成分中の脂溶性ビタミンと非栄養素について化学的な側面と生物機能を講義する。
第7回	食品成分の生物学1	食品成分の消化・吸収について講義する。
第8回	食品成分の生物学2	食品成分の代謝とその調節機構について講義する。
第9回	中間テスト	前半の講義内容に関して中間テストを行う。
第10回	食情報について	食品と健康の関係を食品が含有する食情報という観点から講義する。
第11回	食品とメタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームと食品の関わりについて講義する。
第12回	食品と糖尿病	糖尿病と食品の関わりについて講義する。
第13回	食品と癌	癌と食品の関わりを講義する。
第14回	これからの食品科学	個人の体質に合った食習慣や食品を利用した先制医療など食品科学の将来を論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に予習を行う必要はないが、講義で学習したことの復習を行い、質問等があれば、翌週の講義時に聞くこと。また食品という日常生活に関連するものを対象とする講義であるため、毎日の食生活に学習した内容をフィードバックすることを常に意識してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントを用いて行うが、スライドを印刷したプリントを毎回配布する。

【参考書】

「食品の科学」上野川修一、田之倉優編、東京化学同人
「健康栄養学」－健康科学としての栄養生理化学－小田裕昭、加藤久典、関泰一郎編、共立出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（10％）、中間テスト（30％）、期末テスト（60％）とする。中間テスト、期末テストともに講義内容の理解度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が多岐にわたり、情報量が多くなる傾向があるため、大事な箇所には時間を十分に掛けるなど、講義のメリハリをよりはっきりとつけるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

目標にも記載しましたが、食品は毎日摂取する身近なものであると同時に皆の生命を支える根幹です。講義内容をよく理解し、自らの食生活を見直すきっかけとなることを期待します。

【Outline and objectives】

Food is well known to be important for our life. In this lecture, the chemical and biological properties of foods are lectured. From this lecture, students will be able to get some knowledge for living better and healthy. The legal, social and industrial aspects of food development and food industry will be also lectured.

BLS300YA

遺伝子工学

佐藤 勉

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物を応用する技術である遺伝子工学は、医療、福祉、食糧生産などの発展に大きく貢献している。生命分野を目指す学生にとって、これらの技術の理解は欠かせない。遺伝子操作技術の基礎はもちろん、最新の技術まで理解し、応用する能力を養う。

【到達目標】

本講義は、分子生物学を基軸とする基礎から最先端までの遺伝子工学の幅広い理解を目指す。また、この講義で学んだ知識を日々の研究活動で実践するに至るまで深化させることを最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

遺伝子工学の基礎となる分子生物学が十分に理解されていることを前提に講義を行う。従って、分子生物学または関連する講義を既に履修していることが望ましい。プリントを配布し、パワーポイントを用いて説明する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論	授業の進め方・概要
第2回	歴史	遺伝子工学発展の歴史
第3回	DNA 取扱いの基本	制限酵素・リガーゼ・電気泳動
第4回	プラスミド	プラスミドの構造
第5回	遺伝子のクローニング I	様々なプラスミドベクター
第6回	遺伝子のクローニング II	ファージベクター・真核生物へのクローニング
第7回	DNA の増幅と塩基配列決定法	発明と改良の歴史・原理・最新技術
第8回	中間試験	前半の学習内容の試験
第9回	核酸の検出法 I	核酸の標識
第10回	核酸の検出法 II	各種ハイブリダイゼーション
第11回	遺伝子のクローニング III	ライブラリーを用いたクローニング
第12回	タンパク質の生産	発現ベクターとタンパク質の精製方法
第13回	微生物・植物遺伝子工学	微生物・植物への応用
第14回	医療と遺伝子工学	医療への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 テーマ・内容のキーワードをもとに予め概要を理解して授業に臨むこと。体系的に講義を進めるため、復習は大事である。遺伝子工学の本質を理解し、論理性を高める自己教育を期待する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。

【参考書】

授業の進行に沿い、また学生個人個人の知識水準、知的欲求に応じた参考書を紹介する。

バイオ実験の原理（羊土社）

遺伝子工学（講談社）

遺伝子工学の原理（三共出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、中間 (30%) 及び期末 (40%) 試験の結果を成績として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生のノートを取るスピードに配慮して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを用いて講義を行う。

【Outline and objectives】

Genetic engineering is the technology which manipulates DNA molecule purposefully be altered. The overall goal of this lecture is to make students understand the basic and latest techniques of gene recombination.

BLS300YB

生体超分子

曾和 義幸

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

酵素反応・エネルギー変換・情報伝達などの多くの機能を内包している生体分子モーターに着目し、生体内で機能するタンパク質複合体について学ぶ。また、生体分子モーターの研究とともに発展してきた1分子計測技術の基本を学ぶ。

【到達目標】

細胞内における分子の動きに注目し、その動きを捉えるために必要な知識を得る。近年発展している生物学とナノテクノロジーの融合分野について知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面・オンラインともに板書とスライドを併用した講義とする。講義内では演習問題を解いてもらうことで、定量的に生命現象を理解することを目指す。レポート・演習のあとの解説でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の概要	講義の進め方を説明する。生体超分子について概説する。
2	生体を構成する分子の特徴とスケール	生物にみられる階層性とそのスケールについて概説する。
3	生体分子モーターの基本	生体分子モーターの種類・エネルギー源・構造などの基本情報を概説する。
4	細胞内における分子のブラウン運動 (1)	分子の動きについて流体力学的観点から概説する。
5	細胞内における分子のブラウン運動 (2)	分子の動きについて理解するために、1次元ランダムウォークを導入する。
6	細胞内における分子のブラウン運動 (3)	演習をおこなう。表計算ソフトを利用して、1次元ランダムウォークを発生させる。その計算結果を検討し、分子運動への理解を深める。
7	細胞内における分子のブラウン運動 (4)	細胞内でランダムウォークする分子の具体例をあげて、その動きを計算する。
8	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする。
9	生体分子モーターの計測手法	生体分子モーターの動きを計測する手法について概説する。
10	蛍光観察法	蛍光観察法の利点・生物学への応用例について解説する。
11	分子イメージング	1分子の蛍光分子を見る手法について解説する。超解像顕微鏡について概説する。
12	分子操作・ナノ計測	分子を操作する技術、分子の動きをナノメートルの精度で計測する技術の解説をおこなう。
13	生体分子モーターの研究	生体分子モーターの機能解析の歴史について概説する。

14 総括

講義全体を通じて、理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本講義では、物理的な視点で生体分子の動きをとらえるために、簡単な計算を演習問題として紹介する。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるをえない場合があるので、各講義の終了後に各自で計算をおこなう。また、各講義で取り扱うトピックに関連して紹介した論文を読む。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では視覚的教材やプリントを利用する。

【参考書】

大沢文夫「講座：生物物理学」丸善
石渡信一編「生体分子モーターの仕組み」共立出版
など

【成績評価の方法と基準】

中間試験 (40%)・期末試験 (60%) の合計点数によって評価する。ただし、オンライン授業になった場合は、適宜課す予定のレポート・演習で評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

講義でおこなう演習の例数を増やし、できる限り丁寧に紹介したい。また、PCを使った演習も引き続きおこなう。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を用いることがある。

【その他の重要事項】

元学術調査官（文科省）で科研費・新学術領域を担当した経験から、生物学と物理学の異分野融合に重点をおいた講義をおこなう。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of single molecule biology.

MAC100YC

基礎有機化学 I**河内 敦**

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎有機化学 I および II を通して有機化学の基本事項について学ぶ。

【到達目標】

- (1) 有機化合物の分類と性質について理解する。
- (2) 有機化合物の構造、反応および合成について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

黒板への板書およびパワーポイントによる説明を中心に、適宜、補助プリントの配布をおこなう。状況に応じて、オンライン、動画配信なども活用する。課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。理解度に応じて授業内でも補足説明をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	有機化学の歴史
第 2 回	化学結合と分子の成り立ち	電子配置、共有結合、ルイス構造式
第 3 回	有機化合物における官能基	官能基、命名法の基本
第 4 回	分子のかたちと混成軌道	分子のかたち、混成軌道、異性体
第 5 回	立体配座と分子のひずみ	立体配座と分子のひずみ
第 6 回	立体化学	キラリティー、立体異性体
第 7 回	これまでのまとめと理解度確認	1 回から 6 回までのまとめ
第 8 回	共役と共鳴	π 結合と共役、共鳴法、ベンゼンの構造
第 9 回	酸と塩基	酸と塩基の定義、酸性度、塩基性度
第 10 回	有機化学反応	反応の種類、反応機構の表し方
第 11 回	ハロアルカンの求核置換反応（1）	SN1 反応、SN2 反応
第 12 回	ハロアルカンの求核置換反応（2）	SN1 反応、SN2 反応
第 13 回	ハロアルカンの求核置換反応（3）	SN1 反応、SN2 反応
第 14 回	これまでのまとめと理解度確認	8 回から 13 回までのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
教科書、板書ノート、配布プリントを復習する。

【テキスト（教科書）】

・奥山格・石井昭彦・箕浦真生著「有機化学 改訂 2 版」丸善出版

【参考書】

サブテキストとして：

・赤染元浩、河内敦、松本祥治、三野孝著「スパイラル有機化学」筑波出版会

【成績評価の方法と基準】

授業への出席および課題への取り組みは単位取得の前提条件である。出席率および課題提出率が 6 割に満たない場合は成績評価の対象としない。

成績評価の目安は以下の通り。状況に応じて適宜変更する。

中間テスト (40%) + 期末試験 (40%) + 課題・小テスト (20%)

【学生の意見等からの気づき】

基本事項を理解させることに努める。

【Outline and objectives】

Learning basis of organic chemistry

MAC100YC

基礎有機化学 I I

河内 敦

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎有機化学 I および II を通して有機化学の基本事項について学ぶ。

【到達目標】

- (1) 有機化合物の分類と性質について理解する。
- (2) 有機化合物の構造、反応および合成について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

黒板への板書およびパワーポイントによる説明を中心に、適宜、補助プリントの配布をおこなう。状況に応じて、オンライン、動画配信なども活用する。課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。理解度に応じて授業内でも補足説明をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ハロアルカンの脱離反応 (1)	E1 反応, E2 反応 (1)
第 2 回	ハロアルカンの脱離反応 (2)	E1 反応, E2 反応 (2)
第 3 回	アルケンとアルキンへの付加反応 (1)	アルケン, アルキンへの求電子付加反応,
第 4 回	アルケンとアルキンへの付加反応 (2)	エポキシ化, オゾン分解, ジヒドロキシ化
第 5 回	アルコール, エーテル	アルコールとエーテルの酸触媒反応, アルコールの酸化
第 6 回	芳香族求電子置換反応 (1)	求電子置換反応, 置換ベンゼンの反応性と位置選択性
第 7 回	芳香族求電子置換反応 (2)	フェノール, アニリン, 置換ベンゼンの合成
第 8 回	これまでのまとめと確認：中間テスト	1 回から 7 回までのまとめと確認
第 9 回	カルボニル基への求核付加反応	シアノヒドリンの生成, 水の付加, アルコールの付加
第 10 回	カルボン酸誘導体の求核置換反応	エステル反応, カルボン酸誘導体の変換
第 11 回	カルボニル化合物のヒドリド還元と Grignard 反応	ヒドリド還元, Grignard 反応
第 12 回	エノラートイオンとその反応 (1)	エノール化, ハロゲン化
第 13 回	エノラートイオンとその反応 (2)	クライゼン縮合, エノラートイオンのアルキル化
第 14 回	これまでのまとめと確認	8 回から 12 回までのまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
テキスト・講義ノート・配付資料をもとに必ず復習する。反応機構は、一つ一つのステップを確認しながら、必ず紙に書いて（自分で手を動かして）理解する。

【テキスト（教科書）】

・奥山格・石井昭彦・箕浦真生著「有機化学 改訂 2 版」丸善出版

【参考書】

サブテキストとして：

・赤染元浩, 河内敦, 松本祥治, 三野孝著「スパイラル有機化学」筑波出版会

【成績評価の方法と基準】

授業への出席および課題への取り組みは単位取得の前提条件である。出席率および課題提出率が 6 割に満たない場合は成績評価の対象としない。
成績評価の目安は以下の通り。状況に応じて適宜変更する。
中間テスト (40%) + 期末試験 (40%) + 課題・小テスト (20%)

【学生の意見等からの気づき】

基本事項の理解に努める。

【Outline and objectives】

Learning basis of organic chemistry

APC200YC

応用環境化学

渡邊 雄二郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題で、汚染物質（化学物質）が環境中に放出された場合の汚染物質の挙動、正確な分析法や処理法について学ぶ。また汚染状況を事前に推定するために必要な汚染物質の定量的な取り扱いと、問題解決のためのモデルの立て方について学ぶ。

【到達目標】

環境中での汚染物質の挙動を理解できる。
汚染物質の正確な分析法と処理法を理解できる。
汚染物質の定量的な取り扱いができる。
環境問題解決のためのモデルの立て方とその解析法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、毎時間アクティブラーニング（演習または発表）を実施する。小テストは2回実施し、レポートも2回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。授業中におこなう演習について、学習支援システム等を利用してフィードバックすると共に教員が学生に問いかけをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	序論	授業の概要、進め方について説明する。
2 回	汚染物質の水環境中での挙動	汚染物質の水環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。
3 回	汚染物質の大気環境中での挙動	汚染物質の大気環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。
4 回	汚染物質の土壌環境中での挙動	汚染物質の土壌環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。（アクティブラーニング（演習））
5 回	大気、水、土壌のサンプリング	大気、水、土壌のサンプリング手法について説明する。（アクティブラーニング（演習））
6 回	水質分析①	BOD、COD、DO 等の水質分析法について化学式を用いて説明する。
7 回	水質分析②、大気分析、土壌分析	湖沼等の富栄養化の主因である窒素、リンの水質分析法、大気、土壌の分析法について化学式を用いて説明する。（アクティブラーニング（演習））
8 回	水質汚染物質の基本的処理法①	凝集沈殿、ろ過、イオン交換について説明する。
9 回	水質汚染物質の基本的処理法②	吸着、触媒、酸化還元、抽出について説明する。（アクティブラーニング（演習：エクセルを用いた吸着等温式の作成））
10 回	水質汚染物質の基本的処理法③	電解、蒸発、晶析、脱水（汚泥処理）について説明する。
11 回	水質データの処理法	ヘキサダイアグラム等水質データの処理方法について学ぶ。（演習：エクセルを用いたヘキサダイアグラムの作成）
12 回	排水モデル	都市や工場から排出された汚染物質の処理効率と河川・湖の汚染状況を解析する。
13 回	地球環境モデル	地球を大気、水、生物、土壌相を含む地球環境モデルを想定し、それら環境中での汚染物質の濃度を、各種条件下で解析する。（アクティブラーニング（演習））
14 回	まとめ	本授業を振り返りまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】化学反応速度、吸着、物質移動係数などの化学的基礎を学習しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない。資料がある場合、適宜配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

講義記録（10%）、レポート（20%）、小テスト（20%）、定期試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Environmental chemistry is the study of chemical and biochemical phenomena that occur in natural places. Applied environmental chemistry is the study of how chemistry is applied to measuring, estimating and predicting chemical phenomena in air, soil, and water environments. This course covers basic applied environmental chemistry, through the study of, behaviors of pollutants, quantitative analytical methods of pollutants and environment evaluation models.

BLS100YB

分子生物学 I

佐藤 勉

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の情報はゲノムに組み込まれている。全ての生物は、遺伝情報を利用してタンパク質を合成し、生命活動を営んでいる。この生命活動を理解するためには、遺伝情報に従った分子構築機構を学ぶ必要がある。本講義は、生命活動をゲノムを中心とした分子レベルで理解することを目的とする。

【到達目標】

分子生物学 I では、遺伝情報伝達機構の全体をカバーするとともに、特に DNA の構造、複製の解説に力点を置き、DNA の遺伝伝達物質としての役割の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義は、分子生物学の概要を講義するとともに、塩基配列情報の理解を深化させるために、講義中に遺伝情報伝達についての演習をおこなう。また、分子生物学関連の最新の話題についても解説・討論する。学生の自己学習を奨励する。プリントを配布し、パワーポイントを用いて説明する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。具体的な授業の進め方については、学習支援システムの「お知らせ」にて案内する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	分子生物学の概要	分子生物学における生命の捉え方について解説する。
第 2 回	分子生物学の歴史	遺伝子の本体としての DNA の発見と構造決定、遺伝情報の流れの解明についての歴史について解説する。
第 3 回	核酸の化学と構造	情報伝達分子である DNA と RNA の化学構造について解説する。
第 4 回	遺伝情報の流れの基本	DNA の塩基配列からみた遺伝子の基本構造について解説する。
第 5 回	転写・翻訳機構	DNA の塩基配列からみた転写・翻訳の仕組みと装置について解説する。
第 6 回	遺伝子発現調節機構	DNA の塩基配列からみた遺伝子発現調節機構について解説する。
第 7 回	DNA の構造と遺伝子情報の流れ	DNA の分子構造と遺伝情報の流れを理解する（オンラインでの解説と討論）。
第 8 回	DNA 複製（開始・伸長・終結）	DNA 複製の全体の流れの理解と DNA 複製を担う酵素の役割と構造について解説する。
第 9 回	DNA 複製（開始の調節機構）	DNA 複製開始点の構造と複製開始に関わるタンパク質について解説する。
第 10 回	突然変異と修復	DNA に生じる突然変異の要因と影響およびその修復機構について解説する。
第 11 回	プラスミドとトランスポゾン	プラスミドとトランスポゾンの構造と役割について解説する。
第 12 回	ウイルス	ウイルスの構造と増殖の仕組みについて解説する。
第 13 回	DNA に作用する因子	DNA 複製と動く遺伝因子の理解する（オンラインでの解説と討論）。
第 14 回	DNA を扱う技術	DNA を扱う上での基本操作と原理について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】テーマ・内容のキーワードをもとに予め概要を理解して授業に臨むこと。体系的に講義を進めるため、復習は大事である。分子生物学の本質を理解し、論理性を高める自己教育を期待する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。

【参考書】

授業の進行に沿い、また学生個人個人の知識水準、知的欲求に応じた参考書を紹介する。
細胞の分子生物学（ニュートンプレス）
分子生物学（講談社）

生命科学のコンセプト 分子生物学（化学同人）

分子生物学イラストレイテッド（羊土社）

【成績評価の方法と基準】

毎回のレポート課題を採点し成績として評価する（100%）。
ただし、状況（コロナ禍）が改善し、対面での期末試験実施が可能となった場合は、毎回のレポート課題 50%、期末試験 50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生のノートを取るスピードに配慮して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを用いて講義を進める。

【Outline and objectives】

All living things have a secret code inside of them called genomic DNA. Molecular biology is the study of proteins and nucleic acids and their role in the replication of cells. The overall goal of this lecture is to make students understand basic information of molecular biology.

BLS100YD

分子生物学 I

片山 映

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の情報は全てゲノムに組み込まれている。生物は、ゲノムの遺伝情報を利用して蛋白質を合成し、蛋白質が多種多様な生体分子を合成することで、生命活動が営まれる。これら遺伝情報や生体分子の概要と、細胞機能との関連について解説する。

【到達目標】

遺伝子の構造と発現調節機能について、さらに生物を構成する基本物質の構造と機能について概説し、ゲノムから多種多様な生体分子が合成され細胞が構築される過程を統合的に理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

生体の分子構成の全体像を概観し、構成成分それぞれの構造と機能の特性を解説する。生体構成分子に関する授業内容に関連した自己学習を奨励する。また、分子生物学関連の最新の話題についても背景や原理、解析技術について解説・討論する。講義で実施する確認問題、演習、アンケートの内容に応じて、解説等のフィードバックを学習支援システムとオンライン講義にて行う。感染状況に伴う講義計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は4月8日（木）とし、この日までに具体的なオンライン講義の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	生命分子の原理	生命分子の起源と進化、細胞の構成成分
第2回	生体高分子	生体を構成する高分子の特性
第3回	核酸の分子生物学	DNA・RNAの構造と機能
第4回	蛋白質の分子生物学	蛋白質の構造と合成と機能
第5回	遺伝情報 (1)	ゲノムの複製
第6回	遺伝情報 (2)	ゲノムの構造と機能
第7回	遺伝情報 (3)	遺伝子発現の制御
第8回	糖質の分子生物学 (1)	糖質の構造と機能
第9回	糖質の分子生物学 (2)	糖質の代謝と合成
第10回	脂質の分子生物学 (1)	脂質の構造と機能
第11回	脂質の分子生物学 (2)	脂質の代謝と合成
第12回	細胞の構造と機能 (1)	原核生物・古細菌
第13回	細胞の構造と機能 (2)	真核生物
第14回	ゲノミクスとプロテオミクス	分子生物学的解析手法・技術
	全体の講評・解説	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】本講義で扱う種々の分子の複雑な構造と機能は、いずれもその構成要素の科学的性質によってもたらされるものである。したがってそれらのはたらきを理解するために、生物学と化学の基本的な知識をもつことが必須である。一般教養の関連科目を習得しているレベルが必要である。

【テキスト（教科書）】

＜教科書＞特定の教科書は指定しない。

＜具体的教育方法＞ 視覚的教材を多用して理解を深める方策を導入する。生命現象の本質を理解し、論理性を高める自己教育を期待する。

【参考書】

＜参考書＞

授業の進行に沿い、また学生個人個人の知識水準、知的欲求に応じた参考書を紹介する。可能な限り、英語教科書に慣れることを推奨する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞

オンライン講義内での確認問題（ノート）(50%) と、講義後の演習問題 (50%) の内容より総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より基礎的な内容や関連した分野の説明も交えて、バックグラウンドから理解できるようにする。

【Outline and objectives】

The genome contains all biological information of an organisms. In life activities, diverse biochemical reactions are caused by synthesized proteins based on genetic information. This lecture will provide the outline of genetic information and biomolecules, and the relation with intracellular biochemical reaction.

BLS100YB

分子生物学 I

山本 兼由

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゲノム上の遺伝子は生物機能を支える情報である。分子生物学Ⅱでは、明らかとされてきた遺伝情報の構造と機能について、関連する科学的発見の流れを具体的に紹介する。この階層性をもつ分子生物学的知識の蓄積を正確に確認し、分子生物学の主旨を理解するとともに、さらに発展しているゲノム科学を展望する能力を養う。

【到達目標】

メンデル遺伝に端を発する「遺伝子の構造と機能」について、主要な科学的発見の背景と実証および考察を通して、正確に理解する。これらを踏まえ、生物ゲノムの主な機能「遺伝情報の維持」と「遺伝情報の発現」のしくみを分子レベルで理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業はアクティブラーニングを用いた講義形式で行う。オンライン授業を適宜導入する予定。特定の教科書は用いず、毎回配布する資料によって進行。授業は、Hoppii（学習支援システム）を活用する。各授業の案内に加え、授業内の演習も行う。また、授業ごとの課題を踏まえ、必要に応じてつぎの授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	分子生物学の勃興	メンデルの発見から
第 2 回	遺伝子の構造と機能（1）	メンデル遺伝
第 3 回	遺伝子の構造と機能（2）	染色体説
第 4 回	遺伝子の構造と機能（3）	二重らせん構造
第 5 回	遺伝情報の維持（1）	レプリコン説
第 6 回	遺伝情報の維持（2）	複製フォーク
第 7 回	まとめ（1）	「遺伝子の構造と機能」と「遺伝情報の維持」の総括
第 8 回	遺伝情報の発現（1）	一遺伝子一酵素説
第 9 回	遺伝情報の発現（2）	ウイルス合成の調節
第 10 回	遺伝情報の発現（3）	オペロン説と転写反応
第 11 回	遺伝情報の発現（4）	リボソームと mRNA
第 12 回	遺伝情報の発現（5）	遺伝暗号とアダプター分子
第 13 回	遺伝情報の発現（6）	コドン
第 14 回	まとめ（2）	「遺伝情報の発現」の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】本科目を受講するには、専門科目「分子生物学Ⅰ」を修得し、その内容を十分な理解が必要。また、「生物化学Ⅰ」、「細胞生物学Ⅰ」、「生物物理学Ⅰ」は修得し、本授業と関連する内容の理解も必要。各授業で提示する宿題により、それぞれの内容を復習する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

「Essential 細胞生物学 原書第 4 版」（著者：B. アルバート等 監訳：中村桂子・松原謙一 南江堂）
「エッセンシャル 遺伝学」（著者：D.L. ハートル・E.W. ジョーンズ 監訳：布山喜章・石和貞男 培風館）
「第 7 版 ワトソン遺伝子の分子生物学」（著者：J.W. ワトソン等 監訳：中村桂子 東京電機大学出版局）

【成績評価の方法と基準】

分子生物学に関する重要な発見の内容を理解した上で、「遺伝子の構造と機能」および生物ゲノムの主な機能「遺伝情報の維持」と「遺伝情報の発現」のしくみを正しく捉えることができているかを基準に、講義内での取り組みや宿題を「取り組み度」（30 %）、「達成度」（30 %）、「理解度」（40 %）として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- （1）Hoppii（学習支援システム）活用に関する 3 つの改善
 - ・「課題」機能は利用しない
 - ・「テスト／アンケート」機能のみの利用
 - ・授業内で紹介する学術論文の案内
- （2）グループワークの効果的活用

- （3）宿題におけるラーニングサポーター活用の改善

【その他の重要事項】

国立遺伝学研究所の研究員として細菌の分子遺伝学の研究に携わった経験から、人類が培った特に生物遺伝機能への理解について、それらの重要性和問題点を具体的に紹介する。

【Outline and objectives】

Organism manage biological functions and processes with the genetic information on DNA, established by scientific efforts of e.g. Mendel, Morgan, Watson, and Crick. Molecular biology is mainly subject to biochemical and genetic function of DNA, RNA, and proteins. This lecture will introduce you to the related research findings and experiments and the basis for molecular biology, consisting of gene replication and expression.

BLS100YD

分子生物学 I

小見 美央

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物がみな共通の分子基盤を持っていることを理解し、そのことが可能にした様々な技術を知る。特に遺伝子編集技術に関して、その意義や是非について様々な視点から議論できるようになるために必要な知識の獲得を目指す。

【到達目標】

分子遺伝学/分子生物学の基礎事項について学び、自分の言葉で説明ができるまで理解を深める。学習事項をもとにして、現在世界に大きなインパクトを与えているウイルス性感染症をはじめとした身近な生命現象や昨今の生命技術について科学的な見地から解釈・判断・評価できるようになる。また、この授業で学んだことをもとに既存の問題を解決する方法を探索し、提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義を中心に進める。プレゼンテーションファイルを3つ課予定。うち2つについては教員による評価だけでなく、学生同士でもフィードバックしてもらう。毎回リアクションペーパーを提出してもらい、翌週フィードバックする。対面授業では毎回授業内容に関連した動画を視聴する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	生命に共通の分子基盤	生命を作り上げる物質
第二回	ゲノム、遺伝子、DNA	遺伝学の歴史 ゲノムからみた生殖
第三回	遺伝情報の複製	細胞増殖 DNA 複製
第四回	遺伝子の発現	転写 翻訳
第五回	遺伝子発現制御	原核生物の場合 真核生物の場合
第六回	氏か育ちか	メンデルの遺伝の法則
第七回	タンパク質と酵素	酵素の基本的性質 酵素活性の調節
第八回	生命科学技術	遺伝子改変の歴史 PCR 法
第九回	医療と分子生物学	分子マーカー 分子標的薬
第十回	遺伝子治療	遺伝子導入技術
第十一回	コンベンショナルな遺伝子改変技術	ノックアウト ノックイン
第十二回	遺伝子発現制御技術	RNAi
第十三回	ゲノム編集	CRISPR-Cas9
第十四回	ゲノム編集の課題	倫理 法的規制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 Google classroom 上に授業スライドや関連動画・文献等をアップロードするので適宜復習する。また、プレゼンテーション課題への対応のためインターネットで調べ物をしたり文献を読んだりする。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

講談社ブルーバックス アメリカ版 大学生物学の教科書 第2巻 分子遺伝学
理系総合のための生命科学 第4版 東京大学生命科学教科書編集委員会

【成績評価の方法と基準】

レポート（プレゼンテーションファイル）（25%×2 + 最終 40%）、平常点 10%

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーション課題の相互フィードバックが好評だったので、引き続き今年度も実施します。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンがあると便利です。授業中に調べ物等してもらうことがあるので、Wifi 接続できるパソコンやタブレットを持参できると良いですが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

Google classroom を利用するので、履修する学生は初回の授業内で法政大学のメールアドレスで google にログインできるようにしておいてください。

【Outline and objectives】

This course presents some of the basic concepts of molecular biology with an emphasis on the state-of-the-art technologies based on gene editing. Upon completing this course, students will be able to explain and describe the basic concepts of genetic inheritance, classical and molecular genetics, and recent advances in DNA technologies. We will also look at the arms race between viruses and us from the genetics point of view. Students will be able to develop hypotheses to interpret biological phenomena that they encounter in real-life, as well as to critically evaluate and appraise technological developments in this field.

BLS100YB

生物化学 I

廣野雅文

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主要な生体物質であるタンパク質、糖、低分子有機酸などの構造と、それらの生体内における機能発現のしくみ、エネルギー代謝、物質代謝経路における役割について概説する。エネルギー代謝、物質代謝については例として呼吸を取り上げ、エネルギー通貨産生のための共役反応、電子伝達系の概念について重点的に解説する。

【到達目標】

主な生体構成物質の構造と機能を学び、それらを基盤として細胞・個体レベルの生命現象が成り立つしくみを化学の視点から理解する。生物化学 I では特にタンパク質の機能発現、エネルギー代謝と物質代謝の概念を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面またはオンラインで講義する。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問があれば同時に提出する。すべての質問は一覧にして回答とともに授業支援システムに数日以内にアップロードする。授業方法は、大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	生物化学とは、生体物質に見られる主な官能基
第 2 回	細胞の構造と主な構成物質	細胞説、生体膜、真核細胞の構造
第 3 回	タンパク質の構造と機能（1）	標準アミノ酸の構造とペプチド結合
第 4 回	タンパク質の構造と機能（2）	アミノ酸配列とフォールディング
第 5 回	タンパク質の構造と機能（3）	タンパク質の階層的な立体構造
第 6 回	タンパク質の構造と機能（4）	タンパク質の解析法
第 7 回	酵素（1）	自由エネルギーと活性化エネルギー
第 8 回	酵素（2）	触媒機能の特性と調節
第 9 回	酵素（3）	反応速度論
第 10 回	単糖と多糖	単糖の構造と異性体、単糖の反応性、多糖の構造
第 11 回	呼吸（1）	代謝反応とエネルギー通貨
第 12 回	呼吸（2）	嫌気条件の糖代謝
第 13 回	呼吸（3）	好気条件の糖代謝
第 14 回	呼吸（4）	解糖系と糖新生

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義後にノートとプリントを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義内容へのすべての質問に対して回答の一覧を授業支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

Albert Lehninger：「レーニンジャーの新生化学 第 5 版」（廣川書店）

成田 央, 山口 雄輝：「基礎からしっかり学ぶ生化学」（羊土社）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに提出する課題 10%、中間試験 40%、期末試験 50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業後の課題としてだすクイズの正解は、資料をみれば簡単にわかるので、あえて知らせていなかったが、やはり知りたいという声が複数あったので、今年度からは質問への回答とともに授業支援システムにアップロードすることにした。

【その他の重要事項】

実務経験：理化学研究所 基礎科学特別研究員。このときから行っている先端的研究の成果を授業内で説明している。

【Outline and objectives】

Biochemistry is a study of chemical processes and macromolecules associated with various activities in living organisms. Topics covered in this course include structure and function of proteins, catalytic activity of enzymes, and glucose metabolism as an organized process for energy transduction.

BLS100YD

生物化学 I

田島 寛隆

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物は膨大な数の化学反応の集合体である。生物が「生きている」状態を可能にする仕組みを、分子レベルの化学反応、および、細胞レベルの化学反応回路として理解し、生物に関する理解を深める。

【到達目標】

生命の物質的な成り立ちを理解し、生体構成分子の構造と機能から、細胞、組織、器官、個体の各階層で高次の生命機能が発現される仕組みを解析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

最初の数回でアミノ酸などの生体分子の基本的性質について学習する。その後、タンパク質の性質等、応用的な内容について学習する。学生側からの質問は講義中に随時受け付ける。オンラインの場合はチャット等も利用する。また、指名して質問することもある。質問に対しては、その場でディスカッションするか、または関連事項を含めた解説を行うことによりフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	水と分子	生命現象と水
2	生体分子の相互作用	生体構成成分を形成する分子間力
3	浸透圧	脂質二重膜に隔てられた分子の挙動
4	酸と塩基	pH とアミノ酸分子の荷電状態
5	アミノ酸とタンパク質の性質	弱酸と弱塩基とアミノ酸の等電点
6	タンパク質の電気泳動	SDS-PAGE や Native-PAGE の原理
7	蛋白質の精製	イオン交換やゲル濾過や疎水性相互作用を利用したタンパク質の分離
8	タンパク質の特定	単離したタンパク質の特定方法
9	反応速度論 1	ミカエリスメンテンの式
10	反応速度論 2	阻害剤と酵素
11	反応速度論 3	電気化学的勾配と膜輸送
12	リボソーム	膜構成成分および膜蛋白による輸送の解析
13	タンパク質とリガンド	薬剤の体内代謝
14	呼吸	嫌気呼吸と好気呼吸

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】次回項目について参考書を読んでおくこと。また、プリントを活用して自ら調べて理解を深めておく。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

< 評価方法 > 期末試験 70%, レポート 30%とする。

< 評価基準 > 講義内容の基本項目を理解しているかを評価基準とする。

授業の実施状況に伴って、上記の評価方法は適宜変更することがある。この場合、初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

板書の内容について改善する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand 'the mechanism for living' in terms of biological chemistry at molecular and cell levels.

BLS200YB

蛋白質構造機能学 I

廣野 雅文

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象の担い手である蛋白質について、その立体構造と基本的な構造構築原理、および蛋白質の構造と機能との相関について概要を理解する。

【到達目標】

以下の項目について学び、深く理解することを目標とする：アミノ酸の構造と性質、蛋白質の生化学的な解析法、一次構造と機能の相関、三次元構造の階層性、コンフォメーションに寄与する化学結合、二次構造の構造的特徴、繊維状蛋白質と球状タンパク質の三次元構造の特徴、蛋白質のフォールディング、抗体分子の構造と機能、酵素の構造と機能、アクトミオシンの構造と機能。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

対面またはオンラインで講義する。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問があれば同時に提出する。すべての質問は一覧にして回答とともに授業支援システムに数日以内にアップロードしてフィードバックする。各回の授業方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月8日とし、この日までに具体的な授業方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論	タンパク質とは、無細胞実験系
第2回	アミノ酸とペプチド	発見と研究の歴史、アミノ酸の化学構造、ペプチド結合、生理活性ペプチド
第3回	蛋白質の生化学的分析法	タンパク質の粗分画法、カラムクロマトグラフィー、電気泳動
第4回	蛋白質の一次構造	タンパク質の機能と一次構造、アミノ酸配列の決定法、細胞内局在と一次構造、系統解析
第5回	蛋白質の立体構造と化学結合	コンフォメーション、水素結合、疎水性相互作用、イオン性相互作用、ファンデルワールス力、ジスルフィド結合
第6回	タンパク質の二次構造-1	α ヘリックスの構造的特徴、アミノ酸配列と α ヘリックス
第7回	タンパク質の二次構造-2	β シート、 β バレル、 β ターンの構造的特徴
第8回	繊維状蛋白質の三次構造	コイルドコイル、ケラチン、コラーゲン、絹フィブロイン
第9回	球状蛋白質の三次構造	構造モチーフ、ドメイン、構造に基づく球状タンパク質の分類
第10回	蛋白質の四次構造、天然変性蛋白質	サブユニット、天然変性領域
第11回	タンパク質のフォールディングと変性	アンフィンゼンのドグマ、フォールディングの速さと経路、シャペロン、ミスフォールディング
第12回	免疫グロブリン	免疫を担う細胞、免疫に働く分子の多様性、抗原-抗体結合、抗体の利用
第13回	酵素の触媒作用機構	発見と研究の歴史、活性化エネルギーと触媒作用、酵素-基質の結合エネルギー、誘導適合、脱溶媒和
第14回	アクトミオシン	ミオシン、アクチン、アクチンの重合、アクトミオシンの力発生機構、アクチン-ミオシン相互作用の調節

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義後にノートとプリントを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義内容へのすべての質問に対して回答の一覧を授業支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

「レーニンジャーの新生化学 第5版」（廣川書店）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに提出する課題 10%、中間試験 40%、期末試験 50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業後の課題として出すクイズの正解は、資料をみれば簡単にわかるので、あえて知らせていなかったが、やはり知りたいという声が複数あったので、今年度からは質問への回答とともに授業支援システムにアップロードすることにした。

【その他の重要事項】

実務経験：理化学研究所基礎科学特別研究員。このときから行っている先端的研究の成果を授業内で説明している。

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to structure and function of proteins. Topics covered in this course include: structure and chemical properties of amino acids, relationships between primary structures and functions of proteins, chemical interactions for protein folding, hierarchical structure of proteins, globular proteins and fibrous proteins, structure and catalytic function of enzymes, and structure and function of antibodies.

BLS200YB

蛋白質構造機能学 I I

曾和 義幸

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

タンパク質は、生命機能を発現するために必要な構成要素である。個々のタンパク質は独自の立体構造を持ち、機能と密接に関連している。タンパク質の構造と機能の関係を、具体的な例を挙げつつ講義する。

【到達目標】

本講義全体を通して、タンパク質の特徴・構造・機能について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

板書とスライドを併用した講義とする。講義内では演習問題を解いてもらうことで、タンパク質の構造・機能について理解することを目指す。レポート・演習のあとの解説でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の概要	タンパク質が様々な生命現象に関わる重要な生体高分子である事を紹介する。
2	タンパク質の基本	タンパク質を理解するための基本的な情報について概説する。
3	タンパク質の構造	タンパク質構造について概説する。
4	リガンド結合	タンパク質へのリガンド結合について概説する。
5	協同性	ヘモグロビンを例にとり、協同性について概説し、協同性のモデルについて議論する。
6	酵素	生化学反応を触媒する酵素について概説する。
7	酵素反応	酵素反応速度論について概説する。
8	輸送体の速度	輸送体の速度論について概説する。
9	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする。
10	生体エネルギー論	生体熱力学の全体像を概説する。
11	輸送体のエネルギー論	輸送体のエネルギー論について、具体的な例を挙げながら概説する。
12	代謝のエネルギー論	代謝について、具体的な例を挙げながらエネルギー収支について概説する。
13	タンパク質機能の解析法	タンパク質機能を解析する手法について、基本的な原理を概説する。
14	総括	講義全体を通じて、理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】本講義では、講義内容の理解を助けるための簡単な計算を演習問題として紹介する。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるをえない場合があるので、各講義の終了後に各自で計算をおこなう。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では視覚的教材やプリントを利用する。

【参考書】

一般的な生化学の教科書（レーニンジャーの新生化学など）

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40%）・期末試験（60%）の合計点数によって評価する。ただし、オンライン授業になった場合は、適宜課す予定のレポート・演習で評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度のため該当無し。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を用いることがある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental relationship between protein structure and function.

PHA300YC

分子薬理学

小藤 智史

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

薬理学とは薬が作用するメカニズムを解明する学問である。これまでに学習してきた生物化学・分子生物学等の知識を基礎として、「薬」が私たちの体でどのように働いているのかを、分子レベルのミクロな視点と個体レベルのマクロな視点で学び、生命現象を総合的に理解することをめざす。

【到達目標】

薬が作用するメカニズムを分子・個体レベルで正しく理解し、人に説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、PC 制御プロジェクターと配布資料を用いる。理解度を確認したり、わからなかった点、気づいた点などを記載するリアクションペーパーを提出してもらう。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	薬理学総論	薬理学とは何か、薬物と受容体との関係および濃度-反応曲線を学ぶ
2	自律神経・体性神経系に作用する薬	自律神経系の形態と機能について理解し、自律神経系と体性神経系に作用する薬物について学ぶ
3	中枢神経系に作用する薬	中枢神経系に作用する薬物について学ぶ
4	循環器系に作用する薬	循環器系に作用する薬物について学ぶ
5	消化器に作用する薬	消化器に作用する薬物について学ぶ
6	利尿薬と泌尿器・生殖系に作用する薬	利尿薬と生殖系に作用する薬物について学ぶ
7	中間試験	範囲:第 1 回から第 6 回。教科書・資料等の持ち込み不可
8	呼吸器系・血液に作用する薬	呼吸器系と血液に作用する薬物について学ぶ
9	代謝性疾患とその治療の治療薬	糖尿病・脂質異常症治療薬の作用機序を学ぶ
10	抗炎症薬・抗リウマチ薬・抗アレルギー薬	抗炎症薬・抗リウマチ薬・抗アレルギー薬の作用機序を学ぶ
11	感覚器・感染症治療薬	感覚器に作用する薬物と感染症治療薬の作用機序を学ぶ
12	抗癌薬	抗癌薬の作用機序を学ぶ
13	復習	第 1 回から第 12 回までの内容を復習する。その際に、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
14	期末試験	範囲:全講義の内容。教科書・資料等の持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】受講前にシラバスや教科書の該当する章を読み講義内容を把握しておいて下さい。受講後は講義時に配布された資料や自筆ノートを見直したり、教科書等を使用して復習して下さい。

【テキスト（教科書）】

はじめの一歩の薬理学 第 2 版 石井邦雄・坂本謙司著（羊土社、2020 年 01 月 14 日発行、2900 円）

【参考書】

人体の正常構造と機能（日本医事新報社）

【成績評価の方法と基準】

中間試験（6 月に実施。30 点満点。）
 期末試験（7 月に実施。60 点満点。）
 平常点（リアクションペーパーの提出等。10 点満点。）
 で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Pharmacology studies how drugs function in our body. Students are required to have two different visions: molecular basis and whole body basis. In this class, we aim to understand the biological responses against drugs in our body by using basic knowledges of biochemistry, molecular biology and so on.

BLS300YB

構造生物学

金丸 周司

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体高分子、特に蛋白質や核酸の高次立体構造の研究における X 線結晶構造解析、NMR 解析、クライオ電顕解析による構造解析法を中心に概説する。さらに立体構造情報に基づいた構造の推定や分子間相互作用などの応用研究、そして、これらの方法論に加えて、構造を解くことで何が分かるかを学ぶ。

【到達目標】

本講義全体を通して、生体高分子、特に蛋白質の高次構造から、特徴・機能・性状について学び、その構造解析法を理解する。それをふまえて、構造生物学から得られた知見をどのように解釈し利用していくかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

蛋白質は、生命現象を担う重要な生体高分子である。講義前半では、蛋白質の成り立ちと性質、さらにその基本構造について学ぶ。講義中盤では、X 線結晶構造解析法や NMR 解析法、電子顕微鏡による構造解析法等を紹介し、生体高分子の構造解析のプロセスを学ぶ。講義後半では、構造解析により得られた知見から生物学的機能がどのように明らかになるのかを学び、実際に立体構造情報の利用方法を学ぶ。
毎回、授業のはじめに前回の授業の課題の講評と解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	蛋白質が様々な生命現象に関わる重要な生体高分子である事を紹介し、蛋白質研究の歴史を紹介する。
2	蛋白質の一次構造と二次構造	蛋白質を理解するための最も基本的な情報として、一次構造と二次構造の知識を得る。
3	蛋白質の二次構造のモデル作成	分子模型を用いて二次構造モデルを実際に作成し、二次構造の理解を深める。
4	蛋白質の高次構造	蛋白質の実体を理解するために不可欠となる高次構造について紹介する。
5	構造解析法 1	X 線結晶構造解析法による解析法について紹介する。
6	構造解析法 2	NMR 解析法について紹介する。
7	構造解析法 3	電子顕微鏡による解析法やその他の構造解析法について紹介する。
8	核酸の構造	核酸（主に DNA）の構造とそれに結合する蛋白質について紹介する。
9	酵素	酵素の構造生物学的知見を紹介する。
10	膜蛋白質	膜蛋白質の構造生物学的知見を紹介する。
11	電子密度マップへの蛋白質モデル構築	各自のパソコンを用いて、結晶構造解析より得られた電子密度マップに原子モデルを構築する。
12	立体構造情報の利用 1	立体構造情報、主に PDB ファイルの詳細を解説し立体構造の可視化方法（ソフトウェア）を紹介する。
13	立体構造情報の利用 2	立体構造情報を利用したデータベースを紹介する。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】指定した参考書などを参照し、毎回配布するプリントと小テストを復習してください。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

有坂文雄著「バイオサイエンスのための蛋白質科学入門」（裳華房, 2006）
神田大輔著「いきなりはじめる構造生物学」（秀潤社, 2011）
田中勲・三木邦夫訳 「構造生物学」（化学同人, 2012）

【成績評価の方法と基準】

生体高分子の立体構造とその構造解析法について理解し、構造生物学から得られる知見と生命現象とを結びつけて理解しているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回プリントを配布するので、復習時に役立ててほしい

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン（第 11 回で使用）

【Outline and objectives】

I will outline the structure determination methods by X-ray crystal structure analysis, NMR analysis and cryo-electron microscopic analysis in the analysis of higher order tertiary structures of biopolymers, especially proteins and nucleic acids.

Furthermore, you learn applied research such as structure prediction based on three-dimensional structure information and intermolecular interaction, and learn what you can understand by solving the structure with these methodologies.

PPE100YD

植物医科学概論**鍵和田 聡、津田 新哉、石川 成寿、廣岡 裕吏**

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物医科学の考え方や技術、食の安全や環境保全・社会経済との関わりを学び、植物保護の原点を探る。

【到達目標】

植物医科学という新しい学問分野の概要を把握し、植物医科学分野の専門科目を学ぶための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

植物病とその歴史、植物医科学の意義、植物病の種類、病気の診断技術、植物病害の治療・防除・予防技術などについて最新の成果も交えながら広く解説する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	植物医科学とその重要性	食料・環境問題と植物医科学、その重要性
第 2 回	植物の生育障害と症状の特徴	植物の生育障害の種類、原因、症状、病名
第 3 回	菌類病	微生物病の種類、菌類の分類、生活環、菌類病の種類と特徴
第 4 回	細菌病	細菌の分類、細菌病の種類と特徴、ファイトブラズマ病
第 5 回	ウイルス病、線虫害	ウイルスの分類、ウイルス病の種類と特徴、ウイロイド病、線虫害の種類と特徴
第 6 回	発生生態と被害解析	発病の条件、伝染方法、発病動態とその環境、被害解析
第 7 回	生理障害	生理障害の種類、肥料に関わる障害、薬害、環境条件、管理作業
第 8 回	害虫と雑草	害虫の種類、生態的特徴、被害とその解析、加害様式、雑草の種類、特徴、防除対策
第 9 回	診断の意義と工程	診断の意義と重要性、診断の工程、問診と診断の実際
第 10 回	分離と接種による診断	微生物の分離と維持、接種、微生物の同定技術
第 11 回	血清診断、遺伝子診断	血清診断の種類と各技術の特徴、遺伝子診断の種類と各技術の特徴
第 12 回	薬剤防除	農薬の種類、選択、製剤化、使用法、安全性評価、関連法令
第 13 回	IPM	植物の病虫害と防除法、総合的病虫害管理（IPM）
第 14 回	植物医科学の社会的役割	植物防疫に関わる法令、病虫害の発生予察、植物検疫、食の安全

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
教科書に沿って講義を進める。講義内容に該当する部分をよく読むことにより予習、復習する。

【テキスト（教科書）】

植物医科学の世界（大誠社）

【参考書】

植物医科学（上）（養賢堂）
その他適宜講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（約 30%）、試験（約 70%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に沿って丁寧に説明を行う。
分かりやすい板書を行う。

【その他の重要事項】

応用植物科学科必修科目。
樹木医補資格関係専門科目。
植物病診断・防除の現場の実務経験のある教員により、その経験を踏まえた技術の詳細を紹介する。

質問など不明点あれば、鍵和田まで問い合わせること。オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline and objectives】

This course introduces the concepts and technologies of 'clinical plant science', and its relationship with food safety, environmental conservation and social economy. Participants understand the outline of a new discipline field, 'clinical plant science', and acquire the foundation for learning special subjects in the field of clinical plant science. It explains plant disease science and its history, significance of clinical plant science, kinds of plant diseases, diagnostic technology of diseases, treatment, control and prevention technology of plant diseases.

PPE200YD

植物病学概論

濱本 宏

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では主として微生物による植物病について、病原性のメカニズムや伝染様式、さらに、それら病原に対して植物の持つ病害抵抗性の機構等を学ぶ。

【到達目標】

ウイルス、細菌、菌類など植物病原微生物の分類とその特徴、それらが引き起こす病徴について基礎的な知識を得る。また、それら微生物がどのように植物に病気を起こすのか、それに対して植物はどのように抵抗性を示すのかを理解する。さらに、これらの知見を病害の診断や防除にどのように活かすのか考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

＜＜授業実施方法の詳細等は学習支援システムを通じてお知らせします＞＞
パワーポイントを用いて解説することを基本とする。トピック的に原著論文を紹介したり TED などのビデオをみることで、理解を深めたり最新の知見を得たりする。授業中にオンラインのアンケート機能等を用いて、理解度の把握に努め、授業進行に役立てる。授業内の最後に行う「テスト/アンケート」あるいは「課題提出」のフィードバックは翌週授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	植物病と微生物	植物病を引き起こす微生物と、基本的な用語について
第 2 回	ウイルス・ウイロイド病 (1)	ウイルス・ウイロイドの分類と進化
第 3 回	ウイルス・ウイロイド病 (2)	ウイルス・ウイロイド病の性状・病徴と伝染様式
第 4 回	細菌・ファイトプラズマ病 (1)	植物病原細菌・ファイトプラズマの分類と性状
第 5 回	細菌・ファイトプラズマ病 (2)	植物細菌病・ファイトプラズマ病の病徴と伝染様式
第 6 回	菌類病 (1)	植物病原菌類の分類・性状
第 7 回	菌類病 (2)	植物菌類病の病徴と伝染様式
第 8 回	線虫病と生理病	植物寄生線虫の分類、性状と病徴、植物生理病の種類と病徴
第 9 回	中間まとめ	植物病を引き起こす病因について振り返り、質疑応答
第 10 回	植物感染生理 (1)	病原性：病原微生物の植物侵入の機構と病原性発現の機構
第 11 回	植物感染生理 (2)	抵抗性：原微生物に対する宿主の抵抗性の機構
第 12 回	植物感染生理 (3)	植物感染生理とゲノミクス・バイオテクノロジー
第 13 回	植物病の診断と防除	植物病の診断、防除に活かされる植物病学の知見
第 14 回	植物病学の最新トピックと総合まとめ	植物病学に関する最新のトピックの紹介・授業をふりかえり総合まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業で強調する専門用語や病名について、他の授業・実習内容の復習や自習によって知識を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する。

【参考書】

植物病理学（眞山滋志、難波成任編），文永堂出版，2010。

Plant Pathology, 5th edition (G.N. Agrios), Elsevier, 2005.

Essential Plant Pathology (G.L. Schumann, C.J. D'Arcy), APS Press, 2010

【成績評価の方法と基準】

期末試験：80%、平常点 20%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特に、配布プリントを見やすくすること、授業支援システムへのタイミング良いアップを心がける。クイズ形式のアンケートなどをできるだけ取り入れ、授業の進行に役立てる。

【その他の重要事項】

化学業界に勤務経験のある教員が、特に農薬の開発や使用に関して具体的な説明を加える。

【Outline and objectives】

In this lecture, we mainly learn the mechanisms of pathogenicity, the mode of transmission, and the mechanisms of disease resistance of plants against pathogenic diseases of microorganisms.

PPE100YD

植物分子細胞生物学

鍵和田 聡

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物は光合成を行って二酸化炭素を固定するなど、動物など他の生物とは異なった生理機能をもって生活している。こうした植物の持つ様々な生理機能について、細胞レベル・分子レベルでのメカニズムを理解することによって、植物の健全な育成を行うための基礎的な考え方を習得する。現在、植物の生理的变化や、形態形成のメカニズム、さらには植物の環境応答のしくみを明らかにするための研究が進んでおり、本講義でもこれらの最先端の知見を紹介する。これらの内容は植物の生理的障害の分子機構、あるいは病原体に対する植物の防御応答のメカニズムなど、幅広い分野を理解するための基礎となる。

【到達目標】

植物を構成する細胞の役割や機能、また植物の代謝や環境応答などの生理について、基本的な分子レベル・細胞レベルから理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

授業計画に従い講義を行う。適宜ノートをとり、毎回振り返って復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。また内容について理解が進んでいるか、数回行う確認テストで検討すること。レポート課題、および講義を理解する上で前提となる内容の補習問題を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて、あるいは講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	植物の構造（1）	植物組織の特徴
第2回	植物の構造（2）	植物の細胞
第3回	植物の代謝経路（1）	光合成と物質移行
第4回	植物の代謝経路（2）	糖、脂質
第5回	植物の代謝経路（3）	窒素、リン酸の代謝と共生微生物
第6回	二次代謝産物	代謝経路と機能
第7回	遺伝子発現	核酸、タンパク質と遺伝子発現調節機構
第8回	シグナル伝達の分子機構	植物のシグナル伝達系、およびその制御の分子機構
第9回	植物の遺伝子組換え	植物の全能性、および遺伝子組換え植物の作成法
第10回	受精と初期発生	植物の受精と初期発生のメカニズム
第11回	形態形成の遺伝子	花器等の形態形成に関わる遺伝子と発現制御
第12回	植物ホルモン	植物ホルモンの作用
第13回	非生物ストレス	環境ストレスに対する応答機構
第14回	生物ストレス	抵抗性、過敏感反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回ノートを復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストで振り返ること。レポート課題（1題）、および講義を理解する上で前提となる内容の補習問題（1題）を行う。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにて参考資料を配布する。

【参考書】

「植物生理学ー分子から個体へー」幸田ら、三共出版

「植物生理学概論」桜井ら、培風館

その他、適宜内容に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

確認テストを含む平常点（約 15%）、レポート課題と補習問題（約 15%）、期末試験（約 70%）の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な点から丁寧に説明する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline and objectives】

Plants have physiological functions different from animals, such as carbon dioxide assimilation by photosynthesis. By understanding the mechanisms at the cellular level and molecular level of various physiological functions of plants, students learn the fundamental idea for growing healthy plants. The contents of this class form the basis for understanding physiological phenomenon of plants such as the molecular mechanism of physiological disorders of plants and the defense response of plants against pathogens.

BLS100YB

生物学概論 I

清水 隆

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、生物学研究は急速に進歩し、社会にも大きな影響を与えています。本講義では、複雑な生命活動を理解するための基礎知識を身につけ、今後の研究や社会活動に生かしていくことを目的とします。また、生物学の発展に尽力した人物を取り上げ、その功績を掘り下げます。

【到達目標】

本講義は高校で生物学を履修してこなかった学生や、生物学が苦手だった学生を主な対象とします。今後の他講義を理解したり、卒業研究を遂行する上で必要な基礎知識を身につけます。そのために、毎回の小テストでは基本語句を習得し、講義内の演習や提出課題では、講義内容をより深く理解し自分の言葉で記述する力を獲得します。期間内に2回実施するまとめ試験で到達度を確認します。講義中は内容をノートにまとめることが要求されます。前期（生物学概論Ⅰ）では生物学の基本、生物学史、細胞学、遺伝学を中心に進めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

「生物学概論Ⅰ」と「生物学概論Ⅱ」を通年で受講することが望ましいです。毎回の講義開始時に、前回の講義内容に関する用語チェックを実施します。講義中には、適宜演習時間を設け、提出課題が課せられます。さらに2回のまとめ試験を加えて成績を評価します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション はじめに（序章）	授業内容の説明および評価方法 科学哲学入門
2	生物学の基本（1章）	生物学の歴史と方法 生物の多様性・共通性・階層性 遺伝学の基礎
3	細胞のプロフィール① （2章）	細胞を見る技術 細胞を構成する物質
4	細胞のプロフィール② （2章）	細胞小器官の機能 細胞膜の構造と機能
5	遺伝情報の伝達と制御① （3章）	遺伝子としての DNA
6	遺伝情報の伝達と制御② （3章）	転写・翻訳のしくみ タンパク質の構造と機能
7	中間試験	序章～3章の理解到達度判定
8	序章～3章のまとめ	試験結果に基づいた解説 触媒としての酵素 エネルギーの循環
9	細胞活動の源①（4章）	呼吸 エネルギー産生
10	細胞活動の源②（4章）	光合成 代謝経路のネットワーク
11	細胞活動の源③（4章）	タンパク質の多様な機能 細胞の形態維持と運動
12	細胞活動を担うもの① （5章）	オパロン説 細胞の形態維持と運動
13	細胞活動を担うもの② （5章）	
14	期末試験	4章・5章の理解到達度判定
14	4章・5章のまとめ	試験結果に基づいた解説 遺伝子組換え作物の現在
	現代社会における生物学の意義	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 予習：教科書の指示された部分を読んでおくこと
最近の科学ニュースについて自分の意見をまとめておくこと
- ② 復習：重要用語をまとめ、次回小テストの準備をすること
- ③ 提出課題

【テキスト（教科書）】

「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第3版」和田勝 羊土社 2015 3200 円

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 用語チェック（10 %） ② 提出課題（10 %） ③ まとめ試験（2回で 80 %）

【学生の意見等からの気づき】

授業の難易度、レジュメの見やすさなどについては、学生からの意見を適宜取り入れて改善してきました。また、「基礎事項の復習に役立った」「生物学に対する興味が深まった」との評価がありました。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

In recent years, biological research has advanced rapidly and has great influence on society as well. In this lecture, we aim to acquire basic knowledge to understand complicated life activities, and make use of it in future research and social activities. Also, the person who contributed to the development of biology will be taken up and we will learn about their achievements.

BLS100YB

生物学概論 I

清水 隆

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、生物学研究は急速に進歩し、社会にも大きな影響を与えています。本講義では、複雑な生命活動を理解するための基礎知識を身につけ、今後の研究や社会活動に生かしていくことを目的とします。また、生物学の発展に尽力した人物を取り上げ、その功績を掘り下げます。

【到達目標】

本講義は高校で生物学を履修してこなかった学生や、生物学が苦手だった学生を主な対象とします。今後の他講義を理解したり、卒業研究を遂行する上で必要な基礎知識を身につけます。そのために、毎回の小テストでは基本語句を習得し、講義内の演習や提出課題では、講義内容をより深く理解し自分の言葉で記述する力を獲得します。期間内に2回実施するまとめ試験で到達度を確認します。講義中は内容をノートにまとめることが要求されます。後期（生物学概論Ⅱ）では発生学、免疫学、生態学を中心に進めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

「生物学概論Ⅰ」と「生物学概論Ⅱ」を通年で受講することが望ましいです。毎回の講義開始時に、前回の講義内容に関する用語集の作成をします。講義中には、適宜演習時間を設け、提出課題が課せられます。さらに2回のまとめ試験を加えて成績を評価します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 多細胞生物への道①（6章）	授業内容の説明および評価方法 細胞間の結合様式と役割 細胞間の情報交換
2	多細胞生物への道②（6章）	ホルモンの受容と応答（Gタンパク質共役型）
3	多細胞生物への道③（6章）	血糖値の維持 ステロイドホルモンと受容
4	多細胞生物への道④（7章）	DNAの複製 細胞周期 突然変異
5	多細胞生物への道⑤（8章）	減数分裂 生殖細胞
6	多細胞生物への道⑥（8章）	受精 初期発生と器官形成
7	多細胞生物への道⑦（8章）	細胞間コミュニケーションと分化
8	中間試験	6章～8章の理解到達度判定
9	個体を守る免疫①（9章）	非特異的生体防御 特異的生体防御
10	個体を守る免疫②（9章）	体液性免疫 細胞性免疫 性感染症の予防と対策
11	細胞死・個体の死（10章）	細胞の老化と再生 早老症 寿命と遺伝子
12	さまざまな疾病（10章） 個体としてのまとめ（11章）	血友病 コレラ がん 恒常性の維持
13	個体としてのまとめ（11章）	神経伝達のしくみ 外部環境の認識 刺激と応答 向精神薬の作用機序
14	生態系・進化のしくみ（12章）	古生物学概論 進化のしくみ 生物多様性はなぜ重要か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- ① 予習：教科書の指示された部分を読んでおくこと
最近の科学ニュースについて自分の意見をまとめておくこと
- ② 復習：重要用語をまとめること
- ③ 提出課題

【テキスト（教科書）】

「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第3版」和田勝 羊土社 2015 3200円

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 提出課題（20％）
- ② まとめ試験（2回で80％）

【学生の意見等からの気づき】

授業の難易度、レジュメの見やすさなどについては、学生からの意見を適宜取り入れて改善してきました。また、「基礎事項の復習に役立った」「生物学に対する興味が深まった」との評価がありました。

【Outline and objectives】

In recent years, biological research has advanced rapidly and has great influence on society as well. In this lecture, we aim to acquire basic knowledge to understand complicated life activities, and make use of it in future research and social activities. Also, the person who contributed to the development of biology will be taken up and we will learn about their achievements.

COT100YB

計算機科学概論 I

内古閑 伸之

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、コンピュータは情報の収集および処理の必須ツールとなっています。秋期の計算機科学概論 II と合わせて、CUI を用いて扱えるようになるのが当授業の大きな目的です。

【到達目標】

秋期の計算機科学概論 II と合わせて、コンピュータに関する基礎知識および基本操作を学びます。受講者が、工学部学生として PC を情報処理の各自の道具として扱えるようになるのが目標です。本講義では、コンピュータシステムを CUI（コマンド）で扱うことの習得が主体となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

貸与ノート PC を用いた演習を主体とする授業です。キーボード操作によってコンピュータを扱うことを体験します。基本操作、応用操作の組み合わせが授業の標準形態となり、その演習結果を提出します。

課題の提出・フィードバック等は学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	計算機を用いた情報処理の基礎
第 2 回	オペレーションシステム	Windows と UNIX/Linux
第 3 回	システムの基礎操作 (1)	ビジュアル操作
第 4 回	システムの基礎操作 (2)	テキスト操作
第 5 回	CUI 環境の構築 (1)	ファイルシステムの理解
第 6 回	CUI 環境の構築 (2)	CUI 環境とは
第 7 回	CUI の基礎	CUI によるファイル操作
第 8 回	シェルコマンドの基礎	コマンドラインによる操作
第 9 回	エディタの操作 (1)	エディタの導入
第 10 回	エディタの操作 (2)	エディタの基本操作
第 11 回	エディタの操作 (3)	エディタの応用操作 (1)
第 12 回	エディタの操作 (4)	エディタの応用操作 (2)
第 13 回	総合的な操作 (1)	CUI によるシステムの操作 (1)
第 14 回	総合的な操作 (2)	CUI によるシステムの操作 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
学習順を考慮した内容が多い授業です。前回の授業を前提として次の学習（演習）があります。遅刻（授業途中からの参加）や欠席が不
理解の原因となる場合があります。不明・不理解あるいは操作が追
いつかないなどの場合は、助けを求めるなど、後回しにせずその時
点で要求してください。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業の教材として必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

各授業における演習結果または授業内試験をレポートとして提出し
てもらい、評価の対象となります。

最終の総合試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

理解度の個人差が大きくなります。理解/操作不能となった場合には
理解/操作不能のままにせず、自身で調査したり質問をしてください。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC または貸与 PC 相当の PC

【その他の重要事項】

演習が主体の講座ですので、実際に自身の手を動かして積極的に操
作してください。

【Outline and objectives】

For utilizing computer, students are expected to use not only
by graphical user interface (GUI) but also by character user
interface (CUI) through this lecture.

COT100YB

計算機科学概論 I

内古閑 伸之

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春期の計算機科学概論 I と合わせて、コンピュータを便利な道具として扱えるようになるのが当授業の大きな目的です。特に簡単なプログラミングについて理解しプログラムを作成します。

【到達目標】

春期の計算機科学概論 I と合わせて、コンピュータに関する基礎知識および基本操作を学びます。受講者が、工学部学生として PC を情報処理の各自の道具として扱えるようになるのが目標です。基礎的な計算処理、文字列処理などの習得が主体となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

貸与ノート PC を用いた演習が主体の授業です。生命科学部学生にとっての実用を目的とした基本的スキルの学習が中心となります。プログラミングによるデータ処理を体験します。基本操作、応用操作の組み合わせが授業の標準形態となり、その演習結果を提出します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	計算機とプログラミング概論
第 2 回	計算機アーキテクチャ	計算機の動作（CPU の働き）
第 3 回	プログラミング言語	低水準言語と高水準言語
第 4 回	プログラム環境の構築	Python の導入 (1)
第 5 回	プログラム環境の構築	Python の導入 (2)
第 6 回	プログラミングの準備	Python インタープリタ (1)
第 7 回	プログラミングの準備	Python スクリプト (2)
第 8 回	データ処理の基礎 (1)	数値計算
第 9 回	データ処理の基礎 (2)	文字列操作
第 10 回	データ処理の基礎 (3)	様々な型を用いた操作
第 11 回	データ処理の基礎 (5)	制御文と関数
第 12 回	データ処理の基礎 (5)	ファイルの入出力
第 13 回	総合的なプログラミング (1)	データ解析 (1)
第 14 回	総合的なプログラミング (2)	データ解析 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】春期授業を前提としていますが、1～3 回目は春期の復習も行います。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】

授業の教材として必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

各授業における演習結果または授業内試験をレポートとして提出してもらい、評価の対象となります。

最終の総合試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

理解度の個人差が大きくなります。理解/操作不能となった場合には講義中に挙手して、TA の支援を仰いでください。理解/操作不能のままにしておかないこと。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC または貸与 PC 相当の PC

【その他の重要事項】

演習が主体の講座です。遅刻による講義途中からの参加は学習の進行に大きな障害となる場合があります。

【Outline and objectives】

For utilizing computers, students are expected to perform programming using Python and to apply own original program to handle some sort of data.

BLS200YB

発生生物学

小林 麻己人、川岸 万紀子

開講時期：春学期集中/Intensive(Spring)

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発生生物学は、古代ギリシアにルーツをもち、古来より生物学者の興味をそそる学問分野である。しかし、20 世紀末の分子生物学ツールの導入により、個体発生のメカニズムが分子レベルで明らかになるにつれ、その制御システムはヒトの疾患・癌・老化などに密接に関連することがわかり、単に学問的だけでなく、医療や農業などの産業にも重大な情報をもたらすものになった。本授業では、発生生物学の概要を、分子レベルの切り口も含め紹介し、再生・進化・医学・農学など他分野とのつながりにも言及する。

【到達目標】

近年における発生生物学の全容と発展、さらには他分野、特に医学と農学とのつながりの理解を目指す。具体的には、1）受精から老化に至る、発生生物学の全体像をイメージできる、2）その中で特に、体軸形成・細胞分化・誘導シグナル・ゲノム遺伝子の発現、の重要性をそれぞれで活躍する代表的な遺伝子・タンパク質の名前を習得しながら理解する、3）発生工学的及び実験胚発生学的手法が、現在の生命科学の発展にいかんにか貢献してきたか、を理解する、4）医学・薬学・農学において、発生生物学に関連する知識や技術がいかに重要であるかを理解し、自身のキャリアに活かす、ことを到達目標とする。その上で、受講後も継続して自主学習する受講生がでてくることを期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

大枠としては、発生の基本概念、分子レベルでの理解、他分野への応用、の順で授業を進めるが、きっちりとは分けず、それぞれを織り交ぜる。方法は、プリント配付と PC プロジェクター映写の併用を考えているが、板書も含め、状況や内容に応じて、工夫を施す。受講者とのやりとりを期待する。前半の動物の発生および医学との関連性を小林が担当し、後半の植物の発生および農学との関連性を川岸が担当する。

各授業の進め方であるが、いずれの授業においても最後に小テストを行い、学生の理解度を確認する。その解答解説は、次の授業の初めに行う。また、3 日間の集中形式で行うものであるが、各日の最終授業で中間試験を行い、その 1 日全体における理解度を確認する。その解答解説は翌日の最初の授業で行う。なお、中間試験の際にリアクションペーパー提出も同時に課する予定である。解答解説時に合わせて紹介したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	発生生物学とは？	ヒトの発生、ゼブラフィッシュの発生、植物の発生
第 2 回	動物の発生	着床前診断と体外受精、双子と細胞運命、体軸形成、背中とお腹、BMP と抗 BMP
第 3 回	細胞分化と発生シグナル	幹細胞、転写因子、エピジェネティクス制御、オーガナイザー、誘導、Nodal 経路
第 4 回	がんと老化	再生、Wnt 経路、早老症、酸化ストレス
第 5 回	中間試験 1	前半の学習内容
第 6 回	ゲノムと遺伝子	ヒト突然変異、進化、遺伝子機能、過剰発現解析と異所的発現解析、ノックダウン解析
第 7 回	発生工学とモデル動物	遺伝子改変動物、ゲノム編集、トランスジェニック動物、突然変異体、イメーシング解析
第 8 回	植物の発生と進化	植物とは、植物の進化系譜、環境適応、モデル植物、遺伝情報
第 9 回	植物の細胞と成長	植物細胞の特徴、細胞分化、被子植物の受精、胚発生、栄養成長と生殖成長
第 10 回	中間試験 2	中盤の学習内容
第 11 回	植物遺伝子工学	遺伝子組換え、細胞工学、ゲノム編集などによる植物の改変
第 12 回	植物の環境応答と農作物の改良	環境応答、農作物の新品種開発、品質制御などへの応用
第 13 回	まとめ	全体の学習内容の復習
第 14 回	最終試験	全体の学習内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】特に準備学習は必要としない。分子生物学や細胞生物学の基礎的理解があれば十分。膨大な範囲からの抜粋になるため、授業では全てを詳細に説明することはできない。したがって、興味をもった箇所に関しては、授業後の自主学習を期待する。

【テキスト（教科書）】

指定せず

【参考書】

ギルバート発生生物学第 10 版（阿形・高橋訳）
メディカルサイエンスインターナショナル社
ウォルバート発生生物学第 4 版（武田・田村訳）
メディカルサイエンスインターナショナル社
老化生物学（McDonald 著・近藤訳）
メディカルサイエンスインターナショナル社
新・生命科学シリーズ 植物の成長（西谷著）
裳華房社

【成績評価の方法と基準】

最終試験の成績で評価する。加えて、小テスト、及び、中間試験、の結果も加味する。要素毎の配分は、最終テスト（70%）、小テスト（10 回、2%ずつ）、中間テスト（2 回、5%ずつ）である。各テストは「到達目標」に合わせ、発生生物学の基礎的事項に加え、他分野、特に医学と農学とのつながり、に関わる問題を授業で教えた内容から出題する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

講師は筑波大学医学医療系の教員及び農業・食品産業技術総合研究機構の研究員であり、本科目は夏休み中（8 月下旬）に集中講義として開講される。3 日間連続 5 限（4 限）の講義となるため、集中して学習できるメリットと逆にデメリットもある。その点を十分理解した上での受講を望む。

【Outline and objectives】

Developmental biology is an academic field that arouses the interest of a number of biologists from ancient days. At the end of the 20th century, the mechanisms of individual occurrences in developmental biology become clear at the molecular level and are understood to be closely related to human diseases, cancer, aging, and so forth. Therefore, studying developmental biology brings valuable information for medical and agricultural application. In this lecture, we introduce the outline of developmental biology and refer to connections with other fields such as regeneration, evolution, medicine and agriculture.

MAC200YB

物理化学概論 I

見附 孝一郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な米国の教科書を用いて物理化学の初歩を学ぶ。一見、各論的な化学の背後には普遍的な原理や法則が存在することを納得し、それらによって原子や分子の性質が合理的に説明されることを理解する。一方で、あらゆる原理や法則は、定量的実験によってその真偽が確かめられてきたことにも留意する。また、物理化学に関する例題、とくに計算問題に対して、単位や有効数字を意識しながら解答に到達できるまで習熟することも大事な目標である。

【到達目標】

原子、分子、物質（モル）の概念に慣れ親しむ。元素の性質とその周期律が原子の電子構造に関わっていること、とくに最外殻の原子価電子の配置が鍵となることを知る。化学結合にはイオン結合と共有結合があり、オクテット則に基づいたルイス構造を描くことで、精密な理論がなくとも、結合の性質、共鳴、電子の偏りを議論できること、それらは物質の物理的性質にも密接に結びついていることを把握する。さらに、電子対反発理論から分子やイオンの構造を予言でき、この理論が原子価結合理論での混成軌道による化学結合の説明と相補性を持つことを理解し、いくつかの実例でそのことを検証する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

(1) 4月に入ってから対面授業の場合
ブラディ・ジェスパーセン 一般化学（上）を教科書として使用します。主にパワーポイントを使って説明し、式変形の詳細などには黒板書きも利用します。パワーポイントの全内容を、4スライド分1ページにまとめて配布します。ときどき質問を投げかけて、答えや解答方針を口頭で説明してもらいます。第7回前後に中間テストを実施します。

(2) 4月に入ってからハイブリッド授業の場合
パソコン、液晶ペンタブを用いて、教室内の学生にはプロジェクターとスクリーンでパワーポイントのスライドを示します。黒板書きではなく液晶ペンタブに文字や数式を書きます。自宅の学生には zoom ミーティングに参加していただき、画面共有で教室内の学生と同じスライドやペンタブへの記入内容を見ていただくことができます。自宅学生は、zoom の接続記録と「学習支援システム」の課題提出をもって出席とみなします。課題の得点は締切後にフィードバックします。

(3) 4月に入ってから完全オンライン授業の場合
学生には zoom ミーティングに参加していただき、画面共有でパワーポイントのスライドや液晶ペンタブへの記入を見ていただくやり方で授業を進めます。場合によっては、固定カメラで教室を撮影し、黒板書きを見ていただくこともあります。zoom の接続記録と「学習支援システム」の課題提出をもって出席確認を行います。YouTube で講義録画をストリーム配信する場合もあります。課題の得点は締切後にフィードバックします。

(1)～(3)とも、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。また、提出された課題に対する解答の中からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業を始めるに当たり、測定と単位	1.4～1.6 節、アンケート、教科書の説明、13 回分の講義の紹介、SI 単位系、SI 接頭語、単位の変換
2	元素と周期表、分子と化学式、化学反応式	2.1～2.4 節、周期表に基づいて元素を分類する、化学反応式の両辺で原子を釣り合わせる
3	モルと物質質量、実験式と分子式、化学反応での化学量論計算	3.1～3.7 節、モルと物質質量の概念、分子量、化合物の組成を決める、限定物質を見定める
4	原子模型と原子スペクトル	7.1～7.4 節、水素原子のスペクトルと光の波長と振動数、ボーアのモデルから遷移エネルギーを計算する
5	波動力学、原子中の軌道、元素の電子配置	7.5～7.8 節、主殻と副殻に電子を詰めていく、周期表の周期と族、電子配置を予測する
6	電子の空間分布、化学結合、周期表と元素の特性	7.9～7.10 節、原子軌道の密度分布、原子核の正電荷が内殻電子によって遮蔽される、イオン化エネルギーと電子親和力の定義

7	中間試験	電卓のみ持ち込み可、時間があれば問題の解説
8	化学結合の種類、ルイス記号	8.1～8.4 節、イオン結合と共有結合、価電子をルイス記号で表す、オクテット則とは？
9	共有結合とルイス構造	8.5, 8.7 節、オクテット則に基づきルイス構造を描く、結合の性質と結合次数を関連付ける
10	極性分子、電気陰性度、共鳴	8.6, 8.8, 8.9 節、原子が共有結合電子を引き付ける力、双極子モーメントの定義、ルイス構造による共鳴構造を図解する
11	共有結合と分子の形、VSEPR 理論	9.1, 9.2 節、分子の形を分類分けする、電子群の数と取りうる分子構造との関連性、VSEPR 理論で分子やイオンの形を予言する
12	分子の極性、原子価結合法	9.3～9.5 節、分子の極性を予言する、化学結合は原子軌道同士の重なりで形成される、軌道単位図
13	混成軌道、多重結合、共鳴	9.6 節、混成軌道と VSEPR 理論、 σ 結合と π 結合を区別する、多重結合を説明する、分子内の各原子が利用する混成軌道を判別する
14	分子軌道論、全講義のまとめ	9.7 節、分子軌道論の概念を学ぶ、二原子分子の結合と軌道相互作用を説明する、後半の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
定期的に Hoppii にアップロードされた教材の該当箇所を読んで、テストなどに解答して提出してください。

【テキスト（教科書）】

「ブラディ・ジェスパーセン 一般化学（上）」、小島憲道 監訳、東京化学同人、税抜 3200 円 できるだけ早めに購入してください。購入方法は専任の先生の方針や指示に準じます。

【参考書】

「P.Atkins・J.Paula 物理化学（上）」、千原・中村訳、第8版、東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）、期末試験（50%）と中間試験（40%）に基づいて評価します。いずれの試験も、電卓のみ持ち込みを認めます。ハイフレックス授業における自宅からの参加学生に対しては、各授業に付随する課題の得点も評価に加えます。

【学生の意見等からの気づき】

2015 年度後期に上記内容の講義を行ったところ、「もっと前に習いたかった」という意見が出たので、「物理化学概論 I」と「同 II」でお互いの内容を交換することとした。続いて、2016、2017 年度は本質的な改善を求める意見は見当たらなかった。ブラディの教科書は概して好評であった。2018 年度の途中で、期末試験での主評価だけでは試験範囲が広すぎて平均点が極めて低くなる恐れがあると懸念し、急速、中間試験を「持ち込みなし」に変え、期末試験と中間試験の二つで成績を等配分で評価することとした。2019 年度は特段の意見はなかった。

【学生が準備すべき機器他】

ネットワークにつながった PC が必要です。
Hoppii に登録し、メールでの「お知らせ」や新たな教材があった際には、それに対応してください。

【その他の重要事項】

授業に遅刻したり、授業中に無断で中座したりしないでください。毎回、忘れずに電子出席登録を行ってください。

【Outline and objectives】

Students will receive education about the basic fields of chemistry. They can develop not only study skills required in university-level science courses but critical thinking skills enabling them to solve chemistry problems with incorporating their accumulated knowledge. Topics to be covered in this course are the periodic table, stoichiometry, introductory quantum theory, atomic structure, and the basics of chemical bonding.

MAC200YB

物理化学概論 I I

見附 孝一郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平衡状態の熱力学は化学の根本理論の一つであり、19 世紀末、その基本概念については現代の姿にまでおよそ達していた。アボガドロ数個の粒子の集団が演ずる自然現象を、たった 8 個の状態関数だけで定量的に記述できるということが、熱力学の特質であり、学ぶ者にとっての醍醐味であるとも言える。この授業では、内部エネルギー、エンタルピー、エントロピー、自由エネルギーといった状態関数およびエネルギーの移動形態である仕事と熱に焦点を当てて、それら諸量の本質の意味を理解し、練習問題を通して相転移や化学平衡現象への応用力を養う。

【到達目標】

(1) 熱力学の基本概念である系と外界を設定し、それらの間のエネルギー移動の形態を知る。(2) 熱力学第一法則と第二法則に慣れ親しみ、熱機関の発達や永久機関の不合理性と関連付ける。(3) 閉鎖系のエントロピー増加則と熱力学第二法則に関する数学的表現を、微分形・積分形の両方で使いこなせるよう習熟する。(4) 熱化学を様々な実例に應用できるよう、標準生成エンタルピーや絶対標準エントロピーの運用手順を把握する。(5) 8 つの状態関数とそれらの変化量に関わる数学的表現を学ぶ。(6) 化学反応に関わる自然現象を追究するに当たり、ギブズ自由エネルギー変化を評価することの有用性を実感し、気相化学反応や相転移現象を例にして開放系の熱力学理論の初歩を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

(1) 9 月に入ってから対面授業の場合

主にパワーポイントを使って説明し、式変形の詳細などには黒板書きも利用します。パワーポイントの全内容を、4 スライド分 1 ページにまとめて配布します。ときどき質問を投げかけて、答えや解答方針を口頭で説明してもらいます。第 7 回前後に中間テストを実施します。

(2) 9 月に入ってからハイブリッド授業の場合

パソコン、液晶ペンタブを用いて、教室内の学生にはプロジェクターとスクリーンでパワーポイントのスライドを示します。黒板書きではなく液晶ペンタブに文字や数式を書きます。自宅の学生には zoom ミーティングに参加していただき、画面共有で教室内の学生と同じスライドやペンタブへの記入内容を見ていただくことができます。自宅学生は、zoom の接続記録と「学習支援システム」の課題提出をもって出席とみなします。課題の得点は締切後にフィードバックします。

(3) 9 月に入ってから完全オンライン授業の場合

学生には zoom ミーティングに参加していただき、画面共有でパワーポイントのスライドや液晶ペンタブへの記入を見ていただくやり方で授業を進めます。場合によっては、固定カメラで教室を撮影し、黒板書きを見ていただくこともあります。zoom の接続記録と「学習支援システム」の課題提出をもって出席確認を行います。YouTube で講義録画をストリーム配信する場合もあります。課題の得点は締切後にフィードバックします。

(1) ～ (3) とともに、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。また、提出された課題に対する解答の中からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の紹介、熱力学の歴史、必要性、意義や恩恵	アンケート、2 回目以降の授業内容の紹介、熱力学を学ぶ理由、熱力学の系譜
2	熱力学の基本概念、状態関数	系と外界、8 つの状態関数、可逆過程と不可逆過程
3	熱力学の基本概念、温度とエントロピー	量子単位への粒子配分、ボルツマン分布、熱力学的宇宙のエントロピー増加
4	熱力学第一法則	エネルギー保存則、内部エネルギー、仕事と熱、体積膨張と収縮
5	熱力学第二法則の概念	クラウジウスの記述、ケルビン卿の記述、循環過程と熱機関
6	熱力学第二法則の利用	相転移、等温変化、断熱変化、自由膨張
7	中間試験	熱力学第一法則と第二法則の復習、試験の解答と問題解説
8	エンタルピーとギブズ自由エネルギー	熱力学の基本方程式、定圧過程でのエンタルピー変化と熱、等温定圧過程での自由エネルギー変化

9	熱測定、熱容量	発熱過程と吸熱過程、熱容量の定義、定積熱容量と定圧熱容量、固体や液体の熱容量
10	化学反応とエンタルピー	標準生成エンタルピー、標準反応エンタルピー、物性表の見方
11	化学反応と相転移に関する状態関数変化の一般的表現	化学量論係数、反応進行度、反応エンタルピーと反応エントロピーの温度依存性、
12	化学反応と自由エネルギー	自由エネルギーの圧力依存性と温度依存性（理想気体）、化学ポテンシャル、反応の自発性、化学平衡
13	化学平衡の法則	気相化学反応、圧平衡定数と標準ギブズ自由エネルギー変化、モル分率と分圧、アンモニアの合成反応、
14	相転移と化学ポテンシャル	蒸気圧の計算、状態図、気液平衡線、クラペイロン・クラウジウスの法則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】式変形や具体的計算に必要な高校生レベルの数学、とくに指数・対数関数と微分・積分を復習しておきます。前週のプリントの内容を授業前に見て、記憶を呼び覚ましておきます。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。熱化学や化学平衡の最終式や実例に関しては、高等学校の「化学」の教科書に載っていることが多いので、高校時代の教科書や問題集を見返すことには意義があります。

【参考書】

「ブラディ・ジェスパーセン 一般化学（下）」、小島 監訳、東京化学同人
「P.Atkins・J.Paula 物理化学（上）」、千原・中村訳、第 8 版、東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）、期末試験（50%）と中間試験（40%）に基づいて評価します。いずれの試験も、電卓のみ持ち込みを認めます。ハイフレックス授業における自宅からの参加学生に対しては、各授業に付随する課題の得点も評価に加えます。

【学生の意見等からの気づき】

2016 年度には、「抽象的な法則の説明が多いのもっと実例をあげて欲しい」との意見が出された。試験答案をみると、繰り返し言及したことについても抜け落ちている学生が多いので、内容を少し平易にし、要点のみ伝える必要があると感じている。2017 年度以降の 3 年間は特段のコメントはなかった。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。授業に出席の際は、毎回、忘れずに電子登録してください。

【その他の重要事項】

前期の物理化学概論 I を履修していなくても問題ありません。関数電卓は必需品なので準備しておいてください。

【Outline and objectives】

Equilibrium thermodynamics is the basic theory of chemistry, the fundamental concepts of which had reached their present form at the end of the 19th century. Any system containing the vast number of particles can be satisfactorily described by eight state functions alone. This aspect of thermodynamics has been fascinating many scientists for more than 150 years. A request will be made to pay particular attention to the state functions called internal energy, enthalpy, entropy, and free energies, as well as the energy transferred between the systems as heat and work. The main objective of this class is to acquire the knowledge of these quantities and learn the problem solving skills on phase transitions and chemical equilibrium.

BAM200YB

生理病理学

丸井 朱里

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生理学」とは、主に生体の機能や作用についての学問であり、さまざまな病理・病態を理解する上での基礎となる学問である。「生理学的」という言葉は、生体内での正常な過程を意味し、しばしば「病理学的」という言葉の対語として用いられる。本講義では、生理学の基礎的な内容について幅広く取り扱い、生理機能についての体系的な理解を目指す。また、生活習慣病などの、身近な疾病に関する病理・病態についても取り上げる。

【到達目標】

生理学の基礎的な内容について体系的に理解すること。また、生理機能の異常により生じるさまざまな疾患の病理・病態について理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

神経系、骨格系、循環・呼吸系、内分泌系などの生理機能について、基礎的な内容を解説する。それぞれの生理機能の異常により生じる疾患の病理・病態についても紹介していく。授業終盤に、講義の理解度を把握するために小テストを各回実施する。また講義後には質問や感想を提出してもらい、学生の理解度を考慮しながら講義を進めていく。適宜、課題に対する講評や解説について全体にフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生理学、病理学の基礎	恒常性の維持、生活習慣病
2	血液と体液	体液区分、血液細胞
3	循環系	心臓の循環調節
4	呼吸系	ガス交換と呼吸運動の調節
5	消化系	消化器の運動・吸収
6	尿の生成、排泄	腎機能、体液調節
7	代謝	基礎代謝、代謝測定
8	体温調節	熱収支、概日リズム、性周期
9	内分泌系	ホルモンの種類と作用
10	脳	ヒトの脳、睡眠
11	筋収縮	骨格筋、心筋、平滑筋
12	神経系	神経系の基礎、自律神経系
13	感覚系	視覚・聴覚などの感覚器
14	期末試験	これまでの講義内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各講義の内容は互いに関連しているので、しっかりと復習を行い、各講義の内容を理解しておくこと。各回の小テストは成績評価に用いません。内容理解・復習に役立ててください。

【テキスト（教科書）】

特になし。講義内容に関連する資料を適宜配布する。

【参考書】

やさしい生理学 彼末一之・能勢博 編 南江堂
はじめの一步のイラスト病理学 深山正久 編 羊土社

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30 %）と期末試験（70 %）の成績により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容の量やスピードに注意する。

【Outline and objectives】

Physiology is an academic discipline for understanding of function of organisms, is a basis for understanding of various pathologies. The term “physiological” means a normal body condition, and is often used as a term opposite to the term “pathological”. In this lecture, we deal with fundamental contents of physiology broadly and aim at systematic understand of physiological functions. We will also cover the pathology related to familiar diseases.

BLS300YB

細胞工学

廣野 雅文

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞構成分子の機能を解明する手段として使われる様々な細胞工学的技術について、それらの基盤となる細胞膜と細胞骨格の構造と性質を学び、技術的な原理を理解する。

【到達目標】

細胞膜と細胞骨格の物質的基盤、基本的構造と機能を理解する。その上で、細胞の構成分子の生理的機能を解析する手段として使われてきた、様々な細胞改変技術の具体例とそれらの基本原理について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

対面またはオンラインで講義する。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問があれば同時に提出する。すべての質問は一覧にして回答とともに授業支援システムに数日以内にアップロードしてフィードバックする。また、使用する図などの資料は、PDF ファイルとして学習支援システムにアップロードする。各回の授業方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	工学と理学の違い、細胞質工学とは、細胞質工学に用いる技術
第 2 回	生体膜の重要な性質	選択的透過性、エネルギー変換、情報伝達、電気的興奮
第 3 回	生体膜の基本的な構造	リン脂質、脂質 2 分子層構造と解明の歴史、膜の流動性、流動モザイクモデル
第 4 回	膜の透過性	Fick の式、透過係数
第 5 回	膜の輸送-1	受動輸送と能動輸送、単純拡散、促進拡散、担体輸送、チャンネル輸送
第 6 回	膜の輸送-2	一次能動輸送、二次能動輸送、膜動輸送
第 7 回	膜電位	膜電位の発見、Nernst 電位、静止膜電位、活動電位
第 8 回	微小管の構造と性質	チューブリンと微小管の構造、チューブリンの重合、微小管の動的不安定性
第 9 回	細胞内微小管	微小管結合タンパク質による微小管形成の調節、gamma-チューブリン環状複合体
第 10 回	微小管モータータンパク質	キネシンの分子構造と多様性、キネシンと微小管の相互作用、ダイニンの分子構造、ダイニン-微小管の相互作用
第 11 回	キネシン、ダイニンが担う細胞運動	色素細胞の色素胞輸送機構、軸索輸送機構、鞭毛内輸送機構
第 12 回	有糸分裂における微小管の機能	紡錘体、有糸分裂の過程、紡錘体の構造と形成機構、染色体の分離機構
第 13 回	中心体	中心体・中心子・PCM、中心子と繊毛、中心子の基本構造、中心子の複製と新規形成、複製回数制御
第 14 回	繊毛の構造と機能	運動性繊毛と非運動性繊毛、繊毛の機能、繊毛の構造、繊毛の運動機構

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義後にノートとプリントを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義内容へのすべての質問に対して回答の一覧を授業支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配付する。

【参考書】

Bruce Alberts：「細胞の分子生物学」第 5 版、ニュートンプレス

Benjamin Lewin:「細胞生物学」東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに提出する課題 10%、中間試験 40%、期末試験 50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業後の課題としてだすクイズの正解は、資料をみれば簡単にわかるので、あえて知らせていなかったが、やはり知りたいという声が複数あったので、今年度からは質問への回答とともに授業支援システムにアップロードすることにした。

【その他の重要事項】

実務経験：理化学研究所基礎科学特別研究員。このときから行っている先端的研究の成果を授業内で説明している。

【Outline and objectives】

This course provides an overview of cell technologies used in the field of cell biology, such as DNA introduction into cells, GFP-tagging of proteins, cell fusion, and cell manipulation. To understand the principles of these technologies, the course will cover topics of structures and functions of biomembrane and cytoskeleton.

BLS300YB

細胞情報学

川岸 郁郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、細胞生物学 I, II, 生物化学 I, II, 分子生物学 I, II, 生物物理学 I, II, および細胞構造機能学 I, II, 蛋白質構造機能学 I, II, ゲノム構造機能学 I, II で学んだ内容を踏まえ、真核細胞・原核細胞における細胞内シグナル伝達の分子機構およびその研究方法について、具体例（とくに感覚応答系）とともに学ぶ。

【到達目標】

細胞内シグナル伝達の基礎的概念および基本的な研究方法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

あらゆる細胞は細胞外からのシグナルを受け取りそれに応答する。その仕組みを理解することは、生命機能の研究に必須である。本講義では、シグナル伝達の原理について概説し、真核細胞および原核細胞におけるシグナル伝達の分子機構について解説する。とくに感覚応答系については詳述する。

講義の実施形式は、COVID-19 感染の状況を考慮して決定するが、今のところ、対面とオンライン（Zoom リアルタイム）の併用で行う予定である。スライドと板書（オンラインではスライドへの書き込み）を用いて進める。必要に応じて質疑応答や議論なども行い、双方向性を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	受容体と細胞内シグナル伝達系
2	受容体-序論	受容体の分類と構造・機能
3	受容体-1	イオンチャネル共役型受容体
4	受容体-2	G タンパク質共役型受容体
5	受容体-3	酵素共役型受容体
6	中間テスト-1	ここまでの講義内容に関するテスト
7	受容体下流の経路-1	二次メッセンジャー
8	受容体下流の経路-2	蛋白質キナーゼカスケード
9	受容体下流の経路-3	アダプター、足場タンパク質など
10	中間テスト-2	ここまでの講義内容に関するテスト
11	真核細胞の感覚応答系-1	視覚
12	真核細胞の感覚応答系-2	嗅覚・味覚
13	真核細胞の感覚応答系-3	その他の感覚
14	原核細胞の環境応答系	二成分制御系等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業中に指示する内容について、参考書や原著論文等で復習し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

エッセンシャル 細胞生物学 原書第2版 B. Alberts 他著 南江堂
ストライヤー 生化学 第7版 東京化学同人
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞中間テスト（20%）・期末テスト（70%）の成績を総合し、平常点（10%）を加味して評価する。

＜評価基準＞細胞内シグナル伝達機構の基本概念を理解しているか、その知識を具体的な事例の解釈に適用できるか。

【学生の意見等からの気づき】

スライドと板書のバランスに留意する。適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

随時小テストを行い、理解度をモニタする。また、講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。授業の進め方は、理解度等をもとに調整する。

【Outline and objectives】

Signal transduction in a cell or between cells is essential for any biological phenomena. The aim of this lecture is to learn general mechanisms underlying cellular signal transduction, with considerable emphasis on animal and bacterial environmental sensory systems, and approaches to study them, based on the knowledge gained from the lectures, Cell Biology I, II, Biological Chemistry I, II, Molecular Biology I, II, Biophysics I, II as well as Cell Structure and Function I, II, Protein Structure and Function I, II, and Genome Structure and Function I, II.

BLS300YB

神経科学**高田 耕司**

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

動物がもつ中枢・末梢の神経系は、個体と外界をつなぐ情報処理システムです。神経系によって動物は環境の変化を感知し、生理機能を調節します。生命を維持し、種を存続させるための行動も神経系の働きによるものであり、記憶・学習・情動・意思決定などの認知・精神機能も神経系によって営まれます。「神経科学」の授業では、このシステムの基本的なしくみの理解を目指します。受講生は、ヒトの身体と精神の成りたちを科学的に理解するため、神経系の成り立ちや神経細胞による情報伝達の機構を学修し、記憶のメカニズム、危険薬物の作用、神経変性疾患や精神疾患などの病気について学びます。

【到達目標】

- 1：脳・神経系の全体像が説明できる。
- 2：神経系の細胞群の特徴と機能が説明できる。
- 3：神経の伝導と膜電位の関係を説明できる。
- 4：シナプスにおける神経伝達の分子機序が説明できる。
- 5：神経伝達物質とその受容体の種類と特性について説明できる。
- 6：神経系への危険薬物の作用と精神疾患との関連について説明できる。
- 7：記憶や学習のなりたちや機序について説明できる。
- 8：うつ病、双極性障害、神経変性疾患と神経系の関係について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

登校授業では、配付資料に沿って講義を進め、解説にはパワーポイントと板書を併用します。遠隔授業の場合は、定期的に配信する資料とパワーポイント動画を使って自習的に学習を進めます。また、各授業において、予習・復習を目的とした複数の課題を提示し、課題の締切後、授業において解答例の公開等のフィードバックを行います。質問欄への記入に対しても授業時に随時返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	神経系 1	中枢神経系の構成と構造
2	神経系 2	末梢神経系の構成と構造
3	神経系の細胞群	神経細胞とグリア細胞
4	生体膜の役割 1	伝導・伝達と静止電位の形成機序
5	生体膜の役割 2	等価回路による膜電位の表現
6	生体膜の役割 3	活動電位による興奮の伝導
7	シナプス伝達 1	シナプス伝達概論：神経伝達物質
8	シナプス伝達 2	イオンチャネル型受容体による伝達
9	シナプス伝達 3	代謝調節型受容体による伝達
10	シナプス伝達 4	報酬回路－危険薬物と精神疾患
11	脳の高次機能 1	学習と記憶のなりたち
12	脳の高次機能 2	学習と記憶のメカニズム
13	脳の高次機能 3	気分障害と不安障害
14	脳の高次機能 4	神経変性疾患とプロテオスタシス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業時には次週に向けた予習および復習用の課題を発表します。受講者は約 1 時間の自習によって解答を用意し、次週の授業時等の締切日までに提出します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。参考書欄を参照ください。

【参考書】

授業で使う配付資料の大半の図表は下記の書籍から引用します。同書は図書館に蔵書されており、予習・復習に役立ちます。
カンデル神経科学 Fifth Edition 金澤・宮下監修（メディカル・サイエンス・インターナショナル社）

【成績評価の方法と基準】

到達目標への達成度（授業内容の理解度）は筆記による期末試験で、学習意欲は授業時の態度（平常点）と提出されたリアクションペーパーの内容で評価します。成績は、定期試験 70%、平常点・リアクションペーパー 30% で算出します。

【学生の意見等からの気づき】

神経科学は進展著しい学問分野のため、基礎知識に加えて精選した重要な知見を学習の対象とします。授業においては、時間の配分、説明の仕方、課題の工夫などを通じて、より深い理解を目指します。

【Outline and objectives】

Central and peripheral nervous systems are the information processors to connect an individual animal with outside world. Animals sense environmental changes and regulate their physiological functions by the nervous systems, resulting that animals survive for prosperity of the species. Cognitive functions such as memory and learning, as well as mental activity, are driven by the central nervous system of human. The aim of the course "Neuroscience" is to help students acquire an understanding of the fundamental structure and function of the nervous system including the molecular mechanism of neuronal signal transduction. After the students have studied these basic themes, this course deals with several scientific topics including neuronal actions of dangerous drugs, mechanisms of memory, and pathogenesis of neurodegenerative and mental diseases.

BAM300YB

分子免疫学

中村 俊博

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

免疫細胞とその表面分子。特異性の分子機構。免疫の解析手法。病原体と免疫細胞および免疫細胞間の相互作用。自然免疫と獲得免疫。免疫学を応用した疾病や感染症の診断・予防・治療。

【到達目標】

免疫現象を支えている細胞とその表面分子について理解する。それぞれの現象がどのような手法により解析されたかについても学ぶ。病原体、細胞および分子の大きさや数をイメージしながらその相互作用について考える。分子生物学的な背景が明らかになったことを応用しての疾病や感染症の診断・予防・治療に関しての理解を深める。日々の生活に免疫学がどのように関わっているかも考察する。インターネット上に蓄積されたあるいは最新の情報にアクセスし、授業の理解の補助とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイントで作成された資料および配布資料にて内容を説明する。20分程度の小テストを1～2回授業中に行う。A4用紙1枚程度で表現可能なレポートを4～5回出題する。最新の文献や学会報告の内容も適宜紹介し、免疫学の知識や概念が日々変化していることを理解する一助とする。厚生労働省や農林水産省関連の関係ホームページから提供される情報をもとに免疫学がどのように応用されているかを体験する。

オンライン授業時はWebexを用いて該当時間に実施する。資料は前日にアップロードし、講義終了後に削除する。レポートの締め切りは、出題後2週間とする。レポート出題時は資料は提出締め切り（出題2週間）に削除する。小テスト実施の次または2週間後、レポート締め切りの次または2週間後に講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	免疫学概説	ワクチンと免疫学
2	免疫担当細胞 (1)	免疫応答を支える細胞：移動細胞、自然免疫と獲得免疫に関わる細胞、細胞間のコミュニケーションとは
3	免疫担当細胞 (2)	特異的応答を支える細胞：B細胞
4	免疫担当細胞 (3)	(1)、抗体の構造と種類 特異的応答を支える細胞：B細胞
5	免疫担当細胞 (4)	(2)、遺伝子の再構成、サイトカインによる分化、FCレセプター 特異的応答を支える細胞：T細胞、遺伝子の再構成、種類と分化
6	自然免疫 (1)	抗菌ペプチド、補体、インターフェロン
7	自然免疫 (2)	パターン認識受容体
8	MHC (1)	自己と非自己、MHCの分子構造
9	MHC (2)	プロセッシングと抗原提示、多型性と多様性
10	MHC (3)	臓器移植、自己免疫疾患、アレルギー
11	解析技術 (1)	モノクローナル抗体、抗体を利用した解析技術
12	解析技術 (2)	トランスジェニックマウス、ノックアウトマウス、ゲノム編集、抗体医薬
13	細胞相互作用	細胞分化と相互作用、T細胞の分化と機能、エファクター細胞の分化・活性化、ILC、アレルギー
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業ごとの準備学習はなし。A4用紙1枚程度で表現可能なレポートを4～5回出題する。授業の最後にレポートのテーマおよび作成方法を説明する。レポートの作成にはインターネット上での文献検索などが必要。レポートは原則、出題された2週間後の授業終了時までに提出。小テストやレポートの講評を通じて理解度の確認をする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

「免疫生物学、原書第9版」、笹月健彦監訳、南江堂（2019年）の他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

理解度、表現力、情報収集力を重視し、小テスト（約10%）、レポート（約60%）および期末試験（約30%）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な事項に関しては繰り返し解説するとともに、授業中にこれらに関する質問を行う。細胞生物学、発生物学、ウイルス学等に関連する基礎的な事項の確認も行う。

【学生が準備すべき機器他】

PC等、Web検索及びオンライン時授業時に必要なデバイス。

【Outline and objectives】

Immune cells and surface molecules. Molecular mechanism of specificity. Analytical methods using immunological techniques. Interaction between pathogens and immune cells. Natural immunity and acquired immunity. Diagnosis, prevention and treatment of diseases and infections using immunological techniques.

BLS300YB

バイオイメーjing

佐甲 靖志

開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学
生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小さな生物試料を見る顕微鏡技術は古い歴史を持ちつつ発展し、様々な展開を見せています。生物顕微鏡技術の基礎から最先端まで、原理と応用例を紹介し

【到達目標】
生物試料を見ることに、どんな意義と技術的な限界があるのか、"Seeing is believing."を越えた理解を身につけてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
講義
中間レポートにおいて特に不正解者の多い設問に関する解説・講評は web site でおこなう。その他の質問はメールで受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の概要と目的について、光学顕微鏡技術の歴史など。
第 2 回	光学顕微鏡概説 1	位相差顕微鏡、微分干渉顕微鏡、蛍光顕微鏡など基本的な光学顕微鏡技術の解説。
第 3 回	光学顕微鏡概説 2	各種レーザー顕微鏡など、あたらしい顕微鏡技術の概説。
第 4 回	超解像顕微鏡 1	顕微鏡の分解能はどのように決まるか。普通の顕微鏡では達成できない高分解能を達成する技術の紹介。
第 5 回	超解像顕微鏡 2	超解像顕微鏡の続き。光を使って顕微鏡下で粒子を操る方法について。
第 6 回	分子薬理学とイメージング	多くの薬は細胞膜上の受容体に作用することで機能する。本講義では、G タンパク質共役型受容体を例に、薬の作用メカニズムについて概説し、イメージングを用いた最近の研究について解説する。
第 7 回	膜受容体の構造ダイナミクス解析	1 分子計測法によって、細胞膜蛋白質の反応や構造のダイナミクスを追跡する方法。
第 8 回	フォトンカウンティング計測 I	フォトンカウンティング検出器を用いたイメージングと計測法（FCS、FLIM等）について
第 9 回	フォトンカウンティング計測 II	フォトンカウンティング計測で蛋白質の構造ダイナミクスを計測する方法
第 10 回	発生生物学におけるバイオイメーjing I	動物の身体は、頭—尾、背—腹、左—右の軸に非対称な構造を持っている。この非対称性がどのように形成・維持されるのか、分子、細胞、胚のスケールで概観する。
第 11 回	発生生物学におけるバイオイメーjing II	バイオイメーjingが、どのように古典的実験手法を補い発生現象の理解に貢献してきたか、特に近年発展がめざましい発生動態の定量計測を基礎とした研究を概観し、新しい研究分野の発展の方向性を探る
第 12 回	蛋白質分子モーターのバイオイメーjing I	アクチンミオシン系を中心に、タンパク質分子モーターの分子の特性と機能を概説し、動作原理解明研究の為に 1 分子イメージング技術について紹介する。
第 13 回	蛋白質分子モーターのバイオイメーjing II	タンパク質分子モーター 1 に引き続き、動作原理解明研究に関する 1 分子イメージング技術を紹介する。
第 14 回	蛋白質分子モーターのバイオイメーjing III	分子モーターの産業利用への試みについて紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】もしも、自分の研究課題で、顕微鏡を使ったらと想像し、講義に望んでください。概説部分については宿題を課します。また、授業中に参考文献を提示することがありますので、読んで理解してください。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

- 【参考書】
【参考書】
1. 限界を超える生物顕微鏡（見えないものを見る）宝谷絃一・木下一彦編 日本分光学会・学会出版センター
2. 改訂顕微鏡の使い方ノート 野島博編 羊土社
3. 光と色の 100 不思議 左巻健男監修 桑島幹・川口幸人編著 東京書籍
4. 新・生細胞蛍光イメージング 原口徳子・木村宏・平岡泰編 共立出版

【成績評価の方法と基準】
平常点 (20%), 期末テスト (80%) の合計で判定します。授業の進み具合によって期末テストの一部 (20%) を中間レポートとして実施することがあります。

【学生の意見等からの気づき】
現場の若手研究者との双方向なやりとりを通じて、バイオイメーjingの実際を学んでもらいます。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【その他の重要事項】
分子生物学、細胞生物学、生化学などの基本知識があることを想定しています。

【Outline and objectives】
Technology of optical microscopy to see small biological things has developed with an old history, and is continuously developing with various innovative ideas. We will introduce principles and application examples of biological optical microscopies from the fundamentals to the cutting edge.

BLS100YB

生物化学 I I

西川正俊

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象の根幹をなす代謝の生物化学的理解を通じて、複雑な生命科学の専門的な内容を理解するための基礎知識を習得する。

【到達目標】

主な生体構成物質の構造と機能を学び、それらを基盤として細胞・個体レベルの生命現象が成り立つしくみを化学の視点から理解する。生物化学 II では多種の酵素による反応過程が集積して実現される代謝経路について、制御機構と反応様式を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

板書を基本とする。講義に必要な図等についてはプロジェクターを用いる。用いたファイルは授業支援システムにアップロードし、履修者が閲覧できるようにする。講義後に出た質問やコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	生物化学における基本概念の確認
2	基本概念 1	代謝経路の反応が示す不可逆性と自発性について
3	基本概念 2	代謝経路に現れる反応モチーフについて
4	生体のエネルギー変換機構	酸化的リン酸化とエネルギー変換
5	糖代謝 1	解糖系について
6	糖代謝 2	糖新生について
7	糖代謝 3	解糖系と糖新生の制御機構について
8	TCA サイクル	TCA サイクルで生じる反応の不可逆性とその制御
9	まとめと演習	好気呼吸の制御と収支について
10	脂質代謝 1	脂肪酸分解
11	脂質代謝 2	脂質の合成
12	代謝制御	代謝経路のホルモン制御
13	光合成 1	明反応
14	光合成 2	暗反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】ノートや参考書を用いた復習をすること。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ストライヤー生化学, J. M. Berg 他

レーニンジャーの新生化学, David L. Nelson 他

【成績評価の方法と基準】

成績評価法：期末テスト：60%，レポートや小テスト：40%

評価基準：細胞内で起こっている脂質、タンパク質の代謝反応がどのように起こっているかの理解度

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生の質問を引き出せるような授業にする。

【その他の重要事項】

実務経験: 理化学研究所 発生・再生総合科学研究センター 研究員。この経験を通じて得た最先端の生化学的知見について紹介する。

【Outline and objectives】

We will see biochemistry of metabolism, with the aim of understanding how a cell establishes its living states through chemical reactions mediated by enzymes.

BLS100YB

生物物理学 I

西川正俊

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は生命システムの研究において必要となる物理の基礎を学ぶ。前半で力学について基本から解説し、巨視的なスケールのバイオメカニクスについて学ぶ。後半では流体力学を概説し、生命科学において重要な役割を果たす液体のふるまいについて学ぶ。

【到達目標】

この授業では、さまざまな生命現象を物理学的な視点から理解するために必要な力学を基本から学ぶ。細胞内における分子の動きやエネルギー共役を定量的に議論する基盤を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

板書を基本とする。講義に必要な図等についてはプロジェクターを用いる。用いたファイルは授業支援システムにアップロードし、履修者が閲覧できるようにする。講義後に出た質問やコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	生物物理学とは何か？ について解説する。
第 2 回	運動について	分子・細胞・個体のスケールで見る運動の違いについて解説する。
第 3 回	力学 1	単位系について解説する。
第 4 回	力学 2	運動について解説する。
第 5 回	力学 3	力と運動方程式について解説する。
第 6 回	力学 4	運動量とエネルギーの保存法則について解説する。
第 7 回	力学 5	過減衰系の運動について解説する。
第 8 回	まとめと演習 1	バイオメカニクスについてのまとめと演習テストをおこなう。
第 9 回	流体力学 1	静力学について解説する。
第 10 回	流体力学 2	表面張力について解説する。
第 11 回	流体力学 3	非粘性流体の流れについて解説する。
第 12 回	流体力学 4	粘性流体の流れについて解説する。
第 13 回	流体力学 5	レイノルズ数による流れの特徴づけについて解説する。
第 14 回	まとめと演習 2	バイオメカニクスについてのまとめと演習テストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】生物現象に見られる力学についての演習問題を講義の中で取り扱う。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるを得ないので、各自で確認をおこなう。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

ゼロからの力学 I, II, 岩波書店,
Essential 細胞生物学 原書第 2 版, 南江堂

【成績評価の方法と基準】

中間試験 (40 %) と期末試験 (60 %) の結果を元に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題を通じて具体的な理解をめざす。

【その他の重要事項】

実務経験: 理化学研究所 発生・再生総合科学研究センター 研究員。この経験を通じて得た最先端の生化学的知見について紹介する。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the physics of biological systems. We will establish an understanding of the basic concepts of mechanics at macroscopic scale and then will build the understanding of key principles of fluid mechanics.

BLS100YB

生物物理学 I

曾和義幸

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物物理学は、物理学的な考え方や手法を用いて生命現象を理解しようとする学問である。講義の前半では、生体分子（主にタンパク質）の立体構造形成や、タンパク質のエネルギー変換機構について概説する。後半では、生体内で起こる数多くの化学反応についてエネルギー共役を中心とした物理学的な視点で理解するために、生体エネルギー論を基本から解説する。また、基本的な考え方や手法を解説するとともに、最先端の技術についてもトピックスとして紹介する。

【到達目標】

この授業では、タンパク質の立体構造形成やエネルギー共役について知識を深めること、生体エネルギー論の基本を学び、生体内における化学反応について物理学的な視点から理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、生体分子（主にタンパク質）の立体構造形成について概説し、生体内で起こるエネルギー変換の例を紹介する。後半では、生体内で起こる数多くの化学反応についてエネルギー共役を中心とした物理学的な視点で理解するために、生体熱力学を基本から解説する。基本的な考え方や手法を解説するとともに、最先端の技術についてもトピックスとして紹介する。講義内では授業内またはレポートとして演習をおこなうが、提出後に解説をおこなってフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の概要	講義の進め方を説明する。生体内の化学反応について概説する。
2	タンパク質の構造 1	アミノ酸の性質とタンパク質構造の階層性について復習する。
3	タンパク質の構造 2	タンパク質の構造についての基礎について復習する。
4	タンパク質の構造 3	アンフィンセンのドグマとレヴィンタールのパラドックスについて解説する。
5	タンパク質の実験手法 (1)	タンパク質のサイズの定量について解説する。
6	タンパク質の実験手法 (2)	タンパク質の構造解析について概説する。
7	まとめと演習 1	タンパク質の構造形成と機能について、まとめと演習テストをおこなう。
8	細胞のエネルギー通貨	ATP の構造と加水分解エネルギーについて解説する。
9	熱力学の基礎 1	熱力学の法則について概説する。
10	熱力学の基礎 2	ギブスの自由エネルギーについて概説する。
11	熱力学の基礎 3	エネルギー共役について概説する。
12	細胞内の代謝	細胞内の代謝について熱力学の観点から概説する。
13	細胞内分子のイメージング	細胞内分子の力学・エネルギー共役をイメージングする手法について概説する。
14	まとめと演習 2	エネルギー論と細胞内イメージングについて、まとめと演習テストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】生体エネルギーについての演習問題を講義の中で取り扱う。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるを得ないので、各自で確認をおこなう。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では、視覚的教材やプリントを使用する。

【参考書】

Essential 細胞生物学 第 2 版, 南江堂

細胞の分子生物学 第 5 版, ニュートンプレス

物理化学や化学熱力学の一般的な参考書

【成績評価の方法と基準】

中間試験 (40%)・期末試験 (60%) の合計点数によって評価する。ただし、オンライン授業になった場合は、適宜課す予定のレポート・演習で評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

タブレットでの板書の字が読みにくいという指摘があったので注意する。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用することがある。

【その他の重要事項】

元学術調査官（文科省）で科研費・新学術領域を担当した経験から、生物学と物理学の異分野融合に重点をおいた講義をおこなう。

【Outline and objectives】

The course deals with the basis of biophysics, with fundamental thermodynamics in biology.

BLS100YB

細胞生物学 I

金子 智行

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

遺伝情報の収納庫としての「核」を中心とした細胞の構造と機能について学ぶ。

【到達目標】

生物の基礎単位である細胞の物質的基盤・分子構成と、細胞としての反応性や細胞単位での生命機能を論理的に理解し、その基盤である生命機能が発現する過程を統合的に理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

生命体の最小基本単位である細胞を構成する小器官の構造と機能や生体反応の仕組みを学ぶことによって、生命機能発現の仕組みと制御機構の基礎を理解することを目指す。授業中に適宜課題を与えレポート提出を求め、2回の中間試験で理解到達度を測り、理解度を鑑みながら授業を進める。大学の行動方針レベルに応じてオンライン（Zoom）でも開講し、具体的な方法については学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	核の構造と機能	核の基本構造と特徴
2	細胞の進化	原始地球における生命の誕生から多細胞生物への進化の過程
3	原核生物と真核生物	原核生物と真核生物の違い
4	真核生物の染色体	染色体の構造と機能
5	ミトコンドリア・葉緑体のDNA	細胞内小器官に独自に存在する遺伝情報
6	核輸送、小胞輸送	核膜を通した核輸送やゴルジ・小胞体による輸送
7	中間試験-1	ここまでの理解到達度確認と試験の解説および補足
8	細胞表層や核内の受容体	細胞表層や核内にある受容体の構造や機能
9	細胞分裂や生殖と減数分裂	有糸分裂の機構や減数分裂の意義や仕組み
10	細胞周期	細胞周期の分類や制御機構
11	細胞間コミュニケーション	間接的、直接的な細胞間コミュニケーションの方法
12	細胞から個体へ	多細胞生物の成り立ちと細胞集合と識別
13	中間試験-2	中間試験-1以降の理解到達度確認と試験の解説および補足
14	まとめと解説	全体の理解度確認と解説および補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 予習と復習
2. 授業中適宜与えられた課題についてのレポート作成

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

石崎・丸山 監訳・翻訳 「アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学」 講談社

他は授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験 50 %・中間試験（1 と 2）20 %・レポート課題 15 %・平常点 15 %の成績を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

PowerPoint 図の印刷体配布要望があったが、授業中に紹介した参考書を紐解けば見つかる図表が大部分であるので、自主的学習能力を充進させる為には望ましくないと判断。

【学生が準備すべき機器他】

レポート課題提出には学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

授業内での質問を随時受け付ける。

財団法人の研究員の経験を活かし、先端研究の紹介等を含めて授業を行う。

【Outline and objectives】

learning about the structure and function of the cell mainly on "the nucleus" as the storage of the genetic information.

BLS100YD

細胞生物学 I

小見 美央

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞とは何か、生命とは何か、全ての生物に共通しているものは何なのか。細胞の構造、細胞内小器官の機能、生体膜と膜タンパク質といった基本事項を学び、現在世界に大きなインパクトを与えている、ウイルスと人類の戦いを細胞生物学の視点から理解する。

【到達目標】

細胞の構成を学び、生命が機能する仕組み、生命体とウイルスとの違いを統合的に理解する。主に、私たちにとって最も身近な生物であるヒトを例にとり、ウイルスが体内で増殖する機構や体の防御機構について細胞生物学の視点から理解を深めていく。学生がインプットした知識を問題解決に向けてアウトプットすること、ひいては問題解決のために必要な知識を自力で見極め、探索し、アウトプットできるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義を中心に行う。適宜、参考資料として動画や外部ウェブサイトを紹介しながら講義を進める。レポート課題（プレゼン資料作成）を3つ課す予定。うち2つは教員だけでなく学生同士でも共有し、フィードバックしあう。毎回の講義の後にレスポンスペーパーを提出してもらい、翌週フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	生物とは何か	生物の定義
第2回	細胞とは何か	細胞の歴史
第3回	細胞を構成するもの	細胞小器官 階層構造
第4回	代謝・エネルギー	呼吸 酸化的リン酸化
第5回	細胞膜	膜の構成 膜の機能
第6回	細胞骨格	細胞骨格の種類 モータータンパク
第7回	シグナル伝達	細胞間シグナル伝達 細胞内シグナル伝達
第8回	発生・生殖	細胞の誕生と死 細胞周期
第9回	老化	細胞の老化 寿命 幹細胞
第10回	脳	神経細胞 シグナル伝達
第11回	疾患の生物学	がん 感染症
第12回	免疫	免疫応答の仕組み
第13回	バイオテクノロジー	幹細胞 iPS細胞
第14回	まとめ	倫理 総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

主に復習（授業で用いたスライドを google classroom にアップロードするので適宜確認したり参考動画を視聴したりする）と、課題であるプレゼン資料作成のための調査など。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

Essential 細胞生物学 原書第3版 Bruce Alberts

理系総合のための生命科学第4版 東京大学生命科学教科書編集委員会／編

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（25%×2+最終40%）および平常点（10%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義スライドに関して、図が多すぎて字が少なすぎるとの指摘があったため、バランスを改善します。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンがあると便利です。授業内で使用することがあるため、できれば Wifi 接続できるラップトップパソコン、タブレット端末等を持参してもらいたいですが、必須ではありません。資料配布や課題提出には Google classroom を使用する予定です。

【その他の重要事項】

Google classroom を利用するので、履修する学生は初回の授業内で法政大学のメールアカウントで google にログインできるようにしておいてください。

【Outline and objectives】

This course provides a firm foundation in basic cellular biology with an emphasis on eukaryotic cell structures. Topics include organelles, membranes, membrane proteins, and cytoskeletons. Upon completing this course, students will be able to diagram the structure of eukaryotic cells, describe structures and functions of organelles, understand concepts such as signal transduction, intracellular transport, and function of the cytoskeleton. We will also discuss the arms race between viruses and us, and in the end, students will be able to comprehend the current situation of COVID-19 pandemic from cellular biology-point of view.

BLS100YB

細胞生物学 I I

川岸 郁朗

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物の基本単位である細胞の構造を理解する。とくに、生体膜と細胞骨格の構造と性質およびそれらが関与する細胞機能について理解する。

【到達目標】

生物の基礎単位である細胞の物質的基盤・分子構成、および細胞としての反応性や細胞単位の生命機能を論理的に理解し、その基盤である生命機能が発現する過程を統合的に理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

細胞は生物の基本単位であり、その構造と機能を理解することは、生命機能の研究に必須である。本講義では、おもに真核生物の細胞の構造について、とくに生体膜と細胞骨格に重点を置いて概説する。さらに、生体膜と細胞骨格が関与する代表的な細胞機能として、細胞のシグナル伝達や細胞運動のメカニズムについて概説する。

講義の実施形式は、COVID-19 感染の状況を考慮して決定するが、今のところ、対面とオンライン（Zoom リアルタイム）の併用で行う予定である。スライドと板書（オンラインではスライドへの書き込み）を用いて進める。必要に応じて質疑応答や議論なども行い、双方向性を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	生命の階層性、細胞とは（大きさ、形）、細胞小器官の構造、細胞内区画化の意義
第 2 回	生体膜-1	脂質二重層
第 3 回	生体膜-2	脂質二重層の流動性
第 4 回	生体膜-3	膜蛋白質
第 5 回	これまでの復習-1	中間テスト
第 6 回	膜輸送-1	生体膜の透過性
第 7 回	膜輸送-2	受動輸送、イオンチャネル
第 8 回	膜輸送-3	能動輸送
第 9 回	細胞のシグナル伝達-1	受容体
第 10 回	細胞のシグナル伝達-2	細胞内シグナル伝達因子
第 11 回	これまでの復習-2	中間テスト
第 12 回	細胞骨格-1	微管
第 13 回	細胞骨格-2	マイクロフィラメント、中間径フィラメント
第 14 回	細胞骨格-3	細胞骨格の動態、モータータンパク質

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
授業中に指示する内容について、参考書や原著論文等で復習し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

Essential 細胞生物学 原書第 3 版 Bruce Alberts 他 南江堂
基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 和田勝 羊土社

その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価基準＞中間テスト（20%）・期末テスト（70%）の成績を総合し、平常点（10%）を加味して評価する。

＜評価基準＞細胞の構造、とくに生体膜と細胞骨格の構造と機能について理解しているか、その知識を具体的な事例の解釈に適用できるか、よく分からない点について自ら積極的に調べ、考察できるか。

【学生の意見等からの気づき】

スライドと板書のバランスに留意する。適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

随時小テストを行い、理解度をモニタできるようにする。ただし、小テストの点数は成績評価には含めない。また、講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向性を確保する。授業の進め方は、理解度等をもとに調整する。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to understand basic structural features of the cell, a smallest unit of any organisms, with much emphasis on structures and functions of biomembrane and cytoskeleton.

PRI100YB

生物統計学

谷合 弘行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計的推測の基本的な考え方を理解し、データ分析における標準的な手法を習得します。

【到達目標】

まず、記述統計の手法を習得し、得られたデータの傾向などを読み取る操作ができるようになります。

そして、統計的推測の仕組みを理解することで、データを生成しているであろう構造についての推定や検定について考えられるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

統計学とは得られたデータへ我々が与える解釈に関する方法論のことで、統計的手法は多岐にわたります。本講義ではそれら手法を多く紹介して慣れることよりも、それらの基礎にある考え方の理解を目指します。

授業は板書とプリント配布を併用して行います。試験は資料持ち込み可ですが、問題としては基本的なものを予定しています。

また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	準備としての確率論 (1)	確率の意味、積分
2	準備としての確率論 (2)	分布、期待値、分散
3	準備としての確率論 (3)	二項分布、正規分布
4	準備としての確率論 (4)	条件付き確率、共分散
5	準備としての確率論 (5)	正規分布の意味
6	統計モデルと統計量	母集団と標本、最小二乗法
7	統計的推定 (1)	推定量の良さ、最尤推定量
8	統計的推定 (2)	信頼区間、母平均の区間推定、標本数の決定
9	統計的推定 (3)	カイ二乗分布、t 分布、母分散未知での推測
10	仮説検定 (1)	検定の考え方、検定の良さ
11	仮説検定 (2)	母平均に関する検定（母分散既知/未知）
12	回帰分析 (1)	線形回帰、重回帰
13	回帰分析 (2)	線形回帰の応用
14	その他の話題	その他の話題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義で話されたことで興味を持ったことがあれば、参考書などを参照して復習しながら理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

藤澤洋徳（2006）『確率と統計』、現代基礎数学 13、朝倉書店。

宮田庸一（2012）『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション。

【成績評価の方法と基準】

期末に行う筆記試験（資料持込可）の結果のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

理解を深めてもらうための例題をさらに増やし、かつ時間も割いて丁寧に解いて見せるように改善する予定です。難易度も若干下げる予定です。

【Outline and objectives】

We will learn the basic idea of statistical inferences and master standard methods in data analysis.

BLS200YB

ゲノム構造機能学 I

佐藤 勉

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命情報はゲノムに刻み込まれている。生命活動を分子レベルで理解するためには、ゲノムを構成する遺伝子の働きとネットワークを理解することが不可欠である。本講義は、生命活動をゲノムの構造と機能の面から理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では生物がもつゲノムの遺伝子構成とそれぞれの機能についての包括的な理解を目指す。また、この講義で学んだ知識を日々の研究活動で実践するに至るまで深化させることを最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

本講義は、ゲノム構造と機能について、特にゲノムの構造に力点を置き、生物がもつゲノムの遺伝子構成から、細胞形成まで解説する。プリントを配布し、パワーポイントを用いて説明する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。具体的な授業の進め方については、学習支援システムの「お知らせ」にて案内する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゲノムの捉え方	ゲノム構造機能学 I の概要・授業の進め方について解説する。
第 2 回	原核生物の遺伝子構造	原核生物の遺伝子を構造という視点から解説する。
第 3 回	真核生物の遺伝子構造	真核生物の遺伝子を構造という視点から解説する。
第 4 回	オペロンの構造 1（転写制御）	ラクトースオペロンの発現制御機構を中心に解説する。
第 5 回	オペロンの構造 2（転写翻訳装置による制御）	トリプトファンオペロンの発現制御機構を中心に解説する。
第 6 回	遺伝子ネットワーク	ストレス応答機構を中心に遺伝子ネットワークについて解説する。
第 7 回	ウイルスの構造と増殖	主に溶菌性ファージの構造とその増殖メカニズムについて解説する。
第 8 回	宿主ゲノムとウイルス DNA	溶原性ファージの溶菌・溶原決定機構について解説する。
第 9 回	ファージの誘発と宿主の感染防御機構	プロファージの誘発機構と宿主のウイルス感染防御機構について解説する。
第 10 回	レトロウイルスとプラスミドの構造	レトロウイルスの生活環、およびプラスミドの構造と機能について解説する。
第 11 回	トランスポゾン	トランスポゾンや IS など可動性遺伝子因子の機能を解説する。
第 12 回	DNA 組換え機構	DNA 組換え（遺伝的組換えと部位特異的組換え）機構について解説する。
第 13 回	癌化・老化・寿命とゲノム	癌化・老化・寿命に関係する遺伝子について解説する。
第 14 回	生命とゲノム	これまでのまとめ、および生物の進化とゲノムについて論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

テーマ・内容のキーワードをもとに予め概要を理解して授業に臨むこと。体系的に講義を進めるため、復習は大事である。ゲノム構造と機能の本質を理解し、論理性を高める自己教育を期待する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。

【参考書】

授業の進行に沿い、また学生個人個人の知識水準、知的欲求に応じた参考書を紹介する。

細胞の分子生物学（ニュートンプレス）

生命科学のコンセプト 分子生物学（化学同人）

組換え DNA の分子生物学 遺伝子とゲノム（丸善）

分子生物学イラストレイテッド（羊土社）

【成績評価の方法と基準】

毎回のレポート課題を採点し成績として評価する（100%）。ただし、状況（コロナ禍）が改善し、対面での期末試験実施が可能となった場合は、毎回のレポート課題 50%、期末試験 50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生のノートを取るスピードに配慮して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを用いて講義を進める。オンラインで講義を実施するため、ネットアクセスできる機器が必要である。

【Outline and objectives】

All living things have a secret code inside of them called genomic DNA. To understand biological activities at the molecular level, it is essential to understand the role of the genes and their network in the genome. The overall goal of this lecture is to make students understand the function and structure of the genome.

BLS200YB

ゲノム構造機能学 I I

皆川 周

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象に関わる全ての遺伝情報はゲノムに搭載される。本講義では、ゲノムの構造と機能、および機能発現制御について解説します。分子生物学の基本概念に基づき、「ゲノムの構造機能」について「遺伝子の構造機能」とともに紹介します。さらに、全ゲノム情報から展開される「ポストゲノム」について展望していきます。

【到達目標】

ゲノムの構造について、染色体からゲノム上の塩基配列までを統合的に理解する。加えて、ゲノムの機能について、ゲノム複製とゲノム情報発現を分子レベルで理解する。これらのゲノムの知識から、ヒトを含めた多種生物ゲノムの全遺伝情報解説からゲノム構造解析、さらなるゲノム機能解析への変遷について正しく理解する。その上で、現在展開されている新しいゲノム生物学の学術的意義や応用的展望を正しく考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

基本的に資料配信型オンラインで授業を進めます。各回の授業資料の配布は学習支援システムでその都度提示します。また、毎回の授業に対して学習レポートを行うことで授業内容の理解度を深め、小テストにより学習到達度を確認していきます。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、多くあった疑問点や課題点については全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゲノム生物学の勃興	分子生物学からゲノム生物学へ
第 2 回	遺伝子の構造機能（1）	DNA 複製
第 3 回	遺伝子の構造機能（2）	DNA 情報発現
第 4 回	ゲノム情報（1）	分子生物学のゲノムへの挑戦
第 5 回	ゲノム情報（2）	DNA 構造の解説
第 6 回	ゲノム情報（3）	ゲノム情報の解説
第 7 回	ゲノム情報（4）	ゲノムの全遺伝情報
第 8 回	ポストゲノム（1）	オミクス解析
第 9 回	ゲノムの構造機能（1）	機能的 RNA と ENCODE
第 10 回	ゲノムの構造機能（2）	エピジェネティックスの概要
第 11 回	ゲノムの構造機能（3）	真核生物染色体の階層構造
第 12 回	ゲノムの構造機能（4）	原核生物の核様体
第 13 回	ゲノムの構造機能（5）	エピジェネティックスの分子機構
第 14 回	ポストゲノム（2）	ゲノム解読の超高速化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各授業の取り組み学習レポートで、それぞれの講義内容を復習を推奨します。各授業の復習は、各授業の小テストで到達度を確認していきます。また、本科目を受講するには、専門科目「ゲノム構造機能学 I」「生体分子分析学 I」を修得し、事前にその内容を十分に理解していることを想定しています。また、「細胞構造機能学 I」「蛋白質構造機能学 I」も修得し、本講義と関連する内容も理解していることを想定します。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

「ゲノム 4」（著者：T.A. ブラウン 監訳：石川冬木・中山潤一 メディカルサイエンスインターナショナル）
「細胞の分子生物学 第 6 版」（著者：B. アルバート・A. ジョンソン・J. レービン・D. モーガン・M. ラフ・K. ロバーツ・P. ウォルター 監訳：中村桂子・松原謙一 ニュートンプレス）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業毎の学習レポートの内容（65%）と小テスト（35%）を基に総合的に行います。具体的な方法と基準は、始めの授業で提示します。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料の改訂。

【Outline and objectives】

Genome is defined as the complete sequence of nucleotides in an organism and includes both genes and the noncoding sequences. This lecture will introduce you to the structure and function of genome and the regulation of genome expression, based on the basis for molecular biology. The latter will look at a view of epigenomics followed by genomics.

BLS200YB

細胞構造機能学 I

金子 智行

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞は生物の基本単位であり、その構造を理解することは、生命機能の研究に必須である。本講義では、原核生物および真核生物の細胞の構造、構造を維持するための仕組み、細胞周期や幹細胞および細胞研究方法について学ぶ。その際、生物の階層構造に留意し、複合的な視点から生命現象を捉えることを目指す。

【到達目標】

生物の基本単位である細胞の構造や機能を理解する。とくに、細胞の構造を維持する仕組みや細胞の機能発現および細胞研究方法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

まず細胞の基本構造について概説する。次に、細胞周期や減数分裂について解説する。さらに、細胞の構造を維持するための細胞骨格や細胞外マトリクスに関して解説する。最後に幹細胞や細胞研究方法について最新の知見をまじえて概説する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行い、試験やレポート等の詳細な講評はオフィス・アワーを活用する。大学の行動方針レベルに応じてオンライン（Zoom）でも開講し、具体的な方法については学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	細胞とは	生物の階層性および細胞の基本機能／原核細胞と真核細胞の基本構造の比較
2	核の構造と機能	真核細胞の核の構造や核膜、核輸送
3	細胞周期-1	細胞周期のチェックポイント
4	細胞周期-2	がん、アポトーシス
5	減数分裂	有性生殖や減数分裂の仕組みや役割
6	細胞接着	細胞間接着因子や細胞外マトリックス
7	中間テスト	これまでの講義内容の復習
8	中間テストの復習	中間テストのポイントと重要点について解説
9	細胞間シグナル伝達	細胞間にシグナルを伝達する仕組み
10	細胞極性と非対称性	細胞に極性ができる仕組みとその役割
11	体細胞、生殖細胞、幹細胞	体細胞と生殖細胞、幹細胞の違いと細胞の全能性、多能性
12	iPS 細胞	人工多能性幹細胞の発見、作製法、応用例
13	細胞研究法-1	細胞分画、トレーサー実験
14	細胞研究法-2	光学顕微鏡、電子顕微鏡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示する内容について、参考書等で復習し、理解を深める。授業中に不定期に出される課題に対して、指定の期日までにまとめてレポートとして提出する。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

エッセンシャル 細胞生物学 原書第2版 B. Alberts 他著 南江堂

その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験 50 %・中間試験 20 %・レポート課題 15 %・平常点 15 %の成績を総合して評価する。

＜評価基準＞原核細胞と真核細胞の構造や細胞構造を維持するための機構や細胞研究方法について理解しているか、よく分からない点について自ら積極的に調べ、考察できるか。

【学生の意見等からの気づき】

スライドと板書のバランスに留意する。

【学生が準備すべき機器他】

レポート課題提出には学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。財団法人の研究員の経験を活かし、先端研究の紹介等を含めて授業を行う。

【Outline and objectives】

learning about the structure of a prokaryotic and eukaryotic cell, a cell cycle, a stem cell, and a method of a cell study

BLS200YB

細胞構造機能学 I

山本 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞は生物の基本単位であり、その機能と構造を理解することは生命機能の研究に必須である。本講義では、細胞・細胞膜の構造、タンパク質による物質の輸送、タンパク質の選別とその輸送、細胞運動、細胞骨格、それらに関連した疾病・生命現象、また細胞研究の手法について学ぶ。

【到達目標】

生命の基本となる細胞の構造と機能、特に細胞膜と細胞における空間的な自己組織化について、タンパク質の選別と輸送、動態の面から理解する。具体的には、1) 細胞膜における脂質の性質と境界としての役目、2) タンパク質による物質輸送が担う生体維持の仕組み、3) 合成されたタンパク質の適切な輸送と局在、内部構造の配置・再編の仕組み、4) これらに関連した疾病とその機序、5) 様々な研究手法がどのように生命科学の発展に寄与したか、について理解する。

また、知識の詰め込みのみにならないよう、得た知識を元に様々な視点から科学的に考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

特定の教科書は用いず、毎回配布する資料を元に講義として授業を行う。各講義では理解度確認のために簡単な演習を行い、次回の講義で解説する。基本的には各回ごとに系統立てて講義を進めるが、完全には分けていない。特に関連疾病や研究手法などはまとめるに各講義回に織り交ぜ解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	細胞膜と生体エネルギー	細胞膜の構造とエネルギー代謝に関する概説、細胞の物理化学的解釈
2	タンパク質による物質輸送-1	境界としての細胞膜、膜を横断する物質の輸送、一次性・二次性能動輸送
3	タンパク質による物質輸送-2	物質の輸送体としてのタンパク質の役割、ポンプと細菌の薬剤耐性化
4	タンパク質の選別とその輸送-1	細胞のコンパートメント、タンパク質の選別シグナルと輸送の仕組み
5	タンパク質の選別とその輸送-2	ウイルスの膜構造、ミトコンドリアのタンパク質輸送と膜への挿入
6	中間テスト	これまでの講義内容の理解度の確認
7	中間テストおよび講義の復習	中間テストの解説、重要ポイントの確認・復習（細胞膜、タンパク質の選別と輸送の総括）
8	タンパク質の選別とその輸送-3	分子シャペロンと品質管理機構、小胞体におけるタンパク質輸送、エンドサイトーシス
9	タンパク質の選別とその輸送-4	小胞輸送と膜融合、ゴルジ体におけるタンパク質輸送、糖鎖修飾、オートファジー
10	真核生物の細胞骨格と運動-1	細胞骨格と運動：アクチンフィラメント、微小管、中間径フィラメント
11	真核生物の細胞骨格と運動-2	分子モーター：ミオシン、キネシン、ダイニン、鞭毛と繊毛
12	バクテリアの細胞骨格と運動	原核生物の細胞構造（細胞膜・細胞壁・骨格）と運動、細胞内寄生体と新興再興感染症
13	タンパク質の動態とヒトの疾病	タンパク質輸送や細胞骨格・運動に関連した疾病とその機序
14	細胞研究手法	細胞生物学的、生物物理学的、生化学的、分子生物学的、疫学的な研究手法・アプローチ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業中に指示する内容について、参考書や原著論文等で復習し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

教科書使用なし。

【参考書】

・THE CELL 細胞の分子生物学 第6版

・細胞の物理生物学 第3版

・リップニコット イラストレイテッド生化学 第7版

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞

中間テスト (45%)・期末テスト (45%) 成績を総合し、平常点 (10%) を加味して総合的に評価する。

＜評価基準＞細胞を形作る仕組み、タンパク質の選別と輸送、細胞の運動、それらが生体・生命の維持にどのように関与しているか、また細胞研究法について理解しているか、よく分からない点について自ら積極的に学び、考察できるか。

【学生の意見等からの気づき】

適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関係する連絡などに授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。授業の進め方は、理解度等を元に調整する。

細胞構造機能学 I、蛋白質構造機能学 I、ゲノム構造機能学 I で学んだ内容を踏まえ、講義を進行する。

大学、民間企業、国立研究所における研究経験を活かし、身近な生活やキャリアに役立つ講義を行う。

【Outline and objectives】

As the cell is the smallest and fundamental unit of any organisms, understanding its basic structure and function is essential for the study of any biological phenomena. The aim of this lecture is to learn the structure of a cell and cell membrane, transporting substrates by proteins, sorting and transport its proteins, cell motility, cytoskeletons, and diseases relating to them as well as approaches to study them. Develop the ability to think scientifically with various perspectives so that it is not just cramming of knowledge.

BLS200YB

生体分子分析学 I

今村 大輔

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体を構成する高分子の中で、特に核酸に関する分析法を学ぶ。核酸の分離精製、電気泳動、塩基配列解析法などの基本的分析法を中心に、その手法、用途、原理、応用などを学習する。一連の講義を通じて、核酸研究の基礎力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

核酸分析法の原理や基本を理解することにより、自身で実験データから情報を読み取り、実験計画を立てられる思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

状況によりオンラインでの開講となる可能性がある。

授業方法について決定次第、学習支援システムからお知らせする。

毎回、授業の初めに、前回の授業の演習問題の解説を行い、質問やコメントがあればそこで全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	核酸の分子特性	核酸の構造と分子特性
第 2 回	核酸の抽出	ゲノム DNA とプラスミドの抽出法
第 3 回	核酸の分離	アガロースゲル電気泳動、パルスフィールドゲル電気泳動
第 4 回	塩基配列の解読	サンガー法、マクサム・ギルバート法
第 5 回	転写開始点の決定	プライマーエクステンション法や S1 マッピングなど
第 6 回	PCR の基礎	PCR の原理、Tm 値、Wallace 法、酵素の種類
第 7 回	PCR の応用	変異導入、qPCR
第 8 回	中間テスト	ここまでの理解到達度の確認
第 9 回	遺伝子多型の解析	RFLP など遺伝子多型解析法
第 10 回	ハイブリダイゼーション法	サザンハイブリダイゼーション法など
第 11 回	転写解析	ノーザン解析やレポーターアッセイ
第 12 回	核酸とタンパク質の相互作用	FISH 法やゲルシフトアッセイ
第 13 回	タンパク質結合配列の解析	フットプリント法など
第 14 回	ゲノム解析	ショットガン法による全ゲノム配列の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義で話した内容について復習し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて印刷資料または PDF ファイルを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施できる場合には、期末試験を 70%、毎週行う演習問題の採点を 30%として成績を評価する。

状況により成績評価の方法と基準が変更になった場合には、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内の演習により理解度を確認しながら進める。

【Outline and objectives】

This course introduces analysis methods of DNA and RNA. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of analysis methods frequently used in biological research.

BLS200YB

生体分子分析学

雲財 悟、今村 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体高分子、特に蛋白質にフォーカスを当てた分析学を学ぶ。蛋白質の分離精製、定量、電気泳動法など基本的分析法、そして蛋白質の構造解析、可視化、質量分析、蛋白質間相互作用解析など、最先端の装置を用いた分析法について学ぶ。一連の講義を通じて、蛋白質研究の基礎力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

背景の生化学、物理化学、熱力学を理解し、蛋白質分析の基礎を身につけて、自分で実験計画を立てられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

パワーポイントスライドなどのプレゼンテーションを行う。適宜、演習やレポート課題などを課す。講義情報を随時、学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要説明
第 2 回	蛋白質分離精製	カラム精製など基本的な蛋白質精製法について概説する。
第 3 回	蛋白質の電気泳動	SDS, Western, 2 次元電気泳動など様々な電気泳動について述べる。
第 4 回	電気泳動と質量分析	電気泳動を利用した蛋白質の分離分析、マスマスケットルによる蛋白質分子質量分析について述べる。
第 5 回	蛋白質の吸収スペクトル	蛋白質紫外可視吸収スペクトル、蛋白質の定量法などについて述べる。
第 6 回	蛋白質間相互作用解析	Two-hybrid, クロスリンク、FRET、ITC 等、蛋白質間相互作用解析法について述べる。
第 7 回	蛋白質複合体解析	超遠心分析、動的散乱、など蛋白質複合体の解析法について述べる。
第 8 回	蛋白質立体構造解析その 1	X 線結晶構造解析など、蛋白質立体構造解析について述べる。
第 9 回	蛋白質立体構造解析その 2	X 線結晶構造解析、NMR 解析、クライオ電子顕微鏡などの蛋白質立体構造解析について述べる。
第 10 回	糖鎖分析その 1	「第 3 のバイオポリマー」である糖鎖について概説する。
第 11 回	糖鎖分析その 2	糖鎖分析方法の解説を行う。
第 12 回	脂質分析その 1	生体を構成する脂質について概説する。
第 13 回	脂質分析その 2	食品分野、医療分野における脂質分析の解説を行う。
第 14 回	まとめ	本講義をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】紹介するテキストや参考書による学習。講義で用いたプリントによる復習など。

【テキスト（教科書）】

特になし。プリントやプレゼンテーションスライドの簡易版を授業支援システムで配布する。または、授業中に適宜紹介する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（適宜行う小テスト、小レポートなど）100 %

授業参加態度、小テスト、レポート、演習、などで総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義中のディスカッション、小テスト、レポートなどで学生からの意見や要望を集める。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うスライド資料の簡易版を学習支援システムにアップロードする。印刷して持参したり、各自の端末（PC、タブレット、スマートフォン等）で閲覧するなど、利用して頂きたい。

【その他の重要事項】

最先端の蛋白質研究情報なども提供する。
担当者未定。シラバスは前年度担当によるもの。

【Outline and objectives】

This course will show you how to analyze biopolymers, especially proteins. This course covers protein purification, protein quantitative analysis, electrophoresis, protein structural analysis, mass spectrometry, protein-protein interaction analysis. The course aims to enable students to get a basic knowledge and understanding about protein research.

BLS200YB

分子微生物学

皆川 周

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

微生物は生命科学の理解に大きな影響を及ぼしている。分子微生物学では、人類が「微生物を認知」し、発見された「微生物の多様な機能」に対する「遺伝的な分子構造機能」「生理的な分子構造機能」を通し、近年明らかとされている「ゲノム機能」を紹介する。それぞれを契機とした生命科学へのインパクトも具体的に紹介する。

【到達目標】

「コッホの原則」に基づいた微生物の認識から、「ドメイン説」「コアゲノム／パンゲノム」を介した現代生物学における微生物の位置付けを正確に認識する。さらに、講義中に紹介するウイルス、細菌、古細菌、真菌の多様な遺伝機能と生理機能について分子レベルで理解する。その上で、微生物間相互作用や環境ゲノムを正しく考察する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

基本的に資料配信型オンラインで授業を進めます。各回の授業資料の配布は学習支援システムでその都度提示します。また、毎回の授業に対して学習レポートを行うことで授業内容の理解度を深め、小テストにより学習到達度を確認していきます。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、多くあった疑問点や課題点については全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	認知（1）	微生物の発見
第2回	認知（2）	微生物の分類
第3回	多様性（1）	多様な微生物
第4回	多様性（2）	元素循環
第5回	多様性（3）	抗生物質
第6回	遺伝機能（1）	ドメイン説
第7回	遺伝機能（2）	微生物の分子遺伝学
第8回	遺伝機能（3）	微生物の遺伝機能
第9回	生理機能（1）	微生物の環境応答
第10回	生理機能（2）	微生物の分子機能の応用
第11回	ゲノム機能（1）	微生物のゲノム全塩基配列の決定
第12回	ゲノム機能（2）	微生物の水平伝播
第13回	ゲノム機能（3）	環境ゲノム
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各授業の取り組む学習レポートで、それぞれの講義内容の復習を推奨します。各授業の復習は、各授業の小テストで到達度を確認していきます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

「ブラック微生物学 第2版」（著者：J. G. ブラック 監訳：林英生・岩本愛吉・神谷茂・高橋秀実 丸善）

「微生物学 第5版」（著者：R. Y. スタニエ・J. L. イングラム・M. L. ウィーリス・P. R. ペインター 共訳：高橋甫・斎藤日向・手塚泰彦・水島昭二・山口英世 培風館）

「微生物の地球化学」（著者：T. フェンチェル・G. M. キング・T. H. ブラックバーン 訳：太田寛行・難波謙二・諏訪裕一・片山葉子 東海大学出版部）

「培養できない微生物たち」（著者：R. R. コールウェル・D. J. グリメス 監訳：清水潮）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業毎の学習レポートの内容（65%）と小テスト（35%）を基に総合的に行います。具体的な方法と基準は、始めの授業で提示します。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料の見直し。各講義のポイントの明確化。

【Outline and objectives】

Microbe are major group in living organism on the earth. This lecture will introduce you to the research findings and experiments, representing the discovery of diverse microbes, the molecular function of genetic and physiological mechanisms in microbes, and the structure and function of microbial genomes.

BLS300YB

バイオインフォマティクス

今村 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、情報学的手法は、あらゆる分野で活用されており、生命科学でも欠かれない技術となっている。また、この技術発展に伴い、以前はできなかった様々な解析が可能となった。本講義は、生命科学分野における情報処理技術の活用とその生物学的な原理、そして、これによりどのようなことができるのかを解説する。

【到達目標】

バイオインフォマティクスの発展により、生命科学研究がどのように変わったのか、また、これにより何が可能になり、現在、広く用いられている手法にはどのようなものがあるのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義ではまず、分子進化の基礎について解説する。その後、系統解析や相同性解析など、様々な情報学的手法について説明する。状況により、講義は学習支援システムにアップロードした資料を用いて、Zoomによって行う可能性がある。毎回、授業の初めに、前回の授業の演習問題の解説を行い、質問やコメントがあればそこで全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	バイオインフォマティクスの形成、歴史、意義等の概論
2	分子進化	遺伝子やタンパク質の分子進化と分子時計
3	系統解析	系統解析の原理や方法
4	系統樹の種類	系統樹の種類や特徴
5	相同性解析	BLAST や ClustalW を用いた相同性の解析
6	集団の進化①	生物集団に含まれる遺伝子頻度の解析法
7	集団の進化②	生物集団における遺伝子頻度と適応度の関係
8	集団の進化③	生物集団の進化による遺伝子頻度の変化
9	ゲノム解析	次世代シーケンサーの原理と方法
10	アノテーション	塩基配列からの遺伝子予測や機能予測
11	ゲノム配列からの特徴抽出	GC 含量、GC Skew など、ゲノム配列から得られる様々な情報
12	ゲノム構造比較	ドットプロット法
13	様々なゲノム	メタゲノムやパンゲノムなど、様々なゲノム解析法
14	トランスクリプトーム	マイクロアレイや RNA-Seq など、網羅的な転写解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義で話した内容について参考書等で復習し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

- 1「バイオインフォマティクス入門」日本バイオインフォマティクス学会編（慶應義塾大学出版会）
- 2「よくわかるバイオインフォマティクス入門」藤博幸編（講談社）
- 3「はじめてのバイオインフォマティクス」藤博幸編（講談社サイエンティフィク）
- 4「進化で読み解くバイオインフォマティクス 入門」長田直樹著（森北出版）

【成績評価の方法と基準】

教室での期末試験が実施可能であれば、期末試験 70%、毎週の演習問題の採点を 30%として理解度を総合的に評価する。

教室での期末試験が実施できない場合は、演習問題やオンラインテストによる評価へ変更する可能性がある。この場合の評価方法は、期末試験の実施可否が決定次第、学習支援システムよりお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

講義内の演習により理解度を確認しながら進める。

【Outline and objectives】

Bioinformatics is a combined field of biology, computer science and mathematics. It is essential and useful method in both clinical and basic sciences now. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of bioinformatics and what can be done by using it.

BMS300YB

ケミカルバイオロジー

影近 弘之

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ケミカルバイオロジーは、化学、特に人工的な化合物を用いた生命科学研究であり、化学、生物学、医学、薬学など他分野にまたがる学際研究分野である。本講義では、ケミカルバイオロジー分野の研究手法を理解するための有機化学、分光学の基礎を学んだ上で、ケミカルバイオロジーの研究手法やその応用分野である創薬を志向した医薬化学研究について学ぶ。

【到達目標】

ケミカルバイオロジー研究に必要な有機化学、分光学などの基礎的な知識を習得するとともに、ケミカルバイオロジー研究や創薬を志向した医薬化学研究の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、ケミカルバイオロジー研究に必要な有機化学（構造、反応、合成）、分光学（光物性）などの基礎知識を講義する。ついで、これらの化学的知識と技術が、生命科学研究にどのように生かされているか、また、その応用研究としての創薬を志向した医薬化学研究についても概説する。なお、講義中の演習などで理解度を確認し、それを勘案して授業計画を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	分子の構造と機能 1	授業説明と有機化合物の構造と性質
2	分子の構造と機能 2	有機化合物の異性体と機能、有機反応と生体内反応
3	光と物性	蛍光とその応用
4	蛍光ラベル化法 1	蛍光ラベル化法概論
5	蛍光ラベル化法 2	蛍光ラベル化法の先端研究の論文を読む
6	バイオイメージング 1	蛍光センサーの基礎
7	バイオイメージング 2	蛍光センサーの基礎
8	バイオイメージング 3	Bioorthogonal な反応の基礎とその応用
9	中間試験	1 回～ 8 回の理解到達度判定
10	ケミカルバイオロジーと創薬 1	化合物ライブラリー
11	ケミカルバイオロジーと創薬 2	医薬品開発とメデイシナルケミストリー
12	ケミカルバイオロジーと創薬 3	メデイシナルケミストリーの基礎
13	ケミカルバイオロジーと創薬 4	Activity-based protein profiling の基礎と応用
14	ケミカルバイオロジーと創薬 5	生理活性物質の設計と合成・創薬最先端研究紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】与えた課題についてのレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

「入門ケミカルバイオロジー」（オーム社）

蛋白質核酸酵素増刊「ケミカルバイオロジー」長野哲雄他編（共立出版）

「ケミカルバイオロジー:成功事例から学ぶ研究戦略」長野哲雄・萩原正敏監訳（丸善出版）

「創薬化学」野崎正勝、長瀬博（化学同人）

「ライフサイエンスのための基礎化学」影近弘之、平野智也訳（東京化学同人）

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート及び中間試験（20%）、期末試験（60%）を基準として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

化学の苦手な人にも理解できるように心がける。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to understand the basic and application about chemical biology field. Chemical biology is a new and significant field of bioscience. This field includes the research to solve the biological problems at the molecular level or to regulate the biological systems by using the techniques, knowledge and ideas of chemistry. This course deals with the overview of the chemical biology and medicinal chemistry including some topics of recent research.

BLS300YB

バイオエナジェティクス

常重 アントニオ

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In concrete terms, what is "energy" within a living organism? How is energy conveyed, stored, and transformed within our bodies? Is it all about ATP? These interesting questions and many more will be addressed throughout this course. At the end, the student is expected to master the basic elements of biothermodynamics, and have a clear idea about the process of life.

（本科目は、グローバル対応科目である）。

【到達目標】

The enrolled student should be able to understand how the process of energy capture, and its storage and conversion into active processes is carried out within living organisms. Basic concepts of thermodynamics will be provided.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

This course is delivered in the form of sequential lectures. Students are encouraged to participate actively in discussions, and inquiries are welcomed at any time when concepts are not clear. Most part of the didactic materials will be made available through the support system Hoppii.

To assess the adequate understanding of classes, reports will be requested periodically to enrolled students, and will be submitted electronically. Solution to quizzes and problems will be discussed at the beginning of the following class. Should any topic still remain unclear, appropriate discussions can be scheduled using office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	What is bioenergetics about?
2	Basic Thermodynamics.	Concept of "free energy", enthalpy, and entropy. Systems in equilibrium.
3	Redox reactions 1)	The simplest case: carbon in all oxidation states. Reduction-oxidation (redox) potential.
4	Redox reactions (2)	Chemical reactions involving reduction and oxidation in biological systems.
5	Redox reactions (3)	Spontaneity of chemical reactions. Enzyme reactions.
6	Mid-term recap	Consolidation of concepts expressed in previous classes.
7	The "mysterious" ATP.	The pending question: Where in ATP is the energy "stored"? And how it is released. Other compounds.
8	Bioenergetics (1)	Glycolysis. Why glucose?
9	Bioenergetics (2)	Krebs (TCA) cycle. Electron and proton transporters. This is the core of life sustenance at molecular level.
10	Bioenergetics (3)	Inside the mitochondrion. Electron transport chain. ATP production. Chemiosmotic theory.
11	Bioenergetics (4)	Photosynthesis. Similarities and differences with animal metabolism.
12	Bioenergetics (5)	Use of inhibitors of the electron transport chain. P/O ratio.
13	Role of ATP.	Endergonic and exergonic reactions. Coupled reactions. Typical misconceptions.
14	Recapitulation of previous lectures.	Bioenergetics and the sustenance of life. Closing remarks.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 Periodically, homework will be assigned to students to consolidate learned concepts. These will be presented as reports.

【テキスト（教科書）】

The textbooks mentioned below can be used partially, although its purchase is not necessary.

"Biological Thermodynamics", Donald T. Haynie, Cambridge, 2001.

「生体とエネルギーの物理－生命力のみのもと」、日本物理学会 集（2000）の一部を利用する。

【参考書】

Appropriate handouts will be made available through the support system Hoppii, prior classes.

【成績評価の方法と基準】

In principle, assistance to classes is required. Active participation will be graded accordingly (20%). Grading will be also based on periodic short tests, some of which will take the form of homework (30%). Final test or its equivalent (50%).

【学生の意見等からの気づき】

Due to the current COVID-19 pandemic, this course has been implemented since the year 2020 for real-time online delivery, that allows attendance of overseas students. The same conditions apply for the academic year 2021. Should conditions permit, in addition to the online format, in-person classes will be implemented. Quizzes and short test will be discussed in class.

【学生が準備すべき機器他】

Except bringing personal computers to class, nothing special.

【Outline and objectives】

In concrete terms, what is "energy" within a living organism? How is energy conveyed, stored, and transformed within bodies? Is it all about ATP? These interesting questions and many more will be addressed throughout this course. At the end, the student is expected to master the basic elements of biothermodynamics, and have a clear idea about the process of life.

（本科目は、グローバル対応科目である）。

BME300YB

医用生体工学

金子 智行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体分子、細胞、組織の各レベルにおける実験的再構成法の基礎、及び医療応用の先端研究について学ぶ。

【到達目標】

生体分子、細胞、組織に関する生化学、分子細胞生物学、生物物理学の基礎を学ぶ。生体計測・バイオイメージング技術の原理についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義はスライド映写を中心に行い、問題提示や対話形式での講義を行う。学生自ら各テーマについて調べ、授業内での発表を行う。大学の行動方針レベルに応じてオンライン（Zoom）でも開講し、具体的な方法については学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	概要説明・生命の再構成	講義の意義、評価方法について、分子から組織までの階層構造と再構成、生体計測の概論
第2回	顕微鏡と顕微操作	解像度や回折限界、超解像技術、暗視野顕微鏡の原理
第3回	脂質とリボソーム	脂質膜やリボソームの形成法、安定性
第4回	リボソームの応用技術	リボソームを使用した医療技術や最近のトピックス
第5回	細胞の再構築	リボソーム内タンパク質発現や機能性リボソーム
第6回	中間テスト-1	ここまでの理解到達度確認
第7回	中間テストの解説	中間テスト-1の解説と結果に基づいた補足
第8回	微細加工技術	光リソグラフィ、マイクロプリンティング、アガロース微細加工技術
第9回	ES細胞・iPS細胞	ES細胞やiPS細胞を中心とした幹細胞や Muse 細胞などの最新のトピックス
第10回	創薬・薬剤スクリーニング	新薬をつくるプロセス、毒性検査技術
第11回	組織工学	細胞培養、細胞凍結、細胞配置、組織構築
第12回	再生医療	最新の再生医療技術について
第13回	中間テスト-2	中間テスト-1以降の理解到達度確認
第14回	中間テストの解説	中間テスト-2の解説と結果に基づいた補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
講義中の話題に対する予習・復習の必要がある。学生自ら発表する内容について調べパワーポイント等にまとめる必要がある。また、レポート課題に対して数週間以内にまとめて提出する必要がある。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験 30 %・中間試験（1と2）20 %・発表点 30 %・平常点 20 %の成績を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生自ら調べて発表することは、発表する本人のみならず、聞いている学生にもプラスになるとのことから、学生の授業内発表を増加させる。

【学生が準備すべき機器他】

授業内での発表があるので、貸与パソコン等のプレゼンテーションが可能な機器。

【その他の重要事項】

学生との双方向的な授業のため、活発な発言や議論を行います。財団法人の研究員の経験を活かし、先端研究の紹介等を含めて授業を行う。

【Outline and objectives】

learning about a basic research of reconstruction of a cell or tissue, and an advanced research of tissue engineering and regenerative medicine

PPE100YD

栽培植物学

佐野 俊夫

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

われわれの食糧となる作物（穀物、野菜類、果実類）にはどのような種類があるのか、そしてそれぞれの作物の生育特性を学ぶ。また、これらの作物が世界と日本国内とでどのように栽培されているのかを知り、栽培上の問題点を学ぶ。

【到達目標】

食糧・資源として利用されている栽培植物の栽培特性を理解する。そしてこれらの作物栽培にはどのような配慮が必要であり、どのような問題があり、今後どのような変化が予想されるかについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。また、授業終わりに小テストを行い、その授業のポイントの復習に充てているので、小テストを学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に小テストの解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	栽培植物学とは	栽培植物学とはどのような学問か、主要栽培植物を紹介する
第 2 回	イネの来た道	日本で栽培されるイネの起源、世界のイネ、コメの性質、これからの稲作について説明する
第 3 回	コムギ、オオムギの栽培と利用	コムギ、オオムギの日本、世界での栽培、利用、性質を説明する
第 4 回	マメ科植物の栽培と利用	日本と世界のマメ科植物栽培、およびその加工利用方法について説明する
第 5 回	トウモロコシの栽培と利用	世界のトウモロコシ栽培、日本での利用、これからの栽培について説明する
第 6 回	いも類の栽培と利用	主にジャガイモ、サツマイモの栽培と利用について説明する
第 7 回	油料作物、嗜好料作物の栽培と利用	植物油に加工される油料作物、および、嗜好料作物として主にチャ、コーヒーについて説明する
第 8 回	世界で栽培されている野菜類	世界で栽培されている野菜類について説明する
第 9 回	アブラナ科野菜の栽培と利用	主要なアブラナ科野菜であるダイコン、キャベツ、カラシナの栽培と利用について説明する
第 10 回	ナス科野菜の栽培と利用	主要なナス科野菜である、トマト、ナス、ピーマンの栽培と利用について説明する
第 11 回	果実栽培と利用（1）	主要な果実である、リンゴ、かんきつ類、ブドウの栽培と利用について説明する
第 12 回	果実栽培と利用（2）	果樹の生育、果実の成熟と老化、その保存方法について説明する
第 13 回	花きの栽培と利用（1）	花きの園芸的分類、および主要な花きである、キク、カーネーションについて説明する
第 14 回	花きの栽培と利用（2）	球根類、花木類、ランの栽培と利用について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける畑地、果樹園等には本講義で紹介する作物が栽培されていると思われる、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】

・「作物学概論」第 2 版 朝倉書店
・「図説園芸学」朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

期末試験 72%、毎回の講義時に行う小テスト 28%、で評価する

【学生の意見等からの気づき】

穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の小テスト結果を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【Outline and objectives】

In this lecture, we learn the types of food crops (grains, vegetables, fruits) and the growth characteristics of each crop. Also, we learn about the cultivation styles and problems of these crops both in the world and in Japan.

PPE100YD

植物病原菌類学

廣岡 裕吏

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病原菌類の基礎知識（形態、生態、生理的特徴や分類体系等）を修得する。「樹木医補」資格取得のメニュー科目でもある。

【到達目標】

植物病原菌の植物への寄生能力を知ること、植物医科学の応用技術を修得できる。あわせて、樹木医補等の資格に適応する技術を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず、菌類とヒトや文化との関わり、菌類の働きを学び、次いで、植物医師（技術士、樹木医）の基礎となる植物病原菌類の分類・形態・生態等を学習する。また、本講義を植物医科学基礎実験・応用実験の内容に反映できるよう、様々な植物菌類病の症状や病原菌類の観察方法などについても理解を深める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	科目の概要と授業の進め方
第 2 回	菌類とは (1)	菌類とヒトや文化とのかわり
第 3 回	菌類とは (2)	自然界での菌類の働き（森林を例として）
第 4 回	菌類の観察方法	菌類病を診断する基礎的な観察技術
第 5 回	菌類の分類	生物界の中での菌類の位置とその特徴
第 6 回	原生動物界の菌類	変形菌・根こぶ病菌の特徴とその病害
第 7 回	クロミスタ界の菌類	水を泳ぐ卵菌類の特徴とその病害
第 8 回	菌界の菌類 (1)	ツボカビ・接合菌の特徴とその病害
第 9 回	菌界の菌類 (2)	子囊菌類の特徴とその病害
第 10 回	菌界の菌類 (3)	担子菌類の特徴とその病害
第 11 回	菌界の菌類 (4)	不完全菌類（分生子果不完全菌類）の特徴とその病害
第 12 回	菌界の菌類 (5)	不完全菌類（不完全糸状菌類）の特徴とその病害
第 13 回	菌類の多様性 (1)	培養法に基づいた植物内生菌の解析
第 14 回	菌類の多様性 (2)	非培養法に基づいた植物内生菌の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義のポイントを提示するのでまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

菌類のふしぎ（東海大学出版会）、植物病原菌類の見分け方（大誠社）、植物医科学実験マニュアル（大誠社）、菌類の生物学（共立出版）など、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（約 30%）、課題や試験（約 70%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足、ほぼ満足すると結果が大半を占める。菌類の形態的多様性に魅せられたとのアンケートも多く寄せられており、菌類の恩恵（利用場面）も含めて講義を広げる。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面で講義を進める。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to Learn the basic knowledge of plant pathogenic fungi such as morphology, ecology, physiological characteristics, classification system, etc.

PPE100YD

植物病防除学

石川 成寿

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病の診断と防除は、植物医科学の教育・研究の基本である。本授業では、植物病を防除することの重要性を認識し、いかなる手法で植物病が防除されるのかを学ぶ。

【到達目標】

植物病の病因である、微生物、害虫、雑草などを、具体的にどのような手法で防除するのかを、体系的に理解する。具体的には、「耕種防除」、「物理防除」、「化学防除」、「生物防除」、「生態防除」などの基本的な防除手法に関する仕組みと具体例を知り、それらを組み合わせた、総合的有害生物管理法（IPM）などの最新技術についての知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

コロナ禍の状況にあるので、学習支援システムのお知らせ、シラバスに最新情報に留意する。植物医科学概論における植物病の基礎についての学びと並行して、植物病の防除の歴史や防除法について学ぶ。防除方法としては、耕種防除、物理防除、化学防除、生物防除、生態防除などについて、本学科で、研究の最先端の防除方法を交えて解説する。また、新しい防除法についても、トピックとして積極的に取り上げる。課題のフィードバックは、Hoppii または次の講義にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 植物病と防除、研究は防除のために・・・	植物病の要因と植物病の被害、防除の必要性について学ぶ。
第 2 回	防除の歴史	植物病防除の歴史について学ぶ。
第 3 回	物理的病害虫防除	物理的防除方法の実際を学ぶ。
第 4 回	耕種防除技術	耕種防除方法の具体事例により学ぶ。
第 5 回	賢い化学防除方法	環境にも配慮した化学防除方法を学ぶ。
第 6 回	イネ育苗期の防除	最重要作物であるイネの育苗期にも発生する病害の最新防除を学ぶ。
第 7 回	イネ病害の診断と防除	イネ本田で発生する病害の診断方法と防除方法を学ぶ。
第 8 回	ムギウイルス病に対する抵抗性育種	二条大麦のウイルス抵抗性育種について学ぶ。
第 9 回	生態防除	植物病の弱点を巧みに突く、生態防除方法を学ぶ。
第 10 回	総合防除	防除方法の長所を組み合わせる効率的な防除方法を学ぶ。
第 11 回	トマト病害の防除	最重要作物であるトマトに発生する病害の診断と防除方法を学ぶ。
第 12 回	イチゴ炭疽病から日本一の産地を守る	本病防除の問題点、現状を分析し、具体的な防除方法を学ぶ。
第 13 回	応用植物科学科での防除方法研究	本学科で行っている最先端の防除方法を学ぶ。
第 14 回	生物的防除（生物農薬開発の実際）	生物農薬（タラロマイセスフラバス水和剤）の開発経緯を材料に生物防除の実際を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】重要な専門用語について、複数のソース（書籍、事典、website など）を用いて復習する。また、実験実習科目とも関連付けて、本授業内容の理解に努めること。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムに毎回教材を掲載する。

【参考書】

植物医科学（上）（難波成任監修・養賢堂）
植物病原菌類の見分け方Ⅰ、Ⅱ（大誠社）
これで防げるイチゴの炭疽病、萎黄病（農文協）

【成績評価の方法と基準】

レポート課題：70%、平常点 30%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生に理解しやすいように、写真を含めたパワーポイントで説明するとともに、教材を学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】

農業試験場、病害虫防除および農業改良普及所における実践的な業務経験や生物農薬開発・上市に携わった経験を活かした指導を行う。

【Outline and objectives】

Diagnosis and control are the basis of plant pathology. In this lecture, We will learn how to control (Biology control, Agricultural control, Biological control, Chemical control, Weed control etc.) plant diseases.

AGC100YD

土壌科学

亀和田 國彦

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

土壌は、「地球の皮膚」とも称され、地球の陸域にごく薄く分布します。陸上の植物は、直接に、また、人類を含めて動物は、植物を介してその生命の維持を土壌中の養分に依存し、この点で、我々はミミズと同じく土壌の生き物と言えます。

植物の必須元素として 17 元素が知られ、炭素、水素および酸素以外の 14 元素は根を介して土壌から吸収されます。本科目では、土壌の基本的な構造と機能ならびに植物への養分供給能力や環境との関わりをとおして、土壌の役割を学びます。

【到達目標】

まず、土壌の構造と機能を学び、それら性質が、地理的分布と生成因子に関連づけられていることを理解します。つづいて、それら性質が、植物への養水分供給能力と植物の生育に大きく影響することを理解します。そのような植物と土壌との関わりをなかで、植物の健全な生育を支えるために、土壌の性質がどうあるべきかを学び、不良土壌の判断と改良対策を示すことができ、植物医科学分野に有効な知識を習得します。

さらに、土壌をケミカルリアクターまたはバイオリアクターとして捉え、植物の健全な生育を実現しながら、地域生態系と地球環境を長期的に維持するための土壌の役割と、それを実現するための管理手法のあり方を考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと板書による基本的な講義。
学習支援システムにより資料を提供する。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地球と土壌	土と土壌 土壌機能概観 土壌と文明
第 2 回	土壌の生成と分類	風化と土壌の生成 土壌の生成因子と土壌の種類 分類体系
第 3 回	土壌の材料	一次鉱物と二次鉱物の種類 風化と二次鉱物の生成 粒形組成 腐植の生成と性質
第 4 回	土壌の物理性	三相分布 土壌空気 水の保持と水分張力
第 5 回	土壌の化学性	化学性を構成する各種性質 pH 酸化と還元 イオン吸着 リンの吸着 土壌溶液
第 6 回	土壌の荷電特性	定荷電と変位荷電 特異吸着
第 7 回	土壌の生物性	土壌生物の種類と機能 土壌生物を介する物質循環 微生物バイオマス
第 8 回	水田土壌	酸化還元に伴う物質の形態変化 水田土壌の生成分類と特徴
第 9 回	森林土壌と畑地土壌	水分と養分の移動速度 養分の流亡 畑地の層位分化 土壌類型区分と利用形態の違いによる特徴付け 環境容量
第 10 回	土壌中養分の可給性	pH の変化に伴う各種養分の可給性の変化 リンの難溶化 窒素の無機化と有機化 土壌の緩衝能力

第 11 回 土壌診断

土壌分析
分析値の評価と対策
容量因子と強度因子
腐植の集積と分解
炭素循環
窒素の有機化と無機化
窒素循環
リンの循環
カリウムの循環
原始地球と石灰

第 12 回 物質循環

第 13 回 環境と土壌

人間社会が土壌に与える影響
我が国の農耕地土壌の実態と変化の趨勢
土壌調査
地球環境の変動が土壌に与える影響
酸性化に伴う Al および Fe の動態
重金属 (Cd, Cu, As) および放射性物質 (Sr, Cs) の土壌中での動態

第 14 回 土壌に関わる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義ノートや参考書をもとに、講義内容を復習。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

土壌サイエンス入門 第 2 版 木村直人・南條正巳編、2018、文永堂出版
土壌学概論 犬伏和之編、2020 年、朝倉書店
土壌学の基礎 松中照夫、2012 年、農文協

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、毎回提出のリアクションペーパーを含む平常点 40 %による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーで質問や提案を受け、できる限り次の授業で回答し反映する。

【その他の重要事項】

春学期開講の植物栄養学を併せて受講することにより、理解が深まる。

【Outline and objectives】

The soil called “The skin of the Earth” exists as the surface of Planet Earth. This thin veneer of living material is only 18 centi-meters thick in average of the earth, but it has critical influence on what happens on the surface of the Earth. Soil is our life-support system. It provides anchorage for roots; holds water long enough for plants to make use of it; and holds nutrients, making them accessible to support life. Our life is “Soil animal” as same as “earthworm”. There exist myriad micro-organisms, that accomplish suites of biochemical transformations from fixing atmospheric nitrogen to the decomposition of organic matter, other organisms and organic matter. Most biodiversity is in the soil, not above ground. We study a number of soil function and capability of the soil.

PPE200YD

診断技術論

大井田 寛、濱本 宏、廣岡 裕吏、平田 賢司

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病（微生物病、害虫による被害、生理障害等）が発生したとき、あるいは発生前に予防手段を取る際に欠かせないのが植物病の正確な診断である。診断法には症状の目視のみならず、様々な方法が開発されてきており、実際の診断は迅速性、確実性などの必要に応じていくつかの方法を組み合わせる診断することになる。それら様々な診断法と診断の流れを理解するとともに、植物病の診断法の今後について考察する。

【到達目標】

植物医科学の基礎としての植物病の病原（菌類、細菌、ウイルス、昆虫、ダニ、線虫など）の観察・同定法を修得する。あわせて、樹木医補、自然再生士補等の資格取得の基礎となる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP3

【授業の進め方と方法】

圃場診断、問診のあらましを学び、次いで、症状により原因の目安を付け、微生物病、害虫や線虫およびその被害の診断ポイントなど基本的な方法や手順を修得する。さらに、電子顕微鏡観察、化学的診断、血清学的診断や遺伝子診断など、より詳細な診断技術を学習する。また、伝統的診断技術と先端的診断技術の融合や今後の診断連携等を論議する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	植物医科学における診断の重要性と診断の流れ
第 2 回	診断の手順	問診、病原微生物の検査法
第 3 回	微生物病の診断	病気ごとの診断・コッホの原則
第 4 回	害虫の診断 (1)	診断と同定、害虫診断法
第 5 回	害虫の診断 (2)	画像による害虫診断法、診断・同定依頼法
第 6 回	主要害虫の診断	主要害虫の形態、分類、生態、植物被害等の特徴
第 7 回	植物ダニ類の診断	形態、分類、生態、植物被害等の特徴
第 8 回	線虫概論	分類・形態・生態等、検診技術（土壌・植物体の調査法）
第 9 回	主要な植物寄生性線虫 (1)	主要線虫の形態、生態、作物被害等の特徴
第 10 回	主要な植物寄生性線虫 (2)	主要線虫の形態、生態、作物被害等の特徴
第 11 回	顕微鏡の仕組みと観察	光学顕微鏡と電子顕微鏡による観察・診断
第 12 回	血清学的診断法	ELISA 法など
第 13 回	遺伝子診断法	PCR 法など
第 14 回	診断システムの概要	診断のシステム化、ネットワーク化、遠隔診断システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義のポイントをまとめておくこと。課題に関して自己学習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

「植物医科学 (上)」(養賢堂)：植物医科学実験マニュアル (大誠社) 等、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (約 20%)、課題や試験 (約 80%) により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

植物医科学の基礎となる診断技術に特化した科目であり、詳細な技術を把握できるとの回答が多くある。今後は具体例などをさらに充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面で講義を進める。

【Outline and objectives】

The accurate diagnosis of plant diseases is indispensable, when plant diseases occurred. The aim of this course is to understand the various diagnostic methods for the plant diseases.

PPE200YD
植物生理生態学

佐野 俊夫

開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学
生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では植物の発生・成長・分化といった植物の基本的生理機能を理解し、そして、環境変化に対応して生育する植物の生態機能を学ぶ。これらの植物の正常な生理生態を理解して初めて植物の病害、生理障害等の植物の異常状況が理解できる。特に、移動することができない植物には、環境変化に対応して応答する機構が発達しており、その機構を理解するため、植物ホルモンの作用機構を中心に学ぶ。

【到達目標】
植物が様々な環境変化（水、光、接触、乾燥など）に対応して、どのような生理的变化を示すかを理解し、その変化の背景には植物ホルモンなどの働きがあることが理解する。これはまた、環境刺激から植物成長に至る信号伝達の基本についても知ることもある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。また、授業終わりに小テストを行い、その授業のポイントの復習に充てているので、小テストを学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に小テストの解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	植物細胞の特徴	植物細胞の特徴と細胞観察のための顕微鏡技術について説明する
第 2 回	植物細胞の成長と植物成長	植物細胞がどのように成長することで、植物個体が成長するのかを説明する
第 3 回	植物細胞の分裂	植物細胞分裂と分裂にかかわる細胞骨格、微小管の機能を説明する
第 4 回	組織、個体における物質輸送	水、イオン、生体高分子の細胞間の移動、および組織間の移動のしくみを説明する
第 5 回	光合成と地球環境	光合成しくみ、光合成様式の違いによる植物の生存戦略を説明する
第 6 回	中間試験	第 5 回目内容までの中間試験、まとめと解説
第 7 回	植物ホルモン（1）、オーキシンの作用	植物ホルモンであるオーキシンの化学的性質、および植物での作用機作を説明する
第 8 回	植物ホルモン（2）、サイトカイニンの作用	サイトカイニンの生理作用と信号伝達経路を説明する
第 9 回	植物ホルモン（3）、ジベレリンの作用	ジベレリンの生理作用と信号伝達経路を説明する
第 10 回	植物ホルモン（4）、エチレンの作用	エチレンの生理作用と信号伝達経路を説明する。
第 11 回	植物ホルモン（5）、アブシシン酸の作用	アブシシン酸の生理作用と信号伝達経路を説明する。
第 12 回	花成とフロリゲン	花成をもたらす環境刺激とその植物内での信号伝達経路を説明する
第 13 回	形質転換と遺伝子組換え作物	植物の形質転換に用いられる Ti プラスミドと、作出された遺伝子組換え作物について説明する
第 14 回	植物の環境応答	植物生育のストレスとなりうる環境要因とそれに対する植物の応答を説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける道端、庭等に生育する植物は常に環境に対応しながら成長しているので、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。毎回、講義プリントを配布する。

【参考書】
・「植物の成長」裳華房

・「植物の生態－生理機能を中心に－」裳華房
・「テイツ ザイガー 植物生理学・発生学」培風館

【成績評価の方法と基準】
期末試験 72%、毎回の講義時に行う小テスト 28%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の小テストはその日の授業のポイントがわかると好評であることから続けている。また、穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の小テスト結果を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline and objectives】
In this lecture, we first understand the basic physiological functions of plants such as development, growth and differentiation, and learn the ecological functions of plants that grow in response to environmental changes. In particular, as plants can not move, they have developed mechanisms that respond to environmental changes. In order to understand its mechanism, we learn about the action mechanism of phytohormones.

PPE300YD

雑草学

佐野 俊夫、横山 昌雄

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雑草は作物生育を阻害したり、景観を損ねる植物の総称である。本講義ではまず、どのような植物が雑草と呼ばれ、どのような生育特性により、作物の生育に打ち勝ち、作物生育を阻害するかを学ぶ。そして、これらの雑草を防除するためにはどのような方法があるのか、化学的方法、生態学的方法について学ぶ。

【到達目標】

雑草学では雑草の生育特性を植物生態学的に理解し、そしてその特性を理解したうえで、雑草防除方法を生化学、分子生物学的に理解する。また、除草剤を使う際の安全性への配慮、環境への影響に対して配慮すべきことを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。また、授業終わりに小テストを行い、その授業のポイントの復習に充てているので、小テストを学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に小テストの解説をします。

なお、雑草生育と除草剤作用機作の生理生態学的部分を佐野が、雑草防除の現状、具体的な防除例を横山が説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	雑草とはなんだろう	雑草とはどのような植物なのか、また、雑草学とはどのような学問であるかを概説する
第 2 回	身近な雑草の生き方	身近に存在する雑草がどのような生存戦略をとっているのかを説明する
第 3 回	水田雑草の生理生態学	水田に生える雑草の特徴を植物生理生態学面から説明する
第 4 回	畑地雑草の生理生態学	畑地に生える雑草の特徴を植物生理生態学面から説明する
第 5 回	除草剤作用の生理学	一般的に用いられる除草剤の作用機作を説明する
第 6 回	形質転換と除草剤耐性作物	除草剤耐性作物の作出方法とその原理について説明する
第 7 回	雑草防除と有機農業	一般的な雑草防除法と除草剤を使わない有機農業法の違いを説明する
第 8 回	雑草防除の歴史	かつては人力で行われていた雑草防除の変遷を説明する
第 9 回	雑草になる植物（2）畑地・果樹園	農地により雑草の種類は異なり、畑地、果樹園での例を紹介する
第 10 回	雑草になる植物（3）水田	水田の雑草は他とは異なる特徴を有するのでその概要を説明する
第 11 回	雑草の防除手法	現在行われている雑草の除去の具体的方法を説明する
第 12 回	雑草の化学的防除法（1）	農薬として最初に使われた 2,4-D と、除草剤の変遷を説明する
第 13 回	雑草の化学的防除法（2）	前回の続きであるが、特に環境への配慮について触れる。
第 14 回	雑草の総合的防除法	環境に配慮した、生態学的防除法とその工夫を説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中には本講義で紹介する雑草と呼ばれる植物が多く生育していると思われ、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。毎回講義プリントを配布する。

【参考書】

松中昭一、さらわれものの草の話、岩波ジュニア新書
山口裕文、雑草学入門、講談社

【成績評価の方法と基準】

期末試験 72%、毎回の講義時に行う小テスト 28%、で評価する

【学生の意見等からの気づき】

穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の小テスト結果を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特に予定していない。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

Weeds are a generic term for plants that hamper crop growth and damage the landscape. In this lecture, we first learn what kind of plants is called weeds and what kind of its growth characteristics inhibit crop growth. Then, we will learn about methods to manage these weeds by chemically and ecologically.

PPE200YD

植物医科ビジネス論

高橋 修一郎、宮内 陽介、川名 祥史、小倉 里江子

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、植物医科学に関連するビジネス概況の理解を目標とする。講義テーマは、主に農業、園芸、食品、環境に関するものとし、実際のビジネスの現場で活躍する人材を講師として呼び、今後の発展を議論する。

【到達目標】

植物医科学に関連するビジネス分野を知り、それぞれの事業分野の要諦を知る。講義終了時にはレポートをまとめ、学生ひとりひとりが将来の自分のキャリアについて考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

植物は食料生産のみならず、公園など屋外公共空間の景観形成や事業所ビル内外の装飾、あるいは家庭における園芸など現代社会のあらゆる場面で利用されている。その際、植物が健康に生育していることが必要であり、植物が利用されるあらゆるビジネスで植物医科学が必要とされる。植物医学が活用できる業界の具体的な動向や今後の戦略などを民間からの講師を交えて論じる。また、新たなビジネスの創造についても論議する。なお、課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	植物医科学に関連するビジネス全般を解説し、講師が行っている事業についても紹介する。
第 2 回	種苗ビジネス	種苗系ビジネスの概要を紹介し、キーとなる技術を解説する。
第 3 回	農業ビジネス	近年増加する農業法人による生産活動の概略を解説し、その中で植物医科学が果たす役割について学ぶ。
第 4 回	肥料ビジネス	健全な土壌を維持するために必要な技術を学び、実際のビジネス現場についても解説する。
第 5 回	農業ビジネス	農業ビジネスの実際を解説し、農業に関連する法規についても理解する。
第 6 回	アグリベンチャービジネス	アグリ系のベンチャーの取り組みについて学ぶ。
第 7 回	まとめ	これまでの学んだ内容を踏まえて 10 年後の農業についてグループディスカッションと発表を行う。
第 8 回	食品ビジネス	食品産業において原料としての植物の重要性を学び、ビジネスとして成立させるために重要なポイントを解説する。
第 9 回	農業機器ビジネス	農業における IoT、ICT を活用について解説する。
第 10 階	機能性食品ビジネス	植物由来の機能性食品ビジネスについて解説する。
第 11 回	植物工場ビジネス	植物工場の仕組みおよび活用について解説する。
第 12 回	バイオテクビジネス	農業における遺伝子組み換え技術とその活用について解説する。
第 13 回	農業計測ビジネス	農業現場へのドローンやセンシングを活用した取り組みについて学ぶ。
第 14 回	まとめ	これまでの講義を通じて学んだ内容を踏まえて未来の農業についてグループディスカッションと発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】特に予習は必要としないが、日頃から新聞やインターネット等で植物に関連するビジネスについての情報に触れておくことを推奨する。

【テキスト（教科書）】

なし。適宜、資料を配布する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、質疑およびレポートにより総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義内での質問の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

講師・講義により、PC が必要となる場合がある。必要な場合には前週の講義にてアナウンスする。オンライン講義の場合、カメラをオンにできる通信環境を整えて参加すること。

【その他の重要事項】

本講義の教員は全員植物医科ビジネスの実務経験を有する。実際のビジネスの現場について紹介するとともに、将来について受講者とディスカッションする。

【Outline and objectives】

In this lecture, we aim to understand business overview related to plant medicine science. Lecture themes mainly relate to agriculture, horticulture, food and environment, and we will talk about the company who conducts plant related business.

AGC200YD

フードセーフティ論

川本 伸一、濱松 潮香、八戸 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食品の安全性確保に重要な危害要因（化学物質、自然毒、微生物、放射能など）の特性とリスク低減対策の概要について学ぶ。また、対策の基本となるリスク分析の考え方を理解する。これらの知識をもとに、食品安全や食料安全保障についての理解を深める。

【到達目標】

食品安全は単に食品衛生上の技術問題の解決だけでは達成できないことを理解する。行政とフードチェーン（生産・加工・流通・販売・消費）に係わる全ての関係者（ステークホルダー）の意思疎通および連携・協力が食品安全問題の解決には必要不可欠であることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

農作物の残留農薬、カビ毒汚染問題や有害微生物による大規模食中毒事件の発生など食品安全問題は消費者の関心が高い。食品安全を確保するためには、従来の食品衛生上の品質管理手法に加え、国際的な取組としてのリスク分析導入によるリスク評価、リスク管理およびリスクコミュニケーションが重要である。政策上も重要な課題となっている食品安全について、その背景と現状、将来の方向性について論議する。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	食品安全総論（1）	食品安全に関する国際認識と国際機関、日本の食品安全行政（関連法令・関連省庁）
第 2 回	食品安全総論（2）	危害要因とリスク、リスク分析
第 3 回	食品安全各論（1）	食中毒の発生状況、微生物性食中毒（1）
第 4 回	食品安全各論（2）	微生物性食中毒（2）、寄生虫食中毒
第 5 回	食品安全各論（3）	食品の微生物制御と衛生管理
第 6 回	食品安全各論（4）	自然毒（植物性・動物性）、有害化学物質（かび毒、アクリルアミド等）
第 7 回	食品安全各論（5）	農薬、食品添加物
第 8 回	食品安全各論（6）	食物アレルギー、放射線照射食品、遺伝子組み換え食品
第 9 回	食品安全各論（7）	食品表示、JAS 規格、関連法令
第 10 回	食品安全各論（8）	放射能の基礎知識
第 11 回	食品安全各論（9）	食品の放射能汚染 1（農業における汚染）
第 12 回	食品安全各論（10）	食品の放射能汚染 2（加工食品の汚染）
第 13 回	食品安全各論（11）	原発事故後の農産物放射能汚染への緊急対応
第 14 回	食品安全各論（12）	食品安全行政とレギュラトリーサイエンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
マスコミに取り上げられる食品安全問題に関してはその内容、背景などの理解に努める。

【テキスト（教科書）】

その都度、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

食品衛生学 補訂版（新スタンダード栄養・食物シリーズ 8）

ISBN コード（ハイフンなし）：9784807916795

出版社：東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

受講姿勢（講義ごとの小テスト等 20%、出席率 40 %）及び最終総合レポート（各教官からの複数課題に関するレポート作成、40 %）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces an overview of the measures and characteristics of hazards (chemical substances, natural poisons, microorganisms, radioactivity etc.), and also the concept of risk analysis important for securing food safety. The aim of this course is to help students deepen the understanding of food safety and food security, based on these knowledge.

PPE200YD

植物バイオテクノロジー概論

川合 伸也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は対面授業が始まるまで、google drive 上に保存された講義録画を受講してください。アドレスは <https://drive.google.com/open?id=14NaLe2xYlrEu-GrKZYYJOgxzsIDR7mNX> です。

植物バイオテクノロジーは、最先端の生命科学を基盤として、21 世紀における人類の食料の確保、燃料や薬品などの有用物質の生産、木材や繊維の生産、地球環境の保全と改善などに幅広く役立つ画期的な生物工学技術である。本授業では、植物バイオテクノロジーの背景、基礎、応用についての専門基礎的な知識を広く身につける。

【到達目標】

- 1 細胞融合・遺伝子組換え植物の作製法の原理を理解できる。
- 2 個別の遺伝子組換え作物が開発された背景、導入された遺伝子と新たな形質との関係を理解できる。
- 3 New Plant Biotechnology として、植物のゲノム編集、ウイルス・ベクターの利用の利点を理解できる。
- 4 食品の安心と安全の違いと科学的な安全性評価を理解できる。

Learners who successfully complete this course will be able to:

- ・Recognize breeding methods of transgenic plants and cell fusants
- ・Recognize down- and up-regulations of plant genes and gene disruption methods
- ・Recognize genome editing methods and application of virus vectors
- ・Recognize principles and mechanisms of genetically modified foods and phytoremediation

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

この授業を対面授業、オンライン授業にするかは、そのときの状況により決める。
リアクションペーパー提出や課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入編 Introduction	遺伝子組換え作物の栽培の現状と、遺伝子組換え作物と慣行栽培や有機栽培との比較 Statistics of genetically modified foods, comparison to non-genetically modified foods, and regulations.
第 2 回	基礎編 1 Basics 1	組織培養と細胞融合と遺伝子導入系（パーティクルガン法） Structure of plant cell, totipotency of plant cell, dedifferentiation and redifferntiation, tissue culture and plant hormones, cell fusion and cybrid, principles of plant genetic engineering, and particle gun.
第 3 回	基礎編 2 Basics 2	遺伝子導入系（アグロバクテリウム法）と導入された遺伝子の選択系と複製系とカルスからの個体再生系 Transformation methods with binary vectors of Agrobacterium, including the selection and regeneration systems.
第 4 回	基礎編 3 Basics 3	アグロバクテリウム法とパーティクルガン法の比較、マーカーフリー組換え体の作出法 comparison between Agrobacterium and Particle gun methods, and Selective marker-free transgenic plants.

第 5 回 基礎編 4
Basics 4

第 6 回 応用編 1-1
Application 1-1

第 7 回 応用編 1-2
Appliction 1-2

第 8 回 応用編 1-3
Appliction 1-3

第 9 回 応用編 1-4
Application 1-4

第 10 回 応用編 2-1
Application 2-1

第 11 回 応用編 2-2
Application 2-2

第 12 回 応用編 3
Application 3

ゲノム編集 (ZFN と CRISPR-Cas9) と遺伝子発現抑制法 (遺伝子破壊法と RNAi) と CRES-T 法による遺伝子発現抑制、T-DNA tagging とその利点
Principles and applications of reverse genetics and genome editing, and T-DNA tagging method.

第一世代組換え食品：エチレン生合成制御による果実の成熟制御と Bt などによる害虫抵抗性

Control of fruit riping by down-regulation of ethylene synthesis, insect tolerance.

第一世代組換え食品：除草剤耐性作物 1・・・耐性化機構の分類とグリフォセート耐性、グルフォシネート耐性、スルフォニルウレア系除草剤耐性と選択的遺伝子置換、プロモキシル耐性、2,4-D 耐性、イソキサフルトール耐性
Herbicide tolerance (glyphosate, glufosinate, sulfonylurea, 2,4-D).

第一世代組換え食品：ウイルス抵抗性及びディフェンシン生産作物、barstar と barnase を用いた雄性不稔作物
Pest tolerance (over-production of viral coat protein, RNA degradation by PTGS, R gene, chitinase, plant defensine) and Pest tolerance (over-production of viral coat protein, RNA degradation by PTGS

第二世代組換え食品：ゴールデンライス、ビタミン E 強化ダイズ、油脂の改変、デンプンの改質、スギ花粉症緩和米、経口ワクチン含有作物

The second generation of genetically modified foods (Golden Rice, oleate rich soy bean, tryptophan rich rice, ferritin-containing rice, rice to repress choresterol, low allergen-containing rice, 花色と改変 1・・・植物色素の種類と青色の発現機構とデルフィニジン生合成による花色改変
Alternation of flower color (pigments of flower, pH theory, metal chelete theory, copigment theory, anthocyanidin biosynthetic pathway, delphinidin, F3'5'H, blue carnation and rose).

花色と花型の改変 2・・・オーロン生合成による花色の改変と花の ABC モデルと花型の改変、FT と TFL による開花制御
Control of flowering (leafy, FT, TFL, and ALSV)and flower shapes(leafy, needly, ABC model, superman)

ストレス耐性植物（低温耐性）・・・ホスファチジルグリセロールの改変と脂肪酸の改変と適合溶質と活性酸素除去、(乾燥・浸透圧耐性、重金属耐性)・・・適合溶質と活性酸素除去、鉄欠乏耐性、亜硫酸ガス耐性植物
Stress tolerance 1(cold, drought, freezing, salinity, high temperature, inhibition of photosynthesis, compatibe solutes, GPAT, phosphatidyl glycerol, light

第 13 回	応用編 4 Appliction 4	植物による環境浄化・・・水銀浄化と 重金属超蓄積植物、ファイトケラチ ン、ハロゲン置換炭化水素や芳香族化 合物浄化作物、排気ガス浄化作物 Air pollution tolerant plants, tolerance to iron-deficiency (mugineic acids) and Phytoremediation (phytochelatin, mercury tolerance, arsenic tolerance, heavy metal tolerance, volatile enviro
第 14 回	総括 Conclusion	全体の復習と練習問題の解説 Conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】参考書などによる予習および復習が必要である。授業のパワーポイント資料を授業支援システムにアップロードしておくので各自ダウンロードして予習するとともに、授業にはダウンロードした PC を持参する。分子生物学や遺伝子工学の基礎を既に理解しているという前提で授業内容を組んでいるので、授業中に簡単には説明するが、それらの分野の知識が足りないと自覚したら、自習する。
In addition to the class, students are recommended

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。パワーポイント資料が実質的な教科書である。パワーポイントのファイル自体を授業支援システムから各自ダウンロードして勉強する。なお、授業の終盤には、出題する可能性の高い問題をアップロードしておく。

None

【参考書】

*植物の生化学・分子生物学（Buchanan, B.B. ら 編, 杉山 達夫 監修), 学会出版センター, 2005.

*Wikipedia 遺伝子組み換え作物（川合が大部分を書き込み編集したので、授業内容の理解に役立つ。(http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%81%BA%E4%BC%9D%E5%AD%90%E7%B5%84%E3%81%BF%E6%8F%9B%E3%81%88%E4%BD%9C%E7%89%A9)

【成績評価の方法と基準】

試験 100%。配布のプリント、参考書など、ノート、プリントアウト等の紙類及び通信機能のない電子辞書の持ち込み可。また、授業最終回には、試験の傾向と対策についての説明を行う。

test (100%). At the exam, you can bring and read books, printouts and notes.

【学生の意見等からの気づき】

- ・ゆっくり話すようにする。
- ・アンケートでは授業レベルはこのままで良いという意見と高度すぎるという意見に分かれているので、解説を増やすとともに授業内容の厳選を行う。
- ・量が多過ぎる（範囲が広すぎる）という批判があるが、この授業は概論であり、所々内容を深く講義することはあっても、広く浅く講義せざるを得ない。予習復習したり発展的に勉強したりする上で書籍をできるだけ購入しなくてもすむように関連情報も載せているし、リンク先もパワーポイントファイルに埋め込んである。
- ・特に重要なスライドについては、授業中に注意喚起

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに授業用のパワーポイント資料をアップロードしているので、パワーポイントまたは互換性のあるソフトウェアをインストールしてあるパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

講義内容は必要に応じて変更することがある。質問等は授業中や授業終了後に行うことが望ましいが、メール (skawai@cc.tuat.ac.jp) でも受け付ける。その際、用件と所属をタイトルに記入すること。

【Outline and objectives】

This course provides students with basics and applications of plant biotechnology and plant molecular biology. The topics covered are both principles of plant transformation and cell fusion methods and their applications. Students will learn to recognize the statistics of genetically modified foods in Japan and the world, stress tolerance, phytoremediation, and flower color alternation.

GNM300YD

植物メディカルゲノム学**大島研郎、濱本宏**

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、シーケンシング技術の向上に伴い、植物や植物病原体のゲノム情報が急速に蓄積されつつある。本授業では、ゲノム解読・ポストゲノム解析の手法や、ゲノムデータベースの利用法を学ぶとともに、ゲノム情報が様々な分野に応用されていることを理解することを目的とする。

【到達目標】

ゲノム解読の手法やゲノムの構造的特徴を理解するとともに、ゲノムデータベース等を活用するためのスキルを身につける。また、トランスクリプトーム解析など、ゲノム情報を利用した網羅的解析の手法を理解する。植物病の防除・診断技術へゲノム情報を活用するための知識・技術の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

主に液晶プロジェクタや視覚的教材を利用して講義を行う。各回の授業の終わりに課題を提示し、提出された解答で理解度を確認しながら進める。また、授業内に前回の課題について講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義全体の説明
第2回	ゲノム配列の解析法（1）	ゲノム解読の手法
第3回	ゲノム配列の解析法（2）	次世代シーケンサー
第4回	ゲノム配列の解析法（3）	ゲノムデータベース
第5回	ゲノム機能解析（1）	ゲノム解析の実例
第6回	ゲノム機能解析（2）	タンパク質の機能解析
第7回	ゲノム機能解析（3）	タンパク質間相互作用解析
第8回	遺伝子組換え技術（1）	アグロバクテリウム法
第9回	遺伝子組換え技術（2）	トランスポゾン、DNA 鑑定
第10回	遺伝子組換え技術（3）	ゲノム編集技術
第11回	遺伝子発現解析（1）	マイクロアレイ解析
第12回	遺伝子発現解析（2）	プロテオーム解析
第13回	遺伝子発現解析（3）	エピジェネティクス
第14回	総括	講義内容の復習・確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
授業内で提示された課題を解き、解答を提出する。また、講義資料、例題などを復習し、良く理解しておく。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。資料配布する。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50%)、レポート課題 (36%)、平常点 (14%) により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

情報機器（貸与パソコン）を活用した演習を取り入れるとともに、講義資料を穴埋め式にするなど、効率的に学習できるように工夫している。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用して、課題の提示や講義資料の配布を行う。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the genomics associated to plants and plant pathogenic bacteria. This course deals with the principles of sequencing of genomes. It also enhances the development of students' skill in the applied biology by using genomic data.

PPE200YD

植物細菌学

大島 研郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物を病気から守るためには、病原体が植物に侵入・感染・増殖するメカニズムを分子レベルで明らかにすることが重要である。本講義では、微生物の中でも特に細菌に焦点を当て、細菌が植物に感染するために進化させてきた巧みな寄生戦略を理解することを目的とする。

【到達目標】

植物に病気を引き起こす細菌や、植物と共生する細菌について、形態、分類、病徴、宿主範囲、検出診断法、防除法など、基本的な知識を身につける。また、細菌が植物に感染するために用いる分子装置や、植物が細菌から身を守るために進化させてきた防御システムを学習することで、細菌と植物が繰り返す攻防を分子レベルで理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

・Zoomを使ったオンライン形式で授業を行う（URL など詳細については学習支援システム・植物細菌学のページを確認してください）。
・各回の終わりに簡単な小テスト（穴埋め問題など）を提示し、授業支援システムを通して回答してもらう。
・授業の初めに前回の小テストの答えを解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義全体のガイダンス、細菌とはどのような生物か？
第 2 回	細菌の培養と代謝	細菌の培養法とおもな代謝経路
第 3 回	細菌の分子生物学	細菌の DNA 複製、転写・翻訳など遺伝子発現の特徴
第 4 回	細菌の分類、系統	細菌の分類法、細菌の分子進化学
第 5 回	植物細菌 1	野菜を溶かす微生物：ベクトバクテリウム属細菌
第 6 回	植物細菌 2	タンパク質を注射して植物に感染する微生物：シュートモナス属細菌
第 7 回	植物細菌 3	道管を詰まらせて植物を病気にする微生物：ラルストニア属細菌
第 8 回	共生細菌	植物と共生して生きる微生物：リゾビウム属細菌
第 9 回	難培養性の植物細菌 1	花を葉に変える微生物：ファイトプラズマ属細菌
第 10 回	難培養性の植物細菌 2	昆虫によって媒介される微生物：グリーニング病細菌
第 11 回	植物細菌の同定・診断	植物細菌の同定法、免疫学的診断法、遺伝子診断法
第 12 回	植物細菌病の予防技術	植物を病気から守るためのさまざまな予防技術
第 13 回	植物の防御システム	植物免疫：植物はどうやって病気から自らの身を守るのか？
第 14 回	細菌と植物の分子攻防	植物と病原細菌のはてしなき軍拡競争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。
・小テストを解くことで授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

植物病理学 第2版（文永堂出版）
植物医科学（養賢堂）
植物医科学の世界（大誠社）
植物医科学実験マニュアル（大誠社）
植物たちの戦争 病原体との5億年サバイバルレース（講談社ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60%）、および小テストなどの平常点（40%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料を穴埋め式にするなど、効率的に学習できるように工夫している。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the bacteriology associated to plant pathogenic bacteria. This course deals with the principles of culture method, classification, pathogenicity, diagnosis, and pest control. This course also enhances an understanding of the plant-microbe interaction at molecular level.

PPE200YD

植物ウイルス学

津田 新哉

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、植物病理学・植物医科学分野の中で、農作物の重要病原の一種である植物ウイルス等の歴史、分類、病気の種類、診断法、防除法さらに最新の分子生物学に至るまでの基礎・応用・実用研究の最前線を解説する。さらに、ウイルス等の生物学的特徴を説明するとともに、生命科学をリードするウイルス等研究の役割について講義する。

【到達目標】

植物ウイルス病研究の歴史、現在のウイルス等の分類、分子構造、生物学的特徴、発生生態、媒介様式、さらに防除方法等について理解する。さらに、ウイルス遺伝子とその産物であるタンパク質の機能、それら高分子と植物遺伝子等との相互作用を通じて生命現象の仕組みを学習する。また、ウイルス感染から発病に至るまでの経緯を連続的に捉え、ウイルス病防除の技術的課題の抽出と農作物の安定生産に向けた対策を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッションや小テスト等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	植物ウイルス病とウイルス学の歴史	植物ウイルス病とウイルス等研究の歴史について概説する。
2	植物ウイルスの分類	植物ウイルス等の分類方法の変遷と分類基準について概説する。
3	植物ウイルスの構造	ウイルス粒子の形態、ウイルス粒子の化学組成、ウイルスゲノムの遺伝子構造について説明する。
4	植物ウイルスの遺伝と変異	ゲノムの異なるにウイルスの遺伝子発現様式、ゲノム上で起こる遺伝子変異について解説する。
5	植物ウイルスの精製と定量	植物ウイルスの精製方法と定量方法について具体的な実験事例を示しながら解説する。
6	植物ウイルスの感染と増殖（1）	植物ウイルス等の植物細胞への感染・増殖・移行過程の現象を生物学的に解説する。
7	植物ウイルスの感染と増殖（2）	引き続き、植物ウイルス等の植物細胞への感染・増殖・移行過程の現象を生物学的に解説する。
8	植物ウイルスの病徴	植物ウイルスが感染することによって表れる様々な病徴を説明する。また病徴発現のメカニズムを解説する。
9	植物ウイルスの伝染	植物ウイルスの自然界における伝染実態を紹介するとともに、異なる生き物により媒介されるその様式の多様性を説明する。

10	植物ウイルスの干渉	植物ウイルス間で起こる干渉作用を理解する。
11	植物の抵抗性と植物ウイルス病の疫学	植物遺伝子が引き起こす抵抗性反応を解説する。また、植物ウイルスの自然界における生活環と流行、さらに調査方法を解説する。
12	植物ウイルス病の診断と防除	植物ウイルスの病原体としての確定法と防除方法について説明する。
13	植物ウイルスの生物学	生命科学におけるウイルス学の果たすべき役割と生物工学研究での社会モラルについて解説する。
14	総括	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
受講生は、特に予習を必要としないが、専門用語などについては、参考書などでしっかり復習する。特に、遺伝子や複製、翻訳などについては、生化学や分子生物学に関する本を読み、基本的知識を理解するように努める。なお、毎回の授業の最後に質問する時間を設けるので、すでに終了した授業の内容も含めて積極的に応答することを期待する。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回資料を配付する。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で 50%、小テスト・レポートで 30%、平常点 20%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料のうち量の多いもの、講義をより深く理解する助けとなる参考資料等については、授業支援システムを活用する。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

民間企業、公設試、国立研究機関における植物ウイルス病の診断・防除に関する研究・技術開発に携わった教員が、生産現場における問題点の抽出、それを解決するための技術体系の構築、開発した技術体系の社会実装に至るまでの経緯を講義する。

【Outline and objectives】

This course will provide a comparative overview of plant virus life cycles and strategies viruses use to infect and replicate in host plants. We will discuss virus structure and classification and the molecular basis of viral reproduction, evolution, assembly, virus-host interactions, epidemiology and protection of viral diseases.

AGC200YD

微生物生態学

堀 知行

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

土壌や水界などのあらゆる環境に多種多様な微生物が生息している。これらの微生物は主要元素の循環に重要な役割を担っており、地球環境の恒常性の維持に不可欠である。加えて、微生物は植物や動物の生存にさまざまな影響を及ぼしている。本授業では、微生物と環境との関係、微生物と高等生物との相互作用を研究する微生物生態学について、微生物の性質と分類、微生物生態学における解析手法、様々な環境の微生物、微生物利用の可能性を中心に講義し、今後の研究の展開について考える。

【到達目標】

微生物の基礎的知識を得るとともに、さまざまな環境に生息する多種多様な微生物の特徴を理解する。微生物の解析手法について理解を深めるとともに、農業生産や地球環境保全に果たす微生物の役割について学び、今後の微生物利用の展開を考える力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

スライドを使った通常の講義。オンラインでの開講を基本とする（具体的には開講前に学習支援システムを参照のこと）。フィードバックは授業時に実施するアンケートに記載の事項に答える形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	微生物生態学とは	微生物とは？ 生命の 3 ドメイン 栄養と代謝
第 2 回	微生物細胞の構造と機能	生体高分子 細胞膜と輸送 細胞壁の特徴
第 3 回	微生物の生息環境	水界、土壌、極限環境 バイオフィルム環境
第 4 回	微生物群集の構造と機能	微生物の系統学 培養できない微生物とその解析法
第 5 回	微生物の一次生産	一次生産と光栄養 植物プランクトンとブルーム
第 6 回	微生物の有機物分解	有機物分解と炭素循環 高分子有機化合物の分解
第 7 回	嫌気環境の微生物呼吸	いろいろな電子受容体 メタンと微生物
第 8 回	窒素循環と微生物	窒素固定 硝化と脱窒 アナモックス
第 9 回	硫黄循環と微生物	硫黄酸化と硫酸還元 海底堆積物の微生物
第 10 回	金属と微生物	鉄酸化と鉄還元 バイオミネラリゼーション
第 11 回	植物・動物と微生物の共生	菌根菌 微生物と動物・昆虫
第 12 回	微生物を用いた環境浄化	バイオレメディエーション 水処理・浄化
第 13 回	微生物利用の将来	環境バイオテクノロジー 循環型社会に向けた微生物利用
第 14 回	理解度確認	授業内容についての試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】専門用語などについて、参考書などを用いて復習する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

・Block 微生物学 Michael T. Madigan 他著 室伏さき子他監訳 オーム社 2003 年 18000 円
・微生物の地球化学 元素循環をめぐる微生物学 T.Fenchel 他著 太田寛行他訳 東海大学出版部 2015 年 3200 円
・授業の際に、それぞれの話題に則した書籍、学術論文などを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に実施する小テストによる平常点（30％）ならびに期末試験（70％）をもとに、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

授業時に実施するアンケートに記載の事項をフィードバックする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

A variety of microorganisms exist in natural environments, such as soil and water ecosystems. These microorganisms play important roles in the key element cycles in the environments, being indispensable to maintain the homeostasis of the earth. In addition, they have various influences on the survival of plants and animals. In this class, I lecture on microbial ecology including the classification of microbes, symbiosis of microbes with plants and animals, microbes in extreme environments, culture-independent analyses of microbes, possible use of microbes for environmental problems.

BOA300YD

環境昆虫学

安田 耕司

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昆虫は、原生自然から農地や都市環境に至るさまざまな環境に適応・進化している。このように多様に進化した昆虫がどのような形態的・生態的特徴をもち、どのような生活を送っているかその概要を学ぶ。また昆虫が生物間相互作用を通して人間の生活や生態系の維持に果たしている役割を学び、身近にいる昆虫が私たち人間にとって重要な存在であることを理解する。

【到達目標】

さまざまな環境に生息する昆虫の種類や目（もく）レベルのおおまかな分類群を識別できるようになり、身近な昆虫にも親しみを持つようになる。また昆虫の特徴的な行動や生活史を知ることで生態系の中の昆虫の位置づけを理解し、人間にとって最も重要な環境について考える切っ掛けを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は要点をまとめた資料を配布した上でパワーポイントを使って進めます。授業後には簡単な課題を課しますので、質問、感想とともに学習支援システムを通して提出してください。質問や感想の内容はその後の授業に活用します。また数回の授業ごとに小テストを実施します。なお新型コロナにより遠隔授業となった場合は、Zoom を用いたリアルタイム配信を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	自己紹介、授業計画、学生の昆虫に対するイメージの確認
第 2 回	昆虫の系統分類	昆虫の系統進化と各分類群の特徴について
第 3 回	身近な環境に生息する昆虫	庭、街路樹、家屋内など身近な環境にみられる昆虫や人間の生活に深く関わる昆虫について
第 4 回	農作物や果樹等の害虫	作物や野菜、果樹、養蜂等の主要害虫の種類、分類および生態について
第 5 回	外来昆虫	海外から日本に侵入した昆虫や侵入が警戒される昆虫の種類と生態について
第 6 回	昆虫の発育・生理	発育や繁殖、休眠など昆虫の基本的な発育・生理について
第 7 回	環境条件が昆虫の発育や行動に及ぼす影響	昆虫の相変異や多型現象相について
第 8 回	昆虫にみられるさまざまな擬態	昆虫にみられる様々な擬態とその進化について
第 9 回	昆虫における遺伝と進化	昆虫にみられる進化や適応の遺伝的基礎について
第 10 回	地球温暖化と昆虫	地球温暖化が昆虫の分布や生態に及ぼす影響について
第 11 回	昆虫による生態系サービス	近年劣化が懸念されている生態系サービス（特に花粉媒介）について
第 12 回	外来生物が生態系に及ぼす影響	侵入昆虫をはじめとする外来生物が生態系に及ぼす影響について
第 13 回	農業生態系に生息する昆虫について	農業生態系に特徴とそこに適応した昆虫の生態について
第 14 回	講義内容の補足、まとめ、試験	講義内容についての補足説明と全体のまとめ、および講義内容の理解度の確認するための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】庭や街路樹、屋内など身近にいる昆虫に興味を持ち、それらの名前を図鑑やインターネット等を用いて調べる経験をもつ。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

1. 応用昆虫学の基礎、後藤哲雄・上遠野富士夫、農山漁村文化協会、2019
2. 外来種ハンドブック、日本生態学会編、地人書館、2002
3. 地球温暖化と昆虫、桐谷圭治・湯川淳一編、全国農村教育協会、2010
4. 「ただの虫」を無視しない農業、桐谷圭治、築地書館、2004

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）、レポート（20 %）、小テスト（20 %）

ただし今後、遠隔授業になるなど、状況が変わった場合は変更の可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

簡単そうな内容であっても、基本的な部分は丁寧に説明するよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Insects live in various kind of environments from native wilderness to agricultural and urban environments. They have evolved diverse traits in order to adapt to such wide range of environments. Students will learn the role that insects play in the maintenance of ecosystems and human life through interaction between organisms, and understand that insects nearby are important to us.

PPE300YD

媒介システム学

津田 新哉

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、植物病原微生物が植物から植物へと自然界において媒介される実態を解説する。特に、植物病の主たる媒介者である昆虫の分類を事例として、媒介生物と植物病原微生物、さらに植物との三者間の伝染環に基づく相互作用を説明し、植物を病気から保護する技術的対策について論説する。

【到達目標】

植物病の主たる媒介生物である昆虫とそれに媒介される病原微生物の自然界における相互作用を理解し、それらの媒介に関連する生体高分子間の反応の実態を学習する。また、植物、病原微生物、媒介生物の三者間の連鎖により成立する伝染環を把握し、媒介様式に着目した病害制御対策を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッションや小テスト等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	植物病害における伝染環研究の歴史	植物病害伝染環の研究史と病原微生物の伝播の基礎知識を概説する。
2	植物病原微生物の伝染様式	植物病原微生物の自然界における伝染様式を説明する。
3	植物病原微生物の媒介様式	植物病原微生物の媒介生物による伝染経路を説明する。
4	植物病原微生物の媒介生物（1）	植物病原微生物を媒介する昆虫などについて具体的事例を説明する。
5	植物病原微生物の媒介生物（2）	引き続き、植物病原微生物を媒介する昆虫などについて具体的事例を説明する。
6	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（1）	媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
7	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（2）	引き続き、媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
8	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（3）	引き続き、媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
9	媒介昆虫の生態と植物病害発生との相互関係	媒介昆虫の生活環の変転に伴う植物病害の発生の変化について説明する。
10	生物によるウイルス媒介の分子機構	媒介生物体内におけるウイルス等の局在、増殖、移動などについての分子機構を説明する。

11	植物病原体の種子伝染機構	植物種子により伝染する病害を解説するとともに、ウイルス等を事例にした種子伝染の分子機構を説明する。
12	植物病原体-媒介生物-宿主植物の相互作用の解析	三者間の相互作用により発生する植物体の生物反応について解説する。
13	植物病原体の薬剤耐性とその対処法	植物病原微生物の薬剤耐性能の発達とその対処法を説明する。
14	総括	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
受講生は、特に予習を必要としないが、専門用語などについては、参考書などでしっかり復習する。特に、遺伝子、タンパク質などの生体高分子の機能については、生化学や分子生物学に関する本を読み、基本的知識を理解するように努める。なお、毎回の授業の最後に質問する時間を設けるので、すでに終了した授業の内容も含めて積極的に応答することを期待する。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回資料を配付する。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で 50%、小テスト・レポートで 30%、平常点 20% で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料のうち量の多いもの、講義をより深く理解する助けとなる参考資料等については、授業支援システムを活用する。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

民間企業、公設試、国立研究機関において植物病の伝染環制御に関する研究・技術開発に携わった教員が、生産現場における問題点の抽出、それを解決するための技術体系の構築、開発した技術体系の社会実装に至るまでの経緯を講義する。

【Outline and objectives】

The primary objective of this course is to introduce the student to the subject of transmission for plant microorganisms occurring diseases. The course will emphasize an interaction between plant virus and insect vector as they apply to plants and discuss plant protection measures considering their ecological relationships to their physical environment and to other organisms, including other plants, microorganisms.

BOA300YD

植物メディカルシステム学

濱本 宏

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（ICT）の活用は、今後の農業の発展に不可欠である。農林水産省の食料・農業・農村白書にはロボット技術や ICT を活用したスマート農業などが紹介されてきた。本授業では、農業の中でも植物医科学分野に関わる ICT 技術として、フィールドサーバーやドローンなど農業データの取得にかかわるハード面と、データ処理技術、機械学習、人工知能（AI）などデータの利用にかかわるソフト面とについて、これら農業に革命をもたらす技術の基礎を学ぶ。

【到達目標】

農業や植物医科学における ICT の利用例をもとに実務的な知識を身につける。また、その基盤をなす情報科学の基礎知識を得る。特に、関連する情報の探索とその活用、ゲノム情報の活用、画像解析技術の活用について具体的な例を学びながら最新の知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

＜＜授業実施方法の詳細等は学習支援システムを通じてお知らせします＞＞
情報科学の基礎と、画像解析技術の応用、農業や植物医科学における情報取得とその活用、遺伝子情報の植物医科学への応用などを順次学ぶ。授業の内容によって、コンピュータを持参し実際の作業を行う回も設定する。さらに、情報科学を活用することで、どのようなことが実現可能なのか、何がメリットで何が問題点なのか、今後農業や植物医科学にどのように活用できるのかを考える。また、データ解析の手法について簡単な演習を交えて解説する。区切りごとに課題を設定し提出させ、次の授業冒頭に解説を加えることでフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の進め方、授業概要の解説などガイダンス
第 2 回	現代社会と情報科学	現代社会・特に農業関係で使われている情報技術・情報通信技術の概説
第 3 回	農業・植物医科学における情報科学	特に農業にかかわる情報科学の概説
第 4 回	農業関連データを取得する技術とその応用（1）	フィールドサーバーやドローンなど現場からマクロなデータを取得する技術
第 5 回	農業関連データを取得する技術とその応用（2）	現場から取得されたデータの利用・応用、精密農業とスマート農業といった考え方の紹介
第 6 回	植物医科学に関連するデータベース	診断、防除に関わる国内外のデータベースの紹介
第 7 回	植物医科学に関連するデータベースの利用と診断システム	データベースの具体的な利用法の紹介と診断システムの解説
第 8 回	遺伝子データベースの植物医科学への利用	遺伝子データベースと植物病の診断、遺伝子データベースの実際の利用
第 9 回	植物医科学におけるデータベースの利用の実際	PC/インターネットを用いて実際に植物医科学関連データベースを調査する
第 10 回	情報技術の発達史	コンピュータの歴史やインターネットの普及など情報技術発達の歴史
第 11 回	データ解析の手法（1）	データ解析の基礎となる統計処理
第 12 回	データ解析の手法（2）	統計処理に用いるソフトウェア
第 13 回	データ解析の手法（3）	画像解析技術の基礎と手法
第 14 回	総合討論	ICT と植物医科学の接点に位置する最新 Topics の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業中に紹介したデータベースやシステム等を、復習の際に実際に使用し、利用するとともに、他の授業や実習の予習、復習等の際に利活用することを心がける。

【テキスト（教科書）】

資料配布を基本とする。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験とレポート課題：80%、平常点 20%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解を深めるために、実際に PC を利用した実習を活用する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて指示するので、PC を持参する。

【その他の重要事項】

民間企業に勤務した教員が、開発された新技術に関してビジネス的な観点も取り入れいち早く説明する。

【Outline and objectives】

In this class, students study the technologies for data acquisition (field server, multirotor, next-generation sequencer, etc) and data processing (including the utilization of AI).

PPE300YD

植物感染生理学

鍵和田 聡

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物と病原体は様々な相互作用を行っており、病原体の感染戦略と植物の抵抗性の攻防の結果として植物病害が引き起こされる。その発生メカニズムを分子レベルで理解するとともに、植物の防御機構を利用した防除法についても学ぶ。

【到達目標】

植物の抵抗性と植物を加害する病原体の感染生理を分子レベルから理解する。これを通じて植物と病原体の攻防についての理解を深め、防除のための基礎的な知識とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業計画に従って講義を行う。まず植物と微生物の関係について概説し、植物の抵抗性について述べる。次いで種々の病原体の感染戦略とそれに対する植物の防御応答について解説する。また、これを踏まえた上で防除戦略についてもいくつかの事例を紹介して考察する。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストで振り返ること。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて、あるいは授業内にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	植物感染生理学とは
第 2 回	植物と病原体	抵抗性と罹病性
第 3 回	植物の静的抵抗性	物理的、化学的抵抗性
第 4 回	植物の動的抵抗性 (1)	抵抗性遺伝子、過敏感細胞死
第 5 回	植物の動的抵抗性 (2)	抗菌性物質
第 6 回	菌類病の感染生理 (1)	細胞壁分解酵素
第 7 回	菌類病の感染生理 (2)	宿主特異的毒素
第 8 回	細菌病の感染生理 (1)	侵入、認識、増殖
第 9 回	細菌病の感染生理 (2)	発病因子、病原性遺伝子
第 10 回	ウイルス病の感染生理 (1)	侵入、複製
第 11 回	ウイルス病の感染生理 (2)	移行、ジーンサイレンシング
第 12 回	線虫病と害虫	適応、三者系、抵抗性
第 13 回	防除戦略 (1)	プラントアクチベーター、生物防除
第 14 回	防除戦略 (2)	分子育種

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

毎回資料・ノートを復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストを活用して振り返ること。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにて参考資料を配布する。

【参考書】

「分子レベルからみた植物の耐病性」島本ら、秀潤社
その他、適宜内容に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

確認テストを含む平常点（約 20%）、期末試験（約 80%）により総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な点から丁寧に説明する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline and objectives】

Plants and their pathogens are interacting in various ways, causing plant diseases as a result of battle between infection strategies of pathogens and plant resistance. Students understand their mechanisms at the molecular level and learn about the disease control method using the defense mechanism of plants. By understanding the resistance of plants and the infection physiology of pathogens at the molecular level, students deepen the basic knowledge to prevent the plant diseases.

PPE300YD

植物臨床医科学

石川 成寿

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実践的な診断事例や防除事例、新たな防除戦略などを学び、それらを検証することにより、植物医師として必要不可欠な診断・治療に関する知識と技術を修得する。

【到達目標】

実践例を学ぶ中から、自ら植物医師として困難に立ち向かうことを潔しとする倫理観を身につけ、チームの作り方・動かし方も修得し、チーム体制の総合力にて解決する方策を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

コロナ禍の状況にあるので、学習支援システムのお知らせ、シラバスに最新情報に留意する。学習支援システムに参考 PPT、レポート課題名を掲示するので、その指示に従うこと。本授業は、植物医学分野における臨床的な診断・防除技術について事例をもとに講義する。その結果を考察することにより、臨床的知識や技術を修得させる。内容は、実践的な物理的防除技術、環境制御による防除、天敵類や拮抗微生物による生物防除、宿主植物の抵抗性を利用した防除など。課題のフィードバックは、Hoppii または次の講義にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	植物臨床医科学とは
第 2 回	研究事例 1 空気伝染性病害について学ぶ	イチゴの空気伝染性病害の診断と防除
第 3 回	研究事例 2 土壌伝染性病害について学ぶ	イチゴの土壌伝染性病害の診断と防除
第 4 回	研究事例 3 産地の存亡にかかわる植物病について学ぶ	イチゴ炭疽病の猛威から日本一の産地を守る
第 5 回	研究事例 4 イネの重要病害を学ぶ	イネ病害の診断と防除
第 6 回	研究事例 5 ユニークな特産物の病害について学ぶ	地域特産物病害の診断と防除
第 7 回	研究事例 6 二条大麦品種育成について学ぶ	オオムギ蒴萎縮病抵抗性品種育成
第 8 回	研究事例 7 主要品目であるトマトの病害を学ぶ	トマト病害の診断と防除
第 9 回	研究事例 8 環境に配慮した植物病防除を学ぶ	環境に配慮した総合的病害虫管理
第 10 回	研究事例 9 生態防除方法を学ぶ	イチゴ病害虫に対する生態防除
第 11 回	研究事例 10 イネ育苗期病防除病害を学ぶ	イネ育苗期に発生する病害に対する生物防除
第 12 回	研究事例 11 イチゴ病害抵抗性育種の最先端を学ぶ	イチゴ炭疽病、萎黄病に対する遺伝子解析による最先端育種の現状
第 13 回	研究事例 12 農業現場における作物病害の実際を学ぶ	現場指導機関の技術者から植物病の防除の現状
第 14 回	研究事例 13 生物農薬開発方法を学ぶ	生物農薬タラロマイセス フラバス水和剤の開発

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義のポイントをとまとめること。関連の課題に関して自己学習を行う。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を学習支援システムにアップする。対面授業の場合は配布する。

【参考書】

これで防げる いちごの炭疽病、萎黄病（石川：農文協）、樹木医ことはじめ（堀江編集、大誠社）。また、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

植物医師としての臨床的知識や対処法を修得しているかについて、各回に提出する「演習レポートあるいは感想文（80 %）」、「平常点（20 %）受講態度（対面授業において）」などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書にはない実践事例を中心とした講義であり、外来講師の実践例も興味深く、他の科目とは異なる臨場感のある講義であるとの反応が多い。技術士補、樹木医補等の資格取得との対応も考慮し、今後とも引き続き臨場感を持ってもらえるような解説を試みる。

【学生が準備すべき機器他】

コロナ禍の改善が増られない場合、学習支援システムの Zoom により講義を進める。

【その他の重要事項】

農業試験場、病害虫防除および農業改良普及所における実践的な業務経験を活かした指導を行う。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will acquire knowledge and practical techniques (diagnosis methods, control methods, etc. on plant diseases (fungal disease, bacterial disease viral diseases and physiological diseases) in the field.

PPE300YD

生物制御化学

中牟田 潔

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昆虫は様々な化学物質を用いて、体内環境を維持するとともに、同種個体間や異種個体間のコミュニケーションを行っている。本授業は昆虫をおもな対象として、ホルモンなどが体内環境をどのように維持するのか、さらに信号化学物質（セミオケミカル）がコミュニケーションをどのように仲介しているのか、また、それらの物質を利用した害虫管理等について理解する。

【到達目標】

到達目標を以下の3つにおく。①昆虫のイメージを正しく把握して昆虫に親しみを持てるようにする。具体的には、分類群と形態、生理生態の多様性を知り、そこに至った進化の概要を把握することにより、昆虫への親近感が持てるとともに昆虫と人間の関わりを深さを理解する。②昆虫の摂食、成長、繁殖、休眠など基本的な生物現象が、ホルモンやセミオケミカルによる化学的制御によって成り立っていることを知る。③植食性昆虫に対する「二次代謝物質」による植物の化学防衛、およびそれを巡る昆虫－植物間の多彩な「共進化」を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

昆虫をおもな対象として、「到達目標」を達成できることを念頭に、講義を主体とする。

理解の助けとして、多様性の高い昆虫のイメージ造りに役立つスライド画像や動画などをできるだけ活用する。また、研究の実際をイメージできるように、授業に関連して教員自身が直接・間接に経験した研究事例を随時織り込んでわかりやすく紹介する。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論	本授業で扱う「生物制御化学」とは何かを、制御主体（生物およびヒト）から考える。
第2回	化学物質による生理・生態の制御	昆虫に限らず、生物には細胞間、個体間、異種個体間など、さまざまなレベルで化学コミュニケーションが存在することを知る。
第3回	セミオケミカル(1)：フェロモンとアレロケミカル	セミオケミカルは個体間の化学コミュニケーション言語であり、①同種個体間で作用するフェロモン②異種間で作用するアレロケミカルよりなることを知る。
第4回	セミオケミカル(2)：方法論	セミオケミカルの機能や化学構造を明らかにするための、生物学的手法および有機化学的手法、さらに両者を組み合わせた手法を知る。
第5回	植食性昆虫の寄主探索におけるセミオケミカル	植物を餌とする昆虫が寄主植物を探索・発見する過程には様々なセミオケミカルが関与していることを知る。

第6回 種間関係を仲介する炭化水素

昆虫の体表にある脂質は乾燥や病原菌の感染を防ぐ働きをもつが、体表炭化水素が共生者の認識や捕食者を避けるためのカムフラージュなど種間関係を仲介していることを知る。

第7回 中間まとめ

ここまでの授業の理解度をテストする

第8回 フェロモン(1)：機能によるフェロモンの分類

フェロモンは受容後の情報伝達経路によって①「プライマーフェロモン」：ホルモ的な経路（階級分化など）②「リリーサーフェロモン」：神経的な経路（性誘引、警報、集合など）に分けられることを知る。

第9回 フェロモン(2)：合成フェロモンの利用

合成性フェロモンの害虫防除への利用には、①モニタリング、②大量誘殺、③誘引・殺虫、④交信かく乱があることを知る。

第10回 フェロモン(3)：「フェロモン剤抵抗性」の出現

交信かく乱法において最も注目すべき課題：静岡県下で茶樹害虫「チャノコカクモンハマキ」で確認された「フェロモン剤抵抗性」は世界で唯一の事例であり、解決策も見いだされたことを知る。

第11回 フェロモン(4)：侵略的外来アリの制御化学

わが国で問題になる2種の侵略的外来アリ、アルゼンチンアリとヒアリを取り上げて、生態と防除について概説した後、化学的防除について、一般的なバイト剤と殺虫剤の利用に加えて環境負荷の小さいフェロモン利用の可能性も探る。

第12回 アレロケミカル(1)：シノモン植物－植食者－天敵の三者間相互作用

信号を発する種、それを受け取る種の双方にとって有利な相互作用を仲介するシノモンを、植物－植食者－天敵の関係を例に知る。

第13回 アレロケミカル(2)：アロモンとカイロモン

昆虫は化学物質を用いて自己の防衛を行っている。これらの物質はアロモンの一種である。また、昆虫の中には他の生物が出す化学物質を感知し、自己に有利な物質として利用している（カイロモン）。ここではアロモンとカイロモンの例を紹介する。

第14回 期末まとめ

授業の理解度をテストする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
1. 受講前および受講期間中に教科書などで次の分野の基礎を学んでおく：「有機化学」、「昆虫学」、「動物分類学」、「植物分類学」

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用：毎回の講義時に用いる資料は学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

- 「最新応用昆虫学」田付・河野編著、朝倉書店、2009
- 「昆虫生理生態学」河野・田付編著、朝倉書店、2007
- その他、講義において随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間まとめ、期末まとめにて実施する試験によって「到達目標」に掲げた 3 つの項目ごとに基本的な事項の理解ができているかどうかを評価する

要素ごとの配分と評価基準

- ・ 中間試験、期末試験 (それぞれ 45%): 得点による
- ・ 平常点 (10%): 授業への参加姿勢

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【Outline and objectives】

The lectures for this course will encompass concepts of insect physiology and chemical ecology and their application for insect pest management. Students will understand the function and chemical structure of hormones that regulate the condition of the body. And they also understand “pheromones” which mediate intraspecific communication and “allelochemicals” mediating interspecific communication. Furthermore, students will understand the application of semiochemicals in insect pest management.

PPE300YD

植物医科学法論

福盛田 共義

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1 植物医科学、植物防疫の考え方を理解し、関連の法制度について知る。
- 2 植物医科学、植物防疫をめぐる国際的な動きを理解する。
- 3 病害虫および鳥獣による被害とその防除について知る。
- 4 農業に関する行政制度、安全性確保対策及び生産・流通について知る。
- 5 植物検疫制度とその実施について知る。

【到達目標】

植物医科学、植物防疫に関する基本的な考え方及び知識を身につける。植物防疫制度、農業取締制度及びリスクアナリシスの基礎的な概念について理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

遠隔授業（教材配信型）とし、毎回、学習支援システム（HOPPII）に教材を掲載する。

授業の中で 4 回のレポート課題を実施する。レポート課題は学習支援システムに掲載する。

第 15 回目の授業において、まとめと試験を行う。

なお、フィードバック方法として、第 15 回目の授業において、それまでの授業の中で行った 4 回のレポート課題に対する講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	植物医科学と植物防疫	植物医科学と植物防疫の基本的な考え方、植物防疫を支える組織、関係法令、国際条約
2 回目	植物医科学と関係法令	植物防疫法、農業取締法の概要
3 回目	植物医科学とリスクアナリシス	SPS 協定、リスクアナリシスの概念、食品安全分野、植物防疫分野への適用
4 回目	発生予察 1	発生予察事業、指定有害動植物、調査・予測手法
5 回目	発生予察 2 及びレポート課題①	発生予察情報の種類、発表状況
6 回目	有害動植物の防除 1	防除をめぐる現状と課題、防除基準・防除暦・要防除水準、最近の病害虫の発生動向
7 回目	有害動植物の防除 2 及びレポート課題②	総合的病害虫・雑草管理、薬剤抵抗性獲得病害虫対策、野生鳥獣被害防止対策など多様な防除対策
8 回目	農業	農業の歴史、生産・開発の動向、農業取締制度の歴史、農業取締法の規定のポイント
9 回目	農業の安全性 1	リスクアナリシスの農業安全性への適用、ポジティブリスト制度
10 回目	農業の安全性 2 及びレポート課題③	農業の登録審査、登録拒否の基準、表示制度、使用規制、適正使用に係る各種施策
11 回目	植物検疫 1	植物検疫の歴史、輸入植物検疫及び輸出植物検疫
12 回目	植物検疫 2 及びレポート課題④	国内植物検疫、緊急防除
13 回目	植物検疫 3	輸出入木材梱包材の検査等多様な植物検疫、植物検疫リスク管理情報の収集・分析・活用
14 回目	植物医科学法論のまとめ、4 回のレポート課題の講評・解説、及び試験	講義全体の総括、今後の課題と方向、4 回のレポート課題の講評、解説及び試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

次回講義のテーマに関連する農林水産省、厚生労働省、食品安全委員会等のホームページや、参考資料の該当部分をみておくこと。

また、毎回の授業後、教材を十分に復習しておくこと。関連する新聞報道等に注意を払って調べてみる。4 回のレポート課題に対応すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

毎回、教材を学習支援システムに掲載する。

【参考書】

農業概説 2020（日本植物防疫協会）

【成績評価の方法と基準】

4 回のレポート課題で 40%、試験で 60% の評価配分とする。

試験の方法（オンライン方式、レポート提出方式等）については、学習支援システムに掲載する。

【学生の意見等からの気づき】

「社会で生きる植物医科学」の観点から、適宜、病害虫防除、農業安全性確保及び植物検疫の現場での事例、国際的な動向等を紹介して、理解を深めてもらえるよう工夫する。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master the basic concepts of Plant Medical Science and relevant laws.

This course introduce the basis of Plant Protection Act, Agricultural Chemicals Regulation Law, Food Sanitation Act and Food Safety Basic Act.

And, this course deals with the concepts of Risk Analysis of Food Safety and Plant Pest Risk Analysis.

PPE300YD

ポストハーベスト論

廣岡 裕吏、宮ノ下 明大

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

青果物の生理的品質劣化やカビ・害虫による被害について理解し、品質を維持するための流通、貯蔵、防除技術を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

青果物の生理的品質劣化やカビ・害虫による被害の現状を理解する。そして、その予防、防除に関する技術、方法を学ぶ。また、青果物の商品価値とそのコストとのバランス、穀物病害虫を中心にした植物検疫の現状を踏まえて理解し、食品安全に関わる考え方を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は主に小テストやリアクションペーパーを用いながら、パワーポイントを使って行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/青果物の品質と機能	青果物の品質と機能
第2回	ポストハーベストと害虫①	ポストハーベストと害虫：植物検疫の目的としくみ
第3回	ポストハーベスト害虫②	米の害虫と防除法
第4回	ポストハーベスト害虫③	貯蔵害虫の新しい殺虫技術：高圧炭酸ガス・低エネルギー電子線
第5回	ポストハーベスト害虫④	チョコレート・カップ麺製品の害虫と侵入防止法
第6回	ポストハーベスト害虫⑤	香辛料の害虫と侵入防止法
第7回	食品に対する異物混入⑥	粉体食品の害虫とアレルギー
第8回	植物検疫の現場と害虫問題	中国への精米輸出とカツオブシムシ、ペルー産マンゴウの輸入解禁
第9回	青果物の品質変化①	生理的な4つの要因
第10回	青果物の品質変化②	青果物の輸送・貯蔵方法
第11回	青果物の品質変化③	品質保持能力の高い青果物の作出と青果物の品質を保つ加工
第12回	ポストハーベストとカビ①	カビによる腐敗
第13回	ポストハーベストとカビ②	カビ毒
第14回	ポストハーベストとカビ③	カビとその診断・予防・防除

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、スーパーマーケット等に陳列されている青果物やその包装形態は、本講義で紹介する身近な品質保持のための実例であり、買い物の際などに観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（約 20%）、課題や試験（約 80%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストはその日の授業のポイントがわかると好評である。また、授業の前に前回の復習の時間を確保する、穴埋め式の資料を用いることで、授業内容の理解が深まるとのコメントが多い。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn the distribution, storage and control technique to maintain good quality of harvested fruits, vegetables and crops from physiological deterioration, fungi and pests.

PPE300YD

植物生理病学

佐野 俊夫、亀和田 國彦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物生理病（生理障害）の具体例とそれを引き起こす環境要因を学ぶ。そして、植物生理病の診断方法およびその対処方法に関する知識を習得する。植物病には菌類などの伝染性病原体による病気のほかに、不適切な生育環境（土壌、大気、水分、農業など）を原因とする生理障害（生理病）がある。本講義では、植物栄養学、肥科学の内容をベースに、過不足により生理障害の原因となる土壌無機栄養素の性質と植物体内での利用について主に佐野が、これらの障害を引き起こす環境要因（土壌汚染、水質汚染、大気汚染）について主に亀和田が解説する。

【到達目標】

各肥料要素の過不足による植物生理障害症状を理解する。また、各肥料要素が植物にどのように取り込まれ、利用されるかを学ぶことで、肥料バランス感覚を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。また、授業終わりに小テストを行い、その授業のポイントの復習に充てているので、小テストを学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に小テストの解説をします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	生体を構成する元素	必須元素と必須微量元素
第2回	生体膜の性質	膜輸送タンパク質の構造と機能
第3回	土壌無機栄養素（1）	窒素の吸収と代謝
第4回	土壌無機栄養素（2）	リンの吸収と代謝
第5回	土壌無機栄養素（3）	カリウムの吸収と利用
第6回	土壌無機栄養素（4）	カルシウムの吸収と利用
第7回	土壌無機栄養素（5）	マグネシウムの吸収と利用
第8回	植物生理障害を引き起こす環境要因（1）	土壌汚染と生理障害
第9回	植物生理障害を引き起こす環境要因（2）	水質汚染と生理障害
第10回	植物生理障害を引き起こす環境要因（3）	大気汚染と生理障害
第11回	土壌無機栄養素（6）	イオウ、鉄の吸収と利用
第12回	土壌無機栄養素（7）	微量元素の欠乏・過剰と生理障害
第13回	土壌無機栄養素（8）	ホウ素、ケイ素の利用とアクアポリン
第14回	土壌無機栄養素（9）	アルミニウムと塩ストレス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける畑等の作物には本講義で紹介する生理障害が生じている可能性があり、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】

原色 野菜の要素欠乏・過剰症 渡邊和彦 農文協

【成績評価の方法と基準】

期末試験 72%、毎回の講義時に行う小テスト 28%、で評価する

【学生の意見等からの気づき】

穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の小テスト結果を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【Outline and objectives】

In this lecture, we first learn environmental factors causing plant physiological diseases (physiological disorders), and then, diagnostic methods for these disorders.

ASS100YD

国際食料需給論

黒川 哲治

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食料は、生命維持のためだけでなく、健康的で文化的な生活を営むうえで欠かせない要素である。しかし、世界の食料需給は不均衡状態にあり、食料の分配も偏在的である。そこで本講座では、主として食料経済学の視点から、日本を含む世界の食料需給の動向を概観した後、農産物や食品の流通や貿易、今日の食料をめぐる課題について検討していく。

【到達目標】

- ①統計資料をもとに、日本および世界の食料問題について自ら考察し、論理的に説明できるようになる。
- ②経済学の観点から、食料需給とそれに影響を及ぼす要因の因果関係を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

担当者による講義形式（ハイフレックス型）で進める。新型コロナウイルスの影響により、遠隔講義を強いられる場合は、Zoom を利用したリアルタイム配信型で実施する。また、講義期間中に課す小課題に対する解説は、可能な限り、翌回の講義で行うこととする（時間的に厳しい時は最終回に実施する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	フードシステム、食料の需要と供給
第2回	世界の食料需要の要因①	世界の人口
第3回	世界の食料需要の要因②	経済成長、所得
第4回	世界の食料供給要因①	世界の農地面積
第5回	世界の食料供給要因②	食料生産における技術革新、品種改良
第6回	食料自給と食料安全保障	各国の食料自給率と食料安全保障
第7回	食料貿易理論①	リカードの比較生産費説
第8回	食料貿易理論②	余剰分析でみる自由貿易のメリット
第9回	食料貿易理論③	関税や輸入数量制限の影響
第10回	主要農産物の需給状況	3大穀物（コメ・麦・トウモロコシ）、大豆
第11回	食料の輸出入と環境問題①地球温暖化	フードマイレージ
第12回	食料の輸出入と環境問題②水	バーチャルウォーター、ウォーターフットプリント
第13回	食生活の変遷とその影響	食の外部化、中食と外食
第14回	食品の製造と流通	卸売市場、市場外流通、食品製造業&食品小売業の特徴と現状

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習に2時間、復習に2時間を目安とし、

1. 参考書等で講義内容に該当する部分を読み返し、基礎知識の理解を図る。

2. 新聞やニュースを見たりして、現実の問題や社会の動向に関心を払う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

初回講義時に詳細を紹介するが、以下に一例を挙げる。

- ・高橋正郎・清水みゆき（2016）『食料経済（第5版）』オーム社
- ・薬師寺哲郎・中川隆（2019）『フードシステム入門』健帛社
- ・時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博（2019）『フードシステムの経済学（第6版）』医歯薬出版

【成績評価の方法と基準】

レポート1回または小テスト数回（30 %）と、期末試験（70 %）を総合し、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

期末試験の際に電卓が必要な場合がある。その際は事前に告知する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

Food is essential not only to sustain life but also to allow us to have a healthy and cultural life. However, the supply and demand for food remains unbalanced, and food distribution is uneven. In this class, we will survey the trends in food supply and demand in different countries, including Japan. We will then examine food issues, especially focusing on food distribution and international trade in agricultural products.

PPE100YD

植物管理技術論

松崎 守夫、山口 弘道

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、普通作物の栽培を中心とした農学の基礎的な知識を学ぶ。一般的な知識として、作物の生活史、収量形成過程等について学ぶ。その後、各作物の栽培、利用等について学ぶ。

【到達目標】

作物生産、収量形成等に共通する知識を学ぶ。さらに、イネ、麦類、豆類等の作物の特性、栽培法や、それらに関連した品質、機械、土壌肥料等の知識についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義により授業を行ない、毎回授業後に小テストを行なう。小テストの提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。評価は、平常点、学期末テストにより行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・序論	全体の構成説明と栽培学的重要性
2	作物生産概論	作物の種類、形態、生活史等の生理的側面
3	収量形成概論	収量形成過程の考え方と調査方法
4	イネの生理生態	イネの形態、生活史、生理的特性等
5	イネの栽培 1	イネの栽培管理等
6	イネの栽培 2	米の品質・利用、その他（飼料用イネ、直播栽培等）
7	耕地利用概論	環境、作付体系が作物生産に及ぼす影響
8	麦類	麦類の種類、品種、生理と栽培・利用
9	豆類	豆類の種類、品種、生理と栽培・利用
10	イモ類	イモ類の種類、品種、生理と栽培・利用
11	工芸作物	主要な工芸作物の種類と特徴、栽培法等
12	雑穀・飼料作物	トウモロコシを中心とした雑穀、飼料作物について
13	総合まとめ	講義全体のまとめ
14	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業と関連する知識の習得に努めること。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する。

【参考書】

農学基礎セミナー 新版作物栽培の基礎（堀江武編著）、農文協、2004

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、学期末テスト 50 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で小テストを行うようにする。

【Outline and objectives】

We learn agricultural knowledge mainly on the cultivation of common crop. As general knowledge, we learn about the crop's life cycle, yield formation and etc. For each crop, we learn about cultivation, use and etc.

BSC100YD

教職化学

田 艶

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、化学の基礎的な概念について学びます。

【到達目標】

化学の基本的な概念や原理に関する基礎知識を確実なものとし、物質の性質、構造、反応に関する規則性について理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、教職系の基礎化学として、化学に関する基本的概念を体系的に概説する。具体的には、元素の性質と分類、化学結合、物質の状態、反応速度、化学熱力学、酸と塩基、酸化と還元反応（電池と電気分解）、無機化合物の構造と性質、有機化合物の分類及び命名法、有機化合物の反応、高分子化合物の基礎について学ぶ。環境と化学においては、環境問題とエネルギー資源につて、放射線の化学においては、放射線の基礎知識、放射線の利用等について学ぶ。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	化学と物質、科学的方法、物質の分類、物質の物理的性質と化学的性質、測定、数値の取扱い
第 2 回	物質とその構造 I	元素と元素記号、原子の構造、原子番号と質量数、同位体と分子量、物質量とアボガドロ数
第 3 回	物質とその構造 II	電子の配置、周期律
第 4 回	化学結合	オクテット則、イオン結合、共有結合、金属結合、分子間力
第 5 回	物質の状態と気体の性質	熱運動と熱平衡、状態の変化、状態図、固体・液体・気体の状態、理想気体と気体の法則
第 6 回	反応速度	反応速度に影響する因子、反応速度の表し方、遷移状態と活性化エネルギー、触媒
第 7 回	化学熱力学と平衡	化学熱力学、反応の方向性
第 8 回	酸と塩基	酸塩基の強弱、解離、中和、緩衝作用
第 9 回	酸化と還元	酸化還元反応、電池、電気分解
第 10 回	無機化合物の構造と性質 I	典型元素及びその化合物
第 11 回	無機化合物の構造と性質 II	遷移元素及びその化合物
第 12 回	有機化合物及び高分子化合物	有機化合物の構造と命名、有機化合物の反応、高分子化合物の合成、高分子化合物の分子量、高分子化合物の利用
第 13 回	環境と化学	環境汚染、エネルギー資源
第 14 回	放射線の化学	放射線の種類、性質、単位、半減期、核分裂と融合、放射線の利用、人体への影響

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

第 1 回目：予習なし。授業内容の復習と演習問題

第 2 回目～第 14 回目：テキスト及び配布資料等による予習、授業内容の復習と演習問題

【テキスト（教科書）】

長谷川正・國仙久雄・吉永裕介 共著『理科教育力を高める基礎科学』（裳華房）

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

必要に応じて小テストやレポート等を複数回行う。その合計を 50 点満点で評価する。期末テストの結果を 100 点満点で採点し、その採点を 50 点満点で換算した値と小テスト等の評価点の合計で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容及び難易度に関して、アンケートを実施し、要望に応じて随時調整する。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic concepts in chemistry to students taking this course.

BOA100YD

基礎植物害虫学

大井田 寛

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

農耕地に栽培される農作物や森林、都市空間などに植栽される樹木、草花に被害を引き起こす害虫の分類、生理、生態などについて学習し、植物医科学が目指す植物病の診断と防除に携わる者や、技術士、樹木医、自然再生士に必要とされる、害虫に関する基礎的な知識を習得する。

【到達目標】

植物病の診断と防除に携わる者や、技術士、樹木医、自然再生士としての活動する者に不可欠な、害虫に関する幅広い知識を身につける。診断の基礎となる害虫の形態や分類学的位置を理解できるほか、各種防除技術の根拠となっている害虫や天敵の生理・生態に関する基礎知識を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

内容を理解しやすいよう、写真や図表を多く提示しながらスライドを用いて解説する。適宜関連資料を配布し、講義終了後も確認できるようにする。課題や質問等へのフィードバックは、主に次の授業の冒頭に全員が確認・共有できる形で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび植物害虫の概説	科目の内容や進め方を紹介。また、植物害虫全般について概説
第2回	昆虫類の進化と繁栄	昆虫がどのように進化してきたか、今日の繁栄をもたらした原因
第3回	昆虫類の外部形態	分類の基礎となる昆虫の外部形態
第4回	昆虫類の内部形態	昆虫の生理等に関連する内部形態
第5回	昆虫類の分類	有害・有益動物（線虫、ハダニ等も含めた害虫の分類学的位置）
第6回	昆虫類の擬態、昆虫類の発育	昆虫の擬態、昆虫の発育（脱皮、変態）、呼吸、神経
第7回	昆虫類の生殖	昆虫の生殖様式、生殖戦略
第8回	昆虫類の食性	昆虫の植生の多様性、摂食、栄養
第9回	昆虫類の生理	昆虫の感覚、情報伝達物質（ホルモン、フェロモン）
第10回	昆虫類の生理	昆虫の環境適応、休眠
第11回	昆虫類の行動	昆虫の日周性、習性
第12回	昆虫類の個体群動態	昆虫の個体群密度の増殖、変動、密度効果
第13回	昆虫類の相互作用	生態系における昆虫群集、生物間相互作用（寄生、捕食、競争）
第14回	まとめ、試験	全体のまとめ、確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
特に予習は必要としないが、専門用語などについては、参考書、配布資料などを用いてしっかり復習する。課題に関しては図書館にある関連図書や web サイトで調べ、授業中に学んだことを十分理解するように心がける。

【テキスト（教科書）】

最新の知識を伝えるため、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

石川幸男・野村昌史編 応用昆虫学（朝倉書店）
後藤哲雄・上遠野富士夫編 農学基礎シリーズ 応用昆虫学の基礎（農山漁村文化協会）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で 50 %、レポートなどで 30 %、平常点 20 %（対面授業において）で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。ただし、オンライン授業となった場合には、別途評価方法と基準を周知する。オンラインでのリアルタイム配信の場合、参考としてチャット機能で出欠確認する。

【学生の意見等からの気づき】

写真や図表を取り入れた授業スライドが概ね好評であるため、今年度も同様に実施する。

【その他の重要事項】

植物病の診断に携わる者は病気と害虫についての幅広い知識を習得しておくことが重要であるため、多くの学生が履修することを期待する。また、害虫防除について解説する応用植物害虫学を理解するために、履修することを推奨する。なお、自然再生士補の資格を得たい学生は、できるだけ履修されたい。

【Outline and objectives】

We learn about classification, physiology, ecology and etc. of agricultural pests.

Purpose of the lesson is to acquire the basic knowledge on pests necessary for diagnosis of plant damages caused by pests as plant medical engineers.

ASS100YD

グリーン経済学

黒川 哲治

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題はますます深刻さを増し、私たちの生活の様々な部分に影響を落としている。特に、食料生産は自然環境に依拠する部分も多く、喫緊の課題と言える。そこで本講義は、環境経済学の視点から、その基礎理論を講義後、代表的な個別問題を取り上げ、原因・現状・施策等を概観していく。

【到達目標】

1. 環境経済学の基礎理論を理解し、それを用いて個別の問題を考察できるようになる。
2. 食・農・環境問題に対し、自然科学および社会科学の両視点から考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

担当者による講義形式で進める。新型コロナの状況にも依るが、対面を基本としつつ同時 WEB 配信するハイフレックス型で実施する。なお、全面的に遠隔授業となった場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信型で実施する。また、講義期間中に課した小課題については可能な限り翌日に解説する（時間的に困難な場合には最終回にまとめて解説する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経済学から見た食・農と環境の関係
第 2 回	分析のためのツール①	ミクロ経済学の基礎
第 3 回	分析のためのツール②	余剰分析（消費者余剰、生産者余剰）
第 4 回	分析のためのツール③	市場の失敗と外部性
第 5 回	分析のためのツール④	税による外部性の是正
第 6 回	分析のためのツール⑤	補助金による外部性の是正
第 7 回	分析のためのツール⑥	費用便益分析
第 8 回	環境の経済的便益の測り方①	回避支出法、代替法、ヘドニック価格法
第 9 回	環境の経済的便益の測り方②	仮想市場法（CVM）
第 10 回	環境の経済的便益の測り方③	コンジョイント分析
第 11 回	廃棄物問題①	廃棄物の現状、食品廃棄物、家電廃棄物
第 12 回	廃棄物問題②	廃プラスチック問題、マイクロプラスチック問題
第 13 回	廃棄物問題③	デポジット制度の理論と実例
第 14 回	総まとめと振り返り	各回の講義内容を振り返り、小課題に対する解説等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
予習に 2 時間、復習に 2 時間を目安とし、

1. 参考書等で講義内容に該当する部分を読み返し、基礎知識の理解を図る。
2. 新聞やニュースを見て、現実の問題や社会の動向に関心を払う。

3. 数学（中学～高校 1 年程度）を用いるので、不安な者は事前に見直しておく。

【テキスト（教科書）】

指定なし。

【参考書】

初回講義時に詳細を紹介するが、以下に一例を挙げる。

- ・三橋規宏（2013）『環境経済入門（第 4 版）』日本経済新聞出版
- ・日引聡・有村俊秀（2002）『入門 環境経済学』中公新書
- ・栗山浩一・馬奈木俊介（2020）『環境経済学をつかむ（第 4 版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

小テスト数回（40 %）と、期末試験（60 %）を総合し、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

期末試験で電卓が必要となる場合がある。その際は事前に告知する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

We face today global environmental problems such as global warming that cannot be addressed by one country alone; international cooperation is necessary. The purpose of this course is to therefore survey the history of environmental issues and its current status and to understand the international measures to tackle them, with a focus on global conventions.

AGC100YD

植物栄養学

亀和田 國彦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類を含めて動物は、エネルギーの獲得およびその他の栄養素の多くを食料として植物に依存しています。植物が必要とする栄養素「植物栄養」は、植物の健全な生育を確保するため、最も基本的な環境要因です。植物の必須元素として 17 元素が知られ、炭素、水素および酸素以外の 14 元素は根を介して土壌から吸収されます。本科目では、それら元素の植物体内での機能や根による吸収過程について学びます。その上で、植物栄養面から植物生育を評価し、またはコントロールするため、植物生育と植物栄養との関わりと管理手法を学びます。

【到達目標】

植物が生育するために必要な 17 種の必須元素の機能を光合成や体内代謝の植物生理的現象と関連づけて学び、理解します。また、植物根による養水分吸収機作と各種養分の土壌中での動態を学び、植物生育のコントロールのための、養水分管理の考え方や方法を理解します。

栄養成分の欠乏や過剰による植物生育の障害は植物病と同程度に重要です。それら障害の発生を土壌中での各養分の挙動に関連づけて理解し、植物医科学分野に必要な知識を習得します。

さらに、植物を中心とした地域生態系での物質循環を学び、植物の生育と環境保全の両面を維持するための地力保全のあり方を考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと板書による基本的な講義。
学習支援システムにより、資料を提供する。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	植物と植物栄養	植物栄養学の発展 植物の構造の概観 無機栄養概観
第 2 回	光合成と呼吸	高等植物の光合成 葉緑体での ATP 合成 カルビン回路 光呼吸 CO ₂ 濃縮機構 (C ₄ 植物, CAM 植物) デンプンとショ糖の生合成 光合成の生態学的考察 植物の呼吸 解糖 ミトコンドリアでの ATP 合成 呼吸の生態学的考察
第 3 回	植物による水の吸収	植物根の構造 根による水分吸収と体内での輸送 水と植物細胞 植物の水収支 土壌-植物-大気連続体
第 4 回	植物による養分吸収と物質輸送	根と土壌 根圏 受動的および能動的輸送 養分の膜を介したイオン輸送 篩部転流 ソースからシンクへの輸送様式 光合成産物の分配 環境への応答 養分欠乏への対処法 土壌および環境中の窒素 窒素の生理機能 硝酸とアンモニウムイオンの同化 タンパク質の分解と合成 共生窒素固定 硫酸イオンの吸収と同化 イオウの生理機能 窒素の過剰と欠乏 イオウの過剰と欠乏
第 5 回	窒素とイオウ	

第 6 回	リン	土壌中のリン リンの吸収と輸送 リンの同化と生理機能 体内代謝と移行 ミコリザ リンの過剰と欠乏
第 7 回	カリウムとナトリウム	カリウムの吸収と生理機能 カリウムの過剰と欠乏 ナトリウムの吸収と生理機能
第 8 回	カルシウムとマグネシウム	カルシウムの吸収と生理機能 カルシウムの過剰と欠乏 マグネシウムの吸収と生理機能 マグネシウムの過剰と欠乏
第 9 回	微量元素	鉄の吸収と移行 鉄の生理機能 ホウ素の吸収と移行 ホウ素の生理機能 マンガン モリブデン ニッケル 亜鉛 銅および塩素の吸収と生理的機能 微量元素の過剰と欠乏
第 10 回	ケイ素とアルミニウム	ケイ素の吸収と移行 ケイ素の生理機能 ケイ素集積 酸性土壌とアルミニウム毒性 植物のアルミニウム耐性
第 11 回	土壌溶液と養液栽培	土壌溶液イオン組成 溶液栽培のイオン組成 栄養診断 土壌診断 植物の養分吸収速度と施肥方法 化学肥料の種類と性質 有機質肥料 施肥法 (種類, 時期, 位置, 量) 肥料取締法の違い 利用可能な農地 生産力の持続 流亡 集積 脱窒 固定 難溶化 有機化
第 12 回	肥料と施肥	地域環境 農業環境 地球環境における植物栄養を中心とした物質循環 (炭素, 窒素, リン, カリウム) 塩類集積や重金属汚染に対する植物の反応
第 13 回	地力保全と食料生産	
第 14 回	物質循環と環境	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義ノートや参考書をもとに、講義内容を復習。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】

植物栄養学 第 2 版 間藤・馬・藤原編, 文永堂出版, 2011
新植物栄養・肥科学 米山・長谷川・関本・牧野・間藤・河合著, 朝倉書店, 2012
植物生理学・発生学 リンカーン・テイツ, エドゥアルド・ザイガー, イアン・M・モラー, ガス・マーフィー編集, 講談社, 2017

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%, 毎回提出のリアクションペーパーを含む平常点 40 % による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出の小レポートで質問や提案を受け、できる限り次の授業までに回答し、次の授業に反映する。

【その他の重要事項】

秋学期開講の土壌科学を併せて受講するとより、理解が深まる

【Outline and objectives】

Animals as well as human rely on plants for food for energy and many other nutrients. The "plant nutrition" required by plants is the most basic environmental factor to ensure the healthy growth of plants.

As an plants nutrition, 17 essential elements are known, and 14 elements other than carbon, hydrogen and oxygen are absorbed from soil through roots.

In this course, you will learn about the function of these elements in plants and the process of root absorption., and a management approach of soil nutrition. In addition, you will learn the relationship between plant growth and plant nutrition and management techniques to evaluate or control plant growth from the perspective of plant nutrition.

PHY100YD

教職物理学

金沢 育三

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の日常生活に深く関わりのある諸物体の運動は力学法則に、また車を動かす動力や気象現象は熱移動の法則に支配されている。一方、現代社会に不可欠な電子機器やコンピュータなどは電磁気学や量子力学の法則を応用したものである。これらの現象の基礎を理解するために、典型的な例を取り上げ、方程式を正しく立て、それを解くプロセスを学ぶ。

【到達目標】

力学、電磁気学、熱学、量子力学に関する基礎的な概念を学ぶ。それぞれの典型的な例において基礎方程式を解き、得られた結果の物理的な意味を理解するプロセスを学ぶ。これらを通して物理学的な探求能力や論理力を養うとともに、物理学の現代社会への関わりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義と演習により進める。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	運動の表現	微積分とベクトルを用いて運動を表現する方法を学ぶ。
第 2 回	運動の法則	運動の三法則を概説し、運動方程式について理解する。
第 3 回	物体の落下運動	運動方程式を解き、物体の落下や放物運動について学ぶ。
第 4 回	万有引力の法則	万有引力の法則とケプラーの法則を学ぶ。
第 5 回	単振動	運動方程式を用いて、バネにつながれた質点の運動を学ぶ。
第 6 回	仕事とエネルギー	仕事の定義や力学的エネルギー保存則について学ぶ。
第 7 回	物体の衝突	物体の衝突について学ぶ。
第 8 回	熱力学の第 1 法則	熱と温度、熱機関について学び、熱力学第一法則を理解する。
第 9 回	熱力学の第 2 法則	熱の流れ、エントロピーについて学び、熱力学第二法則を理解する。
第 10 回	電場	クーロンの法則、電場、ガウスの法則、電位について学ぶ。
第 11 回	電流と磁場	電流と磁場の関係、ビオ・サバールの法則やアンペールの法則を学ぶ。
第 12 回	電磁誘導の法則	電流の時間変化と起電力の関係を学び、電磁誘導の法則を理解する。
第 13 回	光の粒子性と波動性	光電効果と光の粒子性、光の干渉と光の波動性について学ぶ。
第 14 回	量子力学の基礎	量子力学が形成されるまでの過程を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書を復習する、教科書の例題を解く。

【テキスト（教科書）】

物理学 小出昭一郎 裳華房

【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房

物理学 小出昭一郎 裳華房

【成績評価の方法と基準】

期末テストと平常点により 総合的に判断（100 %）する。

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を増やし、講義内容を効果的に身につけられるようにします。

【Outline and objectives】

Physical laws govern the physical world around us, which are, of course, strongly related to the phenomena of life and chemistry. In this class, we learn the basics of physics. In particular, we aim at learning mechanics, thermodynamics and electromagnetism.

BOA200YD

応用植物害虫学

大井田 寛

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物医科学として必要なことは、的確な診断と防除である。防除には農業や天敵など色々な手段が用いられるが、近年は、環境負荷の小さい方法として、複数の手段を合理的に組み合わせた総合的病害虫・雑草管理（IPM）、さらには生物多様性保全を含めた総合的生物多様性管理（IBM）の実践が多くの場合で求められる。本授業では、IPM や IBM を構築する各種の害虫防除法について体系的に学ぶ。

【到達目標】

植物医科学における基幹技術の一つである農林害虫および緑化植物害虫の防除に関する基本事項を習得する。各種防除法を的確に理解することにより、農業生産現場や緑化管理に関係する業務に携わる際に、実践的な指導を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

内容を理解しやすいよう、写真や図表を多く取り入れながらスライドを用いて解説する。適宜関連資料を学習支援システム等で配布し、講義終了後も確認できるようにする。課題や質問等へのフィードバックは、主に次の授業の冒頭に全員が確認・共有できる形で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、害虫とは	授業の主旨、進め方、害虫と益虫、植物保護と日本の環境
第 2 回	防除の歴史、被害と損害	害虫防除の歴史、被害と損害の関係
第 3 回	化学的防除 1	薬剤の特性、作用機作など
第 4 回	化学的防除 2	薬剤抵抗性、リサージェンス、残留毒性など
第 5 回	生物的防除 1	生物的防除の原理と歴史、伝統的生物的防除
第 6 回	生物的防除 2	放飼増強法（生物農薬の利用）
第 7 回	生物的防除 3	保全的生物的防除（土着天敵の保護・強化）など
第 8 回	物理的防除 1	遮断法、光などの手段による防除
第 9 回	物理的防除 2	熱、音などの手段による防除
第 10 回	耕種の防除	被害回避、輪作、抵抗性品種の利用など
第 11 回	総合的病害虫・雑草管理（IPM）と総合的生物多様性管理（IBM）	IPM、IBM の概念と方法
第 12 回	グループディスカッション	将来の害虫防除について
第 13 回	発生予察	発生予察の方法と利用
第 14 回	まとめ、試験	授業の理解度をテストする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする。特に予習は必要としないが、専門用語などについては、参考書、配布資料などを用いてしっかり復習する。課題に関しては図書館にある関連図書や web サイトで調べ、授業中に学んだことを十分理解するように心がける。

【テキスト（教科書）】

最新の知識を伝えるため、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

石川幸男・野村昌史編 応用昆虫学（朝倉書店）
後藤哲雄・上遠野富士夫編 農学基礎シリーズ 応用昆虫学の基礎（農山漁村文化協会）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で 50 %、レポートなどで 30 %、平常点 20 %（対面授業において）で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。ただし、オンライン授業となった場合には、別途評価方法と基準を周知する。オンラインでのリアルタイム配信の場合、参考としてチャット機能で出欠確認する。

【学生の意見等からの気づき】

写真や図表を取り入れた授業スライドが概ね好評であるため、今年度も同様に実施する。

【Outline and objectives】

A accurate diagnosis and control of crop pests is important for plant clinic. There are various pest control methods such as using pesticides, using natural enemy and so on. Recently, IPM (Integrated Pest Management) and IBM (Integrated Biodiversity Management) are focused as pest control methods in agriculture of environmental conservation type. In this subject, the students will learn systematically about various pest control methods consisted for IPM or IBM.

ASS200YD

食料・地域政策論

黒川 哲治

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食料生産を担う日本の農業は現在、農業者人口の減少や耕作放棄地の増加など、様々な困難に直面している。このままでは、人が生活していくうえで必要とされる「衣・食・住」の「食」が危うい。そこで本講座では、主として農業経済学・農業政策論の観点から、農業・農村に関わる諸問題およびそれらに対する各種政策や取組み事例について概観する。

【到達目標】

- ①日本の農業が直面する種々の問題を理解し、問題の本質を説明できるようにする。
- ②農業経済学の基本的な概念や枠組みを用いて、問題を考察できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

担当者による講義形式で進める。新型コロナの状況に依るが、現時点では対面を基本とし同時配信も行うハイフレックス型で行う。遠隔講義を強いられる場合には、Zoom によるリアルタイム配信で講義を行う。また、講義期間中に課す小課題に対しては、可能な限り翌回（時間的に厳しい場合には最終回）で解説を行うこととする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	日本の農業・農村が直面する様々な問題
第2回	日本の農業政策の変遷	食料・農業・農村基本計画、生産調整
第3回	日本の農業農村問題①	担い手
第4回	日本の農業農村問題②	農業者の分類と人口推移、新規就農の状況
第5回	日本の農業農村問題③	農地、耕作放棄地、不在地主
第6回	都市農村活性化	鳥獣保護法、鳥獣被害額
第7回	都市農業	野生鳥獣害
第8回	地域における食料問題	農村活性化
第9回	アグリビジネス	都市農村交流、田園回帰、地域おこし協力隊
第10回	スマート農業	都市農業の特徴、市民農園、地域支援型農業
第11回	農業・農村と環境①	食品アクセス、買い物難民、フードバンク
第12回	農業・農村と環境②	株式会社農業参入、6次産業化
第13回	農業・農村と環境③	AIを活用した次世代型農業
第14回	まとめ	農業の多面的機能、日本型直接支払い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習に2時間、復習に2時間を目安とし、

1. 参考書等で講義内容に該当する部分を読み返し、基礎知識を拡充する。

2. 新聞やニュースを見たりして、現実の問題や社会の動向に関心を払う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

初回講義時に詳細を紹介するが、以下に一例を挙げる。

- ・藤田・内藤・細野・岸上（2018）『現代の食料・農業・農村を考える』ミネルヴァ書房
- ・荏開津典生・鈴木宣弘（2020）『農業経済学（第5版）』岩波書店
- ・檜原正澄・江尻彰（2006）『現代の食と農をむすぶ』大月書店

【成績評価の方法と基準】

小テスト数回（30 %）と、期末レポート（70 %）を総合し、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

期末試験の際に電卓（スマホの電卓機能は不可）が必要な場合がある。その際は事前に告知する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

Agriculture, essential to food production in Japan, currently faces difficulties such as a decrease in the number of farmers and an increase in abandoned arable land. Such a state will make it difficult to ensure that there is enough food to sustain human life. This course will give students an overview of the issues related to agriculture, rural areas, and agricultural policy in Japan, from the perspective of agricultural economics and agricultural policy.

BOA200YD

自然再生学概論

大井田 寛、黒川 哲治、安田 耕司、橋本 智美

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然は人間が生きていくために欠かせない存在である。しかし、開発などによって自然生態系が破壊されている。それゆえ、良好な自然を次世代へ継承するためには、自然環境の保全・再生・創出など、生態系を人為的に復元する必要がある。そこで本科目は、自然再生の背景や理念、自然環境の評価方法や再生技術など、自然再生士補として必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

自然再生の意義や理念を理解し、自然再生士合格に必要な最低限の知識や技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

各方面の専門分野の担当者によるオムニバス講義形式で進める。授業は、適宜、資料を配布のうえ、パワーポイントによるプレゼン形式で行う。また、授業内で適宜、質問を受け付ける他、課題やレポートの解説・講評を行う。なお、新型コロナの影響により遠隔授業となった場合は、Zoomを用いたリアルタイム配信で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（黒川）	科目の内容や進め方の紹介、自然再生士の資格取得に関する説明
第2回	自然再生の背景と理念（黒川）	自然再生推進法、自然再生の理念と基本原則
第3回	自然再生事業における取組み（黒川）	釧路湿原・自然再生事業でみる自然再生の取組み
第4回	生物多様性と生態系サービス（安田）	生物多様性と生態系サービスの関係、生物多様性保全の意義
第5回	環境・生態系に対する人間活動の影響（安田）	環境に対する人間活動の影響と二次的自然
第6回	農業生態系とその特徴（安田）	二次的自然としての農業生態系の成り立ち、特徴、変遷
第7回	農業生態系の保全（安田）	農業生態系の保全に向けた様々な取組みや農法
第8回	自然再生技術（橋本）	自然再生における計画・設計、施行・管理
第9回	生活環境の保全（柴田）	都市環境の現状から見た快適な暮らしの基盤の構築
第10回	人間の暮らしに及ぼす植物の癒し効果（柴田）	ガーデニング、寄植え等の作業や香り等の直接的な効果
第11回	里山の再生と気候変動適応（小林）	林床植物、ミツバツツジ、風倒木
第12回	環境評価法と指標生物（大井田）	指標生物の種類、調査法、調査の実例
第13回	行政主導による国内外の自然再生（黒川）	日本・韓国・米国の行政による取り組み事例
第14回	民間主導による国内外の自然再生（黒川）	民間企業やNPOによる自然再生の取組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
各回で配布される資料をもとに、講義のポイントをまとめておく（1時間）。図書館で関連図書を探したり、WEBサイトで関連情報を調べ、講義内容の更なる理解に努める（3時間）。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

最新の知識を伝えるために、必要に応じて資料を配布する。各回の参考書は各担当者が紹介する。参考までに、自然再生士に関する文献として以下を挙げる。

- ・亀山章・倉本宣・日置佳之（2013）『自然再生の手引き』一般財団法人日本緑化センター
- ・一般財団法人日本緑化センター（2013）『自然再生ガイドライン（改訂2版）』一般財団法人日本緑化センター
- ・一般財団法人日本緑化センター（2012）『自然再生副読本 自然再生事例集1』一般財団法人日本緑化センター

【成績評価の方法と基準】

「講義内容を理解しているか」「自然再生士補としての基礎知識を修得しているか」の2つの観点から、各担当者がレポートや小テスト等により評価し、それらを総合し100%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Nature is indispensable for human survival; yet, natural ecosystems are being destroyed in the name of development. In order to regain ground and pass down a healthy ecosystem to future generations, we must actively conserve, regenerate, and create what is being depleted. In this course, students will study the background and philosophy of nature restoration, and learn about assessment methods and the technology of nature restoration. They will gain knowledge indispensable to become nature restoration promoters.

ホーティカルチャー論

津田 新哉、紺野 祥平、池田 敬、鈴木 栄

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

園芸作物である果樹、野菜、花きは、人々に健康や豊かな生活をもたらすものとして、古くから栽培・利用されてきた。これら園芸作物の生産と消費にとって重要な局面、特に育種・栽培・流通に関する研究と技術開発を行うのがホーティカルチャーサイエンス（園芸学）である。本授業では、園芸作物に特徴的な成長と発育の仕組みと、それに基づく栽培管理技術、さらに、収穫物の品質に関係する重要形質とその制御技術について、基礎的な知識を学ぶ。

【到達目標】

果樹、野菜、花きは、幅広い種から構成されており、品目ごとに様々な成長と発育の特性を持つ。そのため、栽培体系、育種技術も非常に多岐にわたっている。しかし、その背景には共通のいくつかの要素があり、それらの組み合わせで技術体系が成り立っていることを理解できるように努める。この理解により、園芸作物が示す多種多様な現象に対して応用できる基礎的な知識と考え方の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料等を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッション等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ホーティカルチャーおよび種子から流通まで 1	ホーティカルチャーおよび農業に関して基本的な定義と、野菜の成長ステージ別に、様々な野菜の特徴などを解説する
2	種子から流通まで 2	1 回目引き続き、野菜の成長ステージ別に、野菜の生理生態的特性などを解説する
3	野菜生産 1（施設栽培および養液栽培）	野菜が生産される方法に関して、露地と施設を比較し、また施設での特異的な環境および栽培手法について野菜生産の視点から解説する。
4	野菜生産 2（植物工場）小テスト 1	施設がさらに高度化した植物工場について、野菜生産の視点から解説する。
5	果樹栽培と生理特性 1	果樹の種類について触れた後、果樹の年間の生育サイクルおよび果実を生産する上で重要な開花や結実に関する生理特性について解説する。
6	果樹栽培と生理特性 2	果実の生長、発育や成熟に関する生理特性や、翌年の果実生産に必要な花芽の分化・発育について解説する。また、高品質な果実を生産するための栽培管理法について触れる。
7	果樹生産と温暖化	現在の果樹生産が抱える最も大きな問題が地球温暖化の影響である。温暖化が果樹栽培に与える影響や将来予測、また、温暖化対策技術や対策研究について紹介する。
8	果樹の育種	永年作物で遺伝的にヘテロ性が高い果樹について、その原産地や、交雑育種を中心とした新しい品種を開発する技術について解説する。
9	花き園芸学序論	花きにはどのような種類があり、どのような歴史を経て発展してきたかについて解説する。
10	花きの生育と開花	花き類に特徴的な成長と発育の仕組みと、それに基づく、実際の品目の栽培体系について解説する。
11	花きの品質と観賞性 1	花きの品質を構成する 3 大要素である形、色、香りがどのような仕組みで発現し、観賞性にどのように貢献するのかについて解説する。
12	花きの品質と観賞性 2	前回の授業に引き続き、花きの品質の基礎について各品目ごとに解説する。

13 花きの観賞性 3 前回の授業に引き続き、花きの品質の基礎について解説する。

14 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業内容を適宜復習するとともに、興味を惹かれる内容に関しては、関連する文献を調べるなど積極的に理解を深める。もしも状況が許せば、果樹、野菜、花きのうち、どれかひとつでもよいので自分で栽培してみる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。教科書は使用しない。

【参考書】

農学基礎シリーズ 果樹園芸学の基礎（伴野 潔，山田 寿，平 智編著），農文協，2013

農学基礎シリーズ 野菜園芸学の基礎（篠原温編著），農文協，2014

農学基礎シリーズ 花卉園芸学の基礎（腰岡政二編著），農文協，2014

このほか、より深く知りたい内容がある場合には、文献を紹介するので、お問い合わせください。

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 % と定期テスト（各分野 25 %、計 75 %）の合計により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本授業で扱う園芸植物は、果樹、野菜、花きの非常に広い範囲にわたりますが、限られた授業時間の中で、これらの植物の生産の基礎が理解できるように努めたいと思います。

【その他の重要事項】

「授業計画」の開講順は変動することがある

【Outline and objectives】

Horticultural crops, i.e. fruit trees, vegetables and flowers, have been cultivated and used for a long time as they bring healthy and rich lives to people. Horticultural science is the research and technology development concerning important aspects of production and consumption of horticultural crops, especially breeding, cultivation, and distribution. The aim of this course is to help students acquire fundamental understandings about the mechanism of growth and development of horticultural crops, cultivation management technology, and control of important traits related to harvest quality

BAB200YD
教職生物学

齋藤 理佳

開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学
生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の概要としては、「授業者・受講者・受講内容」が密接につながった授業を展開することにより「生きた授業」を実践する。
目的としては、この授業によって生物学の基本的な概念や原理をもとに育成された科学的自然観を、新たな自分の知識として広げていくこと。

【到達目標】
講義の前半は、細胞、DNA、遺伝子を中心とした「ミクロな生物学」を学び、後半については、神経系や感覚系を中心とした「マクロな生物学」を学び、それら全般を理解できることを目的とする。なお、専門的な理解の他にも、再生医療や NIPT（出生前診断）などの最新の情報、および歴史的な背景までも幅広く理解できる。加えて身近な話も盛り込むことにより、「生物学」が身近で面白い学問であることを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進める。特に「生物学」が身近で面白い学問であることを講義形式の授業で理解してもらうために、パワーポイントや DVD などの動画を使用し、必要であれば講義内容のさらなる理解度アップのための授業形式の授業も取り入れる。小テスト及び課題は学習支援システムを通じて行う。提出翌週の講義の冒頭において正解を提示するとともに解説も併せることによるフィードバックを行うことにより、さらに理解を深めてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス、ヒトの誕生から死まで	全ての生物は細胞からできていることを理解する
2	細胞の種類と構造	再生できる細胞とできない細胞
3	細胞のはたらき	ES 細胞、iPS 細胞およびがん細胞
4	遺伝学の基礎	なぜ正確に遺伝情報は伝わるのか
5	DNA 及び構造、複製と変異および修復について	二重らせん構造は正確に遺伝情報が分配されるしくみをもっているが、その複製のメカニズムと情報修正のための機能を学ぶ
6	遺伝子とそのはたらき	遺伝の正体である遺伝子について学ぶ
7	遺伝に関わる疾患	遺伝子疾患は、遺伝子の異常が原因になって起きる疾患であるが実際にどのような疾患がありその原因遺伝子はそこにあるかを学ぶ。
8	染色体の構造と機能	真核生物では遺伝子情報は DNA に保存され、DNA は染色体に含まれている。その染色体の構造と機能を学ぶ。
9	生殖と発生	生物の生殖について学ぶと共に、出生前診断（NIPT）、および iPS 細胞を用いた再生医療についても学ぶ。
10	刺激の受容と反応 I	神経系と感覚系の一般的な性質
11	刺激の受容と反応 II	時に五感（体性感覚、視覚、聴覚、味覚、嗅覚）に関して学ぶ。
12	個体の制御 I	脳の構造と機能を学ぶとともに、脳を形成している神経細胞とグリア細胞と特徴についても学ぶ。
13	薬理学	薬の作用/副作用、及び薬と受容体の関係、競合阻害など薬理学の基礎を学ぶ。
14	恒常性（ホメオスタシス）について	自律神経とホルモンについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各時間の講義の予習として、毎時間ごとの講義テーマに関する項目を予め参考書類などで調べておくこと。
また復習としては、毎時間ごとに授業中に配布したプリント、power point とともに重要ポイントをまとめるので、それらについて理解を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
1）ケイン生物学

M.Cain/H.Damman/R.Lue/C.Yoon 原著 石川統監訳 東京化学同人
2）Essential 細胞分子生物学原著第 3 版
B.Alberts et al.(著)、中村桂子/松原謙一（翻訳）南江堂
3）Essential Cell Biology 4th edition 原著第 4 版
B.Alberts et al.(著)、Garland Science
4）The cell 細胞の分子生物学原著第 5 版
B.Alberts et al.(著)、中村桂子/松原謙一（翻訳）ニュ

【成績評価の方法と基準】
授業評価アンケートの指摘に応じ講義内容や講義レベル、講義形式および配布資料などを適宜修正する
成績評価については、「ミクロ」「マクロ」の両側面及び最新の生物学において講義中に話した内容を十分に理解できたかどうか、さらに自分自身の知識としてどれだけ身に着いたかを評価基準とする。具体的には授業にどれだけ熱意を持って取り組んでいるかを含む平常点及び授業内課題併せて 30%、期末試験 70%とする。

【学生の意見等からの気づき】
全体的に授業の進行スピードが速めなので、その度ごとにみなさんの様子をみながらひとつひとつ理解できているか否かを確認しつつ、きめ細かい授業を展開したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
Biology is the study of all living things — from bacteria to plants to animals — and their relationship to their environments. This class study the structure and function of cells, organ systems, and tissues in animals and plants. You learn about physiology, behavior, genetics and heredity, pharmacology. This class provides a foundation of understanding in the basic biological sciences.

PPE200YD

実践植物遺伝学

柳澤 貴司、黒羽 剛

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、品種改良を目的とした農作物の育種学（１～７回）や分子遺伝学（８～１４回）の基礎的な知識と方法を学ぶ。

【到達目標】

水稻、麦類等の農作物の品種改良の基礎となる手法や実際の方法について知る。これにより育成された品種の農業への貢献を知る。
また、分子生物学的知見を活用した育種法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

原則オンライン授業を予定しているが、今後の状況により対面も交えた開講となる。

それに伴う各回の授業計画の変更は、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4/10 を予定しており、この日までに学習支援システムに１回目の資料をアップする。また具体的なオンライン授業方法などについて提示する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	育種とは	育種の歴史、農作物の品種改良の意義、古典的な遺伝学、遺伝子型と表現型について学習する。
第 2 回	遺伝資源	遺伝資源の重要性と農作物の栽培化、組織的な品種改良を行う以前の作物の歴史について学習する。
第 3 回	育種組織と育種目標	公的機関の組織的な品種改良の歴史と現況および実施されてきた品種改良について学習する。特に農作物に求められる収量性、耐病性、ストレス耐性、品質成分の改良について学習する。
第 4 回	育種操作	育種機関で実施されてきた人工交配、組織培養、突然変異、遺伝子組換え等の遺伝変異作出方法について学習する。
第 5 回	圃場での選抜手法	生産力検定試験、特性検定試験、地域適応性試験、現地試験について、生産現場での選抜や試験の意味や必要性について学習する。
第 6 回	室内での選抜手法	遺伝子 (DNA) の変異を検出するマーカー、種子成分の分析、品質分析、加工試験、食味試験についての意味や必要性について学習する。
第 7 回	品種登録と品種の普及	品種登録の意義や制度、種苗の増殖、生産者や加工業者への普及、流通制度、消費者に届くまでについて学習する。
第 8 回	DNA、遺伝子、染色体、ゲノムの構造	育種・遺伝の基礎となる遺伝子やゲノムの概念と構造について学習する。
第 9 回	作物の遺伝子解析手法	DNAシーケンシング、ハイブリダイゼーション、PCRなど、分子生物学的解析法の歴史と原理について学習する。
第 10 回	DNAマーカー	連鎖解析に用いるDNAマーカーの歴史と原理、応用例について学習する。
第 11 回	遺伝子の機能解析	「突然変異型の遺伝解析から原因遺伝子を同定する手法（フォワードジェネティクス）」と「対象遺伝子の変異体を探索・作成し、その機能を同定する手法（リバースジェネティクス）」について学習する。また、研究対象となる遺伝子の機能解析手法についても紹介する。
第 12 回	遺伝子組換え作物およびゲノム編集技術	遺伝子組換え作物の作成手法について学習する。また、より新しいアプローチとして注目されているゲノム編集技術について学習する。

第 13 回 ゲノム解析の新技術

マイクロアレイや次世代シーケンサーを用いた新しいゲノム解析技術について学習する。

第 14 回 ゲノム研究における新知見

サイレンシング、クロマチン修飾等のエピジェネティクス、RNAやタンパク質の安定性制御など、ゲノム科学における新知見について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業と関連する知識の習得に努める。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、授業支援システムも活用しつつ、学生の理解を促進したい。
また、ポイントを把握できるように、専門用語をていねいに解説するとともに、板書の明確さやマイク音量、平易な言葉遣い等にも配慮する。

【その他の重要事項】

小テストを行い、重要なポイントの確認に役立てる。また講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付ける。

【Outline and objectives】

In this class, we aim to study basic knowledge and methods in breeding (#1 - #7) and molecular genetics (#8 - #14) for crop improvement.

MAC100YC

化学熱力学 I

森 隆昌

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学熱力学はあらゆる工学の基礎であるとともに、近年のエネルギー、環境、資源問題との関わりも深く、非常に重要な基礎科目である。しかし多くの学生にとって難解で取つきにくい学問でもある。本講義では化学熱力学の基礎重要事項を集中して丁寧に講義し、さらに演習問題を数多くこなすことで、化学熱力学の重要概念を理解できるようにする。

【到達目標】

熱力学第 1, 第 2, 第 3 法則を理解する。
熱力学関数の定義、求め方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

化学熱力学を学ぶ上で最低限必要な基本事項について学習した後に、化学熱力学の基礎事項である熱力学第 1, 第 2, 第 3 法則、エンタルピー、エントロピーの基本概念について丁寧に解説する。授業毎に課題を設定し、演習問題に取り組むことで、化学熱力学に慣れ、重要概念を理解できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロ、基本用語の習得、単位換算	イントロ 基本用語、単位換算についての演習
2	熱力学第一法則 1	熱力学第 1 法則 閉じた系のエネルギー収支
3	熱力学第一法則 2	熱力学第 1 法則 閉じた系のエネルギー収支
4	熱力学第一法則 3	流れ系のエネルギー収支 機械的エネルギー収支 ベルヌーイの法則
5	熱化学 1	熱容量 定容熱容量、定圧熱容量
6	熱化学 2	顕熱、潜熱、反応熱
7	熱化学 3	反応器の設計
8	これまでのまとめ	これまでの授業のまとめと試験
9	理想気体の法則	理想気体の法則
10	理想気体のエネルギー	理想気体の等温変化、定容変化、定圧変化、断熱変化
11	実在気体	実在気体の P-V-T 関係 フガシティ
12	熱機関の効率 カルノーサイクル	熱機関の効率 カルノーサイクル
13	エントロピー	エントロピー
14	熱力学第 2 法則	熱力学第 2 法則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業では、入門的なことを丁寧に述べるため教科書の一部のみを講ずる。そのほかの部分についても学ぶこと。

【テキスト（教科書）】

「第 2 版 演習 化学工学熱力学」大竹伝雄、平田光穂共著、丸善出版

【参考書】

物理化学のテキスト（例えば アトキンス 物理化学（上） 東京化学同人）
化学熱力学のテキスト（例えば 原田義也 化学熱力学 裳華房）

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）、中間試験（30%）、期末試験（40%）の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業の終わりには演習（計算問題）を行うため電卓を持参すること。

【Outline and objectives】

Chemical thermodynamics can be defined as the science of energy. This course will introduce students to the basics of chemical thermodynamics, such as the first law of thermodynamics, the second law of thermodynamics, and entropy.

MAC100YC

化学熱力学 I

作道 直幸

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①熱力学関数を用いて、熱力学的諸性質を記述する。
- ②理想的なサイクルを組み立てている諸過程について学ぶ。
- ③化学平衡（反応平衡）を数学的に記述する方法を理解する。

【到達目標】

化学熱力学 I で学んだ 3 つの基本法則（第 1、第 2、第 3）をベースに、熱力学をより理論的に取り扱うことができるようになる。種々の熱力学関数を導出し、熱力学の概念を一般化するとともに、現実的な課題を取り扱う方法を思考することができる。具体的には、化学プロセスおよび化学装置の設計や最適運転法について、その基となる考え方を提案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

熱力学 I で学んだ「自由エネルギーが最小で平衡となる」という考え方を相分離、溶液の性質や、化学反応に適用し、実用的なレベルで計算を行う。無味乾燥な数式の羅列にならぬように、演習問題を抱負に取り入れながら、理論の具体的な活用法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	熱力学 I の復習 (I)	教科書第 1 章：速度論と平衡論の違いを中心に、熱力学の存在意義を考える。
第 2 回	熱力学 I の復習 (II)	教科書第 2、3 章：例題を使って、熱力学の第 1 法則を復習する。
第 3 回	熱力学 I の復習 (III)	教科書第 4、5 章：P-V-T 関係の例題を解く。
第 4 回	熱力学 I の復習 (IV)	教科書第 6 章：例題を使って、熱力学の第 2 法則を復習する。
第 5 回	エンタルピーとエントロピーの計算および自由エネルギーと内部エネルギーの計算	教科書第 7 章：エンタルピー、自由エネルギー、内部エネルギーについて、熱力学関数間の関係を明らかにする。
第 6 回	水蒸気表と熱力学線図	教科書第 7 章：水蒸気表と熱力学線図の利用法について、例題で学ぶ。
第 7 回	定圧比熱と定容比熱	教科書第 7 章：定圧比熱と定容比熱を含め、状態量の相互関係について学ぶ。
第 8 回	理想的なサイクルを組み立てている過程	教科書第 8 章：3 つの過程（等温圧縮（膨張）、断熱圧縮（膨張）、等圧変化）の違いについて学ぶ。
第 9 回	サイクル	教科書第 8 章：理想的なサイクル、クリアランスのあるサイクル、多段圧縮（膨張）、Joule-Thomson 膨張について学ぶ。
第 10 回	流れ過程	教科書第 8 章：流れ過程の圧縮膨張に続いて、ヒートポンプの計算を行う。
第 11 回	相平衡の条件と相律	教科書第 9 章：相の概念と平衡の概念を理解し、相間に成り立つ関係式（相律）を学ぶ。
第 12 回	フガシチー、活量、活量係数	教科書第 9 章：実在気体の取り扱いについて学ぶ。
第 13 回	化学平衡と平衡定数	教科書第 10 章：化学反応系での平衡を平衡定数を導入して、定量的に取り扱う。
第 14 回	平衡組成の計算	教科書第 10 章：系が平衡に到達した後の組成を取り扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 授業中に課題を科す他、適宜、演習問題のレポートを科す。

【テキスト（教科書）】

化学熱力学 I で用いた

大竹伝雄、平田光穂共著：第 2 版演習 化学工学熱力学、丸善を教科書として用いる。

【参考書】

1. アトキンス：物理化学（上）第 10 版、東京化学同人
2. 原田義也：化学熱力学、裳華房

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（50%）と試験（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎週、講義内容を振り返るためにミニレポートを提出する。
このミニレポートに寄せられた意見を参考に、毎週の講義を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

演習問題を解くために、必ず毎回の講義に電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

熱力学では多くの抽象的な概念が定義されている。その理解のために行う問題の演習は、受講者にとって極めて重要であり、積極的に参加しなければならない。

【Outline and objectives】

- ① To state the properties of thermodynamics by using the thermodynamic functions.
- ② To learn various processes by constructing ideal thermodynamic cycles.
- ③ To understand how to state chemical (reaction) equilibria mathematically.

MAC100YC

応用化学基礎

渡邊 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

新入生であることから、少人数グループによる共通のテーマに対して、共同作業によるグループプレゼンテーションを通じて学生間での信頼感を深めること。さらには、各自興味あるテーマについて個々にプレゼンテーションを行なうことで、大学では自らが積極的に自己啓発しなければならないことを学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	全体の概要と自己紹介
2	研究室紹介1	研究室の見学および研究内容の紹介
3	研究室紹介2	研究内容の紹介
4	研究室紹介3	研究内容の紹介
5	論文購読	化学系論文の購読を行う。
6	パワーポイント使用法1	人前での発表手段のパワーポイントの使用法を習得する。
7	パワーポイント使用法2	人前での発表手段のパワーポイントの使用法を習得する。
8	テーマ設定	グループ毎のテーマ設定を行う。
9	プレゼンテーション	グループのテーマについて発表を行う。
10	テーマ設定	各自興味あるテーマの設定を行う。
11	プレゼンテーション	各自興味あるテーマについて、パワーポイントで発表およびディスカッションを行う。
12	キャリア教育1	キャリア教育を行う。
13	キャリア教育2	キャリア教育を行う。
14	キャリア教育3	キャリア教育を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】高校化学の基礎を十分理解する必要がある。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

2回のプレゼンテーション内容、および的確なディスカッション内容を総合して決める

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

応用化学基礎

明石 孝也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。少人数によるセミナー形式の授業を体験させることにより、高校までの受動的な学習方法から大学での能動的かつ自律的な学習方法へと意識を切り替えることを到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

研究室所属後に行われる研究成果報告、英文教材輪読、英文雑誌紹介の準備として、実験データ解析・発表、英文化学教科書輪読、英字記事等紹介を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業の進め方を説明し、化学に関する英文教材を指定する。
第2回	カウンセラー講習	カウンセラーによる講習を行う。
第3回	不純物添加によるセラミックスの着色 (1) : 準備	セラミックスの着色のために添加する物質やその混合比を決める。
第4回	不純物添加によるセラミックスの着色 (2) : 合成	セラミックスに酸化物を添加・混合し、成型する。
第5回	不純物添加によるセラミックスの着色 (3) : 評価	焼成によって得られる着色セラミックスの評価を行う。
第6回	セラミックスの着色実験の発表 (1) : 前半	PowerPoint のスライドを用いた口頭発表と討論を行う。
第7回	セラミックスの着色実験の発表 (1) : 後半	PowerPoint のスライドを用いた口頭発表と討論を行う。
第8回	英字記事調査、和文要約作成	科学技術に関する英文記事を選び、それを読解し、和文要約（A4用紙1枚程度）を作成する。
第9回	英字記事紹介 (1) : 前半	科学技術に関する英文記事の内容を口頭で発表し、討論を行う。
第10回	英字記事紹介 (2) : 後半	科学技術に関する英文記事の内容を口頭で発表し、討論を行う。
第11回	英文教材輪読 (1)	化学に関する英文教材の音読と和訳をローテーションを組んで行う。
第12回	英文教材輪読 (2)	化学に関する英文教材の音読と和訳をローテーションを組んで行う。
第13回	キャリア教育 (1)	キャリア教育を行う。
第14回	キャリア教育 (2)	キャリア教育を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 環境問題に関する一般的な知識の習得、文献等の調査およびPowerPointのスライド作成は授業外に行う。また、英文教材中の不明な単語の発音と意味を調べておき、内容を理解し、授業内に音読と和訳をできるように準備しておく。英文新聞記事の内容理解・関連情報の調査・英文新聞記事の和文要約作成も授業外に行う。

【テキスト（教科書）】

化学に関する英文教材は第1回目の授業時に指定する。英文記事は法政大学図書館 HP 等からダウンロードする。

【参考書】

無機化学や物理化学に関する教科書、酸化物材料（またはセラミックス材料）の応用に関する文献。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行った演習問題、スライドによる口頭発表と討論内容、英文教材の音読と和訳、英文記事の和文要約・口頭発表・討論内容から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

研究室で行っている研究に関連した内容にも触れる。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン（PowerPoint 使用）。

【Outline and objectives】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

MAC100YC

応用化学基礎

杉山 賢次

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

化学論文の読解力を養うため、与えられた論文の内容を一人ずつ発表する。化学に関するテーマに沿って各自が調査研究を行い発表する。発表に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明
2	メンタルヘルスケア	学生相談室主任心理カウンセラーによる、メンタルヘルスケアに関する講義（オンライン授業）
3	化学論文の読み方（1）	化学論文の構成について学ぶ。
4	化学論文の読み方（2）	化学論文で使われる専門用語や表現について学ぶ。
5	高分子化学入門	身近な高分子化合物について学ぶ。
6	実験	高分子化合物に関する基礎的な化学実験を体験する
7	論文検索	学術論文の検索法について学ぶ。
8	プレゼンテーション資料の作成法	パワーポイントの基本的な使用法について学ぶ。
9	プレゼンテーション（1）	各自がまとめた調査研究の内容を発表する（第1グループ）。
10	プレゼンテーション（2）	各自がまとめた調査研究の内容を発表する（第2グループ）。
11	プレゼンテーション講評	プレゼンテーションについて全体の講評を行う。
12	まとめ	全体のまとめ
13	キャリア教育（1）	キャリア形成の意義について学ぶ。
14	キャリア教育（2）	キャリア形成の具体例を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

配布資料を読み、与えられた課題を調べ、プレゼン資料を作成する。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

配布資料

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（50%）、プレゼンテーション（50%）に基づき、本学の定める基準に従い、S～Eの12段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料の充実

【Outline and objectives】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

MAC100YC

応用化学基礎

緒方 啓典

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代化学は、基礎分野では生物学、物理学との境界・融合領域で著しい進展を達成しており、応用分野では環境、エネルギー問題の解決に欠くことの出来ない存在となっている。本講義では、少人数のセミナー形式で、応用化学の基礎になる学問の体系を理解し、応用化学に関する関心を深め、専門科目に対応できる基礎学力の準備を整えるための教育を行う。また、初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

この講義では、学生が少人数に分かれセミナー形式で現代化学に関連した文献の精読を行い、自ら参考文献を調べ、自分が理解した内容を powerpoint を用いたプレゼンテーションおよび討論を行うことにより、プレゼンテーション技術を習得するとともに、大学での学習の基本姿勢を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	単位制に関する説明。自己紹介。集合写真の撮影。授業の進め方に関するガイダンス。
第 2 回	化学研究成果の社会発信	化学研究成果の社会発信としての学術論文、特許、学会発表について学ぶ。
第 3 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 4 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 5 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 6 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 7 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 8 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 9 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 10 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 11 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。

第 12 回 現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション

履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
大学 1 年生向けキャリア教育を行う。
大学 1 年生向けキャリア教育を行う。

第 13 回 キャリア教育（1）

第 14 回 キャリア教育（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】指定したテキストおよび資料を十分精読し、関連した参考文献を調べて、その内容を理解し、理解した内容についての確にプレゼンテーションを行うために powerpoint による資料作成を行う。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指定する。

【参考書】

必要に応じ、授業支援システムを通じて補助資料の配布を行う。

【成績評価の方法と基準】

出席回数、プレゼンテーションの内容、質疑応答の内容を基準として評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表能力の養成を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に必要な補助資料は、授業支援システムを通して配布を行う。また、プレゼンテーションに当たっては貸与パソコンを用いて資料作成を行う。

【その他の重要事項】

本講義では、少人数のセミナー形式で、応用化学の基礎になる学問の体系を理解し、応用化学に関する関心を深め、専門科目に対応できる基礎学力の準備を整えるための教育を行います。

【Outline and objectives】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

MAC100YC

応用化学基礎

山下 明泰

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年次教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーションの準備、など多くの実践を繰り返すことにより、大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

学生と信頼関係を築くために、できるだけ対話形式で講義を行う。学生に文献検索の方法を伝授するとともに、プレゼンテーションの技術を教授し、そのスキルを磨くように配慮する。

この講義の具体的な受講方法は、受講者に個別の連絡を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	科目登録と履修の方法 エンジニアの役割	入学後直ちに行う必要がある科目登録の重要性を議論する。また、資格取得、文系と理系の役割分担、起業などについて議論する。
第 2 回	化学英語。 最終報告課題の公表。	化学の基礎的な事項を、英語を通して理解する。また、第 11～12 週で行う最終プレゼンテーションの課題を公表する。
第 3 回	Nature Chemistry 誌を用いた文献検索の 演習、および報告課題 の公表。	Nature Chemistry 誌へのアクセス方法、文献の検索方法を教授する。最終プレゼンテーション用の課題を公表する。
第 4 回	化学基礎の演習（1）	英語で書かれた平易な計算問題の解法を考える。数式や化学式の英語での読み方を教授する。
第 5 回	化学基礎の演習（2）	英語で書かれた平易な計算問題の解法を考える。数式や化学式の英語での読み方を教授する。
第 6 回	化学基礎の演習（3）	英語で書かれた平易な計算問題の解法を考える。数式や化学式の英語での読み方を教授する。
第 7 回	Nature Chemistry 誌掲載論文の紹介：学 生による発表（1）	Nature Chemistry 誌に掲載された論文の内容を、パワーポイントで紹介する。
第 8 回	Nature Chemistry 誌掲載論文の紹介：学 生による発表（2）	Nature Chemistry 誌に掲載された論文の内容を、パワーポイントで紹介する。
第 9 回	単位の換算・次元解析 （1）	工学的に重要な量である長さ、質量、力。エネルギーなどの単位の換算を確実にできるようにする。一般化された概念としての次元について考える。

第 10 回 単位の換算・次元解析
（2）

工学的に重要な量である長さ、質量、力。エネルギーなどの単位の換算を確実にできるようにする。一般化された概念としての次元について考える。

第 11 回 課題報告（1）

与えられた課題について、調査した結果をパワーポイントで発表する。

第 12 回 課題報告（2）

与えられた課題について、調査した結果をパワーポイントで発表する。

第 13 回 キャリア教育（1）

学部外または学外から専門講師を招聘し、職業選択についての講義を行う。

第 14 回 キャリア教育（2）

学部外または学外から専門講師を招聘し、職業選択についての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

事前に配布する英語、計算問題などのプリントを学習しておくこと。

後半のプレゼンテーション課題では、パワーポイントの利用が必須なので、その利用方法について習熟しておくこと。1 回目のプレゼンテーションでは、化学に関する最新の原著論文の紹介、2 回目のプレゼンテーションでは選択課題の中から自由研究に基づく成果を報告する。

課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【テキスト（教科書）】

講義資料は配布する。

【参考書】

特に必要ない。

【成績評価の方法と基準】

講義への取り組み態度（50%）とプレゼンテーションを含む演習問題の出来（50%）で判断する。

【学生の意見等からの気づき】

この科目は少人数のゼミ形式の講義であり、今後の学生生活に確実に役に立つスキルが身につくように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

後半の講義では、ノート型パソコンを用いたプレゼンテーションが大きなウェイトを占めるので、パソコンの基本的な使用法の理解が前提となる。

【その他の重要事項】

受講者全員が、パワーポイントを使った発表を少なくとも 2 回経験するので、このソフトウェアに習熟していることが望ましい。

本講義は日米の民間研究所で実務経験を持つ講師が、豊富な実例を交えて講義することで、日米の文化の違い、あるいは大学の違いなどを実感できるように配慮している。

【Outline and objectives】

This course is a first-year education program, aiming to provide learning skills for students by training academic writings and oral presentations.

MAC100YC

応用化学基礎

森 隆昌

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

課題ごとに学生自身によるプレゼンテーション及びディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方に関する説明。
2	キャリア教育	キャリア教育を行う
3	英文教材輪読 1	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
4	英文教材輪読 2	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
5	英文教材輪読 3	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
6	英文教材輪読 4	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
7	英文教材輪読 5	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
8	英語文献調査・要約	与えられた課題に合致する英語文献を自ら調査し、その内容を要約する。
9	文献紹介 1	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
10	文献紹介 2	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
11	文献紹介 3	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
12	文献紹介 4	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
13	キャリア教育 2	キャリア教育を実施する。
14	キャリア教育 3	キャリア教育を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 輪読の準備・予習。

英語文献の要約・プレゼン資料の作成。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション（資料の内容、発表の内容）とディスカッション（質問の数、内容、回答の内容）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

MAC100YC

応用化学基礎

河内 敦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、化学ツールの活用、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

- (1) 化学情報の取り方について学ぶ
- (2) 化学関連のソフトウェアの使い方を習得する。
- (3) プレゼンテーションの基礎技術を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、大学における学習・生活について、本授業の進め方
第 2 回	大学カウンセラーによる講演会	大学生活について
第 3 回	化学文献・情報・ツール	化学文献、化学情報、化学関連のツールについて
第 4 回	化学ツールを使いこなす (1)	ChemDraw の使い方をマスター する (1)
第 5 回	化学ツールを使いこなす (2)	ChemDraw の使い方をマスター する (2)
第 6 回	化学ツールを使いこなす (3)	PowerPoint の使い方をマスター する (1)
第 7 回	化学ツールを使いこなす (4)	PowerPoint の使い方をマスター する (2)
第 8 回	化学ツールを使いこなす (5)	Word によるレポートの作成法 (1)
第 9 回	化学ツールを使いこなす (6)	Word によるレポートの作成法 (2)
第 10 回	化学ツールを使いこなす (7)	その他のツールについて
第 11 回	プレゼンテーション (1)	PowerPoint による資料のまとめと発表 (2)
第 12 回	プレゼンテーション (2)	PowerPoint による資料のまとめと発表 (2)
第 13 回	キャリア教育 (1)	キャリア教育に関する講演
第 14 回	キャリア教育 (2)	キャリア教育に関する講演

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】配布資料を事前に読む。課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

配付資料

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（80％）、課題・制作物（20％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に授業へ参加できるための工夫をおこなう。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC（必要なときは持参することを事前に指示する）

ChemDraw, PowerPoint

【Outline and objectives】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

MAC100YC

応用化学基礎

石垣 隆正

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

エネルギー関連教材を用いて課題調査法、発表資料の作成法、発表方法を学ぶ。

自己紹介を例としたプレゼン、実験レポートの書き方および簡単な英語文献の読み方の指導を受けた後、配布された文献を読んで内容について、それぞれプレゼンを行い、その内容についてグループで質疑応答を行う事を繰り返す。それらの実践により大学生として基本的に必要な能力を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 履修指導	講義の進め方、目的の説明、履修講義に関する提案
第2回	大学における生活指導	学生相談室の心理カウンセラーによる講話
第3回	代替エネルギー	風力エネルギー、太陽光発電など代替エネルギーに関する話題提供
第4回	太陽光発電に関する資源問題	・代替エネルギーに関する調査発表 ・太陽光発電に関する資源問題に関する話題提供と調査分担
第5回	課題調査の発表（1）	太陽電池材料の調査内容の発表（シリコン系材料、13-15 族系化合物半導体）
第6回	調査結果の発表（2）	太陽電池材料の調査内容の発表（化合物半導体、色素増感）
第7回	資料講読（1）	環境関連材料に関する配付テキストの分担部分の内容説明
第8回	資料講読（2）	環境関連材料に関する配付テキストの分担部分の内容説明
第9回	資料講読（3）	環境関連材料に関する配付テキストの分担部分の内容説明
第10回	資料講読（4）	機能性無機材料に関する配付テキストの分担部分の内容説明
第11回	資料講読（5）	エネルギーに関する配付テキストの分担部分の内容説明
第12回	資料講読（6）	エネルギーに関する配付テキストの分担部分の内容説明
第13回	キャリア教育（1）	大学卒業後のキャリア育成準備
第14回	キャリア教育（2）	大学卒業後のキャリア育成準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】エネルギー関連課題の調査、大気・エネルギーに関する配付テキストの事前調査、プレゼン資料の作成

【テキスト（教科書）】

独自のテキストを配付する。

【参考書】

実感する化学、上巻・地球感動編、廣瀬千秋訳、NTS。

【成績評価の方法と基準】

課題報告の内容、レポートの提出、平常点をもとに総合的に評価する。（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に関して学生同士で討論する時間を取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

国立研究開発法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

【Outline and objectives】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

MAC100YC

応用化学基礎

高井 和之

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

学生が少人数に分かれセミナー形式で現代化学に関連したテキストの精読を行い、自ら参考文献を調べたりグループ調査などにより自分が理解した内容について **powerpoint** を用いたプレゼンテーションにより発表すると同時に他の参加者を交えた討論を行う。授業の初めに、前回の授業の議論内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	単位制に関する説明、担当教員の紹介、自己紹介、授業の進め方に関するガイダンス。
第 2 回	総合的な学修指導	心身両面から健康的に学修を進めるための指導を専門家からのガイダンスも交えて行う。
第 3 回	プレゼンテーション演習 (1)	履修学生が順次化学との関わりについての自己プレゼンテーションを行い他者との意見交換を行うことにより、プレゼンテーション技法について学ぶ。
第 4 回	プレゼンテーション演習 (2)	履修学生が順次化学との関わりについての自己プレゼンテーションを行い他者との意見交換を行うことにより、プレゼンテーション技法について学ぶ。
第 5 回	文献検索演習	化学や周辺学問領域に関する学術情報検索方法としてオンラインデータベースなどへのアクセス方法などを専門家の講義なども交えながら学ぶ。
第 6 回	現代化学に関するディスカッション (1)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 7 回	現代化学に関するディスカッション (2)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 8 回	現代化学に関するディスカッション (3)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 9 回	現代化学に関するディスカッション (4)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 10 回	現代化学に関するディスカッション (5)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 11 回	現代化学に関するディスカッション (6)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 12 回	現代化学に関するディスカッション (7)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 13 回	キャリア教育 (1)	化学を学んだことをベースにどのように自己のキャリア形成を考えていくかを専門家の講義も交えて学ぶ。

第 14 回 キャリア教育 (2)

化学を学んだことをベースにどのように自己のキャリア形成を考えていくかを専門家の講義も交えて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】指定したテキストを十分精読し、関連した参考文献を調べて、その内容を理解し、理解した内容についての確にプレゼンテーションを行うために配布印刷物、**powerpoint** などによる資料作成を行う。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指定する。

【参考書】

必要に応じ、オンラインジャーナルの指定および学習支援システムを通じて補助資料の配布を行う。

【成績評価の方法と基準】

各授業回におけるプレゼンテーションの内容、質疑応答の内容を基準として評価を行う。（各回 100/14%）

【学生の意見等からの気づき】

好評であったため、引き続き英語文献の内容理解に重点をおく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによる資料の配布、課題の提出を行うため、履修者はシステムの利用に習熟しておく必要がある。

【Outline and objectives】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

MAC100YC

無機化学概論

明石 孝也

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子構造、電子配置、二原子分子、イオン性結晶に関する基本的な内容を深くに理解することを到達目標とする。

物質を構成する基本単位である原子の構造を理解し、各原子が持つ性質が原子核を取りまく電子の振る舞いによることを理解すると共に、それらの原子の組み合わせから成る様々な無機化合物の構造および性質について学ぶ。また、多様な化学結合様式（イオン結合、共有結合など）が物質の性質と密接に関係していることを理解する。

【到達目標】

原子構造、電子配置、二原子分子、イオン性結晶に関して基本的なことを十分に理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

量子化学を基礎として、原子の構造や電子軌道についての理論的な講義を行う。すなわち、ボーアの原子モデルに基づく電子軌道から、シュレーディンガーの方程式から導かれる電子軌道に発展するまでの過程を、板書とスライドを用いて時系列的に説明する。また、共有結合に関しては、オクテット則に基づく理解から、分子軌道法による解釈へと発展させる。イオン結合に関しては、結晶性固体中におけるイオン結合の理論について講義する。さらに、二原子分子の結合に関しては、分子軌道の模式図とエネルギー準位図に基づいて、定性的な講義を行う。

な

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論、原子（1）	無機化学への導入、無機材料、原子の構造
第2回	原子（2）	原子核の崩壊、原子の構造
第3回	原子（3）	水素の発光スペクトル
第4回	原子（4）	ボーアの原子モデル
第5回	電子（1）	シュレーディンガーの波動方程式、一次元の箱の中の粒子（1回目）
第6回	電子（2）	一次元の箱の中の粒子（2回目）、複素数による波動の理解
第7回	原子軌道（1）	水素原子の中の電子、動径波動関数、球面調和関数
第8回	原子軌道（2）	電子の軌道（s軌道、p軌道、d軌道、f軌道）
第9回	原子軌道（3）	電子スピン、パウリの排他原理、構成原理、フントの規則
第10回	中間テスト	原子と電子と原子軌道に関する理解度を確認する。
第11回	イオン結合（1）	イオン化エネルギー、遮蔽、電子親和力、格子エネルギー
第12回	イオン結合（2）	ボルン-ハーバーサイクル、有効核電荷
第13回	電子配置	電子配置、構成原理
第14回	共有結合	等核二原子原子、異核二原子分子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

前回までの講義内容を復習し、理解を深めておくこと。特に、講義中で解けなかった演習問題は、ノート・テキスト・参考書を参照して解けるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

基礎無機化学－構造と結合を理論から学ぶ、山田・秋津著、(株)化学同人、ISBN:9784759815306。

【参考書】

・無機化学－その現代的アプローチ：平尾一之、中平敦、田中勝久著、東京化学人。
・アトキンス物理化学第10版（上）：千原秀昭・中村亘男訳、東京化学同人。
・ヒューイ無機化学（上）：小玉剛二・中沢浩訳。

【成績評価の方法と基準】

中間試験、期末試験、演習問題、授業への取り組み姿勢により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインテスト実施時のネットワークトラブルが何件か生じた。2021年度もオンラインテストを実施することになった場合には、2020年度の経験を活かしたい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓使用。

【その他の重要事項】

鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、無機化学の基礎について講義する。

【Outline and objectives】

The objective of this class is to understand the structure of atom, atomic orbitals, orbital interaction for the formation of diatomic molecules, and crystal structure of ionic compounds.

MAC100YC

応用化学入門

高井 和之

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境応用化学科の専門科目を理解する上で必要な数学と物理・物理化学・情報処理の基礎について焦点を絞り学ぶ。

【到達目標】

数学の式と物理・化学の式の関係、物理・化学における単位とその換算、物理量の次元、化学におけるグラフの描き方、微分の考え方、座標変換、自然法則と微分方程式の関係などを理解し、化学に現れる様々な現象を定量的に理解し、厳密に記述するための前提となる能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

大学での化学の専門科目を学ぶために必要な物理・数学・物理化学、情報処理の基本的な事項をPC上での数値計算を中心とした実習形式で学ぶ。また演習問題を解き、学習支援システム上にレポートを提出する。さらに関連事項についての宿題も課す。授業の初めに、前回の授業で提示した課題へのレポート提出内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	科学的観点の文書作成	科学的文書の作成、情報機器、計算機器の使用法
2	数値の取り扱い	科学的な数値の取り扱い
3	化学における式	数学の式と物理・化学の式、物理量の単位と次元、単位換算の方法
4	化学における変数と関数	データの視覚化、物理化学における定量的な問題の解き方
5	統計による考え方	基本統計量の計算
6	数値的微分法	速度・加速度・1次元における運動方程式、差分、二階微分
7	小テスト	前半の復習・総合演習
8	小テスト講評・科学的プレゼンテーションの技法	小テストの結果を題材とした統計処理の復習に関する解説・スライド作成の解説と実習
9	関数の局所近似	テイラー展開と近似式
10	非線形方程式の解法	二分法、割線法、ニュートン法の原理
11	偏微分と化学への応用	熱力学な量の変化、偏微分を用いた表現法
12	相関係数と最小二乗法	相関係数、最小二乗法
13	非線形方程式への最適化	ゴールシーク、ソルバーの利用した非線形方程式への最適化、高度なデータ処理と既習の原理との関係
14	総合演習	全ての授業回の内容に関する復習と総合演習を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】前回の内容を復習する。
授業中に解説された例題の続きと宿題を解く。

【テキスト（教科書）】

オリジナルテキストを毎回、学習支援システムを通じて配布する

【参考書】

化学系学生のための Excel/VBA 入門 - Office 2007 対応 -, 寺坂宏一, コロナ社
アトキンス物理化学〈上〉P.W. Atkins, Julio de Paula(著), 千原秀昭, 中村亘男(訳), 東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容の達成度を測定するために課す授業内演習課題と宿題（60%）、小テストと最終回の総合演習の成績（40%）を統合して判断する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回事前に配布するオリジナル教材による授業実施が好評であるため、引き続き実施する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、各学生が大学貸与のノート PC を使用して授業に参加する。学習支援システムで説明のファイルを事前配布し、レポートを学習支援システムに提出する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of selected topics about basic knowledge on Mathematics, Physics, Physical Chemistry, and Information Technology required for understanding other classes in the Department of Chemical Science and Technology.

MAC200YC

物理化学 I

緒方 啓典

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子や分子が関与する物理的/化学的性質および諸現象を理解するために必須の学問である量子物理化学の基本事項について解説する。まず、量子力学の基本原則がどのような考え方に基いているかを詳述し、波動方程式、波動関数の概念とその使い方を説明する。さらに量子力学を粒子の並進運動、分子の振動および回転運動に適用し、そのエネルギー状態について学ぶ。

【到達目標】

量子論の根幹をなす主要な概念を理解する。

量子力学を粒子の並進運動、分子の振動および回転運動に適用し、その状態を正しく理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

基本的にアトキンスの教科書（物理化学（上）第10版）の内容に沿って行う。授業開始前に必ず教科書を入手しておくこと。1カ月に1回程度理解度を確認するための小テストを実施する。実際の授業の進め方については、学習支援システムを通じて適宜アナウンスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	量子論:序論と原理 1	古典物理学の復習から入り、古典物理学が破綻する実験事実について講義を行う。
第2回	量子論:序論と原理 2	第1回に引き続き、古典物理学の破綻と量子論が生まれる過程について講義を行う。
第3回	量子論:序論と原理 3	第2回に引き続き、量子論の必要性、古典論と量子論との定性的、定量的比較を行う。
第4回	量子論:原理 1	波動および波動方程式についての復習、量子力学の基本方程式である Schrodinger 方程式の導出を行う。
第5回	量子論:原理 2	波動関数の物理的意味、波動関数から具体的な物理量をいかにして導き出すことができるか等に関する講義を行う。
第6回	量子論:原理 3	量子力学の原理（固有値、固有関数、演算子、不確定性原理）などについて講義を行う。
第7回	量子論:手法と応用 (1-1)	自由空間および有限の空間に粒子が閉じ込められた際の粒子の並進運動の量子力学的取り扱いについて、Schrodinger 方程式を具体的に解くことにより学ぶ。
第8回	量子論:手法と応用 (1-2)	粒子の量子力学的トンネル効果について、Schrodinger 方程式を具体的に解くことにより学ぶ。
第9回	量子論:手法と応用 (1-3)	2次元および3次元空間における粒子の並進運動の問題における Schrodinger 方程式の解法および縮退について学ぶ。
第10回	量子論:手法と応用 (2-1)	粒子の並進運動の問題における Schrodinger 方程式の解法およびトンネル現象について学ぶ。
第11回	量子論:手法と応用 (2-2)	粒振動運動についての古典力学の復習および量子力学による取扱いの基礎について学ぶ。
第12回	量子論:手法と応用 (2-3)	粒子の振動速度を Schrodinger 方程式に適用し、その解の波動関数、振動エネルギー、振動量子数の導出とその意味について学ぶ。
第13回	まとめおよび復習	これまでの授業での学習内容の復習および総括を行う。
第14回	まとめおよび質疑応答	これまでの授業内容に関する質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】教科書アトキンス「物理化学（上）第10版」の練習問題を用いて各自予習および復習を行うこと。講義に関連した補助プリントを授業支援システムを通じて事前に配布を行うので各自、プリントアウトして事前に目を通し、講義に臨むこと。毎回の講義の最後に講義内容に関連した課題を出すので、提出期限までに学習支援システムを通じて提出すること。

【テキスト（教科書）】

＜教科書＞ P. W. Atkins 著、(千原・中村 訳)「物理化学（上）」 第10版、東京化学同人。

【参考書】

＜参考書＞ 原田 義也著、「量子化学」 裳華房

【成績評価の方法と基準】

基本的概念を理解し、それに基づいて問題解決ができるかどうかを課題、小テストおよび最終試験の結果によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

物理化学 I の内容は、単に授業を受動的な立場で受講しているだけでは理解することは困難です。授業外での予習・復習は必要不可欠です。

【学生が準備すべき機器他】

講義に関連した補助資料を学習支援システムを通じて事前に配布を行う。

【その他の重要事項】

＜具体的教育方法＞毎回の授業の理解度を確保するために課題を出し、理解度を確認しながら授業を進める。

＜継続的改善＞質問は随時電子メールで受け付ける。質問受付のメールアドレスは第1回目の講義資料に記載します。

物理化学 I の授業内容をよく理解するためには、関連した演習科目「物理化学演習」を履修することを推奨します。

【Outline and objectives】

This course will provide the fundamentals of quantum physics, which is an essential learning to understand the physical and chemical properties and phenomena involving atoms and molecules. First, you will learn in detail what the basic principle of quantum mechanics and the Schrodinger equation, the concept of wave function and its physical meaning. Furthermore, you will learn the application of quantum mechanics to translational motion, molecular vibration and rotational motion and learn about their energy states.

MAC200YC

物理化学 I

高井 和之

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年次春学期の物理化学 I での既習事項にもとづいて、量子物理化学の応用事項の解説を行う。

【到達目標】

量子物理化学の基礎を理解し、水素原子の電子状態が記述できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

アトキンス物理化学を教科書にして使用する。この本に沿って板書で基本事項を説明する。その後、講義内容に対応した演習問題を解いてもらう。原則として授業時間内に提出のこと。また、学習内容を定着させるために、宿題も課すが内容はその日の講義内容を理解していれば解ける問題である。課題は学習支援システムに提出する。授業の初めに、前回の授業で提示した課題へのレポート提出内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	物理化学の復習	量子力学の基本原理解および並進運動についての復習を行う。
第 2 回	量子論：手法と応用 (1)	振動運動に対する量子力学の適用を行う。
第 3 回	量子論：手法と応用 (2)	量子力学的振動子のエネルギー・波動関数などについての性質を学ぶ。
第 4 回	量子論：手法と応用 (3)	2 次元の円周上の粒子の回転運動について古典的取扱の復習と量子論的考察を行う。
第 5 回	量子論：手法と応用 (4)	量子力学的回転運動のエネルギー・角運動量について学ぶ。
第 6 回	量子論：手法と応用 (5)	3 次元球面上の粒子の回転運動の量子力学的取り扱いおよび必要な数学的知識について学ぶ。
第 7 回	量子論：手法と応用 (6)	3 次元の回転運動についての波動関数・エネルギーの性質について学ぶ。
第 8 回	量子論：手法と応用 (7)	粒子の回転運動に基づく角運動量について詳述し、スピン角運動量の概念について導入する。
第 9 回	原子構造と原子スペクトル (1)	原子スペクトルに観察に関する歴史的背景とボーア模型にもとづく水素型原子軌道の古典的な取り扱いについて学ぶ。
第 10 回	原子構造と原子スペクトル (2)	水素型原子の電子構造について波動方程式を解いて波動関数と固有エネルギーを導出する。
第 11 回	原子構造と原子スペクトル (3)	水素原子中の電子の波動関数エネルギーおよび原子スペクトルとの対応について説明する。
第 12 回	原子構造と原子スペクトル (4)	水素原子軌道における動径関数の性質を学ぶ。
第 13 回	原子構造と原子スペクトル (5)	原子オービタルの概念を導入し、s,p,d,f 軌道の性質について紹介する。
第 14 回	原子構造と原子スペクトル (6)	多電子系の量子力学の初歩を導入するとともに多電子原子の性質について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 1 教科書を読んで予習する。

2 前回の部分のノート・配布資料・教科書を読んで復習する。

3 宿題を解く。

【テキスト（教科書）】

P. W. Atkins, 「Physical Chemistry」9th ed., Oxford University Press.

【参考書】

物理化学演習 片岡・山田 三共出版

【成績評価の方法と基準】

演習・宿題・復習テスト（40%）および期末試験の結果（60%）を総合評価する。基本的概念を理解し、それに基づいて問題解決ができるかどうかを、演習・宿題・復習テスト、期末試験によって総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

原理だけでなく、具体的な実験手法や現象との対応の紹介も取り入れた。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は学習支援システムで配布する。

【その他の重要事項】

予備知識と講義内容の理解度を確認するため日常的に演習問題と宿題を出す。これらは自分で解けない時は教員や教務助手、TA に質問して、理解してから解答すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of principles of advanced issues on quantum physical chemistry based on the contents of Physical Chemistry I opened during the spring semester in the second grade year.

MAC200YC

無機化学 I

石垣 隆正

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀、特に量子力学の発見と成立は人類の物質観を一変し、物質の本質的な理解に基づく発明・発見が、現在に続く爆発的な物質文明の進展をもたらした。しかし、その利得と負債の双方が 21 世紀のわれわれの肩に重くのしかかっているのも事実である。21 世紀の物質科学という観点から無機化学を洗い直し、清新な視点から、物質文明の来し方行く末を遠望し、かつ学生諸氏が今後社会人として活力ある未来を築くための基礎になるような授業にしたいと思っている。無素化学 I では、特に基礎的な物質理解に重点を置き、はじめに周期律に現れる各元素の性質の美的な振る舞いを示し、結晶の周期構造と物性・無機化合物の一見複雑な構造を理解するための強力な考え方などを中心に講義する予定である。

【到達目標】

構成元素の周期表における位置を見て、その無機化合物の特性が推定できる化学的感覚を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義資料を配付し、その内容に即して講義を進める。適宜教科書を参照する。講義の最初に前回学習した重要事項に関する小問を行う。小問は提出の次の週に解説する。また、重要な事柄に関しての課題をレポートとして課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	無機化学工業、無機化学の学習範囲
第 2 回	結合と構造	結合の分類と物質構造の関係
第 3 回	原子のボーアモデル	ボーアモデルによる原子の電子構造、エネルギー量子化の理解
第 4 回	シュレディンガー方程式と水素原子	水素原子のシュレディンガー方程式を各量子数が導入される
第 5 回	多電子系原子の電子構造	多電子系元素原子における電子構造の構成原理
第 6 回	分子の電子構造	分子軌道法、等核分子の電子構造
第 7 回	分子の電子構造	異核分子の電子構造
第 8 回	周期律表と元素の性質 1	原子の電子構造に基づく周期律表、元素特性の理解
第 9 回	周期律表と元素の性質 2	原子の電子構造に基づく周期律表、元素特性の理解
第 10 回	周期律表と元素の性質 3	原子の電子構造に基づく周期律表、元素特性の理解
第 11 回	酸・塩基 1	アクリル酸・オキシ酸
第 12 回	酸・塩基 2	ブレンステッド酸・塩基
第 13 回	酸・塩基 3	ルイス酸・塩基、かたい酸・塩基、やわらかい酸・塩基
第 14 回	酸化・還元	酸化電位、電池

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 年秋学期に履修する「無機化学概論」の内容を把握しておくこと。今回の配付資料を事前にアップロードするので、講義範囲を教科書で予習しておくこと。講義資料、小問は講義後にアップロードする。

【テキスト（教科書）】

「無機化学 -その現代的アプローチ-」平尾、田中、中平著、東京化学同人。

オリジナルテキストを配付する。

【参考書】

< 参考書 >

「演習で学ぶ無機化学」伊藤・石垣・佐々木・野田著、三共出版。

「アトキンス・無機化学」千原、中村訳、東京化学同人。

「コットン・ウィルキンソン・ガウス基礎無機化学」中原訳、培風館。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト・期末試験（85 %）。平常点、講義中に行う小問、適宜課するレポートの提出（15 %）。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料中に設けた空白部分を講義中に学生間で討論する時間をとる。

【その他の重要事項】

質問は、授業中、メールなど。

国立研究開発法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

【Outline and objectives】

This course aims at acquiring basic knowledge for understanding characteristics of elements in the periodic table, such as ideas on chemical bonding, acid-and base, and redox reactions.

MAC200YC

無機化学 I I

石垣 隆正

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無機化学 I で導入された物質科学的観点を発展させ、無機固体物質の材料科学的応用の基礎事項を原理から学んで行く一方、持続可能な社会の形成に重要な環境・エネルギー関連のトピックも取り上げて行きたい。

【到達目標】

持続可能な可能な社会形成に重要な環境とエネルギーは表裏一体の関係にある。環境にやさしいエネルギー材料、環境を保全する無機材料に関する基礎科学を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義資料を配付し、その内容に即して講義を進める。適宜教科書を参照する。講義の最初に前回学習した重要事項に関する小問を行う。小問は提出の次の週に解説する。また、重要な事柄に関しての課題をレポートとして課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	溶液化学から固体化学へのいざない、無機材料への応用
第 2 回	固体の周期的構造	結晶の周期性がもたらす孤立原子との劇的な違いとは
第 3 回	固体物質の結晶構造 1	結晶構造の構成原理と代表的な結晶構造
第 4 回	固体物質の結晶構造 2	2 成分固体物質の代表的な結晶構造
第 5 回	固体物質の結晶構造 3	複合固体物質の代表的な結晶構造
第 6 回	格子欠陥と非化学量論性 1	欠陥の分類と熱力学
第 7 回	格子欠陥と非化学量論性 2	格子欠陥と電子伝導特性
第 8 回	格子欠陥と非化学量論特性 3	固体中の原子の拡散
第 9 回	固体電解質	イオン伝導性の基礎と固体電解質の構造
第 10 回	化学電池、燃料電池	電池の原理・材料
第 11 回	固体の電子物性 1	バンド構造と固体の物性
第 12 回	固体の電子物性 2	固体の電気伝導性、半導体の種類
第 13 回	半導体の特性	光伝導、熱電特性、ホール効果
第 14 回	半導体の接合	電子デバイスの基礎原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】前期に履修する「無機化学 I」の内容を理解して受講することを望む。次回の配付資料を事前にアップロードするので、講義範囲を教科書で予習しておくこと。講義資料、小問は講義後にアップロードする。

【テキスト（教科書）】

「無機化学 -その現代的アプローチ-」平尾、田中、中平著、東京化学同人、オリジナルテキストを配付する。

【参考書】

「演習で学ぶ無機化学」伊藤、石垣、佐々木、野田著。
「アトキンス・無機化学」千原、中村訳、東京化学同人。
「新無機材料科学」足立、島田、南編、化学同人。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト・期末試験（85 %）。平常点、講義中に行う小問、適宜課するレポートの提出（15 %）。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料中に設けた空白部分を講義中に学生間で討論する時間をとる。

【その他の重要事項】

質問は、授業中、メールなど。

国立研究開発法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

【Outline and objectives】

Perspective of materials science acquired through learning “Inorganic Chemistry: I” is intended to improve. Basic principles of inorganic solid-state chemistry is learned to understand applications on energy-related and environmental materials, which are indispensable for establishing sustainable society.

MAC200YC

有機化学 I

杉山 賢次

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新規有機化合物の合成や新しい有機合成法開発の鍵となる有機化合物の物理的・化学的性質を理解する。

【到達目標】

- (1) 有機化合物を形成している化学結合について理解している。
- (2) 有機化合物の化学的性質を理解している。
- (3) 化学反応式を用いて様々な有機化合物の反応を記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

「基礎有機化学 I, 同 II」が既習であることを前提とする。テーマとする有機化合物の物理的性質、命名法、特徴的な化学反応（化学的性質）について学ぶ。特に、化学反応式を用いた記述が重要である。

授業開始時までに、資料を学習支援システムの「教材」にアップロードするので、予習に役立てること。

また、確認問題（課題として成績評価の対象）を解き、授業内容の理解度を確かめる。課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	分子のかたちと混成軌道	有機分子の形成に重要な混成軌道と分子のかたちについて学ぶ（1, 3章）
2	ハロアルカンの求核置換反応	S_N1 反応, S_N2 反応について学ぶ（1 2章）
3	ハロアルカンの脱離反応	$E1$ 反応, $E2$ 反応について学ぶ（1 3章）
4	アルコール・エーテル・アミン（1）	アルコールの性質、製法、反応について学ぶ（1 0, 1 4章）
5	アルコール・エーテル・アミン（2）	エーテルの性質、反応について学ぶ（1 4章）
6	アルコール・エーテル・アミン（3）	アミンの性質、製法、反応について学ぶ（1 4章）
7	まとめ（1）	授業前半のまとめと問題演習
8	中間試験	授業時間内に中間試験を行う
9	アルケン・アルキン（1）	アルケンの構造と性質、反応を学ぶ（1 5章）
10	アルケン・アルキン（2）	アルキンの構造と性質、反応を学ぶ（1 5章）
11	芳香族求電子置換反応（1）	芳香族性、芳香族求電子置換反応について学ぶ（5, 1 6章）
12	芳香族求電子置換反応（2）	芳香族求電子置換反応における置換基効果について学ぶ（1 6章）
13	芳香族求電子置換反応（3）	置換ベンゼンの合成について学ぶ（1 6章）
14	まとめ（2）	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

（準備学習）各回のテーマに沿って、教科書の対応ページを読む。授業支援システムに用意されている資料を参照すること。本文中の問題を解くことが望ましい。

（復習）講義ノート、参考資料を見ながら、教科書の重要ポイントにマークを入れる。章末問題を解くことが望ましい。

（宿題）配布された確認問題（成績評価の対象）を解き、次回授業開始前に提出する。

【テキスト（教科書）】

・奥山格・石井昭彦・箕浦真生（著）、有機化学 改訂 2 版、丸善出版

【参考書】

・赤松元浩・河内敦・松本祥治・三野孝（著）、スパイラル有機化学、筑波出版会

・J. McMurry 著「マクマリー有機化学 第 9 版」（上・中・下）（東京化学同人）

・山口泰史（著）、大学生のための有機反応問題集、三共出版

・畔田博文・鈴木秋弘・高木幸治・川淵浩之（著）これでわかる基礎有機化学演習、三共出版

【成績評価の方法と基準】

確認問題（30%）と中間・期末試験（70%）により、本学の定める基準に従い、S から E までの 12 段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

自宅学習課題の充実。

【Outline and objectives】

This course provides students with the foundations for the Organic Chemistry. It will address the basic knowledges of organic chemistry and recent advances as well. Students will learn to recognize such organic reactions in relation to the chemical structures of the molecules.

MAC200YC

有機化学 I I

杉山 賢次

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新規有機化合物の合成や新しい有機合成法開発の鍵となる有機化合物の物理的・化学的性質を理解する。

【到達目標】

- (1) 有機化合物を形成している化学結合を理解し、基本的な化学反応式を記述できる。
- (2) 有機化合物の物理的・化学的性質を理解し、やや複雑な化学反応式を記述できる。
- (3) 有機化合物の物理的・化学的性質に精通し、望みの有機化合物を合成するための化学反応式を自在に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

「基礎有機化学Ⅰ、Ⅱ」、および「有機化学Ⅰ」が既習であることを前提とする。テーマに示す有機化合物に着目し、その物理的性質や、特徴的な化学反応（化学的性質）について学ぶ。特に、人名反応と中心として、化学反応式を用いた記述ができることが重要である。「教材」に資料を用意してあるので、教科書と合わせ、参考にする。課題に用意された確認問題を解いて、理解度を確かめる。これは、成績評価の対象である。課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	カルボニル基への求核付加反応（1）	CN ⁻ , H ₂ O, ROH の求核付加反応について学ぶ（8章）
2	カルボニル基への求核付加反応（2）	イミン、エナミンの生成について学ぶ（8章）
3	カルボン酸誘導体の求核置換反応（1）	酸ハロゲン化物・酸無水物の反応について学ぶ（9章）
4	カルボン酸誘導体の求核置換反応（2）	エステルとアミドの反応について学ぶ（9章）
5	カルボニル化合物のヒドリド還元と Grignard 反応（1）	カルボニル化合物のヒドリド還元について学ぶ（10章）
6	カルボニル化合物のヒドリド還元と Grignard 反応（2）	Grignard 反応による C-C 結合の生成について学ぶ（10章）
7	中間試験	授業時間内に中間試験を行う
8	エノラートイオンとその反応性（1）	ケト・エノール互変異性、エノールの反応性について学ぶ（17章）
9	エノラートイオンとその反応性（2）	エノラートイオンの生成について学ぶ（17章）
10	エノラートイオンとその反応性（3）	エノラートイオンのアルキル化について学ぶ（17章）
11	求電子性アルケンへの求核付加反応	求電子性アルケンへの共役付加について学ぶ（18章）
12	ペリ環状反応（1）	付加環化反応、電子環状反応について学ぶ。
13	ペリ環状反応（2）	シグマトロピー転移について学ぶ。
14	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

（準備学習）各回のテーマに沿って、教科書の対応ページを読む。本文中の例題を解くことが望ましい。

（復習）参考資料を見ながら、教科書の重要ポイントにマークを入れる。章末問題を解くことが望ましい。

（宿題）配布された確認問題を解き、期限までに提出する（成績評価の対象）。

【テキスト（教科書）】

・奥山格・石井昭彦・箕浦真生（著）、有機化学 改訂 2 版、丸善出版

【参考書】

（教科書）

・赤松元浩、河内敦、松本祥治、三野孝、「スパイラル有機化学」、筑波出版会

・R. J. Ouellette, J. D. Rawn, 「ウレット・ローン基本有機化学」、東京化学同人

・J. McMurry, 「マクマリー有機化学（上・中・下）第 9 版」、東京化学同人

（問題集）

・山口泰史、「大学生のための有機反応問題集」、三共出版

・畔田博文、鈴木秋弘、高木幸治、川淵浩之、「これでわかる基礎有機化学演習」、三共出版

・加藤明良、「これで万全！ 有機反応メカニズム演習 200」、三共出版

【成績評価の方法と基準】

確認問題（30%）と中間・期末試験（70%）により、本学の定める基準に従い、S から E までの 12 段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

自宅学習課題の充実。

【Outline and objectives】

This course provides students with the foundations for the Organic Chemistry. It will address the basic knowledges of organic chemistry and recent advances as well. Students will learn to recognize such organic reactions in relation to the chemical structures of the molecules.

MAC200YC

コンピュータ利用化学

小鍋 哲

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学を学び、研究する上で必要なコンピュータ技術を学ぶことを目的とする。
特に、コンピュータシミュレーションにより化学現象を理解する方法を学ぶ。

【到達目標】

- ・化学におけるコンピュータシミュレーションの重要性・有用性を理解する。
- ・コンピュータシミュレーションの基本的な方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

各自の PC を用いて、実習形式により授業を進める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	化学におけるコンピュータ利用の重要性について紹介する。
第 2 回	量子力学の基礎	量子力学の基礎を復習する。
第 3 回	分子軌道法の基礎	分子軌道法の基礎を復習する。
第 4 回	量子化学計算用アプリのインストール	シミュレーションに必要なアプリを各自の PC にインストールする。
第 5 回	分子のモデリング	様々な分子をコンピュータ上に作成する方法を学ぶ。
第 6 回	シミュレーション演習	分子のモデリングに関する演習。
第 7 回	分子の構造最適化	分子の自然な構造をシミュレーションにより求める方法を学ぶ。
第 8 回	シミュレーション演習	分子の構造最適化に関する演習。
第 9 回	分子振動	分子振動をシミュレーションする方法と結果の可視化について学ぶ。
第 10 回	シミュレーション演習	分子振動のシミュレーションに関する演習。
第 11 回	分子軌道のエネルギーと波動関数	分子のエネルギー準位と波動関数をシミュレーションにより求める方法を学ぶ。
第 12 回	シミュレーション演習	分子軌道のエネルギーと波動関数のシミュレーションに関する演習。
第 13 回	発展的内容	量子化学の発展的内容に関するシミュレーションについて学ぶ。
第 14 回	総合演習	授業内容に関する総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業後、その日のうちに授業内容を必ず復習する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

はじめの授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) とレポート課題や宿題 (60%) により総合的に評価する。評価する際のポイントは

- ・学んだことをきちんと再現できる
 - ・学んだことを応用することができる
- である。

【学生の意見等からの気づき】

好評につき、これまで同様教員と一緒に実習形式で進める。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC、あるいは同等のスペックを有する PC。

【Outline and objectives】

The objective of this class is to learn the computer technology necessary for studying and researching chemistry. In particular, students will learn how to understand chemical phenomena through computer simulations.

MAC200YC

電気化学

片山 英樹

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電気化学系は、電子移動反応を通じた化学エネルギーと電気エネルギーの相互変換の場として、また化学情報と電気信号の相互変換の場として、人工系そして生体系で重要な役割を担っている。人工系では、酸化還元反応、電気分解、電池、センサーなどがあり、生体系では代謝、光合成、神経伝達などがある。これらを理解するためには電気化学的な考え方や方法論を身につけることが不可欠である。この講義では、電位が熱力学量（平衡論）、電流が反応速度（速度論）を表すパラメーターとなる電気化学の基礎を身につけることをねらいとする。

【到達目標】

電気化学における平衡論と速度論を十分に理解するとともに、電気化学測定に必要な基礎知識、電気化学の応用分野について理解を深めることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講を基本とし、教科書に沿って進めます。内容の理解を深めるため、教科書に掲載されている演習問題を授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	電気化学の概要	講義を始めるに当たり、電気化学が用いられる分野を紹介する。
2 回	電気化学系の姿 1	電気分解を例に挙げ、固体と液体の界面での挙動について概説する。
3 回	電気化学系の姿 2	電気分解の進み方とそれに伴う固体と液体の界面での挙動の変化について説明する。
4 回	物質のエネルギーと平衡 1	化学変化とエネルギーの関係について説明する。
5 回	物質のエネルギーと平衡 2	化学平衡とエネルギーの関係について説明する。
6 回	標準電極電位 1	電位と電位差の違い、標準電極電位が持つ意味を説明する。
7 回	標準電極電位 2	ネルンストの式を導出するとともに、式の持つ意味を説明する。
8 回	電解電流 1	電位によって決定される電流について説明する。
9 回	電解電流 2	物質輸送によって変化する電流について説明する。
10 回	電解液 1	物質や電解液の導電性について説明する。
11 回	電解液 2	イオンの移動度と電解液の導電性の関係について説明する。
12 回	電気化学測定	電気化学測定に必要な基礎知識について説明する。
13 回	腐食電気化学 1	腐食科学における電気化学について概説する。
14 回	まとめ・試験	電気化学の基礎知識に対する到達度試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
 予習ではテキストを事前に読み、授業内で行う演習問題について復習することで授業内容を確認・理解する。

【テキスト（教科書）】

渡辺 正・金村聖志・益田秀樹・渡辺正義共著「電気化学」（丸善）および配布資料（web 添付）

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）、レポート課題（10 %）、期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

教科書を中心とし、重要な部分はプロジェクターでの説明も行います。また、詳細な計算などについては必要に応じて板書も併用します。

【学生が準備すべき機器他】

授業中で演習問題を解くため、計算機が必要です。

【Outline and objectives】

The aims of this subject are to understand the fundamentals of electrochemistry, which deals with the interaction between electrical energy and chemical change. Also, through the fundamentals of electrochemistry, we will deeply understand the necessary basic knowledge for electrochemical measurements and the application fields utilizing electrochemistry.

MAC300YC

反応工学

小堀 深

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学工学は化学工業における装置設計やプロセス構築を行う学問である。そこには様々な単位操作が存在するが、なかでも反応装置は化学プロセスの中心に位置する、いわば化学プラントの心臓部に当たる重要な部分である。この反応装置を設計するための工学分野が「反応工学」である。受講生は化学工学の基礎（収支・平衡・速度）を十分理解し、装置設計に対して「数値データ」として明確に表現できなければならない。本講では反応装置を中心に述べるが、見方を変えれば同一手法で大気（地球）環境や生体科学分野等に発展させることが可能である。

【到達目標】

- (1) 反応装置に関する物質収支、熱収支が計算できる
- (2) 装置のスケールアップを理解し、その解析手法が理解できる。
- (3) 場面に則した反応装置の設計が出来る。
- (4) 反応工学手法を用いることで、大気環境、海洋環境あるいは地球環境等、いわゆるグリーンケミストリー分野への展開ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式とする。

- (1) 基本的な考え方や基礎方程式の誘導について授業中に行う
- (2) ワークブック形式のプリントを用い簡単な練習問題を解く
- (3) 毎回講義の最後に理解度確認テスト（小テスト）を実施する
- (4) 授業の初めに、前回の授業で提出された小テストからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	化学工学入門	化学工学の基本概念である収支・平衡・速度の初歩を実例を通して学ぶ。
第 2 回	流れ	身の回りや生体に見られる流れ現象を例として、流れについての基本的な原理や法則を理解する。
第 3 回	熱の移動	熱移動は、伝導、対流、放射によるが、その物理的プロセスに関する基本を理解する。
第 4 回	物質の移動の原理～フィックの法則～	熱の移動で得た知識を応用し、身近に起きる物質移動を数式を用いて定量的に理解する。
第 5 回	物質の移動～膜を用いた分離～	分離技術としての膜に着目し、その原理と計算法について学ぶ。
第 6 回	物質の移動～コンパートメントモデルによる薬物送達解析～	物質移動に関する知識を応用し、ドラッグデリバリーへの理解へ進む。
第 7 回	反応速度の導出法	反応速度の表現法を学び、定常状態と非定常状態、さらに反応速度の温度依存性について理解する。
第 8 回	反応器設計の基礎式	様々な反応器を設計する前提としての基礎式の導出と応用を理解する。
第 9 回	回分反応器の設計	回分反応器の物質収支から、設計方程式の導出を試みる。
第 10 回	連続槽型反応器の設計	連続槽型反応器における空間時間の概念を理解し、物質収支を基に設計方程式を導出する。
第 11 回	管型反応器の設計	管型反応器の物質収支から、設計方程式の導出を試みる。
第 12 回	複雑な反応器の取り扱い	反応器の多段化、リサイクル反応器などを定量的に理解する。
第 13 回	物質移動を伴う化学反応工学～拡散と反応が逐次的に起こる場合	発汗による体温調整と、化学反応で促進される物質移動について理解する。
第 14 回	物質移動を伴う化学反応工学～拡散と反応が同時に起こる場合	生体肺における酸素移動の解析を試みる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

第 1 回 予習:化学工学教科書の「化学工学入門」を通読 復習:テストの見直し

第 2 回 予習:化学工学教科書の「流れ」を通読 復習:テストの見直し

第 3 回 予習:化学工学教科書の「熱の移動」を通読 復習:テストの見直し

第 4 回 予習:化学工学教科書の「物質の移動」前半を通読 復習:テストの見直し

第 5 回 予習:化学工学教科書の「物質の移動」中間部を通読 復習:テストの見直し

第 6 回 予習:化学工学教科書の「物質の移動」後半を通読 復習:テストの見直し

第 7 回 予習:化学工学教科書の「化学反応工学」5.1 から 5.8 を通読 復習:テストの見直し

第 8 回 予習:化学工学教科書の「化学反応工学」5.9 から 5.10 を通読 復習:テストの見直し

第 9 回 予習:化学工学教科書の「化学反応工学」5.11 を通読 復習:テストの見直し

第 10 回 予習:化学工学教科書の「化学反応工学」5.12 を通読 復習:テストの見直し

第 11 回 予習:化学工学教科書の「化学反応工学」5.13 を通読 復習:テストの見直し

第 12 回 予習:化学工学教科書の「化学反応工学」5.14 から 5.15 を通読 復習:テストの見直し

第 13 回 予習:化学工学教科書の「物質移動を伴う化学反応工学」6.1 から 6.3 を通読 復習:テストの見直し

第 14 回 予習:化学工学教科書の「物質移動を伴う化学反応工学」6.4 から 6.5 を通読 復習:テストの見直し

【テキスト（教科書）】

化学工学、酒井清孝、朝倉書店、2005 年、3600 円＋税

【参考書】

反応工学、橋本健治、培風館、1993 年、2900 円＋税

【成績評価の方法と基準】

授業後理解度確認テスト (90)

質問等授業への積極的参加 (10)

等を考慮して総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓またはそれに類するもの

【Outline and objectives】

Chemical engineering is a tool of device design and process construction in the chemical industry. There are various unit operations there, in particular a reactor, the heart of chemical plant, is a most important part of chemical process. The engineering field for designing the reactor is "chemical reaction engineering". Students must be able to fully understand the fundamentals of chemical engineering (balance / equilibrium / rate) and express them clearly by numerical data for equipment design. Although we will focus on reactors in this lecture, only changing viewpoint allow us to apply the same method to the atmosphere (earth) environment, bioscience field, etc.

MAC300YC

量子化学

野口 真理子

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量子力学の原理を用いて、水素型原子および多電子原子の電子構造を記述し、それぞれの原子スペクトルを理解する。さらに、二原子分子、多原子分子の電子構造の量子力学的取り扱いについて演習を交えながら学習する。この講義により、学生は、これまでに学んだ量子力学の原理が、化学において原子や分子の構造や反応を理解するために重要な役割を果たしていることを学ぶ。

【到達目標】

量子力学の考え方を用いて、原子および分子の電子構造を記述できる。関連する演習問題を正しく解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

教科書 9 章「原子の構造とスペクトル」と 10 章「分子構造」（第 8 版ではそれぞれ第 10 章、11 章）を取り扱う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。オンラインでの開講方法は、以下の通りである。オンライン会議システムである Zoom を用いて、同時双方向形式で講義を行う。講義では、PowerPoint で作成したスライド資料を用いて、量子化学について解説する。同資料を学習支援システム上に公開するため、それを用いて学習してもらう。授業内容と関連した演習問題を講義内で解く時間を設け、その場で解説を行う。必要に応じて、課題を課す場合には、学習支援システム上に課題を公開し、提出してもらい、後日授業内で解説や質問の機会を設けることでフィードバックとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、水素原子スペクトル（教科書 9 章）	この講義の進め方について説明する。水素の原子スペクトルとスペクトル系列について学ぶ。（教科書 9 章、9A）
第 2 回	水素型原子の電子構造	水素型原子のシュレディンガー方程式の解法について学ぶ。（教科書 9 章、9A・1）
第 3 回	原子軌道関数とそのエネルギー	水素型原子の波動関数（原子軌道関数）の特徴について学ぶ。（教科書 9 章、9A・2）
第 4 回	ヘリウム原子の電子構造	最も単純な多電子原子であるヘリウム原子のシュレディンガー方程式とその近似的解法について学ぶ。（教科書 9 章、9B・1）
第 5 回	多電子原子の電子構造	電子のスピン、パウリの原理、フントの規則について学び、多電子原子の電子配置について理解する。（教科書 9 章、9B・1、9B・2）
第 6 回	多電子原子の化学的性質の周期性	多電子原子の電子配置と、原子の化学的性質（イオン化エネルギーおよび電子親和力）の周期性の関係を理解する。（教科書 9 章、9B・2、9B・3）
第 7 回	原子のスペクトル	水素型原子および多電子原子のスペクトルと、原子の電子配置とエネルギーの関係を理解する。（教科書 9 章、9C・1、9C・2）
第 8 回	9 章のまとめ	教科書 9 章「原子の構造とスペクトル」において重要な問題の解説を行う。
第 9 回	原子価結合法	原子価結合法の概要を二原子分子と多原子分子を例に理解する。（教科書 10 章、10A・1、10A・2）
第 10 回	分子軌道法の原理	電子を一つ含む最も単純な分子である水素分子イオンを例にとり、分子軌道法の原理について理解する。（教科書 10 章、10B・1、10B・2）
第 11 回	等核二原子分子の構造	多電子分子の中で最も単純な等核二原子分子を分子軌道法で取り扱い、その電子配置を理解する。（教科書 10 章、10C・1）

第 12 回 異核二原子分子の構造

異核二原子分子として HF 分子を例に、極性結合を分子軌道法で記述し、分子軌道エネルギーの近似解を得る方法を理解する。（教科書 10 章、10D・1、10D・2）
ヒュッケル近似を用いて、多原子分子の分子軌道のエネルギー準位図を求める手順を学ぶ。さらに、ヒュッケル法を応用すれば、共役ポリエンのいくつかの性質を説明できることを理解する。（教科書 10 章、10E・1、10E・2）
教科書 10 章「分子構造」において重要な問題の解説を行う。

第 13 回 多原子分子の構造

第 14 回 10 章のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】事前に教科書を読み、掲載されている問題は可能な限り解いておく。

【テキスト（教科書）】

Peter Atkins・Julio de Paula 著、中野元裕・上田貴洋・奥村光隆・北河康隆 訳、アトキンス物理化学（上）第 10 版、東京化学同人

【参考書】

D. A. McQuarrie・J. D. Simon 著、千原秀昭・江口太郎・齋藤一弥 訳、マッカーリ・サイモン物理化学 上 分子論的アプローチ、東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

講義での学習状況および参加度（30 %）、試験またはその代わりのレポート課題（70 %）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布および課題提出のために、学習支援システムを活用する。そのため、学習支援システムにアクセス可能な情報機器（パソコンまたはスマートフォンなど）を準備する必要がある。

【その他の重要事項】

質問は、学習支援システム上で随時受け付ける。

【Outline and objectives】

You will be able to understand about quantum mechanics for chemistry after you take all these lectures. I will explain about the hydrogen-like atom, multi-electron atoms, and their molecular structures.

MAC300YC

錯体化学

田所 誠

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

錯体化学は、分子を取り扱う無機化学の中で最先端の分野であり、有機金属化学・生物無機化学・錯体物性科学に分けられる。本講義では、「錯体がなぜきれいな色をしているのか」「磁石はなぜくっつくのか」など、皆さんの基礎的な疑問に基づいて、錯体化学の基礎を知ってもらいたい。そのために、配位立体化学・配位子場理論・分子磁性・錯体分光についての考え方や理解を深めることを目標とする。また、トピックスとして錯体がどのように生体系と関係づけられるのか、応用面ではどのように用いられているのかなど、「生物無機化学」や「錯体物性科学」の最前線も紹介したい。

【到達目標】

錯体化学を学ぶことによって、化学分野ではなじみの薄い金属を含む固体物性科学の基礎や考え方を学ぶことができる。分子レベルの配位子場理論による考え方は、錯体による色の変化の起源、磁石としての相互作用のあり方、触媒反応のメカニズム、生体金属酵素の反応の基礎、場合によっては電子伝導性の基礎なども学ぶことができる。本研究ではこのような物性化学の詳細までの講義は行わないが、その考え方の基礎を錯体を通して学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は出席と講義にて行う。板書の量が多いのでノートを必ず用意しておくこと。また、より高学年における無機化学であることを念頭におき、できるだけ自発的な学習と、授業外での知識の吸収・興味の発展を期待する。授業中にできればトピックスとしてはじめの15分ぐらい最先端な話をしたいが、前回授業の復習問題なども踏まえて基礎的な授業にするつもりである。配布する資料のとおりに進んでいくので、授業を休んで資料がもらえなかったときは、友達に借りてコピーしてもらおうこと。また、かならず出席はしておくこと。出席率に応じてテストの時に

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	錯体化学とは	・配位化学 ・分析化学と錯体 ・金属イオンの効果
2	Werner 型錯体	・配位説 ・配化合物の異性体（溶媒異性・イオン化異性・配位異性・連結異性）
3	Werner 型錯体	・配化合物の異性体（立体工化・共生理論・Pearson の法則） ・連結異性の応用
4	Werner 型錯体	・立体異性（平面4角形・6配位8面体・鏡像異性体） ・光学分割
5	原子価結合モデル	・原子価結合法 ・混成と軌道の占有
6	結晶場理論	・結晶場の理論とスピンの磁性 ・高スピンと低スピン ・磁化率とスピン軌道相互作用
7	結晶場理論	・配位子場安定化エネルギー（水和エンタルピー・イオン半径） ・分光化学系列 ・各種配位構造と結晶場の分裂
8	結晶場理論	・Jahn-Teller 効果 ・配位子の π 結合性 ・分光化学系列の理論
9	配位子場理論	・分子軌道での取り扱い ・配位子場理論での π 結合
10	錯体の電子スペクトル	・配位子場遷移 ・項という考え方 ・スピン軌道相互作用とスペクトル
11	錯体の電子スペクトル	・微視的状态の分離 ・基底状態のエネルギー項
12	錯体の電子スペクトル	・Hund の規則の定量的な解釈 ・選択律 ・弱い場と強い場（相関図）
13	錯体の電子スペクトル	・分裂エネルギー準位図（Orgel 図） ・田辺-菅野の図

14 錯体の反応

- ・置換不活性
- ・トランス効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】通常、テストは自筆ノート持込可にしてあるので、授業中に黒板に書いてあることを、先生の説明をよく聞いて、口頭の内容もメモをすることを進める。復習を重点的に行い、ノートに書いてあることを中心に勉強し、さらに参考書などで知識を確認して、重要点をメモしておくことが望ましい。テストは必ず説明問題で答えさせるので、解答の文章を予めノートに自分で用意しておくことと時間に余裕ができる。通常、授業では演習問題も含めるため、配位子場理論までで終えることが多い。

【テキスト（教科書）】

主に授業中配られるプリント中心に行う。

【参考書】

「基礎無機化学」F.A. コットン・G. ウィルキンソン・P.L. ガウス（培風館）
「無機化学（下）」シェライバー・アトキンス第4版（東京化学同人）
「無機化学（下）」ダグラス・マクダニエル第3版（東京化学同人）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（60%）と平常点（40%）で評価する。授業中に行った小テストから試験を出すので復習しておくこと。試験に出るポイントを指摘して、説明させる文章問題のみ出題する。必ず、最終回あるいは最終回前の講義には出席すること。テスト問題に関する重要なアドバイスをする。解答は皆さんが同じような解答ばかりだと、暗記しただけと見なし、減点がある。自分のオリジナルな解答を書くこと。図だけであったり、ノートの丸写しは×必ず説明や理由について文章で書くこと。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートでは、錯体化学をこれまで習ってこなかったもので、理解することが難しいという意見が多く聞かれた。そのため、より簡単に要点を絞って、皆さんに錯体とは何かを伝えていきたいと考えている。また、授業中に演習問題を行うことで、教えた知識を完全なものにすることを目指す。そのため、錯体スペクトルまでは進まないことが多いので、配位子場理論までしっかり勉強させることを目指す。

【その他の重要事項】

平常点だけで単位がもらえると考えるようであるが、試験問題も解かないと落ちることがある。期末試験の1発勝負なので必ず、試験では解答を文章で書けること。

【Outline and objectives】

In chemistry, a coordination complex consists of a central atom or ion, which is usually metallic and is called the coordination centre, and a surrounding array of bound molecules or ions, that are in turn known as ligands or complexing agents. Many metal-containing compounds, especially those of transition metals, are coordination complexes. A coordination complex whose centre is a metal atom is called a metal complex.

MAC300YC

化学統計力学

藤森 裕基

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質を構成する原子、分子、電子等の量子力学的エネルギー状態を基に、統計学的手法を用いて物質の熱力学的性質、巨視的物性をミクロな立場から説明する学問体系である統計力学の基礎について講義および演習を通じて学習する。

【到達目標】

ボルツマン分布と分配関数について理解する。
分配関数と各種熱力学関数の関係を理解する。
具体的な各種熱力学関数を自ら計算する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は対面授業または zoom 等を用いたオンライン授業を基本に行うが、状況によってはオンデマンド授業で行う。詳細は学習支援システムで連絡する。演習や小テスト（またはリアクションペーパー）に関しては、授業時間内または翌週の授業の際に取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・ボルツマン分布 1	統計のものの見方、配置と重み
2	ボルツマン分布 2	ボルツマン分布の導出
3	分子分配関数 1	分配関数の重要性
4	分子分配関数 2	並進運動・回転運動からの寄与
5	分子分配関数 3	振動・電子状態からの寄与
6	分子のエネルギー 1	エネルギーの基本式
7	分子のエネルギー 2	並進運動・回転運動からの寄与
8	分子のエネルギー 3	振動・電子状態・スピンからの寄与
9	正準アンサンブル 1	アンサンブルの概念
10	正準アンサンブル 2	平均エネルギーの導出
11	内部エネルギー	内部エネルギーの計算と熱容量の導出
12	エントロピー	エントロピーと分配関数
13	熱力学関数	熱力学関数の導出
14	演習・テスト	演習およびテストによりこれまでの理解度の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。教科書および参考書を基に準備学習、復習等を行うこと。学習支援システムを通じて、小テスト等を行う場合もある。

【テキスト（教科書）】

<教科書> アトキンス「物理化学（第10版）」下 東京化学同人

【参考書】

マッカーリ化学数学 Donald A. McQuarrie (著), 藤森裕基 (訳), 松澤秀則 (訳), 筑紫格 (訳) (丸善)

【成績評価の方法と基準】

到達度目標をクリアできているかどうかを演習や小テスト及び期末テスト（またはレポート）により確認する。成績は授業内の演習や小テスト（40%）及び期末テスト（またはレポート）（60%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習や小テスト（またはリアクションペーパー）の解答を見ながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

統計力学は、量子力学とともに物質のマクロな性質および分光学の基礎を学ぶうえでも必要不可欠な学問分野である。質問は授業時随時受け付ける。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of statistical mechanics used in chemistry. It also enhances the development of students' skill in simple numerical method.

MAC300YC

物質設計化学

高井 和之

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質設計を考えるうえで必要となる基本的な概念・知識を習得し、さまざまな物質の性質の発現原理についての理解を深める。

【到達目標】

物質の性質についての諸原理についてこれまで必修の授業で学んだ内容との関連性を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

教科書などに沿ってスライドおよび板書にて物質の性質に関する背景について解説する。宿題を解き提出する。授業の初めに、前回の授業での議論内容および提示した課題へのレポート提出内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	物質設計化学の導入	これまで受講した基礎分野の必修科目との対応づけから物質設計の概念について学ぶ
2	物質の結合	原子間の結合の種類
3	金属結合	自由電子モデル、ドゥルーデモデル
4	金属の性質	電気伝導
5	金属の性質	フェルミ分布・状態密度
6	金属の性質	熱容量
7	金属の性質	熱伝導・熱電変換材料との対応
8	半導体の性質	光吸収・発光と電子デバイスとの対応
9	イオン結合	電気陰性度・イオン結合
10	分子間力	ファンデルワールス力、水素結合
11	多電子原子の電子状態	一般の原子の性質、周期律、可視紫外分光、変分法、摂動法、XPS との対応
12	分子の電子状態	ボルン・オッペンハイマー近似、分子の電子構造、赤外吸収・Raman 分光との対応
13	共有結合	分子・高分子の電子状態と結合
14	物質と磁場	磁性の基礎・核磁気共鳴、電子スピン共鳴の原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】物理化学 I, II, 無機化学 I, II, 化学熱力学 I・II, 有機化学 I, II の復習
宿題への解答

【テキスト（教科書）】

P. W. Atkins 著, (千原・中村訳)「物理化学」(上/下) 第 8 版, 東京化学同人

【参考書】

溝口正著, 「物質科学の基礎 物性物理学」, 裳華房

【成績評価の方法と基準】

宿題の評価 (66%) を中心に期末試験の採点結果 (34%) にもとづき評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

3 年春学期までの必修の授業内容の復習を中心に物質の性質との対応づけを行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、授業支援システムで資料を配布する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of basic concept and knowledge required for Material Design, including deep understanding of a principle of emerging various materials properties.

MAC300YC

エネルギー環境化学

打越 哲郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギー資源の供給や地球環境の破壊といった課題に焦点を当てつつ、環境化学におけるエネルギー面の問題を広く議論する。また、これらの問題の背景や各種エネルギー資源の長所や短所を知り、現代社会におけるエネルギーの重要性の理解を促す。さらに化学の知識に立脚した技術的対応法や社会システム上の検討課題についても学び、今後のエネルギー社会のあるべき姿を考える機会とする。

【到達目標】

地球環境問題やエネルギー資源問題の歴史的背景および自然界が人間圏に課す制約、そしてエネルギー利用に関わる様々な物理化学的技術の現状について理解を深めることにより、地球環境とエネルギー資源の諸問題への対応を、幅広い視点から考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義資料を配布しその内容に沿って講義を進める。学生からの疑問、質問は、翌週の授業で取り上げ解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週 /100 分	人間活動と環境のかかわり	環境化学とは、人間の活動と環境変動、公害・環境問題の歴史
第 2 週 /100 分	地球上の資源	各種エネルギー資源、鉱物資源、生物資源
第 3 週 /100 分	資源エネルギー問題	資源・エネルギーと経済・産業の関係、日本の資源事情、世界の電力供給とエネルギー問題、省エネルギー
第 4 週 /100 分	地球大気の変異	大気汚染、地球温暖化、異常気象
第 5 週 /100 分	水質汚染と土壌汚濁	地球の水事情、河川や湖沼の汚染、海洋汚染、土壌汚染の要因、土壌汚染の対策及び浄化技術
第 6 週 /100 分	飲料水と食品と環境	地球における水問題、食料供給の危機、バイオテクノロジーと食料問題、食品汚染
第 7 週 /100 分	化学物質による汚染	重金属、農薬、界面活性剤、製品に使用されている化学物質
第 8 週 /100 分	放射能汚染	原子力発電の仕組み、放射線が人体に及ぼす影響、原発事故
第 9 週 /100 分	プラスチックの利用と環境	世界のプラスチック生産量と廃棄量、海洋プラスチックごみ問題
第 10 週 /100 分	ごみ・廃棄物問題とリサイクル	廃棄物の分類と処理、食品ロス、廃棄物の減量・再利用・リサイクル
第 11 週 /100 分	汚染物質の毒性と生体内での代謝	重金属の毒性、化学物質の免疫毒性、毒性評価法
第 12 週 /100 分	内分泌攪乱物質	内分泌攪乱現象、内分泌攪乱物質問題に関する国内外の取り組み
第 13 週 /100 分	経済と環境	経済活動による環境への負荷、法律の整備、環境修復と環境アセスメント、企業の取り組み

第 14 週 全体のまとめ
/100 分

地球環境とエネルギー資源問題の解決に寄与する化学の重要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。】配布する資料を参考に講義の内容をよく復習し、分からなかった点を次の講義で質問すること。

【テキスト（教科書）】

なし（関連資料を配布する）

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

2 回程度の小テストと毎週のコメント提出を合わせて 40 %、そして期末試験 60 % の配分で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Energy issues in environmental chemistry are widely discussed with a focus on issues such as the supply of energy resources and the destruction of the global environment. In addition, we will learn the background of these problems and the advantages and disadvantages of various energy resources, and deepen our understanding of the importance of energy in modern society. It will also be an opportunity to learn chemistry knowledge and technical measures based on issues to be considered in the social system, and to think about the ideal future energy society.

MAC300YC

触媒化学

石垣 隆正

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

触媒は、化学反応を効率的に進めるために不可欠の物質であり、われわれの生活環境の中で、物質生産と環境対策に幅広く利用されている。本講では、工業的に使われている触媒、環境対策用触媒を中心に、触媒の特徴と機能、触媒反応、触媒調製法について基礎から説明する。

【到達目標】

①触媒とプロセスの関連を習得すること、②触媒機能・触媒反応を理解すること、③環境問題に対して触媒が果たしている役割を理解することを期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って説明する。講義の理解度を確認するため、適宜小問を行う。小問は提出の次の週に解説する。トピックに関して、適宜レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入、触媒とはなにか	科目内容の説明、触媒の化学工業、環境対策における重要性、触媒の分類など
2	触媒の歴史と役割	触媒化学の科学と技術、その発展、日本における利用
3	固体触媒の表面	固体触媒の形態、表面科学（表面構造・電子状態）
4	固体触媒反応の素過程と反応速度論：その1	固体表面での素過程、吸着とその速度論
5	固体触媒反応の素過程と反応速度論：その2	脱離とその速度式、吸着脱離平衡
6	固体触媒反応の素過程と反応速度論：その3	固体触媒反応の反応速度論：定常状態近似・律速過程
7	触媒反応機構	素反応の組立、反応機能決定法、メカニズムと速度式
8	固体反応場の構造と物性：その1	触媒機能を支配する因子、反応場の構造
9	固体反応場の構造と物性：その2	反応場の構造とそのキャラクターゼーション：化学的方法、機器分析
10	中間テスト	前半部の復習と理解の確認
11	触媒の調整と機能評価：その1	触媒調製法とその原理
12	触媒の調整と機能評価：その2	触媒反応活性の評価法
13	環境・エネルギー関連触媒	環境触媒（自動車触媒、脱硫触媒、二酸化酸素固定触媒、光触媒）、エネルギー関連触媒（燃料電池、水素製造、光触媒、色素増感太陽電池）
14	光触媒反応	半導体光触媒の科学と応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・触媒化学を理解するには、2年次までに履修するさまざまな基礎科目の内容を身につけておく必要があります。「無機化学概論」、「化学熱力学Ⅰ・Ⅱ」、「物理化学Ⅰ・Ⅱ」、「無機化学Ⅰ・Ⅱ」の内容を理解して受講することを望みます。
・各回に勉強する内容を、教科書で予習して講義に臨んで下さい。
・重要な内容を小問で演習します。講義後にアップロードするので復習しておいてください。

【テキスト（教科書）】

「触媒化学」（応用化学シリーズ6）上松、中村、内藤、三浦、工藤共著、朝倉書店（2004）。

【参考書】

「新版 新しい触媒化学」菊地、射水、瀬川、多田、服部 共著、三共出版。
「触媒・光触媒の科学入門」山下、田中、三宅、西山、古南、窪田、玉置 共著、講談社。
「触媒化学」田中ら 共著、講談社。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（30％）・定期試験（50％）、小問（10％）、レポート（10％）により評価。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料中に関して講義中に学生間で討論する時間をとる。

【その他の重要事項】

独立行政法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

【Outline and objectives】

Catalysts are indispensable for accelerating chemical reactions, have been widely used and utilized in our life, both in materials production and environmental issues. This course aims at acquiring basic knowledge for understanding characteristics and functions of catalysts, surface catalytic reactions on solid-state catalysts, and fabrication methods, especially of solid-state catalysts, such as industrially utilized catalysts and environmentally-related catalysts.

MAC200YC

環境化学工学概論

森 隆昌

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学工学は工業製品を製造するために必要な基礎知識、理論を学ぶ学問である。本講義では化学工学の基本となる 1. 物性、2. 収支、3. 流動、4. 熱の考え方を理解し、各単位操作の基礎について学ぶことを目的とする。

【到達目標】

物質収支、エネルギー収支を理解する。

流動の基礎理論を理解する。

伝熱の基礎理論を理解する。

蒸留の基礎理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、物性、収支、流動、熱の基礎理論について講義するとともに、各単位操作の基礎について演習を交えて講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロ、化学工学を学ぶための基礎知識	化学工学とは 化学工学に必要な物理量と単位、単位換算
2	物質収支	定常状態（物理プロセス）の物質収支
3	物質収支	定常状態（反応プロセス）の物質収支
4	物質収支	非定常状態の物質収支
5	流体輸送	輸送機器、物質収支
6	流体輸送	エネルギー収支、ベルヌーイの定理
7	流体輸送	ハーゲン・ポアズイユの式
8	これまでの授業のまとめ	習熟度・理解度のチェック、試験
9	熱の移動	伝導伝熱
10	熱の移動	対流伝熱
11	熱の移動	熱交換器
12	物質移動	単蒸留
13	物質移動	連続精留
14	物質移動	蒸留塔の設計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】レポート課題を解いて授業時に提出する。

【テキスト（教科書）】

ビギナーズ化学工学 林順一・堀河俊英著 化学同人

【参考書】

化学工学のテキスト

移動現象（輸送現象）に関する参考書

伝熱に関する参考書

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）、中間試験（35%）、期末試験（35%）の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業では計算問題を解くため電卓を持参すること。

【Outline and objectives】

Chemical engineering is has to do with industrial processes in which raw materials are changed or separated into useful products. In this course students will learn the basic principles of chemical engineering, such as material balance, fluid flow, heat transfer, and mass transfer.

山下 明泰

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学工学の基礎理論は、輸送現象論、反応工学、化学熱力学に集約される。この講義では、輸送現象論のうち特に、流動と伝熱について取り上げ、基礎理論から実装置の設計・解析の手法までを学ぶ。

【到達目標】

管内の流れを運動量輸送の観点で捉え、流れに層流、遷移流、乱流の区別があること、速度分布があること、を通じて流れの特性について理解する。また、伝熱に関しては、伝導、対流、輻射の3つのメカニズムの数学的な取り扱いを理解し、最終的には熱交換器などの実装置の設計ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

解析に必要な系は、図としてスクリーンに表示することで、まず全体像を明らかにする。板書による講義が主体となるが、数式の導出過程は極力丁寧に示すことで対応する。内容の理解のために、問題演習が大きなウェイトを占める。

本講義は対面式、または同時双方向方式のインターネット（ライブ配信）で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	化学工学と輸送現象論 輸送現象論の中の流動 および伝熱	化学工学の基礎理論を概説し、その中で輸送現象論が果たす役割について述べる。
第2回	流動（1）：流れの分類、力と運動量	流動は運動量輸送、伝熱はエネルギー輸送として捉える。そのための基本法則について考える。
第3回	流動（2）：平板上の流れ	平板上の流れについて、速度分布を求め、最終的には体積流量を導出する。
第4回	流動（3）：円管内流動	円管内流動について、速度分布を求め、最終的には体積流量（ハーゲン・ポアズイユの法則）を導出する。
第5回	流動（4）：乱流、ベルヌーイの定理	。乱流を含む、やや複雑な流れ系について考える。ベルヌーイの定理を導出する。
第6回	流動（5）：ベルヌーイの定理（続き）	ベルヌーイの定理を用いる例題を解く。
第7回	流動（6）：運動量輸送方程式	運動量輸送方程式の一般形として、Navier-Stokes の方程式について概説する。
第8回	伝熱（1）：伝熱メカニズム	伝熱の3つのメカニズムについて、基本法則を復習する。
第9回	伝熱（2）：伝導伝熱	電流による発熱を伴う伝導伝熱について、温度分布を考える。
第10回	伝熱（3）：伝導伝熱の例題	伝導伝熱に関する複数の例題を学ぶ。
第11回	伝熱（4）：対流伝熱	対流伝熱のメカニズムおよび熱伝達係数の推算について学ぶ。
第12回	伝熱（5）：熱交換器	熱交換器の設計方程式を導出する。

第13回 伝熱（6）：輻射伝熱 輻射伝熱のメカニズムについて考える。対流と輻射の同時進行形について考える。
エネルギー方程式を用いて例題の別解を考える。

第14回 伝熱（7）：対流と輻射による伝熱 複合伝熱および複合伝熱係数について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
内容の理解には、レポート課題の遂行が必須である。したがって、履修者は全員、全課題について、解答の義務を負うものとする。
課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【テキスト（教科書）】

藤田重文著：化学工学演習、東京化学同人

【参考書】

Bird, Stewart, Lightfoot: Transport Phenomena 2-nd edition, Wiley

相良 紘著：よくわかる 化学工学計算の基礎（日刊工業新聞社）
藤田重文著：化学工学Ⅰ（第2版）、岩波全書（絶版）

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 50%

定期試験 50%

但し、定期試験が実施できない場合には、レポート課題100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

科目の性格上、着目系の数学的取扱いは避けられないが、無味乾燥な数式の導出にならぬよう、現実に近い系で、得られた数式の有用性を確認できるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンによる着目系の表示と、板書またはパワーポイントによる。

【その他の重要事項】

演習問題を遂行するために、関数電卓の携帯は必須である。

本講義は日米の民間研究所で実務経験を持つ講師が、豊富な実例を交えて講義することで、基礎理論の応用例を身近に実感できるように配慮している。

【Outline and objectives】

Basic principles in chemical engineering include transport phenomena, chemical reaction engineering, and chemical thermodynamics. This course teaches the fluid flow dynamics and heat transfer usually categorized in transport phenomena. Students will learn basic theories as well as designing and analyzing procedures of real industrial devices used in chemical plants and factories.

MAC300YC

無機素材反応化学

明石 孝也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無機素材を取り扱う技術者・研究者として必要な状態図と熱力学の基礎を学び、演習により理解を深める。

【到達目標】

状態図を駆使して無機素材のプロセッシングや評価を行える能力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

擬一元系状態図から擬三元系状態図までの演習を段階的に行い、状態図に関する理解を深める。解説の後に演習を行い、学生の解答状況に合わせて適宜解説を加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	相律	相の数え方、示強変数と示量変数の違い、Gibbs の相律、Gibbs の相律の使い方を、演習を通して学ぶ。
第 2 回	擬一元系状態図 (1)	ファンデルワールスの状態方程式を用いて、CO ₂ の $p(\text{圧力})$ - $V(\text{体積})$ 図を作成し、擬一元系状態図の読み方を、演習を通して学ぶ。
第 3 回	擬一元系状態図 (2)	CO ₂ の $p(\text{圧力})$ - $V(\text{体積})$ 図と CO ₂ の $T(\text{温度})$ - $p(\text{圧力})$ 図の関係を、演習問題を解くことで理解を深める。
第 4 回	二元系状態図 (1) :	二元系の正則溶液の混合ギブズエネルギー曲線を作図し、モル分率と温度の状態図を作製する。
第 5 回	二元系状態図 (2) : 酸化還元	金属の酸化反応のギブズエネルギー変化の計算し、自発的な反応が進む方向を決定する。
第 6 回	二元系状態図 (3) : エリンガム図	金属と酸化物共存状態における平衡酸素分圧を計算するとともに、エリンガム図の使い方を演習する。
第 7 回	中間テスト	前半の演習の理解度をチェックする。
第 8 回	二元系状態図 (4) : てこの原理	モル分率 vs. 温度の状態図を読み、温度が変化した場合の状態変化を理解する。また、状態図のてこの原理も理解する。
第 9 回	二元系状態図 (5) : 昇温および冷却過程における状態の変化	モル分率 vs. 温度の状態図を読み、温度が変化した場合の状態変化を理解する。
第 10 回	二元系状態図 (6) : 昇温および冷却過程における状態の変化	モル分率 vs. 温度の状態図を読み、温度が変化した場合の状態変化に関する理解を深める。
第 11 回	擬三元系状態図 : 昇温および冷却過程における状態の変化	三角図の読み方を演習を通して学び、酸化物の擬三元系状態図の液相面を解説する。

第 12 回 熱力学計算の実際 (1) 蒸気種の平衡蒸気圧を計算して、
：レアメタルの分離・回収
：レアメタルの分離・回収を理解する。

第 13 回 熱力学計算の実際 (2) 水素-水蒸気混合雰囲気における
：酸素濃淡電池
平衡酸素分圧を計算し、酸素濃淡
熱力学計算の実際 (3) 電池の起電力を計算する。

：固体微粒子の熱力学
固体微粒子の界面エネルギーを計算し、熱力学的安定性を考察する。

第 14 回 熱力学計算の実際 (4) 非酸化物/酸化物界面における蒸
：非酸化物材料の高温
気種の平衡蒸気圧を計算して、高
温酸化挙動を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

毎回の授業中に出題する演習問題による評価が大部分を占める。したがって、前回までの講義内容を復習して理解を深めておくこと、講義の進捗状況に合わせて次回に出題される範囲を予習しておくことが重要である。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

・アトキンソン 物理化学（上）第 10 版：中野元裕、上田貴洋、奥村光隆、北河康隆 訳、東京化学同人
・見方・考え方 合金状態図：三浦憲司・小野寺秀博・福富 洋志 著、オーム社
・プログラム学習 相平衡状態図の見方・使い方：山口明良 著、講談社サイエンティフィク

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業中に出題する演習問題、授業への取り組み姿勢、中間試験、期末試験により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度もオンラインテストを実施することになった場合には、2020 年度の経験を活かして実施方法を変更したい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓。テスト以外ではノートパソコンを持ち込んでも良い。

【その他の重要事項】

鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、その経験を活かして、材料開発のために必要となる状態図の読み方や熱力学の基礎について講義する。

【Outline and objectives】

The objective of this class is to learn thermodynamics and phase diagram for engineer and researcher to fabricate and handle inorganic materials. For deep understanding, many exercises will be used.

BLS100YC

教職生物学

齋藤 理佳

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の概要としては、「授業者・受講者・受講内容」が密接につながった授業を展開することにより「生きた授業」を実践する。
目的としては、この授業によって生物学の基本的な概念や原理をもとに育成された科学的自然観を、新たな自分の知識として広げていくこと。

【到達目標】

講義の前半は、細胞、DNA、遺伝子を中心とした「ミクロな生物学」を学び、後半については、神経系や感覚系を中心とした「マクロな生物学」を学び、それら全般を理解できることを目的とする。なお、専門的な理解の他にも、再生医療や NIPT（出生前診断）などの最新の情報、および歴史的な背景までも幅広く理解できる。加えて身近な話も盛り込むことにより、「生物学」が身近で面白い学問であることを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業は進める。特に「生物学」が身近で面白い学問であることを講義形式の授業で理解してもらうために、パワーポイントや DVD などの動画を使用し、必要であれば講義内容のさらなる理解度アップのための授業形式も取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、ヒトの誕生から死まで	全ての生物は細胞からできていることを理解する
2	細胞の種類と構造	再生できる細胞とできない細胞、
3	細胞のはたらき	ES 細胞、iPS 細胞およびがん細胞
4	遺伝学の基礎	なぜ正確に遺伝情報は伝わるのか
5	DNA の構造、複製と変異および修復について	二重らせん構造は正確に遺伝情報が分配されるしくみをもっているが、その複製のメカニズムと情報修正のための機能を学ぶ
6	遺伝子とそのはたらき	遺伝の正体である遺伝子について学ぶ
7	遺伝に関わる疾患	遺伝子疾患は、遺伝子の異常が原因になって起きる疾患であるが実際にどのような疾患がありその原因遺伝子はそこにあるかを学ぶ。
8	染色体の構造と機能	真核生物では遺伝子情報は DNA に保存され、DNA は染色体に含まれている。その染色体の構造と機能を学ぶ。
9	生殖と発生	生物の生殖について学ぶと共に、出生前診断（NIPT）、および iPS 細胞を用いた再生医療についても学ぶ。
10	刺激の受容と反応 I	神経系と感覚系の一般的な性質
11	刺激の受容と反応 II	時に五感（体性感覚、視覚、聴覚、味覚、嗅覚）に関して学ぶ。
12	個体の制御 I	脳の構造と機能を学ぶとともに、脳を形成している神経細胞とグリア細胞と特徴についても学ぶ。
13	薬理学	薬の作用/副作用、及び薬と受容体の関係、競合阻害など薬理学の基礎を学ぶ。
14	恒常性（ホメオスタシス）について	自律神経とホルモンについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各時間の講義の予習として、毎時間ごとの講義テーマに関する項目を予め参考書類などで調べておくこと。

また復習としては、毎時間ごとに授業中に配布したプリント、power point とともに重要ポイントをまとめるので、それらについて理解を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

1) ケイン生物学

M.Cain/H.Damman/R.Lue/C.Yoon 原著 石川統監訳 東京化学同人

2) Essential 細胞分子生物学原著第 3 版

B.Alberts et al.(著)、中村桂子/松原謙一（翻訳）南江堂

3) Essential Cell Biology 4th edition 原著第 4 版

B.Alberts et al.(著)、Garland Science

4) The cell 細胞の分子生物学原著第 5 版

B.Alberts et al.(著)、中村桂子/松原謙一（翻訳）ニュ

【成績評価の方法と基準】

授業評価アンケートの指摘に応じ講義内容や講義レベル、講義形式および配布資料などを適宜修正する

成績評価については、「ミクロ」「マクロ」の両側面及び最新の生物学において講義中に話した内容を十分に理解できたかどうか、さらに自分自身の知識としてどれだけ身に着いたかを評価基準とする。具体的には授業にどれだけ熱意を持って取り組んでいるかを含む平常点及び授業内課題併せて 30%、期末試験 70%とする。

【学生の意見等からの気づき】

全体的に授業の進行スピードが速めなので、その度ごとにみなさんの様子をみながらひとつひとつ理解できているか否かを確認しつつ、きめ細かい授業を展開したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Biology is the study of all living things — from bacteria to plants to animals — and their relationship to their environments. This class study the structure and function of cells, organ systems, and tissues in animals and plants. You learn about physiology, behavior, genetics and heredity, pharmacology. This class provides a foundation of understanding in the basic biological sciences.

MAT200XG

フーリエ変換

西村 滋人

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フーリエ解析とは、周期関数を三角関数を用いて表現する理論で、波動現象全般を解析する基本的な手法として多方面で活用される。この授業では、フーリエ級数、フーリエ変換、およびラプラス変換の基礎とその基本的な応用例を学ぶ。

【到達目標】

1. 周期関数をフーリエ級数に展開することができるようになる。
2. フーリエ変換の仕組みと工学的な意味を理解する。
3. ラプラス変換を計算して微分方程式を解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

板書による講義。演習も適宜実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	周期関数	三角関数の周期についての復習
2	フーリエ級数	三角関数の直交性および周期関数の三角関数による表示
3	フーリエ級数の計算例	フーリエ係数の計算についての例題の解説
4	正弦展開と余弦展開	奇関数ないし偶関数のフーリエ展開
5	Gibbs 現象	不連続点付近でのフーリエ級数の挙動についての注意
6	フーリエ級数の収束	Dirichlet 積分核、パーセバルの等式など
7	演習 1	講義前半のまとめ
8	複素フーリエ級数	周期関数の複素指数関数による冪級数表示
9	フーリエ変換	周期的でない関数の取り扱い
10	フーリエ変換の性質	フーリエ変換の様々な公式の紹介
11	ラプラス変換	定義および初等関数のラプラス変換の計算
12	逆ラプラス変換	原関数の復元と微分方程式への応用
13	演習 2	講義後半のまとめ
14	期末試験・まとめと解説	講義内容の理解の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】フーリエ級数、フーリエ変換、およびラプラス変換はいずれも関数を積分変換して自然現象を解析する手法である。そのため、毎回の授業後には、その回の講義内容について、簡単な計算問題を解いて積分の計算に十分に習熟しておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

大石進一「フーリエ解析」（理工系の数学入門コース新装版）（岩波書店）

国分雅敏「ラプラス変換」（数学のかんどころ 13）（共立出版）

【成績評価の方法と基準】

学力試験 100 %

ただし、教室講義が再開できない場合は、オンラインで課題を提出してもらってそれを成績評価に取り入れます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces Fourier series and Fourier transforms. These tools are applied widely in various fields of engineering.

MAT200XG

空間の幾何

中村 真帆

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は数学教職科目「幾何」を念頭におく測地天文系の専門科目である。授業では立体の数学と測地を中心に、衛星測位や特殊相対論で使用する幾何数学を学ぶ。

【到達目標】

本授業が、現代科学で駆使される科学観測や物理学の理解への橋渡しとなることを目指す。修了後に速やかに様々な科学観測や衛星測位、特殊相対論などを学べるようになっていくことを目指す。そのため、主に衛星測位の原理を理解すること、特殊相対論などを学ぶための幾何の基礎知識の獲得を到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では宇宙や地球観測の事例を幅広く紹介し、様々な分野において共通に使われる幾何の知識を有用な道具として学べるようにする。具体的には現代において地球や宇宙がどのように観測されているかを、測地と空間幾何の観点から学ぶ。
可能な限り基礎的な幾何の練習問題を用意し、これを確実に身に付けていくことで学習を進める。
毎回授業アンケートや感想を出席の確認に提出してもらっており、授業の進め方の希望や特に興味のある話題などを書いてもらい、授業に取り入れるようにしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地球・宇宙の数学的記述	地球や宇宙の観測において必要となる数学について概観する
第 2 回	三角関数とベクトル	測地で用いる三角関数とベクトルについての復習
第 3 回	三角測量と基準	三角測量における基準について学ぶ
第 4 回	三角形と多角形	測地における三角形や多角形の用い方を学ぶ
第 5 回	球面幾何と緯度経度	球面幾何による緯度経度の表し方を学ぶ
第 6 回	地球座標系と地球楕円体	地球上のある地点を表す様々な方法を学ぶ
第 7 回	幾何変換	様々な幾何変換とその方法を学ぶ
第 8 回	地図の投影	地図の投影方法について学ぶ
第 9 回	球面幾何と天球座標	天球座標の表し方について学ぶ
第 10 回	天体の位置決定と天文航法	宇宙空間での天体の位置決定の方法と天文航法について学ぶ
第 11 回	天体の距離決定	宇宙空間で天体の距離をどのように測定しているかについて学ぶ
第 12 回	衛星測位と GPS	衛星測位の考え方と GPS システムの原理について学ぶ
第 13 回	衛星測位と GPS	衛星測位の考え方と GPS システムの原理について学ぶ
第 14 回	まとめ	各回の課題から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】課題として幾何数学の前提となる基礎知識を確認してもらうことがある。準備としてこれまでに高校や一般教養科目で学んできた数学を、目的をもって復習することで、授業内容の理解が深まるように進めたい。

【テキスト（教科書）】

日本測地学会のテキストを中心とする

<http://www.geod.jp/web-text/index.html#gsc.tab=0>

【参考書】

必要に応じて講義で示す

【成績評価の方法と基準】

課題として出す練習問題を確実に解けるようになること。

まとめではこれらから出題する。

評価基準は課題が 30% 期末試験が 70% とし、期末試験の合格点は 60 点以上とする。

課題の提出状況に応じて成績をプラス α する。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題を可能な限り提供したい。

【学生が準備すべき機器他】

ノートと計算用紙は必須

【その他の重要事項】

数学的な厳密さより、数学の実践的な使用方法を学ぶ。講義は時間に限りがあり、すべての重要事項を盛り込むことは難しい。授業内容は変更になることもある。

【Outline and objectives】

In this class, we learn space geometry by understanding the practical geodesy and elements of global navigation satellite system (GNSS).

MAT200XG

対称性と構造

長谷 正司

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：【成績優秀者の他学部科目履修制度注意事項】履修にあたっては、授業担当教員の許可が必要です。受講許可の方法については、学習支援システムをご確認ください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2016年度のノーベル物理学賞の受賞者の1人であるホールデンは、1次元格子の格子点に、電子（のスピン）を奇数個ずつ置く場合と偶数個ずつ置く場合で、性質が大きく異なることを示した（ホールデン予想）。多くの人が疑問を抱いたが、その後の研究の進展により、その予想が正しいことが証明された。実は、対称性を考慮すると、その予想が妥当であることが容易に理解できることも分かった。
対称性は色々な分野で重要な概念である。対称性を理解するためには、群論という数学を理解することが重要である。本授業では、できるだけ例を挙げながら、群論に関して学ぶ。

【到達目標】

本授業を履修し理解することで、学生は、群の定義に始まり、どのような群が存在し、どのような性質を持つかを理解することができる。対称性の概念は、多くの人が特に意識せずに使っている。例えば、正三角形は重心まわりに120度回転させると元の正三角形と重なるなどである。群論を理解すれば、対称性を体系立てて理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心とする。課題等については翌週の授業の中で講評する。講義期間中に節目での小テストも行う。本授業の開始日は4月12日です。
なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システム（Hoppii）でその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、群の公理	正四面体などを例に挙げて、どのような対称性があるかを示して、対称性という概念に慣れてもらう。また、群の公理も学ぶ。
2	数の集合	実数全体の集合などを使って、群の公理の理解を深める。
3	2面体群 (1)	2面体群について学ぶ。
4	2面体群 (2)	2面体群を用いて、可換ではない対称性の群について学ぶ。
5	部分群と生成元 (1)	ある群では、その部分集合も群（部分群）になることがある。部分群について学ぶ。
6	部分群と生成元 (2)	部分群に関する幾つかの定理を学ぶ。
7	置換 (1)	置換の集合も群となることを学ぶ。
8	置換 (2)	偶置換と奇置換の概念について学ぶ。
9	同型写像 (1)	見た目では異なる2つの群も、群の性質としては同じであることがある（同型）。同型と同型写像について学ぶ。
10	同型写像 (2)	同型写像に関する幾つかの定理を学ぶ。
11	ラグランジュの定理 (1)	ラグランジュの定理を学ぶ。
12	ラグランジュの定理 (2)	ラグランジュの定理に関連する定理を学ぶ。
13	行列群	行列の集合も群になり得ること、どのような行列群が存在するかを学ぶ。
14	まとめ	講義内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義内容の理解を深めるため、復習を行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

対称性からの群論入門、M.A. アームストロング (著)、佐藤信哉 (訳)、丸善出版。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験得点 75%、講義期間中の小テストを含む平常点 25%。
なお、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

例を多用しながら、分かり易い授業になるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【Outline and objectives】

The concept of symmetry is important in various fields. It is important to study groups in order to understand symmetry. In the lectures, I will explain groups using various examples.

日高 宗一郎

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学における最も基本的な概念である，アルゴリズム，計算，モデル化について学ぶ。

【到達目標】

情報科学の分野でアルゴリズムおよび計算をどのように取り扱っているかを理解する。また，実世界の様々な問題をコンピュータで扱う上で不可欠となるモデル化の概念と方法論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

情報科学の分野において実世界の様々な問題を解くためには，情報科学特有の概念をまず初めに理解する必要がある。本講義は，情報科学の理論に初めて触れる学生を対象とし，今後，情報科学を学んでいくために不可欠となる，プログラミングの基礎であるアルゴリズムの記述法，情報科学における計算の取り扱い方，実世界を対象とした問題を情報科学で扱うためのモデル化の手法を初学者が身に付けられるように講義を進める。また，講義で示した手法を学生が実感できるよう，アルゴリズム，計算，モデル化のそれぞれにおいて演習を行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ，授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報科学とは	ガイダンス，講義に必要な環境整備を行う。
2	アルゴリズム基礎 (1)	アルゴリズムとは何かを理解するとともに，簡単なアルゴリズムの例を学ぶ。
3	アルゴリズム基礎 (2)	フローチャートによってアルゴリズムを記述する方法を理解する。
4	Scratch によるアルゴリズム学習	簡単なアルゴリズムを Scratch でプログラミングする。
5	計算とは (1)	情報科学分野における計算の概念を学ぶとともにチューリングマシンの定義を学ぶ。
6	計算とは (2)	計算の理解に重要な再帰の概念と，チューリングマシンによる再帰の実現法について学ぶ。
7	チューリングマシンによるアルゴリズム記述の例	幾つかの具体的なアルゴリズムのチューリングマシンによる記述法を理解する。
8	チューリングマシンの記述演習	簡単なアルゴリズムでチューリングマシンで記述することにより，チューリングマシンに関する理解を深める。
9	チューリングマシンの限界の理解	チューリングマシンの停止性判定問題を通して，チューリングマシンの計算可能性の限界を理解する。
10	情報科学における問題の解き方	情報科学分野においてモデル化を行うことの重要性を理解する。
11	情報科学におけるモデル化の実例	物理現象のモデル化など，情報科学分野におけるモデル化の実例を学ぶ。

12	実世界の問題をモデル化する演習	簡単な実世界の現象のモデル化を通して，モデルの概念に関する理解を深める。
13	モデル化に関する演習課題の発表会	第 12 回の講義で行った演習課題の発表会を行う。
14	情報科学分野における計算，アルゴリズム，モデル化に関する現在の課題およびまとめ	情報科学分野における計算，アルゴリズム，モデル化に関する最新のトピックを学ぶ。本講義で学んだ内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き，レポートを作成する。

本授業の準備・学習時間は，各週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

L. ゴールドシュレーガー, A. リスター (著), 武市正人, 角田博保, 小川貴英 (訳), 計算機科学入門, 近代科学社, 2000. ISBN 4-7649-0284-2
 川合慧 (編), 情報, 東京大学出版会, 2006. ISBN 978-4-13-062451-0
 山口和紀 (編), 情報 第 2 版, 東京大学出版会, 2016. ISBN 978-4-13-062457-2
 和達三樹, 物理のための数学 (物理入門コース 新装版), 岩波書店, 2017. ISBN 978-4000298704
 デヴィッド・バージェス モラゲ・ボリー (著), 垣田 高夫 (翻訳), 大町比佐栄 (翻訳), 微分方程式で数学モデルを作ろう, 日本評論社, 1990. ISBN 978-4535781733

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 90%以上とし，レポート，授業中の参加の度合，貢献度を最大 10%考慮して総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノート PC を利用する。

【Outline and objectives】

In this course the notions of algorithm, computation and modeling that are most fundamental to information sciences are covered.

COT111KA-CS-100

情報科学入門

坂本 寛

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学における最も基本的な概念である、アルゴリズム、計算、モデル化について学ぶ。

【到達目標】

情報科学の分野でアルゴリズムおよび計算をどのように取り扱っているかを理解する。また、実世界の様々な問題をコンピュータで扱う上で不可欠となるモデル化の概念と方法論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

情報科学の分野において実世界の様々な問題を解くためには、情報科学特有の概念をまず初めに理解する必要がある。本講義は、情報科学の理論に初めて触れる学生を対象とし、今後、情報科学を学んでいくために不可欠となる、プログラミングの基礎であるアルゴリズムの記述法、情報科学における計算の取り扱い方、実世界を対象とした問題を情報科学で扱うためのモデル化の手法を初学者が身に付けられるように講義を進める。また、講義で示した手法を学生が実感できるよう、アルゴリズム、計算、モデル化のそれぞれにおいて演習を行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報科学とは	ガイダンス、講義に必要な環境整備を行う。
2	アルゴリズム基礎 (1)	アルゴリズムとは何かを理解するとともに、簡単なアルゴリズムの例を学ぶ。
3	アルゴリズム基礎 (2)	フローチャートによってアルゴリズムを記述する方法を理解する。
4	Scratch によるアルゴリズム学習	簡単なアルゴリズムを Scratch でプログラミングする。
5	計算とは (1)	情報科学分野における計算の概念を学ぶとともにチューリングマシンの定義を学ぶ。
6	計算とは (2)	計算の理解に重要な再帰の概念と、チューリングマシンによる再帰の実現法について学ぶ。
7	チューリングマシンによるアルゴリズム記述の例	幾つかの具体的なアルゴリズムのチューリングマシンによる記述法を理解する。
8	チューリングマシンの記述演習	簡単なアルゴリズムでチューリングマシンで記述することにより、チューリングマシンに関する理解を深める。
9	チューリングマシンの限界の理解	チューリングマシンの停止性判定問題を通して、チューリングマシンの計算可能性の限界を理解する。
10	情報科学における問題の解き方	情報科学分野においてモデル化を行うことの重要性を理解する。
11	情報科学におけるモデル化の実例	物理現象のモデル化など、情報科学分野におけるモデル化の実例を学ぶ。

12	実世界の問題をモデル化する演習	簡単な実世界の現象のモデル化を通して、モデルの概念に関する理解を深める。
13	モデル化に関する演習課題の発表会	第 12 回の講義で行った演習課題の発表会を行う。
14	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する現在の課題およびまとめ	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する最新のトピックを学ぶ。本講義で学んだ内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。

本授業の準備・学習時間は、各週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

L. ゴールドシュレーガー, A. リスター (著), 武市正人, 角田博保, 小川貴英 (訳), 計算機科学入門, 近代科学社, 2000. ISBN 4-7649-0284-2
川合慧 (編), 情報, 東京大学出版会, 2006. ISBN 978-4-13-062451-0
山口和紀 (編), 情報 第 2 版, 東京大学出版会, 2016. ISBN 978-4-13-062457-2
和達三樹, 物理のための数学 (物理入門コース 新装版), 岩波書店, 2017. ISBN 978-4000298704
デヴィッド・バージェス モラゲ・ボリー (著), 垣田 高夫 (翻訳), 大町比佐栄 (翻訳), 微分方程式で数学モデルを作ろう, 日本評論社, 1990. ISBN 978-4535781733

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 90%以上とし、レポート、授業中の参加の度合、貢献度を最大 10%考慮して総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノート PC を利用する。

【Outline and objectives】

In this course the notions of algorithm, computation and modeling that are most fundamental to information sciences are covered.

コンピュータシステム入門 1

佐々木 晃

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学ぶに当たって技術的側面の入門を学ぶ。後続の科目全般の基盤となる最も基礎的な内容として、コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を養う。まず、全ての土台となるコンピュータのハードウェアについて、これまでの発展の歴史とその基本的な仕組みを学ぶ。また、現在の情報処理に欠かせない通信の概念や、コンピュータ上で様々な情報を表現するメディアデータの仕組みと構造を理解する。

【到達目標】

- ・ソフトウェアの稼働するコンピュータの基本的な仕組みを理解する
- ・コンピュータで計算ができる仕組みを理解する
- ・コンピュータにおける通信の基礎を理解する
- ・コンピュータ上で様々な情報の表現方法について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心として、演習や課題を交えながら進める。課題等の提出・フィードバックは「CIS moodle」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入：コンピュータと情報処理	コンピュータと情報処理分野の社会における位置づけなど一般的な概念を理解する。
2	コンピュータの歴史	現在に至るまでのコンピュータの歴史を概観し、現在の情報基盤を支えるコンピュータの発展を理解する。
3	コンピュータにおける計算の概念	コンピュータがなぜ計算ができるのかを学ぶ。
4	コンピュータのしくみ	コンピュータの仕組みを中心に、コンピュータの基本を学ぶ。
5	コンピュータの構成要素	コンピュータを構成する個々の装置について、構造や仕組みを学ぶ。
6	通信の概念	コンピュータ間の通信の概念と基本的な仕組みについて学ぶ。
7	通信のしくみ	無線 LAN や Ethernet などの実際のネットワークに接続する際の基礎技術について学ぶ。
8	マルチメディアとは	コンピュータ上で様々な情報を表現するマルチメディアについて、その概念と歴史について学ぶ。
9	メディアデータ処理の基本	量子化などのメディアデータ処理の基本を学ぶ。
10	情報の表現：テキスト	文字コードやフォント、符号化等のテキスト処理について学ぶ。
11	情報の表現：音・音声	聴覚や音声処理、音声合成、音声認識といった音に関わるメディア処理について学ぶ。
12	情報の表現：画像	視覚や色、デジタル画像のフォーマットについて学ぶ。
13	情報の表現：動画	動画のフォーマットとその処理について学ぶ。

14 メディアデータの活用 メディアデータの活用と今後について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に取ったノートについて、講義後に開示される講義資料を見て内容の確認・補足を行うこと。

講義中に課題が課された場合は、それを解くこと。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配付資料による（講義終了後に開示）

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】

試験 (60%), 課題 (30%), 講義における積極性などの参加度 (10%) を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 Note PC を使用する場合があります。講義回毎の使用の可否は教員の指示に従うこと。

【Outline and objectives】

This course provides an integrated introduction to computer systems. Our goal is for you to learn about the hierarchy of abstractions and implementations that comprise a modern computer system. This will provide a conceptual framework that you can then flesh out with courses such as compiler, operating systems, networks, and others.

COT111KA-CS-102

コンピュータシステム入門 1

坂本 寛

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学ぶに当たって技術的側面の入門を学ぶ。後続の科目全般の基盤となる最も基礎的な内容として、コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を養う。まず、全ての土台となるコンピュータのハードウェアについて、これまでの発展の歴史とその基本的な仕組みを学ぶ。また、現在の情報処理に欠かせない通信の概念や、コンピュータ上で様々な情報を表現するメディアデータの仕組みと構造を理解する。

【到達目標】

- ・ソフトウェアの稼働するコンピュータの基本的な仕組みを理解する
- ・コンピュータで計算ができる仕組みを理解する
- ・コンピュータにおける通信の基礎を理解する
- ・コンピュータ上で様々な情報の表現方法について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心として、演習や課題を交えながら進める。課題等の提出・フィードバックは「CIS moodle」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入：コンピュータと情報処理	コンピュータと情報処理分野の社会における位置づけなど一般的な概念を理解する。
2	コンピュータの歴史	現在に至るまでのコンピュータの歴史を概観し、現在の情報基盤を支えるコンピュータの発展を理解する。
3	コンピュータにおける計算の概念	コンピュータがなぜ計算ができるのかを学ぶ。
4	コンピュータのしくみ	コンピュータの仕組みを中心に、コンピュータの基本を学ぶ。
5	コンピュータの構成要素	コンピュータを構成する個々の装置について、構造や仕組みを学ぶ。
6	通信の概念	コンピュータ間の通信の概念と基本的な仕組みについて学ぶ。
7	通信のしくみ	無線 LAN や Ethernet などの実際のネットワークに接続する際の基礎技術について学ぶ。
8	マルチメディアとは	コンピュータ上で様々な情報を表現するマルチメディアについて、その概念と歴史について学ぶ。
9	メディアデータ処理の基本	量子化などのメディアデータ処理の基本を学ぶ。
10	情報の表現：テキスト	文字コードやフォント、符号化等のテキスト処理について学ぶ。
11	情報の表現：音・音声	聴覚や音声処理、音声合成、音声認識といった音に関わるメディア処理について学ぶ。
12	情報の表現：画像	視覚や色、デジタル画像のフォーマットについて学ぶ。
13	情報の表現：動画	動画のフォーマットとその処理について学ぶ。

14 メディアデータの活用 メディアデータの活用と今後について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に取ったノートについて、講義後に開示される講義資料を見て内容の確認・補足を行うこと。

講義中に課題が課された場合は、それを解くこと。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配付資料による（講義終了後に開示）

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】

試験（60%）、課題（30%）、講義における積極性などの参加度（10%）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 Note PC を使用する場合があります。講義回毎の使用の可否は教員の指示に従うこと。

【Outline and objectives】

This course provides an integrated introduction to computer systems. Our goal is for you to learn about the hierarchy of abstractions and implementations that comprise a modern computer system. This will provide a conceptual framework that you can then flesh out with courses such as compiler, operating systems, networks, and others.

コンピュータシステム入門 2

首藤 裕一

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

OS やインターネットを中心に現在の情報技術の基礎を理解するとともに、ウェブ、音声、画像といった身近な話題を通してコンピュータシステムの全体像の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、実際の OS の例を見ながら、OS の役割の概要を理解する。また、多くの OS が備えているファイルシステムなどの基本機能の理解を深める。さらに、インターネット、ウェブ、クラウド等、現在の情報通信技術の基盤となる仕組みを学ぶ。また、情報を人間が理解できる様々な形で表現し処理する技術であるマルチメディアを体系的に理解する。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・OS とは何か	この講義の全体像を説明するとともに、ユーザやプロセスといった基本的な概念を理解する。
2	OS の仮想化・抽象化	OS の主要な役割である仮想化・抽象化機能を理解する。
3	システムコール・ファイルシステム	OS による機能提供の仕組みとファイルの管理を理解する。
4	OS 演習	OS の使用に関する演習を行う。
5	データベース	情報保存のしくみとしてのデータベースを理解する。
6	データベース演習	データベースの作成と使用に関する演習を行う。
7	インターネットの基礎	インターネットの歴史とその基本的な仕組みを理解する。
8	ウェブ	ネットワーク越しに情報を管理・交換する仕組みを理解する。
9	ウェブにおける情報表現	ウェブにおける情報表現やデータの取り扱いを理解する。
10	セキュリティ	インターネットやウェブの通信セキュリティを理解する。
11	音声符号化	音をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
12	画像符号化	画像をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
13	クラウドコンピューティング	クラウドコンピューティングの概念と技術を理解する。
14	ユビキタスコンピューティング・IoT	ユビキタスコンピューティングやIoTの概念と技術を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

西原清一（監修）、第三版入門マルチメディア、CG-ARTS 協会、2013、ISBN 978-4-8443-7542-5

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）、および、レポートや講義への貢献などの平常点（20%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノート PC を利用する。

【Outline and objectives】

You will learn basic knowledge for making use of information technologies such as computer, the internet, etc.

COT111KA-CS-200

コンピュータシステム入門 2

村上 健一郎

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

OS やインターネットを中心に現在の情報技術の基礎を理解するとともに、ウェブ、音声、画像といった身近な話題を通してコンピュータシステムの全体像の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、実際の OS の例を見ながら、OS の役割の概要を理解する。また、多くの OS が備えているファイルシステムなどの基本機能の理解を深める。さらに、インターネット、ウェブ、クラウド等、現在の情報通信技術の基盤となる仕組みを学ぶ。また、情報を人間が理解できる様々な形で表現し処理する技術であるマルチメディアを体系的に理解する。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・OS とは何か	この講義の全体像を説明するとともに、ユーザやプロセスといった基本的な概念を理解する。
2	OS の仮想化・抽象化	OS の主要な役割である仮想化・抽象化機能を理解する。
3	システムコール・ファイルシステム	OS による機能提供の仕組みとファイルの管理を理解する。
4	OS 演習	OS の使用に関する演習を行う。
5	データベース	情報保存のしくみとしてのデータベースを理解する。
6	データベース演習	データベースの作成と使用に関する演習を行う。
7	インターネットの基礎	インターネットの歴史とその基本的な仕組みを理解する。
8	ウェブ	ネットワーク越しに情報を管理・交換する仕組みを理解する。
9	ウェブにおける情報表現	ウェブにおける情報表現やデータの取り扱いを理解する。
10	セキュリティ	インターネットやウェブの通信セキュリティを理解する。
11	音声符号化	音をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
12	画像符号化	画像をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
13	クラウドコンピューティング	クラウドコンピューティングの概念と技術を理解する。
14	ユビキタスコンピューティング・IoT	ユビキタスコンピューティングやIoTの概念と技術を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

西原清一（監修）、第三版入門マルチメディア、CG-ARTS 協会、2013、ISBN 978-4-8443-7542-5

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）、および、レポートや講義への貢献などの平常点（20%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノート PC を利用する。

【Outline and objectives】

You will learn basic knowledge for making use of information technologies such as computer, the internet, etc.

離散構造 1

尾花 賢

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学び活用するために必要となる数学的な基礎として、集合、数え上げ、離散型確率を学ぶ。

【到達目標】

集合、数え上げ、離散型確率の基本を理解する。特に記号的、形式的な表現と考え方を習得する。さらに具体的な問題を数学的に捉えて解決する方法論を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に集合に関して、基礎概念、集合演算、関係、順序、関数を扱う。次に数え上げに関して、基礎概念、順列、組合せ、数列、漸化式等を扱う。最後に離散型確率に関して、基礎概念、ベイズの定理、離散型確率分布等を扱う。授業では予習課題、復習課題を課す。学期の途中で認定試験を行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	集合の基礎 (1)	集合、要素、数の集合、外延の原理、抽象の原理、外延的定義、内包的定義
2	集合の基礎 (2)	普遍集合、空集合、部分集合、真部分集合、部分集合の性質、ベン図、ベン図による論証
3	集合演算	和、共通部分、互いに素、差、補集合、集合演算の基本的性質、集合代数、双対原理、集合族、べき集合、分割
4	関係 (1)	組、順序対、直積、 n 項関係、2 項関係、同等関係、図式表現、逆、合成
5	関係 (2)	反射的、対称的、反対称的、推移的、同値関係、同値類、閉包
6	順序	半順序、擬順序、比較可能、全順序、辞書式順序、直前、直後
7	関数	関数、定義域、値域、恒等関数、制限写像、グラフ、合成、合成関数の結合律、単射、全射、可逆、逆関数、全単射、単射・全射・逆関数に関する基本的定理
8	数え上げ (1)	有限集合、要素数、包除原理、樹形図、和の法則、積の法則、順列、組合せ、パスカルの 3 角形、2 項定理
9	数え上げ (2)	等差数列、等比数列、漸化式、合同算術、鳩の巣原理
10	認定試験解説	認定試験の問題・解答の解説と要点の確認
11	離散型確率 (1)	離散型確率空間、事象、確率の公理、確率測度
12	離散型確率 (2)	条件付き確率、ベイズの定理、独立性、条件付き独立性
13	離散型確率 (3)	離散型確率分布、期待値、分散

14 まとめ 授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と講義資料の予習、復習を行い、課題に対するレポートの作成を行うこと。

授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

S. Lipschutz (著), 成嶋弘監 (訳), 離散数学—コンピュータサイエンスの基礎数学, マグロウヒル大学演習, オーム社, 1995. ISBN 4-274-13005-3

他に担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 20%, 定期試験 60%, 平常点 20%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問時間を十分に取る。

【Outline and objectives】

Students will learn sets, counting, and discrete probability as mathematical foundations that they need to study and utilize computer and information sciences.

PRI110KA-CS-103

離散構造 1

若原 徹

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学び活用するために必要となる数学的な基礎として、集合、数え上げ、離散型確率を学ぶ。

【到達目標】

集合、数え上げ、離散型確率の基本を理解する。特に記号的、形式的な表現と考え方を習得する。さらに具体的な問題を数学的に捉えて解決する方法論を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に集合に関して、基礎概念、集合演算、関係、順序、関数を扱う。次に数え上げに関して、基礎概念、順列、組合せ、数列、漸化式等を扱う。最後に離散型確率に関して、基礎概念、ベイズの定理、離散型確率分布等を扱う。授業では予習課題、復習課題を課す。学期の途中で認定試験を行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	集合の基礎 (1)	集合、要素、数の集合、外延の原理、抽象の原理、外延的定義、内包的定義
2	集合の基礎 (2)	普遍集合、空集合、部分集合、真部分集合、部分集合の性質、ベン図、ベン図による論証
3	集合演算	和、共通部分、互いに素、差、補集合、集合演算の基本的性質、集合代数、双対原理、集合族、べき集合、分割
4	関係 (1)	組、順序対、直積、 n 項関係、2 項関係、同等関係、図式表現、逆、合成
5	関係 (2)	反射的、対称的、反対称的、推移的、同値関係、同値類、閉包
6	順序	半順序、擬順序、比較可能、全順序、辞書式順序、直前、直後
7	関数	関数、定義域、値域、恒等関数、制限写像、グラフ、合成、合成関数の結合律、単射、全射、可逆、逆関数、全単射、単射・全射・逆関数に関する基本的定理
8	数え上げ (1)	有限集合、要素数、包除原理、樹形図、和の法則、積の法則、順列、組合せ、パスカルの 3 角形、2 項定理
9	数え上げ (2)	等差数列、等比数列、漸化式、合同算術、鳩の巣原理
10	認定試験解説	認定試験の問題・解答の解説と要点の確認
11	離散型確率 (1)	離散型確率空間、事象、確率の公理、確率測度
12	離散型確率 (2)	条件付き確率、ベイズの定理、独立性、条件付き独立性
13	離散型確率 (3)	離散型確率分布、期待値、分散

14 まとめ 授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と講義資料の予習、復習を行い、課題に対するレポートの作成を行うこと。

授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

S. Lipschutz (著), 成嶋弘監 (訳), 離散数学—コンピュータサイエンスの基礎数学, マグロウヒル大学演習, オーム社, 1995. ISBN 4-274-13005-3

他に担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 20%, 定期試験 60%, 平常点 20%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問時間を十分に取る。

【Outline and objectives】

Students will learn sets, counting, and discrete probability as mathematical foundations that they need to study and utilize computer and information sciences.

PRI110KA-CS-104

離散構造 2

佐々木 晃

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を裏打ちする離散的な構造のうち、特に重要な「グラフ」「論理学」の基本概念の理解を深める。

【到達目標】

グラフ、論理学の基本を理解する。特に記号、式、図表の扱いに慣れる。現実問題の抽象化・一般化という考え方を身につけるとともに、プログラミングとの関わりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

離散構造 1 の続きである。グラフの基礎概念、命題論理、述語論理、証明法など情報科学の数学的ツールの導入部について学ぶ。授業中に出現する例題、演習課題を通して、概念の理解を深める。学期の途中に認定試験を行う。課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	グラフ (1)	グラフの基礎概念 (1)
第 2 回	グラフ (2)	グラフの基礎概念 (2)
第 3 回	グラフ (3)	オイラー路、ハミルトン路、閉路
第 4 回	グラフ (4)	木、木の探索 (1)
第 5 回	グラフ (5)	木、木の探索 (2)
第 6 回	グラフ (6)	オートマトン
第 7 回	命題論理 (1)	命題、命題論理、論理式、真理値、真理値表
第 8 回	命題論理 (2)	恒真命題、恒真式、矛盾命題、矛盾式
第 9 回	命題論理 (3)	含意、必要条件、十分条件
第 10 回	述語論理 (1)	述語論理の構文論
第 11 回	述語論理 (2)	述語論理の意味論、恒真、充足可能、充足不可能
第 12 回	証明法 (1)	証明法、構成的証明、直接証明、反例、対偶法
第 13 回	証明法 (2)	場合分け、背理法、数学的帰納法、鳩の巣原理
第 14 回	総括	グラフ、論理学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で出題する演習課題に取り組むこと。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

S. Lipschutz 著，成嶋弘監訳：マグローヒル大学演習「離散数学－コンピュータサイエンスの基礎数学－」，オーム社，1995 年。（注：離散構造 1 の教科書）

【参考書】

C. L. Liu 著，成嶋弘／秋山仁共訳：「コンピュータサイエンスのための離散数学入門」，オーム社

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100%）。ただし，認定試験への合格を定期試験の受験資格とする。平常授業における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

質問の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

ノートをとる。

【Outline and objectives】

Students will learn basic concepts of graph theory and logic.

PRI110KA-CS-104

離散構造 2

首藤 裕一

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を裏打ちする離散的な構造のうち、特に重要な「グラフ」「論理学」の基本概念の理解を深める。

【到達目標】

グラフ、論理学の基本を理解する。特に記号、式、図表の扱いに慣れる。現実問題の抽象化・一般化という考え方を身につけるとともに、プログラミングとの関わりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

離散構造 1 の続きである。グラフの基礎概念、命題論理、述語論理、証明法など情報科学の数学的ツールの導入部について学ぶ。授業中に出現する例題、演習課題を通して、概念の理解を深める。学期の途中に認定試験を行う。課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	グラフ (1)	グラフの基礎概念 (1)
第 2 回	グラフ (2)	グラフの基礎概念 (2)
第 3 回	グラフ (3)	オイラー路、ハミルトン路、閉路
第 4 回	グラフ (4)	木、木の探索 (1)
第 5 回	グラフ (5)	木、木の探索 (2)
第 6 回	グラフ (6)	オートマトン
第 7 回	命題論理 (1)	命題、命題論理、論理式、真理値、真理値表
第 8 回	命題論理 (2)	恒真命題、恒真式、矛盾命題、矛盾式
第 9 回	命題論理 (3)	含意、必要条件、十分条件
第 10 回	述語論理 (1)	述語論理の構文論
第 11 回	述語論理 (2)	述語論理の意味論、恒真、充足可能、充足不可能
第 12 回	証明法 (1)	証明法、構成的証明、直接証明、反例、対偶法
第 13 回	証明法 (2)	場合分け、背理法、数学的帰納法、鳩の巣原理
第 14 回	総括	グラフ、論理学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で出題する演習課題に取り組むこと。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

S. Lipschutz 著，成嶋弘監訳：マグローヒル大学演習「離散数学－コンピュータサイエンスの基礎数学－」，オーム社，1995 年。（注：離散構造 1 の教科書）

【参考書】

C. L. Liu 著，成嶋弘／秋山仁共訳：「コンピュータサイエンスのための離散数学入門」，オーム社

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100%）。ただし，認定試験への合格を定期試験の受験資格とする。平常授業における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

質問の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

ノートをとる。

【Outline and objectives】

Students will learn basic concepts of graph theory and logic.

論理回路入門

李 亜民

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、組み合わせ回路と順序回路を含む論理回路の設計に必要な論理ゲートやブール代数、カルノー図などを用いた回路設計と動作検証シミュレーションの方法について学びます。

【到達目標】

すべてのデバイス装置の基礎となる論理回路について学びます。また、組み合わせ回路と順序回路を含む論理回路の設計に必要なブール代数を理解します。さらに三つの論理ゲート（AND、OR、NOT）のみを用いて、全加算器、乗算器、マルチプレクサ、デコーダー、エンコーダー、N進カウンタや交通信号制御システムなど様々なデジタル回路を設計します。実際のハードウェア設計に用いられる Intel Altera Quartus II と ModelSim を使用し、回路設計及び動作検証シミュレーションを行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

AND ゲートや OR ゲート、NOT ゲート、ブール代数、全加算器、乗算器、マルチプレクサ、デコーダー、エンコーダーなどの簡単なデジタル回路設計から始まり、N進カウンタや交通信号制御システムなどの複雑な回路設計も行います。また、設計した論理回路の動作検証シミュレーションの方法についても学びます。論理回路設計とシミュレーションには、Intel Altera Quartus II と ModelSim という EDA ツールを使用します。講義の冒頭で、前回の宿題の答えを説明・フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	0 と 1 の表現、論理ゲートの構成	0 と 1 の表現、NOT、NAND、NOR、AND、OR ゲートの NMOS 型、CMOS 型、TTL 型実装
2	ブール代数とド・モルガンの法則	ブール代数の定理とド・モルガンの法則、NAND ゲートのみで構成した回路
3	論理回路設計及び動作検証の方法	テストベンチ、Intel Altera Quartus II と ModelSim の使い方
4	論理式の積和標準形と和積標準形	最小項と最大項、論理式の積和形と和積形の変換及び動作検証
5	カルノー図と論理式の簡単化	カルノー図、半加算器と全加算器の設計とシミュレーション
6	マルチビット加算回路	リプルキャリリアダーとキャリールックアヘッドアダーの設計とシミュレーション
7	減算器と加減算回路	2 の補数、加算器を利用した減算と加減算回路の設計とシミュレーション
8	符号なし数と 2 の補数の乗算回路	符号なし数と 2 の補数の乗算、ウォレスツリー乗算器の設計とシミュレーション
9	マルチビット マルチプレクサと ALU	マルチプレクサ、7 セグメント LED 点灯回路、ALU の設計とシミュレーション

10	デコーダーとエンコーダー	デコーダーとプライオリティエンコーダーの設計とシミュレーション
11	ラッチとフリップフロップ (FF)	記憶できる回路 RS ラッチ、D ラッチ、DFF、JKFF、TFF とレジスタ・ファイル
12	Mealy 型と Moore 型順序回路	順序回路の構成、状態遷移図と交通信号制御システムの設計とシミュレーション
13	N進カウンタと 7 セグメント LED	DFF、JKFF、TFF を用いた計数器と 7 セグメント LED 点灯回路の設計とシミュレーション
14	まとめとクイズ	論理回路の復習とクイズ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各週につき 4 時間。講義資料を事前に目を通します。また、レポート（宿題）を完成します。

【テキスト（教科書）】

担当教員 Website に掲載

【参考書】

デジタル回路設計とコンピュータアーキテクチャ 第 2 版 2017

【成績評価の方法と基準】

課題レポート 70 % + 最終課題 (テスト) 30 %

【学生の意見等からの気づき】

課題のヒントを調整します。

課題の量を調整します。

サンプルレポートを用意します。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC をクラスに持ち込みます。

【Outline and objectives】

The objective for this lecture is to understand the fundamentals of logic operation, Boolean Algebra, logic gates, and their use in implementing the combinational circuits and sequential circuits. All the circuits will be designed in schematic and simulated with EDA tools.

COT111KA-CS-101

プログラミング入門

波多野 大督

必選区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理	プログラミングとは何かを学ぶ。 また、プログラミングを行うための基本的な道具の使い方を学ぶ。
2	値と変数	コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方を学ぶ。
3	条件分岐	状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
4	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
5	第 1 回から 4 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
6	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

7	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
8	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。
9	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。 データを統一的に処理する際に必要となる。
10	第 6 回から 9 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
11	応用 (1) 一タートルグラフィックスで幾何学模様	幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。
12	応用 (2) 一 Tk を利用したレンダリング	初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
13	総括 (1) 一内容の復習と実際のなプログラムの作成	これまで学んできた内容の復習を行う。また、これらを用いた実際のプログラムの作成にチャレンジする。
14	総括 (2) 一実際のなプログラムの作成	これまで学んできた内容を用いて、実際のプログラムの作成にチャレンジする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第 3 版
柴田 淳 (著)
ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。
中間・期末試験を実施し、理解度を評価する。
成績は、中間 (40%)・期末 (60%) 試験により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1 年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがいたら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline and objectives】

Today, computer software is essential in our lives, and programming is an activity to realize such software. In this course, students will acquire fundamental skills of programming.

COT111KA-CS-101

プログラミング入門

久東 義典

必選区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理	プログラミングとは何かを学ぶ。 また、プログラミングを行うための基本的な道具の使い方を学ぶ。
2	値と変数	コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方を学ぶ。
3	条件分岐	状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
4	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
5	第 1 回から 4 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
6	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

7	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
8	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。
9	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。 データを統一的に処理する際に必要となる。
10	第 6 回から 9 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
11	応用 (1) 一タートルグラフィックスで幾何学模様	幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。
12	応用 (2) 一 Tk を利用したレンダリング	初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
13	総括 (1) 一内容の復習と実際のなプログラムの作成	これまで学んできた内容の復習を行う。また、これらを用いた実際のプログラムの作成にチャレンジする。
14	総括 (2) 一実際のなプログラムの作成	これまで学んできた内容を用いて、実際のプログラムの作成にチャレンジする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第 3 版
柴田 淳 (著)
ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。
中間・期末試験を実施し、理解度を評価する。
成績は、中間 (40%)・期末 (60%) 試験により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1 年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline and objectives】

Today, computer software is essential in our lives, and programming is an activity to realize such software. In this course, students will acquire fundamental skills of programming.

COT111KA-CS-101

プログラミング入門

赤石 美奈

必選区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理	プログラミングとは何かを学ぶ。 また、プログラミングを行うための基本的な道具の使い方を学ぶ。
2	値と変数	コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方を学ぶ。
3	条件分岐	状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
4	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
5	第 1 回から 4 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
6	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

7	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
8	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。
9	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。 データを統一的に処理する際に必要となる。
10	第 6 回から 9 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
11	応用 (1) 一タートルグラフィックスで幾何学模様	幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。
12	応用 (2) 一 Tk を利用したレンダリング	初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
13	総括 (1) 一内容の復習と実際のなプログラムの作成	これまで学んできた内容の復習を行う。また、これらを用いた実際のプログラムの作成にチャレンジする。
14	総括 (2) 一実際のなプログラムの作成	これまで学んできた内容を用いて、実際のプログラムの作成にチャレンジする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第 3 版
柴田 淳 (著)
ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。
中間・期末試験を実施し、理解度を評価する。
成績は、中間 (40%)・期末 (60%) 試験により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1 年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline and objectives】

Today, computer software is essential in our lives, and programming is an activity to realize such software. In this course, students will acquire fundamental skills of programming.

COT111KA-CS-101

プログラミング入門

五月女 健治

必修区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようにプログラムの書き方で、コンピュータがどのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理	プログラミングとは何かを学ぶ。 また、プログラミングを行うための基本的な道具の使い方を学ぶ。
2	値と変数	コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方を学ぶ。
3	条件分岐	状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
4	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
5	第 1 回から 4 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
6	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

7	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
8	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。
9	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。 データを統一的に処理する際に必要となる。
10	第 6 回から 9 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
11	応用 (1) 一タートルグラフィックスで幾何学模様	幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。
12	応用 (2) 一 Tk を利用したレンダリング	初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
13	総括 (1) 一内容の復習と実際のなプログラムの作成	これまで学んできた内容の復習を行う。また、これらを用いた実際のプログラムの作成にチャレンジする。
14	総括 (2) 一実際のなプログラムの作成	これまで学んできた内容を用いて、実際のプログラムの作成にチャレンジする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第 3 版
柴田 淳 (著)
ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。
中間・期末試験を実施し、理解度を評価する。
成績は、中間 (40%)・期末 (60%) 試験により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1 年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline and objectives】

Today, computer software is essential in our lives, and programming is an activity to realize such software. In this course, students will acquire fundamental skills of programming.

COT111KA-CS-201

プログラミング 1(C/C++)

廣津 登志夫

必選区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではプログラミング言語 C/C++を学び、これらを用いて簡単なプログラム作成を行う。ここでは単にプログラムを書くことだけが目的ではなく、C/C++によるプログラミングで重要となるプログラム実行時にどのようにメモリが利用されているかを理解することを重視する。コンピュータの仕組みを考えながら、プログラムがどのように動作しているのかを考え、正しく動作するプログラムとは何かを判断できるようになることをめざす。

【到達目標】

- ・ インタープリタ言語とコンパイラ言語の違いを説明できる。
- ・ C/C++ のソースコードとコンパイルの関係を説明できる。
- ・ if 文、for 文を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 関数を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 構造体を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 変数とポインタ、メモリアドレスの関係を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は反転学習の形態を取ることで、事前学習資料の内容を理解した上で、講義までに演習のプログラムについては各自で動かして動作を確認しておく。講義の最初に事前学習内容の理解度や課題の理解度のアンケートを実施し、事前学習及び課題のフィードバックを行う。講義中は主に課題のプログラミングを行い、TA 及び教員により質問等への個別対応を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	C/C++言語の導入	コンパイラとインタープリタの違いを学ぶ C/C++の開発環境を理解する 最初のプログラムを作成し、実行させる
第 2 回	C/C++言語の基本形	インクルードファイルの書き方を学ぶ main 関数の書き方を学ぶ 変数宣言について学ぶ
第 3 回	標準入出力	C 言語の出力方法である printf の使い方を学ぶ C++言語の標準入出力である cin, cout の使い方を学ぶ
第 4 回	算術演算子	C/C++における加減乗除の方法を学ぶ 演算子の優先順位について理解する
第 5 回	条件分岐	if else を用いた条件分岐のあるプログラムの書き方を学ぶ switch 文について学ぶ
第 6 回	繰り返し制御	for, while を使った繰り返し方法を学ぶ break, continue により繰り返しの中断や継続を行う方法を学ぶ

第 7 回 文字列と配列

配列の宣言と利用方法を学ぶ
配列とメモリマップの関係について学ぶ

第 8 回 変数とメモリ

配列と文字列の関係を学ぶ
変数とメモリの関係について学ぶ
&演算子によりメモリアドレスを確認する方法を学ぶ

第 9 回 関数

sizeof 演算子により変数領域の大きさを求める方法を学ぶ
関数定義と関数呼び出しの方法を学ぶ

第 10 回 変数のスコープ

プロトタイプ宣言について学ぶ
変数のスコープについて学ぶ
ローカル変数、グローバル変数について学ぶ
変数のメモリ割り当て方法の違いについて学ぶ

第 11 回 構造体

構造体の定義方法と参照方法を学ぶ

第 12 回 ポインタ

構造体とメモリの関係を学ぶ
ポインタとメモリアドレスの関係を学ぶ
ポインタ変数の使い方を学ぶ
ポインタと配列の関係を学ぶ
ポインタを使った構造体の参照方法を学ぶ

第 13 回 ポインタ演算

ポインタの加算について学ぶ
ポインタを引数にした call by reference による関数呼び出しの方法を学ぶ

第 14 回 ファイル入出力

ファイルのオープンとクローズ方法を学ぶ
ファイルへの値の書き出し方法を学ぶ
ファイルからの値の読出し方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とします。

事前学習資料（映像・演習プログラム）について、講義前に各自で予習した上で演習プログラムを全て動かしておくこと。
講義中に完了しなかった課題は次週までの宿題となる。

【テキスト（教科書）】

柴田望洋，“新 明解 C++ 入門”，ソフトバンククリエイティブ. 2017. ISBN: 978-4-7973-9463-4

【参考書】

柴田望洋，“新・明解 C 言語 入門編”，ソフトバンククリエイティブ. 2014. ISBN: 978-4-7973-7702-6

【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。
期末試験を実施し、理解度を評価する。
成績は、期末試験を 70%、課題提出を 30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のオンライン対応で導入した反転学習（事前に説明・演習を行い、講義の多くを課題プログラミングに充てる方式）について、学習効率や理解の面で良好な反応であったので、対面・オンラインに関わらず今年度も同じ形態で講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用してプログラミングを行う

発行日：2021/5/1

対面・オンラインにかかわらず、質問対応には **Zoom** による画面共有を使用するので、講義での指示に従い **Zoom** に接続すること

【その他の重要事項】

本講義の内容は、担当教員の企業研究所での実務経験により得た知見に基づき構成している

【Outline and objectives】

Students learn the basic skills for writing programs in Programing Language C/C++. They not only study the grammar of Programing Language C/C++, but also study the memory management and program execution architecture of current computer system.

COT111KA-CS-201

プログラミング 1(C/C++)

坂本 寛

必選区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではプログラミング言語 C/C++を学び、これらを用いて簡単なプログラム作成を行う。ここでは単にプログラムを書くことだけが目的ではなく、C/C++によるプログラミングで重要となるプログラム実行時にどのようにメモリが利用されているかを理解することを重視する。コンピュータの仕組みを考えながら、プログラムがどのように動作しているのかを考え、正しく動作するプログラムとは何かを判断できるようになることをめざす。

【到達目標】

- ・ インタープリタ言語とコンパイラ言語の違いを説明できる。
- ・ C/C++ のソースコードとコンパイルの関係を説明できる。
- ・ if 文、for 文を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 関数を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 構造体を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 変数とポインタ、メモリアドレスの関係を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は反転学習の形態を取ることで、事前学習資料の内容を理解した上で、講義までに演習のプログラムについては各自で動かして動作を確認しておく。講義の最初に事前学習内容の理解度や課題の理解度のアンケートを実施し、事前学習及び課題のフィードバックを行う。講義中は主に課題のプログラミングを行い、TA 及び教員により質問等への個別対応を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	C/C++言語の導入	コンパイラとインタープリタの違いを学ぶ C/C++の開発環境を理解する 最初のプログラムを作成し、実行させる
第 2 回	C/C++言語の基本形	インクルードファイルの書き方を学ぶ main 関数の書き方を学ぶ 変数宣言について学ぶ
第 3 回	標準入出力	C 言語の出力方法である printf の使い方を学ぶ C++言語の標準入出力である cin, cout の使い方を学ぶ
第 4 回	算術演算子	C/C++における加減乗除の方法を学ぶ 演算子の優先順位について理解する
第 5 回	条件分岐	if else を用いた条件分岐のあるプログラムの書き方を学ぶ switch 文について学ぶ
第 6 回	繰り返し制御	for, while を使った繰り返し方法を学ぶ break, continue により繰り返しの中断や継続を行う方法を学ぶ

第 7 回 文字列と配列

配列の宣言と利用方法を学ぶ
配列とメモリマップの関係について学ぶ

第 8 回 変数とメモリ

配列と文字列の関係を学ぶ
変数とメモリの関係について学ぶ
&演算子によりメモリアドレスを確認する方法を学ぶ

第 9 回 関数

sizeof 演算子により変数領域の大きさを求める方法を学ぶ
関数定義と関数呼び出しの方法を学ぶ

第 10 回 変数のスコープ

プロトタイプ宣言について学ぶ
変数のスコープについて学ぶ
ローカル変数、グローバル変数について学ぶ
変数のメモリ割り当て方法の違いについて学ぶ

第 11 回 構造体

構造体の定義方法と参照方法を学ぶ

第 12 回 ポインタ

構造体とメモリの関係を学ぶ
ポインタとメモリアドレスの関係を学ぶ
ポインタ変数の使い方を学ぶ
ポインタと配列の関係を学ぶ
ポインタを使った構造体の参照方法を学ぶ

第 13 回 ポインタ演算

ポインタの加算について学ぶ
ポインタを引数にした call by reference による関数呼び出しの方法を学ぶ

第 14 回 ファイル入出力

ファイルのオープンとクローズ方法を学ぶ
ファイルへの値の書き出し方法を学ぶ
ファイルからの値の読み出し方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とします。

事前学習資料（映像・演習プログラム）について、講義前に各自で予習した上で演習プログラムを全て動かしておくこと。
講義中に完了しなかった課題は次週までの宿題となる。

【テキスト（教科書）】

柴田望洋, “新 明解 C++ 入門”, ソフトバンククリエイティブ. 2017. ISBN: 978-4-7973-9463-4

【参考書】

柴田望洋, “新・明解 C 言語 入門編”, ソフトバンククリエイティブ. 2014. ISBN: 978-4-7973-7702-6

【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。期末試験を実施し、理解度を評価する。
成績は、期末試験を 70%、課題提出を 30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のオンライン対応で導入した反転学習（事前に説明・演習を行い、講義の多くを課題プログラミングに充てる方式）について、学習効率や理解の面で良好な反応であったので、対面・オンラインに関わらず今年度も同じ形態で講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用してプログラミングを行う

発行日：2021/5/1

対面・オンラインにかかわらず、質問対応には **Zoom** による画面共有を使用するので、講義での指示に従い **Zoom** に接続すること

【その他の重要事項】

本講義の内容は、担当教員の企業研究所での実務経験により得た知見に基づき構成している

【Outline and objectives】

Students learn the basic skills for writing programs in Programing Language C/C++. They not only study the grammar of Programing Language C/C++, but also study the memory management and program execution architecture of current computer system.

COT111KA-CS-201

プログラミング 1(C/C++)

久東 義典

必選区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではプログラミング言語 C/C++を学び、これらを用いて簡単なプログラム作成を行う。ここでは単にプログラムを書くことだけが目的ではなく、C/C++によるプログラミングで重要となるプログラム実行時にどのようにメモリが利用されているかを理解することを重視する。コンピュータの仕組みを考えながら、プログラムがどのように動作しているのかを考え、正しく動作するプログラムとは何かを判断できるようになることをめざす。

【到達目標】

- ・ インタープリタ言語とコンパイラ言語の違いを説明できる。
- ・ C/C++ のソースコードとコンパイルの関係を説明できる。
- ・ if 文、for 文を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 関数を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 構造体を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 変数とポインタ、メモリアドレスの関係を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は反転学習の形態を取ることで、事前学習資料の内容を理解した上で、講義までに演習のプログラムについては各自で動かして動作を確認しておく。講義の最初に事前学習内容の理解度や課題の理解度のアンケートを実施し、事前学習及び課題のフィードバックを行う。講義中は主に課題のプログラミングを行い、TA 及び教員により質問等への個別対応を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	C/C++言語の導入	コンパイラとインタープリタの違いを学ぶ C/C++の開発環境を理解する 最初のプログラムを作成し、実行させる
第 2 回	C/C++言語の基本形	インクルードファイルの書き方を学ぶ main 関数の書き方を学ぶ 変数宣言について学ぶ
第 3 回	標準入出力	C 言語の出力方法である printf の使い方を学ぶ C++言語の標準入出力である cin, cout の使い方を学ぶ
第 4 回	算術演算子	C/C++における加減乗除の方法を学ぶ 演算子の優先順位について理解する
第 5 回	条件分岐	if else を用いた条件分岐のあるプログラムの書き方を学ぶ switch 文について学ぶ
第 6 回	繰り返し制御	for, while を使った繰り返し方法を学ぶ break, continue により繰り返しの中断や継続を行う方法を学ぶ

第 7 回 文字列と配列

配列の宣言と利用方法を学ぶ
配列とメモリマップの関係について学ぶ

第 8 回 変数とメモリ

配列と文字列の関係を学ぶ
変数とメモリの関係について学ぶ
&演算子によりメモリアドレスを確認する方法を学ぶ

第 9 回 関数

sizeof 演算子により変数領域の大きさを求める方法を学ぶ
関数定義と関数呼び出しの方法を学ぶ

第 10 回 変数のスコープ

プロトタイプ宣言について学ぶ
変数のスコープについて学ぶ
ローカル変数、グローバル変数について学ぶ
変数のメモリ割り当て方法の違いについて学ぶ

第 11 回 構造体

構造体の定義方法と参照方法を学ぶ

第 12 回 ポインタ

構造体とメモリの関係を学ぶ
ポインタとメモリアドレスの関係を学ぶ
ポインタ変数の使い方を学ぶ
ポインタと配列の関係を学ぶ
ポインタを使った構造体の参照方法を学ぶ

第 13 回 ポインタ演算

ポインタの加算について学ぶ
ポインタを引数にした call by reference による関数呼び出しの方法を学ぶ

第 14 回 ファイル入出力

ファイルのオープンとクローズ方法を学ぶ
ファイルへの値の書き出し方法を学ぶ
ファイルからの値の読み出し方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とします。

事前学習資料（映像・演習プログラム）について、講義前に各自で予習した上で演習プログラムを全て動かしておくこと。
講義中に完了しなかった課題は次週までの宿題となる。

【テキスト（教科書）】

柴田望洋，“新 明解 C++ 入門”，ソフトバンククリエイティブ. 2017. ISBN: 978-4-7973-9463-4

【参考書】

柴田望洋，“新・明解 C 言語 入門編”，ソフトバンククリエイティブ. 2014. ISBN: 978-4-7973-7702-6

【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。
期末試験を実施し、理解度を評価する。
成績は、期末試験を 70%、課題提出を 30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のオンライン対応で導入した反転学習（事前に説明・演習を行い、講義の多くを課題プログラミングに充てる方式）について、学習効率や理解の面で良好な反応であったので、対面・オンラインに関わらず今年度も同じ形態で講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用してプログラミングを行う

発行日：2021/5/1

対面・オンラインにかかわらず、質問対応には **Zoom** による画面共有を使用するので、講義での指示に従い **Zoom** に接続すること

【その他の重要事項】

本講義の内容は、担当教員の企業研究所での実務経験により得た知見に基づき構成している

【Outline and objectives】

Students learn the basic skills for writing programs in Programing Language C/C++. They not only study the grammar of Programing Language C/C++, but also study the memory management and program execution architecture of current computer system.

COT111KA-CS-101e

プログラミング演習 1(Python)

佐々木 晃

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

規模の大きいプログラムを書くことを通じて、ソフトウェアをプログラミングすることそのものに対する理解を深める。さらに、実際のプログラミング技術の初歩を学ぶ。

【到達目標】

春学期の「プログラミング入門」で学んだプログラミングの基礎を用いて、目的に応じたソフトウェア（アプリケーション）の簡単なものが作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、ゲームを題材として Python によるソフトウェア開発を行う。グラフィックスシステムを用いたアニメーション、ユーザインタフェースによる入出力処理などの実践的なプログラミングについて学ぶ。後半はパズルを例に、一般的な問題をプログラムとして表現する方法と、その表現に基づいて処理をする方法を学ぶ。これにより、数式のような表現形式を持たない実際に処理をしたい対象（問題）を、どのようにプログラムとして表現するかについて、実践的に学ぶ。最後に、より反応性の高いライブラリを導入し、より本格的なプログラムの作成に挑む。各回に課題が提示されるので、授業時間外にそのプログラミングに取り組む。

課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基本の確認（図形の描画）	この講義全体についての説明を行う。入門 I を復習しつつ、Python の tkinter ライブラリのキャンバスを利用して絵や図を描画する。
2	グラフィックスシステム（アニメーション）	リアルタイムゲームに不可欠となる、アニメーションの手法について学ぶとともに、ゲームのプロトタイプシステムの作成を行う。
3	ユーザインタフェースと対話的処理（インタラクティブ処理）	キーボード、マウスを用いた入力処理を学ぶとともに、対話的なアプリケーションの作成手法の基礎について学ぶ。
4	実装 (1)	3 で作成したプロトタイプシステムに基づき、ゲームの基本部分の設計、実装を行う。ブロック崩しを題材とする。
5	オブジェクト指向入門 (1) (モデリング)	クラスを利用してオブジェクトを表現する。
6	オブジェクト指向入門 (2) (オブジェクトコンポジション／ポリモーフィズム)	オブジェクトを組み合わせるオブジェクトを表現する。
7	オブジェクト指向入門 (3) (継承)	抽象クラスからの継承でオブジェクトを表現する。
8	実装 (2)	オブジェクト指向の構造で、ブロック崩しゲームを完成させる。

9	インタラクティブゲームプログラミング (1) (MVC の構造)	クラス継承によるオブジェクトの整理、既存機能の拡張と再利用について学ぶ。 マインスイーパーを題材とする。
10	インタラクティブゲームプログラミング (2) (状態の管理)	モデリングや、アルゴリズムを用いた計算処理について学ぶ。
11	インタラクティブゲームプログラミング (3)	モデリングとアルゴリズムの実装を進め、マインスイーパーを完成させる。
12	リアルタイムゲームプログラミング (1) (外部ライブラリの活用)	より反応性の良いプログラミングを行うため、pygame を導入し、イベント処理に慣れる。
13	リアルタイムゲームプログラミング (2)	イベントハンドリングを一步進め、ゲーム盤面上への文字表示など学ぶ。
14	リアルタイムゲームプログラミング (3)	Pygame を用いてのゲームを完成させる。ブロック崩しを pygame を用いて書き直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門 I の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- Python によるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570
- オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

基本的なプログラミング力については、原則毎回提出のプログラムの構造や、実行結果で判断する。(40%)
さらに、課題への取り組みや完成度 (60%) で判断する。
平常授業における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

学生各自の進捗度に応じた、きめの細かい指導が必要であると思われる。

【学生が準備すべき機器他】

ラボ教室及び貸与ノート PC を使用する。ノート PC は常に持参すること。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

Through writing large programs, students will learn how to implement practical software systems.

プログラミング演習 1(Python)

小林 郁夫

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

規模の大きいプログラムを書くことを通じて、ソフトウェアをプログラミングすることそのものに対する理解を深める。さらに、実際のプログラミング技術の初歩を学ぶ。

【到達目標】

春学期の「プログラミング入門」で学んだプログラミングの基礎を用いて、目的に応じたソフトウェア（アプリケーション）の簡単なものが作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、ゲームを題材として Python によるソフトウェア開発を行う。グラフィックスシステムを用いたアニメーション、ユーザインタフェースによる入出力処理などの実践的なプログラミングについて学ぶ。後半はパズルを例に、一般的な問題をプログラムとして表現する方法と、その表現に基づいて処理をする方法を学ぶ。これにより、数式のような表現形式を持たない実際に処理をしたい対象（問題）を、どのようにプログラムとして表現するかについて、実践的に学ぶ。最後に、より反応性の高いライブラリを導入し、より本格的なプログラムの作成に挑む。各回に課題が提示されるので、授業時間外にそのプログラミングに取り組む。

課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基本の確認（図形の描画）	この講義全体についての説明を行う。入門 I を復習しつつ、Python の tkinter ライブラリのキャンバスを利用して絵や図を描画する。
2	グラフィックスシステム（アニメーション）	リアルタイムゲームに不可欠となる、アニメーションの手法について学ぶとともに、ゲームのプロトタイプシステムの作成を行う。
3	ユーザインタフェースと対話的処理（インタラクティブ処理）	キーボード、マウスを用いた入力処理を学ぶとともに、対話的なアプリケーションの作成手法の基礎について学ぶ。
4	実装 (1)	3 で作成したプロトタイプシステムに基づき、ゲームの基本部分の設計、実装を行う。ブロック崩しを題材とする。
5	オブジェクト指向入門 (1) (モデリング)	クラスを利用してオブジェクトを表現する。
6	オブジェクト指向入門 (2) (オブジェクトコンポジション／ポリモーフィズム)	オブジェクトを組み合わせるオブジェクトを表現する。
7	オブジェクト指向入門 (3) (継承)	抽象クラスからの継承でオブジェクトを表現する。
8	実装 (2)	オブジェクト指向の構造で、ブロック崩しゲームを完成させる。

9	インタラクティブゲームプログラミング (1) (MVC の構造)	クラス継承によるオブジェクトの整理、既存機能の拡張と再利用について学ぶ。 マインスイーパーを題材とする。
10	インタラクティブゲームプログラミング (2) (状態の管理)	モデリングや、アルゴリズムを用いた計算処理について学ぶ。
11	インタラクティブゲームプログラミング (3)	モデリングとアルゴリズムの実装を進め、マインスイーパーを完成させる。
12	リアルタイムゲームプログラミング (1) (外部ライブラリの活用)	より反応性の良いプログラミングを行うため、pygame を導入し、イベント処理に慣れる。
13	リアルタイムゲームプログラミング (2)	イベントハンドリングを一步進め、ゲーム盤面上への文字表示など学ぶ。
14	リアルタイムゲームプログラミング (3)	Pygame を用いてのゲームを完成させる。ブロック崩しを pygame を用いて書き直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門 I の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- Python によるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570
- オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

基本的なプログラミング力については、原則毎回提出のプログラムの構造や、実行結果で判断する。(40%)
さらに、課題への取り組みや完成度 (60%) で判断する。
平常授業における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

学生各自の進捗度に応じた、きめの細かい指導が必要であると思われる。

【学生が準備すべき機器他】

ラボ教室及び貸与ノート PC を使用する。ノート PC は常に持参すること。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

Through writing large programs, students will learn how to implement practical software systems.

PRI210KA-CS-161

データ構造とアルゴリズム

首藤 裕一

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高度なプログラミングには、用途にあった「定石」を使いこなすことが不可欠です。この講義では、その「定石」であるアルゴリズムをつかひこなす第一歩を学びます。具体的には、様々な分野の代表的なアルゴリズムを紹介し、プログラム化する方法を学びます。アルゴリズムが用途にあうかどうかを判断する最も重要な基準の一つである計算量についても学びます。また、アルゴリズムをプログラム化するために不可欠なデータ構造についても学びます。

【到達目標】

情報科学を学ぶ上で最低限必要な「アルゴリズムとデータ構造の基礎」を理解し、プログラム化できる能力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

アルゴリズムは問題を解決するための定石です。したがって、これまでに数多くのアルゴリズムが開発されています。また、今後も次々に新しいアルゴリズムが開発されてゆくでしょう。アルゴリズムを使いこなしているプログラマは、アルゴリズムについて記述された専門書や論文で新しいアルゴリズムを知ることがほとんどです。そこで本講義では、アルゴリズムについて記述された専門書を読みこなす基礎的なスキルを身につけることを目標とします。具体的には、擬似コードで記述されたアルゴリズムをプログラム化することを目指します。各テーマごとに、アルゴリズムに関して記述された文章を予習で読み、プログラム化を授業後の課題とします。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	アルゴリズムとは何か、データ構造とは何かを理解する。
2	挿入ソートと実行時間評価	基本的なソートアルゴリズムである挿入ソートとその実行時間を解析する手法を学ぶ。
3	マージソートと漸化式による実行時間評価	マージソートとマージソートの実行時間を評価する手法を学ぶ。
4	スタック・キュー	基本的なデータ構造であるスタックとキューを学ぶ。
5	リスト・木構造	基本的なデータ構造であるリストと木構造を学ぶ。
6	ヒープソート	ヒープソートのアルゴリズムを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
7	クイックソート	クイックソートのアルゴリズムを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
8	4 種類のソートの実装	これまでに学んだ挿入ソート、マージソート、ヒープソート、クイックソートのプログラミングを行い、実行時間を比較する。
9	ハッシュ表	重要なデータ構造のひとつであるハッシュ表を理解する
10	二分探索木	重要なデータ構造のひとつである二分探索木を理解する

11	講義の復習	今までの講義で学んだ内容を復習する。
12	グラフの表現	グラフを表現するための色々なデータ構造を理解するとともに Dijkstra 法における動的集合の扱いを学ぶ。
13	単一始点最短路問題	グラフに関する代表的アルゴリズムである単一最短路問題とベルマン・フォード法、ダイクストラ法について学ぶ。
14	ダイクストラ法のプログラミング	ダイクストラ法を用いて、地下鉄駅間の最短距離を求めるプログラムを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アルゴリズムに関して記述された文章を予習で読み、プログラム化を授業後の課題とします。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

書名: アルゴリズムイントロダクション 第 1 巻 基礎・ソート・データ構造・数学 第 3 版
著者: Thomas H. Cormen 他
翻訳: 浅野他
出版社: 近代科学者
出版年: 2012 年

【参考書】

書名: Introduction to Algorithms, Third Edition
著者: Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest and Clifford Stein
出版社: The MIT Press
出版年: 2009 年

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）、および、演習課題の提出状況や講義への貢献などの平常点（20%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】

プログラミングの解説を多くしてほしいとの要望に対応。

【学生が準備すべき機器他】

演習にはノート PC を利用する。

【Outline and objectives】

When you write a "good" program, you must learn and make use of standard and well-established techniques. In the course, you will learn algorithm — well-established techniques for programming. More concretely, you will learn popular algorithms (such as sorting) and learn how to evaluate the computational complexity of algorithms. You will also learn data structures for implementing algorithms with programming languages.

データ構造とアルゴリズム

坂本 寛

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高度なプログラミングには、用途にあった「定石」を使いこなすことが不可欠です。この講義では、その「定石」であるアルゴリズムをつかひこなす第一歩を学びます。具体的には、様々な分野の代表的なアルゴリズムを紹介し、プログラム化する方法を学びます。アルゴリズムが用途にあうかどうかを判断する最も重要な基準の一つである計算量についても学びます。また、アルゴリズムをプログラム化するために不可欠なデータ構造についても学びます。

【到達目標】

情報科学を学ぶ上で最低限必要な「アルゴリズムとデータ構造の基礎」を理解し、プログラム化できる能力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

アルゴリズムは問題を解決するための定石です。したがって、これまでに数多くのアルゴリズムが開発されています。また、今後も次々に新しいアルゴリズムが開発されてゆくでしょう。アルゴリズムを使いこなしているプログラマは、アルゴリズムについて記述された専門書や論文で新しいアルゴリズムを知ることがほとんどです。そこで本講義では、アルゴリズムについて記述された専門書を読みこなす基礎的なスキルを身につけることを目標とします。具体的には、擬似コードで記述されたアルゴリズムをプログラム化することを目指します。各テーマごとに、アルゴリズムに関して記述された文章を予習で読み、プログラム化を授業後の課題とします。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	アルゴリズムとは何か、データ構造とは何かを理解する。
2	挿入ソートと実行時間評価	基本的なソートアルゴリズムである挿入ソートとその実行時間を解析する手法を学ぶ。
3	マージソートと漸化式による実行時間評価	マージソートとマージソートの実行時間を評価する手法を学ぶ。
4	スタック・キュー	基本的なデータ構造であるスタックとキューを学ぶ。
5	リスト・木構造	基本的なデータ構造であるリストと木構造を学ぶ。
6	ヒープソート	ヒープソートのアルゴリズムを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
7	クイックソート	クイックソートのアルゴリズムを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
8	4 種類のソートの実装	これまでに学んだ挿入ソート、マージソート、ヒープソート、クイックソートのプログラミングを行い、実行時間を比較する。
9	ハッシュ表	重要なデータ構造のひとつであるハッシュ表を理解する
10	二分探索木	重要なデータ構造のひとつである二分探索木を理解する

11	講義の復習	今までの講義で学んだ内容を復習する。
12	グラフの表現	グラフを表現するための色々なデータ構造を理解するとともに Dijkstra 法における動的集合の扱いを学ぶ。
13	単一始点最短路問題	グラフに関する代表的アルゴリズムである単一最短路問題とベルマン・フォード法、ダイクストラ法について学ぶ。
14	ダイクストラ法のプログラミング	ダイクストラ法を用いて、地下鉄駅間の最短距離を求めるプログラムを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アルゴリズムに関して記述された文章を予習で読み、プログラム化を授業後の課題とします。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

書名: アルゴリズムイントロダクション 第 1 巻 基礎・ソート・データ構造・数学 第 3 版
著者: Thomas H. Cormen 他
翻訳: 浅野他
出版社: 近代科学者
出版年: 2012 年

【参考書】

書名: Introduction to Algorithms, Third Edition
著者: Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest and Clifford Stein
出版社: The MIT Press
出版年: 2009 年

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）、および、演習課題の提出状況や講義への貢献などの平常点（20%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】

プログラミングの解説を多くしてほしいとの要望に対応。

【学生が準備すべき機器他】

演習にはノート PC を利用する。

【Outline and objectives】

When you write a "good" program, you must learn and make use of standard and well-established techniques. In the course, you will learn algorithm — well-established techniques for programming. More concretely, you will learn popular algorithms (such as sorting) and learn how to evaluate the computational complexity of algorithms. You will also learn data structures for implementing algorithms with programming languages.

PRI210KA-CS-251

最適化

佐川 浩彦

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、情報科学のさまざまな場面で遭遇する最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について解説します。最適化問題の基本を理解し、さまざまな応用に役立てるための基礎力を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について学ぶことにより、より専門的な知識が必要とされるパターン認識や人工知能などの理解を容易にするための基礎的なスキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP2」と「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に、最適化問題を扱うために必要となる数学的知識を学んだ後、制約の無い関数の最適化問題として勾配法とニュートン法を学びます。次に、制約がある場合の最適化問題としてラグランジュの未定乗数法を学び、さらに誤差のあるデータに関数を当てはめる手法である最小二乗法と最尤法を学びます。最後に一次式の最適化問題である線形計画法と複数の競合する目的関数を扱う多目的最適化を学びます。

授業は、理解を容易にするために例題を中心に解説を行い、講義に対応した演習を授業の最後で行います。また、次の講義の最初で解答例紹介を行うことで課題のフィードバックを学生に行い、理解が深められるようにしながら授業を進めています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	最適化問題とは	オリエンテーション
2	数学的準備	行列、固有ベクトル、偏微分、曲線・曲面の方程式、接線と法線の解説
3	一次形式と二次形式	一次形式と二次形式、二次形式の微分、二次形式の標準化の解説
4	関数の極値	関数の勾配、停留点、関数の極値の解説
5	一次元最適化問題	三分割法、黄金分割法、ニュートン法、放物線補間の解説
6	勾配法	勾配法の解説
7	ニュートン法	ニュートン法の解説
8	ラグランジュの未定乗数法	ラグランジュの未定乗数法の解説
9	最適化の使い方	例題を使った最適化手法の使い方の解説
10	最小二乗法	最小二乗法、式の当てはめの解説
11	最尤法 1	最尤推定、直線当てはめの解説
12	最尤法 2	データの分類の解説
13	線形計画法	線形計画の標準形、可能領域、線形計画の基本定理、シンプレックス法
14	多目的最適化、まとめ	多目的最適化とは、パレート解、多目的最適化の解法、全体的なまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業の予習または復習を毎回必ず行うこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします
2. 授業中に理解できなかった例題や演習課題は必ず復習して理解すること

【テキスト（教科書）】

配布資料（授業支援システムに掲載）

【参考書】

金谷健一、「これなら分かる最適化数学」、共立出版、2005 年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60%）＋演習課題（20%）＋授業への参加度（20%）で採点します。

参加度は授業中の態度（積極的に参加しているか、寝ているか、騒いでいるかなど）で計算します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、講義に対応した演習を授業の最後で行い、また、次の講義の最初で解答例紹介を行いながら授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員が企業で研究・開発業務に携わった経験を基に、実社会で有効となる最適化技術およびその数学的手法の基本に関する講義を行う

【Outline and objectives】

This lecture will explain the basic method for mathematically processing the optimization problem. It aims to understand the fundamentals of optimization problems and to acquire the fundamental power to use for various application problems.

PRI310KA-CS-261

アルゴリズムの設計と解析

黄 潤和

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to enhance students' knowledge of data structure and skills of applying associated algorithms. This course will cover the content review of learned data structures and algorithms related tree and graph, and plus algorithm analysis and design techniques.

【到達目標】

The objectives of this course are to make students firmly laying good foundation of data structures and algorithms, and one-step further comprehensively understanding of algorithm analysis, and having design skills and techniques as general problem solving strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

- Review data structures and algorithms learned previously
- Introduce some contents on algorithm analysis techniques
- Learn some design techniques for problem solving
[Feedback] Students are given questions to think about and answer in-class and exercises to do as home work. Solutions to the questions and the exercises will be explained in the next class, and students will do self-checking and evaluation of their exercises and make corrections or re-do to the exercises they make mistakes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Fundamentals of the Analysis of Efficiency	- what is an algorithm? - how to design? - how to analyze?
2	Basic algorithm analyses (1): Divide and Conquer	- Merge sort - quick sort
3	Basic algorithm analyses (2): Dynamic Programming	- Fibonacci numbers - Coin exchange
4	Trees structure and analysis (1)	- Binary Trees - Tree traversal - Arithmetic expressions
5	Trees structure and analysis (2)	- AVL Tree
6	Trees structure and analysis (3)	- 2-3-4 Tree
7	Trees structure and analysis (4)	- red-black trees
8	Mid-term exercises	- Work in class (1) do exercises (2) explain solutions
9	Fundamentals of Graph	- DFS
10	Weighted Graph	- BFS
11	Single source shortest paths	- Dijkstra Algorithm

12	Minimal spanning trees	- Prim's algorithm - Kruskal's algorithm
13	All-pairs shortest paths	- Matrix production - Floyd-warshall algorithm
14	Review	- The contents of L1-L13

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read related contents and topics from the Internet
本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

"Introduction to The design and Analysis of Algorithms", Anany Levitin, Publisher: Pearson, ISBN-13: 978-0-13-231681-1

【参考書】

書名: Introduction to Algorithms, Third Edition
著者: Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest and Clifford Stein
出版社: The MIT Press
出版年: 2009 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (14%)、授業内ミニテストで (26%)、授業内期末テストで (60%)

【学生の意見等からの気づき】

Interested in students' requirements and put efforts accordingly

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance students' knowledge of data structure and skill of applying associated algorithms. This course will cover the content review of learned data structures and algorithms related tree and graph, and plus algorithm analysis and design techniques.

COT211KA-CS-202

プログラミング 2(C/C++)

廣津 登志夫

必選区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業はプログラミング 1(C/C++) の後続科目として、C++用いたオブジェクト指向プログラミングにより小規模のプログラムを作成できるようにすることを目的とする。学習においてはオブジェクト指向プログラミングの基本概念を意識し、コンピュータの仕組みと結びつけて、プログラムの動作を理解する視点を獲得することめざす。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向の基本的な考え方を説明できる。
- ・C++を用いて、オブジェクト指向に沿ったクラス設計を行うことができる。
- ・オブジェクトのポインタを用いたプログラムを作成・理解できる。
- ・オブジェクトの継承を理解し、プログラムを作成できる。
- ・カプセル化を意識したプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は本科目の前段科目であるプログラミング 1(C/C++)と同様に、反転学習の形態を取る。事前学習資料の内容を理解した上で、講義までに演習のプログラムについては各自で動かして動作を確認しておく。講義の最初に事前学習内容の理解度や課題の理解度のアンケートを実施し、事前学習及び課題のフィードバックを行う。講義中は主に課題のプログラミングを行い、TA 及び教員により質問等への個別対応を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オブジェクト指向の基本	オブジェクト指向の考え方を理解し、メンバ変数、メンバ関数を持ったクラスを作成し、オブジェクトを生成する。
第 2 回	コンストラクタ	オブジェクトの初期化手順として、デフォルトコンストラクタ、コピーコンストラクタ、変換コンストラクタの作成方法を学ぶ。
第 3 回	カプセル化、演算子関数	クラスのカプセル化について public と private の使い分け、ヘッダファイルとソースファイルの分割について学ぶ。
第 4 回	静的メンバ、コンストラクタ初期化子	静的メンバと動的メンバの違いを理解する。代入演算子 (operator=)、入れ子のクラス構造とコンストラクタ初期化子について理解する。
第 5 回	定値オブジェクト、 friend 関数	定値オブジェクトを有効に扱うためのメンバ関数定義法を学ぶ。 friend 関数も紹介する。また、変換関数、演算子関数を学ぶ。
第 6 回	クラスの継承	派生クラスへの継承について学ぶ。継承の本質、継承の仕組み、および継承の表現仕方などを理解する。

第 7 回 仮想関数とポリモーフィズム

第 8 回 抽象クラス

第 9 回 ヒープメモリとポインタ

第 10 回 例外処理

第 11 回 クラステンプレート

第 12 回 ベクトルライブラリ

第 13 回 ベクトル以外のコンテナ

第 14 回 関数ポインタ

virtual 関数を作成して、動的な型情報によるプログラミング手法を学ぶ。ポリモーフィズムを理解する。

純粋仮想関数を理解し、抽象クラスの設計と使い方を学ぶ。

ヒープメモリとポインタを使ったオブジェクト管理を学ぶ。**new** 演算子を使って生成されたオブジェクトはヒープメモリに管理する仕組みを理解し、メモリの解放方法も学ぶ。

例外処理の書き方について学び、標準の例外クラスを使えるようになる。

クラステンプレートと関数テンプレートを活用したプログラミング手法を学ぶ。

可変長配列などのベクトルライブラリの使い方を学ぶ。

リストやスタックマップなどデータ構造の設計と使い方を学ぶ。

関数ポインタによる関数の入れ替え手法を学ぶ。文字列クラスの使い方も学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とします。

事前学習資料（映像・演習プログラム）について、講義前に各自で予習した上で演習プログラムを全て動かしておくこと。講義中に完了しなかった課題は次週までの宿題となる。

【テキスト（教科書）】

柴田望洋, "新・明解 C++ で学ぶオブジェクト指向プログラミング", ソフトバンククリエイティブ, 2018. ISBN : 978-4-7973-9716-1

【参考書】

柴田望洋, "新版 明解 C++ 入門", ソフトバンククリエイティブ, 2017. ISBN : 978-4-7973-9463-4 (1 年秋に使用したもの)

【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末試験を 70%、課題提出を 30% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用してプログラミングを行う。

対面・オンラインにかかわらず、質問対応には Zoom による画面共有を使用するので、講義での指示に従い Zoom に接続すること。

【その他の重要事項】

プログラミング 1(C/C++) の講義内容を理解していることを前提とする。

本講義の内容は、担当教員の企業研究所での実務経験により得た知見に基づき構成している。

【Outline and objectives】

This course aims to learn general principle and techniques of object-oriented programming in C++, as the advanced course of Programming1(C/C++). In the lectures of the course, the computer structure and its relation to programming in C++ are also explained and discussed. The students are expected to learn the basic concepts and mechanisms of C++ and to gain sufficient ability to construct simple programs in C++. They are also expected to build up their ability for understanding the behaviors of programs in C++.

COT211KA-CS-202

プログラミング 2(C/C++)

相島 健助

必選区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業はプログラミング 1(C/C++) の後続科目として、C++を用いたオブジェクト指向プログラミングにより小規模のプログラムを作成できるようにすることを目的とする。学習においてはオブジェクト指向プログラミングの基本概念を意識し、コンピュータの仕組みと結びつけて、プログラムの動作を理解する視点を獲得することめざす。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向の基本的な考え方を説明できる。
- ・C++を用いて、オブジェクト指向に沿ったクラス設計を行うことができる。
- ・オブジェクトのポインタを用いたプログラムを作成・理解できる。
- ・オブジェクトの継承を理解し、プログラムを作成できる。
- ・カプセル化を意識したプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は本科目の前段科目であるプログラミング 1(C/C++)と同様に、反転学習の形態を取る。事前学習資料の内容を理解した上で、講義までに演習のプログラムについては各自で動かして動作を確認しておく。講義の最初に事前学習内容の理解度や課題の理解度のアンケートを実施し、事前学習及び課題のフィードバックを行う。講義中は主に課題のプログラミングを行い、TA 及び教員により質問等への個別対応を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オブジェクト指向の基本	オブジェクト指向の考え方を理解し、メンバ変数、メンバ関数を持ったクラスを作成し、オブジェクトを生成する。
第 2 回	コンストラクタ	オブジェクトの初期化手順として、デフォルトコンストラクタ、コピーコンストラクタ、変換コンストラクタの作成方法を学ぶ。
第 3 回	カプセル化、演算子関数	クラスのカプセル化について public と private の使い分け、ヘッダファイルとソースファイルの分割について学ぶ。
第 4 回	静的メンバ、コンストラクタ初期化子	静的メンバと動的メンバの違いを理解する。代入演算子 (operator=)、入れ子のクラス構造とコンストラクタ初期化子について理解する。
第 5 回	定値オブジェクト、 friend 関数	定値オブジェクトを有効に扱うためのメンバ関数定義法を学ぶ。 friend 関数も紹介する。また、変換関数、演算子関数を学ぶ。
第 6 回	クラスの継承	派生クラスへの継承について学ぶ。継承の本質、継承の仕組み、および継承の表現仕方などを理解する。

第 7 回 仮想関数とポリモーフィズム

第 8 回 抽象クラス

第 9 回 ヒープメモリとポインタ

第 10 回 例外処理

第 11 回 クラステンプレート

第 12 回 ベクトルライブラリ

第 13 回 ベクトル以外のコンテナ

第 14 回 関数ポインタ

virtual 関数を作成して、動的な型情報によるプログラミング手法を学ぶ。ポリモーフィズムを理解する。

純粋仮想関数を理解し、抽象クラスの設計と使い方を学ぶ。

ヒープメモリとポインタを使ったオブジェクト管理を学ぶ。**new** 演算子を使って生成されたオブジェクトはヒープメモリに管理する仕組みを理解し、メモリの解放方法も学ぶ。

例外処理の書き方について学び、標準の例外クラスを使えるようになる。

クラステンプレートと関数テンプレートを活用したプログラミング手法を学ぶ。

可変長配列などのベクトルライブラリの使い方を学ぶ。

リストやスタックマップなどデータ構造の設計と使い方を学ぶ。

関数ポインタによる関数の入れ替え手法を学ぶ。文字列クラスの使い方も学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とします。

事前学習資料（映像・演習プログラム）について、講義前に各自で予習した上で演習プログラムを全て動かしておくこと。講義中に完了しなかった課題は次週までの宿題となる。

【テキスト（教科書）】

柴田望洋, "新・明解 C++ で学ぶオブジェクト指向プログラミング", ソフトバンククリエイティブ, 2018. ISBN : 978-4-7973-9716-1

【参考書】

柴田望洋, "新版 明解 C++ 入門", ソフトバンククリエイティブ, 2017. ISBN : 978-4-7973-9463-4 (1 年秋に使用したもの)

【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末試験を 70%、課題提出を 30% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用してプログラミングを行う。

対面・オンラインにかかわらず、質問対応には Zoom による画面共有を使用するので、講義での指示に従い Zoom に接続すること。

【その他の重要事項】

プログラミング 1(C/C++) の講義内容を理解していることを前提とする。

本講義の内容は、担当教員の企業研究所での実務経験により得た知見に基づき構成している。

【Outline and objectives】

This course aims to learn general principle and techniques of object-oriented programming in C++, as the advanced course of Programming1(C/C++). In the lectures of the course, the computer structure and its relation to programming in C++ are also explained and discussed. The students are expected to learn the basic concepts and mechanisms of C++ and to gain sufficient ability to construct simple programs in C++. They are also expected to build up their ability for understanding the behaviors of programs in C++.

COT211KA-CS-201e

プログラミング演習 1(C/C++)

廣津 登志夫

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ある程度規模の大きいプログラムを書くことを通じて、高度なソフトウェアをプログラミングすることに対する理解を深める。プログラミング言語の文法だけではなく、実行環境や開発環境を含めた汎用的なプログラミング環境に慣れ、実際のプログラミングを学ぶ。

【到達目標】

春学期の「プログラミング 2(C/C++)」で学んだプログラミング技術を用いて、目的に応じた中規模のソフトウェア（アプリケーション）が作成できるようになること。ソフトウェア開発の考え方や手順を理解ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、ユーザ操作によりパズルを解くアプリケーションの作成を通じて、問題に対応したデータ構造の作り方やソフトウェアのモジュール化について学ぶ。後半は、文書処理のプログラムを通じて、既使用として定まったフォーマットのデータの処理方法を学ぶと同時に、基本的な文書処理の手順についてのプログラミングを行う。課題についての質問状況に応じて、内容の補足説明などのフィードバックを随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	開発環境 (Cygwin, Linux) の理解
2	パズルアプリケーションの実装 (1)	基本的なユーザ操作と表示の実装
3	パズルアプリケーションの実装 (2)	段階的な機能拡張 エラー処理やサイズ等の制約の緩和の実現
4	パズルアプリケーションの実装 (3)	ソフトウェアの部品化による再実装
5	パズルアプリケーションの実装 (4)	ライブラリを利用したソフトウェアの改良
6	パズルアプリケーションの実装 (5)	自動解法とアニメーション表示による高度化
7	パズルアプリケーションの実装 (6)	Wrapper 補須の設計と実装による発展的改良
8	文書処理プログラミング (1)	「人工無能」の基本インタラクションルーチンとマルチバイト文字の処理
9	文書処理プログラミング (2)	汎用アルゴリズムライブラリによるソートの実現
10	文書処理プログラミング (3)	n-gram の実現
11	文書処理プログラミング (4)	マルコフ連鎖を用いた文生成
12	文書処理プログラミング (5)	形態素解析を用いた文生成
13	文書処理プログラミング (6)	実装による実効性能の検討
14	まとめ	講義の演習全体の総括と質問への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。
準備学習として、前段科目であるプログラミング 2(C/C++) の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、講義中に完了しなかったプログラミング課題およびレポート作成に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

説明資料をオンライン配布する

【参考書】

柴田望洋, "新・明解 C++入門", ソフトバンククリエイティブ, 2017. ISBN: 978-4-7973-9463-4. (1 年秋科目教科書)

柴田望洋, "新・明解 C++で学ぶオブジェクト指向プログラミング", ソフトバンククリエイティブ, 2018. ISBN: 978-4-7973-9716-1. (2 年春科目教科書)

富永和人, 権藤克彦, "例解 UNIX/Linux プログラミング教室: システムコールを使いこなすための 12 講", オーム社, 2018. ISBN: 978-4-274-22210-8.

【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。各回で出題するプログラム課題に対する取り組み (40%)、およびレポート課題 (60%) から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問等の状況から、大きく分けて前半・後半の 2 つのトピックとし、それぞれの内容にじっくりと取り組むことで深く理解できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用してプログラミングを行う。
対面・オンラインにかかわらず、質問対応には Zoom による画面共有を使用するので、講義での指示に従い Zoom に接続すること。

【その他の重要事項】

プログラミング 1(C/C++)、プログラミング 2(C/C++) の講義内容を理解していることを前提とする。
本講義の内容は、担当教員の企業研究所での実務経験により得た知見に基づき構成している。

【Outline and objectives】

This is an introductory course to understand C/C++ programming Language. With writing middle-scale software using actual development environment, students will deepen their understanding for the scheme and processes of the software development.

PRI210KA-CS-151

形式言語とオートマトン

日高 宗一郎

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・オートマトンとは何かを理解する
- ・有限オートマトンと正規言語の関係を理解する
- ・文脈自由言語についてその特徴・性質を理解する
- ・プッシュダウンオートマトンとは何かを理解する
- ・チューリングマシンについて理解する

【到達目標】

オートマトン、形式言語の基本的な枠組みについて理解する。具体的には、

- 1) 有限状態オートマトン・プッシュダウンオートマトンの時点表示・構成ができること
- 2) 文脈自由文法が生成する言語・文法を説明・構成できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は情報科学の様々な側面の基礎をなすオートマトンと形式言語について学ぶ。オートマトンはハードウェアからソフトウェアに至るまでの情報科学の全ての側面において、動作のモデルを定義・表現・設計するために使われる非常に重要な概念である。講義の前半では、このオートマトンの理解を目標において講義を進める。講義の後半では、そのオートマトンの入力として与えられる形式言語について学ぶ。形式言語の知識はプログラミング言語やその処理系の理解のために必須のものである。なお、毎回の講義では、説明のなかで 30 分程度を小テストに充てる。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. オートマトンとは計算機のモデル 2. 形式言語は言語のモデル 3. オートマトンと形式言語の関係 4. チョムスキー階層 5. オートマトンの応用
第 2 回	有限オートマトン (1)	1. オートマトンの状態遷移図表現 2. 集合 3. 五字組表現
第 3 回	有限オートマトン (2)	1. 有限オートマトンの例 2. 様相、受理・拒否
第 4 回	有限オートマトン (3)	1. 有限オートマトン演習
第 5 回	非決定性有限オートマトン (1)	1. 決定性オートマトンと非決定性オートマトン 2. 非決定性オートマトンの状態遷移図 3. 非決定性オートマトンの五字組表現

第 6 回 非決定性有限オートマトン (2)

1. 空動作を伴うオートマトン
2. 空動作を伴うオートマトンの状態遷移図
3. 空動作を伴うオートマトンの五字組表現
4. 決定性オートマトンと非決定性オートマトンの同等性
5. 正規表現から非決定性オートマトンに

第 7 回 中間試験

6. 決定性オートマトンの最簡形有限オートマトンのまとめ
- 主にオートマトンの部分について試験を行う

第 8 回 プッシュダウンオートマトン

1. 決定性プッシュダウンオートマトン
2. 決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現
3. 決定性プッシュダウンオートマトンの動作
4. 決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図
5. 非決定性プッシュダウンオートマトン
6. 非決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現
7. 非決定性プッシュダウンオートマトンの動作
8. 非決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図

第 9 回 チューリングマシン (1)

1. 決定性チューリングマシン

第 10 回 チューリングマシン (2)

1. 非決定性チューリングマシン

第 11 回 文法 (1)

1. 正規文法
2. 言語の生成装置としての形式文法
3. オートマトンと文法の対比・階層性

第 12 回 文法 (2)

4. 文脈自由文法
1. 文法の種類
2. 文脈自由文法の例
3. 文脈自由文法と木構造
- 4.2 分木からチョムスキー標準形に
5. 文脈依存文法

第 13 回 文法 (3)

1. 文法演習

第 14 回 オートマトンと形式言語の関係およびまとめ

- 正規文法と有限オートマトンの関係
1. 正規表現による正規言語の表現
 2. 有限オートマトンで表現できない文脈自由文法
 3. 閉包性
 4. チョムスキー標準形
 5. グライバッハ標準形
- 1 - 14 回の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の内容をよく読んでおくこと。講義では、正しく理解しているかどうか確認を行うようにする。

本授業の準備・復習時間は、計週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米田、広瀬、大里、大川著「オートマトン・言語理論の基礎」近代科学社

【参考書】

J. ホップクロフト他著「オートマトン 言語理論 計算論 I」サイエンス社

富田、横森著「オートマトン・言語理論」森北出版

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト、課題で 40 %。授業内試験で 60%。

【学生の意見等からの気づき】

演習を豊富に実施する

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の企業でのプログラミング言語の研究開発の経験に基づく形式言語とオートマトンに関する講義である。

【Outline and objectives】

This course covers fundamental notions in formal language theory, including automata, relationship between finite automata and regular languages, characteristics and properties of context-free languages, pushdown automata and Turing machines.

形式言語とオートマトン

藤田 悟

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・オートマトンとは何かを理解する
- ・有限オートマトンと正規言語の関係を理解する
- ・文脈自由言語についてその特徴・性質を理解する
- ・プッシュダウンオートマトンとは何かを理解する
- ・チューリングマシンについて理解する

【到達目標】

オートマトン、形式言語の基本的な枠組みについて理解する。具体的には、

- 1) 有限状態オートマトン・プッシュダウンオートマトンの時点表示・構成ができること
- 2) 文脈自由文法が生成する言語・文法を説明・構成できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は情報科学の様々な側面の基礎をなすオートマトンと形式言語について学ぶ。オートマトンはハードウェアからソフトウェアに至るまでの情報科学の全ての側面において、動作のモデルを定義・表現・設計するために使われる非常に重要な概念である。講義の前半では、このオートマトンの理解を目標において講義を進める。講義の後半では、そのオートマトンの入力として与えられる形式言語について学ぶ。形式言語の知識はプログラミング言語やその処理系の理解のために必須のものである。なお、毎回の講義では、説明のなかで 30 分程度を小テストに充てる。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. オートマトンとは計算機のモデル 2. 形式言語は言語のモデル 3. オートマトンと形式言語の関係 4. チョムスキー階層 5. オートマトンの応用
第 2 回	有限オートマトン (1)	1. オートマトンの状態遷移図表現 2. 集合 3. 五字組表現
第 3 回	有限オートマトン (2)	1. 有限オートマトンの例 2. 様相、受理・拒否
第 4 回	有限オートマトン (3)	1. 有限オートマトン演習
第 5 回	非決定性有限オートマトン (1)	1. 決定性オートマトンと非決定性オートマトン 2. 非決定性オートマトンの状態遷移図 3. 非決定性オートマトンの五字組表現

第 6 回 非決定性有限オートマトン (2)

1. 空動作を伴うオートマトン
2. 空動作を伴うオートマトンの状態遷移図
3. 空動作を伴うオートマトンの五字組表現
4. 決定性オートマトンと非決定性オートマトンの同等性
5. 正規表現から非決定性オートマトンに

第 7 回 中間試験

6. 決定性オートマトンの最簡形有限オートマトンのまとめ
- 主にオートマトンの部分について試験を行う

第 8 回 プッシュダウンオートマトン

1. 決定性プッシュダウンオートマトン
2. 決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現
3. 決定性プッシュダウンオートマトンの動作
4. 決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図
5. 非決定性プッシュダウンオートマトン
6. 非決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現
7. 非決定性プッシュダウンオートマトンの動作
8. 非決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図

第 9 回 チューリングマシン (1)

1. 決定性チューリングマシン

第 10 回 チューリングマシン (2)

1. 非決定性チューリングマシン

第 11 回 文法 (1)

1. 正規文法
2. 言語の生成装置としての形式文法
3. オートマトンと文法の対比・階層性

第 12 回 文法 (2)

4. 文脈自由文法
1. 文法の種類
2. 文脈自由文法の例
3. 文脈自由文法と木構造
- 4.2 分木からチョムスキー標準形に
5. 文脈依存文法

第 13 回 文法 (3)

1. 文法演習

第 14 回 オートマトンと形式言語の関係およびまとめ

- 正規文法と有限オートマトンの関係
1. 正規表現による正規言語の表現
 2. 有限オートマトンで表現できない文脈自由文法
 3. 閉包性
 4. チョムスキー標準形
 5. グライバッハ標準形
- 1 - 14 回の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の内容をよく読んでおくこと。講義では、正しく理解しているかどうか確認を行うようにする。

本授業の準備・復習時間は、計週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米田、広瀬、大里、大川著「オートマトン・言語理論の基礎」近代科学社

【参考書】

J. ホップクロフト他著「オートマトン 言語理論 計算論 I」サイエンス社

富田、横森著「オートマトン・言語理論」森北出版

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト、課題で 40 %。授業内試験で 60%。

【学生の意見等からの気づき】

演習を豊富に実施する

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の企業でのプログラミング言語の研究開発の経験に基づく形式言語とオートマトンに関する講義である。

【Outline and objectives】

This course covers fundamental notions in formal language theory, including automata, relationship between finite automata and regular languages, characteristics and properties of context-free languages, pushdown automata and Turing machines.

コンピュータ構成と設計入門

八巻 隼人

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

計算機の基本構成要素であるプロセッサ (CPU)、メモリ、入出力装置の機能と動作、またそれぞれの要素間の相互関係をソフトウェア、ハードウェアの両観点から理解する。特に、計算機がプログラムを実行する際の各要素の役割、プログラムの実行を高速化する技術について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、大きく分けて 2 つのテーマを扱う。まず、前半の授業では、計算機内部におけるデジタルデータの取り扱いについて学ぶ。これはすなわち、計算機が数値表現や数値同士の計算をどのように扱っているのか、"2 進数"や"浮動小数点数"、"加算器"といったキーワードを基に学習する。次に、授業後半では、計算機の構成要素である CPU、メモリ、入出力装置について計算機全体の中でのそれぞれの役割を学ぶ。最終的には、これらの理解を併せ、我々が作成したプログラムが計算機でどのように実行されるのか、各自が説明できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、配布資料を基にした講義が主となる。特に前半の進数変換や数値の計算は、手を動かさなければ理解が進まないと思うので、適宜、演習問題の配布やレポート課題等も予定している。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、データの表現、位取り記数法	本講義の概要とその進め方、評価法、演習との関係など / 2 進数と 10 進数 / N 進数への変換法
第 2 回	整数の計算機内部表現	符号絶対値表現 / 補数表現 / 嵩上げ表現
第 3 回	加減算器、論理演算、シフト	論理回路の復習 / 符号付き整数の加減算 / 演算のオーバーフロー / 論理演算とシフト
第 4 回	算術論理演算回路 (ALU)	ALU の構成 / 正負判定、0 判定など
第 5 回	実数の計算機内部表現	浮動小数点表現 / 表現出来る値とエラー検出
第 6 回	計算機の構成と動作原理	CPU の構造 / バスの構造 / 命令サイクルとパイプライン
第 7 回	中間試験	中間試験実施予定
第 8 回	計算機の命令	具体的な計算機の機械語命令
第 9 回	基本命令セット 1	命令形式 / 基本的な命令 / 簡単なプログラム
第 10 回	基本命令セット 2	算術論理演算命令 / 分岐命令 / アセンブリ言語
第 11 回	機械語命令形式と機械語の実行	アドレッシングモードの実現 / サブルーチンの実現
第 12 回	割り込み	割り込みの概念 / 割り込み要因・動作 / OS の役割・機能 / 割り込み用命令と割り込みベクトル
第 13 回	メモリ	メモリ階層 / キャッシュの動作 / キャッシュアルゴリズム

第 14 回 マルチコア/プロセッサ 並列処理 / ネットワーク / キャッシュとネットワーク シュコヒーレンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容に疑問点を残さないよう復習をすること。授業の理解を深めるため、適宜、演習問題やレポート課題等の配布を行なう。各回の講義は前回までの内容が理解できていないとついて行けなくなるので、疑問点を残さないよう努力すること。本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、毎回授業資料を web 上で配布する。

【参考書】

「コンピュータの構成と設計」、パターソン・ヘネシー著、日経 BP
「コンピュータアーキテクチャ」、馬場敬信、オーム社、
「プロセッサを支える技術」、Hisa Ando, 技術評論社
など

【成績評価の方法と基準】

不定期な講義内レポート課題 30%、中間レポート課題 or 試験 30%、
期末レポート課題 or 試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

質疑はいつでも受け付けますので気軽にメールしてください。

【Outline and objectives】

This course introduces the operation of a CPU, memories, and I/O devices and interrelationship among them from the viewpoints of the hardware and software. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the roles of each computer element when a program is executed and methods for accelerating program execution.

COT311KA-CS-341

コンパイラ

佐々木 晃

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンパイラをはじめとする計算機言語処理系は、情報科学の分野でもっとも重要なソフトウェアの一つである。本講義では、コンパイラの基本概念について説明するとともに、コンパイラの各構成要素における理論と技法について説明する。また、簡単な言語に対するコンパイラの実現を例題として、コンパイラの全体像の理解を深める。

【到達目標】

- (1) コンパイラの基本概念を説明できる。
- (2) 与えられた字句定義および構文定義から、対応するプログラミング言語の構文を説明できる。
- (3) 字句、構文定義からそれぞれ字句解析および構文解析プログラムを作成できる。
- (4) プログラムの構文要素に対するコードの生成方法が理解できる。
- (5) 簡単な言語に対するコンパイラを実現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

コンパイル処理は、いくつかのフェーズ (Phase) と呼ばれるプロセスで構成される。各フェーズの実装方法は、オートマトンをはじめとする言語の理論によって裏付けられている。講義前半（第1～9回）では、各フェーズに対して、(1) フェーズを裏付ける理論の学習、(2) 理論に対するプロセスの実装方法（アルゴリズム）の学習、というステップで理解を深めていく。講義後半では、前半で学んだそれぞれのフェーズを統合することで、一つのコンパイラを構成できることを学ぶ。

課題等の提出・フィードバックは「CIS moodle」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	コンパイラと計算機言語処理系の概要
2	言語と文法	文脈自由文法と解析木
3	字句解析	正規表現とオートマトンによる字句解析の定式化
4	字句解析器の実装	字句解析プログラムの導出
5	構文解析	下向き構文解析
6	構文解析器の実装	再帰降下構文解析器の導出
7	意味解析	名前の解決処理、型、静的意味検査
8	中間コード生成	中間コードの種類と生成の基礎
9	実行時環境	実行時記憶、活性レコード（関数フレーム）、手続き呼び出しのプロセス
10	通訳系（インタプリタ）	VM(Virtual Machine)
11	コンパイラの実装 (1)	式のコンパイル
12	コンパイラの実装 (2)	変数機能の実現
13	コンパイラの実装 (3)	制御構造のコンパイルと関数機能の実現
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回では配布する資料を読み授業に備える。また、資料内の例題プログラムは事前に入力し実行すること。授業後は、課題のプログラミングおよびレポート作成に取り組む。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したオンラインテキストおよび配布する印刷物

【参考書】

中田育男、コンパイラの構成と最適化、(2 版、2009)、朝倉書店
佐々政孝、プログラミング言語処理系、(1989)、岩波書店

【成績評価の方法と基準】

試験 (60%)、レポート課題 (30%)、講義における積極性などの参加度 (10%) を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レポート問題の解説時間を多めにとる

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC、ネットワーク接続、授業支援システム利用

【Outline and objectives】

In this course, students will learn compilers and compilation process.

Through realizing a simple language, students will understand the overall structure of a compiler as a system.

プログラミング演習 2(C/C++)

若原 徹

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

機械学習における中核技術の一つであるクラスタリングを取り上げ、様々なクラスタリング手法を C 言語を用いて実装する。これにより、クラスタリングについての広範な知識を習得し、合わせて C 言語による自在なプログラミング能力を獲得する。

【到達目標】

クラスタリングにおける階層的手法と分割的的手法について、そのアルゴリズムと適用法の違いを理解し、プログラミングで実装できる。C 言語におけるデータ型、演算子、式、制御の流れ、関数、ポインタと配列、構造体、入出力などの理解が深まり、規模も大きく複雑なプログラミングに耐えうる実践的スキルを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

2 次元点集合のクラスタリングを題材とし、階層的および分割的クラスタリング手法の様々なアルゴリズムを順に学び、C 言語プログラミングにより実装していく。その過程で、C 言語の理解を深め、実践的プログラミングスキルを獲得する。原則として、週単位で小課題が出され、授業時間外に取り組む。最終課題では、より複雑なクラスタリング対象を取り上げ、本演習で学んだ各種のクラスタリングアルゴリズムの比較実験を行い、成果を発表する。なお、小課題の講評と解説を必ず行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	Linux 上の C 言語プログラミング開発環境の設定、クラスタリングの対象となる 2 次元点集合の生成
第 2 回	階層的クラスタリング (1)	Single linkage 法の理解と実装
第 3 回	階層的クラスタリング (2)	Complete linkage 法の理解と実装
第 4 回	階層的クラスタリング (3)	Group average 法の理解と実装
第 5 回	階層的クラスタリング (4)	重心法の理解と実装
第 6 回	階層的クラスタリング (5)	Ward 法の理解と実装
第 7 回	階層的クラスタリング (6)	Lance-Williams の更新式の理解と実装
第 8 回	分割的クラスタリング (1)	k-means 法の理解と実装
第 9 回	分割的クラスタリング (2)	Fuzzy c-means 法の理解と実装
第 10 回	分割的クラスタリング (3)	Multi-start 探索法の理解と実装
第 11 回	最終課題 (1)	独自に生成した 2 次元点集合を対象とした各種のクラスタリング手法の性能比較実験
第 12 回	最終課題 (2)	RGB 色空間でのクラスタリングによるカラー文字画像の減色処理
第 13 回	最終課題 (3)	最終課題レポートおよびプレゼンテーション資料の作成

第 14 回 まとめ

最終課題の成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] C 言語の復習
- [2] データ構造とアルゴリズムの復習
- [3] 週単位の小課題および最終課題への取り組み
- [4] 本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を学内 Web サイトに公開。

【参考書】

- [1] カーニハン、リッチー著：「プログラミング言語 C」, 第 2 版, 共立出版, 1989 年.
- [2] 柴田望洋著：「新・明解 C 言語 入門編」, ソフトバンククリエイティブ, 2014 年.

【成績評価の方法と基準】

小課題 40%, 最終課題レポート 40%, 平常点 20%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- [1] 質問には一人ずつ丁寧に答える。
- [2] 分かりにくいところは繰り返し説明する。

【Outline and objectives】

This course deals with clustering methods as one of the core technologies in machine learning. Students are requested to implement a variety of clustering algorithms using C programming language. Through these practices students can not only obtain a necessary and sufficient knowledge about clustering technique but also acquire a practical skill in C programming.

MAT247KA-CS-252

統計学 2

若原 徹

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

確率・統計の基礎を復習した上で、統計的推測ないし統計的決定の考え方を確実に身につけることを目標とし、線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを理解しながら具体的技法を習得する。

【到達目標】

線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを説明できる。各技法をプログラミングにより実装して具体的に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、確率・統計の基礎として、様々な確率分布、多次元の確率分布、大数の法則と中心極限定理を復習する。次いで、統計的推測ないし統計的決定の手法として線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法を順に紹介する。その際、応用例としてパターン認識を取り上げ、具体的な適用法を学ぶ。確率・統計では数式が多く現れるが、数式の理解とともに各手法の振る舞いを数値的に理解することが重要である。このため、計算問題を解くことと合わせて、数値解析を目的としたプログラミング言語 MATLAB を用いてプログラミング課題に取り組み、計算処理結果を視覚的に表示して理解を深める。

提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目標、レベル、進め方および MATLAB の使い方の説明
第 2 回	確率分布	離散型および連続型のおもな確率分布の復習
第 3 回	多次元の確率分布	同時確率分布、条件付確率分布、無相関、独立の考え方
第 4 回	大数の法則と中心極限定理	理論の理解とコンピュータシミュレーション、中心極限定理の応用
第 5 回	線形モデルと最小二乗法 (1)	直線、多項式、関数のあてはめによるデータの表現
第 6 回	線形モデルと最小二乗法 (2)	関数の最小二乗近似、動径基底関数法
第 7 回	線形モデルと最小二乗法 (3)	直交関数系、フーリエ級数展開
第 8 回	最尤推定法 (1)	ガウスモデル、事後確率の計算
第 9 回	最尤推定法 (2)	線形判別分析
第 10 回	線形判別分析の応用 (1)	手書き数字の 2 カテゴリー分類
第 11 回	線形判別分析の応用 (2)	手書き数字の多カテゴリー分類
第 12 回	ベイズ推定法	ベイズ推定法と最尤推定法の違い、最大事後確率推定法
第 13 回	ノンパラメトリックな確率密度関数の推定法	カーネル密度推定法と手書き数字認識への応用
第 14 回	まとめ	学習内容のまとめと重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列）の復習
- [3] オンラインマニュアルを用いた MATLAB プログラミングの習得
- [4] 計算問題や MATLAB プログラミングなどの課題への取り組み
- [5] 本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を学内 Web サイトに公開。

【参考書】

- [1] 東京大学教養学部統計学教室編：「統計学入門」、東京大学出版会、1991 年。
- [2] 杉山将著：「統計的機械学習－生成モデルに基づくパターン認識」、オーム社、2009 年。
- [3] 小西貞則著：「多変量解析入門－線形から非線形へ」、岩波書店、2009 年。
- [4] 上坂吉則著：「MATLAB プログラミング入門」改訂版、牧野書店、2011 年。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 40%、最終課題 40%、平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

- [1] MATLAB を使ったプログラミングの導入をより丁寧に行う。
- [2] 講義が一方通行にならぬように質問時間を十分に取る。
- [3] 課題の説明を丁寧に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子メールや学内 Web サイトへのアクセス等ネットワークを利用。MATLAB プログラミングのための貸与パソコン。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of the statistics. By the end of the course, students should understand the following:

1. linear model and least squares method
2. maximum likelihood estimation method
3. Bayesian estimation

統計学 2

小西 克巳

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

確率・統計の基礎を復習した上で、統計的推測ないし統計的決定の考え方を確実に身につけることを目標とし、線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを理解しながら具体的技法を習得する。

【到達目標】

線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを説明できる。各技法をプログラミングにより実装して具体的に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、確率・統計の基礎として、様々な確率分布、多次元の確率分布、大数の法則と中心極限定理を復習する。次いで、統計的推測ないし統計的決定の手法として線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法を順に紹介する。その際、応用例としてパターン認識を取り上げ、具体的な適用法を学ぶ。確率・統計では数式が多く現れるが、数式の理解とともに各手法の振る舞いを数値的に理解することが重要である。このため、計算問題を解くことと合わせて、数値解析を目的としたプログラミング言語 MATLAB を用いてプログラミング課題に取り組み、計算処理結果を視覚的に表示して理解を深める。

提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目標、レベル、進め方および MATLAB の使い方の説明
第 2 回	確率分布	離散型および連続型のおもな確率分布の復習
第 3 回	多次元の確率分布	同時確率分布、条件付確率分布、無相関、独立の考え方
第 4 回	大数の法則と中心極限定理	理論の理解とコンピュータシミュレーション、中心極限定理の応用
第 5 回	線形モデルと最小二乗法 (1)	直線、多項式、関数のあてはめによるデータの表現
第 6 回	線形モデルと最小二乗法 (2)	関数の最小二乗近似、動径基底関数法
第 7 回	線形モデルと最小二乗法 (3)	直交関数系、フーリエ級数展開
第 8 回	最尤推定法 (1)	ガウスモデル、事後確率の計算
第 9 回	最尤推定法 (2)	線形判別分析
第 10 回	線形判別分析の応用 (1)	手書き数字の 2 カテゴリー分類
第 11 回	線形判別分析の応用 (2)	手書き数字の多カテゴリー分類
第 12 回	ベイズ推定法	ベイズ推定法と最尤推定法の違い、最大事後確率推定法
第 13 回	ノンパラメトリックな確率密度関数の推定法	カーネル密度推定法と手書き数字認識への応用
第 14 回	まとめ	学習内容のまとめと重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列）の復習
- [3] オンラインマニュアルを用いた MATLAB プログラミングの習得
- [4] 計算問題や MATLAB プログラミングなどの課題への取り組み
- [5] 本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を学内 Web サイトに公開。

【参考書】

- [1] 東京大学教養学部統計学教室編：「統計学入門」、東京大学出版会、1991 年。
- [2] 杉山将著：「統計的機械学習－生成モデルに基づくパターン認識」、オーム社、2009 年。
- [3] 小西貞則著：「多変量解析入門－線形から非線形へ」、岩波書店、2009 年。
- [4] 上坂吉則著：「MATLAB プログラミング入門」改訂版、牧野書店、2011 年。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 40%、最終課題 40%、
平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

- [1] MATLAB を使ったプログラミングの導入をより丁寧に行う。
- [2] 講義が一方通行にならぬように質問時間を十分に取る。
- [3] 課題の説明を丁寧に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子メールや学内 Web サイトへのアクセス等ネットワークを利用。
MATLAB プログラミングのための貸与パソコン。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of the statistics. By the end of the course, students should understand the following:

1. linear model and least squares method
2. maximum likelihood estimation method
3. Bayesian estimation

PRI210KA-CS-207

情報基礎学 A

尾花 賢

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、情報科学の基礎的な理論を理解するために必須となる計算の複雑さの理論を学ぶ。

【到達目標】

計算の複雑さの理論における基本的な概念である時間計算量、領域計算量、多項式時間帰着などを学ぶとともに、P, NP, PSPACE, EXP などの重要な計算量のクラスを理解する。また、SAT の NP 完全性の証明などを通じて P vs NP 問題に対する解決のアプローチの歴史を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義を通して、計算の複雑さの理論の基本を理解してもらう。重要なポイントでは演習を行い、講義で学習した内容を実感することで理解を深める。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この講義で学ぶことがらを説明する
2	計算とは何か	情報科学における計算の理論的扱いについて学び、チューリングマシン、万能チューリングマシンの概念を理解する。
3	チューリングマシン演習	具体的な問題に対するチューリングマシンの構成法を学ぶ。
4	計算の複雑さ	計算の複雑さがチューリングマシンの実行ステップ数などによって定義されることを理解する。
5	計算の複雑さ演習	演習を通じて、具体的なアルゴリズムの計算の複雑さを評価する手法を学ぶ。
6	計算にまつわる諸概念	時間計算量、領域計算量など、計算の複雑さを理解する上で重要な概念について学ぶ。
7	階層定理	時間階層定理、領域階層定理の証明とその意味を理解する。
8	時間計算量のクラス、領域計算量のクラス	P, NP, EXP, NEXP など時間計算量を理解する上で重要となるクラスについて学ぶ。
9	P 対 NP 問題	P 対 NP 問題と、関連の深い概念である NP 完全性、NP 困難性について学ぶ。
10	多項式時間帰着	二つの問題を解く困難さを比較する指標となる多項式時間帰着について学ぶ。
11	多項式時間帰着に関する演習	具体的な問題の多項式時間帰着可能性を考えることにより、多項式時間帰着に対する理解を深める。
12	計算の複雑さに関する命題の証明手法	演習問題を例に計算の複雑さに関する命題を証明する手法を学ぶ。
13	Cook-Levin の定理と SAT の NP 完全性	論理式の充足可能性問題 (SAT) が NP 完全問題であることを理解する。

14 計算の複雑さと暗号理論 計算の複雑さの理論と公開鍵暗号の関係について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの学習内容を完全に把握しておくことは必須。また、講義期間中に複数回出す課題を提出すること。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムから配布する。

【参考書】

Michael Sipser 著、太田 和夫、田中 圭介、阿部 正幸 訳、計算理論の基礎 [原著第 2 版] 2. 複雑さの理論、共立出版 ISBN 978-4-320-12209-3

【成績評価の方法と基準】

講義への貢献度、レポート 20%、定期試験 80%により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるため、計算の複雑さの理論における命題の証明法に関する回を追加した。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。また、チューリングマシンの演習等においては貸与 PC を利用する。

【Outline and objectives】

In this course, you will learn basic concept of complexity theory for understanding theoretical computer science.

雪田 修一

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

計算と論理の基礎をプログラミングを通じて学ぶ。また、近年の発展が著しいトピックを具体的な言語や処理系で体験する。

【到達目標】

命題論理、述語論理、計算可能性などの基本知識を習得し、SAT ソルバーなどの近年の発展分野の動向を知る。Lisp、Minisat、Prolog などの基本的なプログラミングができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

体系的な知識を伝えると同時に適宜プログラミングにより抽象概念を実装する演習を行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	この科目の目的と目標	講義の目指すもの、想定される受講者の興味・関心を明確にし、科目選択のための情報を提供する。
第 2 回	計算可能性	計算の概念、計算不可能な問題の存在を実例を通して理解する。
第 3 回	ラムダ計算	計算の重要なモデルであるラムダ計算の基本を知る。
第 4 回	Lisp	ラムダ計算をプログラミング言語として実現している Lisp に触れる。
第 5 回	Lisp 演習	Lisp が得意とする典型的な問題を取り上げ、演習を行う。
第 6 回	命題論理と SAT	命題論理の基本を学び、SAT (Satisfiability Problem、充足可能性問題) の困難性について理解する。
第 7 回	SAT ソルバー	近年の発展著しい SAT ソルバーの概要を理解する。
第 8 回	SAT ソルバー演習	SAT ソルバーで具体的な問題を扱う演習を行う。
第 9 回	述語論理の意味論	述語論理の基礎を理解し、意味論の代表的な方法とその意義を学ぶ。
第 10 回	証明論	証明とは何か、代表的な理論を理解する。
第 11 回	不完全性定理	ゲーデルの不完全性定理について大掴みな理解をする。
第 12 回	Prolog	1 階述語論理を扱うプログラミング言語 Prolog の基本を理解する。
第 13 回	Prolog 演習	Prolog が得意とする問題を演習する。
第 14 回	まとめ	期末試験で取り上げる題材を用いて、全トピックの復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オンライン教材の毎回の予習。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン教材を使用する。URL は初回に開示する。

【参考書】

各回のキーワードで検索にかかる URL はいずれも重要な最新の情報源である。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの課題 50%、期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

レポート作成の手引きを提示する必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【Outline and objectives】

We study fundamental theory of computation with concrete examples. The series of lectures cover natural deduction, lambda calculus with lambda calculator, SAT solvers with mini-sat, and logic programming with Prolog.

コンピュータ構成と設計

李 亜民

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業ではコンピュータの命令セットアーキテクチャ、アセンブリ言語プログラム、シングル・マルチサイクル CPU のデータパスと制御ユニット設計、パイプライン CPU のデータパスと制御ユニット設計（内部フォワーディング、パイプラインストール、遅延分岐）、メモリ、キャッシュ、仮想メモリ、TLB、入出力システム、コンピュータの性能評価と高性能コンピューティング（スーパースカラ、マルチスレッド、マルチコア、インターコネクションネットワーク、スーパーコンピュータ）について学びます。この講義では、RISC-V ISA および RV32IM CPU の設計についても説明します。

【到達目標】

コンピュータの物理的な仕組みと設計方法の理解。ハードウェアレベルのプログラミング言語であるアセンブリプログラミングについても学び、プロセッサの基本動作を理解します。さらに、シングルサイクル CPU、マルチサイクル CPU、パイプライン CPU、FPU などを設計します。そして、現代のコンピュータにおいて高速化の鍵となっている記憶階層についての理解、外部記憶その他の周辺装置や高性能コンピュータ構成と設計についても理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

MIPS シミュレータ AsmSim (<https://yamin.cis.k.hosei.ac.jp/asm/>) と RISC-V シミュレータ Rivasim (<https://yamin.cis.k.hosei.ac.jp/rivasim/>) を使用して、アセンブリプログラムを開発します。コンピュータを構成するプロセッサ内部のデータの流れ（データパス）とその制御ユニットに関して、具体的な構成方法と設計の原理を理解します。さらに Intel Altera Quartus II と ModelSim という実際のハードウェア設計にも使われている EDA ツールを使用して簡単なプロセッサを設計し動作検証シミュレーションを行います。講義の冒頭で、前回の課題について説明・フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	命令セットアーキテクチャ（1）	MIPS 命令セットアーキテクチャとアセンブリ言語（算術、論理、シフト演算命令）及び AsmSim シミュレーターの使い方
2	命令セットアーキテクチャ（2）	MIPS 命令セットアーキテクチャとアセンブリ言語（関数の呼び出し、条件分岐、無条件ジャンプ、メモリ load、store 命令）
3	コンピュータの基本的な回路設計	回路図と Verilog HDL を用いた基本的な回路（パレルシフトや ALU など）設計
4	シングルサイクル CPU 設計（1）	シングルサイクル CPU の構成とレジスタファイルの設計とシミュレーション
5	シングルサイクル CPU 設計（2）	シングルサイクル CPU のデータパスと制御ユニットの設計とシミュレーション
6	シングルサイクル CPU 設計（3）	シングルサイクル CPU + メモリ + テストプログラムの設計とシミュレーション

7	マルチサイクル CPU 設計（1）	マルチサイクル CPU のデータパスの設計とシミュレーション
8	マルチサイクル CPU 設計（2）	マルチサイクル CPU の制御ユニットとコンピュータの設計とシミュレーション
9	パイプライン CPU 設計	パイプライン CPU（遅延分岐、内部フォワーディングとパイプラインストール）の設計とシミュレーション
10	浮動小数点数と FPU	IEEE 754 浮動小数点数と FPU の設計とシミュレーション
11	メモリ階層とその管理	メモリ階層（SRAM、DRAM、キャッシュ、仮想記憶、MMU、TLB）の設計とシミュレーション
12	入出力システム	入出力システム（入出力割込み、キーボードと VGA のインターフェースコントローラ）の設計とシミュレーション
13	性能評価と高性能コンピューティング	性能評価と高性能コンピューティング（スーパースカラ、マルチスレッド、マルチコア、インターコネクションネットワーク、スーパーコンピュータ）
14	RISC-V とまとめ	RISC-V ISA および RV32IM CPU の設計とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。講義資料を事前に目を通すこと。また、レポート（宿題）を完成させて提出すること。

【テキスト（教科書）】

担当教員 Website に掲載

【参考書】

1. Computer Principles and Design in Verilog HDL, Wiley, 2015.
2. コンピュータの構成と設計 ― ハードウェアとソフトウェアのインタフェース〈上〉〈下〉日経 B P 社, 2014

【成績評価の方法と基準】

課題レポート 70 % + プロジェクトレポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

課題の難易度を調整します。
設計サンプルを追加します。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC をクラスに持参してください。

【Outline and objectives】

The objective for this lecture is to understand the fundamentals of the computer system and its design method. The contents of the lecture contain instruction set architecture, assembly language programming, datapath and control unit design of single-cycle and multiple-cycle CPUs, design of pipelined CPU with internal forwarding, pipeline stall, and delayed branch mechanism, memory, caches, virtual memory management, TLB (Translation lookaside buffer), input/output interface controller, interrupt, computer performance evaluation, superscalar, multithreading, multicore, interconnection network, and supercomputers. The CPUs will be designed in schematic and/or Verilog HDL, and simulated with EDA tools. The RISC-V ISA and RV32IM CPU design will be also taught in this lecture.

情報理論

尾花 賢

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の数学的定義および、エントロピーの概念、情報の圧縮の方法等を理解する。

【到達目標】

エントロピーの概念、および、情報理論における基本的な定理である情報源符号化定理、通信路符号化定理を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

情報とは何か、情報はどのように数学的に定義されるかを学ぶとともに、情報の符号化、情報通信の基礎理論を理解する。授業の理解を深めるため、講義の後半に適宜課題を解く時間を設ける。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報の概念とエントロピー	情報量の定式化、エントロピーの概念を理解する。
2	条件付きエントロピー・相互情報量	確率の基本的な性質の復習を行った後、条件付きエントロピー、相互情報量の概念を理解する。
3	エントロピー、条件付きエントロピー、相互情報量の復習	重要な概念である各種エントロピーに関しての理解を深める。
4	クラフトの不等式	符号の瞬時復号可能性、一意復号可能性とクラフトの不等式について理解する。
5	情報源符号化定理	情報理論における最も重要な定理のひとつである情報源符号化定理を理解する。
6	情報源符号化法	具体的な情報源符号化法であるシャノン符号、ファノ符号、ハフマン符号を理解する。
7	ハフマン符号のコンパクト性、Elias 符号	ハフマン符号のコンパクト性、および算術符号の一種である Elias 符号を理解する。
8	符号構成法の復習	いくつかの重要な情報源符号化法に関する理解を深める。
9	通信路符号化のモデル	通信路符号化のモデルについて理解する。
10	通信路符号化定理	情報理論における最も重要な定理のひとつである通信路符号化定理を理解する。
11	誤り訂正符号の基礎	通信路符号化定理と関連の深い、誤り訂正符号の概念を理解する。
12	謝り訂正符号の例	ハミング符号、拡大ハミング符号の構成法と、その符号化法、復号法を理解する。
13	情報理論と暗号	暗号通信のモデルと、完全秘匿性を有する暗号方式について理解する。

14 公開鍵暗号

公開鍵暗号の概念と、RSA 暗号について理解する。また、暗号を利用したプロトコルについて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの学習内容を完全に把握しておくこと。授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Web からの配布による。

【参考書】

情報理論 ―基礎から応用まで―、中川聖一著（近代科学社）

【成績評価の方法と基準】

講義への貢献度、課題の出来 20%、定期試験 80%によって評価する

【学生の意見等からの気づき】

講義中に演習問題を提示することで理解を高める。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

In this course, you will learn mathematical definitions of information, the concept of entropy, methods of data compression, etc.

COT211KA-CS-245

プログラム設計

栗田 太郎

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラム設計の基本概念と原理原則を理解した上で、構造化プログラミング、構造化分析設計、データ中心設計、ソフトウェアのテスト、オブジェクト指向分析設計、デザインパターン、契約による設計、形式手法、形式検証等について学び、実践的なプログラム設計とプログラミングに向けた基礎的な力を養成する。

【到達目標】

本授業を受講すると、プログラム設計の基本事項、原理原則、構造化プログラミング、構造化分析設計、オブジェクト指向分析設計等について理解し、他者に説明ができるようになる。そして、数千行のプログラムの設計や、各種言語や記法を用いた思考や設計の表現、他者の設計表現のレビュー、ソフトウェアやプロジェクトの品質特性との紐づけ等を行い始めることができるようになる。さらに、プログラム設計に関する発展的な事項に関する独習を行うことができるようになる。

また、基本情報技術者試験と応用情報技術者試験のシラバスの中でプログラム設計に関係する事項を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、プログラム設計についての基本的な知識や発展的な事項、とくに設計に関する考え方や態度について学ぶ。さらに、授業時間や授業時間外における演習、演習課題、授業時間における受講生同士の議論・対話により、設計に関する知識への理解を有機的に深くしながら、プログラムや設計書、記法の品質、とくに分かりやすさや、説明の仕方等について学んでいく。

また、受講生が課題やリアクションペーパーに書いた質問や意見を、講師が授業時間において受講生のプライバシーに配慮しつつ紹介・回答することで、疑問点を解消したり、クラス全体で学びを深めたりする。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	プログラム設計の概要	オリエンテーションの後、プログラム設計の概要と歴史。2 回目以降で取り扱う事項の紹介を行う。
2	ソフトウェアおよびその開発とプログラム設計	ソフトウェアおよびその開発の全体像とプログラム設計との関係性について紹介する。
3	プログラム設計の原理原則と構造化プログラミング	プログラム設計に関する基本的な用語の説明の後、よく知られた原理原則や構造化プログラミングについて紹介する。
4	構造化分析設計 1	構造化分析設計の基礎について具体例を交えながら説明する。
5	構造化分析設計 2	構造化分析設計の演習を行う。各自が設計した流れ図等を、グループでレビューし合ったり、議論したりする。
6	データ中心設計	データの取り扱い、データ中心設計、各種表記方法について紹介する。

7	プログラムのテストとレビュー	ソフトウェアのテストの全体像とプログラムのテストとレビューの技法について紹介する。単体テストとレビューの演習も行う。
8	ワークショップ 1	第 7 回までの内容を用いる設計とプログラミングの演習を行う。グループで討議し、より良い設計について対話を通して考えていく。
9	オブジェクト指向分析設計 1	オブジェクト指向分析設計の基礎についてその基本概念を具体例を交えながら説明する。
10	オブジェクト指向分析設計 2	オブジェクト指向分析設計の演習を行う。各自が設計したクラス図等を、グループでレビューし合ったり、議論したりする。
11	デザインパターン	オブジェクト指向分析設計におけるデザインパターンについて解説する。その他のパターンについても紹介する。
12	契約による設計と形式手法・形式検証	契約による設計と、プログラムの証明等のための形式手法・形式検証について紹介する。
13	ワークショップ 2	第 12 回までの内容を用いる設計とプログラミングの演習を行う。グループで討議し、よりよい設計について対話を通して考えていく。
14	まとめ	発展的な内容について紹介するとともに、授業全体の振り返りとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 回目開始以降、授業資料を用いて、授業後の復習、他受講生との議論・対話の内容の整理、授業前の準備学習、演習課題への取り組み等を行う。本授業の予習・復習等の時間は、1 回につき、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。授業にて資料を提示する。

【参考書】

Brian W. Kernighan, P. J. Plauger: プログラム書法 (第 2 版), 共立出版 (1982)。

Brian Kernighan, Rob Pike: プログラミング作法, アスキー (2000)。トム・デマルコ: 構造化分析とシステム仕様 (新装版), 日経 BP 出版センター (1994)。

バートランド・メイヤー: オブジェクト指向入門 (第 2 版) - 原則・コンセプト -, 翔泳社 (2007)。

バートランド・メイヤー: オブジェクト指向入門 (第 2 版) - 方法論・実践 -, 翔泳社 (2008)。

Eric Gamma, Richard Helm, Ralph Johnson, John Vlissides: オブジェクト指向における再利用のためのデザインパターン (改訂版), ソフトバンククリエイティブ (1999)。

荒木 啓二郎, 張 漢明: プログラム仕様記述論, オーム社 (2002)。

【成績評価の方法と基準】

参加度合: 30%

レポート課題: 35%, 最終課題: 35%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業においても閲覧しやすい、また、授業の後に復習や参照がしやすい配付資料を作成する。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具およびノート PC

【その他の重要事項】

正しい知識と基礎的な実践力を身につけると同時に、正解がないことに関して、他受講生との対話を通して、考察を深めていくことが重要である。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic concepts and various methods for program design, including structured programming, structured analysis and design, data-oriented design, software testing, object-oriented analysis and design, design pattern, design by contract, formal methods, and formal verification. Students are expected to learn the basics of these issues and methods, and to build up their ability to apply them in practice.

COT311KA-CS-242

オペレーティングシステム

山田 浩史

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペレーティングシステム (OS) の基本概念と実装技術、およびその内部構造についての基礎知識を学ぶ。OS は、裸のままでは扱いにくいハードウェアを抽象化し、より扱いやすい仮想的なコンピュータをユーザに見せるソフトウェアである。Linux や Windows 8 がその代表格である。OS はハードウェアとアプリケーションを繋ぐ要のような役割を担っており、コンピュータが動作する仕組みを知るには OS の理解が必須である。

【到達目標】

OS の概念、実装技術、および内部構造についての基礎知識を身につけることを目標とする。また、OS の理解を通じて、コンピュータの動作原理についての理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

OS の基本概念を講義していく。具体的には、プロセスやスレッド、スケジューリング、同期、仮想記憶、割り込み処理、ファイルシステムといった内容について講義を行う。また、進捗を見つつ、理解を深めるために適宜プログラミング演習を行ってレポートを課す。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	OS の基本概念について学ぶ。
2	I/O デバイスと割り込み	I/O デバイスや割り込みを OS がどのように制御するかについて学ぶ。
3	ファイルシステム (1)	OS のディスク管理方法について学ぶ。ファイルという考え方やファイルの管理方法について学ぶ。
4	ファイルシステム (2)	前回の続き。
5	システムコールと保護	システムコールの基本概念、OS によって達成される保護について学ぶ。
6	プロセスとスレッド	プロセスとスレッドの基本概念、違いについて学ぶ。
7	演習 (1)	これまでの講義で扱った内容の理解を深めるプログラミング演習を行う。
8	スケジューリング	OS の CPU 管理方法について学ぶ。スケジューリングの基本概念について学ぶ。
9	相互排除と同期 (1)	相互排除の基礎を学ぶ。クリティカルセクション、ロック等の考え方を学ぶ。
10	相互排除と同期 (2)	前回の続き。
11	演習 (2)	これまでの講義で扱った内容の理解を深めるプログラミング演習を行う。
12	仮想記憶 (1)	OS のメモリ管理方法について学ぶ。仮想/物理アドレス、ページング、スワッピングについて学ぶ。

13 仮想記憶 (2)

前回の続き。

14 演習 (3)

これまでの講義で扱った内容の理解を深めるプログラミング演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習時に課されたレポートを行う。本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

河野健二著、オペレーティングシステムの仕組み、朝倉書店
Abraham Silberschatz 著、Operating System Concepts 9th Edition.
詳解 Linux カーネル 第 3 版、オライリージャパン

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習課題の解説分量を増やすようにする。

【その他の重要事項】

C 言語を用いたプログラミングをこなせることが必須である。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of operating systems, such as their concepts, designs, and implementation. The operating system is a fundamental software layer that controls applications and underlying hardware. It abstracts bare-metal hardware and provides intelligent interfaces to applications.

型システムと関数型言語

雪田 修一

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

型システムと関数型プログラミングの諸概念を代表的な言語である **Haskell** を用いて学ぶ。**Functor**, **Applicative**, **Monad**, **Monoid** などの概念を多数の具体例の計算を通して理解する。

【到達目標】

学生は関数型言語の型システムとその上で実行される入出力や状態をもつ計算の仕組みを理解し、副作用のない純粋な関数型の計算から副作用を隔離する機構である **Monad** を適切に使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

Haskell によるプログラミング体験を通じて型システムの実際を知る。型推論の意義と問題点を理解する。授業中にプログラミングを行うため **PC** を持参する必要がある。授業中の議論に受講生の積極的な参加を求める。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と方法を説明する。履修すると判断した場合は次回までに Haskell の開発環境を構築しておく。
第 2 回	Believe the Type	教科書 chapter 1. Type variable , type class を学ぶ。
第 3 回	Syntax in Functions	Pattern matching , guards , where , let , case などの用法を学ぶ。
第 4 回	Hello Recursion!	Recursion に親しむ。 Quick sort を例にとる。
第 5 回	Higher Order Functions	Curried function , lambda expression , fold , ($\\$) などについて学ぶ。
第 6 回	Modules	Module の扱いと作成方法を学ぶ。
第 7 回	Making Our Own Types and Type classes	新しい type や type class の作成方法を学ぶ。 Functor という type class に触れる。型の型である Kind を理解する。
第 8 回	Input and Output	Pure な世界と副作用のある世界の分離を monad 機構で実現する。
第 9 回	More Input and More Output	乱数の扱いに触れる。簡単なゲームを作成する。
第 10 回	Functionally Solving Problems	逆ポーランド電卓、経路探索などへの簡単な応用。
第 11 回	Applicative Functors	Functor をさらに強化する機構について学ぶ。
第 12 回	Monoids	Monoid は様々な場面で登場する計算パターンであることを学ぶ。
第 13 回	A Fistful of Monads	Monad 則について学ぶ。
第 14 回	まとめ	期末試験で取り上げる題材をもとに全てのトピックのまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の課題への取り組み。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Learn You a Haskell for Great Good!,

Miran Lipovaca,

No Starch Press.

Kindle 版もある。PDF is freely available.

【参考書】

Haskell - the craft of functional programming (3rd edition)

Simon Thompson

Addison Wesley

【成績評価の方法と基準】

期中レポート (50%), 期末試験 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

授業に必要なソフトウェアをうまく使えない学生がいた。躓きの主な原因は **OS**、ファイルシステム、シェルなどの基本が分かっていない所にあることを発見した。これらについては別の基礎科目で扱われているが適宜補足が必要であることを痛感した。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 **PC** を授業中に使用する

【Outline and objectives】

We study a type system and functional programming with **Haskell**. The concepts of functor, applicative, monad, and monoid are treated with concrete examples.

COT311KA-CS-244

ソフトウェア工学

栗田 太郎

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソフトウェア工学の基本概念とその重要性を理解した上で、ソフトウェア開発プロセス、アジャイル開発とスクラム、要求の獲得と分析、要求の仕様化、仕様書の記述、形式手法と形式仕様記述、検証と妥当性確認、ソフトウェアの実現、レビューとテスト、プロジェクトと品質のマネジメント等について学び、実践的なソフトウェア開発やシステム開発、他者と協働するチーム開発に向けた基礎的な力を養成する。

【到達目標】

本授業を受講すると、ソフトウェア工学の基本事項、様々な開発プロセス、開発の各工程における様々な技法、背景にある考え方等について理解し、他者に説明できるようになる。そして、受講後のソフトウェア開発において、様々な有機的な知識に基づいた、開発の特性に合わせた技法の組み合わせや開発計画の立案、実践等を行い始めることができるようになる。さらに、ソフトウェア工学やシステム工学に関する発展的な事項に関する独習を行うことができるようになる。

また、基本情報技術者試験と応用情報技術者試験のシラバスの中でソフトウェア工学に関係する事項を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、ソフトウェア工学についての基本的な知識や発展的な事項、とくに複数人で行う実開発の理想と現実について学ぶ。さらに、授業時間や授業時間外における演習、演習課題、授業時間における受講生同士の議論・対話により、設計に関する知識への理解を有機的に深くしながら、様々な技法の実践、仕様書をはじめとする文書の品質、品質やプロジェクトのマネジメント、様々なトレードオフ等について考えていく。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。また、受講生が課題やリアクションペーパーに書いた質問や意見を、講師が授業時間において受講生のプライバシーに配慮しつつ紹介・回答することで、疑問点を解消したり、クラス全体で学びを深めたりする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ソフトウェア工学の概要	オリエンテーションの後、ソフトウェア工学の概要と歴史、技術者と倫理、2 回目以降で取り扱う事項の紹介を行う。
2	ソフトウェア開発プロセス 1	ソフトウェア開発プロセスの概要、その種類と特性について解説する。
3	ソフトウェア開発プロセス 2	プロセスの開発と改善に関する演習を行う。各自がデザインしたプロセスモデルを、グループでレビューし合ったり、議論したりする。
4	アジャイル開発プロセス 1	アジャイル開発とスクラムの基礎について解説する。
5	アジャイル開発プロセス 2	スクラムに関する演習を行う。振り返り等の関連事項についても紹介する。

6	要求工学 1	要求工学の概要を紹介するとともに、システムおよびソフトウェアの開発の全体像と要求工程との関係性について解説する。
7	要求工学 2	要求を抽出・分析するための様々な技法について説明する。関連して、人間中心設計についても紹介する。
8	ワークショップ 1	第 7 回までの講義内容を用いる演習を行う。グループで討議し、要求工程における課題を整理していく。
9	仕様書の記述と検証	要求の仕様化と仕様の記述・検証について解説する。検証と妥当性確認の違いについても述べる。
10	形式手法と形式仕様記述	厳密な仕様を記述するための形式手法、形式仕様記述言語等について事例を交えて解説する。
11	ソフトウェアの実現とテスト	ソフトウェアの実現とテストに関する技法や課題について説明する。レビューについても触れる。
12	プロジェクトと品質のマネジメント	プロジェクトマネジメントとシステムの品質について説明する。セーフティーやセキュリティについても触れる。
13	ワークショップ 2	第 12 回までの講義内容を用いる演習を行う。グループで討議し、仕様書等の記述と品質の課題を整理していく。
14	まとめ	発展的な内容について紹介するとともに、授業全体の振り返りとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 回目開始以降、授業資料を用いて、授業後の復習、他受講生との議論・対話の内容の整理、授業前の準備学習、演習課題への取り組み等を行う。本授業の予習・復習等の時間は、1 回につき、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。授業にて資料を提示する。

【参考書】

Ian Sommerville: Software Engineering (10th Edition), Pearson (2015).

玉井 哲雄: ソフトウェア工学の基礎, 岩波書店 (2004).

ロジャー S. プレスマン: 実践ソフトウェアエンジニアリング, 日科技連出版社 (2005).

中谷 多哉子, 中島 震: ソフトウェア工学, 放送大学教育振興会 (2019).

荒木 啓二郎, 張 漢明: プログラム仕様記述論, オーム社 (2002).

マイケル・ジャクソン: ソフトウェア要求と仕様 - 実践, 原理, 偏見の辞典 -, エスアイビー・アクセス (2014).

SQuBOK 策定部会: ソフトウェア品質知識体系ガイド (第 3 版) - SQuBOK Guide V3 -, 日科技連出版社 (2020).

【成績評価の方法と基準】

参加度合: 30%

レポート課題: 35%, 最終課題: 35%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業においても閲覧しやすい、また、授業の後に復習や参照がしやすい配付資料を作成する。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具およびノート PC

【その他の重要事項】

正しい知識と基礎的な実践力を身につけると同時に、正解がないことに関して、他受講生との対話を通して、考察を深めていくことが重要である。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic concepts and various techniques for software engineering, including software development process, agile development and scrum, requirements elicitation and analysis, requirements specification, formal specification, verification and validation, software implementation, review and testing, project management, and quality management. Students are expected to learn the basics of these issues and techniques, and to build up their ability to apply them in practice.

八巻 隼人

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、そして今後の情報基盤アーキテクチャの根幹を成す「並列処理」と「分散処理」についてその基礎から学ぶ。

スマートフォンや携帯ゲーム機からパソコン・スーパーコンピュータに至るまで、現在使われている殆どの計算機システムは、複数の処理列を同時に実行させて処理を進める並列分散処理の構成になっている。本講義では、並列・分散システムの基盤技術を俯瞰することにより、ハードウェアから OS・アプリケーションに至るまでの様々なレイヤにおける並列・分散処理について学ぶ。

【到達目標】

本講義では、並列分散処理に関わるハードウェアやソフトウェアがいかにして並列化を実現しているか、またそれに伴う諸問題についても理解することを最終的な目標とする。その過程で、プロセス・スレッドレベルでの簡単な並列プログラミング手法についても修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は主に配布資料を用いた講義形式により行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

進み具合に応じて数回の理解度チェック課題を課す。

また中間課題として課す演習においては、並列分散処理ライブラリ等を利用したプログラミングを行うことから、C/C++の基本的なプログラミング知識を有することを前提とする。

試験は期末のみを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	並列分散処理の目的と歴史的経緯	並列分散処理についてのイントロダクション。 それらの歴史的な技術の変遷を辿り技術領域を明らかにする。
第 2 回	並列分散システムの結合レベル	アーキテクチャの見地からシステム構成方式の技術を見る。分散処理と並列処理の違いを結合レベルの観点で説明する。
第 3 回	並列システムの相互結合網	並列システムの相互結合網をコスト、スケーラビリティから検討し、プログラムモデルとの関わり学ぶ。
第 4 回	並列システム事例・並列アルゴリズム	これまでに開発されたシステム事例を紹介する。並列アルゴリズムとの関連を理解する。
第 5 回	並列分散システムのソフトウェア	並列分散システムを効率良く動かすためのシステムソフトウェア及びプログラミング言語の技術について学ぶ。
第 6 回	分散システムにおける通信モデル	通信プロトコル、クライアント・サーバモデル、遠隔手続き呼出しといった、分散処理で使われる通信方式や処理技術を学ぶ。
第 7 回	分散システムにおける同期・排他制御	複数のコンピュータが相互に不整合を起こさず、正しい処理を行うための同期方式や排他制御方式を学ぶ。

第 8 回	線形時間・分散合意・分散ロック	同期手段の代表的な実現方式として線形時間や分散合意、ロックなどの技術を学ぶ。
第 9 回	障害検出・復帰方式	システムに障害は不可避であり、その障害を検出する手法や、障害から復帰する手法について学ぶ。
第 10 回	認証・暗号化	分散システムで欠くことのできない認証や暗号化について学ぶ。
第 11 回	分散トランザクション	データベースやそこでのトランザクション処理を並列/分散化する手法について学ぶ。
第 12 回	並列処理における粒度と命令レベル	並列処理で性能を向上するには並列化の粒度が重要になる。ここではまず命令レベルでの細粒度並列処理から学ぶ。
第 13 回	並列処理の実際	並列処理向のプログラミング言語の課題を学ぶ。均質型の並列 CPU 型だけでなく、GPU やメモリアを併用したヘテロジニアス計算についても学ぶ。
第 14 回	クラウドを支える基盤技術	近年注目されているクラウド基盤について、それを実現する技術や使われているシステムソフトウェアについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は講義前に Web 配布するので、必要に応じて予習しておくこと。

前述したように数回のレポート課題を課す予定なので、その場合にはしっかりとレポートを作成すること。本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキスト、参考書は指定しない。講義資料は講義前に web 上にアップロードする。

【参考書】

参考書は必要があれば講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポートを 60%、中間レポート・出席レポートを含む平常の学習状態や授業への積極性を 40%の配点とし、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

質疑はいつでも受け付けるので 気軽にメールすること。

【Outline and objectives】

In recent years, most computer systems, such as mobile phones, PCs, and supercomputers, use technique of parallel and distributed processing for high-speed and multi-task processing. This course introduces the basic techniques of "parallel processing" and "distributed processing" for various layers (from a hardware layer to an OS/application layer).

新ネットワーク理論

廣津 登志夫

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではネットワーク科学と呼ばれる情報科学の分野としては比較的新しいテーマを取り扱う。現在の科学技術の多くの部分は 19 世紀から 20 世紀にかけて還元要素法に基づいて築き上げられてきた学問に基づくが、ネットワーク科学では離散構造（離散数学）で学ぶグラフに対して複雑系という概念を導入し、これまでは解明が難しかった自然現象や生命現象を新たなアプローチで解き明かそうとするものである。具体的には、それぞれの動作は単純だが、それらが集団となって行動するときには創発的な複雑な振舞いを見せるような系について、新たな科学での方法論について学ぶ。

【到達目標】

複雑系は比較的新しい学問分野であり、単純な動きをする多数のエージェントによる少ない資源をめぐる競争において、フィードバックにより相互に影響を及ぼし合いながら形成される複雑な系（ネットワーク）としてシステムを捉える。複雑系の中にどのような普遍性があるのかを理解することを一つの目標とする。さらに発展的な目標として、現実あるいは仮想的な世界にどのように応用できるかについても考える力をつけることが挙げられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はニール・ジョンソンの「複雑で単純な世界」とバラバシの「新ネットワーク思考 世界のしくみを読み解く」を用いて複雑系に見られる事象や基礎的な概念を理解する。講義が中心とするが、複雑系に関するトピックを NetLogo を用いたマルチエージェントプログラムにより実現することで、理解を深める。最新の科学技術に関する話を聞き、補足的な情報を自分で調べ、全体的な理解を深めることが求められるため、話からノートを作成し自分で資料化する力をつけること。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	複雑な要素・複雑な現象	1. 複雑性の意味 2. 創発現象の予測 3. 複雑性だらけの毎日 4. 八つの条件
第 2 週	NetLogo 紹介	1. NetLogo とは？ 2. NetLogo の世界 3. NetLogo の GUI 4. NetLogo プログラミング
第 3 週	秩序ポケットの出現	1. 秩序と無秩序の間 2. 情報のフィードバック 3. 宇宙と乱雑さ 4. 乱雑さと偏り
第 4 週	カオスとフラクタル	1. 複雑系のダイナミクス 2. 時系列の規則性とランダムネス 3. 複雑系のモデル化
第 5 週	群衆の行動の予測	1. 「二者択一」問題 2. 週末の夜の過ごし方 3. 意思決定の科学 4. 群衆と反群衆
第 6 週	金融市場の動向の予測	1. 金融市場とフィードバック 2. 標準モデルの限界 3. 株式市場の類似挙動 4. 暴落の分類学 5. 予測可能ポケット

第 7 週	複雑性とネットワーク	1. 動的ネットワーク 2. ネットワークの生態学 3. 栄養取り回しモデル 4. 不変な構造 5. 公平さと効率のバランス
第 8 週	最適ネットワーク	1. ルート選びのジレンマ 2. 輸送・供給・経営・人体 3. 渋滞税による制御 4. スーパーハブ 5. ハブの適正限界
第 9 週	六次の隔たり	1. 六次の隔たり 2. ミルグラムの実験 3. 社会的ネットワークの大きさ 1. 強い絆と弱い絆
第 10 週	弱い絆の強さ	2. 弱い絆の強さ 3. ランダムネットワーク
第 11 週	ネットワーク構造	1. 構造の定量化 2. クラスタリング係数 3. エルディッシュ数 4. ワッツ・ストロガッツのモデル
第 12 週	スケールフリーネットワーク	1. ハブとコネクタ 2. 80 対 20 の法則 3. べき乗則 4. スケールフリー性
第 13 週	無秩序と秩序の相転移	1. 相転移 2. 自己組織化 3. 成長するネットワーク 4. 優先的選択 5. 適応度モデル
第 14 週	感染症とネットワーク科学	1. 感染とネットワーク構造 2. コミュニティの相互作用 3. 感染症流行解析 4. 癌成長のモデル化と対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。講義後に配布する講義資料を元に、講義中にとったノートとその内容の双方を確認し、補足的な調査を行う、という基本的な理解の手順を復習として行うこと。課題やレポートが出たものについては必ずメットまでに提出すること。

【テキスト（教科書）】

講義内容はスライドで提示し、講義を進めるので各自でノートを取る。講義後にスライドを元にした参考資料を CIS Moodle から提供する。

【参考書】

以下の参考文献は講義初回でも紹介する
「複雑で単純な世界」ニール・ジョンソン（著）、阪本 芳久（翻訳）
「新ネットワーク思考 世界のしくみを読み解く」アルバート・ラズロ・バラバシ（著）、青木 薫（翻訳）
Wilensky, Uri; Rand, William. An Introduction to Agent-Based Modeling: Modeling Natural, Social, and Engineered Complex Systems with NetLogo (MIT Press)
「ガイドツアー 複雑系の世界」メラニー・ミッチェル
「つながり 社会的ネットワークの驚くべき力」ニコラス・A・クリスタキス／著 ジェイムズ・H・ファウラー／著 鬼澤忍／訳
「スモールワールド・ネットワーク 世界を知るための新科学的思考法」ダンカン ワッツ（著）、Duncan J. Watts（原著）、辻 竜平（翻訳）、友知 政樹（翻訳）
「スモールワールド ネットワークの構造とダイナミクス」ダンカン ワッツ（著）、Duncan J. Watts（原著）、栗原 聡（翻訳）、福田 健介（翻訳）、佐藤 進也（翻訳）
「複雑な世界、単純な法則 ネットワーク科学の最前線」マーク・ブキャナン、阪本 芳久
「複雑ネットワークの科学」増田 直紀（著）、今野 紀雄（著）

「複雑ネットワークとは何か複雑な関係を読み解く新しいアプローチ」増田直紀(著), 今野紀雄(著)

「SYNC」スティーヴン・ストロガッツ

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 80%, 課題レポートを含む平常の学習状態や授業への積極性を 20%の配分で総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 Note PC を使用する場合があります。講義回毎の使用の可否は教員の指示に従うこと。

【その他の重要事項】

本講義で取り扱うのはグラフに基づく理論的なネットワークで、インターネットやイントラネットなどの実際に稼働しているネットワークの制御・運用等の技術に触れるものではないので、科目選択においては注意すること。

本講義は担当教員の企業での情報科学・ネットワーク科学に関する研究・開発の経験を元に複雑系やネットワーク科学に関する講義を行う。

【Outline and objectives】

This course introduces a knowledge and technologies related network science. Network science is a new research area based on the graph theory, that is used to express the problems of complex systems. Students are expected to expand their knowledge and to understand new area of the computer science topics during this lecture.

情報・ネットワークセキュリティ入門

上田 浩

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、情報システムやネットワークシステムおよびそれらを通じて提供される様々のサービスに存在する脆弱性やリスク、それらに対応するための情報セキュリティ対策の基礎を解説する。

【到達目標】

高度化する情報化社会で、安全で快適な生活をおくるための、また社会人として情報システムやネットワークシステムを安全にかつ効果的に駆使し活動できるための、基本的知識の習得と対策方法の理解を目標とする。

更に、主要なマルウェアや攻撃手法などの特徴を説明でき、それらの被害にあわないための対策や留意点について説明できることを、目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

まずは、情報化時代に生きる学生、社会人として必要な情報セキュリティに関する知識、被害にあわないための情報セキュリティ対策の基本について、(独) 情報処理推進機構がまとめたテキストをベースに説明する。

次に、情報セキュリティ対策を構成する主要な情報セキュリティ要素技術の基本的メカニズムを説明する。

最後に、実際の情報サービスを構成する、サーバ、ネットワーク、クライアントのそれぞれが、実際に直面する脅威の説明とその対策技術の概要について説明する。

授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報セキュリティリテラシー（1）	(1) 本授業の概要・目的・目標や、本授業の進め方、レポート、試験の扱いなどの説明 (2) 情報セキュリティ読本を使用し、第1章「今日のセキュリティリスク」、第2章「情報セキュリティの基礎」の説明
2	情報セキュリティリテラシー（2）	情報セキュリティ読本を使用し、第3章「見えない脅威とその対策」を説明 * マルウェア－見えない化が進む * 共通の対策 * 標的型攻撃と誘導型攻撃への対策 * フィッシング詐欺への対策 * ワンクリック不正請求への対策 * 無線 LAN に潜む脅威とその対策
3	情報セキュリティリテラシー（3）	情報セキュリティ読本を利用し、第4章「組織の一員としての情報セキュリティ対策」を説明 * 組織のセキュリティ対策 * 従業員としての心得 * 気を付けたい情報漏洩 * 終わりの無いプロセス

4	情報セキュリティリテラシー（4）	情報セキュリティ読本を使用し、第5章「もっと知りたいセキュリティ技術」を説明 * アカウント、ID、パスワード * 攻撃手法 * 脆弱性を悪用する攻撃 * ファイアウォール * 暗号とデジタル署名
5	情報セキュリティリテラシー（5）	情報セキュリティ読本を使用し、第6章「情報セキュリティ関連の法規と制度」を説明 * 情報セキュリティの国際標準 * 情報セキュリティに関する法律 * 知的財産を守る法律 * 迷惑メール関連法 * 情報セキュリティ関連制度 * 暗号技術体系、AES などの共通鍵暗号、RSA などの公開鍵暗号」の説明 * 暗号とは * 共通鍵暗号 ブロック暗号とストリーム暗号 * 公開鍵暗号 RSA 暗号 * ハッシュ関数 * デジタル署名 * 暗号の分類、特徴のまとめ * 日本政府の暗号技術に対する体制 * 暗号の利用場面
7	セキュリティ要素技術（2）	「公開鍵基盤（PKI）とその応用」の説明 * 暗号技術の再確認 * PKI（公開鍵基盤）が提供する機能、サービス、効果 * PKI を支える技術 * PKI を構成するコンポーネント * PKI の例 * PKI 応用システム
8	セキュリティ要素技術（3）	「バイオメトリクス認証技術」の説明 * バイオメトリクス認証とは * 本人確認におけるバイオメトリクス認証の位置づけ * 各種バイオメトリクス認証方式の概要紹介 * バイオメトリクス認証プロセス * バイオメトリクス認証の将来動向
9	セキュリティ要素技術（4）	「耐タンパー性、情報ハイディング技術」の説明 * 暗号技術の再確認 * 暗号機能が適切に機能するには * 耐タンパー性とは * 暗号モジュールの安全性評価 * 秘密分散技術 * 情報ハイディング技術（ステガノグラフィ、電子透かし）

- 10 サーバのセキュリティ (1) 「サーバ側の技術的対策、物理的対策」の説明
 * 情報サービスシステムの基本モデル
 * サーバの適切なアクセス制御のために
 * サーバの情報漏えい防止のために
 * サーバの情報の完全性保証のために
 * 物理的アクセス制御 (入退室管理)
- 11 サーバのセキュリティ (2) 「Web アプリケーションのセキュリティ」の説明
 * Web アプリケーション
 * Web アプリケーション開発と情報セキュリティ
 ①バッファオーバーフロー
 ②クロスサイトスクリプティング
 ③ SQL インジェクション
 * フィッシング
 * ファーミング
 * 安全な Web サイトをつくるために
- 12 ネットワークのセキュリティ (1) 「SSL、VPN などのネットワークサービスのセキュリティ技術」の説明
 * インターネットの歴史
 * IP v 4 概要とそのセキュリティ
 * IP v 6 概要とそのセキュリティ
 * SSL(Secure Socket Layer)
 * VPN (Virtual Private Network)
 * 無線 LAN 概要とそのセキュリティ
- 13 ネットワークのセキュリティ (2) 「不正アクセスと対策技術」の説明
 * 不正アクセスとは
 * 技術的対策
 ・ FireWall
 ・ Intrusion Detection System
 * サービス妨害とその対策
 ・ Denial of Service
 ・ Distributed Denial of Service
- 14 クライアントのセキュリティ 「クライアント (PC) の脅威と対策技術」の説明
 * クライアント PC の課題
 * クライアント PC 向けマルウェア
 ・ ウイルス
 ・ ワーム
 ・ トロイの木馬
 ・ 悪意のモバイルコード
 ・ 混合攻撃
 ・ スパイウェアとしての追跡クッキー
 ・ データロガーなどの攻撃ツール
 * クライアント PC における情報漏えい
 * シンクライアント

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

①テキストに指定した「情報セキュリティ読本 五訂版: IT 時代の危機管理入門」の内容は、社会人には必須の情報セキュリティの常識、是非熟読していただきたい。

② TV、新聞等で報道される情報セキュリティに関する事件・事故・課題などについても関心を持ち、現社会の状況を理解しておいていただきたい。

③本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

①情報セキュリティ読本 五訂版: IT 時代の危機管理入門 (独) 情報処理推進機構編 実教出版発行

②講義で使用する資料 (各回の講義前にネット経由配布)

【参考書】

①情報セキュリティ教本 ー組織の情報セキュリティ対策実践の手引きー (独) 情報処理推進機構編 実教出版発行

【成績評価の方法と基準】

課題 (50%)、テスト/アンケート (50%) で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアルタイムオンライン授業を望む声が少数あったため、課題に対するフィードバックを強化する。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の大学における全学レベルの情報システム・情報セキュリティに関する研究開発の経験に基づき実践的なセキュリティ技術に関する講義を行う。

実務経験

- ・大学の情報システム・ネットワークの管理運用
- ・ネットワークトラフィックの計測と分析
- ・クラウドシステムの企画と運用
- ・情報セキュリティポリシーの策定と運用・普及

【Outline and objectives】

In this course, you will learn basic knowledge about information security. More precisely, you will learn vulnerability and risk of the computer system, and learn countermeasures against cyber attacks.

プログラミング 3(Java)

黄 潤和

必修区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システムの構築を目的として、Java 言語によるプログラミングの基本を学ぶ。

【到達目標】

Java 言語によるプログラミングの基本を理解する。特に Java 言語の構文とオブジェクト指向プログラミングの基礎を修得する。さらに具体的な情報システムを構築するプログラミング技術を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に Java 言語の基本構文を扱い、その後、Java 言語によるオブジェクト指向プログラミングに関して、クラス、インスタンス、継承、カプセル化等を扱う。これらに並行して、ヒューマンコンピュータインタラクション、人工知能等に関連する情報システムを構築する課題を課す。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Java とは？	授業のガイダンス、Java 言語の初歩
2	基本構文	Java 言語の基本構文
3	メソッド	メソッドの利用
4	復習 (1)	復習と発展課題 (1)
5	クラスとインスタンス	クラスとインスタンスの利用
6	再帰	再帰の利用
7	ジェネリクスとコレクション	ジェネリクスとコレクションの利用
8	復習 (2)	復習と発展課題 (2)
9	継承	クラスの継承
10	カプセル化	オブジェクトのカプセル化
11	例外とファイル処理	例外の利用とファイル処理
12	復習 (3)	復習と発展課題 (3)
13	復習 (3) (続き)	復習と発展課題 (3) (続き)
14	まとめ	授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習、復習を行い、課題のプログラムを作成すること。準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

高橋麻奈, やさしい Java 第 7 版, SB クリエイティブ, 2019. ISBN 978-4815600846

【成績評価の方法と基準】

課題 (30%) と試験 (60%) に加え、授業中の参加の度合・貢献度 (10%) を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC を使用する。

【その他の重要事項】

プログラミング 1 (C/C++), プログラミング 2 (C/C++) の講義内容を理解していることを前提とする。

【Outline and objectives】

Students learn basics of programming in the Java language with the view of constructing information systems.

COT211KA-CS-203

プログラミング 3(Java)

細部 博史

必修区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システムの構築を目的として、Java 言語によるプログラミングの基本を学ぶ。

【到達目標】

Java 言語によるプログラミングの基本を理解する。特に Java 言語の構文とオブジェクト指向プログラミングの基礎を修得する。さらに具体的な情報システムを構築するプログラミング技術を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に Java 言語の基本構文を扱い、その後、Java 言語によるオブジェクト指向プログラミングに関して、クラス、インスタンス、継承、カプセル化等を扱う。これらに並行して、ヒューマンコンピュータインタラクション、人工知能等に関連する情報システムを構築する課題を課す。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Java とは？	授業のガイダンス、Java 言語の初歩
2	基本構文	Java 言語の基本構文
3	メソッド	メソッドの利用
4	復習 (1)	復習と発展課題 (1)
5	クラスとインスタンス	クラスとインスタンスの利用
6	再帰	再帰の利用
7	ジェネリクスとコレクション	ジェネリクスとコレクションの利用
8	復習 (2)	復習と発展課題 (2)
9	継承	クラスの継承
10	カプセル化	オブジェクトのカプセル化
11	例外とファイル処理	例外の利用とファイル処理
12	復習 (3)	復習と発展課題 (3)
13	復習 (3) (続き)	復習と発展課題 (3) (続き)
14	まとめ	授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習、復習を行い、課題のプログラムを作成すること。準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

高橋麻奈, やさしい Java 第 7 版, SB クリエイティブ, 2019. ISBN 978-4815600846

【成績評価の方法と基準】

課題 (30%) と試験 (60%) に加え、授業中の参加の度合・貢献度 (10%) を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC を使用する。

【その他の重要事項】

プログラミング 1 (C/C++), プログラミング 2 (C/C++) の講義内容を理解していることを前提とする。

【Outline and objectives】

Students learn basics of programming in the Java language with the view of constructing information systems.

HUI212KA-CS-231

ヒューマンコンピュータインタラクション

細部 博史

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人とコンピュータの対話とその媒介手段についての理解を目的として、ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI) とユーザインタフェース (UI) を学ぶ。

【到達目標】

UI の設計・開発・評価に必要な考え方を身に付け、実際にグラフィカルユーザインタフェース (GUI) のプログラミングと評価ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

人とコンピュータの対話を意味する HCI とその媒介手段である UI について学ぶ。最初に HCI の基本として、その概要と歴史、人のインタフェース特性、人と人工物のインタフェースを学ぶ。次に具体的な UI に関して、現在一般的な UI のデバイスと、代表的 UI である GUI の概要を学んだ後、イベント駆動とオブジェクト指向の考え方に基づく GUI のプログラミングに関する演習を行う。GUI のプログラミングには Python 言語を用いる。さらに UI の使いやすさの評価方法を学んだ後、先の演習で作成した GUI の評価に関する演習を行う。最後に GUI に限らない HCI の様々な手法と今後の HCI について学ぶ。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	HCI とは？	授業のガイダンス、HCI の概要と歴史
2	人のインタフェース特性	人の感覚、言語能力、記憶、情報処理
3	人と人工物のインタフェース	アフォーダンス、ユーザモデル、デザインモデル
4	UI のデバイス	キーボード、マウス、ディスプレイ等のデバイス
5	GUI	GUI の画面、特徴、短所と対策
6	GUI プログラミング	イベント駆動とオブジェクト指向による GUI のプログラミング
7	GUI プログラミング演習 (1)	GUI プログラミングの演習
8	GUI プログラミング演習 (2)	GUI プログラミングの演習 (続き)
9	UI 評価	UI の使いやすさの評価方法
10	UI 評価演習 (1)	先の演習で作成した GUI の評価
11	UI 評価演習 (2)	先の演習で作成した GUI の評価 (続き)
12	HCI の手法	GUI に限らない HCI の手法
13	次世代 UI	GUI に限らない今後の HCI
14	まとめ	授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書・講義資料の予習、復習を行い、課題のプログラムとレポートを作成すること。
準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

椎尾一郎, ヒューマンコンピュータインタラクション入門, サイエンス社, 2010. ISBN: 978-4781912608

他に担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題 (30%) と試験 (60%) に加え、授業中の参加の度合・貢献度 (10%) を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC を使用する。

【Outline and objectives】

Students learn human-computer interaction (HCI) and user interfaces (UIs) with the view of understanding how and by what means humans and computers interact.

COT211KA-CS-241

データベース

日高 宗一郎

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを組織化してデータベース管理システムのもとに一括管理し、多数のユーザの共有資源とするデータベースの考え方を理解する。

【到達目標】

現実問題に即したデータベースの設計ができる技能を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

大規模で高度に複雑な情報システム技術であるデータベースについて理解するため、データモデル、データベース設計、データ操作言語、データベース管理システム等について学ぶ。課題については締切後解説・フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	データベースとは？	ガイダンス、及び、概論。
2	リレーショナルデータモデル -構造記述-	集合論に基づいたリレーショナルデータベースの構造記述について学ぶ。
3	リレーショナルデータモデル -意味記述-	リレーションという構造的枠組みではとらえられない実世界の制約の扱いについて学ぶ。
4	リレーショナル代数	リレーション群に格納されるデータを操作するデータ操作言語について学ぶ。
5	SQL	リレーショナルデータベース言語 SQL の問合せに関して学ぶ。
6	リレーショナルデータベース設計	実世界の情報構造を把握し、的確に表現するための、実体-関連モデルを用いたリレーショナルデータベース設計について学ぶ。
7	正規化理論 -更新時異状と情報無損失分解-	リレーション更新時の異状と、それを解消するための情報無損失分解の理論を理解する。
8	正規化理論 -関数従属性-	正規形を規定するために重要な、関数従属性について理解する。
9	正規化理論 -高次の正規化-	リレーションの正規化理論について学ぶ。
10	データベース管理システム	データベース管理システムの標準アーキテクチャと 3 層スキーマ構造について学ぶ。
11	質問処理の最適化	質問処理とは何かを理解し、その最適化について学ぶ。
12	トランザクション	トランザクションの概念を理解し、データベースの一貫性を保証する仕組みについて学ぶ。
13	同時実行制御	トランザクションの同時実行制御の仕組みについて学ぶ。
14	ビッグデータと NoSQL およびまとめ	ビッグデータと NoSQL について学ぶ。 本講義を通じて学んだ知識やスキルを整理し、今後の学習に活かせるようにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習。

課題が指示された場合は、課題レポート提出。

本授業の準備・復習時間は、計週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

データベース入門 [第 2 版]

増永良文著

サイエンス社

(2021)

【参考書】

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム 新訂版, サイエンス社 (2003)

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム・NoSQL 第 3 版, サイエンス社 (2017)

IT Text データベースの基礎 オーム社 (2019)

その他、適宜、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題レポートおよび授業内試験 (30%)、定期試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

演習の機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのデータベースプログラミング言語に関する研究の経験を反映している。

【Outline and objectives】

This course covers the fundamental roles of databases to organize and uniformly manage data through database management systems and to serve as shared resources for many users.

坂本 寛

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを組織化してデータベース管理システムのもとに一括管理し、多数のユーザの共有資源とするデータベースの考え方を理解する。

【到達目標】

現実問題に即したデータベースの設計ができる技能を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

大規模で高度に複雑な情報システム技術であるデータベースについて理解するため、データモデル、データベース設計、データ操作言語、データベース管理システム等について学ぶ。課題については締切後解説・フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	データベースとは？	ガイダンス、及び、概論。
2	リレーショナルデータモデル	集合論に基づいたリレーショナルデータベースの構造記述について学ぶ。
3	リレーショナルデータモデル	リレーションという構造的枠組みではとらえられない実世界の制約の扱いについて学ぶ。
4	リレーショナル代数	リレーション群に格納されるデータを操作するデータ操作言語について学ぶ。
5	SQL	リレーショナルデータベース言語 SQL の問合せに関して学ぶ。
6	リレーショナルデータベース設計	実世界の情報構造を把握し、的確に表現するための、実体-関連モデルを用いたリレーショナルデータベース設計について学ぶ。
7	正規化理論	リレーション更新時の異状と、それを解消するための情報無損失分解の理論を理解する。
8	正規化理論	正規形を規定するために重要な、関数従属性について理解する。
9	正規化理論	リレーションの正規化理論について学ぶ。
10	データベース管理システム	データベース管理システムの標準アーキテクチャと 3 層スキーマ構造について学ぶ。
11	質問処理の最適化	質問処理とは何かを理解し、その最適化について学ぶ。
12	トランザクション	トランザクションの概念を理解し、データベースの一貫性を保証する仕組みについて学ぶ。
13	同時実行制御	トランザクションの同時実行制御の仕組みについて学ぶ。
14	ビッグデータと NoSQL およびまとめ	ビッグデータと NoSQL について学ぶ。 本講義を通じて学んだ知識やスキルを整理し、今後の学習に活かせるようにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習。

課題が指示された場合は、課題レポート提出。

本授業の準備・復習時間は、計週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

データベース入門 [第 2 版]

増永良文著

サイエンス社

(2021)

【参考書】

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム 新訂版, サイエンス社 (2003)

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム・NoSQL 第 3 版, サイエンス社 (2017)

IT Text データベースの基礎 オーム社 (2019)

その他、適宜、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題レポートおよび授業内試験 (30%)、定期試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

演習の機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのデータベースプログラミング言語に関する研究の経験を反映している。

【Outline and objectives】

This course covers the fundamental roles of databases to organize and uniformly manage data through database management systems and to serve as shared resources for many users.

HUI213KA-CS-221

人工知能

赤石 美奈

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能という学問分野について、基礎知識を修得します。

人工知能は、計算機により、知的な振る舞いの再現を目指した学問分野です。

計算機上で知的行動を再現するための基盤技術として、様々な知識表現、推論手法、探索手法、学習手法が研究されてきました。本講義では、人工知能の基礎を理解することをテーマに、汎用な基盤技術に焦点を当てて解説と演習を行います。

【到達目標】

人工知能という技術分野について、他の人に十分な説明を行うことができるようになります。特に、論理的な知識表現の方法、知識を用いた推論方法、探索木を用いた探索手法、新しい知識を得るための学習手法について、基礎的な考え方と、古典的な実現手法を学びます。

例題を通して、上記の手法について、具体的な操作手順を身に付けることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を基本としています。講義の中では、概念を教えるだけでなく、例題を用いて振る舞いを説明します。そして、例題の一部の形を変えた演習問題に取り組んでもらいます。また、より深い理解をするために、課題が提出されます。課題は、自宅にて復習として問題を解き、解答をレポート形式にまとめて提出してもらいます。演習や課題の正解解答について、授業時間内に説明・フィードバックすることで、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人工知能とは何か	本講義全体で学ぶ概要について説明します。 人工知能の歴史を学び、人工知能研究の背景についての知識を学びます。
第 2 回	知識表現	知識にはどのような種類があり、それをどのように表現するかを学びます。 特に、論理式表現（命題論理、述語論理）による知識について深く学びます。
第 3 回	手続的知識	代表的な手続的知識として、プロダクションシステムを学びます。 エキスパートシステムの考え方を学びます 意味ネットワーク、スクリプトなどの知識表現についても学びます。
第 4 回	推論	3 種類の推論（帰納、仮説、演繹）を学びます。 前向き、後ろ向き推論の違いを学びます。

第 5 回 確率推論

意味ネットワーク、フレームに確率を用いた推論方法を学びます。
ベイズの推論の基礎を学びます。
ファジー推論、事例ベース推論についての知識を学びます。ついて

文脈を表現するスクリプトについて学びます。

第 6 回 探索

探索の定式化について学びます。

第 7 回 深さ優先・幅優先探索

探索のグラフ表現を学びます。

深さ優先探索について学びます。

第 8 回 中間試験

幅優先探索について学びます。

本講義の前半で学んだことについて、確認テストを実施します。

第 9 回 ヒューリスティック

山登り法について学びます。

A*アルゴリズムについて学びま

す。

第 10 回 ゲーム木探索

2 人プレイヤーのゲームについて、

MIN-MAX 法や $\alpha \beta$ 枝刈りな

どの

探索手法を学びます。

第 11 回 制約充足問題

四色塗り分け問題について考え

ます。

制約充足問題としての定式化を理

解します。

第 12 回 学習と決定木

機械による学習の手順について学

びます。

一般化という考え方を学びます。

ID3 決定木を紹介します。

第 13 回 ニューラルネットワー

ク

ニューラルネットワークの基礎を

学びます。

第 14 回 まとめ

人工知能についての最近の話題も

含めて、研究動向を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

教科書として指定したテキスト、Web 上の資料を事前に学習します。課題が与えられた場合には、解を導き、レポートにまとめて提出します。レポートは、解だけでなく、解を導き出した過程についても十分な説明を行うことが求められます。課題の解答については、翌週の授業内で解説します。

【テキスト（教科書）】

人工知能入門 -歴史、哲学、基礎・応用技術-

J. フィンレー、A. ディックス

サイエンス社、2006 年

【参考書】

エージェントアプローチ 人工知能 第 2 版

Stuart Russel, Peter Norvig

共立出版、2008 年

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績を 40%、期末試験の成績を 60%とし、成績評価する。演習の取組状況、課題の提出状況について、加点することがあります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるために、演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器使用（任意項目）

ネットワークを利用

演習にはノート PC を利用

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員の企業での人工知能システムの研究開発に関する経験に基づく人工知能に関する講義である。

【Outline and objectives】

Students learn the basic knowledge of artificial intelligence. Artificial intelligence is an area for studying intelligent behaviors and thinkings by computer. Knowledge representation, inference, search and learning are four of the most important basic issues in artificial intelligence. This lecture introduces the brief history and the base of artificial intelligence, and take practices for using the echnologies.

HUI213KA-CS-221

人工知能

藤田 悟

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能という学問分野について、基礎知識を修得します。
人工知能は、計算機により、知的な振る舞いの再現を目指した学問分野です。
計算機上で知的行動を再現するための基盤技術として、様々な知識表現、推論手法、探索手法、学習手法が研究されてきました。本講義では、人工知能の基礎を理解することをテーマに、汎用な基盤技術に焦点を当てて解説と演習を行います。

【到達目標】

人工知能という技術分野について、他の人に十分な説明を行うことができるようになります。特に、論理的な知識表現の方法、知識を用いた推論方法、探索木を用いた探索手法、新しい知識を得るための学習手法について、基礎的な考え方と、古典的な実現手法を学びます。
例題を通して、上記の手法について、具体的な操作手順を身に付けることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を基本としています。講義の中では、概念を教えるだけでなく、例題を用いて振る舞いを説明します。そして、例題の一部の形を変えた演習問題に取り組んでもらいます。また、より深い理解をするために、課題が提出されます。課題は、自宅にて復習として問題を解き、解答をレポート形式にまとめて提出してもらいます。演習や課題の正解解答について、授業時間内に説明・フィードバックすることで、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人工知能とは何か	本講義全体で学ぶ概要について説明します。 人工知能の歴史を学び、人工知能研究の背景についての知識を学びます。
第 2 回	知識表現	知識にはどのような種類があり、それをどのように表現するかを学びます。 特に、論理式表現（命題論理、述語論理）による知識について深く学びます。
第 3 回	手続的知識	代表的な手続的知識として、プロダクションシステムを学びます。 エキスパートシステムの考え方を学びます 意味ネットワーク、スクリプトなどの知識表現についても学びます。
第 4 回	推論	3 種類の推論（帰納、仮説、演繹）を学びます。 前向き、後ろ向き推論の違いを学びます。

第 5 回 確率推論

第 6 回 探索

第 7 回 深さ優先・幅優先探索

第 8 回 中間試験

第 9 回 ヒューリスティック

第 10 回 ゲーム木探索

第 11 回 制約充足問題

第 12 回 学習と決定木

第 13 回 ニューラルネットワーク

第 14 回 まとめ

意味ネットワーク、フレームに確率を用いた推論方法を学びます。
ベイズの推論の基礎を学びます。
ファジー推論、事例ベース推論についての知識を学びます。ついて学びます。
文脈を表現するスクリプトについて学びます。
探索の定式化について学びます。
探索のグラフ表現を学びます。
深さ優先探索について学びます。
幅優先探索について学びます。
本講義の前半で学んだことについて、確認テストを実施します。
山登り法について学びます。
A*アルゴリズムについて学びます。
2 人プレイヤーのゲームについて、MIN-MAX 法や $\alpha \beta$ 枝刈りなどの探索手法を学びます。
四色塗り分け問題について考えます。
制約充足問題としての定式化を理解します。
機械による学習の手順について学びます。
一般化という考え方を学びます。
ID3 決定木を紹介します。
ニューラルネットワークの基礎を学びます。
人工知能についての最近の話題も含めて、研究動向を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。
教科書として指定したテキスト、Web 上の資料を事前に学習します。
課題が与えられた場合には、解を導き、レポートにまとめて提出します。レポートは、解だけでなく、解を導き出した過程についても十分な説明を行うことが求められます。課題の解答については、翌週の授業内で解説します。

【テキスト（教科書）】

人工知能入門 -歴史、哲学、基礎・応用技術-
J. フィンレー、A. ディックス
サイエンス社、2006 年

【参考書】

エージェントアプローチ 人工知能 第 2 版
Stuart Russel, Peter Norvig
共立出版、2008 年

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績を 40%、期末試験の成績を 60%とし、成績評価する。演習の取組状況、課題の提出状況について、加点することがあります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるために、演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器使用（任意項目）
ネットワークを利用
演習にはノート PC を利用

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員の企業での人工知能システムの研究開発に関する経験に基づく人工知能に関する講義である。

【Outline and objectives】

Students learn the basic knowledge of artificial intelligence. Artificial intelligence is an area for studying intelligent behaviors and thinkings by computer. Knowledge representation, inference, search and learning are four of the most important basic issues in artificial intelligence. This lecture introduces the brief history and the base of artificial intelligence, and take practices for using the echnologies.

COT311KA-CS-204

プログラミング 4(Java)

馬 建華

必修区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To learn important programming techniques for making practical information systems using Java APIs of GUI, file operations, socket communication, and Web server-client programming.

【到達目標】

Students should master basic knowledge and skills for practical GUI implementation, file I/O programming, thread programming, basic server-client network programming, and typical Web programming techniques.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will start from GUI programming using Java Swing and JavaFX, then file I/O operations and network programming using sockets and threads, to Web programming using Java Servlet and JSP. When learning the associated programming knowledge, students will do related programming drills, and complete many programming exercises. In each class, students are requested to make practice of given programs and then complete homework within a week.

I will take up the tasks (quizzes and reports, etc.) imposed in the class, and will give feedback to students in the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Basic Java programming review and course teaching guidance
2	GUI Basic	Simple GUI by Swing and AWT
3	GUI Event	Java event handling and graphic panels
4	GUI Component and Layout	Various Java Swing components and layouts
5	GUI by JavaFX (I)	JavaFX components and layouts
6	GUI by JavaFX (II)	JavaFX controls and events
7	GUI and Animation	GUI review, and GUI-based animation programs
8	File Operations	File I/O, streams, read and write
9	Multi-Thread Programming	Thread, multi threads, thread programming, and animations
10	Basic Network Programming	HTTP, Web server access APIs, and socket communications
11	Threaded Network Programming	Server-client sockets programmed using threads
12	Web Programming - Servlet	HTML, HTTP, servlet APIs, session, and program
13	Web Programming - JSP	Java sever pages, JSP APIs, and JSP programming
14	General Review	Review of GUI, file, thread, and network programming

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習，復習を行い，課題に対するレポートの作成を行うこと。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を配布する。

【参考書】

高橋麻奈, やさしい Java 活用編 第 5 版, 2016.

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%), 毎回の課題 (40%), 試験 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Give more explanations and hints in doing homework.

【学生が準備すべき機器他】

Bring Note PC to the class.

【その他の重要事項】

Submit homework before the deadline.

Ask the teacher and TAs when having any questions in teaching content and programming.

【Outline and objectives】

The course content consists of three main parts, GUI with Swing and JavaFX, file operations, thread usage, socket programming for group communications, and Web programming with servlet and JSP. Students are expected to master basic knowledge and practical programming.

コンピュータネットワーク

馬 建華

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course attempts to provide the unified knowledge about computer networks and important Internet protocols as well as basic network programming techniques.

【到達目標】

Students are expected to understand fundamental architecture and technologies in computer networks and the Internet, and master basic network programming skills using Python.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

This course covers general technologies of computer networks and the Internet, and network programming techniques. The network technologies are taught in a top-down approach, that is, starting from application protocols in the top layer, then going to the middle in transport and interconnect layers, and finally moving to the bottom of link and physical layers in networks. Not only the paper-based homework, students will also do network programming, namely in a way of learning by doing.

I will take up the tasks (quizzes and reports, etc.) imposed in the class, and will give feedback to students in the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Communications and Networks	Communication history, general networking technologies, and packet-based communications
2	Network Interconnections and Models	OSI reference model, Internet reference model, components, architecture and IP address
3	Internet Application Protocols	Application Protocols: Server-Client, FTP, TFTP, TELNET, DNS etc.
4	HTTP and Web Access	HyperText Transfer Protocol and basic Web server access programming
5	Email Protocols and Programming	Email related application protocols and basic email sending/receiving programming
6	Internet Transport Technologies	Purpose and functions of transport protocols, and Internet transport protocols UDP and TCP
7	Socket Programming I	User datagram protocol and related socket programming
8	Socket Programming II	Transmission control protocol and related socket programming
9	IP Datagram Routing & Processing	IPv4 and IPv6 protocols, and IP addressing schemes

10	IP Datagram Fragmentation and Control	Datagram routing techniques, ARP, ICMP and DHCP
11	IPv6 and Network Management	IPv6 protocol, network management utilities, SNMP, packet analyzer/sniffer
12	Wired Communications and Networks	Transmission media, modulation, QAM, LAN, Ethernet, ADSL
13	Wireless Communications and Networks	Access point, ad-hoc network, WiFi, Bluetooth, ZigBee, WiMax, etc.
14	General Review	Summary of network technologies and emerging networks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read the corresponding lecture note before each class, review the teaching content after each class, do the homework assigned in each class after the class, and submit each homework before its deadline. 本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Online course materials provided by this teacher.

【参考書】

Computer Networking: Principles, Protocols and Practice, Olivier Bonaventure, 2011.
Data Communications and Networking, Fourth Edition, Behrouz A. Forouzan, McGraw-Hill, 2012.
Learning Python Network Programming, M. O. Faruque Sarker and Sam Washington, Packt Publishing, 2015.
ネットワークはなぜつながるのか, 第 2 版, 戸根 勤, 日経 BP 社, 2007.
マスタリング TCP/IP 入門編, 第 5 版, 竹下 隆史, 村山 公保, 荒井 透, 荻田 幸雄, 2012.

【成績評価の方法と基準】

Learning Performance (15%), Homework (35%) and Final Test (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Give more explanations of homework answers.

【学生が準備すべき機器他】

Note PC

【その他の重要事項】

All programming will be done in Python. Students must have the certain Python programming knowledge and skills.

【Outline and objectives】

The course covers the network technologies and important protocols with following both ISO network 7-layers model and the Internet reference model. The students are expected to well understand how a general network and the Internet work.

COT311KA-CS-343

サービスコンピューティング

佐治 信之

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネット上に展開される様々なサービスと、それを支える Web システムについての各種の基本技術を学び、実サービス構築で求められるセキュリティ技術、セッション管理、データ表現方式について理解する。

手元の PC 上で簡単な Web サイトを動作させながら個々の Web 技術の理解を深める。

さらに、最近のサービス動向や事例を踏まえながら、サービス改善やサービス創出における課題理解とそれに役立つ情報技術の考え方の基礎を身につける。

【到達目標】

Web システムの基本技術について理解し、HTTP と HTML の役割を説明できる。

Web システムにおけるブラウザと Web サーバの役割、サーバ構築方法、ブラウザ操作言語、Web セキュリティ等の主要な技術について説明できる。

Web システムにおけるサービス構成方法について説明できる。クラウドコンピューティングに代表される最新のサービスコンピューティング技術について基本部分を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

Web システムの仕組みを、HTML やプログラミング言語を用いて実装を交えて説明する。また、実際にオープンソースのさまざまなツールを用いて簡易の Web システムの動作確認による演習を行う。様々なサービス事例の紹介を通じて、その背景（課題等）と技術の関係を知ってもらう。

各自の理解度を知るために、授業内の小テスト等を活用する。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	サービスとは何か	サービス視点、顧客体験視点の重要性、およびサービス産業の動向や IT(情報技術) との関係について紹介する。
第 2 回	Web の基本技術 1	Web を支える基本技術として、Web サーバから Web ブラウザに情報が表示されるまでの仕組みについて学ぶ。
第 3 回	Web の基本技術 2	Web サーバの基本的なアーキテクチャについて学ぶ。また、オープンソースの Web サーバを立ち上げる。
第 4 回	Web セキュリティ 1	共通鍵・公開鍵方式等の暗号技術の基礎と、Web を支える暗号通信について学ぶ。
第 5 回	Web の状態管理	Cookie、Session を用いて、状態を保持した Web システムの構築手法を学ぶ。
第 6 回	データベースと Web サーバ	データベースと Web サーバを使って、動的な Web ページを作成する技術について学ぶ。

第 7 回	Web セキュリティ 2	Web 構築の際に考慮すべきセキュリティ事項を明らかにする。そのための対処法も学ぶ。
第 8 回	Web システム構築	Web システムの構築を通じて、Web の主要技術について再確認する。
第 9 回	DOM と AJAX	Web 文書のオブジェクトモデルと非同期通信を用いた Web ページの更新方式として AJAX を学ぶ。
第 10 回	データ表現	さまざまなデータ表現の方法を学ぶとともに、XML の基礎と文書のスキーマ定義等について理解する。
第 11 回	Web サービスとインタフェース	インタフェースの重要性、通信とデータ表現の利用シーンを学ぶ。仮想マシンとコンテナ技術について理解する。
第 12 回	サービスコンピューティング基盤技術	データセンター、クラウドコンピューティング、NoSQL、MEAN スタック等の最新動向および技術について学ぶ。
第 13 回	サービス事例とサービスサイエンス	サービス事例およびサービスドミナントロジックに代表されるサービス研究について学ぶ。
第 14 回	総復習	全講義を通じて重要事項の総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内の小テスト等を利用して自己の理解度を把握すること。講義資料を活用して理解を深めること。本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料を用いる

【参考書】

講義内に紹介する

【成績評価の方法と基準】

- ・ 期末試験の成績 (60%程度)
- ・ オンライン受講 (40%程度、平常点、講義内小テスト、講義貢献度)
- ・ レポート (配点比率未定、内容未定)

【学生の意見等からの気づき】

実際の Web サイトを使った動作確認により、理解を助ける工夫をする。

講義の冒頭で必要に応じて前週の復習と確認を行う。

講義中の小テスト等により、内容の理解度の確認を行う。

【学生が準備すべき機器他】

ネットワークを利用

Web サイト使用には各自のノート PC を用いる

【Outline and objectives】

This course provides an overview of the basic technologies of various services on the Internet and the Web systems, as well as web security, session management, and data representation methods expected in the building of actual services.

Students will also learn about Web technologies by running a simple website on their own PC.

Furthermore, students will learn about the fundamentals of information technology useful for understanding and solving problems in service improvement and service creation, based on recent service trends and case studies.

COT310KA-CS-253

オペレーションズリサーチ

小西 克巳

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な意思決定問題に対する数理モデルの構築やその解決を扱うオペレーションズリサーチについて学ぶ。問題を定式化するための知識、および、それらを解くための最適化手法や機械学習手法について学び、意思決定問題の抽象化や既存の解法から適切なものを選び求め、その妥当性を吟味することができることを目標とする。

【到達目標】

様々な意思決定問題の抽象化ができ、既存の解法から適切なものを選び求め、その妥当性を吟味することができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、必要に応じて演習も行う。

提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の構成と進め方に関するガイダンスおよびオペレーションズリサーチの概説
2	モデル化と数理計画問題	オペレーションズリサーチにおけるモデル化と数理計画問題の概要
3	線形計画法	線形計画法の概要、シンプレックス法の原理とシンプレックス法による線形計画問題の解法
4	整数計画法	双対問題、相補性条件
5	多変量解析	多変量解析の基礎と応用
6	主成分分析	主成分分析の基礎、教師なし学習としての主成分分析
7	クラスタリング	データのクラスタリング手法、教師なし学習とクラスタリング
8	これまでの復習と演習	第1回～7回までの復習と演習
9	ネットワーク最適化	最短経路問題などのネットワーク最適化問題と解法
10	ゲーム理論 (1)	ゲーム理論の概要
11	ゲーム理論 (2)	単純な問題とその解法、安定結婚問題
12	マルコフモデル	マルコフモデルの基礎
13	待ち行列理論 (2)	待ち行列モデルの理論
14	総復習と演習	第1回～13回までの復習と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考資料の予習、復習、課題への取り組み。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義にて指示。

【成績評価の方法と基準】

到達目標への達成状況を確認する期末試験の成績を100%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン（適宜指示する）

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of operations research to students and aims to help students acquire an understanding of mathematical formulation of the problem and methods to solve these problems.

COT311KA-CS-301

オブジェクト指向プログラミング

雪田 修一

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オブジェクト指向開発におけるデザインパターンを Java 言語を通じて学ぶ。

【到達目標】

GOF の 23 のパターンのうち特に多く使われている 12 のパターンに習熟し、オブジェクト指向開発でパターンを意識した設計やプログラミングができるようになる。デザインパターンの言葉を設計者・プログラマーの間のコミュニケーションツールとして使いこなせるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、1つのパターンを取り上げ、解説する。適宜、適用例をめぐって討論を行う。毎回、授業外で行うべき課題が出される。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Iterator パターンと Adapter パターン	最も優しい 2 つのパターンを取り上げ、講義の目的と方法を説明し、履修すべきか判断するための材料を提供する。教科書の Introduction に相当。
第 2 回	Template Method パターンと Factory Method パターン	抽象化の重要性を 2 つのパターンを通じて意識化する。
第 3 回	Singleton パターンと Prototype パターン	インスタンス生成の仮想化、抽象化について学ぶ。
第 4 回	Builder パターンと Abstract Factory パターン	オブジェクトの生成を抽象化するための Factory パターンについて学ぶ。
第 5 回	Bridge パターンと Strategy パターン	直交する抽象化階層を理解する。
第 6 回	Composite パターンと Decorator パターン	入れ子の構造の定石を学ぶ。
第 7 回	Visitor パターンと Chain of Responsibility パターン	Double dispatch の手法を体験する。
第 8 回	Facade パターンと Mediator パターン	異なるインターフェースを結合するパターンと様々なインターフェースの集まりに単純なインターフェースを提供するパターンについて学ぶ。
第 9 回	Observer パターンと Memento パターン	GUI ライブラリーで基本となるパターンを学ぶ。
第 10 回	State パターンと Flyweight パターン	有限状態マシンに対して、状態の追加がストレスなくできるパターンについて学ぶ。
第 11 回	Proxy パターンと Command パターン	メソッド呼び出しを抽象化してローカル、リモートの区別をクライアントプログラムから隠すためのパターンを学ぶ。

第 12 回 Interpreter パターン 簡易プログラミング言語の作成パターンについて学ぶ。

第 13 回 オブジェクト指向の一般原理 (1) Liskov substitution, Open closed, Dependency inversion などの原理を学ぶ。

第 14 回 オブジェクト指向の一般原理 (2) Composition over inheritance, Interface segregation, Least knowledge などの原理を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の課題に取り組む。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

増補改訂版 Java 言語で学ぶデザインパターン入門、結城浩、SoftBank Kindle 版もある。

【参考書】

Head First Design Patterns, E. Freeman, free online version is available.

【成績評価の方法と基準】

期レポート (50%), 期末試験 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

レポートの採点基準を事前に公示し、授業時間内で実例を交えて説明する必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン。

【Outline and objectives】

We study design patterns in object oriented software developments using the Java language. We focus on GOF's famous 23 patterns.

情報検索

相島 健助

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報検索の基盤となるアルゴリズム、手法、評価方法を理解することを目標とする。情報検索とは、google などの検索サービスの根幹となる技術であり、現在の情報アプリケーションの中で最も重要な技術の一つである。この技術は、全文検索と呼ばれる技術を基盤とし、様々な技術を加えて進歩してきた。本講義では、それらのうち中心的な技術の数理的な意味を理解することを目標とする。また、リコメンデーションなどの応用的な話題も紹介する。

【到達目標】

単に google などのしくみを理解するだけでなく、大量のテキスト情報を扱うアプリケーションを扱うための基本スキルを身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業研究などで実践的に役立つ技能の習得のために、取り上げる手法は、実際のデータが処理できる簡単なプログラミング例と関連付けて学びます。紹介する手法を簡単に実行するために、MATLAB などのプラットフォームや java のライブラリなどを利用します。演習課題を通して、処理手法の基礎を身に付けることを目標とします。課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法として、授業の初めに、前回の授業内で行った試験や小レポート等、課題からいくつか取り上げ、全体に対して講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この講義の意義とどのような内容をカバーするかを説明します。
2	情報検索概論	情報検索とは何かについて学びます。
3	検索キーワードと索引付け	情報検索に利用する検索キーワードの選定方法と、それを用いて、文書を索引付けする方法を学びます。
4	キーワードのスコア	検索キーワードのスコア付けの方法として TF/IDF 法などを学びます。
5	検索結果の改善法	検索結果の改善方法として、関連性フィードバックやクエリ拡張について学びます。
6	文書の信頼性尺度	文書の信頼性尺度として Pagerank について学びます。
7	簡単な検索演習	これまでに学んだことを実際にプログラミングする演習を行います。
8	画像の検索	画像検索の現状について説明します。残念ながら、純粋に画像の性質を使った検索ではなく、周囲の文字情報が用いられているようです。講義では、画像それ自体の情報を用いて検索をする場合に、利用可能な特徴量について説明します。それにより、画像間の類似度を定義します。
9	検索結果の評価	検索結果の評価尺度や評価方法について学びます。

10	商品の類似性、利用者の類似性	利用者の嗜好情報、購買履歴などのデータから、商品の類似性、利用者の類似性を計算する方法を理解します。
11	リコメンデーション	商品や利用者の類似性に基づき、利用者にリコメンデーションの商品を決定する方法を学びます。
12	クラスタリング	大量の多次元のベクトルであらわされた利用者の嗜好情報から、似た嗜好をもつグループをクラスタ化する方法を学びます。
13	XML ストリームデータ検索	インターネット情報を連続的に流れる XML データから、必要なデータだけを抽出する方法について学びます。
14	まとめ	課題の講評などを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関する課題を復習として出題する。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

書名: Introduction to Information Retrieval
 著者名: Christopher D. Manning/Prabhakar Raghavan/Hinrich Schütze
 出版社: Cambridge University Press
 出版年: 2008
 備考: <http://nlp.stanford.edu/IR-book/information-retrieval-book.html> で内容を確認することができる。
 日本語版は「情報検索の基礎」(共立出版)
 書名: 集合知プログラミング
 著者名: Toby Segaran
 出版社: オライリー・ジャパン
 出版年: 2008

【成績評価の方法と基準】

定期試験の点数 (60%) と課題 (40%) を総合して決定する。いずれかを行わなかったものは不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

難しい概念が多いため、説明のための具体例や演習の例題を多く示すことにする。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC を用いて演習を行う。授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

「統計学 1」(旧カリキュラムの「確率と統計」でもよい)、「線形代数の応用 2」を履修しておくこと。

【Outline and objectives】

This course covers algorithms, techniques, and evaluation methods for information retrieval. The information retrieval is a fundamental technique to search engines such as google, which is one of the most important techniques in current information applications. Since this kind of technique is based on full-text search, it is now successfully applied to other content-based searching. The purpose of this course is to understand mathematical aspects of the information retrieval. In addition, this course covers more advanced contents such as recommender systems.

HUI411KA-CS-322

ユビキタスコンピューティング

馬 建華

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course covers ubiquitous computers, devices, networks, applications and key technologies in ubiquitous systems and services.

【到達目標】

This course attempts to provide a unified overview of the broad field of ubiquitous computing. Students are expected to understand ubiquitous devices, networks and systems, as well as key technologies including context-awareness, smart u-things, IoT, security, privacy, etc.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

This course will first give general introductions of ubiquitous computing, essential devices, important networks and representative services, and then check various ubiquitous devices including RFID, e-tag, sensors, handhelds, wearable devices, robots, etc. as well as their typical applications. The context as a special kind of information in ubiquitous computing will be described in details and related context-aware computing technologies, systems and application will be presented. Various key issues in ubiquitous computing smartness, intelligence, security, safety, trust and related social issues will be discussed. Students are encouraged to ask questions in class and via email after class. All questions will be answered and feedback promptly in class or after class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Ubiquitous Computing	What is ubiquitous computing? History & features of ubiquitous computing related visions & technologies
2	Introduction to Ubiquitous Computers, Networks and Services	Various ubiquitous computers devices, pervasive networks and smart services
3	RFID Technologies and Applications	RFID categories, working mechanisms, standards, technologies, systems and applications
4	Sensors and Sensor Networks	Various sensors, their features, interconnections and applications
5	Handheld Devices, Wearables and Robots	Handheld devices, wearable devices, and robots in Ubicomp
6	Context and Context-Aware Computing	Context classifications, features and models, and context-aware computing
7	Context-Aware Technologies, Systems and Applications	Architectures of context-aware systems, and context-aware applications

8	Smart u-Things and Ubiquitous Intelligence	Classifications of smart things, and their techniques and intelligence
9	Internet/Web of Things	Characteristics of IoT/WoT, their typical applications, and technical challenges
10	Security, Safety and Trust in Ubiquitous Computing	Features and technologies of ubiquitous security, safety and trust
11	Social Issues in Ubiquitous Computing	Privacy, green/eco, and social issues in Ubicomp
12	Ubiquitous Activity Recognition	Activity categories of human and animal, data collection using ubiquitous devices, activity recognition algorithms and applications
13	Ubiquitous Emotion Recognition	Affective computing, sentiment analysis, vital sign sensors, emotion recognition
14	Emerging Ubiquitous Technologies	New ubiquitous technologies and applications

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read the corresponding lecture note before each class, review the content after each class, well prepare the requested report after class, and submit each report before its deadline. 本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Online course materials provided by this teacher.

【参考書】

・ Stefan Poslad, Ubiquitous Computing: Smart Devices, Environments and Interactions, Wiley, ISBN: 978-0-470-03560-3, 2009.
・ Q. Li and T.K. Shih, Ubiquitous Multimedia Computing, Chapman & Hall/CRC, ISBN: 978-1-4200-9338-4, 2010.
・ Related materials on the Internet

【成績評価の方法と基準】

毎回のミニレポート (20%), 4 回のテーマごとのレポート (40%), テスト (40%)

【学生の意見等からの気づき】

Provide more representative ubiquitous research.

【Outline and objectives】

The course consists of four parts, ubiquitous devices, ubiquitous networks and ubiquitous technologies and ubiquitous applications. The students are expected to have a comprehensive understanding on various aspects in ubiquitous computing.

FRI13KA-CS-232

コンピュータグラフィックス

小池 崇文

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータグラフィックスは、コンピュータサイエンスにおける情報可視化技術の中でも最も高度に進化し、商業的にも一定の成功を収めている技術である。授業ではコンピュータグラフィックスを理解するために必要な概念、数学、アルゴリズムを紹介しながら、コンピュータグラフィックス全般について講義を行う。学生が、コンピュータグラフィックスの概要を理解し、基本的なアルゴリズムを実装できるようになることを目標とする。

【到達目標】

CG の基本 3 要素であるモデリング、レンダリング、アニメーションについて理解し、簡単なプログラムを作成し、実際に CG を生成できるようになることを目標とする。本講義を通して CG 技術の全体像を理解することがテーマである。学生は、講義内容を実際に実装することで、より正しく深く理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とプログラミング演習を行う。プログラミング言語は Python を用いる。レイトレーシングソフトウェアとして POV-Ray を用いる。必要に応じて WebGL や他の CG 関連言語・ツールを用いる。課題の提出は Moodle で、質疑応答は GBC、メールの他、Slack を利用する。提出された課題の解説・フィードバックを随時実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、CG とは	モデリング、アニメーション、レンダリングの概要
2	カメラモデル	平行投影、射影変換、クリッピング
3	2 次元座標変換	2 次元座標系、アフィン変換、同次座標
4	3 次元変換	3 次元座標系、同次座標
5	ビューイングパイプライン、描画パイプライン	モデリング変換、視野変換、投影変換、クリッピング
6	形状モデル・ポリゴン	ワイヤーフレーム、サーフェース、ソリッドモデル
7	曲線・曲面	2 時曲線、パラメトリック曲線/曲面
8	ボリウム表現	ボクセル、メタボール
9	隠面消去	スキャンライン法、Z バッファ法、レイトレーシング法
10	シェーディング	シェーディングモデル
11	テクスチャマッピング	テクスチャマッピング、アンチエイリアシング、バンプマッピング
12	アニメーション	キーフレーム、手続き型アニメーション
13	物理シミュレーション	剛体・弾性体・衝突判定
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、テキストや講義資料の復習と課題に取り組む必要がある。必要に応じて PC でのプログラミングも行う。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

コンピュータグラフィックス 改訂新版, CG-ARTS 協会, 2015, 税抜 3,600 円 (電子版もあり)

【参考書】

コンピュータグラフィックス全般を体系的に学びたい学生は下記のテキストが良い。

Steve Marschner and Peter Shirley, Fundamentals of Computer Graphics, Fourth Edition, CRC Press, 2015.

John F. Hughes and et al., Computer Graphics: Principles and Practice, 3rd Edition, Addison-Wesley Professional, 2012.

【成績評価の方法と基準】

演習・課題 (70%), オンライン中間試験 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

講義と演習のバランスを取る。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC を使う。必要に応じて、関連ツールやソフトウェアのインストールを各自で行ってもらう。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での医療用画像処理や三次元映像技術、バーチャルリアリティに関する研究開発の体験を元に実践的なコンピュータグラフィックスに関する講義を行う。

事前に、CG のための幾何学を履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

Computer graphics is one of the most advanced information visualization technologies in computer science. In the course, I'll introduce concepts, mathematics and algorithms necessary for understanding computer graphics, and lecture on computer graphics in general.

HUI312KA-CS-332

パターン認識と機械学習

若原 徹

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータによるパターン認識と機械学習の基礎となる、統計的パターン認識および Deep Learning の考え方とその適用法を学ぶ。

【到達目標】

統計的パターン認識における生成モデルと識別モデルに基づくアプローチを理解し、それぞれの特長を説明できる。機械学習の代表的手法である Deep Learning の基礎理論を理解し、具体的実装法を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、ベイズの定理と誤り確率最小化に基づく統計的パターン認識の考え方を導入する。次いで、生成モデルに基づくアプローチを説明し、中心的課題である確率密度関数推定のための代表的手法を紹介する。さらに、識別モデルに基づくアプローチを説明し、線形識別関数法から、単層パーセプトロン、さらに多層パーセプトロンを紹介する。授業後半では、Deep Learning を取り上げ、理論を学びながら、Python プログラミングを用いて畳み込みニューラルネットワークの実装を行う。なお、授業内で実施するレポート課題の講評と解説を必ず行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	統計的パターン認識の考え方	クラスと特徴の結合確率、ベイズの定理と事後確率
第 2 回	ベイズ決定理論	誤り確率最小化、最適な決定領域、生成モデルと識別モデル
第 3 回	確率密度関数の推定 (1)	パラメトリックな方法としてのガウスモデルと最尤法
第 4 回	確率密度関数の推定 (2)	ノンパラメトリックな方法としてのカーネル密度推定法と k-近傍法
第 5 回	識別モデルに基づく識別関数法	線形識別関数による 2 クラスと多クラス分類
第 6 回	ニューラルネットワーク (1)	単層パーセプトロンから多層パーセプトロンへ
第 7 回	ニューラルネットワーク (2)	多層パーセプトロンの写像能力と誤差逆伝搬法による学習
第 8 回	Deep Learning(1)	Python による各種活性化関数とニューラルネットワークの実装
第 9 回	Deep Learning(2)	各種損失関数を用いた学習アルゴリズムとその実装
第 10 回	Deep Learning(3)	誤差逆伝播法とその実装
第 11 回	Deep Learning(4)	学習に関する様々な技法の実装
第 12 回	Deep Learning(5)	畳み込みニューラルネットワーク (CNN) とその実装
第 13 回	Deep Learning(6)	TensorFlow, Keras を利用した CNN の実装
第 14 回	まとめ	学習内容のまとめと重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列の演算）の復習
- [3] 指数関数や対数関数の微積分の復習
- [4] Python プログラミングの復習

[5] 本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を学内 Web サイトに公開。

【参考書】

- [1] 石井健一郎・上田修功・前田英作・村瀬洋著：「わかりやすいパターン認識」, 第 2 版, オーム社, 2019 年.
- [2] C. M. Bishop, "Neural Networks for Pattern Recognition", Oxford University Press, 1995.
- [3] 杉山将著：「統計的機械学習—生成モデルに基づくパターン認識」, オーム社, 2009 年.
- [4] 斎藤康毅著：「ゼロから作る Deep Learning」, オライリー・ジャパン, 2016 年.
- [5] F. Chollet 著, 巢籠悠輔監訳：「Python と Keras によるディープラーニング」, マイナビ出版, 2018 年.

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 20%, 定期試験 60%, 平常点 20%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- [1] 数式が難解であるため、考え方の基本から丁寧に説明を行う。
- [2] 講義が一方通行にならないように、質問時間を十分に取る。
- [3] プログラミングによる実装により、Deep Learning の理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

電子メールや学内 Web サイトへのアクセス等ネットワークを利用。

【その他の重要事項】

本講義は、担当教員の NTT 研究所での文字・画像認識に関わる研究実用化の経験を元に、パターン認識と機械学習に関する基礎から応用に渡る幅広く深い内容を含む。

【Outline and objectives】

This course deals with pattern recognition and machine learning by computer. First, students learn two major approaches based on generative model and discriminative model, respectively, from the viewpoint of statistical pattern recognition. Second, the new and powerful concept of "Deep Learning" is introduced and explained in detail. Students learn how to apply deep learning techniques to practical pattern recognition problems by means of Python programming.

プログラミング (MATLAB)

伊藤 克亘

必選区分： | 配当年次／単位：年次／4 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタルメディアの代表的データである画像や音声コンピュータで扱うための基本的な手法を知り、実際に各自が様々な処理をできるようにすることを目標とする。これらの手法は、数学的な理論に基づくものが大半である。本講義では、まず、数学的なアルゴリズムをプログラミングすることに慣れてもらうために、数学的な詳細には余り深入りせずに、個々の手法が、音声や画像のどのような特徴に関係するのか、など、具体的な応用を中心に学ぶ。これらの手法の理解は、「パターン認識と機械学習」「デジタル信号処理」「画像処理」「音声情報処理」などを履修するのに非常に役立つ。

【到達目標】

3 年次や卒業研究で、デジタル信号処理が必要になったときに MATLAB で問題解決できる基礎を身に付ける。具体的には、MATLAB でデータを表示できる。fft や filter 関数を使って加工できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

各授業の前半は、処理内容の説明、後半は、課題を解決するためのプログラミングを行う。どちらも必要に応じて受講生による発表を交えながら進める。

課題は、後半の授業で主要なものを発表させ、解説する。

最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。

また、最終課題のレポートに関しては、第 1 版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/MATLAB 入門	授業の目的の説明、および MATLAB の紹介
2	簡単な音声処理 (音声の時間領域処理)	音声データの入出力、重ね合わせ、連結、再生
3	簡単な画像処理	画像データの入出力と簡単な補正、加工
4	音声のフーリエ変換	FFT の使用方法と音声の周波数処理
5	フィルタ (音声の時間領域処理)	FIR フィルタ、IIR フィルタ
6	画像の周波数領域処理	FFT を用いたフィルタリング
7	画像の空間領域処理	畳み込みを用いたフィルタリング
8	音声データの相関	自己相関と信号の類似性
9	画像データの類似度	空間的な相関とそれを用いた複数画像の対応
10	複素信号	音声信号の複素数表現とそれを用いた周波数変調
11	画像の幾何学的処理	画像を空間的に変形させる手法
12	音声・画像の分類	教師つき分類
13	音声・画像処理の応用	これまで学んだことを応用してできる処理
14	まとめと最終課題の発表会	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とする。

準備学習として、テキストを読み予習課題に取り組む。演習時間に解けなかった課題をいくつか選び、宿題として完成させる。また、最終課題である自主課題は授業外も含めて取り組みレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

書名: MATLAB で学ぶ実践画像・音声処理入門

著者名: 伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘

出版社: コロナ社

出版年: 2019

【参考書】

書名: デジタル・サウンド処理入門

著者名: 青木直史

出版社: CQ 出版社

出版年: 2006

書名: Digital Signal Processing First, Global Edition

著者名: James H. McClellan, Ronald W. Schafer, Mark A. Yoder

出版社: Prentice Hall

出版年: 2016

書名: はじめての画像処理技術

著者名: 岡崎

出版社: 工業調査会

出版年: 2000

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (50%) および最終課題 (50%) で評価する。ただし、最大 20% 程度、予習課題や演習課題の取り組み状況および授業での発表などの平常点を加味する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

予習、宿題、教室での説明部分では、貸与ノート PC を利用することを前提とする。演習は貸与 PC を利用することを想定する。資料配布や課題提出、定期試験に授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

FFT の知識が必要なので「微積分法の応用」を履修していることを前提とする。また本講義で学ぶ技術の応用分野として「統計学 2」を並行して履修することを勧める。

また、受講希望者は、第 1 回の講義の前に、MATLAB をインストールすること。インストール方法は、情報センターの edu のページを参照すること。R2019b をインストールすること。

<http://software.k.hosei.ac.jp/others/>

https://software.k.hosei.ac.jp/matlab_manual/MATLAB_student.pdf (後者の URL は VPN で大学につないでいないとアクセスできないので注意)

【Outline and objectives】

In this lecture, you will learn basic techniques for processing images and sounds, which are representative types of digital media. Also, we aim to be able to exercise various processes by yourself. Most of these methods are based on mathematics. In this lecture, as an introduction, in order to get used to programming mathematical algorithms, it is not too deeply into mathematical details, how individual methods relate to features of sound and images, and so on, focusing on practical exercises. Understanding of these methods is useful for taking courses such as pattern recognition and machine learning, digital signal processing, image processing and speech processing.

COT211KA-CS-106

プログラミング演習 2(python)

伊藤 克亘

必選区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用的なソフトウェアアプリケーションの設計方法を学ぶとともに、プログラミング言語 Python を用いてシステムの実装を行う。演習を通して、思考を具現化する道具としての実際的なコンピュータの利用法を体験する。

【到達目標】

1. 応用的なプログラミング言語の機構（オブジェクト指向機能、ライブラリ機構など）を利用できる。
2. 代表的なソフトウェア構成を応用してシステムを実装できる。
3. プログラミング言語の問題解決の道具としての側面を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

応用的なソフトウェア開発課題を 3 テーマ与える。各テーマに対して与えられる段階的な課題を通して最終的な実装を得る。必要となる新しい概念やプログラミング言語の知識等は都度講義を行う。授業中に、TA に指定した回数だけ課題の確認を行うことを義務とする。

課題の進み具合によっては、GBC の TA に質問・相談することを義務とする。

課題は、授業で主要なものを発表させ、解説する。TA に対する質問などで重要なものは授業で解説する。

最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。

また、レポートに関しては、第 1 版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。

最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習/オブジェクト指向 (1)	Python と Tkinter により、プログラミングの基本を復習する。マッシュルームハントを題材に、Python によるオブジェクト指向の基本を学ぶ。クラスを用いたオブジェクトの実現方法 (1) を学ぶ。
2	オブジェクト指向 (2)	クラスを用いたオブジェクトの実現方法 (2)、オブジェクトを組み合わせる方法を学ぶ。
3	オブジェクト指向 (復習)	前回扱ったここまで扱った Python のオブジェクト指向機構について復習する。
4	オブジェクト指向 (継承)	機能拡張や抽象化の重要な仕組みである継承を学ぶ。
5	復習	これまで扱った題材の機能を拡張する課題に取り組む。
6	状態機械	State Machine を Python のオブジェクト指向機構を用いて実装する例を示す。この実装を応用して、レポート課題のハンターの思考・行動ルーチンを分かりやすく表現する方法についても紹介する。

7	Web アプリケーションの作成 (1)	ブラウザ上で、ユーザーから入力を得てサーバーで計算した結果をブラウザ上で表示するなど、CGI による動的コンテンツの方法を学ぶ。
8	相互レビュー	レポート課題を題材に、相互レビューの方法を学ぶ。
9	Web アプリケーションの作成 (2)	Form と呼ばれる CGI のユーザー入力部分を簡便に実現する仕組みを学ぶ。
10	Web アプリケーションの作成 (復習)	データを収集し、加工してブラウザに返す課題に挑戦する。Collection の扱いについて復習する。
11	データベース	Python に標準で備わっている DBMS である sqlite3 を用いて、単語帳データベースを構築する。
12	復習	データベースと CGI に関する課題に取り組む。
13	Document Object Model	DOM の考え方を理解し、document の論理構造と rendering の分離を CSS で行う方法を学ぶ。
14	相互レビュー (2)	レポート課題を題材に、相互レビューの方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

プログラム課題は授業時間外に各自で取り組む。

講義時間は、主に新しい概念や知識の説明および確認、質問の時間とする。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料

【参考書】

書名: たのしいプログラミング Python ではじめよう!

著者名: Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

出版社: オーム社

出版年: 2014

書名: Python で学ぶ実践画像・音声処理入門

著者名: 伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘

出版社: コロナ社

出版年: 2018

そのほか必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

各テーマのレポート課題 (30%,30%) および最終課題 (40%) で評価する。

ただし、各回で出題するプログラム課題を授業で発表した場合には加点する。また、それらの課題の取り組みを考慮する場合がある。指定された回数だけ授業中に TA に課題の確認をしなかった場合は減点する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を持参すること。

【Outline and objectives】

In this lecture, you will learn how to design software applications. In addition, students use the programming language Python to implement the system. Through the exercise, students experience practical computer programming as a tool to embody thinking.

HUI312KA-CS-331

デジタル信号処理

小池 崇文

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

信号処理は情報を数学的に取り扱う基盤技術である。ほとんどの情報がデジタル化する時代において、デジタル信号処理は最も重要な技術の一つであるといえる。授業では、数学的な基礎やデジタル信号処理における重要な概念を中心に講義を行う。

学生は、アナログ信号処理とデジタル信号処理の基本原則を理解できることを目標とし、信号を数学的に取り扱えるようになることを目指す。また、信号処理の簡単なプログラミングも学ぶ。

【到達目標】

フーリエ変換、ラプラス変換、 z 変換などの信号処理に必要な数学的基礎を理解し、実際に計算できるようになることを目標とする。また、サンプリング定理、伝達関数、フィルタについて理解し、数学的に取り扱えることを目標とする。さらに、デジタル信号処理の基本的な処理を Python で実装できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を行う。必要に応じて、Python や MATLAB を用いたプログラミング演習を行う。提出された演習問題の解説・フィードバックを随時実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、信号処理とは	アナログ信号処理とデジタル信号処理
2	フーリエ級数とフーリエ変換	フーリエ級数、複素フーリエ級数、フーリエ変換、フーリエ変換の性質、フーリエ変換の例
3	ラプラス変換	ラプラス変換、ラプラス変換の性質
4	逆ラプラス変換・連続時間システム	逆ラプラス変換、連続時間システムの性質
5	z 変換	z 変換、逆 z 変換、 z 変換の性質
6	離散フーリエ変換	離散フーリエ変換、離散フーリエ変換の性質
7	演習	学習した様々な変換に関する演習を行う。
8	離散時間システム 1	サンプリング定理、伝達関数、インパルス応答
9	離散時間システム 2	畳み込み、周波数応答
10	高速フーリエ変換	時間分割法、窓関数
11	フィルタ	フィルタの種類、フィルタの設計、周波数変換
12	デジタル IIR フィルタ	インパルス不変
13	FIR フィルタ	FIR フィルタ、窓関数法
14	まとめ	本講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当単元を予習と復習を行う。教科書の例題や演習問題を行う。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義資料を配布するが、以下の教科書を講義で使用する。

- 萩原 将文, デジタル信号処理 第 2 版・新装版, 森北出版, 2020.
- 渡部 英二 (監修), 基本からわかる信号処理講義ノート, オーム社, 2014.

【参考書】

- 金谷 健一, これならわかる応用数学教室, 共立出版, 2003. (主にフーリエ級数・変換に関して)
 - 原島 博, 信号解析教科書 -信号とシステム-, コロナ社, 2018.
- その他の参考書は、必要に応じて講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題 (60%), レポート課題 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

理解度を高めるために、演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

授業内に演習を行うため、貸与ノート PC を必要とする。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での医用画像処理や三次元映像技術に関する研究開発の知見を元に実務に必要な信号処理に関する講義を行う。プログラミング (MATLAB)、微積分法の応用:フーリエ級数と変換を履修中または、履修済みであることが望ましい。また、積分法の基礎と応用、複素関数論 1, 2, 交流回路と電磁波:周波数、過渡応答、ベクトル解析の履修も推奨する。

【Outline and objectives】

Signal processing is a fundamental technology to handle information mathematically. Digital signal processing is one of the most important technologies in the era when most information is digitized. In the class, I'll give a lecture focusing on mathematical foundations and important concepts in digital signal processing.

You aim to understand the basic principles of analog signal processing and digital signal processing and aim to be able to handle signals mathematically. Also you'll learn simple programming of signal processing.

画像処理

花泉 弘

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広範な画像処理関連技術を体系的に理解する。それぞれの処理手法の考え方や定式化を理解することで、卒業研究などで使えるように習熟する。

【到達目標】

画像に対する処理アルゴリズムがどのようなものであるのかを知るだけでなく、その底流をなす考え方を理解し、それらを組み合わせで各人に必要な処理を組み立てられるレベルを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

単に教科書の内容を説明するだけでなく、理解がより深まるように、なるべく多くの問題を解くような形式とする。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概略の説明と画像の取得システムおよび方法
2	デジタル画像の取得	撮影パラメータの説明
3	画像の性質と色空間	人間の感覚に合わせた色の表現法
4	画素ごとの濃淡変換	明るさやコントラストの変換、マスク処理など
5	空間フィルタリング	先鋭化と平滑化の手法
6	周波数フィルタリング	画像のフーリエ変換と周波数空間でのフィルタリング、実空間フィルタリングとの関連など
7	画像の復元と生成	画像のボケやブレの記述法および復元法
8	画像の幾何学的変換	アフィン変換や射影変換
9	2 値画像の処理	輪郭追跡や細線化の手法
10	領域処理 1	テクスチャと同時生起行列
11	領域処理 2	領域分割処理手法について
12	テンプレートマッチング	テンプレートマッチングの基礎と応用
13	図形要素の検出	ハフ変換などの紹介
14	まとめ	講義全体のまとめと展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、予習・復習と課題レポートの作成等で各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

奥富編：デジタル画像処理（改訂新版）、勘画像情報教育振興協会、2015

ISBN 978-4-903474-50-2

【参考書】

教科書の巻末に参考図書・文献が載っている。

【成績評価の方法と基準】

試験の成績 (60%) とレポートの成績 (40%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業になるよう説明を工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

行列計算や統計的手法の知識が必要となるので、参考書などでよく予習して授業に臨むことが望ましい。教科書の説明は要点のみが書かれているので、興味を持った処理については、原著論文を読んでみることを勧める。

レポートは各人の言葉で表現し期日を守って提出すること。

本講義では担当教員の 2 次元センサーデータの処理法に関する情報通信研究機構との共同研究の成果の一部を含んでいる。

【Outline and objectives】

Students systematically understand a wide range of image processing related technology. By understanding principle and formulation of each processing method, students acquire mastery so that they can use it for graduation research.

HUI312KA-CS-334

音声情報処理

伊藤 克亘

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声コンピュータで扱う基礎的な能力を身に付けることを目標とします。

コンピュータを使うと、音声を生成したり、取り込んだ音声を加工できます。これらを可能にする技術がデジタル信号処理です。

本講義では、まず、音声の発声方法や聴覚特性に基づく音声のモデル化手法を紹介しします。

次に、その技法を用いて実現できる音声処理の技法のいくつかの例を取り上げます。

最後に、音声処理の応用技術として、音声関係の web/cloud API を紹介しします。

【到達目標】

MATLAB を用いてデジタル音声処理の技法を活用できる。

音声関係の web/cloud API やツールを利用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

役立つ技能の習得のために、取り上げる技法はプログラミングと関連付けて紹介します。また、実際の音声データを扱う。

簡単にプログラミングするために MATLAB を利用する。

API は python で利用することを想定する。

課題は、授業で主要なものを発表させ、解説する。

最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。

また、最終課題のレポートに関しては、第 1 版に関しては、書き方に問題がある点を授業で解説する。最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要/基礎知識確認/MATLAB 復習/代表的な音声アプリケーション/音声とは
2	母音の生成	母音の音声波形の観察/母音の発声/母音発声の物理モデル/声道フィルタを用いた母音の合成
3	母音と子音の発声	母音の分類/子音の分類/ホルマントと調音位置
4	音声の聴取	人の聴覚系/蝸牛/聴覚尺度/メルスペクトル
5	音声の分解	音韻の分析/ケプストラム
6	音声の分析	聴覚末梢神経系における音声情報処理/プリエンファシス/時間方向の分解/対数変換/メル周波数スケール変換/スペクトルのピーク強調
7	母音の認識	ホルマントと母音/ホルマントの多様性/正規分布によるモデル化/多次元正規分布/GMM
8	音節の認識	日本語の子音の体系/MFCC による音韻の認識
9	簡単な音声合成	モデルベースの合成法/波形ベースの合成法

10	音節の系列の認識	音声情報の時間スケール/調音結合とホルマント推移/デルタパラメータ
11	韻律の認識	日本語のイントネーションとアクセント/基本周波数検出/歌声の f0
12	長い発話の認識	長い発話が伝える情報/発話の単位/感情と態度/個性/声質とスピーチスタイル
13	音声対話とさまざまなアプリケーション	音声の伝搬と知覚/音声区間検出
14	まとめ	全体の内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

準備学習として、テキストを読み予習課題に取り組む。演習時間に解けなかった課題をいくつか選び、宿題として完成させる。また、最終課題である自主課題は授業外も含めて取り組みレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

配布する資料に基づいて講義を進める。

【参考書】

書名：Theory and Applications of Digital Speech Processing

著者名：L. R. Rabiner, R. W. Schafer

出版社：Pearson

出版年：2011

書名：MATLAB で学ぶ実践画像・音声処理入門

著者名：伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘

出版社：コロナ社

出版年：2019

書名：Python で学ぶ実践画像・音声処理入門

著者名：伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘

出版社：コロナ社

出版年：2018

【成績評価の方法と基準】

最終課題 (60%)、定期試験 (40%) で評価する (受講人数が少ない場合は、定期試験を実施しない)。ただし、講義内の課題を授業で発表した場合には加点する。また、講義内の課題の取り組み状況を考慮する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム、web ページ、ノート PC を利用する。

【その他の重要事項】

「プログラミング (MATLAB)」 「デジタル信号処理」 「統計学 2」 を履修していることを期待する。また、「音と光」 「情報理論」 「パターン認識と機械学習」 「科学技術計算」 「オペレーションリサーチ」 を並行して履修することが望ましい。また、できれば、「画像処理」 も並行して履修することが望ましい。

また、受講希望者は、第 1 回の講義の前に、MATLAB がインストールされているか確認しておくこと。R2021a かそれ以降が望ましい。

<http://software.k.hosei.ac.jp/others/>

https://software.k.hosei.ac.jp/matlab_manual/MATLAB_student.pdf (後者のファイルは、VPN を使わないとアクセスできない)

本講義は担当教員の国立研究機関での音声に関する研究の経験を元に行う。

【Outline and objectives】

We aim to acquire the fundamental ability to handle speech with computers.

With a computer, you can synthesize speech and process the recorded speech. The technology that enables these is based on digital signal processing.

In this lecture, we will first introduce the modeling method of speech based on the method of generating speech and/or auditory characteristics. Students will try some examples of speech processing techniques that can be implemented using that technique.

Finally, we introduce the web / cloud API related to speech as application technology of speech processing.

COT311KA-CS-302

プログラミング演習 3(MATLAB)

花泉 弘

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の研究を進めるにあたり、論文を読むのは必須であるが、その内容を理解して自分の研究に生かすためには、論文中の数式に従って追試を行うことが効果的である。この演習では、こうした論文中の数式に基づいてプログラムを作成して動作させ、著者のアイデアを深く理解することを目的とする。

【到達目標】

この科目の単位を取得した者は、論文を読む際にそこに書かれた数式に基づいてプログラムを作成し著者の示す結果を追試できるスキルを獲得しており、併せて、追試し易い論文（報告書）の書き方についても学んでいる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

4つの課題に対して MATLAB を用いてプログラムを作成し、動作確認を行った上で報告書として提出、発表も行う。最初の2つについては、説明資料を配布するが、3つ目は数式の載った論文を配布する。さらに、4つ目は最終課題として、それまでの内容に劣らないテーマを各自で見つけて演習を行う。4つ目の課題については、最初の授業の際に各自のテーマについて紹介してもらう。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方や課題の概略について説明する。 MATLAB 開発環境の確認。
2	演習 1 - 1	課題 1 の内容の説明を行う。課題内容を理解し、解くための方針を立てるなど演習に取り組む。
3	演習 1 - 2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する説明も行う。
4	演習 1 - 3	各自がそこまでにを行った内容についての発表。
5	演習 2 - 1	課題 2 の内容の説明を行う。課題内容を理解し、解くための方針を立てるなど演習に取り組む。
6	演習 2 - 2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する説明も行う。
7	演習 2 - 3	各自が行った内容についての発表。
8	演習 3 - 1	課題 3 の内容の説明を行う。課題内容を理解し、解くための方針を立てるなど演習に取り組む。
9	演習 3 - 2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する説明も行う。

10	演習 3 - 3	各自が行った内容についての発表。
11	演習 4 - 1	各自の選択したテーマの紹介。終了後は各自プログラム作成等を行う。
12	演習 4 - 2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する助言等も行う。
13	演習 4 - 3	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する助言等も行う。
14	まとめ	最終課題の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間だけでは時間が不足するので、自宅でも課題に取り組むこと（本授業では、毎週 4 時間を標準としている）。わからないことについては、参考になる論文や本を探してみるのもよい訓練になる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

MATLAB に付属する文書。
課題ごとにいくつか論文等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、提出されたレポートの質 (50%)、課題発表の質 (30%) を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

とにかくプログラムを書くことが重要である。数式や説明文を見てプログラムを書くことに習熟してほしい。

【Outline and objectives】

Reading papers and understanding authors idea are very important in advancing students own researches. Actually, it is effective to follow-up the ideas according to mathematical expression in the paper. The aim of this exercise is to deeply understand the idea of the author by creating some programs based on mathematical expressions in these papers, by making it work, and by confirming action.

科学技術計算

岩沢 美佐子

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年では材料開発や構造解析といった科学技術的課題の解決に計算機シミュレーションは必須である。そこで使われる計算技術の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- ・科学技術計算の基礎である微分法、積分法、方程式の解法を理解する。
- ・数値計算手法をプログラムとしてコーディングできる。
- ・プログラムを実行し、結果を可視化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、実際に様々な課題について問題を解くことで必要な技術を身に付ける。それを通して、コンピュータ科学、ネットワーク等の様々な情報科学分野を専攻する者を対象に、最近の計算技術を活かした解析手法修得の基礎となる数値解析の考え方や方法について基礎知識を学ぶ。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	科学技術計算の基礎	科学技術計算を学ぶ上での前提知識
2	差分化とその誤差	数値微分と数値計算における誤差の評価と実践
3	数値積分法の比較（1）	台形公式、シンプソン法による数値積分
4	数値積分法の比較（2）	重み付き積分法による数値積分
5	数値積分法の評価	数値積分法についての比較とまとめ
6	代数方程式の解法（1）	二分法、Newton 法による方程式の解法
7	代数方程式の解法（2）	連立 1 次方程式の解法
8	データ解析（1）	数値補間法
9	データ解析（2）	最小二乗法によるフィッティング
10	常微分方程式の解法（1）	オイラー法にて常微分方程式を解く
11	常微分方程式の解法（2）	ルンゲ・クッタ法にて常微分方程式を解く
12	常微分方程式の解法（3）	2 階常微分方程式を解く
13	常微分方程式の解法の評価	常微分方程式の解法の実用とまとめ
14	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として、授業中に出た課題はできるようにする。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

計算物理学 I・II、小柳義夫監訳、朝倉書店

【参考書】

授業で指示

【成績評価の方法と基準】

提出課題、レポート等の評点（60 %）と期末試験（40 %）の総点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい説明を心掛ける

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC、学習支援システム

【Outline and objectives】

The computer simulation is important in solution of scientific problem. A basis of computational approach is learned.

GEO100CA

地理学Ⅱ

朴 宗玄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地理学」の講義が目指す最終的目標は、細分・専門化されてきた幅広い地理学の研究アプローチを理解するとともに、「空間（地域）」と「人間活動」との関連性を解明することである。講義を通じて、現代の日本・世界を理解する方法と様々な人文地理学を学習する。

【到達目標】

授業の到達目標は、地図や統計資料などを通じて世界各国の事情を学習し、諸課題について理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義と学生の授業内での発表、リアクションペーパー提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地理学のモデル—都市内部構造理論	都市地理学について解説し、都市内部構造理論を学習する。
2	同心円モデルとセクターモデル	同心円モデルとセクターモデルを用いて、都市内部構造モデルを学習する。
3	多核心モデルと三地帯モデル	多核心モデルと三地帯モデルを用いて、都市内部構造理論を学習する。
4	工業立地と地理学	工業地理学について解説し、工業立地の理論と実態について学習する。
5	ウェーバーの工業立地モデル	ウェーバーの工業立地モデルについて解説し、工業立地の理論と実態について学習する。
6	日本の工業立地と空間構造	日本の工業立地の実態を用いて、工業立地の要因を学習する。
7	企業の海外進出行動と地理学 1	企業地理学について解説し、日本企業の海外進出の実態とその空間構造を学習する。
8	企業のグローバル活動	地理学の視点から企業のグローバル活動を学習する。
9	シカゴ大都市圏に立地する日系企業の立地行動	シカゴ大都市圏に立地する日系企業を用いて、日経企業の業種別分布パターンを学習する。
10	シカゴ大都市圏に立地する日系企業の取引行動	シカゴ大都市圏に立地する日系企業を用いて、日経企業の取引行動の現地化プロセスを学習する。
11	ジェンダー地理学	ジェンダー地理学について解説し、地理学の支店で、ジェンダー問題の捉え方を学習する。
12	男女の通勤行動の差	男女の通勤行動の違いからみた空間構造の違いを学習する。
13	ライフステージと通勤距離	ライフステージ別における通勤距離の違いを学習する。
14	まとめ	地理学全体で学習した内容を整理し、地理学の課題を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地理に関連する社会問題について深く考え、授業中の議論に備えること。講義内容をもとに、統計データを用いて、地図化と地域の見方を学習するとともに、フィールドワークの方法について学習する。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しないが、個別の文献は授業中で指示する。

【参考書】

高橋ほか編『ジオグラフィ入門』（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

小テスト（50%）、定期試験（50%）などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

The regional geography of the world with the perspective of how human, physical and environmental components interact will be learned, In addition, geographic analytical skills as well as geographic theory will be acquired.

PHY100CA

物理学 I

藤田 貢崇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、宇宙はどのようにしてできたのか、宇宙にはなにがあるのか、また非常に小さなスケールの視点で、身の回りの物質がどのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、素粒子とはなにかを説明できること。さらに、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学をどう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。
・これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
・提出期限は資料公開からおおむね 1 週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。
・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学とはどのような学問か	物理学の研究領域について理解する
3	ものはなからできていますか	身の周りのものがどのようにできているかを理解する
4	素粒子の世界	原子のさらに微細な構造を理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	素粒子と力の関係	素粒子と力がどのように関係するかを理解する
7	宇宙の構造	宇宙はどのようなものでできているかを理解する
8	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
9	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
10	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
11	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
12	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する

13	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する
14	科学技術が果たす役割	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020 年

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

・毎回の確認問題および小課題の提出 【50%】
・最終課題の提出 【50%】
の比率とし、得点率 60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are origin of Universe, microscopic structures of matters, the laws of particle physics, and so on. The course aims to understand the nature and structure of matters, as well as relation between science and society.

PHY100CA

物理学Ⅱ

藤田 貢崇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がいまだ明らかにできない点は何であるのかを理解します。

また、科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

【到達目標】

素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。
- これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
- 提出期限は資料公開からおおむね 1 週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
- 課題や質問等に対するフィードバックは、次の授業時に資料として配信します。
- 毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の実施方法・評価方法・教科書などについて説明する
2	物質はなにからできているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、原子の構成とクォークについて学ぶ
3	物質の構成要素はどのように結び付けられているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、素粒子の世界ではたらく力について学ぶ
4	素粒子の種類	素粒子は一体何種類あるのか、それらはたらくきとの関係は何かを理解する
5	電磁気力	電磁気力について詳しく理解する
6	弱い力	弱い力について詳しく理解する
7	重力	重力について詳しく理解する
8	強い力と中間子	中間子と強い力について詳しく理解する
9	ニュートリノ	ニュートリノについて理解する
10	素粒子を検出する方法	素粒子を検出する加速器や霧箱などについて理解する
11	放射能とはなにか	放射能とは何か、詳しく理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る

14 科学技術の未来

科学技術はどのような方向性を持つべきかを考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020 年

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例: <http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の確認問題および小課題の提出 【50%】
 - ・最終課題の提出 【50%】
- の比率とし、得点率 60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are the structures of matters and quantum theories, and so on.

The course aims to understand the fundamental quantum physics as well as relation between science and society.

PHY100CA

物理学 I

藤田 貢崇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、宇宙はどのようにしてできたのか、宇宙にはなにがあるのか、また非常に小さなスケールの視点で、身の回りの物質がどのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、素粒子とはなにかを説明できること。

さらに、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学をどう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。
・これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
・提出期限は資料公開からおおむね 1 週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。
・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学とはどのような学問か	物理学の研究領域について理解する
3	ものはなにからできているか	身の周りのものがどのようにできているかを理解する
4	素粒子の世界	原子のさらに微細な構造を理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	素粒子と力の関係	素粒子と力がどのように関係するかを理解する
7	宇宙の構造	宇宙はどのようなものでできているかを理解する
8	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
9	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
10	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
11	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
12	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する

13	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する
14	科学技術が果たす役割	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020 年

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

・毎回の確認問題および小課題の提出 【50%】
・最終課題の提出 【50%】
の比率とし、得点率 60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are origin of Universe, microscopic structures of matters, the laws of particle physics, and so on. The course aims to understand the nature and structure of matters, as well as relation between science and society.

ECN200CA
社会経済学応用 A
原 伸子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

社会経済学応用 A は社会経済学基礎 A.B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、20 世紀以降の現代資本主義のあらたな特質を明らかにする。19 世紀末から 20 世紀初めの景気循環の変容、独占的大資本の登場、国家の経済過程への介入、さらに金本位制度から管理通貨制度への移行は資本主義をどのように変化させたのかを、歴史的具体的事象をととして理論的に理解できるように説明する。さらに 21 世紀に生活するわれわれが現在の社会経済構造を歴史的、理論的に広い視野をもち主体的に考察する視点を持つことの重要性を明らかにする。

【到達目標】

この講義では、資本主義の発展過程を歴史的かつ理論的に考える視点を身に付けることを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。20 世紀以降の歴史的事象を具体的に示して、資本主義の新たな段階を主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができるようにします。また皆さんからの積極的な質問を歓迎します。
- ・2021 年度もコロナ禍の状況に対応して、オンラインの講義形式を組み合わせる可能性があります。講義形式については、学習支援システムで指示します。
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会経済学応用 A の対象と課題	戦間期資本主義の概観、現代社会を理解するための視点
第 2 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（1）	オックスフォード理想主義
第 3 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（2）	ニューリベラリズム
第 4 回	金融資本の成立（1）	イギリス、フランス
第 5 回	金融資本の成立（2）	ドイツ、ロシア、アメリカ
第 6 回	大恐慌のアメリカ（1）	20 年代から 30 年代の産業構造と金融市場
第 7 回	大恐慌のアメリカ（2）	1929 年大恐慌のメカニズム
第 8 回	戦間期の経済理論（1）	イギリス資本主義とケインズ
第 9 回	戦間期の経済理論（2）	アメリカの新古典派経済学とマネタリスト論争
第 10 回	再建金本位制度	金本位制度再建への努力、日本における金本位制度復帰論争
第 11 回	管理通貨制度への動向	金本位制度崩壊の歴史的・理論的分析
第 12 回	戦間期の日本（1）	恐慌下のマルクス主義とケインズ主義
第 13 回	戦間期の日本（2）	経済思想の相克、世界の中の日本

第 14 回 復習

これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域で、なにが起きているのかを知る。2. 授業でその都度指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回必要なレジュメや資料を配布します。詳しくは、第一回の授業時に学習支援システムで提示します。

【参考書】

- ・増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学〔新版〕』有斐閣、2007 年。
- ・長幸男『昭和恐慌』岩波現代文庫、2001 年版。
- ・林敏彦『大恐慌のアメリカ』岩波新書、1988 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、中間試験 30%、学期末試験 50% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to study the relationship between the competitive capitalism, which is typical in 19th century in Britain, and the modern capitalism since the 1920-30s from the historical and theoretical point of view. The lecture focuses on the inter-war period, in which there are several features of transition from the competitive capitalism to the modern capitalism. They are the changing of monetary system, the appearance of the monopoly capital and the state intervention in the phased of industrial cycle.

ECN200CA
社会経済学応用 A
原 伸子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

社会経済学応用 A は社会経済学基礎 A.B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、20 世紀以降の現代資本主義のあらたな特質を明らかにする。19 世紀末から 20 世紀初めの景気循環の変容、独占の大資本の登場、国家の経済過程への介入、さらに金本位制度から管理通貨制度への移行は資本主義をどのように変化させたのかを、歴史的具体的事象をとって理論的に理解できるように説明する。さらに 21 世紀に生活するわれわれが現在の社会経済構造を歴史的、理論的に広い視野をもち主体的に考察する視点を持つことの重要性を明らかにする。

【到達目標】

この講義では、資本主義の発展過程を歴史的かつ理論的に考える視点を身に付けることを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。20 世紀以降の歴史的事象を具体的に示して、資本主義の新たな段階を主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができるようにします。また皆さんからの積極的な質問を歓迎します。
- ・2021 年度もコロナ禍の状況に対応して、オンラインの講義形式を組み合わせる可能性があります。講義形式については、学習支援システムで指示します。
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会経済学応用 A の対象と課題	戦間期資本主義の概観、現代社会を理解するための視点
第 2 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（1）	オックスフォード理想主義
第 3 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（2）	ニューリベラリズム
第 4 回	金融資本の成立（1）	イギリス、フランス
第 5 回	金融資本の成立（2）	ドイツ、ロシア、アメリカ
第 6 回	大恐慌のアメリカ（1）	20 年代から 30 年代の産業構造と金融市場
第 7 回	大恐慌のアメリカ（2）	1929 年大恐慌のメカニズム
第 8 回	戦間期の経済理論（1）	イギリス資本主義とケインズ
第 9 回	戦間期の経済理論（2）	アメリカの新古典派経済学とマネタリスト論争
第 10 回	再建金本位制度	金本位制度再建への努力、日本における金本位制度復帰論争
第 11 回	管理通貨制度への動向	金本位制度崩壊の歴史的・理論的分析
第 12 回	戦間期の日本（1）	恐慌下のマルクス主義とケインズ主義
第 13 回	戦間期の日本（2）	経済思想の相克、世界の中の日本

第 14 回 復習

これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域で、なにが起きているのかを知る。2. 授業でその都度指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回必要なレジュメや資料を配布します。詳しくは、第一回の授業時に学習支援システムで提示します。

【参考書】

- ・増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学 [新版]』有斐閣、2007 年。
- ・長幸男『昭和恐慌』岩波現代文庫、2001 年版。
- ・林敏彦『大恐慌のアメリカ』岩波新書、1988 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、中間試験 30%、学期末試験 50% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to study the relationship between the competitive capitalism, which is typical in 19th century in Britain, and the modern capitalism since the 1920-30s from the historical and theoretical point of view. The lecture focuses on the inter-war period, in which there are several features of transition from the competitive capitalism to the modern capitalism. They are the changing of monetary system, the appearance of the monopoly capital and the state intervention in the phased of industrial cycle.

ECN200CA
社会経済学応用 B
原 伸子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会経済学応用 B は社会経済学応用 A とともに、社会経済学基礎 A.B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、現代資本主義の社会経済構造を歴史的、理論的に分析する。社会経済学応用 A では現代資本主義の起点としての戦間期に焦点をあてた。それに対して社会経済学応用 B では、第二次大戦後をブレトンウッズ体制における高度経済成長期、70 年代のスタグフレーション期、そして 80 年代以降の福祉国家の変容の時期の三つにわけて授業をおこなう。とくに、国家の変容、労働市場の動向、家族の変容の諸問題に焦点をあてる。

【到達目標】

この講義では、現代資本主義の諸問題を取りあげて理論的・歴史的に分析することを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。第二次大戦後から今日に至る日本経済に重点をおいて、統計資料なども用いながら、現実の社会を理解する。そして、私たちが生活する資本主義的経済のメカニズムを主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

・配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができるようにします。
・2021 年度もコロナのために、大学の授業方針にもとづいて、当面は Zoom によるオンライン授業形式を組み合わせる可能性があります。講義形式については、学習支援システムで指示します。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代資本主義の諸問題	国家、市場、家族の関係についてを取り上げる視点
第 2 回	戦後福祉国家の論理	ベヴァリッジ報告とケインズの総需要管理政策
第 3 回	高度経済成長期の蓄積メカニズム	年代別に資料を見ながら歴史的展開を確認する
第 4 回	スタグフレーション (1)	ブレトンウッズ体制の崩壊（通貨危機）と石油危機
第 5 回	スタグフレーション (2)	戦後初の世界恐慌、二つのコクサイ化
第 6 回	福祉国家の変容 (1)	小さな政府と新自由主義・新保守主義、民営化と市場化、規制緩和
第 7 回	福祉国家の変容 (2)	サッチャーリズムとレーガノミックス、96 年アメリカ福祉改革
第 8 回	労働市場の変容 (1)	労働分配率の動向、非正規労働、副業
第 9 回	労働市場の動向 (2)	労働時間の二分化、労働時間の二つの統計
第 10 回	家族の経済学 (1)	ワークライフバランス。日本、ドイツ、スウェーデン。
第 11 回	家族の経済学 (2)	保育と介護の政治経済学。ケア労働の意味を考える。
第 12 回	労働と生活の調和 (1)	家族の経済学、家族の性別分業と男女賃金格差、ジェンダー

第 13 回 労働と生活の調和 (2) 各国のワークライフバランスの比較と論理

第 14 回 復習 これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域でなにが起きているのかを知る。2. 授業で指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、必要な資料を配布する。

【参考書】

増田壽男・沢田幸治編『現代経済学と経済〔新版〕』有斐閣、2007 年。
原伸子『ジェンダーの政治経済学—福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、中間試験 30%、学期末試験 50% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to study the features of contemporary capitalism after the post-World War II from the point of view of Marxian political economy. The lecture focuses on the accumulation pattern of the high level of economic growth in 1960s, the stagflation in 1970s and the retrenchment of welfare state since 1980s. It also examines particularly the changing features of labour market and family life.

ECN200CA
社会経済学応用 B
原 伸子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会経済学応用 B は社会経済学応用 A とともに、社会経済学基礎 A.B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、現代資本主義の社会経済構造を歴史的、理論的に分析する。社会経済学応用 A では現代資本主義の起点としての戦間期に焦点をあてた。それに対して社会経済学応用 B では、第二次大戦後をブレトンウッズ体制における高度経済成長期、70 年代のスタグフレーション期、そして 80 年代以降の福祉国家の変容の時期の三つにわけて授業をおこなう。とくに、国家の変容、労働市場の動向、家族の変容の諸問題に焦点をあてる。

【到達目標】

この講義では、現代資本主義の諸問題を取りあげて理論的・歴史的に分析することを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。第二次大戦後から今日に至る日本経済に重点をおいて、統計資料なども用いながら、現実の社会を理解する。そして、私たちが生活する資本主義的経済のメカニズムを主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

・配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができるようにします。
・2021 年度もコロナのために、大学の授業方針にもとづいて、当面は Zoom によるオンライン授業形式を組み合わせる可能性があります。講義形式については、学習支援システムで指示します。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代資本主義の諸問題	国家、市場、家族の関係についてを取り上げる視点
第 2 回	戦後福祉国家の論理	ベヴァリッジ報告とケインズの総需要管理政策
第 3 回	高度経済成長期の蓄積メカニズム	年代別に資料を見ながら歴史的展開を確認する
第 4 回	スタグフレーション (1)	ブレトンウッズ体制の崩壊（通貨危機）と石油危機
第 5 回	スタグフレーション (2)	戦後初の世界恐慌、二つのコクサイ化
第 6 回	福祉国家の変容 (1)	小さな政府と新自由主義・新保守主義、民営化と市場化、規制緩和
第 7 回	福祉国家の変容 (2)	サッチャーリズムとレーガノミックス、96 年アメリカ福祉改革
第 8 回	労働市場の変容 (1)	労働分配率の動向、非正規労働、副業
第 9 回	労働市場の動向 (2)	労働時間の二分化、労働時間の二つの統計
第 10 回	家族の経済学 (1)	ワークライフバランス。日本、ドイツ、スウェーデン。
第 11 回	家族の経済学 (2)	保育と介護の政治経済学。ケア労働の意味を考える。
第 12 回	労働と生活の調和 (1)	家族の経済学、家族の性別分業と男女賃金格差、ジェンダー

第 13 回 労働と生活の調和 (2) 各国のワークライフバランスの比較と論理

第 14 回 復習 これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域でなにが起きているのかを知る。2. 授業で指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、必要な資料を配布する。

【参考書】

増田壽男・沢田幸治編『現代経済学と経済 [新版]』有斐閣、2007 年。
原伸子『ジェンダーの政治経済学—福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、中間試験 30%、学期末試験 50% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to study the features of contemporary capitalism after the post-World War II from the point of view of Marxian political economy. The lecture focuses on the accumulation pattern of the high level of economic growth in 1960s, the stagflation in 1970s and the retrenchment of welfare state since 1980s. It also examines particularly the changing features of labour market and family life.

ECN200CA
日本経済論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見えていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (1)	マクロ経済学の基礎（マクロ経済の循環・GDP・名目と実質）
第3回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (2)	古典派モデル (1) 基本モデル
第4回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (3)	古典派モデル (2) 拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
第5回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (4)	古典派モデル (3) 貨幣数量説、失業と労働市場
第6回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (5)	ケインズ・モデル (1) 所得支出モデル
第7回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (6)	ケインズ・モデル (2) IS-LMモデルと財政金融政策の効果
第8回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (7)	ケインズ・モデル (3) IS-MPモデル、開放経済モデル
第9回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (8)	消費関数・投資関数の理論
第10回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (9)	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第11回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (10)	経済成長論
第12回	現在の日本が抱える課題 (1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第13回	現在の日本が抱える課題 (2)	財政政策の効果と限界、成長戦略

第14回 期末試験と総括 試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
配布資料

【参考書】

マンキュー『マンキュー経済学 II マクロ編』東洋経済新報社
マンキュー『マクロ経済学 I・II』東洋経済新報社
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese economy, by using the approaches of macroeconomics. This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN200CA
日本経済論 A
牧野 文夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本の経済発展」を主題に、日本の経済の戦後から現在までのあゆみを講義する。ただし講義の順は現在から過去に遡る。受講者は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学んでいることが望ましい。また経済史、日本経済史なども受講していると理解が進むであろう。

【到達目標】

日本経済の現状と将来展望を理解し、新聞やニュースの経済記事を興味をもって読めるような基本的知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容に関し質問等がある場合は、学習支援システムの「掲示板」内のスレッド「授業への質問コーナー」に投稿か、授業期間中に2回のオフィスアワーの時間を設けるので、Zoom あるいは Webex を使って質問を受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、コロナ禍の日本と世界経済	講義の枠組み、2020 年の日本と世界の経済 これまでのアベノミクスの評価について
2	アベノミクス	2012 年以後のアベノミクスの実態と成果について
3	リーマンショック 1	アメリカのサブプライムローン問題とその影響
4	リーマンショック 2	東日本大震災とヨーロッパ債務危機について
5	失われた 20 年 1	1990 年代後半から 2000 年代半ばへ平成不況、不良債権問題の発生とその処理について
6	失われた 20 年 2	労働市場の需給悪化、小泉内閣の構造改革
7	小括 1	第 1 回から 7 回までの講義に関する質疑応答
8	レーガノミクスと円切り上げ	アメリカ経済の政策転換と日本経済に及ぼした影響について
9	オイルショックと高度成長の終焉	1970 年代のスタグフレーション下の日本経済について
10	高度成長 1	1960 年代の高度成長の原因と帰結について
11	高度成長 2	高度成長時代の国民生活の変化について
12	戦後改革 1	農地改革、財閥解体等の制度改革について
13	戦後改革 2	日本経済の再建、インフレ対策について
14	小括 2	第 8 回から 13 回までの講義に関する質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。毎回の講義内容は授業支援システム上にアップロードする。

【参考書】

- ①南亮進『日本の経済発展（第 3 版）』東洋経済新報社。
 - ②深尾・中村・中林編『講座 日本経済の歴史』第 5、6 巻、岩波書店。
 - ③内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）など。
- その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

複数回のレポートを課し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グラフを読みやすく改善しました。

【その他の重要事項】

現代経済学基礎、同応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

【Outline and objectives】

Economic development of Japan after WWII

ECN200CA
日本経済論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	日本経済を理解するための公共経済学 (1)	市場の失敗と政府の役割
第 3 回	日本経済を理解するための公共経済学 (2)	財政、国債市場
第 4 回	日本経済を理解するための公共経済学 (3)	公共財
第 5 回	日本経済を理解するための公共経済学 (4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第 6 回	日本経済を理解するための公共経済学 (5)	社会保障の全体像、年金・医療・介護
第 7 回	日本経済を理解するための公共経済学 (6)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第 8 回	日本経済を理解するための公共経済学 (7)	租税の理論、物品税の帰着
第 9 回	日本経済を理解するための公共経済学 (8)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第 10 回	日本経済を理解するための公共経済学 (9)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第 11 回	日本経済を理解するための公共経済学 (10)	公債の負担
第 12 回	現在の日本が抱える課題 (1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第 13 回	現在の日本が抱える課題 (2)	財政赤字、世代間格差
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第 4 版』有斐閣
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣
麻生良文・小黒一正・鈴木将寛『財政学 15 講』新世社
配布資料

【参考書】

スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済
スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese economy, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN200CA
日本経済論 B
牧野 文夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済論 A の受講を前提にテーマごとに現在の日本経済の特徴、問題、課題をテーマ別に講義する。

【到達目標】

個別の分野ごとに日本経済の抱える問題、解決への手段を考察するための基本知識、そして当然のことながら、新聞の経済記事等が理解できるような基本知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容に関し質問等がある場合は、学習支援システムの「掲示板」内のスレッド「授業への質問コーナー」に投稿か、授業期間中に 2 回のオフィスアワーの時間を設けるので、Zoom あるいは Webex を使って質問を受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、産業構造 (1)	ガイダンスおよび農業問題特に食料自給率について
2	産業構造 (2)	製造業、IT 産業、研究開発について
3	金融システム (1)	部門別資金バランス、家計貯蓄について
4	金融システム (2)	銀行の貸出行動と企業の資金調達について
5	財政 (1)	歳入・歳出構造、税制について
6	財政 (2)	政府債務、特別会計、中央・地方の財政関係、
7	小括 1	第 1 回から 6 回までの講義に関する質疑応答
8	少子高齢化	晩婚化、少子化、高齢化問題について
9	労働市場 (1)	最近の雇用失業問題、非正規労働の増大について
10	労働市場 (2)	賃金水準、賃金格差について
11	対外経済関係	貿易構造の変化について、対外投資、国際収支、TPP/FTA について
12	所得分配、社会階層と教育 1	格差とは何か、所得分配の不平等化について
13	所得分配、社会階層と教育 2	経済格差のもたらす社会的弊害について
14	小括 2	第 8 回から 13 回までの講義に関する質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義資料は事前に授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

関係省庁の発行する白書類。

【成績評価の方法と基準】

複数回のレポートを課し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答の時間を積極的に活用したい。

【Outline and objectives】

Structure and problems of the Japanese economy

ECN200CA
国際経済論 A
武智 一貴
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際経済学の基礎について学びます。特に国際貿易の諸問題について講義します。

【到達目標】

本講義は、受講者が国際貿易の基礎について理解できるようになることを目標とします。特に、貿易からの利益、貿易政策の効果といった基本概念について学習し、自ら貿易問題の分析が可能になることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により、基本的な国際貿易の概念について学んでいきます。なぜ国々は貿易をするのか、輸出入の構造はどう決定されるのか、貿易政策の影響はどういったものがあるのかといった点について論理的に学び、自らそれらの分析ができるようにします。現実の貿易の諸問題を例にとり、貿易理論を応用しつつ理解を深めます。課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際取引とは何か
2	Why do we trade? I(Gains from trade)	なぜ貿易をするのか：余剰分析の基礎
3	Why do we trade? II	余剰分析：消費者余剰、生産者余剰
4	Why do we trade? III	自給自足から自由貿易へ
5	Market Structure and gains from trade I	競争的市場と独占市場
6	Market Structure and gains from trade II	独占市場における貿易の利益
7	Trade Policy	貿易政策とは何か
8	Effects of tariffs and subsidies I	輸入関税の影響
9	Effects of tariffs and subsidies II	輸出補助金の影響
10	What do we trade? (Understanding international trade (trade pattern and trade volume))	比較優位
11	Trade and factor endowments	ヘクシャー・オリーモデル
12	Strategic Trade Policy	戦略的貿易政策とは何か
13	Strategic Trade Policy Analysis I	ゲーム理論の基礎
14	Strategic Trade Policy Analysis II	戦略的貿易政策の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は事前に授業支援システムのハンドアウトを読む必要があります。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。

【参考書】

石川・菊池・椋著、国際経済学をつかむ、有斐閣
ジョン・マクラレン著、柳瀬明彦訳、国際貿易・グローバル化と政策の経済分析、文真堂

Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

課題（40%）および期末試験もしくはレポートの結果等（60%）により成績の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することで内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline and objectives】

This is an introductory course in international economics with a primary emphasis on international trade.

ECN200CA
国際経済論 A
田村 晶子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、F T AやE P Aなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで置き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第 2 回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第 3 回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第 4 回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第 5 回	資源と貿易①	ヘクシャー・オリー・モデルの仮定
第 6 回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第 7 回	グローバル経済の企業	輸出の判断と多国籍企業
第 8 回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果、費用と便益
第 9 回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第 10 回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制の効果
第 11 回	貿易政策の政治経済	自由貿易の進展、WTO
第 12 回	地域貿易協定の効果	F T A が与える影響
第 13 回	貿易政策をめぐる論争	戦略的貿易政策
第 14 回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を置き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策』（原書第 10 版）上：貿易編 丸善出版、2017 年
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第 2 版）』有斐閣、2013 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（13 回を予定）（30 %）と、期末に行う定期試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

Students study the basics of International Trade. Students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Then students consider the international trade framework with Free Trade Agreements.

ECN200CA
国際経済論 B
武智 一貴
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際金融（マクロ経済学）の基礎について学びます。国際収支、為替レートといった国際金融を理解する基礎概念について講義します。

【到達目標】

本講義により、受講者は国際取引のパターンとその影響、為替レートの決定、金融市場と外国為替市場の関係といったことについて理解できることを目標とします。また、様々な国際金融データの処理が可能になることも目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により、まずマクロ経済学の復習を行なった後に、国際金融の基礎である国際収支と為替レートに焦点を当てて学びます。国際金融データを用いつつ、国際金融理論を現実に応用する形で理解を深めます。・課題等の提出やフィードバックについては「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際金融とは何か
2	Basic elements of international finance	国民経済計算、国際収支と為替レート
3	The link between national economy and international market	IS バランスと経常収支
4	Balance of Payments	国際収支とは何か
5	Current account	経常収支とその分析
6	The relationship between current account and financial account	経常収支と金融収支
7	More on exchange rate	為替レート：平価レート
8	Price and exchange rate	購買力平価
9	PPP violation	なぜ購買力平価は成立しないのか
10	Real exchange rate	実質為替レート
11	An asset approach	アセットアプローチ
12	Covered and Uncovered Interest Parity	利子平価とフォワードプレミアムバズル
13	Financial market and foreign exchange	外国為替と金融市場
14	Monetary policy and exchange rate	金融市場と為替レート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業支援システムのハンドアウトを読んでおく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。

【参考書】

Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

成績は課題（40%）、期末試験もしくはレポート等（60%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することにより内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline and objectives】

This course is an introduction to international finance that focuses on monetary (or macroeconomic) aspects of international economics.

ECN200CA
国際経済論 B
田村 晶子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を学習支援システムから出し、自動採点で得点をフィードバックします。次の授業で解き方を解説し、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際収支表の項目	日本の国際収支表の見方
第 2 回	国際収支の記入方法	国際収支表の記入例
第 3 回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第 4 回	外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第 5 回	外国為替取引の種類	さまざまな外国為替取引
第 6 回	短期為替レート決定①	外国為替市場における需給の一致
第 7 回	短期為替レート決定②	金融政策と為替レート
第 8 回	短期為替レート決定③	先渡為替レートとリスク要因
第 9 回	長期為替レート決定①	絶対的、相対的購買力平価
第 10 回	長期為替レート決定②	実質為替レートと貿易
第 11 回	外国為替介入	外国為替市場介入の効果
第 12 回	最適通貨圏の理論	固定為替レートの範囲
第 13 回	国際金融体制	国際金融における課題
第 14 回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡校訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策』（原書第 10 版）下：金融編 丸善出版、2017 年
清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年
高木信二著「入門国際金融（第 4 版）」日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の練習問題（30 %）と、期末に行う定期試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy.

ECN200CA
財政学 A
小林 克也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本では、現在、莫大な政府債務残高、少子高齢化に伴う社会保障費の増大、低成長に対する経済政策などの問題が重なり、政府は狭いパスを進まねばなりません。この講義ではこれらの現状について、主に以下のふたつの内容を学びます。前半では、政府の市場介入がどのようなとき必要なのかについて学びます。後半では、日本の財政制度と財政データを見ることで、政府が直面する問題を理解します。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を把握します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、主體的に考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講です。毎回、Hoppii 上の教材フォルダーに講義ノートと必要に応じて資料を入れておきます。受講者はこれらをダウンロードしてオンデマンドで学習を進めて下さい。質問や意見がある際は、Hoppii 上の掲示板に書いて下さい。私がそれに返信する形でお答えいたします。10 回程度、Hoppii 上で課題を出します。採点でコメントもお返しするようにしますので、その際に復習もするようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし / No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
2	市場の働き	価格機構の働き
3	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の問題など
4	財政の三つの機能 (1)	資源配分機能
5	財政の三つの機能 (2)	所得再配分機能
6	財政の三つの機能 (3)	経済安定化機能
7	政府の規模	経済に占める政府の大きさ
8	一般会計歳入 (1)：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
9	一般会計歳入 (2)：国債	国債の規模、累積赤字
10	一般会計歳出、プライマリーバランス	内訳と規模、一般歳出の考え方、プライマリーバランスの考え方
11	国と地方との関係	国から自治体への移転と規模
12	財政投融资	財政投融资の仕組みと規模
13	予算の策定過程	予算編成と審議過程の把握
14	まとめ	全体のまとめと補足、やり残した内容があればここで扱います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。経済学の考え方を学びますので、1 年次必修の経済学の科目の復習と各回の授業の復習で 2 時間、日々の新聞での政府や財政に関する記事に目を通し、授業に関連するデータを財務省などの web を通じて学ぶことに 2 時間を費やすことを標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。毎回、授業の講義ノートと必要に応じてデータ等をまとめた資料を配布します。

【参考書】

受講者が授業の内容を発展的に自習する際に、以下の文献が役立ちます。

制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。

財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黑一正、鈴木将覚 (2018)『財政学 15 講』新世社。

【成績評価の方法と基準】

授業内で出題された課題への解答により 100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板へのみなさんからの質問や提出された課題の解答を通じて、みなさんの理解度を確認しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

受講者は学期の始めに Hoppii 上で必ず登録をして下さい。オンラインで授業を進めますので PC とインターネットを使える環境を整えて下さい。また講義ノートは穴埋めや自分で作図する形ですので、印刷環境を整えて、自分で書きながら進められるようにして下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【Outline and objectives】

At present, Japanese government has to follow a narrow path due to the several problems of a huge government debt, increases in social security costs coming from the aging and low birth rate, and the low economic growth rate. In this course, students learn the issues on the current Japanese public finance and learn how to consider them from the standpoint of economics.

ECN200CA
財政学 A
天利 浩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わが国では、現在、莫大な政府債務残高、少子高齢化に伴う社会保障費の増大、低成長に対する経済政策など、財政上の問題が山積みになっている。この講義ではこれらの現状について、主に以下のふたつの内容を学ぶ。前半では、政府の市場介入がどのようなとき必要なのかについて考える。後半では、日本の財政制度とその規模を見ることで、日本が直面する財政問題をとらえる。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、主体的に考えられるようになるための論理的思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインで開講する。Hoppii の教材フォルダーに講義ノートなどのファイルを置くので、オンデマンド式でダウンロードして学習してください。質問などは Hoppii の掲示板で受け付けます。Hoppii で課題を課し採点をします。Hoppii を通して答案へのフィードバックを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
第 2 回	市場の働き	価格機構の働き
第 3 回	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の問題など
第 4 回	財政の三つの機能 (1)	資源配分機能
第 5 回	財政の三つの機能 (2)	所得再分配機能
第 6 回	財政の三つの機能 (3)	経済安定化機能
第 7 回	政府の規模	経済に占める政府の大きさ
第 8 回	一般会計歳入 (1)：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
第 9 回	一般会計歳入 (2)：国債	国債の規模、累積赤字
第 10 回	一般会計歳出、プライマリーバランス	内訳と規模、一般歳出の考え方、プライマリーバランスの考え方
第 11 回	国と地方との関係	国から自治体への移転と規模
第 12 回	財政投融资	財政投融资の仕組みと規模
第 13 回	予算の策定過程	予算編成と審議過程の把握
第 14 回	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。1 年次必修の経済学の科目の復習（1 時間）、授業内容の予復習（2 時間）、新聞やデータの読み取り（1 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。資料と講義ノートを配布する。

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。(1) は日本の財政制度を学ぶ際に有用。参考書としては (3) よりも (2) の方が基本的な内容。

(1)『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社

(2) 小塩隆士（2016）『コア・テキスト 財政学 第 2 版』新世社
(3) 麻生良文、小黒一正、鈴木将覚（2018）『財政学 15 講』新世社

【成績評価の方法と基準】

講義で出題された課題への解答 (100%)。試験等 (0 %)。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい講義を心がけます。

【その他の重要事項】

Hoppii を通し講義ノート・関連資料の配布を行うため、学期の始めに Hoppii に登録しておくこと。PDF の閲覧をできるように準備しておくこと。グラフや図を提出する必要があるかもしれないので、その際には、グラフや図を紙に描いて写真を画像ファイルにして送付したり、あるいは、グラフや図を作図できる Word など（あるいは Windows10 の Windows アクセサリ内のペイントなど何とか図を描けるツールで画像ファイルを保存しても良い）で簡単なグラフを描けると良い。

【Outline and objectives】

Currently, there are many financial problems in Japan, such as huge government debt, increasing social security costs due to the aging and low birth rate, and low growth. In this course, students understand issues on the current Japanese public finance and learn how to consider them from the standpoint of economics.

ECN200CA
財政学 B
小林 克也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政の制度や現状（財政学 A の内容）の理解を前提として、さまざまな財政上の政策について、ミクロ・マクロ経済学の理論に基づく考え方を学びます。具体的には、課税、公債発行、公共投資増大が経済に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。

【到達目標】

私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策について、経済学の理論を用いて考えます。その上で政策の効果がどのようなものなのかを理解できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講です。毎回、Hoppii 上の教材フォルダーに講義ノートと必要に応じて資料を入れておきます。受講者はこれらをダウンロードしてオンデマンドで学習を進めて下さい。質問や意見がある際は、Hoppii 上の掲示板に書いて下さい。私がそれに返信する形でお答えいたします。10 回程度、Hoppii 上で課題を出します。採点でコメントもお返しするようにしますので、その際に復習もするようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学 A の復習、マクロとミクロの視点
2	国と地方との関係	国から地方自治体への移転と規模
3	予算の策定過程	予算編成と審議過程の把握
4	租税の転嫁と帰着 (1)	転嫁の現象の紹介
5	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による分析
6	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
7	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
8	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
9	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（公共投資拡大）の効果
10	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
11	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
12	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
13	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
14	公債の経済学、まとめ	負担についてのさまざまな考え方、全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。経済学の考え方を学びますので、1 年次必修の経済学の科目の復習と各回の授業の復習で 2 時間、日々の新聞での政府や財政に関する記事に目を通し、授業に関連するデータを財務省などの web を通じて学ぶことに 2 時間を費やすことを標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。毎回、授業の講義ノートと必要に応じてデータ等をまとめた資料を配布します。

【参考書】

受講者が授業の内容を発展的に自習する際に、以下の文献が役立ちます。

制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。

財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黑一正、鈴木将覚 (2018)『財政学 15 講』新世社。

【成績評価の方法と基準】

授業内で出題された課題への解答により 100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板へのみなさんからの質問や提出された課題の解答を通じて、みなさんの理解度を確認しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【その他の重要事項】

受講者は学期の始めに Hoppii 上で必ず登録をして下さい。オンラインで授業を進めますので PC とインターネットを使える環境を整えて下さい。また講義ノートは穴埋めや自分で作図する形ですので、印刷環境を整えて、自分で書きながら進められるようにして下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【Outline and objectives】

Students learn the roles of public policies on the basis of Public Finance A, microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, public debt, and public investment.

ECN200CA
財政学 B
天利 浩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

制度や現状（財政学 A の内容）の理解を前提とした上で、さまざまな財政上の政策について、ミクロ・マクロ経済学の理論に基づく考え方を学ぶ。具体的には、税、公債発行、公共投資増大などがどのような効果をもたらすかを学ぶことになる。

【到達目標】

身近な税の問題からマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策を理論的に眺めていくことで、現実の経済を見る目を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインで開講する。Hoppii の教材フォルダーに講義ノートなどのファイルを置くので、オンデマンド式でダウンロードして学習してください。質問などは Hoppii の掲示板で受け付けます。Hoppii で課題を課し採点をします。Hoppii を通して答案へのフィードバックを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学 A の復習、マクロとミクロの視点
第 2 回	租税の転嫁と帰着 (1)	転嫁の現象の紹介
第 3 回	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による分析（代表ケース）
第 4 回	租税の転嫁と帰着 (3)	さまざまなケースでの分析
第 5 回	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
第 6 回	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
第 7 回	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
第 8 回	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（公共投資拡大）の効果
第 9 回	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
第 10 回	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
第 11 回	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
第 12 回	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
第 13 回	公債の経済学	負担についてのさまざまな考え方
第 14 回	、まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。1 年次必修の経済学の科目の復習（1 時間）、授業内容の予復習（2 時間）、新聞やデータの読み取り（1 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。資料と講義ノートを配布する。

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。(1) は日本の財政制度を学ぶ際に有用。参考書としては (3) よりも (2) の方が基本的な内容。

(1) 『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社

(2) 小塩隆士 (2016) 『コア・テキスト 財政学 第 2 版』新世社

(3) 麻生良文、小黒一正、鈴木将覚 (2018) 『財政学 15 講』新世社

【成績評価の方法と基準】

講義で出題された課題への解答 (100%)。試験等 (0 %)。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい講義を心がけます。

【その他の重要事項】

Hoppii を通し講義ノート・関連資料の配布を行うため、学期の始めに Hoppii に登録しておくこと。PDF の閲覧をできるように準備しておくこと。グラフや図を提出する必要があるかもしれないので、その際には、グラフや図を紙に描いて写真を画像ファイルにして送付したり、あるいは、グラフや図を作図できる Word など（あるいは Windows10 の Windows アクセサリ内のペイントなど何とか図を描けるツールで画像ファイルを保存しても良い）で簡単なグラフを描けると良い。

【Outline and objectives】

Students learn the roles of public policies on the basis of Public Finance A, microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the impact of taxation, public debt, and public investment on the economy.

ECN200CA
金融論 A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、初めて金融を学ぶ人を対象として、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説することを通じて、まず金融に興味を持ってもらい、さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義を行います。

第1回講義は、Zoomによるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上でZoomでの講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第2回以降の講義では、学習支援システムのオンデマンドシステムで受講登録者が動画コンテンツを視聴する形式のオンライン講義となる予定です。仮登録期間中は、オンデマンドシステムでこの講義の動画コンテンツを視聴するためには、受講者は原則として講義日の前週のうちにこの講義の履修を仮登録しておくことが必要になります。講義の日の週になってからこの講義に仮登録しても、この講義の動画コンテンツを視聴できない場合があるので、この講義のオンライン講義の受講を希望する学生は、必ず講義日の前週のうちに早めに仮登録しておくように注意してください。

この講義では、「金融ビッグバン」という言葉に象徴されるように、日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて、少し前にあたかも金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭に、今動いている金融の実態に即した up-to-date な金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように、金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには、それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の方法や内容に関する説明
第2回	イントロダクション：金融とは	金融とは何か
第3回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第4回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味

第5回	日本の金融組織と銀行	日本の金融組織の特徴と銀行について
第6回	日本の金融組織	協同組織金融機関と証券会社について
第7回	日本の金融組織	保険会社とその他の金融機関について
第8回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第9回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第10回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第11回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第12回	貨幣供給と流動性のワナ	貨幣供給について
第13回	マネーストック	マネーストックとは何か
第14回	公的金融	日本における公的金融の役割について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

現代経済学入門や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業では、数回の講義毎に学習支援システム上で課題として提示される小テストまたはレポートで主に評価します（80％）。授業への参加が単位習得の前提条件となりますので、授業での学習状況や参加度を加味することとし、オンデマンドシステムでの動画コンテンツの視聴状況やZoomミーティングへの参加状況、小テストやレポートの提出状況（期限など指定された提出要件の充足度）などを確認し、平常点として加算します（20％）。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがわかりますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の閲覧用資料の配布に学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

This is a course on the economics of money, banking and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

ECN200CA
金融論 A
鈴木 誠
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得し、身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

【到達目標】

本講義の目標は秋期の金融システムにおける諸問題を経済学のツールを利用して理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようにすることが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンライン（オンデマンド方式）による開講となる。テキストに沿った授業を行う予定であるが、具体的な内容は学習支援システムでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などは学習支援システムにて提示するので参照してほしい。なお、課題に対するフィードバックは、個別対応は困難であることから出題後の授業において履修生全員に向けた説明説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オンラインによる授業の進め方、および金融取引	オンラインを活用した授業の進め方を説明し、金融論の授業のイントロダクションとして金融取引における経済主体をテーマとする
2	金融の役割 1	異時点間の所得移転
3	金融の役割 2	異状態間の所得（リスク）移転
4	貨幣の時間価値 1	将来価値・複利計算
5	貨幣の時間価値 2	現在価値・割引
6	問題演習 1	貨幣の時間価値
7	リスク評価 1	2 状態モデルにおける分散化 (1)
8	リスク評価 2	2 状態モデルにおける分散化 (2)
9	リスク評価 3	4 状態モデル
10	債券価格	金利リスクと債券評価
11	株式評価	配当割引モデル
12	状態証券	保険・状態価格による資産評価
13	デリバティブ	状態価格によるオプション評価
14	問題演習 2	リスク資産評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では初めて金融について学ぶ学生も少なくないと思われる。従って、授業の有無を問わず、日ごろから金融経済に馴染むことを勧めたい。そのためには日本経済新聞を 30 分以上毎日読むことである。授業の予習については、当該箇所について教科書を事前に読み、不明な点が無いように調べるなどの準備が求められる。（120 分程度）また、事後的な復習については、自分で内容を咀嚼し理解できるようにすることが求められる。（90 分程度）

【テキスト（教科書）】

村瀬英彰著「新エコノミクスシリーズ 金融」 日本評論社、ISBN 4-535-04117-2、2000 円（税別）

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』（Pearson Education, 2009）

※当該テキストの Part 2 が学習の対象

【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。基本的に毎回の授業の課題提出、課題の評価、期末試験の成績の 3 点で評価を行う。割合としては、10 %、30 %、60 % の割合とする。授業において特に有益なコメントをしてくれた学生には、クレジットを行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

電卓もしくは電卓機能のついたスマートフォン

【その他の重要事項】

期末試験はオンラインで行う。試験問題の提出は時間厳守とするので、十分に注意をして試験に臨むこと。試験を受験しない場合には、評価点が法政大学の基準となる 60 点に満たないこととなるので留意すること。

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to the theories and the methods in finance such as future/present value, risk, and state price. I also show what role each economic entity plays and how important their roles are. Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems from the perspective of economics/finance.

ECN200CA
金融論 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、金融の基本的な仕組みを紹介し、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説します。講義の目的は、初めて金融を学ぶ学生に、まず金融の面白さに触れてもらい、さらには現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義を行います。

第1回講義は、Zoomによるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上でZoomでの講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第2回以降の講義では、学習支援システムのオンデマンドシステムで受講登録者が動画コンテンツを視聴する形式のオンライン講義となる予定です。仮登録期間中は、オンデマンドシステムでこの講義の動画コンテンツを視聴するためには、受講者は原則として講義日の前週のうちにこの講義の履修を仮登録しておくことが必要になります。講義の日の週になってからこの講義に仮登録しても、この講義の動画コンテンツを視聴できない場合があるので、この講義のオンライン講義の受講を希望する学生は、必ず講義日の前週のうちに早めに仮登録しておくように注意してください。

この講義では、金融市場の動向や金融取引の仕組み、貸出市場とメインバンク、新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつありますが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容や方法の説明
第2回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第3回	金融市場	短期金融市場について
第4回	債券市場と株式市場	長期金融市場について

第5回	外国為替市場	外国為替市場について
第6回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第7回	資産証券化	資産証券化とは何か
第8回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第9回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第10回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とブルードン政策について
第11回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティーネットについて
第12回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第13回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第14回	企業金融	企業の資金調達について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

現代経済学基礎や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業では、数回の講義毎に学習支援システム上で課題として提示される小テストまたはレポートで主に評価します（80％）。授業への参加が単位習得の前提条件となりますので、授業での学習状況や参加度を加味することとし、オンデマンドシステムでの動画コンテンツの視聴状況やZoomミーティングへの参加状況、小テストやレポートの提出状況（期限など指定された提出要件の充足度）などを確認し、平常点として加算します（20％）。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の閲覧用資料の配布に学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

This is a course on the economics of money, banking and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

ECN200CA
金融論 B
高橋 秀朋
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得することにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。金融論Aの知識に加え、情報の経済学を利用して、金融における諸問題をより現実的な形で分析する。

【到達目標】

本講義の目標は、金融論Aで学習したフレームワークを基礎に、いくつかのミクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。また、金融論において重要な分野の一つである中央銀行の役割および金融政策の意義についても触れ、その概要を理解することも本講義の目的である。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようになることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、すべて遠隔授業により実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、その上で、課題に回答する、という学習サイクルで実施する。ただし、必要に応じてセミナー形式のオンライン授業による解説を行う予定である。金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示していく。金融論Bではミクロ経済学に基礎をおいた経済学的フレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融論 A の復習①： 金融の機能	金融市場概要
2	金融論 A の復習②： 金融仲介機関	金融仲介の機能
3	金融論 A の復習③： 不確実性と市場	不確実性とリスク
4	情報の非対称性 1	逆選択問題
5	情報の非対称性 2	モラル・ハザード
6	情報の非対称性 3	自己選択メカニズム
7	情報の非対称性 4	インセンティブ・メカニズム
8	問題演習（予定）	情報の非対称性について
9	契約の不完備性 1	不完備契約における諸問題
10	契約の不完備性 2	金融仲介機関による再交渉
11	金融市場への応用	情報の非対称性と金融市場
12	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
13	銀行・金融規制	銀行・金融規制の経済分析
14	最終課題（テスト実施）	本講義で学習した範囲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

情報の経済学に基づく金融論は、実際の経済における金融に関わる事象をモデルによって説明しようと試みている。そのため、講義で学習する知識だけでなく、日本経済新聞、ロイター、F T等による経済情報の摂取を強くすすめる（120分）。講義資料に関しては講義中に詳細に説明するため予習は必要ないが、2回の中間アサインメントに答えるために講義資料もしくは指定教科書の該当箇所を復習しておくことも強く推奨する（120分）。

【テキスト（教科書）】

村瀬英彰『新エコノミクス 金融論』（日本評論社、2006年）
ISBN 4-535-04117-2, 2000 円（税別）

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』（Pearson Education, 2009）
※当該テキストの Part 3 および Part 4 が対象。

【成績評価の方法と基準】

遠隔授業による授業方式であるため、成績評価は、学期中に2回出される課題（回答は1週間以内）と期末の試験により評価を行う。また、期末試験がオンライン試験となる可能性がある場合は追加で期中レポートの提出を求める場合もある。2回のアサインメントを30%、期末試験（と期中レポートの合計）を70%とし評価を行う。最終的な成績は、上記の課題の合計点、期末試験（および期中レポート）の合計点を総合し、100%に変換の上、法政大学の評価基準に併せて成績を付ける。ただし、上記課題およびレポートの提出がされない者に関しては、講義への出席不足と判定し、期末試験への受験資格を喪失する可能性があるので留意すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

電卓もしくは電卓機能のついたスマートホン。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to introduce some concepts and frame works for Finance.
Students will be expected to examine real financial activities with Economic view point. In this lecture, we will employ the information theory and fundamental knowledge of Finance to recognize the real world.

ECN200CA
経済の数理 A
佐柄 信純
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学やゲーム理論の分析を支える数学の題材を厳選して講義します。実数の公理、集合と位相、実数列と級数、実数列の極限を丁寧に解説します。計算力と同時に抽象的思考能力を養うのが本講義の目的です。また、数学の奥深さを知ってもらうために、難問に挑んだ数学者に関するテレビ番組（NHK スペシャル）や映画を数回視聴します。

【到達目標】

受講者に求められるのは、自分の頭で考え、論理を粘り強く追って行く根気です。本講義を通して「(数学の) 本を読むとはどういうことなのか」を受講者に自覚的に認識してもらうとともに、「分かって嬉しい」という純真無垢な喜びも味わって欲しいと思います。経済分析への応用を常に念頭に置きますので、公務員・公認会計士試験、大学院受験の対策としても本講義を活用することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

数学は「積み重ね」の学問です。それまでに導入した概念に基づき、新たな概念を構築する形で講義は進みます。動機付け → 定義 → 例 → 定理 → 証明 → 反例という流れに沿い、板書を中心に授業を進めます。随時、演習問題と宿題を課し、採点の上、返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	実数 (1)	はじめに、四則演算
第 2 回	実数 (2)	順序
第 3 回	実数 (3)	連続の公理、実数体
第 4 回	複素数	複素数体
第 5 回	ユークリッド空間	内積、ノルム
第 6 回	位相の導入 (1)	有限集合、可算集合、非可算集合
第 7 回	位相の導入 (2)	距離空間
第 8 回	位相の導入 (3)	コンパクト集合
第 9 回	位相の導入 (4)	連結集合
第 10 回	実数列と級数 (1)	収束列、部分列
第 11 回	実数列と級数 (2)	コーシー列
第 12 回	実数列と級数 (3)	上極限、下極限
第 13 回	実数列と級数 (4)	級数、正項級数
第 14 回	実数列と級数 (5)	冪級数、絶対収束

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ノートの該当箇所を事前に読んで上で授業に出席することが求められます。授業内での問題演習を重視し、必要に応じて、適宜、宿題を課します。毎回の講義につき、予習 1 時間、復習 2 時間、宿題 1 時間の学習が必要になります。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

- [1] 内田伏一『集合と位相（増補新装版）』（裳華房、2020 年）
- [2] 杉浦光夫『解析入門 I』（東京大学出版会、1980 年）
- [3] 松坂和夫『集合・位相入門』（岩波書店、1968 年）
- [4] 丸山徹『経済数学』（知泉書館、2002 年）
- [5] C.D. Aliprantis and O. Burkinshaw, *Principles of Real Analysis*, 3rd ed., Academic Press, 1998

[6] W. Rudin, *Principles of Mathematical Analysis*, 3rd ed., McGraw-Hill, New York, 1976 [初版 (1964 年) の邦訳, W. ルディン『現代解析学』（近藤甚吉・柳原二郎 訳）、共立出版、1971 年] このうち、講義内容に最も近い教科書は [2], [6] です。

【成績評価の方法と基準】

レポート提出 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します。

【Outline and objectives】

In this course the axioms of real numbers, basic topology, numerical sequences and series, and the limit of sequences are lectured.

ECN200CA
経済の数理 B
佐柄 信純
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学やゲーム理論の分析を支える数学の題材を厳選して講義します。関数の連続性、集合の濃度、集合論の公理を丁寧に解説します。計算力と同時に抽象的思考能力を養うのが本講義の目的です。また、数学の奥深さを知ってもらうために、難問に挑んだ数学者に関するテレビ番組（NHK スペシャル）や映画を数回視聴します。

【到達目標】

受講者に求められるのは、自分の頭で考え、論理を粘り強く追って行く根気です。本講義を通して「(数学の) 本を読むとはどういうことなのか」を受講者に自覚的に認識してもらうとともに、「分かって嬉しい」という純真無垢な喜びも味わって欲しいと思います。経済分析への応用を常に念頭に置きますので、公務員・公認会計士試験、大学院受験の対策としても本講義を活用することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

数学は「積み重ね」の学問です。それまでに導入した概念に基づき、新たな概念を構築する形で講義は進みます。動機付け → 定義 → 例 → 定理 → 証明 → 反例という流れに沿い、板書を中心に授業を進めます。随時、演習問題と宿題を課し、採点の上、返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	連続性 (1)	関数の極限
第 2 回	連続性 (2)	連続関数
第 3 回	連続性 (3)	連続性とコンパクト性
第 4 回	連続性 (4)	連続性と連結性
第 5 回	集合の濃度 (1)	全射, 単射
第 6 回	集合の濃度 (2)	濃度の大小
第 7 回	集合の濃度 (3)	二項関係
第 8 回	整列集合と選択公理 (1)	整列集合
第 9 回	整列集合と選択公理 (2)	選択公理
第 10 回	整列集合と選択公理 (3)	整列可能定理
第 11 回	集合論の公理 (1)	ラッセルのパラドックス
第 12 回	集合論の公理 (2)	外延性公理, 集合
第 13 回	集合論の公理 (3)	非順序対, 合併, 無限公理
第 14 回	集合論の公理 (4)	分出公理, 共通部分, 冪集合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ノートの該当箇所を事前に読んだ上で授業に出席することが求められます。授業内での問題演習を重視し、必要に応じて、適宜、宿題を課します。毎回の講義につき、予習 1 時間、復習 2 時間、宿題 1 時間の学習が必要になります。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

- [1] 内田伏一『集合と位相 (増補新装版)』(裳華房, 2020 年)
- [2] 杉浦光夫『解析入門 I』(東京大学出版会, 1980 年)
- [3] 松坂和夫『集合・位相入門』(岩波書店, 1968 年)
- [4] 丸山徹『経済数学』(知泉書館, 2002 年)

[5] C.D. Aliprantis and O. Burkinshaw, *Principles of Real Analysis*, 3rd ed., Academic Press, 1998

[6] W. Rudin, *Principles of Mathematical Analysis*, 3rd ed., McGraw-Hill, New York, 1976[初版 (1964 年) の邦訳, W. ル ディン『現代解析学』(近藤甚吉・柳原二郎 訳), 共立出版, 1971 年] このうち、講義内容に最も近い教科書は [1], [3] です。

【成績評価の方法と基準】

レポート提出 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します。

【Outline and objectives】

In this course convex analysis, fixed point theorems, and optimization theory are lectured.

ECN200CA
計量経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、古典的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、EXCEL をもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。データの扱い方、確率論の復習、統計学の復習、単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。

原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学を学ぶ必要があるのか
2	データの扱い方	データを整理して情報を読み取る 観測されたデータから全体の傾向を知るには
3	データの扱い方	2つの事柄の関係を調べる
4	計量経済学のための確率論	物事の起こりやすさを表すツールとしての「確率」
5	計量経済学のための確率論	確率の性質を表す確率分布
6	計量経済学のための確率論	2つ以上の事柄の確率変数 連続確率分布 計量経済学で使う代表的な確率分布
7	統計学による推論	統計的推論とは？ 標本平均の性質
8	統計学による推論	標本分散と効率性 仮説検定
9	単回帰分析	単回帰モデル 最小二乗法
10	単回帰分析	傾きパラメーターをどう解釈するか？ 最小二乗法の別解法
11	単回帰分析	最小二乗推定量はよい推定方法か？
12	重回帰分析の基本	外的条件を制御する重回帰モデル
13	重回帰分析の基本	欠落変数によるバイアス 最小二乗推定量の分散
14	重回帰分析の基本	回帰分析後の検定 大標本理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」 有斐閣

【参考書】

山本拓・竹内明香 (2013) 「入門計量経済学— Excel による実証分析へのガイド (経済学叢書 Introductory)」 新生社

中室牧子・津川友介 (2017) 「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社

伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」 光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている EXCEL を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

When you take thi course, you can explain a classical regression theory, read an empirical paper, conduct an empirical analysis with EXCEL, and consider our society with an independent perspective.

ECN200CA
計量経済学 B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、現代的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、R をもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。データの扱い方、確率論の復習、統計学の復習、単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学が必要なのか データの扱い方
2	計量経済学のための確率論	不確かなことについて語る
3	統計学による推論	観察されたデータの背後にあるメカニズムを探る
4	単回帰分析	2つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる
5	重回帰分析の基本	外的条件を制御して本質に迫る
6	重回帰分析の応用	変数の単位と傾きパラメータの解釈 より複雑な政策効果をモデル化する
7	重回帰分析の応用	ダミー変数を使った分析
8	重回帰分析の応用	分散が不均一な時の頑健な標準誤差 誤差項が均一かどうか調べる
9	操作変数法	内生性の問題と対応 操作変数のモデル
10	操作変数法	誤った操作変数法を用いたら？ 二段階最小二乗法
11	パネルデータ分析	複数時点の観測されたデータ 差の差の推定量
12	パネルデータ分析	二期間パネルデータ 変量効果モデル
13	マッチング法	実験的手法の導入 傾向スコアマッチング
14	回帰不連続デザイン	「制度」の特徴を利用する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】

星野匡郎, 田中久稔 (2016) 「R による実証分析 ―回帰分析から因果分析へ―」オーム社

中室牧子・津川友介 (2017) 「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社

伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている R を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

When you take this course, you can explain a modern regression theory, read an empirical paper, conduct an empirical analysis with R, and consider our society with an independent perspective.

ECN200CD
企業と経済・応用 A
鈴木 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は 1 年次の「企業と経済・基礎」に続く内容として、「独占・寡占とその応用」「ゲーム理論の基礎」「交渉とオークション」を中心に学習する。受講生は、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を習得し、現実経済（特に企業経済）を考察する力をさらに高めることができる。

【到達目標】

1 年次の「企業と経済・基礎」（ミクロ・パート）からの接続を意識し、そこからの積み上げとして、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は授業用のレジュメ、後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』を使って授業を進める。この講義はフルオンデマンド授業となるが、「Zoom」による動画配信」の方式で進める予定である。受講生は、リアクションペーパーと課題提出（レポートを含む）の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、適宜「学習支援システム」上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	完全競争企業	復習。価格所与の下での利潤最大化行動。
第 2 回	独占企業①	独占企業の行動原理。最適解（独占価格公式）の導出と図解①
第 3 回	独占企業②	独占企業の行動原理。最適解（独占価格公式）の導出と図解②
第 4 回	独占企業③	応用問題：価格差別とその応用。部品の内製 v s 外部市場調達など。
第 5 回	寡占企業①	クールノー競争（数量競争）
第 6 回	寡占企業②	ベルトラン競争（価格競争）
第 7 回	寡占企業③	シュタッケルベルク競争（先手・後手の区別）
第 8 回	ゲーム理論の基礎①	3 つのモデルの比較（余剰分析）
第 9 回	ゲーム理論の基礎②	ナッシュ均衡
第 10 回	ゲーム理論の基礎③	サブゲーム完全均衡
第 11 回	交渉とオークション①	支配戦略、弱支配戦略、被支配戦略の繰り返し削除など。
第 12 回	交渉とオークション②	展開型交渉ゲーム
第 13 回	交渉とオークション③	ナッシュ交渉問題
第 14 回	交渉とオークション④	オークション①基礎
		オークション②応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016 および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）を怠らないこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016

【参考書】

1. マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）有斐閣
2. ミルグロム＋ロバーツ『組織の経済学』（奥野・伊藤ほか訳）NTT 出版
3. 伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社
4. 梶井・松井『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社
5. 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で課された課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）の積み重ねで評価する。評価のウェイトは、課題提出の合計点（65%）、レポートの合計点（30%）、リアクションペーパーの合計点（5%）で考えている。

【学生の意見等からの気づき】

説明はできるだけ分かりやすく、丁寧に行うよう心がけたい。簡単な数値例や図を使い、レジュメなども配って、直観的理解に訴える工夫を心がける。後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』に沿った形で進め、内容をフォローしやすくする。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。

【Outline and objectives】

Following the Elementary Business Economics in the first year, this Advanced Business Economics will deal with the more advanced topics associated with the corporations (firms) and their corporate strategies. It will cover Monopoly and its applications, Duopoly, Game Theory and its applications, such as Bargaining and Auction.

ECN200CD
企業と経済・応用 B
河村 真
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業と経済基礎 A で均衡 GDP（国民所得）の決定の説明（45° 線分析）を学習した。その延長線上として、GDP（国民所得）と金利の水準を同時に決定する説明（IS-LM 分析）さらに、GDP（国民所得）と物価水準を同時に決定する説明（総需要-総供給分析）を理解することが本講義の目的の一つである。これらの説明に基づき（応用問題として）、財政政策及び金融政策が GDP（国民所得）、金利および物価水準への効果を自分で予測できるようになることが第二の目的である。

【到達目標】

- ・IS-LM 分析に基づく GDP（国民所得）および金利の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・総需要-総供給分析に基づく GDP（国民所得）および物価の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・財政政策及び金融政策が金利および GDP（国民所得）にあたる効果を予測できるようになる。（IS-LM 分析の仕組みに基づき）
- ・財政政策及び金融政策が物価水準および GDP（国民所得）にあたる効果を予測できるようになる。（総需要-総供給分析の仕組みに基づき）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、レジュメをアップし、そのレジュメを読んで図解による説明を理解してもらう。秋学期中に、2 回課題を出すので、1 週間を目途に授業支援システムの課題にその解答をアップしてほしい。締め切り直後の zoom による講義内で正解の解説を行う。第 1 回は、ガイダンスということで zoom による授業を考えている。さらに、受講生の理解の程度により、質疑応答のための zoom による授業を 1、2 回行うことも考えている。その場合、1 週間前までに、授業支援システムのお知らせにて周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済学の理論に基づき GDP、金利、物価水準の動きを説明する理由
2	消費関数と貯蓄関数	消費関数の復習とその裏表の関係にある貯蓄関数の説明（限界貯蓄性向）
3	投資関数	投資関数の背後にある投資の水準の決定の考え方（機会費用）
4	IS 曲線の導出－財市場の均衡－	貯蓄関数と投資関数を組み合わせ、財市場を均衡させる金利と GDP（国民所得）の組み合わせの導出
5	貨幣供給	中央銀行による貨幣供給の仕組み（マーシャルの k など）
6	貨幣需要	IS-LM 分析における貨幣需要の考え方および貨幣需要関数（取引的動機および投機的動機に基づく）
7	LM 曲線の導出－貨幣市場の均衡－	貨幣市場を均衡させる金利と GDP（国民所得）の水準の導出
8	IS-LM 分析に基づく均衡 GDP および金利の水準の決定－財市場および貨幣市場の同時均衡－	IS-LM 分析に基づく 2 つの市場を均衡させる GDP（国民所得）および金利の水準の導出
9	IS-LM 分析に基づく財政政策・金融政策の効果	金融政策及び財政政策美変化が金利および GDP（国民所得）の水準に与える効果の予測（IS-LM 分析に基づき）
10	総需要曲線の導出	貨幣市場および財市場を同時に均衡させる GDP（国民所得）と物価水準の導出
11	生産関数および労働需要曲線	国全体の生産と生産要素需要の決定
12	労働市場を均衡させる GDP 及び物価水準の関係－総供給曲線の導出－	総供給曲線の導出（労働市場を均衡させる物価水準と GDP（国民所得）の水準の導出
13	総需要-総供給分析に基づく物価水準と GDP（国民所得）の導出	財市場、貨幣市場および労働市場を同時に均衡させる GDP（国民所得）および物価水準の導出

- 14 総需要-総供給分析に基づく金融政策、財政政策 GDP（国民所得）および物価水準に与える効果の予測

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメを読んで図解を理解してもらいたい。図解を自分で再現できるようになってほしい。そのため、2 時間程度は必要かと思う。

【テキスト（教科書）】

特に指示しない。参考書は、要望が多ければ、レジュメまたは zoom による授業の際に紹介する。基本的には、講義時に配布するレジュメで理解いたできると思う。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、基本的に、期末に出す課題の解答を授業支援システムの課題にアップしてもらいその素点に関して 85%、2 回の学期内での課題提出の状況（提出の有無）に関して 15%のウェイトで評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメは、ほぼ図解の説明によるため、図解の中で、書き込みの多いものについては、なるべく大きく示すよう心掛ける。

【Outline and objectives】

This course is aimed to acquire basic understandings for IS-LM model, determines the levels of interest rate and GDP, and AD-AS model, determines the levels of inflation rate and GDP. Moreover, the course is aimed to be possible for assessing the effects of monetary and fiscal policy changes on the changes of interest rate, inflation rate, and GDP, based on IS-LM, and AD-AS model.

ECN200CA
現代ファイナンス入門 A
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという 2 つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

株式会社について理解し、株式の理論価格を計算することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

春学期は、株式の理論価格を題材にして、リターンを中心に学びます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第 2 回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第 3 回	事業循環	材料仕入れ、製造、販売、決算
第 4 回	財務諸表・事業計画	損益計算書、貸借対照表、改善ポイント
第 5 回	財務諸表分析	有価証券報告書
第 6 回	収益性の分析	資本利益率
第 7 回	安定性の分析	株主資本比率
第 8 回	デュボン・システム	株価と財務比率
第 9 回	株価の分解	EPS と PER
第 10 回	配当利回り	株価と DPS
第 11 回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第 12 回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第 13 回	株主資本の増加と配当の成長	サステナブル成長率
第 14 回	株価と配当政策	配当性向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社。
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社。
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline and objectives】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

ECN200CA
現代ファイナンス入門B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

リターンとリスクについて理解し、両者を計算で求め、投資判断に用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

秋学期はリスクを扱います。リスク管理に必要な、リスク指標の計算方法や、リスク分散を学びます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第2回	インデックス運用	市場ポートフォリオ
第3回	アクティブ運用	成功の条件
第4回	複利	最初の数字の賭け、割り算距離
第5回	複利計算の頻度	半年複利、連続複利
第6回	確定利付証券	元本、クーポン
第7回	金利期間構造	期間構造仮説
第8回	リスク管理	金融工学の機能
第9回	分布	離散型と連続型
第10回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第11回	標準偏差と VaR	正規分布
第12回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第13回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第14回	モンテカルロ法	金融派生商品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline and objectives】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

ECN200CA
経済データ分析 A
明城 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学・計量経済学を応用した経済データの分析方法を学ぶ。また、EXCEL による基本的なデータ処理の方法も学ぶ。
 ※本年度は情報処理室での対面授業を前提に講義を行います。Zoom によるオンライン受講も認めますが、その場合は PC 環境を自身で用意してもらいます。詳しくは学習支援システムのお知らせをご覧ください。

【到達目標】

統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、パソコン上で EXCEL を使った経済データを分析します。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使って Excel を用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いて宿題やレポートとして提出するものとなります。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excel と統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データの表・グラフ作成 ・成長率、寄与度、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メディアン、モード ・ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・格差の定量化 ・ローレンツ曲線
6	相関関係と因果関係	・散布図 ・相関、偏相関、時差相関、自己相関 ・ランダム化比較試験、自然実験
7	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整 ・異常値
8	統計的推測	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定 (1)	・仮説検定と有意水準 ・1 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
10	母集団に関する検定と推定 (2)	・2 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
11	平均に関する群間比較 (1)	・分散分析 ・1 元配置法
12	平均に関する群間比較 (2)	・2 元配置法 ・相互効果

13	単回帰分析	・単回帰分析 ・系列相関とダービーワットソン統計量
14	重回帰分析	・重回帰分析 ・ダミー変数 ・その他の回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PC を使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。講義で扱ったトピックについての宿題があります。（標準 4 時間）

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】

計量経済学の参考書として以下をオススメします。

・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015

統計学の参考書には以下をあげます。

・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991

・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

宿題 (30%) と課題レポート (70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを利用します。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in the exercise using PC and statistical software (MS EXCEL).

ECN200CA
経済データ分析 B
明城 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計パッケージを利用したより高度な経済データ分析手法を学ぶ。
※本年度は情報処理室での対面授業を前提に講義を行います。Zoom によるオンライン受講も認めますが、その場合は PC 環境（統計パッケージのインストール含む）を自身で用意してもらいます。
詳しくは学習支援システムのお知らせをご覧ください。

【到達目標】

秋学期の授業では、統計パッケージ R を用いた演習を行います。R の特徴は Excel よりも高度な統計手法がデフォルトで利用できる点や柔軟なプログラミングができる点です。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量経済学の手法を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説します。その後で実際に端末を利用して演習を行います。春学期と同様に練習問題を解いてレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定 (1)	・ R について ・基本的な設定
3	R の設定 (2)	・基本コマンド ・統計量の計算
4	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
5	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
6	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
7	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
8	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 1)	・クロスセクション・データ ・ K 変数線形回帰モデル ・一般化古典的仮定
9	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 2)	・ R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
10	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
11	線形回帰分析 (パネルデータ 1)	・パネルデータ ・ Pooled OLS
12	線形回帰分析 (パネルデータ 2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル
13	線形回帰分析 (パネルデータ 3)	・ Hausman 検定
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期の経済データ分析 A に加えて、統計学と計量経済学を復習しておいて下さい。

毎回の講義内容を復習しておいてください（標準 4 時間）

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジメを配布します。

【参考書】

R の操作やデータ分析については

・「R による統計データ分析入門」小暮厚之、朝倉書店、2009

・「R による計量経済分析」福地純一郎、伊藤有希、朝倉書店、2011
計量経済学については

・山本拓「計量経済学」新世社、1995

・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015

統計学の参考書には以下をあげます。

・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991

・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

課題レポート (100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

統計パッケージ R をインストールできる Windows、Mac、もしくは Linux の PC を用意して下さい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

Primary objective of this course is to master advanced econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programming skills to utilize statistical software R.

ECN200CD
経済地理
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、都市・地域経済の基礎と応用、産業の立地論、経済の空間構造、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	人口と経済成長①	人口構造と人口転換
第 3 回	人口と経済成長②	経済成長と発展格差
第 4 回	都市経済の基礎①	都市化と都市発展
第 5 回	都市経済の基礎②	都市内部構造と都市システム
第 6 回	産業の立地①	立地論の系譜とアプローチ
第 7 回	産業の立地②	工業立地論の枠組と応用
第 8 回	経済の空間構造①	日本の地域構造
第 9 回	経済の空間構造②	地域構造の比較制度分析
第 10 回	都市・地域経済の応用①	地域成長と地域間交易
第 11 回	都市・地域経済の応用②	地域間格差と人口移動
第 12 回	国土計画と地域政策①	戦後の国土・地域政策と地域間格差
第 13 回	国土計画と地域政策②	都市・地域問題の現状と新たな政策
第 14 回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野稠果（2000）『世界の人口（第 2 版）』東京大学出版会

デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第 2 版）』ピアソン桐原

松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院

山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第 3 版）』有斐閣

竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポートの評価（60%）が中心となる。授業時リアクションペーパーまたはオンライン小テスト（平常点 40%）なども最終評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and empirical overview of modern economic geographical studies. These include economic growth and population, urban and regional problems, industrial location, spatial economic structure, and land policy.

ECN200CD
産業集積論
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、産業の歴史と地理に焦点をあて、産業地域や産業集積の盛衰メカニズムに関する具体的な実践的な思考力を身につけることを目的として、現代産業における地域経済への影響や集積の実態を概説する。

【到達目標】

現代経済における産業構造に焦点をあてながら、さまざまな産業の姿について集積論（地域論）の視点から多角的に論ずる。産業のみならず、産業構造にかかわるさまざまな社会経済的側面について考察し、広範な現代経済の文脈と集積論への理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。本講義では、経済地理学の一分野である集積論をベースにして、主要産業の発展について、国・地域のスケールでみた立地や企業行動を概観し、市場変化や技術革新のもたらした地理的影響に焦点を当てる。その際、現代経済や現代ビジネスの潮流に触れ、世界の中の日本、アジアの中の日本を意識したトピックを各回で取りあげて、上記の目的を達したい。授業は配布資料をもとに行い、課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	産業研究と集積論①	産業化と経済発展
第3回	産業研究と集積論②	産業構造と地域経済
第4回	鉄は国家なり	近代製鉄業から現代の鉄鋼業へ
第5回	石油時代の来し方行く末	石油化学産業とその周辺
第6回	繊維産業の歴史と地理	近代製糸業と日本の工業化
第7回	織物からユニクロまで	繊維産業からみる現代経済の変化
第8回	工業から「ものづくり」へ	加工組立型製造業とものづくり基盤技術
第9回	自動車大国日本の行方①	製品アーキテクチャーと集積
第10回	自動車大国日本の行方②	日本的生産システムとグローバル戦略
第11回	電子立国興亡史①	日の丸家電・半導体の栄枯盛衰
第12回	電子立国興亡史②	産学連携とシリコンバレーモデル
第13回	知識経済化とグローバル・マーケティング時代	商品連鎖、クラスター、ネットワーク、イノベーション
第14回	まとめ	集積論の温故知新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

伊丹敬之ほか編（1998）『産業集積の本質』有斐閣
伊藤正昭（2011）『新地域産業論』学文社
橘川武郎ほか編（2014）『日本の産業と企業』有斐閣
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
松原宏編（2018）『産業集積地域の構造変化と立地政策』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、オンデマンド授業の課題（40%）となる。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a comprehensive survey of geographical agglomeration in industrial geography. Key themes focus on historical and geographical change, localization and globalization, and changing geographies of industries.

MAN200CA
コーポレートガバナンス論A
胥 鵬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーポレート・ガバナンス論Aのテーマは、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解する。

【到達目標】

コーポレート・ガバナンス論Aの学習目標は、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解することである。

感染状況に応じて適宜オンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネット、ビジュアル資料を通じて、豊富なデータベースを利用して、コーポレート・ガバナンスにかかわる株主総会制度や敵対的買収についてわかりやすく説明し、グループ課題を通じてレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	長期的に利益を生み出すためにコーポレート・ガバナンスは重要	コーポレート・ガバナンスの基礎概念と用語を解説する
第2回	所有と経営の分離	コーポレート・ガバナンスの原点
第3回	株主の権限	ビジュアル資料を用いてわかりやすく説明する
第4回	株主総会	ビジュアル教材で使って解説する
第5回	議決権行使	法律と実務を交えながら解説する
第6回	日本版スチュワードシップ・コード	英国との比較で日本の制度の変遷を説明する
第7回	機関投資家の議決権行使の個別開示	公表されたデータに基づいて機関投資家の議決権行使の実態を把握する
第8回	取締役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第9回	監査役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第10回	敵対的買収対策	事例を交えながら説明する
第11回	敵対的買収防衛策導入議案	なぜ海外機関投資家が反対票を投じるかを理解する
第12回	ウォールストリート・ルール	保有株式を売却して反対意思を表明するメカニズムを解説する
第13回	株式持合	企業同士が株式を保有し合う日本特有な所有構造と議決権行使によるガバナンスの限界について説明する

第14回 課題

今までのことをどれくらい理解したかを確かめるために、各自に収集した資料やデータに基づいて課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で試してください。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みたい。

【テキスト（教科書）】

テキストを特に使わないが、アップロードした講義ノートを学生がダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本のM&A』、東洋経済新報社
宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題（40%）＋期末（グループ）課題レポート（60%）で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析
『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline and objectives】

The theme of Corporate Governance Theory A is to learn systems such as general shareholders' meeting, exercise of voting rights, stewardship code, individual disclosure of the exercise of voting rights by institutional investors, understand the relationship between exercise of voting rights and corporate governance using data.

MAN200CA
コーポレートガバナンス論B
胥 鵬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーポレート・ガバナンス論Bのテーマは、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、コーポレート・ガバナンスコードである。

【到達目標】

コーポレート・ガバナンス論Bの学習目標は、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードなどを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネットや豊富なデータベースを利用して、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードについてわかりやすく説明する。

感染状況に応じて適宜 Zoom や Webex などのリアルタイムオンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	取締役の義務	取締役は会社のしもべ
第2回	取締役会	規模、構成と独立性
第3回	監査役	監査役は目付役
第4回	監査役会設置会社	なぜ監査役は閑散役と揶揄される
第5回	指名委員会等設置会社	監督と執行の分離、独立社外取締役：米国の影響
第6回	取締役会の規模と執行役員制度	スマート＝効率？
第7回	監査等委員会設置会社	監査役会設置会社と指名委員会等設置会社の中間的性格を帯びた第三の会社形態
第8回	監査等委員である取締役	監査等委員である取締役とその他の取締役の相違
第9回	代表取締役の選任と解任	誰が社長のくびをとるのか：監査役と取締役の違い
第10回	取締役の多様性	女性取締役と女性の活躍推進
第11回	業績連動報酬	ストックオプション、譲渡制限株式などの株価などの企業経営業績と連動する役員報酬
第12回	1億円以上役員報酬の開示	1億円（ミリオン）プレイヤーは誰かを探してその是非を考える
第13回	日本版コーポレート・ガバナンス・コード	コンプライ・オア・エクスプレイン
第14回	グループ課題	今までの勉強の理解を確かめるために、収集した資料やデータに基づいてグループ課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で試してください。各自に収集したコーポレートガバナンス報告書等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、アップロードした講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本のM&A』、東洋経済新報社
 宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
 『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年
 参考資料はネットから各自にダウンロードする。

【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題（40%）＋期末（グループ）課題レポート（60%）で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面もノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々
 『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年
 Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline and objectives】

The theme of Corporate Governance Theory B is choice of a Board of Corporate Auditors, or a committee such as audit etc., or a nominating committee etc., the board of directors, outside directors, executive compensation, stock options, corporate governance code.

ECN300CA
リスク・マネジメント A
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、リスク管理の考え方と手法を身につけ、実際に活用できることを目標とします。

【到達目標】

リスク測度について理解し、値を計算で求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

家計でもビジネスでも、リスクを全く取らなければリターンも低いままです。一方、過剰なリスクは破綻につながります。リスク管理は、負担可能なリスクの限度を見極めて、要求される利回りを実現することに役立ちます。

現代ファイナンス入門の講義で、現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に、講義します。

春学期は、現在価値、リスクを中心に扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ファイナンスとは何か	ファイナンスを学ぶ理由
第 2 回	将来価値	複利計算の頻度と実効金利
第 3 回	現在価値	単利の発想と複利の発想
第 4 回	採択ルール	正味現在価値
第 5 回	アニュイティ	複数回のキャッシュフロー
第 6 回	資産価値評価	一物一価の法則と裁定
第 7 回	三角裁定	為替とクロスレート
第 8 回	リスク	リスク回避とリスク測度
第 9 回	リスク管理	リスク管理の基本テクニック
第 10 回	リスク移転	ヘッジと保険と分散
第 11 回	動機付け問題	モラル・ハザードと逆選択
第 12 回	確率分布	正規分布
第 13 回	リスク測度	期待収益率とボラティリティ
第 14 回	まとめ	ファイナンスの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

ボディ、マートン、クリートン（2011）、『現代ファイナンス論 原著第 2 版 意思決定のための理論と実践』、ピアソン桐原。
ルーエンバーガー（2015）、『金融工学入門第 2 版』、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline and objectives】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning risk management.

ECN300CA
リスク・マネジメント B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、リスク管理の考え方と手法を身につけ、実際に活用できることを目標とします。

【到達目標】

金融派生商品について理解し、理論価格を計算で求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

家計でもビジネスでも、リスクを全く取らなければリターンも低いままです。一方、過剰なリスクは破綻につながります。リスク管理は、負担可能なリスクの限度を見極めて、要求される利回りを実現することに役立ちます。

現代ファイナンス入門の講義で、現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に、講義します。

秋学期は、ポートフォリオ理論、金融派生商品を扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ポートフォリオ選択	原則と戦略
第 2 回	前提条件	ホライズンとリスク許容度
第 3 回	トレードオフ	危険資産と無リスク資産
第 4 回	目標期待リターンの達成	ポートフォリオの効率性
第 5 回	リスク分散	二つの危険資産
第 6 回	ポートフォリオのリスク	最小分散ポートフォリオ
第 7 回	先渡し契約、先物契約	先渡し価格、債務不履行の防止
第 8 回	パリティ	裁定取引と先渡しの理論価格
第 9 回	金融先物	複製とインプライド配当
第 10 回	オプション	条件付き請求権
第 11 回	ペイオフ	本源的価値と時間的価値
第 12 回	オプション・プレミアム	株価モデル
第 13 回	動的複製戦略	ブラック・ショールズ式
第 14 回	まとめ	金融派生商品の利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

ボデイ、マートン、クリートン（2011）、『現代ファイナンス論 原著第 2 版 意思決定のための理論と実践』、ピアソン桐原。
ルーエンバーガー（2015）、『金融工学入門第 2 版』、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline and objectives】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning risk management.

ECN300CA
企業経営史 A
飯塚 陽介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、ビジネスのあり方における時代・地域に応じた多様性をそれを生み出した背景とともに知ること、各地域のビジネスのあり方について、広い視野から比較し関連づけて考察する力を身につけることにあります。具体的には、19 世紀以降の欧米諸国及び日本におけるビジネスのあり方を概論します。A では、日米欧における「現代企業」の出現にいたる時期までを対象とします。企業は現代の経済社会において大きな部分を構成しています。企業活動について歴史的背景にまで遡って深く理解することは、現代の社会について主体的に考察する上での助けとなるでしょう。なお、講義の中では、適宜、グラフや図表といった統計資料も活用します。

【到達目標】

- (1) 現代企業が出現した経緯を説明できる。
- (2) 日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
- (3) 歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
- (4) 企業・産業の歴史についての文献を収集できる。
- (5) 収集した文献を用いて、企業・産業の歴史を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン形式での授業となります。毎回、Hopii に講義資料と音声ファイルをアップロードします。履修者はそれらを通じて学習をした上で、毎回課される確認小テストに取り組んでください。履修者には任意の企業・産業の歴史を調査・研究することが求められます。個人での調査・研究に関連して研究計画書と期末レポートの提出が義務付けられます。なお、研究計画書と期末レポートについて希望があった学生に限り個別にコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	規模の経済の発見	産業革命期の英国において「規模の経済」はいかに発見されたのか？
2	市場経済の中の企業	産業革命期の企業活動はあくまで「市場」による調整を前提としていた。
3	産業革命期の在来産業	在来産業において生じた革新とは？
4	産業革命と金融ビジネス	産業革命を支えた金融ビジネス。
5	大量生産体制への途	アメリカでの大量生産への模索
6	期末レポート作成指導（研究計画の調整など）	研究計画書のテーマの調整と調査法についての簡単なレクチャー。
7	市場的調整から管理的調整へ 及び 中間テスト	19 世紀アメリカにおいて市場的調整を代替する大企業はなぜ出現したのか？
8	専門経営者と経営階層組織	19 世紀アメリカにおいて経営階層組織はなぜ発達したのか？
9	経営者企業の成立と経営階層組織の発達	さらに発達を遂げるアメリカ大企業の経営階層組織。
10	ヨーロッパにおける現代企業の登場	19 世紀末、ヨーロッパにおいても「大企業」が出現した。
11	ヨーロッパ大企業の諸特徴	ただし、ヨーロッパ大企業はその組織においてアメリカの大企業とは異なる特徴を備えていた。
12	日本における大企業の登場	欧米に対して後発国である日本に大企業が出現した理由は？
13	日本の企業と財閥	日本の大企業の特徴とは？
14	講義の総括 及び 期末テスト	半期の講義を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期末の期末レポートに向けての調査・研究を各自で実施していただきます。その他、毎回の講義後に確認小テストに取り組んでいただき講義内容について復習をしてもらいます。

【テキスト（教科書）】

必ず使用する書籍はありません。関連文献は毎回の講義資料に記載されています。

【参考書】

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業後の確認小テスト (30 %) (到達目標 (1)・(2)・(3) と関連します)
- (2) 期末テスト (60 %) (到達目標 (4)・(5) と関連します)
- (3) 研究計画書 (10 %) (到達目標 (4)・(5) と関連します)

【学生の意見等からの気づき】

Hopii の運用に不慣れな為、学生たちに混乱をもたらしてしまった。今後は気を付けたい。

【その他の重要事項】

企業経営に関する基礎的な知識があることが望ましい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to gain the ability to understand the regional and historical diversity of business which are affected by economic, social, and cultural context.

In first semester, We focus on the period from the end of the 19th century to the beginning of the 20th century. We will consider the following issues. Who and How was the economy of scale discovered during the British Industrial Revolution? What role did the financial industry play in the industrial revolution in Britain and other European countries? Why did the mass production system and managerial enterprises emerge in in the United States? What are the differences between large companies in Japan, the US and Europe?

Through examining these issues, you will gain the ability to understand business diversity form a historical perspective. This ability will help you to understand autonomously about today's companies.

In this lecture, students will be asked to collect literature on the history of individual companies and prepare long-term reports based on them. So, You will be able to master how to read historical materials.

ECN300CA
企業経営史 B
飯塚 陽介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、ビジネスのあり方における時代・地域に応じた多様性をそれを生み出した背景とともに知ることで、各地域のビジネスのあり方について、広い視野から比較し関連づけて考察する力を身につけることにあります。B では、日米欧における大企業体制の形成以降の時期を対象とします。企業は現代の経済社会において大きな部分を構成しています。企業活動について歴史的背景にまで遡って深く理解することは、現代の社会について主体的に考察する上での助けとなるでしょう。なお、講義の中では、適宜、グラフや図表といった統計資料も活用します。

【到達目標】

- (1) 現代企業が出現した経緯を説明できる。
- (2) 日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
- (3) 歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
- (4) 企業・産業の歴史についての文献を収集できる。
- (5) 収集した文献を用いて、企業・産業の歴史を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン形式での授業となります。毎回、Hopii に講義資料と音声ファイルをアップロードします。履修者はそれらを通じて学習をした上で、毎回課される確認小テストに取り組んでください。履修者には任意の企業・産業の歴史を調査・研究することが求められます。個人での調査・研究に関連して研究計画書と期末レポートの提出が義務付けられます。なお、研究計画書と期末レポートについて希望があった学生に限り個別にコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アメリカの大企業体制	戦後アメリカの豊かな社会。
2	戦後アメリカと新産業の誕生：豊かな社会と政府	豊かな社会と政府の関与を背景として、新産業が誕生した。
3	戦後ヨーロッパ大企業	戦後には、ヨーロッパでも大企業が出現した。その要因と特徴とは？
4	日本の大企業（1）：戦後改革とその影響	アメリカ主導の戦後改革は日本企業の「アメリカ化」をもたらしたのか？
5	日本の大企業（2）：ジャパニズム・アズ・ナンバーワンの源流及び中間テスト	戦後日本企業の競争力の源泉たる「日本的経営」と「日本的生産システム」の源流を論じます。
6	期末レポート作成指導（研究計画の調整など）	研究計画書のテーマの調整と研究指導。
7	日本株式会社論を越えて	日本の政府・民間関係は異質なのか？
8	消費の大衆化と企業：松下・ダイエー・吉野家	消費の大衆化は新しい経営手法の導入を企業に求めた。
9	日本の大企業の戦略と組織	日本の大企業の戦略と組織における特徴と課題とは？

- 10 金融センターの興亡 興亡を繰り返す金融センターの姿。
- 11 マーシャルの産業地域論と地域の興亡 産業地域のメリットは永続的なのか？
- 12 ポスト大企業体制の時代 1970 年代以降のアメリカを題材として、大企業体制の動揺を描く。
- 13 アジア企業の勃興と経営者資本主義論の相対化 経営者企業へと至る「企業経営の進化」は必然なのか？
- 14 講義総括及び期末テスト 半期の講義を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期末の期末レポートに向けての調査・研究を各自で実施していただきます。その他、毎回の講義後に確認小テストに取り組んでいたいただき、講義内容について復習をしてもらいます。

【テキスト（教科書）】

必ず使用する書籍はありません。関連文献は毎回の講義資料に記載されています。

【参考書】

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業後の確認小テスト（30 %）（到達目標（1）・（2）・（3）と関連します。）
- (2) 期末テスト（60 %）（到達目標（4）・（5）と関連します）
- (3) 研究計画書（10 %）（到達目標（4）・（5）と関連します）

【学生の意見等からの気づき】

Hopii の運用に不慣れな為、学生たちに混乱をもたらししてしまった。今後は気を付けたい。

【その他の重要事項】

春学期の「企業経営史 A」も履修することを推奨する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to gain the ability to understand the regional and historical diversity of business which are affected by economic, social, and cultural context.

In second semester, We focus on the period from the end of World War I to the present. We will consider the following issues. How was established the Large Company Centered System in United States, Europe, and Japan? What is the difference between systems in these areas?

Through examining these issues, you will gain the ability to understand business diversity from a historical perspective. This ability will help you to understand autonomously about today's companies.

In this lecture, students will be asked to collect literature on the history of individual companies and prepare long-term reports based on them. So, You will be able to master how to read historical materials.

MAN300CA
企業経営論 A
川邊 安彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要は情報化が社会に及ぼす影響・効果を学び、情報倫理などを理解を深めます。

情報と企業経営についての関わりを通して経営（マネジメント）の本質を学びます。

企業経営論 A の目的は、新規企業のスタートの具体的な手法、戦略について重点を置きます。

過去の論文などの文献や具体的な事例を各自事前調査することで企業経営をテーマ毎に仮想体験しながら具体的な内容を議論し何を行うことで何が得られるのか？を認識できる場面設定を行ないます。企業経営の推論を立て実際に起こった事象から検証します。

【到達目標】

新規企業における検討項目を具体的な企業設立（仮設）を前提として各種の経営活動に必要な定量的なツールを使い具体的に検討を行えるスキルを身につけることを到達目標とします。企業経営論という観点から単純なデータ整理ではなく参加型のクロスファンクショナルという視点の講義を実施し情報を得るだけでなく教員・学生との対話、学生間のコミュニケーションを行う形式から本格的な模擬検討会で自分自身で解を導くプロセスを経験します。

また、教員免許状取得のための選択科目という視点で情報と職業の観点から情報分析手法の理解を深めることを求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。

②毎回講義の中で学生が質疑を行い回答しますので理解を深めてください。

③教員側からコメントや資料の意味についての説明を行ないます。

④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を行います。

⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次回の講義の最初に確認時間を設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス・企業組織論＜組織論＞ 「企業経営とは？」内容の2項についてネットで事前調査を行い参加の事	事例説明を学生視点でディスカッション後、具体的な説明：① IBM ラップトップ事業 ② 日産自動車の商用車事業
②	基盤技術の重要性＜技術進化と原価＞ 事前課題：日本の電機業界の辿った道、具体的には事例日本のスーパーコンピューター実績調査	学生による説明及びディスカッション後、現状の未来予想を説明

③	創造性・ダイレクション ＜企画立案手法＞ 事前課題：アップルの優位性、過去の実績の確認	実績からの推測・課題顕在化手法と未来への考察
④	事業運営の考え方 ＜技術・実績からの危険予知手法＞ 事前課題：リチウム電池メーカーの変遷、過去の実績の確認	過去の実績から未来を予測する手法、技術と実績からのリスクマネジメント
⑤	確認討議①、講義時間内での実施	第①～④回目までの講義理解度確認
⑥	マーケティング手法の説明 ＜情報処理能力の最大化を図る＞ 事前課題：今後の乗り物の在り方	情報（ネットや他の手法で）収集を行い推論を構築
⑦	マーケット創出 ＜全く新しい考え方等の検討①＞ 事前課題：個人所有の物の在り方、例：自動車など	自分の構想・推論を作成し、展開する
⑧	マーケット創出 ＜全く新しい考え方等の検討②＞ 事前課題：社会が求める物の在り方、例：乗り物など	独自の意見をデータに基づき説明
⑨	確認討議②、講義時間内での実施	第⑥～⑧回目までの講義理解度確認
⑩	目標値の設定 ＜企業経営における目標値の理解＞ 事前課題：あなたが企業する会社像とは？	具体的に箇条書きで3項目を準備し、グループ・ディスカッション時に狙いと訴求力について議論する
⑪	企業経営における脅威① ＜安全リスクマネジメントの理解＞ 事前課題：過去の広義な事故事例の調査	安全リスクマネジメントから何を思い浮かべるのか？
⑫	企業経営における脅威② ＜安全リスクマネジメントの理解＞ 事前課題：企業に与える影響の調査	不測の事態、出来事という曖昧な表現が許されない事実の理解
⑬	確認討議③、講義時間内での実施	第⑩～⑫回目までの講義理解度確認
⑭	講義内での試験④	＜注意事項：リスクとオポチュニティの明確化＞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①必ず講義に参加してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。
必要時には、当日配布しますので活用ください。

【参考書】

必要時に指示します。
教職課程の情報という観点から情報科教育法（改訂3版）久野靖、辰巳丈夫著を参考書と設定しておきます。

【成績評価の方法と基準】

確認試験を毎回行います。
この試験と最終回の試験で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

過去の他の講義経験から具体的な内容説明からの構成を求められました。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。事前準備をしっかりとしてください。スマホ持参は可。

【その他の重要事項】

講義内のグループディスカッションの論議の時間は、しっかりと討議してください。

【Outline and objectives】

The outline of target the learning points based on information of society effect and ethics.

Learn the essence of management : Start up method and strategy of new biz. based on IBM & Apple etc., Nissan's Business unit and STAMP/STPA of MIT.

Must be team building and free discussion in class all of them.
Language : Japanese, English and Spanish.

MAN300CA
企業経営論 B
川邊 安彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営 B の目的は、海外事業に視点を置き講義を進めます。授業の概要は、現在の日本においては新規事業の成立が困難な中で海外における事業展開手法を学び、新たな事業拡大の方法を学びます。特に、マネジメントは、人の活用及び組織の目標達成が不可欠です。具体的には、海外における人的な活用及び組織目標の設定・達成手法について学ぶことに主眼を置きます。

【到達目標】

新規企業のスタートにおける検討項目を具体的な企業設立（仮説）前提として本質的な課題から新規事業設立の可能性及び手順を身につけることを目標とします。

企業経営論という観点から単純なデータ整理ではなく参加型のクロスファンクションという視点の講義を実施し情報を得るだけでなく教員・学生との対話、学生間のコミュニケーションを行う形式で海外における新規企業のスタートの具体的な方法、手法、戦略について重点を置きます。過去の事例及び進捗中案件を講義内で説明しながら、実際の課題及び対策案をディベート形式で討議を進め内容の理解を疑似的に経験し深めます。

また、教員免許状取得のための選択科目という視点で情報と職業の観点から情報分析手法の理解を深めることを求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。
- ②毎回講義の中で学生が質疑を行い回答しますので理解を深めてください。
- ③教員側からコメントや資料の意味についての説明を行いません。
- ④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を行います。
- ⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次回の講義の最初に確認時間を設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、タイの Koqoon mobilities co., ltd. をネットで検索し内容を事前に確認。	事業の事業計画と将来の説明。課題、将来の問題の討議を行う。
②	講義内容でこの会社の意義や本質的な目的を読み取る	
③	海外の起業経営とは？ 事前課題：どのように事業案件を見出したのか？ 顕在化。	グループディスカッション形式で検討。各グループ発表。必要に応じて日産の中国大連工場設立の話。
④	事前課題：過去の事業案件との差は何か？ 例：自分で情報収集を行い、過去と未来の差が見出せる海外事業の事例から論じる。	グループディスカッション形式で検討。各グループ発表。必要に応じて日産単独時代とルノー・日産との差

- ④ 事前課題：政府の考え方・民間の考え方・大学の考え方の差（産学官の温度差） 困難な目標設定の手法とは？ 必要に応じて GRANT とは？
- ⑤ 確認討議①、講義時間内での実施 第①～④回目までの講義理解度確認
- ⑥ 事前課題：ビジネスの成立に欠かせない両方向からの必要性とは？ 例：MOU、関税障壁 事前課題：海外事業の本質的な課題とは？ ヒント：言語、習慣、時差、国、宗教、通貨など切り口を探すこと あなたが社長ならば、どの国で何を作りどこへ売りますか？ 何故？
- ⑦ 事前課題：仮に目標値が設定できた場合の資金調達の方法とは？ グループでどうして？ 何故？ を繰り返すこと。
- ⑧ 確認討議②、講義時間内での実施 第⑥～⑧回目までの講義理解度確認
- ⑩ 事前課題：試作品の構成手法について 具体的なものは、何（製品、金型）をどのように買うのか？、何がリスクか？ 考えられる全ての項目・費目を議論すること。
- ⑪ 事前課題：試作品から量産品への展開について、何がリスクか？ 考えられる全ての項目について調査ください。関連論文があれば提示ください。ヒント：日程管理
- ⑫ 事前課題：将来の展開性によるビジネスの安定性について ビジネスの安定性、死の谷とは？ 事前に調べること。
- ⑬ 確認討議③、講義時間内での実施 第⑩～⑫回目までの講義理解度確認
- ⑭ 講義内での試験④ <注意事項：リスクとオポチュニティの明確化>

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①必ず講義に参加してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要時に指示します。
教職課程の情報という観点から情報科教育法（改訂3版）久野靖、辰巳丈夫著を参考書と設定しておきます。

【成績評価の方法と基準】

確認試験を毎回行ないます。
この試験と最終回の試験で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

過去の他の講義経験から具体的な内容説明からの構成を求められました。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。事前準備をしっかりしてください。スマホ持参は可。

【その他の重要事項】

講義内のグループディスカッションの論議の時間は、しっかり討議してください。

【Outline and objectives】

Outline of learning the method of business expansion in overseas, how do we start up the business development in overseas. Now, the new business is difficult to establish in Japan.

The aim of B is to focus on learning about overseas human usage and setting and achieving organizational objectives.
Language : Japanese, English and Spanish.

CAR200CA
企業実務研究 A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界のさまざまな地域の国際ビジネス事情を、豊富なビジネス経験を有する方々にオムニバス形式で語ってもらう。講師は、アメリカやヨーロッパなどの先進国に加え、中国、インド、ブラジルなどの新興経済国に長期駐在経験をもつ 8 人の商社マン等を予定している。各講師がそれぞれのビジネス体験に基づいてビジネスの現場の話を交えながら講義していく。

本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを考えていくのが目的である。
そのほか、サマーインターンシップに臨むにあたっての準備として、キャリアデザインに関する講義も予定している。

【到達目標】

本講義では、実務現場での実践に関する臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外を含む文化・社会的多様性を伴う環境の下でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを自分なりにイメージできるようになり、受講者がそれぞれの卒業後の実社会での自己の将来像を具体化してその実現に向けて主体的に取り組むべき目標や課題を自覚するための手がかりを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義形式で開講するが、状況によっては、講義の一部において教室で対面講義形式の講義を実施する可能性がある。各回の講義の講義形式の見通しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見通しを説明するが、その後の感染状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることには留意されたい。

第 1 回講義は、オンライン講義の講義ガイダンスの回となる。Zoom によるリアルタイムのオンライン講義形式の予定である。学習支援システム上でオンライン講義の方法を「お知らせ」で通知する他、ガイダンス資料を教材として配布する。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して「お知らせ」で講義の方法を確認した上でオンライン講義に参加し、配布されるガイダンス資料をよく読み、履修するかどうかを検討されたい。

第 2 回以降の講義は、学期当初はオンライン講義となる見通しである。オンライン講義の形式は、学習支援システムで教材を配布して課題を提示する形式や、受講者が動画コンテンツを視聴する形式、Zoom 等でのリアルタイムのオンライン講義形式などを含む予定である。受講者は国際ビジネスに関する各回の講義の際に学習支援システム上で課題として提示されるレポート課題に従って提出期限までにレポートを学習支援システムの各課題のページでアップロードすることによって提出することを求められる。

状況が許せば、講義の一部は教室での対面講義形式で実施する可能性がある。教室での講義では、毎回、講師と受講生によるクロストークの時間を設け、リアルタイムで教員がフィードバックを行うので、積極的に発言することが求められる。

実務研究という科目の性格上、ビジネスの現場を意識して能動的・積極的に講義にのぞむことを求めたい。また、実社会への接点ともなる講義でもあるため、ディスカッションやグループワーク等では設定された状況をメタ認知して達成すべき課題をよく理解するよう努め、教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められる。

講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には毎回の授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には授業内掲示板を通じて行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	企業実務研究 A・B の概要とサマーインターンシップ実習について
第 2 回	ブラジルのビジネス事情	ブラジルの物流ビジネス事情
第 3 回	インドのビジネス事情	インドの経済社会とビジネス事業
第 4 回	ヨーロッパのビジネス事情	欧州通貨統合と金融市場
第 5 回	アメリカのビジネス事情	アメリカ航空宇宙産業のビジネス事情
第 6 回	中東のビジネス事情	中東ビジネスの特異性
第 7 回	ロシアのビジネス事情	ロシアの経済とビジネス事情
第 8 回	中国のビジネス事情	中国の経済発展とビジネス事情
第 9 回	アセアンのビジネス事情	アセアンにおける事業投資
第 10 回	その他のビジネス事情	中央省庁の仕事（例）
第 11 回	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス（出席必須）	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス
第 12 回	キャリア形成に関する外部講師による指導	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ（1）
第 13 回	キャリア形成に関する外部講師による指導	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ（2）
第 14 回	キャリア形成に関する外部講師による指導	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ（3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講師が用意した資料を「学習支援システム」上でアップロードするので、各自学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各講師が用意するレジュメ

【参考書】

各講師のレジュメが講義の中心になるので、特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

毎回、講演者が提示した課題に対する小レポートの提出を求める（80%）ほか、教室授業では、授業内評価（20%）を加味する。教室授業における授業内評価では、講義への参加姿勢の積極性を評価し、毎回の発言回数とその内容の充実度が評価の重要な要素となる。私語厳禁。授業態度の悪い学生も不可となる。

※企業実務研究 A、B は必ず同年度に登録すること。2 単位だけの登録は認めない。さらに、インターンシップに参加した者のみが「企業実務研究 B」を履修できる。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、授業評価アンケートで、インターンシップに関してのガイダンスが分かりにくかったという指摘を受けたので、インターンシップのガイダンスをわかりやすく、丁寧にすることを心がける。

【その他の重要事項】

履修上の細かな条件とインターンシップに関して詳細な説明が必要なので、第 1 回のガイダンスおよびサマーインターンシップに関するガイダンスに必ず出席すること。本講義と併せて「キャリアデザイン論」の履修を推奨する。講義スケジュールは変更になる場合がある。

【Outline and objectives】

This course provides opportunities for students to investigate knowledge and theories learned in the classroom in connection with the international business.

CAR200CA
企業実務研究 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間中に企業（官公庁、NPO 等を含む）でインターンシップ実習に参加し、現実のビジネス事情や仕事の意義を学ぶ。また、実習報告会を通じて、自らの経験や感想をプレゼンし、議論を行っていく。

【到達目標】

インターンシップの経験をより具体的にわかりやすくプレゼン出来るようになることと、他の受講者の実習報告を聞き討論することを通じてビジネスの事情や仕事の意義について幅広い視点から理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は実習形式で行われ、原則として、本年度の経済学部のサマーインターンシップに参加した者しか単位を修得できないので、履修を検討する際には注意されたい。

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、秋学期開始後、当分の間、オンライン講義を行う予定である。講義では、Zoom(<https://zoom.us/>)のウェブ会議システムを利用した教員による解説と履修者による報告・討論をベースとして、学習支援システムを通じて配布されるオンライン教材を学生が学習する形式も併用したオンライン講義を実施する予定である。各講義の実施方法に関する連絡は、学習支援システム上で本科目の履修登録者（仮登録者を含む）に対する「お知らせ」を通じて行う。

第 1 回講義は、オンライン講義の講義ガイダンスの回となる。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムで本科目に仮登録して、学習支援システム上で通知される講義方法に関するお知らせを講義前に確認し、第 1 回講義に出席した上で、履修するかどうかを検討されたい。第 1 回講義では、履修予定者の希望をきいて各履修者の実習報告の日程などを調整するので、履修者は第 1 回講義に必ず出席すること。

第 2 回以降の講義では、サマーインターンシップでの体験をまとめたレポートをもとに、報告会を通じて議論を行っていく。参加者は自分の実習について報告（プレゼン）を行うだけでなく、他の報告者の発表を聞いてコメントを行い討論する。講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、毎回の授業の中で行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要説明・報告スケジュールの確認
第 2 回	受講者による報告、討論①	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答①
第 3 回	受講者による報告、討論②	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答②
第 4 回	受講者による報告、討論③	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答③

第 5 回	受講者による報告、討論④	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答④
第 6 回	受講者による報告、討論⑤	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑤
第 7 回	受講者による報告、討論⑥	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑥
第 8 回	受講者による報告、討論⑦	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑦
第 9 回	受講者による報告、討論⑧	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑧
第 10 回	受講者による報告、討論⑨	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑨
第 11 回	受講者による報告、討論⑩	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑩
第 12 回	受講者による報告、討論⑪	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑪
第 13 回	受講者による報告、討論⑫	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑫
第 14 回	グループ・ディスカッションと講義の総括	サマーインターンシップを踏まえた仕事に関するグループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サマーインターンシップに参加する事が条件となる。インターンシップ終了後、各自の報告に備え、資料や文献収集も含め準備をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座』第 3 版、日経 BP 社、2019 年

【成績評価の方法と基準】

- ①派遣先企業による評価表（研修日誌）（25%）
- ②「実習で何を学んだか」のレポート（4,000 字、A4）（25%）
- ③実習報告会での報告内容と討議内容（25%）
- ④授業中の発言・態度などの参加度（報告会への無断欠席は認めない）（25%）

派遣前に事務課に登録（報告）するなど、一定の手続きをしなければならない。

未手続き者は不可となる。

また、サマーインターンシップに参加しなかった学生は不可となる。

※企業実務研究 A、B は必ず同年度に登録すること。2 単位だけの登録は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

同一企業のインターンシップ参加者が多数の場合のプレゼンの仕方を工夫したい。

【その他の重要事項】

履修上の詳細な条件があり、その説明のため、1 回目の講義に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

This course provides opportunities for students to investigate knowledge and theories learned in the classroom in connection with the international business. Students should officially register for the summer internship in which they are completing the internship requirements.

MAN300CA
国際会計制度 A
田中 優希
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、各国の会計基準の比較と、海外企業・日本企業の財務分析を行う。

会計情報は企業を知るうえで最も有用な情報の1つであり、それゆえに「事業の言語」と呼ばれる。企業が国境を越えて活動する昨今、会計制度も国家の枠を越えて変容を遂げている。

まず①会計制度間の差異と②①が会計情報に与える影響を理解し、③企業の財務分析を行う。

英文も登場するが、基礎から積み重ねればそれほど難しくはない。積極的に履修してほしい。

【到達目標】

国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で国内外の企業分析ができることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義前半は財務諸表の基礎について解説する。こうした解説は講義の後半でも適宜実施する。講義後半では、基準間の差異に留意しながら、国内外企業の財務分析を行う。分析対象企業は自身で選び、関心の近い者同士でグループを組む（1人でも可）。

講義後は、翌週までに学習支援システムを通じて質問や感想を送ることができ、内容に応じて加点がある。詳細は下記「成績評価の方法と基準」参照。

多くの受講生の理解の助けになる質問やコメントについては、学習支援システムの資料配布等を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的と計画説明。受講生の関心の確認。
2	会計のフレームワーク	会計制度の論理と体系、企業会計の機能など。
3	損益計算書	損益計算書の構造と役割を確認。
4	貸借対照表（資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
5	貸借対照表（負債・純資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
6	財務分析の概要	会計情報を用いた分析手法（ファンダメンタル分析）の概要。
7	実践・財務分析①	自身が選んだ企業について財務分析を行う
8	実践・財務分析②	フィードバックをもとに分析を改善する（中間レポート）
9	IFRS の基礎概念①	原則主義、経済的実質優先主義。
10	IFRS の基礎概念②	資産負債観、公正価値、親会社概念とエンティティ概念。
11	収益認識基準	収益、工事契約、外貨為替レート変動の影響。
12	包括利益の表示	その他包括利益計算書項目。
13	実践・財務分析③	9～12 回を踏まえて、財務分析を改善する
14	授業のまとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持ち、日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種メディアの購読を推奨する。講義の進捗と共に皆さんの理解が深まれば嬉しい。事前の予習・復習時間は、毎週各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、レジュメを配布する。

【参考書】

『新・現代会計入門 第 2 版』伊藤邦雄 日本経済新聞出版社 2016 年
『IFRS 国際会計基準の基礎 第 4 版』平松一夫 中央経済社 2015 年
『エッセンシャル IFRS（第 5 版）』秋葉賢一 中央経済社 2016 年
『国際会計論』森川八洲男 白桃書房 2015 年 ほか

【成績評価の方法と基準】

講義後に実施する学習支援システム上の「テスト／アンケート」(20%)
中間レポート (30%)
期末テスト (50%)

【学生の意見等からの気づき】

講義の冒頭に前回の復習を実施するため、理解の助けとして欲しい。

【その他の重要事項】

国際会計制度 B と合わせて受講すること。

【Outline and objectives】

Student will be introduced to the differences of international accounting standards and financial analysis of domestic and foreign companies.

Accounting information is one of the most useful information for knowing companies, hence it is called "business language". As well as companies are crossing over borders, accounting systems are also changing beyond national boundaries.

Upon completion of the course, the student is expected to be able to:

- (1) Understand to international accounting systems
- (2) Understand how they affect on accounting information
- (3) Analyze corporate accounting data

MAN300CA
国際会計制度 B
田中 優希
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際会計制度 A に引き続き、各国の会計基準の比較と、海外企業・日本企業の財務分析を行う。
まず①会計制度間の差異と②①が会計情報に与える影響を理解し、③企業の財務分析を行う。
英文も登場するが、基礎から積み重ねればそれほど難しくはない。積極的に履修してほしい。

【到達目標】

国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で国内外の企業分析ができることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の内容を踏まえ、国際会計制度が会計数値の作成に与える影響と、それらを踏まえた分析手法を学ぶ。国際会計制度 A と合わせた履修を強く推奨する。

有形固定資産、金融商品、引当金、リース会計、退職給付会計、株式報酬取引、外貨換算会計、企業結合、連結会計、セグメント情報、農業会計などを取り上げる。

春学期同様、国内外の企業の分析も行う。

講義後は、翌週までに学習支援システムを通じて質問や感想を送ることができ、内容に応じて加点がある。詳細は下記「成績評価の方法と基準」参照。

多くの受講生の理解の助けになる質問やコメントについては、学習支援システムの資料配布等を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的、受講生の関心の確認。
2	引当金会計	引当金の認識・測定、偶発債権・偶発債務の認識・測定、環境修復引当金と資産除去債務。
3	リース会計	オペレーティング・リース、ファイナンス・リースの認識と測定、航空会社の分析例。
4	従業員給付に関する会計	退職給付会計、株式報酬取引。
5	外貨換算会計	外貨建取引の会計処理、外貨表示財務諸表の換算方法。
6	無形資産の会計	のれんの会計処理、研究開発費の会計処理。
7	連結会計	持分法、共同契約、他の事業体に対する持分の表示。
8	セグメント情報、継続事業と非継続事業の表示	セグメント情報の開示基準、売却目的で保有する固定資産および廃止事業の開示。
9	IFRS 財務諸表分析のポイント	営業利益と当期純利益の数値変化
10	IFRS 財務諸表分析（1）	自身が選んだ企業について財務分析。グループワーク。
11	IFRS 財務諸表分析（2）	第 9 回の続き

11	IFRS 財務諸表分析（3）	第 10 回の続き
12	IFRS 財務諸表分析（4）	第 11 回の続き（プレゼン資料提出）
13	各国の会計制度（1）	欧州圏の会計制度 期末レポート課題提示
14	各国の会計制度（2）	アジア圏の会計制度 最新トピック紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持ち、日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種メディアの購読を推奨する。講義の進捗と共に皆さんの理解が深まれば嬉しい。事前の予習・復習時間は、毎週各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、レジュメを配布する。

【参考書】

国際会計制度 A を参照

【成績評価の方法と基準】

講義後に実施する学習支援システム上の「テスト／アンケート」(20%)
中間レポート (30%)
期末テスト (50%)

【学生の意見等からの気づき】

講義の冒頭に前回の復習を行う。

【その他の重要事項】

国際会計制度 A と合わせて受講すること。

【Outline and objectives】

Student will be introduced to the differences of international accounting standards and financial analysis of domestic and foreign companies.

Accounting information is one of the most useful information for knowing companies, hence it is called "business language". As well as companies are crossing over borders, accounting systems are also changing beyond national boundaries.

Upon completion of the course, the student is expected to be able to:

- (1) Understand to international accounting systems.
- (2) Understand how they affect on accounting information.
- (3) Analyze corporate accounting data.

ECN200CA
開発経済論 A
池上 宗信
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

途上国貧困家計の栄養、健康、教育、出産という人的資本に関する選択、リスクを学びます。さらに、その選択、リスクを理解するのに有用な時間的不整合、期待効用、状態空間などの理論モデル、ランダム化比較試験、差の差の分析、操作変数法などの実証分析手法を並行して学びます。

【到達目標】

なぜ、我が国を含む先進国では少子化が問題になっているのに、サハラ以南のアフリカの国々では急激な人口増加が問題になっているのでしょうか？

経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2021 年 1 月時点で教室を割られる予定の科目、対面授業の可能性がより大きい科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

対面授業の場合

- 受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出し、担当教員が採点、スキャンし、学習支援システムを通して返却します。オンライン授業となってしまう場合

- 各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。

- 受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

- 受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。

- 授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ランダム化比較試験	内生性、自己選抜バイアス、第 3 の要因
第 2 回	栄養	貧困者の栄養に関する選択
第 3 回	健康	貧困者の健康に関する選択
第 4 回	時間不整合	時間不整合とあと押しの理論モデル
第 5 回	差の差の分析	並行トレンドの仮定
第 6 回	操作変数法	内生変数、外生変数
第 7 回	復習および中間試験	第 1 回から第 6 回までの内容を復習。中間試験。
第 8 回	教育	貧困者の就学に関する選択、条件付き補助金
第 9 回	出産	大家族の問題
第 10 回	リスク 1	期待値、期待効用
第 11 回	リスク 2	状態空間分析
第 12 回	リスク 3	独占的な保険会社

第 13 回 リスク 4

完全競争保険市場

第 14 回 復習および期末試験

第 8 回から 13 回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている 20 ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。オンライン授業となってしまう場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

池田新介 (2012) 「第 3 章 不本意な選択のメカニズム」『自滅する選択』東洋経済新報社

大垣昌夫、田中沙織 (2018) 「第 6 章 時間を通じた行動」『行動経済学新版』有斐閣

ディーン・カーラン、ジェイコブ・アペル (2013) 『善意で貧困はなくせるのか？ 貧乏人の行動経済学』みすず書房

神戸伸輔 (2004) 『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社

高野久紀 (2014,2015) 「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014 年 6/7 月号-2015 年 8/9 号

アビジット・バナジー、エステル・デュフロ (2012) 『貧乏人の経済学』みすず書房

森田果 (2014) 「第 18 章 DD」『実証分析入門』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。

教室試験を実施できない場合は、学習支援システム上のオンライン試験で代替します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline and objectives】

We will study human capital investment decision such as nutrition, health, schooling, birth decision and risk for poor households in developing countries.

We will also study theoretical models of time inconsistency, expected utility, state space, and empirical methods such as randomized controlled trial, difference in difference method, instrument variable methods, which are useful for studying the decision.

ECN200CA
開発経済論 B
池上 宗信
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済論 A では、開発途上国の貧困家計の人的資本に関する選択、リスクを学びました。

開発経済論 B では、リスクだけでなく不完全情報も加わった理論モデルをまず学びます。

そして、その理論モデルに基づいて、土地貸借市場、金融市場における家計の選択を学びます。

【到達目標】

なぜ、開発途上国では、定額地代ではなく分益小作、個人貸付ではなくグループ貸付が採用されるのでしょうか？

経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2021 年 1 月時点で教室を割当られる予定の科目、対面授業の可能性がより大きい科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

対面授業の場合

- 受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出し、担当教員が採点、スキャンし、学習支援システムを通して返却します。オンライン授業となってしまう場合
- 各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。
- 受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。
- 受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。
- 授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	モラル・ハザード	リスク分担とインセンティブ
第 2 回	アドバース・セクション	完全情報のケース、不完全情報のケース、保険の例
第 3 回	スクリーニング	保険の例
第 4 回	分益小作 1	小作人の生産性とスクリーニング
第 5 回	分益小作 2	小作人の努力水準とモラル・ハザード
第 6 回	分益小作 3	自作農の努力水準と効用最大化
第 7 回	復習および中間試験	第 1 回から第 6 回までの内容を復習。中間試験。
第 8 回	分益小作 4	マーシャルの非効率性、リスク分散
第 9 回	分益小作 5	実証研究
第 10 回	信用 1	アドバース・セクション
第 11 回	信用 2	グループ貸付、投資選択
第 12 回	信用 3	努力選択、返済行動、実証研究

第 13 回 貯蓄

異時点間効用最大化、実証研究

第 14 回 復習および期末試験

第 8 回から第 13 回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている 20 ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。

オンライン授業となってしまった場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

ディーン・カーラン、ジェイコブ・アペル (2013) 『善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学』みすず書房

神取道宏 (2014) 『ミクロ経済学の力』日本評論社

神戸伸輔 (2004) 『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社

高野久紀 (2014,2015) 「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』

2014 年 6/7 月号-2015 年 8/9 号

アビジット・バナジー、エステル・デュフロ (2012) 『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。

教室内試験を実施できない場合は、学習支援システム上のオンライン試験で代替します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline and objectives】

In Development Economics A, we studied human capital investment decision and risk for poor households in developing countries.

In Development Economics B, we will study theoretical model of risk and asymmetric information first.

Then, based on the theoretical model, we will study land and financial markets.

POL200CA
国際関係論 A
富永 靖敬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障をめぐる国家間関係を対象とし、特に戦争の原因・メカニズムを近年の研究動向を踏まえて多面的に学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は経済学部授業方針に従い、オンデマンド授業とする。オンデマンド授業は、コンテンツ（動画）配信を中心とし、曜日時間・教室の配置をせずに実施するものである。本講義では、講義動画・講義資料での授業を基本としたうえで、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Drive でのファイル共有）を通じて配信する。また、教員との質疑応答は Zoom を用いて行う。講義動画は 1 本 60 分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際関係論とは	ガイダンス、国際政治学の起源
第 2 回	国際システムの歴史的成り立ち I	主権国家の拡大、第一次・第二次大戦、冷戦と熱戦
第 3 回	国際システムの歴史的成り立ち II	脱植民地化と民族紛争、グローバリゼーション、冷戦の終結
第 4 回	伝統的国際政治学の視点 I	リアリズム：古典的リアリズム、ネオリアリズム
第 5 回	伝統的国際政治学の視点 II	リベラリズム：国際制度と国際協調、コンストラクティヴィズム：規範
第 6 回	なぜ戦争は起こるのか I	データで見る戦争、交渉理論の導入（交渉の失敗としての戦争）
第 7 回	なぜ戦争は起こるのか II	第一次湾岸戦争、情報の非対称性
第 8 回	なぜ戦争は起こるのか III	イラク戦争、予防戦争論
第 9 回	戦争の持続期間、終結の仕方、戦後平和の持続期間	情報の非対称性、コミットメントの問題
第 10 回	国内政治と戦争 I	リーダーの生き残り論と戦争、観衆費用、結集効果、キューバ危機
第 11 回	国内政治と戦争 II	政治システムと政治的コスト、民主主義的平和論、陽動理論

第 12 回 同盟と戦争

他国間戦争への介入条件、同盟の効果（シグナリング、コミットメント）

第 13 回 国際機関

国際連盟と国際連合、集団安全保障体制、集合行為問題

第 14 回 復習

学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

多湖淳 (2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社（中央公論新書 2574）。定価 880 円（本体 800 円）ISBN978-4-12-102574-6。

【参考書】

Kydd, Andrew H. (2015). *International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach*. Cambridge: Cambridge University Press.

砂原庸介・稗田健志・多湖淳 (2015)『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6

鈴木基史・岡田章 (2013)『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価 2,808 円（本体 2,600 円）ISBN 978-4-641-14904-5

浅古泰史 (2018)『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価 2,860 円（本体 2,600 円）ISBN978-4-641-14928-1

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将 (2015)『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17722-2

山本吉宣・河野勝 (2005)『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800 円）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】

本授業の評価は、二回のレポート試験で行う。授業期間中に複数のレポートテーマが提示され、学生はそのうちの二つのテーマを選択する。詳細は初回授業で説明する。二回のレポートを提出した学生のみが成績評価の対象となる。なお、提出されたレポートはすべて剽窃チェックソフトにかけ、他受講生のレポートとの類似性、オンライン情報などの盗用がないかチェックする。適切な引用を用いない引用など剽窃行為が確認された場合には、該当のレポートだけではなく、提出されたすべてのレポートの点数が 0 となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義はオンデマンド授業で行うため、動画、講義資料を視聴・確認できるデバイス（携帯、タブレット、PC など）、オンライン環境が必要となる。

【その他の重要事項】

オフィスアワーの時間は適宜学習支援システムを通じて連絡する。

【Outline and objectives】

This course introduces the essence of the theory of international relations. The Spring semester course pays particular attention to security studies. We first review traditional theories of international relations such as realism and liberalism, and critically analyze how those theories explain war and peace. After discussing the pros and cons of those theories, we next introduce the bargaining theory of war. To be specific, we address the following questions: regardless of the fact that war is ex-post inefficient in that it causes huge economic and human costs, why might war still occur? In addressing this question, we illustrate the three essential concepts: asymmetric information (private information), commitment problem, and issue divisibility. We elaborate on those concepts through actual cases such as the Gulf war and the Iraq war. At the completion of this course, students will have: (1) the understanding of not just the basic nature of international politics but also varieties of theory explaining interactions between states, (2) the analytical thinking skills to not just apply relevant theories to the actual cases and generate plausible policy implication to deal with its problem, but also find out the pitfalls of the existing theories.

POL200CA
国際関係論 B
富永 靖敬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に非国家主体を中心とした非伝統的安全保障問題について幅広く学習する。国際関係論 A では、主に国家間関係に起因する安全保障問題を対象としたが、国際関係論 B では、内戦やテロリズム、国際犯罪といった国家内で発生する戦争、あるいは越境的な国際犯罪を対象とする。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際問題を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は経済学部授業方針に従い、オンデマンド授業とする。オンデマンド授業は、コンテンツ（動画）配信を中心とし、曜日時間・教室の配置をせずに実施するものである。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Drive でのファイル共有）を通じて配信する。また、教員との質疑応答は Zoom を用いて行う。講義動画は 1 本 60 分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス、国際関係論 A の復習
第 2 回	紛争と強調	国内政治過程と国際関係
第 3 回	内戦をめぐる様々な議論	(1) 内戦とは何か：統計資料でみる内戦 (2) どこで起こっているのか (3) 誰が当事者なのか (誰が参加するのか)
第 4 回	内戦の原因論	(1) 反政府勢力のタイプ (2) 政府のタイプ (3) 情報の非対称性とコミットメント問題
第 5 回	内戦の持続性と終結	(1) 情報の非対称性とコミットメント問題 (2) 国際仲介と成熟理論
第 6 回	内戦の再戦と PKO	(1) 絶対戦争と限定的戦争 (2) PKO とは何か：統計資料でみる PKO
第 7 回	PKO の効果	(1) 国連 PKO の形成・発展 (2) コミットメント問題 (3) 実証分析とセレクション・バイアス
第 8 回	テロリズムとは	(1) テロリズムとは何か：統計資料でみるテロ、(2) テロの歴史的発展
第 9 回	テロリズムのメカニズム	(1) 交渉の失敗としてのテロリズム (2) テロリストの戦略

- 第 10 回 テロリズムと政治体制 (1) 政治体制：民主主義と権威主義 (2) 報道の自由とテロリズム (3) 民主主義体制におけるテロ
- 第 11 回 対テロ戦略 (1) 軍事的アプローチ (2) 法的アプローチ (3) 対テロ戦略の効果測定と実証分析
- 第 12 回 国際規範 (1) 人権規定 (2) 国家による人権の蹂躪 (3) 人権をめぐる国際合意国際規範の生成と伝播 (4) 非国家主体の影響
- 第 13 回 貧困と開発 (1) 資源の呪い（統計資料でみる天然資源）(2) 国連の持続可能な開発
- 第 14 回 復習と試験 講義全体を概観した後、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

多湖淳 (2020) 『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社。定価 880 円（本体 800 円）ISBN978-4-12-102574-6

【参考書】

東大作 (2020) 『内戦と平和 現代戦争をどう終わらせるか』中央公論新社。定価 968 円（本体 880 円）ISBN978-4-12-102576-0
Kydd, Andrew H. (2015). *International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach*. Cambridge: Cambridge University Press.
山本吉宣・河野勝 (2005) 『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800 円）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】

本授業の評価は、二回のレポート試験で行う。授業期間中に複数のレポートテーマが提示され、学生はそのうちの二つのテーマを選択する。詳細は初回授業で説明する。二回のレポートを提出した学生のみが成績評価の対象となる。なお、提出されたレポートはすべて剽窃チェックソフトにかけ、他受講生のレポートとの類似性、オンライン情報などの盗用がないかチェックする。適切な引用を用いない引用など剽窃行為が確認された場合には、該当のレポートだけではなく、提出されたすべてのレポートの点数が 0 となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義はオンデマンド授業で行うため、動画、講義資料を視聴・確認できるデバイス（携帯、タブレット、PC など）、オンライン環境が必要となる。

【その他の重要事項】

オフィスアワーの時間は適宜学習支援システムで連絡する。

【Outline and objectives】

This course introduces the other topics of international relations that are not covered in the Spring semester. While the International Relations A covers the theories particularly focusing on war and peace between sovereign states, so-called, traditional security issues, this course largely focuses on "non-traditional security issues". Topics, particularly, include civil wars, terrorism, and transnational organized crimes. In common with the Spring semester, the course pays particular attention to the causal mechanism and we illustrate those theories through the actual cases in history as many as possible. At the completion of this course, students will have: (1) the understanding of not just basic nature of international politics but also varieties of theory explaining interactions between states and non-state actors, (2) the analytical thinking skills to not just apply relevant theories to the actual cases and generate plausible policy implication to deal with its problem, but also find out the pitfalls of the existing theories.

CUA200CA
経済人類学 A
河野 正治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地のローカルな社会において人々がいかに財やサービスをやり取りしているのかを紹介しながら、「経済とは何か」という大きな問いを人類学的な視点から考察する。経済人類学 A では、生業経済における人の暮らしや生き方、ならびに経済人類学の基礎概念を実例の中で解説する授業を行う。

【到達目標】

1) 経済人類学の基礎知識を身につける。2) 経済人類学の視点とアプローチを自分で説明できる。3) 私たちにはあまり馴染みのない経済のあり方を学ぶことを通して、人の暮らしや生き方の多様性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回のレジュメを授業支援システムに事前掲載するので、必ずダウンロードやプリントアウトをして授業に臨むこと。授業当日にはパワーポイントを用いて講義を行う。毎回の授業の最後にリアクションペーパーを課し、翌週の授業時にフィードバックを行う。また、講義形式による教員の解説を基本としつつ、思考力を伸ばしてもらうためにディスカッションの場を設けることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人類学者の仕事	フィールドワークを通じた差異の発見
第 2 回	贈与と再分配の世界①	経済人類学の入り口を垣間見る
第 3 回	贈与と再分配の世界②	ミクロネシアの儀礼経済
第 4 回	贈与から考える所有と循環①	贈与の 3 つの義務
第 5 回	贈与から考える所有と循環②	身近な贈与を考える
第 6 回	贈与から考える所有と循環③	互酬性の類型学
第 7 回	贈与から考える人とモノ	譲渡不可能性という概念について
第 8 回	贈与を通じた理論の再考①	ニューギニア高地のモカ儀礼
第 9 回	贈与を通じた理論の再考②	普遍と特殊の関係性
第 10 回	交換の類型学①	互酬、再分配、市場
第 11 回	交換の類型学②	負債という概念について
第 12 回	贈与と再分配のもつれあい①	ミクロネシアにおける名誉と威信のエコノミー
第 13 回	贈与と再分配のもつれあい②	ミクロネシアにみる祭宴と共同性
第 14 回	社会に埋め込まれた経済	経済人類学の視点と可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義や配布資料のなかで取り上げられる専門用語や個別社会について自らの手で調べることで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回の講義でオリジナルなレジュメを用意する。

【参考書】

授業内で文献を紹介するので、一冊でも多くの書籍を手にとってほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）に加え、毎回の授業で取り組んでもらう小課題（30%）をもとに評価する。担当教員の講義内容を表面的になぞったレポートではなく、自分自身の頭で思考した形跡のあるレポートを高く評価したいと考えている

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを多用するので、授業開始時には仮登録を行うこと。学習支援システムで配布する授業資料を毎回ダウンロードやプリントアウトをしておくこと。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to consider the question "what is economy" from an anthropological perspective, examining how people produce and exchange goods and services in various local societies. In Economic Anthropology A, students will learn the way of life in subsistent societies and the basic terms and concepts.

CUA200CA
経済人類学 B
河野 正治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地のローカルな社会において人々がいかに財やサービスをやり取りしているのかを紹介しながら、「経済とは何か」という大きな問いを人類学的な視点から考察する。経済人類学 B では、前半は経済事象の歴史的な展開を考察する授業を行い、後半には現代の事象に経済人類学の視角の応用を図る。

【到達目標】

1) 経済人類学のやや難度の高い知識を身につける。2) 経済人類学の視点とアプローチを自分で説明できる。3) 経済人類学の概念を用いて過去の社会事象や現代の社会事象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回のレジュメを授業支援システムに事前掲載するので、必ずダウンロードやプリントアウトをして授業に臨むこと。授業当日にはパワーポイントを用いて講義を行う。毎回の授業の最後にリアクションペーパーを課し、翌週の授業時にフィードバックを行う。また、講義形式による教員の解説を基本としつつ、思考力を伸ばしてもらうためにディスカッションの場を設けることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	経済人類学の新たな展開	市場と非市場の二分法を超えて
第 2 回	贈与の歴史学①	中世日本の贈答儀礼と非ボトラッチ社会
第 3 回	贈与の歴史学②	中世日本にみる贈与と商業
第 4 回	負債の人類学①	負債と貨幣の起源
第 5 回	負債の人類学②	負債をめぐるモラルの転倒過程
第 6 回	貨幣と贈与交換①	経済取引の短期秩序と長期秩序
第 7 回	貨幣と贈与交換②	貨幣の意味を変える方法
第 8 回	貨幣と贈与交換③	贈与としての現金集め
第 9 回	国境を越える贈与①	海外送金を読み替える人々
第 10 回	国境を越える贈与②	トランスナショナルなコミュニティと互酬性
第 11 回	経済人類学からみる善意①	臓器移植と「愛の経済」
第 12 回	経済人類学からみる善意②	純粋贈与としてのボランティア
第 13 回	経済人類学からみる善意③	今日的な歓待の想像力と実践知
第 14 回	経済人類学の応用	経済人類学の視角と現代社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義や配布資料のなかで取り上げられる専門用語や個別社会について自らの手で調べることで、当該主題についてさらなる理解を獲得する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回の講義でオリジナルなレジュメを用意する。

【参考書】

授業内で文献を紹介するので、一冊でも多くの書籍を手にとってほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）に加え、毎回の授業で取り組んでもらうリアクションペーパー（30%）をもとに評価する。担当教員の講義内容を表面的になぞったレポートではなく、自分自身の頭で思考した形跡のあるレポートを高く評価したいと考えている。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを多用するので、必要な場合は仮登録を行うこと。学習支援システムを通じて配布する授業資料については、毎回ダウンロードやプリントアウトをしておくこと。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to consider the question "what is economy" from an anthropological perspective, examining how people produce and exchange goods and services in various local societies. In Economic Anthropology B, economic phenomena of pre-modern societies will be analyzed, while modern economy will be analyzed in the perspective of Economic Anthropology.

ECN200CA
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く 3 つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第 02 回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第 03 回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第 04 回	外部性②	課税政策。
第 05 回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第 06 回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第 07 回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第 08 回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第 09 回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第 10 回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第 11 回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVM に関する論争。
第 12 回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第 13 回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第 14 回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房、2007 年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.

ECN200CA
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く 3 つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第 02 回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第 03 回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第 04 回	外部性②	課税政策。
第 05 回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第 06 回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第 07 回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第 08 回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第 09 回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第 10 回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第 11 回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVM に関する論争。
第 12 回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第 13 回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第 14 回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房、2007 年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.

ECN200CA
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類、「ごみ」の定義、経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ、廃棄物経済学の整備に向けて、最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生、廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等、個別リサイクル法、3 R の優先順位、2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化、埋立税・産業廃棄物税、有害物質への税・課徴金、特定製品への税・課徴金、デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開、短期的政策、中長期的政策の位置づけ、地域特性に即したきめ細かい政策、環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済、経済成長と動脈部門・静脈部門、静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想、逆工場の考え方、「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果-	市場リサイクルの条件、動脈と静脈の相互関係、規制と公共関与、企業のイニシャティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP、汚染者負担原則、ビグー税と負担の帰着

第 11 回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担、EPR の物理的責任と金銭的責任
第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済、不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論、容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法、PC リサイクル・システム、携帯電話リサイクル・システム、小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, we will take up the "economics of waste and recycling" which is remarkable theoretical development and deepen the understanding of basic concepts and methods of standard environmental economics.

ECN200CA
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論の発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類、「ごみ」の定義、経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学的主要アプローチ、廃棄物経済学の整備に向けて、最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生、廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等、個別リサイクル法、3 R の優先順位、2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化、埋立税・産業廃棄物税、有害物質への税・課徴金、特定製品への税・課徴金、デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開、短期的政策、中長期的政策の位置づけ、地域特性に即したきめ細かい政策、環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済、経済成長と動脈部門・静脈部門、静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想、逆工場の考え方、「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果-	市場リサイクルの条件、動脈と静脈の相互関係、規制と公共関与、企業のイニシャティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP、汚染者負担原則、ピグー税と負担の帰着

第 11 回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担、EPR の物理的責任と金銭的責任
第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済、不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論、容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法、PC リサイクル・システム、携帯電話リサイクル・システム、小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, we will take up the "economics of waste and recycling" which is remarkable theoretical development and deepen the understanding of basic concepts and methods of standard environmental economics.

ECN200CD
経済地理 A
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、人口構造と経済成長、産業の立地論、経済の空間構造（都市経済）、国土政策と地域経済、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は教室での講義とオンデマンド形式（動画配信）の併用で進める。

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。授業開始日（ガイダンス資料配付）は4月27日、動画配信は5月4日開始となる。動画視聴の期間は各回3週間なので、計画的に視聴して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要とスケジュール、学習のポイント
第2回	人口と地域格差①	人口構造と人口転換
オンデマンド①		
第3回	人口と地域格差②	人口動態と人口問題
オンデマンド②		
第4回	人口と地域格差③	人口と経済成長
第5回	産業の立地①	立地論の基礎
オンデマンド③		
第6回	産業の立地②	工業立地論と事例
オンデマンド④		
第7回	産業の立地③	組織論的立地論と事例
第8回	経済の空間構造①	都市化と都市構造
オンデマンド⑤		

第9回 経済の空間構造② 都市発展と都市システム

オンデ

マンド

⑥

第10回 経済の空間構造③ 都市の理論・モデルと実際

第11回 国土政策と地域経済① 日本の地域構造と地域間格差

回 オン

デマ

ンド⑦

第12回 国土政策と地域経済② 国土政策と地域政策の系譜と現状

回 オン

デマ

ンド⑧

第13回 まとめ・総括 経済活動と地理的スケールの重層性について

第14回 都市・地域開発と政策 都市・地域問題の現状と新たな政策

回 オン

デマ

ンド⑨

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野綱果（2000）『世界の人口（第2版）』東京大学出版会
 デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン
 桐原
 松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
 山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣
 竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、通常授業時リアクションペーパーおよびオンデマンド授業の課題（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施する。詳細は、第1回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and empirical overview of modern economic geographical studies. These include economic growth and population, urban and regional problems, industrial location, spatial economic structure, and land policy.

ECN200CD
経済地理 B
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的な実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は教室での講義とオンデマンド形式（動画配信）の併用で進める。

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	集積論の系譜①	A.Weber と A.Marshall の集積論
オンデマンド①		
第 3 回	集積論の系譜②	外部経済と集積の経済
オンデマンド②		
第 4 回	集積論の系譜③	現代経済における集積の意義
第 5 回	現代の集積論①	新しい集積論の潮流、サードイタリー
オンデマンド③		
第 6 回	現代の集積論②	クラスター論とネットワーク論
オンデマンド④		
第 7 回	現代の集積論③	空間経済学と集積
第 8 回	日本の都市・産業集積①	産地と企業城下町
オンデマンド⑤		
第 9 回	日本の都市・産業集積②	都市集積とネットワーク型集積
オンデマンド⑥		

第 10 回 産業集積のダイナミズム 産業のグローバル化

第 11 回 自動車産業の集積① 系列、近接性、JIT 生産システム
オンデマンド⑦

第 12 回 自動車産業の集積② 日本的生産システムの海外展開
オンデマンド⑧

第 13 回 講義の小括・まとめ 経済学における集積論の現在

第 14 回 ハイテク産業の集積 シリコンバレーモデルと産学連携
オンデマンド⑨

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
藤田昌久・ジャック・F・ティス（2017）『集積の経済学』東洋経済新報社
山本健児（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、通常授業時リアクションペーパーおよびオンラインの小テスト（平常点 40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施する。詳細は、第 1 回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and experimental overview of industrial agglomeration in economic geography. Key themes focus on innovation, technological and managerial change, productivity, creativity, globalization, and changing geographies of spatial convergence.

ECN200CA
アメリカ経済論 A
下斗米 秀之
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカは戦後世界の経済秩序モデルを構築し、現在にいたるまで経済力や軍事力、文化や教育水準などで国際社会において最大級の影響力を持ち続けている。一方で環境問題や不法移民の流入、低所得者層の貧困問題など問題大国でもある。本講義では、経済大国として世界をリードするアメリカ経済の歴史と現状について、時代を画期する政策や出来事、事件を通じて解き明かし、グローバル経済におけるアメリカの役割について理解を深める。

【到達目標】

アメリカ経済史にあらわれた諸問題の原因と過程、その帰結を学ぶことを通じて、現代アメリカ経済を正しく理解し、激変するグローバル経済の行方を展望するための視座を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、Zoom を用いたオンデマンド型授業で実施する。事前に講義資料と動画を配信するので、受講生は動画を視聴し、指定された課題を提出する。質問やコメントがあれば翌週以降に動画の中で回答する。講義では参考文献や動画等を紹介するので、提出課題の作成の際には利用すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカ経済論を学ぶ意義。
第 2 回	アメリカ経済を見る視点	アメリカ経済の特色。
第 3 回	20 世紀転換期のアメリカ	産業構造の変化、農民・労働運動、貿易・国際収支構造の変化。
第 4 回	第一次世界大戦	参戦とその意義。
第 5 回	繁栄の 1920 年代の光と影	大量消費社会の形成。
第 6 回	大恐慌とニューディール	世界大恐慌とニューディール政策。
第 7 回	第二次世界大戦とアメリカの世紀	パクス・アメリカナの形成。
第 8 回	米ソ冷戦と開発援助	東西冷戦の時代と開発援助競争。
第 9 回	保守の時代とレーガノミクス	パクス・アメリカナの動揺と新自由主義政策。
第 10 回	ニューエコノミーと IT 革命	1990 年代のアメリカ経済と IT 革命。
第 11 回	バブルと世界金融危機	IT バブルと住宅バブル、リーマン・ショック。
第 12 回	多極化する世界	新興国の台頭とアメリカ経済。
第 13 回	「トランプ」現象	「トランプ現象」の背景と課題。
第 14 回	米中対立の行方	米中対立と 21 世紀の覇権国。まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定される参考文献をよく読み、単元について理解を深める。復習はレジュメや参考文献をもとに課題レポートに取り組む。それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂出健，秋元英一，加藤一誠編『入門アメリカ経済 Q & A100』中央経済社、2019 年。

【参考書】

河村哲二『現代アメリカ経済』有斐閣アルマ、2009 年。
地主敏樹，村山裕三，加藤一誠『現代アメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2012 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を中心に評価するが、授業の中でリアクションペーパーの提出を求める。

授業態度、提出課題（30 %）期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

秋学期のアメリカ経済論 B とあわせて履修すること。

【担当教員の専門分野等】

アメリカ経済史、国際経済史

【Outline and objectives】

The U.S. established the model for the post-war world economic order, and to this day it continues to be one of the most influential countries in the international community in all aspects, including economic power, military power, culture, and educational standards. On the other hand, the U.S. is also a country with major problems such as environmental issues, influx of illegal immigrants, and poverty among low-income people. In this lecture, we will examine the history and current state of the U.S. economy, which leads the world as an economic powerhouse, through the policies, events, and incidents that marked the era, and deepen our understanding of the role the U.S. has played in the global economy.

ECN200CA
アメリカ経済論 B
下斗米 秀之
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル資本主義経済を生きるわれわれにとって、経済大国として世界をリードするアメリカの動向を理解することは不可欠である。本講義では、春学期に学んだアメリカ経済の歴史を踏まえたうえで、現代アメリカ経済の理解に不可欠な移民や医療、格差や貧困など、特に重要だと思われるトピックを取り上げて、アメリカ経済の現状と課題について理解を深める。

【到達目標】

現代アメリカ経済が抱える諸問題の内容やその歴史的な背景を正しく理解し、グローバル経済の行方を展望するための視座を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、Zoom を用いたオンデマンド型授業で実施する。事前に講義資料と動画を配信するので、受講生は動画を視聴し、指定された課題を提出する。質問やコメントがあれば翌週以降に動画の中で回答する。講義では参考文献や動画等を紹介するので、提出課題の作成の際には利用すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカ経済の特色	特殊アメリカの地理的、社会的、制度的要因。
第 2 回	アメリカ経済成長の源泉	巨大な市場と大量生産方式。
第 3 回	自由企業体制 1	アメリカ企業の経営システム、近代企業の生成と発展。
第 4 回	自由企業体制 2	アメリカ企業の戦略と組織、IT 産業の変化。
第 5 回	アメリカの移民問題 1	アメリカ経済史と移民労働者。
第 6 回	アメリカの移民問題 2	現在の不法移民問題。
第 7 回	アメリカの教育政策	アメリカ教育政策の歴史と課題。
第 8 回	技術政策と研究開発	産官学の研究開発体制の成立と変遷。
第 9 回	アメリカの医療制度	医療保険制度改革。
第 10 回	アメリカの財政	アメリカ財政の規模と構造、財政赤字問題。
第 11 回	アメリカの金融	金融危機と金融政策。
第 12 回	格差と貧困	所得格差の実態と格差社会。
第 13 回	アメリカの環境政策	地球温暖化政策とエネルギー問題。
第 14 回	アメリカ経済の展望と課題	講義のまとめと展望。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定される参考文献をよく読み、単元について理解を深める。復習はレジュメや参考文献をもとに課題レポートに取り組む。本授業の準備・復習時間として、それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂出健、秋元英一、加藤一誠編『入門アメリカ経済 Q & A100』中央経済社、2019 年。

【参考書】

谷口明丈、須藤功編『現代アメリカ経済史―「問題大国」の出現』有斐閣、2017 年。

河村哲二『現代アメリカ経済』有斐閣アルマ、2009 年。

地主敏樹、村山裕三、加藤一誠『現代アメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2012 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を中心に評価するが、授業の中でリアクションペーパーの提出を求める。

授業態度、提出課題（30 %）期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

春期開講のアメリカ経済論 A とあわせて履修する。

【Outline and objectives】

For those of us who live in a global capitalist economy, it is essential to understand the trends of the United States, which leads the world as an economic superpower. In this lecture, based on the history of the U.S. economy studied in the spring semester, we will deepen our understanding of the current status and challenges of the U.S. economy by focusing on topics that we consider particularly important for understanding the modern U.S. economy.

ECN200CA
ヨーロッパ経済論 A
伊東 林蔵
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業革命期から第二次世界大戦終結までのヨーロッパ経済の歴史を、主にドイツを中心に考察していく。その中でも産業革命におけるイギリスの覇権、第二次産業革命におけるアメリカとドイツ自体の台頭、ソ連や日本の経済発展の中で、ドイツが覇権を追求し、挫折し、「ヨーロッパのドイツ」として協調し、欧州統合に向かう過程を考察する。

【到達目標】

ヨーロッパにおいてドイツとはどのような位置を占め、ヨーロッパの経済体制をどのように形成してきたか理解を深める。
現代ヨーロッパの最も「大きな物語」である欧州経済統合は、戦前のどのような歴史的蓄積の上に築かれたか理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

・春学期は学習支援システムを利用したオンライン講義が行われる。一講義ごと主要テーマを設定し、各回の講義をパワーポイント形式で学習支援システム教材欄に掲載し必要に応じて Zoom を通じた授業を行う。
・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。
・春学期は学習支援システムを利用した学習が行われる。毎回の授業にあたり、その都度、学習支援システムに掲載される指示に従うこと。第一回目の授業は今期講義の導入説明を発信するので、授業時間に合わせシステム閲覧のこと。アクセスが集中して接続できないことを考慮し、本来の授業時間外での閲覧も可能とする。
・オンラインであることから、授業への理解度がわかりにくいので、小テストや質問時間を設け、学生の理解度を掴み、意見を聞き、後の授業の冒頭に答えを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	何故、歴史から学ぶのか？ 「ヨーロッパのドイツ」 本講義の全体的テーマ 留意点等
第 2 回	イギリス産業革命	「産業革命」とは何か？ 技術革新 工場制の成立 資本主義 「悲観論」と「楽観論」等
第 3 回	ヨーロッパ大陸の産業革命	後発資本主義国 ドイツ関税同盟と産業革命 「大ドイツ」か「小ドイツ」か？ 1848 年の革命 フランスは停滞した農業国家か？ 等
第 4 回	「ボックス・ブリタニカ」	大英帝国の覇権と海軍力 自由貿易帝国主義 ジェントルマン資本主義 選挙法改正運動 工場法 社会主義の誕生等
第 5 回	第二次産業革命	ドイツ帝国成立 1873 年大不況 集中と大企業の出現 新産業の登場 金融資本の成立 アメリカの台頭 ドイツの社会政策等
第 6 回	世紀転換期における自由主義の変容	労働運動の隆盛 社会帝国主義 イギリス自由党の社会改革 新自由主義 (New Liberalism) 改革等
第 7 回	第一次世界大戦前夜	ヴィルヘルム二世の世界政策 独占体制の成立 コーポラティズムの形成 中小企業の発展 中東欧への進出 大陸ヨーロッパ統合構想等
第 8 回	第一次世界大戦	総力戦体制 国家介入の拡大 女性の社会進出 戦災 アメリカの参戦等
第 9 回	ヴェルサイユ条約とヴァイマル共和国の成立	領土割譲 賠償金 ヴァイマル憲法の成立 労使協調 賠償不履行政策 ハイパーインフレーション等
第 10 回	ヴェルサイユ・ヴァイマル体制	相対的安定期 賠償履行政策 産業合理化 カルテルとコンツェルン アメリカナイゼーション 中間層の危機意識 大衆消費社会の萌芽等
第 11 回	ヨーロッパ経済統合の起源？	中欧思想 汎ヨーロッパ運動 生存圏構想 国際租鋼共同体 IG オイローバ等

第 12 回 大恐慌

再建金本位制の崩壊 ブロック経済 新自由主義 (Neo-Liberalism) の起源等

第 13 回 ナチズム体制の成立

強制的均整化 第一次四ヶ年計画と景気回復 第二次四ヶ年計画と戦時経済体制 アウタルキー等

第 14 回 第二次世界大戦

電撃戦 軍需と重化学工業 強制労働 戦後構想等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・レポートの提出を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間の合計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示、講義レジュメを学習支援システム上に掲載する。

【参考書】

・原輝史/ 工藤章編『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣 1996.
・小島健『欧州建設とベルギー』日本経済評論社 2007.
・古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会 2007.
・馬場哲/ 山本通/ 廣田功/ 須藤功著『エレメンタル欧米経済史』見洋書房 2012.
・小野塚知二『経済史』有斐閣 2018.

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業に対応し、学習支援システム上でレポート提出を行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

In this course, We will consider the European economic history from the Industrial Revolution to the end of World War II, mainly in Germany. Among them, we will focus on the long process towards European integration in that Germany pursued supremacy, frustrated, and cooperated as "Germany in Europe".

ECN200CA
ヨーロッパ経済論 B
伊東 林蔵
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次世界大戦末期から現在までのヨーロッパ経済を、ドイツを軸として、欧州統合への収斂とその経緯の歴史として捉える。

【到達目標】

諸々の反証を抱えながら、後知恵として見れば、「収斂」していくように欧州統合が成立した歴史的経緯を理解する。同時に現在 EU が抱える諸問題の背景にいかなる歴史的要因が存在するのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

・秋学期は学習支援システムを利用したオンライン講義が行われる。一講義ごと主要テーマを設定し、各回の講義をパワーポイント形式で学習支援システム教材欄に掲載し必要に応じて Zoom を通じた授業を行う。

・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

・毎回の授業に当たり、その都度、学習支援システムに掲載される指示に従うこと。第一回目の授業として、今学期の導入説明を学習支援システム上に掲載。アクセスが集中して接続できないことを考慮し、本来の授業時間外での閲覧も可能とする。

・オンラインであることから、授業への理解度がわかりにくいので、小テストや質問時間を設け、学生の理解度を掴み、意見を聞き、後の授業の冒頭に答えを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第二次世界大戦中の戦後構想	亡命社会民主党、保守反対派、連合国の戦後ヨーロッパ統合構想等
第 2 回	第二次世界大戦終結と連合国の対独占領政策	アメリカ・イギリスの占領政策 「弱いドイツ」か「強いドイツか」 ドル条項 フランスの妥協 ソ連の占領政策等
第 3 回	戦後復興	マーシャル・プラン アーベルスハウザー・テーゼ 通貨改革等
第 4 回	東西ドイツ分割	冷戦体制の成立等
第 5 回	ドイツの高度経済成長	社会的市場経済 ライン資本主義 「社会主義の優等生」 イギリスの停滞等
第 6 回	欧州経済統合	欧州石炭鉄鋼共同体 ベネルクスの関税同盟構想 イギリスの自由貿易圏構想 ドイツの EEC 加盟等
第 7 回	福祉国家論	福祉国家の諸類型 高度経済成長・グローバリズム・脱工業化との関係等
第 8 回	高度経済成長の終焉	1966/67 年不況 ニクソン・ショック オイル・ショック 「経済成長の弱さ」等
第 9 回	新自由主義 (Neo-Liberalism) の台頭	サッチャリズム レーガノミクス コール政権等
第 10 回	社会主義体制の動揺	東欧の諸改革
第 11 回	東欧革命	東西ドイツ統一 ソ連の解体等
第 12 回	統一ドイツの諸問題	「失われた 10 年」 東ドイツ地域の経済再建 ハルツ改革等
第 13 回	EU の成立	EU の機構
第 14 回	現在のドイツと EU	「新たな経済の奇跡」 メルケル政権 移民問題 脱原発 イギリスの EU 離脱等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・レポートの提出を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間の合計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示、講義レジュメを学習支援システム上に掲載する。

【参考書】

- ・原輝史/工藤章編『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣 1996.
- ・小島健『欧州建設とベルギー』日本経済評論社 2007.
- ・古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会 2007.
- ・遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会 2008.
- ・川越修/河合信晴編『歴史としての社会主義』ナカニシヤ出版 2016.

・田中素香/長部重康/久保広正/岩田健治著『現代ヨーロッパ経済』第 5 版、有斐閣 2018

・工藤章/藤澤利治『ドイツ経済：EU 経済の基軸』ミネルヴァ書房 2019

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業に対応し、学習支援システム上でレポート提出を行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

We will consider the European economic history from the end of World War II to the present as the history of convergence to European integration and its crisis, mainly in Germany.

ECN200CA
現代アジア経済論 A
馬場 敏幸
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）の経済・地理・文化・歴史的内容の理解と第二次世界大戦後のアジアの発展の経緯と原動力を理解することが本授業のテーマである。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国・地域を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後に高度経済成長を果たしたアジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）を軸に、第二次世界大戦後のアジアの発展を多層的に講義する。第一に各国・地域の置かれた地理・経済・政治・歴史的経緯などの諸条件を講義することで、それぞれの国・地域の基礎的理解を目指す。第二に、第二次世界大戦後から現在における各地域・国の経済・産業の発展経路について講義を行うことで、アジアの発展の大きな流れの俯瞰的把握を目指す。第三に、電気電子産業・自動車産業を軸とした工業化とその諸条件、輸出、投資について講義を行うことで、アジアの経済発展の原動力の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの影響を鑑み、現状の所、基本的にオンデマンド開催の可能性はある。必要に応じ Zoom による講義も行う予定である。また、課題で提出されたレポートのうち幾つかを取り上げ、オンデマンド講義や Zoom 講義で紹介、説明、補足、ディスカッションなどを行うことを考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、対象国・地域の地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	経済発展と諸産業 1	産業発展とその諸段階 概要 産業構造と情報化
3	経済発展と諸産業 2	電気電子産業、自動車産業
4	経済発展と諸産業 3	工業化戦略、WTO 貿易構造の変遷、貿易協定
5	経済発展と諸産業 4	サポーター産業
6	韓国 1	各経済統計による概観
7	韓国 2	韓国の近代史と今日まで
8	シンガポール 1	各経済統計による概観
9	シンガポール 2	シンガポールの成立と今日まで
10	台湾 1	各経済統計による概観
11	台湾 2	台湾の成立と今日まで
12	香港 1	各経済統計による概観
13	香港 2	香港の成立と今日まで
14	総括	試験・まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。配布資料や教科書、参考データベースによる学習など。本授業の予習 1 時間半・復習時間 2 時間半を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸 (2013)『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料と URL は URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

コロナによりオンデマンド講義になった場合は、オンデマンドの中で課題を課し、その課題の提出状況、および課題の内容、ZOOM 授業時の出席状況や発言内容などに基き成績評価（100 %）を行うことを考えている。コロナがおさまリ、通学が基本となった場合は定期試験による評価もあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容や授業の進め方などについて質問・連絡方法に戸惑う学生がいた。教員・受講生双方向のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。他方、個別メール対応や学期末の個別単位要望などについては公平性の観点より原則として受け付けられないものとし、返信も行わない。（本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します）

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによるオンデマンド講義、および Zoom による遠隔授業を行う可能性が高いので、PC の使用を強く薦める。インターネット環境は必須である。スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論 B（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B 双方での履修を望む。

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

【Outline and objectives】

In this class, you learn economics and geography of ASIAN NIEs; South Korea, Singapore, Taiwan and Hong Kong, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries and area in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries and area.

ECN200CA
現代アジア経済論 B
馬場 敏幸
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ASEAN について ASEAN4（タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン）を中心に経済・地理・文化・歴史的内容を理解することが目標である。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後にアジア NIEs に次いで高度経済成長を果たした ASEAN 諸国について ASEAN4 を中心に各国の置かれた諸条件について多層的に理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの影響を鑑み、現状の所、基本的にオンデマンド開催の可能性はある。必要に応じ Zoom による講義も行う予定である。また、課題で提出されたレポートのうち幾つかを取り上げ、オンデマンド講義や Zoom 講義で紹介、説明、補足、ディスカッションなどを行うことを考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	ASEAN の成立	ASEAN の成立とその経緯、加盟国情報、歴史など
3	為替制度と国際経済	各政策と影響
4	世界に大きな影響を与えた出来事	ケーススタディ
5	タイ 1	各経済統計による概観
6	タイ 2	タイの近代史と今日まで
7	マレーシア 1	各経済統計による概観
8	マレーシア 2	マレーシアの成立と今日まで
9	インドネシア 1	各経済統計による概観
10	インドネシア 2	インドネシアの成立と今日まで
11	フィリピン 1	各経済統計による概観
12	フィリピン 2	フィリピンの成立と今日まで
13	まとめ	講義で行ったことを総括する
14	総括	試験・まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。本授業の予習 1 時間・復習時間 3 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸 (2013)『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料と URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

コロナによりオンデマンド講義になった場合は、オンデマンドの中で課題を課し、その課題の提出状況、および課題の内容、ZOOM 授業時の出席状況や発言内容などに基き成績評価（100 %）を行うことを考えている。コロナがおさまり、通学が基本となった場合は定期試験による評価もあり得る。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容や授業の進め方などについて質問・連絡方法に戸惑う学生がいた。教員・受講生双方向のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。他方、個別メール対応や学期末の個別単位要望などについては公平性の観点より原則として受け付けられないものとし、返信も行わない。（本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します）

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによるオンデマンド講義、および Zoom による遠隔授業を行うので、PC の使用を強く進める。インターネット環境は必須である。スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論 A の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B 双方での履修を望む。
Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンをお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネットには十分気をつけてください。

【Outline and objectives】

In this class, you learn economics and geography of ASEAN4; Thailand, Malaysia, Indonesia and Philippines, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries.

ECN200CA
中国経済論 A
馬 欣欣
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では歴史的・マクロ経済の視点から中国経済成長の軌跡、計画経済から社会主義市場経済への体制移行のパターン、そして高度成長した現代中国経済の実態及び問題点を紹介し、中国経済成長の要因を様々な側面（歴史、制度・政策、経済発展、体制移行）から、理解してもらう。また日本や欧米などの先進国と比較し、中国経済の位置づけおよび中国経済成長の特徴を明確にする。

【到達目標】

中国経済に関しては、ミクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび調査データを活用し、中国経済成長のミクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。なお、適宜 DVD・ビデオ等、テレビ・映画を含む媒体を利用する場合があります。1 回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」（Hoppii）を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと世界経済からみた中国経済	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。また、世界経済の現状を紹介し、中国経済の位置づけを理解する
第 2 回	歴史的視点からみた経済の成長	科学技術発展史からみた経済発展の謎（ニーダム仮説）とマディソンの長期 GDP 推計データからみた経済成長の軌跡を理解する
第 3 回	社会主義時代の経済	旧ソ連計画経済モデルと中国社会主義モデルの比較、国営企業と農村人民公社の実態と問題点について理解する
第 4 回	経済改革：社会主義市場経済とは何か	社会主義市場経済の概念、2つの移行パターン、体制移行における政府の役割について理解する
第 5 回	国家資本主義と開発独裁モデル：中国における政府と市場の関係	国家資本主義、開発独裁モデルについて理解する
第 6 回	人口変動と労働力 (1)	経済発展と人口転換の国際比較、人口ボーナスと経済成長、一人っ子政策の背景と問題点について理解する
第 7 回	人口変動と労働力 (2)	都市労働市場の失業、農村過剰労働力、ルイスの二重構造モデルと経済転換点について理解する
第 8 回	対外貿易と外需依存型成長からの転換	輸出主導型経済成長、外資の役割、外資導入の国際比較について理解する

第 9 回	経済成長と格差問題 (1)	農村部と都市部の格差、東部・中部と西部の格差の実態および形成要因について理解する
第 10 回	経済成長と格差問題 (2)	所得格差、貧困の実態、貧困削減政策およびその効果について理解する
第 11 回	財政政策と経済成長	地方分権と財政政策、「分税制」の概要と評価、地方財政の実態について理解する
第 12 回	地域振興政策とその影響	地域開発・振興政策実施の背景、政策変遷、およびその効果について理解する
第 13 回	経済成長と環境問題	環境問題の実態、中国環境政策の変遷、地球温暖化問題と国際協定について理解する
第 14 回	マクロレベル：中国経済の展望と問題点	「中所得国の罠」と「体制移行の罠」、マクロ経済の視点からみた経済成長のメカニズムおよび問題点について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マクロ経済学、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の流れを理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著（2016）『中国経済入門 第 4 版』日本評論社。
 2. 加藤弘之（2016）『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
 3. 梶谷懐・藤井大輔編著（2018）『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
 4. 中兼和津次編著（2013）『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
 5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫（2013）『21 世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
- その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

レポートおよび定期試験の組み合わせ：100 %

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【Outline and objectives】

The lecture introduces the trajectory of China's economic growth from a historical and macroeconomic perspectives, the pattern of the transition from a planned economy to a socialist market economy, and the facts and problems of the modern Chinese economy. We will understand the factors behind China's economic growth from different sides (e.g., history, institutions and policies, economic development, and transition) and clarify the position of the Chinese economy and the features of Chinese economic growth in comparison with developed countries such as Japan, the countries in Europe and the United States.

ECN200CA
中国経済論 B
馬 欣欣
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はミクロ経済の視点から中国の経済成長の要因を検討し、労働者・家計、企業、産業などの具体的な課題について、さまざまなデータ（たとえば、中国政府公表の統計データ、実態調査データ）を活用し、国有企業改革、企業生産とイノベーション、産業集積と産業構造転換、農民・農村問題、雇用・格差問題などについて考察し、ミクロレベルで中国経済の実態と問題点を検討する。

【到達目標】

中国経済に関しては、ミクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび調査データを活用し、中国経済成長のミクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。なお、適宜、DVD・ビデオ等、テレビ・映画を含む媒体を利用する場合があります。1 回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」（Hoppii）を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：ミクロ視点からみた中国経済	ミクロ視点から見た中国経済の内容および研究方法を紹介する
第 2 回	国有企業改革 (1)	計画経済期の国営企業の特徴、国有企業の改革とその問題点について理解する
第 3 回	国有企業改革 (2)	国有企業の内部統治と企業業績、国有企業改革の結果とその問題点について理解する
第 4 回	世界の工場—中国	対中直接投資の原因と構造変化、FDI と中国経済発展について理解する
第 5 回	産業構造の転換	産業政策の改革、産業構造の転換と「中国製造 2025」、深センの産業発展を紹介し、産業構造の転換の原因について理解する
第 6 回	農村改革 (1)	農村の土地改革、「家庭生産請負制度」、土地流動化について理解する
第 7 回	農村改革 (2)	農村貧困実態と地域間の差異、農村貧困の原因、および農村貧困対策について理解する
第 8 回	出稼ぎ就業と農民工	経済発展と出稼ぎ就業、中国経済の謎—農民工不足現象、と農民工の就業と生活の実態について理解する

第 9 回	国有銀行と金融改革	金融改革の歴史、現代における金融システムと金融政策、株式市場と国有企業、国有銀行の改革について理解する
第 10 回	住宅市場と不動産	土地政策と住宅政策の変遷、住宅制度と住宅金融制度の改革、住宅と不動産市場の実態と問題点について理解する
第 11 回	経済発展と教育	教育制度と改革、人的資本理論と格差問題、「大学統一試験」（「高考」）の変遷、高等教育拡大政策、大学生就職難問題の原因について理解する
第 12 回	社会保障政策の改革	人口高齢化と社会保障制度の改革、都市部と農村部の社会保障の格差、社会保障と労働市場について理解する
第 13 回	社会保障政策の改革	計画経済期の雇用・賃金政策の特徴、市場経済期の雇用・賃金政策の変遷、賃金格差の実態について理解する
第 14 回	ミクロレベル：中国経済の展望と問題点	ミクロ経済の視点からみた経済成長のメカニズム及び問題点について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、ミクロ経済学、労働経済学、産業組織論、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の流れを理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著（2016）『中国経済入門 第 4 版』日本評論社。
 2. 加藤弘之（2016）『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
 3. 梶谷懐・藤井大輔編著（2018）『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
 4. 中兼和津次編著（2013）『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
 5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫（2013）『21 世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
 6. 馬欣欣（2015）『中国の公的医療保険制度改革』、京都大学学術出版会。
 7. 馬欣欣（2011）『中国女性の就業行動—「市場化」と都市労働市場の変容』、慶應義塾大学出版会。
- その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

レポートおよび定期試験の組み合わせ：100 %

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【Outline and objectives】

This lecture introduces the factors behind China's economic growth from a microeconomic perspective, using many kinds of data (i.e., official statistical data published by the Chinese government, survey data etc.). The topic targets focus on individuals, households, enterprises and industry sectors. We will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, enterprise production and innovation, industrial concentration and industrial structural transformation, residents with rural hukou and problems in rural areas and income inequality, and understand the facts and problems of the Chinese economy at the microeconomic levels.

LANd200CA
ドイツ語セミナー A
新田 誠吾
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ドイツ語が使われている地域の暮らし、文化、人々の考え方を学びます。ドイツ語が少し苦手な人、文法が難しいと感じている人でも履修できます。ドイツ語を学んだ経験のある人なら、誰でも履修できます。

この授業から、ドイツ語圏の派遣留学生が多数出ています。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語を読んで、内容がだまかに理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Zoom によるオンライン授業をします。場合によっては、教室での対面授業に切り替えます。提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。また復習テストを数回行い、間違えた問題を一緒に考えることも行って、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について
第 2 回	旅行 (1)	「～へ」にあたる前置詞の使い分け
第 3 回	旅行 (2)	宿泊施設の表現
第 4 回	旅行 (3)	ドイツの労働と休暇
第 5 回	都市 (1)	現在完了で表現する
第 6 回	都市 (2)	道を尋ねる
第 7 回	都市 (3)	交通手段
第 8 回	田舎暮らし (1)	都会の良い所、田舎の良い所
第 9 回	田舎暮らし (2)	ドイツと日本の「地方」の違い
第 10 回	ドイツの大学	進学率
第 11 回	スポーツと健康 (1)	スポーツ大国ドイツ
第 12 回	スポーツと健康 (2)	フィットネスと健康
第 13 回	天気	脱炭素社会のフロントランナーを突き進むドイツ
第 14 回	授業内試験と解説	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤原三枝子ほか (2019). スタート！ 2ーコミュニケーション活動で学ぶドイツ語ー. 三修社

【参考書】

参考書は特に必要ありません。辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加度、授業の課題、授業内テスト等）が 40%、学期末試験が 60%で、合計 60%以上で単位を認定します。欠席が 4 分の 1 を超えた場合は、原則単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

学生から高い満足の評価をいただきました。さらに改善を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで資料や授業を受けることのできる PC などの機器、インターネットの通信環境が必要です。

【その他の重要事項】

ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn about life, culture, and the way people think in the regions where German is spoken. The course is open to anyone who has some difficulty with German or with grammar. It is open to anyone who has studied German before.

Many students have been sent to German-speaking countries from this class.

LANd200CA
ドイツ語セミナー B
新田 誠吾
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ドイツ語が使われている地域の暮らし、文化、人々の考え方を学びます。ドイツ語が少し苦手な人、文法が難しいと感じている人でも履修できます。ドイツ語を学んだ経験のある人なら、誰でも履修できます。

この授業から、ドイツ語圏の派遣留学生が多数出ています。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語を読んで、内容がだまかに理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に Zoom によるオンライン授業です。提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。また復習テストを数回行い、間違えた問題と一緒に考えることも行って、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について
第 2 回	学校と就職 (1)	職業選択
第 3 回	学校と就職 (2)	ドイツの教育制度
第 4 回	学校と就職 (3)	副文
第 5 回	サービス業 (1)	再帰動詞
第 6 回	サービス業 (2)	トラブル解決
第 7 回	サービス業 (3)	学生のバイト事情
第 8 回	お祝いをする (1)	お祭り
第 9 回	お祝いをする (2)	形容詞の活用
第 10 回	お祝いをする (3)	クリスマス
第 11 回	お祝いをする (4)	誕生日を祝う
第 12 回	ドイツの冬の行事	新年・カーニバル
第 13 回	総復習	秋学期のまとめ
第 14 回	試験と解説	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤原三枝子ほか (2019). スタート！ 2－コミュニケーション活動で学ぶドイツ語－. 三修社

【参考書】

参考書は特に必要ありません。ドイツ語 (a) の教科書と辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加度、授業の課題、授業内テスト等）が 40%、学期末試験が 60%で、合計 60%以上で単位を認定します。欠席が 4 分の 1 を超えた場合は、原則単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

学生から高い評価をいただきました。さらに改善を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで資料や授業を受けることのできる PC などの機器、インターネットの通信環境が必要です。

【その他の重要事項】

ドイツ語を 1 年間に上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn about life, culture, and the way people think in the regions where German is spoken. The course is open to anyone who has some difficulty with German or with grammar. It is open to anyone who has studied German before.

Many students have been sent to German-speaking countries from this class.

LANf200CA
フランス語セミナー B
橋本 到
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

【到達目標】

フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、語彙を確認し、発音する、自ら発信する練習を行なう。以上を一サイクルとして一課につき、5 から 6 回繰り返す（対面授業を想定しているが、新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、計画を変更を余儀なくされることがある。その場合、学習支援システムを通じて連絡する）。授業中に習熟度の確認のため、家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週に、解説するとともに正答を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	郵便局の利用、道順-1	郵便に関する語彙、関連する文法の整理（ジェロンディフ）、～に立ち寄る、ロケーション。
第 2 回	郵便局の利用、道順-2	前回の復習、ジェロンディフの練習、切手を買う
第 3 回	郵便局の利用、道順-3	前回の復習、荷物を送る、手紙の書き方
第 4 回	生活と環境（ごみ捨てなど）-1	小テスト、ゴミの種類に小テスト、関する語彙、関連する文法の整理（比較級、受動態）、部屋の説明、アナウンス
第 5 回	生活と環境（ごみ捨てなど）-2	前回の復習、交通と環境問題、ヴェリブ・オートリブ
第 6 回	生活と環境（ごみ捨てなど）-3	前回の復習、原子力発電、ゴミの分別、受動態の練習
第 7 回	家族の形-1	小テスト、家族形態の語彙、関連する文法の整理（指示代名詞、関係代名詞、強調構文）
第 8 回	家族の形-2	前回の復習、家族の紹介、関係代名詞・強調構文の練習、出生率の変遷-1
第 9 回	家族の形-3	前回の復習、出生率の変遷-2、パックス
第 10 回	週末の過ごし方-1	小テスト、関連する文法の整理（疑問代名詞、関係代名詞 où, dont）、靴の買い方
第 11 回	週末の過ごし方-2	前回の復習、服を買う、外出の相談
第 12 回	週末の過ごし方-3	前回の復習、聴解、読解、レジャーの提案（作文）

第 13 回 全体のまとめ、進度の調整 小テスト、ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ

第 14 回 映像資料視聴 まとめの講評、フランスの文化（ジャポニスム）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にかけられる準備・復習の時間は合計 2 時間を標準とする。

テキストの会話部分は前もって目を通して置く。授業でやった練習問題は後でもう一度見直すこと。不明な点があれば次週授業で質問するように。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るようにする。

【テキスト（教科書）】

高橋百代他、『場面て学ぶフランス語 2（改訂版）』、三修社

【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

三回の小テストの合計 65 %、レポート 5 %、平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。

【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。

【Outline and objectives】

This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

LANf200CA
フランス語セミナー A
橋本 到
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

【到達目標】

フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、語彙を確認し、発音する、自ら発信する練習を行なう。以上を一サイクルとして一課につき、5 から 6 回繰り返す（対面授業を想定しているが、新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、計画を変更を余儀なくされることがある。その場合、学習支援システムを通じて連絡する）。授業中に習熟度の確認のため、家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週に、解説するとともに正答を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	レストランでの会話-1	郷土料理、関連する文法の整理（複合過去の否定、目的補語人称代名詞）オーダー、味の説明、料理名
第 2 回	レストランでの会話-2	前回の復習、テーブルでの会話（衣服、プレゼントの選択、その理由）
第 3 回	レストランでの会話-3	前回の復習、テーブルでの会話（招待）、支払いと若干の表現。
第 4 回	交通機関と旅行-1	小テスト、若干の地理、関連する文法の整理（中性代名詞）乗車券の購入、旅程、所要時間の説明
第 5 回	交通機関と旅行-2	前回の復習、掲示板（乗車券、発着ホームなど）、聴解練習
第 6 回	交通機関と旅行-3	前回の復習、ホテルの予約、読解（自動改札機について）
第 7 回	体と健康-1	小テスト、語彙（体の部位、症状、医療関係）、関連する文法の整理（代名動詞の複合過去、単純未来）、健康に関する表現
第 8 回	体と健康-2	前回の復習、薬局での会話、体の不調を訴える。
第 9 回	体と健康-3	前回の復習、体の不調（聴解）、体の部位（語彙・復習）
第 10 回	ヴァカンス-1	小テスト、語彙（遠出、スポーツ）、関連する文法の整理（半過去、大過去）、過去の継続中の行為
第 11 回	ヴァカンス-2	前回の復習、自分のヴァカンスの説明、過去の習慣の言い方。
第 12 回	ヴァカンス-3	前回の復習、事前の情報取得。

第 13 回 全体のまとめ、進度の調整 小テスト、ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ

第 14 回 映像資料視聴 まとめ講評とフランスの社会（移民系住民関連）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にかけられる準備・復習の時間は合計 2 時間を標準とする。

テキストの会話部分は前もって目を通して置く。授業でやった練習問題は後でもう一度見直すこと。不明な点があれば次週授業で質問するように。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るようにする。

【テキスト（教科書）】

高橋百代他、『場面学ぶフランス語 2（改訂版）』、三修社

【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

三回の小テストの合計 65 %、レポート 5 %、平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。

【Outline and objectives】

This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

LANr200CB	
ロシア語セミナー A	
佐藤 裕子	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。	

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語を履修した学生のためのクラスです。ロシア語基礎文法の習得を完成し、辞書を引き様々なテキストを読解・和訳できる。資格として履歴書に書けるロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。リスニングやリーディング力を養い、実際に使える会話力を身につける。ロシアに関する映画など視聴覚教材を通じロシア語力とロシアに関する知識を深める。

【到達目標】

基礎文法を習得し、確実に自身のものとする。その文法を用いて、様々なテキストを辞書を引き訳せるようになる。ロシア語のリスニング（検定3級試験過去問など）や、テキストを早く美しく音読できること、ロシア語の実践会話の習得、語彙を増やし和訳や露訳の力を向上させる。毎年5月と10月に実施されるロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。（資格として履歴書に書けます。ロシア語資格は珍しいため面接時などに武器となります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

経済・社会学部の合同授業のため、履修登録期間に授業形態の希望（対面、オンライン）についてのアンケートをとる。それにともなう授業計画の変更については、学習支援システムで〃も提示する。春学期はロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指し、基礎文法の習得を完成させ、対策過去問などを解く。また、生きたロシア語を身近なものとするために、CDやDVDでロシア語をリスニングし、美しい発音でのリーディング練習を行う。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基礎文法の復習	既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	ロシア語能力検定試験対策（4級）1	発音、アクセント、名詞の性別と人称代名詞
第3回	ロシア語能力検定試験対策（4級）2	名詞の複数形、アクセントのついた文章の朗読（検定過去問）
第4回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）1	動詞の変化（現在人称変化、過去形、未来形）
第5回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）2	時制の副詞、疑問詞と返答、日常会話の中の命令形
第6回	自己紹介文の作成と実践会話	自己紹介（テキスト読解、作文、実践会話、暗唱）
第7回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）3	格変化習得（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第8回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）4	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
第9回	テキスト読解	テキスト読解（ロシアの市民生活やロシア民話など）
第10回	リスニングの練習	リスニングの練習（検定過去問、アニメーションや映画などの映像資料から）
第11回	ロシア語能力検定試験対策（3級）1	関係代名詞

第12回	ロシア語能力検定試験 数詞（数詞と名詞の変化）対策（3級）2	
第13回	テキスト読解と視聴覚教材でのリスニング練習	テキスト読解と映像資料でのリスニングの練習
第14回	テキスト読解 検定試験対策	テキスト読解、検定試験対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語能力検定試験に向けて、教科書で基礎文法を復習し、過去問題と対策問題に取り組む。授業での配布テキストの和訳を試みる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）やインターネットなどでロシアのニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れる。予習・復習時間は、毎回2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404
『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年、¥3520

【成績評価の方法と基準】

対面授業、オンライン授業どちらでも試験ではなく、平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50パーセント、課題（課題・宿題等の提出）50％で評価します。課題は、練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声も提出してもらい、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語能力検定試験合格のための勉強時間を増やす。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。
春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的であり望ましいです。
ロシア語能力検定試験を10月か翌年5月に受験し、合格を目指してください。
なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

This course is for students who finished basic Russian course. The aims of this course are: 1) to acquire basic Russian grammar rules; 2) to develop your ability to read and interpret various texts using a dictionary; 3) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level 3 and 4; 4) to acquire listening and reading skills along with conversation skills for everyday use. For enhancing our knowledge of the Russian language, we plan to use audiovisual materials such as movies on Russia.

LANr200CB
ロシア語セミナー B
佐藤 裕子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

10 月のロシア語能力検定試験 4 級 3 級の合格を目指す。試験後は中級文法を学習し、さらに幅広いジャンルのテキストを読解し、ロシアの歴史や文化への理解を深める。「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語力を伸ばしていく。実践的な会話力を身につける。

【到達目標】

10 月のロシア語能力検定試験 4 級 3 級の合格を目指す。（資格として履歴書に書ける。ロシア語資格は珍しいため面接時などに武器になります。）

中級文法（副動詞と形動詞）を学習し、ニュースや歴史、文学作品などを読み解いていく。同時に語彙数も増やし、和文露訳のレベルアップをはかる。映像資料（映画やニュース等）によるリスニングや、美しい発音での速いリーディング、ロシア語の実践会話の上達も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期の初めは 10 月開催のロシア語能力検定試験 4 級 3 級の合格を目指し、基礎文法の総復習、対策過去問題を解く。試験終了後はより高度な文章の読解と和訳のために中級文法（副動詞や形動詞など）を学ぶ。ロシアについてより深く知るために、ロシアの文化や歴史関連テキスト、雑誌や新聞の記事、ロシア文学作品の文章読解にも挑戦する。映画やニュースのリスニング、実践的な会話の練習も行う。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文法の復習 検定試験対策 1	動詞の時制と命令形、格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第 2 回	文法の復習 検定試験対策 2	形容詞・副詞の比較級、数詞
第 3 回	文法の復習 検定試験対策 3	露文和訳、和文露訳（検定試験過去問、想定問題等）
第 4 回	中級文法（副動詞） テキスト読解	中級文法の学習（副動詞）とテキスト読解、検定試験対策
第 5 回	中級文法（能動形動詞） テキスト読解	中級文法の学習（能動形動詞）とテキスト読解、
第 6 回	中級文法（被動形動詞 1） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞 1）、会話練習
第 7 回	中級文法（被動形動詞 2） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞 2）、会話練習
第 8 回	ニュースのリスニング と和訳	テキスト読解（ロシアの新聞や雑誌）、映像資料（ニュース）のリスニング
第 9 回	テキスト読解と和文露訳 1	テキスト読解（ロシアでの生活と文化、旅行）とそのロシア語作文
第 10 回	テキスト読解と和文露訳 2	テキスト読解と作文（日本の四季と習慣、手紙（ビジネスレターを含む））

第 11 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 1	テキスト読解（現代ロシアの文化など）、映像資料のリスニング
第 12 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 2	（ロシア文学作品；プーシキンやチェーホフ）、映像資料（映画）のリスニング
第 13 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 3	（ロシア文学作品；ドストエフスキーやトルストイ）、映像資料（映画）のリスニング
第 14 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 4	テキスト読解（学生の要望を反映）、映像資料のリスニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5 月と 10 月に開催されるロシア語能力検定試験に向けて、過去問題と対策問題に取り組む。・授業での配布テキストの和訳を試みる。ロシアに関して興味あるテーマを調べ掘り下げる。本授業の予習・復習時間は、毎回 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『ロシア語能力検定試験合格への手引きー 3 級・4 級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005 年、¥1620（定額で入手できない場合はご相談ください。）
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291 が望ましい）その他のテキストは、適時プリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
『大学のロシア語 1』沼野恭子著、東京外国語大学出版社、2013 年、¥3520

【成績評価の方法と基準】

対面授業、オンライン授業どちらでも試験ではなく、平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50 パーセント、課題（課題・宿題等の提出）50 % で評価します。課題は、練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声提出をもらい、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア文化や生活に触れる機会をつくりたいと思います。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。
ロシア語能力検定試験を 10 月か翌年 5 月に受験してください。
春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的です。
なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

First, we aim to pass the Russian Language Proficiency Test (of Japan) at Levels 3 and 4. After the examination, we plan to study intermediate grammar, read comprehensive genres of text, and gain in-depth understanding of Russian history and culture. We will expand our Russian language ability in all four skills of "reading, listening, speaking, and writing" and acquire practical conversational skills.

LANC200CA
中国語セミナー A
石 碩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。
中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。

また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。学生の内容発表・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方
第 2 回	第 1 課	読解
第 3 回	第 2 課	読解
第 4 回	1、2 課のまとめ、発表	発表
第 5 回	第 3 課	読解
第 6 回	第 4 課	読解
第 7 回	3、4 課のまとめ、発表	発表
第 8 回	第 5 課	読解
第 9 回	第 6 課	読解
第 10 回	5、6 課のまとめ、発表	発表
第 11 回	第 7 課	読解
第 12 回	第 8 課	読解
第 13 回	7、8 課のまとめ、発表	発表
第 14 回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。
また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2021 年度版』朝日出版社、2021 年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

【その他の重要事項】

2 年間中国語を学習した人を対象とします。
ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業時に面談を行います。

【Outline and objectives】

Improving Chinese language ability and cross-cultural understanding

LANC200CA
中国語セミナー B
石 碩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。
中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。

また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。学生の内容発表・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	前期のまとめ
第 2 回	第 9 課	読解
第 3 回	第 10 課	読解
第 4 回	9、10 課のまとめ、発表	発表
第 5 回	第 11 課	読解
第 6 回	第 12 課	読解
第 7 回	11、12 課のまとめ、発表	読解
第 8 回	第 13 課	読解
第 9 回	第 14 課	読解
第 10 回	第 15 課	読解
第 11 回	13、14、15 課のまとめ、発表	発表
第 12 回	補助教材	読解、発表
第 13 回	補助教材	読解、発表
第 14 回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。
また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2021 年度版』朝日出版社、2021 年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

【その他の重要事項】

2 年間中国語を学習した人を対象とします。
ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業に面談を行います。

【Outline and objectives】
Improving Chinese language ability and cross-cultural understanding

LANs200CA
スペイン語セミナー A
芝田 幸一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代文明、天然資源、30 年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、調べ、（可能ならスペイン語で）発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大な多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

【到達目標】
1）ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
2）スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio 紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間割通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチしパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週 Hoppii を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第 2 回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第 3 回	復習②と基礎的知識①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。ラテンアメリカとペルーの概説講義①
第 4 回	基礎的知識②	ラテンアメリカとペルーの概説講義②
第 5 回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第 6 回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第 7 回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第 8 回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第 9 回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第 10 回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第 11 回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第 12 回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第 13 回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第 14 回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで1～2 頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成等）。準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

【参考書】
『ペルーを知るための 66 章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru(2000)／ペルー国家統計情報局（<https://www.inei.gob.pe/>）

【成績評価の方法と基準】
平常点（和訳・発表・質疑応答等）90 % + 口頭試験 10%で総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】
復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。2019 年試行のキャンパス探検会話実習が好評だったため、状況次第で実施したい。

【学生が準備すべき機器他】
教員からの連絡や資料配布は Hoppii 上で行う。

【その他の重要事項】
少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学 1 年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもある）。スペイン語辞書必携。

【Outline and objectives】
This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America.

LANs200CA
スペイン語セミナー B
芝田 幸一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代文明、天然資源、30 年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、調べ、（可能ならスペイン語で）発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大な多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

【到達目標】

1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio 紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間割通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週 Hoppii を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第 2 回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第 3 回	復習②と基礎的知識	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。ラテンアメリカとペルーの概説講義
第 4 回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第 5 回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第 6 回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第 7 回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第 8 回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第 9 回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第 10 回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第 11 回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第 12 回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第 13 回	復習③	口頭試験の準備
第 14 回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで 1～2 頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成、スペイン語作文等）。準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

【参考書】

『ペルーを知るための 66 章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru (2000)／ペルー国家統計情報局（<https://www.inei.gob.pe/>）／エル・コメルシオ紙（<http://elcomercio.pe/>）

【成績評価の方法と基準】

平常点（和訳・発表・質疑応答等）90 % + 口頭試験 10%で総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布は Hoppii 上で行う。

【その他の重要事項】

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学 1 年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもある）。スペイン語辞書必携。

【Outline and objectives】

This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America.

ECN300CA
現代社会と情報 A
坂本 憲昭
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システム・IT は社会の隅々まで深く浸透し、どのようなビジネスにおいても、それらを活用することが必須であり、IT と経営全般に関する総合的知識が不可欠です。そのために経営戦略、マーケティング、情報セキュリティ、知的財産権などの基礎（またはツール）を学びます。具体的には、これらの職業人としての知識を集約した「情報処理の促進に関する法律」に基づく国家試験 IT パスポート（および知的財産管理技能検定）の内容を活用します。

【到達目標】

職業人として社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力の取得、現代社会の基盤を構成している情報にかかわる知識や技術を習得し、情報が現代社会に及ぼす影響を理解します。具体的に、(1) 情報システムを業務に活用し、情報システムの投資対効果などを理解します。(2) 企業における問題発見・問題解決のために、業務の把握、データ収集・分析・解析、解決策の策定などに寄与する IT ツールの知識を習得します。(3) 情報システムを安全に利用するためのセキュリティなどの知識、情報倫理などを習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

授業内容は 3 本柱になります。それぞれにおいて「講義と演習問題＞試験」のサイクルで授業を進めます。下記の授業計画は概要で流れを示したものです。課題はありません。各試験結果のフィードバックは「学習支援システム」で公開します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび現代社会における情報システム	情報化社会において求められる職業人としての知識について
第 2 回	ストラテジ系（企業活動）	企業活動、企業の組織、最高情報責任者 CIO、コンプライアンス、OR や IE など
第 3 回	ストラテジ系（業務把握ツール）	問題発見のための業務把握のための ICT ツール、情報ツール
第 4 回	ストラテジ系（業務分析ツール）	問題解決のための業務解析、業務分析のためのツールと活用事例
第 5 回	ストラテジ系試験	ストラテジ系の確認となる中間試験、振り返りと問題解説
第 6 回	ストラテジ系（経営戦略策定ツール）	経営戦略策定のためのデータ収集手法など
第 7 回	ストラテジ系（分析手法）	ビジネス戦略策定のためのデータ分析手法など
第 8 回	ストラテジ系（情報システム）	情報システム戦略の策定と事例紹介、アロダイアグラムなど
第 9 回	ストラテジ系（ビジネスインダストリ技術）	規格、標準化、電子商取引社会などの情報システム、ビジネスインダストリ
第 10 回	ビジネスインダストリ事例	情報社会におけるビジネスインダストリに関する事例紹介
第 11 回	マネジメント系試験	マネジメント系の確認となる中間試験、振り返りと問題解説
第 12 回	情報倫理（ネットワーク倫理、情報化社会）	情報セキュリティ、情報社会における法と企業または個人の責任、情報倫理
第 13 回	情報倫理（知的財産権）	知的財産権について
第 14 回	情報倫理試験	情報倫理および情報産業に関する試験、振り返りと問題解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料の予習と問題の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、教員による解説資料および演習問題を学習支援システムに掲載します。

【参考書】

情報処理技術者試験「IT パスポート」、知的財産管理技能検定の参考書および問題集が参考になります。

【成績評価の方法と基準】

3 回学習支援システムで試験をします。試験結果点数の換算方法についてガイドンスファイルを参照してください。成績評価は 100 点満点に換算し、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

・授業支援システムにある配布資料「ガイダンス」を必ず参照してください。
成績や公欠についての質問は、まず「ガイダンス」を参照してください。
・「実務経験のある教員による授業」に該当し、システム部での業務経験に基づく事例紹介をします。
・受講する場合は、ガイダンスファイルに記載した内容を「理解・納得・了承」してから本登録してください。それが受講および成績評価についての前提条件になります。

【Outline and objectives】

Information systems and technology are now used in every aspect of society, and therefore, it is essential to utilize them in any kind of business. Comprehensive knowledge of information technology and management, in general, is required. As preparation for this society, students learn management strategy, marketing, legal affairs and information security in this course. We will utilize the contents of a national exam called IT Passport, which is based on 'Act on Facilitation of Information Processing,' collective knowledge for professionals.

ECN300CA

現代社会と情報B

菅 幹雄

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術の発展は、情報・知識の自由な創造・流通・共有化を可能にし、それは経済・社会に大きな変革をもたらした。一方、個人に関する大量の情報が集積・利用されたことに伴い、個人情報保護についての不安も顕在化した。個人情報を保護しつつ、マイクロデータ（個人情報記録されたデータ）をいかに社会全体の利益のために活用すべきかを論じる。

【到達目標】

個人情報保護の重要性を十分に認識した上で、マイクロデータ活用の有効性を理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式であり、Zoom を用いて実施する。毎回、テストを実施する。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報化社会を予測した人々	梅棹忠夫『情報産業論』、林雄二郎『情報化社会』、ダニエル・ベル『脱工業社会の到来』、ドオロネ、ギャドレ『サービス産業学説史』
2	メインフレームによる支配	マクナマラ、DVD『フォッグ・オブ・ウォー』 視聴、デビッド・ハルバースタム『ベスト&ブライテスト』
3	シリコン・バレーのベンチャー企業によるマイクロプロセッサの開発	DVD『シリコン・バレーの百年』 視聴
4	米国対抗文化とパーソナルコンピュータの登場	アップル、DVD『スティーブ・ジョブズ：ラスト・メッセージ』 視聴
5	ネット社会の到来	村井純『インターネットの基礎』、西垣通『IT 革命—ネット社会のゆくえ』、西垣通『ウェブ社会をどう生きるか』
6	検索エンジンとターゲット広告	佐々木俊尚『グーグル Google 既存のビジネスを破壊する』、エリック・シュミット、ジャレット・コーエン『第五の権力』、DVD『グーグル革命』 視聴
7	ビッグデータと人工知能	ビクター・マイヤー＝ショーンベルガー、ケネス・クキエ『ビッグデータの正体』、西垣通『ビッグデータと人工知能』、涌井良幸、涌井貞美『Excel でわかるディープラーニング超入門』、レイ・カーツワイル『シンギュラリティは近い』、新井紀子『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』

8	デジタルエコノミー	ソロー・パラドクス、デジタル経済の計測、エレファント・カーブ、デジタル・サテライト勘定
9	ジョージ・オーウェルの『1984』と監視社会	DVD『1984』視聴、ディヴィッド・ライアン『監視社会』
10	個人情報の保護（1）	住民基本台帳ネットワーク、個人情報保護法、堀部政男『プライバシーと高度情報化社会』
11	個人情報の保護（2）	年金記録問題、マイナンバー
12	公的マイクロデータの利活用（1）	統計法、匿名データ、特異値
13	公的マイクロデータの利活用（2）一般用マイクロデータ	一般用マイクロデータ、関連
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint ファイルの Pdf ファイルに変換したものを授業支援システムにアップする。

【参考書】

各回の内容の欄に参照する文献を示した。

【成績評価の方法と基準】

毎回のテスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】

小テストの正解はなるべく早く授業支援システムにアップする。

【Outline and objectives】

The development of information and communication technology has enabled the free creation, distribution and sharing of information and knowledge, which brought about major reforms in the economy and society. On the other hand, concern about personal information protection became obvious as a large amount of information about individuals was accumulated and used. While protecting personal information, discuss how to utilize micro data (data on which individual information is recorded) for the benefit of society as a whole.

ECN300CA
経済統計論 A
菅 幹雄
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済統計論 A では産業統計を取り上げる。事業者についての行政記録情報から出発して、ビジネスレジスター、経済センサス、各種産業統計を経て産業連関表に至るまでの流れを説明する。

【到達目標】

経済・社会を記述する統計がどのような体系に基づいて作成されているかを理解することによって、経済・社会に関する統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式であり、Zoom を用いて実施する。毎回、学習支援システムでテストを実施する。テスト提出メ切り後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済統計のしくみ、事業所・企業についての行政記録情報	経済統計のしくみ、産業統計の流れ、商業・法人登記、労働保険情報、EDINET
2	産業統計の基礎知識	統計単位、産業分類（JSIC,ISIC,NAICS,NACE）、生産物分類（CPC,NAPCS,CPA）
3	経済センサス- 基礎調査	事業所統計調査、経済のサービス化、調査方法、ローリング調査
4	ビジネスレジスター	母集団名簿、統計調査のインフラストラクチャー、レジスター統計
5	経済センサス- 活動調査（1）調査方法	調査方法、企業と事業所、個人企業と法人企業、単独事業所企業と複数事業所企業
6	経済センサス- 活動調査（2）経営指標と特化係数	調査結果の分析事例の紹介、経営指標を用いた産業間比較、特化係数を用いた地域分析
7	工業統計調査	工業の年次統計調査、工場法、重工業化、高度成長、軽薄短小、空洞化
8	経済構造実態調査（商業、サービス業）	商業の年次統計調査、流通革命、流通経路、業種と業態、大店法、規制の強化と緩和、立地環境特性、サービス産業の年次統計調査、情報化社会（情報通信業、専門・技術サービス業）、高齢化社会（医療・介護業）、観光立国（交通業、宿泊・飲食業）
9	月次産業統計調査と指数	経済産業省生産動態統計調査、鉱工業生産指数、商業動態統計調査、第三次産業活動指数、季節調整
10	産業連関表（1）レオンチェフ	ワシリー・レオンチェフ、DVD『13 プラス』視聴
11	産業連関表（2）産業連関表のしくみ	産業連関表のしくみ、ケネーの経済表、相互依存関係、産業連関表の作成方法、接続表、地域間表

- 12 産業連関表（３）産業 産業連関分析（輸入外生モ デル）
連関分析（輸入外生モ デル）
- 13 産業連関表（４）産業 産業連関分析（輸入内生モ デル）
連関分析（輸入内生モ デル）
- 14 産業統計の未来、まと まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館 3630 円

【参考書】

福井武弘『標本調査の理論と実際』日本統計協会 1650 円

【成績評価の方法と基準】

毎回のテスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】

小テストの正解はなるべく早く授業支援システムにアップする。

【学生が準備すべき機器他】

電卓

【Outline and objectives】

In Economic Statistics A, students learn industry statistics. Start from the administrative record of businesses, I will explain the flow of producing industry statistics; business register, economic census, annual industry statistics to the input-output table.

ECN300CA
経済統計論 B
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済統計論 B では世帯統計を取り上げる。個人・世帯の行政記録情報から出発して、国勢調査、家計調査、消費者物価指数という流れを説明する。

【到達目標】

経済・社会を記述する統計がどのような体系に基づいて作成されているかを理解することによって、経済・社会に関する統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式であり、Zoom を用いて実施する。毎回、小テストを実施する。家計簿アプリを用いた結果についてレポートを実施する。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	個人・世帯についての行政記録情報	世帯統計の流れ、住民基本台帳、戸籍法による届出、出入国管理記録
2	国勢調査（１）民主主義の基盤、調査方法	国勢調査の必要性、選挙区の区割り、標本調査のサンプリングフレーム、調査方法、調査員調査
3	国勢調査（２）年齢・時間・コホート	人口の基本的属性、人口ピラミッド、団塊の世代、人口の高齢化、標準世帯、単身世帯の増加、首都圏への人口集中
4	国勢調査（３）ベティ＝クラークの法則	人口の経済的属性、就業状態、産業と職業、ベティ＝クラークの法則
5	人口推計と人口予測	人口学的方程式、中間年人口の推計、人口の将来予測、出生率、死亡率、純移動率、コホート変化率
6	標本抽出法	単純無作為抽出、層化抽出、多段抽出、層化多段抽出、標本誤差、
7	家計調査（１）家計簿、調査方法	家計簿、調査方法
8	家計調査（２）エンゲルの法則	エンゲル係数、エンゲルの法則、需要の所得弾力性
9	家計調査（３）不平等度を測る	ローレンツ曲線、ジニ係数、相対的貧困率、全国消費実態調査
10	家計簿アプリを用いた学生の消費支出調査の分析結果	家計簿アプリ、学生の消費支出調査
11	消費者物価指数（１）	指数算式、フィッシャーのテスト、速報性
12	消費者物価指数（２）	理論的生計費指数、パーシェ・チェック、基準改定、CPI ショック、連鎖指数
13	消費者物価指数（３）	実質化、要因分解

14 消費動向指数、まとめ 実質化、1 か月の日数の影響、世帯人員の影響、世帯主の年齢の影響、高額消費、家計消費状況調査、単身モニター調査、傾向スコア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館 3630 円

【参考書】
福井武弘『標本調査の理論と実際』日本統計協会 1650 円

【成績評価の方法と基準】
毎回のテスト及びレポート 100 %

【学生の意見等からの気づき】
小テストの正解をなるべく早く授業支援システムにアップする。

【学生が準備すべき機器他】
電卓

【Outline and objectives】
In Economic Statistics B, students learn household statistics. Start from the administrative record of individuals and households, I will explain the flow of producing household statistics; population census, household expenditure survey and consumer price index.

PHL300CA
日本文化論
池田 雄一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
■神話としての現代カルチャー■
神話は、物語の普遍的なパターンであると同時に、世界の説明原理でもある。形式面から見ると、神話は、現実の模倣という側面を排除した、抽象的な物語進行の組み合わせである。内容面からみると、神話は人類の起源、正当化された暴力、誕生や死といった非日常的な出来事などを、物語へと加工したものだと考えることができる。
その一方で、今日の日本においても神話はつねに発生しつづけている。神話とは現在進行形の出来事なのである。
そのような観点から、日本の文化を神話として読み解いていくのが、この授業の目的である。映画、漫画、アニメーションなどのエンターテインメント作品を中心にあつかう予定である。

参加者には、毎回の授業における課題の提出、グループワークの参加、グループごとのプレゼン、都合 3 回のレポート提出、そして最終課題が課せられる。また授業での議論への積極的な参加がうまく求められる。

【到達目標】
一見すると、ただの娯楽のような作品でも、見る角度を変えると、違った意味やメッセージを持つことがある。
そのような見方は、メディア・リテラシーと共通するものである。本授業では、神話学の理論を習得することによって、こうしたものの見方を獲得することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義ならびにグループワークで構成する予定である。グループにおける積極的な発現、ならびにレポートを授業で紹介されても動じない心構えが要求される
1）神話のテーマにかんしての講義
2）グループワーク：テーマに関係する作品をグループ内で紹介しあう
3）レポートの執筆
4）レポートの検証：グループで発表する作品をひとつ決める
以上のローテーションで授業をすすめる予定であるが、学生からのフィードバック（出欠がわりに提出してもらう）にもとづいて、修正を入れていくつもりである

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、成績評価等の説明。文化を考えるにあたっての基本的な考え方の説明。
第 2 回	講義「ノア方舟／洪水神話と世界のおわり」	『キングコング』『ゴジラ』その他
第 3 回	グループワーク	前回講義のテーマにあった作品を、グループ内で紹介しあう
第 4 回	レポートの執筆	文章執筆の基本事項を確認しながら、実際にやや長めのレポートを書いてみる
第 5 回	レポート検証	グループごとに各人の書いたレポートを読んだうえで、代表者をひとり決定し、発表する
第 6 回	講義「英雄神話／フィクションとしての暴力組織」	キャンベル『千の顔を持つ英雄』『戦国自衛隊』『スーパーマン』その他戦隊もの等前回講義のテーマにあった作品を、グループ内で紹介しあう

発行日：2021/5/1

第 7 回	グループワーク	前回講義のテーマにあった作品を、グループ内で紹介しあう
第 8 回	レポートの執筆	文章執筆の基本事項を確認しながら、実際にやや長めのレポートを書いてみる
第 9 回	レポート検証	グループごとに各人の書いたレポートを読んだうえで、代表者をひとり決定し、発表する
第 10 回	講義「人類の起源／人造人間、および性にまつわる神話」	『メトロポリス』『鉄腕アトム』『ブレードランナー』など
第 11 回	グループワーク	グループごとに各人の書いたレポートを読んだうえで、代表者をひとり決定し、発表する
第 12 回	レポートの執筆	文章執筆の基本事項を確認しながら、実際にやや長めのレポートを書いてみる
第 13 回	レポート検証	グループごとに各人の書いたレポートを読んだうえで、代表者をひとり決定し、発表する
第 14 回	まとめ	総復習、質疑応答など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義のテーマに即したコンテンツを、事前に読み、または鑑賞してもらう。授業外において必要な学習時間は、週によって異なるのでなんとも言えないが、平均すると、だいたい1時間半くらいである。レポートの執筆は都合3回。提出しないと単位がだせないなので、参加者はそのつもりで望むこと
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。」

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

キャンベル『千の顔を持つ英雄』

【成績評価の方法と基準】

【単位取得に必要なノルマ】

- ・出席（5回休むとアウト）
- ・都合3回のレポート提出（1回でも出ないとアウト）
- ・最終課題の提出（4つのレポートをまとめて、イントロをつけたもの）

【成績評価の判断材料】

- ・最終課題（100％）

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業では、チャット機能を使うと質問することのハードルがさがるので、ぜひご活用ください。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の場合でも、パソコンを持参することが望ましいが、スマートフォンでも可とする。ただし道具にかなする言い訳は認めない。

【Outline and objectives】

[Japanese culture as a myth]

Myths are the universal pattern of a story, but also the principle of explanation of the world. From a formal point of view, myth is a combination of abstract narrative progressions that eliminates the aspect of imitation of reality. From a content standpoint, myth can be thought of as a story of human origin, justified violence, and extraordinary events such as birth and death.

On the other hand, myths are constantly occurring in Japan today. Myth is an ongoing event.

From this perspective, the purpose of this class is to interpret Japanese culture as a myth. He plans to focus on entertainment works such as movies, comics and animations.

Participants are required to submit assignments for each lesson, participate in group work, make presentations for each group, submit reports four times, and final assignments. Active participation in class discussions is also often required.

POL300CA
政治過程論
岡崎 加奈子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの暮らす現代社会において、政治の果たす役割は重要である。しかしながら、私たちは、政治的調整・決定の過程の実態についてどれほど理解し、思考しているだろうか。本講義では、政治過程論についての基礎的概念を身につけ、現代日本の政治過程についての幅広い知識と理解を深め、今日の政治課題について深く考察することを目的とする。

【到達目標】

本講義では以下の点を到達目標とする。

学生が現代社会の政治をめぐる制度や政治過程について、幅広い知識と理解を得られること。

学生が政治的な事象について自ら考察し、社会と自分との関係性について幅広く思考する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、現代日本における政治制度・政治過程について講義をすすめていく。その際、国会、政党、市民などについて理解するとともに、これらが政治過程の中でどのような位置にあるかを考察していく。

学生は、毎授業後に質問・意見・感想等を提出する。次回授業において、質問にたいする回答や意見・感想の紹介などの共有をおこなう。また、小テストおよび課題レポートを複数回予定している。小テスト・課題については解説・講評をおこない、知識と理解の定着をはかる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	政治過程論とは何か
第 2 回	現代社会と政治過程	現代社会の特徴と政策の果たす役割
第 3 回	権力とは何か	権力と政治について
第 4 回	代表制	民主主義と代表制について
第 5 回	国会審議制度	議会の発達と国会のしくみ
第 6 回	立法過程	閣法・議員立法の審議過程
第 7 回	官僚・利益団体	政治過程における官僚・利益団体
第 8 回	政党制	政党の発達と政党制
第 9 回	戦後政党政治	戦後日本の政党政治の変遷
第 10 回	自治体のしくみと政治過程	自治体の政治過程と地方分権改革
第 11 回	自治体の政策	自治体の政策と課題
第 12 回	世論・メディア	世論の形成とメディアの影響
第 13 回	市民とは何か	現代社会における市民の政治意識と政治参加
第 14 回	まとめ	これまでの振り返りと講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業内容と毎回配布される資料をもとにノートを作成し復習すること。また本講義は、時事的な政治事象と関連つけた講義内容となることから、学生は、日ごろから新聞などをよく読むこと、さらに、講義の中で紹介する参考文献等について読むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業内で適宜、参考文献を紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

平常点により評価をおこなう。平常点は、毎回の授業への取り組みのほか、レポート、や小テストなどの課題の提出とその評価などにより構成される。

【学生の意見等からの気づき】

政治的な事象について、講義の内容を通じてより深く思考できる力を養うことを意識し、講義をおこなっていく。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of political process. This course deals with the basic concepts and principles of the party system, the bureaucracy and the Diet in Japan.

At the end of the course, participants are expected to understand the basic political science and key challenges related to the political process in the modern society.

POL300CA

国際政治論

曹 海石

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学の基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

この講義では、国際政治をめぐる様々な概念と理論を紹介すると同時に、「国際政治を見る目」を養うトレーニングを行う。受講生には、毎回授業の最後に質問を出してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、社会科学という視点と歴史的な観点から、国際政治における主要な概念と理論を分析しながら、現代の世界を考えていく。また、中国・朝鮮半島及び東南アジア諸国の開発・近代化、政治体制とその移行、民主化とナショナリズムを、日本の戦後史と関連付けながら相互関係を考察する。なお、授業形態は、講義に加えて、授業内での課題発表や個別課題等に対するフィードバック方法などを取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	国際連合と国際政治とは何か	第二次世界大戦、国際連合、米ソ関係、多極化、イデオロギー
第 2 回	東西冷戦と朝鮮戦争	冷戦、国連軍、中国志願軍、サンフランシスコ講和会議、日米同盟
第 3 回	現代中国の政治と外交	毛沢東、文化大革命、鄧小平、一人っ子政策、改革開放政策
第 4 回	戦後の日中関係史	民間貿易協定、国交正常化、天皇陛下訪中、ODA、尖閣諸島問題
第 5 回	台湾問題と米中関係	金門砲撃、一国二制度、米国の台湾関係法、台湾ナショナリズム、三つのノー
第 6 回	中国の少数民族問題	民族政策、民族教育、チベット、新疆ウイグル自治区、ダライラマ
第 7 回	韓国の政治と外交	李承晩ライン、軍事独裁、民主化運動、保守と革新、太陽政策
第 8 回	日韓関係	日韓基本条約、金大中事件、日本文化の開放、韓流ブーム、知られざる条約内容秘話
第 9 回	北朝鮮の政治と外交	金日成、先軍政治、核戦略、世襲体制、同距離外交
第 10 回	南北朝鮮関係	離散家族、経済支援、首脳会談、開城工業団地
第 11 回	日朝関係	朝鮮人帰国事業、拉致問題、万景峰号旅客船、日朝平壤宣言
第 12 回	知られざる中朝関係	相互援助協力条約、古朝鮮と領土問題、東北歴史工程、高句麗問題
第 13 回	日本と東南アジア諸国	ODA、アセアン・プラス3、FTA、南シナ海問題、RCEP
第 14 回	復習と試験	今までのことをどれくらい理解したかを復習し、それを試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本の三大新聞紙以外に、中国の人民日報海外日本語版や韓国の朝鮮日報海外日本語版などを読むことを勧める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

- 1、河辺一郎『国連と日本』岩波新書、1996 年。
- 2、下斗米編『アジア冷戦史』中央公論新社、2004 年。
- 3、天児慧編『膨張する中国の対外関係』勁草書房、2010 年。
- 4、鐸木昌之『北朝鮮』東京大学出版会、1992 年。
- 5、鈴木佑司『東南アジアの危機の構造』勁草書房、1988 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 30%、レポート課題 20%、期末テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

日本のテレビや新聞では報道されていない内容、裏話などをもっと追加すること。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Learn the basic knowledge of international politics

PHL300CA
日本思想史
古澤 直人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本思想の基層にある伝統思想を検討する。次に国際的な背景といえる中華思想、貴族思想としての小中華思想、宗教思想としての神仏習合思想など、重要なトピックを説明する。武士の思想としての忠誠と反逆は重点において詳細に検討する。さらに政治思想としての公権授受思想、合議の思想、徳治主義などを考察する。思想史にかんするいくつかのテーマを論述する活動を通じて、事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

【到達目標】

現代に影響を及ぼしている日本における基層の倫理・宗教・政治思想を学ぶ。各時代の国際環境の中で影響をもった外来思想の意味を考える。日本思想史の伝統的なテーマである武士の思想としての忠誠と反逆について理解を深める。関連史料を読み解きつつ、解釈の多様性や因果関係の考察など歴史的思考力の獲得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

事前に目を通した教材（パワポ pdf、ワード、動画等）を参照しつつ、パワーポイントにそって講義を進める。史料を読み、史料から思想を読み取る。課題（1200 字程度）を毎回提出してもらう。課題は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際環境としての中華思想	礼、天下、王道理論、徳治主義、東アジアの国際秩序、日本史の教育における本授業の意味
2	小中華思想	中国文化と国粹主義、辺土小国思想、罪と穢れと災い、ケガレ意識
3	神仏習合思想	日本の宗教思想、神と仏の関係、神宮寺建立、本地垂迹説、御霊信仰
4	歴史思想	『源氏物語』と『平家物語』、読者層の違い、歴史観への影響
5	武士の思想①：平清盛前半生を通じて	清盛をめぐる伝承、海洋国家構想、平家一門の繁栄、清盛の変貌
6	武士の思想②：平清盛後半生を通じて	忠と孝、忠誠と反逆、天皇の信義、海洋国家思想
7	武士の思想③：源頼朝を通じて	冷酷と温情、頼朝の政治思想、京都派と東国派
8	武士の思想④：木曾義仲を通じて	京都の義仲、異質な存在としての武士
9	武士の思想⑤：源義経を通じて	判官最良、伝説、合戦のルール、反逆と没落
10	幕府成立をめぐる思想的対立	公権授受思想、朝廷権威か第2の主権か、形式と実体
11	執権政治と合議制の思想	將軍専制、権力と権威、日本的政治システム
12	承久の乱と徳治思想	朝廷の権威、政子の演説、天皇権威の失墜
13	御成敗式目の思想	強きものと弱きもの、北条泰時の思想、道理の思想

14 蒙古襲来と神国思想 内政と外交、防衛体制と権力集中、神国思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義プリント、パワーポイント pdf を読んで内容を把握し、興味に応じて参考文献に目を通す。授業での宿題や課題を復習としてノートにまとめておく。課題回答文に対する教員のコメントに目を通す。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材を学習支援システムから各自ダウンロードする。

【参考書】

家永三郎『日本道徳思想史』（岩波書店、1977 年改版）

【成績評価の方法と基準】

課題 80 %、平常点（授業への積極的な貢献度）20 %として総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

回によって内容が多すぎるという指摘があるので厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、即刻減点して静粛を保ちたい。私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を履修しなかった学生は各自で自習しておいてほしい。

【Outline and objectives】

Learn the ethics, religion and political thought of the underlying strata in Japan that is affecting the present age. Think about the meaning of foreign ideas with influence in the international environment of each era. Understand loyalty and rebellion as samurai thought.

ECN200CA
開発経済入門 A
池上 宗信
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済成長の理論と実証分析、伝統的な農業から工業への経済発展のプロセスを学びます。また、これらの開発経済学のトピックを学ぶ準備として、かつ、経済学部 1 年生向けの経済学入門の補足として、労働需要、所得分配、回帰分析を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国の経済は大きく、成長が緩やかなのに、サブサハラアフリカの国々の経済は小さく、成長が急激なのでしょう？ 経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2021 年 1 月時点で教室を割当てられていない、対面授業よりもオンライン授業の可能性が高い科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

オンライン授業となってしまった場合

- 各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。

- 受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

- 受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。

- 授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。対面授業の場合

- 受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出し、担当教員が採点、スキャンし、学習支援システムを通して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	高校地歴の教育における本授業の意味。労働需要 1	生産関数、等利潤線
第 2 回	労働需要 2	利順最大化
第 3 回	労働需要 3、経済成長の指標	所得分配、国民総生産、購買力平価
第 4 回	経済成長の理論 1	ソロー・モデル
第 5 回	経済成長の理論 2	貯蓄率、労働成長率、技術水準の変化
第 6 回	経済成長の実証分析 1	相関と因果、回帰分析、条件付き収束
第 7 回	まとめと解説、中間試験	第 1 回から 6 回までの内容を復習。中間試験。
第 8 回	経済成長の実証分析 2	成長会計、発展会計
第 9 回	農業 1	人口と食料
第 10 回	農業 2	農業の近代化
第 11 回	二重構造、労働移動 1	産業構造転換の記述統計
第 12 回	二重構造、労働移動 2	ルイス・モデル

第13回 二重構造、労働移動 3 ハリス＝トダロ・モデル
 第14回 まとめと解説、期末試験 第8回から13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。オンライン授業となってしまう場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

荏開津典生・鈴木宣弘（2020）『農業経済学』岩波書店
 ジェトロ・アジア経済研究所他編（2015）『テキストブック開発経済学 第3版』有斐閣
 戸堂康之（2015）『開発経済学入門』新世社

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。
 教室内試験を実施できない場合は、学習支援システム上のオンライン試験で代替します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。この形式をふまえて履修した学生達の意見ですが、この形式に対する反対意見は過去3年間ありません。

【Outline and objectives】

We will study growth theory and its empirical studies and review economic development from traditional agriculture to industrialization. Before studying these topics in Development Economics, we will study labor demand, income allocation, and regression analysis, which are not covered by introductory Economics for 1st year undergraduate students.

ECN200CA
開発経済入門B
池上 宗信
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済入門Aでは、経済成長、産業構造転換という経済発展の過程を学びました。開発経済入門Bでは、経済発展の潜在的な要因として、貿易、金融を取り上げます。貿易、金融の利益を示す経済学の理論モデル、実証分析を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国を含む東アジアの国々では、経済に占める貿易の比率が大きく、金融の深化も進んでいるのに、サブサハラアフリカの国々ではまだそれほど進んでいないのでしょうか？
 経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2021年1月時点で教室を割当てられていない、対面授業よりもオンライン授業の可能性が高い科目です。
 各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。
 各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。
 授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。
 オンライン授業となってしまう場合
 - 各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。
 - 受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。
 - 受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。
 - 授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。
 対面授業の場合
 - 受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出し、担当教員が採点、スキャンし、学習支援システムを通して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	高校地歴の教育における本授業の意味。貿易	比較優位、絶対優位
第2回	貿易 2	2財1時点モデル
第3回	貿易 3	国際価格比と比較優位
第4回	貿易 4	貿易政策下の予算制約線
第5回	貿易 5	輸入代替工業化、実証分析
第6回	金融 1	異時点間効用最大化
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から第6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	金融 2	金融仲介の便益、1財2時点モデル
第9回	金融 3	割引現在価値、異時点間の予算制約線
第10回	金融 4	貿易と国際資本移動の便益
第11回	金融 5	マクドゥーガル＝ケンプ・モデル、実証分析

第12回	起業1	一般均衡
第13回	起業2	貧困の罨、実証研究
第14回	まとめと解説、期末試験	第8回から第13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。オンライン授業となってしまう場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

澤田康幸（2003）『基礎コース 国際経済学』新世社
高橋基樹、福井清一編（2008）『経済開発論：研究と実践のフロンティア』勁草書房
戸堂康之（2015）『開発経済学入門』新世社
ハ・ナジール、テ・ユフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。
教室内試験を実施できない場合は、学習支援システム上のオンライン試験で代替します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。この形式をふまえて履修した学生達の意見ですが、この形式に対する反対意見は過去3年間ありません。

【Outline and objectives】

In Introductory Development Economics A, we studied economic development as a process. In Introductory Development Economics B, we will study trade and finance as factors of economic development. We will review economics models showing benefits of trade and finance and empirical studies.

SES200CA
環境科学A
岡部 雅史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、環境とはなにか？ 私達と環境とのかかわりを受講生諸君が科学的視点から理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として私たちの身の周りの様々な現象の環境学的理解ができるようになることを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義開始は4月21日・ガイダンスからスタートします。
講義概要としては、1-環境を構成する要因、2-環境の変動、3-テクノロジーの進歩と環境に対する影響、4-環境ビジネス（エコ・ビジネス）の展開と、その将来。以上の4つのサブテーマから構成され、前半では環境の概念の理解、後半では環境調査・保全・改変などの環境ビジネス（エコ・ビジネス）の最先端の紹介をもとに進行いたします。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。
履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。
試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	水と環境 1	地球科学と水資源の総量・水資源の特徴
3	水と環境 2	上水道と下水道
4	水と環境 3	浄水処理と汚水処理・BOD・COD
5	空気と環境	清浄な空気組成・有毒ガス・室内空気汚染・PM2.5
6	健康と空気環境	一酸化炭素中毒・酸欠事故・シックハウス・シックスクール
7	生活と騒音	振動・騒音性難聴・ディスコ難聴
8	光線・放射線と環境	紫外線や放射線と発ガン・やけど
9	恒常性	ホメオスタシスの概念と職業病
10	公害と疾病	水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息
11	体内環境	対外環境に対する生物の環境応答
12	生活環境と健康	ライフスタイルと種々のストレス・生活習慣病
13	環境・エコビジネス 1	環境調査・コンサルタント・環境修復ビジネス
14	環境・エコビジネス 2	ESCO 事業・ISO ビジネス・環境報告・環境会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

支援システムにてテーマに沿った資料・映像ファイルを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100 点満点）及び、授業内にて小試験（10 点満点）を複数回行う。総合計点の 60%以上得点した学生に単位を認める。試験の配分が 100 %となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline and objectives】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

SES200CA
環境科学 B
岡部 雅史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、人間の活動がどのようにして自然環境と関わってきたのか？ そのメカニズムと、現在の環境汚染の現状、さらには環境に負荷をかけないシステムの紹介まで踏み込んだ内容を展開します。生物と環境とのかかわりを生態科学的視点からも理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として地球環境問題の理解ができるようになる事を目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義全体としては、1－自然環境を構成する因子、2－環境汚染の変遷、3－現在の環境汚染、4－環境負荷低減テクノロジーの展開と、その将来等 以上の 4 つのサブテーマから構成され、前半では今までの環境汚染（公害）の概念の理解、後半では地球規模にまで進んだ環境汚染・生態破壊のメカニズムを説明し、環境負荷低減のための技術の解説をおこないます。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第 2 回	環境に対する概念の変遷：	自然浄化・環境汚染・環境負荷・環境影響範囲
第 3 回	地球環境問題：	特徴・公害問題との違い・加害と被害
第 4 回	海洋汚染：	エコトキシコロジー・プラスチックベレット汚染・防止策
第 5 回	地球温暖化：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 6 回	酸性雨：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 7 回	砂漠化と都市気候：	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第 8 回	有害物質の越境移動：	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壌汚染
第 9 回	生物多様性の減少：	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第 10 回	オゾン層の破壊：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 11 回	環境・エコビジネス A	ESCO 事業 1（概念・経済規模）
第 12 回	環境・エコビジネス B	ESCO 事業 2（適用事例）
第 13 回	環境・エコビジネス C	エコファンド・土地関連ビジネス
第 14 回	海外の環境ビジネス：	米国のグリーンニューディール政策およびドイツの環境関連ビジネスの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてテーマに沿った資料を配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100 点満点）及び、授業内にて小試験（10 点満点）を複数回行う。総合計点の 60%以上得点した学生に単位を認める。試験の配分が 100 %となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【Outline and objectives】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

HIS300CA
日本文化史
古澤 直人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本生活文化の形成について理解を深める。応仁の乱後の分裂の時代を経て、地域ごとの小国家ともいえる戦国大名領国が作られ、生活・文化の地域的特色が形成される。さらに織豊統一政権によって日本は再統合され、統一した文化が形成される。以上の過程について知見を得る。関連史料を読み解きつつ史料に対する批判的な見方を養い、解釈の多様性を学ぶなど歴史的思考力の獲得をめざす。

【到達目標】

今日「日本的」とされる生活文化の多くは室町時代に成立している。また郷土の英雄や県民意識（お国ぶり）の源流も室町時代後期を起点とする。北山文化・東山文化が生まれた後、郷土に根ざした生活文化が形成される室町時代中期から、統一した文化が形成される織豊期・近世初頭の時期に焦点をあてて学ぶ。文化史にかんするいくつかのテーマを論述する活動を通じて、事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業支援システムからダウンロードした教材（パワー pdf、ワード、動画等）を事前に読み、基本的にはパワーポイントにそって講義を進める。リアクションペーパー（1200 字程度）を毎回提出してもらう。課題は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	武家統一政権の形成	日本史の教育における本授業の意味、室町邸の造営、将軍絶対化、守護勢力削減
2	武家統一政権形成と北山文化	北山邸造営の意義、対明貿易の開始、義満の「法皇」化
3	東国下剋上の開始	鎌倉公方と関東管領、上杉禅秀の乱、永享の乱、幕府と鎌倉公方
4	西国下剋上の開始と将軍専制	守護連合、足利義教の恐怖政治、将軍専制、嘉吉の乱
5	日本文化史上の応仁の乱	内藤湖南の指摘、父の意向と家臣の支持、京都焼亡
6	応仁の乱と山城国一揆	足輕の活躍、東西幕府、山城国一揆、日野富子、東山文化
7	東国の戦国開始ー太田道灌と北条早雲ー	小田原城奪取、相模支配、早雲寺殿 21 箇条の思想
8	西国の戦国開始と文化	大内と尼子、国人から戦国大名へ、大内氏の文化
9	戦国大名毛利氏の領国支配と文化	石見銀山をめぐる、中国制覇、元就の思想
10	戦国大名武田氏とその文化	甲斐国の特徴、法典と家訓、治水、甲州金、信玄堤
11	戦国大名上杉謙信とその思想	北信と関東、謙信の 2 面作戦、謙信の筋目
12	織田氏の領国支配と新政策	信秀の活動、岐阜での新政策、加納楽市令
13	信長の統一事業と文化	都市の直轄、叡山焼討、安土城と文化、天下人

- 14 信長と南蛮文化 宗教勢力との対決、木綿と鉄砲、中世文化の否定、南蛮寺、神格化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教材（パワポイント pdf、ワード、動画等）を読み、内容のあらましを把握し、興味に応じて参考文献に目を通す。授業の課題を提出する。課題回答文に対する教員のコメントに目を通す。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業プリントを学習支援システムから各自ダウンロードする。

【参考書】

永原慶二『戦国時代』上・下（小学館ライブラリー）。このほか授業で逐次提示する。

【成績評価の方法と基準】

提出課題の評価が中心（80 %）で、平常点（授業への積極的な貢献度）を従（20 %）として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

内容が多すぎる回があるという指摘があり厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、即刻減点して静粛を保つようにしたい。私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、PC またはタブレット

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を学ばなかった学生は各自で自習しておいてほしい。

【Outline and objectives】

Understand the formation of Japanese life culture. After the era of split after Onin's disturbance, the Sengoku Daimyo Domain, which can be regarded as a small country by region, is created, and regional features of living and culture are formed. Furthermore, Japan is reunited by the Unified Oda - Toyotomi regime, and a unified culture is formed. Obtain knowledge about the above process.

ECN200CA
経済学史 A
平瀬 友樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済理論の歴史について解説を行うものである。この経済学史Aにおいては、ケインズ以前の経済理論について講義を行う。なお、経済史ではなく、経済学＝理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【到達目標】

経済理論の形成過程が、市場原理について肯定的な思想とそれに否定的な思想との対立によって、生み出されてきたものであるということに力点を置きながら、社会経済学と新古典派経済学の成立過程について解説を行う。そもそも、『国富論』によって経済学が成立するはるか以前より、保護主義的思想と自由主義的思想の対立が続いてきた。したがって、価値論を中心に据えながら、社会経済学と現代経済学の対立および論点について学ぶことは、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義であると言える。なお、経済史ではなく、経済学＝理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

動画配信形式で講義行う。なお、課題に対するフィードバックが必要な場合には支援システムの登録アドレスへ直接送るので、PCからのメールを受け取れるように準備しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	学説史研究の意義	大学での研究および社会教育における本講義の意義
第2回	アダム・スミス以前の経済理論について	重商主義と重農主義について
第3回	アダム・スミスの経済理論について	2つの価値論の誕生・現代経済学と社会経済学の違い
第4回	リカードの経済理論について	穀物法論争と差額地代論・現代にも通じる論争と政策決定
第5回	リカードの経済理論の成立	比較生産費説について・理論で考えるということ
第6回	J.S. ミルの経済理論について	古典派経済学の限界・資本主義をどうとらえるべきか
第7回	マルクスの短期的経済分析	搾取とは何か・貧富の格差と投下労働価値説
第8回	マルクスの長期的経済分析	利潤率低下の法則とは何か
第9回	マルクス経済学の評価について	転化問題を中心に・マルクスの現代的意義について
第10回	限界革命について	現代的な価値論の確立・科学革命とは何か
第11回	限界革命の立役者たち	ワルラスを中心に
第12回	新古典派経済学の成立	マーシャルの経済学・需給による価格決定分析の成立
第13回	新古典派経済学に対する挑戦	独占的競争市場の分析を中心に
第14回	総復習	授業内試験およびその解説・この講義で学んだことをどう活かすか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目は経済史ではなく、経済学史=理論の歴史である。そのため、『現代経済学入門』を履修しておくか、あるいはミクロ経済学・マクロ経済学について同等の予備知識があることは望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

追って指示する。さらに授業支援システムより補足レジュメを各自でダウンロードすること。

【参考書】

その他にも必要に応じてその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

コロナ対応につき、教育支援システムより提出する 10 回のレポートで 100 % 評価とする。ただし、レポートについては、手書き (apple pencil などアプリは不可) 等厳密な条件を課すので、講義内の指示に従うこと。

【学生の意見等からの気づき】

音声ファイルよりも評判が良いので、動画配信形式で講義を行う予定である。

【その他の重要事項】

すべてのアナウンスは教育支援システムのお知らせ欄で行うため、必ず確認をお願いします。また、支援システムの掲示板は使っていないので、連絡は hirase@hosei.ac.jp をお願いします。

【Outline and objectives】

This course introduces the history of economic thought before the Keynesian revolution to students taking this course. In addition, the aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand economic theory, especially micro economics and Marxian economics.

ECN200CA
経済学史 B
平瀬 友樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済理論の歴史について解説を行うものである。この経済学史 B においては、主にケインズ以降の経済理論について講義を行う。なお、経済史ではなく、経済学=理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【到達目標】

経済理論の形成過程が、市場原理について肯定的な思想とそれに対する否定的な思想との対立によって、生み出されてきたものであるということに力点を置きながら、IS-LM 分析を中心とする旧マクロ経済学とルーカス批判以降の新マクロ経済学の成立過程について解説を行う。旧マクロ経済学と新マクロ経済学の対立および論点について学ぶことは、経済学史 A と同様に、単なる理論的知識の習得にとどまらず、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義である。なお、経済史ではなく、経済学=理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

動画配信形式で講義を行う。なお、課題に対するフィードバックが必要な場合には支援システムの登録アドレスへ直接送るので、PC からのメールを受け取れるように準備しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	大学での研究および社会教育における本講義の意義
第 2 回	ケインズ革命以前のマクロ経済思想	貨幣数量説と市場に対する評価
第 3 回	ケインズ革命によって失われたマクロ経済分析	ヴィクセルによる累積過程の分析
第 4 回	ケインズ革命	ケインズ自身の理論について・科学革命の実際
第 5 回	ケインズ革命の普及	ヒックスによる IS - LM 分析・その功績と功罪について
第 6 回	ケインズ革命にみる理論と実際	消費関数および投資関数をめぐる論争、理論と現実の捉え方
第 7 回	戦後の経済理論の発展について	ケインジアンによる経済成長論
第 8 回	経済成長論の誕生	新古典派による経済成長論
第 9 回	新古典派総合の誕生	理論と政策の関係性について
第 10 回	新古典派総合の終焉	自然失業率仮説とスタグフレーション
第 11 回	新しいマクロ経済学の誕生	ルーカス批判とは何か 新自由主義との関連について
第 12 回	計量経済学の誕生	IS-LM 分析ベースの定量的分析の紹介
第 13 回	現代の経済学について	ルーカス批判を超えて・RBC を中心に
第 14 回	総復習	授業内試験およびその解説・この講義で学んだことをどう活かすか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目は経済史ではなく、経済学史=理論の歴史である。そのため、『現代経済学入門』を履修しておくか、あるいはミクロ経済学・マクロ経済学について同等の予備知識があることは望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

追って指示する。

【参考書】

井上義朗『コア・テキスト 経済学史』新世社
その他にも必要に応じてその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

コロナ対応につき、教育支援システムより提出する 10 回のレポートで 100 % 評価とする。ただし、レポートについては、手書き (apple pencil などアプリは不可) 等厳密な条件を課すので、講義内の指示に従うこと。

【学生の意見等からの気づき】

音声ファイルよりも評判が良いので、動画配信形式で講義を行う予定である。

【その他の重要事項】

すべての連絡は授業支援システムのお知らせ欄に記載します。また、支援システムも掲示板は使用せず、連絡は hirase@hosei.ac.jp にお願います。

【Outline and objectives】

This course introduces the history of economic thought after the Keynesian revolution to students taking this course. In addition, the aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand economic theory, especially macro economics.

ECN200CA

公共経済論 A

篠原 隆介

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、完全競争理論を通して、市場経済がもたらす利点を学習する。まず、市場分析の基礎となる、消費者行動と企業行動の理論を学習する。消費者・企業行動の分析の基礎となる消費者の効用最大化問題と企業の利潤最大化問題を学習し、消費者と企業の行動の仕組みを理解する。次に、市場取引の帰結が市場均衡となり、市場均衡では経済厚生観点から望ましい取引を実現していることを学習する。最後に、より一般的な市場分析の枠組みである交換経済を学習し、厚生経済学の基本定理を理解した上で、市場メカニズムの利点について総括する。

【到達目標】

本講義の目標は、ミクロ経済学に基づき、市場の利点と欠点を整理できるようにすること、そして、現代社会における、市場と政府の望まれるべき関係を客観的かつ公正に考察する力を身につけることが目標である。本講義では、特に市場経済の利点を中心に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

完全競争の理論に基づく、政府と市場の役割分担を、標準的なミクロ経済学を用いて、学習する。本講義では、理論分析を主に行うが、本講義の内容が現実世界とどのように関連するののかについて、意識しながら講義を受講して欲しい。

本講義はオンラインで開講する (オンデマンド型・リアルタイム型の併用) 初回のガイダンスはオンデマンド型で行い、これ以降の講義は初回講義にて指示する。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック (課題の解答解説等) は講義内で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	市場経済の利点と欠点	市場が持つ利点と欠点の概観、市場経済における政府の役割。
2	消費者行動 (1)	選好と効用関数、予算制約、限界代替率、効用最大化問題について。
3	消費者行動 (2)	所得効果、代替効果、スルツキー分解について。
4	消費者行動 (3)	消費者行動の理論を応用し、最適な税制について考察する。
5	企業行動 (1)	生産費用の概念 (総費用、可変費用、限界費用、平均費用) について。
6	企業行動 (2)	利潤最大化行動における限界収入と限界費用の役割について。
7	企業行動 (3)	完全競争企業の利潤最大化と供給曲線について。
8	市場取引 (1)	消費者余剰、生産者余剰、総余剰。配分効率性について。
9	市場取引 (2)	市場均衡、市場均衡取引と配分効率性について。
10	市場取引 (3)	企業への参入促進政策が市場取引に与える影響について。
11	交換経済 (1)	複数財取引と市場均衡、ワルラス均衡について。
12	交換経済 (2)	複数財取引市場における経済厚生基準、効率性と衡平性について。
13	交換経済 (3)	厚生経済学の基本定理、本定理を通じた市場と政府の望ましい関係性。
14	講義総括と問題演習	春学期の学習内容を総括し、問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。講義の準備として、ミクロ経済学 AB(2 年次配当) の復習をすること、授業支援システムで配布される講義資料に目を通すことは必ず行うこと。講義の復習として、練習問題演習を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。担当教員作成の資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

- ① 板谷淳一、佐野博之『コアテキスト公共経済学』新世社、2013 年
- ② 佐藤主光『公共経済学 15 講』新世社、2017 年
- ③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015 年
- ④ 土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（100%）により評価を行う。詳細については、学習支援システムにて知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題や数値例を多用して、できるだけ分かりやすく講義することを心がける。

【その他の重要事項】

①本講義を受ける上で、「ミクロ経済学 AB」で使うような数学の知識は必要です。「ミクロ経済学 AB」の復習は、各自で行うことを強く推奨します。

②本講義は、「財政学」、「経済政策論」と補完的な関係にあるため、同時に履修すると、理解は深まる。

③本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

④授業に関する連絡は、すべて学習支援システムを通して行う。

【Outline and objectives】

This course deals with a public microeconomics based on the perfect competition theory. First, we review the utility maximization by consumers and the profit-maximization by firms. Then, we study the market interaction between consumers and firms through a partial equilibrium model (the demand and supply theory) and a general equilibrium model (in particular, the pure-exchange economy). Through the equilibrium theories of the markets, we learn the merit of the competition in the markets.

ECN200CA
公共経済論 B
篠原 隆介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、市場の欠点（失敗）を理解し、それを解消することを目的とした経済制度・政策の設計について学習する。まず、外部性の存在が引き起こす市場の失敗を学習し、外部性の内部化を通じた経済政策の実施が、問題解決の鍵となることを理解する。次に、公共財の存在による市場の失敗を学習し理解する。最後に、メカニズムデザイン理論を学習し、経済主体のインセンティブを考慮に入れた経済制度設計の重要性を理解する。本理論を応用した、分割不可能財の配分問題や公共財供給のただ乗り問題の解決方法を学習する。

【到達目標】

公共経済論 A に引き続き、ミクロ経済学に基づき、市場の利点と欠点を整理し、現代の社会における、望まれるべき市場と政府の関係を、客観的かつ公正に考察する力を身につけることが目標である。本講義では、市場経済の欠陥と政府の役割を考察することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

担当教員作成の講義資料を、板書とスライドを使いながら解説する。本講義はオンラインで開講する（オンデマンド型・リアルタイム型の併用）初回のガイダンスはオンデマンド型で行い、これ以降の講義は初回講義にて指示する。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	市場の失敗と経済政策設計	市場の失敗の概観、問題解決のために望まれる政策とは。
2	外部性 (1)	外部性とは、外部性が存在する経済での市場の失敗について。
3	外部性 (2)	政府の政策と経済政策を通じた外部性の内部化について。
4	外部性 (3)	コースの定理、外部性解消のために交渉が果たす役割について。
5	外部性 (応用)	環境問題における環境税と排出量取引の役割について。
6	公共財 (1)	公共財、準公共財、私的財の理解、公共財供給のモデル構築について。
7	公共財 (2)	公共財供給のパレート効率条件の導出、サミュエルソン条件について。
8	公共財 (3)	公共財供給ゲームの定式化と分析、市場の失敗とただ乗り問題について Part1。
9	公共財 (4)	公共財供給ゲームの定式化と分析、市場の失敗とただ乗り問題について Part2。
10	経済制度設計 (1)	市場の失敗の解消のためのメカニズムの設計について。
11	経済制度設計 (2)	公共財供給とメカニズム設計について、クラーク・メカニズム Part1。
12	経済制度設計 (3)	公共財供給とメカニズム設計について、クラーク・メカニズム Part2。
13	経済制度設計 (4)	その他のメカニズムについて。
14	講義総括と問題演習	秋学期の学習内容を総括し、問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。講義の準備として、ミクロ経済学 AB(2 年次配当) の復習をすること、授業支援システムで配布される講義資料に目を通すことは必ず行うこと。講義の復習として、練習問題演習を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。担当教員作成の資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

公共経済論 A シラバスで挙げた参考書①～④に加えて、次の文献は、本講義と関連する。

⑤アラン・M. フェルドマン, ロベルト・セラノ (2009)『厚生経済学と社会選択論; 第 2 版』(飯島大邦, 川島康男, 福住多一訳) シーエービー出版

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した課題 (100%) により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

単なる理論学習だけではなく、応用の仕方についても話をしながら、講義を進めます。

【その他の重要事項】

①本講義を受ける上で、「ミクロ経済学 AB」で使うような数学の知識は必要です。「ミクロ経済学 AB」の復習は、各自で行うことを強く推奨します。

②本講義は、「財政学」、「経済政策論」と補完的な関係にあるため、同時に履修すると、理解は深まる。

③本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

④講義に関するお知らせは、学習支援システムを通して行う。

【Outline and objectives】

This course deals with a public microeconomics for the market failures. First, we study why market fails in the presence of externalities and public goods. Then, we study how to solve the market failure through government interventions. In particular, in this class, we learn that the governmental policies with the internalization of externalities such as the Pigouvian tax (or subsidies) are effective solutions to the externality problem. In addition, we learn that the internalization is possible through bargaining between polluters and pollutees. For the public good provision, a mechanism design approach solves the free-rider problem.

ECN300CA

環境政策論 A

西澤 栄一郎

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察する。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

【到達目標】

- ①環境問題の経済学的な分析手法を身につける。
- ②環境政策のさまざまな手法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。可能であれば対面授業とオンライン授業を併用する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

なお、経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論 A または公共経済論 A・B を履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス&環境問題を考える
第 2 回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から 20 世紀末まで
第 3 回	地球温暖化問題	気候変動枠組条約、パリ協定
第 4 回	地球温暖化対策①	エネルギー需給、エネルギー政策
第 5 回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第 6 回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第 7 回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第 8 回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第 9 回	環境政策の手段	政策手段の分類、経済的手法
第 10 回	環境税	ピグー税、汚染者負担原則
第 11 回	排出取引	税との比較、EU の制度
第 12 回	補助金・デポジット	長期効率性、税と補助金の組合せ
第 13 回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第 14 回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

栗山・馬奈木 (2020)『環境経済学をつかむ 第 4 版』有斐閣

一方井誠治 (2018)『コア・テキスト環境経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】

期末試験が行えない場合、課題の提出を評価の基本とする。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students consider environmental policies from the viewpoint of economic theory.

ECN300CA
環境政策論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策論 A につづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

【到達目標】

- ①日本の環境政策の実態について理解する。
- ②環境政策の形成過程を理解する。
- ③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。可能であれば対面授業とオンライン授業を併用する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境政策の諸原則	6 つの原則
第 2 回	日本の環境政策の枠組	基本法、基本計画、環境影響評価
第 3 回	大気保全政策	大気汚染防止法、アスベスト問題
第 4 回	交通と環境	自動車 NOx・PM 法
第 5 回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域
第 6 回	土壤汚染対策	土壤汚染対策法
第 7 回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR
第 8 回	自然環境保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第 9 回	自然環境保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第 10 回	廃棄物対策	循環型社会形成推進基本法
第 11 回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程の各段階
第 12 回	環境政策の政策過程②	政策ネットワーク
第 13 回	企業と環境問題①	環境会計、環境マネジメント
第 14 回	企業と環境問題②	環境金融、ESG 投資

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配付する。

【参考書】

竹本和彦編 (2020)『環境政策論講義』東京大学出版会
西尾哲茂 (2019)『わか～る 環境法 増補改訂版』信山社
神山智美 (2018)『自然環境法を学ぶ』文眞堂

【成績評価の方法と基準】

期末試験が行えない場合、課題の提出状況で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of current environmental law, politics, and policy in Japan.

ECN300CA
日本経済史 A
長原 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- (1) 明治維新（1868 年）から第一次世界大戦にかけての日本資本主義の「形成－成立」過程を「史実」として現れる歴史具体的な過程として理解すること。
- (2) 単なる「史実」の羅列。ではなく、これらの「史実」が日本における産業資本の確立を構成する 3 つの「商品」——資本・労働・土地——とその蓄積の維持を担保する国家・制度の社会的確立の帰結として、しかも経済理論的に、理解できるようになること。

【到達目標】

到達目標は以下の 2 点である。

- (1) 日本における「歴史的近代」が成立していく過程を「資本」形成の視点から大掴みにできるようになること。
- (2) その際、具体的「史実」とその「理論－論理」的理解を説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 教員が作成した図表および資料等の「基本データ」（教員だけが加工可能）および講義の基本的行程を示した「基本ノート」（受講者も加工可能）を講義の進捗に合わせて「学習支援システム」の「教材」欄から順次配置し（講義の前日に更新される）、それを Zoom の「画面共有」で教員と受講生の共通の議論の「素材」として使用する、リアルタイム講義を行う。
- (2) 「基本データ」は教員だけが加工可能（色つけ・ハイライトなどによる視覚化）であり、「基本ノート」は受講生が自分のノートとして加工利用できる。
- (3) 教員が講義中に書き込みした「基本データ」および「基本ノート」は、講義終了後に「学習支援システム」にアップロードされ、受講生はそれを自分が書き込んだ「ノート」と統合して、蓄積することができる。
- (4) 教員による書き込みがなされた「基本資料」および「基本ノート」は、学期間中「学習支援システム」に残され、受講生はいつでも繰り返しアクセスできる。
- (5) 講義の最後に 10 分ほどの「ディスカッション・タイム」を設けるだけでなく、受講生には、「学習支援システム」を通じてリアクション・ペーパーの提出を求め、有益なコメントについては、次の講義冒頭で紹介的に受講生全体にフィードバックする。
- (6) 最終授業では、(5) で蓄積されたさまざまな論点を講評的に紹介し、学期末試験として出題される「課題＝レポート」作成のための一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義と「日本」資本主義	「日本」という資本主義的地勢と国民経済形成：資料「資本の原型 Ver.1」配布。 ※ 以下配布される資料はすべて受講生も書き込み可能な資料です。
第 2 回	明治維新の「政治」的意義を経済学からみる	明治維新政府の経済的特徴：王政復古・版籍奉還・廃藩置県 → 「学習ガイド A-1」を配布

第 3 回	明治維新の「通知」政治	封建的規制の廃止の経済的意味：資料「資本の原型 Ver.1」と「学習ガイド A-1」による明治初期の資本主義的制度形成を整理
第 4 回	地租改正の経済的意味 (1)	財政（短期）的視点から地租改正を整理する：資料「明治初期財政」の配布を歳入の視点を軸に
第 5 回	地租改正の経済的意味 (2)	資本形成（長期）的視点から地租改正を整理する：私的所有権の視点
第 6 回	秩禄処分の経済的意味 (1)	財政（短期）的視点から地租改正を整理する：資料「明治初期財政」の配布を歳入の視点を軸に
第 7 回	秩禄処分の経済的意味 (2)	資本形成（長期）的視点から地租改正を整理する：資料「資本の原型 Ver.2」配布
第 8 回	通貨金融制度の形成	地租改正・秩禄処分の「意味」を踏まえて、明治初期を貨幣的側面から整理する：「学習ガイド A-2」配布
第 9 回	大隈財政と松方財政	「財政」政策の資本制形成能力：「学習ガイド A-3」配布
第 10 回	日本の「産業」革命	技術導入の「日本」的特殊性：「学習ガイド A-4」配布
第 11 回	明治期の産業構造の整理	工業の近代化の「日本」的あり方：「学習ガイド A-5」の配布
第 12 回	転換期としての二つの「戦争」	日清戦争と日露戦争の経済史的意味を整理する：「学習ガイド A-6」配布
第 13 回	いわゆる「農工商資金循環」論の紹介	農業セクターから工業セクターへの資金移動をこれまでの講義の総括として提示する：「資本の原型 Final」配布
第 14 回	「農工商資金循環」論と二重構造論を整理し、秋学期の講義を展望する。	前回配布した「資本の原型 Final」とレポート作成のための手引き「見取り図」を配布し、春学期を振り返る。またこれまでのレアクション・ペーパーの総括的講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示するテキストの該当箇所や参考文献を読み、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【注意事項】

さきに【授業の進め方と方法】Method(s) で示した方法で講義が進められることから、講義のなかで受講生とのインタラクションも含めて、学期末での課題提出のための「資料集的なガイドブック」を共同で作成するという形態をとっている。

【参考書】

中西聡編『日本経済の歴史：列島経済史入門』名古屋大学出版会、初版、第 2 刷、2015 年、2800 円＋税

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（記述式の課題＝レポート）によって成績評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

講義冒頭で前回講義の単なるサマリーを行うだけでなく、理解深度が浅いと感じられた場合は、重複的に講義を反復する必要があることに気づかされた。

【学生が準備すべき機器他】

【重要】

例えば、MSWord・PowerPoint・Excel などのような機能をマウントした PC が必須です。

【専門分野】

日本経済史・経済理論

【研究テーマ】

経済史方法論・経済理論

【主要業績】

『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989 年

『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008 年

『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015 年

『敗北と憶想』航思社、2019 年

【Outline and objectives】

(1) Our class aims at understanding the specific period from the Meiji Restoration (1868) to the WWI as the "formation-establishment" process of Japanese Capitalism.

(2) (1) is, however, composed not simply of chronologically "sorting out" the historical facts but rather of theoretico-historical grasping of the productive factors of capitalism such as capital, labour, and land in relation to the establishment of the modern social institutions of course including the State called "Nippon".

ECN300CA
日本経済史 B
長原 豊
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- (1) 「戦間期」日本資本主義の展開を「史実」に基づいて跡づけ、世界史的なフォーディズム体制からポスト・フォーディズム体制への移行の日本における準備段階を理解すること。
- (2) 単なる「史実」の羅列ではなく、これらの「史実」が日本における金融資本の確立・再変質とその維持を担保する国家・制度の社会的確立の帰結として、しかも経済理論的に、理解すること。
- (3) 戦後経済の日本経済論としての理解のための俯瞰図を獲得すること。

【到達目標】

到達目標は以下の 2 点である。

- (1) 日本の「歴史的近代」が「戦間期」にたどる過程を世界史的観点から捉えること。
- (2) またそのさい、「史実」とその「理論- 論理」的理解を説明できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 教員が作成した図表および資料等の「基本データ」（教員だけが加工可能）および講義の基本的行程を示した「基本ノート」（受講者も加工可能）を講義の進捗に合わせて「学習支援システム」の「教材」欄から順次配置し（講義の前日に更新される）、それを Zoom の「画面共有」で教員と受講生の共通の議論の「素材」として使用する、リアルタイム講義を行う。
- (2) 「基本データ」は教員だけが加工可能（色つけ・ハイライトなどによる視覚化）であり、「基本ノート」は受講生が自分のノートとして加工利用できる。
- (3) 教員が講義中に書き込みした「基本データ」および「基本ノート」は、講義終了後に「学習支援システム」にアップロードされ、受講生はそれを自分が書き込んだ「ノート」と統合して、蓄積することができる。
- (4) 教員による書き込みがなされた「基本資料」および「基本ノート」は、学期中「学習支援システム」に残され、受講生はいつでも繰り返しアクセスできる。
- (5) 講義の最後に 10 分ほどの「ディスカッション・タイム」を設けるだけでなく、受講生には、「学習支援システム」を通じてリアクション・ペーパーの提出を求め、有益なコメントについては、次の講義冒頭で紹介的に受講生全体にフィードバックする。
- (6) 最終授業では、(5) で蓄積されたさまざまな論点を講評的に紹介し、学期末試験として出題される「課題＝レポート」作成のための一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	1890 年恐慌の意義と戦間期の恐慌を位置づける	戦間期の恐慌を「予め」まとめる：資料「景気循環」および秋学期全体で用いる統計資料の配布を開始する。 ※ 以下配布される資料はすべて受講生も書き込み可能な資料です。

第 2 回	「戦間期」の俯瞰的な局面区分	第一次世界大戦から第二次世界大戦を日本における具体的な経済的出来事を示しながら局面区分する：資料「時期区分」を配布する。
第 3 回	一度「恐慌論」に戻ってみて——景気循環の仕組み	資料「恐慌」を配布し、戦間期における恐慌の反復の経済的意味を整理する。
第 4 回	「戦間期」における景気循環	戦間期における「景気循環」の特徴を一括的に整理する。また資料「1_ [1910 年代初期]」と「2_ [大戦ブーム]」を配布する。
第 5 回	「戦間期」日本経済の世界的背景	第一次大戦後の世界構造を整理する：資料「3_1 [世界経済の新局面]」を配布する。
第 6 回	「戦間期」日本経済の新局面 (1)	第一次大戦後の日本経済の新局面を整理する：資料「3_2 [日本経済の新局面]」を配布する。
第 7 回	戦間期における日本経済の新局面 (2)	産業構造の変化（重化学工業化と都市化）：資料「3_2 [日本経済の新局面]」と当該期の経済統計の集中的理解を深める。
第 8 回	戦間期における日本経済の新局面 (3)	戦間期における政策体系を金融的側面（1920 年恐慌 → 関東大震災 → 救済政策）から整理する (1)：資料「4_1_1 [金融再編]」を配布する。
第 9 回	戦間期における日本経済の新局面 (4)	戦間期における政策体系を金融再編から整理する (1927 年恐慌と金融機関の系列化とメガバンク)：資料「4_1_2 [金融再編]」および資料「4_1_3 [金融再編]」を配布する。
第 10 回	井上財政と「昭和恐慌」	20 年代を通じた再建金本位制への復帰努力とその失敗：資料「4_1_3 [金融再編]」の配布
第 11 回	「高橋財政」の政策体系 (1)	「高橋財政」の政策体系をその現代的意味から理解する。資料「5_1 [高橋財政]」の配布
第 12 回	「高橋財政」の政策体系 (2)	「高橋財政」の政策体系をその現代的意味から理解する。資料「5_2 [高橋財政]」の配布
第 13 回	戦後日本経済を理解するために	「高橋財政」と「戦時統制経済」、そして戦後経済成長との連続性と非連続性
第 14 回	日本経済史 B の総括と質問と講評	レポート作成のための手引き「見取り図」を配布し、春学期を振り返る。またこれまでのレアクション・ペーパーの総括的講評を行う。そのために資料「傾向と対策」を配付する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示するテキストの該当箇所や参考文献を読み、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【注意事項】

さきに【授業の進め方と方法】Method(s) で示した方法で講義が進められることから、講義のなかで受講生とのインタラクションも含めて、学期末での課題提出のための「資料集的なガイドブック」を作成するという形態をとっている。

【参考書】

中西聡編『日本経済の歴史：列島経済史入門』名古屋大学出版会、初版、第 2 刷、2015 年、2800 円＋税

【成績評価の方法と基準】

記述式の学期末試験（レポート）によって成績を評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

講義冒頭で前回講義の単なるサマリーを行うだけでなく、理解深度が浅いと感じられた場合は、重複的に講義を反復する必要があることに気づかされた。

【学生が準備すべき機器他】

【重要】

例えば、MSWord・PowerPoint・Excel などのような機能をマウストした PC が必須です。

【専門分野】

日本経済史・経済理論

【研究テーマ】

経済史・経済史方法論・経済理論

【主要業績】

『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989 年

『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008 年

『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015 年

【Outline and objectives】

(1) Our class aims at historically trace the development of Japanese Capitalism and the necessary changes associated with it in the inter-war phase based and then to define the former as the part of the preliminary stage for the world-wide transformation from the fordism to the post-fordism.

(2) (1) is, however, composed not simply of hronologically “sorting out” the historical facts but rather of theoretico-historical grasping of the establihsment of Japanese Finance Capitalism and the social institutions closely associated with it.

(3) (1) and (2) also aim at having a bird’s-eyes view of the Japanese Economy after the WWII.

ECN200CA
社会経済思想史 A
後藤 浩子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパにおける重商主義の形成」

本講義では、まず諸理論家の背景となる歴史的状况を押さえ、そこからどのような思想が生み出されたのかを見ていきます。17 世紀にイングランドは、ステュアート朝三王国体制、ピューリタン革命と共和政、王政復古、そして名誉革命といったように内政の激動を経験し、他方フランスは、マザランやコルベールの財政政策に支えられたルイ 14 世の絶対王政を築いていました。両国は、商業的覇権を求めて経済的・軍事的な競争を展開することになります。このような時代背景の下、「国力とは何か」「商業的繁栄をもたらす国家体制はどのようなものか」といった問いが探究され、政治経済学の諸言説が生み出されることになりました。

【到達目標】

学生が、この講義を通して、17 世紀イングランドとフランスの政治・経済状況の中から、どのようにして経済学的なものの見方が生成してきたのか、その過程を理解し、ヨーロッパの地域的特色と認識を深め、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は Zoom によるオンライン講義を基本とし、必要に応じて対面での講義を行うハイブリッド形式になります。

毎回の授業で 1200～1400 字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは今回の授業開始時に教員からのコメントとして提示します、またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に「学習支援システム」を通じて添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (1)	ヨーロッパはどのように原初の資本を蓄積したか。資本蓄積システムのプロトタイプと第 1 サイクル。以降 14 回までの本学期的講義内容は、高校世界史 A / B における「ヨーロッパの拡大と大西洋世界：16 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の特徴とアメリカ・アフリカとの関係」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第 2 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (2)	重商主義の実相
第 3 回	資本蓄積システムの第 2 サイクル	重商主義システムの雛形としてのオランダ
第 4 回	ポスト・オランダをめぐる競争：フランス対イングランド (1)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ①フランスの税制・国家収入・軍備
第 5 回	ポスト・オランダをめぐる競争：フランス対イングランド (2)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ②イングランドの税制・国家収入・軍備
第 6 回	政治算術の登場	フランシス・ベーコンの思想とベティへの影響
第 7 回	W・ベティ (1)	経歴とアイルランド測量
第 8 回	W・ベティ (2)	『租税貢納論』
第 9 回	W・ベティ (3)	『政治算術』
第 10 回	J・ロック	『政府二論』における労働と所有、植民地論
第 11 回	J・チャイルド	『新交易論』におけるオランダの国力の分析
第 12 回	C・ダヴナント	英国ウィッグ党の経済政策批判
第 13 回	D・デフォー	分業の密度と国力、『ロビンソン・クルーソー漂流記』の経済思想
第 14 回	資本蓄積システムの第 3 サイクル	大ブリテンを中核として形成された資本蓄積システムの特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、毎回の講義の後に、A4 サイズのリアクション・ペーパー（オンライン授業の場合は MS ワード・ファイル）に 1200～1400 字で講義の内容をまとめたレポートを作成し、次の授業の際にそれを提出します。これに必要な学習時間は 1～2 時間です。講義の内容のどの点についてまとめるかは、授業中にお知らせします。毎回教員が目を通し、合格すればレポート評価分の点数として 10 点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】

イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009 年）
ラス・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009 年）
米田昇平『欲求と秩序：18 世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005 年）
※さらに詳しく学びたい人のための文献ですので、事前に購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内容をまとめたレポート（40 %）と春学期末の定期試験の成績（60 %）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状況と彼らの思想的な重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline and objectives】

"The formation of mercantilism in Europe"

To begin with, this lecture gives students basic knowledge about the economic development of sixteenth-and seventeenth-century Europe as historical context. Then, it provides an introduction to major theorists of social and economic thought of that time.

In the seventeenth century England underwent internal and external upheavals such as the Union of the Crowns, the Wars of the Three Kingdoms (the Puritan Revolution), the Restoration and the Glorious Revolution. On the other hand, France established an absolute monarchy under the reign of Louis XIV with the help of Mazarin and Colbert. These two kingdoms were to get into economic and military contest for commercial supremacy. Against this backdrop, questions such as “what is the strength of nation?” and “what regime brings economic prosperity?” were discussed among intellectuals, which was to form mercantilism.

ECN200CA
社会経済思想史 B
後藤 浩子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「重商主義批判の流れと経済学の形成」

戦費調達のために迫られ、17 世紀末イングランドでは公信用の制度的革新が生じました。しかし、フランスでは、17 世紀末の Colbert 的工業重視政策と戦費増大で国家債務が膨らみ、絶対王政は自己破産の危機に瀕します。これに対処すべく、18 世紀初頭には、フランス王立銀行が設立され、銀行券が発行されましたが、このいわゆる「ローのシステム」は 1720 年に破綻します。同時期にブリテンもまた「南海泡沫事件」で投資ブームとその破綻を経験します。このような歴史的状況の中で、まずはフランスで、そしてブリテンで、様々な処方箋が提出され、スミスによるそれらの批判的検討は『国富論』に結実します。

【到達目標】

学生が、この講義を通して、17 世紀末「イングランド財政・金融革命」による公信用制度の普及と膨張する国家財政を背景に、18 世紀に続々登場する重商主義政策批判の言説を介して、法学を補完する「立法者の科学」として経済学が誕生する過程を理解し、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は Zoom によるオンライン講義を基本とし、必要に応じて対面での講義を行うハイブリッド形式になります。毎回の授業で 1200～1400 字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは次の授業開始時に教員からのコメントとして提示します。またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に「学習支援システム」を通じて添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	重商主義批判の流れ	フランスとスコットランドにおける脱オランダ・モデルの探究。以降 14 回までの本学部の講義内容は、高校世界史 A / B における「産業社会と国民国家の形成：フランス革命と 18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的・政治的変革」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第 2 回	ジョン・ロー	国家債務処理システムのプランとその破綻
第 3 回	ボワギルベール (1)	欲求と富
第 4 回	ボワギルベール (2)	自然的自由の体制の希求
第 5 回	J・F・ムロン (1)	商業のための立法原理の探究：貿易と産業の連関
第 6 回	J・F・ムロン (2)	貨幣と信用
第 7 回	R・カンティロン (1)	商業の一般法則の分析
第 8 回	R・カンティロン (2)	市場価格と貨幣流通
第 9 回	F・ケネー (1)	「経済表」：国富の循環の分析
第 10 回	F・ケネー (2)	フィジオクラシーと合法的専制主義
第 11 回	A・スミス (1)	スミスによる基本概念の整理：資本・分業・交換
第 12 回	A・スミス (2)	「重商主義体系」批判
第 13 回	A・スミス (3)	経済発達の自然的過程と制度の影響
第 14 回	A・スミス (4)	公債批判と国家財政論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、毎回の講義の後に、A4 サイズのリアクション・ペーパー（オンライン授業の場合は MS ワード・ファイル）に 1200～1400 字で講義の内容をまとめたレポートを作成し、次の授業の際にそれを提出します。これに必要な学習時間は 1～2 時間です。講義の内容のどの点についてまとめるかは、授業中にお知らせします。毎回教員が目を通し、合格すればレポート評価分の点数として 10 点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】

イシエトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009 年）
ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009 年）
米田昇平『欲求と秩序：18 世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005 年）
ジャン＝フランソワ・ムロン著、米田昇平・後藤浩子訳『商業についての政治的試論』（京都大学学術出版会、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内容をまとめたレポート（40 %）と秋学期末の定期試験の成績（60 %）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状况と彼らの思想的な重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline and objectives】

"Criticism of mercantilism and formation of political economy"

In need of procurement of war expenditure, institutional innovation of public credit occurred in England in the end of the seventeenth century. However, in France, the national debt had expanded due to Colbert's manufacture-oriented policy and increase of financial burden of war since the seventeenth century and absolute monarchy was on the verge of self-bankruptcy. To cope with this quagmire, the Banque royale was established in the beginning of the 18th century, and bank notes were issued, but this so-called "Law system" failed in 1720. At the same time, Britain also experienced the investment boom and its collapse, namely the South Sea Bubble. Amid such historical circumstances, various prescriptions for the ailing economies are made up first in France and then in Britain. Adam Smith examined thoroughly those critical reviews of mercantile policy and gave birth to The Wealth of Nations.

ECN300CA
経済政策論 A
濱秋 純哉
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、経済学の余剰分析の考え方にに基づき考察を加える。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、経済学の余剰分析の考え方にに基づき、外部性の問題や望ましい公共財の供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学で経済政策を考える意味
2	市場の働き 1	完全競争市場とは何か
3	市場の働き 2	需要曲線と供給曲線
4	市場の働き 3	消費者余剰の図示
5	弾力性の概念	価格弾力性とは何か
6	企業行動と生産者余剰 1	様々な費用の概念
7	企業行動と生産者余剰 2	企業の利潤最大化行動と供給曲線
8	企業行動と生産者余剰 3	生産者余剰の図示
9	外部性 1	外部性の概念
10	外部性 2	外部性の存在と市場の効率性
11	外部性 3	規制、ピグー税、及び排出権市場による外部性の問題の解決
12	公共財 1	排除可能性と消費の競合性
13	公共財 2	公共財の最適供給の条件、公共財の自発的供給
14	公共財 3	国家公共財と地方公共財

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

八田達夫、2008、『ミクロ経済学Ⅰ』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー、2013、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編【第3版】』東洋経済新報社

【参考書】

小川光・西森見、2015、『公共経済学』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、3 回の宿題（40%）、復習問題の回答の提出（10%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline and objectives】

Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

ECN300CA
経済政策論 B
濱秋 純哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学の IS-LM 分析の手法を用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討を行う。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	データで見る日本経済 1	GDP の概念と作成方法
3	データで見る日本経済 2	物価指数の概念と作成方法
4	データで見る日本経済 3	失業率の概念と作成方法
5	雇用問題 1	摩擦的失業への政策的対処
6	雇用問題 2	最低賃金引き上げの影響
7	雇用問題 3	若年者の雇用問題、「世代効果」への政策的対処
8	IS-LM モデルの構築 1	ケインジアン の交差図、乗数効果
9	IS-LM モデルの構築 2	IS 曲線の導出
10	IS-LM モデルの構築 3	貨幣量の測定とコントロール
11	IS-LM モデルの構築 4	LM 曲線の導出
12	IS-LM モデルの応用 1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
13	IS-LM モデルの応用 2	金融政策の効果
14	IS-LM モデルの応用 3	「流動性の罠」の下での財政政策と金融政策の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、経済政策論 A を履修済みのことが望ましい。また、授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

N・グレッグリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学 I（第 4 版）』東洋経済新報社

【参考書】

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、3 回の宿題（40%）、復習問題の回答の提出（10%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline and objectives】

Governments and central banks conduct economic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM analysis. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

ECN300CA
農業経済論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の農業は、農家の減少や耕作放棄地の増加、農産物の市場開放などのさまざまな課題に直面している。こうした農業の問題は、私たちの生活や経済全体に密接に関係している。この授業では、経済学的手法を用いつつ、日本の農業の分析と考察を行う。

【到達目標】

- ①日本農業の現状を理解する。
- ②食料・農業問題の経済学的な分析手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。可能であれば対面授業とオンライン授業を併用する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。経済政策論 A または公共経済論 A を履修済みか、同時履修が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業ガイダンスと日本農業の現在
第 2 回	食生活の変遷	エンゲルの法則、食の外部位化
第 3 回	食料の需要・供給	フードシステム、弾力性
第 4 回	食の安全	GAP、HACCP
第 5 回	日本農業の展開過程①	江戸時代から農地改革まで
第 6 回	日本農業の展開過程②	農地改革以降
第 7 回	食料自給率からみる日本農業	食料自給率と食料自給力
第 8 回	農業の生産組織と土地	農業経営体、法人化、集落営農
第 9 回	農業生産の技術	BC 技術と M 技術
第 10 回	コメの生産と流通	食糧管理制度、経営所得安定対策
第 11 回	世界の食料問題	フード・セキュリティ
第 12 回	価格政策と貿易政策	価格支持政策、GATT、WTO
第 13 回	アメリカ・ヨーロッパの農業と農業政策	アメリカ農業法、EU の共通農業政策
第 14 回	まとめ	春学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

荻開津典生・鈴木宣弘 (2020)『農業経済学 第 5 版』岩波書店

【参考書】

生源寺眞一（2013）『農業と人間』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末試験が行えない場合、課題の提出を評価の基本とする。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students conduct an economic analysis of Japanese agriculture.

ECN300CA
農業経済論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、農業・農村を資源・環境および社会との関連でとらえ、現在の課題を把握する。これに関連して、森林・林業および水産業の現状を、経済学的手法を用いて理解する。

【到達目標】

- ①日本の農山村に関わる問題について理解する。
- ②日本の森林・林業と水産業の現状を理解する。
- ③資源の管理に関わる経済学的手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。可能であれば対面授業とオンライン授業を併用する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本農業の展開過程①	江戸時代から農地改革まで
第 2 回	日本農業の展開過程②	農地改革以降
第 3 回	農業と環境	多面的機能、野生鳥獣害
第 4 回	農山村の変遷と現状	中山間地域、地方創生
第 5 回	農村資源とエネルギー	再生可能エネルギー
第 6 回	農村における地域づくり	都市農村交流、グリーンツーリズム
第 7 回	日本の森林と林業	生産、価格、経営体などの動向
第 8 回	森林整備と多面的機能	持続可能な森林経営
第 9 回	森林と林政の展開	江戸時代から現在まで
第 10 回	森林管理の課題	間伐や販売のありかた
第 11 回	日本の水産業の現状	生産、価格、経営体などの動向
第 12 回	水産業の展開過程	各種の漁法、明治から現在まで
第 13 回	日本の水産政策	漁業権、量的規制
第 14 回	水産資源の管理	新たな資源管理システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

『食料・農業・農村白書』『森林・林業白書』『水産白書』の各年版
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験が行えない場合、課題の提出を評価の基本とする。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of rural areas as well as forestry and fisheries in Japan.

ECN300CA
社会政策論 A
菅原 琢磨
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国が直面する社会政策上の課題（労働・雇用、医療・年金・介護、生活保護や高齢者・児童福祉など）とその背景を概説し、制度の概要、政策動向について基礎的知識を習得し、課題への制度的対応への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- ・社会保障政策で扱われる対象を理解し、その歴史的経緯の概要を説明できる。
- ・わが国の医療・介護・年金制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の労働政策、雇用政策の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の社会福祉制度、生活保護制度の現状と課題の概要を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

【本講義はオンデマンドシステムで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。】

社会政策が包摂し対象とする領域は非常に広範である。人々の「しごと」と「くらし」を取り巻く環境や福祉全般の改善とともに、リスクに備え、暮らしの安寧と生活水準全般の向上を図っていくことを目的とした諸政策の総体が社会政策である。本講義では、社会政策の領域と現代の経済社会において果たすべき基本的な役割について概説した後、各分野の個別の政策・制度を概観する。また同時にそれらが対象としている問題、課題について、それらが生じた社会的背景、原因についても概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何かー定義と歴史的展開ー	社会保障の目的と機能
2	わが国の社会保障の歴史的展開 少子高齢化社会の動向と社会保障	社会保障政策の歴史的経過と今後の社会変化
3	公的年金制度の仕組み	年金制度の負担と給付
4	高齢年金制度の概要 障害年金・遺族年金の概要	様々なリスクに対する年金の概要と年金にかかる問題
5	公的年金制度の沿革と改正過程	公的年金制度の歴史的過程と年金改革の概要
6	わが国の医療保険制度	保険診療と診療報酬制度
7	診療報酬制度とその課題	診療報酬制度の課題
8	わが国の医療提供体制 これからの医療と地域政策の展開	医療提供体制の概要 地域の変貌とこれからの医療
9	雇用保険制度の概要と役割	雇用保険制度の意義と体系
10	雇用保険事業の沿革・課題 労働者災害補償保険の概要と課題	雇用保険二事業の概要 労働者災害補償保険の意義と体系
11	介護保険制度の概要	介護保険制度の概要と役割
12	介護保険の沿革と制度改正	制度発足の歴史的経緯と理念、制度改正による課題対応
13	生活保護の現状と課題	生活保護制度の適用状況と課題
14	社会福祉の現状と課題	高齢者・障害者・児童福祉政策の動向と改革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でも様々な社会（保障）政策、制度の目的や沿革、背景などを解説するが、日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障をめぐる時事的トピックスについて自発的に関心をもって目を通すことが望ましい。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しない。独自の講義スライドを利用する。

【参考書】

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第17版）』有斐閣、2020年

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（コンテンツ教材の視聴状況や毎回実施される確認テストの受験状況）と学期末試験によって実施する。各々の評価の割合は50%ずつとする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケートの意見では時事的政策課題の解説を望む声が強かった。本年度も出来るだけその要望を反映したコンテンツを提供する。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員等で社会保障政策の論議に深く関わる担当者が、理論と合わせ当該分野の現状や課題について解説する。
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to acquire basic knowledge of the issues of social security policy in the field of employment, health care, pension, long-term care and welfare for the poor, elderly or children.

ECN300CA
社会政策論B
菅原 琢磨
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会政策論A」の概説的内容を踏まえ、現実の政策動向、社会問題のなかから注目すべきテーマを採り上げて、より深い検討、解説をおこなう。現実の社会保障上の問題を「材料」として受講者自身で検討、思考する能力の涵養を促す講義としたい。

Covid-19（新型コロナウイルス）の世界的感染拡大という歴史的事態が発生した状況下であることも鑑み、特に医療制度やその政策対応に焦点を当てた講義内容とする。

【到達目標】

わが国が直面する主要な社会保障政策上の課題について、その問題の背景、経過、現状を踏まえた上で、今後のあるべき姿とそれを実現するための適切な政策、施策について、自らの見解を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

【本講義はオンデマンドシステムで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的を実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。】

厳しい財政事情、急速に進展する少子高齢化のなかで、わが国には深刻な社会保障政策上の問題が山積している。深刻な人手不足やワークライフバランスの実現、生活保護受給者の増加、医療・介護・年金の財源問題、医療・介護・福祉サービスの提供体制整備といった諸問題は、今後のわれわれの社会生活に直結するものとして、国民一人ひとりがその当事者として問題を捉え考えるべきものである。本講義ではCovid-19（新型コロナウイルス）の世界的感染拡大という歴史的事態が発生した状況下であることも鑑み、特に医療制度やその政策対応にも触れつつ、進行中の実際の政策論議や最新の学術的成果を織り交ぜつつ解説、検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何か 社会保障を巡る今日的状況	社会保障の定義、我が国の現状と将来
2	With コロナ (COVID-19)を見据えた政策対応と今後の展開	Covid-19に対する政策対応と今後の課題
3	医療財政と医療政策 「医療保険制度の課題と将来」	給付と負担の見直しに向けた今後の展望
4	高額薬剤など新たなイノベーションに対する対応	高額薬剤の現状と画期的イノベーションを創発する制度設計
5	地域医療連携政策とその理論（Ⅰ）	地域医療連携を進める意義とその理論的背景
6	地域医療連携政策とその理論（Ⅱ）	地域医療連携を進めるうえでの政策的な留意点
7	社会保障政策の政策評価（Ⅰ）	行政評価制度の概要
8	社会保障政策の政策評価（Ⅱ）	政策評価手法：費用便益分析の概要
9	社会保障政策の政策評価（Ⅲ）	政策評価（費用・便益分析）の実際の適用例
10	保健医療福祉政策の視座と国際比較	保健医療福祉政策の目標と各国のアプローチ
11	医療費の増加要因 欧米先進国の医療制度	医療費増加要因、欧州、米国等の医療制度
12	アジア・環太平洋地域の医療制度 主要国における医療制度改革の潮流	オーストラリア、シンガポールの医療制度 各国のこれまでの医療制度改革の鳥瞰
13	国際比較を通じた日本医療の特徴	OECD Health Statistics にもとづく、我が国の医療の特徴
14	社会保障制度に対する対応の世界的潮流	これからの社会保障制度と課題対応の考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。各回の講義項目の関連学習時間については、講義前に参考図書を用いて 2 時間、講義後に講義資料を参考に 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。独自の講義スライドを利用する。
講義に必要な資料がある場合は、適宜、学習支援システム上で配布する。

【参考書】

島崎謙治『日本の医療－制度と政策』東京大学出版会、2011 年
小黒一正・菅原琢磨『薬価の経済学』日本経済新聞出版社、2018 年

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点により実施する。
原則、コンテンツ教材の視聴状況と毎回実施される確認テストの受験状況（50 %）と確認テストの点数（50 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケートの意見では時事的政策課題の解説を望む声が強かった。本年度も出来るだけその要望を反映したコンテンツを提供する。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員などを兼務する担当者が、理論と合わせ、当該分野の現状や課題について解説する。
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline and objectives】

Based on the basic knowledge of Social Security Policy A, this lecture addresses real policy issues we are now facing and fosters the ability to think about the political solution.

ECN200CA
労働経済論 A
酒井 正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済理論を応用することで、労働市場における諸現象を解釈すると同時に、労働市場に関する統計資料を読み解く。「人手不足」、「外国人労働力」、「教育費の無償化」といったトピックについても紹介する。

【到達目標】

この労働経済論 A では、まず基本的な労働供給・労働需要の理論をしっかりと理解する。更に、統計分析の考え方を学んだうえで、働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインによる授業を中心としながら、練習問題の確認等のために対面（教室）での授業も 2～3 回程度おこなう。
小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で解説する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学とは
2	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
3	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
4	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
5	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
6	労働需要行動（2）	調整費用モデル等
7	市場均衡	競争均衡、買手独占
8	実証分析の方法（1）	回帰分析
9	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
10	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
11	人的資本投資（1）	教育投資モデル、シグナリング・モデル
12	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊的訓練
13	賃金格差・所得格差	所得格差の概観、グループ間賃金格差
14	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題を中心に復習をおこなう必要がある。本授業の準備・復習に必要な時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

Borjas, G『Labor Economics 7th Edition』（McGraw Hill Higher Education, 2015 年）
清家篤・風神佐知子『労働経済』（東洋経済新報社、2020 年）

【成績評価の方法と基準】

2 回程度の小テスト（20%）＋期末テスト（80%）で評価する。いずれも学習支援システムによっておこなう予定である。

【学生の意見等からの気づき】

本講義に関して、受講者が関心のあるトピックを把握するように心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, we study labor economics with an emphasis on applied microeconomic theory and empirical analysis. We also study the statistics related to the labor economics, such as Labor Force Survey and so on. Topics to be covered include: labor supply and demand, compensating wage differential, immigration, human capital investment, signaling model, and regression.

ECN200CA
労働経済論 B
酒井 正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働経済論 A で学んだことを踏まえ、労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説する。特に、労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討する。（取り上げるトピックの例、「介護離職」、「長時間労働」、「待機児童」等）また、コロナ禍における労働市場のセーフティネットについても議論する。

【到達目標】

働き方を巡る「論点」を知り、それを経済学的に考えることを通じて、労働問題や公共政策の議論に参加できることを最終的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

オンラインによる授業を中心としながら、練習問題の確認等のために対面（教室）での授業も 2～3 回程度おこなう。小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で解説する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
2	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
3	人事の経済学（2）	後払い賃金
4	労働市場における差別	差別の経済理論、男女間賃金格差
5	失業（1）	日本の失業の概観
6	失業（2）	失業を説明する理論
7	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析、労働災害の現状
8	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
9	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因、仕事の二極化
10	若年就業	若年就業の現状と「世代効果」
11	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因、介護離職問題
12	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
13	両立支援制度	女性の就業と保育サービス
14	社会保険料事業主負担の帰着問題、その他	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題をよく復習する必要がある。また、指示された文献（新聞記事や雑誌記事等）についても目を通すこと。本授業の準備・復習に必要な学習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

酒井正『日本のセーフティネット格差 労働市場の変容と社会保障』（慶應義塾大学出版会、2020 年）

川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』（有斐閣、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

2 回程度の小テスト（10%）＋期末テスト（90%）で評価する。いずれも学習支援システムによって実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

授業で扱うトピックに関して受講者の考えを聞くように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

労働経済論 A の履修は必須ではないが、講義は労働経済論 A の内容を前提として進める。したがって、労働経済論 A を受講しておらず、講義内容を理解できない場合には、各自でその内容を学習する必要がある。

【Outline and objectives】

Based on conceptual frameworks studied in the Labor Economics A, we study the link between those frameworks and public policies in the real world. Topics to be covered include: unemployment insurance, personnel economics, parental leave, child care, informal care and so on.

ECN300CA

金融各論 I A

高橋 秀朋

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融もしくはファイナンスの基本的な知識であるマネー（貨幣）の時間価値の概念、一物一価の法則と裁定、リスクに関する知識を解説し、その知識を応用して、債権の価格評価、債券のポートフォリオ管理、リスク分散化など実際の資産運用で実践されている知識を解説する。また、銀行のアセット・ライアビリティ・マネジメントや投資信託の資産運用でそれらがどのように利用されているかも事例やデータを交えて詳しく解説していく。

【到達目標】

本講義の目標は、資産運用方法および投資戦略の意義を理解し、銀行や保険会社が預金者から預かったお金が実際にどのように運用されているのか、それらの行動が経済に対してどのようなインパクトを与えるかを考察できる力を身につけることにある。また、株価データをはじめとした統計データを分析し、客観的な証拠を提示できるような力も身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義はオンライン講義とセミナー方式を組み合わせで行う。受講者はシステムにアップロードされた講義資料を各自で学習したのち、キャンパス（もしくはライブ形式）で行われるセミナー形式の講義に参加することが求められる。本講義では、数学や統計的な知識を利用して、ファンドがどのような方法で資産を運用しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義は Excel を多用する。講義はオンラインなどの演習（Excel）、質疑応答で構成される。セミナー形式で行われる講義ではアサインメント（クイズを計算した Excel ファイルの提出）が課されるが、それは講義が開かれた日のうちに提出してもらう。次回の最初に要点を解説し、フィードバックする。その解説を聞いても不明瞭な点がある場合は講義終了後、もしくは、オフィスアワーに教員に直接し質問しすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マネーの時間価値	将来価値、現在価値、IRR
2	債券価格と裁定理論	債券価格の計算
3	債券のデュレーション	イミュニゼーション
4	リスク資産評価 1	2 項 1 期間モデル
5	リスク資産評価 2	複数期間モデル
6	株式収益率の分析	株式収益率の基本統計量
7	株式収益率の分析	シミュレーション
8	分散化 1	ポートフォリオの構築
9	分散化 2	数値例を用いた分析
10	分離定理	無リスク資産の導入
11	資本市場モデル	資本市場モデルの理論的背景
12	資本市場モデルの実証	市場インデックスの分散化の検証
13	投資分析	投資信託のパフォーマンス評価
14	投資戦略	ボータブル・アルファ戦略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では EXCEL を利用し計算を行う練習問題を出题することがあるので、EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

S. Benninga『Financial Modeling 3rd ed.』（The MIT Press, 2008）

【参考書】

齊藤誠『金融技術の考え方・使い方- リスクと流動性の経済分析』（有斐閣、2000 年）
手嶋宣之『ファイナンス入門』（ダイヤモンド社、2011 年）
ツヴィ・ボディー、ロバート・マートン（著）、大前恵一郎（翻訳）『現代ファイナンス論 第 2 版』（ピアソン・エドゥケーション、2011 年）
Z. Bodie, A. Kane, A. Marcus『Essentials of Investments 8th ed.』（McGraw-Hill, 2010）

【成績評価の方法と基準】

セミナー形式の講義後に課されるアサインメントと期末課題レポートで評価する。アサインメント 30%、期末課題レポート 70%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

【学生が準備すべき機器他】

講義では Excel を利用した演習を中心に進めるので、受講生は MS Excel がインストールされている、自分の PC もしくは大学貸出の PC を講義前に準備しておくこと。

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to the theories and the methods in investment analysis such as present value, yield to maturity, arbitrage, risk, and risk diversification. This course also introduces how the theories and methods in investment are utilized into the practical world. I introduce asset/liability management by banks and evaluation of investment performance. To explain practical uses of the theories and the methods in investment analysis more easily, data and simulation-based analyses are employed.

ECN300CA
金融各論 I B
高橋 秀朋
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、ファイナンスのリスク資産評価に関する知識がある程度身につけている者を対象として、デリバティブを利用したリスクの移転方法およびその応用に関して学習していく。具体的には、2 項モデル・BS モデルによるオプション評価、ポートフォリオ・インシュアランス、リアル・オプションによる投資評価である。それらの概念は数式などを通じて学習していくだけでは理解が難しいので、シミュレーションの方法も同時に学習し、数値例を用いてより理解を深めていく。

【到達目標】

本講義の目標は、確率・統計に関する基本的な知識を前提として、オプションを利用したリスク・インシュアランスの方法、オプションの価格評価、オプションが企業の投資意思決定に与える影響を理解し、実際に存在する投資ファンドや企業がどのような基準で投資判断を行っているのか、企業に関連するニュース（特に、M&A）の背後にはどのような経済的事情が存在するのかを考察できる力を身につけることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義はオンライン講義とセミナー方式を組み合わせて行う。受講者はシステムにアップロードされた講義資料を各自で学習したのち、キャンパス（もしくはライブ形式）で行われるセミナー形式の講義に参加することが求められる。本講義では、数学や統計的な知識を利用して、企業や投資ファンドがどのような方法で資産や企業を評価しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義は Excel を多用する。講義は授業形式、演習形式（Excel）、質疑応答で構成される。セミナー形式で行われる講義ではアサインメント（クイズを計算した Excel ファイルの提出）が課されるが、それは講義が開かれた日のうちに提出してもらう。次回の最初に要点を解説し、フィードバックする。その解説を聞いても不明瞭な点がある場合は講義終了後、もしくは、オフィスアワーに教員に直接し質問すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オプションの概説	オプションペイオフの構造
2	様々なオプション戦略	バタフライ・スプレッド等
3	オプション評価 1	2 項 1 期間モデル
4	オプション評価 2	2 項多期間モデル
5	オプション評価 3	ブラック・ショールズ・モデル
6	オプション評価 4	多期間 2 項モデルの BS モデル近似
7	オプション複製	デルタ・ヘッジング
8	シミュレーション	モンテカルロ法
9	シミュレーション応用	投資シミュレーション
10	オプションによる保険	ポートフォリオ・インシュアランス
11	転換社債評価	株式とオプションによる複製
12	企業の投資意思決定	NPV による投資意思決定
13	リアル・オプション 1	撤退オプション
14	リアル・オプション 2	拡張オプション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では EXCEL を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

S. Benninga『Financial Modeling 3rd ed.』（The MIT Press, 2008）

【参考書】

Z・ボディー、R・マートン（著）、大前恵一朗（翻訳）『現代ファイナンス論 第 2 版』（ピアソン・エドゥケーション、2011 年）
R・ブリーリー、S・マイヤーズ、F・アレン（著）、藤井 真理子、国枝 繁樹（翻訳）『コーポレートファイナンス 第 8 版（上・下）』（日経 BP 社、2010 年）

【成績評価の方法と基準】

セミナー形式の講義後に課されるアサインメントと期末課題レポートで評価する。アサインメント 30%、期末課題レポート 70%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

【学生が準備すべき機器他】

講義では Excel を利用した演習を中心に進めるので、受講生は MS Excel がインストールされている、自分の PC もしくは大学貸出の PC を講義前に準備しておくこと。

【Outline and objectives】

This course provides lectures to understand and value the basic derivatives and their applications in the financial risk management and investment. Concretely, we focus on the theories and the methods in option pricing (binomial and Black-Sholes model), portfolio insurance, and real option. To understand practical application of the theories and the methods in derivatives more easily, I introduce numerical examples and conduct simulation-based analyses.

ECN300CA
情報経済論 A
鈴木 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ゲーム理論」は、経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われているほか、企業組織や多くのビジネスシーンでも基礎理論として用いられている。本講義では、「ゲーム理論とその応用」について、基礎からやや高度な内容まで体系的に理解し、その応用の仕方も学ぶ。

【到達目標】

経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われている「ゲーム理論・契約理論」の方法論（考え方や分析の仕方）を体系的に学ぶことを通じて、現代社会を主体的に考察し、問題解決に向けて公正な判断を下す能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』に沿って授業を進める。この講義はフルオンデマンド授業となるが、昨年度、「Zoom による動画配信」の方式が好評だったことから、今学期もその方式で進める予定である。授業では、リアクションペーパー（レポート含む）と課題提出の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、適宜「学習支援システム」上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゲーム理論とは	ゲーム理論の導入の説明およびゲーム理論で使う数学について
第 2 回	静学ゲーム①	ゲームの基礎と同時手番ゲーム。支配戦略均衡とナッシュ均衡。
第 3 回	静学ゲーム②	ナッシュ均衡の解釈。色々なゲームの例。クールノー競争。
第 4 回	静学ゲーム③	混合戦略均衡とその解釈
第 5 回	時間を通じたゲーム①	基礎理論：後ろ向き帰納法と部分ゲーム完全均衡
第 6 回	時間を通じたゲーム②	応用例①「参入阻止」と「意味のある脅し」
第 7 回	時間を通じたゲーム③	応用例② 経済政策ゲーム：ルールが裁量か
第 8 回	くり返しゲーム①	基礎理論 協調均衡達成のメカニズム
第 9 回	くり返しゲーム②	応用例① 共有資源の管理における協調行動
第 10 回	くり返しゲーム③	応用例② グローバルガバナンスと国際協調
第 11 回	交渉理論①	最後通牒ゲーム：理論予測と実験結果 公正さの考慮
第 12 回	交渉理論②	最後通牒ゲームと行動ゲーム理論
第 13 回	オークション①	ゲームの解概念：弱支配戦略、劣位戦略、劣位戦略のくりかえし削除
第 14 回	オークション②	ファーストプライスおよびセカンドプライス・オークションの比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016 および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題（レポート 2 回）も提示される。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016

【参考書】

- ① 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣 2014
- ② 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣 2000
- ③ マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）（有斐閣）
- ④ 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で課された課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）の積み重ねで評価する。評価のウェイトは、課題提出の合計点（70%）、レポートの合計点（25%）、リアクションペーパーの合計点（5%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例を用いた、分かり易く丁寧な説明を心がける。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。「教科書」の内容に沿った授業を行うよう留意し、特に「教科書」を超える数学的な手法は、極力用いないようにする。

【Outline and objectives】

This course deals with Game Theory and its Applications. Games theory provides a set of analytical tools that can be used to model the strategic interactions between “players” (decision-makers). Ideas such as Nash equilibrium, backward induction, commitment, credibility, bargaining, and repeated interaction and cooperation are introduced. A variety of applications will also be discussed.

ECN300CA

情報経済論 B

鈴木 豊

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「契約理論（Contract Theory）」について体系的に学ぶ。
 (I) 不確実性と情報の経済学：「情報の経済学」の基礎
 (II) プリンシパル＝エージェントの理論：モラルハザード
 (III) プリンシパル＝エージェントの理論：アドバース・セクション
 (IV) 不完備契約の理論

【到達目標】

春学期の「ゲーム理論」に続き、その応用分野と位置付けられる「契約理論」の方法論を系統的・体系的に学ぶことによって、現代社会を主体的に考察し、課題解決に向けて公正な判断を下す能力をさらに向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』に沿って授業を進める。本講義はフルオンデマンド授業となるが、昨年度、「Zoom」による動画配信」方式が好評だったことから、今学期もその方式で進める予定である。リアクションペーパーと課題提出（レポートを含む）の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、適宜「学習支援システム」上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	不確実性と情報の経済学①	不確実性とくじ、期待効用最大化仮説、リスク態度
第 2 回	不確実性と情報の経済学②	期待効用最大化とその使い方、リスクプレミアム
第 3 回	プリンシパル・エージェントの理論：モラルハザード①	固定給とモラルハザード
第 4 回	モラルハザード②	歩合給とインセンティブ効果、簡単なエージェンシーモデルの解
第 5 回	モラルハザード③	インセンティブ契約の数学モデル（リスク回避のエージェント）
第 6 回	モラルハザード④：複数エージェントの理論	チーム生産におけるフリーライダー問題とその解決（ペナルティースキーム）
第 7 回	プリンシパル・エージェントの理論：アドバース・セクション①	逆選択の例
第 8 回	アドバース・セクション②	逆選択を解決する仕組みとしての自己選択メカニズム
第 9 回	アドバース・セクション③	自己選択メカニズムの最適解の導出、図解、含意
第 10 回	不完備契約①	関係特殊的投資とホールドアップ問題：概念と基本モデル
第 11 回	不完備契約②	関係特殊的投資とホールドアップ問題：一般化と外部機会の存在
第 12 回	不完備契約③	「資産所有（財産権）」アプローチ ①基本モデル 残余コントロール権

第 13 回 不完備契約④	「資産所有（財産権）」アプローチ ②企業の境界の決定
第 14 回 不完備契約⑤	組織における権限配分、権限委譲 について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016 およ
び 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題
（レポート 2 回）も提示される。本授業の準備学習・復習時間は、各
2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016

【参考書】

- ① 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣 2014
- ② 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐
閣 2000
- ③ オリバー・ハート『企業 契約 金融構造』（鳥居訳）慶応大学出
版会 2010
- ④ 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契
約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で課された課題提出（毎回の課題、複数回のレ
ポート、リアクションペーパーの内容等）の積み重ねで評価する。
評価のウェイトは、課題提出の合計点（70%）、レポートの合計点
（25%）、リアクションペーパーの合計点（5%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例を用いた、分かり易く丁寧な説明を心がける。レポート課題
提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。「教科書」の内容に
沿った授業を行うよう留意し、特に「教科書」を超える数学的な手
法は、極力用いないようにする。

【Outline and objectives】

This course deals with the main topics in Contract Theory and
Information Economics. Building up on the game theoretical
concepts studied in the spring semester, we cover the tools and
techniques used in models of Moral Hazard, Adverse Selection,
and Incomplete Contracts. A variety of applications will also
be discussed.

ECN300CA
地方財政論 A
小林 克也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本の地方財政制度とその問題について解説します。
日本では、財政赤字により、多額の政府債務が積み上がっています。
国から補助金をもらっている地方自治体も財政の効率化が必須です。
学生のみなさんはこうした問題を経済学からどうとらえたら良いか
について学びます。

【到達目標】

この講義では、地方財政の問題を論理的に考えるられるようになる
ことが目標です。そのために、財政や地方財政のいくつかの理論を
理解することと、地方財政データの入手のしかたとその見方を身に
つけます。現在起きている問題は何か、それをどのように捉えたら
良いかをできるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
た能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

Hoppii 上で講義ノートと資料を配信しますので、それを学習して下
さい。あわせて zoom を用いて 1 時間ほどポイント解説をします。
Hoppii 上で課題を出して、私が採点してコメントを返しますので、
復習をして下さい。質問や意見は Hoppii の掲示板や zoom でのポ
イント解説中にして下さい。掲示板やその場で私がお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	政府と市場 (1)	市場の失敗、パレート効率。
第 2 回	政府と市場 (2)	政府の抱える問題。自治体と分権 化。
第 3 回	公共財	公共財、準公共財、クラブ財、私 的財。公共財の最適供給。
第 4 回	財政データ (1)	歳入と歳出の分類。財政指標の見 方。
第 5 回	財政データ (2)	決算カードの見方。
第 6 回	財政データ (3)	自治体の破綻と財指標のデータと の関係。
第 7 回	財政の役割	国と地方の役割分担。
第 8 回	所得再分配機能	所得再分配機能は国と地方でどち らが担うべきか。
第 9 回	経済安定化機能	経済安定化機能は国と地方とでど ちらが担うべきか。
第 10 回	資源配分機能	資源配分機能は国と地方とでどち らが担うべきか。
第 11 回	分権化定理 (1)	オーツの地方分権化定理。
第 12 回	分権化定理 (2)	分権化定理と地方公共財の便益の スビルオーバー。
第 13 回	コースの定理	便益のスビルオーバーとコースの 定理。
第 14 回	投票の理論	中位投票者の定理。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を
理解しているとこの授業もわかりやすいです。加えて財政学の履修
を勧めます。日経新聞を使いながら財政の現状も扱うので、日頃新
聞を見ることを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時
間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

理論面では、ミクロ経済学や公共経済学の本が参考になります。地方財政の考え方を学びたい場合、

林宏昭・橋本恭之 (2014)『入門地方財政』第3版中央経済社
佐藤主光 (2009)『地方財政論入門』新世社

が適当です。また、地方財政の統計を見たい場合は

総務省編『地方財政白書』各年度版

が適当です。統計資料などを配布しながら講義します。

【成績評価の方法と基準】

毎回、授業の内容に関する課題を Hoppii 上で出します。その課題で 100% の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

自分の住んでいる市町村や都道府県に興味をもってもらえるようにお話するよう心がけます。また、公務員（都道府県・市町村などの職員）を希望している方もいると思いますので、仕事をしていく中で役に立つ考え方もお話ししたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境。とりわけ、Hoppii を利用できる環境は必須です。毎回のポイント解説を zoom を用いてしますので、zoom を利用できるようにして下さい。

【その他の重要事項】

Hoppii を通じて、講義ノートと資料の配付、課題の出題と提出をします。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか確認して下さい。特に、履修変更をした方は、自分で Hoppii にこの授業を登録して下さい。変更や追加の情報は Hoppii 上で掲示しますので、お知らせに注意して下さい。

【Outline and objectives】

In this lecture, I explain Japanese local governments system and its issues. In Japan, we have a vast amount of governments debt due to their deficits. We have to get our governments expenditures efficient. Students learn how to consider those issues on the basis of economics.

ECN300CA
地方財政論 B
小林 克也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、地方財政 A での講義をもとに、日本の地方財政制度を中心に解説します。地方税や地方債、国から地方自治体へ配付される補助金のしくみと、それらを経済学からとらえた場合、どのように評価できるのかについて、学生のみなさんは学びます。

【到達目標】

地方財政 A で学んだ考え方を元に、地方税が日常生活の中でどのように課税されているのかを理解することが目標です。さらに統計を見ながら、地方債、国から自治体への補助金について、経済学の立場から考えられるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

Hoppii 上で講義ノートと資料を配信しますので、それを学習して下さい。あわせて zoom を用いて 1 時間ほどポイント解説をします。Hoppii 上で課題を出して、私が採点してコメントを返しますので、復習して下さい。質問や意見は Hoppii の掲示板や zoom でのポイント解説中にして下さい。掲示板やその場で私がお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	望ましい税と地方税固有の原則	税と地方税の満たすべき原則。
第 2 回	消費税と地方消費税	消費税と地方消費税のしくみ。従価税が市場に与える影響。
第 3 回	住民税 (1)	住民税の均等割と所得割。
第 4 回	住民税 (2)	給与所得控除と所得控除、税率、法人住民税。
第 5 回	法人事業税 (1)	法人事業税の仕組み。都道府県間のばらつきの程度。
第 6 回	法人事業税 (2)	法人課税の経済学での考え方。外形標準課税、税率。
第 7 回	固定資産税 (1)	固定資産税と都市計画税。
第 8 回	固定資産税 (2)	公示地価、路線価、固定資産税評価額、市場価格。
第 9 回	地方債 (1)	地方債のしくみ。経済学上の意義と問題点。
第 10 回	地方債 (2)	実質公債費比率、起債充当率。臨時財政対策債に潜む問題。
第 11 回	国庫支出金	国庫支出金のしくみ。国庫支出金と便益のスピルオーバーの関係。
第 12 回	地方交付税交付金	地方交付税のしくみ。財源調整と財源保障、ソフトな予算制約。
第 13 回	市町村合併	最適財政規模に関する研究と平成の大合併。道州制。
第 14 回	再考：公共財	公共財の費用負担の問題とリンダール均衡。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解しているとこの授業もわかりやすいです。加えて財政学 AB と地方財政論 A の履修を勧めます。日経新聞を使いながら財政の現状も扱うので、日頃新聞を見ることを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

理論面では、ミクロ経済学や公共経済学の本が参考になります。地方財政の考え方を学びたい場合、

林宏昭・橋本恭之 (2014)『入門地方財政』第 3 版中央経済社
佐藤主光 (2009)『地方財政論入門』新世社

が適当です。また、地方財政の統計を見たい場合は

総務省編『地方財政白書』各年度版

が適当です。統計資料などを配布しながら講義します。

【成績評価の方法と基準】

毎回、授業の内容に関する課題を Hoppii 上で出します。その課題で 100% の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

自分の住んでいる市町村や都道府県に興味をもってもらえるようにお話するよう心がけます。また、公務員（都道府県・市町村などの職員）を希望している方もいると思いますので、仕事をしていく中で役に立つ考え方もお話ししたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境。とりわけ、Hoppii を利用できる環境は必須です。毎回のポイント解説を zoom を用いてしますので、zoom を利用できるようにして下さい。

【その他の重要事項】

Hoppii を通じて、講義ノートと資料の配付、課題の出題と提出をします。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか確認して下さい。特に、履修変更をした方は、自分で Hoppii にこの授業を登録して下さい。変更や追加の情報は Hoppii 上で掲示しますので、お知らせに注意して下さい。

【Outline and objectives】

In this lecture, I explain Japanese local finance system based on the lecture of the local public finance A. Students learn the local government taxes and bonds, and subsidies and grants from the central to local governments. Students also learn how to evaluate them from the standpoint of economics.

ECN300CA
社会保障論 A
小黑 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】

社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第 3 回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDP と社会保障給付費、財源
第 4 回	年金制度 1	年金制度の仕組み
第 5 回	年金制度 2	年金制度の問題点
第 6 回	年金制度 3	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第 7 回	医療保険制度 1	医療保険制度の仕組み
第 8 回	医療保険制度 2	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第 9 回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第 10 回	生活保護制度 1	生活保護制度の仕組みと問題点
第 11 回	生活保護制度 2	諸外国の公的扶助制度
第 12 回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第 13 回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩 隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社

【参考書】

厚生労働省『厚生労働白書』各年版

鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社

西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社

西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社

小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
 山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you understand the features and the issues of Japanese social security system, compared with the one of other developed countries.

This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN300CA
社会保障論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障論 A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論 B では、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】

日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第 3 回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第 4 回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第 5 回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第 6 回	所得再分配	所得格差の指標
第 7 回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第 8 回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第 9 回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第 10 回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第 11 回	世代間格差	世代会計
第 12 回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第 13 回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社
 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
 林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】

阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会
 小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
 小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社
 川口洋行『医療の経済学（第 2 版）』日本評論社
 畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
 『図説 日本の財政』各年度版 東洋経済新報社

『図説 日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of macroeconomics and public economics.

This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level.

ECN300CA

産業組織論 A

河村 真

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、完全競争モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。産業組織論 B も併せて履修していただければなおよい。

【到達目標】

完全競争下での企業の生産量の決定、供給曲線の導出および均衡価格、数量の決定までの説明の流れを理解できるようにする。同時に、この説明を具体的な市場に当てはめ、解釈できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業支援システムに各回のレジュメをアップするので、それに目を通してほしい。その上で、春学期に 1 回練習問題集をアップし、練習問題の解答を授業支援システムを通じて提出してもらう。練習問題の正解は、締め切り直後の zoom による講義で解説する。第 1 回はガイダンスとして zoom による授業を行いたい。春学期中にさらに、授業内容の質疑応答のため、1、2 回 zoom による授業を考えている。zoom による授業は、1 週間前までに授業支援システムのお知らせを使い周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	産業組織論の枠組み	完全競争の条件と不完全競争
第 2 回	産業組織論の現実への応用例	産業組織論のトピックとしての不完全競争の具体例の例示
第 3 回	企業の生産技術	生産関数の説明
第 4 回	企業の生産技術	生産関数から費用関数の導出
第 5 回	企業の生産技術	費用関数から限界費用関数と平均費用関数の導出
第 6 回	企業の生産技術	生産関数、費用関数、平均・限界費用関数の対応関係
第 7 回	完全競争下の企業の生産量の決定	収入関数と費用関数を用いた利潤最大化生産量の図解
第 8 回	完全競争下の企業の生産量の決定	限界収入関数と限界費用関数を用いた生産量決定の図解
第 9 回	個別供給曲線の導出	財の市場価格の変化が企業が選ぶ利潤最大化生産量をどう変化させるかを知るための個別供給曲線
第 10 回	個別供給曲線のシフトの要因	個別供給曲線が完全競争モデルの下で、どのような要因によりシフトするかの説明
第 11 回	企業の個別供給曲線から市場供給曲線の導出	各企業の個別供給曲線を足し合わせることで求められる企業全体の生産量の合計と市場価格との関係
第 12 回	市場需要曲線の説明（簡単な消費者理論の説明を含む）	消費者の理論にある予算制約化の効用最大化行動の結果として導かれる市場需要曲線（簡単に復習）
第 13 回	完全競争モデルでの市場均衡	市場需要曲線と市場供給曲線の交点における均衡価格と均衡数量の決定（ワルラス的調整過程を用いて説明）

第 14 回 比較静学による完全競争モデルの現実への応用例
完全競争が想定しやすい具体的な産業をイメージし、技術革新が生じた場合、完全競争モデルを用いて、価格、数量の変化の結果を予測する過程を解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、レジュメによる図解で完全競争モデルの成り立ちを理解できるよう準備しているつもりであるので、予習の必要はない。しかし、多くの図を系統だてて説明するので、レジュメによる図解を講義後、何度か自分で再現し、説明の順序に従い並べてみて、図による完全競争モデルの理解を深めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定しない。

【参考書】

学生諸君から要請があれば、講義冒頭に紹介。

【成績評価の方法と基準】

完全競争モデルの理解の程度を基準に評価する。評価方法は、定期試験期間中において行う試験の点数が 9 割、1 回の練習問題解答の提出状況に 1 割のウェイトで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメにおいて図解に書き込みの多いものについてはなるべく大きく目に示すことで対応したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline and objectives】

The aim of the course is to get the view on competitive market equilibrium and comparative statics. To get the competitive equilibrium, understanding production function, cost function, average and marginal cost function, and supply function is required. Deriving the functions and the equilibrium should be explained by using related graphs.

ECN300CA
産業組織論 B
河村 真
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

独占モデルおよびクールノ複占モデルの解説、さらに、完全競争均衡、独占均衡およびクールノ複占均衡を比較し、それぞれの均衡の評価についても説明を加える。

【到達目標】

産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、独占モデルおよびクールノ複占モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

完全競争モデル、独占モデルおよびクールノ複占モデルの図による解説を行う。その解説をレジュメにして、授業支援システムの教材に毎週水曜日アップする。秋学期に 1 回、第 7 回講義の終了後（予定）、それまでの内容に関する練習問題集をアップするので、それらの解答を授業支援システムの課題にアップしてほしい。解答提出締め切り直後の zoom による講義で、練習問題の解説を行う。数回程度、質疑応答のため、zoom による授業を行う。zoom による授業、質疑応答を行う場合は、1 週間前までに授業支援システムのお知らせよりメール通知にて知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	独占モデル	独占下の企業と完全競争下の企業の想定の違い
第 2 回	独占モデル	独占企業が直面する収入関数の説明
第 3 回	独占モデル	限界収入関数の説明
第 4 回	独占モデル	占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（収入関数と費用関数を用いて）
第 5 回	独占モデル	独占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（限界収入と限界費用関数を用いて）
第 6 回	独占モデルの応用例	自然独占下における公益事業の価格規制に関する議論
第 7 回	完全競争モデル及び均衡の導出（修正版）	独占モデルで用いたのと同じな費用関数および需要関数の想定の下での完全競争均衡の導出
第 8 回	クールノ複占モデル	企業 2 社からなる複占モデルにおける想定の違いとクールノ均衡の特徴
第 9 回	クールノ複占モデル	残余需要曲線の導出と各企業の利潤最大化生産量の導出
第 10 回	クールノ複占モデル	各企業の反応関数の導出と各社生産量と均衡価格の決定
第 11 回	独占、寡占および完全競争均衡の比較および独占の死荷重	独占、クールノ複占および完全競争下で予想される均衡数量、均衡価格の比較とその評価
第 12 回	クールノ複占モデル（応用例 I）	ネットワーク外部性を許した規格（技術仕様）の標準化（一規格への収斂）の評価（クールノ複占モデルを用いた）

第13回	クールノ複占モデル (応用例Ⅱ)	垂直統合の合理性の根拠をクール の複占モデルを用いて明らかにす る。
第14回	産業組織論 B の復習	産業組織論 B の復習および質疑 応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回ではないが、1 か月半またはそれより超の期間で、レジュメに関して、課題をアップするので、1 週間以内にレジュメの内容を理解し、解答作成し、授業支援システムにアップしてほしい。レジュメの理解には、レジュメの図解は読んでいただければ理解できると思う。しかし、理解しづらいようであれば、ミクロ経済学や経済学入門用の教科書を参照してもらえばよいと思う。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しない。

【参考書】

学生から要請があれば、本講義冒頭で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

完全競争モデル、独占モデルおよびクールノモデルおよびそれらの応用例の理解の程度を基準に評価する。評価方法は、定期試験期間中にアップする期末課題を解答して授業支援システムにアップしてもらい採点する。この採点結果が主な評価基準となる。（この課題の解答に 90%、授業期間内に出す練習問題の解答（1 回）の提出状況に 10 %のウェイトを付け評価する。）

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの図解で、書き入れる箇所が多くなると見づらくなる恐れがある。そうした図解は、なるべく大きく表示するように努める。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【Outline and objectives】

The first aim of the course is to get the view on monopoly and cournot duopoly market equilibrium. Secondly, comparing competitive, monopoly, and cournot duopoly market equilibria, competitive market equilibrium is showed to be best performed in the sense of maximizing social welfare. This could be the reason why the competitive market equilibrium would be used as benchmark in evaluating specific competition policy.

ECN300CA
金融各論Ⅱ A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能していて、どのように変化していくのかということを、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義を行います。

第1回講義は、Zoom によるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で Zoom での講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第2回以降の講義では、学習支援システムで配布する教材を受講登録者が学習する形式のオンライン講義となる予定です。受講者は数回の講義毎に学習支援システム上で課題として提示される小テストまたはレポートの設題に期限までに答えてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思っています。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第 2 回	金融取引とリスク①	金融におけるリスクの概念について
第 3 回	金融取引とリスク②	リスクの測定手法について
第 4 回	金融取引とリスク③	リスクとして把握できない不確実性について
第 5 回	金融取引とリスク④	不確実性下での意思決定方法について
第 6 回	投資と資金調達①	新古典派投資理論と企業の設備資金需要について
第 7 回	投資と資金調達②	企業の有限責任とリスクについて
第 8 回	投資と資金調達③	日本の企業グループと企業の株式保有について
第 9 回	投資と資金調達④	中小企業金融について
第 10 回	過剰債務と不良債権の処理①	過剰債務問題と事業再生について
第 11 回	過剰債務と不良債権の処理②	過剰債務への対応と追い貸し問題について
第 12 回	過剰債務と不良債権の処理③	追い貸しのメカニズムについて
第 13 回	金融技術革新と金融サービスの新潮流①	ブロックチェーンを使った決済について
第 14 回	金融技術革新と金融サービスの新潮流②	フィンテックとプラットフォームについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに適宜配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016 年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業では、数回の講義毎に学習支援システム上で提示する「課題」（形式はレポートまたは小テスト）で評価します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline and objectives】

This is a course on the microeconomics of money, banking and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

ECN300CA
金融各論Ⅱ B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能していて、どのように変化していくのかということを、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義を行います。

第 1 回講義は、Zoom によるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で Zoom での講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第 2 回以降の講義では、学習支援システムで配布する教材を受講登録者が学習する形式のオンライン講義となる予定です。受講者は数回の講義毎に学習支援システム上で課題として提示される小テストまたはレポートの設題に期限までに答えてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別の連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第 2 回	資産価格と金融危機①	資産価格の決定理論の基本的枠組みの説明
第 3 回	資産価格と金融危機②	資産価格の合理的バブルについて
第 4 回	資産価格と金融危機③	資産価格の急落とそのメカニズムについて
第 5 回	資産価格と金融危機④	金融危機の発生要因と経済的影響について
第 6 回	資産価格と金融危機⑤	金融危機の波及メカニズムについて
第 7 回	金融市場と投資家行動①	期待効用理論について
第 8 回	金融市場と投資家行動②	投資家心理について
第 9 回	金融市場と投資家行動③	記述的意思決定理論について
第 10 回	金融市場と投資家行動④	プロスペクト理論について
第 11 回	資産価値評価①	基本的な資産価値の評価手法について
第 12 回	資産価値評価②	さまざまな資産価値の評価手法について
第 13 回	金融と人的資本投資①	人的資本投資と人材育成の経済的機能について
第 14 回	金融と人的資本投資②	金融リテラシーについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016 年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業では、数回の講義毎に学習支援システム上で提示する「課題」（形式はレポートまたは小テスト）で評価します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline and objectives】

This is a course on the microeconomics of money, banking and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

ECN300CA
企業金融論 A
胥 鵬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、キャッシュ・フローと現在価値を中心に、国内海外の負債による資金調達の制度と実務および、デット・ファイナンスに関連する基礎理論のうち重要なものを学ぶ。日本では、80 年代後半以降の社債市場の規制緩和により、デット・ファイナンスが大きく変化してきた。また、90 年代末にゼロ金利政策などの非伝統的金融政策が日本、米国と欧州で実施されてきた。この講義では、こうした金融政策の変遷も理解する。

【到達目標】

この講義では、内外の研究蓄積を踏まえ、銀行借入や社債などの負債による資金調達の企業金融問題を客観的かつ論理的に考える力を身につけることが目標である。負債に関連する割引現在価値、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスク（格付）の諸概念を理解し、上場企業の財務諸表などの統計資料を見ながら、主体的に考察し、公正に判断できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

エクセルで財務関数を中心に割引現在価値を応用して銀行借入と社債の返済償還、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスクの関係をわかりやすく説明する。

感染状況に応じて適宜 Zoom や Webex などのリアルタイムオンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	企業金融とは	企業の財務諸表からみた負債と資金調達について
第 2 回	将来価値	定期預金の満期残高と将来価値について
第 3 回	時は金なり	金利、現在価値と将来価値の計算について
第 4 回	銀行借入の返済方法	一括返済、元金均等返済、元利均等返済について
第 5 回	金利と銀行借入	金利と銀行借入の返済額
第 6 回	銀行と流動性	コミットメントラインなどについて説明する
第 7 回	利付債券	債券の基本概念を学ぶ
第 8 回	金利と債券価格	金利変化によって債券価額が変動する仕組み
第 9 回	銀行借入と社債	直接金融と金融仲介の相違
第 10 回	金利リスク	金利に対する債券価格の感応度と債券のリスク
第 11 回	格付と信用リスク	格付と社債のプレミアム
第 12 回	負債の資本コスト	銀行借入、社債などの資本コストについて勉強する
第 13 回	銀行借入と社債の選択	倒産費用、エージェンシーコストと資産選択について勉強する

第14回 課題作成

今までの内容を確認するために、課題としてデータをダウンロードしてレポートを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するため、エクセルの演算・財務関数などの使い方をマスターするように。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

中央経済社『資本調達・ペイアウト政策』（花枝英樹・榊原茂樹 編著）

『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題（40%）＋期末（グループ）課題レポート（60%）で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけゆくり話すように。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参

【その他の重要事項】

教職、F P などの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiom, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline and objectives】

In this lecture, we learn important points out of basic theory related to domestic and international debt financing systems and practices, mainly focusing on cash flow and present value. Debt finance has changed greatly in Japan due to deregulation of corporate bond markets since the late 1980s. Also, non-conventional monetary policy such as zero interest rate policy was implemented in Japan, the United States and Europe since the end of the 1990s. In this lecture, we also learn the transition of such monetary policy.

ECN300CA

企業金融論B

胥鵬

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

B では、期待株式投資収益率、株式投資収益率の標準偏差、二つの銘柄の株式投資収益率の相関などを中心に学ぶ。続いて、分散投資の基本的な考え方を理解する。その上で、危険資産からなる有効ポートフォリオと安全資産の投資組み合わせを勉強し、資本市場線と証券市場線の考え方をういて株式のリスクとリターンを関係する。理論だけでなく、株価等の統計資料を用いて株式のリスクの計測方法もマスターする。

【到達目標】

B では、A の中で扱った負債による資金調達に続いて、株式と資金調達について理解することが目標である。特に株式のリスクに関する理論（capital asset pricing model, CAPM）を把握することが目標である。さらに統計や資料などを自分で収集して、簡単な統計手法を用いて配当異動、新株発行と自己株式取得等の株価に及ぼす効果を CAPM に基づいて計測し、結果を主体的に考察し、公正に判断できるようになることが目標の 2 つ目である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

エクセルで期待株式投資収益率、株式投資収益率の標準偏差、二つの銘柄の株式投資収益率の相関、 β および異常収益率などをわかりやすく説明する。

感染状況に応じて適宜 Zoom や Webex などのリアルタイムオンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	配当割引モデル	成熟企業 v s 成長企業
第 2 回	株式投資のリターン	期待投資収益率を計算する
第 3 回	株式投資のリスク	投資収益率の偏差、分散と標準偏差を計算する
第 4 回	株式同士の相性	共分散、相関とポートフォリオのリスクについて
第 5 回	分散投資	すべての卵を同じかごに入れるな
第 6 回	有効ポートフォリオ	リスクとリターンのトレードオフ
第 7 回	CAPM	資本市場線、証券市場線とベータ
第 8 回	異常収益率	個別株式投資収益率と市場収益率を用いてベータと異常収益率を計測する
第 9 回	エクイティファイナンス	公募増資、株主割当及び第三者割当のエクイティファイナンスの事例について学ぶ
第 10 回	新規上場	新規上場とエクイティファイナンスの仕組みについて学ぶ
第 11 回	配当政策の統計資料	増減配と株価
第 12 回	自己株式取得	みなし配当とする自社株買いの仕組みと効果について学ぶ
第 13 回	バイアウト	上場株式を取得して非上場への仕組みについて学ぶ

第 14 回 課題 データをダウンロードし、
効果を計測する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するために、エクセルの統計関数などをマスターすること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

中央経済社『資本調達・ペイアウト政策』（花枝英樹・榊原茂樹 編著）

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題（40%）＋期末（グループ）課題レポート（60%）で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり話すこと。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参

【その他の重要事項】

教職、F P などの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】

M B O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline and objectives】

In course B,we first learn about the expected rate of return on stock investment, the standard deviation of rate of return, and the correlation of rate of return between two stocks. Next, we learn the basic idea of diversified investment. Then we study efficient portfolio, the capital market line, the security market line and the risk measures of stock investment. In addition to theory, we also use statistical data such as stock price to master the method of measuring the risk of stocks.

ECN300CA
数理統計学 A
宮脇 典彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、データを解析していく上で不可欠な統計学の基本的な考え方を理解し、実際に Excel を用いてそれを使いこなす能力を身につけてもらうことにあります。そのためにさまざまな分野の例をあげながら、身近にある問題を通してできる限り平易に解説していきます。

「数理統計学 A」では、統計学の基礎となる確率論を学びます。

（既に 1 年次配当の「統計学」を履修して興味をもった学生はもちろん、将来実証的な分析を行いたいと考えている皆さんは、是非履修してください。）

【到達目標】

確率論の基礎的な考え方を、Excel の実習を通じて理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

確率を基礎から勉強し、Excel を用いた実習を通じて理解を深めていきます。Excel がインストールされたパソコンを使用します（多摩情報センターの貸出し用パソコンで対応できます）。実習等のフィードバックは、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期	テーマ	内容
回		
第 1 回	概説	確率と統計の考え方
第 2 回	記述統計	データの代表値と視覚化
第 3 回	Excel による解析 (1)	基本操作と分析ツールによる計算
第 4 回	Excel による解析 (2)	度数分布表、2 変数の関係
第 5 回	確率 (1)	標本空間と確率
第 6 回	確率 (2)	条件つき確率と独立性
第 7 回	確率 (3)	ベイズの公式
第 8 回	確率変数と分布 (1)	離散型確率変数
第 9 回	確率変数と分布 (2)	同時確率関数
第 10 回	確率変数と分布 (3)	連続型確率変数
第 11 回	分布の代表値	期待値と分散、標準偏差 (Excel による実習)
第 12 回	基本的な分布 (1)	主な離散分布 (Excel による実習)
第 13 回	基本的な分布 (2)	主な連続分布 (Excel による実習)
第 14 回	基本的な分布 (3)	正規分布 (Excel による実習)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1 時間

Excel を含む実習・・・2 時間

授業の復習・・・1 時間

【テキスト（教科書）】

森棟公男他著「統計学（改訂版）」、有斐閣（2015 年）

【参考書】

大屋幸輔著「コアテキスト 統計学（第 2 版）」、新世社（2011 年）
加納・浅子著「入門 経済のための統計学 [第 3 版]」、日本評論社（2011 年）
篠崎信雄・竹内秀一著「統計解析 [第 3 版]」、サイエンス社（2020 年）
田中勝人著「基礎コース 統計学 [第 2 版]」、新世社（2010 年）
豊田利久他著「基本統計学 [第 3 版]」、東洋経済（2015 年）
石村貞夫著「Excel でやさしく学ぶ統計解析 2013」、東京図書（2013 年）
藤本竜著「Excel でできるらくらく統計解析」、自由国民社（2014 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）・・・就職活動のため授業に参加できない学生には別途配慮します

レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

Excel での実習を交えながら、数学が苦手な学生にも配慮し内容が難解にならないよう、確率の基本的な考え方を丁寧に解説します。

【学生が準備すべき機器他】

Excel がインストールされたパソコン

【Outline and objectives】

We learn and acquire probability theory which is the basis of statistics.

ECN300CA
数理統計学 B
宮脇 典彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は、データを解析していく上で不可欠な統計学の基本的な考え方を理解し、実際に Excel を用いてそれを使いこなす能力を身につけてもらうことにあります。そのためにさまざまな分野の例をあげながら、身近にある問題を通してできる限り平易に解説していきます。
「数理統計学 B」では、「数理統計学 A」の知識を前提として統計的推測（推定・検定）の基礎的な手法を学びます。

【到達目標】
統計学の基礎的な考え方を、Excel の実習を通じて理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
標本分布や推定と検定の基礎的な考え方を講義し、Excel を用いた実習を通じて理解を深めていきます。実習等のフィードバックは、授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 春学期		
回	テーマ	内容
第 1 回	標本分布（1）	標本と標本平均
第 2 回	標本分布（2）	チェビシェフの不等式と大数の法則
第 3 回	標本分布（3）	中心極限定理と正規分布による近似
第 4 回	標本分布（4）	中心極限定理と正規分布による近似
第 5 回	正規分布から派生する分布（1）	カイ 2 乗分布、t 分布
第 6 回	正規分布から派生する分布（2）	F 分布
第 7 回	正規分布から派生する分布（3）	カイ 2 乗分布、t 分布、F 分布
第 8 回	推定（1）	推定の考え方（点推定と区間推定）
第 9 回	推定（2）	正規母集団と二項母集団の推定
第 10 回	推定（3）	点推定の規範
第 11 回	検定（1）	検定の考え方
第 12 回	検定（2）	検定における検出力
第 13 回	検定（3）	正規母集団に関する検定
第 14 回	検定（4）	二項母集団に関する検定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習・・・1 時間
Excel を含む実習・・・2 時間
授業の復習・・・1 時間

【テキスト（教科書）】
森棟公男他著「統計学（改訂版）」、有斐閣（2015 年）

【参考書】
大屋幸輔著「コアテキスト 統計学（第 2 版）」、新世社（2011 年）
加納・浅子著「入門 経済のための統計学 [第 3 版]」、日本評論社（2011 年）
篠崎信雄・竹内秀一著「統計解析 [第 3 版]」、サイエンス社（2020 年）
田中勝人著「基礎コース 統計学 [第 2 版]」、新世社（2010 年）
豊田利久他著「基本統計学 [第 3 版]」、東洋経済（2015 年）
石村貞夫著「Excel でやさしく学ぶ統計解析 2013」、東京図書（2013 年）
藤本竜著「Excel でできるだけく統計解析」、自由国民社（2014 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）
レポート（50 %）
※コロナ対策によるオンライン授業への変更に伴う
【成績評価の方法と基準】に、変更はありません。

【学生の意見等からの気づき】
Excel での実習を交えながら、数学が苦手な学生にも配慮し内容が難解にならないよう、統計学の基本的な考え方を丁寧に解説します。

【学生が準備すべき機器他】
Excel がインストールされたパソコン

【Outline and objectives】
We learn and acquire methods of statistical inference such as estimation and hypothesis testing.

ECN300CA
国際金融論 A
ブー トウン カイ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介とする実物や金融資産の取引である。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

【到達目標】
対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や通貨危機、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、関心をもつことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論という分野、経済学の基本的な考え方
2	国際金融の基本的視点	金融取引の意義、国際的視点の設定
3	統計でマクロ経済をみる	国民所得勘定
4	統計で対外取引をみる	国際収支勘定
5	貨幣とは	貨幣、貨幣需要、貨幣供給
6	貨幣と物価	貨幣市場の均衡、短期と長期における貨幣と物価との関係
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	為替レートとは	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レート
9	外国為替市場	外国為替市場、直物・先物レート、通貨デリバティブ
10	金利と為替レート	金利裁定、カバー付金利平価、カバーなし金利平価、均衡為替レート
11	為替レート決定の理論（1）	貨幣市場と外国為替市場、リスク・プレミアム
12	物価と為替レート、及び為替レート決定の理論（2）	生産物裁定と購買力平価、マネタリーモデル
13	現実における購買力平価	購買力平価からの乖離、労働生産性とバラッサ・サミュエルソン効果
14	為替レート決定の実証分析	為替レート決定の理論を整理し、データを用いて検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回は学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次（著）、新世社 2014 年。

【参考書】

- 1.『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019 年。
- 2.『入門国際金融』第 4 版、高木信二（著）、日本評論社 2011 年。
- 3.“International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第 11 版 (2018) (英語) ペーパーバック。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題：30%、中間試験：30%、学期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや毎回の授業に対する学生の反応や意見、あるいは課題の解答から見える受講者の理解度に基づき、授業の内容や進行を適切に変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

【Outline and objectives】

International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These international transactions are mainly transactions in goods&services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

ECN300CA

国際金融論 B

ブー トウン カイ

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介とする実物や金融資産の取引である。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

【到達目標】

対外取引の意義と内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や通貨危機、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、関心をもつことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	為替レートと実体経済 (1)	総需要と総供給、内需と外需、生産物市場の短期均衡
2	為替レートと実体経済 (2)	為替レートと経常収支
3	マクロ経済分析の理論的枠組み	IS-LM モデルの復習
4	開放経済分析の理論的枠組み	マンデル・フレミングモデル
5	開放マクロ経済政策	変動相場制・固定相場制における金融・財政政策の仕組みと効果
6	為替介入	介入の仕組み、胎化と不胎化、リスク・プレミアムとポートフォリオ・バランス効果
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	トリレンマと為替制度の選択	開放経済におけるトリレンマ、及び為替制度の選択
9	通貨危機 (1)	通貨危機の歴史
10	通貨危機 (2)	通貨危機に関する理論
11	発展途上国の国際金融	発展途上国の国際金融の現実の諸問題と政策
12	共通通貨	ユーロという共通通貨と最適通貨圏の理論
13	東アジアの経済統合と地域的通貨協力	東アジアにおける貿易や投資の面での経済統合やアジア通貨危機、そして地域的通貨協力について学ぶ。
14	グローバルインバランス	世界的な経常収支不均衡問題の現状、要因、政策的対応を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回は学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次、新世社 2014 年。

【参考書】

- 1.『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019 年。
- 2.『入門国際金融』第 4 版、高木信二（著）、日本評論社 2011 年。
- 3.“International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第 11 版 (2018) (英語) ペーパーバック。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題：30%、中間試験：30%、学期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや毎回の授業に対する学生の反応や意見、あるいは課題の解答から見える受講者の理解度に基づき、授業の内容や進捗を適切に変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

【Outline and objectives】

International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These international transactions are mainly transactions in goods&services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

ECN300CA
企業経済論 A
砂田 充
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に、ミクロ経済学分析の基礎概念、独占企業の行動及びマーケティング戦略としての様々な価格差別の態様について学習する。また、企業行動と政府規制の関係についても学習し、資本主義経済における企業と政府の役割や企業の経営戦略が消費者に与える影響を学ぶ。

【到達目標】

企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また、企業が日々の活動で行っている様々なマーケティング戦略の仕組みと効果、独占企業と政府規制の関係について経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	企業経済学の課題と歴史	SCP パラダイム
3	経済学のための数学基礎	関数・連立方程式・微分・最適化
4	ミクロ経済学の基礎概念①	消費者行動と需要の価格弾力性
5	ミクロ経済学の基礎概念②	企業の費用構造
6	ミクロ経済学の基礎概念③	機会費用とサンクコスト
7	ミクロ経済学の基礎概念④	市場均衡と経済厚生
8	独占	独占企業の価格設定と非効率性
9	価格差別①	価格差別の手段と効果
10	価格差別②	市場分割
11	価格差別③	バンドル
12	価格差別④	二部料金
13	価格差別⑤	抱き合わせ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2 時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎および経済数学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進捗に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣、2008 年）。小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社、2010 年）。

長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第2版）』（日本評論社、2013年）。
丸山雅祥『経営の経済学〔第3版〕』（有斐閣、2017）。
Belleflamme, P., and M., Pelitz. Industrial Organization: Markets and Strategies, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）とホームワーク（50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline and objectives】

We study the concepts and methodologies in managerial economics, which provides practical toolkits for managerial decision making. This course applies microeconomics, game theory, and industrial organization, to understand the interactions of firm behavior and its effect on welfare. This course will focus on, but not limited to, the following topics: demand and supply, monopoly, price discrimination. In the course, we also discuss real-world examples, that make it easy for students to understand each concept. Students are required comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them in the course.

ECN300CA
企業経済論 B
砂田 充
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に、ゲーム理論の基礎、寡占市場、市場構造指標と市場支配力、カルテル、合併及び垂直的取引関係について学習し、わが国の様々な産業・市場で典型的な寡占市場における企業間競争の仕組みと社会・経済への影響を学習し、政府規制の役割についても学ぶ。

【到達目標】

企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また、企業間競争と様々な経営戦略（協調行為・垂直的取引制限等）の仕組みと効果を経済学的に理解し、企業と政府規制の関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	ゲーム理論の基礎	企業行動とゲーム理論
3	寡占市場①	クールノー競争とベルトラン競争
4	寡占市場②	寡占の市場行動
5	製品差別化①	垂直的差別化
6	製品差別化②	水平的差別化
7	カルテル①	カルテルの経済分析
8	カルテル②	カルテル規制
9	市場構造分析①	市場支配力
10	市場構造分析②	市場画定
11	垂直的取引①	垂直的取引と企業間関係
12	垂直的取引②	垂直的統合による効率性と排除
13	垂直的取引③	垂直的取引制限の競争効果
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2 時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎および経済数学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣、2008 年）。
小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010 年）。
長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第2版）』（日本評論社、2013 年）。
丸山雅祥『経営の経済学〔第3版〕』（有斐閣、2017）。
Belleflamme, P., and M., Pelitz. Industrial Organization: Markets and Strategies, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）とホームワーク（50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline and objectives】

We study the concepts and methodologies in managerial economics, which provides practical toolkits for managerial decision making. This course applies microeconomics, game theory, and industrial organization, to understand the interactions of firm behavior and its effect on welfare. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: oligopoly, vertical and horizontal product differentiation, cartel, market power, vertical integration and restraint. In the course, we also discuss real-world examples, that make it easy for students to understand each concept. Students are required comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them in the course.

ARS200xCA

世界の文化と思想 A

新田 誠吾

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業テーマは異文化コミュニケーション入門です。私たちが常識だと思っていることでも、異文化圏では非常識になることがあります。異文化の人たちとコミュニケーションをとるときに何に注意すればよいのかについて、基本的な考え方を説明します。

【到達目標】

1. 文化、コミュニケーションについて説明ができる。
2. ステレオタイプとは何か、その弊害について説明できる。
3. 文化における「コンテクスト」について説明できる。
4. 日本人が持つ「時間感覚」「空間感覚」について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、オンデマンド方式です。法政大学の学習支援システム（Hoppii）に、授業資料と音声データをアップします。数回、授業に関連したテーマについて考える簡単な課題があります。提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。また期末試験前に復習テストを行い、間違えた問題を一緒に考えて、理解を深めます。質問はメールのほか、Zoomでも対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目標、進め方
第2回	文化とは何か（1）	人は文化の網の中で育つ。「日本的」とは？ 和食を考える
第3回	文化とは何か（2）	見える文化、見えない文化
第4回	言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションとは
第5回	コンテクスト（1）	ハイコンテクストとローコンテクスト
第6回	コンテクスト（2）	空気を読む
第7回	メラビアンの法則	人は見た目が9割？
第8回	ステレオタイプ	今の若者は○○だから
第9回	ターンテーク	欧米のコミュニケーションの基本
第10回	アイコンタクト	目は口ほどにものを言う
第11回	アイコンタクト	ニッポンの目
第12回	時間感覚	人の家に招かれて、いつ行けばいいのか
第13回	空間感覚	話すとき、相手が迫ってきたら？
第14回	復習とまとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業はオンデマンド方式なので、自分の好きな時間に受講できます。ただし、課題提出は期限内にお願いします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

矢代京子ほか (2001). 異文化コミュニケーション・ワークブック. 三修社.

E.T. ホール (1966). 沈黙のことば：文化・行動・思考. 南雲堂.

E.T. ホール (1970). かくれた次元. みすず書房.

マジョリー・F・ヴァーガス (1987). 非言語コミュニケーション. 新潮選書.
 新田誠吾 (2019). これならできる！ レポート・論文のまとめ方. すばる舎.

【成績評価の方法と基準】

課題および確認テスト (40 %) 学期末筆記試験 (60 %)
 合計 60 %以上の得点で単位を認定します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はコロナで急きょオンライン授業になり、授業方法について有益な意見をもらいました。今年度は、昨年度の経験を活かした授業を行います。受講した学生からは、「興味が持てる内容だった」「異文化について深く学ぶことができた」と好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアップされる資料、音声ファイルを受信するインターネット通信環境が必要です。

【Outline and objectives】

The theme of this course is Introduction to Intercultural Communication. What we think is common sense may be insane in different cultures. I will explain the basic concept of what we should pay attention to when communicating with people from different cultures.

ARS200xCA
世界の文化と思想 B
新田 誠吾
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業テーマは、ビジネスにおける異文化間コミュニケーションです。国際的企業で働く場合、海外に会社の拠点を置く場合など、異文化圏の人たちと働くノウハウを講義します。

【到達目標】

1. アサーティブ・コミュニケーションについて理解している。
2. 怒りをコントロールするアンガーマネジメントについて理解している。
3. 異文化圏での決定、リーダーの役割、ワークライフバランスについて理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、オンデマンド方式です。法政大学の学習支援システム（Hoppii）に、授業資料と音声データをアップします。数回、授業に関連したテーマについて考える簡単な課題があります。提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。また期末試験前に復習テストを行い、間違えた問題と一緒に考えて、理解を深めます。質問はメールのほか、Zoomでも対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと異文化コミュニケーションの復習	春学期に取り上げた重要なトピックを再度確認します。
第2回	ジョハリの窓	自己開示
第3回	バーンランドによる自己開示	いかに自分を相手に伝えるか
第4回	コンテキスト	コンテキストの差をどう乗り越えるか
第5回	評価	悪い評価を直接言っている？よくない？
第6回	論理の組み立て方	欧州と米国の違い
第7回	アサーティブコミュニケーション（1）	アサーティブコミュニケーションとは
第8回	アサーティブコミュニケーション（2）	怒りをコントロールする技術
第9回	決定	誰がどう決定を下すのか
第10回	リーダーと組織像	水平か階層的か
第11回	意見の違い	対立させるか回避するか
第12回	仕事と家庭	男女の役割はある？
第13回	信頼関係	どのように信頼関係を築くか
第14回	まとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外に平均して週に4時間の学習が必要です。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。

【参考書】

平木典子 (2012). アサーション入門：自分も相手も大切に自己表現法. 講談社現代新書.

主婦の友社（編著）（2013）. よくわかるアサーション：自分の気持ちの伝え方：自分も相手も大切にする、気持ちのよい自己表現. 主婦の友社.

安藤駿介（2016）. 誰にでもできるアンガーマネジメント. ベスト新書.

安藤駿介（2018）. 怒りが消える心のトレーニング：図解アンガーマネジメント超入門. ディスカヴァー・トゥエンティワン.

新田誠吾（2019）. これならできる！ レポート・論文のまとめ方. すばる舎.

【成績評価の方法と基準】

課題および確認テスト（40 %） 学期末筆記試験（60 %）

合計 60 %以上の得点で単位を認定します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、「とても面白く、社会に出てからも役に立つ内容」と学生から好評でした。さらに改善を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアップされる資料、音声ファイルを受信するインターネット通信環境が必要です。

【Outline and objectives】

The theme will be Intercultural Communication in Business. The lecture will cover the know-how of working with people from different cultures when working for an international company or setting up a company base overseas.

SES300CA
地球環境論 A
山崎 友紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境の多様性・法則性・相互関連性を理解し、人間活動と自然環境との相互関係について理解を深める。そのために地球の成り立ち、自然環境の仕組みを総括的に学習する。

【到達目標】

諸資料を活用し、地理的条件とも関連づけながら、地球規模で生じている諸現象を考察し、広い視野で解決策を見出そうとする見識と判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習（クイズ）も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に復習課題を課し、授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を“みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	これまでの復習のための演習	参考となるビデオ観察、グラフや計算を用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTR などによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性和意義
14	総復習	これまでの学習の理解度をチェックする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や課題は学習支援システムで配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1 『地球環境学入門 第3版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】

1 『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2 『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott & Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、授業への取り組み（平常点と課題）を 40 %として 100 点中の 60 点を合格とする。（学部の評価基準のとおり）

【学生の意見等からの気づき】

理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しめる内容とする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録してください。

【その他の重要事項】

学生は授業中にスマートフォンやタブレットを使用しないこと。
「実務経験のある教員による授業」として、教員は SRI International にて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。
本授業については、今後のオンデマンド授業化を踏まえ、授業を撮影する場合があります。撮影は教室後方等からとし、受講生の顔が映り込まないよう配慮します。

【Outline and objectives】

In order to understand the mechanisms of the global environment, you will learn diversity, interrelationships and rules of the environment on our planet. Based on the natural history of the formation of the Earth, you will learn how human activities work for the environment.

SES300CA
地球環境論 B
山崎 友紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模での環境保全の概念と基礎事項、環境問題の現状と対策などについて理解を深める。

【到達目標】

自然環境と人間の調和を支える良識ある公民の資質として、地球規模の広い視野で解決策を見出そうとする見識と総合的な判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・地球の人口	講義内容、計画、評価方法の紹介。環境とは何か、エコとは何か。地球が直面する課題を知る。
2	地球上の資源	化石燃料、非化石燃料、鉱物資源などの特徴を知る
3	資源とエネルギー	発電技術、資源・エネルギーに関する諸問題を議論する
4	原子力の利用と問題点	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
5	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
6	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
7	地球大気の変異	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
8	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
9	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
10	食品と環境	食品汚染、食品ロス、農業問題、毒とは何か
11	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
12	廃棄物・廃プラスチックと環境	地球規模での廃棄物問題、海洋プラスチック問題
13	環境と経済	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。
14	総復習	演習を交えた総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1) 『地球環境学入門 第3版』 山崎友紀 （講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】

- 1)『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
- 2)『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott & Matthew Laposata , Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題提出（60%）、小試験またはレポート（20%）、授業への出席（20%）とし、合計の 60 % 以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が 50%を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】

理科系科目の苦手な学生も理解できるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

授業の予習復習の際に学習支援システムが使える環境。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」として、教員は SRI International にて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。
本授業については、Zoom 授業を撮影する場合がありますが、受講生の顔が映らないよう配慮します。

【Outline and objectives】

The current situation of environmental problems are already very complicated. You will learn the relationship between human activities and environmental problems. The main theme of this semester is to discuss how we can conquer problems, such as climate change, disasters, exhaustion of resources, and so on.

ECN300CA

国際貿易論 A

武智 一貴

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際貿易ルールをつかさどる国際機関である世界貿易機関（World Trade Organization, WTO）の歴史、役割について紹介します。

【到達目標】

世界の貿易ルールをつかさどる国際機関である WTO。その歴史と、様々な貿易紛争を例に WTO の機能と役割について理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

板書・スライドを用いて WTO の下での貿易紛争を経済学的な観点から分析します。紛争の中心となる論点については講義において出席者によるディスカッション・意見を求めることがあります。課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	GATT,WTO とは何か
2)	WTO 成立の理論的背景	国際機関の設立の理念
3)	WTO 成立の歴史	GATT から WTO へ
4)	WTO の基本理念	最恵国待遇、内国民待遇、数量規制の禁止など
5)	内国民待遇に関する紛争	内国民待遇に関する紛争例
6)	内国民待遇と日本の酒税	焼酎の税率
7)	日本の酒税に関する紛争の帰結	同種の産品、代替の弾力性とは何か
8)	セーフガードとは何か	WTO 下における数量制限
9)	日本による野菜セーフガード	中国からの野菜輸入に対するセーフガードの分析
10)	アンチダンピング	アンチダンピングとは何か
11)	日本によるアンチダンピング税の分析	アンチダンピング税の影響
12)	補助金相殺関税	補助金相殺関税とは何か
13)	日本による補助金相殺関税の分析	補助金の認定と補助金の影響の分析
14)	WTO の問題	紛争処理システムと安全保障の例外

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を事前にダウンロードし読んでおくこと。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。学習支援システムを通じて資料を配布します。

【参考書】

ジョン・マクラレン著、柳瀬明彦訳、国際貿易・グローバル化と政策の経済分析、文真堂

【成績評価の方法と基準】

課題（40%）および期末試験もしくはレポートの結果等（60%）により成績の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

進捗は出席学生に応じて変化させる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn the role of the international organization (World Trade Organization (WTO)), which governs the rule of international trade.

ECN300CA

国際貿易論 B

武智 一貴

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際取引に関係する様々なコストの源泉と影響を分析します。特に、国際貿易と知的財産権保護の關係に焦点を当て、各国国内制度の違いの重要性と国際取引に及ぼす影響を講義します。

【到達目標】

知的財産権と国際的な取引に関して理解する事を目標とする。特に国際貿易にとって重要な、知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の内容と影響について議論できることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

板書を主に用いて、知的財産法（著作権法、特許法）と国際取引との關係について講義を行います。また、貿易コストに関して、関税・輸送費・情報コストなどの影響を分析します。主に英文学術雑誌に公開された論文を用いて、国際取引と制度を分析するための基本となる考え方とそれに関連した国際貿易論を講義します。国際経済学の基本と統計分析の基礎を習得済みであることが前提です。また、授業支援システムから論文をプリントアウトし学習しておくことが必要であり、トピックに応じて、ディスカッションを要求する事があります。・課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	国際取引と所有権、制度
2)	各国の制度の違いと国際取引	日本・アメリカの比較、統計分析の考え方
3)	知的財産取引と制度	各国の制度の概要
4)	特許法の概要	日本、アメリカの特許制度に関する解説
5)	特許法の国際取引に与える影響 I	理論分析
6)	特許法の国際取引に与える影響 II	実証分析
7)	累積的イノベーションと特許保護	イノベーションのタイプと特性
8)	保護強化の帰結	コモنزとアンチコモنزの悲劇
9)	国際的な知的財産権保護	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の歴史
10)	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の特徴
11)	貿易コスト	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の影響
12)	貿易コストの測定とその問題	データの欠損と分析
13)	貿易コストの影響 I	国境効果
14)	貿易コストの影響 II	インフラの影響

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムの資料を事前に読んでおくこと。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業支援システムにより文献を配布します。

【成績評価の方法と基準】

課題（40%）及び期末試験もしくはレポート等（60%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムの資料をより活用し解説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用します。

【Outline and objectives】

This course is intended to analyze the source and consequences of trade costs. In particular, we focus on the relationship between international trade and intellectual property rights protection.

MAN300CA
監査論 A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

監査の基本的な枠組みと、金融商品取引法に基づく公認会計士監査及び会社法に基づく監査役等による監査制度について講義する。監査とは何を目的とするものか、またいかなる行為であるかについて理解するとともに、監査制度と経済社会とのかかわりについて理解することを目的とする。

【到達目標】

皆さんは「監査」ということばを聞くとどのようなものをイメージしますか。たとえば、公認会計士や企業の監査役など、職業のひとつとして聞いたことがあるかも知れません。また、部活やサークルなどで監事を設けていたり、実際に経験した人もいるかも知れません。この講義では、こうしたイメージの中の監査から一歩踏み出して、経済社会で行われている監査の仕組みを理解し、どのような役割を果たしているのかについて知見を得ることを到達目標とします。具体的には、監査という行為の本質と、法制度によって行われている監査の社会的意義について理解し、どのような問題点があるのか、またどのような改善策がありえるのかについて考察する能力を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメを配付する。毎回の講義の最後に、翌講義に関する「予習シート」を配付する。また、講義ごとに「講義内レポート」の提出を求める。予習シートと講義内レポートは添削・採点した上で返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	監査の基本的な考え方と二つの系列の監査	監査に対する一般的なイメージと、経済社会において展開される監査との異同点について学習する。
第 2 回	企業不正と監査	企業不正の具体的なケースと監査とのかかわりについて学習し、二つの系列の監査との関係について理解する。
第 3 回	監査の種類	会計監査と業務監査、外部監査と内部監査、法定監査と任意監査のそれぞれの特徴について学習する。
第 4 回	監査の史的展開	経済社会の時代的変遷と監査の変容過程について、特に 19 世紀以降の監査形態の変化について理解する。
第 5 回	商法監査の成立	旧商法における監査役監査の意義と役割について学習する。特に、監査役の特権と機能について学習する。
第 6 回	会社法監査の成立	商法特例法、委員会等設置会社の導入を経て、現在の会社法監査に至る過程と時代的背景について学習する。

第 7 回	証券取引法監査の成立	証券取引法に基づく公認会計士監査制度の成立過程について学習する。
第 8 回	金融商品取引法監査の成立	現在の金融商品取引法の意義を理解した上で、財務諸表監査の役割について学習する。
第 9 回	公認会計士法における公認会計士の業務と責任	公認会計士法の概要と、公認会計士の業務について学習する。特に、「1 項業務」と「2 項業務」の関係について理解する。
第 10 回	監査法人制度	監査法人制度の意義と概要について、特に社員の権限と責任、指定社員、特定社員、ネットワーク・ファームの現状について学習する。
第 11 回	監査基準の設定過程	監査基準の必要性および設定過程について学習する。
第 12 回	監査基準一般基準の内容と意義	監査人の資格要件である適格性、独立性、および正当な注意のそれぞれの意義について理解する。
第 13 回	四半期レビューの意義と役割	四半期報告制度の意義と四半期レビューの特質について学習する。
第 14 回	内部統制監査の意義と役割	内部統制報告制度の一環としての内部統制監査の意義と特質について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌回の講義に関する基礎知識（専門用語や時事問題など）について、「予習シート」の作成と提出を求める。予習シートは成績評価の 40% とする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長吉眞一、岸牧人ほか著『監査論入門』（開講時の最新版）、中央経済社、2,800 円（税抜）

【参考書】

石田三郎、林隆敏、岸牧人編著『監査論の基礎』（第 3 版）、東京経済情報出版、2012 年

【成績評価の方法と基準】

予習シート 40%、講義内レポート 60%によって評価する。
試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では、専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

【その他の重要事項】

初回の講義で、単位の認定方法に関する詳細について説明するので必ず出席すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the nature and the foundation of auditing. Basically, Japanese institution of auditing made pursuant to Securities Exchange Law and Companies Law of Japan.

MAN300CA
監査論 B
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務諸表監査の基礎理論とプロセスについて理解するとともに、証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか、また果たすべきかについて考察するための知見を得る。

【到達目標】

「期末商品（原価 1,000）の時価が 800 であったので評価替えを行う」、「期末売掛金残高に対して 2%の貸倒引当金を設定する」－簿記の問題でよく見るこれらの取引は、簿記の基本を理解している人であれば瞬時に仕訳することができるであろう。これは「会計アタマ」である。対して、「期末商品の評価額は本当に 800 なのか?」、「貸倒引当金の設定率は 2%でいいのか?」－こうした考え方は「監査アタマ」でないとできない。この講義では、「監査アタマ」で企業会計上の取引を考えることによって、財務諸表の信頼性（適正性）を確かめるためには何が必要で、その結果をどのように利用者に伝達するのかを考える。その上で、実際の証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか、また果たすべきかについて、論理立てて考察するための知見を得ることを本講義の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメを配付する。毎回の講義の最後に、翌講義に関する「予習シート」を配付する。また、講義ごとに「講義内レポート」の提出を求める。予習シートと講義内レポートは添削・採点した上で返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「会計アタマ」から「監査アタマ」へ	監査の基礎理論を学習するために必要な理論的枠組みを提示する。
第 2 回	財務諸表監査の基本的プロセス	財務諸表監査のプロセスにおけるアサーションと監査要点、及び監査手続と監査証拠の基本的関係について学習する。
第 3 回	企業の内部統制の評価と財務諸表監査	内部統制概念の変遷について学習し、内部統制の評価が財務諸表監査においてどのように位置づけられるかについて学習する。
第 4 回	監査手続と監査証拠	監査手続の種類と監査証拠の属性について学習する。
第 5 回	リスク・アプローチの基本的な考え方	リスク・アプローチの必要性和意義について、監査の有効性と効率性の観点から学習する。
第 6 回	事業上のリスク等を重視したリスク・アプローチの基本構造	リスク評価手続及び運用評価手続の具体的な内容と意義について学習する。
第 7 回	監査上の重要性	監査上の重要性概念と監査のコスト・ベネフィット、および重要な虚偽の表示の認識について学習する。
第 8 回	実証手続の意義と効用	分析的実証手続と詳細テストに関して、その具体的な内容と意義について、特に監査証拠との関係から学習する。

第 9 回	監査報告書の意義と課題	監査報告書の意見表明機能と情報提供機能について学習する。
第 10 回	除外事項の意義と特質	除外事項の種類と発生原因、及び除外事項付意見との関係について、実例を用いて学習する。
第 11 回	追記情報の意義と種類	強調事項とその他の記載事項の意義について、実例を用いて学習する。
第 12 回	監査報告書の改革	国際会計士連盟（IFAC）による監査報告書の改革プロジェクトの概要と日本の監査実務への影響について学習します。
第 13 回	財務諸表監査における継続企業の前提に関する検討	いわゆる「ゴーイング・コンサーン注記」の意義と財務諸表監査における位置づけについて、実例を用いて学習する。
第 14 回	財務諸表監査の品質管理	財務諸表監査の品質とは何か、またこれを管理するためには何が必要か、といった観点から監査の品質について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌回の講義内容に関する基礎知識（専門用語や時事問題など）について、「予習シート」の作成と提出を求める。予習シートは成績評価の 40%とする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長吉眞一，岸牧人ほか著『監査論入門』（開講時の最新版），中央経済社，2,800 円（税抜）

【参考書】

石田三郎，林隆敏，岸牧人『監査論の基礎』（第 3 版），東京経済情報出版，2012 年

【成績評価の方法と基準】

予習シート 40%、講義内レポート 60%によって評価する。
試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では，専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

【その他の重要事項】

初回の講義で、単位の認定方法に関する詳細について説明するので必ず出席すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the nature and the foundation of auditing. Basically, Japanese institution of auditing made pursuant to Securities Exchange Law and Companies Law of Japan.

ECN200CA
マクロ経済学 A
檜野 智子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では初級レベルのマクロ経済学を学びます。マクロ経済学とは、インフレーション、失業、経済成長など、経済全体に関わる現象を研究する学問です。この授業の目的は、マクロ経済学の基礎的な概念や、基本となる分析の枠組みを理解することです。

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解する。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド型のオンライン授業を行います。講義資料は学習支援システムで配布します。
- ・課題等のフィードバックは、学習支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	GDP(1)	国内総生産、三面等価の原則、国民総所得、名目と実質
2	GDP(2)	景気循環の考え方
3	消費と貯蓄の決定 (1)	ケインズ型の消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説
4	消費と貯蓄の決定 (2)	流動性制約と消費、日本の貯蓄率
5	設備投資と在庫投資 (1)	企業の設備投資、投資の決定要因、資本の限界生産性
6	設備投資と在庫投資 (2)	資本の使用者費用、望ましい資本ストック、新古典派の投資理論
7	設備投資と在庫投資 (3)	ジョルゲンソンの投資理論、調整費用モデル、在庫投資
8	金融と株価 (1)	企業の資金調達手段、家計の資産選択、株価の決定理論
9	金融と株価 (2)	トービンの q 理論、投資理論の実証分析、流動性制約と投資
10	貨幣の需要と供給 (1)	貨幣の機能、貨幣需要の動機、貨幣需要関数
11	貨幣の需要と供給 (2)	ハイパワードマネーと貨幣供給、貨幣量のコントロール方法、利子率の決定理論、テーラー・ルール
12	乗数理論と IS-LM 分析 (1)	有効需要の原理、乗数理論
13	乗数理論と IS-LM 分析 (2)	財市場と IS 曲線、貨幣市場と LM 曲線
14	乗数理論と IS-LM 分析 (3)	IS-LM 分析、財政・金融政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義前に教科書を読み、講義後しっかり復習してください。
- ・予習時間 1 時間、復習時間 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年（電子書籍あり <https://bit.ly/3qFDQny> ）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 100 %

・小テストとは、学習支援システムを使用した Web テストです。複数回実施する小テストにより評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布、Web テスト、授業連絡等に学習支援システムを使用するため、最低限スマートフォンが必要です。(パソコンは必須ではありません)

【その他の重要事項】

秋学期の「マクロ経済学B」は、春学期の「マクロ経済学A」の内容を前提とした講義になります。

【Outline and objectives】

When you take this course, you can explain basic macroeconomic and consider our society from an independent perspective.

ECN200CA

マクロ経済学B

檜野 智子

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では初級レベルのマクロ経済学を学びます。マクロ経済学とは、インフレーション、失業、経済成長など、経済全体に関わる現象を研究する学問です。この授業の目的は、マクロ経済学の基礎的な概念や、基本となる分析の枠組みを理解することです。

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解する。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド型のオンライン授業を行います。講義資料は学習支援システムで配布します。
- ・課題等のフィードバックは、学習支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済政策の有効性 (1)	景気循環と経済政策、トレンドの変動、経済政策の有効性
2	経済政策の有効性 (2)	マクロ計量モデル、マネタリズム
3	経済政策の有効性 (3)	非伝統的金融政策
4	財政赤字と国債 (1)	財政政策、国債の役割と問題点、日本の財政赤字
5	財政赤字と国債 (2)	課税平準化の理論、日本の国債市場の動向
6	インフレとデフレ (1)	日本の物価水準の推移、ディマンドプル・インフレ
7	インフレとデフレ (2)	コストプッシュ・インフレ、インフレのコスト、ハイパー・インフレ、デフレ
8	失業 (1)	労働市場と失業、フィリップス曲線
9	失業 (2)	自然失業率仮説、自然失業率の変動、日本の失業率
10	経済成長理論 (1)	経済成長とは何か、経済成長の源泉、経済成長理論
11	経済成長理論 (2)	成長会計、収束の概念
12	経済成長理論 (3)	内生的経済成長理論、経済成長と所得分配
13	オープン・マクロ経済 (1)	国際収支表、為替レート、国際通貨制度
14	オープン・マクロ経済 (2)	為替レートの決定要因、経常収支の決定要因

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・春学期の「マクロ経済学A」の内容を前提とした講義を行います。履修していない場合は、授業開始前に教科書の 1～6 章を自習しておいてください。
- ・講義前に教科書を読み、講義後しっかり復習してください。
- ・予習時間 1 時間、復習時間 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年（電子書籍あり <https://bit.ly/3qFDQny> ）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 100 %

・小テストとは、学習支援システムを使用した Web テストです。複数回実施する小テストにより評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布、Web テスト、授業連絡等に学習支援システムを使用するため、最低限スマートフォンが必要です。(パソコンは必須ではありません)

【その他の重要事項】

「マクロ経済学B」は、春学期の「マクロ経済学A」の内容を前提とした講義になります。

【Outline and objectives】

When you take this course, you can explain basic macroeconomics and consider our society from an independent perspective.

ECN200CA

ミクロ経済学 A

篠原 隆介

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済問題・経済事象をミクロ経済学の視点から分析する際に必要な基本知識を習得する。まず、市場取引の理論の基本概念である「需要と供給の理論」について学習する。次に、複数の主体間の相互依存関係を分析する道具として「ゲーム理論」を学習する。本講義では、特に、戦略形ゲームの応用例や分析手順（＝ナッシュ均衡の導出）について、学習する。

【到達目標】

本講義では、現代経済における人と人、企業と人、国家と人などの主体間の相互依存関係をミクロ経済学的な視点から分析し理解する能力を習得し、相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを、論理的に判断できる力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

下記指定の教科書と講義資料に基づき講義を行う。

本講義はオンラインで開講する（オンデマンド型・リアルタイム型の併用）初回のガイダンスはオンデマンド型で行い、これ以降の講義は初回講義にて指示する。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ミクロ経済学とは	ミクロ経済学の学習内容について。
2	需要と供給の理論 (1)	支払意思と需要。需要関数と逆需要関数。
3	需要と供給の理論 (2)	企業の意味決定に重要な費用概念について。
4	需要と供給の理論 (3)	限界費用と平均費用、企業の意味決定にどのように影響を与えるか。
5	需要と供給の理論 (4)	供給曲線の導出について。
6	需要と供給の理論 (5)	総余剰、消費者余剰、生産者余剰とは。
7	需要と供給の理論 (6)	市場均衡と配分効率性について。
8	需要と供給の理論 (7)	完全競争市場と不完全競争市場、ゲーム理論はなぜミクロ経済分析において必要とされているのか。
9	選択と意思決定 (1)	リスク、期待効用、不確実性について。
10	選択と意思決定 (2)	リスクに対する態度（危険回避、中立、愛好）について。
11	戦略形ゲーム (1)	戦略形ゲームについて（さまざまな例の提示）。
12	戦略形ゲーム (2)	純粋戦略と混合戦略について。
13	戦略形ゲーム (3)	ナッシュ均衡の定義と導出方法について。
14	春学期講義の総括	春学期の学習内容を復習し、理解度確認のための問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。各自、講義の前で練習問題を解き、理解度を確認すること。

【テキスト（教科書）】

・「需要と供給の理論」の講義資料は、学習支援システムに掲載する。
・第 9 回目講義以降の「ゲーム理論」の学習では、下記のテキストを用いる。

・岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために 新版』有斐閣、2014 年

【参考書】

0. 井堀利宏『入門ミクロ経済学』新世社、2019 年

1. 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015 年

2. 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社、2000 年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（100%）により評価を行う。詳細については、学習支援システムにて知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

①「現代経済学入門（基礎）」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。

②本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

③授業に関するお知らせは、学習支援システムを通して行う。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge in order to analyze economic problems and phenomena from the viewpoint of microeconomics. First, the students learn the standard theory of market transactions (that is, the theory of demand and supply). Second, the students learn the game theory, which examines the interactions among economic players. In this course, the students particularly study some economic applications of the strategic games and the way to derive the Nash equilibrium.

ECN200CA
ミクロ経済学 B
篠原 隆介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学 A に引き続き、経済問題・経済事象をミクロ経済学の視点から分析する際に必要な基本知識を習得する。第一に、戦略形ゲームの経済問題の応用としてクールノー寡占市場ゲームと公共財供給ゲームを紹介し、分析する。第二に、集団合理性と個人合理性の関係を考察するため、パレート最適性の概念を学習し、上記の応用ゲームに適用する。第三に、逐次的なゲームとその応用例を学習する。形式的な定式化として、展開型ゲームにおける基本知識を学習する。最後に、これまで習得したゲーム理論の基本知識を応用し、繰り返しゲーム理論について学習する。

【到達目標】

ミクロ経済学 A に引き続き、現代経済における様々な主体間の相互依存関係を分析対象とするゲーム理論を習得し、主体間の相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを主体的かつ客観的に考察できる力を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

指定の教科書と練習問題集に基づき講義を行う。ミクロ経済学 A の講義内容を前提として、講義を行う。

本講義はオンラインで開講する（オンデマンド型・リアルタイム型の併用）初回のガイダンスはオンデマンド型で行い、これ以降の講義は初回講義にて指示する。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学習内容について。ミクロ経済学 A との関連について。
2	戦略形ゲームの応用 (1)	クールノー寡占市場ゲームとナッシュ均衡の導出について。
3	戦略形ゲームの応用 (2)	公共財供給ゲーム、およびこのゲームのナッシュ均衡の導出について。
4	利害対立と協調 (1)	個人合理性 vs 集団合理性
5	利害対立と協調 (2)	パレート最適性について。応用例での導出。
6	ダイナミックなゲーム	逐次的なゲームとその例、ゲームの木、先読み推論について。
7	逐次手番ゲーム応用	シュタッケルベルグ寡占市場ゲームと先導者の利益について。
8	展開型ゲーム (1)	情報集合、部分ゲーム、部分ゲーム完全均衡について Part 1。
9	展開型ゲーム (2)	情報集合、部分ゲーム、部分ゲーム完全均衡について Part 2。
10	繰り返しゲーム (1)	2 回繰り返し囚人のジレンマのナッシュ均衡と部分ゲーム完全均衡について。
11	繰り返しゲーム (2)	無限回繰り返し囚人のジレンマについて。

12	繰り返しゲーム (3)	無限回繰り返し囚人のジレンマのトリガー戦略とフォーク定理について Part 1 。
13	繰り返しゲーム (4)	無限回繰り返し囚人のジレンマのトリガー戦略とフォーク定理について Part 2 。
14	復習と練習問題演習	秋学期の学習内容を復習し、練習問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。各自、講義の前で練習問題を解き、理解度を確認すること。

【テキスト（教科書）】

岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために 新版』有斐閣、2014 年
学習支援システムにて、補助資料を配布する。

【参考書】

1. 井堀利宏『入門ミクロ経済学』新世社、2019 年
2. 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015 年
3. 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社、2000 年

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した課題 (100%) により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

予習をし、授業に参加し、復習をしてください。そうすれば、自然と講義内容を理解できると思います。

【その他の重要事項】

- ①「現代経済学入門（基礎）」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。
- ②本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。
- ③授業に関するお知らせは、学習支援システムを通して行う。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge in order to analyze economic problems and phenomena from the viewpoint of microeconomics. The contents of this course are as follows:

- 1) Economic applications of the strategic games: the Cournot oligopoly game and the public good provision game.
- 2) The theory of sequential games and its application to the oligopoly market (the Stackelberg oligopoly games)
- 3) Repeated games of the prisoners' dilemma.

ECN300CA
現代経済学応用 A
八木橋 毅司
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではマクロ経済学の基礎講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・初歩的なマクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。また講義資料を補完するものとして、演習問題の解説動画、タブレットを用いた手書きファイルも随時配布します。教材は指定された教科書以外では官公庁・シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌・その他オンラインメディアも活用する予定です。各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題または小テストを通じ理解度のチェックを行います。講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第 1 回の講義前後にアナウンスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	科学としてのマクロ経済学	オリエンテーション、マクロ経済学概説
第 2 回	マクロ経済学のデータ	国内総生産、消費者物価指数、失業率
第 3 回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	生産
第 4 回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	所得分配
第 5 回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	支出
第 6 回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	財市場の均衡
第 7 回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	金融市場の均衡
第 8 回	開放経済	開放経済（小国）モデル
第 9 回	開放経済	為替レート：名目対実質
第 10 回	開放経済	為替レートの決定要因
第 11 回	景気変動へのインテロダクション	景気変動に関するデータ

- 第 12 回 総需要 1：IS-LM 財市場と IS 曲線
モデルの構築
- 第 13 回 総需要 1：IS-LM 貨幣市場と LM 曲線
モデルの構築
- 第 14 回 総需要 2：IS-LM 財政、金融政策
モデルの応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1 回につき 4 時間程度を標準とします。それ以外でも日々の経済ニュースを各種メディアを通じて吸収するよう心がけてください。

【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学 1：入門編』東洋経済新報社、2017 年、4,180 円（税込）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、宿題・小テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため特になし

【Outline and objectives】

This course is designed to provide an introduction to the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

ECN300CA
現代経済学応用 B
八木橋 毅司
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではマクロ経済学の基礎講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・初歩的なマクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義は基本的に教科書をベースとしたパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。また講義資料を補完するものとして、演習問題の解説動画、タブレットを用いた手書きファイルも随時配布します。教材は指定された教科書以外では官公庁・シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌・その他オンラインメディアも活用する予定です。

各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題または小テストを通じ理解度のチェックを行います。

講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第 1 回の講義前後にアナウンスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	総需要 2：IS-LM モデルの応用	総需要・総供給モデルの短長期分析
第 2 回	失業と労働市場	失業率に関するデータ、長期均衡
第 3 回	失業と労働市場	労働市場と賃金決定メカニズム
第 4 回	経済成長	経済成長に関するデータ
第 5 回	経済成長	ソローモデル
第 6 回	貨幣システム：どのようなものどのように機能するか	信用創造と銀行システム
第 7 回	インフレーション：原因と影響と社会的コスト	インフレの仕組み
第 8 回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	総供給曲線
第 9 回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	フィリップス曲線と自然失業率

第 10 回	経済変動の動学モデル	動学モデルにおける総需要・総供給
第 11 回	経済変動の動学モデル	動学モデルを使った政策分析
第 12 回	消費	消費者行動の理論
第 13 回	投資	投資の理論
第 14 回	政府負債と財政赤字	財政の持続可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1 回につき 4 時間程度を標準とします。それ以外でも日々の経済ニュースを各種メディアを通じて吸収するよう心がけてください。

【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅰ：入門編』東洋経済新報社、2017 年、4,180 円（税込）

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅱ：応用編』東洋経済新報社、2018 年、4,180 円（税込）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、宿題・小テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course is designed to provide an introduction to the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied. This course is designed to provide an introduction to the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

ECN200CA
マクロ経済学 A
森田 裕史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学的な手法を用いて、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。

【到達目標】

- 1：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
- 2：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ビデオ教材を利用したオンデマンド形式の授業です。適宜、学習支援システムを利用して確認テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス
第 2 回	GDP について（1）	GDP とは
第 3 回	GDP について（2）	GDP に関連した概念
第 4 回	GDP について（3）	質問の受付：GDP について
第 5 回	GDP についての総括	確認テスト 1：GDP について
第 6 回	長期モデル 1（1）	総供給と総需要の決定
第 7 回	長期モデル 1（2）	財市場の均衡と与件の変化
第 8 回	長期モデル 1（3）	質問の受付：長期モデル 1
第 9 回	長期モデル 1 の総括	確認テスト 2：長期モデル 1
第 10 回	長期モデル 2（1）	貨幣と貨幣需要について
第 11 回	長期モデル 2（2）	貨幣市場の均衡と政策の効果
第 12 回	長期モデル 2（3）	質問の受付：長期モデル 2
第 13 回	長期モデル 2 の総括	確認テスト 3：長期モデル 2
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古澤泰治・塩路悦朗、『ベーシック経済学一次につながる基礎固め（新版）』、有斐閣アルマ、2018 年。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

確認テスト 1～3（30%）と期末テスト（70%）に基づいて成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつのトピックが終わるごとに確認テストを行うことで、学生に知識の定着を促す。

【その他の重要事項】

教科書の内容に沿った講義なので、必ず教科書を購入するようにして下さい。

確認テストや期末テストを実施する回は決まっていますので、計画的にビデオ教材を視聴するようにして下さい。

授業内容に関する質問は、学習支援システム上の「掲示板」の機能を利用してください。

【Outline and objectives】

In this course, the students learn the economic data related with macroeconomic analysis and the basic macro economic model.

ECN200CA
マクロ経済学B
森田 裕史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学的な手法を用いて、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。

【到達目標】

- 1：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
- 2：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ビデオ教材を利用したオンデマンド形式の授業です。適宜、学習支援システムを利用して確認テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス
第2回	短期モデル（1）	短期モデルにおける財市場
第3回	短期モデル（2）	短期モデルにおける貨幣市場
第4回	短期モデルの総括	確認テスト1：短期モデル
第5回	人々の将来予想と経済変動（1）	家計の将来予想
第6回	人々の将来予想と経済変動（2）	企業による価格設定
第7回	人々の将来予想と経済変動の総括	確認テスト2：人々の将来予想と経済変動
第8回	経済成長モデル（1）	経済成長モデルの構造と生産関数
第9回	経済成長モデル（2）	ソロー・スワン経済成長モデル
第10回	経済成長モデル（3）	人口成長と技術進歩の役割
第11回	経済成長モデルの総括	確認テスト3：経済成長モデル
第12回	日本経済とマクロ経済学	失われた10年の原因
第13回	これまでの授業の復習	予備：質問の受付
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古澤泰治・塩路悦朗、『ベーシック経済学一次につながる基礎固め（新版）』、有斐閣アルマ、2018年。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

確認テスト1～3（30%）と期末テスト（70%）に基づいて成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつのトピックが終わるごとに確認テストを行うことで、学生に知識の定着を促す。

【その他の重要事項】

教科書の内容に沿った講義なので、必ず教科書を購入するようにして下さい。

確認テストや期末テストを実施する回は決まっているので、計画的にビデオ教材を視聴するようにして下さい。
授業内容に関する質問は、学習支援システム上の「掲示板」の機能を利用して下さい。

【Outline and objectives】

In this course, the students learn the economic data related with macroeconomic analysis and the basic macro economic model.

ECN200CA
ミクロ経済学 A
平井 俊行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学 A では特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分について学ぶ。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
- ・簡単なミクロ経済モデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はオンラインでの開講となります。オンデマンド型・リアルタイム型を併用します。第 1 回はオンデマンド型でおこないます。第 2 回目以降は第 1 回のガイダンスで指示します。また、適宜オンラインでの課題をおこないます。課題へのフィードバックは Hoppii のフィードバック機能を用いておこなわれます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・数学準備	講義の進め方。数学準備
2	部分均衡分析 (1)	需要曲線・供給曲線と市場均衡。比較静学。
3	部分均衡分析 (2)	余剰分析。
4	部分均衡分析 (3)	課税の影響。
5	消費者行動 (1)	選好・効用・無差別曲線。予算制約線。
6	消費者行動 (2)	限界代替率と需要の導出。
7	消費者行動 (3)	代替効果・所得効果。
8	生産者行動 (1)	等生産量曲線・等費用線。
9	生産者行動 (2)	生産要素間の限界代替率と費用関数。
10	生産者行動 (3)	供給の導出。
11	生産者行動 (4)	長期の供給と短期の供給。
12	一般均衡分析 (1)	契約曲線・パレート効率性・コア。
13	一般均衡分析 (2)	厚生経済学の基本定理。
14	まとめ	講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド（穴埋め式）を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。（各 2 時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014 年、日本評論社、3200 円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 基礎編」2017 年、東洋経済新報社、3200 円+税
- ③ レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017 年、東洋経済新報社、3600 円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、オンライン課題 30 %

【学生の意見等からの気づき】

話すスピードが速くなりすぎないようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム (Hoppii) を利用する予定。詳細は第 1 回目の講義で説明する。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline and objectives】

This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market.

ECN200CA
ミクロ経済学B
平井 俊行
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Bでは不完全競争市場・外部性・情報の非対称性を学ぶ。これらの分析に必須となるゲーム理論の学習もおこなう。

【到達目標】

・ミクロ経済学・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
 ・実際の経済事象を必要に応じて不完全市場・外部性・情報の非対称性の問題と関連づけて捉えることができる。
 ・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度はオンライン講義でおこないます。オンデマンド型とリアルタイム型を併用します。第1回目はオンデマンド型でおこない、それ以降については第1回目のガイダンスで指示します。また、Hoppiiの機能を通じたオンライン課題をおこないます。フィードバックも Hoppii のフィードバック機能を利用しておこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概説・講義の進め方。
2	ゲーム理論 (1)	戦略形ゲームの導入。期待利得の解説。
3	ゲーム理論 (2)	最適反応戦略とナッシュ均衡。
4	ゲーム理論 (3)	(弱) 支配戦略。
5	ゲーム理論 (4)	混合戦略ナッシュ均衡。
6	不完全競争市場 (1)	独占市場。
7	不完全競争市場 (2)	数量競争寡占市場。
8	不完全競争市場 (3)	価格競争財寡占市場。
9	ゲーム理論 (5)	展開形ゲーム。
10	ゲーム理論 (6)	部分ゲーム完全均衡。後向き帰納法。
11	ゲーム理論 (7)	繰返しゲームと、カルテルとしての独占の発生。
12	外部性 (1)	外部 (不) 経済と市場の欠落。ピグー税・補助金。
13	外部性 (2)	公共財供給問題・VCG メカニズム。
14	まとめ	講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド (穴埋め式) を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。(各 2 時間が標準)

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014 年、日本評論社、3200 円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C. [著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017 年、東洋経済新報社、3600 円+税
- ③ 岡田章「ゲーム理論・入門 - 人間社会の理解のために- 新版」2014 年、有斐閣アルマ、1900 円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、オンライン課題 30 %

【学生の意見等からの気づき】

話すスピードが速くなりすぎないようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。詳細は第1回目の講義で説明する。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline and objectives】

This course introduces microeconomic theory, especially situations called imperfect competition, externalities, and asymmetric information. This course also introduces game theory that is essential for analyzing these situations.

ECN200CA
財政学A (市ヶ谷開講)
島澤 諭
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政や金融を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	財政の役割 (1)	経済活動と政府、財政の役割、大きな政府と小さな政府
第3回	財政制度 (1)	財政と法律、予算制度
第4回	財政制度 (2)	財政投融资、地方財政制度
第5回	通貨金融についての基礎知識 (1)	金融の概念、金融機関の役割
第6回	通貨金融についての基礎知識 (2)	通貨の概念、通貨の供給、通貨の需要
第7回	金融・資本市場 (1)	相対市場と公開市場、短期金融市場と長期金融市場
第8回	金融・資本市場 (2)	金融派生商品市場、オンショア市場とオフショア市場
第9回	日本の財政問題 (1)	財政赤字の累増、財政赤字の構造的要因
第10回	日本の財政問題 (2)	財政赤字の問題点
第11回	政府支出の理論と実際 (1)	政府支出の理論
第12回	政府支出の理論と実際 (2)	政府支出の膨張要因、政府支出の構造
第13回	租税の原則と経済効果 (1)	税の役割と租税原則
第14回	租税の原則と経済効果 (2)	公平な税とは、課税と経済効率

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- (3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- (4) 小黒一正等『財政学 15 講』新世社
- (5) 林宜嗣等『財政学（第4版）』新世社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、中間課題（40 %）と期末レポート（60 %）で評価することを予定。

課題等の提出及びフィードバックとして課題・期末試験の解答の解説（や小テストを実施した場合の解説）を「学習支援システム」を通じて行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

ECN200CA
財政学B (市ヶ谷開講)
島澤 諭
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

日本財政や金融、社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障制度、金融政策の効果について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	社会保障の財政問題Ⅰ（1）	超高齢社会と社会保障
第3回	社会保障の財政問題Ⅰ（2）	最低生活の保障、年金問題
第4回	社会保障の財政問題Ⅱ（1）	医療と財政
第5回	社会保障の財政問題Ⅱ（2）	社会福祉の改革
第6回	景気変動と財政政策（1）	国民所得の決定
第7回	景気変動と財政政策（2）	乗数、ビルトインスタビライザー
第8回	景気変動と財政政策（3）	財政政策の効果
第9回	景気変動と金融政策（1）	通貨と実体経済のかかわり
第10回	景気変動と金融政策（2）	インフレーションとデフレーション
第11回	公債の負担（1）	公債とは、公債発行の問題点、クラウディングアウト
第12回	公債の負担（2）	公債の将来世代に対する負担
第13回	公債の負担（3）	中立命題
第14回	世代会計	世代会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社

- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
(3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
(4) 小黒一正等『財政学 15 講』新世社
(5) 小塩隆士『社会保障の経済学 (第 4 版)』日本評論
(6) 島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、中間課題 (40 %) と期末レポート (60 %) で評価することを予定。

課題等の提出及びフィードバックとして課題・期末試験の解答の解説 (や小テストを実施した場合の解説) を「学習支援システム」を通じて行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、経済企画庁 (現内閣府) の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

ECN200CA
経済政策論 A (市ヶ谷開講)
濱秋 純哉
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策 (公共政策)」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、経済学の余剰分析の考え方にに基づき考察を加える。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、経済学の余剰分析の考え方にに基づき、外部性の問題や望ましい公共財の供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評 (多かった間違いや興味深い回答の紹介など) を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学で経済政策を考える意味
2	市場の働き 1	完全競争市場とは何か
3	市場の働き 2	需要曲線と供給曲線
4	市場の働き 3	消費者余剰の図示
5	弾力性の概念	価格弾力性とは何か
6	企業行動と生産者余剰 1	様々な費用の概念
7	企業行動と生産者余剰 2	企業の利潤最大化行動と供給曲線
8	企業行動と生産者余剰 3	生産者余剰の図示
9	外部性 1	外部性の概念
10	外部性 2	外部性の存在と市場の効率性
11	外部性 3	規制、ピグー税、及び排出権市場による外部性の問題の解決
12	公共財 1	排除可能性と消費の競合性
13	公共財 2	公共財の最適供給の条件、公共財の自発的供給
14	公共財 3	国家公共財と地方公共財

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

八田達夫、2008、『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー、2013、『マンキュー経済学 I ミクロ編 [第 3 版]』東洋経済新報社

【参考書】

小川光・西森見、2015、『公共経済学』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50%)、3 回の宿題 (40%)、復習問題の回答の提出 (10%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline and objectives】

Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

ECN200CA
経済政策論 B (市ヶ谷開講)
濱秋 純哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学の IS-LM 分析の手法を用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討を行う。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	データで見る日本経済 1	GDP の概念と作成方法
3	データで見る日本経済 2	物価指数の概念と作成方法
4	データで見る日本経済 3	失業率の概念と作成方法
5	雇用問題 1	摩擦的失業への政策的対処
6	雇用問題 2	最低賃金引き上げの影響
7	雇用問題 3	若年者の雇用問題, 「世代効果」への政策的対処
8	IS-LM モデルの構築 1	ケインジアン の交差図, 乗数効果
9	IS-LM モデルの構築 2	IS 曲線の導出
10	IS-LM モデルの構築 3	貨幣量の測定とコントロール
11	IS-LM モデルの構築 4	LM 曲線の導出
12	IS-LM モデルの応用 1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
13	IS-LM モデルの応用 2	金融政策の効果
14	IS-LM モデルの応用 3	「流動性の罠」の下での財政政策と金融政策の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、経済政策論 A を履修済みのことが望ましい。また、授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

N・グレゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学 I（第 4 版）』東洋経済新報社

【参考書】

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、3 回の宿題（40%）、復習問題の回答の提出（10%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline and objectives】

Governments and central banks conduct economic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM analysis. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

ECN200CA
国際経済論 A (市ヶ谷開講)
田村 晶子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、F T A や E P A などが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第 2 回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第 3 回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第 4 回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第 5 回	資源と貿易①	ヘクシャー・オリーンモデルの仮定
第 6 回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第 7 回	グローバル経済の企業	輸出の判断と多国籍企業
第 8 回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果、費用と便益
第 9 回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第 10 回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制の効果
第 11 回	貿易政策の政治経済	自由貿易の進展、WTO
第 12 回	地域貿易協定の効果	F T A が与える影響
第 13 回	貿易政策をめぐる論争	戦略的貿易政策
第 14 回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡校訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第 10 版）上:貿易編』丸善出版、2017 年
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第 2 版）』有斐閣、2013 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（13 回を予定）（30 %）と、期末に行う定期試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

進捗を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

Students study the basics of International Trade. Students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Then students consider the international trade framework with Free Trade Agreements.

ECN200CA
国際経済論 B (市ヶ谷開講)
田村 晶子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を学習支援システムから出し、自動採点で得点をフィードバックします。次の授業で解き方を解説し、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際収支表の項目	日本の国際収支表の見方
第 2 回	国際収支の記入方法	国際収支表の記入例
第 3 回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第 4 回	外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第 5 回	外国為替取引の種類	さまざまな外国為替取引
第 6 回	短期為替レート決定①	外国為替市場における需給の一致
第 7 回	短期為替レート決定②	金融政策と為替レート
第 8 回	短期為替レート決定③	先渡為替レートとリスク要因
第 9 回	長期為替レート決定①	絶対的、相対的購買力平価
第 10 回	長期為替レート決定②	実質為替レートと貿易
第 11 回	外国為替介入	外国為替市場介入の効果
第 12 回	最適通貨圏の理論	固定為替レートの範囲
第 13 回	国際金融体制	国際金融における課題
第 14 回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第 10 版）下：金融編』丸善出版、2017 年
清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年
高木信二著「入門国際金融（第 4 版）」日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の練習問題（30 %）と、期末に行う定期試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy.

ECN300CA
特別講義（寄付講座 証券市場論）
大和証券（株）
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の 3 点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。

①金融商品市場の機能と役割を理解する。

②金融商品市場での主な商品（株式・債券・投資信託）を学ぶ。

③ M & A など、最近の市場動向や新しい潮流を知る。

講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実と直面しているテーマに触れる。

【到達目標】

株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べることが出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

進め方としては、資料を熟読し、15～20 分程度の小テストをして頂く予定です。フィードバックについては、小テストの結果概要を次週講義時に公表し、理解度の低いところを認識してもらい再度重点的に勉強してもらえよう指導いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第 2 回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第 3 回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第 4 回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第 5 回	株式市場①	株式の種類
第 6 回	株式市場②	株価の形成要因
第 7 回	債券市場①	債券のキーワード
第 8 回	債券市場②	債券の利回り
第 9 回	投資信託	投資信託の特徴
第 10 回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第 11 回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第 12 回	M & A	最近の事例紹介
第 13 回	証券関連規制と証券会社 総括	証券関連規制の枠組み
第 14 回	試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の準備学習については特になし。復習時間として 4 時間程度。

【テキスト（教科書）】

各回講義用のレジュメを配布する。

【参考書】

必要に応じて参考文献を指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施（50%）
期末試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート実施なし

【その他の重要事項】

現役の証券会社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

【Outline and objectives】

This lecture is the basic course on financial products. Taking the following three points into consideration, we will analyze the upcoming role of the financial products on the market.

- 1.To understand the function and role of the financial products on the market.
- 2.To learn about main products such as equity, bond, and investment trust.
- 3.To understand the current trend of the market such as M&A. We will invite experts who have understanding of financial market as instructors. The lecture will not only cover the key logics of financial market, but also deal with the realistic topics that you face every day.

ECN200CA
寄付講座 わが国金融の現状と課題
寄付講座担当教員
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融をとりまく環境は、経済社会の構造変化（少子高齢化等）だけでなくデジタル化によって、加速度的に変化しています。本講義では、経済・企業の持続的成長や家計の安定的資産形成のために、これからの金融はどうあるべきなのか、といった政策的なテーマについて考察していきます。実際に政策を担当する金融庁職員による講義を通じ、政策形成の現実やダイナミズムについても学びます。

【到達目標】

- ①社会に出るにあたって不可欠となる金融リテラシー（お金との賢い付き合い方）を身につけることができる。
- ②金融の世界で何が起きているのか、金融はこれからどう変わっていくのかというトピカルなテーマについて、現実的な視点から理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドの資料を用いてオンラインで実施します。
フィードバックについては最終授業で 13 回までの講義内容について説明いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、 お金との賢い付き合い方①	本講義のねらい、金融リテラシーの必要性、お金を「使う」
2	お金との賢い付き合い方②	人生 100 年時代の資産形成：お金を「ためる」、「借りる」「増やす」
3	お金との賢い付き合い方③	共助と公助：お金を「備える」（社会保障や税財政の役割）
4	銀行の役割	銀行業をめぐる現状と課題
5	金融 × 地方創生	地域金融機関に期待される役割
6	金融 × デジタル	フィンテックのインパクト
7	証券市場	証券市場をめぐる現状と課題
8	市場の番人	証券取引等監視委員会の役割
9	金融 × 企業	企業会計・コーポレートガバナンス
10	保険	保険をめぐる現状と課題
11	金融 × 環境	S D G s
12	金融 × 外交	金融をめぐる国際的な協力
13	金融の将来像	デジタルイゼーション
14	金融行政当局	金融庁で働くということ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。講義内容の大半は現下の政策課題に関するものになりますので、理解を深めるためには、新聞等のメディアのニュースについて、日頃からアンテナを高く張って自分なりに咀嚼することが求められます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回の講義資料を学習支援システムでアップロードします。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

講義のテーマとなる政策課題を金融庁で実際に担当している現役職員（含む本学OB OG）によるオムニバス形式の授業となります。

【Outline and objectives】

The course is designed to help students understand the issues of Japanese financial system. Each lecture is given by an FSA (Financial Services Agency) official who is in charge of corresponding policy issues, so that students will be able to grasp priorities and challenges ahead.

LANe200CA

Business Communication I A

GLENN FERN

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class. Students will be asked to buy the textbook and be familiar with it for the next class.
2	Career choices	Career versus salary man. The difference between these difficult choices will be explored in a class lecture and group discussions
3	Job search techniques	What is the best way to find your dream job? A variety of different job search techniques will be explored in class.

4	Resume	The difference between a traditional Japanese resume and a Western style resume in English will be explored. Students will create their own resume in English.	13	Student individual presentations	Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting trend they have discovered in a popular business publication. A Q&A will follow, along with a brief discussion of the trend.
5	Job interview styles	The different types of job interviews used by companies around the world will be examined in class. Students will be expected to participate in a group discussion	14	Semester review and group discussions	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.
6	Job interview questions and simulations	Common job interview questions will be given and discussed. Job interview simulations will be practiced in class.	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.		
7	Interview Test	All students will be required to under go a one on one job interview test with the instructor. Individual feedback to students will be provided by the instructor.	【テキスト（教科書）】 Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964		
8	Trends in business	The importance of being aware of and following common trends in business and society will be discussed. Students will examine popular business publications, and search for important business trends.	【参考書】 None		
9	Describe the business of a company	An over view of the textbook, Global Links 2 will be given. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 1, Talking About Your Company. Students will learn how to describe the business of a company.	【成績評価の方法と基準】 Participation in class discussion and activities : 40% Tests : 20% Presentations : 40%		
10	Developing a presentation	Group work: Students will work together to develop a presentation describing the business of a company of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required	【学生の意見等からの気づき】 Not applicable		
11	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.	【学生が準備すべき機器他】 None		
12	Student group presentations	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.	【その他の重要事項】 None		
			【Outline and objectives】 The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.		

LANe200CA
Business Communication I B
GLENN FERN
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class during the second semester. Students will be asked to familiarize themselves with Unit 6 in the textbook, Describing Processes. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 6, Describing Processes. Students will learn how to describe a variety of business processes.
2	Describing processes	

3	Describing processes group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a business process of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
4	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
5	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
6	Corporate problem solving	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 5, Turning a Company Around. Students will learn how to identify a problem and develop a plan to solve the problem.
7	Corporate problem solving group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a corporate problem and how a company solved that problem. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
8	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
9	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

10	Managing change in a corporation	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 8, Managing Change. Students will learn about the importance of managing change at the personal and corporate level in a Darwinian world.
11	Managing change group work	Group work: Students will work together to develop a presentation, describing a change(s) a company had to make in order to adapt and achieve its corporate goals. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
12	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
13	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
14	Course review and discussion	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

【テキスト（教科書）】

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

LANe200CA
Business Communication I A
GLENN FERN
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class. Students will be asked to buy the textbook and be familiar with it for the next class.
2	Career choices	Career versus salary man. The difference between these difficult choices will be explored in a class lecture and group discussions.
3	Job search techniques	What is the best way to find your dream job? A variety of different job search techniques will be explored in class.

4	Resume	The difference between a traditional Japanese resume and a Western style resume in English will be explored. Students will create their own resume in English.
5	Job interview styles	The different types of job interviews used by companies around the world will be examined in class. Students will be expected to participate in a group discussion.
6	Job interview questions and simulations	Common job interview questions will be given and discussed. Job interview simulations will be practiced in class.
7	Interview Test	All students will be required to under go a one on one job interview test with the instructor. Individual feedback to students will be provided by the instructor.
8	Trends in business	The importance of being aware of and following common trends in business and society will be discussed. Students will examine popular business publications, and search for important business trends.
9	Describe the business of a company	An over view of the textbook, Global Links 2 will be given. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 1, Talking About Your Company. Students will learn how to describe the business of a company.
10	Developing a presentation	Group work: Students will work together to develop a presentation describing the business of a company of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
11	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
12	Student group presentations	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

- 13 Student individual presentations Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting trend they have discovered in a popular business publication. A Q&A will follow, along with a brief discussion of the trend.
- 14 Semester review and group discussions A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

【テキスト（教科書）】

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【Outline and objectives】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

LANe200CA
Business Communication I B
GLENN FERN
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class during the second semester. Students will be asked to familiarize themselves with Unit 6 in the textbook, Describing Processes. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 6, Describing Processes. Students will learn how to describe a variety of business processes.
2	Describing processes	

3	Describing processes group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a business process of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.	10	Managing change in a corporation	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 8, Managing Change. Students will learn about the importance of managing change at the personal and corporate level in a Darwinian world.
4	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.	11	Managing change group work	Group work: Students will work together to develop a presentation, describing a change(s) a company had to make in order to adapt and achieve its corporate goals. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
5	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.	12	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
6	Corporate problem solving	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 5, Turning a Company Around. Students will learn how to identify a problem and develop a plan to solve the problem.	13	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
7	Corporate problem solving group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a corporate problem and how a company solved that problem. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.	14	Course review and discussion	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.
8	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.		
9	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.	【テキスト（教科書）】 Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964		
			【参考書】 None		
			【成績評価の方法と基準】 Participation in class discussion and activities : 40% Tests : 20% Presentations : 40%		
			【学生の意見等からの気づき】 Not applicable		

【Outline and objectives】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

LANe300CA
Business Communication II A
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this course is to prepare students for the increasingly global corporate environment that awaits them after graduation. They will not only improve their business communication skills. They will also become more "business literate" and "global minded" by examining and discussing current issues in business.

【到達目標】

The goals of the course are: (1)improving communication skills; (2) increasing knowledge of current business trends, and (3) thinking critically about businesses and their impact on society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

By discussing articles and exchanging ideas in small groups, students will become familiar with basic business concepts, trends, and terminology as well as improve their workplace communication skills.

*Feedback on assignments/tests will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations; explanation of the goals of the class, self-introductions, etc.
2	Business and Fashion	Lecture/discussion: The fast fashion industry's business model and its impact.
3	Employment strategies at UNIQLO Japan	Reading/discussion: Uniqlo's pricing strategy, Nikkei interview with Tadashi Yanai
4	Global supply chains and ethical business practices in the fast fashion industry (1)	Lecture/discussion: Ethical Issues in the Global Fast Fashion Industry (1)
5	Global supply chains and ethical business practices in the fast fashion industry (2)	Reading/discussion: Ethical Issues in the Global Fast Fashion Industry (2)
6	Slow fashion and Japan's brand image	Reading/discussion: Japanese brands; in-class writing assignment
7	The Fashion Industry and sustainability (1)	Lecture/discussion: Ways to improve the fashion industry's environmental record
8	The Fashion Industry and sustainability (2)	Reading/discussion: Alternative fabrics and recycling in the global fashion industry

9	Changes in the fashion industry (1)	Lecture/discussion: COVID19's impact on the fashion industry
10	Changes in the fashion industry (2)	Reading/discussion: COVID19's impact on the fashion industry; case study of Gucci
11	Considering the impact of the fashion business in various context	Student-led presentations and discussion
12	Considering the impact of the fashion business in various context	Student-led presentations and discussion
13	Considering the impact of the fashion business in various context	Student-led presentations and discussion; Writing assignment
14	Wrap up and review	Feedback on writing assignment and final review

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to prepare students for the increasingly global corporate environment that awaits them after graduation. They will not only improve their business communication skills. They will also become more "business literate" and "global minded" by examining and discussing current issues in business.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) Taking business courses offered at Hosei
 (2) Reading and learning about recent business news
 (3) Preparing for quizzes, presentations, and other activities
 Since the theme of the spring semester is the fashion industry and its impact on the environment and society, having an interest in this topic is preferable.
 Regular (daily) study is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. The articles (mainly from the English version of the Nikkei Newspaper) are available via the university's database.

【参考書】

In this class, articles from the following publications are used:
 The Nikkei Newspaper
 The Economist
 The Atlantic
 New York Times
 The Japan Times

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
 (2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method (presentation/video or test) is subject to change.
 The participation policy for this class is strict, and students should consider it very carefully before registering. Students are expected to attend all of the classes and to be on time.

【学生の意見等からの気づき】

None. Students are welcome to make requests and voice complaints/concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Get the Merriam Webster (free) app for your cell phone!

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS (OF EACH SEMESTER) TO APPLY.
 Students are strongly encouraged to complete Business Communication IA/B before enrolling in this course.
 *This course is designed for intermediate-level language learners, who wish to improve their communication skills and gain some basic knowledge of business.

【none】

Students are strongly encouraged to complete Business Communication IA/B before enrolling in this course.

LANe300CA

Business Communication II A

YONGUE JULIA SALLE

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3 | キャンパス：多摩

毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics

備考（履修条件等）：

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this course is to prepare students for the increasingly global corporate environment that awaits them after graduation. They will not only improve their business communication skills. They will also become more "business literate" and "global minded" by examining and discussing current issues in business.

【到達目標】

The goals of the course are: (1)improving communication skills; (2) increasing knowledge of current business trends, and (3) thinking critically about businesses and their impact on society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

By discussing articles and exchanging ideas in small groups, students will become familiar with basic business concepts, trends, and terminology as well as improve their workplace communication skills.

*Feedback on assignments/tests will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations; explanation of the goals of the class, self-introductions, etc.
2	Business and Fashion	Lecture/discussion: The fast fashion industry's business model and its impact.
3	Employment strategies at UNIQLO Japan	Reading/discussion: Uniqlo's pricing strategy, Nikkei interview with Tadashi Yanai
4	Global supply chains and ethical business practices in the fast fashion industry (1)	Lecture/discussion: Ethical Issues in the Global Fast Fashion Industry (1)
5	Global supply chains and ethical business practices in the fast fashion industry (2)	Reading/discussion: Ethical Issues in the Global Fast Fashion Industry (2)
6	Slow fashion and Japan's brand image	Reading/discussion: Japanese brands; in-class writing assignment
7	The Fashion Industry and sustainability (1)	Lecture/discussion: Ways to improve the fashion industry's environmental record
8	The Fashion Industry and sustainability (2)	Reading/discussion: Alternative fabrics and recycling in the global fashion industry
9	Changes in the fashion industry (1)	Lecture/discussion: COVID19's impact on the fashion industry
10	Changes in the fashion industry (2)	Reading/discussion: COVID19's impact on the fashion industry; case study of Gucci
11	Considering the impact of the fashion business in various context	Student-led presentations and discussion
12	Considering the impact of the fashion business in various context	Student-led presentations and discussion
13	Considering the impact of the fashion business in various context	Student-led presentations and discussion; Writing assignment
14	Wrap up and review	Feedback on writing assignment and final review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) Taking business courses offered at Hosei

(2) Reading and learning about recent business news

(3) Preparing for quizzes, presentations, and other activities

Since the theme of the spring semester is the fashion industry and its impact on the environment and society, having an interest in this topic is preferable.

Regular (daily) study is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. The articles (mainly from the English version of the Nikkei Newspaper) are available via the university's database.

【参考書】

In this class, articles from the following publications are used: The Nikkei Newspaper

The Economist

The Atlantic

New York Times

The Japan Times

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.

(2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method (presentation/video or test) is subject to change.

The participation policy for this class is strict, and students should consider it very carefully before registering. Students are expected to attend all of the classes and to be on time.

【学生の意見等からの気づき】

None. Students are welcome to make requests and voice complaints/concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Get the Merriam Webster (free) app for your cell phone!

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS (OF EACH SEMESTER) TO APPLY.

Students are strongly encouraged to complete Business Communication IA/B before enrolling in this course.

*This course is designed for intermediate-level language learners, who wish to improve their communication skills and gain some basic knowledge of business.

【none】

Students are strongly encouraged to complete Business Communication IA/B before enrolling in this course.

LANe300CA
Business Communication II B
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this course is to prepare students for the increasingly global corporate environment that awaits them after graduation. They will not only improve their business communication skills. They will also become more "business literate" and "global minded" by examining and discussing current issues in business.

【到達目標】

By discussing articles and exchanging ideas in small groups, students will become familiar with basic business concepts, trends, and terminology as well as improve their workplace communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

By reading and discussing articles on Japanese business mainly from the Nikkei Newspaper, students will become more familiar with basic business concepts as well as terminology that they can use in any workplace environment.

*Feedback on assignments/tests will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations; explanation of class goals, self-introductions, and short reading
2	Working in Japan	Discussion: What is 'work-style reform' (働き方改革)?
3	Japan's Work-style Reform	Reading/discussion: Work-style reforms: Is it working?
4	Japanese business practices (1)	Discussion: Work-style reform; overtime work during COVID-19
5	Japanese business practices (2)	Reading/discussion: International comparisons of working styles
6	Japanese business practices (3)	Discussion: Japan's working culture; work-life balance
7	Women and the workplace (1)	Reading/discussion: Case study of a Japanese company that is empowering women in the workforce
8	Women and the workplace (2)	Discussion: Stereotypes; international comparisons
9	Issues facing Japan's employment system (1)	Preparing for a debate on overtime work
10	Issues facing Japan's employment system (2)	Debate and reflection paper

11	Considering issues relating to working in Japan (1)	Student-led presentations and discussion
12	Considering issues relating to working in Japan (2)	Student-led presentations and discussion
13	Considering issues relating to working in Japan (3)	Student-led presentations and discussion
14	Wrap up and review	Feedback on reflection paper and final review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) Taking business courses offered at Hosei
(2) Reading and learning about recent business news
(3) Preparing for quizzes, presentations, and other activities
Since the theme of the fall semester is "working in Japan," students who are interested in working for a Japanese company after graduation would benefit from taking this course.

Regular (daily) study is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. The articles (mainly from the English version of the Nikkei Newspaper) are available via the university's database.

【参考書】

In this class, articles from the following publications are used:
The Nikkei Newspaper
The Economist
The Atlantic
New York Times
The Japan Times

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
(2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method (presentation/video, or test) is subject to change.

The participation policy for this class is strict, and students should consider it very carefully before registering. Students are expected to attend all of the classes and to be on time.

【学生の意見等からの気づき】

None. Students are welcome to make requests or voice complaints at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Get the (free) Merriam Webster app for your cell phone!

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS (OF EACH SEMESTER) TO APPLY.

Students are strongly encouraged to complete Business Communication IA/B before enrolling in this course.

*This course is designed for intermediate-level language learners, who wish to improve their communication skills and gain some basic knowledge of business.

【None】

Students are strongly encouraged to complete Business Communication IA/B before enrolling in this course.

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to prepare students for the increasingly global corporate environment that awaits them after graduation. They will not only improve their business communication skills. They will also become more "business literate" and "global minded" by examining and discussing current issues in business.

LANe300CA
Business Communication II A
ROBERT T DEREZA
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of international business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, vocabulary, critical thinking skills, and presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by watching and listening to a short video; reading, writing, and discussing topics related to a variety of case studies. Students will be given homework and assignments. The teacher will provide students with relevant materials, in order to develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

To help students improve their English communication skills, so that they can communicate effectively using English in an international business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work. Students will be given oral and written feedback according to the task.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Expectations
2	Voice and Tone	Passive vs Active voice
3	Loyalty in Business	Article & Discussion: Keeping a customer base
4	Innovation	How Article & Discussion: Attracting customers
5	Employee Satisfaction	Article & Discussion: Competing globally
6	Competition	Article & Discussion: Competing globally
7	Midterm Exam	Assessment of vocabulary and topics covered
8	Political Correctness	Language and business
9	Presentation Practice	Planning
10	Presentation Practice	Middle of a presentation
11	Presentation Practice	Conclusions
12	Student presentations	Demonstration of skills
13	Final Exam	Assessment of vocabulary, and topics covered

14 Review of lessons Questions Feedback on material

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・ Keep a vocabulary notebook
・ Read assigned materials 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. All materials will be provided by the instructor.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

1.Participation in class discussion and activities . 20%
2.Exams 40%
3.Presentations 40%

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

A good dictionary, as well as note paper and pens.

【その他の重要事項】

Not applicable

【Outline and objectives】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of international business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, vocabulary, critical thinking skills, and presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by watching and listening to a short video; reading, writing, and discussing topics related to a variety of case studies. Students will be given homework and assignments. The teacher will provide students with relevant materials, in order to develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

LANe300CA
Business Communication II B
ROBERT T DEREZA
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of international business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, vocabulary, critical thinking skills, and presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by watching and listening to a short video; reading, writing, and discussing topics related to a variety of case studies. Students will be given homework and assignments. The teacher will provide students with relevant materials, in order to develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

To help students improve their English communication skills, so that they can communicate effectively using English in an international business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work. Students will be given oral and written feedback according to the task.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Expectations
2	Business and Culture	Article & Discussion: Brand loyalty
3	Business and Culture	Article & Discussion: Marketing
4	Business and Culture	Article & Discussion: Finding your niche
5	Business and Culture	Crowdfunding Discussion
6	Presentation skills	Presenting data
7	Midterm	Assessment on vocabulary and topics
8	Business Skills	Business writing
9	Business Skills	The elevator pitch
10	Business Skills	The sales pitch
11	Business Topics	Japan's employment system
12	Group work	Develop a presentation and student consultations
13	Student presentations	Communication practice
14	Summary	Course review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ Keep a vocabulary notebook
- ・ Read assigned materials 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. All materials will be provided by the instructor.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

- 1.Participation in class discussion and activities . 20%
- 2.Exams..... 40%
- 3.Presentations 40%

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

A good dictionary, as well as note paper and pens.

【その他の重要事項】

Not applicable

【Outline and objectives】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of international business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, vocabulary, critical thinking skills, and presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by watching and listening to a short video; reading, writing, and discussing topics related to a variety of case studies. Students will be given homework and assignments. The teacher will provide students with relevant materials, in order to develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

LAW200CA
日本国憲法 A
川鍋 健
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本国憲法の総論（一部人権総論を含む）、及び統治に関わる制度と運用について学びます。

【到達目標】
日本国憲法の総論（一部人権総論を含む）、及び統治に関わる制度と運用について知り、その良し悪しについて批判的に考察するための基礎となる知見を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行います。授業の質問を受け付け、適宜授業中に答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の概要と目的についてお話します。
第 2 回	なぜ憲法か	日本を含め、多くの国は憲法を持っています。それはなぜか、について学びます。
第 3 回	なぜ人権か	人権という言葉は、日本古来のものではなく、西洋由来のものです。この言葉はどのようにして生まれ、日本に到来したのでしょうか。そしてなぜ、今なおその言葉が使われているのでしょうか。ここではそれらのことについて考えます。
第 4 回	なぜ国民主権か	日本国憲法は国民主権を定めています。その意味内容と、そのような規定が入った歴史について学びます。
第 5 回	憲法改正について	日本国憲法には改正規定がありますが、その規定ぶりは他国と比べて独特です。ここでは、日本国憲法の改正規定の性格と憲法改正に関する理論について学びます。
第 6 回	憲法尊重擁護義務	日本国憲法には憲法尊重擁護義務が定められていますが、その制度、運用は国によって異なっています。ここでは憲法尊重擁護義務に関する論点を学びます。
第 7 回	天皇制について	日本国憲法 1 条は、国民主権に基づく象徴天皇制を定めています。ここでは象徴天皇制に関する論点を学びます。
第 8 回	国会について	日本国憲法は議院内閣制を定めています。その制度、運用が異なるだけでなく、議院内閣制を採用しない国もあります。ここでは、議院内閣制を構成する国会に着目し、特に立法権についての論点を学びます。
第 9 回	内閣について	ここでは、議院内閣制を構成する内閣に着目し、特に行政権についての論点を学びます。
第 10 回	地方自治について	日本国憲法は地方自治について定めています。ここでは、地方自治の制度、運用に関する論点を学びます。
第 11 回	裁判所について	日本国憲法は裁判所及び裁判の進め方に関する規定を置いています。ここではそれらに関する論点を学びます。
第 12 回	違憲審査制について	日本国憲法は裁判所による違憲審査制を採用しています。この論点については、しばしば、民主主義との矛盾ということが語られています。それを含め、ここでは違憲審査制に関する論点を考察します。
第 13 回	平和主義について	日本国憲法 9 条は平和主義について定めています。ここではそれに関する論点を学びます。

第 14 回 これまでの授業のまとめ これまでの授業内容について、総合的な視点から各論点について改めて振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書や配布スライドを予習・復習し、また自分で関連する資料を調べてください。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
樋口陽一『六訂憲法入門』、勁草書房、2017 年。

【参考書】
岡田順太、淡路智典、今井健太郎編『判例キーポイント憲法』、成文堂、2020 年。

【成績評価の方法と基準】
・試験によります。試験は第 1 問語句説明（授業で扱った語句のリストを試験当日提示し、その中からいくつか選んで、授業での内容を踏まえた上で論じてください）、第 2 問論述問題（事前に 3 つ、ある論点について自らの学んだ知識を踏まえた上で自らの見解を理由をつけて述べるよう求める問題を提示し、当日 1 問を教員が選んで出題します）です。
・第 1 問を 40 %、第 2 問を 60 %計 100 %で評価します。
・また、授業中質問を受け付けます。方法の詳細は授業でお話ししますが、授業 1 回の質問に対して、0 ～ 2 点で評価し、試験の素点に付加して最終的な成績評価とします。必ずしも質問のクオリティばかりでなく、質問してもらって皆さんの関心を知ることができたことも積極的に評価しますので、躊躇せずに質問してください。

【学生の意見等からの気づき】
今年が 1 年目になります。よろしくおねがいします。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布、質問の受付に授業支援システムを利用する予定です。

【その他の重要事項】
なし

【なし】
なし

【なし】
なし

【なし】
なし

【なし】
なし

【なし】
なし

【Outline and objectives】
We will learn the general theory (including the general theory of the human rights and civil liberties) and the form of government of the Constitution of Japan.

LAW200CA
日本国憲法 B
川鍋 健
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本国憲法の人権に関する制度と運用を学びます。

【到達目標】

日本国憲法の人権に関する制度と運用を理解し、その良し悪しについて批判的考察ができる基礎となる知見を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行います。授業の質問を受け付け、適宜授業中に答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・人権とその保障	この授業の概要と目的についてお話します。また、ここでは、人権とはなにか、そしてそれはいかに保障されるかについて学びます。
第 2 回	人権の享有主体	ここでは、憲法で保障されている人権の主体とは誰か、について学びます。
第 3 回	幸福追求権	日本国憲法 13 条は幸福追求権を定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第 4 回	法の下の平等	日本国憲法 14 条は法の下の平等について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第 5 回	思想・良心の自由	日本国憲法 19 条は思想・良心の自由について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第 6 回	信教の自由と政教分離	日本国憲法 20 条と 89 条は信教の自由と政教分離について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第 7 回	表現の自由	日本国憲法 21 条は表現の自由について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第 8 回	職業選択の自由	日本国憲法 22 条は職業選択の自由について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第 9 回	学問の自由と教育を受ける権利	日本国憲法 23 条は学問の自由、26 条は教育を受ける権利について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第 10 回	生存権	日本国憲法 25 条は生存権について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第 11 回	労働権	日本国憲法 27 条は労働権について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第 12 回	財産権	日本国憲法 29 条は財産権について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第 13 回	裁判手続に関する権利	日本国憲法 31 条以下は裁判手続に関する権利について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第 14 回	選挙権	日本国憲法 15 条は選挙権について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書や配布スライドを予習・復習し、また自分で関連する資料を調べてください。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・宍戸常寿編『18 歳から考える人権』、第 2 版、法律文化社、2020 年。

【参考書】

・岡田順太、淡路智典、今井健太郎編『判例キーポイント憲法』、成文堂、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

・試験によります。試験は第 1 問語句説明（授業で扱った語句のリストを試験当日提示し、その中からいくつか選んで、授業での内容を踏まえた上で論じてください）、第 2 問論述問題（事前に 3 つ、ある論点について自らの学んだ知識を踏まえた上で自らの見解を理由をつけて述べるよう求める問題を提示し、当日 1 問を教員が選んで出題します）です。
・第 1 問を 40 %、第 2 問を 60 % 計 100 % で評価します。
・また、授業中質問を受け付けます。方法の詳細は授業でお話ししますが、授業 1 回の質問に対して、0 ～ 2 点で評価し、試験の素点に付加して最終的な成績評価とします。必ずしも質問のクオリティばかりでなく、質問してもらって皆さんの関心を知ることができたことも積極的に評価しますので、躊躇せずに質問してください。

【学生の意見等からの気づき】

今年が 1 年目になります。よろしくおねがいします。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布、質問の受付に授業支援システムを利用する予定です。

【その他の重要事項】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline and objectives】

We will learn the system and practice of the human rights and civil liberties of the Constitution of Japan.

LAW200CA
民法一部 A
菅 富美枝
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、総則を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

【到達目標】

民法総則（民法典第 1 編）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

民法総則について、レジュメに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、また、適宜、復習用に練習問題が用意されるため、受講者は解答を行いながら知識の定着を図る。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	民法概論	民法とは何か
第 2 回	総則①	契約の成立
第 3 回	総則②	意思表示（1）心裡留保、虚偽表示
第 4 回	総則③	意思表示（2）錯誤
第 5 回	総則④	意思表示（3）詐欺、強迫
第 6 回	総則⑤	権利の主体：権利能力、意思能力、行為能力
第 7 回	総則⑥	代理（1）代理権、代理行為、代理の効果
第 8 回	総則⑦	代理（2）無権代理
第 9 回	総則⑧	代理（3）表見代理
第 10 回	総則⑨	法人制度概論
第 11 回	総則⑩	法人
第 12 回	総則⑪	契約の一般的有効要件
第 13 回	総合①	練習問題と解説
第 14 回	総合②	最終課題の提示、講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルバイシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン民法総論【第 2 版】』（日本評論社）
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第 2 版】』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

授業の進行に合わせて毎週課される復習課題（平常点）（15％）と学期末に課される「春学期最終課題」による評価（85％）

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用に心掛ける。

【Outline and objectives】

This course aims to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in Contract Law.

LAW200CA
民法一部 B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、物権法（担保物権を除く）を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

【到達目標】

物権（第2編第1，2，3章）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

物権法について、あらかじめ配信されたレジュメの流れに従い、授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、また、適宜、復習用に練習問題が用意されるため、受講者は解答を行いながら知識の定着を図る。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	総則⑫	契約の効力発生時期
第2回	総則⑬	時効（1）時効制度概論
第3回	総則⑭⑮	時効（2）効果、援用権者、法律行為論
第4回	物権①	物権制度概論
第5回	物権②	所有権の内容、所有権の効力（1）
第6回	物権③	所有権の効力（2）物権的請求権
第7回	物権④	所有権の取得
第8回	物権⑤	共同所有関係
第9回	物権⑥	占有権（1）
第10回	物権⑦	占有権（2）
第11回	物権⑧	物権変動（1）契約による不動産の物権変動
第12回	物権⑨	物権変動（2）対抗要件主義
第13回	物権⑩	物権変動（3）動産物権変動
第14回	物権⑪	物権変動（4）公信の原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、毎回、学習支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルバイシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン民法総論【第2版】』（日本評論社）
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第2版】』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

授業の進行に合わせて適宜行われる練習問題（平常点）（15％）と学期末論述試験による評価（85％）

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用に心掛ける。

【Outline and objectives】

This course aims to introduce you to property law. During the course, interrelationship with contract law should be always kept in mind.

LAW300CA
民法二部 A
菅 富美枝
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、取引に直接関係する債権法（①契約法総論、②契約法各論）と、契約関係にないにもかかわらず義務を負う場合として不当利得法、不法行為法について学ぶ。

【到達目標】

①取引を行うにあたって、トラブル発生に備えて、また、トラブルが発生した場合の解決方法として、契約法を修得する。
②契約関係にない場合であっても義務を負う例外として、不当利得法や不法行為法について、基本的な知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生は期限内であれば比較的ゆとりをもって自分のスケジュールに合わせて視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	契約法総論①	契約法とは何か
第 2 回	契約法総論②	契約法序説、契約の成立
第 3 回	契約法総論③	契約の効力
第 4 回	契約法総論④	契約の解除
第 5 回	契約法各論①	贈与・売買
第 6 回	契約法各論②	売主の契約不適合責任
第 7 回	契約法各論③	買戻し、交換、消費貸借
第 8 回	契約法各論④	使用貸借、質貸借
第 9 回	契約法各論⑤	質貸人と質借人の権利義務関係
第 10 回	契約法各論⑥	雇用、請負、委任、寄託その他
第 11 回	法定債権①	事務管理、不当利得
第 12 回	法定債権②	特殊不当利得、不法原因給付
第 13 回	法定債権③	不法行為の意義、成立要件
第 14 回	法定債権④	不法行為の効果、特殊不法行為

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」や「Google クラウドスルーム」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン債権法』（日本評論社）
内田貴『民法Ⅱ』、『民法Ⅲ』（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

春学期最後に出される課題の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30%）による。

【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表される。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きの PDF ファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoom が視聴できる通信環境。

【その他の重要事項】

「法学 A」または「民法 1 部」を履修済みか、履修中であることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course focuses on obligation law which is directly relevant to commercial tradings, and also learn about tort law, unjust enrichment which are placed outside of the contractual relationships. In the end of this course students will acquire the most recent knowledge of the amended Civil Code which has been implemented since 1st April in 2020, and then have a good understanding of the newest contract law.

LAW300CA
民法二部 B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権総論、保証制度、担保物権制度など、民法の中でも、資金調達や金融に関わる分野について広く学ぶ。

【到達目標】

事業拡大のための融資・借入れの仕組み、そのための担保制度の仕組みを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生は期限内であれば比較的ゆとりをもって自分のスケジュールに合わせて視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	債権総論①	債権総論序説、債権の目的
第 2 回	債権総論②	債権の効力（１）強制履行・債務不履行
第 3 回	債権総論③	債権の効力（２）損害賠償
第 4 回	債権総論④	受領遅滞、弁済
第 5 回	債権総論⑤	責任財産の保全（１）債権者代位権
第 6 回	債権総論⑥	責任財産の保全（２）詐害行為取消権
第 7 回	債権総論⑦	多数当事者の債権関係（１）分割債務・不可分債務
第 8 回	債権総論⑧	多数当事者の債権関係（２）連帯債務
第 9 回	債権総論⑨	多数当事者の債権関係（３）保証債務・連帯保証債務
第 10 回	債権総論⑩	債権譲渡
第 11 回	債権総論⑪	債務の移転、契約譲渡、相殺
第 12 回	担保物権①	抵当権
第 13 回	担保物権②	法定地上権
第 14 回	担保物権③	譲渡担保、留置権、先取特権

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」や「Google クラウドスルーム」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルバイシス民法入門』（日本経済新聞社）

池田真朗『スタートライン債権法』（日本評論社）

内田貴『民法Ⅱ』、『民法Ⅲ』（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

秋学期の最後に出される課題の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30 %）による。

【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表される。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きの PDF ファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoom が視聴できる通信環境。

【Outline and objectives】

Through this course students will acquire the basic knowledge about the legal system which is relevant to providing and using financial services.

LAW200CA
商法一部 A
笹久保 徹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、総論	ガイダンス、用語の解説
第 2 回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第 3 回	株主総会 1	株主総会の権限等の解説
第 4 回	株主総会 2	株主総会の議事等の解説
第 5 回	株主総会 3	株主総会の決議等の解説
第 6 回	取締役 1	取締役の権限等の解説
第 7 回	取締役 2	取締役会の決議等の解説
第 8 回	取締役 3	代表取締役の解説
第 9 回	取締役 4	取締役の義務の解説
第 10 回	取締役 5	取締役の会社に対する責任の解説
第 11 回	取締役 6	責任追及の方法の解説
第 12 回	取締役 7	取締役の第三者に対する責任に関する解説
第 13 回	監査役・会計監査人	監査役等の解説
第 14 回	指名委員会等設置会社等	指名委員会等設置会社等に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回に付き、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021）。教科書は、初回の講義において講師の説明をきいてから購入すること。

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』（日本経済新聞出版社、2021）
・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第 3 版〕』別冊ジュリスト No.229（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

LAW200CA
商法一部 B
笹久保 徹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 会社法 総論	ガイダンス、前提知識・用語等の解説、春学期の復習
第 2 回	株式会社の設立 1	設立の概要に関する解説
第 3 回	株式会社の設立 2	設立手続きの解説
第 4 回	株式会社の設立 3	設立の瑕疵に関する解説
第 5 回	株式会社の設立 4	設立の論点等に関する解説
第 6 回	株式 1	株式の概要、株主の権利等に関する解説
第 7 回	株式 2	株式の内容・種類の解説
第 8 回	株式 3	株主名簿・株券の解説
第 9 回	株式 4	株式譲渡の解説
第 10 回	株式 5	株式併合・分割等の解説
第 11 回	募集株式 1	募集株式の概要の解説
第 12 回	募集株式 2	発行等の手続きに関する解説
第 13 回	募集株式 3	発行等の瑕疵等の解説
第 14 回	新株予約権	新株予約権の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回に付き、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021）。教科書は、初回の講義において講師の説明をきいてから購入すること。

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』（日本経済新聞出版社、2014）
・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第 3 版〕』別冊ジュリスト No.229（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

LAW300CA
商法二部 A
笹久保 徹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】

- ・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
- ・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
- ・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと概要	ガイダンス、法律学一般の解説。
第 2 回	商法の意義と法源	商法の意義と法源を解説する。
第 3 回	商人と商行為 1	商人について解説する。
第 4 回	商人と商行為 2	商行為を解説する。
第 5 回	商号 1	商号の意義を解説する。
第 6 回	商号 2	商号を解説する。
第 7 回	商業登記	商業登記を解説する。
第 8 回	商業使用人 1	支配人を解説する。
第 9 回	商業使用人 2	支配人以外の商業使用人を解説する。
第 10 回	代理商	代理商を解説する。
第 11 回	営業 1	営業の概要を解説する。
第 12 回	営業 2	営業譲渡を解説する。
第 13 回	商業帳簿	商業帳簿を解説する。
第 14 回	商法総則 事例研究	重要判例を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回に付き、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は各自ができる範囲でやること。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】

近藤光男『商法総則・商行為法〔第 8 版〕』（有斐閣法律学叢書）（有斐閣、2019）本体価格 2800 円

【参考書】

神作裕之＝藤田友敬編『商法判例百選』（別冊ジュリスト No.243）（有斐閣、2019 年）本体価格 2500 円

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

なお、本授業は「商法一部（会社法）」の履修済みを前提としていないため、両授業を並行して履修してもかまわない。

【Outline and objectives】

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society.

LAW300CA
商法二部 B
笹久保 徹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】

- ・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
- ・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
- ・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。本授業の受講生は、春学期の「商法二部 A」を受講していることが望ましいが、本授業から受講してもかまわない。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、春学期の復習	ガイダンスおよび春学期の復習。
第 2 回	商行為法 総則 1	商行為法の概論の解説。
第 3 回	商行為法 総則 2	商行為の代理等の解説。
第 4 回	商事売買 1	商事売買の概論の解説。
第 5 回	商事売買 2	買主の義務等の解説。
第 6 回	匿名組合	匿名組合の解説。
第 7 回	仲介営業	仲立営業等の解説。
第 8 回	運送営業 1	物品運送の解説。
第 9 回	運送営業 2	旅客運送の解説。
第 10 回	運送取扱営業	運送取扱営業の解説。
第 11 回	寄託	寄託の解説。
第 12 回	倉庫営業	倉庫営業の解説。
第 13 回	交互計算	交互計算の解説。
第 14 回	商行為法 事例研究	重要判例の解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回に付き、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は各自ができる範囲でやること。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】

近藤光男『商法総則・商行為法〔第 8 版〕』（有斐閣法律学叢書）（有斐閣、2019）本体価格 2800 円

【参考書】

神作裕之＝藤田友敬編『商法判例百選』（別冊ジュリスト No.243）（有斐閣、2019 年）本体価格 2500 円

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で評価する（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は、最新の六法を持参すること。六法、テキスト、及び、参考書は、新しい版が出版される可能性もあるため、講師の説明を受けてから購入した方がよい。

本授業は「商法一部（会社法）」の履修済みを前提としていないため、両授業を並行して履行してもかまわない。

【Outline and objectives】

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society.

LAW300CA
経済法 A
山田 務
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

独占禁止法は、消費者の利益と経済の民主的発達を確保するための事業活動の基本的ルールを定めたもので、経済憲法とも呼ばれている。また、競争政策を実施するための基本的法律である。このような独占禁止法について、基礎となる経済学の考え方、禁止行為の内容、日本経済における役割と最近の課題について、他の法律との関係も踏まえて講義を行う。

学生が、今後の企業活動や消費生活において身近に接することとなる独占禁止法について理解し、経済理論と実際の経済政策（競争政策）との関係について理解することを目的とする。

【到達目標】

①目的、禁止行為、措置の内容等、独占禁止法の基本的内容について知識を得る。②独占禁止法・競争政策の視点を通じ、経済の仕組み、最近の課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメ、関連資料を配布し、それを基に講義を行う。

また、授業時間内等において、学生の理解度の確認や意見表明・質問事項の自由な記載を目的として、確認的な小テストを適宜行う。提出された小テストの内容及び質問事項については、次回授業時又は学習支援システムを通じてフィードバックを行う。その他、授業中又は授業終了後における学生からの質問、意見の表明を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	講義の内容、独占禁止法を学ぶ意義
2)	独占禁止法の概要	独占禁止法の目的、日本経済における役割、歴史、課題
3)	独占禁止法の概要	禁止行為、違反行為に対する措置等の全体像
4)	独占禁止法の基礎となる経済理論	独占禁止法を理解する上で参考となるミクロ経済学の考え方
5)	独占禁止法の基本概念	規制の基本的枠組み、「事業者」「市場支配力」等の基本的用語
6)	カルテル、入札談合規制（1）	カルテル等の目的・種類、カルテルの経済分析
7)	カルテル、入札談合規制（2）	禁止行為の内容、最近の事件
8)	カルテル、入札談合規制（3）	カルテル等の発見・抑止のための施策（課徴金制度、官製談合防止制度等）
9)	事業者団体に対する規制	事業者団体の活動、禁止行為の内容、最近の事件
10)	私的独占規制	大企業の市場支配的行為の規制内容、最近の事件
11)	合併・株式保有等の規制（1）	合併・株式保有の目的、合併等の経済分析、禁止される合併等の内容
12)	合併・株式保有等の規制（2）	合併等の審査手続き、最近の事例
13)	不公正な取引方法規制	不公正な取引方法規制の概要

14) 公正取引委員会の法運用 違反事件の調査、違反に対する措置

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・書籍、雑誌、新聞、ネット等で、独占禁止法・競争政策に関する記事、文章を読み、関心を持つとともに、不明な内容については、講義資料、参考書等により解明に努める。

・講義で配布した資料を熟読するとともに、参考書の関連部分、小テストに係るフィードバック内容を読み、講義内容についての理解を確かなものとする。また、疑問点を整理し、次回講義で確認を行う。

・以上の授業時間外の学習時間は、毎回4時間程度

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

菅久修一他「はじめて学ぶ独占禁止法」商事法務
川濱昇他「ベーシック経済法(独占禁止法入門)」有斐閣
土田和博他「条文から学ぶ独占禁止法」有斐閣
公正取引委員会広報資料「知ってなっとく独占禁止法」公取委ホームページ

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加状況、小テストの回答状況等）（50点）及び期末試験（50点）により、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料を補う説明及び小テストや質問事項に対するフィードバックをより丁寧に行い、学生の理解度、問題意識の向上に努める。

【その他の重要事項】

公正取引委員会に勤務した行政経験を踏まえながら、独占禁止法及び関連する法律の内容、課題等について講義を行う。

【Outline and objectives】

Under the market economy regime, the Antimonopoly Act establishes basic rules of business activities to secure consumer interests and democratic development of the economy and is also called the economic constitution. It is also a basic law for implementing competition policy.

Regarding such antitrust law, we lecture on purpose, basic thinking of economics which is the basis, contents of major prohibited acts, roles in the Japanese economy and recent issues with other related laws.

Students acquire a basic understanding of the Antimonopoly Act which will come close to them in future business activities and consumption life and understand the relationship between economic theory and actual economic policy (competition policy) through the Antimonopoly Act

LAW300CA
経済法 B
山田 務
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

独占禁止法は、消費者の利益と経済の民主的発展を確保するための事業活動の基本的ルールを定めたもので、経済憲法とも呼ばれている。また、競争政策を実施するための基本的法律である。このような独占禁止法について、基礎となる経済学の考え方、禁止行為の内容、日本経済における役割と最近の課題について、他の法律との関係も踏まえて講義を行う。

学生が、今後の企業活動や消費生活において身近に接することとなる独占禁止法について理解し、経済理論と実際の経済政策（競争政策）との関係について理解することを目的とする。

【到達目標】

①目的、禁止行為、措置の内容等、独占禁止法の基本的内容について知識を得る。②独占禁止法・競争政策の視点を通じ、経済の仕組み、最近の課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメ、関連資料を配布し、それを基に講義を行う。

また、授業時間内等において、学生の理解度の確認や意見表明・質問事項の自由な記載を目的として、確認的な小テストを適宜実施する。提出された小テストの内容及び質問事項については、次の授業時又は学習支援システムを通じてフィードバックを行う。その他、授業中又は授業終了後における学生からの質問、意見表明を歓迎する。

14回講義のうち、1回は公正取引委員会の職員による講義を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス等	講義の内容説明、春学期の復習
2)	不公正な取引方法規制（総論）	不公正な取引方法の内容とは
3)	不公正な取引方法規制（各論1）	垂直的取引制限に係る行為（小売業者の販売価格の拘束、競争者との取引制限行為等）
4)	不公正な取引方法規制（各論2）	価格設定に関する行為（コスト割れ販売、差別価格等）
5)	不公正な取引方法規制（各論3）	大規模事業者による中小事業者等に対する優越的な地位の濫用行為
6)	不公正な取引方法規制（各論4）	大規模事業者による中小事業者等に対する優越的な地位の濫用行為
7)	不公正な取引方法規制（各論5）	不公正な競争手段を用いる行為（欺瞞的な取引、競争者の取引の妨害行為）
8)	公正取引委員会職員による講義	独占禁止法の運用状況、競争政策の課題
9)	日本経済と競争政策・経済法（1）	政府による直接的な事業規制・政府規制の概要、目的、問題点
10)	日本経済と競争政策・経済法（2）	政府による直接的な事業規制・電気通信事業法等の各種事業法の概要

11)	日本経済と競争政策・経済法（3）	消費者取引の適正化のための法規制 ・消費者契約法 ・特定商取引法
12)	日本経済と競争政策・経済法（4）	消費者取引の適正化のための法規制 ・景品表示法
13)	日本経済と競争政策・経済法（5）	グローバル化と経済法 ・通商問題の現状 ・WTOによる国際貿易のルール
14)	日本経済と競争政策・経済法（6）	グローバル化と経済法 ・各国間の経済連携協定 ・国際的な競争制限行為に対する独占禁止法の規制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・書籍、新聞、雑誌、ネット等で、独占禁止法・競争政策等に関する記事、文章を読み、関心を持つとともに、不明な内容については、講義資料、参考書等により解明に努める。

・講義で配布した資料を熟読するとともに、参考書の関連部分、小テストに係るフィードバック内容を読み、講義内容についての理解を確かなものとする。また、疑問点を整理し、次回講義で確認を行う。
・上記の授業時間外の学習時間は、毎回4時間程度

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

菅久修一他「はじめて学ぶ独占禁止法」商事法務

川濱昇他「ベーシック経済法（独占禁止法入門）」有斐閣

土田和博他「条文から学ぶ独占禁止法」有斐閣

公正取引委員会広報資料「知ってなっとく独占禁止法」公取委ホームページ

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加状況、小テストとの回答状況等）（50点）及び期末試験（50点）により、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料を補う説明及び小テストや質問事項に対するフィードバックをより丁寧に行い、学生の理解度、問題意識の向上に努める。

【その他の重要事項】

公正取引委員会に勤務した行政経験を踏まながら、独占禁止法及び関連する法律の内容、課題等について講義を行う。

【Outline and objectives】

Under the market economy regime, the Antimonopoly Act establishes basic rules of business activities to secure consumer interests and democratic development of the economy and is also called the economic constitution. It is also a basic law for implementing competition policy.

Regarding such antitrust law, we lecture on purpose, basic thinking of economics which is the basis, contents of major prohibited acts, roles in the Japanese economy and recent issues with other related laws.

Students acquire a basic understanding of the Antimonopoly Act which will come close to them in future business activities and consumption life and understand the relationship between economic theory and actual economic policy (competition policy) through the Antimonopoly Act

LAW300CA
労働法 A
藤木 貴史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈注意〉この授業はオンデマンド型で実施します。

私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いいため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられるようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働法Aでは、個別的労働法（①総論、②労働関係の成立と終了、そして③賃金・労働時間等の労働条件）の基礎的部分を扱います。労働法Aと労働法Bは連続性が強いので、できるだけ両方履修するようにしてください。

【到達目標】

- ・個別的労働法の基礎的な知識を習得する
- ・労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ・将来、社会人となって経験するであろう労働問題について法的に考える眼を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・教科書は購入必須です。
- ・事前に、教科書の関係箇所を熟読いただきます。
- ・事前に、プリント・パワーポイント（板書代わり）も配布します。
- ・オンデマンド講義を授業支援システム等を通じて配信します。講義受講後、小テストに解答することで1回分を終了とします。授業後の小テストには自動でコメントが返されます。
- ・また、授業中の疑問点については、掲示板上で質問することができます（約1週間をめどに教員がフィードバックします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・労働法の意義と体系 ・労働法と憲法 ・紛争解決制度
第2回	労働者の自由と権利	・労働憲章 ・足止め防止規定
第3回	労働者と労働契約（1）	・労働者性 ・労働契約の権利義務
第4回	労働者と労働契約（2）	・労働契約上の付随義務 ・労働基準法の規制
第5回	労働関係の開始	・労働契約の成立 ・内定（内々定） ・試用期間
第6回	労働関係の終了（1）	・合意解約と辞職 ・定年 ・解雇制限
第7回	労働関係の終了（2）	・解雇権濫用法理 ・整理解雇法理
第8回	労働条件の決定（1）	・労働条件を決める仕組み ・労使慣行と労働契約 ・就業規則とは何か
第9回	労働条件の決定（2）	・就業規則と労働契約法 ・労働条件の不利益変更

第10回	賃金（1）	・労基法と賃金 ・最低賃金法
第11回	賃金（2）	・休業手当 ・成果主義 ・賞与 ・退職金
第12回	労働時間（1）	・労働時間の定義 ・休憩・休日 ・時間外労働、休日労働
第13回	労働時間（2）	・割増賃金 ・弾力的な労働時間制度
第14回	労働時間（3）・休暇	・労働時間規制の適用除外 ・年次有給休暇

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前：2時間程度を目安に、レジュメを参照して教科書の当該箇所を読む。講義において重点的に聞くべき問題点を理解できるようにしましょう。

講義後：2時間程度を目安に、テキスト・レジュメの復習、小テストの解答・復習。友達・家族に、その日聞いた労働法のおおまかな仕組みを説明できる程度まで復習しましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』エイデル研究所 2020

【参考書】

◆法律学の授業なので、六法による条文チェック・判例資料は必須です。

◆村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選（第9版）』有斐閣 2016年

◆六法（以下は代表的なものです）

・労働政策研究・研修機構『労働関係法規集 2021 年版』

・旬報社『労働六法 2021 年版』

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点：5割（100点満点を50点に圧縮）
- (2) 最終テスト：1割（ウェブ上で実施。小テストをランダムに10問程度出題）
- (3) 期末レポート：4割（具体的な事例問題を出題します。解答は、Word/PDF ファイルで作成しウェブ上で提出）

【学生の意見等からの気づき】

授業資料については、昨年度一定の満足度がありましたので、今年度もさらなる改善を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

以下の用途で授業支援システムを用います。

- ・プリント・スライド・講義音声を配布します。
- ・期末レポート課題を掲示します。
- ・小テスト・最終テストを課します。
- ・質疑応答に対応します。

【その他の重要事項】

・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。

・オンデマンド講義ですので、自分のペースで受講しても構いません。しかし、期末試験前に14回受講するのは非現実的ですので、約1か月ごとに設定する締切を1つのペースメーカーとして、計画的に履修することを強く勧めます。

・六法／法令集は授業に持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。

【Outline and objectives】

In our society, many people work and make their living through employment. In employment relationships, however, employees potentially face myriad troubles without proper regulations because of their dependency on employers. “Labor & Employment Law” provides regulations in order to remedy any such trouble and to enable workers to live with dignity. Labor & Employment law in Japan is double-folded: 1) Employment law concerns labor contracts and protection of employees; 2) Labor law regulates the relationship between trade unions and employers. This lecture will focus on employment law and provide elementary knowledge concerning a) the whole system of employment law, b) the beginning and the end of labor contracts, and c) employment conditions.

LAW300CA
労働法 B
藤木 貴史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈注意〉オンデマンド型で実施します。

私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いいため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられるようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働法Bでは、労働法Aを前提として、個別的労働法のうち社会的影響を受けやすい問題と、集団的労働法を講義します。労働法Aと労働法Bは連続性が強いので、できるだけ両方履修するようにしてください。

【到達目標】

- ・個別的労働法・集団的労働法の基礎的な知識を習得する
- ・労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ・将来、社会人となって経験するであろう労働関係に対して自分なりに論点を把握でき法的に検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

〈注意〉オンデマンド型で実施します。

- ・教科書は購入必須です。
- ・事前に、教科書の関係箇所を熟読いただきます。
- ・事前に、プリント・パワーポイント（板書代わり）も配布します。
- ・オンデマンド講義を授業支援システム等を通じて配信します。講義受講後、小テストに解答することで1回分を終了とします。授業後の小テストには自動でコメントが返されます。
- ・また、授業中の疑問点については、掲示板上で質問することができます（約1週間をめぐに教員がフィードバックします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本の社会と労働法	日本の雇用慣行 紛争の実態
第2回	人事制度（1）	配転／出向／転籍
第3回	人事制度（2）	昇・降格／企業再編
第4回	懲戒制度	企業秩序論 懲戒処分の根拠と限界
第5回	労災補償	労災保険制度 労災民訴
第6回	雇用平等（1）	母性保護規定 育児・介護休業法 賃金格差
第7回	雇用平等（2）	雇用機会均等法 セクハラ、マタハラの防止
第8回	非正規労働（1）	総論的説明 有期労働者の保護
第9回	非正規労働（2）	有期・パート労働者の保護と均等待遇
第10回	非正規労働（3）	・派遣労働者の保護と均等待遇
第11回	集団的労働法総論	労働基本権 労働者／労働組合 使用者

第12回	不当労働行為	労働委員会 不当労働行為の四類型
第13回	団体行動	争議行為の正当性 組合活動の正当性
第14回	団体交渉・労働協約	団体交渉の仕組み 労働協約の規範的効力 一般的拘束力制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前：希望者は30分程度かけて、教科書の関連箇所の概要を読む。
講義後：2時間程度を目安に、授業音声を聞き直しつつ教科書の関連箇所を精読し、何がポイントになるのかを把握する。1時間程度を目安に小テストの復習。最後に1時間程度を目安に、友達・家族に対し、その日聞いた労働法のおおまかな仕組みを説明できるか確認する。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』エイデル研究所 2020

【参考書】

- ◆法律学の授業なので、六法による条文チェック・判例資料は必須です。
- ◆村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選（第9版）』有斐閣 2016年
- ◆六法（以下は代表的なものです）
- ・労働政策研究・研修機構『労働関係法規集 2021年版』
- ・旬報社『労働六法 2021年版』

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点：5割（100点満点を50点に圧縮）
- (2) 最終テスト：1割（ウェブ上で実施。小テストをランダムに10問程度出題）
- (3) 期末レポート：4割（具体的な事例問題を出題します。解答は、Word/PDF ファイルで作成しウェブ上で提出）

【学生の意見等からの気づき】

授業資料については、昨年度一定の満足度がありましたので、今年度もさらなる改善を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

以下の用途で授業支援システムを用います。

- ・プリント・スライド・講義音声を配布します。
- ・期末レポート課題を掲示します。
- ・小テスト・最終テストを課します。
- ・質疑応答に対応します。

【その他の重要事項】

- ・労働法Aを履修していることを前提に進めますので注意してください。
- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・オンデマンド講義ですので、自分のペースで受講しても構いません。しかし、期末試験前に14回受講するのは非現実的ですので、約1か月ごとに設定する締切を1つのペースメーカーとして、計画的に履修することを強く勧めます。
- ・六法／法令集は授業に持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。

【Outline and objectives】

In our society, many people work and make their living through employment. In employment relationships, however, employees potentially face myriad troubles without proper regulations because of their dependency on employers. “Labor & Employment Law” provides regulations in order to remedy any such trouble and to enable workers to live with dignity. Labor & Employment law in Japan is double-folded: 1) Employment law concerns labor contracts and protection of employees; 2) Labor law regulates the relationship between trade unions and employers. This lecture will focus on both of them.

MAN300CA
経営学 A
砂田 充
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動のグローバル化に伴い、企業を取り巻く経営環境が複雑化し、企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学、特に経営戦略の基礎的な内容について、経済学的な考え方をベースに学習する。

【到達目標】

事業戦略の基礎（外部要因・内部要因の分析）及び競争優位の基本戦略（コスト優位・差別化優位）について、経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また、そのための基礎知識となるミクロ経済分析のツールについても復習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「経営学」と「経済学」
2	経営戦略とは	経営戦略とゼネラル・マネジメント
3	経営戦略の成立ちと種類	事業戦略と企業戦略
4	経営学のための経済学基礎	需要の特性と費用構造
5	事業戦略の考え方	価値創造と SWOT の分析
6	外部要因の分析①	業界構造分析
7	外部要因の分析②	業界構造分析の事例研究
8	外部要因の分析③	価値相関図
9	内部要因の分析	企業活動と経営資源
10	競争優位と基本戦略	競争優位のタイプと基本戦略
11	コスト優位	コスト・ドライバー
12	差別化優位	差別化ドライバー
13	競争優位の持続可能性	隔離メカニズム
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2 時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社、2004 年）。
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣、2010 年）。
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社、2011 年）。
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社、2010 年）。
丸山雅祥『経営の経済学（第 3 版）』（有斐閣、2017 年）。
Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.

他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）とホームワーク（50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: cost structure of the firm, value creation, competitor and competition, industry analysis: five-force analysis, competitive advantage, cost and benefit advantage, sustaining competitive advantage. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topic. Students are expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

MAN300CA
経営学 B
砂田 充
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動のグローバル化に伴い、企業を取り巻く経営環境が複雑化し、企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学、特に経営戦略の発展的な内容について、経済学的な考え方をベースに学習する。

【到達目標】

企業戦略の基礎（垂直統合・多角化）に加えて経営戦略のゲーム理論的アプローチについて、経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また、そのための基礎知識となるミクロ経済分析のツールについても復習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	企業戦略と戦略的行動
2	企業戦略の考え方	企業優位とシナジー
3	垂直統合	取引費用と「Make or Buy」の意思決定
4	多角化①	多角化の内的・外的要因
5	多角化②	製品ポートフォリオ・マネジメント
6	国際化	国際企業戦略と OLI フレームワーク
7	参入	内部成長、M&A、提携
8	経営学のためのゲーム理論	戦略型ゲームと展開型ゲーム
9	寡占の企業間競争①	同質財市場
10	寡占の企業間競争②	製品差別化
11	戦略的行動①	相互依存関係と戦略的行動
12	戦略的行動②	略奪価格と柔道エコノミクス
13	その他のトピック	より進んだテーマ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2 時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社、2004 年）。
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣、2010 年）。
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社、2011 年）。
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社、2010 年）。
丸山雅祥『経営の経済学（第 3 版）』（有斐閣、2017 年）。

Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. *Economics of Strategy*, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013. 他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）とホームワーク（50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: vertical integration: vertical boundaries of the firm, horizontal boundaries of the firm: diversification, globalization, entry and exit, competitive strategy. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topic. Students are expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

ECN200CA
Principles of Economics A
JESS DIAMO N D
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の Chapter13, Chapter14, Chapter19, Chapter20, Chapter21 を取り上げます。講義は英語で行われる。

【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、ゲーム理論や競争が現実経済に与える影響とマクロ経済学の基本を理解できるようになる。

The goal of this course is to introduce students to the topics of game theory, competition and macroeconomics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Game Theory and Strategic Play	Simultaneous Move Games
2	Game Theory and Strategic Play	Nash Equilibrium
3	Game Theory and Strategic Play	Extensive-Form Games
4	Oligopoly and Monopolistic Competition	Oligopoly
5	Oligopoly and Monopolistic Competition	Monopolistic Competition
6	Oligopoly and Monopolistic Competition	The "Broken Invisible Hand"
7	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	National Income Accounts: Production = Expenditure = Income
8	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	What Isn't Measured by GDP?
9	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	Real vs. Nominal

10	Aggregate Incomes	Inequality Around The World
11	Aggregate Incomes	Productivity and the Aggregate Production Function
12	Aggregate Incomes	The Role and Determinants of Technology
13	Economic Growth	How Does a Nation's Economy Grow?
14	Economic Growth	The History of Growth and Technology

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30%

期末試験：70%

Homework: 30%

Final Exam: 70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

【Outline and objectives】

In this course, we continue to study of economic principles by studying chapters 13, 14, 19, 20 and 21 from Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson

ECN200CA

Principles of Economics A

JESS DIAMO N D

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：火 3/Tue.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の Chapter13, Chapter14, Chapter19, Chapter20, Chapter21 を取り上げます。講義は英語で行われる。

【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、ゲーム理論や競争が現実経済に与える影響とマクロ経済学の基本を理解できるようになる。
 The goal of this course is to introduce students to the topics of game theory, competition and macroeconomics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Game Theory and Strategic Play	Simultaneous Move Games
2	Game Theory and Strategic Play	Nash Equilibrium
3	Game Theory and Strategic Play	Extensive-Form Games
4	Oligopoly and Monopolistic Competition	Oligopoly
5	Oligopoly and Monopolistic Competition	Monopolistic Competition
6	Oligopoly and Monopolistic Competition	The "Broken Invisible Hand"
7	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	National Income Accounts: Production = Expenditure = Income
8	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	What Isn't Measured by GDP?

9	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	Real vs. Nominal
10	Aggregate Incomes	Inequality Around The World
11	Aggregate Incomes	Productivity and the Aggregate Production Function
12	Aggregate Incomes	The Role and Determinants of Technology
13	Economic Growth	How Does a Nation's Economy Grow?
14	Economic Growth	The History of Growth and Technology

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。
None.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30 %
 期末試験：70 %
 Homework: 30%
 Final Exam: 70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。
None.

【Outline and objectives】

In this course, we continue to study of economic principles by studying chapters 13, 14, 19, 20 and 21 from Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson

ECN200CA
Principles of Economics B
JESS DIAMO N D
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson の Chapter21, Chapter23, Chapter24, Chapter25 を取り上げます。講義を英語で行われる。

【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、経済成長や金融制度、財政政策と金融政策が現実経済に与える影響を理解できるようになる。The goal of this course is to continue our of macroeconomics, focusing on the topics of growth, the monetary system, fiscal policy and monetary policy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Economic Growth	How does a nation's economy grow?
3	Economic Growth	The history of growth and technology
4	Economic Growth	Growth, inequality and poverty
5	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
6	Employment and Unemployment	Why Is There Unemployment?
7	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
8	Credit Markets	What Is the Credit Market?
9	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
10	Credit Markets	What Banks Do
11	The Monetary System	Money
12	The Monetary System	Inflation
13	The Monetary System	The Central Bank
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation 2 hours, review 2 hours, for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30%

期末試験：70%

Homework: 30%

Final Exam: 70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

【Outline and objectives】

In this course, we continue to study macroeconomics by studying chapters 21-26 from Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson

ECN200CA

Principles of Economics B

JESS DIAMO N D

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：火 3/Tue.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson の Chapter21、Chapter23、Chapter24、Chapter25 を取り上げます。講義を英語で行われる。

【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、経済成長や金融制度、財政政策と金融政策が現実経済に与える影響を理解できるようになる。
 The goal of this course is to continue our of macroeconomics, focusing on the topics of growth, the monetary system, fiscal policy and monetary policy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。
 The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Economic Growth	How does a nation's economy grow?
3	Economic Growth	The history of growth and technology
4	Economic Growth	Growth, inequality and poverty
5	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
6	Employment and Unemployment	Why Is There Unemployment?
7	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
8	Credit Markets	What Is the Credit Market?
9	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
10	Credit Markets	What Banks Do
11	The Monetary System	Money
12	The Monetary System	Inflation
13	The Monetary System	The Central Bank
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation 2 hours, review 2 hours, for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。
 None.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30 %
 期末試験：70 %
 Homework: 30%
 Final Exam: 70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。
 None.

【Outline and objectives】

In this course, we continue to study macroeconomics by studying chapters 21-26 from Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson

ECN300CA
International Economics A
倪 彬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will discuss the globalization of economics from mainly two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI). In the first half, we will investigate why countries trade, types of trade, and study some of the benefits and costs of trade. In the second half, we will study why firms choose the form of FDI, the determinants of FDI, the spillover impact of FDI on the host countries. Various policies that different governments implement to promote globalization will also be studied.

【到達目標】

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to international economics; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What's international economics?
2 回目	The basics of international trade	Some basic terms and what should be learned in international trade
3 回目	The analytical framework	Partial equilibrium and surplus analysis
4 回目	Ricardo model	Comparative advantage and Ricardian model
5 回目	HO model	Factor endowment and HO model
6 回目	Scale of economy	Types of trade and the theory of scale of economy
7 回目	Trade policy (1)	Tariff
8 回目	Trade policy (2)	Export subsidy, quota
9 回目	Trade policy (3)	FTA and NTM
10 回目	Multinational firms and FDI	The basics of FDI
11 回目	Inward FDI	The determinants of inward FDI and the case of China
12 回目	Outward FDI	Japanese firms' oversea expansion and the hollowing out
13 回目	Offshoring	The economic integration and offshoring
14 回目	Sharing economy	The mechanism of sharing economy and its prospect

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

【参考書】

石川城太・棕寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』（テキストブックつかむシリーズ）第2版、有斐閣、2013年、ISBN=9784641177192
阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2012年、ISBN=9784641124806

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

(1)Homework: 50%

(2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

【Outline and objectives】

The objective is to help the students form a general idea of international trade in the context of globalization.

ECN300CA

International Economics A

倪 彬

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 3/Wed.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will discuss the globalization of economics from mainly two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI). In the first half, we will investigate why countries trade, types of trade, and study some of the benefits and costs of trade. In the second half, we will study why firms choose the form of FDI, the determinants of FDI, the spillover impact of FDI on the host countries. Various policies that different governments implement to promote globalization will also be studied.

【到達目標】

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to international economics; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What's international economics?
2 回目	The basics of international trade	Some basic terms and what should be learned in international trade
3 回目	The analytical framework	Partial equilibrium and surplus analysis
4 回目	Ricardo model	Comparative advantage and Ricardian model
5 回目	HO model	Factor endowment and HO model
6 回目	Scale of economy	Types of trade and the theory of scale of economy
7 回目	Trade policy (1)	Tariff
8 回目	Trade policy (2)	Export subsidy, quota
9 回目	Trade policy (3)	FTA and NTM
10 回目	Multinational firms and FDI	The basics of FDI
11 回目	Inward FDI	The determinants of inward FDI and the case of China
12 回目	Outward FDI	Japanese firms' overseas expansion and the hollowing out
13 回目	Offshoring	The economic integration and offshoring

14 回目 Sharing economy The mechanism of sharing economy and its prospect

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

【参考書】

石川城太・棕寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』（テキストブックつかむシリーズ）第2版、有斐閣、2013 年、ISBN=9784641177192
 阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2012 年、ISBN=9784641124806

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

- (1)Homework: 50%
- (2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

【Outline and objectives】

The objective is to help the students form a general idea of international trade in the context of globalization.

ECN300CA
International Economics B
倪 彬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces undergraduate students to the theory of International Finance and its application to the real world.

【到達目標】

Upon completion of this course students will be able to achieve, but are not limited to the following:

- * To understand the balance of payment;
- * To understand how a foreign exchange market operates
- * To compare the exchange rate regimes and international monetary standards
- * To explain financial crises in emerging economies, their causes and solutions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Teaching materials will be uploaded via Hosei's website ('Hoppii'). Due to Covid-19, we will not hold face-to-face classes. Instead, the self-learning pattern will be adopted, as in the spring semester. However, one difference is that I will hold Zoom lectures from time to time. I will make announcement in advance and please make sure you check the notifications from Hoppii regularly. Response papers will still be used for Q&A.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What is international finance?
2 回目	The basics of international finance	The Balance of Payment, capital flow
3 回目	The foreign exchange market	The basics of foreign exchange market
4 回目	National accounts	The system of national accounts
5 回目	Exchange rate (1)	The concept of PPP
6 回目	Exchange rate (2)	Interest rate parity
7 回目	Exchange rate (3)	The foreign exchange rate
8 回目	Intervention in the foreign exchange market	Why is the intervention necessary?
9 回目	Fiscal policy	Governmental spending
10 回目	Monetary policy	Interest rate and investment
11 回目	Financial crisis	The history of financial crisis and the reasons
12 回目	International monetary system	The US dollar and the globalization of RMB
13 回目	Monetary union	The birth of euro, and other possibility
14 回目	Review	To review the contents of the whole semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

【参考書】

高木信二 著、『入門国際金融』第 4 版、日本評論社 2011 年。

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

(1)Homework: 50%

(2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

【Outline and objectives】

The objective is to help the students form a general idea of international finance in the context of globalization.

ECN300CA

International Economics B

倪 彬

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 3/Wed.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces undergraduate students to the theory of International Finance and its application to the real world.

【到達目標】

Upon completion of this course students will be able to achieve, but are not limited to the following:

- * To understand the balance of payment;
- * To understand how a foreign exchange market operates
- * To compare the exchange rate regimes and international monetary standards
- * To explain financial crises in emerging economies, their causes and solutions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Teaching materials will be uploaded via Hosei's website ('Hoppii'). Due to Covid-19, we will not hold face-to-face classes. Instead, the self-learning pattern will be adopted, as in the spring semester. However, one difference is that I will hold Zoom lectures from time to time. I will make announcement in advance and please make sure you check the notifications from Hoppii regularly. Response papers will still be used for Q&A.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What is international finance?
2 回目	The basics of international finance	The Balance of Payment, capital flow
3 回目	The foreign exchange market	The basics of foreign exchange market
4 回目	National accounts	The system of national accounts
5 回目	Exchange rate (1)	The concept of PPP
6 回目	Exchange rate (2)	Interest rate parity
7 回目	Exchange rate (3)	The foreign exchange rate
8 回目	Intervention in the foreign exchange market	Why is the intervention necessary?
9 回目	Fiscal policy	Governmental spending
10 回目	Monetary policy	Interest rate and investment
11 回目	Financial crisis	The history of financial crisis and the reasons
12 回目	International monetary system	The US dollar and the globalization of RMB
13 回目	Monetary union	The birth of euro, and other possibility
14 回目	Review	To review the contents of the whole semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

【参考書】

高木信二 著、『入門国際金融』第 4 版、日本評論社 2011 年。

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

- (1)Homework: 50%
- (2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

【Outline and objectives】

The objective is to help the students form a general idea of international finance in the context of globalization.

ECN300CA
Area Studies A
馬 欣欣
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

AREA STUDIES: Economic Growth and Sustainable Development: A Case of China

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries, and offers an economic framework to understand the realities and problems of economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of Chinese economy, regional disparity, and international comparison of economic growth and income inequality.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1. Understand the different features of economic transition pattern between China and other countries
2. Understand the determinants of economic growth in China
3. Explain the facts and problems of economic growth and sustainable development in China from a macroeconomic perspective

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The course consists of the lecture by lecturer and the presentation by student based on Power Point materials. The active discussion is held in the class. At least one real-time online lecture.

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective
5. Feedback on assignments (reports, etc.) will be given at the beginning of the class, covering some of the reaction papers submitted in the previous class, and feedback will be given to the whole class and through the "Learning Support System" (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chinese Economy and World Economy	The contents and method of area studies; the current state of the global economy; the position of the Chinese economy in the world
2	Economy in the Socialist Era	Comparison of the planned economy model between the former Soviet Union and China; the states and problems of state-owned enterprises (SOEs) and rural people's communes in China
3	Economic Reform: What is a Socialist Market Economy	The concept of a socialist market economy; two kinds of transition patterns; the role of government in transition countries
4	State Capitalism and the Development Dictatorship Model	The functions of government and market mechanism in transition countries
5.	Active Discussion	Issue1: What is a Socialist Market Economy? Issue2: What should a government do under the economic transition or economic development period?
6	Economic Growth and Population: An International Comparison (1)	International comparisons of economic development and population transformation; the background and problems of the One-Child policy in China

7	Economic Growth and Population: An International Comparison (2)	The Lewis' Dualism Model and the economic turning point; unemployment and surplus labor in China and Japan
8	International Trade and Transformation from Export-Driven Economic Growth Pattern	Export-driven economic growth pattern; the role of foreign capital; international comparisons of FDI
9	Active Discussion	Issue1: Economic significance and policy implications of economy turning point for China and other developing countries? Issue2: The influences of FDI on economic growth for China and other developing countries
10	Economic Growth and Inequality (1)	Kuznets' curve; the states of inequality between rural areas and urban areas; the reasons of regional disparities in China
11	Economic Growth and Inequality (2)	Income inequality; the poverty in China; poverty reduction policies and their effects in China and developing countries
12	Fiscal Policy and Economic Growth	The process of the decentralization and fiscal policy; the tax institution reform and its influence on Chinese economy
13	Regional Development Policies and Sustainable Economy Development	The background of regional development and promotion policy implementation and their effects on economic growth in China
14	Active Discussion	Issue1: Two patterns of economic transition and its effects in area studies Issue2: The functions of government policies on economic growth and sustainable economic development

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., Development Economics, Macroeconomics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students are expected to review class material, complete assignments, and download the materials used in the course through the learning support system.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download a PowerPoint material through the learning support system and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
5. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

Presentations or reports in active discussions 50%
Final report 50% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better PowerPoints document with consideration of the students' levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【Outline and objectives】

AREA STUDIES: Economic Growth and Sustainable Development: A Case of China

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries, and offers an economic framework to understand the realities and problems of economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of Chinese economy, regional disparity, and international comparison of economic growth and income inequality.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

ECN300CA

Area Studies A

馬 欣欣

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：月 2/Mon.2 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

AREA STUDIES: Economic Growth and Sustainable Development: A Case of China

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries, and offers an economic framework to understand the realities and problems of economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of Chinese economy, regional disparity, and international comparison of economic growth and income inequality.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1. Understand the different features of economic transition pattern between China and other countries
2. Understand the determinants of economic growth in China
3. Explain the facts and problems of economic growth and sustainable development in China from a macroeconomic perspective

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The course consists the lecture by lecturer and the presentation by student based on Power Point materials. The active discussion is held in the class. At least one real-time online lecture.

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective
5. Feedback on assignments (reports, etc.) will be given at the beginning of the class, covering some of the reaction papers submitted in the previous class, and feedback will be given to the whole class and through the "Learning Support System" (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chinese Economy and World Economy	The contents and method of area studies; the current state of the global economy; the position of the Chinese economy in the world
2	Economy in the Socialist Era	Comparison of the planned economy model between the former Soviet Union and China; the states and problems of state-owned enterprises (SOEs) and rural people's communes in China
3	Economic Reform: What is a Socialist Market Economy	The concept of a socialist market economy; two kinds of transition patterns; the role of government in transition countries
4	State Capitalism and the Development Dictatorship Model	The functions of government and market mechanism in transition countries
5.	Active Discussion	Issue1: What is a Socialist Market Economy? Issue2: What should a government do under the economic transition or economic development period?

6	Economic Growth and Population: An International Comparison (1)	International comparisons of economic development and population transformation; the background and problems of the One-Child policy in China
7	Economic Growth and Population: An International Comparison (2)	The Lewis' Dualism Model and the economic turning point; unemployment and surplus labor in China and Japan
8	International Trade and Transformation from Export-Driven Economic Growth Pattern	Export-driven economic growth pattern; the role of foreign capital; international comparisons of FDI
9	Active Discussion	Issue1: Economic significance and policy implications of economy turning point for China and other developing countries? Issue2: The influences of FDI on economic growth for China and other developing countries
10	Economic Growth and Inequality (1)	Kuznets' curve; the states of inequality between rural areas and urban areas; the reasons of regional disparities in China
11	Economic Growth and Inequality (2)	Income inequality; the poverty in China; poverty reduction policies and their effects in China and developing countries
12	Fiscal Policy and Economic Growth	The process of the decentralization and fiscal policy; the tax institution reform and its influence on Chinese economy
13	Regional Development Policies and Sustainable Economy Development	The background of regional development and promotion policy implementation and their effects on economic growth in China
14	Active Discussion	Issue1: Two patterns of economic transition and its effects in area studies Issue2: The functions of government policies on economic growth and sustainable economic development

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., Development Economics, Macroeconomics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students are expected to review class material, complete assignments, and download the materials used in the course through the learning support system.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download a PowerPoint material through the learning support system and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
5. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

Presentations or reports in active discussions 50%
 Final report 50% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better PowerPoints document with consideration of the students' levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【Outline and objectives】

AREA STUDIES: Economic Growth and Sustainable Development: A Case of China

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries, and offers an economic framework to understand the realities and problems of economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of Chinese economy, regional disparity, and international comparison of economic growth and income inequality.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

ECN300CA

Area Studies B

馬 欣欣

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：月 2/Mon.2 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the factors and mechanisms behind economic growth and economic development from a microeconomic perspective. As case studies, we will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, innovation, industrial structural transformation, social security, segmentation problems in market by institutions and understand the facts and problems of Chinese economy in individual, household and firm levels.

【到達目標】

1. Understand and explain the problems of economic transition and economic development in China from microeconomic perspective
2. Understand the mechanism and factors which influence the behaviors of individuals and firms in China under economic transition period
3. Understand the differences of facts and problems of these issues between China and other countries

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The course consists the lecture by lecturer and the presentation by student based on Power Point materials. The active discussion is held in the class. At least one real-time online lecture.

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective
5. Feedback on assignments (reports, etc.) will be given at the beginning of the class, covering some of the reaction papers submitted in the previous class, and feedback will be given to the whole class and through the "Learning Support System" (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Area Studies from Microeconomic Perspective	Introduction of the contents and analyze methods of area studies from microeconomic perspective
2	State-Owned Enterprises Reform in China (1)	The features of state-owned enterprises during the planned economy; the reforms of state-owned enterprises and their problems
3	State-Owned Enterprises Reform in China (2)	Corporate governance and performance of state-owned enterprises; problems of state-owned enterprise reform in China
4	Active Discussion	Issue1: What are the determinants of the development of non-state sector in China? Issue2: What are the main problems of state-owned enterprises?
5	Transformation of Industrial Structure	The industry upgrade policy reform; "China Manufacturing 2025" and innovation; a case study of industrial upgrade in Shenzhen city of Guangdong province in China
6	Reforms in Rural China (1)	The land reform and collapse of the people's commune; Household Production Responsibility System and land right transfer in China

7	Reforms in Rural China (2)	The states of poverty and the causes of poverty in rural China; the regional disparities of poverty and the reduce poverty policies in rural China
8	Migration within China	The mechanism of migration from the rural areas to urban areas within China; the mystery in Chinese Economy-the migrant shortage phenomenon; the migrants' living and work in urban China
9	Active Discussion	Issue1: Please evaluate the implementation of Household Production Responsibility system in rural China Issue2: Why there existed a migrant shortage phenomenon in China?
10	Bank Reform in China	The reform of state-owned bank; the establishment of stork market; the problem in financial market in China
11	Economic Development and Education in China	Education system and reform in China; changes in the "National College Entrance Examination" ("Gaokao"); Higher Education Expansion Policy; causes of the problem of unemployment of college graduates in China
12	Social Security Policy in China	The social security policy reform with economic transition; the inequality of social security between rural areas and urban areas in China
13	Labor Market Reform in China	The transformation of employment and wage determinate institutions; the determinate mechanism of employment and wage based on neoclassic economics
14	Active Discussion	Issue1: Ownership reform and its effects on Chinese economy Issue2: Policy reform and its influences on behaviors of individuals and firms

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., Development Economics, Microeconomics, Labor Economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance.

Students are expected to review class material, complete assignments, and download the materials used in the course through the learning support system. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download a PowerPoint document through the learning support system and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China, Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN 978-981-13-1986-0
5. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
6. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

Presentations or reports in active discussions 50%

Final report 50% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better PowerPoints document with consideration the students' levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【Outline and objectives】

This course introduces the factors and mechanisms behind economic growth and economic development from a microeconomic perspective. As case studies, we will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, innovation, industrial structural transformation, social security, segmentation problems in market by institutions and understand the facts and problems of Chinese economy in individual, household and firm levels.

ECN300CA
Area Studies B
馬 欣欣
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the factors and mechanisms behind economic growth and economic development from a microeconomic perspective. As case studies, we will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, innovation, industrial structural transformation, social security, segmentation problems in market by institutions and understand the facts and problems of Chinese economy in individual, household and firm levels.

【到達目標】

1. Understand and explain the problems of economic transition and economic development in China from microeconomic perspective
2. Understand the mechanism and factors which influence the behaviors of individuals and firms in China under economic transition period
3. Understand the differences of facts and problems of these issues between China and other countries

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The course consists the lecture by lecturer and the presentation by student based on Power Point materials. The active discussion is held in the class. At least one real-time online lecture.

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective
5. Feedback on assignments (reports, etc.) will be given at the beginning of the class, covering some of the reaction papers submitted in the previous class, and feedback will be given to the whole class and through the "Learning Support System" (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Area Studies from Microeconomic Perspective	Introduction of the contents and analyze methods of area studies from microeconomic perspective
2	State-Owned Enterprises Reform in China (1)	The features of state-owned enterprises during the planned economy; the reforms of state-owned enterprises and their problems
3	State-Owned Enterprises Reform in China (2)	Corporate governance and performance of state-owned enterprises; problems of state-owned enterprise reform in China
4	Active Discussion	Issue1: What are the determinants of the development of non-state sector in China? Issue2: What are the main problems of state-owned enterprises?
5	Transformation of Industrial Structure	The industry upgrade policy reform; "China Manufacturing 2025" and innovation; a case study of industrial upgrade in Shenzhen city of Guangdong province in China
6	Reforms in Rural China (1)	The land reform and collapse of the people's commune; Household Production Responsibility System and land right transfer in China
7	Reforms in Rural China (2)	The states of poverty and the causes of poverty in rural China; the regional disparities of poverty and the reduce poverty policies in rural China

8	Migration within China	The mechanism of migration from the rural areas to urban areas within China; the mystery in Chinese Economy-the migrant shortage phenomenon; the migrants' living and work in urban China
9	Active Discussion	Issue1: Please evaluate the implementation of Household Production Responsibility system in rural China Issue2: Why there existed a migrant shortage phenomenon in China?
10	Bank Reform in China	The reform of state-owned bank; the establishment of stork market; the problem in financial market in China
11	Economic Development and Education in China	Education system and reform in China; changes in the "National College Entrance Examination" ("Gaokao"); Higher Education Expansion Policy; causes of the problem of unemployment of college graduates in China
12	Social Security Policy in China	The social security policy reform with economic transition; the inequality of social security between rural areas and urban areas in China
13	Labor Market Reform in China	The transformation of employment and wage determinate institutions; the determinate mechanism of employment and wage based on neoclassic economics
14	Active Discussion	Issue1: Ownership reform and its effects on Chinese economy Issue2: Policy reform and its influences on behaviors of individuals and firms

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., Development Economics, Microeconomics, Labor Economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students are expected to review class material, complete assignments, and download the materials used in the course through the learning support system. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download a PowerPoint document through the learning support system and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China, Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN 978-981-13-1986-0
5. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
6. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

Presentations or reports in active discussions 50%
Final report 50% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better PowerPoints document with consideration the students' levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【Outline and objectives】

This course introduces the factors and mechanisms behind economic growth and economic development from a microeconomic perspective. As case studies, we will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, innovation, industrial structural transformation, social security, segmentation problems in market by institutions and understand the facts and problems of Chinese economy in individual, household and firm levels.

LANe200CA

Business Research Seminar A

中谷 安男

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

【到達目標】

This course is designed to give students a comprehensive view of business presentation and discussion skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their pronunciation and performance skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience. We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Intel Japan Marketing 1	Good Speakers
2	Elements of introduction Intel Japan Marketing 2	Preparation
3	Data Coca-cola 1	Describe Details
4	Coca-cola 2	Brainstorming & Clustering
5	Chanel	Transitions & Connectors
6	Christian Dior	Audience Analysis
7	Sapporo Beer 1	Selecting Details
8	Sapporo Beer 2	Explaining Causes
9	MUJI 1	Explaining Reasons
10	MUJI 2	Case 1
11	Negotiating with Headquarters 1	Case 2
12	Negotiating with Headquarters 2	Case 3
13	JR Kyushu 1	Case 4
14	JR Kyushu 2	Demonstration

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lessons preparation and review exercises
 Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

1. M. Hood. Dynamic Presentations, Kinseido
2. Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan

Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】

Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%
 Class presentations 40%
 Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【Outline and objectives】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

LANe200CA
Business Research Seminar A
中谷 安男
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

【到達目標】

This course is designed to give students a comprehensive view of business presentation and discussion skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their pronunciation and performance skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Intel Japan Marketing 1	Good Speakers
2	Elements of introduction Intel Japan Marketing 2	Preparation
3	Data Coca-cola 1	Describe Details
4	Coca-cola 2	Brainstorming & Clustering
5	Chanel	Transitions & Connectors
6	Christian Dior	Audience Analysis
7	Sapporo Beer 1	Selecting Details
8	Sapporo Beer 2	Explaining Causes
9	MUJI 1	Explaining Reasons
10	MUJI 2	Case 1
11	Negotiating with Headquarters 1	Case 2
12	Negotiating with Headquarters 2	Case 3
13	JR Kyushu 1	Case 4
14	JR Kyushu 2	Demonstration

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lessons preparation and review exercises
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

1. M. Hood. Dynamic Presentations, Kinseido
2. Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】

Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%

Class presentations 40%

Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【Outline and objectives】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

LANe200CA

Business Research Seminar B

中谷 安男

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

【到達目標】

This course is designed to give students a comprehensive view of business presentation and discussion skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their pronunciation and performance skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience. We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Shiseido Chaina 1	Good Speakers
2	Shiseido China 2	Preparation
3	Toshiba Vietnam 1	Describe Details
4	Toshiba Vietnam 2	Brainstorming & Clustering
5	Intel Japan Communication Strategy 1	Transitions & Connectors
6	Intel Japan Communication Strategy 2	Audience Analysis
7	Meigetsudo 1	Selecting Details
8	Meigetsudo 2	Explaining Causes
9	Global MUJI 1	Explaining Reasons
10	Global MUJI 2	Case 1
11	Shiseido Italy	Case 2
12	Shiseido France	Case 3
13	Toshiba HR	Case 4
14	Konica Minolta	Demonstration

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises
 Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

1. M. Hood. Dynamic Presentations, Kinseido
 2. Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
 Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】

Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%
 Class presentations 40%
 Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【Outline and objectives】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

LANe200CA
Business Research Seminar B
中谷 安男
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

【到達目標】

This course is designed to give students a comprehensive view of business presentation and discussion skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their pronunciation and performance skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Shiseido China 1	Good Speakers
2	Shiseido China 2	Preparation
3	Toshiba Vietnam 1	Describe Details
4	Toshiba Vietnam 2	Brainstorming & Clustering
5	Intel Japan Communication Strategy 1	Transitions & Connectors
6	Intel Japan Communication Strategy 2	Audience Analysis
7	Meigetsudo 1	Selecting Details
8	Meigetsudo 2	Explaining Causes
9	Global MUJI 1	Explaining Reasons
10	Global MUJI 2	Case 1
11	Shiseido Italy	Case 2
12	Shiseido France	Case 3
13	Toshiba HR	Case 4
14	Konica Minolta	Demonstration

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

1. M. Hood. Dynamic Presentations, Kinseido
2. Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】

Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%
Class presentations 40%
Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【Outline and objectives】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

MAN200CA
簿記Ⅱ A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記Ⅰ A,B の内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理について学習します。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とします。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解します。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習します。
- (3) 上記の (1), (2) を前提とした決算書の作成について学習します。
- (4) 全体を通じて日商 2 級商業簿記の合格水準の技能を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	商品売買取引	分記法、売上原価対立法、三分法による会計処理と決算整理、値引・返品・割戻・割引の会計処理
第 2 回	商品の期末評価	棚卸減耗損と商品評価損の会計処理方法および損益計算書における表示方法
第 3 回	現金預金取引	簿記上の現金の範囲と処理方法、銀行勘定調整表の作成方法
第 4 回	債権・債務	手形の不渡りと更改、クレジット売掛金、電子記録債権債務、債務の保証
第 5 回	有価証券取引（1）	有価証券の種類、購入時の会計処理
第 6 回	有価証券取引（2）	有価証券の売却時の会計処理、期末評価
第 7 回	中間試験	第 1 回～第 6 回までの内容に関する中間試験
第 8 回	有形固定資産取引（1）	有形固定資産の取得、減価償却、売却に関する会計処理
第 9 回	有形固定資産取引（2）	有形固定資産の割賦購入、建設仮勘定、改良と修繕、除却と廃棄、買い換えに関する会計処理
第 10 回	リース取引	ファイナンス・リース取引、オペレーティング・リース取引の会計処理
第 11 回	無形固定資産取引と研究開発費	特許権、商標権、研究開発費の会計処理
第 12 回	引当金	貸倒引当金、修繕引当金、退職給付引当金、商品保証引当金、賞与引当金、役員賞与引当金、売上割戻引当金、返品調整引当金の会計処理
第 13 回	外貨換算会計	財務諸表項目の外貨換算、外貨建取引および為替予約の会計処理
第 14 回	株式会社の税金	株式会社の税金の種類、法人税の申告と納税、消費税の会計処理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（40%）および期末試験（60%）によって評価します。
欠席 1 回につき 2 点を、試験の得点から減点します。
欠席 3 回以上 5 回以下（中間試験を含む）の者は B 評価を最高評価とします。
欠席 6 回以上、もしくは期末試験を受けなかった者は E 評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

簿記Ⅰ（簿記入門）と比較して学習内容が質・量ともに多くなるので、ペース配分に留意して講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12 桁）、プリントを綴じるための 2 穴のファイル

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand intermediate level of bookkeeping. Students should have basic knowledge about journal entry and the process of preparing financial statements (statement of financial position and income statement).

MAN200CA
簿記Ⅱ B
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記Ⅰ A,B および簿記Ⅱ A の内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理および決算書の作成過程、作成方法について学習します。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とします。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解します。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習します。
- (3) 上記の (1), (2) を前提とした決算書の作成について学習します。
- (4) 全体を通じて日商 2 級商業簿記の合格水準の技能を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	株式の発行	株式会社における純資産の構成、株式の発行時における会計処理
第 2 回	剰余金の配当と処分	株式会社の決算手続、利益準備金の積立、株主資本等変動計算書の作成
第 3 回	収益・費用の認識基準	発生主義・実現主義にもとづく収益・費用の計上、サービス業における役務収益と役務原価の計上
第 4 回	税効果会計（1）	課税所得の算定方法、一時差異と永久差異、税効果会計の基礎
第 5 回	税効果会計（2）	繰延税金資産と繰延税金負債の認識と計上、法人税等調整額の計上方法
第 6 回	合併と事業譲渡	吸収合併と新設合併、パーチェス法による合併の会計処理、事業譲渡の会計処理
第 7 回	中間試験	第 1 回～第 6 回までの内容に関する中間試験および解答・解説
第 8 回	本支店会計（1）	本支店会計の意義、本支店間取引、支店間取引に関する会計処理
第 9 回	本支店会計（2）	本支店会計における決算手続、本支店合併財務諸表の作成方法
第 10 回	連結会計（1）	連結財務諸表の意義と特徴、連結会計における連結修正仕訳の意義、支配獲得日の連結（資本連結）
第 11 回	連結会計（2）	資本と投資の相殺消去、部分所有の会計処理、連結精算表の作成方法
第 12 回	連結会計（3）	支配獲得後の連結修正仕訳、開始仕訳と期中仕訳の意義と方法
第 13 回	連結会計（4）	成果連結と連結修正仕訳、内部取引と債権債務の相殺消去、未実現利益の消去（ダウンストリーム、アップストリーム）

第 14 回 期末試験

第 13 回までの内容に関する期末試験および解答・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（40%）および期末試験（60%）によって評価する。

欠席 1 回につき 2 点を、試験の得点から減点します。

欠席 3 回以上 5 回以下（中間試験を含む）の者は B 評価を最高評価とします。

欠席 6 回以上、もしくは期末試験を受けなかった者は E 評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

検定試験の出題範囲の拡大により本講義の内容も増加したため、ペース配分に留意して講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12 桁）、プリントを閉じるための 2 穴のファイル

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand intermediate level of bookkeeping. Students should have basic knowledge about journal entry of corporate economic activities and events, and the process of preparing financial statements (statement of financial position and income statement).

ECN300CA
地域経済論 A
川邊 安彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイデン政権に代わりましたが、トランプ政権時の PPT の枠組みが変化し、世界経済に変化も兆しが見え始めています。欧州では、英国が EU から離脱することになり、中国ではめざましい経済上昇が鈍化し始め、中南米ではブラジル政権の変化の後にメキシコ政権が変化しました。アセアンにおいても国々がまとまる兆しが見えています。この講義では、前期にタイを中心としたアセアンと後期については、メキシコを中心とした中南米の現状までの変化から今後の変化を読み取る講義を行います。

【到達目標】

経済学の上では、海外の他の地域経済を理解することが現在必要な要素になってきています。この講義では、日本と関係が近いアセアンの中心のタイや中南米の中で日本と深い関係にあるメキシコを知ることによりアセアン・中南米の経済の動きを理解し、グローバルな観点からの経済学を学ぶ力を養うものとします。また、チーム毎の意見交換による傾聴、まとめる力を個々の学生が実践で学べる機会を常に維持することで他人に意見を聞きながら、意見をまとめ方向性を見出す力をつけられる形式を講義内で試みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。
- ②毎回講義の中で学生が質疑を行い回答しますので理解を深めてください。
- ③教員側からコメントや資料の意味について説明を行います。
- ④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を行います。
- ⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次の講義の最初に確認時間を設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の狙い、進め方の確認	講義手法の目的の説明、学生のグループ編成、講義の進め方の説明、講義内レポート実施説明
第 2 回	現在のタイ経済の状況	アセアンの多地域との差の認識。アセアン以外の類似国との差異確認。
第 3 回	タイの強みと弱みの分析 (1)	産業構造から見た強みと弱み
第 4 回	タイの強みと弱みの分析 (2)	人口や教育・衛生・医療から見た強みと弱み
第 5 回	タイのバンコクと地方都市との差異	距離からの構造的な課題、地域特性からの課題
第 6 回	タイの交通網について	アセアンの他の地域との比較、平均年収との差からの分析
第 7 回	確認討議①	前回までの講義内容の理解確認し、討議を行う
第 8 回	前回のレポートのフィードバック	理解度の内容説明、書き方のポイント説明
第 9 回	サンプル 1：クラビ県の魅力と将来性	世界を代表するピピ島の悩みや現状から見える将来性
第 10 回	サンプル 2：プーケットの魅力と将来性	何故、発展したのか？ データ整理と分析

- 第 11 回 サンプル 3：ラノーン 今後、発展するための施策とは？
県の魅力と将来性
- 第 12 回 クラビ県、プーケット、ラノーン県の比較 分析から見出せるものは何か？
- 第 13 回 確認討議② 前回までの講義内容の理解確認し、討議を行う
- 第 14 回 最終試験 春学期の確認試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス第 14 回の中でタイのアセアンの位置付けを理解します。自動車産業、電気産業、観光など視点は自由設定とします。講義内で終了するように事前にシラバスを確認し、事前情報の整理が必要と考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に、教科書はありません。

理由：日本においてタイの産業と他国との分析した書籍は発行されていません。

【参考書】

興味のある学生は、タイ政府公式 HP を参考にすること。

【成績評価の方法と基準】

確認試験を毎回行います。

この試験と最終回の試験で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生側の講義に対する意見は、個別にメールで送付ください。

次回以降の講義に反映する前提です。

【学生が準備すべき機器他】

スマホまたは、パソコンによる講義内の情報入手のための機器を必要とします。

【Outline and objectives】

A structure of PPT changes after political power of Trump in USA was concluded, and a change has also begun to see a sign as global economy. The United Kingdom left from the EU in Europe, and remarkable financial rise up began from China, and new Mexican political opinion changed after a change in Brazilian political opinion in Latin America. Thailand political opinion is also going to change in ASEAN. The lecture form which reads future's change from a change to the current state of Asean where Thailand was made the center is performed about the A, ASEAN which think the class in this lecture.

ECN300CA
地域経済論 B
川邊 安彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイデン政権に代わりましたが、トランプ政権時の PPT の枠組みが変化し、世界経済に変化も兆しが見え始めています。欧州では、英国が EU から離脱することになり、中国ではめざましい経済上昇が鈍化し始め、中南米ではブラジル政権の変化の後にメキシコ政権が変化しました。アセアンにおいても国々がまとまる兆しが見えています。この講義では、前期にタイを中心としたアセアンと後期については、メキシコを中心とした中南米の現状までの変化から今後の変化を読み取る講義形式を行ないます。

【到達目標】

経済学の上では、海外の他の地域経済を理解することが現在必要な要素になってきています。この講義では、日本と関係が近いアセアンの中心のタイや中南米の中で日本と深い関係があるメキシコを知ることによりアセアン・中南米の経済の動きを理解し、グローバルな観点からの経済学を学ぶ力を養うものとします。また、チーム毎の意見交換による傾聴、まとめる力を個々の学生が実践で学べる機会を常に維持することで他人に意見を聴きながら、意見をまとめる方向性を見出す力をつけられる形式を講義内で試みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。
- ②毎回講義の中で学生が質疑を行い回答しますので理解を深めてください。
- ③教員側からコメントや資料の意味について説明を行います。
- ④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を行います。
- ⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次の講義の最初に確認時間を設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の狙い、進め方の確認	講義手法の目的の説明、学生のグループ編成、講義の進め方の説明、講義内レポート実施説明
第 2 回	現在のメキシコ経済の状況	中南米の多地域との差の認識。中南米以外の類似国との差異確認。
第 3 回	メキシコの強みと弱みの分析 (1)	産業構造から見た強みと弱み
第 4 回	メキシコの強みと弱みの分析 (2)	人口や教育・衛生・医療から見た強みと弱み
第 5 回	首都メキシコシティと地方都市との差異	距離からの構造的な課題、地域特性からの課題
第 6 回	メキシコの交通網について	中南米の他の地域との比較、平均年取との差からの分析
第 7 回	確認討議①	前回までの講義内容の理解確認し、討議を行う
第 8 回	前回のレポートのフィードバック	理解度の内容説明、書き方のポイント説明
第 9 回	サンプル 1：首都メキシコ DF の魅力と将来性	世界を代表するビジネス構造の悩みや現状から見える将来性

- 第 10 回 サンプル 2：ゴールド コストライアングルの魅力と将来性
何故、発展したのか？ データ整理と分析
- 第 11 回 サンプル 3：他の地域 今後、発展するための施策とは？との産業構造の差と将来性
- 第 12 回 メキシコとブラジルや 分析から見出せるものは何か？他の中南米諸国との比較
- 第 13 回 確認討議② 前回までの講義内容の理解確認し、討議を行う
- 第 14 回 最終試験 秋学期の確認試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス第 1 4 回の中でメキシコの中南米での位置付けを理解します。自動車産業、電気産業、観光、農業など視点は自由設定とします。全てが講義内で終了するように事前にシラバスを確認し、事前情報の整理が必要と考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に、教科書はありません。

理由：日本語での正確なメキシコの産業と他国との分析した書籍は発行されていません。

【参考書】

興味のある学生は、メキシコ政府公式 HP を参考にすること。

【成績評価の方法と基準】

確認試験を毎回行います。

この試験と最終回の試験で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生側の講義に対する意見は、個別にメールで送付ください。

次回以降の講義に反映する前提です。

【学生が準備すべき機器他】

スマホまたは、パソコンによる講義内の情報入手のための機器を必要とします。

【Outline and objectives】

A structure of PPT changes after political power of Trump in USA was concluded, and a change has also begun to see a sign as global economy. The United Kingdom left from the EU in Europe, and remarkable financial rise up began from China, and new Mexican political opinion changed after a change in Brazilian political opinion in Latin America. Thailand political opinion is also going to change in ASEAN. The lecture form which reads future's change from a change to the current state of Latin America where Mexico was made the center is performed about the B, Latin America which think the class in this lecture.

LANe200CA
Academic Research Seminar A
飯野 厚
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的または質的リサーチ型英語論文を書くためのノウハウを学び実践する。先行研究の探索と研究計画の立案、実施、結果の集約と考察から成る本格的な論文執筆を行う。今学期は、文献研究、研究課題の設定・リサーチプロポーザルの執筆、Introduction, Literature review, Method までを執筆する。

【到達目標】

The students will be able to write a research paper in English principally in the field of English language teaching (learning) or cross-cultural communication, learning how to write a paper. 受講者は、英語論文の書き方を学びながら、英語教育（学習）、異文化間コミュニケーションなどをテーマとした研究論文を英語で執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

This course is based on explanations and practices of writing a research paper with individual consultation. Individual feedback will be provided.

- (1) Choose a research theme, search the related literature and create research questions.
 - (2) Learn the organization of a research paper and write a research proposal
 - (3) Collect data, and summarize them for analysis
- * The instructor will give feedback face to face or through documents in each of the steps above.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	What is research?	Overview of the works done by former students
2	How to write comprehensible English 1	IMRAD construction, Start searching the topic of your research
3	Briefing of research proposal and finding previous research	Hosei Library Guidance, Making review sheet in Excel as a review format
4	How to write comprehensible English 2+Create research questions	Compile the previous research: list up the findings of studies and categorize them
5	How to write comprehensible English 3+ Write a research proposal in Japanese	Background, What is to be known, Expected results and tentative conclusion
6	How to write comprehensible English 4 +Make a title and write an abstract	Make sure if the proposed plan works
7	How to write a paragraph+ Write Introduction	Explanation of topical issue and your motivation

8	Write Introduction	Definition of the terminology and brief introduction of previous research
9	Write Introduction	Research issue and the goal of your research
10	Write Literature review	Introducing primary literature and critique
11	Write Research Question(s) and hypotheses	Squeeze the questions and hypotheses based on literature review
12	Write Method	Participants, materials, and procedure
13	Write hypothetical Results	How to summarize the collected information How to make tables and figures, appendices
14	Write hypothetical Discussion	How to write discussion part, referring the previous research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on reading and writing: 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社（2020）

【参考書】

『英語科学論文の書き方— IMRaD でわかる科学論文の構造』中山書店

『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房（2012）

『APA 論文作成マニュアル 第2版』医学書院（2011）[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

40% In-class participation in activities

60% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses.

【その他の重要事項】

Students should know what is "paragraph writing" and have experience in practicing paragraph writing.

【Outline and objectives】

This course aims to understand organization of a research paper and procedure to put research into practice. The students will create a research proposal including a plan of data collection, compilation of results and analyses of them. They will actually write the parts of Introduction, Literature review, and Method.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
飯野 厚
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期中に作成した研究提案と収集したデータにもとづいて、本格的に英語論文を執筆する。Introduction, Literature review, Method に続けて Results (Analysis), Discussion, Conclusion, References までを執筆し完成する。

【到達目標】

Through the course, the students will be able to write a research paper based on the collected data in the previous semester.

本コースを通して受講者は春学期に分析したデータに基づいて、考察や結論を加え研究論文を英語で執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) Briefing the organization of a paper
- (2) Write each section of a paper particularly Results and Discussion parts
- (3) Give feedback individually and share common mistakes in class

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organization of a research paper: IMRAD
2	Introduction	Specification of study field, backgrounds and issues, definition of terms
3	Revising Introduction	Briefing previous research, significance of the study and its purpose
4	Revising Review of literature	How to cite previous studies
5	Revising Organized review of literature	How to connect with research questions
6	Revising Method 1	Participants, materials, and procedure to collect data
7	Revising Method 2	Description of data analysis
8	Results 1:	Quantitative data summary: How to make Tables and Figures, Utilizing simple statistics
9	Results 2:	Qualitative data summary: categorization, excerpts, appendices
10	Discussion:	Restatement of the purpose and contrasting with previous studies
11	Implication and Conclusion	Summarizing the study and the results, limitation, further research
12	References	How to write in APA style
13	Appendix, Notes	Materials and data tables
14	Oral presentation of finalized work	Feedback provided to individual students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on writing：本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社

【参考書】

『英語科学論文の書き方— IMRaD でわかる科学論文の構造』中山書店

『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房 (2012)

『APA 論文作成マニュアル 第 2 版』医学書院 (2011)[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

20% In-class activities

80% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses

【その他の重要事項】

秋学期から履修する人は、日本語による完成に近い研究論文（分野、課題自由）または前期シラバスの最終段階（Method まで）に匹敵する英語論文のを 2 週目までに準備できることが条件です。

【Outline and objectives】

This course aims to write a paper in English based on the research proposal created in the spring semester. Following the previous semester, the students will revise Introduction, Literature review, and Method. They then complete their paper by writing Results, Discussion, Conclusion and References.

LANe200CA
Academic Research Seminar A
山崎 達朗
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事的な話題を通して英語の実用的総合力を高める（英検 2 級以上の能力で、課題を定期的にこなせる学生に適する）。英語を聴き、読み、考えを表現する力も養う。

【到達目標】

時事的なテキストで聴解力を中心に行うがニュース内容の包括的把握ができ、メディア英語の構成を理解し語彙力を養うことができる。また、新聞記事やビジネス文書の読解も行い、短時間にポイントを理解する力が養える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週の課題を要求する。必ず聴解を行い理解度チェックの設問に答える。その解答解説をし、更に書き取りや英作文も行う。Discussion Qs では、自分の考えを英語でまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概説	*授業内容・評価方法の概略説明, 問題演習
2	問題演習 1	*U1 MAKING WAVES ("Before You Watch"-"Understand the News")
3	問題演習 2	*U1 ("Review & Discussion Questions") *資格試験演習 (TOEIC 等)
4	問題演習 3	*U2 BACKSTAGE TOUR "Watch the News") *新聞記事読解
5	問題演習 4	*U2 ("Review & DQs") *資格試験
6	問題演習 5	*U3 DRINKING TO EAT("Watch the News") *新聞記事
7	問題演習 6	*U3("Review & DQs") *資格試験
8	問題演習 7	*U4 NEXT GENERATION ("Watch the News") *新聞記事
9	問題演習 8	*U4("Review & DQs") *資格試験
10	問題演習 9	*U5 ECO-FRIENDLY FASHION ("Watch the News") *新聞記事
11	問題演習 10	*U5 ("Review & DQs") *資格試験
12	問題演習 11	*U6 BUILDING A BRIDGE ("Watch the News") *新聞記事
13	問題演習 12	*U6 ("Review & DQs") *資格試験
14	問題演習 13	*試験 (応用問題) と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの課題・予習・復習（毎週計 4 時間）

【テキスト（教科書）】

NHK NEWSLINE 4（金星堂），2021 年発行。類似名教科書に注意。

【参考書】

VOA, ELLLO のウェブサイト，NHK 英語講座。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題実践・小テスト）70%。定期テスト 30%。

【学生の意見等からの気づき】

毎週課題提出を要求し、講評の上各自に返却する。場合によっては再提出。

【Outline and objectives】

Students applying for this English course are required to be at the high intermediate to advanced level of English. Students will enhance their English listening comprehension abilities through watching news reports. Students will also be required to submit short English essays on current topics related to Japanese society, culture and events.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
山崎 達朗
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事的な話題を通して、英語の実用的総合力を高める（英検 2 級以上の能力で課題を定期的にこなせる学生に適する）。英語で聴き、読み、考えを表現する力も養う。

【到達目標】

時事的なテキストで聴解力を中心に行うが、ニュース内容の包括的把握ができ、メディア英語の構成を理解し語彙力を養うことができる。また、新聞記事やビジネス文書の読解も行い、短時間にポイントを理解する力が養える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週課題提出を要求する。必ず聴解を行い、理解度チェックの設問に答える。その解答解説をし、更に書き取りや英作文も行う。Discussion Qs では自分の考えを英語で記述する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概説	*授業内容の説明 *U7 TAKING AIM ("Before You Watch")
2	問題演習 1	*U7("Review & Discussion Questions") *資格試験 (TOEIC 等)
3	問題演習 2	*U8 BOCCIA BOOM "Watch the News") *新聞記事読解
4	問題演習 3	*U8("Review & DQs") *資格試験
5	問題演習 4	*U9 RISING PROFILE ("Watch the News") *新聞記事
6	問題演習 5	*U9 ("Review & DQs") *資格試験
7	問題演習 6	*U10 ALL BLACKS ("Watch the News") *新聞記事
8	問題演習 7	*U10 ("Review & DQs") *資格試験
9	問題演習 8	*U11 MAN-MADE THREAT ("Watch the News") *新聞記事
10	問題演習 9	*U11 ("Review & DQs") *資格試験
11	問題演習 10	*U12 HOME APPLIANCE ("Watch the News") *新聞記事
12	問題演習 11	*U12 ("Review & DQs") *資格試験
13	問題演習 12	*U13 HOSPITALS ("Watch the News") *新聞記事
14	問題演習 13	*試験 (応用問題) と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの課題・予習・復習（毎週計 4 時間）

【テキスト（教科書）】

NHK NEWSLINE 4（金星堂），2021 年発行。類似名教科書に注意。

【参考書】

VOA, ELLLO のウェブサイト，NHK 英語講座。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題実践・小テスト）70 %。定期テスト 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

毎週の課題提出を要求し、講評の上各自に返却する。場合によっては再提出。

【Outline and objectives】

Students applying for this English course are required to be at the high intermediate to advanced level of English. Students will enhance their English listening comprehension abilities through watching news reports. Students will also be required to submit English essays on current topics related to Japanese society, culture and events.

ECN300CA
世界経済史 A
杉浦 未樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の世界経済は、広がる所得格差、人口成長と環境破壊の問題を抱え、資源の効率的な活用を促す新たな革新を必要としている。これらの課題が歴史的にどのように生じてきたかを、グローバルな視点から検証する。

1 世界経済史の前半となるこの授業は、一八〇〇年以前を中心に扱う。現代につながる諸問題である、人口爆発、世界的不平等、地球破壊、交易がもたらす地域格差、危機の時代の対処法、農業の効率化、消費活性化と女子の労働参加、人の移動、奴隷と強制労働のテーマを、世界史の視点からとらえる。

【到達目標】

- ・経済事象の根幹にある所得格差や人口増加について、長期的展開を述べ、地域間の比較ができるようにする。
- ・経済活動を支えている組織や制度を多面的に理解する。
- ・基幹産業の成り立ちと長期的な展開を把握する。
- ・歴史分析を組みこんだ長文論述ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となります。各回、講義内容がテキストで配布され、並行してオンラインレクチャーが行われます。テキストのみで受講するか、オンラインレクチャーに参加するか選べます。毎回授業内課題がテキストに表示され、授業支援システムに提出します。オンラインレクチャーでは、チャットを使ったクイズや討論を行います。課題のフィードバックは、テキストとオンラインレクチャー内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業のテーマ	授業の三つのテーマを理解し、長文論述に向けた基礎スキルを身に着ける
第 2 回	世界の人口、所得、格差の歴史（1）	人口、一人当たりの所得、所得格差の長期的推移をグローバルな視点から検証する
第 3 回	世界の人口、所得、格差の歴史（2）	所得格差の長期的推移の分析を紹介し、不平等が拡大・縮小を論じる
第 4 回	前工業化時代の環境史—集住と移動のインパクトと人新世 2（1）	地球環境の破壊の歴史的な位置づけを、環境史・人新世の概念を紹介しながら論じる
第 5 回	前工業化時代の環境史—集住と移動のインパクトと人新世 2（2）	地球環境の破壊の歴史的な位置づけを、環境史・人新世の概念を紹介しながら論じる
第 6 回	近代世界システム—交換メカニズムにひそむ不均等発展（1）	交換システムに地域間格差を生み出すメカニズムが埋め込まれているのか、近代世界システム論から、一六世紀の第一次グローバル化の時期を検証する。

- 第 7 回 近代世界システム—交換メカニズムにひそむ不均等発展（2） 交換システムに地域間格差を生み出すメカニズムが埋め込まれているのか、近代世界システム論から、一六世紀の第一次グローバル化の時期を検証する。
- 第 8 回 17 世紀—危機の時代のとらえ方（1） 17 世紀を共通して危機の時代となく、近代化論と世界システム論、グローバルヒストリーの見方を比較する。
- 第 9 回 17 世紀—危機の時代のとらえ方（2） グローバルヒストリーからみた 17 世紀として、ユーラシアを視点に論じる。
- 第 10 回 農業革命・消費革命—先行した二つの革命 産業革命に先行した農業革命と消費革命と勤勉革命を論じ、現代に残した意義をさぐる
- 第 11 回 農業革命・消費革命—先行した二つの革命 産業革命に先行した農業革命と消費革命と勤勉革命を論じ、現代に残した意義をさぐる
- 第 12 回 大西洋をわたった人々（1）—植民地とは何か 植民地を人の移動の視点から説明する。植民地の奴隷、植民者、年季奉公人がどのような移動をしどのような立場にされたのかを、北米植民地、カリブ海を中心に具体的にたどる。
- 第 13 回 大西洋をわたった人々（2）—奴隷制と資本主義の形成 奴隷制度の発達をグローバルな視野から概観したあと、奴隷制をめぐる E・ウィリアムズのテーゼ、フォーゲルとエンガマンのテーゼおよび最近の「資本主義の新しい歴史」研究の展開を述べる。第二次産業革命の展開と、交通・通信制度の発達を運河・鉄道・郵便制度からみる。
- 第 14 回 講義の総括と最終評価に向けたフィードバック 事前公開した最終評価（レポート・テスト）の対策を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では、指示された参考文献を読み、そこからさらに関連文献にあたって経済史への理解を深めることを推奨する。週に 4～7 時間程度補習し、課題作成にも時間をかける。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにアップする

【参考書】

小野塚知二 『経済史—今を知り、未来を生きるために』有斐閣、二〇一八年
 ブランコ・ミラノヴィッチ『不平等について—経済学と統計が語る 26 の話』二〇一二年
 馬場哲・山本通・廣田功・須藤功『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房 二〇一二年

【成績評価の方法と基準】

試験の評価が 70 %、各回の授業内課題点 30 % で評価します。授業に積極的に参加した場合はボーナス点を追加します。試験は長文論述で、問題を事前公開します。

【学生の意見等からの気づき】

問題設定に関心が高かったので、さらに議論を充実させていきたいと考えている。

【Outline and objectives】

21st century global economy is facing the problems of spreading inequality, poverty, population expansion and environmental destruction. Innovations that allows more efficient allocations of resources and distributions of wealth are sought after. This lecture outlines the historical processes these problems of global economy was formed and surveys the essential analytical frameworks in economic history.

ECN300CA
世界経済史 B
杉浦 未樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資本・人・モノの国際移動・取引システムの編成、基幹産業の発展、戦争と経済、地域統合を主要な柱として、19 世紀から 21 世紀の経済発展を概観する。

【到達目標】

- ・ 19 世紀と 20 世紀の資本主義と産業の展開が、現在の経済状況を生み出したことを理解する
- ・ 基幹産業の成り立ちと長期的な展開を把握する。
- ・ レポート作成を通じて、論述力、文献調査能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となります。各回、講義内容がテキストで配布され、並行してオンラインレクチャーが行われます。テキストのみで受講するか、オンラインレクチャーに参加するか選べます。毎回授業内課題がテキストに表示され、授業支援システムに提出します。オンラインレクチャーでは、チャットを使ったクイズや討論を行います。課題のフィードバックは、テキストとオンラインレクチャー内と、授業支援システムの評価を併用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	グローバリゼーションと 19、20 世紀	19、20 世紀の特徴を整理したあと、グローバリゼーションからみるとどのような位置づけとなるかを論じる。とくに 1815～1880 年がグローバリゼーションの加速期、1880～1945 年が減速期、1945 年以降が第二の加速期であることを理解する
第 2 回	19～20 世紀 グローバル化するモノの流れ	貿易の長期動向と、世界商品とそのコモディティチェーン、ヴァリューチェーンの史的分析
第 3 回	マシンメイドに到る道—イギリス綿織物業の機械化導入と技術革新	19～21 世紀の移民史を経済側面から議論する。
第 4 回	19～21 世紀の人の流れ—移民とグローバリゼーション	移民（主に国際移民）と経済発展との関係を歴史的に位置づける。移民の定義、現状を概観した後、グローバル化する移民の第一波（1840 年～1913 年）と、第二波（1950 年～2000 年）を比較する。最後に移民が引き起こす格差の拡大と収束を論じる
第 5 回	金本位制と国際信用取引システムの成立	国際通貨（信用）システムの展開を、金本位制から扱う。本位制の定義、金本位制の導入、グローバリゼーションとの関係、停止と崩壊を述べる。

第 6 回	産業で辿る 19～21 世紀（1）、工業化を支えた条件と製鉄＋鉄道、	1840 年以前の、工業国アメリカを生み出し、支えた土壌を整理したあと、製鉄＋鉄道がタグを組んだ大規模な工業化と経営革新を述べる。
第 7 回	産業で辿る 19～21 世紀（2）、石油業	産油業の展開を軸に、垂直統合・独占／寡占とそれらの規制・多国籍企業の発展、エネルギー源の転換を理解する。
第 8 回	産業で辿る 19～21 世紀（3）自動車産業	自動車産業の展開を軸に、フォーディズムからリーン生産方式までの歴史的な流れを理解する。
第 9 回	産業で辿る 19～21 世紀（4）繊維・アパレル・ファッション産業	これらの産業の展開を概観し、消費主義、大量生産、ライフスタイル消費やクリエイティブ産業の勃興を理解する。
第 10 回	1950、60 年代の世界	1950、60 年代の世界経済情勢を概観する
第 11 回	1970 年代の世界	ドル危機とオイルショックを前後に、1970 年代の経済情勢をみる
第 12 回	1980 年代の世界	1980 年代の世界経済の動向を概観する。
第 13 回	1990 年代に提示された、危機を乗り越える経済モデル	1990 年代に構造改革を行った国家をモデルとして紹介する。イギリス、北欧、オランダ、シンガポールを取り上げる。
第 14 回	試験準備とレポート事前評価	試験の論述対策をするとともに、前週までに提出したレポートに対し改善点を述べる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に示唆した経済史の文献を読み、歴史への理解を深めていくことが望ましい。高校時に世界史を履修していない者は、高校教科書ないし、戦後経済史の平易な新書を読みあわせることをすすめる。平均して週に 4～7 時間程度授業外学習し、レポート作成にむけた準備をする。

【テキスト（教科書）】

毎回授業時にテキストを配る。さらに参考図書を指示する

【参考書】

北川勝彦、概説世界経済史、昭和堂、2017 年
 キャメロン、ニール『概説世界経済史 2 工業化の展開から現代まで』東洋経済新報社、2013 年。
 ロバート・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT 出版、2012 年
 馬場哲・山本通・廣田功・須藤功著『エレメンタル欧米経済史』、晃洋書房、2016 年
 ウォーマック、『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える』（経済界、1990 年）
 他は講義ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 20 %、授業の流れを理解する論述テスト 40 %、レポート 40 % で評価する。
 論述テストの試験問題は事前公開する。
 レポートは合格点がとれるように希望者には事前フィードバックを行う。

【学生の意見等からの気づき】

テーマへの関心は高かったので、さらに伝達方法などを工夫していきたい。

【Outline and objectives】

21st century global economy is facing fundamental issues of spreading inequality, poverty, population expansion and environmental destruction. Innovations that allows more efficient allocations of resources and distributions of wealth are sought after. This lecture outlines the historical processes these problems of global economy was formed and surveys the essential analytical frameworks in economic history. Following Part A, Part B will deal with 19-21th centuries.

MAN300CA
財務諸表論 A
石田 惣平
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は事業の言語であり、企業活動を映し出す鏡ともいわれます。そのため、企業活動を分析・評価するためには会計の知識は欠かせません。本講義では、こうした企業活動を分析・評価する立場から必要となる会計の応用的な知識を習得することを狙いとしています。

【到達目標】

本講義では、終了時に学生が以下の能力を身に着けることを目標としています。

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解する。
2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解する。
3. 会計数値を用いて企業を分析・評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

リアルタイムオンラインの形式で講義を行います。具体的には、Zoomを用いて、講義時間内に講義を行います。なお、ZoomのURL、ID、パスワードはHoppiiに掲載します。また、講義に関して質問がある場合は講義中にチャット欄に記入してもらうか、講義後にGoogleフォームからリアクションペーパーを提出して下さい。講義中の質問については適宜、講義後の質問については次回講義の冒頭で回答するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	財務諸表分析の目的	財務諸表分析の目的
2	財務諸表のシステム	財務諸表のシステム
3	連結貸借対照表の見方	連結貸借対照表の見方
4	連結損益計算書の見方	連結損益計算書の見方
5	貸借対照表データによる安全性分析	貸借対照表データによる安全性分析
6	損益計算書データによる収益性分析	損益計算書データによる収益性分析
7	相互関係比による収益性分析①	相互関係比と収益性分析／投下資本率の算定
8	相互関係比による収益性分析②	ROAの2分解とROEの3分解／財務レバレッジの効果
9	効率性分析	効率性分析
10	キャッシュフロー・データによる分析	キャッシュフロー・データによる分析
11	成長性分析	成長性分析
12	キャッシュフロー・データによる分析	キャッシュフロー・データによる分析
13	損益分岐点分析	損益分岐点分析
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を読み、講義に参加してください。また、講義中に演習を実施するので、間違えた問題は事後的にしっかり復習しておくようにしてください。本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を授業前にアップロードします。各自で印刷するようにお願いします。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）で成績を評価します。なお、出席は単位取得の前提条件なので、出席が一定の割合を充たさない場合は成績評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

真剣に学びたい学生のサポートをできるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓あるいは関数電卓が必須となります。

【その他の重要事項】

会計学応用 I（財務会計）Bも合わせて受講することを推奨します。

【Outline and objectives】

Corporate accounting is said to be the language of business, and the mirror that reflects business activity. For this reason, corporate accounting is essential in order to analyze and evaluate firms. The aim of this class is to help students to acquire the applied knowledge of accounting from the standpoints of analysis and evaluation of business activity.

MAN300CA
財務諸表論 B
石田 惣平
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は事業の言語であり、企業活動を映し出す鏡ともいわれます。そのため、企業活動を分析・評価するためには会計の知識は欠かせません。本講義では、こうした企業活動を分析・評価する立場から必要となる会計の応用的な知識を習得することを狙いとしています。

【到達目標】

本講義では、終了時に学生が以下の能力を身に着けることを目標としています。

1. 企業価値について理解する。
2. 資本コストについて理解する。
3. 財務データや株価データを用いて企業価値と資本コストを算出する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

リアルタイムオンラインの形式で講義を行います。具体的には、Zoomを用いて、講義時間内に講義を行います。なお、ZoomのURL、ID、パスワードはHoppiiに掲載します。また、講義に関して質問がある場合は講義中にチャット欄に記入してもらうか、講義後にGoogleフォームからリアクションペーパーを提出して下さい。講義中の質問については適宜、講義後の質問については次回講義の冒頭で回答するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	企業価値と現在価値の関係	授業の概要説明
2	現在価値と割引率の関係	企業の価値創造プロセスと企業価値評価の全体像
3	ファイナンス理論におけるリスク	「企業活動を映し出す鏡」としての会計
4	ポートフォリオのリスクとリスク分散の限界	企業のディスクロージャー制度と会計情報の限界
5	資本資産評価モデル	資本資産評価モデル
6	資本政策と資本コスト①	完全資本市場での理論
7	資本政策と資本コスト②	完全資本市場の前提の緩和
8	負債の存在と加重平均資本コスト	負債の存在と加重平均資本コスト
9	エンタプライズ DCF 法の理論的背景	エンタプライズ DCF 法の理論的背景
10	エンタプライズ DCF 法の実務①	過去の業績分析
11	エンタプライズ DCF 法の実務②	将来の業績とフリー・キャッシュフローの予測
12	エンタプライズ DCF 法の実務③	継続価値と企業価値の算定
13	マルチプル法の実務	マルチプル法の実務
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を読み、講義に参加してください。また、講義中に演習を実施するので、間違えた問題は事後的にしっかり復習しておくようにしてください。本講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を授業前にアップロードします。各自で印刷するようにお願いします。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）で成績を評価します。なお、出席は単位取得の前提条件なので、出席が一定の割合を充たさない場合は成績評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

真剣に学びたい学生のサポートをできるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓あるいは関数電卓が必須となります。

【その他の重要事項】

会計学応用 I（財務会計）A も合わせて受講することを推奨します。

【Outline and objectives】

Corporate accounting is said to be the language of business, and the mirror that reflects business activity. For this reason, corporate accounting is essential in order to analyze and evaluate firms. The aim of this class is to help students to acquire the applied knowledge of accounting from the standpoints of analysis and evaluation of business activity.

ECN200CA

Demography A

菅 幹雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】

1. Understand basic concepts and measures
2. Understand age-specific rates and probabilities
3. Understand and be able to compile life table

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Worksheets will be delivered by using the Lecture Supporting System for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feeded back.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Basic Concepts and Measures(1)	Meaning of "Population", Population Statistics
2	Basic Concepts and Measures(2)	The Balancing Equation of Population Change
3	Basic Concepts and Measures(3)	The Structure of Demographic rates, Period Rates and Person-years, Principal Period Rates in Demography
4	Basic Concepts and Measures(4)	Instantaneous Growth Rate, Mean Annualized Growth Rate
5	Basic Concepts and Measures(5)	Estimating Period Person-years, The Concept of a Cohort, Probabilities of Occurrence of Events
6	Age-Specific Rates and Probabilities(1)	Period Age-specific Rates
7	Age-Specific Rates and Probabilities(2)	Age-standardization
8	Age-Specific Rates and Probabilities(3)	The Lexis Diagram
9	Age-Specific Rates and Probabilities(4)	Age-specific Probabilities
10	The Life Table and Single Decrement Processes(1)	The Life Table
11	The Life Table and Single Decrement Processes(2)	Period Life Tables
12	The Life Table and Single Decrement Processes(3)	Interpreting the Life Table

13	The Life Table and Single Decrement Processes(4)	The Life Table Conceived as a Stationary Population
14	Summing Up	Summing Up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages of related demographic statistics. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 4313 JPY

【参考書】

Nicolas Bacaër, A Short History of Mathematical Population Dynamics, Springer, 5176 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets in online 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

calculator

【Outline and objectives】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

ECN200CA
DemographyA
菅 幹雄
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】

- 1.Understand basic concepts and measures
- 2.Understand age-specific rates and probabilities
- 3.Understand and be able to compile life table

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。国際経済学科は「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Worksheets will be delivered by using the Lecture Supporting System for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feed backed.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Basic Concepts and Measures(1)	Meaning of "Population", Population Statistics
2	Basic Concepts and Measures(2)	The Balancing Equation of Population Change
3	Basic Concepts and Measures(3)	The Structure of Demographic rates, Period Rates and Person-years, Principal Period Rates in Demography
4	Basic Concepts and Measures(4)	Instantaneous Growth Rate, Mean Annualized Growth Rate
5	Basic Concepts and Measures(5)	Estimating Period Person-years, The Concept of a Cohort, Probabilities of Occurrence of Events
6	Age-Specific Rates and Probabilities(1)	Period Age-specific Rates
7	Age-Specific Rates and Probabilities(2)	Age-standardization
8	Age-Specific Rates and Probabilities(3)	The Lexis Diagram
9	Age-Specific Rates and Probabilities(4)	Age-specific Probabilities
10	The Life Table and Single Decrement Processes(1)	The Life Table
11	The Life Table and Single Decrement Processes(2)	Period Life Tables
12	The Life Table and Single Decrement Processes(3)	Interpreting the Life Table
13	The Life Table and Single Decrement Processes(4)	The Life Table Conceived as a Stationary Population

14 Summing Up Summing Up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages of related demographic statistics. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 4313 JPY

【参考書】

Nicolas Bacaër, A Short History of Mathematical Population Dynamics, Springer, 5176 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets in online 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

calculator

【Outline and objectives】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

ECN200CA
DemographyB
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】

1. Understand fertility rate
2. Understand and be able to conduct population projection
3. Understand stable population model

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。国際経済学科は「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Lectures will be conducted on using Zoom. Worksheets are delivered in the lecture for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feedbacked.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Review of a Basic Period Life Table	Review of a Basic Period Life Table
2	Multiple Decrement Processes(1)	Multiple Decrement Tables for a Periods
3	Multiple Decrement Processes(2)	Associated Single Decrement Life Tables from Period Data
4	Fertility Rates(1)	Period Fertility Rates
5	Fertility Rates(2)	Cohort Fertility, Reproduction Measures
6	Population Projection(1)	Population projection without immigration
7	Population Projection(2)	Projection and Forecasts, Population Projection Methodology, The Cohort Component Methods
8	Population Projection(3)	Cohort Component Methods
9	The Stable Population Model(1)	Review of Stationary Population Model
10	The Stable Population Model(2)	A Simplified Example of a Stable Population
11	The Stable Population Model(3)	Lotka's Demonstration of Conditions Producing a Stable Population
12	The Stable Population Model(4)	Intrinsic Growth Rate
13	The Stable Population Model(5)	Momentum of Population Growth
14	Summing Up	Summing Up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages related to demographic statistics
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 4313 JPY

【参考書】

Nicolas Bacaër, A Short History of Mathematical Population Dynamics, Springer, 5176 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

calculator

【Outline and objectives】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

ECN200CA

Demography B

菅 幹雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】

1. Understand fertility rate
2. Understand and be able to conduct population projection
3. Understand stable population model

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Lectures will be conducted on using Zoom. Worksheets are delivered in the lecture for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feedbacked.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Review of a Basic Period Life Table	Review of a Basic Period Life Table
2	Multiple Decrement Processes(1)	Multiple Decrement Tables for a Periods
3	Multiple Decrement Processes(2)	Associated Single Decrement Life Tables from Period Data
4	Fertility Rates(1)	Period Fertility Rates
5	Fertility Rates(2)	Cohort Fertility, Reproduction Measures
6	Population Projection(1)	Population projection without immigration
7	Population Projection(2)	Projection and Forecasts, Population Projection Methodology, The Cohort Component Methods
8	Population Projection(3)	Cohort Component Methods
9	The Stable Population Model(1)	Review of Stationary Population Model
10	The Stable Population Model(2)	A Simplified Example of a Stable Population
11	The Stable Population Model(3)	Lotka's Demonstration of Conditions Producing a Stable Population
12	The Stable Population Model(4)	Intrinsic Growth Rate
13	The Stable Population Model(5)	Momentum of Population Growth
14	Summing Up	Summing Up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages related to demographic statistics
 Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 4313 JPY

【参考書】

Nicolas Bacaër, A Short History of Mathematical Population Dynamics, Springer, 5176 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

calculator

【Outline and objectives】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

MAN200CA
原価計算 A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論的基礎について理解し、さらに進んで原価計算の今日的課題や、原価情報の使われ方についても知識を広めていきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コストと会計情報	原価とコスト、原価計算の対象、サービス業と製造業の原価計算
第 2 回	原価計算の基礎	原価とは、原価計算基準、原価計算の目的
第 3 回	原価計算手続き	費目別計算、部門別計算、製品別計算
第 4 回	原価の諸概念	形態別分類、機能別分類、製品との関連による分類、操業度との関連による分類
第 5 回	材料費の計算①	材料費の分類、消費数量の計算、実際価格法
第 6 回	材料費の計算②	予定価格法、期末棚卸高の計算、棚卸減耗費の処理
第 7 回	労務費の計算①	労務費の分類、支払賃金の計算と記帳
第 8 回	労務費の計算②	消費賃金の計算と記帳、予定賃率、賃金以外の労務費
第 9 回	経費の計算	経費の分類、支払経費、月割経費、測定経費、発生経費
第 10 回	部門費計算①	部門別計算の意義、原価部門の設定
第 11 回	部門費計算②	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
第 12 回	部門費計算③	製造間接費の予定配賦、予定配賦率の計算
第 13 回	製造間接費の配賦①	活動基準原価計算の計算構造、活動原価、活動ドライバー
第 14 回	製造間接費の配賦②	伝統的原価計算と活動基準原価計算の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

初回講義で指示します。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %（オンライン授業の場合は、適宜、学習支援システムで成績評価方法を提示する）

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline and objectives】

The focus of the course is on understanding the fundamental framework of cost accounting. Students learn the basic cost accounting systems and techniques, including an in-depth knowledge of cost concepts and behavior.

MAN200CA
原価計算 B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であって、原価計算の仕組みを考察する意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論的基礎について理解し、さらに進んで原価計算の今日的課題や、原価情報の使われ方についても知識を広めていきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	個別原価計算①	個別原価計算の特徴、特定製造指図書、原価計算表
第 2 回	個別原価計算②	原価元帳と製造勘定、製造間接費の予定配賦
第 3 回	個別原価計算③	個別原価計算における仕損品の処理、作業屑の評価
第 4 回	単純総合原価計算①	総合原価計算の特徴、仕掛品の進捗度と完成品換算量
第 5 回	単純総合原価計算②	月末仕掛品の評価、単純総合原価計算の計算例
第 6 回	単純総合原価計算③	総合原価計算における仕損品・減損の処理
第 7 回	工程別総合原価計算①	工程別総合原価計算の概要、全原価要素工程別総合原価計算
第 8 回	工程別総合原価計算②	加工費工程別総合原価計算の特徴と計算例
第 9 回	その他の総合原価計算	組別総合原価計算、等級別総合原価計算
第 10 回	連産品と副産物	連産品の原価計算方法、副産物の評価
第 11 回	標準原価計算①	標準原価計算の目的、標準原価の種類
第 12 回	標準原価計算②	原価標準の設定、標準原価の記帳法、原価差異
第 13 回	直接原価計算①	直接原価計算の目的、利益計画、直接標準原価計算
第 14 回	直接原価計算②	直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較、固定費調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

初回講義で指示します。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %（オンライン授業の場合は、適宜、学習支援システムで成績評価方法を提示する）

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline and objectives】

The focus of the course is on understanding the fundamental framework of cost accounting. Students learn the basic cost accounting systems and techniques, including an in-depth knowledge of cost concepts and behavior.

MAN200CA
会計学入門A
石田 惣平
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は事業の言語であり、企業活動を映し出す鏡ともいわれます。そのため、企業活動を分析・評価するためには会計の知識は欠かせません。本講義では、こうした企業活動を分析・評価する立場から必要となる会計の基礎知識を習得することを狙いとしています。

【到達目標】

本講義では、終了時に学生が以下の能力を身に着けることを目標としています。

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解する。
2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解する。
3. 会計数値を用いて企業を分析・評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

リアルタイムオンラインの形式で講義を行います。具体的には、Zoomを用いて、講義時間内に講義を行います。なお、ZoomのURL、ID、パスワードはHoppiiに掲載します。また、講義に関して質問がある場合は講義中にチャット欄に記入してもらうか、講義後にGoogleフォームからリアクションペーパーを提出して下さい。講義中の質問については適宜、講義後の質問については次回講義の冒頭で回答するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	会計学の目的	会計学の目的
2	財務会計のシステム	財務会計のシステム
3	複式簿記の構造	複式簿記の構造
4	財務会計の基本原則	財務会計の基本原則
5	企業の設立と資金調達	企業の設立と資金調達
6	仕入・生産活動	仕入・生産活動
7	販売活動①	売上の認識と測定／売上原価の計算
8	販売活動②	売上代金の回収／棚卸資産の期末評価／販売活動と財務諸表
9	設備投資と研究開発	設備投資と研究開発
10	資金の管理と運用	資金の管理と運用
11	国際活動	国際活動
12	税金と配当	税金と配当
13	企業集団の財務報告	企業集団の財務報告
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を読み、講義に参加してください。また、講義中に演習を実施するので、間違えた問題は事後的にしっかり復習しておくようにしてください。本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を授業前にアップロードします。各自で印刷するようにお願いします。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）で成績を評価します。なお、出席は単位取得の前提条件なので、出席が一定の割合を充たさない場合は成績評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

真剣に学びたい学生のサポートをできるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓あるいは関数電卓が必須となります。

【その他の重要事項】

会計学入門Bも合わせて受講することを推奨します。

【Outline and objectives】

Corporate accounting is said to be the language of business, and the mirror that reflects business activity. For this reason, corporate accounting is essential in order to analyze and evaluate firms. The aim of this class is to help students to acquire the basic knowledge of accounting from the standpoints of analysis and evaluation of business activity.

MAN200CA
会計学入門B
石田 惣平
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は事業の言語であり、企業活動を映し出す鏡ともいわれます。そのため、企業活動を分析・評価するためには会計の知識は欠かせません。本講義では、こうした企業活動を分析・評価する立場から必要となる会計の基礎知識を習得することを狙いとしています。

【到達目標】

本講義では、終了時に学生が以下の能力を身に着けることを目標としています。

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解する。
2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解する。
3. 会計数値を用いて企業を分析・評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

リアルタイムオンラインの形式で講義を行います。具体的には、Zoomを用いて、講義時間内に講義を行います。なお、ZoomのURL、ID、パスワードはHoppiiに掲載します。また、講義に関して質問がある場合は講義中にチャット欄に記入してもらるか、講義後にGoogleフォームからリアクションペーパーを提出して下さい。講義中の質問については適宜、講義後の質問については次回講義の冒頭で回答するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	財務諸表分析の目的	財務諸表分析の目的
2	財務諸表のシステム	財務諸表のシステム
3	連結貸借対照表の見方	連結貸借対照表の見方
4	連結損益計算書の見方	連結損益計算書の見方
5	貸借対照表データによる安全性分析	貸借対照表データによる安全性分析
6	損益計算書データによる収益性分析	損益計算書データによる収益性分析
7	相互関係比による収益性分析①	相互関係比と収益性分析／投下資本率の算定
8	相互関係比による収益性分析②	ROAの2分解とROEの3分解／財務レバレッジの効果
9	効率性分析	効率性分析
10	キャッシュフロー・データによる分析	キャッシュフロー・データによる分析
11	損益分岐点分析	損益分岐点分析
12	成長性分析	成長性分析
13	利益マネジメントと財務諸表分析	利益マネジメントと財務諸表分析
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を読み、講義に参加してください。また、講義中に演習を実施するので、間違えた問題は事後的にしっかり復習しておくようにしてください。本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を授業前にアップロードします。各自で印刷するようにお願いします。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）で成績を評価します。なお、出席は単位取得の前提条件なので、出席が一定の割合を充たさない場合は成績評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

真剣に学びたい学生のサポートをできるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓あるいは関数電卓が必須となります。

【その他の重要事項】

会計学入門Aも合わせて受講することを推奨します。

【Outline and objectives】

Corporate accounting is said to be the language of business, and the mirror that reflects business activity. For this reason, corporate accounting is essential in order to analyze and evaluate firms. The aim of this class is to help students to acquire the basic knowledge of accounting from the standpoints of analysis and evaluation of business activity.

MAN300CA
管理会計 A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営の場面では、経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者及び管理者が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義は、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、まず、伝統的な管理会計の理論と技法について学習します。その上で、急速に変化する経済環境のもとでは管理会計情報に対するニーズも変化することを踏まえ、新しいテーマについても理解を深めていきたい。

【到達目標】

1. 管理会計の基礎理論を理解する、2. 管理会計の具体的手法を習得する、3. 様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	経営活動と会計情報	経営管理と会計情報、経営管理プロセス、経営者の役割
第 2 回	管理会計の基礎①	財務会計情報と管理会計情報の相違
第 3 回	管理会計の基礎②	管理会計の体系、業績管理会計と意思決定会計
第 4 回	管理会計の基礎③	制度的原価概念、管理会計上の原価概念
第 5 回	短期利益計画	利益管理、コスト・ビヘイビア、大綱的利益計画
第 6 回	C V P 分析①	損益分岐点図表、利益図表、損益分岐点の算出
第 7 回	C V P 分析②	経営リスク、経営レバレッジ、安全余裕率
第 8 回	感度分析	損益分岐点の引き下げ、利益改善のためのアプローチ
第 9 回	多品種製品の C V P 分析	線形計画法、制約条件、セールス・ミックス
第 10 回	原価分解	実績データ基準法と工学的的方法
第 11 回	全部原価計算方式による C V P 分析	C V P 分析の仮定、全部原価計算による損益分岐点の算定
第 12 回	A B C / A B M ①	原価構造の変化、A B C の計算構造
第 13 回	A B C / A B M ②	A B C と A B M の関係、アクティビティ分析
第 14 回	品質コストマネジメント	予防コスト、評価コスト、内部失敗コスト、学部失敗コスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

武協誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %（オンライン授業の場合は、適宜、学習支援システムで成績評価方法を提示する）

【学生の意見等からの気づき】

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline and objectives】

Managerial accounting emphasizes the use of accounting information to support management in better decision-making in a variety of business contexts. The aim of this course is to help students acquire knowledge and understanding of management accounting techniques for planning and control, monitoring performance and decision making.

MAN300CA
管理会計 B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営の場面では、経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者及び管理者が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義は、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、まず、伝統的な管理会計の理論と技法について学習します。その上で、急速に変化する経済環境のもとでは管理会計情報に対するニーズも変化することを踏まえ、新しいテーマについても理解を深めていきたい。

【到達目標】

1. 管理会計の基礎理論を理解する、2. 管理会計の具体的方法を習得する、3. 様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	予算管理①	予算管理の機能、予算編成方針、予算の体系
第 2 回	予算管理②	予算編成プロセス、予算スラック、予算ゲーム
第 3 回	予算管理③	変動予算・固定予算、予算統制、ゼロベース予算
第 4 回	事業部制会計①	職能別組織と事業部制組織、責任会計、責任中心点
第 5 回	事業部制会計②	事業部長と事業部自体の業績評価
第 6 回	事業部制会計③	R O I と残余利益、社内資本金制度、振替価格
第 7 回	意思決定会計	経営意思決定の種類、意思決定プロセス
第 8 回	業務的意思決定①	特別注文、追加加工が販売か
第 9 回	業務的意思決定②	自製か購入か、既存製品の生産と販売
第 10 回	設備投資意思決定①	キャッシュ・フローの予測、貨幣の時間価値、資本コスト
第 11 回	設備投資意思決定②	会計的利益率法、回収期間法、正味現在価値法、内部利益率法
第 12 回	設備投資意思決定③	N P V 法と I R R 法の比較、再投資の仮定
第 13 回	原価企画	原価企画・原価維持・原価改善
第 14 回	B S C	戦略マップ、バランスト・スコアカード

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

武協誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %（オンライン授業の場合は、適宜、学習支援システムで成績評価方法を提示する）

【学生の意見等からの気づき】

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline and objectives】

Managerial accounting emphasizes the use of accounting information to support management in better decision-making in a variety of business contexts. The aim of this course is to help students acquire knowledge and understanding of management accounting techniques for planning and control, monitoring performance and decision making.

HSS300CA
スポーツ経済論
杉本 龍勇
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるスポーツの多様な意義、役割などを踏まえ、スポーツの経済効果に関する基礎知識を理解する。

【到達目標】

スポーツを社会的側面、経済的側面から理解することを目指す。具体的には、「スポーツの社会的役割」「スポーツの経済的役割」「スポーツビジネスの構造」について、基本的な概要を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な参考事例を取り上げ、スポーツの社会的、経済的な側面について多面的に説明をする。特に、様々なスポーツの経済効果に対する今後の可能性を踏まえながら、経済学や経営学の基礎と照らし合わせて講義を進めていく。
レポートやリアクションペーパーによって学習成果を確認する予定。これについては学習支援システムを使用し提出ならびにフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代社会とスポーツの関わり	スポーツの社会的役割について（経済的視点から）
第2回	スポーツの政策	日本のスポーツ政策について
第3回	高齢化社会とスポーツ	高齢化社会におけるスポーツの経済的役割について
第4回	子供とスポーツ	現在の子供に対するスポーツの経済的役割について
第5回	スポーツの経済的発展	スポーツのビジネス化のプロセスと今後の予測について
第6回	スポーツの経済効果	スポーツによる経済効果の概要とマクロ経済との関わりについて
第7回	スポーツイベントの経済効果	オリンピックを中心に、スポーツイベントによって派生する経済効果について
第8回	スポーツ産業の構造	スポーツ産業全般の仕組みについて
第9回	スポーツのマーケティングの基礎	スポーツに関するマーケティング戦略の基本概念について
第10回	スポーツ産業の特徴とマーケティング戦略	スポーツ産業の各分野における特徴を踏まえたマーケティングについて
第11回	スポーツの需要(1)	スポーツの需要（消費者行動）に関する時間配分や費用の影響について
第12回	スポーツの需要(2)	スポーツの需要（消費者行動）と他の財との関連について
第13回	スポーツのマーケティング（応用）	スポーツビジネスにおけるブランディングについて
第14回	まとめ	これまでの講義内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ関連の時事問題をテレビ、雑誌、新聞、Web などを使って調べる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

「Sports Economics theory, evidence and policy」 Paul Downward, Alistair Dawson, Trudo Dejonghe 著 Routledge
「The Economics of Sport」 Robert Sandy, Peter J.Sloane, Mark S.Rosentraub 著 Palgrave macmillan
「スポーツ経済学」 里麻克彦著 北海道大学出版会
「スポーツの経済学」 マイケル・A・リーズ、ペーター・フォン・アルメン著 大坪正則監訳 佐々木勉訳 中央経済社
「スポーツマーケティング交換課程の経営」
スポーツマネジメント研究会 編訳

【成績評価の方法と基準】

【教室における対面授業が可能な場合】

平常点：50%

試験（論述）：50%

【オンライン授業のみで開講する場合】

平常点ならびにレポート提出：50%

試験（オンライン形式）：50%

注意点：

授業状況によって、試験を中止し、レポートのみの評価に変更することもあり得る。その場合は、学習支援システムに情報をアップするので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

スライドの作成において工夫をし、講義内容の聴講とノート作成のバランスが適切になるように努める。また、イメージがしやすい具体例を挙げるようにする。
またオンラインでの授業形式の場合、講義時間の最中に簡単なレポート作成を行うなどして、講義内容の理解度を向上させるような工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

教室における対面授業が可能な場合、プロジェクターを使って講義を行う。また講義で使用する資料は学習支援システムを用いて配布する。講義前にプリントアウトして持参すること。
オンライン授業のケースでは、オンラインミーティングアプリを使用し、ライブによる講義を実施する予定。毎講義については録画をし、試験前にオンデマンドとして配信する予定。

【その他の重要事項】

資料だけでなく、講義内容をノートに書き留めることを薦める。
学習支援システムを使用し、授業に関する情報、資料を定期的にチェックすること。
またオンライン講義の前には、メールや学習支援システムによってミーティングに関する情報を通知するので、確認すること。

【Outline and objectives】

The purpose is to acquire basic knowledge about economic impact of sports. For the purpose, it is based on understanding about social significance and influence of sports.

LANe200CA

Business Communication I A

リチャード エバノフ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 3/Fri.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn about cross-cultural differences in international business.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their intercultural business communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students will be given a reading assignment and then be expected to write an essay about what they have read. Feedback on essays will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Student introductions	Essay (1)
Week 2	Course introduction	Read assigned documents
Week 3	Coronavirus and business (1)	Newspaper article
Week 4	Coronavirus and business (2)	Essay (2)
Week 5	Globalization in business (1)	Chapter 1 in textbook
Week 6	Globalization in business (2)	Essay (3)
Week 7	Business manners (1)	Chapter 2 in textbook
Week 8	Business manners (2)	Essay (4)
Week 9	Names and titles (1)	Chapter 3 in textbook
Week 10	Names and titles (2)	Essay (5)
Week 11	Business etiquette (1)	Chapter 4 in textbook
Week 12	Business etiquette (2)	Essay (6)
Week 13	Review as necessary (1)	Review (1)
Week 14	Review as necessary (2)	Review (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by reading the appropriate chapter in advance and checking vocabulary (approximately two hours per week). Following the lesson students should review both the chapter and what was discussed in class (approximately two hours per week). Additional home preparation for student presentations is required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

Shishido, Makoto and Bruce Allen (2003). Global Understanding: Success in International Business. Tokyo: Seibido. ISBN 9784791940660 (¥ 1,700)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they return to me (100%). It is important that you submit all assignments by the deadline so that I have enough time to read and mark them. Grades will be reduced if you submit the assignments late.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

This course is intended to help prepare students to effectively engage in international business after they begin working.

LANe200CA
Business Communication IA
リチャード エバノフ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn about cross-cultural differences in international business.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their intercultural business communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be given a reading assignment and then be expected to write an essay about what they have read. Feedback on essays will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Student introductions	Essay (1)
Week 2	Course introduction	Read assigned documents
Week 3	Coronavirus and business (1)	Newspaper article
Week 4	Coronavirus and business (2)	Essay (2)
Week 5	Globalization in business (1)	Chapter 1 in textbook
Week 6	Globalization in business (2)	Essay (3)
Week 7	Business manners (1)	Chapter 2 in textbook
Week 8	Business manners (2)	Essay (4)
Week 9	Names and titles (1)	Chapter 3 in textbook
Week 10	Names and titles (2)	Essay (5)
Week 11	Business etiquette (1)	Chapter 4 in textbook
Week 12	Business etiquette (2)	Essay (6)
Week 13	Review as necessary (1)	Review (1)
Week 14	Review as necessary (2)	Review (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by reading the appropriate chapter in advance and checking vocabulary (approximately two hours per week). Following the lesson students should review both the chapter and what was discussed in class (approximately two hours per week). Additional home preparation for student presentations is required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

Shishido, Makoto and Bruce Allen (2003). Global Understanding: Success in International Business. Tokyo: Seibido. ISBN 9784791940660 (¥ 1,700)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they return to me (100%). It is important that you submit all assignments by the deadline so that I have enough time to read and mark them. Grades will be reduced if you submit the assignments late.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

This course is intended to help prepare students to effectively engage in international business after they begin working.

LANe200CA
Business Communication IB
リチャード エバノフ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn the basics of international business communication from an intercultural perspective. The course will compare the business customs of Japan with those other countries, while considering how people from different cultures can work together effectively despite having different ways of thinking and different communication styles.

【到達目標】

This course is intended to prepare students to use English in international business situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Both the teacher and students will present chapters from the textbook, with selected exercises for students. Supplementary lectures will be given by the teacher on topics not covered by the textbook. Feedback will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Explanation by teacher
Week 2	US and Japanese Business: A Case Study	Lesson 11 in textbook
Week 3	Marketing, Advertising, and Distribution	Lesson 12 in textbook
Week 4	Communication in the "Thumb Generation"	Lesson 13 in textbook
Week 5	Women in the International Workplace	Lesson 14 in textbook
Week 6	Changes in Employment Systems	Lesson 15 in textbook
Week 7	Establishing Trust in International Business	Lesson 16 in textbook
Week 8	International Business and the Internet	Lesson 17 in textbook
Week 9	Business and the Law: Foreign Lawsuits	Lesson 18 in textbook
Week 10	Questions about Globalization and Free Trade	Lesson 19 in textbook
Week 11	What is Success in the Global Business World?	Lesson 20 in textbook
Week 12	Advertising and Public Relations	Supplementary lecture (1)

Week 13	Intercultural Communication and Globalization	Supplementary lecture (2)
Week 14	Final summary	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by reading the appropriate chapter in advance and checking vocabulary (approximately two hours per week). Following the lesson students should review both the chapter and what was discussed in class (approximately two hours per week). Additional home preparation for student presentations is required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

Shishido, Makoto and Bruce Allen (2003). Global Understanding: Success in International Business. Tokyo: Seibido. ISBN 9784791940660 (¥ 1,700)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated by class participation (50%) and by their presentations in class (50%). There will be no final examination.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

In this course students will learn the basics of international business communication from an intercultural perspective. The course will compare the business customs of Japan with those other countries, while considering how people from different cultures can work together effectively despite having different ways of thinking and different communication styles. This course focuses on the following activities: preparing and giving presentations of chapters from the textbook, listening to lectures given the teacher, and discussing material presenting both in the textbook and by the teacher

LANe200CA

Business Communication I B

リチャード エバノフ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 3/Fri.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn the basics of international business communication from an intercultural perspective. The course will compare the business customs of Japan with those other countries, while considering how people from different cultures can work together effectively despite having different ways of thinking and different communication styles.

【到達目標】

This course is intended to prepare students to use English in international business situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Both the teacher and students will present chapters from the textbook, with selected exercises for students. Supplementary lectures will be given by the teacher on topics not covered by the textbook. Feedback will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Explanation by teacher
Week 2	US and Japanese Business: A Case Study	Lesson 11 in textbook
Week 3	Marketing, Advertising, and Distribution	Lesson 12 in textbook
Week 4	Communication in the "Thumb Generation"	Lesson 13 in textbook
Week 5	Women in the International Workplace	Lesson 14 in textbook
Week 6	Changes in Employment Systems	Lesson 15 in textbook
Week 7	Establishing Trust in International Business	Lesson 16 in textbook
Week 8	International Business and the Internet	Lesson 17 in textbook
Week 9	Business and the Law: Foreign Lawsuits	Lesson 18 in textbook
Week 10	Questions about Globalization and Free Trade	Lesson 19 in textbook

Week 11	What is Success in the Global Business World?	Lesson 20 in textbook
Week 12	Advertising and Public Relations	Supplementary lecture (1)
Week 13	Intercultural Communication and Globalization	Supplementary lecture (2)
Week 14	Final summary	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by reading the appropriate chapter in advance and checking vocabulary (approximately two hours per week). Following the lesson students should review both the chapter and what was discussed in class (approximately two hours per week). Additional home preparation for student presentations is required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

Shishido, Makoto and Bruce Allen (2003). Global Understanding: Success in International Business. Tokyo: Seibido. ISBN 9784791940660 (¥ 1,700)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated by class participation (50%) and by their presentations in class (50%). There will be no final examination.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

In this course students will learn the basics of international business communication from an intercultural perspective. The course will compare the business customs of Japan with those other countries, while considering how people from different cultures can work together effectively despite having different ways of thinking and different communication styles. This course focuses on the following activities: preparing and giving presentations of chapters from the textbook, listening to lectures given the teacher, and discussing material presenting both in the textbook and by the teacher

ECN200CA

Japan and ASEAN Economy A

MANISH SHARMA

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：火 1/Tue.1 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course analyses the recent history of economic collaboration between Japan and ASEAN countries. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1.Introduce the historical economic perspective about Japan and ASEAN
 2.Impart macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1.Interactive: With a strong emphasis on student participation.
 2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
 3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
 4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course
2	FLYING GEESE	East Asian Miracle; Critique of
	PARADIGM	Akamatsu paradigm
3	STATE CAPITALISM	Definition; Theoretical framework;
		Historical precedents
4	THEORIES OF	Authoritarian developmentalism
	GOVERNANCE	(Watanabe)
5	ASEAN PLUS 3	Mechanism, Economic cooperation;
		Trade and investment patterns
6	MODERNIZING	Pre and post war economic policies;
	JAPAN 1	Zaibatsu to Keiretsu
7	MODERNIZING	Role of MITI and other institutions;
	JAPAN 2	The Main Bank System
8	BRIEF HISTORY OF	Colonial and cultural legacy
	ASEAN	
9	ECONOMIC	Monetary and fiscal policy
	POLICIES IN ASEAN	
10	FINANCIAL	Institutional perspective
	SYSTEMS IN ASEAN	
11	JAPAN IN ASEAN	Investment, trade and aid
12	ECONOMIC	Prospects of convergence
	INTEGRATION	
13	ECONOMIC	Economic and social indicators
	DEVELOPMENT IN	
	ASEAN	
14	JAPAN-ASEAN	Future bound perspective; Impact
	ECONOMIC TIES	of trade war

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list will be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
 2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
 3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【その他の重要事項】

1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
 2.The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

【Outline and objectives】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course analyses the recent history of economic collaboration between Japan and ASEAN countries.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

ECN200CA
Japan and ASEAN Economy A
MANISH SHARMA
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course analyses the recent history of economic collaboration between Japan and ASEAN countries. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1. Introduce the historical economic perspective about Japan and ASEAN
2. Impart macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
 2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
 3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
 4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.
- Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course
2	FLYING GEESE PARADIGM	East Asian Miracle; Critique of Akamatsu paradigm
3	STATE CAPITALISM	Definition; Theoretical framework; Historical precedents
4	THEORIES OF GOVERNANCE	Authoritarian developmentalism (Watanabe)
5	ASEAN PLUS 3	Mechanism, Economic cooperation; Trade and investment patterns
6	MODERNIZING JAPAN 1	Pre and post war economic policies; Zaibatsu to Keiretsu
7	MODERNIZING JAPAN 2	Role of MITI and other institutions; The Main Bank System
8	BRIEF HISTORY OF ASEAN	Colonial and cultural legacy
9	ECONOMIC POLICIES IN ASEAN	Monetary and fiscal policy
10	FINANCIAL SYSTEMS IN ASEAN	Institutional perspective
11	JAPAN IN ASEAN	Investment, trade and aid
12	ECONOMIC INTEGRATION	Prospects of convergence
13	ECONOMIC DEVELOPMENT IN ASEAN	Economic and social indicators
14	JAPAN-ASEAN ECONOMIC TIES	Future bound perspective; Impact of trade war

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list will be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

【Outline and objectives】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course analyses the recent history of economic collaboration between Japan and ASEAN countries. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

ECN200CA

Japan and ASEAN Economy B

MANISH SHARMA

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：火 1/Tue.1 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course analyses the recent history of economic collaboration between Japan and ASEAN countries. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1.Introduce the historical economic perspective about Japan and ASEAN
 2.Impart macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1.Interactive: With a strong emphasis on student participation.
 2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
 3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
 4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course
2	FLYING GEESE	East Asian Miracle; Critique of
	PARADIGM	Akamatsu paradigm
3	STATE CAPITALISM	Theoretical framework; Historical precedents
4	THEORIES OF GOVERNANCE	Authoritarian developmentalism (Watanabe)
5	ASEAN PLUS 3	Mechanism, Economic cooperation; Trade and investment patterns
6	MODERNIZING JAPAN 1	Pre and post war economic policies; Zaibatsu to Keiretsu
7	MODERNIZING JAPAN 2	Role of MITI and other institutions; The Main Bank System
8	BRIEF HISTORY OF ASEAN	Colonial and cultural legacy
9	ECONOMIC POLICIES IN ASEAN	Monetary and fiscal policy
10	FINANCIAL SYSTEMS IN ASEAN	Institutional perspective
11	JAPAN IN ASEAN	Investment, trade and aid
12	ECONOMIC INTEGRATION	Prospects of convergence
13	ECONOMIC DEVELOPMENT IN ASEAN	Economic and social indicators
14	JAPAN-ASEAN ECONOMIC TIES	Future bound perspective; Impact of trade war

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list to be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
 2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
 3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
 2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

【Outline and objectives】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course analyses the recent history of economic collaboration between Japan and ASEAN countries.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

ECN200CA
Japan and ASEAN Economy B
MANISH SHARMA
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course analyses the recent history of economic collaboration between Japan and ASEAN countries. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1. Introduce the historical economic perspective about Japan and ASEAN
2. Impart macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
 2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
 3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
 4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.
- Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course
2	FLYING GEESE PARADIGM	East Asian Miracle; Critique of Akamatsu paradigm
3	STATE CAPITALISM	Theoretical framework; Historical precedents
4	THEORIES OF GOVERNANCE	Authoritarian developmentalism (Watanabe)
5	ASEAN PLUS 3	Mechanism, Economic cooperation; Trade and investment patterns
6	MODERNIZING JAPAN 1	Pre and post war economic policies; Zaibatsu to Keiretsu
7	MODERNIZING JAPAN 2	Role of MITI and other institutions; The Main Bank System
8	BRIEF HISTORY OF ASEAN	Colonial and cultural legacy
9	ECONOMIC POLICIES IN ASEAN	Monetary and fiscal policy
10	FINANCIAL SYSTEMS IN ASEAN	Institutional perspective
11	JAPAN IN ASEAN	Investment, trade and aid
12	ECONOMIC INTEGRATION	Prospects of convergence
13	ECONOMIC DEVELOPMENT IN ASEAN	Economic and social indicators
14	JAPAN-ASEAN ECONOMIC TIES	Future bound perspective; Impact of trade war

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list to be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

【Outline and objectives】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course analyses the recent history of economic collaboration between Japan and ASEAN countries. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

ECN200CA

Japanese Business and Economy A

MANISH SHARMA

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：火 3/Tue.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing introductory knowledge of the Japanese economy and the business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

The course intends to cover:

1. The brief economic history of Japan
2. The institutional basis of the contemporary Japanese economy
3. The characteristics of Japanese business practices

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the Japanese Economy and Business
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Political economy of Japan
2	JAPANESE ECONOMIC MIRACLE	Characteristics and attributes; Flying Geese Model; Impact on other countries

3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; Allied occupation; Zaibatsu to Keiretsu
4	CRISES MANAGEMENT	Plaza Accord; Bubble economy; East Asian financial crisis; Lost decades
5	STATE CAPITALISM	Characteristics; Theoretical framework; Role of MITI and other institutions
6	FINANCIAL SYSTEM	The Main bank system; Evolution of Japanese capital market; Convergence debate
7	ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	STRUCTURAL REFORMS	Productivity slowdown; Big-Bang
9	JAPAN INC.	Keiretsu and cross-ownership; Management system and corporate governance
10	LABOR MARKET	The employment system; Continuity and change
11	ABENOMICS	Performance indicators; Critique; Course correction
12	JAPAN INC. 2.0	Cool Japan; Brand Japan; Startup scene
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, Review of Economic Dynamics, 206-235.
 Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?

Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience
 Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, Japanese Economic Review 53(3), 243-273.

Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis

Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.

Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in Corporate Financing and Governance in Japan, Cambridge MA: MIT Press

Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.

Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, Japanese Economic Review, 55(3), 240-266,
 McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), Dollar and Yen, MIT Press.

The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.

Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in Reviving Japan's Economy, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, American Sociological Review, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) The Political Economy of Japan's Low Fertility

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in Ageing and Pension Reform around the World.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【その他の重要事項】

Class materials:

Lecture Notes | Class Slides | Weekly Handouts & Reading Lists | Updated Syllabus are available on the course website
Course website: jecon.school.blog

【Notes】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

【Outline and objectives】

The focus of this course is on providing introductory knowledge of the Japanese economy and the business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

ECN200CA

Japanese Business and Economy A

MANISH SHARMA

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing introductory knowledge of the Japanese economy and the business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

The course intends to cover:

1. The brief economic history of Japan
2. The institutional basis of the contemporary Japanese economy
3. The characteristics of Japanese business practices

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the Japanese Economy and Business
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Political economy of Japan
2	JAPANESE ECONOMIC MIRACLE	Characteristics and attributes; Flying Geese Model; Impact on other countries
3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; Allied occupation; Zaibatsu to Keiretsu

4	CRISES MANAGEMENT	Plaza Accord; Bubble economy; East Asian financial crisis; Lost decades
5	STATE CAPITALISM	Characteristics; Theoretical framework; Role of MITI and other institutions
6	FINANCIAL SYSTEM	The Main bank system; Evolution of Japanese capital market; Convergence debate
7	ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	STRUCTURAL REFORMS	Productivity slowdown; Big-Bang
9	JAPAN INC.	Keiretsu and cross-ownership; Management system and corporate governance
10	LABOR MARKET	The employment system; Continuity and change
11	ABENOMICS	Performance indicators; Critique; Course correction
12	JAPAN INC. 2.0	Cool Japan; Brand Japan; Startup scene
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, Review of Economic Dynamics, 206-235.
Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?

Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience

Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, Japanese Economic Review 53(3), 243-273.

Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis

Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.

Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in Corporate Financing and Governance in Japan, Cambridge MA: MIT Press

Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.

Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, Japanese Economic Review, 55(3), 240-266,

McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), Dollar and Yen, MIT Press.

The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.

Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in Reviving Japan's Economy, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, American Sociological Review, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) The Political Economy of Japan's Low Fertility

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in Ageing and Pension Reform around the World.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)

2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)

3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【その他の重要事項】

Class materials:

Lecture Notes | Class Slides | Weekly Handouts & Reading Lists | Updated Syllabus are available on the course website
Course website: jecon.school.blog

【Notes】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite

2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

【Outline and objectives】

The focus of this course is on providing introductory knowledge of the Japanese economy and the business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

ECN200CA

Japanese Business and Economy B

MANISH SHARMA

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：火 3/Tue.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing introductory knowledge of the Japanese economy and the business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

The course intends to cover:

1. The brief economic history of Japan
2. The institutional basis of the contemporary Japanese economy
3. The characteristics of Japanese business practices

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the Japanese Economy and Business
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Political economy of Japan
2	JAPANESE ECONOMIC MIRACLE	Characteristics and attributes; Flying Geese Model; Impact on other countries

3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; Allied occupation; Zaibatsu to Keiretsu
4	CRISES MANAGEMENT	Plaza Accord; Bubble economy; East Asian financial crisis; Lost decades
5	STATE CAPITALISM	Characteristics; Theoretical framework; Role of MITI and other institutions
6	FINANCIAL SYSTEM	The Main bank system; Evolution of Japanese capital market; Convergence debate
7	ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	STRUCTURAL REFORMS	Productivity slowdown; Big-Bang
9	JAPAN INC.	Keiretsu and cross-ownership; Management system and corporate governance
10	LABOR MARKET	The employment system; Continuity and change
11	ABENOMICS	Performance indicators; Critique; Course correction
12	JAPAN INC. 2.0	Cool Japan; Brand Japan; Startup scene
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, Review of Economic Dynamics, 206-235.
 Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?
 Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience
 Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, Japanese Economic Review 53(3), 243-273.
 Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis
 Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.
 Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in Corporate Financing and Governance in Japan, Cambridge MA: MIT Press
 Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.
 Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, Japanese Economic Review, 55(3), 240-266,
 McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), Dollar and Yen, MIT Press.
 The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.
 Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in Reviving Japan's Economy, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, American Sociological Review, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) The Political Economy of Japan's Low Fertility

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in Ageing and Pension Reform around the World.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【その他の重要事項】

Class materials:

Lecture Notes | Class Slides | Weekly Handouts & Reading Lists | Updated Syllabus are available on the course website
Course website: jecon.school.blog

【Notes】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

【Outline and objectives】

The focus of this course is on providing introductory knowledge of the Japanese economy and the business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

ECN200CA

Japanese Business and Economy B

MANISH SHARMA

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing introductory knowledge of the Japanese economy and the business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

The course intends to cover:

1. The brief economic history of Japan
2. The institutional basis of the contemporary Japanese economy
3. The characteristics of Japanese business practices

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the Japanese Economy and Business
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Political economy of Japan
2	JAPANESE ECONOMIC MIRACLE	Characteristics and attributes; Flying Geese Model; Impact on other countries
3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; Allied occupation; Zaibatsu to Keiretsu

4	CRISES MANAGEMENT	Plaza Accord; Bubble economy; East Asian financial crisis; Lost decades
5	STATE CAPITALISM	Characteristics; Theoretical framework; Role of MITI and other institutions
6	FINANCIAL SYSTEM	The Main bank system; Evolution of Japanese capital market; Convergence debate
7	ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	STRUCTURAL REFORMS	Productivity slowdown; Big-Bang
9	JAPAN INC.	Keiretsu and cross-ownership; Management system and corporate governance
10	LABOR MARKET	The employment system; Continuity and change
11	ABENOMICS	Performance indicators; Critique; Course correction
12	JAPAN INC. 2.0	Cool Japan; Brand Japan; Startup scene
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, *Review of Economic Dynamics*, 206-235.
Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?

Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? *Lessons from Japan's Post Crisis Experience*

Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, *Japanese Economic Review* 53(3), 243-273.

Clark and Ishii (2012) *Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai*, University of California, Davis

Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in *Japan's Lost Decade*, International House of Japan.

Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) *Costs and Benefits of Keiretsu Financing*, in *Corporate Financing and Governance in Japan*, Cambridge MA: MIT Press

Allen, F. and M. Zhao (2007) *The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers*.

Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, *Japanese Economic Review*, 55(3), 240-266,

McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), *Dollar and Yen*, MIT Press.

The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) *Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea*.

Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), *Issues Facing the Japanese Labor Market*, in *Reviving Japan's Economy*, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), *Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage*, *American Sociological Review*, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) *The Political Economy of Japan's Low Fertility*

Toshimitsu Shinkawa (2006) *The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in Ageing and Pension Reform around the World*.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)

2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)

3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【その他の重要事項】

Class materials:

Lecture Notes | Class Slides | Weekly Handouts & Reading Lists | Updated Syllabus are available on the course website
Course website: jecon.school.blog

【Notes】

1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite

2.The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

【Outline and objectives】

The focus of this course is on providing introductory knowledge of the Japanese economy and the business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

ECN218CA
演習
岸 牧人
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計の基礎概念，基礎理論，会計制度の枠組みを理解する。その上で，以下の視点から各自の研究テーマを選定し，卒業論文の作成を行う。

1. 企業内容の開示情報と経済社会
2. 内部会計情報とマネジメント
3. 公認会計士監査に関する現代的課題

【到達目標】

企業財務や公認会計士監査に関する現代的課題に対して，理論的・論理的に考察するスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち，経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. テキストの内容について輪番でプレゼンおよび討論を行う。
2. マネジメント・ゲーム（日本総合研究所開発）をチーム対抗形式で行う。結果の分析と改善点についてチーム内で討論を行う。
3. アカウンティング・チャレンジをチーム対抗形式で行う。
4. 各自の研究テーマについてプレゼンを行い，討論を行う。
5. 簿記リーグをチーム対抗形式で行う。正解者による解答と解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	スケジュール（年間，春学期）の決定，役職の決定，各チームメンバーの決定，研究テーマの探索
第 2 回	マネジメント・ゲーム #1 テキスト#1	マネジメント・ゲーム（会社設立，第 1 期，第 2 期），テキスト第 1 章のプレゼン
第 3 回	アカウンティング・チャレンジ#1 個人研究プレゼン#1	アカウンティング・チャレンジ 1 回戦，各自の研究テーマの発表
第 4 回	マネジメント・ゲーム #2 テキスト#2	マネジメント・ゲーム（第 3 期，第 4 期），テキスト第 2 章のプレゼン
第 5 回	アカウンティング・チャレンジ#2 チーム研究プレゼン #1	アカウンティング・チャレンジ 2 回戦，チーム研究の研究テーマの発表
第 6 回	マネジメント・ゲーム #3 テキスト#3	マネジメント・ゲーム（第 5 期，第 6 期），テキスト第 3 章のプレゼン
第 7 回	アカウンティング・チャレンジ#3 チーム研究プレゼン #2	アカウンティング・チャレンジ 3 回戦，チーム研究のプレゼン
第 8 回	簿記リーグ#1 テキスト#4	簿記リーグ春学期 1 回戦，テキスト第 4 章のプレゼン
第 9 回	マネジメント・ゲーム #4 チーム研究プレゼン #3	マネジメント・ゲーム（第 7 期，第 8 期），チーム研究のプレゼン

第 10 回	アカウンティング・チャレンジ#4 テキスト#5	アカウンティング・チャレンジ 4 回戦，テキスト第 5 章のプレゼン
第 11 回	マネジメント・ゲーム #5 チーム研究プレゼン#4	マネジメント・ゲーム（第 9 期，第 10 期），チーム研究のプレゼン
第 12 回	アカウンティング・チャレンジ#5 テキスト#6	アカウンティング・チャレンジ 5 回戦，テキスト第 6 章のプレゼン
第 13 回	マネジメント・ゲーム #6 チーム研究プレゼン #5	マネジメント・ゲーム（総括と分析），チーム研究のプレゼン
第 14 回	簿記リーグ#2 テキスト#7	簿記リーグ春学期 2 回戦，テキスト第 7 章のプレゼン
第 15 回	秋学期イントロダクション 夏合宿の成果発表	秋学期スケジュールの決定，各チームメンバーの決定，夏合宿でのプレゼンのレビュー
第 16 回	4 年生卒業論文プレゼン#1	4 年生による卒業論文のプレゼン（テーマと問題意識，研究方法）
第 17 回	アカウンティング・チャレンジ#1 テキスト#8	アカウンティング・チャレンジ 1 回戦，テキスト第 8 章のプレゼン
第 18 回	マネジメント・ゲーム #1 チーム研究プレゼン #6	マネジメント・ゲーム（会社設立，第 1 期，第 2 期） チーム研究のプレゼン
第 19 回	簿記リーグ#1 テキスト#9	簿記リーグ秋学期 1 回戦，テキスト第 9 章のプレゼン
第 20 回	アカウンティング・チャレンジ#2 4 年生卒論プレゼン#2	アカウンティング・チャレンジ 2 回戦，4 年生による卒業論文のプレゼン
第 21 回	マネジメント・ゲーム #2 チーム研究プレゼン #7	マネジメント・ゲーム（第 3 期，第 4 期） チーム研究のプレゼン
第 22 回	簿記リーグ#2 テキスト#10	簿記リーグ秋学期 2 回戦，テキスト第 10 章のプレゼン
第 23 回	アカウンティング・チャレンジ#3 4 年生卒論プレゼン#3	アカウンティング・チャレンジ 3 回戦，4 年生による卒業論文のプレゼン
第 24 回	マネジメント・ゲーム #3 チーム研究プレゼン #8	マネジメント・ゲーム（第 5 期，第 6 期），チーム研究のプレゼン
第 25 回	アカウンティング・チャレンジ#4 2 年生個人研究プレゼン#1	アカウンティング・チャレンジ 4 回戦，2 年生による個人研究プレゼン（前半）
第 26 回	マネジメント・ゲーム #4 4 年生卒論プレゼン#4	マネジメント・ゲーム（第 7 期，第 8 期），4 年生による卒業論文のプレゼン
第 27 回	簿記リーグ#3 2 年生個人研究プレゼン#2	簿記リーグ秋学期 3 回戦，2 年生による個人研究プレゼン（後半）
第 28 回	マネジメント・ゲーム #5 年間の振り返りと新年 度の方針決定	マネジメント・ゲーム（総括と分析），ゼミ活動全般に関する振り返りと新年度の方針決定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーションの準備に関する資料収集，分担決め，打ち合わせ等本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新井清光，川村義則『新版現代会計学』（第 2 版），中央経済社，2018 年。

【参考書】

『会計法規集』（開講時の最新版）

【成績評価の方法と基準】

アカウンティング・チャレンジの成績 20%, ビジネス・ゲームの総括と分析の内容 20%, 個人研究プレゼンの内容 20%, チーム研究プレゼンの内容 20%, 簿記リーグの個人成績 20%

【学生の意見等からの気づき】

演習科目につき実施していない。

【Outline and objectives】

This seminar introduces corporate financial accounting, managerial accounting, and auditing. Each member of this seminar should have their own research question, and write a graduation thesis.

ECN218CA
演習
小黑 一正
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは日本経済が直面する課題とし、少子高齢化、政治システム、世代間格差、財政・社会保障、金融政策、労働市場等を巡る問題を考える上で参考になる日本語・英語のテキストを輪読しつつ、その解決策を討論する。

【到達目標】

経済学の視点から、日本経済が直面する課題の現状と問題を分析し、その解決の方向性について議論するための基礎的な知識や方法論を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半は、経済学の概念・理論の理解を深める観点から、テキストを輪読する。後半は調査分析を行う共通テーマを設定し、ゼミ生からの報告と質疑を中心に授業を進める。また、ゼミ生は ISFJ 日本政策学生会議に参加し、政策提言の報告を目指すこととする。課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期ガバナンス	演習の狙い、春学期スケジュールの説明、輪読テキストの決定
第 2 回	輪読 (1)	担当学生による発表と質疑
第 3 回	輪読 (2)	担当学生による発表と質疑
第 4 回	輪読 (3)	担当学生による発表と質疑
第 5 回	輪読 (4)	担当学生による発表と質疑
第 6 回	輪読 (5)	担当学生による発表と質疑
第 7 回	輪読 (6)	担当学生による発表と質疑
第 8 回	輪読 (7)	担当学生による発表と質疑
第 9 回	輪読 (8)	担当学生による発表と質疑
第 10 回	輪読 (9)	担当学生による発表と質疑
第 11 回	輪読 (10)	担当学生による発表と質疑
第 12 回	輪読 (11)	担当学生による発表と質疑
第 13 回	輪読 (12)	担当学生による発表と質疑
第 14 回	総括	サブゼミ等
第 15 回	後期ガバナンス	春学期の復習、秋学期スケジュールの確認
第 16 回	調査分析 (1)	共通テーマ候補の提案とプレゼン
第 17 回	調査分析 (2)	共通テーマの決定、関連文献の検討
第 18 回	調査分析 (3)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 19 回	調査分析 (4)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 20 回	調査分析 (5)	担当学生による関連文献の報告と質疑

第 21 回 調査分析 (6)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 22 回 調査分析 (7)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 23 回 調査分析 (8)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 24 回 調査分析 (9)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 25 回 調査分析 (10)	共通テーマ全体の総括と討論
第 26 回 その他 (1)	次年度 ISFJ 参加テーマ候補の提案とプレゼン、卒論報告
第 27 回 その他 (2)	次年度 ISFJ 参加テーマ候補の提案とプレゼン、卒論報告
第 28 回 総括	サブゼミ等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決定する。

【参考書】

参考書は適宜指示するが、自らの興味に応じて以下の書籍も読んでほしい。

フリードマン『資本主義と自由』日経 BP 社

中田真佐男『基礎から学ぶ動学マクロ経済学に必要な数学』日本評論社

二神孝一『動学マクロ経済学 成長理論の発展』日本評論社

麻生良文『公共経済学』有斐閣

麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房

麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社

加藤久和『世代間格差』ちくま新書

田中秀明『財政規律と予算制度改革』日本評論社

野口悠紀雄『消費増税では財政再建できない』ダイヤモンド社

小黒一正『財政危機の深層—増税・年金・赤字国債を問う』NHK 出版

小黒一正『アベノミクスでも消費税は 25 %を超える』PHP 研究所

小黒一正『2020 年、日本が破綻する日』日経プレミアシリーズ

小黒一正・小林慶一郎『日本破綻を防ぐ 2 つのプラン』日本経済新聞出版社

ラインハート・ロゴフ『国家は破綻する——金融危機の 800 年』日経 BP 社

日本再建イニシアティブ編『人口蒸発「5000 万人国家」日本の衝撃——人口問題民間臨調 調査・報告書』新潮社

山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学のアプローチへの招待』日本評論社

山重慎二『家族と社会の経済分析: 日本社会の変容と政策的対応』東京大学出版会

小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社

鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社

西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社

西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社

田近栄治・佐藤主光『医療と介護の世代間格差』東洋経済新報社

鈴木亘・八代尚宏『成長産業としての医療と介護』日本経済新聞出版社

池尾和人『現代の金融入門（新版）』ちくま新書

池尾和人『連続講義：デフレと経済政策 アベノミクスの経済分析』日経 BP 社

白川方明『現代の金融政策—理論と実際』日本経済新聞出版社

翁邦雄『ポスト・マネタリズムの金融政策』日本経済新聞出版社

小宮隆太郎・日本経済研究センター『金融政策論議の争点』日本経済新聞出版社

吉川洋『デフレーション—“日本の慢性病”の全貌を解明する』日本経済新聞出版社

岩田一政『デフレとの闘い』日本経済新聞出版社

佐藤主光『地方税改革の経済学』日本経済新聞出版社

太田 聡一『若年者就業の経済学』日本経済新聞出版社

大内伸哉・川口大司『法と経済で読みとく雇用の世界』有斐閣

深尾京司『「失われた 20 年」と日本経済』日本経済新聞出版社

井堀利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社

ブキャナン・ワグナー『赤字の民主主義 ケインズが遺したもの』日経 BP 社

飯塚信夫・加藤久和『EViews による経済予測とシミュレーション入門』日本評論社

Jones, *Macroeconomics*, 2011, W. W. Norton & Company.

Wooldridge, *Introductory Econometrics: A Modern Approach*, 2008, South-Western.

Kotlikoff, Leibfritz, and Auerbach, *Generational Accounting Around the World*, 1999, Univ of Chicago Press.

Keen, Bodin, and Summers, *The Modern Vat*, 2002, International Monetary Fund.

Persson and Tabellini, *Political Economics*, 2002, MIT Press.

【成績評価の方法と基準】

評価は、授業内評価（例：全体への議論の参加）70 %および報告・発表の評価 30 %によって総合的に判断する。無断欠席は禁止する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese economy, by using the approaches of economic theories and empirical methods.

In this course, I'd like you to learn how to analyze political and economic issues with empirical evidence or data, and to search the solution of them.

ECN218CA
演習
平井 俊行
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文献の輪読を通じてゲーム理論、今年度は主にオークション理論の基礎概念・考え方・使い方を学習します。また、プレゼンテーションの技術の向上も目指します。

【到達目標】

ゲーム理論についての基礎的な知識の習得、オークション理論の使い方・使われ方の習得、論理的に思考・説明する技術の習得、を目標とします。実際に利用されている・利用できそうなオークションについて最終報告書を執筆し、明快に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

シラバス執筆時点(2021 年 1 月中旬) では対面での講義が基本となっています。

輪読を中心に進めます。メインで使用するのは下記「教科書」欄の本ですが、それに入る前に「参考書」欄の一部の本のようなより一般向けのテキストから始めてオークション（およびマーケットデザイン）の感覚をつかんでもらうことから始めます。適宜、最終報告書の準備についても報告してもらいます。詳細は第 1 回の講義で連絡します。履修者による報告が講義の中心になりますので、フィードバックは当然その場でおこなわれます。履修者相互のフィードバックを歓迎します。

報告は完璧である必要はありませんが、自分が理解したこととできなかったことを区別して報告するよう心掛けてください。質問者についても同様で、自分がどこまで理解してどの部分がなぜわからなかったかをきちんと伝えるよう努めてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
打合せ	春学期のゼミの進行について	自己紹介・グループ分け・担当箇所決め
個人発表①	「参考書」の輪読①	「参考書」の報告と質疑応答①
輪読①	「参考書」の輪読②	「教科書」の報告と質疑応答②
輪読②	「参考書」の輪読③	「教科書」の報告と質疑応答③
輪読③	「参考書」の輪読④	「教科書」の報告と質疑応答④
輪読④	最終報告書の準備①	興味あるオークション制度についての報告①
輪読⑤	「教科書」の輪読①	「教科書」の報告と質疑応答⑤
輪読⑥	「教科書」の輪読②	「教科書」の報告と質疑応答⑥
輪読⑦	「教科書」の輪読③	「教科書」の報告と質疑応答⑦
輪読⑧	「教科書」の輪読④	「教科書」の報告と質疑応答⑧
輪読⑨	「教科書」の輪読⑤	「教科書」の報告と質疑応答⑨
輪読⑩	「教科書」の輪読⑥	「教科書」の報告と質疑応答⑩
個人発表②	最終報告書の準備②	興味あるオークション制度についての報告②
総括	春学期のまとめ	春学期の内容の総括
打合せ	秋学期のゼミの進行について	テキストの選定・グループ分け・担当箇所決め
個人発表③	最終報告書の準備③	興味あるオークション制度についての報告③
輪読⑪	「教科書」の輪読⑥	「教科書」の報告と質疑応答⑥
輪読⑫	「教科書」の輪読⑦	「教科書」の報告と質疑応答⑦
輪読⑬	「教科書」の輪読⑧	「教科書」の報告と質疑応答⑧

輪読⑭	最終報告書の準備④	興味あるオークション制度についての報告④
輪読⑮	「教科書」の輪読⑨	「教科書」の報告と質疑応答⑨
輪読⑯	「教科書」の輪読⑩	「教科書」の報告と質疑応答⑩
輪読⑰	「教科書」の輪読⑪	「教科書」の報告と質疑応答⑪
輪読⑱	最終報告書の報告①	実際のオークション制度についての最終報告①
輪読⑲	最終報告書の報告②	実際のオークション制度についての最終報告②
輪読⑳	最終報告書の報告③	実際のオークション制度についての最終報告③
個人発表④	最終報告書の報告④	実際のオークション制度についての最終報告④
総括	秋学期まとめ	1 年間の内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の準備をしてください。自分の担当箇所だけでなくも予習をして議論ができるように準備をしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ギョーム・ハーリンジャー【著】栗野 盛光【訳】(2020)「マーケットデザイン - オークションとマッチングの理論・実践」中央経済社、4800 円＋税 ヴァ書房、3000 円＋税

【参考書】

坂井豊貴 (2010)「マーケットデザイン入門 - オークションとマッチングの経済学」ミネル

坂井豊貴 (2020)「マーケットデザインで勝つ - ミクロ経済学のビジネス活用」日本経済新聞出版、1600＋税

エリック・A・ボズナー、E・グレン・ワイル【著】安田洋祐【監訳】遠藤真美【訳】(2020)「ラディカル・マーケット - 脱私有財産の世紀」東洋経済新報社、3200 円＋税

【成績評価の方法と基準】

(ゼミでの報告も含めた) 平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to learn the basic concepts, ideas, and treatments of game theory (particularly auction theory in this year) through reading textbooks. Students are expected to acquire basic knowledge of game theory, idears of market design, and techniques to think and present logically.

ECN218CA
演習
岡部 雅史
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

種々のメディアを用いた発表能力の向上を目指す。
経済学的思考による投資能力の向上を目指す。

【到達目標】

- 1 コンピュータを用いたプレゼンテーション能力の開拓
- 2 オリジナルな視点を持ったテーマ設定による論文作成
- 3 オリジナル視点を持ったテーマ設定による映像制作
- 4 オリジナルな視点を持ったテーマ設定による討論能力
- 5 オリジナルな視点に基づく投資の実践的能力 などの向上を目指す

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」
「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」
「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

通年 3 回のプレゼンテーション発表
合同チーム（3 ～ 4 名／チーム）による論文作成
合同チーム（3 ～ 4 名／チーム）による映像制作
合同チーム（4 名／チーム）によるディベート訓練
作成論文のコンテスト投稿（毎年 2 ～ 3 テーマ）
投資スキル向上のための株式投資シミュレーション訓練（毎年 8 ヶ
月・個人）
卒業論文作成の指導（4 年生各人に実施）
卒業論文発表会
フィードバックは授業支援システムにて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの進め方の説明
2	チーム編成（3 ～ 4 人/チーム）	ゼミ内のチーム編成の決定
3	チームによるプレゼン テーション発表 1-1	3 年生チーム発表 1
4	チームによるプレゼン テーション発表 1-2	3 年生チーム発表 2
5	チームによるプレゼン テーション発表 1-3	3 年生チーム発表 3
6	チームによるプレゼン テーション発表 1-4	3 年生チーム発表 4
7	チームによるプレゼン テーション発表 2-1	2 年生チーム発表 1
8	チームによるプレゼン テーション発表 2-2	2 年生チーム発表 2
9	チームによるプレゼン テーション発表 2-3	2 年生チーム発表 3
10	チームによるプレゼン テーション発表 2-4	2 年生チーム発表 4
11	チームによるプレゼン テーション発表 3-1	3 年生チーム発表 5
12	チームによるプレゼン テーション発表 3-2	3 年生チーム発表 6
13	チームによるプレゼン テーション発表 3-3	3 年生チーム発表 7
14	チームによるプレゼン テーション発表 3-4、	3 年生チーム発表 8

- 15 BEST プレゼンチャー 春学期最優秀プレゼンの選出
ムの選定
- 16 チームによるディベート 模擬ディベート 1
ト訓練 1-1
- 17 チームによるディベート 模擬ディベート 2
ト訓練 1-2
- 18 チームによるディベート 模擬ディベート 3
ト訓練 1-3
- 19 チームによるディベート 模擬ディベート 4
ト訓練 2-1
- 20 チームによるディベート 模擬ディベート 5
ト訓練 2-2
- 21 チームによるディベート 模擬ディベート 6
ト訓練 2-3
- 22 卒論指導 1 論文の基本概念
- 23 卒論指導 2 論文のスタイル
- 24 卒論指導 3 データの取り扱い方
- 25 卒論指導 4 卒論テーマの決め方
- 26 卒論指導 5 論文のゴールをどこに設定する
か？
- 27 卒論指導 6 魅力ある論文にするためには
- 28 卒論指導 7 説得力を増すために必要なこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ニュース、新聞など報道資料に目を通しておくこと（特に環境・医
療・食品などの分野）。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜ゼミにて通達する。

【参考書】

適宜ゼミにて通達する。

【成績評価の方法と基準】

各課題に対するオリジナリティと完成度を総合的に判断する。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

毎週授業支援システムにて その週の教材を配信します。

【Outline and objectives】

The aim of this class is improvement of the ability for
announcement using various kinds of media.

ECN218CA
演習
奥山 利幸
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学を中心に経済学を学び、各自の興味に沿った論題を扱った先行研究の問題意識・分析方法・結果（発見と含意）をサーベイし、新たな論題を創造する力と、その解決のための分析力を培い、最終的には、その成果を進級論文・卒業論文として執筆し、発表します。

【到達目標】

プレゼン力、ディスカッション能力、経済学概念・理論の理解、現実へのその応用力、文献知識、論文作成力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回、テーマに即して教科書や参考書から発表して行きます。レジュメの作成、プレゼンやディスカッションの練習、そして、進級論文や卒論にむけた論題探しに役立てて行きます。

進級論文の指導は、6月より開始し、取り扱う先行研究を春学期中に確定させます。秋学期には、先行研究のレジュメ、共通理解や相違点、今後の課題について整理していきます。

例年、学生研究報告大会に3名のゼミ生が発表しています。大会の出場については、独自の分析が必須になります。大会出場者には、そのためのアドバイスをを行います。

ゼミにおけるパフォーマンスについては、論文指導時、また、学期途中に中間評価を示し、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゼミ・ガイダンス	ゼミスケジュール、課題、論文
2	経済学の基本用語と問題意識	基本用語、産業連関表、ミクロ経済学、マクロ経済学
3	競争市場	需要曲線、供給曲線、厚生経済学の基本定理群、政策の効果
4	外部性、公共財	外部性、コースの定理、ビグー税、公共財、サミュエルソン条件、リンダール均衡
5	情報	逆選択、モラル・ハザード
6	非凸性、ゲーム理論 (1)	費用逓減、独占均衡、自然独占、ゲーム理論、ナッシュ均衡
7	ゲーム理論 (2)	展開形ゲーム、不完備情報、ベイジアンゲーム、完全ベイジアン均衡
8	寡占	クールノー均衡、シュタッケルベルグ均衡、共謀、カルテル
9	差別化	価格差別化、商品差別化、独占的競争、ホテリングの定理、サロップ理論
10	メカニズム・デザイン入門	社会的選択関数、メッセージ、メカニズム、ナッシュ遂行
11	社会的選択	社会的厚生関数、アローの不可能性定理
12	消費者 (1)	無差別曲線、限界代替率、予算制約、最適消費計画
13	消費者 (2)	所得消費曲線、価格消費曲線、代替効果、所得効果、ギッフェン財

14	生産者 (1)	生産関数、限界生産性、平均生産性、等量曲線
15	生産者 (2)	費用関数、限界費用、平均費用、短期 vs. 長期、損益分岐点、操業中止点、供給曲線
16	均衡 (1)	マーシャル分析、ワルラス分析 (1)
17	均衡 (2)	ワルラス分析 (2)、エッジワース分析 (コア)
18	厚生 (1)	厚生経済学の第1基本定理
19	厚生 (2)	厚生経済学の第2基本定理
20	不確実性	くじ、期待効用、保険、条件付商品、総量リスク
21	遂行	支配戦略遂行、ナッシュ遂行、マスキンの単調性、クラークメカニズム、ハーヴィッツ定理
22	進級論文発表 (1)	発表 (2年生)
23	進級論文発表 (2)	発表 (2年生)
24	進級論文発表 (3)	発表 (2年生)
25	進級論文発表 (4)	発表 (3年生)
26	進級論文発表 (5)	発表 (3年生)
27	進級論文発表 (6)	発表 (3年生)
28	卒論発表 (1)	発表 (4年生)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンの用意、教科書の予習・復習、論文論題関係先行研究のサーベイ、論文作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

奥山利幸『ミクロ経済学』白桃書房

※2021年4月に第2版出版予定

【参考書】

岡田章『ゲーム理論』有斐閣

スティグリッツ『ミクロ経済学』東洋経済

武隈慎一『ミクロ経済学』新世社

チャン『現代経済学の数学的方法』シーエーピー出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)、進級論文 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

ゼミを益々活性化させるために、一緒に精力的に活動していきましょう。

【その他の重要事項】

2年次より中級レベル以上のミクロ経済学を学ぶことで、学力が飛躍的に向上します。2年生の多くは、最初の数ヶ月間、かなり苦労しますが、秋学期に発表する進級論文は、相当、質の高いものになる2年生が少なくありません。その飛躍たるもの、指導している教員自身が驚く程です。難しくても「ついて行く」姿勢を持っている限り、毎年、毎年、1年間を振り返ったときに自らの成長を感じるはずです。

【Outline and objectives】

Study microeconomics thoroughly. Discuss economic implications and applications. Must write a term paper including survey on your theme, and present it in a class.

ECN218CA
演習
山崎 達朗
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

* ことばやその背後にある文化に関して幅広く種々の現象や考え方について学習するとともに、ことばと文化について特定のテーマの調査研究を実施し、分析や考察の結果を論文にまとめる。

* 「英語力強化」（特に TOEIC L&R を演習を通して行う）。

【到達目標】

* ことばや文化・習慣を学習したり考察することにより、ことばへの関心や思考力が深まり、自国文化や他の文化の尊重や見直しができるようになる。

* 聴解や読解で英語力をつけることにより、メッセージの正しい理解ができ、さらに、自分の考えを人前で発表したり英語でのコミュニケーションに習熟することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業を前提とする。ゼミ活動として、

1. 文献の読解と意見発表、
2. 論文テーマのリサーチ・プレゼン・論文執筆、
3. TOEIC(R) 問題・言語学・英語プレゼンなどを通して英語力と知識を高める。

リアクションペーパーを求め意見を授業や活動に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	* ガイダンス	① ゼミの目標、活動方針と内容の説明、参加行事（学生研究報告大会など）の紹介。 ② TOEIC 概要、演習。
2	* 「言語と文化」 1 * 言語分析の基礎 1 * 英語力強化 1	① 文献読解・討議（言語・文化の相互関係 1）。 ② 言語学（言語学の分野）。TOEIC 演習。
3	* 「言語と文化」 2 * 言語分析の基礎 2 * 英語プレゼン 1	① 文献読解・討議（言語・文化の相互関係 2）。 ② 言語学（音声学や音韻論など）。英語で自己アピール（英語発表の要領 1）。
4	* 「言語と文化」 3 * 言語分析の基礎 3 * 英語力強化 2 * 英語プレゼン 2 * 英語力強化 3	① 文献読解・討議（言語・文化の相互関係 3）。 ② 言語学（統語論など）。TOEIC 演習。英語発表の要領 2。
5	* 英語力強化 3 * 英語プレゼン 3	① TOEIC 演習。 ② 専門ゼミガイダンス（文献・資料検索）。〈期日は予定〉。英語発表の要領 3。
6	* 英語力強化 4 * 英語プレゼン 4 * 論文作成の基礎	① TOEIC 演習。 ② 研究論文テーマについて。英語発表の要領 4。
7	* 「言語と文化」 4 * 論文作成の心得	① 文献や論文の読解・討議（カタカナ語）。 ② 論文作成の方法と注意（剽窃防止など）。
8	* 「言語と文化」 5 * 論文作成のスコープ	① 文献や論文の読解・討議（外来語・和製英語）。 ② 研究論文テーマについて。
9	* 「言語と文化」 6 * 英語力強化 5 * Speaking の学習法	① 文献や論文の読解・討議（PC 語）。 ② TOEIC 演習、音読学習の意味と方法（國弘正雄氏「只管朗読」など）。研究論文リサーチ
10	* 「言語と文化」 7 * Speaking の学習法	① 文献や論文の読解・討議（社会方言 1）。 ② 通詞、中濱万次郎とその時代。
11	* 「言語と文化」 8 * 英語力強化 6	① 文献や論文の読解・討議（社会方言 2）。 ② TOEIC 演習。研究論文リサーチ
12	* 「言語と文化」 9 * 英語力強化 7 * 言語分析の基礎 4	① 文献や論文の読解・討議（日英語対照）。 ② TOEIC 演習。研究論文リサーチ。

13	* 「言語と文化」 10 * 英語力強化 8 * 言語分析の基礎 5	① 文献や論文の読解・討議（語用論）。 ② TOEIC 演習。研究論文リサーチ。
14	* 「言語と文化」 11 * 英語力強化 9 * 学生研究報告大会に向けて	① 文献や論文の読解・討議（社会言語学）。 ② TOEIC 演習。研究論文リサーチ。
15	* 「言語と文化」 12 * 英語力強化 10 * 学生研究報告大会に向けて	① 文献や論文の読解・討議。 ② TOEIC 演習。研究論文リサーチ。
16	* 英語力強化 11 * 学生研究報告大会に向けて	① TOEIC 演習。 ② 研究論文リサーチ。
17	* 英語力強化 12 * 学生研究報告大会に向けて	① 新聞記事。 ② 研究論文リサーチ。
18	* 英語力強化 13 * 学生研究報告大会に向けて	① TOEIC 演習。 ② 研究論文リサーチ。
19	* 学生研究報告大会に向けて	大会プレゼン演習 1（パワーポイント発表・講評・討議）。
20	* 学生研究報告大会に向けて	大会プレゼン演習 2（パワーポイント発表・講評・討議）。
21	* 「言語と文化」 13 * 英語力強化 14	① 世界の文化英語プレゼン ② TOEIC 演習。
22	* 「言語と文化」 14 * 英語力強化 15	① 世界の文化英語プレゼン 1 ② 新聞記事。
23	* 「言語と文化」 15 * 英語力強化 16	① 世界の文化英語プレゼン 2。 ② TOEIC 演習。
24	* 「言語と文化」 16 * 英語力強化 17	① 世界の文化英語プレゼン 3。 ② 新聞記事。
25	* 「言語と文化」 17 * 英語力強化 18	① 文献や論文の読解・討議（コミュニケーション 1）。 ② TOEIC 演習。
26	* 「言語と文化」 18 * 英語力強化 19	① 文献や論文の読解・討議（コミュニケーション 2）。 ② 英字新聞。
27	* 「言語と文化」 19 * 英語力強化 20	① 文献や論文の読解・討議（コミュニケーション 3）。 ② TOEIC 演習。
28	* 「言語と文化」 20	① 年間ゼミ活動のまとめ、成果。翌年の課題と年間計画。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学支援の TOEIC-IP（無料）を 11 月に受けてもらう（必修）ので、自分でも、TOEIC、L & R 対策本を購入して受験の準備をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

* 「言語学」山崎達朗、『経済志林』第 75 巻 1 号（2007）で言語分析の基礎を説明。

* その他適宜、論文・TOEIC(R) 問題・英字新聞などのハンドアウトを配布する。

【参考書】

* 「はじめての英語学」、長谷川瑞穂編著、研究社（¥2500+税）。

* 「社会言語学」、岡本佐智子、アルク（¥2200+税）。

* An Introduction to Language, V. Fromkin et al., Heinle.

* 「現代の英語学」、石黒昭博ほか、金星堂。

* 「新版大学生のためのレポート・論文術」、小笠原喜康、講談社現代新書（¥740+税）。

【成績評価の方法と基準】

- * ①論文（調査・プレゼンテーション・執筆）60 %、
- ②平常点（出席、グループ貢献度、意見発表、課題など）40 %。

* 大学の評価基準に従い、合計点 60 %以上を合格とする。

◆欠席が年間 5 回以上あった場合は、ゼミからの退会を勧告する（毎年複数あり）。

【学生の意見等からの気づき】

全員が活動の目的やグループ内での役目を理解し、積極的に参加（attendance）ではなく、participation）できるゼミにしたい。

【Outline and objectives】

Students will be divided into several groups and do research on topics related to sociolinguistics and applied linguistics, such as loan words, sales talk and English education in Japan. Based on this research, students write papers and make presentations both in class and at school events.

Another goal of this course is to improving students' English abilities, particularly in listening and reading skills. Students will work to achieve high scores (800 or higher) on the TOEIC listening and reading (L&R) exams.

ECN218CA
演習
杉浦 未樹
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミは、『日本企業の現状・将来の理解、および、商品開発にかかる経験・実践的スキルの習得』を目的とします。このゼミでは、日本経済を担っている企業がどのように運営されているのかについての基礎的な理解を身に付けていきます。その中でも特に、商品開発について理論の理解、および、実践的な学習手法から、使える・議論に耐えうる知見・経験を身に付けます。加えて、実践的な学びを通じて、情報収集・チームワーキング・プレゼン力など、実社会での問題解決にも有用なスキルを習得します。

現在、われわれを取り巻く経済・ビジネスの環境は、非常に早いスピードで変化しており、そのような中、自ら主体的に考え行動していく人材が求められています。ゼミを通じて、自ら問題を解決するスキル・姿勢を身に付けましょう。

【到達目標】

下記の能力を身に付けます。

- 1) 日本企業に対し、商品開発の分野で、具体的・実現可能性のある提案を行う。
- 2) 資料収集・情報整理を効率的に行い、アウトプット（企画書・プレゼンテーション）を出せる。
- 3) 自分のアイデアを体系的に現わすことができる。
- 4) 異なる意見のある中で、積極的かつ協調的なディスカッション・提案を行う。
- 5) 意見発表や、企業とのコミュニケーションを通じ、社会人マナーを身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員からのレクチャーも行いますが、全般的にアクションラーニング的に行います。内容は、若干高度なものが含まれますが、適宜教員から説明します。

年前半の回では商品開発をテキスト中心に、年後半では実際に商品開発のプロセスをチームを編成して行います。

毎回の授業では、前半で、テキスト・資料についてのレジュメ（内容のまとめ）発表、あるいは、教員によるレクチャーを行います。後半では、前半の内容につき、ディスカッション・実習（自ら作業）を行います。

具体的内容として、年後半では、3、2年生それぞれ実践的な提案のためのグループ作業を行います。3年生は全国約15大学の30ゼミが参加する商品開発コンペ『Sカレ』に参加します。2年生は個人での商品開発コンセプトの策定プログラム、および、特定の日本企業様に対する商品企画ワークショップを行います。フィードバックは、以上の課題の中で、授業中または個人・グループ指導として都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの内容・進め方、および、通年でのスケジュールの説明。教員・学生の自己紹介。

第2回 商品開発を学ぶ①

第3回 商品開発を学ぶ②

第4回 商品開発を学ぶ③

第5回 商品開発を学ぶ④

第6回 商品開発を学ぶ⑤

第7回 商品開発を学ぶ⑥

第8回 商品開発を学ぶ⑦

第9回 商品開発を学ぶ⑧

第10回 企業に対する商品提案のための調査計画と、業界調査計画①

第11回 企業に対する商品提案のための調査計画と、業界調査計画②

第12回 企業に対する商品提案のための調査と、業界調査②

第13回 半期のまとめのグループ発表①

第14回 半期のまとめのグループ発表①

第15回 Sカレ 事前演習

第16回 商品開発の実践①（情報収集・調査）

テキスト第1章「商品企画プロセス」、第2章「インタビュー法」を学ぶ。グループで事前作成のレジュメに沿って輪読。マーケティングリサーチについて説明、発表準備

テキスト第3章「観察法」第4章「リードユーザー法」を学ぶ。3年生「自分のマーケティングアプローチ発表」①

アパレル業界のサバイバルをテーマにレクチャー

テキスト第5章「アイデア創出」第6章「コンセプト開発」を学ぶ。3年生自分のマーケティングアプローチ発表②アパレル業界のサバイバルをテーマにレクチャー

テキスト第7章「プロトタイピング」を学ぶ。「自分のマーケティングアプローチ発表」③、Sカレのテーマ決め。2年生 アパレル・ファッション業界文献輪読

テキスト第8章「市場規模の確認」第9章「競合・技術の確認」を学ぶ。3年生、Sカレのテーマ決め。2年生2年生 アパレル・ファッション業界文献輪読

テキスト第10章「顧客ニーズの確認」第11章「販促提案」を学ぶ。2年、「アパレル業界のサバイバル」発表。3年生、Sカレ基礎インタビュー、調査計画

テキスト第12章「価格提案」第13章「チャネル提案」を学ぶ。アパレル業界のサバイバル」発表。3年生、Sカレ基礎インタビュー、調査計画発表

テキスト第14章「企画書作成」、第15章「プレゼンテーション」を学ぶ。アパレル業界のサバイバル」テーマに発表。3年生、Sカレ基礎インタビュー、調査計画発表

教科書で学んだ知見についてまとめ（主に前半部）を行う。および、3年生はSカレ進行状況発表、2年生はアパレル産業をめぐるグループ調査計画。

教科書で学んだ知見についてまとめ（主に後半部）を行う。また、引き続き、3年生はSカレ、2年生はアパレル産業をめぐるグループ調査計画。

3年生、2年生それぞれのSカレ、アパレル調査発表グループに対する、教員からの個別指導

3年生Sカレ提案発表、2年生アパレル調査発表

3年生Sカレ提案発表、2年生アパレル調査発表

3年生は、Sカレのため、他ゼミ・他大学との、合同の事前演習を行います。2年生も学習、3年生支援のために参加します。

3年生はSカレの準備、2年生は個人の商品コンセプトプログラムと、商品開発ワークショップの準備を進めます。主に、情報収集・調査を行います。

第 17 回	商品開発の実践② (情報収集・調査)	同上。ただし、基礎的な情報収集から、より商品に直結した調査に進みます。
第 18 回	商品開発の実践③ (コンセプト設定)	ここまで集めた情報・分析結果をもとに、提案する商品コンセプトを決定します。(3 年生は S カレ向け、2 年生はワークショップ向け)
第 19 回	商品開発の実践④ (コンセプト検証)	前回決定したコンセプトにつき、ディスカッション、各種実査(技術・コスト実現性)などを行います。(3、2 年生の目的は同上)
第 20 回	商品開発の実践⑤ (プレゼン資料作成と プレゼン準備)	ここまで調査・分析した内容をプレゼン資料にまとめていきます。(3、2 年生の目的は同上)
第 21 回	商品開発の実践⑥ (プレゼン練習の実施)	作成したプレゼン資料を、実際にプレゼン。相互にフィードバックを行います。(3、2 年生の目的は同上)
第 22 回	S カレ準備 (3 年生)、 および、商品開発ワー クショップの企業提案 (2 年生) ①	3 年生は、引き続き S カレに向けた準備を行います。2 年生は、順次ワークショップの成果を企業様にプレゼンします。
第 23 回	S カレ準備 (3 年生)、 および、商品開発ワー クショップの企業提案 (2 年生) ②	同上
第 24 回	S カレ 事前演習	S カレ・冬カン(冬に行う最終大会)に向けた準備。 3 年生が中心となり、企画書・プレゼンの練習を行う。 4 年生、2 年生を含み、相互にフィードバックを行う。
第 25 回	企業分析の基礎を学ぶ ④	I T サービス、ベンチャー企業、外資企業などの分析を行う。 進め方は同上。
第 26 回	S カレ 振り返り	S カレの冬カン、および、全体の進め方について、振り返る。良かった点、反省点、要修正点を発表する。2 年生を含めフィードバックを行います。
第 27 回	2 年生の商品コンセ プト発表	2 年生から、個人の商品コンセプトプログラムについて、個別にプレゼンを行います。
第 28 回	全体としての振り返り	1 年間のゼミを振り返り、各自の発表・コメントを行う。 3 年生から、2 年生へのアドバイスをを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

発表担当者は、事前にレジュメをワード／パワーポイントで作成し、授業において自ら説明・発表します。
自ら理解するだけでなく、他人に分かりやすいまとめ方・発表の仕方を習得することも目的とします。
商品開発では、授業外でインカレの大会に参加します。
その準備にも一部、授業外の時間が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

西川英彦・廣田章光「1 からの商品開発」碩学舎 2012 年

【参考書】

調査・分析の仮定で、企業の状況、競合商品の状況、その他各種情報収集のため、ネットの検索を高い頻度で行います。
2 年生のアパレル・ファッション業界の文献として
斉藤孝浩 「アパレルサバイバル」、日本経済新聞社 2019 年
仲村和代、藤田さつき 「大量廃棄社会—アパレルとコンビニの不都合な真実」、光文社新書、2019 年
スーザンストラッサー「欲望を生み出す社会—アメリカ大量消費社会の成立史」、2011 年

【成績評価の方法と基準】

ゼミの活動の参加意欲、態度 60 %

各種発表での充実度 40 % (3 年生は S カレ、2 年生は個人の商品コンセプト策定プログラム、チームでの商品開発ワークショップ)

【学生の意見等からの気づき】

去年に引き続き、レクチャー(座学)もありますが、基本的に毎回・通年で、アクションラーニング的に、チームでのディスカッション・作業・発表を多く行います。
また、レクチャーにおいても、皆さんの意見を多くきくため、双方向での授業を心掛けます。
3 年生が参加する S カレについては、高い積極性が求められます。苦勞する分、充実感も大きいと思います。
2 年生の企業向けの商品開発ワークショップでは、実際の企業の方々と相手をするため、社会人としての振る舞いが求められます。
厳しい面もありますが、自ら能動的に動く楽しみを見つけてもらえればと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で実習を行いますので、基本的に毎回 P C (／タブレット＋キーボード)を、各自持参してください。また、マイクロソフト社 オフィス(特にワード・パワーポイント)が使用できるようにしてください。(互換ソフトも可能ですが、他人とのファイルやり取りもあるので、できるだけ純正のオフィスでお願いします。)
ただし、機種の性能的には、高いものでなくても構いません。

【Outline and objectives】

The goal of this seminar is twofold: to learn history of product development as well as to acquire pragmatistical skills to make product proposals meeting the needs of the actual companies.

Joining inter-university competition, participants of the seminar will experience conveying and prsenting their ideas to broader public. Through this process, you will learn marketing research theories as well as practical presentation skills.
Our society and business environemnts are changing rapidly. Problems solution skills and proactive mindset are indispensable.

ECN218CA
演習
小沢 和浩
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済データの様々な分析手法を習得することを目的とする。演習では Excel のマクロプログラムや VB などを利用することもある。また、統計解析手法や地理情報システム (GIS) を用いる。また、プレゼンテーション技術の向上も目的とする。

【到達目標】

- ・データの特徴をつかむ基本理論と手法の理解
- ・データマイニングなどの手法を用いたデータ解析手法の習得
- ・データ解析に必要なプログラミング技法の習得
- ・プレゼンテーション技術の習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、教員の指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理情報システムとは	地理情報システムの概要と利用法を理解する
第 2 回	地理情報システム入門	境界 map と座標系の設定法を理解する
第 3 回	地理情報システムによる国土数値情報の利用	国土数値情報の検索法とダウンロード、地理情報システムへの取り込み法を習得する
第 4 回	地理情報システムによる人口分析	人口統計データの入手と地理情報システムによるデータの視覚化を行う
第 5 回	地理情報システムでのデータの結合	テーブルの結合処理と属性の編集、レイヤ表示順の変更を理解する
第 6 回	地理情報システムでのデータ検索	地理情報システムでのデータ検索機能を理解する
第 7 回	地理情報システムによる空間集計	地理情報システムによる空間集計について理解する
第 8 回	地理情報システムの応用 (1)	地理情報システムを使って地域の分析を行う
第 9 回	地理情報システムの応用 (2)	地理情報システムを使って地域の分析を行う
第 10 回	地理情報システムの応用 (3)	地理情報システムを使って地域の分析を行う
第 11 回	地理情報システムの応用 (4)	地理情報システムを使って地域の分析を行う
第 12 回	Excel によるデータベース操作	経済データの分析に必要なデータベース操作を理解する
第 13 回	相関と回帰 (1)	経済データの相関関係を求める

第 14 回	相関と回帰 (2)	経済関連データを用いて回帰分析を理解する
第 15 回	相関と回帰 (3)	経済関連データを用いて回帰分析を理解する
第 16 回	データからの推測 (1)	経済関連データからの推測法を理解する
第 17 回	データからの推測 (2)	経済関連データからの推測法を理解する
第 18 回	マーケティングへの統計分析の活用	統計分析法を利用してマーケティングへ
第 19 回	公的統計の活用 (1) ー人口統計ー	人口統計のデータを把握する
第 20 回	公的統計の活用 (2) ー人口統計ー	人口統計に用いられる将来予測法を理解する
第 21 回	公的統計の活用 (3) ー人口統計ー	人口統計に用いられる将来予測法を理解する
第 22 回	公的統計の活用 (1) ー国民経済計算ー	実際の経済データを分析する
第 23 回	公的統計の活用 (2) ー国民経済計算ー	実際の経済データを分析する
第 24 回	公的統計の活用 (3) ー国民経済計算ー	実際の経済データを分析する
第 25 回	計量経済分析 (1)	基本的な計量経済モデルを理解する
第 26 回	計量経済分析 (2)	基本的な計量経済モデルを理解する
第 27 回	産業連関分析 (1)	産業関連表の分析を理解する
第 28 回	産業連関分析 (2)	具体的な地域の産業関連表の分析を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習復習および演習問題の作成。課題は毎週課されるので必ず提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の初めに紹介する。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎週の課題を必ず提出することが必要 (70%)

演習への参加度 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

内容が難しいという指摘もあるので、基礎的な理論の理解を前半に盛り込む予定である。

【学生が準備すべき機器他】

Windows8 以上の OS を搭載し、Office2013 以降のものがインストールされている PC を用意してください。この講義は Mac には対応していません。

【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 2) understanding the knowledge-discovery in databases (Data mining). In addition, statistical analysis methods and geographic information systems (GIS) are used. It also aims to improve presentation skill.

ECN218CA
演習
河村 哲二
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ経済の現状とグローバル経済の総合的解明

【到達目標】

世界の経済に最も大きな影響を与えてきたアメリカ経済の特徴と動向について、その歴史的な背景とともに学び、アメリカ経済の現状とグローバル化する現代経済に対する影響を的確に捉え、将来を自らとらえうる力を養うことを目標とする。とくに、この間最大の問題となっているアメリカ発のグローバル金融危機・経済危機の問題の原因とプロセス、およびその影響と対策を焦点として議論し、グローバル経済の転換の展望を得ることを重点とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

近年、企業・金融・情報のグローバル化と政府機能の新自由主義的転換を通じて、世界の経済は、大きな転換と変貌の時代に入っている。企業活動や金融が国境を超えてグローバルに拡大し、世界的な大企業が激しく競争し合う「大競争」が、世界各国、各地域の社会経済に大きな影響を与えている。IT（情報技術）やバイオテクノロジーなどの技術革新も加速されるとともに、中国やインドなどアジア経済やその他新興経済の工業・経済発展も顕著に進んできた。しかし、現在、アメリカ発のグローバルな金融危機・経済危機が発生し、世界的に深刻な影響を与えている。本演習では、アメリカ経済の特質と歴史的発展の特徴を学びながら、こうした世界経済の動向に対するアメリカの影響とグローバル経済の行方について、日本や中国・アジア、その他の新興敬愛諸国や開発途上国などとの関係も含めて、企業、労働、政策、貿易・投資、国際通貨ドル、金融動向など、さまざまな角度から、テキスト、各種文献・資料を用いたレクチャーとゼミ生の各種分担報告を通じて議論を進める。今年度も、昨年度に引き続き、毎回の新聞報告、グループ研究、個人別研究テーマによる進級論文・卒業論文作成、ディベートなどを組み合わせてゼミ活動を進める。各種提出物に対するコメント、および各メンバーの学習上の疑問点、個人研究の課題に関する質問等は、学習支援システムの掲示板、および必要に応じ随時 eメールによりフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの内容と活動の概要の確認と年間スケジュールの決定	年間のゼミ活動の概要の確認、各種行事など、年間スケジュールの決定を行う。
第 2 回	序論 アメリカの社会経済的特質と歴史過程	「歴史的発展過程にみるアメリカの特質」についての報告（第 1 班）と質疑・議論。
第 3 回	第 1 章 第一次大戦前の経済発展プロセスとその特徴 1. 初期の経済発展	「植民地期から独立革命・南北戦争に至る経済発展のプロセスと特徴」についての報告（第 2 班）と質疑・議論。 *学年末に提出する進級論文の個人別研究テーマの提出。
第 4 回	2. 国民経済の発展南北戦争に至る経済発展の特徴（国土形成・産業革命・国民経済の形成）	「南北戦争に至る経済発展の特徴（国土形成・産業革命・国民経済の形成）」についての報告（第 3 班）と質疑・議論。
第 5 回	3. アメリカ経済発展と「ビッグビジネス」の登場	「南北戦争後の工業・農業発展と「ビッグ・ビジネス」の登場」についての報告（第 4 班）と質疑・議論。
第 6 回	第 2 章 戦間期 1. 第一次大戦と 1920 年代	「戦間期前半期の経済発展（永遠の繁栄）とその限界についての報告（第 5 班）と質疑・議論。
第 7 回	2. 株式ブームの発展と世界経済的不均衡	「耐久消費財ブームの限界・株式ブームの発展と崩壊」についての報告（第 6 班）と質疑・議論。
第 8 回	3. ニューディール政策とその限界 (1) ニュー・ディール	「世界大恐慌の発生とニューディール政策の登場」についての報告（第 1 班）と質疑・議論。
第 9 回	(2) ニュー・ディールの限界と 1937 年恐慌	「ニューディール政策の限界と 1937 年恐慌」についての報告（第 2 班）と質疑・議論。
第 10 回	第 3 章 戦後バックス・アメリカナ形成	「第二次大戦時経済と戦後バックス・アメリカナ形成」についての報告（第 3 班）と質疑・議論。

第 11 回	1. 第二次大戦時経済 (1) 戦時経済システム	「第二次大戦時経済システムの概要とその特徴」についての報告（第 4 班）と質疑・議論。 *学年末進級論文の個人別研究テーマによる発表（第 1 回）
第 12 回	(2) 戦時経済システムによる経済発展と制度転換。	「戦時経済下の制度構造・システム転換」についての報告（第 5 班）と質疑・議論。 *学年末進級論文の個人別研究テーマによる発表（第 2 回）
第 13 回	第 13 回 2. 戦後バックス・アメリカナシステムの登場 (1) 「持続的成長」の国内システムの登場（企業と政府）戦後「持続的成長」のメカニズムの形成（国内体制）。	「戦後持続的成長のメカニズムの形成（バックス・アメリカナ）についての報告（第 6 班）と質疑・議論。 *学年末進級論文の個人別研究テーマによる発表（第 3 回）
第 14 回	(2) 「持続的成長」の世界政治経済システムの形成 まともな戦後アメリカ経済論への展望	「戦後持続的成長のメカニズムの形成（バックス・アメリカナの世界政治経済体制）」についての報告（第 1 班）と質疑・議論。 アメリカ経済の歴史的発展過程（前半）の総括と戦後バックス・アメリカナ確立の意味と展望のまとめ。 *夏休み・後期の予定を立てる。
第 15 回	第 4 章 戦後バックス・アメリカナ 1. 戦後「持続的成長」システムの特徴 (1) 戦後企業体制と政府機能	「戦後バックス・アメリカナ」の持続的成長の国内システム（戦後企業体制と政府機能）についての報告（第 2 班）と質疑・議論。 *後半期の予定の確認と決定。
第 16 回	(2) 戦後世界の政治経済システム	「戦後バックス・アメリカナ」の持続的成長の国際システム（国際通貨体制・通商体制・軍事的枠組み）についての報告（第 3 班）と質疑・議論 *個人研究の最終発表による議論と進級論文へのフィードバックの作業の確認・個人研究と論文執筆の進め方の指導。
第 17 回	2. 戦後バックス・アメリカナの衰退と転換	「戦後バックス・アメリカナ」の持続的成長システムの内在的問題の発展と衰退」についての報告（第 4 班）と質疑・議論。
第 18 回	(1) 「レーガノミックス」	「1980 年代以降のアメリカ経済の変貌とレーガノミックス（政府機能の印自由主義的転換）」についての報告（第 5 班）と質疑・討論。
第 19 回	(2) 金融の変貌	「金融革新・ファイナンシャルエシジョンの展開」についての報告（第 6 班）と質疑・議論。
第 20 回	(3) 企業体制・労使関係の転換	「戦後企業体制の転換と限界・企業のグローバル化」についての報告（第 1 班）と質疑・議論。
第 21 回	3. 「グローバル成長連関」の発展 (1) グローバル・シティ	「グローバル・シティの重層的発展とその意義」についての報告（第 2 班）と質疑・議論。
第 22 回	(2) 「新帝国循環」と金融的発展	「アメリカを中心とする国際的資金循環と金融的発展の特徴」についての報告（第 3 班）と質疑・議論。 *進級論文の進捗確認。
第 23 回	4. 1990 年代の長期好況 (1) IT 革命とニューエコノミー	「1990 年代長期好況・IT ブームとその限界」についての報告（第 4 班）と質疑・議論。
第 24 回	(2) アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機 ① 「シャドウバンキング・システム」と住宅ブーム	「住宅ブームのメカニズムとサブプライム問題の発展」についての報告（第 5 班）と質疑・議論。
第 25 回	② グローバル金融危機の展開	「アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機のプロセスと影響」についての報告（第 6 班）と質疑・議論。
第 26 回	③ 緊急経済対策	グローバル金融危機・経済危機への緊急対策とその限界」についての報告（第 1 班）と質疑・議論。
第 27 回	(3) ヨーロッパのソブリン危機・ユーロゾーン危機——グローバル金融危機の「第二幕」	ヨーロッパのソブリン危機・ユーロゾーン危機についての報告（第 2 班）と質疑・議論。
第 28 回	年間のゼミ内容の総括	年間のゼミ内容の確認と総括。 *進級論文の完成と提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Web 掲載される講義資料を事前に入手し、テキスト（『現代アメリカ経済』など）とともに、必ず予習・復習する。各グループの問題別分担報告、テキストの分担報告を、グループメンバーと共同して準備する。個人別テーマによる研究を進めてゼミ論文としてまとめ、年度末に提出する。本授業の準備・復習時間として、それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

河村哲二著『現代アメリカ経済』（有斐閣、2003 年）
河村哲二・弘兼憲史著『知識ゼロからのアメリカ経済入門』（幻冬舎、2009 年）
その他、テーマ別に選定して指定する。

【参考書】

河村哲二著『ボックス・アメリカナ形成』（東洋経済新報社、1995 年）、
河村哲二編『グローバル経済下のアメリカ日系工場』（東洋経済新報社、2005 年）、
河村哲二編『グローバル金融危機の衝撃と新興経済の変貌』（ナカニシヤ出版、2018 年）『米国経済白書』（各年版）など。その他、グループ研究、個人論文テーマに応じ、文献を選び適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

毎回の分担報告とグループ研究・議論への参加度合いによる評価（5 割）と学年末に提出論文（5 割）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生の自発性を重視し、ゼミ全体の議論と研究の活性化を図る。

【学生が準備すべき機器他】

レクチャー部分や、個人研究発表、グループ発表等に、液晶プロジェクターを使用する。

【Outline and objectives】

This class aims at deepening the understandings of the current state of the global economy focused on the U.S. economy. from a long-term historical development.

ECN218CA
演習
河村 真
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、ミクロ経済学の消費者の理論に関する理解を深める。自分で消費者の理論に基づき政策の効果を予測できるようになることを目標とする。秋学期は、統計学の入門レベルの教科書の練習問題をエクセルを用いて解き、具体的にデータが与えられた際に自分で仮説検定の結論を導けること、回帰分析の推定結果を評価できるようになることを目標とする。

【到達目標】

春学期には、具体的な消費者への課税または補助の例を探し、消費者の理論に基づき、これら政策の各商品またはサービスの消費量への効果を正しく予測できるようになることを目標とする。秋学期については、平均、標準偏差などの解釈を相対頻度分布の作成を通じて直感的に理解してもらう。正規分布、カイ二乗分布、t-分布を乱数発生させて再現することにより分布を理解する。T 分布、F 分布を用いた仮説検定および回帰分析の推定結果の評価を自分で行えるようにすることなどが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に、対面授業で行うことを考えている。春学期は各回の教材を用意し、講義したい。感染状況が対面を許さない場合、zoom による講義で代替する。各回の講義の質問等は、授業または、zoom による授業の際に回答または対応する。春学期第 10 回終了後に、消費者理論の復習のため、課題を出し、1 週間を期限として授業支援システムの課題にアップする。次の講義で回答の解説を行う。(zoom を通じての場合もある。) 春学期の最後にも各自探した例による課題の解答を授業支援システムを通じて提出してもらう。秋学期最初の授業で、幾人かの解答を紹介し、課題の解答のポイントを解説する。秋学期は、すべての時限で実習授業である。(zoom による授業の場合もある。この場合、教員が作業を zoom で流し、各自作業の再現をしてもらう。リアルタイムで教員が各自の作業を確認する。質問等はそこで回答する。再現結果を求めたエクセルファイルを各自、授業支援システムを通じて提出をお願いする。当日完了しない学生のために、zoom で作業の動画ファイルを保存し googledrive にアップしておく。秋学期の最後の授業で行う回帰分析のレポートは、その時間内に質問等対応する。レポートの提出期間は 2 週間前後を考えている。最終授業終了後レポート提出までの質問等には、個別にメールでやり取りするかまたは zoom を使って対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	市場機構と需要・供給	例を用いた需要－供給分析の復習
第 2 回	市場機構と需要・供給	例を用いた需要－供給分析の復習
第 3 回	消費者と需要	消費者の嗜好－効用関数と無差別曲線
第 4 回	消費者と需要	消費者の嗜好－効用関数と無差別曲線（特殊なケース）
第 5 回	消費者と需要	課税または補助金による予算制約集合の変化の予測（実例を用いて）
第 6 回	消費者と需要	消費者の主体的均衡の導出
第 7 回	消費者行動と需要曲線	消費者の主体的均衡に基づく（個人または世帯の）ある財またはサービスの需要曲線の導出
第 8 回	消費者行動と需要曲線	所得が変化した際の消費者の主体的均衡の変化を通じて予測される需要曲線の変化（所得効果）
第 9 回	物品税の税率変更の効果の予測と市場均衡の変化の予測	物品税の税率変化が消費者の主体的均衡および個人の需要曲線の変化の予測。それに伴う市場均衡の変化の予測。
第 10 回	所得税の税率変更の効果の予測と市場均衡の変化の予測	所得税の税率変化が消費者の主体的均衡および個人の需要曲線の変化の予測。それに伴う市場均衡の変化の予測。
第 11 回	消費者理論の応用 I	消費者理論の応用例である労働供給（余暇と消費の選択）モデルとそれに基づき求められる個人（世帯）の労働供給曲線
第 12 回	消費者理論の応用 II	労働供給モデルを用いて、所得税税率の労働供給に与える効果の予測。
第 13 回	各自探してきた具体例による課題の作成	財、サービスの需要量（需要曲線）または労働供給（労働供給曲線）に影響を与える租税、補助金の変化の具体例を各自で探す。

第 14 回	各自採してきた具体例による課題の作成	各自採してきた租税または補助金の変更が消費者理論または労働供給モデルに基づき消費量の変化または労働供給の変化を予測し、課題として提出
第 15 回	記述統計Ⅰ（平均、標準偏差）	エクセルを用いて、数値例で平均、中央値、標準偏差などを各自で求める
第 16 回	記述統計Ⅱ（ヒストグラム、累積頻度分布、標準化）	前回の数値例でヒストグラムの作成および累積頻度分布の作成および標準化した相対頻度分布の作成
第 17 回	大数の法則（シミュレーションによる確認）	VBA を使い、乱数を発生させ、そう多頻度分布を作成。サンプル数が大きくなれば、真の値に近いサンプル数の比率が相対的に大きくなるような分布になることを確認する。
第 18 回	シミュレーションによる正規分布の再現	VBA を用いて乱数を発生させ、正規分布を再現させる。
第 19 回	シミュレーションによるカイ二乗分布および t-分布の再現	VBA を用いて乱数を発生させ、カイ二乗分布および t-分布の再現。正規分布、カイ二乗分布、t-分布の関係を著間的に理解する。
第 20 回	他の分布（ポアソン分布）	VBA を用いてポアソン分布を再現する。
第 21 回	検定の簡単な理論、正規分布を用いた検定の例	正規分布を用いた検定の練習問題を解く。
第 22 回	カイ二乗分布および t-分布を用いた検定の例	カイ二乗分布および t-分布を用いた検定の練習問題を解く。（例えば、平均値の有意差検定など）
第 23 回	F-分布を用いた検定の例	F 検定を用いた検定の練習問題を解く。
第 24 回	2 変量の関係-散布図と相関係数-	数値例（データの例）を用いてエクセルを使い、散布図の作成と相関係数を求める。さらに、その読み方。
第 25 回	回帰分析-単回帰-	回帰分析の説明。相関関係と因果関係
第 26 回	回帰分析-単回帰-	回帰分析の係数および標準誤差の導出の説明、数値例（データ）とエクセルを用いて、係数の推定値、標準誤差、t-値を求めてみる。
第 27 回	回帰分析-重回帰-	重回帰モデルの推定を、数値例（データ）とエクセルの回帰分析のツールを用いて、係数の推定値、標準誤差および t-値を求めてみる。他の検定も紹介する。
第 28 回	回帰分析の課題の作成	各自、回帰分析に必要な相関が強そうな複数のデータを収集し、回帰分析を行い、推定結果の解釈をレポートとして作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期に関しては、教員の講義の内容を次の週までに復習をしておいてもらえばよい。春学期の課題の作成に充てる最後の 2 回は、講義時間内で完了できないかもしれないので時間外にさらに 2-3 時間が必要と思う。秋学期は、毎回、実習で、教員が行った結果を再現させる作業は、時間内で完了可能と思われる。ただし、最後の回帰分析のレポートは、データの収集や回帰分析の結果の解釈の説明を理解するために、授業時間外に多めの時間が必要かもしれない。個人により違いがあるが 3-4 時間必要と思われる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

春学期の中間の課題 20%、春学期期末の課題 30%、秋学期の授業時間内の実習状況の評価 30%、秋学期末回帰分析のレポート 20%で評価を付ける。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答があまり出ないので、質疑応答が活発になるように工夫が必要と思われる。

【その他の重要事項】

カリキュラム・ポリシー、カリキュラムの目的やねらいに基づき第三者チェックを行いました。以下の点についてご確認ください。
到達目標の記述が、「〔授業の概要と目的（何を学ぶか）〕に記載した授業の目的・意義をいくつかの事項に具体化した、現実的な学習目標を記載します。」というガイドラインからすると抽象的に過ぎるように思われます。より具体性をもたせて記述してください。

【Outline and objectives】

The course is aimed for the participants to understand basic micro economic theory and apply the theory on real economic phenomenon by solving many exercises. Moreover, it is aimed to acquire basic understandings of introductory statistics by solving exercises in textbook.

ECN218CA
演習
JESS DIAMO N D
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ファイナンス、投資に関するテキストの輪読を通じて、現実の投資を行う能力を身につける。さらに、輪読や研究報告を通じて、自分の考えをわかりやすく他人に伝えられるようなプレゼンテーション能力を培っていく。

【到達目標】

リスクとリターンの関係や企業の価値創造について、正しく理解し、他人に説明できるようになる。他人の考えを理解し、それに対し自分の考えを伝える能力を身につける。

The goal of the seminar is to understand the relationship between risk and return as well as the process of value creation by firms. We also use the seminar to learn how to communicate our ideas clearly to others.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

学生が主体となって、テキストの輪読、研究発表を行う。

通常の講義とは異なり、教員から進んで授業を行っていくようなスタイルではない。フィードバックはプレゼンテーション後、またはプロジェクト提出後先生と会って個人的に行う。

The seminar focuses on the presentations and projects of students, with limited instruction from the professor. Regular feedback will be given after presentations and projects on an individual basis.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance	Explanation of schedule and requirements.
2	Probability and Statistics	Introduction to Basic Probability
3	Probability and Statistics	Introduction to Basic Statistics
4	Financial Statements	The Balance Sheet
5	Financial Statements	The Income Statement and Cash Flow Statement
6	Asset Pricing	Present Value and Discounted Cash Flow
7	Asset Pricing	Relative Value and Earnings Power Value
8	Databases	Using Mergent Online
9	Databases	Using Nikkei NEEDS
10	Excel	Basic Excel Functions and Data Analysis
11	Excel	Financial Models in Excel
12	Review for Test	Review of Past Topics in Preparation for Test
13	Test	Test Covering All Material Covered

14	4th Year Graduation Thesis Interim Presentations	Interim Presentations of Graduation Thesis by 4th Year Students
15	Investments: Chapter 1	The Investment Environment
16	Investments: Chapter 2	Asset Classes and Financial Instruments
17	Investments: Chapter 3	How Securities Are Traded
18	Investments: Chapter 4	Mutual Funds and Other Investment Companies
19	Investments: Chapter 5	Risk, Return, and the Historical Record
20	Zemi Interview Preparation	Preparation for Interviews and Test of New Zemi Applicants
21	Investments: Chapter 6	Capital Allocation to Risky Assets
22	Investments: Chapter 7	Optimal Risky Portfolios
23	Investments: Chapter 8	Index Models
24	Investments: Chapter 9	The Capital Asset Pricing Model
25	Investments: Chapter 10	Arbitrage Pricing Theory and Multifactor Models of Risk and Return
26	Investments: Chapter 11	The Efficient Market Hypothesis
27	Investments: Chapter 12	Behavioral Finance and Technical Analysis
28	Summary	Annual Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

We will visit companies to learn about their business models. Students are expected to spend 4 hours reviewing per lesson reviewing class material.

【テキスト（教科書）】

Bodie, Z., Kane, A., Marcus, A.J., 2013. Investments, Tenth Edition: McGraw-Hill Education.

【参考書】

Thorndike, W.N., 2012. The Outsiders: Harvard Business Review Press

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、プレゼンテーションに基づいて、成績評価を行う。Grading will be based on the degree of student participation and quality of presentations and group work. Participation: 50% Presentations and Group Work: 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。
None.

【その他の重要事項】

高校レベルの数学の知識を有していると輪読するテキストの内容の理解がよりスムーズにできると思われる。
英語を読むこと（話せなくても）を苦にしない学生であることが望ましい。

【Outline and objectives】

The objective of this seminar is to study finance in general and investing in particular. We begin by using textbooks and presentations and later move to individualized and group research projects.

ECN218CA
演習
武田 浩一
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎文献の輪読で経済に関する基本的な見方を学習しながら、グループあるいは個人で研究を行い研究成果のプレゼンテーションを行い、チーム制の投資シミュレーションを通じて経済やビジネスの動向に関する洞察力を養います。希望があれば、参加者の自主的な企画の下で、年 1～2 回の合宿や、経済を学ぶのに有益な施設の見学などを行います。演習において積極的な発言が求められますので、有意義な議論を行うためにもミクロ経済学などの演習の基礎となる科目を並行して受講することを勧めます。

失敗を恐れずに難しい課題にもチャレンジしてその経験から真摯に学ぶことによってスキルが大きく伸びていくことをよく認識した上で、未経験の課題にも果敢に粘り強く取り組んでください。

【到達目標】

この演習では、経済についての深い理解と、卒業後にどんな道に進んでも役に立つ思考力、表現力、実行力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、当分の間はオンライン講義を行います。途中から教室での対面講義を実施する可能性があります。

第 1 回講義は、Zoom によるリアルタイム形式のオンライン講義の講義ガイダンスの回となります。学習支援システム上で Zoom での講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布するので、この講義を履修する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上で資料をよく読んでください。

第 2 回以降の講義では、Zoom によるリアルタイム形式のオンライン講義での報告と討論を基本としつつ、学習支援システムを通じて配布される教材をゼミ生が学習する形式を併用するオンライン講義とする予定です。今年度は、報告課題は 3 年生の研究報告からスタートする予定です。Zoom の利用には、インターネットに接続したパソコンまたはスマートフォンを用意して、Zoom のアプリケーションをあらかじめインストールしておく必要がありますので、ゼミ生の皆さんは、講義までにマイクやカメラが使用可能なパソコンまたはスマートフォンに Zoom をインストール・設定して、講義に参加する準備をしておいてください。

経済のテキストの輪読、個人・グループ研究のレポート・論文の作成、プレゼンテーション、投資の計画策定・シミュレーション実行・成果レビュー、ディスカッションなどを行います。

個人・グループ研究に本格的にとりかかる前に、経済に関する研究の進め方や論文の書き方などについて基本事項を確認します。各課題のフィードバックは毎回の演習講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	ゼミナールの基本的な学習方針の説明
第 2 回	個人・グループ研究計画発表	個人・グループ研究計画の報告 第 1 回

第 3 回	個人・グループ研究計画発表	個人・グループ研究計画の報告 第 2 回
第 4 回	投資シミュレーション	チームの投資の基本構想と計画の発表
第 5 回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第 1 回
第 6 回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第 2 回
第 7 回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第 3 回
第 8 回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第 4 回
第 9 回	ディスカッション	グループ・ディスカッション 第 1 回
第 10 回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第 5 回
第 11 回	投資シミュレーション	チームの投資状況と投資計画の報告 第 1 回
第 12 回	ディスカッション	グループ・ディスカッション 第 2 回
第 13 回	個人・グループ研究発表	個人・グループ研究の報告 第 1 回
第 14 回	個人・グループ研究発表	個人・グループ研究の報告 第 2 回
第 15 回	投資シミュレーション	チームの投資状況と投資計画の報告 第 2 回
第 16 回	経済の基礎文献の輪読	経済の基礎文献の輪読 第 1 回
第 17 回	個人・グループ研究中間発表	個人・グループ研究の中間報告 第 1 回
第 18 回	個人・グループ研究中間発表	個人・グループ研究の中間報告 第 2 回
第 19 回	ディスカッション	グループ・ディスカッション 第 3 回
第 20 回	経済の基礎文献の輪読	経済の基礎文献の輪読 第 2 回
第 21 回	経済の基礎文献の輪読	経済の基礎文献の輪読 第 3 回
第 22 回	投資シミュレーション	チームの投資状況と投資計画の報告 第 3 回
第 23 回	経済の基礎文献の輪読	経済の基礎文献の輪読 第 4 回
第 24 回	経済の基礎文献の輪読	経済の基礎文献の輪読 第 5 回
第 25 回	ディスカッション	グループ・ディスカッション 第 4 回
第 26 回	個人・グループ研究最終発表	個人・グループ研究の最終報告 第 1 回
第 27 回	投資シミュレーション	チームの投資結果のレビューと投資成果の報告
第 28 回	個人・グループ研究最終発表	個人・グループ研究の最終報告 第 2 回

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読する文献には事前に目を通し、もし分からないところがある場合には、自分で調べたり輪読の時間やその前後に質問したりして、分からないままに残さないことが重要です。

個人・グループ研究や投資シミュレーションにおいては、ゼミの時間外に各自でテーマの設定、研究計画の策定、調査の実施、調査結果の分析や考察、論文の執筆、シミュレーション投資の実行、プレゼンテーションの準備などを着実に進める自律的な研究姿勢が求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読テキストは、ゼミ生と相談の上で最終的に決めます。

【参考書】

・宇井貴志ほか編『現代経済学の潮流 2019』東洋経済新報社、2019 年
・大宮登ほか著『キャリアデザイン講座 第 3 版』日経 BP 社、2019 年
その他は講義の中で個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2,3 年生の評価は、授業内評価 75 %と、論文・レポート評価 25 %からなります。4 年生の評価は、論文評価 100 %になります。

授業内評価では、平常点、輪読の報告内容の充実度、演習で学習した内容の理解度、および毎回の発言回数とその内容が評価の重要な要素となります。

論文やレポートの評価では、調査の綿密さ、説明の分かりやすさ・丁寧さ、主張の独創性・論理性・説得性、が評価の重要な要素となります。

高い評価を受けるためには、ゼミの課題に積極的に取り組み、設定された学習目標への到達度を高めることが求められます。

授業の無断欠席は厳禁です。

【学生の意見等からの気づき】

論文やレポートの作成、プレゼンテーション、ディスカッションなどの基本的なスキルの強化を重視します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行ないます。

【Outline and objectives】

This course will help the students prepare for the thesis. The course aims to show the way to conduct economic research and construct a proposal which follows what you have learned.

ECN218CA
演習
後藤 浩子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「フランス革命を考える」

今年度は、フランス革命がどのように、イギリスやアメリカの代議制民主主義の制度やそれを支える思想と異なる要素を含んでいたのかを分析します。そして、この分析をもとに、民主主義が陥るポピュリズムの問題を探究します。

【到達目標】

第一段階として、フランス革命の段階的プロセスを理解することを目標として、F. ブリュシュ他『フランス革命史』（文庫クセジュ、1992年）を通読します。

次に、アレクシス・ド・トクヴィル『旧体制と大革命』（ちくま学芸文庫、1997年）を精読することによって、トクヴィルが分析したフランスの特殊性を理解します。そして、これを土台にして、各自が個人研究のテーマを設定し、歴史学的研究の手法を身に付け、最終的にゼミ内で各自の研究成果を共有することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習2時限中1時限は、共通テキストである『フランス革命史』『旧体制と大革命』を精読します。グループに分かれて用語などの説明・解釈を確認し、その後、各人が各章の論旨をまとめたレポートを書き、さらに深めるべき個別研究のテーマを設定します。残りの1時限では、(1) 学生が興味を持ったテーマについて分析し議論するセッション (2) ゼミ論文作成のための中間発表と論文指導 (3) グループに分かれての学生研究発表大会用共同研究・製作活動、のいずれかを行います。

講読のフィードバックは授業中に教員から直接口頭で伝え、個人研究のフィードバックは、提出された各人の草稿ファイルを教員が添削し返送するという形で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介・テキスト精読の方法とゼミ論文への取り組み方の説明
第2回	テキスト精読／前年度個人研究報告	F. ブリュシュ他『フランス革命史』第1章「前期革命」
第3回	テキスト精読／前年度個人研究報告	F. ブリュシュ他『フランス革命史』第2章「一七八九年」
第4回	テキスト精読／前年度個人研究報告	F. ブリュシュ他『フランス革命史』第3章「八九年の精神と人間および市民の権利宣言」
第5回	テキスト精読／前年度個人研究報告	F. ブリュシュ他『フランス革命史』第4章「革命を終えるのか」
第6回	テキスト精読／個人研究テーマの模索	F. ブリュシュ他『フランス革命史』第5章「王権の瓦解」
第7回	テキスト精読／個人研究テーマの模索	F. ブリュシュ他『フランス革命史』第6章「共和政」
第8回	テキスト精読／個人研究テーマの模索	F. ブリュシュ他『フランス革命史』第7章「恐怖政治の支配」
第9回	テキスト精読／個人研究計画報告	F. ブリュシュ他『フランス革命史』第8章「革命を終わらせる」

第10回	テキスト精読／個人研究計画報告	アレクシス・ド・トクヴィル『旧体制と大革命』第一部第1,2章
第11回	テキスト精読／個人研究計画報告	アレクシス・ド・トクヴィル『旧体制と大革命』第1部第1,2章
第12回	テキスト精読／個人研究計画報告	アレクシス・ド・トクヴィル『旧体制と大革命』第1部第3,4章
第13回	テキスト精読／共同研究・製作活動	アレクシス・ド・トクヴィル『旧体制と大革命』第1部第5章
第14回	テキスト精読／共同研究・製作活動	グループ別研究計画発表
第15回	テキスト精読／共同研究・製作活動	アレクシス・ド・トクヴィル『旧体制と大革命』第2部第1,2章／グループ別研究ポスター発表準備
第16回	テキスト精読／共同研究・製作活動	アレクシス・ド・トクヴィル『旧体制と大革命』第2部第3,4章／グループ別研究ポスター発表準備
第17回	テキスト精読／個人研究中間報告	アレクシス・ド・トクヴィル『旧体制と大革命』第2部第5,6章
第18回	テキスト精読／個人研究中間報告	アレクシス・ド・トクヴィル『旧体制と大革命』第2部第7,8章
第19回	テキスト精読／個人研究中間報告	アレクシス・ド・トクヴィル『旧体制と大革命』第2部第9,10章
第20回	テキスト精読／個人研究中間報告	アレクシス・ド・トクヴィル『旧体制と大革命』第2部第11,12章
第21回	テキスト精読／個人研究中間報告	アレクシス・ド・トクヴィル『旧体制と大革命』第3部第1,2章
第22回	テキスト精読／個人研究中間報告	アレクシス・ド・トクヴィル『旧体制と大革命』第3部第3,4章
第23回	テキスト精読／個人研究中間報告	アレクシス・ド・トクヴィル『旧体制と大革命』第3部第5,6章
第24回	テキスト精読／個人研究中間報告	アレクシス・ド・トクヴィル『旧体制と大革命』第3部第7,8章
第25回	今年度のゼミ研究のまとめ	トクヴィルのフランス革命論の特徴についての個々人の発表
第26回	個人研究論文の完成	マン・ツー・マンでの論文添削と研究内容の指導
第27回	個人研究論文の完成	マン・ツー・マンでの論文添削と研究内容の指導
第28回	個人研究論文の完成	マン・ツー・マンでの論文添削と研究内容の指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2, 3週に1回、各章のテキスト精読が終わるたびに、ゼミ参加学生は各自、章の論旨のまとめを書き、提出します。各回の演習の準備や個人研究課題のためのテキスト講読に4時間、演習後のまとめに2時間、計6時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

、F. ブリュシュ他『フランス革命史』（文庫クセジュ、1992年）アレクシス・ド・トクヴィル『旧体制と大革命』（ちくま学芸文庫、1997年）

【参考書】

テーマの展開に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学生が毎回提出する講読テキストの要旨に反映される内容理解度（60%）とゼミ論に示された問題探究能力と達成度（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキスト読解に不可欠な歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline and objectives】

"Thinking about the French Revolution"

This seminar cultivates curiosity about European history, introducing students to historical studies as an academic discipline.

This year, we will analyze how the French Revolution contained elements that differed from the systems and ideas of representative democracy in Britain and the United States. Then, based on this analysis, we will consider the problem of populism that democracy tends to fall into.

ECN218CA
演習
小林 克也
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、講義で学んだ経済学の基礎的な知識を土台として、経済学の初級から中級程度の知識と応用力を身につけるための輪読をします。それに必要な計算練習もします。日経新聞の中からテーマを選んでその考察の報告と経済に関する英文記事の輪読をします。

【到達目標】

最終的には経済学の知識と応用力を身につけることが目標です。2・3 年生はレポートの書き方やプレゼンテーションの技術を身につけます。これから卒業研究のための技術を修得します。4 年生は研究テーマを自分で見つけて分析し、その結果を卒業論文としてまとめます。また英字新聞の経済面で使われる英語に慣れることも目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

教室で実施します。経済学の教科書の輪読をします。現実の社会現象の捉え方を身につけるために自分で選んだ日経新聞記事についての考察を報告をして、それについて議論をします。4 年生は卒業研究について複数回、中間報告をします。また、毎回、計算練習をします。Financial Times か、New York Times の中から経済記事を選んで輪読をします。これらの活動の中で、みなさんと私のあいだで質問や議論を通じて、知識や考え方を身につけていきます。報告や課題に対する指導やコメントは教室で直接私が個別に伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	輪読と報告 (1)	テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 2 回	輪読と報告 (2)	宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 3 回	輪読と報告 (3)	宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 4 回	輪読と報告 (4)	宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 5 回	輪読と報告 (5)	宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 6 回	輪読と報告 (6)	宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 7 回 輪読と報告 (7)

宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 8 回 輪読と報告 (8)

宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 9 回 輪読と報告 (9)

宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 10 回 輪読と報告 (10)

宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 11 回 輪読と報告 (11)

宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 12 回 輪読と報告 (12)

宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 13 回 輪読と報告 (13)

宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 14 回 輪読と報告 (14)

宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 15 回 輪読と報告 (15)

宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 16 回 輪読と卒業研究報告 (1)

宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 17 回 輪読と卒業研究報告 (2)

宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 18 回 輪読と卒業研究報告 (3)

宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 19 回 輪読と卒業研究報告 (4)

宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 20 回 輪読と卒業研究報告 (5)

宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 21 回 輪読と卒業研究報告 (6)

宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 22 回 輪読と卒業研究報告 (7)

宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 23 回 輪読と卒業研究論文報告 (8)

宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 24 回	輪読と卒業研究報告 (9)	宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2、3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 25 回	輪読と卒業研究報告 (10)	宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2、3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 26 回	輪読と卒業研究報告 (11)	宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2、3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 27 回	輪読と卒業研究報告 (12)	宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2、3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 28 回	輪読と卒業研究論文報告 (13)	宿題の答え合わせ。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2、3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや新聞、英字新聞の報告者予定の方はあらかじめ報告準備をすることが必要です。また報告当番でないときも、予めテキストに目を通しておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の最初に輪読するテキストを皆さんと相談して決めます。

【参考書】

三土修平『初歩からの経済数学』日本評論社。

授業の最初に選んだ輪読のテキストに関連する参考書は、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2、3 年生は平常点 (100%)、4 年生は卒業論文 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんが論理的思考ができるようになるように私から質問をしながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】

授業の準備をする際、PC やインターネット、印刷が利用できる環境は必要です。これらを準備できない場合は、大学の機器を利用して下さい。

【Outline and objectives】

In this seminar, we read a textbook of elementary or intermediate economics in turn, on the basis of economics knowledge that students studied in other lectures. We exercise calculation skills for economics. In addition, we read articles from Nikkei news paper and English newspaper in turn.

ECN218CA
演習
近藤 章夫
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、都市・地域における産業・企業の立地を対象にしながら、文献輪読、統計分析・資料分析、現地調査（フィールドワーク）を軸に研究の多様なアプローチを学習する。

【到達目標】

上記のテーマを通じて、経済地理学、都市・地域経済学の思考方法を学び、自らの問題関心に沿って研究を遂行する能力を養うことが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者の発表や討論が中心となる。また、自らが問題を設定し、積極的かつ自主的に現地調査や個人研究を企画・実施していくことが望ましい。受講者の関心や希望をふまえつつ、①重要文献の輪読、②現地調査の実習（夏期地域調査）、③個人・グループ自由研究の発表、を軸に進めていく。特に、現代経済・ビジネスと都市地域経済に関わる幅広い教養と有益なアプローチの習得に主眼をおく。課題やリアクションペーパーなどを授業内で適宜紹介し、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション①	オリエンテーション、年間計画
第 2 回	イントロダクション②	文献・資料の探し方、役割分担
第 3 回	春学期ゼミ活動①	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 4 回	春学期ゼミ活動②	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 5 回	春学期ゼミ活動③	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 6 回	春学期ゼミ活動④	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 7 回	春学期ゼミ活動⑤	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 8 回	春学期ゼミ活動⑥	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 9 回	春学期ゼミ活動⑦	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 10 回	春学期ゼミ活動⑧	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 11 回	春学期ゼミ活動⑨	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 12 回	春学期ゼミ活動⑩	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 13 回	春学期ゼミ活動⑪	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 14 回	春学期ゼミ活動⑫	4 限：文献輪読のまとめ、5 限：春学期の総括
第 15 回	イントロダクション	秋学期計画、夏期調査の中間報告
第 16 回	秋学期ゼミ活動①	4 限：文献輪読、5 限：調査報告
第 17 回	秋学期ゼミ活動②	4 限：文献輪読、5 限：調査報告
第 18 回	秋学期ゼミ活動③	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 19 回	秋学期ゼミ活動④	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 20 回	秋学期ゼミ活動⑤	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 21 回	秋学期ゼミ活動⑥	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 22 回	秋学期ゼミ活動⑦	4 限：文献輪読、5 限：研究発表
第 23 回	秋学期ゼミ活動⑧	4 限：文献輪読、5 限：研究発表
第 24 回	秋学期ゼミ活動⑨	4 限：文献輪読、5 限：研究発表
第 25 回	秋学期ゼミ活動⑩	4 限：文献輪読、5 限：研究発表
第 26 回	秋学期ゼミ活動⑪	4 限：文献輪読、5 限：研究発表
第 27 回	秋学期ゼミ活動⑫	4 限：文献輪読、5 限：研究発表
第 28 回	秋学期ゼミ活動⑬	4 限：文献輪読のまとめ、5 限：春学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習、事後の復習・課題への積極的な取り組み、ゼミ正規時間以外の課外活動への積極的関与等が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、授業への貢献度（発表・課外活動等含む）評価（30%）、レポート評価（30%）などで総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

個人の研究関心や問題意識に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

【Outline and objectives】

This course offers the opportunity to examine the dynamics of urban and regional development from the perspectives of economic geography and applied economics.

ECN218CA
演習
坂本 憲昭
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IT を中心とした情報システムを理解する。具体的には、現代社会で必須な情報システムおよび IT システムの概要や案画時の注意点などの基礎知識を習得する。

【到達目標】

実社会において、簡単な情報システムを新規導入する際の案画ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

システム設計における上流工程である要求定義の実践（プレゼンテーションスキルの向上を含む）「よのなか」に不可欠となった情報システムについて学ぶ。具体的な問題設定に対して、どのような機能や処理をもたせたシステム構成とするかを演習する。提案書を作成し、プレゼン用ソフトウェアを用いて提案を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ツアー計画課題および目的を決定する
第 2 回	ツアー計画課題	グループ討議に取り組み、スライドを作成する
第 3 回	プレゼンテーション講義	プレゼンの講評を受け修正する
第 4 回	バーコード講義	バーコードに関する講義と事例紹介をおこなう
第 5 回	QR コード講義	QR コードに関する講義と事例紹介をおこなう
第 6 回	バーコード課題演習	グループごとにバーコード課題に取り組む
第 7 回	スライド作成	グループ討議に取り組み、スライドを作成する
第 8 回	プレゼン実習	グループごとにプレゼンし講評を受け修正する
第 9 回	Excel 基礎演習（絶対参照ほか）	Excel 実習（絶対参照ほか）
第 10 回	Excel 演習（乱数、時系列処理ほか）	Excel 実習（乱数、時系列処理ほか）
第 11 回	Excel 実習	Excel 課題に取り組む
第 12 回	待ち行列講義	待ち行列の基礎を学ぶ
第 13 回	Excel による待ち行列演習	Excel で待ち行列をシミュレーションする
第 14 回	パークに関する Excel による待ち行列課題	グループごとに課題に取り組む
第 15 回	知的財産権	知的財産権の講義をおこなう
第 16 回	商標権、著作権	商標権、著作権を中心に講義をおこなう
第 17 回	知的財産権に関する報道例の紹介	グループごとに事例調査をおこなう
第 18 回	知的財産権に関する課題	課題に取り組むグループごとに事例調査とスライドを作成する
第 19 回	プレゼンテーション実習	グループごとにプレゼンし講評を受け修正する
第 20 回	特許権講義	特許権の講義をおこなう
第 21 回	特許事例紹介	グループごとに事例調査をおこなう
第 22 回	パークに関する特許事例調査	グループごとに事例調査とスライドを作成する
第 23 回	プレゼンテーション実習	グループごとにプレゼンし講評を受け修正する
第 24 回	特許アイデア発想課題	グループごとに特許アイデア発想の課題をおこなう
第 25 回	特許アイデアの文書化	グループごとに成果物のとりまとめとスライドを作成する
第 26 回	パークに関するテーマ調査	グループごとに調査テーマを決定して調査をおこなう
第 27 回	調査結果の集約とスライド作成	グループごとにスライドを作成する
第 28 回	プレゼンテーション実習	グループごとにプレゼンし講評を受け修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループごとに課題の取り組みをします。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、担当教員による自作資料を使います。

【参考書】
・ずっと受けたかった ソフトウェアエンジニアリングの授業 1,2(増補改訂版), 翔泳社
・社内プレゼンの資料作成術, ダイアモンド社
・社外プレゼンの資料作成術, ダイアモンド社

【成績評価の方法と基準】
課題の成果物とプレゼンテーション内容の合計点を 100 点満点とし、60 点以上で合格になります。

【学生の意見等からの気づき】
他グループの発表時に、その内容を参考にして自分たちのプレゼン内容をより良いものに改善できるような時間の使い方を取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用します。

【Outline and objectives】
This course aims at understanding IT systems and other information systems. Specifically, we acquire basic knowledge such as an outline of information system and IT system indispensable in modern society and precautions on planning.

ECN218CA
演習
佐柄 信純
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済理論の本格的な理解と英文読解力の向上を目指します。LaTeX による報告資料の作成にも力を入れます。LaTeX は無料のソフトウェアであり、インターネットや市販の解説書から容易に入手することができます。パソコンの予備知識は特に必要ありません。Microsoft 社の製品をできるだけ使わないという方針の下に、何かと不具合の多い PowerPoint よりも綺麗に報告資料を作る技を伝授します。

【到達目標】
卒論は組版用のソフトウェアである LaTeX で作成します。また、TOEIC ® が経済学検定試験で優秀な成績を修めた学生には、卒論の規定枚数が減免されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】
2 部構成でゼミを運営します。第 1 部では William Strunk Jr. and E. B. White, *The Elements of Style*, 4th ed., Allen and Bacon, Boston, 1999 をテキストに、英文作成の基本技術を学びます。英語の授業と同じ形でゼミを進めるので、受講者は毎回の予習が必要になります。こまめに辞書を引く習慣を付けて下さい。『リーダーズ英和辞典』か『ランダムハウス英語辞典』が入っている電子辞書を推奨します。第 2 部では、ミクロ経済学、ゲーム理論、経済数学の分野からテーマを選び、日本語の文献を輪読します。取り上げるテーマは毎年変わります。ゼミ生は「ビジネス数学」、「数学」または「経済の数理」を履修し、優秀な成績で単位を取得することが求められます。報告用ノートの提出を義務付け、報告後にコメントを書き添えた上、報告者に返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	英文講読, テキスト輪読	報告 1
2	英文講読, テキスト輪読	報告 2
3	英文講読, テキスト輪読	報告 3
4	英文講読, テキスト輪読	報告 4
5	英文講読, テキスト輪読	報告 5
6	英文講読, テキスト輪読	報告 6
7	英文講読, テキスト輪読	報告 7
8	英文講読, テキスト輪読	報告 8
9	英文講読, テキスト輪読	報告 9
10	英文講読, テキスト輪読	報告 10
11	英文講読, テキスト輪読	報告 11

12	英文講読、テキスト輪 報告 12 読
13	英文講読、テキスト輪 報告 13 読
14	英文講読、テキスト輪 報告 14 読
15	英文講読、テキスト輪 報告 15 読
16	英文講読、テキスト輪 報告 16 読
17	英文講読、テキスト輪 報告 17 読
18	英文講読、テキスト輪 報告 18 読
19	英文講読、テキスト輪 報告 19 読
20	英文講読、テキスト輪 報告 20 読
21	英文講読、テキスト輪 報告 21 読
22	英文講読、テキスト輪 報告 22 読
23	英文講読、テキスト輪 報告 23 読
24	英文講読、テキスト輪 報告 24 読
25	英文講読、テキスト輪 報告 25 読
26	英文講読、テキスト輪 報告 26 読
27	英文講読、テキスト輪 報告 27 読
28	英文講読、テキスト輪 報告 28 読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英文購読の予習に3時間、発表の準備に4時間、宿題提出のための復習に3時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

William Strunk Jr. and E. B. White, *The Elements of Style*, 4th ed., Allen and Bacon, Boston, 1999

【参考書】

開講時に文献リストを提示する。

【成績評価の方法と基準】

出席を最重視する。ゼミ報告、レポート、課題に取り組む態度などを総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

The purpose of this course is twofold. First, the profound understanding of economic theory. Second, the substantial improvement of the reading and writing of English.

ECN218CA
演習
酒井 正
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、以下の3つを課題として掲げる。

- 1) 専門性の高い文献を読み込む経験をする。
- 2) その論点と内容を整理して人にわかりやすく伝える。
- 3) 整理された論点に基づいて議論を行う。

講読する文献のトピックとしては、労働経済学における実証分析を中心に応用経済学全般を取り上げる予定である。

データを統計的に分析する方法を学ぶことも本演習の目的である。

【到達目標】

学生が、未知の内容に直面した際に、専門的な文献に当たり、そのことについて、学術的な研究においては何がわかっているのか（何がわかっていないのか）把握できることを到達目標とする。どのような専門文献に当たるべきかを理解し、「専門的な論文を読んだ」と言えるようになることが最終的な目標である。議論を展開する際のデータの「示し方」を習得することも副次的な到達目標として挙げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

与えられた文献について、各自で（もしくはグループごとに）その内容をまとめ、報告を行う。その後に全員で議論を行う。特に、データに基づいて議論することを心掛ける。後半には、グループごとにトピックを選んで分析を行うことが中心となる。

年間を通して秋のインゼミを一つの目標として活動する。

課題等に関するフィードバックは、基本的に授業内で口頭あるいは面談の形でおこないたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの進め方
2	演習（1）	講義：プレゼンの仕方等 文献講読：担当学生による報告 1
3	演習（2）	文献講読：担当学生による報告 2
4	演習（3）	文献講読：担当学生による報告 3
5	演習（4）	文献講読：担当学生による報告 4
6	演習（5）	文献講読：担当学生による報告 5
7	演習（6）	指定されたトピックについてディベートを行う
8	演習（7）	他のゼミと研究交流
9	演習（8）	分析テーマの選定
10	演習（9）	文献講読：担当学生による報告 6
11	演習（10）	ゲスト・スピーカーによる報告等
12	演習（11）	文献講読：担当学生による報告 7
13	講義（1）	文献講読が特に遅れていなければ、統計資料の扱い方等に関して講義する。
14	演習（12）	分析の進捗状況を報告
15	演習（13）	春学期学習内容の補足
16	演習（14）	分析の中間報告 1
17	演習（15）	分析の中間報告 2
18	演習（16）	文献講読：担当学生による報告 8
19	演習（17）	文献講読：担当学生による報告 9

20	演習（18）	文献講読：担当学生による報告 10
21	演習（19）	文献講読：担当学生による報告 11
22	演習（20）	文献講読：担当学生による報告 12
23	演習（21）	分析の中間報告 3
24	演習（22）	他のゼミとの研究交流
25	演習（23）	文献講読：担当学生による報告 13
26	講義（2）	文献講読：担当学生による報告 14
27	演習（24）	文献講読：担当学生による報告 15（もしくは他のゼミとの研究交 流）
28	講義（3）	文献講読が特に遅れていなければ、社会政策等に関するトピック について講義する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習は、グループによる課題取組等が中心となり、毎回の準備・復習に標準で 4 時間程度を要するものとする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

- ・加藤久和『やさしい計量経済学：プログラミングなしで身につける実証分析』（オーム社、2019 年）
- ・中室牧子・津川友介『「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法』（ダイヤモンド社、2017 年）
- ・酒井正『日本のセーフティネット格差 労働市場の変容と社会保障』（慶應義塾大学出版会、2020 年）

【成績評価の方法と基準】

[平常点： 70%、報告及びレポートの内容： 30%] を目安として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講者の履修履歴がまちまちであることを鑑み、経済学の基礎知識の復習も適宜行う。また、資料の探し方や分析結果の示し方といったことについても初歩的な段階から指導する。
- ・授業外で時間調整をすることが難しいとの意見があることから、授業内でも最低限のグループ作業をする時間を確保したい。
- ・時事的なトピックについても、授業内で知識補給を行うことを心がける。

【Outline and objectives】

The objectives of this seminar are to 1) learn how to read academic papers, 2) investigate and discuss the issues mainly by relying on statistics, and 3) report properly analyzed topics. Topics this seminar covers include such as, but not limited to, labor economics.

ECN218CA
演習
胥 鵬
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは企業金融・コーポレート・ガバナンス、あるいは興味のあるトピックス。楽しく課題に取り組み、笑顔でプレゼンを行い、グループで論文を仕上げる。

【到達目標】

企業金融・コーポレート・ガバナンスの理論と実務を勉強し、データの収集分析に挑み、分析結果にものを語らせるようグループ論文を仕上げる。ゼミ課題の関連知識として、コーポレートガバナンス論 A/B と企業金融論 A/B を履修することが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

グループあるいは個別に、2 年生は 3 年次予定の課題の仮説、仮説検定のためのデータおよび手法に関するエッセイ作成し、3 年生は課題に取り組み論文を作成する。4 年生は卒論を作成する。ゼミ勉強の合間には様々な親睦活動やゼミ合宿を実施する。ゼミ課題の関連知識として、コーポレートガバナンス論 A/B と企業金融論 A/B を履修することが望ましい。

感染状況に応じて適宜 Zoom や Webex などのリアルタイムオンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	理論	企業金融とコーポレート・ガバナンスの理論を学ぶ
第 2 回	実務	企業金融とコーポレート・ガバナンスの実務を学ぶ
第 3 回	データ	理論や実務の証拠となりうるデータの収集方法について学ぶ
第 4 回	データから証拠へ	研究とはデータを加工・処理して証拠として提示することについて学ぶ
第 5 回	論＝仮説	経済学の研究とは、自分が主張しようとする「論＝仮説」を裏付ける証拠を提示するプロセスについて学ぶ
第 6 回	企業金融「論」	企業金融に関するさまざまな「論」と証拠について学ぶ
第 7 回	コーポレート・ガバナンス「論」	コーポレート・ガバナンスに関するさまざまな「論」と証拠について学ぶ
第 8 回	グループ分け	グループ分けし、グループで only one の花を咲かせるゼミ研究を目指す。
第 9 回	グループ討論	only one になるテーマを目指してグループ内で討論

第10回	グループ間討論	only one になるテーマを目指してグループ間で討論
第11回	研究テーマ決定	グループ内とグループ間の討論を経て only one のグループ研究テーマを決定
第12回	研究計画	論文計画を作成
第13回	論文計画プレゼン	各自の研究テーマについて、オンライン・ワンを強調しつつ研究目的などの計画について、プレゼンを行なう
第14回	コメント	ゼミ同士・教員がコメントする。
第15回	文献収集	研究計画に沿って詳細な文献を収集
第16回	文献閲読	収集した文献を精読する
第17回	データ検討	研究計画に沿って研究の証拠となるデータについて検討する。
第18回	データ収集	学内のデータベースを活用して、必要なデータを収集する
第20回	手法検討	データをどのように加工・処理して証拠として提示することができるかについて、分析手法を検討する。
第21回	データ分析	検討した手法で収集したデータを分析する
第22回	中間論文執筆	分析結果をまとめ中間論文を完成する
第23回	中間論文プレゼン	中間論文をプレゼンする
第24回	中間論文コメント	ゼミ生同士・教員が中間論文に対してコメントする
第25回	論文改訂	コメントを参考に論文を書き直す
第26回	切磋琢磨	切磋琢磨で互いに学びあい、よい論文を目指す
第27回	再度コメント	教員などが再度コメントする
第27回	論文完成	再度コメントを参考に論文を仕上げる
第28回	完成論文プレゼン	グレードアップした論文をプレゼンし、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するために、エクセルの統計関数などをマスターすること。ゼミ課題の関連知識として、コーポレートガバナンス論 A/B と企業金融論 A/B を履修することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

論文資料を随時配布する

【参考書】

『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

必要なデータや資料は自分で調べる

【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題（40%）＋期末（グループ）課題レポート（60%）で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。

【学生の意見等からの気づき】

一緒に楽しく勉強しよう！

【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面もノートパソコン持参

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 年) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline and objectives】

The theme is corporate finance, corporate governance, or topics of our interests. Have fun when we challenge tasks and smile when we make presentation. Write papers with group collaborations.

ECN218CA
演習
菅 富美枝
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、法律学の学習、法理論の習得、法的議論の実践を通して、公正と正義にかなった思考方法を身につける。

【到達目標】

・広く現代社会を見渡し、多角的に分析し、発見された問題の解決に向けて、十分な文献・資料調査を通して、考え抜く姿勢と力の習得を目指す。

・法的知識、法的思考様式、法的論理構成力の習得を目標とする。
・民法の枠を超えた、法学一般、刑法、憲法についても学び、法学検定試験受験に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

・毎回、3部構成をとる。

①知識習得：

教科書、学術論文を使用し、民法を中心とした法律学の基礎理論、基礎知識を習得する。

②読解分析、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベート：

担当者（グループまたは個人）によってプレゼンテーション、及び、問題提起を行う。それを受けて、全員参加によってディスカッションを行う。終了後、各発表者は、ゼミ内での議論を踏まえ、要約文を作成・提出する。

③法学検定試験問題練習：

ゼミ生が毎回順番に教師役となり、解答、解説を行う。

春学期の最終回、秋学期の最終回には、振り返りレポートを提出し、各自の修学度のフィードバックに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・本講義で行うこと、課題、問題意識、概要の共有 ・ゼミ合宿課題の復習、ディスカッション
第 2 回	①民法演習 ②映画を用いた法的議論 ③法学検定試験問題練習	①契約の成立、契約締結交渉の破棄 ②臓器売買 ③刑法問題番号 1 ～ 10 番
第 3 回	①民法演習 ②映画を用いた法的議論 ③法学検定試験問題練習	①契約締結過程における説明義務、同時履行の抗弁 ②ソーシャルメディアと社会的検閲 1 ③刑法 11～20 番
第 4 回	①民法演習 ②映画を用いた法的議論 ③法学検定試験問題練習	①危険負担、事情変更の法理 ②ソーシャルメディアと社会的検閲 2 ③刑法 21～30 番

第 5 回	①民法演習 ②映画を用いた法的議論 ③法学検定試験問題練習	①契約の解除の要件、効果 ②文化の尊重と正義 ③刑法 31～40 番
第 6 回	①民法演習 ②調べ学習 ③法学検定試験問題練習	①定型約款、他人物売買 ②ゼミ生選定課題 ③刑法 41～50 番
第 7 回	①民法演習 ②調べ学習 ③法学検定試験問題練習	①契約不適合責任 ②ゼミ生選定課題 ③刑法 51～60 番
第 8 回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①消費貸借 ②ゼミ生選定課題 ③刑法 61～70 番
第 9 回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①賃貸借 ②ゼミ生選定課題 ③刑法 71～80 番
第 10 回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①請負 ②ゼミ生選定課題 ③刑法 81～90 番
第 11 回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①委任 ②ゼミ生選定課題 ③刑法 91 番～最後
第 12 回	①民法演習 ②読解分析 ③法学検定試験問題練習	①ディベート練習 ②介護事故判例の評釈 ③法学入門問題番号 1～20 番
第 13 回	①民法演習 ②プレゼンテーション ③法学検定試験問題練習	①ディベート練習 ②グループワーク、又は、個人報告の中間発表（1） ③法学入門 21～40 番
第 14 回	①民法演習 ②プレゼンテーション ③法学検定試験問題練習	①ディベート練習 ②グループワーク、又は、個人報告の中間発表（2） ③法学入門 41 番～最後
第 15 回	卒業論文指導	4 年生による卒業論文中間発表
第 16 回	①民法演習 ②パネル作成 ③法学検定試験問題練習	①事務管理 ②議論 ③憲法 11～20 番
第 17 回	①民法演習 ②パネル作成 ③法学検定試験問題練習	①不当利得 ②議論 ③憲法 21～30 番
第 18 回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①過失 ②ゼミ生選定課題 ③憲法 31～40 番
第 19 回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①因果関係 ②ゼミ生選定課題 ③憲法 41～50 番
第 20 回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①医療水準、医師の説明義務違反 ②ゼミ生選定課題 ③憲法 51～60 番
第 21 回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①名誉毀損、プライバシー侵害 ②ゼミ生選定課題 ③憲法 61～70 番
第 22 回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①逸失利益 ②ゼミ生選定課題 ③憲法 71～80 番

第 23 回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①監督義務者責任 ②ゼミ生選定課題 ③憲法 8 1 ～ 9 0 番
第 24 回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①遺族の損害賠償請求権 ②ゼミ生選定課題 ③憲法 9 1 番～最後
第 25 回	①民法演習 ②プレゼンテーション ③法学検定試験問題練習	①過失相殺 ②ゼミ生選定課題 ③民法総復習
第 26 回	①民法演習 ②プレゼンテーション ③法学検定試験問題練習	①共同不法行為 ②ゼミ生選定課題 ③刑法総復習
第 27 回	映画を用いた法的議論	社会における「障害」について
第 28 回	①ディベート ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①ゼミ生選定課題 ②ゼミ生選定課題 ③法学入門総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業①については、毎回必ず、各自、資料（授業支援システムを使ってアップロードする）を事前に予習してから参加すること。自分がわからないところを認識（自覚）してから授業に臨むこと。
・授業②については、各自、毎日の生活の中で、深く考察すべきと考える法的問題、社会的問題の発見に努めること。発見された問題の分析のため、必要な情報を収集すること（裁判例データベースの利用：法情報学）。丹念に準備を整えた上で、報告を行うこと。
・授業③については、各自、予習してからゼミに臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『民法演習サブノート』（弘文堂）
法学検定試験委員会編『2021 年法学検定試験問題集スタンダード＜中級＞コース』（商事法務）
六法全書（どちらの出版社でも可）

【参考書】

池田真朗『スタートライン民法総論【第 2 版】』（日本評論社）
池田真朗『スタートライン債権総論【第 6 版】』（日本評論社）
池田真朗編『民法 Visual Materials』（有斐閣）
大村敦志『基本民法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』（有斐閣）
大村敦志『もうひとつの基本民法Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣）
山田卓生『私事と自己決定』（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】

報告内容の充実度（まとめ方、報告態度、文献検索、判例検索）、及び、議論への参加度・意欲・貢献度（質問点、議論整理点、議論展開点）、並びに、提出課題の内容によって行う。
毎回の出席、及び、課題提出の期間厳守は、単位取得のための必要最小限の要件である。

【学生の意見等からの気づき】

前年同様、学生の積極的な参加を促し、責任感を育む。

【その他の重要事項】

1 年次配当科目「法学 A・B」を、履修済み、又は、履修中であること。
2 年次配当科目「民法一部」を、履修済み、若しくは、履修中、又は、履修予定であること。
3 年次配当科目「民法二部」を、履修済み、若しくは、履修中、又は、履修予定であること。

【Outline and objectives】

Students are required to make active participation in the legal reasoning and discussion. By the end of this course students will be able to acquire the balanced sense of fairness and justice.

ECN218CA
演習
鈴木 豊
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ゲーム理論とその応用。
2. 企業と組織の経済学。契約理論。
3. 応用ミクロ経済学。

について、2 年次、3 年次を通して、系統的に学習する。それを、学生研究報告大会での研究発表や、卒論執筆などに反映させる。

【到達目標】

ゲーム理論、契約理論、組織の経済学の「基礎的な原理」を学び、その本質的なアイデアや視点を理解し、それを使って現実の諸問題を自分なりに考察・分析し、説明出来るようになることが主たる目標である。4 年次には、卒論を書くことが強く望まれる。（この場合のテーマや分析方法の選択などは、各人の自由である。ゲーム理論的手法を使った卒論に限らなくても良い。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

昨年は、全員が授業教材に関するレジュメないし PPT を作成し、学習支援システム上に提出する。その中から代表者一人か二人に Zoom で画面共有の上、プレゼンしてもらい、質疑応答や、教員によるポイント解説、画面共有による補足解説を行う形式であった。報告のための PPT 作成（全員）⇒Zoom によるリアルタイムゼミが基本の流れであったが、秋学期は、学生プレゼンテーション大会や、ポスターの作成のため、対面での教室授業も数回行った。今年は、基本、対面授業を予定しているが、新型コロナの感染状況によっては、昨年の方式に切り替えて、適切に対応していく予定である。なお、フィードバックの際は、電子メールを頻繁に用いるので、各自、環境を整えておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	打ち合わせ I1 章 I:『ひたすら読むエコノミクス』	打ち合わせ+導入
第 2 回	I2,3 章 + a	一人の意思決定+ゲーム理論入門
第 3 回	I4 章 + a	市場の成功と失敗
第 4 回	I5 章 + a	不確実性と情報+補足
第 5 回	I6 章 + a	モラルハザードとインセンティブ設計+補足
第 6 回	I7 章 + a	逆淘汰とインセンティブ設計+補足
第 7 回	I8 章 + a	マーケットデザイン+補足
第 8 回	I9 章 + a	組織のデザイン+補足
第 9 回	H3,4 章 (I4 章) H:『現代政策分析』	第 1～8 回で把握した「全体像」をもとに理解の掘り下げ：カルドア・ヒックス基準、市場の成功と失敗
第 10 回	H4 章 (I4 章)	市場の成功と失敗（続き） （理論モデルによる安全競争市場の全体像の把握）

第 11 回	オークション入門 (I8 章前版補充)	オークションの理論と実際
第 12 回	N6 章 + a (I8 章後半補充) N:『ゲーム理論で解く』	「恋愛・就職・結婚」をゲーム理論で解く、マッチング・アルゴリズム
第 13 回	評判 (名声) の担い手としての企業 (I9 章補充)	「コミットメント問題」と評判、実際の企業の例
第 14 回	行動ゲーム理論入門	最後通牒型交渉ゲーム：理論と実際ほか。
第 15 回	K4 章 (行動ゲーム理論続き) K:『行動ゲーム理論』	利他性、不平等回避、互惠性の理論、罪回避の理論。
第 16 回	打ち合わせ M1 章 M:『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』	打ち合わせとイントロダクション
第 17 回	M2 章	戦略と均衡
第 18 回	M3 章	展開形表現
第 19 回	M4 章	交渉ゲーム
第 20 回	M5 章	情報とゲーム
第 21 回	M6 章	オークション
第 22 回	M7 章	公共財
第 23 回	M8 章	市場取引
第 24 回	M11 章	金融とリスク管理
第 25 回	M13 章	契約と誘因
第 26 回	M15 章	進化ゲーム、知識の階層
第 27 回	E1 章 E:『実験経済学への招待』	実験経済学入門
第 28 回	E2 章	報恩と報復、行動ゲーム理論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

担当者は十分に時間をかけてレジュメ作成の準備をし、責任を持って報告できるようにする。それ以外の人、ゼミ内で積極的に発言できるように予習・復習を行う。学生研究報告大会での論文作成に向けて、関連する文献を各自で読み込む。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

通年

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房

春学期

I:伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣

H:林敏彦『現代政策分析』放送大学テキスト

N:中山・武藤・船木 (編)『ゲーム理論で解く』有斐閣

K:川越敏司『行動ゲーム理論』NTT 出版

秋学期

M:梶井・松井『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社

E:西條辰義 (編著)『実験経済学への招待』NTT 出版

【参考書】

組織の経済学：

1. ミルグロム + ロバーツ 『組織の経済学』(奥野・伊藤ほか訳) NTT 出版

2. マックミラン 『経営戦略のゲーム理論』(伊藤・林田訳) 有斐閣
ゲーム理論：

3. 武藤滋夫『ゲーム理論入門』日経文庫

4. 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣

学際的テキスト：

5. 鈴木豊 (編)『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010 年

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の発表の出来 (70%)、普段のゼミへの積極的な参加の程度 (発言内容、回数)(20%)、その他円滑なゼミ運営への貢献など (10%) を総合的に判断する。学生研究報告大会での論文発表は、大きな加点対象となる。★今年度は、対面授業を基本に行うことが学部の方針であるが、新型コロナウイルスの感染状況によっては、昨年同様、学習支援システムや Zoom を通じて、ゼミを進めていく。各自、学習支援システムの「お知らせ」や「教材、課題」に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミについては、現在のやり方を維持・継続して行くことが基本となる。そのうえで、今後は、学生研究報告大会での継続的な論文発表、プレゼン技術の練磨、討論機会の増加、個々の学生の進路への対応など、さらに改善可能な点については、努力して行きたい。

【Outline and objectives】

This seminar focuses on the topics in:

1.Game Theory and its Applications

2.Contract Theory and Theory of the Firm

3.Applied Microeconomics

Students will learn to use Game Theory and Microeconomics to gain a better understanding of the real world phenomena. They will also present joint research paper(s) at the Student Research Meeting.

ECN218CA
演習
砂田 充
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「産業組織論」および「企業経済学」の学習とミクロ経済学と統計学に基づく実証的研究

【到達目標】

本演習の目標は大きく分けて 3 つあります。まず、受講生によるテキスト（産業組織論、企業経済学、統計学および計量経済学等）の輪読をとおして、応用ミクロ経済学の基本的な実証分析の方法を学ぶことです。次に、学習した分析ツールを応用し、各自の関心のある具体的な市場・産業、経済制度、政府規制、あるいはその他の社会・経済問題（広く（ミクロ）経済学に関するものであれば可）に関するデータに基づく実証的研究を行うことです。最後に、分析結果を論文にまとめるとともに効果的なプレゼンテーションを行うための準備、書き方、話し方及び態度を習得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習の前半は、受講生によるテキストの輪読を行い、個別・グループ研究のテーマ決定および研究の実施に必要な知識を身につけます。演習の後半は、個別・グループ研究を実施するための時間です。具体的には、研究の進め方について担当教員と打ち合わせをしたり、実際に研究作業を進めます。また、研究成果を発表する場として、学内・学外のゼミとのインゼミを実施します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」等を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	自己紹介 春学期の進め方確認 輪読テキスト決定
2	データ分析の基礎①	記述統計（講義・演習）
3	データ分析の基礎②	仮説検定（講義・演習）
4	データ分析の基礎③	回帰分析①（講義・演習）
5	データ分析の基礎④	回帰分析②（講義・演習）
6	輪読と個別・グループ研究の実施①	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
7	輪読と個別・グループ研究の実施②	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
8	輪読と個別・グループ研究の実施③	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
9	輪読と個別・グループ研究の実施④	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
10	輪読と個別・グループ研究の実施⑤	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
11	輪読と個別・グループ研究の実施⑥	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析

12	輪読と個別・グループ研究の実施⑦	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
13	輪読と個別・グループ研究の実施⑧	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
14	春学期まとめ	半年間の総復習
15	輪読と個別・グループ研究の実施⑨	秋学期の進め方確認 輪読テキスト決定
16	輪読と個別・グループ研究の実施⑩	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
17	輪読と個別・グループ研究の実施⑪	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
18	輪読と個別・グループ研究の実施⑫	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
19	輪読と個別・グループ研究の実施⑬	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
20	輪読と個別・グループ研究の実施⑭	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
21	輪読と個別・グループ研究の実施⑮	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
22	輪読と個別・グループ研究の実施⑯	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
23	輪読と個別・グループ研究の実施⑰	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
24	輪読と個別・グループ研究の実施⑱	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
25	輪読と個別・グループ研究の実施⑲	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
26	輪読と個別・グループ研究の実施⑳	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
27	輪読と個別・グループ研究の実施㉑	テキストの輪読 研究成果最終報告
28	秋学期まとめ	1 年間の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（輪読）学生は各講義前に教科書の該当箇所の精読、演習問題がある場合は、問題の解答を準備する必要がある（2 時間程度）。（研究）学生はグループ研究・個人研究の完成に向けて、分析手法の学習と練習・参考文献の収集と精読・分析用データの整備・分析の実施・分析結果の取りまとめ・プレゼンテーションの準備と練習を計画的に行う必要がある（2 時間程度）。

【テキスト（教科書）】

第 1 回目の演習で決定します。

【参考書】

伊藤公一朗『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』（光文社、2017 年）。
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社、2010 年）。
加藤久和『やさしい計量経済学 プログラミングなしで身につける実証分析』（オーム社、2019 年）。
田中隆一『計量経済学の第一歩—実証分析のススメ』（有斐閣、2015 年）。
中室牧子・津川友介『「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法』（ダイヤモンド社、2017 年）。
丸山雅祥『経営の経済学 [第 3 版]』（有斐閣、2017 年）。
他

【成績評価の方法と基準】

平常点、輪読や研究報告の準備と内容およびインゼミ等のイベントへの参加（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例研究を通じて、仮説の設定、データの収集、分析手法の選定、仮説の検証、結果の解釈という一連の流れを体験しながら、経済学の実証的研究の方法論を学べるように努めたい。さらに、PCスキルを向上できるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回ノート PC を持参することが必要です。

【その他の重要事項】

与えられた課題を指示に従って適切に提出しない場合、単位を認めません。受講者の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

This seminar focuses on applied microeconomics and microeconometrics. The three goals of this seminar are as follows. First, students understand empirical tools of applied microeconomics through lectures, discussions, and exercises, with textbooks. Then, using the tool kits, students conduct empirical studies based on their own research interests. Finally, students complete research papers based on the empirical results and acquire effective presentation skills. Students should bring their laptops to every session.

ECN218CA
演習
竹口 圭輔
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、企業の様々な行動に焦点をあて、財務諸表分析や企業価値評価、戦略分析など種々のアプローチを用いて、企業行動あるいは企業と資本市場との関係を分析・考察していくことである。その際、財務・統計データだけでなく、新聞・雑誌等の資料や学術論文・研究書、さらにはインタビューなど多様な方法による調査研究を通じて、データ収集・分析・考察の手法を総合的に学んでいく。

【到達目標】

ゼミ活動の大半はグループワークを中心とするため、作業の分担、意見の摺り合わせ、報告、ディスカッション等を通じて個々のコミュニケーション・スキルやリーダーシップ、さらにはプレゼンテーション・スキルの向上も目指す。ただし、チーム作業だけでなく論文の執筆等を通じて、物事を深く考える力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的にグループワークで活動を行う。具体的な分析テーマや方法については、種々の事情を考慮して個別に相談して決めていく。課題や成果物についてのフィードバックは基本的に授業中に行うが、授業外の時間帯においても適宜、質問や相談等に対応する。
※教室授業を行えない間は、Zoom を用いたリアルタイムのオンライン授業を行う。具体的な方法については初回授業までに学習支援システム等を通じてアナウンスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	年間スケジュールの確認と方針決定
2	春学期プロジェクト (1)	テーマ設定
3	春学期プロジェクト (2)	プレゼン・討議
4	春学期プロジェクト (3)	プレゼン・討議
5	春学期プロジェクト (4)	プレゼン・討議
6	春学期プロジェクト (5)	プレゼン・討議
7	春学期プロジェクト (6)	プレゼン・討議
8	春学期プロジェクト (7)	プレゼン・討議
9	春学期プロジェクト (8)	プレゼン・討議
10	春学期プロジェクト (9)	プレゼン・討議
11	夏プロジェクト (1)	テーマ設定
12	夏プロジェクト (2)	プレゼン・討議
13	夏プロジェクト (3)	プレゼン・討議
14	夏プロジェクト (4)	夏合宿に向けての準備
15	秋学期プロジェクト (1)	テーマ設定

16	秋学期プロジェクト (2)	プレゼン・討議
17	秋学期プロジェクト (3)	プレゼン・討議
18	秋学期プロジェクト (4)	プレゼン・討議
19	秋学期プロジェクト (5)	プレゼン・討議
20	秋学期プロジェクト (6)	プレゼン・討議
21	秋学期プロジェクト (7)	プレゼン・討議
22	秋学期プロジェクト (8)	プレゼン・討議
23	秋学期プロジェクト (9)	プレゼン・討議
24	秋学期プロジェクト (10)	プレゼン・討議
25	秋学期プロジェクト (11)	プレゼン・討議
26	秋学期プロジェクト (12)	プレゼン・討議
27	卒論報告会 (1)	プレゼン・討議
28	卒論報告会 (2)	プレゼン・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ授業時間中における研究報告や討議に向けての調査・分析・すりあわせ・資料作成など、準備学習・復習時間は各 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤邦雄『新・現代会計入門＜第 3 版＞』日本経済新聞社、2018 年

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

・各プロジェクトの成果物（論文・プレゼン等） 50 %
・報告・討論、ゼミ運営、各種ゼミ活動へのコミットの程度 50 %
を基準に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to understand firm's behavior and to consider the relationship between firms and capital markets. All students are required to learn how to use financial statement analysis as an integral part of the strategic analysis of firms.

This seminar has a very practical emphasis, with a wide variety of cases, in and out class exercises and a group project, all involving comprehensive valuation analyses of publicly traded firms.

ECN218CA
演習
武智 一貴
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、グループごとにプレゼンテーションとディスカッションを行う。プレゼンテーションとディスカッションの際に重要なのは、テーマを十分に理解し自分の言葉でわかりやすくまとめることである。この技術は、ゼミでの発表に留まらず、レポートや卒業論文の作成、就職活動、就職後の仕事の場面で必要となる。また人前で話す技術は、ある程度経験を積まなければ高められない。この授業では、プレゼンテーションとディスカッションを数多く実践することにより、他者に対して自分の考えを効果的に伝える技術を習得する。

【到達目標】

・テーマを与えられたときに、そのテーマの背景や問題点を要約でき、その内容を他者に伝えられる。
・グループで課題に取り組むことができ、その結果を発表できる。
・求められたとき、いつでも自分の考えを述べるができる。
・4 年生は学術的な基盤を持った卒業論文を書くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

・グループごとにパワーポイントを使用したプレゼンテーションを行う。
・プレゼンテーションの内容に関連したディスカッションを行う。
・課題の提出・フィードバックなどは学習支援システムにより行う。
・卒業論文については、テーマの選択・先行研究の調査・論理の構築について適宜議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する。
2	自己紹介	自己紹介のプレゼンを行う。
3	プレゼンテーションとディスカッション 1	WTO の歴史について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
4	プレゼンテーションとディスカッション 2	WTO の制度について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
5	プレゼンテーションとディスカッション 3	WTO の条文の構成について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
6	プレゼンテーションとディスカッション 4	WTO の基本政策について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
7	プレゼンテーションとディスカッション 5	WTO の原則と例外について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
8	プレゼンテーションとディスカッション 6	WTO の附属書について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
9	プレゼンテーションとディスカッション 7	WTO 紛争処理について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。

10	プレゼンテーションとディスカッション 8	内国民待遇違反について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
11	プレゼンテーションとディスカッション 9	内国民待遇違反の日本の例について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
12	プレゼンテーションとディスカッション 10	セーフガードについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
13	プレゼンテーションとディスカッション 11	日本のセーフガードについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
14	プレゼンテーションとディスカッション 12	アンチダンピングについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
15	プレゼンテーションとディスカッション 13	日本のアンチダンピングについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
16	プレゼンテーションとディスカッション 14	補助金相殺関税について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
17	プレゼンテーションとディスカッション 15	日本の補助金相殺関税について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
18	プレゼンテーションとディスカッション 16	教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
19	プレゼンテーションとディスカッション 17	SPS 協定について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
20	プレゼンテーションとディスカッション 18	日本が関係する SPS 協定について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
21	プレゼンテーションとディスカッション 19	一般例外について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
22	プレゼンテーションとディスカッション 20	貿易と環境に関する WTO 紛争について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
23	プレゼンテーションとディスカッション 21	安全保障の例外について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
24	プレゼンテーションとディスカッション 22	知的財産権保護について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
25	プレゼンテーションとディスカッション 23	TRIPS について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
26	プレゼンテーションとディスカッション 24	WTO 紛争処理システムの限界について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
27	プレゼンテーションとディスカッション 25	サービス貿易について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
28	プレゼンテーションとディスカッション 26	GATS について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の準備・復習時間は事前の資料チェック・スライドチェック、報告のまとめなど目安として4時間です。

【テキスト（教科書）】

不公正貿易報告書 2020 年版

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション内容・形式及びディスカッション内容 100 %

【学生の意見等からの気づき】

報告内容のみならず報告の仕方についても学習の対象とします。

【Outline and objectives】

In this course, the participants need to make a presentation and discussion on the topic.

ECN218CA
演習
田村 晶子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経済学の理論をテキストでしっかり理解し、海外の経済データソースも使った実証分析を行えるようにします。自分たちの興味のあるテーマをグループで深く勉強し、プレゼンテーションする能力を養います。4 年生は、勉強の成果を卒業論文にまとめます。

【到達目標】

国際経済学の理論をしっかりと理解し、経済データを使って確認することができる。自分の興味がある内容につき、グループで協調しつつ、他の学生に説明を行うとともに意見を発表できる。他の学生の報告を聞き、コメントし、討論することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

国際経済学のテキストの輪読、英文資料の輪読を行い、内容について練習問題を解き、次の授業で解説します。年 4 回のグループプレゼンを行い、ゼミ生全員でプレゼンを評価し、次回授業で今後の改善点を検討します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進め方の確認
第 2 回	文献やデータの使い方	データベースの使い方を学ぶ
第 1 回	プレゼンターマ決定	
第 3 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
第 1 回	プレゼンアウトライン報告	／プレゼンアウトライン報告
第 4 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	英文文献の輪読・討論	を行う
第 5 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	英文文献の輪読・討論	を行う
第 6 回	第 1 回プレゼン	第 1 回プレゼンを行い各自コメント
第 7 回	第 1 回プレゼンの評価	プレゼンの反省と次のテーマ決定
第 2 回	プレゼンターマ決定	
第 8 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
第 2 回	プレゼンアウトライン報告	／プレゼンアウトライン報告を行う
第 9 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	卒業論文テーマ報告	卒論テーマ報告を行う
第 10 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	英文文献の輪読・討論	を行う
第 11 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	英文文献の輪読・討論	を行う
第 12 回	第 2 回プレゼン	第 2 回プレゼンを各自コメント
第 13 回	第 2 回プレゼンの評価	文献の輪読・練習問題を解き討論
	英文文献の輪読・討論	を行う
第 14 回	夏合宿準備	夏合宿での勉強内容の決定
第 15 回	秋学期の予定の確認	予定確認とプレゼンターマ決定
第 3 回	プレゼンターマ決定	

第16回	卒業論文のテーマ報告 第3回プレゼンアウトライン報告	卒論テーマとプレゼンアウトライン報告を行う
第17回	国際経済テキスト輪読 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論を行う
第18回	国際経済テキスト輪読 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論を行う
第19回	国際経済テキスト輪読 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論を行う
第20回	第3回プレゼン	第3回プレゼンを各自コメント
第21回	第3回プレゼンの評価、第4回プレゼン テーマ決定	新ゼミ生選抜面接を合わせて行う
第22回	国際経済テキスト輪読 第4回プレゼンアウトライン報告	文献の輪読・練習問題を解き討論を行う
第23回	国際経済テキスト輪読 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論を行う
第24回	国際経済テキスト輪読 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論を行う
第25回	第4回グループプレゼン	第4回プレゼンを各自コメント
第26回	第3回プレゼンの評価 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論を行う
第27回	卒業論文報告	4年生の卒論報告を各自コメント
第28回	ゼミのまとめ	1年間のゼミを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国際経済学テキスト輪読では、毎回、必ず全員が事前にテキストを予習し練習問題を提出してから、ゼミに出席する。グループプレゼンは、各グループで授業外でサブゼミを行って準備する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

4 時限用の国際経済学のテキスト、5 時限用の英文の世界経済報告などのテキストを、4 月のゼミの始まる前までに決定します。

【参考書】

4 回行うグループのプレゼンなどで、必読参考文献を指定します。

【成績評価の方法と基準】

2、3 年生は、毎回の授業と合宿への積極的な参加（20 %）、テキストなどの輪読報告（30 %）、グループプレゼンでの報告と他グループへのコメント（30 %）、輪読の予習復習の練習問題の成績（20 %）、により評価します。4 年生は、卒業論文の報告（40 %）と卒業論文内容（60 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

英文輪読では報告者と教員との一方通行の授業にならないように、ゼミ生全員の参加を促す工夫します。

【Outline and objectives】

Students learn the international economics theory through the textbook, and preform empirical research using international database. Students study in group following their own interests and make a presentation in the class. Senior students complete their graduation thesis.

ECN218CA
演習
田中 優希
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマは企業行動分析です。新聞やテレビで目にする企業のことを、皆さんはどれだけ知っているでしょうか。就職活動をする時に、どの会社が「良い会社」なのかをどうやって調べますか。企業には戦略があります。ゼミではそうした戦略と企業のパフォーマンスとのつながりを、皆さんの力で明らかにしてください。分析手段のひとつとして財務情報を用いますが、戦略分析、資本市場分析、企業評価手法、マクロ経済分析、企業の社会的責任など、企業行動の理解のためには財務会計以外の領域も扱います。

【到達目標】

新たな知識の獲得だけではなく、その知識を応用する力を実践しながら身につけていきましょう。共同作業やプレゼンテーションを通じて、社会で活躍するスキルの向上と、生涯を通じて信頼できる仲間を獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

グループワークを中心に行います。

メンバーの知識水準に応じて、ゼミの前半では財務会計や基本的な戦略フレームワークの学習を行い、徐々に実際の企業の分析に移ります。自身の関心を積極的に知らせてください。ゼミ中の質問や提出された課題には、直接またはメール等でフィードバックを行います。

4 年生は卒業論文の執筆に向けて定期的に教員と面談することとし、提出後の論文に対して評価を行います。

今年度の開講形式について

コロナの感染状況にもよりますが、全てオンラインで受講できる状態にしつつ、月に1回程度は対面講義も並行できればと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	自己紹介、ゼミ生の関心確認
2	分析手法の基礎（1）	財務分析 メンバーの知識レベルに応じて複数回実施する可能性があります。
3	財務分析の実践	プレゼン発表
4	分析手法の基礎（2）	戦略分析、マクロ経済分析 メンバーの知識レベルに応じて複数回実施する可能性があります。
5	戦略分析の実践	プレゼン発表
6	テーマ設定	春学期のテーマ設定
7	グループワーク	プレゼン発表 1
8	グループワーク	プレゼン発表 2
9	グループワーク	プレゼン発表 3
10	グループワーク	プレゼン発表 4
11	グループワーク	プレゼン発表 5
12	グループワーク	プレゼン発表 6
13	グループワーク	プレゼン発表 7
14	グループワーク	プレゼン発表 8
15	テーマ設定	秋学期のテーマ案
16	グループワーク	プレゼン発表 9

17	グループワーク	プレゼン発表 10
18	グループワーク	プレゼン発表 11
19	グループワーク	プレゼン発表 12
20	グループワーク	プレゼン発表 13
21	グループワーク	プレゼン発表 14
22	グループワーク	プレゼン発表 15
23	グループワーク	プレゼン発表 16
24	グループワーク	プレゼン発表 17
25	グループワーク	プレゼン発表 18
26	グループワーク	プレゼン発表 19
27	グループワーク	プレゼン発表 20
28	グループワーク	プレゼン発表 21

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持つこと。例えば日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種新聞・雑誌の購読を推奨する。

本講義の予習時間は各回 2 時間、復習時間は 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ゼミの中で適宜指示する。

【参考書】

ゼミの中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

各回の発表（50%）やインゼミなど各種ゼミ活動への参加（50%）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

メンバーの関心に沿ったテーマ設定、適切な参考文献や講演会等の案内を行います。

【Outline and objectives】

The theme of this seminar is corporate behavior analysis. How well do you know about companies that you see on newspapers and television? When doing job hunting, how do you check which company is a "good company"?

Companies have strategies. This seminar clarifies the linkage between such strategy, corporate portfolio, financial performance. Financial information will be used as one of analysis tools, but we also deal with strategy analysis, capital market analysis, corporate valuation method, macroeconomic analysis and corporate social responsibility.

The student will get a deep understanding to accounting theory, how to use accounting data in business and investment decision-making.

ECN218CA
演習
山崎 友紀
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一年間をかけて一つの研究テーマに取り組む。「こどもの理科教育」、「水熱反応に関する実験研究」、「地域の環境問題」などに絡んだ研究を実施する。テーマの詳細は教員と相談して決定する。

【到達目標】

「自分で問題を発見し、その解決法を見だし、実際にその効果を確認する」ためのスキルや方法について学ぶことを目標とする。プレゼンテーション能力、マネージメント能力、アカデミックライティングのスキルを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

出席必須で、指導教員との研究打ち合わせを密に持ちながら、自分の力で研究を遂行する。研究のスケジュールは、研究テーマによって異なるので、研究の進展にあわせて適宜動的に見直される。研究の進捗については毎回の授業でチェックを行う。質問には個別に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「ガイダンス」	ゼミの方針、予定の説明。メールの書き方やエクセルの基本的な使い方を紹介する。
2	「安全教育」と「テーマ探索」	ゼミにおける安全教育
3	「図書館ガイダンス」	図書館でのガイダンス
4	「文献調査方法、論文やレポートの書き方」	図書館ガイダンスの応用学習
5	「研究テーマ、研究方針の決定」	テーマについて熟考
6	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 1
7	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 2
8	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 3
9	「報告とディスカッション」	これまでの研究中間報告 1
10	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 4
11	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 5
12	「調査」または「実験」	各自のテーマに沿った活動 6
13	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 7
14	「報告」・「議論」・「まとめ」	これまでの研究中間報告 2
15	「課題報告」	夏休みの研究の成果報告
16	「調査」または「実験」	秋学期の計画と研究はじめ
17	「わくわくほうせい！」	「わくわくほうせい！」の取組 1
18	「わくわくほうせい！」	「わくわくほうせい！」の取組 2
19	「わくわくほうせい！」	「わくわくほうせい！」の取組 3
20	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 8
21	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 9
22	「調査」または「実験」	各自のテーマに沿った活動 10
23	「調査」または「実験」	各自のテーマに沿った活動 11
24	「調査」または「実験」	各自のテーマに沿った活動 12
25	環境ゼミ合同発表会	ゼミ代表者発表、全員参加

26	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 13
27	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った活動 14
28	年間の総まとめ、発表	各自プレゼンおよびレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のゼミ活動で指導する。テーマに沿った予習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

平常点、研究への取り組み、期末の研究論文を総合的に評価し、60 % 以上を合格とする。（学部の評価基準のとおり）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションの機会をより多く設ける。

【Outline and objectives】

Students can participate regularly in this seminar related "Global Environmental problems", "Scinence Education for children", "Water Wcience" including giving presentations and participating in discussions. A conversation is all about give and take. You will learn how you can proceed your research.

ECN218CA
演習
芝田 幸一郎
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語圏ラテンアメリカの文化・社会・歴史などを広く学び大まかな全体像を得る。その上で、各自が関心を持った特定の地域・時代・事柄等について、主体的に問題を見つけながら深く掘り下げる。これらの過程で、自らにインプットしたものを、効果的にアウトプットする技術を学ぶ。必要に応じてスペイン語スキルを向上させる。

【到達目標】

ラテンアメリカについての基礎的教養を身につける。自ら課題を掘り出し、各種資料（スペイン語等外国語文献を含む）を入手・分析した上で、論文形式でまとめ、わかりやすく口頭発表できるようになる。伝えたい事柄によって、文・写真・概念図・地図・グラフ・表などを、効果的に使い分けられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、基本的に学年暦・時間割通りに実施する。毎週 Hoppii を確認すること。春学期：2 年生は主にテキスト輪読による要約発表。3 年生は主に研究発表。若干の講義、論文要約発表、映像視聴等を含む。秋学期：2 年生はテキスト輪読による要約発表、論文の検索（若干の講義と実習あり）、各自の研究テーマ絞り込み、研究の構想・中間発表など。3 年生は主に研究発表。若干の講義、論文要約発表、映像視聴等を含む。全ての口頭発表は教員によって講評される。課題レポートの中には講評に基づいて修正と再提出が求められるものもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ運営等について。
第 2 回	プレゼンテーション	自己紹介。第 4 回以降の発表担当者と発表順などを決定。
第 3 回	ラテンアメリカ概説	教員による講義
第 4 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカ地域の特徴等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 5 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカの歴史等）。3 年：研究	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 6 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカの政治等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 7 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカの経済等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 8 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカの社会等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 9 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカの文化等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 10 回	2 年：読解と要約（メキシコ等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 11 回	2 年：読解と要約（中米地域等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 12 回	2 年：読解と要約（カリブ海地域等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 13 回	2 年：読解と要約（アンデス諸国等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 14 回	春学期のまとめ	発表、講評、夏季休暇中の課題説明等。
第 15 回	ガイダンス	秋学期の運営について、発表担当者と発表順などを決定。
第 16 回	2 年：読解と要約（ラブラタ地域等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 17 回	2 年：読解と要約（ブラジル等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。

第 18 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカと日本）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 19 回	2 年：読解と要約（その他）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 20 回	2 年：読解と要約（その他）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 21 回	研究テーマの検討、文献検索等。	講義と実習
第 22 回	2 年：研究テーマ、構成、文献リスト。3 年：研究。	発表、講評等。
第 23 回	2 年：研究テーマ、構成、文献リスト。3 年：研究。	発表、講評等。
第 24 回	4 年生による特別セミナー	発表、質疑応答等。
第 25 回	入ゼミ面接、その他	面接、発表、講評等。
第 26 回	2 年：研究テーマ、構成、文献リスト。3 年：研究。	発表、講評等。
第 27 回	2 年：研究テーマ、構成、文献リスト。3 年：研究。	発表、講評など。
第 28 回	秋学期のまとめ	発表、講評、春季休暇中の課題説明等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期： 2 年生は主にテキストの精読と要約作成。図書館およびインターネットでの文献検索。3 年生は春の課題レポートの要約作成、論文の精読と要約、研究テーマに応じた各種資料の収集と分析。2・3 年生ともにプレゼンの準備（パワーポイント資料作成含む）。

夏休みの課題： 2 年生は感想文またはレポート。3 年生はレポート。

秋学期： 2 年生は今後執筆するレポートの仮テーマ・章立て・文献リスト等を作成。3 年生は夏の課題レポートの要約作成とプレゼンの準備、最終課題レポートの作成。2・3 年生ともに論文の精読と要約、研究テーマに応じた各種資料の収集と分析。

春休みの課題： レポート（2 年生のみ）。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする（発表内容によっては更なる準備時間が必要）。

【テキスト（教科書）】

ゼミ内で相談のうえ決める。

【参考書】

『地図で見るラテンアメリカハンドブック』ダベヌス、O.、F. ルオー、原書房、2017 年（ISBN978-4-562-05428-2）、2800 円＋税

『ラテンアメリカ世界のことばと文化』畑恵子・山崎真次編著、成文堂、2009 年（ISBN978-4-7923-7084-8）、3000 円＋税

『ラテンアメリカ研究への招待（改訂新版）』国本伊代・中川文雄編著、新評論、2005 年（ISBN4-7948-0679-5）、3200 円＋税

『新版 ラテンアメリカを知る事典』大貫良夫他監修、平凡社、2013 年（ISBN9784582126464）、7000 円＋税

『ラテンアメリカ文化事典』ラテンアメリカ文化事典編集委員会編、丸善出版、2021 年（ISBN978-4-621-30585-0）

その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表と提出物： 80%

平常点： 20%

【学生の意見等からの気づき】

4 月に自己紹介プレゼンテーションを行うことで、ゼミ生間やゼミ生と教員間の相互理解を深め、かつプレゼン能力向上を促す。春学期に小テストを実施する（対面授業実施時）。レポート作成の機会を増やす。希望者に対しては更なるスペイン語学習の機会を用意する。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布は Hoppii 上で行う。

【その他の重要事項】

スペイン語スキルを上げたい学生は、「スペイン語セミナー A・B」等の科目も併せて履修すると良いだろう。

【Outline and objectives】

This seminar explores the culture, society and history of Latin America.

ECN218CA
演習
ブー トウン カイ
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、テキストを輪読して国際金融論の基礎的な知識と経済分析手法を身に付けた後、文献の調査を通じて現実における金融や国際金融の現状や問題を知り、研究テーマを設定し経済学の手法やデータを用いて分析し、解決策を検討する。

【到達目標】

金融論や国際金融論の基礎的な知識及び経済学の手法を修得し、それらを用いて現実の金融や国際金融の様々な問題を特定し、分析できることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

前期では経済学と金融論のテキストの輪読を中心にゼミを進める。後期では、国際金融論のテキストを輪読しながらグループに分けて国際金融論の文献を調査し、研究テーマの検討・決定をする。そして決定したテーマに沿ってデータや資料を収集し、分析を行い、答えを探る。毎回はゼミ生による報告と討論を中心に進める。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミメンバーの紹介、前期のスケジュールの確認、ゼミの運営方針などの説明
第 2 回	輪読（1）	ゼミ生による報告と討論
第 3 回	輪読（2）	ゼミ生による報告と討論
第 4 回	輪読（3）	ゼミ生による報告と討論
第 5 回	輪読（4）	ゼミ生による報告と討論
第 6 回	輪読（5）	ゼミ生による報告と討論
第 7 回	輪読（6）	ゼミ生による報告と討論
第 8 回	輪読（7）	ゼミ生による報告と討論
第 9 回	輪読（8）	ゼミ生による報告と討論
第 10 回	輪読（9）	ゼミ生による報告と討論
第 11 回	輪読（10）	ゼミ生による報告と討論
第 12 回	輪読（11）	ゼミ生による報告と討論
第 13 回	輪読（12）	ゼミ生による報告と討論
第 14 回	輪読（13）	ゼミ生による報告と討論
第 15 回	前期の総括	これまでの流れを振り返り、今後の予定を確認する。
第 16 回	イントロダクション	前期のゼミ内容を振り返り、後期のスケジュールの確認、ゼミの運営方針などの説明
第 17 回	研究テーマ設定（1）	国際金融に関する研究テーマ候補の検討
第 18 回	研究テーマ設定（2）	研究テーマの決定、研究計画の作成
第 19 回	調査分析（1）	各グループにより先行文献調査結果の報告と討論
第 20 回	調査分析（2）	各グループによる先行文献調査結果の報告と討論

第21回 調査分析 (3)	各グループによる先行文献調査結果の報告と討論
第22回 調査分析 (4)	各グループによる資料・データ収集結果の報告と討論
第23回 調査分析 (5)	各グループによる資料・データ収集結果の報告と討論
第24回 調査分析 (6)	各グループによる資料・データ収集結果の報告と討論
第25回 調査分析 (7)	各グループによる分析結果の報告と討論
第26回 調査分析 (8)	各グループによる分析結果の報告と討論
第27回 調査分析 (9)	各グループによる分析結果の報告と討論
第28回 調査分析 (10)	研究成果の取りまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回学んだことをきちんと復習し、理解できるように努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019 年。
- 『独習！ ビジネス統計』、松浦寿幸（著）、東京図書 2012 年。

【参考書】

- 『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次（著）、新世社 2014 年。
- 『新しい国際金融論－理論・歴史・現実』、勝悦子（著）、有斐閣 2011 年。
- “International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第 11 版 (2018/1/25) (英語) ペーパーバック。

【成績評価の方法と基準】

出席率、報告の出来、討論への参加に基づいて総合的に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生の意見を聞きながら楽しく有意義なゼミを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

報告資料の作成やデータ分析などのためにコンピュータを頻繁に使用するので、大学のコンピュータを利用するのもよいが、ゼミ生が自らパソコンをもつと便利になる。

【Outline and objectives】

In this course we will learn the basics of international finance and methods for economic analysis. The students will acquire necessary knowledge and skills through a process of reading and understanding textbooks, practicing by solving problems, handling data in Excel, and doing research.

ECN218CA
演習
長原 豊
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習の最終目的は 4 年次における卒業論文の作成です。そのためにゼミ生は、2 年生から 4 年生にかけて、それぞれの段階に相応した研究の蓄積を行います。

また卒論作成のための準備段階でゼミ生に共通するテーマの文献の輪読も行います。

(1)2 年生の段階での卒論テーマの設定

(2-1)2 年生から 3 年生にかけて設定したテーマに関わる研究史のサーベイと資料・文献の蒐集。

(2-2) ゼミ生はゼミ生全体が共有するテーマを設定し、教員を含めた輪読会を組織する。

(3)(2-1) および (2-2) で整理・蒐集された既存の研究と資料から自分のテーマに相応しい研究論文を整理し、それにもとづいて蒐集した資料を系統的に組み立て、他のゼミ生に向けたプレゼンテーションを行う。

(4) 他のゼミ生のプレゼンテーションに対する応答を纏めて、対抗プレゼンテーション（批判会）を行う。

(5) こうした作業を通じて自分の卒論のテーマをブラッシュアップし、具体的に組み立てる。

(6) 以上を踏まえて、卒論を完成させる。

【到達目標】

- 1 自立した学習能力
 - 2 プレゼン能力
 - 3 「報告」文書の作成能力
- 以上 3 点の能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

(1) 卒論に向けた準備の報告（輪番制で PowerPoint などを用いたプレゼンが必須です）

(2) (1) のための参考文献のリストの作成にもとづいた各ゼミ生独自の文献一覧表の作成と事前提出が義務となっています。

(3) 教員は、前回の報告を次の冒頭で、補足解説を含めて、ゼミ生全員の課題としてフィードバックする。

(4) (1) ～ (3) に併行して、全員のテーマを考慮に入れつつ、教員が提案したゼミ全体のテーマである。現代資本主義に関する論文や著書を輪読する。

(5) ゼミ専用の Email ネットワークによって随時「相談」「質問」に応ずる。

*毎回が各ゼミ生からの提起と各ゼミからの「応答」、そして教員による両者への対面的フィードバックとしてゼミは組織されています。それはゼミ専用の Email ネットワークを通じて「回覧」できる状態にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	打ち合わせ	今年度における輪読テキストの選定と報告スケジュールの設定
第 2 回	卒論制作のノウハウ	卒論制作の手引
第 3 回	過去の優秀な卒論の紹介	過去の優秀な卒論の紹介

第 4 回	ゼミ生が選択したテキストの輪読(1)	レジュメに基づくテキストの「読解」とそのプレゼン
第 5 回	ゼミ生が選択したテキストの輪読(2)	レジュメに基づくテキストの「読解」とそのプレゼン
第 6 回	ゼミ生が選択したテキストの輪読(3)	レジュメに基づくテキストの「読解」とそのプレゼン
第 7 回	ゼミ生が選択したテキストの輪読(4)	レジュメに基づくテキストの「読解」とそのプレゼン
第 8 回	ゼミ生が選択したテキストの輪読(5)	レジュメに基づくテキストの「読解」とそのプレゼン
第 9 回	卒論課題設定報告と教員によるコメント(1)	卒論制作のための課題設定をゼミ生がおこなう(学年に照応した)
第 10 回	卒論課題設定報告(2)	卒論制作のための課題設定をゼミ生がおこなう(学年に照応した)
第 11 回	卒論課題設定報告と教員によるコメント(3)	卒論制作のための課題設定をゼミ生がおこなう(学年に照応した)
第 12 回	卒論中間報告と教員による方向性の再確認(1)	ゼミ生全員によるコンパクトな卒論制作のための集中的な中間報告を行う
第 13 回	卒論中間報告教員による方向性の再確認(2)	ゼミ生全員によるコンパクトな卒論制作のための集中的な中間報告を行う
第 14 回	秋学期に向けての方針を確認するブレイン・ストームを行う。	ゼミ生全員による達成度自己チェックの報告(反省会)
第 15 回	ゼミ生が選択したテキストの輪読(1)	レジュメに基づくテキストの「読解」とそのプレゼン
第 16 回	ゼミ生が選択したテキストの輪読(2)	レジュメに基づくテキストの「読解」とそのプレゼン
第 17 回	ゼミ生が選択したテキストの輪読(3)	レジュメに基づくテキストの「読解」とそのプレゼン
第 18 回	ゼミ生が選択したテキストの輪読(4)	レジュメに基づくテキストの「読解」とそのプレゼン
第 19 回	秋学期卒論報告と論題についての教員による文字通りのフィードバック(1)	卒論制作のより具体的な報告
第 20 回	秋学期卒論報告と論題についての教員による文字通りのフィードバック(2)	卒論制作のより具体的な報告
第 21 回	秋学期卒論報告と論題についての教員による文字通りのフィードバック(3)	卒論制作のより具体的な報告
第 22 回	秋学期卒論報告と論題についての教員による文字通りのフィードバック(4)	卒論制作のより具体的な報告
第 23 回	秋学期卒論報告と論題についての教員による文字通りのフィードバック(5)	卒論制作のより具体的な報告
第 24 回	4 年生の卒論報告(1)	3 年生による 4 年生の報告会の組織化(教員は卒論の達成度を確認する)。批判の組織化
第 25 回	4 年生の卒論報告(2)	3 年生による 4 年生の報告会の組織化(教員は卒論の達成度を確認する)。批判の組織化
第 26 回	3 年生の達成度チェックと教員による方向性の再チェック(1)	3 年生による 4 年生の報告会の組織化(教員は卒論の達成度を確認する)。
第 27 回	3 年生の達成度チェックと教員による方向性の再チェック(2)	3 年生による 4 年生の報告会の組織化(教員は卒論の達成度を確認する)
第 28 回	3 年生の達成度チェックと教員による方向性の再チェック(3)	教員による 3 年生の卒論に向けた達成度チェックと学年進行にむけての方針確認

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 1 卒論制作に必要な資料・史料の蒐集

2 テキストの輪読は、当該書籍だけでなく、その理解に必要な関連文献の積極的な読解をも含めて報告レジュメの作成を行なう。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

各学期の第 1 回目に今年度におけるテキスト(著書および論文)を複数指示する。

【参考書】

それぞれの受講生の卒論のテーマに即して、そのつど個別に、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 3 年生
輪読報告(50%)
卒論の準備過程(50%)
 - (2) 4 年生
成果としての卒論の提出と評価(100%)
- ※ 当ゼミには 2 年生は所属していない。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 知識と情報の反復的な整理をおこなうこと
- (2) 日常的な関係性の確立

【学生が準備すべき機器他】

対面ゼミでも資料の共有など PC を活用するので、各人がノートパソコンを持参することが要請されている。

【その他の重要事項】

ありません。

【専門分野】

日本経済史・経済理論

【研究テーマ】

経済史・経済史方法論・経済理論

【主要業績】

- (1)『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989 年
- (2)『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008 年
- (3)『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015 年
- (4)『敗北と憶想』航思社、2019 年

【Outline and objectives】

- (1) All the seminarians are required to write a graduation thesis.
- (2-1) Therefore our seminars are organized only for (1) like below.
- (2-2) Seminarians are to organize a reading circle for (1), which includes the professor.
- (3) Not only to sort out the previous academic studies concerned but also to collect the necessary materials, and then make presentations.
- (4) To make suggestive proposals towards the presentations of the other seminarians.
- (5) To make a concrete plan for the graduations thesis through (1)-(4).
- (6) To complete the graduation thesis.

ECN218CA
演習
池上 宗信
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究として、受講者各自が興味のある開発ミクロ経済学のトピックについて学ぶ。
 キャパシティブルディングとして、開発ミクロ経済学、論文の書き方、プレゼンテーション、データ分析を学ぶ。
 データ分析では、経済学の各分野で頻出する、回帰分析、ランダム化比較試験、操作変数法などの実証分析の手法を学ぶ。
 各手法の概要を理解し、各手法を用いてデータを分析することで、論文のアイデア探しに活用する。

【到達目標】

本講義の目標は、各自が目標をたて、文献を読み、データを分析し、学んだことをスライド、ノート、論文にまとめ、口頭発表でできるようになること。
 データ分析における 1 つ目の目標は、各自の研究分野で、この講義で学んだ各実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになること。
 2 つ目の目標は、各実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の間、アイデアを探すことができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

研究として、各自が興味のある開発ミクロ経済学のトピックを選択し、中間発表をしつつ、論文を作成、発表、提出する。
 研究の過程において、論文計画書、論文中間報告書、論文草稿を提出し、担当教員、他のゼミ生からのフィードバックとして質問・コメントをもらう。また、他の学生の文書について質問・コメントを提出する。
 また、キャパシティブルディングとして開発ミクロ経済学、論文の書き方、プレゼンテーション、データ分析について、輪読、演習しながら学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	データの扱い方	R の使い方、データの読み込み、加工
2	統計の基礎知識	母集団と標本、無作為抽出
3	確率論の基礎	確率変数、期待値、条件付き期待値、中心極限定理
4	中間発表 1	論文テーマの中間発表 1。
5	回帰分析の基礎	最小二乗法
6	推測統計の基礎	仮説検定、信頼区間
7	まとめと解説、中間試験	第 1 回から第 6 回までの内容を復習。中間試験。
8	中間発表 2	論文計画書の提出。論文テーマの中間発表 2。
9	相関関係と因果関係	相関関係と因果関係
10	外生変数と内生変数	外生変数と内生変数
11	ランダム化比較試験	選択性バイアス
12	操作変数法	2 段階最小二乗法
13	中間発表 3	論文中間報告書の提出。論文テーマの中間発表 3。

14 まとめと解説、期末試験 第 9 回から第 13 回までの内容を復習。期末試験。

秋学期

回	テーマ	内容
15	固定効果	パネルデータ
16	差の差の分析	並行トレンドの仮定
17	不連続回帰デザイン	連続性条件
18	中間発表 4	論文テーマの中間発表 4。
19	マッチング	条件付独立性、オーバーラップ条件
20	貧困と不平等、零細自営業者や小農の経済学	不平等の貧困に与える影響。
21	まとめと解説、中間試験	第 15 回から第 20 回までの内容を復習。中間試験
22	中間発表 5	論文草稿の提出。論文テーマの中間発表 5。
23	貧困の罨、貯蓄	信用制約
24	金銭供与、マイクロクレジット	仕組みと貧困削減効果。
25	共同体、マイクロ保険	理論と実証研究の結果。
26	投資資産供与、術供与、卒業プログラム	金銭供与との比較。
27	まとめと解説、期末試験	第 22 回から第 26 回までの内容を復習。期末試験。
28	最終発表	論文の提出。論文テーマの最終発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キャパシティブルディングのための輪読・演習では、発表・演習担当者だけでなく、受講者全員が、予習として事前に内容を読み、質問、議論したいことを事前にまとめてから授業に参加する。
 授業時間内に各自の研究を発表し、他の学生、教員からコメントをもらう。
 授業時間外に各自の研究を進める。
 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

アビジット・V・バナジー、エステル・デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房
 今井耕介（2018）『社会科学のためのデータ分析入門 上・下』岩波書店
 星野匡郎、田中久稔（2016）『Rによる実証分析 回帰分析から因果分析へ』オーム社

【成績評価の方法と基準】

キャパシティブルディングのための発表、演習、討論 50%。各自の研究論文、発表 50%。

【学生の意見等からの気づき】

2018-2020 年度において、キャパシティブルディングの多くの時間をデータ分析に使いました。データ分析を学ぶための主な参考書は、2019 年度は今井（2018）、2020 年度は星野・田中（2016）でした。

【Outline and objectives】

Each of us will also study and write a research paper on a question in Development Microeconomics.
 We will study Development Microeconomics, how to write a research paper, make a presentation, analyze data as our capacity development.
 We will study econometrics methods such as regression, randomized controlled trial, and instrument variable method, which appear frequently in each field of Applied Microeconomics.
 We will aim to understand each method roughly and apply each method to data so that we will become able to look for paper ideas with keeping each empirical method in our mind.

ECN218CA
演習
中塚 芽依
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of the seminar is to improve the presentation, leadership, management, problem-solving, and critical thinking skills of students through group projects to become effective leaders, managers, and team members in society.

【到達目標】

Students will analyze project management and leadership skills, as well as apply those skills to their own communication and actions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students will discuss and practice different methods of leading and managing teams of their own, and report on discoveries about themselves. This will then be applied to real team projects within the course, with self and peer-reflection activities to follow. Feedback on course assignments will primarily be given through classroom discussions in-person and on Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Seminar introductions / semester outline (subject to change)	- Self-Introductions/Ice Breakers - Seminar outline
2	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Introduction to class projects - Classroom discussion/debates on various topics
3	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: team forming and topic discussions - Classroom discussion/debates on various topics
4	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: team role settings - Classroom discussion/debates on various topics
5	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: brainstorming topics - Classroom discussion/debates on various topics
6	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: decide on topic and individual research - Classroom discussion/debates on various topics
7	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: share research - Classroom discussion/debates on various topics
8	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: outline of final presentation - Classroom discussion/debates on various topics
9	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: organize ideas for presentation/distribute speaker sections - Classroom discussion/debates on various topics
10	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: practice presentation - Classroom discussion/debates on various topics
11	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: practice presentation/feedback - Classroom discussion/debates on various topics
12	Final presentations	- Students give their final presentations
13	Final presentations	- Students give their final presentations - Student discussions on final presentations

14	Zemi meeting and discussions	- Students' self-reflection - Students discuss how to improve the zemi in a formal meeting
15	Seminar introductions / layout	- Students are introduced to the coming semester
16	Personal research projects / Debates	- Introduction to class projects - Classroom discussion/debates on various topics
17	Personal research projects / Debates	- Group projects: team forming and topic discussions - Classroom discussion/debates on various topics
18	Personal research projects / Debates	- Group projects: team role settings - Classroom discussion/debates on various topics
19	Personal research projects / Debates	- Group projects: brainstorming topics - Classroom discussion/debates on various topics
20	Personal research projects / Debates	- Group projects: decide on topic and individual research - Classroom discussion/debates on various topics
21	Personal research projects / Debates	- Group projects: share research - Classroom discussion/debates on various topics
22	Personal research projects / Debates	- Group projects: outline of final presentation - Classroom discussion/debates on various topics
23	PML camp preparation	- Group projects: organize ideas for presentation/distribute speaker sections - Classroom discussion/debates on various topics
24	PML camp preparation	- Group projects: practice presentation - Classroom discussion/debates on various topics
25	PML camp preparation	- Group projects: practice presentation/feedback - Classroom discussion/debates on various topics
26	Final presentations	- Students give their final presentations
27	Final presentations	- Students give their final presentations - Student discussions on final presentation
28	Final meeting and changes for next year	- Students' self-reflection - Students discuss how to improve the zemi in a formal meeting

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly online homework to complete project work. 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

No textbooks - all materials will be provided.

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Project work, possible field trips, and presentations - 70%
Classwork/Homework assignments and participation - 30%

【学生の意見等からの気づき】

Surveys given to the students will be used to make adjustments for the course in the future.

【学生が準備すべき機器他】

- Notebook and pens
- Laptop computer/tablet (if available)

If the course is conducted online, a laptop computer or tablet is highly recommended. Although the course is entirely accessible via smartphone, students may find difficulties accessing multiple platforms during online class if joining the class with a smartphone.

【その他の重要事項】

none

【Outline and objectives】

The purpose of the seminar is to improve the presentation, leadership, management, problem-solving, and critical thinking skills of students through group projects to become effective leaders, managers, and team members in society.

ECN218CA
演習
西澤 栄一郎
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フィールドワークを柱とする環境問題の調査とその解決策の提案

【到達目標】

- ①現地調査の方法を身につける。
- ②地域の人々に対して貢献する。
- ③活動内容を報告書にまとめ、現地で報告する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

このゼミは、8月にフィールドワーク（現地調査）を行うことを特徴としています。ある地域を選び、その地域のまちづくりと環境に関わることを調べ、提言をまとめます。調査を通して参加者がその地域について理解を深めるだけでなく、その地域の人々に対して貢献することを目指しています。経済学部のゼミなので、調査にあたっては、環境問題の経済的な側面や、環境と経済との関わりについて重視できればと考えています。

COVID-19の影響で実際に現地を訪問できない場合は、オンラインで対象地域の人から聞き取りをするなど、代替策を講じます。なお、課題等の提出とフィードバックは電子メールで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	対象地とテーマの検討	各自の提案について議論する
2	対象地とテーマの決定	提案の中から一つに絞る
3	関連文献の収集	テーマに関する文献を調べる
4	関連文献の講読①	テーマに関する文献を全員で読む
5	関連文献の講読②	内容について議論する
6	関連文献の講読③	対象地域に関する文献を読む
7	関連文献の講読④	対象地域に関する理解を深める
8	現地調査の課題設定	具体的な調査課題を決める
9	現地調査内容の検討	訪問先と調査内容を決める
10	現地日程の検討	具体的なスケジュールを決める
11	現地調査の仮説設定	文献などから仮説を立てる
12	事前調査のまとめ	理解したことを文章にまとめる
13	調査項目の確定	調査票を作成する
14	報告書の構成の検討	事前学習の知見も盛り込む
15	報告書案の検討①	原稿を持ち寄って議論する
16	報告書案の検討②	修正したものをさらに検討する
17	報告書の結論の検討	結論について議論する
18	発表会準備①	パワーポイントを作成する
19	発表会準備②	発表の練習をする
20	報告書の最終調整①	書式を統一する
21	報告書の最終調整②	原稿を完成させる
22	今年の現地調査の反省	反省点を来年の調査に活かす
23	卒業論文の中間報告	4年生の報告について議論する
24	環境問題の文献講読	幅広い知識を得る
25	来年の方針の検討	来年の調査に向けて準備する
26	調査方法の文献講読	アンケートの方法を学ぶ
27	論文の書き方講座	図書館でガイダンスを受ける
28	卒業論文の報告	4年生の最終報告を議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現地調査の準備や報告書の作成はさまざまな作業を伴います。これらの作業は適宜行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは適宜決めて読んでいきます。

【参考書】

現地調査の基本文献として、2冊挙げます。

- ①轟亮・杉野勇編 (2017)『入門・社会調査法〔第3版〕』法律文化社
- ②滋賀県立大学環境フィールドワーク研究会編 (2015)『フィールドワーク心得帖〔新版〕』サンライズ出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と課題（50％）で評価します。4年生は卒業論文を主に評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの回答がなかったため、該当なし

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to help students conduct fieldwork and make a proposal on the environmental and resource issues.

ECN218CA
演習
新田 誠吾
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、二つのテーマがあります。一つは、小説、劇、マンガ、アニメ、映画といった作品を分析することで、作品世界や新しい表現手法を考察します。もう一つは、社会で起きている事象を分析することで、私たちが生きる世界への理解を深めます。演習と並行して、各自が設定したテーマについて、論文にまとめ、発表を行います。

【到達目標】

1. 「物語る」手法について理解し、分析できる。
2. 現代日本の社会現象、課題について考察できる。
3. ファシリテーターとして、有益な議論を導くことができる。
4. 自分の考えを論理的にまとめることができる。
5. 自分の考えを表現でき、他人に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面またはオンラインで授業を行います。専門書の講読、資料検索、グループ研究、発表、ディベート、論文作成を行います。提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。必要な情報はメンバー全員で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自分のことをゼミのメンバーに伝える	演習の進め方とゼミ生の自己紹介（春休み課題）
第 2 回	私たちの世界は物語で溢れている。 200 字作文 (1)	SNS が作り出す物語
第 3 回	悲劇とは 200 字作文 (2)	アリストテレス『詩学』
第 4 回	マンガの技法 (1) 200 字作文 (3)	登場人物の設定
第 5 回	マンガの技法 (2) 200 字作文 (4)	作品の世界観とは
第 6 回	ファシリテーションとは何か	みんなの意見を引き出すファシリテーターとは？
第 7 回	論文の書き方 (1)	テーマとは「問い」である。
第 8 回	論文の書き方 (2) 図書館ガイダンス	資料検索 図書館ガイダンスは、日程が前後することあり。
第 9 回	論文の書き方 (3)	パラグラフ・ライティング
第 10 回	論文の書き方 (4)	引用の仕方
第 11 回	論文の書き方 (5)	注、参考文献の書き方
第 12 回	グループ論文中間報告 進級論文中間報告	2, 3 年生による報告
第 13 回	グループ論文中間報告 進級論文中間報告	2, 3 年生による報告
第 14 回	グループ論文中間報告 進級論文中間報告 ふりかえり	2, 3 年生による報告
第 15 回	作品鑑賞	映像作品を観る

第 16 回	グループ研究発表 (1)	2 年生の発表
第 17 回	グループ研究発表 (2)	2 年生の発表
第 18 回	物語の技法 (1) 3 年生の研究発表	小説の輪読
第 19 回	物語の技法 (2) 3 年生の研究発表	小説の輪読
第 20 回	物語の技法 (3) 3 年生の研究発表	小説の輪読
第 21 回	物語の技法 (4) 3 年生の研究発表	小説の輪読
第 22 回	新ゼミ生の選考	選考面接
第 23 回	3 年生の研究発表 (1)	発表と質疑応答
第 24 回	3 年生の研究発表 (2)	発表と質疑応答
第 25 回	3 年生の研究発表 (3)	発表と質疑応答
第 26 回	3 年生の研究発表 (4)	発表と質疑応答
第 27 回	3 年生の研究発表 (5)	発表と質疑応答
第 28 回	ふりかえり	ゼミの総括と来年度に向けた企画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題、発表、論文作成にきちんとした準備が必要です。そのため週に 2 時間程度必要です。

【テキスト（教科書）】

新田誠吾 (2019). はじめてでも、ふたたびでも、これならできる！レポート・論文のまとめ方. すばる舎. (本書は 4 月に著者よりゼミ生全員に贈呈される)

【参考書】

茂木秀昭 (2001). ザ・ディベート：自己責任時代の思考・表現技術. ちくま新書.
その他の参考書については、授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加度、課題、グループワーク等）が 40%、成果物（論文、発表）が 60%で、合計 60%以上で単位を認定します。なお、ゼミで進級するには 70%以上必要です。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、コロナ禍で十分な共同作業ができませんでした。オンラインでもゼミとして活動できるように工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで資料を取得したり、オンライン授業に対応できるように、インターネットに接続できる機器と通信環境を準備してください。

【Outline and objectives】

We will read the specialized books and discuss themes within the group. Students learn how to write academic papers. After learning the selection of the theme, document survey, composition of the paper, quotation, every participant actually writes the paper. Second graders conduct research in groups, third graders find themes and conduct research by themselves.

ECN218CA
演習
明城 聡
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場調査と統計学を利用した経済データ分析

【到達目標】

本演習では、受講生それぞれが独自に選んだ課題テーマについて調査するとともに客観的な視点で経済分析することを目指します。各自が関心のある特定の財市場や経済制度、あるいは経済政策などを研究テーマに選び、それについて調査をすすめるとともにミクロ経済学や統計学の知識を応用して分析を行うものとします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

2 年生は主に統計学と計量経済学のテキストを使って勉強を行います。これは個別の課題テーマを調べる際に必要な知識を身につけるための演習です。

3 年生は個別のテーマについて調査分析を行って論文を執筆します。調査方法や分析手法などについて担当教員と相談したり、他の受講生と協力して作業を進めるための作業が主な内容になります。そして秋の懸賞論文や研究報告大会などで研究成果を発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・シラバスの配布 ・演習概要の説明 ・その他、連絡事項
2	課題テーマの抽出 (1)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
3	課題テーマの抽出 (2)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
4	課題テーマの抽出 (3)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
5	課題テーマの抽出 (4)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
6	課題テーマの調査と分析 (1)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
7	課題テーマの調査と分析 (2)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
8	課題テーマの調査と分析 (3)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
9	課題テーマの調査と分析 (4)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
10	課題テーマの調査と分析 (5)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析

11	課題テーマの調査と分析 (6)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
12	課題テーマの調査と分析 (7)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
13	課題テーマの調査と分析 (8)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
14	課題テーマの調査と分析 (9)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
15	課題テーマの調査と分析 (10)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
16	課題テーマの調査と分析 (11)	・テキストを使った学習 ・個別調査の途中経過の確認および相談 ・調査および分析
17	課題テーマの調査と分析 (12)	・テキストを使った学習 ・個別調査の途中経過の確認および相談 ・調査および分析
18	課題テーマの調査と分析 (13)	・テキストを使った学習 ・個別調査の途中経過の確認および相談 ・調査および分析
19	課題テーマの調査と分析 (14)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
20	課題テーマの調査と分析 (15)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
21	課題テーマの調査と分析 (16)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
22	課題テーマの調査と分析 (17)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
23	課題テーマの調査と分析 (18)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
24	課題テーマの調査と分析 (19)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
25	課題テーマの調査と分析 (20)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
26	課題テーマの調査と分析 (21)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
27	課題テーマの調査結果の報告 (1)	・調査結果の報告
28	課題テーマの調査結果の報告 (2)	・調査結果の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分に関心のあるテーマを選ぶように日頃から新聞やニュース等に目をとおすようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

演習の第 1 回の時点で連絡します。

【参考書】

演習の第 1 回の時点で連絡します。

【成績評価の方法と基準】

・学習時間における準備や発言 (30%)
・個別テーマの調査や報告内容 (70%)
などに応じて成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

データ分析に PC が必要なので、各自ノート PC を利用できるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

In this seminar, students are required to investigate a specific market, economic system and/or economic policy, and then study it by conducting a statistical data analysis.

It is also necessary to write a thesis using results of the data analysis.

ECN218CA
演習
朴 宗玄
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、日本と韓国を含む世界諸地域に関する幅広いテーマを取り上げ、地理学の視点から「社会」「文化」「地域」の特徴を研究する。本ゼミでは、おもに次の三つを柱に、地域の見方、調べ方、読み方を学習する。まず「地域」「地理学」の視点から、個々の関心を持つ地域とテーマを決め、それに関する先行研究をサーベイする。サーベイした先行研究をまとめて発表することで、論文の書き方とプレゼンテーションの方法を身につける。次に地域と個々のテーマに関する統計資料を調べる。どのような統計資料が存在し、それをどのように活用するのかを調べる。先行研究などを参考にし、どのような分析方法で統計データを扱うのか分析方法論を学習する。そして最後にフィールドワーク（地域調査）を実施する。

【到達目標】

授業の到達目標は、様々な側面から地域・都市を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習では、①統計処理、②先行研究のレビュー、③フィールドワーク、④発表、4つを柱で学習する。春学期では、地理学関連の先行研究のレビューや日本をはじめ世界各国の統計を扱い、地域の特徴を学習する。秋学期では、フィールドワークと発表を中心に、地理学の方法論を学習する。さらに、春学期・秋学期ともに、新宿区新大久保駅周辺のコリアンタウン地域に対する定期的なフィールドワークを行う。コフィードバックは、発表やレジメなどへ改善点、コメントなどを個別指導によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	先行研究のレビュー 1 ：人文地理学全般	人文地理学関連の先行研究論文の調べ方、まとめ方を学習する。
2	先行研究のレビュー 2 ：経済地理学	経済地理学関連の先行研究論文の調べ方、まとめ方を学習する。
3	先行研究のレビュー 3 ：都市地理学	都市地理学関連の先行研究論文の調べ方、まとめ方を学習する。
4	先行研究のレビュー 4 ：商業地理学	商業地理学関連の先行研究論文の調べ方、まとめ方を学習する。
5	先行研究のレビュー 5 ：企業地理学	企業地理学関連の先行研究論文の調べ方、まとめ方を学習する。
6	統計処理方法論 1-基礎	統計の基礎を使い、地理学関連の様々な統計を扱い、地域分析を行う。
7	統計処理方法論 2-特化係数	特化係数を使う、地理学関連の様々な統計を扱い、地域分析を行う。
8	統計処理方法論 3-多変量解析基本	多変量解析の方法を理解し、地理学関連の様々な統計を扱い、地域分析を行う。
9	統計処理方法論 4-多変量解析応用	多変量解析を地理学でどのように応用しているのかを学習する。地理学関連の様々な統計を扱い、地域分析を行う。

10	統計処理方法論 5－多変量解析解釈	多変量解析の結果を用いて、解釈方法を学習する。地理学関連の様々な統計を扱い、地域分析を行う。
11	統計処理解釈論 1	国勢調査統計の扱い方を学習する。
12	統計処理解析論 2	政府機関発行の統計を扱い、地域分析・解釈を行う。
13	統計処理解析論 3	民間機関発行の統計を扱い、地域分析・解釈を行う。
14	まとめ	地域分析全般をまとめる。
15	フィールド調査方法の学習と準備 1-先行研究	先行研究から、フィールド調査に備え、調査方法を習得し、準備を行う。
16	フィールド調査方法の学習と準備 2-海外調査	先行研究から、海外調査事例を学習し、フィールド調査に備え、調査方法を習得し、準備を行う。
17	フィールド調査方法の学習と準備 3-国内調査	先行研究から、国内調査事例を学習し、フィールド調査に備え、調査方法を習得し、準備を行う。
18	フィールド調査方法の学習と準備 4-グループ調査	先行研究から、国内調査事例を学習し、フィールド調査に備え、調査方法を習得し、準備を行う。
19	フィールドワーク 1：一回目の調査	東京を事例に、第一回目の現地調査を行う。
20	結果解釈とプレゼンテーション 1：一回目の調査	第一回目の現地調査のデータをまとめ、発表する。
21	フィールドワーク 2：二回目の調査	東京を事例に、第二回目の現地調査を行う。
22	結果解釈とプレゼンテーション 2：二回目の調査	第二回目の現地調査のデータをまとめ、発表する。
23	フィールドワーク 3：三回目の調査	東京を事例に、第三回目の現地調査を行う。
24	結果解釈とプレゼンテーション 3：三回目の調査結果	第三回目の現地調査のデータをまとめ、発表する。
25	報告書作成 1-まとめ方	調査した地域の調査結果を分析する方法を学習する。
26	報告書作成 2－報告作成方法	調査した地域の調査結果をまとめ、報告書作成方法を学習する。
27	報告書作成 3-グループワーク	調査した地域の調査結果をまとめ、報告書にまとめ、グループワーク方法を学習する。
28	まとめ	ゼミで学んだ内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計データの処理、先行研究の検索などを事前に行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しないが、個別の文献は授業中で指示する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

発表 (50%)、レポート (50%) により評価する。また、緊急事態宣言の影響で、資料配信形のオンライン授業を行う間は、レポートや課題提出によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Students will gain a perspicitve regarding social and cultural diversity of the world, learn the relationships between the global, the reional and the local and acquire geographic analytical skills.

ECN218CA
演習
橋本 到
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自主的な学習によって、フランスの現代やその礎となる文明・文化について理解を深め、物事を深く考える力を養うとともに、「日本」や身の回りの問題を見直し、提言を発信する能力を身につける。

【到達目標】

文化的・学術的な議論ができるようになる。情報検索・収集・整理を持続的・効率性に行えるようになる。物事を幅広く柔軟に考え、適切に分析・洞察できるようにする。それらを発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

輪読発表、グループ研究、個人研究、レクチャーを組み合わせます。輪読発表、グループ発表とも年度初頭の計画に基づき行うが、その準備が各自の課題になる。それぞれの発表はその場で相互評価の方法も取り入れ、改善点など指摘し、あわせて、授業外でも個人研究を進められるよう面談を行い一人一人の捗状況に合わせた指導も行う。年度末の進級論文に対してはコメントを返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの場を作る。ゼミの進め方の確認など。	自己紹介、ガイダンス、グループ決め、輪読アナウンス 1 班、毎回報告 1
第 2 回	興味を広げる、フランスについて知る。グループ内で発想を出し合う。	輪読（アナウンス 2 班+発表 1 班）、レクチャー 1、毎回報告 2、グループ研究 1
第 3 回	興味を広げる、。論文の書かれ方について知る。グループで作業分担などを決める。	輪読（アナウンス 3 班+発表 2 班）、論文講読 1、毎回報告 3、グループ研究 2
第 4 回	興味を広げる。グループでリサーチする (1)。	輪読（アナウンス 4 班+発表 3 班）、グループ研究 3、毎回報告 4
第 5 回	興味を広げる。プレゼンについて考える。グループでリサーチする (2)。	輪読（アナウンス 5 班+発表 4 班）、毎回報告 5、グループ研究 4
第 6 回	興味を広げる、フランスについて知る。	輪読（アナウンス 6 班+発表 5 班）、論文講読 2、毎回報告 6
第 7 回	興味を広げる、フランスについて知る。	輪読（アナウンス 1 班+発表 6 班）、レクチャー 2、毎回報告 7
第 8 回	興味を広げる、フランスについて知る。グループでリサーチする (3)。	輪読（アナウンス 2 班+発表 1 班）、毎回報告 8、グループ研究 5
第 9 回	興味を広げる、フランスについて知る。	輪読（アナウンス 3 班+発表 2 班）、レクチャー 3、毎回報告 9
第 10 回	フランスについて知る。グループでリサーチする (4)。	輪読（アナウンス 4 班+発表 3 班）、レクチャー 4、グループ研究 6
第 11 回	探求した内容を発表する (1)。	輪読（発表 5 班）、3 年次発表 1
第 12 回	探求した内容を発表する (2)。	3 年次発表 2、4 年次発表 1
第 13 回	興味を広げる、探求した内容を発表する (3)。	4 年次発表 2、毎回報告 10

第 14 回	興味を広げる、グループ研究の途中経過を完成に近づける (1)	毎回報告 11、グループ研究・第 1 回プレゼン・リハーサル
第 15 回	フランスについて知る、グループ研究を完成させる 1	ガイダンス、レクチャー 5、輪読 (アナウンス 1 班)、グループ研究発表 (1 班～ 5 班)
第 16 回	フランスについて知る、卒論にむけた準備 (4 年) 1	輪読 (アナウンス 2 班+発表 1 班)、毎回報告 12、4 年次卒論中間発表 1
第 17 回	グループ研究を完成させる 2	輪読 (アナウンス 3 班+発表 2 班)、毎回報告 13、グループ研究 7
第 18 回	卒論にむけた準備 (4 年) 2、グループ研究を完成させる 3	輪読 (アナウンス 4 班+発表 3 班)、4 年次卒論中間発表 2、毎回報告 14、グループ研究 8
第 19 回	卒論にむけた準備 (4 年) 3、グループ研究を完成させる 3	輪読 (アナウンス 5 班+発表 4 班) 毎回報告 19、4 年次卒論中間発表 3
第 20 回	興味を広げる、フランスについて知る、グループ研究を完成させる 4	輪読 (アナウンス 1 班+発表 5 班)、レクチャー 6、毎回報告 16、グループ研究 9 (発表先発組・オープンゼミ)
第 21 回	学年末に向けたまとめの準備 1、グループ研究を完成させる 5	輪読 (アナウンス 2 班+発表 1 班)、毎回報告 17、グループ研究 10 (発表後発組・オープンゼミ)、1 次応募選考
第 22 回	学年末に向けたまとめの準備 2	輪読 (アナウンス 3 班+発表 2 班)、3 年次発表 1、毎回報告 18
第 23 回	学年末に向けたまとめの準備 3	輪読 (アナウンス 4 班+発表 3 班)、3 年次発表 2、毎回報告 19
第 24 回	興味を広げる、フランスについて知る。学年末に向けたまとめの準備 4	輪読 (アナウンス 5 班+発表 4 班)、3 年次発表 4、毎回報告 20
第 25 回	面接の挙措などの学び——次年度の入ゼミ生を面接する	2018 年度、2 次応募者選考作業
第 26 回	集めた情報を論文として構成する (2 年) 1。	輪読 (発表 5)、レクチャー 7、毎回発表 21、2 年次発表 1。
第 27 回	集めた情報を論文としてまとめる (2 年) 2	2 年次発表 2
第 28 回	映像を通してフランスを知る。	毎回報告 22、フランス映画視聴。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】
親睦行事、研究報告大会など各種学部行事、グループ活動におけるサブゼミ、合宿、休暇中のゼミなどが、必要に応じて行われます。また、卒業論文作成のための継続的な作業を行います。授業時間外の準備には標準的に 3 時間をかけてください。

【テキスト (教科書)】
授業で指示します。輪読で使うテキストは、ゼミ生が班ごとに選書し、教員の了承を得たものとします。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
一) 個人研究の第二回発表と進級 (学年末) 論文 65 %
二) 毎回報告・輪読など各種発表 20 %
三) ゼミにおける討論への参加度 10 %
四) ゼミへの貢献 5 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
個人でパソコンやタブレット端末が持ち込める人は、ゼミの時間内に活用してもらいたい。

【その他の重要事項】
ゼミの場が活性化されるかどうかは、ゼミ生の自発的な活動にかかっています。適切に行動すること。教務的な連絡事項は、グループウェアである LINEBAND を通じて行います。また、ゼミからの連絡には目を通し、必ず返事をする。

【Outline and objectives】
This class aims to learn the problems of contemporary society in France, deepen the understanding of the characteristics of French culture and history, and eventually to review the problems of Japan and to develop the ability to propose to them.

ECN218CA
演習
馬場 敏幸
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】
社会では、課題に対し、自分で情報を集め、アイデアを生み出し、まとめ、表現する能力が必要となります。その際チーム行動を取れることも重要です。本ゼミでは、主体的にそれらを行えることを目指し、実践訓練を通じ学びます。
先生の研究テーマはアジア経済、開発経済論、科学技術論などですが、ゼミでは学生の自主性を尊び、様々なテーマを取り扱うことが可能です。

【到達目標】
各自が自らで考え、企画し、調べ、まとめ、発表する。そうした一連のプロジェクトの流れを体得し、リーダーとして引っ張っていけるようになって欲しい。また、一歩踏み出す勇気を手にして欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】
通学での開催を計画しているが、コロナの影響によりオンデマンド開催・Zoom 開催または通学とその併用の可能性がある。課題に対するフィードバックは全体、個別、抽出などケースバイケースでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり / Yes

回	テーマ	内容
1～3	基礎知識の習得	講義の前半では、話題書や学問書の輪読を通じて知識習得、まとめ、発表の基礎的能力を身につけます。得た知識を元に、シンポジウム、ディベートなども行います。2 年生各 1～2 名に対し、3 年生各 1 名をメンターとして指名し、調査・研究活動などのノウハウを伝授します。 習得を目指す能力：情報検索法、アイデア発想法、アイデア収束法、論理的思考法、レジュメ作成法、論文作成法、プレゼンテーション法など
4～15	具体的な課題設定、プレゼンテーション	各グループが決めた内容をプレゼン準備・発表まで行う
16～19	発表準備・発表	P P 作成及び発表準備練習と発表
20～28	学内発表を視野に入れたデータ構築	発表に相応しいデータ構築及びプレゼンスキル向上を図る

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】
自主研究の推進。本授業の事前学習は 5 時間、事後学習 5 時間を目安とします。

【テキスト (教科書)】
適時指示

【参考書】
適時指示

【成績評価の方法と基準】

受講態度、講義の中での発表、課題への取り組み態度や内容などを勘案して評価を行う（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

前期のグループ分けリサーチについて、昨年は前期は進行が遅滞がち、夏休みでの停滞、などもあった。次回は前期のリサーチペースをもう少し前倒ししたい。

【その他の重要事項】

4 年次に卒論を書く気がない 2～3 年は受講しないでください。

【Outline and objectives】

In this class, you learn how to research, do presentation in group work.

ECN218CA

演習

森田 裕史

開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済理論と計量分析に基づいた卒業論文を執筆できるように、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の基礎を学習する。

【到達目標】

オリジナリティのある卒業論文を執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読と問題演習・パソコンを使った実習を行う。授業のフィードバックは適宜、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	経済数学①	1 次関数と市場メカニズム
第 2 回	経済数学②	2 次関数と独占・寡占市場
第 3 回	経済数学③	指数・対数と金利
第 4 回	経済数学④	数列と貯蓄
第 5 回	経済数学⑤	1 変数の微分と利潤最大化
第 6 回	経済数学⑥	ベクトルと予算制約
第 7 回	経済数学⑦	多変数の微分と効用最大化
第 8 回	消費者行動の理論①	限界分析入門
第 9 回	消費者行動の理論②	代替効果と所得効果
第 10 回	企業行動の理論①	生産要素が一つの場合の企業行動
第 11 回	企業行動の理論②	生産要素が二つの場合の企業行動
第 12 回	市場均衡①	部分均衡分析
第 13 回	市場均衡②	一般均衡分析
第 14 回	市場の失敗と独占	外部性、公共財、独占企業の行動
第 15 回	計量経済学①	経済学の問題とデータ
第 16 回	計量経済学②	確率の復習：期待値、平均、分散
第 17 回	計量経済学③	確率の復習：確率分布関数
第 18 回	計量経済学④	統計学の復習：母集団の平均に関する仮説検定
第 19 回	計量経済学⑤	統計学の復習：母集団の平均に関する信頼区間
第 20 回	計量経済学⑥	1 変数の線形回帰分析：最小二乗推定量
第 21 回	計量経済学⑦	1 変数の線形回帰分析：OLS 推計量の標本分布
第 22 回	計量経済学⑧	1 変数の回帰分析：仮説検定
第 23 回	計量経済学⑨	1 変数の回帰分析：信頼区間
第 24 回	計量経済学⑩	多変数の線形回帰分析：多変数回帰モデルにおける OLS 推定量
第 25 回	計量経済学⑪	多変数の線形回帰分析：多重共線性
第 26 回	計量経済学⑫	多変量回帰における仮説検定と信頼区間：結合仮説のテスト
第 27 回	計量経済学⑬	多変量回帰における仮説検定と信頼区間：複数の係数に対する信頼集合
第 28 回	計量経済学⑭	非線形関数の回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- [1] 神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014 年。
 [2] 尾山大輔・安田洋祐『改訂版 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める。』日本評論社；改訂版、2013 年。

【参考書】

- [1] Stock, J.H., and Watson, M.W. (著), 宮尾龍蔵 (訳)『入門計量経済学』共立出版、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%) に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The students learn about a basic concept of microeconomics, macroeconomics and econometrics to write a bachelor's degree thesis which is based on the economic theory and empirical analysis.

ECN218CA
演習
原 伸子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習のテーマは、現代における労働と福祉の諸問題を学ぶことです。今年度は、福祉国家の変容と社会保障について勉強します。不安定な労働、機能不全に陥った社会保障制度の現状を知ると共に、歴史・理論・政策の観点から労働と社会保障の連繋のあり方について考えます。春学期・秋学期の基本テキストは、4 月の最初の講義の時に、日本と欧米の福祉国家制度の比較研究の中から、数冊あるいはいくつかの論文を選ぶ予定です。今年度は卒業論文作成に向けて、個人発表を中心にします。

【到達目標】

到達目標は以下の二つです。

- ①理論・歴史・政策の三つの視点を持つこと。
- ②ゼミでは、さまざまな問題を取り上げながら、ディベートの時間を持ちたいと思っています。自分の意見を明確に述べるができるようになることも到達目標の一つです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の方法は以下のとおりです。

- ①授業のなかで与えられた課題について発表すること。必ず自分の考えを整理して明確な言葉で述べる。
- ②合宿（夏）では卒業論文の中間報告をおこなうこと。
- ③9 月以降は、個人報告を中心に進めていきます。

なお、学生の発表や論文については、教員からのコメントをフィードバックするようにしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	今年度のゼミの進めか た、テキストの決定	コロナ禍のもとでの労働市場と福祉制度の現状について
2 回	日本の社会保障制度、 歴史と現状①	研究発表、討論①
3 回	日本の社会保障制度、 歴史と現状②	研究発表、討論②
4 回	日本の社会保障制度、 歴史と現状③	研究発表、討論③
5 回	日本の社会保障制度、 歴史と現状④	研究発表、討論④
6 回	イギリスの社会保障制 度、歴史と現状①	研究発表、討論⑤
7 回	イギリスの社会保障制 度、歴史と現状②	研究発表、討論⑥
8 回	イギリスの社会保障制 度、歴史と現状③	研究発表、討論⑦
9 回	イギリスの社会保障制 度、歴史と現状④	研究発表、討論⑧
10 回	ドイツの社会保障制度 ①	研究発表、討論⑨
11 回	ドイツの社会保障制度 ②	研究発表、討論⑩
12 回	ドイツの社会保障制度 ③	研究発表、討論⑪

13 回	スウェーデンの社会保 障制度①	研究発表、討論⑫
14 回	スウェーデンの社会保 障制度②	研究発表、討論⑬
15 回	スウェーデンの社会保 障制度③	卒論研究状況についての論評
16 回	東アジアの社会保障制 度①	研究発表、討論⑮
17 回	東アジアの社会保障制 度②	研究発表、討論⑯
18 回	フランスの社会保障制 度①	研究発表、討論⑰
19 回	フランスの社会保障制 度②	研究発表、討論⑱
20 回	フランスの社会保障制 度③	研究発表、討論⑲
21 回	アメリカの社会保障制 度①	研究発表、討論⑳
22 回	アメリカの社会保障制 度②	研究発表、討論 21
23 回	アメリカの社会保障制 度③	研究発表、討論 22
24 回	2.3 年生中間論文報告 ①	研究発表、報告①
25 回	2.3 年生中間論文報告 ②	研究発表、報告②
26 回	2.3 年生中間論文報告 ③	研究発表、報告③
27 回	2.3 年生中間論文報告 ④	研究発表、報告④
28 回	4 年生の卒論報告①	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメ作成に関して、グループごとに関連文献を十分に調べる。また責任感をもって報告する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

上記の授業計画を予定しているが、4 月の最初の授業時に詳しい計画とテキストについて説明する。

【参考書】

その都度、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、卒業論文 70%。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に発言し、楽しく活気あるゼミになるように工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to study the institution of labour market and the welfare system, which have drastically changed since 1980s. At the same time, principle of welfare state has also thoroughly changed from need for welfare to demand for it. Therefore, we will specially focus on the aspects of deregulation of labour market and marketisation of welfare provision.

ECN218CA
演習
平瀬 友樹
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミとは、単なる知識の習得にとどまらず、人間関係についても大いに学ぶべき場であると考えられる。したがって、本ゼミでは、様々な活動はグループ形式で行われる。

【到達目標】

グループまたは個人での専門論文執筆を通して、思考能力および専門知識を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

ここ数年は、学内の懸賞論文へのチャレンジやプレゼン大会の出場という目的を掲げて、ゼミ活動を行ってきた。また、この他にも必要に応じて学外の懸賞論文にもチャレンジする場合もある。なお、課題に対するフィードバックが必要な場合には支援システムの登録アドレスへ直接送るので、PC からのメールを受け取れるように準備しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	自己紹介およびグループ分け
2	グループ・ディスカッション	グループ・ディスカッションをやってみよう
3	ディベート	ディベートとグループ・ディスカッションの違いについて
4	プレゼン	プレゼンを使ったプレゼンをしてみよう
5	文章講座	論文やレポートの書き方について
6	回帰分析とは何か	回帰分析の理論と PC の操作について
7	t 検定について	t 検定の考え方と応用
8	重回帰分析	重回帰分析をしてみよう
9	先行研究	重回帰分析を使った先行研究を読んでみよう
10	重回帰分析の応用	IS-LM 分析と重回帰分析
11	その他の統計学的分析	SPSS による主因子分析をやってみよう
12	演習	グループ別での執筆活動
13	夏休みの計画	後期の懸賞論文に向けて・計画作り
14	総復習	前期の振り返り
15	はじめに	後期の進め方について
16	プログラミングとは何か	VBA を使ってみよう
17	VBA の実際	より深く VBA について知ろう
18	PC を使った統計分析	R の操作方法を覚えよう
19	より高度な統計分析に向けて	Rstudio による分析をやってみよう
20	シミュレーション分析について	Octave を使ってみよう
21	より高度な分析を行うために	コードを実際にかいてみよう

22	行列の復習	複雑なコードを読めるようになる
23	経済分析の演習	ソロー・スワンモデルにおけるシミュレーション分析
24	より複雑な分析について	RBC におけるシミュレーション分析
25	マクロ経済学の実際	OLG におけるシミュレーション分析
26	マクロ経済学の最先端	DSGE におけるシミュレーション分析
27	研究テーマの決定	懸賞論文に向けての準備
28	総復習	振り返りと今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題について締め切りは厳守。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

追って指示する。

【参考書】

追って指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) および課題の成果 (50%) によって評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特に指摘はない

【Outline and objectives】

This course introduces the foundation of econometrics to students taking this course. In addition, the aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand computational economics.

ECN218CA
演習
廣川 みどり
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の考え方を習得する。どのような問題があるのか、どのようにそれを考えたらよいのか。輪読、議論を通し、理論をしっかり修得し、それを応用する能力を身につける。

【到達目標】

各自が自分で考えるべき問題を見つけ、その解決に対処できるようにする。経済学の考え方を身につけ、その視点から問題をながめ、既存の文献やデータに依拠しつつ、問題解決についての自分の結論を出せるようにする。4 年の終わりまでに「経済学部を卒業しました」と明るく言える人材となることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

(i) テキストの輪読と、(ii) ゼミ論・卒論を目指し必要なツールの修得を行うと共に、(iii) 効果的なプレゼンの技術やディベートの方法を学ぶ。基本的には対面の授業とするが、コロナの状況を勘案しつつ、適宜オンライン授業を組み込む。また、それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題については、授業時間中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学と自分との関わり、日経新聞を読む
2	演習	今年度のテーマの選定、各人の研究テーマの見つけ方
3	演習	研究テーマを形にする方法、文献の取り扱い
4	演習	ミニ報告と輪読 (1)
5	演習	ミニ報告と輪読 (2)
6	演習	ミニ報告と輪読 (3)
7	演習	ミニ報告と輪読 (4)
8	演習	効果的なプレゼンを考える
9	演習	ミニ報告と輪読 (5)
10	演習	ミニ報告と輪読 (6)
11	演習	ミニ報告と輪読 (7)
12	演習	ミニ報告と輪読 (8)
13	演習	ミニ報告からレポート・論文へのつなげ方
14	春学期のまとめ	春学期の内容の総括と夏合宿の課題の選定

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の内容の復習と秋学期の方向性の確認
2	演習	輪読およびレポート作成・報告 (1)
3	演習	輪読およびレポート作成・報告 (2)
4	演習	輪読およびレポート作成・報告 (3)

5	演習	輪読およびレポート作成・報告 (4)
6	演習	ゼミ論・卒論執筆者中間報告(1)、 研究テーマの軌道修正
7	演習	ディベートの方法、材料集め
8	演習	ディベート
9	演習	輪読およびレポート作成・報告 (5)
10	演習	輪読およびレポート作成・報告 (6)
11	演習	輪読およびレポート作成・報告 (7)
12	演習	輪読およびレポート作成・報告 (8)
13	演習	ゼミ論・卒論執筆者中間報告(2)、 および論文の仕上げ方について
14	年間の内容のまとめ	年間の内容の総括と春合宿の課題 の選定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、一回につき各 8 時間を標準とする。
・春学期

第 1~14 回：(1) サブゼミ参加とその準備 (1.5 時間)、(2) ゼミ報告
の準備 (1.5 時間)、(3) 日経新聞を読む、または経済の読み物に親
しむ (3.5 時間 = 1 日 30 分*7 日)

ゼミ合宿参加：2 泊 3 日（準備も含め 21 時間、各回換算で 1.5 時間）
・秋学期

第 1~14 回：(1) サブゼミ参加とその準備 (1.5 時間)、(2) ゼミ報告
の準備、ゼミ論執筆 (3 時間)、(3) 日経新聞を読む、または経済の
読み物に親しむ (2 時間 = 1 日 15~20 分*7 日) (2) と (3) の時間
配分はゼミ論・卒論の進捗度合いによる)

ゼミ合宿参加：2 泊 3 日（準備も含め 21 時間、各回換算で 1.5 時間）

【テキスト（教科書）】

開始時に指示する。

【参考書】

各人の知識、理解、興味に応じて適宜指示していく。また、新聞記
事も適宜取り上げる。

【成績評価の方法と基準】

平常点。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

(1) 学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料の配布を行うた
め、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録を済ませること。課
題の提出もこちらで受けつけることとなる。

(2) PDF の閲覧と Word を使えるように準備すること。また今後の
課題の中には、グラフや図を紙に描いて写真に撮って Word に貼り
付けて提出という形も想定している。

(3) zoom を通じてのリアルタイムのやりとりも想定しているため、
アプリをインストールしておくこと。

【その他の重要事項】

演習の時間以外に、合宿、サブゼミへの参加も全て求められるため、
注意してほしい。

【Outline and objectives】

In this course, you will acquire basic idea of economics
and ability of their application through textbook reading,
in-seminar presentation, debate and report writing.

ECN218CA
演習
濱秋 純哉
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の考え方やデータ分析の手法を身に付ける。

【到達目標】

- ①経済学、統計学、計量経済学の基礎的な知識を身に付ける。
- ②関心のある社会問題について、仮説検証型のデータ分析を行う。
- ③自分の意見や分析結果を分かりやすくプレゼンテーションする。
- ④他人の発表に建設的なコメントや質問を行ったり、議論したりする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」
「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」
「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・ミクロ経済学、及び経済データを分析する際に用いる統計学・計
量経済学について、輪読を通じて理解を深める。
- ・他大学とのインゼミに向けた論文の作成や、各人の関心のあるト
ピックについて分析を行うことを通じて、データを用いた仮説検証
のやり方を学ぶ。
- ・各人が関心のあるニュースや新聞記事について、他のゼミ生の前
で発表し、ディベート形式で議論し理解を深める。
- ・長期休暇中に課題を出し、休暇明けに課題の理解度を確認するた
めにテストを行うが、テスト後に解答例を示したり、よくある間違
いの例を示したりしてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの内容、進め方、今年度のス ケジュールの決定
2	ミクロ経済学①	ミクロ経済学の基本解説
3	ミクロ経済学②	需要と供給の基本原理解
4	ミクロ経済学③	消費者行動
5	ミクロ経済学④	個別需要と市場需要
6	ミクロ経済学⑤	不確実性と消費者行動
7	ミクロ経済学⑥	生産
8	ミクロ経済学⑦	生産費用
9	ミクロ経済学⑧	利潤最大化と競争市場における供 給
10	ミクロ経済学⑨	競争市場の分析
11	ミクロ経済学⑩	市場支配力を持つ企業の価格戦略
12	ミクロ経済学⑪	独占的競争と寡占
13	ミクロ経済学⑫	ゲーム理論と競争戦略
14	ミクロ経済学⑬	生産要素市場
15	統計学①	母集団と標本
16	統計学②	統計的推論
17	統計学③	相関係数と因果関係
18	統計学④	「確率」とは
19	統計学⑤	期待値と平均
20	統計学⑥	分散と標準偏差
21	統計学⑦	確率変数の独立性
22	統計学⑧	正規分布、カイ二乗分布、t 分布、 F 分布
23	統計学⑨	推定量の性質（不偏性、一致性、 効率性）
24	統計学⑩	大数の法則と中心極限定理
25	計量経済学①	単回帰分析

26	計量経済学②	最小二乗法
27	計量経済学③	重回帰分析
28	計量経済学④	内生性の問題への対処

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストの輪読に際しては、予習と復習を欠かさずに行うこと。予習では疑問点を明確にし、ゼミでその点を質問できるように準備すること。
- ・新聞やニュースに関心を持ち、報道されている内容について経済学に基づいて考える習慣を付けること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・ダロン・アセモグル、デヴィッド・レイブソン、ジョン・リスト『ALL ミクロ経済学』岩本康志（監訳）・岩本千晴（訳）、東洋経済新報社。

【参考書】

- ・西森晃『これから経済学をまなぶ人のための数学基礎レッスン』、日本経済評論社。
- ・神取道宏『ミクロ経済学の力』、日本評論社。
- ・八田達夫『ミクロ経済学 I, II』、東洋経済新報社。
- ・N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学 I ミクロ編（第 3 版）』、東洋経済新報社。
- ・ビンダイク&ルビンフェルド『ミクロ経済学 I・II』、中経出版。
- ・スティーブン・レヴィット他『レヴィット ミクロ経済学基礎編』、東洋経済新報社。
- ・N・グレゴリー・マンキュー『マクロ経済学 I, II（第 3 版）』、東洋経済新報社。
- ・福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第 5 版）』、有斐閣。
- ・吉田耕作『直感的統計学』、日経 BP 社。
- ・東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』、東京大学出版会。
- ・田中隆一『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』、有斐閣。
- ・畑農鋭矢・水落正明『データ分析をマスターする 12 のレッスン』、有斐閣アルマ。
- ・浅野正彦・中村公亮『はじめての RStudio - エラーメッセージなんかこわくない -』、オーム社。
- ・濱田悦生著・狩野裕編『データサイエンスの基礎』、講談社。
- ・星野匡郎・田中久稔『R による実証分析一回帰分析から因果分析へ』、オーム社。

【成績評価の方法と基準】

長期休暇（春休み、夏休み、冬休み）に出される課題についての筆記試験 50%、平常点（課題の提出状況、出席、発表内容、議論への参加、他大学とのディベート大会やインゼミ論文への貢献、卒論の完成度等）50%による。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミで輪読したテキストが難しいという意見があったので、テキストをより分かりやすいものへと変更し、基礎から応用まで段階を踏んで学習できるよう留意している。

【その他の重要事項】

メール（メーリングリスト）で重要な連絡を行うことがあるので、メールチェックを欠かさないこと。

【Outline and objectives】

This course seeks to provide an understanding of what microeconomics is and introduces statistical methods for making data analyses.

ECN218CA
演習
池田 雄一
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、創作、評論の執筆のような実践的な活動を実施することめざす。日々のノルマをこなしつつ、楽しくやるのが基本的な方針である。
またゼミは自主運営が理想なので、自立的な組織が運営されるように、いろいろ工夫してもらいたい。
くわしくは、ガイダンス時に参加者のみなさんと相談して決めるつもりである。

【到達目標】

創作、評論などの実践により総合的な判断力の獲得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

最終学年の参加者は卒業論文（創作をふくむ）の中間報告、およびそれらの提出が単位習得のノルマとなる。
それ以外の学生は授業における発表、および最終レポートの提出が、単位習得のノルマである。
ゼミの運営にかんしては、そのつど口頭でのフィードバックを参考にして修正を入れていく予定である
詳細はガイダンス時に決めるので、最終学年の参加者もふくめて必ず出席されたい

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの方針、ノルマ、イベント等の決定。各種相談
2	演習	学生の発表とディスカッション。詳細はガイダンス時に決定
3	演習	学生の発表とディスカッション。詳細はガイダンス時に決定
4	演習	学生の発表とディスカッション。詳細はガイダンス時に決定
5	演習	学生の発表とディスカッション。詳細はガイダンス時に決定
6	演習	学生の発表とディスカッション。詳細はガイダンス時に決定
7	演習	学生の発表とディスカッション。詳細はガイダンス時に決定
8	演習	学生の発表とディスカッション。詳細はガイダンス時に決定
9	演習	学生の発表とディスカッション。詳細はガイダンス時に決定
10	演習	学生の発表とディスカッション。詳細はガイダンス時に決定
11	演習	学生の発表とディスカッション。詳細はガイダンス時に決定
12	演習	学生の発表とディスカッション。詳細はガイダンス時に決定
13	演習	学生の発表とディスカッション。詳細はガイダンス時に決定
14	まとめ	学生の発表とディスカッション。詳細はガイダンス時に決定

15	ガイダンス	後期のテーマ等を決める
16	演習	学生の発表とディスカッション。 詳細はガイダンス時に決定
17	演習	学生の発表とディスカッション。 詳細はガイダンス時に決定
18	演習	学生の発表とディスカッション。 詳細はガイダンス時に決定
19	演習	学生の発表とディスカッション。 詳細はガイダンス時に決定
20	演習	学生の発表とディスカッション。 詳細はガイダンス時に決定
21	演習	学生の発表とディスカッション。 詳細はガイダンス時に決定
22	演習	学生の発表とディスカッション。 詳細はガイダンス時に決定
23	演習	学生の発表とディスカッション。 詳細はガイダンス時に決定
24	演習	学生の発表とディスカッション。 詳細はガイダンス時に決定
25	演習	学生の発表とディスカッション。 詳細はガイダンス時に決定
26	演習	学生の発表とディスカッション。 詳細はガイダンス時に決定
27	演習	学生の発表とディスカッション。 詳細はガイダンス時に決定
28	まとめ	卒業論文、卒業制作の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ガイダンス時に決定する。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ガイダンス時に決定

【参考書】

池田雄一『メガクリティック—ジャンルの闘争としての文学』文藝春秋

【成績評価の方法と基準】

【単位取得に必要なノルマ】

出席／発表／レポート提出

最終学年

出席／卒業論文の提出／卒論中間報告

【成績評価】

最終レポート／卒業論文（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業では、チャット機能を使うと質問することのハードルがさがるので、ぜひご活用ください。

【学生が準備すべき機器他】

ガイダンス時に決定

【Outline and objectives】

In this seminar, we aim to carry out practical activities such as writing and reviewing. The basic policy is to have fun while doing daily quotas. In addition, since seminars are ideally run independently, we need to devise various ways to run an independent organization.

In detail, I will consult with the participants at the time of guidance and decide.

ECN218CA
演習
古澤 直人
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

史料から事実を復元する。根拠に基づいた議論を展開できるようにする。アカデミックライティングを学ぶ。

【到達目標】

史料を読む学問的な手続きを学ぶ。研究史を理解する。①問題設定、②研究史整理、③論証、④結論という論の立て方を学ぶ。①～④の各プロセスでの力量を一定水準以上にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

はじめに基本的な学問の方法論を学ぶ。次に、各人のレポートの構想を吟味する。関係史料を持ち寄って精読する。それを報告という形に構成してプレゼンテーションをする。関連論文を読む。関連論文も同様の吟味を行う。さらに、関係史料を集め、その読みを訓練する。修正した報告を行う。使用史料を再吟味する。最終報告に仕上げる。提出課題についてはその都度採点のうえ必要に応じてコメントを付けてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	今年のゼミの紹介と研究法について	論文の書き方、歴史の調べ方
2	レポート構想報告 1	研究史・問題関心・章立て 1
3	レポート構想報告 2	研究史・問題関心・章立て 2
4	レポート構想報告 3	研究史・問題関心・章立て 3
5	レポート関係史料を読む 1.1	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 1～2 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
6	レポート関係史料を読む 1.2	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 1～2 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
7	レポート関係史料を読む 1.3	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 1～2 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
8	レポート関係論文を読む 1.1	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
9	レポート関係論文を読む 1.2	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
10	レポート関係論文を読む 1.3	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
11	レポート中間報告 1.1	レポート作成作業の提示と修正 1
12	レポート中間報告 1.2	レポート作成作業の提示と修正 2
13	レポート中間報告 1.3	レポート作成作業の提示と修正 3
14	卒業論文中間報告	卒業論文中間報告
15	歴史学会の現状	春学期・夏休みまでの成果の提示

16	レポート第2回中間報告 2.1	学生による春学期・夏休みまでの成果の提示 1
17	レポート第2回中間報告 2.2	学生による春学期・夏休みまでの成果の提示 2
18	レポート第2回中間報告 2.3	学生による春学期・夏休みまでの成果の提示 3
19	レポート関係史料を読む 2.1	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 2～3 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする
20	レポート関係史料を読む 2.2	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 2～3 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする
21	レポート関係史料を読む 2.3	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 2～3 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする
22	レポート関係論文を読む 2.1	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする
23	レポート関係論文を読む 2.2	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする
24	レポート関係論文を読む 2.3	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする
25	レポート最終報告 1	完成したレポートの報告 1。
26	レポート最終報告 2	完成したレポートの報告 2
27	レポート最終報告 3	完成したレポートの報告 4
28	卒業論文報告	完成した卒業論文の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ報告者の史料に目を通す。授業の担当報告者のレジュメにそって授業で示された応答や論点を整理する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。

【参考書】

小笠原喜康『新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

日常的な報告・コメント等の評価が 70%で、最終報告および進級レポートを 30%として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の議論が成立するように授業を構成したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を学ばなかった学生は各自で高校教科書古代中世部分を自習しておいてほしい。

【Outline and objectives】

Restore facts from historical materials. Make evidence-based discussions developable. Learn Academic Writing.

ECN218CA
演習
牧野 文夫
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒論指導を行う

【到達目標】

4 年間の学びの総括として卒論を書き上げる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインで個別指導する。したがって、各回の指導の中で随時報告に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	卒論指導 1	テーマについて報告し、コメントする。
2	卒論指導 2	テーマについて報告し、コメントする。
3	卒論指導 3	テーマについて報告し、コメントする。
4	卒論指導 4	テーマについて報告し、コメントする。
5	卒論指導 5	テーマについて報告し、コメントする。
6	卒論指導 6	テーマについて報告し、コメントする。
7	卒論指導 7	テーマについて報告し、コメントする。
8	卒論指導 8	テーマについて報告し、コメントする。
9	卒論指導 9	テーマについて報告し、コメントする。
10	卒論指導 10	テーマについて報告し、コメントする。
11	卒論指導 11	テーマについて報告し、コメントする。
12	卒論指導 12	テーマについて報告し、コメントする。
13	卒論指導 13	テーマについて報告し、コメントする。
14	卒論指導 14	テーマについて報告し、コメントする。
15	卒論指導 15	テーマについて報告し、コメントする。
16	卒論指導 16	テーマについて報告し、コメントする。
17	卒論指導 17	テーマについて報告し、コメントする。
18	卒論指導 18	テーマについて報告し、コメントする。
19	卒論指導 19	テーマについて報告し、コメントする。
20	卒論指導 20	テーマについて報告し、コメントする。

21	卒論指導 21	テーマについて報告し、コメントする。
22	卒論指導 22	テーマについて報告し、コメントする。
23	卒論指導 23	テーマについて報告し、コメントする。
24	卒論指導 24	テーマについて報告し、コメントする。
25	卒論指導 25	テーマについて報告し、コメントする。
26	卒論指導 26	テーマについて報告し、コメントする。
27	卒論指導 27	テーマについて報告し、コメントする。
28	卒論指導 28	テーマについて報告し、コメントする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに関する文献、資料等を収集し、しっかり読み込む。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

卒論テーマに応じて個別に指摘す。

【成績評価の方法と基準】

卒論の内容

【学生の意見等からの気づき】

テーマの選択は相談に応じる。

【Outline and objectives】

Learning how to write a Graduation thesis.

ECN218CA
演習
松波 淳也
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学。
大学生として必要な一般知識、情報収集・処理能力、発表技法、交渉技術、社会性等の総合的な人的能力の育成。
経済学部学生として当然に要求される基礎的な経済理論（ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学、統計学・計量経済学等）

【到達目標】

環境経済学の習得を目標とする。同時に、大学生として必要な一般知識、情報収集・処理能力、発表技法、交渉技術、社会性等の総合的な人的能力の育成も本演習の目標である。また、経済学部学生として当然に要求される基礎的な経済理論（ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学、統計学・計量経済学等）の知識の習得も目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

当面オンライン授業を行う。輪読・報告・討議を基本とする「本ゼミ」と、他大学等とのインゼミや学外調査を中心とする「サブゼミ」（課外活動）を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
あり / Yes**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1-14	環境経済学の基礎理論	環境経済学の基礎理論の習得。文献調査の方法、発表の技術の習得等。
15-28	環境経済学の実践的応用	研究成果の発表。学外調査、学内インゼミ、学外インゼミなど、口頭発表の実地演習等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基礎的な経済理論（ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学、統計学・計量経済学等）の知識の習得本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

諸富他著『環境経済学講義』有斐閣ブックス、2008 年

【参考書】

ターナー・ピアス・バイトマン（大沼あゆみ訳）：『環境経済学入門』東洋経済新報社、2001 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %，報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】

好評価につき、変更なし。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター

【Outline and objectives】

Environmental economics.Nurturing comprehensive human capabilities such as general knowledge necessary for college students, information gathering / processing ability, presentation technique, negotiation skill, social property etc.

Basic economic theory naturally required as a student of economics (microeconomics, macroeconomics, international economics, statistics, econometrics etc.)

ECN218CA
演習
宮崎 憲治
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミの目的は、学生が経済学を用いて日常生活を説明し、社会人基礎力を身に付け、自分の適性にあった仕事をみつけれられるようになることである。

【到達目標】

企業が要求する基礎能力（読み・書き・プレゼン等）を向上させるだけでなく、就職活動中の面接で、経済学部生として経済学をしっかり勉強したと自信をもっていえるように訓育したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

そのために、経済学部生の学生がゼミナール活動で経済学の基本知識を獲得し、グループワークを通じてプレゼン能力、文章表現能力、ディベート能力を向上させるよう指導したい。具体的に、経済学の教科書をもちいて「学生」が順番に講義する。今年度、ミクロ経済学の教科書を用いる。また、各グループが興味を持った課題について講義する。今年は、論文の書き方、コミュニケーション能力、疑似科学などである。文章力向上のため、2年生は個人のテーマについて進級論文を、3年生はグループ論文を、4年生は卒業論文を執筆する。他にも、2、3年生は、インゼミ大会ディベート部門およびプレゼンテーション部門に出場する。就職活動対策として、4年生が3年生に対して模擬面接を実施する。更に春休みと夏休みにゼミ合宿を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ディベート技術	ディベート技術について講義する
第2回	ミクロ経済学（1）	ミクロ経済学について講義する。 消費者の理論
第3回	ミクロ経済学（2）	ミクロ経済学について講義する。 企業の理論
第4回	ミクロ経済学（3）	ミクロ経済学について講義する。 部分均衡理論
第5回	ミクロ経済学（4）	ミクロ経済学について講義する。 一般均衡理論
第6回	ミクロ経済学（5）	ミクロ経済学について講義する。 情報の非対称性
第7回	ミクロ経済学（6）	ミクロ経済学について講義する。 ゲーム理論
第8回	論文の書き方	論文の書き方について講義する
第9回	論文の書き方	論文の書き方について講義する
第10回	コミュニケーション能力（1）	コミュニケーション能力について 講義する。話し方
第11回	コミュニケーション能力（2）	コミュニケーション能力について 講義する。聞き方
第12回	グループ論文中間報告（1）	3年生の3分の1がグループ論文の中間報告をする
第13回	グループ論文中間報告（2）	3年生の次の3分の1がグループ論文の中間報告をする
第14回	グループ論文中間報告（3）	3年生の最後の3分の1がグループ論文の中間報告をする
第15回	卒論中間報告	4年生が卒論の中間報告をする

第 16 回	進級論文中間報告 (1)	2 年生の 3 分の 1 が進級論文の 中間報告をする
第 17 回	進級論文中間報告 (2)	次の 2 年生の 3 分の 1 が進級論文の 中間報告をする。
第 18 回	進級論文中間報告 (3)	最後の 2 年生が進級論文の中間 報告をする
第 19 回	マクロ経済学 (1)	マクロ経済学について講義する。 消費関数
第 20 回	マクロ経済学 (2)	マクロ経済学について講義する。 投資関数
第 21 回	マクロ経済学 (3)	マクロ経済学について講義する。 45 度分析
第 22 回	マクロ経済学 (4)	マクロ経済学について講義する。 ISLM 分析
第 23 回	マクロ経済学 (5)	マクロ経済学について講義する。 ADAS 分析
第 24 回	マクロ経済学 (6)	マクロ経済学について講義する。 成長理論
第 25 回	就職活動セミナー	OBOG を招いてセミナーを開く
第 26 回	インゼミ大会準備 (1)	インゼミ大会に備えディベートの 準備をする
第 27 回	インゼミ大会準備 (2)	インゼミ大会に備え 3 年生の 3 分の 1 がプレゼンの準備をする
第 28 回	インゼミ大会準備 (3)	インゼミ大会に備え 3 年生の次の 3 分の 1 がプレゼンの準備をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指定する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ生を 3 つのグループに分けて互いに競わせる。最も成績がよいグループを A+ 評価に、次のグループを A 評価に、最後のグループを B 評価にする。ゼミ活動を総合的に評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

When you take this course, you can explain daily life using economics, obtain basic skills for business persons, and find a suitable job for you.

ECN218CA
演習
石 碩
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の歴史・社会・文化・文学について幅広く学び、各自が関心を持ったテーマについて調査・発表を行う。

【到達目標】

以下の 2 点を到達目標とする。

- ①中国の歴史・文化・文学について基礎的な知識を身につけること
- ②自身の関心のある事柄をテーマとした上で、日本語もしくは中国語の文献を調査し、小論文の作成および口頭での発表ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期は主として課題や図書を決めたうえでグループごとにプレゼンを行う。これと並行して自身で選択したテーマについての小論文の作成を進める（夏休み中に仕上げて秋学期の初回授業までに提出）。秋学期は主として受講者が決めたテーマによる研究発表を行う。学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	面談	・履修希望者との面談
第 2 回	ガイダンス	・春学期の授業の進め方について ・発表の順番を決める
第 3 回	文献の調べ方 レジュメの作り方	・文献の調べ方について ・レジュメの作り方について
第 4 回	テキストの輪読・発表 ①	・輪読 ・研究発表
第 5 回	テキストの輪読・発表 ②	・輪読 ・研究発表
第 6 回	テキストの輪読・発表 ③	・輪読 ・研究発表
第 7 回	テキストの輪読・発表 ④	・輪読 ・研究発表
第 8 回	テキストの輪読・発表 ⑤	・輪読 ・研究発表
第 9 回	テキストの輪読・発表 ⑥	・輪読 ・研究発表
第 10 回	テキストの輪読・発表 ⑦	・輪読 ・研究発表
第 11 回	テキストの輪読・発表 ⑧	・輪読 ・研究発表
第 12 回	小論文の書き方①	・小論文の書き方について ・小論文の添削
第 13 回	小論文の書き方②	・小論文の書き方について ・小論文の添削
第 14 回	春学期のまとめ	・春学期のまとめ ・夏課題について
第 15 回	ガイダンス	・秋学期の授業の進め方について ・発表の順番を決める
第 16 回	夏課題の合評①	・夏課題の合評を行う
第 17 回	夏課題の合評②	・夏課題の合評を行う

- 第18回 研究テーマを決める① ・発表のテーマを決める
 第19回 研究テーマを決める② ・発表のテーマを決める
 第20回 研究発表① ・研究発表を行う
 第21回 研究発表② ・研究発表を行う
 第22回 研究発表③ ・研究発表を行う
 第23回 研究発表④ ・研究発表を行う
 第24回 研究発表⑤ ・研究発表を行う
 第25回 研究発表⑥ ・研究発表を行う
 第26回 研究発表⑦ ・研究発表を行う
 第27回 研究発表⑧ ・研究発表を行う
 第28回 秋学期のまとめ ・春学期のまとめ
 ・来年度のテーマについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、テキストを精読し、分からない語句などについて調べる。
 担当者は発表の準備（レジュメ・PPT など）をして来る。
 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

湯浅邦弘『テーマで読み解く中国の文化』ミネルヴァ書房

【参考書】

教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題・発表：60 %

平常点：40 %

【学生の意見等からの気づき】

学年を越えたグループワークと個人発表をバランスよく行いたい。

【その他の重要事項】

本演習とあわせて、中国語・中国文化関連科目を履修することが望ましい。

ただし、中国語の履修経験は必須ではない。

【Outline and objectives】

Learn about the history, society, culture and literature of China broadly and conduct surveys and presentations on subjects of which they are interested.

ECN218CA
演習
宮脇 典彦
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営分析の基本的な3分野（マーケティング、アカウンティング、ファイナンス）を学び、データ解析やプログラミング技法を身につける

【到達目標】

- ①経営分析の基本となるマーケティング、アカウンティング、ファイナンスの知識を、基本的なテキストを輪読することにより3年間で身につける（輪読するテキストのテーマは毎年交代）。
- ②データ解析の手法やプログラミング技法を習得する。
- ③調査能力とプレゼンテーション力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①および② グループ別にテキストに沿って輪読する。
- ③ 個人がテーマを選びプレゼンテーションを行い、全員で討議する。
 輪読形式での発表内容および個人のプレゼンテーションは、授業中にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	概説	1年間のスケジュールと内容の確認
第2回	経営分析・情報処理(1)	テキスト輪読・情報処理の手法の習得(1)
第3回	経営分析・情報処理(2)	テキスト輪読・情報処理の手法の習得(2)
第4回	経営分析・情報処理(3)	テキスト輪読・情報処理の手法の習得(3)
第5回	経営分析・情報処理(4)	テキスト輪読・情報処理の手法の習得(4)
第6回	経営分析・情報処理(5)	テキスト輪読・情報処理の手法の習得(5)
第7回	経営分析・情報処理(6)	テキスト輪読・情報処理の手法の習得(6)
第8回	経営分析・情報処理(7)	テキスト輪読・情報処理の手法の習得(7)
第9回	経営分析・情報処理(8)	テキスト輪読・情報処理の手法の習得(8)
第10回	経営分析・情報処理(9)	テキスト輪読・情報処理の手法の習得(9)
第11回	経営分析・情報処理(10)	テキスト輪読・情報処理の手法の習得(10)
第12回	経営分析・情報処理(11)	テキスト輪読・情報処理の手法の習得(11)
第13回	経営分析・情報処理(12)	テキスト輪読・情報処理の手法の習得(12)
第14回	卒業論文(1)	4年生による卒業論文中間発表・全員による質疑応答
第15回	経営分析・個人発表(1)	テキスト輪読・個別テーマを2, 3年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答(1)

第 16 回	経営分析・個人発表 (2)	テキスト輪読・個別テーマを2, 3年生がプレゼンテーション・全 員による質疑応答(2)
第 17 回	経営分析・個人発表 (3)	テキスト輪読・個別テーマを2, 3年生がプレゼンテーション・全 員による質疑応答(3)
第 18 回	経営分析・個人発表 (4)	テキスト輪読・個別テーマを2, 3年生がプレゼンテーション・全 員による質疑応答(4)
第 19 回	経営分析・個人発表 (5)	テキスト輪読・個別テーマを2, 3年生がプレゼンテーション・全 員による質疑応答(5)
第 20 回	経営分析・個人発表 (6)	テキスト輪読・個別テーマを2, 3年生がプレゼンテーション・全 員による質疑応答(6)
第 21 回	経営分析・個人発表 (7)	テキスト輪読・個別テーマを2, 3年生がプレゼンテーション・全 員による質疑応答(7)
第 22 回	経営分析・個人発表 (8)	テキスト輪読・個別テーマを2, 3年生がプレゼンテーション・全 員による質疑応答(8)
第 23 回	経営分析・個人発表 (9)	テキスト輪読・個別テーマを2, 3年生がプレゼンテーション・全 員による質疑応答(9)
第 24 回	経営分析・個人発表 (10)	テキスト輪読・個別テーマを2, 3年生がプレゼンテーション・全 員による質疑応答(10)
第 25 回	経営分析・個人発表 (11)	テキスト輪読・個別テーマを2, 3年生がプレゼンテーション・全 員による質疑応答(11)
第 26 回	経営分析・個人発表 (12)	テキスト輪読・個別テーマを2, 3年生がプレゼンテーション・全 員による質疑応答(12)
第 27 回	経営分析・個人発表 (13)	テキスト輪読・個別テーマを2, 3年生がプレゼンテーション・全 員による質疑応答(13)
第 28 回	卒業論文(2)	4年生による卒業論文最終発表・ 全員による質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2・3年生

グループ毎のサブゼミ・・・2時間

個人発表の準備・・・2時間

4年生

グループ毎のサブゼミ・・・2時間

卒論作成・発表準備・・・2時間

【テキスト（教科書）】

テキストは、履修生と相談の上決定します。

【参考書】

参考書は、必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

2・3年生

グループ別の輪読講義 50 %

個人発表 50 %

4年生

グループ別の輪読講義 30 %

卒論中間発表 20 %

卒業論文および発表 50 %

【学生の意見等からの気づき】

ゼミでは、学生の自主的な運営を尊重するよう心がけています。

【Outline and objectives】

1. Learn the basic three fields of business analysis (marketing, accounting, and finance)

2. Acquire data analysis and programming techniques

ECN218CA
演習
富永 靖敬
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、政治学方法論、また実証的な国際関係論（主に安全保障に関するテーマ）を体系的に学ぶことを通し、国際関係論に関する独自の学術研究を完成させることを目的とする。春学期には基本文献、海外ジャーナルを中心に輪読を行い、秋学期の前半では各自で選択したテーマについての先行研究の調査（発表）、また後半では個々の研究成果の発表を行う。

【到達目標】

単に興味のあるテーマについて調査した内容を発表するのではなく、政治的な現象についてパズルを見つけ、独自の仮説を立てた上で、質的・量的データを用いて実証する過程を通して、論理的かつ説得的に議論を展開できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者各自（またはグループ）の発表を中心に授業を進める。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。また4年次で履修する学生には、卒業論文作成のため、個別指導を中心に行い、さらに、授業内で発表の機会を複数回設けることにより他学生・教員からのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と発表の順番の決定。
2	基本文献の輪読(1)	報告と議論
3	基本文献の輪読(2)	報告と議論
4	基本文献の輪読(3)	報告と議論
5	基本文献の輪読(4)	報告と議論
6	基本文献の輪読(5)	報告と議論
7	基本文献の輪読(6)	報告と議論
8	研究論文の輪読とテーマの選定(1)	報告と議論
9	研究論文の輪読とテーマの選定(2)	報告と議論
10	研究論文の輪読とテーマの選定(3)	報告と議論
11	研究論文の輪読とテーマの選定(4)	報告と議論
12	研究論文の輪読とテーマの選定(5)	報告と議論
13	研究論文の輪読とテーマの選定(6)	報告と議論
14	研究論文の輪読とテーマの選定(7)	報告と議論
15	イントロダクション	授業の進め方の説明と発表の順番の決定。
16	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。

17	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
18	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
19	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
20	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
21	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
22	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
23	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
24	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
25	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
26	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
27	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
28	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文の作成は長時間の作業が必要となるため、授業外の時間を有意義に使うことを期待する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

【参考書】

久米郁男『原因を推論する 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013 年。
G・キング、R・O・コヘイン、S・ヴァーバ（真淵勝監訳）『社会科学のリサーチ・デザイン 定性的研究における科学的推論』勁草書房、2004 年。

Friden, Jeffry A., Lake, David A., and Schultz, Kenneth A. 2016. World Politics: Interests, Interactions, Institutions, Third Edition, New York: W.W.Norton & Company.

【成績評価の方法と基準】

輪読発表や各個人の研究発表など授業内での発表を 60%、最終レポートを 40%として成績評価を行う。4 年生は 100%卒業論文にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生主導でゼミ運営を行う。

【その他の重要事項】

発表しない者でも、担当者の発表に対して積極的にコメントして議論すること。ただし、問題点を指摘する場合には、改善方法も提示するなど、建設的な議論になるよう心懸けること。

【Outline and objectives】

The goal of this seminar is to write an academic article by each student in the field of international relations (particularly security studies). The completed article is required to follow a rigorous scientific standard which develops an original argument and testable hypotheses through critically analyzing previous research, quantitatively test the argument through collecting the data from the open source with rigorous empirical foundation, and provides policy implications in each selected topic. During the seminar, students are provided enough training for the analytical reading of published articles and analytical skills for developing own hypotheses. The hands-on workshop for learning the basics of political methodology and computer software (R studio) are also provided.

ECN218CA
演習
湯前 祥二
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

目標は次の2つです。(1) 生活の道具として、金融工学を修めること。(2) 研究および論文作成の手法を身につけること。いずれも、実社会での活動に直結しています。

【到達目標】

金融工学について理解し、実際の金融商品の価値を評価できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

金融工学は実際の学問です。(a) こみいった金融商品に値段をつけたり、(b) リスクを管理したり、(c) 最も良い投資配分を考えたりします。最近では個人向けに、一見、魅力的な金融商品が多く登場していますが、金融工学の知識があれば、その中身を冷静に調べて、よしあしを判断することができます。

一方、論理的に考え、レポートにまとめ、人を納得させる技術は、実社会の企画書、報告書の作成、およびプレゼンテーションといった場面で必須です。

輪読、研究発表、討論、問題演習、実地見学を行います。ただし、参加者の意見を反映させます。

並行して、年度を通して、新聞記事を使って時事問題を討論します。この他、参加者の意見を聞いて、モンテカルロ法実習（プログラミング）等を取り扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	輪読①	金融工学の基礎を身につけます。
第2回	輪読②	金融工学の基礎を身につけます。
第3回	輪読③	金融工学の基礎を身につけます。
第4回	輪読④	金融工学の基礎を身につけます。
第5回	輪読⑤	金融工学の基礎を身につけます。
第6回	輪読⑥	金融工学の基礎を身につけます。
第7回	輪読⑦	金融工学の基礎を身につけます。
第8回	輪読⑧	金融工学の基礎を身につけます。
第9回	輪読⑨	金融工学の基礎を身につけます。
第10回	輪読⑩	金融工学の基礎を身につけます。
第11回	輪読⑪	金融工学の基礎を身につけます。
第12回	輪読⑫	金融工学の基礎を身につけます。
第13回	輪読⑬	金融工学の基礎を身につけます。
第14回	輪読⑭	金融工学の基礎を身につけます。
第15回	輪読、研究発表、問題演習①	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第16回	輪読、研究発表、問題演習②	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第17回	輪読、研究発表、問題演習③	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第18回	輪読、研究発表、問題演習④	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第19回	輪読、研究発表、問題演習⑤	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

第20回	輪読、研究発表、問題演習⑥	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第21回	輪読、研究発表、問題演習⑦	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第22回	輪読、研究発表、問題演習⑧	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第23回	輪読、研究発表、問題演習⑨	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第24回	輪読、研究発表、問題演習⑩	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第25回	輪読、研究発表、問題演習⑪	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第26回	輪読、研究発表、問題演習⑫	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第27回	輪読、研究発表、問題演習⑬	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第28回	輪読、研究発表、問題演習⑭	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読では、発表担当者はもちろん、受講者全員が発表部分を熟読し、内容を理解しておいてください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。数式の展開も、実際に自分で手を動かして確認してください。発表担当者は、未解決の疑問点を残さないようにしてください。発表担当者以外は、質問を簡潔にまとめておいてください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金子誠一、佐井りさ (2012), 証券アナリストのための数学再入門, ときわ総合サービス。

【参考書】

藤林宏、矢野学、角谷大輔、袖山則宏 (2009), EXCEL で学ぶファイナンス (2) 証券投資分析 第3版, 金融財政事情研究会。

デービッド・G・ルーエンバーガー (2015), 金融工学入門第2版, 日本経済新聞社。

【成績評価の方法と基準】

(1) 論文およびレポート 25%, (2) 発表 25%, (2) 討論への参加状況 25%, (3) 宿題 25%, (4) 運営・活動への参加状況 25%, により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is a seminar in finance. It deals with specific issues concerning risk management.

ECN218CA
演習
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this seminar, whose theme is "Japanese business and society," students will learn about Japanese enterprises and their impact on the development of the Japanese economy and society. They will also improve their academic skills by preparing and making an academic presentation at 経済学部大会.

【到達目標】

The goal of the seminar is to guide students in their transition from a student to an active member of society. The main goals are (1) learning about/discussing Japanese business and society, (2) strengthening academic skills through research, including fieldwork; (3) enhancing leadership skills, (4) deepening global understanding, and (5) developing critical thinking skills. It is hoped that this seminar will stimulate students' intellectual curiosity as well as provide a space for building lasting friendships with the students they meet in and through the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

(1) To explore why and how Japanese business developed and its impact on society through readings, discussions, and fieldwork.

(2) To complete a group research project and present the findings at the faculty of economics presentation competition in December.

*Because of the spread of COVID19, the course contents and methodology are subject to change. According to the current university policy, classes in 2021 will be held in the classroom. However, if the spread of the virus precludes having in-person classes, this course will be taught online via zoom.

*Feedback on assignments/tests during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	First semester introduction	Welcoming new students; discussing the goals of the course and possible research topics
2	Introduction and academic skill building (1)	Learning how to prepare for this class; discussing research/fieldwork topics
3	Academic skill building (2)	What is research?; Learning about different types of research sources; activity to build critical thinking skills
4	Academic skill building (3); Library tour	Finding for a research topic; learning how to use library resources and databases (OPAC, Nikkei Needs, etc.)

5	Academic skill building (4)	Making effective use of statistical information in research presentations; lecture and discussion on why we should study Japanese business history
6	Academic skill building (5); theme-focused, student-led discussion	Learning about research methodologies; exploring Japanese business through reading and discussion based on students' research topics
7	Academic skill building (6); theme-focused, student-led discussion	Research, data analysis, and dissemination
8	Academic skill building (7); theme-focused, student-led discussion	Organizing the presentation; learning about the parts of an academic presentation; making an outline; exploring Japanese business through reading and discussion based on students' research topic
9	Academic skill building (8); theme-focused, student-led discussion	Incorporating non-verbal communication skills; bibliography and conclusion
10	Academic skill building (10); theme-focused, student-led discussion	Preparing for joint presentation event (tentative); exploring Japanese business through reading and discussion
11	Academic skill building (11); theme-focused, student-led discussion	Preparing presentation and peer review
12	Joint presentation event	Responding to and giving feedback; group discussion
13	Final preparations	Incorporating feedback; student-led activity and group discussion
14	Wrap up and review	Submission of final assignments (slides; genko); final discussion
15	Second semester introduction	Introduction; discussion of findings of summer fieldwork activities; explanations
16	Presentation preparation; Japanese business and society (case study 1)	Reading and discussion; Student-led activity (presentations and peer review)
17	Presentation preparation; Japanese business and society (case study 2)	Reading and discussion; Student-led activity (presentations and peer review); submit second "genko" draft (1)
18	Debate preparation	Student-led activity (preparing for class debate on a topic related to Japanese business and society)
19	Debate	Class debate on a topic related to Japanese business and society
20	Japanese business and society(case study 3)	Reading and discussion; selecting criteria for new seminar student selection
21	New seminar student selection	Seminar student selection

22	Finalizing presentations, peer review	Presentation practice; students submit revised presentation "genko" draft; writing presentation resume for pamphlet
23	Finalizing presentations, peer review	Presentation practice; PPT and resume finalization; feedback on presentation "genko"
24	Finalizing presentations, peer review	Student presentation practice; student-led activity; practicing non-verbal presentation skills
25	Final preparation for 経済学部大会	Student presentation practice; peer review
26	Preparing for final class; converting presentations into mini movies	反省会; wrap up; movie making for new seminar students
27	Welcome party for new seminar students	Introducing the seminar: student presentations, mini movies, Q&A, etc.
28	Final evaluations; wrap up	Submission of final assignments and completed feedback forms

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Do your reading assignment before coming to class! 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) 企業家に学ぶ日本経営史、テーマとケースでとらえよう、宇田川勝・生島淳（編）、有斐閣ブックス、2001.
- (2) 戦後日本の企業家活動、法政大学インベーション・マネジメント研究センター、宇田川勝（編）、文眞堂、2004
- (3) アカデミック・スキルズ、大学生のための指摘技術技法入門、慶應義塾大学出版会、2006
- (4) アカデミック・スキルズ、データ収集・分析入門社会を効果的に読み解く技法、慶應義塾大学出版会、2013

【参考書】

Additional references will be provided via the course website and/or library databases.

【成績評価の方法と基準】

Grades are based on (1) participation in all classroom activities, class field trip, presentations, and outside activities (70%); (2) attitude (including being prepared for class), teamwork, attendance, seminar management, etc. (30%). All students are required to make a presentation at the competition in December in order to pass this course. They must also participate in the leadership workshop, conduct a fieldwork project, and submit a course feedback form on the last day of class.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback is ALWAYS welcome! I try my best to incorporate your suggestions and am committed to improving the seminar.

【学生が準備すべき機器他】

Bring a PC to class.

【Outline and objectives】

In this seminar, whose theme is "Japanese business and society," students will learn about Japanese enterprises and their impact on the development of the Japanese economy and society. They will also improve their academic skills by preparing and making an academic presentation at 経済学部大会.

ECN218CA
演習
山田 快
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スポーツやそれに関連する事象に焦点を当て、心理学の観点からその多様な意味や役割、可能性などについて調べ、学び、考えていきます。

【到達目標】

主体的な取り組みを基礎に、スポーツに関わる諸問題を取り上げ、それについて調べ、理解し、考えることを通して、自分なりの見解（スポーツ観）を見出す。また、同見解を表出して、他者とディスカッションすることで、スポーツを自らの人生や社会に活かすための知識と姿勢を涵養することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

グループ（または個人）で研究テーマを設定し、そのことについて調べ、まとめていきます。まとめた内容を発表し、メンバーとディスカッションすることを通して、研究テーマに対する理解を深めていきます。また、オフィス・アワーで課題への取り組みに対するフィードバックを行い、良例を積極的に授業内で取り上げるにより、議論や理解を深めることに役立ちます。最終的に、以上の取り組みから得られた知見を論文化し、総括します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、役割を分担する	年度の活動計画を確認し、役割を決定する。
第 2 回	スポーツ心理学を知る	研究動向をはじめ、スポーツ心理学の基礎を学ぶ。
第 3 回	研究テーマを洗い出す①	関心のあるテーマを出し合い、意見交換を行う。
第 4 回	研究テーマを洗い出す②	関心のあるテーマを出し合い、意見交換を行う。
第 5 回	研究テーマを決定する	多様なキーワードから共通点を見出し、研究テーマを設定する。
第 6 回	先行研究を概観し、発表する①	研究テーマに関連する先行研究を読み、その内容を資料にまとめ、発表する。
第 7 回	先行研究を概観し、発表する②	研究テーマに関連する先行研究を読み、その内容を資料にまとめ、発表する。
第 8 回	先行研究を概観し、発表する③	研究テーマに関連する先行研究を読み、その内容を資料にまとめ、発表する。
第 9 回	研究計画を立てる①	研究計画を立案し、検討を重ねる。
第 10 回	研究計画を立てる②	研究計画を立案し、検討を重ねる。
第 11 回	研究計画を発表し、再考する①	研究計画を資料にまとめ、発表し、意見交換を行う。
第 12 回	研究計画を発表し、再考する②	研究計画を資料にまとめ、発表し、意見交換を行う。

第 13 回	調査方法を学ぶ①	研究テーマに見合うデータの収集方法を学ぶ。
第 14 回	調査方法を学ぶ②	研究テーマに見合うデータの収集方法を学ぶ。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	調査データを分析する①	収集したデータの分析方法を学び、実践する。
第 16 回	調査データを分析する②	収集したデータの分析方法を学び、実践する。
第 17 回	分析結果を考察する①	分析から導き出された結果が示す意味を考える。
第 18 回	分析結果を考察する②	分析から導き出された結果が示す意味を考える。
第 19 回	分析結果を考察する③	分析から導き出された結果が示す意味を考える。
第 20 回	研究論文を執筆する①	一連の研究活動を論文にまとめる。
第 21 回	研究論文を執筆する②	一連の研究活動を論文にまとめる。
第 22 回	研究論文を執筆する③	一連の研究活動を論文にまとめる。
第 23 回	研究論文を執筆する④	一連の研究活動を論文にまとめる。
第 24 回	研究成果を発表する①	研究論文の内容を資料にまとめ、発表し、意見交換を行う。
第 25 回	研究成果を発表する②	研究論文の内容を資料にまとめ、発表し、意見交換を行う。
第 26 回	研究成果を発表する③	研究論文の内容を資料にまとめ、発表し、意見交換を行う。
第 27 回	研究成果を発表する④	研究論文の内容を資料にまとめ、発表し、意見交換を行う。
第 28 回	年度の活動を総括する	年度の活動を振り返り、次年度に活かす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃からスポーツに興味と関心をもって、テレビや雑誌、インターネットなどの多様な情報媒体を活用しながら、知識の収集と修得に努めてください。また、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう、計画的に資料の準備を進めてください（1 回の授業につき、4 時間以上を目安に主体的な学習活動に励むこと）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて、適宜資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の出席を前提に、授業への参画状況（50 %）を主な基準として、そこに発表（30 %）と進級・卒業論文（20 %）の出来を加え、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ活動の醍醐味である他者とのディスカッションをより活発にするため、チームビルディングなどを活用して、良好なメンバー同士の関係性と雰囲気、体制づくりに努めます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC や AV 機器などの準備をお願いします。

【その他の重要事項】

学生自身が主体的に授業を運営していくことがゼミの本分です。ついては、受身でなく、積極的な姿勢で学習活動に臨んでください。

【オフィス・アワー】

授業後、随時質問を受け付けます。

【Outline and objectives】

This seminar focuses on researching and deepening the comprehension concerning sports or health from the perspective of psychology.

ECN218CA
演習
梅津 亮子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、管理会計の専門知識およびマネジメント手法を習得することを目的とします。管理会計を学習する前提として経営学全般の知識も必要となりますので、まずは組織の仕組みや組織のマネジメントに関する基礎知識を吸収してもらいます。その上で、原価計算や管理会計の上級の学習内容を積み上げていきます。

【到達目標】

1. 管理会計の専門的な知識を習得し、様々な経営課題に対してそれらの知識を応用展開することができる、2. 進級論文や卒業論文の作成を通じて、論理的な思考力、表現力、発想力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

本演習では、管理会計、原価計算および経営学の領域について年間数冊のテキストを読みこんでいきます。テキストの担当箇所について各自レジュメを作成して、報告してもらいます。テキストの輪読・報告・議論を通じて、各自、卒業研究として取り組みたいテーマを見つけていくこと。レポート課題等については、演習の中で講評を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	年間計画の説明
第 2 回	基礎知識の習得 1	テキスト 1 担当箇所の割り当て、輪読と解説、議論
第 3 回	基礎知識の習得 2	輪読と解説、議論
第 4 回	基礎知識の習得 3	輪読と解説、議論
第 5 回	基礎知識の習得 4	輪読と解説、議論
第 6 回	基礎知識の習得 5	輪読と解説、議論
第 7 回	資料検索・収集	資料検索、データベースの利用
第 8 回	原価計算の基礎 1	テキスト 2 担当箇所の割り当て、レジュメ作成・報告・議論
第 9 回	原価計算の基礎 2	レジュメ作成・報告・議論
第 10 回	原価計算の基礎 3	レジュメ作成・報告・議論
第 11 回	原価計算の基礎 4	レジュメ作成・報告・議論
第 12 回	研究計画書の作成	研究テーマの設定、研究計画書の作成・報告
第 13 回	ゼミ合宿 1	テキスト 3 合宿の準備・実施
第 14 回	ゼミ合宿 2	テキスト 4 合宿の準備・実施
第 15 回	夏休みの研究報告 1	レポートの提出と報告 1
第 16 回	夏休みの研究報告 2	レポートの提出と報告 2
第 17 回	管理会計入門 1	テキスト 5 担当箇所の割り当て、レジュメ作成・報告・議論
第 18 回	管理会計入門 2	レジュメ作成・報告・議論
第 19 回	管理会計入門 3	レジュメ作成・報告・議論
第 20 回	管理会計入門 4	レジュメ作成・報告・議論
第 21 回	管理会計入門 5	レジュメ作成・報告・議論
第 22 回	中間報告会	進級論文の中間報告、卒業論文の中間報告
第 23 回	管理会計応用 1	テキスト 6 担当箇所の割り当て、レジュメ作成・報告・ディスカッション
第 24 回	管理会計応用 2	レジュメ作成・報告・議論
第 25 回	管理会計応用 3	レジュメ作成・報告・議論
第 26 回	管理会計応用 4	レジュメ作成・報告・議論
第 27 回	管理会計応用 5	レジュメ作成・報告・議論

第 28 回 論文報告会

進級論文の報告、卒業論文の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめテキストを読んでくること。専門用語などは調べておくこと。
本演習の準備・復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回時に指示します。

【参考書】

必要に応じてそのつと紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習への貢献度 30 %、レジュメの完成度 25 %、報告内容 25 %、レポート課題 20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The seminar studies recent topics on management accounting and cost accounting.

ECN218CA

演習

杉本 龍勇

開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツの経済的役割およびスポーツビジネスの状況を把握し、スポーツの経済効果やマーケティング戦略について理解する。

【到達目標】

多くの具体例を題材にし、スポーツの多様な経済効果とスポーツビジネスの構造および現状について理解する。そしてスポーツの経済効果を高める考え方や方法について具体的に述べられるようにすること、またスポーツ商品に対する戦略的なマーケティング思考を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代社会におけるスポーツの環境、社会的役割、経済的役割についての資料を収集する。そして収集した資料を基にレポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。またスポーツビジネスの現場見学などを行い、実践的な側面についても学ぶ。様々なスポーツの現状を理解した上で、スポーツの経済効果やスポーツビジネスについて検討・研究を進めていく。

毎回の授業内で、レポートの添削やプレゼンテーションに対するアドバイスなどのフィードバックを行う。また授業以外でも、学習支援システム等を利用して、同様のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミの進め方について説明
第 2 回	スポーツの社会的意義	テーマについての講義
第 3 回	政策としてのスポーツ 1	テーマについての講義
第 4 回	政策としてのスポーツ 2	プレゼンテーションおよび討論
第 5 回	財政負担軽減策としてのスポーツ 1	テーマについての講義
第 6 回	財政負担軽減策としてのスポーツ 2	プレゼンテーションおよび討論
第 7 回	財政負担軽減策としてのスポーツ 3	プレゼンテーションおよび討論
第 8 回	スポーツ産業の構造 1	テーマについての講義
第 9 回	スポーツ産業の構造 2	プレゼンテーションおよび討論
第 10 回	スポーツ産業の構造 3	プレゼンテーションおよび討論
第 11 回	スポーツにおける消費者行動 1	テーマについての講義
第 12 回	スポーツにおける消費者行動 2	プレゼンテーションおよび討論
第 13 回	スポーツにおける消費者行動 3	プレゼンテーションおよび討論
第 14 回	スポーツにおける消費者行動 4	プレゼンテーションおよび討論
第 15 回	スポーツイベントの経済効果 1	テーマについての講義
第 16 回	スポーツイベントの経済効果 2	プレゼンテーションおよび討論
第 17 回	スポーツイベントの経済効果 3	プレゼンテーションおよび討論

第 18 回	スポーツイベントの経 済効果 4	プレゼンテーションおよび討論
第 19 回	CRS としてのスポー ツ 1	テーマについての講義
第 20 回	CRS としてのスポー ツ 2	プレゼンテーションおよび討論
第 21 回	スポンサーシップ 1	テーマについての講義
第 22 回	スポンサーシップ 2	プレゼンテーションおよび討論
第 23 回	スポンサーシップ 3	プレゼンテーションおよび討論
第 24 回	プロスポーツの経営 1	テーマについての講義
第 25 回	プロスポーツの経営 2	プレゼンテーションおよび討論
第 26 回	プロスポーツの経営 3	プレゼンテーションおよび討論
第 27 回	スポーツ種目のマーケ ティング 1	テーマについての講義
第 28 回	スポーツ種目のマーケ ティング 2	プレゼンテーションおよび討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ全般に関する資料および文献の収集
スポーツの経済効果に関する具体的事例に関する資料および文献収
集本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

「Sports Economics theory, evidence and policy」 Paul
Downward, Alistair Dawson, Trudo Dejonghe 著 Routledge
「The Economics of Sport」 Robert Sandy, Peter J.Sloane, Mark
S.Rosentraub 著 Palgrave macmillan

「スポーツ経済学」 里麻克彦著 北海道大学出版会
「スポーツの経済学」 マイケル・A・リーズ、ペーター・フォン・
アルメン著 大坪正則監訳 佐々木勉訳 中央経済社
「スポーツマーケティング交換課程の経営」

スポーツマネジメント研究会 編訳「スポーツマネジメント」ボ
ニー L・パークハウス編著 大修館書店

「スポーツ・マーケティングの基礎」 B.G. ピッツ・D.K ストット
ラー編著 白桃書房

「Sport in Consumer Culture」 John Horne 著 Palgrave
macmillan

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%
レポートの内容 40%
プレゼンテーションの内容 40%

【学生の意見等からの気づき】

講義とプレゼンテーションのバランスを計りたい。また、より盛ん
なディスカッションを促すようなプレゼンテーションとなるような
工夫をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

【教室における対面授業の場合】

PowerPoint や Keynote などのプレゼンテーションソフトを使用し
て発表してもらう。

コロナウィルス感染拡大の状況により、キャンパスへの登校に支障
がある場合は、オンライン（ライブ形式）での授業参加も認める。

【オンライン授業の場合】

Zoom などのオンデマンドミーティングアプリを使用し、プレゼ
ンテーションを進める。

ミーティング前には、メール等によってミーティングに関する情報
を通知するので、確認すること。

【Outline and objectives】

The purpose is acquire knowledge about economic impact
of sports and strategies of sports marketing to understand
current status of sports business and economic influence of
sports.

ECN218CA
演習
池田 雅美
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に認知心理言語学、言語科学などの知見に基づく英語の効果的な
習得を目指すとともに、学習者自身の英語力の習得データに関する
実証的研究方法、分析方法を学ぶ。

【到達目標】

- (1) 認知心理言語学、第二言語習得に関する英語で書かれた原書を
正確に理解し、要約し、検討・分析する能力を習得する。
- (2) 自分の意見や考えを先行研究や調査結果を踏まえて根拠に基づ
いて、英語で相手に分かりやすく説明する能力を習得する。
- (3) ゼミ生全員が 2 年終了時に TOEIC ® 700 点、3 年終了時に
TOEIC ® 800 点、4 年終了時に TOEIC ® 900 点の取得を到達目
的とする。
- (4) 3 年終了時までに統計処理に基づく実証的研究方法の基礎を習
得することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」
「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」
「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- (1) SLA に関する英文の専門書を扱う。ゼミ生は自分の発表担当
箇所を熟読し、概要と自分の意見を加えた英文のレジュメを作成し、
英語で発表する。次にその内容に関して正確な知識の確認を踏まえ、
全員で問題点に関して議論する。(2) 実証的な研究方法の基礎を統
計処理演習を通じて習得していく。各自が PC を活用して実際に統
計処理の基礎（アンケート集計法、t 検定、相関係数、因子分析な
ど）を習得できるように演習する。(3) プレゼン用多読課題とし
て Phoenix from the Flames をなどを扱う。(4) リアクションペー
パーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらに議論を
深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの運営方法と学習 方法の説明	ゼミの運営方法、予習方法、進級 論文の作成予定作成方法の概要の 説明 (担当教員、前年度ゼミ長)
第 2 回	第二言語習得研究の傾 向	SLA の歴史的発達と進展状況の 概説、SLA、CORE1900、統語処 理 test
第 3 回	形態素の習得、パラグ ラフの構成 (1)	形態素の習得の原理とメカニズ ム、SLA、談話処理 test、 Functions of Topic Sentence
第 4 回	音韻の習得、パラグラ フの構成 (2)	音韻処理のプロセス、SLA、各自 の進級論文の概要、Function of Supporting Sentences
第 5 回	語彙の習得、パラグラ フの構成 (3)	語彙処理のプロセス、SLA、 CORE1900、各自の進級論文の 概要、Function of Concluding Sentence
第 6 回	統語の習得、パラグラ フの展開型 (1)	統語処理のプロセス、SLA、各自 の進級論文の概要、Facts & Example

第 7 回	第二言語習得における誤りの分析, パラグラフの展開型 (2)	誤りの分析のプロセス, SLA, 各自の進級論文の概要, Comparison & Contrast
第 8 回	第二言語習得における学習者要因, パラグラフの展開型 (3)	学習ストラテジーと動機づけ, SLA, 各自の進級論文の概要, Chronological Order
第 9 回	年齢と第二言語習得, パラグラフの展開型 (4)	年齢要因と臨界期仮説, SLA, CORE1900, 各自の進級論文の概要, Hypothesis Testing
第 10 回	クラスルーム・リサーチと第二言語習得, パラグラフの展開型 (5)	クラスルーム・リサーチとアクション・リサーチ, SLA, Problem Solution
第 11 回	英語教育学と第二言語習得, パラグラフの展開型 (6)	英語教育学を支える第二言語習得理論, SLA, 各自の進級論文の概要, Cause & Effects
第 12 回	リスニングとオーラル・コミュニケーション, パラグラフの展開型 (7)	リスニングのメカニズム, プロセス, ストラテジー, SLA, 各自の進級論文の概要, Cognitive Analysis
第 13 回	スピーキングとオーラル・コミュニケーション, 照応関係 (1)	スピーキングのメカニズム, プロセス, ストラテジー, SLA, 各自の進級論文の概要, Anaphora
第 14 回	リーディング, 照応関係 (2) 照応関係 (2)	リーディングのメカニズム, プロセス, ストラテジー, SLA, Cataphora
第 15 回	ライティング, 談話標識の機能 (1)	ライティングのメカニズム, プロセス, ストラテジー, SLA, CORE1900, Conjunction
第 16 回	実証的研究の方法, 談話標識の機能 (2)	数量的リサーチ, SLA, CORE1900, Reverse Conjunction
第 17 回	実証的研究の方法, 談話標識の機能 (3)	質的リサーチ, SLA, Core 1900, Addition
第 18 回	統計処理の方法 (a), 未知語の推測 (1)	統計処理の方法 (t 検定, 分散分析, 多重比較など) の演習, SLA, Word Formation-based Inference
第 19 回	統計処理の方法 (b), 未知語の推測 (2)	統計処理の方法 (相関係数, 因子分析など) の演習, SLA, Context-based Inferences
第 20 回	実証的研究の計画と方法, 推論 (1)	研究計画の立案とリサーチデザインと分析・考察の方法, SLA, CORE1900, Bridging Inferences
第 21 回	普遍文法理論と第二言語習得研究, 推論 (2)	普遍文法理論の適用可能性, SLA, Elaborating Inferences
第 22 回	認知言語学と第二言語習得研究, 研究方法 (1)	認知言語学の適用可能性, SLA, 研究テーマの設定
第 23 回	第二言語語彙処理研究, 研究方法 (2)	第二言語語彙処理研究との関連性, SLA, CORE1900, 研究テーマと関連する先行研究の収集
第 24 回	第二言語音韻処理研究, 研究方法 (3)	第二言語音韻処理研究との関連性, SLA, 収集した情報・データ・研究成果の整理・比較分析
第 25 回	第二言語文処理研究, 研究方法 (4)	第二言語文処理研究との関連性, SLA, 研究論文の構成・章立て・筋立て・アウトラインに関する考察
第 26 回	第二言語意味処理研究, 研究方法 (5)	第二言語意味処理研究との関連性, SLA, 研究論文のアウトラインに基づく各章の執筆
第 27 回	認知心理言語学研究 (a) 研究方法 (6)	第二言語統語処理のメカニズム, SLA, CORE1900, 研究論文の論旨の推敲・文章の推敲

第 28 回	認知心理言語学研究 (b) 研究方法 (7)	第二言語統語処理のプロセスとストラテジー, SLA, 研究論文の問題点、及び今後の展望の執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 研究論文、原書、刊行物、著書などを熟読し、発表ハンドアウトにまとめ、発表する。(2) Core1900 を課題学習し、90%以上習得する。(3) TOEIC®の問題集を課題学習し、その成果を英語で発表する。(4) 実証的研究法に基づく統計処理方法の基礎を習得する。(5) Phoenix from the Flames の多読とプレゼン原稿を作成する。授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) Introducing Second Language Acquisition, Muriel Saville-Troike, Karen Barto (2016), (CUP) (2) Phoenix from the Flames, (2015) (National Geographic Learning) Masanori Terauchi, et al (3) 『英語教育学の実証的研究法入門 Excel で学ぶ統計処理』(2012) 寺内正典(編集代表) 中谷安男(編) (研究社) (4) 『第二言語習得研究の現在』(2004) (大修館書店) 小池生夫(編集主幹) 寺内正典、木下耕児、成田真澄(編著) (5) 『速読速聴・英単語 Core 1900』松本茂(監修) (Z 会)

【参考書】

参考文献

『応用言語学事典』(2003) (研究社) 小池生夫(編集主幹) 寺内正典(チーフ編集コーディネーター)
『言語科学の百科事典』(2006) (丸善) 鈴木良次、畠山雄二、岡ノ谷一夫、萩野綱男、金子敬一、寺内正典、藤巻則夫、森山卓郎 編著

【成績評価の方法と基準】

評価方法・評価基準

(1) 「研究発表」[40 %] (2) 「レポート」「進級論文」[40 %]
(3) 「テスト」 [20 %]

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生個々人の学習要因とストラテジーの差異を出来るだけ正確に理解するとともに、一人一人の個性も尊重しながら学習あるいは、その他の各種の悩みなどのカウンセリングを行なうことの重要性を認識した。

【学生が準備すべき機器他】

DVD と Video と Laptop PC などを用意活用する。

研究発表を行う場合や実証的研究に関する統計的手法を学ぶ際に貸与パソコンの持参などが必要になる。

貸与パソコン、貸与タブレット「学習支援システム」などの活用が必要な状況が生じた場合は、その旨お知らせいたします。また、使用上の留意点なども合わせてお知らせします。

【その他の重要事項】

自分の発表個所以外も事前にきちんと予習しておくこと、授業の理解度は、リアクション・ペーパーで確認する。

進級論文 (2 年生・3 年生は全員必修) の指導に関しては、ゼミ全体での論文計画書の発表会だけでなく、個人の必要に応じて、より丁寧な個人指導も行う。

特に 4 年生に関しては、卒論計画書を 2 回提出させ、当該計画書に基づいて発表させ、ゼミ生間で互いに修正案を検討させる。その後、教師が改善・修正のためのコメントを行う。なお進行状況に応じてこのサイクルを計 3 回行わせ、漸次、計画的に卒論が完成できるように支援していく。

【Outline and objectives】

Students will acquire higher cognitive Level of English language abilities, fundamental knowledge of cognitive psycholinguistics, Linguistic Sciences and experimental research methods

ECN218CA
演習
飯野 厚
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語を運用する力の向上、異文化間コミュニケーションの体験と学習。SDGs に関連する国際社会の諸問題について調べ、発表し、解決策を提案し、議論する。

【到達目標】

異文化間コミュニケーションを専門的に理解し、英語力の研鑽に努めながら、英語を使用して国内外のさまざまなシーンで異文理解・国際協力が実践できる。

・SDGs に関連した話題について英語でプレゼンテーション・ディスカッション・ディベートができる。

・英語を使った行動の実践（国内・国際ボランティア、インターンなど）

・CEFR B2 レベルの英語力の習得（TOEIC 2 年終了時 600 点（B1）、3 年 700 点、4 年 800 点（B2）、TOEFL71 点、英検準 1 級）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

フィードバックを授業内外で随時行う。

2・3 年

ゼミ時：プレゼンテーション（グループ割当制）& ディスカッション&ディベート（討論→発表→討論）

・サブゼミ・オンライン対話：ゼミ時の討論の仕上げとして外国に住む英語話者に話題について解説と質問をし、外国事情を論じ合う（半期 10 回）

・ポイント制英語自主学習（POINT System English Self-access Study[POSSES]）：毎月メニューから選んで英語の勉強を実行し、30pt となるように学習記録を申告する。270pt/年（前年度 2 月から 12 月までの間）以上。

・進級レポート&プレゼン（自らの英語の変化の振り返り）

4 年

ゼミに年間 10 回以上参加する。卒論の執筆指導を行う。前期リサーチプロポーザル、データ収集計画作成、途中まで完成。後期、12 月初旬完成。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	Orientation	ゼミ進行方法、内容説明 各種英語力テスト（Speaking）
2	Guidance Presentation DMM Guide Brainstorming for Group topics	2 年自己紹介プレゼン self-intro 3 年春休み学習体験プレゼン POSSES/DMM 英会話ガイド ス
3	Unit 1 Internet Safety or Freedom of Expression? Should Internet content be regulated by law?	Presentation, Discussion and Role-play + Group work

4	Unit 2 Honor or Burden? Is hosting the Olympics a good idea?	Presentation, Discussion and Role-play
5	Unit 3 Clean Energy or Potential Threat? Should nuclear power generation be restored in Japan?	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
6	Unit 4 Real Risk or Great Technology? Should genetically modified foods be promoted?	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
7	Unit 5 Legalization or Outlawing of Gay Marriage? Should gay marriage be legalized?	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
8	Unit 6 Separate Smoking Area or Total Ban? Should smoking be banned in public places?	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
9	Unit 7 Right to Die or Responsibility to Live? Should mercy killing be legalized?	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
10	Unit 8 Punishment or Discipline? Is corporal punishment necessary at school?	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
11	(SDGs original topic by teams) topic 9 Team A; Topic 10 Team B	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
12	(SDGs Original in teams)Topic 11 Team A; Topic 12 Team B	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
13	Research planning by Teams during the summer vacation	Create the plan to find previous research and data in the literature; collect quantitative or qualitative data
14	Compiling progress report	Progress report writing

秋学期

回	テーマ	内容
1	Presentation	Individual speech about learning experiences during summer vacation
2	Compilation of data collected during the summer vacation	Team based work to refine the team presentation made in the previous semester
3	Unit 10 Should the performance-based pay system be introduced into companies?	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
4	Unit 11 Free Trade or Protection: Is it beneficial to participate in Trans Pacific Partnership (TPP) ?	Presentation, Discussion and Role-play + Group work

5	Unit 12 Animal Rights or Human Profits?: Should animal testing be maintained or abandoned?	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
6	Unit 13 Should Article 9 of Japanese constitution revised?	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
7	SDGs Topic chosen by Team A	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
8	SDGs Topic chosen by Team B	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
9	SDGs Topic chosen by Team C	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
10	SDGs Topic chosen by Team D	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
11	Cross-cultural understanding workshop planning 1	Group work
12	Cross-cultural understanding workshop planning 2	Group work
13	Review of Interaction in online conversation	Examine the progress in speaking by reviewing VTR
14	Consolidating Point System of English Self-access Study[POSSES]	Individual interview

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・サブゼミのオンライン対話は授業と同じ扱いなので週 1 回 Zoom Meeting は必ず実施（録画を GDrive に提出）。
- ・ポイント制英語学習を計画的に進める。学習記録は Hosei メール連動の GDrive 共有ファイルにアップロード。現物は保存し教室のフォルダにファイル。
- ・プレゼンテーションは 1 週間前にスライド完成が原則。準備は Zoom 会議で打ち合わせと練習を実施。
- ・ゼミ合宿やゼミの集まりなど行事参加は原則として必須。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

“Pros and Cons”(Cenbgage Learning)

【参考書】

『異文化理解入門』 研究社
 "Introducing language and intercultural communication" Jane Jackson (2014)(Routledge)

【成績評価の方法と基準】

1. 50% 授業内活動 授業前課題、発表準備度、ワークシート完成、ほか課題
2. 50% サブゼミサブゼミの活動、自主英語学習ポイント（実施した自主課題の量と質）、課題レポート、

2 または 3 の評価が極端に低い場合は単位認定しません。
 評価 C で単位認定の場合は、翌年のゼミ履修は許可しません。

【学生の意見等からの気づき】

学生が自らトピック設定できる余地を作る。義務となっているグループでのサブゼミは 50 分程度以上の時間を要するので、通常ゼミ授業を若干早めに終了する。

【学生が準備すべき機器他】

・Zoom を用いてサブゼミ方式で学生 3 名の討論を毎週空き時間に行う。学期に 10 回程度設け、英語で議論力の充実を図る。録音/録画の提出が義務。

・サブゼミは各自のパソコンで実施するため、オンラインソフトの設定も含め事前に準備する（年 4 回のスピーキングテストを含むオンライン実習費を徴収する）

【その他の重要事項】

- ・授業出席に関してはガイダンスで説明
- ・提出物は 100%実施が原則。
- ・4 年生は卒論を書くことを前提に履修する。
- ・4 年生は前期中 5 回は授業に出席する。
- ・卒論はプロポーザル認定（5 月）のあと、5 月に RP 確認、6 月に 1 度、10 月・11 月に書いたものを「印刷して提出 → 添削・返却 + 面談 → 修正対応」を繰り返す。
- ・卒論作成のため、飯野の Academic Research Seminar の履修を推奨する。

【Outline and objectives】

This seminar help students improve their output performance in English through using English for intercultural communication

ECN218CA
演習
伊東 林蔵
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ近現代史を学習するゼミである。政治経済分野のみならず、文化・社会問題などに至るまで、参加者の関心にしたがって幅広くヨーロッパ史を探究する。今年度はとりわけ戦争、地域紛争、迫害などを通じて引き起こされる人間の移動の問題を取り上げ多面的に考察する。

【到達目標】

戦火を逃れるための避難・疎開、敵軍の侵攻を恐れ逃亡を余儀なくされる住民、人種・文化政策あるいは政治的、宗教的迫害の犠牲者、強制労働による徴用、領土変更を通じ国籍の変更を強要あるいは故郷の土地から追放される住民、強制移住や入植、兵役あるいは捕虜としての移動とその帰還など、戦争に起因する人間の移動の形態は様々である。ゼミではこれら戦禍と人間移動の諸関係を 19 世紀末から 21 世紀の現代に至るまでの様々な歴史的事例から学ぶ。同時に、ヨーロッパは固定しておらず、その内部は人的にも領土的にも過去多くの変動を経験していることを理解する。さらに現代ヨーロッパの時事問題について、毎回新しいテーマを取り上げディスカッションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. ヨーロッパ近現代史（18 世紀以降半から 20 世紀半ばまで）の基礎知識を文献講読を通じて習得する。2. 戦禍あるいは迫害と人間の移動に関する各種の事例に関し、その原因・背景、移動の実際、結果とその後の社会的影響などをケーススタディの形式で学習する。文献講読、各自調査、研究報告（毎回担当者を決める）、議論などを通じて参加者全員で学ぶ。3. テーマ設定、分担など詳細な年間計画は、参加者の人数と希望に合わせ、ゼミ開講後に調整する。

本年度は、対面授業となる。

毎回の授業にあたり、その都度、システムに掲載される指示に従うこと。4 月 13 日（火）を第一回ゼミとする。教室は 320 室を使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	ゼミの概要、参加者の自己紹介など
2	18 世紀後半から 20 世紀前半ヨーロッパの社会・経済・文化	講義、文献講読、議論
3	19 世紀前半の様相	講義、文献講読、議論
4	19 世紀後半から第一次大戦勃発まで	講義、文献講読、議論
5	第一次世界大戦	講義、文献講読、議論
6	ヴェルサイユ条約	講義、文献講読、議論
7	1920 年代のヨーロッパ	講義、文献講読、議論
8	1930 年代のヨーロッパ	講義、文献講読、議論
9	第二次世界大戦（1）	講義、文献講読、議論
10	第二次世界大戦（2）	講義、文献講読、議論
11	第二次世界大戦（3）	講義、文献講読、議論

12	第二次大戦の終わりとヨーロッパの再編、復興	講義、文献講読、議論
13	冷戦、東西陣営の対立	講義、文献講読、議論
14	ソ連・東欧社会主義圏の崩壊	講義、文献講読、議論
15	研究報告	個人研究報告、討論
16	研究報告	同上
17	研究報告	同上
18	研究報告	同上
19	研究報告	同上
20	研究報告	同上
21	研究報告	同上
22	研究報告	同上
23	研究報告	同上
24	研究報告	同上
25	研究報告	同上
26	研究報告	同上
27	研究報告	同上
28	研究報告	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ヨーロッパ近現代史の関連文献を自分で開拓、また新聞等を通じ日頃から時事問題への関心を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし。必要に応じて指示、配布する。

【参考書】

指定なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、研究レポート 50 %。

学習確認として定期的に小課題を出しその提出と達成度を平常点の成績評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

In this seminar, we study European modern history in the 19th and 20th centuries. We will try to explore not only the economic and political developments, but also the cultural and the social movements in Europe. In this semester, special attention will be paid to the problems which were caused by the war-related changes in national border such as expulsion and migration.

ECN218CA
演習
菅 幹雄
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学、地理情報システムソフト（QGIS）、産業連関分析、テキストマイニングを学び、これらの技法を実際の統計へ応用する。

【到達目標】

統計データを用いて実証分析を行い、発表できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

4 時限目：春学期は統計検定過去問 3 級、地理情報システムソフト（QGIS）、産業連関分析を学んだ後、3 年生と 4 年生が研究発表を行う。秋学期は統計検定過去問 2 級、テキストマイニングを学んだ後、2 年生、3 年生が研究発表、4 年生が卒業論文発表を行う。

5 時限目：パソコンを用いた統計に関する演習を行う。学生の発表についてコメントすることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【4 時限目】ガイダンス／【5 時限目】PC 演習	ガイダンス／『R によるやさしい統計学』第 1 章 R と統計学
2	統計検定 3 級過去問 (1)／PC 演習	統計検定 3 級過去問 (1)／『R によるやさしい統計学』第 2 章 1 つの変数の記述統計
3	統計検定 3 級過去問 (2)／PC 演習	統計検定 3 級過去問 (2)／『R によるやさしい統計学』第 3 章 2 つの変数の記述統計
4	統計検定 3 級過去問 (3)／PC 演習	統計検定 3 級過去問 (3)／『R によるやさしい統計学』第 4 章 母集団と標本
5	統計検定 3 級過去問 (4)／PC 演習	統計検定 3 級過去問 (4)／『R によるやさしい統計学』第 5 章 統計的仮説検定
6	QGIS(1)／PC 演習	QGIS(1)／『R によるやさしい統計学』第 6 章 2 つの平均値を比較する
7	QGIS(2)／PC 演習	QGIS(2)／『R によるやさしい統計学』第 7 章 分散分析
8	QGIS(3)／PC 演習	QGIS(3)／『R によるやさしい統計学』第 8 章 ベクトル・行列の基礎
9	QGIS(4)／PC 演習	QGIS(4)／『R によるやさしい統計学』第 9 章 データフレーム
10	産業連関分析 (1)／PC 演習	仮想 3 部門表／『R によるやさしい統計学』第 10 章 外れ値が相関係数に及ぼす影響
11	産業連関分析 (2)／PC 演習	平成 27 年表、輸入外生モデル／『R によるやさしい統計学』第 11 章 統計解析で分かること・分からないこと
12	産業連関分析 (3)／PC 演習	平成 27 年表、輸入内生モデル／『R によるやさしい統計学』第 12 章 二項検定

13	研究発表 (3・4 年生)	研究発表 (3・4 年生)
14	研究発表 (3・4 年生)	研究発表 (3・4 年生)
15	ガイダンス／PC 演習	ガイダンス／『R による実証分析』第 2 章 統計の基礎知識
16	統計検定 2 級過去問 (1)／PC 演習	統計検定 2 級過去問 (1)／『R による実証分析』第 3 章 確率論の基礎
17	統計検定 2 級過去問 (2)／PC 演習	統計検定 2 級過去問 (2)／『R による実証分析』第 4 章 回帰分析の基礎
18	統計検定 2 級過去問 (3)／PC 演習	統計検定 2 級過去問 (3)／『R による実証分析』第 5 章 推測統計の基礎
19	統計検定 2 級過去問 (4)／PC 演習	統計検定 2 級過去問 (4)／『R による実証分析』第 6 章 相関関係と因果関係
20	テキストマイニング (1)／PC 演習	テキストマイニングで実現できること／『R による実証分析』第 7 章 外生変数と内生変数
21	テキストマイニング (2)／PC 演習	気軽に始めるテキストマイニング／『R による実証分析』第 8 章 ランダム化実験
22	テキストマイニング (3)／PC 演習	テキストデータを準備する／『R による実証分析』第 9 章 マッチング法
23	テキストマイニング (4)／PC 演習	KH Coder で伝える！ 分析アウトプット 5 選／『R による実証分析』第 11 章 操作変数法
24	テキストマイニング (5)／PC 演習	分析の精度を高める！ データクレンジング／『R による実証分析』第 10 章 不連続回帰デザイン
25	研究発表 (2・3・4 年生)	研究発表 (2・3・4 年生)
26	研究発表 (2・3・4 年生)	研究発表 (2・3・4 年生)
27	研究発表 (2・3・4 年生)	研究発表 (2・3・4 年生)
28	研究発表 (2・3・4 年生)	研究発表 (2・3・4 年生)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山田剛史、杉澤武俊、村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2700 円（税別）

星野匡郎、田中久稔『R による実証分析一回帰分析から因果分析へ』オーム社、2700 円（税別）

末吉美喜『テキストマイニング入門: Excel と KH Coder でわかるデータ分析』オーム社、2500 円（税別）

【参考書】

清水雅彦、菅幹雄『経済統計』培風館、3630 円

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 %、研究発表 40 %

【学生の意見等からの気づき】

統計検定の過去問の学習を春学期に集中させていたのを、春学期に 3 級、秋学期に 2 級に分けた。

【Outline and objectives】

Students learn statistics, geographic information system software (QGIS), input-output analysis, text mining and apply these techniques to actual statistics.

ECN218CA
演習
鈴木 誠
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、ファイナンス・証券投資という担当教員の専門分野を通じて、PC 能力および文章表現能力の向上を目指し、大学卒業後にできるだけ実践可能な能力を身につけることにある。

【到達目標】

本演習の目的は、証券投資や資産運用に応用可能な基本的なフレームワークを身につけて、それを実践可能なレベルに到達することである。また、グループワークによる論文（レポート、ショートペーパー等）執筆活動やプレゼンを通じて、文章力・表現力を向上させることも主要な目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は春学期と秋学期の 2 段構成で演習を行う。春学期は鈴木が担当し、秋学期は高橋が担当する。春は基本を習得し、秋はコーポレートファイナンスとオプションに注目した演習を行う予定である。（春学期）演習履修者に通読するテキストをそれぞれに割り振り、ハンドアウト資料を作成し、順に発表することとしたい。最初の 1 時限目は基礎から入門レベル、2 時限目は企業評価の演習とし、1 時限目は 2 年生中心、2 時限目は 3 年生中心に授業を進める。発表形式の演習において、発表時に適宜内容の過不足を補うフィードバックを行う予定である。

（秋学期）秋学期はコーポレートのファイナンスの実践的なトピックとして M&A と株主還元政策を取り扱う。こちらはテキストをベースに輪読し、学生にプレゼンを行ってもらう。また、秋学期の後半は金融派生商品（デリバティブ）について学習する。こちらに関しては教員が前半の 1 限を使って学習内容を説明し、後半の 1 限を利用して演習をするという形態をとる。そこで学習した内容を冬季休業期間を利用して実践してもらい、その結果は最終回にて報告することとする。なお、授業（もしくは、講義）中のプレゼンテーションに対する講評はそれが行われる授業内で行い、卒業論文、レポート（外部への研究発表等）については、事前に提出の上、別途プレゼンテーションの機会を設けて講評、フィードバックを行うこととする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方・イントロダクション	授業の進め方についての説明とファイナンスを学習する意義、担当の割り振りを行う
2	（前半）第 8 章 数列とその和、第 9 章 微分の基礎知識（後半）第 1 章「なぜ企業価値か」	数学的な記述と計算の再確認
3	（前半）第 1 章 キャッシュフローの現在価値と将来価値、第 2 章 評価の基本原則（後半）第 1 章「なぜ企業価値か」 つづき	現在価値、将来価値、年金の現在価値と将来価値、永年年金の現在価値、評価の気本原理（概観）

4	（前半）第 3 章 債券の評価、（後半）第 2 章「企業価値創造の基本原則」	国債の評価、スポットレート、債券の利回り、社債の評価
5	（前半）第 4 章 株式の評価、（後半）「企業価値創造の基本原則」 つづき	株式のキャッシュフロー、株式の要求収益率、配当が成長する株式の評価ほか
6	（前半）第 5 章 企業価値の評価、（後半）第 3 章「企業価値不変の法則とリスクの役割」	負債と株主資本の合計による評価、加重平均資本コストによる評価、フリーキャッシュフロー予測
7	（前半）第 6 章 企業の設備投資決定、第 7 章 企業の資本構成と企業価値①、（後半）第 3 章「企業価値不変の法則とリスクの役割」 つづき	資本構成とは、法人税が無い場合の資本構成と企業価値、
8	（前半）第 7 章 企業の資本構成と企業価値②、（後半）第 4 章「株式市場の魔力」	法人税がある場合の資本構成と企業価値、トレードオフ理論による最適な資本構成、ほか
9	（前半）第 10 章 債券投資の理論、（後半）第 4 章「株式市場の魔力」 つづき	債券投資の金利リスク、金額デュレーション、修正デュレーションほか
10	（前半）第 10 章 債券投資の理論、（後半）第 5 章「市場はすべて織り込み済み」	マコーレーのデュレーション、ポートフォリオのデュレーション、イミュインゼーション
11	（前半）第 11 章 確率変数の基礎、第 12 章 ポートフォリオ理論、（後半）第 5 章「市場はすべて織り込み済み」 つづき	確率変数と確率分布、期待値、標準偏差、確率変数の加重和、2 つの証券で組成するポートフォリオほか
12	（前半）第 12 章 ポートフォリオ理論②、（後半）第 6 章「投下資本収益率」	3 つ以上の証券で組成するポートフォリオ、安全資産と借入が存在する場合
13	（前半）第 13 章 資本資産評価モデル、（後半）第 6 章「投下資本収益率」 つづき	ポートフォリオ理論からの展開、資本市場線とポートフォリオ、資本資産評価モデル、
14	（前半）第 13 章 資本資産評価モデル、（後半）第 7 章「成長とはなにか」	ベータの推計、投資のパフォーマンスへの応用、
15	秋学期の授業実施方針の説明	秋学期の輪読テキストの担当範囲、担当者を指名します。
16	コーポレートファイナンス 1	基本的な会計知識の復習
17	コーポレートファイナンス 2	現在価値の計算
18	コーポレートファイナンス 3	資本コスト
19	コーポレートファイナンス 4	M&A
20	コーポレートファイナンス 5	株主還元政策
21	コーポレートファイナンス 6	ベンチャーファイナンス
22	オプション 1	オプションのペイオフ
23	オプション 2	株価シミュレーション
24	オプション 3	オプションの価格付け（二項モデル）
25	オプション 4	オプションの価格付け（ブラックショールズモデル）

26	オプション 5	株価への応用：ポートフォリオインシュアランス
27	オプション 6	債券への応用：信用デリバティブ
28	グループワーク報告	デリバティブの実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義は耳で聞き、頭で理解するわけですが、演習は、頭で理解した内容を手を動かし、口で説明できることが求められます。講義と演習を通して、初めて、その内容を完璧に理解したといえるわけです。多くの学生は自分の担当だけしか学習しようとしませんが、自分の担当だけでは十分に理解し、他人に説明できるレベルには至ることがありません。そこで、日常的に日経新聞を読む習慣をつけてください。図書館でも読めます。（60 分程度）予習として該当箇所を担当者以外もしっかりと読み込みをしてください。（120 分程度）授業終了後には復習をしておきましょう。次回の授業の冒頭で確認 Q（クイズ）を出す場合もあります（90 分程度）

【テキスト（教科書）】

（春学期）

< 2 年生 > 手嶋宣之『ファイナンス入門』（ダイヤモンド社、2011 年）
< 3 年生 > マッキンゼー・アンド・カンパニー『企業価値評価』第 6 版 上巻（ダイヤモンド社、2016 年）

（秋学期）

田中慎一、保田隆明『コーポレートファイナンス 戦略と実践』（ダイヤモンド社、2019 年）

【参考書】

（春学期）

< 2 年生 > 岸本直樹ほか『入門・証券投資論』（有斐閣ブックス、2019 年）

< 3 年生 > McKinsey & Company Inc., Valuation: Measuring and Managing the Value of Companies, 7th Edition (Wiley, 2020)

（秋学期）

藤崎達哉『実践デリバティブ: Excel でデータ分析』（オーム社、2019 年）

Simon Benninga and Tal Mofkadi, Principles of Finance with Excel, 3rd ed. (Oxford Univ Pr, 2017)

【成績評価の方法と基準】

本演習は通年による評価となります。

すべて出席することが求められるのはいうまでもありませんが、担当個所のハンドアウトをしっかりと作成することが必須とされます。最終回には総合的な課題（グループワーク課題）を課す予定です。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

各自が PC 上で EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to the theories and the methods in investment analysis and corporate finance using data and simulation-based analyses. This course also provides opportunities to improve writing and PC skills.

ECN218CA
演習
藤田 貢崇
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、「科学ジャーナリズム」または科学に関連する諸課題に取り組み、自ら課題を見出し、課題を発表するためのスキルや表現手法を身につけます。各自の具体的なテーマや詳細は教員と相談して決定します。また、一般向けの科学解説記事の翻訳・執筆に取り組み、発表スキルの習得を行います。

【到達目標】

各自の設定した研究テーマについて、調査する手法、調査結果をまとめる方法を習得すること。また、自らの意見を明確にしながら、調査結果を発表する様々な手法（プレゼンテーション・文章による表現・音声による表現・映像による表現など）を習得すること。

また、英語の文章を理解し、伝わりやすい日本語に翻訳できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員との連絡を密に持ちながら、自らの力で研究を遂行します。各自の研究スケジュールは研究テーマによって異なるが、出席（オンラインによる課題の提出）は必須となります。

具体的な演習内容は、①科学ジャーナリズムの時事的な話題、②ジャーナリズムとは何か、③人に伝えるための文章の書き方、④文章以外に表現する方法（音声・映像）についてなどです。受講生が自ら調べ、表現することができるように指導していきます。

課題や質問等に対するフィードバックは、その都度、あるいは次回の授業時に全体に対して回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の概要を説明する
2	ジャーナリズムとは何か	ジャーナリズムの社会における必要性を考える
3	記事を書いてみよう I	ジャーナリストの表現手法の基本である文章術を学ぶ
4	記事を書いてみよう II	前回の内容をもとに、実際に執筆してみる
5	自らのテーマを見つける	各自が知りたいこと、調べたいことを明確にする
6	情報検索や調査の方法	図書館の情報検索サービスなどの利用方法を身につける
7	翻訳手法の習得 I	読み手を意識した翻訳手法を学ぶ
8	いろいろな表現手法 I	文章以外にも、いろいろな表現手法があることを学ぶ
9	調査・研究活動 I	各自のテーマに沿って、調査・研究の具体的な計画を作成する
10	調査・研究活動 II	各自のテーマに沿って、調査・研究を進め、必要な文献を明確にする
11	調査・研究活動 III	各自のテーマに沿って、調査・研究を行う
12	調査・研究活動 IV	各自のテーマに沿って、調査・研究を進め、どのような表現手法があるかを検討する

13	海外のジャーナリズム	海外の科学ジャーナリズムについて学ぶ
14	翻訳手法の習得Ⅱ	よりわかりやすい翻訳文を作成するための手法を学ぶ
15	中間発表	表現手法を含めて、各自の課題の進捗状況を報告する
16	夏課題の報告会	各自の課題の進捗状況を報告し、問題点を明らかにする
17	ジャーナリズムをより深く知る	ジャーナリズムに関する論文・書籍を輪読する
18	翻訳手法の習得Ⅲ	翻訳文と原文を詳細に比較し、より適切な訳文を作成する手法を身につける
19	表現手法の工夫	映像を活用した表現手法を知る
20	調査・研究活動Ⅴ	映像を活用した表現手法を知る
21	調査・研究活動Ⅵ	各自のテーマに沿って、調査・研究の表現手法について決定し、その制作計画を立てる
22	調査・研究活動Ⅶ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の特性を生かした内容になっているか、計画を再検討する
23	調査・研究活動Ⅷ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
24	翻訳手法の習得Ⅳ	完成した翻訳文の校正を行い、適切な訳文を作成する。
25	調査・研究活動Ⅸ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
26	調査・研究活動Ⅹ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
27	調査・研究活動ⅩⅠ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
28	成果報告会	1年間の研究課題を報告する (2・3年生)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、4週間に1度程度、担当教員に現状を報告するための面談（30分程度）を受けなくてはなりません。このときに、研究の上での様々な相談することができます。受講者は課題意識を持ちながら、新聞などの情報源に日常的に触れるように留意してください。

原稿や訳文の作成に関して、時間外に作業を行うことが必要となる場合があります。本授業の準備学習および復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1年間を通じて使用するテキストはありません。

【参考書】

科学ジャーナリズムの手法（化学同人）
他は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習内での各種課題の提出状況（50%）を総合的に評価し、60%の得点率を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

個人で取り組む研究を充実させるように工夫します。

【その他の重要事項】

ジャーナリズムに関心を持ち、自ら情報発信をしたい学生の参加を望みます。偏った意見を取り上げるのではなく、公正・中立な立場で研究課題に取り組む姿勢が大切です。

止むを得ず演習に出席することができない場合には、必ず連絡すること。

【授業内の取り組み】

ジャーナリズムに大切なことは、多様な考え方です。演習では、事前に時事的な話題（例えば BSE 問題、臓器移植、原子力問題など）を指定し、受講者それぞれの考え方を簡単に発表する場を設けます。

【Outline and objectives】

This course tries to learn some methods of self-expression and translation skills, as well as tries to publish the translated textbook in the field of quantum physics for beginners. Each student must have the original theme of research.

ECN218CA
演習
篠原 隆介
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

目的：ミクロ経済学・ゲーム理論を応用した、経済現象の分析および現代社会における経済政策と経済制度の有効性に関する考察

概要：ミクロ経済学とゲーム理論を学習した上で、それを応用し、経済政策・制度の分析を行う。政策・制度の分析については、公共経済学の教科書を用いて、学習する。習得した知識に基づき、研究テーマを設定し、春学期末に中間成果報告会を、年度末に最終研究成果の報告会を行う。

【到達目標】

ミクロ経済学・ゲーム理論を理解すること。練習問題演習をすることも重要だが、それ以上に、これら経済理論を応用し、身近な問題に対する分析能力を養うことが最も重要な目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

次の 3 段階のステップを踏む：①教科書に基づき理論の学習を行う。②その後、練習問題を解く。③そして、最終的には、ミクロ経済学・ゲーム理論を応用して研究活動を行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の運営方法について
2	報告と議論	報告と質疑応答 1
3	報告と議論	報告と質疑応答 2
4	報告と議論	報告と質疑応答 3
5	報告と議論	報告と質疑応答 4
6	報告と議論	報告と質疑応答 5
7	報告と議論	報告と質疑応答 6
8	報告と議論	報告と質疑応答 7
9	報告と議論	報告と質疑応答 8
10	報告と議論	報告と質疑応答 9
11	報告と議論	報告と質疑応答 10
12	報告と議論	報告と質疑応答 11
13	研究成果中間報告会-Part 1	学生による中間報告 (主に 3 年次学生による報告)
14	研究成果中間報告会-Part 2	学生による中間報告 (主に 2 年次学生による報告)
15	イントロダクション	秋学期の運営方法について
16	報告と議論	報告と質疑応答 12
17	報告と議論	報告と質疑応答 13
18	報告と議論	報告と質疑応答 14
19	報告と議論	報告と質疑応答 15
20	報告と議論	報告と質疑応答 16
21	報告と議論	報告と質疑応答 17
22	報告と議論	報告と質疑応答 18
23	報告と議論	報告と質疑応答 19
24	報告と議論	報告と質疑応答 20
25	報告と議論	報告と質疑応答 21
26	報告と議論	報告と質疑応答 22

27	研究成果最終報告会-Part 1	学生による中間報告 (主に 3 年次学生による報告)
28	研究成果最終報告会-Part 2	学生による中間報告 (主に 2 年次学生による報告)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のゼミ報告の準備、練習問題を解くことによる復習、春学期と秋学期に行われる研究報告のための準備。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第 1 回のゼミにてゼミ生と相談の上、決定する。教科書の候補は、参考書欄に掲載したものも含まれる。

【参考書】

・井堀利宏 (2019) 『入門ミクロ経済学 (第 3 版)』新世社
 ・岡田章 (2014) 『ゲーム理論・入門 新版-人間社会の理解のために』有斐閣
 ・坂井豊貴 (2013) 『マーケットデザイン: 最先端の実用的な経済学』筑摩書房
 ・寺井公子, 肥前洋一 (2015) 『私たちと公共経済』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

平常点 (60 %) とゼミでの報告・課題 (40 %)

【学生の意見等からの気づき】

理論を学習した後に、その理論を使って分析することができる現実例を紹介し、分り易く教えることを心がけます。

【その他の重要事項】

「ミクロ経済学 AB」を未修のゼミ生は、履修することをお勧めします。より進んだ学習を望む場合には、「公共経済論 AB」の履修をお勧めします。

【Outline and objectives】

A seminar regarding public economics and microeconomics.

ECN218CA
演習
菅原 琢磨
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会政策、社会保障政策を中心に、さまざまな社会問題、社会現象とその対応をテーマとして幅広くあつかう。ゼミの後半では医療経済学や社会保障論の標準的テキストを輪読することで、経済学部生としてあるべき専門知識を併せて修得する。

【到達目標】

大きく以下の 3 点を柱とし、各々の能力の獲得を目標とする。

- ①多様な社会問題に関する自由な報告・議論を通じて、社会常識・一般教養の拡充と、プレゼン・コミュニケーション能力強化を図る社会人基礎力の鍛錬
- ②専門領域の基本テキスト輪読、報告による専門知識の習得と深化
- ③ゼミ論文作成による分析・処理能力、思考力の強化

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習は概ね 2 部構成とする。

- ①受講者が関心を持った時事問題、社会問題について報告（毎回数名、ランダムに指名）、教員のファシリテートのもと参加者全員で議論。採り上げられたトピックスをもとに実践的な問題解決思考の訓練をおこなう。
 - ②専門分野の標準的テキストを輪読、各回担当者（グループまたは個人）は内容を報告、質疑をおこなう。
- 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期オリエンテーション	演習の目的と内容、進め方、春学期計画について
第 2 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読①	テキスト第 2 章 「健康と保健医療サービスの需要」
第 3 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読②	テキスト第 3 章 「需要、弾力性、健康」
第 4 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読③	テキスト第 4 章 「生産、健康、保健医療サービス」
第 5 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読④	テキスト第 5 章 「保健医療サービス供給の費用」
第 6 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑤	テキスト第 6 章 「基本的な市場モデル」
第 7 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 インゼミ準備	インゼミ論文のテーマ選定
第 8 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑥	テキスト第 7 章 「供給者誘発需要と代理関係」
第 9 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑦	テキスト第 8 章 「市場の失敗と政府」
第 10 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑧	テキスト第 9 章 「経済評価の理論基盤」
第 11 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑨	テキスト第 10 章 「費用の測定の問題」
第 12 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑩	テキスト第 11 章 「経済評価での便益の測定」
第 13 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑪	テキスト第 12 章 「経済評価の実施手順」
第 14 回	春学期のまとめ	インゼミ論文中間報告 春学期総括、質疑応答
第 15 回	秋学期オリエンテーション	秋学期の演習内容、進め方について

第 16 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑫	テキスト第 13 章 「選択のための枠組みとしての経済評価」
第 17 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑬	テキスト第 14 章 「契約」
第 18 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑭	テキスト第 15 章 「市場の構造」
第 19 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 インゼミ準備	インゼミ論文報告準備
第 20 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑮	テキスト第 16 章 「病院などの保健医療供給者の行動と動機」
第 21 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑯	テキスト第 17 章 「規制の経済学」
第 22 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑰	テキスト第 18 章 「インセンティブと代理関係」
第 23 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑱	テキスト第 19 章 「保健医療システム」
第 24 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑲	テキスト第 20 章 「世界の保健医療システム」
第 25 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑳	テキスト第 21 章 「国家への依存」
第 26 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読（21）	テキスト第 22 章 「民間保険システム」 テキスト第 23 章 「社会保険システム」
第 27 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読（22）	テキスト第 24 章 「複合システム」
第 28 回	秋学期のまとめ	秋学期総括、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各回のパートについては、報告者のみならず全員が事前に目を通し、疑問点を明確にしておくこと。
- ・秋（11 月）に他大学とのインターゼミナールを実施する予定である。
- ・各回の報告ならびにゼミ論文作成のために、サブ（自主）ゼミが必要となることもある。
- ・社会環境によるが、例年は夏期休暇（9 月）、春期休暇（3 月）中に合宿をおこなう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・橋本英樹／泉田信行『医療経済学講義』東京大学出版会、2011 年。
- （学生と相談のうえ、他のテキストを採用することもある）

【参考書】

- ・西村周三・田中滋・遠藤久夫『医療経済学の基礎理論と論点』勁草書房、2006 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に評価する。特に参加意欲（発言や質問）（50 %）、担当報告の出来（30 %）、その他、円滑なゼミ運営（合宿やインゼミへの参加を含む）（20 %）への貢献を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験した担当者が、理論と合わせ、当該分野の現状や課題について解説する。演習の内容は受講生とも相談のうえ、適宜、変更する場合がある。演習に必要なテキスト等は各自、準備すること。

【Outline and objectives】

In this seminar, a wide range of topics that relate to the social problem are widely investigated. Acquisition of basic knowledge of health economics and social security policy is also required.

ECN218CA
演習
松野 響
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の実験を自分自身で計画・実施し、実験心理学についてより深く学ぶ。

これまでにおこなわれた心理学の実験研究についての情報収集をおこない、計画をたて、実際に実験をおこない、結果を解析・発表する、という一連の過程を体験することで、実験心理学の方法論を学習するとともに、たとえささやかで小さなことであっても、世界でまだ誰も知らない新しい発見をすることを目指す。

【到達目標】

文献の探索・読解能力、科学的・論理的な思考法、心理実験をおこなうための基礎的な技法、データの解析法、プレゼンテーションの方法および論文（論理的な文章）の書き方を実習を通じて自ら身につける。

新しい心理学の知見を自ら発見・検証するための方法論を身につけることで、人の心や行動を、科学的・客観的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

個人の興味をもとにした研究テーマ（個人プロジェクト）を中心に、活動をおこなう。各自個人テーマに沿った実験研究を自ら計画・実施し、論文としてまとめる。また、受講生の関心や余力によって、グループでの研究プロジェクトや課外での活動もおこなう。演習の授業時間には、毎回、テーマに関連する文献の発表と議論を通じて教員および他の受講生からのフィードバックを受け、実験方法や最新の心理学の知見について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究計画の立案	ゼミでの取り組み、演習の進め方について、自己紹介、発表スケジュールの決定・研究計画の立案
2	実験心理学基礎と計画発表	実験研究を行うための方法論についてのガイダンス・研究計画の発表
3	発表・実習	グループ1のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
4	発表・実習	グループ2のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
5	発表・実習	グループ3のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
6	発表・実習	グループ4のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
7	発表・実習	グループ5のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
8	発表・実習	グループ1のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
9	発表・実習	グループ2のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
10	発表・実習	グループ3のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
11	発表・実習	グループ4のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動

12	発表・実習	グループ5のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
13	研究発表	研究実施状況の中間報告
14	春学期総論	春学期の研究総括・研究発表についての議論
15	秋学期研究計画	夏季の課題への取り組みに関する発表、秋学期の研究計画
16	発表・実習	グループ1のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
17	発表・実習	グループ2のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
18	発表・実習	グループ3のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
19	発表・実習	グループ4のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
20	発表・実習	グループ5のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
21	発表・実習	グループ1のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
22	発表・実習	グループ2のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
23	発表・実習	グループ3のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
24	発表・実習	グループ4のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
25	発表・実習	グループ5のメンバーによる文献・研究発表、実験準備等の活動
26	研究結果の解析	研究結果の解析および研究発表準備
27	進級論文発表	進級論文の研究報告および議論
28	進級論文発表・卒業論文発表	進級論文・卒業論文の研究報告および議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

自分自身の研究プロジェクトの計画及び実施、学術論文の精読と発表の準備、他者の研究プロジェクトへの実験参加体験を通じて、実証的な心理学についてより深く実感をもって理解する。

【テキスト（教科書）】

教員の作成したゼミテキストを配布する。また、個々の研究テーマにあわせて個別に相談に応じる。

【参考書】

個々の研究テーマにあわせて個別に相談に応じる。

【成績評価の方法と基準】

発表およびディスカッションへの寄与 20%、自身の個人研究プロジェクトへの取り組みや他の研究プロジェクトへの実験・調査参加協力と課題の提出 40%、進級論文・卒業論文の内容 40%を目安に、総合的に評価する。授業への無断欠席があった場合は単位を認定しない。やむを得ない理由で欠席した際は、欠席を補うための取り組みと課題の提出を必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業時間および授業時間外の研究活動にPCを使用する。無料の統計解析アプリケーション R・R Studio がインストールできる PC を用意すること（大学の貸出 PC にはインストールされている）。Google Classroom を用いて情報を共有する。また、COVID-19 の流行状況によっては、ZOOM を使用してオンラインでの授業をおこなう可能性がある。

【その他の重要事項】

心理学の基礎的な知識を持つことを前提とするため、心理学 A/B の授業の単位取得もしくは本年度の聴講を必須とする。

【Outline and objectives】

In this course, students learn research methods used in modern psychology, plan and conduct original psychological experiments, and write a research paper.

ECN218CA
演習
田村 理香、高尾 直知
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言葉が構築する世界に身を置き、深く考え、自らの言葉で考えを表現する。

【到達目標】

1. 文章を正確に読み、内容を正しく理解する。
2. 文化や歴史を理解し、人間の心の機微に触れる。
3. 作品に誠実に向き合い、知識や感性、想像力を働かせ、深く考える。
4. 考察したことを文章で的確に表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 英文記事の読解、それをもとにした英語プレゼンテーション・ディスカッション
2. 英語で書かれた小説の精読およびディスカッション
3. 4年生は卒論指導を個別に行う

[授業や課題等に対するフィードバック方法]

毎回のコメントは次の授業時間に返却するもしくは「学習支援システム」で返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、評価の説明。
2	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション①	Edwidge Danticat, "Without Inspection" ① 他
3	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション②	Edwidge Danticat, "Without Inspection" ② 他
4	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション③	Edwidge Danticat, "Without Inspection" ③ 他
5	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション④	Edwidge Danticat, "Without Inspection" ④ 他
6	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑤	Edwidge Danticat, "Without Inspection" ⑤ 他
7	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑥	Edwidge Danticat, "Without Inspection" ⑥ 他

8	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑦	Edwidge Danticat, "Without Inspection" ⑦ 他
9	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑧	Edwidge Danticat, "Without Inspection" ⑧ 他
10	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑨	Edwidge Danticat, "Without Inspection" ⑨ 他
11	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑩	Edwidge Danticat, "Without Inspection" ⑩ 他
12	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑪	Edwidge Danticat, "Without Inspection" ⑪ 他
13	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑫	Edwidge Danticat, "Without Inspection" ⑫ 他
14	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑬	Edwidge Danticat, "Without Inspection" ⑬ 他
15	イントロダクション 2	授業の内容、進め方、評価の説明。
16	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑭	Dorothy Allison, "River of Names" 他
17	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑮	Carol Bly, "Talk of Heroes" 他
18	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑯	Raymond Carver, "Cathedral" 他
19	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑰	Stuart Dybek, "Chopin in Winter" 他
20	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑱	Edward P. Jones, "The First Day" 他
21	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑲	Jamaica Kincaid, "The Girl" 他
22	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑳	Joyce Carol Oates, "Where Are You Going, Where Have You Been?" 他

23	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ②①	Tim O'Brien, "The Things They Carried" 他
24	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ②②	Jayne Anne Phillips, "Home" 他
25	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ②③	Susan Power, "Moonwalk" 他
26	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ②④	Robert Stone, "Helping" 他
27	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ②⑤	Amy Tan, "Rules of the Game" 他
28	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ②⑥	まとめの議論 他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 英語プレゼンテーションの準備：全員が意見を述べる準備をする。発表者以外の参加者は意見や感想や疑問などを英語で comment にする。Comment は提出する。
- 2) 英語小説精読の予習：英語の意味がわからなかったり、日本語にできなかったり、あやふやだったりする箇所を明確にしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するほか、授業内で適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 50%
 2. 期末レポート 50%
- 4 年生は卒業論文を成績評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

楽しく充実した時間を全員で作りに上げて行けたらと考えております。

【その他の重要事項】

1. 参加者はかならず前後期の初回時の授業に出席してください。
2. 授業内容については参加者の状態に柔軟に対応します。意見や要望をいつでも遠慮なくお聞かせください。

【Outline and objectives】

Reading newspaper and literary works in English, students think about people, society and the students/readers themselves.

ECN218CA
演習
張 欣
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国文学、中国文化を学び、中国の文化、歴史、社会への理解を深めます。

【到達目標】

勉強や研究を重ね、自らの中国認識を構築していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①中国文学、中国文化に関する共通テキストの輪読・ディスカッション
- ②中国文学、中国文化に関する調査・研究の経過報告および卒論製作のための報告
- ③授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の概要の説明、輪読の割り当て、自己紹介
第 2 回	輪読 1	テキスト輪読
第 3 回	輪読 2	テキスト輪読
第 4 回	輪読 3	テキスト輪読
第 5 回	輪読・発表 1	テキスト輪読・学生による発表
第 6 回	輪読・発表 2	テキスト輪読・学生による発表
第 7 回	輪読・発表 3	テキスト輪読・学生による発表
第 8 回	輪読・発表 4	テキスト輪読・学生による発表
第 9 回	輪読・発表 5	テキスト輪読・学生による発表
第 10 回	輪読・発表 6	テキスト輪読・学生による発表
第 11 回	輪読・発表 7	テキスト輪読・学生による発表
第 12 回	輪読・発表 8	テキスト輪読・学生による発表
第 13 回	輪読・発表 9	テキスト輪読・学生による発表
第 14 回	輪読・発表 10	テキスト輪読・学生による発表
第 15 回	輪読・発表 11	テキスト輪読・学生による発表
第 16 回	輪読・発表 12	テキスト輪読・学生による発表
第 17 回	輪読・発表 13	テキスト輪読・学生による発表
第 18 回	輪読・発表 14	テキスト輪読・学生による発表
第 19 回	輪読・発表 15	テキスト輪読・学生による発表
第 20 回	輪読・発表 16	テキスト輪読・学生による発表
第 21 回	輪読・発表 17	テキスト輪読・学生による発表
第 22 回	輪読・発表 18	テキスト輪読・学生による発表
第 23 回	輪読・発表 19	テキスト輪読・学生による発表
第 24 回	輪読・発表 20	テキスト輪読・学生による発表
第 25 回	輪読・発表 21	テキスト輪読・学生による発表
第 26 回	輪読・発表 22	テキスト輪読・学生による発表
第 27 回	輪読・発表 23	テキスト輪読・学生による発表
第 28 回	輪読・発表 24	テキスト輪読・学生による発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を十分に調べます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

林語堂『中国＝文化と思想』、講談社 1999 年、1400 円（税別）

【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

2～3年次履修者：平常点 60%、レポート等 40%。

4年次履修者：卒業論文の評価が考慮され、卒業論文未提出者には単位は付与されません。

【学生の意見等からの気づき】

中国の文化・社会・歴史等に関する知識をより詳しく紹介します。

【Outline and objectives】

Deeper understanding of Chinese culture and history.

ECN218CA
演習
中谷 安男
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際ビジネスコミュニケーションとリーダーシップについて英語のテキストとディスカッションを通して深く学ぶ。グローバルマーケティングに関する知識を深め積極的に新たな事業提案に取り組む

【到達目標】

・英語力向上 TOEIC 2年 730点（Bレベル）3年 860（Aレベル）

・国際ビジネスに関する書物の多読を通してクリティカル・シンキング能力を向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

クラス・ディスカッション

プレゼンテーション

フィールドワーク

4年生は定期的に卒論の中間発表を行い評価する。

卒論提出前に複数回のフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	演習 1	プレゼン クラス討議
2	演習 2	プレゼン クラス討議
3	演習 3	プレゼン クラス討議
4	演習 4	プレゼン クラス討議
5	演習 5	プレゼン クラス討議
6	演習 6	プレゼン クラス討議
7	演習 7	プレゼン クラス討議
8	演習 8	プレゼン クラス討議
9	演習 9	プレゼン クラス討議
10	演習 10	プレゼン クラス討議
11	演習 11	プレゼン クラス討議
12	演習 12	プレゼン クラス討議
13	演習 13	プレゼン クラス討議
14	演習 14	プレゼン クラス討議
15	演習 15	プレゼン クラス討議
16	演習 16	プレゼン クラス討議

17	演習 17	プレゼン クラス討議
18	演習 18	プレゼン クラス討議
19	演習 19	プレゼン クラス討議
20	演習 20	プレゼン クラス討議
21	演習 21	プレゼン クラス討議
22	演習 22	プレゼン クラス討議
23	演習 23	プレゼン クラス討議
24	演習 24	プレゼン クラス討議
25	演習 25	プレゼン クラス討議
26	演習 26	プレゼン クラス討議
27	演習 27	プレゼン クラス討議
28	演習 28	プレゼン クラス討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・English for Business Studies. By Ian MacKenzie Cambridge University Press

・『英語教育学の実証的研究法入門』寺内正典&中谷安男、研究社
・4 年『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中谷安男中央経済社

【参考書】

『国際ビジネスコミュニケーション』丸善書店

Intelligent Business: Coursebook、By Johnson, C. Pearson Longman

【成績評価の方法と基準】

レポート 20 %

平常点 20 %

論文 40 %

研究発表 20 %

【学生の意見等からの気づき】

より討議を増やす

【学生が準備すべき機器他】

PC DVD

【Outline and objectives】

Global Business Communication and Leadership

ECN218CA
演習
倪 彬
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経済学の理論やエビデンスを英文テキストでしっかり理解し、また経済データソースも使った実証研究を行えるようにする。グループワークで深く勉強し、プレゼンテーションする能力を養う。

【到達目標】

国際経済学の資料を英語で読むことが出来る。自分の興味がある内容につき、グループで協調しつつ、他の学生に説明を行うとともに意見を発表できる。さらに、自らデータを用いて検証出来る事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者によるテキストの輪読、及び教員による解説、演習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	演習 1：イントロ	演習の目的、各種割り当て（プレゼンの順番など）
2	演習 2	1: Introductory Trade Issues:
3	演習 3	2: The Ricardian Theory of Comparative Advantage
4	演習 4	3: The Heckscher-Ohlin (Factor Proportions) Model
5	演習 5	4: Economies of Scale and International Trade
6	演習 6	5: Trade Policy Effects with Perfectly Competitive Markets
7	演習 7	6: Trade Policies with Market Imperfections and Distortions
8	演習 8	7: Political Economy and International Trade
9	演習 9	8: Free Trade Agreement
10	演習 10	9: Introductory Finance Issues
11	演習 11	10: National Income and the Balance of Payments Accounts
12	演習 12	11: The Whole Truth about Trade Imbalances
13	演習 13	12: Interest Rate Parity
14	演習 14	13: Exchange Rate Regime
15	演習 15	データ分析 12 のレッスンに関する紹介
16	演習 16	第 1 章 データから仮説を探る
17	演習 17	第 2 章 データに親しむ
18	演習 18	第 3 章 データを見る
19	演習 19	第 4 章 データを加工する
20	演習 20	第 5 章 関係性を読み解く
21	演習 21	第 6 章 1 つの原因で結果にせまる:単回帰分析
22	演習 22	第 7 章 複数の原因で結果にせまる:重回帰分析
23	演習 23	第 8 章 ダミー変数を使いこなす
24	演習 24	第 9 章 パネルデータに親しむ

25	演習 25	第 10 章 個票データに親しむ
26	演習 26	第 11 章 個票データで回帰分析する
27	演習 27	第 12 章 質的な結果を回帰分析する
28	演習 28	最終締め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ずテキストを事前に読んでおくこと。また、テキスト以外の資料も各自で図書館等で取得しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Krugman, Melitz, and Obstfeld, *International Economics* ; 柏木 吉基著『「それ、根拠あるの？」と言わせないデータ・統計分析ができる本』日本実業出版社；畑農鋭矢, 水落正明著「データ分析をマスターする 12 のレッスン」有斐閣アルマ Basic 星野匡郎, 田中久稔著「R による実証分析—回帰分析から因果分析へ」オーム社

【参考書】

教科書以外、発表内容に関連するプリントを配ります。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業への参加、発言、輪読報告、グループプレゼン、また、合宿への参加で総合的に評価します。三年生のみには卒論を書くためのレポートを作成してもらいます。具体的に：

(1) 授業での発言、積極さ 30%

(2) プレゼン 40%

(3) レポート 30%

また、四年生に関して、履修するには卒論の提出が義務付けられています。卒論の執筆は個別指導を行います。最終成績は提出論文の質に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

英文輪読では報告者と教員との一方通行の授業にならないように、ゼミ生全員の参加を促す工夫します。

【Outline and objectives】

The objective is to help the students learn the basic knowledge in international economics and data analysis in a relatively independent way.

POL200EB, POL200EC

政治学理論 I

白鳥 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、政治学理論の体系的理解

【到達目標】

選択を行う「有権者」として、政治的事象の理論的理解のみならず、理論を使った事例の理解にも到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといっている。現代は「政治変動」の時代、「国際化」の時代といわれているが、こうした現象を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。また、今後の責任ある「有権者」としてのフレームワークを形成するのに必須な考え方をともに考える。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	政治学とは何か	導入
2)	政治学の基礎概念	基礎概念
3)	古代の政治理論 (1)	プラトンなど
4)	古代の政治理論 (2)	プラトンなど
5)	古代の政治理論 (3)	アリストテレスなど
6)	古代の政治理論 (4)	アリストテレスなど
7)	中世の政治理論 (1)	アキナスなど
8)	中世の政治理論 (2)	アキナスなど
9)	中世の政治理論 (3)	アウグスチヌスなど
10)	中世の政治理論 (4)	アウグスチヌスなど
11)	近代の政治理論 (1)	マキャベリなど
12)	近代の政治理論 (2)	マキャベリなど
13)	政治学理論と現代	最近の動向から
14)	過去政治学理論の意義	今、古典を学ぶ意味とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の事例への理解を深めるために読書レポートを準備してもらう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『政権交代選挙の政治学』ミネルヴァ書房、2010年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト 70%、レポート 20%、講義科目への積極度 10%を中心として総合的に評価する。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、教場試験が実現できない場合も想定される。学期末に最終的に教場での試験が行えない場合には、成績評価の方法と基準における試験をレポートで代替することを考える。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline and objectives】

This course aims to provide basic understandings of Theoretical Aspects of Political Science.

POL200EB, POL200EC

政治学理論Ⅱ

白鳥 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、政治学理論の体系的理解

【到達目標】

選択を行う「有権者」として、政治的事象の理論的理解のみならず、理論を使用した事例の理解に到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといつて良い。現代は「政治変動」の時代、「国際化」の時代といわれているが、こうした現象を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。また、今後の選択を行う責任ある「有権者」としてのフレームワークを形成するのに必須な考え方をともに考える。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	近代までの政治学
2)	近代とは何であったか	マキャベリ、ホッブス、ロックなど
3)	近代批判の政治理論 (1)	ルソーなど
4)	近代批判の政治理論 (2)	ルソーなど
5)	近代批判の政治理論 (3)	ヘーゲルなど
6)	近代批判の政治理論 (4)	マルクスなど
7)	現代の政治理論 (1)	ウェーバーなど
8)	現代の政治理論 (2)	制度論から過程論へ
9)	現代の政治理論 (3)	政治過程の理論
10)	現代の政治理論 (4)	国際化する政治
11)	最先端の政治理論 (1)	行動科学としての政治学
12)	最先端の政治理論 (2)	アメリカの研究
13)	国際政治の政治理論	ヨーロッパの研究、ロッキンなど
14)	現代政治理論の展望	最近の動向から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の理解を深めるために読書レポートを準備してもらおう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『政権交代選挙の政治学』ミネルヴァ書房、2010年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト 70%、レポート 20%、講義科目への積極度 10%を中心として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline and objectives】

This course aims to provide basic understandings of Theoretical Aspects of Political Science.

ECN200EB

日本経済論

澁谷 朋樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、戦前から引き継がれた要素をみながら、戦後復興期、高度成長期、バブル期を経て、現代へとつながる日本経済の姿を学ぶものである。日本経済の歩みを踏まえることで、財政赤字や少子高齢化、過疎化等、現代日本が抱える諸問題の理解にもつながる。最終的には、日本経済の現状を把握した上で、客観的なデータを用いつつ、今後どのように諸問題を解決していくかの方策を考える力を身につけることが目標となる。

【到達目標】

1. 戦前・戦後の日本における経済発展の仕組みを理解できる。
2. 日本経済の現状と課題についての基本的な知識を習得できる。
3. 各種データを活用しながら、日本経済の全体像を把握できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めていく。時事問題を織り込んでいく予定であるため、必ずしも以下の授業計画に沿って進めるとは限らない。また、前回の講義で提出されたりアクションペーパーで寄せられた質問・意見に回答する等を通じて、受講生との双方向性を高める工夫を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	経済学の基本	経済学の基本的な考え方
2 回	経済指標の読み方	基本的な経済指標の読み方
3 回	白書の読み方	『経済白書』・『経済財政白書』を読む
4 回	日本経済の全体像	長期統計を用いた日本経済の把握
5 回	戦前における日本経済	明治時代から戦時期までの日本経済
6 回	戦後日本の経済発展 (1)	戦後日本の経済復興
7 回	戦後日本の経済発展 (2)	高度成長時代から低成長時代へ
8 回	戦後日本の経済発展 (3)	戦後日本のエネルギー政策
9 回	戦後日本の経済発展 (4)	バブル景気とそのメカニズム
10 回	日本の長期経済停滞 (1)	バブル崩壊後の日本経済
11 回	日本の長期経済停滞 (2)	小泉構造改革における産業構造と雇用構造の変化
12 回	平成時代の日本経済	平成時代の日本経済を振り返る
13 回	日本の農業政策	日本の農業政策と農業構造問題
14 回	講義まとめ	講義全体を振り返り、日本経済の主要な課題を整理する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から各メディアの報道を通じて、日本経済の動向に目を向けておくことが望ましい。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に資料を適宜配付する。

【参考書】

1. 小峰隆夫、村田啓子『最新日本経済入門 [第 6 版]』日本評論社、2020（令和 2）年。
2. N・グレゴリー・マンキュー／足立英之他訳『マンキュー 入門経済学 [第 3 版]』東洋経済新報社、2019（令和元）年。
3. その他の参考文献は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）、平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーで寄せられた学生からの意見を講義に反映させていく。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of history and development of the Japanese economy.

LAW200EB, LAW200ED

憲法**田中 美里**開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、具体的な事例を使いながら、学生の皆さんに、私たちの社会生活と憲法はどのように関わっているのか考えてもらいます。

【到達目標】

学生の皆さんが、具体的な問題に関わる権利や理論を的確に洞察し、自分の考えを論理的に説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

講義形式をベースに、できる限り皆さんにも発言いただきます。最終回では、小テストや皆さんからの質問への解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし / No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと基礎知識の確認	これからの授業で必要となる基礎知識について確認します。
2	命をめぐる問題①：「生まれない権利」？	「生まれない権利」について検討します。
3	命をめぐる問題②：代理母問題をめぐって	代理出産の問題、子を持つ権利について検討します。
4	宗教をめぐる問題①：ブルカの規制をめぐって	ムスリム女性のスカーフについての規制を考えます。
5	宗教をめぐる問題②：「名誉殺人」ってなに？	一部地域で行われている「名誉殺人」について考えます。
6	宗教をめぐる問題③：宗教と市民社会の関わり方	宗教活動と市民社会との関わりについて考えます。
7	平等①：ポジティブ・アクションの合憲性を考える	積極的差別是正措置の合憲性について考察します。
8	平等②：政治分野における平等	第7回のつづきとして、政治分野における平等を考えます。
9	街頭防犯カメラについて考える	自由と安全のバランスを検討します。
10	職業選択と平等：セックスワーカーの働く権利	職業選択の自由の限界について考察します。
11	表現の自由①：ボルノ規制問題について考える	表現の自由とその規制のバランスについて考えます。
12	表現の自由②：少年犯罪等に関する報道について考える	少年の権利と知る権利のバランスを考察します。
13	幸福追求権：タトゥーはいいのか？	入れ墨等についての規制について検討します。
14	まとめと解説	ここまでの授業に関する質問について、お答えします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業資料には、次回取り扱う事例を掲載する予定です。予習として、その事例について自分なりの考察をしてください。（2 時間程度の学習を想定。）

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要な情報は講義レジュメに記載します。

【参考書】

この授業で用いる具体的な事例は、以下の書籍の内容を参考にしています。矢戸常寿編『憲法演習ノート ―憲法を楽しむ 21 問 第 2 版』（弘文堂、2020）

【成績評価の方法と基準】

小テスト（平常点・30％）、定期試験（70％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

質問は、授業後をお願いします。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to offer practical methods to solve constitutional problems we are currently facing or will likely be facing in future.

LAW200EB

民法（総則）**松田 佳久**サブタイトル：民法（入門）
開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法を通じて私たちの生活する社会の基本的な法制度を理解する

【到達目標】

1. 民法の全体的なイメージを把握できる（レベルC）
2. 民法の基本的な制度を理解できる（レベルB）
3. 社会に生起するさまざまな問題を民法の視点から考えることができる（レベルA）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

オンデマンドでの受講となります。学習支援システムの「教材」に授業ビデオ、参考図、判例等をUPしておきますので、教材を印刷し、ビデオを視聴してください。わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメールアドレス：yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。民法は昨年（2020 年）4 月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っているのもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし / No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	民法典とその構成	民法典、民法典の構成、物権と債権、
2	売買契約の有効な成立 1	契約の成立要件
3	売買契約の有効な成立 2	契約の有効要件
4	売買契約の有効な成立 3	無効原因
5	売買契約の有効な成立 4	取消しと無効
6	売買契約の有効な成立 5	代理
7	売主の義務と買主の義務 1	無権代理
8	売主の義務と買主の義務 2	条件と期限
9	売主の義務と買主の義務 3	物の引渡し
10	売主の義務と買主の義務 4	代金の支払い
11	売主の義務と買主の義務 5	購入資金の借入れ
12	売主の義務と買主の義務 6	債権関係の終了
13	売買契約による所有権の移転 1	現実的履行の強制
14	売買契約による所有権の移転 2	損害賠償請求
		契約の解除
		物権変動の基本原則
		動産取引における公示の原則と公信の原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- テキストに事前に目を通してから授業を視聴すること
- 視聴後に各自で内容を復習すること
- 学習した内容を踏まえて社会を法的な視点から眺めてみることに。
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『新・コンダクト民法』（嵯峨野書院、2020 年）

【参考書】

1. 潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ総則・物権』（有斐閣、第8版、2018 年）
2. 窪田充見＝森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ債権』（有斐閣、第8版、2018 年）

【成績評価の方法と基準】

民法の全体的なイメージを把握するとともに基本的な制度を理解できたかどうかにつき定期試験の結果によって判断する。定期試験結果が 100 %。民法は昨年（2020 年）4 月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っているのもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には14回の講義ビデオをきちんと視聴することが必要です。
わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの「教材」に講義ビデオ、参考図、判例等をUPしますので、参考図等を印刷でき、ビデオを視聴できるパソコン等が必要になります。

【その他の重要事項】

○秋学期の「民法（財産法）」を履修するためには、本科目を修得していることが望ましい。
○授業視聴には小六法を必ず準備すること。
○民法は昨年（2020年）4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【オフィスアワー】

常時、メールで質問を受け付けます。

【Outline and objectives】

Understand the basic legal system of the society in which we live through civil law.

LAW200EB

民法（財産法）

松田 佳久

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「財産」に関する民法の基本的な制度を理解する

【到達目標】

1. 民法の全体的なイメージを把握できる（レベルC）
2. 民法の基本的な制度を理解できる（レベルB）
3. 社会に生じうるさまざまな問題を民法の視点から考えることができる（レベルA）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンドでの受講となります。

学習支援システムの「教材」に授業ビデオ、参考図、判例等をUPしておきますので、教材等を印刷し、ビデオを視聴してください。

わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

民法は昨年（2020年）4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	所有権と占有権 1	物権の客体、物権の本質、物権の効力、所有権の性質と効力
2	所有権と占有権 2	相隣関係、所有権の特別な取得原因、占有権の成立と態様、占有権の効力
3	債権の回収と債権の確保 1	債権回収の基本原則、責任財産の保全（債権者代位権）
4	債権の回収と債権の確保 2	詐害行為取消権
5	責任財産の拡大による債権の担保	連帯債務、保証債務
6	優先弁済権による債権の担保 1	担保物権の基本原則、抵当権
7	優先弁済権による債権の担保 2	非典型担保
8	物の貸借契約 1 物の貸借契約 2	総説、賃貸借契約（基本的な法律関係） 賃貸借関係（賃貸借の効力、第三者との関係、当事者の変更、賃借権の譲渡・転貸、賃貸借契約の終了）
9	物の貸借契約 3	借地借家法（借地関係、借家関係）
10	他人の労務を目的とする契約 1	総説、雇用契約、請負契約
11	他人の労務を目的とする契約 2	委任契約
12	法律の規定に基づいて生ずる債権 1	総説、事務管理
13	法律の規定に基づいて生ずる債権 2	不当利得
14	法律の規定に基づいて生ずる債権 3	一般的不法行為
14	法律の規定に基づいて生ずる債権 4	特殊的不法行為

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○テキストに事前に目を通してから授業ビデオを視聴し、授業後に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『新・コンダクト民法』（嵯峨野書院、2020年）

【参考書】

1. 潮見佳男＝道垣内弘人『民法判例百選Ⅰ総則・物権』（有斐閣、第8版、2020年）
2. 窪田充見＝森田宏樹『民法判例百選Ⅱ債権』（有斐閣、第8版、2020年）

【成績評価の方法と基準】

民法の財産法（物権法・債権法）に関する基本的な知識の修得ができ、関連する裁判例や法解釈について理解できたかにつき、定期試験の結果によって100 %評価する。

定期試験は授業支援システムの「レポート」に問題を提示し、添付の解答用紙で所定の期間内に解答し、「レポート」に提出します。

民法は昨年（2020 年）4 月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っている場合でもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には14回の授業ビデオをきちんと視聴する必要があります。

わからないところがありましたら、いつでも担当教員のメルアドにメールで質問をしてください（担当教員のメルアド yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの「教材」に授業ビデオ、参考図、判例等をUPしておきますので、参考図等を印刷し、video を視聴できるパソコン等が必要です。

【その他の重要事項】

○本科目を履修するためには、春学期に「民法（総則）」を履修しておくことが望ましい。

○授業ビデオの視聴にはあたっては小六法を準備しておくこと。

○民法は昨年（2020 年）4 月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っている場合でもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【オフィスアワー】

常時、メールで質問を受け付けます。

【Outline and objectives】

Understand the basic system of the Civil Code relating to "property"

ECN200EB, ECN200ED

ミクロ経済学

北浦 康嗣

サブタイトル：ミクロ経済学 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（1）ミクロ経済学の基礎的な概念・理論についてグラフを活用して学ぶ。

（2）一般均衡分析の枠組みで需要と供給、資源配分について理解を深める。

（3）「計算問題が苦手だ」という学生に対しても経済学が理解できる。

【到達目標】

（1）身近な問題を取り扱う際にミクロ経済学的な考え方ができる。

（2）ミクロ経済学の重要な基礎用語を正しく説明できる。

（3）数値計算によって効用最大化問題が解ける。

（4）一般均衡の枠組みで効率性・公平性について議論できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

トレードオフや機会費用といった経済学的な発想にはじまり、価格の果たす役割に注目しながら、需要と供給や市場均衡、資源配分について理解を深めます。

2021 年度はオンライン授業の実施に伴い、変更の可能性があります。変更内容は学習支援システムで提示します。変更内容は学習支援システムで提示します。必ず、毎回、Hoppii を確認するように心がけてください。

授業の初めに、前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ、全体に対してフ

ィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、部分均衡と一般均衡の違い	経済学の発想を紹介し、（機会費用、比較優位など）
2	経済学に必要な数学の復習	効用最大化問題を解くために必要な数学の復習を行います。
3	家計の行動（1）	効用最大化問題について解説します。
4	家計の行動（2）	予算制約式について図解します。
5	家計の行動（3）	効用について図解します。
6	家計の行動（4）	無差別曲線について図解します。
7	家計の行動（5）	最適消費点について図解します。
8	中間試験	効用最大化問題に関する試験を行います。
9	所得効果	所得効果について図解します。
10	価格効果	価格効果について図解します。
11	厚生経済学の定理	効率性・公平性について議論します。
12	純粋交換経済（1）	純粋交換経済について説明します。
13	純粋交換経済（2）	純粋交換経済について図解します。
14	純粋交換経済（3）	純粋交換経済で、厚生経済学の定理を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくに前提となる専門知識は必要ありませんが毎回復習を心がけてください。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

宮澤 和俊, 焼田 党 [2019]「財政学 (ライブラリ今日の経済学 12)」新世社 ¥2,750

【成績評価の方法と基準】

2回の試験（中間試験 50 %, 期末試験 50 %, 両方受験すること。）で評価します。試験に関しては, Hoppii 上でお知らせします。必ず, 毎回, Hoppii を確認するように心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して, 今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline and objectives】

The objective of the course is to provide the students with the basic understanding and tools of microeconomics. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) the basic concepts of scarcity and opportunity cost;
- (2) the forces of demand and supply and how they interact to determine an equilibrium price;
- (3) the theory of consumer behavior.

ECN200EB, ECN200ED

マクロ経済学

北浦 康嗣

サブタイトル：マクロ経済学 I

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は, マクロ経済学的な問題について概観することです。とくに, 国民所得の決定や雇用（失業）について学びます。また, 財政政策や金融政策など政府の役割についても議論します。

【到達目標】

- (1) 日常の経済問題について経済学的な発想ができる。
- (2) 簡単な数値計算によって均衡国民所得や政府支出増大の効果などが導出できる。
- (3) 45 度線分析を用いて財政政策の有効性を議論できる。
- (4) IS-LM 分析を用いて, 財政政策と金融政策の効果を議論できる。
- (5) AD-AS 分析を用いて, 失業、インフレ・デフレについて説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち, DP1・DP5・DP6・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半では, とくに国民所得の概念を中心として財市場の分析を行います。財政政策の有効性について議論します。後半, 財市場と貨幣市場を同時に分析して財政政策と金融政策の効果を確認します。さらに労働市場に注目して総需要曲線や総供給曲線を用いた分析を行います。

2021 年度はオンライン授業の実施に伴い, 変更の可能性があります。変更内容は学習支援システムで提示します。必ず, 毎回, Hoppii を確認するように心がけてください。

授業の初めに, 前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ, 全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス, ミクロ経済学とマクロ経済学の違い	経済学の発想法を紹介します。
2	GDP	GDP について解説します。
3	三面等価の原則	三面等価の原則について解説します。
4	消費の決定	財市場における需要の構成項目として大事な消費について解説します。
5	投資の決定	財市場における需要の構成項目として大事な投資について解説します。
6	財市場の分析— IS 曲線の導出	財市場の需要と供給を等しくさせる国民所得と利率の関係を示す IS 曲線を導出します。
7	貨幣市場	貨幣市場の需要と供給を取り上げ, 利率の決定を解説します。
8	貨幣市場の分析— LM 曲線の導出	貨幣市場の需要と供給を等しくさせる国民所得と利率の関係を示す LM 曲線を導出します。

9	IS-LM 分析	IS 曲線と LM 曲線を用いて、均衡国民所得と均衡利子率を導出します。
10	中間試験	計算問題中心の試験を行います。
11	IS-LM 分析と財政・金融政策	財政政策の効果について IS-LM 曲線を用いて図解します。
12	労働市場	労働市場の均衡について古典派とケインズ派を解説します。
13	物価水準の決定－総需要と総供給（1）	総需要曲線と呼ばれる AD 曲線を定義した後、導出します。
14	物価水準の決定－総需要と総供給（2）	総供給曲線と呼ばれる AS 曲線を定義した後、導出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくに前提となる専門知識は必要ありませんが毎回復習を心がけてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2回の試験（中間試験 50 %，期末試験 50 %，両方受験すること。）で評価します。試験に関しては、Hoppii 上でお知らせします。必ず、毎回、Hoppii を確認するように心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline and objectives】

The objective of the course is to provide the students with the overview of macroeconomic issues: the determination of output, employment, unemployment, interest rates. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) how the aggregate levels of production, employment, income and prices are determined in a market driven global economy;
- (2) the role of fiscal and monetary policy.

SOS200EB, SOS200EC

組織論

多田 和美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織論では、社会の基礎的構成要素である組織の存在、行動、変化および効率的な運営に関する原理・原則を考察します。授業では、組織論の基本理論とその実践的な活用方法を学びます。また、変化の激しい現代社会では組織はどのような取り組みが必要なのかといった、組織に関する諸問題を組織論の基本理論を通じて議論します。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 組織論に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、実践的に活用できる。
- 2) 現代社会における企業や各機関の組織の役割や課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	組織とは何か	組織の定義
第 2 回	多様な組織観	組織の機械観と有機体観
第 3 回	組織デザイン①	分業と調整
第 4 回	組織デザイン②	組織構造
第 5 回	経営組織論①	企業組織の特徴と管理
第 6 回	経営組織論②	企業組織の事例研究
第 7 回	公共組織論①	公共組織の特徴と管理
第 8 回	公共組織論②	公共組織の事例研究
第 9 回	コンティンジェンシー理論①	環境と組織
第 10 回	コンティンジェンシー理論②	組織の対環境戦略
第 11 回	資源依存理論	依存とパワー
第 12 回	コンフリクトとパワー	コンフリクトの発生と解消
第 13 回	取引コスト理論	取引コストと企業の境界
第 14 回	新制度派組織論	同型化、正当性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。

【参考書】

桑田耕太郎・田尾雅夫（2010）『組織論』有斐閣。
山田耕嗣・佐藤秀典（2014）『コア・テキスト マクロ組織論』新世社。
山田真茂留（2017）『集団と組織の社会学』世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題：60%，期末試験もしくは期末レポート：40%で評価します。
・課題の提出は期限厳守です。
・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびアクション・ペーパーを通じて、受講生の意見を把握し授業改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand the fundamentals of organization theory. The course is mainly composed of the followings:

- 1) Organization design
- 2) Management of organizations
- 3) Organizations in external environments

POL300EB

行政学

谷本 有美子

サブタイトル：政策過程論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政の活動は、私たちの生活に様々な場面で関わりを持つもので、民主主義国家における行政は、国民を代表する議会が決定した法律や予算に基づくことが原則とされます。しかし、複雑化した現代社会のしくみをすべて議会の決定に委ねることは困難で、行政には命令や規則などの一定の裁量権が認められており、その仕事は主に専門家集団としての官僚機構が担っています。行政の活動は、それ自体が自律的に運用される側面を有するため、その不作為や政策実施の不手際が人々の生活に影響を及ぼし、新たな社会課題を生じる可能性は少なくありません。

そうした観点から、この授業のテーマは「行政学から見た社会課題の発見」とします。私たちの暮らしと密接な関わりを有する行政について、制度やしくみとともに基本的な性質を学んだ上で、政治との関係で変化する制度や政策形成を検討し、主権者の立場から行政責任の問題等を考察していきます。

【到達目標】

- ・行政の基本的な制度やしくみ、性質を理解する
- ・行政における政策形成と政治との関係性を検討する
- ・現代行政の問題を主権者の立場で実践的に考察する思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントや、レジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り政治と行政の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーについては、授業内でいくつか取り上げて全体に向けてフィードバックしていきます。

前半は行政の制度や仕組みを中心に、後半は政策の形成過程を中心に解説します。終盤では、現代の行政活動事例について行政責任・行政統制の論点も踏まえながら検討し、行政課題と社会課題との関係性についても考察をすすめていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	行政学－身近なところからのアプローチ	私たちの生活と行政との関係について概説し、授業で扱う行政の問題を俯瞰する
第 2 回	行政国家の成り立ち	時代に応じて政府の役割が増大し、行政官僚制が形成されてきたプロセスを詳説する（テキスト第 2 章参照）
第 3 回	日本の内閣制度と国地方関係	現代日本の統治機構と政府体系の側面から、議院内閣制と国地方関係について詳説する（テキスト第 5 章参照）
第 4 回	行政の活動－規制行政	行政による課題解決方法として、規制行政を取り上げ、その権力性についての理解を深める
第 5 回	行政の活動－サービス提供活動	行政による公共財提供の側面を取り上げ、行政資源配分の選択肢について検討する
第 6 回	行政組織と行政管理	日本の行政組織とそのシステムについて概説した上で、1990 年代以降の行政改革の動向について検討する（テキスト第 6 章・第 8 章参照）
第 7 回	公務員制度と人事行政	行政を中心的に担う公務員に関する制度と人事行政のしくみについて概説する（テキスト第 7 章参照）
第 8 回	政策作成と決定	行政による政策案作成と政府案としての決定に至るプロセスを詳説し、理論モデルと実際を検討する（テキスト第 9 章参照）
第 9 回	政策立案の実際－法律・条例	国の法律案と自治体の条例案の作成過程から、合意形成と調整の側面を検討する（テキスト第 10 章参照）
第 10 回	政策立案の実際－予算	予算案の作成過程から合意形成と調整の側面を検討する（テキスト第 11 章参照）

第 11 回	政策の実施体制と手法	資金交付行政を取り上げながら、実施体制と手法について実践的に検討する
第 12 回	政策の評価	現代日本で導入されている政策評価の仕組みについて概説し、フィードバックの実際を検討する
第 13 回	行政責任と行政統制	行政活動に対する民主的統制のあり方を中心に検討する
第 14 回	行政学から見た社会課題の発見	行政課題と社会課題とのつながりについて考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

- ・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う
- ・2021 年度政府予算の重点政策を調べる
- ・自分たちの生活に影響があると考えた内容の新聞記事を日常的に読む

【テキスト（教科書）】

伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔『はじめての行政学』（有斐閣）

【参考書】

今村都南雄・武藤博己・沼田良・佐藤克廣・南島和久『ホーンブック基礎行政学』（北樹出版）
金井利之『行政学概説』（放送大学教育振興会）
西尾勝『行政の活動』（有斐閣）
森田朗『現代の行政』（第一法規）

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80 %）に授業内のリアクションペーパー・小レポート提出状況等（20 %）を加味し、総合的に評価します。大学の行動方針レベルに応じ、期末はレポート提出に変更する可能性があります。変更の際は学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や理解度に応じて、後日授業での補足説明や追加資料配布等を行います。

【Outline and objectives】

In principle, administration in a democratic state is based on laws and budgets determined by the parliament representing the people. As it is difficult to delegate all the complexities of modern society to the decisions of Congress, administration has discretionary powers. Because of being managed mainly by bureaucrats, administration activities have the aspect of being operated autonomously. Therefore, their omissions and negligence on implementing the public policy might cause new social issues.

From such a viewpoint, we'll set the purpose of this class "Discovering social issues from the viewpoint of public administration." After studying the basics, like system, mechanism, and characteristics of public administration, we will study the change by the political influence of administrative system and policy, then we will consider the issue of the administrative responsibility.

LAW300EB

行政法Ⅰ

氏家 裕順

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国・都道府県などの行政は、われわれ私人の活動を規制したり、私人に対して給付したりするほか、租税の徴収もしている。さらに行政は、立法活動も行っており、それによって私人の権利義務を規律する場合がある。行政の活動が適法に行われることが、私人の生活にとって重要なことである。行政活動の適法性を確保するための法解釈・法理論を提供しているのが行政法学である。

授業では、行政活動の主体と組織、法治主義などの基本的事項を学習した後で、行政活動のうち、行政規範の制定（伝統的に行政立法と呼ばれてきた）、行政処分（行政行為と呼ばれることが多い）、行政上の強制執行、即時強制、行政指導に注目して、その法的規制を主に学ぶ。残される行政の行為は、行政法Ⅱで学習する。

【到達目標】

①行政法の法源、②行政の各種の行為、③法治主義の具体的内容、④信頼保護の必要性と方法、⑤行政規範の制定（行政立法）、⑥行政処分（行政行為）、⑦行政上の代執行と行政上の強制徴収の概要、⑧即時強制の法的規制、⑨行政上の制裁の概念と種別、⑩行政指導の概念・種別と法的規制を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業冒頭で、受講者から提出された意見・感想等を紹介しコメントする。なお、通学が困難な場合には、Webexを用い、講義形式で授業する。授業方式の変更などの連絡は、学習支援システムによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	行政法のイメージ	講義概要と進め方
第2回	行政と行政法	行政の概念 行政法の法源
第3回	行政活動の種別	公行政と私行政 行政の各種の行為
第4回	行政活動の主体と組織	行政活動の主体 行政組織の構成
第5回	法治主義・信頼保護	法治主義の内容 信頼保護
第6回	行政規範の制定	概念 種別 法律の委任のあり方
第7回	行政処分（1）	概念と成立過程
第8回	行政処分（2）	行政行為の効力
第9回	行政処分（3）	行政行為の職権取消しと撤回
第10回	行政処分（4）	行政行為の手続
第11回	行政上の強制執行	行政上の代執行（代執行） 行政上の強制徴収
第12回	即時強制と行政上の制裁	即時強制の法的規制 行政上の制裁の概念・種別
第13回	行政指導（1）	概念 種別
第14回	行政指導（2）	法的規制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指定箇所を通読することによって予習し、教科書を用いながら復習する。本授業の準備学習時間は1時間を、復習時間は3時間を、標準とする。

【テキスト（教科書）】

芝池義一『行政法読本〔第4版〕』（有斐閣、2016年）、¥3,000＋税

【参考書】

宇賀克也『行政法概説Ⅰ〔第6版〕』（有斐閣、2017年）、藤田宙靖『行政法入門〔第7版〕』（有斐閣、2016年）など初回の授業で紹介するもの。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100％）。通学できない場合にはレポートによる（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムや Webex を利用できる通信環境やハードウェア。レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc、.docx. の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）。

【Outline and objectives】

In order to establish your best possible foundation for studying administrative law, this course is designed to learn the fundamentals of administrative law.

LAW300EB

行政法Ⅱ

氏家 裕順

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法Ⅱでは、行政法Ⅰに引き続き行政の行為に注目して、行政契約の法的規制を学習する。また、行政計画、行政調査の法的規制の学習にも取り組む。

また、行政機関の保有する情報の公開に関する法律（行政機関情報公開法）と行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律（行政機関個人情報保護法）の概要を、すなわち、情報公開と個人情報保護の制度を学ぶ。

上記のものや行政法Ⅰで学んだ法的規制によって適法な行政活動が実現し、それにより私人の権利利益が保護されるはずだが、私人が被害を被った場合にはそれが回復され、また、被害の発生は予防されるべきである。行政活動によって被害を被った（被るおそれがある）私人の権利利益の回復（予防）のことを、行政救済という。この行政救済のための各種の制度をも学ぶ。

【到達目標】

行政計画の概念・種別及び法的規制、行政契約の概念・種別及び法的規制、行政調査の概念・種別及び法的規制、行政機関情報公開法の概要、行政機関個人情報保護法の概要、各種の行政救済と行政訴訟の諸形式、取消訴訟の概要、無効確認訴訟の訴訟要件、差止訴訟の訴訟要件、不作為違法確認訴訟の訴訟要件、義務付け訴訟の訴訟要件、公権力行使責任の概要、営造物管理責任の概要、水害と国家賠償責任について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業冒頭で、受講者から提出された意見・感想等を紹介しコメントする。なお、通学が困難な場合には、Webexを用い、講義形式で授業する。授業方式の変更などの連絡は、学習支援システムによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	行政法Ⅱでの学び	講義概要と進め方
第2回	行政計画	概念・種別 法的規制
第3回	行政契約	概念・種別 法的規制
第4回	行政調査	概念・種別 法的規制
第5回	情報公開と個人情報保護	行政機関情報公開法と行政機関個人情報保護法の概要
第6回	行政救済と行政訴訟	各種の行政救済 行政訴訟の諸形式
第7回	取消訴訟（1）	処分性 原告適格
第8回	取消訴訟（2）	訴えの客観的利益 事情判決
第9回	無効確認訴訟と差止訴訟	各訴訟の訴訟要件
第10回	不作為違法確認訴訟と義務付け訴訟	各訴訟の訴訟要件
第11回	国家賠償（1）	公権力行使責任の成立要件
第12回	国家賠償（2）	規制権限の不行使による国賠責任
第13回	国家賠償（3）	営造物管理責任の成立要件
第14回	国家賠償（4）	水害と国家賠償責任

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指定箇所を通読することによって予習し、教科書を用いながら復習する。本授業の準備学習時間は1時間を、復習時間は3時間を、標準とする。

【テキスト（教科書）】

芝池義一『行政法読本〔第4版〕』（有斐閣、2016年）、¥3,000＋税

【参考書】

宇賀克也『行政法概説Ⅱ〔第6版〕』（有斐閣、2018年）、藤田宙靖『行政法入門〔第7版〕』（有斐閣、2016年）など初回の授業で紹介するもの。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100％）。通学できない場合にはレポートによる（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムや Webex を利用できる通信環境やハードウェア。レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc、.docx. の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）。

【Outline and objectives】

In order to establish your best possible foundation for studying administrative law, this course is designed to learn the fundamentals of administrative law.

LAW300EB

政策と制度

田中 充

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は、様々な社会的課題の解決のめざす政府の取り組みです。その実現には制度を構築し運用することによって行動を組織する必要があります。また、地方自治体においては、それぞれの地域社会の特質に応じて制度を立案する必要性が高まっています。本講義では、環境政策を基軸として「政策と制度」の構築・運用に焦点を当てて政策実施のための考え方と手法について学びます。

【到達目標】

政策を実現するためのツールについて理解し、活用する能力を習得します。公共政策に携わるうえで必要な基礎的能力を形成するとともに、制度の在り方について考察する能力を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、新型コロナ問題の状況に応じて、対面またはオンライン方式で行います。授業終了時に授業内の課題に関するリアクションペーパーの記入・提出を求めます。授業の初めに、前回のリアクションペーパーを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。政策・制度の事例に係る映像を視聴し、問題状況に関する理解を深めます。進行状況により予定変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方、政策的アプローチ	講義の進め方や受講上の注意を確認します。環境問題を例に、問題の設定や政策手段など政策の概論を学びます。
2	法令と計画	政策の基本的手段、法律と条例、計画の意味と役割について学びます。
3	制度設計（１）－問題解決	制度のあり方として、問題の形成から政策の実施までのプロセスについて学びます。
4	制度設計（２）－ルール	制度を規定するルールの基礎、ルールの設計、権利義務関係への介入について学びます。
5	政策手段の類型と特徴	政策の手段である規制的手法、経済的手法、計画的手法、補助的手法などについて学びます。
6	規制的手法の仕組みと運用	政策手段の代表である規制的手法について、その類型、監視と制裁、私権制限などについて学びます。
7	経済的手法の仕組みと運用	経済的手法である負担金や権利（排出権）の取引、補助金、契約手法などについて学びます。
8	事業的手法の仕組みと運用	公共事業の実施、事業組織、受益と負担、意思決定システムなどについて学びます。
9	計画的手法の仕組みと運用	環境計画を例に、計画の立案と実施、運用の課題などについて学びます。
10	情報的手法の仕組みと運用	政策と制度における情報公開、情報提供と行動などについて学びます。
11	参加的手法の仕組みと運用	市民参加の手法、協働ルールやパートナーシップ原則などについて学びます。
12	自主管理手法の仕組みと運用	経営管理システムである環境マネジメント、環境 ISO について学びます。
13	自治立法	地方自治体における条例の制定、法律による先占と条例の可能性などについて学びます。
14	講義のまとめ	制度とは何か、事例をもとにした意見交換を行います。本講義のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

政策と制度に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。授業期間中に課題レポートを作成し提出します。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。プリントを配布します。

【参考書】

授業内で指示します。政策・制度の事例に係る映像を視聴し、問題状況に関する理解を深めます。

【成績評価の方法と基準】

・配分は、授業参加（平常点）60 %、課題レポート 40 %（2 回）とします。
・授業参加として、毎回リアクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーは記述内容に応じて採点（1 回 5～1 点）し、全回提出で満点 60 点とします。
・課題レポートを 2 回（うち 1 回を授業内小テストに代えることがある）行い、各回満点 20 点、合計 40 点とします。
・欠席の多い受講態度（概ね 3 割以上、14 回中に 4 回以上の欠席）は、平常点を大きくマイナスし、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

・受講生への連絡、資料配布等は学習支援システムで行います。システムを随時チェックできるような通信環境の設定が必要です。
・授業方式（対面またはオンライン）は、学習支援システムでお知らせします。
・オンライン授業の場合は、Wi-Fi 等のインターネット接続が必要です。

【その他の重要事項】

・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
・担当教員は、行政における政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等を事例を交えて解説します。

【Outline and objectives】

In this lecture we will learn the concept and method of constructing and operating "policy and institution" based on environmental policy.

SOS300EB

人的資源論

恵羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人的資源論の入門書を使用して、急速な技術革新、先進国の急速な人口減少、新興市場の拡大などの変化の中で、いかに企業が人材を活用し価値を創造しようとしているのかについて、「働かせる側」および「働く側」の両方の視点から人的資源論の理論と実践についての基本的知識を学ぶ。その上で、雇用が不安定化する現代社会における働くことの意味ややりがいについて考える。

【到達目標】

人的資源管理の基本的知識を身に付けるとともに、若者、女性、外国人材などの働き方について考える。それを通じて、将来のキャリア形成と問題解決に役立つ構造制度的・組織的背景への理解を深め、社会的発想力をもてるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は 4 月 13 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。各回の授業計画の変更がある場合、学習支援システムでその都度提示する。

課題等に対するフィードバックは、毎回および最終授業において前回まで提出されたりアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	人的資源論の背景	社会変動と日本企業が直面する課題を考える
第 3 回	人的資源論の理論 1	人事管理論・人的資源管理論をめぐり史の変遷を理解する
第 4 回	人的資源論の理論 2	グローバル化と戦略的的人資源管理について理解する
第 5 回	人的資源論の展開	タレントマネジメント、人材争奪と人材定着について考察する
第 6 回	ジェンダー・ダイバーシティ	ジェンダー・ダイバーシティ論とその背景、日本企業における女性の働き方について考察する
第 7 回	雇用管理	日本型雇用管理の特質とその変容、採用・配置・離退職、教育訓練について考察する
第 8 回	賃金管理	賃金管理について理解し、日本企業における賃金制度の変遷について学ぶ
第 9 回	労働時間管理	「働き方改革」における労働時間管理の変容と労使の考え方について学ぶ
第 10 回	若者の働きかた	雇用のミスマッチ、非正規化、就労意識の変化、若者の働き方の現状と将来的展望について考察する
第 11 回	女性の働きかた	日本型雇用における女性の働き方について考察する

第 12 回 公務員の働きかた 公務部門の基本的性格、公務改革と公務労働の変質について考察する

第 13 回 外国人材の拡大と課題 外国人専門家や高度人材、技能人材、留学生に関する外国人労働者政策と課題について考察する

第 14 回 まとめ 授業のまとめと期末試験の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、テキストや参考書の指定された箇所を各自で読み、キーワードの意味や疑問点などを調べておく。また、関連するニュースなどをチェックする。

復習では、配布資料やノートを整理しておく。授業内で適宜、講読課題を出すので指定された箇所を各自で読み、課題を提出する。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

守屋貴司・中村艶子・橋場俊展編著（2018）『価値創発（EVP）時代の人的資源管理 Industry4.0 の新しい働き方・働かせ方』ミネルヴァ書房、2800 円

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50 %）

毎回のリアクション・ペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）

②期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当のため非該当

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（パソコン等、オンライン講義に対応できるもの）

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じて適宜連絡するので、こまめに確認すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of basic ideas of human resources theory through the use of an introductory textbook.

MAN200EB

社会・イノベーション論 I

糸久 正人

サブタイトル：

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、社会に新たな価値をもたらすイノベーションに対する理解を深めます。社会・イノベーション論 I では、1) イノベーションが実現される基本的な前提としての社会の仕組み、2) 企業を中心としたイノベーション活動について学びます。

【到達目標】

・イノベーションが実現される前提としての社会の仕組みを理解する
・企業におけるイノベーション活動を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は、毎回パワーポイントを用いた講義形式で行います。小テストなどの課題に対するフィードバックは講義中に行い、期末試験に関しては学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イノベーションとは何か？	本講義のメインテーマであるイノベーションについて定義し、講義全体の概要を述べる
第 2 回	社会における分業と協業	社会における生産活動を効率的に行うための仕組みとしての分業と協業
第 3 回	資本主義と競争	貨幣の成り立ちと資本主義の基本原則を前提として、必然的に競争が生じるメカニズム
第 4 回	企業の目的と社会的責任	資本家の所有権の概念から企業の目的を考える
第 5 回	技術とイノベーション	イノベーションを実現する技術の役割と関係性
第 6 回	両利き経営の難しさ	企業活動としてオペレーションとイノベーションの必要性和難しさ
第 7 回	制約理論：流れづくりのマネジメント	流れづくりを効率的に行うためのボトルネックの考え方とその解消方法
第 8 回	ブルーオーシャン戦略	コストリーダーシップと差別化を同時に実現するバリューイノベーション
第 9 回	ビジネスエコシステム（産業生態系）論	PC 産業で先駆的に観察された垂直分業から水平分業への産業転換
第 10 回	標準化戦略 I	企業の枠を越えた共通ルールとしての標準：競争ベースの標準化
第 11 回	標準化戦略 II	企業の枠を越えた共通ルールとしての標準：コンセンサスベースの標準化
第 12 回	プラットフォーム戦略と独占問題	あるレイヤーでプラットフォームになるための戦略、および GAFA 問題
第 13 回	ゲスト講師	ゲスト講師を招き、特定のトピックに関する理解を深める

第 14 回 小括

前期の小括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ビジネス関連の新聞・雑誌・書籍等に日頃から目を向けることを推奨します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、なるべく多くの事例も取り上げます。

【その他の重要事項】

後期の社会・イノベーション論 II を併せて受講することを推奨します。

【Outline and objectives】

This lecture aims to cultivate your understanding of innovation, which providing new values to society. In the first semester, we focus on 1) social contexts and mechanisms in which innovation realize, and 2) innovation activities of firms.

MAN300EB

社会・イノベーション論Ⅱ

糸久 正人

サブタイトル：

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、社会に新たな価値をもたらすイノベーションに対する理解を深めます。社会・イノベーション論Ⅱでは、1) 政策とイノベーション、2) イノベーションの実践、3) 新たな技術と社会的価値について学びます。

【到達目標】

- ・政策とイノベーションの関係について理解する
- ・イノベーションを実践するための基本的知識を理解する
- ・新たな技術と社会的価値について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は、毎回パワーポイントを用いた講義形式で行います。小テストなどの課題に対するフィードバックは講義中に行い、期末試験に関しては学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	規制とイノベーション	政府の規制とイノベーションの関係について理論と現実の両側から理解する
第2回	イノベーションと知的財産	イノベーションと知的財産の保護およびオープン化
第3回	欧州を中心としたイノベーション政策	欧州を中心とした汎国家的なイノベーション政策
第4回	リスクとリターン：ベンチャー精神	リスクとリターンの基本的な関係とベンチャー精神について
第5回	リーダーシップ論	仲間づくりを行い、逆境を打破するリーダーシップについて
第6回	三方良しの交渉術	交渉術に関する基本的な理論と近江商人の三方良しの考え方
第7回	ソーシャルイノベーション	社会課題をビジネスの枠組で解決するソーシャルイノベーション
第8回	デザイン思考とイノベーション	イノベーション活動におけるデザインの意義と重要性
第9回	ゲスト講師	ゲスト講師による特定のトピックに関する講演
第10回	シェアリングエコノミー	所有から使用へと変化する消費活動の実態
第11回	人工知能とロボット共生社会	人工知能およびロボットと人間社会の関係について考える
第12回	暗号通貨と金融市場	暗号通貨の歴史と金融市場に与える影響
第13回	モビリティ革命：CASE と MaaS	自動車産業における Connected, Autonomous, Shared, Electric をベースとしたサービス化
第14回	総括	社会イノベーション論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ビジネス関連の新聞・雑誌・書籍等に日頃から目を向けることを推奨します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜紹介します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、なるべく多くの事例も取り上げるようにします。

【その他の重要事項】

前期の社会・イノベーション論Ⅰを受講していることが望ましいです。

【Outline and objectives】

This lecture aims to cultivate your understanding of innovation, which providing new values to society. In the second semester, we focus on 1) policy and innovation, 2) practice of innovation, and 3) new technologies and social values.

MAN200EB

中小企業論

糸久 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済の根幹を形成する「中小企業」に関して、既存研究では、資源制約があるがゆえに発展が妨げられているという「問題型」の議論、小さいことによる発展性／優位性に着目した「貢献型」の議論がなされてきました。本講義では、こうした中小企業をめぐる二面性を意識しつつ、中小企業に関する諸理論を学習します。具体的には、1) 中小企業とは何か？ 2) 中小企業はなぜ企業規模が小さいために問題性と発展性／優位性を有しているのか？ 3) 中小企業の形態であるベンチャー企業とは何か？ というテーマで議論します。また、多摩で活躍する中小企業の経営者をゲストスピーカーとして招き、実践的な中小企業経営について議論します。

【到達目標】

本講義では、企業規模が小さいことに起因する「問題性」と「発展性／優位性」を認識した上で、両者を包含した複眼的な視点から中小企業に対する理解を深めることを目標とします。また、多摩地域の中小企業経営者をゲストに招き、現場の活きた知識の獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は主にパワーポイントを活用した講義形式で行います。ゲスト講師の回にはリアクションペーパーの提出を求められます。小テストなどの課題に対するフィードバックは講義中に行い、期末試験に関しては学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の目的と全体像
第 2 回	中小企業とは？	中小企業の定義、法律・経済・経営的な意味について、および日本経済の発展過程における中小企業の役割
第 3 回	複眼的視点からの中小企業論	中小企業を捉える視座について
第 4 回	イノベーションと中小企業	独自の視点からイノベーション活動を行う中小企業を紹介
第 5 回	ベンチャー企業の経営	ベンチャー企業マネジメントの要点
第 6 回	産業集積と産業クラスター	産業集積と産業クラスターの要点
第 7 回	中小企業のケース（1）	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 8 回	中小企業のケース（2）	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 9 回	中小企業のケース（3）	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 10 回	中小企業のケース（4）	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 11 回	中小企業のケース（5）	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション

第 12 回	中小企業のケース（6）	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 13 回	中小企業政策	中小企業政策を概観し、中小企業の活性化について考える
第 14 回	中小企業論のまとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義期間中に、中小企業／ベンチャー企業の経営者によって書かれた独自のマネジメント手法に関する書籍を講読してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー提出 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Small and medium enterprises (SMEs) form the basis of the Japanese economy. There are mainly two major arguments in the previous researches on SMEs. One is “Problem driven,” which claims that SMEs have difficulties growing due to limited resources. The other is 2) “Contribution driven,” which claims SMEs’ potentiality and advantages because of its flexibility. This course deals with general theories on SMEs, considering these two different arguments. We discuss the following subjects; 1) What is a small business? 2) Why do SMEs have problems and potentiality/advantages? 3) What is a venture business? Additionally, we invite guest lecturers from SMEs in the Tama area to acquire a comprehensive understanding of SMEs.

ECN200EB

地域産業論 I

加藤 寛之

サブタイトル：地域産業論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な地域産業の具体例を紹介しつつ、地域産業を考える上で必要な眼（概念・理論）を習得し、受講者各自が地域産業の活性化に関われるようになることをテーマとする。

【到達目標】

農業や製造業、サプライヤーシステムなど、現代の地域産業で生じている国内での現状と課題を認識し、一方で国境を越えて地域産業をとらえる視点を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回授業前日までに、授業支援システムに教材と簡単な課題をアップします。課題は授業支援システム上で提出し、締切を設けます。締切は授業日です。最初の数回は授業のやり方に慣れるまでの移行期間とし、課題提出に遅延を認めます。締切後でも授業支援システムに提出できるように設定しておきます。期末試験は実施せず、課題とレポートで評価します。フィードバックは課題ごとにコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	企業を見る眼、産業を見る眼、中小企業を見る眼、地域産業を見る眼
第 2 回	産業の立地	チューネンの農業立地論、ウェーバー・アロンゾの工業立地モデル
第 3 回	農業と立地	事例研究：ベルグアース、村上農園
第 4 回	地域経済の成長理論	需要主導型の成長モデル、供給主導型の成長モデル
第 5 回	都市と環境問題	公害としての環境問題、都市の環境問題
第 6 回	地方工業都市（1）	企業城下町、日立製作所、三菱重工業（東海・九州）
第 7 回	地方工業都市（2）	トヨタ生産システム、愛知と九州と東北の自動車産業
第 8 回	都市周縁の集積	大阪の金型工場の集積、岡山のジーンズ縫製
第 9 回	マザー工場	子工場、孫工場とマザー工場の共進化、富士通、川崎重工
第 10 回	産業集積の理論と事例	クラスター
第 11 回	国境を越える地域の連携	プロダクトサイクル説、雁行形態論、塩地モデル
第 12 回	国の競争優位（1）	タイの自動車産業のサプライヤーシステム
第 13 回	国の競争優位（2）	東アジアの優位産業の競争力
第 14 回	国境を越えるクラスター同士の連携	東アジアのハードディスクドライブ産業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、次回のプリントを配布しますので、講義内容をあらかじめ把握してください。また、日常的に新聞を読むなど社会ニュースに触れ、時事的な事柄に感心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

村上 英樹 (著), 高橋 望 (著), 加藤 一誠 (著), 榎原 胖夫 (著)『航空の経済学』ミネルヴァ書房

伊藤 正昭 (著)『新地域産業論—産業の地域化を求めて』学文社

中村剛治郎編 (2008)『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題評価による平常点 70 点、レポート 30 点

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論の関わりを理解できるよう、講義を進めます。毎回リアクションペーパーを課しますが、復習になる（期末試験対策になる）という意見が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC によるプレゼンテーション形式の講義を行います。

【その他の重要事項】

授業開始は延期後の学年歴通りです。最初は授業の進め方に試行錯誤が続きますが、どうかお付き合いください。
授業前日までに毎回の教材と簡単な課題を授業支援システム上にアップロードします。課題には提出締切を設けます。最初の数回は試行錯誤が続きますので、提出遅延をしても提出できるように設定しておきます。

【Outline and objectives】

To study about local industries.

ECN300EB

地域産業論Ⅱ

加藤 寛之

サブタイトル：特講（地域と産業）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特性の異なる地域を取り上げて、地域産業の具体的な実態や理論の検討を行い、地域産業を考える際に必要な概念・理論の習得を目指す。また、実際の地域産業の分析・議論において、それらをどのように活用していくべきか考えることをテーマとする。なお、授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得る。

【到達目標】

製造業、農業、流通業、観光業など、現代の地域産業の実態、理論や政策課題について、一定程度以上の理解を得てもらうことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

指定テキストを参照しながら、最新動向を踏まえつつ、地域産業の実態と理論について学ぶ。各回、章毎にテキストを扱う予定である。数回に一度課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	地方消滅、地域産業を調べるということとは
第 2 回	地方消滅	東京一極集中、コンパクトシティ
第 3 回	G 型と L 型	グローバル経済圏とローカル経済圏
第 4 回	産業分析	統計指標の読み方
第 5 回	企業分析	財務諸表と企業分析
第 6 回	稼ぐまちとは	利益なくして再生なし
第 7 回	街づくりを成功させる鉄則	自立がまちを支える
第 8 回	町おこし：鯖江市	「めがねのまち」から「オープンデータのまち」へ
第 9 回	町おこし：今治タオル	地方発のブランド
第 10 回	温州商人	ソーシャルキャピタル、温州商人のネットワーク
第 11 回	琵琶湖水系	関西経済圏と琵琶湖水系、地盤沈下、水質汚染、環境と地域産業の共存
第 12 回	現代の二都物語	アナリー・サクセニアン の明らかにした経済地理
第 13 回	常石造船	沼隈町と常石造船
第 14 回	今治造船	瀬戸内海の波方船主達の生態と造船産業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回プリントを配布します。日常的に新聞を読むなど、社会経済に関するニュースに触れて、時事的な事柄に関心を持つように心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。参考書は適宜指定します。

【参考書】

木下 斉(著)『稼ぐまちが地方を変える―誰も言わなかった 10 の鉄則』NHK出版新書
木下 斉(著)『まちづくりの「経営力」養成講座』学陽書房
富山 和彦(著)『なぜローカル経済から日本は甦るのか』PHP 新書田村正紀(著)『リサーチ・デザイン』経営知識創造の基本技術』白桃書房
アナリー・サクセニアン(著)、本山 康之(監修、監修)、星野 岳穂(監修、監修)、酒井 泰介(翻訳)『最新・経済地理学』
アナリー・サクセニアン(著)、山形 浩生(翻訳)、柏木 亮二(翻訳)『現代の二都物語』日経 BP 社

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%、試験：80%

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論の関わりを理解できるよう、講義を進めます。毎回アクションペーパーを課しますが、復習になる（期末試験対策になる）との意見が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC によるプレゼンテーション形式の講義を行います。

【Outline and objectives】

To bluish up your skills about researching local industries.

SOC200EB, SOC200EC

産業社会学 I

恵羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化と急速な産業構造の変化の下、働きかたは多様化し、人びとの意識や社会的結合のあり方も変容している。「働くこと」とはどのようなことなのか、そこにはどのような課題があるのか。この授業では、産業・労働を捉える様々な見方について学び、産業社会学の学問としての成り立ちと基本的テーマを通じて、基礎的な知識を身に着ける。そして、産業・労働を取り巻く状況を社会動態として捉え、人々の意識や相互関係に着目する社会学の枠組みについて理解し、これまで社会学が「働くこと」をめぐっていかに考察してきたのかを理解するとともに、今日のグローバル化の影響について検討する。

【到達目標】

「働くこと」について、産業社会の発展の中で、どのような課題および問いが発生してきたのか、社会学的な観点から考察する方法について学ぶ。「働くこと」を取り巻く構造や制度、ならびに労働者の主体的関わりについて、社会学的な枠組みから理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は4月9日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。各回の授業計画の変更がある場合、学習支援システムでその都度提示する。

課題等に対するフィードバックは、毎回および最終授業において前回まで提出されたりアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	産業社会学とはどのような学問か	産業社会学、労働社会学、労働経済学、人的資源論など多様な学問領域の特徴を理解し、産業社会学の方法について学ぶ
第3回	経済と社会をめぐる社会学的研究の系譜	社会学における古典理論（デュルケム、ウェーバーなど）、社会関係資本、社会的紐帯などを含む経済社会学の基礎概念について学ぶ
第4回	産業化と社会変動	そもそも産業とは何なのか？ 分業、工業化、脱工業化に伴う技術・組織・社会関係・地域社会の変動などについて考察する
第5回	職場組織と人間関係	ホーソン実験など職場の人間関係論をめぐる議論を学び、欲求充足、モラル、感情労働などについて理解する
第6回	技術革新と労働	テイラーリズム、フォードイズム、ポストフォードイズムなどの議論から技術革新と労働・管理の変容を考える

第7回	労働者意識とイデオロギー	技術や官僚制化をめぐる労働の疎外と人間化、帰属意識、仕事のやりがいや価値観など、労働の主体性について考える
第8回	労資関係と労使関係	働くことを取り巻く利害関係や制度としての労資関係/労使関係について、その重層性を理解する
第9回	労働組合と労働運動	労働組合の類型と機能、および日本の労働組合の特徴を理解し、今日的な労働組合運動のあり方について考える
第10回	日本の産業社会学（1）	日本の産業社会学の系譜から、生活共同体としての労働社会、経営家族主義、産業化と日本の特質などを理解する
第11回	日本の産業社会学（2）	いわゆる日本型雇用システムの特徴を理解し、その変容と多様な働き方について考える
第12回	グローバル化と労働（1）	新国際分業や多国籍企業、経済産業再編成とサービス化、資本と労働の移動の相互関係などについて学ぶ
第13回	グローバル化と労働（2）	アジアおよび日本における移民労働者と労働の変容について考察する
第14回	まとめ	授業のまとめと期末レポートについての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、産業・労働をめぐるテーマについて関心を持ち、積極的に自主学習を進めること。疑問点や分からないキーワードなどについて調べておく。

復習では、配布資料やノートを整理しておく。授業内で適宜、講読課題を出すので指定された箇所を各自で読み、課題を提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50 %）

毎回のリアクション・ペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）

②期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当のため非該当

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（パソコン等、オンライン講義に対応できるもの）

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じて適宜連絡するので、こまめに確認すること。授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of sociology of work to students. It also enhances the understanding of current socioeconomic dynamics surrounding industrial relations and workers.

SOC300EB, SOC300EC

産業社会学Ⅱ

恵羅 さとみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990 年代以降の社会構造変動の下での、格差の拡大をめぐる問題について、産業・労働の視点から考える。今日のサービス経済化や少子高齢化する社会において、若年労働、女性労働、外国人労働などが直面している非正規雇用、長時間労働、労働リスクなどの不安定雇用や労働環境をめぐる問題について、その労働実態、構造的背景、組織的特徴などを理解し公正で平等な労使関係の再構築に向けて求められている対策や社会政策について検討する。

【到達目標】

現代の産業社会が直面する、産業と労働に関わる諸問題について、その背景と実態を理解し、問題解決のためにどのような対策・制度政策が求められているのかについて考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる予定。本授業の開始日は 9 月 17 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。各回の授業計画の変更がある場合、学習支援システムでその都度提示する。

課題等に対するフィードバックは、毎回および最終授業において前日まで提出されたリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	非正規雇用の拡大 (1)	雇用システムの変化と多様な働き方の拡大について学ぶ：統計的概観、規制緩和政策、労働者保護法制など
第 3 回	非正規雇用の拡大 (2)	曖昧な働きかたがもたらすリスクの拡大について考える：個人事業主・個人請負労働、労働者性の問題など
第 4 回	非正規雇用の拡大 (3)	若者の就職について考える：採用の仕組み、教育システム、若者雇用問題など
第 5 回	労働を取り巻くリスク (1)	ブラック企業について考える：実態、構造的背景、社会的対策など
第 6 回	労働を取り巻くリスク (2)	長時間労働について考える：労働時間制度の歴史、時間外労働、働き方改革など
第 7 回	労働を取り巻くリスク (3)	労働安全について考える：労災、職業病、公害などをめぐる労働関連法や補償制度、危機とエッセンシャルワーカーなど
第 8 回	労働組合と労働運動 (1)	日本的雇用システムと労働組合について学ぶ：企業別労働組合の歴史、構造、機能、およびその限界

第 9 回 労働組合と労働運動
(2)

新たなユニオニズムを考える：労働相談窓口、非正規労働者の組織化、多様なコミュニティユニオンの役割など

第 10 回 平等をめぐる視点
(1)

女性の働きかたを考える：男女平等政策の歴史的変遷、女性と非正規労働、ワークライフバランスなど

第 11 回 平等をめぐる視点
(2)

雇用及び職業における差別に対する取り組みを学ぶ：差別の禁止、職場のダイバーシティ、グローバル化など

第 12 回 グローバル化と労働
(1)

日本の移民労働者受入政策を考える：受け入れ政策の推移、その原理と変容

第 13 回 グローバル化と労働
(2)

移民労働者の働きかたを考える：産業特性、多様な制度（日系人、技能実習制度、EPA 看護師、特定技能など）

第 14 回 まとめ

授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、産業・労働をめぐるテーマについて関心を持ち、積極的に自主学習を進めること。疑問点や分からないキーワードなどについて調べておく。

復習では、配布資料やノートを整理しておく。授業内で適宜、講読課題を出すので指定された箇所を各自で読み、課題を提出する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

①平常点 (50 %)

リアクション・ペーパー、授業内で出された提出課題など

②期末レポート (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当のため非該当

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（パソコン等、オンライン講義に対応できるもの）

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じて適宜連絡するので、こまめに確認すること。授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

This course examines inequality in Japanese society related to work and employment. It deals with various topics such as changing industrial relations, expanding unregular/precarious work, working environments and risks as well as social policy.

ECN200EB

国際経営論 I

多田 和美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論 I では、国際経営論に関する基本的な考え方と概念を学びます。そのなかでは、国際社会の変化を踏まえて、社会とその一員である企業がともに成長するためにどのような取り組みが必要なのかといった課題も取り上げます。その結果、国際経営論に関する基本知識とその知識の実践的な活用方法を修得することを目的とします。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営論に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、文章によって説明できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部ディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	国際経営とは何か	ガイダンス
第2回	国際経営と環境	CAGE フレームワーク
第3回	海外直接投資の理論①	優位性の命題、内部化理論
第4回	海外直接投資の理論②	OLI パラダイム
第5回	多国籍企業の国際競争の歴史	今日に至る歴史
第6回	多国籍企業の組織デザイン	国際経営の進展と組織構造
第7回	トランスナショナル経営①	グローバル統合とローカル適応
第8回	トランスナショナル経営②	国際経営の4タイプ
第9回	海外子会社の経営①	海外子会社の所有政策
第10回	海外子会社の経営②	海外子会社の役割と成長
第11回	国際戦略提携	国際戦略提携のメリットとデメリット
第12回	異文化経営	各国文化のとらえ方
第13回	国際経営と CSR	多国籍企業の社会的責任
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】

梶浦雅己（2020）『はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス（第三版）』文真堂。

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。

吉原英樹（2015）『国際経営（第4版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題：60%、期末試験もしくは期末レポート：40%で評価します。

・課題の提出は期限厳守です。

・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、学生の意見を把握し随時授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand the fundamentals of international business from the theoretical and practical points of view. The course is mainly composed of the followings:

- 1) Basic theories of international business
- 2) Basic frameworks of international business
- 3) Advantages/disadvantages of international business
- 4) Social responsibility of multinational companies

ECN300EB

国際経営論Ⅱ

多田 和美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論Ⅱでは、実際の国際経営活動の多様な領域を学びます。そこでは、日本多国籍企業による各種国際経営活動の実際にも焦点を当て、その特徴や課題を議論します。後半では、その他の先進国および新興国にも焦点を当てます。その結果、国際経営論の基本知識とその実践的な活用方法に関する理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営論の基本知識をもとに、企業の国際経営の現象を論理的に分析できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論の基本視座	I-R フレームワーク
第2回	国際マーケティング①	国際マーケティングの特徴
第3回	国際マーケティング②	日本多国籍企業の事例
第4回	海外生産①	国際生産ネットワーク
第5回	海外生産②	日本多国籍企業の事例
第6回	国際研究開発①	HBE/HBA 型
第7回	国際研究開発②	日本多国籍企業の事例
第8回	国際サプライチェーン・マネジメント	国際的な調達活動と製販統合
第9回	国際人的資源管理①	EPRG プロファイル
第10回	国際人的資源管理②	日本多国籍企業の事例
第11回	先進国と国際経営①	先進国市場の特徴
第12回	先進国と国際経営②	先進国企業の特徴
第13回	新興国と国際経営①	新興国市場の特徴
第14回	新興国と国際経営②	新興国企業の特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。

吉原英樹（2015）『国際経営（第4版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題：60%、期末試験もしくは期末レポート：40%で評価します。
・課題の提出は期限厳守です。
・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、学生の意見を把握し随時授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand the various fields and activities of international business based on the basic knowledge acquired in International business 1 in Spring semester. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Marketing, Production, R&D and HRM by multinational companies,
- 2)The characteristics of multinational companies in developed and emerging countries.

ECN200EB

経済政策論

北浦 康嗣

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済政策の1つとして、効率的な資源配分が達成されるために政府が何らかの手段で市場へ介入することが挙げられます。本講義では、ミクロ経済学の内容を前提として産業組織論の基本的な考え方を解説するとともに、規制政策・競争政策の経済学的根拠を解説します。

【到達目標】

- (1) 産業、企業の経済学的行動について、図を用いて説明することができる。
- (2) 不完全競争について、図を用いて説明することができる。
- (3) 規制政策・競争政策について、図を用いて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半は産業、企業の行動について経済学的な分析を行う。その後に、不完全競争について解説し、規制政策・競争政策について議論を行う。2021年度はオンライン授業の実施に伴い、変更の可能性があります。変更内容は学習支援システムで提示します。必ず、毎回、Hoppiiを確認するように心がけてください。
授業の初めに、前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、生産の理論（1）一完全競争市場	ガイダンスを行った後に、利潤・費用・収入といった用語や生産関数・生産要素の限界生産力を解説します。
2	生産の理論（2）一完全競争市場	利潤最大化問題について解説します。
3	生産の理論（3）一完全競争市場	総費用曲線と限界費用曲線の関係を図解します。
4	生産の理論（4）一完全競争市場	総費用曲線と平均費用曲線の関係を図解します。
5	生産の理論（5）一完全競争市場	利潤最大化問題を図解します。
6	生産の理論（6）一完全競争市場	損益分岐点と操業停止点を図解します。
7	中間試験	計算問題を中心として試験を行います。
8	不完全競争	不完全競争について解説します。
9	ゲーム理論（1）	戦略的行動について解説します。
10	ゲーム理論（2）	同時手番ゲームについて解説します。
11	ゲーム理論（3）	ナッシュ均衡について解説します。
12	ゲーム理論（4）	囚人のジレンマについて解説します。
13	クールノー競争（1）	不完全競争における価格競争について解説します。

14 クールノー競争（2） 競争政策・産業政策について議論
します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

家森 信善, 小川 光 [2007] 「基礎からわかるミクロ経済学（第2版）」
中央経済社

【成績評価の方法と基準】

2回の試験（中間試験 50 %, 期末試験 50 %, 両方受験すること。）
で評価します。試験に関しては、Hoppii 上でお知らせします。必
ず、毎回、Hoppii を確認するように心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、板書
中心の授業を行います。

【Outline and objectives】

The objective of the course is to provide the students with
the understanding and tools of microeconomics. Students who
complete this course will be able to understand:

(1) the theory of the firm;

(2) the theoretical market structures of perfect competition,
monopoly and oligopoly.

ECN200EB

金融システム論

八木 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内の金融政策・金融制度および国際金融の仕組みについて理解する
ために必要な、伝統的な金融に関する理論および知識とともに、近
年のデジタル化に基づいた最新技術動向（ブロックチェーンや金
融情報システム）や、それによって得られた知見の修得を目指す。

【到達目標】

現在の国内外の金融問題について理解できるよう、金融および国際
金融に関する理論のごく基本的な枠組みおよび金融システムの仕組
みに関する実証的な知識を身につける。

また、金融システムに応用された最新技術動向やそれらから得られ
た知見について理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
た能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に
関連。 DP についてはこちら [https://www.hosei.ac.jp/shakai/
info/article-20200325181407/](https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/)

【授業の進め方と方法】

PowerPoint ベースのスライドを利用した講義中心に行います。授
業の前半では、金融の理論と金融政策運営など伝統的な金融シス
テム論を基礎から学びます。後半では、金融業界および金融シス
テムで利用されている最新技術について学びます。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章	自己紹介、金融取引と金融シス テムの概要をみていく
2	日本の金融システム	これまでの日本の金融システムの 発展や特色について述べる
3	資金循環と金融構造	資金循環と日本の金融構造の特 徴についてみていく
4	貨幣と決済	貨幣の意義と機能、決済シス テムについて述べる
5	金融市場と新しい金融 取引手法	金融市場の機能とその種類につ いてみていく
6	金融システムの安定性 と監督規制	金融システムの安定性とブルー デンス効果、バーゼル規制等を学 ぶ
7	金融システムと中央銀 行	中央銀行の役割について学ぶ
8	ブロックチェーンと暗 号資産の基礎	ブロックチェーンと暗号資産を取 り巻く状況を確認する
9	ブロックチェーンを支 える技術	ブロックチェーンを支える科学技 術について学ぶ
10	ブロックチェーンの最 新動向	ブロックチェーンを用いたビジネ ス等最新の動向をみていく
11	金融情報システム：金 融サービスと金融 IT	金融情報システムのしくみを学ぶ
12	金融業界の情報シス テム	各金融業界で利用されている金融 情報システムについて紹介してい く
13	データサイエンスと金 融ビジネス	金融ビジネスにおけるデータサイ エンスの利活用方法を紹介する
14	フィンテックと金融ビ ジネス	情報産業としての金融業の特徴を 理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。資料が事前に配布されたときはそれを読んで予習する。講義終了後も資料を読んで理解を深めるよう心掛ける。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

以下の図書の内容を中心に授業を行いますので、より理解を深めたいときはこれらを参考にしてください。

- ・金融システム（第 4 版）、酒井良清・鹿野嘉昭著、有斐閣
- ・現代の金融入門、池田和人著、筑摩書房
- ・エンジニアが学ぶ金融システムの「知識」と「技術」、大和総研フロンティアテクノロジー本部著、翔泳社
- ・ブロックチェーンのしくみと開発がしっかりわかる教科書、コンセンサス・ペイズ
- ・デジタルイノベーションと金融システム、木下信行著、きんざい
- ・ブロックチェーン仕組みと理論、赤羽喜治・愛敬真生編著、リックテレコム

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて判定します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

一部の授業回数で試験的に導入した事後確認用授業資料（虫食い版）が好評だったので対象範囲を広げる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料を PDF で配布するので、それを確認できる情報関連機器

【その他の重要事項】

講義の後半は、情報科学技術について深掘りするため、可能な限り平易な説明を心がけますが、数理的な説明が入ってくることもあり得ます。

【Outline and objectives】

In order to understand the monetary policy and financial system in Japan, we will learn the traditional financial system and the latest technology trends (blockchains and financial information systems etc.).

SES200EB

環境経済学 I

信澤 由之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

温暖化防止、循環型社会構築など環境保全を対象とした環境経済・政策論を講述する。なぜ、環境破壊が発生するのか、経済学的な視点（市場の失敗）から学ぶ。さらに、環境負荷軽減を目的とした政府・自治体の政策手法（規制的手法、経済的手法、奨励的手法）について、どのような効果があるのか、について考える。とりわけ、環境問題に用いる政策手法を経済学的に理解し、地球温暖化、原子力政策と放射性廃棄物の問題と政策効果について学ぶ。

【到達目標】

環境経済学 I では、問題解決型学習を実施する。履修者が環境破壊のメカニズムを把握した上で、地球環境問題と経済学の関係について、市場の失敗の観点から環境問題の関係について説明できるようにする。特に、外部性以外にも、独占や情報の非対称性、公共財においてもケーススタディからなぜこの問題が起こったのか考えるままとめられることを目標とする。「身近な環境問題」ないし、「地球環境問題」に関心を持ち、地球環境問題を通じて問題提起を起し、考察し、文章にまとめる力を養うことを目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

hoppii に公開するレジュメを用いて講義形式で実施する。できる限り具体的な事例の紹介や客観的なデータ等に基づく説明をするとともに、環境問題を経済学の視点から解決できるようにする。また、授業内容をベースとした課題を出題し、授業内容の理解度を確認していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／地球環境破壊の現状	シラバスの内容確認／9つの地球環境問題とその影響について考える。
第 2 回	環境破壊のメカニズム	なぜ、環境は破壊されるのか、事例を用いてそのメカニズム考える。
第 3 回	市場メカニズムと市場の失敗	市場メカニズムは万能か、市場の失敗は、何が問題かを考える。
第 4 回	環境問題と経済	環境問題と経済学の関係について考える。
第 5 回	外部性・情報の非対称性と環境問題	外部性と情報の非対称性の観点から環境問題を考える。
第 6 回	地球温暖化とエネルギー資源	地球温暖化の発生メカニズムを把握し、どのエネルギー資源が、温暖化防止に望ましいのかを考える。
第 7 回	独占と環境問題	独占の視点から再生可能エネルギー固定価格買取制度の欠陥を考える。
第 8 回	日本の原子力政策	日本における原子力政策について学び、今後、原発ゼロが可能かどうかを考える。

第 9 回	放射性廃棄物の処分問題－世代間の環境問題	放射性廃棄物とは何か、どのような影響を及ぼすかを学び、安全な処分方法について考える。
第 10 回	公共財と環境問題	地球公共財とグローバルコモンズの視点から環境破壊について考える。
第 11 回	外部不経済の理論的考察	経済学で環境問題を考える上で重要な外部不経済を費用の視点から理解する。
第 12 回	環境汚染の責任と費用負担	地球環境問題において汚染者とは誰か、誰が責任を負うべきか、環境に係わる費用は誰が負担すべきかを考える。
第 13 回	外部不経済の内部化のための方法	環境政策手法で用いられる規制的手法と経済的手法、奨励的手法について理解する。
第 14 回	環境経済学の理論のまとめ／期末試験	環境経済学の理論のまとめ／期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習 1 時間、復習時間 3 時間を標準とする。
また、期末試験・小テストなどを実施する場合、準備学習 3 時間以上、復習時間 1 時間以上とする。
事前学習では、Hoppii に公開するレジュメを読んでおくこと
事後学習においては、レジュメを文章にまとめた上で、課題に取り組むこと

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

日引 聡、有村俊秀『入門環境経済学』中公新書、2002 年
倉坂秀史『環境政策論 第 3 版』信山社、2015 年
講義内容の範囲が広いので、履修者から質問があれば、助言する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（58 %）、平常点（42 %）で評価をする。
期末試験については、論述試験または、レポートを実施する。平常点については、課題（さまざまな形式）を毎回出題する。授業の進捗状況で課題の回数は変動するが、全体の比率としては、平常点 42 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

課題の解答とレジュメのスライド番号がリンクできるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメの公開及び課題の出題及び回収は、Hoppii で行います。レジュメについては、各自印刷して授業に持ってきてください。レジュメなどは、マイクロソフトの PowerPoint ファイル、Word ファイルや PDF ファイルを利用して行いますので、これらに対応した端末及びインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

授業内容の理解度を把握するために、レジュメごとの課題を出し、解説をしていく。

【Outline and objectives】

Lectures will be held on environmental economics and policy theories that focus on environmental conservation, such as the prevention of global warming and the construction of a recycling society. We will learn why environmental destruction occurs from the perspective of economic studies (market failures).

SES300EB

環境経済学Ⅱ

信澤 由之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

温暖化防止、循環型社会構築など環境保全を対象とした環境経済・政策論を講述する。なぜ、環境破壊が発生するのか、経済学的な視点（市場の失敗）から学ぶ。さらに、環境負荷軽減を目的とした政府・自治体の政策手法（規制的手法、経済的手法、奨励的手法）の事例を用いて、その効果について考える。とりわけ、ヒートアイランド、都市交通問題、ごみ問題、地方環境税を事例に考える。

【到達目標】

環境経済学Ⅱでは、問題解決型学習を実施する。履修者が個別の環境問題について政策効果のある政策手法を論理的に説明できるようにする。特に、廃棄物問題と資源問題、環境配慮型製品の普及と、その消費行動を把握した上で、持続可能な開発実現に向けた施策を考える。「環境意識」を持ち、生活環境問題・地球環境問題を通じて問題提起し、考える力を養うことを目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

hoppii に公開するレジュメを用いて講義見識で実施する。できる限り具体的な事例の紹介や客観的なデータ等に基づく説明をするとともに、環境問題を経済学の視点から解決できるようにする。また、授業内容をベースとした課題を出題し、授業内容の理解度を確認していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／SDG s について	シラバスの内容確認 SGD s、持続可能な社会について考える。
第 2 回	水俣病と国際条約	世界の水俣病問題の状況と水俣条約について理解する
第 3 回	廃棄物問題とその責任	廃棄物問題とは何か、誰が処理を処理・処分をするのか、その責任は誰にあるのかを考える。
第 4 回	家庭系一般廃棄物の削減施策	家庭ごみ有料化とその他廃棄物減量施策の効果を理論的に考察する。
第 5 回	先進国における食品ロス問題	日本の食品ロス問題を中心に、なぜ食品ロスが問題であるか、グローバルの視点で考える。
第 6 回	廃プラスチックとマイクロプラスチック汚染問題	プラスチックやマイクロプラスチックが海洋生物に与える影響と、プラスチックの排出源からの排出抑制策を考える。
第 7 回	産業廃棄物問題とゼロ・エミッション	有害性の高い産業廃棄物の不法投棄問題と、ゼロ・エミッション工場について考える
第 8 回	産業廃棄物税とその効果	地方自治体が導入する産業廃棄物税の効果について理論的考察をする。

第 9 回	ヒートアイランド問題とその施策	ヒートアイランド問題に取り組みと先進的自治体の事例からヒートアイランド対策を考える
第 10 回	森林保全と森林環境税	地方自治体が独自課税として導入した森林環境税について、その効果を考える。
第 11 回	環境配慮型技術・製品の普及と環境配慮型の消費行動	環境配慮型技術・製品を普及させるためには、消費者が環境配慮型の消費行動にならないといけない。そのための方策を考える。
第 12 回	途上国における環境問題	貧困問題からもたらされる環境破壊について考える。
第 13 回	コモンズの悲劇と資源問題	コモンズとは何か、水資源と生物資源の観点から考える。
第 14 回	SDGs の実現に向けて／期末試験	SDGs の実現に向けて考える／期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習 1 時間、復習時間 3 時間を標準とし、これを踏まえて、課題に取り組んでください。また、小テストを実施する場合、準備学習 3 時間以上、復習時間 1 時間以上とします。
事前学習では、Hoppii に公開するレジュメを読んでおくこと
事後学習においては、レジュメを文章にまとめた上で、課題に取り組むこと

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

日引 聡、有村俊秀『入門環境経済学』中公新書、2002 年
倉坂秀史『環境政策論 第 3 版』信山社、2015 年
和田尚久『地域環境税』日本評論社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

小テスト（58 %）と、平常点（42 %）で評価をします。
期末試験については、論述試験または、レポートを実施する。平常点については、課題（さまざまな形式）を毎回出題する。授業の進捗状況で課題の回数は、変動するが、全体の比率として、平常点 42 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

課題の解答と、レジュメのスライド番号がリンクできるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメの公開及び課題の出題及び回収は、Hoppii で行います。レジュメについては、各自印刷して授業に持ってきてください。レジュメなどは、マイクロソフトの PowerPoint ファイル、Word ファイルや PDF ファイルを利用して行いますので、これらに対応した端末及びインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

授業内容の理解度を把握するために、レジュメごとに課題を出していきます。
環境経済学 I を履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Lectures will be held on environmental economics and policy theories that focus on environmental conservation, such as the prevention of global warming and the construction of a recycling society. We will learn why environmental destruction occurs from the perspective of economic studies (market failures).

SES200EB

環境政策論

田中 充

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済社会活動に起因する環境問題に対して、適切な環境政策を実施していくことが求められます。本授業は、現代社会が直面する環境問題の基本的構造を学ぶとともに、具体的事例に即して問題の解決をめざす環境政策の体系と考え方を修得します。

【到達目標】

水俣病や地球温暖化問題等の環境問題に関する専門的な知見を修得します。環境問題を解決に導く環境政策の考え方を理解し、政策を体系的に実践できる「環境マインド」を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、新型コロナ問題の状況に応じて、対面またはオンライン方式で行います。授業終了時に授業内の課題に関するリアクションペーパーの記入・提出を求めます。授業の初めに、前回のリアクションペーパーを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。環境問題の映像を視聴し、問題状況に関する理解を深めます。進行状況により予定の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方とスケジュール、環境政策の理念	講義の進め方とスケジュール、受講上の注意を紹介します。環境政策の理念を学びます。
2	人間活動と環境問題	環境負荷の発生と環境問題との係わり、環境問題による文明崩壊の事例を学びます。
3	環境問題の発生と政策の役割	複雑な環境問題を解決する環境政策の位置づけと役割を学びます。
4	環境政策における市民参加	環境問題の解決に向けた市民参加・協働の意義と、その事例（アサザ事業、市民風車）を学びます。
5	環境ガバナンスの視点	多様な主体が関わり新しい公共を担う環境ガバナンスの仕組みを学びます。
6	環境政策の基本原則	政策の基本原則として持続性やコジカルフットプリント等を学び、政策への適用について考えます。
7	環境政策の基本原則と対策手法	政策の基本原則である汚染者負担原則、拡大生産者責任、予防原則などの考え方から対策手法を学びます。
8	水俣病の発生と問題構造	最大の公害問題である水俣病について、地域社会との関わりなど問題構造を学びます。
9	水俣病の拡大防止策の失敗	水俣病の被害と患者の状況を学び、拡大防止の不備、失敗の要因を説明します。
10	水俣病への行政の不作為と裁判	水俣病被害の拡大防止に向けた政策主体の行政の役割を学びます。水俣病裁判の経緯を理解します。
11	水俣病に学ぶ環境政策の教訓	多数の被害者を発生させた水俣病の特質を抽出し、今後の環境政策の教訓を学びます。
12	地球温暖化対策の実施	低炭素対策の枠組みと温暖化防止の国際社会の連携について学びます。
13	環境政策の手法	地球温暖化等の多様な環境問題を解決する環境政策手法（直接規制、経済的手法等）を学びます。
14	環境問題の解決に向けて（まとめ）	21 世紀の環境文明社会の構築に向けて環境問題の解決のあり方を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。期間中に 2 回の課題レポートを作成し提出します。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布します。授業時に映像を視聴します。

【参考書】

宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい、2008）、
田中充編著『地域からはじまる 低炭素・エネルギー政策の実践』（ぎょうせい 2014）ほか、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

・配分は、授業参加（平常点）60 %、課題レポート 40 %（2 回）とします。
・授業参加として毎回アクションペーパーの提出を求めます。アクションペーパーは記述内容に応じて採点（1 回につき 5～1 点）し、全回提出で 60 満点とします。
・課題レポートは 2 回（うち 1 回を小テストに代える場合がある）行い、各回 20 満点、合計 40 点とします。
・欠席の多い受講態度（授業回数のうち概ね 3 割以上の欠席）は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン方式による動画上映時への指摘、レポート提出期限などへの指摘に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

・資料配布、課題提出等のために学習支援システム等を利用する場合があります。
・授業方式（対面またはオンライン）は学習支援システムによりお知らせします。
・オンライン授業の場合は、Wi-Fi 等のインターネット接続が必要です。

【その他の重要事項】

・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
・担当教員は、環境行政における政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等について事例を交えて解説します。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>環境政策論
<研究テーマ>自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

【Outline and objectives】

This lecture deals with the basic structure of environmental issues and the system of environmental policies to solve those issues.

SES200EB

環境自治体論

田中 充

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

住民生活や事業活動の現場を抱える地域・自治体に注目し、廃棄物対策、地球温暖化防止、環境マネジメントを事例として行政施策の条例・計画、住民参加手法などを学びます。

【到達目標】

廃棄物問題、地球温暖化・エネルギー問題等の具体的な環境問題について、その原因・経過・対策の構造を学び、自治体環境行政の視点に即して地域環境政策の概念と体系について修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、新型コロナウイルス問題の状況に応じて、対面またはオンライン方式で行います。授業終了時に授業内の課題に関するアクションペーパーの記入・提出を求めます。授業の初めに、前回のアクションペーパーを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。環境問題の映像を視聴し、問題状況に関する理解を深めます。進行状況により予定の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方とスケジュール、廃棄物問題の基礎	講義の進め方とスケジュールを紹介し ます。
2	廃棄物の現状と処理・処分	廃棄物の処理・処分の仕組みと現状、 問題の所在について学びます。
3	廃棄物の再資源化・リサイクル	廃棄物の再資源化について日本の現状 と課題を学びます。
4	資源循環型社会の構築：水俣の循環型地域づくり	資源循環型社会の構築の事例として水 俣市の資源循環型地域づくりを学びま す。
5	環境基本条例・環境基本計画の体系	自治体環境行政の枠組みとして基本条 例と基本計画の理念と体系を学びます。
6	公害克服とエコタウンの推進	川崎の公害問題の改善とまちづくり、 環境と産業の調和を目指すエコタウン 構想を学びます。
7	地球温暖化問題の要因と影響、構造	今日の経済社会に内在する温暖化問題 の原因と影響、その構造を学びます。
8	気候変動対策－緩和と適応	地球温暖化対策の国際社会の経緯とと もに、対策の柱である緩和策と適応策 について学びます。
9	地域の温暖化対策：京都市温暖化条例	全国初の京都市の地球温暖化対策条例 とその取り組みを学びます。
10	飯田市の地域環境マネジメント	地域の環境マネジメントシステムとし て飯田市のマネジメントの取り組みを 学びます。
11	自治体環境行政と市民参加	今日の自治体環境行政の柱となる市民 参加の仕組みを学びます。
12	自治体のエネルギー政策	自治体エネルギー政策の枠組みと政策 マトリックの概念を学びます。
13	庄内町のエネルギーコミュニティ	再生可能エネルギー政策の事例として 風力発電を進める庄内町（旧立川町） を学びます。
14	環境自治体と持続可能な地域づくり（まとめ）	自治体環境政策の総合体系として環境 自治体の概念、持続可能性のあり方を 学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。期間中に 2 回の課題レポートの提出が求められます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。授業時に映像を視聴します。

【参考書】

宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい 2008）、
田中充編著『地域からはじまる低炭素・エネルギー政策の実践』（ぎょうせい
2014）ほか、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

・配分は、授業参加（平常点）60％、課題レポート 40％（2 回）とします。
・授業参加として、毎回リアクションペーパーの提出を求めます。リアクショ
ンペーパーは記述内容に応じて採点（1 回 1～5 点）し、全回提出で満点 60
点とします。
・課題レポートを 2 回（うち 1 回を小テストに代える場合がある）行い、各
回満点 20 点とし、合計 40 点とします。
・欠席の多い受講態度（概ね 3 割以上、14 回中 4 回以上の欠席）は、平常点
を大きくマイナスし、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン方式による動画上映時への指摘、レポート提出期限などへの指
摘に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

・資料配布、課題提出等のために学習支援システム等を利用する場合があります。
システムに随時アクセスできる通信環境が必要です。
・授業方式（対面またはオンライン）は、学習支援システムでお知らせします。
・オンライン授業の場合は、Wi-Fi 等のインターネット接続が必要です。

【その他の重要事項】

・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
・担当教員は、自治体行政における環境政策の立案・推進に従事した実務経験
を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等について解説します。

【担当教員の専門分野】

＜専門領域＞環境政策論
＜研究テーマ＞自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

【Outline and objectives】

This lecture deals with local governmental policies on issues of waste
disposal, global warming measures and environmental management
system, etc.

EVN200EB

エネルギー論

鞠子 茂

サブタイトル：特講（エネルギー論）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの生活や社会活動を行うにはエネルギーが必要である。そのエネルギー
は有限な化石燃料と核燃料を燃やすことで供給されているが、それに伴って
排出される物質は地球環境を汚染している。エネルギーとやエネルギーに関
する諸問題について基本的な知識を学んだうえで、これからのエネルギー問
題について考える力を身につける。

【到達目標】

- ①エネルギーを通じて人間社会の成り立ちについて理解・説明できる。
- ②エネルギーの利用技術について科学的に理解・説明できる。
- ③エネルギー社会のあり方について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181440/>

【授業の進め方と方法】

パワポを使った講義を行う。事前に学習支援システムで配布資料をダウンロー
ドし、予習をしたうえで授業に臨む。理解度確認のために課題を課し、解答を
提出させる。次の授業で提示された解答例をみて各自理解度をチェックす
る。理解度の高低により授業テーマの順序や内容は多少変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと全体像	授業の概要と進め方と全体像の説明
2	エネルギー消費と人類	人とエネルギーの関係を歴史的に説明
3	エネルギーとは何か	エネルギーに関する基本的ことから
4	暮らしの中のエネルギー	エネルギーへの依存性についての認識
5	情報化社会によるエネルギー消費の変化	情報化社会がエネルギー消費形態に与える影響について概説する
6	化石燃料消費と地球環境	CO2 排出が地球に与える影響を解説
7	CO2 削減と原子力発電	原子力発電が抱える諸問題を解説する
8	自然エネルギーの利用	太陽光・風力・水力を利用した発電
9	熱エネルギーの利用	地熱・太陽熱・排熱による発電を紹介
10	生体携炭素循環機能とバイオマス利用	バイオマス生産のメカニズムと利用
11	エネルギー自治の現状と課題	エネルギーの地産地消に関する現状と課題
12	エネルギー有効利用のための科学と政策	省エネを推進するための科学技術と政策
13	未来のエネルギー技術と社会システム	エネルギー技術の最新研究と社会システムの紹介
14	エネルギー文明の限界点	人類存続を可能にするためのエネルギー社会の条件を探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで配布される資料を事前にダウンロードし、あらかじめ予習
しておくこと。また、授業で出された課題を行う。本授業の準備学習・復習
時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。資料は授業支援システムにて事前に配布する。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

〔配分〕期末試験（80％）、平常点（20％）
〔評価基準〕期末試験では、3～4 題の小問からなる大問を 10 問程度作成し、
出題する。平常点は課題提出率と回答内容から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない

【Outline and objectives】

The overall objective of this course is for students to learn the electric power generation with fossil fuel and the ways we use energy in our everyday lives. The main focus of this course is on the interrelatedness between energy use and environmental risk. Students will also learn about conversion of wind and solar energy to electricity and to hydrogen, which is the most promising, efficient utilization of renewable energy sources.

EVN200EB

気候変動論

澤柿 教伸

サブタイトル：特講（気候変動論）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候の変化や変動は、人間社会の歴史にさまざまな要因の影響を与えてきた要因のひとつである。どんな気候の変化や変動が人間社会にどんな影響を与えたのかについて、事実をあらかじめしていく科学的営みを知り、事実相互の因果関係を理解するとともに、人間社会が直面する問題の解決にむけての動き考える素養を身につける。

【到達目標】

気候変動の歴史的経緯や現在の状況および将来起こりうる現象を読み解くにあたって、必要とされる自然科学的な基礎知識を獲得するとともに、変動する気候の中で人間社会が持続するためにとるべき予防策や適応策について、社会科学的視点から理解し実践できる素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コロナ感染防止対策で遠隔授業になっている期間は特に、学習支援システムを通じて授業形態を指示します。こまめに学習支援システムのお知らせをチェックするようにしてください。

通常の座学（LC）に加えて、グループワークやディベート（GW）を適宜とりいれます。気候変動が現代社会が直面する複雑かつ重要な問題の一つであることを示す事例を受講生各自で発掘・取材し発表し討論します。そのプロセスを通じて、自然科学的な理解なしには気候変動問題が抱える論点的確な把握が難しいことを認識し適切な予防策や適応策を構築しようとする実際の試みについて知り、さまざまなレベルでの社会的合意形成が求められていることを学びます。

対面・オンラインにかかわらず、毎回の授業でリアクションペーパーを提出してもらい、そこに記載された疑問や質問には学習支援システムを通じて、全体・個別に回答します。授業進行に従い、全体の理解度に応じて、資料を捕捉で提供したりや Web コンテンツを追加で紹介したりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	気候変動の見方（LC・GW）
第 2 回	IPCC の現状認識	IPCC の紹介・考え方・認識（LC・GW）
第 3 回	温暖化懐疑論	地球温暖化論争の紹介（LC・GW）
第 4 回	地球の構造	地球表層部に限定した一大気・海洋・大陸・宇宙空間の構造と相互関係（LC・GW）
第 5 回	気象と気候	時々刻々の大気現象と広域・長期の気象状態、因果関係（LC・GW）
第 6 回	地球の循環システム	物質とエネルギーの循環、熱・水・炭素などの循環（LC・GW）
第 7 回	気候変動と歴史	第四紀環境変遷と人類世の提案（LC・GW）
第 8 回	温暖化の原理	放射強制力・温室効果・フィードバック・エアロゾル（LC・GW）
第 9 回	大気現象の時空スケール	テレコネクション・極端現象・局地現象・エルニーニョ・集中豪雨（LC・GW）
第 10 回	気候変動の検出と予測	観測技術とシミュレーション技術、その可能性と限界（LC・GW）
第 11 回	再び温暖化懐疑論へ	これまでの授業内容に基づいて論争をふりかえり、温暖化懐疑論への反論（LC・GW）
第 12 回	国際協調にむけて	これまでの授業内容に基づいて IPCC の指針と COP などの国際協調の動き（LC・GW）
第 13 回	温暖化への対応策	気候変動への「緩和策・適応策・持続可能性」（LC・GW）
第 14 回	まとめと試験	これまでの授業内容のふりかえりと授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学習支援システムを通じて配布されるレジュメを毎回持参すること。

・問題発掘課題を事前に実施して授業内のディスカッションに備えること。
・リアクションペーパーを指定。事前にキャンパス内の印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「絵でわかる地球温暖化」渡部 雅浩（講談社 KS 絵でわかるシリーズ）, 2018
を教科書として使いますので、事前に準備しておいてください。

【参考書】

「温暖化の“発見”とは何か」スペンサー・ワート（著）, 増田耕一・熊井ひろ美（翻訳）, みすず書房, 2005.

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出。その記述内容によって授業への参加度や理解度を評価 (50%) および定期試験による評価 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

受講生の基礎素養にばらつきがあります。関連分野をそれなりに学んできた学生には平易に感じられたり、まったく触れたことのない学生には難易に感じられたりするようです。全体構成の前半では、この差異を埋めるように受講生の素養を見極めながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】

コロナ感染対策で Zoom によるリアルタイムネット配信授業となる場合もあります。それに備えて、Zoom を視聴しながらノートテイクもできるネット・PC 環境を整えてください。

【Outline and objectives】

This course provides clear, concise and up-to-date information for a general understanding about climate change, focusing on particular interest to explain the fundamentals of climate change science, the international climate change legal and policy framework.

LAW200EB

社会保障法 I

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。

【到達目標】

基本的な制度内容を理解し、政策的論点について考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

皆さん自身のライフサイクルやライフプランとの関わりで、日本の社会保障の基本的な仕組みを理解し、活用できるようになることを目指します。その上で政策的な論点や今後のあり方を検討します。
質問やコメントに次の授業で全体に対して答える予定です。
技術的に可能であれば、参加者との意見交換も行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	医療保険①	病気になったらどうするか
5	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
6	医療保険③	どういう医療を受けられるのか
7	補説、中間試験	前半部分の補足、中間試験
8	介護保険①	寝たきりや認知症になったら
9	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
10	雇用保険①	失業したらどうするか
11	雇用保険②	離職を防ぐため、再就職のための給付
12	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
13	労災保険②	過労死・過労自殺と労災認定
14	補説、期末試験	後半部分の補足、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）。

【参考書】

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40 %）および期末試験（60 %）により評価する予定です。
（試験を実施できない場合はレポートにより評価します。）
（時間及び技術的に、参加者との意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点の勘案も検討したいと思います。）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし（昨年度は担当しませんでした）。
テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かし、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline and objectives】

This course deals with social security law.

LAW300EB

社会保障法Ⅱ

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。

【到達目標】

基本的な制度内容を理解し、政策的論点について考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

皆さん自身のライフサイクルやライフプランとの関わりで、日本の社会保障の基本的な仕組みを理解し、活用できるようになることを目指します。その上で政策的な論点や今後のあり方を検討します。
質問やコメントに次の授業で全体に対して答える予定です。
技術的に可能であれば、参加者との意見交換も行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、公的年金①	年金は何のためにあるのか
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのかー 一全国共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのかー 一サラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか
7	補説、中間試験	前半部分の補足、中間試験
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	最後のセーフティネットとして
10	生活保護②	稼働能力の要件
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、母子家庭への手当
14	補説、期末試験	後半部分の補足、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）。
（ただし講義の後半部分については、別のテキストを準備中。）

【参考書】

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40 %）および期末試験（60 %）により評価する予定です。
（試験を実施できない場合はレポートにより評価します。）
（時間及び技術的に、参加者との意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点の勘案も検討したいと思います。）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし（昨年度は担当しませんでした）。
テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline and objectives】

This course deals with social problems and social policies.

SOC200EB, SOC200EC

市民運動論

中筋 直哉

サブタイトル：市民運動論Ⅰ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を主体的に形成する手段の 1 つである、市民による社会運動の実態と意味を、主に社会学の方法をに基づいて理解する。とくに歴史的な視野とグローバル化への視野に重点を置く。

【到達目標】

・現実の市民運動を、肯定的にせよ批判的にせよ事実とデータに基づいて理解・説明できる。
・現実の市民運動に対する自らの立ち位置、考えを論理的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド形式で実施（予定）。学習支援システムで講義資料と音声・動画を事前配布する。質疑応答に学習支援システムを時間指定で使用する。課題については授業中に期末試験については試験後に、受講者全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	社会運動の理論 1	社会的行為としての合理性
3	社会運動の理論 2	構造変動をもたらす集合的力
4	社会運動の理論 3	文化を創造する言葉と身ぶり
5	社会運動の歴史 1	伝統社会の騒乱の論理
6	社会運動の歴史 2	労働組合運動の消長
7	社会運動の歴史 3	地域開発と住民運動
8	事例研究的講義	現代世界における集合行動の意味
9	グローバルな市民運動 1	正義のフロンティアに向かって
10	グローバルな市民運動 2	越境するアソシエーション
11	グローバルな市民運動 3	小さな運動の構想力
12	展開的講義 1	ジェンダーをめぐる社会問題
13	展開的講義 2	ジェンダーをめぐる市民運動
14	市民運動の未来	重要論点の復習と質疑、討論

※別途定期試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習復習の他、「今日の課題図書」のいくつかを読むことが必須。
授業の中盤に A4×1 枚程度のレポートを課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポートの出来が 35 %（提出しないと D）、論述式の定期試験が 55 %。授業参加についての総合的評価が 10 %。試験解答において、市民運動に対する自分の考えを、事実とデータに基づいて論理的に表明できることが A の条件。

【学生の意見等からの気づき】

理論的説明をよりゆっくりと行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。ただ画面を眺めるだけでなく自分のノートを作ることが重要。

【その他の重要事項】

コースの専門的科目なので入門科目以上の知識が必要。

【Outline and objectives】

This lecture aims to study contemporary social movements by sociological, historical and positive perspective.

POL200EB

地方自治論Ⅰ

谷本 有美子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2000 年の地方分権改革や平成の大合併を経て、21 世紀の地方自治では公共サービスの担い手が民へと拡大し、行政と民間の役割分担が大きく変化してきました。同時に少子高齢化の進行や人口減少が社会問題化する中で、政府が自治体に対し「人口ビジョン」や「地方版総合戦略」の策定を求めるなど、自治体が将来を見通しながら地域をマネジメントする責任が問われてきています。この授業では、受講生が自治体の主人公の「市民 (Citizen)」として地方自治に関わる際の基礎知識を習得し、これからの地方自治のあり方について主体的に思考する力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

・地方自治の歴史や理論、制度に関する基本的な知識を身につける
・地方自治の最近の動きを市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントやレジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り地方自治の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーについては、授業内でいくつか取り上げて全体に向けてフィードバックしていきます。

前半は、地方自治の成り立ちや歴史の変遷、欧米諸国との比較を通して日本の地方自治の特徴を学びます。その上で、基本的なしくみの解説と現場の運用事例の紹介をしながら、市民の視点で地方自治を実践的に検討していきます。後半では、国地方を通じた事務処理体制や中央地方の政府間関係も取り上げ、分権型の地方自治のあり方を考察します。それらを踏まえて、市民の政府としての自治体に必要なシステムについて、見識を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー「地方自治」と「自治」の概念	「地方自治」と「共同体の自治」との含意を概説し、講義で扱う内容を俯瞰する
第 2 回	欧米諸国の地方自治と日本の地方自治	日本の地方自治に影響を与えた欧米諸国の地方自治制度との比較の中から、日本の地方自治制度の特色を認識する
第 3 回	近代日本の地方自治の成り立ち	明治維新以降の日本の地方制度を学びながら、近代日本における国家と地方自治との関係性を理解する
第 4 回	中央集権的な地方自治と自治体による政策革新	戦後憲法で保障された地方自治の意義を踏まえつつ、講和期からの中央集権的な運用期を経て、1960 年代以降の都市自治体が生み出した先進的な都市政策を取り上げ、住民自治の観点から自治体のあり方を検討する
第 5 回	大都市自治体の特例と都市問題への対応	指定都市や中核市等の大都市制度と東京の都区制度を概説したうえで、人口が集中した大都市における自治体の役割や課題を検討する
第 6 回	二元代表制と長のリーダーシップ	二元代表で機関対立主義を採る自治体統治機構について概説し、その特色である首長（執行機関）の優位性に着目して、自治体運営で発揮される長のリーダーシップを考察する
第 7 回	自治体議会と地域政治	住民の代表として行政監視機能を果たす議会の活動を概説し、二元代表制における議会の政治的役割という観点から、議会による政策形成の可能性と代表制のあり方を考察する
第 8 回	住民自治を支える参加のシステム	地方自治法に定めのある住民の直接請求権や自治体が独自に定める市民参加のしくみを取り上げ、市民が主人公となる地方自治の民主主義的機能について検討する

第 9 回	21 世紀の中央地方関係と地域の自治	2000 年地方分権改革を経た対等な国地方関係のもとで、国と自治体との政策思考が対立した場合の調停のしくみを概説した上で、現実に自治体が直面している課題について考察する
第 10 回	自治体財政と住民による税負担	全国的な財政調整・財源保障制度を基礎に成り立つ自治体財政の特色を踏まえつつ、住民が負担する税の側面に着目して、地方自治の受益と負担という関係性を検討する
第 11 回	民に広がる公共サービス	公共サービスの担い手を民へと拡大するために導入された指定管理者制度・PFI、独立行政法人制度等の諸制度や、自治体レベルでNPOや地域住民組織とパートナーシップの名の下で展開する事業を学びつつ、公民の役割分担が大きく変化している現状について理解を深める
第 12 回	住民自治組織と地域コミュニティ	近年、各地で運用されている住民自治組織等の事例を取り上げながら、地域社会における住民の自治と地域コミュニティの問題を自治体政策の観点から検討する
第 13 回	人口減少時代の自治体の役割	平成の大合併を経て市町村数は3分の1に減少した。合併の功罪には今もさまざまな論議がある中、国は行政サービス維持の観点から、自治体間連携や公民連携の可能性を提示している。ここでは「住民自治」と「自治体の規模」の観点から、自治体の役割を検討する
第 14 回	「市民の政府」たる自治体のシステム	自治体を「市民の政府」として運用するにはどのようなシステムが必要か。自治基本条例や総合計画など自治体運営の基本的なルールの活用事例を参考にしながら、「市民」的な視点から今後の可能性を考えていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う
・自分の住んでいる自治体の状況を調べる
・地方自治に関連のあると考える新聞記事を日常的に読む

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

【参考書】

・幸田雅治編著『地方自治論－変化と未来』（法律文化社）
・大森瀧／大杉覚『これからの地方自治の教科書』（第一法規）
その他の参考文献は授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80 %）に授業内のリアクションペーパー・小レポート提出状況等（20 %）を加味し、総合的に評価します。大学の行動方針レベルに応じ、期末はレポート提出に変更する可能性があります。変更の際は学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の質問や理解度に応じ、後日授業での補足説明や追加資料配布を行います。

【Outline and objectives】

The role of public services in the local autonomy in the 21st century has expanded to the private sector, and the division of roles between the administration and the private sector has changed significantly in Japan. At the same time, with the declining birthrate and aging population and the declining population becoming a social issue, the local government take responsibility to keep the area sustainable while making predictions about the future.

In this class students will learn the basic knowledge of local government as a "Citizen", the main character of a local government, and to acquire the ability to think independently about the future of local government.

POL300EB

地方自治論Ⅱ

谷本 有美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の行政サービスの供給体制は、「官から民へ」の規制緩和や国地方を通じた行政改革の推進とともに大きく変容し、公務の担い手を民間へと拡大してきました。いわば「公民連携」型の公共サービスの提供は、民間特性を活かした良質なサービス供給が期待されている中で、行政とサービスの受け手となる住民との距離は広がりつつあり、自治体の政策形成に「市民」の側から地域や現場のニーズをインプットする必要性が増えています。この授業では、自治体が担う諸政策を取り上げながら、自治体の仕事についての理解を深めた上で、地域社会の公共的な活動との連携や、税金投入の意義等も含めながら、自治体が果たすべき役割や公共サービスのあり方について考察していきます。

【到達目標】

・自治体の政策過程に関わるしくみや諸制度の基本的知識を身につける
・自治体が果たすべき役割や公共サービスのあり方について、財源や徴税の視点も踏まえながら判断できるシティズン・リテラシーを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントやレジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り自治体政策の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーは授業内でいくつか取り上げて、全体に向けてフィードバックします。

自治体政策をハード・ソフト含め個別分野ごとに取り上げますが、その一方で自治体の仕事を分野横断的・総合的に捉えるという基本的なスタンスに立脚しながら、政策課題や自治体の仕事を検討していきます。それらを踏まえて、自治体が限られた財源の中でも果たすべき役割や行政の責任領域について、納税者の視点を意識しながら考察します。

秋学期授業を理解するためには春学期の授業（地方自治論Ⅰ）で地方自治の基本的な事項を修得していることが前提となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自治体が担う行政とその政策形成のしくみ	行政に関わる国・都道府県・市町村の役割分担を概説した上で、主な行政サービスの実施主体とされる基礎自治体を中心に、総合計画を基軸とした政策体系と政策形成のしくみを理解する
第 2 回	自治体福祉政策とバリアフリーの地域づくり	「福祉」行政の歴史的な考え方と高齢者・障がい者という対象者ごと・縦割りの行政施策について概要を学び、「バリアフリー」のような縦割りを超えた観点からの共通対応を検討する
第 3 回	「人生 100 年時代」の高齢者施策	介護保険制度を含む高齢者福祉政策の課題を学んだ上で、近年、提唱される「人生 100 年時代構想」を踏まえて「生きがい」「働き方」の観点から超高齢社会の問題を考察する
第 4 回	地域福祉の視点と地域包括ケアシステムの展開	福祉施策の傾向として、「地域福祉」の観点から当事者に対し多様な主体を交えて総合的にサポートする「地域包括ケアシステム」へと転換しつつある現状を学び、行政と地域社会との連携のあり方を考察する
第 5 回	生活困窮者自立支援対策と就労支援の課題	憲法で保障された生活保護行政の現状を踏まえつつ、自治体がすすめる生活困窮者自立支援対策の中から明らかになった「就労支援」の現実的な課題を検討する
第 6 回	子ども・子育て政策と地域ニーズの反映	子ども子育て関連施策の運用事例を取り上げながら、大都市部と地方都市・農山間地域における政策課題の共通性や相違性を学び、地域ニーズに応じた政策の必要性を検討する

第 7 回 開かれる学校運営と多様な学びの保障

自治体において長が運営する総合教育会議が設置され、地域社会に開かれた学校運営が求められる現況を理解した上で、近年法制化された多様な学びの保障について、地域レベルでの展開可能性を考える

第 8 回 環境政策をめぐる多彩なパートナーシップ

自治体における環境政策を取り上げる中から、地域住民の協力や専門性を持った NPO 等との連携や、「地球規模で考え地域で行動する」視点の必要性等を学び、パートナーシップ型の政策展開のモデルとして考察する

第 9 回 都市計画のしくみとまちの将来ビジョン

住宅や商業施設の建築の基本に土地利用や都市計画に関わる法制度が存在していることを学び、まちづくりの将来を考える際に、自治体が条例等によりルールを定めていくことやそれを支える理念の重要性について理解を深める

第 10 回 公共施設・インフラの老朽化と自治体の対策

高度成長期に整備された公共施設や道路、橋梁、下水道等のインフラの老朽化が進行する中で、人口減少に伴い都市機能を縮小させる必要が生じてきている現状を学び、これからの都市機能のあり方を検討する

第 11 回 人口減少・超高齢社会における住宅施策

近年深刻化し始めた空き家問題やマンションの空き室問題等について具体的な地域課題を取り上げ、自治体の対策が遅れている住宅関連の政策を、地域の空間管理やコミュニティ問題を視野に入れて考察していく

第 12 回 外国人住民の生活課題と多文化共生のまちづくり

政府が外国人労働者枠の拡大を進める中で、地域に居住する外国人に対し、自治体がこれまで予定してこなかった生活支援等の施策が求められるようになってきている。そうした取り組みを、多文化共生のまちづくりの必要性から検討する

第 13 回 市民社会から提起される政策課題

地域社会では自治体に政策課題と認識されていない公共的な課題に対し NPO や住民間の互助的な関係で対策が講じられているものがある。それらの取組みに関し「公共性」の観点から、自治体政策としてどう対応すべきかを考察する

第 14 回 自治体が果たすべきこと

災害対応のように地域住民の命や生活を守るという行政活動の本質を捉えながら、自治体は何を優先してその役割を果たしていくべきか、またその財政負担をどうするのかなど、今後の自治体のあり方を市民的視点から考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う
・自分の住んでいる自治体の政策を調べる
・自分たちの生活に影響があると考えた内容の新聞記事を日常的に読む

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

【参考書】

磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治』（北樹出版）
今川晃・牛山久仁彦・村上順編『分権時代の地方自治』（三省堂）
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80％）に授業内の小レポート提出状況（20％）を加味し、総合的に判断します。大学の行動方針レベルに並び、期末はレポート提出に変更する可能性があります。変更の際は学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や理解度に応じ、後日授業での補足説明や追加資料配付を行います。

【Outline and objectives】

The supply system of administrative services in the 21st century has undergone a major transformation and has expanded the role of public affairs to the private sector in Japan. Although the provision of public services of the “public-private partnership” type is expected to provide high-quality services that make use of the characteristics of the private sector, the distance between the government and the people who will receive the services is expanding. So citizen's participation for public policy making process has become more important than before.

In this class, students will learn the public policy and the work of local governments, will consider the roll of the local government in the future and the way of keeping the public service in the view of the tax payer's request.

SOC200EB, SOC200EC

国際協力論

岡野内 正

サブタイトル：南北問題

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20 世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

＜新型コロナウイルスによる非常事態に対応していますが、さらに進め方が変更される場合については、学習支援システムを参照してください。＞
国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業日誌」を作成して、掲示板に書きこんでいく。「授業日誌」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみよう、を含むこと。授業前半では ZOOM のブレイクアウトセッションを用いて、少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の座長になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらに深い問いをもてるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コロン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連 SDGs の論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か？	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021 年（7 月刊行予定）。

【参考書】

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016 年、3000 円＋税。
岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、2000 円＋税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、掲示板に書き込まれた授業日誌の各項目について、25%ずつ 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権 NGO 活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

ARSh200EB, ARSh200EC

イスラム社会論

岡野内 正

サブタイトル：地域研究（イスラーム）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラーム社会とは、イスラーム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラーム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】

①イスラーム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラーム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

＜新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方になっていますが、さらに変更される場合の詳細は、学習支援システムを参照してください。＞

中東・イスラーム世界研究の著作を受講生全員で検討する。受講生で小グループを作り、授業日誌を報告し合って議論し、その要点を、講師を含む全員で議論する。受講生は、毎回、「授業日誌」（テキストの該当部分について以下の4点を含むこと。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたこと。）を作成してくることが必須となる。受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていくことになる。それがこの授業の狙いである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中東・イスラーム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明。テーマについて知りたいことに関する自由討論。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東におけるイスラーム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレントリア国家：レントリア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト——民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家＝社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容・イスラエルの国家安全保障問題	受講生報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難民	受講生報告と教員を交えた議論

- トルコ新自由主義・受講生報告と教員を交えた議論
親イスラーム政党・外交
- 中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉
受講生報告と教員を交えた議論
- イランのイスラーム統治体制の現状
受講生報告と教員を交えた議論
- イラク「政治体制を巡る迷路」
受講生報告と教員を交えた議論
- ヨルダン——紛争との共生
受講生報告と教員を交えた議論
- 中東・イスラーム研究の課題
受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。準備・復習時間は2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年

【参考書】

長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。

岡野内 正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、毎回の授業日誌の4項目について、25%ずつ、合計100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class on contemporary Muslim society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.

ECN200EB

国際経済論 I

増田 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際経済は様々な経済主体によって形成されており、国際経済を各国、各地域の特殊性を捨象した抽象的なレベルでの国民経済の集合としてみなすだけでは、複雑な現実を理解することは困難である。この講義では、国際経済を一つの世界経済システムを構成するものとしてとらえ、現代世界経済の諸特徴を明らかにすることを目的とする。

国際経済論 I では、貿易と外国為替取引、国際投資、国際労働力移動についての基礎理論について学ぶ。

【到達目標】

国際経済の基礎理論を身につけることができる。
それを身につけることで、国際経済に関するニュースを単なる出来事としてではなく、因果関係の中で理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態です。
オンラインで行う場合は、リアルタイムのオンライン授業の形式でします。
この講義は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい科目です。
事前に、学習支援システムに、レジメ、図表等をアップしておきます。画面上で同時に見られない場合、授業前にプリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしておいてください。
講義では、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
イントロ	国際経済とグローバル経済	授業の目的、国際経済の理論を学ぶことの意義と目標の解説
2 回	国際貿易の理論①リカードと比較生産費説	リカードの比較生産費説の紹介、比較生産費説の意味
3 回	国際貿易の理論②ミルと2国多数財モデル、HOS モデル	ミルによる比較生産費説、2国多数財モデル HOS モデルの紹介と説明
4 回	国際貿易の理論③貿易の一般均衡論	貿易の一般均衡分析 貿易のパターン 貿易の利益 オファーカーブ
5 回	国際貿易の理論④主流派貿易理論への批判と不等価交換論	主流派貿易理論への批判と不等価交換論
6 回	外国為替論 外国為替取引と外国為替市場	外国為替取引の仕組み 外国為替市場とは何か
7 回	国際通貨論 国際通貨と国際通貨体制	世界貨幣、国際通貨とは何か 金本位制と国際通貨体制
8 回	国際通貨システム論 「ドル本位制」と現代の外国為替市場	「ドル本位制」とはどんなものなのか 現代の外国為替市場の特徴
9 回	国際投資の理論 資本輸出の諸形態と多国籍企業	資本輸出の諸形態 多国籍企業の定義、特徴、グローバル経済における多国籍企業の位置
10 回	多国籍企業の諸理論	多国籍企業の諸理論の紹介と解説
11 回	多国籍銀行とユーロ市場	多国籍銀行とは何か 多国籍銀行論の紹介 ユーロ市場の特徴、その発展の歴史
12 回	グローバルマネーの運動と金融危機	資本移動の自由化と累積債務危機、通貨危機、金融危機
13 回	国際労働力移動の理論	国際労働力移動の理論とお現状
まとめ	今日のグローバル経済	グローバル経済の不均衡とその特徴について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に、テキストを読み、配布されたプリント、レジメを読んでおくこと。
講義の後に、再度テキストを読み、自分のノートを整理すること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間、合計で4時間になります。

【テキスト（教科書）】

半期の講義を通じて、単一の教科書は使用しないが、以下のテキストの関連する章を必要に応じて使用する。
『現代国際金融論』（第4版）上川孝夫、藤田誠一編、有斐閣、2012年。
『国際経済政策論』新岡智、板木雅彦、増田正人編、有斐閣、2005年。
『現代世界経済をとらえる Ver5』石田修、板木雅彦、櫻井公人、中本悟編、東洋経済新報社、2010年。

【参考書】

教科書の中で授業時に参照しなかった章についても読んでおくことを進める。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は提出されたレポート課題と期末試験によって行います。

レポート課題 50 %

定期テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等のために学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

春・秋学期を通じて、国際経済論 I、II を履修することが望ましい。
個の授業は、前半の貿易理論の部分が抽象度が高く、理解するのが一番難しいので、しっかり復習すること。
授業計画は現実の国際経済の展開によって、変更することもある。

【Outline and objectives】

From the standpoint of considering the international economy as one world economic system, the purpose of this lecture is to study both traditional international economics and non-traditional international economic theory, especially about trade and foreign exchange trading, international investment, and international labor migration.

ECN300EB

国際経済論Ⅱ

増田 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際経済は様々な経済主体によって形成されており、国際経済を各国、各地域の特殊性を捨象した抽象的なレベルでの国民経済の集合としてみなすだけでは、複雑な現実を理解することは困難である。この講義では、国際経済を一つの世界経済システムを構成するものとしてとらえ、現代世界経済の諸特徴を明らかにすることを目的にする。

国際経済論Ⅱでは、第二次世界大戦後の国際経済体制の変化をアメリカ経済を中心に説明し、それとの対比と関連の中で、欧州経済と発展途上国の経済を説明する。春学期の理論的な解説と合わせて世界経済の概観をもてるようにする。

【到達目標】

バックスアメリカーナと呼ばれた戦後の世界経済秩序の内容について理解できる。
その中でアメリカが果たしてきた役割、また、現在のアメリカの地位についても理解することができる。また、EU の成立と発展、南北問題といわれるグローバル経済の不均衡について、相互関係の中で理解できる。
それらを身につけることで、国際経済に関するニュースを単なる出来事としてではなく、因果関係の中で理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態です。
オンラインで行う場合は、リアルタイムのオンライン授業の形式でします。
この講義は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい科目です。
事前に、学習支援システムに、レジュメ、図表等をアップしておきます。画面上で同時に見られない場合、授業前にプリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしておいてください。
講義では、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
イントロ	国際経済秩序とグローバル経済	授業全体の進め方の解説、国際経済、世界経済との関連、国際経済秩序とグローバル経済
2 回	アメリカと国際経済秩序①	戦後構想とバックス・アメリカーナの基本的枠組み
3 回	アメリカと国際経済秩序②	バックス・アメリカーナの変容と変動相場体制
4 回	アメリカと国際経済秩序③	レーガノミックスからニュー・エコノミーへ
5 回	アメリカと国際経済秩序④	アメリカ経済の「再生」と新たなグローバル経済秩序
6 回	アメリカってどんな国？	アメリカという国家の特徴
7 回	EU ①	EEC 成立から欧州統合へ ECSC、EEC、EURATOM EC
8 回	EU ②	92 年欧州統合と EU 停滞する欧州 マーストリヒト条約 共通通貨ユーロの導入
9 回	EU ③	EU の発展と動揺 加盟国の拡大 EU の発展と統合の深化 イギリスの離脱
10 回	南北問題①	植民地体制の崩壊と工業化 輸入代替工業化 輸出志向工業化
11 回	南北問題②	UNCTAD NICs と累積債務問題 新興国の工業化 ユーロ市場の役割 累積債務問題

12 回	南北問題③	新興市場諸国と南北問題の今 東アジアの奇跡 中国の経済成長 アフリカ諸国の今
13 回	WTO 体制とグローバル経済	WTO 体制とグローバル経済
まとめ	今日のグローバル経済	今日のグローバル経済

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に、テキストを読み、配布されたプリント、レジュメを読んでおくこと。
講義の後に、再度テキストを読み、自分のノートを整理すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間、合計で 4 時間になります。

【テキスト（教科書）】

半期の講義を通じて、単一の教科書は使用しないが、以下のテキストの関連する章を必要に応じて使用する。

『現代国際金融論』（第 4 版）上川孝夫、藤田誠一編、有斐閣、2012 年。
『国際経済政策論』新岡智、板木雅彦、増田正人編、有斐閣、2005 年。
『現代世界経済をとらえる Ver5』石田修、板木雅彦、櫻井公人、中本悟編、東洋経済新報社、2010 年。

【参考書】

教科書の中で授業時に参照しなかった章についても読んでおくことを進める。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は提出されたレポート課題と期末試験によって行います。

レポート課題 50 %

定期テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等のために学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

春・秋学期を通じて、国際経済論Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。
この授業は、歴史的な発展を追って説明する形になるが、その説明において、理論的な部分は国際経済論Ⅰを履修していることを前提に行うので、国際経済論Ⅰを履修していない者は、事前に理論的な学習をして講義に臨むこと。
授業計画は現実の国際経済の展開によって、変更することもある。

【Outline and objectives】

From the standpoint of considering the international economy as one world economic system, the purpose of this lecture is to study the changes in the international economic system after World War II, focusing on the US economy, and explain the European economy and the economies of developing countries in relation to the world economy.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 A I**鈴木 智之**

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「相互作用秩序」の社会学。「相互作用論（interactionism）」の考え方に基づいて、日々の社会的現実の成り立ちを社会的に記述・分析するための概念、視点、方法論を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

私たちが日々経験している社会生活の秩序は、私たちが他者の視点を取りこみつつ、相互的な関与を継続することによって成立している。この「相互作用秩序」の成り立ち方（成り立たせ方）を概念的に対象化する方法を身に付け、これを通じて、日常生活の秩序が破綻する場面（トラブル）の記述を可能にする。と同時に、社会秩序に対する「違和感・不全感」の理由を言語化できるようにすることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回配布する「教材」によって講義を進める。
リアクションペーパーの提出は毎回求めるが、これは成績評価につながるものではない。リアクションペーパーから選別して、次週の講義資料において回答する。
当面のあいだ、オンラインで「テキスト教材」を提示することによって、講義を行う。
毎週、月曜日の昼までに、その週の「教材」を学習支援システムにアップするので、その日の内に確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	相互作用論とは何か？
第 2 回	相互作用論の理論的基礎 (1)	G.H. ミード『精神・自我・社会』から
第 3 回	相互作用論の理論的基礎 (2)	対面的相互行為をめぐる E. ゴフマンの視点
第 4 回	相互作用論の理論的基礎 (3)	「規範」と「秩序」をめぐる相互作用論的視点
第 5 回	相互作用論の理論的基礎 (4)	「レリヴァンス」と「フレーム」
第 6 回	相互作用秩序とそのトラブル (1)	焦点の定まらない相互作用空間としての「社会空間」
第 7 回	相互作用秩序とそのトラブル (2)	電車の中で席を譲ることがどうしてこれほど難しいのか？
第 8 回	相互作用秩序とそのトラブル (3)	トラブルを報告する
第 9 回	相互作用秩序とそのトラブル (4)	「アラーム」の出現
第 10 回	「心」の相互作用秩序 (1)	感情の社会的構成
第 11 回	「心」の相互作用秩序 (2)	コミュニケーションの要素としての「動機」
第 12 回	「心」の相互作用秩序 (3)	「モーティヴ・トーク」の社会学
第 13 回	「心」の相互作用秩序 (4)	動機の語彙と「心の闇」
第 14 回	相互作用と心の秩序	春学期の講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介された参考書を各自で読みこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

草柳千早 2015 『日常の最前線としての身体』世界思想社
中河伸俊・渡辺克典（編）2015 『触発するゴフマン』新曜社。
鈴木智之、2014 『心の闇』と動機の語彙』青弓社。
など。他は授業の進行に合わせてその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席はとりません。学期末の「試験」のみを評価の対象とします (100%)。ただし、コロナウィルスの感染状況によって、教室での「試験」が行えない可能性があります。その場合には、採点・評価の方法は変更するかもしれません。「学習支援システム」に提示する情報をよく注意しておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

講義そのものが、私とあなたとの相互作用の場面です。リモート環境であっても、相互作用秩序の形成を協働的に達成することが求められています。お互いに、この「場」を大事にして、日々の実践を積み重ねましょう。

【Outline and objectives】

The educational aims of this lecture are to understand the theoretical frames of interactionist sociology and to demonstrate knowledges and analysis of the everyday-life situations.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 A II

鈴木 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ハビトゥス」と「ナラティヴ」という二つの概念を軸に、「社会的存在」としての「個人」の成り立ちについて考える

【到達目標】

「私」という存在は、社会生活の累積の中で作られていく、複雑な社会的構成体である。「私」はなぜ今あるような「私」なのか。「私」が「私」であろうとすることが、どのような社会の成り立ちに結びついているのか。これを概念的に分析し、言語化できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回配布するレジュメに沿って講義を進める。
リアクションペーパーの提出を求めるが、これは成績評価につながるものではない。
リアクションペーパーからいくつかを選択し、次週の講義において回答する。
（コロナウィルスの感染状況によっては、教室での対面授業は行わず、学習支援システムでの資料配信による講義となる可能性がある）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「個人存在」の社会学という視点
第 2 回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（1）	デュルケム社会学における「個人」
第 3 回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（2）	G.H. ミードの「社会的自己」論
第 4 回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（3）	M. アルヴァックスの「記憶の社会的枠組み」論
第 5 回	「ハビトゥス」の理論（1）	社会的なるものの身体化
第 6 回	「ハビトゥス」の理論（2）	身体化された文化と不平等の再生産
第 7 回	「ハビトゥス」の理論（3）	感覚の社会的依存性
第 8 回	「ハビトゥス」の理論（4）	複数のハビトゥス
第 9 回	物語としての自己（1）	認知と判断の形式としてのナラティヴ
第 10 回	物語としての自己（2）	再帰的な語りと自己の構築
第 11 回	物語としての自己（3）	病いの語り
第 12 回	物語としての自己（4）	自己物語の困難
第 13 回	ハビトゥスとナラティヴ（1）	ハビトゥスをめぐる語り
第 14 回	ハビトゥスとナラティヴ（2）	ナラティヴ・ハビトゥス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義によって提起された問いを、自分自身の現実に応用して、「私」という存在の成り立ちについて考える。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。レジュメを配布する予定。

【参考書】

B. ライール『複数の人間』法政大学出版局、2013 年
A.W. フランク『傷ついた物語の語り手 身体・病い・倫理』ゆみる出版、2002 年
他は随時指示する

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

よく「先生、単位下さい」という学生さんがいますが、「単位」は「あげる／もらう」ものではありません、「取得する」ものです。教員の役割は学生が単位を「取る」ために超えなければならない「ハードル（障害）」を設定することだと思っています。これを超えて（つまり、いやというほど勉強して）この科目の単位を取りに来てください。

【その他の重要事項】

講義内容の構成は、学生のリアクションや、新しいテキストなどとの出会いによって、変更される場合があります。

【Outline and objectives】

The aims of this lecture are to understand the theoretical frames of sociology of the self, and to demonstrate knowledges and analysis on concrete situations.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 B I

穂山 新

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国家（state）」という社会制度についての社会学的な説明・分析のアプローチについて学ぶ。マックス・ウェーバー以来、社会学が「国家」をどう論じてきたのかを、様々な論者の所説を紹介しながら解説していく。

【到達目標】

国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちが、どのような関係にあるのかについて、社会学的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

通常の講義。毎回提出されるリアクション・ペーパーへの返答にも時間を割く。また、理解をチェックするための小テストを行う（ただし評価の対象外）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の概要と目的について
2	国家とは何か： その能力と作用	一定の領域を統治する政治組織としての国家の固有な能力について
3	国家と暴力（1）： 正当な暴力行使の独占	「正当な暴力行使の独占」というウェーバーの国家概念について
4	国家と暴力（2）： 国家と「文明化」	エリアスの「文明化」の過程について
5	国家と暴力（3）： 国家の暴力行使	ルーマンの権力論とアガンベンの「例外状態」論について
6	国家と官僚制（1）： ウェーバーの官僚制論	ウェーバーの官僚制概念について
7	国家と官僚制（2）： 官僚制の機能と逆機能	官僚制の機能と逆機能について
8	国家と戦争（1）： 国家形成における軍事・財政的要因	ティリーの国家論について
9	国家と戦争（2）： 間接統治から直接統治へ	ティリーの国家論について
10	国家と正当性（1）： 「象徴暴力」と「公共」性	ブルデューの「象徴暴力」概念について
11	国家と正当性（2）： 官僚制の公共性	ブルデューの国家形成論について
12	国家と社会（1）： 国家の民政化	国家の「民政化」について
13	国家と社会（2）： 社会の「国家帰属化」	マンのインフラストラクチャーの権力について
14	国家と情報管理： 国家と統計（学）	公式統計と国勢調査の歴史について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤成基『国家の社会学』（青弓社、2014 年）

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーに書かれた学生の疑問・質問から、授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【Outline and objectives】

In this course we will study different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 B II

穂山 新

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学理論 B I に引き続き「国家（state）」という社会制度についての社会学的な説明・分析のアプローチについて学ぶ。

【到達目標】

国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちが、どのような関係にあるのかについて、社会学的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

通常の講義。毎回提出されるリアクション・ペーパーへの返答にも時間を割く。また、理解をチェックするための小テストを行う（ただし評価の対象外）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	前期の B I での講義の内容の復習。
2	国家とナショナリズム（1）： ナショナリズムの発生	近代主義と反近代主義のアプローチについて
3	国家とナショナリズム（2）： 国家論的アプローチ	ナショナリズムに関する国家論的アプローチについて
4	国家とナショナリズム（3）： ナショナリズムの「民族化」	ナショナリズムの「民族化」について
5	国家と資本主義： 国家と資本主義経済	国家と資本主義経済の発展に果たした役割について
6	国家と民主主義（1）： アメリカ政治学理論	第二次大戦後アメリカ政治学を代表するダール、イーストンの政治理論が国家をどう捉えていたのかを解説する。
7	国家と民主主義（2）： 民主主義にとっての国家	ティリーの民主主義論について
8	国家の社会福祉（1）： 福祉国家の発生	福祉国家の発生について
9	国家と社会福祉（2）： 福祉国家の「危機」	現代福祉国家の「危機」について
10	国家と社会福祉（3）： 福祉国家の多様性	エスピン-アンデルセンの比較福祉国家論について
11	国家のグローバル化： 世界社会と国家	新制度主義について
12	国家の「崩壊」： アフリカからの視点	アフリカの新家産制国家論について
13	国民国家とグローバル化： 「衰退」か「復権」か	グローバル化と国民国家の変容について
14	国民国家の現在： 国家の機能不全と右翼ポピュリズム	現代の国民国家と右翼ポピュリズムの台頭について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤成基『国家の社会学』（青弓社、2014 年）

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーに書かれた学生の疑問・質問から、授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【その他の重要事項】

前期に開講される同一担当教員の社会学理論 B I を受講することを強く推奨する。社会学理論 B II は B I の内容を前提にして進められる。

【Outline and objectives】

In this course we will study different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions.

SOC300EC

理論社会学

鈴木 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学は、文字通り「社会」というものの成り立ちを問う科学である。それは、社会学が、社会についての科学はいかにして可能になるのかという問いを内在させねばならないということを意味している。ゆえに、社会学は自らの方法についての自省をバネに発展してきた。これを踏まえて本講義では、「社会学の方法」の成り立ちに焦点を置いて、「社会についての学」の可能性、ひいては「社会というものの成り立ち方」について考察する。

【到達目標】

社会学の方法を単一の規範として学ぶのではなく、方法論争の歴史として理解することが基本的な目的である。

講義では、デュルケムとウェーバーの方法論上の対立点を確認することから始めて、現代社会学におけるいくつかの方法論争に関わるテキストを素材に、それぞれの「論争の文脈」を学生自らが調べ、報告し、自らの意見を示しながら議論することを反復的に行う。

半期の講義中に 7 回ほどの課題を提示する。受講者はこの課題に対する「回答」を準備し、講義の場でこれを発表しうる状態で参加しなければならない。

この講義は、大学院進学者を想定した、アドヴァンストな内容の習得を目的とするものである。自分自身の研究課題を踏まえて、方法論的な反省を行うことができるようになることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

半期の講義期間中に 7 回ほどの「課題」を提示する。受講生は、この課題に対する「回答」を次週の講義までに準備すること。課題提出者の内、1 名または複数名を指名し、その内容を教室で報告してもらう。これを起点として、「課題」の文脈性と方法論争上の意味についての理解を深めていく。

課題は講義時間中に報告してもらうこともある。また、提出された課題からいくつかをピックアップし、講義時間中にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
序論	講義の狙い	方法論争としての社会学
起点	はじまりとしての「デュルケムとウェーバー」	人々の知識を疑うこと 人々の理解を理解すること
課題 1	社会学的説明と理解可能性	もし、デュルケムとウェーバーがともに正しいとしたら
展開	知識の知識としての社会学	ピーター・バーガーとピーター・ウィンチ
課題 2	実践知と暗黙知	身体化された知識をいかに位置づけるか
展開	対話型専門知	ハリー・コリンズの提案
課題 3	越境的熟慮	社会に身を浸す／社会から身を引き離す
展開	ハビトゥスをめぐる対話	コリンズからブルデューへ

課題 4	構築主義？	「世界がみな構築主義者であったなら」
課題 5	約束としての実在論	岸・桜井論争
展開	他者の実践知	「対話的」学としての社会学
課題 6	障害学と障害社会学	どこで「常識を手放す」か
展開	社会学的反省とその着地点	共にある技法としての社会学
課題 7	方法を反省する	自分自身の社会学をふり返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

提出された「課題」に対する「回答」を準備すること。
そのためには、各回について 1 冊以上の理論書を読むことが求められる。

「課題」が提出されなかった回については、講義中に紹介されたテキストを読んで内容の理解を深めること。

この講義にともなって求められる授業時間外の学習時間は、毎週 4 時間程度である。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

Harry Collins, Forms of Life, The Method and Meaning of Sociology, The MIT Press, 2019.

他は随時指示する

【成績評価の方法と基準】

最終課題に対する「回答」（40 %）

その他の課題に対する「回答」（30 %）

各回の講義におけるディスカッションへの参加（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度が初めての担当なので、特になし。

積極的な参加を求めます。

【その他の重要事項】

講義の構成と順番は、変更されることがあります。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to investigate methodological problems of the sociology.

SOC300EC

社会学史 I

徳安 彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに 19 世紀から 20 世紀前半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、主要な古典的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解できるようになり、さらに「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はオンデマンド方式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	西洋近代の歴史と社会学の問題意識	西洋近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	古典的近代の主要な社会学者たち	19 世紀から 20 世紀前半の主要な社会学者や学派を知る
3	マルクス (1)	史的唯物論、階級構造と階級闘争
4	マルクス (2)	疎外、使用価値と交換価値
5	ヴェーバー (1)	合理化、合理性の諸類型
6	ヴェーバー (2)	資本主義の精神、鉄の檻
7	ヴェーバー (3)	支配の諸類型、官僚制
8	デュルケム (1)	分業、機械的連帯と有機的連帯
9	デュルケム (2)	自殺の諸類型、近代社会と自殺
10	デュルケム (3)	聖と俗、集合的沸騰
11	ジンメル (1)	社会化の形式、社会圏
12	ジンメル (2)	支配と従属の諸類型
13	ジンメル (3)	宗教の機能分化、宗教と社会の類似性
14	まとめ	扱った主要な社会学者の理論の共通の問題意識をふり返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う社会学者の原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、授業の前後に概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ドン・マーチンデール『現代社会学の系譜』未来社

ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣

那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣

新睦人（編）『社会学の歩み』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末試験は論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の 2 つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容、授業での質疑や討論への参加によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。また授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】

We study the history of sociology, especially so-called "classic sociology" developed from 19th century to early 20th century. We focus especially on the social background of that time to understand the major sociological theories.

SOC300EC

社会学史Ⅱ

徳安 彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに 20 世紀半ばから後半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、主要な現代的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解できるようになり、さらに「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はオンデマンド方式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	後期（高度）近代の歴史と社会学の問題意識	西洋の後期近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	後期（高度）近代の主要な社会学者たち	20 世紀半ばから後半の主要な社会学者や学派を知る
3	ミード	I と me、一般化された他者、役割
4	シュッツ	日常生活世界、間主観性、多元的現実
5	バーガー／ルックマン	社会的世界の複数性、聖なる天蓋
6	ガーフィンケル	エスノメソドロジー、違背実験
7	ゴッフマン	ドラマトウルギー、印象操作
8	パーソンズ	ダブル・コンティンジェンシー、社会進化
9	ルーマン	ダブル・コンティンジェンシー、社会分化
10	ハーバーマス	コミュニケーションの行為
11	ギデンズ	モダンティ
12	フーコー	規律化、主体、生権力
13	ブルデュー	文化資本、再生産
14	ベック	リスク社会、個人化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、各自で事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
 那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
 新睦人（編）『社会学のあゆみ パート2』有斐閣
 新睦人（編）『新しい社会学のあゆみ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末試験は論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性的の2つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容、授業での質疑や討論への参加によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。また授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】

We study the history of sociology, especially so-called "modern and late modern sociology" developed since the middle of 20th century. We focus especially on the social background of that time to understand the major sociological theories.

SOC300EC

歴史社会学 I

鈴木 智道

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史を通して考える」という全体を貫く主題のもと、いくつかのより身近なテーマを素材にしながら、日本社会の歴史的経験を、とりわけ明治以降に照準しつつ（必要に応じてその外側に広がる地理的空間をも視野に入れつつ）読み解いていくことで、われわれの今日の生活世界や社会生活のあり方を、その起源にまで遡って再認識していく。同時に、そうした作業を通して、より大きくは「近代」とは何か」という問題を相対的な視野のなかで捉え直していく。

【到達目標】

・社会的な歴史研究の射程を理解しながら、そこから立ち上がる「歴史」からの問いに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。
・あわせて、歴史的な視点が、〈いま・ここ〉を見据え、考える手段としてどのような可能性をもっているかということについて、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で授業を進めていく。ただし、その都度「考える素材」を提示し、リアクションペーパーやレポートを通して、その回答を求める。リアクションペーパーについては、可能な限り授業内でフィードバックを行う。レポートについては、求めに応じてオフィスアワーで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	〈文明化〉する社会①	〈伝統〉から〈文明〉へ
3	〈文明化〉する社会②	社会秩序としての〈近代〉
4	〈文明化〉する社会③	社会秩序を支える「身体」
5	〈都市〉に暮らす①	近代都市の離陸と空間編制
6	〈都市〉に暮らす②	理想的な都市のあり方を求めて
7	〈都市〉に暮らす③	都市郊外の開発と都市型ライフスタイル
8	〈職〉に就く①	メリトクラシー社会としての近代社会
9	〈職〉に就く②	学校と職業の不幸な関係
10	〈職〉に就く③	「身分」から「職業」へ
11	〈家族〉をつくる①	〈家族〉の歴史性
12	〈家族〉をつくる②	「家庭」的な〈家族〉の誕生
13	〈家族〉をつくる③	イデオロギーとしての〈近代家族〉
14	エビローク	「歴史」からの問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各トピックごとに提示される参考文献一覧のうち、興味をもった文献を手に取り、通読してみることで、授業内容について理解を深める。
・中間および期末の2度にわたり、授業内容をふまえた課題についてレポートを執筆する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜レジュメを配布し、それに基づき講義を進めていく。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

小課題レポート（20 % ×2 回）＋期末試験（60 %）により評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業であっても、対面授業と同様の効果があり、かつ受講生が取り組みやすい教材のあり方がないか、なお一層模索する。

【Outline and objectives】

The main theme of this course is to rethink some topics on Japanese experiences of the period after the Meiji Restoration from the sociological perspective.

SOC300EC

歴史社会学Ⅱ

鈴木 智道

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史とは何かを考える」という全体を貫く主題のもと、近年、提起されている「歴史」なるものをめぐる理論的あるいは実践的な論点について、具体的な事例を織り交ぜつつ概観しながら、歴史と聞けば高校までの「日本史」や「世界史」を想起してしまう思考を超えたところで展開している〈歴史〉の姿に様々な角度から向き合っていく。同時に、そうした作業を通して、私たちがこれまでに作り上げてきた「歴史」を相対的な視野のなかで問い直していく。

【到達目標】

- ・「暗記科目としての「歴史」」を超えた地平に広がる、その奥行きと広がりに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。
- ・あわせて、様々な形で提示される「歴史」への問いを前にして、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で授業を進めていく。ただし、その都度「考える素材」を提示し、リアクションペーパーやレポートを通して、その回答を求める。リアクションペーパーについては、可能な限り授業内でフィードバックを行う。レポートについては、求めに応じてオフィスアワーで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	歴史を〈書く〉①	歴史が作られる「現場」を覗く
3	歴史を〈書く〉②	歴史はいかにして科学たりえるのか？
4	歴史を〈書く〉③	フィクションとノンフィクションの間
5	〈問題化される〉歴史①	書き換えられる歴史(1)
6	〈問題化される〉歴史②	書き換えられる歴史(2)
7	〈問題化される〉歴史③	歴史と責任～終わらない過去
8	歴史を〈学ぶ〉①	〈日本史〉的歴史の文法
9	歴史を〈学ぶ〉②	〈日本史〉的歴史の機能
10	歴史を〈記憶する〉①	人は誰もみな歴史家
11	歴史を〈記憶する〉②	過去をいかにして記憶するか
12	歴史を〈イメージする〉①	〈近代化〉とな何なのか？
13	歴史を〈イメージする〉②	歴史的想像力のゆくえ
14	エビローク	「歴史」への問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各トピックごとに提示される参考文献一覧のうち、興味をもった文献を手に取り、通読してみることで、授業内容について理解を深める。
- ・中間および期末の2度にわたり、授業内容をふまえた課題についてレポートを執筆する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜レジュメを配布し、それに基づき講義を進めていく。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

小課題レポート（20 % ×2 回）＋期末試験（60 %）により評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業であっても、対面授業と同様の効果があり、かつ受講生が取り組みやすい教材のあり方がないか、なお一層模索する。

【Outline and objectives】

The main theme of this course is to introduce students to some viewpoints on history as contemporary events.

SOC300EC

数理社会学Ⅰ

斎藤 友里子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理社会学は、モデルによって社会現象を説明する理論社会学の一分野である。そこでは、派閥ができるとそれを崩すのはなぜ難しいかなどの問いを可能な限りシンプルなロジックで説明することが目指される。問いが個別具体的でもその形式的な特徴が他にも通じるならば、単純なロジックで色々な現象を説明する理論が手に入る。この授業では、主として社会関係や人間関係がつくる「構造」を扱ういくつかのモデルを紹介することで、社会現象を理論的に説明する方法を学習する。

【到達目標】

社会現象の理論的な把握の実例に触れ、多様な現象に共通の形式や仕組みを探するという思考方法の基礎を習得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP8・DP9に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義による。学習支援システムを活用して課題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	数理社会学と「モデル」について紹介する
2	「関係」の居心地とバランス (1)	関係のフォーマルな捉え方とハイダーのバランス理論について説明する
3	「関係」の居心地とバランス (2)	バランス理論と均衡概念について説明する
4	派閥が維持されるとき (1)	グラフ理論の基礎概念を導入する
5	派閥が維持されるとき (2)	バランス理論のモデルを導入する
6	派閥が維持されるとき (3)	モデルの展開と含意について説明する
7	弱いつながりの強さ (1)	紐帯と社会の統合について論じる
8	弱いつながりの強さ (2)	グラノヴェッターの「弱い紐帯の強さ」理論を導入する。
9	弱いつながりの強さ (3)	「弱い紐帯」とネットワークの特徴のとらえ方について説明する
10	弱いつながりの強さ (4)	グラノヴェッターの「弱い紐帯の強さ」理論の検証について論じる
11	つながりの産物としての権力 (1)	「支配関係」がネットワークでどのような形をとるか考える
12	つながりの産物としての権力 (2)	「支配関係」ネットワークに行列による表現を与える方法を学ぶ
13	つながりの産物としての権力 (3)	権力（勢力）構造の表現について考える
14	構造をとらえるということ	授業のふり返りを通して「構造」について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

土場・小林・佐藤・数土・三隅・渡辺（編）2004『社会をくモデル>でみる－数理社会学への招待』勁草書房。ほか、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす。

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。数学の予備知識は必要ではないが、「モデルを動かす」ことで理解を深める形をとるので、出された課題を着実にこなす努力が必要となる。

【Outline and objectives】

Mathematical sociology is a type of theoretical sociology characterized by its formality and its use of mathematical model. It tries to explain social process as simply as possible. Finding a simple mechanism explaining one "why?" should give us a theoretical tool to explaining various social phenomena (many "why?"). This course provides students an opportunity to learn models of the "structure" emerging from our daily interactions.

SOC300EC

数理社会学Ⅱ

斎藤 友里子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理社会学は、モデルによって社会現象を説明する理論社会学の一分野である。ここでは、人はどのように社会をイメージするのかなどの問いをシンプルなロジックで説明することが目指される。問いが個別具体的でもその形式的な特徴が他にも通じるなら単純なロジックで色々な現象を説明する理論が手に入る。この授業では、制度の維持と社会過程を扱うモデルの紹介を通して、社会現象を理論的に説明する方法（とその多様性）を学習する。

【到達目標】

社会現象の理論的な把握の実例に触れ、多様な現象に共通の形式や仕組みを探するという思考方法の適用例を学ぶこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP8・DP9に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義による。学習支援システムを活用して課題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	フォーマルセオリーの役割について紹介する
2	「世代交代」と制度の安定(1)	社会的分業と年齢階梯制について導入する
3	「世代交代」と制度の安定(2)	世代間の役割分担のシステムである「ガダ」のモデル化を説明する
4	「世代交代」と制度の安定(3)	ガダのモデルをもとに制度の安定について考える
5	きょうだいはなぜ結婚できないか(1)	インセスト・タブーへの理論的なアプローチについて紹介する
6	きょうだいはなぜ結婚できないか(2)	White (1963) のモデルについて解説する
7	きょうだいはなぜ結婚できないか(3)	親族システムによる秩序が維持されるための条件について考える
8	きょうだいはなぜ結婚できないか(4)	婚姻と出自をめぐるルールをどう表現するかを考える
9	きょうだいはなぜ結婚できないか(5)	White (1963) モデルの含意のいくつかを解説する
10	なぜ「中流」が多いのか(1)	社会のイメージに関する研究を紹介する
11	なぜ「中流」が多いのか(2)	人との出会いで社会イメージが形成されるというファラロのアイデアを紹介する
12	なぜ「中流」が多いのか(3)	ファラロ (1973) のモデルについて解説する
13	なぜ「中流」が多いのか(4)	社会イメージのパターンや格差の認識についてモデルから導出する
14	社会学と数理モデル	社会学と数理モデルの関係について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

土場・小林・佐藤・数土・三隅・渡辺（編）2004『社会をくモデル>でみる－数理社会学への招待』勁草書房。ほか、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。数学の予備知識は必要ではないが、「モデルを動かす」ことで理解を深める形をとるので、出された課題を着実にこなす努力が必要となる。

【Outline and objectives】

Mathematical sociology is a type of theoretical sociology characterized by its formality and its use of mathematical model. It tries to explain social process as simply as possible. Finding a simple mechanism explaining one "why?" should give us a theoretical tool to explaining various social phenomena (many "why?"). This course provides students an opportunity to learn models for the maintenance of social institutions and its products.

SOC300EC

原典講読

鈴木 智道

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「耳学問」で聞きかじったことがある思想や概念も、「原典」にじっくりあたり、深く検討してみると、それまでの理解とはずいぶん異なる視界が広がることもある。今年度も昨年度に引き続き、現代思想／現代社会分析に多大な影響を与え続けている 20 世紀後半を代表する哲学者（社会学者？／歴史家？）ミシェル・フーコーの諸著作のうち、思想的に中期を画する『監獄の誕生』を取り上げる。社会学のテキストにしばしば登場する「パノプティコン」や「規律権力」といった概念は本書に由来している。しかし、そうした概念は、フーコーのいかなる問題意識（の展開）と文脈のなかで提起されているのだろうか。本授業では、まず本書を精読しながら、フーコーの思考の道筋を追体験してみる。同時にそれを通して、フーコーが「近代社会」なる社会のあり方をいかに理解しようとしたのかを、受講者との議論を通して探索することを目的とする。

【到達目標】

原典にあたることで見えてくる現代（近代）社会分析の深遠性に触れることで、自分自身のものの見方／社会との対峙の仕方とあらためて向き合い考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で授業を進める。受講者には、事前に割り振られた担当章について、レジュメの作成と授業内での報告が求められる。担当者による報告の後、当該内容について受講者全員で議論をしていく。最終授業で、レポートに対する講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	概要の説明、スケジュール確認
第 2 回	フーコーを読む前に	『監獄の誕生』以前と以後
第 3 回	第 1 部 身体刑：第 1 章 受刑者の身体	当該箇所の精読と議論
第 4 回	同：第 2 章 身体刑の華々しさ	当該箇所の精読と議論
第 5 回	第 2 部 処罰：第 1 章 一般化される処罰	当該箇所の精読と議論
第 6 回	同：第 2 章 刑罰のおだやかさ	当該箇所の精読と議論
第 7 回	第 3 部 規律・訓練：第 1 章 従順な身体	当該箇所の精読と議論
第 8 回	同：第 2 章 良き訓育の手段	当該箇所の精読と議論
第 9 回	同：第 3 章 一望監視方式	当該箇所の精読と議論
第 10 回	第 4 部 監獄：第 1 章 「完全で厳格な制度」	当該箇所の精読と議論
第 11 回	同：第 2 章 違法行為と非行性	当該箇所の精読と議論
第 12 回	同：第 3 章 監禁的なもの	当該箇所の精読と議論
第 13 回	『監獄の誕生』をふりかえって	受講者とのディスカッション
第 14 回	レポート合評会	受講者のレポートの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全受講者が、文献の指定箇所を事前に読了した上で授業にのぞむこと。報告者は、指定文献についての要約とコメント・問題提起をおこなうべく、レジュメの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ミシェル・フーコー『監獄の誕生－監視の処罰－』新潮社、1975 年=1977 年→改訂新装版：2020 年。

【参考書】

詳細については開講後に指示する。

【成績評価の方法と基準】

出席・議論への積極的関与を含む授業への参加度（40 %）、担当章の報告（40 %）、および期末レポート（20 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

はじめに本授業で取り扱う講読文献について、その概要を丁寧に説明するようにする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to read carefully M. Foucault's *Discipline & Punish* (1975) and to learn a way of grasping the modern society, focusing on the birth of the prison.

SOC300EC

社会学総合特講 A

多喜 弘文

サブタイトル：社会学総合特講 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代日本社会のしくみとその時代変化について、様々なデータを参照しつつ社会的に考えていく。

【到達目標】

日本社会における学校教育、就職、職業的キャリアはどのような仕組みをもち、どのように変化したのかを構造的に理解する。現在の社会の仕組みをそれぞれの制度が相互に支えあっていて、人びとがそれをそれなりに妥当なものとして受け入れている側面があることをイメージできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的にはパワーポイントを用いて講義形式でおこなう。提出物に対しては、授業時に全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要、講義の進め方、評価の方法など
2	現代日本社会の仕組み①	1970年代から現在までの日本社会の大まかな変化を捉える
3	現代日本社会の仕組み②	1970年代から現在までの日本社会の大まかな変化を捉える
4	大衆教育社会日本	誰もが教育に価値を置く社会としての日本
5	大衆教育社会日本を支えていた仕組み	なぜ多くの人が教育に価値を置いていたのか
6	大衆教育社会から学歴分断社会へ	大学に行く人と行かない人の「学歴分断線」
7	短期高等教育の存在感	短大と専門学校、地位達成志向と自己実現志向
8	日本社会における就職	就職と就社、職務のない雇用契約、新卒一括採用
9	日本社会における職業キャリア	ジョブ型とメンバーシップ型、日本的雇用慣行
10	日本社会における職業キャリアの不安定化	1990年代以降の変化
11	日本社会における家族形成	男性稼ぎ主モデルとその変化
12	日本はどのように日本的か	他国との比較
13	格差の正当化と日本の特徴	どのように格差は正当化されているのか
14	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。指定された文献を事前に読んでくることを要求することがある。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

荻谷剛彦、1995、『大衆教育社会のゆくえ——学歴主義と平等神話の戦後史』中公新書。

濱口桂一郎、2009、『新しい労働社会』岩波新書。

濱口桂一郎、2015、『働く女子の運命』文春新書。吉川徹、2018、『日本の分断』光文社。小熊英二、2019、『日本社会のしくみ』講談社現代新書。その他、文献は適宜授業内に指示する

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーなど）25 %、試験 75 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This class aims to develop a basic understanding of the sociological tradition to think about Japanese society and its change. Sessions will blend lecturing and small group discussion.

SOC300EC

社会学総合特講 B

斎藤 友里子

サブタイトル：社会学総合特講Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の枠組みを中心として、社会心理学や人類学の知見も援用しつつ、「われわれが自分をどう捉えるか」が、他者との関係性や排除・包摂の問題にどう関わるのかを考える。

【到達目標】

他者の存在を前提として成立する自己の概念化が包摂と排除にもつ意味を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DP1についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにより予め配布した教材（講義の音声ファイルとPDF 資料）を授業当日までに学習し、授業当日はディスカッション（フィードバックを含む）を中心に進める。授業計画は授業の展開により若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいとすすめかた
2	近代化と個人（1）	分業の進展と連帯
3	近代化と個人（2）	集団の拡大が意味するもの
4	近代化と個人（3）	「その前」となにが違うのか
5	近代化と個人（4）	アイデンティティという問題
6	「居場所」の問題（1）	自己と共同体
7	「居場所」の問題（2）	アイデンティティと共同性
8	「居場所」の問題（3）	アイデンティティと認識
9	「居場所」の問題（4）	アイデンティティとカテゴリー
10	境界の問題（1）	境界の形成と維持
11	境界の問題（2）	境界と近代（境界維持の具体的プロセス）
12	境界の問題（3）	カテゴリーへの包摂と排除
13	「われわれ」と「彼ら」（1）	カテゴリーと異質性
14	「われわれ」と「彼ら」（2）	「境界」を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する教材を用いて予・復習すると共に、関連文献を読んで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

試験（90%）と簡単な課題提出（10 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムにテキストファイルを掲出すると展開できないケースが散見されるので、資料は PDF 化して配布する。

【Outline and objectives】

This course provides students an opportunity to learn and think about the relation between the process of self-definition and social inclusion-exclusion.

SOC300EB, SOC300EC

統計調査法

斎藤 友里子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的データ分析の基礎、社会調査から得られた量的データを分析する際に必要となる基本的な考え方と方法について学ぶ。これを通して、統計学の基礎知識を身につけ、初歩的な仮説検証の手法や考え方を理解することをめざす。

【到達目標】

社会調査から得られた量的データを分析するための基礎知識を習得する。データの分布をどのように把握するか、標本をもとに全体に関する情報をどのように推測するか、自らの仮説をどう検証すればよいかを「わかる」ようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP4・DP6・DP9に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義による。学習支援システムを活用して課題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と目的について概説する
第2回	代表値と測度・分布の記述	データの測度がどのように分析と関連するかを概説する
第3回	確率の考え方	確率の概念を説明する
第4回	確率分布について	統計分布について説明する
第5回	統計的推測(1)：推測統計の基本	母集団と標本、そして統計的推定との関係について論じる
第6回	統計的推測(2)：統計的仮説検定の考え方と平均値の検定	平均値の検定の学習を通して統計的仮説検定の考え方と実際を学ぶ
第7回	「差がある」とはどういうことか	平均の差の検定・比率の差の検定について学ぶ
第8回	2つ以上の平均の差の検定	分散分析について説明する
第9回	クロス集計(1)：解釈のしかた	クロス表の「読みかた」を学ぶ
第10回	クロス集計(2)：検定と関連の指標	クロス表について、検定と関連の諸指標を概説する
第11回	変数のコントロール	変数のコントロールの考え方について説明する
第12回	相関係数と回帰係数	相関係数の性質と解釈、回帰係数との違いおよび関連について説明する
第13回	重回帰分析	重回帰分析について紹介する
第14回	まとめ	授業のふり返しを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

ボンシュテット&ノーキ『社会統計学』ハーベスト社、1990。
ほか授業中に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす。

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。受講生に数学の予備知識は必要ではないが、出された課題を着実にこなす努力は必要となる。

【Outline and objectives】

Students will learn the basics of quantitative analysis. In doing so, they should understand the logic and method for statistical hypothesis testing.

EDU200EC

発達・教育の理論Ⅰ

山下 大厚

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の歴史と思想、および人間発達の理論の形成と展開について学ぶ。

【到達目標】

主要な教育思想、発達論について理解し、歴史の中で子供たちの処遇はどうか変化し、今またどうあるべきなのか、考える手立てを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。振り返りテストや小レポートで学習状況を確認するが、その都度、講評し、疑問や感想にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと受講上の注意	education の語源と「発達」／教育を受ける権利と子供の権利条約
第2回	人間の発達とは何か	人類史と霊長類研究における人の発達
第3回	子供（親）の歴史	前近代の産育／ルソーの「子供の発見」とアリエスの「子供の誕生」
第4回	児童中心主義の展開	ベスタロッツィ/オーエン/プレーベル/エレン・ケイ/モンテッソーリ
第5回	近代公教育の展開	国民国家と義務教育/ヘルバルト派と新教育
第6回	近世、近代日本の教育思想	世阿弥/貝原益軒/福沢諭吉/森有礼
第7回	進歩主義教育の展開	デュルケム/デュエイ/ラッセル
第8回	戦中・戦後の教育と人間観	戦時下の教育/戦後教育改革/高度経済成長と人的能力開発
第9回	発達の科学のはじまり	ダーウィン/ビネー/ワトソン/ゲゼル
第10回	発達の諸理論（1）	ピアジェ/ヴィゴツキー/ブルーナー
第11回	発達の諸理論（2）	バンデューラ/ボウルビー/クライン
第12回	発達の諸理論（3）	A・フロイト/エリクソン/チョドロウ
第13回	近代学校教育への批判	再生産、脱学校、フリースクールほか
第14回	教育における今日の課題	神経科学時代の子供と教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。教材の予習、振り返りテストを活用した復習により理解を深めること。また、普段から子供・教育・学校に関する話題や報道にも関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

上笙一郎ほか編, 1977, 『日本子どもの歴史1～7』第一法規。ジョージ・バタワース, ハリス・マーガレット, 1997, 『発達心理学の基本を学ぶ：人間発達の生物学的・文化的基盤』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：振り返りテスト（50%）と小レポート（50%）。評価の基準：振り返りテストは、学習内容の確認、小レポートについては、そのときのテーマを適切に理解し、自らの意見や疑問が述べられているか評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年のオンライン授業では様々な要望があり、それに応えようと努めたが、大半の受講生は当初の緊張の糸が、いつの間にか切れてしまったようにみえた。今後も改善に動いむが、自らの学習姿勢についても改めて点検して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

質問などは学習支援システムの掲示板やメールで受け付ける。なお、この科目は発達・教育の理論Ⅱと併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces the modern/pres-modern history of education, philosophy of education and theories of human development to students taking this course.

EDU300EC

発達・教育の理論Ⅱ

山下 大厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新たな学習・学力、地域との連携、危機管理、多様性の包摂など「改革」が学校教育に求められる背景と課題、公教育を支える教育行政、学校経営、教員の役割に生じた新たな課題などについて理解する。

【到達目標】

社会の変化と課題、あるいはまた地域に対して「開かれた学校」であることが求められ、その対応が、学校の社会的・制度的・経営的課題となっている。「開かれた学校」づくりの意味と課題、問題点について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料と映像を用いて行なう。振り返りテストや小レポートはその都度、講評し疑問や感想に応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと受講上の注意	公教育を取り巻く現代的課題と「改革」を迫られる学校
第2回	公教育制度の基盤	公教育の原理と理念、教育法体系
第3回	公教育制度の行政と組織	教育行政機構及び学校組織と教員組織
第4回	学力とカリキュラム行政	「新しい学力」と教育課程行政
第5回	教育機会の保障と基盤	改正教育基本法と教育財政
第6回	教職員の働き方改革	改革のポイントと問題点
第7回	学校のガバナンス	学校経営とアカウンタビリティ
第8回	地域と連携協働する学校	コミュニティスクールの目的と課題
第9回	学級制度と学級経営	担任の職務と学級経営の課題
第10回	危機管理と安全教育	事故災害、いじめ、ハラスメントの対応
第11回	多様性の包摂と機会保障	不登校、LGBT、外国籍などへの対応
第12回	インクルーシブ教育	特別の支援や配慮が必要な子どもたち
第13回	非行少年の社会的包摂	自立支援、更生を支える仕組みと課題
第14回	学習指導要領の変遷	昭和と平成の教育は何を求めてきたか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。教材の予習、振り返りテストを活用した復習により理解を深めること。また、普段から子供・教育・学校に関する話題や報道にも関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）／佐藤晴雄, 2017, 『コミュニティ・スクールの成果と展望: スクール・ガバナンスとソーシャル・キャピタルとしての役割』ミネルヴァ書房／グループ・ディテクティカ編, 2012, 『教師になること、教師であり続けること—困難の中の希望—』勁草書房／田中正博, 佐藤晴雄, 2013, 『教育のリスクマネジメント—子ども・学校を危機から守るために』時事通信出版局

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：振り返りテスト（50%）と小レポート（50%）。評価の基準：振り返りテストは、学習内容の確認、小レポートについては、そのときのテーマを適切に理解し、自らの意見や疑問が述べられているか評価する。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業の進め方については、未だ試行錯誤しながら改善を模索しているが、受講生の皆さん方にも、自らの学習姿勢について改めて点検を望む。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

質問などは学習支援システムの掲示板やメールで受け付ける。この授業は、発達・教育の理論Ⅰと併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces the current education reform in Japan and the discussion of its social background and problems to students taking this course.

SOC200EC

家族社会学Ⅰ

菊澤 佐江子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、「家族の弱体化」等々の言葉で「家族が変わった」と指摘する声がかかるが、本当に家族は変わったのだろうか。そもそも家族とは何なのか。変わったとすれば、それは何故、またどのように変わったのか。今、家族はどのような状況にあり、これからどのように変わっていくのだろうか。本授業は、こうした疑問を糸口に、身近な「家族」について社会的観点から考察を行うとともに、家族社会学に関する基礎的事項を学ぶ。

【到達目標】

家族社会学の基礎となる概念、視点、方法、研究動向等を学び、家族をめぐる諸現象について社会的視点から考察するための基礎的な力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は主に講義形式によるが、授業内課題（ミニテスト等）を通じて、受講者の理解を確認しながら進める。課題については、可能な限り次の授業でフィードバックを行う。この授業は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。授業計画は概ね以下の内容を予定している（ただし、受講者の状況や授業の展開等により変更する可能性もある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	家族とは（1）	集団としての家族定義について概説する
3	家族とは（2）	近年の様々な家族定義について概説する
4	家族の類型と分類	家族の類型と分類について概説する
5	近代化と家族（1）	構造機能主義的視点からの考察
6	近代化と家族（2）	ジェンダー視点からの考察
7	近代化と家族（3）	歴史社会的視点からの考察
8	現代家族をみる視点	現代家族をみる視点について概説する
9	配偶者選択と結婚	配偶者選択と結婚について近年の動向をとりあげ考察する
10	性別役割分業	性別役割分業について近年の動向をとりあげ考察する
11	離婚とその後	離婚と家族について近年の動向をとりあげ考察する
12	家族・貧困・福祉	家族・貧困・福祉について近年の動向をとりあげ考察する
13	家族の行く末	家族の行く末について考察する
14	まとめと質疑	授業のまとめと質疑を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配付するスケジュールに沿って、テキストや参考書の指定された箇所を各自で読みこなし課題に取り組むことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する（複数予定）

【参考書】

授業で指示する（複数予定）

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（20%）とレポート（40%×2 回）により評価する。（ただし、対面授業での実施となった場合、評価方法を変更する可能性がある。）

【学生の意見等からの気づき】

授業内課題を通じて受講者の理解度を確認する。

【その他の重要事項】

授業の進め方や成績評価方法等の詳細は、初回授業で説明するので、履修予定者は、必ず初回を受講すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamentals of sociology of families.

SOC300EB, SOC300EC

家族社会学Ⅱ

菊澤 佐江子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

家族社会学において近年研究が蓄積されつつある家族とケアの諸問題とをとりあげ、当該領域における現状や研究動向等を学ぶとともに、家族社会学の視点から考察を深める。

【到達目標】

家族とケアに関する現状や研究動向を理解し、家族社会学の視点から考察するための基礎的な力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は主に講義形式によるが、授業内課題（ミニテスト等）を通じて、受講者の理解を確認しながら進める。課題については、可能な限り次の授業でフィードバックを行う。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。秋学期のみの受講者は、学期序盤に指定文献を通読することが受講の前提となる。授業計画は概ね以下の内容を予定している（ただし、受講者の状況や授業の展開等により変更する可能性もある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	育児期の親子関係	育児期の親子関係の歴史の変遷について概説する
3	家族社会学における育児研究の変遷	家族社会学における育児研究の変遷について概説する
4	母親と育児	育児不安とネットワークを中心に考察する
5	父親と育児	父親の育児をめぐる実態と研究動向を概説する
6	日本における子育て支援	日本の状況について概説する
7	諸外国における子育て支援	諸外国の状況について概説する
8	高齢期の親子関係	高齢期の親子関係の歴史の変遷について概説する
9	高齢期の親子をめぐる研究の変遷	高齢期の親子をめぐる研究の変遷について概説する
10	高齢期と社会的ネットワーク	高齢期の社会的ネットワークについて考察する
11	高齢期の親子同居は望ましいか	高齢期の成人子との同居について考察する
12	介護保険制度下の高齢者と家族	介護保険制度下の高齢者と家族について概説する
13	諸外国の高齢者・家族支援	諸外国の状況について概説する
14	まとめと質疑	授業のまとめと質疑を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配付するスケジュールに沿って、文献等を読みこなし課題に取り組むことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する（複数予定）

【参考書】

授業で指示する（複数予定）

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（20%）とレポート（40%×2 回）により評価する。（ただし、対面授業での実施となった場合、評価方法を変更する可能性がある。）

【学生の意見等からの気づき】

授業内課題を通じて受講者の理解度を確認する。

【その他の重要事項】

授業の進め方や成績評価方法等の詳細は、初回授業で説明するので、履修予定者は、必ず初回を受講すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the sociological research on family and care.

SOC200EB, SOC200EC

臨床社会学Ⅰ

木矢 幸孝

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「病いを患う」とは、どのような経験なのだろうか。私たちの人生において、病気を避けることは不可避であるにもかかわらず、病いの経験についてはわからないことが多い。病いとともに生きている人はどのような日々をおくり、どのような葛藤を抱えているのだろうか。本授業では、病いとともに生きる人々の経験に焦点をあて、現代社会において「病いを患う」ことの意味を考える。

【到達目標】

病いとともに生きる人々の経験を学ぶとともに、病いの経験について多様な視点があることを理解する。そこから、自己と他者への想像力を喚起する力を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

病気になることをめぐる理論の水準から授業をスタートさせ、実際に病いをめぐる経験を歴史的・政策的・個別的観点から論じていく。具体的な疾患名については、ハンセン病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、糖尿病、認知症、うつ病等である。

なお、授業は毎回配布するレジュメに沿って行い、授業の最後にリアクションペーパーを記入してもらう（学習支援システムの「テスト／アンケート」タブより回答）。リアクションペーパーの結果は、次の授業で学生にフィードバックする。

本授業はオンライン（オンデマンド型）での開講となる。各授業のレジュメは学習支援システム（「教材」タブ）より各自でダウンロードすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	臨床の社会学とは何か	概要の解説
第2回	病気になる	諸概念の検討
第3回	医療化	病いとは何か
第4回	スティグマ	病いとスティグマ
第5回	「病い」の経験（1）	ハンセン病
第6回	「病い」の経験（2）	筋萎縮性側索硬化症（ALS）
第7回	「病い」の経験（3）	糖尿病
第8回	セルフヘルプ・グループ	ピア・サポートの意味
第9回	家族の視点	家族を介護する
第10回	当事者の視点	当事者研究
第11回	未診断	診断の意味
第12回	精神医療	うつ病をめぐって
第13回	視覚という感覚	視覚障害者
第14回	まとめ	全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書やテキストを各自で読みこなすことを要する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、レジュメを配布する予定。

【参考書】

講義やレジュメの中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）と期末レポート（70%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進行に応じて、変更の可能性がある。

【Outline and objectives】

What kind of experience is "living with illness"? It is inevitable in our lives to avoid illness. However, We don't know much about my experience of illness. How do people living with an illness live and what conflicts do they have? This class focuses on the experiences of people living with illness and considers the meaning of "living with illness" in modern society.

SOC300EC

臨床社会学Ⅱ

木矢 幸孝

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療技術の進展は私たちに恩恵をもたらしたが、新たな問題も浮上させている。本授業が主として焦点を当てるのは医療技術の利点および諸問題である。医療技術における利点と諸問題を把握したうえで、今後の医療とのかかわり方を考えてゆく。

【到達目標】

医療技術の利点および諸問題を理解し、説明できるようになる。

医療技術に対して、自分なりの考えを持てるようになる。

医療技術の利点や諸問題を検討する際に、他者の視点からも検討できる想像力を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

優生思想と障害者運動の歴史を確認したのち、医療技術の利点と諸問題を検討してゆく。医療技術によってどのようなことが可能になり、どのような問題が生じているのか、という点を踏まえて授業を進めていく。

なお、授業は毎回配布するレジュメに沿って行い、授業の最後にリアクションペーパーを記入してもらう（学習支援システムの「テスト／アンケート」タブより回答）。リアクションペーパーの結果は、次の授業で学生にフィードバックする。

本授業はオンライン（オンデマンド型）での開講となる。各授業のレジュメは学習支援システム（「教材」タブ）より各自でダウンロードすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	概要の説明
第2回	優生思想	優生思想の歴史
第3回	障害者運動	自立生活運動
第4回	医学研究とインフォームド・コンセント	臨床研究・治験
第5回	生殖技術	妊娠と出生前検査
第6回	脳死と臓器移植	人の死としての脳死
第7回	終末期医療	死にゆく過程を考える
第8回	ヒトゲノムと ELSI	知る権利／知らないでいる権利
第9回	遺伝情報	遺伝学的知識と病い
第10回	告知	がんや遺伝性疾患の告知
第11回	再生医療	幹細胞研究をめぐる倫理
第12回	医療 AI	医療における AI とのかかわり方
第13回	感染症	COVID-19 をめぐる差別・偏見
第14回	まとめ	全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書やテキストを各自で読みこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、レジュメを配布する予定。

【参考書】

講義やレジュメの中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）と期末レポート（70%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進行に応じて、変更の可能性がある。

【Outline and objectives】

Although advances in medical technology have benefited us, new issues are emerging. This class focuses on issues related to medical technology. In this class, we will understand the benefits and issues of medical technology and examine how to relate to medicine in the future.

SOC200EC

社会心理学Ⅰ

土倉 英志

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学は、他者や集団との関わりにおける人びとの認知、感情、行動を探究する学問である。本講義では、社会心理学の多様な研究テーマのうち、他者や社会的事象に関する認知、他者から受ける影響、他者との関係性にかかわるテーマをとりあげて、代表的な知見を解説する。

【到達目標】

- ・社会心理学の基本的な知見を理解する
- ・社会心理学の研究手法を理解する
- ・知見を批判的に読み解くスキルを習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・講義を中心に展開する。社会心理学の調査を体験したり、グループワークに取りくむ機会を設けたいと考えている。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会心理学とはどのような学問か
2	対人認知	他者のイメージはいかに作られるのか
3	社会的推論 1	出来事の原因をいかに推論するのか
4	社会的推論 2	推論に影響する要因は何か
5	社会的推論 3	推論はいかなるプロセスでなされるか
6	態度と態度変化	価値観がどのように変わるのか
7	説得と態度変化	人を説得するにはどうしたらいいか
8	対人魅力と親密化過程	どのような人に魅力を感じるのか
9	社会的自己 1	自己とはいかなるものか
10	社会的自己 2	他者に自分をどのように見せるか
11	社会的影響	他者の存在からどう影響を受けるのか
12	援助行動	どうして他者に手を差し伸べないのか
13	寛容性	他者にやさしくあるとは
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義内容の理解に努め、次の講義までに復習を行なう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書はなし。

【参考書】

- ・池田謙一他（2019）『社会心理学・補訂版』（New Liberal Arts Selection）。有斐閣。
- ・他の参考文献は講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内外で実施する課題で評価する（100%）。課題には授業内で実施するテストやレポートが含まれる。
- ・日々の取り組みが重要となる。
- ・課題の詳細は初回の授業で説明するので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・研究の方法論の理解をうながせるよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無しです。

【Outline and objectives】

Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in social cognition, social impact, interpersonal relations, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology.

SOC300EC

社会心理学Ⅱ

土倉 英志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学は、他者や集団との関わりにおける人びとの認知、情動、行動を探究する学問である。本講義では、社会心理学の多様な研究テーマのうち、文化と心理の関連性、文化的道具論、制度アプローチ、ステレオタイプと偏見、現在の社会システムを維持させる要因といったテーマをとりあげて、代表的な知見を解説する。

【到達目標】

- ・社会心理学の基本的な知見を理解する
- ・社会心理学の研究手法を理解する
- ・知見を批判的に読み解くスキルを習得する
- ・社会事象を社会心理学的に解釈できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・講義を中心に展開する。社会心理学の調査を体験したり、グループワークに取りくむ機会を設けたいと考えている。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	文化心理学、集団社会心理学・グループ・ダイナミクスとは何か
2	認知の文化歴史性	文化・歴史とともにある認知
3	認知と文化的道具	文化的道具によって媒介される認知
4	分散された認知	人びとの間に分散している認知と活動
5	活動理論と分業	人びとのあいだで分割される活動とその課題
6	実践共同体と学び	正統的周辺参加論
7	文化的実践と学び	私たちはなぜ学ぶのか
8	制度アプローチ	誘因の構造と行為の関連
9	制度アプローチ	誘因の構造をいかに変えるか
10	集団意思決定	集団意思決定と集団生産性
11	ステレオタイプと偏見	偏見がもたらす問題
12	ステレオタイプと偏見	偏見の解消に向けて
13	社会変化を阻害する要因	なぜ現行のシステムは維持されるのか
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義内容の理解に努め、次の講義までに復習を行なう。
- ・グループワーク課題に取り組む。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書はなし。

【参考書】

- ・石黒広昭・亀田達也編（2010）『文化と実践』。新曜社。
- ・Donald・Norman（1990）『誰のためのデザイン？』。新曜社。
- ・レイヴ&ウェンガー（1993）『状況に埋め込まれた学習』。産業図書。
- ・他の参考文献は講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内外で実施する課題で評価する（100%）。
- ・試験は実施しないため、毎回の取り組みが重要となる。
- ・課題の詳細は初回の授業で説明するので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・研究の方法論の理解をうながせるよう教材を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無しです。
- ・春学期の学習を前提に授業を進めるため、あわせて受講することをすすめます。

【Outline and objectives】

Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in cultural psychology, cognitive tools, group dynamics of community building, social dilemma, stereotypes, prejudice, just world hypothesis, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology.

SOC200EC

エイジングの社会学

姫野 宏輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、現代社会における「エイジング（老い）」がもたらす社会問題に対して、どのような社会のあり方を目指すことが望ましいのか、高齢化の進んだ地域の実例から考えていく授業です。先んじて結論を述べてしまうと、「どんな地域もこうすればみんな幸せになれる」といった魔法の万能薬のような社会デザインは存在しません。ひとが老いていくとき、そのひとが暮らす場所では何が問題となるのか、それはなぜなのか、周囲のひとびとはどのような対策をとろうとしているのか、政府はどのような対策をとろうとしているのか、といったことを地道に調べて、できるだけ多くのひとが幸せを感じることができるように試行錯誤を繰り返す他はありません。

そのためこの授業では、「教えられたことを覚える」ことよりも、学生の皆さんが「自分で考えてみる」ことを重視します。授業はガイダンスを除いて2回を1セットにして、（前半）重要なキーワードを学ぶ→（後半）実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。後半の実例を見る授業回では映像作品も使用します。

今後さらに高齢化率が上昇していく社会を生きる皆さんが、エイジングのもたらす社会問題に直面したときに参考になるよう、たくさんの事例を見ていきますので、望ましい社会福祉のあり方について、一緒に考えていきましょう。

【到達目標】

次の2点を到達目標とする。

- （1）エイジングがもたらす社会問題について、基本的な知識や類型を身に着けて理解することができる。
- （2）自分の身の回りで起こっているエイジングにまつわる社会問題について、その問題点を発見し、解決に向けての行動案を自分なりに考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。ガイダンスを除いて授業は2回を1セットにして、（前半）重要なキーワードを学ぶ→（後半）実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。1セット終了ごとに「自分ならこの社会問題に対してどう取り組むか」を考えたコメントカードを提出してもらいます。コメントカードで寄せられた意見や質問はいくつかを取り上げて次回の授業の冒頭で解説し、フィードバックします。正しい解内容のコメントといったものではありません。自由な発想で、自分の言葉を使って、自分ならどうするかを考えられているかどうかを確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとイントロダクション	・授業の内容、進め方、提出課題等について説明する。 ・ひとが「老いる」ということはどういうことか、多角的に考えてみる。
2	老いとディスアビリティ（1）	・ディスアビリティ概念について

3	老いとディスアビリティ（2）	・実例をもとに、自分がディスアビリティにまつわる社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。
4	老いと家族・血縁（1）	・家族と親族によって支えられてきた日本の高齢者介護について
5	老いと家族・血縁（2）	・自分の家族・親族が老いに直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。
6	老いと人間関係（1）	・老いと社会的孤立の相関関係について
7	老いと人間関係（2）	・老いた後にどのような人間関係を結ぶことが望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。
8	老いと経済・年金（1）	・老いたあとの経済活動と日本の社会福祉政策について
9	老いと経済・年金（2）	・老いて経済活動に携わることが難しくなった人々に対して、どのような社会政策が望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。
10	老いと世代間格差（1）	・日本社会の少子化と労働力人口の減少について
11	老いと世代間格差（2）	・若年世代と高齢世代が対立しているという言説について、自分なりに社会の将来像を考えてみる。
12	エイジング社会のデザイン（1）	・アメリカ合衆国のような福祉社会のありかたについて
13	エイジング社会のデザイン（2）	・スウェーデンのような福祉社会のありかたについて
14	授業の総括	・授業中でとりあげたトピックを振り返り、自分ならどのようなエイジング社会のデザインが望ましいと思うか、考えてみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で配布される資料を読み返すことを基本にしてください。丸暗記の必要はありません。資料で紹介されている様々な事例で、「自分ならばどうするか」を簡単にいいので考えておくことが重要です（授業の目標的にも、課題を提出するうえでも）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

【参考書】

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

老いがもたらす社会問題について、自分自身の言葉で問題の要点を説明し、対策を考えることができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。
得点の配分は、2回の授業ごとに課されるコメントカード提出を平常点として50%、期末レポートを到達度の確認として50%の配分で、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「老い」によって生じている社会問題についてミクロ的な視点とマクロ的な視点の両方から迫るために、授業の構成を前半部と後半部で分けて組みなおしました。前半部では高齢化の進んだ地域の実例から具体的な問題状況を見て、後半部ではそれらを踏まえたうえで現代日本の社会福祉制度がどのようになっていて、今後どのような方向性がありうるのかを海外の諸制度を参考に考えるという流れになっています。このため、全体を通じて「自分が望ましいと思う福祉社会のデザインを考える」という授業の目的が達成されやすくなったのではないかと考えています。

【Outline and objectives】

This course introduces social problems concerning the aging society. My aim is to help students get the skills and knowledge needed to live in the aging society. At the end of the course, you are expected to describe your ideal vision of the future society. This course will be given by Japanese language.

SOC200EB, SOC200EC

環境社会学 I

堀川 三郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年台頭してきた環境社会学について概説する。ここでは、環境社会学を便宜的に「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」という2つのサブカテゴリーに分類し、本講義では、前者を取り扱う。具体的には、足尾鉍毒事件と水俣病問題を取り上げて「公害・環境問題」の内実を理解する。こうした事例の検討を通じて、被害構造論等の諸理論を検討する。

【到達目標】

理系の学問ではなく、社会学で環境問題を分析可能なのだということを理解できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

先ず詳細な事例研究を行って「環境問題」の内実を理解した上で、そうした「環境問題」を学問的に分析しようとして産み出されてきた諸理論（被害構造論、社会的ディレンマ論）を詳しく検討する。このように、事例研究の基盤の上に理論の検討がなされるという講義の構成は、問題の発生に促されて形成されてきた環境社会学の成立過程をいわば「追体験」するものだ。未曾有の公害に直面した時、既存の知の枠組みが対応できずにいたのはなぜか、そこにどのような人と言葉（概念）が集まって新たな学問を創り上げてきたのか。講義ではこうした重要な問いを、受講生と一緒に考えてゆきたい。そのためにグループに分かれてディスカッションを行うこともある。必ず、秋学期の「環境社会学Ⅱ」とセットで履修すること。対面授業か、オンラインか、あるいはその組み合わせかーコロナ感染状況に依存するので、臨機応変に授業形態を決める予定である。対面授業になっても対応できるように準備をしておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会学・再入門	環境社会学とはどのような社会学か
2	「3.11」の衝撃	今、問うべきは何か
3	公害・環境問題の考古学	問題史の概観
4	足尾鉍毒事件（1）	事件の概要
5	足尾鉍毒事件（2）	別紙銅山との比較
6	水俣病事件（1）	事件の概説
7	水俣病事件（2）	漁民の視点
8	水俣病事件（3）	支援者の視点
9	水俣病事件（4）	チッソの視点
10	水俣病事件（5）	行政の視点
11	水俣病事件（6）	認定制度の視点
12	環境問題の社会学における理論（1）	被害構造論
13	環境問題の社会学における理論（2）	社会的ディレンマ論
14	期末テスト	春学期の理解内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて随時指示するが、基本的に、文献を事前に読んでおくことが必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

毎時間、リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の場合は、毎回の課題レポートで評価する（100%）。全期間、対面授業が実施できた場合は期末試験（100%）で評価する。両者の組み合わせの場合は毎回の課題レポートで評価する（100%）予定である。初回のガイダンスに必ず出席すること。

なお、レポート課題は、毎回の論文試験に相当するものであり、したがって不正行為は学則によって処分されるので十分に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、リアクション・ペーパーを提出してもらい、必要に応じてそれに担当教員が応答するスタイルをとっている。昨年度も好評だったので継続する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、学習支援システムを使ってプリント類を配布するので、各自で使い方に習熟しておくこと。

対面授業が実施可能な場合には、ビデオ映像などを随時使用する。

【Outline and objectives】

Social life never happens in a vacuum. What kind of changes are induced in communality by changes in the physical urban environment, and how does that in turn alter the urban environment? Those are basic questions this course addresses. To do this, we take a social and historical approach to understand contemporary environmental challenges. At the end of the course, students are expected to explain the essential concepts of environmental sociology, identify the policies and understand key challenges related to Japanese environmental policies.

SOC300EB, SOC300EC

環境社会学Ⅱ

堀川 三郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年台頭してきた環境社会学について概説する。ここでは、環境社会学を便宜的に「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」という 2 つのサブカテゴリーに分類し、本講義では、後者を取り扱う。具体的には、国内諸都市やアメリカの事例を取り上げて「環境共存」の内実を理解する。さらに、地球温暖化や福島原発事故も取り上げながら、「我々は原子力と共存できるのか」という愁眉の課題の考察を行ない、エコロジカル近代化論等の諸理論を検討する。

【到達目標】

理系の学問ではなく、社会学で環境問題を分析可能なのだということを理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

先ず詳細な事例研究を行って「環境問題」の内実を理解した上で、そうした「環境問題」を学問的に分析しようとして産み出されてきた諸理論（生活環境主義、歴史的環境の社会学）を詳しく検討する。このように、事例研究の基盤の上に理論の検討がなされるという講義の構成は、問題の発生に促されて形成されてきた環境社会学の成立過程をいわば「追体験」するものだ。そこにどのような人と言葉（概念）が集まって新たな学問を創り上げてきたのか。講義ではこうした重要な問いを、受講生と一緒に考えてゆきたい。そのためにグループに分かれてディスカッションを行うこともある。必ず、春学期の「環境社会学Ⅰ」とセットで履修すること。対面授業か、オンラインか、あるいはその組み合わせか—コロナ感染状況に依存するので、臨機応変に授業形態を決める予定である。対面授業になっても対応できるように準備をしておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロ	秋学期への導入
2	環境問題の深化	視えない構造
3	「3.11」と温暖化	構造と政策
4	「共存」の社会学（1）	小樽（1）
5	「共存」の社会学（2）	小樽（2）
6	「共存」の社会学（3）	小樽（3）
7	「共存」の社会学（4）	竹富島
8	「共存」の社会学（5）	セントルイス（1）
9	「共存」の社会学（6）	セントルイス（2）
10	「共存」の社会学（7）	気候変動
11	「共存」の社会学（8）	福島原発事故
12	環境問題の社会学における理論（1）	生活環境主義
13	環境問題の社会学における理論（2）	エコロジカル近代化論
14	期末テスト	理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて随時指示するが、基本的に、文献を事前に読んでおくことが必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

毎時間、リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の場合は、毎回の課題レポートで評価する（100%）。全期間、対面授業が実施できた場合は期末試験（100 %）で評価する。両者の組み合わせの場合は毎回の課題レポートで評価する（100%）予定である。初回のガイダンスに必ず出席すること。

なお、レポート課題は、毎回が論文試験に相当するものであり、したがって不正行為は学則によって処分されるので十分に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、提出してもらうリアクション・ペーパーに担当教員が応答することで授業内容を改善している。昨年度も好評であったため、継続する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、学習支援システムを使ってプリント類を配布するので、各自で使い方に習熟しておくこと。

対面授業が実施可能な場合には、ビデオ映像などを随時使用する。

【Outline and objectives】

Social life never happens in a vacuum. What kind of changes are induced in communality by changes in the physical urban environment, and how does that in turn alter the urban environment? Those are basic questions this course addresses. To do this, we take a social and historical approach to understand contemporary environmental challenges. At the end of the course, students are expected to explain the essential concepts of environmental sociology, identify the policies and understand key challenges related to Japanese environmental policies.

SOC200EC

現代農業・農村の社会学

池田 寛二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、現代の日本と世界の農業・農村の多様な実情と問題を極力具体的な事例を示して紹介し、それらが急激な都市化とグローバリゼーションの渦中で営まれている私たちの日常生活、特に食生活とどのように関連しているかを、主に社会学の視点から検討することを目的とする。受講生には、自らの食生活を地域から地球規模に至る諸社会のダイナミックな変化と結びつけて考える知的センスを獲得してもらうことをめざす。なお、講義内容には、2020 年度と同様、もしくはそれ以上に、新型コロナウイルスの感染拡大が日本や世界の農業と農村に及ぼした影響や変化が色濃く反映される。

【到達目標】

この授業では、私たちの食生活が、どのような社会関係（多様な人と人との関係）によって支えられているかを、日本と世界の両面から、主に社会学的な視点から学ぶ。したがって、自分自身の日頃の食生活を意識的に自己点検し、食品が生産されてから自分が口に入れるまでの間に、どのような壮大で複雑な社会関係（生産者と消費者の関係、農村住民と都市住民の関係、食品加工業者・流通業者を介した関係、外食産業やファーストフード、コンビニ業界との関係、コマースやメディアと消費者との関係、食料輸出国の生産者と輸入国の消費者との関係など）が連動して生起しているかを、受講生自らが調べて考える能力を実践的に会得できることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

日本と世界の農業・農村の実情を理解するのに役立つ文献、統計資料および多種多様な映像資料など豊富な資料を提示しながら授業を進め、その都度、リアクション・ペーパーを書かせたりレポートを作成させて受講生の反応を確認し、優れた質問やコメントに対しては、各回の講義の導入部分で紹介しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	農業とは何か？（1）	都市の消費者がイメージする農業は現実の農業と同じか？
第 2 回	農業とは何か？（2）	世界と日本の農業の歴史と現状、ポスト減反政策のゆくえ
第 3 回	農村とは何か？（1）日本の農村社会学は何を明らかにしてきたか？	日本の農村社会学は何を明らかにしてきたか？
第 4 回	農村とは何か？（2）	世界の農村・農業社会学は何を明らかにしてきたか？
第 5 回	食の社会学（1）	私たちは何をどのように食べているのか？
第 6 回	食の社会学（2）	食を支える都市・農村関係、食を支える国際関係
第 7 回	農業と食の安全学（1）	食品の安全性はどのように保障されているのか？
第 8 回	農業と食の安全学（2）	食糧生産と環境問題のジレンマ（森林減少と気候変動）
第 9 回	食品ロスの社会学（1）	社会問題としての飢餓と飽食、飽食の末の棄食（食品廃棄）
第 10 回	食品ロスの社会学（2）	格差社会と食品ロス、食のサーキュラー・エコノミーおよびシェアード・エコノミーの可能性
第 11 回	食をめぐる産業連関の地殻変動（1）	農業・農村・都市間関係のイノベーション、農業のデジタルイノベーション
第 12 回	食をめぐる産業連関の地殻変動（2）	都市農業の新たな展開、農村農業の国際化
第 13 回	食文化の多様性と現代社会のダイバーシティ	地域と世界の新たなつながり
第 14 回	（まとめ）私たちの食生活と農業・農村・都市の未来	社会学的想像力の働かせ方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分自身の日常の食生活を研究対象として調査させ、適宜レポートさせる。つまり、自分自身の食生活を観察者の立場に立ってフィールドワークさせる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

エイミー・グプティル&デニス・コブルトン,2016『食の社会学:パラドクスから考える』(原題"Food and Society") (NTT 出版)

Jean-Pierre Poulain,2017,The Sociology of Food (Bloomsbury)

T. スタンダーヂ・新井崇嗣訳, 2017『歴史を変えた 6 つの飲物』(楽工社)
大原悦子,2016『フードバンクという挑戦—貧困と飽食のあいだで』(岩波書店)
S. クロイツベルガー他・長谷川圭訳, 2013『さらば、食料廃棄—捨てない挑戦』(春秋社)

マイケル・ウッズ, 高柳・中川監訳,2018『ルーラル：農村とは何か』(農林統計出版)
その他多数

【成績評価の方法と基準】

フィールドワークのレポート (50 %) と試験 (30 %) および授業ごとのリアクションペーパーの内容 (質問やコメントの質) (20 %) を考慮し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面でもオンラインでも、極力豊富に講義資料を配布もしくは配信し、学生の理解を深めるよう鋭意努力します。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to introduce multifaceted realities and problems of agriculture and rural communities in Japan and the world, and to examine how they relate to our daily eating life mainly from sociology viewpoints.

SOC200EC

地域環境論

池田 寛二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本と世界の地域社会とそれを取りまく環境の急激な変化を社会的に読み解く。なお、講義内容には、2020 年度と同様、もしくはそれ以上に、新型コロナウイルスの感染拡大が日本や世界の地域と環境に及ぼした影響や変化が色濃く反映される。

【到達目標】

受講生が、自らが生活している地域社会がどのような環境条件にささえられていて、どのような環境問題に直面しているのかについて、意識的に目を向け、考え、実践できる想像力と行動力を体得することが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

日本と世界の地域と環境の実情を理解するのに役立つ文献、統計資料および多種多様な映像資料など豊富な資料を提示しながら授業を進め、その都度、リアクション・ペーパーを書かせて受講生の反応を確認し、優れた質問やコメントに対しては、各回の講義の導入部分で紹介しフィードバックする。また、受講生に身近な地域における環境の実情について、初歩的なフィールドワーク（現地での資料収集やヒヤリングあるいは参与観察）を課題として提示し、その結果をレポートさせる。ただし、この授業は講義科目であり、ここで言う「フィールドワーク」とは、受講生が独自に取り組む課題であって、グループディスカッションやディベートを伴うものではない。したがって、アクティブラーニングには該当しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	地域とは何か？ 地域環境とは何か？
第 2 回	地域社会とはどんな社会なのか？（1）	community とは何か？
第 3 回	地域社会とはどんな社会なのか？（2）	日本の地域社会の歴史と現在（農村的地域社会のとらえ方：「むら・村落・町・市町村・都市の中のむら」…）
第 4 回	地域社会とはどんな社会なのか？（3）	日本の地域社会の歴史と現在（都市的地域社会のとらえ方：「宮処・都・市・大都市・アーバンズム」…）
第 5 回	地域社会とはどんな社会なのか？（4）	世界の地域社会の概況（アジア、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカを中心に）
第 6 回	地域社会における人口と環境	人口と環境の相関性（ $I=P \cdot A \cdot T$ 、「コモンスの悲劇」、エコロジカル・フットプリント）
第 7 回	都市への人口集中と環境	都市への急激な人口集中は環境をどう変えたか？（ヒートアイランド、都市鉱山…）
第 8 回	高度科学技術文明と地域環境	情報通信技術と生命技術のイノベーションは地域社会とその環境をどのように変えるのか？（AI 農業、自動運転…）
第 9 回	グローバル化と地域環境	グローバル化は地域（ローカルな社会）とその環境をどう変えたか？
第 10 回	リスク社会と地域環境	現代の地域と環境はどのようなリスクに対処しなければならないのか？
第 11 回	廃棄物と地域環境	現代の地域社会は廃棄物を適切に管理・処理できているのか？（東京多摩地域を事例として）
第 12 回	エネルギーと地域環境	現代の地域社会は持続可能なエネルギー需給システムを構築できているのか？（原発と再エネを中心に考える）
第 13 回	気候変動と地域環境	極端気象の常態化を抑止するために地域社会に求められている課題は何か？（脱炭素社会は地域からしか構築できない）
第 14 回	まとめ：地球環境と地域環境	地球環境は地域環境からしか変えられない（地球工学・国連至上主義・「人新世」言説の批判的検討）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は授業支援システムで予め配信するので、準備学習をしておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

講義資料の中で多数指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（20 %）、受講生各自の身近な地域における環境の実情に関する初歩的なフィールドワーク（現地での資料収集やヒヤリングあるいは参与観察）にもとづくレポート（80 %）。

【学生の意見等からの気づき】

初めての開講のため、特記事項なし。

【Outline and objectives】

In this lecture, considering how drastically rural/urban communities and their environmental conditions are changing in contemporary Japan and the world.

SOC100EC

文化社会学B

武田 俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では伝統的な文化の変容や創造、(再)構築を手がかりとして、近現代における日本の地域社会やコミュニティについて論じる。そうした伝統文化を通じたまちづくりが地域住民や担い手、その当の文化そのものに対してどのような影響を与えるのかについて分析する。そうした中で地域やコミュニティにおいて文化を継承することの意味と可能性について学生が考えることができるようになることを目的としている。

【到達目標】

地域やコミュニティにおいて人口減少や過疎高齢化が進む中での継承をめぐる困難と共に、住民たちや担い手にとってなぜ伝統的な文化や芸能がかけがえないものと感じられるのか、それらが観光やまちづくりに活用される中での矛盾、一方でそうした状況を逆手に取りながら文化を継承していく人々のしたたかさといった点について、社会学的に分析・理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンドによる配信（音声付きパワーポイント）を中心とする。それ以外の方法で行う回がある場合には、講義初回に通知する。概念や理論を、具体的な文化やその担い手が置かれた社会的状況に即して把握してもらうために、オンラインで閲覧できる映像・視聴覚資料について指示しつつ講義を行う。配信する資料に URL を貼り付けるため、合わせて見ておいてほしい。毎回提出してもらうリアクションペーパーのうち、代表的なものや興味深いものをピックアップして、フィードバックを行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的と進め方の説明
2	戦後地域政策・文化政策の中の「伝統」文化	戦前・戦後日本において「伝統」を通じた「まちづくり」がなぜ喚起されてきたのかを論じる
3	「伝統」が創られるとき	創造された伝統としての「民謡」
4	「伝統」としての和太鼓イメージ	戦後における「和太鼓」をめぐる表象の構築
5	真正性をめぐる揺らぎ(1)	伝統文化における「保存」と「観光」
6	真正性をめぐる揺らぎ(2)	担い手にとっての「本物」・専門家にとっての「本物」
7	「伝統」のダイナミズム(1)	変化し続ける「伝統」としての都市祭礼
8	「伝統」のダイナミズム(2)	祭礼における観光化・文化遺産化の流用
9	「伝統」のダイナミズム(3)	原発反対運動から見出された祝島の「伝統」
10	移動と混淆が生みだす「伝統」(1)	移民たちによる複数の「十九の春」の創造

11	移動と混淆が生みだす「伝統」(2)	アイス舞踊の継承と再創造
12	新たな継承の形	アーティストを介した民俗芸能の継承
13	個人化・流動化した祝祭	都市部を中心とした個人化・流動化したネットワークを基盤とした祝祭
14	まとめ	現代の地域社会において「伝統文化」が継承される意味と可能性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業内容は深く連関しているので、前回の講義内容を復習した上で授業に臨むこと。また毎回の授業後に、Hoppii でレスポンスを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

俵木悟,2018,『文化財／文化遺産としての民俗芸能：無形文化遺産時代の研究と保護』勉誠出版。

武田俊輔,2019,『コモンズとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』新曜社。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容（25%）、期末レポート（75%）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度と異なり、リアクションペーパーをピックアップして、毎回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【Outline and objectives】

This lecture discusses modern and contemporary local society and community focusing on the invention and (re)construction of traditional culture in Japan.

CUA200EC

文化人類学

謝 荔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学は人間の文化の多様性と普遍性を研究する分野である。授業では、人間の生活様式の多様性について、諸民族の事例を取りあげ、世界諸地域の人びとの生活、信仰、文化変容を理解すると同時に、自文化を相対化する考え方も学んでいく。

【到達目標】

講義を通じて、文化人類学の基礎的な知識、アプローチが理解できるようになる。フィールドワークに基づいて書き上げられた民族誌などにみられる事例を通して世界の諸地域に暮らす人びとの文化の多様性を知り、異文化についての理解を深め、視野を広げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業で取り上げるテーマに関連する文化人類学の概念について説明し、映像を含む資料を用いながら世界の諸民族の文化の説明をしていく。講義においてはパワーポイントを使用し、講義内容の見出しと小見出しのレジュメを配布する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	(1) 文化人類学とは、(2) 隣接の研究分野との関連性、(3) 授業の内容、進め方と評価方法
2.	通過儀礼	通過儀礼の構造、季節儀礼（暦と年中行事）
3.	通過儀礼	祝祭日の重層性
4.	通過儀礼	葬送儀礼の構造、現代社会の「樹木葬」
5.	家族と親族	家族のかたちと住まい
6.	宗教と世界観	神話
7.	宗教と世界観	風水思想と実践
8.	人間と生業形態	狩猟採集社会の文化変容
9.	人間と生業形態	牧畜社会の文化変容
10.	人間と生業形態	農業（「文化的景観」と「世界農業遺産」）
11.	嗜好品文化	ワイン（ブドウ栽培、ワインづくり）
12.	嗜好品文化	コーヒー（栽培、飲用、儀礼）
13.	文化の展示	民族学博物館と文化の展示
14.	まとめ	まとめ、期末レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にノートをとる能力が要求される。十分にとれなかった場合は授業中に提示された参考書を読んで補足する。また、自ら授業内容に関連する資料を調べ、リアクションペーパーを通じて積極的に発言してほしい。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

授業の中で提示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（授業終了時に毎回提出）・平常点 50%と期末レポート 50%で成績を評価する。リアクションペーパーに書かれたものが授業の具体的な内容に即していない場合は評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

授業に画像や映像資料を多めに取り入れること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding about various culture of the world from the viewpoint of cultural anthropology.

SOC200EC

宗教社会学

永井 美紀子

サブタイトル：現代社会と宗教

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段、宗教とは無関係な生活をしているように思えても、実は私たちは多くの宗教的な意味とともに暮らしていることに気づく。宗教文化に関する基礎的な知識を習得した上で、宗教を見つめる視点を構築し、社会との関わりの中かに存在する宗教的現象を客観的に捉えなおそう。

【到達目標】

①主要な宗教伝統に関して、それぞれの歴史的経緯や特徴などの基礎的な知識を身につけることができる。②それらの知識をもとに、社会にみられる多様な宗教的な現象に気づくことができる。③自分を取り巻く環境における宗教的な現象を客観的に把握し理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態についての詳しい情報は、学習支援システムで通知します。

① PDF 版の資料教材を、学習支援システムにアップします。②テーマ毎（内容によっては、テーマの項目毎）確認の課題または小テストを行います。③課題を出した後の授業では、全体に対して課題に関するフィードバックを行ないます。小テストの場合は解答を提示します。④中間レポートを学期半ばに提出します。提出期限については後日、授業内や学習支援システムを通じて通知します。課題図書は参考書に掲げた『グローバル現代社会論』です。生協でも取り扱いがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「宗教」という言葉・宗教と社会との関わり
2	主要な宗教伝統 1	唯一神信仰の大きな流れ・はじまりとしてのユダヤ教
3	主要な宗教伝統 2	ユダヤ教における新宗教運動としてのキリスト教
4	主要な宗教伝統 3	イスラームにおける共同体の意味
5	主要な宗教伝統 4	唯一神信仰の大きな流れ・補足解説
6	アジアにおける仏教の展開と変容 1	インドにおける新宗教運動としての仏教
7	アジアにおける仏教の展開と変容 2	仏教の大きな二つの流れ
8	アジアにおける仏教の展開と変容 3	日本における仏教受容・神仏習合
9	近代以降の日本の宗教状況 1	近代宗教行政政策の余波
10	近代以降の日本の宗教状況 2	神道の「解体」とその後
11	近代以降の日本の宗教状況 3	儀礼の変容と消費社会
12	社会のなかの宗教 1	日本人の宗教意識

13 社会のなかの宗教 2 宗教意識の国際比較・日本とヨーロッパ

14 社会のなかの宗教 3 アメリカの宗教意識

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り扱う宗教の基礎知識に関しては、日本史や世界史、倫理社会の参考書等で確認しておくといでしょう。新聞の中から宗教に関する記事を取り上げて読むことでさらに理解が深められます。学習支援システムにアップされる資料教材には目を通し、紹介された参考文献も関心を持って読んでみてください。資料はプリントアウト出来れば幸いですが、出来なくてもアップされた教材を読んで自分なりにまとめてノートに書き出してみるのもいいかもしれません。授業の内容に関する課題や小テストもありますので、学習支援システムをチェックして提出を逃すことのないようにしてください。提出期限は課題の種類によって変わることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業内での教材は学習支援システムにアップします。

【参考書】

世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』丸善出版 2012 年
山田真茂留編『グローバル現代社会論』文真堂 2018 年 (2600 円 + 税)
各テーマに関係する参考文献は配布資料にて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①学習支援システム上で出されるテーマ毎の課題や小テスト（合せて 10 回程度）の結果を 70 % ②学期半ばに提出する中間レポートの内容を 30 % とする割合で総合的に判断・評価します。中間レポートは参考書に掲げた『グローバル現代社会論』を課題図書とします。生協でも扱っています。提出期限を過ぎたものは受け取りませんのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

意見を受け止め適宜改善に努めていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムが利用できる機器及び環境

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of religious studies from a sociological point of view while showing various religious cultures around the world.

HSS200EC

スポーツ文化論

越部 清美

サブタイトル：スポーツ社会学

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の社会においてスポーツは、一部の特権的な人々の所有物から大衆の文化として広く深く人々の生活に浸透している。本講義では、スポーツの歴史を学びながら、スポーツ文化を包括的に理解することを目的とし、その中でも特に現代に特徴的と思われる視点について考えていく。

【到達目標】

スポーツの歴史を学び、現代社会における文化としてのスポーツ活動の意義や機能を考え、理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンライン授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。
各回の講義の中でリアクションペーパー等の提出を求める。ゲスト講師を予定している。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツ文化論とは	スポーツ文化論を学ぶ意義
第 2 回	スポーツの歴史	文化としてのスポーツの発生
第 3 回	スポーツの思想（1）	近代スポーツの思想
第 4 回	スポーツの思想（2）	現代スポーツの思想
第 5 回	メディアとスポーツ（1）	テレビとスポーツの関係を探る
第 6 回	メディアとスポーツ（2）	構造と機能
第 7 回	女性とスポーツ	歴史を振り返り問題点を問う
第 8 回	スポーツ競技者	アスリートと社会の関係を探る
第 9 回	スポーツファン	スポーツファンとは何か
第 10 回	オリンピックとパラリンピック	オリンピック・パラリンピックと政治・経済の関係
第 11 回	スポーツと環境問題	スポーツと環境の関係
第 12 回	体育の社会的構造と機能	体育はなぜ存在するのか
第 13 回	生涯スポーツ	生涯スポーツを考える
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示されたプリント類を事前に読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。

【参考書】

「よくわかるスポーツ文化論」井上俊・菊幸一編著ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

スポーツに思想があるのか、と驚く学生が結構多い。いろいろな事例を紹介しながら、さらに理解を深めてもらいたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the sports culture while learning the history of sports culture.

SOC200EB, SOC200EC

国際社会学 I

田嶋 淳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会学における視点、主要概念、アプローチ方法について学びます。

【到達目標】

グローバル化による社会変容が進む今日、私たちが生きている現代社会の諸問題について国際社会学的な視点やアプローチを用いて読み解き、説明できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義は 4 月 13 日から講義を開始します。方法は学習支援システムに教材として PPT をアップし、課題あるいはテスト/アンケートに答えるという方法で進めます。課題やテスト/アンケートについては授業内掲示板に必要な回答を示します。また、この科目は春学期の授業内容を踏まえて、秋学期の授業が展開します。そのため、春・秋学期を通じて履修することが望ましいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「国際社会学」とは何か？	授業計画、成績評価についての説明と講義のイントロダクション。
2	グローバル化と社会変容	グローバル化の進展による国家の揺らぎと社会の変容について考えます。
3	「現代の移住」とは何か る社会現象か	移民現象と国民国家の関係について、国際移民の時代をキーワードに考えます。
4	国際移民研究の理論的展開	国際移住システム論を紹介し、その理論的展開について考えます。
5	国際移住と日本社会	日本社会を事例として現代の移住問題を考えます。
6	日本に移民政策は存在するか？	移民問題を政策面から考えていきます。
7	難民問題と日本社会	難民に対する政策変遷と実態について考えます。
8	止められない移住プロセスの展開	移住プロセスをミクロ構造の視点から読み解きます。
9	ニューカマーズと在日韓国・朝鮮人	在日韓国・朝鮮人コミュニティについて現状と課題を考えます。
10	移住第 2 世代と多文化教育の可能性	アイデンティティと教育を中心に移住第 2 世代をめぐる諸問題について考えます。
11	複層化するアイデンティティ	エスニック・アイデンティティについて考えます。
12	新しい「市民権」とは	新しい「市民権」論について考えます。
13	グローバル化の帰結	グローバル化がもたらす帰結について考えます。
14	まとめと解説	概念のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書はない。

【参考書】

- 梶田孝道編, 2005, 『新・国際社会学』名古屋大学出版会。
 - 塩原良和, 2012, 『共に生きる——多民族・多文化社会における対話』弘文堂。
 - S. カースルズ・M. J. ミラー／関根政美・関根薫監訳, 2009=2011, 『国際移民の時代（第 4 版）』名古屋大学出版会。
 - 樽本英樹編, 2018, 『排外主義の国際比較』ミネルヴァ書房。
 - 小井土彰宏編, 2017 『移民政策の国際比較』名古屋大学出版会。
 - 田嶋淳子, 2010 『国際移住の社会学』明石書店。
- （参考文献一覧は授業関連サイトにアップする予定です）

【成績評価の方法と基準】

1. 講義2回に1回あるいは2講を合わせて1回という形でテスト問題を提示します。それに解答することで、春学期の成績とします。

配点は講義ごとに異なりますが、全体が100点になるように構成します。

【学生の意見等からの気づき】

理解度を確認するため、毎回テスト/アンケートにリアクションを求めます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンあるいはパワーポイントが聞き取れる機材を用意してください。

【Outline and objectives】

Students will study main concepts and perspectives in global sociology as well as approaching methods.

SOC300EB, SOC300EC

国際社会学Ⅱ

田嶋 淳子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際移住と東アジアのグローバル化を考える

【到達目標】

東アジアにおけるグローバル化の現実とトランスナショナルな社会空間の生成を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインを基本として、PPTに音声をつけた講義ファイルを教材として学習支援システムにアップロードします。リアクション・ペーパーへのフィードバックは授業内掲示板に示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際移住研究の方法論的課題	方法論的課題について考えていきます。
2	送り出しとしての中国社会の変容－改革・開放 40 年－	国際移住からみた中国社会を理解する上での前提となる基本構造をみていきます。
3	国際移住からみた中国社会	19 世紀後半から現代に至る中国社会と国際移住を考えます。
4	移民社会の中の中国系移住者（その1）オーストラリア	オーストラリアにおける多文化主義政策の中の中国系移住者たちについて考えます。
5	イタリアと温州を繋ぐもの	イタリアに多くの移住者を送り出す温州地域について考えます。
6	移民社会の中の中国系移住者（その2）アメリカ	アメリカ合衆国における中国系移民の歴史的経緯と中国系人の現在を考えます。
7	移民社会の中の中国系移住者（その3）カナダ	カナダにおける多文化主義政策の進展と中国系人の移住について考えます。
8	グローバル化の中の台湾社会	東アジアにおけるグローバル化と台湾社会の変容を考えます。
9	中台関係と外国人労働者問題	台湾における外国人労働者導入の経緯から中台関係を考えます。
10	台湾と香港――一国二制度をめぐる葛藤	一国二制度について取り上げ、香港社会の現状を考えます。
11	ディアスポラとしてのコリアン：北東アジアにおける朝鮮族移住者	北東アジアにおける朝鮮族移住者の現在を考えます。
12	韓国社会の変容過程と南北関係	韓国社会の戦後と南北関係について、考えます。
13	韓国における外国人労働者政策	2000 年以降の韓国における外国人労働者政策の変遷を見ていきます。
14	東アジアのグローバル化と国際移住	東アジアにおけるグローバル化の展開と国際移住問題のこれからについて考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 田嶋淳子著『国際移住の社会学』明石書店、2010 年（講義の一部をカバーしています）。

【参考書】

参考文献一覧は学習支援システムを通じて、配布予定です。

【成績評価の方法と基準】

講義1回、ないし2回に1度のテスト/アンケートを実施します。配点はそれぞれの回や方法により異なりますが、全体を通じて100点となるように設定しています。必ずテスト/アンケートや課題をうけて下さい。

【学生の意見等からの気づき】

テスト/アンケートあるいは課題のいずれに問題を設定するのか、明確に示す。

【Outline and objectives】

Students will study main concepts and perspectives in global sociology as well as approaching methods.

POL200EB, POL200EC

国際関係論 I

志村 真弓

サブタイトル：国際関係論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際関係論の学際性を踏まえたうえで、本科目では特に政治学の観点から現代国際関係を考察する。国際政治学の誕生が 20 世紀前半の戦間期に求められることを確認し、戦争原因の分析枠組みとして積み上げられてきた外交論を学ぶ。また、外交論の主な考察対象・分析単位とされる主権国家（体系）の歴史的成立についても学び、「主権国家」や「外交」、「戦争」や「平和」という概念を批判的に検討する。

【到達目標】

国際政治学における外交論の基礎的概念と分析枠組みを習得し、国家間戦争が起こる構造的要因を理解する。それらを通じて、今日の国際問題を批判的・論理的・実証的に検討する視点と方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の指定範囲等を熟読のうえ、オンライン講義を受講し、学習支援システムを通して課される期末レポートに取り組む。レポート課題には、教員が全体講評等を示す。授業計画は授業の進度により変更の可能性はある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要や評価方法について
2	国際関係論とは何か	国際関係論・国際政治学誕生の歴史的 文脈；国際政治学の対象とアプローチ
3	草創期の国際政治学（1）	第一次世界大戦原因論と国際連盟構想
4	草創期の国際政治学（2）	連盟体制の課題——理想主義と現実主義
5	国際政治の「現実」とは（1）	第二次世界大戦原因論と国際連合構想； 冷戦のはじまり
6	国際政治の「現実」とは（2）	リアリズム（現実主義）の主題
7	外交論（1）	ゲーム理論とは；戦略型ゲーム
8	外交論（2）	展開型ゲーム
9	外交論（3）	抑止の論理；安心供与の論理
10	外交論（4）	強要の論理
11	核戦争の危機（1）	キューバ・ミサイル危機
12	核戦争の危機（2）	第四次中東戦争
13	核戦争の危機（3）	核不拡散条約体制の課題
14	まとめ	レポート課題の全体講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指定範囲を熟読し、講義内で紹介する参考書なども積極的に読み込むこと。期末レポート課題に取り組むこと。標準学習時間は授業時間と合わせて毎週約 6 時間。

【テキスト（教科書）】

中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013 年。

【参考書】

日本平和学会編『戦争と平和を考える NHK ドキュメンタリー』法律文化社、2020 年。

木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波新書、2014 年。

小川浩之ほか『国際政治史——主権国家体系のあゆみ』有斐閣ストゥディア、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート課題： 100 %

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでもアクセス可能な資料等についての情報提供を充実させる。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to theories of International Relations. At the end of the course, students will be able to understand how historically the sovereign state system has evolved and how such states interact without central authority in world politics today.

POL300EB, POL300EC

国際関係論Ⅱ

志村 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の授業で学んだ国際政治学の基本的な分析視角を踏まえて、本科目では国際法と国際政治が交錯する現代国際秩序の変動過程について考察する。国連の集団安全保障体制における武力不行使原則の課題、国家間の武力行使を禁止する体制のもとで増加した「内戦」の国際的要因と国際的帰結、内戦等への「人道的介入」が「平和」を一層破壊し得るディレンマなどについて考える。

【到達目標】

現代国際社会における《不法で違法な武力行使》と《合法で正当な武力行使》、《国際平和》と《国内平和》、《平和》と《正義》の関係について、国際政治学と国際法学の知見を用いて、批判的・論理的・実証的に検討する視点と方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の指定範囲を熟読のうえ、オンライン講義を受講し、学習支援システムを通して課される期末レポートに取り組む。レポート課題には、教員が全体講評等を示す。本科目は春学期の授業内容を理解していることが前提となる。授業計画は授業の進度により変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要や評価方法について
2	国際法と国際政治の交錯（1）	戦争違法化の歴史と現在
3	国連集団安全保障体制（1）	武力不行使原則の前提と例外；冷戦と国連集団安保体制
4	国連集団安全保障体制（2）	脱植民地化と国連：冷戦終結と「平和の逆説」
5	国連集団安全保障体制（3）	1991 年湾岸戦争の開戦過程： 2003 年イラク戦争の開戦過程
6	国際平和と国内平和（1）	「内戦」の増加傾向；内戦の国際的要因と国際的帰結
7	国際平和と国内平和（2）	国連平和活動の武装化と多機能化
8	国際平和と国内平和（3）	非国家主体による越境武力攻撃と国家の自衛権
9	国際平和と国内平和（4）	難民問題とは何か、「難民」とはだれか
10	平和と正義の相克（1）	国際社会の「共同の利益」？：国際犯罪者の処罰と平和
11	平和と正義の相克（2）	国際犯罪からの住民保護と武力介入
12	国際法と国際政治の交錯（2）	内政干渉・武力行使の正当化
13	国際法と国際政治の交錯（3）	国際独立調査委員会の活動；国際人権・人道 NGO の活動
14	まとめ	レポート課題の全体講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指定範囲を熟読し、講義内で紹介する参考書なども積極的に読み込むこと。期末レポート課題に取り組むこと。標準学習時間は授業時間と合わせて毎週約6時間。

【テキスト（教科書）】

中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013 年。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート： 100%

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでもアクセス可能な資料等についての情報提供を充実させる。

【Outline and objectives】

This course examines how international law and international politics interact with one another to shape and change international relations today. It focuses on how international norms and rules on use of force has changed under the UN collective security system.

SOC200EC

国際社会と民族

高橋 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における「民族」をめぐる問題について、理論的・歴史的な視点から捉えるとともに、その今日的なあり方や課題について考える。

【到達目標】

「民族」をめぐる問題を、「国民国家」や国際社会との関係のなかで読み解き、それを理論的にも分析、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインの講義形式で進める（オンデマンド配信とリアルタイム配信を併用する可能性がある）。受講者は理解度をチェックするために授業後に小テストを受けること。

フィードバックについては、小テストの結果をふまえて、適宜、授業内で補足説明を行う。

また、中間レポートについては採点のうえ、返却する。

なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と進め方、成績評価についての説明
第2回	民族問題とは	「民族」をめぐる問題とは何か考える
第3回	国際社会と国民国家	国際社会と国民国家の成り立ちについて考える
第4回	エスニシティ、ネーション、ナショナリズム	基本的な概念について整理する
第5回	ナショナリズム論のアプローチ（1）	近代主義について考える
第6回	ナショナリズム論のアプローチ（2）	反近代主義について考える
第7回	ナショナリズム論のアプローチ（3）	認知的アプローチについて考える
第8回	エスニック・リバイバル	エスニシティへの回帰について考える
第9回	トランスナショナルなネーション／ナショナリズム	国家や国境を越える／またがるネーションやナショナリズムについて考える
第10回	ケーススタディ（1）	クルド人について考える
第11回	ケーススタディ（2）	日本における在日コリアンについて考える
第12回	ケーススタディ（3）	日本における日系南米人について考える
第13回	グローバル化とナショナリズム	自国第一主義について考える
第14回	まとめ	これまでの内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間レポートおよび期末レポートの作成。

各回の授業の復習として Google フォームを使った小テストに回答すること。

授業の準備・復習は、1 回につき 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書はない。

【参考書】

ゲルナー, E., 2000, 加藤節監訳『民族とナショナリズム』岩波書店。
アンダーソン, B., 2007, 白石隆・白石さや訳『定本 想像の共同体』書籍工房早山。

スミス, A. D., 1999, 巢山精司他訳『ネイションとエスニシティ』名古屋大学出版会。

ホブズボウム, E.・T. レンジャー, 1992, 前川啓治他訳『創られた伝統』紀伊國屋書店。

ブルーベーカー, R., 2016, 佐藤成基・高橋誠一・岩城邦義・吉田公記編訳『グローバル化する世界と「帰属の政治」——移民・シティズンシップ・国民国家』明石書店。

宮島喬・吉村真子編, 2012, 『移民・マイノリティと変容する世界』法政大学出版局。

そのほか、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（25 %）

中間レポート（25 %）

期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course aims to study about "ethnicity", "nation" and "nation-state" relation with international society, from a theoretical and historical and perspective.

GDR200EC

開発とジェンダー

吉村 真子

サブタイトル：国研：開発とジェンダー

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、開発とジェンダーについて、開発途上国の開発や問題点、ジェンダーをめぐる議論など、多様な観点から議論します。

【到達目標】

開発とジェンダーについて学び、ジェンダーという視点を入れると問題がどう見えるか、具体的に考えていくこと、問題を構造的に議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義は、開発とジェンダーについて、開発の理論やジェンダー論から具体的な開発途上国の現状を分析、多角的に議論します。最終回は 13 回までのまとめや復習に加え、授業内での課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のテーマと目的を紹介
第 2 回	開発と「女性」「男性」の視点	「女性」「男性」の視点から開発途上国の社会と開発を見直す
第 3 回	「農村の近代化」：「農民＝男性」か？	農村社会におけるジェンダーと開発プロジェクトを考える
第 4 回	貧困、ジェンダー、女性	開発途上国のケースから考える
第 5 回	開発途上国の女性の生活	教育や妊娠・出産などについて考える
第 6 回	開発政策とジェンダー	国連などの議論などを紹介する
第 7 回	開発途上国の少女	伝統的慣習や女子割礼
第 8 回	グローバル経済と女性	経済開発と途上国の女性への影響
第 9 回	「器用な指先」	多国籍企業の途上国進出と女性労働者
第 10 回	移住労働とジェンダー	移住（出稼ぎ）労働、ケア労働など
第 11 回	セックス産業と人身売買	人身売買とジェンダー
第 12 回	代理母ビジネス	インドの代理母ビジネス
第 13 回	女性のエンパワーメント	国際 NGOs の人材育成プロジェクト
第 14 回	人間の安全保障	開発・貧困・ジェンダー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を読むなど、授業以外の勉強も必須です。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考文献などは適宜、紹介します。

【参考書】

吉村真子「開発とジェンダー」『性と文化』法政大学出版局（2004）；宇田川妙子はか編『ジェンダー人類学を読む』世界思想社（2007）；田中由美子『はじめてのジェンダーと開発：現場の実体験から』新水社（2017）など。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①授業に関するコメント・課題（40 %）、②定期試験（60 %）などから総合的に評価します。なお、COVID-19 対応で学習支援システムなどのオンライン授業の形式になる可能性もあり、毎週の授業資料の聴講や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

開発とジェンダー、国際社会問題など、授業以外の視点につながる議論にしたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

COVID-19 対応で、学習支援システムなどを使ったオンライン授業になる可能性もありますので、準備しておいてください。

【Outline and objectives】

This course is to study Gender and Development. The issues include discussion on gender issues in politics, education, UN programs, rural development, industrialization, reproduction health, human rights, and so on. The course is to analyze the structure of problems in developing countries in globalization. Students are required to study gender issues in developing countries, to submit comment sheets and to take a final term examination.

ARSA200EC

地域研究（ヨーロッパ）

高橋 愛

サブタイトル：地域研究（西欧）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多源性の上に成り立つヨーロッパに時間軸をたどりながらアプローチし、その形成の歴史的背景と過程をみる。現代ヨーロッパの特徴と今日の EU が抱える問題を複眼的な視点で眺め、今後の可能性を検討、議論する。

【到達目標】

ヨーロッパは底流にある共通の文化とローカルな地域的多様性によって形成され、二度にわたる世界大戦の経験から未来への指針をいかに引き寄せるべきかを模索してきた。そして、2020 年には、英国の EU 離脱によってヨーロッパ統合の流れは初めて後退した。こうした歴史も踏まえて、「多様性の中の統合」を掲げる EU の現状や今日における問題点を具体的に述べるができる。日本とヨーロッパの諸地域を比較し、関連付けて考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・講義形式で進め、授業の内容に関する受講生の質問等にも応じ、議論を深める。具体的な方法については「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示する。
・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容と方法の説明
第 2 回	ヨーロッパとは？	ヨーロッパの地理的概念と文化的区分、ヨーロッパ意識をめぐる問題
第 3 回	ヨーロッパ世界の形成（1）	古代ギリシャ・ローマの遺産と精神的故郷としての位置
第 4 回	ヨーロッパ世界の形成（2）	キリスト教文化圏の形成、三大教派誕生の背景と特徴
第 5 回	ヨーロッパと世界大戦	二つの大戦におけるヨーロッパ
第 6 回	戦後ヨーロッパにおける記憶と対話	国際教科書改善運動、フランスとヴィシー体制をめぐる記憶など
第 7 回	東西冷戦	東西冷戦とヨーロッパ分断の歴史
第 8 回	ヨーロッパ統合（1）	ヨーロッパ統合への共通意思とその理念・実像
第 9 回	ヨーロッパ統合（2）	基本条約から欧州憲法条約、リスボン条約の発効まで、EU 独自のガバナンス
第 10 回	ヨーロッパ統合（3）	EU の拡大と深化、ユーロ危機
第 11 回	ヨーロッパ統合（4）	英国の EU 離脱と将来関係
第 12 回	ヨーロッパ統合（5）	気候変動問題、新型コロナウイルス復興基金等、2021 年の EU
第 13 回	21 世紀のヨーロッパと移民・難民	ヨーロッパ域内の多様性、移民・難民政策をめぐる議論
第 14 回	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・ニュースを通して、ヨーロッパで何が問題となり、議論されているのかをきちんと把握する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内容に関するレポート課題（中間・期末の 2 回）で評価する。成績評価の内訳は、中間レポート（50 %）と期末レポート（50 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

日々変化するヨーロッパの情勢を理解するために、2021 度も最新の記事や映像資料を積極的に紹介したい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students deepen knowledge and understanding of Europe.

ARSe200EC

地域研究（アジア）

吉村 真子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、アジアにおける社会・経済・政治などの問題について、様々な観点から議論していくことを課題とします。対象地域は、東アジア（中国、朝鮮半島、台湾）、東南アジア、南アジアです。

【到達目標】

本講義で、アジア社会における様々な問題について学び、多角的な視点で議論、分析することを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義は、アジアの社会や経済・政治について、様々な観点から議論、分析することを目的とします。対象地域は、東アジア（中国、朝鮮半島、台湾）、東南アジア、南アジア。アジア社会について具体的に考えること、問題を構造的に議論することが重要です。最終授業では 13 回までのまとめや復習に加え、授業内の小レポートや課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業のテーマと目的
第 2 回	世界の中のアジア	アジアとは何か
第 3 回	植民地支配と独立後	アジアの植民地化と現地社会
第 4 回	日本と「アジア」	日本と近隣アジア諸国との関係
第 5 回	アジア社会の重層性	エスニック集団（民族）、宗教、言語
第 6 回	アジアの多民族社会	地域研究のケースから
第 7 回	アジアの政治問題	現代アジアの政治
第 8 回	農村社会の近代化	農村開発、農業、貧困
第 9 回	アジアにおける工業化	グローバル化と新しい国際分業
第 10 回	アジアの都市化	アジアにおける都市問題
第 11 回	経済援助	開発援助、ODA、NGOs など
第 12 回	アジアの環境問題	環境の諸問題とサステナビリティ
第 13 回	グローバル化とアジア	いまアジアで何が起きているのか
第 14 回	アジアの開発と市民社会	アジア社会の視点から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも、自分で関心をもってアジア社会について調べてほしいと思っています。授業でのグループ・ディスカッションのために、課題について調べてもらうことも予定しています。またアジアに関する文献・資料のほか、ドキュメンタリー、シンポジウムや講演会、アジア映画や展覧会など、教室外でアジアに触れることを目的に、「ミニ・レポート」は「文字メディア以外でふれたアジア」を課題にする予定です。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考文献などは適宜、紹介します。

【参考書】

参考文献などは適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準としては、①授業に関するコメントやミニ・レポート（30 %）、②定期試験（70 %）として、総合的に評価します。COVID-19 対応で学習支援システムなどのオンライン授業になる可能性もあり、毎週の授業資料の聴講や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

アジア社会について深い分析と議論につながるようにしたいと思っています。

【その他の重要事項】

授業支援システムなどを利用したオンライン授業の実施の可能性がありますので、その準備をしておいてください。

【Outline and objectives】

This course is to study Asian societies and economies. The issues include discussion on history, politics, ethnicity, rural development, industrialization, urbanization, environment, human rights, and so on. The course is to analyze the structure of problems in the globalizing Asian societies. Students are required to study social problems in Asian countries, to submit a short paper and to take a final term examination.

ARSe200EC

地域研究（中国）

大崎 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古来、独自の文化的秩序観による一個の世界を形成してきた中国（中華）の歴史をふまえ、グローバル化が進化する現代の国際社会の中でその独自性と普遍性とを分析、考察する。

【到達目標】

現代中国と東アジア地域について、特に近代以降の歴史を「通時的」に概観しながら、グローバルな視点も加えて「共時的」に解析、検証し、事象をより正確にとらえ、的確に分析していく視座を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半は教員による概説と問題提起、グループ討論。後半はテーマ別に小グループを編成し、発表、議論をおこなう。学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションが実現可能な時間と空間としたい。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「中国」という文明体	中華世界と中国的世界秩序
2	中国をめぐる経緯と緯	中国と「屈辱の近代」
3	現代中国への視座	「改革・開放」と現代中国
4	疑問と誤解（1）	中国を理解するキーワード
5	疑問と誤解（2）	中国共産党と社会主義
6	疑問と誤解（3）	伝統的政治思想と「民主化」
7	ひとつの中国、たくさんの中国（1）	多民族国家の諸問題
8	ひとつの中国、たくさんの中国（2）	香港、マカオ、台湾
9	発表と討論（1）	格差と「小康社会」の実現
10	発表と討論（2）	さまざまな社会問題から検証する現代中国
11	発表と討論（3）	「北京コンセンサス」と「ワシントンコンセンサス」
12	発表と討論（4）	日・中関係の過去と歴史認識問題
13	発表と討論（5）	日・中関係の現在・未来
14	発表と討論（6）	中国と世界のこれから

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 読書（参考図書の渉猟）
 2. 関連する新聞やネットの記事のチェック
 3. グループ発表、討論の準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の「教科書」はない。各回必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとにできるだけ多く紹介する。

【成績評価の方法と基準】

現代中国と東アジア地域の「通時的」理解にグローバルな「共時的」解析、検証を加えて獲得した新しい視座により具体的な考察（書評など 20 % + 小論文 50 % = 70 %）をおこなう。これに参加（教員と学生の書面の応答〔「交換日記」〕や発表 = 30 %）を加えて評価する。

オンライン授業となった場合には、書評など 35 % + 小論文 65 % と変更する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討論による相互学習、基本的な事項の確認等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきたい。

教室でも zoom でも従来どおり「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時間とする。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【その他の重要事項】

北京駐在記者としての取材、報道の経験を踏まえ、現代中国に関する情報収集や分析の「リテラシー」を伝え、中国像の「歪み」と実像とを比較考量する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the knowledge and new point of view to contemporary China.

PSY 300EC

特講（社会心理学研究法）**土倉 英志**開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学は社会的行動を科学的に研究する学問である。現象をとらえる確かな証拠を得るためにさまざまな研究手法を駆使する。

本講義では、社会心理学の先行研究の追討を企画し、その手続きを吟味することを通じて、研究手法にたいする理解を深めていく。このプロセスで社会心理学の実証研究を読む眼を養い、他者の研究計画を批評するスキル、自ら研究計画を立案するスキルを磨く。このように本講義では、研究法の表層的な理解を越えて、研究法を体得することを目指す。

【到達目標】

- ・社会心理学の研究法の基礎知識を他者に説明できる
- ・他者の研究計画を批評できる
- ・手続きの必要性や意義を踏まえて研究計画を立案できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・グループワークを中心に展開する。
- ・必要に応じて教員が説明を行なう。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会心理学研究法の基礎
2	先行研究の理解	文献講読：研究テーマを理解する
3	リサーチクエスションの理解	文献講読：リサーチクエスションを理解する
4	研究計画の検討（1）	研究計画を検討する
5	研究計画の検討（2）	研究計画を検討する
6	パイロットスタディ実施	予備研究を実施する
7	研究計画の修正	研究計画を修正する
8	データ収集（1）	データを収集する
9	データ収集（2）	データを収集する
10	データ分析（1）	収集したデータを分析する
11	データ分析（2）	収集したデータを分析する
12	プレゼン資料の作成	研究成果のプレゼンを作成する
13	プレゼンと討論、講評	プレゼンを実施する
14	プレゼンの修正とまとめ	実施したプレゼンを修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・データ収集、データ分析、報告資料の作成等、授業時間外にも多くの取り組みが必要となります。
- ・授業時間外にグループで集まって作業を進めることが必要になります。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・特になし

【参考書】

- ・授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内外で課す課題の質（70 %）、プレゼンの質（30%）で判断する
- ・指定の回数を越えた欠席は単位修得不可となります。無断欠席は厳しく評価します。
- ・詳細は初回の授業で説明するので必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。
- ・PC を活用する場面が多くある。

【その他の重要事項】

- ・授業計画や進めかたは、受講者のスキルや授業の展開に応じて変更することがある。

【Outline and objectives】

In this course, students learn psychological methodologies for investigating cognition and action. Students will collect and analyze data and report their research outcomes. The objective of this course is to acquire basic knowledge of research method in social psychology.

SOC300EC

特講（米国社会事情・人種民族関係論）**鈴木 和子**開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な制度が人種・民族で分断される米国社会を理解するためには、「人種」・「エスニシティ」という概念を学ぶことが必要不可欠である。例えば、身分証明や就職などにおいて、日本の公的文書で性別の記入が求められるのと同様に、米国では人種・エスニックカテゴリーは必須項目となる。しかし、移民国家として多様な人種・民族が国民国家を形成し、異民族・異人種間結婚による二重国籍や混血が増加するなか、既存の白人至上主義的な人種・民族関係は見直しを強いられている。そもそも、「人種」や「民族」カテゴリーは、普遍的なものなのだろうか。「人種」と「民族」はどのように異なり、国民国家において「ネーション」や「国籍」といった概念とどのように関連しているのだろうか。いまだ人種・民族差別が激しい米国で、非白人系アメリカ人はどのようにして「アメリカ人」であることと、OO 人種・OO 民族であることに折り合いをつけて生活をしているのか。この講義では、日本と米国を比較しながら、人種・民族カテゴリーにまつわる問題点と米国の人種・民族関係についての考察をすすめる。それらを通じ、誰もが無意識のうちに持つ人種・民族に関するステレオタイプを批判的に考えるための思考力を養う。

【到達目標】

- 1) 人種民族関係を論ずるのに必要な基本的概念や理論を習得する。
- 2) 人種・エスニシティという概念やカテゴリーを考察することにより、現在米国が抱える人種・民族問題について理解を深める。
- 3) 国民国家としての日本と米国の人種イデオロギーの違いを理解することにより、批判的思考力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・授業形態： ZOOM によるオンライン講義を主とする。
- ・講義は、シンクロナス授業とオンデマンド（録音）授業のハイブリッド方式を採用。
- ・授業中に質問をすることもあるので、ZOOM のチャットや Thumbs Up が使用できるようにしておくこと。
- ・課題などの提出・フィードバックは授業で指示し、「学習支援システム」を通じて行う予定です。
- ・授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得えます。変更に関しては、授業中または「学習支援システム」を通じて案内します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概論	担当講師・講義全体の紹介、課題等の説明。人種・民族に関する簡単なサーベイを行う（「平常点」に加算）。
2	基本用語の定義	講義で使用する重要な用語や分析枠組みの説明。
3	人種カテゴリーの変遷	パラケルススやブルーメンバッハらの人種カテゴリーを概観し、カテゴリーの恣意性を学ぶ。
4	米国移民史と移民法	米国はいつでも移民を受け入れてきたのか？ 米国移民史を概観する。
5	米国国勢調査における人種区分の変遷	米国国勢調査における人種とエスニシティの分類について学ぶとともに、カテゴリーは誰が何のために創出するのかを考察する。
6	人種、エスニシティとアイデンティティの構築	1 - 5 に関する小テストの実施。テーマに関連する基本的な理論を学ぶ。
7	差別の与える影響	エリオットによる「茶色の瞳・青い瞳」の実験を学ぶことにより、人種差別が人にもたらす結果を考察する。
8	日本における人種イデオロギーの変化	当たり前前に考えがちな「日本人」という概念が、どのように構築されてきたかを学ぶ。
9	日本とアメリカの人種イデオロギーの比較	前回の「日本人」に関する授業と比較しながら、「アメリカ人」という概念がどのように（再）構築されてきたかを学ぶ。

10	人種/階級/ジェンダー 1)	ジェンダーや階級に関する基本概念を導入することにより、「インターセクショナリティ」（人種/階級/ジェンダーの相互作用）という、より複雑な人種問題へのアプローチを学ぶ。
11	人種/階級/ジェンダー 2)	6 - 10 に関する小テストの実施。インターセクショナリティの観点から、アフリカ系アメリカ人のサバイバル戦略を考察する。
12	人種/階級/ジェンダー 3)	インターセクショナリティの観点から、アジア系およびホワイト・アメリカンのサバイバル戦略を考察する。
13	構造的な人種主義	現在進行形の Black Lives Matter 運動、COVID-19 下でのアジア系への差別問題を構造的差別という枠組みから分析する。
14	試験とまとめ	講義全体のまとめ、および、期末レポートの問題の配布と説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- 授業の前に読むべき文献・資料は「学習支援システム」の「リーディングリスト」を参照のこと。詳細に関しては、授業で説明します。
- 授業中に使用するハンドアウトは、授業前に（初回除く）「学習支援システム」から自分でプリントアウトしてください。授業でノートをとるのに必要となります。
- 全ての授業に参加することを前提として、課題や試験を行います。従って、授業を休んだ学生は、授業に参加した学生よりノートを借りるなどして、フォローアップをすること。
- 授業に関連して、何かわからないことがあったり、困ったことがあった場合、学期末まで待たず、講師または TA (Teaching Assistant) に相談すること。授業直後のオフィス・アワーやメールを活用して、問題は早めに解消するようにしてください。

【テキスト（教科書）】

適宜、必要な文献・資料は「学習支援システム」を通じてダウンロードすること。

【参考書】

「学習支援システム」の「参考書リスト」を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

授業の出席は単位習得の前提条件です。
平常点（サーベイへの参加）: 10 %、小テスト 1 & 2: 40 %、期末レポート: 50 % [100 点満点、60 点以上が合格]

【学生の意見等からの気づき】

「本年度新規科目につきアンケートを実施していません。」
本講義は、もともと、米国の様々な大学でアメリカ人学生を対象に行っていた授業がベースとなっています。日米のことで、日本育ちの日本人の私には当たり前なことでも、アメリカの視点から見ると不思議なことが色々あることを、アメリカ人学生との交流から学びました。逆に、アメリカ人にとっては当たり前なことでも、日本人にとってはとても奇妙に見えることもあります。そのような経験を生かして、米国事情を日本の大学で教えてみたいと思いました。日本とアメリカを比較することによって、人種関係に関して双方にかなり理解の隔たりがあることを学んでもらえたら幸いです。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM および「学習支援システム」を使用するため、PC・ネット環境が必要。

【その他の重要事項】

- 授業担当講師はアメリカより授業を行うので、メールの返信には時差による遅れがあることを承知しておいてください。
- オフィス・アワー: 授業の直後に、1 時間ほど ZOOM で引き続き行います。日時の都合がつかないひとは、Email で問い合わせをしてください。時差がかなりあるので、余裕をもって連絡をください。

【Outline and objectives】

It is indispensable to learn the concepts of 'race' and 'ethnicity' to understand North American society, in which various institutions are divided along ethnic and racial lines. For instance, identification of one's ethnic and racial categories in various official documents itself shows the salience of race and ethnicity in the United States. At the same time, it is imperative to reexamine existing ethnic/racial categories when society becomes increasingly diversified, owing to immigration, miscegenation, and dual citizenship. In this course, we will ask the following questions: Are the racial categories used in the United States universally applicable in other parts of the world? Do 'race' and 'ethnicity' mean the same thing? How are the notions such as 'race', 'ethnicity', 'nation' and 'nationality' linked in the construction of the nation-state? How do people of color in the U.S. negotiate their racial and ethnic identities in a society where they encounter racial/ethnic discrimination on a daily basis? While comparing with Japanese society, we will examine various issues surrounding U.S. ethnic/racial relations and categorizations. Through a comparative analysis, students will acquire skills to think critically about stereotypes in race and ethnicity by the end of this course.

FRI300EC, FRI300ED

メディアの思想

小林 直毅

サブタイトル：記号論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「思想」とは thought、つまり「思考されたこと」です。メディアについてどのような問題が、どのように思考され、今日のメディアをめぐるどのような思考が必要なのかを理解することがこの授業の目的です。

【到達目標】

メディアによって人びとが、どのようにして、どのような出来事を経験しているのかを理解できるようなることを第一の目標にします。その上で、今日のメディア環境の可能性と課題を実践的に考えることができるようになることを第二の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン授業で進める予定です。時間割で指定された授業曜日に毎週、講義動画、スライドの PDF ファイル、配布資料を配信しますので、それらを使って受講を進めてもらいます。

配布資料は受講の事前、事後の学習のためのものです。受講者は講義動画を視聴しながら、スライドや配布資料を参照してノートを作成していきます。受講後さらに、配布資料や参考文献などを参照して、学んだことを文章化した「講義ノート」を作成します。これを毎週重ねてもらいます。

授業期間内で3～5回のリアクションペーパーの提出を求めます。それについての授業内での講評、もしくはリプライペーパーの配信をします。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この講義の概要とねらい
2	環境世界という考え方	理論生物学の成果に学ぶ。
3	環境世界としてのメディア環境	メディアと身体と生活とのかかわりを考える。
4	小括「環境世界・身体・メディア」	リアクションペーパーへのリプライ（1）
5	記号とその意味の成り立ち	記号学の思想に学ぶ。
6	記号の意味の多様性	記号の可能性を考える。
7	映像記号と身体	「コードのないメッセージ」を考える。
8	小括「記号・身体・メディア」	リアクションペーパーへのリプライ（2）
9	読まれ、見られる出来事	メディア環境の可能性を考える。
10	語られ、描かれる出来事	メディア環境の秩序を考える。
11	意味としての出来事	メディア環境における出来事の実験を考える。
12	小括「メディアテキスト・メディア言説・メディア表象」	リアクションペーパーへのリプライ（3）
13	メディアと権力	メディア環境のポリティクスを考える。
14	メディアと主体	メディア環境におけるイデオロギーを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の前に、配布資料を必ず熟読してください。そして講義の概要を自分なりに把握し、分りにくい事項については、「何が、どう分からないか」を考えてメモとして書き出すといった作業が必須です。

毎回の講義後に、テキストや参考文献を参照しながら講義ノートを整理することも必須です。その際、事項の箇条書きメモではなく、文章として整理するように心がけてください。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しません。

【参考書】

毎回の配布資料で示しますが、そこで紹介された文献をできるだけ多く読んでください。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーがすべて提出されていて、いずれの内容も問題がない場合は、それをもって成績全体の 60 % の評価とします。さらに学期末に小レポートを課しますので、これを単位認定の必須要件とするとともに、その評価を成績全体の 40 % の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや答案以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料配布します。

【Outline and objectives】

Students will be able to understand the thought of media as technology and institution.

SOC300EC, SOC300ED

社会問題とメディア

津田 正太郎

サブタイトル：メディア社会論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、様々な社会問題とメディアとの関係についての分析視角を提示する。

【到達目標】

この授業の目標は、受講者がメディアという観点から社会問題や日本社会の歩みについての理解を深めることに加えて、自らの問題関心に沿って分析を行うための方法論を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義という形態をとる。ただし、毎回の授業終了後に Google フォームによって質問を受けつけ、次回の授業の冒頭で時間を割いて解説を行うことで、受講者の理解をより促進するよう心がけたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会病理学とモラルパニック論	社会問題を分析するための視座として、社会病理学およびモラルパニック論について考える
第 2 回	社会問題への社会構築主義アプローチ	社会問題を分析するための視座として、社会構築主義アプローチについて考える
第 3 回	リスク社会におけるメディア報道	リスク社会におけるメディア報道のあり方を考える
第 4 回	メディアが描く犯罪（前編）	メディアによる犯罪の描き方にはどのような問題があるのかを考える
第 5 回	メディアが描く犯罪（後編）	メディアがどのように犯罪被害者および加害者を描くのかを事例に即して考える
第 6 回	メディアが描く貧困	現代社会における貧困の現状を踏まえつつ、メディア報道の問題点について考える
第 7 回	貧困報道をめぐるジレンマ	メディアが貧困を報じるさいにどのようなジレンマが生じるのかを考える
第 8 回	排外主義とメディア	現代的な排外主義の特質を踏まえつつ、それとメディアとの関係について考える
第 9 回	排外主義をめぐるメディアのジレンマ	メディアが排外主義を報じるさいにどのようなジレンマが生じるのかを考える
第 10 回	原発問題とメディア	日本の原発導入過程においてメディアが果たした役割を考える
第 11 回	「原発安全神話」とメディア	「原発安全神話」とは何か、メディアがそれといかなる関係にあるのかを考える
第 12 回	大衆社会論の出現とその背景	戦後日本社会における大衆社会論の出現とそこにおけるメディアの位置づけについて考える
第 13 回	管理社会論の出現とその限界	戦後日本社会において管理社会論がどのように登場し、メディアといかなる関係にあったのかを考える
第 14 回	消費社会論とその陥穽	戦後日本社会において消費社会論がいかに高揚し、いかに失墜したのかを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書および講義で紹介した書籍などを読んでおくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

津田正太郎（2016）『メディアは社会を変えるのか メディア社会論入門』世界思想社。

大石裕編（2012）『戦後日本のメディアと市民意識 「大きな物語」の変容』ミネルヴァ書房。

【参考書】

講義中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に実施するテスト（30%）と学期末に提出するレポート（70%）の合計で決定する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の疑問点を解消するべく、Google フォームなどを活用してインタラクティブな授業運営を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

家庭からインターネットに接続できる環境であることが望ましい。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to explain the sociological perspectives for analyzing the relationship between media and social problems.

HUI300ED

認知科学

森 健治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの日常生活は、私たち自身すら意識しない知的な諸活動、すなわち認知機能の働きによって成り立っている。本講義は、人の生活を支える認知機能の仕組みをテーマとする。受講生は、記憶や注意など基礎的な認知の諸特性とその仕組みを学ぶ。さらに、ヒューマンエラー、認知的高齢化などのメカニズムを理解することで、私たちの日常生活と認知機能の関係を深く理解し、また、社会を分析的に捉えることが出来るようになる。

【到達目標】

基礎的な認知の働きとメカニズムについて説明することができる。また、その働きを踏まえ、私たちの日常場面を対象として、人間の諸活動を分析的に理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各回のテーマについて講義形式で学習する。記憶や注意などの基礎的な認知機能の理解から始め、人工物（モノ）の利用など、日常場面での認知の働きについて学習を進める。学習支援システムを用いた質問への回答と、全体へのフィードバックを適宜行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本講義の目的と目標を理解する
2	認知とは何か	私たちの「知」の捉え方を知る
3	記憶の多段階モデル	記憶のメカニズムを理解する
4	注意とは何か	注意の働きを理解する
5	記憶と注意のまとめ	記憶・注意のまとめと展開
6	ヒューマンエラー 1	人の失敗のメカニズムを学ぶ
7	ヒューマンエラー 2	社会生活におけるエラー発生と予防について
8	知識表現	知識がいかに蓄えられているか
9	問題解決	問題の解決過程を知る
10	認知的高齢化 1	加齢による認知機能の変化を学ぶ
11	認知的高齢化 2	認知加齢を理解し高齢社会を捉える
12	使いやすさの認知科学	モノの利用と認知、使いやすさについて学ぶ
13	魅力的なデザインと認知	感情、認知、ユーザ体験を考慮したデザインを学ぶ
14	総まとめ	まとめと復習、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容の理解に努め、分からない箇所については質問をする。講義を欠席した場合は、学習支援システムから配布資料を取得する。講義時間外の学習として、講義の復習及び紹介文献等の確認を推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

講義時に適宜紹介します（各回の配布資料に記載します）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を成績評価対象とします（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

受講生から受け取った質問やコメントを参考に、より分かりやすい講義とするとともに、学習内容により興味をもって頂けるよう努めます。特に、人間の認知機能と私たちの日常生活、社会との関わりをより理解できるように、講義で取りあげる話題や事例を工夫した講義内容にします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や質疑応答のため、学習支援システムを利用できる環境を準備してください。

【Outline and objectives】

The theme of this lecture is the mechanism of the cognitive functions that support human life. Students learn about various characteristics of cognition such as memory, attention, and their mechanisms. Furthermore, by understanding the mechanisms such as human error and cognitive aging, students will be able to analytically comprehend our everyday life and society.

LAW200ED

知的財産権法

白田 秀彰

サブタイトル：情報メディア論B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報社会における財産として重要性を飛躍的に増した知的財産権法について、まず特許・商標・意匠および著作権といった全領域を概観しそれぞれの役割を理解したあと、文科系学生にとってもっとも身近で重要な著作権法について具体的に検討する。

【到達目標】

知的財産権制度全体の構造を理解し、とくに著作権について具体的かつ適切な取扱いができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション資料を用いながら講義する。課題解決型学習にも取り組みたい。

新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、オンデマンドによる対面講義とほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。提出された課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要および受講上の留意点。
2	創作概念	知的財産権の中核概念である「創作・発明」について検討する。
3	模倣概念	「創作・発明」と対になる概念である「模倣」について検討する。
4	権利と契約	知的財産権の保護に関して、法律の基本的な概念について説明する。
5	特許	特許・実用新案制度について解説する。
6	商標	商標制度について解説する。
7	意匠	意匠制度について解説する。
8	著作権・著作物	著作権の対象となる著作物について解説する。
9	著作権・派生著作物	二次的著作物、編集著作物等の派生的な著作物について解説する。
10	著作権・著作者	著作権の主体となる著作者について解説する。また、著作者人格権について解説する。
11	著作権・著作権の制限	著作権が制限される場合について解説する。
12	著作権・隣接権	メディア産業にかかわる隣接権について解説する。
13	著作権・特殊な規定	美術、音楽、レコード、映画、放送といった業界の特殊な事情を反映した規定をまとめて解説する。
14	事例検討	具体的な事例をいくつか取り上げながら、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指定された動画・参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、各セッションごとに適宜課小論文の合算点によって行う。すなわち、各小論文を 10 段階評価し、期末にその素点を合算する。最高得点をとった学生の素点を 100 点と換算し、以下全員の素点を換算する。このとき 60 点未満の学生は単位を落とすことになる。
また、小論文等において剽窃（コピペ）を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【Outline and objectives】

Regarding intellectual property law which has increased its importance as property in the information society, students are given lectures on patent, trademark, design and copyright before considering the copyright law, which is familiar to those who study humanities.

LAW300ED

メディア法

白田 秀彰

サブタイトル：情報・メディア関係法Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報が社会の様々な場面において重要になっている。この情報化は、今後もさらに進んでいくものと予測される。こうしたなか、これまで法律学のテーマとしては直接的に取り扱われなかった「情報」に関する一定の法領域が形成されてきた。こうした「情報法」として括られる領域には、複数の法領域が少しずつ関係しており、範囲が広いものとなっている。また、論者によって対象としている領域に差があるのも事実である。このため本講義では、基本的な視点から「情報」と「法」のかかわりについて解説する。

【到達目標】

「法」が「情報」をどのように取り扱ってきたのかという歴史を理解すること。加えて情報社会の現状を把握し、現在から将来へ向かって「法」がどのように変化するか見通せることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この科目は春学期「情報社会学基礎 C」を履修したのちに履修することが望ましい。

新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面講義とはほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	名誉・信用棄損 1	メディアにおいて頻繁に問題となる名誉・信用棄損の概念について解説する。
2	名誉・信用棄損 2	名誉・信用棄損の実例について日本とアメリカの事例を挙げながら検討する。
3	放送規制 / 通信規制 1	放送事業や通信事業はどのような性質を理由として、法的規制のもとにあるのか。
4	放送規制 / 通信規制 2	放送事業や通信事業はどのような歴史的経緯をたどりながら現在の形態になったのか。
5	放送規制 / 通信規制 3	情報社会においてどのように基礎条件が変化し、規制内容が変化するのだろうか。
6	プライバシー 1	プライバシーとは、その始まりにおいてどのような概念なのか。
7	プライバシー 2	プライバシーとは、現在においてどのような概念なのか。
8	プライバシー 3	情報社会におけるプライバシー概念はどのように変化するのか。
9	個人情報保護 1	個人情報保護とは、その始まりにおいてどのような概念なのか。
10	個人情報保護 2	個人情報保護とは、また現在においてどのような概念なのか。
11	個人情報保護 3	情報社会における個人情報保護にはどのような課題があるのだろうか。
12	猥褻と社会と法 1	生命に必要な生殖がなぜ猥褻概念と結合したのか。なぜ抑制されるのか。
13	猥褻と社会と法 2	猥褻概念の歴史的発展について、イギリス・アメリカと日本での展開を開設する。
14	猥褻と社会と法 3	情報社会において私たちは何を抑圧すべき表現として認識するのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示された動画・参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『情報法テキスト』講義中の配布物や出席票をまとめたもの。入手方法は Google Classroom にて案内する。

【参考書】

Google Classroom のストリームにて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【Outline and objectives】

Information has played an important role in numerous social circumstances. This development of a computer network is estimated to make much progress. In such circumstance, an area of law that deals with information, which has long been ignored, has been formed in some degree. Such area so-called "information law" relates with multiple areas of law, therefore it has a wide spectrum. Therefore it is true that advocates' points of view differ from each others'. For these reasons, this subject focuses on explaining relationship between information and law from basic perspective.

SOC300EC, SOC300ED

公共性と民主主義 I

鈴木 宗徳

サブタイトル：公共性と Communication I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共性の思想史とその現代的意義を学ぶ

【到達目標】

歴史学・政治学・社会学における「公共性」をめぐる諸思想を理解することによって、参加民主主義のあるべき姿について考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

公共性（または公共圏, public sphere, Öffentlichkeit）は多様な意味をもつ言葉であるが、この講義で扱うのは「市民による開かれた政治的討議の空間」という意味のそれである。ドイツの政治哲学者ユルゲン・ハーバーマスは『公共性の構造転換』（1962）において、18 世紀のヨーロッパで議会制民主主義や法治国家といった制度が生まれた背景には、「市民社会」という理念に加え、市民たちが「公共性」という討議の空間（コーヒーハウスや各種メディア）を生み出したという事実があったことを指摘する。

民主主義を実質的なものとするため、つまりそれが利益集団政治・ポピュリズム・大衆の無関心…といった事態に陥らないようにするためには、市民がつねに「公共性」を活性化させなければならない。これは、様々な社会運動や「熟議民主主義」といった現象にかかわる現代政治の課題である。

この講義では、18 世紀に生まれた「市民社会」や「公共性」の理念と現実について説明し、それらを現代においてを再興する上で必要とされる要件について検討する。

授業終了時に提出してもらうリアクションペーパーは、翌週の授業で一部をとり上げてコメントを加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ハーバーマスと公共性
2	フランクフルト学派第一世代の思想	アドルノと啓蒙的理性批判
3	18 世紀市民社会とは何だったのか	自由主義と議会制民主主義
4	市民的（ブルジョア的）公共圏の成立	『公共性の…』前半の解説
5	18～19 世紀市民社会の実像	コーヒーハウスとドイツ教養市民層
6	19 世紀末以降の公共圏の衰退	『公共性の…』後半の解説
7	ハーバーマスと福祉国家	グローバル化時代における再分配家
8	フレイザーによるハーバーマス批判	対抗的公共圏と社会運動の位置づけ
9	新しい社会運動とその後の社会運動論	アソシエーションと中間集団をめぐって
10	ハーバーマスのコミュニケーションの行為論	近代化による生活世界の合理化と植民地化

11	アーレントの公共性論と複数性	全体主義と画一性への批判
12	闘技民主主義と熟議	ムフの思想とミニ・パブリックス
13	地域における社会運動の実践	ゲスト講師による講演
14	まとめ	全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメおよび参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントで作成したレジュメを学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

この授業は、ハーバーマス『公共性の構造転換』（未来社）を出発点とし、この本をめぐって展開した様々な公共性論について説明する。難解な本であるが、社会科学の最重要文献でもあるため、ぜひ挑戦してほしい。平易な入門書としては、齋藤純一『公共性』（岩波書店）を一読しておいてほしい。その他、授業中にも参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（70 %）と期末レポート（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

春学期は動画配信によるオンデマンド授業を予定している。Hoppii によるメール連絡に気を付けておくこと。質問は担当教員にメールで連絡すること（munenori@hosei.ac.jp）。

【Outline and objectives】

This course explores the history and contemporary significance of public sphere.

SOC300EC, SOC300ED

公共性と民主主義Ⅱ

鈴木 宗徳

サブタイトル：公共性と CommunicationⅡ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共性と社会問題の現実を学ぶ

【到達目標】

公共性や社会運動をめぐる実践的諸問題を理解し、理想的な市民社会を構想するための力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP10・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「公共性」とは、現実中存在する空間や運動を表す概念であるとともに、存在すべき理想を表す規範的な理念でもある。しかし実際には、理想的な「公共性」の実現を妨げる問題が数多く存在する。春学期（Ⅰ）の授業が主として理想を扱うのに対し、秋学期（Ⅱ）では、公共性の実現がいかに困難であるか、その現実について検討する。

とりわけ外国人／移民の共生というテーマを通して、包括的な公共圏の形成を阻む“壁”がどこにあるのかについて考察する。さらに近年における国内外の政治運動をとり上げ、社会運動を組織する上での課題がどこにあるのかを明らかにする。

授業終了時に提出してもらうリアクションペーパーは、翌週の授業で一部をとり上げてコメントを加える。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期のまとめ・秋学期の課題	公共性論の理論的困難
2	科学技術と公共性	専門家支配を超える
3	フランクフルト学派の科学技術批判	マルクーゼとハーバーマス
4	フランスにおける移民労働者の排除	ドキュメンタリー鑑賞
5	フランスの「郊外」問題とスカーフ論争	排外主義の原因を探る
6	日系人労働者の生活と教育	定住外国人との共生
7	テイラーの思想と多文化主義政策の是非	マイノリティ文化の保護をめぐって
8	本質主義／アイデンティティという“壁”	ポストコロニアリズムを手がかりに
9	朝鮮学校と差別扇動	排外主義に抗する
10	インターネットと公共性	集団分極化とフェイクニュース
11	不服従と直接行動	“非暴力”的直接行動を理性化する
12	「沈黙」とジェンダー	トーン・ポリシングとマンスプレイング
13	事実の隠蔽と改竄	議会制民主主義の劣化
14	まとめ	全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメを事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントで作成したレジュメを学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

この授業は、ハーバーマス『公共性の構造転換』（未来社）を出発点とし、この本をめぐって展開した様々な公共性論について説明する。難解な本であるが、社会科学の最重要文献でもあるため、ぜひ挑戦してほしい。平易な入門書としては、齋藤純一『公共性』（岩波書店）を一読しておいてほしい。

【成績評価の方法と基準】

【秋学期もオンライン授業になる場合】春学期と同様、オンデマンド授業に対するリアクションペーパー（70%）と期末レポート（30%）。

【秋学期は対面授業を行う場合】

リアクションペーパー（20%）と期末試験（80%）。適宜提出を求めるリアクションペーパーに必ず意見を書くこと（「代筆」には厳しく対処する）。

期末試験の問題は事前に予告しないので、必ず授業に出席し、試験前には授業で扱った内容全体を復習すること。代替レポートによる救済措置は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

質問は担当教員にメールで連絡すること（munenori@hosei.ac.jp）。

【Outline and objectives】

This course presents a study of theories on public sphere and the reality of social issues.

SOC300ED

特講（コミュニケーション・デザイン論）

石寺 修三、青木 貞茂

サブタイトル：Communication Design

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は広告会社である（株）博報堂との協力関係のもと、広告の現場で活躍する一線級の講師陣による授業で構成します。ただし、単なる事例紹介中心の広告表現論ではなく、広告制作における思考プロセスを辿りながら、コミュニケーションという行為の本質を掘り下げる「刺激と発見の場」を目指します。

【到達目標】

講義を通じて皆さんに学んでほしいことは、以下の通りです。

- ①コミュニケーションという行為において重要な“考えること”と“創りあげること”の難しさと楽しさに気づく。
- ②コミュニケーションのプロが持つ視点やスキルを体験することにより、個々が自律的に創発しあう関係構築に関与できるようになる。
- ③自分の考えを効果的に伝えることに関する基本的な知識とスキルを獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【講義の構成】

本講座はあらかじめ設定した授業全体を貫くテーマのもと、以下の5つのステップに分け、いずれも簡単な演習を挟みながら進めます。

I. 基調講義 II. 発見するチカラ III. 考え抜くチカラ IV. 創りあげるチカラ V. 伝えるチカラ

【講義の形態】

コロナウイルス禍の影響のため昨年と同様、全講義を zoom によるオンライン形式で行います。ただし、チャット／アンケート／ブレイクアウトルームなどを活用し、リアル講義時のエッセンスを維持することを目指します。

【課題に対するフィードバック】

毎回入力してもらう「学びと気づき」を随時、講義内で引用するほか、個人／グループでの発表に対しても、その場で随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	基調講義	講座の概要を共有すると共に、ブランドに関する基本的な知識を学びます。
2 回	発見するチカラ (1)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。（生活者発想の視点から）
3 回	発見するチカラ (2)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。（観察調査の視点から）
4 回	発見するチカラ (3)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。（統計データの視点から）
5 回	考え抜くチカラ (1)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。（論理的とは何か）
6 回	考え抜くチカラ (2)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。（論理を組み立てる構造）
7 回	考え抜くチカラ (3)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。（ロジックチャートの作り方）
8 回	創りあげるチカラ (1)	他者と創発しあい新しいアイデアを生むための手法を学びます。（ワークショップのやり方）
9 回	創りあげるチカラ (2)	他者と創発しあい新しいアイデアを生むための手法を学びます。（ワークショップによるアイデア創出）
10 回	創りあげるチカラ (3)	他者と創発しあい新しいアイデアを生むための手法を学びます。（ワークショップによる課題テーマ解決）
11 回	伝えるチカラ (1)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。（コンセプトを創造する）
12 回	伝えるチカラ (2)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。（キャッチコピーの書き方）

13 回	伝えるチカラ (3)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。(広告表現の作り方)
14 回	試験 (論文課題)	講座を通して学んだことなどについての論考と最終的な成果物 (ポスター) の提出。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

最終回のプレゼンテーションに使用するポスター制作以外に、いくつかの講義で簡単な事前課題を付与します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
本講義は授業で学んだことを日常生活で実践することで大きな気づきが得られる構成となっています。学生諸君がここでの学びを、普段のゼミ活動や論文・レポート作成などで積極的に実践することを期待します。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しませんが、講義に関連する参考書を推奨します。(参考書欄を参照のこと)

【参考書】

博報堂生活総合研究所『生活者発想塾』(日本経済新聞社,2010)
博報堂生活総合研究所『生活者の平成 30 年史』(日本経済新聞社,2019)
博報堂生活総合研究所『デジノグラフィ インサイト発見のためのビッグデータ分析』(宣伝会議,2021)

【成績評価の方法と基準】

【成績評価について】

出席状況に基づく平常点 (80 %) と論文課題 (20 %) で評価を行います。

【出席確認について】

出席確認は、① zoom 上での出席確認 と ②講義の翌日 24 時までに学習支援システム内の「課題」欄に入力する“学びと気づき” の2つが揃った者を「出席」と認めます。なお、zoom への講義開始後 30 分以降の入室と、講義終了 30 分以前の退室は「出席」とみなさないで注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義の翌日 24 時までに授業に関する“学びと気づき”を、学習支援システムの「課題」欄に入力することをルールとします。なお、記入された内容は、次回以降の授業に随時反映させていきます。
加えて、学習支援システム内の「授業内掲示板」も活用して、インタラクティブなやりとりを進めたいと思います。学生諸君の積極的な書き込みを期待します。

【学生が準備すべき機器他】

①配布したレジュメに書き込みながら受講する講義が中心となります。あらかじめ紙で出力したレジュメと筆記用具を用意して受講してください。レジュメのファイルと受講用 URL は、講義前日までに学習支援システムの「お知らせ」上で周知・配布します。
②講義はパワーポイントを画面共有して進めるので、受講はスマートフォンよりも、文字を視認しやすい PC 上での受講を推奨します。

【その他の重要事項】

【受講者への要望】

本講義は基本的に各回ないし各ステップで完結しますが、同時に 1 つのテーマのもとで連続性を持った構成となっています。
その効果は全カリキュラムを受講することで最大化するので、“全ての回”に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望します。

【Outline and objectives】

Under collaboration with Hakuhodo Inc., a major advertising company, this special lecture will be directed by forefront business people from the advertisement industry. However, the lecture is not just focused on studying advertisement expressions through case studies. Our aim is to provide “a platform of stimulation and discovery” where the students will explore the essence that lies in the act of communication by following the thinking process in advertisement production.

SOC200EC, SOC200ED

メディア文化論

稲増 龍夫

サブタイトル：メディア文化論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ポストモダン社会の深化と、ネットメディアの発展が相関している構図を多元的に析出し、今を映したビビッドな現代社会論を目指します。

【到達目標】

日常的に接しているメディア文化現象を素材に、ポストモダン社会論とネットメディア論がいかにシンクロしているかを理解し、テクノロジーの文脈で語られてきたネットメディアの社会学的背景を概観します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本は映像資料を駆使した講義形式ですが、全員参加の「白熱教室」＝ソクラテス的対話形式を導入します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概略と進め方のオリエンテーション
2	ポストモダンとは何か	すみわけ社会と分断社会の相克
3	高度消費社会の実相	現代広告における「差異化」の文法
4	アイデンティティの変容	「自分探し」の現代的構図
5	第1回白熱教室	ミニレポートと討論
6	価値の相対化と「正義」の解体	アメコミヒーローの変遷
7	アイドル工学	アイドル文化の日本的特性
8	メディアとしてのテレビゲームとARの位相	双方向のベクトルの進化とリアリティの変容
9	第2回白熱教室	ミニレポートと討論
10	インターネットの社会的変革力	インターネットの歴史とそのポストモダン性
11	グーグル化する社会におけるプライバシー問題	個人情報を私企業に提供して得られる便益とその危険性
12	ネット時代の著作権と二次創作の時代	モダンの時代に確立した著作権の変容を解説
13	第3回白熱教室	動画投稿サイトによって生まれた新たなメディア制作者としての YouTuber に注目する
14	白熱教室 (補講)、	総括とミニレポート

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

今という時代のメディア文化の変容に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

3 + 1 回の白熱教室で評価をおこない (100 %)、定期試験はおこないません。毎回の出席は取りませんが、白熱教室に参加するには出席が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

ネットに関する最新の動向をフォローしている受講者から「話題が古い」という指摘がありましたが、情報番組ではないので、最新情報ではなく、理論的文脈に沿った現象を取りあげています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません

【Outline and objectives】

Study of Contemporary Media Culture

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

広告・消費文化論

青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において広告は、生活者のブランド選択やライフスタイルなどに様々な影響を与えている。またメディアを通じて発信される広義の広告情報は、コンテンツとして消費の対象となっている。この状況をふまえ、広告を幅広く消費文化との関連で捉えてその機能を論じ、高度大衆消費社会で広告が果たす役割を記号論等を用いて明らかにする。私たちの価値観や行動様式がいかに広告環境に組み込まれているかを認識し、自覚的・自律的なメディア情報把握、処理を実践する基礎能力を身につける。

【到達目標】

広告表現、消費文化表象の特徴や構造を学ぶことを通して、コンテンツ・広告分析に必要な知識を獲得し、広告の重層的な意味内容を把握できるようになることを目指す。また、消費文化として広告を捉えることで、広い意味での文化についての教養的な知識を習得することも意図する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10・DP11・DP13に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

広告を中心としながら、コンテンツ、デザイン、商品など関連消費文化の表象も取り上げ、領域横断的に記号表現としての構造的な同一性や変換構造、意味内容などを論じる。広告と消費の相互関係を、具体的な事例を通して説明する。毎回課題を学習システムに提出、フィードバックを行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと必要な予備知識などについて
第2回	現代社会における広告消費・文化	広告・消費文化は、現代社会の中でどのような役割を果たしているのか
第3回	広告の力とは何か	広告は、現代社会の中でどのような力を持っているのか
第4回	広告消費・文化の理論	米国の大量生産・大量消費を支えた広告とアメリカン・ウェイ・オブ・ライフについて
第5回	<広告知>の発展	広告表現開発における<広告知>の発展とはどのようなものか
第6回	ブランドと広告 (1)	ブランディングに効果的な広告とは
第7回	ブランドと広告 (2)	ブランディングに効果的な広告とは
第8回	日本の消費文化と広告の起源	江戸期における消費文化とメディア、広告の発達
第9回	明治から昭和初期の広告と消費文化	日本の近代化に伴う広告と消費文化の転換
第10回	日本におけるアメリカ型広告の浸透	アメリカン・ウェイ・オブ・ライフの影響
第11回	高度成長期・バブル期の広告消費・文化	選択基準としての<私>の絶対化と日本的な広告表現の到達点

第12回	現代の日本と世界の 広告	現代の広告表現の動向と課題
第13回	文化の力と広告	ソフトパワーの担い手としての 広告、およびその文化との関係
第14回	試験・まとめ	論述試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を頭の片隅に、日常生活において広告・映画・ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT 出版、2008 年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK 出版新書、2014 年）他
適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70 %）と試験（30 %）で行う。授業内で提示された課題を学習支援システムに提出。その提出回数と内容を評価する。また、最終回の課題は論述試験の代替として特別な課題を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。
教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。
その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline and objectives】

Advertisements in modern society influence consumers in many ways including their brand selection and lifestyle. In addition, broad-term advertisement information delivered by the media is a content subject to consumption. Taking this situation into account, we will look at advertising in the broadest sense of the word in relation to consumption culture, discuss its function and clarify the role played by advertisement in our advanced mass consumer society by using semiotics. Students will realize how our values and behavior styles are incorporated in the advertising environment. The class is designed to provide the basic skills to sort out and process subjective and self-directive media information.

SOC200ED

広告・P R 論

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広告・PR を中心としたメディアが提供するコンテンツを消費文化の重要な表現として捉えて、その現代的な機能・役割を明らかにするとともに、そのことを念頭に置いた広告・PR プランニングの実践に関わる基礎的な知識を修得することを目的とする。また、広告・PR 産業についての理解を深めることも意図する。

【到達目標】

広告・PR 業界について産業論の視点からその特徴と構造を把握し、その上で基礎的な広告・PR の基本的なプランニングに有用な基礎知識を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コンテンツ、商品、デザイン、ファッションなどにも通じる、消費文化を形成するものとしての広告・PR の意味や、その企画立案の方法や要件などについて論じる。広告・PR とメディア産業の相互関係を念頭に、具体的な映像・画像やキャンペーンの事例をもとに説明を行なう。毎回課題を学習支援システムに提出、フィードバックを行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	広告ビジネスの概要	広告・PR とは何か、ビジネスの視点からの講義と全体のオリエンテーション
第2回	広告会社の組織（1）	広告会社の組織の全体像とその内容
第3回	広告会社の組織（2）	広告会社の組織における専門職とその内容
第4回	生活者インサイトの発見（1）	インサイト発見のための調査方法と効果的なインサイト事例についてディベート
第5回	生活者インサイトの発見（2）	インサイト発見のための調査方法とプランニングへの応用
第6回	広告計画の流れとアカウント・プランニング	広告のプランニング手法としてのアカウント・プランニング概説
第7回	生活者インサイト（1）	生活者インサイトとは何か、その理論的解説
第8回	生活者インサイト（2）	生活者インサイトの調査方法と古典的事例のケース詳解
第9回	生活者インサイト（3）	生活者インサイトを活用した広告・PR の事例分析
第10回	ブランド戦略と言語ゲーム（1）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論
第11回	ブランド戦略と言語ゲーム（2）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論のアメリカの事例詳解
第12回	クロス・メディア（1）	日本のクロス・メディアの優れた事例について

第13回	クロス・メディア (2)	海外のクロス・メディアの優れた事例について
第14回	広告の未来	広告・PRの未来と試験課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を頭の片隅に置き、日常生活において広告、映画、ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT出版、2008年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK出版、2014年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70％）と試験（30％）で行う。授業内で提示された課題を学習支援システムに提出。その提出回数と内容を評価する。また、最終回の課題は論述試験の代替として特別な課題を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline and objectives】

Advertisement and PR contents provided by the media are considered as an important expression of consumption culture. The class aims to clarify its contemporary functions and roles, and also provides basic knowledge related with the practice of PR planning. It is also intended to deepen the understanding of the advertising / PR industry.

PRI200ED

情報科学とコミュニケーション

小川 有希子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーションを情報科学的な観点から総合的に把握し、分析することを目指す。主として情報理論、システム理論、認知科学、人工知能などの方法論を取り上げる。

【到達目標】

コミュニケーションを情報科学的な観点から分析できるようになる。また、情報理論やコンピュータ、デジタル技術の可能性と限界を理解したうえで、情報メディアが関わるコミュニケーションをデザインすることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義の第一部では、コンピュータの基本的な構造と仕組み、インターネットの基盤となっている通信のモデルや、コミュニケーションに対してより深く、また幅広くアプローチするモデルなどについて学ぶ。さらに中間論文課題提出後の本講義の第二部では、コンピュータ・メディア・ネットワークなどを基盤とするコンテンツやコミュニケーションの現場について、人工知能やコンピュータ、関連作品の最新情報を盛り込みつつ、第一部の内容や中間論文課題をふまえた講義と議論を行う。最終的には以上の内容をふまえた論文の提出が必要になる。授業中に、前回までの授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ったりもする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入	授業の概要説明、情報科学へのイントロダクション
第2回	アナログとデジタル	アナログ情報とデジタル情報の違いについて議論する
第3回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基本的な構造と仕組みについて学ぶ
第4回	通信ネットワークとセキュリティ	インターネットの基盤となっている通信のモデルについて議論する
第5回	情報とコミュニケーション	コンピュータで情報がどのように扱われているかを議論する
第6回	情報理論とコミュニケーション	コンピュータで情報がどのように伝達されているかを議論する
第7回	システム理論とコミュニケーション	現状のコンピュータの理論では実現不可能な事項は何かを議論する
第8回	中間論文課題へ向けたまとめ	最新の情報メディアに関する議論と、これまでの授業のまとめ
第9回	人工知能とコミュニケーション	コンピュータのプログラミングの限界について議論する
第10回	人間的・社会的コミュニケーション	日常のコミュニケーションの分析を、情報科学的な観点から行なう
第11回	音楽とコミュニケーション	音楽とコミュニケーションの関係について議論する
第12回	映像・広告とコミュニケーション	映像・広告とコミュニケーションの関係について議論する
第13回	芸術とコミュニケーション	芸術とコミュニケーションの関係について議論する
第14回	まとめと授業内論文	半期の授業のまとめと、それに基づいた論文執筆・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業を復習し、それをふまえて中間論文課題を提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題と中間論文課題（50％）・最終授業内論文課題（50％）

【学生の意見等からの気づき】

情報科学の理系的側面および哲学的側面を扱う回数も数回あるので、そのことは意識しておいてください。数学を扱う回数も1～2回あります。社会学ではなく、情報科学やプログラミングの観点を重視しますので、難解に感じられる回数もあるかもしれませんが、デジタル機器やインターネットの基盤になっている内容ですので、深く探究してください。また、アナログ的な観点についても重視していく予定です。

【Outline and objectives】

This course mainly deals with the information theory, system theory, cognitive science and artificial intelligence.

HUI200ED

認知映像論

小川 有希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、映像表現の在り方、および「映像作品を見る」という人間の行為について改めて問い直し、再考する授業である。映像作品の中でも、主に映像を取り上げる。今日、映像表現が私たちの生活に深く入り込んでいることを、様々な作品の鑑賞を通して学ぶ。また、映像を見る際の人間の認知（いわゆる心）について基礎的な知識を習得しながら、映像作品ひいては芸術全般と人間の関係性を考察していく。これらの講義に2回の映像作品鑑賞実習を交え、映像を見ることによって生じる人間の心の揺れ動きを、生で体感する。

【到達目標】

映像・映画の歴史と変遷を踏まえて、今日の映像表現（特に映画）がどのような状況にあるのかを統合的に理解できるようになることを1つ目の目標とする。それに基づき、人間の映像認知の特性や、人間と映像の関係性について、自分なりに分析し考察できるようになることを2つ目の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では多くの映像に実際に接し、認知的に生じる効果について、皆さんが提出するレポートやリアクションペーパーを基に議論していく。なお、本講義を教室で実施する場合は授業開始30分後以降の教室への入室を禁じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入	授業の概要説明、映像を見ることへのイントロダクション
第2回	メディアの歴史、映像の歴史	メディアの変遷と、映像・映画の誕生について
第3回	映像表現の理論 (1)	映像・映画の仕組みと、初期の映画について
第4回	映像表現の理論 (2)	ストーリーを認知するプロセスについて
第5回	第1回レポート課題	第1回レポート課題映像の上映
第6回	第1回レポート課題映像の解説	関連する作家や作品にも触れながら、課題映像について考察する
第7回	人間の心の理論 (1)	感情移入と共感について
第8回	人間の心の理論 (2)	感情移入と異化効果について
第9回	第2回レポート課題	第2回レポート課題映像の上映
第10回	第2回レポート課題映像の解説	関連する作家や作品にも触れながら、課題映像について考察する
第11回	芸術の理論	主として近代以降の芸術の変遷について
第12回	映像表現とリアリズム (1)	映像作品の細部を見る観点について
第13回	映像表現とリアリズム (2)	今日の映像表現の可能性について
第14回	まとめと授業内論文	半期の授業のまとめと、それに基づいた論文執筆・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業を復習し、次週までに自分なりに理解を深めておくこと。授業後は関連する映像を自主的に見てみる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

2回のレポート提出60%（1回あたり30%）、最終授業内論文40%をおよその配分として、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義を教室で実施する場合、映像上映中は一切の電子機器の使用を禁じる。時間を見るのにも使わないこと。映像鑑賞環境の構築にご協力お願いいたします。

【その他の重要事項】

レポート課題映像を上映する日は早い時間に教室を閉め切るので、遅刻しないこと。

【Outline and objectives】

This course deals with the techniques of film and images, rhetoric, narrative, and cognition.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

ジャーナリズムの歴史と思想 I

別府 三奈子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、問題解決のための社会装置であるジャーナリズムの形成過程と、その必然的背景となる言論の自由の考え方を中心に、ジャーナリズムの生い立ちと今日の存在意義を学ぶ。

【到達目標】

言論の自由思想の由来と、今日のグローバル・スタンダードとなっているジャーナリズムの基本理念となっているプロフェッション論の考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP5・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

時間割に定められた時間を基本に教材を配布し、1 週間ごとに理解を深めていくオンデマンド型授業を行う。授業最終回までに中間レポートなどに対する講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ニュースをめぐる考察
第 2 回	ジャーナリズムの主体	記者の条件
第 3 回	マスメディアと技術	マスメディア・コミュニケーション発達史
第 4 回	ジャーナリストの役割	誰のために何をする人か
第 5 回	言論の自由思想の形成	封建社会の自由と不自由
第 6 回	言論の自由の社会的機能	市民社会の自由と不自由
第 7 回	ジャーナリズム前史	マスメディア・言論の自由思想・言論統制
第 8 回	言論の自由の法文化	ポール・リビアの鐘の音
第 9 回	社会改良主義 1	ルイス・ハインの写真
第 10 回	社会改良主義 2	ビュリツァーの生涯
第 11 回	弱点 1：会社益の克服	経営者とジャーナリズム
第 12 回	弱点 2：国益の克服へ	国家とジャーナリズム
第 13 回	プロフェッション論	パブリックサービスの考察
第 14 回	制度化された理念	中間レポートほかのリブライと授業全体の補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの事前予習と配布資料の復習などで、毎週 4 時間以上の学習を要する。

【テキスト（教科書）】

『「表現の自由」入門』ナイジェル・ウォーバートン著、岩波書店、2015。
このほか、ハンドライティングの配布資料を、授業内にて扱う事例に即して配布する予定。

【参考書】

『レクチャー 現代ジャーナリズム』早稲田大学ジャーナリズム教育 研究所編、早稲田大学出版部、2013 年。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 40%、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

情報、メディア、マス・メディア、ジャーナリズムといった用語の、一般語と専門用語の相違に対する自覚を促す。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具

【その他の重要事項】

春学期はジャーナリズムの歴史と思想の下部構造である言論の自由を主題とする。秋学期は、上部構造に表出する 20 世紀の事例の数々を扱う。ジャーナリズムの理解には 2 科目履修が望ましい。

【Outline and objectives】

Students learn the concept of the freedom of the press, a relationship between journalism and the free press, and the meaning of the first amendment in America.

SOC200EC, SOC200ED

ジャーナリズムの歴史と思想Ⅱ

別府 三奈子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア学科のモジュール科目（技法）の科目である。ジャーナリズムの専門基礎知識があることを前提に、言論の自由との攻防の最前線におけるジャーナリズム活動の実践を、理論を踏まえて観察していく。観察事例は、国際調査報道の実例を多数扱う。

【到達目標】

ジャーナリズムを規定しているプロフェッション論と、言論の自由のせめぎあいの前線におけるジャーナリズムの社会的機能を深く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業を予定している（感染状況が厳しい場合は、時間割に定められた時間を基本として1週間ごとに教材を配布するオンデマンド型授業の可能性もある）。授業で扱った事例に関する配布資料をもとに、授業外での自習による観察レポートの提出とリプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ジャーナリズムの定義
第2回	社会的機能不全と調査報道の役割	プロフェッション論の視座
第3回	言論の自由と民主主義	フロイドケース（黒人差別撤廃運動）
第4回	調査報道記者の立ち位置	米国の調査報道記者編集者会（IRE）
第5回	社を超えた記者の連携	アリゾナケース（怒りを共有する）
第6回	国を超えた記者の連携	パナマ文書（国際調査報道の発動）
第7回	調査報道の起源	マックレーキングの思想（テキスト2章）
第8回	言論の自由をめぐる攻防	香港ケース（before/after）
第9回	内部告発と国益	スノーデンケース（国益か人権か）
第10回	内部告発者保護制度	マニングケース（国益か公益か）
第11回	公論を耕す	WWYD ケース（社会問題のドッキリ版からの照射）
第12回	調査報道の新たな表現	ユーチューブ局 The I File ケース（メキシコ国境難民調査報道）
第13回	ノイマンの理論の検討	「沈黙の螺旋」理論と調査報道の意義
第14回	市民社会とジャーナリズム	言論の自由とその障壁。中間レポートのリプライと振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材の予習・復習と、授業で扱う事例の追加リサーチ、授業課題の作成などに毎週5時間くらいを要する。

【テキスト（教科書）】

『調査報道ジャーナリズムの挑戦—市民社会と国際支援戦略』花田達郎、別府三奈子、大塚一美、デビッド・カプラン著、旬報社、2017年

【参考書】

『レクチャー 現代ジャーナリズム』早稲田大学ジャーナリズム教育研究所編、早稲田大学出版部、2013年。

【成績評価の方法と基準】

理解度を測る中間レポート 40 %、期末筆記試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

政治体制のことなる国ごと、あるいは、同じ国でも時代によって異なるジャーナリズム観について、その違いが生まれる理由への自覚的認識をより強く促す。

【学生が準備すべき機器他】

指定テキストの入手、図書館の新聞データベースへの学外からのアクセス（VPN接続の準備）

【その他の重要事項】

日々のニュース観察

【担当教員の専門分野等】

<主要単著>『ジャーナリズムの起源』世界思想社、2006年。『アジアでどんな戦争があったのか 戦跡を辿る旅』めこん、2006年。

【Outline and objectives】

We observe the concepts of profession theory and freedom of speech, which govern journalism, through the cases of in east and west.

MAN200EB, MAN200ED

消費者行動論

諸上 茂光

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のマーケティング戦略において、消費者がどのように商品・サービス、或はブランドなどの情報に接し、それらの情報を利用して最終的な購買行動を起こすのかを把握することは効果的な戦略の構築のためにも重要なことである。本講義では実際のマーケティング戦略の実例に触れながら消費者の認知や情報収集・態度形成・意思決定過程といった消費者行動のメカニズム、さらに、それらの処理に影響を与える外部環境要因について、社会心理学・認知心理学・経営学など学際的な視点に基づいて体系的に学習する。

【到達目標】

消費者がある製品・サービスに出会ってから実際の購買行動に至るまでの消費者の認知的・心理的特性について理解した上で、常に変化する市場や消費者動向に対応した効果的な消費者コミュニケーション戦略及びマーケティング戦略のあり方について考察・提案できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。授業内においてテーマに応じて随時ディスカッションを行ったり、リアクションペーパーの提出を求める。提出されたりアクションペーパーからいくつか良いものを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業概要
2.	消費者行動とマーケティング	マーケティング戦略における消費者心理・消費者行動の位置付け
3.	消費者の購買意思決定過程	情報入力から始まる各種意思決定モデルの紹介
4.	消費者の欲求と動機づけ	購買の動機について理解し、その調査方法について概観する
5.	消費者の知覚特性	心理学的な観点も取り入れ、消費者の知覚特性を理解
6.	消費者の情報探索と評価	消費者による商品・サービスに関する情報の探索と評価について
7.	消費者の記憶特性	広告等を通して与えられるブランド・商品情報に対する注意と記憶について
8.	消費者の態度形成と変容	消費者の評価と態度形成の過程およびその変容の仕組み
9.	消費者の関与	関与の概念の理解と、消費行動への影響について
10.	消費者行動の状況要因	状況依存的に変化する消費者の意思決定について事例を基に理解
11.	消費者の個人特性	消費者の統計学的・心理学的なセグメント分けと心理過程への影響
12.	マーケティング調査	消費者調査および市場調査の実際について
13.	対人関係と消費者行動	対人関係が消費者の情報探索行動や意思決定にもたらす影響について
14.	消費者の購買後行動	購買後行動と、ブランドロイヤリティの形成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的な事例に触れてもらうため、随時、事前課題を授業の最後に示す。この事前課題の一部が小レポートとして評価に加算される。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

『新・消費者理解のための心理学』（杉本徹雄編著、福村出版）

【成績評価の方法と基準】

小レポート類 (30%)

期末試験 (70 %)

による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討議を多く（なるべく授業の冒頭で）取り入れることとした（対面授業時）。

【Outline and objectives】

Deal with the basic concepts and principles of consumer psychology.

SES200EC, SES200ED

都市空間とデザイン I

齋藤 伊久太郎

サブタイトル：都市景観論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

"urban landscapes" as popular culture

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代とこれからの、ふつうの街の都市景観を理解し、消費者・有権者として参加できるようにすること。

【到達目標】

前半となる本講義では、そのうち、現代の都市空間の前提となる建築デザインを言語化するための学習を中心として、ヨーロッパ古典建築から近代建築までを概観し、さらに、戦後日本の具体的な事例を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

スライドを用いて授業を進め、リアクションペーパーの提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	通年の流れと概念の説明	都市景観を読み解くとは？
2	古典建築 1	ギリシア、ローマの建築
3	古典建築 2	ロマネスク～バロック
4	古典建築 3	19 世紀建築と西洋建築史まとめ
5	近代建築 1	アメリカ／西欧の近代建築運動
6	近代建築 2	世界への波及と日本の近代建築
7	都市空間への展開 1	建築物から都市空間へ
8	都市空間への展開 2	都市空間の変遷
9	現代日本の都市空間	現代日本の都市空間
10	都市景観と保全 1	アメリカの都市美運動
11	都市景観と保全 2	イギリスの都市計画
12	都市景観と保全 3	まちづくり活動と景観
13	都市景観と保全 4	都市計画と景観まちづくり
14	全体のまとめ	全体のまとめと期末レポートの出題 or テスト対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 建築デザインについて予習もしくは復習
通学途中や身の回りの建物を意識して（少し分析的に）「見る」ようにすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
2. 建築デザインについて復習
授業内で興味のある建築があるとき、授業終了後※重要！ ※ゆっくりとウェブなどで画像を確認すること。また google map / street view などとあわせて確認するのも良い。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

西村幸夫：都市美、学芸出版社
大川三雄、川向正人、初田亨、吉田鋼市：近代建築の系譜、彰国社
日本建築学会（編）：景観まちづくり（まちづくり教科書〈第 8 巻〉、丸善出版

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー： 50 %

期末考査（レポートまたはテスト）： 50%

【学生の意見等からの気づき】

都市景観に対する新たな気づきがあったというメッセージをよくもらう。更により多くの気づきができるよう、授業内容を工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

レポート提出のため PC もしくはタイプ入力できるタブレットの準備をお願いします（実習室のものでは厳しいので）

【その他の重要事項】

民間の研究所あるいは建設系コンサルタント勤務経験者である者が、都市景観について、単なる現象としてはなく、その形成要因についても説明する。

SES200ED

都市空間とデザインⅡ

齋藤 伊久太郎

サブタイトル：景観文化論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の都市景観とは、映画に出てくるような憧れの「見知らぬ街」でも、ノスタルジーあふれる「美しかった過去」でもなく、多くの本学 OGB がローンを組み家を建て、投票して実現する、はくらくにとって近未来に可能な「美しい街」参加するための目標である。

【到達目標】

日常的に目にする都市景観の裏側にある思想や文化、仕組みなどを学習する。表層を読むとということはどういうことなのか、それを変容させる可能性はどこにあるのか、授業を通して考える力を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

スライドを用いて授業を進め、リアクションペーパーの提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代日本の都市空間／建築デザイン	前期のまとめや、講義の目標、履修上の注意など
2	都市空間の概説	様々な都市空間をみていく
3	近代の都市計画史 1	都市計画の誕生と変容
4	近代の都市計画史 2	都市計画の成熟
5	都市空間における広場	広場の伝統、広場の再生
6	都市空間における街路 1	街路の文化、人間の場所
7	都市空間における街路 2	歴史的な町並みの保全
8	生活空間のデザイン 1	近隣住区論と住宅団地、そしてリノベーション
9	生活空間のデザイン 2	都市空間とストック活用
10	都市美 1	丸の内仲通り
11	都市美 2	アメニティの考え方
12	場所、空間の把握 1	場所を捉える
13	場所、空間の把握 2	場所を使う
14	全体のまとめ	まとめと期末レポート or テスト解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 建築デザインについて予習もしくは復習
通学途中や身の回りの建物を意識して（少し分析的に）「見る」ようにすること。これは洋服と一緒にでタサイのも素敵なのもある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
2. カルチャル・スタディーズについて復習
授業でてくる概念に興味を持ったとき、一夜漬けにならないタイミングで、図書館に行って関連する参考書に目を通し、必要部分のメモをとっておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

随時紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー： 50%

期末テスト or レポート： 50%

【学生の意見等からの気づき】

授業をとおして、都市景観に対する新たな気付きがあったというメッセージをよくもらう。更により多くの気づきができるよう、授業内容を工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

自己所有のパソコンもしくはキーボード付き端末を用意してください。

【その他の重要事項】

民間の研究所あるいは建設系コンサルタント勤務経験者である者が、都市景観について、単なる現象としてはなく、その形成要因についても説明する。

【Outline and objectives】

"urban landscapes" as popular culture

FRI200EC, FRI200ED

メディアの歴史

小林 直毅

サブタイトル：メディア史Ⅰ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

どのようなメディアが、何を、どのように語り、描いてきたのかを考えながらメディアと人間と技術の歴史を理解し、「記録と記憶」としてのメディアの可能性と課題を考えることを目的とします。

【到達目標】

政治、経済、社会、文化の変容とメディアの変容との結びつきから、出来事の経験にメディアが不可欠であることを理解し、後半では、「戦後史としてのメディア史」をテーマにして、これを実践的に考えることができるようになるのがこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン授業で進める予定です。時間割で指定された授業曜日に毎週、講義動画、スライドの PDF ファイル、配布資料を配信しますので、それらを使って受講を進めてもらいます。

配布資料は受講の事前、事後の学習のためのものです。講義動画を視聴しながら、スライドや配布資料を参照してノートを作成していきます。その後さらに、配布資料や参考文献などを参照して、**学んだことを文章化した「講義ノート」を作成**します。受講者にはこれを毎週重ねてもらいます。

授業期間内で3～5回のリアクションペーパーの提出を求めます。それについての授業内での講評、もしくはリプライペーパーの配信をします。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この講義の概要とねらい
第 2 回	メディアの歴史を読み解く視点	「記録と記憶」の考古学をめざして。
第 3 回	メディアと近代社会	何が、どのように印刷され、どのように読まれたのか。
第 4 回	「眼の隠喩」としての映像メディア	「見えないもの」を見る経験。
第 5 回	戦争とメディア	「動員」と「告発」、「記録」と「記憶」。
第 6 回	メディア表象としての近代	リアクションペーパーへのリプライ（1）
第 7 回	「玉音放送」と「終戦」の記憶	敗戦はどのように語られ、記憶されたのか。
第 8 回	原爆と原子力「平和利用」のメディア表象	「核」の記録と記憶に見る敗者の心性。
第 9 回	ナショナルメディアとしての放送とその技術	ラジオとテレビの連続性。
第 10 回	敗戦の記録と記憶	リアクションペーパーへのリプライ（2）
第 11 回	「テレビを見ること」で何が経験されたのか	高度経済成長とテレビの普及。
第 12 回	テレビが描いた「豊かさ」と「平和」（その1）	人びとは「皇太子ご成婚」に何を見たのか。
第 13 回	テレビが描いた「豊かさ」と「平和」（その2）	人びとは「東京オリンピック」に何を見たのか
第 14 回	3.11 後のメディア	メディア・アーカイブの可能性と課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の前に、配布資料を熟読してください。講義の概要を把握し、分りにくい事項については、「何が、どう分からないか」を考えてメモとして書き出すといった作業が必須です。

講義後に、配布資料や参考文献などを参照しながら講義ノートを整理することも必須です。事項の箇条書きメモではなく、文章として整理するように心がけてください。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

毎回の配布資料で示します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーがすべて提出されていて、いずれの内容も問題がない場合は、それをもって成績全体の **60 %** の評価とします。さらに学期末に小レポートを課しますので、これを単位認定の必須要件とするとともに、その評価を成績全体の **40 %** の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや答案以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配布します。

【Outline and objectives】

Students will be able to understand the history of media as technology and institution.

SOC200ED

メディアコンテンツ論

西田 善行

サブタイトル：コミュニケーション論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の前半は、映像論を軸に映画などのメディア・コンテンツを分析します。後半は、計量言語分析、言説分析について論じます。

【到達目標】

受講者自らが、映像分析および計量言語分析でメディアコンテンツを分析する方法論を理解できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業の前半では映画を中心に映像の技巧と意味について考えていきます。授業の最後に課題にあたる映像を繰り返し見せします。また後半では言説分析や計量言語分析の方法を解説した後に、受講者自らが選んだテキストで、これらの方法論を使って、分析を試みてもらいます。フィードバックとして、毎回の課題やレポート課題について、いくつかの提出課題とレポートを授業時に紹介し、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	映像における意味（授業ガイダンス）	授業全体で行う内容の説明とテキスト序章解説
2	映像の技巧と意味①	構図について（テキスト 1 章）
3	映像の技巧と意味②	カメラワークについて（テキスト 2 章）
4	映像の技巧と意味③	編集について（テキスト 3 章）
5	映像の技巧と意味④	語りについて（テキスト 5 章）
6	物語分析の応用	コンテンツ分析とストーリーマッピングの仕方
7	映像分析の実際①	歴史的な分析（テキスト 8 章）
8	映像分析の実際②	構造主義的分析（テキスト 9 章）
9	言説分析とは	言説分析の原理を知る
10	言説分析の応用	言説分析を応用した成果を知る
11	計量言語分析とは	計量言語分析の原理を知る
12	計量言語分析の応用①	計量言語分析を応用した成果を知る
13	計量言語分析の応用②	言説分析を応用した成果を知る
14	メディアコンテンツへの視点	メディアコンテンツへの分析方法をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業時に授業内容に即した課題を出します。毎回授業支援システムを通じて課題を提出してください。

【テキスト（教科書）】

マイケル・ライアン、メリッサ・レノス（2014）『Film Analysis-映画分析入門』田畑暁生訳、フィルムアート社、2400 円＋税

【参考書】

末吉美喜（2019）『テキストマイニング入門 Excel と KH Coder でわかるデータ分析』オーム社、2500 円＋税

これは「メディアコンテンツ分析」のテキストです。その他授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間と学期末に 2 回 3000 字程度（最低でも 2000 字）の授業で学習した内容を用いてメディアコンテンツを分析したレポートを提出してもらいます。ただし授業時の課題を 3 回以上提出していることがレポート評価の要件となります。

①レポート（2 回）＝ 80 % ③毎回の課題＝ 20 % による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業プリントは、授業支援システムによって配布します。また毎回の課題の提出も授業支援システムで行います。受講する学生は、2 回目の授業までには必ずこの科目の「自己登録」を完了しておいてください。

【その他の重要事項】

この授業では、授業後にみなさんに授業内容に即した課題を出します。毎回期限までに授業支援システムを通じて課題を提出してください。また、授業の妨げになる私語は厳禁とします。私語は見つけ次第退場とします。授業ではリアクションペーパーは配布しませんので、質問・注文などがあれば、授業終了時に直接受け付けます。

【Outline and objectives】

Students will learn about the image and discourse theory.

FRI200ED

メディアテクノロジーと社会

橋爪 絢子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーの発展と、それに伴う社会における課題について考えます。また、それらの諸課題を解決するための設計の基礎として、ユーザ中心設計の基本概念と考え方について学びます。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計の基本概念と設計プロセスにおける各活動の理解
- (2) メディアテクノロジーの発展に伴う社会における諸課題の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

以下のテーマについて、主に講義形式で授業を行います。内容の理解を深めるために、適宜グループワーク等を入れたり、ゲストを招聘したりします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干変更する場合があります。前回までに提出されたりアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザとインタフェース 1	ユーザの多様性
3	ユーザとインタフェース 2	インタフェースにおけるインタラクション
4	生活の中のメディアテクノロジー	コンピュータの浸透と生活の変化
5	アンユーザブルなコンピュータ	ユーザビリティの概念の誕生
6	設計プロセス 1	設計プロセスの基本
7	設計プロセス 2	ユーザ中心設計の活動の進め方
8	インタフェースデザイン 1	人間の身体・生理的特性を考慮したデザイン
9	インタフェースデザイン 2	人間の認知的特性を考慮したデザイン
10	インタフェースデザイン 3	デザインアプローチの基本
11	コミュニケーション	人間の社会的側面を支援するメディアテクノロジー
12	テクノロジーとの共生 1	VR と AR
13	テクノロジーとの共生 2	ソーシャルネットワークの構造とネット炎上
14	テクノロジーとの共生 3	情報社会に存在する様々な格差と情報へのアクセシビリティ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、平常点 50%。

平常点は、授業への参加の姿勢やリアクションペーパーの内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

We will consider the development of media technology and the resulting issues in society. We will also learn basic concepts and ideas of the User Centered Design (UCD) as a basis for the design so that we can solve related issues.

FRI200ED

メディアテクノロジーと社会分析

橋爪 絢子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーのユーザに着目しながら、ユーザ中心設計の設計プロセスで用いられる手法について学び、それらの技法を習得します。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計の各活動で用いる手法の理解
- (2) メディアテクノロジーのユーザを理解するためのスキルの習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

授業は、講義と実践のための個人ワークもしくはグループワークで行います。分析に関する理解を深めるために、見学やゲストによる講義を行うことがあります。

前回までに提出されたリアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザ中心設計	ユーザ中心設計における調査と評価
3	ユーザ調査	利用状況の理解と明示
4	UX 評価	ユーザの経験の把握とその評価
5	ユーザビリティ評価	利用におけるユーザビリティとその評価
6	ユーザ調査法	ユーザ調査のための様々な手法
7	調査の準備 1	ゴールと RQ の設定
8	調査の準備 2	練習と RQ の確認
9	調査の実施 1	調査を実施する際の留意点
10	調査の実施 2	調査の実施
11	結果の分析 1	調査結果の分析手法
12	結果の分析 2	調査結果の分析の実施
13	発表 1	グループによる発表と質疑
14	発表 2	グループによる発表と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。

授業への参加の姿勢やグループへの貢献、提出物の内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンと Office 系ソフトウェア (Word、Excel、PowerPoint) を使用します。

【その他の重要事項】

本授業は、春学期の「メディアテクノロジーと社会」の受講を前提としています。また、グループワーク形式で授業を実施することもあるため、全ての回への出席が求められます。

【Outline and objectives】

We will learn methods used in the User Centered Design (UCD), and acquire these skills by taking into account of the user of media technology.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論 I

宇野 斉

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な社会状況を社会ネットワークとして捉え理解するプロセスを、社会ネットワークのシステムのな見方とともに、学びます。

【到達目標】

1 社会現象のネットワーク的な見方の理解 2 企業や地域を社会ネットワークに捉える有効性の理解 3 スモールワールドの理解 4 社会のシステム的な見方とネットワークの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心として演習問題、実験、いくつかの課題によって進めます。毎回学習支援システムへのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	授業内容を概観し、学生と教員で確認します。
02	社会におけるネットワーク現象 (1)	社会現象のネットワーク的分析を紹介し、社会現象を起すネットワークの振る舞いを考察します。
03	社会におけるネットワーク現象 (2)	システム論的見方を提示し、ネットワークの主体の役割と相互関係を考察します。
04	ネットワーク、システム上の主体と関係	企業内の制度におけるネットワークを考察します。
05	企業のネットワーク (1)	企業内の制度外のネットワークを考察します。
06	企業のネットワーク (2)	地域を成立させているネットワークを考察します。
07	地域のネットワーク (1)	ネットワーク現象による地域変化を考察します。
08	地域のネットワーク (2)	スモールワールドの理論分析モデルを学びます。
09	スモールワールドの理論	スモールワールドの分析を感じる実験を行います。
10	スモールワールドの実験	実験結果を分析し理論との接合を考察します。
11	スモールワールドの実験と理論	ネットワーク内に認知される組織を論じます。
12	ネットワークの中に生じる認知組織	社会における多段階のネットワーク関係を系統的に考察します。
13	社会、コミュニティ、組織、個人	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。
14	まとめと質疑および議論	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 25 %、レポート 25 %、期末試験 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。その他必要に応じてインターネット上のサービスを利用します。

【その他の重要事項】

授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。特に、実験が出来ない場合、関連する時間に関して、削除または代替する内容に差し替えることがあります。

期末試験はレポートで代替する可能性があります。

なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

【Outline and objectives】

Learn how to view society from a systematic view and network view.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論Ⅱ

宇野 斉

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に組織内ネットワークの分析を、社会ネットワークの観点から分析できる理論と方法を学びます。

【到達目標】

- 1 ネットワーク分析が自分で出来る能力の獲得
- 2 ネットワーク分析手法による組織分析方法の習得
- 3 組織の社会ネットワーク的な意味と振舞いの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心として演習問題、実験、いくつかの課題によって進めます。

個人間関係を基礎としミクロなネットワークで、誰がどのような役割を果たすかを分析する理論と手法の理解について、実験を行います。組織内のネットワークをどのように捉え、どう行動すべきかを扱います。

毎回学習支援システムへのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンス、イントロダクション	概観内容を説明し、学生と教員間で確認します。
02	ネットワーク分析のための理論提示	この授業でのネットワーク分析の理論と背景を提示します。
03	ネットワークの理論的分析	実験モデル状況の理論分析を行います。
04	ネットワークの実験	グループを作り実験に参加し、観察し、データを得ます。
05	実験結果の分析	データを理論との対比で分析します。
06	ネットワーク分析の代表値	ネットワーク分析における一般的な指標を説明します。
07	組織内公式関係分析	分析方法とケースで公式的關係状況の分析を考察します。
08	組織内非公式関係分析	同ケースで非公式な關係状況の分析を考察します。
09	組織内関係総合的分析	同ケースで公式と非公式の關係の同時状況分析を考察します。
10	組織内リンク追加の効果1	モデルでの關係追加の組織全体への効果を考察します。
11	組織内リンク追加の効果2	モデルでの關係追加の個人への効果を考察します。
12	組織内リンク追加の効果3	モデルでの關係追加の個人と組織への効果の差異を考察します。
13	クラスター、ネットワーク、組織、個人	4つの段階の様相相互の關係を考察します。
14	まとめと、質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システム等で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 30 %、レポート 25 %、期末試験 45 %。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。

【その他の重要事項】

授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。特に、実験が出来ない場合、関連する時間に関して、削除または代替する内容に差し替えることがあります。

対面開講でない場合はリアルタイム・オンラインで実施します。
なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

【Outline and objectives】

Learn the theory and method which can analyze the social networks in the organization.

FRI200ED

デジタル情報環境論

土橋 臣吾

サブタイトル：ウェブ・メディア論Ⅰ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日のデジタルメディアは、私たちの生活全域を覆う情報環境になっていきます。その来歴・現状・将来を、流動化・個人化・再帰化という3つの論点から考え、これらを通じて、今日のデジタル情報環境に関する社会的理解を獲得することが授業の目的です。

【到達目標】

今日のデジタル情報環境がいかなる情報環境なのかを、身近な具体的事例を通じて社会的に理解することが第一の目標です。その上で、今後のデジタル情報環境がどうあるべきかについて一定の見解をもてるようになることが第二の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標を達成するために授業の全体を「流動化する情報環境」「個人化する情報環境」「情報環境の再帰的な構想」の三セクションに分け、それぞれのセクションをいくつかの社会理論と関連付けながら、その理論的理解に基づいて各種事例の分析を行います。

- ・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行う。
- ・授業の形式（対面/オンライン）については、学習支援システムで周知する。
- ・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の概要
2	流動化する情報環境 1	「流動化」とは何か？
3	流動化する情報環境 2	ブロードキャストからネットワークへ
4	流動化する情報環境 3	固定的なメディアから移動的なメディアへ
5	流動化する情報環境 4	ソリッドなコンテンツからリキッドなコンテンツへ
6	個人化する情報環境 1	「個人化」とは何か？
7	個人化する情報環境 2	ソーシャルメディアとつながり・情報行動の変容
8	個人化する情報環境 3	パーソナライズ化される広告とコンテンツ
9	個人化する情報環境 4	ユビキタス環境における「わたし」と「みんな」
10	情報環境の再帰的構想 1	「再帰的構想」とは何か？
11	情報環境の再帰的構想 2	多元的リアリティに向き合う
12	情報環境の再帰的構想 3	テクノロジー的生活形式向き合うか
13	情報環境の再帰的構想 4	経験の断片化・非同期化向き合う
14	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した文献や記事についてはできる限り目を通してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻泉・南田勝也・土橋臣吾（2018）『メディア社会論』有斐閣

【参考書】

授業内で多数紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポートによって評価を行う（100%）。ただし、授業内で採用されたリアクション・ペーパーを書いた受講者には特別点を加算する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例をできるだけ多く取り上げて議論を展開する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムもしくは Google Classroom を利用します。Google Classroom を使う場合は、使い方を授業支援システムでお知らせします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire a sociological understanding of digital media technologies.

FRI200ED

デジタル情報環境分析

土橋 臣吾

サブタイトル：ウェブ・メディア論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活におけるウェブやモバイルメディアの影響を具体的に分析する視点および調査の方法を学びます。具体的には、アーキテクチャ分析、人やモノや空間の連関の分析などについて学び、さらに UX デザインの領域で活用される調査技法について学びます。

【到達目標】

身近なデジタルメディアや、自分たちの普段のメディア利用を分析的に捉える能力を身につけることが第一の目的です。その上で、ユーザー調査の技法についても学び、調査に基づいてメディアを設計する＝デザインする視点を獲得することが第二の目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目的を達成するために、授業の全体を「アーキテクチャの分析」「人・モノ・空間の分析」「ユーザー調査の方法」に分け、それぞれのセクションで各種の理論と調査法を具体的事例と共に学んでいきます。各セクションの終了時には、課題として「分析レポート」が課されます。

・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

・授業の形式（対面/オンライン）については、学習支援システムで周知します。

・各回の授業で 10 分程度の短いグループディスカッションを行います。

・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の目的、内容および受講上の注意
2	アーキテクチャの分析 1	アーキテクチャとは何か
3	アーキテクチャの分析 2	動画共有サイトのアーキテクチャ
4	アーキテクチャの分析 3	ソーシャルメディアのアーキテクチャ
5	アーキテクチャの分析 4	セクションのまとめと課題の解説
6	人・モノ・空間の分析 1	アクターネットワークとは何か？
7	人・モノ・空間の分析 2	固定的なメディアをめぐる連関
8	人・モノ・空間の分析 3	移動的なメディアをめぐる連関
9	人・モノ・空間分析 4	セクションのまとめと課題の解説
10	ユーザー調査の方法 1	行動観察・エスノグラフィ
11	ユーザー調査の方法 2	カスタマージャーニーマップ・日記式調査
12	ユーザー調査の方法 3	ベルソナシナリオ
13	ユーザー調査の方法 4	セクションのまとめと課題の解説
14	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した文献や記事についてはできる限り目を通してください。また具体的なウェブサービスなどを事例に取り上げることがあるので、授業と並行としてそれぞれのサービスを利用し、その特徴を把握しておくことと理解が深まると思います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で多数紹介する。

【成績評価の方法と基準】

セクションごとに 1 回ずつ課される「分析レポート」（計 3 回）で評価する（100 %）。ただし、授業内で採用されたリアクション・ペーパーを書いた受講者には特別点を加算する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例をできるだけ数多く取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布を授業支援システムで行います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire theoretical tools and research methods to study the user of digital media technologies.

SOC200EB, SOC200ED

ソーシャルメディア論

藤代 裕之

サブタイトル：ウェブ・ジャーナリズム論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディアの登場による情報環境の変化は、社会に大きな変化をもたらしています。この授業では、ソーシャルメディアに関連する歴史、技術、法という基本概念を学ぶとともに、急速に発展する「ソーシャルメディア社会」がもたらす課題を考えることで、情報発信の当事者として基礎的なメディア・リテラシーを獲得することを目的としています。

【到達目標】

1) ソーシャルメディア社会のあり方を理解する。2) 情報発信の当事者としてメディア・リテラシーを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は教科書の予習を前提に進め、質疑や議論を行います。提出された課題にすることで、授業の理解を深めます。現在進行形で起るメディアと社会の問題を扱うため、ゲストの招聘、時事問題への対応などで、授業計画を変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	歴史を知る	ソーシャルメディアの歴史
第 3 回	歴史を知る	技術の進化とオープンプライバシー社会
第 4 回	歴史を知る	社会の制度と法律
第 5 回	現在を知る	ソーシャルメディアとニュース
第 6 回	現在を知る	ソーシャルメディアと広告
第 7 回	現在を知る	ソーシャルメディアと政治
第 8 回	現在を知る	ソーシャルメディアとキャンペーン
第 9 回	現在を知る	ソーシャルメディアと都市
第 10 回	現在を知る	ソーシャルメディアとコンテンツ
第 11 回	現在を知る	ソーシャルメディアとモノ（IoT）
第 12 回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（地域）
第 13 回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（システム）
第 14 回	未来を考える	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

該当部分のテキスト（教科書）を予習・復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤代裕之編（2019 年）『ソーシャルメディア論・改訂版：つながりを再設計する』青弓社

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、平常点 50%。平常点は、授業中の発言や質問、リアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ずガイダンスに出席して、授業の方針を確認してください。授業中の私語は退場とします。

【Outline and objectives】

This course will introduce the fundamental concepts, history, law, and technology of social media.

SOC200ED

ソーシャルメディア分析

藤代 裕之

サブタイトル：メディア経営論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディアの登場による情報環境の変化は、既存のメディアをはじめ、社会、生活者に大きな変化をもたらしています。ソーシャルメディアにより可視化された人々の口コミの分析は、メディアに関わる企業において必要不可欠な職業的技能となっています。本授業では、ソーシャルメディアの口コミの構造やデータの分析手法を学ぶことで、ジャーナリズムやマーケティングなどに生かすことができる能力を身につけることを目的としています。

【到達目標】

ソーシャルメディアの口コミを単に分析するだけでなく、発生や伝播の構造を理解した上で、社会に与える影響を分析し、表層ではなく本質的に捉えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業にはグループワークがあります。リアクションペーパーなどを紹介し、フィードバックを行います。企業見学の実施やゲストによる講義が行われることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要と目的
第2回	概論	ソーシャルメディアの特徴
第3回	概論	消費行動モデルの変容
第4回	概論	口コミを利用したキャンペーン
第5回	概論	炎上とその要因
第6回	概論	拡散の構造
第7回	概論	社会記号と洞察
第8回	分析	ソーシャルリスニング
第9回	分析	口コミデータの収集
第10回	分析	口コミデータの分析
第11回	分析	関連情報の収集
第12回	分析	関連情報の分析
第13回	分析	リスクの検討
第14回	まとめ	分析結果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回は予習、復習が前提です。グループによる作業時間が相当程度必要になります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

嶋浩一郎・松井剛（2017）『欲望する「ことば」「社会記号」とマーケティング』集英社新書

【参考書】

佐藤尚之（2011年）『明日のコミュニケーション「関与する生活者」に愛される方法』アスキー新書

シャーリーン・リーら（2008年）『グランズウェル~ソーシャルテクノロジーによる企業戦略』翔泳社

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート 50%。平常点は、提出するレジュメの内容、グループワークやディスカッションへの貢献で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

データの収集分析にパソコン、ソフトを使用します。

【その他の重要事項】

本授業は「ソーシャルメディア論」の受講を前提としています。受講希望者はガイダンスに出席して授業方針を確認してください。グループワーク形式で行われるため、原則すべての回に出席する必要があります。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn methods about social media data analysis.

HSS100IA

スポーツコーチング論Ⅰ

平野 裕一

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」である。これを実践するためには、コーチングに対する考え方、コーチとしての自分自身の能力、そしてコーチング対象者に対する能力を理解し、向上させる必要がある。さらに理解したものを実践で使えるようにする必要もある。

【到達目標】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングを実践していくために、
・コーチングに対する考え方
・コーチとしての自分自身の能力やコーチング対象者に対する能力を理解する。
一方、コーチング実践の中で理解した内容を活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半の時間にはグループでコーチングを実践する。そこではコーチ役を決め、そのコーチがスキル学習課題と習得のための3回分のドリルを考案し、屋外でコーチングをする。3回実践したらコーチ役をローテーションする。後半の時間にはコーチング実践を振り返った後、その日のテーマについて講義形式で学習する。講義時に、コーチング実践での振り返りをフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義のガイダンスと実習の進め方	モデルコアカリキュラムとの関連性 実践におけるコーチ役の使命と職務
2	スポーツの意義と価値	文化的特性、スポーツ精神、基本法と基本計画
3	日本のコーチングの今	グッドコーチに向けた「7つの提言」
4	多様なコーチング文脈	種類別コーチに求められるもの ・参加型スポーツのコーチング ・パフォーマンススポーツのコーチング
5	コーチに求められるもの	コーチの主な機能（職務）
6	コーチの学び	・コーチが学ぶための方法論 ・省察の流れ
7	コーチのセルフコントロール	・自分の心理的、行動的な特徴 ・セルフコントロールの技法の理解
8	コーチのコミュニケーション	・コミュニケーション ・プレゼンテーション ・ファシリテーション
9	コーチングとリーダーシップ	・リーダーシップ理論の流れ ・リーダーの成長を促す経験
10	多様な思考法に基づくコーチング	・理論的思考法 ・分析的思考法 ・創造的思考法 ・批判的思考法
11	発育発達と女性アスリートのコーチング	・成長期の子どもコーチングの特徴 ・女性アスリートのコーチングの特徴
12	障がいのある人のコーチング	・アダプテッド・スポーツ ・インクルーシブ・スポーツ
13	リスクマネジメント	障がいのある人のコーチングの特徴 ・暴力的指導のリスクマネジメント ・スポーツ事故のリスクマネジメント
14	総括	・専門的知識への移行 ・コーチング実践の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コーチング実践におけるスキル課題とそれを習得するための3回分のドリルを考案する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「グッドコーチになるためのココロエ」平野裕一、土屋裕睦、荒井弘和共編、培風館

【参考書】

・「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、Gakken
・「コーチング学への招待」日本コーチング学会編、大修館書店
・「球技のコーチング学」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】

・コーチング実践における自身の振り返りと受講者からの評価（3点×12回＝36点）
・講義に関する期末テスト（64点）
で総合100点とする。

【学生の意見等からの気づき】

・ローテーションするグループ分けが明確に伝わるようにする。
・コーチングに用いる用具を十分に手配する。
・雨天時の対応を明確にする。

【学生が準備すべき機器他】

・運動ができる服装
・コーチング実践で使う用具

【Outline and objectives】

The purposes of this class are to learn the philosophy, attitude and action on the sport coaching, and to practice coaching skill on the court. The contents of classroom lecture are referred to 'the model core curriculum' created by JSPO in 2016. In practice, sport skill drills designed by the student coach are implemented to the student athletes.

HSS100IA

スポーツトレーニング論Ⅰ

平野 裕一

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／ 2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トレーニングを実施する手順、および体力、技術のトレーニング内容・方法に関するこれまでの知見を理解する。

【到達目標】

・トレーニングを実施する手順として、そのスポーツ・運動の構造を理解し、それに基づく目標設定、トレーニング手段、方法、計画、トレーニング実践、そして評価・改善の各理論を理解する。
・体力、技術のトレーニング内容・方法（運動様式、運動強度、時間、頻度、期間といったトレーニング変数）に関するこれまでの知見を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

トレーニングを実施する手順、体力、技術トレーニングの内容・方法についての講義を進めるが、その中で理解すべき図の検討などをアクティブ・ラーニングで行う。検討の結果を次回フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	全体のガイダンス	・スポーツ・運動の構造
2	・スポーツ・運動の構造論	・遺伝とトレーニングの関係
3	・トレーニングの目標論	・トレーニングを実施する際の目標の立て方
4	・全身持久力トレーニング	・全身持久力の要因とトレーニングの内容・方法
5	・トレーニングの手段論	・トレーニングを実施する際の手段の選び方
6	・高強度インターバルトレーニング（HIIT）	・高強度インターバルトレーニングの内容・方法と効果
7	・トレーニングの方法論	・トレーニングを実施する際の方法
8	・筋持久力トレーニング	・筋持久力の要因とトレーニングの内容・方法
9	・トレーニングの計画論	・トレーニングを実施する際の計画、特に時間資源に対する考え方
10	・筋力トレーニング	・筋力の要因とトレーニングの内容・方法
11	・トレーニング実践論	・トレーニングを実施する際の実施における留意点
12	・パワートレーニング	・パワーの理解、その要因とトレーニングの内容・方法
13	・トレーニング改善論	・トレーニングを実施後、改善するための方法
14	・暑熱順化トレーニング	・暑熱順化の原理とトレーニングの内容・方法
15	・スピードトレーニング	・スピードの区分、それぞれの要因とトレーニングの内容・方法
16	・バランスのトレーニング	・バランスの要因とトレーニングの内容・方法
17	・柔軟性のトレーニング	・柔軟性の要因とトレーニングの内容・方法
18	・高地トレーニング	・高地トレーニングの変遷、理論背景とトレーニングの内容・方法
19	・ウォーミングアップとクールダウン	・トレーニング前後のウォーミングアップとクールダウンの意義、内容・方法
20	・技術トレーニングの考え方、基本原則①	・技術トレーニングの原理、効果高めるための基本原則
21	・技術トレーニングの基本原則②	・技術トレーニングを実施する際の留意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義形式であるが、自分の実施しているスポーツあるいは興味のあるスポーツにここでの理論をあてはめる作業を望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし（資料を作成して提示する）

【参考書】

・「トレーニング科学」北川 薫編、文光堂
・「トレーニング科学ハンドブック」トレーニング科学研究会編、朝倉書店
・「トレーニングのための生理学的知識」Zsolt Radak、市村出版

【成績評価の方法と基準】

・講義中での図の検討コメントを 3 点 × 1 4 回 = 4 2 点
・期末テストを 5 8 点として評価する

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではあるが、アクティブ・ラーニングになるように工夫して進める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

This calass deals with the physical and skill trainings on sport. In addition to the training PDCA cycle, traing variables; training intensity, volume, frequency, period, are introduced on the health-and motion-related physical fitness. On the skill training, changes in the physical functions and principles of training are introduced and compared to those of physical training.

HSS2001A

スポーツリスクマネジメント

木下 訓光

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象

※ 2012 年度以前入学生はカテゴリーが異なる

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要な実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】

学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、破綻的外傷、熱中症、感染症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。さらに今年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックについて、その生物学、医学、公衆衛生学分野の最新のエビデンスを学び、未曾有の社会的危機を科学的・論理的・批判的に分析して対峙する姿勢の習得も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・すべての回をオンライン授業で行う予定である。ただしパンデミックの完全終息などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えるようになった場合、教室における対面授業に切り替える可能性がある。

・授業は Google Classroom をベースに、Google Drive、Google Calendar、Google Meet などを活用して行う。登録方法や使用方法については事前に資料にて説明する予定である。なお本学においては Google Meet に参加できる人数が 100 名までと限られているため、履修人数がこれを超えた場合、別のビデオ会議システムを併用して行う可能性がある。

・Google Classroom および Meet でオンライン授業を受講するためには、事前に各学生に送られる「招待」メールから Google Classroom に登録することが必須である。「招待」メールを受け取るためには、春学期開始前に学習支援システム（hoppii）で履修の仮登録を行わなければならない。第 1 回目の授業は 4 月 8 日（木）であるため、履修を希望する学生は、4 月 5 日（月）17:00 までに学習支援システム（hoppii）に履修の仮登録を行うこと。仮登録の名簿をもとに、4 月 7 日までに Google Classroom へ「招待」するメールを学生の統合認証 ID 宛に送信する。必ず確認して授業までに Google Classroom への登録を行なうこと。4 月 5 日（月）17:00 までに仮登録していない場合、あるいは仮登録を済ませていても授業当日までに「招待」メールを確認せず Google Classroom に登録をしなかった場合は、第 1 回目の受講は保障されない。

・履修登録が確定するまでは、204 教室のモニタにストリーミングで授業の配信を行う。履修を確定していないが、授業を視聴したい場合は、204 教室で視聴可能である。ただしこの場合、オンラインによる教員との双方向・リアルタイムのやり取りには参加できない。また Google Classroom にアップロードされる資料にもアクセスは出来ない。なお履修登録が完了した以降はストリーミングは行わない（履修人数が 100 名を超える場合は、継続を検討する可能性がある）。

・Google Meet による受講マニュアル、および授業資料は、Google Classroom の「スポーツリスクマネジメント」にアップロードするので、Google Classroom への登録が済み次第閲覧可能となる。

・ストリーミングで授業を視聴し、以降の授業についてはオンラインでの受講を希望する場合には、その旨申請すること。申請を受けて順次 Google Classroom への登録を追加していく。その申請方法については、第 1 回目の授業で説明する。

・原則として授業内容は録画して配信することはない。すなわちオンデマンド型の授業配信は行わない。

① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。

- ② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
- ③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
- ④ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
- ⑤ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
- ⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックにおけるリスクマネジメント	新型コロナウイルスの生物学的・医学的基礎を学び、COVID-19 パンデミックにおけるエビデンスを整理して、リスクマネジメントの基礎を学ぶ。
2	「なぜ事故が起きるのか」—スポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
3	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
4	スポーツと突然死	若年アスリートスポーツ中の内因性突然死の原因疾患と対策について講義する。中高年者の運動中の突然死について講義する。
5	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastrophic injury）、すなわち致死的頭部外傷や脊椎損傷の発生機序や対策について講義する。
6	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
8	「なぜスポーツしてはいけないのか？」—競技スポーツ参加の可否判断	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
9	環境とスポーツ	スポーツ現場における熱中症対策のビットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。また寒冷、落雷などにもなる対策について学ぶ。
10	BLS (basic life support; 一次救命処置) & AED (自動体外式除細動器)	BLS と AED の理論的基礎と適切な運用のために必要なポイントについて学習し、医療の専門家以外の人間が、スポーツ現場でどのようなことに配慮すれば、BLS のスキルを適切に運用できるか講義する。また（mass gathering としての）スポーツイベントにおける救急対策について講義する。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	スポーツにおける感染症管理	スポーツ活動を通じて感染する可能性のある疾患について、原因と対策を講義する。またオリンピックなどのスポーツイベントにおける感染症対策について講義する。COVID-19 のパンデミック対策、感染後のアスリートの競技復帰などについて最新知見を学ぶ。
14	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習すること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ③ 各回のテーマに沿った課題を授業内、あるいは Google Classroom を利用して適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。

④ 下記【参考書】 他に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

第2回：

『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）。（特に第1章～第6章）

小笠原正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）※資料室収蔵

西澤 真理子『リスクを伝えるハンドブック-災害・トラブルに備えるリスクコミュニケーション』（エネルギーフォーラム、2018）※多摩図書館収蔵

第3回：

『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）※資料室収蔵

第3回および第4回：

『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号）

『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号）

『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009年26巻11号。（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第5回：

『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013年改訂版）

『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015年第4版）

いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。

『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）※資料室収蔵

第6回：

『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）※資料室収蔵

『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 論、大修館書店）※資料室収蔵

『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか、スポーツ頭部外傷：「頭部外傷10か条の提言」から考える』（2016年33巻7号）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第7回：

『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェック-心臓突然死を未然に防ぐために-『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェック-その有用性と限界-、p153-162.）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第8回：

木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題、1999年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23. (http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/99kiyo-kinoshita.pdf)

第9回：

『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）

『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）

『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）

『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）

『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）

『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）

※以上、すべて資料室収蔵

『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）

『夏のトレーニングガイドブック』（日本スポーツ協会）

（いずれも <https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html> より閲覧可能）

『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会 <http://www.saitama-sports.or.jp/files/science/Thunderbolt>）

『雷対応マニュアル』（Jリーグ）

『落雷事故の防止について』（文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm）

第10回：

高木 修、『人を助ける心』（1998年、サイエンス社）。（特に第1章、第2章、第4章）※研究室収蔵

木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009年26巻11号（特に「BLSとAED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第11回：

木下訓光：スポーツ選手の減量-米国アマチュアレスリングにおける事例-、（1998年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/98kiyo-kinoshita.pdf）

木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害、臨床スポーツ医学、2014;31(9):858-867.

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第12回：

『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学、<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html>）

『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省、2013）(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm)

『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』

(<https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947>)

第13回：該当資料無し

第14回：

日本アンチ・ドーピング機構 website (<http://www.playtruejapan.org/>). ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。

『ランス・アームストロング ツール・ド・フランス 7 冠の真実』[DVD]。資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には3部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会を得難くなることが予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）

その他に下記の書籍などを追加的に参考にしてもよい。

・Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies"(Carolina Academic Press, 2005) ※研究室収蔵

・小笠原正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）※資料室収蔵

・入澤 充、『学校事故：知っておきたい!養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価する。COVID-19 パンデミックの完全終息や本学の授業方針転換など特段の事情がなければ試験もオンラインで行う予定である。

なお授業回によっては小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合がある。

【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は検討できるだけの十分な回答数が得られていない。

【学生が準備すべき機器他】

① 授業コンテンツはリモートに最適化して配信するが、高速インターネット回線に接続できる環境を確保することが望ましい。また以下を参考にしてインターネット回線の月間契約容量に注意すること。

※あくまで参考だが、2020年度スポーツリスクマネジメント9回分のオンライン授業のデータ通信量（Google Meet 使用）をモニタリングして分析した結果は以下の通り。

視聴者側の平均ダウンロード速度が49KB/秒、授業前後の接続待ち状態を含めて1回の授業における通信量の合計は、平均229MB（主としてダウンロード。授業回によって扱うコンテンツに差があり、170MB～310MB）授業参加者数にもよるが、月4回の授業の合計通信量は1GB弱と見積もられる。

② ビデオ会議システムを利用した受講を最適化するため、スマートフォンではなくコンピューターまたはタブレットを準備することが望ましい。

③ Google Classroom への登録には統合認証IDを用いるため、授業関連の連絡に使うだけでなく、Google Meet などへのアクセスにも統合認証IDによるサインインが必須である。したがって統合認証IDへ送られてくるメールメッセージをリアルタイムに受信・確認できる環境を準備することが必要である（メールの転送設定やGmailにおけるエイリアス設定については、本学全学ネットワークシステムユーザ支援WEBサイトを参照するか、直接全学ネットワークシステム・ユーザサポート窓口に相談すること）。授業開始時に統合認証IDに紐づけされた姓名が確認できない場合は、オンライン授業参加を認めない。

④ 可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムにPDFハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

2020年度と異なり、各回の授業内容を録画して配信をしない。したがって授業に定刻通り参加できない場合は、後からその内容を再受講することができないので注意すること。

【その他の重要事項】

・授業内容は録画しないため、後日オンデマンドで視聴することはできない。したがって決められた曜日時限に参加すること。

① オンライン授業中は参加学生の統合認証IDのアクセス状況をリアルタイムにモニタリングして記録として残す。

② 授業中に参加学生に不特定または指名で質問をすることがある。指名時に不在であれば欠席と見なされる可能性があるので注意すること。

③ オンライン授業であるため、100分の授業時間内に何度か休憩を設け、VDT作業関連眼障害（ドライアイ、眼精疲労など）にも配慮するが、学生においても予防的的努力をしてほしい。VDT作業関連眼障害については下記の文献が参考になる。

総合臨床2011.6巻増刊.995「ドライアイ・眼精疲労」（VPN接続＞図書館＞メディカルオンラインより閲覧可能）

④ 授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

発行日：2021/5/1

【どのように実務経験が授業に反映されるか】 上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise and sports.

HSS2001A

スポーツリスクマネジメント

木下 訓光

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】

学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これらでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、破滅的外傷、熱中症、感染症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。さらに今年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックについて、その生物学、医学、公衆衛生学分野の最新のエビデンスを学び、未曾有の社会的危機を科学的・論理的・批判的に分析して対峙する姿勢の習得も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・すべての回をオンライン授業で行う予定である。ただしパンデミックの完全終息などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えるようになった場合、教室における対面授業に切り替える可能性がある。
・授業は Google Classroom をベースに、Google Drive、Google Calendar、Google Meet などを活用して行う。登録方法や使用方法については事前に資料にて説明する予定である。なお本学においては Google Meet に参加できる人数が 100 名までと限られているため、履修人数がこれを超えた場合、別のビデオ会議システムを併用して行う可能性がある。
・Google Classroom および Meet でオンライン授業を受講するためには、事前に各学生に送られる「招待」メールから Google Classroom に登録することが必須である。「招待」メールを受け取るためには、春学期開始前に学習支援システム（hoppii）で履修の仮登録を行わなければならない。第 1 回目の授業は 4 月 8 日（木）であるため、履修を希望する学生は、4 月 5 日（月）17:00 までに学習支援システム（hoppii）に履修の仮登録を行うこと。仮登録の名簿をもとに、4 月 7 日までに Google Classroom へ「招待」するメールを学生の統合認証 ID 宛に送信する。必ず確認して授業までに Google Classroom への登録を行うこと。4 月 5 日（月）17:00 までに仮登録していない場合、あるいは仮登録を済ませていても授業当日までに「招待」メールを確認せず Google Classroom に登録をしなかった場合は、第 1 回目の受講は保障されない。
・履修登録が確定するまでは、204 教室のモニタにストリーミングで授業の配信を行う。履修を確定していないが、授業を視聴したい場合は、204 教室で視聴可能である。ただしこの場合、オンラインによる教員との双方向・リアルタイムのやり取りには参加できない。また Google Classroom にアップロードされる資料にもアクセスは出来ない。なお履修登録が完了した以降はストリーミングは行わない（履修人数が 100 名を超える場合は、継続を検討する可能性がある）。

・Google Meet による受講マニュアル、および授業資料は、Google Classroom の「スポーツリスクマネジメント」にアップロードするので、Google Classroom への登録が済み次第閲覧可能となる。
・ストリーミングで授業を視聴し、以降の授業についてはオンラインでの受講を希望する場合には、その旨申請すること。申請を受けて順次 Google Classroom への登録を追加していく。その申請方法については、第 1 回目の授業で説明する。

・原則として授業内容は録画して配信することはない。すなわちオンデマンド型の授業配信は行わない。

① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。

- ② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
- ③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
- ④ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
- ⑤ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
- ⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックにおけるリスクマネジメント	新型コロナウイルスの生物学的・医学的基礎を学び、COVID-19 パンデミックにおけるエビデンスを整理して、リスクマネジメントの基礎を学ぶ。
2	「なぜ事故が起きるのか」—スポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
3	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
4	スポーツと突然死	若年アスリートスポーツ中の内因性突然死の原因疾患と対策について講義する。中高年者の運動中の突然死について講義する。
5	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastrophic injury）、すなわち致死性の頭部外傷や脊椎損傷の発生機序や対策について講義する。
6	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
8	「なぜスポーツ参加の可否判断の基準けないのか？」—競技スポーツ参加の可否判断	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
9	環境とスポーツ	スポーツ現場における熱中症対策のピットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。また寒冷、落雷などにともなう対策について学ぶ。
10	BLS (basic life support; 一次救命処置) & AED (自動体外式除細動器)	BLS と AED の理論的基礎と適切な運用のために必要なポイントについて学習し、医療の専門家以外の人間が、スポーツ現場でどのようなことに配慮すれば、BLS のスキルを適切に運用できるか講義する。また（mass gathering としての）スポーツイベントにおける救急対策について講義する。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	スポーツにおける感染症管理	スポーツ活動を通じて感染する可能性のある疾患について、原因と対策を講義する。またオリンピックなどのスポーツイベントにおける感染症対策について講義する。COVID-19 のパンデミック対策、感染後のアスリートの競技復帰などについて最新知見を学ぶ。
14	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習すること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習すること。
- ③ 各回のテーマに沿った課題を授業内、あるいは Google Classroom を利用して適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。

④ 下記【参考書】 他に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

第2回：

『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）。（特に第1章～第6章）

小笠原正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）※資料室収蔵

西澤 真理子『リスクを伝えるハンドブック-災害・トラブルに備えるリスクコミュニケーション』（エネルギーフォーラム、2018）※多摩図書館収蔵

第3回：

『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）※資料室収蔵

第3回および第4回：

『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号）

『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号）

『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009年26巻11号。（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第5回：

『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013年改訂版）

『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015年第4版）

いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。

『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）※資料室収蔵

第6回：

『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）※資料室収蔵

『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 論、大修館書店）※資料室収蔵

『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか、スポーツ頭部外傷：「頭部外傷10か条の提言」から考える』（2016年33巻7号）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第7回：

『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェック-心臓突然死を未然に防ぐために-『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェック-その有用性と限界-、p153-162.）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第8回：

木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題、1999年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.

(http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/99kiyo-kinoshita.pdf)

第9回：

『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）

『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）

『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）

『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）

『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）

『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）

※以上、すべて資料室収蔵

『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）

『夏のトレーニングガイドブック』（日本スポーツ協会）

（いずれも <https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html> より閲覧可能）

『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会 <http://www.saitama-sports.or.jp/files/science/Thunderbolt>）

『雷対応マニュアル』（Jリーグ）

『落雷事故の防止について』（文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm）

第10回：

高木 修、『人を助ける心』（1998年、サイエンス社）。（特に第1章、第2章、第4章）※研究室収蔵

木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009年26巻11号（特に「BLSとAED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第11回：

木下訓光：スポーツ選手の減量-米国アマチュアレスリングにおける事例-、（1998年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/98kiyo-kinoshita.pdf）

木下訓光：ランニングのスポーツ医学：ヤセと体組成、月経障害、臨床スポーツ医学、2014;31(9):858-867.

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第12回：

『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学、<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html>）

『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省、2013）(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm)

『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』

(<https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947>)

第13回：該当資料無し

第14回：

日本アンチ・ドーピング機構 website (<http://www.playtruejapan.org/>)、ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。

『ランス・アームストロング ツール・ド・フランス 7 冠の真実』[DVD]。資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には3部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなることが予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）

その他に下記の書籍などを追加的に参考にしてもよい。

・Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies"(Carolina Academic Press, 2005) ※研究室収蔵

・小笠原正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）※資料室収蔵

・入澤 充、『学校事故：知っておきたい!養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価する。COVID-19 パンデミックの完全終息や本学の授業方針転換など特段の事情がなければ試験もオンラインで行う予定である。

なお授業回によっては小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数に加算して評価する場合がある。

【禁止事項】 授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は検討できるだけの十分な回答数が得られていない。

【学生が準備すべき機器他】

① 授業コンテンツはリモートに最適化して配信するが、高速インターネット回線に接続できる環境を確保することが望ましい。また以下を参考にしてインターネット回線の月間契約容量に注意すること。

※あくまで参考だが、2020 年度スポーツリスクマネジメント 9 回分のオンライン授業のデータ通信量（Google Meet 使用）をモニタリングして分析した結果は以下の通り。

視聴者側の平均ダウンロード速度が 49KB/秒、授業前後の接続待機状態を含めて 1 回の授業における通信量の合計は、平均 229MB（主としてダウンロード。授業回によって扱うコンテンツに差があり、170MB～310MB）授業参加者数にもよるが、月 4 回の授業の合計通信量は 1GB 弱と見積もられる。

② ビデオ会議システムを利用した受講を最適化するため、スマートフォンではなくコンピューターまたはタブレットを準備することが望ましい。

③ Google Classroom への登録には統合認証 ID を用いるため、授業関連の連絡に使うだけでなく、Google Meet などへのアクセスにも統合認証 ID によるサインインが必須である。したがって統合認証 ID へ送られてくるメールメッセージをリアルタイムに受信・確認できる環境を準備することが必要である（メールの転送設定や Gmail におけるエイリアス設定については、本学全学ネットワークシステムユーザ支援 WEB サイトを参照するか、直接全学ネットワークシステム・ユーザサポート窓口に相談すること）。授業開始時に統合認証 ID に紐づけされた姓名が確認できない場合は、オンライン授業参加を認めない。

④ 可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

2020 年度と異なり、各回の授業内容を録画して配信をしない。したがって授業に定刻通り参加できない場合は、後からその内容を再受講することができないので注意すること。

【その他の重要事項】

・授業内容は録画しないため、後日オンデマンドで視聴することはできない。したがって決められた曜日時間に参加すること。

① オンライン授業中は参加学生の統合認証 ID のアクセス状況をリアルタイムにモニタリングして記録として残す。

② 授業中に参加学生に不特定または指名で質問をすることがある。指名時に不在であれば欠席と見なされる可能性があるので注意すること。

③ オンライン授業であるため、100 分の授業時間内に何度か休憩を設け、VDT 作業関連眼障害（ドライアイ、眼精疲労など）にも配慮するが、学生においても予防的努力をしてほしい。VDT 作業関連眼障害については下記の文献が参考になる。

総合臨床 2011.6 巻増刊.995 「ドライアイ・眼精疲労」（VPN 接続＞図書館＞メディカルオンラインより閲覧可能）

④ 授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【実務の経験】 臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise and sports.

ECN100IA

スポーツビジネス論 I

井上 尊寛

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではスポーツマネジメントにおける代表的な事例を取り上げながら、市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学んでいく。

【到達目標】

本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツ産業の発展とスポーツマーケティング	サービス財の特性、権利ビジネス、文化の産業化
2	スポーツマーケティングの考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケットセグメンテーション	意思決定、市場細分化、リレーションシップマーケティング
4	マーケティング戦略の考え方	マーケティング戦略、ドメイン
5	スポーツ・サービス産業のプロダクト	プロダクト構造、中核商品、顧客満足
6	スポーツ・イベントのマネジメント（プロ・スポーツ）	J リーグ、企業マーケティング
7	スポーツ・イベントのマネジメント（スポーツ消費者行動）	観戦者行動、観戦者マーケティング
8	スポーツ・イベントのマネジメント（ブランディング）	ブランディング
9	スポーツ・イベントのマネジメント（マーケティング戦略）	フランチャイズ、リーグマネジメント、セカンドキャリア
10	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（市場動向）	需要動向、事業環境、経営戦略
11	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（コミュニケーション戦略）	スポーツブランドのコーポレートブランドコミュニケーション戦略
12	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（CSR およびソーシャルマーケティング）	CSR、CSV、SRI、NGO
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	授業内レポート	レポート作成 (1)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤真・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017 年

【参考書】

特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%) および授業内レポートの評価 (40%) から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the fundamental elements of the sport management. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices of the sport management.

ECN100IA

スポーツビジネス論 I

井上 尊寛

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

旧科目名：スポーツビジネス論 [2012 年度以前入学生]

備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象

※ 2012 年度以前入学生はカテゴリーが異なる

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではスポーツマネジメントにおける代表的な事例を取り上げながら、市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学んでいく。

【到達目標】

本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツ産業の発展とスポーツマーケティング	サービス財の特性、権利ビジネス、文化の産業化
2	スポーツマーケティングの考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケットセグメンテーション	意思決定、市場細分化、リレーションシップマーケティング
4	マーケティング戦略の考え方	マーケティング戦略、ドメイン
5	スポーツ・サービス産業のプロダクト	プロダクト構造、中核商品、顧客満足
6	スポーツ・イベントのマネジメント（プロ・スポーツ）	J リーグ、企業マーケティング
7	スポーツ・イベントのマネジメント（スポーツ消費者行動）	観戦者行動、観戦者マーケティング
8	スポーツ・イベントのマネジメント（ブランディング）	ブランディング
9	スポーツ・イベントのマネジメント（マーケティング戦略）	フランチャイズ、リーグマネジメント、セカンドキャリア
10	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（市場動向）	需要動向、事業環境、経営戦略
11	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（コミュニケーション戦略）	スポーツブランドのコラボレートブランドコミュニケーション戦略
12	スポーツ・サービス産業の一般的経営課題（CSR およびソーシャルマーケティング）	CSR、CSV、SRI、NGO
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	授業内レポート	レポート作成 (1)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤真・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017 年

【参考書】

特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%) および授業内レポートの評価 (40%) から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the fundamental elements of the sport management. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices of the sport management.

SOC100IA

スポーツメディア論

山本 浩

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

備考（履修条件等）：※ 2012 年度以前入学生は履修年次が異なります

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既存の新聞、放送と、近年隆盛著しいインターネット・タブレット等、幅広いメディアがスポーツを捉える理念、行動の実態に精通する。そのためには、メディアの発生から成長の軌跡と現状を理解しながら、今後著しい変化が予想されるメディア世界を読み解ける能力を磨き、知識を身につけることに集約される。競技スポーツの中には「メディアスポーツ」と称されるものがある。いったいスポーツ自体がなぜメディアなのか。4K での精緻な映像に始まって 8K の現実と遜色ない映像の世界は、スポーツにこそ最高の技術を使った伝達の価値を見いだせると語っているようだ。世界のメガイイベントに備えるメディアの新たな動きを確認した上で、スポーツメディアの近未来を考える機会としたい。

【到達目標】

一時は戦意高揚のために、その後は商業化の波に乗って W 杯サッカーやオリンピックというメガイイベントを契機に、スポーツメディアはさまざまな歴史を重ねてきた。講義を経て獲得すべき知識は、活字、電波、写真、モバイルとメディアの種類の变化にだけ目を留めるのではなく、その需給バランスが時代を画すに連れてどう変わってきたのかを知るところにある。なお追い求めたいのは、「文字」「映像」「音楽」「コメント」を武器に、メディアは今さらかかって曲がり角をいかにクリアしようとしているのか。その動向、情報を見聞きするにつけ、そこに社会の投影されるのを知り、世の人々の関心がどのように変わってきたのか。さらにストリーミング、OTT、SNS、見逃し配信での在り方など、さまざまなルートを通して、スポーツがそれ自身メディアとしてどれほど膨張してきたのかを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツメディアの実に入るために、マスメディアのスタートの基礎となった歴史上の出来事を追いながら、活字・音声・映像メディアの登場をスライドを使ってつぶさに見る。担当教員のバックグラウンドには電波メディアの世界がある。音声と映像で伝えるスポーツメディアの重心はテレビを離れて、スマートフォンやモバイル端末に移行してきた。変化を促したのは媒体技術面のイノベーションによるところが大きい。それが共振してやがてスポーツ自体にも変化を及ぼすようになる。講義では、ニュース記事、テレビ番組を随時取り上げ、理解の促進材料とする。取材、記事作成の基本や実際の作業過程、番組制作の仕組みを知ることはずなわち、ある部分で自分をどう伝え、主張するかノウハウにもつながる。

教員の上映するスライド（Mac による Keynote を使用）を元にした講義形式。授業内に、受講生を指名して問いかけに答えてもらうことがある。※ウィルスの影響次第で、オンライン授業を検討する。

授業後、提示したスライドは教員が学習支援システムにアップロードする（一定期間定時のみ削除する）。授業内には、その日の講義に関連付けたミニ論文を書く時間を用意する。※ウィルスの影響でオンライン授業になった場合には、授業内課題の代わりに学習支援システムの「課題」欄に挙げたファイル（PDF）を読み込み、そこに示された課題を教員に宛てて期限内に送信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとメディアの現状	新聞、放送はいまだメディアの中心に近い。その組織と活動から、全体的なニュース報道の中でのスポーツの占める位置を窺う。
2	スポーツメディアの歴史	活字の報道は、始まるとはば時を同じくして“スポーツ”に関心を示してきた。それは洋の東西を問わず同じ感性に貫かれている。新聞から雑誌までの展開を追う。

3	活字メディアの仕組み	スポーツメディアは、メディアの一つのジャンルである。そこをのぞき見るには、活字メディアの世界の常識と理念を知っておかなければならない。後に放送メディアも大きな影響を受けた取材から報道までのありようを見る。
4	電波メディアの仕組み	誕生当初の電波メディアは、新聞の知恵を借りることが多かった。それが違った道をたどるようになるのは、映像という武器を手にするようになってからだ。それでも底流を流れるスポーツに対する理念は変わらない。
5	活字メディアにスポーツメディアの核を見る	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げて来た。一般紙とスポーツ紙、それぞれの個性、報道スタンスの違いを見ながらスポーツメディアの特徴を知る。スポーツメディアがスポーツをイベントとして取り上げるようになったのは、世界のスポーツ界に商業化路線が押し寄せたからではない。購読数・視聴率という経営に関わる指標は、昔からスポーツイベントを必要としてきた。タブレット端末でのスポーツ観戦が当たり前になった今でも、画面の中に見る手法はテレビ中継が培ってきたものに他ならない。スポーツ中継の見えない部分を音声実況の歴史から初めて含めて細部まで開示する。
6	事業を興すスポーツメディア	ラジオとテレビ。それはメディアの構造の違いだけでなく方法論の違いにもつながっている。音中心のメディアと映像主体のメディアを比べ、重ね合わせることでスポーツ報道のある部分が見えてくる。
7	スポーツ中継（1）	時代と共に、スポーツ記事の量は増え、その重要性は高まってきた。テレビニュースにおけるスポーツも同じような変化を遂げている。スポーツニュースの現代的価値を問う。
8	スポーツ中継（2）	スポーツスタジオ番組の制作は多面的な素材を要求する点でスポーツメディアの総合製品に近い。多彩な試みで視聴者の関心を誘うスポーツスタジオ番組の全貌を知る。
9	スポーツニュース	日本のスポーツドキュメンタリーには、一つの定形がある。この定形をどうとらえるか。それを超える新しいスポーツドキュメンタリーは可能なのか。それは、私たちがスポーツのどこに価値を見いだしているのかに底通する。
10	スポーツショー、スポーツ科学番組	メディアを巡る環境は激変。放送と通信の融合、新聞離れ、有料チャンネルの増加、ストリーミングによるスポーツ観戦の時代をどうとらえるか。これに対応するスポーツ界にも目を凝らしたい。
11	ドキュメンタリー	スポーツメディアが金をめぐる急激に動き始めるのは、アマチュア中心の世界にプロが登場するのと同じくしている。機材の能力アップだけでなく、そこに登場するパフォーマンスの質の向上も必然であったことが分かる。
12	スポーツメディア世界の今	ここまでの 13 回にわたる講義の中で取り上げてきた用語を確認する。さらに、テーマの一貫性を大切にしながらジャーナルな課題を選択しての小論文による試験を行う。
13	スポーツメディアと金	
14	総括と授業内試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」「情報」に関心を持ち続けよう。肝心なのは、個々の報道をすべてを鵜呑みにしないことである。自らの体験、他人の意見を冷静に見比べながら、常に自分の世界観に照らし合わせた読解力を持つ必要がある。そこでひらめいた読後感はいざさまざまなシーンで有用になる。いつ・どこで・何が・どのように起こったのか。どう取り上げられたのか、自分のメモに書き留めておこう。それぞれが事前事後で準備学習・復習時間を 2 時間取りながら講義に向かおう。

【テキスト（教科書）】特に使用せず。

【参考書】

「21 世紀スポーツ大事典」中村敏雄ほか編集主幹 大修館書店
「スポーツは誰のためのものか」杉山茂著 慶応大学出版会
「メディアスポーツへの招待」黒田勇編著 ニルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
配分：

講義内に、指定する時間内で提出すべき小論文を課す。毎回の小論文は成績評価の対象となり。1 回最高点 3 点。1 3 回のすべて満点を取れば、3 9 点。最終講義内に行う試験 7 0 点。すべてフルに獲得すれば 1 0 9 点となり、明らかに最高レベルの評価で単位を取得できる。

評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・広い世界観、具体事例を示せるかどうかなど。

※オンライン講義となった場合には、学習支援システムの課題欄にその日の課題を提示する。期限内に教員に送ることを求める。

【学生の意見等からの気づき】

テレビを見ない世代が増えている中で、ウィルスの影響で激減した競技スポーツに人々はどんな反応を残すのだろうか。メガイベントがどうなるか未確定の中の講義だけに、常に未来形で“現代”を追いかけてたい。

スライド枚数を多くした分、スライドの切り替えが早くなりがちだが、講義後速やかに PDF 化した授業素材をあげることで、受講者が確認できるような手立てを講じる。

【その他の重要事項】

スポーツジャーナリストとしての 4 0 年にわたる内外での取材活動を元に、電波・活字・インターネットメディアの構造を講義する。

スポーツメディアの”期待”は、栄光・感動・勝利といった手垢のついた概念を持ち出すことで処理されようとするのか。それとも、そこから一歩抜け出したスポーツ観を提示してくるのか。そうなれば五輪・パラリンピックのレガシーとしても後世に残るはずである。

最終講義日の授業内試験には必ず参加すること。

学校を代表しての行事参加、病欠、欠席の避けられない冠婚葬祭に対しては、講義内ミニ論文に代わる追加のレポート課題を期末に与える〔規定の書類、体育会規定書類、会葬礼状類、医療機関の日付の入った領収書コピーなどを提出のこと〕。ただしこの規定が適用されるのは、一人につき 3 回まで。自分の都合での欠席は、レポート課題の対象にならない。

【Outline and objectives】

To be familiar with the sports philosophies of existing media such as printed media, broadcasting, Internet and tablets that play prominent roles in recent years.

While understanding the trajectories and current situation from the origin of media, you will acquire knowledge by refining the ability to understand medias world where remarkable changes are anticipated.

You could have an enough chance to get acquainted with the near future of the sports media.

ECN2001A

スポーツビジネス論Ⅱ

伊藤 真紀

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

旧科目名：スポーツクラブ運営論 [2012 年度以前入学生]

備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象※ 2012 年度以前入学生は履修年次が異なる

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマネジメントの基礎となる理論「スポーツをサービスとしてとらえ、スポーツ組織がスポーツサービスを効率的に生産し（プロダクション）、交換する（マーケティング）ために、経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）および周辺環境をコーディネート（調整）すること」を総合的に学ぶ。

【到達目標】

1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. 「スポーツマネジメント」の定義を学術的なバックグラウンドを踏まえた上で、説明できる
3. マネジメントの知識の有無がスポーツにおいて何を変えるのかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の側面から理解するため、経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論、コミュニケーション理論の基礎を、事例を交えながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツビジネス概要説明	授業の概要説明 授業評価方法の説明 スポーツビジネスの概要について学ぶ
2	スポーツマネジメントの基礎	スポーツマネジメントの定義 スポーツマネジメントの歴史的発展について学習する。
3	スポーツ経営学 1	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。スポーツリーグ運営について学習する。
4	スポーツ経営学 2	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。スポーツチーム運営について学習する。
5	スポーツ経営学 3	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。海外リーグの運営方法について学習する。
6	いかにヒトを動かすか 1 Human resource management	人材マネジメントの諸機能、戦略的人的資源管理 (SHRM)、職務満足について理解する。
7	いかにヒトを動かすか 2 リーダーシップ理論	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
8	いかにヒトを動かすか 3 モチベーション理論	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
9	スポーツにおける情報 1	スポーツ組織とメディアリレーション・スポーツ組織におけるスポーツメディア戦略とは？ 戦略の立て方について学習する。
10	スポーツにおける情報 2	戦略的なブランドコミュニケーション開発、広告 PR について学習する。
11	スポーツにおける情報 3	メディアにおける危機管理対応【危機管理マネジメント戦略】について学習する。
12	スポーツにおける情報 4	企業の社会的責任とスポーツ【スポーツを使った Corporate social responsibility (CSR) 事例研究】について学習する。

- 13 ケーススタディー これまでの授業で学んだ知識をもとに、ケーススタディーを行い、ビジネスプランを立てる課題を行う。これまでの授業の総括を行う。
- 14 授業総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】

授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、
リアクションペーパーの内容（20 %）
小テスト（30 %）
レポートの内容（50 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

海外におけるスポーツビジネスに関する事例を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

We will comprehensively learn the theory that forms the basis of sports management "To capture sports as a service, and coordinate the management resources (human resource, goods, capital, information) and the surrounding environment in order for the sports organizations to efficiently produce sports services (production) and exchange (marketing).

ECN2001A

スポーツビジネス論Ⅱ

伊藤 真紀

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：専門基幹科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／ 2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3
備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツマネジメントの基礎となる理論「スポーツをサービスとしてとらえ、スポーツ組織がスポーツサービスを効率的に生産し（プロダクション）、交換する（マーケティング）ために、経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）および周辺環境をコーディネート（調整）すること」を総合的に学ぶ。
【到達目標】
1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. 「スポーツマネジメント」の定義を学術的なバックグラウンドを踏まえた上で、説明できる
3. マネジメントの知識の有無がスポーツにおいて何を变えるのかを説明できる。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の側面から理解するため、経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論、コミュニケーション理論の基礎を、事例を交えながら学習する。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 春学期		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツビジネス概要説明	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	スポーツマネジメントの基礎	スポーツビジネスの概要について学ぶ スポーツマネジメントの定義 スポーツマネジメントの歴史的発展について学習する。
3	スポーツ経営学 1	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。スポーツリーグ運営について学習する。
4	スポーツ経営学 2	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。スポーツチーム運営について学習する。
5	スポーツ経営学 3	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。海外リーグの運営方法について学習する。
6	いかにヒトを動かすか 1 Human resource management	人材マネジメントの諸機能、戦略的人的資源管理（SHRM）、職務満足について理解する。
7	いかにヒトを動かすか 2 リーダーシップ理論	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
8	いかにヒトを動かすか 3 モチベーション理論	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
9	スポーツにおける情報 1	スポーツ組織とメディアリレーション・スポーツ組織におけるスポーツメディア戦略とは？ 戦略の立て方について学習する。
10	スポーツにおける情報 2	戦略的なブランドコミュニケーション開発、広告 PR について学習する。
11	スポーツにおける情報 3	メディアにおける危機管理対応【危機管理マネジメント戦略】について学習する。
12	スポーツにおける情報 4	企業の社会的責任とスポーツ【スポーツを使った Corporate social responsibility（CSR）事例研究】について学習する。
13	ケーススタディー	これまでの授業で学んだ知識をもとに、ケーススタディーを行い、ビジネスプランを立てる課題を行う。

14 授業総括 これまでの授業の総括を行う。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。
【テキスト（教科書）】
講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。
【参考書】
授業内にて、適宜紹介する。
【成績評価の方法と基準】
成績は、
リアクションペーパーの内容（20 %）
小テスト（30 %）
レポートの内容（50 %）で評価します。
【学生の意見等からの気づき】
海外におけるスポーツビジネスに関する事例を紹介します。
【学生が準備すべき機器他】
特になし。
【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
We will comprehensively learn the theory that forms the basis of sports management "To capture sports as a service, and coordinate the management resources (human resource, goods, capital, information) and the surrounding environment in order for the sports organizations to efficiently produce sports services (production) and exchange (marketing).

MAN300IA

マーケティングリサーチ実習

伊藤 真紀

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3～4 年次／1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマーケティング調査の基礎を学び、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる
- ・課題に対して、仮説をたてることができる
- ・統計解析ソフト spss の使用方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、調査の事例についての解説や実際の調査をおこなうことによって理論的・技術的な理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点とは何か、調査をする上での心構えを学ぶ
2	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ
3	調査課題の立て方について説明	調査課題とは何かを複数の例に基づき考える
4	調査課題を考える	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる
5	調査課題の立て方についてまとめ	第 4 回でまとめて調査課題について発表し、ブラッシュアップを行う
6	調査の種類について	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ
7	調査の種類を学ぶ	定量調査、定性調査研究を学ぶ
8	定量調査について	事例をもとに定量調査の調査票の構成について学ぶ
9	定量調査の調査票作成	第 5 回でまとめて調査課題について、簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップをはかる
10	定性調査について	事例をもとに定性調査の調査票の構成について学ぶ
11	定性調査の調査票作成	第 5 回、第 9 回の結果を踏まえ、定性調査の企画書を作成する
12	定量調査の実践	第 9 回の調査票について、実査を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する
13	定性調査の実戦準備	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作る
14	定性調査の実戦	インタビュー調査の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フィールドでの調査については、別日程で開催する可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します

【参考書】

授業内で必要があれば指定します

【成績評価の方法と基準】

調査計画・実査への参加 (60%)・分析・レポート (40%) などを総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。
専門用語での説明について理解しやすくする。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research.

MAN300IA

マーケティングリサーチ演習

伊藤 真紀

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際にリサーチデザインを行い、定量調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

- ・回答しやすい調査票作成ができる
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法がわかる、使うことができる
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義の具体的な内容としては、マーケティング・リサーチの実際の把握（日本におけるプロスポーツサーベイの実態から）、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。調査は、プロスポーツの観戦者などを対象とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スポーツに関する調査について学ぶ	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる
2	スポーツに関する調査概要	スポーツに関する調査について検索し、現在のテーマとその背景を考える
3	調査課題の設定	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する
4	調査課題の仮説の設定	結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する
5	事前調査の実施	プレ調査を実施し、課題の妥当性、仮説の方向性をまとめる
6	事前調査結果の発表	第 5 回について、発表し、ブラッシュアップをはかる
7	定量調査の調査票設計	課題解決、仮説検証のための調査票設計を行う
8	定量調査の調査票の妥当性の確認	調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる①
9	定量調査の事前確認	フィールドでの調査の実施に向けた、調査時の事前確認並びに調査方法のシミュレーション確認を行う
10	定量調査の実施	フィールドで調査を実施する
11	定量調査のデータ分析	フィールド調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶとともに、分析手法を学ぶ
12	調査の集計、分析、仮説検証	調査の分析を実施し、仮説を検証する
13	調査の集計、分析結果の考察	第 12 回で行った仮説検証を踏まえて、考察と調査結果のまとめを行う
14	総括	調査結果および分析内容についてプレゼンテーションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フィールドでの調査については、別日程で開催する可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します

【参考書】

授業内で必要があれば指定します

【成績評価の方法と基準】

調査計画・実査への参加 (60%)・分析・レポート (40%) などを総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。専門用語での説明について理解しやすくする。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research.

MAN300IA

マーケティングリサーチ実習

伊藤 真紀

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3～4 年次／ 3 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：※ 2017 年度以前入学生対象

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際に調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる
- ・課題に対して、仮説をたてることができる
- ・仮説を調査票にすることができる
- ・回答しやすい調査票作成ができる
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法がわかる、使うことができる
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる
- ・統計解析ソフト spss の使用方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、実際の調査をおこなうことによって理論的・技術的な理解を深める。具体的な内容としては、マーケティング・リサーチの実際の把握（日本におけるプロスポーツサーベイの実態から）、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。調査は、プロスポーツの観戦者などを対象とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点とは何か、調査をする上での心構えを学ぶ
2	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ
3	調査課題の立て方について説明	調査課題とは何かを複数の例に基づき考える
4	調査課題を考える	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる
5	調査課題の立て方についてまとめ	第 4 回でまとめて調査課題について発表し、ブラッシュアップを行う
6	調査の種類について	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ
7	調査の種類を学ぶ	定量調査、定性調査研究を学ぶ
8	定量調査について	事例をもとに定量調査の調査票の構成について学ぶ
9	定量調査の調査票作成	第 5 回でまとめて調査課題について、簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップをはかる
10	定性調査について	事例をもとに定性調査の調査票の構成について学ぶ
11	定性調査の調査票作成	第 5 回、第 9 回の結果を踏まえ、定性調査の企画書を作成する
12	定量調査の実践	第 9 回の調査票について、実査を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する
13	定性調査の実戦準備	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作る
14	定性調査の実戦	インタビュー調査の実施

秋学期

回	テーマ	内容
15	まとめ	調査結果まとめをグループで発表する
16	スポーツに関する調査について学ぶ	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる

17	スポーツに関する調査概要	スポーツに関する調査について検索し、現在のテーマとその背景を考える
18	調査課題の設定	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する
19	調査課題の仮説の設定	第 18 回の結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する
20	事前調査の実施	第 19 回の結果をもとに、プレ調査を実施し、課題の妥当性、仮説の方向性をまとめる
21	事前調査結果の発表	第 20 回について、発表し、ブラッシュアップをはかる
22	定量調査の調査票設計	課題解決、仮説検証のための調査票設計を行う
23	定量調査の調査票の妥当性の確認	第 22 回で行った調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる
24	定量調査の事前確認	フィールドでの調査の実施に向けた、調査時の事前確認並びに調査方法のシュミレーション確認を行う
25	定量調査の実施	フィールドで調査を実施する
26	定量調査のデータ分析	フィールド調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶとともに、分析手法を学ぶ
27	調査の集計、分析、仮説検証	エクセルなどにより調査の分析を実施し、仮説を検証する
28	調査の集計、分析結果の考察、結果のまとめ	第 22 回で行った仮説検証を踏まえて、考察と調査結果のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フィールドでの調査については、別日程で開催する可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します

【参考書】

授業内で必要があれば指定します

【成績評価の方法と基準】

調査計画・実査への参加 (60%)・分析・レポート (40%) などを総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。専門用語での説明について理解しやすくする。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research.

PSY100JC

心理学

服部 環

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基礎科目
配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の研究対象と領域は多岐にわたります。この授業で実験心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学などの研究で得られた知見を学び、心理学や社会全般に対する視野を広げて欲しいと思っています。平和で民主的な社会作りに必要な資質を形成して欲しいとも考えますので、日常生活との接点を含む研究知見も取り上げます。

【到達目標】

心理学の研究知見や概念を説明できること、現代の社会について主体的に考察するために必要な心理学的な見方を習得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする対面授業を行います。なお、受講生数が教室の収容定員を越えた場合はハイフレックス型授業（対面授業とリアルタイム Zoom の同時配信）へ変更しますが、授業方法の変更などについては学習支援システムを通じて通知する予定です。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、心理学の諸領域と授業で取り上げるテーマとの関係
第 2 回	感覚・知覚	感覚と知覚、形の知覚
第 3 回	知覚の恒常性	運動の知覚、知覚の恒常性
第 4 回	条件付け	古典的・オペラント条件付け
第 5 回	社会的学習	社会的学習、運動技能の学習
第 6 回	記憶	感覚・短期・長期記憶
第 7 回	思考と推論	問題解決学習と推論
第 8 回	知能	知能理論と知能検査、行動遺伝学
第 9 回	性格	性格理論と性格検査
第 10 回	動機づけ	外発的・内発的動機づけ
第 11 回	発達	心身の発達
第 12 回	集団の心理	同調、服従、傍観者効果
第 13 回	心理学の研究法	心理学研究法、心理統計の基礎
第 14 回	試験・まとめと解説	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げたトピックスについてさらに理解を深めて欲しいと思っています。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムを利用して、学習用の教材・資料を配付します。

【参考書】

福田由紀（編著） 心理学要論－こころの世界を探る（培風館）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と小テスト（50 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

幅広く心理学の研究領域とその知見を紹介したいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

ハイフレックス型（対面授業とリアルタイム Zoom の同時配信）授業を行う可能性があるので、情報機器（パソコン等）の準備をして下さい。
資料配付・小テストの実施等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の予定変更があります。

【Outline and objectives】

This course will introduce students to various topics of psychology, including perception, learning, personality, intelligence, social psychology, psychological assessment, and psychological research methods. The primary purpose of the course is to help students become familiar with subdisciplines of psychology.

PSY100JB

心理学 (2021 年度以降入学者)

服部 環

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基礎科目
配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の研究対象と領域は多岐にわたります。この授業で実験心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学などの研究で得られた知見を学び、心理学や社会全般に対する視野を広げて欲しいと思っています。平和で民主的な社会作りに必要な資質を形成して欲しいとも考えますので、日常生活との接点を含む研究知見も取り上げます。

【到達目標】

心理学の研究知見や概念を説明できること、現代の社会について主体的に考察するために必要な心理学的な見方を習得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする対面授業を行います。なお、受講生数が教室の収容定員を越えた場合はハイフレックス型授業（対面授業とリアルタイム Zoom の同時配信）へ変更しますが、授業方法の変更などについては学習支援システムを通じて通知する予定です。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、心理学の諸領域と授業で取り上げるテーマとの関係
第 2 回	感覚・知覚	感覚と知覚、形の知覚
第 3 回	知覚の恒常性	運動の知覚、知覚の恒常性
第 4 回	条件付け	古典的・オペラント条件付け
第 5 回	社会的学習	社会的学習、運動技能の学習
第 6 回	記憶	感覚・短期・長期記憶
第 7 回	思考と推論	問題解決学習と推論
第 8 回	知能	知能理論と知能検査、行動遺伝学
第 9 回	性格	性格理論と性格検査
第 10 回	動機づけ	外発的・内発的動機づけ
第 11 回	発達	心身の発達
第 12 回	集団の心理	同調、服従、傍観者効果
第 13 回	心理学の研究法	心理学研究法、心理統計の基礎
第 14 回	試験・まとめと解説	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げたトピックスについてさらに理解を深めて欲しいと思っています。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムを利用して、学習用の教材・資料を配付します。

【参考書】

福田由紀（編著） 心理学要論－こころの世界を探る（培風館）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と小テスト（50 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

幅広く心理学の研究領域とその知見を紹介したいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

ハイフレックス型（対面授業とリアルタイム Zoom の同時配信）授業を行う可能性があるので、情報機器（パソコン等）の準備をして下さい。
資料配付・小テストの実施等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の予定変更があります。

【Outline and objectives】

This course will introduce students to various topics of psychology, including perception, learning, personality, intelligence, social psychology, psychological assessment, and psychological research methods. The primary purpose of the course is to help students become familiar with subdisciplines of psychology.

PSY100JB

心理学 (2020 年度以前入学者)

服部 環

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（人文系）
配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の研究対象と領域は多岐にわたります。この授業で実験心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学などの研究で得られた知見を学び、心理学や社会全般に対する視野を広げて欲しいと思っています。平和で民主的な社会作りに必要な資質を形成して欲しいとも考えますので、日常生活との接点を含む研究知見も取り上げます。

【到達目標】

心理学の研究知見や概念を説明できること、現代の社会について主体的に考察するために必要な心理学的な見方を習得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする対面授業を行います。なお、受講生数が教室の収容定員を越えた場合はハイフレックス型授業（対面授業とリアルタイム Zoom の同時配信）へ変更しますが、授業方法の変更などについては学習支援システムを通じて通知する予定です。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、心理学の諸領域と授業で取り上げるテーマとの関係
第 2 回	感覚・知覚	感覚と知覚、形の知覚
第 3 回	知覚の恒常性	運動の知覚、知覚の恒常性
第 4 回	条件付け	古典的・オペラント条件付け
第 5 回	社会的学習	社会的学習、運動技能の学習
第 6 回	記憶	感覚・短期・長期記憶
第 7 回	思考と推論	問題解決学習と推論
第 8 回	知能	知能理論と知能検査、行動遺伝学
第 9 回	性格	性格理論と性格検査
第 10 回	動機づけ	外発的・内発的動機づけ
第 11 回	発達	心身の発達
第 12 回	集団の心理	同調、服従、傍観者効果
第 13 回	心理学の研究法	心理学研究法、心理統計の基礎
第 14 回	試験・まとめと解説	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げたトピックスについてさらに理解を深めて欲しいと思っています。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムを利用して、学習用の教材・資料を配付します。

【参考書】

福田由紀（編著） 心理学要論－こころの世界を探る（培風館）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と小テスト（50 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

幅広く心理学の研究領域とその知見を紹介したいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

ハイフレックス型（対面授業とリアルタイム Zoom の同時配信）授業を行う可能性がありますので、情報機器（パソコン等）の準備をして下さい。資料配付・小テストの実施等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の予定変更があります。

【Outline and objectives】

This course will introduce students to various topics of psychology, including perception, learning, personality, intelligence, social psychology, psychological assessment, and psychological research methods. The primary purpose of the course is to help students become familiar with subdisciplines of psychology.

CUA100JC

日本人の心理特性と文化

長山 恵一

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（人文系）
配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の童話（「だれも知らない小さな国」佐藤さとる）を題材に、そこに見られる日本人の文化や心理行動特性を深層心理学的に読み解いていく。

【到達目標】

童話のストーリーや具体的な内容に、どんな風に日本的な文化や心理行動特性が表れているかを深層心理学的に理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、童話の内容を具体的に読み進みながら、そこにどんな風に日本人の文化や心理行動特性が表れているのかを講義し、考えていく。新型コロナの感染状況によってはオンラインでの開講の可能性があります。その場合、それに伴う各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度提示します。

課題等についてのフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と童話－「だれも知らない小さな国」－の概説	童話の作られた時代背景や講義の概要について説明する。
第 2 回	第 1 章「いずみ」	第 1 章のストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 3 回	第 2 章「小さな黒いかげ」1～5 節	第 2 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 4 回	第 2 章「小さな黒いかげ」6～10 節	第 2 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 5 回	第 3 章「矢印の先っぽ」1～5 節	第 3 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 6 回	第 3 章「矢印の先っぽ」6～10 節	第 3 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 7 回	第 4 章「わるいゆめ」1～5 節	第 4 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 8 回	第 4 章「わるいゆめ」6～10 節	第 4 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 9 回	第 5 章「新しい味方」1-4 節	第 5 章 1-4 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 10 回	第 5 章「新しい味方」5-8 節	第 5 章 5-8 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 11 回	童話全体のストーリーのまとめ	童話全体のストーリーにどんな風に日本的な心性が表れているかを読み解いていく。
第 12 回	童話に込められたテーマについて	童話に込められたテーマにどんな風に日本的な心性が表れているかを読み解いていく。
第 13 回	日本人の心理行動特性について	これまでの講義を踏まえて、日本人の心理特性全般について説明する。
第 14 回	授業内テスト（期末テスト）による授業全体の振り返り学習	期末テストを通して授業全体の振り返り学習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の講義予定の童話の内容を事前に読んで、必ず理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「だれも知らない小さな国」コロボックル物語 1」佐藤さとる 著（講談社 青い鳥文庫）670 円

【参考書】

その都度、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（60 %）と平常点（40 %）を合計して最終的な成績評価を行います。

新型コロナの感染によってオンライン授業に変更になった場合、上記の成績評価の方法や基準は変更になります。その場合は学習支援システムを通して変更点を周知しますので、必ずチェックを忘れないでください。

【学生の意見等からの気づき】

日本人の心理行動特性のまとめの講義部分では、教科書の童話だけに限定されることなく、もっと幅広く日本文化の特性全般を西洋文化と比較して講義をしていきたいと思います。

【その他の重要事項】

上記の授業スケジュールは授業の展開によって、若干の変更があり得ます。講義にはかならず「テキスト(童話)」を持参してくること。

【Outline and objectives】

In this course, students will explore Japanese culture and psychological characteristics from a perspective of depth psychology using a Japanese fairy tale "A Little Country No One Knows (dare mo shiranai chiisana kuni)".

CUA100JB

日本人の心理特性と文化

長山 恵一

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（人文系）

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の童話（「だれも知らない小さな国」佐藤さとる）を題材に、そこに見られる日本人の文化や心理行動特性を深層心理学的に読み解いていく。

【到達目標】

童話のストーリーや具体的な内容に、どんな風に日本的な文化や心理行動特性が表れているかを深層心理学的に理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、童話の内容を具体的に読み進みながら、そこにどんな風に日本人の文化や心理行動特性が表れているのかを講義し、考えていく。新型コロナの感染状況によってはオンラインでの開講の可能性があります。その場合、それに伴う各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度提示します。

課題等についてのフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と童話「だれも知らない小さな国」の概説	童話の作られた時代背景や講義の概要について説明する。
第 2 回	第 1 章「いずみ」	第 1 章のストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 3 回	第 2 章「小さな黒いかげ」1～5 節	第 2 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 4 回	第 2 章「小さな黒いかげ」6～10 節	第 2 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 5 回	第 3 章「矢印の先っぽ」1～5 節	第 3 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 6 回	第 3 章「矢印の先っぽ」6～10 節	第 3 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 7 回	第 4 章「わるいゆめ」1～5 節	第 4 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 8 回	第 4 章「わるいゆめ」6～10 節	第 4 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 9 回	第 5 章「新しい味方」1-4 節	第 5 章 1-4 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 10 回	第 5 章「新しい味方」5-8 節	第 5 章 5-8 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 11 回	童話全体のストーリーのまとめ	童話全体のストーリーにどんな風に日本的心性が表れているかを読み解いていく。
第 12 回	童話に込められたテーマについて	童話に込められたテーマにどんな風に日本的心性が表れているかを読み解いていく。
第 13 回	日本人の心理行動特性について	これまでの講義を踏まえて、日本人の心理特性全般について説明する。
第 14 回	授業内テスト（期末テスト）による授業全体の振り返り学習	期末テストを通して授業全体の振り返り学習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の講義予定の童話の内容を事前に読んで、必ず理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「だれも知らない小さな国」コロボックル物語 1 佐藤さとる 著（講談社 青い鳥文庫）670 円

【参考書】

その都度、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（60％）と平常点（40％）を合計して最終的な成績評価を行います。

新型コロナの感染によってオンライン授業に変更になった場合、上記の成績評価の方法や基準は変更になります。その場合は学習支援システムを通して変更点を周知しますので、必ずチェックを忘れないでください。

【学生の意見等からの気づき】

日本人の心理行動特性のまとめの講義部分では、教科書の童話だけに限定されることなく、もっと幅広く日本文化の特性全般を西洋文化と比較して講義をしていきたいと思えます。

【その他の重要事項】

上記の授業スケジュールは授業の展開によって、若干の変更があり得ます。講義にはかならず「テキスト(童話)」を持参してくること。

【Outline and objectives】

In this course, students will explore Japanese culture and psychological characteristics from a perspective of depth psychology using a Japanese fairy tale "A Little Country No One Knows (dare mo shiranai chiisana kuni)".

ARSk100JB

地域問題入門

野田 岳仁

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基礎科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域社会が抱えるさまざまな社会的な課題に対して、現場に暮らす人びとの立場からの解決を模索することを目的とする。地域づくり、観光、地域福祉、災害、環境問題をテーマにしたケーススタディを扱うなかで、人びとの創造性や地域社会の志向性を捉えながら、問題解決につながる政策論を構築していく。

【到達目標】

地域社会が抱える諸課題に対して、現場の人たちが考える問題の本質とはどのようなものであるのかを見極める力を養うこと。そのうえで、現場に暮らす人びとが納得し、満足できるような政策論を構築する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は知識を覚えることよりも、地域問題を理解する際の”考え方”を身につけることに重点をおいた実践的な講義である。受講生には、理想論や常識的な考え方にとらわれることなく、現場の人びとの立場に立って問題の本質を見極めることを求める。DVD などの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域問題を捉える視座	現場に暮らす人びとの立場から
第 2 回	地域社会を理解する視点①	むらの暮らしと生活文化
第 3 回	地域社会を理解する視点②	むらの共同性と社会関係
第 4 回	地域社会が担ってきた教育と福祉	社会的親と平凡教育
第 5 回	地域問題としての環境汚染	水はなぜ汚れるのか？
第 6 回	水辺空間管理と地域づくり	コモンズと弱者生活権
第 7 回	地域社会の合意形成はいかにして可能か？	住民参加と地域づくり
第 8 回	コミュニティづくりはなぜうまくいかないのか？	地域コミュニティと NPO・NGO
第 9 回	自然災害と災害文化	なぜ人びとは雪崩が予測できると語るのか？
第 10 回	原発災害とコミュニティ	被災者にとつての”被害”とは？
第 11 回	魅力ある景観形成と地域づくり	町並み保全と地域づくり
第 12 回	環境と観光はどのように両立されるのか？	ローカル・ルールを守る観光まちづくり
第 13 回	地域問題の理論と実践	生活環境主義の立場から
第 14 回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の振り返りは不可欠となる。毎回配布するレジュメには参考文献を記載しておくので必要に応じて参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメントやリアクションペーパー、ミニレポート（40%）と期末試験（60%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動などの地域問題の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master the basic concepts of environmental sociology and sociology of local community. At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of environmental sociology and sociology of local community, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.

ARSk200JC

地域問題入門

野田 岳仁

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域社会が抱えるさまざまな社会的な課題に対して、現場に暮らす人びとの立場からの解決を模索することを目的とする。地域づくり、観光、地域福祉、災害、環境問題をテーマにしたケーススタディを扱うなかで、人びとの創造性や地域社会の志向性を捉えながら、問題解決につながる政策論を構築していく。

【到達目標】

地域社会が抱える諸課題に対して、現場の人たちが考える問題の本質とはどのようなものであるのかを見極める力を養うこと。そのうえで、現場に暮らす人びとが納得し、満足できるような政策論を構築する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は知識を覚えることよりも、地域問題を理解する際の”考え方”を身につけることに重点をおいた実践的な講義である。受講生には、理想論や常識的な考え方にとらわれることなく、現場の人びとの立場に立つて問題の本質を見極めることを求める。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地域問題を捉える視座	現場に暮らす人びとの立場から
第2回	地域社会を理解する視点①	むらの暮らしと生活文化
第3回	地域社会を理解する視点②	むらの共同性と社会関係
第4回	地域社会が担ってきた教育と福祉	社会的親と平凡教育
第5回	地域問題としての環境汚染	水はなぜ汚れるのか？
第6回	水辺空間管理と地域づくり	コモンズと弱者生活権
第7回	地域社会の合意形成はいかにして可能か？	住民参加と地域づくり
第8回	コミュニティづくりはなぜうまくいかないのか？	地域コミュニティと NPO・NGO
第9回	自然災害と災害文化	なぜ人びとは雪崩が予測できると語るのか？
第10回	原発災害とコミュニティ	被災者にとっての”被害”とは？
第11回	魅力ある景観形成と地域づくり	町並み保全と地域づくり
第12回	環境と観光はどのように両立されるのか？	ローカル・ルールを守る観光まちづくり
第13回	地域問題の理論と実践	生活環境主義の立場から
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の振り返りは不可欠となる。毎回配布するレジュメには参考文献を記載しておくので必要に応じて参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメントやリアクションペーパー、ミニレポート（40%）と期末試験（60%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動などの地域問題の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master the basic concepts of environmental sociology and sociology of local community. At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of environmental sociology and sociology of local community, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.

SOW100JB

社会問題論

高良 麻子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基礎科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本における社会問題を中心に、多様な視点から理解するとともに、問題解決に向けた様々な活動を学ぶ。

【到達目標】

- ・それぞれの社会問題の概要を説明できる。
- ・様々な社会問題は相互に関連していることを説明できる。
- ・社会問題の解決に向けた活動を提案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、講義とともに、映像等を見てのグループワークを一部行う。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。基本的には対面授業で実施するが、感染状況に応じて YouTube の動画配信や ZOOM を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	社会問題とは何か①	状態からの理解
第 3 回	社会問題とは何か②	活動からの理解 SDGs(持続可能な開発目標)
第 4 回	社会問題①	少子高齢化
第 5 回	社会問題②	ワーキングプア
第 6 回	社会問題③	子どもの貧困
第 7 回	社会問題④	住居喪失不安定就労者
第 8 回	社会問題⑤	ひきこもり
第 9 回	社会問題⑥	性暴力
第 10 回	社会問題⑦	過疎地域
第 11 回	社会問題⑧	難民
第 12 回	社会問題⑨	人身売買
第 13 回	社会問題の連鎖	SDGs(持続可能な開発目標)
第 14 回	総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

必要に応じて、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60%
- ・レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

今年度は対面授業を基本としているので、リアクションペーパーをより活用していきたい。また、アンケート結果をもとに、海外の社会問題についても一部授業に含む。

【Outline and objectives】

This course is designed to explore contemporary social problems in Japan. The design of this course provides students with an opportunity to develop knowledge of current social problems.

SOC200JC

社会問題論

高良 麻子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目
配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本における社会問題を中心に、多様な視点から理解するとともに、問題解決に向けた様々な活動を学ぶ。

【到達目標】

- ・それぞれの社会問題の概要を説明できる。
- ・様々な社会問題は相互に関連していることを説明できる。
- ・社会問題の解決に向けた活動を提案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニケーション学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、講義とともに、映像等を見てのグループワークを一部行う。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。基本的には対面授業で実施するが、感染状況に応じて YouTube の動画配信や ZOOM を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	社会問題とは何か①	状態からの理解
第 3 回	社会問題とは何か②	活動からの理解 SDGs(持続可能な開発目標)
第 4 回	社会問題①	少子高齢化
第 5 回	社会問題②	ワーキングプア
第 6 回	社会問題③	子どもの貧困
第 7 回	社会問題④	住居喪失不安定就労者
第 8 回	社会問題⑤	ひきこもり
第 9 回	社会問題⑥	性暴力
第 10 回	社会問題⑦	過疎地域
第 11 回	社会問題⑧	難民
第 12 回	社会問題⑨	人身売買
第 13 回	社会問題の連鎖	SDGs(持続可能な開発目標)
第 14 回	総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

必要に応じて、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60%
- ・レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

今年度は対面授業を基本としているので、リアクションペーパーをより活用していきたい。また、アンケート結果をもとに、海外の社会問題についても一部授業に含む。

【Outline and objectives】

This course is designed to explore contemporary social problems in Japan. The design of this course provides students with an opportunity to develop knowledge of current social problems.

ARSx100JB

コミュニティマネジメント入門

水野 雅男、図司 直也、土肥 将敦、佐野 竜平、野田 岳仁

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（社会系）
配当年次／単位数：1～4 年次／単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティマネジメント（まちづくり）とは何か、その原則や方策、あるいは農山村、都市、地域、コミュニティの捉え方について、市民活動やソーシャルビジネスの実践事例を通じて理解する。

【到達目標】

日本国内や海外のコミュニティマネジメント（まちづくり）、地域再生の取り組みとその実態を把握し、それらが内包する意味と現代的意義について幅広く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教員 5 名がオムニバス形式で講義を担当する。実践事例やケーススタディでは、関連スライドやDVD等を活用して紹介する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「地域／まち」をつくるって何？（図司）	地域づくりを実践する現場の事例から考える
第 2 回	農村景観とひとの営み（図司）	農村における地域づくりを捉える視点
第 3 回	若者は「地域」で何ができるのか？（図司）	地域づくりに動き出した若者たちの姿を知る
第 4 回	なぜ人びとは地域の自然を守るのか？（野田）	地元の人びとの生活の立場から考える
第 5 回	ツーリズムによる地域再生（野田）	大衆的な観光地を目指さない観光まちづくり
第 6 回	コミュニティの文化と創造性（野田）	地域社会の論理を捉える方法
第 7 回	コミュニティ × 企業（土肥）	地域固有の企業とステイクホルダー
第 8 回	コミュニティ × スポーツ × 企業（土肥）	地域におけるスポーツ・ビジネスの可能性
第 9 回	コミュニティ × 社会問題 × 企業（土肥）	ソーシャル・ビジネスの可能性
第 10 回	地域資源の保全活用によるまちづくり（水野）	歴史的建造物の保全活用の意義と実践事例
第 11 回	世界を知ろう（佐野）	アジアを中心とした世界の動き
第 12 回	グローバル社会のまちづくり（佐野）	広い視野からみるまちづくり
第 13 回	グローバルなまちづくり人材になるために（佐野）	グローバル社会に生きる視点
第 14 回	住民主体のまちづくり（水野）	NPOと行政のパートナーシップの必要性和実践事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、書籍等によるまちづくり関連報道、論文等に関心を持つ。旅行等の機会、出身市町村、居住地等、身近な地域について調べる。講義で示した事例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】

授業中に随時示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーのコメント）100 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度の授業改善アンケート結果を反映して改善する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

【その他の重要事項】

授業を担当する 5 名の教員がそれぞれ地域プランニング、ソーシャルビジネス、まちづくり活動などのフィールドワークに基づいてコミュニティマネジメント（まちづくり）の考え方を具体的に紹介する。

【Outline and objectives】

Understand what community management is, what principles and policies of town development, how to catch rural areas, urban areas, communities, through urban planning activities and practical examples of social business.

ARSx100JB

コミュニティマネジメント入門

水野 雅男、図司 直也、土肥 将敦、佐野 竜平、野田 岳仁

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基礎科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティマネジメント（まちづくり）とは何か、その原則や方策、あるいは農山村、都市、地域、コミュニティの捉え方について、市民活動やソーシャルビジネスの実践事例を通じて理解する。

【到達目標】

日本国内や海外のコミュニティマネジメント（まちづくり）、地域再生の取り組みとその実態を把握し、それらが内包する意味と現代的意義について幅広く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教員 5 名がオムニバス形式で講義を担当する。実践事例やケーススタディでは、関連スライドやDVD等を活用して紹介する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「地域／まち」をつくるって何？（図司）	地域づくりを実践する現場の事例から考える
第 2 回	農村景観とひとの営み（図司）	農村における地域づくりを捉える視点
第 3 回	若者は「地域」で何ができるのか？（図司）	地域づくりに動き出した若者たちの姿を知る
第 4 回	なぜ人びとは地域の自然を守るのか？（野田）	地元の人びとの生活の立場から考える
第 5 回	ツーリズムによる地域再生（野田）	大衆的な観光地を目指さない観光まちづくり
第 6 回	コミュニティの文化と創造性（野田）	地域社会の論理を捉える方法
第 7 回	コミュニティ × 企業（土肥）	地域固有の企業とステイホルダー
第 8 回	コミュニティ × スポーツ × 企業（土肥）	地域におけるスポーツ・ビジネスの可能性
第 9 回	コミュニティ × 社会問題 × 企業（土肥）	ソーシャル・ビジネスの可能性
第 10 回	地域資源の保全活用によるまちづくり（水野）	歴史的建造物の保全活用の意義と実践事例
第 11 回	世界を知ろう（佐野）	アジアを中心とした世界の動き
第 12 回	グローバル社会のまちづくり（佐野）	広い視野からみるまちづくり
第 13 回	グローバルなまちづくり人材になるために（佐野）	グローバル社会に生きる視点
第 14 回	住民主体のまちづくり（水野）	NPOと行政のパートナーシップの必要性和実践事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、書籍等によるまちづくり関連報道、論文等に関心を持つ。旅行等の機会、出身市町村、居住地等、身近な地域について調べる。講義で示した事例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】

授業中に随時示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーのコメント）100 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度の授業改善アンケート結果を反映して改善する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

【その他の重要事項】

授業を担当する 5 名の教員がそれぞれ地域プランニング、ソーシャルビジネス、まちづくり活動などのフィールドワークに基づいてコミュニティマネジメント（まちづくり）の考え方を具体的に紹介する。

【Outline and objectives】

Understand what community management is, what principles and policies of town development, how to catch rural areas, urban areas, communities, through urban planning activities and practical examples of social business.

ENG200JB

地域計画論

保井 美樹

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの地域で、その将来像が構想（デザイン）され、それを実現するために様々な計画（プラン）が策定・実践されてきた。その計画主体には、国や自治体だけでなく、民間企業や個人の起業家も含まれる。本講義では、こうしたさまざまな主体による地域へのアプローチを学び、今日的な計画論とその実践を探りながら、あるべき姿を受講生と共に探る。

【到達目標】

地域とは何か、計画を立てるとはどういうことか、その利点・限界は何かを学ぶ他、計画プロセスの多様性、そのイノベーション、実践や成果の評価、見直しの在り方等について理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンド講義として行う。授業では地域計画に関連する制度や事例について解説を行い、授業間の課題を通じて、受講者には調査・図表の作成などを行い、提出してもらう。提出物へのフィードバックは、各回の授業のはじめ及び最終回に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	計画とは何か？	授業の目的や進め方について説明するとともに、そもそも「計画」とは何かを問う。
第 2 回	地域計画の変遷とこれから	社会の変化に応じた地域計画の変遷を学び、これからの計画を考える。
第 3 回	地域計画における課題 (1)	地域計画において生じる価値観の相克についてケーススタディを通じて紹介し、それに対する考え方を議論する。
第 4 回	地域計画における課題 (2)	引き続きケーススタディを通じて、多様な価値観の相克とそのなかでの計画づくりを考える。
第 5 回	システム思考による地域分析	システム思考の考え方を解説し、SWOT を用いた地域分析を行う。
第 6 回	システム思考による地域計画のはじまり	地域分析を生かして地域計画を作成する方法を解説し、それぞれで計画づくりを行う。
第 7 回	システム思考による地域計画	システム思考による地域計画を、具体例を通じて解説する。
第 8 回	地域計画のケーススタディ (1)	地域計画を策定・実践について、具体例を通じて学ぶ。
第 9 回	地域計画のケーススタディ (2)	別の具体例を使って、地域計画の策定・実践について学ぶ。
第 10 回	地域計画の表現と対話～土地利用とマッピング	システム思考による地域計画の表現方法を探る。今回は地図を使う。
第 11 回	地域計画の表現と対話～グラフやループを使って	システム思考による地域計画の表現方法を探る。今回はグラフやループを使う。
第 12 回	マルチステークホルダーによる計画づくり①	地域の複雑な利害関係や構造を探りつつ、そこでどのようなマネジメントが最適かを探る。
第 13 回	マルチステークホルダーによる計画づくり②	地域マネジメントを理解した上で、具体的なケースワークを行う。
第 14 回	提出課題の共有・まとめ	受講生から提出された課題を通じて地域計画のポイントを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内に配布する教材を参考に、常に自分の生活の中にある「計画」に目を向け、理解を深めることが課題作成の役に立ちます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内にレジメと参考資料を配布する。

【参考書】

保井美樹・泉山壘威編著『エリアマネジメント・ケーススタディ（仮題）』学芸出版社、2021 年 4 月予定。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 65%

平常点（リアクションペーパー）35%

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンドで実施するのは初めてなのでアンケートはありませんが、進度に気をつけつつ、内容面の充実を図りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

大学の行動制限方針がレベル1の場合でも、この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】

There are lots of Plans made to tackle unknown problems and realize ideal regional future. Among those are done by not only national and local governments but also private organizations and entrepreneurs. In this lecture, we first learn various approaches to regional planning as well as recent change happening worldwide, discuss future planning with students.

SOW100JC

ボランティアアクション

長濱 洋二

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（社会系）

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は全回にわたり、リアルタイムで ZOOM を活用した『オンデマンド授業』とする。前後の移動時間を含め、授業に集中して参加できるような場所の確保を行うこと。

社会の課題解決や価値の創造に関する基本的な知識を習得するとともに、ボランティアアクションを実践するための計画書『My ボラ』を策定し発表する。ボランティアアクションとは、地域や社会の課題を自分ごととして捉え、課題解決や新しい価値の創造に向けて自発的・主体的に起こしていくアクションであり、地域で活動する団体や NPO 等でのボランティアにとどまらず、寄付、情報発信、自らの消費行動の見直し、自主イベントの開催、社会起業（団体設立）など多岐にわたる。

※『My ボラ』：取り組む社会課題の実態、自己分析、具体的なアクション、期待される成果などを盛り込んだ計画書

【到達目標】

- （１）個人で実践できる身近なものから組織として取り組む規模の大きなものまで、様々なボランティアアクションがあることを理解する
- （２）地域や社会にどのような課題があるかを知るとともに、それらの解決に向けて活用できる資源や方法があることを認識できる
- （３）地域や社会の課題解決に向けた自発的・主体的なアクションプランが策定できる
- （４）ボランティアアクションを実践するにあたり、自分が大事にしている価値観や行動原理、コミュニケーションの特徴などを明らかにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は全回にわたり、リアルタイムで ZOOM を活用した『オンデマンド授業』とする。前後の移動時間を含め、授業に集中して参加できるような場所の確保を行うこと。

講師による一方の講義形式ではなく、授業の大半を学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどを中心としたワークショップ形式で行う。また、学びを深めるために毎回簡単な課題レポートを提出する。課題レポートの記述内容は、授業最後もしくは次回授業の冒頭で全体に共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容（ボランティアアクションとは何か？）、到達目標、成績評価などの説明と質疑応答などを行う
第 2 回	『My ボラ』策定に向けた自己分析	どのような分野や方法でボランティアアクションを実践していくか整理するための自己分析ワークを行う
第 3 回	コミュニケーション	自分のコミュニケーションの特徴を把握するとともに、他者との対話や関係性づくりについて学ぶ
第 4 回	ファシリテーション	グループの対話を促進するためのファシリテーション技術について学ぶ
第 5 回	SDGs と社会課題	SDGs（持続可能な開発目標）の 17 の目標の詳細や取組事例を通じて、社会課題の分野や種類を理解する
第 6 回	社会課題の実態を把握する	社会や地域の課題の実態を把握するために必要な調査/リサーチの手法について学ぶ
第 7 回	外部ゲストによる講演と対話①	具体的な実践事例をつうじて、様々な分野におけるボランティアアクションを学ぶ
第 8 回	NPO・市民活動とボランティア	NPO や市民活動が登場した歴史的背景や、ボランティアアクションの 1 つであるボランティアについて学ぶ
第 9 回	寄付をする	ボランティアアクションの 1 つである寄付について学ぶ
第 10 回	情報発信する	ボランティアアクションの 1 つである情報発信について学ぶ
第 11 回	一歩踏み込んで行動を起こす	ボランティアアクションには多様な形態があることを学ぶ

第 12 回	ボランティアアクションの整理	『My ボラ』の策定に向けて、これまでの授業の学びを整理する
第 13 回	外部ゲストによる講演と対話②	具体的な実践事例をつうじて、様々な分野におけるボランティアアクションを学ぶ
第 14 回	『My ボラ』最終発表	グループに分かれて『My ボラ』の相互発表と評価を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。
 ・インターネットでの情報収集や学生同士の情報交換、ボランティア活動の実践、地域で活動する団体や NPO 等が主催する勉強会・イベントへの参加など、授業以外の時間を有効に使いながら理解を深めるとともに、『My ボラ』策定に向けた自分の関心領域を整理しておく。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。
 授業の都度、「授業支援システム」をつうじて事前に資料を提供する。
 ※必要に応じて、授業当日に自分で印刷したものを用意しておく

【参考書】

『学生のためのボランティア論』 岡本栄一著（大阪ボランティア協会：2006）
 『テキスト市民活動論～ボランティア・NPO の実践から学ぶ』大阪ボランティア協会編（大阪ボランティア協会：2011）
 『NPO のためのマーケティング講座』長浜洋二著（学芸出版社：2014）

【成績評価の方法と基準】

・期末レポート（『My ボラ』の提出（40 %）
 ・毎回の授業内課題レポートの提出（40%）
 ・平常点（授業への主体的参加など）（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

・講師による一方向の講義ではなく、学生同士がディスカッションしたり、意見やアイデアを共有できるようにする
 ・テストによる知識習得ではなく、毎回の課題レポート作成をつうじて、自らの考えやアイデアを深め、整理することに主眼を置く
 ・座学による講義だけでなく、個人ワークやディスカッションによる体感的な学びを取り入れる

【学生が準備すべき機器他】

『My ボラ』の作成提出は、Microsoft PowerPoint にて行う。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設けていないため、授業時やメール等で相談・連絡が可能。大学の行動制限方針がレベル 1 の場合でも、この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】

This class will be provided by the online communication tool, "ZOOM", throughout the semester.

"Voluntary Action" provides students with opportunities to: (1) learn about definition, historical background, types, and current situations of voluntary actions, (2) analyze local and social problems to be solved while identifying local resources to cope with those problems, and (3) make a "My Voluntary Action Plan", specifying an area of interest of local and social problems, action plans, expected outcome, etc.

SOW200JB

ボランティアアクション

長 濱 洋二

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は全回にわたり、リアルタイムで ZOOM を活用した『オンデマンド授業』とする。前後の移動時間を含め、授業に集中して参加できるような場所の確保を行うこと。

社会の課題解決や価値の創造に関する基本的な知識を習得するとともに、ボランティアアクションを実践するための計画書『My ボラ』を策定し発表する。ボランティアアクションとは、地域や社会の課題を自分ごととして捉え、課題解決や新しい価値の創造に向けて自発的・主体的に起こしていくアクションであり、地域で活動する団体や NPO 等でのボランティアにとどまらず、寄付、情報発信、自らの消費行動の見直し、自主イベントの開催、社会起業（団体設立）など多岐にわたる。

※『My ボラ』：取り組む社会課題の実態、自己分析、具体的なアクション、期待される成果などを盛り込んだ計画書

【到達目標】

(1) 個人で実践できる身近なものから組織として取り組む規模の大きなものまで、様々なボランティアアクションがあることを理解する
 (2) 地域や社会にどのような課題があるかを知るとともに、それらの解決に向けて活用できる資源や方法があることを認識できる
 (3) 地域や社会の課題解決に向けた自発的・主体的なアクションプランが策定できる
 (4) ボランティアアクションを実践するにあたり、自分が大事にしている価値観や行動原理、コミュニケーションの特徴などを明らかにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は全回にわたり、リアルタイムで ZOOM を活用した『オンデマンド授業』とする。前後の移動時間を含め、授業に集中して参加できるような場所の確保を行うこと。

講師による一方向の講義形式ではなく、授業の大半を学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどを中心としたワークショップ形式で行う。また、学びを深めるために毎回簡単な課題レポートを提出する。課題レポートの記述内容は、授業最後もしくは次回授業の冒頭で全体に共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容（ボランティアアクションとは何か？）、到達目標、成績評価などの説明と質疑応答などを行う
第 2 回	『My ボラ』策定に向けた自己分析	どのような分野や方法でボランティアアクションを実践していくか整理するための自己分析ワークを行う
第 3 回	コミュニケーション	自分のコミュニケーションの特徴を把握するとともに、他者との対話や関係性づくりについて学ぶ
第 4 回	ファシリテーション	グループの対話を促進するためのファシリテーション技術について学ぶ
第 5 回	SDGs と社会課題	SDGs（持続可能な開発目標）の 17 の目標の詳細や取組事例を通じて、社会課題の分野や種類を理解する
第 6 回	社会課題の実態を把握する	社会や地域の課題の実態を把握するために必要な調査/リサーチの手法について学ぶ
第 7 回	外部ゲストによる講演と対話①	具体的な実践事例をつうじて、様々な分野におけるボランティアアクションを学ぶ
第 8 回	NPO・市民活動とボランティア	NPO や市民活動が登場した歴史的背景や、ボランティアアクションの 1 つであるボランティアについて学ぶ
第 9 回	寄付をする	ボランティアアクションの 1 つである寄付について学ぶ
第 10 回	情報発信する	ボランティアアクションの 1 つである情報発信について学ぶ
第 11 回	一歩踏み込んで行動を起こす	ボランティアアクションには多様な形態があることを学ぶ

発行日：2021/5/1

第 12 回	ボランティアアクションの整理	『My ボラ』の策定に向けて、これまでの授業の学びを整理する
第 13 回	外部ゲストによる講演と対話②	具体的な実践事例をつうじて、様々な分野におけるボランティアアクションを学ぶ
第 14 回	『My ボラ』最終発表	グループに分かれて『My ボラ』の相互発表と評価を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。
・インターネットでの情報収集や学生同士の情報交換、ボランティア活動の実践、地域で活動する団体や NPO 等が主催する勉強会・イベントへの参加など、授業以外の時間を有効に使いながら理解を深めるとともに、『My ボラ』策定に向けた自分の関心領域を整理しておく。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。

授業の都度、「授業支援システム」をつうじて事前に資料を提供する。
※必要に応じて、授業当日に自分で印刷したものを用意しておく

【参考書】

『学生のためのボランティア論』 岡本栄一著（大阪ボランティア協会：2006）
『テキスト市民活動論～ボランティア・NPO の実践から学ぶ』大阪ボランティア協会編（大阪ボランティア協会：2011）
『NPO のためのマーケティング講座』長浜洋二著（学芸出版社：2014）

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート（『My ボラ』）の提出（40 %）
- ・毎回の授業内課題レポートの提出（40%）
- ・平常点（授業への主体的参加など）（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

- ・講師による一方向の講義ではなく、学生同士がディスカッションしたり、意見やアイデアを共有できるようにする
- ・テストによる知識習得ではなく、毎回の課題レポート作成をつうじて、自らの考えやアイデアを深め、整理することに主眼を置く
- ・座学による講義だけでなく、個人ワークやディスカッションによる体感的な学びを取り入れる

【学生が準備すべき機器他】

『My ボラ』の作成提出は、Microsoft PowerPoint にて行う。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設けていないため、授業時やメール等で相談・連絡が可能。大学の行動制限方針がレベル 1 の場合でも、この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】

This class will be provided by the online communication tool, "ZOOM", throughout the semester.

"Voluntary Action" provides students with opportunities to: (1) learn about definition, historical background, types, and current situations of voluntary actions, (2) analyze local and social problems to be solved while identifying local resources to cope with those problems, and (3) make a "My Voluntary Action Plan", specifying an area of interest of local and social problems, action plans, expected outcome, etc.

MAN200JB

コミュニティビジネス論

土肥 将敦

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域における経済的・社会的問題の解決を求めて、地域の人々によって所有、コントロールされ、地域の資源を生かして活動する事業体＝コミュニティ・ビジネスが今求められている。政府・行政の活動、大企業の活動からは漏れ落ちるような地域の多様で個別的なニーズや価値に柔軟に 대응しようとするコミュニティ・ビジネスは、コミュニティの再生という目的と事業活動をつなげていくシビック・アントレプレナーもしくはソーシャル・アントレプレナーによって担われるものであり、ソーシャル・ビジネスの一部分とみなすことができる。本講義では、こうしたコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスの意義や経営課題を明らかにする。

【到達目標】

- ①コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの定義や要件を理解する。
- ②コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの意義や経営課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式である。

毎回講義内でのディスカッションやミニレポートの提出を求める。COVID-19 にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、テキストの紹介、成績評価方法について。
第 2 回	コミュニティ・ビジネス/ソーシャル・ビジネスとは何か①	「コミュニティ・ビジネス」とは何かを理解する。
第 3 回	コミュニティ・ビジネス/ソーシャル・ビジネスとは何か②	「ソーシャル・ビジネス」とは何かを理解する。
第 4 回	事業型 NPO による取り組み①	病児保育の事例を通して理解する。
第 5 回	事業型 NPO による取り組み②	NPO 法人フローレンスの取り組みを通して理解する。
第 6 回	事業型 NPO による取り組み③	貧困問題と健康問題を通して理解する。
第 7 回	事業型 NPO による取り組み④	NPO 法人 TFT の事例を通して理解する。
第 8 回	事業型 NPO による取り組み⑤	アメリカの事業型 NPO の事例を通じて理解する。
第 9 回	株式会社による取り組み①	女性起業家の事例を通して理解する。
第 10 回	株式会社による取り組み②	キャリアマムの事例を通して理解する。
第 11 回	株式会社による取り組み③	大企業とコミュニティの関係を理解する。
第 12 回	株式会社による取り組み④	大企業の具体的なコミュニティ/ソーシャル・ビジネスを通して理解する(1)。
第 13 回	株式会社による取り組み⑤	大企業の具体的なコミュニティ/ソーシャル・ビジネスを通して理解する(2)。
第 14 回	講義全体のまとめ	これまでの講義を通して得られた知見を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃からインターネットなどを通じて、コミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスに関するニュースに積極的に触れることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

谷本寛治編（2015）『ソーシャル・ビジネス・ケース：少子高齢化時代のソーシャル・イノベーション』中央経済社

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ミニレポート 30%、平常点 40%、期末レポート 30%。
 具体的な講義方法と基準等は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多くのゲストスピーカーをお招きし、彼らとの対話を通してダイナミックな講義を目指す。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to develop students' business skills and knowledge in problem solving, community business, social business and for-profit/non-profit organizations.

ENG200JB

社会的包摂論

水野 雅男

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バリアフリーあるいは社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を多様な観点から把握することで、すべての人びとが健康で文化的な生活をおくる地域社会のあり方について理解を深める。特に、その実現に向けた各セクター（行政・民間・市民）の役割分担と連携について注目する。

【到達目標】

バリアフリーやユニバーサルデザイン、ソーシャル・インクルージョンが出現してきた社会的背景ならびにそれらの概念の違いを理解できるようにする。さらに、国内外の政策の変遷を辿り、市民セクターの地域づくり現場での関わり方や今後の在り方を理解し、自ら行動する意識付けを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。
 国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。映像資料を視聴した後、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめる。
 講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	社会的包摂の概念の紹介
第 2 回	バリアフリー政策①国内	バリアフリー、国内の政策の変遷
第 3 回	バリアフリー政策②米国	日米のバリアフリー政策の相違
第 4 回	移動と UD ①	国内の交通施設や公共交通機関
第 5 回	移動と UD ②	欧州の交通政策とトラム
第 6 回	包摂的なまちづくり①	海外の交通計画・土地利用計画における社会的包摂
第 7 回	包摂的なまちづくり②	住まいにおける社会的包摂
第 8 回	障害者の能力①	エイブルアート
第 9 回	障害者の能力②	障害者スポーツ
第 10 回	障害者のシゴト①	障害者の実態と障害者差別解消法
第 11 回	障害者のシゴト②	我が国のホームレス政策と NPO 活動
第 12 回	ホームレス支援①	国内外のホームレス政策の相違
第 13 回	ホームレス支援②	学生によるホームレス支援アプローチ
第 14 回	試験・まとめと解説	レポートの授業内提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回翌週のテーマを提示するので、授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。

学習支援システムに当日の教材を掲載するので、充分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる」川内美彦、学芸出版社、2007 年
 「インクルーシブデザイン 社会の課題を解決する参加型デザイン」ジュリア・カセム他編、学芸出版社、2014 年
 「人間都市クリチバ」服部圭郎、学芸出版社、2004 年
 「ストラスブールのまちづくり」ヴァンソン藤井由実、学芸出版社、2011 年
 「フライブルクのまちづくり」村上敦、学芸出版社、2007 年
 「英国発グラウンドワーク」渡辺豊博・松下重雄、春風社、2010 年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70% ②レポート 30% ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度の授業改善アンケートは現在集計中、結果を活用していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに教材として掲載する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わった中で、バリアフリータウン計画を策定した経験に基づき、プランニングの視点を授業に導入する。

【Outline and objectives】

By understanding barrier-free or social inclusion from various perspectives, we deepen our understanding of the community where all people live a healthy and cultural life. Especially, pay attention to the role sharing and cooperation of administrative, private, and citizens toward realization.

SOW200JB

福祉国家論

布川 日佐史

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コロナ禍の下で格差と貧困が拡大し、福祉国家の存在意義が問われています。

日本の社会保障制度の特徴を踏まえて、受講生各自の視点から、福祉国家が果たすべき役割と課題について検討します。

【到達目標】

コロナ禍で起きてきた問題について、実態と政策対応について各自の視点でまとめ、論じられるようになる。

日本の福祉国家の特徴と課題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①コロナ禍での格差と貧困の拡大について、説明します。
- ②日本の福祉国家の特徴と、コロナ対策の「日本モデル」について説明します。
- ③これらをもとに各自が自分の取り組むテーマを設定し、独自に資料を収集し、検討をすすめ、成果を発表し、意見交換を行います。
- ④オンライン授業を一部取り入れます。
- ⑤リアクションペーパー等におけるコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	福祉国家の概要	ガイダンス
第 2 回	コロナ禍で何が起きたか	各分野の資料の検討、まとめ提出
第 3 回	日本のコロナ対策の概要	施策の概要と「日本モデル」の検討
第 4 回	個人テーマ決定	自分のテーマを決め、登録する
第 5 回	福祉国家の意義・機能	①生活安定機能 ②格差是正・再分配機能
第 6 回	日本型福祉国家の特徴①	「皆保険・皆年金型」 社会保険と低所得者対策
第 7 回	日本型福祉国家の特徴②	生活保護及び生活困窮者自立支援制度
第 8 回	ドイツ福祉国家との比較	ドイツ福祉国家とコロナ対策
第 9 回	個人テーマの中間報告	各自の進展状況報告
第 10 回	福祉国家をめぐる論点	市場化・「再商品化」 投資型福祉国家 格差是正・公正な分配
第 11 回	個人研究報告①	個人研究成果報告
第 12 回	個人研究報告②	個人研究成果報告
第 13 回	個人研究まとめ・総括	全体まとめ
第 14 回	講義まとめ	総括レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①各自が具体的テーマを設定し、資料収集と検討を進め、発表の準備を行います。

②本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

各自のテーマに沿った参考資料、参考文献については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30% 個人発表：30% 期末まとめ：40%

【学生の意見等からの気づき】

各自のテーマ設定を丁寧に進めます。

【Outline and objectives】

The expansion of disparity and poverty makes the role of the welfare state more important.

This lecture focuses on the characteristics of the social security system in Japan and aims to understand the roles and tasks of welfare state.

SOW200JB

ケアマネジメント論

柴崎 祐美

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ケアマネジメント概念を国際的な視点から理解し、わが国におけるケアマネジメントの実態とその課題について学習する。

【到達目標】

- ・ケアマネジメントの定義や構造、機能を理解し、説明することができる。
- ・介護保険制度におけるケアマネジメントの具体的なプロセスを説明、展開することができる。
- ・児童福祉、障害者福祉分野等、さまざまな対象や場面で展開されるケアマネジメントの特性を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体としつつ、適宜、映像教材の視聴、演習、グループディスカッションを実施する。

授業の始めに前回のリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

授業に関する連絡、課題提出は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、ケアマネジメントの背景	授業の進め方と評価方法、ケアマネジメントの背景の説明
第2回	ケアマネジメントの概念および定義	国際的な概念の理解、日本における定義の理解
第3回	ケアマネジメントの構造、機能	ケアマネジメントの構成要素と機能の概略の理解
第4回	ケアマネジメントの過程	ケアマネジメントの過程の理解
第5回	自立支援	自立の捉え方、エンパワメント、ストレングスモデルの理解
第6回	ニーズの把握と目標設定	生活ニーズとサービスニーズの構造を整理し、社会資源に結びつける過程を検討
第7回	ケアマネジメントにおける家族の位置づけ	社会資源及び支援対象者としての家族の位置づけの確認。介護負担軽減への支援方法の検討
第8回	地域包括ケアシステムとケアマネジメント	地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントの位置、コミュニティワークとの関係
第9回	介護保険制度とケアマネジメント①	認知症高齢者のケアマネジメントに関する事例検討、演習
第10回	介護保険制度とケアマネジメント②	介護予防ケアマネジメントと地域支援事業に関する事例検討、演習
第11回	介護保険制度とケアマネジメント③	高齢障害者のケアマネジメントの連続性、相談支援専門員との連携に着目した事例検討、演習
第12回	児童福祉とケアマネジメント	医療的ケアを要する児童の地域生活支援の事例検討、演習
第13回	ケアマネジメントの価値と倫理	ケアマネジャーの倫理綱領、ケアプラン作成時の倫理的ジレンマ
第14回	ケアマネジメントの現状と展望	授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
- ・利用者の生活を取り巻く環境、法制度は変化しています。日ごろから新聞記事や文献・雑誌等から関連する情報収集に努めてください。

【テキスト（教科書）】

指定なし。必要に応じてプリントや資料を配布する。

【参考書】

- ・白澤政和（2018）『ケアマネジメントの本質:生活支援のあり方と実践方法』中央法規出版
- ・社会福祉士養成テキスト『相談援助の理論と方法Ⅰ、Ⅱ』（出版社は問わない、最新刊を参照することが望ましい）

【成績評価の方法と基準】

- ①リアクションペーパー 20%
- ②ケアプラン作成演習（小レポート） 30%

②筆記試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

【Outline and objectives】

Understand the concept of care management from international perspective and learn about the actual condition and issues of care management in Japan.

SOW300JB

社会福祉原理

平野 寛弥

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉政策の歴史的展開や理論的・思想的根拠を学ぶとともに、現在の福祉政策に向けられる批判や直面する課題について検討する。

【到達目標】

福祉政策やひとの“福祉”についての知識を深めるとともに、様々な観点からそれらのあり方を検討し、自分なりの見解を持つことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

なるべく具体的な事例を題材にしつつ、現実を捉える際の視点や枠組みを提供する。その意味では知識を身につけることよりも思考力や価値観を身につけることを重視している。

また、授業でのコメントや質問については、できる限り今回の授業の冒頭にて共有・回答していく予定である。

なお秋学期は、オンラインまたは対面での開講となる（詳細は未定）ため、それに伴う各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 現代社会における福祉政策	現代社会における福祉政策の動向とその背後にある様々な理論、思想や哲学の存在を知る。
第 2 回	福祉政策の歴史的展開① 救貧法から福祉国家の形成へ	イギリスの福祉政策の歴史（16 世紀半ばから 20 世紀前半）について概観する。
第 3 回	福祉政策の歴史的展開② 戦後福祉国家の黄金時代	戦後の福祉国家の展開をイギリスを事例に概観する。
第 4 回	福祉政策の歴史的展開③ 福祉国家の危機と再編	1970 年代後半から 80 年代にかけて、先進諸国が直面した福祉国家の危機とそれに伴う福祉国家再編の動きを概観する。
第 5 回	現代の福祉国家① 先進福祉国家（西欧・アメリカ・日本）	20 世紀後半に成立した先進諸国における福祉国家の諸類型について理解する。
第 6 回	現代の福祉国家② 新興福祉国家群（東アジア・東欧・南米など）	先進諸国に続いて経済発展を遂げた新興諸国における福祉国家の特徴について理解する。
第 7 回	福祉政策の理論・思想① 産業化論と福祉レジーム論	福祉政策の発展を説明する代表的な理論とされる産業化論と福祉レジーム論について理解する。
第 8 回	福祉政策の理論・思想② シティズンシップ論	福祉政策の理論的根拠の一つとされる「シティズンシップ」概念について理解する。
第 9 回	福祉政策の理論・思想③ ジョン・ロールズとアマルティア・セン	福祉政策の哲学的基礎付けを提供したとされるジョン・ロールズとアマルティア・センの議論について理解する。
第 10 回	福祉政策をめぐる論点① 貧困：絶対的貧困と相対的貧困、剥奪	現代の福祉政策におけるイシューの一つである貧困について理解する。
第 11 回	福祉政策をめぐる論点② 社会的排除と包摂：排除言説と包摂戦略の類型	現代の福祉政策におけるイシューの一つである社会的排除とそれに対する包摂戦略の諸類型について理解する。
第 12 回	福祉政策をめぐる論点③ 自立／依存：ケアと自律、パターナリズム	現代の福祉政策におけるイシューの一つである自立と依存という二分法の是非、またそこに密接に関わるケアと自律について理解する。
第 13 回	福祉政策をめぐる論点④ 再分配と承認：ジェンダー・人種・エスニシティ	現代の福祉政策におけるイシューの一つである再分配と承認の係性、および「ひと」野福祉にとっての両者の重要性について理解する。

第 14 回 福祉政策をめぐる論点⑤ 現代の福祉政策における最も重要なイシューの一つである自由とセキュリティ：監視国家、リパタリアン・パターナリズム ティの係性について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習をし、全体の論理の流れを理解する。下記に示した参考書や、授業で示した参考文献で興味を持ったものを読む。本科目の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。PowerPoint を用いた講義であり、ハンドアウトを配布して授業を行う。

【参考書】

個別のテーマに関するものについては各授業時に適宜紹介するが、授業全体を通じて関連するものとしては以下の 2 冊を挙げておく。

『ここから始める政治理論（有斐閣ストゥディア）』（田村哲樹・松元雅和、乙部延剛、山崎望著、2017 年、有斐閣）

『現代福祉国家と自由：ポスト・リベラリズムの展望』（金田耕一著、2000 年、新評論）

【成績評価の方法と基準】

①評価方法 各授業時のリアクションペーパー（30 %）、期末レポート（70%）

②採点基準：

<リアクションペーパー>

各回の講義内容の理解度を評価するとともに、そのうえで各自の見解を論理的・説得的に展開できているかどうかを評価する。

<期末レポート>

各自の関心のあるテーマにそってまとめてもらう予定のため、選択したテーマについての理解度とともに、それについての自身の見解の説得力を吟味する。また、レポートの文章の論理構成についても重視する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度からの担当となるため、フィードバックできるものがないが、授業でのコメントや質問については、できる限り今回の授業の冒頭にて共有・回答していく予定である。

【その他の重要事項】

- ・日頃から福祉政策の動向に関心を持つようにし、情報収集を怠らない
- ・疑問については文献や資料で確認する
- ・授業時に紹介された参考文献を読む

【Outline and objectives】

1. Understanding welfare policy from two perspectives below;
 - its historical development
 - its theoretical and ethical foundation
2. Examining controversial arguments and issues over welfare policy in modern times

ECN300JB

地域経済論

図司 直也

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、積極的に地域づくりを進める上で不可欠な視点である「地域経済」に焦点を当て、地域資源をもとにした産業基盤（とりわけ農山村地域の主要産業である第1次産業）への理解を深め、グローバル化に直面する中での地場産業の変化と課題、また対応する試みを学ぶ。

【到達目標】

講義を通して、まず、グローバル化に直面する地域経済の状況、また今日に至る地域経済の展開過程とそこで生じた諸問題についての基礎を理解できる。その上で、地域資源をもとにした産業形成として第1次産業である農林業を中心に、関連するテーマを通して、経済活動と地域との関係を捉えることができる。日本の地域経済や地場産業における歴史的背景を踏まえ、グローバル経済と密接な現状を理解し、地域を核とした経済循環のあり方を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、リアクションペーパーを通じて、受講生の捉え方を全体でも共有するとともに、質疑にも応えていく。なお、講義は以下の内容で進める予定であるが、進度やゲスト講師によって変更もあり得る。リアクションペーパー等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域問題を考える糸口としての地域経済を理解する。
第2回	地域経済の形成過程（戦後）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯（戦後）を理解する。
第3回	地域経済の形成過程（高度経済成長期）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯（高度成長期）を理解する。
第4回	地域経済の形成過程（低成長期）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯（低成長期）を理解する。
第5回	地域経済の形成過程（バブル期以降）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯（バブル期以降）を理解する。
第6回	農業・農村の現場から	第1次産業である農業と地域との関係を学ぶ。
第7回	林業・山村の現場から	第1次産業である林業と地域との関係を学ぶ。
第8回	経済のグローバル化と地域インパクト	1980年代以降の地域経済が直面するグローバル化の背景を学ぶ。
第9回	産業構造の転換と地域経済構造	1980年代以降の地域経済が直面する産業構造転換の背景を学ぶ。
第10回	地域再生の理論と農山漁村	地域間格差が生じる背景について学ぶ。
第11回	内発的発展の道筋を考える	農山漁村地域の自立に向けたプロセスを学ぶ。
第12回	コミュニティ政策の潮流	コミュニティ政策の展開を学ぶ。
第13回	コミュニティと地域経済の再生	地域資源管理の担い手形成を考える。
第14回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習には、各2時間程度を確保してもらいたい。日頃から、地域に内在する様々な問題に関心を寄せ、その課題を乗り越える取り組みや知恵に着目しておく。講義後に、授業内容について復習し、改めてテーマについて考えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義内において配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

VTR など交えて、時代や地域性の観点からも地域経済の実態が視覚的にも理解できるよう工夫を重ねていく。

【Outline and objectives】

In this lecture, we focus on the "regional economy", which is an essential viewpoint for proactively promoting community development. And we also focus on the local economy based on regional resources (in particular the primary industry which is the major industry in rural areas and villages). we learn the changes and challenges of the local industry in the face of globalization, and the corresponding attempts.

CUM300JB

地域文化政策論

須田 英一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域文化政策の実態とあり方を事例を通して学びます。この授業は地域社会に Well-being 社会を実現するための政策づくりの一環として学んでほしいと思います。

【到達目標】

文化活動が人間にとって根源的な欲求であり、Well-being 社会を実現する文化活動に対して、行政がどのようにに関わり、取り組みがなされているのかを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文化の捉え方や文化政策を実現させるためのシステム、文化に関わる法律・条令・行政組織などを述べ、広く文化行政の仕組みを講じます。また、文化政策の重要な一支柱をなす文化財政策に関して、文化財の概要及び文化財の保存と活用について具体例を論じます。さらに、近年における文化財政策の取り組みや新たな視点を論じ、心豊かな Well-being 社会を実現するための地域文化政策のあり方を具体的に学びます。授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法など
第 2 回	Well-being と文化政策	Well-being 実現のための文化と政策
第 3 回	文化政策実現のシステム	自治体の基本構想・基本計画策定
第 4 回	文化に関わる法と行政組織 (1)	人間の営為と基本的人権保障の規定
第 5 回	文化に関わる法と行政組織 (2)	文化関係法の体系と内容
第 6 回	文化に関わる法と行政組織 (3)	自治体の文化関係条例・行政組織
第 7 回	エコミュージアムの機能と地域遺産保護	博物館、エコミュージアム
第 8 回	文化財の類型と保護の歩み	明治期・大正期・昭和戦前期の文化財保護、文化財保護法の制定
第 9 回	文化財の保存と活用 (1)	史跡の保存と活用の実態
第 10 回	文化財の保存と活用 (2)	伝統的建造物群の保存と活用の実態
第 11 回	文化財の保存と活用 (3)	近代の文化遺産の保存と活用の実態
第 12 回	文化財の保存と活用 (4)	名勝・天然記念物・民俗文化財の保存と活用の実態
第 13 回	近年の文化財政策の同行	日本遺産事業、文化芸術基本法
第 14 回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業はほぼテキストに沿って進めるので、授業計画に示されたテーマ・内容にもとづき予習・復習を行うこと。また、新聞・雑誌などに掲載される地域文化政策に関連する記事に関心を持ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売）

【参考書】

馬場憲一（1998）『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）、川村恒明監修・著（2002）『文化財政策概論』（東海大学出版会、3500 円）を挙げておきますが、その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
 ・試験方法：中間に 1 回と期末に課題レポート提出。
 ・評価方法：平常点（リアクションペーパー）30%、課題レポート 70 %により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。

・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

専門展開科目の「文化環境創造論」は、本授業の「応用編」的な内容も含んでいますので、セットで受講することをお勧めします。特に公務員を目指す皆さんには必ず受講してほしいと思います。

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。

【Outline and objectives】

This lecture learn about the actual state and the way of regional culture policy through case studies. I would like you to learn as part of policy making to realize Well-being Society in the community.

ARSk300JB

地方自治論

中嶋 学

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都道府県、市町村、特別区といった自治体が地域における政治と行政を担っており、地域の課題・問題を解決するために、政策を作成し、実施しています。しかし、近年、自治体が解決を求められている子育て・教育、高齢者福祉、まちづくりなどの課題・問題の多くは、複雑な要因が絡み合い、既存の解決策が通用しない「厄介な問題（wicked problem）」であり、その解決のために、自治体は、企業、NPO、住民と連携・協働することが必要になります。この講義では、地域の課題・問題の解決に向けて、多様な組織や人が参加し、それぞれの専門性を活かして連携・協働するための仕組み、つまり、政策を形成・実施する体制を、どのようにデザインし、どのようにマネジメントするかについて学習します。

【到達目標】

- ・地方自治論の基礎的な知識を習得する。
- ・自治体が直面している問題を解決するための政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメントについて論理的に思考するための概念・枠組みを習得する。
- ・概念・枠組みを活用し、自治体が直面している問題を解決するための政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメントについて考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域の課題・問題の解決に向けて、多様な組織や人が参加して政策を形成・実施する体制のデザイン・マネジメントについての理解を深めるために、組織間関係論の説明を中心に授業を進めます。1 回の授業で 1 つの理論をカバーし、各回の授業では、まず、その回で取り扱う理論の概要、重要概念、強み・弱みなどの説明を行い、次に、その理論を公的部門に応用した重要業績の説明を行います。

授業に進展などに応じて内容の入れ替え、変更などもありえます。また、履修人数によっては、双方向型の形態を用いることやアクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施も考慮します。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバスの記載事項の確認および授業の進め方の説明。
第 2 回	地方自治の担い手①	首長、議会、公務員、住民の役割についての説明。
第 3 回	地方自治の担い手②	「ガバメント」から「ガバナンス」へという標語で表わされる地方自治の担い手の変化についての説明。
第 4 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント①	取引費用理論についての説明。
第 5 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント②	エージェンシー理論についての説明。
第 6 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント③	資源依存理論についての説明。
第 7 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント④	組織エコロジー理論についての説明。
第 8 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑤	制度理論についての説明。
第 9 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑥	ネットワーク理論についての説明。
第 10 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑦	組織（間）信頼についての説明。
第 11 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑧	組織（間）学習についての説明。

第 12 回 政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑨ 合意形成についての説明。

第 13 回 子育て・教育に関する政策形成・実施体制 組織間関係論の観点による子育て・教育に関する政策の考察。

第 14 回 高齢者福祉に関する政策形成・実施体制 組織間関係論の観点による高齢者福祉に関する政策の考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 時間程度かけて授業時に配布する資料を読んでください。該当箇所の学習に 1 時間程度割くことができれば、授業の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

授業中に資料を配布します。

【参考書】

- ・北村巨・青木栄一・平野淳一（2017）『地方自治論－2 つの自律性のほざまで』有斐閣
- ・磯崎初仁・金井利之・伊藤正次（2020）『ホーンブック 地方自治 [新版]』北樹出版
- ・秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山 俊哉（2020）『公共政策学の基礎 [第 3 版]』有斐閣
- ・渡辺深（2007）『組織社会学』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート 70 %
（データなどの客観的な事実に基づいた議論が展開されているか、論理的な思考が示されているか、独自の考察がみられるか、レポートの形式が適切かを評価します）
- ・小レポート 30 %
（授業内容への理解が示されているか、自分なりの考察が記述されているかを評価します）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Local governments face complex problems (e.g., health and human services, economic development), which no single organization can address. For example, the well-being of mentally ill children and youth depends on comprehensive, integrated, and individualized services including mental health treatments, social services, education, and vocational services, rather than a single excellent service in any of the service areas. Thus, local governments need work with business and non-profit sectors to make and implement public policy; and, goal-directed inter-organizational networks, composed of three or more organizations to collectively achieve a common goal, have become a prevalent organizational arrangement. Such goal-directed inter-organizational networks address complex problems, by integrating resources, information, expertise, and perspectives possessed by differently-endowed organizations. In public administration and policy research, they are known as “collaborative networks.” While the involvement of diverse organizations does enhance the capacity of collaborative networks to address complex problems, it also brings about negative consequences — namely difficulties of cooperation and coordination resulting from the differing (sometimes, even conflicting) goals, strategies, perceptions, and ways of working among diverse network participants. Because of the cooperation and coordination challenges, it is recognized that network management is essential to produce satisfactory network outputs and outcomes. This class is designed with an emphasis on two objectives: (1) understanding key concepts in inter-organizational theory and (2) applying the concepts for designing and managing collaborative networks.

ENG300JB

都市住宅政策論

水野 雅男

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】

都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。授業の冒頭で、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめるとともに、いくつかの意見を紹介し合う。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第 2 回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第 3 回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第 4 回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第 5 回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第 6 回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第 7 回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第 8 回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第 9 回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第 10 回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第 11 回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策と NPO
第 12 回	海外の住宅政策②	英国ドイツ・スウェーデンの住宅政策とまちづくり事業体
第 13 回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第 14 回	試験・まとめと解説	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。
学習支援システムに前週の教材を掲載しているので、十分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009 年
「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009 年
「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014 年
「欧米の住宅政策—イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999 年
「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009 年
「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009 年
「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK 出版、2011 年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70 % ②レポート 30 % ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】

授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わった中で、NPO 法人金澤町家研究会、NPO 法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

【Outline and objectives】

Learn about housing policy deeply involved in daily life and important for regional landscape and social welfare. Learn through how domestic policies have been addressed, through comparing domestic and overseas and examples of citizen activity.

SOW300JC

国際協力論

佐野 竜平

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（社会系）
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講とする。対面はオンラインで同時配信する【ハイフレックス型授業】にて行う。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	SDGs と現代福祉①	SDGs と国際社会に関する学び①
第 3 回	SDGs と現代福祉②	SDGs と国際社会に関する意見交換①
第 4 回	SDGs と現代福祉③	SDGs と国際社会に関する学び②
第 5 回	SDGs と現代福祉④	SDGs と国際社会に関する意見交換②
第 6 回	循環型の国際協力①	現代福祉に関わる実際の現場を学ぶ
第 7 回	循環型の国際協力②	学生による斬新な取り組みを検討
第 8 回	国際機関と国際協力①	国連による現代福祉に関する学び
第 9 回	国際機関と国際協力②	国連による現代福祉に関する意見交換
第 10 回	日本政府と国際協力①	日本政府による現代福祉に関する学び
第 11 回	日本政府と国際協力②	日本政府による現代福祉に関する意見交換
第 12 回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する学び
第 13 回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する意見交換
第 14 回	発表・講義の振り返り	発表と学びのレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

外務省 開発協力白書。その他、必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）：60 %、発表：40 %

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】

With a focus on inclusive development, basic theories, practices and important findings on international cooperation and development in developing world are to be introduced.

SOW300JB

国際協力論

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講とする。対面はオンラインで同時配信する【ハイフレックス型授業】にて行う。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	SDGs と現代福祉①	SDGs と国際社会に関する学び①
第 3 回	SDGs と現代福祉②	SDGs と国際社会に関する意見交換①
第 4 回	SDGs と現代福祉③	SDGs と国際社会に関する学び②
第 5 回	SDGs と現代福祉④	SDGs と国際社会に関する意見交換②
第 6 回	循環型の国際協力①	現代福祉に関わる実際の現場を学ぶ
第 7 回	循環型の国際協力②	学生による斬新な取り組みを検討
第 8 回	国際機関と国際協力①	国連による現代福祉に関する学び
第 9 回	国際機関と国際協力②	国連による現代福祉に関する意見交換
第 10 回	日本政府と国際協力①	日本政府による現代福祉に関する学び
第 11 回	日本政府と国際協力②	日本政府による現代福祉に関する意見交換
第 12 回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する学び
第 13 回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する意見交換
第 14 回	発表・講義の振り返り	発表と学びのレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

外務省 開発協力白書。その他、必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）：60 %、発表：40 %

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】

With a focus on inclusive development, basic theories, practices and important findings on international cooperation and development in developing world are to be introduced.

SOW300JB

福祉の思想と歴史

白川 耕一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

題目「福祉国家—形成・展開・未来—」

どの国にあっても、福祉国家の改革が焦眉の課題である。本講義では、20 世紀における英・独の福祉国家の歴史分析をおこない、それを通じて福祉国家の未来を考えたい。

【到達目標】

- ・イギリス等を事例に、福祉国家の形成および発展を説明することができる。
- ・時代によって変化する福祉の目標を説明することができる。
- ・社会的包摂、社会的排除、ワークフェアなどのキーワードを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は口頭による説明と黒板書きを中心にすすめ、適宜資料プリントを配布する。

課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義概要の説明
第 2 回	福祉国家への道	社会保険の導入
第 3 回	戦争と福祉国家	世界大戦のインパクト
第 4 回	戦後の再建	1940 年代の動向
第 5 回	50 年代の改革	社会保険改革
第 6 回	福祉国家の「頂点」	1970 年代の改革と停滞
第 7 回	新しい社会問題	貧困への再発見
第 8 回	高齢者問題	高齢者の貧困
第 9 回	福祉と哲学	福祉と自由の両立
第 10 回	外国人と福祉国家	外国人労働者
第 11 回	家族の変容と改革	1990 年代の改革
第 12 回	福祉国家改革	福祉から就労へ
第 13 回	移民と福祉	難民危機（2015 年）
第 14 回	総括と展望	福祉国家の未来

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義内容に関係した文献目録を適宜配布するので、講義ベースに合わせて、文献を読む。例えば、第 2 回と第 3 回については、セイン『イギリス福祉国家の社会史』、第 4 回から第 12 回までは、二宮『福祉国家と新自由主義』、第 9 回から第 13 回までは、水島『反転する福祉国家』、田中『福祉政治史』を熟読の上、理解すること。講義の予習に 1 時間、授業後の復習のために 3 時間の家庭学習を必要とする。

・山崎史郎『人口減少と社会保障』は、講義受講前に読んでおくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

菊池馨実『社会保障再考』（岩波新書 2019 年）

田中拓道『福祉政治史』（勁草書房 2017 年）

二宮元『福祉国家と新自由主義—イギリス現代国家の構造とその再編』（旬報社 2014 年）

平岡公一『イギリスの社会福祉と政策研究』（ミネルヴァ書房 2003 年）

水島治郎『反転する福祉国家—オランダモデルの光と影』（岩波書店 2012 年）

山崎史郎『人口減少と社会保障』（中公新書 2017 年）

バット・セイン『イギリス福祉国家の社会史』（ミネルヴァ書房 2000 年）

【成績評価の方法と基準】

1. 学期末に論述形式の筆記試験をおこなう。
2. 筆記試験の得点（7 割）、平常点（3 割）で成績評価を決定する。

【学生の意見等からの気づき】

板書があまりシステマチックではありませんが、板書自体が目的ではなく、口頭による説明の補助という位置づけですので、ご理解ください。説明が早口にならないように気を付けたいと思います。

【Outline and objectives】

Welfare State- Past, Present, and Future-

The reform of welfare system is a problem of great urgency in all the developed countries because of big changes of economy, family, and employment. In this lecture the history of the European welfare states in the 20th century is treated. Through the survey we will have a view on the future of welfare states.

ENV300JB

環境政策論

藤澤 浩子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模で発生しているさまざまな環境問題の解決のために必要とされる環境政策の形成と実施には、市民の主体的な関与と自発的な実践活動が不可欠です。身近な環境を知り、そこで生じている問題について学ぶことは、そうした取り組みの基礎として極めて重要です。この授業では、環境および環境政策に関する基礎的な内容や取り組み事例、初歩的な体験を通して理解を深め、身近な環境を愛し環境問題の解決に自ら取組む市民を育成することを目的とします。

【到達目標】

学習や発表、実践体験が、受講者自身の気づきや継続的な取り組みの契機となることを目標とします。受講生には、身のまわりの環境にふれ、そこから何かを感じとり自ら動く姿勢、自分で調べ正しい情報を判断する力、それを他者に伝える力、仲間の発表に耳を傾け共有する力を、身につけ高めていこうとする姿勢を求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

環境政策はP D C Aサイクルの各段階で市民による関与が重要であり、そのためには市民レベルでの学習・実践活動が不可欠です。そこで本講座は、市民による環境学習を柱に、環境政策及び環境教育の理念・歴史的経緯・基礎知識・方法論等、基本的事項について解説していく予定です。課題等の提出・フィードバックは、講義時または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 1 講義の進め方等の確認とミニフィールドワーク (FW)	ガイダンス及び環境学習経験の確認、キャンパス周辺を歩き、身近な自然的・歴史的環境にふれる。宿題：FW後、フィールドノートを作成提出する。
第 2 回	オリエンテーション 2 身近な環境に関するイメージの共有	フィールドノート及び「人間をとりまく環境のイメージ」を共有する
第 3 回	SDGs について	SDGs 関連情報（国際的取り組み経過・現状、日本の環境政策における位置づけ等）の解説及び関心共有ワーク
第 4 回	環境・環境政策の理念	環境とは、環境政策とはどのようなものか、環境問題への取り組みの歴史的経緯等を踏まえて解説する
第 5 回	環境に関する基礎知識	地球規模の環境問題とその対策を知る上で必要な、地球に関する基礎知識と問題となっている諸テーマについて概説する
第 6 回	環境問題を知る 1	温暖化、エネルギー問題
第 7 回	環境問題を知る 2	生物多様性、地球環境問題
第 8 回	環境問題を知る 3	循環型社会、地域環境問題
第 9 回	環境問題を知る 4	化学物質、震災関連の問題等
第 10 回	環境政策の原則・手法	環境政策の原則・手法、環境学習、環境アセスメント等に関する概説
第 11 回	各主体の役割・活動 1	各主体の役割、参加・協働の手法、国際機関・政府セクターの取り組み、企業の取り組み
第 12 回	各主体の役割・活動 2	市民（個人、NPO 等）の取り組み、身近な環境に関する市民の取り組み事例（DVD 視聴等）
第 13 回	身近な環境保全の取り組み 実践体験 全体ワーク 1	かるた制作（読み札づくり）
第 14 回	身近な環境保全の取り組み 実践体験 全体ワーク 2	かるた制作（絵札づくり）と試用（場合によっては、読書レポート発表会）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在までに受けた環境教育や関心をもった環境問題等を整理しておく。関心のあるテーマとその背景について、新聞や書籍、インターネット等から情報を得る。多摩キャンパス周辺の環境に目を向ける。関心のあるテーマやフィールドでの行事や活動に、積極的に参加してみる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

東京商工会議所（2021）『環境社会検定試験 eco 検定公式テキスト 改訂 8 版』。その他、必要に応じて講義時にプリントを配布します。

【参考書】

倉阪秀史（2014）『環境政策論（第 3 版）』信山社、竹本和彦編（2020）『環境政策論講義：SDGs 達成に向けて』東京大学出版会、日本環境教育学会編（2013）『環境教育辞典』教育出版、藤澤浩子著（2011）『自然保護分野の市民活動の研究』芙蓉書房出版、他、講義時に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 出欠確認：毎回リアクションペーパーをとります。
2. 試験方法：随時行う小テストと読書レポート
3. 採点基準：リアクションペーパー及び小テスト、かるた制作への参加等で把握する平常点 70 %、提出課題（フィールドノート、読書レポート）30 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

過去 9 年間、受講生との話し合いをもとにキャンパス周辺でのフィールドワークとグループワークやクラス単位での全体ワーク（ワークショップ）を行ってきました。昨年度（2020 年度）はオンライン形式での開講となり行えませんでした。過去 9 年間の全体ワークは、かるた制作を行い大変好評でした。長年通学しているキャンパスの周辺をあらためて見つめ、受講者間で共有する機会をもつことは、地に足のついた取り組みにつながるため、対面でアクティブラーニングが可能な状況であれば、受講者数に応じた形式で実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出及び資料配布等のために学習支援システムを活用する予定です。

【その他の重要事項】

受講者数および授業の展開により若干の変更があり得ます。新型コロナウイルスリスクを考慮し、グループワーク形式の取り組みは見合わせます。オンライン実施等の可能性を考慮し、共通テキストをベースに講義を進行します。

【Outline and objectives】

Citizen's independent participation and voluntary activity are indispensable for the environmental policy to settle a global environmental problem.

The purpose of this lecture is to bring the citizen who works on a solution of a close environmental issue voluntarily up.

As a basis of citizen's voluntary activity, it's very important to learn about environment/environmental problem in a close area.

In this lecture, students learn basic knowledge of the environment/environmental problem and policy, and then will experience a few activity by the campus.

SOW300JB

医療政策論

小磯 明

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業での意見交換を通じて、医療政策の重要性を認識する

【到達目標】

医療政策とは何か、を理解するとともに、日常生活の中で、医療政策・制度がどのような役割を果たしているか、を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で実施する。授業への学生の積極的参加を促すために、リアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーでの質問・意見については、翌週の授業の冒頭で答えるようにする。授業形態が変更になる場合、それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義のねらい、授業の進め方など
2	医療政策の定義と周辺学問	「医療政策とは何か」ということと周辺領域の学問について検討する
3	医療提供体制	現在の医療提供体制について設立主体や他国との違いを検討する
4	医療保険のしくみ	日本の医療保険のしくみについて理解するとともに他国との違いを検討する
5	診療報酬制度	日本の診療報酬制度について理解するとともに他国との違いを検討する
6	医療費の動向	日本の医療費について理解するとともに他国と比較検討する
7	医療の質	医療の質とは何かについて理解するとともに質向上の取り組みを検討する
8	保険者の役割	日本の保険者の役割について理解するとともに他国との違いを検討する
9	高齢者医療制度	高齢者医療制度の歴史と現在の仕組みを理解する
10	医療費の患者負担	医療費における患者負担について理解するとともに他国との違いを検討する
11	医療改革	日本の医療改革について理解する
12	医療の患者満足	医療の患者満足について理解する
13	国民皆保険制度	国民皆保険制度について理解するとともに、他国との違いを検討する
14	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムについて理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に必要ないが、医療や社会保障に関する新聞報道等に注目してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教材書は使用しない。毎回、教材資料を配布する

【参考書】

小磯明『医療機能分化と連携』御茶の水書房,2013 年.
小磯明『高齢者医療と介護看護』御茶の水書房,2016 年.
小磯明『イギリスの認知症国家戦略』同時代社,2017 年.
小磯明『フランスの医療福祉改革』日本評論社,2019 年.
小磯明『イギリスの医療制度改革』同時代社,2019 年.

【成績評価の方法と基準】

授業平常点 50 %、レポート提出 50 %。レポートは 1 回とし、内容を総合的に判断する。履修者は必ず、レポートを提出すること。基本は対面授業を考えているが、必要に応じてオンライン授業とする場合もある。その場合、成績評価の具体的方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

諸外国の事例を紹介するとともに、日本の医療保険制度についての理解も深める

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する

【その他の重要事項】

受講生の関心に応じて、授業計画が若干変更される可能性がある

【Outline and objectives】

Recognize the importance of health policy through exchange of ideas in class

SOW300JC

Community Based Inclusive Development

佐野 竜平

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（社会系）

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to overview the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

【到達目標】

This course aims at learning practical and applicable knowledge and skills on the mentioned subject.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニケーション学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online (realtime Zoom sessions). Announcements, course materials, assignments and feedback will be informed/given via the learning support system and Google Form.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview the planned sessions
No.2	SDGs and Well-being(1)	Concept of inclusive development(1)
No.3	SDGs and Well-being(2)	Concept of inclusive development(2)
No.4	SDGs and Well-being(3)	Concept of inclusive development(3)
No.5	Good Practice on CBID(1)	Initiatives in a community(1)
No.6	Good Practice on CBID(2)	Initiatives in a community(2)
No.7	Good Practice on CBID(3)	Initiatives in a community(3)
No.8	Human rights issues(1)	Challenges in inclusive settings (1)
No.9	Human rights issues(2)	Challenges in inclusive settings (2)
No.10	Human rights issues(3)	Challenges in inclusive settings (3)
No.11	Going into the unknown(1)	Exploring the world(1)
No.12	Going into the unknown(2)	Exploring the world(2)
No.13	Going into the unknown(3)	Exploring the world(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

Sustainable Development Goals <https://sdgs.un.org/>

World Health Organization <https://www.who.int/health-topics/disability>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction Paper through Google Form:50%

【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

【Outline and objectives】

This course is designed to overview the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

SOW300JB

Community Based Inclusive Development

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／ 2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to overview the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

【到達目標】

This course aims at learning practical and applicable knowledge and skills on the mentioned subject.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online (realtime Zoom sessions). Announcements, course materials, assignments and feedback will be informed/given via the learning support system and Google Form.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview the planned sessions
No.2	SDGs and Well-being(1)	Concept of inclusive development(1)
No.3	SDGs and Well-being(2)	Concept of inclusive development(2)
No.4	SDGs and Well-being(3)	Concept of inclusive development(3)
No.5	Good Practice on CBID(1)	Initiatives in a community(1)
No.6	Good Practice on CBID(2)	Initiatives in a community(2)
No.7	Good Practice on CBID(3)	Initiatives in a community(3)
No.8	Human rights issues(1)	Challenges in inclusive settings (1)
No.9	Human rights issues(2)	Challenges in inclusive settings (2)
No.10	Human rights issues(3)	Challenges in inclusive settings (3)
No.11	Going into the unknown(1)	Exploring the world(1)
No.12	Going into the unknown(2)	Exploring the world(2)
No.13	Going into the unknown(3)	Exploring the world(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

Sustainable Development Goals <https://sdgs.un.org/>

World Health Organization <https://www.who.int/health-topics/disability>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction Paper through Google Form:50%

【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

【Outline and objectives】

This course is designed to overview the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

SOW300JB

アジア地域開発論 (2020 年度以前入学者)

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

【到達目標】

東南アジアを中心にアジアの最新事情を学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせる【ハイブリッド型授業】での開講とする。対面はオンラインで同時配信する【ハイフレックス型授業】にて行う。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第 3 回	タイ/ラオスの最新事情①	タイ/ラオスに関するインプット
第 4 回	タイ/ラオスの最新事情②	タイ/ラオスに関する意見交換・レビュー
第 5 回	カンボジア/ミャンマーの最新事情①	カンボジア/ミャンマーに関するインプット
第 6 回	カンボジア/ミャンマーの最新事情②	カンボジア/ミャンマーに関する意見交換・レビュー
第 7 回	インドネシア/マレーシアの最新事情①	インドネシア/マレーシアに関するインプット
第 8 回	インドネシア/マレーシアの最新事情②	インドネシア/マレーシアに関する意見交換・レビュー
第 9 回	フィリピン/ベトナムの最新事情①	フィリピン/ベトナムに関するインプット
第 10 回	フィリピン/ベトナムの最新事情②	フィリピン/ベトナムに関する意見交換・レビュー
第 11 回	ブルネイ/シンガポールの最新事情①	ブルネイ/シンガポールに関するインプット
第 12 回	ブルネイ/シンガポールの最新事情②	ブルネイ/シンガポールに関する意見交換・レビュー
第 13 回	アジアからの労働者	現地から見た制度、実践と課題
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

世界保健機関（WHO）CBR Guidelines（日本語訳あり）

【成績評価の方法と基準】

Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）：60 %、発表：40 %

【学生の意見等からの気づき】

東南アジアを中心に最新のアジア事情を踏まえた内容を提供。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】

Good practices and important trends on community development in Asia, particularly in Southeast Asia, are to be focused for better understanding.

SOW100JC

アジア地域開発論

佐野 竜平

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（社会系）

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

【到達目標】

東南アジアを中心にアジアの最新事情を学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせる【ハイブリッド型授業】での開講とする。対面はオンラインで同時配信する【ハイフレックス型授業】にて行う。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第 3 回	タイ/ラオスの最新事情①	タイ/ラオスに関するインプット
第 4 回	タイ/ラオスの最新事情②	タイ/ラオスに関する意見交換・レビュー
第 5 回	カンボジア/ミャンマーの最新事情①	カンボジア/ミャンマーに関するインプット
第 6 回	カンボジア/ミャンマーの最新事情②	カンボジア/ミャンマーに関する意見交換・レビュー
第 7 回	インドネシア/マレーシアの最新事情①	インドネシア/マレーシアに関するインプット
第 8 回	インドネシア/マレーシアの最新事情②	インドネシア/マレーシアに関する意見交換・レビュー
第 9 回	フィリピン/ベトナムの最新事情①	フィリピン/ベトナムに関するインプット
第 10 回	フィリピン/ベトナムの最新事情②	フィリピン/ベトナムに関する意見交換・レビュー
第 11 回	ブルネイ/シンガポールの最新事情①	ブルネイ/シンガポールに関するインプット
第 12 回	ブルネイ/シンガポールの最新事情②	ブルネイ/シンガポールに関する意見交換・レビュー
第 13 回	アジアからの労働者	現地から見た制度、実践と課題
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

世界保健機関（WHO）CBR Guidelines（日本語訳あり）

【成績評価の方法と基準】

Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）：60 %、発表：40%

【学生の意見等からの気づき】

東南アジアを中心に最新のアジア事情を踏まえた内容を提供。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】

Good practices and important trends on community development in Asia, particularly in Southeast Asia, are to be focused for better understanding.

SOW300JB

アジア地域開発論 (2021 年度以降入学者)**佐野 竜平**

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

【到達目標】

東南アジアを中心にアジアの最新事情を学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせる【ハイブリッド型授業】での開講とする。対面はオンラインで同時配信する【ハイフレックス型授業】にて行う。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第 3 回	タイ/ラオスの最新事情①	タイ/ラオスに関するインプット
第 4 回	タイ/ラオスの最新事情②	タイ/ラオスに関する意見交換・レビュー
第 5 回	カンボジア/ミャンマーの最新事情①	カンボジア/ミャンマーに関するインプット
第 6 回	カンボジア/ミャンマーの最新事情②	カンボジア/ミャンマーに関する意見交換・レビュー
第 7 回	インドネシア/マレーシアの最新事情①	インドネシア/マレーシアに関するインプット
第 8 回	インドネシア/マレーシアの最新事情②	インドネシア/マレーシアに関する意見交換・レビュー
第 9 回	フィリピン/ベトナムの最新事情①	フィリピン/ベトナムに関するインプット
第 10 回	フィリピン/ベトナムの最新事情②	フィリピン/ベトナムに関する意見交換・レビュー
第 11 回	ブルネイ/シンガポールの最新事情①	ブルネイ/シンガポールに関するインプット
第 12 回	ブルネイ/シンガポールの最新事情②	ブルネイ/シンガポールに関する意見交換・レビュー
第 13 回	アジアからの労働者	現地から見た制度、実践と課題
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

世界保健機関（WHO）CBR Guidelines（日本語訳あり）

【成績評価の方法と基準】

Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）：60 %、発表：40 %

【学生の意見等からの気づき】

東南アジアを中心に最新のアジア事情を踏まえた内容を提供。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】

Good practices and important trends on community development in Asia, particularly in Southeast Asia, are to be focused for better understanding.

SOW300JC

Disability and Development in Asia

佐野 竜平

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（社会系）

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and Sustainable Development Goals, this course is designed to overview the theory and practice on disability and development in Asia.

【到達目標】

Basic knowledge and skills on disability and development in Asia are to be obtained based on inputs from their local perspectives.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online (realtime Zoom sessions). Announcements, course materials, assignments and feedback will be informed/given via the learning support system and Google Form.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview of the planned sessions
No.2	Comparative Study(1)	Persons with disabilities in Pakistan
No.3	Comparative Study(2)	Persons with disabilities in Nepal
No.4	Comparative Study(3)	Persons with disabilities in Afghanistan
No.5	Comparative Study(4)	Persons with disabilities in India
No.6	Comparative Study(5)	Persons with disabilities in Bangladesh
No.7	Comparative Study(6)	Persons with disabilities in Vietnam
No.8	Comparative Study(7)	Persons with disabilities in Cambodia
No.9	Comparative Study(8)	Persons with disabilities in Malaysia
No.10	Comparative Study(9)	Persons with disabilities in Thailand
No.11	Comparative Study(10)	Persons with disabilities in Myanmar
No.12	Comparative Study(11)	Persons with disabilities in the Philippines
No.13	Comparative Study(12)	Persons with disabilities in Indonesia
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/ConventionRightsPersonsWithDisabilities.aspx>

States parties reports of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/CRPDIndex.aspx>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction Paper through Google Form:50%

【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

【Outline and objectives】

In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and Sustainable Development Goals, this course is designed to overview the theory and practice on disability and development in Asia.

SOW300JB

Disability and Development in Asia

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and Sustainable Development Goals, this course is designed to overview the theory and practice on disability and development in Asia.

【到達目標】

Basic knowledge and skills on disability and development in Asia are to be obtained based on inputs from their local perspectives.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online (realtime Zoom sessions). Announcements, course materials, assignments and feedback will be informed/given via the learning support system and Google Form.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview of the planned sessions
No.2	Comparative Study(1)	Persons with disabilities in Pakistan
No.3	Comparative Study(2)	Persons with disabilities in Nepal
No.4	Comparative Study(3)	Persons with disabilities in Afghanistan
No.5	Comparative Study(4)	Persons with disabilities in India
No.6	Comparative Study(5)	Persons with disabilities in Bangladesh
No.7	Comparative Study(6)	Persons with disabilities in Vietnam
No.8	Comparative Study(7)	Persons with disabilities in Cambodia
No.9	Comparative Study(8)	Persons with disabilities in Malaysia
No.10	Comparative Study(9)	Persons with disabilities in Thailand
No.11	Comparative Study(10)	Persons with disabilities in Myanmar
No.12	Comparative Study(11)	Persons with disabilities in the Philippines
No.13	Comparative Study(12)	Persons with disabilities in Indonesia
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/ConventionRightsPersonsWithDisabilities.aspx>

States parties reports of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/CRPDIndex.aspx>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction Paper through Google Form:50%

【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

【Outline and objectives】

In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and Sustainable Development Goals, this course is designed to overview the theory and practice on disability and development in Asia.

CMF300JB

コミュニティアート

吉野 裕之

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことではなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】

まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業でいうアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。

方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングやグループでのディスカッションなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	まちづくりの意味	まちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第3回	NPO・市民活動の意義	NPO・市民活動の意義の説明。
第4回	市民主体のまちづくりの事例（1）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（先進地域における活動の変遷の事例）の紹介と解説。
第5回	市民主体のまちづくりの事例（2）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（学生が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第6回	市民主体のまちづくりの事例（3）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（中高齢者が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第7回	アートの意味	アートの意味（意味の歴史の変遷や芸術家のことばなど）の説明。
第8回	コミュニティアートの要件と機能	コミュニティアートの要件と機能の説明。
第9回	都市空間・まちなかのアートの変遷	都市空間・まちなかのアート（パブリックアートやコミュニティアートなど）の変遷の説明。
第10回	コミュニティアートの事例（1）	コミュニティアートの事例（大都市／拠点型）の紹介と解説。
第11回	コミュニティアートの事例（2）	コミュニティアートの事例（大都市／まちなか展開型）の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例（3）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域密着型）の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例（4）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域交流型）の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーなど）：30点 中間レポート：20点 期末レポート：50点

平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1回～数回の授業の内容の理解度を確認する。中間レポートでは、NPO・市民活動によるまちづくりについての理解度を確認する。期末レポートでは、コミュニティアートの意義の理解度や分析・評価などについての習得度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】

Through many cases, we will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.

CMF300JB

コミュニティスポーツ

遠藤 華英

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地域・国・国際レベルで展開されているスポーツ政策に関するトピックについて取り上げる。地域社会のスポーツ振興に関する課題や最新の動向を政策的な視点で概説した上で、社会課題の解決に向けたスポーツの役割とは何か、どのような可能性を有しているのかといったテーマに迫る。

【到達目標】

日本のスポーツ振興政策の現状やトレンドを理解し、スポーツ振興 やスポーツを活用した地域の課題解決施策について客観的・合理的な見解を述べることができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にはパワーポイントを用いた講義形式で行う。授業毎に小レポート（リアクションペーパー）の提出のほか、少人数グループによるアクティブラーニング（AL）も適宜行う。また、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みてオンライン形式に切り替えることもあるのでご留意いただきたい。各回の課題に対するフィードバックは翌週の講義および hoppi 上で行う。また、最終課題に対するフィードバックも hoppi を介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要と進め方
2	スポーツとは何か？ スポーツが有する価値とは？	スポーツが関連する政策領域を捉え、政府がスポーツ振興に公的資金を費やす理由とスポーツの価値を考える（AL）
3	日本のスポーツ政策の動向	日本のスポーツ政策の現状と課題
4	オリンピック・レガシー	過去のオリンピックがもたらした社会的影響、2020 年東京と現在および将来的に予測される社会課題との結節点
5	パラリンピック・レガシー	過去のパラリンピックがもたらした社会的影響、2020 年東京と現在および将来的に予測される社会課題との結節点
6	するスポーツ①	成人のスポーツ実施に影響を与える要因を学び、今後のスポーツ推進策を考える（AL）
7	するスポーツ②	子ども・青少年のスポーツ実施の現状と課題、および諸理論
8	するスポーツ③	中学・高校・大学スポーツの現状と課題、日本の部活動改革の方向性
9	みるスポーツ①	国内外におけるスタジアム・アリーナ改革の動向
10	みるスポーツ②	メディア媒体の多様化および ICT 技術の進展に伴うスポーツ観戦スタイルの変化
11	スポーツによるコミュニティ形成①	地域コミュニティスポーツとトップスポーツの好循環について考える（AL）
12	スポーツによるコミュニティ形成②	スポーツガバナンスを考える
13	スポーツによるコミュニティ形成③	SDGs(持続可能な開発) とスポーツの結節、スポーツを通じた国際協力の動向
14	総括	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメやノートを復習して、次の授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定しない。必要に応じて、資料配布・文献紹介を行う。

【参考書】

必要・希望に応じて紹介を行う。

【成績評価の方法と基準】

- ①出席確認 毎時間確認する
 ②試験方法 レポート
 ③評価基準 平常点 20%/小レポート 30%/レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

聴講生の興味・関心に応じ、授業で扱うテーマ以外のスポーツ政策・ビジネスに関しても最新の情報を提供できるようにします。

【Outline and objectives】

This course deal with the topics on sport policies deployed at the regional, national, and international level. By the end of the course, students learn the challenges and latest trends related to sport development in local/global communities, and consider the possibility that sports will contribute to solving social problems.

ENG300JB

住民参加の手法

杉崎 和久

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域づくりの現場では、住民等の地域の多様な主体が地域の資源や課題、各主体の思いやニーズなどを共有し、それらを踏まえて効果的な活動を検討し、それを実施するプロセスが重要である。

この講義では、これらのプロセスを実施する際に必要となる対話手法（住民参加手法）の特徴を理解し、運用できる能力を獲得する。

【到達目標】

住民参加が求められる社会背景を理解し、地域の多様な主体がプロジェクトの中で適切に住民参加手法の選択・開発、そして運用ができる能力を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

住民参加の役割・効果、具体的な活用事例、基本的な考え方等の基本事項については、講義形式で理解を深める。さらに、代表的な住民参加手法については、効果等の特徴を把握するために講義の中で体験する。また、地域の多様な主体による対話の重要となる社会的背景等の理解をするために基本文献を講読し、概要等を報告するレポート課題を出題する。

授業は、対面とオンラインを組み合わせて開講する予定であるが、オンラインの場合でもリアルタイムでの授業を想定している。

なお、レポートについての講評や解説は授業の中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方、目標等を説明する（オンラインでの実施）。
第 2 回	住民参加の事例紹介 1	事例を通じて、住民参加全体をデザインする考え方を紹介する。
第 3 回	住民参加の事例紹介 2	事例を通じて、地域住民等が対話をするワークショップのねらい・手法等について紹介する。
第 4 回	住民参加の事例紹介 3	事例を通じて、ステークホルダーの特徴に合わせた意向収束の手法等について紹介する。
第 5 回	意見表出を促す手法	参加者からの意見表出を促す手法を体験する。
第 6 回	意見整理のための手法	参加者から出た意見を整理するための手法を体験する。
第 7 回	意見を誘発するフレームワーク	参加者からの意見を誘発するフレームワークを用いた対話を体験する。
第 8 回	対話を可視化させる手法	議論経過を共有するための手法（ファシリテーショングラフィック等）を体験する。
第 9 回	ファシリテーターの役割と聴く姿勢	創造的な会議を生み出す役割（ファシリテーター）と技術、聴く姿勢について体験を通じて学ぶ。
第 10 回	多様な参加者の知恵を共有する手法（レポート発表）	レポート内容（関係する文献の内容・感想）を受講者間で共有する体験をする。
第 11 回	住民参加の事例 4	活動を促す動機を高め、担い手を創出する事例を紹介する。
第 12 回	つぶやきから対話を通じて活動を生み出す手法	受講者から提案されたテーマを充実させる手法を体験する。
第 13 回	対話の空間（場）づくり	創造的な対話を促す空間のあり方を学ぶ。
第 14 回	総括	授業全体を振り返り、住民参加を実施する上でのポイントを再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

・レポートは、住民参加に関する基本文献を講読し、概要・感想・意見等をまとめます（詳細は講義時間内で説明します）。

・適宜、NPOや自治体などが開催する住民参加の現場（ワークショップ等）に参加することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

授業では適宜レジュメを配布する

【参考書】

中野民夫「ワークショップ」（岩波新書）

世田谷まちづくりセンター「参加のデザイン道工具箱」

その他、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（70％）、レポート（30％）

・平常点評価は、講義ごとにワークへの参加状況やリアクションペーパーの内容などを踏まえて行います。

・レポートは住民参加の手法に関する文献を読み、その概要を整理し、自分の意見をまとめて提出する。なお、レポート内容を用いて行う授業回がある。

【学生の意見等からの気づき】

地域づくりの現場での参加手法を体験するだけでなく、その背景となる理論や経緯等についても適切に解説していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業は、対面とオンラインを組み合わせて行う。オンラインでの授業においても、グループワーク等を行うことがある。そのため、オンラインでの受講が可能な web カメラやマイクなどの情報機器が必要になる。また、グループワークでの入力作業も予定しているのでパソコンがあることが望ましい。

【その他の重要事項】

・受講者の人数等により、授業内容、方法等を変更する場合がある。

・第 1 回授業はリアルタイムオンラインで予定である。アクセス方法については、学習支援システムの「お知らせ」を通じて当日朝までに連絡する。それまでに学習支援システムへの「仮登録」あるいは「本登録」を済ませてください。

・講義では対話を重視していることから、対面、オンラインを問わずグループワークを多く行う。特にオンラインの場合には、名前表記、カメラオンにすることを前提とする。

・担当教員は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、市民参加の手法に関する実習をする。

【Outline and objectives】

The purpose of the lecture is to understand the characteristics of the participation method and to acquire the ability to operate.

CUM300JB

地域遺産マネジメント論

須田 英一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の歴史や文化の中から生成されてきた地域遺産（歴史的町並み、歴史的建造物、民俗芸能、史跡など）を活かした地域づくりが、日本各地で行われています。そこには地域住民をはじめ NPO などが担い手として活躍しています。授業では、さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識や、地域遺産を活かし、Well-being（健康で幸福な暮らし）を地域の中に実現していくための方法について幅広く解説します。

【到達目標】

さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識をはじめ、地域遺産の活用と地域のネットワークづくりに向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域遺産の多くを占める文化財の保護の歴史をふりかえり、地域遺産のマネジメントに関わる人々の仕事や役割、地域遺産に関わるボランティア活動や地域遺産の活用例を映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第 2 回	地域遺産とは、地域遺産マネジメントとは	地域遺産、地域遺産マネジメント
第 3 回	地域遺産の生成と保護の現状	地域の歴史と地域遺産の生成、文化財の保存・管理と活用
第 4 回	文化財保護の歴史	明治期の文化財保護、大正期・昭和戦前期の文化財保護
第 5 回	今日の文化財の保護制度	文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大
第 6 回	地域遺産保護と専門家 (1)	文化財担当専門職員、学芸員の仕事と役割
第 7 回	地域遺産保護と専門家 (2)	文化財保護修理技術者の仕事と役割
第 8 回	さまざまな地域遺産、世界遺産	全国のさまざまな地域遺産の紹介、世界遺産
第 9 回	地域遺産とボランティア活動	博物館ボランティア、文化遺産ボランティア
第 10 回	地域遺産の再生と活用 (1)	地域遺産としての建造物の修復と活用
第 11 回	地域遺産の再生と活用 (2)	地域遺産としての史跡の修景と活用
第 12 回	地域遺産の再生と活用 (3)	地域遺産としての名称・天然記念物、伝統的建造物群
第 13 回	映像鑑賞	地域遺産・民俗学・考古学の観点からの映像鑑賞
第 14 回	まとめ	地域遺産と地域づくりまとめ、課題レポートのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域にはどのような地域遺産があり、それらは私達の生活とどのような関わりがあるのでしょうか。きつとすごい身近に何かしらの地域遺産があるはずですし、どこかに眠っているかもしれません。見つけてみて下さい。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売）

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）、川村恒明監修・著『文化財政策概論－文化遺産保護の新たな展開に向けて－』（東海大学出版会、3500 円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

- ・平常点：毎回アクションペーパーの提出を求めます。
- ・試験方法：中間に 1 回と期末に課題レポート提出。

・評価方法：平常点（リアクションペーパー）30%、課題レポート 70 %により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

- ・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。
- ・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。

【Outline and objectives】

This lecture explain broadly about the basic knowledge on various regional heritage and the way to make use of community heritage and to realize Well-being Society in the area.

MAN300JB

地域経営論

松本 昭

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀社会の底流となる「人口減少社会」「少子高齢化社会」における地域社会の望ましい経営（マネジメント）について、自治、分権、コミュニティ、まちづくり、公共施設の維持更新、住宅政策等の観点から理解を深めるとともに、市民、NPO等の市民団体、民間事業者、行政等の多様な地域主体の連携、協働、協創のあり方について考察する。

【到達目標】

次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とする。

- ・地域経営に関する基本的な法制度及び代表的諸制度のあらましと特性
- ・地域経営に関する国と地方の関係、法律と条例の関係
- ・地域経営に関する市民（住民）、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
- ・地域空間の整序ルール、公共空間と私有施設の関係、公共施設の維持更新等に関する仕組みと課題
- ・既存の地域資源の活用した地域経営のあり方

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体討議又はミニワークショップ等のワーク作業」により進める。授業は、各回のテーマの本質が何かということに常に問いかけ、その問いに対して受講生が、具体的に思考できるような工夫を施して楽しく進めたい。各回講義に関する課題提起については、次回講義のはじめに、リアクションペーパーの紹介や参考事例等を紹介して課題解決型の進め方を行う。なお、コロナ感染症対策に伴う講義方法等については、大学の方針に基づく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義ガイダンス、「地域経営」の今日的意義と視点
第2回	地域経営論の全体像	・「地方自治」「地方分権」の今日的課題
	自治・分権と地域経営	・憲法、地方自治法、個別法に基づく公共の福祉と財産権
第3回	住民参加と地域経営	・参加、参画、協働、協創（共創）と地域経営
		・参加型まちづくりから協働・協創（共創）型地域経営へ
第4回	地域経営と合意形成	・まちづくり、地域経営における合意形成論
第5回	まちづくり条例と地域経営①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の関係
		・まちづくり条例の系譜と展望
第6回	まちづくり条例と地域経営②	・まちづくり紛争の実態
		・まちづくり紛争の予防と調整
第7回	まちづくり条例と地域経営③	・まちづくりのルールと特性
		・協議調整型まちづくりとは
第8回	地域経営と公民連携まちづくり①	・公共施設、公共空間の更新と魅力化（道路、公園、広場、河川等を魅力化する取り組み）
第9回	地域経営と公民連携まちづくり②	・公共建築物整備の民間活用（PFI制度等の民間活用の施設整備）
第10回	地域経営と公民連携まちづくり③	・まちづくり会社と地域経営（長浜、高松、紫波等のまちづくり会社を対象に）
第11回	住宅地経営とまちづくり①	・戸建て住宅地…高齢化社会における郊外住宅地のこれから
		・マンション住宅地…管理組合と自治会
第12回	住宅地経営とまちづくり②	・空き家、空き地問題と地域経営
第13回	人口減少時代の地域経営	・ストック活用のまちづくり
		・リノベーションまちづくり
第14回	講義の総括	・レポートの提出と発表
		・講義の総括とコメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・人口減少社会、少子高齢化社会における都市や地方のまちづくりや地域経営に関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦める。本授業の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】

講義において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①講義とその後の全体討議・ミニワークショップを踏まえたリアクションペーパー50%
 ②選択課題に基づくレポートとプレゼンテーション50%（レポート課題は6月前半に提示）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

・具体的事例の紹介が、講義の理解度を高めるため、講義は具体的事例を豊富に盛り込んで行います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course will understand the desirable management of local communities in "population declining society" and "declining birthrate and aging society" from the viewpoints of autonomy, decentralization, community, town planning, maintenance of public facilities, housing policy, etc.

TRS300JB

地域ツーリズム

野田 岳仁

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、“水辺空間の観光化”、“伝統文化の観光化”、“生活空間の観光化”の3つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】

大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では“いくら儲かるか”、“いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか？	マスツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは？	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか？	伝統文化の観光化
第9回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第10回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第11回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第12回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメント・リアクションペーパー・ミニレポート（30%）、期末試験（70%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies. At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems.

MAN300JB

ソーシャルイノベーション論

土肥 将敦

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境、貧困、少子高齢化、障害者雇用といった社会的課題の解決に向けてビジネスとしてそれらに取り組む動きが世界的に広がっている。こうした事業体はソーシャル・エンタプライズもしくはソーシャル・ビジネスと呼ばれている。本講義では、こうした事業がなぜ必要とされるのか、誰がどのようにに生み出したのか、そしてそれはどんなソーシャル・イノベーションなのかについて国内外の事例をもとに検討する。また講義後半では、企業の社会的責任（CSR）についても概観し、CSR の枠組みの中で大企業が取り組むさまざまなソーシャル・ビジネスの意義についても考えていく。

【到達目標】

本講義では、以下の 3 点を履修者の到達目標とする。

①グローバル/ローカルなソーシャル・ビジネスの動向を理解すること、②社会的企業家によるソーシャル・イノベーションの創出と普及のプロセスを理解すること。③企業の CSR 活動の本質を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

社会的課題にビジネスとして取り組むソーシャル・ビジネスは、さまざまな事業形態やスタイルで、市場や社会から資源を動員し、新しい仕組みを構築し、新たな社会サービスを提供している。本講義では、まずこうした多様な事業分野、事業スタイルの存在を理解し、一般的なビジネスとの相違点等を明らかにしていく。その上で、事業化してきた社会的企業家にも注目し、彼らの存在意義やその機能などについても考えていく。COVID-19 の拡大にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、成績評価、テキスト等について。履修希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	ソーシャル・ビジネスとは何か①	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、3 つの要件、活動する事業領域を理解する。
第 3 回	ソーシャル・ビジネスとは何か②	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、多様な組織形態を理解する。
第 4 回	ソーシャル・ビジネスとは何か③	海外の事例を通して、多様な組織形態と事業スタイルの違いを理解する。
第 5 回	ソーシャル・イノベーションを理解する①	国際協力領域のソーシャル・エンタプライズを通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 6 回	ソーシャル・イノベーションを理解する②	海外の事例を通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 7 回	ソーシャル・イノベーションを理解する③	ソーシャル・イノベーションの創出について理解する。
第 8 回	ソーシャル・イノベーションを理解する④	ソーシャル・イノベーションの普及について理解する。
第 9 回	ソーシャル・イノベーションを理解する⑤	ソーシャル・イノベーションの創出と普及の課題
第 10 回	大企業における CSR ①	企業と社会の関係を理解する。
第 11 回	大企業における CSR ②	古典的モデルと近年の考え方を理解する。
第 12 回	コーズ・リレイティッド・マーケティングについて理解する①	各種事例を通して CRM について理解する（A 事例）。
第 13 回	CRM について理解する②	各種事例を通して CRM について理解する（B 事例）。
第 14 回	CRM について理解する③	各種事例を通して CRM について理解する（C 事例）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示するテキスト・資料や関連するウェブサイトを目を通し、講義中のディスカッションに備えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義中に指示します。

【参考書】

鈴木良隆編（2014）『ソーシャル・エンタプライズ論』有斐閣
谷本・大室・大平・土肥・古村著（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT 出版

【成績評価の方法と基準】

講義リアクションペーパーおよび講義後ミニレポート課題（30 %）、平常点（40 %）、期末レポート課題（30 %）を総合的に判断する。COVID-19 の拡大に伴い変更が生じた場合は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にし、講義がより良いものとなるように努める。

【Outline and objectives】

This course goes far beyond the innovation theory and academic aspect of developing social businesses or social responsible business. The goal of this course is to understand the concept of SOCIAL INNOVATION, and the various aspects of Corporate Social Responsibilities in the MNC.

ASS300JB

農山村とコミュニティ

図司 直也

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、農山村の地域構造の原型ともいえる「家と集落（むら）」の関係を理解し、農山村地域が今日に至るまで直面してきた社会的諸問題を考えながら、その解決手段として試みられてきた地域づくりの展開を探っていく。

【到達目標】

講義を通して、まず、農村の家と集落（むら）との関係を通して、農山村地域構造の原型を理解できる。その上で、農と食の変化や、環境・開発、農村女性や高齢者などの担い手、都市と農山村との関係性、「小さな自治」の試みなど多様な切り口から、農山村地域が直面する問題の背景と、そこで展開する新たな取り組みを知る。授業で学んだ内容を、食をはじめとする日常生活との繋がりから意識したり、ゼミ活動や実習等の農山村地域における現場での実践に活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、リアクションペーパーを通じて、受講生の捉え方を全体でも共有するとともに、質疑にも応えていく。なお、講義は以下の内容で進める予定であるが、進度やゲスト講師によって変更もあり得る。リアクションペーパー等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	村落空間とむらの構造	農山村の地域構造の原型とその変化を学ぶ。
第 2 回	むらの変化―過疎化	農山村の地域構造変化である過疎化を学ぶ。
第 3 回	むらの変化―都市化・混住化	農山村の地域構造変化である都市化・混住化を学ぶ。
第 4 回	変わりつつある農村の家・家族・世帯	農山村の家族・世帯の変化を学ぶ。
第 5 回	農村自治とむらづくり	農山村の自治の仕組みを学ぶ。
第 6 回	「農」の変化と地域	「農業」から農山村地域での取り組みを捉える。
第 7 回	「食」の変化と地域	「食」から農山村地域での取り組みを捉える。
第 8 回	農の担い手―農村女性や高齢者	農村女性や高齢者など多様な主体による農の取り組み
第 9 回	開発と環境―景観形成・コモンズ	景観形成・コモンズに関する取り組み
第 10 回	消費される農村と地域づくり	ゲリットリズムの展開と課題
第 11 回	都市農村交流から協働へ	外部人材の役割と活用
第 12 回	新しいコミュニティづくりの試み―地域運営組織	地域運営組織の役割と立ち上げプロセス
第 13 回	新しいコミュニティづくりの試み―「小さな経済」	「小さな経済」を生み出す実践
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習には、各2時間程度を確保してもらいたい。日頃から、地域に内在する様々な問題に関心を寄せ、その課題を乗り越える取り組みや知恵に着目しておく。講義後には、授業内容について復習し、改めてテーマについて考えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義内において配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

VTR など交えて農山村の地域社会の様子が視覚的にも理解できるよう工夫を重ねていく。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will understand the regional structure of rural areas, consider the social problems that rural areas have faced up to now, and explore regional development that has been tried as a solution.

CUM300JB

文化環境創造論

須田 英一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Well-being（健康で幸福な暮らし）を実現するうえで重要な、豊かな文化環境を創造するための基礎的な知識や方法について幅広く解説します。

【到達目標】

文化環境創造に関わる法、文化遺産の保存・活用などの基礎的な知識をはじめ、文化環境創造に向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文化環境とは何か、地域社会（コミュニティ）の中に歴史的文化環境を創造し継承していく環境を構築し、維持していくためのシステムや手法などについて、海外や日本国内で取り組まれている実践例などを映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第 2 回	文化環境の概念 (1)	文化環境とは何か
第 3 回	文化環境の概念 (2)	Well-being と文化環境との関わり
第 4 回	世界における文化環境創造の取り組み (1)	世界遺産条約と文化環境の保存
第 5 回	世界における文化環境創造の取り組み (2)	ナショナル・トラストと文化環境
第 6 回	世界における文化環境創造の取り組み (3)	フランスの野外博物館活動と文化環境
第 7 回	日本における文化環境創造の取り組み (1)	文化環境創造の仕組み
第 8 回	日本における文化環境創造の取り組み (2)	伝統的建造物群の保存・活用
第 9 回	日本における文化環境創造の取り組み (3)	史跡の保存・活用
第 10 回	日本における文化環境創造の取り組み (4)	近代の文化遺産の保存・活用
第 11 回	日本における文化環境創造の取り組み (5)	自治体条例と文化環境創造事業
第 12 回	日本における文化環境創造の取り組み (6)	文化環境創造と文化財支援団体
第 13 回	日本における文化環境創造の取り組み (7)	日本遺産事業
第 14 回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域で、歴史的文化環境の創造のために実施されている事業や試みに目を向けてみましょう。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売）

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点―文化遺産保護から伝統文化の継承へ』（雄山閣、3000 円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

- ・平常点:毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
- ・試験方法: 中間に 1 回と期末に課題レポート提出。
- ・評価方法: 平常点（リアクションペーパー）30%、課題レポート 70%により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。
- ②評価基準
- ・平常点:授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。

・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思えます。

【Outline and objectives】

This lecture explain broadly the basic knowledge and method for creating a rich cultural environment which is important for realizing Well-being Society.

MAN300JB

ソーシャルマネジメント論

樋口 邦史

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業および企業が行う事業と社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考えることが大切なのかを考え、理解する。

【到達目標】

本講義の受講生は、企業が社会的課題を捉えて、解決するまでのプロセスと論理を理解する。また、このプロセスと論理を学ぶことを通じて、企業と社会の関係性を、社会学或いは経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解できるようになる。以上のことを本講義のゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

企業と社会の関係は、多様かつ多面的な側面を内包している。そのため、学際的かつ実践的に講義を行う。例えば、企業や社会の仕組みを理解するために、経営学や社会学の観点を取り入れて講義をすすめる。また、企業活動とその社会への影響を考察するために、実践例としてのケーススタディやゲストによるセッションを取り入れる。事前課題に対する議論とグループ討議を中心に講義をすすめる。予習を求めるが、講義の展開によって若干の変更があり得る。事前課題には講師が学生個別にフィードバックをし、講義での論点などの指摘や記述方法への指導を行う。対面での開講を前提とするが、ゲストセッションや、社会状況によってはオンラインでの双方向型講義となる場合もある。それにともなう各回の講義計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。また、本講義の開始日や授業の方法なども、学習支援システムで随時提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入と概要	講義の進め方について 講義で取り扱う内容の概要
2	ソーシャルマネジメントとは何か	ソーシャルマネジメントの本質と、企業・行政・研究コミュニティ、各組織の相互関係について
3	企業が目指す CSR 経営とは何か	CSR 経営とその実践
4	企業と社会の関わり	企業の社会の中での機能と役割
5	社会環境変化への対応① 企業と研究組織	企業と研究組織とマネジメント
6	同上② 行政組織	行政組織の特色とマネジメント
7	同上③ コミュニティ組織	コミュニティ組織の特色と事例研究
8	CSR と CSV	富士ゼロックスの CSV、その光と影
9	CSV またはプロジェクト マネジメントケーススタディ	企業の実務家によるゲストセッションを予定
10	コミュニケーション技術について	コミュニケーション技術に関する理解と習得
11	演習①	SDGs を正しく理解する（カードゲームを実施）
12	演習②	地域活性化を成し遂げる SDGs の主流化の実践 Vol.1
13	演習③	地域活性化を成し遂げる SDGs の主流化の実践 Vol.2
14	最終発表、まとめと展望	Final Presentation 講義のまとめ、最終レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では事前レポート（A4 1 枚程度）の提出を求める。講義で紹介する事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考える癖を身につけること。なお、毎回幾つかの課題レポートを取り上げ、講義の冒頭で全員で議論する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

遠野みらい創りカレッジ編著「SDGs の主流化と実践による地域創生」水曜社：まち創り叢書

【参考書】

講義の中で随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点 80 %（講義への参画度合 30 %、課題レポート 50 %）、最終レポート 20 %で評価し、グループワークへの貢献等で加点する。オンラインでのセッションとなった場合でも、評価方法や基準は変更しない。より具体的な方法と基準は、講義開始日に案内する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の講義参加者からの要望に基づき、2 年生から 4 年生までの多様な参加者によるコミュニケーションとグループワークを中心に、更に「実践型」の講義を実施します。多彩な学部からの参加者を期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The students will think about relationship for Enterprise and Society by some discussion or dialog. Because it's a available for diversification between Enterprise and Society. We will communicate the variety of relationship, the domain, contents and organization among us. And we will be able to identify why the Enterprise have to consider about the social dimension.

MAN300JB

ソーシャルファイナンス論

徳永 洋子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、経済格差、震災からの復興といった社会の課題を民間の力で解決していく、NPO 法人、公益法人、社会福祉法人などのソーシャルセクターが注目されています。しかし、こうした団体の多くが活動資金の調達に苦勞しています。一般に金融（ファイナンス）とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することを意味します。本講では、ソーシャルファイナンスを「社会的価値を生むための金融」と捉えて、日本のソーシャルセクターを支える資金の概要とその調達手法を学びます。

【到達目標】

ソーシャルファイナンスの概要を学ぶとともに、社会の課題解決に必要な資金の調達について、身近な事例をもとに具体的なノウハウを体得します。加えて、身近な寄付やクラウドファンディングへの理解を深めることで社会貢献意欲が高まることも期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式。参考資料などは学習支援システムを通じて配布。理解度や関心の把握には学習支援システムの掲示板を活用し、授業の初めに、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ	本講の概要、目的
第 2 回	非営利団体の資金源	各種資金源とその特徴
第 3 回	日本の寄付文化の歴史	奈良時代から現代までの事例
第 4 回	日本の寄付市場	各種調査結果から考察
第 5 回	ドナージャーニー	寄付者の行動と心理の可視化
第 6 回	ドナーピラミッド	団体寄付者の構造的把握
第 7 回	心理学と寄付集め	寄付者心理を事例から考察
第 8 回	遺贈寄付	その定義と実態
第 9 回	クラウドファンディング	その概要と成功の秘訣
第 10 回	会員拡大	新規会員拡大や継続率を高める手法
第 11 回	企業からの支援獲得	支援のステップアップ戦略
第 12 回	コミュニティ財団とコレクティブインパクト	地域コミュニティ財団の概要と、多様な主体が課題解決を目指すコレクティブインパクトの概念
第 13 回	社会的インパクト評価	説明責任と事業改善のために行う社会的インパクト評価の手法
第 14 回	エビローク	まとめとミニレポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題はありませんが、授業内で共有したソーシャルファイナンスに関連するニュースや話題については、さらに調べたり、自分の意見を持つように努めてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

「非営利団体の資金調達ハンドブック」 徳永洋子著 時事通信社 2400 円 <https://www.amazon.co.jp/dp/4788715104>

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）、ミニレポート（80 %）

【学生の意見等からの気づき】

卒業後に、社会福祉法人などのソーシャルセクターに限らず、一般企業に就職した際にも役立つ内容にしていきます。

【その他の重要事項】

大学の行動制限方針がレベル 1 の場合でも、この授業は原則としてオンラインで行う。

【Outline and objectives】

In today's Japanese society, there are many problems, such as the aging population and declining birthrate, economic disparity, post-earthquake restoration, domestic violence, and lack of public nursery school places. Everyone feels that these problems cannot be solved by the work of national and local government organizations alone. Hoping that they can therefore be solved by efforts in the private sector, the work of social sector organizations, such as social welfare corporations, NPOs, and public-service corporations has been gaining attention. However, most of these organizations have difficulty raising the funds required in order to tackle these issues.

In general, “financing” refers to the funding of those who lack required funds by those with surplus funds.

In this course, we will see how “charitable funding” can be raised from a diverse range of groups in order to support social sector work in Japan.

MAN300JB

協同組合論

阿高 あや

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、協同組合の基本原則、歴史的発展と今日の機能、さらに地域社会や国際的な諸問題における役割について学ぶ。

【到達目標】

協同組合についてその目的と機能を理解した上で、協同組合とどのように接していくかを主体的に考える力を身に付けることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式であるが、適宜、受講生との口頭でのコミュニケーションを求める。授業内での質問に対する回答や、毎回の授業後のリアクションペーパーにおいて、自分なりの授業の受け止めと実生活・実社会との関連付けが表明されるようなコメントが本講義の理解に直結する。対面講義の際には毎週、リアクションペーパーに朱書きでフィードバックを行なっているが、オンライン講義の際には授業終了 10 分前を質問時間とし、Zoom にて個別のフィードバックを行なったりメールで回答をしたりする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	協同すること・協同組合の定義・価値・原則について	協同と共同・協働の違いや自助・共助・公助／協同組合の原則について学ぶ
第 2 回	公共私セクターと社会的連帯経済について	それぞれの目的や資本や運営主体の相違について把握する
第 3 回	資本主義の台頭とロバート・オウエンについて	イギリスの協同組合の台頭について学ぶ
第 4 回	フランス・ドイツ（ライプハイゼン）について	フランスやドイツの協同組合の興りについて学ぶ
第 5 回	日本の村落における共同体組織について	結・講・手間替えなど日本型共同体組織を学ぶ
第 6 回	賀川豊彦について	賀川豊彦の理念とその影響について学ぶ
第 7 回	農業協同組合について	日本の JA グループの総合事業性（営農・経済・信用・共済・厚生など）について学ぶ
第 8 回	生活協同組合について	日本の生協の事業と活動について学ぶ
第 9 回	漁業と漁業協同組合について	日本の漁業の現状と漁業協同組合の役割について学ぶ
第 10 回	林業と森林組合について	日本の林業の現状と森林組合の役割について学ぶ
第 11 回	労働者協同組合について	ワーカースコープについて学ぶ
第 12 回	協同組合間の協同について	協同組合間協同の事例と効果について学ぶ
第 13 回	協同組合と SDGs の相関	国連「持続可能な開発目標（SDGs）」と協同組合との相関を学ぶ。
第 14 回	協同組合の今日的課題	これまで学んだことをもとに、協同組合の進むべき途を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域社会の中に見られる協同に関心を持ち、授業を通じて得た知識とともに世相を読み解こうとする姿勢を保ち、自らの考えを授業内で発言する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「1 時間でよくわかる SDGs と協同組合」日本協同組合連携機構編、家の光協会、2019 年、660 円

【参考書】

必要に応じ、適宜、紹介・配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点として毎回のリアクションペーパー（60 %）で、期末レポート（40 %）。リアクションペーパーでは「協同組合についてその目的と機能を理解」度をはかり、期末レポートでは、「協同組合とどのように接していくかを主体的に考える力を身に付け」られるかをはかる。期末レポートは毎年、自分の住まいや地元などの一つの種類の協同組合について調査を行い、3,000 ～ 4,000 字程度で、①協同組合の概要（立地、規模、沿革など）、②目的・理念、③事業内容、④地域の持続可能性との関連などについて報告をして頂く。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材を多用する。

【その他の重要事項】

対話を重要視する講義です。

【Outline and objectives】

In this lecture we will learn the basic principles of cooperatives, historical development and today's functions, as well as the role in community and international issues.

SOW300JB

人権活動論

寺中 誠

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

人権は、実社会の問題の解決のための手段として使ってこそ、意味のある概念です。多くの社会事象の中から「人権問題」として対象化された問題の解決手法を学びます。

【授業の目的・意義】

人権問題の構造や主なテーマを把握するための方法の習得を目的とし、人権活動を担う団体や組織のマネジメントの基礎についても考えます。

【到達目標】

- ・法や権利を理解するための基礎知識を身につけ、国内的・国際的人権なシステムがどのように機能しているかを理解する。
- ・上記で得た法や権利の知識を日常生活の上で使えるようになる。
- ・実際に人権に関わる活動の現場で役立つ基礎知識と技術を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は主として講義形式で行い、必要に応じてディスカッション形式も取り入れます。関係する資料等を紹介し、外部の経験者の声なども紹介しながら、理論的な仕組みを勉強します。毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

学生は、各自受講用のノートを準備し、毎回ノートに講義内容を記録します。このノートを充実させることにより、自分自身の人権活動論を習得するようにします。

課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人権論入門 I 人権とは何か	人権の基本構造の理解。人権活動のデザイン手法。
第 2 回	人権論入門 II 「社会問題」としての「人権問題」	構築主義の立場を参考に「人権問題」を理解してみる。
第 3 回	人権論入門 III 解決策としての人権アプローチ	権利－義務関係と「権利基盤アプローチ」。福祉と人権の性格の違い。
第 4 回	依存論 I 人権論から考える信頼と依存のダイナミクス	「依存」と「自立」の問題を人権の観点から捉えなおしてみる。
第 5 回	依存論 II 薬物依存からの立ち直りをめぐる検討	「薬物依存」に対するハームリダクション。
第 6 回	刑罰と人権 I 刑事施設の福祉化と福祉の刑罰化	刑罰及び刑事施設の歴史と福祉政策。
第 7 回	刑罰と人権 II 死刑問題をめぐる世論	死刑存廃に関する世論の実態についてのワークショップ
第 8 回	貧困と人権 I 生活保護等の領域と人権	現在の福祉政策実務の現状と課題。
第 9 回	貧困と人権 II 相対的剥奪／社会的排除	スラム解消などを基本とした政策のデザイン。
第 10 回	移民問題 I 移民排斥という構造的暴力	移民をめぐる意識や「テロ」不安、「体感治安」。
第 11 回	移民問題 II 「在日」問題と「ヘイト」	植民地支配に伴う「在日」問題と「ヘイト犯罪」の状況。
第 12 回	国際人権活動 I 国連の特別手続・条約監視機関	人権条約体制と人権の国際的実施の各種手順。
第 13 回	国際人権活動 II 報告書審査制度	条約機関による審査に向けた準備作業実践。
第 14 回	人権活動のための組織論	アドボカシーと活動デザイン。国内人権機関。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートに、授業等で知りえた参考情報や文献の内容を記録します。その内容を見直し、次回授業では必要な点を確認します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に定めませんが、申恵ボン「国際人権入門」（岩波新書：2020 年刊、800 円+税）を基本文献とします。

【参考書】

。「友だちを助けるための国際人権法入門」（影書房）、阿部浩己「国際法を物語る」三分冊（朝陽会）ほか
<http://www.teramako.jp/housei.html> 上で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「知る」「理解する」「日常的に使える」「活動できる」という各段階をどの程度習得したかを確認する。
 期末レポートないし試験の評価（60 %）
 リアクションペーパーの内容も含めた平常点評価（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

「理念的」「抽象的」と捉えるという先入観を壊し、日常の具体的な事例に即したところから、実際の問題解決に役立てるための発想を養うことに注力したい。

【Outline and objectives】

【Outline】

Human Rights are to solve problems within the real life and in the community. The class shall explore ways to find out how to design 'social problems' adaptable to human rights.

MAN300JB

NPO論

渡真利 紘一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPO の成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の社会資源（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】

・NPO の社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
 ・自らの関心分野の NPO 活動の考案や自由研究の発信を通じ、多面的な社会の捉え方や社会との主体的な関わり方、他者との協力の仕方がわかる
 NPO を論じる過程で、受講者自らが、自分らしく安心していられる場を見つめる／他者に対して寛容になる／仲間を持つ／社会に対して本音で向き合うことの重要性を認識する、などの機会につながれると思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、NPO に関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO 活動実践者によるゲストスピーチを取り入れ、体験的に実践を把握できる機会をつくるとともに、クラスメイトと協力し、自らの関心分野の NPO 活動を考案／発信していきます。授業形態は講義を主とし、受講者がグループ毎に課題検討を行う時間や NPO 活動に関する自由研究を発表する場を設ける予定です。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。なお、課題等に対するフィードバック方法は、授業で提出されたすべてのリアクションペーパーに対してコメントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うことで、さらなる内容の理解に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション/NPO のイメージ	NPO のイメージやコロナ禍の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を学生と決定する。
第 2 回	NPO の活動分野	映像資料等を活用しながら、NPO の活動分野について知る。
第 3 回	NPO の歴史的背景と社会的意義	非営利活動の歴史的背景や NPO 法設立経緯等から、NPO の文脈を辿るとともに、行政や企業と比較し、NPO の社会的意義について考える。
第 4 回	NPO 組織の運営と他の社会資源との関係	NPO 組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解するとともに、他の社会資源（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係について把握する。
第 5 回	関心分野における NPO 活動の考案	受講者自らの関心分野における地域社会の現状や NPO 活動を調査し、自らが活動を実施すると仮定して活動計画書を作成する。
第 6 回	NPO の活動事例紹介 1「被災地における環境教育と復興」（予定）	NPO 活動に携わる者（ゲスト）から、NPO の具体的な実践事例を学ぶ。
第 7 回	NPO の活動事例紹介 2「子どもと家族を社会が支える仕掛けづくり」（予定）	NPO 活動に携わる者（ゲスト）から、NPO の具体的な実践事例を学ぶ。
第 8 回	NPO に関する自由研究企画書の作成	個人又はグループ毎に NPO に関連するテーマを定め、自由研究の予定を立てる。
第 9 回	実践から考えるシリーズ「わたしの声をあげる」	Twitter デモやキャンペーンサイト等から声をあげる実践について取り上げ、マイノリティの立場に立脚した活動を考察する。

第 10 回	実践から考えるシリーズ「仲間と行動する」	コミュニティ・オーガナイズイングや自主勉強会等のアプローチを取り上げ、仲間とともに行動する方法について考察する。
第 11 回	実践から考えるシリーズ「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPO の多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第 12 回	NPO に関する自由研究発表会 1	第 8 回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第 13 回	NPO に関する自由研究発表会 2	第 8 回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第 14 回	最終講義「市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにあって大切な観点とは何か、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の振り返りの時間を大切にしてください。振り返りには、リアクションペーパーやクラスメイトとの雑談の時間を活かしてください。また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、新聞記事や映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。授業で紹介した NPO の主催するイベントへ参加したり、NPO 活動にボランティア等を通じて主体的に関わることも推奨します。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 点、NPO 活動計画書 10 点、自由研究企画書及び発表 40 点。平常点については、授業ごとのリアクションペーパーによって評価・採点します。また、優れたものについては加点を行います。なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。
・NPO を論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
・クラスメイトの関心分野を理解し、どのくらい協力して取り組めたか
(注) 実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】

・受講者同士のリアクションの共有や講師からのフィードバックの時間をつくります。
・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
・NPO 活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践から NPO 活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

なし
(注) オンラインでの実施となった場合は、パソコン又はタブレット、スマートフォンと wifi が必要です。

【その他の重要事項】

授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline and objectives】

NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

SOW300JB

居住福祉論

大原 一興

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考（履修条件等）：隔週開講

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

居住福祉の基本的理念と実情を捉え、それを実現するための方策としての社会的制度や居住福祉環境づくりのために、個人として、専門家として、社会として何が必要かを考える。

【到達目標】

居住福祉の諸理論および実践の理解。福祉住環境の理念と実際についての理解。国内外の実践例に関する知識の習得。福祉住環境コーディネーター検定 3 ～ 2 級レベルの知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の講義と簡単な演習。参考図書・資料の紹介による予習と復習。事例調査レポートの作成。

基本的に隔週、第 2 回目以降は 2 時限続きでおこなう。各回のテーマ、内容については若干の変更もあり得る。

第 1 回：4 月 13 日 4 時限

第 2・3 回：4 月 27 日 4・5 時限

第 4・5 回：5 月 11 日 4・5 時限

第 6・7 回：5 月 25 日 4・5 時限

第 8・9 回：6 月 8 日 4・5 時限

第 10・11 回：6 月 22 日 4・5 時限

第 12・13 回：7 月 6 日 4・5 時限

第 14 回：7 月 20 日 4 時限 基本的に対面授業での開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。オンライン授業の必要性がある場合は、基本的にオンデマンド型で一部双方向を用いながら行う。資料等は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標、進め方と参考図書などの紹介
第 2 回	居住福祉と環境についての理念	居住福祉の概念（居住、住まい、福祉、社会福祉、居住環境等の概念整理）
第 3 回	福祉住環境整備の考え方	高齢者・障害者の福祉と生活環境についての理念、日本の住環境における課題
第 4 回	福祉のまちづくり・制度・政策	居住福祉環境整備のこれまでの経緯
第 5 回	障害と環境の関係性	バリアフリーデザインとユニバーサル・デザインの基礎理念からみた ICF の考え方
第 6 回	高齢者・障害者の身体特性と居住環境	身体特性と居住環境
第 7 回	高齢者・障害者と住まい	高齢者・障害者のための住宅と住宅政策の流れ
第 8 回	高齢者向け住宅、集合住宅と戸建て住宅	高齢者向け住宅の実際、長寿社会対応住宅設計指針など
第 9 回	ハウスのアップグレード・住宅改造	介護保険と居住環境との関係、住宅改修についての具体的な現状と課題
第 10 回	福祉機器の活用	
第 10 回	高齢者福祉施設	高齢者福祉施設における居住環境の詳細
第 11 回	障害者福祉施設等	障害者施設、児童養護施設、グループホーム等における居住環境の詳細
第 12 回	コハウジング 共生の住まいの理念	コーポラティブ住宅とコレクティブリビング、グループハウスなど共生の住まいの考え方の整理
第 13 回	コハウジング 共生の住まいの実際	集住、共生の住まい方に関する国内外の実例の紹介
第 14 回	くらしの先進国に学ぶレポート提出・発表	北欧社会における福祉居住環境の実際と各自レポート内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配付資料や参考資料の予習

常日頃から、身近な居住福祉の環境に関心を持ち、注意をはらって観察し発見したり考察する姿勢が必要です。

レポート作成のために、学外の実例を見学調査することを課しています。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に授業の際に資料を配付する。特定の教科書は使用しない。

【参考書】

野口定久、外山義、武川正吾 編『居住福祉』有斐閣
東京商工会議所 編『福祉住環境コーディネーター検定 1，2，3 級公式テキスト』東京商工会議所
住総研高齢期居住委員会 編『住みつなごのススメ』萌文社

【成績評価の方法と基準】

平常点と毎回の小レポート（リフレクションシート）（70 %）、レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

2 時間続きの授業のため、講義のみ続けて行くと疲れてしまう。適宜演習や対話を含めて進めることとする。

【Outline and objectives】

Learning the theory and the practice for living environment and well-being concerning with social issues, welfare, health, housing, institution, community and social care system

PSY300JB

異文化心理学

奥山 今日子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するよう、例えば外国に代表されるような「文化」だけを異文化とするのではなく、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々と経験をしているわけですが、その経験は私たちが気づかないところかたどられている部分が多くあります。私たちが現象にさらされるとき、自動的に働くものの感じ方、知り方、解釈の仕方は、私たちのこれまでの経験によって規定されていると言えます。私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なものが私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知っていただく機会になればと考えています。

【到達目標】

この授業の到達目標は、①自分自身の経験に基づいて、自分自身が考えられるようになり、それを他者に伝えることができるようになること、②他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義に参加される皆さんの理解の程度や要望に応じて、視聴素材が変更されることがあります。提供する各種の資料について、自分が何を感じ、考えるのかを言語的に明確に表現することが求められます。この能力を高め、他者を経験する機会としての、グループ・ディスカッションも多く行います。受講者の反応により、視聴する DVD 素材の内容・順序を変更します。対面とオンラインのハイブリッドで授業を行います。次の授業がどちらの仕方になるかは、学習支援システムで提示します。課題等に対するフィードバックは、逐次、授業内で総括的に行います。個人的にフィードバックを望む場合、それに応じますので、メール等でご連絡下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第 2 回	人間の心的機能について	「はくはくま」「タイプテスト」を通じて、個人差を経験的に理解する。
第 3 回	アサーション・トレーニング (1)	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第 4 回	アサーション・トレーニング (2)	具体的な例について、グループ・ワークで取り組む。
第 5 回	個人からマクロな文化への影響のあり方	映画「パッチ・アダムス」視聴（解説付き）。
第 6 回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	映画「パッチ・アダムス」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 7 回	個人と文化の双方向的な影響のあり方、その可能性と限界	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴（解説付き）。
第 8 回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 9 回	文化的態度	映画「パッチギ」視聴（解説付き）。
第 10 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「パッチギ」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 11 回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の関係	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴（解説付き）。
第 12 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 13 回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の可能性と限界	映画「普通の人々」視聴（解説付き）。
第 14 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「普通の人々」視聴の続きとディスカッション、後に発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適時、自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを思い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

『こころの処方箋』 河合隼雄 新潮社（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内の小レポート・授業への能動的参加） 40 %
期末レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにこそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してみてほしいと思います。

【Outline and objectives】

The definition of "culture" is various. In this lecture, we focus on interactions between all individuals as intercultural exchanges, not just what is represented by foreign countries. Sometimes we eliminate things that are different to ourselves before we know it. I hope that this lecture will be an opportunity for you to know that they have the potential to enrich us.

PSY300JC

異文化心理学

奥山 今日子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するよう、例えば外国に代表されるような「文化」だけを異文化とするのではなく、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々と経験をしているわけですが、その経験は私たちが気づかないところでかたどられている部分が多くあります。私たちが現象にさらされるとき、自動的に働くものの感じ方、知り方、解釈の仕方は、私たちのこれまでの経験によって規定されていると言えます。私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なものが私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知っていただく機会になればと考えています。

【到達目標】

この授業の到達目標は、①自分自身の経験に基づいて、自分自身が考えられるようになり、それを他者に伝えることができるようになること、②他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義に参加される皆さんの理解の程度や要望に応じて、視聴素材が変更されることがあります。提供する各種の資料について、自分が何を感じ、考えるのかを言語的に明確に表現することが求められます。この能力を高め、他者を経験する機会としての、グループ・ディスカッションも多く行います。受講者の反応により、視聴する DVD 素材の内容・順序を変更します。対面とオンラインのハイブリッドで授業を行います。次の授業がどちらの仕方になるかは、学習支援システムで提示します。課題等に対するフィードバックは、逐次、授業内で総括的に行います。個人的にフィードバックを望む場合、それに応じますので、メール等でご連絡下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第 2 回	人間の心的機能について	「はくはくま」「タイプテスト」を通じて、個人差を経験的に理解する。
第 3 回	アサーション・トレーニング (1)	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第 4 回	アサーション・トレーニング (2)	具体的な例について、グループ・ワークで取り組む。
第 5 回	個人からマクロな文化への影響のあり方	映画「パッチ・アダムス」視聴（解説付き）。
第 6 回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	映画「パッチ・アダムス」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 7 回	個人と文化の双方向的な影響のあり方、その可能性と限界	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴（解説付き）。
第 8 回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 9 回	文化的態度	映画「パッチギ」視聴（解説付き）。
第 10 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「パッチギ」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 11 回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の関係	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴（解説付き）。
第 12 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 13 回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の可能性と限界	映画「普通の人々」視聴（解説付き）。
第 14 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「普通の人々」視聴の続きとディスカッション、後に発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適時、自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを思い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

『こころの処方箋』 河合隼雄 新潮社（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内の小レポート・授業への能動的参加） 40 %
期末レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにこそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してみてほしいと思います。

【Outline and objectives】

The definition of "culture" is various. In this lecture, we focus on interactions between all individuals as intercultural exchanges, not just what is represented by foreign countries. Sometimes we eliminate things that are different to ourselves before we know it. I hope that this lecture will be an opportunity for you to know that they have the potential to enrich us.

PSY300JB

家族心理学

松本 聡子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族とは」「家族はどのように変化するのか」「家族をとりまく問題とは」といった問いに対して、基礎的な事項をふまえたうえで、心理学的な視点からアプローチしていくことが本講義の主なテーマです。

【到達目標】

・家族に関する心理学的な視点からの基礎的な知識を獲得すること。
・上記の知識や視点をふまえ、家族や家族をとりまく現代社会における諸問題の理解・分析ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、家族について概説を行ない、そのうえで人間の発達を軸とした家族の変化のようすとその関連要因について考察していきます。講義の後半では、家族をとりまく諸問題として少子高齢化、環境、労働などを取り上げ、現代社会における家族のあり方について検討します。講義中に多くのデータを紹介しますので、配布資料には必ず目を通すようにしてください。また、リアクションペーパーを提出していただく場合もあります。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、講義中に適宜行う予定です。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の概要説明
第 2 回	家族とはなにか	家族に関する基礎的な事項の説明
第 3 回	家族の発達	家族の変化・発達の概観
第 4 回	結婚と夫婦関係	結婚し夫婦になることについて心理学的な視点からの検討
第 5 回	子どもの発達	発達に関する基礎的な事項の説明
第 6 回	親になること	親への移行の様相とその関連要因
第 7 回	夫婦と子どもの発達	夫婦関係と子どもの発達の関わり
第 8 回	親と子の関係	親子の相互の関係性と変化
第 9 回	家族をめぐる諸問題：少子高齢化	少子高齢化問題の家族心理学的な視点からの検討
第 10 回	家族をめぐる諸問題：住まい・近隣環境	住環境や近隣環境からの家族関係の検討
第 11 回	家族をめぐる諸問題：働くことと家族	就労と家族の問題に関する考察
第 12 回	日本の家族	日本の家族が置かれている状況について国際比較をまじえた説明
第 13 回	家族に関する研究の課題と展望	家族に関する学術的な研究の紹介と課題の検討
第 14 回	試験	試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の際に配布するプリントなどを見ながら、前回の内容を復習したうえで、講義に参加してください。講義では現代社会における家族に関する問題も扱っていきますので、日ごろから新聞や雑誌記事などを意識して見るようにしてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に適宜プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出 30 %
学期末試験 70 %

家族に関する心理学的な視点からの基礎的な知識が獲得・理解できているか、基礎知識をふまえたうえでの、家族や家族をとりまく現代社会における諸問題の理解・分析による考察内容、などの観点から評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度の授業改善アンケートは現在集計中につき、結果が出次第それを講義に活かしていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

・講義中に様々なデータをスライドやビデオなどで提示したり、講義に出席・参加することは講義内容を理解するために重要です。
・上記の授業計画や内容は、授業の進行や状況により変更があり得ます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course will be to acquire basic understanding of "family" from psychological perspective. Based on such understanding, we will consider topics such as definition of family, family development, and current issue of families in Japan.

PSY300JC

家族心理学

松本 聡子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族とは」「家族はどのように変化するのか」「家族をとりまく問題とは」といった問いに対して、基礎的な事項をふまえたうえで、心理学的な視点からアプローチしていくことが本講義の主なテーマです。

【到達目標】

・家族に関する心理学的な視点からの基礎的な知識を獲得すること。
・上記の知識や視点をふまえ、家族や家庭をとりまく現代社会における諸問題の理解・分析ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、家族について概説を行ない、そのうえで人間の発達を軸とした家族の変化のようすとその関連要因について考察していきます。講義の後半では、家族をとりまく諸問題として少子高齢化、環境、労働などを取り上げ、現代社会における家族のあり方について検討します。講義中に多くのデータを紹介しますので、配布資料には必ず目を通すようにしてください。また、リアクションペーパーを提出していただく場合もあります。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、講義中に適宜行う予定です。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の概要説明
第 2 回	家族とはなにか	家族に関する基礎的な事項の説明
第 3 回	家族の発達	家族の変化・発達の概観
第 4 回	結婚と夫婦関係	結婚し夫婦になることについて心理学的な視点からの検討
第 5 回	子どもの発達	発達に関する基礎的な事項の説明
第 6 回	親になること	親への移行の様相とその関連要因
第 7 回	夫婦と子どもの発達	夫婦関係と子どもの発達の関わり
第 8 回	親と子の関係	親子の相互の関係性と変化
第 9 回	家族をめぐる諸問題：少子高齢化	少子高齢化問題の家族心理学的な視点からの検討
第 10 回	家族をめぐる諸問題：住まい・近隣環境	住環境や近隣環境からの家族関係の検討
第 11 回	家族をめぐる諸問題：働くことと家族	就労と家族の問題に関する考察
第 12 回	日本の家族	日本の家族が置かれている状況について国際比較をまじえた説明
第 13 回	家族に関する研究の課題と展望	家族に関する学術的な研究の紹介と課題の検討
第 14 回	試験	試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の際に配布するプリントなどを見ながら、前回の内容を復習したうえで、講義に参加してください。講義では現代社会における家族に関する問題も扱っていきますので、日ごろから新聞や雑誌記事などを意識して見るようにしてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に適宜プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出	30 %
学期末試験	70 %

家族に関する心理学的な視点からの基礎的な知識が獲得・理解できているか、基礎知識をふまえたうえでの、家族や家庭をとりまく現代社会における諸問題の理解・分析による考察内容、などの観点から評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度の授業改善アンケートは現在集計中につき、結果が出次第それを講義に活かしていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

・講義中に様々なデータをスライドやビデオなどで提示したり、講義に出席・参加することは講義内容を理解するために重要です。
・上記の授業計画や内容は、授業の進行や状況により変更があり得ます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course will be to acquire basic understanding of "family" from psychological perspective. Based on such understanding, we will consider topics such as definition of family, family development, and current issue of families in Japan.

PSY300JB

教育心理学特講

安齊 順子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで教育心理学という科目で教えられてきたジャンルの中で、認知心理学的分野に臨床心理学的視点も併せて詳しく学ぶ。基本的な知識と、現代の子供をめぐる社会における問題への対応策や発達障害などの問題について併せて習得することを目的とする。学生は授業を通じて教育心理学の知識に加え子どもの問題を心理学的に理解するための展望を学ぶ。

【到達目標】

学生がこれまで習得した心理学知識と融合した形で、学校での諸問題への対応策をイメージすることや対応ができるようになることを目標とする。加えて、過去の心理学、教育心理学の理論を習得し、幅広い知識を獲得することを目標とする。学生は現代の学校でスクールカウンセリング等現実に行われている対処法や方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストとパソコンを利用した講義、課題によってはグループ学習の形式も取り入れる（例、アンガーマネジメント実習）。リアクションペーパーは毎回提出する。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる可能性があるが、大学の方針に準ずる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は大学に指示された該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教育心理学とは、歴史	教育心理学という科目の成り立ち
2	発達段階と発達課題	心理学における発達概念を学ぶ
3	学習と動機づけ	学習と動機づけについて学ぶ
4	幼児期、児童期、青年期の心理的問題（幼児・児童期）	幼児期、児童期の心理的問題について学ぶ
5	幼児期、児童期、青年期の心理的問題（青年期）	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学級の心理学、集団とは何か	具体的には、いじめなどについて学ぶ
7	脳の発達と心	子どもの脳と心について学ぶ
8	パーソナリティの理解	人格理解とその歴史について学ぶ
9	パーソナリティの理解 2	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
10	学校におけるカウンセリング、不登校	諸問題のうち不登校について学ぶ
11	学校で使えるカウンセリングの技法	様々な技法について学ぶ
12	学校で使える技法	アンガーマネジメント教育などのグループワーク
13	スクールカウンセラーの理解と活用	学校に配置されているスクールカウンセラーの仕事内容や活用を学ぶ
14	心理教育的援助サービス	発達障害について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の学習 新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談」「心理学」「臨床心理学」「心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「使える」教育心理学 服部環他著 北樹出版

【参考書】

「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原 雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版 会沢信彦・安斎順子編著

【成績評価の方法と基準】

試験を行う（70 %）。授業態度やリアクションペーパーなどの授業への反応も評価に含めることがある（30 %）。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回感想をとり次回の参考にする。昨年の感想から、学ぶ学生に知識のばらつきが見られるため、リアクションペーパーで反応を確認し、理解が深まっていない点については、次回の授業で取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

教員はスクールカウンセラーの経験があるため、その体験を説明する。臨床心理士の資格を持っているため、その資格について説明する場合がある。

【Outline and objectives】

Educational Psychology

PSY300JC

教育心理学特講

安齊 順子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／ 2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで教育心理学という科目で教えられてきたジャンルの中で、認知心理学的分野に臨床心理学的視点も併せて詳しく学ぶ。基本的な知識と、現代の子供をめぐる社会における問題への対応策や発達障害などの問題について併せて習得することを目的とする。学生は授業を通じて教育心理学の知識に加え子どもの問題を心理学的に理解するための展望を学ぶ。

【到達目標】

学生がこれまで習得した心理学知識と融合した形で、学校での諸問題への対応策をイメージすることや対応ができるようになることを目標とする。加えて、過去の心理学、教育心理学の理論を習得し、幅広い知識を獲得することを目標とする。学生は現代の学校でスクールカウンセリング等現実に行われている対処法や方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストとパソコンを利用した講義、課題によってはグループ学習の形式も取り入れる（例、アンガーマネジメント実習）。リアクションペーパーは毎回提出する。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる可能性があるが、大学の方針に準ずる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は大学に指示された該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教育心理学とは、歴史	教育心理学という科目の成り立ち
2	発達段階と発達課題	心理学における発達概念を学ぶ
3	学習と動機づけ	学習と動機づけについて学ぶ
4	幼児期、児童期、青年期の心理的問題（幼児・児童期）	幼児期、児童期の心理的問題について学ぶ
5	幼児期、児童期、青年期の心理的問題（青年期）	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学級の心理学、集団とは何か	具体的には、いじめなどについて学ぶ
7	脳の発達と心	子どもの脳と心について学ぶ
8	パーソナリティの理解	人格理解とその歴史について学ぶ
9	パーソナリティの理解 2	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
10	学校におけるカウンセリング、不登校	諸問題のうち不登校について学ぶ
11	学校で使えるカウンセリングの技法	様々な技法について学ぶ
12	学校で使える技法	アンガーマネジメント教育などのグループワーク
13	スクールカウンセラーの理解と活用	学校に配置されているスクールカウンセラーの仕事内容や活用を学ぶ
14	心理教育的援助サービス	発達障害について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の学習 新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談」「心理学」「臨床心理学」「心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「使える」教育心理学 服部環他著 北樹出版

【参考書】

「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原 雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版 会沢信彦・安斎順子編著

【成績評価の方法と基準】

試験を行う（70 %）。授業態度やリアクションペーパーなどの授業への反応も評価に含めることがある（30 %）。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回感想をとり次回の参考にする。昨年の感想から、学ぶ学生に知識のばらつきが見られるため、リアクションペーパーで反応を確認し、理解が深まっていない点については、次回の授業で取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

教員はスクールカウンセラーの経験があるため、その体験を説明する。臨床心理士の資格を持っているため、その資格について説明する場合がある。

【Outline and objectives】

Educational Psychology

SOW300JB

セルフヘルプグループ

横川 剛毅

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が生活するうえで、さまざまな困難や生きづらさがあります。同じような生きづらさをもつ人たちの集まりがセルフヘルプグループ（SHG=自助グループ）です。

学生が、その意義を理解することがこの科目の目的です。

【到達目標】

次の2点を目標とします。

①さまざまな困難や生きづらさを知ることによって、人の生活における支え合いについての知見をもち、考えを他者に伝えることができる。

②困難や生きづらさのある人との対等なパートナーシップを理解し、他者と共有できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この科目は学生同士が協働しながら学びます。講義形式と併せて、視聴覚教材・ゲストスピーカーの声や姿をもとに、毎回、小グループでのディスカッションを取り入れ適宜発表してもらいます。そのため受講者には、相応の主体性と協調性を求め評価にあたってはそれらを平常点として重視します。併せて、基本的に「休まない」「遅刻しない」心構えを求めます。課題のフィードバックについては、①前週の授業のリアクションペーパーを、授業冒頭に匿名で全体に対して紹介して共有を図ります。②発表に関しては、教員が評価コメントを授業内で伝えます。なお、履修者数、授業の進捗、社会情勢などを考慮して、下記の授業計画を若干変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション SHG とは何か	この授業の全体像を把握する。また SHG の定義を学ぶ
第2回	知的障がいの理解	周囲に障がいを感じない生き方について学ぶ
第3回	摂食障がいの困難	摂食障がいについて学ぶ
第4回	摂食障がいの SHG	摂食障がいの SHG について学ぶ
第5回	パニック障がいの理解と SHG	パニック障がいのある当事者から学ぶ
第6回	精神障がいの理解	精神障がいを理解し SHG について学ぶ
第7回	ゲストスピーカーから学ぶ①	精神障がいのある親をもつ子どもの SHG から、実践を学ぶ
第8回	依存症とは	多様な依存症について知る
第9回	アルコール依存症の困難	アルコール依存症について学ぶ
第10回	ゲストスピーカーから学ぶ②	ゲストスピーカーの語りから依存症と回復について考える
第11回	アルコール依存症の SHG	アルコール依存症の SHG について学ぶ
第12回	グループ内発表	ここまでの学びを踏まえて注目した内容について自ら調べ、レジュメにまとめ たうえで、その内容を発表し合う
第13回	発表準備	発表用パワーポイント作成する
第14回	学びの成果の共有	一人ひとりが履修者全体に、学びの成果を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ内発表や全体への発表やレポート作成に向け、授業内容だけでなく、自分自身が関心のある SHG について調べたり情報収集したりして学びを深めましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。基本的に毎回プリントを配布します。

【参考書】

「セルフヘルプ・グループ ―当事者へのまなざし―」（久保絃章 著）相川書房 2004 他、授業内で適宜伝えます。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション参加度合いなどの平常点（20 %）、リアクション（30 %）、レポート課題（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年度の授業改善アンケートや、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通した学びの意義が見出されました。そのため、この科目の本質である「語り合いと共有」を大切にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業配布プリント収納用にクリアファイル（A4 サイズ・20 シート以上）を準備しておく。

【Outline and objectives】

When a person lives, there are various difficulty and difficulty in living. People's gathering with difficulty in living equally is a self-helping group (SHG). It's the purpose of this subject that students understand its significance.

SOW300JC

セルフヘルプグループ

横川 剛毅

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が生活するうえで、さまざまな困難や生きづらさがあります。同じような生きづらさをもつ人たちの集まりがセルフヘルプグループ（SHG=自助グループ）です。

学生が、その意義を理解することがこの科目の目的です。

【到達目標】

次の 2 点を目標とします。

①さまざまな困難や生きづらさを知ることによって、人の生活における支え合いについての知見をもち、考えを他者に伝えることができる。

②困難や生きづらさのある人との対等なパートナーシップを理解し、他者と共有できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この科目は学生同士が協働しながら学びます。講義形式と併せて、視聴覚教材・ゲストスピーカーの声や姿をもとに、毎回、小グループでのディスカッションを取り入れ適宜発表してもらいます。そのため受講者には、相応の主体性と協調性を求め評価にあたってはそれらを平常点として重視します。併せて、基本的に「休まない」「遅刻しない」心構えを求めます。課題のフィードバックについては、①前週の授業のリアクションペーパーを、授業冒頭に匿名で全体に対して紹介して共有を図ります。②発表に関しては、教員が評価コメントを授業内で伝えます。なお、履修者数、授業の進捗、社会情勢などを考慮して、下記の授業計画を若干変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション SHG とは何か	この授業の全体像を把握する。また SHG の定義を学ぶ
第 2 回	知的障がいの理解	周囲に障がいを感じない生き方について学ぶ
第 3 回	摂食障がいの困難	摂食障がいについて学ぶ
第 4 回	摂食障がいの SHG	摂食障がいの SHG について学ぶ
第 5 回	パニック障がいの理解と SHG	パニック障がいのある当事者から学ぶ
第 6 回	精神障がいの理解	精神障がいを理解し SHG について学ぶ
第 7 回	ゲストスピーカーから学ぶ①	精神障がいのある親をもつ子どもの SHG から、実践を学ぶ
第 8 回	依存症とは	多様な依存症について知る
第 9 回	アルコール依存症の困難	アルコール依存症について学ぶ
第 10 回	ゲストスピーカーから学ぶ②	ゲストスピーカーの語りから依存症と回復について考える
第 11 回	アルコール依存症の SHG	アルコール依存症の SHG について学ぶ
第 12 回	グループ内発表	ここまでの学びを踏まえて注目した内容について自ら調べ、レジュメにまとめようとして、その内容を発表し合う
第 13 回	発表準備	発表用パワーポイント作成する
第 14 回	学びの成果の共有	一人ひとりが履修者全体に、学びの成果を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ内発表や全体への発表やレポート作成に向け、授業内容だけでなく、自分自身が関心のある SHG について調べたり情報収集したりして学びを深めましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。基本的に毎回プリントを配布します。

【参考書】

「セルフヘルプ・グループ ―当事者へのまなざし―」（久保絃章 著）相川書房 2004 他、授業内で適宜伝えます。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション参加度合いなどの平常点（20 %）、リアクション（30 %）、レポート課題（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年度の授業改善アンケートや、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通した学びの意義が見出されました。そのため、この科目の本質である「語り合いと共有」を大切にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業配布プリント収納用にクリアファイル（A4 サイズ・20 シート以上）を準備しておく。

【Outline and objectives】

When a person lives, there are various difficulty and difficulty in living. People's gathering with difficulty in living equally is a self-helping group (SHG). It's the purpose of this subject that students understand its significance.

SOW300JB

多文化ソーシャルワーク

伊藤 正子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多文化社会を形成する要因とその問題について「資本と労働の国際移動」と「外国人労働者問題」から検討し、外国にルーツを持つ人々の生活問題とその福祉援助について考える。

【到達目標】

グローバリゼーションの視点から、現代社会の特質と人種・民族、文化の差異が関わって発生する生活問題との関連について理解する。
多文化ソーシャルワークの視点、思想・価値、原則・方法について理解する。
多文化ソーシャルワークの実践について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、仮想現実の中で問題解決のあり方を探る集団討議を行い、多文化理解や多文化社会実現の方法と課題について検討する。次に、グローバル化した現代社会の特質を整理・検討し、個人の生活問題との関係性を検討する。その上で、多文化ソーシャルワークについて、その起源・発展、理論的基盤、思想・価値、原則・方法について説明し、実際の展開例などの検討を行っている。オンラインまたは対面式での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標、評価方法の確認、文化固有の習慣・価値とコミュニケーション・ギャップの理解
第 2 回	集団討議①	異文化間コミュニケーションの相違と相互理解
第 3 回	集団討議②	勤労に対する価値観の相違と社会問題
第 4 回	集団討議③	言語・教育における価値観の相違と社会問題
第 5 回	集団討議④	居住の集住化と分離と社会保障問題
第 6 回	集団討議⑤	前半の振り返りと多文化社会における課題の検討
第 7 回	現代社会の特質①	資本と労働の国際移動についての歴史的検討
第 8 回	現代社会の特質②	「周縁」における労働実態
第 9 回	在日外国人の置かれた状況①	入管法と外国人労働者政策および外国人労働者の社会保障
第 10 回	在日外国人の置かれた状況②	外国人労働者の医療・福祉問題
第 11 回	多文化ソーシャルワーク理論	歴史の変遷とその特徴
第 12 回	多文化ソーシャルワークの実践	アメリカにおけるハルハウスおよび近年の実践状況
第 13 回	日本における多文化ソーシャルワーク	労災・医療・福祉問題と方法論としてのアドボカシーネットワーク
第 14 回	試験	学習した内容の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介した文献・資料の他、新聞、テレビ、地域活動などからも関連した問題・動向に関心を持ち、理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、毎回プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

集団討議への能動的参加・発言（60％）

最終試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】

集団討議を積み重ねていくことでディスカッションに慣れていき、講義より積極的に参加できるとの意見に基づき、主体的な検討、討議ができる主題をさらに工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】

外国人支援NGOでのソーシャルワーカー経験を持つ教員が、多文化社会において発生する諸問題やその支援のあり方について、様々な事例を交えて解説する。

【Outline and objectives】

This course introduces the complexity of issues on multicultural society from the perspective of the historical, global economy and international migration. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Ethnic Sensitive Social Work, discuss the role of social worker and apply in the treatment of difference, oppression and social justice.

SOW300JB

老いの文化と福祉

中村 律子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が老いるとはどのようなことなのか。老いについて、高齢者福祉制度・政策、コミュニティ、社会との関わりの中から、社会的、文化的、地域的、歴史的、福祉的にどのように位置づけられ形成されてきたのかについて、理解を深める。老いの思想、老いと死、老いと福祉、主体的な老いを生きるための視点を明確にする。

【到達目標】

高齢社会における、高齢者の生き方、老いの方の多面性や多様性に着目し、制度、コミュニティ、社会の時間軸や空間軸から、老いの社会的、文化的、地域的形を立体的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

高齢社会における老いの文化と高齢者福祉形成に関して先進的に取り組んでいる日本、諸外国を取り上げ、高齢者福祉の仕組み、そのシステム、コミュニティ、文化の特質を考察する。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。授業計画や進め方に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	人の老い方に関する社会的文化的的研究と福祉の実践を学ぶ意義について
第 2 回	高齢期のアイデンティティ	プロダクティブエイジング論など高齢期の存在意味を理解する
第 3 回	高齢者の生きがい、幸福観	高齢者の生きがい、幸福観、価値観と社会的・文化的役割を学ぶ
第 4 回	認知症高齢者の生活技法、地域社会的基盤	認知症当事者の QOL と先進的な認知症ケアシステムとコミュニティ文化の検討
第 5 回	高齢者の孤独死とコミュニティ	高齢期の孤立・孤独死問題、セルフネグレクトの特性と地域社会の対応
第 6 回	人生の最期を支えるケア（看取り）	エンディングケア、看取りに関する医療・福祉の社会文化
第 7 回	生活文化と福祉・介護・ケア	介護される/介護する関係、尊厳ある福祉・ケアについて理解する
第 8 回	高齢社会における世代間関係と家族関係	老老介護、ヤングケアラー、ダブル介護をとりまく介護家族の実態
第 9 回	地域における高齢者の創造的実践	過疎化・高齢化地域に生きる高齢者の生活実践
第 10 回	高齢者と犯罪	高齢者のアイデンティ危機や孤立化問題と犯罪との関連、司法と福祉の連携
第 11 回	フォーマルケア・インフォーマルケアの特質	コミュニティ・ケア、新しいサービスの創造
第 12 回	欧米とアジアの Aging Society	欧米、アジアの高齢者のケアシステムをめぐる地域と社会文化
第 13 回	高齢福祉の文化と社会ありかたの将来展望	10 年後、20 年後の高齢者の地域社会と福祉文化のあり方を展望する
第 14 回	まとめ	講義の総括と今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さまざまな社会、地域社会のなかで自らの老いを生き、生かされている事象や社会的文化的な老いの生き方の実践事例を調べてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、講義中に紹介します。

【参考書】

高橋絵里香（2013）『老いを歩む人びと』勁草書房、デビット・A・シンクレア（2020）『ライフスパン 老いなき世界』東洋経済など、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）、授業内小レポート課題の内容（10%）で評価します。試験実施方法や評価については、学習支援システムにて提示します。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は休講でしたのでアンケートは実施していませんが、新聞記事やビデオ教材なども活用して分かりやすく講義内容を工夫したいと考えています。

【Outline and objectives】

What does it mean to grow older? This course promotes students' understanding in the definition of "Growing older" with relation to welfare system and measures for the aged, communities, and the society in general. In this process, we will pay our attention to how the aging culture has been formed socially, culturally, historically, locally/regionally, and from welfare-perspective. We will also define the ideology of growing older, old age and death, welfare for the aged, and having a proactive aged life.

SOW300JC

死生観とソーシャルワーク

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活では意識しにくくなっている「死」について考えることにより、改めて「生きる」ことを見つめ、ソーシャルワークにおける援助観の形成を目指すものである。授業内では、「死」を取り扱うことへの概念的な理解から、映像・グループワークを通して、死にゆく人への寄り添い方や専門的な実務に至るまでを学習していく。

【到達目標】

受講者ひとりひとりが自己の生き方や価値観を見つめ、死生観を育むことを目指す。また、社会福祉や近接領域の死の位相について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体とするが、参加型の授業を目指すため、DVD 視聴、グループディスカッションや演習を実施します。また、リアクションペーパー、小レポートを課すので、必ず提出してください。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、死生観を育む必要性についての解説
第 2 回	ホスピスの誕生	ホスピスの誕生、三徴候死、脳死
第 3 回	病む人が抱える痛み	病む人が抱える痛みについて考える
第 4 回	残された人生	あなたにとって大切なこと・ものを考える
第 5 回	グリーフ・ケア、ビリー ブメントケア	悲嘆へのケアについて考える
第 6 回	尊厳死・安楽死	現代の死の様相について考える
第 7 回	愛する人を失うというこ と①	大切な人を失う感覚について考える
第 8 回	愛する人を失うというこ と②	悲嘆感情の表出について考える
第 9 回	ソーシャルワーカーとし て何ができるか①	社会福祉援助対象者の喪失について考 える
第 10 回	ソーシャルワーカーとし て何ができるか②	対象者の悲嘆感情への支援について考 える
第 11 回	癒しとは何か①	人の癒しについて考える
第 12 回	癒しとは何か②	心地よさについて考える
第 13 回	死への準備に必要なこと	人として死を迎えることについて考 える
第 14 回	総括	これまでの学習をふまえたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。
社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『相談援助の基盤と専門職』、『相談援助の理論と方法Ⅰ』、『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業内では資料やレジュメを配布する。

【参考書】

適宜必要な文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】

小レポート及びリアクションペーパーの内容 40%、ディスカッション・ディ
ベートへの参加度 20%、学期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

「生きること」「死ぬこと」について学生同士で意見交換することについて、好評だったので、今年度も意識しながら実施していく。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーカーが関わる「生と死」について具体的な話を盛り込みながら、授業を展開する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.

SOW300JB

死生観とソーシャルワーク

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活では意識しにくくなっている「死」について考えることにより、改めて「生きる」ことを見つめ、ソーシャルワークにおける援助観の形成を目指すものである。授業内では、「死」を取り扱うことへの概念的な理解から、映像・グループワークを通して、死にゆく人への寄り添い方や専門的な実務に至るまでを学習していく。

【到達目標】

受講者ひとりひとりが自己の生き方や価値観を見つめ、死生観を育むことを目指す。また、社会福祉や近接領域の死の位相について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体とするが、参加型の授業を目指すため、DVD 視聴、グループディスカッションや演習を実施します。また、リアクションペーパー、小レポートを課すので、必ず提出してください。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、死生観を育む必要性についての解説
第 2 回	ホスピスの誕生	ホスピスの誕生、三徴候死、脳死
第 3 回	病む人が抱える痛み	病む人が抱える痛みについて考える
第 4 回	残された人生	あなたにとって大切なこと・ものを考える
第 5 回	グリーフ・ケア、ビリー ブメントケア	悲嘆へのケアについて考える
第 6 回	尊厳死・安楽死	現代の死の様相について考える
第 7 回	愛する人を失うというこ と①	大切な人を失う感覚について考える
第 8 回	愛する人を失うというこ と②	悲嘆感情の表出について考える
第 9 回	ソーシャルワーカーとし て何ができるか①	社会福祉援助対象者の喪失について考 える
第 10 回	ソーシャルワーカーとし て何ができるか②	対象者の悲嘆感情への支援について考 える
第 11 回	癒しとは何か①	人の癒しについて考える
第 12 回	癒しとは何か②	心地よさについて考える
第 13 回	死への準備に必要なこと	人として死を迎えることについて考 える
第 14 回	総括	これまでの学習をふまえたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。
社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『相談援助の基盤と専門職』、『相談援助の理論と方法Ⅰ』、『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業内では資料やレジュメを配布する。

【参考書】

適宜必要な文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】

小レポート及びリアクションペーパーの内容 40%、ディスカッション・ディ
ベートへの参加度 20%、学期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

「生きること」「死ぬこと」について学生同士で意見交換することについて、好評だったので、今年度も意識しながら実施していく。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーカーが関わる「生と死」について具体的な話を盛り込みながら、授業を展開する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.

PSY300JB

コミュニティ心理学

丹羽 郁夫

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティ心理学のアプローチは、伝統的個人心理臨床と異なり、個人の心だけでなく取り巻く環境（家族、学校、職場、地域社会など）へも働きかけ、治療よりも予防を重視します。その点で福祉および地域づくりと接点を持ちます。この講義を受講することで、現代の様々な心理的問題の理解と解決方法の幅が広がると 생각합니다。

【到達目標】

コミュニティ心理学のもつ視点と様々な介入方法に関して、個人心理臨床との違いを踏まえて説明することができます。そして、コミュニティ心理学に基づいた実証研究を計画できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学関連の授業を初めて履修する場合にも理解できるように、伝統的な心理臨床のモデルと基本的な視点について紹介します。その上で、コミュニティ心理学の基本的視点と理論、介入方法について講義します。実践や研究などの実際の紹介を多くまじえながら進める予定です。また授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容と進め方、評価の仕方を説明。
第 2 回	伝統的心理臨床モデルとは	伝統的心理臨床モデルによる事例を報告し、個人心理臨床の特徴を講義。
第 3 回	臨床心理の基本的視点①：発達の視点	臨床心理の基本的な視点として M. マーラーの分離-個体化理論などの発達モデルを講義。
第 4 回	臨床心理の基本的視点②：病態水準の視点	臨床心理の基本的な視点として病態水準を講義。
第 5 回	臨床心理の基本的視点③：システム論の視点	臨床心理の基本的な視点としてシステムの視点と家族療法を講義。
第 6 回	コミュニティ心理学の視点①	伝統的心理臨床の限界とそれを補うコミュニティ心理学の視点を講義。
第 7 回	コミュニティ心理学の視点②	コミュニティ心理学の歴史、定義、専門家の役割を講義。
第 8 回	介入の 6 レベル	マレルによる介入の 6 レベルについて講義。
第 9 回	心理的ストレス	心理的ストレス理論と実証研究を講義。
第 10 回	ソーシャルサポートと介入	ソーシャルサポートの理論とその介入を講義。
第 11 回	危機介入	危機理論と危機介入の実際の事例を用いて講義。
第 12 回	コンサルテーションとコラボレーション	コンサルテーションとコラボレーションの理論と実践を事例を用いて講義。
第 13 回	予防と介入	いくつかの予防の理論とその介入を講義。
第 14 回	まとめ	講義全体の振り返りと質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の講義で次回の講義内容が説明されるので、参考書などで事前に調べることが求められます。講義の後には、配布資料を読み、講義内容を振り返り、疑問点や興味をもったことなどを調べることを求められます。さらに学習を進めたい場合は、配布資料に記載された引用・参考文献を読むことが勧められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、教員が作成する資料を配布します。各テーマの重要文献は資料に記載します。

【参考書】

授業では使用しませんが、参考書には次の 2 冊があります（必ずしも購入する必要はありません）。『よくわかるコミュニティ心理学』（植村勝彦・高島克子・箕口雅博・久田満編 ミネルヴァ書房 2006 年 2,500 円＋税）、『コミュニティ心理学入門』（植村勝彦編 ナカニシヤ出版 2007 年 2,400 円＋税）

【成績評価の方法と基準】

筆記試験で評価しますが、その得点が 60 点未満の場合は平常点（リアクションペーパーの内容等）を含め総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は国内研究員のため本授業を担当していません。

【その他の重要事項】

講義する内容を学生の皆さんが理解しやすくするため、プライバシーに配慮して、教員が経験した事例をいくつか報告します。

【Outline and objectives】

Unlike the traditional individual clinical psychological approach, community psychology approach works not only on the individual but also on the surrounding environment (family, school, workplace, community, etc.) and emphasizes prevention rather than treatment. In that respect, this approach has contacts with welfare and community development. By taking this lecture, students will be able to understand and solve various modern psychological problems.

PSY200JC

コミュニティ心理学

丹羽 郁夫

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティ心理学のアプローチは、伝統的個人心理臨床と異なり、個人の心だけでなく取り巻く環境（家族、学校、職場、地域社会など）へも働きかけ、治療よりも予防を重視します。その点で福祉および地域づくりと接点を持ちます。この講義を受講することで、現代の様々な心理的問題の理解と解決方法の幅が広がると思います。

【到達目標】

コミュニティ心理学のもつ視点と様々な介入方法に関して、個人心理臨床との違いを踏まえて説明することができます。そして、コミュニティ心理学に基づいた実証研究を計画できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学関連の授業を初めて履修する場合にも理解できるように、伝統的な心理臨床のモデルと基本的な視点について紹介します。その上で、コミュニティ心理学の基本的視点と理論、介入方法について講義します。実践や研究などの実際の紹介を多くまじえながら進める予定です。また授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容と進め方、評価の仕方を説明。
第 2 回	伝統的心理臨床モデルとは	伝統的心理臨床モデルによる事例を報告し、個人心理臨床の特徴を講義。
第 3 回	臨床心理の基本的視点①：発達の視点	臨床心理の基本的な視点として M. マーラーの分離-個体化理論などの発達モデルを講義。
第 4 回	臨床心理の基本的視点②：病態水準の視点	臨床心理の基本的な視点として病態水準を講義。
第 5 回	臨床心理の基本的視点③：システム論の視点	臨床心理の基本的な視点としてシステムの視点と家族療法を講義。
第 6 回	コミュニティ心理学の視点①	伝統的心理臨床の限界とそれを補うコミュニティ心理学の視点を講義。
第 7 回	コミュニティ心理学の視点②	コミュニティ心理学の歴史、定義、専門家の役割を講義。
第 8 回	介入の 6 レベル	マレルによる介入の 6 レベルについて講義。
第 9 回	心理的ストレス	心理的ストレス理論と実証研究を講義。
第 10 回	ソーシャルサポートと介入	ソーシャルサポートの理論とその介入を講義。
第 11 回	危機介入	危機理論と危機介入の実際の事例を用いて講義。
第 12 回	コンサルテーションとコラボレーション	コンサルテーションとコラボレーションの理論と実践を事例を用いて講義。
第 13 回	予防と介入	いくつかの予防の理論とその介入を講義。
第 14 回	まとめ	講義全体の振り返りと質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の講義で次回の講義内容が説明されるので、参考書などで事前に調べることが求められます。講義の後には、配布資料を読み、講義内容を振り返り、疑問点や興味をもったことなどを調べることが求められます。さらに学習を進めたい場合は、配布資料に記載された引用・参考文献を読むことが勧められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、教員が作成する資料を配布します。各テーマの重要文献は資料に記載します。

【参考書】

授業では使用しませんが、参考書には次の 2 冊があります（必ずしも購入する必要はありません）。『よくわかるコミュニティ心理学』（植村勝彦・高島克子・箕口雅博・久田満編 ミネルヴァ書房 2006 年 2,500 円+税）、『コミュニティ心理学入門』（植村勝彦編 ナカニシヤ出版 2007 年 2,400 円+税）

【成績評価の方法と基準】

筆記試験で評価しますが、その得点が 60 点未満の場合は平常点（リアクションペーパーの内容等）を含め総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は国内研究員のため本授業を担当していません。

【その他の重要事項】

講義する内容を学生の皆さんが理解しやすくするため、プライバシーに配慮して、教員が経験した事例をいくつか報告します。

【Outline and objectives】

Unlike the traditional individual clinical psychological approach, community psychology approach works not only on the individual but also on the surrounding environment (family, school, workplace, community, etc.) and emphasizes prevention rather than treatment. In that respect, this approach has contacts with welfare and community development. By taking this lecture, students will be able to understand and solve various modern psychological problems.

PSY200JC

心理療法

久保田 幹子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理療法の基本的な概念、歴史、対象、具体的な方法について概説する。

【到達目標】

心理療法の基本的な概念を理解し、心理療法の対象、心理療法家としての姿勢を学ぶ。また幾つかの心理療法について、具体的な方法とその効果について理解し、心理的援助の実践について説明することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

心理的援助を必要とする対象とそれらが抱える問題、それを解決するための心理療法の方法、心理療法家の姿勢について具体的に理解できるよう、講義を中心に視聴覚資料なども取り入れつつ進めていく。

理解を深めるために、リアクションペーパーも活用しますが、授業で提出されたリアクションペーパーについては、いくつか質問や意見を取り上げ、次の授業内で全体に対してフィードバックを行っていきます。また課題等の提出・フィードバックは授業内および「学習支援システム」を通じて行う予定です。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更もあり得ます。各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	心理療法とは何か	講義の概要と成績評価の基準について説明し、心理療法とは何かについて概説する
第 2 回	心理療法の歴史	心理療法の発展の歴史について概説する
第 3 回	心理療法の対象と領域	心理療法が、どのような領域で、どのような対象に対しておこなわれるのかを概説する。
第 4 回	心理療法家の姿勢と役割（1）	心理療法を行う上で、セラピストに必要な資質、姿勢について概説する。
第 5 回	心理療法家の姿勢と役割（2）	心理療法において、セラピストがクライアントとどのように関わるか、またセラピストの役割について概説する。
第 6 回	心理療法を始めるにあたって	心理療法を始めるにあたって、セラピストがどのような作業を行うかを概説する。
第 7 回	心理療法（1） 来談者中心療法、支持的 精神療法	主な心理療法の中で、来談者中心療法、支持的精神療法の理論と方法について概説する。
第 8 回	心理療法（2） 精神分析的な精神療法、プ リーフセラピーなど	主な心理療法の中で、精神分析的な精神療法、プリーフセラピーなどの理論と方法について概説する。
第 9 回	心理療法（3） 認知行動療法、対人関係 療法など	主な心理療法の中で、認知行動療法、対人関係療法などの理論と方法について概説する。
第 10 回	心理療法（4） 日本で生まれた心理療法 ：森田療法、内観療法	日本で生まれた心理療法である森田療法と内観療法の理論と方法について概説する。
第 11 回	心理療法（5） 遊戯療法、箱庭療法など	主な心理療法の中で、言語を介さない遊戯療法、箱庭療法などの理論と方法について概説する。
第 12 回	心理療法の実際（1）	心理療法の実際の事例を通して、心理療法のプロセスを学ぶ。例：対人緊張
第 13 回	心理療法の実際（2）	心理療法の実際の事例を通して、心理療法のプロセスを学ぶ。例：摂食障害
第 14 回	学期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料をもとに授業内容を復習すると共に、参考図書で授業内容に該当する箇所をあらかじめ理解しておくことを勧める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。講義時に適宜レジュメを配布すると共に、参考文献を紹介する。

【参考書】

「臨床心理学への招待」野島和彦編著、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

平常点および学期末試験によって評価する。

平常点およびリアクションペーパー：30 %

学期末試験：70 %

【学生の意見等からの気づき】

心理療法を行う上でのセラピストの関わり方、セラピーにおけるクライアントの体験などを、具体的にイメージしやすいように進めていきたいと思います。

【その他の重要事項】

医療機関において病院臨床の実務経験があることから、心理療法家としての心得、関わり方について、事例経験・事例紹介を盛り込みつつ講義を行います。

【Outline and objectives】

Outline of basic concepts in psychotherapy, its history, people who will benefit from the therapy and therapeutic approaches

PSY300JC

グループアプローチ

大竹 直子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グループ・アプローチは、心理、福祉、教育、医療、看護などの臨床場面で広く行われているグループ状況での専門的援助活動の総称です。「人は人との間で人になる」という人間の本来的特質を改めて確認しながら、治療的グループ・アプローチ、教育的グループ・アプローチ、成長傾向のグループ・アプローチなどについて理解を深めていきます。

【到達目標】

グループ・アプローチについての理論を理解するとともに、体験をとおして「人間」や「自己」への理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、毎回の授業において、前半はレジュメを用いた講義を中心に、後半は毎回異なったメンバーとグループを組みグループ・ワークやディスカッションを中心に進めていきます。（授業の展開によって若干の変更があり得ます。）また、毎回リアクションペーパーの提出を求め、出欠の確認をするとともに、質問が記入されている場合は、次の授業の始めに回答をいたします。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、ねらい、進め方、評価などの確認
2	グループ・アプローチとは	講義：グループ・アプローチの歴史と発展
3	人は人との間で人になる（1）	講義と演習：人間の本来的特質～“人間”に焦点を当てて～
4	人は人との間で人になる（2）	講義と演習：人間の本来的特質に～“個人”に焦点を当てて～
5	グループ体験（1）	演習：構成的グループの体験
6	ベーシック・エンカウンター・グループ	講義とビデオ：カール・ロジャーズと記録映画
7	医療現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：集団精神療法など
8	教育現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：構成的グループエンカウンターなど
9	企業におけるグループ・アプローチ	講義と演習：研修や開発に用いられるグループ・アプローチ
10	グループ体験（2）	演習：非構成的グループの体験
11	グループ・アプローチの現代的意義	講義と演習：なぜグループ・アプローチか～グループ・アプローチ再考～
12	グループ・ファシリテーターの役割	講義と演習：ファシリテーターの役割と在り方
13	まとめ	講義と演習
14	最終試験	筆記試験（持込不可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では、これまで話したことがない人とグループを組み、話し合いや演習を行います。みなさんと安心した場を作っていきながら、積極的に自分や他者と向き合えるよう、心構えをもってご参加ください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。（プリントを配布します。A 4 版のファイルをご準備ください。）

【参考書】

講義の中で提示します

【成績評価の方法と基準】

①最終試験 60 %

②平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんより、授業内でのグループを体験は、自己や他者への発見や気づきと機会となったこと、グループアプローチの理解に役立ったとの感想をいただいています。

2020 年度は、オンライン授業においても、グループディスカッションを実施しました。「最初は戸惑うことも多くあったが、回数を重ねるごとに楽しみなってきた」などのご感想もいただいております。授業では、受講生同士のディスカッション、グループ体験の時間を今年度も持つ予定です。できるだけ安心してグループに参加できるよう、より工夫をしていきたいと考えております。

【Outline and objectives】

The group approach is a general term for professional psychological helping activities in group situations that are widely practiced in clinical situations such as Psychology, Welfare, Education, Medical care, Nursing. We will deepen our understanding of the group approaches, while again confirming the inherent characteristics of human beings, "People become people with people".

PSY300JC

児童精神医学

関谷 秀子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

児童精神医学は 1950 年代に成立した比較的新しい領域である。精神発達の正常からの逸脱をすべて疾患として理解するのは必ずしも適切ではないが、今日では取りあえずの国際的診断分類学ができて上がっている。その臨床単位ごとの病理特性と治療について取り上げる。またその理解に必要な心の発達について理解する。

【到達目標】

児童精神医学の歴史を理解する。
児童・思春期の心の発達について理解する。
代表的な児童思春期の心の病について基本的知識を習得する。
児童思春期に対する治療的アプローチについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に P C プロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジュメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 児童精神医学の歴史①	授業の進め方と成績評価基準についての説明。19 世紀の子ども観について。
第 2 回	児童精神医学の歴史②	子どもガイダンス運動の展開について。
第 3 回	児童精神医学の歴史③	児童精神医学の誕生について。
第 4 回	子どもの精神発達①	乳幼児期・幼児期の発達について。 マラーの発達理論。
第 5 回	子どもの精神発達②	児童期・思春期の発達について。アンナフロイトの発達ライン。
第 6 回	子どもの精神療法	児童期と精神療法
第 7 回	親ガイダンス	親ガイダンスの基本構造と基本原則
第 8 回	不登校①	小学生の不登校
第 9 回	不登校②	思春期の不登校
第 10 回	摂食障害	摂食障害の経過と治療について
第 11 回	強迫性障害・恐怖症	強迫性障害・恐怖症の経過と治療について
第 12 回	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害の経過と治療について
第 13 回	ケースの検討	見立て・治療経過について
第 14 回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

幼児や児童と関わるボランティア活動を推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (80%), リアクションペーパー (20%) にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】

精神科医が専門分野である児童思春期精神医学について講義する。

【Outline and objectives】

The child psychiatry is a relatively new field established in the 1950s. It is not necessarily appropriate to understand all deviation from normal mental development as a disease. But nevertheless, an international criterion of diagnosis and classification is currently available. We should learn about pathology and the treatment of all disorders respectively. In addition, we must understand child development and adolescence.

PSY300JC

精神分析学

中 康

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フロイトの精神分析学理論は人の心を理解しようとする科学的仮説の体系である。力動的な精神分析学仮説は、通常の日常生活で意識することのない、無意識的なレベルにおける人の心を示す概念である。そのため難解であるが、授業では無意識の発見、構造論モデル、精神性の発達、親子関係ならびに治療関係論をテーマにして、心の在り方を理解する。

【到達目標】

精神分析学仮説の意味する事柄を日常生活のレベルで理解できるようにすることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に PC プロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜資料を配布する。オンライン授業の場合は、zoom を用いて講義を行い、資料は学習支援システムで提示する。毎回の授業でディスカッションの時間を設け、その中で必要なフィードバックを行い、またリアクションペーパーの内容を取り上げてフィードバックを行う。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	精神分析学の誕生①	メスメル、プロイエルとアンナ O。
第 2 回	精神分析学の誕生②	ヒステリー研究、催眠浄化法から前額法・自由連想法へ。転移の認識。
第 3 回	フロイトの夢判断	夢の作業について。
第 4 回	心の局所論と構造論モデル	意識・前意識・無意識、超自我・自我・エス。
第 5 回	精神性の発達 ①	口唇期、肛門期、幼児性器木、潜伏期について。
第 6 回	精神性の発達②	思春期青年期、超自我の構造的変化、性器統裁と対象選択について。
第 7 回	精神分析療法と精神分析的療法①	精神分析療法と精神分析的精神療法について。
第 8 回	精神分析療法と精神分析的療法②	精神療法の進め方。アセスメントと治療計画について。
第 9 回	契約	治療構造、治療契約について。
第 10 回	退行	治療的退行について。
第 11 回	抵抗	抵抗の形式と抵抗解釈について。
第 12 回	転移と逆転移、解釈技法	転移・逆転移の概念、転移解釈について。
第 13 回	終結の仕事	終結の仕事、喪の仕事、同一化について。
第 14 回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の進行に伴い、日常生活における自己の感情と思考を眺めてみてほしい。自己理解につながるかもしれない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合は、期末試験 (80%)、リアクション・ペーパー (20%) にて評価する。
オンライン授業の場合は、平常点 (50%)、課題についてのレポート (50%) にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合は、PC を使用して zoom を介して行う。

【その他の重要事項】

精神科医が、専門分野である精神分析学について講義する。

【Outline and objectives】

The Freud's theory of psychoanalysis is a system of the scientific hypothesis to understand the human mind. A hypothesis of psychodynamic psychoanalysis is a concept which reflects the minds of people at an unconscious level. We will try to understand the states of mind by learning the psychological theories of Sigmund Freud, specifically surrounding the topics of unconsciousness, structure model, psychosexual development, parent - child relation, therapist-client relation, and therapeutic alliance.

PSY300JC

臨床心理学特講

末武 康弘

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論について、その提唱者の原著（主に日本語訳）の読解を通して、臨床心理学がどのような考え方や方法から成り立っているのかを学びます。

【到達目標】

この授業の達成目標は、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）の読解に取り組み、その内容を理解し、またそれらが臨床心理学の成り立ちや発展に与えた意義を考察し説明できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）の読解に取り組み、その内容を理解します。あわせて、それらが臨床心理学の成り立ちや発展に与えた意義を考察します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業への導入を行い、成績評価の基準を明示します。
第 2 回	臨床心理学の主要な概念と理論：概説	臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な立場の概要を学びます。
第 3 回	主要な概念と理論（1）：無意識、自我、対象関係	精神分析学的な概念と理論をフロイトの著作等から考察します。
第 4 回	主要な概念と理論（2）：集合無意識、元型、夢と箱庭	分析心理学の概念と理論をユングの著作等から考察します。
第 5 回	主要な概念と理論（3）：自己愛、シニフィアン、大文字の他者	精神分析の特異な発展をコフートやラカン等の著作等から考察します。
第 6 回	主要な概念と理論（4）：実存、現象学、超越	ビンズワンガーらの現存在分析およびフランクルのロゴセラピーの概念と理論を考察します。
第 7 回	主要な概念と理論（5）：ヒューマニスティック、クライアント中心、PCA	クライアント中心療法の概念と理論をロジャーズの著作等から考察します。
第 8 回	主要な概念と理論（6）：体験過程、フォーカシング、暗在性	クライアント中心療法から発展した概念と理論をジェンドリンの著作等から考察します。
第 9 回	主要な概念と理論（7）：逆制止、強化、思考修正	行動療法や認知行動療法の概念と理論をウォルピヤベックの著作等から考察します。
第 10 回	主要な概念と理論（8）：ダブルバインド、家族システム、ソリューションフォーカス	家族療法、システム理論、ナラティブアプローチ等の概念と理論を考察します。
第 11 回	主要な概念と理論（9）：芸術、ドラマ、詩歌	芸術療法、サイコドラマ、読書療法や詩歌療法の理論を考察します。
第 12 回	主要な概念と理論（10）：エスノ、自然、真空	日本のエスノセラピーやクライアント中心療法の日本的な発展について考察します。
第 13 回	主要な概念と理論（11）：折衷、統合、多元的アプローチ	複数の理論や方法を活用するアプローチについて考察します。
第 14 回	レポート課題とレポートの書き方について	レポート課題を示し、レポートの書き方について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した「発展課題」を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

参考書は授業の中で適宜紹介します。また、資料（講義レジュメ、パワーポイント等）、映像教材などを使用します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポート（2000 字前後）（60 %）と毎回の発展課題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果に基づき、より具体的にわかりやすい内容の授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的にわかりやすく講義します。

【Outline and objectives】

In this lesson, through reading comprehension of the original author's work (mainly Japanese translation) on clinical psychology, you learn major theories and methods of clinical psychology.

PSY300JC

認知行動療法

金 築 優

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知行動療法とは、心の問題を、認知・行動・感情の側面から捉えて、アプローチする心理療法です。本授業では、認知行動療法の様々な技法を、それらの理論的根拠も含めて、紹介します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、認知行動療法における様々な技法や理論について、自分の言葉で説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

認知行動療法を、認知、行動及び感情へのアプローチの3つに分類し、各アプローチを取り上げていきます。技法についてだけではなく、技法の背景にある理論についても紹介していきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

課題等のフィードバックは、授業の初めに、提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方を示し、認知行動療法の歴史を概説します。
第2回	行動に焦点を当てたアプローチ（1）	学習（行動）理論（特に、レスポナント学習）と行動療法の関連を考えます。
第3回	行動に焦点を当てたアプローチ（2）	学習（行動）理論（特に、オペラント学習）と行動療法の関連を考えます。
第4回	行動に焦点を当てたアプローチ（3）	行動療法の技法群を紹介します。
第5回	行動に焦点を当てたアプローチ（4）	行動療法の適用例を紹介します。
第6回	感情に焦点を当てたアプローチ（1）	認知行動療法が感情をどのように捉えられているかを考えます。
第7回	感情に焦点を当てたアプローチ（2）	エクスポージャー法を紹介します。
第8回	認知に焦点を当てたアプローチ（1）	論理療法を紹介します。
第9回	認知に焦点を当てたアプローチ（2）	認知療法を紹介します。
第10回	認知に焦点を当てたアプローチ（3）	情報処理理論と認知へのアプローチの関連を考えます。
第11回	認知に焦点を当てたアプローチ（4）	メタ認知療法を紹介します。
第12回	新世代の認知行動療法（1）	マインドフルネス認知療法を紹介します。
第13回	新世代の認知行動療法（2）	アクセプタンス&コミットメント・セラピーを取り上げます。
第14回	新世代の認知行動療法（3）	アクセプタンス&コミットメント・セラピーにおける価値を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料を配布し、次回の授業までに熟読しておくように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と定期試験（60%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

認知行動療法のイメージをつかみやすいように、動画の教材も取り入れていく予定です。

【その他の重要事項】

これまでに携わってきた認知行動療法に関する実践活動や研究活動についても触れます。

【Outline and objectives】

The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to cognitive behavior therapy. This course will review Meta-Cognitive Therapy, Mindfulness-Based Cognitive Therapy, and Acceptance and Commitment Therapy.

NRS300JC

精神生理学特講

望月 聡

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

こころの働きと脳がどのように関係しているかを明らかにしようとする「神経心理学」を概説します。人間の脳損傷によって生じる認知・行動・感情などの障害（高次脳機能障害）を詳しく紹介し、それらの障害からどのような心理学的・認知神経科学的メカニズムが明らかになるか解説します。神経心理学的障害に関する評価方法や認知リハビリテーションなどの介入方法の基礎、さらに健常者を対象としたニューロイメージングによる知見も取り上げます。

【到達目標】

- 1) 高次脳機能の障害及び必要な支援について説明できる。
- 2) 脳神経系の構造及び機能について概説できる。
- 3) 記憶、感情等の生理学的反応の機序について概説できる。
- 4) 人の感覚・知覚等の障害について概説できる。
- 5) 人の認知・思考等の障害について概説できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式で進めます。各回ごとにリアクションペーパーを提出し学習内容をふりかえります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	神経心理学の目的と方法についての概要を学びます。
第 2 回	脳の構造	脳の解剖学的基礎について学びます。
第 3 回	知覚・認知	視覚性失認、聴覚性失認、触覚性失認などを学び、知覚・認知に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 4 回	空間、身体	半側空間無視、身体失認を学び、空間認知、身体認知に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 5 回	行為	失行、行為制御障害を学び、行為表出と制御に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 6 回	記憶	短期記憶障害、ワーキングメモリ障害、エピソード記憶障害、意味記憶障害、手続き記憶障害を学び、記憶に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 7 回	言語 (1) 聞く・話す	失語を学び、口頭言語に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 8 回	言語 (2) 読む・書く、計算	失読、失書、計算障害を学び、文字言語と計算に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 9 回	脳の側性化	左右半球の情報処理の違いを学び、半球優位性のメカニズムを理解します。
第 10 回	注意	注意障害を学び、注意に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 11 回	遂行機能（実行機能）	遂行機能（実行機能）障害を学び、計画性や問題解決に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 12 回	社会的認知	社会的認知の障害を学び、社会性に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 13 回	感情、動機づけ	感情の認知や表出の障害、動機づけや意欲の障害を学び、感情や動機づけ・意欲に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 14 回	授業内試験・まとめと解説	筆記試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでに他の科目で学んできた心理学の生物学的な側面について復習をしておくと、授業内容の理解が深まります。授業後には、資料をもとに復習し、関心をもった点は、授業担当者に質問する、関連する書籍を読むなどをする、理解がいつそう深まります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

各回の内容ごとに、関連する参考図書を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

各回授業終了後のリアクションペーパーの提出状況・内容（30%）および期末試験（70%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が少し難しいと感じられる人もいますが、さまざまな領域の心理学の知見を結びつけたり、心理学の基礎的な面と臨床的な面をつなぐための大切な学問領域でもありますので、頑張って受講してもらいたいと思っています。興味を持って受講していただけるような内容や説明の仕方を心がけます。

【Outline and objectives】

This lecture deals with the basis of neuropsychology.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of neural(biological) bases of human cognition, behavior, emotion, and other mental phenomena.

PSY300JC

認知心理学特講

望月 聡

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、「知覚・認知心理学」では扱わなかった認知心理学の応用的側面、他の心理学あるいは他の学問領域とのつながり（認知科学）にかかわる発展的なテーマ・トピックスをとりあげ、人間の知覚・認知機能についての広く応用的な視点を身につけます。

【到達目標】

- 1) 人の認知・思考等の機序及びその障害について発展的に理解できる。
- 2) 認知心理学と他の心理学のつながりについて概説できる。
- 3) 認知心理学と他の学問領域とのつながりについて概説できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式です。毎回ごとにリアクションペーパーを提出し学習内容をふりかえります。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針・授業内容の説明
第 2 回	認知と学習・言語	メタ認知的知識 メタ認知的技能 自己調整学習 認知地図 生成文法 認知言語学 言語理解 言語産生
第 3 回	認知と身体	身体認知 身体図式と身体イメージ 身体所有感 幻肢 身体化認知 (embodied cognition) 心身問題
第 4 回	認知と運動・行為	運動制御 運動主体感 視覚誘導型行為／記憶誘導型行為 運動イメージ アクションスリップ ミラーニューロンシステム 自由意志
第 5 回	認知と感情	認知評価理論 自己意識的感情 感情の認知 感情の制御 認知が感情に及ぼす影響 感情が認知に及ぼす影響
第 6 回	認知と個人差	知能 知能検査 認知機能検査 情動的知性 認知スタイル 認知バイアスとパーソナリティ パーソナリティ認知
第 7 回	認知と社会	社会的認知 対人認知 印象形成 帰属過程 社会的推論 ステレオタイプと集団認知 行動経済学 メディア
第 8 回	認知の発達	視覚認知の発達 記憶と概念形成の発達 語彙の獲得 文法能力の獲得・発達 非認知能力 実行機能 認知機能への加齢の影響
第 9 回	認知と障害	認知神経心理学 高次脳機能障害 失語 失読 失書 失行 実行機能障害 認知症 神経発達症 精神疾患における認知機能の障害 認知機能改善療法
第 10 回	認知と臨床心理学	認知臨床心理学 注意バイアス・記憶バイアス・推論バイアス・解釈バイアス 認知療法 認知行動療法 メタ認知療法 認知バイアス修正法
第 11 回	認知と脳神経科学	認知神経科学 脳機能計測技術 ニューロイメージング 認知の生理心理学・精神生理学
第 12 回	認知と情報科学・工学	計算論 人工知能 ニューラルネットワーク コネクションイズム 認知工学 プレイン・マシン・インターフェイス VR AR
第 13 回	認知と進化・文化	進化心理学 動物の認知（比較認知科学） 認知生態学 認知人類学 文化心理学 文化人類学 文化的自己観
第 14 回	授業内試験・まとめと解説	筆記試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として資料にあらかじめ目を通しておくと、授業内容の理解が深まります。

授業後には、資料をもとに復習し、関心をもった点は、授業担当者に質問する、関連する書籍を読むなどをすると、理解がいっそう深まります。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

各回の内容ごとに、関連する参考図書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各回授業終了後のリアクションペーパーの提出状況・内容（60%）および期末レポート課題（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

「知覚・認知心理学」を履修済みであることを前提とします。

「知覚・認知心理学」と合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】

This lecture deals with applied cognitive psychology and related disciplines.

The aim of this course is to help students acquire applied perspectives of cognitive psychology.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本科目は 1 時限目に開講されます。通勤ラッシュを避けるため、開始時間を繰り下げる可能性があります（最初の 30 分は事前に資料配布で予習してきてもらい、残り 70 分は対面で実施等。）また、対面とオンラインを併用する事も検討します。初回授業にて説明するため、必ず 1 回目の授業には出席してください。なお、1 回目の授業は遠隔での実施となりますので Hoppii にログインし本授業のページを確認するようにしてください。

対面授業に関しては、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は対面とオンラインの併用を予定しています。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第 05 回 表の作成・挿入

Microsoft Word を用いて表を作成する

第 06 回 図・図形の挿入

Microsoft Word を用いて図の挿入を行う

第 07 回 段組み・数式入力

Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う

第 08 回 テンプレートの利用

Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。

第 09 回 長文作成

Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する

第 10 回 差し込み印刷

Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。

第 11 回 グラフの挿入

Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。

第 12 回 Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）

コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する

第 13 回 Processing を用いた簡単なプログラム（応用）

プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する

第 14 回 FreeMat を用いて音の作成（プログラム）

簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版], 重定如彦・河内谷幸子 共著, サイエンス社, 1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%), レポート課題 (80%) を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。基本的な操作方は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なもので、特に本授業では、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。

授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では、数学的な思考はあまり必要ありません。数式を解くのではなく、数式を立てるほうを重要視しますので、論理的な思考が身に付きます。後者では、プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本科目は 1 時限目に開講されます。通勤ラッシュを避けるため、開始時間を繰り下げることがあります（最初の 30 分は事前に資料配布で予習してきてもらい、残り 70 分は対面で実施等。）また、対面とオンラインを併用する事も検討します。初回授業にて説明するため、必ず 1 回目の授業には出席してください。

対面授業に関しては、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は対面とオンラインの併用を予定しています。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第 02 回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第 03 回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第 04 回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第 05 回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く

第 06 回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう
第 07 回	Power Point 導入	Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第 08 回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的效果の得られるスライド作成を目標とする
第 09 回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する
第 10 回	マイテンプレート	Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第 11 回	スライドの作成	Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第 12 回	スライドの発表	第 11 回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第 13 回	スライド発表時の諸注意と応用	第 11 回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用例を概観する
第 14 回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版], 重定如彦・河内谷幸子 共著, サイエンス社, 1980 年

【参考書】

適時指示。なお、講義で使ったスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%), レポート課題 (80%) を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course. It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2013.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインを併用する事も検討します。初回授業にて説明するため、必ず 1 回目の授業には出席してください。なお、1 回目の授業は遠隔での実施となりますので Hoppii にログインし本授業のページを確認するようにしてください。

対面授業に関しては、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイピング練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は対面とオンラインの併用を予定しています。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う
第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う

第 07 回 段組み・数式入力

Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う

第 08 回 テンプレートの利用

Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。

第 09 回 長文作成

Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する

第 10 回 差し込み印刷

Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。

第 11 回 グラフの挿入

Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。

第 12 回 Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）

コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する

第 13 回 Processing を用いた簡単なプログラム（応用）

プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する

第 14 回 FreeMat を用いて音の作成（プログラム）

簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 年

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2013.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。基本的な操作方は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なもので、特に本授業では、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。

授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では、数学的な思考はあまり必要ありません。数式を解くのではなく、数式を立てるほうを重要視しますので、論理的な思考が身に付きます。後者では、プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインを併用する事も検討します。初回授業にて説明するため、必ず 1 回目の授業には出席してください。

対面授業に関しては、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は対面とオンラインの併用を予定しています。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第 02 回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第 03 回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第 04 回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第 05 回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く
第 06 回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやる

第 07 回 Power Point 導入

Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する

第 08 回 図表の挿入・アニメーション設定

Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする

第 09 回 動画の挿入・拡張子

Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する

第 10 回 マイテンプレート

Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする

第 11 回 スライドの作成

Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする

第 12 回 スライドの発表

第 11 回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する

第 13 回 スライド発表時の諸注意と応用

第 11 回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用例を概観する

第 14 回 ネットワークの基礎

サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使ったスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅱ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course.

It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2013.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will be able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインを併用する事も検討します。初回授業にて説明するため、必ず 1 回目の授業には出席してください。なお、1 回目の授業は遠隔での実施となりますので Hoppii にログインし本授業のページを確認するようにしてください。

対面授業に関しては、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイピング練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は対面とオンラインの併用を予定しています。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う
第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う

第 07 回 段組み・数式入力

Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う

第 08 回 テンプレートの利用

Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。

第 09 回 長文作成

Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する

第 10 回 差し込み印刷

Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。

第 11 回 グラフの挿入

Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。

第 12 回 Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）

コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する

第 13 回 Processing を用いた簡単なプログラム（応用）

プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する

第 14 回 FreeMat を用いて音の作成（プログラム）

簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 年

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2013.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。基本的な操作方は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なもので、特に本授業では、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。

授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では、数学的な思考はあまり必要ありません。数式を解くのではなく、数式を立てるほうを重要視しますので、論理的な思考が身に付きます。後者では、プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインを併用する事も検討します。初回授業にて説明するため、必ず 1 回目の授業には出席してください。

対面授業に関しては、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は対面とオンラインの併用を予定しています。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第 02 回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第 03 回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第 04 回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第 05 回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く
第 06 回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやる

第 07 回 Power Point 導入

Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する

第 08 回 図表の挿入・アニメーション設定

Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする

第 09 回 動画の挿入・拡張子

Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する

第 10 回 マイテンプレート

Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする

第 11 回 スライドの作成

Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする

第 12 回 スライドの発表

第 11 回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する

第 13 回 スライド発表時の諸注意と応用

第 11 回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用例を概観する

第 14 回 ネットワークの基礎

サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使ったスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course.

It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2013.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will be able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインを併用する事も検討します。初回授業にて説明するため、必ず 1 回目の授業には出席してください。なお、1 回目の授業は遠隔での実施となりますので Hoppii にログインし本授業のページを確認するようにしてください。

対面授業に関しては、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイピング練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は対面とオンラインの併用を予定しています。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う
第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う

第 07 回 段組み・数式入力

Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う

第 08 回 テンプレートの利用

Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。

第 09 回 長文作成

Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する

第 10 回 差し込み印刷

Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。

第 11 回 グラフの挿入

Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。

第 12 回 Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）

コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する

第 13 回 Processing を用いた簡単なプログラム（応用）

プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する

第 14 回 FreeMat を用いて音の作成（プログラム）

簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 年

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2013.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。基本的な操作方は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なもので、特に本授業では、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。

授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では、数学的な思考はあまり必要ありません。数式を解くのではなく、数式を立てるほうを重要視しますので、論理的な思考が身に付きます。後者では、プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインを併用する事も検討します。初回授業にて説明するため、必ず 1 回目の授業には出席してください。

対面授業に関しては、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は対面とオンラインの併用を予定しています。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第 02 回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第 03 回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第 04 回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第 05 回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く
第 06 回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう

第 07 回 Power Point 導入

Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する

第 08 回 図表の挿入・アニメーション設定

Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする

第 09 回 動画の挿入・拡張子

Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する

第 10 回 マイテンプレート

Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする

第 11 回 スライドの作成

Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする

第 12 回 スライドの発表

第 11 回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する

第 13 回 スライド発表時の諸注意と応用

第 11 回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用事例を概観する

第 14 回 ネットワークの基礎

サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅱ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course.

It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2013.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will be able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。春学期の情報処理演習 I では、コンピュータの基本的な概念と使い方、メールやウェブ（ホームページ）などの活用について学びます。

【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本年度は対面授業の実施可否が見通せないため、当面は Google Classroom を用いたオンデマンドの動画配信を主体とし、課題を提出してもらうことを予定しています。なお、初回については Zoom を用いたリアルタイムの授業を予定しています。Google Classroom や Zoom へのアクセス方法については、学習支援システムを通じてお知らせしますので、大学からの資料を参照し、初回の授業までに自己登録を済ませておいてください。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	市ヶ谷キャンパスのコンピューター・ネットワーク環境について学ぶ
第 2 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ

第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を中心として進める予定であり、インターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline and objectives】

The theme of this class is to acquire the ability to gather and transmit information from the Internet, and, based on the knowledge acquired in high school, we will lead to the theory of information science.

In the spring semester, you will learn the basic concepts and usage of computers, and how to use email and web.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本年度は対面授業の実施可否が見通せないため、当面は Google Classroom を用いたオンデマンドの動画配信を主体とし、課題を提出してもらうことを予定しています。なお、初回については Zoom を用いたリアルタイムの授業を予定しています。Google Classroom や Zoom へのアクセス方法については、学習支援システムを通じてお知らせしますので、大学からの資料を参照し、初回の授業までに自己登録を済ませておいてください。

課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ

第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を中心として進める予定であり、インターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。春学期の情報処理演習 I では、コンピュータの基本的な概念と使い方、メールやウェブ（ホームページ）などの活用について学びます。

【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本年度は対面授業の実施可否が見通せないため、当面は Google Classroom を用いたオンデマンドの動画配信を主体とし、課題を提出してもらうことを予定しています。なお、初回については Zoom を用いたリアルタイムの授業を予定しています。Google Classroom や Zoom へのアクセス方法については、学習支援システムを通じてお知らせしますので、大学からの資料を参照し、初回の授業までに自己登録を済ませておいてください。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	市ヶ谷キャンパスのコンピューター・ネットワーク環境について学ぶ
第 2 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ

第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を中心として進める予定であり、インターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline and objectives】

The theme of this class is to acquire the ability to gather and transmit information from the Internet, and, based on the knowledge acquired in high school, we will lead to the theory of information science.

In the spring semester, you will learn the basic concepts and usage of computers, and how to use email and web.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本年度は対面授業の実施可否が見通せないため、当面は Google Classroom を用いたオンデマンドの動画配信を主体とし、課題を提出してもらうことを予定しています。なお、初回については Zoom を用いたリアルタイムの授業を予定しています。Google Classroom や Zoom へのアクセス方法については、学習支援システムを通じてお知らせしますので、大学からの資料を参照し、初回の授業までに自己登録を済ませておいてください。

課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ

第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を中心として進める予定であり、インターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業ですが、数回 Zoom オンライン授業の日があります。学習支援システムに登録し、毎週授業の前日には必ず学習支援システムの「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に初回授業の前日には学習支援システムの「お知らせ」が重要です。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。

5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第3版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word と Excel と PowerPoint が使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。
この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

【Outline and objectives】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of Word, Excel, and PC internals are included in this course.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組み姿勢を身につけることも目標とします。

Word, Excel, PowerPoint, パソコンの仕組みを学びます。初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習Ⅱ(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業ですが、数回 Zoom オンライン授業の日があります。学習支援システムに登録し、毎週授業の前日には必ず学習支援システムの「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に初回授業の前日には学習支援システムの「お知らせ」が重要です。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。
2	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。

3	文書作成 2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成 3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成 4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT 時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT 時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算 1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF、SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算 2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、Excel のグラフテンプレートについて実習する。
10	表計算 3	EXCEL のマクロを入門体験する。
11	表計算 4	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
12	文書作成と表計算の連携	Word の差し込み印刷機能と、Excel で作成した住所録を利用して、ラベル作成およびハガキ作成を実習する。
13	プレゼンテーションソフト 1	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
14	プレゼンテーションソフト 2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第3版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word・Excel・PowerPoint・Zoom が使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習 I(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

【Outline and objectives】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills. This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of Word, Excel, PowerPoint, and PC internals are included in this course.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補完することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を超えて、タイピング練習、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用方法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。
平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。
すべての講義への出席が前提です。
期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・IIがセットになっている講義ですが、特にI期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp
<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>
教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話しします。

【Outline and objectives】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI200LA

情報処理演習 II

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習 I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことと、社会に出た際に利用するであろう主要アプリケーションの操作技能、応用技能を習得することです。また、将来的に新種の技術やアプリケーションが普及しても柔軟に対応できるリテラシを身につけることも目標とします。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Excel の応用レベルを修了し、実務で困らない運用ができる水準に到達します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理、情報科学についての考え方を深めます。
課題のフィードバックは授業中に行います。
なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	表計算ソフト応用 1	ブックの活用
2	表計算ソフト応用 2	高度な関数
3	表計算ソフト応用 3	シートの分析と入力規則
4	表計算ソフト応用 4	グラフの応用
5	表計算ソフト応用 5	データベース機能の活用
6	表計算ソフト応用 6	ピボットテーブル
7	表計算ソフト応用 7	マクロによる作業の自動化
8	プレゼンテーションソフト 1	スライドの基本操作
9	プレゼンテーションソフト 2	プレゼンテーションの編集
10	プレゼンテーションソフト 3	整列した図の作成
11	プレゼンテーションソフト 4	オブジェクトの挿入
12	プレゼンテーションソフト 5	スライドショーと特殊効果の追加
13	プログラミング初歩、もしくはデータベース（受講者のスキルによって決定します）	足し算ゲームなどの簡単なプログラミング、もしくはデータベースソフトの操作
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 応用 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。
平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。
すべての講義への出席が前提です。
期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、II 期で急に難しくなったと感じる方が多いようです。主に Excel の関数を扱うのが原因です。
対策として、この時期は問題演習の時間を多く取るなどいたしますが、受講生の方も是非復習をしてください。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp
http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html
教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話します。

【Outline and objectives】

The aim of this lesson is to learn how to express your own information. To master the operation skills and applied skills of the main application that you will use when you get a job.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者から前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用方法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。
課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。
平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。
すべての講義への出席が前提です。
期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・IIがセットになっている講義ですが、特にI期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp
<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>
教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話しします。

【Outline and objectives】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI200LA

情報処理演習 II

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習 I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことと、社会に出た際に利用するであろう主要アプリケーションの操作技能、応用技能を習得することです。また、将来的に新種の技術やアプリケーションが普及しても柔軟に対応できるリテラシを身につけることも目標とします。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Excel の応用レベルを修了し、実務で困らない運用ができる水準に到達します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理、情報科学についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	表計算ソフト応用 1	ブックの活用
2	表計算ソフト応用 2	高度な関数
3	表計算ソフト応用 3	シートの分析と入力規則
4	表計算ソフト応用 4	グラフの応用
5	表計算ソフト応用 5	データベース機能の活用
6	表計算ソフト応用 6	ピボットテーブル
7	表計算ソフト応用 7	マクロによる作業の自動化
8	プレゼンテーションソフト 1	スライドの基本操作
9	プレゼンテーションソフト 2	プレゼンテーションの編集
10	プレゼンテーションソフト 3	整列した図の作成
11	プレゼンテーションソフト 4	オブジェクトの挿入
12	プレゼンテーションソフト 5	スライドショーと特殊効果の追加
13	プログラミング初歩、もしくはデータベース（受講者のスキルによって決定します）	足し算ゲームなどの簡単なプログラミング、もしくはデータベースソフトの操作
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 応用 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。
平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。
すべての講義への出席が前提です。
期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・IIがセットになっている講義ですが、II期で急に難しくなったと感じる方が多いようです。主に Excel の関数を扱うのが原因です。
対策として、この時期は問題演習の時間を多く取るなどいたしますが、受講生の方も是非復習をしてください。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp
http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html
教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心に話します。

【Outline and objectives】

The aim of this lesson is to learn how to express your own information. To master the operation skills and applied skills of the main application that you will use when you get a job.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習 I では、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】

コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ
第 2 回	コンピュータの基本概念	コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 3 回	コンピュータの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅰは秋学期の情報処理演習Ⅱとセットになる科目です。情報処理演習Ⅰを受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習Ⅱを受講するようにして下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムやeポートフォリオを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ

第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文館 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習 I では、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】

コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は 4/22 から行う予定です。くわしくは「お知らせ」を見てください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ
第 2 回	コンピュータの基本概念	コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 3 回	コンピュータの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピュータとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピュータウイルス、コンピュータ犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切り間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムやeポートフォリオを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ

第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術に関する基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

情報技術、特にデータ／情報処理、計算技術、プログラミング、データサイエンス、インターネット、電子商取引、ネットワーク倫理およびセキュリティについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用して進めます。演習にはプログラミング言語 Python をクラウド環境 Google Colaboratory 上で使用して行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報技術概論	情報技術の過去、現在、未来。
2	データ処理	計算機によるデータ処理。
3	情報処理	計算機による情報処理。
4	計算技術	計算機の働き。
5	プログラミング（アルゴリズム）	問題解決技術の基本であるアルゴリズム、およびアルゴリズムを実現するプログラム。
6	データサイエンス予知	過去のデータから未来を予想する。
7	データサイエンス分類	データを分類する。
8	コミュニケーション技術	情報交換を支える技術。
9	インターネット・プロトコル	自律的に機能するインターネットの根幹技術としてのプロトコル。
10	電子メール、WWW の仕組み	電子メール、WWW が機能するための基本原理を知る。
11	電子商取引	電子商取引を支える、公開鍵暗号システムおよびブロックチェーン。
12	ソーシャル・ネットワーク	関係を記述するグラフ理論。
13	インターネット倫理とセキュリティ	インターネットに内在する倫理とセキュリティについて。
14	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回テーマに関する短い記事を紹介する。次回まで読んできて、各自、課題を 1 つ提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは Hoppii のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：50%

最終試験の成績：50%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline and objectives】

You will learn basic knowledge about information technology.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング構造の基本を学び、自力でプログラミングが出来るまでを体験する。

【到達目標】

プログラムの基本構造は代入、条件判定、繰り返しの3つのみである。これら3つの操作をデータ構造（定数、配列）と組み合わせることでプログラミングの基本を理解する。最終的には、コンピュータと対戦するオセロゲーム作りを体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用して進めます。演習にはプログラミング言語 Python をクラウド環境 Google Colaboratory 上で使用して行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	変数の概念	変数の概念
2	プログラムの基本構造 ー代入、条件分岐、繰 り返し	代入、条件分岐、繰 り返し
3	配列 ー表操作	配列。
4	双六ゲーム ー内部表 現	内部表現と表面 GUI と分離。
5	双六ゲーム ー GUI 設 計	GUI 設計。
6	オセロゲーム ー 基本 設計	問題の定義【仕様】
7	オセロゲーム ー 配置 問題	アルゴリズム。
8	オセロゲーム ー 置き 換えアルゴリズム (1)	アルゴリズム。
9	オセロゲーム ー 置き 換えアルゴリズム (2)	アルゴリズム。
10	オセロゲーム ー 勝敗 決定アルゴリズム	アルゴリズム。
11	オセロゲーム ー コン ピュータと対戦 アプ ローチ 1	対戦アルゴリズム。
12	オセロゲーム ー コン ピュータと対戦 アプ ローチ 2	対戦アルゴリズム。
13	オセロゲーム ー コン ピュータと対戦 アプ ローチ 3	対戦アルゴリズム。
14	プログラム評価	プログラム評価。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題を通して、プログラム構造とプログラミング技術を復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは授業支援のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：40%

最終課題の評価：60%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

無し。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline and objectives】

You will learn the basic structure of programs and write programs by yourself.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術に関する基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

情報技術、特にデータ／情報処理、計算技術、プログラミング、データサイエンス、インターネット、電子商取引、ネットワーク倫理およびセキュリティについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用して進めます。演習にはプログラミング言語 Python をクラウド環境 Google Colaboratory 上で使用して行います。

課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報技術概論	情報技術の過去、現在、未来。
2	データ処理	計算機によるデータ処理。
3	情報処理	計算機による情報処理。
4	計算技術	計算機の働き。
5	プログラミング（アルゴリズム）	問題解決技術の基本であるアルゴリズム、およびアルゴリズムを実現するプログラム。
6	データサイエンス予知	過去のデータから未来を予想する。
7	データサイエンス分類	データを分類する。
8	コミュニケーション技術	情報交換を支える技術。
9	インターネット・プロトコル	自律的に機能するインターネットの根幹技術としてのプロトコル。
10	電子メール、WWW の仕組み	電子メール、WWW が機能するための基本原理を知る。
11	電子商取引	電子商取引を支える、公開鍵暗号システムおよびブロックチェーン。
12	ソーシャル・ネットワーク	関係を記述するグラフ理論。
13	インターネット倫理とセキュリティ	インターネットに内在する倫理とセキュリティについて。
14	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回テーマに関する短い記事を紹介する。次回まで読んできて、各自、課題を 1 つ提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは授業支援のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：50%

最終試験の成績：50%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline and objectives】

You will learn basic knowledge about information technology.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング構造の基本を学び、自力でプログラミングが出来るまでを体験する。

【到達目標】

プログラムの基本構造は代入、条件判定、繰り返しの3つのみである。これら3つの操作をデータ構造（定数、配列）と組み合わせることによってプログラミングの基本を理解する。最終的には、コンピュータと対戦するオセロゲーム作りを体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用して進めます。演習にはプログラミング言語 Python をクラウド環境 Google Colaboratory 上で使用して行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	変数の概念	変数の概念
2	プログラムの基本構造 ー代入、条件分岐、繰り返し	代入、条件分岐、繰り返し
3	配列 ー表操作	配列。
4	双六ゲーム ー内部表	内部表現と表面 GUI と分離。
5	双六ゲーム ー GUI 設計	GUI 設計。
6	オセロゲーム ー 基本設計	問題の定義【仕様】
7	オセロゲーム ー 配置問題	アルゴリズム。
8	オセロゲーム ー 置き換えアルゴリズム (1)	アルゴリズム。
9	オセロゲーム ー 置き換えアルゴリズム (2)	アルゴリズム。
10	オセロゲーム ー 勝敗決定アルゴリズム	アルゴリズム。
11	オセロゲーム ー コンピュータと対戦 アプリート 1	対戦アルゴリズム。
12	オセロゲーム ー コンピュータと対戦 アプリート 2	対戦アルゴリズム。
13	オセロゲーム ー コンピュータと対戦 アプリート 3	対戦アルゴリズム。
14	プログラム評価	プログラム評価。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題を通して、プログラム構造とプログラミング技術を復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは授業支援のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：40%

最終課題の評価：60%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

無し。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline and objectives】

You will learn the basic structure of programs and write programs by yourself.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業ですが、数回 Zoom オンライン授業の日があります。学習支援システムに登録し、毎週授業の前日には必ず学習支援システムの「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に初回授業の前日には学習支援システムの「お知らせ」が重要です。

対面授業では、ボアソナー・ドタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。

5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、 html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第 3 版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、**Word** と **Excel** と **PowerPoint** が使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。
この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

【Outline and objectives】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of Word, Excel, and PC internals are included in this course.

PRI200LA

情報処理演習 II

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習 I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

Word, **Excel**, **PowerPoint**, パソコンの仕組みを学びます。初心者でも **Word** や **Excel** の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。
文書作成ソフト **Word** において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。
表計算ソフト **Excel** において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。
データベースソフト **ACCESS** の使い方を体験します。
プレゼンテーションソフト **PowerPoint** を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習 I(春学期科目)と同じタイミングで 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業ですが、数回 **Zoom** オンライン授業の日があります。学習支援システムに登録し、毎週授業の前日には必ず学習支援システムの「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に初回授業の前日には学習支援システムの「お知らせ」が重要です。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは学習支援システムに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。
2	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。

3	文書作成 2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成 3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成 4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT 時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT 時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算 1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF 、 SUMIF 、 AVERAGEIF 、 COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算 2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、 Excel のグラフテンプレートについて実習する。
10	表計算 3	EXCEL のマクロを入門体験する。
11	表計算 4	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
12	文書作成と表計算の連携	Word の差し込み印刷機能と、 Excel で作成した住所録を利用して、ラベル作成およびハガキ作成を実習する。
13	プレゼンテーションソフト 1	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
14	プレゼンテーションソフト 2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第 3 版]

著者：重定如彦・河内谷幸子 共著

出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word・Excel・PowerPoint・Zoom が使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習 I(春学期科目)と同じタイミングで 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

【Outline and objectives】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills. This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of Word, Excel, PowerPoint, and PC internals are included in this course.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しきみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業ですが、数回 Zoom オンライン授業の日があります。学習支援システムに登録し、毎週授業の前日には必ず学習支援システムの「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に初回授業の前日には学習支援システムの「お知らせ」が重要です。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしきみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。

5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第3版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word と Excel と PowerPoint が使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。
この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

【Outline and objectives】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of Word, Excel, and PC internals are included in this course.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組み姿勢を身につけることも目標とします。

Word, Excel, PowerPoint, パソコンの仕組みを学びます。初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習Ⅱ(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業ですが、数回 Zoom オンライン授業の日があります。学習支援システムに登録し、毎週授業の前日には必ず学習支援システムの「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に初回授業の前日には学習支援システムの「お知らせ」が重要です。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。
2	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。

3	文書作成 2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成 3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成 4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT 時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT 時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算 1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF、SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算 2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、Excel のグラフテンプレートについて実習する。
10	表計算 3	EXCEL のマクロを入門体験する。
11	表計算 4	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
12	文書作成と表計算の連携	Word の差し込み印刷機能と、Excel で作成した住所録を利用して、ラベル作成およびハガキ作成を実習する。
13	プレゼンテーションソフト 1	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
14	プレゼンテーションソフト 2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第3版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word・Excel・PowerPoint・Zoom が使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習 I(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

【Outline and objectives】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills. This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of Word, Excel, PowerPoint, and PC internals are included in this course.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

久東 義典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会はコンピュータ機能をもった機器がいたるところに存在している。このような機器をきちんと扱えることが生活する上でとても大事である。コンピュータ機能をもった機器の情報処理技術について、その考え方、基礎的な知識、利用事例、最新動向を解説する。主に Office 系のソフト（Word、Excel、PowerPoint）を利用するが、ホームページ作成にも触れ、Web 関連の最新知識についても説明する。

この授業は、基本的な情報処理の知識と技術をマスターすることを目的とする。

【到達目標】

現代社会にかかわる情報技術に関する知識を、基本から実践まで体系的に身につけることができる。

Windows10 と Office365 の基本操作を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本の知識については教科書を使って講義と演習を進め、必要に応じてコンピュータを用いた実習を行う。課題のフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業中に紹介したデジタルコンテンツ（この時点では、ホームページのことだと思ってください）を使って課題をこなしながら理解を深めます。 (1) 授業を進めるにあたって、ルールとマナー (2) ツールとメールの利用上の諸注意 (3) アプリケーション Excel・Word・PowerPoint) の利用の諸注意
2	コンピュータの基本概念	情報機器やデジタル家電製品の基本となる「コンピュータの仕組みや原理の基礎」を把握します。コンピュータと計算、コンピュータと人間の違い、コンピュータと計算の違い、コンピュータの分類、コンピュータの基本構成、ハードウェアとソフトウェアについて理解します。 Word によるレポート提出の課題があります。

3	コンピュータの基本操作	ガイダンスですでに説明した内容をさらに深めます。「使い易さとはどういうことか」をテーマに、ユーザー名とパスワード、電源投入と遮断、Windowsの基本画面、マウスの基本操作、メニュー、アプリケーションの実行、ウィンドウ、サイズと移動、アクティブウィンドウ、タスクバー、クリップボードとカットアンドペースト、ショートカットキーの操作、トラブルの対処について学習します。 Excelによるレポート提出の課題があります。	7	コンピュータとデータ(その2)	前回の内容をうけて、ここでは、「コンピュータの内部表現は2進数で表す」と分かりやすいことを学習します。2進数と10進数、2進数とバイトビットを理解します。 Excelを使って2進数等を理解する課題提出があります。
4	キーボードと文字入力ならびに ICT スキル診断テスト実施	キーボードを使って、日本語のデータを入力することはとても大切です。ここでは、「どのような仕組みで、日本語のデータを扱うのか」を学習します。 キーボードと英字入力、日本語入力、かな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP と高度な日本語入力、キーボードの種類、タッチタイピングについて理解します。 Excelによるデータ入力の課題提出があります。 授業外の時間に ICT スキル診断テストを受験してしまった学生は、前述の課題に取り組むことになります。	8	コンピュータとデータ(その3)	前回の内容をうけて、ここでは、文字、音声、画像等のデータは、コンピュータの内部で、どんな表現をするのかを学習します。また、その表現をさらに高度に利用するための考え方を圧縮技術で理解します。 文字の符号化、画像の符号化、音の符号化、圧縮技術を理解します。 Word・Excel・PowerPoint を使って音声や画像を貼り付けする課題提出があります。
5	ファイル操作	コンピュータ内でデータを扱う時、ファイルやフォルダという概念を利用して操作します。ここでは、この概念を利用した便利なツール（ソフトウェア）エクスプローラの操作を中心に学習します。 ファイルとフォルダ、ファイルの種類、ファイルのパス、エクスプローラとドライブ、エクスプローラの各部の名称と説明、エクスプローラの基本操作（ファイル操作と表示に関する操作）、アプリケーションによるファイルの新規作成と保存、ファイルのショートカットを理解します。 Excel や Snipping Tool を使って Word に図や表を貼り付ける課題提出があります。	9	インターネットと電子メール	たくさんのコンピュータをつないで、お互いに（双方向に）データをやりとりすることで、いろいろな活動ができるようになりました。これがインターネットです。ここではインターネットの歴史、仕組み、利用方法、電子メールの利用と諸注意について理解します。 ネチケット（インターネット利用上のエチケット・マナー）について、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
6	コンピュータとデータ(その1)	同じ演奏を「アナログ機器（例えばカセットテープ）で録音した演奏」と、「デジタル機器（例えばCD）で録音した演奏」を聞くと、には、差があるのでしょうか？ どちらが良いのでしょうか？ この議論をきちんと理解し意見を述べられるようにすることが、ここでの学習です。デジタルとアナログ、デジタルデータと著作権を理解します。 PowerPoint を使って文字や図、表を貼り付けたスライドを作成する課題提出があります。	10	World Wide Web(その1)	インターネット上のデータをもっと大局的にとらえて、デジタルコンテンツのレベルで考えることを学習します。WWW とハイパーテキストを理解します。 Word や Excel, テキストファイルを編集するソフトウェアを使って、Html ファイルを作成する課題提出があります。
			11	World Wide Web(その2)	前回の内容をうけて、ここでは、WWW の仕組みや原理を学習します。ウェブブラウザの基本的な使い方、WWW の用語、リンク切れなどを理解します。 関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
			12	World Wide Web(その3)	前回の内容をうけて、ここでは、WWW と情報社会への影響を学習します。WWW の歴史、WWW で得られる情報、サーチエンジンとその仕組み、高度な検索方法を理解します。 関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
			13	インターネットとメディアリテラシ(その1)	高度な技術は、その利用に悪意があると常に脅威をはらみます。ここでは、インターネット利用の脅威について学習します。 インターネットと匿名性、インターネットの盗聴と暗号について理解します。 関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。

- 14 インターネットとメディアリテラシ（その2）
 前回の内容をうけて、ここでは、インターネット上の犯罪や守るべき常識を学習します。インターネットの詐欺、インターネットの情報の真偽、フリーソフトの権利を理解します。関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で授業中に紹介するホームページをよく読んで、話題になったソフトウェアの使い方を復習しておく課題が出されます。授業時間内で完了できない場合は、次の授業開始前に指示に従って課題提出することになります。

< 授業で紹介するホームページの URL >

情報技術の基礎（知識定着のための教材）

lect-ip.cocolog-nifty.com

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

情報処理の実践（Excel・Word・PowerPoint を使った課題提出用の教材）

pract-ip.cocolog-nifty.com

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第3版】重定 如彦・河内谷 幸子（共著）サイエンス社 ISBN:978-4-7819-1469-5

情報処理演習Ⅰと情報処理演習Ⅱは、同じテキスト（教科書）を使用。

【参考書】

講義中に紹介するホームページなど使って指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度ならびに授業内提出課題の成果）50%

レポート課題30%

小テスト20%

【学生の意見等からの気づき】

授業中に指示されたホームページをよく読んで、授業外で行う学習活動を必ず遂行してください。

【学生が準備すべき機器他】

Windows10 が利用できる PC を準備してください。

Zoom を利用します。

【その他の重要事項】

授業に関する質問は、授業終了時に必ず声をかけてください。

内容（例えばインストール等）によっては、少人数でグループ授業を別枠で実施することもあります。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master the basic Information and Communication Technology. It starts with the twin themes of internet society, public and private, then students learn and understand how to use all of the mandatory applications in a complete office productivity suite: a word processor, a spreadsheet, a presentation manager, and a drawing program. Upon successfully completion of the course, students should be able to understand the basic concepts of information science.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

久東 義典

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会はコンピュータ機能をもった機器がいたるところに存在している。このような機器をきちんと扱えることが生活する上でとても大事である。コンピュータ機能をもった機器の情報処理技術について、その考え方、基礎的な知識、利用事例、最新動向を解説する。主に Office 系のソフト（Word、Excel、PowerPoint）を利用するが、データベースや Web 関連の最新知識についても説明する。この授業は、実践的な情報処理の知識と技術をマスターすることを目的とする。

【到達目標】

現代社会にかかわる情報技術に関する知識を、基本から実践まで体系的に身につけることができる。

Office365 と Google 系の office アプリを実践的に利用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本の知識については講義と演習で進め、必要に応じてコンピュータを用いた実習を行う。課題のフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業を進めるにあたって、諸注意をします。 （1）ルールとマナーの理解 （2）ツールとメールの利用の理解 （3）デジタル資料作成（Excel・Word・PowerPoint の基本操作とファイル保存）の理解
2	集計表の入ったデジタル資料作成	いろいろなデータを使って、「集計する」ことを学習します。以下の項目について理解します。 （1）Excel の基本操作（前回の復習） （2）集計表の作法の理解 （3）データと式 （4）合計関数と相対参照 （5）相対参照と絶対参照 （6）Word の基本操作（前回の復習） （7）Excel の表のコピー （8）Word で作表 （9）行間・列間調整 （10）表をオブジェクトとして扱う （11）PowerPoint の基本操作（前回の復習） （12）PowerPoint で作表 （13）それぞれのソフトウェアの作表しやすさを比較

3	データの集約	「目的をもって、分かり易く集約する」ことを学習します。以下の項目について理解します。 (1) Excel の基本操作 (前回の復習) (2) シートとブック (3) 平均, 標準偏差, 度数分布関数 (4) ピボット	9	インターネットを利用した情報収集と資料作成	インターネットを利用して、情報を収集しデジタル資料を作成することを学習します。 (1) 青空文庫と著作権についてデータ収集する。 (2) 数字でみる日本と題してデータを収集する。 (3) Word や Excel を使って収集した画像データや表データを整理する。
4	Excel ・ Word ・ PowerPoint を使ったグラフの展開	「目的をもって、分かり易く表現する」ことを学習します。以下の項目について理解します。	10	発表資料 (レジメ) の作成	Word を使って、発表資料を作成します。 (1) 発表資料 (レジメ) の作法を理解する。 (2) 段組を理解する。 (3) ページ区切りを理解する。 (4) 図や表の挿入を理解する。 (5) レイアウトを理解する。 (6) 参考文献等の書き方を理解する。 (7) 特殊な式や記号の書き方 (挿入の仕方) を理解する。
5	Excel のデータベース機能	「たくさんのデータを分類・整理する方法」を学習します。以下の項目について理解します。 (1) 実体とデータ (2) 並べ替えとフィルタ (3) データベース関数 (4) いろいろな形式のファイル保存	11	コンピュータを使った発表 1 題目「データベースとは」	PowerPoint を使ったスライド作成を学習します。 次の内容をよく理解して、各自で「データベース」を説明するスライドを作成します。 (1) データベースシステムの例を理解する。 (2) データベースシステムには、データの独立性、データの完全性、データの安全性の特性があることを理解する。 (3) データベースのデータを表す単位 (レコード) を理解する。 (4) レコード間の関係を表す代表的な表現, 階層的表現, 網的表現, 関係の表現を理解する。 (5) 関係の表現の操作, 合併, 共通部分, 差, 直積を理解する。
6	サイコロの模擬	Excel を使って、1 から 6 の目をもつサイコロをシミュレート (模擬) し、無作為なこと (サイコロで言えば 1 から 6 まで同じ確率で目がでること) について学習します。テレビゲームの原理を学ぶことにもなります。余裕のある学生は、じゃんけんゲームを作ってみましょう。 (1) 無作為な数の表示 (乱数の発生) (2) サイコロ関数の作成 (ユーザー定義関数) (3) サイコロ・シミュレーション 作ったサイコロを 6 回, 60 回, 600 回ふった時の出る目の回数を表にする。参考までに作ったサイコロを 10 回, 100 回, 1000 回ふった時の出る目の回数を表にする。 (4) サイコロ評価 確率 (1/6) とかけ離れていないか評価する (第 2 回から第 5 回まで学習内容の復習)。	12	コンピュータを使った発表 2 題目「データベース記述」	PowerPoint を使ったスライドに動きを付けることを学習します。 次の内容をよく理解して、各自で「データベース記述」を説明するスライドを作成します。 (1) SQL を理解する。 (2) SQL の基本構文を理解する。 (3) 条件検索を理解する。 (4) 並べ替えを理解する。 (5) 結合を理解する。
7	データの分布	Excel を使って、無作為なデータから分布のある (正規分布) データを作る過程を視覚的に理解します。 (1) 体重を表している無作為なデータを作り、表やグラフにする。 (2) そのデータを 10 個ずつ平均して、その平均値を表やグラフにする。 (3) 平均値からの範囲を指定するとその範囲に何個のデータが入るか調べる。 (4) このデータから範囲を指定すると起こる得る可能性を割合で計算できることを理解する。	13	コンピュータを使った発表 3 題目「データベースと正規化」	発表に関する PowerPoint の便利な機能を学習します。 次の内容をよく理解して、各自で「データベースと正規化」を説明するスライドを作成します。 (1) ふだんよく見る領収書やレシートは複雑な構造をした表であることを理解する。 (2) 複雑な構造の表を単純な構造の表にする過程を第一正規形, 第二正規形, 第三正規形を使って理解する。
8	アンケート調査	授業内でアンケート調査を実施して統計処理 (仮説を検定) するまでの過程を学習します。 (1) 出る目にかたよりのない正しいサイコロか否かを判定する。(第 6 回と第 7 回の復習) (2) 上記の考え方を受けて、性別による飲み物の嗜好の違いをアンケート調査し、集計した結果をもとに嗜好の違いがあるかないかを判定する。	14	まとめ オフィス系ソフトの連携	インターネットを使ってオフィス系ソフトの連携を「まとめ」として学修します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

以下に紹介するホームページをよく読んで、話題になったソフトウェアの使い方を復習しておく課題が出されます。授業時間内で完了できない場合は、次の授業開始前に指示に従って課題提出することになります。

< 授業で紹介するホームページの URL >

情報技術の基礎（知識定着のための教材）

lect-ip.cocolog-nifty.com

情報処理の実践（Excel・Word・PowerPoint を使った課題提出のための教材）

pract-ip.cocolog-nifty.com

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第3版】重定 如彦・河内谷 幸子（共著）サイエンス社 ISBN:978-4-7819-1469-5

情報処理演習Ⅰと情報処理演習Ⅱは、同じテキスト（教科書）を使用。

【参考書】

講義中に紹介するホームページなど使って指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度ならびに授業内提出課題の成果）50%

レポート課題30%

小テスト20%

【学生の意見等からの気づき】

授業中に指示されたホームページをよく読んで、授業外で行う学習活動を必ず遂行してください。

【学生が準備すべき機器他】

Windows10 が利用できる PC を準備してください。

Zoom を利用します。

【その他の重要事項】

授業に関する質問は、授業終了時に必ず声をかけてください。

内容（例えばインストール等）によっては、少人数でグループ授業を別枠で実施することもあります。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master the advance information and Communication Technology. It starts with the twin themes of internet society, public and private, then students learn and understand how to practically use all of the mandatory applications while the problem solving. Upon successfully completion of the course, students should be able to understand the practical methods and concepts of information science.

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ

2017 年度以降入学者

久東 義典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会はコンピュータ機能をもった機器がいたるところに存在している。このような機器をきちんと扱えることが生活する上でとても大事である。コンピュータ機能をもった機器の情報処理技術について、その考え方、基礎的な知識、利用事例、最新動向を解説する。主に Office 系のソフト（Word、Excel、PowerPoint）を利用するが、ホームページ作成にも触れ、Web 関連の最新知識についても説明する。

この授業は、基本的な情報処理の知識と技術をマスターすることを目的とする。

【到達目標】

現代社会にかかわる情報技術に関する知識を、基本から実践まで体系的に身につけることができる。

Windows10 と Office365 の基本操作を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本の知識については講義と演習で進め、必要に応じてコンピュータを用いた実習を行う。課題のフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業中に紹介したデジタルコンテンツ（この時点では、ホームページのことだと思ってください）を使って課題をこなしながら理解を深めます。 （1）授業を進めるにあたって、ルールとマナー （2）ツールとメールの利用上の諸注意 （3）アプリケーション Excel・Word・PowerPoint の利用の諸注意
2	コンピュータの基本概念	情報機器やデジタル家電製品の基本となる「コンピュータの仕組みや原理の基礎」を把握します。

3	コンピュータの基本操作	ガイダンスですでに説明した内容をさらに深めます。「使い易さとはどういうことか」をテーマに、ユーザー名とパスワード、電源投入と遮断、Windowsの基本画面、マウスの基本操作、メニュー、アプリケーションの実行、ウィンドウ、サイズと移動、アクティブウィンドウ、タスクバー、クリップボードとカットアンドペースト、ショートカットキーの操作、トラブルの対処について学習します。 Excelによるレポート提出の課題があります。	7	コンピュータとデータ(その2)	前回の内容をうけて、ここでは、「コンピュータの内部表現は2進数で表す」と分かりやすいことを学習します。2進数と10進数、2進数とバイトビットを理解します。 Excelを使って2進数等を理解する課題提出があります。
4	キーボードと文字入力ならびに ICT スキル診断テスト実施	キーボードを使って、日本語のデータを入力することはとても大切です。ここでは、「どのような仕組みで、日本語のデータを扱うのか」を学習します。 キーボードと英字入力、日本語入力、かな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP と高度な日本語入力、キーボードの種類、タッチタイピングについて理解します。 Excelによるデータ入力の課題提出があります。 授業外の時間に ICT スキル診断テストを受験してしまった学生は、前述の課題に取り組むことになります。	8	コンピュータとデータ(その3)	前回の内容をうけて、ここでは、文字、音声、画像等のデータは、コンピュータの内部で、どんな表現をするのかを学習します。また、その表現をさらに高度に利用するための考え方を圧縮技術で理解します。 文字の符号化、画像の符号化、音の符号化、圧縮技術を理解します。 Word・Excel・PowerPoint を使って音声や画像を貼り付けする課題提出があります。
5	ファイル操作	コンピュータ内でデータを扱う時、ファイルやフォルダという概念を利用して操作します。ここでは、この概念を利用した便利なツール(ソフトウェア)エクスプローラの操作を中心に学習します。 ファイルとフォルダ、ファイルの種類、ファイルのパス、エクスプローラとドライブ、エクスプローラの各部の名称と説明、エクスプローラの基本操作(ファイル操作と表示に関する操作)、アプリケーションによるファイルの新規作成と保存、ファイルのショートカットを理解します。 Excel や Snipping Tool を使って Word に図や表を貼り付ける課題提出があります。	9	インターネットと電子メール	たくさんのコンピュータをつないで、お互いに(双方向に)データをやりとりすることで、いろいろな活動ができるようになりました。これがインターネットです。ここではインターネットの歴史、仕組み、利用方法、電子メールの利用と諸注意について理解します。 ネチケット(インターネット利用上のエチケット・マナー)について、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
6	コンピュータとデータ(その1)	同じ演奏を「アナログ機器(例えばカセットテープ)で録音した演奏」と、「デジタル機器(例えばCD)で録音した演奏」を聞くとには、差があるのでしょうか? どちらが良いのでしょうか? この議論をきちんと理解し意見を述べられるようにすることが、ここでの学習です。デジタルとアナログ、デジタルデータと著作権を理解します。 PowerPoint を使って文字や図、表を貼り付けたスライドを作成する課題提出があります。	10	World Wide Web(その1)	インターネット上のデータをもっと大局的にとらえて、デジタルコンテンツのレベルで考えることを学習します。WWW とハイパーテキストを理解します。 Word や Excel, テキストファイルを編集するソフトウェアを使って、Html ファイルを作成する課題提出があります。
			11	World Wide Web(その2)	前回の内容をうけて、ここでは、WWW の仕組みや原理を学習します。ウェブブラウザの基本的な使い方、WWW の用語、リンク切れなどを理解します。 関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
			12	World Wide Web(その3)	前回の内容をうけて、ここでは、WWW と情報社会への影響を学習します。WWW の歴史、WWW で得られる情報、サーチエンジンとその仕組み、高度な検索方法を理解します。 関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
			13	インターネットとメディアリテラシ(その1)	高度な技術は、その利用に悪意があると常に脅威をはらみます。ここでは、インターネット利用の脅威について学習します。 インターネットと匿名性、インターネットの盗聴と暗号について理解します。 関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。

- 14 インターネットとメディアリテラシ（その2）
- 前回の内容をうけて、ここでは、インターネット上の犯罪や守るべき常識を学習します。インターネットの詐欺、インターネットの情報の真偽、フリーソフトの権利を理解します。関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各回で授業中に紹介するホームページをよく読んで、話題になったソフトウェアの使い方を復習しておく課題が出されます。授業時間内で完了できない場合は、次の授業開始前に指示に従って課題提出することになります。

< 授業で紹介するホームページの URL >

情報技術の基礎（知識定着のための教材）

lect-ip.cocolog-nifty.com

情報処理の実践（Excel・Word・PowerPoint を使った課題提出用の教材）

pract-ip.cocolog-nifty.com

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第3版】重定 如彦・河内谷 幸子（共著）サイエンス社 ISBN:978-4-7819-1469-5

情報処理演習Ⅰと情報処理演習Ⅱは、同じテキスト（教科書）を使用。

【参考書】

講義中に紹介するホームページなど使って指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度ならびに授業内提出課題の成果）50%

レポート課題30%

小テスト20%

【学生の意見等からの気づき】

授業中に指示されたホームページをよく読んで、授業外で行う学習活動を必ず遂行してください。

【学生が準備すべき機器他】

Windows10 が利用できる PC を準備してください。

Zoom を利用します。

【その他の重要事項】

授業に関する質問は、授業終了時に必ず声をかけてください。

内容（例えばインストール等）によっては、少人数でグループ授業を別枠で実施することもあります。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master the basic Information and Communication Technology. It starts with the twin themes of internet society, public and private, then students learn and understand how to use all of the mandatory applications in a complete office productivity suite: a word processor, a spreadsheet, a presentation manager, and a drawing program. Upon successfully completion of the course, students should be able to understand the basic concepts of information science.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

久東 義典

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会はコンピュータ機能をもった機器がいたるところに存在している。このような機器をきちんと扱えることが生活する上でとても大事である。コンピュータ機能をもった機器の情報処理技術について、その考え方、基礎的な知識、利用事例、最新動向を解説する。主に Office 系のソフト（Word、Excel、PowerPoint）を利用するが、データベースや Web 関連の最新知識についても説明する。この授業は、実践的な情報処理の知識と技術をマスターすることを目的とする。

【到達目標】

現代社会にかかわる情報技術に関する知識を、基本から実践まで体系的に身につけることができる。

Windows10 と、Office365 と Google 系の office アプリを実践的に利用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本の知識については講義と演習で進め、必要に応じてコンピュータを用いた実習を行う。課題のフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業を進めるにあたって、諸注意をします。 (1) ルールとマナーの理解 (2) ツールとメールの利用の理解 (3) デジタル資料作成（Excel・Word・PowerPoint の基本操作とファイル保存）の理解

2	集計表の入ったデジタル資料作成	いろいろなデータを使って、「集計する」ことを学習します。以下の項目について理解します。 (1) Excel の基本操作（前回の復習） (2) 集計表の作法の理解 (3) データと式 (4) 合計関数と相対参照 (5) 相対参照と絶対参照 (6) Word の基本操作（前回の復習） (7) Excel の表のコピー (8) Word で作表 (9) 行間・列間調整 (10) 表をオブジェクトとして扱う (11) PowerPoint の基本操作（前回の復習） (12) PowerPoint で作表 (13) それぞれのソフトウェアの作表しやすさを比較	7	データの分布	Excel を使って、無作為なデータから分布のある（正規分布）データを作る過程を視覚的に理解します。 (1) 体重を表している無作為なデータを作り、表やグラフにする。 (2) そのデータを 10 個ずつ平均して、その平均値を表やグラフにする。 (3) 平均値からの範囲を指定するとその範囲に何個のデータが入るか調べる。 (4) このデータから範囲を指定すると起こる得る可能性を割合で計算できることを理解する。
3	データの集約	「目的をもって、分かり易く集約する」ことを学習します。以下の項目について理解します。 (1) Excel の基本操作（前回の復習） (2) シートとブック (3) 平均、標準偏差、度数分布関数 (4) ピボット	8	アンケート調査	授業内でアンケート調査を実施して統計処理（仮説を検定）するまでの過程を学習します。 (1) 出る目にかたよりが無い正しいサイコロか否かを判定する。（第6回と第7回の復習） (2) 上記の考え方を受けて、性別による飲み物の嗜好の違いをアンケート調査し、集計した結果をもとに嗜好の違いがあるかないかを判定する。
4	Excel ・ Word ・ PowerPoint を使ったグラフの展開	「目的をもって、分かり易く表現する」ことを学習します。以下の項目について理解します。	9	インターネットを利用した情報収集と資料作成	インターネットを利用して、情報を収集しデジタル資料を作成することを学習します。 (1) 青空文庫と著作権についてデータ収集する。 (2) 数字でみる日本と題してデータを収集する。 (3) Word や Excel を使って収集した画像データや表データを整理する。
5	Excel のデータベース機能	「たくさんのデータを分類・整理する方法」を学習します。以下の項目について理解します。 (1) 実体とデータ (2) 並べ替えとフィルタ (3) データベース関数 (4) いろいろな形式のファイル保存	10	発表資料（レジメ）の作成	Word を使って、発表資料を作成します。 (1) 発表資料（レジメ）の作法を理解する。 (2) 段組を理解する。 (3) ページ区切りを理解する。 (4) 図や表の挿入を理解する。 (5) レイアウトを理解する。 (6) 参考文献等の書き方を理解する。 (7) 特殊な式や記号の書き方（挿入の仕方）を理解する。
6	サイコロの模擬	Excel を使って、1 から 6 の目をもつサイコロをシミュレート（模擬）し、無作為なこと（サイコロで言えば 1 から 6 まで同じ確率で目がでること）について学習します。テレビゲームの原理を学ぶことにもなります。余裕のある学生は、じゃんけんゲームを作ってみましょう。 (1) 無作為な数の表示（乱数の発生） (2) サイコロ関数の作成（ユーザー定義関数） (3) サイコロ・シミュレーション作ったサイコロを 6 回、60 回、600 回ふった時の出る目の回数を表にする。参考までに作ったサイコロを 10 回、100 回、1000 回ふった時の出る目の回数を表にする。 (4) サイコロ評価 確率（1/6）とかけ離れていないか評価する（第2回から第5回まで学習内容の復習）。	11	コンピュータを使った発表 1 題目「データベースとは」	PowerPoint を使ったスライド作成を学習します。 次の内容をよく理解して、各自で「データベース」を説明するスライドを作成します。 (1) データベースシステムの例を理解する。 (2) データベースシステムには、データの独立性、データの完全性、データの安全性の特性があることを理解する。 (3) データベースのデータを表す単位（レコード）を理解する。 (4) レコード間の関係を表す代表的な表現、階層的表現、網的表現、関係的表現を理解する。 (5) 関係的表現の操作、合併、共通部分、差、直積を理解する。

- 12 コンピュータを使った発表2
題目「データベース記述」
PowerPoint を使ったスライドに動きを付けることを学習します。次の内容をよく理解して、各自で「データベース記述」を説明するスライドを作成します。
(1) SQL を理解する。
(2) SQL の基本構文を理解する。
(3) 条件検索を理解する。
(4) 並べ替えを理解する。
(5) 結合を理解する。
- 13 コンピュータを使った発表3
題目「データベースと正規化」
発表に関する PowerPoin の便利な機能を学習します。次の内容をよく理解して、各自で「データベースと正規化」を説明するスライドを作成します。
(1) ふだんよく見る領収書やレシートは複雑な構造をした表であることを理解する。
(2) 複雑な構造の表を単純な構造の表にする過程を第一正規形、第二正規形、第三正規形を使って理解する。
- 14 まとめ
オフィス系ソフトの連携
インターネットを使ってオフィス系ソフトの連携を「まとめ」として学修します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
以下に紹介するホームページをよく読んで、話題になったソフトウェアの使い方を復習しておく課題が出されます。授業時間内で完了できない場合は、次の授業開始前に指示に従って課題提出することになります。

< 授業で紹介するホームページの URL >

情報技術の基礎（知識定着のための教材）

lect-ip.cocolog-nifty.com

情報処理の実践（Excel・Word・PowerPoint を使った課題提出のための教材）

pract-ip.cocolog-nifty.com

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第3版】重定 如彦・河内谷 幸子（共著）サイエンス社 ISBN:978-4-7819-1469-5

情報処理演習Ⅰと情報処理演習Ⅱは、同じテキスト（教科書）を使用。

【参考書】

講義中に紹介するホームページなど使って指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度ならびに授業内提出課題の成果）50%

レポート課題30%

小テスト20%

【学生の意見等からの気づき】

授業中に指示されたホームページをよく読んで、授業外で行う学習活動を必ず遂行してください。

【学生が準備すべき機器他】

Windows10 が利用できる PC を準備してください。

Zoom を利用します。

【その他の重要事項】

授業に関する質問は、授業終了時に必ず声をかけてください。
内容（例えばインストール等）によっては、少人数でグループ授業を別枠で実施することもあります。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master the advance information and Communication Technology. It starts with the twin themes of internet society, public and private, then students learn and understand how to practically use all of the mandatory applications while the problem solving. Upon successfully completion of the course, students should be able to understand the practical methods and concepts of information science.

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。実技・演習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得していきます。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中及び今後の生活で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第3版】重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類の授業での教科書が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to acquire basic skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1
 単位数：2 単位
 法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、現代社会にて必要となる ICT 関連や情報リテラシーのより広いスキル・知識の習得を目指します。演習を中心に、情報リテラシーやその活用、集計・データ処理について習得していきます。

【到達目標】

事務作業などを想定した一般的な情報系知識・スキルを習得し、活用できる。応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	確認と復習	これまでの確認と復習
第 3 回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第 4 回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第 5 回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第 6 回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第 7 回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第 8 回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第 9 回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第 10 回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第 11 回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第 12 回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第 13 回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第 14 回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。
 実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

基礎的な情報リテラシー系の書籍や同類授業での教科書が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to improve skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 単位数：2 単位
 法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。実技・演習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得していきます。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中及び今後の生活で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。
 実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類の授業での教科書が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to acquire basic skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、現代社会にて必要となる ICT 関連や情報リテラシーのより広いスキル・知識の習得を目指します。演習を中心に、情報リテラシーやその活用、集計・データ処理について習得していきます。

【到達目標】

事務作業などを想定した一般的な情報系知識・スキルを習得し、活用できる。応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながらるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	確認と復習	これまでの確認と復習
第 3 回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第 4 回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第 5 回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第 6 回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第 7 回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第 8 回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第 9 回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第 10 回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第 11 回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第 12 回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第 13 回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第 14 回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。
実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

基礎的な情報リテラシー系の書籍や同類授業での教科書が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to improve skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。実技・演習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得していきます。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中及び今後の生活で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながらるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。
実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類の授業での教科書が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to acquire basic skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
 単位数：2 単位
 法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、現代社会にて必要となる ICT 関連や情報リテラシーのより広いスキル・知識の習得を目指します。演習を中心に、情報リテラシーやその活用、集計・データ処理について習得していきます。

【到達目標】

事務作業などを想定した一般的な情報系知識・スキルを習得し、活用できる。応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながらるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	確認と復習	これまでの確認と復習
第 3 回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第 4 回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第 5 回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第 6 回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第 7 回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第 8 回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第 9 回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第 10 回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第 11 回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第 12 回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第 13 回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第 14 回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。
 実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

基礎的な情報リテラシー系の書籍や同類授業での教科書が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to improve skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 単位数：2 単位
 法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。実技・演習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得していきます。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中及び今後の生活で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながらるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。
 実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類の授業での教科書が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to acquire basic skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学の学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、現代社会にて必要となる ICT 関連や情報リテラシーのより広いスキル・知識の習得を目指します。演習を中心に、情報リテラシーやその活用、集計・データ処理について習得していきます。

【到達目標】

事務作業などを想定した一般的な情報系知識・スキルを習得し、活用できる。応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	確認と復習	これまでの確認と復習
第 3 回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第 4 回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第 5 回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第 6 回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第 7 回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第 8 回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第 9 回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第 10 回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第 11 回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第 12 回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第 13 回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第 14 回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。
実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

基礎的な情報リテラシー系の書籍や同類授業での教科書が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to improve skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ

2017 年度以降入学者

星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、GUI の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第 2 回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第 3 回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第 4 回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第 5 回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第 6 回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能を学ぶ。
第 7 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレート機能を学ぶ。
第 8 回	課題①	Microsoft Word を活用する課題に取り組む。
第 9 回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第 10 回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。
第 11 回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能について学ぶ。

- 第12回 画面切り替えとアニメーション Microsoft PowerPoint の画面切り替え設定とアニメーション機能について学ぶ。
- 第13回 スライドデザイン・発表課題の説明 Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。
- 第14回 課題② 発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログインIDとパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

【参考書】

「実習情報リテラシ【第3版】」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社
(参考情報 <http://hoshilab.net/>)

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、平常点（20%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline and objectives】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

星 善光

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

法文営 1～2年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報処理演習Ⅰに引き続き、様々なソフトウェアや情報機器を効果的に利用できるように、身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎力を習得することを目的とする。

【到達目標】

一般的な表計算ソフトウェアである Microsoft Excel を使うことができる。HTML、PHP、HTML5 を用いた Web ページを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

情報処理演習Ⅰと同様に、授業と実習の組み合わせで進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。表計算や様々なアプリケーションソフトウェアを利用します。また、ホームページの作成、簡単なプログラム作成も行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Microsoft Excel の基礎	Microsoft Excel の基礎について学ぶ。
第2回	計算式・関数・書式	Microsoft Excel の計算式や関数、書式等について学ぶ。
第3回	ページレイアウト・データツール	Microsoft Excel のページレイアウトやデータツールについて学ぶ。
第4回	課題発表会	情報処理演習Ⅰで作成したプレゼンテーション資料を用いて発表する。
第5回	グラフ	Microsoft Excel のグラフ作成機能を学ぶ。
第6回	外部データの処理	Microsoft Excel を用いて外部データの処理を行う方法を学ぶ。
第7回	課題④	Microsoft Excel を活用する課題に取り組む。
第8回	アプリケーションソフトウェア②	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第9回	コンピュータネットワークの基礎	コンピュータネットワークに関する基礎知識を学ぶ。
第10回	コンピュータセキュリティの基礎	コンピュータセキュリティに関する基礎知識を学ぶ。
第11回	HTML の基礎	HTML を用いたホームページ作成の基礎を学ぶ。
第12回	PHP の基礎	HTML 自動生成に役立つ PHP 言語についての基礎を学ぶ。
第13回	HTML5	HTML5 を用いたホームページ作成方法の基礎を学ぶ。

第 14 回 まとめ

講義内容をまとめる。コンピュータの将来展望や問題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

適時指示します。必要に応じてプリントを配布します。また、ホームページでパワーポイント資料を閲覧できます。
(参考情報 <http://hoshilab.net/>)

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、平常点（20%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline and objectives】

You learn how to use various application software including Microsoft Excel, various information devices effectively. You learn about web development related languages such as HTML, HTML5, PHP and learn about network structure too.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

一般的なワープロソフトとして **Microsoft Word** を使うことができる。スライド作成ソフトとして **Microsoft PowerPoint** を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。**PowerPoint** を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、GUI の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第 2 回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第 3 回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第 4 回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第 5 回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第 6 回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能を学ぶ。
第 7 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレート機能を学ぶ。
第 8 回	課題①	Microsoft Word を活用する課題に取り組む。
第 9 回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第 10 回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。
第 11 回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能について学ぶ。

- 第12回 画面切り替えとアニメーション Microsoft PowerPoint の画面切り替え設定とアニメーション機能について学ぶ。
- 第13回 スライドデザイン・発表課題の説明 Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。
- 第14回 課題② 発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログインIDとパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

【参考書】

「実習情報リテラシ【第3版】」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社
(参考情報 <http://hoshilab.net/>)

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、平常点（20%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline and objectives】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

星 善光

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

法文営 1～2年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報処理演習Ⅰに引き続き、様々なソフトウェアや情報機器を効果的に利用できるように、身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎力を習得することを目的とする。

【到達目標】

一般的な表計算ソフトウェアである Microsoft Excel を使うことができる。HTML、PHP、HTML5 を用いた Web ページを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

情報処理演習Ⅰと同様に、授業と実習の組み合わせで進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。表計算や様々なアプリケーションソフトウェアを利用します。また、ホームページの作成、簡単なプログラム作成も行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Microsoft Excel の基礎	Microsoft Excel の基礎について学ぶ。
第2回	計算式・関数・書式	Microsoft Excel の計算式や関数、書式等について学ぶ。
第3回	ページレイアウト・データツール	Microsoft Excel のページレイアウトやデータツールについて学ぶ。
第4回	課題発表会	情報処理演習Ⅰで作成したプレゼンテーション資料を用いて発表する。
第5回	グラフ	Microsoft Excel のグラフ作成機能を学ぶ。
第6回	外部データの処理	Microsoft Excel を用いて外部データの処理を行う方法を学ぶ。
第7回	課題④	Microsoft Excel を活用する課題に取り組む。
第8回	アプリケーションソフトウェア②	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第9回	コンピュータネットワークの基礎	コンピュータネットワークに関する基礎知識を学ぶ。
第10回	コンピュータセキュリティの基礎	コンピュータセキュリティに関する基礎知識を学ぶ。
第11回	HTML の基礎	HTML を用いたホームページ作成の基礎を学ぶ。
第12回	PHP の基礎	HTML 自動生成に役立つ PHP 言語についての基礎を学ぶ。
第13回	HTML5	HTML5 を用いたホームページ作成方法の基礎を学ぶ。

第14回 まとめ

講義内容をまとめる。コンピュータの将来展望や問題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログインIDとパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

適時指示します。必要に応じてプリントを配布します。また、ホームページでパワーポイント資料を閲覧できます。
(参考情報 <http://hoshilab.net/>)

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、平常点（20%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline and objectives】

You learn how to use various application software including Microsoft Excel, various information devices effectively. You learn about web development related languages such as HTML, HTML5, PHP and learn about network structure too.

PRI100LA

情報処理演習

2017年度以降入学者

寺澤 信雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

キ1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用とHTMLを使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

【到達目標】

コンピュータの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、HTMLを理解した上でホームページビルダーに頼ることなくWebデザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。

実習の開始は4月23日とします。当面は、学習支援システムを使った授業で、学習支援システムにアップロードするテキストに基づいて、学習して行く事とし、ビデオ会議や動画を使う授業は行いません。パソコン、またはタブレット端末を使用する事が前提ですが、スマートフォンでも大丈夫です。ただ、少し大変かも知れません。また、スマートフォンを利用する場合は、Excel、Word、PowerPointのアプリをダウンロードしておく必要があります。有料版と無料版があって、ダウンロードの際に注意がひつようですが、無料版で十分です。尚、みなさんの利用環境が知りたいので、アンケートに答えて下さい。成績は課題と提出物に基づいて評価しますが、どちらも、学習支援システムの課題にアップロードしていただきます。成績評価の基準と方法の項に書いた通り、課題は各単元の終りに1回時間を取って作成してもらうこととし、提出物はその日作成した文書を、ほぼ毎回アップロードしていただきます。メール添付での課題提出は基本的には受け付けませんが、どうしても困難な時は相談してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	コンピュータの仕組みと基本操作。インターネットとWi-fiの仕組み。	キーボード操作と文字入力的基础。インターネットブラウザを使った、WWW(Web)の利用と検索。電子メールの利用。
2回	表計算(Microsoft Excel)	MS Excelの利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3回	表計算(MS Excel)、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの3D化、複合グラフの作成法。

4 回	表計算：インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5 回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7 回	ワードプロセッサソフト (WS Word) : 続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。プレースホルダーの利用とプレースホルダーを使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9 回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10 回	HTML によるホームページのデザイン：1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11 回	HTML によるホームページのデザイン：2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12 回	HTML によるホームページのデザイン：3	Frame による画面分割、Floating Frame の設定。Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。
13 回	HTML によるホームページのデザイン：4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14 回	最終課題：HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excel、Word、PowerPoint は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、レポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、HTML については、これを使ってサークル、または自己PRのホームページを作成するなどに活用する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は、授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の実習で作成する提出物の評価（配点：50%）と各セッション後の課題の評価（配点：50%）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。毎回出席を心がけてください。

【その他の重要事項】

初回の実習は Zoom によるオンライン実習となります。Zoom ID は学習支援システム（Hopii）を見て下さい。また、受講希望者が定員を上回る時は抽選になります。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline and objectives】

We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application softwares such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

寺澤 信雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用と **HTML** を使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

【到達目標】

コンピュータの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、**HTML** を理解した上でホームページビルダーに頼ることなく **Web** デザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。

実習の開始は 4 月 23 日とします。当面は、学習支援システムを使った授業で、学習支援システムにアップロードするテキストに基づいて、学習して行く事とし、ビデオ会議や動画を使う授業は行いません。パソコン、またはタブレット端末を使用する事が前提ですが、スマートフォンでも大丈夫です。ただ、少し大変かも知れません。また、スマートフォンを利用する場合は、**Excel**、**Word**、**PowerPoint** のアプリをダウンロードしておく必要があります。有料版と無料版があって、ダウンロードの際に注意がひつようですが、無料版で十分です。尚、みなさんの利用環境が知りたいので、アンケートに答えて下さい。成績は課題と提出物に基づいて評価しますが、どちらも、学習支援システムの課題にアップロードしていただきます。成績評価の基準と方法の項に書いた通り、課題は各単元の終りに 1 回時間を取って作成してもらうこととし、提出物はその日作成した文書を、ほぼ毎回アップロードしていただきます。メール添付での課題提出は基本的には受け付けませんが、どうしても困難な時は相談してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	コンピュータの仕組みと基本操作。インターネットと Wi-fi の仕組み。	キーボード操作と文字入力の基本。インターネットブラウザを使った、WWW (Web) の利用と検索。電子メールの利用。
2 回	表計算 (Microsoft Excel)	MS Excel の利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3 回	表計算 (MS Excel)、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの 3D 化、複合グラフの作成法。

4 回	表計算：インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5 回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)：続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。プレースホルダーの利用とプレースホルダーを使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9 回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10 回	HTML によるホームページのデザイン：1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11 回	HTML によるホームページのデザイン：2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。 Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12 回	HTML によるホームページのデザイン：3	Frame による画面分割、 Floating Frame の設定。 Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。
13 回	HTML によるホームページのデザイン：4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14 回	最終課題：HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excel、**Word**、**PowerPoint** は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、リポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、**HTML** については、これを使ってサークル、または自己 P R のホームページを作成するなどに活用する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は、授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の実習で作成する提出物の評価（配点：50%）と各セッション後の課題の評価（配点：50%）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。毎回出席を心がけてください。

【その他の重要事項】

初回の実習は **Zoom** によるオンライン実習となります。**Zoom ID** は学習支援システム (**Hopii**) を見て下さい。また、受講希望者が定員を上回る場合抽選となります。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline and objectives】

We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application softwares such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

御園生 純

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【日常で活かす IT】

コンピュータを日常の中でどのように活用し、大学での活動を豊かにしていくための実践的な技術・知識の習得を目指します。

以下の 3 点を授業の柱とします。

■動画作成をマスターしよう！

動画を通じて他者に自分の考えを伝えることは？

ひとは何に注目するのか？

みるひと・聞く人の関心を引く動画をフリーソフトを利用してつくる

■オリジナルスタンプをつくってみよう！

コンピュータでデザインって難しくないの？

自分の考え（アイデア）をカタチにする

自分だけのスタンプをつくってみよう

■エクセルのマスターになる

計算だけじゃない、エクセルの使い方～予測・分析

エクセルでプログラミング

パソコンの基本的操作やアプリケーションソフトの利用方法はもとより、インターネットを利用した情報の主体的な受発信や各種のメディア活用能力・情報モラルの涵養など、情報化社会に必要な不可欠である、基礎的な情報リテラシー能力の習得を講義の中心に据え、できる限り受講者個々のスキルレベルに合わせた授業展開を心がける予定です。

【到達目標】

ビジネス系のみならず、表現方法としての情報リテラシーの習得を目指します。とくにプレゼンテーションについてはその理論と方法論の習得を通じて、実際に各種プレゼンツール（パワーポイント・Prezi）とドローソフト（Inkscape）の仕様の実際を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

具体的な課題の完成（目的）に合わせた基本ソフトウェアの使用方法を通じて、複数のソフトウェアを駆使することを目指し、実践的なコンピュータの活用方法を実習を通じて学びます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション (授業方針と計画・評価方法について)	授業の進め方の注意事項～ログオン方法の確認
②	情報保護について	データ管理とセキュリティについて理解する
③	パーソナルコンピュータ及び Windows-OS の基本的な取扱い方法について	OS の利用方法

- ④ 電子メールの基礎と日 メールアカウントの設定とメール
本語入力方法～FEP ソフトについて
活用の基礎理解操作方
法
- ⑤ アプリケーションソフ 基礎的な日本語入力
ト習得～MS Word
(1)
- ⑥ アプリケーションソフ 表組みと描画など
ト習得～MS Word
(2)
- ⑦ アプリケーションソフ アウトラインプロセッサについて
ト習得～MS Word
(3)
- ⑧ アプリケーションソフ エクセルの基礎的な画面構成の理
ト習得～MS Excel 解
(1)
- ⑨ アプリケーションソフ 計算式と関数①
ト習得～MS Excel 再計算機能と相対・絶対番地につ
(2) いて
- ⑩ アプリケーションソフ 計算式と関数②
ト習得～MS Excel 条件判断関数の基本とその応用
(3)
- ⑪ アプリケーションソフ マクロ・VBA 基礎
ト習得～MS Excel
(4)
- ⑫ ドローイングソフト習 ドローソフトの基本的構造とレイ
得～inkscape ① ヤーの意味
- ⑬ ドローイングソフト習 オリジナルスタンプを作ってみよ
得～inkscape ② う
- ⑭ プレゼンテーション～ prezi を使ったプレゼンテーショ
prezi ① ンの作成～アカウント取得など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

prezi アカウント取得のため、かならず大学のメールを利用できるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- ・情報における権利意識と保護意識の醸成 15%
- ・著作権・複製権などの権利関係に対する具体的な理解 15%
- ・授業毎に課す提出課題の提出度と完成度 70%

【学生の意見等からの気づき】

ありません。

【その他の重要事項】

履修に当たってはできれば PC を所有していることが望ましいです。定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is not only to use basic application software but also to acquire information literacy as expression method.

CAR100LA

キャリアデザイン応用

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ G 1 年～

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業はオンライン（オンデマンド型）で実施します】

基本的に学習支援システムを活用したオンライン（オンデマンド型）で実施します。毎回各授業回に関連した音声付の授業資料（一部動画）と課題を提示するので、授業が予定されている日程から一定の期間内（1 週間程度）の内で、各自が自由に時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステムによって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでおいてください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。

2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	11	働き方研究④ 「メンタルヘルス」	仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	12	キャリア戦略① 「キャリア選択の考え方」	キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	13	キャリア戦略② 「人生の経営戦略」	「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	14	キャリア戦略③ 「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」	これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、各2時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。		
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	【テキスト（教科書）】 特に定めません。		
8	働き方研究① 「チームワーク」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。	【参考書】 授業内で都度紹介します。		
9	働き方研究② 「リーダーシップ」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォローワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。	【成績評価の方法と基準】 毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100％）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木）と相談してください。		
10	働き方研究③ 「モチベーション」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。	【学生の意見等からの気づき】 本年度より課題の記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本に書いてある考えではなく、みなさんが自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」考えを記述内容を期待します。		
			【学生が準備すべき機器他】 授業資料は「学習支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等を利用して受講、学習してください。できればスマートフォンではなくパソコン、タブレットを使用されることをお勧めします。		

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスの拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline and objectives】

In this class, the purpose is to think about how to design your career plan through the understanding of various aspects of corporate activities and your internal values.

CAR100LA

キャリアデザイン応用

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

法文営国環キG 1 年～

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業はオンライン（オンデマンド型）で実施します】

基本的に学習支援システムを活用したオンライン（オンデマンド型）で実施します。毎回各授業回に関連した音声付の授業資料（一部動画）と課題を提示するので、授業が予定されている日程から一定の期間内（1 週間程度）の内で、各自が自由に時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステムによって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでおいてください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。

2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	11	働き方研究④ 「メンタルヘルス」	仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	12	キャリア戦略① 「キャリア選択の考え方」	キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	13	キャリア戦略② 「人生の経営戦略」	「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	14	キャリア戦略③ 「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」	これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを見自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、各2時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。		
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	【テキスト（教科書）】 特に定めません。		
8	働き方研究① 「チームワーク」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。	【参考書】 授業内で都度紹介します。		
9	働き方研究② 「リーダーシップ」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォローワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。	【成績評価の方法と基準】 毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100％）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木）と相談してください。		
10	働き方研究③ 「モチベーション」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。	【学生の意見等からの気づき】 本年度より課題の記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本に書いてある考えではなく、みなさんが自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」考えを記述内容を期待します。		
			【学生が準備すべき機器他】 授業資料は「学習支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等を利用して受講、学習してください。できればスマートフォンではなくパソコン、タブレットを使用されることをお勧めします。		

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスの拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline and objectives】

In this class, the purpose is to think about how to design your career plan through the understanding of various aspects of corporate activities and your internal values.

CAR100LA

キャリアデザイン応用

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営国環キ G 1 年～

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業はハイブリット型（教室での対面授業+一部オンライン）で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが一部の授業回や課題の取り組みはオンラインで実施します。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定の期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。また、課題レポート等におけるコメントに関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。

2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	11	働き方研究④ 「メンタルヘルス」	仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	12	キャリア戦略① 「キャリア選択の考え方」	キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	13	キャリア戦略② 「人生の経営戦略」	「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	14	キャリア戦略③ 「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」	これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを見分けて自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備・復習時間としては、各2時間の学習を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。		
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	【テキスト（教科書）】 特に定めません。		
8	働き方研究① 「チームワーク」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。	【参考書】 授業内で都度紹介します。		
9	働き方研究② 「リーダーシップ」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。	【成績評価の方法と基準】 毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100％）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木）と相談してください。		
10	働き方研究③ 「モチベーション」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。	【学生の意見等からの気づき】 本年度より課題の記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本に書いてある考えではなく、みなさんが自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」考えを記述内容を期待します。		
			【学生が準備すべき機器他】 授業資料は、「授業支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等によって受講、学習をしてください。		
			【その他の重要事項】 新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。		

【Outline and objectives】

In this class, the purpose is to think about how to design your career plan through the understanding of various aspects of corporate activities and your internal values.

CAR100LA

キャリアデザイン応用

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営国環キ G 1 年～

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業はハイブリット型（教室での対面授業+一部オンライン）で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが一部の授業回や課題の取り組みはオンラインで実施します。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定の期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。また、課題レポート等におけるコメントに関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。

2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	11	働き方研究④ 「メンタルヘルス」	仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	12	キャリア戦略① 「キャリア選択の考え方」	キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	13	キャリア戦略② 「人生の経営戦略」	「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	14	キャリア戦略③ 「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」	これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、各 2 時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。		
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。	【テキスト（教科書）】 特に定めません。		
8	働き方研究① 「チームワーク」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。	【参考書】 授業内で都度紹介します。		
9	働き方研究② 「リーダーシップ」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォローワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。	【成績評価の方法と基準】 毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全 14 回分を合計した総合点で評価（100 %）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が 70 % 以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木）と相談してください。		
10	働き方研究③ 「モチベーション」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。	【学生の意見等からの気づき】 本年度より課題の記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本に書いてある考えではなく、みなさんが自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」考えを記述内容を期待します。		
			【学生が準備すべき機器他】 授業資料は、「授業支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等によってを受講、学習をしてください。		

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスの拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline and objectives】

In this class, the purpose is to think about how to design your career plan through the understanding of various aspects of corporate activities and your internal values.

IDN100LA

大学を知ろう <法政学>への招 2017 年度以降入学者待

小林 ふみ子、小倉 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キG 1 年～

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ようこそ法政大学へ！ みなさんのこの大学や学部がいつどのような、どうして作られたのか知ってみたくはありませんか？

この授業では、創立から 140 年以上となる本学の歴史、校歌の成り立ち、明治期からの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、多方面から法政大学に迫ります。最後には未来を考え、総長に提言する機会も設けます。長い歴史をもつ本学で学ぶ自らをみつめ、将来の目標やキャリアを考えてみましょう。

【到達目標】

・法政大学の歴史を日本近現代史、世界史の流れのなかで理解する。
・〈法政大学らしさ〉を考え、自らの将来へのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、科目責任者 2 名のコーディネートのもと、総長以下、本学教員、卒業生等が、学部やキャンパスの垣根を超えて担当します。講義の途中や最後に内容を確認するクイズ、グループワークなどで参加型・双方向型授業にしています。毎回の Hoppii のコメントに書かれた質問のなかから講義担当者が重要なものを選んで翌週にペーパーにして応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「山の手」の市ヶ谷 キャンパス～法政大学 と地域社会	ガイダンスとして授業の概要を説明したのち、市ヶ谷キャンパス周辺地域の歴史・地理環境、本学の地域連携活動を紹介する。（科目責任者＝小倉淳一）
2	市民社会の開明とノン エリートの夢～法政大 学と日本近現代史①	創立者の一人、青年薩埵正邦の「志」と「奮闘」を中心に、本学創立期について講義する。（浜村彰）
3	ボアソナードと梅謙次 郎～法政大学と日本近 現代史②	開学後約 30 年の発展期に多大な貢献をした人物たち、その民法制定への関わりを学ぶ。（岡孝）
4	アジアからみつめる～ 法政大学と国際社会	20 世紀初頭に始まる留学生の受け入れをはじめ、本学の国際関係を概観する。（高柳俊男）
5	リベラリズムの潮流～ 法政大学と日本近現代 史③	本学で教えた夏目漱石門の内田百閒らの文学者、三木清らの哲学者たちを紹介し、そこに底流するリベラリズムを考える。図書館にある旧蔵書も紹介。（衣笠正晃）
6	学生生活の今昔	写真や映像を交えて学生文化史を振り返る。戦時下の学徒出陣にも触れる。（古俣達郎）

7	校歌「よき師よき友つどひ結び」	成立背景や作詞・作曲者、歌詞の意味などについて知り、応援団のパフォーマンスを見ながら歌唱指導を受ける。(児美川孝一郎)
8	大内総長とその時代～法政大学と日本近現代史④	戦後の本学の復興・発展期を担った大内兵衛総長の功績とその教育的理想を考える。(横内正雄)
9	法政大学のスポーツ	戦前よりさまざまな部活動が行われ、オリンピックを含め数々の名選手を輩出した本学のスポーツの特徴を考える。(ゲスト講師)
10	ユニークな研究所	多数の研究所のうち他大に類例がなく、研究実績で世に知られる能楽研究所、沖縄文化研究所、大原社会問題研究所について知る。
11	先輩からのエール	社会で活躍する卒業生の体験を聞き、本学で学ぶ意義や可能性を考える。今年度はおなじみの LINE で 31 歳にして執行役員となった奥井麻矢さん(キャリアデザイン学部卒)をお招きする予定。
12	近年の発展～法政大学と日本近現代史⑤	本学が大きく変貌した 90 年代以降の改革と、市ヶ谷に新たに置かれた 4 学部について学ぶ。(職員・各学部教員)
13	「自由と進歩」と法政大学憲章～「法政らしさ」を考える	法政大学の学風として掲げられてきた「自由と進歩」から「法政大学憲章」へ、この講義の内容をふり返りつつ「法政大学らしさ」を考える。(科目責任者＝小林ふみ子)
14	まとめのワーク	「法政大学と自分たちの未来」を話しあい、将来の法政大学への提言をする。廣瀬克哉総長の講評を受け、もっとも優れた発表に総長賞を授与する。(廣瀬克哉総長・科目責任者＝小林)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講師は代わりますが、一つの流れになっています。配付資料を読み直し、紹介した参考文献にも目を通すようにしましょう。昨年オープンしたばかりの HOSEI ミュージアムは必見。予習復習をかねてぜひ見学を！ デジタル展示でつぎつぎと新しい情報が出てきます。

その他関連する特別展示なども紹介、見学を推奨します。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

写真でみせる『法政大学 1880-2000 そのあゆみと展望』から抜粋本をつくり、授業支援システムに掲載します。さらに充実したバージョンはテキストとして生協で販売します。

【参考書】

毎回、適宜お知らせします。本学の大学史については、上述書のほか『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。

【成績評価の方法と基準】

毎回の Hoppii のコメントにみえる取り組み 70 %、期末レポート 30 %で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

開設 11 年を迎える科目で、受講生が法政大学で学ぶ自分を見つめ直す役割を果たしているようです。毎回の授業内容を、テキストとより関連づけながら進めていくよう努めます。みなさんにとって興味深く、よい刺激となるようにする工夫を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

配付資料類は、授業支援システムを通じて配付します。

【その他の重要事項】

・入学した段階で、本学で学ぶことの意味を考えられるよう 1 年次での履修を推奨します。2 年生以上の受講ももちろん歓迎します。

・この授業で法政大学の経てきた歴史に興味をもったら、上位科目として開講されている「法政学の探究 LA・LB」にもチャレンジしてみてください。

【Outline and objectives】

Welcome to Hosei University! Would you like to know when, how and why your university and faculty were founded?

We will trace the more than 140-year history of Hosei University, looking at its various aspects: the university song, acceptance of overseas students, relations with other countries, distinctive research institutes, changes in student culture, outstanding graduates, etc. In the last class session, we are going to hold a discussion as to the future of our university and you can present your proposals to the university president. Hopefully this class would be a good opportunity for you to reflect on yourself who study at this university and think about your future career.

IDN200LA

法政学の探究 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

古俣 達郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ G 1 年～

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「学生（法政大学の学生＝法大生）」の歴史と文化に焦点をあてます。法政大学で学生生活を過ごすなか、ふと疑問に思ったことや関心を抱いたことを日本近現代史、大学史などの学問的な観点から検証します。具体的なテーマとして、体育会・文化系団体・サークルの由来、自主法政祭の歴史、留学生の変遷、法政大学におけるジェンダー、そして、外濠・神楽坂を中心とした周辺地域の特徴などを挙げるすることができます。法政大学の歴史を通して、日本の近現代や日本の大学のあり方を捉え直す機会となるでしょう。

また、2020 年度に開設された HOSEI ミュージアムの展示コンテンツやデジタルアーカイブをはじめ、映像資料なども活用し、様々な資料から「法政学」を探究します。

【到達目標】

1. 法政大学の歴史はもちろんのこと、日本近現代史や大学の歴史に関する基礎的な知識を得ることができます。
2. 身近なテーマを学問的な「問い」へと発展させる視野を養います。
3. 調査研究の前提となるテーマ設定の具体化や各種資料の調査方法・読解方法について学ぶことができます。
4. 演習形式が中心となるため、各学部の専門ゼミ履修への準備になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業計画に則り、講義形式と演習形式を組み合わせで進めます。第 4 回では HOSEI ミュージアムで見学調査を行い、第 7・14 回では上映された映像について議論を行います。なお、受講生は授業内で報告（1 回）を行う必要があります。報告（発表）や質問、リアクションペーパー等に対するフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	本授業の目標、スケジュール等を説明します。
第 2 回	法政大学の歴史－東京法学社創立から大学昇格まで－	法律学校時代の法政大学の歴史を主に「学生」の観点から振り返ります。
第 3 回	法政大学の歴史－大学昇格から現在まで－	大学昇格後の法政大学の歴史を主に「学生」の観点から振り返ります。
第 4 回	HOSEI ミュージアムでの学び	HOSEI ミュージアムを訪問し、展示内容から法政大学に関わる様々なテーマについて知見を得ます。
第 5 回	デジタルアーカイブの使い方	HOSEI ミュージアムデジタルアーカイブをはじめ、各種デジタルアーカイブ、データベースの使用方法を学びます。

第 6 回	テーマ設定方法と報告の基礎を学ぶ	「問い」の立て方、テーマ設定の方法をはじめ、レジュメの作成やプレゼンテーション方法など、報告の基礎を学びます。
第 7 回	映像から学ぶ法政大学	法政大学を舞台にした映画『横道世之介』を鑑賞し、そこで描かれた学生像について議論します。
第 8 回	体育会・文化系団体・サークルに関するテーマ設定と資料紹介	体育会・文化系団体・サークルに関するテーマ設定を科目担当者とともに学びます。
第 9 回	その他、学生活動や学生の歴史に関するテーマ設定と資料紹介	上記（体育会・文化系団体・サークル）以外の学生活動や学生の歴史に関するテーマ設定を科目担当者とともに学びます。
第 10 回	地域などに関するテーマ設定と資料紹介	主に外濠・神楽坂など法政大学の周辺地域に関するテーマ設定を科目担当者とともに学びます。
第 11 回	体育会・文化系団体・サークルをテーマとした報告	体育会・文化系団体・サークルをテーマとした受講生の報告を行います。
第 12 回	その他、学生活動や学生の歴史をテーマとした報告	上記（体育会・文化系団体・サークル）以外の学生活動や学生の歴史をテーマとした受講生の報告を行います。
第 13 回	地域などをテーマとした報告	主に地域などをテーマとした受講生の報告を行います。
第 14 回	映像上映と総括	法政大学創立百周年記念映画『オレンジのその情熱と…』を鑑賞し、科目担当者による総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習では、HOSEI ミュージアムに展示されているコンテンツ、同デジタルアーカイブの調査や授業内で紹介された文献の読解を行います。復習では、毎回科目担当者が配布した資料と授業支援システムにアップロードされた資料を読み直します。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、毎回、科目担当者が資料を配布します。

【参考書】

『法政大学八十年史』（1961 年）、『法政大学百年史』（1980 年）、『法政大学と戦後五〇年』（2004 年）、『法律学の夜明けと法政大学』（1992 年）、唐澤富太郎『学生の歴史－学生生活の社会史的考察』（1955 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点と授業内の報告（各 50 %）にて判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学部を超えた交流の機会となるよう、受講者が自由に発言できる「場」を形成したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

報告用の PC などの機器は科目担当者が用意します。

【その他の重要事項】

関連科目「大学を知ろう <法政学>への招待」で学んだ内容を前提としますので、同科目の既修者か、それと同等の前提知識を得てから受講してください。後者の場合、大学公式 HP に掲載されている「HOSEI MUSEUM」が参考になります。

【Outline and objectives】

This course explores the history and culture of Hosei students. We examine questions and interests in student life from an academic perspective. Students will learn the modern and contemporary history of Japan, the history of Universities through the history of Hosei University.

IDN200LA

法政学の探究 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

古俣 達郎、高柳 俊男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文営国環キ G 1 年～

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「大学を知ろう <法政学>への招待」（旧科目名「法政学への招待」）をすでに受講し、法政大学が経てきた 140 年の歴史と現状について一通りの理解をもつ学生を主対象にして、本学ゆかりの特定の人物を媒介に、法政大学についてより深く考える場を提供する発展科目として設定しました。

「大学を知ろう <法政学>への招待」における学習を前提に、本授業では、法政大学で教えた教員や、学んだ学生を具体的に取り上げます。教員の場合なら、その人物が法政大学でどのような教育研究に携わったのか、そのことで本学や社会の発展にいかに関与したか、などを追います。卒業生の場合なら、本学で何を学んだのか、あるいは学んだことをその後の本人の人生や、社会に向けてどう役立てたかなどについて、探究することになるでしょう。

法政大学ゆかりの特定の人物を詳しく追うことで、「自由と進歩」の理念や、時代のフロントランナー養成を掲げる本学の歴史と現在が、より具体性を帯びて理解できるようになるはずです。

【到達目標】

本学の経てきた道を、具体的な人物に即して、実証的・実感的に把握できることを目指します。時代の大きな流れの中で、本学ゆかりのその人物が何に興味をもち、どんな活動をし、何を目指し、何に悩んだかなど、時代の潮流や雰囲気を受講生個々人の知性と感性で感じられるようにします。それを、自分の学生生活や将来像へとつなげて考える契機を得るよう努めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

科目責任者の教員が毎回同席し、授業をコーディネートします。講義は、毎回のテーマに最適な本学内外の講師陣（科目責任者含む）が、分担して担当します。

授業の最後に毎回、リアクションペーパーを書いていただきます。受講生の声を反映した参加型・双方向型授業になるよう努めます。なお、質問やリアクションペーパーに対するフィードバックは授業中に行います。

* 各回のオンラインでの実施形式・実施方法は学習支援システムを通じて、事前にお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	この授業の狙いや、全体の構成について説明する。 あわせて、本学の経てきた歴史の概略を復習する。（科目責任者＝高柳俊男、古俣達郎）

2	世界を知りつくした本学の祖 箕作麟祥	本学の前身である和仏法律学校の初代校長の箕作麟祥は、明治期の有数の啓蒙家であった。彼は、洋学を学んで、西洋の法律や歴史を日本に紹介し、日本の「民権」のために活躍した。彼の仕事を振り返って、そこから学ぶものを探りたい。（南塚信吾）
3	本学草創期を支えた日本近代法の父 ボアソナード	フランス人法学者のボアソナード（1825-1910 年）は、明治政府顧問として来日し、近代法典の整備と法学教育に尽力した。ボアソナードの事績と薫陶を受けた教え子たちの活動を紹介します、その歴史的意義を考える。（村松玄太）
4	「民法の父」・和仏法律学校初代総理 梅謙次郎	日本民法典起草者の一人であり、帝国大学法学部教授、法政大学の初代総理（総長）であった梅謙次郎について、韓国（大韓帝国、1897-1910 年）政府の法律顧問として活動していた頃の足跡を辿る。（李英美）
5	能楽研究の開拓者である野上豊一郎	法政大学は古典芸能の「能楽」と深い結び付きがあるが、その縁は、戦後間もなく総長を務めた野上豊一郎が創出したものである。今回は、野上と能楽との出会いから、彼が残した功績を概観する。（伊海孝充）
6	夏目漱石門下生たちに学んで作家になった椋鳩十	伊那谷出身の椋鳩十（本名：久保田彦穂）は、とくに動物物語の作者として広く知られる。初の詩集を出し、学生結婚もした法政大学時代をはじめ、戦前戦後にわたる椋の歩みを時代の中で振り返る。（高柳俊男）
7	「法政スピル（法政精神）」を体現した中野勝義	中野勝義は本学の卒業生で、ANA の創業者である。随筆家内田百閒の愛弟子であった中野の生涯は法政と航空に捧げられたといっても過言ではない。中野の生涯を、郷里の北海道、法政大学、民間航空を軸に振り返る。（古俣達郎）
8	作家井本健作とその日記	野上豊一郎の推挙で本学教員になり、戦前・戦後にかけて、予科長、第二中学校長（初代）、図書館長を歴任するなど大学運営にも深く関わった作家・俳人の井本健作。井本が長年にわたり書き残した日記（「自省録」）を紐解き、知られざる戦前期法政大学の歴史を明らかにする。（北口由望）
9	城戸幡太郎、波多野完治、宮原誠一、乾孝～生涯学習の時代を切り拓いた人々	戦前の法政大学高等師範部教授の城戸幡太郎、波多野完治、宮原誠一らは、本学を舞台に教育科学研究会や保育問題研究会を組織したが、そのねらいは現場の教員と研究者とが共同して教育実践を研究することにあった。キャリアデザイン学部へと引き継がれるこの伝統を明らかにしたい。（笹川孝一）
10	「不安の時代」を代表する思想家	西田幾多郎を中心とする「京都学派」随一の俊才とされ、昭和前期のアカデミズムとジャーナリズムの双方で幅広く活躍しながら、第 2 次大戦直後に悲劇的な獄死をとげた哲学者・三木清の生涯と思想を紹介・検討する。（衣笠正晃）

11	戦争の中を生きた学友たち～久納好孚を例に	終戦直前のわずか 10 ヶ月足らずの間に 5,845 名もの戦死者を出した「特攻」。その第一号となったのが、本学に学んだ学友の一人・久納好孚であった。彼はなぜ「特攻」を志願したのか。その短い生涯を辿りながら、戦前戦中の本学の歴史と学友たちの生きざまを追体験してみたい。(鈴木靖)
12	近代スキー発展の礎を築いた福岡孝行	白馬スキー場を切り拓いた法政大学教授の福岡孝行。近代日本のスキー文化を形作った先駆者であり、法政スポーツの発展に尽力したその功績を振り返る。(福岡孝純)
13	戦後法政大学の歴史と人物	『法政大学百年史』(1980 年)、『法政大学と戦後五〇年』(2004 年) など、長年にわたり法政大学の歴史の編纂に携わられている飯田泰三法政大学名誉教授をお招きし、戦後の法政大学の歴史を形作った様々な人物についてお話いただく。(飯田泰三)
14	学生の目と教員の目から見る法政大学	学生として本学で学び、のちに本学で教えるに至った方を授業にお招きし、2 つの立場から見た法政大学について体験的に語っていただき、授業全体のまとめとする。(小倉淳一、明田川融、古俣達郎)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講師が授業内で言及した文献は、積極的に参照してください。また、開館したばかりの HOSEI ミュージアムの展示および同ミュージアムデジタルアーカイブ (<https://museum.hosei.ac.jp/archives/Users/Top>) には、授業で取り上げた人物や事象に関するコンテンツが豊富に含まれていますので、準備学習・復習に活用してください。その他、授業に関連する特別展示などが学内外で開催される場合には、随時お知らせしますので、極力足を運んでみてください。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストはありません。講義担当者がプリントを適宜配付します。

【参考書】

各担当教員が、その都度お知らせします。

本学の歴史を通史的にまとめた書籍には、『法政大学 1880-2000：そのあゆみと展望』のほか、『法政大学参拾年史』『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。図書館などで適宜参照してください。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢 40 %、学期末のレポート 60 %を基準にして、総合的に評価します。受講者数によっては若干の変更があるかもしれませんが、その場合は授業の場（もしくは学習支援システム）でお知らせします。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

なお、レポートの作成に際しては、必ず文献に当たるよう心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

学術的でありながら、同時に自らの生き方の参考になるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。学習支援システムを積極的に活用します。

【その他の重要事項】

上述のように、「大学を知ろう <法政学>への招待」で学んだ内容を前提に進めますので、原則として同科目の既修者か、それと同程度の前提知識がある方が受講対象者になります。

「大学を知ろう <法政学>への招待」とこの「法政学の探究 LA」を履修し、さらに学びを深めたい方には、より演習に近い少人数の科目として、「法政学の探究 LB」（春学期）も用意されています。

【Outline and objectives】

This intermediate class aims to explore the history and the spirit of Hosei University, by following the achievements and personality of several specific individuals.

BSP100LA

リベラルアーツ特別講座 2017 年度以降入学者

サブタイトル：金融リテラシー

コーディネータ：小原 丈明、講師（ゲストスピーカー）：
イオン銀行 岩波 俊哉氏 他

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ G 1 年～

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会では、金融との関わりを持つことは避けられないため、生活スキルとして「金融リテラシー力（お金に関する知識と判断力）」を身につけることは重要です。

金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することが出来るようになる実践的な力を身につけて頂くことが本講座の目標です。

本講義は株式会社イオン銀行の寄付講義です。

【到達目標】

経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な、経済や金融についての知識と判断力を学ぶ。

学んだ知識を活かし、適切な金融商品のサービス選択ができ、将来の生活設計（ライフプラン）が作成できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回のテーマに最適の講師（ゲストスピーカー）が、講義を担当します。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融経済教育の重要性	生活を取り巻く社会環境、金融リテラシーの意義・重要性を学ぶ
2	人生とお金	人生にかかるお金の意味、ライフデザインの重要性、奨学制度などを学ぶ
3	お金を稼ぐ	職業選択の意義、就労形態と生涯所得、収支管理、社会保障制度の基礎を学ぶ
4	お金と経済	金融・経済環境の変化とその対応方法を学ぶ
5	ライフプランを描く①	ライフプランの全体像について学ぶ
6	ライフプランを描く②	ライフプランの重要性、人生の3大費用、キャッシュフローの分析などを学ぶ
7	お金を借りる①	クレジットカード・消費者ローンの仕組みと利用上の留意点
8	お金を借りる②	住宅ローンの仕組みと利用上の留意点
9	お金をふやす①	投資の意義、リスクとリターンの関係、長期投資の重要性などを学ぶ

10	お金をふやす②	投資信託の仕組み、分散投資の重要性などを学ぶ
11	リスクに備える①	人生におけるリスクと保険の役割、生命保険の活用法などを学ぶ
12	リスクに備える②	生活に潜むリスクと保険の役割、損害保険の活用法などを学ぶ
13	トラブルに強くなる	学生や若手社会人が陥りやすい悪徳商法・金融商品詐欺と未然防止策などを学ぶ
14	ライフプランを描く③	ライフプランの作成・演習など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

配布資料および web 上の参考資料を事後に読むこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

資料については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出（7 割以上）（20%）、中間小テスト（2 回）（20%）および最終レポート（60%）の点数により学習到達度の観点から単位を付与する。

【学生の意見等からの気づき】

将来だけでなく現時点での生活に役立つことが学べたといった意見を多くいただきましたので、2021 年度はさらに生活に密着した事例等を取り入れた内容とします。

また、2020 年度はオンライン・オンデマンドの授業形式で実施しましたが、2021 年度は状況に応じて、可能な限りディスカッションや直接質問を頂けるよう工夫して授業を展開していきます。

【Outline and objectives】

In today's society, it is unavoidable to be involved in finance, so it is important to acquire financial literacy (knowledge and judgment about money) as a living skill.

The goals of learning about financial literacy are as follows:

- ・ To understand the important things about life.
- ・ To acquire practical skills through gathering the information you need and getting actionable information to make comparisons, tests, and decisions.

This lecture is donated by AEON Bank, Ltd.

ECN200LA

リベラルアーツ特別実習

2017 年度以降入学者

サブタイトル：金融グローバルインターンシップ

コーディネータ：小原 文明、 講師（ゲストスピーカー）：
イオン銀行 岩波 俊哉氏 他

開講時期：スプリングセッション/Spring Session | 曜日・時

限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ G 1～3 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イオングループが事業展開する小売をはじめ、金融、サービス事業等について、グループ各社の仕事を学ぶことを通して、それぞれの地域文化・風土の理解、グローバル思考の醸成、企業としての社会的役割などを学んでいただくことが本授業の目的です。

本科目の履修に際しては、「リベラルアーツ特別講座」を履修済みであることが望ましいですが、本科目を履修するうえでの必須条件ではありません。

【到達目標】

学生は、グローバル社会や国際的な倫理観に関する情報、知識を自ら収集し、分析するスキルを身につけ、国際的な環境の中で活動するための実践的なコミュニケーション能力や他者を巻き込みながらプロジェクトを遂行するために必要な指導力の重要性を理解することができるようになる。

学生は、この授業を通じて、自らの体験をそれぞれが専攻する学問の体系と関係づけ、将来に専門的職業人として活動するために必要な知識や能力について考察を深め、自らのキャリアの展望について考察を深めることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

2 月中下旬から、国内 5 日間・国外 5 日間、計 10 日間（休日を除く）程度の国内外インターンシップを行います（10 日間のインターンシップとは別に事前・事後指導の講義有り）。

最終授業で、授業内容の全体のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	検討中	検討中
2	検討中	検討中
3	検討中	検討中
4	検討中	検討中
5	検討中	検討中
6	検討中	検討中
7	検討中	検討中
8	検討中	検討中
9	検討中	検討中
10	検討中	検討中
11	検討中	検討中
12	検討中	検討中
13	検討中	検討中
14	検討中	検討中

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

業界分析、企業分析、自己分析、振り返り、成果報告会プレゼンテーション準備などを授業外学習として課す。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

資料については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

検討中

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度より開講のため、なし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn about the work of each Group company in the retail, financial, and service businesses in which the AEON Group operates, as well as its understanding of local culture and climates, fostering a global orientation, and its social role as a global company.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中世文学を読み解く

表 きよし

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古典文学の代表的な作品である『平家物語』を読み、一の谷合戦・屋島合戦・壇の浦合戦という三つの合戦を通して平氏が滅亡に追い込まれていく様子を考察する。登場する人物たちの活躍がどのように描かれているかを細かく分析するとともに、その合戦の持つ意味を作者がどのようにとらえているかを明らかにする。『平家物語』が語られた作品であることにも留意しながら、言葉による表現の可能性を探る。

【到達目標】

『平家物語』の多彩な登場人物の個性、さまざまな合戦などの出来事の内容、『平家物語』という作品の特色を理解し説明することができる。古典文学作品の面白さを味わうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

『平家物語』後半の、三つの合戦に関する部分を毎回 1～2 段ずつ取り上げて講義していく。各段で事件・人物がどのように描かれているかを分析しながら内容を理解していく。
この授業はオンデマントでの開講となる。学習支援システムに要点と解説を記した教材を掲載するので、教材をもとに学習し、レポートを提出する形で授業を進めていく。
レポートにおいて多くの人から質問があった事柄については次の授業の教材の中で回答する。そのほか「学習支援システム」により適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	『平家物語』の特色	授業の進め方、教科書などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。『平家物語』の特色を説明し、どのような点に留意しながら読んだらよいかを把握してもらう。
②	『平家物語』の内容展開	『平家物語』の最初から最後まで話の展開を説明する。どのような出来事が起きるかを把握しておくことにより、以後の授業に順調に対応できるようにしてもらう。
③	木曾の最期の事	義経が都に攻め入ったために追い詰められた義仲が、あえて範頼軍が待ち構える琵琶湖へと向かう様子や、乳母子の今井兼平や愛妾の巴との心のつながりを読み取っていく。

④	老馬の事・坂落しの事	平氏が態勢を整えて待つ一の谷へと範頼・義経が向かっていく様子や、義経が坂落しと呼ばれる奇襲戦法を実行していく様子、それにより平氏が大混乱に陥る様子を読み取っていく。
⑤	忠度の最期の事	一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平忠度を取り上げ、忠度の和歌に対する情熱と勅撰集入集への思い、覚悟を決めて最期を迎える様子などを読み取っていく。
⑥	敦盛最期の事	一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平敦盛を取り上げ、十七歳の若武者ながら高貴な武士としてのプライドを保つ敦盛の健気さと、敦盛を討った熊谷次郎直実の心の変化を読み取っていく。
⑦	逆櫓の事	四国の屋島へ逃れた平氏を討つために義経が都を出発する様子や、大坂の港での逆櫓設置をめぐる梶原景時との激しい論争、悪天候の中船出を強行する義経の思いを読み取っていく。
⑧	大坂越の事・嗣信最期の事	四国の阿波に上陸した義経が陸路を通して屋島を急襲する様子や、慌てた平氏が海上へと逃れる様子、海岸での戦いで義経の部下である佐藤嗣信が戦死する様子を読み取っていく。
⑨	那須与一の事	夕刻となって戦いが中断となりそんな時に平氏が扇の的を船に立てた理由や、射手に選ばれた那須与一が厳しい状況の中で見事に任務をやり遂げる様子を読み取っていく。
⑩	壇の浦合戦の事・遠矢の事	最後の合戦である壇の浦合戦がどのような状況で始まっていくか、合戦を目前にしての義経と梶原景時との対立、平氏のリーダー平宗盛の決断力のない姿などを読み取っていく。
⑪	先帝御入水の事	阿波民部重能の寝返りなどにより平氏の敗戦が決定的になる様子や、平氏の副リーダー平知盛の人々に覚悟を促す行動、先頭を切って安徳天皇とともに海中に沈む二位殿の覚悟などを読み取っていく。
⑫	能登殿最期の事	入水したが救出されてしまう建礼門院、覚悟が決まらず生け捕りとなる平宗盛、あくまでも戦おうとする平教経、みんなの最期を見届けて入水する平知盛など、平氏の人々の最期の有様を読み取っていく。
⑬	腰越の事	平氏を滅亡に追い込んだ源義経が、兄の源頼朝との関係が悪化したために鎌倉入りを拒否され、自らの思いを腰越状に認めるがついに許されず、苦境に陥っていく様子を読み取っていく。
⑭	全体のまとめ	今までの授業を振り返りながら、登場人物の特徴が把握できたか、それぞれの合戦の様子が把握できたか、『平家物語』の特色を理解できたかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業で取り上げる段に必ず事前に目を通し、どのような内容が書かれているか、わかりにくい部分はないかを確認しておく。授業で取り上げることができない段についてもおおよその内容を把握するように心がける。復習として、授業内容をしっかり再確認し、わからなかった部分はまず自分で調べてみる。『平家物語』に関する解説書はたくさん出版されているので、それらを読むことで『平家物語』に関する知識を自分でも補強していく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『角川ソフィア文庫 平家物語 下巻』。佐藤謙三校註。角川学芸出版。1959 年。761 円。

【参考書】

千明守著『平家物語が面白いほどわかる本』中経出版。2004 年。
梶原正昭著『古典講読・平家物語』岩波書店。2014 年。2200 円。
1500 円。

日下力『平家物語転読』笠間書院。2006 年。1900 円。
山下宏明『平家物語入門・琵琶法師の「平家」を読む』笠間書院。
2012 年。1900 円

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に提出する課題レポートの点数（50 %）と、『平家物語』について自分なりにテーマを設定して調べたり考察したりした成果を報告する期末レポートの点数（50 %）とを総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

『平家物語』は登場人物が多いため、人物関係の把握が難しい。その点に留意しながら授業を進めていくようにしたい。

【Outline and objectives】

Read the "Heike Monogatari" which is a typical work of Japanese classical literature and consider how Heike clan is being driven to ruin through three battles of Ichinotani battle, Yasima battle and Dannoura battle. We analyze in detail how the activities of the appearing people are depicted and clarify how the author sees the meaning of the battle. While paying attention to the fact that "Heike Monogatari" was spoken, We explore the possibilities of expression by means of words.

LIT100LA

日本古典文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中世文学を読み解く

表 きよし

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世において悲劇的な英雄として人気を集めた源義経と弁慶を取り上げ、『平治物語』『義経記』『お伽草子』などの古典文学作品や、能・歌舞伎などの古典芸能における二人の描かれ方やその変化を比較検討し、人々が二人の英雄に求めた理想像を、作者が作品を通してどのように表現しようとしているかを明らかにする。これらの考察を通して、文学作品成立の背景にある様々な伝説や、文学作品が伝説の流布に果たした役割を考える。

【到達目標】

義経・弁慶伝説の内容を把握・理解し、説明することができる。人々がどのような思いを込めてこれらの伝説を生み出し流布させていったかを考えるとともに、古典文学や古典芸能の面白さを味わうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業計画に示したように、毎回テーマを決めて授業を行う。源義経や弁慶をめぐる出来事が文学作品にどのように描かれているか確認しながら、それぞれの話の特色を理解していく。
この授業はオンデマンドでの開講となる。学習支援システムに要点と解説を記した教材を掲載するので、教材をもとに学習し、レポートを提出する形で授業を進めていく。
レポートにおいて多くの人から質問があった事柄については次回の授業の教材の中で回答する。そのほか「学習支援システム」により適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	義経・弁慶の生涯	この授業の内容や進め方などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。義経・弁慶の生涯を把握することにより、今後の授業に順調に取り組めるようにする。
②	鞍馬寺での義経	生まれた年に平治の乱によって父を失い、母とも引き離されて鞍馬寺の稚児となる義経の様子や、鞍馬山の僧正が谷で平氏を倒すため武術の修業に励む義経の健気な姿を読み取っていく。
③	義経の東国下り	僧になることを嫌って鞍馬寺を脱出した義経が金商人吉次とともに東国へ旅立つ様子や、鏡の宿で盗賊に襲撃されるが戦って見事に退治する義経の活躍ぶりを読み取っていく。

④	伊勢三郎との出会い	関東で自分に冷たい態度をとった人物の家を焼き払う義経の過激な行動や、上野国で伊勢三郎の家に泊めてもらい、義経が優れた人物であることを見抜いた伊勢三郎が義経の家来となる様子を読み取っていく。
⑤	義経と兵法書	奥州平泉に身を落ち着けた義経だが、平氏の情報を入手するため都に舞い戻り、周囲の人々にも助けられながら、鬼一法眼が所持していた兵法書を盗み読む様子を読み取っていく。
⑥	弁慶の誕生と成長	弁慶が生まれた時から人並みはずれた様子だったことや、延暦寺の稚児となってからも暴れ回って寺を追放される様子など、弁慶の波乱に富んだ人生の始まりの様子を読み取っていく。
⑦	義経・弁慶の出会い	京都に戻った弁慶と義経の出会いには、千本太刀奪いと千人斬りという二つのパターンがある。それぞれがどのような内容で、どのような特色を持っているのかを読み取っていく。
⑧	義経・弁慶の主従契約	清水寺や五条大橋での戦いにより、義経と弁慶は主従の関係を結んでいく。戦いながらも惹かれあっていく二人の息の合った様子や心の結び付きを読み取っていく。
⑨	頼朝からの刺客	平氏を倒すために大活躍した義経だったが、兄の頼朝との関係が悪化して鎌倉に入れず京都で生活を送る。そんな義経のもとに刺客が送りこまれ、義経がそれを退ける様子を読み取っていく。
⑩	義経・弁慶の都落	鎌倉から大軍が京都に向かったため、義経は京都を離れて西国へ向かうことにする。大坂から船出した義経一行が暴風に遭遇して危機に陥る様子を読み取っていく。
⑪	静との別れ	義経は潜伏生活にも愛妾の静を伴っていたが、吉野山で泣く泣く別れることになる。吉野山で捕えられて鎌倉へ送られた静の行動を通して、静の性格を読み取っていく。
⑫	義経・弁慶の北国落	吉野山などで潜伏生活を送っていた義経は、山伏姿となって奥州平泉へ向かう。途中あちらこちらで疑われるが、弁慶の機転により危機を乗り越えていく様子を読み取っていく。
⑬	義経・弁慶の最期	奥州平泉にたどり着いて平穏な日々を送っていた義経だが、良き理解者だった藤原秀衡の死によって追い詰められる。義経を守り抜こうとする弁慶の様子や、義経の最期の有様を読み取っていく。
⑭	その後の義経伝説	義経伝説は平泉で終わるわけではない。義経が平泉を脱出してさらに北へと向かったとする伝説、北海道からさらに大陸へと向かう義経の伝説などにも注目していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業で取り上げる話について、事前にプリントをよく読んでおおよその内容を把握しておく。復習として、授業の中で疑問に思った事について自分なりに調べてみる。源義経に関する書物はたくさん出版されているので、そのうちのいくつかを読み、様々な角度から義経・弁慶の様子を理解できるようにする。本授業の準備・復習時間は、1回の授業につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

安価で入手できる教科書がないため使用しない。各回の授業に必要な古典文学作品の本文を記載したプリントを H 学習支援システムに掲載する。

【参考書】

梶原正昭校注『新編日本古典文学全集・義経記』小学館。1999 年。4457 円

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に提出する課題レポートの点数（50 %）と、義経伝説に関して自分なりにテーマを設定して調べたり考察したりした成果を報告する期末レポートの点数（50%）とを総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

義経伝説は能や歌舞伎などの古典芸能の題材ともなっており、これらの芸能の作品に関心を持つ学生が多い。適宜、古典芸能の作品にも言及するようにしたい。

【Outline and objectives】

Taking a look at Minamoto Yoshitune and Benkei who gained popularity as a tragic hero in the Middle Ages, they are drawn by classical literary works such as "Heiji Monogatari", "Gikeiki" and "Otogisoushi" and classical performing arts such as Noh and Kabuki Comparing people and their changes, we will clarify how the author tries to express ideal images that people asked through their works. Through these considerations, consider various legends behind the formation of literary works and the role that literary works played in the legendary dissemination.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：『源氏物語』のはじまりー「桐壺」巻を読む

園 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『源氏物語』といえば、おそらく多くの人が「絶世の美男子・光源氏」が多くの女性と恋愛遍歴を重ねていく物語」というイメージを持っているように感じる。

しかし、なぜ光源氏が多くの恋を重ねるようになったのかについては、意外に知られていないのではないだろうか。

本授業では、『源氏物語』の最初の巻である「桐壺」巻の読解を通して、この物語の発端がいかなるものなのかを理解するとともに、この巻の持つ 5 4 巻という長大な物語を牽引する力について考えてみる。

【到達目標】

『源氏物語』の最初の巻である「桐壺」巻の本文を物語の展開に沿って紹介し、主人公・光源氏の人生の発端がいかなるものであったのか、また、『源氏物語』が描こうとしたものは何であったのかを考察するとともに、現代とは異なる平安時代の習俗等も理解してゆく。なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンドによる講義形式。

なお、学習支援システム上でコメントが記入できる形式の授業内容に関わるアンケートへの回答を要求し、その内容をフィードバックすることで、理解を含め、視野を広げることに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	導入と概説
②	「桐壺」巻を読む	光源氏の誕生
③	「桐壺」巻を読む	源氏の母の立場の弱さ
④	「桐壺」巻を読む	源氏の母の死
⑤	「桐壺」巻を読む	母の葬送－それぞれの思い
⑥	「桐壺」巻を読む	追悼－源氏の祖母の嘆き・その 1
⑦	「桐壺」巻を読む	追悼－源氏の祖母の嘆き・その 2
⑧	「桐壺」巻を読む	追悼－帝の嘆き・その 1
⑨	「桐壺」巻を読む	追悼－帝の嘆き・その 2
⑩	「桐壺」巻を読む	「長恨歌」との関わり
⑪	「桐壺」巻を読む	成長する源氏－並はずれた美貌と才能
⑫	「桐壺」巻を読む	運命の女性・藤壺登場
⑬	「桐壺」巻を読む	源氏の元服と結婚
⑭	「桐壺」巻を読む	満たされぬ想い－藤壺への思慕

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

一つの作品を取り扱うので、授業を受けた後、各自紹介された内容をふり返し、次のストーリー展開といかに関わりを持つのか、個々に考察を深めるよう努めてほしい。

また、受験勉強ではないので、文法等にこだわった逐語訳ではなく、エピソードの内容をかみ砕いて解説し、学生諸君に登場人物が何を感じ、いかに行動したのか？を考えてほしい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは定めず、授業支援システムを用いて、毎回必要な資料を配付する。

【参考書】

新編日本古典文学全集『源氏物語』①（小学館）

新日本古典文学大系『源氏物語』①（岩波書店）

新潮日本古典集成『源氏物語』①（新潮社）

その他、それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポート課題を課し、その内容によって評価する（90％）。平常点は最終評価の参考とする（10％）。ただし、毎回提示するアンケートへの回答がない場合は、評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。

したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。

また、毎回コメント欄に記された内容を紹介することにより、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくつもりである。

【Outline and objectives】

This course introduces to the first volume of the Tale of Genji students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand a consciousness about the beginning of The of Genji.
- ・ Recognize the customs of the Heian Period.

LIT100LA

日本古典文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：『落窪物語』－日本のシンデレラストーリー－

園 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『落窪物語（おちくぼものがたり）』と聞いても、その内容が思い浮かぶ人は少ないかもしれないが、この作品は、継母に虐待されていた美しい姫君が、ある貴公子に救われてその妻となり幸せになるという構成の類似から、「日本のシンデレラストーリー」ともいわれ、後世の作品にも影響を及ぼしたものである。

本授業では、『落窪物語』の読解を通して、『源氏物語』以前に成立した整った構成を持つ「王朝家庭小説」といわれるこの作品の特性を考えてみる。

【到達目標】

『落窪物語』の本文を物語の展開に沿って紹介し、この物語の持つ特性や、当時の貴族社会の価値観を考察するとともに、現代とは異なる平安時代の習俗等も理解してゆく。

なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンドによる講義形式。

なお、学習支援システム上でコメントが記入できる形式の授業内容に関わるアンケートへの回答を要求し、その内容をフィードバックすることで、理解を含め、視野を広げることに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	導入と概説
②	『落窪物語』を読む	薄幸な美しい姫君
③	『落窪物語』を読む	貴公子、姫君に興味を持つ
④	『落窪物語』を読む	姫君への求婚
⑤	『落窪物語』を読む	秘密の結婚・その1
⑥	『落窪物語』を読む	秘密の結婚・その2
⑦	『落窪物語』を読む	貴公子、継母の虐待を知る
⑧	『落窪物語』を読む	継母、姫君と貴公子の関係を知り 逆上
⑨	『落窪物語』を読む	継母の陰謀－姫君の窮地
⑩	『落窪物語』を読む	姫君、貴公子に救出される
⑪	『落窪物語』を読む	貴公子の報復・その1
⑫	『落窪物語』を読む	貴公子の報復・その2
⑬	『落窪物語』を読む	和解－それぞれの思い
⑭	『落窪物語』を読む	結末－大団円へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

一つの作品を取り扱うので、授業を受けた後、各自紹介された内容をふり返し、次のストーリー展開といかに関わりを持つのか、個々に考察を深めるよう努めてほしい。

また、受験勉強ではないので、文法等にこだわった逐語訳ではなく、エピソードの内容をかみ砕いて解説し、学生諸君に登場人物が何を感じ、いかに行動したのか？を考えてほしい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは定めず、授業支援システムを用いて、毎回必要な資料を配付する。

【参考書】

新編日本古典文学全集『落窪物語・堤中納言物語』（小学館）

新日本古典文学大系『落窪物語・住吉物語』（岩波書店）

新潮日本古典集成『落窪物語』（新潮社）

その他、それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポート課題を課し、その内容によって評価する（90％）。平常点は最終評価の参考とする（10％）。ただし、毎回提示するアンケートへの回答がない場合は、評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。

したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。

また、毎回コメント欄に記された内容を紹介することにより、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくつもりである。

【Outline and objectives】

This course introduces to the Tale of Ochikubo students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand a consciousness about The of Ochikubo.
- ・ Recognize the customs of the Heian Period.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：「古事記」から日本の神話を読む。

成島 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古事記」から日本の神話を読む。

古事記の上巻の神代の部分を読むことから、日本人と神とのかわり、自然観、始源に対するイマジネーション、当時の社会制度といったものを読み取るとともに、それらを表現した文学としての営みを理解し、享受する。

【到達目標】

神話の文学作品としての価値を理解する。

現代の日本社会、日本人にも通じる神・自然との関わりが古代からつながるものであることを理解する。

また他の地域の神話と比較することで始源や自然、人間以上の存在のイメージが、共通するものであることなどを理解する。

神話が現代のファンタジーを生み出す温床となっていることから、文学作品の、理解・享受・再生といった、つながりを理解する。

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

可能な限り教室での対面式の授業での現代語訳付のテキストを使つての講義形式。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

学習支援システムを使ってのまとめ資料などの配布や、質問受付なども、必要に応じて行っていけたらと考えている。

「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 日本神話とは。	古事記の成立経緯から、時代背景など。
2	創世神話 1	物事の始まりを昔の人々はどう考えたのか。
3	創世神話 2	多様な始源のイメージの存在と、古事記と日本書紀の違い
4	イザナギ・イザナミ 1	出産という形の、人間的な神の誕生。
5	イザナギ・イザナミ 2	死の認識とイメージ。葬儀の風習
	黄泉の国訪問と永遠の別れ	とのかかわり

6	アマテラスとスサノヲ 1	太陽神の姉と風の神の弟の対立。禊により生まれた神とは。
7	アマテラスとスサノヲ 2	天変地異の理解と地上への追放（天の神地の神の関係性）
8	天の岩戸神話を中心に 出雲神話 1	災害のイメージとマレビト神
9	八咫の大蛇 出雲神話 2	因幡の白兔
	オオクニヌシ 1	末子相続のイメージと、共同体因幡の白兔を中心に考える
10	出雲神話 3	異界・黄泉の国との関係。妻の力。
	オオクニヌシ 2	根の国とは何か
11	アマテラスから地上へ くりかえされる失敗の 意味するもの	天の神と地の神の関係からヤマト朝廷の支配の姿。
12	オオクニヌシの国譲り の意味するもの	支配者の変遷のイメージ 出雲神話から大和の神話へのつながり
13	天孫降臨とは何か	古事記の今との関係性。政治と神事との関係性とは。
14	試験・日本神話のまとめと解説	神とはどのようなものだったか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近なまたは有名な神社の祭神について興味をもって見てみる、自然と人間とのかわり方について考えてみる、伝統的な年中行事の由来について考えてみる、といった意識をもつようにしてほしい。ギリシャ神話など多神教の神話や現代の神話的ファンタジー小説などを読んでおくと、古事記の神話との関係性が分かりやすいと思う。古事記成立時期前後（6 世紀から 8 世紀）の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講談社学術文庫「全訳注 古事記 上巻」次田真幸

【参考書】

講談社学術文庫「全訳注古事記 中巻」次田真幸

講談社学術文庫「全訳注古事記 下巻」次田真幸

岩波文庫「古事記の世界」西郷信綱

徳間文庫「空色勾玉」荻原規子

高校時代の日本史の年表

その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に事前に発表した問題についてのテスト（持ち込み可）を行う。このテストが評価のほぼ 100 パーセント。

評価のポイントは、設定された問題テーマについて自分なりに考察し、それが論理的に論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。

毎回出席をとり、50 パーセント以上（7 回以上）の出席をテスト受験資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品という関係上、授業計画どおりに作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。テーマが時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。

また、ディスカッションとはいかなくても、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

数回、小テストというほどでないが、設問を出し、その回答に対して振り返りを行うことで、理解度が上がるということが、昨年のオンライン授業で経験したので、そうしたこともとり入れていきたい

【Outline and objectives】

Read Japanese myths from "Kojiki".

From reading the Kojiki part of the first volume of the Kojiki, we read the relationship between the Japanese and God, the view of nature, the imagination of the origin, the social system at that time, and understood the literary activity that expressed them. Enjoy.

LIT100LA

日本古典文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：「古事記」の人間の時代に入ってから部分を読む。

成島 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古事記」の人間の時代に入ってから部分を読む。

神話を背景に描かれた、人間の物語を、ヤマトタケルやサホビメを中心に読み解き、現代のファンタジーにも影響を与える古事記の魅力を考える。

【到達目標】

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

文学作品が享受されることから新たに文学作品が生み出される関係性も見出していく。

文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することでより深まる作品理解・享受という 2 面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本は教室での対面授業を想定している。

現代語訳付のテキストを使っての講義形式。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解についてのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

学習支援支援システムを使っての、質問受付や、理解確認のための設問、まとめ資料の配布なども考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

「大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入・背景の説明	作品理解のための時代・制度等の背景説明
第 2 回	海幸山幸	神の時代から人の時代へ 他界からの助力による権力者の誕生。
第 3 回	神武天皇 1 東征の意味	東に進むメリットはあるのかを考える
第 4 回	神武天皇 2 神婚説話	神と権力の関係性。女性のもつ力を考える。
第 5 回	サホビメ・サホビコ 1 兄・妹の絆	家族制度のせめぎあい。 一夫多妻制における夫と妻と兄と妹の関係性
第 6 回	サホビメ・サホビコ 2	サホビメの変化・成長を読み取る 妹と妻と母、女性の姿

第 7 回	常世の国伝説	永遠へのあこがれと死
第 8 回	ヤマトタケル 1 西征	さまざまな形で勝ち続ける英雄の姿
第 9 回	ヤマトタケル 2 東征	戦う意味や心の支えを求めて苦悩する英雄の姿。
第 10 回	ヤマトタケル 3 英雄の終焉	英雄とはなにか。王権との関係性。 日本書紀のヤマトタケルとの比較。
第 11 回	風土記のヤマトタケル と「白鳥異伝」	現代のファンタジーとの関わり。 古典の享受から生み出される現代の作品。現代にも生きる古典の意味。
第 12 回	神功皇后という存在は なにか	古事記の今との関わり。 持統天皇との比較
第 13 回	古事記下巻や万葉集に みられるヤマトヒメと 天皇の恋と妻問	天皇の恋と王権の関わり、天皇や皇后へのワイドショー的興味が生み出すもの
第 14 回	まとめと解説・レポート 提出	古事記における人間の時代とは。 下巻の終末と「古事記の今」との関わり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ギリシャ神話や萩原規子、上橋菜穂子のファンタジー作品などを読んでおくと比較がスムーズにできるので望ましい。

古事記成立時期前後（6 世紀から 8 世紀）の日本史を、高校の日本史レベルぶ振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講談社学術文庫「全訳注 古事記 中巻」次田真幸

【参考書】

講談社学術文庫「全訳注 古事記 上巻」次田真幸
講談社学術文庫「全訳注 古事記 下巻」次田真幸
岩波文庫「古事記の世界」西郷信綱
徳間文庫「白鳥異伝」萩原規子
高校時代の日本史の年表などの資料
その他必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポート。4000 字相当がほぼ評価の 100%。作品を踏まえての読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。

出席は、毎時間とる。半分以上（7 回以上）の出席がレポート提出資格となる。

【学生の意見等からの気づき】

古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。

数回、小テストというほどでないが、設問を出し、その回答に対して振り返りを行うことで、理解度が上がるということが、昨年のオンライン授業で経験したので、そうしたこともとり入れていきたい。

文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ、進めていく。

また、ディスカッションとはいかなくても、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline and objectives】

Read the part of "Kojiki" from the beginning of the human era. We will read the human story drawn against the background of myths, focusing on Yamato Takeru and Sahobime, and think about the charm of Kojiki, which also affects modern fantasy.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：「古事記」から日本の神話を読む。

成島 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古事記」から日本の神話を読む。

古事記の上巻の神代の部分を読むことから、日本人と神とのかわり、自然観、始源に対するイマジネーション、当時の社会制度といったものを読み取るとともに、それらを表現した文学としての営みを理解し、享受する。

【到達目標】

神話の文学作品としての価値を理解する。

現代の日本社会、日本人にも通じる神・自然との関わりが古代からつながるものであることを理解する。

また他の地域の神話と比較することで始源や自然、人間以上の存在のイメージが、共通するものであることなどを理解する。

神話が現代のファンタジーを生み出す温床となっていることから、文学作品の、理解・享受・再生といった、つながりを理解する。

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

可能な限り教室での対面式の授業での現代語訳付のテキストを使つての講義形式。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

学習支援システムを使ってのまとめ資料などの配布や、質問受付なども、必要に応じて行っていけたらと考えている。

「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 日本神話とは。	古事記の成立経緯から、時代背景など。
2	創世神話 1	物事の始まりを昔の人々はどう考えたのか。
3	創世神話 2	多様な始源のイメージの存在と、古事記と日本書紀の違い
4	イザナギ・イザナミ 1	出産という形の、人間的な神の誕生。
5	イザナギ・イザナミ 2	死の認識とイメージ。葬儀の風習
	黄泉の国訪問と永遠の別れ	とのかかわり

6	アマテラスとスサノヲ 1	太陽神の姉と風の神の弟の対立。禊により生まれた神とは。
7	アマテラスとスサノヲ 2	天変地異の理解と地上への追放（天の神地の神の関係性）
8	天の岩戸神話を中心に 出雲神話 1	災害のイメージとマレビト神
9	八咫の大蛇 出雲神話 2	因幡の白兔
10	オオクニヌシ 1	末子相続のイメージと、共同体因幡の白兔を中心に考える
11	出雲神話 3	異界・黄泉の国との関係。妻の力。
12	オオクニヌシ 2	根の国とは何か
13	アマテラスから地上へ くりかえされる失敗の 意味するもの	天の神と地の神の関係からヤマト朝廷の支配の姿。
14	オオクニヌシの国譲り の意味するもの	支配者の変遷のイメージ 出雲神話から大和の神話へのつながり
15	天孫降臨とは何か	古事記の今との関係性。政治と神事との関係性とは。
16	試験・日本神話のまとめと解説	神とはどのようなものだったか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近なまたは有名な神社の祭神について興味をもって見てみる、自然と人間とのかわり方について考えてみる、伝統的な年中行事の由来について考えてみる、といった意識をもつようにしてほしい。ギリシャ神話など多神教の神話や現代の神話的ファンタジー小説などを読んでおくと、古事記の神話との関係性が分かりやすいと思う。古事記成立時期前後（6世紀から8世紀）の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講談社学術文庫「全訳注 古事記 上巻」次田真幸

【参考書】

講談社学術文庫「全訳注古事記 中巻」次田真幸

講談社学術文庫「全訳注古事記 下巻」次田真幸

岩波文庫「古事記の世界」西郷信綱

徳間文庫「空色勾玉」荻原規子

高校時代の日本史の年表

その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に事前に発表した問題についてのテスト（持ち込み可）を行う。このテストが評価のほぼ100パーセント。

評価のポイントは、設定された問題テーマについて自分なりに考察し、それが論理的にの論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。

毎回出席をとり、50パーセント以上（7回以上）の出席をテスト受験資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品という関係上、授業計画どおりに作品のその部分の分量により1コマの時間内に1つのテーマがうまく収まらない場合が多い。テーマが時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。

また、ディスカッションとはいかなくても、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

数回、小テストというほどでないが、設問を出し、その回答に対して振り返りを行うことで、理解度が上がるということが、昨年のオンライン授業で経験したので、そうしたこともとり入れていきたい

【Outline and objectives】

Read Japanese myths from "Kojiki".

From reading the Kojiki part of the first volume of the Kojiki, we read the relationship between the Japanese and God, the view of nature, the imagination of the origin, the social system at that time, and understood the literary activity that expressed them. Enjoy.

LIT100LA

日本古典文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：「古事記」の人間の時代に入ってから部分を読む。

成島 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古事記」の人間の時代に入ってから部分を読む。

神話を背景に描かれた、人間の物語を、ヤマトタケルやサホビメを中心に読み解き、現代のファンタジーにも影響を与える古事記の魅力を考える。

【到達目標】

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

文学作品が享受されることから新たに文学作品が生み出される関係性も見出していく。

文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することでより深まる作品理解・享受という 2 面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本は教室での対面授業を想定している。

現代語訳付のテキストを使っての講義形式。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解についてのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

学習支援支援システムを使っての、質問受付や、理解確認のための設問、まとめ資料の配布なども考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

「大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入・背景の説明	作品理解のための時代・制度等の背景説明
第 2 回	海幸山幸	神の時代から人の時代へ 他界からの助力による権力者の誕生。
第 3 回	神武天皇 1 東征の意味	東に進むメリットはあるのかを考える
第 4 回	神武天皇 2 神婚説話	神と権力の関係性。女性のもつ力を考える。
第 5 回	サホビメ・サホビコ 1 兄・妹の絆	家族制度のせめぎあい。 一夫多妻制における夫と妻と兄と妹の関係性
第 6 回	サホビメ・サホビコ 2	サホビメの変化・成長を読み取る 妹と妻と母、女性の姿

第 7 回	常世の国伝説	永遠へのあこがれと死
第 8 回	ヤマトタケル 1 西征	さまざまな形で勝ち続ける英雄の姿
第 9 回	ヤマトタケル 2 東征	戦う意味や心の支えを求めて苦悩する英雄の姿。
第 10 回	ヤマトタケル 3 英雄の終焉	英雄とはなにか。王権との関係性。 日本書紀のヤマトタケルとの比較。
第 11 回	風土記のヤマトタケル と「白鳥異伝」	現代のファンタジーとの関わり。 古典の享受から生み出される現代の作品。現代にも生きる古典の意味。
第 12 回	神功皇后という存在は なにか	古事記の今との関わり。 持統天皇との比較
第 13 回	古事記下巻や万葉集に みられるヤマトヒメと 天皇の恋と妻問	天皇の恋と王権の関わり、天皇や皇后へのワイドショー的興味が生み出すもの
第 14 回	まとめと解説・レポート 提出	古事記における人間の時代とは。 下巻の終末と「古事記の今」との関わり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ギリシャ神話や萩原規子、上橋菜穂子のファンタジー作品などを読んでおくと比較がスムーズにできるので望ましい。

古事記成立時期前後（6 世紀から 8 世紀）の日本史を、高校の日本史レベルぶ振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講談社学術文庫「全訳注 古事記 中巻」次田真幸

【参考書】

講談社学術文庫「全訳注 古事記 上巻」次田真幸
講談社学術文庫「全訳注 古事記 下巻」次田真幸
岩波文庫「古事記の世界」西郷信綱
徳間文庫「白鳥異伝」萩原規子
高校時代の日本史の年表などの資料
その他必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポート。4000 字相当がほぼ評価の 100%。作品を踏まえての読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。

出席は、毎時間とる。半分以上（7 回以上）の出席がレポート提出資格となる。

【学生の意見等からの気づき】

古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。

数回、小テストというほどでないが、設問を出し、その回答に対して振り返りを行うことで、理解度が上がるということが、昨年のオンライン授業で経験したので、そうしたこともとり入れていきたい。

文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ、進めていく。

また、ディスカッションとはいかなくても、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline and objectives】

Read the part of "Kojiki" from the beginning of the human era. We will read the human story drawn against the background of myths, focusing on Yamato Takeru and Sahobime, and think about the charm of Kojiki, which also affects modern fantasy.

LIT100LA

日本近・現代文学A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：【日本近・現代文学の問題作を読む】

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき2～3回程度の授業で進行します。

【到達目標】

教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。

- ・近現代日本文学になじむこと。
- ・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
- ・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。

作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかわるかを問うてきました。

わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

春学期の「日本近・現代文学A」では明治期の文学を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン（オンデマンド）の講義形式。授業は授業開始時刻に授業支援システム、Google Classroom などで公開されます。パワーポイントのファイルなどを視聴し、Google フォームの課題に答える形式で授業は進行します。

テキストは必ず事前に読んでくることを求めます。テキストを読んでこない人は受講しないでください。

以下にテキストを示しますが、扱う作品が収録されているなら別の版でもかまいませんし、インターネット「青空文庫」にアップされている作品はそこからダウンロードしたものでもかまいません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 「日本近代文学」の始まり：「日本」	授業計画および予備知識の説明。『浮雲』
2	「日本近代文学」の始まり：「近代」	『浮雲』
3	「日本近代文学」の始まり：「文学」	『浮雲』
4	浪漫主義とはなにか	『たけくらべ』
5	大人の世界の影／背後からの監視	『たけくらべ』
6	テキストの空白について	『たけくらべ』
7	部落差別に関する予備知識そのほか	『破戒』
8	自然主義とはなにか	『破戒』
9	作者の意図と表現について	『破戒』
10	夏目漱石について	『こころ』

11	テキスト論について	『こころ』
12	他者という恐怖について	『こころ』
13	まとめと説明①	明治文学
14	まとめと説明②	大正文学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これは単位認定のための最低条件です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

二葉亭四迷『浮雲』新潮文庫ほか
樋口一葉『にぎりえ・たけくらべ』岩波文庫
島崎藤村『破戒』新潮文庫ほか
夏目漱石『こころ』新潮文庫ほか

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50%、期末レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

- ※ 専門用語は解説し、わかりやすい授業を心がけています。
- ※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時限に、学習支援システム、Google Classroom などで公開されます。
- ※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。
- ※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【その他の重要事項】

春学期の明治と、秋学期の大正～昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese modern literature.

LIT100LA

日本近・現代文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：【日本近・現代文学の問題作を読む】

川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき3回程度の授業で進行します。

【到達目標】

教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。

- ・近現代日本文学になじむこと。
- ・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
- ・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。

作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかわるかを問うてきました。

わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

秋学期の「日本近・現代文学B」では大正期、昭和期の作品を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン（オンデマンド）の講義形式。授業は授業開始時刻に授業支援システム、Google Classroomなどで公開されます。パワーポイントのファイルなどを視聴し、Google フォームの課題に答える形式で授業は進行します。

テキストは必ず事前に読んでくることを求めます。テキストを読んでこない人は受講しないでください。

以下にテキストを示しますが、扱う作品が収録されているなら別の版でもかまいませんし、インターネット「青空文庫」にアップされている作品はそこからダウンロードしたものでもかまいません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画および予備知識の説明。
2	自然主義から私小説へ	『子をつれて』
3	やっかいな〈わたし〉	『子をつれて』
4	私小説の意義とはにか	『子をつれて』
5	芥川龍之介について	『歯車』
6	文学と狂気について	『歯車』
7	芥川龍之介のたたかいとはにか	『歯車』
8	戦前、戦中、戦後	『人間失格』
9	芥川龍之介と太宰治	『人間失格』
10	敗者の真実	『人間失格』
11	作品の時代背景——禁教の時代と第二次大戦後	『沈黙』
12	神の暴力について	『沈黙』
13	日向のにおい	『沈黙』

14 まとめと説明

まとめと説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これは単位認定のための最低条件です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

葛西善蔵『哀しき父 椎の若葉』講談社文芸文庫

芥川龍之介『歯車他二篇』岩波文庫

太宰治『人間失格』新潮文庫ほか

遠藤周作『沈黙』新潮文庫

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50%、期末のレポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

※ 専門用語は解説し、わかりやすい授業を心がけています。

※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時限に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。

※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。

※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【その他の重要事項】

春学期の明治と、秋学期の大正～昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese modern literature.

LIT100LA

日本近・現代文学A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：【日本近・現代文学の問題作を読む】

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき2～3回程度の授業で進行します。

【到達目標】

教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。

- ・近現代日本文学になじむこと。
- ・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
- ・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。

作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかわるかを問うてきました。

わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

春学期の「日本近・現代文学A」では明治期の文学を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン（オンデマンド）の講義形式。授業は授業開始時刻に授業支援システム、Google Classroom などで公開されます。パワーポイントのファイルなどを視聴し、Google フォームの課題に答える形式で授業は進行します。

テキストは必ず事前に読んでくることを求めます。テキストを読んでこない人は受講しないでください。

以下にテキストを示しますが、扱う作品が収録されているなら別の版でもかまいませんし、インターネット「青空文庫」にアップされている作品はそこからダウンロードしたものでかまいません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 「日本近代文学」の始まり：「日本」	授業計画および予備知識の説明。『浮雲』
2	「日本近代文学」の始まり：「近代」	『浮雲』
3	「日本近代文学」の始まり：「文学」	『浮雲』
4	浪漫主義とはなにか	『たけくらべ』
5	大人の世界の影／背後からの監視	『たけくらべ』
6	テキストの空白について	『たけくらべ』
7	部落差別に関する予備知識そのほか	『破戒』
8	自然主義とはなにか	『破戒』
9	作者の意図と表現について	『破戒』
10	夏目漱石について	『こころ』

11	テキスト論について	『こころ』
12	他者という恐怖について	『こころ』
13	まとめと説明①	明治文学
14	まとめと説明②	大正文学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これは単位認定のための最低条件です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

二葉亭四迷『浮雲』新潮文庫ほか
樋口一葉『にぎりえ・たけくらべ』岩波文庫
島崎藤村『破戒』新潮文庫ほか
夏目漱石『こころ』新潮文庫ほか

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50%、期末レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

- ※ 専門用語は解説し、わかりやすい授業を心がけています。
- ※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時限に、学習支援システム、Google Classroom などで公開されます。
- ※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。
- ※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【その他の重要事項】

春学期の明治と、秋学期の大正～昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese modern literature.

LIT100LA

日本近・現代文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：【日本近・現代文学の問題作を読む】

川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき3回程度の授業で進行します。

【到達目標】

教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。

- ・近現代日本文学になじむこと。
- ・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
- ・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。

作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかわるかを問うてきました。

わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

秋学期の「日本近・現代文学B」では大正期、昭和期の作品を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン（オンデマンド）の講義形式。授業は授業開始時刻に授業支援システム、Google Classroomなどで公開されます。パワーポイントのファイルなどを視聴し、Google フォームの課題に答える形式で授業は進行します。

テキストは必ず事前に読んでくることを求めます。テキストを読んでこない人は受講しないでください。

以下にテキストを示しますが、扱う作品が収録されているなら別の版でもかまいませんし、インターネット「青空文庫」にアップされている作品はそこからダウンロードしたものでもかまいません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画および予備知識の説明。
2	自然主義から私小説へ	『子をつれて』
3	やっかいな〈わたし〉	『子をつれて』
4	私小説の意義とはにか	『子をつれて』
5	芥川龍之介について	『歯車』
6	文学と狂気について	『歯車』
7	芥川龍之介のたたかいとはにか	『歯車』
8	戦前、戦中、戦後	『人間失格』
9	芥川龍之介と太宰治	『人間失格』
10	敗者の真実	『人間失格』
11	作品の時代背景——禁教の時代と第二次大戦後	『沈黙』
12	神の暴力について	『沈黙』
13	日向のにおい	『沈黙』

14 まとめと説明 まとめと説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これは単位認定のための最低条件です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

葛西善蔵『哀しき父 椎の若葉』講談社文芸文庫

芥川龍之介『歯車他二篇』岩波文庫

太宰治『人間失格』新潮文庫ほか

遠藤周作『沈黙』新潮文庫

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50%、期末のレポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

※ 専門用語は解説し、わかりやすい授業を心がけています。

※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時限に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。

※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。

※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【その他の重要事項】

春学期の明治と、秋学期の大正～昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese modern literature.

LIT100LA

日本文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

島田 雅彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「現代国語」を越え、文学作品を能動的かつ創造的に読む。主に日本の近現代小説に秘められた欲望を掘り起こす。多様な作品解釈に向けて、誤読の自由も行使する。神話、日本語、カネ、恋愛、戦争、テクノロジーなどのテーマに基づき、漱石、一葉、谷崎、戦後文学などを読み解く。

【到達目標】

日本近代文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテキストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式で話すが、随時、資料を提示するので、それについての小レポートを提出してもらう。それについての講評は授業内で行う。履修者からの質問も受け付けるが、個別に答えるのではなく、次回の授業の初めに補足コメントの形で答えを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文学とはどんな営みか？	神話と文学をつなぐもの
2	日本語とはどういう言語か？	魅惑の日本古典
3	お金の話 1	漱石を読む コトバかカネか？『こころ』の自由な読み方。誤読のススメ。
4	写生文について 2	漱石 明治の散文理論 描写について
5	樋口一葉を読む	少女文学の元祖 言文一致とは別の散文のあり方
6	快楽の活用	谷崎論 官能の哲学
7	性的人間	もてない男の栄光 さまざまな愛の形 同性愛 ロリコン フェティッシュ
8	日本論と日本人論	「武士道」、「日本風景論」、「茶の本」を読む。
9	戦争に負けるということ	大岡昇平『野火』、『武蔵野夫人』を読む。
10	戦後の文学	戦争文学 占領文学 坂口安吾の認識。敗戦と焼跡の想像力。

11	小説と“場所”	上京小説 よそ者の視点 芥川『歯車』を読む。可能性、パレルワールド。
12	空っぽな心	三島由紀夫という逆説。川端という曖昧。
13	現代文学と世相	近頃巷で流行るもの 経済と文学。
14	まとめと質疑応答	これまでの質問、コメントに対する回答と論評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予告した本や資料を読んで授業に臨めば、3 倍楽しめる。本授業の準備、復習時間は提示した資料を読むのに必要な時間である。授業で指示する必読書をできるだけ多くよく読み、あらゆることに好奇心を抱くこと。毎回、質問を考えてくるような態度で臨めば、自ずと能動的な授業参加ができる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『小説作法 ABC』島田雅彦著 新潮選書 2009

『深読み日本文学』島田雅彦著 集英社インターナショナル新書 2017

【参考書】

『必読 150』太田出版

それ以外は随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験を行う。質疑や討論への参加も平常点として評価されよう。評価基準はレポート 80 %、平常点 20 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Beyond the "Gendai kokugo(contemporary Japanese)" we read literary works actively and creatively. We primarily focus to discover the hidden desires in Japanese contemporary novels. We also exercise freedom of misreading for interpretation of various works. Based on themes such as myths, languages money, romance, war, technology, we will read about Soseki, Ichiba, Tanizaki, postwar literature etc.

LIT100LA

日本文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

島田 雅彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「世界文学」のエポックメイキングな作品を能動的かつ創造的に読む。神話、言語、恋愛、交易、テクノロジーなどのテーマに基づき、履修者諸君には主に日本で広く、長く読まれて来た西洋古典の必読書と向き合い、世界史の中の文学の役割を認識してもらう。

【到達目標】

世界文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテキストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式で話す。随時、資料を提示するので、それについての小レポートを提出してもらう。それについての講評は授業内で行う。履修者からの質問も受け付けるが、個別に答えるのではなく、次回の授業の初めに補足コメントの形で答えを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	夢見る力	神話の時代 口承文学
2	古代の英雄	「オイディプス王」を読む
3	聖書の虚実	政治、宗教というフィクション モーゼと一神教 イエスという男
4	恋愛の誕生	『神曲』を読む
5	ドン・ファンと光源氏	女たらし東西比較
6	グーテンベルク以後	出版文化の萌芽 大量複製時代
7	大航海時代	転換期の知性 交易と文学
8	宣教と棄教	East Meets West 日本におけるキリスト教布教の歴史
9	対話について	ドストエフスキー論
10	パロディ文学論	ジョイスとナボコフ 現代亡命文学事情
11	映画と文学	小説から劇映画へ 映像化された古典
12	政治と文学	物語と歴史のはざま ナショナルリズムというフィクション 想像の共同体
13	テクノロジーと文学	世界の終わり パラレルワールド 時間の彼方 SFの想像力

14 授業内試験か質疑応答 授業内試験ができない場合はレポート。この時間はまとめと質疑応答にあてる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予告した本や資料を読んで授業に臨めば、3 倍楽しめる。本授業の準備、復習時間は提示した資料を読むのに必要な時間である。授業で指示する必読書をできるだけ多くよく読み、あらゆることに好奇心を抱くこと。毎回、質問を考えてくるような態度で臨めば、自ずと能動的な授業参加ができる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『小説作法 ABC』島田雅彦著 新潮選書 2009

【参考書】

『深読み日本文学』島田雅彦著 集英社インターナショナル新書 2017

【成績評価の方法と基準】

筆記試験を行う。質疑や討論への積極的な参加もまた評価されよう。評価基準は筆記試験 80 %、平常点 20 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Active and creative reading of epoch-making works of "World Literature". Based on themes such as myths, languages, romance, trade, technology, etc., Students face the must-read books of the Western classics, which have been read widely in Japan recognizing the role of literature in world history.

LIT100LA

日本文学A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：戦前文学の社会性とメディア横断

佐藤 未央子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、日本近代文学が成立した明治期から昭和20年代までの文学を論じる。ドラスティックに変化する、いわゆる〈近代〉化の過程で、作家たちはいかなる言葉によって社会と、ひいてはそれを存立させる制度と切り結んできたか。同時期に発達する諸メディア（写真・雑誌・映画等）との関わりを参照しながら考えていく。また、戦前の作品がいまの時代に対して持つ批評的意義を積極的に読み解いていきたい。

【到達目標】

・文学作品をただ読むのではなく、時代・社会背景を考慮したうえで、その成立過程や社会的批評性、現代的意義について論じることができる。
・文学作品は、それ単体でなく周辺の諸メディアと関わりながら成り立ってきたことを具体的な例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容と進め方に関する説明／「日本近代文学」とは何か
第2回	エリートと遊民のジレンマ	森鴎外「舞姫」「青年」、夏目漱石「三四郎」「それから」
第3回	「内面」の発見から告白の欲望へ	北村透谷と島崎藤村「春」
第4回	日露戦争というスベクタクル	田山花袋、国木田独歩の従軍
第5回	交差する演劇と文学	泉鏡花「義血侠血」「天守物語」ほか
第6回	消された言葉たち	社会主義思想と言論統制
第7回	〈拡散〉される私	谷崎潤一郎の映画論と「人面疽」
第8回	日本統治下の台湾と文学	佐藤春夫「女誠扇綺譚」「霧社」
第9回	震災を語る作家たち	内田百閒「アジンコート」、竹久夢二「東京災難画信」ほか
第10回	労働／消費が生み出すもの	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」、梶井基次郎「泥濘」
第11回	「詩的精神」か「話の筋」か	芥川龍之介「文芸的な、余りに文芸的な」「歯車」
第12回	新感覚派の視角	横光利一「機械」、川端康成「水晶幻想」
第13回	疾病へのまなざし	北条民雄「いのちの初夜」
第14回	総括	授業内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対象作品を読んでいることを前提に講義を進めるので、毎回必ず予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

【参考書】

・十川信介『近代日本文学案内』（2008、岩波文庫）
・海野弘『モダン都市東京 日本の1920年代』（2007、中公文庫）
・ロバート キャンベル・十重田裕一・宗像和重編『東京百年物語』1、2巻（2018、岩波文庫）
ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを含む授業への参加度：50 %
・学期末テスト（講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題）：50 %
以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より授業を担当するため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course deals with Japanese literature 1870s-1940s. It also explains actuality and significance of prewar literature by referring to magazines and cinema.

LIT100LA

日本文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：映像から読む戦後文学

佐藤 未央子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、1940年代から2000年代までの文学作品を取り上げる。敗戦後、GHQの占領下でひとびとは〈焼跡〉から再起し、60年代には飛躍的な経済成長を遂げ、2000年代には匿名性の高い情報化社会が完成するが、この大きな物語の陰にある個人の生活と心情に焦点を絞る。再編され続ける制度や社会空間の中に生きる人々の姿を、作家がいかに捉えたかを明らかにしていく。また戦後、国際的に評価が高まった日本映画や演劇を参照することで、戦後日本の70年を視覚的にも確認していきたい。

【到達目標】

・時代・社会背景を考慮したうえで、作品の成立過程や社会的批評性、現代的意義について論じることができる。
・戦後日本の国際的な立場や文化状況の知識を持ち、作品解釈に応用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容と進め方に関する説明／戦争を語ること
第2回	言論統制への抗い	谷崎潤一郎「細雪」
第3回	表現の不自由	田村泰次郎「春婦伝」と映画化をめぐる問題
第4回	爆撃と肉体	坂口安吾「墮落論」「白痴」
第5回	焼け跡を生きる	志賀直哉「灰色の月」、林芙美子「下町（タウン・タウン）」
第6回	太宰治の〈戦争〉	「散華」「斜陽」ほか
第7回	「太陽族」の登場	石原慎太郎「太陽の季節」「狂った果实」
第8回	三島由紀夫の自己劇化	「憂国」「太陽と鉄」「楳」ほか
第9回	美しい日本の私	川端康成と日本文学の国際化
第10回	明暗の境界	宮本輝「泥の河」
第11回	アンゲラ演劇と文学の空間	安部公房・寺山修司・唐十郎
第12回	デタッチメントからコミットメントへ	村上春樹の位置
第13回	密室とセカイの通路	阿部知重「ニッポニア・ニッポン」
第14回	総括	授業内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対象作品を読んでいることを前提に講義を進めるので、毎回必ず予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

【参考書】

・磯田光一『戦後史の空間』（2000、新潮文庫）
・本多秋五『物語戦後文学史』上、中、下（2005、岩波現代文庫）
・ロバート・キャンベル・十重田裕一・宗像和重編『東京百年物語』3巻（2018、岩波文庫）
ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを含む授業への参加度：50%
・学期末テスト（講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題）：50%
以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より授業を担当するため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course deals with postwar Japanese literature, drama and cinema. It also explains how the author wrote about people in various systems and postwar societies.

LIT100LA

外国文学A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ヨーロッパ文学と「旅」

DIETMAR HEIDENREICH

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ギリシャ神話『オデュッセイア』から、スウィフト『ガリヴァー旅行記』、ゲーテ『イタリア紀行』、アイヒェンドルフ『愉しき放浪児』など、旅と文学との関係は世界文学を貫く重要な題材の一つである。

春学期の授業では様々な文学形式（英雄叙事詩、日記、エッセー、風刺小説、教養小説等）における旅の系譜について考える。

この授業はオンライン・オンデマンド型での実施となりました。参照：【授業の進め方と方法】【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【学生が準備すべき機器他】

【到達目標】

- 文学の題材と形式の関係を知ること。
- 「旅」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
- 異文化理解能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。

基本的にさまざまなアップロードメディアを配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	授業の内容と進め方の説明 諸芸術モチーフとしての旅について
第 2 回	『オデュッセイア』精読（1）	第十一歌（ハデス）
第 3 回	『オデュッセイア』精読（2）	課題、ディスカッション
第 4 回	冥界への旅（1）	『オルペウスとエウリュディケ』読解
第 5 回	冥界への旅（2）	課題、ディスカッション
第 6 回	近代文学とギリシャ神話（1）	T. マン『ベニスに死す』第 3 章読解
第 7 回	近代文学とギリシャ神話（2）	課題、ディスカッション
第 8 回	教養小説と「旅」（1）	ゲーテ『イタリア紀行』「ローマ」読解
第 9 回	教養小説と「旅」（2）	課題、ディスカッション
第 10 回	ロマン主義と「旅」（1）	アイヒェンドルフ『愉しき放浪児』第一章 読解
第 11 回	ロマン主義と「旅」（2）	課題、ディスカッション

第 12 回 映画と流行歌における W. ヴェンダース *Lisbon Story* 等「旅」

第 13 回 映画と流行歌における 課題、ディスカッション「旅」

第 14 回 まとめ 授業の総括および試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

T. マン：「ヴェネツィアに死す」、岸美光訳、光文社（2007）

【参考書】

ホメロス『オデュッセイア』

【成績評価の方法と基準】

学期末試験：60%

（課題提出も含む）平常点：40%

（受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。）

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム「Hoppii」を介した方法のみで授業を行うため特殊な機材（Zoom など接続可能な機器）を用意する必要はありませんが、課題用紙を含めて教員から提示される文字資料は基本的に PDF ファイルになりますので、PDF フォームへの文字の入力方法などについてお持ちの PC を確認することを勧めます。

【Outline and objectives】

From ancient Greek mythology *Odyssey*, to Swift's *Gulliver's travels*, Montaigne's *Essays*, until Eichendorf's *Memoirs of a Good-for-Nothing*, the relationship between travel and literature is one of the important theme of world literature.

In this course we will investigate various forms of travel literature including epic poem, diary, essay, satire, novel of formation etc.

LIT100LA

外国文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ヨーロッパ文学と「変身」

DIETMAR HEIDENREICH

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローマ詩人オウィディウス『変身物語』から、カフカの『変身』とステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』など、変身をテーマにした作品は今も多くの読者を惹き付けてやまない。

授業ではヨーロッパ変身物語の異なる時代と異なる語圏の数例を取り上げながら、この題材を比較文学的な視点から論じる。

この授業はオンライン・オンデマンド型での実施となりました。参照：【授業の進め方と方法】【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【学生が準備すべき機器他】

【到達目標】

- ・今日的な視点から「変身」の意義を捉え直すこと。
- ・「変身」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
- ・異文化理解能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。

基本的にさまざまなアップロードメディアを配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	授業の内容と進め方の説明 諸芸術モチーフとしての変身について
第 2 回	神話と変身（1）	オウィディウス『変身物語』読解（1）
第 3 回	神話と変身（2）	オウィディウス『変身物語』読解（2） 課題、ディスカッション
第 4 回	メルヘンと変身（1）	グリム『六羽の白鳥』読解
第 5 回	メルヘンと変身（2）	課題、ディスカッション
第 6 回	メルヘンと変装（1）	ペロー『ロバの皮』読解
第 7 回	メルヘンと変装（2）	課題、ディスカッション
第 8 回	オペラと変身（1）	ワグナー『ローエングリン』について
第 9 回	オペラと変身（2）	課題、ディスカッション
第 10 回	変身物語と映画（1）	ステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』読解（1） 映画との比較
第 11 回	変身物語と映画（2）	ステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』読解（2） 諸映画との比較 課題、ディスカッション

第 12 回	変身物語と映画（3）	カフカ『変身』読解（1） 諸映画、コミック等との比較
第 13 回	変身物語と映画（4）	カフカ『変身』読解（2） 諸映画、コミック等との比較 課題、ディスカッション
第 14 回	まとめ	授業の総括および試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

オウィディウス『変身物語』

【成績評価の方法と基準】

学期末試験：60%

（課題提出も含む）平常点：40%

（受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム「Hoppii」を介した方法のみで授業を行うため特殊な機材（Zoom など接続可能な機器）を用意する必要はありませんが、課題用紙を含めて教員から提示される文字資料は基本的に PDF ファイルになりますので、PDF フォームへの文字の入力方法などについてお持ちの PC を確認することを勧めます。

【Outline and objectives】

Literary works exploring the theme of transformation, from Ovid's *Metamorphoses* to Kafka's *Metamorphosis* until Stevenson's *Dr.Jekyll and Mr.Hyde*, are still attracting a lot of readers.

This class discusses this theme from a comparative point of view, taking several examples from different eras and different languages.

LIT100LA

外国文学A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランスのバカロレアは 19 世紀にナポレオン I 世により創設されました。合格者には中等教育修了（高等学校卒業程度）の認定と、高等教育進学（大学やグランゼコールなど）の許可を兼ねる学位が付与されてきました。創設当時より、試験は記述式で行われています。

本授業では、バカロレアの国語の筆記試験について、課題の内容と解き方を理解します。同時に関連する文学作品を読んでいきます（作品は日本語で読みます）。春学期は「テキスト解釈」を扱います。

【到達目標】

- ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ。
- ・大学入試における記述式問題について、フランスの事例を理解する。
- ・「読後感想文」以外にどのような文章が読後コメントとしてあり得るのかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心です。

指示した文章（リアクションペーパー、コメントなど）を書いてもらうこともあります。良いコメントは授業内で紹介します。課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業概要・課題説明
2	象徴派の詩：ボードレール	説明
3	テキスト解釈導入	ボードレールの詩の分析
4	ロマン派の詩：ビクトル・ユゴー	説明
5	テキスト解釈基本	ビクトル・ユゴーの詩の分析
6	論述文	エミリー・デュシャトレ「幸福論」
7	テキスト解釈練習	論述文の分析
8	ラ・フォンテーヌ『寓話』	説明
9	「テキスト解釈」バカロレア口述予想問題	ラ・フォンテーヌの『寓話』の分析
10	ヴォルテールと『百科全書』	説明
11	テキスト解釈練習問題	『百科全書』抜粋の分析
12	エミール・ゾラ	ドレフェス事件と「我弾劾す」
13	「テキスト解釈」バカロレア筆記過去問題	2016 年度の問題解説
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で言及された文学作品を読むこと。課題に取り組むこと。本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で 4 時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

【参考書】

横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末試験 50%（教室授業が可能である場合）

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて事前に授業資料を配布するようにします。

【Outline and objectives】

An introduction to French literature and a literary analysis.

LIT100LA

外国文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

近江屋 志穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀にナポレオン I 世によって創設されたフランスのバカロレアは、幾度かの改革を経て今日に至っています。2021 年度には再び大改革が行われ、必修科目の一つに「新口述試験」が加えられます。

本授業では春学期の続きとして、バカロレアの国語の筆記試験について、課題の内容と解き方を理解します。同時に関連する文学作品に触れます。課題は「総括」「小論文」「創作作文」という三種類の論述文です。また、初等・中等教育の集大成と位置づけられる「新口述試験」について学びます。

【到達目標】

- ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ。
- ・大学入試における記述式問題について、フランスの事例を理解する。
- ・大学入試における口述試験について、フランスの事例を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義が中心です。授業コメントや要約、授業に沿って指示する文章を書いてもらうこともあります。課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期授業内容・課題説明
2	総括基礎	身近な文章
3	総括基本（1）	文学の課題 モーパッサン『ベラミ』
4	総括基本（2）	文学の課題 ゾラ『ボヌール百貨店』
5	総括基本（3）	文学の課題 フローベール『純な心』
6	「総括」2020 年度期末試験課題解説	フローベール『ボヴァリー夫人』、 モーパッサン『女の一生』
7	「総括」バカロレア課題	2016 年の課題解説
8	小論文基礎	身近な文章/プランの立て方
9	小論文基本	文学の課題：2020 年度期末試験 課題解説
10	「小論文」バカロレア課題	2016 年の課題解説
11	創作作文基本	ゾラ『ジェルミナル』
12	「創作作文」バカロレア課題	2016 年の課題解説
13	新口述試験	試験内容、目的、対策
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で言及された文学作品を読むこと。課題に取り組むこと。本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で 4 時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

【参考書】

・横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、期末試験 50 %（教室授業が可能な場合）

【学生の意見等からの気づき】

課題の取り組み方をより丁寧に説明するようにします。

【Outline and objectives】

An introduction to French literature and a literary analysis.

LIT100LA

外国文学A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中国古典に親しむ

吉井 涼子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代のものから唐詩までを主な対象とし、作品のエピソードや時代背景・文化などと関連させつつ読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひろく。また、中国詩を鑑賞する上で必要な基本的知識（五言・七言、絶句・律詩や押韻・平仄）を学ぶ。

【到達目標】

中国古典や漢詩を鑑賞するために必要な基本知識を習得する。漢詩をはじめ中国古典は難しいイメージを持ってしまいがちだが、要領さえ掴めば親しみやすいものであることがわかるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。成立した時代背景・習俗や作者などを解説しつつ、原文を訓読で読解していく形を基本とする。授業は春秋時代から唐代まで、時代順に進めていく。毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらって学生の理解度を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。大学の行動方針レベルが2となった場合には、この授業は原則としてオンラインで行う。その際には大学の学習支援システム（H oPPii）でPDF等を使用し、zoom や動画・パワーポイントは用いない予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	中国とは 授業内容の説明と、導入部として中国の地理・歴史・言語的性格などを概説する。
第 2 回	甲骨・金文	実際の甲骨文字と金文の出土資料を使い、現在の漢字に至るまでの文字の変遷を知る。
第 3 回	『詩経』を読む	現存最古の中国の詩集『詩経』について解説し、実際に数首を読む。
第 4 回	楽府と古詩	前漢時代に詠まれた楽府や古詩十九首などを読み、当時の習俗についても学ぶ。
第 5 回	三曹の詩	三国志の英雄である曹操とその息子たちの詩を鑑賞する。
第 6 回	陶淵明	六朝期を代表する作品を比較しつつ鑑賞する。
第 7 回	孟浩然と崔顥	この回から唐詩を学ぶ。まず唐詩（近体詩）全体についてスタイルなどを解説し、実際に崔顥の「黄鶴楼」と孟浩然の「春暁」を読む。

第 8 回 李白

李白は中国詩を知る上で欠かせない人物である。月を愛した詩人李白の、月を詠んだ有名な詩を鑑賞する。

第 9 回 王維

王維の「九月九日憶山東兄弟」を読み、当時の重陽の節句などの習俗を知る。

第 10 回 杜甫

「春望」など、杜甫の詠んだ詩から、当時の戦乱を読む。

第 11 回 白居易

「長恨歌」を読み解く。

第 12 回 杜牧

杜牧の詩から、「題烏江亭」など、英雄を詠んだ懐古的な詩を鑑賞する。

第 13 回 復習と総括

第 1 回からの授業を振り返り、改めて中国文学の流れを学習する。

第 14 回 試験・まとめと解説

授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

大島正二『漢字と中国人—文化史をよみとく—』（岩波書店 2003 年）
岡村繁『文選の研究』（岩波書店 1999 年）
興膳宏『六朝詩人伝』（大修館書店 2000 年）
小川環『唐代の詩人—その傳記』（大修館書店 1975 年）
松浦友久『校注 唐詩解釈辞典』（大修館書店 1987 年）
この他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70% として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子でも構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

It focuses mainly from ancient things to Tang poetry, and it opens a vision to Chinese classical literature by understanding while relating it to episode of poet, background background・culture etc. Also learn the basic knowledge necessary for appreciating Chinese poetry.

LIT100LA

外国文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中国古典に親しむ

吉井 涼子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に漢代ものから、より物語性の高い唐代の伝奇小説に至るまで、その当時の時代背景や文化などと一緒に多くの話を読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひろく。

【到達目標】

物語性の高い作品を実際に多く読むことで、中国古典全般に対する理解を深めることができる。そこで読み解いた知識により、他の中国古典を楽しむ素地と教養を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。人物を取り上げる場合は、その生涯や時代背景も解説する。作品および小説は原文を訓読で読解していくのを基本とするが、特に長文のものは日本語訳などを利用する。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味・方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

大学の行動方針レベルが2となった場合には、この授業は原則としてオンラインで行う。その際には大学の学習支援システム（H oPPii）でPDF等を使用し、zoom や動画・パワーポイントは用いない予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と中国文学全体の概説をする。
第 2 回	漢代の文章	『史記』伯夷・叔斉伝を読む。
第 3 回	『穆天子伝』を読む	中国最古の小説とも言われる『穆天子伝』を読み、西周の王であった穆王の説話について知る。
第 4 回	『漢武故事』を読む	前漢の武帝の生涯を描いた小説『漢武故事』を読む。
第 5 回	英雄からの手紙	諸葛亮の書いた「出師表」を読む。
第 6 回	志怪小説を読む（1）	『捜神記』をはじめとする志怪小説について解説し、出来るだけ多くの話を読む。 （1）では魂の行方をテーマとする
第 7 回	志怪小説を読む（2）	志怪小説のうち、異界に関する話を読む。
第 8 回	志怪小説を読む（3）	志怪小説のうち、予言に関する話を読む。

第 9 回 「人虎伝」を読む（1） 中島敦の『山月記』により、中国の伝奇小説の中でもこの人虎伝は日本でも有名である。ここでは、その物語に可能な限り詳しく迫る。

第 10 回 「人虎伝」を読む（2） 人虎伝の続きを読み進めつつ、伏線について資料を用いて解説する。

第 11 回 「人虎伝」を読む（3） 人虎伝の続きを読むと共に、『広異記』の虎に化ける人間のエピソードを解説する。

第 12 回 「人虎伝」を読む（4） 結末を読み、人虎伝とは結局どのような物語であったのかを整理する。

第 13 回 復習と総括 第 1 回からの授業を振り返り、改めて文学の流れを学習する。

第 14 回 試験・まとめと解説 授業で学んだ知識などが身につけているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容、特に基本的知識として学んだことはよく復習しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

明治書院『中国古典小説選 穆天子伝 漢武故事 神異経 山海経他』

明治書院『中国古典小説選 捜神記・幽明録・異苑他』

明治書院『新釈漢文大系 史記八（列伝一）』

明治書院『新釈漢文大系 唐代伝奇』

平凡社『東洋文庫 捜神記』

この他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70% として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。

シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。

授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子辞書で構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。

授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

From the things of the Han Dynasty to the Literary novels of the Tang Dynasty with high narratives, touched many stories, and by reading along with the times background and culture, we will open our vision to Chinese classical literature.

LIT100LA

外国文学A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：日中比較

吉井 涼子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日中のそれぞれの文献や文学作品を比較・鑑賞することで、他国の文学作品のみならず、自国のものに対しても多角的な視点で読めるようになることを目的とする。

【到達目標】

日中両国の文学作品を、より広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得ることにより、自国の文化への理解もより深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。大学の行動方針レベルが2となった場合には、この授業は原則としてオンラインで行う。その際には大学の学習支援システム（H oPPii）でPDF等を使用し、zoom や動画・パワーポイントは用いない予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 日本と中国	授業内容の説明と、導入部として中国と日本の地理・歴史・言語的性格などを概説する。
第 2 回	「神話」を読む（1）	中国前漢時代の書物である『淮南子』の、中国の創世神話的な部分を読む。
第 3 回	「神話」を読む（2）	中国の歴史書である『史記』の本紀を中心に、史書の中の神話的性格が強い部分を読む。
第 4 回	「神話」を読む（3）	前回に引き続き、『史記』の神話・伝説にあたる部分から、実在の王朝へとつながる部分を読む。
第 5 回	「神話」を読む（4）	日本の記紀神話の創世の部分を中心に読む。
第 6 回	「神話」を読む（5）	日本の神話から、スサノオやオオクニスシの部分を読む。
第 7 回	月と太陽の神話比較	日本と中国それぞれの文化における月と太陽の話を扱う。
第 8 回	「魏志倭人伝」を読む（1）	日本の記述が中国の正史に現れるのは『漢書』からである。この回では『漢書』『後漢書』と、主に『三国志』魏書東夷伝倭人の条（所謂「魏志倭人伝」）を実際に読む。

第 9 回	「魏志倭人伝」を読む（2）	「魏志倭人伝」を読み、当時の日本の状況と当時の中国との関係について学ぶ。
第 10 回	説話を読む（1）	『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』から、当時の習俗や思想・他界観が読み取れる話を読む。
第 11 回	説話を読む（2）	信貴山の縁起に関わる物語を読む。
第 12 回	『枕中記』を読む	中国唐代の伝記小説である『枕中記』を読み、当時の人々の暮らしなども学ぶ。
第 13 回	復習と総括	第 1 回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

岩波文庫『古事記』
明治書院『新釈漢文大系 史記一（本紀上）』
中央公論新社『魏志倭人伝の謎を解く 三国志から見る邪馬台国』渡邊義浩著
小学館『日本古典文学全集 今昔物語』
小学館『日本古典文学全集 宇治拾遺物語』
明治書院『新釈漢文大系 唐代伝奇』
小学館『日本古典文学全集 枕草子』
など

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とするものであって、適宜他の作品等も用いる。授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子辞書で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。
授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。
高校の日本史B程度の基礎知識及び文学史の知識等があることを前提として授業を行う。

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline and objectives】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view.

LIT100LA

外国文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：日中比較

吉井 涼子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本と中国それぞれの古典を比較しつつ鑑賞することで、他国の文学のみならず自国のものに対しても、多角的な視点でより深く楽しむことができる知識と教養を得る。

【到達目標】

精読を通して、日中両国の文学をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得る。日本と中国の古典に興味を持った際に、自身の力で読み解くための基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テーマを決め、講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

大学の行動方針レベルが2となった場合には、この授業は原則としてオンラインで行う。その際には大学の学習支援システム（H oPPii）でPDF等を使用し、zoom や動画・パワーポイントは用いない予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明をする。
第 2 回	流浪する英雄—中国—（1）	『史記』晋世家・『国語』晋語から、重耳の話を精読する。
第 3 回	流浪する英雄—中国—（2）	重耳の遭った驪姫の乱と逃亡後の運命を読む。
第 4 回	流浪する英雄—中国—（3）	登場人物を整理しつつ、重耳の流転を追う。
第 5 回	流浪する英雄—中国—（4）	これまでの流れを、『史記』晋世家以外の歴史資料などを用いて補完し、時系列を整理する。
第 6 回	流浪する英雄—中国—（5）	重耳の結末と、家臣らのその後を知る。
第 7 回	流浪する英雄—日本—（1）	記紀からヤマトタケルの物語を読み解く。
第 8 回	流浪する英雄—日本—（2）	ヤマトタケルの辿った運命とその結末について学ぶ。
第 9 回	戦の天才とその末路—中国—（1）	『史記』列伝から、中国史における軍事の天才の1人である楽毅の話を読む。
第 10 回	戦の天才とその末路—中国—（2）	当時の時代背景などに注意しつつ、楽毅列伝から、楽毅の書いた手紙を読む。

第 11 回	戦の天才とその末路— 日本—（1）	日本の戦の天才とされる人物のうち、源義経について『平家物語』から数段抜粋して読み解く。
第 12 回	戦の天才とその末路— 日本—（2）	『平家物語』の続きと義経の書いた手紙を読み、平家の結末に関して解説する。
第 13 回	復習と総括	第 1 回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容はよく復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

明治書院『新釈漢文大系 史記五（世家中）』
 明治書院『新釈漢文大系 春秋左氏伝（一）』
 明治書院『新釈漢文大系 国語（上）』
 明治書院『新釈漢文大系 国語（下）』
 明治書院『新釈漢文大系 史記九（列伝二）』
 小学館『日本古典文学全集 古事記 上代歌謡』
 岩波書店『日本古典文学大系 32 平家物語上』
 岩波書店『日本古典文学大系 33 平家物語下』
 など

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70% として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品を加える。

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子辞書で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持ってくるのが望ましい。

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。
 高校の日本史 B 程度の基礎知識及び文学史の知識等があることを前提として授業を行う。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view. By learning each classic during the day, you can acquire more knowledge and culture when you read other literary works.

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：日韓文化比較と日韓問題

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日韓の文化や興味あるテーマを取り上げて、日韓両国のより理解を深めて行くことを目指していきます。文化や問題などを比較することで、新しい発見や日韓の未来が見えてきます。また、現在の日韓の若者たちの興味ある問題や題材を、若者目線で幅広く取り上げて、日韓両国の交流を向上させて行くことが目的です。韓国留学生たちの積極的参加も歓迎します。

【到達目標】

日韓の文化や習慣・歴史の差などを多様な角度から比較することによって、日韓の様々な問題を総合理解し、解決の出発点に立つことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

日本人学生と韓国人の留学生の割合にもよりますが、日韓の文化・習慣・問題・歴史・トレンドなどについて比較したり、ご意見やご質問など、皆さんの積極的な授業への参加をお勧めします。

課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

本科目は抽選科目です。授業開始前に抽選に参加する必要があります。

抽選の結果当選した学生のみ、履修をすることができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方について	授業の進め方についての説明をします。
第 2 回	日韓簡単比較	日韓の基礎知識を比較します。
第 3 回	日韓問題について 1	日韓の間にはどのような問題があるかを調べてみます。
第 4 回	日韓習慣の比較	日韓の習慣などの比較をします。
第 5 回	現在の日韓問題について 2	現在の日韓問題について詳しく調べます。
第 6 回	現在の日韓トレンド	日韓トレンドを比較します。
第 7 回	日韓文化比較	日韓の様々な教育問題を比較します。
第 8 回	日韓教育問題比較	日韓の入試と大学生活などを比較してみます。
第 9 回	日韓問題比較 3	日本における渡来人などについて考えてみます。
第 10 回	日韓の文化を比較	日韓文化について比較をしてみます。
第 11 回	日韓の現在の問題について比較 4	日韓における現在に起きている様々な問題について比較します。
第 12 回	日韓の現在の問題について比較 5	日韓の現在の政治的な問題について比較します。

- 第 13 回 日韓の現在の問題について比較 6 日韓の歴史的な様々な問題について比較します。
- 第 14 回 日韓問題について直接意見交換をします。意見交換など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日韓についての記事や情報収集。授業感想など。
日韓の文化・問題などの意見発表なども歓迎します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 日韓の文化比較と日韓問題—よりよい日韓関係を築くために』

梁禮先 著（『朝日出版社』2018,10）

【参考書】

授業中に必要な文献・資料を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・授業感想・レポートなど 50%、期末レポート 50%。
(学生たちの積極的な授業参加・意見なども参考にします)
合計 100%
課題・授業感想等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【学生の意見等からの気づき】

もっと日韓文化・問題を知りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。授業中に DVD やインターネットを使います。

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline and objectives】

We aim to deepen the understanding of both Japan and Korea by discussing their cultures and other interesting themes. By comparing cultures and problems between the two countries, you would make new findings and envision their future outlooks. The purpose of this course is to enhance the exchanges between the two countries by taking a broad look at issues and topics that young Koreans and Japanese are interested in from young people's perspectives. This course also welcomes Korean international students.

LIT100LA

外国文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の授業を踏まえて、韓国と日本の文化や話題や問題について、様々な視点から問題を捉えていきます。特に、現在の日韓の若者のトレンドから日韓文化比較を更に進め、歴史から現在までの様々な日韓問題などを、日韓交流の発展を模索していく学習の場にしていきたいと思います。

【到達目標】

常に、現在の日韓のトレンドを取り上げつつ、その問題や将来性や日韓両国の交流の方向性を考えることを目指すことで、日韓のこれからの未来への活発な交流のきっかけをつくるのが授業の目指す目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業で取り上げた日韓の文化や話題や問題点について、日韓の両方の立場・視点から考えていく。

課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。
本科目は抽選科目です。授業開始前に抽選に参加する必要があります。

抽選の結果当選した学生のみ、履修をすることができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方について	授業の進め方についての説明をします。
第 2 回	日韓文化比較 1	現在の韓流について考えてみます。
第 3 回	日韓文化比較 2	現在の日韓若者たちのトレンドについて調べてみます。
第 4 回	日韓のトレンド比較 1	現在の日韓若者たちのトレンドを比較してみます。
第 5 回	日韓のトレンド比較 2	日韓若者たちのファッションのトレンドを調べてみます。
第 6 回	日韓文化比較 3	日韓若者たちのファッショントレンドを比較してみます。
第 7 回	日韓問題比較 1	日韓若者たちの流行を調べてみます。
第 8 回	日韓問題比較 2	日韓若者たちの流行りを比較してみます。
第 9 回	日韓文化比較 4	北朝鮮について調べてみます。
第 10 回	日韓文化比較 5	北朝鮮と日韓問題について比較してみます。
第 11 回	日韓問題比較 3	日韓の宗教問題などを比較してみます。
第 12 回	日韓問題比較 4	日韓の企業問題などを比較してみます。

- 第13回 日韓文化比較 6 在日コリアン問題を調べてみます。
- 第14回 総合問題などの意見交換 意見交換などをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日韓問題の記事や情報など。授業内容などによるレポート。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 日韓の文化比較と日韓問題—よりよい日韓関係を築くために』

梁禮先 著（『朝日出版社』2018,10）

【参考書】

文献・資料などは授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価方法（平常点〔課題、授業感想など〕）50%、
期末レポート 50%

（発表など積極的な授業参加なども参考にします）

合計 100%

課題や授業感想等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【学生の意見等からの気づき】

日韓の様々な文化・問題についてもっと知りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業ではDVDやインターネットなどを使用します。

【その他の重要事項】

いろいろな事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline and objectives】

Based on the contents covered in the spring semester, we will look at Japanese and Korean cultures, their recent trend, and issues from various perspectives. In particular, we intend to further our comparison of cultures from the trend of young people in Japan and discuss various issues regarding the two countries to cogitate their potential development of exchanges in the future.

LIT100LA

日本近・現代文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：アダプテーションからみる日本近・現代文学

鈴木 彩

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

法文営国環キ1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近現代文学（特に明治・大正・昭和期）の「アダプテーション」について学ぶ。「アダプテーション」とは、ある作品を元に別の作品を創造すること、および創造された作品を指す言葉であり、小説やマンガの映画化・舞台化のように私たちの周囲に数多く存在する。この授業では、その中から文学テキストとして読むことが可能な小説と戯曲（演劇台本）を中心に上げ、既存の物語がいかにより替えられてきたのか、また、その変容に影響するものは何かを考える。

【到達目標】

私たちはアダプテーションの良し悪しを「原作」に忠実か、その雰囲気や再現し得ているかという点で評価する傾向にある。しかし、この授業ではそうした視点を離れ、アダプテーションの中にみられる原作の多様で自由な解釈や、原作に対する批評を読み解くことを主な目標とする。また、原作からの変容のしかたと、その変容の背景（時代・場所・作者など）の関係についても考察を試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業・オンデマンド形式（資料配信型）で行う。授業の要点を解説した音声付きパワーポイントと、引用文などをより詳しく掲載したPDFの別紙資料を配布する。毎授業資料の公開後、一定期間（4日程度）の間に、リアクションペーパーに相当する短い課題（講義の感想・質問、および講義に関連する問に対する自分の考えなど）を学習支援システムから提出してもらう。次の回の授業では、その課題の中からいくつかを取り上げ、フィードバックや質問への回答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容・進め方について
第2回	「アダプテーション」と「間テクスト性」	授業で用いる概念の解説
第3回	小説／演劇における「芥川龍之介「地獄変」語り、の性質①	
第4回	小説／演劇における「三島由紀夫「地獄変」語り、の性質②	
第5回	古典演劇から近代文学へ	志賀直哉「クローディアスの日へ」
第6回	説話から近代文学へ①	浦島伝説と近代文学
第7回	説話から近代文学へ②	太宰治「浦島さん」
第8回	アダプテーションと時代背景	木下順二「夕鶴」
第9回	アダプテーションと原作への疑問	泉鏡花「海神別荘」
第10回	近代戯曲の現代上演	「海神別荘」のミュージカル化

- 第11回 原作への忠実さ・原作 尾崎紅葉「金色夜叉」からの距離①
- 第12回 原作への忠実さ・原作 宮本研「新釈・金色夜叉」からの距離②
- 第13回 ちりばめられた作品イメージ 泉鏡花「南地心中」
- 第14回 総括 授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、「授業計画」に挙げた作品を事前に読み、内容を把握する。（授業内ではあらすじの説明にはあまり時間を割かないので、必ず事前に読んでくること。長編作品の場合は、目を通すべき章を授業内で指示する。）

復習として、PDFの別紙資料に改めて目を通し、理解度を確認する。またリアクションペーパーに相当する短い課題（「授業の進め方と方法」に記載したもの）を提出する。

本授業の準備・復習時間は各3時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適宜資料の配布を行う。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・レポートによる評価 60 %
- ・学習支援システムを利用した「小テスト」（半期につき2回予定・時間制限付き）による評価… 20 %
- ・平常点（毎授業後のリアクションペーパーの提出率・内容）による評価… 20 %

以上を総合して判断する。ただしレポートの提出を行わなかった場合、単位は認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料冒頭で、前の回の課題に記入いただいたコメントの共有や、質問への回答を行うことは好評であるため、今年度も継続します。小テストの難易度は、やや高く感じられるかもしれませんが、受講生の皆さんには改めてそれまでの授業内容を見直した上で、自身の理解度を確認していただきたいという考えから、事前に授業内容の復習・確認が必要となる難易度で、今後も実施する予定です。また、昨年度もオンデマンド型授業でしたが、資料配信が遅れ、ご迷惑をおかけすることがありましたので、今年度はそのようなことがないように、十分に注意して実施します。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出・事務的な連絡などは、学習支援システムを通じて行う。

【Outline and objectives】

This course deals with “Adaptation”. By “adaptation” we mean the creation of works based on other works such as making a movie inspired from a comic book. We can find many adapted works around us. In this course, I will pick up the novels and plays (theater scripts) because we can read them as published texts. Students can learn the differences between an original work and adapted one, and also what influences these differences.

LIT100LA

日本近・現代文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：日本近・現代文学から浮かび上がる作者のイメージ

鈴木 彩

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学テキストから浮かび上がる「作者像」を読み解く。多くの場合、文学作品を読む読者は、それを書いた作者について、何らかのイメージを抱く。しかし実在の作者と、作品から想起される「作者像」は必ずしも同じではない。この授業では日本近現代文学（特に明治・大正・昭和期）の中から、作家を主人公にして書かれたフィクションや、作者の体験に重なる小説などを読むことを通して、作者のイメージがどのように形成され、流布するのかを考える。

【到達目標】

作者に関する情報は、作品を読むにあたって参照され、時にはそれに基づいて登場人物と作者が重ねられもする。しかし文学を学ぶにあたっては、実在する作者と、作品を読む上で想起される「作者像」を適切に切り分ける必要がある。そのことを理解した上で、テキストがどのような「作者像」を構築しようとしているかを読み取り、それらのテキストが持つ意義や戦略性を学ぶことを、この授業の主な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業・オンデマンド形式（資料配信型）で行う。授業の要点を解説した音声付きパワーポイントと、引用文などをより詳しく掲載したPDFの別紙資料を配布する。毎授業資料の公開後、一定期間（4日程度）の間に、リアクションペーパーに相当する短い課題（講義の感想・質問、および講義に関連する問に対する自分の考えなど）を学習支援システムから提出してもらう。次の回の授業では、その課題の中からいくつかを取り上げ、フィードバックや質問への回答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容・進め方について
第2回	文学研究は「作者」をどう考えるか	授業で用いる概念の解説
第3回	「作者」をめぐる論争	夏目漱石「こころ」
第4回	「作者像」の流布と更新①	樋口一葉「にぎりえ」
第5回	「作者像」の流布と更新②	樋口一葉「十三夜」
第6回	「作者像」の流布と更新③	井上ひさし「頭痛肩こり樋口一葉」
第7回	明治時代へのノスタルジー	泉鏡花「薄紅梅」
第8回	自伝的小説を書き換えること①	林芙美子「放浪記」
第9回	自伝的小説を書き換えること②	「放浪記」の改稿について

- 第10回 流行作家の文壇批判① 龍胆寺雄「放浪時代」
 第11回 流行作家の文壇批判② 龍胆寺雄「M・子への遺書」
 第12回 〃作者像。の構築方法 太宰治「新ハムレット」
 ①
 第13回 〃作者像。の構築方法 太宰治「人間失格」
 ②
 第14回 総括 授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、「授業計画」に挙げた作品を事前に読み、内容を把握する。（授業内ではあらすじの説明にはあまり時間を割かないので、必ず事前に読んでくること。長編作品の場合は、目を通すべき章を授業内で指示する。）
 復習として、PDFの別紙資料に改めて目を通し、理解度を確認する。またリアクションペーパーに相当する短い課題（「授業の進め方と方法」に記載したもの）を提出する。
 本授業の準備・復習時間は各3時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適宜プリントの配布を行う。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・レポートによる評価 60 %
 - ・学習支援システムを利用した「小テスト」（半期につき2回予定・時間制限付き）による評価… 20 %
 - ・平常点（毎授業後のリアクションペーパーの提出率・内容）による評価… 20 %
- 以上を総合して判断する。ただしレポートの提出を行わなかった場合、単位は認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料冒頭で、前の回の課題に記入いただいたコメントの共有や、質問への回答を行うことは好評であるため、今年度も継続します。小テストの難易度は、やや高く感じられるかもしれませんが、受講生の皆さんには改めてそれまでの授業内容を見直した上で、理解度を確認していただきたいという考えから、事前に授業内容の復習・確認が必要となる難易度で、今後も実施する予定です。
 また、昨年度もオンデマンド型授業でしたが、資料配信が遅れ、ご迷惑をおかけすることがありましたので、今年度はそのようなことがないように、十分に注意して実施します。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出・事務的な連絡などは、学習支援システムを通じて行う。

【Outline and objectives】

This course deals with the characterization of authors. While reading literary works, we can imagine what kind of personality the author has (earnest, delicate, humorous, and so on) However, that image is not necessarily the same as the author himself. In this course, I will focus on the works that overlap the experiences of the real author, and the works in which authors appear as characters. Students can learn how the characterization of authors are formed and disseminated.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

萩野 了子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

法キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

正しい日本語の文章の書き方を学び、自身の考えを正確に分かりやすく伝える技術・知識を身につける。

【到達目標】

レポート、小論文、手紙（メール）などの正しい書き方について学ぶ。普段日本語を用いて生活していたとしても、正しい作法で分かりやすい文章を書くことは、実は決して容易ではない。今一度、文章表現の基礎を見直しながら繰り返し作文練習を行うことで、これまでよりも高い水準の文章を作成できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システム上に教材・課題がアップロードされたら、各自ダウンロードして学習した上で、課題を作成・提出すること。
 課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。
 学習支援システム内の提示、お知らせ、メール通知などを、よく確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	授業の進め方について
第二回	文章表現の基礎①	原稿用紙の使い方について
第三回	文章表現の基礎②	基本的な文法について
第四回	文章表現の基礎③	レトリック・敬語表現について
第五回	文章表現の基礎・実践	これまでの内容を総括・文章作成
第六回	講評会	小グループにおける相互の作品講評
第七回	レポート・小論文の書き方①	アカデミックライティングの基礎
第八回	レポート・小論文の書き方②	文章構成について
第九回	レポート・小論文の書き方・実践	これまでの内容を総括・文章作成
第十回	講評会	小グループにおける相互の作品講評
第十一回	手紙・メールの書き方①	マナー学習・敬語表現の復習
第十二回	手紙・メールの書き方②	これまでの内容を総括・文章作成
第十三回	講評会	小グループにおける相互の作品講評
第十四回	まとめ	授業の総括・課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で提示する課題レポートのための調査、文章作成など。
 本授業の準備・復習時間は、各5時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時間までに「学習支援システム」にアップロードするので各自ダウンロードすること。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点・小テスト 10 点・レポート課題 50 点

【学生の意見等からの気づき】

質問・要望等は、学習支援システムの掲示板やメールなどで常時受け付ける。個別もしくは授業内で返答する。

【その他の重要事項】

※ 以下大変重要なことですから、しっかり読んでください。

1 選抜（抽選）

- ・「文章論」では、受講者数の制限をします（約30名を上限とする）。
- ・受講希望者は必ず授業初日の前日 20:59 までに、仮登録をしてください。
- ・抽選なので、選抜（抽選）のための課題提出は必要ありません。

2 仮登録

- ・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。

・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。

・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が2週目以降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。

3 複数の「文章論」クラスへの仮登録

・なお、春学期にはこの授業も含めて3クラスの「文章論」の授業があります（川鍋担当の留学生クラス（火5限）を除く）。対象学部学年、曜日時限を確認してください。

Q1062 文国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年 水 3 西元 康雅（仮登録締切：4月6日 20:59）

Q1061 法キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年 水 5 萩野 了子（仮登録締切：4月6日 20:59）

Q1063 文営国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年 金 3 川鍋 義一（仮登録締切：4月8日 20:59）

・それぞれの担当者が異なる授業を展開します。各クラスで予定されている授業の内容についてはシラバスをよく読んでください。

・選抜（抽選）に漏れた場合には他クラスの「文章論」を希望する学生は、該当するクラスに予め全て仮登録しておいてください。

・2021 年度は4／7水曜日スタートなので、選抜（抽選）は、西元クラス → 萩野クラス → 川鍋クラス（通常クラス）の順に実施します。

・ただし、先に選抜（抽選）したクラスで当選した学生は、後に選抜（抽選）するクラスの仮登録・登録を抹消します。（例：西元クラスで当選 → 萩野クラスと川鍋クラスの仮登録を取り消され、選抜（抽選）を受けられない。）

・また、留学生クラス（火5限）と、通常の3クラスのいずれか（または全て）に併せて仮登録している学生については、留学生クラスに回ってもらう場合があります。

4 選抜（抽選）後

・当否の連絡はメールで授業開始日に届きます。また、掲示もされますので、必ず確認してください。

・当選者は、学習支援システムの指示に従って学習を開始してください。

【Outline and objectives】
The aim of this class is to help students acquire the skills and knowledge needed to write an effective composition.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

西元 康雅

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学で、小論文やレポートの課題を書くことに困っていませんか？それは（おそらく）これまで日本語の書き方を正式に教わってこなかったからです。ルールさえ知っていれば、書くことは難しくありません。本授業では実践的な「書く力」の修得を目指します。

【到達目標】
①日本語についての知識と理解を深める。
②文章の歴史的社会的背景を知ることで、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
到達目標を達成するために、①課題提示：新聞などの時事にまつわる文章を読ませ、それに関する解説・講義を行う。②作文提出および添削演習：800字～1500字の作文を適宜提出させる。③提出後、文章表現にかかわる様々な基礎知識、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。④毎授業ごとに推敲を行う。④清書の添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却し、総括する。場合によっては、優秀な作文をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

*添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にします。希望者多数の場合には抽選します。受講希望者は必ず指定の日時までに授業支援システムで仮登録してください。初回に受講生名簿を作るので、第2回以降からの初参加は認めません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	自己紹介文	他社の共感を得られる「私」へ
第 2 回	原稿用紙の使い方	タイトル・学科・学籍番号・氏名を正確に配置する
第 3 回	推敲の基礎	ワークシートに基づいて悪文を知る
第 4 回	推敲の応用	自己紹介文のリライト
第 5 回	意見文	夫婦別姓について
第 6 回	意見文のレビュー	意見文のリライト
第 7 回	出典表示	雑誌・新聞・和書・訳書などの書き分け
第 8 回	アカデミック・ライティング	問いの立て方
第 9 回	パラグラフ構成	トピックセンテンスとは？
第 10 回	パラグラフライティングの手引き	ワークシートで演習
第 11 回	パラグラフライティングの基礎	アウトラインを作成する

- 第12回 パラグラフライティング アウトラインから文章を作る
 グの実践
- 第13回 パラグラフライティング 好例を励みに、リライトする
 グのレビュー
- 第14回 総括 期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
 下書きを完成させる、推敲を行う、清書を作成するなどの指示をします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業中に適宜、紹介します

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、中間提出物30%、期末レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

添削をより充実させる

【その他の重要事項】

※ 以下大変重要なことから、しっかり読んでください。

- 1 選抜（抽選）
 ・「文章論」では、受講者数の制限をします（約30名を上限とする）。
 ・受講希望者は必ず授業初日の前日20:59までに、仮登録をしてください。
 - 2 仮登録
 ・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。
 ・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。
 ・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が2週目以降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。
- ※ なお、春学期の文章論（この授業も含め4クラス全て）は、オンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時間に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。
 ※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。
 2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。
 ※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【Outline and objectives】

Do you have trouble writing an essay or report subject at university? That is because I probably have not officially taught how to write Japanese. If you know even the rules, writing is not difficult. In this class we aim to acquire practical "writing power".

BSP100LA

文章論

2017年度以降入学者

サブタイトル：

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2単位

留学生（法文営国環キ1～4年）クラス※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書く」力、「読む」力をつけよう。
 このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などはこのクラスの受講をおすすめします。なお、文章論の通常クラスは3クラスあります。自信があれば、留学生などが通常クラスに参加することを妨げるものではありません。

【到達目標】

いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、作文を提出し、添削を受けることが授業の柱となります。

授業は、

I 課題提示 → II 作文提出および講義 → III 添削返却および講義

上記のように3回で1セット、全14回の授業でみなさんには4回の作文を書いてもらうことになります。

I 課題提示：新聞記事、新書レベルの文章を読ませ、それに関する解説・講義を聴かせる。

II 作文提出および添削演習：一週間で800字～1200字の作文を書かせ、授業開始時に提出させる。提出後、文章表現にかかわる様々な問題、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。

III 添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却した上で、優秀作品をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にします。希望者多数の場合には抽選します。受講希望者は必ず指定の日時までに授業支援システムで仮登録してください。初回に受講生名簿を作るので、第2回以降からの初参加は認めません。下の【その他の重要事項】もしっかり読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	ガイダンスおよび課題	課題：エッセイを書く ①提示
2回	課題①提出および講義	文法、辞書の記号などを学ぶ
3回	課題①添削返却および講義	課題①作文講評、文章の禁則、文末表現などを学ぶ
4回	課題②提示	課題：段落構成に注意して読む
5回	課題②提出および講義	わかりにくい文章のコツをプロの文章から学ぶ
6回	課題②添削返却および講義	課題②作文講評 ほか講義

7 回	課題③提示	悪文を反面教師にする ほかに、敬語表現、誤りやすい表現を学ぶ
8 回	課題③提出および講義	データを一般化する
9 回	課題③添削返却および講義	課題③作文講評ほか
10 回	課題④提示	課題：要約と意見を分ける
11 回	課題④作文提出および講義	文章をパターンで理解する（その1）
12 回	課題④添削返却および講義	課題④作文講評 ほかに文章をパターンで理解する（その2）
13 回	これまでに学習した内容のまとめ（その1）	これまでに学習した内容のまとめ（その2）
14 回	これまでに学習した内容のまとめ（その1）	これまでに学習した内容のまとめ（その2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

添削の課題である作文を一週間で書きます。これを4回。ほかに「教員にメールを書く」という課題を出します。「文章をパターンで理解する」に関する問いに答える課題（Google フォームを利用する）などを出します。

【テキスト（教科書）】

随時プリント配布。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（提出しなければならない課題がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）50%、提出物の点数50%で評価します。

メール、Google フォームの課題も含め、一つでも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

【学生の意見等からの気づき】

作文が少々つらくなるかもしれませんが、「書く」力（それと「読む」力）を伸ばすためです。がんばりましょう。

【その他の重要事項】

※ 以下大変重要なことから、しっかり読んでください。

このクラスは、「留学生を主な対象とする文章論」です。通常のクラスは3クラスあります（それぞれ異なる授業を展開します。詳細についてはシラバスを読んでください）。

Q1062 文国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年 水 3 西元 康雅（仮登録締切：4月6日 20:59）

Q1061 法キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年 水 5 萩野 了子（仮登録締切：4月6日 20:59）

Q1065 文営国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年 金 3 川鍋 義一（仮登録締切：4月8日 20:59）

※以下も大変重要なことから、しっかり読んでください。

1 選抜（抽選）

- ・「文章論」では、受講者数の制限をします（約30名を上限とする）。
- ・受講希望者は必ず4月12日 21:59 までに仮登録してください。
- ・抽選なので、選抜（抽選）のための課題提出は必要ありません。

2 仮登録

- ・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。
- ・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。
- ・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が2週目以降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。
- ・また、留学生クラス（火5限）と、通常の3クラスのいずれか（または全て）に併せて仮登録している学生については、留学生クラスに回ってもらう場合があります。

3 選抜（抽選）後

- ・当否の連絡はメールで授業開始日に届きます。また、掲示もされますので、必ず確認してください。
- ・当選者は、学習支援システムの指示に従って学習を開始してください。

※ なお、春学期の文章論（この授業も含め4クラス全て）は、オンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時間に、学習支援システム、Google Classroom などで公開されます。

※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020 年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。

※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：留学生を主な対象とする

川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

留学生（法文営国環キ 1～4 年）クラス※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書く」力、「読む」力をつけよう。

このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などはこのクラスの受講をおすすめします。なお、文章論の通常クラスは3クラスあります（春学期）。自信があれば、留学生などが通常クラスに参加することを妨げるものではありません。

【到達目標】

いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、作文を提出し、添削を受けることが授業の柱となります。

授業は、

I 課題提示 → II 作文提出および講義 → III 添削返却および講義

上記のように3回で1セット、全14回の授業でみなさんには4回の作文を書いてもらうことになります。

I 課題提示：新聞記事、新書レベルの文章を読ませ、それに関する解説・講義を聴かせる。

II 作文提出および添削演習：一週間で800字～1200字の作文を書かせ、授業開始時に提出させる。提出後、文章表現にかかわる様々な問題、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。

III 添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却した上で、優秀作品をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にしぼります。希望者多数の場合には抽選します。受講希望者は必ず指定の日時までに授業支援システムで仮登録してください。初回に受講生名簿を作るので、第2回以降からの初参加は認めません。下の【その他の重要事項】もしっかり読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンスおよび課題①提示	課題：エッセイを書く
2 回	課題①提出および講義	文法、辞書の記号などを学ぶ
3 回	課題①添削返却および講義	課題①作文講評、文章の禁則、文末表現などを学ぶ
4 回	課題②提示	課題：段落構成に注意して読む
5 回	課題②提出および講義	わかりにくい文章のコツをプロの文章から学ぶ
6 回	課題②添削返却および講義	課題②作文講評 ほか

7 回	課題③提示	悪文を反面教師にする ほか、敬語表現、誤りやすい表現を学ぶ
8 回	課題③提出および講義	データを一般化する
9 回	課題③添削返却および講義	課題③作文講評ほか
10 回	課題④提示	課題：要約と意見を分ける
11 回	課題④作文提出および講義	文章をパターンで理解する（その1）
12 回	課題④添削返却および講義	課題④作文講評 ほか文章をパターンで理解する（その2）
13 回	これまでに学習した内容のまとめ（その1）	これまでに学習した内容のまとめ（その2）
14 回	これまでに学習した内容のまとめ（その1）	これまでに学習した内容のまとめ（その2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

添削の課題である作文を一週間で書きます。これを4回。ほかに「教員にメールを書く」という課題を出します。「文章をパターンで理解する」に関する問いに答える課題（Google フォームを利用する）などを出します。

【テキスト（教科書）】

随時プリント配布。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（提出しなければならない課題がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）50%、提出物の点数50%で評価します。

メール、Google フォームの課題も含め、一つでも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

【学生の意見等からの気づき】

作文が少々つらくなるかもしれませんが、「書く」力（それと「読む」力）を伸ばすためです。がんばりましょう。

【その他の重要事項】

※ 以下、大変重要なことですから、しっかり読んでください。

1 選抜（抽選）

・「文章論」では、受講者数の制限をします（約30名を上限とする）。
・受講希望者は必ず9月20日 21:59 までに仮登録してください。
・抽選なので、選抜（抽選）のための課題提出は必要ありません。

2 仮登録

・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。
・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。
・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が2週目以降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。

3 選抜（抽選）後

・当否の連絡はメールで授業開始日に届きます。また、掲示もされますので、必ず確認してください。
・当選者は、学習支援システムの指示に従って学習を開始してください。

※ なおこの授業は、オンライン（オンデマンド）で実施します。授業は火曜5限に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。

※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。

※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

文営国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書く」力、「読む」力をつけよう。

このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

【到達目標】

いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、作文を提出し、添削を受けることが授業の柱となります。

授業は、

I 課題提示 → II 作文提出および講義 → III 添削返却および講義

上記のように3回で1セット、全14回の授業でみなさんには4回の作文を書いてもらうことになります。

I 課題提示：新聞記事、新書レベルの文章を読ませ、それに関する解説・講義を聴かせる。

II 作文提出および添削演習：一週間で800字～1200字の作文を書かせ、授業開始時に提出させる。提出後、文章表現にかかわる様々な問題、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。

III 添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却した上で、優秀作品をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にします。希望者多数の場合には抽選します。受講希望者は必ず指定の日時までに授業支援システムで仮登録してください。初回に受講生名簿を作るので、第2回以降からの初参加は認めません。下の【その他の重要事項】もしっかり読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンスおよび課題①提示	課題：エッセイを書く
2 回	課題①提出および講義	文法、辞書の記号などを学ぶ
3 回	課題①添削返却および講義	課題①作文講評、文章の禁則、文末表現などを学ぶ
4 回	課題②提示	課題：段落構成に注意して読む
5 回	課題②提出および講義	わかりにくい文章のコツをプロの文章から学ぶ
6 回	課題②添削返却および講義	課題②作文講評 ほか

7 回	課題③提示	悪文を反面教師にする ほか、敬語表現、誤りやすい表現を学ぶ
8 回	課題③提出および講義	データを一般化する
9 回	課題③添削返却および講義	課題③作文講評ほか
10 回	課題④提示	課題：要約と意見を分ける
11 回	課題④作文提出および講義	文章をパターンで理解する（その1）
12 回	課題④添削返却および講義	課題④作文講評 ほか、文章をパターンで理解する（その2）
13 回	これまでに学習した内容のまとめ（その1）	これまでに学習した内容のまとめ（その2）
14 回	これまでに学習した内容のまとめ（その1）	これまでに学習した内容のまとめ（その2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

添削の課題である作文を一週間で書きます。これを4回。ほかに「教員にメールを書く」という課題を出します。「文章をパターンで理解する」に関する問いに答える課題（Google フォームを利用する）などを出します。

【テキスト（教科書）】

随時プリント配布。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（提出しなければならない課題がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）50%、提出物の点数50%で評価します。

メール、Google フォームの課題も含め、一つでも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

【学生の意見等からの気づき】

作文が少々つらくなるかもしれませんが、「書く」力（それと「読む」力）を伸ばすためです。がんばりましょう。

【その他の重要事項】

※ 以下大変重要なことですから、しっかり読んでください。

1 選抜（抽選）

・「文章論」では、受講者数の制限をします（約30名を上限とする）。
・受講希望者は必ず授業初日の前日 20:59 までに、仮登録をしてください。

・抽選なので、選抜（抽選）のための課題提出は必要ありません。

2 仮登録

・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。
・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。
・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が2週目に降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。

3 複数の「文章論」クラスへの仮登録

・なお、春学期にはこの授業も含めて3クラスの「文章論」の授業があります（川鍋担当の留学生クラス（火5限）を除く）。対象学部学年、曜日時限を確認してください。

Q1062 文国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年 水 3 西元 康雅（仮登録締切：4月6日 20:59）

Q1061 法キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年 水 5 萩野 了子（仮登録締切：4月6日 20:59）

Q1065 文営国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年 金 3 川鍋 義一（仮登録締切：4月8日 20:59）

・それぞれの担当が異なる授業を展開します。各クラスで予定されている授業の内容についてはシラバスをよく読んでください。
・選抜（抽選）に漏れた場合には他クラスの「文章論」を希望する学生は、該当するクラスに予め全て仮登録しておいてください。

・2021 年度は4/7水曜日からスタートなので、選抜（抽選）は、西元クラス → 萩野クラス → 川鍋クラス（通常クラス）の順に実施します。
・ただし、先に選抜（抽選）したクラスで当選した学生は、後に選抜（抽選）するクラスの仮登録・登録を抹消します。（例：西元クラスで当選 → 萩野クラスと川鍋クラスの仮登録を取り消され、選抜（抽選）を受けられない。）

・また、留学生クラス（火5限）と、通常の3クラスのいずれか（または全て）に併せて仮登録している学生については、留学生クラスに回ってもらう場合があります。

4 選抜（抽選）後

・当否の連絡はメールで授業開始日に届きます。また、掲示もされますので、必ず確認してください。

・当選者は、学習支援システムの指示に従って学習を開始してください。

※ なお、春学期の文章論（この授業も含め4クラス全て）は、オンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時間に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。

※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing.

BSP100LA

文章論

2017年度以降入学者

サブタイトル：

西元 康雅

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では論文・レポート執筆法に加え、エッセー、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語のもつ豊かさを味わって欲しい。

【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の歴史的社会的背景を知ること、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
- ③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するために、①課題提示：新聞などの時事にまつわる文章を読ませ、それに関する解説・講義を行う。②作文提出および添削演習：800字～1500字の作文を適宜提出させる。③提出後、文章表現にかかわる様々な基礎知識、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。④毎授業ごとに推敲を行う。④清書の添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却し、総括する。場合によっては、優秀な作文をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	要約	要約の三要素
第2回	推敲	簡潔な文章を目指す
第3回	論文の構成～入門編	ワークシートを用いて、パラグラフライティングを学ぶ
第4回	パラグラフライティングの難所	トピックセンテンスとサポートセンテンスを上手く書き出す
第5回	パラグラフライティングの完成	秀逸な学生の記述を基にレビュー、後にリライト
第6回	批評文を知る	どのような文章が批評文として優れているかを考察する
第7回	批評文を書く	講義内で示した批評文を書くコツをもとに、単なる批判にとどまらない批評文を作成する
第8回	批評文の完成	秀逸な学生のエッセーを披露し、レビュー。後に各自リライト。
第9回	エッセーを書く	作家のエッセーを基に、どういった着眼点がエッセーに求められるかを考察する。後、エッセーを書く
第10回	エッセーを完成させる	秀逸な学生のエッセーをもとに、エッセーをリライトする
第11回	口語自由詩の作成	萩原朔太郎に導かれながら、口語自由詩を実作する

第 12 回	リレー小説	ある有名な短編の柱を切り取り、余白を分担しながら全員で埋めていく
第 13 回	リレー小説レビュー	出来上がったリレー小説をレビュー、期末課題を提示
第 14 回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業内で課された作文を期限厳守で仕上げる

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、提出物 40%、期末課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

より学生の視点に立った添削・コメントを施す。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（Word をインストール）

【その他の重要事項】

※ 以下大変重要なことから、しっかり読んでください。

- 1 選抜（抽選）
・「文章論」では、受講者数の制限をします（約 30 名を上限とする）。
・受講希望者は必ず授業初日の前日 20:59 までに、仮登録をしてください。
・抽選なので、選抜（抽選）のための課題提出は必要ありません。
- 2 仮登録
・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。
・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。
・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が 2 週目以降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。
※ なお、秋学期の文章論は、オンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時限に、学習支援システム、Google Classroom などで公開されます。
※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。
2020 年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。
※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【Outline and objectives】

In this lesson, in addition to writing paragraph writing writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from essays, criticisms to the creation of novels.

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法 1 年 A～W / 法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようになされるのか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】

春学期は「課題提出型」の授業となる。具体的な授業内容、授業で使用する資料などは学習支援システムで提示する。

学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「課題提出型」授業は以下のように行なう。

1. 講義資料、資料をまとめた PPT を読む
2. 授業曜日の課題に対する解答を提出する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 言語学入門 1	言語学とは何か 言語の特質（1）
第 2 回	言語学入門 2	言語の特質（2）
第 3 回	言語学入門 3	言語の特質（3）
第 4 回	音声学 1	音声器官
第 5 回	音声学 2	調音
第 6 回	音声学 3	母音、子音
第 7 回	音韻論 1	異音、相補分布
第 8 回	音韻論 2	環境同化、音声的類似
第 9 回	音韻論 3	日本語の音韻体系
第 10 回	第二言語習得研究 1	第二言語習得研究の流れ
第 11 回	第二言語習得研究 2	中間言語
第 12 回	第二言語習得研究 3	学習者の母語と第二言語習得
第 13 回	第二言語習得研究 4	習得順序と発達順序
第 14 回	第二言語習得研究 5	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は「課題提出型」の授業となる。本授業の開始日は 4 月 12 日とし、この日までに具体的な授業の課題などを、学習支援システムで提示する。

【テキスト（教科書）】

テキスト名：『日本語教師トレーニングマニュアル 3 よくわかる言語学入門 解説と演習』 著者：町田健ほか 出版社：バベルプレス 定価：2233 円＋税

【参考書】

参考文献は PPT で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

提出した課題の内容で 100 % 評価する。

【学生の意見等からの気づき】

さらなる履修者の積極的な授業参加を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Linguistic course - this is an introductory course to Linguistics. This course is not just to introduce students to language, phonetics, phonology and another language acquisition but to encourage them to analyze, be interactive and seize the many aspects of the language and language learning.

LIN100LA

言語学 B

2017 年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法 1 年 A～W / 法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半は第一言語習得はどのようになされるか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。後半は、日本語の歴史、文法などを概観することで日本語の特徴を捉える。本講義では、学生は言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】

学生は、日本語の特徴、言語を取り巻くさまざまな事象を理解し、言語の多様性を意識した上で世界の多様性に気づくことになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 講義を中心に行うが、適宜演習（グループワーク）も行う。
2. 授業の最後に、リアクションペーパーを提出する。
3. 次回の授業の頭でリアクションペーパーに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 言語習得 1	第一言語とは？
第 2 回	第一言語習得 2	第一言語習得とは？
第 3 回	第一言語習得 3	第一言語習得研究の方法
第 4 回	第一言語習得メカニズム 1	第一言語習得のメカニズム
第 5 回	第一言語習得メカニズム 2	主な言語発達理論（基礎編）
第 6 回	第一言語習得メカニズム 3	主な言語発達理論（応用編）
第 7 回	母語獲得とインプットの役割 1	子どもの構造依存性 語順獲得母語獲得とインプットの役割
第 8 回	母語獲得とインプットの役割 2	肯定証拠と否定証拠
第 9 回	母語獲得とインプットの役割 3	インプットの効果
第 10 回	異文化理解 1	カルチャーショック
第 11 回	異文化理解 2	ジョハリの窓
第 12 回	異文化トレーニング 1	異文化トレーニング方法 1
第 13 回	異文化トレーニング 2	異文化トレーニング方法 2
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ないが、復習は必要。

講義の骨子は PPT の形式で授業支援システムにアップロードするので、それをダウンロードした上で、授業では PPT の空白部分に講義ノート書いていくことが求められる。

授業は基本的に講義形式で行うが、授業内容の問いに対しグループ単位で考え、発表することがある。スマホの情報を発言内容に置き換えるのではなく、各自オリジナルの意見を発表することが期待される。

PPT を含め、授業で配布した資料は試験範囲に含まれる。

【テキスト（教科書）】

テキスト名：『ことばの獲得 母語獲得と第二言語習得 著者：鈴木孝明ほか 出版社：くろしお出版 定価：1800 円＋税

【参考書】

PPT の参考文献に示した。

【成績評価の方法と基準】

全ての課題提出を期末試験に換算し、100 点満点換算で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・第一言語習得理論、日本語を外国人に教えるための日本語教育文法に興味を持ってもらえてよかったと思う。
・前期に言語学 A を履修しなかった学生にも理解できるよう、言語学 B では前期言語学のエッセンス部分を丁寧にひろってから後期の講義内容へとつなげた。後期登録の学生はスムーズに授業に入っていたようでよかった。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Fall semester course has two parts:

- I. The first half of this course is an overview of the first language acquisition.
II. The second half is understanding Japanese language history and grammar.

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

齊藤 雄介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法 1 年 Y、文環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学の概要を学ぶ。言語学にはどのような分野があり、それらが実際に使用される言語とどのように関連しているかを考察し、言語を様々な視点から分析する方法を身に付ける。

【到達目標】

学生は言語を分析するための基礎的な方法を理解し、言語研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を進めるが、何らかのテーマについてグループディスカッションを求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	言語学入門	言語学とは何か、どのような分野があるのかについて説明する。
第 2 回	音声学・音韻論 1	音声学と音韻論の違い、音声構造
第 3 回	音声学・音韻論 2	音声器官、調音点
第 4 回	音声学・音韻論 3	母音と子音
第 5 回	音声学・音韻論 4	音素と異音
第 6 回	音声学・音韻論 5	日本語と英語の強勢の違い
第 7 回	形態論 1	語の構造と語の構成
第 8 回	形態論 2	派生接辞と屈折接辞
第 9 回	形態論 3	語彙範疇と機能範疇
第 10 回	形態論 4	派生、屈折、複合と接頭辞、接尾辞の関係
第 11 回	形態論 5	語の右側主要部規則
第 12 回	統語論 1	文法とは何か
第 13 回	統語論 2	文法構造
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ全履修者にとって初めての内容であることが考えられるため、予習は必要ないが、毎回の授業の復習をしておくこと。授業中に配布したプリント及び自分で取ったノートの内容を確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】

使用せず

【参考書】

毎回プリントを配布する。

『言語学入門』 西原哲雄（編） 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを用いて双方向の授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Students learn the outline of Linguistics. Students learn what kinds of field are in Linguistics, how they are related to languages used in our lives, and how to analyze languages in some perspectives.

LIN100LA

言語学 B

2017 年度以降入学者

齊藤 雄介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法 1 年 Y、文環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学の概要を学ぶ。言語学にはどのような分野があり、それらが実際に使用される言語とどのように関連しているかを考察し、言語を様々な視点から分析する方法を身に付ける。

【到達目標】

学生は言語を分析するための基礎的な方法を理解し、言語研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を進めるが、何らかのテーマについてグループディスカッションを求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	言語学入門	言語学とは何かを説明し、言語学 A の内容を若干復習する
第 2 回	統語論 1	文法とは何か 文の構造
第 3 回	統語論 2	下位範疇と句構造規則
第 4 回	統語論 3	変形文法
第 5 回	統語論 4	X バー統語論
第 6 回	意味論 1	語と語の意味関係
第 7 回	意味論 2	語の内部の意味関係
第 8 回	意味論 3	語の意味と背景知識
第 9 回	意味論 4	意味と話者の関係
第 10 回	語用論 1	語用論とは何か
第 11 回	語用論 2	言語能力と言語運用と語用論
第 12 回	語用論 3	会話仮説理論
第 13 回	語用論 4	関連性理論
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ全履修者にとって初めての内容であることが考えられるため、予習は必要ないが、毎回の授業の復習をしておくこと。使用するテキスト以外に授業中に配布したプリントも試験範囲に含まれるため、その内容も確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】

『言語学入門』 西原哲雄（編） 朝倉書店

【参考書】

毎回プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%, 期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを用いて双方向の授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Students learn the outline of Linguistics. Students learn what kinds of field are in Linguistics, how they are related to languages used in our lives, and how to analyze languages in some perspectives.

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

営国 1 年／法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は「言語学」といいます。言語学は、人間の言語とはいかなるものであるのか、について知見を積み重ねてきました。この授業では、まずヒトが言語とどう向かい合ってきたかという「言語学史」的に歴史的に概観します。

次いで、「言語学」としての特徴的な概念等について紹介します。

最後に、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるかを考えます。

【到達目標】

- 1 「言語」についてのヒトの営みについての一般的な知見を得ること。
- 2 「言語学」の方法についての基礎的な知識を身に着けること。
- 3 「コミュニケーション」における「言語」の位置づけについて、正しい知識を身に着けること。
- 4 結果として、「言語学」の枠組みや思考法について、大まかでもいいから認識を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

世界の言語について概観し、言語学がどうそれらを扱ってきたかを紹介します。

次いで、「言語学」の基礎的な術語・概念について講義します。

最後に、「コミュニケーション」と言語との関係について詳述します。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	内容・授業のすすめ方の説明 「ことば」の記録
第 2 回	世界の言語・言語の起源	世界の言語の現状と、言語の起源について
第 3 回	ヨーロッパの諸言語入門	使用するテキストについて、印欧語とは何か
第 4 回	インド・ヨーロッパ語について	グリムの法則
第 5 回	比較言語学の誕生	「印欧諸語」の成立について解説する
第 6 回	比較言語学の成果	「比較言語学」でわかったことを紹介する
第 7 回	アフリカの諸言語入門	アフリカの語族について
第 8 回	アフリカの「アフロアジア諸語」	「アフロアジア諸語」の解説
第 9 回	アフリカの「ニジェール・コルドファン諸語」	「ニジェール・コルドファン諸語（バントゥー諸語）」の解説
第 10 回	日本語の音韻に関する諸問題	日本語の音声・音韻の諸問題を扱う

第 11 回	日本語の文法に関する諸問題	日本語の文法に関する諸問題を扱う
第 12 回	ポライトネス	人間の社会的距離を調整する言語の機能について解説する
第 13 回	日本語の「敬語」	ポライトネスの観点からみると、日本語の「敬語」とは何か
第 14 回	「ことば」を考えると きの問題等	「ことば」の力、言語の発見等について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な個所や疑問点があれば、その時点で質問するなり紹介する参考資料等を参考にして、理解をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ヨーロッパの諸言語については、ステイーブソン／江村他訳 (2010)『図説 ことばの世界 ―欧米の言語史―』青山社、を使用します。

【参考書】

「言語学史」については、風間喜代三 (1978)『言語学の誕生』岩波新書、「共時言語学」については、佐久間淳一他 (2007)『言語学入門』研究社と千野栄一 (1994)『言語学の開かれた扉』三省堂、「コミュニケーション」については、平凡社 (1988)『コミュニケーション事典』をあげておきます。

必要に応じて、授業中に紹介したりや支援システムにリストをアップする予定です。

【成績評価の方法と基準】

試験の得点 100 点満点で評価します。

ただし、このシラバスでは最終回まで授業をし、試験期間に試験を行うという前提で内容を紹介しましたが、受講者の人数によっては、最終回に授業内試験をする可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

知識としてどうこうというよりも、発想法についてこれない学生が多いように、経験的に感じます。

例としてあげる個々の様々な言語の実例を覚える必要はありません。言語学という学問がヒトの言語とはどういうものであると見なしているかという考え方に慣れてください。

【学生が準備すべき機器他】

受講生が多いことが予想されるので、基本的にパワーポイントを使って講義を進めていく予定です。受講生が少なかった場合にはそれに応じてやり方を考えます。

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持とうという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いているだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしてくることを期待します。

【Outline and objectives】

Here we discuss about what is Linguistics. The first, we survey the history of Linguistics. The second, we introduce famous Linguists and their theories. The third, we master the way of the Comparative Study of Linguistics. The fourth, we know the Descriptive Linguistics after Ferdinand de Saussure.

LIN100LA

言語学 B

2017 年度以降入学者

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

営国 1 年／法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は「言語学」といいます。言語学は、人間の言語とはいかなるものであるのか、について知見を積み重ねてきました。この授業では、まずヒトが言語とどう向かい合ってきたかという「言語学史」的に歴史的に概観します。

次いで、「言語学」としての特徴的な概念等について紹介します。

最後に、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるかを考えます。

【到達目標】

- 1 「言語」についてのヒトの営みについての一般的な知見を得ること。
- 2 「言語学」の方法についての基礎的な知識を身に着けること。
- 3 「コミュニケーション」における「言語」の位置づけについて、正しい知識を身に着けること。
- 4 結果として、「言語学」の枠組みや思考法について、大まかでもいいから認識を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

世界の言語について概観し、言語学がどうそれらを扱ってきたかを紹介します。

次いで、「言語学」の基礎的な術語・概念について講義します。

最後に、「コミュニケーション」と言語との関係について詳述します。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	言語：コード理論	「コード」として言語を考える
第 2 回	言語の要素：音の単位	「音声学」から「音韻論」について解説する
第 3 回	言語の要素：意味の単位	「形態論」、「組み立て規則」について解説する
第 4 回	意味	「意味」について考察する
第 5 回	「意義素論」	「意義素論」を紹介する
第 6 回	文法カテゴリー（数・人称他）	文法カテゴリーの各項目について解説する
第 7 回	文法カテゴリー（クラス・ダイクシス他）	文法カテゴリーの各項目について解説する
第 8 回	構造	構造とは何かについて概観する
第 9 回	宗教	言語の最重要課題である宗教について概観する
第 10 回	言語学と語用論	言語学と語用論の観点の違いについて紹介する
第 11 回	コミュニケーションの定義	そもそもコミュニケーションとは何か、解説する

第12回	コミュニケーションにおける「ことば」	コミュニケーションの要素の一つ、「ことば」について解説する
第13回	コミュニケーションの要素	コミュニケーションを考えたときの要素について解説する
第14回	コミュニケーションの限界	コミュニケーションの限界について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な個所や疑問点があれば、その時点で質問するなり紹介する参考資料等を参考にして、理解をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

秋学期のテキストは未定です。

【参考書】

「共時言語学」については、佐久間淳一他（2007）『言語学入門』研究社と千野栄一（1994）『言語学の開かれた扉』三省堂、「コミュニケーション」については、平凡社（1988）『コミュニケーション事典』をあげておきます。

必要に応じて、授業中に紹介したりや支援システムにリストをアップする予定です。

【成績評価の方法と基準】

試験の得点100点満点で評価します。

ただし、このシラバスでは最終回まで授業をし、試験期間に試験を行うという前提で内容を紹介しましたが、受講者の人数によっては、最終回に授業内試験をする可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

知識としてどうこうというよりも、発想法についてこれない学生が多いように、経験的に感じます。

例としてあげる個々の様々な言語の実例を覚える必要はありません。言語学という学問がヒトの言語とはどういうものであると見なしているかという考え方に慣れてください。

【学生が準備すべき機器他】

受講生が多いことが予想されるので、基本的にパワーポイントを使って講義を進めていく予定です。受講生が少なかった場合にはそれに応じてやり方を考えます。

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持とうという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いているだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしてくることを期待します。

【Outline and objectives】

Here we discuss about what is Linguistics. The first, we survey the history of Linguistics. The second, we introduce famous Linguists and their theories. The third, we master the way of the Comparative Study of Linguistics. The fourth, we know the Descriptive Linguistics after Ferdinand de Saussure.

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017年度以降入学者

滝口 清栄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2単位

法1年A～H／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

本講義では、このテーマを踏まえながら、環境と共生という現代的視点から、哲学的テーマをとりあげます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

本講義では、環境と共生をめぐる哲学史のアプローチ、そして現代の理論的問題を明らかにすることを通して、これからの世界を生きる人間と社会のあり方を考える手がかりが得られることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は対面とオンラインを併用するハイブリッド型になる。授業支援システムのホッピーを活用して、資料配布、質疑応答をおこなう。またオンラインのときは、Google-Meetを用いる。対面、オンラインをどう配置するかについては、コロナの状況を見ながら決めていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅰのオリエンテーション	自然と人間との関係についてのとらえ方の違いを扱う。
	自然観をめぐる近代以前と近代	
第2回	哲学の基本的性格 1	近代の哲学者デカルトを通して、自然を支配するというその歴史的意義を扱う。
	考え方	
第3回	哲学の基本的性格 2	権利概念が、哲学の歩みのなかで人間の権利、自然の権利
		どう広がってきたかを扱う。
第4回	哲学の歴史 1	19世紀前半のアメリカのナチュラリスト、ソローを通して、考える。
第5回	哲学の歴史 2	19世紀半ばのドイツの生物学者ヘッケルの提唱した「エコロジー」の意味を明らかにする。
第6回	哲学の歴史 3	20世紀初頭の成果、食物連鎖、エコロジーの発想にもとづく新しい学問的成果
		意味を探索する。
第7回	哲学の歴史 4	1930年代中西部アメリカの砂嵐問題とエコロジーの出会いを扱う。
第8回	哲学の歴史 5	レオポルドのランド・エシックスを取り上げる。
	現代環境思想のフロンティア	

第 9 回	哲学の基本問題 1 現代環境思想 1	生命圏中心主義をとるディープ・エコロジーを取り上げる。
第 10 回	哲学の基本問題 2 現代環境思想 2	アメリカの女性哲学者マーチャントの、社会的公正を重視するラディカル・エコロジーを取り上げる。
第 11 回	哲学の基本問題 3 環境と共生をめぐる現代的テーマ 1	配分的正義の問題を扱う。
第 12 回	哲学の基本問題 4 環境と共生をめぐる現代的テーマ 2	世代間の公正の問題を扱う。
第 13 回	哲学の基本問題 5 環境と共生をめぐる現代的テーマ 3	自然の権利の問題を扱う。
第 14 回	哲学 I のまとめ	春学期に扱った諸問題をふりかえり、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

出席にあたっては、教科書を下読みしていただくことが望ましい。講義で取り扱ったテーマについて、リアクションペーパーに感想や質問を書くことで、さらに理解が深まるでしょう。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
資料は授業支援システムのホッピーでアップします。

【テキスト（教科書）】

滝口清栄『環境と共生のリテラシー』（DTP 出版、1200 円）

【参考書】

『環境と共生のリテラシー』の巻末に一覧をあげておきました。

【成績評価の方法と基準】

試験 90 %、平常点 10 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

「授業改善アンケート」では、私語に対してきちんと対処しているので、静かな雰囲気の中で受講できるという評価を得ています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic characters of philosophy in the historical point of view, then makes clear the fundamental problems of philosophy. In particular this course deals with the relationship of nature, mankind and society.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

滝口 清栄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。

本講義では、近代ドイツの哲学者ヘーゲルを通して、このような問題にアプローチします。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。

本講義では、ヘーゲル哲学をメインにすえて、認識、存在、人間、社会などの根本にある問題を扱います。これらを通して、常識をつねに問い返す哲学的思考に触れることができるでしょう。こうして得られた思考様式が、現代の問題を考える大切なツールになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この講義は対面とオンラインを併用するハイブリッド型です。どのように組み合わせるかは、コロナの状況を見て決めていきます。資料は、授業支援システムのホッピーを使ってアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション 18 - 19 世紀の思想と時代の動き	近代という時代の特徴をつかんで、この時代の哲学思想にアプローチする。
第 2 回	哲学の基本的性格 1 個人の自由と社会	J. ロックを通して、近代の新しいテーマを理解する。
第 3 回	哲学の基本的性格 2 経済の哲学的意義	A. スミスを通して、伝統的な見方が転換する場面を理解する。
第 4 回	哲学の根本問題について 1 自由と共同	ルソーを通して、自由をめぐる独創的な問題提起を理解する。
第 5 回	哲学の根本問題について 2 フランス革命とドイツ思想界	フランス革命がドイツの思想界に与えたインパクトを扱う。
第 6 回	哲学の根本問題について 3 宗教をめぐる哲学的思索	若きヘーゲルの思索の出発点を扱う。
第 7 回	哲学の根本問題について 4 理想と現実	理想と現実との関係をめぐり抜けるとはどういうことか？ ヘーゲルの思索を追う。

第 8 回	哲学の根本問題について 5 〈存在するものの理解〉という視点	現実にアプローチするとはどのようなことか？ ヘーゲルの思索を追う。
第 9 回	哲学の根本問題について 6 哲学は〈体系〉という発想法	ドイツ観念論のなかでライトモチーフとなる体系という発想の特徴を理解する。
第 10 回	哲学の根本問題について 7 近代とはどのような時代か？	ヘーゲルの近代観の特徴を、ほかの諸思想との対比のなかで理解する。
第 11 回	哲学の根本問題について 8 世界を経験して、教養形成の旅	哲学史のなかの奇書『精神現象学』を取り上げる。
第 12 回	現代世界と哲学について 社会をグランドデザインするとはどういうことか？	『法（権利）の哲学』（1820 年）を通して、このテーマにアプローチする。
第 13 回	現代日本と哲学について 人類に発展はあるか？	『世界史の哲学講義』を通して、この問題にアプローチし、あわせて、後世ならびに日本への影響を扱う。
第 14 回	哲学Ⅱのまとめ	秋学期にとりあげた諸問題をふりかえり、論点の整理をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を下読みしてることががのぞましい。講義を聴いて、感想、質問などをリアクションペーパーに書くことを通して、理解を深めてほしい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。資料はホッピーでアップします。

【テキスト（教科書）】

滝口清栄『ヘーゲル哲学入門』（社会評論社、1800 円）

【参考書】

広松渉・加藤尚武編『ヘーゲル・セクション』（平凡社ライブラリー、1500 円）

【成績評価の方法と基準】

学期末授業内試験 90%、平常点 10%として、それらを総合して成績を出します。

【学生の意見等からの気づき】

「授業改善アンケート」では、授業中の私語について、きちんと対処しているので、静かな雰囲気の中で、講義を聴けるという評価を得ています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

In general the philosophy aims for criticizing old ways of thinking and new ways of thinking. From this perspective this course explains major theories from ancient times to modern times. In particular this course deals with Hegels philosophy.

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法 1 年 I～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：

- ・アイデア説の哲学史上の意味
- ・知の普遍性、価値に関する共通理解の可能性の根拠
- ・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、対面授業とオンライン授業（Zoom によるリアルタイム授業）とを組み合わせたハイブリッド授業となります。各授業回の授業形態は「学習支援システム」でお知らせします。

対面でもオンラインでも授業は講義形式です。テキストを解説し、資料を用いて補足説明するという形で、授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5 回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅰのオリエンテーション	この授業について 哲学（愛知） 哲学の方法
第 2 回	哲学の基本的性格 1	世界像と哲学
第 3 回	哲学の基本的性格 2	原理の探求 ヘラクレイトス・ロゴス パルメニデス
第 4 回	哲学の歴史 1	ヌース説 ソクラテス 現象学的方法 ソクラテス VS 快楽主義
第 5 回	哲学の歴史 2	プラトン（1） 愛（エロース）と超越
第 6 回	哲学の歴史 3	プラトン（2） アイデア説
第 7 回	哲学の歴史 4	プラトン（3） アイデア説批判
第 8 回	哲学の歴史 5	プラトン（4） アリストテレスのアイデア説解釈
第 9 回	哲学の基本問題 1	知の普遍性 その可能性の根拠

第10回	哲学の基本問題 2	知性と神：プラトン
第11回	哲学の基本問題 3	知性と神：アリストテレス
第12回	哲学の基本問題 4	モラルの危機と哲学
第13回	哲学の基本問題 5	一元論思想とその問題点 東西の一元論思想
第14回	哲学Ⅰのまとめ	授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読
 授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。
 （履修者は授業前日までにダウンロードして、目を通しておくことを推奨します。）

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
 その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績+平常点（40%）とにより評価する。
 授業内筆記試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんには、何よりもまず、テキスト・資料を深く読むこと、そして思想の本質・核心を正しく・真直ぐに捉えることを強く望みます。解説は丁寧に行います。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is to help students understand the meaning of Plato's idea theory in the history of philosophy, the grounds for the possibility of common understanding on values, and how to overcome relativism, skepticism and the moral crises caused by them.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法 1 年 I～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」・「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
 この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
 ・近代哲学の難問とその解決策。
 ・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
 ・世界像の生成（世界の秩序付け）の原理。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。
 対面でもオンラインでも授業は講義形式です。テキストを解説し、資料を用いて補足説明する形で、授業を進めていきます。
 学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5回実施予定）。
 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第2回	哲学の基本的性格 1	普遍とは？ 唯名論・実在論 オッカムの剃刀
第3回	哲学の基本的性格 2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変更
第4回	哲学の根本問題について 1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第5回	哲学の根本問題について 2	デカルトの二元論
第6回	哲学の根本問題について 3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第7回	哲学の根本問題について 4	認識批判 1 共有可能な知識とは？
第8回	哲学の根本問題について 5	認識批判 2 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ

第 9 回	哲学の根本問題について 6	カントの超越論的哲学 認識の客観性
第 10 回	哲学の根本問題について 7	カントと近代哲学の難問 (カント哲学の意義と問題点)
第 11 回	哲学の根本問題について 8	超越論的哲学の展開 1 超越論的現象学
第 12 回	哲学の根本問題について 9	超越論的哲学の展開 2 世界信念
第 13 回	現代世界と哲学について	ニヒリズム ニーチェの対応法 「生きていること」それ自体に意味はあるのか？
第 14 回	哲学 II のまとめ	世界像生成の根本原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読。
授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読。

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998 年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績＋平常点（40%）とにより評価する。
学期末レポート試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメと説明がわかりやすかったようです。これからも丁寧な解説につとめたいと思います。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes. This course gives an explanation of the problems arisen from Descartes' dualism and Kant's and Husserl's solutions to the problems. This course also gives students an understanding of the problem of nihilism pointed out by Nietzsche and his solutions to the problem.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。
この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。
この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：
・アイデア説の哲学史上の意味
・知の普遍性、価値に関する共通理解の可能性の根拠
・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、対面授業とオンライン授業（Zoom によるリアルタイム授業）とを組み合わせたハイブリッド授業となります。各授業回の授業形態は「学習支援システム」でお知らせします。
対面でもオンラインでも授業は講義形式です。テキストを解説し、資料を用いて補足説明するという形で、授業を進めていきます。
学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5 回実施予定）。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	この授業について 哲学（愛知） 哲学の方法
第 2 回	哲学の基本的性格 1	世界像と哲学
第 3 回	哲学の基本的性格 2	原理の探求 ヘラクレイトス・ロゴス パルメニデス
第 4 回	哲学の歴史 1	ヌース説 ソクラテス 現象学的方法 ソクラテス VS 快楽主義
第 5 回	哲学の歴史 2	プラトン（1） 愛（エロース）と超越
第 6 回	哲学の歴史 3	プラトン（2） アイデア説
第 7 回	哲学の歴史 4	プラトン（3） アイデア説批判
第 8 回	哲学の歴史 5	プラトン（4） アリストテレスのアイデア説解釈
第 9 回	哲学の基本問題 1	知の普遍性 その可能性の根拠

第10回	哲学の基本問題 2	知性と神：プラトン
第11回	哲学の基本問題 3	知性と神：アリストテレス
第12回	哲学の基本問題 4	モラルの危機と哲学
第13回	哲学の基本問題 5	一元論思想とその問題点 東西の一元論思想
第14回	哲学Ⅰのまとめ	授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読
 授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。
 （履修者は授業前日までにダウンロードして、目を通しておくことを推奨します。）

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
 その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績+平常点（40%）とにより評価する。
 授業内筆記試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんには、何よりも、テキスト・資料を深く読み、思想の本質・核心を正しく・真直ぐに捉え理解していく態度・心掛けを強く望みます。解説は丁寧に行います。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is to help students understand the meaning of Plato's idea theory in the history of philosophy, the grounds for the possibility of common understanding on values, and how to overcome relativism, skepticism and the moral crises caused by them.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」・「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
 この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
 ・近代哲学の難問とその解決策。
 ・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
 ・世界像の生成（世界の秩序付け）の原理。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。
 対面でもオンラインでも授業は講義形式です。テキストを解説し、資料を用いて補足説明する形で、授業を進めていきます。
 学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5回実施予定）。
 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第2回	哲学の基本的性格 1	普遍とは？ 唯名論・実在論 オッカムの剃刀
第3回	哲学の基本的性格 2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変更
第4回	哲学の根本問題について 1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第5回	哲学の根本問題について 2	デカルトの二元論
第6回	哲学の根本問題について 3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第7回	哲学の根本問題について 4	認識批判 1 共有可能な知識とは？
第8回	哲学の根本問題について 5	認識批判 2 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ

第9回	哲学の根本問題について6	カントの超越論的哲学 認識の客観性
第10回	哲学の根本問題について7	カントと近代哲学の難問 (カント哲学の意義と問題点)
第11回	哲学の根本問題について8	超越論的哲学の展開1 超越論的現象学
第12回	哲学の根本問題について9	超越論的哲学の展開2 世界信念
第13回	現代世界と哲学について	ニヒリズム ニーチェの対応法 「生きること」それ自体に意味はあるのか？
第14回	哲学Ⅱのまとめ	世界像生成の根本原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読。
授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読。

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート試験の成績（60％）と授業内容確認小テストの成績＋平常点（40％）とにより評価する。
学期末レポート試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメと説明がわかりやすかったようです。これからも丁寧な解説につとめたいと思います。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes. This course gives an explanation of the problems arisen from Descartes' dualism and Kant's and Husserl's solutions to the problems. This course also gives students an understanding of the problem of nihilism pointed out by Nietzsche and his solutions to the problem.

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

文1年A～I／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、わたしたちを導く教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

哲学映画《星の王子さま》《ソフィーの世界》と《マトリックス三部作》とを、高画質のDVD映像で上映します。《星の王子さま》では、哲学の基本的性格について、《ソフィーの世界》では西洋哲学の歴史について、《マトリックス三部作》では、哲学の基本問題について学びます。その際に担当教員による詳細な哲学的解明をメインにします。授業時課題レポートの講評は、次回授業でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1話	哲学Ⅰのプレゼンテーション	講義シラバス解説
第2話	哲学の基本的性格1	《星の王子さま》と哲学の問い
第3話	哲学の基本的性格2	哲学的思考と哲学の暫定的定義
第4話	哲学の歴史1	古代ギリシアの哲学
	《ソフィーの世界Ⅰ》	
第5話	哲学の歴史2	中世・近世の哲学
	《ソフィーの世界Ⅱ》	
第6話	哲学の歴史3	現代の哲学
	《ソフィーの世界Ⅲ》	
第7話	哲学の基本問題1《マトリックスⅠ》	現実世界について
第8話	哲学の基本問題2《マトリックスⅡ》	現実と虚構の区別について
第9話	哲学の基本問題3《マトリックス・リローデッドⅠ》	行為の因果性について
第10話	哲学の基本問題4《マトリックス・リローデッドⅡ》	運命と自由意志の関係について
第11話	哲学の基本問題5《マトリックス・レボリューションズⅠ》	生命に目的はあるか？ 1
第12話	哲学の基本問題6《マトリックス・レボリューションズⅡ》	生命に目的はあるか？ 2

- 第13話 哲学の基本問題7《マ》《マトリックス三部作》の哲学的
トリックス解説篇》 解明
- 第14話 哲学Ⅰのまとめ 授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読したり、授業内で紹介された関連文献を調べたりして、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。使用DVDはAVライブラリーで視聴できます。

【参考書】

参考書は、開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

Semester末の授業内試験(70%)を基準として、平常評価(30%)も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

該当事項なし

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with the philosophical principle of culture.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

文1年A～I／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、現代哲学の基本問題を、哲学的映像とスクリーン投射テキストでできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

今期は、学生が常識批判の方法としての懐疑を、現代哲学の学習を通して深めることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すため、マルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組み合わせながら、講義を行ないます。哲学的な映像を、高画質のDVD映像で毎回、上映します。授業時課題レポートの講評は次回授業時に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1話	哲学Ⅱのプレゼンテーション	講義シラバス解説
第2話	哲学の基本性格1	哲学の暫定的定義と方法
第3話	哲学の基本性格2	哲学の懐疑
第4話	哲学の基本問題について1	現実世界について
第5話	哲学の基本問題について2	科学的世界像について
第6話	哲学の基本問題について2	言語について
第7話	哲学の基本問題について3	個人の自由について
第8話	哲学の基本問題について4	幸福について
第9話	哲学の基本問題について5	我執について
第10話	哲学の基本問題について5	道徳について
第11話	哲学の基本問題について6	死について
第12話	現代世界と哲学について	現代世界の精神状況について
第13話	現代日本と哲学について	現代日本の精神状況について
第14話	哲学Ⅱのまとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を毎回、事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用テキストはスクリーンにプロジェクターで投射し、学習支援システムでも公開します。

【参考書】

参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

Semester末の授業内試験を基準 (70%) として、平常評価 (30%) も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

該当項目なし

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with the fundamental problems of contemporary philosophy.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

営 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は学習支援システムを介したオンデマンド授業となります。PDF 教材または動画教材による学習の後、毎回簡単な課題を提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学 I のオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1 — 哲学の問い	隣接学問領域との対比：〈わたし〉というもの
3	哲学の基本的性格 2 — 哲学の暫定的定義と方法	隣接学問領域との対比：他人の心
4	哲学の歴史 1 — 古代	イデア
5	哲学の歴史 2 — 中世	普遍の実在性
6	哲学の歴史 3 — 近世	観念
7	哲学の歴史 4 — 現代 前編	知そのものの来歴：道徳
8	哲学の歴史 5 — 現代 後編	知そのものの来歴：技術
9	哲学の基本問題 1 — 現実世界について	心と身体
10	哲学の基本問題 2 — 現実と虚構の区別について	心の内と外
11	哲学の基本問題 3 — 運命と自由意志の関係について	自由意志と決定論
12	哲学の基本問題 4 — 行為の因果性について	道徳的運
13	哲学の基本問題 5 — 生命に目的はあるか？	生きる意味
14	哲学 I のまとめ	講義内容のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %：成績は平常点に基づいて評価します。具体的には各授業後に提出していただく課題に基づいて評価することになります。課題では自分の考えを述べたり調べものをしたりしていただきます。提出された課題に授業内容との関連性があまり認められない場合は評価が低くなる点にご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでもなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline and objectives】

An overview of the basic nature, history and fundamental issues of philosophy.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

営 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらかできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は学習支援システムを介したオンデマンド授業となります。PDF 教材または動画教材による学習の後、毎回簡単な課題を提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1 —哲学の暫定的定義と方法	隣接学問領域との対比：愛
3	哲学の基本的性格 2 —哲学の懐疑	隣接学問領域との対比：友人
4	哲学の根本問題について 1—現実世界について	
5	哲学の根本問題について 2—科学的世界像について	時間
6	哲学の根本問題について 3—言語について	言葉の意味
7	哲学の根本問題について 4—個人の自由について	自由と平等
8	哲学の根本問題について 5—幸福について	退屈
9	哲学の根本問題について 6—我執について	悪
10	哲学の根本問題について 7—道徳について	道徳の根拠
11	哲学の根本問題について 8—死について	死との向き合い方
12	現代世界と哲学について	寛容
13	現代日本と哲学について	個
14	哲学Ⅱのまとめ	講義内容のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %：成績は平常点に基づいて評価します。具体的には各授業後に提出していただく課題に基づいて評価することになります。課題では自分の考えを述べたり調べものをしたりしていただきます。提出された課題に授業内容との関連性があまり認められない場合は評価が低くなる点にご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline and objectives】

Philosophy criticizes old common sense and creates new common sense. From this point of view, I will explain the fundamental issues of philosophy from ancient times to the present day as plainly as possible, based on the key theories of ancient and modern times.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

谷口 力

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文 1 年 W～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを概観しながら、「世界」、および、「世界」に関するいくつかの論理的な問題（存在論、認識論、言語論、など）について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。

この授業では、主として、次のような各哲学の理解を目標とします。

- ・古代ギリシャ哲学における世界の原理
- ・大陸合理論における世界の構造
- ・イギリス経験論における世界の認識
- ・近代ドイツ哲学における世界の説明
- ・19～20 世紀哲学における世界の解釈
- ・現代分析哲学における世界の分析

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体について説明したうえで、各哲学の内容に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、ポイントを解説し、また、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お応えします。

⇒ 追記（4/4）：大学の方針に沿って、初回はオンラインでの開講（この授業では資料配信型）となり、学習支援システムを使用します。その後の具体的な授業方法については、授業内で追ってご案内します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション～哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・哲学とは何か
第 2 回	哲学の歴史～哲学の基本問題 1 ：古代ギリシャ哲学 (1)	・西洋哲学史全体の流れ ・ソクラテス以前の哲学者たち① (さまざまなアルケー、有)
第 3 回	哲学の基本問題 2 ：古代ギリシャ哲学 (2)	・ソクラテス以前の哲学者たち② (ゼノンのパラドックス、流動説、ヌース)
第 4 回	哲学の基本問題 3 ：古代ギリシャ哲学 (3)	・ソクラテス（無知の知） ・プラトン①（イデア論）

第 5 回	哲学の基本問題 4 ：古代ギリシャ哲学 (4)	・プラトン② (知識とは何か) ・アリストテレス (四原理、デュナミスとエネルゲイア) ・プロティノス (一者、流出説)
第 6 回	哲学の基本問題 5 ：大陸合理論 (1)	・近代への過渡期 ・デカルト (実体、神、精神と物体)
第 7 回	哲学の基本問題 6 ：大陸合理論 (2)	・スピノザ (実体、属性、様態) ・ライプニッツ (モノドロジー、最善世界説)
第 8 回	哲学の基本問題 7 ：イギリス経験論 (1)	・ロック (経験と観念)
第 9 回	哲学の基本問題 8 ：イギリス経験論 (2)	・ヒューム (因果律の否定)
第 10 回	哲学の基本問題 9 ：近代ドイツ哲学 (1)	・バークリ (物質的実体の否定)
第 11 回	哲学の基本問題 10 ：近代ドイツ哲学 (2)	・カント (感性と悟性、カテゴリーと図式、ア・プリオリな総合判断) ・フィヒテ (自我と非我) ・シェリング (主客の無差別) ・ヘーゲル (絶対者の発展、弁証法)
第 12 回	哲学の基本問題 11 ：19～20 世紀哲学	・ショーペンハウアー (意志と表象) ・ニーチェ (真理らしさ、パースペクティヴ) ・ハイデガー (世界-内-存在)
第 13 回	哲学の基本問題 12 ：現代分析哲学 (1)	・ウィトゲンシュタイン (事実の総体、言語批判、語りえぬもの)
第 14 回	哲学の基本問題 13 ：現代分析哲学 (2) ～哲学 I のまとめ	・その他の現代形而上学 ・試験について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。
授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみるのが望ましい。

【テキスト (教科書)】

定まった教科書は用いません。授業時にプリントを配布します。

【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』(上・下巻)、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958 年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

Semester 末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、原則として、期末試験 50%、平常点 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【Outline and objectives】

The main objective of this course is to understand overview of the following major philosophical questions and problems: ‘ world ’ and some related logical problems of ‘ world ’ (ontology, epistemology, linguistic theory, etc.).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

谷口 力

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文 1 年 W～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを概観しながら、「心」、および、「心」に関するいくつかの倫理的な問題 (価値、道徳、生、など) について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】

授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。

この授業では、主として、次のような各哲学の理解を目標とします。

- ・古代ギリシャ哲学における心の原理
- ・大陸合理論における心の構造
- ・イギリス経験論にける心の認識
- ・近代ドイツ哲学における心の説明
- ・19～20 世紀哲学における心の解釈
- ・現代分析哲学における心の分析

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体について説明したうえで、各哲学者の議論に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、ポイントを解説し、また、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お応えします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション～哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・心の哲学とは何か ・西洋哲学史全体の流れ
第 2 回	哲学の根本問題について 1 ：古代ギリシャ哲学 (1)	・ソクラテス (徳の知、死) ・プラトン① (プシュケー、ハデス、想起説)
第 3 回	哲学の根本問題について 2 ：古代ギリシャ哲学 (2)	・プラトン② (魂の正しさ)
第 4 回	哲学の根本問題について 3 ：古代ギリシャ哲学 (3)	・アリストテレス (アニマ) ・近代への過渡期
第 5 回	哲学の根本問題について 4 ：大陸合理論	・デカルト (コギト、心身二元論) ・スピノザ (神、善悪の相対性) ・ライプニッツ (モノドロ)

第 6 回	哲学の根本問題について 5 ：イギリス経験論	・ロック（タブラ・ラサ、感覚と反省） ・ヒューム（知覚の束、同一性の否定） ・バークリ（存在するとは知覚されることである）
第 7 回	哲学の根本問題について 6 ：近代ドイツ哲学（1）	・カント（先験的仮象、実践的要請、定言命法）
第 8 回	哲学の根本問題について 7 ：近代ドイツ哲学（2）	・フィヒテ（自我） ・ヘーゲル（精神現象学）
第 9 回	哲学の根本問題について 8 ：19～20 世紀哲学	・シュティルナー（唯一者） ・ニーチェ（自己、エス） ・ジェイムズ（純粹経験） ・フッサール（志向性）
第 10 回	哲学の根本問題について 9 ：現代分析哲学（1）	・ウィトゲンシュタイン①（独我論の貫徹および消去、視野の比喻） ・ライル（カテゴリー-ミステイク）
第 11 回	哲学の根本問題について 10 ：現代分析哲学（2）	・現代の心の哲学①（行動主義、心脳同一説、機能主義、消去主義、随伴現象説、性質二元論、など）
第 12 回	哲学の根本問題について 11 ：現代分析哲学（3）	・現代の心の哲学②（非法則的一元論、クオリア、認知的閉鎖、さまざまな思考実験、など）
第 13 回	哲学の根本問題について 12 ：現代分析哲学（4）	・ウィトゲンシュタイン②（生きている人間、目、まなざし、微笑み）
第 14 回	哲学の根本問題について 13 ：大乘仏教の哲学～現代世界および現代日本と哲学について～哲学Ⅱのまとめ	・炎のたとえ ・心の哲学が教えること ・試験について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。
授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

定まった教科書は用いません。授業時にプリントを配布します。

【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』（上・下巻）、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958 年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、原則として、期末試験 50%、平常点 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【Outline and objectives】

The main objective of this course is to understand overview of the following major philosophical questions and problems: ‘mind’ and some related ethical problems of ‘mind’ (value, moral, life, etc.).

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

営 1 年 J～U / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。特にこのⅠの講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何かが切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅰのオリエンテーション	ガイダンス 哲学とは？
2	哲学の基本的性格 1	プラトン (1) 「イデアの萌芽」としての人間存在
3	哲学の基本的性格 2	プラトン (2) 『饗宴』アリストファネスの話
4	哲学の歴史 1	プラトン (3) 『饗宴』ソクラテスの話
5	哲学の歴史 2	西田幾多郎 (1) 『善の研究』 - 「知即愛」の命題
6	哲学の歴史 3	西田幾多郎 (2) 「主客合一」としての人間存在
7	哲学の歴史 4	和辻哲郎 (1) 『倫理学』 - 「間柄」としての人間存在
8	哲学の歴史 5	和辻哲郎 (2) 「矛盾的統一」としての人間存在
9	哲学の基本問題 1	和辻哲郎 (3) 『風土』 - 「風土」のうちに己を見出す人間存在
10	哲学の基本問題 2	和辻哲郎 (4) 主体としての風土
11	哲学の基本問題 3	ブーバー (1) 『我と汝』
12	哲学の基本問題 4	ブーバー (2) 「汝」としての世界
13	哲学の基本問題 5	ブーバー (3) 「本質行為」としての人間
14	哲学Ⅰのまとめ	ふりかえりと試験対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げられ、その一部が教材プリントとして授業内でも配布される下記の文献は、すべて岩波文庫で入手できるので、学生は、授業計画に合わせてこれらの文献を読むことが推奨される。
 プラトン『饗宴』、西田幾多郎『善の研究』、和辻哲郎『倫理学』（一）、和辻哲郎『風土』、マルティン・ブーバー『我と汝・対話』
 復習として、講義の内容をノートで整理すること。
 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、試験 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

期末の参照可テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline and objectives】

This lecture is a philosophical human theory trying to think about human nature. In modern times where we are forced to make choices and decisions about the new way of human beings that we have never considered before, such as through the development of new technologies, something is being deeply questioned about humanness. We will also focus on Japanese philosophy and ideas after the 20th century.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

営 1 年 J～U / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間の欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子を見ます。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅱのオリエンテーション	ガイダンス 哲学への導入
2	哲学の基本的性格 1	今西錦司 生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
3	哲学の基本的性格 2	その 2 生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
4	哲学の根本問題について 1	アリストテレス 自己形成的世界観としての形而上学
5	哲学の根本問題について 2	その 2 自己形成的世界観としての形而上学
6	哲学の根本問題について 3	自己形成的世界観の展開としての近代哲学 近代化の原理としての主観客観二元論
7	哲学の根本問題について 4	デカルトの近代的世界観 近代的主客二元論
8	哲学の根本問題について 5	デカルト (2) 近代的主客二元論
9	哲学の根本問題について 6	デカルト (3) 「近代的分裂」の予告としての近代的主客二元論
10	哲学の根本問題について 7	「近代化」と「近代的分裂」の原理としての主客二元論 近代哲学の分裂－合理論と経験論
11	哲学の根本問題について 8	カントとヘーゲル カントによる近代哲学の分裂克服の試み
12	現代世界と哲学について	カントとヘーゲル カントのアンチノミー論

13	現代日本と哲学について	カントとヘーゲル	ヘーゲルの弁証法的世界観
14	哲学Ⅱのまとめ	カントとヘーゲル	ヘーゲルの弁証法的世界観その2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱われる下記の文献などは事前に読むことが推奨される。
今西錦司『生物の世界』、アリストテレス『形而上学』、デカルト『省察』
復習として、講義の内容をノートで整理すること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、試験100%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

期末の参照可テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

☆2020年度は授業動画を視聴するパソコン。また毎回確認テストとしてgoogleフォームテストでテストを受ける。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline and objectives】

Western philosophy began with human desire to explore the root of all things with the power of human reason and to position himself in the whole world captured as such. In the lecture, we see how these metaphysical needs are behind various intellectual explorations up to the present age, becoming a self-organizing-world-view that the world as a whole is very vivid and self-organizing.

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

文1年L～R、国1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、人間の知のあり方を、広くて新しい視野から考えることを目的とします。

【到達目標】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題の概観を通して、知ることの意味を捉え直します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅰのオリエンテーション	学問としての哲学
第2回	哲学の基本的性格1	自然を知ること—自然哲学—
第3回	哲学の基本的性格2	人間を知ること—ソクラテス—
第4回	哲学の歴史1	知の可能性について1—プラト—
第5回	哲学の歴史2	知の可能性について2—アリス—
第6回	哲学の基本問題1	『国家』を読む
第7回	哲学の歴史3	信仰と知—中世哲学—
第8回	哲学の歴史4	人間的理性について—近代哲学—
第9回	哲学の歴史5	考えることと感ずること1—大陸合理論—
第10回	哲学の歴史6	考えることと感ずること2—イギリス経験論—
第11回	哲学の基本問題2	『方法序説』を読む
第12回	哲学の歴史7	自然と自由—カント—
第13回	哲学の歴史8	社会と歴史を知ること—ドイツ観念論—
第14回	哲学の基本問題3	人間の知のあり方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容理解度30%、学期末レポート70%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容と授業の内容理解度のバランスを随時調整します。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and history of philosophy.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

文 1 年 L～R、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の根本問題を、イマヌエル・カントの哲学思想を手がかりにしながらかできるだけ平明に解説します。カント哲学の観点からグローバル化時代について考えることをテーマとします。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、哲学の観点から時代状況について考える力を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	時代状況と哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	近代の哲学思想 1—デカルト—
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の哲学思想 2—ロック—
第 4 回	哲学の基本的性格 3	カント哲学の概要
第 5 回	哲学の根本問題について 1	カントの理論哲学
第 6 回	哲学の根本問題について 2	『純粋理性批判』を読む 1—超越論的感性論—
第 7 回	哲学の根本問題について 3	『純粋理性批判』を読む 2—超越論的分析論—
第 8 回	哲学の根本問題について 4	『純粋理性批判』を読む 3—概念の分析論—
第 9 回	哲学の根本問題について 5	『純粋理性批判』を読む 4—純粋悟性概念の演繹について—
第 10 回	哲学の根本問題について 6	カントの実践哲学
第 11 回	現代世界と哲学について 1	現代の哲学思想
第 12 回	現代世界と哲学について 2	カント哲学の解釈
第 13 回	現代世界と哲学について 3	カントの世界市民主義
第 14 回	現代日本と哲学について 4	グローバル化時代の哲学
	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容と授業の内容理解度のバランスを随時調整します。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of Kant's philosophy to students taking this course.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

文 1 年 T～V、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。哲学は子供から大人、老年に至るまで、才能の有無、向き不向きを問うことなく、人間として誰もが考えるべき問いを探究するものです。本講義は、古今東西の思想家に、この問いを訪ねてゆきます。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考えます。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。特にこの講義では、人間存在（自己）の哲学的在り方と人間を超える存在との関わりを理解し、説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に学習支援システムでのオンライン授業（オンデマンド授業・資料型）とする。事情が許せば、3 回程度、教室で対面授業を実施する。質問等のフィードバックは授業内で行う。詳細はオンライン授業開始時に示す。

ただし状況によっては変更あるものと心得ておいてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	講義全体の外観とシラバスの解説
第 2 回	哲学の基本的性格 1 — 哲学の暫定的定義と方法	「愛知」としての哲学と自己
第 3 回	哲学の基本的性格 2 — 哲学の問い	哲学と科学の関連と相違
第 4 回	哲学の歴史 1 — 近代 ①	ニーチェ：解釈論と試みとしての哲学
第 5 回	哲学の歴史 2 — 近代 ②	ニーチェ：超人、自己、運命愛
第 6 回	哲学の歴史 3 — 現代 ①	ヤスパース：実存と永遠
第 7 回	哲学の歴史 4 — 現代 ②	ヤスパース：超越者の「言葉」
第 8 回	哲学の基本問題 1 — 死について①	ハイデガー：死に関わる人間存在
第 9 回	哲学の基本問題 2 — 死について②	ドストエフスキー：死と魂の不滅
第 10 回	哲学の基本問題 3 — 現実と非現実について	ドストエフスキー：悪魔の存在
第 11 回	哲学の基本問題 4 — 人生に目的はあるか？	清沢満之：絶対無限と自己
第 12 回	哲学の歴史 5 — 古代	エピクテトス：我執、運命、自由意志
第 13 回	哲学の歴史 6 — 中世	証空：浄土教における無限者との一体化

第14回 哲学Ⅰのまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で提示する教材文書を読み返すこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

ヤスパース『新版 哲学入門』林田新二訳、リベルタス出版、2020年、2700円（税抜）。

その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中ごろのレポート（40%くらい）と学期末のレポート（60%くらい）の2つにより評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

【Outline and objectives】

This course deals with the defining characteristics, the history and the questions of philosophy.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

文1年T～V、環1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、通俗的常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

授業のテーマは、通俗的な意識への批判（存在意識の変革）であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。特にこの講義では、人間存在と人間を超える存在との関わりを、近現代社会の哲学的な状況をも意識しつつ、理解し説明できることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に学習支援システムでのオンライン授業（オンデマンド授業・資料型）とする。事情が許せば、3回程度、教室で対面授業を実施する。質問等のフィードバックは授業内で行う。詳細はオンライン授業開始時に示す。

ただし状況によっては変更あるものと心得ておいてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義全体の概観とシラバスの解説
第2回	哲学の基本的性格—哲学の暫定的定義と方法、哲学の懐疑	哲学することの動機
第3回	哲学の根本問題について1—科学的認識と行為の因果性について	カントの認識論
第4回	哲学の根本問題について2—道徳、自由、幸福について	カント：道徳と宗教
第5回	哲学の根本問題について3—現実世界と人間存在について	ヤスパース：包摂者論
第6回	哲学の根本問題について4—真理について	ヤスパース：理性と交わり
第7回	哲学の根本問題について5—哲学的世界像について	古代ギリシャの存在論
第8回	哲学の根本問題について6—現実世界の運動について	ヘーゲルの弁証法
第9回	哲学の根本問題について7—近世日本の道徳観	伊藤仁斎の「仁」の思想
第10回	現代日本と哲学について1	夏目漱石：現代日本批判と自己本位

- 第11回 現代日本と哲学について 夏目漱石：道と天
て2
- 第12回 現代世界と哲学について 小林秀雄：信じられる自己、言葉、物、美
て1
- 第13回 現代世界と哲学について 小林秀雄：西洋と日本、自己を超える存在
て2
- 第14回 哲学Ⅱのまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で提示するプリントを読み返すこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

ヤスパーズ『新版 哲学入門』林田新二訳、リベルタス出版、2020年、2700円（税抜）。
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中ごろのレポート（40％くらい）と学期末のレポート（60％くらい）の2つにより評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic subjects of philosophy from ancient to modern times in the critique of a commonly held view.

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2単位

法1年S～Y／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学という難しいという印象があるかもしれないが、何も特別のことではない。私たちは生きてゆく上で、常に様々な行為を選んで、様々な幸せを目指しているが、善く生きて幸福になるためには、よりよく、正しく考えること、つまり哲学が必要なのである。人間の尊厳は考えるということにある。誰もが、正しく考えるために、哲学を学ぶことが必要なのである。

哲学はあらゆる学問の基礎である。学生は、何を学ぶにしても、哲学がその根本に関わることを知るだろう。さらには他の学問、とりわけ、今日、絶大な信頼を持ってその地位の確立されている近代科学のあり方を振り返ることで、哲学の重要性も再確認できるだろう。その上で、哲学を学ぶことで、私たちが幸せによく生きるためにはどうしたらよいかを考えてみたい。哲学とは、本来、学ぶものではなく、自分で考えるものなのだから。

【到達目標】

この授業では西洋の哲学の基礎を学ぶ。哲学は古代ギリシアに誕生した。どのような考えのもとで、哲学が生まれたのか、その後、どのような変遷を辿ったのか、そもそも哲学が問題としたことは何であるのか、古代ギリシアの源流から探りたい。

哲学（Ⅰ）では、哲学の源である古代ギリシア哲学に遡って、哲学とは何か、その根本的な特徴を捉えた上で、哲学はその他の学問や科学とはどう異なるのか、また、なぜ哲学が必要とされるのかなどを探ってみたい。

学生は、まずはオーソドックスな哲学の基礎を学ぶことで、哲学のそもそもの誕生の現場を知ることができる。それは学問の誕生の場でもあるから、すべての学問を学ぶ上での基本的な見取り図を手に入れることができるだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的にプリントを用いた講義形式である。哲学者たちの生き方をめぐるエピソードなども交えながら、オーソドックスな哲学の考え方をわかりやすく講義してゆく。補助資料によって著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、理解を深めてゆきたい。できるだけ、わかりやすい授業を目指す。毎回の課題の提出を重視する。課題のコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	足の裏に影はあるか？
2	哲学の基本的性格 1	「哲学」とは何か？
3	哲学の基本的性格 2	ギリシアにおける「哲学」の誕生
4	哲学の歴史 1 (哲学の出発点 1)	無知の自覚と愛知
5	哲学の歴史 2 (哲学の出発点 2)	ソクラテスの無知の自覚
6	哲学の歴史 3 (哲学の出発点 3)	懐疑、驚き、絶望…（デカルト～ヤスパーズ）

7	哲学の歴史 4 (哲学の究極)	愛についての考察・アイデア論とプラトニックラブ
8	哲学の歴史 5 (哲学とは何か・まとめ)	愛の3つの対象と知への愛
9	哲学の基本問題 1 (哲学と科学 1)	知についての考察——哲学と学問知
10	哲学の基本問題 2 (哲学と科学 2)	対象の違い——部分と全体、本質と現象
11	哲学の基本問題 3 (哲学と科学 3)	方法の違い——仮説と真理、分析と反省
12	哲学の基本問題 4 (哲学と科学 4)	事実と価値・目的と手段
13	哲学の基本問題 5 (哲学と科学 5)	主体知と客体知・相補性
14	哲学Ⅰ まとめと学期 授業内試験・まとめと解説 末試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた著作を、実際に手に取って読んでみる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者は、下記を必ず読むこと。

『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966 年、¥ 814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』内山 勝利、中川 純男、ミネルヴァ書房

『哲学の歴史』1～5、中央公論新社

『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点（40 %）と、学期末試験（レポート）（60 %）によって評価する。試験のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、楽しく哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさをじっくり伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面授業の場合、授業中の私語には厳しく対処し、板書の写メ、スマホも禁止してゆく。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to science.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学（Ⅱ）では、「Ⅲ. 哲学と宗教」、「Ⅳ. 哲学と幸福」について考察する。宗教という嫌いだとか怖いと思う人もいるかも知れないが、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教はどれも同じ神を信じながら、今日、様々な問題を引き起こしているのも事実である。まずは、その思想と歴史的事実をよりよく知ることが重要である。宗教の成立過程を見ることで、宗教の思索の持つ素晴らしい面や意義を知ることができ、また逆に、その問題点や危険性を知ることでもあるだろう。哲学の観点から、今日における宗教の問題を考え、哲学の意義を再考してみたい。

他方で、哲学は人間の真の幸福を探究する。幸福、つまり、善き生とは何か。われわれは誰もが幸福になりたいと願っているが、たとえば、科学だけで、あるいは、宗教によって、幸福になれるのだろうか？ 幸福になるには何よりも哲学が必要である。幸福になるための条件とは何であり、そもそも幸福とは何なのだろうか。哲学の観点から幸福について考えてみたい。

【到達目標】

西洋の文化や思想、芸術に大きな影響を与えてきたキリスト教だが、その教義の形成にはギリシア哲学が大きな影響を与えてきた。学生は、哲学との対比を通して、キリスト教やその他の宗教について、付かず離れずに見る視点を確保することができるだろう。偉大な宗教は、人間の弱さ、惨めさをとことん見つめようとする。哲学は、人間の知の可能性を可能な限り追求する。「信じる」と「知る」とこととの緊張関係において、哲学と宗教の接点を考えてみたい。

また、幸福とは何か？ どうしたらわれわれは幸福な生を送ることができるのか？ 古代ギリシア・ローマの幸福論をみることで、私たちの幸福について考え直してみたい。幸福になるには、よく知ることがいかに大事か、真の幸福の鍵が哲学にあることが理解されるだろう。愚かさこそが、私たちの不幸の原因なのだから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的にプリント配信を用いた講義形式で進める。まずは、哲学と宗教の根本的相違点である知と信の問題に触れる。その上で、ユダヤ教、キリスト教、ギリシア哲学者たちの神観などについて、補助プリントなども用いて概要を把握した上で、哲学と宗教との関わりについて考えたい。また、補助資料によって、哲学者たちの生き方をめぐるユニークなエピソードなども交えながら、著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、オーソドックスな哲学の考え方をわかりやすく講義して理解を深めてゆきたい。できるだけ、分かりやすい授業を目指す。毎回の課題の提出やコメントを重視する。課題やコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。なるべく哲学Ⅰから取るようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	哲学とは何か?哲学と科学と宗教
2	哲学の基本的性格 1	哲学と宗教の相違点——知の立場と信の立場

3	哲学の基本的性格2 (宗教の予備学習1)	ユダヤ教とキリスト教
4	哲学の基本的性格3 (宗教の予備学習2)	キリスト教——愛の宗教
5	哲学の根本問題について1 (哲学と宗教1)	知と信の葛藤——ギリシア哲学とキリスト教
6	哲学の根本問題について2 (哲学と宗教2)	現代における宗教の存在理由—— 理性の偉大さとその限界
7	哲学の根本問題について3 (哲学と宗教3)	宗教心の源泉——パスカル『パンセ』より
8	哲学の根本問題について4 (哲学と宗教4)	自由意志と悪の問題——パスカルとアウグスティヌス
9	哲学の根本問題について5 (哲学と宗教5)	自力と他力——人間の強さと弱さについて
10	現代日本と哲学について (哲学と幸福1)	幸福論——哲学とよき生について
11	現代日本と哲学について (哲学と幸福2)	意志の弱さと選択の問題
12	現代世界と哲学について (哲学と幸福3)	正義と幸福——ソクラテスの場合
13	現代世界と哲学について (幸福論の系譜)	ソクラテスの後継者たち——禁欲主義と快楽主義
14	哲学Ⅱ まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れて、興味を持った哲学者の著作を、自分で手に取って読んでみて下さい。本授業の準備・復習時間は、各々2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者は、下記を必ず読むこと。
『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966年、¥814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』
内山 勝利、中川 純男著、ミネルヴァ書房
『哲学の歴史』1～5、中央公論新社
『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点（40％）と、学期末試験（レポート）（60％）によって評価する。毎回の課題を提出済みであること。学期末試験のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、じっくり楽しく哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさを伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面授業の場合、授業中の私語には厳しく対処し、板書の写メ、スマホも禁止してゆく。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to religion. And also this course introduces the philosophical theory of eudaemonics (happiness) to students taking this course.

PHL100LA

倫理学Ⅰ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

法1年A～H／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを目指す。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムによるオンライン授業、オンデマンド授業・資料型で行う。課題等のフィードバックは授業内で行う。詳細はオンライン授業開始時に示す。

ただし、状況によっては変更あるものと心得ておいてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第2回	倫理学とは何か	倫理学の根本問題、善、自己、社会（共同体）、超越者
第3回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？ ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第4回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第5回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？ 釈尊の四諦と自己
第6回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第7回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第8回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？ 福音書におけるイエスの思想
第9回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想
第10回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	カント倫理学①「道徳法則」
第11回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	カント倫理学② 自由とは何か？

- 第12回 私は自分の義務をなす 功利主義（ベンサム、ミル）
べきか？（3）
- 第13回 私は法にかなったこと 社会契約論
をなすべきか？
- 第14回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料を使用して予習・復習をすること。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中ごろのレポート（40％くらい）と学期末のレポート（60％くらい）の2つにより評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic questions and thoughts of ethics.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

法1年A～H／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交錯する現代世界の中で生れてきた倫理的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあって、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムによるオンライン授業、オンデマンド授業・資料型で行う。課題等のフィードバックは授業内で行う。詳細はオンライン授業開始時に示す。

ただし、状況によっては変更あるものと心得ておいてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第2回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第3回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	「生きるに値する命」とは何か？ 生命倫理学の基本概念
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	脳死と臓器移植の問題① 「脳死」とは何か
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	脳死と臓器移植の問題② 脳死と臓器移植への思想的批判
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	person（人格、人間）とは何か？ エンゲルハートの生命倫理学
第7回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？ 環境倫理学の根本問題
第8回	環境は保護しなければならないのか？（2）	動物倫理学 動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か
第9回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21世紀の倫理学に向けて 桑子敏雄の「空間の履歴」
第10回	環境は保護しなければならないのか？（4）	持続可能な社会とは何か？ 大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）

- 第11回 人間の責任はどこまで 世代間倫理（フレチュット）
及ぶのか？（1）
- 第12回 人間の責任はどこまで 責任という原理（ヨナス）
及ぶのか？（2）
- 第13回 何が暴力を抑止するの 暴力と倫理学
か？
- 第14回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料を使用して予習・復習をすること。また、授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中ごろのレポート（40%くらい）と学期末のレポート（60%くらい）の2つにより評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

【Outline and objectives】

This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

杉本 隆久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

文 1 年 L～X・キ／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の「ハイブリッド型授業」（対面授業とZoomでのリアルタイム型オンライン授業の組み合わせ）です。当授業では、対面授業の回とオンライン授業の回を組み合わせで実施します。ただし、他の授業との関係で受講者が対面授業やオンライン授業に出席できない場合のことを考えて、オンデマンド授業（対面欠席者対象）とZoomでの授業を録画した映像授業も併せて実施します。授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

なお大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインでZoomでのリアルタイム型オンライン授業を行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第2回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第3回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第4回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第5回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第6回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第7回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学

- 第 8 回 私は自分の義務をなす 功利主義
べきか？（1）
- 第 9 回 私は自分の義務をなす 自由とは何か？
べきか？（2）
- 第 10 回 私は自分の義務をなす カント倫理学
べきか？（3）
- 第 11 回 私は法になかったこと 法実証主義
をなすべきか？（1）
- 第 12 回 私は法になかったこと 社会契約論
をなすべきか？（2）
- 第 13 回 私は法になかったこと 自由主義・共同体主義
をなすべきか？（3）
- 第 14 回 まとめ 授業のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツ、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらう（Hoppii を利用することを考えています）。また期末にレポートを提出してもらう。以上の 2 点を総合して評価する。
評価の比率は、課題 60%、期末レポート 40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【その他の重要事項】

倫理学Ⅱも併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline and objectives】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

杉本 隆久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

文 1 年 L～X・キ／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題と取り上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の「ハイブリッド型授業」（対面授業と Zoom でのリアルタイム型オンライン授業の組み合わせ）です。当授業では、対面授業の回とオンライン授業の回を組み合わせで実施します。ただし、他の授業との関係で受講者が対面授業やオンライン授業に出席できない場合のことを考えて、オンデマンド授業（対面欠席者対象）と Zoom での授業を録画した映像授業も併せて実施する予定です。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

なお大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで Zoom でのリアルタイム型オンライン授業を行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するの	「正義の戦争」はありうるか？ か？（1）
第 2 回	何が暴力を抑止するの	暴力の倫理学 か？（2）
第 3 回	何が暴力を抑止するの	テロリズムと戦争 か？（3）

- 第4回 私は生命を操作する権利があるのか？（1） 生存権／人権とは何か？
- 第5回 私は生命を操作する権利があるのか？（2） 「生きるに値する命」とは何か？
- 第6回 私は生命を操作する権利があるのか？（3） 動物倫理学
- 第7回 私は生命を操作する権利があるのか？（4） 生命倫理
- 第8回 人間の責任はどこまで及ぶのか？（1） 責任という原理（ヨナス）
- 第9回 人間の責任はどこまで及ぶのか？（2） 科学技術の倫理
- 第10回 人間の責任はどこまで及ぶのか？（3） 世代間倫理
- 第11回 環境は保護しなければならぬのか？（1） 環境倫理学とは何か？
- 第12回 環境は保護しなければならぬのか？（2） 持続可能な社会とは何か？
- 第13回 環境は保護しなければならぬのか？（3） 21世紀の倫理学に向けて
- 第14回 まとめ まとめの授業を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・カール・ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年
など

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらう（Hoppii）を利用して考えています。また期末にレポートを提出してもらう。以上の2点を総合して評価する。
評価の比率は、課題60%、期末レポート40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【その他の重要事項】

倫理学Ⅰも併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline and objectives】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

PHL100LA

倫理学Ⅰ

2017年度以降入学者

伊藤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

法1年I～N・Y／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず哲学的、倫理的に問うということそのものを考える。そのうえで、各テーマに沿って、倫理的諸問題がどのように扱われてゆくかをみてゆく。毎回、資料を配付し、パワーポイントを用い、それに従って講義する。受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足する。倫理学をはじめて学ぶ者にも、理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第2回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第3回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第4回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第5回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第6回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第7回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学
第8回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義
第9回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？
第10回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学
第11回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義
第12回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論
第13回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義
第14回	まとめ	まとめと授業内テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に、ノートを含んだ資料を配付する。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】

学期末にテストを行なう。

成績評価の基準は次のようにする。

授業への貢献度 30%；小テスト 20%；テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答をします。

コメントペーパーを見ていると、4月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。

哲学的・倫理的に考えることが、少しずつですが定着していると思えます。

【Outline and objectives】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

伊藤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 I～N・Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題を取り上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず哲学的、倫理的に問うということそのものを考える。そのうえで、各テーマに沿って、倫理的諸問題がどのように扱われてゆくかをみてゆく。毎回、資料を配付し、パワーポイントを用い、それに従って講義する。受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足する。倫理学をはじめて学ぶ者にも、理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するの	「正義の戦争」はありうるか？ か？（1）
第 2 回	何が暴力を抑止するの	暴力の倫理学 か？（2）
第 3 回	何が暴力を抑止するの	テロリズムと戦争 か？（3）
第 4 回	私は生命を操作する権	生存権／人権とは何か？ 利があるのか？（1）
第 5 回	私は生命を操作する権	「生きるに値する命」とは何か？ 利があるのか？（2）
第 6 回	私は生命を操作する権	動物倫理学 利があるのか？（3）
第 7 回	私は生命を操作する権	生命倫理学 利があるのか？（4）
第 8 回	人間の責任はどこまで	責任という原理（ヨナス） 及ぶのか？（1）
第 9 回	人間の責任はどこまで	科学技術の倫理 及ぶのか？（2）
第 10 回	人間の責任はどこまで	世代間倫理 及ぶのか？（3）

- 第 11 回 環境は保護しなければ 環境倫理学とは何か？
ならないのか？（１）
- 第 12 回 環境は保護しなければ 持続可能な社会とは何か？
ならないのか？（２）
- 第 13 回 環境は保護しなければ 21 世紀の倫理学に向けて
ならないのか？（３）
- 第 14 回 まとめ これまでのまとめ、レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に、ノートを含んだ資料を配付する。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
など

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポートを提出してもらいます。

成績評価の基準は次のようにする。

平常点 35%；レポート 65%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、Zoom での授業だったので、すこし感想の雰囲気がちがいますが、次のようなコメントがありました。

「秋学期間ありがとうございました。春学期につづき、哲学対話などがあったので、受動的に授業を受けるだけでなかったのが良かったです。倫理学を学んで、自分の考えの幅が広がった気がします。」

授業で「哲学対話」を取り入れたので、コメントにはそのことがふれられています。以下のコメントは、その点についてもっと述べてくれています。「ふつう」とは？ということテーマにして哲学対話をやったのです。

「秋学期は「ふつう」についての哲学対話が特に心に残っています。改めて考えてみると考えるほど疑問が生まれて難しい問題だと思いました。最近でもテレビや話しの中でふつうというワードが出てくると「ふつうって何？」と今まで疑問に思うことのなかったことを疑問に思うようになり、日常生活に新たな疑問が生まれました。家族でもよく話す話題になって「ふつう」の哲学対話は生活に影響を与えました。」

【Outline and objectives】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

田島 樹里奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

営 1 年 A～H、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたり、リアクションペーパーなどを用いながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

* 講義

* 毎回、授業後に簡単なコメントシートを提出。

* 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（１）	「私」とは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（２）	世界の中にあるとはどういうことか？
第 3 回	人間とは何か？（３）	世界の様々な捉え方、世界と「私」
第 4 回	私は何をなすべきか？（１）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（２）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（３）	アリストテレス倫理学：幸福な生とは何か？
第 7 回	私は何をなすべきか？（４）	快楽主義とストア派の倫理学：快楽と禁欲
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（１）	功利主義：「万人の利益」が善なのか？
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（２）	自由とは何か？：自由意志と責任

- 第10回 私は自分の義務をなすべきか？（3） カント倫理学：行為の道徳的価値と義務
- 第11回 私は法になかったことをなすべきか？（1） 法実証主義：法律は絶対的に正しいのか？
- 第12回 私は法になかったことをなすべきか？（2） 社会契約論：人民の主権と法の支配
- 第13回 私は法になかったことをなすべきか？（3） 自由主義・共同体主義：個人の権利と共同体の多元性
- 第14回 まとめ 全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年適宜、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（30％）、期末試験またはレポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ倫理学が身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。

【その他の重要事項】

※ 例え倫理学という科目が初めてであっても、毎回の授業の中で少しずつ理解を深め、徐々に慣れることはできるので心配しないでOK。（基本的に初学者向けの授業です）

※ たんに単位を取るためだけに履修しようと思う人にはお勧めしない。

【Outline and objectives】

This course will introduce and survey the various basic concepts and theoretical framework of ethics. Students will gain practice the critical and philosophical thinking through this course.

During the first part of this course we will introduce the basic concepts and foundational theories of ethics. We will attempt to consider what is definition and what is value. In the second part of the course we will examine some specific topics through philosophical theme. Through this course, students will be able to recognize the importance of ethical values and consideration. In addition, students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

田島 樹里奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

営1年A～H、国1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題を取り上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたり、リアクションペーパーなどを用いながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

＊ 講義

＊ 毎回、授業後に簡単なコメントシートを提出。

＊ 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するの	「正義の戦争」はありうるか？ か？（1）
第2回	何が暴力を抑止するの	暴力の倫理学 か？（2）
第3回	何が暴力を抑止するの	テロリズムと戦争 か？（3）
第4回	私は生命を操作する権	生存権／人権とは何か？ 利があるのか？（1）
第5回	私は生命を操作する権	「生きるに値する命」とは何か？ 利があるのか？（2）
第6回	私は生命を操作する権	動物倫理学 利があるのか？（3）

- 第 7 回 私は生命を操作する権利があるのか？（4） バイオテクノロジーの倫理
- 第 8 回 人間の責任はどこまで 責任という原理（ヨナス） 及ぶのか？（1）
- 第 9 回 人間の責任はどこまで 科学技術の倫理 及ぶのか？（2）
- 第 10 回 人間の責任はどこまで 世代間倫理 及ぶのか？（3）
- 第 11 回 環境は保護しなければ 環境倫理学とは何か？ ならないのか？（1）
- 第 12 回 環境は保護しなければ 持続可能な社会とは何か？ ならないのか？（2）
- 第 13 回 環境は保護しなければ 21 世紀の倫理学に向けて ならないのか？（3）
- 第 14 回 まとめ 総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
田島樹里奈『デリダのポリティカルエコノミー：パレルゴン・自己免疫・暴力』北樹出版、2019 年
その他、適宜授業中に紹介します

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（30 %）、期末試験またはレポート（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。

【その他の重要事項】

倫理学 I を受けてから受講すると、より理解しやすくなります。
リアクションペーパー（コメントシート）の提出をもって出席としますが、内容を重視しています。
※ たんに単位だけ欲しくて履修しようと思う人にはお勧めしません。

【Outline and objectives】

This course will learn applied ethics with emphases on violence, technology, environment and sustainability. This course will recognize a variety of ethical issues and problems when confronted with examples of social and historical situations. By this course students will be able to understand what is applied ethics and why this field is important. In addition, through this course students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

文 1 年 A～I、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、基本的には、講義形式で行う。ただ、受講者各自の理解度を確認するために、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりである。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	・ 受講上の注意 ・ 授業内容についてのイントロダクション
第 2 回	人間とは何か？（2）	・ 「現に問うているのは誰か？」 ・ ハイデガー哲学からみた「私」の位置
第 3 回	人間とは何か？（3）	・ 「世界内存在としての私」 ・ 「私は世界とどのように関わるのか？」
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	・ 「倫理学とは何か？」
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	・ 「絶対的な善とは何か？」 ・ 倫理学と宗教
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	・ アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	・ 快楽主義とストア派の倫理学
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	・ 功利主義 ・ 義務と有用性
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	・ 自由とは何か？ ・ 権利と自由
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	・ カント倫理学 ・ 権利と義務
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	・ 法実証主義 ・ 法と倫理

- 第12回 私は法になかったこと ・社会契約論
をなすべきか？（2） ・国家と個人
- 第13回 私は法になかったこと ・自由主義・共同体主義
をなすべきか？（3） ・政治と倫理
・社会と個人
- 第14回 まとめ ・倫理学の現代的意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・倫理的問題は、私たちが日常生活を営むなかで様々な形で出会う問題が多い。それゆえ、受講生各自は、授業内で指示された様々な倫理的な基本的文献を参考にしながら、自らの倫理的問題を意識することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997年
など

【成績評価の方法と基準】

・定期試験（30％）に加え、リアクションペーパーや小テスト（70％）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにする。

【その他の重要事項】

・倫理学という学問の性質上、私たちが生きている現場で、実践知として生かされなければ、倫理学で学んだ知識は単なる「机上の空論」にすぎない。倫理学説の特徴を理解しながらも、各自がいきている場面で生かしていけない限り、倫理的知は身につかない。したがって、授業に参加するだけでなく、自ら日常生活の中で、日頃から倫理観を問い直す姿勢をもつようにしてもらいたい。

【Outline and objectives】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2単位

文1年A～I、環1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題とをとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、基本的に、講義形式で行われる。ただ、授業で取り上げる応用倫理的な諸問題について、受講生から意見を聞いたり、ディスカッションを行ったりすることも考えている。また、リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の意見を積極的に授業に反映させることも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するか？（1）	・「正義の戦争」はありうるか？ ・戦争倫理学入門
第2回	何が暴力を抑止するか？（2）	・暴力の倫理学
第3回	何が暴力を抑止するか？（3）	・テロリズムと戦争 ・国家に抵抗することは、可能か？
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	・生存権／人権とは何か？ ・生命の尊厳と生命の質
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	・「生きるに値する命」とは何か？
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	・動物倫理学 ・動物保護の倫理
第7回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	・バイオテクノロジーの倫理
第8回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	・責任という原理（ヨナス）
第9回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	・科学技術の倫理
第10回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	・世代間倫理

- 第 11 回 環境は保護しなければ ・環境倫理学とは何か？
ならないのか？（１）
- 第 12 回 環境は保護しなければ ・持続可能な社会とは何か？
ならないのか？（２）
- 第 13 回 環境は保護しなければ ・ 21 世紀の倫理学に向けて
ならないのか？（３）
- 第 14 回 まとめ ・応用倫理学の現代的な意味について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

応用倫理学の領域は多岐に渡るため、受講生各自はそれぞれの興味関心のままに倫理的問題にアプローチすることができる。それゆえ、自分が興味のあるテーマについての様々な文献をよみ、自らの倫理観を見直すように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』鳥崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
など

【成績評価の方法と基準】

定期試験（30 %）に加え、小テスト（70 %）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

応用倫理学の扱う領域は多種多様であり、そこで生ずる倫理的問題もまた多岐にわたっている。その意味では、私たちは、倫理的問題にどこからでも取り組むことができる。それゆえ、受講生各自は、自らの興味関心や素朴な疑問から倫理的問題にアプローチすることができる。そして、応用倫理学の分野（生命倫理学、環境倫理学、情報倫理学、戦争倫理学など）の領域を堪能してもらいたい。

【Outline and objectives】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

佐藤 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

営 1 年 J～U / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回アクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルが 1 の場合は、オンライン授業と対面授業を併用する。レベルが 2 となった場合は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（１） ——現に問うているのは誰か？	人間が人間の本質を問うという営みがどのようなものなのか考える。
第 2 回	人間とは何か？（２） ——世界内存在としての私	人間を「世界内存在」と捉えたハイドガーの思想を解説する。
第 3 回	人間とは何か？（３） ——私は世界とどのように関わるのか？	人間が世界を認識することができるのは精神的な働きによってである。その位置づけについて考察する。
第 4 回	私は何をなすべきか？（１）——倫理学とは何か？	倫理学という学問の概要を倫理学の 3 つのレベルの違いという観点から解説する。
第 5 回	私は何をなすべきか？（２）——絶対的な善とは何か？	「よい」という言葉の相対的な使用と絶対的な使用の区別について考える。
第 6 回	私は何をなすべきか？（３）——アリストテレス倫理学	エウダイモニア（幸福）を中心とするアリストテレス倫理学の特徴を解説する。
第 7 回	私は何をなすべきか？（４）——快楽主義とストア派の倫理学	生涯にわたる苦痛からの解放を求めるエピクロス派と自然に適合した行為を求めるストア派の思想を解説する。

- 第8回 私は自分の義務をなすべきか？（1）——功利主義 公益の最大化をめざす利他主義的幸福主義の立場について考える。
- 第9回 私は自分の義務をなすべきか？（2）——自由意志 倫理学の人間学的前提である「自由とは何か？」について考察する。
- 第10回 私は自分の義務をなすべきか？（3）——カント倫理学 カント倫理学の概要を解説する。
- 第11回 私は法になかったことをなすべきか？（1）——法実証主義 現に通用している法律の妥当性が倫理的にどんな根拠に基づくのかを考える。
- 第12回 私は法になかったことをなすべきか？（2）——社会契約論 ホブズ社会契約論、現代的な契約論ともいえるロールズの思想について解説する。
- 第13回 私は法になかったことをなすべきか？（3）——自由主義・共同体主義 社会的な目標より個人の権利を優先する「自由主義」と共同体としての善を重視する「共同体主義」について考える。
- 第14回 まとめ ※別途定期試験を実施する これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997年
など

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（50％）定期試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline and objectives】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

佐藤 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

営1年J～U／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題ととり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するのか？（1）——「正義の戦争」はありうるか？	正戦論とはなにか、正戦論はどのような戦争を正当化するのか考える。
第2回	何が暴力を抑止するのか？（2）——暴力の倫理学	暴力という観点から戦争を考えろ。
第3回	何が暴力を抑止するのか？（3）——テロリズムと戦争	テロリズムについて戦争倫理学という観点から考察する。
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）——生存権／人権とは何か？	生存権をもつとはいかなることか、その前提条件は何かを考える。
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）——「生きるに値する命」とは何か？	「生きるに値する命」といって何を指すのか、価値をおこなう可能性について考える。
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）——動物倫理学	シンガーの「動物解放論」について解説する。

- 第 7 回 私は生命を操作する権利があるのか？（４）——動物倫理学 動物倫理学と環境倫理学との関係について解説する。
- 第 8 回 人間の責任はどこまで及ぶのか？（１）——責任という原理（ヨナス） ヨナスの責任概念を中心に相互性、の問題について考える。
- 第 9 回 人間の責任はどこまで及ぶのか？（２）——科学技術の倫理 科学技術の発展がもたらす倫理問題を考える。
- 第 10 回 人間の責任はどこまで及ぶのか？（３）——世代内倫理 世代内倫理に対する世代間倫理について解説する。
- 第 11 回 環境は保護しなければならぬのか？（１）——環境倫理学とは何か？ 世代間倫理としての環境倫理学について解説する。
- 第 12 回 環境は保護しなければならぬのか？（２）——持続可能な社会とは何か？ 「持続可能性」という概念について倫理的な観点から考える。
- 第 13 回 環境は保護しなければならぬのか？（３）——21 世紀の倫理学に向けて なぜ地球環境を保護しなければならないのか、その理由を考える。
- 第 14 回 まとめ ※別途定期試験を実施する これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
浅見昇吾、森永審一郎（編）『教養としての応用倫理学』、丸善出版、2013 年
など

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（50 %）定期試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline and objectives】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法 1 年 S～W / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを目指す。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムによるオンライン授業、オンデマンド授業・資料型で行う。課題等のフィードバックは授業内で行う。詳細はオンライン授業開始時に示す。

ただし、状況によっては変更あるものと心得ておいてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第 2 回	倫理学とは何か	倫理学の根本問題、善、自己、社会（共同体）、超越者
第 3 回	人間とは何か？（１）	現に問うているのは誰か？ ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第 4 回	人間とは何か？（２）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第 5 回	人間とは何か？（３）	私は世界とどのように関わるのか？ 釈尊の四諦と自己
第 6 回	私は何をなすべきか？（１）	孔子の仁と学
第 7 回	私は何をなすべきか？（２）	孔子の「天命を知る」
第 8 回	私は何をなすべきか？（３）	絶対的な善とは何か？ 福音書におけるイエスの思想
第 9 回	私は何をなすべきか？（４）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（１）	カント倫理学①「道徳法則」
第 11 回	私は自分の義務をなすべきか？（２）	カント倫理学② 自由とは何か？

- 第12回 私は自分の義務をなす 功利主義（ベンサム、ミル）
べきか？（3）
- 第13回 私は法にかなったこと 社会契約論
をなすべきか？
- 第14回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料を使用して予習・復習をすること。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中ごろのレポート（40％くらい）と学期末のレポート（60％くらい）の2つにより評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic questions and thoughts of ethics.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2単位

法1年S～W／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交錯する現代世界の中で生れてきた倫理的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあって、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムによるオンライン授業、オンデマンド授業・資料型で行う。課題等のフィードバックは授業内で行う。詳細はオンライン授業開始時に示す。

ただし、状況によっては変更あるものと心得ておいてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第2回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第3回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	「生きるに値する命」とは何か？ 生命倫理学の基本概念
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	脳死と臓器移植の問題① 「脳死」とは何か
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	脳死と臓器移植の問題② 脳死と臓器移植への思想的批判
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	person（人格、人間）とは何か？ エンゲルハートの生命倫理学
第7回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？ 環境倫理学の根本問題
第8回	環境は保護しなければならないのか？（2）	動物倫理学 動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か
第9回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21世紀の倫理学に向けて 桑子敏雄の「空間の履歴」
第10回	環境は保護しなければならないのか？（4）	持続可能な社会とは何か？ 大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）

- 第 11 回 人間の責任はどこまで 世代間倫理（フレチェット）
及ぶのか？（1）
- 第 12 回 人間の責任はどこまで 責任という原理（ヨナス）
及ぶのか？（2）
- 第 13 回 何が暴力を抑止するの 暴力と倫理学
か？
- 第 14 回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料を使用して予習・復習をすること。また、授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中ごろのレポート（40％くらい）と学期末のレポート（60％くらい）の2つにより評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

【Outline and objectives】

This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

文 1 年 P～V / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立ちえているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてもわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった！」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。論理学は、その手助けをします。特にこの論理学 I では、アリストテレス以来の伝統的な形式論理学に焦点を当てます。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることができる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムや Google フォームテストを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学とは？
2	論理学の原理	アイデンティティとは何か
3	概念 (1)	概念とは何かー内包と外延、類と種
4	概念 (2)	矛盾概念と反対概念
5	概念 (3)	概念の定義
6	判断 (1)	判断とは何か
7	判断 (2)	判断の分類
8	判断 (3)	オイラーの図形、周延と不周延
9	判断 (4)	ベンの図形
10	推理 (1)	推理とは何か 演繹と帰納、アナロジー
11	推理 (2)	対当推理
12	推理 (3)	変形推理
13	推理 (4)	三段論法の形式
14	推理 (5)	定言三段論法の格式と規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

予習は、事前に教科書の次の章を読む。

復習は、授業で解答が示された教科書の問題を解きなおすこと。

【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 80 %、平常点 20 %で評価。

【学生の意見等からの気づき】

期末テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

授業内でたびたびアクションペーパーの提出があります。

【Outline and objectives】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that. In particular, this logicI focuses on traditional formal logic since Aristotle.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

文 1 年 P～V / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」としているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立ちえているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてもわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった!」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。論理学は、その手助けをします。春学期の論理学Ⅰでは伝統的な形式論理学と呼ばれるものが主に扱われました。それに対してこの秋学期の論理学Ⅱでは、そうした伝統的な形式論理学の問題点や限界を乗り越えようとする近代以降の論理学の試みにも焦点を当てます。ただし、論理学Ⅰの受講を前提とせず独立にとれるように配慮します。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることができる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムや Google フォームテストを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学への導入
2	三段論法 (1)	三段論法の格式と規則
3	三段論法 (2)	三段論法の格式と規則
4	三段論法 (3)	ペンの図形による三段論法の妥当性の判定
5	誤謬論	なぜ誤謬に陥るのか
6	帰納推理 (1)	帰納推理とは何か
7	帰納推理 (2)	ミルの帰納法
8	記号論理学 (1)	記号論理学とは何か
9	記号論理学 (2)	命題論理学
10	記号論理学 (3)	命題の記号化と真理表、簡単な思考装置の設計
11	記号論理学 (4)	結合記号の相互関係
12	記号論理学 (5)	恒真命題
13	記号論理学 (6)	公理主義体系
14	記号論理学 (7)	限量論理学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

予習は、事前に教科書の次の章を読む。
復習は、授業で解答が示された教科書の問題を解きなおすこと。

【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、平常点 20 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

期末テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

【その他の重要事項】

授業内でたびたびアクションペーパーの提出があります。

【Outline and objectives】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that.

In LogicI, things called traditional formal logic were mainly dealt with. On the other hand, this LogicII also focuses on modern logic attempts to overcome the problems and limitations of such traditional formal logic. However, we will be able to take it independently without assuming that you take LogicI.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～N・WX / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々は何を考え、何を行なうにしても、まず論理的に正しく考えなくては、いつどこで誤り、不幸な結果を招くかわからない。では「論理的に正しい」とか「矛盾している」とはどういうことなのか。論理学は、我々の思考のあり方を反省し、その原理と規則を明らかにし、正しい判断をもたらすための学問です。論理的に考える方法を身に付けることは、何を学ぶ上でも大変に重要であって、これなくしてはいかなる学問も成立しません。この授業で、学生は論理的に思考するための基礎的知識を身につけることができます。

【到達目標】

学生は、まずは、概念、命題、推理についてなど、論理的に思考するための基礎知識を学び、身につけることができます。命題のあり方や推理の基本を学ぶことで、論理的思考の訓練になります。レポートや小論文などを書く上でも、言葉や論理に気をつけるようになるでしょう。公務員試験などにも論理学の基礎知識を問う問題も出るようです。何ものを学ぶにも論理学の基礎知識は有用です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この講義では、主として伝統的形式論理学の基礎を学び、正しい推論を形成し論証の妥当性を判定するための基本技術を習得することを目的とします。基本的にはプリントを用いた講義形式ですが、理解を深めるために練習問題を数多く解いてもらいます。身近な例などを用いてわかりやすく説明していきます。論理学は積み重ねが重要なので、毎回の出席（課題の提出）を重視します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。なるべく論理学ⅠとⅡを通して履修するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	論理学とはいかなる学問か
2	思考の根本原理	同一律、矛盾律、排中律について
3	概念論 1、概念とは何か？	概念とは何か、概念の形成
4	概念論 2、概念の性質	概念の性質、内包と外延
5	概念論 3、分類とは何か？	分類体系図とカテゴリー
6	概念論 4、概念の種類	概念の種類・問題演習について
7	命題論 1、命題とは何か？	命題とは何か？ 命題の標準形式について
8	命題論 2、命題の種類	定言命題の基本形式
9	命題論 3、命題の表し方	オイラーの図と周延・不周延
10	命題論 4、問題演習	問題演習
11	推理 1、直接推理	対当関係による推理
12	推理 2、対当関係	対当の四角形と解説
13	推理 3、対当による推理	問題演習

14 前期のまとめと試験 授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共著、梓出版、2013

【参考書】

『論理学』 藤野登著 内田老鶴圃
『論理学講義』 村上恭一著 成文堂

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点（40 %）と、学期末試験の成績（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、丁寧に分かりやすく面白い授業を心がける。対面の場合は、授業中の私語は絶対に禁止なので、授業に集中できるよう私語の排除に配慮したい。板書の写メ、スマホも禁止する。オンラインの場合、酷似した課題やレポートは、どちらも減点の対象とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～N・WX / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学（Ⅰ）で学んだ「概念」や「命題」を元にして、論理学Ⅱでは、主として「推理」をめぐって、論理学の基礎を学ぶ。直接推理、三段論法、仮言推理、両刀論法、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることを目的とする。特に、アリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学んでゆく。実際に問題を解いてみることを通して、思考の見事な規則性を確認するとともに、いかに自分が安易な思い込みや思い違いの中で日々暮らしているか、気づくだろう。論理学を学ぶことで、われわれの思考のパターンと、そのあるべき姿について広く学ぶことができる。

【到達目標】

学生は、直接推理、三段論法、仮言推理、両刀論法、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることができる。例えば、「勉強したら試験に受かるが、勉強しないと試験に受からない」のかどうか……。学生は、特に、アリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学び、解き方を身につけることができる。論理的思考の基礎を身に付けることは、レポートや小論文などを書く際にも大いに役立つだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的な事柄を配布プリントを用いて講義した上で、多くの練習問題を解くことによって理解を深めてゆきます。身近な例を用いて、わかりやすく説明します。例えば「学生は勉強が必要だが、教師は学生でないから、教師は勉強しなくてよい」？。これはどうして変なのか？ いかなる誤謬であるのかなど、いろいろな規則を学びます。毎回の課題を解くことで、理解を深めるように工夫しています。論理学は積み重ねが重要なので、毎回の練習問題や課題の提出を重視します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。なるべく論理学（Ⅰ）と（Ⅱ）を通して履修するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	推理論 1	推理とは何か？
2	変形による直接推理 1、換質法	換質法の解説と問題演習
3	変形による直接推理 2、換位法	換位法の解説と問題演習
4	変形による直接推理 3、換質換位法	換質・換位法のまとめと問題演習
5	間接推理、定言三段論法	三段論法とは何か？
6	三段論法の規則	定言三段論法の公理と規則（1） 公理と 6 つの規則、特に媒概念不周延の誤謬について

7	三段論法の規則（つづき）	定言三段論法の公理と規則（2） 大概念、小概念不当周延の規則について、その他の規則について
8	三段論法の問題演習	問題演習・定言三段論法の格と式について
9	仮言三段論法の解説と演習 1	混合仮言三段論法の解き方と問題演習
10	仮言三段論法の解説と演習 2	純粋仮言三段論法の解き方と問題演習
11	選言三段論法の解説と演習	選言三段論法の解き方と問題演習
12	両刀論法の解説と演習	両刀論法（ジレンマ）の解き方と問題演習
13	記号論理学の基礎	記号論理学への導入
14	後期のまとめと試験	授業内試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共、梓出版、2013

【参考書】

『論理学』 藤野登著 内田老鶴圃
『論理学講義』 村上恭一著 成文堂

【成績評価の方法と基準】

毎回の練習問題や課題の提出を重視します。平常点（40 %）と学期末試験の成績（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、丁寧で分かりやすく面白い授業を心がける。対面の場合、私語厳禁、板書の写メやスマホ禁止に注意喚起する。オンラインの場合、酷似した課題やレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 A～I / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

（論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。）

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みれば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、対面授業とオンライン授業（Zoom によるリアルタイム授業）とを組み合わせたハイブリッド授業となります。各授業回の授業形態は「学習支援システム」でお知らせします。対面でもオンラインでも授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4 回程度実施予定。）

また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。

課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）

第 3 回	概念論	1. 概念の形成過程 2. 概念の外延と内包 3. アリストテレスの概念論 4. 概念の種類
第 4 回	判断論（命題論） 1	1. 判断（命題）とは 2. 命題の種類 3. 定言命題 4. 命題の標準形式化 5. 練習問題
第 5 回	判断論（命題論） 2	1. 周延の概念 2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3. 定言命題において周延をもつ名辞
第 6 回	推理論：直接推理 1	1. 対当関係による推理： 矛盾対当・反対対当 2. 練習問題
第 7 回	推理論：直接推理 2	1. 対当関係による推理： 小反対対当・大小対当 2. 練習問題
第 8 回	推理論：直接推理 3	1. 命題の変形による推理： 換質法・换位法 2. 練習問題
第 9 回	推理論：直接推理 4	1. 命題の変形による推理： 換質换位法 2. 練習問題 3. 排他的命題の標準形式化
第 10 回	推理論：間接推理 1 （定言三段論法）	1. 間接推理（三段論法）の種類 2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3. 定言三段論法の格と式
第 11 回	推理論：間接推理 2 （定言三段論法）	1. 妥当な定言三段論法の見分け方 2. 練習問題（初級）
第 12 回	推理論：間接推理 3 （定言三段論法・仮言三段論法）	1. 練習問題（中級） 2. 仮言命題（条件文）について 3. 純粹仮言三段論法 4. 練習問題
第 13 回	推理論：間接推理 4 （仮言三段論法）	1. 混合仮言三段論法： 前件肯定式・後件否定式 2. 練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績 (70%)、授業内容確認小テストの成績 + 平常点 (30%) により評価します。

学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

成績評価方法として主たる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

論理学は、理解して自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目です。積極的に練習問題に取り組んでください。解説は丁寧に行います。

【Outline and objectives】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 A～I / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という3つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、昨年度までの授業内容とは異なり、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提としていますので、「論理学Ⅰ」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
3. 伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。

上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

授業は基本的に講義形式で行いますが、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。

授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第1回目の小テストを行います。

学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論 (1)：復習	1. 仮言命題（条件文）：逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式
第2回	序論 (2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第3回	命題論理学 (1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第4回	命題論理学 (2)	1. カッコの省略 2. 練習問題 1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第5回	命題論理学 (3)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第6回	命題論理学 (4)	1. 整合的な式・矛盾的な式・トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第7回	命題論理学 (5)	1. 小テスト（筆記試験） 2. 意味論と構文論
第8回	論理トレーニング (1)	1. 否定・反対 2. ド・モルガンの法則 3. 練習問題
第9回	論理トレーニング (2)	1. 「すべて」と「存在する」 2. 逆・裏・対偶 3. 練習問題
第10回	論理トレーニング (3)	1. 条件連鎖 2. 練習問題
第11回	論理トレーニング (4)	1. 存在文の扱い方 2. 消去法 3. 練習問題
第12回	論理トレーニング (5)	1. 背理法 2. 練習問題 3. 接続表現
第13回	論理トレーニング (6)	1. 接続表現（続き） 2. 練習問題
第14回	授業内試験・まとめ	小テスト（筆記試験） まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。課題（宿題）または参考書の練習問題を解く。

特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配付します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013 年

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971 年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

2回の小テストの成績（80％）と平常点（20％）に基づき評価。2回ともいづれも、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

2回とも採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

論理学の授業は、授業中に練習問題をするのが楽しいようです。解説は丁寧に行いますので、積極的に練習問題に取り組んで見てください。

【その他の重要事項】

春学期の「論理学Ⅰ」からの履修を推奨します。

【Outline and objectives】

This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

鶴澤 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

営 1 年 A～J、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することにも役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学 I の授業は、アリストテレスに由来する伝統的論理学を扱い、正しい推論を見極める能力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- ①正しい推理のための基礎的な知識を得ることができる。たとえば、オイラーの図をイメージして、概念間の関係を適切に捉えることができるようになる。
- ②論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につけることができる。たとえば、直接推理や間接推理（三段論法）の規則を使って、正しい推論を行うことができるようになる。
- ③論理的なコミュニケーション能力を習得できる。具体的には、相手が詭弁を弄してきた際に、その論理的な誤謬を指摘し、反論することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の授業は、対面授業を基本としたハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業【Zoom 等のリアルタイム型／オンデマンド型】の組み合わせ）となります。学習支援システム Hoppii を通じて、ナレーション付きのパワーポイント教材、解説動画、授業資料、課題が提供されます。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は、課題に答え、それを送信してください。課題の提出をもって、出席と判断します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業全体のガイダンス と思考の基礎	春学期講義全体（教員紹介、授業のテーマ、到達目標、方法、成績評価基準）、思考の3原則（同一律、矛盾律、排中律）
2	知識の成り立ち	概念、内包と外延、上位と下位、類と種、普遍と特殊、種差と定義、区別と分類、定義とその種類
3	1. 判断・命題、2. オイラーの図、3. 命題の標準形式化	判断・命題の定義、定言命題の4種類（全称肯定、全称否定、特称肯定、特称否定）、概念の周延と不周延、オイラーの図、命題の標準形式化
4	1. 推理の定義と分類、 2. 対当推理	推理の概念、演繹推理と蓋然推理、直接推理と間接推理、真偽と妥当・非妥当、対当推理（矛盾、反対、大小、小反対）

5	変形推理（1. 換質法、2. 换位法、3. 換質换位法、4. 戻換法）	換質法、换位法、换位不可能な命題、換質换位法、戻換法、直接推理の有用性
6	課題プリント（第1回から第5回）の解答と解説、三段論法の概念、種類、定言三段論法	課題プリント（第1回から第5回）の解答と解説、三段論法の概念、種類、定言三段論法
7	定言三段論法の規則	三段論法の導入、三つの一般原則、六つの規則と三つの派生規則
8	定言三段論法の判定、誤謬判定の練習問題、妥当性の判定の練習問題	誤謬判定の練習問題（設問1から設問6）、妥当性の判定の練習問題（設問8から11）
9	定言三段論法の格と式	定言三段論法の格（第1格、第2格、第3格、第4格）、定言三段論法の式、全体及び皆無の原理（第1格）、差異の原理（第2格）、用例の原理（第3格）、逆の原理（第4格）
10	練習問題、仮言三段論法	練習問題の解答と解説、仮言三段論法の概念、種類、肯定式、否定式、妥当な混合仮言三段論法、純粹仮言三段論法（第1格から第4格）
11	仮言三段論法の復習と練習問題、選言三段論法	前件否定の誤謬、後件肯定の誤謬、選言三段論法の概念と種類（肯定否定式、否定肯定式）、選択肢が三個以上の選言三段論法、選言三段論法の規則とその違反
12	両刀論法（ディレンマ）、規則、詭弁的両刀論法に対する反論	両刀論法の概念と分類（単純構成的、単純破壊的、複合構成的、複合破壊的両刀論法）、両刀論法の規則、詭弁的両刀論法に対する反論
13	両刀論法、仮言・選言三段論法の練習問題	両刀論法の練習問題、教科書の練習問題、仮言三段論法の練習問題、選言三段論法の練習問題
14	課題プリントの復習と授業全体のまとめ	課題プリントの復習と授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する（2時間）。
復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する（2時間）。

【テキスト（教科書）】

『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013年、2,100円（ISBN ISBN-10: 4872620321）

【参考書】

①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題プリントの評価など）、②春学期試験の点数。①と②とをそれぞれ50%の割合で総合評価する。課題プリントと期末試験は、授業で示した方法に従って、正しい解答を導き出すことができているかどうかを基準にして評価します。成績評価の基準は、A+(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)、D(59点以下)とし、合格はA+、A、B、Cとします。

A+：優れた学修態度および特に課題プリントの全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。

A：良好な学修態度および課題プリントの非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する理解が認められる。

B：学修態度、課題プリント、試験成績のいずれかが劣っていて、論理的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。

C：消極的な学修態度や最低限の課題プリントの正答率、最低限の試験成績などで論理的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。

D：問題のある学修態度や課題プリントの未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされています。このシステムを活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。もし可能であれば、Web カメラとプリンターを用意してください。

【その他の重要事項】

ハイブリッド型授業の詳細は、学習支援システム Hoppii に掲載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline and objectives】

Learning logic is all about laying the groundwork for us to think and act reasonably. It can help solve the various problems we encounter in our daily lives and also foster the employment skills we need to prepare as members of society. The Logic course deals with traditional logic from Aristotle and aims to develop the ability to determine the correct reasoning.

編澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

営 1 年 A～J、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することにも役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学Ⅱの授業は、科学的思考、認識、歴史に関する論理のほか、論理学Ⅰ（伝統的論理学）で学習した内容を踏まえて、現代の記号論理学（命題論理学）の習得を目的とします。

【到達目標】

- ①科学、認識、歴史のテーマに関して論理的に考えることができる。
- ②真理表や帰謬法を用いて推論の真偽を判定することができる。
- ③仮説構築力・文書構成力・説得力に関する就業力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は、対面授業を基本としたハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業 [Zoom 等のリアルタイム型／オンデマンド型] の組み合わせ）となります。学習支援システム Hoppii を通じて、ナレーション付きのパワーポイント教材、解説動画、授業資料、課題が提供されます。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は、課題に答え、それを送信してください。課題の提出をもって、出席と判断します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび F・ペーコンの帰納法	秋学期セメスターの授業内容、授業の進め方など、F・ペーコンの帰納法論理（イドラ論と四つの表）
第 2 回	J・S・ミルの帰納法	ミルの論理学体系、一致法、差異法、一致差異併用法、剰余法、自然の斉一性の原理、ペーコンとミルの帰納法の共通点と相違点
第 3 回	デカルトとライプニッツの演繹法	デカルト（明晰判明な認識、直観および演繹の確実性）、ライプニッツ（定義論、結合法、根拠律）、両者の共通点と相違点
第 4 回	アンチノミーと弁証法	カントの超越論的論理（超越論的論理、分析論と弁証論、アンチノミー）、ヘーゲルの弁証法論理
第 5 回	文（命題）の真偽および論理的結合	文の真偽、論理的結合詞、真理関数、複合命題の真理値、否定
第 6 回	文の論理的結合	連言、両立的選言、排他的選言、条件（含意）、等値、ブール代数の考え方

第 7 回	文と文の論理的関係の具体相	同一命題の連言、同一命題の両立的選言、同一命題の排反的選言、論理代数のまとめ
第 8 回	つねに真である文と真理表	恒真命題。命題の恒真性を真理表で知る。テキストの問題を解く。
第 9 回	つねに真である文	テキストおよびプリントの問題を解く。
第 10 回	三段論法（推理）の妥当性	三段論法（推論）の妥当性。テキストの問題を解く。帰謬法の導入
第 11 回	帰謬法の概念	教科書およびその他の練習問題を解く。
第 12 回	帰謬法の練習	プリントなどの練習問題、帰謬法を用いた推論の妥当性の検証
第 13 回	帰謬法のまとめ	プリント及び教科書の問題を解く。対偶律、両刀論法
第 14 回	述語論理学の導入	述語論理学の歴史、特徴、量化的考え方、量化的記号

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する（2 時間）。
復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する（2 時間）。

【テキスト（教科書）】

『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013 年、2,100 円 (ISBN ISBN-10: 4872620321)

【参考書】

①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木、石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題プリントの評価など）、②最後に行う秋学期試験の点数。①と②とをそれぞれ 50 % の割合で総合評価します。課題と期末試験は、授業で示した方法に従って、正しい解答を導き出すことができているかどうかを基準にして評価します。成績評価の基準は、S(100-90 点)、A(89-80 点)、B(79-70 点)、C(69-60 点)、D(59 点以下) とし、合格は S、A、B、C とします。なお、ABC に関しては、さらに三区分別に細分化されています。

S：優れた学修態度および特に課題の全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。
A：良好な学修態度および課題の非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する理解が認められる。

B：学修態度、課題、試験成績のいずれかが劣っていて、論理学的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。

C：消極的な学修態度や最低限の課題の正答率、最低限の試験成績などで論理学的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。

D：問題のある学修態度や課題の未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の様々な質問に答えるために、希望者の方にオンラインで面談時間（オフィスアワー）を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii を使い、授業で使った教材や練習問題及びその解答などを随時ダウンロードできるようにします。したがって、自宅でパソコン、インターネット、プリンターなどを使用します。

【その他の重要事項】

Hoppii のメーリングリストを使用して、受講生に連絡を取りますので、授業登録時に連絡可能なメールアドレスを必ず記入してください。

【Outline and objectives】

Learning logic is all about laying the groundwork for us to think and act reasonably. It can help solve the various problems we encounter in our daily lives and also foster the employment skills we need to prepare as members of society. This class aims to acquire modern propositional logic and logic on scientific thinking, cognition, and history.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

大貫 義久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

営 1 年 K～U、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、誤解のないように自分の意思を正しく表現して伝えることが大切です。その正しく考え、表現する仕方を教えてくれるのが論理学です。私たちは普段から思考（推理）していますが、多くの場合、その推理は誤っています。この授業は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなることなのか、また、論理的に正しく思考し表現するためには、どのようにしたらよいのかということ、基礎から順に学んでいきます。そして最後に、日常の生活で正しく思考し行動するためには正しい知識と正しい論理（推理）が必要であることを確認します。

【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に思考し表現する方法が実際に身につくようにすることが、到達目標です。学期末試験は、正しく論理的に思考し表現する力が、身についたかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業の混合で行います。ただし大学の行動方針レベル2になった場合には、オンライン授業で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。オンライン授業では丁寧な資料を配信します。まずは対面とオンラインの授業で、基礎から、多くの例を挙げて、できる限り分かりやすく説明して行きます。また、論理的な思考が実際に身につくようにするために、演習として練習問題に取り組んでもらいます。下の授業計画には、見慣れない多くの論理学用語が出てきますが、恐れることはありません。それら論理学用語の丁寧な説明から始めて行き、その理解の上に立って、正しく思考し、表現することを、順に学びますから。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の内容、論理学への導入
第 2 回	論理学の根本原理について。	同一の原理、矛盾の原理、排中律の原理についての説明
第 3 回	概念について	概念の成り立ち、概念と判断についての説明
第 4 回	概念について	概念の内包と外延、概念の種類についての説明
第 5 回	区分と分類について	区分及び分類とは何か、区分の仕方、分類の仕方について
第 6 回	命題について	判断と命題、定言命題の種類、命題の記号化についての説明。
第 7 回	定言命題の 4 種類とオイラーの図について	定言命題のオイラーの図と、概念の周延・不周延の説明。
第 8 回	判断の命題化（標準形式化）	判断を命題の形にする方法について説明し、練習問題を解く。
第 9 回	推理及び演繹推理について	推理とは何か、命題の真偽と推理の妥当・非妥当等について。

第 10 回	演繹推理の直接推理について	矛盾・反対・大小・小反対のそれぞれの対当推理の説明。
第 11 回	命題の変形による直接推理について	換質法・换位法についての説明
第 12 回	命題の変形による直接推理について	換質换位法及び本格的な推理についての説明
第 13 回	練習問題で推理を身につけよう。	命題の変形による推理の練習問題を授業内で解き、その解説を行う。
第 14 回	授業内試験：まとめと解説	論理的な正しい思考ができるかを見る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初めて論理学を学ぶ学生は、特に学んだ事柄を教科書で復習し、次の授業の内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は 2 時間。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。大貫義久・他『改訂版 論理学の初歩』（梓出版社、2013 年）（アマゾン POD で入手可能）

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）と学期末レポート（60 %）で決定します。オンライン授業に取り組んで下さい。理解しやすいように工夫して説明して行きます。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が「わかりやすい授業だった」、「問題演習もあってよかった」等、書いてくれていました。オンライン授業でも、分かりやすい資料を配信し、理解が進むよう授業を工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業にあたっては、配信資料を受信できるパソコンなどの機器が必要となります。

【Outline and objectives】

This course introduces the basics of the traditional formal logic to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

大貫 義久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

営 1 年 K～U、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、春学期の復習をした上で、「推理」の説明から始めます。特に「判断の変形による直接推理」を扱い、この推理が日常の曖昧な表現（言い方）を正確なものにするのに役立つことを説明します。さらに本格的な推理の三段論法に入り、正しい思考法をまなびます。論理学は、正しく考えるということにおいて、これからの人生の様々な場面において役に立つと思います。正しい思考は正しい知識と正しい論理から可能になりますが、この授業では、その正しい論理（推理）について学ぶのです。

【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に正しく思考し、表現する方法を実際に身につけることが、授業の目標です。春学期よりも少し複雑な論理的思考（推理）を正しく行う方法を身につけます。学期末レポートでは、複雑な論理的思考を正しく行うことができるかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業の混合で行います。ただし大学の行動方針レベル 2 になった場合には、オンライン授業で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。オンライン授業では、丁寧な資料を配信しますのでよく読み内容を理解して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の目標や内容、授業の仕方、評価方法についての説明。秋学期の内容に進むにあたって必要な春学期内容の復習
第 2 回	演繹推理の直接推理について	判断の変形による直接推理:換質法・换位法についての説明
第 3 回	演繹推理の直接推理について（続き）	判断の変形による直接推理:練習問題の解法と説明
第 4 回	演繹推理の間接推理について	定言三段論法について、その構造と規則について学ぶ。
第 5 回	定言三段論法についてのさらなる説明	定言三段論法の格と正しい式についての説明
第 6 回	練習問題で推理を身につけよう。	定言三段論法の練習問題を授業内で解く。
第 7 回	仮言三段論法について	混合仮言三段論法、純粋仮言三段論法についての説明
第 8 回	選言三段論法について	選言三段論法（肯定式・否定式）についての説明
第 9 回	練習問題で推理を身につけよう。	仮言三段論法と選言三段論法の練習問題を授業内で解く。
第 10 回	両刀論法（ディレンマ）について	単純構成的両刀論法、単純破壊的両刀論法、複合構成的両刀論法、複合破壊的両刀論法についての説明

第 11 回	両刀論法と詭弁両刀論法について	詭弁両刀論法の反論について練習問題に取り組む。
第 12 回	現代論理学への導入	命題論理学と述語論理学について。特に命題論理学の説明
第 13 回	命題論理学の演習	問題の解答と説明
第 14 回	まとめ レポート課題	これまでの内容をまとめ、レポート課題を提示します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初めて論理学を学ぶ学生は、学んだ内容を教科書で復習し、次の授業内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は 2 時間。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。 大貫義久・他『改訂版 論理学の初歩』（梓出版社・2013 年）（アマゾン POD で入手可能）

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）と学期末レポート（60 %）で決定します。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が授業について「わかりやすかった」、「推理に興味を持てた」と書いてくれました。内容をもっと理解しやすいものにするために、オンライン授業では、丁寧な資料を配信します。問題にも取り組んでもらい、論理的思考が実際に身に着くようにします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業にあたって、配信資料を受信できるパソコンなどの機器が必要となります。

【Outline and objectives】

This course introduces the basics of immediate inference to students taking this course. Then this course introduces syllogism to students.

Lastly this course gives students a introduction to modern propositional logic. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

滝口 清栄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法 1 年 J～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伝統的論理学が扱う内容を、概念に始まり、命題、命題間の関係、そして命題の変形、虚偽論というかたちで検討していきます。日本では、論理的思考力をメインにあつかう科目は、ようやく大学でとりあげられます。この機会を利用して、しっかりした論理的思考の訓練をしてください。

【到達目標】

人は毎日、言葉を用いて生活しています。人は、自分が文法にしたがって発話していると、とくに思っていない。しかし、文法をよく知るといえるならば、言葉への関心や理解が深まり、言葉を通して、その人の能力もよりよく発揮されるようになるでしょう。

論理についても同じことが言えます。論理的に考えるときに、そのさまざまな規則を学ぶことによって、人は自分の思考能力を高めたり、あるいは自分を表現し他者に伝達する力を身につけることができます。

本講義は受講生のみなさんが論理学を学ぶことを通して、このようになってくれればと思っています。春学期と秋学期はつながっていますので、通年で受講することをすすめます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は対面とオンラインを併用するハイブリッド型になる。授業支援システムのホッピースを活用して、資料配布、質疑応答をおこなう。またオンラインのときは、Google-Meet を用いる。対面、オンラインをどう配置するかについては、コロナの状況を見ながら決めていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	論理的に考えるー論理と接続詞	接続詞を通して、論理的な頭の体操をします。
2	論理学の原理	論理学の基本原則を学ぶ。同一律、矛盾律、排中律
3	概念とは何か？	ひとは概念を通して考え、判断をしている。概念の基本を学ぶ
4	定義と区分	分かるとははっきりと分けることができること。ものごとの道理をつかむ基本は定義と区分にある
5	概念、定義と区分ー練習問題を解く	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める
6	判断とは何か？	判断を通して、私たちはものごとを知っていきます。その基本を学ぶ
7	判断とは何か？ 練習問題を解く	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める
8	対当推理	判断と判断の関係を扱うのが、対当推理です。ていねいに見ていきます

9	対当推理ー練習問題を解く	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める
10	これまでの学習内容の確認のための試験と講評	第一回小テストをおこない、講評します
11	変形推理	一つの判断を、意味内容を同じしたままにして、判断を変形していきます。その基本問題を見ておきます
12	変形推理ー練習問題を解く	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める
13	虚偽論	論理学を学ぶ意義の一つは、論理的にいかさまを見抜く力をつけることです。論理的虚偽の基本パターンをみます
14	虚偽論	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を多く解きます。授業内で解くほかに、課題を出します。また復習きちんとやってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

資料などは、授業支援システムのホッピースを用いてアップします。

【テキスト（教科書）】

大貫義久他著『論理学の初歩』梓出版社、2000 円

【参考書】

論理に親しむうえで、山下正男『論理的に考えること』（岩波ジュニア新書）はおもしろいでしょう。

【成績評価の方法と基準】

試験 90 %、平常点 10 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題を解くことで理解が深まるというコメントが多くみられます。本年も同じように練習問題を解きながら、理解を深めていきます。なお、論理学は積み重ねなので、欠席しないようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

私語は、他の人への迷惑、授業の障害。厳しく対処します。

【Outline and objectives】

This course introduces traditional logic, for example, concept, proposition, deformation reasoning, oppositions and fallaciousness fallacy. To deepen understanding this course gives participants many exercises.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

滝口 清栄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法 1 年 J～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伝統的論理学の、三段論法、両刀論法（ジレンマ）、科学的発見の論理としての帰納法、そして現代の記号論理学として命題論理学の初歩を扱う。

【到達目標】

人は毎日、言葉を用いて生活しています。人は、自分が文法にしたがって発話していると、とくに思っています。しかし、文法をよく知るようにになれば、言葉への関心や理解が深まり、言葉を通して、その人の能力もよりよく発揮されるようになるでしょう。

論理についても同じことが言えます。論理的に考えるときに、そのさまざまな規則を学ぶことによって、人は自分の思考能力を高めたり、あるいは自分を表現し他者に伝達する力を身につけることができます。

本講義は受講生のみなさんが論理学を学ぶことを通して、このようになつてくれればと思っています。春学期と秋学期はつながっていますので、通年で受講することをすすめます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないます。ただし、できるだけ多く問題を解くことによって、思考の訓練をおこないます。

この授業は対面とオンラインを併用するハイブリッド型です。どのように組み合わせるかは、コロナの状況を見て決めていきます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	定言三段論法（1）	二つの前提から結論をひきだす三段論法の規則を学びます。論理的思考が深まるでしょう
2	定言三段論法（2）	三つの円を使って、正しいか間違っているかを判定する、ベン図による判定をおこないます
3	定言三段論法—練習問題	練習問題を通して、理解を深めます
4	仮言三段論法	ふだんの生活のなかで、ひっかかりやすい仮言三段論法があります。この理解を通して、論理的センスを磨きます
5	仮言三段論法—練習問題	練習問題を通して、理解を深めます
6	選言三段論法	選言三段論法のしくみを説明する
7	選言三段論法—練習問題	練習問題を解いて、理解を深めます
8	定言三段論法、仮言三段論法、選言三段論法	これまで学んだ三つの三段論法についての定着度を見るために小テストをおこない、講評する

9	両刀論法	これまでの三つの三段論法を総合した両刀論法のしくみを説明します
10	両刀論法—練習問題を解く	不完全な両刀論法をどう切り返すか？ 練習問題を解きます
11	ミルの帰納法—データをもとに規則を発見する。	近代では科学的発見の論理として、帰納法が重視されます。その基本を学びます
12	帰納法について練習問題を解く	これまでの科学的発見のなかで、どの方法がつかわれていたか、出題します
13	論理的な文を記号で表す	記号論理学のなかでも、命題論理学の初歩を学びます。命題を単位として、推理が妥当かどうかを見ていくものです。その手始めに、いろいろな推理を記号で表す練習をしてみます。
14	真理表を作り、真偽を判定する	そして、実際に表を作り、ある推理が妥当かどうかの判定をおこないます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を多く解きます。授業以外に、課題を出しますから、それを家でやってきてください。また復習をおこなってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。資料等、授業支援システムのホッビーを用いてアップします。

【テキスト（教科書）】

大貫義久他著『論理学の初歩』梓出版社

【参考書】

【参考書】

論理に親しむうえで、山下正男『論理的に考えること』（岩波ジュニア新書）はおもしろいでしょう。

【成績評価の方法と基準】

試験 90 %、平常点 10 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題については、理解が深まるというコメントが多く寄せられますので、本年も同じく練習問題を通して理解を深めるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

練習問題を解くことで、理解が深まるという声を聞きます。こつこつと取り組むことから、得られることが多いと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces syllogism, inductive reasoning and propositional logic first steps. To deepen understanding this course gives participants many exercises.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

菅沢 龍文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法 1 年 S~W / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋の伝統的論理学の基礎 — オイラー図とベン図で知る —
古代ギリシア以来のアリストテレスの伝統的論理学を学びます。(1) 概念、(2) 判断、(3) 推理が三本柱となります。オイラー図やベン図を用いて考えることにより、数少ないシンプルな図形の組合せだけで伝統的論理学を知ることができます。覚えねばならないことは少なく、図形を使って論理的に考える力が身につきます。

【到達目標】

《知識》ヨーロッパの伝統的論理学の基礎的な知識を得る。
《態度》論理的に冷静に考える態度を身につける。
《技能》論理的に正しく推理することができる。
(1) オイラー図を使って伝統的論理学に則った正しい推理ができる。
(2) ベン図を使って伝統的論理学に則る正しい推理ができる。
(3) 図形を使って直観的に正しく考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(1) テキストを用い、必要に応じてプロジェクターを使います。
(2) 各回の授業の終わりに、課題プリントの提出を求めます。
(3) 授業の初めに、前回で提出された課題プリントについての気づきを、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のオリエンテーションと思考の基礎	①授業の受け方 ②何をどのように学ぶのか ③思考の3原則
2	概念と判断	①概念 ②定義 ③判断（オイラー図）
3	直接推理（対当推理）	①存在判断から述定判断への変換 ②対当推理（オイラー図）
4	直接推理（変形推理）	①換質法 ②换位法 ③戻換法（オイラー図）
5	間接推理（三段論法）	①三段論法の妥当性をオイラー図で考える。
6	三段論法の誤謬論	①量の公理 ②質の公理
7	三段論法の実践	①三段論法の問題を解く。
8	直接推理をベン図で考える	①存在仮定とベン図 ②対当推理をベン図で考える ③変形推理の戻換法をベン図で考える
9	ベン図で三段論法	①三段論法の妥当性をベン図で調べる手順 ②三段論法の誤謬論をベン図で考える ③三段論法の問題をベン図で解く

10	ベン図で三段論法（実践）	①実例で三段論法の妥当性を判定する
11	仮言三段論法	①混合仮言三段論法 ②純粋仮言三段論法
12	選言三段論法	①純粋選言三段論法 ②混合選言三段論法
13	両刀論法（ジレンマ）	①両刀論法（ジレンマ） ②ジレンマから抜け出す方法
14	全体への振り返り	①試験問題を解く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
《予習》各回の授業内容についてテキストや参考書で確認しておく。
《復習》各回の授業内容を復習して理解を確実にしておく。

【テキスト（教科書）】

菅沢龍文『論理学 はじめの一步 ——オイラー図とベン図で知る伝統的論理学——』（春風社、2021 年 3 月 31 日刊行予定）

【参考書】

大貫・白根・菅沢・中釜『論理学の初歩』梓出版社

その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点（参加姿勢、確認プリントの評価など）
(2) 全体についての春学期試験の点数
(1)を 70 %、(2)を 30 %の割合で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) 口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、聞き取りやすくする。
(2) 授業内容は必須事項と発展的な事項との区別をつけて、必須事項の習得に重点を置く。

【Outline and objectives】

Elements of the European Traditional Logic, Using Euler Diagrams and Venn Diagrams: We learn the ancient Greek traditional logic of Aristotle. This logic is constituted by three parts: (1) concepts, (2) judgements, (3) reasoning. Using Euler diagrams and Venn diagrams, by simple combinations of the figures we can realize the traditional logic. We don't have to learn so many things by heart and we will get the skill to think logically with the diagrams.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

菅沢 龍文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法 1 年 S～W / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識についての哲学的論理、命題論理および述語論理の初歩。
近代科学の知識がどのようにして成り立つのかについてペーコンやデカルトから始まる西洋の哲学者たちの論理を初歩的に学ぶ。そして、ブール論理学から始まる現代の命題論理学、そして述語論理の基礎を習得する。また、論理代数、真理表、ベン図などの多様な表現方法で理解を深めるようにする。これにより、近代科学の論理や 19 世紀以降の命題論理の基礎について学ぶことができる。

【到達目標】

《知識》近代哲学の知識の論理、現代の命題論理、述語論理の初歩的知識を得る。

《態度》論理的に世界について考える態度を身につける。

《技能》論理的に物事を考える方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) テキストに加えてプロジェクターやプリントを用います。
- (2) 授業内では、板書で問題を解きます。
- (3) 毎回理解を確認するためのプリントを提出します。
- (3) 授業の初めに、前回で提出された課題プリントについての気づきを、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション F・ペーコンの考えたこと	(1) 授業について (2) イドラ説 (3) 表を用いた帰納法
2	帰納法と演繹法	(1) ミルの帰納法 (2) 自然の斉一性 (3) デカルトと演繹法
3	哲学的論理	(1) ライプニッツ 充足理由律 (2) カント 超越論的論理学 (3) ヘーゲル 弁証法
4	命題論理学 — 命題の真偽・論理的結合・複合命題の真理値	(1) 命題 (2) 論理的結合子 (3) 真理表とベン図 —複合命題の真理値— (1) 否定 (2) 連言
5	複合命題の真理値	—複合命題の真理値— (3) 選言 (4) 条件 (5) 等値 —論理代数を用いて考える—
6	問題を解く	テキストの 137 頁
7	恒真命題 (1)	(1) 恒真命題 (2) 恒偽命題・総合命題 (3) 恒真命題の判定 (真理表)

8	恒真命題 (2)	(1) 恒真命題の判定 (真理表と帰謬法)
9	恒真命題と推理の妥当性	(1) 恒真命題の判定 (帰謬法) (2) 推理の妥当性
10	G. フレーゲ、B. ラッセル	(1) クラス理論 (2) 嘘つきのパラドックス (3) タイプ理論
11	述語論理学のはじめ (I)	(1) 命題関数 (2) 限量記号 (3) 概念の述語化
12	述語論理学のはじめ (II)	(1) 対当推理を考える (2) 多項述語で考える
13	総復習	秋学期全体について
14	問題を解く	試験問題を解いて到達度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
《復習》前回の授業内容を復習して理解を確実にしておく。
《予習》次回の内容についてテキストや参考書で概観しておく。

【テキスト（教科書）】

大貫・白根・菅沢・中釜著『論理学の初歩』（梓出版社）
※第 2 回 (3)～第 3 回および第 10～14 回は、プリントをテキストとします。

【参考書】

適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点（参加姿勢、確認プリントの評価など）、(2) 全体についての秋学期試験の点数、これら (1) を 70 % (2) を 30 % の割合で総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、聞き取りやすくする。
- (2) 授業内容は基礎的なものとはいえ多いので、できるだけ整理して、具体例も分かりやすくする。
- (3) テキストから離れる部分もあるので、テキストとの関連がよく分かるようにする。

【Outline and objectives】

Elements of Modern Philosophical Logic of Knowledge, Propositional Logic and Predicate Logic:

At first we learn elementarily from modern European philosophers, beginning with F. Bacon and R. Descartes, in what way the knowledge of modern sciences is logically formed. In the second place we learn also elementarily the logic of our time, from the Boolean propositional logic down to the predicate logic. We use some means of expression like logical algebra, truth-chart and Venn diagram and apprehend the logic clearly. Therefor we can learn the essential philosophical logic of modern sciences and the elements of the propositional logic.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

国 1 年・法 1 年 Y / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

（論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。）

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、対面授業とオンライン授業（Zoom によるリアルタイム授業）とを組み合わせたハイブリッド授業となります。各授業回の授業形態は「学習支援システム」でお知らせします。

対面でもオンラインでも授業は講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4 回程度実施予定。）また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。

課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い 1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）
第 2 回	思考の根本原則	

第 3 回 概念論

1. 概念の形成過程
2. 概念の外延と内包
3. アリストテレスの概念論
4. 概念の種類

第 4 回 判断論（命題論） 1

1. 判断（命題）とは
2. 命題の種類
3. 定言命題
4. 命題の標準形式化
5. 練習問題

第 5 回 判断論（命題論） 2

1. 周延の概念
2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係
3. 定言命題において周延をもつ名辞

第 6 回 推理論：直接推理 1

1. 対当関係による推理：矛盾対当・反対対当
2. 練習問題

第 7 回 推理論：直接推理 2

1. 対当関係による推理：小反対対当・大小対当
2. 練習問題

第 8 回 推理論：直接推理 3

1. 命題の変形による推理：換質法・换位法
2. 練習問題

第 9 回 推理論：直接推理 4

1. 命題の変形による推理：換質換位法
2. 練習問題

第 10 回 推理論：間接推理 1（定言三段論法）

1. 間接推理（三段論法）の種類
2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞
3. 定言三段論法の格と式

第 11 回 推理論：間接推理 2（定言三段論法）

1. 妥当な定言三段論法の見分け方
2. 練習問題（初級）

第 12 回 推理論：間接推理 3（定言三段論法・仮言三段論法）

1. 練習問題（中級）
2. 仮言命題（条件文）について
3. 純粹仮言三段論法
4. 練習問題

第 13 回 推理論：間接推理 4（仮言三段論法）

1. 混合仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式
2. 練習問題

第 14 回 授業内試験・まとめ

- 筆記試験
- まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013 年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（70%）、授業内容確認小テストの成績＋平常点（30%）により評価します。

学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

論理学は、理解して自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目です。積極的に練習問題に取り組んでください。解説は丁寧に行います。

【Outline and objectives】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

国 1 年・法 1 年 Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という3つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、昨年度までの授業内容とは異なり、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提としていますので、「論理学Ⅰ」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
3. 伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。

上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

授業は基本的に講義形式で行いますが、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。

授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第1回目の小テストを行います。

学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論 (1)：復習	1. 仮言命題 (条件文)： 逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法; 前件肯定式・後件否定式
第 2 回	序論 (2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第 3 回	命題論理学 (1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第 4 回	命題論理学 (2)	1. カッコの省略 2. 練習問題
第 5 回	命題論理学 (3)	1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第 6 回	命題論理学 (4)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第 7 回	命題論理学 (5)	1. 整合的な式・矛盾的な式・ トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第 8 回	論理トレーニング (1)	1. 小テスト (筆記試験) 2. 意味論と構文論
第 9 回	論理トレーニング (2)	1. 否定・反対 2. ド・モルガンの法則 3. 練習問題
第 10 回	論理トレーニング (3)	1. 「すべて」と「存在する」 2. 逆・裏・対偶 3. 練習問題
第 11 回	論理トレーニング (4)	1. 条件連鎖 2. 練習問題
第 12 回	論理トレーニング (5)	1. 存在文の扱い方 2. 消去法 3. 練習問題
第 13 回	論理トレーニング (6)	1. 背理法 2. 練習問題 3. 接続表現
第 14 回	授業内試験・まとめ	1. 接続表現 (続き) 2. 練習問題 小テスト (筆記試験) まとめ・解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習と復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。課題 (宿題) または参考書の練習問題を解く。

特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配付します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013 年

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971 年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

2 回の小テストの成績 (80%) と平常点 (20%) に基づき評価。
2 回ともいずれも、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

2 回とも採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

論理学の授業は、授業中に練習問題をするのが楽しいようです。解説は丁寧に行いますので、積極的に練習問題に取り組んで見てください。

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」からの履修を推奨します。

【Outline and objectives】

This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

法 1 年 A～N、国キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of premodern China

Objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法 1 年 A～N、国キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義にて行っていく予定ですが、状況によっては大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行う可能性もあります。課題に対するフィードバック等は学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 覇王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of modern China

Objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y、文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of premodern China

Objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y、文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義にて行っていく予定ですが、状況によっては大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行う可能性もあります。課題に対するフィードバック等は学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 覇王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of modern China

Objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

文 1 年 P～X、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかん普及したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

【到達目標】

前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としたハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業 [Zoom 等のリアルタイム型／オンデマンド型] の組み合わせ）を予定しています。

課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of premodern China

Objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

文 1 年 P～X、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

【到達目標】

近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としたハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業 [Zoom 等のリアルタイム型／オンデマンド型] の組み合わせ）を予定しています。

課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of modern China

Objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of premodern China

Objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義にて行っていく予定ですが、状況によっては大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行う可能性もあります。課題に対するフィードバック等は学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 覇王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of modern China

Objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

営 1 年 K～U、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかん普及したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

【到達目標】

前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としたハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業 [Zoom 等のリアルタイム型／オンデマンド型] の組み合わせ）を予定しています。

課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介してゆきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of premodern China

Objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

営 1 年 K～U、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

【到達目標】

近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としたハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業 [Zoom 等のリアルタイム型／オンデマンド型] の組み合わせ）を予定しています。

課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of modern China

Objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

文 1 年 P～X、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第 2 回	古代地中海世界 1：ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第 3 回	古代地中海世界 2：古代ギリシアの社会と人々	古代ギリシア社会における人々の生活について
第 4 回	古代地中海世界 3：ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第 5 回	古代地中海世界 4：ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第 6 回	古代地中海世界 5：古代ローマの社会と人々	古代ローマ社会における人々の生活について
第 7 回	古代地中海世界 6：ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国、ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第 8 回	中世ヨーロッパ 1：中世世界の形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第 9 回	中世ヨーロッパ 2：中世ヨーロッパにおける諸国家の国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第 10 回	中世ヨーロッパ 3：中世ヨーロッパの社会と人々	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第 11 回	中世ヨーロッパ 4：キリスト教の発展、十字軍運動のキリスト教世界の発展と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について
第 12 回	中世ヨーロッパ 5：黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容	黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について

第 13 回 中世から近世へ：ルネ サンスの展開について
サンス

第 14 回 まとめ：近代へ これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年

南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）： 30 %

・出席管理は厳格に行う。

・期末試験： 70 %

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度春学期は全学的に授業改善アンケートを実施しなかったため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

文 1 年 P～X、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきた。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考える。

【到達目標】

- ・近世から現代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第 2 回	近世という時代 1：近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第 3 回	近世という時代 2：ヨーロッパの対外進出	ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について
第 4 回	近世という時代 3：第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第 5 回	近代の西洋 1：フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第 6 回	近代の西洋 2：フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第 7 回	近代の西洋 3：工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第 8 回	近代の西洋 4：国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第 9 回	近代の西洋 5：帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第 10 回	現代の西洋 1：第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第 11 回	現代の西洋 2：戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第 12 回	現代の西洋 3：分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第 13 回	現代の西洋 4：脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第 14 回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）： 30 %
- ・出席管理は厳格に行う。
- ・期末試験： 70 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生を巻き込みながら、双方向的に授業を展開していくことを心がけていきたいと思います。

【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2 単位

文 1 年 A～N、国キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第 2 回	古代地中海世界 1：ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第 3 回	古代地中海世界 2：古代ギリシアの社会と人々	古代ギリシア社会における人々の生活について
第 4 回	古代地中海世界 3：ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第 5 回	古代地中海世界 4：ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第 6 回	古代地中海世界 5：古代ローマの社会と人々	古代ローマ社会における人々の生活について
第 7 回	古代地中海世界 6：ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国、ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第 8 回	中世ヨーロッパ 1：中世世界の形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第 9 回	中世ヨーロッパ 2：中世ヨーロッパにおける諸国家の国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第 10 回	中世ヨーロッパ 3：中世ヨーロッパの社会と人々	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第 11 回	中世ヨーロッパ 4：キリスト教の発展、十字軍運動のキリスト教世界の発展と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について
第 12 回	中世ヨーロッパ 5：黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容	黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について

第 13 回 中世から近世へ：ルネ サンスの展開について
サンス

第 14 回 まとめ：近代へ これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年

南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）： 30 %

・出席管理は厳格に行う。

・期末試験： 70 %

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度春学期は全学的に授業改善アンケートを実施しなかったため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2 単位

文 1 年 A～N、国キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきた。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考える。

【到達目標】

- ・近世から現代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第 2 回	近世という時代 1：近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第 3 回	近世という時代 2：ヨーロッパの対外進出	ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について
第 4 回	近世という時代 3：第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第 5 回	近代の西洋 1：フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第 6 回	近代の西洋 2：フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第 7 回	近代の西洋 3：工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第 8 回	近代の西洋 4：国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第 9 回	近代の西洋 5：帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第 10 回	現代の西洋 1：第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第 11 回	現代の西洋 2：戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第 12 回	現代の西洋 3：分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第 13 回	現代の西洋 4：脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第 14 回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）： 30 %
- ・出席管理は厳格に行う。
- ・期末試験： 70 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生を巻き込みながら、双方向的に授業を展開していくことを心がけていきたいと思います。

【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

営 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第 2 回	古代地中海世界 1：ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第 3 回	古代地中海世界 2：古代ギリシアの社会と人々	古代ギリシア社会における人々の生活について
第 4 回	古代地中海世界 3：ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第 5 回	古代地中海世界 4：ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第 6 回	古代地中海世界 5：古代ローマの社会と人々	古代ローマ社会における人々の生活について
第 7 回	古代地中海世界 6：ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国・ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第 8 回	中世ヨーロッパ 1：中世世界の形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第 9 回	中世ヨーロッパ 2：中世ヨーロッパにおける諸国家の国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第 10 回	中世ヨーロッパ 3：中世ヨーロッパの社会と人々	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第 11 回	中世ヨーロッパ 4：キリスト教の発展、十字軍運動のキリスト教世界の発展と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について
第 12 回	中世ヨーロッパ 5：黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容	黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について

第 13 回 中世から近世へ：ルネ ルネサンスの展開について
サンス

第 14 回 まとめ：近代へ これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年

南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）： 30 %

・出席管理は厳格に行う。

・期末試験： 70 %

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度春学期は全学的に授業改善アンケートを実施しなかったため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

営 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきた。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考える。

【到達目標】

- ・近世から現代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第 2 回	近世という時代 1：近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第 3 回	近世という時代 2：ヨーロッパの対外進出	ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について
第 4 回	近世という時代 3：第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第 5 回	近代の西洋 1：フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第 6 回	近代の西洋 2：フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第 7 回	近代の西洋 3：工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第 8 回	近代の西洋 4：国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第 9 回	近代の西洋 5：帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第 10 回	現代の西洋 1：第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第 11 回	現代の西洋 2：戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第 12 回	現代の西洋 3：分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第 13 回	現代の西洋 4：脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第 14 回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）： 30 %
- ・出席管理は厳格に行う。
- ・期末試験： 70 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生を巻き込みながら、双方向的に授業を展開していくことを心がけていきたいと思います。

【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

法 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第 2 回	古代地中海世界 1：ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第 3 回	古代地中海世界 2：古代ギリシアの社会と人々	古代ギリシア社会における人々の生活について
第 4 回	古代地中海世界 3：ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第 5 回	古代地中海世界 4：ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第 6 回	古代地中海世界 5：古代ローマの社会と人々	古代ローマ社会における人々の生活について
第 7 回	古代地中海世界 6：ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国・ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第 8 回	中世ヨーロッパ 1：中世世界の形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第 9 回	中世ヨーロッパ 2：中世ヨーロッパにおける諸国家の国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第 10 回	中世ヨーロッパ 3：中世ヨーロッパの社会と人々	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第 11 回	中世ヨーロッパ 4：キリスト教の発展、十字軍運動のキリスト教世界の発展と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について
第 12 回	中世ヨーロッパ 5：黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容	黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について

第 13 回 中世から近世へ：ルネ ルネサンスの展開について
サンス

第 14 回 まとめ：近代へ これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年

南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）： 30 %

・出席管理は厳格に行う。

・期末試験： 70 %

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度春学期は全学的に授業改善アンケートを実施しなかったため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

法 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきた。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考える。

【到達目標】

- ・近世から現代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第 2 回	近世という時代 1：近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第 3 回	近世という時代 2：ヨーロッパの対外進出	ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について
第 4 回	近世という時代 3：第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第 5 回	近代の西洋 1：フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第 6 回	近代の西洋 2：フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第 7 回	近代の西洋 3：工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第 8 回	近代の西洋 4：国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第 9 回	近代の西洋 5：帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第 10 回	現代の西洋 1：第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第 11 回	現代の西洋 2：戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第 12 回	現代の西洋 3：分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第 13 回	現代の西洋 4：脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第 14 回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）： 30 %
- ・出席管理は厳格に行う。
- ・期末試験： 70 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生を巻き込みながら、双方向的に授業を展開していくことを心がけていきたいと思います。

【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。ときにより、受講者は史料解釈について意見を述べる。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業とオンライン授業の組み合わせにより講義形式で行う。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業および学習支援システムの「お知らせ」機能を用いて連絡する。各回の授業は、主としてプリント配付によりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	授業の概要と進め方、東アジアという視点から日本の歴史を考えることの意味について
第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	倭王権の成立と東アジア地域の国際情勢、激動の東アジアと古代国家形成について
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	律令国家の成立・展開と 8 世紀の外交について
第 4 回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の姿、在地首長制について
第 5 回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制的地方支配のいきづまりと地方支配の転換について
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	10 世紀以降の東アジア情勢と外交、貴族社会と国風文化について
第 7 回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立とその展開、王朝国家期の政治・社会について
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生、鎌倉幕府の成立とその支配について
第 10 回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について

第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立の過程について
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	15・16 世紀における東アジアとの活発な交流と室町文化の特徴について
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	戦国大名の登場とその支配、享徳の乱と関東の戦国時代について
第 14 回	試験と解説	授業内容を総括、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを読み返し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、参考書に目を通し理解を深めることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配信、または配付する。

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80 %）、レポート（20 %）により行う。レポートは word による原稿で提出すること。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom にて受講できる環境を整えること。

【Outline and objectives】

Considers the history of Japan from ancient time to medieval time through various aspects of politics,economics,society and culture etc.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。ときにより、受講者は史料解釈について意見を述べる。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業とオンライン授業の組み合わせにより講義形式で行う。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業および学習支援システムの「お知らせ」機能を用いて連絡する。各回の授業は主としてプリント配付により、シラバス通りに進める。レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中の日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。

第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実 に即して検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを読み返し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、参考書に目を通し理解を深めることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80 %）、レポート（20 %）により行う。レポートは word による原稿で提出すること。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom にて受講できる環境を整えること。

【Outline and objectives】

Considers the history of Japan from early modern to modern times,through various aspects of politics,economics,society and culture etc.

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

文 1 年 T～V、営 1 年 A～J、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一っしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。

第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
第 4 回	古代家族と在地首長制	国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
第 5 回	律令国家の展開と終焉	冊封体制下で中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、軋てどのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。
第 7 回	摂関政治と王朝国家	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
第 10 回	執権政治の展開と元寇	鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。
第 14 回	試験と解説	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずです。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが 20 分程度は必要になるはずです。

【テキスト（教科書）】

小口雅史他『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

この講義の目標である、歴史の流れを発展段階として論理的にとらえることができたかどうか、また複数の事象を相互に関連的に理解できているかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルにつきなし。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる、本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代中世史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

文 1 年 T～V、営 1 年 A～J、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。

第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していったのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実に基づいて検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前の配布資料の内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30分以上は必要になるはずです。事前の配布資料や補足教材は、授業支援システムを通じて行います。それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がもっと分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが20分程度は必要になるはずです。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定し

ています（5%

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルにつきなし。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一っしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。

第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。
第 4 回	古代家族と在地首長制	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
第 5 回	律令国家の展開と終焉	国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	冊封体制下で中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、軀てどのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
第 7 回	摂関政治と王朝国家	新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
第 10 回	執権政治の展開と元寇	御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずです。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが20 分程度は必要になるはずです。

【テキスト（教科書）】

小口雅史他『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

この講義の目標である、歴史の流れを発展段階として論理的にとらえることができたかどうか、また複数の事象を相互に関連的に理解できているかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルにつきなし。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる、本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代中世史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。

第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していったのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実に基づいて検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前の配布資料の内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30分以上は必要になるはずです。事前の配布資料や補足教材は、授業支援システムを通じて行います。それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がもっと分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが20分程度は必要になるはずです。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%

ています（5%

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルにつきなし。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

真辺 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 I～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身に付ける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確認するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。これに対して、翌週以降の授業で回答・説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	東アジア世界の中の日本史とは何かを学問的に考えた上で、時代区分論の諸説を検討する。
2	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家前史としてのヤマト王権とその対外関係を考察する。
3	律令国家の誕生と国際環境	大化の改新を中心にヤマト王権から律令国家への転換を国際環境のなかで位置づける。
4	古代家族と在地首長制	律令国家における古代家族と在地首長制の実態について考察する。
5	律令国家の展開と終焉	皇位継承問題と藤原氏の台頭を中心に律令国家の展開とその終焉を考察する。
6	東アジア世界の文化と国風文化	中国の影響下で形成された日本文化の展開とその特徴を考察する。
7	摂関政治と王朝国家	摂関期の国家の歴史的特徴を検討する。
8	院政の展開と日宋貿易	古代から中世への変容と院政期の特徴を考察し、併せて日宋貿易の役割についても考える。
9	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生について、北方世界の動向を踏まえながら検討する。

10	執権政治の展開と元寇	執権政治を概括した上で、元寇がそれに与えた影響を考える。
11	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府と室町幕府を比較し、室町幕府が成立した背景を考える。
12	日明関係と室町文化の特徴	日明関係の影響を受けた室町文化の特徴を考察する。
13	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程と幕府の勢力地盤である関東地方の変化を考察する。
14	試験と解説	古代とは何か、中世とは何かを総体的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配付します。

【参考書】

随時、授業で紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績による評価（70 %）と授業への積極的な貢献度（リアクションペーパーなど課題提出）による評価（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom にて受講できる環境を整えること。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese history during the Ancient and Medieval Ages, from a variety of political, economic, social and cultural perspectives. This lecture is given by using important historical materials to show specific historical facts and based on the latest findings of the research. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to educate in the future. At the end of the course, participants are expected to cultivate the ability to think.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

真辺 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 I～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確認するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。これに対して、翌週以降の授業で回答・説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	世界のなかの近世・近代日本について、時代区分に関する諸説を中心に検討する。
2	江戸幕府の成立と地域社会	織田・豊臣政権から徳川政権への移行の歴史的背景とそれぞれの地域社会の特徴を説明する。
3	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治の特徴を考察した上で、国際関係のなかの「鎖国」の意義を問う。
4	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期の政治と社会・文化の特徴を検討する。
5	近世村落の運営と租税	近世村落の運営と租税の特徴を概括した上で、他の時代と比較する。
6	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概括した上で、現代に引き継がれている文化遺産の今を考える。
7	近世社会の変容と政治状況	政治状況のなかで近世社会がどのように変容して近代社会を形成していくのかを考察する。
8	明治維新と近代国家の形成	明治維新の概念を規定した上で、国家としての近代化の歩みを追う。

9	近代産業の発展と国際環境	国際環境のなかで近代化が進められた産業の展開を追う。
10	政党政治の展開	日本の政党政治の歴史的特徴を検討し、他国と比較する。
11	二つの世界大戦と国際状況	国際状況のなかの二つの世界大戦に対する日本の対応を比較検討する。
12	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の展開を概括した上で、今に残る東京の文化遺産について考える。
13	戦後政治の動向と国際社会	国際社会における戦後日本の歴史について、今日的課題も踏まえながら考察する。
14	試験と解説	近世とは何か、近代とは何かを総体的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配付します。

【参考書】

随時、授業で紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績による評価（70 %）と授業への積極的な貢献度（リアクションペーパーなど課題提出）による評価（30 %）。

【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom にて受講できる環境を整えること。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese history during the Early Modern and Modern Ages, from a variety of political, economic, social and cultural perspectives. This lecture is given by using important historical materials to show specific historical facts and based on the latest findings of the research. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to educate in the future. At the end of the course, participants are expected to cultivate the ability to think.

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

営 1 年 K~U、環 1 年／法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一っしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。

第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。
第 4 回	古代家族と在地首長制	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
第 5 回	律令国家の展開と終焉	国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	冊封体制下で中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、軀てどのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
第 7 回	摂関政治と王朝国家	新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
第 10 回	執権政治の展開と元寇	御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずです。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが 20 分程度は必要になるはずです。

【テキスト（教科書）】

小口雅史他『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

この講義の目標である、歴史の流れを発展段階として論理的にとらえることができたかどうか、また複数の事象を相互連関的に理解できているかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルにつきなし。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる、本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代中世史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

営 1 年 K～U、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。

第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実に基づいて検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前の配布資料の内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30分以上は必要になるはずです。事前の配布資料や補足教材は、授業支援システムを通じて行います。それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がもっと分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが20分程度は必要になるはずです。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%

ています（5%

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルにつきなし。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

国環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。ときにより、受講者は史料解釈について意見を述べる。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業とオンライン授業の組み合わせにより講義形式で行う。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業および学習支援システムの「お知らせ」機能を用いて連絡する。各回の授業は、主としてプリント配付によりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・東アジア世界の中の日本	授業の概要と進め方、東アジアという視点から日本の歴史を考えることの意味について
第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	倭王権の成立と東アジア地域の国際情勢、激動の東アジアと古代国家形成について
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	律令国家の成立・展開と 8 世紀の外交について
第 4 回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の姿、在地首長制について
第 5 回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制的地方支配のいきづまりと地方支配の転換について
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	10 世紀以降の東アジア情勢と外交、貴族社会と国風文化について
第 7 回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立とその展開、王朝国家期の政治・社会について
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生、鎌倉幕府の成立とその支配について
第 10 回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について

第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立の過程について
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	15・16 世紀における東アジアとの活発な交流と室町文化の特徴について
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	戦国大名の登場とその支配、享徳の乱と関東の戦国時代について
第 14 回	試験と解説	授業内容を総括、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを読み返し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、参考書に目を通し理解を深めることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80 %）、レポート（20 %）により行う。レポートは word による原稿で提出すること。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom にて受講できる環境を整えること。

【Outline and objectives】

Considers the history of Japan from ancient time to medieval time through various aspects of politics,economics,society and culture etc.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

国環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。ときにより、受講者は史料解釈について意見を述べる。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業とオンライン授業の組み合わせにより講義形式で行う。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業および学習支援システムの「お知らせ」機能を用いて連絡する。各回の授業は、主としてプリント配付によりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中の日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。

第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実 に即して検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを読み返し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、参考書に目を通し理解を深めることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80 %）、レポート（20 %）により行う。レポートは word による原稿で提出すること。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom にて受講できる環境を整えること。

【Outline and objectives】

Considers the history of Japan from early modern to modern times,through various aspects of politics,economics,society and culture etc.

PHL100LA

宗教論 I

2017 年度以降入学者

若林 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

法営国キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋思想の根底にあり、また日本の宗教文化とは異質なキリスト教の思想を学ぶと同時に、それによって日本の思考の特性を反照的に明らかにする。そして私たちが抱える現代の諸問題解決のためのヒントを旧約・新約聖書の中の記述及びそれに基づいたキリスト教思想の中に見出す。

【到達目標】

ユダヤ教及びキリスト教の全体像を掴むことができる。実際に旧約聖書、新約聖書に何が書かれているかを知ることができる。それらを読むことによって、現代社会が抱える様々な問題を解明、克服するヒントを掴むことができる。また、ユダヤ教やキリスト教といういわゆる一神教のものの考え方をすることで、それとは対照的な日本人の無意識の宗教観に気づくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド型のリモート講義という形をとる。音声付きのパワーポイント資料（スライド資料）とそれを PDF にした資料（解説ノート付き）を「学習支援システム」上に掲示するので、受講者はそれらを視聴、熟読してほしい。また、毎回「掲示板」にその日の授業テーマについての討論用スレッドを設置するので、そこに必ず意見を投稿すること。この投稿は出席確認とするので、授業資料を視聴していても意見投稿をしなければ欠席とみなされるので注意のこと。提出されたリアクションペーパーへのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。投稿された質問や意見に対するフィードバックは、掲示板上で返信 (Re) という形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	思想としてのキリスト教を学ぶことの意義。
2	キリスト教とはどのような宗教か	キリスト教の全体像
3	旧約聖書とは何か①	イスラエルの歴史
4	旧約聖書とは何か②	一神教と偶像崇拜批判
5	新約聖書とは何か	イエスとは誰か
6	新約聖書とは何か②	キリスト教教会の発展
7	キリスト教における「祈り」とは何か	「祈り」の現象学的分析
8	ジェンダーを巡る問題	キリスト教は性差別、性の多様性の問題にどのように答えるか
9	家族を巡る問題	キリスト教における家族観はどのようなものか、現代的な家族の問題についてどのように答えるか
10	富と貧困を巡る問題	経済格差が拡大する現代社会において、キリスト教は貧困の問題についてどのように答えるか

11	グローバル化・多元化を巡る問題	経済社会的にグローバル化が進行する現代社会において価値観の衝突を回避することは可能か
12	環境破壊を巡る問題	環境破壊の元凶をキリスト教思想に見出すことは可能か
13	生命操作を巡る問題	生命操作技術の発展はキリスト教の人間観と矛盾するか
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。授業時に提示する参考文献をできるだけ読んで予習、復習しておく。

【テキスト（教科書）】

使わない。

【参考書】

芦名定道・土井健司・辻学共著『改訂新版 現代を生きるキリスト教』（教文館、2004 年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価（100 点満点とし、60 点以上が合格）は、期末のレポート課題の点数（配分 90 %）とリアクションペーパーの点数（配分 10 %）で行う。レポート課題の評価基準は、レポート提出の形式的条件（表題をつける、字数制限など）を満たしているか、授業の到達目標であるユダヤ教・キリスト教の人間観、世界観およびそれらの現代的意義について深く理解しているか、それらについて自分の意見が論理的に述べられているかの 3 点である。リアクションペーパーの評価基準は授業内容を理解できているか、自分の意見が述べられているかの 2 点である。

【学生の意見等からの気づき】

スライドの字が小さすぎるという指摘があったので、できるだけ情報を制限して大きなポイントで表示するようにする。

【Outline and objectives】

We will study Christian thought, which is alien to Japanese culture, and at the same time it will reveal the characteristics of Japanese thinking. We will also look for hints in the Bible and Christian thought to help us solve the various problems we face today.

PHL100LA

宗教論Ⅱ

2017 年度以降入学者

若林 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法営国キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「宗教とは何か」という問いに対して現象学的観点から解き明かしてゆく。人々の生活の中に深く浸透している宗教的な儀式、慣習、そして人々の考え方の中に少なからず影響を与えている宗教的な観念、心理などを「宗教現象」（その宗教性を意識しているいないにかかわらず）として捉え、その意味は何なのかを知る。

【到達目標】

到達目標は、「宗教」は何か危険なもの、「信仰」をもつ人は何か異質な人、という多くの日本人が漠然としてもっている宗教理解の一面性を批判する力、いかなる宗教であれそれを客観的に公正に評価することができる力、さらにはその知識を自分の生き方に活かす力を身に着けることにある。したがって、成績評価の基準は日常的経験の中に潜む宗教現象の意味を的確に分析、批判できるようになったかどうかにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式。毎回リアクションペーパーを提出しそれをもって出席確認とする。遠隔授業となった場合には、オンデマンド型のリモート講義という形をとる。音声付きのパワーポイント資料（スライド資料）とそれをPDFにした資料（解説ノート付き）を「学習支援システム」上に掲示するので、受講者はそれらを視聴、熟読してほしい。また、毎回「掲示板」にその日の授業テーマについての討論用スレッドを設置するので、そこに必ず意見を投稿すること。この投稿は出席確認とするので、授業資料を視聴していても意見投稿をしなければ欠席とみなされるので注意のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	宗教研究の方法	「宗教学」とはどのような学問か。神学、宗教哲学との違いは何か
2	比較宗教学の方法	様々な宗教を分類・類型化する
3	宗教現象学の方法	「宗教現象」の基本的な枠組みとしての「聖と俗」、「ハレとケ」
4	聖なる言葉（1）	「祈り」とは何か
5	聖なる言葉（2）	「物語」とは何か
6	聖なる言葉（3）	「神話」という物語は何を語るのか
7	宗教的世界観	我々はどこから来て、今どのような世界に生き、死後どこへ行くのか
8	聖なる行為（1）	儀礼とは何か
9	聖なる行為（2）	通過儀礼、イニシエーションとは何か
10	聖なる行為（3）	祝祭とは何か
11	宗教と呪術	シャーマニズムとは何か
12	宗教と近代科学（1）	科学革命を成しえた西欧におけるキリスト教という宗教の役割

13	宗教と近代科学（2）	科学の時代における宗教の意義とは何か
14	まとめ	これまでの授業の総括とレポート課題についての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

- ①ファン・デル・レーウ『宗教現象学入門』（1979 年、東京大学出版会）
- ②ミルチャ・エリアーデ『聖と俗』（1994 年、法政大学出版局）
- ③ウィリアム・E・ペイドン『比較宗教学』（1995 年、東京大学出版会）
- ④佐々木宏幹『宗教人類学』（1995 年、講談社学術文庫）

【成績評価の方法と基準】

最終授業日後にレポートを提出してもらう。その内容と（90 %）と投稿の内容（10 %）によって成績評価をする。ただし、投稿回数すなわち出席回数が、全授業回数の 3 分の 2 を下回るとレポート提出資格を失うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

スライド資料に文字を入れすぎとの批判もあるので、よりシンプルにします。

【Outline and objectives】

This course deals with the question "what is religion?" from a phenomenological point of view. The students taking this course learn the meaning of religious phenomena like rituals or customs that have deeply penetrated into people's lives, and like religious ideas or psychology that have a considerable influence on people's views of life and sense of values.

PHL100LA

宗教論Ⅰ

2017 年度以降入学者

君嶋 泰明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

文営環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教の発生と形態について基本的な見方を学び、既存の宗教への理解を深めていく。

【到達目標】

宗教の基本を客観的に学んで、「人間とは何か」という人文系の学問の大前提の問題へ理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは次回授業の初めに行う。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

教室定員にたいする受講者人数を把握するため、初回授業は Zoom で行う。アドレスは学習支援システムで連絡する。人数が多い場合は抽選を行う可能性もあるので、初回は必ず出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	今学期の授業の概要の説明	宗教を学ぶことの意義を中心に
第 2 回	なぜ宗教は生まれたのか	宗教の発生を人類の起源に立ち返って考察する
第 3 回	宗教形態の基本的な問題	一神教と多神教など
第 4 回	世界の主要宗教を概観する (1)	ユダヤ教
第 5 回	世界の主要宗教を概観する (2)	キリスト教
第 6 回	世界の主要宗教を概観する (3)	イスラム教
第 7 回	世界の主要宗教を概観する (4)	仏教
第 8 回	日本の宗教観 (1)	神道と仏教
第 9 回	日本の宗教観 (2)	無宗教と現代
第 10 回	宗教現象の分析 (1)	神とカミガミ
第 11 回	宗教現象の分析 (2)	祈り
第 12 回	宗教現象の分析 (3)	祭礼
第 13 回	宗教現象の分析 (4)	現代の問題
第 14 回	試験、まとめ	全体の振り返りと試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が 50%、期末試験が 50%。前者はリアクションペーパーの内容やディスカッションへの参加状況、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline and objectives】

We will acquire an overview on the genesis and forms of religions and deepen our understanding of existing religions.

PHL100LA

宗教論Ⅱ

2017 年度以降入学者

君嶋 泰明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

文営環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

神（あるいはカミガミ）と人間の関係を中心に主要な宗教現象を学び、さらに古代から近代までの歴史のなかで宗教が果たした役割について考察していく。

【到達目標】

宗教に対する基本的な見方を学び、さらに世界の歴史に眼を向け、宗教現象を広い視点で捉えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは次回授業の初めに行う。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	今学期の授業の概要の説明	宗教論とは何か
第2回	宗教の分類	世界宗教と民族宗教など
第3回	宗教現象の基本的な見方	聖と俗など
第4回	聖なることば(1)	祈りを中心に
第5回	聖なることば(2)	神話を中心に
第6回	宗教的世界観(3)	聖なる空間および他界について
第7回	聖なる行為(1)	儀礼とは何か
第8回	聖なる行為(2)	通過儀礼が意味するもの
第9回	聖なる行為(3)	祝祭とは何か
第10回	理性と宗教(1)	宗教・呪術・科学
第11回	理性と宗教(2)	呪術と宗教
第12回	理性と宗教(3)	西洋占星術の起源から近代天文学の誕生へ
第13回	理性と宗教(4)	近代科学革命のなかで
第14回	試験、まとめ	全体の振り返りと試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が50%、期末試験が50%。前者はリアクションペーパーの内容やディスカッションへの参加状況、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline and objectives】

We will learn about major religious phenomena, mainly focusing on the relationship between God (or gods) and human beings. We will also consider the role religion played in the history from ancient to modern.

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

文営国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「芸術の意味」を学ぶ。具体的には、芸術作品のイメージと概念を通じて、芸術を理解していくことが目的である。

【到達目標】

授業の目的でも述べた通り、「芸術の意味」を問い、芸術を理解することが目標である。そして具体的には、実際の作品や映像を見ながら、芸術作品について語れるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

私の作ったテキストと映像を用いて授業を行う。また質問等に対するフィードバックは授業時間内に、リアクションペーパーは次回授業の最初にフィードバックを行う。

なお、春学期は、コロナウイルスの影響により、学習支援システムにてオンデマンド授業を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の予定、勉強の仕方と評価の方法。 芸術は教育の基礎であるという理念について。
第 2 回	芸術の基礎知識 1	芸術の定義、美感、美の定義、芸術と美の区別。
第 3 回	芸術の基礎知識 2	直観としての芸術、古典的芸術、画一的でない芸術、芸術と美学。
第 4 回	芸術の基礎知識 3	形態と表現、黄金分割、幾何学的調和の限界、歪曲。
第 5 回	芸術の基礎知識 4	パターン、個人的要素、パターンの定義、形態の定義。
第 6 回	芸術の基礎知識 5	絵を見るとき何が起るか、感情移入、感傷、形態の必要。
第 7 回	芸術の基礎知識 6	内容、内容のない芸術、抽象芸術、人間主義の芸術・肖像画、心理的価値。
第 8 回	芸術の基礎知識 7	芸術作品の諸要素、線、調子、色彩、形態、統一、構造上の素因。
第 9 回	芸術史 1	原始芸術、有機的芸術と幾何学的芸術。
第 10 回	芸術史 2	芸術と宗教、芸術とヒューマニズム、エジプト芸術。
第 11 回	芸術史 3	先コロンビア芸術、中国芸術、ベルシア芸術、ビザンティン芸術、ケルト芸術。
第 12 回	芸術史 4	キリスト教芸術、ゴシック芸術。
第 13 回	芸術史 5	リアリズム、自然主義、バロック芸術、ロココ芸術、芸術と自然。
第 14 回	芸術史 6	印象派、象徴主義、表現主義、シュルレアリスム。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間を見つけては、展覧会、演劇、コンサートなどに足を運んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

私の作ったテキストを学習支援システムにて提供する。

【参考書】

ゴンブリッチ『美術の物語』（河出書房新社）

【成績評価の方法と基準】

対面授業は、平常点（40 %）と到達目標に関する記述試験（60 %）で総合 100 点満点で評価し、60 点以上が合格となる。

なお春学期は、学習支援システムでのオンデマンド授業を予定しているため、その場合、授業の中での 3 回の課題提出を総合して 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

You learn the meaning of art. The objective of this class is to understand the art through the images and the terms of art works.

ART100LA

芸術B

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

文営国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「芸術の意味」を学ぶ。具体的には芸術作品のイメージと概念を通じて、芸術を理解していくことが目的である。

【到達目標】

授業の目的でも述べた通り、「芸術の意味」を問い、実際に芸術を理解することが目標である。さらに具体的には、作品やその映像を見ながら、芸術について語れるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

わたしが作ったテキストを使用し、映像を用いながら、授業を行う。質問などのフィードバックは授業時間内に、リアクションペーパーは次回授業の最初にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 生命力のイメージ	授業について：勉強の仕方と成績評価。 洞窟壁画について。
第 2 回	美の発見	コンポジションの法則：ハーモニー、プロポーション、シンメトリー、セレンティ。
第 3 回	未知なるものの象徴	呪術と宗教。空間感情。初期キリスト教芸術。
第 4 回	理想としての人間	表現主義と理想主義。 天国の美と地上の美。
第 5 回	現実の錯覚 1	感情の形。真の意識と偽の意識。 真正直の意識が芸術の基礎。
第 6 回	現実の錯覚 2	リアル・プレゼンス。芸術の目的、主観のリアリティ。
第 7 回	自己の境界	自己の定義。芸術とは真の自己の無意識の漏洩か。
第 8 回	構成的イメージ	芸術の創造説。セザンヌの苦悩。 キュビズムと構成主義。
第 9 回	社会における芸術の機能	「アート」の曖昧さ。芸術の貴族的価値と革命的価値、そして民主主義の理想。
第 10 回	合理的社会と非合理的芸術	愛と苦しみの非合理的芸術。芸術の衰退化。芸術の合理性は可能か。
第 11 回	絵画の限界	西欧絵画に欠けている「気韻生動」の概念。オートマティズムとアクション・ペインティング。イメージの曖昧さ。
第 12 回	様式と表現 1	スタイルの起源。個人の様式から非個人の様式へ。表現主義の謬見。
第 13 回	様式と表現 2	感情の秩序。よき形態と様式。

第 14 回 期末試験

芸術の意味に関する諸問題の整理。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間を見つけては、展覧会、演劇、コンサートに足を運んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

わたしの作ったテキストを配布する。

【参考書】

ゴンブリッチ『美術の物語』（河出書房新社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）と到達目標に関する記述試験（60 %）で総合 100 点満点で評価し、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

You learn the meaning of art. The objective of this subject is to understand the art through the images and conceptions of art works.

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

小澤 慶介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

法環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代以降の芸術や美術史を時代背景とともに概観する。その際、哲学思想や社会学、文化人類学などの関連する学問領域の議論も参照する。それは、同時代を表象する芸術と社会の関係性を考察する力を養うことでもある。

【到達目標】

近代における芸術の変容を、それを成立させている社会や時代思潮の変化とともに追う。その過程で、近代社会と芸術の関係を考察する力を養う。それは、この先行きの見えない同時代に対する視点を獲得することでもある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回、近代および現代アートの作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とコミュニケーションを図りながら進めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	芸術とは何か？	本授業において、どのようなものあるいはことを「芸術」と呼ぶかについて。
2	芸術の規則	過去 200 年のアートの歩みを振り返り、芸術は時代とともにどのように変容してきたのかを概観する。
3	絵画の歩み	ギュスターヴ・クールベやエドゥアール・マネなど、絵画の可能性を切り開いた芸術および思考について。
4	眼から頭脳へ	マルセル・デュシャンとコンセプチュアル・アートについて考える。
5	複製技術と芸術の地殻変動	写真術の誕生とそれがアートに与えた衝撃について考える。
6	写真の存在論	写真が芸術になるとき、それは世界の何を切り取って伝えているのかについて考える。
7	彫刻とインスタレーション	彫刻の歩みについて、19 世紀末フランスのオーギュスト・ロダンから眺める。
8	映像の誕生	19 世紀末フランスのリュミエール兄弟やアメリカのエジソンが発明した映像とそれが開く文化について考える。
9	スペクタクルの社会と映像	テレビジョンやインターネットの到来と映像作品の関係を考える。

10	パフォーマンスとアート	生身の体を表現の媒体とするパフォーマンスを時代や社会背景の関係において考える。
11	大正デモクラシーと太平洋戦争期の芸術	自由の実践と権力への抵抗のかたちについて考える。
12	日本戦後の前衛芸術の歩み	「反芸術」と言われた戦後日本の前衛芸術運動を紹介しながら、現代の日本のアートと時代を考える。
13	授業内試験	小論文の執筆と提出。
14	多様化する現代の芸術	絵画や彫刻、写真、インスタレーション、映像、デジタルテクノロジー、またそれらの組み合わせで成立する現代の芸術について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行き、実物を見学する。不定期に課される小レポートを提出し、学習の到達点を講師に伝える。また、授業で出てきたキーワードについて、関連文献でさらに調べる。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

【参考書】

現代美術用語辞典 <http://artscape.jp/dictionary/modern/index.html>

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を実施。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。授業内試験 80%、小レポート 20%で評価する。芸術や美術史を知識として身につけているだけではなく、それが作られたり議論されたりした時代との関係で捉えられているかどうかを問う。

【学生の意見等からの気づき】

展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture series is to understand a basic history of art from the early 19th century to the late 20th century. Referring to related academic studies in philosophy, sociology or anthropology, students are encouraged to grasp artworks in relation to various social conditions in different eras.

ART100LA

芸術B

2017 年度以降入学者

小澤 慶介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

法環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990 年代以降のグローバリゼーションと芸術の関係について考察する。新自由主義と芸術の関係について、国際展や芸術祭、アートフェア、美術館の民営化などをとおして考察する。

【到達目標】

政治や経済と密接な関係をもつ現代アートのあり方を多角的に考察する。時代の先行指標となり既存の価値に問いを投げかける現代アートのあり方を踏まえ、現代のグローバル化した世界と芸術のこれからを探る思考力と洞察力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回、近代および現代アートの作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とコミュニケーションを図りながら進めてゆく。また、必要に応じてテーマに関連する展覧会を訪ねるよう促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アート界とアートの関係について（オリエンテーション）	アートをアートとして成り立たせる制度との関係で考える。
2	アート界の仕組み	現代アートを動かしているアート界の仕組みと運動について概説する。
3	美術館と展覧会の歴史	時代や社会背景とともにあり方が変わる美術館の今と、時代や社会を鋭い視点で表した展覧会を紹介する。
4	グローバリゼーションと多文化主義	1980 年代後半以降の展覧会と表象文化における議論を紹介する。
5	国際展の時代	ヴェネチア・ビエンナーレほか、1990 年代以降加速的に増加した国際展とその社会的機能について考察する。
6	「他者」とは誰か？ 1	大地の魔術師たち展やドクメンタ 11（2002）などをとおして、他者の表象の移り変わりについて考える。
7	「他者」とは誰か？ 2	近年のトランスナショナルなアートとアーティストについて紹介し、グローバリゼーションの影を問う。
8	ドクメンタ 14 から見える世界	新自由主義が生み出してきた非対称な世界とドクメンタ 14（2017）について考える。

9	地域社会と芸術祭	2000 年代以降、全国各地で開催されるようになっている芸術祭について、地域の特性と展示内容の関係を考える。
10	アーティスト・イン・レジデンスと地域社会	アーカスプロジェクトの実践をとおして、先鋭的な現代アートと地域社会を結ぶ回路作りを考える。
11	2021 年の同時代性 1	人新世に関する議論を紹介し、エコロジーとアートの関係を考察する。
12	2021 年の同時代性 2	戦争や疫病、災害などのカタストロフとアートの関係を考察する。
13	授業内試験	小論文の執筆と提出。
14	2021 年以降の芸術を考える	まとめと来るべき時代とますます多様になる芸術表現について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行き、実物を見学する。不定期に課される小レポートを提出し、学習の到達点を講師に伝える。また、授業で出てきたキーワードについて、関連文献でさらに調べる。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

【参考書】

現代美術用語辞典

<http://artscape.jp/dictionary/modern/index.html>

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を実施。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。授業内試験 80%、小レポート 20%で評価する。1990 年代以降の芸術の実践を同時代との関係において捉えているかを問う。

【学生の意見等からの気づき】

展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture series is to understand diverse aspects of contemporary art in the era of globalization. Students are encouraged to grasp art practices after 1990's in relation to the current social, political and economic conditions in the era of Neoliberalism.

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

中川 三千代

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芸術の中でも主に西洋絵画、加えて彫刻・装飾美術を取り上げ、ルネサンス以降の西洋美術史と欧米での近代的な美術館の成立について学びます。これを通して、美術が社会にどう関わってきたか、現在どう関わっているかについて考えます。

【到達目標】

- 1) ルネサンス以降の西洋絵画、彫刻・装飾美術に関する知識を深め、様々な視点から作品を鑑賞できる。
- 2) 西洋絵画が歴史的にどのような変遷をたどっていったかを学び、絵画の背景にある歴史を理解することができる。
- 3) 美術館の成立過程について、近代の美術館がどのように成立したか、歴史的な背景を含めて理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。レポートや質問については、適宜講義内で取り上げてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する。各回で扱う内容について概説する。
第 2 回	西洋絵画入門	西洋絵画におけるジャンル分けを解説し、主なジャンルの作品を紹介する。
第 3 回	風景画の成立	特に風景画について、ジャンルとしての成立から印象派に至るまでの流れを解説する。
第 4 回	ルネサンス美術	ルネサンス美術の代表的な作家・作品を紹介しその移り変わりを解説する。
第 5 回	バロック・ロココ美術	バロック、ロココ美術の代表的な作家・作品を紹介しその移り変わりを解説する。
第 6 回	新古典主義・ロマン主義	フランス革命期の絵画について、主題の変化や背景の理念等に触れながら作品を紹介する。
第 7 回	印象派	印象派の作家・作品およびその時代背景・技法について解説する。
第 8 回	ポスト印象派・新印象派	印象派に強く影響を受けた画家を中心に、作家・作品を紹介する。
第 9 回	世紀末から 20 世紀	世紀末から第一次世界大戦前までの西洋絵画の潮流・運動について概説する。

第 10 回 彫刻

西洋の彫刻について、ロダン及びロダン以降の近代彫刻を中心に概説する。

第 11 回 万博と装飾美術

アール・ヌーヴォー、アール・デコ、及びこれらと関連の深い万国博覧会について解説する。

第 12 回 ルーヴル美術館の設立とフランスの美術館

西洋における美術館の成り立ちについて、ルーヴル美術館を一例として取り上げ、更に現在のフランスの美術館について解説する。欧米の代表的な美術館をいくつか取り上げ、その成立や現在について解説する。

第 13 回 欧米の美術館

第 14 回 まとめ

授業を通しての総括を実施する。また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に授業内レポートとは別に、授業に関するレポート 1 本を課します。また、授業外でも、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。そのうち半分程度を授業に関するレポート、残りの半分程度を授業外での作品鑑賞などにあてることが想定されています。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

【参考書】

授業中に随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内レポート）：50%

課題レポート：50%

課題レポートの提出を、単位取得の必須条件とします。

【学生の意見等からの気づき】

歴史的な内容について、一昨年よりも厚い内容となっています。

【Outline and objectives】

In this class, Western paintings will be mainly discussed, along with sculptures and decorative arts, in order to learn about the Western art history after the Renaissance, and the establishment of the art museums in the Western society. Students will learn about how art has contributed to the society.

ART100LA

芸術B

2017 年度以降入学者

中川 三千代

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治・大正・昭和初期の日本における西洋美術の受容について、作家の視点と観衆の視点から学びます。また、日本の近代美術館の成立過程や歴史、現代の美術館の機能や役割について学びます。

【到達目標】

- 1) 江戸期から大正期の作家たちが西洋美術技法をどう取り入れたかを学ぶ。
- 2) 明治期から昭和初期にかけて、西洋美術作品がどう展覧されたかを学ぶ。
- 3) 美術館の機能と役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。
また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。
レポートや質問については、適宜講義内で取り上げてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する。各回で扱う内容について概説する。
第 2 回	伝統的な日本の絵画	伝統的な日本の絵画について江戸時代を中心に、代表的な作家と作品を取り上げる。
第 3 回	明治・大正期の日本画	明治・大正期の日本画について、その代表的な画家と作品を取り上げ、その変遷を概説する。
第 4 回	洋風画から洋画へ	洋画の影響や洋風画の流行、および明治初期の洋画の成立に関して、作品を取り上げつつ概説する。
第 5 回	明治・大正期の日本の洋画	西洋絵画技法の導入により成立した明治・大正期の洋画について、その成立過程と初期の作品を解説する。
第 6 回	日本の近代彫刻	ロダン彫刻の需要を中心に、明治・大正期の日本における彫刻を取り上げる。
第 7 回	西洋美術品の流入	大正から昭和にかけて西洋美術品の輸入を試みた活動をいくつか取り上げて解説する。
第 8 回	仏展・日仏芸術社	初期の西洋美術品流入におけるトピックとして、仏蘭西現代美術展およびその運営母体の日仏芸術社を取り上げる。

- 第 9 回 黎明期の日本の美術館 日本における美術館制度の成立過程を、展覧会および美術館設立への運動を中心に解説する。また、黎明期の美術館として東京府美術館の設立過程を中心に解説する。
- 第 10 回 美術館の役割（展示・作品収集） 美術館の役割を規定した法律、及び美術館における展示と作品収集について解説する。
- 第 11 回 美術館の役割（保存修復） 美術館の役割の 1 つである保存修復に関して、具体例を挙げて解説する。
- 第 12 回 美術館の役割（調査研究・教育普及） 調査研究、教育普及について、活動の例をあげて解説する。
- 第 13 回 美術館の外の美術 パブリックアート、アートプロジェクトなどの、美術館の外での芸術活動を取り上げる。
- 第 14 回 まとめ 授業を通しての総括を行う。また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に授業内レポートとは別に、授業に関するレポート 1 本を課します。また、授業外でも、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。そのうち半分程度を授業に関するレポート、残りの半分程度を授業外での作品鑑賞などにあてることが想定されています。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

【参考書】

授業中に随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業レポート）；50%

課題レポート；50%

課題レポートの提出を、単位取得の必須条件とします。

【学生の意見等からの気づき】

第 2 回から第 5 回の歴史を主に扱う講義に関して、時代が入り組んでいてわかりにくかったという意見がありましたので、一部順番を入れ替えています。

【Outline and objectives】

In this class, how the Western art was introduced in Japan during the Meiji/Taisho/Showa era will be discussed from the artists' and people's point of view. The establishment process and history of art museums in Japan, and also the function and role of art museums today will be discussed.

LIT200LA

日本文学と文化 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

本塚 亘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本古典音楽に関する様々な文学作品などを鑑賞し、文学と密接にかかわる音楽文化の様相を概観します。春学期は、史書や説話、楽書などに現れる雅楽を中心とした音楽文化について理解を深めながら、政治と音楽の関係、および音楽伝承のあり方などについて学習していきます。

【到達目標】

- ・さまざまな古典文学作品に表れる音楽描写について理解を深めます。
- ・政治と音楽の関係、および音楽伝承のあり方についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド授業（資料型）とします。毎週、授業時間までに hoppii 経由で資料を公開します。受講生は、毎時設定される締切までに、小テストおよび質問事項等の入力を hoppii 上で行います。授業連絡、および質問事項等に対するフィードバックは hoppii を利用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方、評価方法等の確認を行う。
第 2 回	神話と音楽	記紀神話の中で、音楽や楽器がどのように描かれているか、学習する。
第 3 回	政治と音楽①	政治と音楽の関係について、当時の音楽制度や六国史の記事などから学ぶ。
第 4 回	政治と音楽②	六国史の音楽記事に表れる内容と、実際の相違点について理解を深める。
第 5 回	和歌と音楽①	和歌がどのようにして発声されていたのか、『万葉集』の和歌、題詞などを元に考える。
第 6 回	和歌と音楽②	和歌を「ライブ」として考えた場合の、各種のレトリックの機能について学ぶ。
第 7 回	音楽の伝授と説話①	蝉丸に関する説話を中心に、音楽伝承に関する考え方や時代による変化を学習する。
第 8 回	音楽の伝授と説話②	貞保親王、源博雅ら、古楽譜の撰進にかかわった人物について理解を深める。
第 9 回	音楽の伝授と説話③	源博雅に関する説話を中心に、音楽伝承に関する考え方や後の時代への影響を学ぶ。

第 10 回 音楽の伝授と説話④

遣唐使として音楽を日本に伝えた藤原貞敏や、彼に音楽を伝授したという廉承武に関するいくつかの説話を比較する。

第 11 回 音楽の伝授と説話⑤

二つの舞楽曲の相伝にかかわる殺人事件の顛末について学び、楽家を中心とした音楽伝承のありかたについて理解を深める。

第 12 回 音楽の伝授と説話⑥

管絃と郢曲を極め、日本の音楽史に大きな影響を与えた藤原師長について理解を深める。

第 13 回 音楽の伝授と説話⑦

鴨長明の音楽思想について、いわゆる「秘曲尽くし」事件を中心に学ぶ。

第 14 回 春学期総括・レポート課題の出題

これまでの授業と学生のリアクションなどをふまえ総括。レポート課題を出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時、hoppii 上での小テスト回答、および質問事項等の入力が必要となります。質問については、まず自分自身で調べてみて、その上で行ってください。なお、準備学習・復習については 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。hoppii を経由して資料を公開します。

【参考書】

磯水絵『今日は一日、方丈記』（新典社、2013）

磯水絵『説話と横笛』（勉誠出版、2016）

その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】に照らして以下の 2 項目を評価の対象とします。

- ・毎時小テスト、および質問事項 60%
- ・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

hoppii にアクセスできる PC、インターネット環境を用意してください。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、hoppii にて連絡いたします。

【Outline and objectives】

In this class, we will appreciate various classical literary works related to Japanese classical music to learn an overview of the music culture that are closely related to literature. In the spring semester, we will study the relationship between politics and music, and the way to inherit of music tradition, while learning about *gagaku* and other musical cultures described in historical books, tales, and music books.

LIT200LA

日本文学と文化 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

本塚 亘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本古典音楽に関する様々な文学作品などを鑑賞し、文学と密接にかかわる音楽文化の様相を概観します。秋学期は、王朝文学（仮名日記、物語）や軍記物語などにおける音楽描写を鑑賞しながら、音楽と文学との相互の関係によって生じる、豊かな表現について学習していきます。

【到達目標】

- ・さまざまな古典文学作品に表れる音楽描写について理解を深めます。
- ・音楽と文学との相互の関係によって生じる豊かな表現についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド授業（資料型）とします。毎週、授業時間までに hoppii 経由で資料を公開します。受講生は、毎時設定される締切までに、小テストおよび質問事項等の入力を hoppii 上で行います。授業連絡、および質問事項等に対するフィードバックは hoppii を利用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方、評価方法等の確認を行う。
第 2 回	王朝文学と音楽①	『伊勢物語』と『古今和歌集』などとの比較を通じて、『伊勢物語』に現れない音楽について考察する。
第 3 回	王朝文学と音楽②	『うつは物語』の鑑賞を通じて、作品の中心となっている琴（七絃琴）の伝承についての理解を深める。
第 4 回	王朝文学と音楽③	『枕草子』に現れる様々な音楽に関する記述を読み、女房目線からの音楽に対する実感を探る。
第 5 回	王朝文学と音楽④	『源氏物語』に描かれる音楽とその時代設定、作者と音楽の関係について学習する。
第 6 回	王朝文学と音楽⑤	『源氏物語』に描かれる楽器や楽曲について、それぞれの物語上の機能について考察する。
第 7 回	王朝文学と音楽⑥	『源氏物語』に描かれる様々な音楽論について学習し、当時の音楽に関する考え方についての理解を深める。
第 8 回	王朝文学と音楽⑦	『源氏物語』に頻出する宮廷歌謡「催馬楽」についての基礎を学ぶ。
第 9 回	王朝文学と音楽⑧	『源氏物語』における、催馬楽の物語上の機能について学習する。

第 10 回 軍記物語と音楽①

『平家物語』を語る「平家語り」についての基礎を学ぶ。

第 11 回 軍記物語と音楽②

『平家物語』巻第六「小督」における音楽表現について学習する。

第 12 回 軍記物語と音楽③

『平家物語』巻第七「経正都落」における音楽表現について学習する。

第 13 回 軍記物語と音楽④

『平家物語』巻第十「千手前」における音楽表現について学習する。

第 14 回 秋学期総括・レポート課題の出題

これまでの授業と学生のリアクションなどをふまえ総括。レポート課題を出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時、hoppii 上での小テスト回答、および質問事項等の入力が必要となります。質問については、まず自分自身で調べてみて、その上で行ってください。なお、準備学習・復習については 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。hoppii を経由して資料を公開します。

【参考書】

磯水絵『「源氏物語」時代の音楽研究』（風間書院、2008）
その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】に照らして以下の 2 項目を評価の対象とします。

- ・毎時小テスト、および質問事項 60%
- ・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

hoppii にアクセスできる PC、インターネット環境を用意してください。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、hoppii にて連絡いたします。

【Outline and objectives】

In this class, we will appreciate various classical literary works related to Japanese classical music to learn an overview of the music culture that are closely related to literature. In the fall semester, we will study the richness of expression that emerges from the interrelationship between music and literature by appreciating musical depictions in dynastic literature and war stories.

LIT200LA

日本文学と文化 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：能と仏教

今泉 隆裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では能（謡曲）とその周辺事項について、とくに日本仏教とのかかわりについて考える。

俳句や短歌が固定した形式をもつゆえに、かえって人々の想像力を刺激するように、能もいくつかの決まった形式をもっている。この形式（話の枠）には、この芸能が胎動した当時の時代状況や、人々の期待が反映されている。どのような状況下で、どのようなことが、この芸能に要請されたのか。どのような歴史や、社会状況に影響を受けたためにそれらの形式が確立され、その形式からどのような想像力が新たに促されたのか。

本講義では、とくに能と宗教文化（おもに日本仏教）との関連を紹介しながら、その一端を垣間見たいと考える。とはいえ、能に関する知識はそれほど一般的ではない。はじめの数回、能楽に関する入門的内容をふまえることになる。また時間に余裕があれば、近代における能楽の動向を紹介しつつ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するのか（あるいは消滅するのか）を考える機会も持たたい。

そのうち勧進興行と能という視点から、一般的に「夢幻能」といわれるもの、なかでも幽霊を主人公（シテ）とする曲を主に扱う。また離ればなれになった親子の再開を描く、いわゆる「親子物狂能」を取り上げ、その周辺の事柄を紹介する。

※夢幻能に関する講義が「日本文学と文化 L C」（旧「文学 I」）、おもに親子物狂能に関する講義が「日本文学と文化 L D」（旧「文学 II」）となる予定である。ただし、講義内容はその都度変更する場合がある。

【到達目標】

能楽に関する基本的な知識を身につけることを目指す。
同時に、文芸作品が歴史社会とのかかわりのなかで、いかに規制されるのか、また、その規制された視点がどのような想像を促し、どのような表現を創造するのか、その一端を垣間見る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

コロナウィルスの状況から講義ができない期間は課題提出とします。ただし課題を提出させる方法について、担当者が不慣れなため、発信日程は 4 月 24 日から 5 月 1 日までの 1 週間以内とさせていただきます。

また、状況が改善され次第、授業形態は、講義形式とします。課題やリアクションペーパーに記入された内容、および質問など全体でも共有したほうが良いものについては講義内で適時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	能楽入門①	能楽入門 基本的な用語などについて解説する（5 回程度）。DVD 映像を参照して説明していく。
2	能楽入門②	上記、能楽入門つづき 能舞台解説・能の歴史（1）
3	能楽入門③	上記、能楽入門つづき 能舞台解説・能の歴史（2）
4	能楽入門④	上記、能楽入門つづき 能舞台解説・能の歴史（3） 基本用語解説（1）
5	能楽入門⑤	上記、能楽入門つづき 基本用語解説（2）
6	夢幻能について① （幽霊能について）	夢幻能のなかでも幽霊を主人公（シテ）とするものを取り上げ、その特徴について論じる（9 回程度）。 ・本講義の概要について
7	夢幻能について② （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき） 〈求塚〉鑑賞① 作品概要・及び鑑賞
8	夢幻能について③ （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき） 〈求塚〉鑑賞② 〈求塚〉にみるシテ（幽霊）とワキ（僧ワキ）との関係
9	夢幻能について④ （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき） 〈求塚〉鑑賞③ ・宗教学からみた能〈求塚〉の幽霊の特殊性／僧ワキの機能について
10	夢幻能について⑤ （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき） 〈船橋〉〈鶴飼〉ほか幽霊能の鑑賞① 作品概要・及び鑑賞
11	夢幻能について⑥ （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき） 〈船橋〉〈鶴飼〉② 〈鶴飼〉にみるシテ（幽霊）とワキ（僧ワキ）との関係
12	夢幻能について⑦ （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき） 〈船橋〉〈鶴飼〉③ ・宗教学からみた能〈求塚〉の幽霊の特殊性／僧ワキの機能について
13	夢幻能について⑧ （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき） 前期まとめ 1
14	夢幻能について⑨ （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき） 前期まとめ 2、および試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示した課題にしっかり取り組む。
本講義ではいくつかの曲を取り上げる予定である。
その際には【参考書】『謡曲集』『謡曲百番』等で本文を事前に確認することが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要な際は授業内で指示する。

【参考書】

本文
『謡曲集』上・下（表章日本古典文学大系、岩波書店）
『謡曲百番』（新日本古典文学大系、岩波書店）
『謡曲集』一・二（日本古典文学全集、小学館）など
入門書
西野春雄『能・狂言・風姿花伝』（新潮社、1992 年）など
ほかは授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況と、学期末の授業内レポートを持って評価する。目安としてはレポート 80 %、平常 20 %とする。平常点は出席のみではなく、リアクションペーパーの記入状況などで判断する。

また、レポートを提出しないものは評価できないと考えて下さい。講義内容の曲解や、また講義内容に言及しないレポートの評価は低くなることは言うまでもありません。到達目標を参照し、それを加味したレポートを作成して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

試験解答をみていると、そもそも質問の意味を理解していないものが散見される。能に関する知識は、あまり一般的ではないので、図書館等を積極的に活用し、理解を深めてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

※取り上げるテーマは進度等、都合により変更されることがあります。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will think about Noh (Kayo) and its surroundings, especially concerning Japanese Buddhism.

Haiku and Tanka have a fixed form, so they stimulate the imagination of people. It is needless to say that this form (the framework of the story) reflects the circumstances and expectations of people when this entertainment is created. Under such circumstances, what was expected for this entertainment? what kind of historical society did affect the establishment of the form? What kind of imagination from that form was newly promoted?

LIT200LA

日本文学と文化LD

2017 年度以降入学者

サブタイトル：能と仏教

今泉 隆裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では能（謡曲）とその周辺事項について、とくに日本仏教とのかかわりについて考える。

俳句や短歌が固定した形式をもつゆえに、かえって人々の想像力を刺激するように、能もいくつかの決まった形式をもっている。この形式（話の枠）には、この芸能が胎動した当時の時代状況や、人々の期待が反映されている。どのような状況下で、どのようなことがこの芸能に要請されたのか。どのような歴史や、社会状況に影響を受けたためにそれらの形式が確立され、その形式からどのような想像力が新たに促されたのか。

本講義では、とくに能と宗教文化（おもに日本仏教）との関連を紹介しながら、その一端を垣間見たいと考える。とはいえ、能に関する知識はそれほど一般的ではない。はじめの数回、能楽に関する入門の内容をふまえることになる。また時間に余裕があれば、近代における能楽の動向を紹介しつつ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するのか（あるいは消滅するのか）を考える機会も持ちたい。

そのうち勧進興行と能という視点から、一般的に「夢幻能」といわれるもの、なかでも幽霊を主人公（シテ）とする曲を主に扱う。また、離ればなれになった親子の再開を描く、いわゆる「親子物狂能」を取り上げ、その周辺的な事柄を紹介する。

※夢幻能に関する講義が「日本文学と文化LC」（旧「文学Ⅰ」）、おもに親子物狂能に関する講義が「日本文学と文化LD」（旧「文学Ⅱ」）となる予定である。ただし、講義内容はその都度変更する場合がある。

【到達目標】

能楽に関する基本的な知識を身につけることを目指す。と同時に、文芸作品が歴史社会とのかかわりのなかで、いかに規制されるのか、また、その規制された視点がどのような想像を促し、どのような表現を創造するのか、その一端を垣間見る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は、講義形式とする。

課題やリアクションペーパーに記入された内容、および質問など全体でも共有したほうが良いものについては講義内で適時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	能楽入門（補足①）	入門的事項の補足説明と「日本文学と文化（前期）」(旧「文学Ⅰ」)の内容をおさらいする（2回程度）。ただし、連続して講義を受けていない学生が多い場合は、内容を変更して対応したい。
2	能楽入門（補足②）	上記、能楽入門つづき

3	夢幻能について① (神能について)	夢幻能のなかでも神を主人公(シテ)とするものを取り上げ、その特徴について論じる(4 回程度)。ここでは以下のような項目を取り上げる予定である。 ・鑑賞 ・本説(典拠)と能との比較検討 ・夢幻能(神能)の特徴とその機能について ・シテ(神)とワキ(大臣ワキ)との関係 ・宗教学からみた能の神の特殊性 ・大臣ワキの機能についてなど
4	夢幻能について② (神能について)	上記、夢幻能、とくに神能について(つづき)〈高砂〉鑑賞①／作品解説
5	夢幻能について③ (神能について)	上記、夢幻能、とくに神能について(つづき)〈高砂〉鑑賞②／本説(典拠)と能との比較検討 ・シテ(神)とワキ(大臣ワキ)との関係
6	夢幻能について④ (神能について)	上記、夢幻能、とくに神能について(つづき)〈高砂〉鑑賞③／宗教学からみた能の神の特殊性 ・大臣ワキの機能についてなど
7	親子物狂能について①	春学期でみた勧進興行との関連で寺社の霊験譚として、離ればなれになった親子の再開を描く親子物狂能とその特色などについて論じる(6 回程度)。ここでは以下のような項目を取り上げる予定である。 ・講義概要
8	親子物狂能について②	上記、親子物狂能について(つづき) 〈隅田川〉鑑賞①／鑑賞
9	親子物狂能について③	上記、親子物狂能について(つづき) 〈隅田川〉鑑賞②／本説(典拠)と能との比較検討
10	親子物狂能について④	上記、親子物狂能について(つづき) 〈隅田川〉鑑賞③／〈弱法師〉と俊徳丸説話、さらにその淵源
11	親子物狂能について⑤	上記、親子物狂能について(つづき) そのほかの親子物狂能 鑑賞①／本説(典拠)と能との比較検討
12	親子物狂能について⑥	上記、親子物狂能について(つづき) そのほかの親子物狂能 鑑賞②／親子物狂能と仏教との関係(まとめ)
13	能楽の近代について①	近代化の中で一時期廃れていた能楽がいかに関復したかについて論じ、文化がいかに関歴史社会とのかかわりの中で存続するのか(あるいは消滅するのか)を考える(2 回程度)。
14	能楽の近代について②	上記、能楽の近代について(つづき) 後期まとめ、および試験

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業内で指示した課題にしっかり取り組む。

本講義ではいくつかの曲を取り上げる予定である。

その際には【参考書】『謡曲集』『謡曲百番』等で本文を事前に確認することが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に指定しない。必要な際は授業内で指示する。

【参考書】

本文

『謡曲集』上・下(表章日本古典文学大系、岩波書店)

『謡曲百番』(新日本古典文学大系、岩波書店)

『謡曲集』一・二(日本古典文学全集、小学館)など

入門書

西野春雄『能・狂言・風姿花伝』(新潮社、1992 年)など

ほかは授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況と、学期末の授業内レポートを持って評価する。目安としてはレポート 80 %、平常 20 %とする。平常点は出席のみではなく、リアクションペーパーの記入状況などで判断する。

また、レポートを提出しないものは評価できないと考えて下さい。講義内容の曲解や、また講義内容に言及しないレポートの評価は低くなることは言うまでもありません。到達目標を参照し、それを加味したレポートを作成して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

試験解答をみていると、そもそも質問の意味を理解していないものが散見される。能に関する知識は、あまり一般的ではないので、図書館等を積極的に活用し、理解を深めてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

※取り上げるテーマは進捗等、都合により変更されることがあります。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will think about Noh (Kayo) and its surroundings, especially concerning Japanese Buddhism.

Haiku and Tanka have a fixed form, so they stimulate the imagination of people. It is needless to say that this form (the framework of the story) reflects the circumstances and expectations of people when this entertainment is created. Under such circumstances, what was expected for this entertainment? what kind of historical society did affect the establishment of the form? What kind of imagination from that form was newly promoted?

LIT200LA

日本文学と文化 LG

2017 年度以降入学者

サブタイトル：現代日本文学と映像表現

榎本 正樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文学を原作として映画化された作品の一部を観賞した上で、原作の小説を講読します。2020 年に劇場公開された以下の 6 作品を取り上げる予定です（作品の配列は劇場公開日順です）。同一の物語内容を含んだ文学表現と映像表現を比較対照し、分析することで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現や技法について考えを深めるとともに、「文学固有の表現とは何か？」という視点から小説を読む力の獲得を目指します。

【授業で取り上げる作品】

野中ともそ『宇宙でいちばんあかるい屋根』（藤井道人監督）
今村夏子『星の子』（大森立嗣監督）
辻村深月『朝が来る』（河瀬直美監督）
塩田武士『罪の声』（土井裕泰監督）
若竹千佐子『おらおらでひとりいぐも』（沖田修一監督）
田辺聖子『ジョゼと虎と魚たち』（タムラコータロー監督）
*劇場公開順。作品は変更の可能性があります。

【到達目標】

現代日本文学の多様なジャンルの小説を深く読むことで、複雑な言語構成体としてのテクニクから様々な要素を抽出し、整理し、分析することができるようになります。さらに、個人の生き方や社会システム、性、生、死、ジェンダー、家族、事件、歴史などの諸問題について思考する力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についても理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式をとります。映画の一部を観賞した後、原作小説を精読し、作品分析を行っていきます。映像メディアである映画と言語メディアである小説を比較検討することによって、情報提示の仕方、叙述の方法、人物設定、物語構成の違いなど、表現上の相違点を明らかにしていきます。

履修者には、現代日本文学の多様な表現世界や作品固有の表現に触れ、作品について深く思考し、考えをまとめ、批評的な言葉でアウトプットする力が求められます。小説を事前に読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、取り上げる作品については、事前に読んで授業に臨むのがベストです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	イントロダクション	ガイダンス授業
(2)	野中ともそ『宇宙でいちばんあかるい屋根』を読む	小説の講読&分析&考察

- (3) 藤井道人監督『宇宙でいちばんあかるい屋根』を観る
- (4) 今村夏子『星の子』を小説の講読&分析&考察読む
- (5) 大森立嗣監督『星の子』を観る
- (6) 辻村深月『朝が来る』を小説の講読&分析&考察を読む
- (7) 河瀬直美監督『朝が来る』を観る
- (8) 塩田武士『罪の声』を小説の講読&分析&考察読む
- (9) 土井裕泰監督『罪の声』を観る
- (10) 若竹千佐子『おらおらでひとりいぐも』を読む
- (11) 沖田修一監督『おらおらでひとりいぐも』を観る
- (12) 田辺聖子『ジョゼと虎と魚たち』を読む
- (13) タムラコータロー監督『ジョゼと虎と魚たち』を観る
- (14) レポート提出 授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。事前に原作小説を読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、物語内容や人物関係を把握する上でも、小説を読んで授業に臨むのがベストです。授業で取りあげた小説や映像作品は、授業外の環境で、もう一度読み直し観賞し直し、作品の理解を深めるよう努めてください。最終授業時に提出するレポート執筆の事前準備として、対象作品を精読し、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を随時行ってください。

【テキスト（教科書）】

授業で扱う小説の文庫本。

【参考書】

参考書・参考文献は、教室で指示します。
必要な資料はプリントで配付します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100 %）。
試験や小テストはありません。

レポートは春学期最終授業時間に提出します。レポート内容は、「授業でとりあげた作品の中から一作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で「論」を展開してください。

分析の鋭さ、論考の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを見て採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

映画を観る時間を増やしてほしいとの意見が多くあるので、可能な限り鑑賞時間を増やす努力をします。
専門科目ではないので、現代日本文学になじみのない学生にも分かりやすい言葉で、分析と解説を行うよう心がけます。

【その他の重要事項】

現代日本文学のみならず、映像メディアに関心をもつ学生の履修を歓迎します。
榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト（<http://enmt.jp>）で確認できます。ツイッター（@enmt）での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline and objectives】

We read the original novel after having watched movie work that filmized as "Contemporary Japanese literature". I select from the following 6 works in 2020.

We compare movie expression with the literature expression including the same story contents, we are analyzing peculiar expressin words and movies.

LIT200LA

日本文学と文化 LH

2017 年度以降入学者

サブタイトル：新海誠の文学世界

榎本 正樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新海誠監督のアニメーション映画『君の名は。』は、アニメーション界や映画界を超えた近年の日本映画最大のヒット作品として、多くの観客の支持と共感を得ました。国内観客動員数 1,900 万人を突破、興行収入 250 億円を超える大ヒットとなり、邦画興行収入歴代 2 位を記録、アジア圏では 7 冠達成を記録し、日本のみならず世界各国の記録を塗り替えることになりました。2019 年には最新作『天気の子』が封切られ、前作同様の評価を得ました。アニメーションというジャンルの枠を超えた同時代の重要な表現者として、新海誠という存在をとらえ直す必要があります。

新海誠というクリエイターの名前を、『君の名は。』で初めて知った人が多いかもしれませんが、新海監督のキャリアは 2000 年代初頭にまで遡ることができます。新海作品の根底にあるのは「言葉」に重きを置いた世界造形、言い換えれば「文学」への強い視線です。人と人との繊細なコミュニケーションを、精緻な言葉と独自の映像美学によって表現するその姿勢は、「アニメーションという表現手段を用いた文学」と形容可能なものです。

新海誠は「アニメーション監督」であるとともに「小説家」でもあります。新海は自身の手で代表作をノベライズ（小説化）を手がけていますが、それらは単に映像作品を言葉に置き換えたものではなく、小説作品として自立しています。同一の作者による映画版と小説版を比較検討することで、映像表現と小説表現の違いを検証することが可能です。

本講義では、新海誠の初期作品から最新作まで入手可能な映像作品を参観しつつ、「新海誠の文学世界」を紐解いていきます。同時代の先端的な表現者である新海誠の主要作品を「網羅的」に観賞し、かつ「分析的」に解説する経験を通して、作品批評のための技術を獲得します。

【到達目標】

映像作品であるアニメーションを分析的に解説する技術を身につけ、表現や仕掛けや物語構造などについて、自分の言葉で論述できるレベルを目指します。関連資料を参照し、さまざまな他人の意見やコメントに目を通し、作品のモデルとなった場所に実際に赴くことで、作品の背景にある文化的、歴史的、地理的背景について深く学び、作品を客観的に論じる力を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義とプレゼンテーションを合わせた形で行います。新海誠作品を初めから最新作まで（場合によっては作品の一部を）を観賞し、各シーンについて解説と分析を加えていきます。アニメーションで重要なのはシーンを構成するカットです。カットにはクリエイターの「世界そのものへの純粋な視線」が投影されています。

もう一つ重要なのは、言葉（ナレーションや科白や対話）です。本授業では新海作品の言葉に特に注目し、物語の中で言葉がどのように作用しあい、コミュニケーションの主題を提示していくのかを細かく探っていきます。

新海監督自身の言葉、関連資料の紹介や他の論者の考察など、作品をめぐる多様な言説を紹介する機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	イントロダクション	新海誠、その人と作品について
(2)	『遠い世界』『彼女と彼女の猫』	最初期作品を概観する
(3)	『はしのこえ』	物理的な「距離」と精神的な「距離」
(4)	『雲のむこう、約束の場所』	SF の趣向を通して表現された世界
(5)	『秒速5センチメートル』	人物と風景、あるいは速度をめぐる物語
(6)	『星を追う子ども』	異界に移動し帰還する子どもたち
(7)	『言の葉の庭』	独自の映像美学を支える文学性
(8)	『小説 言の葉の庭』	ノベライゼーションの方法
(9)	短編作品 & CM 作品	新海誠のアザーワークス
(10)	『君の名は。』前半	すれ違いと入れ替わりの趣向をめぐって
(11)	『君の名は。』後半	共苦する魂のゆくえ
(12)	『天気の子』前半	作品で描かれた 2021 年
(13)	『天気の子』後半	人身御供譚としての読みとり
(14)	レポート提出	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
アニメーションを観たり小説を読む際に受動的に観賞するのではなく、作品の細部について自分の言葉で客観的に書いたり話したりする習慣をつけましょう。授業で取りあげる映像作品や小説を繰り返し観たり読んだりして、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を随時行ってください。
また機会があれば、作品の中に登場する場所に赴く「聖地巡礼」に挑戦してみてください。実在する場所が物語のシーンでどのような意味を与えられているのか、体験的に学習してください。

【テキスト（教科書）】

榎本による新海誠についての評論本が、2021 年夏頃までに刊行される予定です。秋学期の授業開始には間に合うと思われますので、刊行が正式にアナウンス可能な時期になった段階で、使用教科書として告知します。

【参考書】

授業で扱う新海誠のノベライゼーション作品は参考書とします。必要に応じて、個人で入手してください。『小説 秒速5センチメートル』『小説 言の葉の庭』『小説 君の名は。』『小説 天気の子』とも、角川文庫で入手可能です（電子書籍版もあります）。
<http://www.kadokawa.co.jp/product/321510000146/>
<http://www.kadokawa.co.jp/product/321510000145/>
<http://www.kadokawa.co.jp/product/321603000121/>
<https://www.kadokawa.co.jp/product/321903000333/>
その他の参考書・参考文献や参考サイトは膨大にあるので、教室で示します。
必要な資料はプリントで配付します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100 %）。
試験や小テストはありません。
レポートは秋学期最終授業時間に提出です。レポート内容は、「新海誠監督作品の中から、一作品または複数の作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。
分析の鋭さ、論考の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを中心に採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語など難易度が高いタームの使用を控え、初級者にも理解しやすい授業を心がけます。
可能な限り映像作品を観る機会を増やします。

【その他の重要事項】

アニメーションや現代日本文学に関心をもつ学生の履修を歓迎します。
榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト（<http://enmt.jp>）で確認できます。ツイッター（@enmt）での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline and objectives】

Shinkai Makoto is Japanese animation director. His animation film is highly acclaimed not only in Japan but also overseas. Last summer, his latest work " Weathering With You" was released. I decode Shinkai's all animation works from various viewpoints.

LIT200LA

外国文学と文化 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：西洋文学と音楽

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、西洋の文学、特に音楽とかかわりの深い作品を扱います。音声や文字という記号の表現である文学と、直接感性に訴える音の連なりである音楽は、元来切っても切れない関係にあります。「詩」は「うたふ」ものであり、かつて物語は韻律をとめない楽器にのせて語られました。

春学期では、ミュージカルの名作として愛され続けている『レ・ミゼラブル』を原作を参照しつつ分析します。さらに最も人気の高いオペラの一つである『椿姫』を扱います。次にシェイクスピアの名高い『ロミオとジュリエット』を取り上げます。この作品は様々な作曲家により音楽化されています。さらにこの現代への翻案として創られたミュージカル『ウエストサイド物語』を扱います。

【到達目標】

芸術作品を観賞しつつ、批評、分析し、それを表現する手法を学びます。

「文学」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、さまざまな知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けることは大切でしょう。

この授業を履修することで、出版、メディア、教育などの分野で働くうえで必要な基礎的な知識と表現力を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教室での授業ができない見込みですので、on demand 方式を採用することになりそうです。学習支援システムでその方法をお知らせします。教材や資料は同じく学習支援システムに載せます。皆さんは資料の情報を参考にしながら作品（のさわりとなる部分）を鑑賞し、教材に示された問題点、着眼点などについて考えてください。それぞれの作品ごとに課題として 600 字ほどの書き物を学習支援システムを通して出すことになります。私は同じく学習支援システムを通してお返しします。

まずはヴィクトル・ユゴーによる『レ・ミゼラブル』の原作を概観したうえで、ミュージカルを鑑賞し、分析します。次にほぼ同時期に書かれた小説かつ戯曲をもとに創られたオペラ『椿姫』を扱います。さらに『ロミオとジュリエット』を概観し、鍵となる場面を詳しく検討します。そのうえで音楽家によるさまざまな作品を鑑賞し、分析します。さらに『ロミオとジュリエット』の現代への翻案として創られた『ウエストサイド物語』を、元ネタとのかかわりを含めて鑑賞し、分析します。時代も背景も異なる状況で書かれた物語にも、シェイクスピアの名高い作品の影が映っているのを見ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明、 『レ・ミゼラブル』1 そもそもこれはどのような作品か	ヴィクトル・ユゴー：ロマン主義運動の総帥 小説『レ・ミゼラブル』
2	『レ・ミゼラブル』2 ぶつかる二人の主要人物	ミュージカル： ジャン・ヴァルジャンとジャヴエール
3	『レ・ミゼラブル』3 ハッピーエンドのカップルともう一人	コゼットとマリウス エポニヌという存在
4	『レ・ミゼラブル』4 様々な作品	英語によるミュージカルということ 他の英語による映画、フランス語によるドラマなど
5	『椿姫』1 そもそものような作品か。「椿」の「お姫様」とは？	アレクサンドル・デュマ（息子）の小説と戯曲『椿姫』
6	『椿姫』2 誰もが知っているあのメロディー	ジュゼッペ・ヴェルディのオペラ『椿姫』 序曲と冒頭 「乾杯の歌」
7	『椿姫』3 父と息子、息子の妻	アルフレードの父とヴィオレッタ
8	『椿姫』4 原作とオペラでなぜ最後が異なるのか	最終場面 小説と戯曲とオペラの比較
9	『ロミオとジュリエット』1 誰もが聞いたことはあるあの作家、あの作品、 誰もが見たことのあるあの場面	ウィリアム・シェイクスピアの戯曲：元ネタと著作権という考え方 映画版：ゼフィレリ監督 1968 年 冒頭とバルコニーの場面
10	『ロミオとジュリエット』2 どう描くか、演出による違い	決闘の場面 最終場面 ゼフィレリ版とルールマン版（1966 年）
11	『ロミオとジュリエット』3 バレエ：セリフがないシェイクスピア演劇	セルゲイ・プロコフィエフのバレエ音楽 冒頭 「騎士たちの踊り」 （シンセサイザーなどによる ELP 版） バルコニーの場面
12	『ロミオとジュリエット』4 原作と最後が大きく違うオペラ	シャルル・グノーのオペラ： 冒頭とバルコニーの場面 決闘の場面 最終場面
13	『ウエストサイド物語』1 誰もが見たことのあるあの振り付け	現代への翻案 ジャズの表現：裏拍：悪魔の？ 魅惑の？ 減 5 度 『ロミオとジュリエット』との比較： 登場人物と設定の共通点と違い 冒頭場面 Tonight America (The Nice による編曲)
14	『ウエストサイド物語』2 どこが、そしてなぜ「原作」と異なるのか	決闘場面 Cool 最終場面 永遠のテーマ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

扱われる作品の原作をあらかじめ読んでおいて下さい。さらに AV ライブラリなどで借りて映像作品をみておくといいかと思います。ただし現在の状況ではそれもなかなか難しいことだと考えられます。インターネットで視聴できるものは私のほうからも紹介しますが、皆さんも独自にいろいろ探してみてください。

1-4:原作の小説を読む。主要登場人物についてまとめる。映画版やドラマ版を選んで視聴する。

5-8：原作の小説（できたら演劇も）を読む。オペラ版を選んで視聴する。

9-12：原作の演劇を読む。映画版やバレエ版を選んで視聴する。

13-14：映画版を視聴する。舞台版を選んで視聴する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書はありません。資料、教材を学習支援システムでお配りします。

【参考書】

【参考書 / References】

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.

『論文レポートの文章作法』古郡延治、有斐閣新書 C164

『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書 0924A

他にも随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、600 字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100 %）。春学期は 4 作品扱うので 4 回出していただくことになる予定です。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、課題を出していただくのが頻繁過ぎたこともあり、私のほうでもなかなかお返しすることができませんでした。今年度は絞り込んだうえでなるべく早く見たいと思います。

【Outline and objectives】

This course deals with occidental literature, especially works adapted for music. Literature, which expresses its objects by signs, and music, which appeals to sentiments by sequences of sounds, are closely related to each other. Stories were once sung accompanied by musical instruments.

The works dealt with during the spring term will be:

"Les Misérables" (musical), "La Traviata"(opera), "Romeo and Juliet" (movie, ballet, opera), "West Side Story" (musical).

LIT200LA

外国文学と文化 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：西洋文学と音楽

鈴木 正道

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続いて、西洋の文学、特に音楽とかかわりの深い作品を扱います。モーツァルトとサリエリのライバル関係を描いた演劇および映画『アマデウス』を軸に、モーツァルトの『フィガロの結婚』、『ドン・ジョヴァンニ』、サリエリの『タラール』といったオペラ、モリエールの『ドン・ジュアン』、ボーマルシェの『フィガロの結婚』などの戯曲を分析します。その次に、ミュージカルとして人気を博しているルルー原作の『オペラ座の怪人』を扱います。

【到達目標】

芸術作品を観賞しつつ、批評、分析し、それを表現する手法を学びます。

「文学」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、さまざまな知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けることは大切でしょう。

この授業を履修することで、出版、メディア、教育などの分野で働くうえで必要な基礎的な知識と表現力を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教室での授業ができない見込みですので、on demand 方式を採ることになりそうです。学習支援システムでその方法をお知らせします。教材や資料は同じく学習支援システムに載せます。皆さんは資料の情報を参考にしながら作品（のさわりとなる部分）を鑑賞し、教材に示された問題点、着眼点などについて考えてください。それぞれの作品ごとに課題として 600 字ほどの書き物を学習支援システムを通して出すことになります。私は同じく学習支援システムを通してお返しします。

秋学期には、イギリスの劇作家ピーター・シェファアの『アマデウス』を軸に、その中に登場するヨーロッパの 17 世紀から 18 世紀の文学作品、またそれにちなむ音楽作品を扱います。『アマデウス』は作者自身が脚色して映画化されて多くの人々に評価されたので、知っている方も多いことでしょう。まず、この作品の概要を見渡し、それからこの作品の中に登場する音楽、その原作となった文学作品を観覧し、分析します。分析の方法論も学びます。

『オペラ座の怪人』は 20 世紀の初めにフランスのミステリー作家ガストン・ルルーによって発表された作品ですが、英語によるミュージカルで今では人気を博しています。美と醜、歴史的な建物に潜む謎など、ある意味では定番の数々のテーマを分析します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明、 『アマデウス』とは	演劇と映画; 「神に愛されたる者」の物語

2	『アマデウス』 衝撃の出会い	モーツァルトとサリエリのライ ヴァル関係 戯曲と映画
3	『フィガロの結婚』1 原作者はどんな人が オペラへの翻案	ボーマルシェの戯曲：政治的な意 味合い ダ・ボンテの台本とモーツァルト のオペラ： 序曲と冒頭
4	『フィガロの結婚』2 ケルビーノというト リックスター	「自分で自分がわからない」 「もう飛ぶまいぞこの蝶々」 映画『アマデウス』におけるサリ エリの行進曲の変奏
5	『フィガロの結婚』3 『アマデウス』で見せ られる場面と実際の譜 面の違い	第2幕の最終場面の7重唱 結婚式の場面 第4幕のどんでん返し 最終場面
6	『タラール』とはどん な作品か	ボーマルシェ自身が台本を書いた サリエリのオペラは当時のお手本 オペラ
7	ドン・ファン伝説 モリエールの『ドン・ ジュアン』1 唯物論者にして快楽主 義者？	女たらしの伝説 無神論の誘惑者？ モリエールの演劇：フランス古典 主義の時代 冒頭 貧者との対話の場面
8	『ドン・ジュアン』2 父親という法、掟	騎士隊長の像 亡霊 晩餐 最終場面
9	オペラ『ドン・ジョ ヴァンニ』1 グロテスク：おぞまし くも滑稽	ダ・ボンテの台本とモーツァルト のオペラ：序曲、 女のリスト
10	『ドン・ジョヴァンニ』 2 超自然をどう演出する か	村の娘の誘惑 騎士隊長の像
11	『ドン・ジョヴァンニ』 3 再び『アマデウス』 歴史上の謎をどう演出 するか	晩餐 最終場面のさまざまな演出： 映画『アマデウス』版 ロゼー版 精神分析：科学か 20 世紀の骨相 学か 『アマデウス』の最終場面
12	『オペラ座の怪人』1 これはオペラではな い、オペラ劇場を扱っ た作品。	原作者のガストン・ルルーとは？ 小説『オペラ座の怪人』 2004 年の映画版ミュージカル
13	『オペラ座の怪人』2 読み手／観客を惹きつ ける設定	ミュージカル： 人気スターと新進の歌い手、 謎と恐怖
14	『オペラ座の怪人』3 捕り物という定番クラ イマックスと余韻を残 す最終場面	ミュージカル： 表の二枚目と裏のヒーロー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

扱われる作品の原作をあらかじめ読んでおいて下さい。さらに AV ライブラリなどで借りて映像作品をみておくといいかと思えます。ただし現在の状況ではそれもなかなか難しいことだと考えられます。インターネットで視聴できるものは私のほうからも紹介しますが、皆さんも独自にいろいろ探してみてください。

1-2：原作の演劇を読む。

3-5：原作の演劇を読む。オペラ版を選んで視聴する。

6：サリエリについて調べる。

7-10：ドン・ファンの伝説について調べる。オペラ『ドン・ジョヴァンニ』を選んで視聴する。

11：モーツァルトの晩年について調べる。

12-14：原作の小説を読む。映画版、ミュージカル版を選んで視聴する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。学習支援システムの「教材」を通して資料などを配ります。

【参考書】

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.

『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書 C164

『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書 0924A

他にも随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、600 字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100 %）。秋学期も 4 回ほど出していたく予定です。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、課題を出していただくのが頻繁過ぎたこともあり、私のほうでもなかなかお返しすることができませんでした。今年度は絞り込んだうえでなるべく早く見たいと思います。

【Outline and objectives】

As in the spring semester, this course deals with occidental literature, especially works adapted for music. The works dealt with during the fall term will be:

"The Marriage of Figaro", "Tarare", "Don Giovanni" (opera works presented in Peter Shaffer's "Amadeus", which will be also treated in this course); "Le Fantôme de l'opéra", one of the most popular musicals, originally written by Gaston Leroux.

LIT200LA

外国文学と文化 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：漢詩を作る

日原 傳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者にも漢詩の実作を指導する授業です。最初に漢詩の中でも最も厳格な規則に基づく「近体詩」の作り方について解説します。その上で漢詩（七言絶句）の実作に挑み、「近体詩」の規則についての理解を深めます。実作の参考になるように、実作と並行して春夏秋冬の風物を詠じた漢詩（歳時詩）を季節に沿って鑑賞してゆきます。春学期の授業では主に春から夏にかけての風物を詠じた漢詩を鑑賞します。

【到達目標】

- ・漢詩の読解・創作に必要な基本的知識の習得を目指す。
- ・近体詩の規則を理解し、それに従って漢詩の実作をする。
- ・日本の古典文学の世界で大きな位置を占める「漢文学」の存在を再認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

開講時から3回ほどを使って、漢詩の歴史、さまざまな詩形、近体詩の規則について説明する。その後は漢詩の実作指導を中心に据える。実作の参考になるように、一回ごとに異なるテーマを設け、毎回数首の漢詩を鑑賞する。日本人の作った漢詩もできるだけ紹介したい。日本の先人が中国に起源をもつ「漢詩」という定型詩と取り組み、各自の思いを表現していったことを知ってほしい。

※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	歳時詩について、近体詩の規則①／梅の詩鑑賞	漢詩の歴史、さまざまな詩形、古体詩と近体詩の説明。「歳時詩」「二十四節気」「七十二候」の説明。正岡子規「閑子規」を例に作詩法を解説。／林逋「山園小梅」などを鑑賞。
第 2 回	近体詩の規則②／桜の詩鑑賞	平仄図式・押韻の説明。二四不同二六対、反法・粘法の説明。／藤井竹外「芳野」などを鑑賞。
第 3 回	近体詩の格律③／春遊の詩鑑賞	いくつかの禁忌（下三連、孤平、冒韻、同字の重複）について。／杜牧「江南春」、永井荷風「墨上春遊」などを鑑賞。／実作（七言一句を作る）
第 4 回	晩春の詩鑑賞／実作指導	白居易「三月三十日題慈恩寺」、呉錫麒「送春」などを鑑賞。／実作

第 5 回	ほととぎすの詩鑑賞／実作指導	杜甫「子規」、嵯峨波響「聞鵲」などを鑑賞。／実作
第 6 回	牡丹の詩鑑賞／実作指導	皮日休「牡丹」、石川丈山「白牡丹」などを鑑賞。／実作
第 7 回	薔薇・石榴の詩鑑賞／実作指導	高駢「山亭夏日」、柏木如亭「石榴」などを鑑賞。／実作
第 8 回	山行の詩鑑賞／実作指導	王安石「鍾山」、広瀬淡窓「彦山」などを鑑賞。／実作
第 9 回	梅雨の詩鑑賞／実作指導	趙師秀「約客」、篠崎小竹「梅雨」などを鑑賞。／実作
第 10 回	蓮の花の詩鑑賞／実作指導	白居易「池上」、菅茶山「夏日雜詩」などを鑑賞。／実作
第 11 回	螢・蟬・蠅・蚊の詩鑑賞／実作指導	杜甫「螢火」、北條霞亭「観螢」、蘇軾「溪陰堂」、韓愈「雜詩」などを鑑賞。／実作
第 12 回	苦熱・避暑・昼寝の詩鑑賞／実作指導	柳宗元「夏昼偶作」、袁枚「銷夏」、野田笛浦「昌平橋納涼」などを鑑賞。／実作
第 13 回	夕立の詩鑑賞／実作指導	蘇軾「六月二十七日、望湖樓醉書」、大窪詩仏「急雨」などを鑑賞。／実作
第 14 回	夏の江村・舟行・滝の詩鑑賞／実作指導	杜甫「江村」、李白「望廬山瀑布」などを鑑賞。／実作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書に挙げたような漢詩関連の書籍を読み、漢詩に親しむ。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者作成の資料を配布する。

【参考書】

石川忠久『漢詩を作る』（大修館書店）
石川忠久『漢詩の稽古』（大修館書店）
鷲野正明『初めての漢詩創作』（白帝社）
鈴木健一編『漢文のルール』（笠間書院）
前野直彬『唐詩選』全三冊（岩波文庫）
村上哲見『三体詩』全四冊（朝日文庫）
目加田誠『唐詩三百首』全三冊（平凡社）
山田勝美『中国名詩鑑賞辞典』（角川書店）
猪口篤志『日本漢詩鑑賞辞典』（角川書店）
石川忠久『漢詩をよむ 春の詩 100 選』『漢詩をよむ 夏の詩 100 選』『漢詩をよむ 秋の詩 100 選』『漢詩をよむ 冬の詩 100 選』（以上、NHK 出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・授業中に作って提出する漢詩の実作） 50 %
期末試験またはそれに代わる最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

実作指導の時間を多くとれるように工夫する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write Chinese poems.

LIT200LA

外国文学と文化 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：漢詩を作る

日原 傳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者にも漢詩の実作を指導する授業です。最初に漢詩の中でも最も厳格な規則に基づく「近体詩」の作り方について解説します。その上で漢詩（七言絶句）の実作に挑み、「近体詩」の規則についての理解を深めます。実作の参考になるように、実作と並行して春夏秋冬の風物を詠じた漢詩（歳時詩）を季節に沿って鑑賞してゆきます。秋学期の授業では主に秋から冬にかけての風物を詠じた漢詩を鑑賞します。

【到達目標】

- ・漢詩の読解・創作に必要な基本的知識の習得を目指す。
- ・近体詩の規則を理解し、それに従って漢詩の実作をする。
- ・日本の古典文学の世界で大きな位置を占める「漢文学」の存在を再認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

開講時から3回ほどを使って、漢詩の歴史、さまざまな詩形、近体詩の規則について説明する。その後は漢詩の実作指導を中心に据える。実作の参考になるように、一回ごとに異なるテーマを設け、毎回数首の漢詩を鑑賞する。日本人の作った漢詩をできるだけ紹介したい。日本の先人が中国に起源をもつ「漢詩」という定型詩と取り組み、各自の思いを表現していったことを知ってほしい。

※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	歳時詩について、近体詩の規則①／初秋の詩鑑賞	漢詩の歴史、古体詩と近体詩の説明。「歳時詩」「二十四節気」「七十二候」の説明。平仄図式・押韻の説明。／劉禹錫「秋風引」などを鑑賞。
第2回	近体詩の規則②／七夕の詩鑑賞	二四不同二六対、反法・粘法の説明。／杜牧「秋夕」、直江兼続「織女惜別」などを鑑賞。
第3回	近体詩の規則③／月の詩鑑賞	いくつかの禁忌（下三連、孤平、冒韻、同字の重複）の説明／白居易「八月十五日夜禁中独直对月憶元九」などを鑑賞。／実作（七言一句を作る）
第4回	重陽・菊の詩鑑賞／実作指導	王維「九月九日憶山東兄弟」、毛沢東「采桑子」などを鑑賞。／実作
第5回	十三夜の詩鑑賞／実作指導	上杉謙信「九月十三夜」、荻生徂徠「還館作」などを鑑賞。／実作

第6回	紅葉の詩鑑賞／実作指導	杜牧「山行」、頼山陽「通天橋」などを鑑賞。／実作
第7回	雁の詩鑑賞／実作指導	庾信「秋夜望單飛雁」、韋應物「聞雁」などを鑑賞。／実作
第8回	冬の生活の詩鑑賞／実作指導	蘇東坡「贈劉景文」、楊万里「寒雀」、六如「霜曉」などを鑑賞。／実作
第9回	つばき・さざんかの詩鑑賞／実作指導	蘇東坡「山茶」、惲格「歲寒圖」などを鑑賞。／実作
第10回	雪の詩鑑賞／実作指導	柳宗元「江雪」、菅茶山「冬夜讀書」、溝口桂巖「長命晴雪」などを鑑賞。／実作
第11回	氷・霜の詩鑑賞／実作指導	藤井竹外「冬夜下澱江」、温庭筠「商山早行」などを鑑賞。／実作
第12回	冬至の詩鑑賞／実作指導	白居易「鄜州冬至夜思家」、山田方谷「戊申至日宴集分韻」などを鑑賞。／実作
第13回	歳末の詩鑑賞／実作指導	高適「除夜作」、柏木如亭「除夜」などを鑑賞。／実作
第14回	新年の詩鑑賞／実作指導	張説「幽州新歲作」、菊池五山「新年雜述」などを鑑賞。／実作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書に挙げたような漢詩関連の書籍を読み、漢詩に親しむ。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者作成の資料を配布する。

【参考書】

石川忠久『漢詩を作る』（大修館書店）
石川忠久『漢詩の稽古』（大修館書店）
鷲野正明『初めての漢詩創作』（白帝社）
鈴木健一編『漢文のルール』（笠間書院）
前野直彬『唐詩選』全三冊（岩波文庫）
村上哲見『三体詩』全四冊（朝日文庫）
目加田誠『唐詩三百首』全三冊（平凡社）
山田勝美『中国名詩鑑賞辞典』（角川書店）
猪口篤志『日本漢詩鑑賞辞典』（角川書店）
石川忠久『漢詩をよむ 春の詩 100 選』『漢詩をよむ 夏の詩 100 選』『漢詩をよむ 秋の詩 100 選』『漢詩をよむ 冬の詩 100 選』（以上、NHK 出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・授業中に作って提出する漢詩の実作）50 %
期末試験またはそれに代わる最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

実作指導の時間を多くとれるように工夫する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write Chinese poems.

LIT200LA

外国文学と文化 L E

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

大崎 さやの

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペラは 16 世紀末にイタリアで生まれた舞台芸術形式です。本講義では、イタリア・オペラの代表的な作品をとりあげ、さまざまな演出により上演された舞台を映像で鑑賞、オペラという舞台芸術の歴史を学びつつ、現代におけるあり方を考えます。日本では比較的馴染みが薄いオペラですが、特にイタリア・オペラはありふれた内容のものが多く、肩肘張って見るような難しいものではありません。楽しみながらヨーロッパ文化の神髄であるオペラに親しんでいきましょう。

【到達目標】

イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オペラの誕生したルネサンスから 18 世紀までのオペラを講義形式で扱います。プリント（オンラインの場合 PDF）の他、視聴覚教材を用います。また適宜、課題を提出してもらいます。フィードバックは授業内で行います。

授業は対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド方式で行う予定ですが、大学の行動方針レベルが 2 となった場合は原則としてすべてオンラインで行います。オンライン授業は GoogleClassroom 上で行います。GoogleClassroom のコードは授業支援システム（Hoppii）でお知らせします。なお、映像を多用するため、対面授業の場合のオンライン中継は行いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	イントロダクション	授業紹介
	ルネサンスの舞台芸術 (1)	ルネサンスと宮廷音楽劇
②	ルネサンスの舞台芸術 (2)	コンメディア・デッラルテとマドリガル・コメディ
③	オペラの誕生 (1)	カメラータ・フィオレンティーナとオペラの誕生、モンテヴェルディの生涯
④	オペラの誕生 (2)	モンテヴェルディ作曲のオペラ
⑤	バロック・オペラ (1)	ヴェネツィア・オペラとカストラートの隆盛
⑥	バロック・オペラ (2)	ヘンデルの生涯と作品
⑦	バロック・オペラ (3)	ヘンデル作曲のオペラ
⑧	オペラ・セーリアとオペラ改革 (1)	グルック作曲の生涯と作品

- ⑨ オペラ・セーリアとオペラ改革 (2) グルック作曲のオペラ
- ⑩ オペラ・ブッフアについて ガルツピ、ハイドン作曲のオペラほか
- ⑪ 古典派オペラ (1) モーツァルト作曲のオペラ (1) 生涯と作品
- ⑫ 古典派オペラ (2) モーツァルト作曲のオペラ (2) 作品の前半部の鑑賞
- ⑬ 古典派オペラ (3) モーツァルト作曲のオペラ (3) 作品の後半部の鑑賞
- ⑭ 授業のまとめ 期末試験または期末課題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内、または GoogleClassroom で指示します。GoogleClassroom のコードは、授業支援システム（Hoppii）で指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

GoogleClassroom で資料を配布します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業内、または GoogleClassroom で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（期限内に提出された課題含む）と期末試験（新型コロナウイルス蔓延の状況によっては期末課題）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれか、インターネットに接続できる機器

【重要】対面授業のみの場合と異なり、課題のレポートを作成し、オンラインで提出するにあたり、ワード等のワープロ機能（大学の Office 365 に入っています）を使用します。また、授業では映像を多用しますので、オンライン授業受講の際は通信容量が多く必要となります。

【Outline and objectives】

Opera is a performing art form born in Italy at the end of the sixteenth century. In this class, I will take up representative works of Italian opera and give a lecture on its history.

LIT200LA

外国文学と文化 L F

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

大崎 さやの

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペラは 16 世紀末にイタリアで生まれた舞台芸術形式です。本講義では、イタリア・オペラの代表的な作品をとりあげ、さまざまな演出により上演された舞台を映像で鑑賞、オペラという舞台芸術の歴史を学びつつ、現代におけるあり方を考えます。外国文学と文化 F では、春学期の外国文学と文化 E に引き続き、19 世紀から 20 世紀にかけての爛熟期のイタリア・オペラを扱います。

【到達目標】

イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では 18 世紀から 20 世紀にかけてのイタリア・オペラを扱います。プリント（オンラインの場合 PDF）の他、視聴覚教材を用います。また適宜、課題を提出してもらいます。フィードバックは授業内で行います。授業は対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド方式で行う予定ですが、大学の行動方針レベルが 2 となった場合は原則としてすべてオンラインで行います。オンライン授業は Google Classroom 上で行います。Google Classroom のコードは授業支援システム（Hoppii）でお知らせします。なお、映像を多用するため、対面授業の場合のオンライン中継は行いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オペラ・セーリアとオペラ・ブッフ	オペラ・ブッフについて
②	古典派オペラ（1）	モーツァルト作曲のオペラ（1） 生涯と作品 作品解説
③	古典派オペラ（2）	モーツァルト作曲のオペラ（2） 作品鑑賞
④	古典派オペラ（3）	モーツァルト作曲のオペラ（3） 作品解説
⑤	古典派オペラ（4）	モーツァルト作曲のオペラ（4） 作品鑑賞
⑥	ロマン派オペラ（3）	ロッシーニ作曲のオペラ（1） 生涯と作品 作品解説
⑦	ロマン派オペラ（4）	ロッシーニ作曲のオペラ（2） 作品鑑賞
⑧	ロマン派オペラ（5）	ドニゼッティ作曲のオペラ（1） 生涯と作品 作品解説
⑨	ロマン派オペラ（6）	ドニゼッティ作曲のオペラ（2） 作品鑑賞
⑩	ロマン派オペラ（7）	ヴェルディ作曲のオペラ（1） 生涯と作品 作品解説

⑪	ロマン派オペラ（8）	ヴェルディ作曲のオペラ（2） 作品鑑賞
⑫	ロマン派オペラ（9）	ヴェルディ作曲のオペラ（3） 作品解説
⑬	世紀末から 20 世紀にかけてのオペラ（2）	ヴェルディ作曲のオペラ（4） 作品鑑賞
⑭	授業のまとめ	18 世紀から 19 世紀のイタリア・オペラ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内、または Google Classroom で指示します。Google Classroom のコードは、授業支援システム（Hoppii）で指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google Classroom で資料を配布します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業内、または Google Classroom で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（期限内に提出された課題含む）と期末試験（新型コロナウイルス蔓延の状況によっては期末課題）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

分り易い授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれか、インターネットに接続できる機器

【重要】対面授業のみの場合と異なり、課題のレポートを作成し、オンラインで提出するにあたり、ワード等のワープロ機能（大学の Office 365 に入っています）を使用します。また、授業では映像を多用しますので、オンライン授業受講の際は通信容量が多く必要となります。

【Outline and objectives】

Opera is a performing art form born in Italy at the end of the sixteenth century. In this class, I will take up representative works of Italian opera and give a lecture on its history.

LIT200LA

文学と社会 L A

2017 年度以降入学者

佐藤 陽

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学と芸能を発生させた重要な機会として祭祀があります。この授業では祭に訪れる神、折口信夫の言うところの「まれびと」に焦点を当て、民俗学的な知見を踏まえつつ日本文学及び芸能の発生について考察します。

【到達目標】

- ・日本における祭祀の基本的な構造を理解することができる。
- ・日本文学や芸能の考察を通じて、個性や時代性を越えた集団的な心性についての知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

通常の講義形式で授業を進めます。講義の最後にはリアクションペーパーの提出を求めます。書いてもらったリアクションペーパーの内容は次の授業時などで共有していきたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	芸能と文学を胚胎させる場としての祭祀について
第 2 回	祭祀に発する文学・芸能伝承	古橋信孝の提唱した巡行叙事と生産叙事について
第 3 回	折口信夫「まれびと」論（1）	折口信夫の唱えた「よりしろ」という概念についての概観
第 4 回	折口信夫「まれびと」論（2）	同じく折口の見出した「まれびと」と、近年ユネスコ無形文化遺産に登録された「来訪神」について
第 5 回	折口信夫「まれびと」論（3）	民俗事例としての硫黄島のメンドン、悪石島のボゼなどについて
第 6 回	古典文学に見る「まれびと」	上代文献に見る「まれびと」や新室祭、大殿祭などについて
第 7 回	上代文献と民俗事例に見る「ほかひびと」	『万葉集』の「乞食者詠」や『古事記』の蟹の歌などを紹介し、民俗事例に及ぶ
第 8 回	踏歌（1）	古代から平安時代宮廷踏歌について
第 9 回	農耕予祝の民俗行事	第 10・11 回の内容のための予備的考察
第 10 回	踏歌（2）	熱田神宮の踏歌頌文について 農耕予祝の側面を中心に
第 11 回	踏歌（3）	石清水の踏歌と「宝敷え」の民俗・芸能について
第 12 回	古典文学と民俗事例に見る鬼	第 13 回の内容のための予備的考察
第 13 回	踏歌（4）	宇佐八幡の踏歌と追儺について
第 14 回	授業内試験	内容は前週に説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

それぞれの授業には連関があるので復習を重点的に行うことを勧めます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。授業内で適宜プリントを配布します。

【参考書】

折口信夫『古代研究 V 国文学篇 1』（角川ソフィア文庫）2017
折口信夫『死者の書』（角川ソフィア文庫）2017
保坂達雄ほか『来訪神 仮面・仮装の神々』（岩田書院）2018
古橋信孝『古代和歌の発生』（東京大学出版会）1988
白田甚五郎『日本に於ける踏歌の展開』『白田甚五郎著作集第二巻 和歌文学研究』（おうふう）1995

【成績評価の方法と基準】

期末試験 85%。授業への取り組み（リアクションペーパーなど）15%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

There is a ritual as an important opportunity to generate Japanese literature and performing arts. In this class, we will focus on what Shinobu Orikuchi, the god who visits the festival, calls "まれびと," and consider the emergence of Japanese literature and performing arts based on folklore knowledge.

LIT200LA

文学と社会 L B

2017 年度以降入学者

佐藤 陽

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古典文学を民俗学的に読み解き、そこに見られる普遍的な心性を考察していきます。学期の前半では日本の古典文学に見られる「常世」をキーワードとして、他界観念の種々相を学んでいきます。また、後半では恋の文学の類型的な発想の根源にある人と神との婚姻ということについて考えます。

【到達目標】

- ・日本における祭祀の基本的な構造を理解することができる。
- ・日本文学や芸能の考察を通じて、個性や時代性を越えた集団的な心性についての知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

通常の講義形式で授業を進めます。講義の最後にはリアクションペーパーの提出を求めます。書いてもらったリアクションペーパーの内容は次の授業時などで共有していきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	常世（1）	折口信夫説とそれに対する批判について
第 2 回	常世（2）	沖縄のニライカナイとオボツカグラのことなど
第 3 回	常世（3）	『古事記』『日本書紀』のタヂマモリの伝承を中心に
第 4 回	常世（4）	『万葉集』に見る「常世」について
第 5 回	常世（5）	浦島伝承の展開について
第 6 回	常世（6）	中世に行われた補陀落渡海の信仰について
第 7 回	古代における恋愛とその起源（1）	神と神を迎える巫女について。古典文学と民俗事例から
第 8 回	古代における恋愛とその起源（2）	古典文学と民俗伝承に見る兄妹婚と創世説話について
第 9 回	古代における恋愛とその起源（3）	古典文学と民俗伝承に見る神婚譚について
第 10 回	古代における恋愛とその起源（4）	古典文学と民俗伝承に見る異類婚姻譚について
第 11 回	古代における恋愛とその起源（5）	恋情と神を感じる心の共通性について 『万葉集』の「ほに出づ」という表現を中心に
第 12 回	古代における恋愛とその起源（6）	「風流」の語義の変遷と反秩序としての恋について 第 12 回の内容のための予備的考察
第 13 回	古代における恋愛とその起源（7）	まれびとを翻弄する女性。『万葉集』巻十六・三八〇七歌を中心に
第 14 回	授業内試験	内容は前週に説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

それぞれの内容は連関しているので、復習をしっかりとっておくことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。授業に臨んで適宜配布する。

【参考書】

折口信夫『古代研究 I 民俗学篇 1』（角川ソフィア文庫）2016
 谷川健一『常世論 日本人の魂のゆくえ』（講談社学術文庫）1989
 森朝男『恋と禁忌の古代文芸史』（若草書房）2002

【成績評価の方法と基準】

期末試験 85%。授業への取り組み（リアクションペーパーなど）15%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

春学期の授業を受講しておくのが望ましい。

【Outline and objectives】

We will read classical literature folklore and consider the universal spirit found in it. In the first half of the semester, we will study various aspects of other-world ideas with the keyword "常世" found in Japanese classical literature. In the second half, we will consider the marriage between a person and God, which is the root of the typological idea of love literature.

LIT200LA

文学と社会 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：江戸の印刷・出版物

白戸 満喜子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では江戸時代の文学作品『御存商売物』を通読します。作品を通して江戸の出版文化の多様性に触れていきます。江戸という地域・時代に暮らした人々が手にしていた、読んでいた、眼にしてきた、時には聴いていたさまざまなメディアを、実際に読んだり聴いたりすることで江戸を体感します。

【到達目標】

江戸時代の特徴的な文化や慣習・感覚をテキスト『御存商売物』を通じて理解することが目標。

くずし字（変体仮名）で書かれた簡単な出版・印刷物を判読できるようになることがもう一つの目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで資料配布方式により実施します。また、第1回目の授業（2021年4月7日水曜3限）はオンラインでオリエンテーションを行います。詳細は学習支援システム（Hoppii）で伝達しますので、そちらを確認してください。

授業は『御存商売物』という江戸時代の印刷・出版物を人物になぞらえた作品を通読しながら講義を行います。あわせて作品の中に登場人物として描かれている印刷・出版物を読解する演習形式を取り入れます。意匠絵本（デザイン集）・暦など、簡単な読み物の翻字（くずし字を現代仮名遣いに変換すること）のノウハウを解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・江戸時代の文学について ・テキスト『御存商売物』について ・外国人から見た江戸
2	テキスト『御存商売物』の解説	・日本の書物 ・江戸後期の文学作品 ・江戸の出版
3	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の紋様 ・大坂と江戸
4	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の人気小説 ・江戸の食べ物
5	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の絵画 ・江戸時代までの紙 ・江戸の流行歌
6	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・「見立（みたて）」という表現 ・小道具と物語の関係 ・絵と文の関係を読み取る

- 7 テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解
・江戸の慣習
・江戸の街並み
- 8 テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解
・江戸の繁華街「吉原」
・浮世絵と鑑賞の基礎知識
- 9 テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解
・現在と異なる暦
・江戸の教養を支えた書物
- 10 テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解
・江戸の土産物
・江戸時代の夫婦喧嘩
- 11 テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解
・江戸の占い
・江戸のおまじない
- 12 テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解
・江戸の学問書
・江戸時代の情報伝達
- 13 テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解
・江戸時代の流行り廃り
・江戸の刑罰
- 14 授業のまとめ
・江戸時代の豊かな出版文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に随時、レポートに関する情報を話しますので、その情報を参考にしながら江戸に関する知識を広げて下さい。

くずし字の読解に必要な資料（配布プリント）は毎回持参し、授業前には一読しておくこと。くずし字読解の準備として2時間、復習に2時間、計4時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリントを配布します

【参考書】

くずし字読解のための参考文献は以下の2冊ですが、読解に必要なプリントは別途授業中に配布します。

・笠間影印叢刊行会『字典かな』笠間書院

・松尾聡編『変体平仮名演習』笠間書院

【成績評価の方法と基準】

レポート40% 筆記試験（最後の授業時に一回）40% 平常点（授業への取り組み・発言）20% として評価します。

詳細は開講時にお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

「高校までは学んでこなかった、非常に興味深い内容だった」という感想が寄せられています。古典文学でもなく、現在の小説とも異なる、江戸の大人の娯楽と教養を『御存商売物』という作品を通じて楽しんで下さい。

【Outline and objectives】

In this class, we read through the literary work "Gozonji-no-shobaimono" in the Edo Period. Through the work we can touch on the diversity of Edo's publishing culture. You will experience Edo by actually reading and listening to various media that people were living in the region & the era of Edo. Sometimes you can listen the audible media.

LIT200LA

文学と社会 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：江戸の絵本で読む百人一首

白戸 満喜子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

浮世絵が添えられた絵本『錦百人一首あづま織』（国立国会図書館所蔵）<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2533227> を受講生全員で分担し、読解・解釈をします。最近では競技としての知名度が上がってきた百人一首が、いつ、どのようにして成立し、また現在まで人々に愛されてきたのか。江戸時代の人々が楽しんだ百人一首を読み解き、和歌の解釈と描かれた歌人について学んでいきます。

【到達目標】

くずし字で書かれた和歌（ひらかなの部分とその字母）を判読し、解釈することが各受講生の目標です。
各自の担当する和歌について、1：字母を確認しながら翻字をする、2：解釈（意味や技法）する、という 2 点から考察・発表をし、『錦百人一首あづま織』という絵本の成立を理解し、和歌の知識を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

はじめは百人一首と『錦百人一首あづま織』について講義を行います。その後は受講生がそれぞれ分担する和歌についての読解・解釈を順番に発表します。発表者以外はそれぞれの読解・解釈を準備しておき、発表内容に対して授業内掲示板で意見交換をします。
なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで資料配布方式にて実施します。詳細は学習支援システム（Hoppii）で伝達しますので、そちらを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 百人一首とは何か くずし字読解の方法と 解釈	テキスト『錦百人一首あづま織』 の発表順番決定
2	テキスト『錦百人一首 あづま織』の構成につ いて解説	テキストに関する講義
3	テキスト『錦百人一首 あづま織』の読解方法	テキストの翻字・解釈の具体的な 方法・内容
4	勅撰和歌集に関する講 義1 および受講者によ る発表1 回目	・勅撰和歌集とは何か：八代集 ・担当者による発表
5	勅撰和歌集に関する講 義2 および受講者によ る発表2 回目	・勅撰和歌集にまつわる逸話 ・担当者による発表
6	歌合に関する講義1 お よび受講者による発表 3 回目	・歌合とは何か ・担当者による発表

- 7 歌合に関する講義2 および受講者による発表
4 回目
- 8 歌道に関する講義および受講者による発表5
回目
- 9 百人一首の中世写本に
関する講義および受講者による発表6 回目
- 10 百人一首の近世写本に
関する講義および受講者による発表7 回目
- 11 百人一首版本に関する
講義1 および受講者による発表8 回目
- 12 百人一首版本に関する
講義2 および受講者による発表9 回目
- 13 百人一首版本に関する
講義3 および受講者による発表10
- 14 テキスト『錦百人一首 教員による全体の解説
あづま織』のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修者にはこちらから発表分担となる和歌を指定します。受講生は各自が分担する和歌の翻字と読解・解釈を第3回目の授業までに提出してください。分担以外の和歌については、それぞれ読解しておいてください。各自の読解に基づいて発表内容に対する意見交換をします。

くずし字の読解に必要な資料（配布プリント）は毎回持参し、授業前には一読しておくこと。テキストのくずし字読解として2時間、授業で扱った和歌の字母確認・復習に2時間を毎回必要とします。

【テキスト（教科書）】

『錦百人一首あづま織』（国立国会図書館所蔵）<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2533227>

【参考書】

くずし字を読むための参考文献は以下の2冊ですが、読解用のプリントは教材にアップロードします。文学と社会LC既習者は同じプリントになります。
・笠間影印叢刊行会『字典かな』笠間書院
・松尾聡編『変体平仮名演習』笠間書院

【成績評価の方法と基準】

分担発表の内容 30 % 平常点（授業内での意見内容）30 % 期末レポート 40 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「江戸時代の文字を翻字すること、内容を読み解くこと、どちらも謎解きのようで楽しかった」という感想が寄せられています。くずし字の読解は、昔の日本人たちと時空を越えたコミュニケーションをするようなもの。語学習得に似ているものの、ひと味異なる独特の達成感を味わって下さい。

【その他の重要事項】

関連部分があるので文学と社会LCを履修していることが望ましいものの、前向きな性格・柔軟な思考・気合などのどれかがあれば秋学期のみの履修も可能。

【Outline and objectives】

In this class, we read the original book of "Nishiki Hyakunin Isshu Azuma Ori" <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2533227> with ukiyo-e. Hyakunin Isshu has been loved by people, and recently it has gained recognition as a sport. We will read Hyakunin Isshu which was made in the Edo period, and learn about the interpretation of waka and the singer drawn.

LIT200LA

文学と社会 L E

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

中澤 忠之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説を読むとき、私たちはどんなところを重視するでしょう。たとえば、泣けるかどうかとか、感情移入できるかどうか、とかいったところでしょうか。実際、これまで中学校や高校の現国の授業では、主人公の心情を素直に読み取るトレーニングを受けてきたはずですが。しかし、小説の書き方・読み方は一様ではありません。この講義は、小説の書き方・読み方には多様性があることを知り（夏目漱石とライトノベルを優劣関係ではなく多様性の一つとして捉えること）、それを身に付ける土台作りとなるでしょう。そのためにはまず、小説の成り立ちをおさらいすることからはじめます。そして文学史にしたがって、小説の書き方・読み方が変化し、新たな書き方・読み方の発見が文学史を豊かに形成してきたことを確認します。戦前の文学史がメインですが、最近の文学史にも積極的にふれます。マンガや映画、美術など、文学に隣接するジャンルにもしばしば言及したい。

【到達目標】

創作物を単に主観的に受容するのではなく、対象化して評価する技術と教養を身に付け、作品受容の許容範囲が広がることを目指します。文学に関心がある学生はもちろん、ポップカルチャーやサブカルチャーのジャンルに関心がある学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎週配信するオンデマンドのラジオ講義と資料配布によって進めていきます。

課題の提出は、学習支援システム（HOPPII）の「課題」から行います（詳細は最初の講義で解説します）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要説明および導入。
第 2 回	現在の文学が置かれた状況	最近の文学事情を、他のジャンルとの関係から明らかにする。
第 3 回	文学作品の読み方	文学の仕組みを解説して、高校時代までの読み方を相対化する。
第 4 回	近代文学の誕生①	言文一致（いわゆる近代日本語）を中心に、近代文学が形になったプロセスを解説。 言文一致形成の全体像を確認する。
第 5 回	近代文学の誕生②	言文一致形成の初期（明治 10 から 20 年代）の状況を作品を参照しながら確認する。
第 6 回	近代文学の誕生③	言文一致形成の後期（明治 30 から 40 年代）の状況を作品を参照しながら確認する。

第 7 回	文学史第 1 期（明治 20～40 年の文学）	リアリズム（写実主義）は近代に確立した表現法だが、そのリアリズムが確立した時代の表現パターンを解説。
第 8 回	文学史第 2 期（大正時代の文学）	私小説がはやった時代の表現パターンを解説。文学における自己表現を問題にしたい。
第 9 回	文学史第 3 期（1920 年代）①	社会が大衆化したモダニズムの時代の表現パターンを解説。
第 10 回	文学史第 3 期（1920 年代）②	具体的な文学作品を参照する。
第 11 回	文学史第 4 期（1930 年代）①	文学表現が成熟した時代の表現パターンを解説。現代の表現とも関係させる。
第 12 回	文学史第 4 期（1930 年代）②	具体的な文学作品を参照する。
第 13 回	現在の文学との接点	過去の文学を参照することで現代文学の読み書きにいかに応用できるのかを考察する。
第 14 回	まとめ	これまでの講義の総括。今後の現代文学の読み方についても触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少しでも文学作品に触れてください。しかし闇雲に読むのではなく、ジャンルを意識しながら読むことをおすすめします。ジャンルが分からなければ、大きめの本屋に行って書棚がどういう配置になっているのか、どういう本が収まっているのかを確認してみるのもよいです。たとえば、映画をよく観る人は TSUTAYA の棚陳列がどういうジャンル区分に従っているのかよくわかっているはず。AKB48 のファンは、素人目には同じように見える顔が、それぞれ個性を持ち、ジャンル分けできることを知っているはず。文学も同じです。小説を全く読まない人は、まず『ノルウェイの森』（村上春樹）と『時をかける少女』（筒井康隆）と『涼宮ハルヒの憂鬱』（谷川流）の 3 冊を読み比べてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

最後に提出してもらうレポートが評価の主要な対象となります。各回ごとの課題（400 字程度）も評価したい。評価の割合は最後のレポートが 70 %、課題を 30 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に口述と板書が多いので、「授業の概要を示すプリントがあればよい」という意見がありました。重要なポイントとなるころではプリントで示すことも考慮に入れようと思います。

【Outline and objectives】

This lecture aims to give techniques and cultures to read novels, using the work of modern Japanese literature. How to write and read novels is not single. In this lecture, you can learn that diversity exists in how to write and read novels. Let's begin by reviewing the origins of the novel. And according to the history of literature, We confirm that the way of writing and reading the novel has changed.

LIT200LA

文学と社会 L F

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

中澤 忠之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段何気なく読んでいる小説が、きわめて政治的で社会的なものであるということを考えたことがあるでしょうか。文学作品は、人畜無害な単なるフィクションではありません。ときに世の中の差別や偏見を生み出し助長するものであり、特定の個人や集団を傷つけるものでもあります。あるいはまた、社会秩序を乱すとして批判される過激な暴力や性表現も無視できないでしょう。もちろんその一方で、社会の差別や偏見と戦ってきた歴史も、文学にはあります。文学作品における、こういった政治的かつ社会的な側面を、本講義では取り上げます。素材は性表現と差別表現がメインです。

メディア環境が激変している昨今の事情に対応させて、取り上げる表現は文学のみならず、映画やマンガなど多岐にわたる予定です。現在進行形の話題も積極的に扱います。

【到達目標】

これまでなんとなくイメージしてきた表現の自由や表現の暴力性といった概念を、法規制や表現史を通して具体的に捉えられる教養の獲得を到達目標とします。文学に関心がある学生のみならず、法律等社会の制度設計に関心のある学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎週配信するオンデマンドのラジオ講義と資料配布によって進めていきます。

課題の提出は、学習支援システム（HOPPII）の「課題」から行います（詳細は最初の講義で解説します）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要説明および導入。
第 2 回	文学が置かれた社会状況	表現規制の最近の動向を解説。
第 3 回	性表現・暴力表現と規制①	性・暴力表現とその規制の歴史を振り返る。
第 4 回	性表現・暴力表現と規制②	「わいせつ罪」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第 5 回	性表現・暴力表現と規制③	「青少年保護」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第 6 回	性表現・暴力表現と規制④	「児童ポルノ」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第 7 回	性表現・暴力表現と規制⑤	ネット社会における性・暴力表現について解説する。
第 8 回	差別表現と規制①	差別表現とその規制の概要を解説する。
第 9 回	差別表現と規制②	差別の仕組みを知るために、具体的な作品を参照する。

第 10 回 差別表現と規制③

第 11 回 差別表現と規制④

第 12 回 差別表現と規制⑤

第 13 回 差別表現と規制⑥

第 14 回 まとめ

戦後の日本における差別の歴史を振り返る。

差別には複数のパターンがあるので、それらを分節化して解説する。

差別表現とその規制の現在。特にネット社会における差別表現（Metoo 運動など）を考える。

最近話題になる嫌韓・嫌中のな「ヘイトスピーチ」について考察する。

これまでの講義の総括。表現の自由とその規制の社会的バランスを考える。

また、補足として、著作権やプライバシーの問題から表現の社会性をにも言及したい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず何より活字や映像作品に触れてください。そして、表現規制の話題は常時ニュースになるので、そのつど気にかけて、新聞やウェブでの議論に触れてほしい。たとえば、昨今話題になっている性表現なり差別表現に対する規制強化の動き、あるいはネット上で盛んに行われている著作物の無断コピーや二次創作等について考えてみるのもよいでしょう。

ここ数年は、美術家の性的な表現物がわいせつ罪に問われたり、また差別的なヘイトスピーチがメディアで盛んに取り扱われています。文学作品にとらわれず、こういった表現にかかわる社会的問題に注目してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

最後に提出してもらうレポートが評価の主要な対象となります。各回ごとの課題（400 字程度）も評価したい。評価の割合は最後のレポートが 70 %、課題を 30 %とします。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に口述と板書が多いので、「授業の概要を示すプリントがあればよい」という意見がありました。重要なポイントとなるところではプリントで示すことも考慮に入れようと思います。映像を積極的に導入し、時事的な話題も取り入れました。

【Outline and objectives】

The novel has a very political and social part. Literary works are not mere fiction. They sometimes produce discrimination and prejudice of the world, and they also hurt certain individuals and groups. Or you can not ignore radical violence or sexual expression that is criticized as disturbing the social order.

On the other hand, literature also has a history of fighting social discrimination and prejudice. This lecture will cover these political and social aspects of literary works. Sexual expression and discrimination are the main material.

LIT200LA

日本文学と文化 LG

2017 年度以降入学者

サブタイトル：現代日本文学と映像表現

榎本 正樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文学を原作として映画化された作品の一部を観賞した上で、原作の小説を講読します。2020 年に劇場公開された以下の 6 作品を取り上げる予定です（作品の配列は劇場公開日順です）。同一の物語内容を含んだ文学表現と映像表現を比較対照し、分析することで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現や技法について考えを深めるとともに、「文学固有の表現とは何か？」という視点から小説を読む力の獲得を目指します。

【授業で取り上げる作品】

野中ともそ『宇宙でいちばんあかるい屋根』（藤井道人監督）

今村夏子『星の子』（大森立嗣監督）

辻村深月『朝が来る』（河瀬直美監督）

塩田武士『罪の声』（土井裕泰監督）

若竹千佐子『おらおらでひとりいぐも』（沖田修一監督）

田辺聖子『ジョゼと虎と魚たち』（タムラコータロー監督）

*劇場公開順。作品は変更の可能性があります。

【到達目標】

現代日本文学の多様なジャンルの小説を深く読むことで、複雑な言語構成体としてのテクストから様々な要素を抽出し、整理し、分析することができるようになります。さらに、個人の生き方や社会システム、性、生、死、ジェンダー、家族、事件、歴史などの諸問題について思考する力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についても理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式をとります。映画の一部を観賞した後、原作小説を精読し、作品分析を行っていきます。映像メディアである映画と言語メディアである小説を比較検討することによって、情報提示の仕方、叙述の方法、人物設定、物語構成の違いなど、表現上の相違点を明らかにしていきます。

履修者には、現代日本文学の多様な表現世界や作品固有の表現に触れ、作品について深く思考し、考えをまとめ、批評的な言葉でアウトプットする力が求められます。小説を事前に読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、取り上げる作品については、事前に読んで授業に臨むのがベストです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	イントロダクション	ガイダンス授業
(2)	野中ともそ『宇宙でいちばんあかるい屋根』	小説の講読&分析&考察 を読む

- (3) 藤井道人監督『宇宙でいちばんあかるい屋根』を観る
- (4) 今村夏子『星の子』を小説の講読&分析&考察
読む
- (5) 大森立嗣監督『星の子』を観る
- (6) 辻村深月『朝が来る』を小説の講読&分析&考察
を読む
- (7) 河瀬直美監督『朝が来る』を観る
- (8) 塩田武士『罪の声』を小説の講読&分析&考察
読む
- (9) 土井裕泰監督『罪の声』を観る
- (10) 若竹千佐子『おらおらでひとりいぐも』を読む
- (11) 沖田修一監督『おらおらでひとりいぐも』を観る
- (12) 田辺聖子『ジョゼと虎と魚たち』を読む
- (13) タムラコータロー監督『ジョゼと虎と魚たち』を観る
- (14) レポート提出 授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。事前に原作小説を読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、物語内容や人物関係を把握する上でも、小説を読んで授業に臨むのがベストです。授業で取りあげた小説や映像作品は、授業外の環境で、もう一度読み直し観賞し直し、作品の理解を深めるよう努めてください。最終授業時に提出するレポート執筆の事前準備として、対象作品を精読し、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を随時行ってください。

【テキスト（教科書）】

授業で扱う小説の文庫本。

【参考書】

参考書・参考文献は、教室で指示します。

必要な資料はプリントで配付します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100 %）。

試験や小テストはありません。

レポートは春学期最終授業時間に提出します。レポート内容は、「授業でとりあげた作品の中から一作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で「論」を展開してください。

分析の鋭さ、論考の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを見て採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

映画を観る時間を増やしてほしいとの意見が多くあるので、可能な限り鑑賞時間を増やす努力をします。専門科目ではないので、現代日本文学になじみのない学生にも分かりやすい言葉で、分析と解説を行うよう心がけます。

【その他の重要事項】

現代日本文学のみならず、映像メディアに関心をもつ学生の履修を歓迎します。

榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト（<http://enmt.jp>）で確認できます。ツイッター（@enmt）での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline and objectives】

We read the original novel after having watched movie work that filmized as "Contemporary Japanese literature". I select from the following 6 works in 2020.

We compare movie expression with the literature expression including the same story contents, we are analyzing peculiar expressin words and movies.

LIT200LA

日本文学と文化 LH

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

榎本 正樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新海誠監督のアニメーション映画『君の名は。』は、アニメーション界や映画界を超えた近年の日本映画最大のヒット作品として、多くの観客の支持と共感を得ました。国内観客動員数 1,900 万人を突破、興行収入 250 億円を超える大ヒットとなり、邦画興行収入歴代 2 位を記録、アジア圏では 7 冠達成を記録し、日本のみならず世界各国の記録を塗り替えることになりました。2019 年には最新作『天気の子』が封切られ、前作同様の評価を得ました。アニメーションというジャンルの枠を超えた同時代の重要な表現者として、新海誠という存在をとらえ直す必要があります。

新海誠というクリエイターの名前を、『君の名は。』で初めて知った人が多いかもしれませんが、新海監督のキャリアは 2000 年代初頭にまで遡ることができます。新海作品の根底にあるのは「言葉」に重きを置いた世界造形、言い換えれば「文学」への強い視線です。人と人との繊細なコミュニケーションを、精緻な言葉と独自の映像美学によって表現するその姿勢は、「アニメーションという表現手段を用いた文学」と形容可能なものです。

新海誠は「アニメーション監督」であるとともに「小説家」でもあります。新海は自身の手で代表作をノベライズ（小説化）を手がけていますが、それらは単に映像作品を言葉に置き換えたものではなく、小説作品として自立しています。同一の作者による映画版と小説版を比較検討することで、映像表現と小説表現の違いを検証することが可能です。

本講義では、新海誠の初期作品から最新作まで入手可能な映像作品を参観しつつ、「新海誠の文学世界」を紐解いていきます。同時代の先端的な表現者である新海誠の主要作品を「網羅的」に観賞し、かつ「分析的」に解説する経験を通して、作品批評のための技術を獲得します。

【到達目標】

映像作品であるアニメーションを分析的に解説する技術を身につけ、表現や仕掛けや物語構造などについて、自分の言葉で論述できるレベルを目指します。関連資料を参照し、さまざまな他人の意見やコメントに目を通し、作品のモデルとなった場所に実際に赴くことで、作品の背景にある文化的、歴史的、地理的背景について深く学び、作品を客観的に論じる力を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義とプレゼンテーションを合わせた形で行います。新海誠作品を初めから最新作まで（場合によっては作品の一部を）を観賞し、各シーンについて解説と分析を加えていきます。アニメーションで重要なのはシーンを構成するカットです。カットにはクリエイターの「世界そのものへの純粋な視線」が投影されています。

もう一つ重要なのは、言葉（ナレーションや科白や対話）です。本授業では新海作品の言葉に特に注目し、物語の中で言葉がどのように作用しあい、コミュニケーションの主題を提示していくのかを細かく探っていきます。

新海監督自身の言葉、関連資料の紹介や他の論者の考察など、作品をめぐる多様な言説を紹介する機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	イントロダクション	新海誠、その人と作品について
(2)	『遠い世界』『彼女と彼女の猫』	最初期作品を概観する
(3)	『はしのこえ』	物理的な「距離」と精神的な「距離」
(4)	『雲のむこう、約束の場所』	SF の趣向を通して表現された世界
(5)	『秒速5センチメートル』	人物と風景、あるいは速度をめぐる物語
(6)	『星を追う子ども』	異界に移動し帰還する子どもたち
(7)	『言の葉の庭』	独自の映像美学を支える文学性
(8)	『小説 言の葉の庭』	ノベライゼーションの方法
(9)	短編作品 & CM 作品	新海誠のアザーワークス
(10)	『君の名は。』前半	すれ違いと入れ替わりの趣向をめぐって
(11)	『君の名は。』後半	共苦する魂のゆくえ
(12)	『天気の子』前半	作品で描かれた 2021 年
(13)	『天気の子』後半	人身御供譚としての読みとり
(14)	レポート提出	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
アニメーションを観たり小説を読む際に受動的に観賞するのではなく、作品の細部について自分の言葉で客観的に書いたり話したりする習慣をつけましょう。授業で取りあげる映像作品や小説を繰り返し観たり読んだりして、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を随時行ってください。

また機会があれば、作品の中に登場する場所に赴く「聖地巡礼」に挑戦してみてください。実在する場所が物語のシーンでどのような意味を与えられているのか、体験的に学習してください。

【テキスト（教科書）】

榎本による新海誠についての評論本が、2021 年夏頃までに刊行される予定です。秋学期の授業開始には間に合うと思われますので、刊行が正式にアナウンス可能な時期になった段階で、使用教科書として告知します。

【参考書】

授業で扱う新海誠のノベライゼーション作品は参考書とします。必要に応じて、個人で入手してください。『小説 秒速5センチメートル』『小説 言の葉の庭』『小説 君の名は。』『小説 天気の子』とも、角川文庫で入手可能です（電子書籍版もあります）。

<http://www.kadokawa.co.jp/product/321510000146/>

<http://www.kadokawa.co.jp/product/321510000145/>

<http://www.kadokawa.co.jp/product/321603000121/>

<https://www.kadokawa.co.jp/product/321903000333/>

その他の参考書・参考文献や参考サイトは膨大にあるので、教室で示します。

必要な資料はプリントで配付します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100 %）。

試験や小テストはありません。

レポートは秋学期最終授業時間に提出です。レポート内容は、「新海誠監督作品の中から、一作品または複数の作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。

分析の鋭さ、論考の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを中心に採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語など難易度が高いタームの使用を控え、初級者にも理解しやすい授業を心がけます。

可能な限り映像作品を観る機会を増やします。

【その他の重要事項】

アニメーションや現代日本文学に関心をもつ学生の履修を歓迎します。

榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト（<http://enmt.jp>）で確認できます。ツイッター（@enmt）での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline and objectives】

Shinkai Makoto is Japanese animation director. His animation film is highly acclaimed not only in Japan but also overseas. Last summer, his latest work " Weathering With You" was released. I decode Shinkai's all animation works from various viewpoints.

LIN200LA

音声学Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「言語」は、音声の形式という表現面と意味の形式という内容面が結びついた言語記号が単位であるようなシステムであり、このシステムの解明を対象とする学問分野のことを「言語学」と称します。

この「言語」の表現面の「音声」を扱う分野を「音韻論」と称します。「音韻論」は言語の音声の形式面を対象とします。これのに対して、言語の音声の実質面を扱うのが「音声学」です。つまり「音声学」は、この言語の表現面である音声の実質を対象とする経験科学です。

この授業では、言語音（「単音」）の記述方法および記述された記号の実現化（再現つまり実際に発音できるようになること）を授業内容とします。

【到達目標】

この授業では、「音声学」の記述方法である IPA の方法論的な考え方を身につけ、IPA を音声化したり、実際の音声を IPA によって記述するための基礎的な技能を訓練することを目的とします。

補足として、音声の形式面である「音韻論」（「音素論」）にも触れます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

まず「言語学」は言語をどういうものとして見ているかを概説し、表現面の形式である「音韻」が実質である「音声」によって実現されているという発想に慣れ、実践的な訓練に入ります。具体的には、人間の発声器官の呼称を確認し、個々の単音について母音と子音に分けて調音の方法および聞き取り、記述について詳述しながら発音指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 1	教材の配布 言語とは
2	導入 2	音声とは
3	調音（発音器官）	どこでどのように発音するか
4	発音記号（音声記号）	音声記述の方法
5	母音 ダニエル・ジョーンズの基本母音を中心に 閉鎖音・鼻濁音	聞き取ってみる 調音してみる
6	子音 閉鎖音（破裂音） 摩擦音 1	聞き取ってみる 調音してみる
7	子音 摩擦音 2	聞き取ってみる 調音してみる

8	子音 その他 子音のまとめ	聞き取ってみる 調音してみる
9	韻律的問題	アクセント イントネーション （プロソディー）
10	「音声学」試験	「音声学」の概念に関する理解
11	「音韻論（音素論）」	音素とは何か 対立について
12	日本語の形態音韻変化 1	「転音」について
13	日本語の形態音韻変化 2	「連濁」について
14	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声学はスポーツと同じです。いくら水泳の仕方や自転車の乗り方を詳しく教わって、浮力や水流、足の漕ぎ方やバランスのとり方等を頭で理解したとしても、泳げるわけもないし自転車に乗れるわけでもありません。

できない発音があっても、訓練すればだれでもできるようになります。できないのはやる気がないからだけです。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。発音器官の図と IPA の表は、最初の授業時間に配布します。

【参考書】

聞いて発音してみる授業ですが、読んで理解したい学生のためにふさわしい参考書は紹介・指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、（理論）試験の得点 30 点、（実施）試験の得点 30 点、合計 100 点で評価します。ただし、必要に応じてレポートを課すことがあります。その場合はそのレポートも評価に反映します。

【学生の意見等からの気づき】

2018 年度に受講した学生は、ドイツ語・フランス語・スペイン語・ロシア語・朝鮮語・中国語・沖縄方言等の履修をしていたが、異口同音に「発音」について理解が深まったと感想を述べています。「（一般）音声学」をマスターすれば、世界のあらゆる言語の音声について自信が持てるようになります。

【Outline and objectives】

There are two aspects in language. The first is a aspect of "form", the essence of language. The second is a aspect of "substance". The aspect of "substance" is the sound use for language, human voice for language. The field treats human voice for language is "Phonetics".

The title of this class is "Phonetisc". The purpose of this class is to master what is IPA, and how use the this symbol.

PHL200LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

特にこのⅠの講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何かが切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	哲学とは？
2	プラトン (1)	「イデアの萌芽」としての人間存在
3	プラトン (2)	『饗宴』アリストファネスの話
4	プラトン (3)	『饗宴』ソクラテスの話
5	西田幾多郎 (1)	『善の研究』-『知即愛』の命題
6	西田幾多郎 (2)	「主客合一」としての人間存在
7	和辻哲郎 (1)	『倫理学』-「問柄」としての人間存在
8	和辻哲郎 (2)	「矛盾的统一」としての人間存在
9	和辻哲郎 (3)	『風土』-「風土」のうちに己を見出す人間存在
10	和辻哲郎 (4)	主体としての風土
11	ブーバー (1)	『我と汝』
12	ブーバー (2)	「汝」としての世界
13	ブーバー (3)	「本質行為」としての人間
14	まとめ	ふりかえりと試験対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げられ、その一部が教材プリントとして授業内でも配布される下記の文献は、すべて岩波文庫で入手できるので、学生は、授業計画に合わせてこれらの文献を読むことが推奨される。

プラトン『饗宴』、西田幾多郎『善の研究』、和辻哲郎『倫理学』（一）、和辻哲郎『風土』、マルティン・ブーバー『我と汝・対話』

復習として、講義の内容をノートで整理すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、試験 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

期末の参照可テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline and objectives】

This lecture is a philosophical human theory trying to think about human nature. In modern times where we are forced to make choices and decisions about the new way of human beings that we have never considered before, such as through the development of new technologies, something is being deeply questioned about humanness. We will also focus on Japanese philosophy and ideas after the 20th century.

PHL200LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間の欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子を見ます。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	哲学への導入
2	今西錦司	生命的自然観－自己形成的存在論の前哨として
3	その 2	今西錦司『生物の世界』を読む
4	アリストテレス	自己形成的存在論としての形而上学
5	その 2	アリストテレス『形而上学』を読む
6	自己形成的存在論の展開としての近代哲学	近代化の原理としての主観客観二元論
7	デカルトの近代的世界観	近代的主客二元論とは？
8	デカルト (2)	『省察』を読む
9	デカルト (3)	デカルトの機械論的自然観-「近代的分裂」の予告としての近代的主客二元論
10	「近代的分裂」の予告としての近代的主客二元論	近代哲学の分裂－合理論と経験論
11	カントとヘーゲル	カントによる近代哲学の分裂克服の試み
12	カントとヘーゲル (2)	カントのアンチノミー論
13	カントとヘーゲル (3)	ヘーゲルの弁証法的世界観
14	カントとヘーゲル (4)	ヘーゲルの弁証法的世界観その 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱われる下記の文献などは事前に読むことが推奨される。今西錦司『生物の世界』、アリストテレス『形而上学』、デカルト『省察』復習として、講義の内容をノートで整理すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、試験 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

期末の参照可テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline and objectives】

Western philosophy began with human desire to explore the root of all things with the power of human reason and to position himself in the whole world captured as such. In the lecture, we see how these metaphysical needs are behind various intellectual explorations up to the present age, becoming a self-organizing-world-view that the world as a whole is very vivid and self-organizing.

PHL200LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学という難しいという印象があるかもしれないが、何も特別のことではない。私たちは生きてゆく上で、常に様々な行為を選んで、様々な幸せを目指しているが、善く生きて幸福になるためには、よりよく、正しく考えること、つまり哲学が必要なのである。人間の尊厳は考えるということにある。誰もが、正しく考えるために、哲学を学ぶことが必要なのである。

哲学はあらゆる学問の基礎である。学生は、何を学ぶにしても、哲学がその根本に関わることを知るだろう。さらには他の学問、とりわけ、今日、絶大な信頼を持ってその地位の確立されている近代科学のあり方を振り返ることで、哲学の重要性も再確認できるだろう。その上で、哲学を学ぶことで、私たちが幸せによく生きるためにはどうしたらよいかを考えてみたい。哲学とは、本来、学ぶものではなく、自分で考えるものなのだから。

【到達目標】

この授業では西洋の哲学の基礎を学ぶ。哲学は古代ギリシアに誕生した。どのような考えのもとで、哲学が生まれたのか、その後、どのような変遷を辿ったのか、そもそも哲学が問題としたことは何であるのか、古代ギリシアの源流から探りたい。

哲学（Ⅰ）では、哲学の源である古代ギリシア哲学に遡って、哲学とは何か、その根本的な特徴を捉えた上で、哲学はその他の学問や科学とはどう異なるのか、また、なぜ哲学が必要とされるのかなどを探ってみたい。

学生は、まずはオーソドックスな哲学の基礎を学ぶことで、哲学のそもそもの誕生の現場を知ることができる。それは学問の誕生の場でもあるから、すべての学問を学ぶ上での基本的な見取り図を手に入れることができるだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的にプリントを用いた講義形式である。哲学者たちの生き方をめぐるエピソードなども交えながら、オーソドックスな哲学の考え方をわかりやすく講義してゆく。補助資料によって著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、理解を深めてゆきたい。できるだけ、わかりやすい授業を目指す。毎回の課題の提出を重視する。課題のコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	足の裏に影はあるか？
2	哲学の基本的性格 1	「哲学」とは何か？
3	哲学の基本的性格 2	ギリシアにおける「哲学」の誕生
4	哲学の歴史 1 (哲学の出発点 1)	無知の自覚と愛知
5	哲学の歴史 2 (哲学の出発点 2)	ソクラテスの無知の自覚

6	哲学の歴史 3 (哲学の出発点 3)	懐疑、驚き、絶望…（デカルト～ヤスパース）
7	哲学の歴史 4 (哲学の究極)	愛についての考察・イデア論とプラトニックラブ
8	哲学の歴史 5 (哲学とは何か・まとめ)	愛の3つの対象と知への愛
9	哲学の基本問題 1 (哲学と科学 1)	知についての考察——哲学と学問知
10	哲学の基本問題 2 (哲学と科学 2)	対象の違い——部分と全体、本質と現象
11	哲学の基本問題 3 (哲学と科学 3)	方法の違い——仮説と真理、分析と反省
12	哲学の基本問題 4 (哲学と科学 4)	事実と価値・目的と手段
13	哲学の基本問題 5 (哲学と科学 5)	主体知と客体知・相補性
14	哲学Ⅰ まとめと学期 末試験	授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた著作を、実際に手に取って読んでみる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者は、下記を必ず読むこと。

『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966 年、¥ 814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』内山 勝利、中川 純男、ミネルヴァ書房

『哲学の歴史』1～5、中央公論新社

『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点（40 %）と、学期末試験（レポート）（60 %）によって評価する。試験のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、楽しく哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさをじっくり伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面授業の場合、授業中の私語には厳しく対処し、板書の写メ、スマホも禁止してゆく。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to science.

PHL200LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学（Ⅱ）では、「Ⅲ. 哲学と宗教」、「Ⅳ. 哲学と幸福」について考察する。宗教というと嫌いだとか怖いと思う人もいるかも知れないが、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教はどれも同じ神を信じながら、今日、様々な問題を引き起こしているのも事実である。まずは、その思想と歴史的事実をよりよく知ることが重要である。宗教の成立過程を見ることで、宗教の思索の持つ素晴らしい面や意義を知ることができ、また逆に、その問題点や危険性を知ることでもできるだろう。哲学の観点から、今日における宗教の問題を考え、哲学の意義を再考してみたい。

他方で、哲学は人間の真の幸福を探求する。幸福、つまり、善き生とは何か。われわれは誰もが幸福になりたいと願っているが、たとえば、科学だけで、あるいは、宗教によって、幸福になれるのだろうか？ 幸福になるには何よりも哲学が必要である。幸福になるための条件とは何であり、そもそも幸福とは何なのだろうか。哲学の観点から幸福について考えてみたい。

【到達目標】

西洋の文化や思想、芸術に大きな影響を与えてきたキリスト教だが、その教義の形成にはギリシア哲学が大きな影響を与えてきた。学生は、哲学との対比を通して、キリスト教やその他の宗教について、付かず離れずに見る視点を確保することができよう。偉大な宗教は、人間の弱さ、惨めさをとことん見つめようとする。哲学は、人間の知の可能性を可能な限り追求する。「信じる」とことと「知る」とこととの緊張関係において、哲学と宗教の接点を考えてみたい。

また、幸福とは何か？ どうしたらわれわれは幸福な生を送ることができるのか？ 古代ギリシア・ローマの幸福論をみることで、私たちの幸福について考え直してみたい。幸福になるには、よく知ることとかいかに大事か、真の幸福の鍵が哲学にあることが理解されるだろう。愚かさこそが、私たちの不幸の原因なのだから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的にプリント配信を用いた講義形式で進める。まずは、哲学と宗教の根本的相違点である知と信の問題に触れる。その上で、ユダヤ教、キリスト教、ギリシア哲学者たちの神観などについて、補助プリントなども用いて概要を把握した上で、哲学と宗教との関わりについて考えたい。また、補助資料によって、哲学者たちの生き方をめぐるユニークなエピソードなども交えながら、著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、オーソドックスな哲学の考え方をわかりやすく講義して理解を深めてゆきたい。できるだけ、わかりやすい授業を目指す。毎回の課題の提出やコメントを重視する。課題やコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。なるべく哲学Ⅰから取るようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	哲学とは何か?哲学と科学と宗教

2	哲学の基本的性格 1	哲学と宗教の相違点——知の立場と信の立場
3	哲学の基本的性格 2 (宗教の予備学習 1)	ユダヤ教とキリスト教
4	哲学の基本的性格 3 (宗教の予備学習 2)	キリスト教——愛の宗教
5	哲学の根本問題について 1 (哲学と宗教 1)	知と信の葛藤——ギリシア哲学とキリスト教
6	哲学の根本問題について 2 (哲学と宗教 2)	現代における宗教の存在理由——理性の偉大さとその限界
7	哲学の根本問題について 3 (哲学と宗教 3)	宗教心の源泉——パスカル『パンセ』より
8	哲学の根本問題について 4 (哲学と宗教 4)	自由意志と悪の問題——パスカルとアウグスティヌス
9	哲学の根本問題について 5 (哲学と宗教 5)	自力と他力——人間の強さと弱さについて
10	現代日本と哲学について (哲学と幸福 1)	幸福論——哲学とよき生について
11	現代日本と哲学について (哲学と幸福 2)	意志の弱さと選択の問題
12	現代世界と哲学について (哲学と幸福 3)	正義と幸福——ソクラテスの場合
13	現代世界と哲学について (幸福論の系譜)	ソクラテスの後継者たち——禁欲主義と快楽主義
14	哲学Ⅱ まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れて、興味を持った哲学者の著作を、自分で手に取って読んでみて下さい。本授業の準備・復習時間は、各々 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者は、下記を必ず読むこと。
『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966 年、¥ 814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』
内山 勝利、中川 純男著、ミネルヴァ書房
『哲学の歴史』1～5、中央公論新社
『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点（40 %）と、学期末試験（レポート）（60 %）によって評価する。毎回の課題を提出済みであること。学期末試験のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、じっくり楽しく哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさを伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面授業の場合、授業中の私語には厳しく対処し、板書の写メ、スマホも禁止してゆく。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to religion. And also this course introduces the philosophical theory of eudaemonics (happiness) to students taking this course.

PHL200LA

倫理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ケアの倫理学

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

2020 年から 2021 年にかけて、新型コロナウイルス感染の爆発的流行（パンデミック pandemic）に、全世界が巻き込まれた。2021 年になっても収束する決定的な要因を見出せず、世界では感染は増え続けている。それに対して、各国の医療は感染者の治療に間に合っているとはいえない状況にある。

生死を分ける「トリアージ（どの患者から治療するかという優先順位づけ）」が日常的に行われ、「生命の線引き」が後を絶たない。また、若年層には重篤化する傾向が少なく、感染しても無症状の可能性が高いのに対して、中高年層や持病を持った患者は死に至るケースが多い。これらのことから、年齢差別的な事態も引き起こされかねない。

コロナウイルスのパンデミックによって、私たちの社会の「道徳性」の弱さが露呈し、個人主義的というよりも利己主義的な個人の倫理観や社会道徳の意味などが問われているように思われる。自己中心的な価値観に基づくあまり、誰もが自分以外の他者に対して〈優しくない〉雰囲気を出しているといえよう。

本授業では、「ケアの倫理」という立場から、「自己をケアすること」・「他者をケアすること」から出発し、いかに社会や国家だけでなく、世界や地球全体を守り、ケアするかという大きな問いにまで視野を広げていく。

そこで本授業では、自分の個人的な行為が、見ず知らずの多数の人に影響を与えかねない現代社会の倫理性の問題を、「ケア」という角度から哲学的・倫理的に分析する。

《授業の目的》

本科目は、1980 年代に始まった比較的新しい「ケアの倫理」を学んでいく科目である。「ケアの倫理」では、「ケアとは何か」、「誰が誰をケアするのか」、「グローバル・エシックスにおけるケアとは何か」などの様々な問いを検討することを通じて、「ケア」という概念が私たちが生きている現場で必要不可欠な概念であることを明らかにする。また、「他者をケアすることの意味」や「自己へのケアの必要性」を考察することの重要性を学んでいく。

さらに「グローバル社会におけるケアの意味」、「正義の倫理」と「ケアの倫理」との対比を考察しながら、「愛とケア」に重点を置く、新しい「愛とケアのグローバル倫理」を構築することが、本授業の最終的なテーマである。

【到達目標】

- (1)「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
- (2)「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理学」との異同について比較することができる。
- (3)「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べることができる。
- (4)「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的に、授業は「講義形式」で行う。場合によっては、リアクションペーパーを用いて、受講生の皆さんと討論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・履修上の注意 ・「ケアの倫理」についての概要説明
2	第 1 章 生きることの倫理①	・生きることの質（QOL）
3	第 1 章 生きることの倫理②	・健康であることの意味
4	第 1 章 生きることの倫理③	・死ぬことの意味
5	第 1 章 生きることの倫理④	・死に立ち会うこと
6	第 1 章 生きることの倫理⑤	・ペットロス
7	第 1 章 生きることの倫理⑥	・死への準備教育（Death Education）
8	第 2 章 「ケア」の倫理①	・「ケア」の思想①——メイヤロフ『ケアの本質』
9	第 2 章 「ケア」の倫理②	・「ケア」の思想②——義理ガン『もう一つの声』
10	第 2 章 「ケア」の倫理③	・〈心〉が傷ついた人のケア
11	第 2 章 「ケア」の倫理④	・スピリチュアルケア（spiritual care）——〈いたみ〉を分かち合うこと
12	第 3 章 支え合うこととの倫理	・ケア意識の発達
13	第 3 章 支え合うこととの倫理	・ケアする人を支えるために
14	まとめ	・「自己へのケア」から「他者へのケア」へ、そして「支え合いとしてのケア」へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で触れたことについて、様々な書籍、雑誌、新聞やインターネットで確認し、自分の知識を増やすように心がけること。倫理学は、生き方に関わる学問である。座学では何も身につかない。積極的に、倫理的な問題を考え、自ら主体的に学ぶように日頃から気をつける必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・森村修『ケアの倫理』（大修館書店、2000 年）
- ・森村修『ケアの形而上学』（大修館書店、2020 年）
- ・Virginia Held, *The Ethics of Care: Personal, Political, and Global*, Oxford University Press, 2006.

【参考書】

竹田純郎・伊坂青司・森秀樹編『生と死の現在——家庭・学校・地域のなかのデス・エデュケーション』（ナカニシヤ出版、2002 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーや授業内で行う小テストなど（70 %）と期末試験（30 %）によって、総合的に評価する。

〈要注意〉

・リアルタイム・オンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業内や学習支援システムで提示する。

初回授業日に、その時点での成績評価の方針について、「学習支援システム」で受講者に通知する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ビデオ、DVD など AV 機器を用いる場合がある。

【その他の重要事項】

「ケアの倫理」は、単に授業ですわってれば自然と身につくものではない。自らの主体的な実践を伴わない「ケア」や「癒しと救い」は、単なる「絵に描いた餅」でしかなく、生きるためには何の役にも立たない。受講生各自が、自らの日々の生活のなかで、「ケアとは何か」「何をケアするのか」「ケアするためには何が必要なのか」「ケアとは何をしなければならないことなのか」などという問いを自らに問いかけ、それに答える努力を欠かさないようにしてもらいたい。

【Outline and objectives】

In this course, we examine the question "What is care?" from the perspective of "Global Ethics of Care and Justice". At that time, in this subject, we will consider the problem of care labor by examining the specific question of "who cares who". In addition, we will ask the contemporary significance of the previously controversial issue of the conflict between care and justice. From there, As described above, we will examine the question of "What is care ethics in global ethics" in the 21st century from various angles.

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ケアの形而上学

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

2020 年から 2021 年にかけて、新型コロナウイルス感染の爆発的流行（パンデミック pandemic）に、全世界が巻き込まれた。2021 年になっても収束する決定的な要因を見出せず、世界では感染は増え続けている。それに対して、各国の医療は感染者の治療に間に合っているとはいえない状況にある。

生死を分ける「トリアージ（どの患者から治療するかという優先順位づけ）」が日常的に行われ、「生命の線引き」が後を絶たない。また、若年層には重篤化する傾向が少なく、感染しても無症状の可能性が高いのに対して、中高年層や持病を持った患者は死に至るケースが多い。これらのことから、年齢差別的な事態も引き起こされかねない。

コロナウイルスのパンデミックによって、私たちの社会の「道徳性」の弱さが露呈し、個人主義的というよりも利己主義的な個人の倫理観や社会道徳の意味などが問われているように思われる。自己中心的な価値観に基づくあまり、誰もが自分以外の他者に対して〈優しくない〉雰囲気を出しているといえよう。

本授業では、「ケアの倫理」という立場から、「自己をケアすること」「他者をケアすること」から出発し、いかに社会や国家だけでなく、世界や地球全体を守り、ケアするかという大きな問いにまで視野を広げていく。

そこで本授業では、自分の個人的な行為が、見ず知らずの多数の人に影響を与えかねない現代社会の倫理性の問題を、「ケア」という角度から哲学的・倫理的に分析する。

《授業の目的》

本科目は、1980 年代に始まった比較的新しい「ケアの倫理」を学んでいく科目である。「ケアの倫理」では、「ケアとは何か」、「誰が誰をケアするのか」、「グローバル・エシックスにおけるケアとは何か」などの様々な問いを検討することを通じて、「ケア」という概念が私たちが生きている現場で必要不可欠な概念であることを明らかにする。また、「他者をケアすることの意味」や「自己へのケアの必要性」を考察することの重要性を学んでいく。

さらに「グローバル社会におけるケアの意味」、「正義の倫理」と「ケアの倫理」との対比を考察しながら、「愛とケア」に重点を置く、新しい「愛とケアのグローバル倫理」を構築することが、本授業の最終的なテーマである。

【到達目標】

- (1) 「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
- (2) 「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理学」との異同について比較することができる。
- (3) 「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べることができる。
- (4) 「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的に、授業は「講義形式」で行う。場合によっては、リアクションペーパーを用いて、受講生の皆さんと討論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・受講上の注意 ・「ケアの倫理」入門
2	第1章 暴力被害者のケア①	・〈生き残ること〉と〈生き延びること〉 ・「こども虐待」という〈社会・政治的暴力〉
3	第1章 暴力被害者のケア②	・「新たなる傷つきし者」の出現——「社会・政治的トラウマ」の問題 ・〈情動を抱える生〉の〈ケアの倫理〉
4	第2章 「生き延びる者」へのケア——長寿高齢社会の現実①	・哲学的課題としての「認知症」 ・「認知症」が問いかけるもの
5	第2章 「生き延びる者」へのケア——長寿高齢社会の現実②	・「社会的疾患」としての「認知症」 ・「認知症」における〈こころ〉と脳
6	第2章 「生き延びる者」へのケア——長寿高齢社会の現実③	・認知症ケアの倫理
7	第3章 〈社会的孤立者〉へのケア——「孤独死」社会における倫理①	・「孤独死」の現在 ・「ひとりで死ぬこと」の意味
8	第3章 〈社会的孤立者〉へのケア——「孤独死」社会における倫理②	・「何も共有していない者たちの共同体」の倫理 ・〈他者としての死者〉を抱えて〈生き延びる〉こと
9	第3章 〈社会的孤立者〉へのケア——「孤独死」社会における倫理③	・アボリアの経験 ・喪の倫理
10	第4章 〈からだ〉と〈ことば〉のケア倫理①	・〈からだ〉という問題圏 ・東洋的心身論の試み
11	第4章 〈からだ〉と〈ことば〉のケア倫理②	・富士谷御杖の思想 ・〈身〉と〈言〉 ・〈身〉と〈こころ〉 ・「言霊」の〈力〉
12	第5章 「生存の美学」としてのケア①	・アウトサイダーとアーと・セラピー ・ヘンリー・ダーガーの世界
13	第5章 「生存の美学」としてのケア②	・他者への配慮 ・レベッカ・ブラウンの「贈与」
14	第5章 「生存の美学」としてのケア③	・デヴィッド・グレーバーの価値論について ・贈与としてのケア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

森村修『ケアの形而上学』、大修館書店、2020 年

【参考書】

森村修『ケアの倫理』、大修館書店、2000 年

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーや小テスト（70 %）と期末試験（あるいはレポート）（30 %）によって、総合的に評価する。

※ リアルタイム・オンライン授業の場合は、変更の可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合には、インターネットなどの必要な設備が必要である。

【Outline and objectives】

In this course, we examine the question "What is care?" from the perspective of "Global Ethics of Care and Justice". At that time, in this subject, we will consider the problem of care labor by examining the specific question of "who cares who". In addition, we will ask the contemporary significance of the previously controversial issue of the conflict between care and justice. From there, As described above, we will examine the question of "What is care ethics in global ethics" in the 21st century from various angles.

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、おもに人の生命誕生に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学ぶ。

【到達目標】

いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通して、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自ら思索を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回アクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルが1の場合は、オンライン授業と対面授業を併用する。レベルが2となった場合は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	倫理学の基本概念	倫理学とはどのようなことを研究対象とする学問なのか、倫理学全般に関して説明する。
第 2 回	規範倫理学・記述倫理学・メタ倫理学	倫理学の 3 つのレベルについて、その概要を説明する。
第 3 回	バイオエシックスの誕生	1970 年代に米国においてバイオエシックスが誕生した背景を解説する。
第 4 回	バイオエシックスの諸問題	バイオエシックスにおいて取り扱われるテーマを解説する。
第 5 回	倫理的価値としての生命	生命や健康は価値あるものとされているが、それはいかなる理由からかを考える。
第 6 回	生命の誕生と人工妊娠中絶の問題	生殖に関する生命倫理問題を考察する。
第 7 回	人口抑制と環境問題	生殖に関する生命倫理問題と人口問題や環境問題との関係を考察する。
第 8 回	「自然」とは何か	倫理問題を考えるうえで「自然」という概念がいかなる意味を持つのかを解説する。
第 9 回	優生思想	優秀な子孫を残し劣った子孫の出生を防止するという「優生思想」に関する問題を解説する。

第 10 回	社会ダーウィニズムと人種主義	優生思想と社会ダーウィニズムとの関係を解説し、ナチズムにおける位置づけを考察する。
第 11 回	人工授精と体外受精	具体的な生殖医療における生命倫理問題を概観する。
第 12 回	ウォーノック報告と自由主義	英国のウォーノック報告の基本的考え方を解説し、生命倫理学における自由主義について考察する。
第 13 回	凍結保存の倫理的意味	配偶子や受精卵の凍結保存の持つ意味とそれによってもたらされる倫理的問題を考察する。
第 14 回	まとめ ※別途定期試験を実施する	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の授業内容に関するテキストの該当箇所を一読しておくこと。またプリントやノートを用いて授業内容について復習し、自分自身の思索を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストとして今井道夫『生命倫理学入門 [第 4 版]』（産業図書）を使用し、他に資料を配付する。

【参考書】

授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（50 %）定期試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will focus on bioethical issues concerning the birth of people and learn the basic concepts of ethics.

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、おもに人の死に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学ぶ。

【到達目標】

いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通して、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自らの思索を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回アクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	倫理的観点から見た「人の死」	人の死とはどのようなことかをあらためて生命倫理学の視点から考察する。
第 2 回	脳死に関する倫理的諸問題	脳死とはどのような状態かを確認し、生命倫理学においてどのような問題を孕んでいるのかを概観する。
第 3 回	臓器移植と功利主義	臓器移植という医療が、功利主義的な考え方によってどのように正当化されるかを具体的に考察する。
第 4 回	功利主義の問題	功利主義とはどのような考え方を確認し、その問題点を明らかにする。
第 5 回	義務論と目的論	功利主義を義務論と対比し、義務論的な考え方について概観する。
第 6 回	幸福加算の可能性	「最大多数の最大幸福」を原則とする功利主義が前提とする幸福計算の可能性について考察する。
第 7 回	社会的コンセンサスの倫理的意味	合意形成の可能性について倫理的視点から考察する。
第 8 回	安楽死・尊厳死・自然死	安楽死とはどのようなことかを解説し、安楽死に関する生命倫理問題を概観する。
第 9 回	生命の質	安楽死容認の根拠とされる考え方を考察する。

第 10 回 パターナリズム

自律原理に基づく医療とは対置されるパターナリズムの内容とその問題点を明らかにする。

第 11 回 自己決定の問題

安楽死の根拠とされる自律原理に関わる問題を明らかにする。

第 12 回 「判断能力」の有無

自己決定権行使の前提となる「判断能力」について、その内容を考察するとともに、問題とされる具体的事例を考察する。

第 13 回 「人格」概念

人間とはいかなる存在かをパーソン論の観点から考察する。

第 14 回 まとめ

※別途定期試験を実施する
理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の授業内容に関するテキストの該当箇所を一読しておくこと。また授業内容について復習し、自分自身の思索を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストとして今井道夫『生命倫理学入門 [第 4 版]』（産業図書）を使用し、他に資料を配付する。

【参考書】

授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（50 %） 定期試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will focus on bioethical issues concerning human death and learn basic concepts of ethics.

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：情報社会の倫理

杉本 隆久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報社会の倫理は、現代の情報社会の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学です。そのため、この授業では、グローバルな情報社会において生じている具体的な倫理的問題をいくつも取り上げながら、その問題に対して倫理的にどのように対応していくべきかを各学生がそれぞれの立場で考察できるようにします。

倫理学 L I では、情報社会における倫理的問題の中でも、特に「ネットにおけるコミュニケーション」、「メディア・リテラシー」、「情報技術とセキュリティ」、「インターネットと犯罪」「個人情報と知的財産」、「SNS と情報モラル」などインターネット社会を生きるための情報倫理に関連する諸問題を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、現代に生きる私たちが、グローバルな情報社会の中で、一個の人間としてどのように生きるべきかを倫理的に考察することを目指します。その中で、様々な倫理的問題を解決する実践的・応用的な知を獲得することを目標とします。また、様々な倫理的問題と対峙した際に必要となる思考力と判断力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の「ハイブリッド型授業」（対面授業と Zoom でのリアルタイム型オンライン授業の組み合わせ）です。当授業では、対面授業の回とオンライン授業の回を組み合わせで実施します。ただし、他の授業との関係で受講者が対面授業やオンライン授業に出席できない場合のことを考えて、オンデマンド授業（対面欠席者対象）と Zoom での授業を録画した映像授業も併せて実施します。授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

なお大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで Zoom でのリアルタイム型オンライン授業を行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報と情報社会と情報倫理	授業ガイダンスを行う。また、情報と情報社会と情報倫理についての概説も行います。

第 2 回	情報通信社会とインターネット	情報通信社会とインターネットの進化と変遷を概観し、その中で生じてきた倫理的問題について検討します。
第 3 回	ネット時代のコミュニケーション	ネットにおけるコミュニケーションとマナーについて倫理的に検討します。
第 4 回	メディアの変遷とメディア・リテラシー	メディアの変遷とメディア・リテラシーについて倫理的に検討します。
第 5 回	情報技術とセキュリティ	情報セキュリティとネット被害の問題を倫理的に検討します。
第 6 回	インターネットと犯罪	ネット社会におけるトラブルと犯罪について倫理的に検討します。
第 7 回	個人情報とプライバシー	個人情報の流出と保護の問題について倫理的に検討します。
第 8 回	知的所有権とコンテンツ	知的財産の問題と知的財産権について倫理的に検討します。
第 9 回	企業と情報倫理	企業の社会的責任や企業倫理について倫理的に検討します。
第 10 回	科学技術と倫理	科学技術と倫理の問題や技術者倫理について検討します。
第 11 回	デジタルデバイドとユニバーサルデザイン	デジタルデバイドの問題とユニバーサルデザインについて倫理的に検討します。
第 12 回	SNS と情報モラル	ソーシャルネットワークサービス（SNS）と情報モラルについて倫理的に検討します。
第 13 回	情報社会とリテラシー	情報社会を生き抜くリテラシーについて倫理的に検討します。
第 14 回	まとめ	まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した資料を読み、分からなかった部分についてはノートに抜き書きするなどして、問題意識を持った上で授業に臨んでください。

受講後は、不明点を理解できたかどうか復習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にテキストは使用しません。授業のテーマに関係するプリントを配付します。

【参考書】

- ・高橋慈子他著『情報倫理—ネット時代のソーシャル・リテラシー』（技術評論社）
- ・情報教育学研究会『インターネット社会を生きるための情報倫理（改訂版）』（実務出版）
- ・勢力尚雅編著『科学技術時代の倫理学』（梓出版社）
- ・大黒彦彦『情報社会の〈哲学〉—グーグル・ビッグデータ・人工知能』（勁草書房）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらいます（Hoppii を利用することを考えています）。また期末にレポートを提出してもらいます。以上の 2 点を総合して評価します。評価の比率は、課題 60%、期末レポート 40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【その他の重要事項】

積極的・意欲的な態度で授業に臨んでもらいたいです。倫理学 L II も併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline and objectives】

Ethics of information society is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in modern information society. From this reason, in this class, we will take up a variety of ethical issues arising from global information society, and consider a ethical reaction to those.

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：情報社会の倫理

杉本 隆久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報社会の倫理は、現代の情報社会の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学です。そのため、この授業では、グローバルな情報社会において生じている具体的な倫理的問題をいくつも取り上げながら、その問題に対して倫理的にどのように対応していくべきかを各学生がそれぞれの立場で考察できるようにします。

倫理学Ⅱでは、＜身体＞というパースペクティブから、特に「人工知能（AI）」、「ロボット、アンドロイド、サイボーグ」という問題を中心に、他にも「技術的特異点（テクノロジカル・シンギュラリティ）」、「2045 年問題」、「Google」、「ビッグデータ」、「SNS」、「ウェアラブル」など現代を生きるための情報社会に関連する様々な倫理的問題を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、現代に生きる私たちが、グローバルな情報社会の中で、一個の人間としてどのように生きるべきかを倫理的に考察することを目指します。その中で、様々な倫理的問題を解決する実践的・応用的な知を獲得することを目指します。また、様々な倫理的問題と対峙した際に必要となる思考力と判断力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の「ハイブリッド型授業」（対面授業と Zoom でのリアルタイム型オンライン授業の組み合わせ）です。当授業では、対面授業の回とオンライン授業の回を組み合わせで実施します。ただし、他の授業との関係で受講者が対面授業やオンライン授業に出席できない場合のことを考えて、オンデマンド授業（対面欠席者対象）と Zoom での授業を録画した映像授業も併せて実施する予定です。授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

なお大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで Zoom でのリアルタイム型オンライン授業を行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報社会と 2045 年問題	授業ガイダンスを行う。また、情報社会と技術的特異点の問題についての概説も行います。
第 2 回	技術的特異点という倫理学的問題（1）一切迫る状況と指数関数的な爆発	技術的特異点という倫理学的問題について検討します。
第 3 回	技術的特異点という倫理学的問題（2）—来るべき未来と終末論	技術的特異点という倫理学的問題について検討します。
第 4 回	マスメディアの終焉とメディア史観	マスメディアの終焉とメディア史観について倫理的に検討します。
第 5 回	グーグルによる「汎知」の企図と哲学の終焉	「汎知」の思想史を概観しながら、「グーグル」という問題について倫理的に検討します。
第 6 回	ビッグデータの社会哲学的位相	ビッグデータをめぐる倫理的問題について検討します。
第 7 回	SNS によるコミュニケーションの変様と社会システム論	SNS によるコミュニケーションの変様について、社会システム論的見地を踏まえ、倫理的に検討します。
第 8 回	ロボットから倫理を考える	ロボットをめぐる倫理的問題について検討します。
第 9 回	人間をつくり変える？	クローン、サイボーグ、アンドロイドをめぐる倫理的問題について検討します。
第 10 回	人工知能とロボットの新たな次元	人工知能とロボットの展開（未来）について、「身体」というパースペクティブから倫理的に検討します。
第 11 回	情報社会において倫理は可能か？	情報社会において倫理は可能かどうかを、「身体」というパースペクティブから倫理的に検討します。
第 12 回	メルロ＝ポンティと身体哲学	メルロ＝ポンティと身体哲学について倫理的に検討します。
第 13 回	ニヒリズムと人間の終焉とポスト・ヒューマンの倫理学	ニヒリズムと人間の終焉とポスト・ヒューマンの倫理学について検討します。
第 14 回	まとめ、そして『公審判と第二の受肉—再び受肉する意味について、或いは天国に生きる永続ゾンビについて』	まとめを行います。そして、今後の問題としてキリスト教（特に正教会およびカトリック教会）における私審判と公審判の問題について「身体」というパースペクティブから倫理的に検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した資料を読み、分からなかった部分についてはノートに抜き書きするなどして、問題意識を持った上で授業に臨んでください。

受講後は、不明点を理解できたかどうか復習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にテキストは使用しません。授業のテーマに係るプリントを配付します。

【参考書】

- ・ニック・ボストロム著『スーパーインテリジェンス 超絶 AI と人類の命運』（日本経済新聞出版社）
- ・レイ・カーツワイル著『ポスト・ヒューマン誕生 コンピュータが人類の知性を超えるとき』（NHK 出版）
- ・大黒岳彦著『情報社会の〈哲学〉—グーグル・ビッグデータ・人工知能』（勁草書房）
- ・ジャン＝ガブリエル・ガナシア著『そろそろ、人工知能の真実を話そう』（早川書房）
- ・三宅陽一郎著『人工知能のための哲学塾』（BNN 新社）
- ・久木田水生他著『ロボットからの倫理学入門』（名古屋大学出版会）
- ・岡本裕一郎著『12 歳からの現代思想』（ちくま新書）

- ・松田卓也著『2045 年問題 コンピュータが人類を超える日』（廣済堂新書）
- ・松尾豊著『人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの』（角川 EPUB 選書）
- ・弥永真生他編『ロボット・AI と法』（有斐閣）
- ・岡本裕一郎著『人工知能に哲学を教えたら』（SB 新書）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらいます（Hoppii を利用することを考えています）。また期末にレポートを提出してもらいます。以上の 2 点を総合して評価します。評価の比率は、課題 60%、期末レポート 40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【その他の重要事項】

積極的・意欲的な態度で授業に臨んでももらいたいです。倫理学 L I も併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline and objectives】

Ethics of information society is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in modern information society. From this reason, in this class, we will take up a variety of ethical issues arising from global information society, and consider a ethical reaction to those.

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

伊藤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者とはなにかということを問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。

私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のレポートにおいて、それを行なってもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

まず、他者論の問題設定の発生を明らかにして、そのうえで、デカルト、フッサール、シェーラー、ハイデガーなどが、その問題をどのように考えているかを見てゆく。

基本的に講義形式を取るが、いずれかのタイミングで「哲学対話」を取り入れたい。また、受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足してゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	単位取得方法、および講義の概要についての説明
第 2 回	他者と自己をめぐる基本問題	問題設定の意義について
第 3 回	デカルトの他者論（その 1）	デカルト哲学の紹介
第 4 回	デカルトの他者論（その 2）	デカルトの他者論（コギト、神の存在証明）
第 5 回	フッサールの他者論（その 1）	フッサール哲学の紹介
第 6 回	フッサールの他者論（その 2）	フッサールの他者論へ 間主観性・共現前という問題
第 7 回	フッサールの他者論（その 3）	フッサールの他者論の問題点と可能性（自己移入論、超越論的間主観性という立論）
第 8 回	シェーラーの他者論（その 1）	シェーラー哲学の紹介、シェーラーの類推説・自己移入論批判
第 9 回	シェーラーの他者論（その 2）	「体験流」からの出発、共同感情について
第 10 回	ディルタイの他者論（その 1）	ディルタイ哲学の紹介
第 11 回	ディルタイの他者論（その 2）	抵抗経験、追体験

第12回	ハイデガーの他者論 (その1)	ハイデガー哲学の紹介
第13回	ハイデガーの他者論 (その2)	顧慮的気遣い、本来的な他者
第14回	まとめ	あらためて「他者」とはなにかという ことを考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと

【テキスト（教科書）】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業毎に、資料を配付する。

【参考書】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポートを提出してもらう。

成績評価の基準は次のようにする。

平常点35%：レポート65%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は Zoom での授業だったため、若干ニュアンスが異なるが、次のようなコメントがありました。
「倫理学を今まで学んだことがありませんでしたが、今回初めてこの授業を受講し、デカルトやフッサール、シェーラーの思想について知ることができ、非常に興味深かったです。それぞれ内容が複雑で、先生に何度か質問をさせていただき、何とか全体像をつかむことができたように思えます。内容は難しかったですが、先生のご説明やよもやま話、zoom のグループ分けでの授業など、全体がとても面白く最後まで楽しく授業をうけることができました。」（法・三年）
「春学期を通してとても難しい内容だったが、授業は落語の映像やシンクロシティなど例えがとてもわかりやすくおもしろかった。」（文・一年）
これらの方々の感想から解るように、「難しく、楽しく、分かる」という路線を狙っています。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will study the relationship between the self and others, which is the basis of ethics. In particular, we will consider the question of what others are, and the relationship between others and the self.

The purpose of this lecture is to remind students of the obvious fact that I do not live alone, but that there are other people in front of me and next to me, and that I live with other people.

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

伊藤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者、なかでも「あなた」とはなにかということを問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。

私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のレポートにおいて、それを行なってもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず、他者論の問題設定の発生を明らかにして、そのうえで、サルトル、和辻哲郎、ブーバー、レヴィナスなどが、その問題をどのように考えているかを見てゆく。

基本的に講義形式を取るが、いずれかのタイミングで「哲学対話」を取り入れたい。また、受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足してゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	単位取得方法、および講義の概要についての説明
第2回	問題設定の確認	他者という問題設定（デカルト、フッサールなど）の確認
第3回	サルトルの他者論（その1）	サルトル哲学の紹介
第4回	サルトルの他者論（その2）	サルトルの対他存在
第5回	和辻哲郎の倫理学（その1）	和辻哲郎という人物、「面とベルソナ」について
第6回	和辻哲郎の倫理学（その2）	和辻倫理学の主要論点（個と全体、二人共同体）
第7回	和辻哲郎の倫理学（その3）	和辻倫理学の問題点
第8回	M・ブーバーの思想（その1）	ブーバーという人物、「わたし-きみ」「わたし-それ」
第9回	M・ブーバーの思想（その2）	ブーバーの人間観
第10回	M・ブーバーの思想（その3）	ブーバーの思想の問題点、E・レヴィナスによる批判
第11回	E・レヴィナスの他者論（その1）	レヴィナス哲学の紹介
第12回	E・レヴィナスの他者論（その2）	E・レヴィナスの他者論（その2）レヴィナスの他者論（顔）

- 第13回 E・レヴィナスの他者 レヴィナスの他者論（他者）論（その3）
- 第14回 他者論のまとめ これまでの議論を総括し、問題点を析出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと

【テキスト（教科書）】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業毎に、資料を配付する。

【参考書】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポートを提出してもらう。

成績評価の基準は次のようにする。

平常点35%；レポート65%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業では、次のような感想いただいております。

「哲学者たちの考えを自分と照らし合わせることで新しい価値観が芽生えてきたり、他者を認識するプロセスを追ってみたいすることができた。プーバーの応答関係で出てきた例などを考え意識してみると、どの考え方も自分が思っていたよりも日常のなかで見つけることができた。

また哲学対話の回は印象的だった。初めての体験だったが、それまで以上に他人とのコミュニケーションの機会が少なく、自分以外の価値観に触れるのが久しぶりだったので刺激があったし、心の運動をした気分になった。」

哲学対話を導入したので、上記の感想の後半はそのことについてふれている。次の感想もそうである。

「今学期を通し、私が一番印象に残ったのは哲学対話の回です。今年は他の生徒とほとんど関わらない環境であったので、他者の意見を聴き、議論することの面白味を感じました。また、授業内容としても「他者」にフォーカスをあてた話であったり、「この主張は○○だ」→「批判として□□という意見がある」というような、主張のみにとどまらず、現代の視点から批判などが取り上げられたのも印象的でした。」

【Outline and objectives】

In this lecture, we will study the relationship between the self and others, which is the basis of ethics. In particular, we will consider the question of what others are, and the relationship between others and the self.

The purpose of this lecture is to remind students of the obvious fact that I do not live alone, but that there are other people in front of me and next to me, and that I live with other people.

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：生きることと死ぬことを考える

田島 樹里奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）（life）とは何であるかを中心に、生きること・死ぬことについて考察することを目的とする。とりわけ本授業では、「幸福とは何か」を出発点としながら、人間の生／死、人格、医療（技術）に焦点を当てながら、私たち人間とはどのような存在であるかをじっくり倫理的な視点から考え直していきたい。かつて人間の生命は、「神のみが知る」ものであった。現代では、自然界に生まれた生命に人間の科学技術が介入することは当たり前であるが、人工授精・体外受精、デザイナーベビー、新型出生前診断、人工妊娠中絶、臓器移植、延命治療など、現代社会でよく耳にするこれらの人工的な生命操作は、自然の摂理という観点から見れば反自然的な行為と言いうる。だからと言って、簡単に善悪の判断を下すことはできない。私たちの日常生活においては、こうした論理や合理性だけでは解決し難い問題がたくさんある。

コロナ禍社会において露呈されたように、医療技術の進歩によって多くの命が救われながらも、ある状況下においては命の選別を迫られることもある。またコロナ禍においては、望まない妊娠や性被害の相談が急増したというデータもある。これら「いのち」の問題は、私たちが生きていく中で、いずれどこかで関わる身近な問題であり、避けては通ることのできない重要な問題である。本授業では、具体的な事例や現代的な問題を取り上げながら、命（生と死）・医療・科学技術などについて、今一度考え直すきっかけを提供していきたい。

【到達目標】

- ① 生命、死、存在、医療、看護、QOL などの言葉を、自分の頭の中で相互に関連づけながら思考する力を身につける。
 - ② 医療現場、患者および患者家族側、生命倫理学の多様な価値観を学ぶことで、様々な立場の考え方を多角的に把握する力を身につける。
 - ③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。
- 本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることを最終的な目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたり、リアクションペーパーなどを用いながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

＊ 講義

＊ 毎回、授業後に簡単なコメントシートを提出。

＊ 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明 生命と倫理／生命倫理とは？ 自然界の生命に医学（医療）が介入すること
第 2 回	倫理学の基礎理論 ①ー幸福とは何か	「幸福」はどのように決まるか？ 善く生きるの「善い」とは？
第 3 回	バイオエシックスの成立	医療と倫理 バイオエシックス／生命倫理はどのような背景から出てきたか
第 4 回	倫理学の基礎理論②ー 功利主義	「最大多数の最大幸福」 平等原理は存在するか？
第 5 回	人間の生命と人格①	生物学的生命と人格的生命 人格とは何か？
第 6 回	人間の生命と人格②	人格と責任能力 胎児に人格はあるか？ 自己意識と生存の権利
第 7 回	人間の生命と人格③	パーソン論とは 人工妊娠中絶は殺人か？
第 8 回	生存の義務と死ぬ権利	私たちは死ぬ権利をもつことができるか 自己決定権と生命 医療と人体実験
第 9 回	伝える義務と知る権利	医療とインフォームド・コンセント 情報開示と自己決定権
第 10 回	医療と倫理と法	医療とパターナリズム 患者の権利と医師の義務——生命の維持と自己決定権
第 11 回	誰が死を決定するのか ①	看護業務と医療事故 様々な医療事故の裁判例
第 12 回	誰が死を決定するのか ①	患者の自己決定権 宗教・信条と生命
第 13 回	生きる意味とは何か？	医療技術の進歩と医療現場 医療事故と医療過誤
第 14 回	まとめ	生きることと死ぬことの倫理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

H・T・エンゲルハート『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988/2005。

曾我英彦、棚橋實、長島隆編『生命倫理のキーワード』理想社、1999 年。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（30 %）、期末試験またはレポート（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

基礎から学ぶので、倫理学を受けたことのない人でも関心を持って受講することで、少しずつ理解でき、視野が広がってくると思います。

【その他の重要事項】

リアクションペーパー（コメントシート）の提出をもって出席としますが、内容を重視しています。
たんに単位を取得したいだけの人にはお勧めしません。

【Outline and objectives】

This course is an introduction and survey course in Bioethics. The purpose of this course is introduce students to bioethics through critical thinking contemporary issues. Through this course, students will be given not only the knowledge and comprehension of relationship between biotechnology and ethics, but also the opportunity to focus on their life and death.

Students will first be introduced the history of ethics, foundational theories in bioethics, and the basic concepts and theoretical framework of bioethics.

Topics will include: what is happiness, health-care, responsibility, system of value, informed consent, death and dying, and the issue of beginning of life(on abortion, designer baby, prenatal testing etc.).

Through this course, students will be able to think carefully and to express their own views more clearly through their own positions on bioethical/ medical issues.

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：「いのち」を多角的に考える

田島 樹里奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）(life) とは何であるかを中心に、生きること・死ぬことについて考察することを目的とする。とりわけ本授業の後半では、宗教の視点から生命倫理を考察することにより、様々な宗教的思想を背景にした死生観と生命倫理観を学んでいく。そもそも宗教は生死と密接に関わり、それぞれの仕方では「あの世／この世」「現世／来世」を語ってきた。本授業ではこれら全てを網羅することはできないが、私たちが今・ここで生きることの意義や、死や死後を考察するための手掛かりとして、それぞれの宗教的思想の意義を検討していきたい。

倫理学という学問領域は、私たちの日常生活や生きること・死ぬことに直接関わる部分を含んでいる。それゆえ、本授業を通じて、受講生各自が関心を持ったテーマに対して、積極的にアプローチをすることで、それぞれの興味・関心を深めていながら、死生観や生命観を構築し、さらに倫理的問題意識を持って学問的に掘り下げてもらいたい。

以上の観点を持って、受講生各自が本授業を通して、私たち人間とはどのような存在であるか、生きるとは、死ぬとはどういうことなのかをじっくり倫理的な視点から考え直していくきっかけを提供していきたい。

【到達目標】

① 生命、死、人格、医学、宗教などの言葉を、自分の頭の中で相互に関連づけながら思考する力を身につける。② 多様な生命の在り方や、宗教的思想を背景とした多様な価値観を学ぶことで、様々な立場から生命倫理を考える力を身につける。③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることを最終的な目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたりしながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

* 講義

* 毎回、授業後に簡単なコメントシートを提出。

* 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	生命倫理学とは何か？
第 2 回	生命の誕生と倫理①	生殖医療の倫理——生殖技術の発展と拡大 人工授精の歴史と現状
第 3 回	生命の誕生と倫理②	生殖医療の倫理——体外受精と卵子の老化
第 4 回	生命の誕生と倫理③	生殖技術の倫理——精子バンク、代理母問題
第 5 回	生命と医学①	再生医療とクローン技術
第 6 回	生命と医学②	遺伝子技術と生命倫理 デザイナーベビーとは
第 7 回	生命と医学③	遺伝子とゲノム ゲノム解析とは
第 8 回	人格と同一性	性転換手術と医療倫理 自然界の性転換と人工的性転換、LGBT
第 9 回	宗教と生命倫理①	宗教とは何か？ 宗教的価値観と倫理的判断
第 10 回	宗教と生命倫理②	神道における死後観と人間観
第 11 回	宗教と生命倫理③	ヒンドゥー教の死生観
第 12 回	宗教と生命倫理④	イスラームにおける生命観
第 13 回	宗教と生命倫理⑤	キリスト教と生命倫理
第 14 回	まとめ	宗教／非宗教から生命倫理を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみることに。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

曾我英彦、棚橋實、長島隆編『生命倫理のキーワード』理想社、1999 年。
小松美彦、土井健司編『宗教と生命倫理』ナカニシヤ出版、2005 年。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（30 %）、期末試験またはレポート（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

基礎から学ぶので、倫理学を受けたことのない人でも関心を持って受講することで、少しずつ理解でき、視野が広がってくると思います。

【その他の重要事項】

倫理学Ⅱから継続して受講すると理解しやすいです。
リアクションペーパー（コメントシート）の提出をもって出席としますが、内容を重視しています。
※たんに単位を取得したいだけの人にはお勧めしません。

【Outline and objectives】

This course is intended to develop student's understanding of ethical issues of bioethics and medical care. Especially, this course will focus upon major bioethical issues which related to artificial insemination, genetic testing and human right. In addition, the second half of this course, we will explore various ethical problems within several religious traditions. Through comparison of bioethical perspectives on selected themes, students will be able to recognize the interconnections between bioethical issues and religious system. This course will help students to develop the ability to analyze diverse perspective and to recognize the importance of ethical considerations.

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：応用倫理学概論

吉永 明弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学の基礎知識を学び、応用倫理学の内容に親しむとともに、具体的な倫理問題について議論する。

【到達目標】

倫理学の基本的な考え方や主要な理論（功利主義、義務論、徳倫理学、社会契約論、正義論）および応用倫理学の内容を把握し、それをもとに具体的な倫理問題について議論することができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面で講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学を学ぶ意味	なぜ倫理学を学ぶ必要があるのかについて説明する
2	倫理学の三大理論（1） 功利主義	ミルの自由論を基軸に功利主義について説明する
3	倫理学の三大理論（2） 徳倫理学と義務論	アリストテレスとカントの倫理学の概要を紹介する
4	倫理学と政治哲学（1） 社会契約論	ホッブズ、ロック、ルソーらの社会契約論を概説する
5	倫理学と政治哲学（2） 正義論	ロールズ、ノージック、サンデルらの正義論を紹介する
6	倫理学と公共哲学	公共性について倫理学の視点から論じる
7	応用倫理学（1）生命倫理学	脳死と臓器移植、医師・患者関係 フォームドコンセントを中心に説明する
8	応用倫理学（2）情報倫理学	情報化社会の倫理問題について紹介する。特に内部告発をとりあげる
9	応用倫理学（3）環境倫理学	環境問題への倫理学からのアプローチについて、土地倫理と世代間倫理を中心に紹介する
10	応用倫理学（4）食農倫理学	最近の応用倫理学の話題として、食と農に関する倫理学を紹介する
11	対話型講義（1）市民の力	社会に対する市民の力について議論する
12	対話型講義（2）観光のあり方について	コロナ下での観光のあり方について議論する

- 13 対話型講義（3） IT・AI の時代がもたらす新たな世紀の労働倫理
14 対話型講義（4） IT・AI の時代の教育のあり方について議論する
世紀の教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020 年
（第 1 章～第 4 章、第 7 章、第 9 章、第 12 章、第 14 章の内容を扱う）

【参考書】

加藤尚武『現代倫理学入門』講談社学術文庫、1997 年
新田孝彦『入門講義 倫理学の視座』世界思想社、2000 年
宇都宮芳明『倫理学入門』ちくま学芸文庫、2019 年
川本隆史『現代倫理学の冒険』創文社、1994 年
國分功一郎『近代政治哲学』ちくま新書、2015 年
児玉聡『功利と直観』勁草書房、2010 年
梅津光弘『ビジネスの倫理学』丸善、2002 年

【成績評価の方法と基準】

内容理解レポート（50 %）と書評レポート（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline and objectives】

You can understand ethical theory and applied ethics.

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：環境倫理学入門

吉永 明弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学の基本的な議論を紹介する。このなかから各自の興味のあるテーマについて、文献を読み、レポートを書いてもらう。

【到達目標】

環境倫理学の基本的文献の内容を把握し、それをもとに現実の環境問題に対する自分なりの構えをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。適宜、ディスカッションを取り入れる。レポートを添削し、必要があれば個別に面談を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の進め方を説明する
2	環境倫理学の位置づけ	環境倫理学の位置づけを確認する
3	欧米の環境倫理	欧米の環境倫理の基本的な議論を紹介する
4	グローバルな環境倫理	グローバルな環境倫理に関する基本的な議論を紹介する
5	リスク論と倫理	リスク論と倫理に関する議論を紹介する
6	気候変動と倫理	気候変動と倫理に関する議論を紹介する
7	自然保護から生物多様性保全へ	自然保護・生物多様性保全に関する議論を紹介する
8	公害と環境正義	公害と環境正義に関する議論を紹介する
9	ローカルな環境倫理	ローカルな環境倫理に関する基本的な議論を紹介する
10	環境問題と社会科学	社会科学の視点から環境問題を論じた文献を紹介する
11	地域環境保全と市民の力	地域環境や市民運動に関する文献を紹介する
12	場所論と風土論	場所論と風土論に関する議論を紹介する
13	景観保全と都市環境	景観保全と都市環境に関する議論を紹介する
14	都市の環境倫理をめざして	都市の環境倫理の構想を紹介する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020 年（第 4 章～第 11 章、第 13 章の内容を扱う）

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年
吉永明弘『ブックガイド 環境倫理』勁草書房、2017 年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年

【成績評価の方法と基準】

内容理解レポート（50 %）と書評レポート（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline and objectives】

You can understand Environmental Ethics by Environmental Reading and Writing.

PHL200LA

論理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：論理的読解のトレーニング

佐々木 護

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論点が明確で、筋の通った議論や文章は「論理的」と言われます。この授業では、分野を問わず多様な文章を論理的に把握し、それを吟味検討したうえで、自分の見解を論理的に表現する訓練を行います。論理的読解力や論述力を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上で大いに役立つはずです。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の2点です。

- (1) 新聞記事や新書レベルの文章を読み、そこから論証構造を抽出し、内容をよく理解した上で、的確な要約を行うことができる。
- (2) 上記の文章を吟味検討し、自分の見解を論理的に展開することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として、学習支援システムを利用した、資料配信型のオンデマンド授業となります。

毎回学習支援システムの「教材」から PDF 資料が配信されます。資料に目を通し、内容を理解したうえで、練習問題で知識の定着を図ります。

その後、各回のテーマに関連した課題（文章要約や見解論述など）に取り組みます。課題の解説は、次回配信されます。

授業後の感想や質問は、「テスト／アンケート」から受け付けます。必要に応じてフィードバックがあります。

対面授業実施の場合は、学習支援システムで事前に告知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／論理学とは	論理学には分析論と弁証術の 2 つの流れがあることを理解する。
第 2 回	論理的説明と論証	トゥールミン・モデルなどを参照しつつ、論理的な説明には、根拠の提示が不可欠であることを理解する。
第 3 回	論理的読解と論証	論理的読解には、文章全体を論証と捉え、結論とそれを支える根拠を見きわめることが有効であることを理解する。
第 4 回	論証の構造	論証図の作成を通じて、論証構造を的確に把握する仕方を身につける。
第 5 回	要約の技法	文章から論証構造を取り出し、それを軸に要約する技法を身につける。

第 6 回 隠れた前提

論証を論理的に理解するには、隠れた前提を自覚的に取り出すことが必要な場合があることを理解する。

第 7 回 論証の評価（1）

論証の適切さや妥当性を評価するにあたって着目すべきポイントを理解する。

第 8 回 論証の評価（2）

論証を検討する仕方を実践的に身につける。

第 9 回 誤った論証

論証の誤りの代表的なパターンを理解する。

第 10 回 論証への反論（1）

現代の社会問題に関連した論証に対する反論を作成する。

第 11 回 論証への反論（2）

前回作成答案を基にして、発展的検討を行う。

第 12 回 文章読解と見解論述（1）

現代の社会問題に関連した文章を読み、それに対する見解論述を作成する。

第 13 回 文章読解と見解論述（2）

前回作成答案を基にして、発展的検討を行う。

第 14 回 試験日

試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

毎回、講義内容に関連した課題が課されます。

毎回配信する資料にはよく目を通しておいください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

荻谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社プラスアルファ文庫、2002 年）

野矢茂樹『新版・論理トレーニング』（産業図書、2006 年）

【成績評価の方法と基準】

通常回の課題成績（50 %）および最終回の試験もしくは課題の成績（50 %）で評価します。

通常回の課題の評価基準は、返却時の解説資料でお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

「他の学生の答案を見て、意見や表現方法を学ぶことができたのが良かった」「文章を読むときにどこに気をつければよいか分かってきた」「授業を通して、少しずつ自分の文章力がついてきたと実感した」などの感想がありました。

今まで文章を書く機会の少なかった受講者の場合、最初は小論文作成に時間がかかり、難しく感じることもあるようです。しかし、書き続けるうちに徐々に慣れていきますので、その点についてあまり心配する必要はありません。

【Outline and objectives】

We call a reasonable argument as "logical". In this course, we will practice to logically read various texts regardless of the field, examine them, and express your own view logically. If you acquire the ability of logical reading and argumentation, it will be useful for your future academic activities and social life.

PHL200LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：批判的思考のトレーニング

佐々木 護

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

批判的思考（クリティカル・シンキング）教育の一環として、複数の視点から仮説を立てたり、対立する意見も視野に入れつつ望ましい問題解決策を見出す訓練を行います。自分が自明とする考えからいったん距離を置き、異なる他者の考えにも目を向ける態度を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上でも大いに役立つはずです。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の2点です。

- (1) 統計資料などを手がかりに仮説を立て、それに基づく解決策を提示することができる。
- (2) 与えられたテーマに関して、対立する意見も視野に入れつつ、説得力ある見解論述を展開することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として、学習支援システムを利用した、資料配信型のオンデマンド授業となります。

毎回学習支援システムの「教材」から PDF 資料が配信されます。資料に目を通し、内容を理解したうえで、練習問題で知識の定着を図ります。

その後、各回のテーマに関連した課題（資料分析や見解論述など）に取り組みます。課題の解説は、次回配信されます。

授業後の感想や質問は、「テスト／アンケート」から受け付けます。必要に応じてフィードバックがあります。

対面授業実施の場合は、学習支援システムで事前に告知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／推論の分類	演繹、帰納、仮説推量という推論の3つのタイプを概観する。
第 2 回	演繹と仮説推量	演繹と仮説推量の関連性と相違点を理解したうえで、新たな発想やアイデアを導く上で仮説推量が果たす意義を押さえる。
第 3 回	統計資料の分析と仮説推量	統計資料の分析の基本を理解し、資料からどのような仮説を立てることができるかを考える。
第 4 回	相関関係と因果関係	2つの現象の間に何らかの関係が認められる場合に、どんな仮説が立てられるのかを理解する。
第 5 回	原因分析と対策提言	ある仮説に基づくならば、どのような対策が必要かを考える。仮説が異なれば、必要な対策も大きく異なることを理解する。

第 6 回 価値前提

それぞれの論証がどのような価値判断や価値基準を前提としているかに注目することで、議論の争点を整理する仕方を身につける。

第 7 回 対策提言の評価（1）

現代の社会問題に関連した論証に対する検討を行う。

第 8 回 対策提言の評価（2）

前回作成答案を基に、発展的検討を行う。

第 9 回 立論・批判・異論（1）

対立する意見を視野に入れつつ、それに対する批判や異論を展開する仕方を身につける。

第 10 回 立論・批判・異論（2）

批判と異論の違いを見きわめる。

第 11 回 立論・批判・異論（3）

あるテーマに対し、立論・批判・異論から構成される小論文を作成する。

第 12 回 立論・批判・異論（4）

前回作成答案を基に、発展的検討を行う。

第 13 回 誤った二分法

二分法が陥りがちな罠を理解する。

第 14 回 試験日

試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

配信された資料にはよく目を通しておいください。

また、日頃から政治や経済、社会等のニュースに関心を持ち、批判的にチェックする習慣を身につけていきましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

荻谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社プラスアルファ文庫、2002 年）
野矢茂樹『新版・論理トレーニング』（産業図書、2006 年）

【成績評価の方法と基準】

通常回の課題成績（50 %）および最終回の試験もしくは課題の成績（50 %）で評価します。

通常回の課題の評価基準は、返却時の解説資料でお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

「文章の書き方などを学べたことはもちろん、毎回の授業や課題においてテーマとなる社会問題について考え文章にすることが、自分の意見を持つ大変いい機会となった」「ただ論理の立て方を学ぶだけではなく時事を用いて学ぶことができて大変勉強になった」などの感想がありました。

テーマに関連したアウトプットを繰り返す授業形式を通して、考えて書く力がアップしたと感じる受講者が多かったようです。

【Outline and objectives】

As part of the critical thinking education, we will make hypotheses from multiple perspectives, and practice to find solutions while taking into account the opposite opinion. If you learn how to think critically, you will be of great help in your future academic activities and social life.

HIS200LA

東洋史Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

岡安 勇

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国古代の国家構造については皇帝を頂点とする一元的支配（＝個人身身の支配）という概念で理解されている。

しかし皇帝権力の絶対性の側面を強調すると、その絶対的権力を打倒して新王朝が出現する王朝交替のメカニズムを解明する糸口が見失われてしまう。

また「例外において本質が顕現する」（C. シュミット）と言われるように、皇帝支配における例外的措置としてこれまであまり顧みられることのなかった王朝の「賓・客」（旧王朝の子孫）の存在とその待遇問題について注目して新たに中国古代の国家構造を明らかにしてみたい。

つまり、本授業では中国古代の国家構造を「二王の後（旧王朝の子孫）」の視点から解明する。

漢文講読の経験の有無にかかわらず、中国に興味関心のある学生が本授業を受講することによって、これまでにない中国古代の国家構造を理解することができる。

【到達目標】

中国古代（おもに堯・舜・禹の伝説時代から殷・周～秦・漢・三国時代）の社会・思想のうち興味深い事柄が理解できる。また、そのような社会や思想を理解した上で、一般に知られていない中国古代の「二王の後」の存在も明らかにする。「二王の後」の視点から中国古代の王朝交替のメカニズムが明確に理解できるようになる。

なお、授業では現代に溶け込んでいる中国古代の故事なども取り上げるので、これまでとは違う知識が得られる。また、授業で漢文を読むことになるが、初心者でも次第に漢文の読み方が上達すると考えられる。

試験では授業で扱った漢文史料を引用して自分自身で中国古代の王朝交替のメカニズムをこれまでにない視点から説明することが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義で講読する史料や参考資料はプロジェクターを使用してスクリーンに映しだして説明を加えるので、黒板に書くチョークの文字よりも見やすいと思われる。また、黒板に書く作業が省略される分時間の短縮に繋がりが、教師と学生が常に対面できるという利点もある。講義形式（漢文初心者にも理解できるように説明し、丁寧な解説を加える）で行う。授業計画にも示してあるが、講義では、中国古代史上における興味ある話題について参考資料などを示して紹介するつもりである。

なお、授業の概要、重要事項などを確認するリアクションペーパーの提出を義務づけているが、その中で提出された質問のうち共有化すべきものについては、次の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	二王の後とはなにか	授業内容:春学期授業のガイダンスと中国古代の国家構造について
第 2 回	伝説上の王朝について	堯・舜・禹の伝説上の帝王間の政権交替についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 3 回	実在する最古の王朝について	夏王朝から殷王朝への王朝交替と「二王の後」についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 4 回	殷王朝から周王朝へ	殷王朝から周王朝への王朝交替と「二王の後」についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 5 回	周王朝から秦王朝へ	周王朝から秦王朝への王朝交替と「二王の後」についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 6 回	秦王朝から漢王朝へ	秦王朝から漢王朝への王朝交替についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 7 回	漢王朝初期	漢王朝初期の二王の後についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 8 回	漢の武帝の初期	漢の武帝初期の二王の後礼遇の再建についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 9 回	漢の武帝期②	漢の武帝期の二王の後についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 10 回	漢の宣帝・元帝期	漢の宣帝・元帝期の二王の後についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 11 回	漢の成帝期	漢の成帝期の二王の後についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 12 回	王莽時代	王莽時代の二王の後についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 13 回	後漢・三国時代 まとめ	後漢・三国時代の二王の後についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介 春学期講義のまとめおよび結論。
第 14 回	試験・まとめ	試験についての説明を行った後、試験実施　まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。参考図書などについてはテキストに記載してあるが、それ以外のものについては、授業中に紹介するので、それらの参考図書を授業前後に読み、取り扱うテーマとその歴史的背景を理解すること。
なお、中国に関する展覧会などにも積極的に出掛けて、中国への関心と理解を高めることに心がけてもらとうよい。

【テキスト（教科書）】

岡安勇『中国古代の国家構造』 生協扱い。
必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

なし。ただし、参考図書などについてはテキストで紹介してある。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：70 %

平常点：30 %（毎時間、授業の理解度確認のためのリアクションペーパー提出）

合計：100 %

成績は毎時間に提出するリアクションペーパーによる平常点と期末試験で評価する。リアクションペーパーを一定枚数以上提出した者が成績の評価対象となる。期末試験では講義で使用するテキストやプリントとその説明のためにとったノートがなければ解答できないと思われる。すなわち出席を重視するゆえんである。なお、試験問題は授業の個々の内容から出題する。

上記の予定が 2021 年度春学期に実行できず、春学期がオンラインでの開講となった場合には、成績評価の方法と基準も変更する。具体的方法と基準は授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

今後も知的好奇心を刺激する授業を展開するよう心がける。また、専門的な分野を理解できるように、これからも工夫を加えていきたい。

【その他の重要事項】

春学期の「二王の後」という視点、秋学期の「中国古代の席次」という視点の両面から中国古代の国家構造というテーマを解明していくので、両者の視点によってより明確にテーマを理解できると思われる。そのため、履修者には通年での履修を勧める。

【Outline and objectives】

「This program is designed to lecture on "descendants of the previous two dynasties" in ancient China.

HIS200LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

岡安 勇

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期では、王朝の「賓・客」（旧王朝の子孫）の存在とその待遇問題に注目して中国古代の国家構造の解明を行ったが、秋学期ではこれとは反対に禅譲されて新王朝を樹立した者の、旧王朝末期における君臣関係というこれまであまり扱われることのなかった例外的措置について取り上げ、中国古代の新旧両王朝一体となった国家構造を明らかにしてみたい。

そこで本授業では中国古代の国家構造を席次という序列関係を手掛かりにして解明を試みる。

なお、この解明には君臣間、賓主間という性質の異なる席次の序列関係も重要な手掛かりとなるが、人口に膾炙した『史記』の有名な「鴻門の会」はその代表例として取り上げることになるので、親しみやすいと思われる。対象学生は春学期と同じ。

【到達目標】

中国古代に行われていた席次（席に座る順序）を用いるというこれまで考えられなかった視点から王朝交替のメカニズムを解明する糸口を見いだすことが出来る。

一般にもよく知られている鴻門の会での項羽と劉邦の席がどのようにして決まったのか興味のある問題であるが、この点についてはビデオを用いることによって、視覚的に理解ができる。

中国古代の席次が理解できれば、皇帝が西面することがいかに異例のことだったのかが分かり、するとこれまで考えても見なかった王朝交替のメカニズムが判明することにもつながる。

なお、秋学期でも春学期と同じように、授業では現代に溶け込んでいる中国古代の故事なども取り上げるので、これまでとは違う知識が得られる。また、授業で漢文を読むことになるが、初心者でも次第に漢語への理解や漢文の読み方が上達すると考えられる。

試験では授業で扱った漢文史料を引用して自分自身で中国古代の王朝交替のメカニズムをこれまでにない視点から説明することが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義で講読する史料や参考資料はプロジェクターを使用してスクリーンに映しだして説明を加えるので、黒板に書くチョークの文字よりも見やすいと思われる。また、黒板に書く作業が省略される分時間の短縮に繋がり、教師と学生が常に対面できるという利点もある。講義形式（漢文初心者にも理解できるように説明し、丁寧な解説を加える）で行う。授業計画にも示してあるが、講義では、中国古代史上における興味ある話題について参考資料などを示して紹介するつもりである。

なお、授業の概要、重要事項などを確認するリアクションペーパーの提出を義務づけているが、その中で提出された質問のうち共有化すべきものについては、次の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容:秋学期授業のガイダンスと中国古代の国家構造について	授業内容ガイダンスと君臣間の席次についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 2 回	君臣間の席次	君臣間の席次についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 3 回	階層化する君臣間の席次	階層化する君臣間の席次についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 4 回	賓主間の席次	賓主間の席次のうち基本的なものについてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 5 回	君臣間の席次と賓主間の席次の相違点	君臣間の席次と賓主間の席次の相違点の確認と理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 6 回	賓主間から君臣間の席次への移行	賓主間から君臣間への席次の移行の意味についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 7 回	複雑な賓主間の席次	複雑な賓主間の席次についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 8 回	複雑な賓主間の席次の上下関係	複雑な賓主間の席次の上下関係についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 9 回	私的場面で賓主間の席次に着く皇帝	私的場面で賓主間の席次に着く皇帝の存在についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 10 回	公的場面で賓主間の席次に着く皇帝	公的場面で賓主間の席次に着く皇帝の存在についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 11 回	臣下に対して賓主間の席次に着く皇帝	臣下に対して賓主間の席次に着く皇帝の意味についてとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 12 回	賓客の席を与えられた臣下の変化	臣下が賓客の席に着くことにより皇帝との関係が主客関係に変化していくこととその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 13 回	席次から見た王朝交替まとめ	賓主間の席次に着く皇帝の意味から王朝交替のメカニズムを明らかにすることとその理解のための史料講読および関連する時代の社会・文化紹介
第 14 回	試験・まとめ	秋学期講義のまとめおよび結論試験についての説明を行った後、試験実施　まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。参考図書などについてはテキストに記載してあるが、それ以外のものについては、授業中に紹介するので、それらの参考図書を授業前後に読み、取り扱うテーマとその歴史的背景を理解すること。

なお、中国に関する展覧会などにも積極的に出掛けて、中国への関心と理解を高めることに心がけてもらおうとよい。

【テキスト（教科書）】

岡安勇『中国古代の国家構造』 生協扱い
必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

なし。ただし、参考図書などについてはテキストに紹介してある。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：70 %

平常点：30 %（毎時間、授業の理解度確認のためのリアクションペーパー提出）

合計：100 %

成績は毎時間に提出するリアクションペーパーによる平常点と期末試験で評価する。リアクションペーパーを一定枚数以上提出した者が成績の評価対象となる。期末試験では講義で使用するテキストやプリントとその説明のためにとったノートがなければ解答できないと思われる。すなわち出席を重視するゆえんである。なお、試験問題は授業の個々の内容から出題する。

上記の予定が 2021 年度秋学期に実行できず、秋学期がオンラインでの開講となる場合には、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

今後も知的好奇心を刺激する授業を展開するよう心がける。また、専門的な分野を理解できるように、これからも工夫を加えていきたい。

【その他の重要事項】

春学期の「二王の後」という視点、秋学期の「中国古代の席次」という視点の両面から中国古代の国家構造というテーマを説明していくので、両者の視点によってより明確にテーマを理解できると思われる。そのため、履修者には通年での履修を勧める。

【Outline and objectives】

Solution on the National Structure in Ancient China with Reference to the Precedence between Sovereign and Subject, Guest and Host.

HIS200LA

東洋史Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長谷部 圭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、イスラームが誕生した 7 世紀から、オスマン帝国がビザンツ帝国を滅ぼす 15 世紀までの「中東・イスラーム地域」の歴史を概観する。また、イスラームの教義や戒律、そして世界秩序観などについても解説する。受講者が、当該地域への理解を深めつつ、他の地域との比較や連関ができるようになることを目的とする。

【到達目標】

本科目の目標は、受講者が、15 世紀までの「中東・イスラーム地域」の歴史と、イスラームの教義に関する基礎的な知識を習得し、それを論理的に表現できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本学の方針に基づき、対面授業の回とオンライン授業の回を組み合わせる「ハイブリッド型授業」とする。

課題等に対するフィードバックは、対面授業の際は教室で、オンライン授業の際は学習支援システムで、それぞれ行う。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、本授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代の中東・イスラーム地域	2000 年以降の中東・イスラーム地域について概観する。
第 2 回	イスラーム生誕	イスラーム、ムハンマド、コーランについて概観する。
第 3 回	スンナ派とシーア派	正統カリフ、スンナ派、シーア派、ウマイヤ朝、アッバース朝について概観する。
第 4 回	イスラーム的世界秩序と法	イスラーム的世界秩序、シャリーア、フィクフ、法源について概観する。
第 5 回	法の担い手とその養成	スンナ派四法学派、シーア派一法学派、ウラマー、マドラサ、ワクフについて概観する。
第 6 回	マムルークとイクター制	マムルーク、カリフの鼎立、イクター制について概観する。
第 7 回	スーフィーと聖者	スーフィズム、聖者、タリカについて概観する。
第 8 回	スンナ派の時代	セルジューク朝、ムラービト朝、ムワッヒド朝、アイユーブ朝について概観する。
第 9 回	モンゴルの時代	フレグ・ウルス、ジョチ・ウルスについて概観する。
第 10 回	モンゴル後の世界 1 —マムルーク朝	マムルーク朝について概観する。

第 11 回	モンゴル後の世界 2 —オスマン朝	15 世紀までのオスマン朝について概観する。
第 12 回	モンゴル後の世界 3 —ティムール朝	ティムール朝について概観する。
第 13 回	イスラームの普及 1 —アフリカ・インド	アフリカとインドへのイスラームの普及について概観する。
第 14 回	イスラームの普及 2 —東南アジア・中国	東南アジアと中国へのイスラームの普及について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

準備学習：レジュメに記載されている参考文献を読むこと。

復習：講義内容を、自身の専門と比較したり関連付けたりすること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。レジュメおよび資料を配付する。

【参考書】

大塚和夫他編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002 年。

東長靖『イスラームのとらえ方』山川出版社、1996 年。

屋形禎亮・佐藤次高『西アジア』上巻、朝日新聞社、1993 年。

【成績評価の方法と基準】

70%: 期末レポート

30%: 授業への参加度

期末レポートは、turnitin を用いて、不正の有無を確認する。悪質な剽窃行為の場合、本科目は E 評価となり、停学（3 カ月未満）となる。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講生から、「レジュメは動画の概要だけでなく、それだけ見ても分かるように作ってほしかった」との意見があったが、それでは動画を閲覧しない（対面授業の場合は授業に出席しない）受講生が出てくる可能性があるため、簡潔なレジュメのままとする。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に備えておくこと。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「東洋史 LII（イスラーム史 2）」も受講することが望ましい。

【Outline and objectives】

We survey a history of Islamic area from 7th to 15th century and review the Islamic technical terms. We aim to understand the area and to compare and connect it with another.

HIS200LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長谷部 圭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、オスマン・サファヴィー・ムガルの三王朝が並び立った 16 世紀から現代までの「中東・イスラーム地域」の歴史を概観する。とくに、この地域の大部分を支配したオスマン帝国（1300 頃～1922）に焦点をあてる。受講者が、オスマン帝国への理解を深めつつ、他の政治体との比較や連関ができるようになることを目的とする。

【到達目標】

本科目の目標は、受講者が、オスマン帝国の歴史に関する基礎的な知識を習得し、それを論理的に表現できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本学の方針に基づき、対面授業の回とオンライン授業の回を組み合わせる「ハイブリッド型授業」とする。

課題等に対するフィードバックは、対面授業の際は教室で、オンライン授業の際は学習支援システムで、それぞれ行う。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、本授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	15 世紀までの中東・イスラーム地域	7 世紀から 15 世紀までの中東・イスラーム地域について概観する。
第 2 回	オスマン集団の登場	14 世紀のオスマン帝国について概観する。
第 3 回	コンスタンティノープルの征服	15 世紀前半のオスマン帝国について概観する。
第 4 回	「世界帝国」への道	15 世紀後半から 16 世紀初頭にかけてのオスマン帝国について概観する。
第 5 回	スレイマンの時代	スレイマン大帝期（1520-66）のオスマン帝国について概観する。
第 6 回	古典的支配体制の成立	スレイマンの頃に成立した支配体制について概観する。
第 7 回	ティマール制から徴税請負制へ	16 世紀後半から 17 世紀前半にかけてのオスマン帝国について概観する。
第 8 回	回復と喪失	17 世紀後半のオスマン帝国について概観する。
第 9 回	分権化の時代	18 世紀のオスマン帝国について概観する。
第 10 回	オスマン帝国が迎えた「近代」	19 世紀初頭のオスマン帝国について概観する。
第 11 回	オスマン帝国の「洋務」	タンズィマート期（1839-76）のオスマン帝国について概観する。

第 12 回 専制と立憲制

19 世紀末のオスマン帝国について概観する。

第 13 回 帝国の終焉

20 世紀初頭のオスマン帝国について概観する。

第 14 回 オスマン帝国崩壊後の

20 世紀の中東・イスラーム地域について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

準備学習：配布資料や動画を閲覧すること。

復習：講義内容を、自身の専門と比較したり関連付けたりすること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。PDF 資料と動画を配信する。

【参考書】

新井政美『トルコ近現代史』みすず書房、2001 年。

大塚和夫他編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002 年。

小笠原弘幸『オスマン帝国』中央公論新社、2018 年。

鈴木董『オスマン帝国』講談社、1992 年。

鈴木董『オスマン帝国の解体』筑摩書房、2000 年。

永田雄三・羽田正『成熟のイスラーム社会』中央公論社、1998 年。

林佳世子『オスマン帝国の時代』山川出版社、1997 年。

林佳世子『オスマン帝国 500 年の平和』講談社、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

70%: 期末レポート

30%: 授業への参加度

期末レポートは、turnitin を用いて、不正の有無を確認する。悪質な剽窃行為の場合、本科目は E 評価となり、停学（3 カ月未満）となる。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講生から、「レジュメは動画の概要だけでなく、それだけ見ても分かるように作ってほしかった」との意見があったが、それでは動画を閲覧しない（対面授業の場合は授業に出席しない）受講生が出てくる可能性があるので、簡潔なレジュメのままとする。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に備えておくこと。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「東洋史Ⅱ（イスラーム史Ⅱ）」も受講することが望ましい。

【Outline and objectives】

We survey a history of the Ottoman Empire. We aim to understand it and to compare and connect it with another political body.

HIS200LA

西洋史 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

16 世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

【到達目標】

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに関接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を行います。リアクションペーパー等でのコメント、質問は随時授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容の紹介	16 世紀から 19 世紀にかけてのイギリスの歴史の流れを概観します。
第 2 回	16 世紀のイギリス 1	バラ戦争や宗教改革、ウェールズとの合同を通じて国家統合が進む過程を説明します。
第 3 回	16 世紀のイギリス 2	16 世紀のイギリス経済が停滞していたこと、それに伴って浮浪者問題など社会が混乱していたことを説明します。
第 4 回	イギリス帝国の形成 1	15 世紀末からの初期の海外進出から 17 世紀初頭の海外進出が軌道に乗るまでの過程を説明します。
第 5 回	イギリス帝国の形成 2	17 世紀ヘゲモニー国家として繁栄したオランダと対立する中、航海法体制を確立する過程を説明します。
第 6 回	イギリス帝国の形成 3	17 世紀末からのフランスとの対立の中 18 世紀中頃に第一帝国を完成させる過程を説明します。

第 7 回 イギリス商業革命 1

イギリス帝国の形成がイギリスの経済にどのような影響を与えたのか貿易面に焦点をあて説明します。

第 8 回 イギリス商業革命 2

イギリス帝国の形成が貿易に留まらず、経済全般に影響を与え、結果、産業革命をもたらした過程を説明します。

第 9 回 イギリス生活革命

イギリス帝国の形成がイギリスの生活文化に与えた影響について説明します。

第 10 回 砂糖と西インド諸島

イギリス商業革命、イギリス生活革命で重要な役割を果たしたのが砂糖ですが、その生産を行っていた西インド諸島がその結果低開発の道を進むことになったことを説明します。

第 11 回 大西洋黒人奴隷貿易

イギリスは植民地経営に必要な労働力を獲得する手段として大西洋黒人奴隷貿易を盛んに行いました。この貿易がイギリス帝国およびアフリカに与えた影響について説明します。

第 12 回 13 植民地の独立

13 植民地の独立の過程と独立がイギリスに与えた影響について説明します。

第 13 回 産業革命と帝国

産業革命の展開と帝国が果たした役割について説明します。

第 14 回 試験・まとめと解説

第一イギリス帝国の形成がイギリスの内外に与えた影響について総括します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に前回のノートを読み返して下さい。
また、紹介する参考文献を積極的に読むようにして下さい。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

【学生の意見等からの気づき】

視覚教材を積極的に活用したいと思います。

【Outline and objectives】

British History from the 16th century to the 19th century
In this lecture, the formation of the British Empire and the influence of the empire on Britain and her dependencies will be discussed.

HIS200LA

西洋史 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀～20 世紀にかけてのイギリスの歴史を階級、ジェンダー、人種・民族、地域、帝国を切り口に概観し、近代イギリスの特徴を考えていくこととします。

【到達目標】

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。リアクションペーパー等でのコメント、質問は随時授業内で紹介し、さらなる議論に活かします

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容の紹介	19 世紀～20 世紀にかけてのイギリスのあゆみを概観します。
第 2 回	二重革命の時代 1	産業革命の特徴とそれがイギリスの政治、経済、社会に与えた影響を検討します。
第 3 回	二重革命の時代 2	フランス革命がイギリスにどのような影響を与えたか検討します。
第 4 回	二重革命の時代 3	フランス革命がイギリスにどのような栄光を与えたか、引き続き検討します。
第 5 回	帝国の再編	二重革命の時代は、イギリスの帝国が第一帝国から第二帝国へと再編された時期でもありました。その再編の過程を説明します。
第 6 回	ミドル・クラス	二重革命の影響で、イギリスではミドル・クラスが台頭してきました。このミドル・クラスの特徴を「リスペクタビリティ」という言葉をキーワードに検討します。
第 7 回	ミドル・クラスのジェントルマン化	台頭してきたミドル・クラス層が従来の支配者層であるジェントルマンと融合していく過程を検討します。
第 8 回	労働者階級	ジェントルマンとミドル・クラスが 19 世紀のイギリスの繁栄の恩恵を受けたのに対し、労働者階級の大多数はその恩恵から排除されていました。労働者階級を取り巻く状況を説明します。

第 9 回 アイルランド移民

労働者階級の中でも最下層を形成したのがアイルランドからの移民でした。アイルランド移民を切り口にアイルランド、スコットランド、イングランドの地域の問題を検討します。

第 10 回 怠惰な女性と善良な女性 1

19 世紀のイギリスにおいて女性たちがどのようなことを求められていたのか「怠惰な女性」と「善良な女性」をキーワードに検討します。

第 11 回 怠惰な女性と善良な女性 2

19 世紀のイギリスにおいて女性たちがどのようなことを求められていたのか「怠惰な女性」と「善良な女性」をキーワードに、引き続き、検討します。

第 12 回 帝国主義の時代

1870 年代以降のイギリスの経済、社会について概観します。

第 13 回 社会帝国主義

イギリスの国内問題の解決の場として帝国の果たす役割がこの時期大きくなったことを検討します。

第 14 回 試験・まとめと解説

19 世紀のイギリスがどのような特徴を持つ社会であったのか総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に前回のノートを読み返して下さい。

また、紹介する参考文献を積極的に読むようにして下さい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業中に適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

【学生の意見等からの気づき】

視覚教材を積極的に活用したいと思います。

【Outline and objectives】

Britain in the 19th Century

In this lecture we analyse British society in the 19th century through class, gender, ethnicity and the British Empire.

HIS200LA

西洋史 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

16 世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

【到達目標】

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに関係に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義を行います。リアクションペーパー等でのコメント、質問は随時授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容の紹介	16 世紀から 19 世紀にかけてのイギリスの歴史の流れを概観します。
第 2 回	16 世紀のイギリス 1	バラ戦争や宗教改革、ウェールズとの合同を通じて国家統合が進む過程を説明します。
第 3 回	16 世紀のイギリス 2	16 世紀のイギリス経済が停滞していたこと、それに伴って浮浪者問題など社会が混乱していたことを説明します。
第 4 回	イギリス帝国の形成 1	15 世紀末からの初期の海外進出から 17 世紀初頭の海外進出が軌道に乗るまでの過程を説明します。
第 5 回	イギリス帝国の形成 2	17 世紀ヘゲモニー国家として繁栄したオランダと対立する中、航海法体制を確立する過程を説明します。
第 6 回	イギリス帝国の形成 3	17 世紀末からのフランスとの対立の中 18 世紀中頃に第一帝国を完成させる過程を説明します。

第 7 回 イギリス商業革命 1

イギリス帝国の形成がイギリスの経済にどのような影響を与えたのか貿易面に焦点をあて説明します。

第 8 回 イギリス商業革命 2

イギリス帝国の形成が貿易に留まらず、経済全般に影響を与え、結果、産業革命をもたらした過程を説明します。

第 9 回 イギリス生活革命

イギリス帝国の形成がイギリスの生活文化に与えた影響について説明します。

第 10 回 砂糖と西インド諸島

イギリス商業革命、イギリス生活革命で重要な役割を果たしたのが砂糖ですが、その生産を行っていた西インド諸島がその結果低開発の道を進むことになったことを説明します。

第 11 回 大西洋黒人奴隷貿易

イギリスは植民地経営に必要な労働力を獲得する手段として大西洋黒人奴隷貿易を盛んに行いました。この貿易がイギリス帝国およびアフリカに与えた影響について説明します。

第 12 回 13 植民地の独立

13 植民地の独立の過程と独立がイギリスに与えた影響について説明します。

第 13 回 産業革命と帝国

産業革命の展開と帝国が果たした役割について説明します。

第 14 回 試験・まとめと解説

第一イギリス帝国の形成がイギリスの内外に与えた影響について総括します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に前回のノートを読み返して下さい。また、紹介する参考文献を積極的に読むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

【学生の意見等からの気づき】

視覚教材を積極的に活用したいと思います。

【Outline and objectives】

British History from the 16th century to the 19th century
In this lecture, the formation of the British Empire and the influence of the empire on Britain and her dependencies will be discussed.

HIS200LA

西洋史 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀～20 世紀にかけてのイギリスの歴史を階級、ジェンダー、人種・民族、地域、帝国を切り口に概観し、近代イギリスの特徴を考えていくこととします。

【到達目標】

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。リアクションペーパー等でのコメント、質問は随時授業内で紹介し、さらなる議論に活かします

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容の紹介	19 世紀～20 世紀にかけてのイギリスのあゆみを概観します。
第 2 回	二重革命の時代 1	産業革命の特徴とそれがイギリスの政治、経済、社会に与えた影響を検討します。
第 3 回	二重革命の時代 2	フランス革命がイギリスにどのような影響を与えたか検討します。
第 4 回	二重革命の時代 3	フランス革命がイギリスにどのような栄光を与えたか、引き続き検討します。
第 5 回	帝国の再編	二重革命の時代は、イギリスの帝国が第一帝国から第二帝国へと再編された時期でもありました。その再編の過程を説明します。
第 6 回	ミドル・クラス	二重革命の影響で、イギリスではミドル・クラスが台頭してきました。このミドル・クラスの特徴を「リスペクタビリティー」という言葉をキーワードに検討します。
第 7 回	ミドル・クラスのジェントルマン化	台頭してきたミドル・クラス層が従来の支配者層であるジェントルマンと融合していく過程を検討します。
第 8 回	労働者階級	ジェントルマンとミドル・クラスが 19 世紀のイギリスの繁栄の恩恵を受けたのに対し、労働者階級の大多数はその恩恵から排除されていました。労働者階級を取り巻く状況を説明します。

第 9 回 アイルランド移民

労働者階級の中でも最下層を形成したのがアイルランドからの移民でした。アイルランド移民を切り口にアイルランド、スコットランド、イングランドの地域の問題を検討します。

第 10 回 怠惰な女性と善良な女性 1

19 世紀のイギリスにおいて女性たちがどのようなことを求められていたのか「怠惰な女性」と「善良な女性」をキーワードに検討します。

第 11 回 怠惰な女性と善良な女性 2

19 世紀のイギリスにおいて女性たちがどのようなことを求められていたのか「怠惰な女性」と「善良な女性」をキーワードに、引き続き、検討します。

第 12 回 帝国主義の時代

1870 年代以降のイギリスの経済、社会について概観します。

第 13 回 社会帝国主義

イギリスの国内問題の解決の場として帝国の果たす役割がこの時期大きくなったことを検討します。

第 14 回 試験・まとめと解説

19 世紀のイギリスがどのような特徴を持つ社会であったのか総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に前回のノートを読み返して下さい。

また、紹介する参考文献を積極的に読むようにして下さい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業中に適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

【学生の意見等からの気づき】

視覚教材を積極的に活用したいと思います。

【Outline and objectives】

Britain in the 19th Century

In this lecture we analyse British society in the 19th century through class, gender, ethnicity and the British Empire.

HIS200LA

日本史Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

森 朋久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：日本の耕地と集落（村）の史的展開

日本の歴史のうち、日本の原風景、伝統的な景観であり、主に耕地と集落で成り立つ、村（ムラ）の歴史について、各時代の政治と経済を背景としながら、通史的に明らかにする。特に、現在の市町村の基盤となる村が成立する、近世・近代に重点を置く。耕地と集落は、棚田に代表されるように、人間と自然との共同作品である、文化的景観として近年注目されている。世界的に優良なその景観は、世界遺産の選定項目となり、日本でも優良な景観は、文化財保護法、農林水産業の重要文化的景観に選定されており、文化財としての意義がある。授業では前提として、日本史研究の基礎資料である歴史資料（古文書）を紹介するとともに、耕地や集落が文化財としてどのような意義があるのかを明らかにする。（学問分野：日本史、日本地域史、日本村落史、環境歴史学、文化財学）

【到達目標】

日本史研究の基礎資料である歴史資料（古文書）や耕地と集落の文化財的な意義を踏まえ、日本の農林水産業の地域基礎単位である村（ムラ）に関する通史的な学習を通し、教科書的な理解を越え日本史に対する新たな歴史観と問題意識を形成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業とオンライン授業の組み合わせにより講義形式で行う。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業および学習支援システムの「お知らせ」機能を用いて連絡する。各回の授業は主として適宜配信または配布した資料により、シラバス通りに進める。授業内レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	日本史における耕地と集落の意義 日本史研究の基礎
第 2 回	日本史学入門	歴史資料の提示、解説、歴史資料の内容解説、背景
第 3 回	文化財保護法と耕地と集落	文化財・重要文化的景観からみた村（耕地と集落）
第 4 回	弥生・古墳時代の村	縄文・弥生移行期、弥生・古墳時代の耕地と集落
第 5 回	古代の政治と経済	古代の村と領主支配との関係
第 6 回	古代の村	古代の開墾、条里と村、荘園と村、初期武士団の村
第 7 回	中世の政治と経済	中世の村と領主支配との関係

第 8 回	中世の村	村の景観、惣村と在家、開発と経営、近世の村との関係
第 9 回	近世の村の景観	村の基本構成要素、様々な村のかたち
第 10 回	近世の村の機能	村で作成される様々な文書、ムラの運営
第 11 回	幕藩領主の農政と近世の村（1）	近世中期までの領主財政と年貢収奪
第 12 回	幕藩領主の農政と近世の村（2）	吉宗政権の年貢増徴策と新田開発、土地政策
第 13 回	近現代の村	地租改正、戸長制、大区小区制、地方三新法、地方改良運動と村、農地改革、昭和の市町村合併と村、高度成長下の耕地と集落
第 14 回	試験と解説	まとめとして、日本における耕地と集落（村）とは何かを、総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

〈1〉準備学習：あらかじめ配信または配布した資料を一読、一覧しておくこと。各授業の時代背景を、日本史年表で調べておくことが望ましい。

〈2〉復習：日本各地の地名が出てくるので、馴染みがない地名は地名辞典などで調べておくこと。授業内レポートに備えて、授業の内容を各回まとめておくこと。

〈3〉本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。適宜配信・配布した資料に沿って授業を行う。

【参考書】

〈1〉『村の語る日本の歴史 古代・中世編』、『村の語る日本の歴史 近世編①』、『村の語る日本の歴史 近世編②』木村礎著（1983 年 そしえて）

〈2〉『日本の農業 150 年 1850～2000 年』暉峻衆三編著（2003 年 有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート 20 %）と期末試験（80 %）で、評価を決める。

授業内レポートは授業内容の理解度に応じて、また期末試験は課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Historical explores the features of the Japanese village society from the perspective of people's life and an abundant historical and geographic image.

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

森 朋久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：江戸時代転換期における政治・経済・社会
日本の江戸時代の歴史のうち、おもに転換期となる享保改革期から田沼政治期の政治・経済・社会（農村・都市）について、地域環境の変化に留意しながら考察する。具体的には、最近の成果を取り入れながら、一般的に知られているこの時期の諸事象と諸政策が歴史上どのような意義をもつのか明らかにすることを学習・教育目標とする。また、江戸時代における地域の諸相や地域基礎単位であり、町人や武家の生業生活の場である「都市」および農民の生産生活の場である「村」に注目する。（学問分野：日本近世史、日本地域史、日本都市史、日本都市近郊農村史）

【到達目標】

江戸時代研究の重要な情報資源である近世文書や江戸時代の政治（幕政・藩政）・経済・社会（都市江戸および江戸近郊・周辺農村）に関する学習などを通し、教科書的な理解を越え当該期に対する新たな歴史観と問題意識を形成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業とオンライン授業の組み合わせにより講義形式で行う。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業および学習支援システムの「お知らせ」機能を用いて連絡する。各回の授業は、主として資料の配信または配付によりシラバス通りに進める。授業内レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容と進め方についての説明
第 2 回	吉宗政権の成立	家康～吉宗の時代推移と地域 吉宗政権の性格
第 3 回	行政機構の改革と法令の整備	老中制度及び勘定所機構の整備 法令集の編さん
第 4 回	享保改革期の農政	農政の特徴
第 5 回	都市政策の前提	都市江戸の成立と河川 武家屋敷の展開
第 6 回	都市政策の展開	江戸の防火政策 経済政策 風俗・出版統制
第 7 回	田沼政権の成立	家重政権時代の意次 意次権力の拡大
第 8 回	通貨制度の改革	江戸時代の通貨の特徴 田沼政権発行の貨幣
第 9 回	間接税の導入	百姓一揆と財政窮乏策 株仲間の役割
第 10 回	幕政と藩政（1）	幕府の銅貿易と秋田藩の産銅政策

第 11 回 幕政と藩政（2）
第 12 回 江戸近郊の地域史
第 13 回 江戸周辺の地域史
第 14 回 試験と解説

幕府の通貨政策と秋田藩の銭鑄造
江戸の青物市場 江戸近郊農村における蔬菜生産と下肥流通
利根川の歴史と流域住民の共生
まとめとして、享保改革・田沼政権期はなぜ転換期と呼ばれるのか、江戸と近郊・周辺地域との関係は如何なるものなのかを、総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

常にノートを整理し、配信または配布した資料などを改めて読みなおすなど、次回に備えるようにしてもらいたい。なお、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。適宜資料を配信・配布する。

【参考書】

〈1〉『幕藩体制の展開と動揺 上（日本歴史大系 10）』井上光貞ほか著（山川出版社）
〈2〉『大江戸歴史の風景』加藤貴編著（山川出版社）
その他、参考となる文献は、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート 20 %）と期末試験（80 %）で、評価を決める。授業内レポートは授業内容の理解度に応じて、また期末試験は課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

Historical explores the administration, the economy and the society of Japan in the early modern period including the social system of Edo and its surrounding areas.

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

仁平 義孝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉時代の幕府政治史を概観する。数多くある論点のなかから、和田合戦や霜月騒動など幕府内部で繰り返された内紛と、幕府政治機構の中核である評定・引付・寄合について、関連する史料を読みながら検討し、その意義を考えていきたい。

【到達目標】

鎌倉幕府政治史の流れを理解し、史料に基づく検証方法を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業と Zoom を使用したオンライン授業を組み合わせる。初回は Zoom によるオンライン授業で行い、その後については学習支援システムを通じて連絡する。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則として Zoom を使用したオンライン授業で実施する。詳細は学習支援システムで連絡する。

授業は講義形式で行う。講義資料を学習支援システムにて配信するので、受講生は各自でプリントアウトして用意してもらいたい。

学期内（2回の予定）と学期末にレポートを提出してもらう。レポートはすべて提出することを必須とする。学期内に課すレポートについては、最終授業で解説する。

質問は授業終了後や、学習支援システムの掲示板などで受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明。
2	源頼朝執政期の幕府政治 (1)	寿永 2 年 10 月宣旨、文治勅許などの検討。
3	源頼朝執政期の幕府政治 (2)	頼朝上洛、建久 7 年の政変などの検討。
4	将軍源頼家・実朝、北条政子期の幕府政治 (1)	13 人の合議制、比企氏事件などの検討。
5	将軍源頼家・実朝、北条政子期の幕府政治 (2)	和田合戦、承久の乱などの検討。
6	執権北条泰時期の幕府政治 (1)	伊賀氏事件、連署制などの検討。
7	執権北条泰時期の幕府政治 (2)	評定、御成敗式目などの検討。
8	執権北条経時期の幕府政治	経時の訴訟制度改革などの検討。
9	執権北条時頼・長時期の幕府政治 (1)	寛元の政変、宝治合戦などの検討。
10	執権北条時頼・長時期の幕府政治 (2)	引付、得宗時頼などの検討。

11	得宗北条時宗期の幕府政治	引付廃止・再設置、寄合、二月騒動などの検討。
12	得宗北条貞時・高時期の幕府政治 (1)	霜月騒動、平禅門の乱などの検討。
13	得宗北条貞時・高時期の幕府政治 (2)	貞時の訴訟制度改革、評定・寄合などの検討。
14	まとめ	授業内容のまとめと学期内レポートの解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や授業時に紹介する文献を読む。

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。講義資料を学習支援システムにて配信する。

【参考書】

本郷恵子『京・鎌倉 ふたつの王権』（小学館、2008 年）
川合 康『源平の内乱と公武政権』（吉川弘文館、2009 年）
小林一岳『元寇と南北朝の動乱』（吉川弘文館、2009 年）
近藤成一『鎌倉幕府と朝廷』（岩波新書、2016 年）
その他、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期内・学期末のレポートで総合評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料のわかりにくい表現を改める。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom にて受講できる環境を整える。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to study political history of the Kamakura Shogunate.

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

仁平 義孝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉幕府の基本法である御成敗式目を読む。その内容は多岐にわたるが、ここでは犯罪や訴訟手続きに関する条文を読み、鎌倉幕府法の特徴を考えていきたい。

【到達目標】

鎌倉幕府法の特徴を理解し、史料に基づく検証方法を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業と Zoom を使用したオンライン授業を組み合わせる。初回は対面授業を予定しているが、その後については学習支援システムを通じて連絡する。

授業は講義形式で行う。講義資料を学習支援システムにて配信するので、受講生は各自でプリントアウトして用意してもらいたい。

学期内（2回の予定）と学期末にレポートを提出してもらう。レポートはすべて提出することを必須とする。学期内に課すレポートについては、最終授業で解説する。

質問は授業終了後や、学習支援システムの掲示板などで受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	御成敗式目について (1)	御成敗式目制定の目的などの解説。
2	御成敗式目について (2)	御成敗式目の条文構成などの解説。
3	御成敗式目第 9 条を読む	謀叛の罪について考える。
4	御成敗式目第 10 条を読む	殺害・刃傷の罪について考える。
5	御成敗式目第 11 条を読む	第 9・10 条の関連規定について考える。
6	御成敗式目第 32 条を読む	第 9・10 条の関連規定について考える。
7	御成敗式目第 33 条を読む	強盗・窃盗の罪について考える。
8	御成敗式目第 34 条を読む	密懐の罪について考える。
9	御成敗式目第 12 条を読む	悪口の罪について考える。
10	御成敗式目第 13・14 条を読む	殴人の罪および 9～13 条の関連規定について考える。
11	御成敗式目第 15 条を読む	謀書の罪について考える。
12	御成敗式目第 51 条を読む	訴訟手続きについて考える。

13 御成敗式目第 35 条を 召文違背の罪について考える。

読む

14 まとめ 授業内容のまとめと学期内レポートの解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や授業時に紹介する文献を読む。

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。講義資料を学習支援システムにて配信する。

【参考書】

『中世政治社会思想 上』（日本思想大系 21、岩波書店、1972 年）
笠松宏至編『中世を考える 法と訴訟』（吉川弘文館、1992 年）
水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』（新体系日本史 2、山川出版社、2001 年）
その他、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期内・学期末のレポートで総合評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料のわかりにくい表現を改める。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom にて受講できる環境を整える。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to study law of the Kamakura Shogunate by reading the Goseibai shikimoku.

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：日本中世社会を理解するために

貫井 裕恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユネスコ世界記憶遺産に採択された国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を身につけます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。＊日本史ⅡⅡもあわせて受講することを推奨します。

【到達目標】

- ・「東寺百合文書」を通じて日本の中世社会への理解を深める。
- ・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
- ・文化財のもつ多様な価値と多様な見方を学ぶ。
- ・くずし字に親しみ、解読できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業で実施しますが、大学の方針に従い、適宜柔軟に対応します。学習支援システムを通じてお知らせします。毎回の講義ごとに、レビューシート（リアクションペーパー）の提出を求めます。次の授業で、レビューシートに寄せられた疑問や質問、気づきに応答するかたちで復習を行います。授業期間内に、任意の美術館・博物館へ見学に行ってください、感想の提出を求めます（オンラインミュージアムや文化財データベースでの代替も可）。上記のレビューシート同様に、授業内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の目的と課題、評価方法などの説明
2	歴史学の流れと日本中世史	日本における歴史学の発達史と、そのなかでの日本中世史研究の大きな流れを学ぶ
3	中世社会と東寺	日本中世社会の構造と、そのなかでの東寺の位置づけなど、本授業のおおまかな流れや前提となる知識を学ぶ
4	東寺百合文書について	東寺百合文書の特徴とユネスコ記憶遺産について学ぶ
5	寺院組織	東寺をはじめとする中世寺院の組織と構造を学ぶ
6	文書管理（アーカイブズ）	中世寺院における文書管理のありかたを学ぶ
7	芸能	能・狂言の淵源となった、中世寺院周辺で行われた様々な芸能を学ぶ

8	喫茶文化	中世寺院における僧侶や民間における喫茶文化を学ぶ
9	寺誌・縁起	寺院における歴史叙述のありかたを学ぶ
10	絵巻	『弘法大師行状絵巻』など寺院における絵巻作成の背景や利用方法などを学ぶ
11	荘園の構造・荘園絵図の世界	荘園制について学び、現存する荘園絵図から中世社会の諸問題を学ぶ
12	文化財を守り伝える	文化財が守り伝えられる意義と方法を学ぶ
13	現代社会と歴史学研究	現代社会において歴史学を学ぶ意義を学び、受講者と討論する
14	まとめ	受講者の質疑応答とレポート内容の報告会および講評、本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

- ・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局、2003 年
- ・京都府立総合資料館編『東寺百合文書にみる日本の中世』京都新聞出版センター、1998 年

【成績評価の方法と基準】

レポート 60 %、平常点 40 % で評価する。ただし、平常点には、毎回提出を求めるレビューシートでの意見・感想の内容を含む。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出を求めているレビューシートに基づき、次の授業の冒頭でレビューシートの内容を紹介しながら復習を行い、授業内容のフォローアップを実施する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

日本史ⅡⅡもあわせて受講することを推奨します。日本の古代・中世に関心のある方はもちろん、日本の文化、美術館や博物館、文化財に興味を抱く学生の履修をとおくお待ちしております。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand the medieval history of Japan.

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：日本中世社会と寺院

貫井 裕恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユネスコ世界記憶遺産に採択された国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を身につけます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。＊日本史ⅡⅠもあわせて受講することを推奨します。同授業の発展的内容になります。

【到達目標】

- ・「東寺百合文書」を通じて日本の中世社会への理解を深める。
- ・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
- ・文化財のもつ多様な価値と多様な見方を学ぶ。
- ・くずし字に親しみ、解読できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業で実施しますが、大学の方針に従い、適宜柔軟に対応します。学習支援システムを通じてお知らせします。毎回の講義ごとに、レビューシート（リアクションペーパー）の提出を求めます。次の授業で、レビューシートに寄せられた疑問や質問、気づきに応答するかたちで復習を行います。授業期間内に、任意の美術館・博物館へ見学に行っていただき、感想の提出を求めます（オンラインミュージアムや文化財データベースでの代替も可）。上記のレビューシート同様に、授業内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要や評価方法を知る
2	歴史学と日本中世史	日本における歴史学の流れと、中世史の歩みを学ぶ
3	寺院史料論	中世寺院における史料とその社会について学ぶ
4	寺院史料と東寺百合文書	中世史料として伝存する寺院史料を概観し、東寺百合文書の特徴を探索
5	中世寺院・東寺の誕生	古代から鎌倉初期に至る東寺の歴史を学ぶ
6	鎌倉幕府と東寺	建久年間の文覚上人による東寺復興事業から蒙古襲来までの歴史を学ぶ
7	本末相論	鎌倉中～末期における東大寺・醍醐寺の本末相論との関わりに焦点をあてながら、同時期の東寺の宗教環境を学ぶ

8	文書の管理と利用	中世寺院における文書・聖教の管理のありかたを学ぶ
9	東寺領荘園の展開	鎌倉末期から南北朝期にかけて拡充した東寺領荘園とその展開を学ぶ
10	東寺の伽藍修造事業	東寺大勧進職が推進した室町期修造事業について学ぶ
11	弘法大師信仰の展開	東寺御影堂を中心に展開した弘法大師信仰とその社会的意義を学ぶ
12	寺院の芸能	室町期に発達した寺院における芸能を学ぶ
13	応仁・文明の乱	応仁・文明の乱という大乱に人びとがどのように対応したのかを学ぶ
14	まとめ	現代社会において歴史学研究の果たす役割を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・使用テキストは事前に予習しておく。（各回 2 時間程度。予習の仕方については教場で説明します。）
- ・プリントやノートを用いた復習を行う。（各回 2 時間程度。復習の仕方については教場で説明します。）
- ・本授業の最終にレポートをまとめて提出する。（テーマや執筆方法については、教場でお伝えします。）

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

- ・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局、2003 年
 - ・京都府立総合資料館編『東寺百合文書にみる日本の中世』京都新聞出版センター、1998 年
- このほか、授業の進行状況に応じてお伝えします。

【成績評価の方法と基準】

レポート 60 %、平常点 40 % で評価する。ただし、平常点には、毎回提出を求めるレビューシートでの意見・感想の内容を含む。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出を求めているレビューシートに基づき、次の授業の冒頭でレビューシートの内容を紹介しながら復習を行い、授業内容のフォローアップを実施する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

日本史ⅡⅠもあわせて受講することを推奨します。
日本の古代・中世に関心のある方はもちろん、日本の文化、美術館や博物館、文化財に興味を抱く学生の履修を多くお待ちしております。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand the medieval history of Japan.

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 多聞

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は日本近代史（政治史、社会史）に関する知識を身につけるとともに、歴史学、政治学の基礎的概念を理解することを目的としています。史料やデータを正確に解釈し、全体像をバランスよく把握する能力は、現代社会を生きていく上でも重要です。

【到達目標】

日本近代史に関する基礎的な知識を習得し、簡単な文章を書けるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン、対面授業などの実施予定にともなう、各回の授業計画の変更につ

いては、本講義の開始日に説明する。また、講義においては、双方向的なやりとりを重視する。課題の中で優秀な小レポートについては、その都度、授業内において取り上げ、講評を行う。また、授業の最後に寄せられたコメントについても、次週の授業において取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本近代史を考える	日本近代史の見方や解釈について、先行研究の論点を整理し、考察を深める。
2	日本近代史の中の病気	「流感」やその他の病気が、日本近代史に与えた社会的影響について考える。
3	昭和史の人物と病気	昭和史の人物の病歴がどのように考えられていたのかを考える。
4	明治憲法と戦前の日本	いわゆる明治憲法体制の形成と崩壊について考える。
5	皇族と戦前の日本	皇族たちの近代史について考える。
6	日露戦争と鈴木貫太郎	近年の研究動向をふまえ、日露戦争のインパクトについて考える。
7	第一次世界大戦と日本	ヨーロッパを舞台とした第一次世界大戦が日本に与えた影響について考える。
8	満州事変と日本外交	「満州事変」が日本の国内政治をどのように変容させたのかについて考える。
9	五・一五事件とその影響	五・一五事件とその後の影響について考える。
10	二・二六事件と陸軍	二・二六事件とその思想的背景について考える。
11	昭和天皇と天皇機関説事件	いわゆる「天皇機関説」について、当時の史料を読みながら、この問題について考察を深める。

12	「アジア・太平洋戦争」の時代	戦前の朝鮮・台湾・アジアとの関係について考える。
13	空襲と国民	空襲の残した爪痕について「戦後」も含めて考察する。
14	原爆投下について考える	原爆投下についての論争などについて整理し「戦後」の問題も考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（各回のコメント）30%

簡単な小レポート（複数回、70%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course will help students understand modern Japanese history, especially political and social history. Students will also gain a general understanding of the disciplines of history and political science. The ability to analyze historical materials and data to obtain a balanced view of a topic is a critical skill for modern life.

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 多聞

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は日本現代史（政治史）に関する知識を身につけるとともに、歴史学、政治学の基礎的概念を理解することを目的としています。史料やデーターを正確に解釈し、全体像をバランスよく把握する能力は、現代社会を生きていく上でも重要です。

【到達目標】

日本現代史に関する基礎的な知識を習得し、簡単な文章を書けるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回、パワーポイントを使用します。対面の場合は、レジュメと史料のコピーを配布します。課題の中で優秀な小レポートについては、その都度、授業内において取り上げ、講評を行う。また、授業の最後に寄せられたコメントについても、次週の授業において取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本現代史について考える	「戦前」と「戦後」について考えます。
2	政治とシンボル	「国家」「陸軍」「海軍」は見えなくても、シンボルは目に見えます。国旗、軍旗、軍艦、日本刀、石碑、いろいろなものについて考えてみたいと思います。
3	ソ連の参戦と日本の降伏	ソ連の参戦の情報やリスクについて、日本がどのように対応したのかについて考察します。
4	東条英機と「東京裁判」	国際政治の文脈から「東京裁判」を考えます。
5	新憲法の制定過程	日本国憲法の制定過程について概観します。
6	占領と改革 米ソの冷戦の開始	米ソの対立が日本にどのような影響を与えたのかを考えます。
7	占領政策の転換と吉田茂	吉田茂とその政治グループの位置づけについて考えます。
8	55 年体制の成立と岸信介	岸信介とその政治グループの位置づけについて考えます。
9	シベリア抑留と日ソ関係	近衛文隆や宇野宗佑、三波春夫など、多くの人が抑留されました。抑留中に歌われた音楽やナヴォイ劇場にまつわる言説についても取り上げます。

10	風化する戦争体験と「五感」	五感を歴史学の文脈で語ることは難しいです。空襲警報の音や、戦争における「匂い」などについて考えます。
11	ニュース映画・ラジオ・新聞	メディアの発達が社会に与えた影響についても考えます。
12	日中国交正常化と高度成長	戦後の日中・日台関係について概観します。
13	冷戦の終結と日米関係	日米関係を長期的視点から考察します。
14	21 世紀の日本外交 相互理解にむけて	日本の内政と外交がどのような関連性を持っているのかを理解します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（各回のコメント） 30%

小レポート（複数回） 70 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course will help students understand modern Japanese history, especially political and social history. Students will also gain a general understanding of the disciplines of history and political science. The ability to analyze historical materials and data to obtain a balanced view of a topic is a critical skill for modern life.

PHL200LA

宗教論 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：宗教論の歴史

須藤 孝也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教論 LII では現代の宗教論について学ぶが、LI では、その前提として近代までの宗教論の歴史について学ぶ。

【到達目標】

- ① 主要な宗教論について説明することができる。
- ② 学術書を批判的に読むことができる。
- ③ 批判的に議論することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回 1 人（時に 2 人）ずつ思想家をとりあげ、その宗教論について説明する。講義形式を予定している。

フィードバック方法：メールで対応します。

※大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的や進め方、宗教論の概要について説明する。
2	ソクラテス、プラトン	ソクラテスとプラトンの宗教論について解説する。
3	アリストテレス	アリストテレスの宗教論について解説する。
4	トマス・アクィナス	トマス・アクィナスの宗教論について解説する。
5	エックハルト	エックハルトの宗教論について解説する。
6	ホッブズ、スピノザ	ホッブズとスピノザの宗教論について解説する。
7	ジョン・ロック	ジョン・ロックの宗教論について解説する。
8	カント	カントの宗教論について解説する。
9	ヘーゲル	ヘーゲルの宗教論について解説する。
10	フョイエルバッハ	フョイエルバッハの宗教論について解説する。
11	キルケゴール (1)	の宗教論について解説する。
12	キルケゴール (2)	キルケゴールの宗教論について解説する。
13	シモーヌ・ヴェイユ	シモーヌ・ヴェイユの宗教論について解説する。
14	補足と総括	全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に挙げる文献リストから 1 冊を選んで読んでもらいます。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

適宜、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業態度 40%と小論文（3000 字程度）60%で評価します。授業態度は積極的に議論に参加している者を評価します。小論文は、説得的に立論しているものを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

できるかぎり学生にも話す機会を与えようと思っています。

【その他の重要事項】

履修者数等、状況に応じて、授業の進め方は柔軟に変更します。質問があれば遠慮なくお問い合わせください。

takaya.suto.87 [アット] hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

We learn the history of theories of religion until modern times in this class. This is to be the precondition for LII.

PHL200LA

宗教論Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マクガイアの宗教論

須藤 孝也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

M.B. マクガイアの宗教論について学ぶ。

当該書は宗教論の重要な点を網羅しており、教科書として最適であるため。

【到達目標】

- ①マクガイアの『宗教社会学：宗教と社会のダイナミクス』の内容を理解することができる。
- ②要約を作り、発表することができる。
- ③批判的に考察し、議論することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『宗教社会学：宗教と社会のダイナミクス』を毎回 1 章ずつ読み進む。

担当者には要約を作ってきてもらう。

授業の中で 30 分程度で発表してもらう。

参加者も読んでくれること。

意味がよくとれなかったところを質問してもらう。

それに関して議論を深める。

理解が不正確なところについては解説する。

フィードバック方法：メールで対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的や進め方、宗教論の概要について説明する。
2	第 1 章	宗教への社会学的視点
3	第 2 章	意味と帰属の供給
4	第 3 章	個人における宗教
5	第 4 章	公認宗教と非公認宗教
6	前半の振り返り	補足説明をする
7	第 5 章	宗教的集合体のダイナミクス
8	第 6 章	宗教、社会的結束、対立
9	第 7 章	社会変動に対する宗教の影響力
10	第 8 章	現代世界の宗教
11	総括	全体を振り返る
12	現代の諸研究（1）	宗教論、宗教社会学に関する最近の学術論文を読む。
13	現代の諸研究（2）	宗教論、宗教社会学に関する最近の学術論文を読む。
14	小論文の合評	学生の提出した小論文について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習は、各 2 時間を標準とします。次回に扱うところを読んできてください。担当者は要約を作ってきてください。

【テキスト（教科書）】

メレディス・B・マクガイア『宗教社会学：宗教と社会のダイナミクス』、明石書店、2008 年。

【参考書】

ありません。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業態度 40%と小論文（3000 字程度）60%で評価します。

授業態度は積極的に議論に参加している者を評価します。

小論文は、説得的に立論しているものを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学術文献を正確に読む力に乏しい学生が少なくないため、精読するトレーニングが必要だと認識しました。

【その他の重要事項】

履修者数等、状況に応じて、授業の進め方は柔軟に変更します。

質問があればご遠慮なくお問い合わせください。

takaya.suto.87 [アット] hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

We learn Meredith B. McGuire's theory of religion.

This book covers the important points of religious study and is best as a textbook.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

山本 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

営 1 年 K～U、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。法学の基礎を身につけ、日本国憲法の基本原則を理解し、法律との関連を理解することを目的とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。レジュメは学習支援システムで配布する。

学生は講義を受講し、テキストを読み、学習支援システムで提示された小テストにとりくむ。小テストは受付終了時に自動採点によってフィードバックされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義
第 2 回	法とは何か	法の特徴と働き、法の学び方
第 3 回	法の仕組	法源、成文法の分類
第 4 回	憲法 1（憲法の基礎）	日本国憲法の基本
第 5 回	憲法 2（国の統治機構 1）	三権分立、国会
第 6 回	憲法 3（国の統治機構 2）	裁判所、地方自治
第 7 回	憲法 4（人権①平等）	人権の保障の基礎、平等権を学ぶ
第 8 回	憲法 5（人権②精神的自由権）	精神的自由権を学ぶ
第 9 回	憲法 6（人権③経済的自由権）	経済的自由権を学ぶ
第 10 回	憲法 7（人権④人身の自由）	人身の自由を学ぶ
第 11 回	憲法 8（人権⑤生存権）	生存権、教育権を学ぶ
第 12 回	憲法 9（人権⑥社会権）	勤労権、労働基本権を学ぶ

第 13 回 裁判の仕組を学ぶ

裁判の意義と機能を学ぶ

第 14 回 授業内試験と解説

筆記試験の実施、解説・講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所を事前の予習する。毎回の授業の後には判例百選等を用いて、扱った裁判例を復習する。学習支援システムで宿題を提出する。授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大谷實編著『エッセンシャル法学』（第 7 版）（成文堂、2019 年）2900 円＋税

【参考書】

授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに実施する小テスト及びレポート課題 45 %、期末試験 55 % を総合して評価する。

オンラインでの授業の実施の場合には、成績評価の方法と基準を変更する場合がある。具体的な方法と基準は、開講時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業で図書館の理由が困難だったことから、参考文献について図書館の電子書籍の利用を呼びかけた。

【学生が準備すべき機器他】

事前に学習支援システムで配布した資料をプリントアウトして手元におくこと。

【Outline and objectives】

It aims to acquire the foundation of law, to understand the basic principles of the Japanese Constitution, and to understand the relationship with the law.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山本 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

営 1 年 K～U、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の基礎を身につける。民法、刑法、商法、労働法、社会保障法、医療法、情報法、国際法等の基礎を理解することを目的とする。

【到達目標】

学生が大学生として最低限必要な法に関する知識を身につけ、法律的思考力（リーガルマインド）をつけていることを到達目標とする。民法、刑法、労働法、社会保障法、医療法、情報法、国際法等に関する課題を発見し、学説や判例を引いて、課題に関する自分の意見を論理的に述べるができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Zoom によるオンライン授業は講義形式で、パワーポイントを用いて行う。毎回、授業後に小テストを実施する。学習支援システムで提示された小テストにとりくむ。小テストは受付終了時に自動採点によってフィードバックされる。法改正動向によって授業計画が変更されることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	財産と法 1	財産法の構造、債権法の基礎
2	財産と法 2	物権、法律行為の主体
3	経済取引と法 1	消費者契約法、消費者被害と法
4	経済取引と法 2	企業と法、経済と法
5	家族と法 1	家族法総論、夫婦と法
6	家族と法 2	親子と法、相続
7	犯罪と法	刑法の機能と基本原則
8	労働と法	労働基準法、労働基本権
9	事故と法	不法行為責任、被害者救済
10	社会保障と社会福祉	社会保障法、社会福祉制度
11	医療と法	医療訴訟、生命を巡る法律問題
12	情報化社会と法	情報の保護と法、アクセス権
13	国際社会と法	国際社会と国際法
14	試験とまとめ	授業内試験の実施と解説、講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休み中に指定テキストの第 11 章から 20 章を通読しておくこと。毎回講義前にテキストの該当する箇所を通読し、レジュメをプリントアウトして予習し、疑問点をノートに書き出しておくこと。授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大谷實編著『エッセンシャル法学（第 7 版）』成文堂、2019 年、2900 円＋税

【参考書】

講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後の小テスト（45 %）と学期末の試験（55%）を総合して評価する。試験は設問に対し、法律条文を解釈し、学説や判例を引用したうえで自分の意見を論理的に述べるができるかを評価基準とする。最終レポートを提出しない者には単位を付与しない。

【学生の意見等からの気づき】

毎回授業を視聴し、小テストを受験すること。小テストは時間制限がある場合があるので、復習をしてから取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで事前にレジュメを配布するので、各自、プリントアウトして手元に用意すること。

【Outline and objectives】

It aims to acquire the foundation of civil law, criminal law, commercial law, labor law, social security law, medical law, information law, international law.

LAW100LA

法学Ⅰ

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

法 1 年 I～N・Y、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じて Zoom 等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施に必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中でコメントや小論文等の課題を出すことがある。それに対しては、課題の中の重要論点の解説を授業の中で行ったり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。

内容的には、法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行う（ので受講者はこの両方を履修することが望ましい）。春学期の「法学Ⅰ」では、主に法全体の仕組みや体系に関わる内容を取り上げ、法とはどういうもので、いかなる構造でできているかの理解を図る。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第 3 回	法と権利	権利義務関係
第 4 回	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度
第 5 回	法の解釈	法解釈の意義と役割

第 6 回	法の分類	制定法の体系と関係
第 7 回	国家と法	立憲主義と「法の支配」
第 8 回	日本の憲法の歴史	明治憲法と日本国憲法
第 9 回	日本国憲法の基本原理	国民主権

1		
第 10 回	日本国憲法の基本原理	平和主義
2		
第 11 回	日本国憲法の基本原理	基本的的人権とは
3- (1)		
第 12 回	日本国憲法の基本原理	人権規定の構成
3- (2)		
第 13 回	統治機構 1	国会と内閣
第 14 回	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

青木人志『グラフィック法学入門』（新世社、2012 年）

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）

六法（小さなもの）を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでも、自分が見やすいと思うものでよい。

【参考書】

末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）

松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）

その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出等の課題を出した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

法 1 年 I～N・Y、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じて Zoom 等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施上必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中でコメントや小論文等の課題を出すことがある。それに対しては、課題の中の重要論点の解説を授業の中で行ったり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。

内容的には、法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行う（ので受講者はこの両方を履修することが望ましい）。秋学期の「法学Ⅱ」では、刑法、民法、労働法及び国際法の基本原則を解説し、そこでの理念や基礎概念の理解を図る。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
第 2 回	犯罪と刑罰 1	罪刑法定主義
第 3 回	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立
第 4 回	民法の基礎 1	権利能力と行為能力

第 5 回	民法の基本原則 1 - (1)	契約自由の原則
第 6 回	民法の基本原則 1 - (2)	契約の成立と効力
第 7 回	民法の基本原則 2 - (1)	不法行為と損害賠償
第 8 回	民法の基本原則 2 - (2)	過失責任の原則とその修正
第 9 回	家族関係と法 1	夫婦と親子
第 10 回	家族関係と法 2	扶養と相続
第 11 回	労働関係と法 1	労働法の理念と体系
第 12 回	労働関係と法 2	労働法の内容
第 13 回	国際関係と法 1	主権と領土
第 14 回	国際関係と法 2	国際法と国内法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

青木人志『グラフィック法学入門』（新世社、2012 年）

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）

六法（小さなもの）を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでも、自分が見やすいと思うものでよい。

【参考書】

末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）

松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）

その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～④の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は講義進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

前川 佳夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法 1 年 Y、文 1 年 A～I / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

（はじめに）この「法学 I」の授業は、対面授業を基本とした「ハイブリッド型」〈対面授業とオンライン授業の組み合わせ〉で進める予定です。なお、今後新型コロナウイルス感染拡大防止のための措置等の影響により、授業形態に変更があることも予想されますので、大学からのお知らせその他にご注意ください。

「近代憲法」としての性質を色濃く示す日本国憲法（1947 年施行）を基軸とするわが国の法システムは、いま大きく変貌しようとしており（第 3 の法制改革）、昨年 2020 年 4 月には、世界的なコロナ禍のなかで、制定以来 120 年ぶりの民法・債権法改正が行われました。本講義では、現代日本の法システムを理解するための基本事項を中心に、時事的なテーマもとりあげながら授業を進めます。

また、授業時に、リアクションペーパー（対面授業）や課題レポート（主にオンライン授業）を提出してもらうことがあります。今回の授業時にそれらで取り上げられた事項についての講評を加え、場合によってはディスカッション、ディベートにつなげていきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
2	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
3	法と権利	権利義務関係
4	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度
5	法の解釈	法解釈の性質と役割
6	法の分類	法をどう分類するか
7	国家と法	立憲主義と「法の支配」
8	明治憲法と日本国憲法	近代日本のふたつの法体系

9	日本国憲法の基本原理	国民主権
10	日本国憲法の基本原理	平和主義
11	日本国憲法の基本原理	基本的人権とは
12	日本国憲法の基本原理	人権規定の構成
13	統治機構 1	国会と内閣
14	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。準備学習としては、①新聞その他のメディアで判決や法改正の記事などがとりあげられていたら目を通しておくこと、②また、下記の「参考書」欄に挙げた書物などを参考にして、関心ある文献の一部または全部を読んでおくこと、が大切だと思います。また講義後の復習としては、①テキスト（教科書）や配布したプリントを見直すこと、②講義のなかでとりあげた文献や、教科書、プリントにでていた条文や判例にあたっておくことが大切です。なお授業時間外の学習全体をとおしてお願いしておきたいことは、学習対象を法律（学）に限定せず、世界的なコロナ禍がつづく現代の社会生活を支える「政治」、「経済」、「法」という 3 つの領域全体の動向に目を配るようにすることです。はじめはすこしいへんかもしれませんがは是非がんばってください。

【テキスト（教科書）】

「日本の法（第二版）」緒方桂子ほか編（日本評論社、2020 年刊）1,980 円（税込み）

【参考書】

「新版 法学の世界」南野森編（日本評論社）
「法学講義」笹倉秀夫（東大出版会）
「憲法入門 5 訂版」樋口陽一（勁草書房）
「法学の誕生—近代日本にとって『法』とは何であったか」内田貴（筑摩書房）
「新装版法学入門」末弘厳太郎（日本評論社）
「市民社会と市民法——civil の思想と制度」水林彪、吉田克己編（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業中のレポートなど（30%）の割合で評価する予定です。講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく授業時間外の学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）に取り組むよう心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解しやすく、分かりやすい授業になるようにと思っています。内容が分かりにくいときもあるかと思いますが、そういうときは気軽に指摘してください。時間がゆるせば討論の時間も設けたいと思っています。力をあわせてよい授業にしていきたいと思います。

【Outline and objectives】

This course provides an overview of the basic concepts of law for the students who study law for the first time. It covers major key concepts in Japanese legal system, and provides a brief explanation of the principles of the Constitution of Japan.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

前川 佳夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法 1 年 Y、文 1 年 A～I / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

（はじめに）この「法学Ⅱ」の授業は、対面授業を基本とした「ハイブリッド型」〈対面授業とオンライン授業の組み合わせ〉で進める予定です。ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止のための措置等の影響により、授業形態に変更がある場合もありますので、大学からのお知らせその他にご注意ください。

「近代憲法」としての性質を色濃く示す日本国憲法（1947 年施行）を基軸とするわが国の法システムはいま、国内外の政治、経済、社会情勢の変化をうけて、変貌しようとしています（第3の法制改革）。本講義では、現代日本の法システムを理解するための基本事項を中心に、刑法、民法、労働法、そして国際法にかかわるテーマをとりあげます。

また、授業時に、リアクションペーパー（対面授業）や課題レポート（主にオンライン授業）を提出してもらうことがあります。今回の授業時にそれらで取り上げられた事項についての講評を加え、場合によってはディスカッション、ディベートにつなげたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
2	犯罪と刑罰 1	罪刑法定主義とは何か
3	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立
4	権利能力と行為能力	近代市民法における個人とは
5	契約自由の原則	契約自由の原則はなぜ大切なのか
6	契約の成立と効力	消費者契約、労働契約を中心に
7	不法行為と損害賠償	不法行為責任とは
8	過失責任の原則	過失責任と無過失責任

9	家族関係と法 1	夫婦と親子
10	家族関係と法 2	扶養と相続
11	労働関係と法 1	労働法の理念と体系
12	労働関係と法 2	労働法の具体的な内容
13	国際関係と法 1	主権と領土
14	国際関係と法 2	国際法と国内法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。準備学習としては、①新聞その他のメディアで判決や法改正の記事などがとりあげられていたら目を通しておくこと、②また、下記の「参考書」欄に挙げた書物などを参考にして、関心ある文献の一部または全部を読んでおくこと、が大切だと思います。また講義後の復習としては、①テキスト（教科書）や配布したプリントを見直すこと、②講義のなかでとりあげた文献や、教科書、プリントにでていた条文や判例にあたっておくことが大切です。なお授業時間外の学習全体をとおしてお願いしておきたいことは、学習対象を法律（学）に限定せず、現代の社会生活を支える「政治」、「経済」、「法」という 3 つの領域全体の動向に目を配るようにすることです。はじめはすこしいへんかもしれませんが是非がんばってください。

【テキスト（教科書）】

「日本の法（第二版）」緒方桂子ほか編（日本評論社、2020 年刊）1,980 円（税込み）をテキスト（教科書）として利用します。またテーマによっては参考資料、プリントを追加します。

【参考書】

「新版 法学の世界」南野森編（日本評論社）
「法の世界へ（第 7 版）」池田真朗ほか（有斐閣）
「民法の基礎から学ぶ民法改正」山本敬三（岩波書店）
「法学の誕生—近代日本にとって『法』とは何であったか」内田貴（筑摩書房）
「市民社会と市民法——civil の思想と制度」水林彪、吉田克己編（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業中のレポートなど（30%）の割合で評価する予定です。講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく授業時間外の学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）に取り組むよう心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解しやすく、分かりやすい授業になるようにと思っています。気になることがあったら気軽に指摘してください。力をあわせてよい授業にしていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

This course provides an overview of the basic concepts of law for the students who study law for the first time. The course will give you a comprehensive introduction of the modern Japanese laws : such as Criminal Law, Civil Law, Labor Law, and International Law.

LAW100LA

法学Ⅰ

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

文 1 年 L～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ① 法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ② 社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関与されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③ 立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じて Zoom 等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施に必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中でコメントや小論文等の課題を出すことがある。それに対しては、課題の中の重要論点の解説を授業の中で行ったり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。

内容的には、法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行う（ので受講者はこの両方を履修することが望ましい）。春学期の「法学Ⅰ」では、主に法全体の仕組みや体系に関わる内容を取り上げ、法とはどういうもので、いかなる構造でできているかの理解を図る。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第 3 回	法と権利	権利義務関係
第 4 回	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度
第 5 回	法の解釈	法解釈の意義と役割

第 6 回	法の分類	制定法の体系と関係
第 7 回	国家と法	立憲主義と「法の支配」
第 8 回	日本の憲法の歴史	明治憲法と日本国憲法
第 9 回	日本国憲法の基本原理	国民主権

1		
第 10 回	日本国憲法の基本原理	平和主義
2		
第 11 回	日本国憲法の基本原理	基本的的人権とは
3- (1)		
第 12 回	日本国憲法の基本原理	人権規定の構成
3- (2)		
第 13 回	統治機構 1	国会と内閣
第 14 回	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

青木人志『グラフィック法学入門』（新世社、2012 年）

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）

六法（小さなもの）を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでも、自分が見やすいと思うものでよい。

【参考書】

末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）

松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）

その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出等の課題を出した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

文 1 年 L～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関与されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じて Zoom 等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施上必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中でコメントや小論文等の課題を出すことがある。それに対しては、課題の中の重要論点の解説を授業の中で行ったり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。

内容的には、法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行う（ので受講者はこの両方を履修することが望ましい）。秋学期の「法学Ⅱ」では、刑法、民法、労働法及び国際法の基本原則を解説し、そこでの理念や基礎概念の理解を図る。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
第 2 回	犯罪と刑罰 1	罪刑法定主義
第 3 回	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立
第 4 回	民法の基礎 1	権利能力と行為能力

第 5 回	民法の基本原則 1 - (1)	契約自由の原則
第 6 回	民法の基本原則 1 - (2)	契約の成立と効力
第 7 回	民法の基本原則 2 - (1)	不法行為と損害賠償
第 8 回	民法の基本原則 2 - (2)	過失責任の原則とその修正
第 9 回	家族関係と法 1	夫婦と親子
第 10 回	家族関係と法 2	扶養と相続
第 11 回	労働関係と法 1	労働法の理念と体系
第 12 回	労働関係と法 2	労働法の内容
第 13 回	国際関係と法 1	主権と領土
第 14 回	国際関係と法 2	国際法と国内法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

青木人志『グラフィック法学入門』（新世社、2012 年）
伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
六法（小さなもの）を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでも、自分が見やすいと思うものでよい。

【参考書】

末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）
松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）
その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～④の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は講義進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

LAW100LA

法学Ⅰ

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

営 1 年 E～J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じて Zoom 等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施に必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中でコメントや小論文等の課題を出すことがある。それに対しては、課題の中の重要論点の解説を授業の中で行ったり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。

内容的には、法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行う（ので受講者はこの両方を履修することが望ましい）。春学期の「法学Ⅰ」では、主に法全体の仕組みや体系に関わる内容を取り上げ、法とはどういうもので、いかなる構造でできているかの理解を図る。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第 3 回	法と権利	権利義務関係
第 4 回	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度
第 5 回	法の解釈	法解釈の意義と役割

第 6 回	法の分類	制定法の体系と関係
第 7 回	国家と法	立憲主義と「法の支配」
第 8 回	日本の憲法の歴史	明治憲法と日本国憲法
第 9 回	日本国憲法の基本原理	国民主権

1		
第 10 回	日本国憲法の基本原理	平和主義
2		
第 11 回	日本国憲法の基本原理	基本的的人権とは
3- (1)		
第 12 回	日本国憲法の基本原理	人権規定の構成
3- (2)		
第 13 回	統治機構 1	国会と内閣
第 14 回	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

青木人志『グラフィック法学入門』（新世社、2012 年）

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）

六法（小さなもの）を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでも、自分が見やすいと思うものでよい。

【参考書】

末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）

松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）

その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出等の課題を出した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

営 1 年 E～J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じて Zoom 等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施上必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中でコメントや小論文等の課題を出すことがある。それに対しては、課題の中の重要論点の解説を授業の中で行ったり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。

内容的には、法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行う（ので受講者はこの両方を履修することが望ましい）。秋学期の「法学Ⅱ」では、刑法、民法、労働法及び国際法の基本原則を解説し、そこでの理念や基礎概念の理解を図る。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
第 2 回	犯罪と刑罰 1	罪刑法定主義
第 3 回	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立
第 4 回	民法の基礎 1	権利能力と行為能力

第 5 回	民法の基本原則 1 - (1)	契約自由の原則
第 6 回	民法の基本原則 1 - (2)	契約の成立と効力
第 7 回	民法の基本原則 2 - (1)	不法行為と損害賠償
第 8 回	民法の基本原則 2 - (2)	過失責任の原則とその修正
第 9 回	家族関係と法 1	夫婦と親子
第 10 回	家族関係と法 2	扶養と相続
第 11 回	労働関係と法 1	労働法の理念と体系
第 12 回	労働関係と法 2	労働法の内容
第 13 回	国際関係と法 1	主権と領土
第 14 回	国際関係と法 2	国際法と国内法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

青木人志『グラフィック法学入門』（新世社、2012 年）

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）

六法（小さなもの）を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでも、自分が見やすいと思うものでよい。

【参考書】

末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）

松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）

その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～④の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は講義進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

水野 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法 1 年 S～W / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。契約法に関する基本的な概念を理解し、初歩的な法知識を取得することすることを第一の目的とする。これに加え、憲法の構造と基本原理、国際法に関して、条約の締結や EU 法についても学ぶ。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

コロナウィルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止のため、外出自粛が求められる中、現時点では ZOOM によるオンライン講義となります。

レジュメと教科書を用いて、ZOOM による講義を行い、確認となる課題（小テスト・レポート）を提出するという形式で授業を進めてきます。これらの課題については、次の授業の冒頭において、復習事項として確認を行います。

教科書と六法を使用しますので準備をお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	法の役割と法律の学び方
2	契約をすることと生活	生活における様々な活動と契約がどのように関係しているか考え、契約とは何かを学ぶ。
3	契約と権利義務	契約をすると、どのような義務が発生し、どのような権利を得るのか。
4	債権・債務関係	契約によって生じる権利義務関係について
5	債務不履行	契約が守られなかったとき、契約を締結した者はどのような対応を取ることができるか。
6	契約に拘束されない場合	契約を結んだにもかかわらず、契約に従わなくてもよい場合について
7	不法行為（1）	他人によって自分の権利を侵害された場合について

8	不法行為（2）	典型的な不法行為とその解決
9	憲法とは	憲法は何のためにあり、何を守るものか。
10	憲法と私人	憲法は何を保障するか。 憲法が保障する基本的人権について
11	憲法と統治機構	なぜ、権力を抑制する必要があるか。近年起きた事例をもとに検討する。
12	裁判制度	権力の一つである裁判制度を概観する
13	冤罪と司法改革	冤罪を防ぐためにどのような手法がとられているか
14	まとめ	春学期の重要な点について再度、検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、資料等の指摘されたところを熟読すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

池田・大伏・野川・大塚『法の世界へ〔第 8 版〕』（有斐閣アルマ、2020 年）
なお、版が改訂される場合があるが、講義では最新版のものを使用するので、版の改訂を確認の上購入すること。

【参考書】

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
田中淳子・大野正博編『法学入門』（成文堂、2015 年）
末川博編『法学入門〔第 6 版〕』（有斐閣双書、2009 年）
松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年） など

【成績評価の方法と基準】

記号選択問題によっておこなう期末試験の成績（80 %）、これに、授業内で行った小テスト・レポート（20 %）で評価する。これらの合計を 60 点～69 点を C、70 点から 79 点を B、80 点～89 点を A、90 点以上 A + とする。

【学生の意見等からの気づき】

近年の社会問題と関係のある事例についての関心が高いので、時事的な問題を今年度も取り扱う。

また、映像資料を講義内で利用する。

板書は楷書でおこない、パワーポイントを利用する。

【Outline and objectives】

This lecture targets beginners in law and explains the basic knowledge of law. As a relationship between individuals, we aim to understand the basic concepts concerning the contract law and to acquire rudimentary legal knowledge. Furthermore, as a relationship between the nation and individual, we study the Constitution of Japan and fundamental human rights. Also, as a field related to international law, we also learn about the treaty and the EU law, which is the relation between nations.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

水野 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法 1 年 S～W / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生であってもアルバイトをする場合など、働くことと法律は様々なかわりを持っている。しかしながら、労働と法について学ぶ機会は多くない。本講義では、働くこととかわる法律について、採用内定とその取り消し、アルバイトの場合の残業代の支給や有給休暇の取得など労働災害、採用内定とその取消など学生であってもかわりを持つ事例について、さらには、賃金、労働時間、転勤、解雇など重要な問題についても検討を行う。引き続き、働くことと関係する憲法の問題、働くことについてもボーダレスとなっている EU の仕組みなどを通じて、国際的な法律関係、とくに EU 法を素材として、人権や平等、労働法上の規制等についても知識を深めることを目的とする。

【到達目標】

発展的な契約である労働契約の仕組みと法的な規制についての知識を得る。

これによって、働く場合における法律関係について、正確な法的知識に基づく正しい理解ができる。

EU などの国際法的な関係についても、労働という視点から EU 指令、EU 裁判所制度、EU の社会保障制度などについても法的な理解を深める。

上述の点に関与する憲法的な論点について理論的に説明できるよう理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

コロナ感染症対策が求められている現状においては、ZOOMを使用したオンライン講義を行うようである。レジュメ、パワーポイントを用いた講義形式で授業を進める。授業ごとに、フィードバック課題として、確認テストあるいはレポートの提出を求める予定である。これらのフィードバック課題については、次の授業冒頭において復習事項として、再確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方・テストなどについてのガイダンスと模擬授業
2	アルバイトを決める時に確認すること	労働契約を結び働く場合の法律関係について
3	働く場合の法律	労働時間・賃金・時間外労働・割増賃金
4	働く場合の法律	休憩・休息時間・休日・休暇について
5	仕事を辞める労働契約の終了について	採用内定の取り消し・解雇
6	働く場合の法律	最近の問題
7	ワークライフバランス	ワークライフバランスと少子高齢化
8	安全に働く	労働災害・過労死について知る
9	安全に働く	過労自殺・過労死の認定の問題

10	国と国の関係と働くこと	グローバル化の中で労働はどのように変わってきているのか
11	EU 諸国と働くこと	EU 市民と EU 加盟国はどのような関係にあるのか
12	EU の制度概略	EU 指令の制度、EU 加盟国の立法権、EU 裁判所の制度
13	EU と人権	EU において人権や働く権利、私生活はどのように保障されているのか。
14	働くことと法	働く状況が大きく変わる中で、どのような法が求められるのだろうか検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

該当する教科書のページを熟読すること。さらに、関連する新聞記事やニュースなどをフォローすること。なお、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

池田真朗、犬伏由子、野川忍、大塚英明『法の世界へ〔第 8 版〕』（有斐閣アルマ、2020 年）（改訂版が出た場合は最新のものとすること）
このほか今年度版の六法を用意すること。
六法については初回の授業で詳しく紹介します。

【参考書】

伊藤正己、加藤一郎『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
浜村彰、唐津博、青野覚、奥田香子『ベーシック労働法〔第 7 版〕』（有斐閣アルマ、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

選択問題、マークシートを利用して行う期末試験の成績（80 %）、これに、授業内で行った小テスト（20 %）で評価する。これらの合計を 60 点～69 点を C、70 点から 79 点を B、80 点～89 点を A、90 点以上 A + とする。

【学生の意見等からの気づき】

EU やフランス法との比較法的な検討について、関心が高かったので今後もそのような比較法的な視点からの講義を増やすこととしたい。

また、コロナ感染症対策における雇用政策や公衆衛生法についても関心が高かったので、時事的な問題や直ちに影響を受ける政策について情報を提供するように心がけたい。

【Outline and objectives】

Even if you work as a regular employee, even students, there are close relationships between labor and law, such as when working part-time. However, there are not many opportunities to learn about law and labor in the age of students. In this lecture, we will consider the problems of labor and law related to students. Specifically, employment offer and cancellation, premium wage for overtime work, paid vacation, occupational accidents. Next, consider important issues such as wages, working hours, relocation, and dismissal. Also consider the Constitution related to labor. It aims to deepen knowledge about international legal relations through freedom of movement of workers in the EU, regulations on labor by EU directive, and so on.

LAW100LA

法学Ⅰ

2017 年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法の意義や種類といった法学全体に関わる一般的・包括的な知識と、裁判の種類や裁判手続といった裁判制度に関する知識を柱とする。

【到達目標】

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかを理解する。
- ③裁判制度、裁判手続、裁判所の組織について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド形式で実施する。受講者は学習支援システムを通じて配布されるプリントとその解説動画を視聴しながら自己学習を行い、疑問点があれば学習支援システム上に設けられた授業内掲示板を通じて質問をする。質問に対するフィードバックも学習支援システムを介して行う。なお、本授業では、秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行うので、受講者はこの両方を履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第 3 回	法の分類	法の種類と体系
第 4 回	権利と義務	権利と義務の種類、権利の主体
第 5 回	裁判制度①：裁判の役割	裁判の意義と機能
第 6 回	裁判制度②：裁判の種類	裁判の種類と特徴、裁判の当事者、訴訟手続
第 7 回	裁判制度③：裁判上の基本原則	裁判公開の原則、当事者主義
第 8 回	法の解釈	法解釈の方法、法解釈の基準
第 9 回	法の歴史	大陸法と英米法
第 10 回	日本法の歴史①：近代以前	近代以前の日本法の特徴
第 11 回	日本法の歴史②：近代法の継受	近代憲法と近代民法の継受
第 12 回	日本法の歴史③：現代法の発展	社会法・経済法等の発展
第 13 回	法の根拠	自然法の意義、法実証主義による自然法批判
第 14 回	法の効力	法の効力の種類、法適用の原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業計画に沿って、参考書の該当箇所やプリントを読んで予習し、疑問点や問題点を明らかにした上で授業に臨む。授業後は、テキスト・プリント・ノート等を読み直し、予習段階で明らかになった疑問点や問題点が解明されたかどうかをチェックして、まだ解明されていない論点や新たな疑問が発見された場合は、次回以降の授業の課題として整理しておく。なお、予習・復習に要する時間はそれぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、学習支援システムを通じて配布するプリントに沿って授業を進める。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）

末川博（編）『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）

田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に学習支援システムを用いて実施するオンラインテストの点数で成績を評価する（100 %）。

なお、学期途中にオンライン上で小テストを実施することがあり、その場合は小テストと期末テストの点数を合わせて成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初めて法学を学ぶ学生が大多数を占めることを考え、なるべく平易な解説を行いたい。また、抽象的な説明だけではなく、なるべく具体的な社会事象に引きつけて講義を行うように心がけたい。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験に基づいて、現実政治における法のあり方についても講義の中で触れる。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to learn the foundation of legal studies. The content of the lecture consists of general knowledge related to legal science and the judicial system.

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、民法、消費者法、労働法、刑法等の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②民法、消費者法、経済法、労働法、刑法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ③法的なものの考え方（いわゆる「リーガルマインド」）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド形式で実施する。受講者は学習支援システムを通じて配布されるプリントとその解説動画を視聴しながら自己学習を行い、疑問点があれば学習支援システム上に設けられた授業内掲示板を通じて質問をする。質問に対するフィードバックも学習支援システムを介して行う。春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行うので、受講者はこの両方を履修することが望ましい。授業計画は以下の予定だが、授業の進度や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
第 2 回	近代法と現代法	近代法の基本原則と現代法による修正について学ぶ。
第 3 回	民法①：民法の基礎	民法の構造、権利と義務の種類、権利の主体等について学ぶ。
第 4 回	民法②：契約法	契約法の基礎的知識について学ぶ。
第 5 回	民法③：不法行為法	不法行為法の基礎的知識について学ぶ。
第 6 回	民法④：物権法	物権法の基礎的知識について学ぶ。
第 7 回	民法⑤：家族法・相続法	家族法・相続法の基礎的知識について学ぶ。
第 8 回	消費者法	消費者法の基礎的知識について学ぶ。
第 9 回	経済法	経済法の基礎的知識について学ぶ。
第 10 回	労働法	労働法の基礎的知識について学ぶ。
第 11 回	憲法	憲法の基礎的知識について学ぶ。
第 12 回	刑法	刑法の基礎的知識について学ぶ。
第 13 回	社会保障法	社会保障法の基礎知識について学ぶ。
第 14 回	国際法	国際法の基礎知識について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業計画に沿って、参考書の該当箇所やプリントを読んで予習し、疑問点や問題点を明らかにした上で授業に臨む。授業後は、テキスト・プリント・ノート等を読み直し、予習段階で明らかになった疑問点や問題点が解明されたかどうかをチェックして、まだ解明されていない論点や新たな疑問が発見された場合は、次回以降の授業の課題として整理しておく。なお、予習・復習に要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、授業支援システムを通じて配布するプリントに沿って授業を進める。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）

末川博（編）『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）

田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に学習支援システムを用いて実施するオンラインテストの点数で成績を評価する（100 %）。

なお、学期途中にオンライン上で小テストを実施することがあり、その場合は小テストと期末テストの点数を合わせて成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初めて法学を学ぶ学生が大多数を占めることを考え、なるべく平易な解説を行いたい。また、抽象的な説明だけでなく、なるべく具体的な社会事象に引きつけて講義を行うように心がけたい。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、現実政治における法のあり方についても講義の中で触れていく。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to give lectures on the foundation of jurisprudence, mainly for beginners of law. The contents of lecture contain basic knowledge of civil law, consumer law, labor law, criminal law and international law.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

営 1 年 A～D / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者に対して、法の成立や国家の統治構造の基礎、具体的な紛争の解決方法について講義を実施する。

講義前半（第 1 回～第 7 回）はオンデマンド型の講義として、資料をウェブシステム上にアップする。受講生は都合の良い時間に資料にアクセスし、指定された期日（第 8 回講義の前日）までに課題を提出する（課題提出方法については、ウェブシステムを通じて通知）。オンデマンド型の講義では、法や国家の成立、統治構造の基礎を学ぶ。

講義後半（第 8～第 14 回）は対面型講義とする。前半で学んだ知見を基にして、法的紛争に関する各個別の事例を学ぶ。

法学 I では、法的視点から紛争を解決する方法を身に着けることを目的とする。また、日々のニュースについて、報道を鵜呑みにせず、多角的な視点から物事を考えることができる視点の獲得を目指す。

【到達目標】

法学 I の具体的な学習目標は以下の通りである。

①何故、法が社会に必要とされるのかを理解できるようになること。

②国家の成立過程を理解し、国家の役割が何かを理解できるようになること。

③法的紛争の解決において、相対する紛争当事者の双方の主張を読みとり、どちらの主張が妥当であるのかを判断する際に、論理的思考ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義前半（第 1 回～第 7 回）はオンデマンド型とし、受講生は資料にアクセスして、課題をこなす。講義後半（第 8 回～第 14 回）は対面型とし、前半に取得した基礎知識を基にして、具体的な法的紛争の事例を学ぶ。

提出された課題については、講義中に模範解答を示し、レポート全体の傾向を講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	法とは何か（オンデマンド型）	社会規範としての法の特徴と役割を学ぶ。
2	国家の成立（オンデマンド型）	国家が存在しない状態を理解し、国家権力の存在意義を学ぶ。
3	国家の役割①（オンデマンド型）	国家により策定された法制度が国民意識の醸成や秩序の維持などどのように役立つのかを学ぶ。
4	国家の役割②（オンデマンド型）	国家の役割が法を通じて人々の権利自由を保護するところにあることを学ぶ。
5	法による国家権力の統制（オンデマンド型）	国家権力が強力である必要とそれを法に縛る必要性を学ぶ。

6	立憲主義（オンデマンド型）	立憲主義に関する基礎的な知識を学ぶ。
7	統治構造の基礎（オンデマンド型）	権力分立が人権保障に果たす役割について学ぶ。
8	憲法の基本原理①（対面型）	国民主権の基礎知識について学ぶ。
9	憲法の基本原理②（対面型）	基本的人権の尊重の基礎知識について学ぶ。
10	統治の仕組み①（対面型）	法の策定機関である国会と法の執行機関である内閣に関する基礎知識を学ぶ。
11	統治の仕組み②（対面型）	法を解釈する機関である裁判所に関する基礎知識を学ぶ。
12	法の策定と統治機構（対面型）	主要な統治機関（国会、内閣、裁判所）が法とどのように関わっているのかを学ぶ。
13	社会変動と法（対面型）	社会の変化に法が如何に対応すべきかを学ぶ。
14	グローバル化と法（対面型）	グローバル化による法規制の緩和が人々にもたらした影響を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube 等の動画の閲覧を指示する場合もある）。

講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は指定しない。参考文献は講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、2 つの課題によって評価する。内訳は講義前半（オンデマンド型講義）の課題（50 %）と講義後半（対面講義）の課題（50 %）である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

講義に関する質問は講義の前後に受け付ける。

または、ウェブシステムを通じての質問も随時受け付ける。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to give lectures to beginners in law about the enactment of law, the basics of the governing structure of the state, and specific methods of resolving disputes.

The first half of this lecture (1st to 7th) will be an on-demand type lecture. The wide range of this lecture (8th to 14th) will be a face-to-face lecture.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

営 1 年 A～D / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者に対して、法の基礎知識を教授し、それが具体的に法的紛争の解決に如何に用いられるのかを学ぶ。

講義前半（第 1 回～第 7 回）はオンデマンド型の講義として、資料をウェブシステム上にアップする。受講生は都合の良い時間に資料にアクセスし、指定された期日（第 8 回講義の前日）までに課題を提出する（課題提出方法については、ウェブシステムを通じて通知）。オンデマンド型の講義では、法的紛争解決に必要な基礎知識を学ぶ。講義後半（第 8～第 14 回）は対面型講義とする。前半で学んだ知見を基にして、法的紛争に関する各個別の事例を学ぶ。

法学Ⅰでは、法的視点から紛争を解決する方法を身に付けることを目的とする。また、日々のニュースについて、報道を鵜呑みにせず、に多角的な視点から物事を考えることができる視点の獲得を目指す。

【到達目標】

本講義の具体的な到達目標は以下の通りである。

- ①法学に関する基礎知識を獲得する。
- ②法的紛争の解決に必要な知見を獲得する。
- ③法的視点に基づく論理的思考（自らの主張を説得的に展開するために必要な思考）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義前半（第 1 回～第 7 回）はオンデマンド型とし、受講生は資料にアクセスして、課題をこなす。講義後半（第 8 回～第 14 回）は対面型とし、前半に取得した基礎知識を基にして、具体的な法的紛争の事例を学ぶ。

提出された課題については、講義中に模範解答を示し、レポート全体の傾向を講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国家と権利の保障①（オンデマンド型）	国家による権利侵害と権利保障に関する基礎知識を学ぶ。
2	国家と権利の保障②（オンデマンド型）	国家による権利保障に関する基礎知識を学ぶ。
3	権利保障の特色（オンデマンド型）	人権の類型や権利の分類などについて学ぶ。
4	権利保障の限界（オンデマンド型）	権利保障が如何なる場合に制約されるのかを学ぶ。
5	社会の変動と権利保障①（オンデマンド型）	私人間における人権侵害の危険性について学ぶ。
6	社会の変動と権利保障②（オンデマンド型）	グローバル化推進による規制緩和（自由の追求）がもたらした権利自由の侵害について学ぶ。
7	社会の変動と権利保障③（オンデマンド型）	法によって明記されていない権利の保障について学ぶ。
8	平等原則（対面型）	平等に関する基礎知識を学ぶ。
9	性差別と法（対面型）	性差別に関する主要判例を学ぶ。

10	男女共同参画（対面型）	男女共同参画の法制度をめぐる功罪について学ぶ。
11	平等と逆差別（対面型）	アファーマティブアクションの是非を考える。
12	家族関係と法（対面型）	家族関係における別異取扱を婚外子の事例を挙げて学ぶ。
13	宗教と法（対面型）	信教の自由や政教分離原則の基礎知識を学ぶ。
14	経済活動の自由（対面型）	経済活動の自由の追求と国民生活の安全について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube 等の動画の閲覧を指示する場合もある）。

講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は 2 つの課題によって評価する。内訳は講義前半のオンデマンド型に関する課題（50 %）と講義後半の対面講義で出題する課題（50 %）である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度事業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講義の前後に質問を受け付ける。また、ウェブシステムを通じて、随時質問を受け付ける。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to teach beginners in law the basic knowledge of law and how it can be used specifically to resolve legal disputes.

The first half of this lecture (1st to 7th) will be an on-demand type lecture. The wide range of this lecture (8th to 14th) will be a face-to-face lecture.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

前川 佳夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

（はじめに）この「法学 I」の授業は、対面授業を基本とした「ハイブリッド型」〈対面授業とオンライン授業の組み合わせ〉で進める予定です。なお、今後新型コロナウイルス感染拡大防止のための措置等の影響により、授業形態に変更があることも予想されますので、大学からのお知らせその他にご注意ください。

「近代憲法」としての性質を色濃く示す日本国憲法（1947 年施行）を基軸とするわが国の法システムは、いま大きく変貌しようとしており（第 3 の法制改革）、昨年 2020 年 4 月には、世界的なコロナ禍のなかで、制定以来 120 年ぶりの民法・債権法改正が行われました。本講義では、現代日本の法システムを理解するための基本事項を中心に、時事的なテーマもとりあげながら授業を進めます。

また、授業時に、リアクションペーパー（対面授業）や課題レポート（主にオンライン授業）を提出してもらうことがありますが、次の授業時にそれらで取り上げられた事項についての講評を加え、場合によってはディスカッション、ディベートにつなげていきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
2	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
3	法と権利	権利義務関係
4	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度
5	法の解釈	法解釈の性質と役割
6	法の分類	法をどう分類するか
7	国家と法	立憲主義と「法の支配」
8	明治憲法と日本国憲法	近代日本のふたつの法体系

9	日本国憲法の基本原理	国民主権
1		
10	日本国憲法の基本原理	平和主義
2		
11	日本国憲法の基本原理	基本的人権とは
3	(1)	
12	日本国憲法の基本原理	人権規定の構成
3	(2)	
13	統治機構 1	国会と内閣
14	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習としては、①新聞その他のメディアで判決や法改正の記事などがとりあげられていたら目を通しておくこと、②また、下記の「参考書」欄に挙げた書物などを参考にして、関心ある文献の一部または全部を読んでおくこと、が大切だと思います。

また講義後の復習としては、①テキスト（教科書）や配布したプリントを見直すこと、②講義のなかでとりあげた文献や、教科書、プリントにでていた条文や判例にあたっておくことが大切です。

なお授業時間外の学習全体をとおしてお願いしておきたいことは、学習対象を法律（学）に限定せず、世界的なコロナ禍がつづく現代の社会生活を支える「政治」、「経済」、「法」という 3 つの領域全体の動向に目を配るようにすることです。はじめはすこしいへんかもしれませんがは是非がんばってください。

【テキスト（教科書）】

「日本の法（第二版）」緒方桂子ほか編（日本評論社、2020 年刊）1,980 円（税込み）

【参考書】

「新版 法学の世界」南野森編（日本評論社）

「法学講義」笹倉秀夫（東大出版会）

「憲法入門 5 訂版」樋口陽一（勁草書房）

「法学の誕生—近代日本にとって『法』とは何であったか」内田貴（筑摩書房）

「新装版法学入門」末弘厳太郎（日本評論社）

「市民社会と市民法——civil の思想と制度」水林彪、吉田克己編（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業中のレポートなど（30%）の割合で評価する予定です。講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく授業時間外の学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）に取り組むよう心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解しやすく、分かりやすい授業になるようにと思っています。

内容が分かりにくいときもあるかと思いますが、そういうときは気軽に指摘してください。時間がゆるせば討論の時間も設けたいと思っています。力をあわせてよい授業にしていきたいと思います。

【Outline and objectives】

This course provides an overview of the basic concepts of law for the students who study law for the first time. It covers major key concepts in Japanese legal system, and provides a brief explanation of the principles of the Constitution of Japan.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

前川 佳夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

（はじめに）この「法学Ⅱ」の授業は、対面授業を基本とした「ハイブリッド型」〈対面授業とオンライン授業の組み合わせ〉で進める予定です。ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止のための措置等の影響により、授業形態に変更がある場合もありますので、大学からのお知らせその他にご注意ください。

「近代憲法」としての性質を色濃く示す日本国憲法（1947 年施行）を基軸とするわが国の法システムはいま、国内外の政治、経済、社会情勢の変化をうけて、変貌しようとしています（第3の法制改革）。本講義では、現代日本の法システムを理解するための基本事項を中心に、刑法、民法、労働法、そして国際法にかかわるテーマをとりあげます。

また、授業時に、リアクションペーパー（対面授業）や課題レポート（主にオンライン授業）を提出してもらうことがあります。今回の授業時にそれらで取り上げられた事項についての講評を加え、場合によってはディスカッション、ディベートにつなげたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
2	犯罪と刑罰 1	罪刑法定主義とは何か
3	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立
4	権利能力と行為能力	近代市民法における個人とは
5	契約自由の原則	契約自由の原則はなぜ大切なのか
6	契約の成立と効力	消費者契約、労働契約を中心に
7	不法行為と損害賠償	不法行為責任とは
8	過失責任の原則	過失責任と無過失責任

9	家族関係と法 1	夫婦と親子
10	家族関係と法 2	扶養と相続
11	労働関係と法 1	労働法の理念と体系
12	労働関係と法 2	労働法の具体的な内容
13	国際関係と法 1	主権と領土
14	国際関係と法 2	国際法と国内法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習としては、①新聞その他のメディアで判決や法改正の記事などがとりあげられていたら目を通しておくこと、②また、下記の「参考書」欄に挙げた書物などを参考にして、関心ある文献の一部または全部を読んでおくこと、が大切だと思います。

また講義後の復習としては、①テキスト（教科書）や配布したプリントを見直すこと、②講義のなかでとりあげた文献や、教科書、プリントにでていた条文や判例にあたっておくことが大切です。

なお授業時間外の学習全体をとおしてお願いしておきたいことは、学習対象を法律（学）に限定せず、現代の社会生活を支える「政治」、「経済」、「法」という 3 つの領域全体の動向に目を配るようにすることです。はじめはすこしいへんかもしれませんが是非がんばってください。

【テキスト（教科書）】

「日本の法（第二版）」緒方桂子ほか編（日本評論社、2020 年刊）1,980 円（税込み）をテキスト（教科書）として利用します。またテーマによっては参考資料、プリントを追加します。

【参考書】

「新版 法学の世界」南野森編（日本評論社）
「法の世界へ（第7版）」池田真朗ほか（有斐閣）
「民法の基礎から学ぶ民法改正」山本敬三（岩波書店）
「法学の誕生—近代日本にとって『法』とは何であったか」内田貴（筑摩書房）
「市民社会と市民法——civil の思想と制度」水林彪、吉田克己編（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業中のレポートなど（30%）の割合で評価する予定です。講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく授業時間外の学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）に取り組むよう心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解しやすく、分かりやすい授業になるようにと思っています。

気になることがあったら気軽に指摘してください。力をあわせてよい授業にしていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

This course provides an overview of the basic concepts of law for the students who study law for the first time. The course will give you a comprehensive introduction of the modern Japanese laws : such as Criminal Law, Civil Law, Labor Law, and International Law.

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017 年度以降入学者

陳 志明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初学者を対象に、法と国家及び社会の関係に関する理解を踏まえ、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げて解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う予定です。①立憲主義や権力分立等憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの 3 つがその柱となります。受講生が初学者であることを踏まえ、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進めます。

【到達目標】

受講生が日本国憲法の基本原理及びそれに基づく内容構成、特徴等の「正しい理解」を通じ、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、併せて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的な国家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識及び資質を習得することを目標としています。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対し、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」上で教材配信型のオンライン授業を行い、毎回配信するレジュメ及び資料を受講生が読む形で授業を進めます。また計 5 回の授業内小レポートを課し、それに対するフィードバックは第 14 回授業のまとめに際して包括的に行います。なお対面授業に復帰することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明
第 2 回	法の特徴	法と社会及び国家との関係 道徳等との関係 権利義務との関係
第 3 回	憲法の特徴	法の分類 法律等との関係 国際法との関係 憲法の分類
第 4 回	近現代国家の憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原理 現代憲法の特徴
第 5 回	日本の憲法の歴史	大日本帝国憲法の制定及び特質 日本国憲法の制定
第 6 回	日本国憲法の特徴	日本国憲法の構成 日本国憲法の理念及び基本原則
第 7 回	統治機構①	国会及び選挙 議院内閣制
第 8 回	統治機構②	内閣 裁判所 違憲審査制
第 9 回	統治機構③	財政及び地方自治 象徴天皇制 憲法保障
第 10 回	基本的人権①	憲法改正 人権総論 包括的基本権
第 11 回	基本的人権②	法の下での平等 身体的自由権 精神的自由権 経済的自由権
第 12 回	基本的人権③	社会権 参政権及び国務請求権 国民の三大義務

第 13 回 平和主義

規定の背景
規定の内容及び解釈
安全保障

第 14 回 まとめ及び学期末レポート

総復習並びにレポートの作成及び提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005 年）
伊藤正己『憲法入門〔第 4 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2006 年）
末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014 年）
初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第 6 版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2020 年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80 %）及び授業内小レポート（20 %）によって評価します。なお対面授業に復帰することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC 科目であることに留意します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts related to law in general, and the history, principles and contents of the Constitution of Japan.

陳 志明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初学者を対象に、法と国家及び社会の関係に関する理解を踏まえ、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げて解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う予定です。①立憲主義や権力分立等憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの 3 つがその柱となります。受講生が初学者であることを踏まえ、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進めます。

【到達目標】

受講生が日本国憲法の基本原理及びそれに基づく内容構成、特徴等の「正しい理解」を通じ、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、併せて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的な国家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識及び資質を習得することを目標としています。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対し、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」上で教材配信型のオンライン授業を行い、毎回配信するレジュメ及び資料を受講生が読む形で授業を進めます。また計 5 回の授業内小レポートを課し、それに対するフィードバックは第 14 回授業のまとめに際して包括的に行います。なお対面授業に復帰することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明
第 2 回	法の特徴	法と社会及び国家との関係 道徳等との関係 権利義務との関係
第 3 回	憲法の特徴	法の分類 法律等との関係 国際法との関係 憲法の分類
第 4 回	近現代国家の憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原理 現代憲法の特徴
第 5 回	日本の憲法の歴史	大日本帝国憲法の制定及び特質 日本国憲法の制定
第 6 回	日本国憲法の特徴	日本国憲法の構成 日本国憲法の理念及び基本原則
第 7 回	統治機構①	国会及び選挙 議院内閣制
第 8 回	統治機構②	内閣 裁判所 違憲審査制 財政及び地方自治
第 9 回	統治機構③	象徴天皇制 憲法保障 憲法改正
第 10 回	基本的人権①	人権総論 包括的基本権 法の下での平等
第 11 回	基本的人権②	身体的自由権 精神的自由権 経済的自由権
第 12 回	基本的人権③	社会権 参政権及び国務請求権 国民の三大義務

第 13 回 平和主義

規定の背景
規定の内容及び解釈
安全保障

第 14 回 まとめ及び学期末レポート

総復習並びにレポートの作成及び提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005 年）
伊藤正己『憲法入門〔第 4 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2006 年）
末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014 年）
初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第 6 版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2020 年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80 %）及び授業内小レポート（20 %）によって評価します。なお対面授業に復帰することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC 科目であることに留意します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts related to law in general, and the history, principles and contents of the Constitution of Japan.

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017 年度以降入学者

陳 志明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初学者を対象に、法と国家及び社会の関係に関する理解を踏まえ、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げて解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う予定です。①立憲主義や権力分立等憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの 3 つがその柱となります。受講生が初学者であることを踏まえ、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進めます。

【到達目標】

受講生が日本国憲法の基本原理及びそれに基づく内容構成、特徴等の「正しい理解」を通じ、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、併せて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的な国家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識及び資質を習得することを目標としています。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対し、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」上で教材配信型のオンライン授業を行い、毎回配信するレジュメ及び資料を受講生が読む形で授業を進めます。また計 5 回の授業内小レポートを課し、それに対するフィードバックは第 14 回授業のまとめに際して包括的に行います。なお対面授業に復帰することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明
第 2 回	法の特徴	法と社会及び国家との関係 道徳等との関係 権利義務との関係
第 3 回	憲法の特徴	法の分類 法律等との関係 国際法との関係 憲法の分類
第 4 回	近現代国家の憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原理 現代憲法の特徴
第 5 回	日本の憲法の歴史	大日本帝国憲法の制定及び特質 日本国憲法の制定
第 6 回	日本国憲法の特徴	日本国憲法の構成 日本国憲法の理念及び基本原則
第 7 回	統治機構①	国会及び選挙 議院内閣制
第 8 回	統治機構②	内閣 裁判所 違憲審査制
第 9 回	統治機構③	財政及び地方自治 象徴天皇制 憲法保障
第 10 回	基本的人権①	憲法改正 人権総論 包括的基本権
第 11 回	基本的人権②	法の下での平等 身体的自由権 精神的自由権 経済的自由権
第 12 回	基本的人権③	社会権 参政権及び国務請求権 国民の三大義務

第 13 回 平和主義

規定の背景
規定の内容及び解釈
安全保障

第 14 回 まとめ及び学期末レポート

総復習並びにレポートの作成及び提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005 年）
伊藤正己『憲法入門〔第 4 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2006 年）
末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014 年）
初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第 6 版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2020 年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80 %）及び授業内小レポート（20 %）によって評価します。なお対面授業に復帰することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC 科目であることに留意します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts related to law in general, and the history, principles and contents of the Constitution of Japan.

陳 志明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初学者を対象に、法と国家及び社会の関係に関する理解を踏まえ、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げて解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う予定です。①立憲主義や権力分立等憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの 3 つがその柱となります。受講生が初学者であることを踏まえ、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進めます。

【到達目標】

受講生が日本国憲法の基本原理及びそれに基づく内容構成、特徴等の「正しい理解」を通じ、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、併せて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的な国家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識及び資質を習得することを目標としています。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対し、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」上で教材配信型のオンライン授業を行い、毎回配信するレジュメ及び資料を受講生が読む形で授業を進めます。また計 5 回の授業内小レポートを課し、それに対するフィードバックは第 14 回授業のまとめに際して包括的に行います。なお対面授業に復帰することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明
第 2 回	法の特徴	法と社会及び国家との関係 道徳等との関係 権利義務との関係
第 3 回	憲法の特徴	法の分類 法律等との関係 国際法との関係 憲法の分類
第 4 回	近現代国家の憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原理 現代憲法の特徴
第 5 回	日本の憲法の歴史	大日本帝国憲法の制定及び特質 日本国憲法の制定
第 6 回	日本国憲法の特徴	日本国憲法の構成 日本国憲法の理念及び基本原則
第 7 回	統治機構①	国会及び選挙 議院内閣制
第 8 回	統治機構②	内閣 裁判所 違憲審査制 財政及び地方自治
第 9 回	統治機構③	象徴天皇制 憲法保障 憲法改正
第 10 回	基本的人権①	人権総論 包括的基本権 法の下での平等
第 11 回	基本的人権②	身体的自由権 精神的自由権 経済的自由権
第 12 回	基本的人権③	社会権 参政権及び国務請求権 国民の三大義務

第 13 回 平和主義

規定の背景
規定の内容及び解釈
安全保障

第 14 回 まとめ及び学期末レポート

総復習並びにレポートの作成及び提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005 年）
伊藤正己『憲法入門〔第 4 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2006 年）
末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014 年）
初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第 6 版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2020 年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80 %）及び授業内小レポート（20 %）によって評価します。なお対面授業に復帰することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC 科目であることに留意します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts related to law in general, and the history, principles and contents of the Constitution of Japan.

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法 1 年 A～N / 法文国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第 2 回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 3 回	市場はどのように機能するか②	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 4 回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易（教科書、ミクロ編第Ⅲ部）
第 5 回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 6 回	マクロ経済のデータ①	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 7 回	マクロ経済のデータ②	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 8 回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	ファイナンスの基本的な分析手法（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期における貨幣と価格①	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 11 回	長期における貨幣と価格②	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 12 回	実社会の経済学①	資産運用ビジネスについて
第 13 回	実社会の経済学②	外部講師による講演
第 14 回	おわりに	春学期まとめ 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、授業では、各局面で発表される様々な経済指標を参照するため、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下 2 冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】

購入を必須としない。

神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017.

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフトを利用することが多い。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline and objectives】

This course is intended to understand the logical background of economics and introduce the basics of interpreting major economic indicators and their implications.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法 1 年 A～N / 法文国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。毎回の講義の前半は、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第 2 回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第 3 回	社会保障②	我が国の企業年金制度
第 4 回	企業行動と産業組織①	独占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 5 回	企業行動と産業組織②	囚人のジレンマ（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 6 回	企業行動と産業組織③	ナッシュ均衡（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 7 回	企業行動と産業組織④	寡占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 8 回	長期の実物経済①	効率的市場仮説（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期の実物経済③	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 11 回	実務の経済学①	ポートフォリオ理論と分散投資
第 12 回	実務の経済学②	ポートフォリオ理論と分散投資
第 13 回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第 14 回	まとめ	秋学期の振り返り 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下 2 冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業における発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学Ⅰとの関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフト、および、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトを利用する。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline and objectives】

With reference to Economics I, this course addresses a selection of topics discussed in the real world and aims to understand theories and issues behind.

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

西崎 文平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

国環キ 1 年／法文国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学 I はミクロ経済学の入門であり、個人や企業の意思決定、市場における需要と供給の調整などを学びます。経済学 II はマクロ経済学の入門であり、一国全体で生産される財の総量（GDP）や失業、インフレといった概念とその決まり方などを学びます。学生は、これらの授業を通じて、世の中を動かしている重要なメカニズムを理解し、人生において適切な意思決定をするための有力なツールを習得することができます。

【到達目標】

①基礎的な経済理論を参照して、さまざまな経済現象の背後にあるメカニズムを自分なりに推測できる。②経済政策に関するさまざまな議論を自分なりに評価できる。③経済指標の解説などのニュースに興味を感じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面で行います。事前配布資料を一読したうえでの授業参加を前提とし、授業では特につまづきやすい点、現実の問題への当てはめ、例題や練習問題の解き方を中心に解説します。なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います（その場合の詳細は学習支援システムで伝達します）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎概念、需要と供給	経済学とは、家計の需要、企業の供給
第 2 回	市場均衡	市場とは、需要曲線、供給曲線、市場均衡
第 3 回	市場均衡の変化	需要曲線のシフト、供給曲線のシフト、市場均衡の変化
第 4 回	価格弾力性	需要の価格弾力性、供給の価格弾力性、価格弾力性と均衡の変化
第 5 回	価格規制	上限価格規制、下限価格規制、割当て
第 6 回	租税	課税による均衡の変化、価格弾力性と税の帰着
第 7 回	市場の効率性	消費者余剰、生産者余剰、市場均衡の効率性
第 8 回	市場の失敗	独占、外部性
第 9 回	分業の利益	トレードオフと機会費用、比較優位と交易の利益、絶対優位と比較優位
第 10 回	貿易政策	内外価格差と貿易、保護貿易
第 11 回	需要と供給の方程式	直線の方程式、関数記号による記述
第 12 回	ゲーム理論①	ゲームとは、ナッシュ均衡、有名なゲーム
第 13 回	ゲーム理論②	逐次手番ゲーム、コミットメント
第 14 回	まとめ	難しかった点の復習など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布資料に目を通し、概要を把握したうえで授業に参加する。また、重要な用語を覚えるとともに、例題を自分で解いてみるなどの復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

「マンキュー 入門経済学」（第2版）、東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

毎回の練習問題（50%）＋期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

内容を十分に絞り込んで、重要な点は時間をかけて説明するようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料を学習支援システムに掲載するので、事前にプリントして授業に持参してください。オンデマンド方式で行う場合は、Zoom のリンクを学習支援システムでお知らせします。

【その他の重要事項】

内閣府において経済財政白書の作成等に携わった経験を活かし、現実の経済動向や政策運営を踏まえたケーススタディを紹介します。

【Outline and objectives】

Economics I will provide an introduction to microeconomics, which deals with the analysis of choices made by individual households and firms and of the market forces of demand and supply. Economics II, an introductory macroeconomics course, will discuss the determination of aggregate output (GDP), unemployment and inflation. The goal of the courses is to help students equipped with powerful tools to understand important mechanisms of how the world works and to make appropriate decisions in their life.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

西崎 文平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

国環キ 1 年／法文国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Ⅰはミクロ経済学の入門であり、個人や企業の意思決定、市場における需要と供給の調整などを学びます。経済学Ⅱはマクロ経済学の入門であり、一国全体で生産される財の総量（GDP）や失業、インフレといった概念とその決まり方などを学びます。学生は、これらの授業を通じて、世の中を動かしている重要なメカニズムを理解し、人生において適切な意思決定をするための有力なツールを習得することができます。

【到達目標】

①基礎的な経済理論を参照して、さまざまな経済現象の背後にあるメカニズムを自分なりに推測できる。②経済政策に関するさまざまな議論を自分なりに評価できる。③経済指標の解説などのニュースに興味を感じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面で行います。事前配布資料を一読したうえでの授業参加を前提とし、授業では特につまづきやすい点、現実の問題への当てはめ、例題や練習問題の解き方を中心に解説します。なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います（その場合の詳細は学習支援システムで伝達します）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロ経済学の考え方	マクロ経済学とは、マクロ経済学と政策
第 2 回	GDP	国民経済計算、三面等価、経済成長率
第 3 回	民間需要	個人消費、設備投資
第 4 回	GDP 決定の簡単なモデル	財市場の均衡、乗数
第 5 回	財政政策	財政政策とは、財政政策の効果
第 6 回	金融①	利子率、金融政策
第 7 回	金融②	株式市場、銀行、金融危機
第 8 回	物価	物価とは、物価の統計、名目利子率と実質利子率
第 9 回	為替レート	為替レートの見方、購買力平価、金利平価
第 10 回	外需と国際収支	輸出入の決定要因、経常収支と財・サービス収支
第 11 回	貨幣と物価	貨幣とは、貨幣数量方程式
第 12 回	総需要と雇用	総需要のまとめ、失業率の変動
第 13 回	経済成長	GDP と生活水準、経済成長の源泉
第 14 回	まとめ	難しかった点の復習など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布資料に目を通し、概要を把握しておく。また、重要な用語を覚えるとともに、例題を自分で解いてみるなどの復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

「マンキュー 入門経済学」（第2版）、東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

毎回の練習問題（50%）＋期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

内容を十分に絞り込んで、重要な点は時間をかけて説明するようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料を学習支援システムに掲載するので、事前にプリントして授業に持参してください。オンデマンド方式で行う場合は、Zoom のリンクを学習支援システムでお知らせします。

【その他の重要事項】

内閣府において経済財政白書の作成等に携わった経験を活かし、現実の経済動向や政策運営を踏まえたケーススタディを紹介します。

【Outline and objectives】

Economics I will provide an introduction to microeconomics, which deals with the analysis of choices made by individual households and firms and of the market forces of demand and supply. Economics II, an introductory macroeconomics course, will discuss the determination of aggregate output (GDP), unemployment and inflation. The goal of the courses is to help students equipped with powerful tools to understand important mechanisms of how the world works and to make appropriate decisions in their life.

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

梅溪 健児

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は多くの内容から構成されるが、本授業では最も基本であるミクロ経済学を学び、入門コースとして骨太な考え方を習得する。家計・企業・政府はどのような基準で経済活動の判断を行うのか、それらの取引により市場はどのような結果になるのかという観点に立つて、経済社会の出来事を理解できるようになることが目的である。

【到達目標】

目標は、①身の回りの出来事の背景にある合理的な判断を知ること、②価格が変化する競争的な市場の意味を理解すること、③日々のニュースの表面的な内容だけではなく深層にあるメカニズムに納得できることの3点である。これにより、経済社会の課題について柔軟に発言できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は教科書に基づき講義形式で進める。現実問題の理解を深めるために、新聞・雑誌などからも教材を選択する。講義資料はパワーポイントで作成し、学習支援システムに掲載する。リアクションペーパーを3回予定し、経済学の基礎用語の理解を確認する。

【4月3日追記】

4月8日の初回講義はオンライン（Zoom）で行い、15日の第2回講義から対面授業となります。Zoom 情報については学習支援システムに掲載しました。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	市場の機能と経済学	経済学の基本的考え方を学ぶ
2	需要と供給	需要と供給による市場の取引を理解する（教科書第1章）
3	消費者の行動（1）	需要曲線を学ぶ（第2章）
4	消費者の行動（2）	消費者余剰を学ぶ（第2章）
5	企業の行動（1）	供給曲線を学ぶ（第3章）
6	企業の行動（2）	生産者余剰を学ぶ（第3章）
7	市場競争と資源配分	価格メカニズムと余剰分析を学ぶ（第4章）
8	市場の失敗と政府の役割	外部効果と公共財を学ぶ（第6章）
9	不完全な情報	情報の不完全性と取引を学ぶ（第7章）
10	ゲームの理論（1）	囚人のジレンマを学ぶ（第8章）
11	ゲームの理論（2）	オークションやマッチングにおける経済学の活用を学ぶ
12	経済学と経済政策	競争政策や公共財に関する政策の考え方を学ぶ（第5章、第6章、第8章）
13	経済学と社会保障	医療の経済学的分析を学ぶ（第7章）
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧める。

【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学』（第4版）日本評論社

【参考書】

大竹文雄（2017）『競争社会の歩き方』中公新書
坂井豊貴（2013）『マーケットデザイン』ちくま新書
坂井豊貴（2017）『ミクロ経済学入門の入門』岩波新書
田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書
一橋大学経済学部編（2013）『教養としての経済学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 45%（3回）、期末試験 55%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の受講生は授業の出席率が高く、そしてゲームの理論に高い関心を示したので、今年度はゲームの理論の講義を増やして2回とする。一昨年度の受講生からは、講義内容があたりはまる事例を生活の中から取り上げたことが理解に役立ったとの意見が多数あったので、具体例の紹介を今年度も続ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

毎回、英語の教材を配布するので知見を深めてほしい。オフィスアワーは、大学院政策創造研究科にて設ける。

【Outline and objectives】

This is a course for introductory microeconomics with an emphasis on understanding basic framework of economic theory: decision making of household, firms and government, economic consequences of economic transactions in the market. The course aims to enhance the ability to understand economic and social events based on the reasoning with microeconomics.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

梅溪 健児

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業はマクロ経済学を取り上げる。GDP（国内総生産）による経済全体の把握、消費や投資などの有効需要、経済政策と政府の役割、海外との取引などについて、体系的に理解できるようになることが目的である。

【到達目標】

目標は、①経済が持続的に成長するために必要なこと、②政府が経済成長に果たす役割、③経済データを正確に理解しそれが示唆する政策的意味について、自ら考える素養を身につけることの3点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は教科書に基づき講義形式で進める。その際、基礎理論の図表、因果関係のフローチャート、経済データの図表を教材として配布する。講義資料はパワーポイントで作成し、学習支援システムに掲載する。リアクションペーパーを3回予定し、マクロ経済学の重要用語が正しく理解できるかを試す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マクロ経済とは	GDP（国内総生産）を学ぶ（教科書第9章）
2	経済成長	経済成長を需要側と供給側から考える（第15章）
3	有効需要	マクロ経済の均衡を学ぶ（第10章）
4	マクロ経済政策	財政政策と金融政策を学ぶ（第12章）
5	景気対策	不況期の財政出動を学ぶ（第12章）
6	貨幣と金融政策	貨幣の機能と金融調節を学ぶ（第11章）
7	インフレとデフレ	物価の変動と経済への影響、金融政策の役割を学ぶ（第13章）
8	雇用と失業	労働市場の変動と要因を学ぶ（第13章）
9	日本型雇用	労働市場の動向、賃金決定、働き方改革を学ぶ（第13章）
10	高齢社会の財政運営	社会保障改革を学ぶ（第14章）
11	財政健全化	財政赤字の原因と対処を学ぶ（第14章）
12	為替レート	円高・円安の経済効果を学ぶ（第16章）
13	貿易と直接投資	比較優位の考え方及び貿易と直接投資の動向を学ぶ（第16章）
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧める。

【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学』（第4版）日本評論社

【参考書】

塩路悦朗（2019）『やさしいマクロ経済学』日経文庫
清家篤・風神佐知子（2020）『労働経済』東洋経済新報社
田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書
一橋大学経済学部編（2013）『教養としての経済学』有斐閣
吉川洋（2016）『人口と日本経済』中公新書

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 45%（3回）、期末試験 55%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は雇用に関心のある学生が多数だったので、今年度は雇用の講義を増やして2回行い、最新の動きを取り上げる。講義が難しかったという意見と分かりやすかったという意見の両方があったので、対面授業においては受講生の理解度を細かく確認する。マクロ経済学は日常生活ではなじみが薄い学問かもしれないので、受講生は復習を行いながら履修することを望む。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

毎回、英語の教材を配布するので知見を深めてほしい。オフィスアワーは、大学院政策創造研究科にて設ける。

【Outline and objectives】

This is an introductory course for standard macroeconomics. Topics to be covered are GDP statistics, effective demand such as consumption and investment, role of government and economic policy, and goods and service trade and financial transaction. The course aims to help understand fundamental ideas of macroeconomic theory.

ECN100LA

経済学Ⅰ

2017 年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2 単位

文 1 年、国 1 年／法文国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第 2 回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 3 回	市場はどのように機能するか②	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 4 回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易（教科書、ミクロ編第Ⅲ部）
第 5 回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 6 回	マクロ経済のデータ①	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 7 回	マクロ経済のデータ②	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 8 回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	ファイナンスの基本的な分析手法（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期における貨幣と価格①	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 11 回	長期における貨幣と価格②	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 12 回	実社会の経済学①	資産運用ビジネスについて
第 13 回	実社会の経済学②	外部講師による講演
第 14 回	おわりに	春学期まとめ 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、授業では、各局面で発表される様々な経済指標を参照するため、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下 2 冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】

購入を必須としない。

神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017.

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフトを利用することが多い。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline and objectives】

This course is intended to understand the logical background of economics and introduce the basics of interpreting major economic indicators and their implications.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2 単位

文 1 年、国 1 年／法文国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。毎回の講義の前半は、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第 2 回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第 3 回	社会保障②	我が国の企業年金制度
第 4 回	企業行動と産業組織①	独占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 5 回	企業行動と産業組織②	囚人のジレンマ（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 6 回	企業行動と産業組織③	ナッシュ均衡（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 7 回	企業行動と産業組織④	寡占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 8 回	長期の実物経済①	効率的市場仮説（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期の実物経済③	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 11 回	実務の経済学①	ポートフォリオ理論と分散投資
第 12 回	実務の経済学②	ポートフォリオ理論と分散投資
第 13 回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第 14 回	まとめ	秋学期の振り返り 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下 2 冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第 2 版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業における発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学Ⅰとの関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフト、および、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトを利用する。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline and objectives】

With reference to Economics I, this course addresses a selection of topics discussed in the real world and aims to understand theories and issues behind.

ECN100LA

マクロ経済学 I

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 営 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しを見ていけばよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学 I）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期（マクロ経済学 II）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は 2021 年に作成されたばかりのオンデマンド映像と対面授業の組み合わせで実施の予定です（対面授業は状況によってはオンラインでの実施の可能性）。そして、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします
2	序章 マクロ経済学とは 1	経済の捉え方の切り口の基本を紹介していきます
3	序章 マクロ経済学とは 2	経済の捉え方の切り口の基本を紹介した上で、GDP の基本を学びます
4	マクロ経済を観察する 1（GDP）	GDP の基本を学び、実質と名目と物価の関係を学びます。

5	マクロ経済を観察する 3（物価）	物価統計の基本的な特徴を理解します
6	マクロ経済を観察する 4（失業率、景気）	労働市場関連統計と景気動向関連統計の基本的な仕組みを理解します。更に、金融と実体経済の関係を考察します
7	マクロ経済を支える金融市場 1	マネー、金利と金融市場の基礎を学びます
8	マクロ経済を支える金融市場 3	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
	貨幣の機能と中央銀行の役割 1	
9	貨幣の機能と中央銀行の役割 2	金融システムの安定化の意義を理解します
10	貨幣の機能と中央銀行の役割 3	中央銀行による経済政策（金融政策）の基本を学びます。財政の意義とその決まり方を把握します
11	財政の仕組みと機能 1	税制の基本を学びます
12	財政の仕組みと機能 2	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
13	演習	春学期に学んだ内容に関連する例題の演習を行います。対面授業の予定です。
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで 新版』（有斐閣、2020 年刊行の最新版を購入のこと）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明するように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

ECN100LA

マクロ経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 営 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ていけばよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学Ⅰ）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期（マクロ経済学Ⅱ）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は 2021 年に作成されたばかりのオンデマンド映像と対面授業の組み合わせで実施の予定です（対面授業は状況によってはオンラインでの実施の可能性）。そして、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	GDP と金利の決まり方 1	総需要と物価の関係を学びます
2	GDP と金利の決まり方 2	総供給と物価の関係を学びます
3	GDP と金利の決まり方 3	金利と GDP の決まり方を考察します
4	総需要・総供給分析 1	物価が一定ではない世界の枠組みを理解します
5	総需要・総供給分析 2	マクロ的な均衡状態の背後で何が起きているのかを理解します

6	総需要・総供給分析 3	マクロ経済政策の役割を考察します
7	インフレとデフレ 1	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
8	インフレとデフレ 2	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
9	国際マクロ経済 1	海外との取引の計測の仕方を学びます
10	国際マクロ経済 2	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます、開放経済下での経済政策の効果を学びます
11	経済成長 1	経済成長モデルを使った分析を行います
12	経済成長 2	経済成長の要因を理解します
13	演習	例題に取り組みます
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで 新版』（有斐閣、2020 年刊行の最新版を購入のこと）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、+a として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行いう予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明するように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

ECN100LA

マクロ経済学 I

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

営 1 年 K~U / 営 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見なければよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学 I）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期（マクロ経済学 II）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は 2021 年に作成されたばかりのオンデマンド映像と対面授業の組み合わせで実施の予定です（対面授業は状況によってはオンラインでの実施の可能性）。そして、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします
2	序章 マクロ経済学とは 1	経済の捉え方の切り口の基本を紹介していきます
3	序章 マクロ経済学とは 2	経済の捉え方の切り口の基本を紹介した上で、GDP の基本を学びます
4	マクロ経済を観察する 1（GDP）	GDP の基本を学び、実質と名目と物価の関係を学びます。

5	マクロ経済を観察する 3（物価）	物価統計の基本的な特徴を理解します
6	マクロ経済を観察する 4（失業率、景気）	労働市場関連統計と景気動向関連統計の基本的な仕組みを理解します。更に、金融と実体経済の関係を考察します
7	マクロ経済を支える金融市場 1	マネー、金利と金融市場の基礎を学びます
8	マクロ経済を支える金融市場 3	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
	貨幣の機能と中央銀行の役割 1	
9	貨幣の機能と中央銀行の役割 2	金融システムの安定化の意義を理解します
10	貨幣の機能と中央銀行の役割 3	中央銀行による経済政策（金融政策）の基本を学びます。財政の意義とその決まり方を把握します
11	財政の仕組みと機能 1	税制の基本を学びます
12	財政の仕組みと機能 2	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
13	演習	春学期に学んだ内容に関連する例題の演習を行います。対面授業の予定です。
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで 新版』（有斐閣、2020 年刊行の最新版を購入のこと）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S~D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C~D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明するように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

ECN100LA

マクロ経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

営 1 年 K~U / 営 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ればよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学Ⅰ）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期（マクロ経済学Ⅱ）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は 2021 年に作成されたばかりのオンデマンド映像と対面授業の組み合わせで実施の予定です（対面授業は状況によってはオンラインでの実施の可能性）。そして、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	GDP と金利の決まり方 1	総需要と物価の関係を学びます
2	GDP と金利の決まり方 2	総供給と物価の関係を学びます
3	GDP と金利の決まり方 3	金利と GDP の決まり方を考察します
4	総需要・総供給分析 1	物価が一定ではない世界の枠組みを理解します
5	総需要・総供給分析 2	マクロ的な均衡状態の背後で何が起きているのかを理解します

6	総需要・総供給分析 3	マクロ経済政策の役割を考察します
7	インフレとデフレ 1	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
8	インフレとデフレ 2	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
9	国際マクロ経済 1	海外との取引の計測の仕方を学びます
10	国際マクロ経済 2	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます、開放経済下での経済政策の効果を学びます
11	経済成長 1	経済成長モデルを使った分析を行います
12	経済成長 2	経済成長の要因を理解します
13	演習	例題に取り組みます
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで 新版』（有斐閣、2020 年刊行の最新版を購入のこと）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、+a として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S~D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C~D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行いう予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明するように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が 20 世紀の時代に何を探究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのように推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さえながら概観します。また、心理学の科学的手法に基づく知見や方法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決にどのように活用することができるのか、従来の心理学領域に加え、「平和心理学」や「ポジティブ心理学」による観点などにも敷衍して考察していきます。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の主眼とします。「心理学 II」を連続履修することで、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンライン授業となります。オンデマンド型を基本としますが、グループディスカッションの入る回は Zoom によるリアルタイム型となります（学期中、2 回ほど予定していますが、初回のガイダンスで具体的な日程と参加方法をお伝えします。なお、初回のガイダンスは、オンデマンド型で視聴いただく予定です）。オンデマンド型学習のために、学習支援システムと Google Classroom を併用します。学期中の通信手段は主にメールとなりますので、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「心理学 I」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第 2 回	私は誰（Who am I）？	社会の中の自己、様々な自己概念、「シリアスな自己紹介」
第 3 回	ゴッホはなぜ自分の耳を切り落としたのか？	心理臨床の諸アプローチとその根底にある人間観
第 4 回	異常性を定義する	「異常者のためのマニュアル」、心の障害、身近な異常性
第 5 回	子どもと青少年における社会性	社会的スキルとしての人間関係、不登校・いじめ
第 6 回	中間レポート：グループ発表と評価	「シリアスな自己紹介」（第 2 回授業）の発表・評価・提出
第 7 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）	個人と集団に対する社会的影響、「他者」という社会的関係性考

第 8 回	精神疾患か、それとも悪か？	暴力性の本質、道徳的排他性、モラルサークル
第 9 回	人間性を（再）定義する	「よい生き方」の科学の勃興、人間性と道徳性、向社会的行動
第 10 回	3つの「生きる」	「正常者のためのマニュアル」、才能、価値観、キャラクターストレス
第 11 回	なぜあの人より私の方が幸せなのか？	ポジティブな主観的経験、幸福感と個人差、心理的ウェルビーイング
第 12 回	「俺か、俺以外か。」を科学する	精神的に健康で、充実した人生を生きるための心理教育的アプローチ
第 13 回	期末試験	レポート（小論文）形式、オープンブック
第 14 回	「心理学 I」総括	授業内容の振り返り：心理学的な理想郷（ユートピア）は可能か？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしていただくことをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、春秋社、2012 年）
上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、中間レポート 30%、授業に関係するアクティビティ 30%

中間レポートは、授業内容に基づく出題となりますが、授業内でグループ発表と評価を行っていただきます（当日提出となります）。期末試験は、テスト形式ではなく、レポート（小論文）形式となります。

暗記による知識ではなく理解度を確認しますので、試験当日はオープンブック（補助資料等参照可）とします。
その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. In addition to the basic content of conventional psychology (which will be reviewed in Psychology I and Psychology II), further attention will be given to some emerging perspectives in psychological science, such as Peace Psychology and Positive Psychology, that are so critical in approaching possible solutions to modern day issues.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が 20 世紀の時代に何を探究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのように推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さえながら概観します。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の主眼とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンライン授業となります。オンデマンド型を基本としますが、グループディスカッションの入る回は Zoom によるリアルタイム型となります（学期中、2 回ほど予定していますが、初回のガイダンスで具体的な日程と参加方法をお伝えします。なお、初回のガイダンスは、オンデマンド型で視聴いただく予定です）。オンデマンド型学習のために、学習支援システムと Google Classroom を併用します。学期中の通信手段は主にメールとなりますので、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「心理学Ⅱ」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観
第 3 回	「知る」の探究（1）	視覚、形・空間・運動の知覚
第 4 回	「知る」の探究（2）	注意・バイアス、社会的知覚
第 5 回	「学ぶ」の探究	学習過程と条件づけ
第 6 回	「憶える」の探究	認知過程と記憶
第 7 回	「考える」の探究	高次認知過程と思考
第 8 回	「やる気」の探究（1）	学習性楽観（学習性無力感）、心理学的レジリエンス
第 9 回	「やる気」の探究（2）	動機づけのメカニズム
第 10 回	「感じる」の探究	主観的経験の本質、感情と身体的反応
第 11 回	「成長する」の探究	発達段階と知性、生涯発達とエイジング
第 12 回	「進化する」の探究	心と脳科学：認知と行動の生物学的基盤
第 13 回	期末試験	レポート（小論文）形式、オープンブック
第 14 回	「心理学Ⅱ」総括	授業内容の振り返り：「心の理論」は人間をどう捉えるのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『折れない心のつくりかた：はじめてのレジリエンスワークブック』（日本ポジティブ心理学協会著、すばる舎、2016 年）

上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、中間レポート 30%、授業に関係するアクティビティ 30%

中間レポートは、授業内容に基づく出題となります。

期末試験は、テスト形式ではなく、レポート（小論文）形式となります。

暗記による知識ではなく理解度を確認しますので、試験当日はオープンブック（補助資料等参照可）とします。

その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

法 1 年 A～H、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、教科書や関連する文献についてショートレポートを提出してもらう。

【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎週「学習支援システム：教材」にパワーポイントによる資料を掲載します。オンデマンド形式なので、学期末まで資料を閲覧できます。各章ごとに、復習問題を提示するので、各自資料を参考にして教科書をよく読み、取り組んでください。

尚、資料掲載は基本的に月曜日 13 時をめどとしますが、早まることもありますので学習支援システムを適宜チェックしてください。質問は「学習支援システム：授業掲示板」より受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第 2 回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第 3 回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第 4 回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第 5 回	子どもと学校生活	学校は楽しいか
第 6 回	子どもと情報通信メディア	子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第 7 回	からだと運動	からだと健康
第 8 回	ストレス	ストレスのとらえ方
第 9 回	ことば	言語発達の概要
第 10 回	知性	知能
第 11 回	創造性と学力	思考 創造性とは 学力とは
第 12 回	認知と思考	記憶
第 13 回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第 14 回	動機づけ	動機づけのメカニズム、学習への
第 15 回	内発的動機づけと外的報酬	動機づけ、言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響
第 16 回	無気力	学習性無力感 達成目標と無気力

第 14 回 まとめ

児童のこころの発達について、認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。
 2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
 3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころー児童心理学入門』

櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）

有斐閣アルマ，2014 年

2,100 円＋税

【参考書】

『学習意欲の心理学』 桜井茂男著 誠信書房，2010 年

『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男編著 有斐閣アルマ，2010 年

【成績評価の方法と基準】

課題に対するレポート提出により評価します。

課題の提示は 6 月末になりますので「学習支援システム：課題」をチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は履修者数が多く、オンライン授業のため、学生から授業に対する意見等を得ることができませんでした。

課題に対するレポート提出を数回求めましたが、理解度は概ね合格基準に達していましたので、オンライン授業を継続することもよいのではないかと思います。

【その他の重要事項】

教科書は必ず購入してください。

心理学 I、心理学 II を通じて同じ教科書を使います。

【Outline and objectives】

This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology, through short reports on related literature and texts.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法 1 年 A～H、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてる。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにする。

【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システム教材に ppt の資料を掲載します。ppt の資料を参考にして教科書をよく読み、各章ごとに提示される復習問題に各自取り組んでください。質問等は学習支援システムの授業掲示板で受け付けます。

基本的に資料は月曜日 13 時をまでに掲載しますが、早まることもありますので、適宜学習支援システムをチェックしてください。オンデマンド形式なので、資料は学期末まで閲覧できます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第 2 回	自分をよく知りたい	自己概念
第 3 回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第 4 回	人間関係	親・家族との関係
第 5 回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第 6 回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第 7 回	向社会的行動を支える 内的要因	共感と向社会的行動
第 8 回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第 9 回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第 10 回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第 11 回	ソーシャル・スキル・ トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングの具体例
第 12 回	子どもの心理臨床の流れ	場面緘黙の事例
第 13 回	遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第 14 回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみる。

・日頃から児童（子ども）を取り巻く現代環境に関心を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころ—児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣アルマ、2014 年新版、2100 円＋税

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題に対するレポート提出により評価します。

課題提示は 6 月末を目安としますので、学習支援システムの課題をチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は履修者数が多かったため、オンライン授業でした。学生から意見を得ることはできませんでしたが、課題に対するレポートは概ね合格基準に達していました。
オンライン授業でも、学生は授業内容を理解して行けることが示されたのではないのでしょうか。

【その他の重要事項】

心理学 I を履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

国 1 年、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が 20 世紀の時代に何を探究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのように推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さえながら概観します。また、心理学の科学的手法に基づく知見や方法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決にどのように活用することができるのか、従来の心理学領域に加え、「平和心理学」や「ポジティブ心理学」による観点などにも敷衍して考察していきます。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の主眼とします。「心理学 II」を連続履修することで、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンライン授業（オンデマンド型）となります。オンデマンド型学習のために、学習支援システムと Google Classroom を併用します。学期中の通信手段は主にメールとなりますので、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「心理学 I」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第 2 回	私は誰（Who am I）？	社会の中の自己、様々な自己概念、「シリアスな自己紹介」
第 3 回	ゴッホはなぜ自分の耳を切り落としたのか？	心理臨床の諸アプローチとその根底にある人間観
第 4 回	異常性を定義する	「異常者のためのマニュアル」、心の障害、身近な異常性
第 5 回	子どもと青少年における社会性	社会的スキルとしての人間関係、不登校・いじめ
第 6 回	中間レポート	「シリアスな自己紹介」（第 2 回授業）提出
第 7 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）	個人と集団に対する社会的影響、「他者」という社会的関係性
第 8 回	精神疾患か、それとも悪か？	暴力性の本質、道徳的排他性、モラルサークル

第 9 回	人間性を（再）定義する	「よい生き方」の科学の勃興、人間性と道徳性、向社会的行動
第 10 回	3 つの「生きる」	「正常者のためのマニュアル」、才能、価値観、キャラクターストレス
第 11 回	なぜあの人は私よりも幸せなのか？	ポジティブな主観的経験、幸福感と個人差、心理的ウェルビーイング
第 12 回	「俺か、俺以外か。」を科学する	精神的に健康で、充実した人生を生きるための心理教育的アプローチ
第 13 回	期末試験	レポート（小論文）形式、オープンブック
第 14 回	「心理学 I」総括	授業内容の振り返り：心理学的な理想郷（ユートピア）は可能か？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、春秋社、2012 年）
上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、中間レポート 30%、授業に関係するアクティビティ 30%

中間レポートは、授業内容に基づく出題となります。期末試験は、テスト形式ではなく、レポート（小論文）形式となります。暗記による知識ではなく理解度を確認しますので、試験当日はオープンブック（補助資料等参照可）とします。その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. In addition to the basic content of conventional psychology (which will be reviewed in Psychology I and Psychology II), further attention will be given to some emerging perspectives in psychological science, such as Peace Psychology and Positive Psychology, that are so critical in approaching possible solutions to modern day issues.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

国 1 年、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が 20 世紀の時代に何を探究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのように推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さえながら概観します。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の主眼とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンライン授業（オンデマンド型）となります。オンデマンド型学習のために、学習支援システムと Google Classroom を併用します。学期中の通信手段は主にメールとなりますので、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「心理学Ⅱ」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観
第 3 回	「知る」の探究（1）	視覚、形・空間・運動の知覚
第 4 回	「知る」の探究（2）	注意・バイアス、社会的知覚
第 5 回	「学ぶ」の探究	学習過程と条件づけ
第 6 回	「憶える」の探究	認知過程と記憶
第 7 回	「考える」の探究	高次認知過程と思考
第 8 回	「やる気」の探究（1）	学習性楽観（学習性無力感）、心理学的レジリエンス
第 9 回	「やる気」の探究（2）	動機づけのメカニズム
第 10 回	「感じる」の探究	主観的経験の本質、感情と身体的反応
第 11 回	「成長する」の探究	発達段階と知性、生涯発達とエイジング
第 12 回	「進化する」の探究	心と脳科学：認知と行動の生物学的基盤
第 13 回	期末試験	レポート（小論文）形式、オープンブック
第 14 回	「心理学Ⅱ」総括	授業内容の振り返り：「心の理論」は人間をどう捉えるのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『折れない心のつくりかた：はじめてのレジリエンスワークブック』（日本ポジティブ心理学協会著、すばる舎、2016 年）

上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、中間レポート 30%、授業に関係するアクティビティ 30%

中間レポートは、授業内容に基づく出題となります。

期末試験は、テスト形式ではなく、レポート（小論文）形式となります。

暗記による知識ではなく理解度を確認しますので、試験当日はオープンブック（補助資料等参照可）とします。

その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多岐にわたる心理学のなかで、よりアカデミックな領域を概観します。計量心理学、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、パーソナリティ心理学といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。

※参考：心理学Ⅱでは、認知心理学、発達心理学、感情心理学、社会心理学、臨床心理学といった分野を学びます。

【到達目標】

心理学とはどのようなものか理解することが目標です。

見えていなくても（見たいように）見てしまう、見えているのに見（え）ない。（いやでも）見る・気づく・気にする・考える（しかない）側から、（見たいものしか）見ない・気づかない・気にしない・考えない（で済む）側まで、「こころ」は我が儘です。「こころ」は、どこに・なぜ・どのようにあるか、「いのち」は、いつ始まり、終わるのか、「人権」とは何か。

「私は私」・「オレはオレ」というアイデンティティは、自生（天然）が成り立ちません。他者がいて自己になる。他者と相見（まみ）え初めて自己が立ち現れます。思春期・青年期の「第 2 の誕生」によって、自分が自分の「こころ・いのち（人権）」を産み出します。あなたは誰ですか。よりよく自分自身を生きたいですか…。

「こころ・いのち（人権）」について、感じ思い考える能力を身につけます。知識とともに潜在的な可能性（ポテンシャル）を磨き、決めつけや思い込みにとらわれず、新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢（キャパシティ）を増やします。主体的・批判的に検討し、的確な意見を論じることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。いろいろな事情や背景があるので、リアルタイム中継は実施しません。曜日・時限の設定は履修登録に必須だけで、いつでもアクセス可能です。

参照：【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【成績評価の方法と基準】【学生の意見等からの気づき】

指定テキスト（教科書）の独学独習が要件です。「授業計画」として示す（仮想）日程を目安に、それぞれのペースで読み進めます。合わせて、Hoppii（学習支援システム）の「お知らせ・アナウンス」および「授業内掲示板」に目を通し、投稿（コメント）・議論することが基本です。受け身でいたら、面白くも愉しくもなく、訳が分からないままになりかねません。

「お知らせ・アナウンス」：おおむね週 1 回（水曜を予定）配信。登録アドレス宛てメールでも届けます（真夜中や未明・早朝の際に備え、通知音オフ推奨）。ときにはテキストの解説や補助教材の案内もしますが、（参考書代わり？）折々のモノ・コトを紹介し、コメントへのリプライ・フィードバック、SNS の引用、記事や資料、動画（へのリンク）を伝えます。

「授業内掲示板」：テキストの内容に限らず（概略報告は無用です）、アナウンスや他の学生の投稿・コメントその他に関して、質問や感想・意見・主張を書き込むことが、「授業」参加になります。匿名（いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かったという少しディストピア的な）設定です。「返信」を用いて、学生どうし多彩な意見交換を試みてください。日々の鬱憤や悩みの相談・雑談、オススメまで、自由な対話を通し、互いに見解（意見と理解）を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他について
2	「心」は目に見えない…	計量心理学〔テキスト序章①〕
3	「心」を測定する？	計量心理学〔テキスト序章②〕
4	目は「心」の一部？	知覚心理学〔テキスト第 1 章①〕
5	何を・どのように見ている？	知覚心理学〔テキスト第 1 章②〕
6	「心」は見えないが行動は見える？	学習心理学〔テキスト第 2 章①〕
7	刺激-反応-結果で説明できる？	学習心理学〔テキスト第 2 章②〕
8	ヒトの「心」の特徴は？	進化心理学〔テキスト第 3 章①〕
9	学び教える「心」	進化心理学〔テキスト第 3 章②〕
10	「心」は脳にある？	神経心理学〔テキスト第 4 章①〕
11	「心」は電気信号？	神経心理学〔テキスト第 4 章②〕
12	それぞれの心にそれぞれ	パーソナリティ心理学〔テキスト第 5 章①〕
13	知能は測定できる？	パーソナリティ心理学〔テキスト第 5 章②〕
14	おまけ	掲示板への投稿締切

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 回あたりの準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間（計 4 時間）を標準〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とします。

といっても（オンライン・オンデマンドゆえ）、いつも「授業時間外の学習」？ 心身の調子を整え、うまく各自の都合で時間配分しつつ、テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他を読み解き、投稿を進めます。「何を覚えるか」ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

金沢 創・市川寛子・作田由衣子 2015 ゼロからは始める心理学・入門―人の心を知る科学 有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150225>

必ず用意してください。版元品切れになりがちです。大学生協の通信販売も活用し、早めに入手してください。

【参考書】

とくに指定しません。「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」その他、随時あれこれを参考にします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）：「授業内掲示板」での動向を通して、何を・いつ・なぜ・どのように感じ思い考えてきたか拝察します。

テキストのみならず、「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」、各々が見出した文献、Web サイト、動画、マンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画などを味わい、それらと日常とを結びつけた感想や意見・主張、問題提起を任意に、しかし数回くらいは投稿・コメントしてください。レポートのようになっても構いません。ファイル添付も可能です。短文の連打も歓迎します。そこに表（さ）れる内容から、テキストその他の読み込み具合、味わい方、取り組む姿勢・態度を推し測ります。

裏付けとなる根拠が明らかな論述はもちろん、奔放な相談や雑談、対話にさへも、主体的・批判的に学び調べ、何を理解し、どのように「こころ・いのち（人権）」について感じ思い考えてきたか、相当程度、くつきりと示されますから、労力と時間は膨大にかかりますが、存分に評定できます（します）。

【学生の意見等からの気づき】

初めて本格的な(?) オンライン・オンデマンドとなった 2020 年度秋学期「心理学Ⅱ」・「心理学 LB」の「授業改善アンケート」（匿名）と「授業内掲示板」に寄せられた記述の幾つか（意味を変えない範囲で文体など差し替えました）を「気づき」とします。

まず6点、もっともな不信・不審や疑念に対する言い訳です。いずれも用心していきます。

(1) 春学期、掲示板で匿名がはがれたことがあった。これは絶対に避けなければいけないことだ。

(2) 先生自身も学生に成りすまして自問自答のようなことをしていたがどういう意図なのか？

〈言い訳1〉掲示板は、「投稿者を表示する」というデフォルト(初期)設定を改変し、匿名にしています。ところが春学期、投稿締切(掲示板の閉鎖)時に、(閉鎖後のアクセスを予定しない)デフォルトに戻ってしまい、匿名設定が解除されるエラーが生じました。急いで再び匿名設定にしたものの、反映まで時間がかかったようです。済みませんでした。その後は、支障なかったはずです。

〈言い訳2〉この「匿名がはがれた」時間帯、「学生に成りすまして自問自答」しているようなケースが見えたかもしれません。「授業内掲示板」は科目別で、当該科目に登録した学生しか読み書きできず、海部担当の5科目で共有する仕組みがないため、春学期の初め、共有したい投稿を海部が「コピペ」していました。たとえば学生(匿名)の質問に海部(は名乗ります)が回答したとき、その投稿を海部が「コピペ」すると、当該科目以外では「海部が(匿名で)質問し、海部が回答する」形になります。ほかにも、オスズの投稿などを「コピペ」していました。「匿名がはがれた」ときにアクセスしたら、「成りすまして自問自答」していると映るでしょう。怪しく不可解に感じて当然です。申し訳ありません。

(3-1) お知らせが見づらい。

(3-2) 毎回共通アナウンスというお知らせがあるが、文章が複雑で何を伝えたいのか考えてもまいちわからなかった。

〈言い訳3〉率直に指摘くださり、感謝します。「お知らせ・アナウンス」は細切れの引用やリンクが多くて、掲示板も合わせ、継続する流れが分かりづらく、独り善がりが目立ってしまったと思います。個別に意見や批判をいただいたときなど、次の回でのリプライ・フィードバックを試みてはいたのですが、不行き届きをお許しください。

(4) 成績評価が曖昧だという印象をぬぐい切れなかった。

〈言い訳4〉成績評価は、俗に言う「量よりも質」で、数値・数量化した基準を示すことができず、ご不満を招く覚悟です。プロセスは次のとおりです。春学期は合計7000件ほど、(例年、履修登録が減る)秋学期も5000件近い投稿その他を頂戴しました。リアルタイムで(誰の投稿であるかは不明ながら転送メールにて内容のみ)その都度、拝読した後、「いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かる」設定の掲示板で再読・再々読を繰り返し、「既読としてマーク」の状況も確認して、特定の例は、まとめて読み直します。そのうえで学期末に、それぞれの投稿(「返信」や直接いただいたメールを含む)その他を、改めて個々別々に(個人別に)整理し、「いつ誰が何を書いたか・読んだか」すべてを精査します。おのずと浮き彫りになる生成・変化・展開の様相も踏まえて採点し、(S～E)の12段階で評価します。

(5-1) Zoom等は使用しないにしろ各週での課題を提示してくれたほうが取り組みやすかった。

(5-2) 提出必須の課題を出してほしかった。

〈言い訳5〉Zoom等は得手不得手に加え、通信環境の事情・背景もあり、使用しません。また、恐縮ですが、「各週での課題」は嫌悪・苦痛しかないという声が圧倒的だと認識しています。それでも、ときどき、各々のペースでレポートや小論文を提出くだされば受け取る旨は案内し、実際に掲示板への投稿(もしくは直接のメール)にファイル添付された方が少なくありませんでした。海部は、一方的に「教える」のではなく、設問形式の課題も提示しません。何かを紹介し、意見交換や議論を通じて、ともに学び合うことを重視します。まして、「正解」や「最適解」を1つに絞れず、見つけることすら難しい「ここら・いのち(・人権)」については、じっくりと各自で試行(思考)錯誤してくださるよう望みます。

(6-1) リアルタイム授業を何回か開いてほしかった。

(6-2) せめて動画授業をするなど、先生が顔と声を出して対面してほしかった。大学の授業において、最後までどんな先生が授業をしているのか分からないのはおかしいと感じた。残念。

〈言い訳6〉そうですね。もしリクエストがあるなら、顔と声がどんなふうであるかくらいは知らせるようになりますか。けれども海部は、表情や視線、口調、身振り素振り、動作、姿勢・態度、距離感、関心の向き、構え、といった何らかがないと、率直で親密な対話・コミュニケーションを組み立てられないので、オンライン併用の「リアルタイム授業」や対面同様の「動画授業」は困難です。そもそも「業(わざ)」を授(さず)ける」器量がなく、「対面」でも「義(条理)」を講じる(説明する)」講義しかできません。「面談」は好きですが…。

以下は、ひきつづき大切にしたい観点です。

※いろいろ考え悩んでるのが自分1人じゃないんだって思うだけでかなり気持ちが楽になった。

※匿名でなかったら言えないことも言える。同じような意見や考えの人がいることに気づけて、自分だけではなかったんだと思った。

※匿名だからこそ言える、他の人が普段考えてる事だったり不安に思ってる事だったり聞けて、同じような悩みを持ってる人は自分だけじゃないんだと知れた。匿名で様々な意見を交換できるというオンラインの良さを活用した授業、とても楽しかった。

※オンラインならではの方式で、新鮮だった。匿名の環境下、他の受講者とコミュニケーションをとるのが楽しかった。

※たくさんの学生が意見交流していて、オンラインの利点を生かしているなあと思う。

※ふだんなら相談しないことや考えないことを書き込めて楽しかった。

※普段の生活における疑問、意見の吐口となってくれた。匿名だからこそ、話せること、聞けることが沢山あった。

※自分の考えを躊躇することなく伝えることができて良かった。

※日常の愚痴などもたくさん見て、共感できたり新鮮だった。

※みんなの本音が知れて面白かった。

※他の生徒がどのように感じているのかを読むことが出来たのでとてもいい工夫がされていたのではないかな。

※多くの受講生のほとんど正直な意見を見ることができ、意見交換できたことが良かった。

※教科書に対する意見やプライベートな話を読んで、顔は見えていなくてもその時だけは、同じ空間で繋がっているような気がした。

※人との繋がりを感ずることが出来たことや、同じように悩む人がいると分かったことは、今年大学1年生で友達がいなかった自分にとって大きな心の支えになった。

※孤独や不安を感じることも多かった状況の中でコミュニケーションを取ることでできる大切な場になっていた。コメントで会話したり、様々な意見を讀んだりすることがとても楽しかった。

※異例の事態で、生徒間、先生-生徒間の交流が失われた中、この掲示板を見ている時は皆との距離が縮まったように感じられた。

※書き込むことで皆さんとつながっている気持ちになり、大学生になったことを唯一実感できる場だった。

※慣れないことばかりで肉体的にも精神的にも辛い期間を、時には自分の思いや弱音を吐き出し、時には誰かの思想に触れ、時には共感しながら過ごせる大切な場所だった。

※課題に追われず、自分の興味関心と精神状態に合わせて無理なく学ぶことができた。

※時間に縛られることなく、参加できたのはよかった。

※のびのびと参加することができて良かった。

※自分のペースで学習がしやすく、掲示板もしっかり活用できてとても充実した。

※いつでも、またどんなことでも掲示板に書き込めるため縛られている感じがなくてよかった。

※自分に合った方法で参加することができ、掲示板が上手く利用されていた。自由性が高く、匿名で他の人の投稿に意見できたり、逆にアドバイスをもらうことができていたりしてとても楽しかったし、ステイホーム期間の心の支えになってくれた。

※自分とは何なのか、感情・行動とは何なのかを1人でじっくり考える機会を作ることが出来た。

※自分について考える時間が増えた。教科書に書いてあることに自分を重ねたり、自分の内面に意識を向けたりしながら読み進めたからだと思う。これまで時間を取って自分についてじっくり考える、ということをしてこなかったの、改めて自分について客観的に考えることができて良かった。

※常に新しい発見ができ、テキストを読み進めるにつれて自分で考える力を養うことができた。

※テキストを読み、意見交換することで色々な認識が変わった。これからも自分とは何か、心とは何か考え続けていきたい。

※他人との交流や違った視点の意見を聞くことの大切さを改めて実感した。たくさんの視点からのコメントに触れることで理解が深まった。

※さまざまな方々の意見に触れることで、普段は知り得ないような意見をたくさん知ることができた。

※様々な考え方に触れることができて楽しかった。また、考えさせられる機会を得ることができ、良い経験であった。

※他の生徒の意見などを見ることが出来たのが私にとってすごく新鮮で、こういう考えもあるんだと、そういう面でも学ぶことが出来た。

※先生や他学生との議論で自身の考えを発信し、異なる意見を聞くなどして理解を深めることができた。

※さまざまな方とコミュニケーションをとるのがとても楽しかったし、みなさんの鋭い視点に毎日驚かされ新鮮な日々だった。

※見ず知らずの人が私が書き込んだことに反応してくれて嬉しかった。人の心や脳は難しく、けど面白いと思った。

※匿名だからこそ自由に、素直な気持ちを述べることができた。様々な人の様々な意見を知ることができた。年が同じまたは近い人の意見とは思えないような達観した鋭い指摘がたくさんあり、視野を広げることができる良い機会となった。

※匿名だからこそ話すことのできる主張を学生が出来る場で、自分とは異なる様々な意見に触れることが出来た。

※自分の心を見つめ直すきっかけに繋がった。自分がほんやりと感じていたことを、何が原因でどういう仕組みでそう感じたのか知るのには、自分の心を分析していくようでもとても面白かった。

※自分と向き合う機会が得られたことで、自分自身の知らなかった部分を知ることができた。

※自分のネガティブな面について詳しく知れて良かった。

※様々な考えや知識をインプットするだけでなく、自分の学びをアウトプットすることによって、普段は気にすることのない自分の考え方やものの見方などに気づくことができた。

※思ったことをためらわずに書き込める。自分の心で思っていることを文章にすることはとても難しい。そのもやもやを言葉としての形にする訓練ができる場であった。

※考え方の多様性を実感し、また自分自身も改めて自分の考えを深め言語化することができ、勉強になった。

※教科書の内容である知識はもちろんのこと、紹介された様々な問題に触れることによって人の数だけ考え方が存在し、それを理解できなくとも認め合うことの大切さを感じた。

※日常生活の様々な場面で「こころ」に目を向けることができるようになったと実感している。

※以前より自分の視野が広がり、人の気持ちについて考える機会が多くなった。

※投稿や題材には考えさせられ、とても良い刺激と学習になった。

※タイムリーな話題や重要な事例を毎週まとめて知らせてくれるのが良かった。

※毎週のアナウンスと掲示板のコメントを読んで、色んな問題やそれに対する意見・価値観を知ることが出来た。

※現代の社会問題や時事問題を取り上げていて、週1のメッセージだけでも多くのことをまなぶことができる有意義な時間だった。

※社会の色んな問題や現実を知り、それに対する皆さんの意見や考えを知ることができたので新しい見方や価値観を学ぶことができた。

※毎週のお知らせが結構救いになったり、考えさせられたりした。色々な気づきを得ることができた。

※お知らせがとても分かりやすく、また考えさせられるものだった。

※示された記事や社会問題などを通じて色々なことを考える機会が沢山あり、自分の考えや思っていることを改めて再認識することが出来た。

※時事的な内容と心理学が結び付けられていて、ニュースでは考えられない考えを得ることが出来た。

※様々な話を読む中で、自分の経験や知識がとても狭いものだというところにも気付かされた。心理学ということで、はじめは他者の心理を理解していくつもりで履修していたが、1年間で自分自身の内面も見つめ直す良い機会になった。オンラインでも人との関わりがあることを確認できた。

※様々な社会問題や性差別問題などに対して、自身の意見を持っている人がこんなにも多いのかと驚いた。

※自分が考えたこともないような悩みを抱えている人がいることを知った。もっと世間のことに目を向けるべきであると感じた。

※特に差別のことについて考えさせられた。当たり前と思っていたことがよく考えてみると変だったり過程を知ると気持ち悪かったり、多くのことを学べた。

※いろいろな意見を読んで、批判すること・指摘することは大事だと分かった。批判しても何も変わらない、損しかしないと思っていた。しかし、批判することも必要。そして、自分では考えられないような・知らなかったような立場の人の意見は、耳が痛くなることもあるけど、目を背けずに、発してくれた人に感謝する。意見は、世の中の生きづらい人を失くしていくための材料であると分かった。

※とても良い仕組みだと感じた。固定観念や一般常識にとらわれないものの見方を学ぶことが出来た。

※前は“ふつう”だと思っていたことに、少しずつだが、“これって実はおかしいんじゃない？”と気付けるようになった。

※社会問題について考える時間が増えたなと思った。今までなら素通りしていたニュースや疑問、おかしいと思う気持ちをしっかりと自分の中で考える時間を作ることができた。匿名ということもあって様々な意見に触れることができたり、同じ考えを持つ人から返信をいただくことができたりと、対面でないからこそその学びを得ることができ楽しかった。

※悩みや社会の情勢についての意見などを多くの人と共有できる形がとても良かった。自分の意見にコメントをもらえたり共感してもらえたととても嬉しいと感じた。顔が見えなかったり発信者がわからないことによって、より深くまで関わることもできたのではないかな。心理学ならではの形態がとても良かった。

【その他の重要事項】

- (1) 心理学Ⅰ(春学期)と心理学Ⅱ(秋学期)は連動するため、続けるの履修を期待します。心理学Ⅱ(秋学期)は、ガイダンスなしで、いきなり始めます。
- (2) 年度や受講生によって講義のスタイルを変えます。“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。
- (3) 臨床心理士として、生きづらく悩んでいる **and/or** 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病気」、「心の性」、「心神喪失・耗弱(こうじゃく)」、「責任能力」の検証も必要でした。責任 (**responsibility**) とは、反応する (**response**) 能力 (**ability**) です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不穏や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自家中毒・矛盾・煩悶(はんもん)を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪(たま)らない方ばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事? 「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち(・人権)」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。
- (4) オフィスアワー(お喋りタイム?)は、原則として木曜の4時限ないし5時限に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、[授業内掲示板]または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

This subject is an introduction to psychology. We survey fundamentals of psychology in the academic areas such as psychometrics, perceptual psychology, psychology of learning, evolutionary psychology, neuro-psychology, and personality psychology.

* Note : Psychology II, We learn areas such as cognitive psychology, developmental psychology, psychology of emotion, social psychology, and clinical psychology.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多岐にわたる心理学のなかで、よりアカデミックな領域を概観します。認知心理学、発達心理学、感情心理学、社会心理学、臨床心理学といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。
※参考：心理学Ⅰでは、計量心理学、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、パーソナリティ心理学といった分野を学びます。

【到達目標】

心理学とはどのようなものか理解することが目標です。見えていなくても（見たいように）見てしまう、見えているのに見（え）ない。（いやでも）見る・気づく・気にする・考える（しかない）側から、（見たいものしか）見ない・気づかない・気にしない・考えない（で済む）側まで、「こころ」は我が儘です。「こころ」は、どこに・なぜ・どのようにあるか、「いのち」は、いつ始まり、終わるのか、「人権」とは何か。

「私は私」・「オレはオレ」というアイデンティティは、自生（天然）が成り立ちません。他者がいて自己になる。他者と相見（まみ）え初めて自己が立ち現れます。思春期・青年期の「第 2 の誕生」によって、自分が自分の「こころ・いのち（人権）」を産み出します。あなたは誰ですか。よりよく自分自身を生きたいですか…。

「こころ・いのち（人権）」について、感じ思い考える能力を身につけます。知識とともに潜在的な可能性（ポテンシャル）を磨き、決めつけや思い込みにとらわれず、新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢（キャパシティ）を増やします。主体的・批判的に検討し、的確な意見を論じることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。いろいろな事情や背景がある中で、リアルタイム中継は実施しません。曜日・時限の設定は履修登録に必須だけで、いつでもアクセス可能です。

参照：【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【成績評価の方法と基準】【学生の意見等からの気づき】

指定テキスト（教科書）の独学独習が要件です。「授業計画」として示す（仮想）日程を目安に、それぞれのペースで読み進めます。合わせて、Hoppii（学習支援システム）の「お知らせ・アナウンス」および「授業内掲示板」に目を通し、投稿（コメント）・議論することが基本です。受け身でいたら、面白くも愉しくもなく、訳が分からないままになりかねません。

「お知らせ・アナウンス」：おおむね週 1 回（水曜を予定）配信。登録アドレス宛てメールでも届けます（真夜中や未明・早朝の際に備え、通知音オフ推奨）。ときにはテキストの解説や補助教材の案内もしますが、（参考書代わり？）折々のモノ・コトを紹介し、コメントへのリプライ・フィードバック、SNS の引用、記事や資料、動画（へのリンク）を伝えます。

「授業内掲示板」：テキストの内容に限らず（概略報告は無用です）、アナウンスや他の学生の投稿・コメントその他に関して、質問や感想・意見・主張を書き込むことが、「授業」参加になります。匿名（いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かったという少しディストピア的な）設定です。「返信」を用いて、学生どうし多様な意見交換を試みてください。日々の鬱憤や悩みの相談・雑談、オススメまで、自由な対話を通し、互いに見解（意見と理解）を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「心」は機械で置き換えられる？	認知心理学〔テキスト第 6 章①〕
2	記憶はどこにある？	認知心理学〔テキスト第 6 章②〕
3	ヒトは白紙で生まれてくる？	発達心理学〔テキスト第 7 章①〕
4	発達にとって何が重要？	発達心理学〔テキスト第 7 章②〕
5	表情から感情がわかる？	感情心理学〔テキスト第 8 章①〕
6	感情の役割って？	感情心理学〔テキスト第 8 章②〕
7	いい人？ 悪い人？	社会心理学〔テキスト第 9 章①〕
8	文化が違って見ても見るものは同じ？	社会心理学〔テキスト第 9 章②〕
9	なんだかいやな気持ち/ストレスと欲求不満	臨床心理学〔テキスト第 10 章①〕
10	ストレスへの対処	臨床心理学〔テキスト第 10 章②〕
11	発達の「障害」と発達の偏りと多様性：臨床心理学は？ / 種類と多様性	臨床心理学〔テキスト第 11 章〕
12	「心」の問題へのアプローチ	アセスメントと支援：臨床心理学〔テキスト第 12 章①〕
13	「支援」とは何か	アセスメントと支援：臨床心理学〔テキスト第 12 章②〕
14	おまけ	掲示板への投稿締切

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 回あたりの準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間（計 4 時間）を標準〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とします。

といっても（オンライン・オンデマンドゆえ）、いつも「授業時間外の学習」？ 心身の調子を整え、うまく各自の都合で時間配分しつつ、テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他を読み解き、投稿を進めます。「何を覚えるか」ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

金沢 創・市川寛子・作田由衣子 2015 ゼロからはじめる心理学・入門一人の心を知る科学 有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150225>

必ず用意してください。版元品切れになりがちです。大学生協の通信販売も活用し、早めに入手してください。

【参考書】

とくに指定しません。「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」その他、随時あれこれを参考にします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）：「授業内掲示板」での動向を通して、何を・いつ・なぜ・どのように感じ思い考えてきたか拝察します。

テキストのみならず、「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」、各々が見出した文献、Web サイト、動画、マンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画などを味わい、それらと日常とを結びつけた感想や意見・主張、問題提起を任意に、しかし数回くらいは投稿・コメントしてください。レポートのようになっても構いません。ファイル添付も可能です。短文の連打も歓迎します。そこに表（さ）れる内容から、テキストその他の読み込み具合、味わい方、取り組む姿勢・態度を推し測ります。

裏付けとなる根拠が明らかな論述はもちろん、奔放な相談や雑談、対話にさへも、主体的・批判的に学び調べ、何を理解し、どのように「こころ・いのち（人権）」について感じ思い考えてきたか、相当程度、くつきりと示されますから、労力と時間は膨大にかかりますが、存分に評定できます（します）。

【学生の意見等からの気づき】

初めて本格的な(?) オンライン・オンデマンドとなった 2020 年度秋学期「心理学Ⅱ」・「心理学 LB」の「授業改善アンケート」(匿名)と「授業内掲示板」に寄せられた記述の幾つか(意味を変えない範囲で文体など差し替えました)を「気づき」とします。

まず 6 点、もっともな不信・不審や疑念に対する言い訳です。いずれも用心していきます。

(1) 春学期、掲示板で匿名がはがれたことがあった。これは絶対に避けなければいけないことだ。

(2) 先生自身も学生に成りすまして自問自答のようなことをしていたがどういう意図なのか？

〈言い訳 1〉掲示板は、「投稿者を表示する」というデフォルト(初期)設定を改変し、匿名にしています。ところが春学期、投稿締切(掲示板の閉鎖)時に、(閉鎖後のアクセスを予定しない)デフォルトに戻ってしまい、匿名設定が解除されるエラーが生じました。急いで再び匿名設定にしたものの、反映まで時間がかかったようです。済みませんでした。その後は、支障なかったはずです。

〈言い訳 2〉この「匿名がはがれた」時間帯、「学生に成りすまして自問自答」しているようなケースが見えたかもしれません。「授業内掲示板」は科目別で、当該科目に登録した学生しか読み書きできず、海部担当の 5 科目で共有する仕組みがないため、春学期の初め、共有したい投稿を海部が「コピペ」していました。たとえば学生(匿名)の質問に海部(は名乗ります)が回答したとき、その投稿を海部が「コピペ」すると、当該科目以外では「海部が(匿名で)質問し、海部が回答する」形になります。ほかに、オススメの投稿などを「コピペ」していました。「匿名がはがれた」ときにアクセスしたら、「成りすまして自問自答」しているかと映るでしょう。怪しく不可解に感じて当然です。申し訳ありません。

(3-1) お知らせが見づらい。

(3-2) 毎回共通アナウンスというお知らせがあるが、文章が複雑で何を伝えたいのか考えてもいまいちわからなかった。

〈言い訳 3〉率直に指摘くださり、深謝します。「お知らせ・アナウンス」は細切れの引用やリンクが多くて、掲示板も合わせ、継続する流れが分かりづらく、独り善がりが目立ったと思います。個別に意見や批判をいただいたときなど、次の回でのリプライ・フィードバックを試みてはいたのですが、不行き届きをお許しください。

(4) 成績評価が曖昧だという印象をぬぐい切れなかった。

〈言い訳 4〉成績評価は、俗に言う「量よりも質」で、数値・数量化した基準を示すことができず、ご不満を招く覚悟でいます。プロセスは次のとおりです。春学期は合計 7000 件ほど、(例年、履修登録が減る)秋学期も 5000 件近い投稿その他を頂戴しました。リアルタイムで(誰の投稿であるかは不明ながら転送メールにて内容のみ)その都度、拝読した後、「いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かる」設定の掲示板で再読・再々読を繰り返し、「既読としてマーク」の状況も確認して、特定の例は、まとめて読み直します。そのうえで学期末に、それぞれの投稿(「返信」や直接いただいたメールを含む)その他を、改めて個々別々に(個人別に)整理し、「いつ誰が何を書いたか・読んだか」すべてを精査します。おのずと浮き彫りになる生成・変化・展開の様相も踏まえて採点し、(S~E)の 12 段階で評価します。

(5-1) Zoom 等は使用しないにしろ各週での課題を提示してくれたほうが取り組みやすかった。

(5-2) 提出必須の課題を出してほしかった。

〈言い訳 5〉Zoom 等は得手不得手に加え、通信環境の事情・背景もあり、使用しません。また、恐縮ですが、「各週での課題」は嫌悪・苦痛しかないという声が圧倒的だと認識しています。それでも、ときどき、各々のペースでレポートや小論文を提出くだされば受け取る旨は案内し、実際に掲示板への投稿(もしくは直接のメール)にファイル添付された方が少なくありませんでした。海部は、一方的に「教える」のではなく、設問形式の課題も提示しません。何かを紹介し、意見交換や議論を通じて、ともに学び合うことを重視します。まして、「正解」や「最適解」を 1 つに絞れず、見つけることすら難しい「こころ・いのち(・人権)」については、じっくりと各自で試行(思考)錯誤してくださるよう望みます。

(6-1) リアルタイム授業を何回か開いてほしかった。

(6-2) せめて動画授業をするなど、先生が顔と声を出して対面してほしかった。大学の授業において、最後までどんな先生が授業をしているのか分からないのはおかしいと感じた。残念。

〈言い訳 6〉そうですね。もしリクエストがあるなら、顔と声がどんなふうであるかくらいは知らせるようにしますか。けれども海部は、表情や視線、口調、身振り素振り、動作、姿勢・態度、距離感、関心の向き、構え、といった何らかがないと、率直で親密な対話・コミュニケーションを組み立てられないので、オンライン併用の「リアルタイム授業」や対面同様の「動画授業」は困難です。そもそも「業(わざ)を授(さず)ける」器量がなく、「対面」でも「義(条理)」を講じる(説明する)講義しかできません。「面談」は好きですが…。以下は、ひきつづき大切にしたい観点です。

※いろいろ考え悩んでるのが自分 1 人じゃないんだなって思うだけではない気持ちが楽になった。

※匿名でなかったら言えないことも言える。同じような意見や考えの人がいることに気づけて、自分だけではなかったんだと思った。※匿名だからこそ言える、他の人が普段考えてる事だったり不安に思ってる事だったり聞けて、同じような悩みを持つてる人は自分だけじゃないんだと知れた。匿名で様々な意見を交換できるというオンラインの良さを活用した授業、とても楽しかった。

※オンラインならではの方式で、新鮮だった。匿名の環境下、他の受講者とコミュニケーションをとるのが楽しかった。

※たくさん学生が意見交流していて、オンラインの利点を生かしているなあと思う。

※ふだんなら相談しないことや考えないことを書き込めて楽しかった。

※普段の生活における疑問、意見の吐口となってくれた。匿名だからこそ、話せること、聞けることが沢山あった。

※自分の考えを躊躇することなく伝えることができて良かった。

※日常の愚痴などもたくさん見て、共感できたり新鮮だった。

※みんなの本音が知れて面白かった。

※他の生徒がどのように感じているのかを読むことが出来たのでとてもいい工夫がされていたのではないかな。

※多くの受講生のほとんど正直な意見を見ることができ、意見交換できたことが良かった。

※教科書に対する意見やプライベートな話を読んで、顔は見えていなくてもその時だけは、同じ空間で繋がっているような気がした。

※人との繋がりを感ずることが出来たことや、同じように悩む人がいると分かったことは、今年大学 1 年生で友達がいない自分にとって大きな心の支えになった。

※孤独や不安を感じることも多かった状況の中でコミュニケーションを取ることでできる大切な場になっていた。コメントで会話したり、様々な意見を読んだりすることがとても楽しかった。

※異例の事態で、生徒間、先生-生徒間の交流が失われた中、この掲示板を見ている時は皆との距離が縮まったように感じられた。

※書き込むことで皆さんとつながっている気持ちになり、大学生になったことを唯一実感できる場だった。

※慣れないことばかりで肉体的にも精神的にも辛い期間を、時には自分の思いや弱音を吐き出し、時には誰かの思想に触れ、時には共感しながら過ごせる大切な場所だった。

※課題に追われず、自分の興味関心と精神状態に合わせて無理なく学ぶことができた。

※時間に縛られることなく、参加できたのはよかった。

※のびのびと参加することができて良かった。

※自分のペースで学習がしやすく、掲示板もしっかり活用できてとても充実した。

※いつでも、またどんなことでも掲示板に書き込めるため縛られている感じがなくてよかった。

※自分に合った方法で参加することができ、掲示板が上手く利用されていた。自由性が高く、匿名で他の人の投稿に意見できたり、逆にアドバイスをもらうことができていたりしてとても楽しかったし、ステイホーム期間の心の支えになってくれた。

※自分とは何なのか、感情・行動とは何なのかを 1 人でじっくり考える機会を作ることが出来た。

※自分について考える時間が増えた。教科書に書いてあることに自分を重ねたり、自分の内面に意識を向けたりしながら読み進めたからだと思う。これまで時間を取って自分についてじっくり考える、ということをしてこなかったの、改めて自分について客観的に考えることができて良かった。

※常に新しい発見ができ、テキストを読み進めるにつれて自分で考える力を養うことができた。

※テキストを読み、意見交換することで色々な認識が変わった。これから自分とは何か、心とは何か考え続けていきたい。

※他人との交流や違った視点の意見を聞くことの大切さを改めて実感した。たくさんの視点からのコメントに触れることで理解が深まった。

※さまざまな方々の意見に触れることで、普段は知り得ないような意見をたくさん知ることができた。

※様々な考え方に触れることができて楽しかった。また、考えさせられる機会を得ることができ、良い経験であった。

※他の生徒の意見などを見ることが出来たのが私にとってすごく新鮮で、こういう考えもあるんだと、そういった面でも学ぶことが出来た。

※先生や他学生との議論で自身の考えを発信し、異なる意見を聞くなどして理解を深めることができた。

※さまざまな方とコミュニケーションをとるのがとても楽しかったし、みなさんの鋭い視点に毎日驚かされ新鮮な日々だった。

※見ず知らずの人が私が書き込んだことに反応してくれて嬉しかった。人の心や脳は難しく、けど面白いと思った。

※匿名だからこそ自由に、素直な気持ちを述べる事ができた。様々な人の様々な意見を知ることができた。年が同じまたは近い人の意見とは思えないような達観した鋭い指摘がたくさんあり、視野を広げることができると感じた。

※匿名だからこそ話すことのできる主張を学生が出来る場で、自分とは異なる様々な意見に触れることが出来た。

※自分の心を見つめ直すきっかけに繋がった。自分がほんやりと感じていたことを、何が原因でどういう仕組みでそう感じたのか知るの、自分の心を分析していくようでとても面白かった。

※自分と向き合う機会が得られたことで、自分自身の知らなかった部分を知ることができた。

※自分のネガティブな面について詳しく知れて良かった。

※様々な考えや知識をインプットするだけでなく、自分の学びをアウトプットすることによって、普段は気にすることのない自分の考え方・ものの見方などに気づくことができた。

※思ったことをためらわずに書き込める。自分の心で思っていることを文章にすることはとても難しい。そのもやもやを言葉としての形にする訓練ができる場であった。

※考え方の多様性を実感し、また自分自身も改めて自分の考えを深め言語化することができ、勉強になった。

※教科書の内容である知識はもちろんのこと、紹介された様々な問題に触れることによって人の数だけ考え方が存在し、それを理解できなくとも認め合うことの大切さを感じた。

※日常生活の様々な場面で「こころ」に目を向けることができるようになったと実感している。

※以前より自分の視野が広がり、人の気持ちについて考える機会が多くなった。

※投稿や題材には考えさせられ、とても良い刺激と学習になった。

※タイムリーな話題や重要な事柄を毎週まとめて知らせてくれるのが良かった。

※毎週のアナウンスと掲示板のコメントを読んで、色んな問題やそれに対する意見・価値観を知ることが出来た。

※現代の社会問題や時事問題を取り上げていて、週1のメッセージだけでも多くのことをまなぶことができる有意義な時間だった。

※社会の色々な問題や現実を知り、それに対する皆さんの意見や考えを知ることができたので新しい見方や価値観を学ぶことができた。

※毎週のお知らせが結構救いになったり、考えさせられたりした。色々な気づきを得ることができた。

※お知らせがとても分かりやすく、また考えさせられるものだった。

※示された記事や社会問題などを通じて色々なことを考える機会が沢山あり、自分の考えや思っていることを改めて再認識することが出来た。

※時事的な内容と心理学が結び付けられていて、ニュースでは考えられない考えを得ることが出来た。

※様々な話を読む中で、自分の経験や知識がとても狭いものだということにも気付かされた。心理学ということで、はじめは他者の心理を理解していくつもりで履修していたが、1年間で自分自身の内面も見つめ直す良い機会になった。オンラインでも人との関わりがあることを確認できた。

※様々な社会問題や性差別問題などに対して、自身の意見を持っている人がこんなにも多いのかと驚いた。

※自分が考えたこともないような悩みを抱えている人がいることを知った。もっと世間のことに目を向けるべきであると感じた。

※特に差別のことについて考えさせられた。当たり前に思っていたことがよく考えてみると変だったり過程を知ると気持ち悪かったり、多くのことを学べた。

※いろいろな意見を読んで、批判すること・指摘することは大事だと分かった。批判しても何も変わらない、損しかしないと思っていた。しかし、批判することも必要。そして、自分では考えられないような・知らなかったような立場の人の意見は、耳が痛くなることもあるけど、目を背けずに、発してくれた人に感謝する。意見は、世の中の生きづらい人を失くしていくための材料であると分かった。

※とても良い仕組みだと感じた。固定観念や一般常識にとらわれないものの見方を学ぶことが出来た。

※前は“ふつう”だと思っていたことに、少しずつだが、“これって実はおかしいんじゃない？”と気付けるようになった。

※社会問題について考える時間が増えたと思った。今までなら素通りしていたニュースや疑問、おかしいと思う気持ちをしっかりと自分の中で考える時間を作ることができた。匿名ということもあって様々な意見に触れることができたり、同じ考えを持つ人から返信をいただくことができたりと、対面でないからこそその学びを得ることができ楽しかった。

※悩みや社会の情勢についての意見などを多くの人と共有できる形がとても良かった。自分の意見にコメントをもらえたり共感してもらえたととても嬉しいと感じた。顔が見えなかったり発信者がわからないことによって、より深くまで関わる事ができたのではないかな。心理学ならではの形態がとても良かった。

【その他の重要事項】

(1) 心理学Ⅰ(春学期)と心理学Ⅱ(秋学期)は連動するため、続けての履修を期待します。心理学Ⅱ(秋学期)は、ガイダンスなしで、いきなり始めます。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを変えます。“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。

(3) 臨床心理士として、生きづらく悩んでいる and/or 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病気」、「心の性」、「心神喪失・耗弱(こうじゃく)」、「責任能力」の検証も必要でした。責任(responsibility)とは、反応する(response)能力(ability)です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不穏や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自家中毒・矛盾・煩悶(はんもん)を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪(たま)らない方ばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事? 「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち(・人権)」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。

(4) オフィスアワー(お喋りタイム?)は、原則として木曜の4時限ないし5時限に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、「授業内掲示板」または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

This subject is an introduction to psychology. We survey fundamentals of psychology in the academic areas such as cognitive psychology, developmental psychology, psychology of emotion, social psychology, and clinical psychology.

* Note : Psychology I, We learn areas such as psychometrics, perceptual psychology, psychology of learning, evolutionary psychology, neuro-psychology, and personality psychology.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 E～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多岐にわたる心理学のなかで、よりアカデミックな領域を概観します。計量心理学、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、パーソナリティ心理学といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。

※参考：心理学Ⅱでは、認知心理学、発達心理学、感情心理学、社会心理学、臨床心理学といった分野を学びます。

【到達目標】

心理学とはどのようなものか理解することが目標です。

見えていなくても（見たいように）見てしまう、見えているのに見（え）ない。（いやでも）見る・気づく・気にする・考える（しかない）側から、（見たいものしか）見ない・気づかない・気にしない・考えない（で済む）側まで、「こころ」は我が儘です。「こころ」は、どこに・なぜ・どのようにあるか、「いのち」は、いつ始まり、終わるのか、「人権」とは何か。

「私は私」・「オレはオレ」というアイデンティティは、自生（天然）が成り立ちません。他者がいて自己になる。他者と相見（まみ）え初めて自己が立ち現れます。思春期・青年期の「第 2 の誕生」によって、自分が自分の「こころ・いのち（人権）」を産み出します。あなたは誰ですか。よりよく自分自身を生きたいですか…。

「こころ・いのち（人権）」について、感じ思い考える能力を身につけます。知識とともに潜在的な可能性（ポテンシャル）を磨き、決めつけや思い込みにとらわれず、新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢（キャパシティ）を増やします。主体的・批判的に検討し、的確な意見を論じることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。いろいろな事情や背景があるので、リアルタイム中継は実施しません。曜日・時限の設定は履修登録に必須だけで、いつでもアクセス可能です。

参照：【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【成績評価の方法と基準】【学生の意見等からの気づき】

指定テキスト（教科書）の独学独習が要件です。「授業計画」として示す（仮想）日程を目安に、それぞれのペースで読み進めます。合わせて、Hoppii（学習支援システム）の「お知らせ・アナウンス」および「授業内掲示板」に目を通し、投稿（コメント）・議論することが基本です。受け身でいたら、面白くも愉しくもなく、訳が分からないままになりかねません。

「お知らせ・アナウンス」：おおむね週 1 回（水曜を予定）配信。登録アドレス宛てメールでも届けます（真夜中や未明・早朝の際に備え、通知音オフ推奨）。ときにはテキストの解説や補助教材の案内もしますが、（参考書代わり？）折々のモノ・コトを紹介し、コメントへのリプライ・フィードバック、SNS の引用、記事や資料、動画（へのリンク）を伝えます。

「授業内掲示板」：テキストの内容に限らず（概略報告は無用です）、アナウンスや他の学生の投稿・コメントその他に関して、質問や感想・意見・主張を書き込むことが、「授業」参加になります。匿名（いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かったという少しディストピア的な）設定です。「返信」を用いて、学生どうし多彩な意見交換を試みてください。日々の鬱憤や悩みの相談・雑談、オススメまで、自由な対話を通し、互いに見解（意見と理解）を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他について
2	「心」は目に見えない…	計量心理学〔テキスト序章①〕
3	「心」を測定する？	計量心理学〔テキスト序章②〕
4	目は「心」の一部？	知覚心理学〔テキスト第 1 章①〕
5	何を・どのように見ている？	知覚心理学〔テキスト第 1 章②〕
6	「心」は見えないが行動は見える？	学習心理学〔テキスト第 2 章①〕
7	刺激-反応-結果で説明できる？	学習心理学〔テキスト第 2 章②〕
8	ヒトの「心」の特徴は？	進化心理学〔テキスト第 3 章①〕
9	学び教える「心」	進化心理学〔テキスト第 3 章②〕
10	「心」は脳にある？	神経心理学〔テキスト第 4 章①〕
11	「心」は電気信号？	神経心理学〔テキスト第 4 章②〕
12	それぞれの心にそれぞれ	パーソナリティ心理学〔テキスト第 5 章①〕
13	知能は測定できる？	パーソナリティ心理学〔テキスト第 5 章②〕
14	おまけ	掲示板への投稿締切

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 回あたりの準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間（計 4 時間）を標準〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とします。

といっても（オンライン・オンデマンドゆえ）、いつも「授業時間外の学習」？ 心身の調子を整え、うまく各自の都合で時間配分しつつ、テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他を読み解き、投稿を進めます。「何を覚えるか」ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

金沢 創・市川寛子・作田由衣子 2015 ゼロからは始める心理学・入門―人の心を知る科学 有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150225>

必ず用意してください。版元品切れになりがちです。大学生協の通信販売も活用し、早めに入手してください。

【参考書】

とくに指定しません。「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」その他、随時あれこれを参考にします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）：「授業内掲示板」での動向を通して、何を・いつ・なぜ・どのように感じ思い考えてきたか拝察します。

テキストのみならず、「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」、各々が見出した文献、Web サイト、動画、マンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画などを味わい、それらと日常とを結びつけた感想や意見・主張、問題提起を任意に、しかし数回くらいは投稿・コメントしてください。レポートのようになっても構いません。ファイル添付も可能です。短文の連打も歓迎します。そこに表（さ）れる内容から、テキストその他の読み込み具合、味わい方、取り組む姿勢・態度を推し測ります。

裏付けとなる根拠が明らかな論述はもちろん、奔放な相談や雑談、対話にさえても、主体的・批判的に学び調べ、何を理解し、どのように「こころ・いのち（人権）」について感じ思い考えてきたか、相当程度、くつきりと示されますから、労力と時間は膨大にかかりますが、存分に評定できます（します）。

【学生の意見等からの気づき】

初めて本格的な(?) オンライン・オンデマンドとなった 2020 年度秋学期「心理学Ⅱ」・「心理学 LB」の「授業改善アンケート」（匿名）と「授業内掲示板」に寄せられた記述の幾つか（意味を変えない範囲で文体など差し替えました）を「気づき」とします。

まず6点、もっともな不信・不審や疑念に対する言い訳です。いずれも用心していきます。

(1) 春学期、掲示板で匿名がはがれたことがあった。これは絶対に避けなければいけないことだ。

(2) 先生自身も学生に成りすまして自問自答のようなことをしていたがどういう意図なのか？

〈言い訳1〉 掲示板は、「投稿者を表示する」というデフォルト(初期)設定を改変し、匿名にしています。ところが春学期、投稿締切(掲示板の閉鎖)時に、(閉鎖後のアクセスを予定しない)デフォルトに戻ってしまい、匿名設定が解除されるエラーが生じました。急いで再び匿名設定にしたものの、反映まで時間がかかったようです。済みませんでした。その後は、支障なかったはずです。

〈言い訳2〉 この「匿名がはがれた」時間帯、「学生に成りすまして自問自答」しているようなケースが見えたかもしれません。「授業内掲示板」は科目別で、当該科目に登録した学生しか読み書きできず、海部担当の5科目で共有する仕組みがないため、春学期の初め、共有したい投稿を海部が「コピペ」していました。たとえば学生(匿名)の質問に海部(は名乗ります)が回答したとき、その投稿を海部が「コピペ」すると、当該科目以外では「海部が(匿名で)質問し、海部が回答する」形になります。ほかにも、オススメの投稿などを「コピペ」していました。「匿名がはがれた」ときにアクセスしたら、「成りすまして自問自答」していると映るでしょう。怪しく不可解に感じて当然です。申し訳ありません。

(3-1) お知らせが見づらい。

(3-2) 毎回共通アナウンスというお知らせがあるが、文章が複雑で何を伝えたいのか考えてもまいちわからなかった。

〈言い訳3〉 率直に指摘くださり、感謝します。「お知らせ・アナウンス」は細切れの引用やリンクが多くて、掲示板も合わせ、継続する流れが分かりづらく、独り善がりが目立ったと思います。個別に意見や批判をいただいたときなど、次の回でのリプライ・フィードバックを試みてはいたのですが、不行き届きをお許しください。

(4) 成績評価が曖昧だという印象をぬぐい切れなかった。

〈言い訳4〉 成績評価は、俗に言う「量よりも質」で、数値・数量化した基準を示すことができず、ご不満を招く覚悟です。プロセスは次のとおりです。春学期は合計7000件ほど、(例年、履修登録が減る)秋学期も5000件近い投稿その他を頂戴しました。リアルタイムで(誰の投稿であるかは不明ながら転送メールにて内容のみ)その都度、拝読した後、「いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かる」設定の掲示板で再読・再々読を繰り返し、「既読としてマーク」の状況も確認して、特定の例は、まとめて読み直します。そのうえで学期末に、それぞれの投稿(「返信」や直接いただいたメールを含む)その他を、改めて個々別々に(個人別に)整理し、「いつ誰が何を書いたか・読んだか」すべてを精査します。おのずと浮き彫りになる生成・変化・展開の様相も踏まえて採点し、(S~E)の12段階で評価します。

(5-1) Zoom等は使用しないにしろ各週での課題を提示してくれたほうが取り組みやすかった。

(5-2) 提出必須の課題を出してほしかった。

〈言い訳5〉 Zoom等は得手不得手に加え、通信環境の事情・背景もあり、使用しません。また、恐縮ですが、「各週での課題」は嫌悪・苦痛しかないという声が圧倒的だと認識しています。それでも、ときどき、各々のペースでレポートや小論文を提出くだされば受け取る旨は案内し、実際に掲示板への投稿(もしくは直接のメール)にファイル添付された方が少なくありませんでした。海部は、一方的に「教える」のではなく、設問形式の課題も提示しません。何かを紹介し、意見交換や議論を通じて、ともに学び合うことを重視します。まして、「正解」や「最適解」を1つに絞れず、見つけることすら難しい「ところ・いのち(・人権)」については、じっくりと各自で試行(思考)錯誤してくださるよう望みます。

(6-1) リアルタイム授業を何回か開いてほしかった。

(6-2) せめて動画授業をするなど、先生が顔と声を出して対面してほしかった。大学の授業において、最後までどんな先生が授業をしているのか分からないのはおかしいと感じた。残念。

〈言い訳6〉 そうですよ。もしリクエストがあるなら、顔と声がどんなふうであるかくらいは知らせるようになりますか。けれども海部は、表情や視線、口調、身振り素振り、動作、姿勢・態度、距離感、関心の向き、構え、といった何らかがないと、率直で親密な対話・コミュニケーションを組み立てられないので、オンライン併用の「リアルタイム授業」や対面同様の「動画授業」は困難です。そもそも「業(わざ)」を授(さず)ける」器量がなく、「対面」でも「義(条理)」を講じる(説明する)」講義しかできません。「面談」は好きですが…。

以下は、ひきつづき大切にしたい観点です。

※いろいろ考え悩んでるのが自分1人じゃないんだなって思うだけでかなり気持ちが楽になった。

※匿名でなかったら言えないことも言える。同じような意見や考えの人がいることに気づけて、自分だけではなかったんだと思った。

※匿名だからこそ言える、他の人が普段考えてる事だったり不安に思ってる事だったり聞けて、同じような悩みを持ってる人は自分だけじゃないんだと知れた。匿名で様々な意見を交換できるというオンラインの良さを活用した授業、とても楽しかった。

※オンラインならではの方式で、新鮮だった。匿名の環境下、他の受講者とコミュニケーションをとるのが楽しかった。

※たくさんの学生が意見交流していて、オンラインの利点を生かしているなあと思う。

※ふだんなら相談しないことや考えないことを書き込めて楽しかった。

※普段の生活における疑問、意見の吐口となってくれた。匿名だからこそ、話せること、聞けることが沢山あった。

※自分の考えを躊躇することなく伝えることができて良かった。

※日常の愚痴などもたくさん見て、共感できたり新鮮だった。

※みんなの本音が知れて面白かった。

※他の生徒がどのように感じているのかを読むことが出来たのでとてもいい工夫がされていたのではないかな。

※多くの受講生のほとんど正直な意見を見ることができ、意見交換できたことが良かった。

※教科書に対する意見やプライベートな話を読んで、顔は見えていなくてもその時だけは、同じ空間で繋がっているような気がした。

※人との繋がりを感ずることが出来たことや、同じように悩む人がいると分かったことは、今年大学1年生で友達がいらない自分にとって大きな心の支えになった。

※孤独や不安を感じることも多かった状況の中でコミュニケーションを取ることでできる大切な場になっていた。コメントで会話したり、様々な意見を讀んだりすることがとても楽しかった。

※異例の事態で、生徒間、先生-生徒間の交流が失われた中、この掲示板を見ている時は皆との距離が縮まったように感じられた。

※書き込むことで皆さんとつながっている気持ちになり、大学生になったことを唯一実感できる場だった。

※慣れないことばかりで肉体的にも精神的にも辛い期間を、時には自分の思いや弱音を吐き出し、時には誰かの思想に触れ、時には共感しながら過ごせる大切な場所だった。

※課題に追われず、自分の興味関心と精神状態に合わせて無理なく学ぶことができた。

※時間に縛られることなく、参加できたのはよかった。

※のびのびと参加することができて良かった。

※自分のペースで学習がしやすく、掲示板もしっかり活用できてとても充実した。

※いつでも、またどんなことでも掲示板に書き込めるため縛られている感じがなくてよかった。

※自分に合った方法で参加することができ、掲示板が上手く利用されていた。自由性が高く、匿名で他の人の投稿に意見できたり、逆にアドバイスをもらうことができていたりしてとても楽しかったし、ステイホーム期間の心の支えになってくれた。

※自分とは何なのか、感情・行動とは何なのかを1人でじっくり考える機会を作ることが出来た。

※自分について考える時間が増えた。教科書に書いてあることに自分を重ねたり、自分の内面に意識を向けたりしながら読み進めたからだと思う。これまで時間を取って自分についてじっくり考える、ということをしてこなかったの、改めて自分について客観的に考えることができて良かった。

※常に新しい発見ができ、テキストを読み進めるにつれて自分で考える力を養うことができた。

※テキストを読み、意見交換することで色々な認識が変わった。これからも自分とは何か、心とは何か考え続けていきたい。

※他人との交流や違った視点の意見を聞くことの大切さを改めて実感した。たくさんの視点からのコメントに触れることで理解が深まった。

※さまざまな方々の意見に触れることで、普段は知り得ないような意見をたくさん知ることができた。

※様々な考え方に触れることができて楽しかった。また、考えさせられる機会を得ることができ、良い経験であった。

※他の生徒の意見などを見ることが出来たのが私にとってすごく新鮮で、こういう考えもあるんだと、そういう面でも学ぶことが出来た。

※先生や他学生との議論で自身の考えを発信し、異なる意見を聞くなどして理解を深めることができた。

※さまざまな方とコミュニケーションをとるのがとても楽しかったし、みなさんの鋭い視点に毎日驚かされ新鮮な日々だった。

※見ず知らずの人が私が書き込んだことに反応してくれて嬉しかった。人の心や脳は難しく、けど面白いと思った。

※匿名だからこそ自由に、素直な気持ちを述べることができた。様々な人の様々な意見を知ることができた。年が同じまたは近い人の意見とは思えないような達観した鋭い指摘がたくさんあり、視野を広げることができる良い機会となった。

※匿名だからこそ話すことのできる主張を学生が出来る場で、自分とは異なる様々な意見に触れることが出来た。

※自分の心を見つめ直すきっかけに繋がった。自分がほんやりと感じていたことを、何が原因でどういう仕組みでそう感じたのか知るのには、自分の心を分析していくようでとても面白かった。

※自分と向き合う機会が得られたことで、自分自身の知らなかった部分を知ることができた。

※自分のネガティブな面について詳しく知れて良かった。

※様々な考えや知識をインプットするだけでなく、自分の学びをアウトプットすることによって、普段は気にすることのない自分の考え方やものの見方などに気づくことができた。

※思ったことをためらわずに書き込める。自分の心で思っていることを文章にすることはとても難しい。そのもやもやを言葉としての形にする訓練ができる場であった。

※考え方の多様性を実感し、また自分自身も改めて自分の考えを深め言語化することができ、勉強になった。

※教科書の内容である知識はもちろんのこと、紹介された様々な問題に触れることによって人の数だけ考え方が存在し、それを理解できなくとも認め合うことの大切さを感じた。

※日常生活の様々な場面で「こころ」に目を向けることができるようになったと実感している。

※以前より自分の視野が広がり、人の気持ちについて考える機会が多くなった。

※投稿や題材には考えさせられ、とても良い刺激と学習になった。

※タイムリーな話題や重要な事例を毎週まとめて知らせてくれるのが良かった。

※毎週のアナウンスと掲示板のコメントを読んで、色んな問題やそれに対する意見・価値観を知ることが出来た。

※現代の社会問題や時事問題を取り上げていて、週1のメッセージだけでも多くのことをまなぶことができる有意義な時間だった。

※社会の色々な問題や現実を知り、それに対する皆さんの意見や考えを知ることができたので新しい見方や価値観を学ぶことができた。

※毎週のお知らせが結構救いになったり、考えさせられたりした。色々な気づきを得ることができた。

※お知らせがとても分かりやすく、また考えさせられるものだった。

※示された記事や社会問題などを通じて色々なことを考える機会が沢山あり、自分の考えや思っていることを改めて再認識することが出来た。

※時事的な内容と心理学が結び付けられていて、ニュースでは考えられない考えを得ることが出来た。

※様々な話を読む中で、自分の経験や知識がとても狭いものだというところにも気付かされた。心理学ということで、はじめは他者の心理を理解していくつもりで履修していたが、1年間で自分自身の内面も見つめ直す良い機会になった。オンラインでも人との関わりがあることを確認できた。

※様々な社会問題や性差別問題などに対して、自身の意見を持っている人がこんなにも多いのかと驚いた。

※自分が考えたこともないような悩みを抱えている人がいることを知った。もっと世間のことに目を向けるべきであると感じた。

※特に差別のことについて考えさせられた。当たり前と思っていたことがよく考えてみると変だったり過程を知ると気持ち悪かったり、多くのことを学べた。

※いろいろな意見を読んで、批判すること・指摘することは大事だと分かった。批判しても何も変わらない、損しかしないと思っていた。しかし、批判することも必要。そして、自分では考えられないような・知らなかったような立場の人の意見は、耳が痛くなることもあるけど、目を背けずに、発してくれた人に感謝する。意見は、世の中の生きづらい人を失くしていくための材料であると分かった。

※とても良い仕組みだと感じた。固定観念や一般常識にとらわれないものの見方を学ぶことが出来た。

※前は“ふつう”だと思っていたことに、少しずつだが、“これって実はおかしいんじゃない？”と気付けるようになった。

※社会問題について考える時間が増えたなと思った。今までなら素通りしていたニュースや疑問、おかしいと思う気持ちをしっかりと自分の中で考える時間を作ることができた。匿名ということもあって様々な意見に触れることができたり、同じ考えを持つ人から返信をいただくことができたりと、対面でないからこそその学びを得ることができ楽しかった。

※悩みや社会の情勢についての意見などを多くの人と共有できる形がとても良かった。自分の意見にコメントをもらえたり共感してもらえなるととても嬉しいと感じた。顔が見えなかったり発信者がわからないことによって、より深くまで関わることもできたのではないかな。心理学ならではの形態がとても良かった。

【その他の重要事項】

- (1) 心理学Ⅰ(春学期)と心理学Ⅱ(秋学期)は連動するため、続けるの履修を期待します。心理学Ⅱ(秋学期)は、ガイダンスなしで、いきなり始めます。
- (2) 年度や受講生によって講義のスタイルを変えます。“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。
- (3) 臨床心理士として、生きづらく悩んでいる **and/or** 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病気」、「心の性」、「心神喪失・耗弱(こうじゃく)」、「責任能力」の検証も必要でした。責任 (**responsibility**) とは、反応する (**response**) 能力 (**ability**) です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不穏や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自家中毒・矛盾・煩悶(はんもん)を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪(たま)らない方ばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事? 「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち(・人権)」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。
- (4) オフィスアワー(お喋りタイム?)は、原則として木曜の4時限ないし5時限に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、[授業内掲示板]または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

This subject is an introduction to psychology. We survey fundamentals of psychology in the academic areas such as psychometrics, perceptual psychology, psychology of learning, evolutionary psychology, neuro-psychology, and personality psychology.

* Note : Psychology II, We learn areas such as cognitive psychology, developmental psychology, psychology of emotion, social psychology, and clinical psychology.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 E～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多岐にわたる心理学のなかで、よりアカデミックな領域を概観します。認知心理学、発達心理学、感情心理学、社会心理学、臨床心理学といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。
※参考：心理学Ⅰでは、計量心理学、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、パーソナリティ心理学といった分野を学びます。

【到達目標】

心理学とはどのようなものか理解することが目標です。見えていなくても（見たいように）見てしまう、見えているのに見（え）ない。（いやでも）見る・気づく・気にする・考える（しかない）側から、（見たいものしか）見ない・気づかない・気にしない・考えない（で済む）側まで、「こころ」は我が儘です。「こころ」は、どこに・なぜ・どのようにあるか、「いのち」は、いつ始まり、終わるのか、「人権」とは何か。

「私は私」・「オレはオレ」というアイデンティティは、自生（天然）が成り立ちません。他者がいて自己になる。他者と相見（まみ）え初めて自己が立ち現れます。思春期・青年期の「第 2 の誕生」によって、自分が自分の「こころ・いのち（人権）」を産み出します。あなたは誰ですか。よりよく自分自身を生きたいですか…。

「こころ・いのち（人権）」について、感じ思い考える能力を身につけます。知識とともに潜在的な可能性（ポテンシャル）を磨き、決めつけや思い込みにとらわれず、新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢（キャパシティ）を増やします。主体的・批判的に検討し、的確な意見を論じることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。いろいろな事情や背景がある中で、リアルタイム中継は実施しません。曜日・時限の設定は履修登録に必須だけで、いつでもアクセス可能です。

参照：【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【成績評価の方法と基準】【学生の意見等からの気づき】

指定テキスト（教科書）の独学独習が要件です。「授業計画」として示す（仮想）日程を目安に、それぞれのペースで読み進めます。合わせて、Hoppii（学習支援システム）の「お知らせ・アナウンス」および「授業内掲示板」に目を通し、投稿（コメント）・議論することが基本です。受け身でいたら、面白くも愉しくもなく、訳が分からないままになりかねません。

「お知らせ・アナウンス」：おおむね週 1 回（水曜を予定）配信。登録アドレス宛てメールでも届けます（真夜中や未明・早朝の際に備え、通知音オフ推奨）。ときにはテキストの解説や補助教材の案内もしますが、（参考書代わりに？）折々のモノ・コトを紹介し、コメントへのリプライ・フィードバック、SNS の引用、記事や資料、動画（へのリンク）を伝えます。

「授業内掲示板」：テキストの内容に限らず（概略報告は無用です）、アナウンスや他の学生の投稿・コメントその他に関して、質問や感想・意見・主張を書き込むことが、「授業」参加になります。匿名（いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かったという少しディストピア的な）設定です。「返信」を用いて、学生どうし多様な意見交換を試みてください。日々の鬱憤や悩みの相談・雑談、オススメまで、自由な対話を通し、互いに見解（意見と理解）を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「心」は機械で置き換えられる？	認知心理学〔テキスト第 6 章①〕
2	記憶はどこにある？	認知心理学〔テキスト第 6 章②〕
3	ヒトは白紙で生まれてくる？	発達心理学〔テキスト第 7 章①〕
4	発達にとって何が重要？	発達心理学〔テキスト第 7 章②〕
5	表情から感情がわかる？	感情心理学〔テキスト第 8 章①〕
6	感情の役割って？	感情心理学〔テキスト第 8 章②〕
7	いい人？ 悪い人？	社会心理学〔テキスト第 9 章①〕
8	文化が違って見ても見るものは同じ？	社会心理学〔テキスト第 9 章②〕
9	なんだかいやな気持ち/ストレスと欲求不満	臨床心理学〔テキスト第 10 章①〕
10	ストレスへの対処	臨床心理学〔テキスト第 10 章②〕
11	発達の「障害」と発達の違いと多様性：臨床心理学は？ / 種類と多様性	臨床心理学〔テキスト第 11 章〕
12	「心」の問題へのアプローチ	アセスメントと支援：臨床心理学〔テキスト第 12 章①〕
13	「支援」とは何か	アセスメントと支援：臨床心理学〔テキスト第 12 章②〕
14	おまけ	掲示板への投稿締切

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 回あたりの準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間（計 4 時間）を標準〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とします。

といっても（オンライン・オンデマンドゆえ）、いつも「授業時間外の学習」？ 心身の調子を整え、うまく各自の都合で時間配分しつつ、テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他を読み解き、投稿を進めます。「何を覚えるか」ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

金沢 創・市川寛子・作田由衣子 2015 ゼロからはじめる心理学・入門一人の心を知る科学 有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150225>

必ず用意してください。版元品切れになりがちです。大学生協の通信販売も活用し、早めに入手してください。

【参考書】

とくに指定しません。「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」その他、随時あれこれを参考にします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）：「授業内掲示板」での動向を通して、何を・いつ・なぜ・どのように感じ思い考えてきたか拝察します。

テキストのみならず、「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」、各々が見出した文献、Web サイト、動画、マンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画などを味わい、それらと日常とを結びつけた感想や意見・主張、問題提起を任意に、しかし数回くらいは投稿・コメントしてください。レポートのようになっても構いません。ファイル添付も可能です。短文の連打も歓迎します。そこに表（さ）れる内容から、テキストその他の読み込み具合、味わい方、取り組む姿勢・態度を推し測ります。

裏付けとなる根拠が明らかな論述はもちろん、奔放な相談や雑談、対話にさへも、主体的・批判的に学び調べ、何を理解し、どのように「こころ・いのち（人権）」について感じ思い考えてきたか、相当程度、くっきりと示されますから、労力と時間は膨大にかかりますが、存分に評定できます（します）。

【学生の意見等からの気づき】

初めて本格的な(?)オンライン・オンデマンドとなった2020年度秋学期「心理学Ⅱ」・「心理学LB」の「授業改善アンケート」(匿名)と「授業内掲示板」に寄せられた記述の幾つか(意味を変えない範囲で文体など差し替えました)を「気づき」とします。

まず6点、もっともな不信・不審や疑念に対する言い訳です。いずれも用心していきます。

(1) 春学期、掲示板で匿名がはがれたことがあった。これは絶対に避けなければいけないことだ。

(2) 先生自身も学生に成りすまして自問自答のようなことをしていたがどういう意図なのか？

〈言い訳1〉掲示板は、「投稿者を表示する」というデフォルト(初期)設定を改変し、匿名にしています。ところが春学期、投稿締切(掲示板の閉鎖)時に、(閉鎖後のアクセスを予定しない)デフォルトに戻ってしまい、匿名設定が解除されるエラーが生じました。急いで再び匿名設定にしたものの、反映まで時間がかかったようです。済みませんでした。その後は、支障なかったはずです。

〈言い訳2〉この「匿名がはがれた」時間帯、「学生に成りすまして自問自答」しているようなケースが見えたかもしれません。「授業内掲示板」は科目別で、当該科目に登録した学生しか読み書きできず、海部担当の5科目で共有する仕組みがないため、春学期の初め、共有したい投稿を海部が「コピペ」していました。たとえば学生(匿名)の質問に海部(は名乗ります)が回答したとき、その投稿を海部が「コピペ」すると、当該科目以外では「海部が(匿名で)質問し、海部が回答する」形になります。ほかに、オススメの投稿などを「コピペ」していました。「匿名がはがれた」ときにアクセスしたら、「成りすまして自問自答」しているかと映るでしょう。怪しく不可解に感じて当然です。申し訳ありません。

(3-1) お知らせが見づらい。

(3-2) 毎回共通アナウンスというお知らせがあるが、文章が複雑で何を伝えたいのか考えてもいまいちわからなかった。

〈言い訳3〉率直に指摘くださり、深謝します。「お知らせ・アナウンス」は細切れの引用やリンクが多くて、掲示板も合わせ、継続する流れが分かりづらく、独り善がりが目立ったと思います。個別に意見や批判をいただいたときなど、次の回でのリプライ・フィードバックを試みてはいたのですが、不行き届きをお許しください。

(4) 成績評価が曖昧だという印象をぬぐい切れなかった。

〈言い訳4〉成績評価は、俗に言う「量よりも質」で、数値・数量化した基準を示すことができず、ご不満を招く覚悟です。プロセスは次のとおりです。春学期は合計7000件ほど、(例年、履修登録が減る)秋学期も5000件近い投稿その他を頂戴しました。リアルタイムで(誰の投稿であるかは不明ながら転送メールにて内容のみ)その都度、拝読した後、「いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かる」設定の掲示板で再読・再々読を繰り返し、「既読としてマーク」の状況も確認して、特定の例は、まとめて読み直します。そのうえで学期末に、それぞれの投稿(「返信」や直接いただいたメールを含む)その他を、改めて個々別々に(個人別に)整理し、「いつ誰が何を書いたか・読んだか」すべてを精査します。おのずと浮き彫りになる生成・変化・展開の様相も踏まえて採点し、(S~E)の12段階で評価します。

(5-1) Zoom等は使用しないにしろ各週での課題を提示してくれたほうが取り組みやすかった。

(5-2) 提出必須の課題を出してほしかった。

〈言い訳5〉Zoom等は得手不得手に加え、通信環境の事情・背景もあり、使用しません。また、恐縮ですが、「各週での課題」は嫌悪・苦痛しかないという声が圧倒的だと認識しています。それでも、ときどき、各々のペースでレポートや小論文を提出くだされば受け取る旨は案内し、実際に掲示板への投稿(もしくは直接のメール)にファイル添付された方が少なくありませんでした。海部は、一方的に「教える」のではなく、設問形式の課題も提示しません。何かを紹介し、意見交換や議論を通じて、ともに学び合うことを重視します。まして、「正解」や「最適解」を1つに絞れず、見つけることすら難しい「こころ・いのち(・人権)」については、じっくりと各自で試行(思考)錯誤してくださるよう望みます。

(6-1) リアルタイム授業を何回か開いてほしかった。

(6-2) せめて動画授業をするなど、先生が顔と声を出して対面してほしかった。大学の授業において、最後までどんな先生が授業をしているのか分からないのはおかしいと感じた。残念。

〈言い訳6〉そうですね。もしリクエストがあるなら、顔と声がどんなふうであるかくらいは知らせるようにしますか。けれども海部は、表情や視線、口調、身振り素振り、動作、姿勢・態度、距離感、関心の向き、構え、といった何らかがないと、率直で親密な対話・コミュニケーションを組み立てられないので、オンライン併用の「リアルタイム授業」や対面同様の「動画授業」は困難です。そもそも「業(わざ)を授(さず)ける」器量がなく、「対面」でも「義(条理)」を講じる(説明する)講義しかできません。「面談」は好きですが…。以下は、ひきつづき大切にしたい観点です。

※いろいろ考え悩んでるのが自分1人じゃないんだなって思うだけではない気持ちになった。

※匿名でなかったら言えないことも言える。同じような意見や考えの人がいることに気づけて、自分だけではなかったんだと思った。※匿名だからこそ言える、他の人が普段考えてる事だったり不安に思ってる事だったり聞けて、同じような悩みを持つてる人は自分だけじゃないんだと知れた。匿名で様々な意見を交換できるというオンラインの良さを活用した授業、とても楽しかった。

※オンラインならではの方式で、新鮮だった。匿名の環境下、他の受講者とコミュニケーションをとるのが楽しかった。

※たくさん学生が意見交流していて、オンラインの利点を生かしているなあと思う。

※ふだんなら相談しないことや考えないことを書き込めて楽しかった。

※普段の生活における疑問、意見の吐口となってくれた。匿名だからこそ、話せること、聞けることが沢山あった。

※自分の考えを躊躇することなく伝えることができて良かった。

※日常の愚痴などもたくさん見て、共感できたり新鮮だった。

※みんなの本音が知れて面白かった。

※他の生徒がどのように感じているのかを読むことが出来たのでとてもいい工夫がされていたのではないかな。

※多くの受講生のほとんど正直な意見を見ることができ、意見交換できたことが良かった。

※教科書に対する意見やプライベートな話を読んで、顔は見えていなくてもその時だけは、同じ空間で繋がっているような気がした。

※人との繋がりを感ずることが出来たことや、同じように悩む人がいると分かったことは、今年大学1年生で友達がいない自分にとって大きな心の支えになった。

※孤独や不安を感じることも多かった状況の中でコミュニケーションを取ることでできる大切な場になっていた。コメントで会話したり、様々な意見を読んだりすることがとても楽しかった。

※異例の事態で、生徒間、先生-生徒間の交流が失われた中、この掲示板を見ている時は皆との距離が縮まったように感じられた。

※書き込むことで皆さんとつながっている気持ちになり、大学生になったことを唯一実感できる場だった。

※慣れないことばかりで肉体的にも精神的にも辛い期間を、時には自分の思いや弱音を吐き出し、時には誰かの思想に触れ、時には共感しながら過ごせる大切な場所だった。

※課題に追われず、自分の興味関心と精神状態に合わせて無理なく学ぶことができた。

※時間に縛られることなく、参加できたのはよかった。

※のびのびと参加することができて良かった。

※自分のペースで学習がしやすく、掲示板もしっかり活用できてとても充実した。

※いつでも、またどんなことでも掲示板に書き込めるため縛られている感じがなくてよかった。

※自分に合った方法で参加することができ、掲示板が上手く利用されていた。自由性が高く、匿名で他の人の投稿に意見できたり、逆にアドバイスをもらうことができていたりしてとても楽しかったし、ステイホーム期間の心の支えになってくれた。

※自分とは何なのか、感情・行動とは何なのかを1人でじっくり考える機会を作ることが出来た。

※自分について考える時間が増えた。教科書に書いてあることに自分を重ねたり、自分の内面に意識を向けたりしながら読み進めたからだと思う。これまで時間を取って自分についてじっくり考える、ということをしてこなかったの、改めて自分について客観的に考えることができて良かった。

※常に新しい発見ができ、テキストを読み進めるにつれて自分で考える力を養うことができた。

※テキストを読み、意見交換することで色々な認識が変わった。これから自分とは何か、心とは何か考え続けていきたい。

※他人との交流や違った視点の意見を聞くことの大切さを改めて実感した。たくさんの視点からのコメントに触れることで理解が深まった。

※さまざまな方々の意見に触れることで、普段は知り得ないような意見をたくさん知ることができた。

※様々な考え方に触れることができて楽しかった。また、考えさせられる機会を得ることができ、良い経験であった。

※他の生徒の意見などを見ることが出来たのが私にとってすごく新鮮で、こういう考えもあるんだと、そういった面でも学ぶことが出来た。

※先生や他学生との議論で自身の考えを発信し、異なる意見を聞くなどして理解を深めることができた。

※さまざまな方とコミュニケーションをとるのがとても楽しかったし、みなさんの鋭い視点に毎日驚かされ新鮮な日々だった。

※見ず知らずの人が私が書き込んだことに反応してくれて嬉しかった。人の心や脳は難しく、けど面白いと思った。

※匿名だからこそ自由に、素直な気持ちを述べる事ができた。様々な人の様々な意見を知ることができた。年が同じまたは近い人の意見とは思えないような達観した鋭い指摘がたくさんあり、視野を広げることができると感じた。

※匿名だからこそ話すことのできる主張を学生が出来る場で、自分とは異なる様々な意見に触れることが出来た。

※自分の心を見つめ直すきっかけに繋がった。自分がほんやりと感じていたことを、何が原因でどういう仕組みでそう感じたのか知るの、自分の心を分析していくようでとても面白かった。

※自分と向き合う機会が得られたことで、自分自身の知らなかった部分を知ることができた。

※自分のネガティブな面について詳しく知れて良かった。

※様々な考えや知識をインプットするだけでなく、自分の学びをアウトプットすることによって、普段は気にすることのない自分の考え方・ものの見方などに気づくことができた。

※思ったことをためらわずに書き込める。自分の心で思っていることを文章にすることはとても難しい。そのもやもやを言葉としての形にする訓練ができる場であった。

※考え方の多様性を実感し、また自分自身も改めて自分の考えを深め言語化することができ、勉強になった。

※教科書の内容である知識はもちろんのこと、紹介された様々な問題に触れることによって人の数だけ考え方が存在し、それを理解できなくとも認め合うことの大切さを感じた。

※日常生活の様々な場面で「こころ」に目を向けることができるようになったと実感している。

※以前より自分の視野が広がり、人の気持ちについて考える機会が多くなった。

※投稿や題材には考えさせられ、とても良い刺激と学習になった。

※タイムリーな話題や重要な事柄を毎週まとめて知らせてくれるのが良かった。

※毎週のアナウンスと掲示板のコメントを読んで、色んな問題やそれに対する意見・価値観を知ることが出来た。

※現代の社会問題や時事問題を取り上げていて、週1のメッセージだけでも多くのことをまなぶことができる有意義な時間だった。

※社会の色々な問題や現実を知り、それに対する皆さんの意見や考えを知ることができたので新しい見方や価値観を学ぶことができた。

※毎週のお知らせが結構救いになったり、考えさせられたりした。色々な気づきを得ることができた。

※お知らせがとても分かりやすく、また考えさせられるものだった。

※示された記事や社会問題などを通じて色々なことを考える機会が沢山あり、自分の考えや思っていることを改めて再認識することが出来た。

※時事的な内容と心理学が結び付けられていて、ニュースでは考えられない考えを得ることが出来た。

※様々な話を読む中で、自分の経験や知識がとても狭いものだということにも気付かされた。心理学ということで、はじめは他者の心理を理解していくつもりで履修していたが、1年間で自分自身の内面も見つめ直す良い機会になった。オンラインでも人との関わりがあることを確認できた。

※様々な社会問題や性差別問題などに対して、自身の意見を持っている人がこんなにも多いのかと驚いた。

※自分が考えたこともないような悩みを抱えている人がいることを知った。もっと世間のことに目を向けるべきであると感じた。

※特に差別のことについて考えさせられた。当たり前に思っていたことがよく考えてみると変だったり過程を知ると気持ち悪かったり、多くのことを学べた。

※いろいろな意見を読んで、批判すること・指摘することは大事だと分かった。批判しても何も変わらない、損しかしないと思っていた。しかし、批判することも必要。そして、自分では考えられないような・知らなかったような立場の人の意見は、耳が痛くなることもあるけど、目を背けずに、発してくれた人に感謝する。意見は、世の中の生きづらい人を失くしていくための材料であると分かった。

※とても良い仕組みだと感じた。固定観念や一般常識にとらわれないものの見方を学ぶことが出来た。

※前は“ふつう”だと思っていたことに、少しずつだが、“これって実はおかしいんじゃない？”と気付けるようになった。

※社会問題について考える時間が増えたと思った。今までなら素通りしていたニュースや疑問、おかしいと思う気持ちをしっかりと自分の中で考える時間を作ることができた。匿名ということもあって様々な意見に触れることができたり、同じ考えを持つ人から返信をいただくことができたりと、対面でないからこそその学びを得ることができ楽しかった。

※悩みや社会の情勢についての意見などを多くの人と共有できる形がとても良かった。自分の意見にコメントをもらえたり共感してもらえたととても嬉しいと感じた。顔が見えなかったり発信者がわからないことによって、より深くまで関わる事ができたのではないかな。心理学ならではの形態がとても良かった。

【その他の重要事項】

(1) 心理学Ⅰ(春学期)と心理学Ⅱ(秋学期)は連動するため、続けての履修を期待します。心理学Ⅱ(秋学期)は、ガイダンスなしで、いきなり始めます。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを変えます。“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。

(3) 臨床心理士として、生きづらく悩んでいる and/or 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病気」、「心の性」、「心神喪失・耗弱(こうじゃく)」、「責任能力」の検証も必要でした。責任(responsibility)とは、反応する(response)能力(ability)です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不穏や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自中毒・矛盾・煩悶(はんもん)を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪(たま)らない方ばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事? 「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち(・人権)」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。

(4) オフィスアワー(お喋りタイム?)は、原則として木曜の4時限ないし5時限に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、「授業内掲示板」または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

This subject is an introduction to psychology. We survey fundamentals of psychology in the academic areas such as cognitive psychology, developmental psychology, psychology of emotion, social psychology, and clinical psychology.

* Note : Psychology I, We learn areas such as psychometrics, perceptual psychology, psychology of learning, evolutionary psychology, neuro-psychology, and personality psychology.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法 1 年 I～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が 20 世紀の時代に何を探究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのように推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さえながら概観します。また、心理学の科学的手法に基づく知見や方法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決にどのように活用することができるのか、従来の心理学領域に加え、「平和心理学」や「ポジティブ心理学」による観点などにも敷衍して考察していきます。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の主眼とします。「心理学 II」を連続履修することで、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンライン授業となります。オンデマンド型を基本としますが、グループディスカッションの入る回は Zoom によるリアルタイム型となります（学期中、2 回ほど予定していますが、初回のガイダンスで具体的な日程と参加方法をお伝えします。なお、初回のガイダンスは、オンデマンド型で視聴いただく予定です）。オンデマンド型学習のために、学習支援システムと Google Classroom を併用します。学期中の通信手段は主にメールとなりますので、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「心理学 I」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第 2 回	私は誰（Who am I）？	社会の中の自己、様々な自己概念、「シリアスな自己紹介」
第 3 回	ゴッホはなぜ自分の耳を切り落としたのか？	心理臨床の諸アプローチとその根底にある人間観
第 4 回	異常性を定義する	「異常者のためのマニュアル」、心の障害、身近な異常性
第 5 回	子どもと青少年における社会性	社会的スキルとしての人間関係、不登校・いじめ
第 6 回	中間レポート：グループ発表と評価	「シリアスな自己紹介」（第 2 回授業）の発表・評価・提出
第 7 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）	個人と集団に対する社会的影響、「他者」という社会的関係性考

第 8 回	精神疾患か、それとも悪か？	暴力性の本質、道徳的排他性、モラルサークル
第 9 回	人間性を（再）定義する	「よい生き方」の科学の勃興、人間性と道徳性、向社会的行動
第 10 回	3つの「生きる」	「正常者のためのマニュアル」、才能、価値観、キャラクタートレーニング
第 11 回	なぜあの人より私の方が幸せなのか？	ポジティブな主観的経験、幸福感と個人差、心理的ウェルビーイング
第 12 回	「俺か、俺以外か。」を科学する	精神的に健康で、充実した人生を生きるための心理教育的アプローチ
第 13 回	期末試験	レポート（小論文）形式、オープンブック
第 14 回	「心理学 I」総括	授業内容の振り返り：心理学的な理想郷（ユートピア）は可能か？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしていただくことをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、春秋社、2012 年）
上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、中間レポート 30%、授業に関係するアクティビティ 30%

中間レポートは、授業内容に基づく出題となりますが、授業内でグループ発表と評価を行ってもらいます（当日提出となります）。期末試験は、テスト形式ではなく、レポート（小論文）形式となります。

暗記による知識ではなく理解度を確認しますので、試験当日はオープンブック（補助資料等参照可）とします。
その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. In addition to the basic content of conventional psychology (which will be reviewed in Psychology I and Psychology II), further attention will be given to some emerging perspectives in psychological science, such as Peace Psychology and Positive Psychology, that are so critical in approaching possible solutions to modern day issues.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法 1 年 I～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が 20 世紀の時代に何を探究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのように推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さえながら概観します。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の主眼とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンライン授業となります。オンデマンド型を基本としますが、グループディスカッションの入る回は Zoom によるリアルタイム型となります（学期中、2 回ほど予定していますが、初回のガイダンスで具体的な日程と参加方法をお伝えします。なお、初回のガイダンスは、オンデマンド型で視聴いただく予定です）。オンデマンド型学習のために、学習支援システムと Google Classroom を併用します。学期中の通信手段は主にメールとなりますので、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「心理学Ⅱ」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観
第 3 回	「知る」の探究（1）	視覚、形・空間・運動の知覚
第 4 回	「知る」の探究（2）	注意・バイアス、社会的知覚
第 5 回	「学ぶ」の探究	学習過程と条件づけ
第 6 回	「憶える」の探究	認知過程と記憶
第 7 回	「考える」の探究	高次認知過程と思考
第 8 回	「やる気」の探究（1）	学習性楽観（学習性無力感）、心理学的レジリエンス
第 9 回	「やる気」の探究（2）	動機づけのメカニズム
第 10 回	「感じる」の探究	主観的経験の本質、感情と身体的反応
第 11 回	「成長する」の探究	発達段階と知性、生涯発達とエイジング
第 12 回	「進化する」の探究	心と脳科学：認知と行動の生物学的基盤
第 13 回	期末試験	レポート（小論文）形式、オープンブック
第 14 回	「心理学Ⅱ」総括	授業内容の振り返り：「心の理論」は人間をどう捉えるのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『折れない心のつくりかた：はじめてのレジリエンスワークブック』（日本ポジティブ心理学協会著、すばる舎、2016 年）

上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、中間レポート 30%、授業に関係するアクティビティ 30%

中間レポートは、授業内容に基づく出題となります。

期末試験は、テスト形式ではなく、レポート（小論文）形式となります。

暗記による知識ではなく理解度を確認しますので、試験当日はオープンブック（補助資料等参照可）とします。

その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

営 1 年 K～U、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が 20 世紀の時代に何を探究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのように推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さえながら概観します。また、心理学の科学的手法に基づく知見や方法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決にどのように活用することができるのか、従来の心理学領域に加え、「平和心理学」や「ポジティブ心理学」による観点などにも敷衍して考察していきます。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の主眼とします。「心理学 II」を連続履修することで、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンライン授業となります。オンデマンド型を基本としますが、グループディスカッションの入る回は Zoom によるリアルタイム型となります（学期中、2 回ほど予定していますが、初回のガイダンスで具体的な日程と参加方法をお伝えします。なお、初回のガイダンスは、オンデマンド型で視聴いただく予定です）。オンデマンド型学習のために、学習支援システムと Google Classroom を併用します。学期中の通信手段は主にメールとなりますので、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「心理学 I」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第 2 回	私は誰（Who am I）？	社会の中の自己、様々な自己概念、「シリアスな自己紹介」
第 3 回	ゴッホはなぜ自分の耳を切り落としたのか？	心理臨床の諸アプローチとその根底にある人間観
第 4 回	異常性を定義する	「異常者のためのマニュアル」、心の障害、身近な異常性
第 5 回	子どもと青少年における社会性	社会的スキルとしての人間関係、不登校・いじめ
第 6 回	中間レポート：グループ発表と評価	「シリアスな自己紹介」（第 2 回授業）の発表・評価・提出
第 7 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）	個人と集団に対する社会的影響、「他者」という社会的関係性考

第 8 回	精神疾患か、それとも悪か？	暴力性の本質、道徳的排他性、モラルサークル
第 9 回	人間性を（再）定義する	「よい生き方」の科学の勃興、人間性と道徳性、向社会的行動
第 10 回	3つの「生きる」	「正常者のためのマニュアル」、才能、価値観、キャラクターストレス
第 11 回	なぜあの人は私よりも幸せなのか？	ポジティブな主観的経験、幸福感と個人差、心理的ウェルビーイング
第 12 回	「俺か、俺以外か。」を科学する	精神的に健康で、充実した人生を生きるための心理教育的アプローチ
第 13 回	期末試験	レポート（小論文）形式、オープンブック
第 14 回	「心理学 I」総括	授業内容の振り返り：心理学的な理想郷（ユートピア）は可能か？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしていただくことをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、春秋社、2012 年）
上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、中間レポート 30%、授業に関係するアクティビティ 30%

中間レポートは、授業内容に基づく出題となりますが、授業内でグループ発表と評価を行ってもらいます（当日提出となります）。期末試験は、テスト形式ではなく、レポート（小論文）形式となります。

暗記による知識ではなく理解度を確認しますので、試験当日はオープンブック（補助資料等参照可）とします。
その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. In addition to the basic content of conventional psychology (which will be reviewed in Psychology I and Psychology II), further attention will be given to some emerging perspectives in psychological science, such as Peace Psychology and Positive Psychology, that are so critical in approaching possible solutions to modern day issues.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

営 1 年 K～U、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が 20 世紀の時代に何を探究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのように推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さえながら概観します。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の主眼とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンライン授業となります。オンデマンド型を基本としますが、グループディスカッションの入る回は Zoom によるリアルタイム型となります（学期中、2 回ほど予定していますが、初回のガイダンスで具体的な日程と参加方法をお伝えします。なお、初回のガイダンスは、オンデマンド型で視聴いただく予定です）。オンデマンド型学習のために、学習支援システムと Google Classroom を併用します。学期中の通信手段は主にメールとなりますので、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「心理学Ⅱ」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観
第 3 回	「知る」の探究（1）	視覚、形・空間・運動の知覚
第 4 回	「知る」の探究（2）	注意・バイアス、社会的知覚
第 5 回	「学ぶ」の探究	学習過程と条件づけ
第 6 回	「憶える」の探究	認知過程と記憶
第 7 回	「考える」の探究	高次認知過程と思考
第 8 回	「やる気」の探究（1）	学習性楽観（学習性無力感）、心理学的レジリエンス
第 9 回	「やる気」の探究（2）	動機づけのメカニズム
第 10 回	「感じる」の探究	主観的経験の本質、感情と身体的反応
第 11 回	「成長する」の探究	発達段階と知性、生涯発達とエイジング
第 12 回	「進化する」の探究	心と脳科学：認知と行動の生物学的基盤
第 13 回	期末試験	レポート（小論文）形式、オープンブック
第 14 回	「心理学Ⅱ」総括	授業内容の振り返り：「心の理論」は人間をどう捉えるのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『折れない心のつくりかた：はじめてのレジリエンスワークブック』（日本ポジティブ心理学協会著、すばる舎、2016 年）

上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、中間レポート 30%、授業に関係するアクティビティ 30%

中間レポートは、授業内容に基づく出題となります。

期末試験は、テスト形式ではなく、レポート（小論文）形式となります。

暗記による知識ではなく理解度を確認しますので、試験当日はオープンブック（補助資料等参照可）とします。

その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～B / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、教科書や関連する文献についてショートレポートを提出してもらう。

【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初回の授業はオンラインで行う。また、行動方針レベルが 1 から 2 になった場合も原則としてオンラインにより授業を進める。詳細は学習支援システムに掲載する。

前半は DVD の視聴を行ったり、パワーポイントを用いたりしながら、講義形式によって授業を進め、後半は授業内容に関連する資料に基いて考察し、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第 2 回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第 3 回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第 4 回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第 5 回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第 6 回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとらえ方
第 7 回	ことば	言語発達の概要
第 8 回	知性	知能 思考
第 9 回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第 10 回	認知と思考	記憶
第 11 回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第 12 回	動機づけ 内発的動機づけと外的報酬	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ、言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響
第 13 回	無気力	学習性無力感 達成目標と無気力

第 14 回 まとめ

児童のこころの発達について、認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。
2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころー児童心理学入門』

櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）

有斐閣アルマ、2014 年

2,100 円＋税

【参考書】

『学習意欲の心理学』 桜井茂男著 誠信書房、2010 年

『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男編著 有斐閣アルマ、2010 年

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、リアクションペーパー 30%

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は履修者数が多く、オンライン授業のため学生から意見を得ることはできませんでした。

課題に対するレポートは概ね合格基準に達していたので、オンライン授業でも学生は理解できることが示されたと思います。

【Outline and objectives】

This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology, through short reports on related literature and texts.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～B / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてます。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにします。

【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

行動方針レベルが 1 から 2 になった場合、この授業は原則としてオンラインで進める。詳細は学習支援システムに掲載する。講義形式で授業を進めていきます。ppt を提示して説明しますが、DVD 鑑賞を数回予定しています。各章ごとに復習問題に取り組み、理解度を確認していきます。ショートレポート課題を数回提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第 2 回	自分をよく知りたい	自己概念
第 3 回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第 4 回	人間関係	親・家族との関係
第 5 回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第 6 回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第 7 回	向社会的行動を支える 内的要因	共感と向社会的行動
第 8 回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第 9 回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第 10 回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第 11 回	ソーシャル・スキル・ トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングの具体例
第 12 回	子どもの心理臨床の流 れ	場面緘黙の事例
第 13 回	遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第 14 回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理 臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみましょう。
・日頃から児童（子ども）を取り巻く現代環境に関心を持つようにしましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころ—児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣アルマ、2014 年新版、2100 円＋税

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、授業内のショートレポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は履修者数が多く、オンライン授業のため学生からの意見を得ることはできませんでした。課題に対するレポートは概ね合格基準に達していたので、オンライン授業でも学生は理解できていることが示されました。

【その他の重要事項】

心理学Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

高木 正

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。教材は配布するプリントを使います。学習支援システムでの授業開始は、5月11日からとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へー地理学の学問的性格
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	日本における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	世界における生態・環境
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	宗教からみる世界の多様性
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	現代世界の政治状況
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	観光と地域経済
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第 14 回	まとめ 試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は特に必要としませんが、前の授業に配布したプリントを持参してください。プリントは予備がないので、跡で渡すことはできません。なお少なくとも 1 時間を目途に復習時間に充ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。成績要の素配分は、試験 80 %、平常点 20 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

滑舌をよくします。

【Outline and objectives】

Main subjects: Regional or geographical issues in the modern world.

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高木 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。教材は配布するプリントで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	地図の一般的説明とその観方
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	統計資料の紹介とその活用
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	新聞記事の紹介とその利用方法
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	映像資料の紹介とその活用
第 7 回	現代世界の諸地域 (1)	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域 (2)	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域 (3)	人口
第 10 回	現代世界の諸地域 (4)	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域 (5)	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域 (6)	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ 試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は特に必要としませんが、前の授業で配布したプリントを持参してください。プリントの予備はないので、後で渡すことはできません。なお少なくとも 1 時間を目途に復習時間に充ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。成績の要素配分は、試験 80 %、平常点 20 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

滑舌をよくします。

【Outline and objectives】

Main subjects : Regional or geographical issues in the modern world.

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

前川 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では、都市(地域)、日本、世界からアフターコロナ後の地域社会の在り方をも考えていきます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。さらに重要なことは、学問にふれながら、どんな時代でも、どんな危機の時でも、自らの意思で行動し、自ら考える能力を成長させていくことだと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本、対面授業中心です。第1回だけがオンラインに近いことを行います。添付ファイルを参考にしてください。状況次第で、各回の授業計画や授業形式の変更などについては、学習支援システムなどで連絡します。ハイフレックス型は限界（システムや人数など）があると思いますので当初は、行いませんが状況により始めることもあります。

高校時代に地理を学習していない受講生や留学生でも参加しやすいように、AL やフィールドワークの基礎を映像や VR などからも試みます。大学での地理学を身近なことから学問的に始めると考えていきますので、暗記科目というイメージと違い、基礎的なリベラルアーツの入り口と位置付けています。各テーマにかかわるトピックやテーマの内容等を映像等も含めて紹介、考えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ ZOOM で 添付ファイル	地理学って何だろう
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業でとらえる事象の説明 動画からわかる世界
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方 東京・TOKYO・今いる地域
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方 ープラタモリの世界ー
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境 ー海外旅行はいつが一番お得かを地理学でー
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境 なぜ、最近暑い
第 7 回	現代の人の生活・文化	餃子で考える、環境・文化・食文化と環境決定論の世界

第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	日本はこんなに世界から遅れてたんだ・・DX, AI 社会ほか
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	AI、ビックデータ、GIS
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶ災害を GoogleMap で東北から考える
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として 東京だけが・・・
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？ あなたの服はどこで作られた
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として 共生と分断の今
第 14 階	まとめ	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください。そこで常に疑問や多様性を見つけてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内および授業支援システムなどで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期は、基本的にはハイブリッド型（対面授業含む）の形式になります。具体的な方法と基準は、授業開始日あるいは学習支援システムで提示しますが、原則的には、複数レポートによる評価中心の可能性あります。変更の場合は、すぐにお知らせしますが、複数レポート（80%）平常点（20%）で総合評価予定とします。第1回のみ平日水曜15時過ぎから ZOOM で行う予定です。以下を
<https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/8504426706?pwd=U20vQm9pVm9rZDE2NHdZRNJlL1RGdz09>

【学生の意見等からの気づき】

昨年はコロナのため、大半の学生の皆さんはオンライン授業で苦労したと思います。映像資料（写真や YOUTUBE など）は好評でしたので、いろいろと今後も活用しようと思います。アフターコロナ以降は、なんでも前向きに考えてみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組、新聞などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。また、支援システム等で資料などを提示する機会が多いですので、慣れるようにしてください。

【その他の重要事項】

暗記科目からの脱却などから、春学期で問題意識や論理的思考からの学問への一歩ととらえ基礎的なリベラルアーツと位置付けています。これは教職や公務員志望の人も同様で論理的にどう考えるか、応用できるかで学びがかわると思います。秋学期のⅡはグローバルな地誌的な見方での応用が中心ですから、できるだけ通年でなくとも、Ⅰ、Ⅱを合わせて履修してみてください。なかなか一歩踏み出せない、柔軟な思考を持ちたいなどの人がかわるかもしれません。なお、担当者の地理学 LC、LD の発展編とは異なる予定です。このためⅠ、Ⅱの授業内容の詳細に関しては 4 月（9 月）に授業内で説明します。

【Outline and objectives】

In high school geography, it seems that the focus was "to memorize" various events around the world and Japan. However, in university geography, from the geographical keywords such as space, area, landscape and place, we deeply understand the various events of the modern world and learn the importance of what students themselves think logically.

In this course, we will consider the state of the local community after-corona from city, country, and the world.

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

前川 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。コロナ以前の世界はコロナ以降どのような変化が起きたでしょう。今期は「世界を知ろう」が中心になります。多様な社会や人びとが共生する多様性の重要性と受講生自らが考える力を養います。暗記や知識ではありませんから、初めての受講や高校まで地理をとってなくても心配ありません。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。アフターコロナ後の世界各地や日本などについて、自ら考えていけるようになることを目標とします。さらに、高校までの地理の復習や延長ではなく、地理学をとおして多様な持続可能な考え方を尊重することも目標にしたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には、ハイブリッド型（対面授業中心の可能性）となります。基本は「世界を知ろう」です。担当者の研究の関係等から日本、アジアを中心に欧米も含めて扱います。詳細は支援システム等でお知らせします。支援システム中心に教材、課題を提示しますので、パソコン等の使用にも慣れてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？ ～地理学への招待 VR で見る世界
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	かつての大英帝国が地誌を重要視した理由 世界は変わる
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	海外の地下鉄マップやGIS、認知地図などから考える
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	GIS やビックデータなど統計資料の紹介と分析を学ぶ
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	昨年と今の世界の相違
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	映画やネット動画を分析してみよう
第 7 回	現代世界の諸地域	アメリカから競争、格差分断を考える
第 8 回	現代世界の諸地域	アジアの自然・資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	アジアの光と影 成長市場
第 10 回	現代世界の諸地域	世界と日本の都市を考える

第 11 回	現代世界の諸地域	ヨーロッパの多様性を見直す・・・自然も含めた生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	ヨーロッパの民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。基本的には資料等を支援システム等に掲載する予定である。

【参考書】

適宜授業内で紹介するが、各回の PPT などに載せる参考情報なども確認してほしい。

【成績評価の方法と基準】

現時点では、原則的には、中間、期末のレポート（合計で 80 パーセント）になると思います（毎回レポート等ではありません）また、残りをリアクションシート、平常点などをプラス評価に加える予定です。

【学生の意見等からの気づき】

この授業だけでなく、学生は孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。今年度は、対面中心のハイブリッド形式を予定していますから、授業を起点としたコミュニティの重要性をフルに発揮していきたいと思います。むしろ、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを教材や課題等で使用するので、慣れてほしい。もう 1 つは通信環境です。最悪の場合はスマホでも仕方ありませんが、秋学期は、パソコン等大学の無料貸し出しも含めて考えてみてください。

【その他の重要事項】

秋以降のコロナ次第ですが、万が一の ZOOM などのオンライン授業の場合は常識的なルールは大人として考え、行動してください。状況次第ですが昨年できなかったフィールドワークもトライできることを祈っています。

【Outline and objectives】

We will compare various regions of the world and Japan based on various materials and learn that there are various regions and people in modern society. Besides, in the society in which globalization is prosperous, we will cultivate the students themselves to think about the importance of coexistence of diverse people.

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

文 1 年 A～N、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシア・ヨーロッパの集落景観、民族と国家、観光などを中心に扱います。各テーマにかかわるトピックを紹介しながら、すすめていきます。高校時代に地理を学習していない受講生にも、大学での地理学的な考え方をわかりやすく説明していきます。高校教科書や地図帳を利用したり、様々な画像・映像も見ていきたいと考えています。大学の方針に従って、対面授業・オンライン授業の併用を考えています。対面授業が可能になっても、1 限のため、開始時間をずらし、授業支援システムでの資料配信やコメント提出もしていただきます。リアクションペーパーには授業支援システムを使って教員からコメントをします。感染予防対策のため、授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明 ～集落景観と地理学
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方 ～法政大学周辺を地理学的に考える
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方 ～ブラタモリにみる地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境～ロシア・ヨーロッパの地形・気候・土壌・植生
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境～日本の地形・気候・土壌・植生
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	ロシア・モスクワの都市生活・文化
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	ロシア・カフカス地方における紛争
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	ヨーロッパにおける世界遺産と歴史的景観保存

第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？ ～日本の観光地理の現在
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として～現代日本におけるインバウンド観光と地域のあり方～京都・大阪
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？ ～ロシア・ヨーロッパにおける地域共同体の現在
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として～ロシア・ヨーロッパの民族と国家の関係
第 14 回	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『高等学校用地図帳』その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終レポート課題 100%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料（写真や DVD、映画など）は好評でしたので、対面授業が可能になった場合は、鑑賞する機会をもうけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでの資料配信を行います。それを見ることができるよう PC などの機器類を準備してください。

【Outline and objectives】

This lecture examines various issues in contemporary world through academic key words of human geography.

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

文 1 年 A～N、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当者の専門の関係から、主に日本・ロシアの地誌を扱います。大学の方針に従って、対面授業・オンライン授業の併用を考えています。対面授業が可能になっても、1 限のため、開始時間をずらし、授業支援システムでの資料配信やリアクションペーパーの提出・返送も行います。必要な事項は全員向けに授業支援システム内の掲示板を利用します。感染予防対策のため、授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？ ～地誌＝地域像・世界像の構築
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明 ～日本とロシアの地誌とは？
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	世界地図を眺め、どこにどのような国々があるのか、把握する
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	統計資料をもとに、ロシアと日本の現状を把握する
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	日露関係をめぐるニュースや記事を取り上げる
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	北方領土問題に関する NHK スペシャル → 内容をレジュメで紹介する
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家～ロシアと日本
第 8 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの人口問題
第 10 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために～日露関係の未来とは？
第 14 回	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終レポート 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各地の状況を理解するために、様々な映像資料を使います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでの資料配信を行います。それを見ることができるよう、PC などの機器類は準備してください。

【Outline and objectives】

This lecture examines culture and people of various regions in the world through academic key words of topography.

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

文 1 年 P～X、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないだろうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では、とくに「海」に関わる事象を取り上げます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「海」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。環境問題、領海をめぐる問題など、海をめぐる様々な問題は陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。全 14 回により、「海」および「海に囲まれた島嶼生活空間」についての認識を深め、そうした諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式となります。プリント教材（解説含む）を読み進めていただき、レポートを提出いただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	海洋をめぐる諸問題
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	国連海洋法条約と世界・日本の海洋政策
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	世界・日本の海洋教育
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？

第 13 回 グローバル社会における世界の諸地域を事例として
る諸問題（2）

第 14 回 まとめ 試験 授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材（解説を含む）を用いたいと思います。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、ご準備いただきたいことなどをまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認くださいませよう。

【Outline and objectives】

High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, area, landscape and location. In this course, we will focus on various phenomena related to the sea.

前畑 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

文 1 年 P～X、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目では、とくに「海」を取り上げて、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに「人間社会と海の関係性」を多角的に考察し、最終的には私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。今日私たちが直面する海をめぐる様々な問題は、その多くが陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。したがって陸の視点も組み入れて諸問題を考えることが重要であり、秋学期では陸＝島が内包する島嶼システムを見据えながら「人間社会と海の関係性」をさらに考察し、問題解決への道を考えていきます。また海に関する諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式となります。プリント教材（解説含む）を読み進めていただき、レポートを提出いただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	戦後日本における沿岸域の開発とその問題
第 4 回	映像資料から世界・日本について考える	日本の里海再生の取り組みとその現状
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	日本の海の食文化と島嶼ネットワーク
第 6 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	日本の海洋産業の現状と課題
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	人口
第 10 回	現代世界の諸地域	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など

第 13 回 現代の私たちが描く世 未来の社会のために
界像・日本像

第 14 回 まとめ 試験 授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材（解説を含む）を用いたいと思います。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認くださいませよう。

【Outline and objectives】

We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The objective of this course is to deepen our understanding of the island life space by examining from various angles the "relationship between human society and the sea" based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

営 1 年 K～U / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目ではとくに「島」を取り上げて、地図、海図、統計、映像、写真をはじめ諸資料をもとに私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「島」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。近年「島」に関する様々なニュースに接するようになり、国際問題化している事案が目が行きがちですが、じつは人口減少や少子高齢化の問題をはじめ「島嶼国日本の縮図」としての先進的現象が国内の多くの島々で顕在化してきています。全 14 回の授業を通して、「島嶼性」という普遍的でダイナミックな島の性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況はどうか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式となります。プリント教材（解説含む）を読み進めていただき、レポートを提出いただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第 7 回	現代社会の経済・社会・政治	「島嶼性」と日本・世界の島々
第 8 回	現代社会の情報・通信・観光	島々の歴史（豊島産廃問題と瀬戸内国際芸術祭）
第 9 回	現代の人びとの生活・文化	島々の文化（戦後の図書館運動と島）
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として

第 12 回 グローバル社会における地理学的な考え方を学ぶには？
る諸問題（1）

第 13 回 グローバル社会における世界の諸地域を事例として
る諸問題（2）

第 14 回 まとめ 試験 授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材（解説を含む）を用いたいと思います。

【参考書】

高等学校用の地図帳。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）

質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認くださいませよう。

【Outline and objectives】

High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, area, landscape and location. This course focuses on "islands" in particular, and aims to deepen the understanding of island life space using maps, charts, statistics, videos and photographs.

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

営 1 年 K～U / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目ではとくに「島」を取り上げて、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに島の一般的性質、および島々の多様な姿について捉え、最終的には私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間への理解を深めていくことを目的としています。

【到達目標】

現代世界の諸地域、とくに「島」を地誌的に考察することを目標とします。全 14 回の授業を通して、普遍的でダイナミックな「島嶼性」という島の一般的性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況はどうか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式となります。プリント教材（解説含む）を読み進めていただき、レポートを提出いただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	島の定義、「島嶼性」と島嶼ネットワーク
第 4 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	島々の産業の盛衰にみる「島嶼性」の表出
第 5 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	戦後日本における島嶼政策の展開とその問題
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	島嶼コミュニティの力
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	人口
第 10 回	現代世界の諸地域	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後は、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館を活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材（解説を含む）を用いたいと思います。

【参考書】

高等学校用の地図帳。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認くださいませよう。

【Outline and objectives】

We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The purpose of this course is to deepen our understanding of the island life space by considering the general nature of islands and the diversity of islands based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.

SOC100LA

社会学Ⅰ

2017 年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

状況の許す限り対面を考えているが、リアルタイムオンラインもしくはオンデマンド教材を配信する可能性もある。課題は毎回提出することを想定しているが、遠隔で講義を受ける学生がいる可能性やオンデマンド教材配信の場合も考慮して、システムからの提出を原則としたい。リアクションペーパーの全体講評は基本的に次の授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	「社会学」とはどのような学問か
第 2 回	自己と他者の社会学	相互行為と自己
第 3 回	行為と集団	行為の種類、群衆・公衆・大衆
第 4 回	公共空間と親密空間	電車の中の社会学
第 5 回	多様化する家族	誰を家族とするか
第 6 回	生殖という問題	リプロダクティブ・ヘルス/ライツと生命倫理
第 7 回	家族の中の人生	現代の家族をめぐる諸問題
第 8 回	セクシュアリティとジェンダー	性現象の見方、フェミニズム
第 9 回	職業労働と家事労働	ワーク・ライフ・バランス、男性学
第 10 回	社会福祉と社会保障	福祉国家・貧困・福祉政策
第 11 回	貧困と社会的排除	日本における社会保障
第 12 回	健康と医療	医療社会学の基本概念
第 13 回	医療と自己決定	「病いの語り」を解釈する
第 14 回	薬害を考える	サリドマイド事件再考

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物（レジュメ）を授業にて配布する。

【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤原正之・町村敬志『社会学』有斐閣（2007 年）、松田健『テキスト現代社会学 [第 3 版]』ミネルヴァ書房（2003 年）、盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士『社会学入門』ミネルヴァ書房（2017 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%と期末レポート 50%を成績の判定基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていけることが重要だと感じた。

【Outline and objectives】

Using newspaper and video materials including teaching contents created by the teacher in charge, learning mainly focuses on lecture forms while taking up actual social phenomena.

In addition, for the purpose of acquisition the learning contents and applying it, there are times when we address the challenge and comment preparation within the class.

Students' submissions are fed back to the class as appropriate after paying attention to personal information.

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

状況が許す限り対面で行う予定だが、場合によってはリアルタイムオンラインもしくはオンデマンド形式で授業資料を配信することもあり得る。質問はメールにて受け付ける。リアクションペーパーの課題を毎回出し、翌週リプライとして全体の講評を行うスタイルにしたいが、すべてオンデマンドになった場合には、2020 年度と同様に 5 回の小課題を出すことも検討している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	労働の意味	就労をめぐる諸問題
第 2 回	消費社会を生きる	ポストフォーディズムと超越性
第 3 回	地域社会	コミュニティの形成と都市社会学
第 4 回	国家とグローバリゼーション	グローバル化、ネイション、ナショナリズム
第 5 回	エスニシティ	エスニシティとは何か、同化主義、多文化主義
第 6 回	宗教と社会	社会学にける宗教研究、グローバル化と宗教対立
第 7 回	犯罪と逸脱	「犯罪とは何か」という問い
第 8 回	教育と社会	現近代における教育、教育格差
第 9 回	社会秩序と権力	秩序維持のメカニズム、フリーライダー問題
第 10 回	社会運動と社会構想	市民活動と政治変革
第 11 回	マスコミュニケーション	マスコミの効果・影響
第 12 回	ジャーナリズム	ニュースのつくられ方
第 13 回	メディア	公共性、メディア論の視点
第 14 回	総括	「個人と社会」再考

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次回の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物（レジュメ）をアップする。

【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤原正之・町村敬志『社会学』有斐閣（2007 年）、松田健『テキスト現代社会学【第 3 版】』ミネルヴァ書房（2003 年）、盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士『社会学入門』ミネルヴァ書房（2017 年）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーもしくは小課題などの平常点 50 %、期末レポート 50 %を成績評価の判定基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていけることが重要だと感じた。

【Outline and objectives】

Using newspaper and video materials including teaching contents created by the teacher in charge, learning mainly focuses on lecture forms while taking up actual social phenomena.

In addition, for the purpose of acquisition the learning contents and applying it, there are times when we address the challenge and comment preparation within the class.

Students' submissions are fed back to the class as appropriate after paying attention to personal information.

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

山本 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

営 1 年 K~U / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、日本社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 社会変動を、構造と運動の概念を使って説明できる。
- ② 社会運動の原理を歴史的事例にあてはめて考察できる。
- ③ 「情報化・消費社会」について、具体例を挙げて説明できる。
- ④ メディア論の視点から、実際の都市空間を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる新書『ポスト戦後社会』をテキストとする。

社会学 I では、社会変動、社会運動、情報化・消費社会といったテーマを扱う同書の第 1、2 章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業形態は以下の通り（ただし、市ヶ谷キャンパスの授業実施状況により変更される可能性がある）。

自宅または教室など学内外の学習環境の整った場所（遠隔を含む）での電子教材による学習と、オンライン（Zoom）での質疑、ディスカッションとを組み合わせて、授業を進めていく予定である。電子教材で学習する回では、その最後に、学習した内容を踏まえた課題に取り組み。課題は、次回授業日までの指定される期日内に、学習支援システムにより提出する。

課題等に対するフィードバックは、配信する電子教材内での紹介やコメントを基本とする。ディスカッションをおこなう場合には、その場で発言してもらい、受講者の間で考察を深めていくきっかけにしたい。個別的な質問等については、メールおよび学習支援システム（教員のコメント）で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要、進め方等の説明を受けたのち、社会学的思考について導入的な考察をおこなう。
第 2 回	社会変動	社会変動について、「スペクタクル社会」の概念と合わせて学習する。
第 3 回	社会運動の定義と原理	社会運動の定義、原理について学習したのち、それらを歴史的事例にあてはめて考察する。（ディスカッションを交える予定）
第 4 回	「新しい社会運動」	「新しい社会運動」について、対抗文化の概念と合わせて学習する。

第 5 回 「市民」、ジェンダー

新しい社会運動の具体的事例として、1960～70 年代の「市民」運動と、1970 年代の女性解放運動を考察しつつ、ジェンダー概念について学習する。（ディスカッションを交える予定）

第 6 回 「沖縄返還」

1972 年の「沖縄返還」に対する、当時の沖縄社会における多声性を学ぶ。

第 7 回 「情報化社会」

メディア、マス・メディア、メディア・イベントの概念を学習する。

第 8 回 社会階層

階層と階層意識について学習した上で、社会調査データを使った考察をおこなう。

第 9 回 消費社会

消費社会化を軸に、「流通革命」、買物スタイルの歴史的変化、「都市のメディア化・ステージ化」について学習する。（ディスカッションを交える予定）

第 10 回 小フィールド調査：市街空間をメディア論の視点から読む

市街空間をメディア論の視点から考察する視点を実践するべく、各自でフィールド調査とその報告をおこなう。

第 11 回 自己意識

自己意識の概念を学習した上で、これを情報社会化・消費社会化とかわらせて考察する。

第 12 回 国土開発

戦後の開発と国土の変容について学習する。

第 13 回 政治社会学の観点

「田中政治」を事例に、政治現象を社会変化と結びつけて考察する視点を学ぶ。

第 14 回 振り返りと総括

各自、春学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で出される課題に取り組むと共に、疑問点を整理する。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書 2009 年）

【参考書】

- ・ニッポン戦後サブカルチャー史
(<http://www.nhk.or.jp/subculture/01/history/index.html>)
- ・NHKアーカイブス「NHK 名作選」> ニュース
(<http://www.nhk.or.jp/archives/search/genre/>)
- ・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019 年）
- その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（90%）、視点の提起やディスカッションでの発言とその内容（10%）、で評価する。ただし、事情があってオンラインでのディスカッションに参加できない場合は、課題の提出状況とその内容（100%）、で評価する。なお、電子教材で学習する回は基本的に毎回、課題に取り組む。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・PC やタブレットなどの情報機器および通信環境。
- ・この授業では、電子教材の配信や課題提出に関する案内を、学習支援システムでおこないます。履修を考えられる場合には、学習支援システムへの登録を早めにおこなってください。

【Outline and objectives】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山本 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

営 1 年 K～U / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 日本のジェンダー構造とその変化について、統計データも参照しつつ説明できる。
- ② 「リアリティ」の概念を使って、個人用情報端末の家族、社会に対する影響について考察できる。
- ③ 「環境問題」が提起した視点を具体的事例に当てはめて考察できる。
- ④ 地域開発計画の中で示された構想を、図やイラストで表現できる。
- ⑤ 地域開発の戦後史を、構造と運動という視点から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる新書『ポスト戦後社会』をテキストとする。

社会学Ⅱでは、家族の意識・ジェンダー構造・住まいや地域開発をテーマとする同書の第 3、4 章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業形態は以下の通り（ただし、市ヶ谷キャンパスの授業実施状況により変更される可能性がある）。

自宅または教室など学内外の学習環境の整った場所（遠隔を含む）での電子教材による学習と、オンライン（Zoom）での質疑、ディスカッションとを組み合わせて、授業を進めていく予定である。電子教材で学習する回では、その最後に、学習した内容を踏まえた課題に取り組む。課題は、次回授業日までの指定される期日内に、学習支援システムにより提出する。

課題等に対するフィードバックは、配信する電子教材内での紹介やコメントを基本とする。ディスカッションをおこなう場合には、その場で発言してもらい、受講者の間で考察を深めていくきっかけにしたい。個別的な質問等については、メールおよび学習支援システム（教員のコメント）で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概容、進め方等の説明を受けたのち、社会学的な見方について導入的な考察をおこなう。
第 2 回	ジェンダー構造	近代家族やライフ・サイクルの概念を学習しつつ、日本社会のジェンダー構造について考察する。
第 3 回	「友愛家族」の社会的基盤	「友愛家族と社会構造」をテーマに、家族をミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。

第 4 回 郊外

郊外（化）と郊外的生活様式について学習する。また、国土地理院の空中写真閲覧サービスを使って、自分の知っている地域の歴史の変容を調査する。

第 5 回 「リアリティの反転」

「リアリティ」の概念を学習した上で、パーソナルメディアによる「リアリティの反転」について考察する。

第 6 回 犯罪社会学

見田宗介『まなざしの地獄』と大塚英志『Mの世代』を参照しつつ、二つの青少年犯罪を対比的に考察することを通して、犯罪社会学の視点を学習する。

第 7 回 ひきこもり

ひきこもり現象の構造的分析を試みた研究を、家族社会学の視点と絡めて学習する。

第 8 回 公害と環境問題

水俣病の重層的構造について考察したのち、石牟礼道子の提起した視点を参照して「環境」問題について考える。

第 9 回 地域開発——産業・自然・地域社会

1960 年代～70 年代前半の地域開発について、映像資料も参照して考察する。

第 10 回 定住圏構想

1977 年に国が策定した全国総合開発計画（三全総）が提示した定住圏構想を、イラストを使って理解、説明する。

第 11 回 「自然」とは

NHK の証言史ドキュメンタリーを視聴し、「自然保護」を相対化する視点を学習する。

第 12 回 1980 年代以降の都市再開発と地域開発

都市再開発と高層化に関して学習したのち、地域リゾート開発の教訓について考察する。

第 13 回 縮減社会と地域自治

マクロの状況をおさえつつ、地方の地域づくりについて考える。

第 14 回 振り返りと総括

各自、秋学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で出される課題に取り組むと共に、疑問点を整理する。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書、2009 年）

【参考書】

- ・NHK 戦後史証言アーカイブス (<https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/list.cgi?cat=postwar>)
 - ・NHK 地域づくりアーカイブス (<https://www.nhk.or.jp/chiiki/>)
 - ・国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス (<https://mapps.gsi.go.jp/>)
 - ・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019 年）
- その他、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（90%）、視点の提起やディスカッションでの発言とその内容（10%）、で評価する。ただし、事情があってオンラインでのディスカッションに参加できない場合は、課題の提出状況とその内容（100%）、で評価する。なお、電子教材で学習する回は基本的に毎回、課題に取り組む。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・PC やタブレットなどの情報機器および通信環境。
- ・この授業では、電子教材の配信や課題提出に関する案内を、学習支援システムでおこないます。履修を考えられる場合には、学習支援システムへの登録を早めにおこなってください。

【Outline and objectives】

You will consider how sociology views and analyzes social world with key concepts and social theories through looking at social change of Japan's society since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」、社会学の考え方の基礎となる概念や社会学に特有な視点を学びます。そのうえで、履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気づき、その問題について、自分なりに考えていくことを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず社会学の基礎的な概念を学びます。次に、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分の「題材」を使って、現代の社会について、コミュニケーションという側面から考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、ハイブリッド型の授業形態で実施の予定です。対面で授業できる場合は、教室で資料配布＋講義＋課題提出、対面で授業できない場合は、オンラインで資料の配付＋ZOOMでの講義＋オンラインで課題の提出という形になるだろうと思います。授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第 2 回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第 3 回	社会を感じる その 2	社会の中の「私」というものについて考えます。
第 4 回	コミュニケーション論 1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第 5 回	コミュニケーション論 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第 6 回	コミュニケーション論 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
第 7 回	メディアの歴史 その 1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 8 回	メディアの歴史 その 2	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 9 回	メディアの歴史 その 3	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 10 回	メディアの歴史 その 4	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。

- 第 11 回 現代の社会について考える 1 スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます。
- 第 12 回 現代の社会について考える 2 旅を題材として、現代の社会について考えてみます。
- 第 13 回 現代の社会について考える 3 住宅を題材として、現代の社会について考えてみます。
- 第 14 回 現代の社会について考える 4 今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は 4 時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1-3 学生は「社会的なもの」について考えます
- 4 自分が社会について考えるための題材を決めます
- 5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます
- 7-10 自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます
11. 学生は自分にとって、スポーツはどういうものなのかを考えます
12. 学生は自分にとって、旅はどういうものなのかを考えます
13. 学生は自分にとって、家族はどういうものなのかを考えます
14. 学生はここまで自分が考えたことをまとめます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

野村一夫『社会学の作法・初級編』1995 年
https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（50 %）、および期末レポート（50 %）で評価します。期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、相談できる時間をたくさん取るようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOM とマイクロソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline and objectives】

Students will learn 'way of thinking' to think about contemporary society.

Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分の「題材」を使って、現在の社会について考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、ハイブリッド型の授業形態で実施の予定です。対面で授業できる場合は、教室で資料配布＋講義＋課題提出、対面で授業できない場合は、オンラインで資料の配付＋ZOOMでの講義＋オンラインで課題の提出という形になるだろうと思います。授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム（1）	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム（2）	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム（3）	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム（4）	現在の社会における限界問題について考えます。
5	現代社会とメディアの働き（1）	現代社会におけるメディアの役割について考えます。
6	現代社会とメディアの働き（2）	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
7	現代社会とメディアの働き（3）	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
8	現代社会とメディアの働き（4）	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
9	現代社会の課題（1）	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
10	現代社会の課題（2）	ファシズムとメディアの関係について考えます。
11	現代社会の課題（3）	身体の問題とメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題（4）	地域の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題（5）	現在の社会における、情報と消費という問題について考えます。

14 まとめ

今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は4時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1 学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します
- 2-4 自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
- 5 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
- 6-8 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
- 9 自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
- 10 自分が題材としたものと、ファシズムとの関係を考えます
- 11 自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
- 12 自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
- 13 自分にとって、情報と消費がどういうものになっているのかを考えます
- 14 学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書（1996年）

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（30%）、および中間レポート（30%）、期末レポート（40%）を総合して評価します。中間レポート/期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、たくさん相談できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOMとマイクソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline and objectives】

Students think about the current society using sociological methods.

Students discover problems and think about solution about the society in which they live

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

山本 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、日本社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 社会変動を、構造と運動の概念を使って説明できる。
- ② 社会運動の原理を歴史的事例にあてはめて考察できる。
- ③ 「情報化・消費社会」について、具体例を挙げて説明できる。
- ④ メディア論の視点から、実際の都市空間を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる新書『ポスト戦後社会』をテキストとする。

社会学 I では、社会変動、社会運動、情報化・消費社会といったテーマを扱う同書の第 1、2 章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業形態は以下の通り（ただし、市ヶ谷キャンパスの授業実施状況により変更される可能性がある）。

自宅または教室など学内外の学習環境の整った場所（遠隔を含む）での電子教材による学習と、オンライン（Zoom）での質疑、ディスカッションとを組み合わせて、授業を進めていく予定である。電子教材で学習する回では、その最後に、学習した内容を踏まえた課題に取り組み。課題は、次回授業日までの指定される期日内に、学習支援システムにより提出する。

課題等に対するフィードバックは、配信する電子教材内での紹介やコメントを基本とする。ディスカッションをおこなう場合には、その場で発言してもらい、受講者の間で考察を深めていくきっかけにしたい。個別的な質問等については、メールおよび学習支援システム（教員のコメント）で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要、進め方等の説明を受けたのち、社会学的思考について導入的な考察をおこなう。
第 2 回	社会変動	社会変動について、「スペクタクル社会」の概念と合わせて学習する。
第 3 回	社会運動の定義と原理	社会運動の定義、原理について学習したのち、それらを歴史的事例にあてはめて考察する。（ディスカッションを交える予定）
第 4 回	「新しい社会運動」	「新しい社会運動」について、対抗文化の概念と合わせて学習する。

第 5 回	「市民」、ジェンダー	新しい社会運動の具体的事例として、1960～70 年代の「市民」運動と、1970 年代の女性解放運動を考察しつつ、ジェンダー概念について学習する。（ディスカッションを交える予定）
第 6 回	「沖縄返還」	1972 年の「沖縄返還」に対する、当時の沖縄社会における多声性を学ぶ。
第 7 回	「情報化社会」	メディア、マス・メディア、メディア・イベントの概念を学習する。
第 8 回	社会階層	階層と階層意識について学習した上で、社会調査データを使った考察をおこなう。
第 9 回	消費社会	消費社会化を軸に、「流通革命」、買物スタイルの歴史的変化、「都市のメディア化・ステージ化」について学習する。（ディスカッションを交える予定）
第 10 回	小フィールド調査：市街空間をメディア論の視点から読む	市街空間をメディア論の視点から考察する視点を実践するべく、各自でフィールド調査とその報告をおこなう。
第 11 回	自己意識	自己意識の概念を学習した上で、これを情報社会化・消費社会化とかわらせて考察する。
第 12 回	国土開発	戦後の開発と国土の変容について学習する。
第 13 回	政治社会学の観点	「田中政治」を事例に、政治現象を社会変化と結びつけて考察する視点を学ぶ。
第 14 回	振り返りと総括	各自、春学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で出される課題に取り組むと共に、疑問点を整理する。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書 2009 年）

【参考書】

- ・ニッポン戦後サブカルチャー史
(<http://www.nhk.or.jp/subculture/01/history/index.html>)
- ・NHKアーカイブス「NHK 名作選」> ニュース
(<http://www.nhk.or.jp/archives/search/genre/>)
- ・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019 年）
- その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（90%）、視点の提起やディスカッションでの発言とその内容（10%）、で評価する。ただし、事情があってオンラインでのディスカッションに参加できない場合は、課題の提出状況とその内容（100%）、で評価する。なお、電子教材で学習する回は基本的に毎回、課題に取り組む。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・PC やタブレットなどの情報機器および通信環境。
- ・この授業では、電子教材の配信や課題提出に関する案内を、学習支援システムでおこないます。履修を考えられる場合には、学習支援システムへの登録を早めにおこなってください。

【Outline and objectives】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山本 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 日本のジェンダー構造とその変化について、統計データも参照しつつ説明できる。
- ② 「リアリティ」の概念を使って、個人用情報端末の家族、社会に対する影響について考察できる。
- ③ 「環境問題」が提起した視点を具体的事例に当てはめて考察できる。
- ④ 地域開発計画の中で示された構想を、図やイラストで表現できる。
- ⑤ 地域開発の戦後史を、構造と運動という視点から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる新書『ポスト戦後社会』をテキストとする。

社会学Ⅱでは、家族の意識・ジェンダー構造・住まいや地域開発をテーマとする同書の第 3、4 章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業形態は以下の通り（ただし、市ヶ谷キャンパスの授業実施状況により変更される可能性がある）。

自宅または教室など学内外の学習環境の整った場所（遠隔を含む）での電子教材による学習と、オンライン（Zoom）での質疑、ディスカッションとを組み合わせて、授業を進めていく予定である。電子教材で学習する回では、その最後に、学習した内容を踏まえた課題に取り組む。課題は、次回授業日までの指定される期日内に、学習支援システムにより提出する。

課題等に対するフィードバックは、配信する電子教材内での紹介やコメントを基本とする。ディスカッションをおこなう場合には、その場で発言してもらい、受講者の間で考察を深めていくきっかけにしたい。個別的な質問等については、メールおよび学習支援システム（教員のコメント）で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概容、進め方等の説明を受けたのち、社会学的な見方について導入的な考察をおこなう。
第 2 回	ジェンダー構造	近代家族やライフ・サイクルの概念を学習しつつ、日本社会のジェンダー構造について考察する。
第 3 回	「友愛家族」の社会的基盤	「友愛家族と社会構造」をテーマに、家族をミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。

第 4 回 郊外

郊外（化）と郊外的生活様式について学習する。また、国土地理院の空中写真閲覧サービスを使って、自分の知っている地域の歴史の変容を調査する。

第 5 回 「リアリティの反転」

「リアリティ」の概念を学習した上で、パーソナルメディアによる「リアリティの反転」について考察する。

第 6 回 犯罪社会学

見田宗介『まなざしの地獄』と大塚英志『Mの世代』を参照しつつ、二つの青少年犯罪を対比的に考察することを通して、犯罪社会学の視点を学習する。

第 7 回 ひきこもり

ひきこもり現象の構造的分析を試みた研究を、家族社会学の視点と絡めて学習する。

第 8 回 公害と環境問題

水俣病の重層的構造について考察したのち、石牟礼道子の提起した視点を参照して「環境」問題について考える。

第 9 回 地域開発——産業・自然・地域社会

1960 年代～70 年代前半の地域開発について、映像資料も参照して考察する。

第 10 回 定住圏構想

1977 年に国が策定した全国総合開発計画（三全総）が提示した定住圏構想を、イラストを使って理解、説明する。

第 11 回 「自然」とは

NHK の証言史ドキュメンタリーを視聴し、「自然保護」を相対化する視点を学習する。

第 12 回 1980 年代以降の都市再開発と地域開発

都市再開発と高層化に関して学習したのち、地域リゾート開発の教訓について考察する。

第 13 回 縮減社会と地域自治

マクロの状況をおさえつつ、地方の地域づくりについて考える。

第 14 回 振り返りと総括

各自、秋学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で出される課題に取り組むと共に、疑問点を整理する。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書、2009 年）

【参考書】

- ・NHK 戦後史証言アーカイブス (<https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/list.cgi?cat=postwar>)
 - ・NHK 地域づくりアーカイブス (<https://www.nhk.or.jp/chiiki/>)
 - ・国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス (<https://mapps.gsi.go.jp/>)
 - ・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019 年）
- その他、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（90%）、視点の提起やディスカッションでの発言とその内容（10%）、で評価する。ただし、事情があってオンラインでのディスカッションに参加できない場合は、課題の提出状況とその内容（100%）、で評価する。なお、電子教材で学習する回は基本的に毎回、課題に取り組む。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・PC やタブレットなどの情報機器および通信環境。
- ・この授業では、電子教材の配信や課題提出に関する案内を、学習支援システムでおこないます。履修を考えられる場合には、学習支援システムへの登録を早めにおこなってください。

【Outline and objectives】

You will consider how sociology views and analyzes social world with key concepts and social theories through looking at social change of Japan's society since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

営 1 年 A～J、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」、社会学の考え方の基礎となる概念や社会学に特有な視点を学びます。そのうえで、履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気付き、その問題について、自分なりに考えていくことを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず社会学の基礎的な概念を学びます。次に、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分の「題材」を使って、現代の社会について、コミュニケーションという側面から考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、オンデマンド（資料型等）の授業形態で実施の予定です。オンラインで資料の配付＋ZOOMでの講義＋オンラインで課題の提出という形になるだろうと思います。授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第 2 回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第 3 回	社会を感じる その 2	社会の中の「私」というものについて考えます。
第 4 回	コミュニケーション論 1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第 5 回	コミュニケーション論 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第 6 回	コミュニケーション論 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
第 7 回	メディアの歴史 その 1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 8 回	メディアの歴史 その 2	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 9 回	メディアの歴史 その 3	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 10 回	メディアの歴史 その 4	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。

第 11 回	現代の社会について考える 1	スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます。
第 12 回	現代の社会について考える 2	旅を題材として、現代の社会について考えてみます。
第 13 回	現代の社会について考える 3	住宅を題材として、現代の社会について考えてみます。
第 14 回	現代の社会について考える 4	今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は 4 時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1-3 学生は「社会的なもの」について考えます
- 4 自分が社会について考えるための題材を決めます
- 5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます
- 7-10 自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます
11. 学生は自分にとって、スポーツはどのようなものなのかを考えます
12. 学生は自分にとって、旅はどのようなものなのかを考えます
13. 学生は自分にとって、家族はどのようなものなのかを考えます
14. 学生はここまで自分が考えたてきたことをまとめます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

野村一夫『社会学の作法・初級編』1995 年

https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（50 %）、および期末レポート（50 %）で評価します。期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、相談できる時間をたくさん取るようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOM とマイクロソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline and objectives】

Students will learn 'way of thinking' to think about contemporary society.

Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

営 1 年 A～J、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分の「題材」を使って、現在の社会について考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、オンデマンド（資料型等）の授業形態で実施の予定です。オンラインで資料の配付 + ZOOM での講義 + オンラインで課題の提出という形になるだろうと思います。授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム（1）	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム（2）	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム（3）	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム（4）	現在の社会における限界問題について考えます。
5	現代社会とメディアの働き（1）	現代社会におけるメディアの役割について考えます。
6	現代社会とメディアの働き（2）	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
7	現代社会とメディアの働き（3）	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
8	現代社会とメディアの働き（4）	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
9	現代社会の課題（1）	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
10	現代社会の課題（2）	ファシズムとメディアの関係について考えます。
11	現代社会の課題（3）	身体の問題とメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題（4）	地域の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題（5）	現在の社会における、情報と消費という問題について考えます。
14	まとめ	今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は 4 時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1 学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します
- 2-4 自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
- 5 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
- 6-8 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
- 9 自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
- 10 自分が題材としたものと、ファシズムとの関係を考えます
- 11 自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
- 12 自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
- 13 自分にとって、情報と消費がどういうものになっているのかを考えます
- 14 学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書（1996 年）

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（30 %）、および中間レポート（30 %）、期末レポート（40 %）を総合して評価します。中間レポート/期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、たくさん相談できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOM とマイクロソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline and objectives】

Students think about the current society using sociological methods.

Students discover problems and think about solution about the society in which they live

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

橋本 みゆき

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に、オンライン授業（オンデマンド型）と対面授業を交互に行う。各テーマにつき2回ワンセットとし、半期で7セット繰り返す。オンライン授業の回には、授業開始時までに講義動画とパワーポイント配布資料を教材としてアップロードするので、各自ダウンロード（できれば印刷も）して受講する。対面授業の回は応用編であり、参加者で情報・意見交換するなど理解を深める。（もし希望者がいれば、Zoom を利用したリアルタイム型を併用し、ハイブリッド型で行なう）。各テーマにおいてリアクションまたは課題を課し、その場でまたは翌週の授業でフィードバックする。

なお大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、社会と社会学	授業の進め方について（ネット環境等の確認）、テキスト第1章概説
2	社会学は社会のどこで生まれるか	第1章発展編
3	相互作用と自己	テキスト第2章概説
4	〈自分らしく生きる〉とはどういうことか	第2章発展編
5	家族と親密な関係	テキスト第3章概説
6	「フツウの家族」は普通なのか	第3章発展編
7	ジェンダーとセクシュアリティ	テキスト第4章概説
8	男社会の構造は変わりうるか	第4章発展編
9	労働と企業組織	テキスト第5章概説
10	働くことは喜びか、苦しみか	第5章発展編
11	環境と科学技術	テキスト第6章概説

12 環境は成長と開発の呪縛を解くことができるか 第6章発展編

13 医療・保健・福祉 テキスト第7章概説

14 病いや障害は「不幸」なことなのか 第7章発展編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

・テキストおよび参考文献、そのほか社会学者の書いた論文や本を各自で読んでみよう。

・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

【テキスト（教科書）】

『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018 年刊、3200 円＋税。

またテーマごとにレジュメ、資料を配付する。

【参考書】

橋本みゆき編著『二世に聴く在日コリアンの生活文化』（社会評論社、近刊）

他は授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%＋平常点 50%。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生はそれぞれ関心ある題材に出会えるだろう。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもあるかもしれない。

【Outline and objectives】

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

橋本 みゆき

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に、オンライン授業（オンデマンド型）と対面授業を交互に行う。各テーマにつき2回ワンセットとし、半期で7セット繰り返す。オンライン授業の回には、授業開始時までに講義動画とパワーポイント配布資料を教材としてアップロードするので、各自ダウンロード（できれば印刷も）して受講する。対面授業の回は応用編であり、参加者で情報・意見交換するなど理解を深める（もし希望者がいれば、Zoom を利用したリアルタイム型を併用し、ハイブリッド型で行なう）。各テーマにおいてリアクションまたは課題を課し、その場でまたは翌週の授業でフィードバックする。なお大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、逸脱と社会病理：テキスト概説	授業の進め方の説明、テキスト第8章概説
2	病いや障害は「不幸」なことなのか	第8章発展編
3	階層・階級・不平等	テキスト第9章概説
4	親から子どもへ格差が受け継がれやすいのはなぜか	第9章発展編
5	都市とコミュニティ	テキスト第10章概説
6	都市研究には社会学のどんな姿が映しだされているか	第10章発展編
7	グローバリゼーションとエスニシティ	テキスト第11章概説
8	グローバリゼーションは社会や社会学理論にどのような変化をもたらしたか	第11章発展編
9	メディアとコミュニケーション	テキスト第13章概説

10	「民意を問う」とはどのようなことか	第13章発展編
11	社会運動とNPO/NGO	テキスト第14章概説
12	市民は社会を変革できるか	第14章発展編
13	国家・権力・公共性	テキスト第15章概説
14	パラリンピックはなにを夢見るのか	第15章発展編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

・テキストおよび参考文献、そのほか社会学者の書いた論文や本を各自で読んでみよう。
・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

【テキスト（教科書）】

『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018年刊、3200円＋税。
またテーマごとに資料を用意する。

【参考書】

授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%＋平常点 50%。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生は関心ある題材に出会えるかもしれない。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもおもしろいだろう。

【その他の重要事項】

授業内容は春学期の続き（テキスト第8章以降）であるが、扱うテーマは独立したもののなので、秋学期から受講しても差し支えない。ただし社会学の基本的視座を示したテキスト第1章は開講前に読んでおくこと。
なお受講生に相談したうえで順序等を変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「オンデマンド授業（資料型等）」を基本とするが、数回オンライン授業〔Zoom 等のリアルタイム型〕を取り入れる予定である。数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	政治学、経済学との比較を通して、社会学の特徴を理解する
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968 年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	森達也『放送禁止歌』を事例に
10	対抗文化	小池征人のドキュメンタリー映画「人間の街」を事例に
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ネーション（民族、国民）	ナショナリズムのパラドックス
14	政治社会学の視点	M・ウェーバー『職業としての政治』、同『権力と支配』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を用います。

【参考書】

必要に応じて追加で配布または提示しますが、さしあたっては以下を参照してください。

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。

ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方（第 2 版）』ちくま学芸文庫。

日本社会学会社会学事典刊行委員会編（2010）『社会学事典』丸善。マックス・ヴェーバー（1989）大塚久雄訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫。

マックス・ヴェーバー（1972）清水幾太郎訳『社会学の根本概念』

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と期末試験（60%）で評価します。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、Zoom 等のリアルタイム型で実施予定です。「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用するの課題提出や告知がありますので、必ず頻繁に使用するメールアドレスを登録してください。

【Outline and objectives】

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「オンデマンド授業（資料型等）」を基本とするが、数回オンライン授業［Zoom 等のリアルタイム型］を取り入れる予定である。数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・バウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料を用います。

【参考書】

見田宗介（1996）『現代社会の理論』岩波新書

ジグムント・バウマン（2008）伊藤茂訳『新しい貧困』青土社

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と期末試験（60%）で評価します。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、Zoom 等のリアルタイム型で実施予定です。「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する課題提出や告知がありますので、必ず頻繁に使用するメールアドレスを登録してください。

【Outline and objectives】

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業［Zoom 等のリアルタイム型／オンデマンド型］の組み合わせ）を基本とする。数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム（Hoppii）」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	政治学、経済学との比較を通して、社会学の特徴を理解する
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968 年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	森達也『放送禁止歌』を事例に
10	対抗文化	小池征人のドキュメンタリー映画「人間の街」を事例に
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ネーション（民族、国民）	ナショナリズムのパラドックス
14	政治社会学の視点	M・ウェーバー『職業としての政治』、同『権力と支配』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を用います。

【参考書】

必要に応じて追加で配布または提示しますが、さしあたっては以下を参照してください。

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。

ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方（第 2 版）』ちくま学芸文庫。

日本社会学会社会学事典刊行委員会編（2010）『社会学事典』丸善。マックス・ヴェーバー（1989）大塚久雄訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫。

マックス・ヴェーバー（1972）清水幾太郎訳『社会学の根本概念』

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と期末試験（60%）で評価します。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、対面もしくは Zoom 等のリアルタイム型で実施予定です。「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する際の課題提出や告知がありますので、必ず頻繁に使用するメールアドレスを登録してください。

【Outline and objectives】

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業〔Zoom 等のリアルタイム型／オンデマンド型〕の組み合わせ）を基本とする。数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム（Hoppii）」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・バウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料を用います。

【参考書】

見田宗介（1996）『現代社会の理論』岩波新書

ジグムント・バウマン（2008）伊藤茂訳『新しい貧困』青土社

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と期末試験（60%）で評価します。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、対面もしくは Zoom 等のリアルタイム型で実施予定です。「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用した課題提出や告知がありますので、必ず頻繁に使用するメールアドレスを登録してください。

【Outline and objectives】

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度を習得するための講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業が実施できる場合はテキストを中心にしたレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してテキスト、レジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

『政治学』（新川敏光、大西裕。大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、2200 円（税込）

【参考書】

『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年、836 円（税込）

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年、1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および 1～2 回の小レポート課題によって評価を決める。試験が 70%、小レポート課題が 30% とするが、回数と割合は教室を使った試験ができるかオンラインかによって変わる場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続できるパソコンなどの情報機器。

【Outline and objectives】

You will study basic concept of politics and political system in nation by lecture.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国と比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業が実施できる場合はテキストを中心としたレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してテキスト、レジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

『政治学』（新川敏光、大西裕、大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、定価 2200 円（税込）

【参考書】

『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年 836 円（税込）

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年 1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および 1～2 回の小レポート課題によって評価を決める。試験が 70%、小レポート 30% とするが、回数と割合は教室を使った試験ができるかオンラインかによって変わる場合がある。評価基準として、政治学の基本概念と政治制度を中心とした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続できるパソコンなどの情報機器。

【Outline and objectives】

You will analyze Japanese politics by political concept while comparing other developed countries.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行います。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第三回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第四回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第五回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第六回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第七回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第八回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第九回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第十回	議会	立法過程についての講義
第十一回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第十二回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第十三回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

例年の場合、参加度（＝手書きのレポートなどの提出物、30%）＋試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）です。

（ただし、非常事態宣言に伴うオンライン講座の対応となった場合、参加度のみの 100%（受講態度 50%＋提出物 50%）の評価といたします。無論、上記の措置が解除され大学での試験実施が可能な場合は通常通りの実施となります。）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノート・教科書

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline and objectives】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行います。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第三回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第四回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第五回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第六回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第七回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第八回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第九回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第十回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第十一回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第十二回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第十三回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年

杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

例年の場合、参加度（＝手書きのレポートなどの提出物、30%）＋試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）です。（ただし、非常事態宣言に伴うオンライン講座の対応となった場合、参加度のみの 100%（受講態度 50%＋提出物 50%）の評価といたします。無論、上記の措置が解除され大学での試験実施が可能な場合は通常通りの実施となります。）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline and objectives】

Analyse Japanese politics with comparing another developed country.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第三回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第四回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第五回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第六回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第七回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第八回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第九回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第十回	議会	立法過程についての講義
第十一回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第十二回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第十三回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

例年の場合、参加度（＝手書きのレポートなどの提出物、30%）＋試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）です。

（ただし、非常事態宣言に伴うオンライン講座の対応となった場合、参加度のみの 100%（受講態度 50%＋提出物 50%）の評価といたします。無論、上記の措置が解除され大学での試験実施が可能な場合は通常通りの実施となります。）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。

試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline and objectives】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行います。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第三回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第四回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第五回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第六回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第七回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第八回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第九回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第十回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第十一回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第十二回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第十三回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年

杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

例年の場合、参加度（＝手書きのレポートなどの提出物、30%）＋試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）です。（ただし、非常事態宣言に伴うオンライン講座の対応となった場合、参加度のみの 100%（受講態度 50%＋提出物 50%）の評価といたします。無論、上記の措置が解除され大学での試験実施が可能な場合は通常通りの実施となります。）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline and objectives】

Analyse Japanese politics with comparing another developed country.

POL100LA

政治学Ⅰ

2017年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2単位

法1年H～N、環キ1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づく講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。

復習：講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】

- ・『政治学事典』弘文堂
- ・『哲学思想事典』岩波書店
- ・『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline and objectives】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

法 1 年 H～N、環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づいた講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。

復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確実なものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

・期末に行う選択肢型筆記試験

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと

【その他の重要事項】

- ①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline and objectives】

Analyse Japanese politics with comparing another developed country

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法 1 年 A～G / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度を習得するための講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業が実施できる場合はテキストを中心にしたレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してテキスト、レジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

『政治学』（新川敏光、大西裕。大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、2200 円（税込）

【参考書】

『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年、836 円（税込）

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年、1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および 1～2 回の小レポート課題によって評価を決める。試験が 70%、小レポート課題が 30% とするが、回数と割合は教室を使った試験ができるかオンラインかによって変わる場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続できるパソコンなどの情報機器。

【Outline and objectives】

You will study basic concept of politics and political system in nation by lecture.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法 1 年 A～G / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国と比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業が実施できる場合はテキストを中心としたレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してテキスト、レジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

『政治学』（新川敏光、大西裕、大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、定価 2200 円（税込）

【参考書】

『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年 836 円（税込）

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年 1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および 1～2 回の小レポート課題によって評価を決める。試験が 70%、小レポート 30% とするが、回数と割合は教室を使った試験ができるかオンラインかによって変わる場合がある。評価基準として、政治学の基本概念と政治制度を中心とした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続できるパソコンなどの情報機器。

【Outline and objectives】

You will analyze Japanese politics by political concept while comparing other developed countries.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

面 一也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 Q～U、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出を課す予定（2～3回）。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【重要】

・第1回授業は、学習支援システム (Hoppi) によるオンデマンド型授業で実施する。開講時限になったら、Hoppi にアクセスすること。
・また、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ※学習支援システム (Hoppi) によるオンデマンド型授業で実施	講義の概要について説明する
2	古代と近代の民主政治	プラトンとルソーを中心に (教科書、1 章 1・2 節)
3	自由主義と民主主義	権力分立、基本的人権 (1 章 3 節)
4	民主政治に対する懐疑と再定義	ナショナリズム、ポピュリズム、全体主義の経験から (2 章)
5	福祉国家の構造と論争	社会民主主義と新自由主義 (3 章)
6	議院内閣制と大統領制	行政の最高責任者の選出法とその影響 (4 章)
7	選挙と投票行動	組織票、無党派、無関心 (5 章)
8	議会と政党	国会無能論、多数者の専制 (6 章)
9	官僚と利益集団	縦割り行政、官僚制の肥大化、族議員 (7 章)
10	世論	マスメディアの役割、SNS の台頭 (8 章)
11	地方自治	地方分権改革の問題 (9 章)
12	主権国家と国際秩序	グローバル・イシューの噴出 (10 章)
13	アイデンティティと差異	フェミニズム、多文化主義、熟議民主主義 (11 章)
14	期末筆記試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学』東京大学出版会、2012 年、2,420 円。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 (80%)、

リアクションペーパー (20%)。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

面 一也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 Q～U、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出を課す予定（2～3回）。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	戦後の日本政治 (教科書 1 章)	1 戦後改革から 55 年体制の成 立へ 2 経済成長と自民党長期政権 3 政治改革と日本政治の変容
3	政治参加 (2 章)	1 国政選挙と日本人の投票行動 2 投票参加と投票行動 3 現代日本の政治参加
4	団体政治・自発的結社 (3 章)	1 団体・結社とは何か 2 現代日本政治における団体・結社の影響力 3 民主政治における団体の重要性
5	政党と政治家 (4 章)	1 誰がどのような活動をしているのか 2 政党の理念と組織、政党システム 3 選挙制度の影響
6	議院内閣制と首相 (5 章)	1 議院内閣制とは何か 2 戦後日本の首相 3 21 世紀日本の首相
7	国会 (6 章)	1 国会の特徴 2 立法過程 3 国会の評価
8	官僚・政官関係 (7 章)	1 官僚制とは何か 2 戦後日本政治における政官関係 3 官僚制と私たち
9	メディア (8 章)	1 政治的なコミュニケーションにおけるメディア 2 現代日本政治とマスメディア 3 メディア環境の変化と政治への影響

10	政策過程の全体像 (9 章)	1 現代日本の政策過程 2 政策過程とは何か 3 政策過程と有権者
11	地方自治 (10 章)	1 なぜ地方自治が必要なのか 2 自治体の政策は誰がどのように決定しているか 3 住民はどのように関われるのか
12	安心社会とケア (11 章)	1 日本型福祉レジームの特徴 2 日本の政党政治と福祉レジーム 3 ジェンダー視点から見た日本型福祉レジーム
13	共生社会とシティズンシップ (12 章)	1 近代国民国家の誕生 2 近代シティズンシップ論 3 共生の原理としてのシティズンシップ
14	期末筆記試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上神貴佳、三浦まり編『日本政治の第一歩』有斐閣ストゥディア、2018 年、2,090 円。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験（80%）、リアクションペーパー（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline and objectives】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

岡崎 加奈子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A～E / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は、テキストとレジメに基づき講義形式によりおこなう。現代において政治を構成するさまざまな要素について、時事的な現象と関連付けて学んでいく。毎回の授業では、学生は意見や質問を提出し、次回授業時にそれにたいする回答や解説をおこない全体で共有する。また授業内での複数回のレポート課題および小テストを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第 2 回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第 3 回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第 4 回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第 5 回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第 6 回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第 7 回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第 8 回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第 9 回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第 10 回	議会	立法過程についての講義
第 11 回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第 12 回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第 13 回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第 14 回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学』（東京大学出版会、2012 年）

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点にもとづき総合的に評価する。平常点は、毎回の授業への取り組み、小テストやレポートなどの課題の提出とその評価により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

社会における課題と政治学を関連づけ、考察する機会を意識的に授業の中で設けていきたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire of fundamental principles of political science. This course deals with basic concepts of the political science.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

岡崎 加奈子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A～E / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は、テキストとレジメに基づき講義形式によりおこなう。現代において政治を構成するさまざまな要素について、時事的な現象と関連付けて学んでいく。毎回の授業では、学生は意見や質問を提出し、次回授業時にそれにたいする回答や解説をおこない全体で共有する。また授業内での複数回のレポート課題および小テストを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第 2 回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第 3 回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第 4 回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第 5 回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第 6 回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第 7 回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第 8 回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第 9 回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第 10 回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第 11 回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第 12 回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第 13 回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第 14 回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学』（東京大学出版会、2012 年）

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点にもとづき総合的に評価する。平常点は、毎回の授業への取り組み、小テストやレポートなどの課題の提出とその評価により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

現代に起こる政治的事象と政治学の概念を関連付けて考える機会をより充実させていきたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire of fundamental principles of political science. This course deals with the modern politics in Japan.

POL100LA

政治学Ⅰ

2017 年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

営 1 年 F～O / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づいた講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。

復習：講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】

- ・『政治学事典』弘文堂
- ・『哲学思想事典』岩波書店
- ・『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline and objectives】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

営 1 年 F～O / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づいた講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。

復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確実なものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと

【その他の重要事項】

- ①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline and objectives】

Analyse Japanese politics with comparing another developed country

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

ベル 裕紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】

学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取り、随時映像などの資料を用いる。また、授業の初めに、前回の授業の課題に対する回答をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族論	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を通史的に把握する。
第四回	贈与・交換・再分配	文化人類学の理論の中核を成す、贈与、交換、再分配に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	構造主義と主体（行為主体性論）という人類学の理論を理解するための二つの見方を紹介する。
第六回	言語・記号論	ソシュール以降の記号論の展開、および人類学における言語行為論について学習する。
第七回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。
第八回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。

第九回 都市人類学

都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。

第十回 国民国家とナショナリズム

A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。

第十一回 ジェンダー論

ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。

第十二回 ポストコロニアル人類学

80年代以降、人類学は、コロナル状況ないし、ポストコロニアル状況の中で発展してきたという歴史的な経緯により自覚的になった。この授業では、そうした視点からの過去の研究への批判や新しい文化観へとつながる研究を紹介していく。

第十三回 オリエンタリズム批判とポストモダニズム

サイードの『オリエンタリズム』を中心に植民地主義における「他者」表象、ポストコロニアリズム批判を理解する。

第十四回 「異文化」「他者」の理解

人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの課題 60%、レポート 40 %で評価する。ただし、レポートの提出は必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジュメや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジュメに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline and objectives】

This class aims basic understanding of cultural anthropology. Students should think what understanding of a culture is and how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

四條 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 I～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界のさまざまな民族の諸活動の背景にある「文化」を理解して、多様な人間のあり方を考えます。また、文化人類学の基本的な考え方を理解した上で、異文化および自文化の構造や意味を、自分の力で客観的かつ理論的に認識・分析できるようになることを目指します。

【到達目標】

文化人類学の基本的な考え方を理解した上で、異文化および自文化の構造や意味を、自分の力で客観的かつ理論的に認識・分析できるようになることを目標とします。なお、本講義は秋学期開講科目（火曜 3・4 限）の「文化人類学 L」と合わせて履修すると、より文化人類学に関する理解が深まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業の冒頭では、提出されたミニレポート／課題の回答のうち興味深い例を紹介し、前回授業の振り返りを行います。

また履修人数によっては、授業内でグループディスカッションやミニディスカッションなども予定しています。

なお授業形式は、履修人数や開講時の社会状況などにより変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方について詳細を説明します。
第 2 回	文化人類学とは①	「進化」のこれまで・これからについて考えます。
第 3 回	文化人類学とは②	多文化社会を支える文化相対主義について考えます。
第 4 回	文化人類学とは③	柳田國男と宮本常一の生き方を通して、日本における人類学の歴史を見つめます。
第 5 回	フィールドワーク	人類学の醍醐味であるフィールドワークについて、実施方法や考え方を学びます。
第 6 回	結婚	多様な結婚について考えます。
第 7 回	オヤコ	家族の形とは？
第 8 回	儀礼	私たちの日常にあふれる儀礼について考えます。
第 9 回	妊娠と出産	文化と妊娠・出産との関係は？
第 10 回	食	あなたの「好き」「嫌い」が操作されている？
第 11 回	互酬性	私たちをとりまく「give and take」について考えます。
第 12 回	開発	人類学の視点から、開発について考えます。
第 13 回	観光	「ニセモノ」は「ニセモノ」なのか？

第 14 回 多元的社会

文化・言語としての「ろう」を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【予習課題】：毎回のテーマに関連するリーディングとその要約を行い、指定した方法で提出します。

【復習課題】：毎回のテーマと関係するトピックについてミニ・リサーチなどを行い、指定した方法で提出します。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

毎回のテーマに関する参考文献は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のミニレポートと課題：40 %

期末試験（もしくはレポート）：60 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本授業では、英語メディア教材（リーディング課題や参照動画）を併用します。履修生は英語学習を習慣化し（英語ラジオや英語動画の視聴など）、英語理解力の向上を心がけましょう。

【Outline and objectives】

Through understanding of the basic concepts and ideologies of cultural anthropology, students will learn and also be required to comprehend the meanings of each cultural/social practice in the current global society.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

梅村 絢美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、世界中の国や地域で暮らす人々の暮らしぶりや「ものの見方」について学びます。これを通じて、異文化を理解するだけでなく、あなた自身の「当たり前」が、実は別の人の「当たり前」とかけ離れているという現実と向き合う（これを「相対化」といいます）ことを目的とします。授業の各回では、「言葉」や「結婚」、「贈り物」「占い」「ジェンダー」など、身近なテーマを設定して世界中の事例を紹介していきます。なかには、「ちょっと受け入れ難いなあ」と感じるものもあるでしょう。でもその瞬間がチャンスです。ちょっと立ち止まって、自分の中に生じた違和感が一体どこからきているのか、じっくりと考えてみてください。そうすることで、異文化や自分自身が、びっくりするような面白い姿をもって見えてくるかもしれません。

【到達目標】

本講義は、以下の到達目標のもと進めます。

- (1) 人類学の思考の枠組み、対象への接近方法を理解し実践できる。
- (2) 自身の前提や思考の枠組みを相対化し、グローバルに展開する様々な社会事象を広い視野・関係論的視点でとらえられる。
- (3) 人類学の思考の枠組みをもちいて、自身の経験や身の回りの出来事を理解し、それを他者に向けて発信することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づきオンデマンド動画配信型で行ないます。

各回の授業開始時刻までに「学習支援システム」の「授業内掲示板」から授業動画の URL をお知らせしますので、授業日から一週間以内を目安に受講し、適宜小レポートを「学習支援システム」の「課題」から提出してください。授業実施に関する詳細は、初回授業開始日の一週間前までに「学習支援システム」よりお知らせします。授業の初めに、前回の授業で提出された小レポートからいくつか取り上げ全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	フィールドワークと民族誌:人類学者の仕事	文化人類学の導入として、人類学者が行うフィールドワークと民族誌の記述について解説します。
2	スリランカ伝承医療との出会い（フィールドワーク紹介）	私（担当教員）がスリランカ伝承医療の治療家のもとで行なったフィールドワークについて紹介します。
3	ライフヒストリーと出会う	※学期末レポートの作成方法について説明します。単位が必要な人は必ず受講してください。

4	文化相対主義という視点:他者とともに生きるための手がかり	人類学を学ぶ上で求められる異文化との関わり方について学びます。
5	言葉と認識:言葉が違おうと世界も違って見える?	文化相対主義に影響を受け培われた言語相対論について学びます。
6	ケガレとタブー:「きたなさ」の正体をさぐる	日常生活で私たちの行動を方向づける衛生観念について、その根拠を探りながら検討します。
7	ケガレと吉祥:スリランカ女性のライフサイクルと身体	スリランカ女性のライフサイクルに生じる身体上の変化を題材に、ケガレがもつダイナミズム、多義性について考えます。
8	贈与交換と絆:社会をつくる経済活動	人間の経済活動の最も基本的なものの一つである贈与交換を題材に、社会の作られ方人びとの繋がり方について考えます。
9	布施が支える社会福祉:スリランカ仏教寺院に集まる金とソーシャルサービス	スリランカの仏教寺院に集まる布施が地域の社会福祉に還元されている事例から、宗教と経済の関係について考えます。
10	輪廻転生の世界観	チベット仏教に伝わる「死者の書」に関するドキュメンタリー映像を鑑賞しながら、輪廻転生の死生観やそれに基づき死者を弔う人びとの生き方について考えます。
11	不幸の説明と呪術:医学や科学が発達しても、占いやお守りがなくなるのはなぜだろう?	突然に起こる不幸な出来事に対して生じる「なぜ?」という問いに、対し寄せられる様々な説明のスタイルについて考えます。
12	癒しと呪術:スリランカの悪魔祓い	スリランカの悪魔払いの映像を鑑賞しながら、病いとは何か、癒しとは何か、笑いと共同性は人びとの生に何をもたらすのか考えます。
13	ジェンダー	文化的に構築された性差としてのジェンダーについて、「男」「女」という二元的な性差に当てはまらない人たちの振る舞いに注目しながら検討します。
14	自己に住まう他者:「私」と「あなた」の境界はどこにある?	様々な社会の人格観について学びながら、社会関係の中で培われる自己のありようについて考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。なお、学期末レポートでは、授業時間外に身近な人に対し対面あるいはオンラインによるインタビューを実施し、それに基づきその人のライフヒストリーを作成してもらいます。

【テキスト（教科書）】

購入が必要なテキストの指定はありません。

【参考書】

松村圭一郎ほか編著『文化人類学の思考法』世界思想社、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（60%）および小レポートの内容（40%）にもとづき総合的に評価します。いずれも、「到達目標」の達成具合を基準に評価します。

出席は授業参加の前提条件であって成績評価の基準とはなりません。また、小レポートの提出は、そこに記述された内容から授業の理解度を確認するためのものであり、出席確認を目的としたものではありません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This lecture aims to relativize your own premise through understanding the cultural and ontological diversities of various societies. The students are expected to recognize the human universality including yourselves from the cultural and social diversities.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

長沢 利明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

文 1 年 A～N、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化理解の学問である文化人類学の基本的な考え方や概念を、言語や文化、社会構造、環境問題といったさまざまなトピックを通して学ぶ。

【到達目標】

文化の多様性と普遍性について知る。異文化と自文化を理解する力を身に付ける。全体を通して、文化人類学的な物の見方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回異なった話題とテーマを取り上げ、文化人類学の方法論や概念を解説する。文化の概念、言語の多様性と構造的な特色、社会構造、日本の民俗、通過儀礼、宗教問題などを取り上げ、文化人類学の学問的意義、基本的発想、概念等について体系的かつ平易に解説する。なお、毎回の授業ではプリントを配り、それに沿って講義を行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文化人類学とはなにか	文化人類学の概要を解説し、それを学ぶことの意義を説明する。
2	人間と文化	文化人類学の基本となる人間と文化について解説する。
3	言語（1）	言語人類学について解説する。
4	言語（2）	言語人類学について解説する。
5	言語（3）	言語人類学について解説する。
6	民俗社会	日本の民俗社会について考える。
7	社会構造	社会構造について解説する。
8	通過儀礼（1）	通過儀礼について解説する。
9	通過儀礼（2）	通過儀礼について解説する。
10	農耕	農耕と文化について解説する。
11	補足（1）	全体的な補足をおこなう。
12	補足（2）	全体的な補足をおこなう。
13	調査とレポート	文化人類学の調査方法と論文のまとめ方について解説する。
14	まとめ・試験	全体的なまとめをおこない、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビ、インターネット等を通して、授業テーマに関する情報に接するよう心がけること。また、授業では、しばしば過去の授業の内容に触れるので、復習をして授業内容に対する理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験の結果によって成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に応じて適宜、授業の進度を変える。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

You can study on this program about general theory of cultural anthropology.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

ベル 裕紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】

学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取り、随時映像などの資料を用いる。また、授業の初めに、前回の授業の課題に対する回答をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相對主義	機能構造主義と文化相對主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族論	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を通史的に把握する。
第四回	贈与・交換・再分配	文化人類学の理論の中核を成す、贈与、交換、再分配に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	構造主義と主体（行為主体性論）という人類学の理論を理解するための二つの見方を紹介する。
第六回	言語・記号論	ソシュール以降の記号論の展開、および人類学における言語行為論について学習する。
第七回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。
第八回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。

第九回	都市人類学	都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。
第十回	国民国家とナショナリズム	A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第十一回	ジェンダー論	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。
第十二回	ポストコロニアル人類学	80年代以降、人類学は、コロンアル状況ないし、ポストコロニアル状況の中で発展してきたという歴史的な経緯により自覚的になった。この授業では、そうした視点からの過去の研究への批判や新しい文化観へとつながる研究を紹介していく。
第十三回	オリエンタリズム批判とポストモダンリズム	サイードの『オリエンタリズム』を中心に植民地主義における「他者」表象、ポストコロニアリズム批判を理解する。
第十四回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね 2 時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの課題 60%、レポート 40 % で評価する。ただし、レポートの提出は必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジュメや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジュメに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline and objectives】

This class aims basic understanding of cultural anthropology. Students should think what understanding of a culture is and how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

梅村 絢美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、世界中の国や地域で暮らす人々の暮らしぶりや「ものの見方」について学びます。これを通じて、異文化を理解するだけでなく、あなた自身の「当たり前」が、実は別の人の「当たり前」とかけ離れているという現実と向き合う（これを「相対化」といいます）ことを目的とします。授業の各回では、「言葉」や「結婚」、「贈り物」「古い」「ジェンダー」など、身近なテーマを設定して世界中の事例を紹介していきます。なかには、「ちょっと受け入れ難いなあ」と感じるものもあるでしょう。でもその瞬間がチャンスです。ちょっと立ち止まって、自分の中に生じた違和感が一体どこからきているのか、じっくりと考えてみてください。そうすることで、異文化や自分自身が、びっくりするような面白い姿をもって見えてくるかもしれません。

【到達目標】

本講義は、以下の到達目標のもと進めます。

- (1) 人類学の思考の枠組み、対象への接近方法を理解し実践できる。
- (2) 自身の前提や思考の枠組みを相対化し、グローバルに展開する様々な社会現象を広い視野・関係論的視点でとらえられる。
- (3) 人類学の思考の枠組みをもちいて、自身の経験や身の回りの出来事を理解し、それを他者に向けて発信することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づきオンデマンド動画配信型で行ないます。各回の授業開始時刻までに「学習支援システム」の「授業内掲示板」から授業動画の URL をお知らせしますので、授業日から一週間以内を目安に受講し、適宜小レポートを「学習支援システム」の「課題」から提出してください。授業実施に関する詳細は、初回授業開始日の一週間前までに「学習支援システム」よりお知らせします。授業の初めに、前回の授業で提出された小レポートからいくつか取り上げ全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	フィールドワークと民族誌:人類学者の仕事	文化人類学の導入として、人類学者が行うフィールドワークと民族誌の記述について解説します。
2	スリランカ伝承医療との出会い（フィールドワーク紹介）	私（担当教員）がスリランカ伝承医療の治療家のもとで行なったフィールドワークについて紹介します。
3	ライフヒストリーと出会う	※学期末レポートの作成方法について説明します。単位が必要な人は必ず受講してください。
4	文化相対主義という視点:他者とともに生きるための手がかり	人類学を学ぶ上で求められる異文化との関わり方について学びます。

5	言葉と認識:言葉が違うと世界も違って見える?	文化相対主義に影響を受け培われた言語相対論について学びます。
6	ケガレとタブー:「きたなさ」の正体をさぐる	日常生活で私たちの行動を方向づける衛生観念について、その根拠を探りながら検討します。
7	ケガレと吉祥:スリランカ女性のライフサイクルと身体	スリランカ女性のライフサイクルに生じる身体上の変化を題材に、ケガレがもつダイナミズム、多義性について考えます。
8	贈与交換と絆:社会をつくる経済活動	人間の経済活動の最も基本的なものの一つである贈与交換を題材に、社会の作られ方人びとの繋がりに関して考えます。
9	布施が支える社会福祉:スリランカ仏教寺院に集まる金とソーシャルサービス	スリランカの仏教寺院に集まる布施が地域の社会福祉に還元されている事例から、宗教と経済の関係について考えます。
10	輪廻転生の世界観	チベット仏教に伝わる「死者の書」に関するドキュメンタリー映像を鑑賞しながら、輪廻転生の死生観やそれに基づき死者を弔う人びとの生き方について考えます。
11	不幸の説明と呪術:医学や科学が発達しても、占いやお守りがなくならないのはなぜだろう?	突然に起こる不幸な出来事に対して生じる「なぜ?」という問いに対し寄せられる様々な説明のスタイルについて考えます。
12	癒しと呪術:スリランカの悪魔祓い	スリランカの悪魔払いの映像を鑑賞しながら、病いとは何か、癒しとは何か、笑いと共同性は人びとの生に何をもたらすのか考えます。
13	ジェンダー	文化的に構築された性差としてのジェンダーについて、「男」「女」という二元的な性差に当てはまらない人たちの振る舞いに注目しながら検討します。
14	自己に住まう他者:「私」と「あなた」の境界はどこにある?	様々な社会の人格観について学びながら、社会関係の中で培われる自己のありようについて考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。なお、学期末レポートでは、授業時間外に身近な人に対し対面あるいはオンラインによるインタビューを実施し、それに基づきその人のライフヒストリーを作成してもらいます。

【テキスト（教科書）】

購入が必要なテキストの指定はありません。

【参考書】

松村圭一郎ほか編著『文化人類学の思考法』世界思想社、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート (60%) および小レポートの内容 (40%) にもとづき総合的に評価します。いずれも、「到達目標」の達成具合を基準に評価します。

出席は授業参加の前提条件であって成績評価の基準とはなりません。また、小レポートの提出は、そこに記述された内容から授業の理解度を確認するためのものであり、出席確認を目的としたものではありません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This lecture aims to relativize your own premise through understanding the cultural and ontological diversities of various societies. The students are expected to recognize the human universality including yourselves from the cultural and social diversities.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

阿部 朋恒

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

営 1 年 K~O / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化への理解を深めることを通じて、ものの考え方や暮らし方が多様であることを知る。自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。それはこれからの時代を生きたために役立つ訓練になるだけでなく、それ自体がこのうえなく楽しいことでもある。この授業では、世界各地の具体的な事例と、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら、そのための糸口をできるだけ多くつくることを目指す。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

今学期は、前半をオンラインリアルタイム講義とオンデマンド資料配信講義をとりまぜながら行い、後半は状況が許せば対面式の授業を適宜実施したい。なお対面授業を行う場合でも、講義を動画資料として配信し、オンラインでも受講ができるよう対応する。毎回の授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。各回授業内容についての質問はリアクションペーパーを通じて受け付け、次回授業の冒頭でいくつかを取り上げてフィードバックを行う。また隔週でオンライン相談窓口（オフィスアワーに相当）を開設し、個別の質問にも対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学のなりたち	文化人類学という学問の歴史と、時代ごとに果たしてきた意義を学ぶ。
3	フィールドワークと民族誌	人類学と社会科学における他の学問領域との方法論的な特徴の差異を確認する。
4	環境と生業	世界のさまざまな地域の環境と、それに適応して暮らす人々の生活の多様性を知る。
5	贈与と経済	貨幣を介さない交換の意味を学び、経済合理的な思考の有効性を捉え直す。
6	儀礼と宗教	さまざまな世界観に即した儀礼を知り、その役割を考える。また、われわれの身の回りにある儀礼的行為とのつながりを考える。

7	儀礼と宗教	宗教と世俗の境界について整理し、宗教とは何かを考える。
8	病（やまい）	各地の伝統医療・民族医療と近代医療との関係を学び、人が癒されるとはどういったことなのかを考える。
9	家族・親族・婚姻	家族と親族の範囲と役割、婚姻にまつわる規則の多様性について学ぶ。
10	エスニシティ	「人種」「民族」「先住民」などにまつわる現象を考えるための方法を学ぶ。
11	コミュニティ	地縁、血縁にもとづく関係からインターネットで結びつく関係まで、さまざまな社会関係を包括して理解する視座を学ぶ。
12	移動と文化	ヒト、モノ、情報の流動性が高まる今日の状況における「文化」とは何かを考える。
13	まとめ	授業内容の総括と、期末試験についての説明を行う。
14	試験・総括と解説	筆記形式（選択問題および論述問題）の期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌のニュースに関心を払い、遠くの国や地域で生じた出来事であっても少しの時間を割いて考えてみる。また、身の回りで生じるさまざまな出来事について、異なる立場にある人の見方を想像してみること。その際、文化人類学の考え方を応用するとどのような発見があるのかを意識してほしい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業に関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】

『文化人類学キーワード〔改訂版〕』山下晋司・船曳建夫（編）有斐閣、2008 年。

上記の他にも、毎回の授業で関連する基礎文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40 %）、筆記形式の期末試験（60 %）により評価する。なお、期末試験は紙媒体の資料のみ持ち込み可とする。期末試験への実地参加が難しい受講生には、オンラインで受験が可能な代替試験を用意する。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド方式の動画配信について、公開時期や要望への対応の遅れが生じたほか、音声の強弱のむらや動画が冗長になるなどの課題が多々浮かび上がった。このほかにも、対面できないため伝えられない要望もあったかと思う。これらを踏まえ、今学期は機器の取り扱いに習熟する、授業時間外に寄せられる連絡にも柔軟に対応する、各回授業には過剰な内容を詰め込みすぎないように配慮するなど、オンライン環境に適した授業づくりに努めたい。

また、オンライン化に伴って例年になく課題に追われるなど困難な状況に置かれた受講生も少なくないようだった。課題要求についても過大にならないよう配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン型リアルタイム授業では Zoom の利用、オンデマンド型動画配信授業では Google Classroom の利用を予定している。このため、インターネット環境を整えたうえで受講の望んでほしい。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

【Outline and objectives】

Armed with the knowledge that people's way of thinking and way of life diversifies through deepened understanding of different cultures, we explore opportunities to relativize common ideas and values and look back on them. In this course, we will learn useful points and concrete examples in this area by referring to methodologies developed in the field of cultural anthropology.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

阿部 朋恒

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

営 1 年 Q～U / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化への理解を深めることを通じて、ものの考え方や暮らし方が多様であることを知る。自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。それはこれからの時代を生きたために役立つ訓練になるだけでなく、それ自体がこのうえなく楽しいことでもある。この授業では、世界各地の具体的な事例と、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら、そのための糸口をできるだけ多くつくることを目指す。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

今学期は、前半をオンラインリアルタイム講義とオンデマンド資料配信講義をとりまぜながら行い、後半は状況が許せば対面式の授業を適宜実施したい。なお対面授業を行う場合でも、講義を動画資料として配信し、オンラインでも受講ができるよう対応する。

毎回の授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

各回授業内容についての質問はリアクションペーパーを通じて受け付け、次回授業の冒頭でいくつかを取り上げてフィードバックを行う。また隔週でオンライン相談窓口（オフィスアワーに相当）を開設し、個別の質問にも対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学のなりたち	文化人類学という学問の歴史と、時代ごとに果たしてきた意義を学ぶ。
3	フィールドワークと民族誌	人類学と社会科学における他の学問領域との方法論的な特徴の差異を確認する。
4	環境と生業	世界のさまざまな地域の環境と、それに適応して暮らす人々の生活の多様性を知る。
5	贈与と経済	貨幣を介さない交換の意味を学び、経済合理的な思考の有効性を捉え直す。
6	儀礼と宗教	さまざまな世界観に即した儀礼を知り、その役割を考える。また、われわれの身の回りにある儀礼的行為とのつながりを考える。

7	儀礼と宗教	宗教と世俗の境界について整理し、宗教とは何かを考える。
8	病（やまい）	各地の伝統医療・民族医療と近代医療との関係を学び、人が癒されるとはどういったことなのかを考える。
9	家族・親族・婚姻	家族と親族の範囲と役割、婚姻にまつわる規則の多様性について学ぶ。
10	エスニシティ	「人種」「民族」「先住民」などにまつわる現象を考えるための方法を学ぶ。
11	コミュニティ	地縁、血縁のもとづく関係からインターネットで結びつく関係まで、さまざまな社会関係を包括して理解する視座を学ぶ。
12	移動と文化	ヒト、モノ、情報の流動性が高まる今日的な状況における「文化」とは何かを考える。
13	まとめ	授業内容の総括と、期末試験についての説明を行う。
14	試験・総括と解説	筆記形式（選択問題および論述問題）の期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌のニュースに関心を払い、遠くの国や地域で生じた出来事であっても少しの時間を割いて考えてみる。また、身の回りで生じるさまざまな出来事について、異なる立場にある人の見方を想像してみること。その際、文化人類学の考え方を応用するとどのような発見があるのかを意識してほしい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業に関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】

『文化人類学キーワード〔改訂版〕』山下晋司・船曳建夫（編）有斐閣、2008 年。

上記の他にも、毎回の授業に関連する基礎文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40 %）、筆記形式の期末試験（60 %）により評価する。なお、期末試験は紙媒体の資料のみ持ち込み可とする。期末試験への実地参加が難しい受講生には、オンラインで受験が可能な代替試験を用意する。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド方式の動画配信について、公開時期や要望への対応の遅れが生じたほか、音声の強弱のむらや動画が冗長になるなどの課題が多々浮かび上がった。このほかにも、対面できないため伝えられない要望もあったかと思う。これらを踏まえ、今学期は機器の取り扱いに習熟する、授業時間外に寄せられる連絡にも柔軟に対応する、各回授業には過剰な内容を詰め込みすぎないように配慮するなど、オンライン環境に適した授業づくりに努めたい。

また、オンライン化に伴って例年になく課題に追われるなど困難な状況に置かれた受講生も少なくないようだった。課題要求についても過大にならないよう配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン型リアルタイム授業では Zoom の利用、オンデマンド型動画配信授業では Google Classroom の利用を予定している。このため、インターネット環境を整えたうえで受講の望んでほしい。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

【Outline and objectives】

Armed with the knowledge that people's way of thinking and way of life diversifies through deepened understanding of different cultures, we explore opportunities to relativize common ideas and values and look back on them. In this course, we will learn useful points and concrete examples in this area by referring to methodologies developed in the field of cultural anthropology.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

四條 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界のさまざまな民族の諸活動の背景にある「文化」を理解して、多様な人間のあり方を考えます。また、文化人類学の基本的な考え方を理解した上で、異文化および自文化の構造や意味を、自分の力で客観的かつ理論的に認識・分析できるようになることを目指します。

【到達目標】

文化人類学の基本的な考え方を理解した上で、異文化および自文化の構造や意味を、自分の力で客観的かつ理論的に認識・分析できるようになることを目標とします。なお、本講義は秋学期開講科目（火曜 3・4 限）の「文化人類学 L」と合わせて履修すると、より文化人類学に関する理解が深まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業の冒頭では、提出されたミニレポート／課題の回答のうち興味深い例を紹介し、前回授業の振り返りを行います。

また履修人数によっては、授業内でグループディスカッションやミニディスカッションなども予定しています。

なお授業形式は、履修人数や開講時の社会状況などにより変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方について詳細を説明します。
第 2 回	文化人類学とは①	「進化」のこれまで・これからについて考えます。
第 3 回	文化人類学とは②	多文化社会を支える文化相対主義について考えます。
第 4 回	文化人類学とは③	柳田國男と宮本常一の生き方を通して、日本における人類学の歴史を見つめます。
第 5 回	フィールドワーク	人類学の醍醐味であるフィールドワークについて、実施方法や考え方を学びます。
第 6 回	結婚	多様な結婚について考えます。
第 7 回	オヤコ	家族の形とは？
第 8 回	儀礼	私たちの日常にあふれる儀礼について考えます。
第 9 回	妊娠と出産	文化と妊娠・出産との関係は？
第 10 回	食	あなたの「好き」「嫌い」が操作されている？
第 11 回	互酬性	私たちをとりまく「give and take」について考えます。
第 12 回	開発	人類学の視点から、開発について考えます。
第 13 回	観光	「ニセモノ」は「ニセモノ」なのか？

第14回 多元的社会

文化・言語としての「ろう」を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【予習課題】：毎回のテーマに関連するリーディングとその要約を行い、指定した方法で提出します。

【復習課題】：毎回のテーマと関係するトピックについてミニ・リサーチなどを行い、指定した方法で提出します。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

毎回のテーマに関する参考文献は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のミニレポートと課題：40%

期末試験（もしくはレポート）：60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本授業では、英語メディア教材（リーディング課題や参照動画）を併用します。履修生は英語学習を習慣化し（英語ラジオや英語動画の視聴など）、英語理解力の向上を心がけましょう。

【Outline and objectives】

Through understanding of the basic concepts and ideologies of cultural anthropology, students will learn and also be required to comprehend the meanings of each cultural/social practice in the current global society.

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

石森 大知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

国環1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化や国際化の加速度的な進展とともに、地球上のすべての社会を取り巻く文化的環境は大きく変化している。それに伴い、文化人類学では、新しい知の体系を再構築するべく現代的課題を積極的に扱うようになった。本授業では、異文化理解のための基本的な視座を養うとともに、宗教とナショナリズム、開発援助、科学技術、観光と文化創造などの現代的諸テーマを把握し、また自らもかわるグローバルな問題として理解することを目指す。

【到達目標】

- ・異文化の比較考察を行うためのものの見方や基本概念を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる他者理解の洞察力を身に付ける。
- ・文化的多様性を理解するとともに、グローバル化の渦中の諸問題について広い視野から考察を行い、自分なりの意見や見解をもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は【オンデマンド型】で行う予定です（変更の場合は学習支援システムを通して事前に連絡します）。
- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	フィールドワークの論理	質的調査の方法論とその考え方
第3回	親族の組織化	キンドレッド・出自・母系社会
第4回	宗教と精神世界	日本人は「無宗教」なのか
第5回	境界性とタブー	「汚さ」の正体
第6回	人生と儀礼	儀礼の構造と論理
第7回	セクシュアリティとジェンダー	性の多義性とは
第8回	贈物と交換	贈物を社会関係から考える
第9回	芸術とモノ	「美しさ」の正体
第10回	科学技術と人類学	ネットワークとしての科学
第11回	開発現象と人類学	社会開発への転換
第12回	観光と文化創造	「楽園」ハワイの事例から
第13回	オリエンタリズム批判	他者表象の政治性と人類学批判
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。

松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。
岸上伸啓編著『はじめて学ぶ文化人類学—人物・古典・名著からの誘い』ミネルヴァ書房、2018年。

梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスン—フィールドからの出発』学陽書房、2017年。

波平恵美子編『文化人類学—カレッジ版（第3版）』医学書院、2011年。

【成績評価の方法と基準】

レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

学期中にシラバスや授業計画の変更が余儀なくされた場合は学習支援システムで周知します。

【Outline and objectives】

This course covers the basics of cultural anthropology, which seeks to understand cultural and social diversity in the world. We try to understand global issues, such as international development, tourism and conflicts, from anthropological perspective.

SOS100LA

社会思想 I

2017年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 E～N、T～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Google Classroom クラスコード 5twv66m

オンデマンド授業をあくまで原則としますが、状況が許す場合に限り、数回は対面授業（ハイフレックス対応）を実施する可能性があります。オンデマンド授業は、Google Classroom（クラスコード 5twv66m）を使用し、毎回、動画視聴（60分程度）＋課題実施というメニューとします。質問には、Google Classroom を利用して随時対応します。

履修者は、各自で、法政大学のアカウントで< <https://classroom.google.com/> > にログインして、Google Classroom でこの授業を登録してください（クラスコード 5twv66m）。

登録方法が分からない場合や、そのほか履修前に質問がある場合は、Hoppii のこの授業の掲示板を通じて遠慮なく質問してください。「社会思想」は、社会にかかわるさまざまな考えを学ぶ科目です。この「社会思想 I」のクラスでは、まったくの初学者にも学びやすいように、過去から現代までの理想社会論（ユートピア論）を学びます。どのような社会が、理想的な社会なのでしょう。だれかが考えた「理想社会」は、ほかのひとにとっては、悪夢ではないのでしょうか。

【到達目標】

代表的なユートピア論を学びながら、社会や政治にかかわる学問的理解の基礎を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。資料を配布します。履修者は、各自で、Google Classroom でこの授業を登録してください（クラスコード 5twv66m）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要
第 2 回	プラトン『国家』	真理にもとづく政治
第 3 回	モア『ユートピア』	平等という理想
第 4 回	ベーコン『ニューアトランティス』、カンパネラ『太陽の都』	コントロールされる性愛
第 5 回	ハリントン『オセアナ』	制度論のアプローチ
第 6 回	カント『永遠平和のために』	国際社会の理想と現実
第 7 回	ユートピア思想として	社会主義とはなんだったかの社会主義
第 8 回	オーウェル『動物農場』	ユートピアからディストピアへ
第 9 回	オーウェル『1984 年』	監視国家
第 10 回	ハクスリー『すばらしい新世界』	幸福なディストピア
第 11 回	現代のユートピア・ディストピア（1）	災害ユートピア（ソルニット）

第12回	現代のユートピア・ディストピア（2）	パンデミックディストピア（アトウッド）
第13回	現代のユートピア・ディストピア（3）	パンデミックディストピア（その他）
第14回	まとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した作品を1冊でも、最初から最後まで実際に自分で読んでみることを推奨します。

【テキスト（教科書）】

授業で用いる資料は配布します。

【参考書】

授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）、期末の授業内試験（30%）

【学生の意見等からの気づき】

できるかぎり一方向的な講義とならないように留意します。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom で動画を視聴して課題を実施するために、情報通信環境が必須です。

【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。

さまざまな他人の考えを学ぶのは、それに賛成か反対かにかかわらず、わたしたち自身の考え方を豊かにするための有力な方法です（いうまでもありませんが、この授業は、特定の思想を押しつけるものではありません）。

【Outline and objectives】

Explores history of Utopian political theories from ancient Greece to contemporary Japan.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 E～N、T～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Google Classroom クラスコード lm5nhkg

オンデマンド授業をあくまで原則としますが、状況が許す場合に限り、数回は対面授業（ハイフレックス対応）を実施する可能性があります。オンデマンド授業は、Google Classroom（クラスコード lm5nhkg）を使用し、毎回、動画視聴（60 分程度）＋課題実施というメニューとします。質問には、Google Classroom を利用して随時対応します。

履修者は、各自で、Google Classroom でこの授業を登録してください（クラスコード lm5nhkg）。登録方法が分からない場合や、そのほか履修前に質問がある場合は、Hoppii のこの授業の掲示板を通じて遠慮なく質問してください。

「社会思想」は、社会についてのさまざまな考え方を学ぶ科目です。この「社会思想Ⅱ」のクラスでは、「正義」をめぐる社会思想を学びます。

【到達目標】

「正義」について理解を深めて、社会にある実際の問題について考える思考力をアップグレードします。

医療現場において、仮にひとりしか助けられないとしたら、だれを助けるべきなのでしょう（トリアージ）。貧困は、努力しなかった本人の自己責任ではないのでしょうか。海外の貧困よりも、国内の貧困にこそ、優先的に取り組むべきでしょうか。死刑は、認められるのでしょうか。正しい戦争はあるのでしょうか——この授業では、こうした問題を考えるための学問的基礎を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。資料を配布します。履修者は、各自で、Google Classroom でこの授業を登録してください（クラスコード lm5nhkg）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに：正義とはなにか。正義は、ひとそれぞれではないのか	教科書第1章
第2回	最大多数の最大幸福（1）	教科書第3章
第3回	最大多数の最大幸福（2）	教科書第3章
第4回	貧困や格差をどうするか（1）	教科書第8章前半、第2章
第5回	貧困や格差をどうするか（2）	教科書第5章
第6回	貧困や格差をどうするか（3）	教科書第6章
第7回	貧困や格差をどうするか（4）	教科書第7章
第8回	グローバルな貧困・格差	教科書第8章後半

第9回 教育	教科書第9章
第10回 医療	教科書第10章
第11回 死刑	教科書第11章
第12回 戦争	教科書第12章
第13回 地球環境	教科書第14章
第14回 まとめ	授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した作品を1冊でも、最初から最後まで実際に自分で読んでみることを推奨します。

【テキスト（教科書）】

宇佐見誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論』（法律文化社、2019）講義は、基本的にこの教科書に即して行いますので、より深く理解するためには、この教科書を使った予習・復習が推奨されます。しかし、毎回の授業に持参する必要はありません。

【参考書】

授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）、期末の授業内試験（30%）

【学生の意見等からの気づき】

できるかぎり一方的な講義とならないように留意します。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom で動画を視聴して課題を実施するために、情報通信環境が必須です。

【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。

さまざまな他人の考えを学ぶのは、それに賛成か反対かにかかわらず、わたしたち自身の考え方を豊かにするための有力な方法です（いうまでもありませんが、この授業は、特定の思想を押しつけるものではありません）。

【Outline and objectives】

Explores various conceptions of justice in social philosophy.

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

村田 玲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 H～Y、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らずにはいなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を预示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたっても留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間的事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本に諸々のオンライン授業を組み合わせた形式でおこなう。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について
4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について

5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について
6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキアヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと16世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20％
複数回の小レポート：30％
定期試験：50％

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

法1年H～Y、キ1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の側面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を収拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まずもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解をもって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本に諸々のオンライン授業を組み合わせた形式でおこなう。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について
4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念

5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホッブズの『リヴァイアサン』について
6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	バークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20 世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013 年）本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012 年）本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20 %
複数回の小レポート：30 %
定期試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文 1 年 P～R、営 1 年 A～H、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治・政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施し制度を構築する必要があります。そしてその際には、政策がもたらす経済的效果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのようにして実現するのが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、望ましい社会のあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。春学期は、現代の規範的な政治理論において提示されてきた、望ましい社会のあり方に関する様々な立場を学びます。これらを学ぶことによって、現代社会のあり方を再検討できるようになるとともに、望ましい社会のあり方を自ら考えていけるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本授業における具体的な到達目標は、以下の 3 つになります。（1）功利主義、リバタリアニズム、平等主義的リベラリズム、といった代表的な社会構想について理解すること。（2）それらの構想に対して提示されてきた批判を踏まえて、様々な社会構想を比較検討できるようになること。（3）望ましい社会のあり方に関する自らの考え方を構築できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業中および授業後に、できる限り質問の時間を設けます。授業時間の最後には、リアクションペーパーを提出していただきます。リアクションペーパーでいただいたコメントに対しては、前回の授業の復習も兼ねて、次の授業の冒頭でいくつか応答を行います。※大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。※初回の授業（4 / 7 の 13 : 10～）は、zoom を用いて、オンラインで実施いたします。zoom ミーティングへのリンクは、学習支援システムの授業内掲示板に掲載しています。お手数ですが、そちらをご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要の説明
第 2 回	功利主義（1）	人々の幸福を最大化する社会の構想
第 3 回	功利主義（2）	功利主義への批判と応答
第 4 回	リバタリアニズム（1）	自由を絶対的に尊重する社会の構想
第 5 回	リバタリアニズム（2）	リバタリアニズムへの批判と応答
第 6 回	リベラルな平等主義（1）	自由で平等な人々の公正な協働
第 7 回	リベラルな平等主義（2）	リベラルな平等主義への批判と応答
第 8 回	平等主義の展開（1）	「何の平等か？」をめぐる論争
第 9 回	平等主義の展開（2）	平等主義／優先主義／充分主義の差異
第 10 回	運の平等主義（1）	選択責任の尊重と不運からの保護
第 11 回	運の平等主義（2）	運の平等主義への批判と応答
第 12 回	関係論的平等主義（1）	平等な存在として関わり合う社会
第 13 回	関係論的平等主義（2）	関係論的平等主義への批判と応答
第 14 回	授業内試験	関論試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間が標準となります。

参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱った議論について自分で考えてみることを、推奨します。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することではなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】

※参考書として、規範的な政治理論の教科書を 4 冊挙げておきます。どれか 1 冊が手元にあると、予習・復習をしやすと思います。※授業内容との関連という点では、（1）→（4）の順番で関わりが深いです。しかし逆に、簡単に読めるという観点では、（4）→（1）という順番で読みやすいと思います。

- (1) W. キムリッカ、千葉眞・岡崎晴輝（訳）『現代政治理論』日本経済評論社、2005年
 (2) 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックからフロンティアまで』法律文化社、2019年
 (3) 川崎修・杉田敦（編）『現代政治理論』有斐閣、2012年
 (4) 田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論』有斐閣、2017年
 ※その他、それぞれの授業のテーマに関連する文献を、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】

満点である100点のうち、平常点が30%、期末試験が70%になります。平常点に関しては、授業後に毎回提出していただくリアクションペーパー、授業内での質問や発言、普段の聴講態度、この3つを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想Ⅱでは、春学期の社会思想Ⅰ（本授業）の内容を踏まえて、現代の様々な社会的課題について考察します。社会思想Ⅰのみの履修でも意義があるような講義を行います。春学期・秋学期を合わせた履修を推奨します。また、社会思想Ⅰで学ぶことのイメージがつかみにくい場合は、実践編である社会思想Ⅱのシラバスを参照してください。

【Outline and objectives】

In this course, students learn modern political philosophy. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies or social institutions. These values or ideals include liberty, equality, or fairness. In the spring semester, we discuss various conceptions of a just society, such as utilitarianism, libertarianism, and liberal egalitarianism. After learning and examining them, students can critically evaluate existing institutions and construct their own conception of a just society.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

文1年P～R、営1年A～H、国1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治・政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施し制度を構築する必要があります。そしてその際には、政策がもたらす経済的効果の大きさに加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのようにして実現するのが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、望ましい社会のあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。秋学期では、現代の様々な社会的課題に対して、規範的政治理論の観点から考察を行います。これらの考察を通じて、現代の社会的課題に関して、規範的な論争点を理解するとともに、自らの考え方を構築できるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本講義では、貧困、健康、差別といった、現代社会における様々な課題・問題を取り上げ、価値や理念に着目する規範的な観点から、考察を行います。具体的には、以下の3つを到達目標とします。(1) 様々な社会的課題に関して、どのような規範的な論争点が存在するのかを理解すること。(2) それらの論争点に関してどのような立場が提示されてきて、どのような批判的検討がなされてきたかを理解すること。(3) 現代の社会的課題に関して、自らの立場を考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業中および授業後に、できる限り質問の時間を設けます。授業時間の最後には、リアクションペーパーを提出していただきます。リアクションペーパーでいただいたコメントに対しては、前回の授業の復習も兼ねて、次の授業の冒頭でいくつか応答を行います。また、秋学期までに新型コロナウイルスの感染状況が改善すれば、何度かグループディスカッションの時間を設ける予定です。

※大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要
第2回	貧困	貧困に陥るのは自己責任なのか？
第3回	市場経済の制度	市場経済が公正であるための条件
第4回	税と社会保障	課税と社会保障に正当性はあるか？
第5回	健康と医療（1）	人々の選択と医療資源の分配
第6回	健康と医療（2）	健康の社会的決定要因
第7回	教育（1）	教育はどのような意味を持つか？
第8回	教育（2）	教育機会の公正とは何か？
第9回	差別（1）	差別とは何か？
第10回	差別（2）	差別はなぜ不正なのか？
第11回	障害	障害と社会的包摂
第12回	政治的意志決定（1）	デモクラシーは望ましいのか？
第13回	政治的意志決定（2）	デモクラシーとポピュリズム
第14回	授業内試験	論述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったトピックについて自分で考えてみることを、推奨します。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することではなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】

※(1)の本と(2)の第2部は、現代の社会的課題を取り上げ、規範的政治理論の観点から検討を行う教科書です。(3)と(4)は、具体的なトピックの一例として、新型コロナウイルスへの対応と、デモクラシーについて、それぞれ論じる本になります。

- (1) J. ウルフ、大澤津・原田健二朗訳『正しい政策』がないならどうすべきか：政策のための哲学』勁草書房、2016年
 (2) 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019年
 (3) 広瀬巖『パンデミックの倫理学：緊急時対応の倫理原則と新型コロナウイルス感染症』勁草書房、2021年
 (4) 宇野重規『民主主義とは何か』講談社、2020年
 ※その他、各授業で取り上げるテーマ・トピックに関して、授業中に参考文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

満点である100点のうち、平常点が30%、期末試験が70%になります。平常点に関しては、授業後に毎回提出していただくアクションペーパー、授業内での質問や発言、普段の聴講態度、この3つを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想Ⅱ（本授業）は、春学期の社会思想Ⅰの応用編としての性質を持ちます。社会思想Ⅰを履修していなくても理解できるような講義を行います。合わせて履修していただくことで理解が深まります。そのため、本授業に興味を持っていた場合、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

【Outline and objectives】

In this course, students learn modern political philosophy. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies or social institutions. These Values or ideals include liberty, equality, or fairness. In the fall semester, we discuss actual social problems such as poverty, health, or discrimination from the perspective of modern political philosophy. After completing the course, students can present their own views on social problems.

SOS100LA

社会思想Ⅰ

2017年度以降入学者

洪 貴義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

文1年A～B、営1年J～U、環1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では小説家フランツ・カフカの思想を学びます。19世紀末にオーストリア＝ハンガリー帝国領ブラハで生まれ、ドイツ語で書いたユダヤ人カフカの作品は現代においてもなお「重要な問い」を発しています。この授業では世紀転換期を生きたその生涯を概観しながら、具体的な作品を読み、名前、アイデンティティ、法、家族、フィクション、ディアスポラ性などの主題について学びます。

【到達目標】

カフカの作品をていねいに読むことができる
 時代背景をふまえて、カフカ思想の主題を理解することができる
 カフカの作品から学んだことを自分の言葉で表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

コロナ対応のため2021年度春学期はオンラインで授業を行い、4月12日に学習支援システムを通して授業を開始します。その際初回ガイダンスを行いますので、詳細は提示するガイダンスのファイルを確認するようにしてください。提出された課題に対しては授業のなかでフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の内容、進め方、成績評価の方法などについての説明
2	導入（1）	19世紀末という時代（1）
3	導入（2）	19世紀末という時代（2）
4	展開（1）	抑圧された名前（1）
5	展開（2）	抑圧された名前（2）
6	展開（3）	アイデンティティの病（1）
7	展開（4）	アイデンティティの病（2）
8	展開（5）	ディアスポラ（1）
9	展開（6）	ディアスポラ（2）
10	展開（7）	掟の前で（1）
11	展開（8）	掟の前で（2）
12	結論（1）	脱出（1）
13	結論（2）	脱出（2）
14	結論（3）	フィクションと現実

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をうけるにあたって、1時間ほどテキストや参考文献を自ら読んで読み、問題意識を持って授業に臨むことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各1～2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ガイダンス時に説明します。

【参考書】

授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業後に提出する 10 回分の小レポート課題を平常点として成績評価を行います。

各レポートの評価基準としては、各回の授業ごとに、主題を理解し、その内容を自らの言葉によって解釈し、表現していることとします。1 回分の配分を 10 % とし、10 回のレポートによって合計 100 % とし成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces some ideas of novelist Franz Kafka to students taking this course.

Although born at the end of 19's century Prague Kafka is still bringing up important issues for us. The aim of this course is to guide students to acquire of these issues, for example a meaning of name, identity, law, family, fiction and a state of diaspora.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～B、営 1 年 J～U、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではハンナ・アーレントの思想を学びます。20 世紀初めにドイツで生まれ、ハイデガーやヤスパースに哲学を学び、ユダヤ人であったためナチズムから逃れてアメリカへ亡命するという経験をへて、彼女は政治思想家になりました。この授業ではその生涯を踏まえながら、20 世紀という時代の経験を生きたアーレントの政治思想を学びます。

【到達目標】

アーレントが生きた時代の歴史的背景を理解することができる

アーレントの政治思想を理解することができる

アーレントの政治思想をレポートなどによって自分の言葉で表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

2021 年度秋学期はコロナ対応のため、オンライン授業の予定です。詳細については初回ガイダンス時に説明します。提出された課題に対しては授業のなかでフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容、進め方、成績評価の方法についての説明
2	導入（1）	時代背景（1）
3	導入（2）	時代背景（2）
4	哲学と詩（1）	マールブルクとハイデルベルク
5	哲学と詩（2）	ナチ前夜
6	亡命の時代（1）	パリ
7	亡命の時代（2）	収容所
8	ニューヨーク（1）	難民という経験
9	ニューヨーク（2）	全体主義の起源
10	1950 年代（1）	ヨーロッパ再訪
11	1950 年代（2）	人間の条件
12	アメリカ社会（1）	レッシング賞
13	アメリカ社会（2）	アイヒマン論争
14	まとめ	精神の生活

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をうけるにあたって文献を自ら進んで読み、問題意識を持って授業に臨むことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 ～ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ガイダンス時に説明します。

【参考書】

授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業後に提出する 10 回分の小レポート課題を平常点として成績評価を行います。

各レポートの評価基準としては、各回の授業ごとに、主題を理解し、その内容を自らの言葉によって解釈し、表現していることとします。1 回分の配分を 10 % とし、10 回のレポートによって合計 100 % とし、成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course introduces political ideas of Hannah Arendt to students taking this course.

Born in Germany at the beginning of the 20's century and after grown up she studied philosophy from Heidegger and Jaspers. But German Nazism expelled her from her own country to USA and that event made her political philosopher. The aim of this course is to guide students to acquire Arendt's life and her political ideas.

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

熊沢 敏之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会批評の形成・流通・普及の過程を、日本における人文書の興亡とジャーナリズムの展開のなかで考える。敗戦後の 1945 年から 1980 年代まで、もっとも精彩を放ちながら戦後日本をリードした思想家と人文書、および出版人に焦点を合わせ、その思想が社会に与えたインパクトと意味を析出する。現役の出版人による戦後出版通史、人文学史。

【到達目標】

いまや古典となりつつある基本的な戦後批評の文献を概観しながら、社会と思想とメディアの機能について「批評的」「根源的」に考える力を培う。また、批評の興亡を通時的に見極めることで、現代の思想状況に対しても主体的に、根拠を示しながら判断・評価することができるようにする。こうした読書と研究の実践によって、批評意識をもった社会人へと成長する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

配布テキストの精読と、パワーポイントによる解説を中心に講義する。講義の詳細レジュメとパワーポイントの内容は、授業の前に「Hoppii（学習支援システム）」の「教材」に掲げる。各回の授業で出された「課題」のなかから優秀なもの、視点の面白いものを次回以降に発表する。受講学生数が一定以下ならば、こうした双方向性をもつ授業を各回ごとに行うことができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／ 人文学の再定義	授業の進め方を提示しながら、人文書を読むことの意義を再確認する。
2	社会科学から人文学へ	社会科学と人文学は本質的にどこが違っているのか？ 戦後思想を考察するための基礎的な定義を試みる。
3	8 月 15 日からの出発 ——丸山眞男①	『世界』の創刊（1946 年）と丸山眞男「超国家主義の論理と心理」を中心に、戦後ジャーナリズムの始まりを見る。
4	8 月 15 日からの出発 ——丸山眞男②	「超国家主義の論理と心理」を精読し、「抑圧移譲」など丸山政治学の基礎的発想の意味を再検討する。
5	マルクス、リベラル、 保守	講和条約から 60 年安保闘争へと至る時代に現れて戦後思想の基盤を形作った、「左・右」さまざまな思潮を概観する。

6	60 年安保とマスコミ知識人——清水幾太郎①	戦後最大の大衆運動、60 年安保闘争の渦中に進出したマスコミ知識人たちの活動を、清水幾太郎らによる啓蒙に探る。
7	60 年安保闘争とマスコミ知識人——清水幾太郎②	清水幾太郎『現代思想』（1966 年）を参照しながら、清水の「転向」と 60 年安保以降の思想の転換点を探る。
8	戦後の終焉と日本民俗の再発見——柳田國男	戦後の終焉と高度経済成長の開始とともに見直された日本の民俗文化を、柳田國男『遠野物語』を中心に解説する。
9	在野思想家の顛覆戦略——吉本隆明	東京オリンピックを経た高度経済成長時代を挟み、既成知識人を圧倒した在野思想家吉本隆明の戦略を探る。
10	文化人類学と新しい知——山口昌男	歴史主義的思考に異を唱えた山口昌男の「中心と周縁」論と、構造人類学がもたらした新しい知の誕生の成否を探る。
11	言語学から構造主義へ——翻訳書の時代	レヴィ＝ストロースの人類学と、それに影響を与えたソシュール『一般言語学講義』における構造主義の衝撃を読む。
12	伝統からの応答①国文学——西郷信綱	伝統的な人文学はいかに革新を果たしたのか？ 国文学者西郷信綱の著作をもとに、古典を読むことの意味を再発見する。
13	伝統からの応答②歴史学——網野善彦	伝統的な人文学はいかに革新を果たしたのか？ 日本史学者網野善彦の著作のなかに、新しい人文学誕生の可能性を見る。
14	まとめ	13 回分の講義を総復習して、春学期のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のレジュメを熟読し、各回の「課題」に答える。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

取り扱う思想家および文献が多岐にわたるため、テキスト（教科書）は指定しない。必要なものは適宜抜粋してコピーを配布する。

【参考書】

丸山眞男『丸山眞男セレクション』（平凡社ライブラリー）、清水幾太郎『現代思想』（岩波書店）、柳田國男『遠野物語』（ちくま文庫）、吉本隆明『共同幻想論』（角川ソフィア文庫）、山口昌男『山口昌男コレクション』（ちくま学芸文庫）、ソシュール／小林英夫訳『一般言語学講義』（岩波書店）、西郷信綱『古事記の世界』（岩波新書）、網野善彦『増補 無縁・公界・楽』（平凡社ライブラリー）など。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は各回の授業の「課題」へのレスポンス（30 点）および期末レポート試験（70 点）で行う。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。

【学生の意見等からの気づき】

戦後すぐ（70 年以上前）の文章を読むことから始めるので、最初の数回は文体に慣れるのに少し苦勞するかもしれない。

【Outline and objectives】

This is a lecture by an active publisher on the history of postwar publication and books on humanities. We consider the process of formation and spread of social criticism while focusing on the thinkers, books on humanities and publishers that most remarkably influenced the postwar Japan from 1945 to the 1980s. Finally, we think about the impact and meaning of those thoughts on our society.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

熊沢 敏之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀のパリでは、成熟を始めた資本主義のもとで、ヨーロッパ随一の大都市文化が開花こうとしていた。20 世紀最高の思想家ヴァルター・ベンヤミンは、変貌するパリの根源的意味を問おうと、「パリ——十九世紀の首都」を書いた。この優れたエッセーを精読しながら、19 世紀パリに展開したさまざまなイメージを復元し、芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う、この変化の時代を思想的に読み解いていく。

【到達目標】

20 世紀最高のテキストを読み、社会と思想とメディアの機能、および文化と歴史の関連について、「批判的」「批評的」な思考を培うこと。とりわけ、論理とイメージが交錯する「エッセーの思想」の精髓に触れられるよう、パワーポイントの資料を見ながら忍耐強くテキストと向き合うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

配布テキストの精読と、パワーポイントによる解説を中心に講義する。講義の詳細レジュメとパワーポイントの内容は、授業の前に「Hoppii（学習支援システム）」の「教材」に掲げる。各回の授業で出された「課題」のなかから優秀なもの、視点の面白いものを次回以降に発表する。受講学生数が一定以下ならば、こうした双方向性をもつ授業を各回ごとに行うことができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／20 世紀思想とユダヤ人	授業の進め方を提示しながら、あわせて概論として 20 世紀思想におけるユダヤ人問題を取り上げる
2	ベンヤミンのパリ	19 世紀という変貌する時代における大都市パリの姿を提示し、加えてベンヤミンの伝記とその思想を概説する。
3	パリのパサージュ	パサージュのなかで絢爛たる消費文化が開花し、そこで芸術は商品に奉仕する（Ⅰ「フリーエあるいはパサージュ」①）。
4	鉄の構成	鉄とガラスを用いた建築がパサージュや駅、博覧会場として史上初めて登場する（Ⅰ「フリーエあるいはパサージュ」②）。
5	ユートピアのかたち	社会主義者フリーエはパサージュに触発され、具体的ユートピア像を構想する（Ⅰ「フリーエあるいはパサージュ」③）。

6	パノラマから写真へ	パノラマ画の大流行の後を受けて写真が発明され、芸術観を一変させる「(Ⅱ「ダゲールあるいはパノラマ」)。
7	商品という幻像	商品の幻像を展示する万国博覧会と、商品を描くグランヴィルのイメージ世界(Ⅲ「グランヴィルあるいは万国博覧会」)。
8	室内の痕跡	商品に抗うようにブルジョワジーの室内に蒐集品があふれ、そこから探偵小説が誕生する(Ⅳ「ルイ＝フィリップあるいは室内」)。
9	アレゴリカーの描くパリ①	遊歩者はパサージュを創作の場所に変える。詩人ボードレールもその一人だった(Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」①)。
10	アレゴリカーの描くパリ②	ボードレールはアレゴリーを用いて、パリという都市を初めて作品化する(Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」②)。
11	アレゴリカーの描くパリ③	新しさの永遠回帰が近代の本質となる。ボードレール『悪の華』の画期性(Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」③)。
12	パリ大改造	県知事オスマンのパリ改造計画が都市の姿を一新し、資本主義の世界が貫徹する(Ⅵ「オスマンあるいはパリケード」①)。
13	オスマン対コミュニケーション	広い街路にパリケードが造られ、パリ・コミュニケーションの夢が一瞬だけ実現するが……(Ⅵ「オスマンあるいはパリケード」②)。
14	夢と覚醒の精神史／まとめ	芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う変化の時代は、私たちに何を語りかけているか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のレジュメを熟読し、各回の「課題」に答える。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ヴァルター・ベンヤミン「パリ——十九世紀の首都」(浅井健二郎編訳『ベンヤミン・コレクション1』ちくま学芸文庫、1995年、所収)を主に使用する。

【参考書】

引用文献は多岐にわたるため、適宜、コピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は各回の授業の「課題」へのレスポンス(30点)および期末レポート試験(70点)で行う。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。

【学生の意見等からの気づき】

講読するテキストは短いものだが、多彩な内容が取り上げられているので、難易度は低くない。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【Outline and objectives】

In 19th century Paris where capitalism was beginning to mature, the best metropolitan culture in Europe was about to blossom. Walter Benjamin, one of the greatest thinkers of the 20th century, wrote "Paris: Capital of the Nineteenth Century" to find the true meaning of Paris which continued to change. Carefully reading this excellent essay, we restore various images developed in Paris at the time to understand the era of changes in which the world of art and thought competed with that of technology and commodities as a history of thought.

SOS100LA

社会思想 I

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2単位

法1年A～G、キ1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らずにはいなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を予示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって最も留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本に諸々のオンライン授業を組み合わせた形式でおこなう。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について
4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について

5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について
6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキアヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと16世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20％
複数回の小レポート：30％
定期試験：50％

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

法1年A～G、キ1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の側面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を収拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まずもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解をもって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本に諸々のオンライン授業を組み合わせた形式でおこなう。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について
4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念

5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホッブズの『リヴァイアサン』について
6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	バークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20 世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013 年）本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012 年）本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加： 20 %
複数回の小レポート： 30 %
定期試験： 50 %

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の基礎

中平 千彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

*第 1 回 (4 月 9 日) 講義の参加は、学習支援システム <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal> にログインして『経済学 LA』(担当:中平) 内にある「お知らせ」で指示された方法によって行ってください。

この講義は、春学期開講『経済学 LA』(担当:中平) です。この講義で学んだ内容は、秋学期開講『経済学 LB』(担当:中平) に接続されます。

受講生の皆さんは、「経済学」に対してどのような印象を持っているでしょうか？ 経済学は、我々の形成する社会で観察される、経済主体の活動や相互依存関係によって導かれた多様な経済問題を分析し、その中に存在する経済法則を究明することによって、望ましい社会的経済厚生を研究する学問です。あるいは、希少性を有する財・サービスの最適な選択と配分を、相互に競合する目的を考慮しながら決定し、また、その決定を行うための方法を研究する学問です。

春学期開講『経済学 LA』では、「ミクロ (マイクロ) 経済学」と「マクロ経済学」の基礎をコンパクトに解説し、受講生にそれらを速習してもらうことを目指します。

【到達目標】

- ・ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の理論的基礎を説明できるようになる。
- ・ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学に関する基本的問題を、社会科学的に思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

経済理論を大別すると、「ミクロ (マイクロ) 経済学」と「マクロ経済学」に分類できます。「ミクロ (マイクロ) 経済学」は、個々の経済主体における最適化された行動を前提に、市場における経済主体間の相互関係、資源配分と所得分配の決定における市場機構の役割などを分析する、あるいは、いくつもの代表的な公理に依拠した最適化行動に基づき、個から市場、そして経済全体へとアプローチする研究分野です。一方、「マクロ経済学」は、消費者部門における消費、企業部門における投資と生産物供給、政府部門における財政支出と貨幣供給、貿易バランス、そして、それらの相互連関によって決定される国民所得、インフレーションと失業、景気変動などに着目し、経済全体についての集計変数における均衡水準と決定経路を分析する研究分野です。これらの 2 分野は相互補完的な関係にあります。例えば、「ミクロ (マイクロ) 経済学」において、個々の経済主体の最適な行動がマクロ経済にいかなる影響を与えるかを分析するには、「マクロ経済学」の理論が必要となります。また、「現代マクロ経済学」にとって「マクロ経済学のミクロ (マイクロ) 的基礎」は不可欠な要素となっています。

この講義では「ミクロ (マイクロ) 経済学」と「マクロ経済学」の基礎理論を学びますが、講義時間に余裕があれば、「ミクロ (マイクロ) 経済学」の理論と現実との関係、また、マクロ経済学や公共政策学のミクロ (マイクロ) 的基礎などのトピックも採り入れるよう努力します。

我々には、講義回数 14 回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よくミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力し、また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	経済学の基本問題と経済システム	経済学の基本問題と市場の仕組み、経済システム
第 02 回	消費者と生産者の行動 (I)	選好と効用関数、需要関数
第 03 回	消費者と生産者の行動 (II)	生産技術と費用関数 (I)
第 04 回	消費者と生産者の行動 (III)	生産技術と費用関数 (2)、供給関数
第 05 回	市場均衡 (I)	完全競争市場と調整過程、余剰と比較静学

発行日：2021/5/1

第 06 回	市場均衡 (Ⅱ)	部分均衡と一般均衡、独占市場と独占的競争市場
第 07 回	経済厚生	市場の失敗、パレート効率性、厚生経済学の基本定理
第 08 回	国民所得分析の基礎	SNA、マクロ経済指標
第 09 回	消費関数	消費と消費関数
第 10 回	投資関数	投資と投資関数
第 11 回	有効需要と乗数理論	有効需要の原理、乗数効果
第 12 回	IS・LM 曲線と総需要曲線・総供給曲線	IS 曲線・LM 曲線および総需要曲線・総供給曲線による経済分析
第 13 回	インフレ需要曲線	インフレ需要曲線による経済分析
第 14 回	インフレ供給曲線	インフレ供給曲線による経済分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・受講後にテキストやノートによって講義内容を復習してください。また、必要に応じて予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

・塩澤修平 (著)『基礎コース 経済学 (第 2 版)』新世社, 2011 年。

【参考書】

・浅田統一郎 (著)『マクロ経済学基礎講義 (第 3 版)』中央経済社, 2016 年。
・浅田統一郎 (著)『ミクロ経済学の基礎 (第 2 版)』中央経済社, 2017 年。
・井原哲夫／桜本光／辻村和佑／牧厚志 (著)『経済学入門－現実の経済を理解するために (第 2 版)』日本評論社, 2008 年。
・スティグリッツ, ジョセフ・E. /ウォルシュ, カール・E. (著), 蔵下史郎/秋山太郎/蟻川靖浩/大阿久博/木立力/宮田亮/清野一治 (訳)『スティグリッツ入門経済学 (第 4 版)』東洋経済新報社, 2012 年。
・福岡正夫 (著)『ゼミナール経済学入門 (第 4 版)』日本経済新聞出版社, 2008 年。
・マンキュー, N. グレゴリー (著), 足立英之/石川城太/小川英治/地主敏樹/中馬宏之/柳川隆 (訳)『マンキュー入門経済学 (第 3 版)』東洋経済新報社, 2019 年。
・Bade, Robin and Michael Parkin, *Essential Foundation of Economics*(8th ed.)(pap.), Pearson, 2017.
・Hirshleifer, Jack, Amihai Glazer and David Hirshleifer, *Price Theory and Applications: Decisions, Markets, and Information*(7th ed.)(pap.), Cambridge Univ. Press, 2005.
・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien, *Essentials of Economics*(6th ed.), Pearson, 2018.
・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien, *Economics*(7th ed.), Pearson, 2018.
・Krugman, Paul and Robin Wells, *Essentials of Economics*(5th ed.), Worth Publishers, 2019.

【成績評価の方法と基準】

・[定期試験点 (90 %) + 平常点 (10 %) = 総合点 (100 %)] の評点配分で成績が決定されます。
・単位認定には規定数以上の出席が必要です。
・各種行事の出席や疾病などによる止むを得ない欠席は、出席扱いとすることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

・受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】

・特別な指定はありません。

【その他の重要事項】

・出席確認を行いますので注意してください。
・テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。
・本講義の趣旨は、アカデミックな経済学の基礎理論を平易に解説することですが、公務員、国税専門官、公認会計士、不動産鑑定士、中小企業診断士、ファイナンシャル・プランナーなどの、各種資格・就職試験で経済学を受験科目として選択する受講生にも配慮した解説を行います。

【オフィス・アワー】

・講義終了後 (14:50～15:00)、または相談により設定。

【関連科目】

・秋学期のリベラルアーツ科目『経済学 LB』(担当：中平)、また、リベラルアーツ科目、あるいは各学部で開講されている科目で、経済学、統計学に関わるもの。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide the student with an opportunity to understand the basic theory of microeconomics and macroeconomics. Generally, economic theory broadly divided into two parts - microeconomics and macroeconomics. Microeconomics focuses on decision making at the individual level, while macroeconomics studies the economy as a whole.

This course is a comprehensive guide on how to get started with microeconomics and macroeconomics.

ECN200LA

経済学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：観光経済学の基礎

中平 千彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、応用経済学の一分野としての「観光経済学」を学びます。
観光経済学のトピックの中で、特に基本的フレームワークを形成する主要な項目を、ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の理論に立脚して理解することを目指します。

【到達目標】

・観光経済学の基礎的事項を説明できるようになる。
・観光経済学に関する基本的問題をミクロ (マイクロ)・マクロ経済学理論に基づいて思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

観光経済学は、経済学理論に基づき、また、経済学の関連領域に属する学問を包含し、広義の観光活動を分析する、応用経済学の一種と位置付けられるものです。さらに、現代における広義の観光経済学は、観光客の支出決定、観光市場の構造、観光行動における意思決定、観光企業間の連携、観光による外貨発生の効果と範囲、観光資源の貢献可能性、観光政策などを包括的に研究する分野となっています。

本講義では、観光の現状と課題、観光統計、投資理論、消費理論、消費者行動と観光、観光需要、観光サービス供給、観光市場の機能、観光市場の失敗、経済成長と観光、世界遺産と観光、我が国の観光と課題などの項目を学びます。なお、必要に応じて、公共経済学などの知識を補充し、学習内容の拡充を試みます。

我々には、講義回数 14 回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よく観光経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力し、また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	観光の現状と課題、SNA と観光統計 (1)	観光のもたらす課題、SNA の概念と観光統計
第 02 回	SNA と観光統計 (2)	SNA の基本構造、サテライト勘定の意義と分類
第 03 回	観光市場の機能	市場需要曲線と市場供給曲線、市場均衡と市場調整、観光財・サービスの価格決定メカニズム
第 04 回	消費理論と観光 (1)	消費と消費関数、消費関数における短期と長期
第 05 回	消費理論と観光 (2)	消費決定の仮説、観光消費の性質
第 06 回	投資理論と観光 (1)	投資と投資の決定要因、限界効率と投資判断
第 07 回	投資理論と観光 (2)	投資の限界効率表と投資量の決定
第 08 回	消費者行動と観光 (1)	消費者行動と需要曲線、観光サービスの対象と選択
第 09 回	消費者行動と観光 (2)、観光需要	観光需要と弾力性、観光需要の実際
第 10 回	観光サービス供給	観光サービス供給、観光市場の構造
第 11 回	観光市場の失敗	市場の失敗と観光分析
第 12 回	公共財とコモンプール財	公共財、コモンプール財と資源の過剰利用
第 13 回	観光成長と観光	インバウンド市場とアウトバウンド市場、観光発展の将来
第 14 回	世界遺産とエコツーリズム、観光の課題と将来	世界遺産の基礎知識、エコツーリズムの事例と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・受講後にテキストやノートによって講義内容を復習してください。また、必要に応じて予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

・中平千彦／藪田雅弘（編著）『観光経済学の基礎講義』九州大学出版会、2017 年。

【参考書】

・M.T. シンクレア／M. スタブラー（著）、小沢健市（監訳）『観光の経済学』学文社、2001 年。

・ジェームズ・マック（著）、瀧口／藤井（監訳）『観光経済学入門』日本評論社、2005 年。

・中崎茂（著）『観光の経済学入門－観光・環境・交通と経済の関わり』古今書院、2002 年。

・ステイーブン・J. ページ（著）、木谷／松下／図師（訳）『交通と観光の経済学』日本経済評論社、2001 年。

・A. ブル（著）、諸江／吉岡／菊池／小沢／原田／池田／和久井（訳）『旅行・観光の経済学』文化書房博文社、1998 年。

・Bull, Adrian(1995), *The Economics of Travel and Tourism*(2nd revised ed.), Longman.

・Dwyer, Larry, Forsyth, Peter, and Wayne Dwyer(2020), *Tourism Economics and Policy*(2nd ed.), Channel View Books.

・Hall, C. Michael and Allan M. Williams(2008), *Tourism and Innovation*, Routledge.

・Stabler, Mike J., Papatheodorou, Andreas., and M. Thea Sinclair(2009), *The Economics of Tourism*(2nd ed.), Routledge.

・Sullivan, Charlotte(ed.)(2016), *Leisure and Tourism Economics*, Willford Press.

・Tribe, John(2020), *The Economics of Recreation, Leisure and Tourism*(6th ed.), Routledge.

・Vanhove, Norbert(2017), *The Economics of Tourism Destinations*(3rd ed.), Routledge.

【成績評価の方法と基準】

・[定期試験点 (90 %) + 平常点 (10 %) = 総合点 (100 %)] の評点配分で成績が決定されます。

・単位認定には規定数以上の出席が必要です。

・各種行事の出席や疾病などによる止むを得ない欠席は、出席扱いとすることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

・受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】

・特別な指定はありません。

【その他の重要事項】

・出席確認を行いますので注意してください。

・テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。

【オフィス・アワー】

・講義終了後 (14:50～15:00)、または相談により設定。

【関連科目】

・春学期のリベラルアーツ科目『経済学 LA』(担当：中平)、また、リベラルアーツ科目、あるいは各学部で開講されている科目で、経済学、統計学に関わるもの。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to provide students with an opportunity to gain and enhance the knowledge of economics of tourism. Namely, this course is designed to provide a basic understanding of the scientific approaches to economics of tourism, particularly in the field of economic theory. In this course, you will learn how the microeconomics and macroeconomics are applied to the analysis of tourism.

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：金融に触れよう

鈴木 誠

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は金融をこれまで学んだことのない学生向けに、経済学における金融に焦点を当てた授業を行う。大学生として、卒業後の社会人として、金融に触れずに過ごすことは困難である。春学期の授業では、経済学における金融の意味と金融で利用される言葉やその意味、さらに計算方法などを身に付け、生活の上で、金融のリテラシーを身に付けることを目指す。

【到達目標】

この授業では、金融リテラシーを身に付けるために、1、歴史的な金融の発展、2、身近な金融活動の発見、3、金融の意義と意味、4、自ら金融取引を確認する、ことを学ぶ。金融の知識は不要と考える人もいだろう、しかし、卒業後、家を購入する、保険に入る、ローンを組む、年金資産運用するなど、金融知識がすぐにでも必要となってくる。必要な時に備えて、今、これらの知識を準備する。春学期の目標は、一般の新聞に書かれている経済面の金融に関する記事を読んで、理解できる水準への到達である。ただし、金融は奥が深く、春学期の授業はその入り口に立ったに過ぎない、さらに、一步踏み出した議論は、秋学期に行いたいと考えているので、履修する学生には春と秋の履修を勧めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン（オンデマンド）で実施する。したがって、履修生の皆さんには資料を配信し、各自で理解を深めてもらう形で授業を進める。ただし、こうした形態だと理解を深めることなく先に進んでしまう場合もあるため、皆さんには出席に代えた「クイズ」を出して、重要な点の理解を図るようにしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業内容の紹介、歴史的な経済活動の発展	本授業の進め方、評価についての解説、人類の経済活動の発展と経済行動における工夫や発明
2	身近にみる金融商品や金融活動	日ごろの生活で利用される金融商品や金融活動について詳しく学ぶ
3	金融取引と必要な知識	銀行における取引について考える、また、その際に必要とされる知識について学ぶ
4	評価する、価値を測る	金融活動において、将来の価値や現在の価値を測ることが重要となる。その方法を学ぶ
5	企業における金融取引、債券と株式の発行と投資	企業が発行する債券と株式について学ぶ。特にその違いについて理解を深める。
6	債券の評価	債券の価格をどのように求めるか、その方法を学ぶ

7	債券の運用マネジメント	債券を運用する際の基礎となるデュレーションについて意味と計算方法を学ぶ。
8	中間試験	Hoppi 上でこれまで学習した範囲の試験を行う
9	株式の評価（概要説明）	株価の算出方法について概要を学び、さまざまなアプローチ方法を紹介する。
10	テクニカル分析とファンダメンタル分析	時系列データによる分析と財務データによる分析方法について紹介する。
11	投資理論①	モダン投資理論の基礎となる統計量について解説する
12	投資理論②	2つ以上の株式により構成されるポートフォリオの性質について説明する。
13	投資理論③	合理的な投資を行う場合、どのような選択が行われるかを考えよう。
14	期末試験	Hoppi 上でこれまで学習した範囲の試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
特に力を入れてほしいのは、復習と日ごろの生活での習慣である。復習はしっかりと自分の頭で考えたり、計算をしてほしい。目で見て理解しただけでは利用することはできない。日々の生活では、ニュースを見る、新聞を読む、30 分でも日々の生活で経済事象を知ることが、授業を受ける上で大きなきっかけとなる。

【テキスト（教科書）】

手嶋宜之著「基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門」ダイヤモンド社
ISBN:978-4-478-01630-5

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次の 3 つの項目に基づいて行う。1、各回の授業に付随するクイズ（20 %）、2、第 8 回に実施する中間テスト（40 %）、3、第 15 回に実施する期末テスト（40 %）である。
中間試験と期末試験は Hoppi 上で行う。また、各回のクイズも Hoppi 上で提示される。なお、クイズは毎回実施するとは限らない。
成績評価は以下の通りである。S:特に優れた成績である者、概ね 90 % 以上、A:優れた成績であるもの、概ね 80 % 以上、B:秀でた成績である者、概ね 70 % 以上、C:平均的な水準である者、概ね 60 % 以上、D:基準に満たない者。

【学生の意見等からの気づき】

資料配布だけでは関心が希薄となりがちであるので、必要に応じてオンデマンド映像を作成して、要点を理解できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓があるとよい。ない場合にはスマートフォンに付帯されている計算機能（関数電卓）を利用するとよい。

【その他の重要事項】

新聞やニュースを通して、日々、経済や金融の情報に触れることが望ましい。

【Outline and objectives】

This class focuses on finance in economics for students who have never studied finance before. As a university student and a member of society after graduation, it is difficult to spend time without touching finance. In the spring semester class, students will learn the meaning of finance in economics, the words used in finance, their meanings, and calculation methods, and aim to acquire financial literacy in their daily lives.

ECN200LA

経済学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：金融を知ろう

鈴木 誠

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は金融をこれまで学んだことのない学生向けに、経済学における金融に焦点を当てた授業を行う。大学生として、卒業後の社会人として、金融に触れずに過ごすことは困難である。春学期の授業では、経済学における金融の意味と金融で利用される言葉やその意味、さらに計算方法などを身に付け、生活の上で、金融のリテラシーを身に付けることを目指す。

【到達目標】

この授業では、金融リテラシーを身に着けるために、1、歴史的な金融の発展、2、身近な金融活動の発見、3、金融の意義と意味、4、自ら金融取引を確認する、ことを学ぶ。金融の知識は不要と考える人もいだろう、しかし、卒業後、家を購入する、保険に入る、ローンを組む、年金資産運用するなど、金融知識がすぐにでも必要となってくる。必要な時に備えて、今、これらの知識を準備する。秋学期の目標は、経済専門の新聞に書かれている経済面の金融に関する記事を読んで、記事の内容が概ね理解できることを目標としたい。経済専門紙の記事をすべて理解できる水準は金融業界に身を置かない限り、困難である。ここでは、エキスパートレベルではなく、初心者レベルとして理解することを目標に掲げたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン（オンデマンド）で実施する。したがって、履修生の皆さんには資料を配信し、各自で理解を深めてもらう形で授業を進める。ただし、こうした形態だと理解を深めることなく先に進んでしまう場合もあるため、皆さんには出席に代えた「クイズ」を出して、重要な点の理解を図るようにしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習①	今学期からの履修者と春学期の履修者のギャップを埋める目的でレビューを行う。対象は中間試験前までの内容とする。
2	春学期の復習②	今学期からの履修者と春学期の履修者のギャップを埋める目的でレビューを行う。対象は中間試験後の内容とする。
3	利子率について、複利利回りについて	単利と複利、現在価値・将来価値を計算する、複利利回りの種類を知る
4	債券投資①債券の基本的な仕組みと用語について	債券市場、債券の分類、最終利回り、債券投資のリスクについて学ぶ

5	債券分析の基礎	金利の変動要因、金利感応度の導出、デュレーションとイミューゼーション、
6	債券投資と債券の格付け	イールドカーブ、イールドカーブの分析、債券投資方法、債券格付けについて学ぶ
7	中間テスト	これまで学習した範囲について Hoppi 上で行う
8	株式入門	株式の仕組み、発行市場、流通市場、株価の決定モデルについて学ぶ
9	株価評価	株式評価のための指標、株式価値の評価方法、株式投資方法について学ぶ
10	デリバティブズ	デリバティブズとは、先物・先渡し、オプション、スワップの違い、オプション取引の概要
11	オプション入門	コールオプション、プットオプションの損益を考える、オプション価値を計算する、
12	オプション取引の仕組み	オプション市場、オプション取引、オプションを用いた投資戦略の説明
13	効率的市場仮説	効率的市場仮説とは何か、3つの効率性の説明とアノマリーの説明
14	期末試験	学習した範囲の試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
春学期より少しだけレベルが上がった内容となるので、授業の資料を読む前に関連する該当箇所を読んでおくと、理解の助けとなる。さらに、授業後に、もう一度同じ箇所を読み直すと理解が深まる。また、必要な計算は必ず手を動かしてやってほしい。資料やテキストを読んでいても、自分の力にはならない。また、日常的に新聞やニュースに触れて、金融に関する言葉を利用する場面を知ってほしい。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹、池田正幸「入門・証券投資論」有斐閣ブックス、ISBN: 978-4-641-18447-3

【参考書】

必要に応じて授業にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次の 3 つの項目に基づいて行う。1、各回の授業に付随するクイズ（20 %）、2、第 8 回に実施する中間テスト（40 %）、3、第 15 回に実施する期末テスト（40 %）である。中間試験と期末試験は Hoppi 上で行う。また、各回のクイズも Hoppi 上で提示される。なお、クイズは毎回実施するとは限らない。成績評価は以下の通りである。S:特に優れた成績である者、概ね 90 % 以上、A:優れた成績であるもの、概ね 80 % 以上、B:秀でた成績である者、概ね 70 % 以上、C:平均的な水準である者、概ね 60 % 以上、D:基準に満たない者。

【学生の意見等からの気づき】

資料配布だけでは関心が希薄となりがちであるので、必要に応じてオンデマンド映像を作成して、要点を理解できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓があるとよい。ない場合にはスマートフォンに付帯されている計算機能（関数電卓）を利用するとよい。

【その他の重要事項】

新聞やニュースを通して、日々、経済や金融の情報に触れることが望ましい。

【Outline and objectives】

This class focuses on finance in economics for students who have never studied finance before. As a university student and a member of society after graduation, it is difficult to spend time without touching finance. In the spring semester class, students will learn the meaning of finance in economics, the words used in finance, their meanings, and calculation methods, and aim to acquire financial literacy in their daily lives.

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：東アジア経済入門

陳 文挙

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀はアジアの時代であり、中国やアジア新興国の台頭によって東アジア地域の存在感は増している。東アジア経済の動向は世界政治経済、安全保障、資源エネルギー等に大きな影響を与えている。本講義は東アジア経済の発展に焦点を合わせ、経済発展の歴史、過程、経験と教訓等について経済学の基礎原理やリベラルアーツの視点から研究する。また、新型コロナウイルス感染拡大によって東アジア地域経済、そして世界経済が一変しており、with コロナ、after コロナの東アジア経済を分析することを通じて学生諸君の地域問題に対する分析力を向上させる。

【到達目標】

現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について立体的な視点から考察する力が必要になる。当該授業を聴講して、学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。また、中国で発生した新型コロナウイルスによる東アジア地域の経済社会の混乱に対してどう対応すればよいかを考える機会も提供し、危機対応型思考力を鍛えることもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

大学の授業計画によって春学期の最初はオンラインでの開講（Zoom 方式）となる。学習支援システムで講義内容や課題等をその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などは Zoom 講義の時や学習支援システムで提示し、それに沿って学習を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業紹介	東アジア経済論の基礎、研究概要、成績評価等
2	現代経済社会の仕組み	家計、企業、政府；資本、労働、技術進歩；市場の原理；経済成長と経済発展
3	東アジア近代経済史 1	商業の発達、シルクロード、国際貿易の歴史、アヘン戦争、アジアの植民地問題
4	東アジア近代経済史 2	改革開放の歴史比較研究：明治維新の成功と日本の近代化、太平天国、「戊戌変法」と中国の凋落
5	戦後農業の発展：緑の革命	伝統農業から近代農業へ：食糧問題は如何に解決されたのか
6	農業の発展と労働移動	工業化、賃金格差、過剰都市化とスラム現象
7	中間進捗状況確認	前半復習、東アジア経済発展の初期条件をまとめる
8	工業の発展 1：比較優位性仮説	発展戦略研究（貿易立国）：輸入代替か輸出振興か

9	工業の発展2：産業移転	ペティ・クラークの法則、雁行形態、中国の「世界工場」、日本の産業空洞化問題
10	東アジア地域の経済格差問題	経済発展と格差問題、クズネッツ「逆U字仮説」、エレファントカーブ
11	東アジアの人口問題	機会費用：人口爆発、少子高齢化問題の本質
12	東アジアの諸問題	経済発展と環境問題、新型肺炎の発生、感染拡大とその影響
13	東アジア地域経済連携と中国の「一带一路」国家戦略	FTA、RCEP、TPP、ASEAN+3と中国の影響力
14	まとめ	復習と期末レポート作成要領

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。
講義内容に応じて宿題として課題レポートを完成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『現代東アジア経済論』、三重野文晴・深川由起子（編集）、ミネルヴァ書房。
『開発経済学—諸国民の貧困と富』、速水佑次郎（著）、創文社。
『東アジアの論理—日中韓の歴史から読み解く』、岡本隆司（著）、中公新書。
『アジア経済とは何か—躍進のダイナミズムと日本の活路』、後藤健太（著）、中公新書。

【成績評価の方法と基準】

ハイブリッド型（対面可）の開講に伴い、成績評価を行う。具体的な方法や基準は、初回の授業時に確認し、学習支援システムで掲示する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1、学生皆さんの関心事、質問等についてよく聞く、確認すること。
- 2、課題やレポートに対してできるだけ早くフィードバックする。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン（Zoom方式）授業の聴講、Hoppii上の課題、レポート、メール等のやり取りに必要な通信機器（スマホによる聴講ができるものの、画面が小さく視聴効果が良くないので、進めません）

【その他の重要事項】

秋期『経済学LB：中国経済入門』の継続履修をお勧め。

【Outline and objectives】

The 21st century is said to be the age of Asia. The rapid growth of China and some other developing countries of Asia has increased the presence of the East-Asia in the world. The economy of East-Asia has been greatly affecting the world's politics and economy, security, and resources energy for these years. This lecture focuses on the development of East-Asia economy, aims at studying the history, process, experiences and teachings of the economic development in this region from the viewpoints of basic theory of economics and Liberal Arts. The regional economy of East-Asia and the world economy has changed drastically because of the Covid-19. This lecture will help to improve students' ability of analyzing regional economy under the new normal.

ECN200LA

経済学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中国経済入門

陳 文挙

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の経済規模は 2010 年に日本に追い付き、追い越し、アメリカに次ぐ世界第 2 位に上り詰めた。2019 年に中国の GDP は日本の 2.8 倍、アメリカの 4 分の 3 まで拡大した。本講義では前期授業で学習した東アジア経済発展の基礎を元に、計画経済期から市場経済移行期まで中国経済の発展を研究し、失敗の教訓と成功の要因を明らかにする。その上、「新常态」（ニューノーマル）にある現在の中国経済について事例研究等を通じて考察し、中国経済発展の未来像について考える。

【到達目標】

現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について、特に世界第 2 位の経済規模を持つ中国の経済動向について立体的な視点から考察することによって学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルスの影響により、基本的にオンライン（Zoom 方式）授業を実施する。また、学習支援システム（Hoppii）上で教材を配布し、授業後に課題やリアクションペーパーの提出を求める。教材以外に、動画の視聴や新聞、雑誌等の最新資料の配布もあり、授業内容に対する理解を深め、予習・復習に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業紹介	中国経済発展入門講義の紹介、最新中国経済情報、成績評価等
2	中華人民共和国建国	社会主義革命とは？ 中国共産党の土地革命から政権奪取、社会主義建国への道程
3	社会主義改造と経済建設	私有制の社会主義改造、計画経済とは？「人民公社」、「大躍進」という社会主義経済大実験
4	計画経済とその失敗	共産党内の政治闘争、「文化大革命」運動、毛沢東の死と鄧小平時代の到来
5	改革開放の始まり	計画経済の行き詰まりと市場メカニズムの導入：生きていくか死ぬかそれが問題だ！
6	農業発展と農村工業化	郷鎮企業発展、起業家精神：「世界の工場」の礎
7	労働の移動	人口ボーナス、世界の工場・都市化の原動力
8	工業の発展	日本より厳しい市場メカニズムの導入：国有企業改革、ルークイスト

9	企業改革の事例研究	ハイアール、吉利汽車の事例：企業家精神の重み
10	外資導入	外資の役割：日本企業と中国の経済成長、日系企業事例研究
11	経済成長の高度化	日本より先行したデジタル化社会、「新経済」と経済のサービス化
12	新経済とニュービジネス	大衆消費社会：ネット通販、キャッシュレス化、シェアリングエコノミー、無人運転、ブロックチェーン技術・・・
13	社会主義市場経済の行方	米中貿易紛争と新冷戦、新型コロナウイルス、環境エネルギー問題、少子高齢化問題など
14	まとめ	復習と期末レポート作成要領

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。
講義内容に応じて課題、宿題もあり、期末にはレポートの提出がある。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

『現代中国経済』、丸川知雄、有斐閣アルマ。
『幸福な監視国家・中国』、梶谷懐・高口康太、NHK 出版新書。
『中国 S 級 B 級論—発展途上と最先端が混在する国』、高口康太・伊藤聖聖他著、さくら舎。

【成績評価の方法と基準】

授業に対する理解、課題および期末レポートの完成状況（50 %）
授業態度、リアクションペーパーなどの平常点（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

- 1、学生皆さんの関心事、意見などをよく聞く、確認すること。
- 2、オンライン授業において基礎操作や通信環境等様々な問題を柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン（Zoom 方式）授業の聴講、Hoppii 上の課題、レポート、メール等のやり取りに必要な通信機器（スマホによる聴講ができるものの、画面が小さく視聴効果が良くないので、進めません）

【その他の重要事項】

前期の『経済学 LA：東アジア経済入門』の履修が望ましい。

【Outline and objectives】

Chinese economy caught up with and even surpassed Japan standing in the second place following America in 2010. China's GDP has increased by 2.8 times of Japan and has been three-quarters of America in 2019. This lecture aims at clearing up the success factors and lessons of failure by studying the development of Chinese economy of the period transforming from the planned economy to the market economy, based on the basic knowledge about the development of the East-Asia economy, which students learned in the first semester. Furthermore, this lecture will examine the current China economy, so-called new-normal economy through case-study and consider the future image of China economy.

PSY200LA

心理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

海部 紀行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「心理学 I/II」など、アカデミックな心理学（行動心理学、認知心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学 etc.）の基礎・基盤（ベーシック）履修を前提とし、より発展・応用的な心理学（社会心理学+臨床心理学 ⇒ 臨床社会心理学）を学びます。

【到達目標】

行動や出来事の原因の探り方、そのとき起きる錯誤、自己注目と抑うつなどを考えることが目標です。

見えていなくても（見たいように）見てしまう、見えているのに（え）ない。（いやでも）見る・気づく・気にする・考える（しかない）側から、（見たいものしか）見ない・気づかない・気にしない・考えない（で済む）側まで、「こころ」は我が儘です。「こころ」は、どこに・なぜ・どのようにあるか、「いのち」は、いつ始まり、終わるのか、「人権」とは何か。

「私は私」・「オレはオレ」というアイデンティティは、自生（天然）が成り立ちません。他者がいて自己になる。他者と相見（まみ）え初めて自己が立ち現れます。思春期・青年期の「第 2 の誕生」によって、自分が自分の「こころ・いのち（人権）」を産み出します。あなたは誰ですか。よりよく自分自身を生きたいですか…。

「こころ・いのち（人権）」について、感じ思い考える能力を身につけます。知識とともに潜在的な可能性（ポテンシャル）を磨き、決めつけや思い込みにとらわれず、新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢（キャパシティ）を増やします。主体的・批判的に検討し、的確な意見を論じることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。いろいろな事情や背景があるので、リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。参照：【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【成績評価の方法と基準】【学生の意見等からの気づき】

指定テキスト（教科書）の独学独習が要件です。「授業計画」として示す「（仮想）日程」を目安に、それぞれのペースで読み進めます。合わせて、Hoppii（学習支援システム）の「お知らせ・アナウンス」および「授業内掲示板」に目を通し、投稿（コメント）・議論することが基本です。受け身でいたら、面白くも愉しくもなく、訳が分からないままになりかねません。

「お知らせ・アナウンス」：おおむね週 1 回（水曜を予定）配信。登録アドレス宛てメールでも届けます（真夜中や未明・早朝の際に備え、通知音オフ推奨）。テキストの解説や補助教材の案内もしますが、（参考書代わりに？）折々のモノ・コトを紹介し、コメントへのリプライ・フィードバック、SNS の引用、記事や資料、動画（へのリンク）を伝えます。

「授業内掲示板」：テキストの内容に限らず、アナウンスや他の学生の投稿・コメントその他に関して、質問や感想・意見・主張を書き込むことが、「授業」参加になります。匿名（いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かるという少しディストピア的な）設定です。「返信」を用いて、学生どうし多彩な意見交換を試みてください。日々の鬱憤や悩みの相談・雑談、オススメまで、自由な対話を通し、互いに見解（意見と理解）を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他について
2	社会心理学とは？	臨床社会心理学〔テキスト序章①〕
3	臨床心理学とは？	臨床社会心理学〔テキスト序章②〕
4	臨床社会心理学とは？	臨床社会心理学〔テキスト序章③〕
5	「なぜ？」を読み解く	対応推論・共変モデル・因果スキーマ〔テキスト第1章①〕
6	帰属のバイアス	原因推測の誤りと偏り〔テキスト第1章②〕
7	なぜ憂うつになる？	誤帰属や帰属スタイルの傾向〔テキスト第2章①〕
8	帰属療法／原因想起	成長期・対人関係／多様性と選択合理性〔テキスト第2章②〕
9	勉強ができない…／原因の考え方	期待-価値モデルと統制の位置／感情の帰属モデル〔テキスト第3章①〕
10	学習性無力感／知能は変わる？	努力しても成功しない？ 試験前は遊ぶ？〔テキスト第3章②〕
11	見る自己と見られる自己	自己意識と自己注目〔テキスト第4章①〕
12	自己を意識すると…／自己注目の研究	客体的自覚理論と制御理論／「適切さの基準」〔テキスト第4章②〕
13	落ち込みと自己注目	気分一致効果／自己確認／自己没入〔テキスト第5章①〕
14	抑うつ予防／おまけ	注意の向け方・気晴らし〔テキスト第5章②〕／掲示板への投稿締切

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 回あたりの準備学習・復習時間は、それぞれ2時間（計4時間）を標準〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とします。

といっても（オンライン・オンデマンドゆえ）、いつも「授業時間外の学習」？ 心身の調子を整え、うまく各自の都合で時間配分しつつ、テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他を読み解き、投稿を進めます。“何を覚えるか”ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

坂本真士・佐藤健二（編） 2004 はじめての臨床社会心理学—自己と対人関係から読み解く臨床心理学—有斐閣
<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/4641076812>
 必ず用意してください。版元品切れになりがちです。大学生協の通信販売も活用し、早めに入手してください。

【参考書】

「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」その他、随時あれこれを参考にします。「臨床心理学」と「社会心理学」を結ぶ専門書については、テキスト各章末の「文献案内」が充実しています。「臨床心理学」は、下記の書籍で概観できます。
 下山晴彦（編） 2009 よくわかる臨床心理学〔改訂新版〕 ミネルヴァ書房
<http://www.minervashobo.co.jp/book/b49970.html>

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）：「授業内掲示板」での動向を通して、何を・いつ・なぜ・どのように感じ思い考えてきたか拝察します。

テキストのみならず、「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」、各々が見出した文献、Web サイト、動画、マンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画などを味わい、それらと日常とを結びつけた感想や意見・主張、問題提起を任意に、しかし数回くらは投稿・コメントしてください。レポートのようになっても構いません。ファイル添付も可能です。短文の連打も歓迎します。そこに表（さ）れる内容から、テキストその他の読み込み具合、味わい方、取り組む姿勢・態度を推し測ります。

裏付けとなる根拠が明らかな論述はもちろん、奔放な相談や雑談、対話にさえも、主体的・批判的に学び調べ、何を理解し、どのように「こころ・いのち（人権）」について感じ思い考えてきたか、相当程度、くつきりと示されますから、労力と時間は膨大にかかりますが、存分に評定できます（します）。

【学生の意見等からの気づき】

初めて本格的な(?) オンライン・オンデマンドとなった2020年度秋学期「心理学Ⅱ」・「心理学LB」の「授業改善アンケート」（匿名）と「授業内掲示板」に寄せられた記述の幾つか（意味を変えない範囲で文体など差し替えました）を「気づき」とします。

まず6点、もっともな不信・不審や疑念に対する言い訳です。いずれも用心していきます。

(1) 春学期、掲示板で匿名がはがれたことがあった。これは絶対に避けなければいけないことだ。

(2) 先生自身も学生に成りすまして自問自答のようなことをしていたがどういう意図なのか？

〈言い訳1〉 掲示板は、「投稿者を表示する」というデフォルト（初期）設定を改変し、匿名にしています。ところが春学期、投稿締切（掲示板の閉鎖）時に、（閉鎖後のアクセスを予定しない）デフォルトに戻ってしまい、匿名設定が解除されるエラーが生じました。急いで再び匿名設定にしたものの、反映まで時間がかかったようです。済みませんでした。その後は、支障なかったはずです。

〈言い訳2〉 この「匿名がはがれた」時間帯、「学生に成りすまして自問自答」しているようなケースが見えたかもしれません。「授業内掲示板」は科目別で、当該科目に登録した学生しか読み書きできず、海部担当の5科目で共有する仕組みがないため、春学期の初め、共有したい投稿を海部が「コピペ」していました。たとえば学生（匿名）の質問に海部（は名乗ります）が回答したとき、その投稿を海部が「コピペ」すると、当該科目以外では「海部が（匿名で）質問し、海部が回答する」形になります。ほかに、オススの投稿などを「コピペ」していました。「匿名がはがれた」ときにアクセスしたら、「成りすまして自問自答」していると映るでしょう。怪しく不可解に感じて当然です。申し訳ありません。

(3-1) お知らせが見づらい。

(3-2) 毎回共通アナウンスというお知らせがあるが、文章が複雑で何を伝えたいのか考えてもいまいちわからなかった。

〈言い訳3〉 率直に指摘くださり、感謝します。「お知らせ・アナウンス」は細切れの引用やリンクが多くて、掲示板も合わせ、継続する流れが分かりづらく、独り善がりが目立ったと思います。個別に意見や批判をいただいたときなど、次の回でのリプライ・フィードバックを試みてはいたのですが、不行き届きをお許しください。

(4) 成績評価が曖昧だという印象をぬぐい切れなかった。

〈言い訳4〉 成績評価は、俗に言う「量よりも質」で、数値・数量化した基準を示すことができず、ご不満を招く覚悟です。プロセスは次のとおりです。春学期は合計7000件ほど、（例年、履修登録が減る）秋学期も5000件近い投稿その他を頂戴しました。リアルタイムで（誰の投稿であるかは不明ながら転送メールにて内容のみ）その都度、拝読した後、「いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かる」設定の掲示板で再読・再々読を繰り返し、「既読としてマーク」の状況も確認して、特定の例は、まとめて読み直します。そのうえで学期末に、それぞれの投稿（「返信」や直接いただいたメールを含む）その他を、改めて個々別々に（個人別に）整理し、「いつ誰が何を書いたか・読んだか」すべてを精査します。おのずと浮き彫りになる生成・変化・展開の様相も踏まえて採点し、(S～E)の12段階で評価します。

(5-1) Zoom等は使用しないにしろ各週での課題を提示してくれたほうが取り組みやすかった。

(5-2) 提出必須の課題を出してほしかった。

〈言い訳 5〉 Zoom 等は得手不得手に加え、通信環境の事情・背景もあり、使用しません。また、恐縮ですが、「各週での課題」は嫌悪・苦痛しかないという声が圧倒的だと認識しています。それでも、ときどき、各々のベースでレポートや小論文を提出くだされば受け取る旨は案内し、実際に掲示板への投稿(もしくは直接のメール)にファイル添付された方が少なくありませんでした。海部は、一方的に「教える」のではなく、設問形式の課題も提示しません。何かを紹介し、意見交換や議論を通じて、ともに学び合うことを重視します。まして、「正解」や「最適解」を 1 つに絞れず、見つけることすら難しい「ところ・いのち(・人権)」については、じっくりと各自で試行(思考)錯誤してくださるよう望みます。

(6-1) リアルタイム授業を何回か開いてほしかった。

(6-2) せめて動画授業をするなど、先生が顔と声を出して対面してほしかった。大学の授業において、最後までどんな先生が授業をしているのか分からないのはおかしいと感じた。残念。

〈言い訳 6〉 そうですね。もしリクエストがあるなら、顔と声がどんなふうであるかくらいは知らせるようにしますか。けれども海部は、表情や視線、口調、身振り素振り、動作、姿勢・態度、距離感、関心の向き、構え、といった何らかがないと、率直で親密な対話・コミュニケーションを組み立てられないので、オンライン併用の「リアルタイム授業」や対面同様の「動画授業」は困難です。そもそも「業(わざ)」を授(さず)ける」器量がなく、「対面」でも「義(条理)」を講じる(説明する)講義しかできません。「面談」は好きですが…。以下は、ひきつづき大切にしたい観点です。

※いろいろ考え悩んでるのが自分 1 人じゃないんだなって思うだけでかなり気持ち楽になった。

※匿名でなかったら言えないことも言える。同じような意見や考えの人がいることに気づけて、自分だけではなかったんだと思えた。

※匿名だからこそ言える、他の人が普段考えてる事だったり不安に思ってる事だったりを知って、同じような悩みを持つてる人は自分だけじゃないんだと知れた。匿名で様々な意見を交換できるというオンラインの良さを活用した授業、とても楽しかった。

※オンラインならではの方式で、新鮮だった。匿名の環境下、他の受講者とコミュニケーションをとるのが楽しかった。

※たくさんさんの学生が意見交流していて、オンラインの利点を生かしているなあと思う。

※ふだんなら相談しないことや考えないことを書き込めて楽しかった。

※普段の生活における疑問、意見の吐口となってくれた。匿名だからこそ、話せること、聞けることが沢山あった。

※自分の考えを躊躇することなく伝えることができて良かった。

※日常の愚痴などもたくさん見て、共感できたり新鮮だった。

※みんなの本音が知れて面白かった。

※他の生徒がどのように感じているのかを読むことが出来たのでとてもいい工夫がされていたのではないかな。

※多くの受講生のほとんど正直な意見を見ることができ、意見交換できたことが良かった。

※教科書に対する意見やプライベートな話を読んで、顔は見えていなくてもその時だけは、同じ空間で繋がれているような気がした。

※人ととの繋がりを感ずることが出来たことや、同じように悩む人がいると分かったことは、今年大学 1 年生で友達がいない自分にとって大きな心の支えになった。

※孤独や不安を感じることも多かった状況の中でコミュニケーションを取ることで大切な場になっていた。コメントで会話したり、様々な意見を読んだりすることがとても楽しかった。

※異例の事態で、生徒間、先生-生徒間の交流が失われた中、この掲示板を見ている時は皆との距離が縮まったように感じられた。

※書き込むことで皆さんとつながっている気持ちになり、大学生になったことを唯一実感できる場だった。

※慣れないことばかりで肉体的にも精神的にも辛い期間を、時には自分の思いや弱音を吐き出し、時には誰かの思想に触れ、時には共感しながら過ごせる大切な場所だった。

※課題に追われず、自分の興味関心と精神状態に合わせて無理なく学ぶことができた。

※時間に縛られることなく、参加できたのはよかった。

※のびのびと参加することができて良かった。

※自分のペースで学習がしやすく、掲示板もしっかり活用できてとても充実した。

※いつでも、またどんなことでも掲示板に書き込めるため縛られている感じがなくてよかった。

※自分に合った方法で参加することができ、掲示板が上手く利用されていた。自由性が高く、匿名で他の人の投稿に意見できたり、逆にアドバイスをもらうことができたりしてとても楽しかったし、ステイホーム期間の心の支えになってくれた。

※自分とは何なのか、感情・行動とは何なのかを 1 人でじっくり考える機会を作ることが出来た。

※自分について考える時間が増えた。教科書に書いてあることに自分を重ねたり、自分の内面に意識を向けたりしながら読み進めたからだと思う。これまで時間を取って自分についてじっくり考える、ということをしてこなかったで、改めて自分について客観的に考えることができて良かった。

※常に新しい発見ができ、テキストを読み進めるにつれて自分で考える力を養うことができた。

※テキストを読み、意見交換することで色々な認識が変わった。これから自分とは何か、心とは何か考え続けていきたい。

※他人との交流や違った視点の意見を聞くことの大切さを改めて実感した。たくさんさんの視点からのコメントに触れることで理解が深まった。

※さまざまな方々の意見に触れることで、普段は知り得ないような意見をたくさん知ることができた。

※様々な考え方に触れることができて楽しかった。また、考えさせられる機会を得ることができ、良い経験であった。

※他の生徒の意見などを見ることが出来たのが私にとってすごく新鮮で、こういう考えもあるんだと、そういった面でも学ぶことが出来た。

※先生や他学生との議論で自身の考えを発信し、異なる意見を聞くなどして理解を深めることができた。

※さまざまな方とコミュニケーションをとるのがとても楽しかったし、みなさんの鋭い視点に毎日驚かされ新鮮な日々だった。

※見ず知らずの人が私が書き込んだことに反応してくれて嬉しかった。人の心や脳は難しく、けど面白いと思った。

※匿名だからこそ自由に、素直な気持ちを述べることができた。様々な人の様々な意見を知ることができた。年が同じまたは近い人の意見とは思えないような達観した鋭い指摘がたくさんあり、視野を広げることができる良い機会となった。

※匿名だからこそ話すことのできる主張を学生が出来る場で、自分とは異なる様々な意見に触れることが出来た。

※自分の心を見つめ直すきっかけに繋がった。自分がぼんやりと感じていたことを、何が原因でどういう仕組みでそう感じたのか知るのには、自分の心を分析していくようでとても面白かった。

※自分と向き合う機会が得られたことで、自分自身の知らなかった部分を知ることができた。

※自分のネガティブな面について詳しく知れて良かった。

※様々な考えや知識をインプットするだけでなく、自分の学びをアウトプットすることによって、普段は気にすることのない自分の考え方やものの見方などに気づくことができた。

※思ったことをためらわずに書き込める。自分の心で思っていることを文章にすることはとても難しい。そのもやもやを言葉としての形にする訓練ができる場であった。

※考え方の多様性を実感し、また自分自身も改めて自分の考えを深め言語化することができ、勉強になった。

※教科書の内容である知識はもちろんのこと、紹介された様々な問題に触れることによって人の数だけ考え方が存在し、それを理解できなくとも認め合うことの大切さを感じた。

※日常生活の様々な場面で「ところ」に目を向けることができるようになったと実感している。

※以前より自分の視野が広がり、人の気持ちについて考える機会が多くなった。

※投稿や題材には考えさせられ、とても良い刺激と学習になった。※タイムリーな話題や重要な事柄を毎週まとめて知らせてくれるのが良かった。

※毎週のアナウンスと掲示板のコメントを読んで、色々な問題やそれに対する意見・価値観を知ることが出来た。

※現代の社会問題や時事問題を取り上げていて、週 1 のメッセージだけでも多くのことをまなぶことができる有意義な時間だった。

※社会の色々な問題や現実を知り、それに対する皆さんの意見や考えを知ることができたので新しい見方や価値観を学ぶことができた。

※毎週のお知らせが結構救いになったり、考えさせられたりした。色々な気づきを得ることができた。

※お知らせがとても分かりやすく、また考えさせられるものだった。

※示された記事や社会問題などを通じて色々なことを考える機会が沢山あり、自分の考えや思っていることを改めて再認識することが出来た。

※時事的な内容と心理学が結び付けられていて、ニュースでは考えられない考えを得ることが出来た。

※様々な話を読む中で、自分の経験や知識がとても狭いものだというにも気付かされた。心理学ということで、はじめは他者の心理を理解していくつもりで履修していたが、1年間で自分自身の内面も見つめ直す良い機会になった。オンラインでも人との関わりがあることを確認できた。

※様々な社会問題や性差別問題などに対して、自身の意見を持っている人がこんなにも多いのかと驚いた。

※自分が考えたこともないような悩みを抱えている人がいることを知った。もっと世間のことに目を向けるべきであると感じた。

※特に差別のことについて考えさせられた。当たり前だと思っていたことがよく考えてみると変だったり過程を知ると気持ち悪かったり、多くのことを学べた。

※いろいろな意見を読んで、批判すること・指摘することは大事だと分かった。批判しても何も変わらない、損しかしないと思っていた。しかし、批判することも必要。そして、自分では考えられないような・知らなかったような立場の人の意見は、耳が痛くなることもあるけど、目を背けずに、発してくれた人に感謝する。意見は、世の中の生きづらい人を失くしていくための材料であると分かった。

※とても良い仕組みだと感じた。固定観念や一般常識にとらわれないものの見方を学ぶことが出来た。

※前は“ふつう”だと思っていたことに、少しずつだが、“これって実はおかしいんじゃない？”と気付けるようになった。

※社会問題について考える時間が増えたと思った。今までなら素通りしていたニュースや疑問、おかしいと思う気持ちをしっかりと自分の中で考える時間を作ることができた。匿名ということもあって様々な意見に触れることができたり、同じ考えを持つ人から返信をいただくことができたりと、対面でないからこそこの学びを得ることができ楽しかった。

※悩みや社会の情勢についての意見などを多くの人と共有できる形がとて良かった。自分の意見にコメントをもらえたり共感してもらえたととても嬉しいと感じた。顔が見えなかったり発信者がわからないことによって、より深くまで関わることはできなかったのではないかな。心理学ならではの形態がとても良かった。

【その他の重要事項】

(1) 心理学 LA(春学期)と心理学 LB(秋学期)は連動するため、続けての履修を期待します。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを変えます。「裏シラバス」や「クチコミ」を当てにしないでください。

(3) 臨床心理士として、生きづらく悩んでいる and/or 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病気」、「心の性」、「心神喪失・耗弱(こうじゃく)」、「責任能力」の検証も必要でした。責任 (responsibility) とは、反応する (response) 能力 (ability) です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不調や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自家中毒・矛盾・煩悶(はんもん)を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪(たま)らない方ばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事? 「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち(・人権)」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。

(4) オフィスアワー(お喋りタイム?)は、原則として木曜の4時限ないし5時限に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、「授業内掲示板」または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

We survey advanced applied psychology on the basis of academic psychology such as behavioral psychology, cognitive psychology, developmental psychology, and personality psychology.

We study clinical social psychology.

PSY200LA

心理学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル:

海部 紀行

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 集中・その他/intensive・other courses

単位数: 2 単位

法文営国環キ 1~4 年

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「心理学 I/II」など、アカデミックな心理学(行動心理学、認知心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学 etc.)の基礎・基盤(ベーシック)履修を前提とし、より発展・応用的な心理学[社会心理学+臨床心理学 ⇒ 臨床社会心理学]を学びます。

【到達目標】

他者と自己とが織りなす対人関係、そこから生じる葛藤やストレスへの対処などを考えることが目標です。

見えていなくても(見たいように)見てしまう、見えているのに(え)ない。(いやでも)見る・気づく・気にする・考える(しかない)側から、(見たいものしか)見ない・気づかない・気にしない・考えない(で済む)側まで、「こころ」は我が儘です。「こころ」は、どこに・なぜ・どのようにあるか、「いのち」は、いつ始まり、終わるのか、「人権」とは何か。

「私は私」・「オレはオレ」というアイデンティティは、自生(天然)が成り立ちません。他者がいて自己になる。他者と相見(まみ)え初めて自己が立ち現れます。思春期・青年期の「第2の誕生」によって、自分が自分の「こころ・いのち(・人権)」を産み出します。あなたは誰ですか。よりよく自分自身を生きたいですか…。

「こころ・いのち(・人権)」について、感じ思い考える能力を身につけます。知識とともに潜在的な可能性(ポテンシャル)を磨き、決めつけや思い込みにとらわれず、新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢(キャパシティ)を増やします。主体的・批判的に検討し、的確な意見を論じることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド(資料型)です。いろいろな事情や背景があるので、リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。参照:【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】【成績評価の方法と基準】【学生の意見等からの気づき】

指定テキスト(教科書)の独学独習が要件です。「授業計画」として示す「(仮想)日程」を目安に、それぞれのペースで読み進めます。合わせて、Hoppii(学習支援システム)の「お知らせ・アナウンス」および「授業内掲示板」に目を通し、投稿(コメント)・議論することが基本です。受け身でいたら、面白くも愉しくもなく、訳が分からないままになりかねません。

「お知らせ・アナウンス」: おおむね週1回(水曜を予定)配信。登録アドレス宛てメールでも届けます(真夜中や未明・早朝の際に備え、通知音オフ推奨)。テキストの解説や補助教材の案内もしますが、(参考書代わりに?)折々のモノ・コトを紹介し、コメントへのリプライ・フィードバック、SNSの引用、記事や資料、動画(へのリンク)を伝えます。

「授業内掲示板」: テキストの内容に限らず、アナウンスや他の学生の投稿・コメントその他に関して、質問や感想・意見・主張を書き込むことが、「授業」参加になります。匿名(いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かるという少しディストピア的な)設定です。「返信」を用いて、学生どうし多彩な意見交換を試みてください。日々の鬱憤や悩みの相談・雑談、オススメまで、自由な対話を通し、互いに見解(意見と理解)を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他について
2	「自分」が脅かされる…	私への関心と恐怖感〔テキスト第 6 章①〕
3	妄想・自我障害の原因／どう克服するか	帰属のパラドクス／認知療法・自閉療法〔テキスト第 6 章②〕
4	本当の自分？	自分のことを打ち明ける：自己開示〔テキスト第 7 章①〕
5	仮面の自分？	自分をよく見せる：自己呈示〔テキスト第 7 章②〕
6	自己開示と健康	メンタル&フィジカル〔テキスト第 8 章①〕
7	トラウマの開示は…	認知的再評価あるいは否定的影響〔テキスト第 8 章②〕
8	不安と対人恐怖	社会不安障害？〔テキスト第 9 章①〕
9	よく見せたいが自信がない…／認知モデル	自己呈示の欲求と効力感／認知行動療法〔テキスト第 9 章②〕
10	援助行動と対人関係	助けること・助けられること〔テキスト第 10 章①〕
11	ソーシャル・サポート	人が人を支える〔テキスト第 10 章②〕
12	攻撃行動	何が「攻撃」？ その目標・機能は？〔テキスト第 11 章①〕
13	怒り	怒りとは？ なぜ「攻撃」する？〔テキスト第 11 章②〕
14	なぜ援助を求めない？／おまけ	症状認知・情報不足・偏見・コミュニティ〔テキスト終章〕／掲示板への投稿締切

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 回あたりの準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間（計 4 時間）を標準〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とします。

といっても（オンライン・オンデマンドゆえ）、いつも「授業時間外の学習」？ 心身の調子を整え、うまく各自の都合で時間配分しつつ、テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他を読み解き、投稿を進めます。“何を覚えるか”ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

坂本真士・佐藤健二（編） 2004 はじめての臨床社会心理学—自己と対人関係から読み解く臨床心理学—有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/4641076812>

必ず用意してください。版元品切れになりがちです。大学生協の通信販売も活用し、早めに入手してください。

【参考書】

「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」その他、随時あれこれを参考にします。「臨床心理学」と「社会心理学」を結ぶ専門書については、テキスト各章末の「文献案内」が充実しています。「臨床心理学」は、下記の書籍で概観できます。

下山晴彦（編） 2009 よくわかる臨床心理学【改訂新版】 ミネルヴァ書房

<http://www.minervashobo.co.jp/book/b49970.html>

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）：「授業内掲示板」での動向を通して、何を・いつ・なぜ・どのように感じ思い考えてきたか拝察します。

テキストのみならず、「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」、各々が見出した文献、Web サイト、動画、マンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画などを味わい、それらと日常とを結びつけた感想や意見・主張、問題提起を任意に、しかし数回くらは投稿・コメントしてください。レポートのようになっても構いません。ファイル添付も可能です。短文の連打も歓迎します。そこに表（さ）れる内容から、テキストその他の読み込み具合、味わい方、取り組む姿勢・態度を推し測ります。

裏付けとなる根拠が明らかな論述はもちろん、奔放な相談や雑談、対話にさえも、主体的・批判的に学び調べ、何を理解し、どのように「こころ・いのち（・人権）」について感じ思い考えてきたか、相当程度、くつきりと示されますから、労力と時間は膨大にかかりますが、存分に評定できます（します）。

【学生の意見等からの気づき】

初めて本格的な (?) オンライン・オンデマンドとなった 2020 年度秋学期「心理学Ⅱ」・「心理学 LB」の「授業改善アンケート」（匿名）と「授業内掲示板」に寄せられた記述の幾つか（意味を変えない範囲で文体など差し替えました）を「気づき」とします。

まず 6 点、もっともな不信・不審や疑念に対する言い訳です。いずれも用心していきます。

(1) 春学期、掲示板で匿名がはがれたことがあった。これは絶対に避けなければいけないことだ。

(2) 先生自身も学生に成りすまして自問自答のようなことをしていたがどういう意図なのか？

〈言い訳 1〉 掲示板は、「投稿者を表示する」というデフォルト（初期）設定を改変し、匿名にしています。ところが春学期、投稿締切（掲示板の閉鎖）時に、（閉鎖後のアクセスを予定しない）デフォルトに戻ってしまい、匿名設定が解除されるエラーが生じました。急いで再び匿名設定にしたものの、反映まで時間がかかったようです。済みませんでした。その後は、支障なかったはずですが。

〈言い訳 2〉 この「匿名がはがれた」時間帯、「学生に成りすまして自問自答」しているようなケースが見えたかもしれません。「授業内掲示板」は科目別で、当該科目に登録した学生しか読み書きできず、海部担当の 5 科目で共有する仕組みがないため、春学期の初め、共有したい投稿を海部が「コピペ」していました。たとえば学生（匿名）の質問に海部（は名乗ります）が回答したとき、その投稿を海部が「コピペ」すると、当該科目以外では「海部が（匿名で）質問し、海部が回答する」形になります。ほかにも、オススの投稿などを「コピペ」していました。「匿名がはがれた」ときにアクセスしたら、「成りすまして自問自答」していると映るでしょう。怪しく不可解に感じて当然です。申し訳ありません。

(3-1) お知らせが見づらい。

(3-2) 毎回共通アナウンスというお知らせがあるが、文章が複雑で何を伝えたいのか考えてもいまいちわからなかった。

〈言い訳 3〉 率直に指摘くださり、深謝します。「お知らせ・アナウンス」は細切れの引用やリンクが多くて、掲示板も合わせ、継続する流れが分かりづらく、独り善がりが目立ったと思います。個別に意見や批判をいただいたときなど、次の回でのリプライ・フィードバックを試みてはいたのですが、不行き届きをお許しください。

(4) 成績評価が曖昧だという印象をぬぐい切れなかった。

〈言い訳 4〉 成績評価は、俗に言う「量よりも質」で、数値・数量化した基準を示すことができず、ご不満を招く覚悟です。プロセスは次のとおりです。春学期は合計 7000 件ほど、（例年、履修登録が減る）秋学期も 5000 件近い投稿その他を頂戴しました。リアルタイムで（誰の投稿であるかは不明ながら転送メールにて内容のみ）その都度、拝読した後、「いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かる」設定の掲示板で再読・再々読を繰り返し、「既読としてマーク」の状況も確認して、特定の例は、まとめて読み直します。そのうえで学期末に、それぞれの投稿（「返信」や直接いただいたメールを含む）その他を、改めて個々別々に（個人別に）整理し、「いつ誰が何を書いたか・読んだか」すべてを精査します。おのずと浮き彫りになる生成・変化・展開の様相も踏まえて採点し、(S～E)の12段階で評価します。

(5-1) Zoom 等は使用しないにしろ各週での課題を提示してくれたほうが取り組みやすかった。

(5-2) 提出必須の課題を出してほしかった。

〈言い訳 5〉 Zoom 等は得手不得手に加え、通信環境の事情・背景もあり、使用しません。また、恐縮ですが、「各週での課題」は嫌悪・苦痛しかないという声が圧倒的だと認識しています。それでも、ときどき、各々のペースでレポートや小論文を提出くだされば受け取る旨は案内し、実際に掲示板への投稿(もしくは直接のメール)にファイル添付された方が少なくありませんでした。海部は、一方的に「教える」のではなく、設問形式の課題も提示しません。何かを紹介し、意見交換や議論を通じて、ともに学び合うことを重視します。まして、「正解」や「最適解」を 1 つに絞れず、見つけることすら難しい「ところ・いのち(・人権)」については、じっくりと各自で試行(思考)錯誤してくださるよう望みます。

(6-1) リアルタイム授業を何回か開いてほしかった。

(6-2) せめて動画授業をするなど、先生が顔と声を出して対面してほしかった。大学の授業において、最後までどんな先生が授業をしているのか分からないのはおかしいと感じた。残念。

〈言い訳 6〉 そうですよ。もしリクエストがあるなら、顔と声がどんなふうであるかくらいは知らせるようにしますか。けれども海部は、表情や視線、口調、身振り素振り、動作、姿勢・態度、距離感、関心の向き、構え、といった何らかがないと、率直で親密な対話・コミュニケーションを組み立てられないので、オンライン併用の「リアルタイム授業」や対面同様の「動画授業」は困難です。そもそも「業(わざ)」を授(さず)ける」器量がなく、「対面」でも「義(条理)」を講じる(説明する)講義しかできません。「面談」は好きですが…。以下は、ひきつづき大切にしたい観点です。

※いろいろ考え悩んでるのが自分 1 人じゃないんだなって思うだけでかなり気持ち楽になった。

※匿名でなかったら言えないことも言える。同じような意見や考えの人がいることに気づけて、自分だけではなかったんだと思えた。

※匿名だからこそ言える、他の人が普段考えてる事だったり不安に思ってる事だったりを知って、同じような悩みを持つてる人は自分だけじゃないんだと知れた。匿名で様々な意見を交換できるというオンラインの良さを活用した授業、とても楽しかった。

※オンラインならではの方式で、新鮮だった。匿名の環境下、他の受講者とコミュニケーションをとるのが楽しかった。

※たくさんの学生が意見交流していて、オンラインの利点を生かしているなあと思う。

※ふだんなら相談しないことや考えないことを書き込めて楽しかった。

※普段の生活における疑問、意見の吐口となってくれた。匿名だからこそ、話せること、聞けることが沢山あった。

※自分の考えを躊躇することなく伝えることができて良かった。

※日常の愚痴などもたくさん見て、共感できたり新鮮だった。

※みんなの本音が知れて面白かった。

※他の生徒がどのように感じているのかを読むことが出来たのでとてもいい工夫がされていたのではないかな。

※多くの受講生のほとんど正直な意見を見ることができ、意見交換できたことが良かった。

※教科書に対する意見やプライベートな話を読んで、顔は見えていなくてもその時だけは、同じ空間で繋がっているような気がした。

※人ととの繋がりを感ずることが出来たことや、同じように悩む人がいると分かったことは、今年大学 1 年生で友達がいない自分にとって大きな心の支えになった。

※孤独や不安を感じることも多かった状況の中でコミュニケーションを取ることのできる大切な場になっていた。コメントで会話したり、様々な意見を読んだりすることがとても楽しかった。

※異例の事態で、生徒間、先生-生徒間の交流が失われた中、この掲示板を見ている時は皆との距離が縮まったように感じられた。

※書き込むことで皆さんとつながっている気持ちになり、大学生になったことを唯一実感できる場だった。

※慣れないことばかりで肉体的にも精神的にも辛い期間を、時には自分の思いや弱音を吐き出し、時には誰かの思想に触れ、時には共感しながら過ごせる大切な場所だった。

※課題に追われず、自分の興味関心と精神状態に合わせて無理なく学ぶことができた。

※時間に縛られることなく、参加できたのはよかった。

※のびのびと参加することができて良かった。

※自分のペースで学習がしやすく、掲示板もしっかり活用できてとても充実した。

※いつでも、またどんなことでも掲示板に書き込めるため縛られている感じがなくてよかった。

※自分に合った方法で参加することができ、掲示板が上手く利用されていた。自由性が高く、匿名で他の人の投稿に意見できたり、逆にアドバイスをもらうことができていたりしてとても楽しかったし、ステイホーム期間の心の支えになってくれた。

※自分とは何なのか、感情・行動とは何なのかを 1 人でじっくり考える機会を作ることが出来た。

※自分について考える時間が増えた。教科書に書いてあることに自分を重ねたり、自分の内面に意識を向けたりしながら読み進めたからだと思う。これまで時間を取って自分についてじっくり考える、ということをしてこなかったの、改めて自分について客観的に考えることができて良かった。

※常に新しい発見ができ、テキストを読み進めるにつれて自分で考える力を養うことができた。

※テキストを読み、意見交換することで色々な認識が変わった。これからも自分とは何か、心とは何か考え続けていきたい。

※他人との交流や違った視点の意見を聞くことの大切さを改めて実感した。たくさんの方からのコメントに触れることで理解が深まった。

※さまざまな方々の意見に触れることで、普段は知り得ないような意見をたくさん知ることができた。

※様々な考え方に触れることができて楽しかった。また、考えさせられる機会を得ることができ、良い経験であった。

※他の生徒の意見などを見ることが出来たのが私にとってすごく新鮮で、こういう考えもあるんだと、そういった面でも学ぶことが出来た。

※先生や他学生との議論で自身の考えを発信し、異なる意見を聞くなどして理解を深めることができた。

※さまざまな方とコミュニケーションをとるのがとても楽しかったし、みなさんの鋭い視点に毎日驚かされ新鮮な日々だった。

※見ず知らずの人が私が書き込んだことに反応してくれて嬉しかった。人の心や脳は難しく、けど面白いと思った。

※匿名だからこそ自由に、素直な気持ちを述べることができた。様々な人の様々な意見を知ることができた。年が同じまたは近い人の意見とは思えないような達観した鋭い指摘がたくさんあり、視野を広げることができる良い機会となった。

※匿名だからこそ話すことのできる主張を学生が出来る場で、自分とは異なる様々な意見に触れることが出来た。

※自分の心を見つめ直すきっかけに繋がった。自分がぼんやりと感じていたことを、何が原因でどういう仕組みでそう感じたのか知るの、自分の心を分析していくようでとても面白かった。

※自分と向き合う機会が得られたことで、自分自身の知らなかった部分を知ることができた。

※自分のネガティブな面について詳しく知れて良かった。

※様々な考えや知識をインプットするだけでなく、自分の学びをアウトプットすることによって、普段は気にすることのない自分の考え方やものの見方などに気づくことができた。

※思ったことをためらわずに書き込める。自分の心で思っていることを文章にすることはとても難しい。そのもやもやを言葉としての形にする訓練ができる場であった。

※考え方の多様性を実感し、また自分自身も改めて自分の考えを深め言語化することができ、勉強になった。

※教科書の内容である知識はもちろんのこと、紹介された様々な問題に触れることによって人の数だけ考え方が存在し、それを理解できなくとも認め合うことの大切さを感じた。

※日常生活の様々な場面で「ところ」に目を向けることができるようになったと実感している。

※以前より自分の視野が広がり、人の気持ちについて考える機会が多くなった。

※投稿や題材には考えさせられ、とても良い刺激と学習になった。※タイムリーな話題や重要な事柄を毎週まとめて知らせてくれるのが良かった。

※毎週のアナウンスと掲示板のコメントを読んで、色々な問題やそれに対する意見・価値観を知ることが出来た。

※現代の社会問題や時事問題を取り上げていて、週 1 のメッセージだけでも多くのことをまなぶことができる有意義な時間だった。

※社会の色々な問題や現実を知り、それに対する皆さんの意見や考えを知ることができたので新しい見方や価値観を学ぶことができた。

※毎週のお知らせが結構救いになったり、考えさせられたりした。色々な気づきを得ることができた。

※お知らせがとても分かりやすく、また考えさせられるものだった。

※示された記事や社会問題などを通じて色々なことを考える機会が沢山あり、自分の考えや思っていることを改めて再認識することが出来た。

※時事的な内容と心理学が結び付けられていて、ニュースでは考えられない考えを得ることが出来た。

※様々な話を読む中で、自分の経験や知識がとても狭いものだというにも気付かされた。心理学ということで、はじめは他者の心理を理解していくつもりで履修していたが、1年間で自分自身の内面も見つめ直す良い機会になった。オンラインでも人との関わりがあることを確認できた。

※様々な社会問題や性差別問題などに対して、自身の意見を持っている人がこんなにも多いのかと驚いた。

※自分が考えたこともないような悩みを抱えている人がいることを知った。もっと世間のことに目を向けるべきであると感じた。

※特に差別のことにについて考えさせられた。当たり前だと思っていたことがよく考えてみると変だったり過程を知ると気持ち悪かったり、多くのことを学べた。

※いろいろな意見を読んで、批判すること・指摘することは大事だと分かった。批判しても何も変わらない、損しかしないと思っていた。しかし、批判することも必要。そして、自分では考えられないような・知らなかったような立場の人の意見は、耳が痛くなることもあるけど、目を背けずに、発してくれた人に感謝する。意見は、世の中の生きづらい人を失くしていくための材料であると分かった。

※とても良い仕組みだと感じた。固定観念や一般常識にとらわれないものの見方を学ぶことが出来た。

※前は“ふつう”だと思っていたことに、少しずつだが、“これって実はおかしいんじゃない？”と気付けるようになった。

※社会問題について考える時間が増えたなと思った。今までなら素通りしていたニュースや疑問、おかしいなと思う気持ちをしっかりと自分の中で考える時間を作ることができた。匿名ということもあって様々な意見に触れることができたり、同じ考えを持つ人から返信をいただくことができたりと、対面でないからこそこの学びを得ることができ楽しかった。

※悩みや社会の情勢についての意見などを多くの人と共有できる形がとても良かった。自分の意見にコメントをもらえたり共感してもらえたととても嬉しいと感じた。顔が見えなかったり発信者がわからないことによって、より深くまで関わることはできなかったのではないかな。心理学ならではの形態がとても良かった。

【その他の重要事項】

(1) 心理学 LA(春学期) と心理学 LB(秋学期) は連動するため、続けての履修を期待します。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを変えます。「裏シラバス」や「クチコミ」を当てにしないでください。

(3) 臨床心理士として、生きづらく悩んでいる and/or 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病気」、「心の性」、「心神喪失・耗弱(こうじゃく)」、「責任能力」の検証も必要でした。責任 (responsibility) とは、反応する (response) 能力 (ability) です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不調や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自家中毒・矛盾・煩悶 (はんもん) を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪 (たま) らない方ばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事？「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち (・人権)」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。

(4) オフィスアワー (お喋りタイム?) は、原則として木曜の 4 時間ないし 5 時間限に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、「授業内掲示板」または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

We survey advanced applied psychology on the basis of academic psychology such as behavioral psychology, cognitive psychology, developmental psychology, and personality psychology.

We study clinical social psychology.

PSY200LA

心理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

海部 紀行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「心理学 I/II」など、アカデミックな心理学〔行動心理学、認知心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学 etc.〕の基礎・基盤 (ベーシック) 履修を前提とし、より発展・応用的な心理学〔社会心理学+臨床心理学 ⇒ 臨床社会心理学〕を学びます。

【到達目標】

行動や出来事の原因の探り方、そのとき起きる錯誤、自己注目と抑うつなどを考えることが目標です。

見えていなくても (見たいように) 見てしまう、見えているのに見 (え) ない。 (いやでも) 見る・気づく・気にする・考える (しかない) 側から、 (見たいものしか) 見ない・気づかない・気にしない・考えない (で済む) 側まで、「こころ」は我が儘です。「こころ」は、どこに・なぜ・どのようにあるか、「いのち」は、いつ始まり、終わるのか、「人権」とは何か。

「私は私」・「オレはオレ」というアイデンティティは、自生 (天然) が成り立ちません。他者がいて自己になる。他者と相見 (まみ) え初めて自己が立ち現れます。思春期・青年期の「第 2 の誕生」によって、自分が自分の「こころ・いのち (・人権)」を産み出します。あなたは誰ですか。よりよく自分自身を生きたいですか…。

「こころ・いのち (・人権)」について、感じ思い考える能力を身につけます。知識とともに潜在的な可能性 (ポテンシャル) を磨き、決めつけや思い込みにとらわれず、新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢 (キャパシティ) を増やします。主体的・批判的に検討し、的確な意見を論じることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド (資料型) です。いろいろな事情や背景があるので、リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。参照：【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】【成績評価の方法と基準】【学生の意見等からの気づき】

指定テキスト (教科書) の独学独習が要件です。「授業計画」として示す「(仮想) 日程」を目安に、それぞれのペースで読み進めます。合わせて、Hoppii (学習支援システム) の「お知らせ・アナウンス」および「授業内掲示板」に目を通し、投稿 (コメント)・議論することが基本です。受け身でいたら、面白くも愉しくもなく、訳が分からないままになりかねません。

「お知らせ・アナウンス」：おおむね週 1 回 (水曜を予定) 配信。登録アドレス宛てメールでも届けます (真夜中や未明・早朝の際に備え、通知音オフ推奨)。テキストの解説や補助教材の案内もしますが、(参考書代わりに?) 折々のモノ・コトを紹介し、コメントへのリプライ・フィードバック、SNS の引用、記事や資料、動画 (へのリンク) を伝えます。

「授業内掲示板」：テキストの内容に限らず、アナウンスや他の学生の投稿・コメントその他に関して、質問や感想・意見・主張を書き込むことが、「授業」参加になります。匿名 (いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かるという少しディストピア的な) 設定です。「返信」を用いて、学生どうし多彩な意見交換を試みてください。日々の鬱憤や悩みの相談・雑談、オススメまで、自由な対話を通し、互いに見解 (意見と理解) を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他について
2	社会心理学とは？	臨床社会心理学〔テキスト序章①〕
3	臨床心理学とは？	臨床社会心理学〔テキスト序章②〕
4	臨床社会心理学とは？	臨床社会心理学〔テキスト序章③〕
5	「なぜ？」を読み解く	対応推論・共変モデル・因果スキーマ〔テキスト第1章①〕
6	帰属のバイアス	原因推測の誤りと偏り〔テキスト第1章②〕
7	なぜ憂うつになる？	誤帰属や帰属スタイルの傾向〔テキスト第2章①〕
8	帰属療法／原因想起	成長期・対人関係／多様性と選択合理性〔テキスト第2章②〕
9	勉強ができない…／原因の考え方	期待-価値モデルと統制の位置／感情の帰属モデル〔テキスト第3章①〕
10	学習性無力感／知能は変わる？	努力しても成功しない？ 試験前は遊ぼう？〔テキスト第3章②〕
11	見る自己と見られる自己	自己意識と自己注目〔テキスト第4章①〕
12	自己を意識すると…／自己注目の研究	客体的自覚理論と制御理論／「適切さの基準」〔テキスト第4章②〕
13	落ち込みと自己注目	気分一致効果／自己確証／自己没入〔テキスト第5章①〕
14	抑うつ予防／おまけ	注意の向け方・気晴らし〔テキスト第5章②〕／掲示板への投稿締切

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 回あたりの準備学習・復習時間は、それぞれ2時間（計4時間）を標準〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とします。

といっても（オンライン・オンデマンドゆえ）、いつも「授業時間外の学習」？ 心身の調子を整え、うまく各自の都合で時間配分しつつ、テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他を読み解き、投稿を進めます。“何を覚えるか”ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

坂本真士・佐藤健二（編） 2004 はじめての臨床社会心理学—自己と対人関係から読み解く臨床心理学 有斐閣
<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/4641076812>
 必ず用意してください。版元品切れになりがちです。大学生協の通信販売も活用し、早めに入手してください。

【参考書】

「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」その他、随時あれこれを参考にします。「臨床心理学」と「社会心理学」を結ぶ専門書については、テキスト各章末の「文献案内」が充実しています。「臨床心理学」は、下記の書籍で概観できます。
 下山晴彦（編） 2009 よくわかる臨床心理学〔改訂新版〕 ミネルヴァ書房
<http://www.minervashobo.co.jp/book/b49970.html>

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）：「授業内掲示板」での動向を通して、何を・いつ・なぜ・どのように感じ思い考えてきたか拝察します。

テキストのみならず、「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」、各々が見出した文献、Web サイト、動画、マンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画などを味わい、それらと日常とを結びつけた感想や意見・主張、問題提起を任意に、しかし数回くらは投稿・コメントしてください。レポートのようになっても構いません。ファイル添付も可能です。短文の連打も歓迎します。そこに表（さ）れる内容から、テキストその他の読み込み具合、味わい方、取り組む姿勢・態度を推し測ります。

裏付けとなる根拠が明らかな論述はもちろん、奔放な相談や雑談、対話にさえも、主体的・批判的に学び調べ、何を理解し、どのように「こころ・いのち（・人権）」について感じ思い考えてきたか、相当程度、くつきりと示されますから、労力と時間は膨大にかかりますが、存分に評定できます（します）。

【学生の意見等からの気づき】

初めて本格的な(?) オンライン・オンデマンドとなった2020年度秋学期「心理学Ⅱ」・「心理学LB」の「授業改善アンケート」（匿名）と「授業内掲示板」に寄せられた記述の幾つか（意味を変えない範囲で文体など差し替えました）を「気づき」とします。

まず6点、もっともな不信・不審や疑念に対する言い訳です。いずれも用心していきます。

(1) 春学期、掲示板で匿名がはがれたことがあった。これは絶対に避けなければならないことだ。

(2) 先生自身も学生に成りすまして自問自答のようなことをしていたがどういう意図なのか？

〈言い訳1〉 掲示板は、「投稿者を表示する」というデフォルト（初期）設定を改変し、匿名にしています。ところが春学期、投稿締切（掲示板の閉鎖）時に、（閉鎖後のアクセスを予定しない）デフォルトに戻ってしまい、匿名設定が解除されるエラーが生じました。急いで再び匿名設定にしたものの、反映まで時間がかかったようです。済みませんでした。その後は、支障なかったはずです。

〈言い訳2〉 この「匿名がはがれた」時間帯、「学生に成りすまして自問自答」しているようなケースが見えたかもしれません。「授業内掲示板」は科目別で、当該科目に登録した学生しか読み書きできず、海部担当の5科目で共有する仕組みがないため、春学期の初め、共有したい投稿を海部が「コピペ」していました。たとえば学生（匿名）の質問に海部（は名乗ります）が回答したとき、その投稿を海部が「コピペ」すると、当該科目以外では「海部が（匿名で）質問し、海部が回答する」形になります。ほかに、オススの投稿などを「コピペ」していました。「匿名がはがれた」ときにアクセスしたら、「成りすまして自問自答」していると映るでしょう。怪しく不可解に感じて当然です。申し訳ありません。

(3-1) お知らせが見づらい。

(3-2) 毎回共通アナウンスというお知らせがあるが、文章が複雑で何を伝えたいのか考えてもいまいちわからなかった。

〈言い訳3〉 率直に指摘くださり、感謝します。「お知らせ・アナウンス」は細切れの引用やリンクが多くて、掲示板も合わせ、継続する流れが分かりづらく、独り善がりが目立ったと思います。個別に意見や批判をいただいたときなど、次の回でのリプライ・フィードバックを試みてはいたのですが、不行き届きをお許しください。

(4) 成績評価が曖昧だという印象をぬぐい切れなかった。

〈言い訳4〉 成績評価は、俗に言う「量よりも質」で、数値・数量化した基準を示すことができず、ご不満を招く覚悟です。プロセスは次のとおりです。春学期は合計7000件ほど、（例年、履修登録が減る）秋学期も5000件近い投稿その他を頂戴しました。リアルタイムで（誰の投稿であるかは不明ながら転送メールにて内容のみ）その都度、拝読した後、「いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かる」設定の掲示板で再読・再々読を繰り返し、「既読としてマーク」の状況も確認して、特定の例は、まとめて読み直します。そのうえで学期末に、それぞれの投稿（「返信」や直接いただいたメールを含む）その他を、改めて個々別々に（個人別に）整理し、「いつ誰が何を書いたか・読んだか」すべてを精査します。おのずと浮き彫りになる生成・変化・展開の様相も踏まえて採点し、(S～E)の12段階で評価します。

(5-1) Zoom等は使用しないにしろ各週での課題を提示してくれたほうが取り組みやすかった。

(5-2) 提出必須の課題を出してほしかった。

〈言い訳 5〉 Zoom 等は得手不得手に加え、通信環境の事情・背景もあり、使用しません。また、恐縮ですが、「各週での課題」は嫌悪・苦痛しかないという声が圧倒的だと認識しています。それでも、ときどき、各々のベースでレポートや小論文を提出くだされば受け取る旨は案内し、実際に掲示板への投稿(もしくは直接のメール)にファイル添付された方が少なくありませんでした。海部は、一方的に「教える」のではなく、設問形式の課題も提示しません。何かを紹介し、意見交換や議論を通じて、ともに学び合うことを重視します。まして、「正解」や「最適解」を 1 つに絞れず、見つけることすら難しい「ところ・いのち(・人権)」については、じっくりと各自で試行(思考)錯誤してくださるよう望みます。

(6-1) リアルタイム授業を何回か開いてほしかった。

(6-2) せめて動画授業をするなど、先生が顔と声を出して対面してほしかった。大学の授業において、最後までどんな先生が授業をしているのか分からないのはおかしいと感じた。残念。

〈言い訳 6〉 そうですね。もしリクエストがあるなら、顔と声がどんなふうであるかくらいは知らせるようにしますか。けれども海部は、表情や視線、口調、身振り素振り、動作、姿勢・態度、距離感、関心の向き、構え、といった何らかがないと、率直で親密な対話・コミュニケーションを組み立てられないので、オンライン併用の「リアルタイム授業」や対面同様の「動画授業」は困難です。そもそも「業(わざ)」を授(さず)ける」器量がなく、「対面」でも「義(条理)」を講じる(説明する)講義しかできません。「面談」は好きですが…。以下は、ひきつづき大切にしたい観点です。

※いろいろ考え悩んでるのが自分 1 人じゃないんだなって思うだけでかなり気持ち楽になった。

※匿名でなかったら言えないことも言える。同じような意見や考えの人がいることに気づけて、自分だけではなかったんだと思えた。

※匿名だからこそ言える、他の人が普段考えてる事だったり不安に思ってる事だったりを知って、同じような悩みを持つてる人は自分だけじゃないんだと知れた。匿名で様々な意見を交換できるというオンラインの良さを活用した授業、とても楽しかった。

※オンラインならではの方式で、新鮮だった。匿名の環境下、他の受講者とコミュニケーションをとるのが楽しかった。

※たくさん学生の意見交流していて、オンラインの利点を生かしているなあと思う。

※ふだんなら相談しないことや考えないことを書き込めて楽しかった。

※普段の生活における疑問、意見の吐口となってくれた。匿名だからこそ、話せること、聞けることが沢山あった。

※自分の考えを躊躇することなく伝えることができて良かった。

※日常の愚痴などもたくさん見て、共感できたり新鮮だった。

※みんなの本音が知れて面白かった。

※他の生徒がどのように感じているのかを読むことが出来たのでとてもいい工夫がされていたのではないかな。

※多くの受講生のほとんど正直な意見を見ることができ、意見交換できたことが良かった。

※教科書に対する意見やプライベートな話を読んで、顔は見えていなくてもその時だけは、同じ空間で繋がれているような気がした。

※人ととの繋がりを感ずることが出来たことや、同じように悩む人がいると分かったことは、今年大学 1 年生で友達がいない自分にとって大きな心の支えになった。

※孤独や不安を感じることも多かった状況の中でコミュニケーションを取ることでできる大切な場になっていた。コメントで会話したり、様々な意見を読んだりすることがとても楽しかった。

※異例の事態で、生徒間、先生-生徒間の交流が失われた中、この掲示板を見ている時は皆との距離が縮まったように感じられた。

※書き込むことで皆さんとつながっている気持ちになり、大学生になったことを唯一実感できる場だった。

※慣れないことばかりで肉体的にも精神的にも辛い期間を、時には自分の思いや弱音を吐き出し、時には誰かの思想に触れ、時には共感しながら過ごせる大切な場所だった。

※課題に追われず、自分の興味関心と精神状態に合わせて無理なく学ぶことができた。

※時間に縛られることなく、参加できたのはよかった。

※のびのびと参加することができて良かった。

※自分のペースで学習がしやすく、掲示板もしっかり活用できてとても充実した。

※いつでも、またどんなことでも掲示板に書き込めるため縛られている感じがなくてよかった。

※自分に合った方法で参加することができ、掲示板が上手く利用されていた。自由性が高く、匿名で他の人の投稿に意見できたり、逆にアドバイスをもらうことができたりしてとても楽しかったし、ステイホーム期間の心の支えになってくれた。

※自分とは何なのか、感情・行動とは何なのかを 1 人でじっくり考える機会を作ることが出来た。

※自分について考える時間が増えた。教科書に書いてあることに自分を重ねたり、自分の内面に意識を向けたりしながら読み進めたからだと思う。これまで時間を取って自分についてじっくり考える、ということをしてこなかったで、改めて自分について客観的に考えることができて良かった。

※常に新しい発見ができ、テキストを読み進めるにつれて自分で考える力を養うことができた。

※テキストを読み、意見交換することで色々な認識が変わった。これから自分とは何か、心とは何か考え続けていきたい。

※他人との交流や違った視点の意見を聞くことの大切さを改めて実感した。たくさんの方からのコメントに触れることで理解が深まった。

※さまざまな方々の意見に触れることで、普段は知り得ないような意見をたくさん知ることができた。

※様々な考え方に触れることができて楽しかった。また、考えさせられる機会を得ることができ、良い経験であった。

※他の生徒の意見などを見ることが出来たのが私にとってすごく新鮮で、こういう考えもあるんだと、そういった面でも学ぶことが出来た。

※先生や他学生との議論で自身の考えを発信し、異なる意見を聞くなどして理解を深めることができた。

※さまざまな方とコミュニケーションをとるのがとても楽しかったし、みなさんの鋭い視点に毎日驚かされ新鮮な日々だった。

※見ず知らずの人が私が書き込んだことに反応してくれて嬉しかった。人の心や脳は難しく、けど面白いと思った。

※匿名だからこそ自由に、素直な気持ちを述べることができた。様々な人の様々な意見を知ることができた。年が同じまたは近い人の意見とは思えないような達観した鋭い指摘がたくさんあり、視野を広げることができる良い機会となった。

※匿名だからこそ話すことのできる主張を学生が出来る場で、自分とは異なる様々な意見に触れることが出来た。

※自分の心を見つめ直すきっかけに繋がった。自分がぼんやりと感じていたことを、何が原因でどういう仕組みでそう感じたのか知るのには、自分の心を分析していくようでとても面白かった。

※自分と向き合う機会が得られたことで、自分自身の知らなかった部分を知ることができた。

※自分のネガティブな面について詳しく知れて良かった。

※様々な考えや知識をインプットするだけでなく、自分の学びをアウトプットすることによって、普段は気にすることのない自分の考え方やものの見方などに気づくことができた。

※思ったことをためらわずに書き込める。自分の心で思っていることを文章にすることはとても難しい。そのもやもやを言葉としての形にする訓練ができる場であった。

※考え方の多様性を実感し、また自分自身も改めて自分の考えを深め言語化することができ、勉強になった。

※教科書の内容である知識はもちろんのこと、紹介された様々な問題に触れることによって人の数だけ考え方が存在し、それを理解できなくとも認め合うことの大切さを感じた。

※日常生活の様々な場面で「ところ」に目を向けることができるようになったと実感している。

※以前より自分の視野が広がり、人の気持ちについて考える機会が多くなった。

※投稿や題材には考えさせられ、とても良い刺激と学習になった。※タイムリーな話題や重要な事柄を毎週まとめて知らせてくれるのが良かった。

※毎週のアナウンスと掲示板のコメントを読んで、色々な問題やそれに対する意見・価値観を知ることが出来た。

※現代の社会問題や時事問題を取り上げていて、週 1 のメッセージだけでも多くのことをまなぶことができる有意義な時間だった。

※社会の色々な問題や現実を知り、それに対する皆さんの意見や考えを知ることができたので新しい見方や価値観を学ぶことができた。

※毎週のお知らせが結構救いになったり、考えさせられたりした。色々な気づきを得ることができた。

※お知らせがとても分かりやすく、また考えさせられるものだった。

※示された記事や社会問題などを通じて色々なことを考える機会が沢山あり、自分の考えや思っていることを改めて再認識することが出来た。

※時事的な内容と心理学が結び付けられていて、ニュースでは考えられない考えを得ることが出来た。

※様々な話を読む中で、自分の経験や知識がとても狭いものだというにも気付かされた。心理学ということで、はじめは他者の心理を理解していくつもりで履修していたが、1年間で自分自身の内面も見つめ直す良い機会になった。オンラインでも人との関わりがあることを確認できた。

※様々な社会問題や性差別問題などに対して、自身の意見を持っている人がこんなにも多いのかと驚いた。

※自分が考えたこともないような悩みを抱えている人がいることを知った。もっと世間のことに目を向けるべきであると感じた。

※特に差別のことにについて考えさせられた。当たり前だと思っていたことがよく考えてみると変だったり過程を知ると気持ち悪かったり、多くのことを学べた。

※いろいろな意見を読んで、批判すること・指摘することは大事だと分かった。批判しても何も変わらない、損しかしないと思っていた。しかし、批判することも必要。そして、自分では考えられないような・知らなかったような立場の人の意見は、耳が痛くなることもあるけど、目を背けずに、発してくれた人に感謝する。意見は、世の中の生きづらい人を失くしていくための材料であると分かった。

※とても良い仕組みだと感じた。固定観念や一般常識にとらわれないものの見方を学ぶことが出来た。

※前は“ふつう”だと思っていたことに、少しずつだが、“これって実はおかしいんじゃない？”と気付けるようになった。

※社会問題について考える時間が増えたなと思った。今までなら素通りしていたニュースや疑問、おかしいと思う気持ちをしっかりと自分の中で考える時間を作ることができた。匿名ということもあって様々な意見に触れることができたり、同じ考えを持つ人から返信をいただくことができたりと、対面でないからこそこの学びを得ることができ楽しかった。

※悩みや社会の情勢についての意見などを多くの人と共有できる形がとて良かった。自分の意見にコメントをもらえたり共感してもらえたととても嬉しいと感じた。顔が見えなかったり発信者がわからないことによって、より深くまで関わることはできなかったのではないかな。心理学ならではの形態がとても良かった。

【その他の重要事項】

(1) 心理学 LA(春学期) と心理学 LB(秋学期) は連動するため、続けての履修を期待します。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを変えます。「裏シラバス」や「クチコミ」を当てにしないでください。

(3) 臨床心理士として、生きづらく悩んでいる and/or 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病気」、「心の性」、「心神喪失・耗弱(こうじゃく)」、「責任能力」の検証も必要でした。責任 (responsibility) とは、反応する (response) 能力 (ability) です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不調や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自家中毒・矛盾・煩悶 (はんもん) を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪 (たま) らない方ばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事？「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち (・人権)」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。

(4) オフィスアワー (お喋りタイム?) は、原則として木曜の4時限ないし5時限に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、「授業内掲示板」または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

We survey advanced applied psychology on the basis of academic psychology such as behavioral psychology, cognitive psychology, developmental psychology, and personality psychology.

We study clinical social psychology.

PSY200LA

心理学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

海部 紀行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「心理学 I/II」など、アカデミックな心理学 (行動心理学、認知心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学 etc.) の基礎・基盤 (ベーシック) 履修を前提とし、より発展・応用的な心理学 [社会心理学+臨床心理学 ⇒ 臨床社会心理学] を学びます。

【到達目標】

他者と自己とが織りなす対人関係、そこから生じる葛藤やストレスへの対処などを考えることが目標です。

見えていなくても (見たいように) 見てしまう、見えているのに (見え) ない。 (いやでも) 見る・気づく・気にする・考える (しかない) 側から、 (見たいものしか) 見ない・気づかない・気にしない・考えない (で済む) 側まで、「こころ」は我が儘です。「こころ」は、どこに・なぜ・どのようにあるか、「いのち」は、いつ始まり、終わるのか、「人権」とは何か。

「私は私」・「オレはオレ」というアイデンティティは、自生 (天然) が成り立ちません。他者がいて自己になる。他者と相見 (まみ) え初めて自己が立ち現れます。思春期・青年期の「第2の誕生」によって、自分が自分の「こころ・いのち (・人権)」を産み出します。あなたは誰ですか。よりよく自分自身を生きたいですか…。

「こころ・いのち (・人権)」について、感じ思い考える能力を身につけます。知識とともに潜在的な可能性 (ポテンシャル) を磨き、決めつけや思い込みにとらわれず、新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢 (キャパシティ) を増やします。主体的・批判的に検討し、的確な意見を論じることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド (資料型) です。いろいろな事情や背景があるので、リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。参照：【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】【成績評価の方法と基準】【学生の意見等からの気づき】

指定テキスト (教科書) の独学独習が要件です。「授業計画」として示す「(仮想) 日程」を目安に、それぞれのペースで読み進めます。合わせて、Hoppii (学習支援システム) の「お知らせ・アナウンス」および「授業内掲示板」に目を通し、投稿 (コメント)・議論することが基本です。受け身でいたら、面白くも愉しくもなく、訳が分からないままになりかねません。

「お知らせ・アナウンス」：おおむね週1回 (水曜を予定) 配信。登録アドレス宛てメールでも届けます (真夜中や未明・早朝の際に備え、通知音オフ推奨)。テキストの解説や補助教材の案内もしますが、(参考書代わりに?) 折々のモノ・コトを紹介し、コメントへのリプライ・フィードバック、SNS の引用、記事や資料、動画 (へのリンク) を伝えます。

「授業内掲示板」：テキストの内容に限らず、アナウンスや他の学生の投稿・コメントその他に関して、質問や感想・意見・主張を書き込むことが、「授業」参加になります。匿名 (いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かるという少しディストピア的な) 設定です。「返信」を用いて、学生どうし多彩な意見交換を試みてください。日々の鬱憤や悩みの相談・雑談、オススメまで、自由な対話を通し、互いに見解 (意見と理解) を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他について
2	「自分」が脅かされる…	私への関心と恐怖感〔テキスト第6章①〕
3	妄想・自我障害の原因／どう克服するか	帰属のパラドクス／認知療法・自閉療法〔テキスト第6章②〕
4	本当の自分？	自分のことを打ち明ける：自己開示〔テキスト第7章①〕
5	仮面の自分？	自分をよく見せる：自己呈示〔テキスト第7章②〕
6	自己開示と健康	メンタル&フィジカル〔テキスト第8章①〕
7	トラウマの開示は…	認知的再評価あるいは否定的影響〔テキスト第8章②〕
8	不安と対人恐怖	社会不安障害？〔テキスト第9章①〕
9	よく見せたいが自信がない…／認知モデル	自己呈示の欲求と効力感／認知行動療法〔テキスト第9章②〕
10	援助行動と対人関係	助けること・助けられること〔テキスト第10章①〕
11	ソーシャル・サポート	人が人を支える〔テキスト第10章②〕
12	攻撃行動	何が「攻撃」？ その目標・機能は？〔テキスト第11章①〕
13	怒り	怒りとは？ なぜ「攻撃」する？〔テキスト第11章②〕
14	なぜ援助を求めない？／おまけ	症状認知・情報不足・偏見・コミュニティ〔テキスト終章〕／掲示板への投稿締切

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1回あたりの準備学習・復習時間は、それぞれ2時間（計4時間）を標準〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とします。

といっても（オンライン・オンデマンドゆえ）、いつも「授業時間外の学習」？ 心身の調子を整え、うまく各自の都合で時間配分しつつ、テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他を読み解き、投稿を進めます。“何を覚えるか”ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

坂本真士・佐藤健二（編） 2004 はじめての臨床社会心理学—自己と対人関係から読み解く臨床心理学—有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/4641076812>

必ず用意してください。版元品切れになりがちです。大学生協の通信販売も活用し、早めに入手してください。

【参考書】

「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」その他、随時あれこれを参考にします。「臨床心理学」と「社会心理学」を結ぶ専門書については、テキスト各章末の「文献案内」が充実しています。「臨床心理学」は、下記の書籍で概観できます。

下山晴彦（編） 2009 よくわかる臨床心理学【改訂新版】 ミネルヴァ書房

<http://www.minervashobo.co.jp/book/b49970.html>

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）：「授業内掲示板」での動向を通して、何を・いつ・なぜ・どのように感じ思い考えてきたか拝察します。

テキストのみならず、「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」、各々が見出した文献、Web サイト、動画、マンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画などを味わい、それらと日常とを結びつけた感想や意見・主張、問題提起を任意に、しかし数回くらは投稿・コメントしてください。レポートのようになっても構いません。ファイル添付も可能です。短文の連打も歓迎します。そこに表（さ）れる内容から、テキストその他の読み込み具合、味わい方、取り組む姿勢・態度を推し測ります。

裏付けとなる根拠が明らかな論述はもちろん、奔放な相談や雑談、対話にさえも、主体的・批判的に学び調べ、何を理解し、どのように「こころ・いのち（・人権）」について感じ思い考えてきたか、相当程度、くつきりと示されますから、労力と時間は膨大にかかりますが、存分に評定できます（します）。

【学生の意見等からの気づき】

初めて本格的な(?) オンライン・オンデマンドとなった2020年度秋学期「心理学Ⅱ」・「心理学LB」の「授業改善アンケート」（匿名）と「授業内掲示板」に寄せられた記述の幾つか（意味を変えない範囲で文体など差し替えました）を「気づき」とします。

まず6点、もっともな不信・不審や疑念に対する言い訳です。いずれも用心していきます。

(1) 春学期、掲示板で匿名がはがれたことがあった。これは絶対に避けなければいけないことだ。

(2) 先生自身も学生に成りすまして自問自答のようなことをしていたがどういう意図なのか？

〈言い訳1〉 掲示板は、「投稿者を表示する」というデフォルト（初期）設定を改変し、匿名にしています。ところが春学期、投稿締切（掲示板の閉鎖）時に、（閉鎖後のアクセスを予定しない）デフォルトに戻ってしまい、匿名設定が解除されるエラーが生じました。急いで再び匿名設定にしたものの、反映まで時間がかかったようです。済みませんでした。その後は、支障なかったはずですが。

〈言い訳2〉 この「匿名がはがれた」時間帯、「学生に成りすまして自問自答」しているようなケースが見えたかもしれません。「授業内掲示板」は科目別で、当該科目に登録した学生しか読み書きできず、海部担当の5科目で共有する仕組みがないため、春学期の初め、共有したい投稿を海部が「コピペ」していました。たとえば学生（匿名）の質問に海部（は名乗ります）が回答したとき、その投稿を海部が「コピペ」すると、当該科目以外では「海部が（匿名で）質問し、海部が回答する」形になります。ほかにも、オススメの投稿などを「コピペ」していました。「匿名がはがれた」ときにアクセスしたら、「成りすまして自問自答」していると映るでしょう。怪しく不可解に感じて当然です。申し訳ありません。

(3-1) お知らせが見づらい。

(3-2) 毎回共通アナウンスというお知らせがあるが、文章が複雑で何を伝えたいのか考えてもいまいちわからなかった。

〈言い訳3〉 率直に指摘くださり、深謝します。「お知らせ・アナウンス」は細切れの引用やリンクが多くて、掲示板も合わせ、継続する流れが分かりづらく、独り善がりが目立ったと思います。個別に意見や批判をいただいたときなど、次の回でのリプライ・フィードバックを試みてはいたのですが、不行き届きをお許しください。

(4) 成績評価が曖昧だという印象をぬぐい切れなかった。

〈言い訳4〉 成績評価は、俗に言う「量よりも質」で、数値・数量化した基準を示すことができず、ご不満を招く覚悟です。プロセスは次のとおりです。春学期は合計7000件ほど、（例年、履修登録が減る）秋学期も5000件近い投稿その他を頂戴しました。リアルタイムで（誰の投稿であるかは不明ながら転送メールにて内容のみ）その都度、拝読した後、「いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かる」設定の掲示板で再読・再々読を繰り返し、「既読としてマーク」の状況も確認して、特定の例は、まとめて読み直します。そのうえで学期末に、それぞれの投稿（「返信」や直接いただいたメールを含む）その他を、改めて個々別々に（個人別に）整理し、「いつ誰が何を書いたか・読んだか」すべてを精査します。おのずと浮き彫りになる生成・変化・展開の様相も踏まえて採点し、(S～E)の12段階で評価します。

(5-1) Zoom等は使用しないにしろ各週での課題を提示してくれたほうが取り組みやすかった。

(5-2) 提出必須の課題を出してほしかった。

〈言い訳 5〉 Zoom 等は得手不得手に加え、通信環境の事情・背景もあり、使用しません。また、恐縮ですが、「各週での課題」は嫌悪・苦痛しかないという声が圧倒的だと認識しています。それでも、ときどき、各々のベースでレポートや小論文を提出くだされば受け取る旨は案内し、実際に掲示板への投稿(もしくは直接のメール)にファイル添付された方が少なくありませんでした。海部は、一方的に「教える」のではなく、設問形式の課題も提示しません。何かを紹介し、意見交換や議論を通じて、ともに学び合うことを重視します。まして、「正解」や「最適解」を 1 つに絞れず、見つけることすら難しい「ところ・いのち(・人権)」については、じっくりと各自で試行(思考)錯誤してくださるよう望みます。

(6-1) リアルタイム授業を何回か開いてほしかった。

(6-2) せめて動画授業をするなど、先生が顔と声を出して対面してほしかった。大学の授業において、最後までどんな先生が授業をしているのか分からないのはおかしいと感じた。残念。

〈言い訳 6〉 そうですよ。もしリクエストがあるなら、顔と声がどんなふうであるかくらいは知らせるようにしますか。けれども海部は、表情や視線、口調、身振り素振り、動作、姿勢・態度、距離感、関心の向き、構え、といった何らかがないと、率直で親密な対話・コミュニケーションを組み立てられないので、オンライン併用の「リアルタイム授業」や対面同様の「動画授業」は困難です。そもそも「業(わざ)」を授(さず)ける」器量がなく、「対面」でも「義(条理)」を講じる(説明する)講義しかできません。「面談」は好きですが…。以下は、ひきつづき大切にしたい観点です。

※いろいろ考え悩んでるのが自分 1 人じゃないんだなって思うだけでかなり気持ち楽になった。

※匿名でなかったら言えないことも言える。同じような意見や考えの人がいることに気づけて、自分だけではなかったんだと思えた。

※匿名だからこそ言える、他の人が普段考えてる事だったり不安に思ってる事だったりを知って、同じような悩みを持つてる人は自分だけじゃないんだと知れた。匿名で様々な意見を交換できるというオンラインの良さを活用した授業、とても楽しかった。

※オンラインならではの方式で、新鮮だった。匿名の環境下、他の受講者とコミュニケーションをとるのが楽しかった。

※たくさんの学生が意見交流していて、オンラインの利点を生かしているなあと思う。

※ふだんなら相談しないことや考えないことを書き込めて楽しかった。

※普段の生活における疑問、意見の吐口となってくれた。匿名だからこそ、話せること、聞けることが沢山あった。

※自分の考えを躊躇することなく伝えることができて良かった。

※日常の愚痴などもたくさん見て、共感できたり新鮮だった。

※みんなの本音が知れて面白かった。

※他の生徒がどのように感じているのかを読むことが出来たのでとてもいい工夫がされていたのではないかな。

※多くの受講生のほとんど正直な意見を見ることができ、意見交換できたことが良かった。

※教科書に対する意見やプライベートな話を読んで、顔は見えていなくてもその時だけは、同じ空間で繋がれているような気がした。

※人ととの繋がりを感ずることが出来たことや、同じように悩む人がいると分かったことは、今年大学 1 年生で友達がいない自分にとって大きな心の支えになった。

※孤独や不安を感じることも多かった状況の中でコミュニケーションを取ることでできる大切な場になっていた。コメントで会話したり、様々な意見を読んだりすることがとても楽しかった。

※異例の事態で、生徒間、先生-生徒間の交流が失われた中、この掲示板を見ている時は皆との距離が縮まったように感じられた。

※書き込むことで皆さんとつながっている気持ちになり、大学生になったことを唯一実感できる場だった。

※慣れないことばかりで肉体的にも精神的にも辛い期間を、時には自分の思いや弱音を吐き出し、時には誰かの思想に触れ、時には共感しながら過ごせる大切な場所だった。

※課題に追われず、自分の興味関心と精神状態に合わせて無理なく学ぶことができた。

※時間に縛られることなく、参加できたのはよかった。

※のびのびと参加することができて良かった。

※自分のペースで学習がしやすく、掲示板もしっかり活用できてとても充実した。

※いつでも、またどんなことでも掲示板に書き込めるため縛られている感じがなくてよかった。

※自分に合った方法で参加することができ、掲示板が上手く利用されていた。自由性が高く、匿名で他の人の投稿に意見できたり、逆にアドバイスをもらうことができていたりしてとても楽しかったし、ステイホーム期間の心の支えになってくれた。

※自分とは何なのか、感情・行動とは何なのかを 1 人でじっくり考える機会を作ることが出来た。

※自分について考える時間が増えた。教科書に書いてあることに自分を重ねたり、自分の内面に意識を向けたりしながら読み進めたからだと思う。これまで時間を取って自分についてじっくり考える、ということをしてこなかったの、改めて自分について客観的に考えることができて良かった。

※常に新しい発見ができ、テキストを読み進めるにつれて自分で考える力を養うことができた。

※テキストを読み、意見交換することで色々な認識が変わった。これからも自分とは何か、心とは何か考え続けていきたい。

※他人との交流や違った視点の意見を聞くことの大切さを改めて実感した。たくさんの視点からのコメントに触れることで理解が深まった。

※さまざまな方々の意見に触れることで、普段は知り得ないような意見をたくさん知ることができた。

※様々な考え方に触れることができて楽しかった。また、考えさせられる機会を得ることができ、良い経験であった。

※他の生徒の意見などを見ることが出来たのが私にとってすごく新鮮で、こういう考えもあるんだと、そういった面でも学ぶことが出来た。

※先生や他学生との議論で自身の考えを発信し、異なる意見を聞くなどして理解を深めることができた。

※さまざまな方とコミュニケーションをとるのがとても楽しかったし、みなさんの鋭い視点に毎日驚かされ新鮮な日々だった。

※見ず知らずの人が私が書き込んだことに反応してくれて嬉しかった。人の心や脳は難しく、けど面白いと思った。

※匿名だからこそ自由に、素直な気持ちを述べることができた。様々な人の様々な意見を知ることができた。年が同じまたは近い人の意見とは思えないような達観した鋭い指摘がたくさんあり、視野を広げることができる良い機会となった。

※匿名だからこそ話すことのできる主張を学生が出来る場で、自分とは異なる様々な意見に触れることが出来た。

※自分の心を見つめ直すきっかけに繋がった。自分がぼんやりと感じていたことを、何が原因でどういう仕組みでそう感じたのか知るの、自分の心を分析していくようでとても面白かった。

※自分と向き合う機会が得られたことで、自分自身の知らなかった部分を知ることができた。

※自分のネガティブな面について詳しく知れて良かった。

※様々な考えや知識をインプットするだけでなく、自分の学びをアウトプットすることによって、普段は気にすることのない自分の考え方・ものの見方などに気づくことができた。

※思ったことをためらわずに書き込める。自分の心で思っていることを文章にすることはとても難しい。そのもやもやを言葉としての形にする訓練ができる場であった。

※考え方の多様性を実感し、また自分自身も改めて自分の考えを深め言語化することができ、勉強になった。

※教科書の内容である知識はもちろんのこと、紹介された様々な問題に触れることによって人の数だけ考え方が存在し、それを理解できなくとも認め合うことの大切さを感じた。

※日常生活の様々な場面で「ところ」に目を向けることができるようになったと実感している。

※以前より自分の視野が広がり、人の気持ちについて考える機会が多くなった。

※投稿や題材には考えさせられ、とても良い刺激と学習になった。※タイムリーな話題や重要な事柄を毎週まとめて知らせてくれるのが良かった。

※毎週のアナウンスと掲示板のコメントを読んで、色々な問題やそれに対する意見・価値観を知ることが出来た。

※現代の社会問題や時事問題を取り上げていて、週 1 のメッセージだけでも多くのことをまなぶことができる有意義な時間だった。

※社会の色々な問題や現実を知り、それに対する皆さんの意見や考えを知ることができたので新しい見方や価値観を学ぶことができた。

※毎週のお知らせが結構救いになったり、考えさせられたりした。色々な気づきを得ることができた。

※お知らせがとても分かりやすく、また考えさせられるものだった。

※示された記事や社会問題などを通じて色々なことを考える機会が沢山あり、自分の考えや思っていることを改めて再認識することが出来た。

※時事的な内容と心理学が結び付けられていて、ニュースでは考えられない考えを得ることが出来た。

※様々な話を読む中で、自分の経験や知識がとても狭いものだというにも気付かされた。心理学ということで、はじめは他者の心理を理解していくつもりで履修していたが、1年間で自分自身の内面も見つめ直す良い機会になった。オンラインでも人との関わりがあることを確認できた。

※様々な社会問題や性差別問題などに対して、自身の意見を持っている人がこんなにも多いのかと驚いた。

※自分が考えたこともないような悩みを抱えている人がいることを知った。もっと世間のことに目を向けるべきであると感じた。

※特に差別のことについて考えさせられた。当たり前だと思っていたことがよく考えてみると変だったり過程を知ると気持ち悪かったり、多くのことを学べた。

※いろいろな意見を読んで、批判すること・指摘することは大事だと分かった。批判しても何も変わらない、損しかなさそうと思っていた。しかし、批判することもある。そして、自分では考えられないような・知らなかったような立場の人の意見は、耳が痛くなることもあるけど、目を背けずに、発してくれた人に感謝する。意見は、世の中の生きづらい人を失くしていくための材料であると分かった。※とても良い仕組みだと感じた。固定観念や一般常識にとらわれないものの見方を学ぶことが出来た。

※前は“ふつう”だと思っていたことに、少しずつだが、“これって実はおかしいんじゃない？”と気付けるようになった。

※社会問題について考える時間が増えたなと思った。今までなら素通りしていたニュースや疑問、おかしいと思う気持ちをしっかりと自分の中で考える時間を作ることができた。匿名ということもあって様々な意見に触れることができたり、同じ考えを持つ人から返信をいただくことができたりと、対面でないからこそこの学びを得ることができ楽しかった。

※悩みや社会の情勢についての意見などを多くの人と共有できる形がとても良かった。自分の意見にコメントをもらえたり共感してもらえたととても嬉しいと感じた。顔が見えなかったり発信者がわからないことによって、より深くまで関わることはできなかったのではないかな。心理学ならではの形態がとても良かった。

【その他の重要事項】

(1) 心理学 LA(春学期) と心理学 LB(秋学期) は連動するため、続けての履修を期待します。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを変えます。「裏シラバス」や「クチコミ」を当てにしないでください。

(3) 臨床心理士として、生きづらく悩んでいる and/or 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病気」、「心の性」、「心神喪失・耗弱(こうじゃく)」、「責任能力」の検証も必要でした。責任 (responsibility) とは、反応する (response) 能力 (ability) です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不穏や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自家中毒・矛盾・煩悶 (はんもん) を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪 (たま) らない方ばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事? 「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち(・人権)」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。

(4) オフィスアワー(お喋りタイム?) は、原則として木曜の4時限ないし5時限に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、「授業内掲示板」または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

We survey advanced applied psychology on the basis of academic psychology such as behavioral psychology, cognitive psychology, developmental psychology, and personality psychology.

We study clinical social psychology.

GEO200LA

地理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル:

長 沢 利明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の基本的な研究方法、考え方、方法論などについて学ぶ。さまざまなテーマを取り上げてそれを考えていく。特に環境問題に重点を置いて、授業を進めていく。

【到達目標】

さまざまなテーマと話題を取り上げながら、地理学の方法論や考え方を学び、身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、毎回プリントを配布して講義をおこなう。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	プロローグ	授業内容の説明、成績評価の方法などを解説する。
2	文化・生態・環境	地理学と生態・環境問題との関係について解説する。
3	都市の生態環境①	都市の生態環境の特色について解説する。
4	都市の生態環境②	都市の生態環境の特色について解説する。
5	都市の生態環境③	都市の生態環境の特色について解説する。
6	日本の野生動物相①	日本の野生動物相の特色について解説する。
7	日本の野生動物相②	日本の野生動物相の特色について解説する。
8	日本の植生①	日本の植生の特色について解説する。
9	日本の植生②	日本の植生の特色について解説する。
10	生業条件と生態環境	生業経済と生態環境との関係について解説する。
11	森林問題①	都市の森林問題、里山林の問題などについて解説する。
12	森林問題②	都市の森林問題について解説する。
13	調査とレポート	フィールドワークの方法について解説する。
14	全体的な補足	全体的な補足をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習および復習を自宅でおこなうことががのぞましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業内で必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

随時、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート調査結果などを参照し、授業内容の改善につとめる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

You can study on this program about general theory of cultural geography.

GEO200LA

地理学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長沢 利明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の基本的な考え方、研究方法などを学ぶために、さまざまな話題を取り上げ、解説をおこなう。特に環境問題に重点を置いて講義をおこなう。

【到達目標】

地理学的な物の見方とは、どういうことをいっているのか、あるいはその視点・立脚点とはどのようなものか、などなどを身につけることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回異なったテーマを取り上げる。プリントを配布し、それをテキストとして用いながら授業を進めていく。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	プロローグ	授業の進め方や注意事項などについて解説する。
2	文化・生態・環境	授業を構成する文化・生態・環境の三つのキーワードについて解説する。
3	焼畑農業	焼畑農業の持つ諸課題について解説する。
4	農業の起源と赤米①	日本における農業の起源と赤米の問題について解説する。
5	農業の起源と赤米②	日本における農業の起源と赤米の問題について解説する。
6	海辺の環境①	海辺の環境の特色について解説する。
7	海辺の環境②	海辺の環境の特色について解説する。
8	海辺の環境③	海辺の環境の特色について解説する。
9	海辺の環境④	海辺の環境の特色について解説する。
10	海辺の環境⑤	海辺の環境と漁業問題について解説する。
11	森林問題	森林問題、里山林の環境的特性などについて解説する。
12	調査とレポート	フィールドワークの方法などについて解説する。
13	まとめ	全体的なまとめをおこない、総括する。

14 補足 補足的なテーマを適宜選んで取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅での予習・復習をおこなうことがのぞましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要に応じて、授業内でプリントを配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

地理学の基本から学びますので、高校時代に地理を選択していなかった学生も遠慮なく履修してください。

【Outline and objectives】

You can study on this program about general theory of cultural geography.

GEO200LA

地理学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

片岡 義晴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代世界の地域・社会問題を学んでいきます。

【到達目標】

食料、人口、貧困問題などを手がかりにして、現代世界の地域・社会問題を学んでいきます。それら問題が相互に関連し、問題を如何に複雑化させているのか、その構造を学んでいきます。それらの結果、現代社会の地域・社会問題のとらえ方を理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

「発展」から取り残されている地域・国を事例にして、現代世界の地域・社会問題を考えていきます。主としてアジア諸地域を例に挙げて、「発展」の仕組みを、その「裏側」から考えていくつもりです。取り扱うテーマは世界の食料、人口、貧困にかかわる諸問題です。それらの出来事は個別に存在するわけではなく、相互に関連し、問題を複雑化させています。したがって結論や解決策を単純に見いだすことはできません。現実の「構造」を知ることができるようにしていきたいと思います。

【課題等に対するフィードバック方法】

授業の初めに、前回までの授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【授業の方法】

講義形式で授業していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	世界の食糧問題 (1)	先進国と途上国の食料自給率
第 2 回	世界の食糧問題 (2)	食糧輸出国と輸入国
第 3 回	世界の食糧問題 (3)	農業生産性の向上－「緑の革命」－
第 4 回	世界の人口 (1)－人口の趨勢－	人口爆発とその後－ 70 億人突破－
第 5 回	世界の人口 (2)－二つの人口論－	マルサスとマルクス
第 6 回	世界の人口 (3)－死亡率・出生率変化の検討－	死亡率の急減と出生率低下の緩慢さ
第 7 回	世界の人口 (4)	人口問題と人権
第 8 回	貧困と援助・協力 (1)	世界の貧困－先進国、途上国それぞれに貧困－
第 9 回	貧困と援助・協力 (2)	衛生問題－乳児死亡率の地域差と女性の権利－
第 10 回	貧困と援助協力 (3)	教育の不平等－教育と識字率－
第 11 回	貧困と援助協力 (4)	難民問題の拡大と日本
第 12 回	貧困と援助協力 (5)	ODA と日本、世界の児童労働

第13回 まとめ
第14回 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「食料」「人口」「貧困」に関わる報道に目を向けて下さい。それら問題は「なぜ」生じているのか、さらにそれら問題が私たちと如何に関連しているのか、それを考えようとして下さい。時間をとって机に向かうことも重要ですが、それら問題を普段から意識することがより重要です。

なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料プリントを配布します。場合によってはPowerPointを使用します。

【参考書】

西川 潤（2008）『データブック 食料』、同『データブック 人口』、同『データブック 貧困』いずれも岩波ブックレット。その他は授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 100%で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

プリントの多さに対する意見もありますが、必要ならば配布せざるを得ません。また使用データの古さも指摘されました。しかし途上国のデータは信頼性に欠ける場合もあり、新しいから正確というわけでもないのです。日本の労働に関する、特に近年の統計の杜撰さ、隠蔽・歪曲体質を思い出せば、それは容易に想像できるはずです。データは読みこなさなければなりません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

2020年度春学期授業は4月23日（木）から開始します。

【Outline and objectives】

Regional Problems in underdeveloped countries under the World Systems.

GEO200LA

地理学 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：

片岡 義晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2単位

法文営国環キ 1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の地域問題・社会問題について学んでいきます。

【到達目標】

日本の地域性、地域格差、地域開発、公害問題を手がかりにして、日本の地域問題・社会問題に迫っていきます。それを通して日本の地域問題の一端を理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

国籍の如何に関わらず、日本居住者は日本のことを「知っている」と思い込んでいます。しかし現代日本の地域・社会問題を「知っている」「理解している」人がどれくらい居るでしょうか。地域居住者の「権利」を侵害するような問題は、いつの時代も、どの地域でも発生していますし、発生するように「仕組まれ」ているといわなければなりません。具体例を挙げ、日本の「裏側」から日本の地域・社会問題に迫っていきましょう。

【課題等に対するフィードバック方法】

授業の初めに、前回までの授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【授業の方法】

講義形式で授業していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本の地域性 (1)	「裏日本」の形成
第2回	日本の地域性 (2)	「裏日本」の役割
第3回	明治期の産業の始動と地域	「途上国」日本の産業化と地域
第4回	地域格差とその指標 (1)	格差の指標
第5回	地域格差とその指標 (2)	経済格差と指標
第6回	SDGs と日本の地域格差	様々な地域格差－女性、高齢者、若者、外国人－
第7回	日本の地域開発 (1)	全国総合開発計画（全総、新全総）
第8回	日本の地域開発 (2)	全国総合開発計画（三全総、四全総、グラントデザイン）
第9回	地域経済の実態	経済の地域間相互依存
第10回	公害と地域 (1)	イタイイタイ病と神岡鉱山
第11回	公害と地域 (2)	イタイイタイ病訴訟
第12回	公害と地域 (3)	水俣病の「発見」とチッソ
第13回	公害と地域 (4)	水俣病訴訟
第14回	まとめ	「公害問題」と「環境問題」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本の「地域問題」「社会問題」に関わる報道に目を向けて下さい。それら問題は「なぜ」生じているか、それら問題が私たちと如何に関連しているのか、それを考えて下さい。それら問題は「身近」に存在しています。それら問題について普段から関心を持って下さい。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。授業時に資料プリントを配布します。

【参考書】

政野淳子（2013）『四大公害病』中公新書
その他は授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 100 %で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

プリントの多さに対する意見もありますが、必要ならば配布せざるを得ません。また使用データの古さも指摘されました。しかし途上国のデータは信頼性に欠ける場合もあり、新しいから正確というわけでもないです。「先進国」と思われている日本において、日本の労働に関する、特に近年の統計の杜撰さ、隠蔽・歪曲体質を思い出せば、それは容易に想像できるはずです。データを作る、操るのは、あくまでも権力の側なのです。データは読みこなさなければなりません。

【Outline and objectives】

Regional Problems and Pollution Diseases in Japan.

GEO200LA

地理学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

高木 正

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学そのものを学ぶというよりも、地理学を通じて現代世界の理解を深めるといったスタイルで勉強していきます。高校時代に地理科目を履修した経験がなくても構いません。ここでは世界情勢を大きく把握することを目的とします。

【到達目標】

現在、学生の皆さんが持っている歴史観・地域観・世界観をより確かなものにしていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。配布したプリントで進めていきます。学習支援システムで授業を開始するのは、5月11日からとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
I	はじめにー地理学の学問的性格	高校時代とは異なる地理学本来の特徴を押さえる。
II - 1	単線の発展史観	ロストウの単線の発展史観を紹介する。
II - 2	両極的発展史観	A・G・フランクの両極的発展史観を紹介しします。
III - 3	世界システム	現代世界を世界システムとして捉える視点を紹介します。
III - 1	ヨーロッパ世界経済の成立	大航海時代に始まるヨーロッパ世界経済を捉えなおします。
III - 2	産業資本主義段階と植民地支配	ヨーロッパの工業化、植民地支配、パックス・ブリタニカ
III - 3	社会主義諸国の形成	ロシア革命から 20 世紀における社会主義諸国の形成をみます。
III - 4	第2次世界大戦後の先進国	パックス・アメリカナの形成を解説します。
III - 5	ヨーロッパの統合	EU の成立と拡大、通貨統合をみます。
III - 6	植民地の独立と発展戦略	発展途上国の成立過程をみます。
III - 7	発展途上国の多様化	いわゆる南南問題を理解します。
III - 8	冷戦の終結	社会主義諸国の変容と冷戦の終結をみます。
III - 9	地域紛争	現在の地域紛争を概観します。
IV	まとめ	復習と試験に向けての諸注意。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は特に必要としませんが、前の授業に配布したプリントは持参してください。配布するプリントは予備がないので後で渡すことはできません。なお少なくとも 1 時間は復習時間に充ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。

【参考書】

室井義雄『南北・南南問題』世界史リブレット 56（山川出版社）

【成績評価の方法と基準】

試験で評価します。試験の方法は最初の授業で説明します。成績の要素配分は試験 80 %、平常点 20 %とします。

【学生の意見等からの気づき】

滑舌をよくします。

【Outline and objectives】

Main subjects : Regional or geographical issues in the modern world.

GEO200LA

地理学 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

高木 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学 LD では、できるだけ多くの地域を取り上げて、その社会経済的な実態を地理的な視点からみていきます。

【到達目標】

アフリカと西アジアの現状を理解することで世界の多様性を認識します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。教材は配布するプリントを使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
I - 1	アフリカの概観と辺境化	アフリカの概要理解と歴史的背景を理解します。
I - 2	モノカルチャー経済の実態－①	コートジボアールのカカオ豆を扱います。
I - 3	モノカルチャー経済の実態－②	マリの綿花を扱います。
I - 4	南アフリカ共和国の現状－①	アパルトヘイト政策を振り返ります。
I - 5	南アフリカ共和国の現状－②	アパルトヘイト以上の経緯をみます。
II - 1	南アフリカ共和国の現状－③	南アの現状をみます。
II - 2	パレスチナ問題－①	歴史的経緯をみます。
II - 3	パレスチナ問題－②	中東戦争、レバノン戦争をみます。
II - 4	パレスチナ問題－③	オスロ合意から現在までの流れをみます。
II - 5	西アジアの石油資源	石油資源の開発をみます。
II - 6	資源ナショナリズム	産油国とメジャーの対立、OPEC と石油ショックを理解します。
II - 7	石油開発の主導権の移りかわり	OPEC の弱体化、湾岸戦争、価格決定権の変化などをみます。
II - 8	近年の西アジア・北アフリカ情勢	「アラブの春」以降を概観します。
III	まとめ	授業内容の復習。試験に向けての諸注意。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は特に必要としませんが、前の授業に配布したプリントは持参してください。配布するプリントは予備がないので、後で渡すことはできません。なお少なくとも 1 時間は復習時間に充ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。

【参考書】

松本仁一『アフリカ・レポート』岩波新書 1146、ダニエル・ヤーギン『石油の世紀』（日本放送出版会）

【成績評価の方法と基準】

試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。成績の要素配分は、試験 80 %、平常点 20 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

滑舌をよくします。

【Outline and objectives】

Main subjects : Regional or geographical issues in the modern world.

GEO200LA

地理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長沢 利明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなテーマを毎回ひとつずつ取り上げ、解説していく。全体を通して地理的な物の見方や考え方を学ぶ。

【到達目標】

授業を通し、地理的な物の見方と考え方をつかんでいくことがのぞましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、プリントを配布して授業を進めていくことにする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	プロローグ	授業の進め方、おおまかな計画について解説する。
2	文化・生態・環境	授業の基本的なテーマである三つのキーワードについて解説する。
3	都市の生態環境（1）	都市の生態環境の特色をとらえるため、タンボボの生態について注目してみる。
4	都市の生態環境（2）	都市の生態環境の特色をとらえるため、河川環境について考えてみる。
5	都市の生態環境（3）	都市の生態環境の特色をとらえるため、河川環境について考えてみる。
6	日本の野生動物相（1）	日本の野生動物の特色について解説する。
7	日本の野生動物（2）	日本の野生動物、とくにオオカミについて注目してみる。
8	日本の植生（1）	日本の植生のうち、特に落葉広葉樹林帯について解説する。
9	日本の植生（2）	日本の植生のうち、特に照葉樹林帯について解説する。
10	補足（1）	全体的な補足をおこなう。
11	補足（2）	全体 t 歴な補足をおこなう。
12	調査とレポート	地理的な調査方法と成果のまとめ方について解説する。
13	まとめ（1）	全体のまとめと総括をおこなう。
14	まとめ（2）	全体のまとめと総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅での予習と復習をおこなうことがのぞましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業時間内に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験の成績 (100%) によって評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの要望を極力取り入れて授業内容の改善につとめる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

You can study on this program about general theory of cultural geography.

GEO200LA

地理学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長沢 利明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では毎回ひとつずつ異なったテーマを取り上げて解説する。

【到達目標】

全体を通して地理学的な物の見方と考え方を学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回、プリントを配布して解説をおこなう。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	プロローグ	授業の進め方や注意事項などを解説する。
2	文化・生態・環境	授業の基本テーマであるこの三つのキーワードについて解説する。
3	日本の焼畑農業	日本の農業問題、特に焼畑農業について解説する。
4	稲作農業と赤米（1）	日本の稲作農業、特に赤米をめぐる諸問題を解説する。
5	稲作農業と赤米（2）	日本の稲作農業、特に赤米をめぐる諸問題解説する。
6	生業条件と資源	生業条件と資源環境の問題について注目する。
7	海岸の環境（1）	海をめぐる環境問題について解説する。
8	海岸の環境（2）	海をめぐる環境問題について解説する。
9	海岸の環境（3）	海をめぐる環境問題について解説する。
10	海岸の環境（4）	海をめぐる環境問題について解説する。
11	里山の環境	里山環境と人間生活の歴史について解説する。
12	補足	全体の補足をおこなう。
13	調査とレポート	地理学的な調査方法とそのまとめ方について解説する。
14	まとめ・試験	全体的なまとめと試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅での予習と復習をおこなうことがのぞましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%) およびレポート (50%) によって成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの要望は極力取り入れ、授業内容の改善につとめる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

You can study on this program about general theory of cultural geography.

GEO200LA

地理学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：身近な社会を地理学で考える

前川 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はアフターコロナ前後の世界や日本における課題を身近な視点で地理学を軸に課題発見や問題意識の醸成などを旨とする。そして、LD でそうした課題の解決方法の一端を共に考えるという方向を考えている。具体的にはコロナで顕在化した世界や日本の課題を格差、情報化など社会的課題を中心に身近なところから一緒に考えます。これは、学生自身が課題や問題意識を考え、多様なものの考え方ができることを目的としています。

【到達目標】

アフターコロナ以降は世界はどうなるでしょうか。グローバリゼーションの影響もあり、コロナ下で、人や地域社会が格差・分断、また不寛容になりつつあります。また、日本が世界から様々な視点で遅れたり、異なっていたこともあらためて理解されたかもしれません。今後のアフターコロナ下の AI 時代において皆さんはどうすべきでしょうか。問題の解決には知識だけでなく自分の目でみつめ、考えるという必要性が突きつけられている気がします。皆さんが、身近なことから論理的に課題をみつめ、その背景や要因などを自ら多様性の中で考え、解決の方向性に応用できることを地理学中心に考えていきたい。そして、1 つの答えだけでなく柔軟に多様性を意識して考えることを最初の到達目標の 1 つにしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に曜日、時限を配置しないオンデマンド授業の予定である。しかし、知識だけにとらわれることなく題解決型の方向性の一歩を目指していきたい。オンデマンド授業となり、これまで行ってきた知識からの応用である AL やフィールドワークはなかなか無理かもしれないが、可能な段階など試みたい。なお、様々なものを前もって支援システムなどで指示しますので、注意してください。なお、毎回レポートは考えてません。場合により、支援システム以外で Googleclassroom を併用する可能性があります

グローバリゼーションのもとで、日本や世界の格差や不平等、AI も含めた変化の中で、複雑に絡み合った地域の諸問題を地理学的視点から考えていく。この授業が自分のプラスになるかは自分次第かもしれません。なお、授業形式のために十分な AL やフィールドワークはできない可能性もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	地域とは、グローバルとは何かを身近なことから考える
2	アフターコロナに向けて	コロナ下での日本 将来の日本、ガラパゴス現象の再来かも・・・

3	日本の課題 1	周回遅れの日本 AI ビックデータ リスクマネジメント 災害比較
4	日本の課題 2	格差・分断される地域社会を日本から考える・??ブラックバイト、就活それでも労働力不足
5	日本の課題 3	先進国か 日本の若者や高齢者の格差を就職や貧困の連鎖から再考する なぜ、給与が上がらない
6	日本の課題 4	女性の貧困と格差社会を再考する 子ども食堂ほか
7	グローバリゼーションと地域社会 1	市場という考え方と地域大量生産から多品種少量生産、サプライチェーン
8	グローバリゼーションと地域社会	グローバルと若者の就職・雇用と今後の変化
9	グローバリゼーションの課題 1	AI/第 4 次産業革命と格差社会・立地や仕事が変わる
10	グローバリゼーションの課題 2	A I / I o T / Big Data 社会とこれまで
11	グローバリゼーションの課題 3	人口ボーナスと労働力不足、何が課題か
12	グローバリゼーションの課題 4	ローカライゼーションと地域、コミュニティ
13	グローバリゼーションの課題 5	多様化社会の必要性と孤独感、外国人との共生で考える
14	グローバリゼーションと日本の課題	持続可能性の地域をどう考えるかと日本の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アフターコロナ以降は世界は大きく変わる可能性があります。普段から何事にも興味・関心を持ち、最初の一步を踏み出してください。参考資料、支援システムなどを積極的に活用してもらいたい。内外のことを新聞、TV、ネットなどで調べ知識化し、自ら問題を考え応用できるようにしたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的になし

【参考書】

授業時や支援システム等に指示

【成績評価の方法と基準】

春学期はオンデマンド授業での開講となります。このため、これまでの成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、状況次第で授業開始日以降説明および学習支援システムで提示したいと考えています。

原則的には、複数レポートによる評価の可能性があります。なお、昨年は複数レポート（80 %）、平常点、アクションペーパーなど（20 %）

オンデマンド授業の場合、変更点があるとは思いますが、お知らせなどに注意してください。また、ZOOM などによるオフィスアワーなども予定している。

【学生の意見等からの気づき】

他授業でのオンデマンド授業の学生の皆さんの場合の苦労は、授業動画等を見るのをためてしまい、試験やレポートで大変だったとかと聞いています。また、ずっとあると思っていたら消えていたということも聞いています。本来は ZOOM など月 1 回程度できるとよいのです。状況次第のような気がしますがいろいろ互いに工夫してみようと考えています。

オンデマンドはいつでも見れますが単調になりがちで、なかなかうまくできない可能性もありますが、2 回目以降 動画配信ということを考えています。このため、支援システムだけでなく場合によっては Googleclassroom を利用する可能性があります。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム等や映像を多用するため、これらや事前、事後に関連性のある情報、資料等を各自調べるなど活用してもらいたい。ほかの科目でも予想されるが、WEB 授業等に係るものは用意されたほうが・・・

【その他の重要事項】

秋学期の地理学 LD と合わせて受講することを勧める。通年でなくとも構わないが、先に春学期の LC での問題意識や問題の発見を基礎や理論を理解し、秋学期の LD で知識の応用を目指し、課題解決型講義の方向をともに目指したい。何かある場合は、基本的には支援システムが中心だが、学生の授業アシスタントや対面授業の地理学 I で水曜日に大学に行くため相談などは事前に連絡を。支援システムの掲示板などをみんなで使いましょう。人数次第で一部 ZOOM による授業や Googleclassroom を開設する場合もあります。

シラバス添付ファイルを見てください、なお支援システムにも同じものを

【Outline and objectives】

This lesson is basically a direction of considering challenges in globalization by LC as geography and considering part of its solution method mainly on LD. I think about the problems of the world and Japan together from familiar tasks centering on a declining birthrate, aging population, disparities, employment, etc. This is aimed at allowing students themselves to think about tasks and problem consciousness and to think about various things.

GEO200LA

地理学 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：身近な社会を地理学で考える 2

前川 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、地域社会の課題解決の方向性を考えます。具体的には、グローバル化などで衰退する日本の地域社会を地域再生論やコミュニティデザイン、などを地理学の視点を中心に考えます。解決策モデル等を紹介しながら、その糸口や方法論を地理学ロジックで学びます。そこから学生自身が多様性のある社会の実現を模索、検討できることを目的としています。この授業はインプット型の学ばではなく、むしろ地理学を材料に、一緒に考えることを目指します。今後、以下の各回のテーマやフィールドワークなども変更する可能性があります。各曜日、時限を配置しないオンデマンド授業の予定ですので、注意してください。

【到達目標】

秋学期には春学期の問題意識や地域的課題を解決方向へと踏み出したい。このため、街づくり、地域再生を主なテーマとし、学生が、地域社会に関連するコミュニティデザインやソーシャルビジネスなどから多様性のある様々な問題解決の方向性を示せることを到達目標としたい。そして、自らの考えをもち行動し、将来的には世界の地域社会を解決する一員になってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、曜日、時限を配置しないオンデマンド授業の予定です。PPT などの資料は基本的に支援システムを利用しますが、お知らせ機能、教材、課題なども注意し、常識的なルールには従ってください。なお、毎回のレポートではありません。

地域再生を軸とした解決方法のモデル的介绍も含めて、講義形式となる可能性があります。多様な意見や価値観の認識、コミュニケーションスキル等のために皆さんと考えていきたいと思います。初めての受講でも心配ありません。なお、AL やフィールドワークは状況次第の可能性と今は考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	アフターコロナをみんなで考えよう
2	日本の課題再考	遅れた日本 なぜ、世界から・・・
3	日本の地域社会 1	AI の判断する 2050 の日本・・・ TOKYO か地方 東京から脱出・・・テレワークは地方再生の救世主になるのか
4	日本の地域社会 2	新しい産業はどこに インバウンドの失敗学

5	日本の地域社会 3	関係人口と地域文化の情報発信から考える 工夫をする地域社会
6	都市再生 1	コロナ以降の世界と共生社会 スーパーシティ/ コンパクトシティはどうなるか、 ネットワーク社会なのに 彼氏・彼女はいない
7	都市再生 2	AKIBA の魅力と場の重要性（コミュニティデザインを考える RESAS GIS ）
8	都市再生 3	AI 戦略、ホスピタリティと観光 戦略の失敗からのデザイン
9	地域再生 1	地域戦略をビックデータ、GIS 等で考える
10	地域再生 2	ソーシャルビジネスで地域を救う コロナ以降の日本 コミュニティ再考
11	地域再生 3	
12	地域再生 4	
13	地域再生 5	震災から 10 年 復興ができたのか
14	再考 まとめ	地域とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ネットやニュースなどから多様な考え方を学んでください。問題をどう解決するかは、さまざまな方法があり、必ずしも 1 つの方法が正解ではありません。日本はどんどん世界から遅れ始めていることに気が付いていますか。将来の自分が想像できますか、自ら考え、行動する意欲を常に持ち、失敗を恐れずむしろ失敗から学び、前向きになる自分を想像してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にはないが使用する場合は、授業時に指示

【参考書】

授業時に指示

【成績評価の方法と基準】

複数レポート（両方で 80 %）、平常点、コメントシート等で 20 % で総合的に評価する予定でいる。変更の場合なども含め秋学期の授業等で話します。

、

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド型の欠点で学生の孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。また、ZOOM による GD で就職の練習になったという意見もありました。こうしたコミュニケーションを授業をコミュニティとして活かせる場はないかとも考えています。

これまでの地理学は分析は得意だが解決方法は示さないといわれてきました。課題を社会をどう解決するかを新しい地理学という世界が見えるかもしれませんから、何でもポジティブに考えてみましょう

【学生が準備すべき機器他】

通信環境と、スマホよりはパソコン使用を。このため、この授業以外のためにも大学からの貸し出しなどは積極的に申し込んでください。授業支援システム等をかなり利用するので仕様の仕方等に習熟してほしい。

【その他の重要事項】

できれば地理学 LC と合わせて受講することを勧める。通年でなくとも構わない。楽かどうかは皆さん次第ですが、アフターコロナで生き残るためには、知識だけではなく自ら考え行動することが必要な気がします。現時点では対面授業ではない可能性ですが、前向きに考えましょう。人数次第では ZOOM 使用や Googleclassroom を使用する可能性もあります。みんなで問題解決を共に考えてみましょう。なお、学生アシスタント等の協力で大学の情報なども充実させていきたい。今年こそ AKIBA のフィールドワークができることを祈ります。

【Outline and objectives】

In this lesson, I will consider the direction of problem solving in the local community. Specifically, we consider geography from a viewpoint of regional revitalization theory, community design, etc. in a community where globalization has a lot of influence. Learn clues and methodology of solution method with geography logic while introducing solution models etc. related to foreigners, etc., and even symbiosis with people. From that point on, students themselves aim to be able to explore and consider solutions with the direction of society of diversity.

SOC200LA

社会学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：文化の社会学

松下 優一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文化社会学、特に表象文化を対象とする社会学について扱う。文化を社会的に研究するためには、まず文化という対象を把握・記述するための概念・視角（文化理論）が不可欠である。国内外の文化社会学や文化研究の古典的重要文献を紹介しつつ、文化を社会学するための視座・着眼点の獲得を目指す。

【到達目標】

- ・文化テキストや文化現象の具体的特徴を捉え、考察することができる。
- ・文化を社会的に考察するための基本的な着眼点や問題設定について理解し、具体的な文化的事象に即して応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的にレジュメを用いた講義形式で進める。受講生には各回のテーマに関連した作業課題に取り組んでもらう。課題のフィードバックは、次回授業の冒頭にいくつかピックアップする形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	「文化と社会意識」という社会学の領域について
第 2 回	遊戯	井上俊『遊びの社会学』を中心に。
第 3 回	欲望	作田啓一『個人主義の運命』を中心に。
第 4 回	記号	R・バルト『神話作用』を中心に。
第 5 回	表象とイデオロギー	マルクス主義的アプローチの系譜
第 6 回	文化テキストの分析（1）	新海誠『君の名は。』にみる二項対立と境界侵犯
第 7 回	文化テキストの分析（2）	岩井俊二『スワロウテイル』と 1990 年代東京
第 8 回	文化テキストの分析（3）	『ナビイの恋』と南島イメージ
第 9 回	文化テキストの分析（4）	『ゴジラ』と『シン・ゴジラ』を比較分析する。
第 10 回	メディア文化	ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』ほか
第 11 回	文化と卓越化	ブルデュー『ディスタンス・オブ・ビュー』ほか
第 12 回	受容と流用	カルチュラルスタディーズの展開
第 13 回	アダプテーション	2.5 次元文化を中心に
第 14 回	まとめ	授業の振り返りと補足、および課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で紹介するテキストや作品を熟読・鑑賞し、自分なりに理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

- ・井上俊／長谷正人編『文化社会学入門』（ミネルヴァ書房、2010 年）
- ・栗谷佳司／太田健二編『表現文化の社会学入門』（ミネルヴァ書房、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（50 %）と期末レポート（50 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はオンデマンド型（資料）での実施となったが、受講生の反応を見る限り概ね好評であったように思う。さらに質量ともに充実した資料作成を心がけたい。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the key concepts in sociology of culture and to the ways of thinking about culture in the contemporary world.

SOC200LA

社会学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：現代社会論

松下 優一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、様々な現代社会論について学びます。現代社会に生起する諸々の現象・問題について、歴史的・構造的な視点をもって、分析・記述・考察するための社会学的視野の獲得を目指します。

【到達目標】

- ・基本的な現代社会の理論について理解し、具体的な事象に応用できる。
- ・現代社会において生起する具体的な社会現象を、様々な社会変動の絡まりあいのなかで捉え、記述・考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的にレジュメを用いた講義形式で進めます。毎回、提出課題（小レポート）を課し、具体的な事例についてまとめてもらうなどします。課題についてのフィードバックは、原則として次の授業冒頭にて、いくつかの答案をピックアップする形で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明、初回アンケートほか
第 2 回	再帰的近代化論	ギデンズ『近代とはいかなる時代か』を中心に
第 3 回	リスク社会論	〈リスク〉から考える現代社会の諸相
第 4 回	消費社会論	〈消費〉から考える現代社会
第 5 回	格差社会論	〈格差〉から考える現代社会
第 6 回	監視社会論	〈管理／監視〉から考える現代社会
第 7 回	心理主義化社会論	感情管理、自己啓発、ハイパー・メトリクラシー化など
第 8 回	ここまでのまとめと補足	近代化とグローバル化の現在
第 9 回	情報ネットワーク社会論	コミュニケーション資本主義論を中心に
第 10 回	ポスト・トゥルース	情動と政治
第 11 回	排除型社会	J・ヤングの著作を中心に
第 12 回	コンプライアンス社会	フラット化する文化と社会
第 13 回	アフター・コロナ	「コロナ禍」から考える現代日本社会
第 14 回	まとめ	授業の振り返りと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各回のテーマに沿った具体的事例の収集、考察、まとめを行う。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

- ・長谷川公一ほか『社会学〔新版〕』（有斐閣、2019 年）
- ・本田由紀編『現代社会論—社会学で探る私たちの生き方』（有斐閣、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（50 %）および期末レポート（50 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はオンデマンド型（資料）での実施となったが、受講生のコメントを見る限り概ね好評であったように思われる。引き続き、質量の充実した資料作成を心がけたい。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the key concepts of contemporary sociological theory and to the ways of thinking about current social changes.

SOC200LA

社会学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：労働倫理と消費美学

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、社会的連帯やアイデンティティの観点から「労働と消費」に関する社会学の成果を学ぶことである。ほとんどの人が自らの人生の中で最も活動的な時期を労働時間にその相当の部分を費やし、そこで得た貨幣の相当の部分を基本的な欲求や必要をはるかに超えた「モノ」を手に入れることに費やしている。しかも「マジメ」にである。このような「常識/当たり前」も長い歴史からすればつい最近のことである。この「常識/当たり前」のもとにそれだけの時間と貨幣を費やす人間の活動（労働と消費）が、どのような「意味」をもち、どのように「説明」されてきたかを歴史的・思想的に辿りながら、現代社会の構成原理についての理解を高める。

【到達目標】

- (1) 労働観の変遷と宗教との関係が理解できる。
- (2) 消費社会論の登場を歴史的な文脈で理解できる。
- (3) 自らの「労働と消費」に関する考え方を相対化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は対面実施を基本とするが、数回オンライン授業〔Zoom 等のリアルタイム型／オンデマンド型〕の組み合わせで行う。数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の趣旨、全体内容の概略的な説明
2	神からの「罰」としての労働	ヨーロッパにおける古代の労働観を宗教との関連で学ぶ
3	神との「契約/義務」としての労働	ヨーロッパにおける初期キリスト教時代から中世カトリック時代までの労働観を学ぶ
4	「天職」としての労働	M・ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』に即して M・ルターの「天職」概念を学ぶ
5	自己開発型人間の誕生	M・ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』に即して「二重予定説」と労働の性格の変化を学ぶ
6	近代代理性啓蒙主義時代の労働観	J・ロック、A・スミスの労働観について学ぶ
7	K・マルクスの労働観	K・マルクスの労働観について学ぶ
8	近代における労働信仰	自己実現と労働

9	消費社会の歴史	フォードと GM の戦略とその結果を事例に消費社会の登場とその後の歴史を概観的に学ぶ
10	「顕示的消費」	T・ヴェブレン『有閑階級の論理』の一部講読
11	「アウラの消滅」	W・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』の一部講読
12	「記号価値」と「差異への欲求」	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
13	労働倫理から消費美学へ	Z・バウマン『新しい貧困』の一部講読
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料を用います。

【参考書】

必要に応じて追加で配布または提示しますが、さしあたっては以下を参照してください（●は必読）。

今村仁司（1998）『近代の労働観』岩波文庫。

●見田宗介（1996）『現代社会の理論』岩波新書。

ジャン・ボードリヤール（2015）今村仁司他訳『消費社会の神話と構造（新装版）』紀伊国屋書店。

マックス・ウェーバー（1989）大塚久雄訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫。

ジグムント・バウマン（2008）伊藤茂訳『新しい貧困』青土社。

ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第 2 版〕』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と期末試験（60%）で評価します。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、対面もしくは Zoom 等のリアルタイム型で実施予定です。「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

①提出した課題に対してコメントを付けて返す。

②より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用した課題提出や告知がありますので、必ず頻繁に使用するメールアドレスを登録してください。

【Outline and objectives】

What is the meaning of labor and consumption in sociology? How have interpretations of labor and consumption changed historically? The purpose of this course is to learn basic theories about labor and consumption.

SOC200LA

社会学 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：支配と服従

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は支配と服従の観点から近代における国家に関する社会学の見解を学ぶことである。具体的には、社会契約論が提示する「主権的政治共同体」をはじめ、M・ウェーバーによって定義された支配と服従、国家などの概念と共に「市民」、「自由主義」、「民主主義」、「ナショナリズム」などに関する理論を学ぶ。これとおして現代における国家の本質、機能、市民の役割などについて学び、受講者自らの「国家」に対する考え方の相対化を試みる。

【到達目標】

- (1) 近代における国家論の変遷を歴史的な文脈で理解できる
- (2) 国家に対して見解を異にする立場の理解を高める。
- (3) 最終的には、社会や時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付ける（＝教養を身に付ける）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は対面実施を基本とするが、数回オンライン授業〔Zoom 等のリアルタイム型／オンデマンド型〕の組み合わせで行う。数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の趣旨、全体内容の概略的な説明
2	国家の基本性格（正当な暴力の独占）	M・ウェーバー『職業としての政治』を参照しながら国家やこれに関連する基礎的な概念を学ぶ
3	社会契約論①	T・ホッブズの近代的国家主権の基礎づけを学ぶ
4	社会契約論②	J・ロック『統治二論』を参照しながら法治国家に関する基本的な理論を学ぶ
5	社会契約論③	「政治的共同体」に関する J・J ルソーと T・ホッブズと J・ロックの議論の比較
6	公共財の供給者としての国家	A・スミス『国富論』を参照しながら、いわゆる自由主義の立場からの国家観を学ぶ
7	市民的不服従	ソローやガンディーの思想を例に国家主義や自由主義の国家観と市民の自由の関係を考える
8	階級支配の道具としての国家	K・マルクスの国家論について学ぶ

9	ナショナリズムの二つの顔	J・G・フィヒテと E・ルナンのナショナリズムに関する立場を確認する
10	ナショナリズムのパラドックス	B・アンダーソン『想像の共同体』の一部講読
11	誰が統治者になるべきか	K・ボパー『開かれた社会とその敵』の一部講読
12	政治家の倫理基準（「心情倫理」と「責任倫理」）	M・ウェーバー『職業としての政治』の一部講読
13	個人と国家の道徳的理想の分裂	R・ニーバー『道徳的人間と非道徳的社会』の一部講読
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料を用います。

【参考書】

必要に応じて追加で配布または提示しますが、さしあたっては以下を参照してください（●は必読）。

大澤真幸編（2002）『ナショナリズム論の名著 50』平凡社。

佐藤成基（2014）『国家の社会学』青弓社

ベネディクト アンダーソン（2007）白石隆他訳『定本 想像の共同体』書籍工房早山。

●マックス・ウェーバー（1980）脇圭平訳『職業としての政治』岩波文庫。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と期末試験（60%）で評価します。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、対面もしくは Zoom 等のリアルタイム型で実施予定です。「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

①より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図ります。

②提出した課題に対してコメントを付けて返す。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用した課題提出や告知がありますので、必ず頻繁に使用するメールアドレスを登録してください。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to understand the basic theories of sociology about the nature and function of nation-states and the role of citizens in modern society.

POL200LA

政治学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：音楽と政治

木村 正俊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「黄金の時代」における政治と音楽

「黄金の時代」における政治とボブ・ディランの交錯を考察することによって現代政治に関する見方を養うことを目指します。

【到達目標】

20 世紀後半の US の社会と政治について知識を得ること。

時代・社会・政治の変遷とボブ・ディランの変容について理解すること。

US のフォークの政治との関係、およびビート・ジェネレーションの次世代に対する影響について理解すること。

ジョン・レノンの音楽と政治との関係について理解すること。

ボブ・ディランを中心にしながら 20 世紀のポピュラー・ミュージックに関する基礎知識を得ること。

以上を踏まえて、政治について考察を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業のハイブリッドで行います。

対面授業実施に関しては、受講生の皆さんと話し合いで行うかどうかを決めます。

課題等に対するフィードバック方法

授業の時に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する」とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
# 1	Intro.	講義の概要とやり方について
# 2	ボブ・ディランの歩みと US の政治・経済・社会	ボブ・ディランの音楽的背景と US の 40 年代～50 年代について
#3	大衆消費社会における政治	テーマについての講義：「黄金の時代」特徴と「抑制によるデモクラシー」について
# 4	日本における「黄金の時代」の政治	「黄金の時代」における US の政治と日本の比較
# 5	US の社会運動とフォーク・ミュージック	US におけるフォーク・ミュージック歴史と政治との関係について
# 6	ビートとは何か	ビート・ジェネレーションの特徴と誕生の背景背景について
# 7	冷戦と核	抑止論を中心に核兵器に関する基本的な知識とキューバ危機について

#8	60 年代の US とボブ・ディラン（1）：公民権運動と「風に吹かれて」	プロテスト・シンガーとしてのボブ・ディラン誕生の政治的・社会的背景について
# 9	60 年代の US とボブ・ディラン（2）：「激しい雨が降る」	核戦争の恐怖と終末論について
#10	How Does It Feel?	ロックの誕生とボブ・ディランのフォークからロックへの移行について
#11	ベトナム反戦運動と音楽（1）：サイケデリック・ロック	Grateful Dead を中心にしながら、カウンター・カルチャーについて
# 12	ベトナム反戦運動と音楽（2）：ジョン・レノン	ジョン・レノンの音楽活動、反戦運動とアメリカの政治
# 13	アナーキストとしてのボブ・ディランと	ボブ・ディランの政治に対する見方
# 14	Outro.	春学期の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、指定された映像を YouTube で視聴すること。授業後に、講義内容を振り返りながら映像を視聴して楽曲の内容を自ら考えること。事前学習・復習の時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

湯浅学『ボブ・ディラン ロックの精霊』（岩波新書、2013 年）¥760 + 税

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テキストの内容に関するレポート 30 %

授業で学んだ知識と自分の意見を論理的に展開する能力を確認するためのレポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

ポピュラーミュージックやロックについての授業ではないことに注意してください。
しかしながら、洋楽やボブ・ディランについての知識がない学生に配慮して授業を行います。

【その他の重要事項】

ボブ・ディランや「洋楽」についての知識がなくても受講可能です。政治や音楽に関する基本的知識は学生によって差があるので、すべてを授業で提供できません。そこでわからないことや知らないことは教員に尋ねる、あるいは、自分で文献やネットで調べるようにしてください。

授業時間外の質問はメールや ZOOM によるミーティングで対応します。

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に 2 時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019 年）を参照してください。

【Outline and objectives】

Theme: Politics and Popular Music in the Golden Age

This course deals with the interaction between Bob Dylan and politics in the Golden Age.

The fundamental aim of this course to acquire lens through which contemporary politics can be viewed by considering interaction Bob Dylan and politics.

POL200LA

政治学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：音楽と政治

木村 正俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「黄金の時代」の終焉後の時代の政治と音楽
US における福音派の影響力の拡大とボブ・ディランの改宗の意味と「黄金の時代」の終焉時代の政治について考える。
パレスチナ問題について考える。

【到達目標】

現在、US の政治に大きな影響力を持つ福音派についての理解すること。

ボブ・ディランにとっての信仰を考察することによって、ユダヤ教とキリスト教についての基本的な知識と、宗教と政治の関係について理解すること。

パレスチナ問題について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業のハイブリッドで行います。

対面授業実施に関しては、受講生の皆さんと話し合いで行うかどうかを決めます。

課題等に対するフィードバック方法

授業の時に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

「大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する」とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
# 1	Intro.	講義の概要とやり方について
# 2	ユダヤ人としてのボブ・ディラン	US におけるユダヤ系移民の歴史
# 3	ボブ・ディランと聖書	旧新約聖書が US 文化に与えた影響について
# 4	ボブ・ディランの改宗	福音派と政治の関係について
# 5	福音派の歴史的展開	近代化・世俗化に対する一つの対応の形として福音派の歴史的展開の考察
# 6	終末論	ユダヤ教とキリスト教の終末論について
#7	ボブ・ディランと終末論	終末論がボブ・ディランに与えた影響について
# 8	パレスチナ問題	パレスチナ問題の歴史展開と現状について
# 9	ボブ・ディランとイスラエル	ボブ・ディランのイスラエル国家に対する姿勢
#10	BDS とミュージシャン	BDS 運動に対するミュージシャンの対応
#11	モリッシーと BDS	モリッシーの BDS への対応

# 12	頭脳警察／PANTA とパレスチナ問題 (1)	頭脳警察／PANTA の歴史と現 在
# 13	頭脳警察／PANTA とパレスチナ問題 (2)	『ライラのバラード』～日本とパ レスチナの関係について
#14	Outro.	秋学期の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、指定された映像を YouTube で視聴すること。授業後に、講義内容を振り返りながら映像を視聴して楽曲の内容を自ら考えること。事前学習・復習の時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

湯浅学『ボブ・ディラン ロックの精霊』（岩波新書、2013 年、760 円＋税）

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テキストの内容に関するレポート 30 %

授業で学んだ知識と自分の意見を論理的に展開する能力を確認するためのレポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

ポピュラー・ミュージックやロックについての授業ではないことに注意してください。

洋楽についての知識がなくてもかまいませんが、興味・関心を持っていることは必要です。

【その他の重要事項】

ボブ・ディランや「洋楽」についての知識がなくても受講可能です。政治や音楽に関する基本的知識は学生によって差があるので、すべてを授業で提供できません。そこでわからないことや知らないことは教員に尋ねる、あるいは、自分で文献やネットで調べるようにしてください。

授業時間外の質問はメールや ZOOM によるミーティングで対応します。

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に 2 時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019 年）を参照してください。

【Outline and objectives】

Theme: Politics and Popular Music after the end of the Golden Age

This course deals with the interaction between Bob Dylan and politics after the end of the Golden Age.

The fundamental aim of this course to acquire lens through which contemporary politics can be viewed by considering interaction Bob Dylan and politics.

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：政治人類学への招待

ベル 裕紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治人類学は、文化人類学の中でも権力や秩序といった問題を中心に扱ってきた領域である。学生は、政治人類学的な研究を体系的に学習し、国家、グローバル化、移民、マイノリティ、アイデンティティ、多文化主義といった、現代の問題に関する理解を深める。

【到達目標】

学生は、国家と統治に関する理解を深めるとともに、政治人類学が培ってきた、社会の動態的な把握という視点を身に付け、安易な本質主義に陥らない社会の認識を身に付ける。それを通じて、政治的な過程としての「本質化」に敏感になり、またなぜそれが行われているのかを深く考察する視点を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取り、随時映像などの資料を用いる。また、授業の初めに、前回の授業の課題に対する回答をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	政治人類学の関心	政治人類学の初期における基本的な関心から出発し、エヴァンス・プリチャード以降の政治人類学の議論の大きな流れを紹介する。これが本講義のイントロダクションとなる。
第二回	国家なき統治	政治人類学における「未開社会」の研究、特に政治体系の研究を紹介する。
第三回	法と政治と人類学と	法人類学における法の捉え方、諸研究を概観し、とりわけ規範と制裁をめぐる議論に焦点を当てる。
第四回	暴力の人類学	暴力や戦争を扱った人類学的な研究を取りあげ、集団の境界や関係について、考察を深めていく。
第五回	言語と政治	言語および発話行為と政治に着目した人類学的な研究の展開を概観し、理解を深める。
第六回	国民国家とナショナリズム	A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第七回	人種と民族	政治人類学の重要な概念である、人種と民族の定義を踏まえ、それらが政治的なアイデンティティ、あるいはアイデンティティの本質化とどのように関係するのかという問題を事例を交えて紹介する。

第八回	ジェンダーとセクシャリティ	ジェンダーやセクシャリティといった視点からされてきた人類学の諸研究を概観し、権力やまなざしについての関係論的な理解を深める。
第九回	社会運動論と人類学	人類学における社会運動研究を概観し、集合的アイデンティティの形成、生活と運動との乖離、「歴史性」といったトピックを学習する。
第十回	人権と人類学	1945 年以降の人類学における人権の捉え方を通時的に把握した上で、近年の人権に関する議論について学習する。
第十一回	ポストコロナリズム	サイードの『オリエンタリズム』を中心に植民地主義における「他者」表象、ポストコロナリズム批判を理解する。
第十二回	難民の人類学	難民という存在を H. アーレントを手がかりに、国民国家を基本とした国際秩序の枠組みの中で捉えた上で、人類学的な難民研究を紹介する。
第十三回	移住労働の人類学	第十回に引き続き、移住をテーマに学習する。東アジアでは、移民がホスト社会に定着し、永住につながるような受け入れ方ではなく、在留期間と活動に制限を加え、定着しないような形での労働力移入政策を取ることが一般的である。この講義ではその特徴と、その下での移住労働者たちの活動について紹介する。
第十四回	文化と権利	文化と権利という視点から、グローバル化、多文化主義、アイデンティティ、人権といった、これまで授業で取り扱ってきた問題を捉え直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね 2 時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの課題 60%、レポート 40 % で評価する。ただし、レポートの提出は必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらつつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジュメや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジュメに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline and objectives】

This class aims basic understanding of political anthropology / anthropology of politics that has been mainly dealing with topics related to the order and power. Students should study traditional topics as well as contemporary issues such as nation-states, human rights, social movements, global migration, essentialism and so on.

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マイノリティの人類学

四條 真也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文化人類学の基本的な概念を踏まえ、現代社会（特に現代のアメリカ社会やハワイ社会が中心）における先住民社会やマイノリティ社会の動向について学びます。なお、本講義では文化人類学の基礎概念を応用しながら、諸事例を検討します。履修に先駆けて、可能であれば文化人類学に関する基盤科目（e.g. 「文化人類学」など）を履修しておくことをお勧めします。

【到達目標】

この授業では、マイノリティ社会の成立の背景と現在抱える諸問題について、文化人類学的な概念を応用しながら分析や考察、およびディスカッションができるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業の冒頭では、提出されたミニレポート／課題の回答のうち興味深い例を紹介し、前回授業の振り返りを行います。また履修人数によっては、授業内でグループディスカッションやミニディスカッションなども予定しています。なお授業形式は、履修人数や開講時の社会状況などにより変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方について、詳細を説明します。
第 2 回	世界の先住民①	先住民社会のこれまでについて概観します。
第 3 回	世界の先住民②	日本と世界の先住民社会について考えます。
第 4 回	世界の先住民③	日本と世界の先住民社会について考えます。
第 5 回	米国のプライド運動①	アフリカ系運動の 2 つの流れ—アフリカ中心主義とアメリカ主義とは？
第 6 回	米国のプライド運動②	アジア系とラテン系移民のプライド運動について学びます。
第 7 回	米国のプライド運動③	アメリカ先住民のプライド運動について学びます。
第 8 回	米国のプライド運動④	マイノリティ社会の今について考えます。
第 9 回	ジェンダー①	「性」の多様性について学びます。
第 10 回	ジェンダー②	アナタの「性」は誰のもの？
第 11 回	先住ハワイ社会①	伝統的なハワイの世界観について学びます。
第 12 回	先住ハワイ社会②	ハワイの西洋化について歴史を振り返りながら考えます。

- 第13回 先住ハワイ社会③ 先住ハワイ人のプライド運動を通して、現代のハワイ社会について考えます。
- 第14回 日本文化の形 日本文化の形を再考します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【予習課題】：毎回のテーマに関連するリーディングとその要約を、指定した方法で提出します。

【復習課題】：毎回のテーマに関連するトピックについてセルフディベートなどを行い、ミニレポートとして指定された方法で提出します。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

毎回のテーマに関する参考文献は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のミニレポートと課題：40%

期末試験（もしくはレポート）：60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本授業では、英語メディア教材（リーディング課題や参照動画）を併用します。履修生は英語学習を習慣化し（英語ラジオや英語動画の視聴など）、英語理解力の向上を心がけましょう。

【Outline and objectives】

This class will allow students to explore the various "minority" and indigenous societies, particularly in the States including the Native Hawaiian society, standing on students' introductory anthropological backgrounds and knowledges.

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017年度以降入学者

サブタイトル：南アジアと身体

梅村 絢美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

法文営国環キ1～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、主にインドとスリランカにおける伝統的な身体観やヘルスケア実践、現代医療の諸相について紹介しながら、南アジアにおける身体を取り巻く諸事象について総合的に学習します。これを通じて、南アジア特有の身体のありようについての知識を蓄積するのみならず、受講生自身の実体験と関連付けながら理解することを最終的な目標とします。「遠い世界に住む自分と関係ない人たちのこと」として聞き流すのではなく、主体的に思考しながら受講してください。

【到達目標】

本授業は、以下の到達目標のもと進めていきます。

- （1）文化人類学の思考の枠組みを理解し実生活のなかで実践できる。
- （2）自身のもつヘルスケアに対する考え方や衛生観、身体観を相対化し、様々な社会におけるヘルスケア実践をその文脈に即して理解することができる。
- （3）文化人類学の思考の枠組みを用いて自身の経験や身の回りの出来事を理解し、それを他者に向けて発信することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づきオンデマンド動画配信型で行ないます。

各回の授業開始時刻までに「学習支援システム」の「授業内掲示板」から授業動画のURLをお知らせしますので、授業日から一週間以内を目安に受講し、適宜小レポートを「学習支援システム」の「課題」から提出してください。授業実施に関する詳細は、初回授業開始日の一週間前までに「学習支援システム」よりお知らせします。授業の初めに、前回の授業で提出された小レポートからいくつか取り上げ全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文化としての病気と健康	病気や健康といった価値は、それをそうまなぞる社会に固有のものであるとする人類学的な「ものの見方」について考えます。
2	南アジア社会における身体とヘルスケア	南アジア社会の地理的環境や歴史、社会、ヘルスケア実践について触れながら概要を紹介します。
3	手で診る、手で癒す：スリランカ伝承医療の実践	私（担当教員）が調査研究をしているスリランカの伝承医療の治療家による「手」という身体部位を用いた診療について紹介します。
4	アーユルヴェーダの身体観①宇宙と連動する身体	宇宙や自然環境と相互作用しながら調和が保たれた状態＝健康とするアーユルヴェーダに特有の身体観について紹介します。

5	アーユルヴェーダの身体観②薬草の力、身体 の健康	アーユルヴェーダの薬草を用いた 治療法について、薬草の持つ効力 と身体内のバランスに注目しながら 解説します。
6	ヨーガの身体観①宇宙 を取り込み循環させる	ヨーガの成り立ちについて解説し た上で、人体を小宇宙として捉え るヨーガ特有の身体観について紹 介します。
7	ヨーガの身体観②瞑想 からヘルスケアへ	瞑想法としてのヨーガがヘルスケ ア実践として意味が大きく変容し ていった過程について紹介した上 で、ヨーガチキッサー（ヨガ療 法）とも称されるアシュタンガヨ ガの身体の浄化を志向して組織さ れた連続するアーサナ（ポーズ） について検討します。
8	活かすための武術：カ ラリパヤットとマルマ 療法	南インドの伝統武術カラリパヤッ トの実践について、その目的と武 術の中に取り入れられたマルマ療 法に注目しながら解説します。
9	身体の熱と冷	儀礼や家庭生活において見られる 熱と冷のレトリックについて、初 潮儀礼と家庭でのヘルスケア実践 に注目しながら考えます。
10	癒しと呪術	スリランカにおける悪魔祓いをは じめとした呪術的な癒しについ て、私（担当教員）がフィールド で見てきた事例について映像を交 えて紹介します。
11	罪と不浄：南アジアの ヴェジタリアニズム	輪廻転生を基本とする南アジアの 諸宗教に特徴的な菜食主義につい て、不殺生と不浄観に注目しなが ら考えます。
12	ナショナリズムと健康 ：ガンディーのヘル スケア実践	インド独立の父として知られる M.K. ガンディー の独立思想は、 自身の心身を自身で律するという 意味でのヘルスケアの実践でもあ りました。今回はガンディーの 遺したヘルスケア指南書を紐解き ながら、スワラージ（自治）とし ての健康というガンディー独自 のヘルスケアについて考えます。
13	医療とツーリズム	グローバルに展開する南アジアの ヘルスケアについて、伝統医療と 生物医療（いわゆる西洋医療）を めぐるツーリズムに注目しながら 検討します。
14	消費される身体	インドにおける生殖医療ツーリス ムについて、主に代理母出産に注 目しながら考えます。

【Outline and objectives】

This lecture will comprehensively study various phenomena surrounding the body in South Asia, while mainly introducing the traditional view of the body in India and Sri Lanka, practical health care, and various aspects of modern medicine. Through this, the ultimate goal is not only to accumulate knowledge about the physical condition peculiar to South Asia, but also to understand it in relation to the students' own actual experiences.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

購入が必要なテキストの指定はありません。

【参考書】

田辺明生ほか編著『南アジア社会を学ぶ人のために』、2010 年、世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート (60%) および各回の小レポートの内容 (40%) に
もとづき総合的に評価します。いずれも、「到達目標」の達成具合を
基準に評価します。

出席は授業参加の前提条件であって成績評価の基準とはなりません。
また、小レポートの提出は、そこに記述された内容から授業の理解
度を確認するためのものであり、出席確認を目的としたものではありません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長沢 利明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学の基礎について学ぶ。人間と文化との関係の構造的な理解をめざし、さまざまなテーマからそれを見ていく。

【到達目標】

文化人類学のもっとも基本的な研究課題としての「人間と文化との関係」を、さまざまな具体的なテーマを提示しながら、考えていく。特に、文化の変容面・動態的側面に注目しつつ、生態環境・生活空間・儀礼構造・民間信仰・民族問題などの諸側面から、この問題を検討していってみることとする。この作業を通じて、文化人類学的な物の考え方や研究方法、分析視角などを学んでいくことにし、極力わかりやすい形で、それを講義していってみたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回ひとつずつ基本テーマを取り上げ、それに関する詳細情報やデータ類を提示しつつ、解説と検討をおこなう。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	プロローグ	受講にあたっての注意事項、授業の全体計画などについて解説。
②	焼畑と植生 I	焼畑農業と環境条件との関係について学ぶ。
③	焼畑と植生 II	〃
④	住居と生活空間	住居と居住空間の多様性について学ぶ。
⑤	年中行事の構造	日本の年中行事の構造分析について学ぶ。
⑥	民間信仰と文化変容	宗教人類学および日本の民間信仰の特性について学ぶ。
⑦	台湾の社会と民族問題	多民族社会の実情と問題点について学ぶ。
⑧	アミ族の社会変化	母系制社会の変容の実態について学ぶ。
⑨	ブヌン族の社会変化	父系制社会の変容の実態について学ぶ。
⑩	アイヌ問題	日本の少数民族問題の実情について学ぶ。
⑪	沖縄文化の特色	沖縄の固有文化の特色について学ぶ。
⑫	冬季フィールドワーク解説	冬休みのフィールドワークとレポート作成について解説。
⑬	補足説明	全体の補足解説をおこなう。
⑭	秋学期授業のまとめ	秋学期授業の全体的な総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅での復習をおこない、配布されたプリント資料などを通読し、整理しておくこと。教員への質問事項なども用意しておくことが desirable。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用せず、そのかわりに毎回、教室でプリント資料を配布する。それが、いわばテキストがわりとなる。

【参考書】

必要な文献資料や読んでおくべき参考書類は、授業時間内に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験およびレポート提出によって、成績評価をおこなう。特にレポートの内容の評価に重点を置くので、すぐれたレポートを作成することが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果を尊重し、極力受講者からの要望を取り入れ、つねに授業内容の改善につとめていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

You can study on this program about general theory of cultural anthropology.

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：政治人類学への招待

ベル 裕紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治人類学は、文化人類学の中でも権力や秩序といった問題を中心に扱ってきた領域である。学生は、政治人類学的な研究を体系的に学習し、国家、グローバル化、移民、マイノリティ、アイデンティティ、多文化主義といった、現代の問題に関する理解を深める。

【到達目標】

学生は、国家と統治に関する理解を深めるとともに、政治人類学が培ってきた、社会の動態的な把握という視点を身に付け、安易な本質主義に陥らない社会の認識を身に付ける。それを通じて、政治的な過程としての「本質化」に敏感になり、またなぜそれが行われているのかを深く考察する視点を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取り、随時映像などの資料を用いる。また、授業の初めに、前回の授業の課題に対する回答をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	政治人類学の関心	政治人類学の初期における基本的な関心から出発し、エヴァンス・プリチャード以降の政治人類学の議論の大きな流れを紹介する。これが本講義のイントロダクションとなる。
第二回	国家なき統治	政治人類学における「未開社会」の研究、特に政治体系の研究を紹介する。
第三回	法と政治と人類学と	法人類学における法の捉え方、諸研究を概観し、とりわけ規範と制裁をめぐる議論に焦点を当てる。
第四回	暴力の人類学	暴力や戦争を扱った人類学的な研究を取り上げ、集団の境界や関係について、考察を深めていく。
第五回	言語と政治	言語および発話行為と政治に着目した人類学的な研究の展開を概観し、理解を深める。
第六回	国民国家とナショナリズム	A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第七回	人種と民族	政治人類学の重要な概念である、人種と民族の定義を踏まえ、それらが政治的なアイデンティティ、あるいはアイデンティティの本質化とどのように関係するのかという問題を事例を交えて紹介する。

第八回	ジェンダーとセクシャリティ	ジェンダーやセクシャリティといった視点からされてきた人類学の諸研究を概観し、権力やまなどしについての関係論的な理解を深める。
第九回	社会運動論と人類学	人類学における社会運動研究を概観し、集合的アイデンティティの形成、生活と運動との乖離、「歴史性」といったトピックを学習する。
第十回	人権と人類学	1945 年以降の人類学における人権の捉え方を通時的に把握した上で、近年の人権に関する議論について学習する。
第十一回	ポストコロニアリズム	サイードの『オリエンタリズム』を中心に植民地主義における「他者」表象、ポストコロニアリズム批判を理解する。
第十二回	難民の人類学	難民という存在を H. アーレントを手がかりに、国民国家を基本とした国際秩序の枠組みの中で捉えた上で、人類学的な難民研究を紹介する。
第十三回	移住労働の人類学	第十回に引き続き、移住をテーマに学習する。東アジアでは、移民がホスト社会に定着し、永住につながるような受け入れ方ではなく、在留期間と活動に制限を加え、定着しないような形での労働力移入政策を取ることが一般的である。この講義ではその特徴と、その下での移住労働者たちの活動について紹介する。
第十四回	文化と権利	文化と権利という視点から、グローバル化、多文化主義、アイデンティティ、人権といった、これまで授業で取り扱ってきた問題を捉え直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね 2 時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの課題 60%、レポート 40 %で評価する。ただし、レポートの提出は必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジュメや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジュメに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline and objectives】

This class aims basic understanding of political anthropology / anthropology of politics that has been mainly dealing with topics related to the order and power. Students should study traditional topics as well as contemporary issues such as nation-states, human rights, social movements, global migration, essentialism and so on.

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：南アジアと身体

梅村 絢美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、主にインドとスリランカにおける伝統的な身体観やヘルスケア実践、現代医療の諸相について紹介しながら、南アジアにおける身体を取り巻く諸事象について総合的に学習します。これを通じて、南アジア特有の身体のあるようについての知識を蓄積するのみならず、受講生自身の実体験と関連付けながら理解することを最終的な目標とします。「遠い世界に住む自分と関係ない人たちのこと」として聞き流すのではなく、主体的に思考しながら受講してください。

【到達目標】

本授業は、以下の到達目標のもと進めていきます。

- (1) 文化人類学の思考の枠組みを理解し実生活のなかで実践できる。
- (2) 自身のもつヘルスケアに対する考え方や衛生観、身体観を相対化し、様々な社会におけるヘルスケア実践をその文脈に即して理解することができる。
- (3) 文化人類学の思考の枠組みを用いて自身の経験や身の回りの出来事を理解し、それを他者に向けて発信することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づきオンデマンド動画配信型で行ないます。

各回の授業開始時刻までに「学習支援システム」の「授業内掲示板」から授業動画の URL をお知らせしますので、授業日から一週間以内を目安に受講し、適宜小レポートを「学習支援システム」の「課題」から提出してください。授業実施に関する詳細は、初回授業開始日の一週間前までに「学習支援システム」よりお知らせします。授業の初めに、前回の授業で提出された小レポートからいくつか取り上げ全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文化としての病気と健康	病気や健康といった価値は、それをそうまなぞ社会に固有のものであるとする人類学的な「ものの見方」について考えます。
2	南アジア社会における身体とヘルスケア	南アジア社会の地理的環境や歴史、社会、ヘルスケア実践について触れながら概要を紹介しします。
3	手で診る、手で癒す：スリランカ伝統医療の実践	私（担当教員）が調査研究をしているスリランカの伝統医療の治療家による「手」という身体部位を用いた診療について紹介しします。
4	アーユルヴェーダの身体観①宇宙と連動する身体	宇宙や自然環境と相互作用しながら調和が保たれた状態＝健康とするアーユルヴェーダに特有の身体観について紹介しします。

5	アーユルヴェーダの身体観②薬草の力、身体の健康	アーユルヴェーダの薬草を用いた治療法について、薬草の持つ効力と身体内のバランスに注目しながら解説しします。
6	ヨーガの身体観①宇宙を取り込み循環させる	ヨーガの成り立ちについて解説した上で、人体を小宇宙として捉えるヨーガ特有の身体観について紹介しします。
7	ヨーガの身体観②瞑想からヘルスケアへ	瞑想法としてのヨーガがヘルスケア実践として意味が大きく変容していった過程について紹介した上で、ヨーガチキッサー（ヨガ療法）とも称されるアシュタンガヨガの身体浄化を志向して組織された連続するアーサナ（ポーズ）について検討しします。
8	活かすための武術：カラリパヤットとマルマ療法	南インドの伝統武術カラリパヤットの実践について、その目的と武術の中に取り入れられたマルマ療法に注目しながら解説しします。
9	身体の熱と冷	儀礼や家庭生活において見られる熱と冷のレトリックについて、初潮儀礼と家庭でのヘルスケア実践に注目しながら考えます。
10	癒しと呪術	スリランカにおける悪魔祓いをはじめとした呪術的な癒しについて、私（担当教員）がフィールドで見てきた事例について映像を交えて紹介しします。
11	罪と不浄：南アジアのヴェジタリアニズム	輪廻転生を基本とする南アジアの諸宗教に特徴的な業食主義について、不殺生と不浄観に注目しながら考えます。
12	ナショナリズムと健康：ガンディーのヘルスケア実践	インド独立の父として知られる M.K. ガンディーの独立思想は、自身の心身を自身で律するという意味でのヘルスケアの実践でもありました。今回はガンディーの遺したヘルスケア指南書を紐解きながら、スワラージ（自治）としての健康というガンディー独自のヘルスケアについて考えます。
13	医療とツーリズム	グローバルに展開する南アジアのヘルスケアについて、伝統医療と生物医療（いわゆる西洋医療）をめぐるツーリズムに注目しながら検討しします。
14	消費される身体	インドにおける生殖医療ツーリズムについて、主に代理母出産に注目しながら考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

購入が必要なテキストの指定はありません。

【参考書】

田辺明生ほか編著『南アジア社会を学ぶ人のために』、2010 年、世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（60%）および各回の小レポートの内容（40%）にもとづき総合的に評価します。いずれも、「到達目標」の達成具合を基準に評価します。

出席は授業参加の前提条件であって成績評価の基準とはなりません。また、小レポートの提出は、そこに記述された内容から授業の理解度を確認するためのものであり、出席確認を目的としたものではありません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This lecture will comprehensively study various phenomena surrounding the body in South Asia, while mainly introducing the traditional view of the body in India and Sri Lanka, practical health care, and various aspects of modern medicine. Through this, the ultimate goal is not only to accumulate knowledge about the physical condition peculiar to South Asia, but also to understand it in relation to the students' own actual experiences.

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：今日の人類学

阿部 朋恒

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学は他者理解のための方法であると同時に、自らが抱えて立つ場所を見つめ直し、その未来を見通すために役立つ道具でもある。この授業では、開発や観光化、情報通信技術の発達、移動の増大といった今日の世界に共通してみられる現象に焦点を当て、そうした変化の過程が同時代にありながら多様であることを学ぶ。さらに、世界各地で生起する出来事を具体的かつ深く知ること、環境変動や政治的リスクの変動、感染症の流行などわれわれが直面する大きな課題に対する思考の幅を広げることを目指す。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

2021 年度の授業は Google Classroom を利用してのオンデマンド資料配信方式で実施する。受講生にはオンライン上で公開される授業動画を各自視聴したうえで簡単なコメントを返却していただき、これをもって出席確認を行う。また隔週で Zoom を利用してオンライン相談窓口を開設し、メールと併せて質問や要望を受け付ける。各回授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。各回授業内容についての質問はリアクションペーパーを通じて受け付け、次回授業の冒頭でいくつかを取り上げてフィードバックを行う。また隔週でオンライン相談窓口（オフィスアワーに相当）を開設し、個別の質問にも対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
第 2 回	文化人類学の成り立ち	学説史の概略を知り、文化人類学が時代ごとに切り拓いてきた知的領域の広がりを学ぶ。
第 3 回	文化人類学の課題	今日の文化人類学が直面する課題と、これを乗り越えるための試みを学ぶ。
第 4 回	フィールドワークの再検討	文化人類学におけるフィールドワークの魅力と、その誕生以来一世紀のあいだに生じた方法と実践の変化を学ぶ。

第 5 回 移動と人類学①	旅とフィールドワークの類似と相違を知り、人類学的研究の奥行きを学ぶ。
第 6 回 移動と人類学②	人間の移動のみならずモノや情報、技術、概念、さらには動植物やウィルスなどのモビリティが高まる世界における文化人類学の意義を学ぶ。
第 7 回 開発と人類学①	人類学者はこれまで開発の現場で何をしてきたのか、開発援助に携わる人たちとどのように関わってきたのかを学ぶ。
第 8 回 開発と人類学②	「貧困」「援助」「復興」などさまざまな言説がせめぎあいながら構成される現象として開発を捉える方法を学び、今日の世界を多角的に理解する視点を身につける。
第 9 回 環境と人類学①	人類学者はこれまで環境変動の現場で何をしてきたのか、環境保護にたずさわる人たちとどのようにかかわってきたのかを学ぶ。
第 10 回 環境と人類学②	「地球温暖化」「持続可能性」「保全」「汚染」などさまざまな言説がせめぎあいながら構成される現象として環境変動を捉える方法を学び、今日の世界を多角的に理解する視点を身につける。
第 11 回 観光と人類学	観光化によって創られる文化のダイナミズムを理解するための視座を学ぶ。
第 12 回 食と人類学	食をめぐる実践の多様性を学び、われわれをとりまく食と健康に関連するさまざまな知識を反省的に検討する。
第 13 回 映像資料鑑賞	第 12 回までの授業内容に関連する映像資料を鑑賞する。
第 14 回 まとめ	授業内容の総括および期末試験についての説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌のニュースに関心を払い、遠くの国や地域で生じた出来事であっても少しの時間を割いて考えてみる。また、身の回りで生じるさまざまな出来事について、異なる立場にある人の見方を想像してみる。その際、文化人類学の考え方を応用するとどのような発見があるのかを意識してほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業に関連する文献について紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】

『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』中島成久（編）明石書店、2003 年。

上記の他にも、毎回の授業に関連する基礎文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40 %）、筆記形式の期末試験（60 %）により評価する。なお、期末試験は紙媒体の資料のみ持ち込み可とする。状況に応じて、期末試験はオンライン上での実施も検討する。また、大学教室での試験を行う場合でも、期末試験への実地参加が難しい受講生にはオンラインで受験が可能な代替試験を用意する。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド方式の動画配信について、公開時期や要望への対応の遅れが生じたほか、音声の強弱のむらや動画が冗長になるなどの課題が多々浮かび上がった。このほかにも、対面できないため伝えられない要望もあったかと思う。これらを踏まえ、今学期は機器の取り扱いに習熟する、授業時間外に寄せられる連絡にも柔軟に対応する、各回授業には過剰な内容を詰め込みすぎないように配慮するなど、オンライン環境に適した授業づくりに努めたい。

また、オンライン化に伴って例年になく課題に追われるなど困難な状況に置かれた受講生も少なくないようだった。課題要求についても過大にならないよう配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の利用を予定しているため、インターネット環境を整えたうえで受講の望んでほしい。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

【Outline and objectives】

By studying perspectives that look extensively at present world, we aim to develop the ability to link this learning to practical tasks. Based on this, students will acquire viewpoint to understand multicultural and overheated world. Specifically, students will learn about field works, mechanisms to create various discourses about “development” or “environment”. After that, students will think independently how to create a future that accepts diverse cultures.

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：今日の文化人類学

阿部 朋恒

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学は他者理解のための方法であると同時に、自らが拠って立つ場所を見つめ直し、その未来を見通すために役立つ道具でもある。この授業では、開発や観光化、情報通信技術の発達、移動の増大といった今日の世界に共通してみられる現象に焦点を当て、そうした変化の過程が同時代にありながら多様であることを学ぶ。さらに、世界各地で生起する出来事を具体的かつ深く知ること、環境変動や政治的リスクの変動、感染症の流行などわれわれが直面する大きな課題に対する思考の幅を広げることを目指す。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面方式での実施を予定している。各回授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。各回授業内容についての質問はリアクションペーパーを通じて受け付け、次回授業の冒頭でいくつかを取り上げてフィードバックを行う。また隔週でオンライン相談窓口（オフィスアワーに相当）を開設し、個別の質問にも対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
第 2 回	文化人類学の成り立ち	学説史の概略を知り、文化人類学が時代ごとに切り拓いてきた知的領域の広がりを知る。
第 3 回	文化人類学の課題	今日の文化人類学が直面する課題と、これを乗り越えるための試みを学ぶ。
第 4 回	フィールドワークの再検討	文化人類学におけるフィールドワークの魅力と、その誕生以来一世紀のあいだに生じた方法と実践の変化を知る。
第 5 回	移動と人類学①	旅とフィールドワークの類似と相違を知り、人類学的研究の奥行きを学ぶ。

第 6 回 移動と人類学②

人間の移動のみならずモノや情報、技術、概念、さらには動植物やウイルスなどのモビリティが高まる世界における文化人類学の意義を学ぶ。

第 7 回 開発と人類学①

人類学者はこれまで開発の現場で何をしてきたのか、開発援助に携わる人たちとどのように関わってきたのかを学ぶ。

第 8 回 開発と人類学②

「貧困」「援助」「復興」などさまざまな言説がせめぎあいながら構成される現象として開発を捉える方法を学び、今日の世界を多角的に理解する視点を身につける。

第 9 回 環境と人類学①

人類学者はこれまで環境変動の現場で何をしてきたのか、環境保護にたずさわる人たちとどのように関わってきたのかを学ぶ。

第 10 回 環境と人類学②

「地球温暖化」「持続可能性」「保全」「汚染」などさまざまな言説がせめぎあいながら構成される現象として環境変動を捉える方法を学び、今日の世界を多角的に理解する視点を身につける。

第 11 回 観光と人類学

観光化によって創られる文化のダイナミズムを理解するための視点を学ぶ。

第 12 回 食と人類学

食をめぐる実践の多様性を学び、われわれをとりまく食と健康に関連するさまざまな知識を反省的に検討する。

第 13 回 映像資料鑑賞

第 12 回までの授業内容に関連する映像資料を鑑賞する。

第 14 回 まとめ

授業内容の総括および期末試験についての説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌のニュースに関心を払い、遠くの国や地域で生じた出来事であっても少しの時間を割いて考えてみる。また、身の回りで生じるさまざまな出来事について、異なる立場にある人の見方を想像してみる。その際、文化人類学の考え方を応用するとどのような発見があるのかを意識してほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業に関連する文献について紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】

『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』中島成久（編）明石書店、2003 年。
上記の他にも、毎回の授業に関連する基礎文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40 %）、筆記形式の期末試験（60 %）により評価する。なお、期末試験は紙媒体の資料のみ持ち込み可とする。状況に応じて、期末試験はオンライン上での実施も検討する。また、大学教室での試験を行う場合でも、期末試験への実地参加が難しい受講生にはオンラインで受験が可能な代替試験を用意する。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はオンデマンド配信方式で授業を実施したため、オンライン化に付随するさまざまな課題が浮かび上がった。ただし、本講義は対面授業を予定しているため、かならずしも全面的に改善策を反映できるわけではない。このため、以下に昨年度と一昨年度授業を踏まえた改善策を記載しておく。

【2020 年度授業を踏まえた改善策】

オンデマンド方式の動画配信について、公開時期や要望への対応の遅れが生じたほか、音声の強弱のむらや動画が冗長になるなどの課題が多々浮かび上がった。このほかにも、対面できないため伝えられない要望もあったかと思う。これらを踏まえ、今学期は機器の取り扱いに習熟する、授業時間外に寄せられる連絡にも柔軟に対応する、各回授業には過剰な内容を詰め込みすぎないように配慮するなど、オンライン環境に適した授業づくりに努めたい。

また、オンライン化に伴って例年になく課題に追われるなど困難な状況に置かれた受講生も少なくないようだった。課題要求についても過大にならないよう配慮したい。

【2019 年度授業を踏まえた改善策】

授業進度がやや早く、とくに難解な概念や用語についての理解が追いつかないことがあったとの意見が複数あったため、難易度に応じて緩急をつけたきめ細やかな解説を行いたい。また、教室内の気温や騒音など授業を受ける環境について改善を求める意見も受けている。学生がその場で気兼ねなく要望を伝えられるような雰囲気づくりを心掛け、空調設備や音響機器の調整にも気を配っていききたい。また、周囲の受講生の私語が気になるとの指摘もあり、教室内の静粛性保持にもより一層配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の利用を予定しているため、インターネット環境を整えたうえで受講の望んでほしい。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

【Outline and objectives】

By studying perspectives that look extensively at present world, we aim to develop the ability to link this learning to practical tasks. Based on this, students will acquire viewpoint to understand multicultural and overheated world. Specifically, students will learn about field works, mechanisms to create various discourses about “development” or “environment”. After that, students will think independently how to create a future that accepts diverse cultures.

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マイノリティの人類学

四條 真也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文化人類学の基本的な概念を踏まえ、現代社会（特に現代のアメリカ社会やハワイ社会が中心）における先住民社会やマイノリティ社会の動向について学びます。なお、本講義では文化人類学の基礎概念を応用しながら、諸事例を検討します。履修に先駆けて、可能であれば文化人類学に関する基盤科目（e.g. 「文化人類学」など）を履修しておくことをお勧めします。

【到達目標】

この授業では、マイノリティ社会の成立の背景と現在抱える諸問題について、文化人類学的な概念を応用しながら分析や考察、およびディスカッションができるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業の冒頭では、提出されたミニレポート／課題の回答のうち興味深い例を紹介し、前回授業の振り返りを行います。

また履修人数によっては、授業内でグループディスカッションやミニディスカッションなども予定しています。

なお授業形式は、履修人数や開講時の社会状況などにより変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方について、詳細を説明します。
第 2 回	世界の先住民①	先住民社会のこれまでについて概観します。
第 3 回	世界の先住民②	日本と世界の先住民社会について考えます。
第 4 回	世界の先住民③	日本と世界の先住民社会について考えます。
第 5 回	米国のプライド運動①	アフリカ系運動の 2 つの流れ—アフリカ中心主義とアメリカ主義とは？
第 6 回	米国のプライド運動②	アジア系とラテン系移民のプライド運動について学びます。
第 7 回	米国のプライド運動③	アメリカ先住民のプライド運動について学びます。
第 8 回	米国のプライド運動④	マイノリティ社会の今について考えます。
第 9 回	ジェンダー①	「性」の多様性について学びます。
第 10 回	ジェンダー②	アナタの「性」は誰のもの？
第 11 回	先住ハワイ社会①	伝統的なハワイの世界観について学びます。
第 12 回	先住ハワイ社会②	ハワイの西洋化について歴史を振り返りながら考えます。

- 第13回 先住ハワイ社会③ 先住ハワイ人のプライド運動を通して、現代のハワイ社会について考えます。
- 第14回 日本文化の形 日本文化の形を再考します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【予習課題】：毎回のテーマに関連するリーディングとその要約を、指定した方法で提出します。

【復習課題】：毎回のテーマに関連するトピックについてセルフディベートなどを行い、ミニレポートとして指定された方法で提出します。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

毎回のテーマに関する参考文献は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のミニレポートと課題：40%

期末試験（もしくはレポート）：60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本授業では、英語メディア教材（リーディング課題や参照動画）を併用します。履修生は英語学習を習慣化し（英語ラジオや英語動画の視聴など）、英語理解力の向上を心がけましょう。

【Outline and objectives】

This class will allow students to explore the various "minority" and indigenous societies, particularly in the States including the Native Hawaiian society, standing on students' introductory anthropological backgrounds and knowledges.

CUA200LA

文化人類学Ⅰ

2017年度以降入学者

サブタイトル：開発と文化の人類学

石森 大知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

法文営国環キ 1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、開発人類学、すなわち開発援助および国際協力のテーマを文化人類学の視点から取り上げる。現在、世界の各地で、2015年に国連で定められた「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けたさまざまな取り組みが実施され、その有効性に関する調査・研究も進んでいる。21世紀において人類に課せられた課題は数多くあるが、貧困撲滅、健康向上（国際保健）、環境問題などへの対処は重要である。本授業では、これらの同時代的なグローバル・イシューを通して、開発とローカルな社会・文化・環境の持続的共存関係について考察する。

【到達目標】

- ・文化人類学、とくに開発人類学の専門的な概念や理論を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる他者理解の洞察力を身に付ける。
- ・同時代的なグローバル・イシューを理解するとともに、開発とローカルな社会・文化・環境の持続的共存関係について自らの視点から考察・検討する視点を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は【オンデマンド型】で行う予定です（変更の場合は学習支援システムを通して事前に連絡します）。
- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	開発概念と関連理論①	開発の誕生
第3回	開発概念と関連理論②	社会開発への転換
第4回	開発援助とODA,そして人類学者	開発援助とのかかわり方
第5回	貧困撲滅の取り組み①	貧しい／豊かとは何か
第6回	貧困撲滅の取り組み②	マイクロファイナンス
第7回	健康な生活①	プライマリヘルスケア
第8回	健康な生活②	感染症対策とDOTS
第9回	森林開発と環境問題①	近代化と環境破壊
第10回	森林開発と環境問題②	ソロモン諸島の植林事業
第11回	温暖化と環境言説①	ツバルの「海面上昇」
第12回	温暖化と環境言説②	ツバルの浸水被害と海岸浸食
第13回	観光開発と自然	ボルネオ島のエコツーリズム
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や開発人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。
 信田敏宏ほか編『グローバル支援の人類学—変貌する NGO・市民活動の現場から』昭和堂、2017 年。
 佐藤寛・藤掛洋子編『開発援助と人類学—冷戦・蜜月・パートナーシップ』明石書店、2011 年。
 佐藤寛『開発援助の社会学』世界思想社、2005 年。
 青柳まちこ編『開発の文化人類学』古今書院、2000 年。
 関根久雄『開発と向き合う人びと』東洋出版、1997 年。

【成績評価の方法と基準】

レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

学期中にシラバスや授業計画の変更が余儀なくされた場合は学習支援システムで周知します。

【Outline and objectives】

This course covers the basics of development anthropology, which seeks to the application of anthropological perspectives to the multidisciplinary branch of development studies. The goals of this course are to obtain basic knowledge about the development anthropology, and understand the impacts of development on the local culture, environment and society.

SOS200LA

社会思想 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では在日朝鮮人の歴史と文化を学びます。日本と朝鮮半島（南北）の近現代史の諸関係から生み出され、この 3 ヶ国のはざまにあって日本で存在しているコリアンが在日朝鮮人という存在です。この授業では 3 ヶ国の近現代史をふまえながら、在日朝鮮人のアイデンティティーのありかた、その詩や文学、映画や音楽、芸能などの作品世界を学びます。

【到達目標】

テキストや講義を通して日本や朝鮮半島の近現代史を理解することができる

テキストや講義を通して在日朝鮮人に対する正確な理解を持つことができる

テキストや講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

2021 年度春学期はコロナ対応のためオンラインで授業を行い、4 月 12 日に学習支援システムを通して授業を開始します。その際初回ガイダンスを行いますので、詳細は提示するガイダンスのファイルを確認するようにしてください。提出された課題に対しては授業の中でフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、学ぶ内容、学ぶ方法、成績評価の方法などについてガイダンスを行います
2	導入	在日朝鮮人という存在
3	発生	日本の近代と在日朝鮮人の発生
4	定着化	定着化と二世の誕生
5	運動	さまざまな運動
6	コミュニティ	朝鮮人コミュニティの変容
7	強制動員	戦時下の在日朝鮮人
8	戦後	占領政策
9	帰国	帰国運動
10	二世（1）	二世たちの挑戦
11	二世（2）	転換期の思想と文化
12	グローバル化（1）	多民族化する日本社会
13	グローバル化（2）	国民の論理を超えて
14	まとめ	在日朝鮮人と日本の進む道

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに指定するテキスト数十ページを事前に読んでおくことと授業の理解の助けになります。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 ～ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に説明します。

【参考書】

授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業後に提出する 13 回分の小レポート課題を平常点として成績評価を行います。

各レポートの評価基準としては、各回の授業ごとに、主題を理解し、その内容を自らの言葉によって解釈し、表現していることとします。1 回分の配分を 10 % とし、10 回のレポートによって合計 100 % とし成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で出席者のコメントを紹介することによって刺激になり、他の受講者の理解が進むことが多いようです。

【Outline and objectives】

This course introduces the history and cultures of the Korean residents in Japan to students taking this course. They are also called Korean minority in Japan or ZAINICHI in Japanese. The aim of this course is to guide students acquire an understanding of the modern history of ZAINICHI Koreans and a variety of their identities ,poetry,literature,movies,music,and some other cultural works.

SOS200LA

社会思想 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では在日朝鮮人の歴史と文化を学びます。日本と朝鮮半島（南北）の近現代史の諸関係から生み出され、この 3 ヶ国のはざまにあって日本で存在しているコリアンが在日朝鮮人という存在です。この授業では 3 ヶ国の近現代史をふまえながら、在日朝鮮人のアイデンティティーのありかた、その詩や文学、映画や音楽、芸能などの作品世界を学びます。

【到達目標】

テキストや講義を通して日本や朝鮮半島の近現代史を理解することができる

テキストや講義を通して在日朝鮮人に対する正確な理解を持つことができる

テキストや講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

2021 年度秋学期はコロナ対応のため、オンライン授業を行う予定です。

詳細については初回ガイダンスで説明します。提出された課題に対しては授業の中でフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の内容、授業の進め方、受講の仕方、成績評価の方法などについての説明
2	導入	在日朝鮮人という存在
3	事件	歴史的背景
4	1960 年代 (1)	民族の問題
5	1960 年代 (2)	民族責任
6	小松川事件 (1)	李珍宇の犯罪
7	小松川事件 (2)	李珍宇の手紙
8	金嬉老事件 (1)	事件の発生
9	金嬉老事件 (2)	事件の意味
10	詩と文学 (1)	金時鐘と金石範
11	詩と文学 (2)	鷺沢萌・柳美里・崔実
12	映画 (1)	崔洋一と大島渚
13	映画 (2)	浦山桐郎と井筒和幸
14	音楽	在日音楽の百年

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業ごとに指定されたテキストの数十ページを読んでおくことと授業の理解が進みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 ～ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に説明します。

【参考書】

授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業後に提出する 13 回分の小レポート課題を平常点として成績評価を行います。

各レポートの評価基準としては、各回の授業ごとに、主題を理解し、その内容を自らの言葉によって解釈し、表現していることとします。1 回分の配分を 10 % とし、10 回のレポートによって合計 100 % とし成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に受講者のコメントを紹介することで他の受講者の理解が進むようです。

【Outline and objectives】

This course introduces the history and cultures of the Korean residents in Japan to students taking this course. They are also called Korean minority in Japan or ZAINICHI in Japanese. The aim of this course is to guide students acquire an understanding of the modern history of ZAINICHI Koreans and a variety of their identities ,poetry,literature,movies,music,and some other cultural works.

SOS200LA

社会思想 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではヨーロッパの近代社会思想史を学びます。

16 世紀から 19 世紀初頭の思想家たち、例えばホッブズ、ルソー、カント、ヘーゲルらが生きた西洋の歴史を背景として、その上で各思想家の思考方法、政治社会の構成、個人と社会の関係や経済社会の構造などについての考えかたを学ぶことを目的とします。

【到達目標】

近代の骨格を作る思想家たちのものの見方、考え方を身につけることができる。

歴史的思考について学び、思想家たちの目を通して、現在わたしたちが生きている現代社会の政治、経済、社会のあり方を根本原理として考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

2021 年度春学期はオンラインで授業を行い、4 月 7 日に学習支援システムを通して授業を開始します。その際初回ガイダンスを行いますので、詳細は提示するガイダンスのファイルを確認するようにしてください。提出された課題に対しては授業の中でフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義のねらい、進め方、成績評価の方法等
第 2 回	導入（1）	ヨーロッパ、歴史、近代、社会、思想、言語などの基礎概念（1）
第 3 回	導入（2）	ヨーロッパ、歴史、近代、社会、思想、言語などの基礎概念（2）
第 4 回	ホッブズ（1）	リヴァイアサン（1）
第 5 回	ホッブズ（2）	リヴァイアサン（2）
第 6 回	ルソー（1）	人間不平等起源論
第 7 回	ルソー（2）	社会契約論
第 8 回	カント（1）	純粋理性批判
第 9 回	カント（2）	実践理性批判
第 10 回	カント（3）	永遠平和のために
第 11 回	ヘーゲル（1）	精神現象学（1）
第 12 回	ヘーゲル（2）	精神現象学（2）
第 13 回	ヘーゲル（3）	法の哲学
第 14 回	ヘーゲル（4）	ヘーゲル左派

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をうけるにあたって文献を自ら進んで読み、問題意識を持って授業に臨むことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 ～ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ガイダンス時に説明します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業後に提出する 13 回分の小レポート課題を平常点として成績評価を行います。

各レポートの評価基準としては、各回の授業ごとに、主題を理解し、その内容を自らの言葉によって解釈し、表現していることとします。1 回分の配分を 10 % とし、10 回のレポートによって合計 100 % とし成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces the history of ideas of modern western philosophers.

From 16's century to 19's century philosophers thought about a fundamental principle of modern society.

The aim of this course is to guide students acquire an understanding of ideas of modern philosopher Thomas Hobbes, Jean-Jacques Rousseau, Immanuel Kant, and Georg Wilhelm Friedrich Hegel.

SOS200LA

社会思想 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではヨーロッパにおける世紀転換期の思想史を学びます。西洋の 19 世紀末から 20 世紀初頭という転換期の歴史を踏まえて、マルクス、キルケゴール、ニーチェ、ウェーバー、フロイト、ベンヤミンらが根源から考察した人間、社会、歴史、芸術、政治についての思想史を学ぶことがこの授業の目的です。

【到達目標】

各思想家たちのものの見方、考え方を身につけることができる。世紀転換期の歴史を理解し、もう一つの転換期である現代社会を思想家の目を通して自ら考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

2021 年度秋学期はコロナ対応のため、オンライン授業の予定です。詳細については初回ガイダンス時に説明します。提出された課題に対しては授業の中でフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義のねらい、進め方、成績評価の方法等の説明
第 2 回	導入（1）	現代という時代の思想経験（1）
第 3 回	導入（2）	現代という時代の思想経験（2）
第 4 回	マルクス（1）	初期マルクス（1）
第 5 回	マルクス（2）	初期マルクス（2）
第 6 回	マルクス（3）	資本論の世界
第 7 回	ニーチェ（1）	ニヒリズム
第 8 回	ニーチェ（2）	力への意志
第 9 回	ウェーバー（1）	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神
第 10 回	ウェーバー（2）	職業としての政治・職業としての学問
第 11 回	フロイト（1）	精神分析の誕生
第 12 回	フロイト（2）	認められたいの正体
第 13 回	ベンヤミン（1）	19 世紀の首都一بار
第 14 回	ベンヤミン（2）	歴史哲学テーゼ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をうけるにあたって、文献を自ら進んで読み、問題意識を持って授業に臨むことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 ～ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ガイダンス時に説明します。

【参考書】

講義の中で説明します。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業後に提出する 13 回分の小レポート課題を平常点として成績評価を行います。

各レポートの評価基準としては、各回の授業ごとに、主題を理解し、その内容を自らの言葉によって解釈し、表現していることとします。1 回分の配分を 10 % とし、10 回のレポートによって合計 100 % とし成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces the history of modern western ideas of the turn of the century from 19's to 20's. There was a fundamental transformation of ideas between the end of 19'century and the beginning of 20's century.

The aim of this course is to guide students acquire an understanding of the history of ideas of some philosophers, Karl Marx, Friedrich Nietzsches, Max Weber, Sigmund Freud and Walter Benjamin.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法 1 年 A～G、文 1 年 E～I・P～V / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいつかは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題でもこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。毎回授業時間内に、質問や意見を聴く時間を設け、応答や議論を行うことでフィードバックの場とする。また、学習支援システムの掲示板でも質疑応答できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第 2 回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする。
第 3 回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第 4 回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。

第 5 回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。
第 6 回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。
第 7 回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第 8 回	代数系	群構造について学ぶ。
第 9 回	巡回群	オイラーの定理について学ぶ。
第 10 回	連立合同式	異なる周期をもつ 2 つの事柄について考える。
第 11 回	連立合同式	異なる周期をもつ 3 つ以上の事柄について考える。
第 12 回	整数の理論の応用	2 つの素数の積について調べる。
第 13 回	整数の理論の応用	RSA 暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
第 14 回	整数の理論の応用	計算の効率について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価（100%）する予定である。ただし、状況によっては代替レポートを提出してもらった評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さなどを調節したい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

平田 康史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法 1 年 A～G、文 1 年 E～I・P～V / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。毎回授業時間内に、質問や意見を聴く時間を設け、応答や議論を行うことでフィードバックの場とする。また、学習支援システムの掲示板でも質疑応答できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第 2 回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第 3 回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつながきえについて考える。
第 4 回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第 5 回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第 6 回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。

第 7 回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。
第 8 回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。
第 9 回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第 10 回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。
第 11 回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第 12 回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第 13 回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ。
第 14 回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価 (100%) する予定である。ただし、状況によっては代替レポートを提出してもらっての評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さなどを調節したい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法 1 年 H～N、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題でも積極的に質問「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。毎回授業時間内に、質問や意見を聴く時間を設け、応答や議論を行うことでフィードバックの場とする。また、学習支援システムの掲示板でも質疑応答できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第 2 回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする。
第 3 回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第 4 回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。

第 5 回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。
第 6 回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。
第 7 回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第 8 回	代数系	群構造について学ぶ。
第 9 回	巡回群	オイラーの定理について学ぶ。
第 10 回	連立合同式	異なる周期をもつ 2 つの事柄について考える。
第 11 回	連立合同式	異なる周期をもつ 3 つ以上の事柄について考える。
第 12 回	整数の理論の応用	2 つの素数の積について調べる。
第 13 回	整数の理論の応用	RSA 暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
第 14 回	整数の理論の応用	計算の効率について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価（100%）する予定である。ただし、状況によっては代替レポートを提出してもらったの評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さなどを調節したい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

平田 康史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法 1 年 H～N、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。毎回授業時間内に、質問や意見を聴く時間を設け、応答や議論を行うことでフィードバックの場とする。また、学習支援システムの掲示板でも質疑応答できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第 2 回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第 3 回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつながきかえについて考える。
第 4 回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第 5 回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第 6 回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。

第 7 回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。
第 8 回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。
第 9 回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第 10 回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。
第 11 回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第 12 回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第 13 回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ。
第 14 回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価（100%）する予定である。ただし、状況によっては代替レポートを提出してもらっての評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さなどを調節したい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	論理的な文章を練習する。
第 3 回	整数の性質	整数について確認する。
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第 8 回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第 13 回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。
第 14 回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績に出席状況、黒板で発表した回数、内容などを加味する。

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Aim of this class is that students feel the pleasures of mathematics by thinking deeply using hands and brains.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第 12 回	さまざまな応用	黄金比との関係
第 13 回	マルコフ 3 数	マルコフ 3 数の定義と例
第 14 回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の 2 部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Aim of this class is that students feel the pleasures of mathematics by thinking deeply using hands and brains.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 A・B・L～N・W・X、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことは	論理的な文章を練習する。
第 3 回	整数の性質	整数について確認する。
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第 8 回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第 13 回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。
第 14 回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績に出席状況、黒板で発表した回数、内容などを加味する。

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Aim of this class is that students feel the pleasures of mathematics by thinking deeply using hands and brains.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 A・B・L～N・W・X、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第 12 回	さまざまな応用	黄金比との関係
第 13 回	マルコフ 3 数	マルコフ 3 数の定義と例
第 14 回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の 2 部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Aim of this class is that students feel the pleasures of mathematics by thinking deeply using hands and brains.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことは	論理的な文章を練習する。
第 3 回	整数の性質	整数について確認する。
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第 8 回	さまざまな応用	効率的な着回し法を学ぶ。
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第 13 回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。

第14回 さまざまな応用 結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学B

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

キ1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第3回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第4回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第5回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第6回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第7回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第8回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第9回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第10回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第11回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第12回	包除原理	重なり合った集合の大きさ。
第13回	ネイピア数	有限のものを無限で近似する。
第14回	さまざまな応用	プレゼント交換で成功する回数。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいつかは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを経由したコンテンツ配信・資料配付に基づいて授業を進める。その中で、様々な例で具体的なイメージを作りながら、演習問題を通して重要事項を理解していく。具体的な方法等は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	講義内容の概要と重要性を説明する。
第 02 回	整数論の基礎	整数論の基本的な定義や用語を確認する。
第 03 回	ユークリッドの互除法	21 分と 50 分の砂時計を使って 1 分を計る方法を考える。
第 04 回	合同式	合同式の基本的な性質と計算方法を学ぶ。
第 05 回	連立合同式	合同式を利用して、上記例題の解法を修得する。
第 06 回	整数論の応用	整数論を利用した公開鍵暗号の仕組みを理解する。

第 07 回 エラトステネスの篩	素数表の作成法と素数分布の特徴を紹介する。
第 08 回 計算の一般化	行列の基本的な定義や用語を理解する。
第 09 回 行列の基本計算	行列の掛算と計算の意味を理解する。
第 10 回 行列計算の応用	日本の 2030 年人口の予測を行う。
第 11 回 隣接行列・確率行列	隣接行列・確率行列の応用例を学ぶ。
第 12 回 逆行列	逆行列の計算方法とその応用例を学ぶ。
第 13 回 項書換え系	項書換え系の基本的な定義を理解する。
第 14 回 項書換え系の応用	項書換え系を利用した代数問題の解法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（配布資料は授業支援システム経由でも入手できるようにします。）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容が難しいと解答する学生の割合は徐々に減少しているように思います。今後も、普段のコミュニケーションを通して、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを経由したコンテンツ配信・資料配信に基づいて授業を進める。その中で、様々な例で具体的なイメージを作りながら、演習問題を通して重要事項を理解していく。具体的な方法等は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	講義内容の概要と重要性を説明する。
第 02 回	動的計画法	動的計画法の基本的な考え方を理解する。
第 03 回	ナップサック問題	ナップサックに最も効率よく財宝を詰込む方法を求める。
第 04 回	予習時間計画問題	試験に対する最適な予習時間配分の求め方を紹介する。
第 05 回	編集距離	2つの文字列の類似度の測定方法を紹介する。
第 06 回	グラフ理論	グラフ理論の基礎となる定義と用語を理解する。
第 07 回	グラフ理論の応用例	グラフ理論の初歩的な活用事例を紹介する。
第 08 回	プリム法	東京 23 区役所の効率的なネットワーク配線法を求める。

第 09 回	集合場所の問題	最小コストで全員が集合できる駅を求める方法を学ぶ。
第 10 回	オイラーの定理	上記例題に答える為の定理を紹介する。
第 11 回	一筆書きの構成	一筆書き経路を具体的に作成する方法を学ぶ。
第 12 回	ダイキストラ法	町田から羽田空港への最短経路を求める。
第 13 回	組合せ論	順列と組合せの基本的な計算方法を学ぶ。
第 14 回	母関数	100 円の両替パターンの総数を求める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（配付資料は授業支援システム経由でも入手できるようにします。）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容が難しいと解答する学生の割合は徐々に減少しているように思います。今後も、普段のコミュニケーションを通して、参考のできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。 学習支援システムによるオンライン授業。
第 2 回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々の整数の計算についてその計算量を考察する。
第 3 回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第 4 回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第 5 回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第 6 回	整数の表現	2 進数について学ぶ。
第 7 回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第 8 回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第 9 回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第 10 回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第 11 回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。

第 12 回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第 13 回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムによる、小テスト、レポート、で総合的に評価する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第 3 回	安定マッチング 1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第 4 回	安定マッチング 2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算すること、安定マッチング問題を理解する。
第 5 回	課題提出 1	最初の課題を与える。
第 6 回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。

第 7 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義.	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える.
第 8 回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する.
第 9 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性.	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明.
第 10 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する.
第 11 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する.
第 12 回	練習問題	GS アルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える.
第 13 回	2 番目の課題	2 番目の課題を与える.
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムによる、小テスト、レポート、で総合的に評価する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを経由したコンテンツ配信・資料配信に基づいて授業を進める。その中で、様々な例で具体的なイメージを作りながら、演習問題を通して重要事項を理解していく。具体的な方法等は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々の整数の計算についてその計算量を考察する。
第 3 回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第 4 回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第 5 回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第 6 回	整数の表現	2 進数について学ぶ。
第 7 回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第 8 回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第 9 回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第 10 回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第 11 回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。
第 12 回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第 13 回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムによる、小テスト、レポート、で総合的に評価する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを経由したコンテンツ配信・資料配付に基づいて授業を進める。その中で、様々な例で具体的なイメージを作りながら、演習問題を通して重要事項を理解していく。具体的な方法等は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第 3 回	安定マッチング 1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第 4 回	安定マッチング 2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算すること、安定マッチング問題を理解する。
第 5 回	課題提出 1	最初の課題を与える。
第 6 回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。
第 7 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義。	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える。

第 8 回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する。
第 9 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性.	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明.
第 10 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する.
第 11 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する.
第 12 回	練習問題	GS アルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える.
第 13 回	2 番目の課題	2 番目の課題を与える.
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムによる、小テスト、レポート、で総合的に評価する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。 学習支援システムによるオンライン授業。
第 2 回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々の整数の計算についてその計算量を考察する。
第 3 回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第 4 回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第 5 回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第 6 回	整数の表現	2 進数について学ぶ。
第 7 回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第 8 回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第 9 回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第 10 回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第 11 回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。

第 12 回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第 13 回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムによる、小テスト、レポート、で総合的に評価する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第 3 回	安定マッチング 1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第 4 回	安定マッチング 2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算すること、安定マッチング問題を理解する。
第 5 回	課題提出 1	最初の課題を与える。
第 6 回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。

第 7 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義.	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える.
第 8 回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する.
第 9 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性.	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明.
第 10 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する.
第 11 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する.
第 12 回	練習問題	GS アルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える.
第 13 回	2 番目の課題	2 番目の課題を与える.
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムによる、小テスト、レポート、で総合的に評価する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

営 1 年 A・B・C / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけらる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

営 1 年 A・B・C / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 D・E / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけらる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることで求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

当科目は新規担当のため過去のアンケート等はありません。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 D・E / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

当科目は新規担当のため過去のアンケート等はありません。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 F / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけらる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることで求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 F / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 R・S / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけらる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 R・S / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

営 1 年 O・Q・T・U / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることで求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

当科目は新規担当のため過去のアンケート等はありません。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

営 1 年 O・Q・T・U / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

当科目は新規担当のため過去のアンケート等はありません。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを経由したコンテンツ配信・資料配付や Zoom を利用して授業を進める。その中で、様々な例で具体的なイメージを作りながら、演習問題を通して重要事項を理解していく。具体的な方法等は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを経由したコンテンツ配信・資料配付や Zoom を利用して授業を進める。その中で、様々な例で具体的なイメージを作りながら、演習問題を通して重要事項を理解していく。具体的な方法等は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

営 1 年 G・H・J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけらる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。大学の行動方針レベルが2となった場合には原則としてオンラインで行う。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド方式のオンライン授業では受講生の理解度の把握や授業参加意識の向上のために学習支援システムのテスト／アンケート機能を活用する重要性を感じた。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

営 1 年 G・H・J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

期末試験が実施されなかった昨年度は電子演算機器、情報資源、人的資源を有効に活用する総合力が成績評価に大きく影響したように感じられた。学期開始の時点で人間関係が形成されていた2年次以上の履修生が人的資源を有効に活用する傾向が見られた。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2単位

営 1年 K・L・M / 法文営国環キ 2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることで求められる。フィードバックは学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。大学の行動方針レベルが2となった場合には原則としてオンラインで行う。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列 1	数列とは
第3回	数列 2	等差数列
第4回	数列 3	等比数列
第5回	数列 4	Σ記号
第6回	数列 5	階差数列
第7回	指数と対数 1	指数とは
第8回	指数と対数 2	指数の計算
第9回	指数と対数 3	対数とは
第10回	指数と対数 4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド方式のオンライン授業では受講生の理解度の把握や授業参加意識の向上のために学習支援システムのテスト／アンケート機能を活用する重要性を感じた。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 K・L・M / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

期末試験が実施されなかった昨年度は電子演算機器、情報資源、人的資源を有効に活用する総合力が成績評価に大きく影響したように感じられた。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 A～G、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀末から 20 世紀にかけての物理学の発展には目覚ましいものがある。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからである。この講義では最初に、私たちの身の周りで起こる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力について解説し、次に、物体の運動に関係し、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギー等について解説する。

【到達目標】

この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章、原子から宇宙まで	講義の全体について紹介する。
第 2 回	惑星の運動（ケプラー）	ケプラーの法則について解説する。
第 3 回	地上での物体の運動（ガリレオ）	ガリレオによる、地上における物体の運動の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	物体の運動を理解するために必要となる、速度と加速度について解説する。
第 5 回	空中での物体の運動	空中での物体の運動や、重力加速度について解説する。
第 6 回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説する。
第 7 回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力について解説する。
第 8 回	惑星の運動	万有引力の成功例として、ハレー彗星や惑星の運動について解説する。
第 9 回	スペースシャトル、人工衛星の運動	人工衛星等、地球の周りを周回する物体の運動について解説する。
第 10 回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則について解説する。

第 11 回	熱の法則と熱効率	熱に関係する法則と熱効率について解説する。
第 12 回	気体の法則、絶対零度	気体の法則について解説する。
第 13 回	気体分子の運動と温度	気体分子の運動と温度の関係について解説する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」からの課題 70%と期末試験の成績 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline and objectives】

This course teaches the physical phenomena, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. It is the aim of this course to help students understand physical way of thinking to make an judgement on the merits and demerits of technology.

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 A～G、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100 年前と比べて大きく変化した。現代物理学の特徴の 1 つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことである。現在も物理学は発展し続けており、例えば 21 世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしている。この講義では、最初に身近な光（電磁波）について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説する。

【到達目標】

この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	光の性質 〈波動性〉	光（電磁波）の波動性について解説する。
第 2 回	光の性質 〈粒子性〉	太陽電池に関係する、光の粒子性について解説する。
第 3 回	光の性質 〈二重性〉	光の二重性や、ミクロの世界の不思議について紹介する。
第 4 回	水素ランプからの光	ランプから発せられる光の波長の法則について解説する。
第 5 回	原子の構造 〈電子の発見〉	陰極線から電子の発見に至る研究について解説する。
第 6 回	原子の構造 〈原子核の発見〉	原子の構造について解説する。
第 7 回	原子核の構造と核エネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。
第 8 回	核分裂と核融合	核分裂反応と核融合反応の応用について解説する。
第 9 回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第 10 回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の 1 つの超新星爆発について解説する。
第 11 回	宇宙での元素合成	宇宙の中で、元素がどのようにして合成されたのか解説する。

第12回	クォークとレプトン	万物の基となる素粒子、クォークとレプトンについて解説する。
第13回	宇宙の進化	これまで宇宙はどのようにして進化してきたのか、解説する。
第14回	銀河系、宇宙の大規模構造	我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造について、紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」からの課題70%と期末試験の成績30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline and objectives】

This course teaches physics after the 20th century, such as light, elementary particles and the universe. It is the aim of this course to help students understand physical way of thinking to make an judgement on the merits and demerits of technology.

PHY100LA

入門物理学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

法1年S～W／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は、原子から宇宙まで、広く自然現象やそのしくみを理解することが大きな目的であり、世界中で日々研究がなされている。そうした研究によって物理学は現在でも大いに進展しているが、物理学の基礎となるのが本授業で扱う「力学（ニュートン力学）」である。力学は、ガリレオ・ガリレイやアイザック・ニュートンが発見した法則や、彼らが示した科学的な見方・考え方が出発点となっている。この授業では、身近な具体例をできるだけ取り上げながら、力学の法則やその意味、法則を通してどのようなことが理解できるのかを解説し、現代科学を理解するうえでも重要な科学的な見方や考え方がどのようなものかを紹介する。

本授業を通して、学生は、天体の運動を含め、身の回りの様々な力学現象が物理学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
- ・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
- ・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業のハイブリッド方式で行う。初回授業を含め、各回の授業方式は学習支援システム上で連絡する。対面授業として実施する回では、スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。オンライン授業では、原則として資料配布型オンデマンド授業とする予定であり、資料は学習支援システム上で配布する。オンライン授業・対面授業の実施方式にかかわらず、各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。

高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序章	授業全体の内容を紹介する
第2回	惑星の運動	ケプラーの法則を中心に惑星の運動を解説するとともに、星座をつくる星（恒星）と惑星との夜空での見え方の違いを説明する
第3回	ガリレオが発見した法則	ガリレオ・ガリレイが発見した落体の法則と慣性の法則について解説する

第 4 回	速度と加速度	運動を表すために必要な速度と加速度について解説する
第 5 回	ニュートンの運動の法則	最も基本的で重要な法則であるニュートンの運動の法則について解説する
第 6 回	力のつりあいと浮力	力がつりあった状態がどのようなものか説明する。また、浮力について紹介する
第 7 回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する
第 8 回	摩擦力と空気抵抗	摩擦力や空気抵抗がある場合、物体の運動がどのようになるか解説する
第 9 回	回転運動とコリオリ力	台風の渦を具体例に、回転運動やコリオリ力について紹介する
第 10 回	運動の勢いを表すには？	運動量保存則について解説する
第 11 回	「エネルギー」を定義する	自然科学・物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する
第 12 回	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する
第 13 回	ロケットと人工衛星	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する
第 14 回	まとめ	春学期のまとめを行う。また、第 13 回までに実施した小テストの講評と解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の整理や復習を行うことが望ましい。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・Recognize and recall the Newtonian laws of motion and universal gravitation
- ・Discuss the similarities and differences in motions of objects on the Earth and in the universe
- ・Explain the falling motion of objects
- ・Describe the scientific definition of the work and energy
- ・Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法 1 年 S～W / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に大きな宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20 世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本授業を通して現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】

- ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
- ・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業のハイブリッド方式で行う。初回授業を含め、各回の授業方式は学習支援システム上で連絡する。

対面授業として実施する回では、スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。オンライン授業では、原則として資料配布型オンデマンド授業とする予定であり、資料は学習支援システム上で配布する。オンライン授業・対面授業の実施方式にかかわらず、各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。

高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第 2 回	光に関する現象	虹や蜃気楼などの現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第 3 回	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
第 4 回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第 5 回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第 6 回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する

第 7 回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
第 8 回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
第 9 回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
第 10 回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第 11 回	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第 12 回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第 13 回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめを行う。また、第 13 回までに実施した小テストの講評と解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の整理や復習を行うことが望ましい。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関して、小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms
- ・ Explain the structure of atom focusing on the electron orbits
- ・ Explain the basic principles of the experiment that confirms the existence of the atomic nucleus
- ・ Recognize and recall the properties of the alpha, beta and gamma-ray as typical radiations
- ・ Describe the scientific concept of elementary particles
- ・ Explain the energy source of the stars
- ・ Explain the Big Bang in the early universe

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで A

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法 1 年 H～N・Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、我々の身の回りの力や運動に関係する現象と、それらを支配している法則（ニュートンの法則）について、歴史的側面を概観しながら解説する。
- ・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々の身の回りで起こっている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章 (1)	自然科学全般の研究対象と、本講義で学ぶ対象との関係について学ぶ。
2	序章 (2)	ミクロな世界（原子）からマクロな世界（宇宙）まで、自然界の階層性について理解する。
3	天界の法則と地上の法則 (1)	天体のみかけの運動を天動説、地動説それぞれの立場で説明し、その長所・短所を理解する。
4	天界の法則と地上の法則 (2)	地球から見た太陽と惑星の位置関係を利用して、惑星運動の法則が得られることを理解する。
5	天界の法則と地上の法則 (3)	落体の運動にみられる法則性を理解する。
6	運動法則 (1)	力学の基本法則（原理）としてのニュートンの法則の内容を理解する。
7	運動法則 (2)	万有引力の法則について理解する。
8	運動法則 (3)	運動量やエネルギーの意味とそれらが保存されていることを理解する。

9	色々な運動 (1)	等速度運動、等加速度運動など、運動の基本的な記述の仕方を学ぶ。
10	色々な運動 (2)	空気抵抗がある場合などのより現実的な落下運動について考える。
11	色々な運動 (3)	バネの運動や、スポーツにおける色々な運動について考える。
12	色々な運動 (4)	乗り物に乗っているときや自転している地球上での運動について考える。
13	色々な運動 (5)	宇宙における天体の運動や地球外の日体に向かうための力学的条件について考える。
14	まとめ	物体運動の予言性（決定論・非決定論）について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・配付資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。
- ・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、学習支援システムを用いて資料を配布する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- ・「世界のたね－真理を追いもとめる科学の物語」アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・演習問題）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を6割程度とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of Newtonian mechanics, which is very fundamental filed of physics.

Students will learn how motions around themselves, in the universe, etc. are explained from the fundamental laws.

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで B

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法 1 年 H～N・Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、熱（熱伝導、熱機関、...）、光（気圧、虹、光通信、光電池、...）といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。
- ・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章	講義の概要を理解する。
2	熱現象 (1)	熱の諸現象の基礎的概念について学ぶ。
3	熱現象 (2)	熱の移動や伝達、熱とエネルギーとの関係について学ぶ。
4	熱現象 (3)	生命活動のエネルギー源、および熱を用いて仕事をする熱機関について学ぶ。
5	熱現象 (4)	熱現象を微視的に理解することを考える。
6	波	波動一般についてその基礎的事項を学ぶ。
7	波としての光 (1)	光の屈折や分散という性質について学ぶ。
8	波としての光 (2)	光の回折や干渉という性質について学ぶ。
9	粒子としての光 (1)	物の色と温度との関係について学ぶ。
10	粒子としての光 (2)	光電効果、原子スペクトルの意味とその特徴について学ぶ。
11	原子のモデル	原子が光を放出したり吸収したりする性質を説明するための、原子モデルについて考える。

12	物の色と光 (1)	光による現象・風景や物の色の例として、空の色、照明などについて学ぶ。
13	物の色と光 (2)	天体の色やオーロラの発光について学ぶ。
14	太陽エネルギー	太陽から発生しているエネルギーと地球との関係を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配布資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。
 ・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。
 ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
 ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
 ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
 （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・演習問題）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を6割程度とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of physics related to thermal phenomena, light, atoms, etc.
 Students will learn how various phenomena around us, such as heat, mirage, rainbow, aurora, etc., are explained from the fundamental laws.

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる自然の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然や物の理（ことわり）の探求は、物の運動の法則を探求することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも、物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらえる授業を目指す。

【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則（力学）によってシンプルに説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では、そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

授業は対面とオンラインのハイブリッド型で行う。対面とオンラインをどのように振り分けるか学生諸君の意見も取り入れたいのでアンケートを実施する予定である。初回授業はオンラインで、2 回目は対面で行う（2 回目は予定）ので判断の参考にしてほしい。対面・オンラインの振り分け方としては、「小テストおよび期末試験の実施日は対面とし、その他はオンラインする」などが考えられる。授業形態は学習支援システムに掲示するのでチェックを忘れないように。オンラインの場合は Zoom によるリアルタイム授業（参加は任意）を行い、参加できなかった学生がオンデマンドで視聴できるように録画を公開する。対面授業の動画（対応する内容を説明した動画）の公開も検討している。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後には必ず学習支援システムを確認しよう。授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペントプレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに前回の小テスト（レポート）のフィードバックを行う。

授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第 2 回	山手線が等速度で走ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第 3 回	自然は重ね合わせを好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。
第 4 回	投げたボールの未来を予想する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第 5 回	勢いがつくると止まらない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第 6 回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときに感じる慣性力を理解する。
第 7 回	ジェットコースターが滑り始めた高さを越えられないのはなぜか	エネルギーとエネルギーの保存について学ぶ。
第 8 回	光子帆船イカロス	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第 9 回	二人が引き合う理由	万有引力を学び地球の質量を求める。
第 10 回	地面に落ちないで落下を続ける方法	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第 11 回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第 12 回	相対論的ダイエット法	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第 13 回	ダイエットしても重くなる	動く物体の質量が増加することを学ぶ。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力が自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。

本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業で使ったパワーポイントスライドの pdf ファイルを学習支援システムで公開する。オンライン授業（可能であれば対面授業も）は録画を Google Drive で共有して視聴できるようにする。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・新装版 相対論の ABC 福島肇（著）講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テスト or レポート、配分 60 %）と期末試験（レポートになる可能性もある）（配分 40 %）で評価する。小テストと期末試験ではノートと授業で使ったスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）を参照可とする。難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席（or 録画の視聴）していれば簡単に思えるはずである。平常評価の割合が大きいの、出席（or 録画の視聴）は重要である。対面授業時に病欠などのやむを得ない理由により小テストを受けられなかった場合には、レポートを課す場合もある。また、状況により成績評価の方法を変えざるを得ない場合（昨年度がそうであった）もある。評価方法が変わった場合は学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PC など）が必要である。

【その他の重要事項】

対面授業の場合は、授業に出席して講義を聴くことが何よりも重要である。オンラインの場合はリアルタイム授業に参加するか録画を必ず視聴しよう。平常点の割合が高いことに注意せよ。やむを得ない理由により小テストを受験できなかった時の措置は、学習支援システムに掲示する。

【Outline and objectives】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：オーロラと太陽と宇宙

鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。本授業では、原子や素粒子の極微のスケールから地球、オーロラ、さらには太陽、銀河系、ブラックホールなどの宇宙スケールの話までを扱う。また、日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくはない電気や磁気の話も解説する。さらに、宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで、我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでもらいたい。

授業は対面とオンラインのハイブリッド型で行う。対面とオンラインをどのように振り分けるか学生諸君の意見も取り入れたいのでアンケートを実施する予定である。初回授業は対面、2 回目はオンラインで行う予定なので判断の参考にしてほしい。対面・オンラインの振り分け方としては、「小テストおよび期末試験の実施日は対面とし、その他はオンラインする」などが考えられる。授業形態は学習支援システムに掲載するのでチェックを忘れないように。オンラインの場合は Zoom によるリアルタイム授業（参加は任意）を行い、参加できなかった学生がオンデマンドで視聴できるように録画を公開する。対面授業の動画（対応する内容を説明した動画）の公開も検討している。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後には必ず学習支援システムを確認しよう。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに前回的小テスト（レポート）のフィードバックを行う。

授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子について学ぶ。
第 2 回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第 3 回	昼間の空は青いのに夕焼けが赤いのはなぜか	光の性質と光のスペクトルを理解する。
第 4 回	粒子は波である	極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第 5 回	力の正体を暴く	電気と磁気の基本を学ぶ。
第 6 回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。
第 7 回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第 8 回	宇宙の風に乗る	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。
第 9 回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第 10 回	太陽がくしゃみをする と地球が風邪をひく話	宇宙が地球環境に与える影響を学ぶ。
第 11 回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第 12 回	我々は宇宙の子だ	恒星の一生と超新星爆発やブラックホールについて学ぶ。
第 13 回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。
第 14 回	最新の宇宙	宇宙研究の最前線を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持とう。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に組み込んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業で使用したパワーポイントスライドの pdf ファイルを学習支援システムに掲載する。オンライン授業（可能であれば対面授業も）は録画を Google Drive で共有して視聴できるようにする。

【参考書】

・高校の物理基礎・物理の教科書
・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
・物理学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎（監修）共立出版
・物理学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎（監修）共立出版
・やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

(pdf ファイル <https://www.gakushuin.ac.jp/~881791/radbookbasic/>)

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テスト or レポート、配分 60 %）と期末試験（レポートになる可能性もある）（配分 40 %）で評価する。小テストと期末試験ではノートと授業で使用したスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）を参照可とする。難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席（or 録画の視聴）していれば簡単に思えるはずである。平常評価の割合が大きいため、出席（or 録画の視聴）は重要である。対面授業時に病欠などのやむを得ない理由により小テストを受けられなかった場合には、レポートを課す場合もある。また、状況により成績評価の方法を変えざるを得ない場合（昨年度がそうであった）もある。評価方法が変わった場合は学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PCなど）が必要である。

【その他の重要事項】

対面授業の場合は、授業に出席して講義を聴くことが何よりも重要である。オンラインの場合はリアルタイム授業に参加するか録画を必ず視聴しよう。平常点の割合が高いことに注意せよ。やむを得ない理由により小テストを受験できなかった時の措置は、学習支援システムに掲示する。

【Outline and objectives】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.

It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth.

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は、原子から宇宙まで、広く自然現象やそのしくみを理解することが大きな目的であり、世界中で日々研究がなされている。そうした研究によって物理学は現在でも大いに進展しているが、物理学の基礎となるのが本授業で扱う「力学（ニュートン力学）」である。力学は、ガリレオ・ガリレイやアイザック・ニュートンが発見した法則や、彼らが示した科学的な見方・考え方が出発点となっている。この授業では、身近な具体例をできるだけ取り上げながら、力学の法則やその意味、法則を通してどのようなことが理解できるのかを解説し、現代科学を理解するうえでも重要な科学的な見方や考え方がどのようなものかを紹介する。

本授業を通して、学生は、天体の運動を含め、身の回りの様々な力学現象が物理学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
- ・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
- ・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業のハイブリッド方式で行う。初回授業を含め、各回の授業方式は学習支援システム上で連絡する。

対面授業として実施する回では、スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合があります。オンライン授業では、原則として資料配布型オンデマンド授業とする予定であり、資料は学習支援システム上で配布する。

オンライン授業・対面授業の実施方式にかかわらず、各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。

高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	授業全体の内容を紹介する
第 2 回	惑星の運動	ケプラーの法則を中心に惑星の運動を解説するとともに、星座をつくる星（恒星）と惑星との夜空での見え方の違いを説明する
第 3 回	ガリレオが発見した法則	ガリレオ・ガリレイが発見した落体の法則と慣性の法則について解説する

第 4 回	速度と加速度	運動を表すために必要な速度と加速度について解説する
第 5 回	ニュートンの運動の法則	最も基本的で重要な法則であるニュートンの運動の法則について解説する
第 6 回	力のつりあいと浮力	力がつりあった状態がどのようなものか説明する。また、浮力について紹介する
第 7 回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する
第 8 回	摩擦力と空気抵抗	摩擦力や空気抵抗がある場合、物体の運動がどのようになるか解説する
第 9 回	回転運動とコリオリ力	台風の渦を具体例に、回転運動やコリオリ力について紹介する
第 10 回	運動の勢いを表すには？	運動量保存則について解説する
第 11 回	「エネルギー」を定義する	自然科学・物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する
第 12 回	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する
第 13 回	ロケットと人工衛星	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する
第 14 回	まとめ	春学期のまとめを行う。また、第 13 回までに実施した小テストの講評と解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の整理や復習を行うことが望ましい。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・Recognize and recall the Newtonian laws of motion and universal gravitation
- ・Discuss the similarities and differences in motions of objects on the Earth and in the universe
- ・Explain the falling motion of objects
- ・Describe the scientific definition of the work and energy
- ・Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に大きな宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20 世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本授業を通して現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】

- ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
- ・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業のハイブリッド方式で行う。初回授業を含め、各回の授業方式は学習支援システム上で連絡する。

対面授業として実施する回では、スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。オンライン授業では、原則として資料配布型オンデマンド授業とする予定であり、資料は学習支援システム上で配布する。オンライン授業・対面授業の実施方式にかかわらず、各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。

高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第 2 回	光に関する現象	虹や蜃気楼などの現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第 3 回	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
第 4 回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第 5 回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第 6 回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する

第 7 回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
第 8 回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
第 9 回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
第 10 回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第 11 回	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第 12 回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第 13 回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめを行う。また、第 13 回までに実施した小テストの講評と解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の整理や復習を行うことが望ましい。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関して、小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms
- ・ Explain the structure of atom focusing on the electron orbits
- ・ Explain the basic principles of the experiment that confirms the existence of the atomic nucleus
- ・ Recognize and recall the properties of the alpha, beta and gamma-ray as typical radiations
- ・ Describe the scientific concept of elementary particles
- ・ Explain the energy source of the stars
- ・ Explain the Big Bang in the early universe

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A～J、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀末から 20 世紀にかけての物理学の発展には目覚しいものがある。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからである。この講義では最初に、私たちの身の回りで起こる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力について解説し、次に、物体の運動に関係し、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギー等について解説する。

【到達目標】

この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章、原子から宇宙まで	講義の全体について紹介する。
第 2 回	惑星の運動（ケプラー）	ケプラーの法則について解説する。
第 3 回	地上での物体の運動（ガリレオ）	ガリレオによる、地上における物体の運動の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	物体の運動を理解するために必要となる、速度と加速度について解説する。
第 5 回	空中での物体の運動	空中での物体の運動や、重力加速度について解説する。
第 6 回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説する。
第 7 回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力について解説する。
第 8 回	惑星の運動	万有引力の成功例として、ハレー彗星や惑星の運動について解説する。
第 9 回	スペースシャトル、人工衛星の運動	人工衛星等、地球の周りを周回する物体の運動について解説する。
第 10 回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則について解説する。

第 11 回	熱の法則と熱効率	熱に関係する法則と熱効率について解説する。
第 12 回	気体の法則、絶対零度	気体の法則について解説する。
第 13 回	気体分子の運動と温度	気体分子の運動と温度の関係について解説する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」からの課題 70%と期末試験の成績 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline and objectives】

This course teaches the physical phenomena, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. It is the aim of this course to help students understand physical way of thinking to make an judgement on the merits and demerits of technology.

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A～J、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100 年前と比べて大きく変化した。現代物理学の特徴の 1 つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことである。現在も物理学は発展し続けており、例えば 21 世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしている。この講義では、最初に身近な光（電磁波）について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説する。

【到達目標】

この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	光の性質 〈波動性〉	光（電磁波）の波動性について解説する。
第 2 回	光の性質 〈粒子性〉	太陽電池に関係する、光の粒子性について解説する。
第 3 回	光の性質 〈二重性〉	光の二重性や、ミクロの世界の不思議について紹介する。
第 4 回	水素ランプからの光	ランプから発せられる光の波長の法則について解説する。
第 5 回	原子の構造 〈電子の発見〉	陰極線から電子の発見に至る研究について解説する。
第 6 回	原子の構造 〈原子核の発見〉	原子の構造について解説する。
第 7 回	原子核の構造と核エネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。
第 8 回	核分裂と核融合	核分裂反応と核融合反応の応用について解説する。
第 9 回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第 10 回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の 1 つの超新星爆発について解説する。
第 11 回	宇宙での元素合成	宇宙の中で、元素がどのようにして合成されたのか解説する。

第12回	クォークとレプトン	万物の基となる素粒子、クォークとレプトンについて解説する。
第13回	宇宙の進化	これまで宇宙はどのようにして進化してきたのか、解説する。
第14回	銀河系、宇宙の大規模構造	我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造について、紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」からの課題70%と期末試験の成績30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline and objectives】

This course teaches physics after the 20th century, such as light, elementary particles and the universe. It is the aim of this course to help students understand physical way of thinking to make an judgement on the merits and demerits of technology.

PHY100LA

入門物理学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる自然の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

営1年K～U／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然や物の理（ことわり）の探求は、物の運動の法則を探求することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも、物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらえる授業を目指す。

【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則（力学）によってシンプルに説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では、そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

授業は対面とオンラインのハイブリッド型で行う。対面とオンラインをどのように振り分けるか学生諸君の意見も取り入れたいのでアンケートを実施する予定である。初回授業はオンラインで、2回目は対面で行う（2回目は予定）ので判断の参考にしてほしい。対面・オンラインの振り分け方としては、「小テストおよび期末試験の実施日は対面とし、その他はオンラインする」などが考えられる。授業形態は学習支援システムに掲示するのでチェックを忘れないように。オンラインの場合はZoomによるリアルタイム授業（参加は任意）を行い、参加できなかった学生がオンデマンドで視聴できるように録画を公開する。対面授業の動画（対応する内容を説明した動画）の公開も検討している。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後には必ず学習支援システムを確認しよう。授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペントラレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに前回の小テスト（レポート）のフィードバックを行う。

授業自体が面白い動画（目標はYouTubeの動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第 2 回	山手線が等速度で走ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第 3 回	自然は重ね合わせを好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。
第 4 回	投げたボールの未来を予想する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第 5 回	勢いがつくると止まらない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第 6 回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときに感じる慣性力を理解する。
第 7 回	ジェットコースターが滑り始めた高さを越えられないのはなぜか	エネルギーとエネルギーの保存について学ぶ。
第 8 回	光子帆船イカロス	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第 9 回	二人が引き合う理由	万有引力を学び地球の質量を求める。
第 10 回	地面に落ちないで落下を続ける方法	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第 11 回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第 12 回	相対論的ダイエット法	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第 13 回	ダイエットしても重くなる	動く物体の質量が増加することを学ぶ。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力が自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。

本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業で使ったパワーポイントスライドの pdf ファイルを学習支援システムで公開する。オンライン授業（可能であれば対面授業も）は録画を Google Drive で共有して視聴できるようにする。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・新装版 相対論の ABC 福島肇（著）講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テスト or レポート、配分 60 %）と期末試験（レポートになる可能性もある）（配分 40 %）で評価する。小テストと期末試験ではノートと授業で使ったスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）を参照可とする。難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席（or 録画の視聴）していれば簡単に思えるはずである。平常評価の割合が大きいの、出席（or 録画の視聴）は重要である。対面授業時に病欠などのやむを得ない理由により小テストを受けられなかった場合には、レポートを課す場合もある。また、状況により成績評価の方法を変えざるを得ない場合（昨年度がそうであった）もある。評価方法が変わった場合は学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PC など）が必要である。

【その他の重要事項】

対面授業の場合は、授業に出席して講義を聴くことが何よりも重要である。オンラインの場合はリアルタイム授業に参加するか録画を必ず視聴しよう。平常点の割合が高いことに注意せよ。やむを得ない理由により小テストを受験できなかった時の措置は、学習支援システムに掲示する。

【Outline and objectives】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：オーロラと太陽と宇宙

鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

営 1 年 K~U / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。本授業では、原子や素粒子の極微のスケールから地球、オーロラ、さらには太陽、銀河系、ブラックホールなどの宇宙スケールの話までを扱う。また、日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくはない電気や磁気の話も解説する。さらに、宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に係る身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで、我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでもらいたい。

授業は対面とオンラインのハイブリッド型で行う。対面とオンラインをどのように振り分けるか学生諸君の意見も取り入れたいのでアンケートを実施する予定である。初回授業は対面、2 回目はオンラインで行う予定なので判断の参考にしてほしい。対面・オンラインの振り分け方としては、「小テストおよび期末試験の実施日は対面とし、その他はオンラインする」などが考えられる。授業形態は学習支援システムに掲載するのでチェックを忘れないように。オンラインの場合は Zoom によるリアルタイム授業（参加は任意）を行い、参加できなかった学生がオンデマンドで視聴できるように録画を公開する。対面授業の動画（対応する内容を説明した動画）の公開も検討している。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後には必ず学習支援システムを確認しよう。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに前回的小テスト（レポート）のフィードバックを行う。

授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子について学ぶ。
第 2 回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第 3 回	昼間の空は青いのになぜか焼けが赤いのはなぜか	光の性質と光のスペクトルを理解する。
第 4 回	粒子は波である	極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第 5 回	力の正体を暴く	電気と磁気の基本を学ぶ。
第 6 回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。
第 7 回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第 8 回	宇宙の風に乗る	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。
第 9 回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第 10 回	太陽がくしゃみをする と地球が風邪をひく話	宇宙が地球環境に与える影響を学ぶ。
第 11 回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第 12 回	我々は宇宙の子だ	恒星の一生と超新星爆発やブラックホールについて学ぶ。
第 13 回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。
第 14 回	最新の宇宙	宇宙研究の最前線を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持とう。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に組み込んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業で使用したパワーポイントスライドの pdf ファイルを学習支援システムに掲載する。オンライン授業（可能であれば対面授業も）は録画を Google Drive で共有して視聴できるようにする。

【参考書】

・高校の物理基礎・物理の教科書
・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
・物理学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎（監修）共立出版
・物理学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎（監修）共立出版
・やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

(pdf ファイル <https://www.gakushuin.ac.jp/~881791/radbookbasic/>)

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テスト or レポート、配分 60 %）と期末試験（レポートになる可能性もある）（配分 40 %）で評価する。小テストと期末試験ではノートと授業で使用したスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）を参照可とする。難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席（or 録画の視聴）していれば簡単に思えるはずである。平常評価の割合が大きいため、出席（or 録画の視聴）は重要である。対面授業時に病欠などのやむを得ない理由により小テストを受けられなかった場合には、レポートを課す場合もある。また、状況により成績評価の方法を変えざるを得ない場合（昨年度がそうであった）もある。評価方法が変わった場合は学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PCなど）が必要である。

【その他の重要事項】

対面授業の場合は、授業に出席して講義を聴くことが何よりも重要である。オンラインの場合はリアルタイム授業に参加するか録画を必ず視聴しよう。平常点の割合が高いことに注意せよ。やむを得ない理由により小テストを受験できなかった時の措置は、学習支援システムに掲示する。

【Outline and objectives】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.

It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth.

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで A

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、我々の身の回りの力や運動に関係する現象と、それらを支配している法則（ニュートンの法則）について、歴史的側面を概観しながら解説する。

・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。

・我々の身の回りで起こっている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。

・適時、理解度を確保するための課題を出題する。

・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章 (1)	自然科学全般の研究対象と、本講義で学ぶ対象との関係について学ぶ。
2	序章 (2)	ミクロな世界（原子）からマクロな世界（宇宙）まで、自然界の階層性について理解する。
3	天界の法則と地上の法則 (1)	天体のみかけの運動を天動説、地動説それぞれの立場で説明し、その長所・短所を理解する。
4	天界の法則と地上の法則 (2)	地球から見た太陽と惑星の位置関係を利用して、惑星運動の法則が得られることを理解する。
5	天界の法則と地上の法則 (3)	落体の運動にみられる法則性を理解する。
6	運動法則 (1)	力学の基本法則（原理）としてのニュートンの法則の内容を理解する。
7	運動法則 (2)	万有引力の法則について理解する。
8	運動法則 (3)	運動量やエネルギーの意味とそれらが保存されていることを理解する。

9	色々な運動 (1)	等速度運動、等加速度運動など、運動の基本的な記述の仕方を学ぶ。
10	色々な運動 (2)	空気抵抗がある場合などのより現実的な落下運動について考える。
11	色々な運動 (3)	バネの運動や、スポーツにおける色々な運動について考える。
12	色々な運動 (4)	乗り物に乗っているときや自転している地球上での運動について考える。
13	色々な運動 (5)	宇宙における天体の運動や地球外の天体に向かうための力学的条件について考える。
14	まとめ	物体運動の予言性（決定論・非決定論）について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・配付資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。
- ・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、学習支援システムを用いて資料を配布する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- ・「世界のたね－真理を追いもとめる科学の物語」アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・演習問題）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を6割程度とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of Newtonian mechanics, which is very fundamental filed of physics.

Students will learn how motions around themselves, in the universe, etc. are explained from the fundamental laws.

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、熱（熱伝導、熱機関、...）、光（気圧、虹、光通信、光電池、...）といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。
- ・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章	講義の概要を理解する。
2	熱現象 (1)	熱の諸現象の基礎的概念について学ぶ。
3	熱現象 (2)	熱の移動や伝達、熱とエネルギーとの関係について学ぶ。
4	熱現象 (3)	生命活動のエネルギー源、および熱を用いて仕事をする熱機関について学ぶ。
5	熱現象 (4)	熱現象を微視的に理解することを考える。
6	波	波動一般についてその基礎的事項を学ぶ。
7	波としての光 (1)	光の屈折や分散という性質について学ぶ。
8	波としての光 (2)	光の回折や干渉という性質について学ぶ。
9	粒子としての光 (1)	物の色と温度との関係について学ぶ。
10	粒子としての光 (2)	光電効果、原子スペクトルの意味とその特徴について学ぶ。
11	原子のモデル	原子が光を放出したり吸収したりする性質を説明するための、原子モデルについて考える。

12	物の色と光 (1)	光による現象・風景や物の色の例として、空の色、照明などについて学ぶ。
13	物の色と光 (2)	天体の色やオーロラの発光について学ぶ。
14	太陽エネルギー	太陽から発生しているエネルギーと地球との関係を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配布資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。
・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・演習問題）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を6割程度とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of physics related to thermal phenomena, light, atoms, etc.
Students will learn how various phenomena around us, such as heat, mirage, rainbow, aurora, etc., are explained from the fundamental laws.

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

町田 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学 A」では、ミクロな視点から生物学を学ぶことを目的とし、生物学を初めて学ぶことを想定して授業を展開します。「細胞」・「遺伝子」・「タンパク質」などついて、生物学の発展に寄与した代表的な研究の内容にもふれながら学ぶことにより、生物が生きるための精巧なしくみについての理解を深めます。

【到達目標】

生物学の基礎的な知識を会得し、生物学に関する最近の話題を理解できるようになることを目標とします。
また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
授業実施形態等の詳細につきましては「学習支援システム」を通じてお伝えします。
また、授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲示しますので、随時ご確認ください。
＊大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	細胞培養とは	細胞を用いた実験の手法等について概説します。
第 3 回	細胞の構造	生物の体を構成している細胞の構造について概説します。
第 4 回	細胞の機能	細胞の働きを支える細胞内のしくみについて概説します。
第 5 回	DNA とは	DNA はどのような物質であるかについて概説します。
第 6 回	DNA の構造	DNA の構造に関する特徴について概説します。
第 7 回	DNA の機能	DNA の配列情報からタンパク質を合成するしくみについて概説します。
第 8 回	遺伝とは	親から子へと形質が遺伝するしくみについて概説します。
第 9 回	タンパク質の性質	タンパク質とはどのような物質であるかについて概説します。
第 10 回	タンパク質の機能	タンパク質の様々な働きについて概説します。

第 11 回	生命の設計図に手を加える技術	細胞や遺伝子を操作する様々な技術について概説します。
第 12 回	生命科学の発展を支える研究	生命科学に関する研究がどのように進められているのかについて概説します。
第 13 回	振り返り	授業全体の要点を整理し、各項目のつながりを考え理解を深めます。
第 14 回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basis of biology at the microscopic level. The aim of this course is to help students understand how the body works, including cells and genes.

Lectures will also learn about representative research that has contributed to the development of biology.

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

町田 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学 B」では、マクロな視点から生物学を学ぶことを目的とし、生物学を初めて学ぶことを想定して授業を展開します。地球上には、多種多様な生物が存在しており、生命活動を営んでいます。生物の持つ様々な特徴、生物どうしの関わりについて、生物学の発展に寄与した代表的な研究の内容にもふれながら学ぶことにより、生物が環境に適応し生きていくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。

【到達目標】

生物の多様性についての知識を会得し、近年大きな課題となっている生物多様性保全の重要性に関して理解を深めることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

授業実施形態等の詳細につきましては「学習支援システム」を通じてお伝えします。

また、授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲示しますので、随時ご確認ください。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	発生とは	受精卵から個体になるまでの過程について概説します。
第 3 回	生物の多様性	地球上に生息する多種多様な生物について概説します。
第 4 回	生物の進化	生物の進化のしくみについて概説します。
第 5 回	生態系を支える生物	生態系の中での生物の役割や性質について概説します。
第 6 回	地球環境と生物	地球環境と生物の関係性について概説します。
第 7 回	生物学研究の進め方	生物学の研究手法・研究成果の発表方法などについて概説します。
第 8 回	生物の行動とは	生物の行動の特徴や、生物の行動をひもとく研究について概説します。

第 9 回	生物の体のづくり	種間で共通する点・異なる点に着目しながら生物の体のづくりについて概説します。
第 10 回	生物の生きる戦略	生物が進化の過程で手にした特徴的な性質について概説します。
第 11 回	生物の体のしくみ	生物の持つ様々な体のしくみをひもとく研究について概説します。
第 12 回	生物の中のヒトとは	多くの生物の中でのヒトの特徴について概説します。
第 13 回	振り返り	授業全体の要点を整理し、各項目のつながりを考え理解を深めます。
第 14 回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basis of biology at the macroscopic level. The aim of this course is to help students understand the characteristics of various organisms and biological diversity. Lectures will also learn about representative research that has contributed to the development of biology.

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

町田 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

営 1 年 K～U、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学 A」では、ミクロな視点から生物学を学ぶことを目的とし、生物学を初めて学ぶことを想定して授業を展開します。「細胞」・「遺伝子」・「タンパク質」などついて、生物学の発展に寄与した代表的な研究の内容にもふれながら学ぶことにより、生物が生きているための精巧なしくみについての理解を深めます。

【到達目標】

生物学の基礎的な知識を会得し、生物学に関する最近の話題を理解できるようになることを目標とします。
また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

授業実施形態等の詳細につきましては「学習支援システム」を通じてお伝えします。

また、授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲示しますので、随時ご確認ください。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	細胞培養とは	細胞を用いた実験の手法等について概説します。
第 3 回	細胞の構造	生物の体を構成している細胞の構造について概説します。
第 4 回	細胞の機能	細胞の働きを支える細胞内のしくみについて概説します。
第 5 回	DNA とは	DNA はどのような物質であるかについて概説します。
第 6 回	DNA の構造	DNA の構造に関する特徴について概説します。
第 7 回	DNA の機能	DNA の配列情報からタンパク質を合成するしくみについて概説します。
第 8 回	遺伝とは	親から子へと形質が遺伝するしくみについて概説します。
第 9 回	タンパク質の性質	タンパク質とはどのような物質であるかについて概説します。
第 10 回	タンパク質の機能	タンパク質の様々な働きについて概説します。

第 11 回	生命の設計図に手を加える技術	細胞や遺伝子を操作する様々な技術について概説します。
第 12 回	生命科学の発展を支える研究	生命科学に関する研究がどのように進められているのかについて概説します。
第 13 回	振り返り	授業全体の要点を整理し、各項目のつながりを考え理解を深めます。
第 14 回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basis of biology at the microscopic level. The aim of this course is to help students understand how the body works, including cells and genes.

Lectures will also learn about representative research that has contributed to the development of biology.

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

町田 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

営 1 年 K～U、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学 B」では、マクロな視点から生物学を学ぶことを目的とし、生物学を初めて学ぶことを想定して授業を展開します。地球上には、多種多様な生物が存在しており、生命活動を営んでいます。生物の持つ様々な特徴、生物どうしの関わりについて、生物学の発展に寄与した代表的な研究の内容にもふれながら学ぶことにより、生物が環境に適応し生きていくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。

【到達目標】

生物の多様性についての知識を会得し、近年大きな課題となっている生物多様性保全の重要性に関して理解を深めることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

授業実施形態等の詳細につきましては「学習支援システム」を通じてお伝えします。

また、授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲示しますので、随時ご確認ください。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	発生とは	受精卵から個体になるまでの過程について概説します。
第 3 回	生物の多様性	地球上に生息する多種多様な生物について概説します。
第 4 回	生物の進化	生物の進化のしくみについて概説します。
第 5 回	生態系を支える生物	生態系の中での生物の役割や性質について概説します。
第 6 回	地球環境と生物	地球環境と生物の関係性について概説します。
第 7 回	生物学研究の進め方	生物学の研究手法・研究成果の発表方法などについて概説します。
第 8 回	生物の行動とは	生物の行動の特徴や、生物の行動をひもとく研究について概説します。

第 9 回	生物の体のつくり	種間で共通する点・異なる点に着目しながら生物の体のつくりについて概説します。
第 10 回	生物の生きる戦略	生物が進化の過程で手にした特徴的な性質について概説します。
第 11 回	生物の体のしくみ	生物の持つ様々な体のしくみをひもとく研究について概説します。
第 12 回	生物の中のヒトとは	多くの生物の中でのヒトの特徴について概説します。
第 13 回	振り返り	授業全体の要点を整理し、各項目のつながりを考え理解を深めます。
第 14 回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basis of biology at the macroscopic level. The aim of this course is to help students understand the characteristics of various organisms and biological diversity. Lectures will also learn about representative research that has contributed to the development of biology.

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

文 1 年、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。さらに、遺伝子組換え作物や再生医療といった私達の生活や社会に関わる技術について考えます。授業を通じて、生物学の進歩は「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることがわかってくることでしょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。

・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。

・毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。

・リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生命観の変遷	生命とは何か、複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第 2 回	ダーウィン進化論	ダーウィンの提唱した進化論は、生物学のみならず社会にも大きな影響を与えました。
第 3 回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第 4 回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第 5 回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品には、さまざまな微生物が利用されています。
第 6 回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体は DNA という物質でした。その発見の歴史を学びます。
第 7 回	生命情報	DNA が遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。

第 8 回	ウイルスと生命	単なる物質とも生命体ともとらえられるウイルスは、生物にとってどのような存在なのでしょう。
第 9 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	DNA を改変する技術により、新たな性質をもつ生物を生み出すことが可能になりました。
第 10 回	食糧問題とバイオテクノロジー	遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。
第 11 回	ゲノムと医療	個人の DNA 配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。
第 12 回	遺伝子治療	人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることの是非を考えます。
第 13 回	クローン技術と iPS 細胞	細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。
第 14 回	移植医療・再生医療	臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介し

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 15%（アンケートへの参加率等を評価します。）
 ・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業でミニ講義をし、第 2 回目の授業のはじめにそれを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、授業支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

文 1 年、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物が集まることでできあがる生態系です。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会」と呼ばれたりしています。1+1 が 2 にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
 ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
 ・毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
 ・リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べるミクロ生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第 2 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第 3 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第 4 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第 5 回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第 6 回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介します。
第 7 回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。

第 8 回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。
第 9 回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。
第 10 回	生物の社会	人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。
第 11 回	発生・分化	一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。
第 12 回	再生	多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS 細胞や再生医療との関係も解説します。
第 13 回	薬と生物学	さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はどのように医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。
第 14 回	種と多様性	人類は多様な生き物を認識するため、名前をつけ、分類してきました。生物の「種」とは何か、基礎から考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 15%（アンケートへの参加率等を評価します。）
 ・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業でミニ講義をし、第 2 回目の授業のはじめにそれを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、授業支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法 1 年 A～G / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、DNA から細胞などのミクロレベルの生物学的現象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学的発展の歴史や科学技術、社会的課題などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。そうすることで、ニュースなどで触れる機会のある出来事や科学技術についてより良く理解するための生物学的基礎知識を得ると共に、医療や食などの身近な分野では是非が問われている科学技術についてもより明確な意見を持つことができるようになると思います。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の 3 点です。1) ミクロレベルの生物学的現象の基礎知識の取得すること。2) 取得した生物学的基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。3) 医療や食などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半では様々な生命現象についてミクロな視点から解説し、後半では「生命操作」に関わる応用分野の基礎知識や社会的動向を扱います。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、特に後半では科学技術に関するディスカッションの機会も設ける予定です。また「学習支援システム (Hoppii)」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則として zoom によるオンライン形式で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、地球の歴史において、生命はどのように誕生し進化してきたのかについても考えます。
第 2 回	細胞と生命	「生命の最小単位」であると認識されている細胞。その基本的な特徴について解説すると共に、そこに反映される生命観についても考えてみます。
第 3 回	核酸の構造と機能	DNA や RNA のような核酸は生命活動に欠かせない物質です。その核酸の基本的構造・機能について学びます。

第4回	タンパク質の構造と機能	核酸同様、タンパク質も生命活動に欠かせない物質です。タンパク質の合成過程や機能について学びます。
第5回	細胞呼吸	生物は、呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第6回	進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に分子レベルでの進化についても考えます。
第7回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に遺伝に関連する分子レベルの現象についても考えます。
第8回	ゲノム分析	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を解析できれば、その生物の全てを知ることができるでしょうか。ゲノム分析はヒトをはじめとする生命について何を教えてくれるかを考えて見ます。
第9回	遺伝子を操作する技術	分子生物学の急速な発展は、DNAという分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術の原理を学ぶと共に、その発展について学びます。
第10回	クローニング技術	再生医療などで注目される「クローニング技術」とは、iPS細胞などの最新技術を含めて基本原理から解説します。
第11回	生命操作と生物利用 1 ：微生物	人間は、細菌類などの微生物を古代から活用してきましたが、遺伝子組み換え技術はそのあり方を大きく変えました。微生物利用の歴史と共に、現在の微生物技術についても学びます。
第12回	生命操作と生物利用 2 ：動植物	遺伝子組み換えやクローニング技術は、植物や動物にも適用されています。食料生産などの開発・実用事例から現状を解説します。
第13回	生命倫理	生物学の進歩によって、人類は生命に干渉・介入する手段を次々と獲得してきました。それは、人類の未来にとって何を意味するのか。特に医療分野に注目して考えてみます。
第14回	科学技術は誰のもの？	科学技術の開発・運用に関わる社会経済的背景について考察しながら急速に発展するバイオテクノロジーの社会的課題や市民社会の関わり方について考えてみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。
欠席時には Hoppi 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・学習支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。総合成績で60%以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業に参加しているという実感の持てる進行を各回で工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスの確保。リモート講義になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provides an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.

BIO100LA

入門生物学B

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法 1 年 A～G / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。日常的に接する機会のある自然環境・資源関連のニュースなどの理解も深まるでしょう。また、そこから問題解決への考え・意見を持つことができると思います。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の2点です。1) 社会的に重要視されている種々の環境問題をよりよく理解するための生物学的基礎知識の取得すること。2) 取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「生態系」「生物同士の関係」「生物多様性」の三部構成で、関連する基礎知識を解説します。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、演習などの参加型の学習機会も設ける予定です。また「学習支援システム (Hoppii)」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則として zoom によるオンライン形式で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。「個体群」以上の階層構造を確認しながら、導入として生物の個体群の見せる数量的な振舞い（個体群動態）の基礎を学びます。
第 2 回	生態系の成り立ち	全ての生態系に共通する基本構造と共に、多種多様な生態系が生み出される仕組みを学び、そもそも生態系とは何なのかを考えます。
第 3 回	生態系のはたらき 1：エネルギーの供給	光合成のメカニズムと食物連鎖によるエネルギーの受け渡しから生態系におけるエネルギー供給について学びます。
第 4 回	生態系のはたらき 2：物質の供給	炭素や窒素を例に物質循環を学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。

第 5 回	生態系のふるまい：安定した生態系とは？	生態系の不安定化が問題視される一方、「安定した生態系」とはどのようなものかは正しく理解されているのでしょうか？生態学的な安定性について考えます。
第 6 回	森林資源の持続可能性	人間は生態系を壊さずに必要な資源利用を続けることができるのでしょうか？持続可能な森林資源管理をテーマに演習を行います。
第 7 回	生物の生存戦略	生物は、同種・異種の個体同士が互いに関わり合いながら生きています。生き残るために生物はどんな「工夫」をしているのかを考えます。
第 8 回	共存する生物たち：競争と共生	異なる生物同士はどのように共存しているのでしょうか？「競争」と「共生」の観点から考えます。
第 9 回	生物がつくるコミュニティ	様々な生物によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第 10 回	多目的利用のための森林管理	人間にとって有害な生物と有益な生物が入り混じった環境で私たちはどのように自然と触れ合えばいいのでしょうか？多目的利用のための森林管理を例に演習を行います。
第 11 回	生物多様性とは	生物多様性とは何か。その成り立ち、新たな生物が生み出されるメカニズムや生態系機能との関係性について学びます。
第 12 回	生物多様性と人間社会	「大量絶滅」と「生態系サービス」の2つの観点から生物多様性と人間の関係を考えます。
第 13 回	保全生態学	生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、保全の取り組み事例から基本的なアプローチと課題について学びます。
第 14 回	人間の活動を含めた環境保全	農地や都市といった人間の活動と環境保全の両立を目指す取り組みを通して秋学期の学習のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・授業支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく問題解決への応用力（到達目標2）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況や演習での参加度などを評価するものです。総合成績で60%以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

演習以外にも各回で参加型の授業進行ができるような工夫を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスの確保。

Zoom による授業になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provides an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may come in contact with in their daily life.

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、DNA から細胞などのミクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学的発展の歴史や科学技術、社会的課題などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。そうすることで、ニュースなどで触れる機会のある出来事や科学技術についてより良く理解するための生物学的基礎知識を得ると共に、医療や食などの身近な分野では是非が問われている科学技術についてもより明確な意見を持つことができるようになると思います。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1) ミクロレベルの生物学的事象の基礎知識の取得すること。2) 取得した生物学的基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。3) 医療や食などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半では様々な生命現象についてミクロな視点から解説し、後半では「生命操作」に関わる応用分野の基礎知識や社会的動向を扱います。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、特に後半では科学技術に関するディスカッションの機会も設ける予定です。また「学習支援システム (Hoppii)」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則として zoom によるオンライン形式で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、地球の歴史において、生命はどのように誕生し進化してきたのかについても考えます。
第 2 回	細胞と生命	「生命の最小単位」であると認識されている細胞。その基本的な特徴について解説すると共に、そこに反映される生命観についても考えてみます。
第 3 回	核酸の構造と機能	DNA や RNA のような核酸は生命活動に欠かせない物質です。その核酸の基本的構造・機能について学びます。

第 4 回	タンパク質の構造と機能	核酸同様、タンパク質も生命活動に欠かせない物質です。タンパク質の合成過程や機能について学びます。
第 5 回	細胞呼吸	生物は、呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第 6 回	進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に分子レベルでの進化についても考えます。
第 7 回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に遺伝に関連する分子レベルの現象についても考えます。
第 8 回	ゲノム分析	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を解析できれば、その生物の全てを知ることができるでしょうか。ゲノム分析はヒトをはじめとする生命について何を教えてくれるかを考えて見ます。
第 9 回	遺伝子を操作する技術	分子生物学の急速な発展は、DNA という分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術の原理を学ぶと共に、その発展について学びます。
第 10 回	クローニング技術	再生医療などで注目される「クローニング技術」とは、iPS 細胞などの最新技術を含めて基本原理から解説します。
第 11 回	生命操作と生物利用 1 ：微生物	人間は、細菌類などの微生物を古代から活用してきましたが、遺伝子組み換え技術はそのあり方を大きく変えました。微生物利用の歴史と共に、現在の微生物技術についても学びます。
第 12 回	生命操作と生物利用 2 ：動植物	遺伝子組み換えやクローニング技術は、植物や動物にも適用されています。食料生産などの開発・実用事例から現状を解説します。
第 13 回	生命倫理	生物学の進歩によって、人類は生命に干渉・介入する手段を次々と獲得してきました。それは、人類の未来にとって何を意味するのか。特に医療分野に注目して考えてみます。
第 14 回	科学技術は誰のもの？	科学技術の開発・運用に関わる社会経済的背景について考察しながら急速に発展するバイオテクノロジーの社会的課題や市民社会の関わり方について考えてみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。
欠席時には Hoppi 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・学習支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標 1、2）を定期的に評価するため 2 回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標 3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。総合成績で 60%以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業に参加しているという実感の持てる進行を各回で工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスの確保。リモート講義になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provides an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.

BIO100LA

入門生物学B

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。日常的に接する機会のある自然環境・資源関連のニュースなどの理解も深まるでしょう。また、そこから問題解決への考え・意見を持つことができると思います。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の2点です。1) 社会的に重要視されている種々の環境問題をよりよく理解するための生物学的基礎知識の取得すること。2) 取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「生態系」「生物同士の関係」「生物多様性」の三部構成で、関連する基礎知識を解説します。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、演習などの参加型の学習機会も設ける予定です。また「学習支援システム (Hoppii)」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則として zoom によるオンライン形式で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。「個体群」以上の階層構造を確認しながら、導入として生物の個体群の見せる数量的な振舞い（個体群動態）の基礎を学びます。
第 2 回	生態系の成り立ち	全ての生態系に共通する基本構造と共に、多種多様な生態系が生み出される仕組みを学び、そもそも生態系とは何なのかを考えます。
第 3 回	生態系のはたらき 1：エネルギーの供給	光合成のメカニズムと食物連鎖によるエネルギーの受け渡しから生態系におけるエネルギー供給について学びます。
第 4 回	生態系のはたらき 2：物質の供給	炭素や窒素を例に物質循環を学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。

第 5 回	生態系のふるまい：安定した生態系とは？	生態系の不安定化が問題視される一方、「安定した生態系」とはどのようなものかは正しく理解されているのでしょうか？生態学的な安定性について考えます。
第 6 回	森林資源の持続可能性	人間は生態系を壊さずに必要な資源利用を続けることができるのでしょうか？持続可能な森林資源管理をテーマに演習を行います。
第 7 回	生物の生存戦略	生物は、同種・異種の個体同士が互いに関わり合いながら生きています。生き残るために生物はどんな「工夫」をしているのかを考えます。
第 8 回	共存する生物たち：競争と共生	異なる生物同士はどのように共存しているのでしょうか？「競争」と「共生」の観点から考えます。
第 9 回	生物がつくるコミュニティ	様々な生物によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第 10 回	多目的利用のための森林管理	人間にとって有害な生物と有益な生物が入り混じった環境で私たちはどのように自然と触れ合えばいいのでしょうか？多目的利用のための森林管理を例に演習を行います。
第 11 回	生物多様性とは	生物多様性とは何か。その成り立ち、新たな生物が生み出されるメカニズムや生態系機能との関係性について学びます。
第 12 回	生物多様性と人間社会	「大量絶滅」と「生態系サービス」の2つの観点から生物多様性と人間の関係を考えます。
第 13 回	保全生態学	生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、保全の取り組み事例から基本的なアプローチと課題について学びます。
第 14 回	人間の活動を含めた環境保全	農地や都市といった人間の活動と環境保全の両立を目指す取り組みを通して秋学期の学習のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・授業支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく問題解決への応用力（到達目標2）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況や演習での参加度などを評価するものです。総合成績で60%以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

演習以外にも各回で参加型の授業進行ができるような工夫を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスの確保。

Zoom による授業になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provides an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may come in contact with in their daily life.

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 H～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。さらに、遺伝子組換え作物や再生医療といった私達の生活や社会に関わる技術について考えます。授業を通じて、生物学の進歩は「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることがわかってくることでしょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
- ・リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生命観の変遷	生命とは何か、複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第 2 回	ダーウィン進化論	ダーウィンの提唱した進化論は、生物学のみならず社会にも大きな影響を与えました。
第 3 回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第 4 回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第 5 回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品には、さまざまな微生物が利用されています。
第 6 回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体は DNA という物質でした。その発見の歴史を学びます。
第 7 回	生命情報	DNA が遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。

第 8 回	ウイルスと生命	単なる物質とも生命体ともとらえられるウイルスは、生物にとってどのような存在なのでしょう。
第 9 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	DNA を改変する技術により、新たな性質をもつ生物を生み出すことが可能になりました。
第 10 回	食糧問題とバイオテクノロジー	遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。
第 11 回	ゲノムと医療	個人の DNA 配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。
第 12 回	遺伝子治療	人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることの是非を考えます。
第 13 回	クローン技術と iPS 細胞	細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。
第 14 回	移植医療・再生医療	臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介し

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 15%（アンケートへの参加率等を評価します。）
 ・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業でミニ講義をし、第 2 回目の授業のはじめにそれを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、授業支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 H～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物が集まることでできあがる生態系です。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会」と呼ばれたりしています。1+1 が 2 にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
 ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
 ・毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
 ・リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べるミクロ生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第 2 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第 3 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第 4 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第 5 回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第 6 回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介します。
第 7 回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。

第 8 回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。
第 9 回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。
第 10 回	生物の社会	人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。
第 11 回	発生・分化	一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。
第 12 回	再生	多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS 細胞や再生医療との関係も解説します。
第 13 回	薬と生物学	さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はどのように医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。
第 14 回	種と多様性	人類は多様な生き物を認識するため、名前をつけ、分類してきました。生物の「種」とは何か、基礎から考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 15%（アンケートへの参加率等を評価します。）
・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業でミニ講義をし、第 2 回目の授業のはじめにそれを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、授業支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。さらに、遺伝子組換え作物や再生医療といった私達の生活や社会に関わる技術について考えます。授業を通じて、生物学の進歩は「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることがわかってくることでしょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
・毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
・リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生命観の変遷	生命とは何か、複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第 2 回	ダーウィン進化論	ダーウィンの提唱した進化論は、生物学のみならず社会にも大きな影響を与えました。
第 3 回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第 4 回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第 5 回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品には、さまざまな微生物が利用されています。
第 6 回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体は DNA という物質でした。その発見の歴史を学びます。
第 7 回	生命情報	DNA が遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。

第 8 回	ウイルスと生命	単なる物質とも生命体ともとらえられるウイルスは、生物にとってどのような存在なのでしょう。
第 9 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	DNA を改変する技術により、新たな性質をもつ生物を生み出すことが可能になりました。
第 10 回	食糧問題とバイオテクノロジー	遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。
第 11 回	ゲノムと医療	個人の DNA 配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。
第 12 回	遺伝子治療	人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることの是非を考えます。
第 13 回	クローン技術と iPS 細胞	細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。
第 14 回	移植医療・再生医療	臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介し

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 15%（アンケートへの参加率等を評価します。）
 ・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業でミニ講義をし、第 2 回目の授業のはじめにそれを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、授業支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物が集まることでできあがる生態系です。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会」と呼ばれたりしています。1+1 が 2 にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
 ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
 ・毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
 ・リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べるミクロ生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第 2 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第 3 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第 4 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第 5 回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第 6 回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介します。
第 7 回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。

第 8 回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。
第 9 回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。
第 10 回	生物の社会	人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。
第 11 回	発生・分化	一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。
第 12 回	再生	多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS 細胞や再生医療との関係も解説します。
第 13 回	薬と生物学	さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はどのように医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。
第 14 回	種と多様性	人類は多様な生き物を認識するため、名前をつけ、分類してきました。生物の「種」とは何か、基礎から考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 15%（アンケートへの参加率等を評価します。）
 ・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業でミニ講義をし、第 2 回目の授業のはじめにそれを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、授業支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 I～N、文 1 年 A～I・W～X、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子や分子の構造や特徴、物質からエネルギーが得られるしくみについて、主に化学の観点から学んでいきます。

【到達目標】

自然現象や環境問題について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、自然科学そのものに対する興味関心を高めることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクタで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける自然科学系科目（理系科目）の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第 2 回	物質の進化	元素の生い立ちについて
第 3 回	原子の構造	原子の構造と性質
第 4 回	原子固有の光	電子の軌道と光のエネルギーについて
第 5 回	同位体	放射性同位体の壊変と半減期について
第 6 回	放射線	放射線の種類と性質
第 7 回	放射線と生体	放射線の活用や生体に及ぼす影響について
第 8 回	化学結合	原子が結びつく仕組みについて
第 9 回	分子の立体構造	化学結合によってできる分子の形について
第 10 回	炭素材料	炭素原子のみでできた物質の種類と機能について
第 11 回	水と物質	物質に対する水の挙動について
第 12 回	燃焼と消火	物質と酸素の化学反応
第 13 回	電池	化学電池、特にリチウムイオン二次電池の構造と特徴
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると思われる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。授業で使用する資料を授業支援システムで公開します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回5問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします(配分 40%)。期末試験の結果(配分 60%)と平常点をあわせて成績評価します。授業形態によっては、期末試験が課題になる場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces molecular structure and properties. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 I~N、文 1 年 A~I・W~X、国 1 年／法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

暮らしの中の物質と環境問題の原因について、化学の観点から学んでいきます。

【到達目標】

現象や物質について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、複雑な記号に見える有機物質の化学構造式から、その性質をある程度読み取ることができるようになることを目標に設定しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクタで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける自然科学系科目(理系科目)の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第 2 回	光の三原色	光の性質と発光物質について
第 3 回	色の三原色	色素分子の特徴とクロミック現象について
第 4 回	自然の色素	天然の色素分子と視物質の挙動について
第 5 回	ヨウ素の科学	ヨウ素分子とヨウ化物イオン、有機ヨウ素分子の違いとそれぞれの利用について
第 6 回	光の散乱	分子の振動と光を用いた物質の分析について
第 7 回	赤外線吸収	二酸化炭素の振動のしかたと赤外線吸収の関係について
第 8 回	キラリティー	分子の右手と左手の関係について
第 9 回	液晶の発見と構造色	物質の状態変化にともなう分子の配向、運動状態の変化について
第 10 回	液晶ディスプレイ	電気を流さない物質が電場から受ける影響について
第 11 回	高分子	天然高分子と化学繊維やプラスチックの違いについて
第 12 回	触媒	化学反応を促進する原理について
第 13 回	排煙の浄化	排気ガスの浄化や化学物質の合成における触媒の役割について
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回5問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします(配分 40%)。期末試験の結果(配分 60%)と平常点をあわせて成績評価します。授業形態によっては、期末試験が課題になる場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces molecular structure and properties. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM100LA

入門化学A

2017 年度以降入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法 1 年 S~W、文 1 年 P~V / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に付けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業教材は、事前に学習支援システム(HOPPII)に提示します。毎回の授業で、HOPPII を介して課題を出します。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に HOPPII の掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時 HOPPII にてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 測定値の単位	講義概要の説明 科学で使われる測定値の単位について解説
第 2 回	物質を作るもの	原子、分子、イオンとは 原子の構造
第 3 回	元素の周期性	原子の電子配置と化学的性質、周期表
第 4 回	化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の仕組みと性質
第 5 回	化学反応の基礎	化学量論 化学反応式の書き方 化学平衡
第 6 回	酸塩基反応	酸・塩基とは、身近な中和反応
第 7 回	酸化還元反応	酸化・還元とは、身近な酸化還元反応
第 8 回	化学反応と熱	発熱反応と吸熱反応、化学エネルギーの利用
第 9 回	物質の状態	気体・液体・固体間の変化と熱収支、溶液
第 10 回	放射化学	放射性崩壊とは、放射線の種類、放射性物質

第11回	地球温暖化（1）	地球温暖化の仕組みと原因物質
第12回	地球温暖化（2）	地球温暖化の影響
第13回	大気・水質・土壌汚染	オゾン層の破壊、海洋汚染、有害物質
第14回	エネルギーと環境	化石燃料と再生可能エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。
復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システム (HOPPII) に教材をアップします。

【参考書】

一般化学 (四訂版)、長島 弘三 (著)、富田 功 (著)、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で 100 % 評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケート結果がないため、一昨年のアンケート結果に基づき、基礎化学については内容を絞ってより丁寧な説明をするとともに、環境問題をはじめ身近な話題と化学とのつながりがより理解しやすいようにします。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、および通信環境を準備し、学習支援システム (HOPPII) にアクセスできる必要があります。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics included are periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions.

CHM100LA

入門化学 B

2017 年度以降入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法 1 年 S~W、文 1 年 P~V / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および人体や環境に有害な化学物質について学習し、有害有機化学物質や有機化合物がかかわる身近な環境問題について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業教材は、事前に学習支援システム (HOPPII) に提示します。毎回の授業で、HOPPII を介して課題を出します。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に HOPPII の掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時 HOPPII にてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要の説明、物質の構成単位である原子・分子について解説
第 2 回	有機化合物の特徴	有機化合物の主な構成元素、電子式、結合、構造式について
第 3 回	官能基	有機化合物の特性を決める主な官能基について
第 4 回	親水性・疎水性 酸性・塩基性	水への溶けやすさを決める官能基や、酸性・塩基性官能基について
第 5 回	炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料について
第 6 回	酸素・窒素含有化合物	身近な酸素・窒素含有化合物の構造と性質について
第 7 回	芳香族化合物	身近な芳香族化合物の構造と性質について
第 8 回	有機化合物の酸化反応	有機化合物の酸化反応について、燃焼反応、反応熱について
第 9 回	有機化合物の重合反応	重合反応とは、プラスチックの特性、海洋プラスチック問題について

第 10 回	生体を作る有機化合物	糖質とタンパク質について
	①	
第 11 回	生体を作る有機化合物	脂質と核酸について
	②	
第 12 回	生体内の化学反応	酵素、代謝について
第 13 回	有害化学物質	人体や生態系に有害な化学物質について
第 14 回	化学物質の管理	化学物質の有害性情報のみかたについて、有害化学物質の管理について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。
復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システム (HOPPII) に教材をアップします。

【参考書】

一般化学 (四訂版)、長島 弘三 (著)、富田 功 (著)、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で 100 % 評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業内容と課題についてはおおむね好評だったので、今年度も同様に、化学の基礎的事項の丁寧な説明と、身近な問題や環境問題と化学とのつながりについて理解が深まるような講義にしたいと思います。授業の仕方については、前年度は資料型オンデマンド授業として文書教材の配布によりましたが、音声説明の要望があったため、今年度は Zoom や動画資料の配布を併用します。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、および通信環境を準備し、学習支援システム (HOPPII) にアクセスできる必要があります。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics included are chemical bonds, functional groups, acid-base, oxidation-reduction, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms.

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

営 1 年、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では核エネルギーの利用に関連する環境問題やエネルギー消費過程について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立しています。しかしながら、一人当たりのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕しており、新しいエネルギー資源の開発が必要不可欠となっています。春学期の本授業では核エネルギーを取り上げます。原子核の構造から原子力発電の仕組みに至るまで、関連分野を化学的に理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、オンデマンド授業（資料型等）の形態によって行われます。すなわち、毎回の授業では、学習支援システム（HOPPII）にアップロードされた学習メモ、スライド資料、プリント教材、課題ファイルなどをダウンロードして各自で学習を行います。その後、Zoom を使用する双方向型授業（金曜日 3 時限）に参加していただき、理解を深めます。質問等は、Zoom 授業内のほか、HOPPII の掲示板を通して受付けます。さらに、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、課題を課題ファイルに作成します。完成した課題ファイルは、HOPPII を通して提出期限までに提出します。課題内容については、次の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について解説する。
第 2 回	原子の構造	原子を構成する素粒子や原子が結合して生成する分子について解説し、原子に関する理解を深める。
第 3 回	同位体	同位体について解説する。安定同位体・放射性同位体の種類や性質を学習する。
第 4 回	放射性壊変（1）	α 壊変および β 壊変について学習する。
第 5 回	放射性壊変（2）	その他の放射性壊変について学習する。
第 6 回	天然放射性核種	自然界に存在する放射性核種について学習する。
第 7 回	人工放射性核種	人工的に核反応を起こさせて得られる放射性核種について学習する。

第 8 回	^{235}U の誘導核分裂	^{235}U に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第 9 回	^{239}Pu の誘導核分裂	^{239}Pu に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第 10 回	核エネルギー	核反応にともなって反応系に出入りするエネルギーについて考察する。
第 11 回	原子力発電所の構造	原子力発電所の内部構造を概観し、どのように電気エネルギーが生産されるかを学習する。
第 12 回	原子力発電所の種類 (1)	最も一般的な軽水炉について学習する。
第 13 回	原子力発電所の種類 (2)	高速増殖炉、プルサーマル等、その他の形式の原子力発電所について学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

書名：新版 エネルギーの科学（第 2 版）
著者名：安井伸郎
出版者名：三共出版

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、学習支援システム（HOPPII）を通して提出される課題（100%）によって決定されます。各課題の詳細については、授業内でお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

本授業は、最大履修者数 250 名で抽選が行われますので、履修を希望する方は、必ず事前の抽選に参加してください。抽選に関する詳細は、追って ILAC 掲示板で周知しますので注意しておいてください。

秋学期に開講される「入門化学 B」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline and objectives】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of nuclear energies will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture.

CHM100LA

入門化学 B

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

営 1 年、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では化石燃料の燃焼によって引き起こされる環境問題やエネルギー消費について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられています。この化石燃料の消費が多く、環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料としての役割を持っています。本授業では、文明の鍵である化石燃料について、成分分子の構造や性質に加え、燃焼反応に伴う生成物や反応熱に関して定量的に理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、オンデマンド授業（資料型等）の形態によって行われます。すなわち、毎回の授業では、学習支援システム（HOPPII）にアップロードされた学習メモ、スライド資料、プリント教材、課題ファイルなどをダウンロードして各自で学習を行います。その後、Zoom を使用する双方向型授業（金曜日 3 時限）に参加していただき、理解を深めます。質問等は、Zoom 授業内のほか、HOPPII の掲示板を通して受付けます。さらに、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、課題を課題ファイルに作成します。完成した課題ファイルは、HOPPII を通して提出期限までに提出します。課題内容については、次の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。
第 2 回	分子	物質の基本単位である分子の構造や種類を学習する。
第 3 回	化学反応	物質の変化である化学反応に関して基本的な法則や表記法を演習を交えて学習する。
第 4 回	炭化水素の燃焼	化石燃料からエネルギーを取り出す際に本質的な炭化水素の燃焼反応について詳細に検討する。
第 5 回	化学量論	原子量・分子量の概念を学習し、反応物と生成物の量的関係を学習する。
第 6 回	熱化学方程式	化学反応に伴って出入りするエネルギーに関して、種類や関連する法則を学習する。

第 7 回	炭化水素の H/C 比	炭化水素の H/C 比と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第 8 回	CO ₂ の排出量	CO ₂ の排出量と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第 9 回	石炭	石炭に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第 10 回	石油	石油に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第 11 回	天然ガス	天然ガスに関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第 12 回	その他の化石燃料	オイルサンド、オイルシェール等に関して、成り立ち、特徴、利用法などを学習する。
第 13 回	温暖化・酸性雨	化石燃料の燃焼に伴って発生した地球温暖化や酸性雨について学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

書名：新版 エネルギーの科学（第 2 版）

著者名：安井伸郎

出版者名：三共出版

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、学習支援システム（HOPPII）を通して提出される課題（100%）によって決定されます。各課題の詳細については、授業内でお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業の進め方について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

本授業は、最大履修者数 250 名で抽選が行われますので、履修を希望する方は、必ず事前の抽選に参加してください。抽選に関する詳細は、追って ILAC 掲示板で周知しますので注意しておいてください。

春学期に開講される「入門化学 A」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline and objectives】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy consumption caused by the combustion of fossil fuels will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture.

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

赤羽 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「化学」という学問の視点から、自然界の物質やその構成要素である「分子」について学習します。地球上の物質として生命体は、ほとんどすべて原子が 2 個以上結合してできた分子で作られています。この分子の、自然界、生命体、日常生活での役割について学びます。その理由は、私たちがより良く生きるためには、自然界を構成している物質や分子を理解することがとても大切だからです。

【到達目標】

物質の構成要素である分子について、以下のことを理解し、口頭または文章で表現できるようになること：

- 1) 分子は、物質や生命体の構成要素であること。
- 2) 原子の結合によって分子が生じ、その性質や数にはほとんど限りが無いこと。
- 3) 分子は人類の生存に必要な「エネルギー」に関係していること。
- 4) 自然界や人間の日常的世界における分子の役割について。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本年度はオンラインで資料を掲示する形式で行います。資料は、パワーポイントファイルとワードによるパワーポイントファイルの内容の説明のファイルです。課題が出ます。また、毎回、出席調査票を配布（掲示）します。学習支援システムからの質問、感想を歓迎します。質問には詳しい解説をします。また、課題には、提出後、解説と、それを理解する上でのポイントを掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要	自然界と自然界にある物質、その構成要素である分子について、14 回の授業に沿った概念的な話をします。
2	自然界と物質	物質は何でできているのだろうか。どんな状態にあるのだろうか。固体、液体、気体の性質を考えます。
3	物質と分子	物質はどこまで分けられるか？物質を構成するものは何だろうか。元素と同位元素、そして原子とは？
4	分子と原子	分子とは何だろうか。分子は原子から形成されていることを学びます。
5	分子と化合物、そしてイオン	原子が 2 個以上結合すると分子が生じますが、それは様々な性質や形を持つ化合物や電荷を持つイオンになります。

6	分子の数：その数え方	分子の変化（化学反応）を学ぶ基礎として、アボガドロ数とモルについて学びます。
7	分子と結合：共有結合とイオン結合	原子から分子が生成するときの、原子が他の原子と形成する結合の数と結合の仕方を学びます。
8	分子の大きさ：分子、巨大分子、高分子、そして超分子	分子1個はナノメートルサイズあるいはそれ以下です。しかし、その何千倍、何万倍の巨大分子や超分子も存在します。
9	分子は形をもつ	分子は特定の三次元的な形を持っていて、それが性質に大きく関わります。
10	分子は変化する：化学反応の世界	分子を加熱したり、光照射したりすると、結合が切断されて別の分子になります。これが化学反応で、物質に変化をもたらします。
11	分子と日常生活	食物、衣服、医薬品（薬）など、身の周りの物質はほとんどが分子から構成されています。
12	生命体を作る分子：タンパク質	私たちの体を作っているのも分子です。その代表格のタンパク質の基礎を学びます。
13	化学反応とエネルギー	化学反応が起こるとエネルギーの出入りがあります。その基礎と応用について学びます。
14	まとめ：実験はどうやるのだろうか。	ここまでのまとめと、分子を研究するための実験装置、器具、実験方法について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書は子供向け（children's books の一つ）とありますが、内容は、本質的には十分に大学向けなので、予習としてまず教科書をよく読むことが大切です。授業は教科書にある話題の解説と、より進んだ段階の内容への「橋渡し」なので、必ず出席しなくてはなりません。「参考書」も適宜参考にして、授業理解に努めることが必要です。宿題、授業内の課題は必ず遂行します。週一回の授業に対して、授業時間を含めて、最低4時間の学習（予習・復習）が必要です。

【テキスト（教科書）】

科学キャラクター図鑑「化学ー化けるの大好き!ー」、サイモン・バシャー（絵）、ダン・グリーン（文）、藤田千枝（訳）、玉川大学出版部、2017年5月（初版第4刷）、1600円＋税

【参考書】

1)「化学」入門編ー身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみー、日本化学会化学教育協議会「グループ・化学の本21」編、化学同人；2)分子のはたらきがわかる10話、斎藤勝裕、岩波ジュニア新書、岩波書店；3)人物で語る化学入門、竹内敬人、岩波新書、岩波書店。この他にも授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験50%、課題（複数回）50%。内容の理解度や論述の仕方（文章表現）で評価する。期末試験を受験しない場合は、単位の認定はできません。期末試験や課題の具体的方法等は授業で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業で配布（掲示）する出席調査票の意見や質問が大変有益でした。今年度も毎回掲示し、返信をお願いしていきます。質問やコメントには、きる限り早めに答えるようにしていきます。（今年度は学習支援システム内で行います。）

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで授業資料を見るための機器等。

【その他の重要事項】

秋学期の入門化学B（赤羽担当）へと内容が連続していくので、化学全般を理解するために、入門化学Bも履修することが望ましい。予習と復習には、具体的事項の理解のためには参考書の1)が、分子の性質や働きについては2)が、化学の歴史や、化学という学問における歴史的人物などを知るには3)が特に役に立つと思います。

【Outline and objectives】

The present course will be an introductory chemistry course that describes the world of molecules that form materials in nature. The course will deal with: a) the molecules consist of atoms: b) a tiny molecule, the size of it is usually within the order of nm or less, may make giant molecules like proteins by using chemical bonds, c) chemical reactions of molecules may produce new molecules eventually leading to new materials that are not present until then. It will also point out important role of chemistry in everyday life, and will emphasize the vital relationship of chemistry with energy that mankind needs to live. The course will be designed for college students who will take chemistry course as a subject for the first time.

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

赤羽 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、春学期の入門化学 A を基礎に、より進んだ段階の化学を扱います。具体的には、1) 身の回りにある物質に関係の深い有機化合物の化学とそれが起こす化学反応、2) 生体内反応で使われている酵素などのタンパク質の化学、そして、エネルギーと環境の観点から、3) 人間の生活に必要なエネルギーとその化学について、具体的には化石燃料の化学、太陽光エネルギー有効利用にかかわる有機化合物と光の相互作用とそれが起こす化学反応、について学びます。この授業は、21 世紀の社会に貢献するために、いかなる職業につこうとも必要となる自然科学（化学）の素養を形成します。

【到達目標】

分子の性質と化学反応、分子と光の相互作用、分子の持つエネルギーの利用可能性について、以下のことを理解し、口頭あるいは文章で表現できること。1) 基本的な有機化合物の構造と性質、および、それが起こす化学反応、2) 生体内化学反応に関与するタンパク質である酵素についての基礎的事柄、3) 化石燃料の利用、4) 有機化合物と光の相互作用、ならびに、光により起こる有機化合物の化学反応、5) 分子を利用したエネルギー変換について。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本年度はオンラインで資料を掲示する形式で行います。資料は、パワーポイントファイルとワードによるパワーポイントファイルの内容の説明のファイルです。課題が出ます。また、毎回、出席調査票を配布（掲示）します。学習支援システムからの質問、感想を歓迎します。質問には詳しい解説をします。また、課題には、提出後、解説と、それを理解する上でのポイントを掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	有機化合物とは：その歴史と人間社会での役割	有機化合物とは何か、歴史も含めて、その基本を学びます。
2	有機化合物の構造と性質：官能基	有機化合物の性質を決める「官能基」を中心に、構造や反応性の基礎を学びます。
3	いろいろな有機化合物（1）炭化水素	炭素原子の結合の作り方を中心に、炭素と水素で作られている炭化水素の構造について学びます。
4	いろいろな有機化合物（2）アルコールとカルボン酸、エステル類	酸素原子を含む有機化合物について学びます。日常生活においても重要な化合物です。
5	有機化合物の立体化学：分子の不思議な関係	有機化合物には、「右手」と「左手」に相当する分子が存在します。その性質と意味について考えます。
6	アミノ酸の化学とタンパク質	タンパク質の構成成分であるアミノ酸や、生体内化学反応の「触媒」である酵素の基礎を学びます。

7	材料の有機化学	材料でもある衣服や紙など、日常的に使われている有機化合物の化学から最先端材料の化学までを学びます。
8	酸素の化学：有機化合物との相互作用	酸素がなければヒトは生きていきません。酸素と有機化合物の相互作用、酸化、燃焼について学びます。オゾンにも触れます。
9	酸素とフリーラジカルの化学	物質や生体内分子が、酸素下でフリーラジカルとどのような反応を起こすかを学びます。
10	光と分子：光は分子に何ができるか。	有機化合物が光を吸収するとどのような挙動を示すかを探ります。
11	光と有機化合物	有機化合物が光を吸収した場合に起こす結合開裂や形の変化の基礎を学びます。
12	有機化合物の光化学反応とエネルギーの利用	有機化合物が光の作用で起こす化学変化を、主にエネルギーの利用という観点から考えます
13	エネルギーと有機化学	化石燃料とその利用について学びます。
14	まとめ	これまでのまとめとして、有機化合物、酸素、光、そして、エネルギーの関係を復習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書は子供向け（children's books の一つ）とありますが、内容は、本質的には十分に大学向けなので、予習として教科書をしっかり読むことが大切です。授業は教科書にある話題の解説と、より進んだ段階の内容の「橋渡し」なので、必ず出席しなくてはなりません。「参考書」も適宜参考にして、授業理解に努めることが必要です。宿題、授業内の課題は必ず遂行します。授業を十分に理解するには、予習と復習の時間を合わせて、4 時間は必要です。

【テキスト（教科書）】

科学キャラクター図鑑「化学ー化けるの大好き!ー」、サイモン・バシャー（絵）、ダン・グリーン（文）、藤田千枝（訳）、玉川大学出版部、2017 年 5 月（初版第 4 刷）、1600 円＋税

【参考書】

1) 「化学」入門編ー身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみー、日本化学会化学教育協議会「グループ・化学の本 21」編、化学同人；2) 分子のはたらきがわかる 10 話、斎藤勝裕、岩波ジュニア新書、岩波書店；3) 人物で語る化学入門、竹内敬人、岩波新書、岩波書店；4) 有機化学の基本ー電子のやりとりから反応を理解するー、富岡秀雄ら著、化学同人；5) エネルギーの化学ー人類の未来に向けてー（第 2 版）、安井伸郎、三共出版。この他にも授業中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、課題（複数回）50%。内容の理解度や論述の仕方（文章表現）で評価する。期末試験を受験しない場合は、単位の認定はできません。期末試験や課題の具体的方法等は授業で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業で配布する出席調査票の意見や質問が大変有益でした。今年度も毎回配布していきます。質問やコメントには、きる限り早めに答えるようにしていきます。（今年度は学習支援システム内で行います。）

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスする機器以外には、特にありません。

【その他の重要事項】

春学期の入門化学 A（赤羽担当）の内容を基礎とするので、入門化学 A を履修していることが望ましいですが、もちろん義務ではありません。化学を理解するため、入門化学 A を履修していない学生もぜひ履修してください。初めてこの入門化学 B を取る学生にもわかりやすく、入門化学 A の内容にも時々触れながら授業を行います。予習と復習には、具体的事項の理解のためには参考書の 1) が、分子の性質や働きについては 2) が、化学の歴史や、化学という学問における歴史的人物などを知るには 3) が特に役に立つと思います。また、有機化学入門には 4) が、エネルギーの化学全般には 5) が有用です。

【Outline and objectives】

The present course will be an introductory chemistry course that describes the structures, reactions, and utility of organic compounds. The compounds include hydrocarbons, alcohols, esters, proteins, compounds containing asymmetric carbons, and various organic materials such as dyes and other advanced materials. The course will also deal with unique role of molecular oxygen in living world, and typical organic transformation with molecular oxygen, including combustion of fossil fuels, will be explained. Finally, organic photochemistry, i.e., the interaction of light with organic compounds, will be described in terms of utilization of solar energy conversion as a promising energy conversion technology in 21st century.

CHM100LA

入門化学A

2017 年度以降入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法 1 年 A～H・Y、文 1 年 L～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業教材は、事前に学習支援システム（HOPPII）に提示します。毎回の授業で、HOPPII を介して課題を出します。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に HOPPII の掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時 HOPPII にてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 測定値の単位	講義概要の説明 科学で使われる測定値の単位について解説
第 2 回	物質を作るもの	原子、分子、イオンとは 原子の構造
第 3 回	元素の周期性	原子の電子配置と化学的性質、周期表
第 4 回	化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の仕組みと性質
第 5 回	化学反応の基礎	化学量論 化学反応式の書き方 化学平衡
第 6 回	酸塩基反応	酸・塩基とは、身近な中和反応
第 7 回	酸化還元反応	酸化・還元とは、身近な酸化還元反応
第 8 回	化学反応と熱	発熱反応と吸熱反応、化学エネルギーの利用
第 9 回	物質の状態	気体・液体・固体間の変化と熱収支、溶液
第 10 回	放射化学	放射性崩壊とは、放射線の種類、放射性物質

第11回	地球温暖化（1）	地球温暖化の仕組みと原因物質
第12回	地球温暖化（2）	地球温暖化の影響
第13回	大気・水質・土壌汚染	オゾン層の破壊、海洋汚染、有害物質
第14回	エネルギーと環境	化石燃料と再生可能エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。
復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システム (HOPPII) に教材をアップします。

【参考書】

一般化学 (四訂版)、長島 弘三 (著)、富田 功 (著)、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で 100 % 評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケート結果がないため、一昨年のアンケート結果に基づき、基礎化学については内容を絞ってより丁寧な説明をするとともに、環境問題をはじめ身近な話題と化学とのつながりがより理解しやすいようにします。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、および通信環境を準備し、学習支援システム (HOPPII) にアクセスできる必要があります。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics included are periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions.

CHM100LA

入門化学 B

2017 年度以降入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法 1 年 A～H・Y、文 1 年 L～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および人体や環境に有害な化学物質について学習し、有害有機化学物質や有機化合物がかかわる身近な環境問題について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業教材は、事前に学習支援システム (HOPPII) に提示します。毎回の授業で、HOPPII を介して課題を出します。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に HOPPII の掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時 HOPPII にてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要の説明、物質の構成単位である原子・分子について解説
第 2 回	有機化合物の特徴	有機化合物の主な構成元素、電子式、結合、構造式について
第 3 回	官能基	有機化合物の特性を決める主な官能基について
第 4 回	親水性・疎水性	水への溶けやすさを決める官能基や、酸性・塩基性官能基について
第 5 回	炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料について
第 6 回	酸素・窒素含有化合物	身近な酸素・窒素含有化合物の構造と性質について
第 7 回	芳香族化合物	身近な芳香族化合物の構造と性質について
第 8 回	有機化合物の酸化反応	有機化合物の酸化反応について、燃焼反応、反応熱について
第 9 回	有機化合物の重合反応	重合反応とは、プラスチックの特性、海洋プラスチック問題について

第10回	生体を作る有機化合物	糖質とタンパク質について
	①	
第11回	生体を作る有機化合物	脂質と核酸について
	②	
第12回	生体内の化学反応	酵素、代謝について
第13回	有害化学物質	人体や生態系に有害な化学物質について
第14回	化学物質の管理	化学物質の有害性情報のみかたについて、有害化学物質の管理について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システム (HOPPII) に教材をアップします。

【参考書】

一般化学 (四訂版)、長島 弘三 (著)、富田 功 (著)、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で 100 % 評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業内容と課題についてはおおむね好評だったので、今年度も同様に、化学の基礎的事項の丁寧な説明と、身近な問題や環境問題と化学とのつながりについて理解が深まるような講義にしたいと思います。授業の仕方については、前年度は資料型オンデマンド授業として文書教材の配布によりましたが、音声説明の要望があったため、今年度は Zoom や動画資料の配布を併用します。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、および通信環境を準備し、学習支援システム (HOPPII) にアクセスできる必要があります。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics included are chemical bonds, functional groups, acid-base, oxidation-reduction, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms.

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

赤羽 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「化学」という学問の視点から、自然界の物質やその構成要素である「分子」について学習します。地球上の物質として生命体は、ほとんどすべて原子が2個以上結合してできた分子で作られています。この分子の、自然界、生命体、日常生活での役割について学びます。その理由は、私たちがより良く生きるためには、自然界を構成している物質や分子を理解することがとても大切だからです。

【到達目標】

物質の構成要素である分子について、以下のことを理解し、口頭または文章で表現できるようになること：

- 1) 分子は、物質や生命体の構成要素であること。
- 2) 原子の結合によって分子が生じ、その性質や数にはほとんど限りが無いこと。
- 3) 分子は人間の生存に必要な「エネルギー」に関係していること。
- 4) 自然界や人間の日常的世界における分子の役割について。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本年度はオンラインで資料を掲示する形式で行います。資料は、パワーポイントファイルとワードによるパワーポイントファイルの内容の説明のファイルです。課題が出ます。また、毎回、出席調査票を配布（掲示）します。学習支援システムからの質問、感想を歓迎します。質問には詳しい解説をします。また、課題には、提出後、解説と、それを理解する上でのポイントを掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要	自然界と自然界にある物質、その構成要素である分子について、14回の授業に沿った概論的な話をします。
2	自然界と物質	物質は何でできているのだろうか。どんな状態にあるのだろうか。固体、液体、気体の性質を考えます。
3	物質と分子	物質はどこまで分けられるか？物質を構成するものは何だろうか。元素と同位元素、そして原子とは？
4	分子と原子	分子とは何だろうか。分子は原子から形成されていることを学びます。
5	分子と化合物、そしてイオン	原子が2個以上結合すると分子が生じますが、それは様々な性質や形を持つ化合物や電荷を持つイオンになります。

6	分子の数：その数え方	分子の変化（化学反応）を学ぶ基礎として、アボガドロ数とモルについて学びます。
7	分子と結合：共有結合とイオン結合	原子から分子が生成するときの、原子が他の原子と形成する結合の数と結合の仕方を学びます。
8	分子の大きさ：分子、巨大分子、高分子、そして超分子	分子1個はナノメートルサイズあるいはそれ以下です。しかし、その何千倍、何万倍の巨大分子や超分子も存在します。
9	分子は形をもつ	分子は特定の三次元的な形を持っていて、それが性質に大きく関わります。
10	分子は変化する：化学反応の世界	分子を加熱したり、光照射したりすると、結合が切断されて別の分子になります。これが化学反応で、物質に変化をもたらします。
11	分子と日常生活	食物、衣服、医薬品（薬）など、身の周りの物質はほとんどが分子から構成されています。
12	生命体を作る分子：タンパク質	私たちの体を作っているのも分子です。その代表格のタンパク質の基礎を学びます。
13	化学反応とエネルギー	化学反応が起こるとエネルギーの出入りがあります。その基礎と応用について学びます。
14	まとめ：実験はどうやるのだろうか。	ここまでのまとめと、分子を研究するための実験装置、器具、実験方法について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書は子供向け（children's books の一つ）とありますが、内容は、本質的には十分に大学向けなので、予習としてまず教科書をよく読むことが大切です。授業は教科書にある話題の解説と、より進んだ段階の内容への「橋渡し」なので、必ず出席しなくてはなりません。「参考書」も適宜参考にして、授業理解に努めることが必要です。宿題、授業内の課題は必ず遂行します。週一回の授業に対して、授業時間を含めて、最低4時間の学習（予習・復習）が必要です。

【テキスト（教科書）】

科学キャラクター図鑑「化学ー化けるの大好き!ー」、サイモン・バシャー（絵）、ダン・グリーン（文）、藤田千枝（訳）、玉川大学出版部、2017年5月（初版第4刷）、1600円＋税

【参考書】

1)「化学」入門編ー身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみー、日本化学会化学教育協議会「グループ・化学の本21」編、化学同人；2)分子のはたらきがわかる10話、斎藤勝裕、岩波ジュニア新書、岩波書店；3)人物で語る化学入門、竹内敬人、岩波新書、岩波書店。この他にも授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験50%、課題（複数回）50%。内容の理解度や論述の仕方（文章表現）で評価する。期末試験を受験しない場合は、単位の認定はできません。期末試験や課題の具体的方法等は授業で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業で配布（掲示）する出席調査票の意見や質問が大変有益でした。今年度も毎回掲示し、返信をお願いしていきます。質問やコメントには、きる限り早めに答えるようにしていきます。（今年度は学習支援システム内で行います。）

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで授業資料を見るための機器等。

【その他の重要事項】

秋学期の入門化学B（赤羽担当）へと内容が連続していくので、化学全般を理解するために、入門化学Bも履修することが望ましい。予習と復習には、具体的事項の理解のためには参考書の1)が、分子の性質や働きについては2)が、化学の歴史や、化学という学問における歴史的人物などを知るには3)が特に役に立つと思います。

【Outline and objectives】

The present course will be an introductory chemistry course that describes the world of molecules that form materials in nature. The course will deal with: a) the molecules consist of atoms: b) a tiny molecule, the size of it is usually within the order of nm or less, may make giant molecules like proteins by using chemical bonds, c) chemical reactions of molecules may produce new molecules eventually leading to new materials that are not present until then. It will also point out important role of chemistry in everyday life, and will emphasize the vital relationship of chemistry with energy that mankind needs to live. The course will be designed for college students who will take chemistry course as a subject for the first time.

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

赤羽 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、春学期の入門化学 A を基礎に、より進んだ段階の化学を扱います。具体的には、1) 身の回りにある物質に関係の深い有機化合物の化学とそれが起こす化学反応、2) 生体内反応で使われている酵素などのタンパク質の化学、そして、エネルギーと環境の観点から、3) 人間の生活に必要なエネルギーとその化学について、具体的には化石燃料の化学、太陽光エネルギー有効利用にかかわる有機化合物と光の相互作用とそれが起こす化学反応、について学びます。この授業は、21 世紀の社会に貢献するために、いかなる職業につこうとも必要となる自然科学（化学）の素養を形成します。

【到達目標】

分子の性質と化学反応、分子と光の相互作用、分子の持つエネルギーの利用可能性について、以下のことを理解し、口頭あるいは文章で表現できること。1) 基本的な有機化合物の構造と性質、および、それが起こす化学反応、2) 生体内化学反応に関与するタンパク質である酵素についての基礎的事柄、3) 化石燃料の利用、4) 有機化合物と光の相互作用、ならびに、光により起こる有機化合物の化学反応、5) 分子を利用したエネルギー変換について。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本年度はオンラインで資料を掲示する形式で行います。資料は、パワーポイントファイルとワードによるパワーポイントファイルの内容の説明のファイルです。課題が出ます。また、毎回、出席調査票を配布（掲示）します。学習支援システムからの質問、感想を歓迎します。質問には詳しい解説をします。また、課題には、提出後、解説と、それを理解する上でのポイントを掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	有機化合物とは：その歴史と人間社会での役割	有機化合物とは何か、歴史も含めて、その基本を学びます。
2	有機化合物の構造と性質：官能基	有機化合物の性質を決める「官能基」を中心に、構造や反応性の基礎を学びます。
3	いろいろな有機化合物（1）炭化水素	炭素原子の結合の作り方を中心に、炭素と水素で作られている炭化水素の構造について学びます。
4	いろいろな有機化合物（2）アルコールとカルボン酸、エステル類	酸素原子を含む有機化合物について学びます。日常生活においても重要な化合物です。
5	有機化合物の立体化学：分子の不思議な関係	有機化合物には、「右手」と「左手」に相当する分子が存在します。その性質と意味について考えます。
6	アミノ酸の化学とタンパク質	タンパク質の構成成分であるアミノ酸や、生体内化学反応の「触媒」である酵素の基礎を学びます。

7	材料の有機化学	材料でもある衣服や紙など、日常的に使われている有機化合物の化学から最先端材料の化学までを学びます。
8	酸素の化学：有機化合物との相互作用	酸素がなければヒトは生きていきません。酸素と有機化合物の相互作用、酸化、燃焼について学びます。オゾンにも触れます。
9	酸素とフリーラジカルの化学	物質や生体内分子が、酸素下でフリーラジカルとどのような反応を起こすかを学びます。
10	光と分子：光は分子に何ができるか。	有機化合物が光を吸収するとどのような挙動を示すかを探ります。
11	光と有機化合物	有機化合物が光を吸収した場合に起こす結合開裂や形の変化の基礎を学びます。
12	有機化合物の光化学反応とエネルギーの利用	有機化合物が光の作用で起こす化学変化を、主にエネルギーの利用という観点から考えます
13	エネルギーと有機化学	化石燃料とその利用について学びます。
14	まとめ	これまでのまとめとして、有機化合物、酸素、光、そして、エネルギーの関係を復習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書は子供向け（children's books の一つ）とありますが、内容は、本質的には十分に大学向けなので、予習として教科書をしっかり読むことが大切です。授業は教科書にある話題の解説と、より進んだ段階の内容の「橋渡し」なので、必ず出席しなくてはなりません。「参考書」も適宜参考にして、授業理解に努めることが必要です。宿題、授業内の課題は必ず遂行します。授業を十分に理解するには、予習と復習の時間を合わせて、4 時間は必要です。

【テキスト（教科書）】

科学キャラクター図鑑「化学ー化けるの大好き!ー」、サイモン・バシャー（絵）、ダン・グリーン（文）、藤田千枝（訳）、玉川大学出版部、2017 年 5 月（初版第 4 刷）、1600 円＋税

【参考書】

1) 「化学」入門編ー身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみー、日本化学会化学教育協議会「グループ・化学の本 21」編、化学同人；2) 分子のはたらきがわかる 10 話、斎藤勝裕、岩波ジュニア新書、岩波書店；3) 人物で語る化学入門、竹内敬人、岩波新書、岩波書店；4) 有機化学の基本ー電子のやりとりから反応を理解するー、富岡秀雄ら著、化学同人；5) エネルギーの化学ー人類の未来に向けてー（第 2 版）、安井伸郎、三共出版。この他にも授業中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、課題（複数回）50%。内容の理解度や論述の仕方（文章表現）で評価する。期末試験を受験しない場合は、単位の認定はできません。期末試験や課題の具体的方法等は授業で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業で配布する出席調査票の意見や質問が大変有益でした。今年度も毎回配布していきます。質問やコメントには、きる限り早めに答えるようにしていきます。（今年度は学習支援システム内で行います。）

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスする機器以外には、特にありません。

【その他の重要事項】

春学期の入門化学 A（赤羽担当）の内容を基礎とするので、入門化学 A を履修していることが望ましいですが、もちろん義務ではありません。化学を理解するため、入門化学 A を履修していない学生もぜひ履修してください。初めてこの入門化学 B を取る学生にもわかりやすく、入門化学 A の内容にも時々触れながら授業を行います。予習と復習には、具体的事項の理解のためには参考書の 1) が、分子の性質や働きについては 2) が、化学の歴史や、化学という学問における歴史的人物などを知るには 3) が特に役に立つと思います。また、有機化学入門には 4) が、エネルギーの化学全般には 5) が有用です。

【Outline and objectives】

The present course will be an introductory chemistry course that describes the structures, reactions, and utility of organic compounds. The compounds include hydrocarbons, alcohols, esters, proteins, compounds containing asymmetric carbons, and various organic materials such as dyes and other advanced materials. The course will also deal with unique role of molecular oxygen in living world, and typical organic transformation with molecular oxygen, including combustion of fossil fuels, will be explained. Finally, organic photochemistry, i.e., the interaction of light with organic compounds, will be described in terms of utilization of solar energy conversion as a promising energy conversion technology in 21st century.

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

文環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

【到達目標】

宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布資料およびビデオ教材を用いて自己学習する。授業内容に関して学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	宇宙と天文	宇宙と天文の字義から講義の全体像を説き起こす。
2	星、銀河などの実際の姿	すばる望遠鏡などの鮮明な画像、ひので太陽観測衛星による映像を紹介する。
3	太陽と月、惑星と地球	太陽、月、地球について学習する。
4	水星と金星、火星と生命	水星、金星、火星について学習する。
5	木星と土星、天王星と海王星	木星、土星、天王星、海王星について学習する。
6	冥王星、彗星、小惑星	冥王星、彗星および小惑星について学習する。
7	光学望遠鏡の発明と進歩、電波望遠鏡の仕組み	光学望遠鏡と電波望遠鏡について学ぶ。
8	光および電波で見える宇宙	光と電波では何が見えて何が見えないかを学ぶ。
9	恒星の誕生から死まで	恒星の一生について学ぶ。
10	星団、銀河、銀河群	星およびガスの集まりである銀河および星団等について学ぶ。
11	宇宙の階層構造とダークマター	宇宙全体の構造について学ぶ。
12	ビッグバンと宇宙膨張	宇宙の歴史について学ぶ。
13	銀河の回転曲線の謎	宇宙の多くを占める見えない物質ダークマターについて学ぶ。
14	超新星の爆発と巨大ブラックホール	宇宙の中におけるブラックホールの役割を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。配布資料等を用いて行うべき学習内容は、毎回、授業支援システムの「お知らせ」で通知します。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

スライド集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/327306485_Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese

質疑応答集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/346583069_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_1_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に必要な参考資料の入手方法、および無料でアクセス可能なビデオ教材等の情報は、随時、学習支援システムの「お知らせ」を通じて通知する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）による。課題の提示は5月に行う。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能なスマホもしくは PC を利用することを勧める。

【Outline and objectives】

Study the wonder of the universe. Obtain the latest knowledge on astronomy such as the solar system, stars, and galaxies.

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

文環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

【到達目標】

天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

配布資料およびビデオ教材を用いて自己学習する。授業内容に関して学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	重力の特徴	電磁力など他の力にない重力の特徴を学ぶ
2	惑星の運動	水星、金星と火星、木星、土星の二大グループ化の理屈
3	天動説と地動説	プトレマイオスの周転円理論、コペルニクスの単純地動説、ガリレオの望遠鏡
4	ケプラーの法則	大いなる現象論と物理三法則の初め
5	万有引力	ニュートンの重力理論。遠隔力、現実をよく説明。
6	彗星の運動	ハレーの彗星表作成による周期彗星の発見
7	地球の形状	英仏間の大論争。フランス大探検隊の実測による決着
8	三体問題	現実問題の不可解性
9	天王星の発見	計算から発見の時代へ
10	惑星を探せ	小惑星の発見とティティウス・ボーデの法則の台頭
11	海王星の予言	理論的予言の勝利とティティウス・ボーデの法則の滅亡
12	水星の運動の謎	未知惑星バルカンの探索
13	エーテルの否定	特殊相対論の誕生
14	一般相対論の誕生	重力に関する新概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。配布資料等を用いて行うべき学習内容は、毎回、授業支援システムの「お知らせ」で通知します。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

スライド集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/299732606_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_-_in_Japanese
 質疑応答集の PDF ファイル
https://www.researchgate.net/publication/348327529_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に必要な参考資料の入手方法、および無料でアクセス可能なビデオ教材等の情報は、随時、学習支援システムの「お知らせ」を通じて通知する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）による。課題の提示は10月に行う。

【学生の意見等からの気づき】

レポートは電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能なスマホもしくは PC を利用することを勧める。

【Outline and objectives】

To study the efforts of scientists to solve the enigma of gravitation.

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

松本 倫明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

営キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球と宇宙の成り立ちについて学ぶ。春学期では、地球・太陽系・恒星に焦点を当てる。とくに我々の身近な環境である地球環境に重点を置く。

【到達目標】

この授業によって、現在までに知られている様々な天体の姿を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンドで行う。資料と動画を Hoppii を通じて配布しオンラインで学習する。毎回 Hoppii でミニテストを行って理解度を確認する。

最新の観測や理論を紹介し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。 受講の方法を示す。
第 2 回	宇宙の階層構造	地球のスケールから宇宙全体のスケールまでの構造を概観する。
第 3 回	地球の構造	地球の構造について学ぶ。
第 4 回	地球の大気	地球のうち、大気に焦点を当てる。
第 5 回	気候変動	気候変動について学ぶ。地球温暖化についても焦点を当てる。
第 6 回	温室効果	大気の温室効果について説明する。
第 7 回	地球の歴史	地球誕生から現在までの 46 億年の歴史を概観する。さらに生物の進化について考察する。
第 8 回	月	月の形成と地球との関わりについて学ぶ。
第 9 回	太陽系の概要	太陽系全体を概観する。
第 10 回	惑星	地球型惑星と木製型惑星の違いを学ぶ。
第 11 回	太陽と恒星	太陽に代表される恒星について学ぶ。
第 12 回	恒星の構造	恒星の構造について学び、恒星がなぜ光るかを理解する。
第 13 回	恒星と惑星の形成	恒星と惑星が形成する過程について学ぶ。
第 14 回	恒星の進化	恒星の進化について学ぶ。白色矮星・中性子星・ブラックホールについても学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
状況によっては観望会を行うことがあるが参加は任意である。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料を Hoppii を用いて配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が 70%、ミニテストが 30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。昨年度は zoom リアルタイムで授業を行ったので、携帯電話を用いたミニテストを行い好評であった。今年度はリアルタイムで授業を実施しないため、Hoppii を持ちてミニテストを行う。

【Outline and objectives】

The students learn the introduction of astronomy. In the spring semester, we focus on the Earth, solar system, and stars.

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

松本 倫明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

営キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球と宇宙の成り立ちについて学ぶ。秋学期では、恒星の集団である銀河、銀河の集団である銀河団、さらに宇宙全体を対象とする。

天文学 II は天文学 I からの続きである。必ずしも天文学 I を事前に受講する必要はないが、天文学 I と II を両方受講すると理解は深まるであろう。

【到達目標】

この授業によって、現在までに知られている様々な天体の姿を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンドで行う。資料と動画を Hoppii を通じて配布しオンラインで学習する。毎回 Hoppii でミニテストを行って理解度を確認する。

最新の観測や理論を紹介し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。 受講の方法を示す。
第 2 回	銀河の分類	銀河をいくつかの種類（渦巻銀河・棒渦巻銀河・楕円銀河など）に分類する。
第 3 回	銀河の構造	それぞれの銀河の種類について、それらの構造を学ぶ。
第 4 回	銀河の進化	銀河の内部における星形成と、銀河の進化について学ぶ。
第 5 回	暗黒物質	銀河の主要な構成要素である暗黒物質（ダークマター）について学ぶ。
第 6 回	銀河の形成	銀河の形成過程について学ぶ。
第 7 回	宇宙膨張	膨張する宇宙について学ぶ。ハッブルの法則について学ぶ。
第 8 回	宇宙の大規模構造	宇宙全体の構造について学ぶ。赤方偏移探索について学ぶ。
第 9 回	ビッグバン	宇宙の始まりであるビッグバンについて学ぶ。
第 10 回	宇宙年齢	ハッブルの法則を用いて、宇宙の年齢を導く。
第 11 回	宇宙背景放射	ビッグバンの残光である宇宙背景放射について学ぶ。
第 12 回	宇宙の地平線	宇宙の果てがどのようなになっているかを理解する。
第 13 回	宇宙の未来	今後宇宙がどのような進化をたどるかを学ぶ。
第 14 回	地球外生命探索	地球以外の惑星に生物はいるか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
状況によっては観望会を行うことがあるが参加は任意である。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料を Hoppii を用いて配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が 70%、ミニテストが 30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。昨年度は zoom リアルタイムで授業を行ったので、携帯電話を用いたミニテストを行い好評であった。今年度はリアルタイムで授業を実施しないため、Hoppii を持ちてミニテストを行う

【Outline and objectives】

The students learn the introduction of astronomy. In the fall semester, we focus on galaxies and the Universe.

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

【到達目標】

宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

配布資料およびビデオ教材を用いて自己学習する。授業内容に関して学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	宇宙と天文	宇宙と天文の字義から講義の全体像を説き起こす。
2	星、銀河などの実際の姿	すばる望遠鏡などの鮮明な画像、ひので太陽観測衛星による映像を紹介する。
3	太陽と月、惑星と地球	太陽、月、地球について学習する。
4	水星と金星、火星と生命	水星、金星、火星について学習する。
5	木星と土星、天王星と海王星	木星、土星、天王星、海王星について学習する。
6	冥王星、彗星、小惑星	冥王星、彗星および小惑星について学習する。
7	光学望遠鏡の発明と進歩、電波望遠鏡の仕組み	光学望遠鏡と電波望遠鏡について学ぶ。
8	光および電波で見える宇宙	光と電波では何が見えて何が見えないかを学ぶ。
9	恒星の誕生から死まで	恒星の一生について学ぶ。
10	星団、銀河、銀河群	星およびガスの集まりである銀河および星団等について学ぶ。
11	宇宙の階層構造とダークマター	宇宙全体の構造について学ぶ。
12	ビッグバンと宇宙膨張	宇宙の歴史について学ぶ。
13	銀河の回転曲線の謎	宇宙の多くを占める見えない物質ダークマターについて学ぶ。
14	超新星の爆発と巨大ブラックホール	宇宙の中におけるブラックホールの役割を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。配布資料等を用いて行うべき学習内容は、毎回、授業支援システムの「お知らせ」で通知します。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

スライド集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/327306485_Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese

質疑応答集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/346583069_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_1_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に必要な参考資料の入手方法、および無料でアクセス可能なビデオ教材等の情報は、随時、学習支援システムの「お知らせ」を通じて通知する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）による。課題の提示は5月に行う。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能なスマホもしくは PC を利用することを勧める。

【Outline and objectives】

Study the wonder of the universe. Obtain the latest knowledge on astronomy such as the solar system, stars, and galaxies.

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

【到達目標】

天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布資料およびビデオ教材を用いて自己学習する。授業内容に関して学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	重力の特徴	電磁力など他の力にない重力の特徴を学ぶ
2	惑星の運動	水星、金星と火星、木星、土星の二大グループ化の理屈
3	天動説と地動説	プトレマイオスの周転円理論、コペルニクスの単純地動説、ガリレオの望遠鏡
4	ケプラーの法則	大いなる現象論と物理三法則の初め
5	万有引力	ニュートンの重力理論。遠隔力、現実をよく説明。
6	彗星の運動	ハレーの彗星表作成による周期彗星の発見
7	地球の形状	英仏間の大論争。フランス大探検隊の実測による決着
8	三体問題	現実問題の不可解性
9	天王星の発見	計算から発見の時代へ
10	惑星を探せ	小惑星の発見とティティウス・ボーデの法則の台頭
11	海王星の予言	理論的予言の勝利とティティウス・ボーデの法則の滅亡
12	水星の運動の謎	未知惑星バルカンの探索
13	エーテルの否定	特殊相対論の誕生
14	一般相対論の誕生	重力に関する新概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。配布資料等を用いて行うべき学習内容は、毎回、授業支援システムの「お知らせ」で通知します。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

スライド集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/299732606_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_-_in_Japanese
質疑応答集の PDF ファイル
https://www.researchgate.net/publication/348327529_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に必要な参考資料の入手方法、および無料でアクセス可能なビデオ教材等の情報は、随時、学習支援システムの「お知らせ」を通じて通知する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100％）による。課題の提示は10月に行う。

【学生の意見等からの気づき】

レポートは電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能なスマホもしくは PC を利用することを勧める。

【Outline and objectives】

To study the efforts of scientists to solve the enigma of gravitation.

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋における科学のはじまりから「17 世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学（自然学）の歴史を中心に学ぶ（秋学期の同一講師による「科学史 B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
(2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行い、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける（提出課題は翌週以降コメントを付して返却する）。また、最終回には授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。

例）

（なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など。
第 2 回	西洋における科学的／哲学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく。
第 3 回	古代の天文学とその発展	前回とは別の視点から、西洋古代における天文学の歴史を見ていく。
第 4 回	アリストテレスの自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく。
第 5 回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく。
第 6 回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」をプトレマイオス天文学との対比で見ていく。
第 7 回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかをティコ、ガリレオ、ケプラーなどの研究を中心に見ていく。
第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判（その 1）	天文学の革新と呼応して進んだ力学や物質論などの革新を見ていく。
第 9 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判（その 2）	前回に引き続き、17 世紀科学革命における宇宙論や自然観、あるいは神学における革新を見ていく。
第 10 回	近代科学の基礎付けの試み：ベーコン・デカルト・ロック	哲学者たちによる新しい自然学の哲学的位置づけの試みを見ていく。
第 11 回	ニュートンとライブニッツの論争（その 1）	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライブニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察する。まずは両者の立場と論争の主要な争点の紹介。
第 12 回	ニュートンとライブニッツの論争（その 2）	前回に引き続き、両者の論争とその位置づけを見ていく。
第 13 回	ニュートン力学の発展とその後	18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を見ていく。さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単にしておく。

第 14 回 全体のまとめ／授業内試験 全体を振り返った後、授業内試験とレポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供するが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる「到達目標」(2) の到達度の評価を中心とする (70 %)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1) の到達度の評価 (15 %)、および、小レポート等を含む平常の授業への参加態度 (15 %) も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline and objectives】

Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は春学期で扱ったのとは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変わり、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行い、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける（提出課題は翌週以降コメントを付して返却する）。また、最終回には授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。（なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など。
第 2 回	西洋古代思想における目的論と反目的論	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代に立ち戻り、哲学者たちの自然観を「目的論」（アリストテレス、ストア派が代表）と「反目的論」（古代原子論が代表）に大別しながらその内容を見ていく。
第 3 回	17 世紀科学革命・機械論的自然観と動物機械論	17 世紀科学革命において「機械論的自然観」が提起され、アリストテレスの目的論的／有機体的自然観は退けられる。これをその典型であるデカルトの「動物機械論」を中心に考察していく。
第 4 回	ニュートンとライブニッツの論争における生氣論と機械論の対立	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライブニッツの論争を今期も取り上げる。ここでは、いずれも目的論的自然観を部分的に再導入しながら、「生氣論」と「機械論」に分かれて対立しあう両者の主張を見ていく。
第 5 回	17-18 世紀における生物研究の発展	17 世紀科学革命以降、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされどのような問題が議論されたのかを見ていく。
第 6 回	進化論前史：19 世紀における自然神学と地質学ほか	19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する。
第 7 回	ダーウィンの分岐進化の思想と本質主義批判	進化論的な思想はダーウィンが創始したわけではないが、ダーウィンはそれ以前の進化思想には見られなかった「分岐進化」の思想を導入する。この思想の革新性をそれ以前の進化思想との対比で見ていく。

第 8 回	ダーウィンの自然選択説による「目的論の否定／目的論の自然化」	ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択（自然淘汰）は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められている。この回ではこのメカニズムを「目的論の否定／目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく。
第 9 回	非ダーウィンの進化論の時代	19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけては、自然選択説が顧みられなくなり「非ダーウィンの進化論」が全盛になったとされる。それらの学説の内容と、そこに共通する生命についての見方を考察する。
第 10 回	進化論の社会的影響	ダーウィンの『種の起原』は科学の世界を超えた社会的影響を与えた。この回ではそれを見ていくと共に、「科学と社会」という大きな問題も考えたい。
第 11 回	進化の新しい総合	20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義とダーウィン主義の総合により、「進化の総合説」が誕生し、ダーウィンの自然選択説が改めて進化の主要な要因と見なされるようになる。この回ではこの成立とその後の発展の歴史、批判者との応答などを見ていく。
第 12 回	分子生物学と生物機械論の復活	この回では分子生物学をはじめとする、進化論とは別の方面から進んだ生物学の近代化の歴史を見ていく。
第 13 回	現代における進化生物学の多様な浸透	現代、ダーウィン進化論は生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している。この回では、歴史的観点を踏まえつつこれらの現代的問題を見ていく。
第 14 回	全体のまとめ／授業内試験／レポート提出	全体を振り返った後、授業内試験とレポートの回収を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供するが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めて、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、垂水雄二『進化論物語』（バジリコ株式会社）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる「到達目標」(2) の到達度の評価を中心とする (70 %)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1) の到達度の評価 (15 %)、および、小レポート等を含む平常の授業への参加態度 (15 %) も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline and objectives】

Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

詫間 直樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、科学技術のアウトプット（科学知識や人工物など）は社会のすみずみまで浸透している。また、大抵の社会問題に科学技術が絡んでくるようになって来ているので、科学技術なしには問題を語ることも解決することもできないと言ってもよいほどの状況にある。この授業は、科学技術がこれほどまでに大きな存在となった歴史的経緯をたどり、科学技術に対する理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- ・科学技術の歴史がどのように展開してきたのか、その流れをイメージできるようになること。
- ・科学技術が社会の中でどのように作動しているのか、そのおおよそのしくみを理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。スライド (PowerPoint) を用いる。適宜、ビデオを鑑賞してもらう。科学技術に関する個別の専門的知識は必要としない。文科系の学生にも分かりやすいように、科学と技術の歴史的・社会的性格を論じる。

また、毎回、授業の終了後、リアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよびイントロダクション	授業の概要と進め方。「科学」「技術」「科学技術」の簡単な定義。科学と技術の歴史的発達の概要。本講義で科学と技術と一緒に議論する理由。
第 2 回	古代ギリシャ・ローマの科学と技術	古代ギリシャ人による自然現象の探求と、古代ローマ人の実用重視の傾向を理解する。
第 3 回	中世の科学・技術（その 1）	西欧における農業生産の拡大、都市の発達、イスラムの科学・技術、12 世紀ルネサンス、などを例に文明と科学・技術の関係を理解する。
第 4 回	中世の科学・技術（その 2）	火薬、鉄砲、製紙、活版印刷など、今日にも影響を与えている諸技術について、その発明と発達の様子を見る。
第 5 回	科学革命への先駆けー地動説の発達	地動説の発達を支えた観測技術、および研究者たちの異様な努力を知る。
第 6 回	科学革命と科学の制度化	英国王立協会や仏科学アカデミーなど科学の制度化とその思想的背景を理解する。また、ニュートンによる力学の確立を簡単にふりかえる。

第7回	産業革命の始まり	産業革命の発端が、蒸気機関の導入ではなく、木綿工業における生産性の飛躍的向上であることを理解する。
第8回	産業革命の他部門への波及	木綿工業における紡績・織布工程の生産革命が、他の部門（動力（蒸気機関）、漂白剤、製鉄業、鉄道、工作機械など）の発達を促進した経緯を理解する。
第9回	産業革命のイギリス以外の国々への波及	産業革命が仏・独・米・日などへの国々へ波及していく過程を追いつ、産業革命と国家形成が共進化する様子を把握する。
第10回	科学の専門職業化	研究・教育で生計をたてることのできる科学者が大量に出現した経緯を、独・仏・米・日本における大学や高等教育機関の整備と併わせて理解する。
第11回	第二次産業革命	科学知識をベースとするに産業革命の特徴を理解する。
第12回	戦争と科学技術	二つの世界大戦における科学者・技術者の動員体制の形成と権益化の様子を見る。
第13回	大量生産方式の発達	アメリカンシステム（互換性の確立）、フォードとGMの生産方式、トヨタのカンバン方式、全自動無人工場など、大量生産方式の過去の実例を学び、未来の生産方式を考える際の基礎とする。
第14回	まとめ	授業をふりかえり、総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 毎回の授業の前までにその前の週の授業内容について、復習を充分しておくこと。
 - ② 中間レポートには十分な時間を掛けて取り組むこと。
 - ③ 期末試験の前には再度復習を行い、2000年に及ぶ歴史のおおよその流れを把握しておくこと。
 - ④ 毎回の授業で紹介する関連文献やインターネットサイトについて積極的に閲覧し、理解を深めることを推奨する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

本授業で取り上げた事項についてさらに詳しく調べたい人は、たとえば、
中島秀人（2008年）『社会の中の科学』（日本放送出版協会）を参照されたい。
また、必要に応じて、参考になる文献やウェブサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 30%、中間レポート 20%、期末試験 50%。
・平常点は、毎回提出してもらったリアクション・ペーパーをもとに採点する。
白紙提出は大幅な減点となるので注意すること。
・中間レポートでは、科学史・技術史の研究者カードウエルの文章を要約してもらう。

【学生の意見等からの気づき】

最終回を講義することができなかったが、講義してほしかったという声もあったので、今年度は講義できるよう努力する。

【Outline and objectives】

The outputs of science and technology, such as scientific knowledge and artifacts, have spread into every corner of society. We may say that science and technology are indispensable in dealing with almost all the social problems. This course aims at providing students' understanding of science and technology by observing how they have become such a big stuff.

SHS100LA

科学史 B

2017年度以降入学者

詫間 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

法文環1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術の発達は、かつては輝かしい未来を約束するものであったが、近年では手放して喜べるものではなくなっている。本講義では、現代史において科学技術の負の側面が社会に悪影響をもたらした事例を紹介し、そうした負の側面にどう対処して正の側面を活かせばよいか、カバナンス方法を考えていく。

【到達目標】

- ・現代史における諸事例を通じて、科学技術が社会の中でどのように作動しているのか、そのおおよそのしくみを理解できるようになること。
- ・その理解のために有用な諸概念や考え方を紹介するので、それに習熟すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。スライド (PowerPoint) を用いて各回の授業テーマについて解説を行う。適宜、ビデオを鑑賞してもらう。また、毎回、授業の終了後に、リアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとイントロダクション	講義の目的と背景、授業の進め方についての説明。「科学」「技術」「科学技術」の定義、科学技術と社会の相互作用についての簡単な説明。
第2回	関連する諸概念の紹介	研究開発とリニアモデル、イノベーションと科学技術との関係（技術イノベーションと社会イノベーションの違い）。
第3回	科学に対する期待のターニングポイント	科学が光り輝いていた1960年代、科学技術に対する疑念が生じた1970年代。
第4回	日本における科学者・専門家への信頼の失墜 — 1995年	阪神淡路大震災、オウム真理教による地下鉄サリン事件、高速増殖炉もんじゅのナトリウム漏洩事故、葉害エイズ問題。
第5回	英国における科学者・専門家への信頼の失墜と信頼回復の取り組み	英国におけるBSE（牛海綿状脳症）危機で科学者や専門家に対する信頼が失墜した経緯を論じ、その後、信頼を取り戻すために科学コミュニケーションスタイルが刷新されたことを紹介する。
第6回	科学技術のガバナンス方法の変遷	行政における専門家の台頭、政府の失敗と市場の活用、市場の失敗と第三の道としての市民参加型熟議。

第 7 回	科学技術がはらむ不確実性とリスク	Known unknowns：地震予測と気候変動問題における不確実性、Unknown unknowns：フロンによるオゾン層破壊。
第 8 回	科学技術のガバナンスの手法（その 1）	立証責任の配分と事前警戒原則、リオ宣言、偽陰性と偽陽性、水俣病にける立証責任配分と事前警戒原則。
第 9 回	科学技術のガバナンスの手法（その 2）	今日の環境問題と医療裁判における立証責任と事前警戒原則の取り扱い、事前警戒原則の適用にあたっての注意点。
第 10 回	科学技術のガバナンスの手法（その 3）	気候変動問題における政策決定方法。
第 11 回	科学技術のガバナンスにおける総合的なフレームングの必要性	「緑の革命」が一部地域で飢餓をもたらした理由。
第 12 回	医療と生命科学における諸問題（その 1）	医師患者関係とインフォームド・コンセント。
第 13 回	医療と生命科学における諸問題（その 2）	ES 細胞、iPS 細胞、遺伝子組み換えとゲノム編集。
第 14 回	まとめ	講義を振り返り、総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すでに説明したことは理解している前提で講義を進めていくので、授業が一回終わるたびに、次の授業回までによく復習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

多くの授業回は、次の本を参考としている：

平川秀幸（2010 年）『科学は誰のものなのか 社会の側から問い直す』（NHK 出版生活人新書）。紙媒体は品切れだが、電子書籍版が購入できる。そのほか、必要に応じて授業中に関連文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 30 %、中間レポート 20%、期末試験 50 %。
・平常点は、毎回提出してもらうリアクション・ペーパーをもとに採点する。
・中間レポートは、20 世紀以降において科学技術が引き起こした失敗事例を一つ選んで報告してもらうことを予定している。

【学生の意見等からの気づき】

医療と生命科学に関する回が、時間の都合で講義できなかったが、講義してほしかったという声もあったので、今年度はベース配分を見直すなどして、講義できるよう努力する。

【Outline and objectives】

Development of science and technology once were to promise a rosy future, but recently we can't think so without reservation. This lecture examines recent examples of science and technology where there was negative impacts on society, and discusses how we can govern such negative impacts and make better use of science and technology.

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文営環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋における科学のはじまりから「17 世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学（自然科学）の歴史を中心に学ぶ（秋学期の同一講師による「科学史 B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行い、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける（提出課題は翌週以降コメントを付して返却する）。また、最終回には授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。

例）

（なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など。
第 2 回	西洋における科学的／哲学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく。
第 3 回	古代の天文学とその発展	前回とは別の視点から、西洋古代における天文学の歴史を見ていく。
第 4 回	アリストテレスの自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく。
第 5 回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく。
第 6 回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」をプトレマイオス天文学との対比で見ていく
第 7 回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかをティコ、ガリレオ、ケプラーなどの研究を中心に見ていく。

第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判（その 1）	天文学の革新と呼応して進んだ力学や物質論などの革新を見ていく。
第 9 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判（その 2）	前回に引き続き、17 世紀科学革命における宇宙論や自然観、あるいは神学における革新を見ていく。
第 10 回	近代科学の基礎付けの試み：ペーコン・デカルト・ロック	哲学者たちによる新しい自然学の哲学的位置づけの試みを見ていく。
第 11 回	ニュートンとライブニッツの論争（その 1）	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライブニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察する。まずは両者の立場と論争の主要な争点の紹介。
第 12 回	ニュートンとライブニッツの論争（その 2）	前回に引き続き、両者の論争とその位置づけを見ていく。
第 13 回	ニュートン力学の発展とその後	18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を見ていく。さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単にしておく。
第 14 回	全体のとまとめ／授業内試験／レポート提出	全体を振り返った後、授業内試験とレポートの回収を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供するが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる「到達目標」(2) の到達度の評価を中心とする (70 %)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1) の到達度の評価 (15 %)、および、小レポート等を含む平常の授業への参加態度 (15 %) も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているため、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline and objectives】

Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文営環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は春学期で扱ったのとは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変わり、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行い、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける（提出課題は翌週以降コメントを付して返却する）。また、最終回には授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。

（なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など。
第 2 回	西洋古代思想における目的論と反目的論	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代に立ち戻り、哲学者たちの自然観を「目的論」（アリストテレス、ストア派が代表）と「反目的論」（古代原子論が代表）に大別しながらその内容を見ていく。
第 3 回	17 世紀科学革命・機械論的自然観と動物機械論	17 世紀科学革命において「機械論的自然観」が提起され、アリストテレスの目的論的／有機体的自然観は退けられる。これをその典型であるデカルトの「動物機械論」を中心に考察していく。

第 4 回	ニュートンとライプニッツの論争における生氣論と機械論の対立	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を今期も取り上げる。ここでは、いずれも目的論的自然観を部分的に再導入しながら、「生氣論」と「機械論」に分かれて対立しあう両者の主張を見ていく。
第 5 回	17-18 世紀における生物研究の発展	17 世紀科学革命以降、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされたのかを見ていく。
第 6 回	進化論前史：19 世紀における自然神学と地質学ほか	19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する。
第 7 回	ダーウィンの分岐進化の思想と本質主義批判	進化論的な思想はダーウィンが創始したわけではないが、ダーウィンはそれ以前の進化思想には見られなかった「分岐進化」の思想を導入する。この思想の革新性をそれ以前の進化思想との対比で見ていく。
第 8 回	ダーウィンの自然選択説による「目的論の否定／目的論の自然化」	ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択（自然淘汰）は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められている。この回ではこのメカニズムを「目的論の否定／目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく。
第 9 回	非ダーウィンの進化論の時代	19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけては、自然選択説が顧みられなくなり「非ダーウィンの進化論」が全盛になったとされる。それらの学説の内容と、そこに共通する生命についての見方を考察する。
第 10 回	進化論の社会的影響	ダーウィンの『種の起原』は科学の世界を超えた社会的影響を与えた。この回ではそれを見ていくと共に、「科学と社会」という大きな問題も考えたい。
第 11 回	進化の新しい総合	20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義とダーウィン主義の総合により、「進化の総合説」が誕生し、ダーウィンの自然選択説が改めて進化の主要な要因と見なされるようになる。この回ではこの成立とその後の発展の歴史、批判者との応答などを見ていく。
第 12 回	分子生物学と生物機械論の復活	この回では分子生物学をはじめとする、進化論とは別の方面から進んだ生物学の近代化の歴史を見ていく。
第 13 回	現代における進化生物学の多様な浸透	現代、ダーウィン進化論は生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している。この回では、歴史的観点を踏まえつつこれらの現代的問題を見ていく。
第 14 回	全体のまとめ／授業内試験／レポート提出	全体を振り返った後、授業内試験とレポートの回収を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供するが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、垂水雄二『進化論物語』（バジリコ株式会社）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる「到達目標」(2) の到達度の評価を中心とする (70 %)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1) の到達度の評価 (15 %)、および、小レポート等を含む平常の授業への参加態度 (15 %) も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline and objectives】

Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋における科学のはじまりから「17 世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学（自然学）の歴史を中心に学ぶ（秋学期の同一講師による「科学史 B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行い、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける（提出課題は翌週以降コメントを付して返却する）。また、最終回には授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など。
第 2 回	西洋における科学的／哲学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく。
第 3 回	古代の天文学とその発展	前回とは別の視点から、西洋古代における天文学の歴史を見ていく。
第 4 回	アリストテレスの自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく。
第 5 回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく。
第 6 回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」をプトレマイオス天文学との対比で見ていく。
第 7 回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかをティコ、ガリレオ、ケプラーなどの研究を中心に見ていく。
第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判（その 1）	天文学の革新と呼応して進んだ力学や物質論などの革新を見ていく。

- 第 9 回 17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判（その 2）
- 第 10 回 近代科学の基礎付けの試み：ベーコン・デカルト・ロック
- 第 11 回 ニュートンとライプニッツの論争（その 1）
- 第 12 回 ニュートンとライプニッツの論争（その 2）
- 第 13 回 ニュートン力学の発展とその後
- 第 14 回 全体のまとめ／授業内試験／レポート提出
- 前回は引き続き、17 世紀科学革命における宇宙論や自然観、あるいは神学における革新を見ていく。
- 哲学者たちによる新しい自然学の哲学的位置づけの試みを見ていく。
- 初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察する。まずは両者の立場と論争の主要な争点の紹介。
- 前回は引き続き、両者の論争とその位置づけを見ていく。
- 18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を見ていく。さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単にしておく。
- 全体を振り返った後、授業内試験とレポートの回収を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供するが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる「到達目標」(2) の到達度の評価を中心とする (70 %)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1) の到達度の評価 (15 %)、および、小レポート等を含む平常の授業への参加態度 (15 %) も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline and objectives】

Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は春学期で扱ったのとは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変わり、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行い、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける（提出課題は翌週以降コメントを付して返却する）。また、最終回には授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。

（なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など。
第 2 回	西洋古代思想における目的論と反目的論	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代に立ち戻り、哲学者たちの自然観を「目的論」（アリストテレス、ストア派が代表）と「反目的論」（古代原子論が代表）に大別しながらその内容を見ていく。
第 3 回	17 世紀科学革命・機械論的自然観と動物機械論	17 世紀科学革命において「機械論的自然観」が提起され、アリストテレスの目的論的／有機体的自然観は退けられる。これをその典型であるデカルトの「動物機械論」を中心に考察していく。

第 4 回	ニュートンとライブニッツの論争における生気論と機械論の対立	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライブニッツの論争を今期も取り上げる。ここでは、いずれも目的論的自然観を部分的に再導入しながら、「生気論」と「機械論」に分かれて対立しあう両者の主張を見ていく。
第 5 回	17-18 世紀における生物研究の発展	17 世紀科学革命以降、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされたのかのような問題が議論されたのかを見ていく。
第 6 回	進化論前史：19 世紀における自然神学と地質学ほか	19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する。
第 7 回	ダーウィンの分岐進化の思想と本質主義批判	進化論的な思想はダーウィンが創始したわけではないが、ダーウィンはそれ以前の進化思想には見られなかった「分岐進化」の思想を導入する。この思想の革新性をそれ以前の進化思想との対比で見えていく。
第 8 回	ダーウィンの自然選択説による「目的論の否定／目的論の自然化」	ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択（自然淘汰）は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められている。この回ではこのメカニズムを「目的論の否定／目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく。
第 9 回	非ダーウィンの進化論の時代	19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけては、自然選択説が顧みられなくなり「非ダーウィンの進化論」が全盛になったとされる。それらの学説の内容と、そこに共通する生命についての見方を考察する。
第 10 回	進化論の社会的影響	ダーウィンの『種の起原』は科学の世界を超えた社会的影響を与えた。この回ではそれを見ていくと共に、「科学と社会」という大きな問題も考えたい。
第 11 回	進化の新しい総合	20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義とダーウィン主義の総合により、「進化の総合説」が誕生し、ダーウィンの自然選択説が改めて進化の主要な要因と見なされるようになる。この回ではこの成立とその後の発展の歴史、批判者との応答などを見ていく。
第 12 回	分子生物学と生物機械論の復活	この回では分子生物学をはじめとする、進化論とは別の方面から進んだ生物学の近代化の歴史を見ていく。
第 13 回	現代における進化生物学の多様な浸透	現代、ダーウィン進化論は生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している。この回では、歴史的観点を踏まえつつこれらの現代的問題を見ていく。
第 14 回	全体のまとめ／授業内試験／レポート提出	全体を振り返った後、授業内試験とレポートの回収を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供するが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、一般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、垂水雄二『進化論物語』（バジリコ株式会社）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる「到達目標」(2) の到達度の評価を中心とする (70 %)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1) の到達度の評価 (15 %)、および、小レポート等を含む平常の授業への参加態度 (15 %) も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることが心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline and objectives】

Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

MAT200LA

発展数学ⅠⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要な不可欠な数学（1 変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が 1 変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

【到達目標】

いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。また、2 変数関数の微分を扱う秋学期科目「発展数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることも求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分 1	微分の定義と基本性質
第 3 回	微分 2	積の微分、商の微分、合成関数の微分
第 4 回	微分 3	陰関数の微分
第 5 回	微分 4	曲線の傾きと極値
第 6 回	微分の応用 1	曲線の凹凸と変曲点
第 7 回	微分の応用 2	テイラー展開
第 8 回	微分の応用 3	マクローリン展開
第 9 回	微分の応用 4	近似計算
第 10 回	積分 1	定積分と不定積分
第 11 回	積分 2	リーマン積分
第 12 回	積分 3	微分積分法の基本定理
第 13 回	積分の応用 1	図形の面積
第 14 回	積分の応用 2	立体の体積

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」の教科書である、藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版（2011）は参考になる。さらに学習する際は、微積分学を主題とした書物であれば参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要である。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation and integration of functions of one variable.

MAT200LA

発展数学ⅠⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の变化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはすである。

【到達目標】

与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることで求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	2変数関数1	多変数関数とは
第3回	2変数関数2	平面のグラフ
第4回	2変数関数3	曲面のグラフ
第5回	偏微分1	偏微分とは
第6回	偏微分2	極限値
第7回	偏微分3	偏導関数の計算
第8回	偏微分4	合成関数の微分
第9回	偏微分5	全微分と接平面
第10回	偏微分の応用1	極値問題
第11回	偏微分の応用2	陰関数の微分法
第12回	偏微分の応用3	条件付極値問題
第13回	重積分1	重積分とは
第14回	重積分2	体積

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。例題などは印刷したものを学習支援システムで配布する。

【参考書】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」の教科書である、藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版（2011）は参考になる。さらに学習する際は、微積分学を主題とした書物であれば参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「発展数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要である。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation and integration of functions of more than one variable.

MAT200LA

発展数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（1 変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が 1 変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

【到達目標】

いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。また、2 変数関数の微分を扱う秋学期科目「発展数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞くだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。対面とオンラインのどちらの形式でも取り組めるようにする予定であるが、詳細は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	授業概要の説明
第 02 回	微分の導入 1	導関数と曲線の傾き
第 03 回	微分の導入 2	直線によるグラフの近似
第 04 回	微分の導入 3	ニュートン法
第 05 回	関数の形式と微分 1	合成関数の微分
第 06 回	関数の形式と微分 2	陰関数と微分
第 07 回	関数の形式と微分 3	媒介変数表示と微分
第 08 回	高階導関数 1	2 階導関数と曲線のしなり
第 09 回	高階導関数 2	放物線によるグラフの近似
第 10 回	高階導関数 3	マクローリン展開
第 11 回	高階導関数 4	社会科学への応用例
第 12 回	積分 1	積分と微分の関係
第 13 回	積分 2	積分と面積の関係
第 14 回	試験	要点の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。（計算などが上手くいかないときは、悲観的に考える必要は全くなく、むしろ自力を高める良い機会だと思いますので気軽に相談頂けたらと思います。）本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（資料配付等は授業支援システムからも入手できるようにします。）

【参考書】

微積分学を主題とした書物は参考となる。数多くの書籍が出版されているので、説明が自分に合っていると思うものを利用するとよい。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（30%）において、また、平常点（10%）と共に演習問題への取り組み具合を課題提出（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

紹介した応用例は専門科目の中でも扱われる機会がある様子ですので、履修者にとって、その後の学習で得ができるような内容を充実させていきたいと思います。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要である。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation and integration of functions of one variable.

MAT200LA

発展数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の变化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはずである。

【到達目標】

与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞くだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。対面とオンラインのどちらの形式でも取り組めるようにする予定であるが、詳細は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第01回	導入	授業概要の説明
第02回	空間の数学1	空間ベクトルの基礎
第03回	空間の数学2	2変数の1次式と平面
第04回	空間の数学3	2変数の多項式と曲面
第05回	偏微分1	偏微分とその意味
第06回	偏微分2	偏導関数の計算
第07回	偏微分3	全微分と接平面
第08回	偏微分4	2変数関数と最適化
第09回	偏微分5	社会科学への応用
第10回	偏微分と極値1	2階偏導関数の計算
第11回	偏微分と極値2	2変数関数の極値の計算
第12回	偏微分と極値3	公務員試験での出題事例
第13回	偏微分と極値4	制約条件付きの極値の計算
第14回	試験	要点の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。（計算などが上手くいかないときは、悲観的に考える必要は全くなく、むしろ自力を高める良い機会だと思っています。）本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（資料配付等は授業支援システムからも入手できるようにします。）

【参考書】

微積分学を主題とした書物は参考となる。数多くの書籍が出版されているので、説明が自分に合っていると思うものを利用するとよい。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（30%）において、また、平常点（10%）と共に演習問題への取り組み具合を課題提出（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

紹介した応用例は専門科目の中でも扱われる機会がある様子です。履修者にとって、その後の学習で得ができるような内容を充実させていきたいと思います。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要である。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation and integration of functions of more than one variable.

PHY200LA

教養物理学 LA

2017 年度以降入学者

サブタイトル：宇宙と地球

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブタイトルを「宇宙と地球」とする。

我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようなになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

【到達目標】

- ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
- ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基本法則の応用力を養う。
- ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	各回の講義概要
第 2 回	世界観の変遷	我々の住む世界（宇宙）に関する理解の歴史
第 3 回	我々の住む地球 (1)	地球の形と大きさ、表面（大気圏、海）の概要
第 4 回	我々の住む地球 (2)	地球の内部構造を調べる方法とその結果わかったこと
第 5 回	我々の住む地球 (3)	大気圏外、オーロラ、地球に対する太陽の影響
第 6 回	色々な天体	地上から観測できる天体の種類とその階層性について
第 7 回	天体の光	天体の光の観測から何がわかるか
第 8 回	宇宙観の広がり	宇宙はどこまで広がっているか
第 9 回	星の一生と元素合成 (1)	恒星の誕生、星の中で行われている元素合成
第 10 回	星の一生と元素合成 (2)	恒星の死、超新星爆発、中性子星、パルサー、ブラックホール
第 11 回	太陽系 (1)	太陽系のあらまし
第 12 回	太陽系 (2)	太陽系の誕生（太陽、地球の誕生）、太陽系外惑星の探査
第 13 回	太陽系 (3)	誕生後の地球で起こったこと
第 14 回	宇宙の謎	現代の宇宙の謎である暗黒物質、暗黒エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。
配分は、期末試験の結果を6割程度とする

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This class introduces physics point of view to understand various phenomena about the earth and the universe.

PHY200LA

教養物理学 LA

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブタイトルを「宇宙と地球」とする。

我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようなになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

【到達目標】

- ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
- ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
- ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	各回の講義概要
第 2 回	世界観の変遷	我々の住む世界（宇宙）に関する理解の歴史
第 3 回	我々の住む地球 (1)	地球の形と大きさ、表面（大気圏、海）の概要
第 4 回	我々の住む地球 (2)	地球の内部構造を調べる方法とその結果わかったこと
第 5 回	我々の住む地球 (3)	大気圏外、オーロラ、地球に対する太陽の影響
第 6 回	色々な天体	地上から観測できる天体の種類とその階層性について
第 7 回	天体の光	天体の光の観測から何がわかるか
第 8 回	宇宙観の広がり	宇宙はどこまで広がっているか
第 9 回	星の一生と元素合成 (1)	恒星の誕生、星の中で行われている元素合成
第 10 回	星の一生と元素合成 (2)	恒星の死、超新星爆発、中性子星、パルサー、ブラックホール
第 11 回	太陽系 (1)	太陽系のあらまし
第 12 回	太陽系 (2)	太陽系の誕生（太陽、地球の誕生）、太陽系外惑星の探査
第 13 回	太陽系 (3)	誕生後の地球で起こったこと
第 14 回	宇宙の謎	現代の宇宙の謎である暗黒物質、暗黒エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】

・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。
配分は、期末試験の結果を6割程度とする

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This class introduces physics point of view to understand various phenomena about the earth and the universe.

PHY200LA

教養物理学 LB

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な物理学的な発見はどのようにしてなされてきたのか。物理学上の幾つかの事柄について、歴史的な経緯を踏まえつつ紹介する。また、内容の理解を深めると共に、他の分野に与えた影響についても紹介したい。最新の研究も合わせて紹介する予定である。

【到達目標】

単に結果のみでなく、そこに至るプロセスや社会への影響等を学ぶことによって、様々な現象に対して自分自身で判断する能力を身に付けることができるようにすることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義全体について紹介する。
第 2 回	万有引力：ガリレオ研究	17 世紀のガリレオの研究について紹介する。
第 3 回	万有引力：ケプラーの研究	17 世紀のケプラーの研究について紹介する。
第 4 回	万有引力：万有引力の法則	万有引力の法則、それに付随してキャベンディッシュの研究についても紹介する。
第 5 回	万有引力：万有引力の証明	ハレー彗星や惑星の運動について紹介する。
第 6 回	宇宙：太陽系	第 4 回に関連して地球について、更に太陽系の天体について紹介する。
第 7 回	宇宙：アポロ計画	1960 年代のアポロ計画を中心に、宇宙開発について紹介する。
第 8 回	宇宙：スペースシャトル計画	1980 年代のスペースシャトル計画を中心とした宇宙開発について紹介する。
第 9 回	宇宙：冥王星探査・小惑星探査計画	地球上の生命はどこから来たのか。2000 年代の冥王星探査・小惑星探査等について紹介する。
第 10 回	ラジウム：原子核	原子核について紹介する。
第 11 回	ラジウム：マリ・キュリー	マリ・キュリーの研究について紹介する。
第 12 回	ラジウム：ラジウム狂詩曲	ラジウム発見による当時の騒動について紹介する。

第 13 回 ラジウム：原子核の応用について
マリ・キュリーが目指した応用について紹介する。
第 14 回 まとめ 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」からの課題 70%と期末試験の成績 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline and objectives】

This course teaches some subjects of physics based on historical episode.

PHY200LA

教養物理学 LB

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な物理学的な発見はどのようにしてなされてきたのか。物理学上の幾つかの事柄について、歴史的な経緯を踏まえつつ紹介する。また、内容の理解を深めると共に、他の分野に与えた影響についても紹介したい。最新の研究も合わせて紹介する予定である。

【到達目標】

単に結果のみでなく、そこに至るプロセスや社会への影響等を学ぶことによって、様々な現象に対して自分自身で判断する能力を身に付けることができるようにすることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義全体について紹介する。
第 2 回	万有引力：ガリレオ研究	17 世紀のガリレオの研究について紹介する。
第 3 回	万有引力：ケプラーの研究	17 世紀のケプラーの研究について紹介する。
第 4 回	万有引力：万有引力の法則	万有引力の法則、それに付随してキャベンディッシュの研究についても紹介する。
第 5 回	万有引力：万有引力の証明	ハレー彗星や惑星の運動について紹介する。
第 6 回	宇宙：太陽系	第 4 回に関連して地球について、更に太陽系の天体について紹介する。
第 7 回	宇宙：アポロ計画	1960 年代のアポロ計画を中心に、宇宙開発について紹介する。
第 8 回	宇宙：スペースシャトル計画	1980 年代のスペースシャトル計画を中心とした宇宙開発について紹介する。
第 9 回	宇宙：冥王星探査・小惑星探査計画	地球上の生命はどこから来たのか。2000 年代の冥王星探査・小惑星探査等について紹介する。
第 10 回	ラジウム：原子核	原子核について紹介する。
第 11 回	ラジウム：マリ・キュリー	マリ・キュリーの研究について紹介する。
第 12 回	ラジウム：ラジウム狂詩曲	ラジウム発見による当時の騒動について紹介する。

第13回 ラジウム：原子核の応用について
第14回 まとめ

マリ・キュリーが目指した応用について紹介する。
全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」からの課題70%と期末試験の成績30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline and objectives】

This course teaches some subjects of physics based on historical episode.

BIO200LA

教養生物学ⅡA

2017年度以降入学者

サブタイトル：私たちの体を作る細胞の構造と働き

沼田 治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

法文営国環キ1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の体は、37兆2千億個の細胞から構成されていると言われていいる。この授業では、我々の体を構成する細胞について理解することを目的とする。学生諸君が自分の体を構成する基本単位である細胞の実態を理解できる授業を展開する。学生諸君が生活の中で毎日経験している活動、外界からの情報を感じて行動するしくみ、食事からエネルギーを獲得し、エネルギーを利用して運動することなどを、細胞レベルから理解することを目指す。自分の体を構成する細胞について学ぶことで、命の本質を理解してもらいたい。

【到達目標】

私たちの体を構成している細胞がどのような構造をしているのか、細胞がどのような働きをしているのかを学び、細胞が活動するエネルギーがどのように作られるのか、細胞がどのように動くのか、細胞がどのように増えるのか、細胞がどのように組織や器官を形成するのかを理解する。生命の最小単位である細胞についての最新の知見をベースとして、我々が生きているということ、生命の本質について、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を主に授業は進める。随時、質問等質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるように授業を進める。また、3回目、6回目、9回目、12回目の授業の後にレポート課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。レポートと同時に授業改善を目的とする簡単なアンケートを実施する。リアクションペーパー提出やレポート課題、授業改善アンケート等に対するフィードバックは次回以降の授業で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	細胞膜が細胞を外界から区切っている	細胞膜の構造と働きについて理解する。細胞膜を介しての外界との物質のやり取りと、神経の興奮の伝播を例にして、解説する。
2回	遺伝子は染色体の中に収納され、核の中に保存されている	遺伝子を保存している核の構造について理解する。遺伝子を収納している染色体の構造と、その働きについて解説する。
3回	ミトコンドリアはエネルギーを産生し、葉緑体は炭水化物を合成する	我々に不可欠なエネルギーを生産するミトコンドリアと、光と二酸化炭素から炭水化物を生産する葉緑体の働きを理解する。
4回	細胞骨格とは何か？	細胞の形態維持や、細胞の運動に関わる、細胞の骨格を構成する成分について説明する。特に筋肉を例にして理解を深める。

5 回	細胞骨格を動かす細胞内モーター	細胞の中にもモーターがあり、それらの働きで我々は動くことができる。細胞内モーターの実態について、筋肉と精子を例にして解説する。
6 回	細胞が運動するしくみとその働き	細胞骨格と細胞内モーターの働きで、細胞は運動する。その具体的な仕組みに関して、筋収縮と細胞のアメーバ運動を例に挙げて解説する。
7 回	細胞質でタンパク質が作られる	遺伝子に蓄えられた遺伝情報はタンパク質を作る情報である。タンパク質がどのように作られるかを解説する。
8 回	作られたタンパク質は働く場所に運ばれる	タンパク質は働くべき場所が決まっている。どのようにタンパク質が働く場所に運ばれるかを解説する。
9 回	細胞は分泌し、細胞は取り込む	細胞がホルモンや消化酵素を分泌するしくみと、細胞が糖や脂肪を取り込む仕組みについて解説する。
10 回	細胞はシグナルをやり取りしている	細胞は外からシグナルを受け取り、そのシグナルを細胞内に伝達する。細胞間シグナル伝達と細胞内シグナル伝達について解説する。
11 回	細胞はどのように増殖するか？	細胞は細胞分裂を行って増殖する。細胞分裂は、核が分裂したのちに細胞質が分裂して完了する。核分裂と細胞質分裂のしくみを解説する。
12 回	細胞は遺伝子を複製した後に分裂する	細胞は遺伝子の複製と分裂を繰り返している。これを細胞周期と呼ぶ。細胞周期を調節するしくみについて説明する。
13 回	私たちの体と細胞	私たちの体を構成する上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織とそれらを構成する細胞について説明する。
14 回	私たちは感じて行動する	私たちの行動と細胞の関係を、神経細胞の興奮伝達と筋肉の運動を例に挙げ、分子レベルで解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習のためにテキストを事前に読むこと、復習のためにテキストの演習問題を行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書名：「細胞生物学」

著者： 沼田治編著、千葉智樹、中野賢太郎、中田和人著

出版社： 化学同人

出版年： 2012 年第 1 版発行

価格： 3,000 円

【参考書】

参考書は指定しません。

【成績評価の方法と基準】

3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後にレポート課題を出す。4 回のレポートの評価点と期末試験の点で成績評価を行う。4 回のレポートの評価点を 50 %、期末試験の成績を 50 %として、合計 100 %として、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業に関する質問や意見をリアクションペーパーに記載してもらい、授業改善に役立てる。

3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後に、レポート課題を出す。その時に授業改善アンケートを実施し、その結果を授業の改善に役立てる。

リアクションペーパー提出やレポート課題、授業改善アンケート等に対するフィードバックは次回以降の授業で行います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

オフィスアワー:月曜日の 4 時限終了後、16 : 40 から 18 : 00 まで

【Outline and objectives】

Our body is said to be composed of 37.2 trillion cells. The purpose of this lesson is to understand the cells that make up our body. We develop classes that allow students to understand the actual conditions of cells, which are basic units that make up their bodies. A class that allows students to understand the activities they are experiencing everyday in their lives, how they feel and act from the outside world, acquire energy from diet, exercise using energy, etc. . I would like you to understand the essence of life by learning about the cells that make up your body.

BIO200LA

教養生物学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：不思議な生物テトラヒメナが教えてくれたこと

沼田 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テトラヒメナはノーベル賞に輝いたリボザイムとテロメアの発見に導いた研究材料である。現在でも、テトラヒメナを研究材料として、ヒストンの化学修飾によるエピジェネティック調節や低分子 RNA による遺伝子再編成などの発見がなされている。本講義では、テトラヒメナを用いて明らかにされた素晴らしい研究成果を紹介し、学生諸君が現代生物学の最先端を理解することを目的とする。さらに、学生諸君は研究者がテトラヒメナを利用して、いかに生物学の大発見に到達したかを学び、生物学の面白さとテトラヒメナの不思議を理解してもらいたい。

【到達目標】

テトラヒメナを研究材料として明らかにされた生物学上の大発見について学ぶ。リボザイムの発見が生命誕生のなぞの解明につながったこと、テロメアの発見が我々の老化のしくみの理解に貢献していること、エピジェネティック調節が個体の発生分化を調節していること、エピジェネティック調節がガン化にも関係していることなどを学ぶ。水たまりにいる単細胞生物、テトラヒメナが現代生物学の進歩に如何に貢献したかを理解し、研究材料の重要さと研究者の熱意が大発見につながることを、その発見が我々の人生にも影響していることを理解してもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義を主に授業を進める。随時、質問等質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるように授業を進める。また、3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後にレポート課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。レポートと同時に授業改善を目的とする簡単なアンケートを実施する。

リアクションペーパー提出やレポート課題、授業改善アンケート等に対するフィードバックは次回以降の授業で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	不思議な生物テトラヒメナ	テトラヒメナの不思議な性質を紹介する。具体的には、2 種類の核を持つこと、7 つの性を持つこと、細胞口と細胞肛門と収縮胞を持つことなど。
2 回	テトラヒメナの小有核（生殖核）と大核（栄養核）の働き	テトラヒメナが持つ 2 種類の核、生殖核と栄養核の働きを、我々の体を構成する生殖細胞と体細胞と比較しながら説明する。
3 回	テトラヒメナは 7 つの性を持つ。生物の性とは何か？	テトラヒメナは 7 つの性を持つが、ほとんどの生物は 2 つの性しか持たない。生物の性とは何か、性を決めるしくみは何かを学ぶ。

4 回	テトラヒメナの繊毛を動かすモータータンパク質	精子の鞭毛運動や、テトラヒメナの繊毛運動を引き起こすモータータンパク質、ダイニンの発見と、ダイニンの性状について紹介する。
5 回	染色体末端構造テロメアの発見	染色体の末端問題と染色体末端構造であるテロメアの発見、テロメアを合成するテロメララーゼの発見について紹介する。
6 回	テロメアは生物の寿命を決めるか？	生物の寿命とは何か？ 生殖細胞、体細胞、そして不死化したガン細胞のテロメアから生物の寿命について考察する。
7 回	酵素活性を持つ RNA、リボザイムの発見	テトラヒメナの RNA が酵素活性を持つことが発見された。リボザイムの発見である。その発見の経緯と、リボザイムの働きを解説する。
8 回	リボザイムはセントラルドグマを覆すか？	セントラルドグマでは遺伝情報は「DNA→mRNA→タンパク質」の順に伝達される。生命誕生は DNA からか？ タンパク質からか？ それが問題だ。リボザイムの発見はこの問題に解答を出した。
9 回	大核分化で生じる DNA 再編成	接合過程で、小核から大核が分化する時、DNA の大規模な再編成が起きる。我々の体の中で起きる DNA の組み換えと比較して、テトラヒメナの DNA 再編成について解説する。
10 回	大核の DNA 再編成を指揮する scnRNA	大核の大規模な DNA 再編成をコントロールしている scnRNA の発見と scnRNA の働きについて解説する。
11 回	遺伝子の発現を調節するヒストンの化学修飾	大核は盛んに遺伝子発現し、小核は全く遺伝子発現しない。この違いの原因は何と DNA が巻き付いているヒストンの化学修飾であった。ヒストンの化学修飾が遺伝子発現を調節するしくみを解説する。
12 回	ヒストンの化学修飾による遺伝子発現調節はすべての生物で起きている。	ヒストンの化学修飾による遺伝子発現調節はエピジェネティック調節と呼ばれている。エピジェネティック調節による発生分化の調節について解説する。
13 回	テトラヒメナの 7 つの性を司る DNA 再編成	テトラヒメナが持つ 7 つの性が、どのような遺伝子によって調節されているか、どのように個体の性が決まるかが明らかになった。大核の DNA 再編成によって、7 つの性のから一つが選択されるしくみを説明する。
14 回	テトラヒメナが教えてくれたこと	45 年間テトラヒメナを研究材料として、研究してきた沼田治にテトラヒメナが教えてくれたこと。研究者と研究材料の間の交流、交感について話す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習のためにテキストを事前に読むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書名：ノーベル賞に二度も輝いた不思議な生物 テトラヒメナの魅力

著者： 沼田治

出版社： 慶応義塾大学出版会

出版年： 2018 年 10 月 12 日

価格： 1,800 円

【参考書】

参考書は指定しません。

【成績評価の方法と基準】

3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後にレポート課題を出す。
4 回のレポートの評価点と期末試験の点で成績評価を行う。4 回のレポートの評価点を 50 %、期末試験の成績を 50 %として、合計 100 %として、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業に関する質問や意見をリアクションペーパーに記載してもらい、授業改善に役立てる。

3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後に、レポート課題を出す。その時に授業改善アンケートを実施し、その結果を授業の改善に役立てる。

リアクションペーパー提出やレポート課題、授業改善アンケート等に対するフィードバックは次回以降の授業で行います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

オフィスアワー:月曜日の 4 時限終了後、16 : 40 から 18 : 00 まで

【Outline and objectives】

Tetrahymena is a research material that led to the discovery of ribozymes and the telomere, which won the Nobel Prize. Even now, discoveries such as epigenetic regulation by chemically modifying histones and genetic reediting by low-molecular RNA have been made using Tetrahymena as a research material. In this lecture, we introduce wonderful research results revealed using Tetrahymena, with the aim of students to understand the cutting edge of modern biology. In addition, students want to learn how researchers have reached a major discovery of biology by using Tetrahymena and understand the interest of biology and the wonders of Tetrahymena.

BIO200LA

教養生物学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：私たちの体を作る細胞の構造と働き

沼田 治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の体は、37 兆 2 千億個の細胞から構成されていると言われていいる。この授業では、我々の体を構成する細胞について理解することを目的とする。学生諸君が自分の体を構成する基本単位である細胞の実態を理解できる授業を展開する。学生諸君が生活の中で毎日経験している活動、外界からの情報を感じて行動するしくみ、食事からエネルギーを獲得し、エネルギーを利用して運動することなどを、細胞レベルから理解することを目指す。自分の体を構成する細胞について学ぶことで、命の本質を理解してもらいたい。

【到達目標】

私たちの体を構成している細胞がどのような構造をしているのか、細胞がどのような働きをしているのかを学び、細胞が活動するエネルギーがどのように作られるのか、細胞がどのように動くのか、細胞がどのように増えるのか、細胞がどのように組織や器官を形成するのかを理解する。生命の最小単位である細胞についての最新の知見をベースとして、我々が生きているということ、生命の本質について、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義を主に授業を進める。随時、質問等質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるように授業を進める。また、3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後にレポート課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。レポートと同時に授業改善を目的とする簡単なアンケートを実施する。

リアクションペーパー提出やレポート課題、授業改善アンケート等に対するフィードバックは次回以降の授業で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	細胞膜が細胞を外界から区切っている	細胞膜の構造と働きについて理解する。細胞膜を介しての外界との物質のやり取りと、神経の興奮の伝播を例にして、解説する。
2 回	遺伝子は染色体の中に収納され、核の中に保存されている	遺伝子を保存している核の構造について理解する。遺伝子を収納している染色体の構造と、その働きについて解説する。
3 回	ミトコンドリアはエネルギーを産生し、葉緑体は炭水化物を合成する	我々に不可欠なエネルギーを生産するミトコンドリアと、光と二酸化炭素から炭水化物を生産する葉緑体の働きを理解する。
4 回	細胞骨格とは何か？	細胞の形態維持や、細胞の運動に関わる、細胞の骨格を構成する成分について説明する。特に筋肉を例にして理解を深める。

5 回	細胞骨格を動かす細胞内モーター	細胞の中にもモーターがあり、それらの働きで我々は動くことができる。細胞内モーターの実態について、筋肉と精子を例にして解説する。
6 回	細胞が運動するしくみとその働き	細胞骨格と細胞内モーターの働きで、細胞は運動する。その具体的な仕組みに関して、筋収縮と細胞のアメーバ運動を例に挙げて解説する。
7 回	細胞質でタンパク質が作られる	遺伝子に蓄えられた遺伝情報はタンパク質を作る情報である。タンパク質がどのように作られるかを解説する。
8 回	作られたタンパク質は働く場所に運ばれる	タンパク質は働くべき場所が決まっている。どのようにタンパク質が働く場所に運ばれるかを解説する。
9 回	細胞は分泌し、細胞は取り込む	細胞がホルモンや消化酵素を分泌するしくみと、細胞が糖や脂肪を取り込む仕組みについて解説する。
10 回	細胞はシグナルをやり取りしている	細胞は外からシグナルを受け取り、そのシグナルを細胞内に伝達する。細胞間シグナル伝達と細胞内シグナル伝達について解説する。
11 回	細胞はどのように増殖するか？	細胞は細胞分裂を行って増殖する。細胞分裂は、核が分裂したのちに細胞質が分裂して完了する。核分裂と細胞質分裂のしくみを解説する。
12 回	細胞は遺伝子を複製した後に分裂する	細胞は遺伝子の複製と分裂を繰り返している。これを細胞周期と呼ぶ。細胞周期を調節するしくみについて説明する。
13 回	私たちの体と細胞	私たちの体を構成する上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織とそれらを構成する細胞について説明する。
14 回	私たちは感じて行動する	私たちの行動と細胞の関係を、神経細胞の興奮伝達と筋肉の運動を例に挙げ、分子レベルで解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。予習のためにテキストを事前に読むこと、復習のためにテキストの演習問題を行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書名：「細胞生物学」

著者： 沼田治編著、千葉智樹、中野賢太郎、中田和人著

出版社： 化学同人

出版年： 2012 年第 1 版発行

価格： 3,000 円

【参考書】

参考書は指定しません。

【成績評価の方法と基準】

3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後にレポート課題を出す。4 回のレポートの評価点と期末試験の点で成績評価を行う。4 回のレポートの評価点を 50 %、期末試験の成績を 50 %として、合計 100 %として、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業に関する質問や意見をリアクションペーパーに記載してもらい、授業改善に役立てる。

3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後に、レポート課題を出す。その時に授業改善アンケートを実施し、その結果を授業の改善に役立てる。

リアクションペーパー提出やレポート課題、授業改善アンケート等に対するフィードバックは次回以降の授業で行います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

オフィスアワー:月曜日の 4 時限終了後、16 : 40 から 18 : 00 まで

【Outline and objectives】

Our body is said to be composed of 37.2 trillion cells. The purpose of this lesson is to understand the cells that make up our body. We develop classes that allow students to understand the actual conditions of cells, which are basic units that make up their bodies. A class that allows students to understand the activities they are experiencing everyday in their lives, how they feel and act from the outside world, acquire energy from diet, exercise using energy, etc. . I would like you to understand the essence of life by learning about the cells that make up your body.

BIO200LA

教養生物学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：不思議な生物テトラヒメナが教えてくれたこと

沼田 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テトラヒメナはノーベル賞に輝いたリボザイムとテロメアの発見に導いた研究材料である。現在でも、テトラヒメナを研究材料として、ヒストンの化学修飾によるエピジェネティック調節や低分子 RNA による DNA 再編成などの発見がなされている。本講義では、テトラヒメナを用いて明らかにされた素晴らしい研究成果を紹介し、学生諸君が現代生物学の最先端を理解することを目的とする。さらに、学生諸君は研究者がテトラヒメナを利用して、いかに生物学の大発見に到達したかを学び、生物学の面白さとテトラヒメナの不思議を理解してもらいたい。

【到達目標】

テトラヒメナを研究材料として明らかにされた生物学上の大発見について学ぶ。リボザイムの発見が生命誕生のなぞの解明につながったこと、テロメアの発見が我々の老化のしくみの理解に貢献していること、エピジェネティック調節が個体の発生分化を調節していること、エピジェネティック調節がガン化にも関係していることなどを学ぶ。水たまりにいる単細胞生物、テトラヒメナが現代生物学の進歩に如何に貢献したかを理解し、研究材料の重要さと研究者の熱意が大発見につながることを、その発見が我々の人生にも影響していることを理解してもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を主に授業を進める。随時、質問等質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるように授業を進める。また、3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後にレポート課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。レポートと同時に授業改善を目的とする簡単なアンケートを実施する。

リアクションペーパー提出やレポート課題、授業改善アンケート等に対するフィードバックは次回以降の授業で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	不思議な生物テトラヒメナ	テトラヒメナの不思議な性質を紹介する。具体的には、2 種類の核を持つこと、7 つの性を持つこと、細胞口と細胞肛門と収縮胞を持つことなど。
2 回	テトラヒメナの小有核（生殖核）と大核（栄養核）の働き	テトラヒメナが持つ 2 種類の核、生殖核と栄養核の働きを、我々の体を構成する生殖細胞と体細胞と比較しながら説明する。
3 回	テトラヒメナは 7 つの性を持つ。生物の性とは何か？	テトラヒメナは 7 つの性を持つが、ほとんどの生物は 2 つの性しか持たない。生物の性とは何か、性を決めるしくみは何かを学ぶ。

4 回	テトラヒメナの繊毛を動かすモータータンパク質	精子の鞭毛運動や、テトラヒメナの繊毛運動を引き起こすモータータンパク質、ダイニンの発見と、ダイニンの性状について紹介する。
5 回	染色体末端構造テロメアの発見	染色体の末端問題と染色体末端構造であるテロメアの発見、テロメアを合成するテロメララーゼの発見について紹介する。
6 回	テロメアは生物の寿命を決めるか？	生物の寿命とは何か？ 生殖細胞、体細胞、そして不死化したガン細胞のテロメアから生物の寿命について考察する。
7 回	酵素活性を持つ RNA、リボザイムの発見	テトラヒメナの RNA が酵素活性を持つことが発見された。リボザイムの発見である。その発見の経緯と、リボザイムの働きを解説する。
8 回	リボザイムはセントラルドグマを覆すか？	セントラルドグマでは遺伝情報は「DNA→mRNA→タンパク質」の順に伝達される。生命誕生は DNA からか？ タンパク質からか？ それが問題だ。リボザイムの発見はこの問題に解答を出した。
9 回	大核分化で生じる DNA 再編成	接合過程で、小核から大核が分化する時、DNA の大規模な再編成が起きる。我々の体の中で起きる DNA の組み換えと比較して、テトラヒメナの DNA 再編成について解説する。
10 回	大核の DNA 再編成を指揮する scnRNA	大核の大規模な DNA 再編成をコントロールしている scnRNA の発見と scnRNA の働きについて解説する。
11 回	遺伝子の発現を調節するヒストンの化学修飾	大核は盛んに遺伝子発現し、小核は全く遺伝子発現しない。この違いの原因は何と DNA が巻き付いているヒストンの化学修飾であった。ヒストンの化学修飾が遺伝子発現を調節するしくみを解説する。
12 回	ヒストンの化学修飾による遺伝子発現調節はすべての生物で起きている。	ヒストンの化学修飾による遺伝子発現調節はエピジェネティック調節と呼ばれている。エピジェネティック調節による発生分化の調節について解説する。
13 回	テトラヒメナの 7 つの性を司る DNA 再編成	テトラヒメナが持つ 7 つの性が、どのような遺伝子によって調節されているか、どのように個体の性が決まるかが明らかになった。大核の DNA 再編成によって、7 つの性のから一つが選択されるしくみを説明する。
14 回	テトラヒメナが教えてくれたこと	45 年間テトラヒメナを研究材料として、研究してきた沼田治にテトラヒメナが教えてくれたこと。研究者と研究材料の間の交流、交感について話す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読むことと、授業の後にも復習のためテキストを読むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書名：ノーベル賞に二度も輝いた不思議な生物 テトラヒメナの魅力

著者：沼田治

出版社：慶応義塾大学出版会

出版年：2018 年 10 月 12 日

価格：1,800 円

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後にレポート課題を出す。
4 回のレポートの評価点と期末試験の点で成績評価を行う。4 回のレポートの評価点を 50 %、期末試験の成績を 50 %として、合計 100 %として、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業に関する質問や意見をリアクションペーパーに記載してもらい、授業改善に役立てる。

3 回目、6 回目、9 回目、12 回目の授業の後に、レポート課題を出す。その時に授業改善アンケートを実施し、その結果を授業の改善に役立てる。

リアクションペーパー提出やレポート課題、授業改善アンケート等に対するフィードバックは次回以降の授業で行います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

オフィスアワー:月曜日の 4 時限終了後、16 : 40 から 18 : 00 まで

【Outline and objectives】

Tetrahymena is a research material that led to the discovery of ribozymes and the telomere, which won the Nobel Prize. Even now, discoveries such as epigenetic regulation by chemically modifying histones and genetic reediting by low-molecular RNA have been made using Tetrahymena as a research material. In this lecture, we introduce wonderful research results revealed using Tetrahymena, with the aim of students to understand the cutting edge of modern biology. In addition, students want to learn how researchers have reached a major discovery of biology by using Tetrahymena and understand the interest of biology and the wonders of Tetrahymena.

BIO200LA

教養生物学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル:

町田 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『命とはなにか?』という問いをテーマに掲げて、生物学の立場から生物に共通する生命機能に対する理解を深め、命について考えることを目的として展開します。地球上に存在する多種多様な生物は、すべて細胞から構成されており、生物の遺伝形質は細胞内に収納されている遺伝子によって決定されています。この、細胞・遺伝子について学ぶことによって、「生命はなにかからできているのか?」、「命はどのようにしてこの世に誕生するのか?」、「なぜ病気になるのか?」などの問いに対する答えを見つけていきます。また、この非常に複雑で精巧な生命のしくみに手を加える技術が近年急速に発展していますが、再生医療等の分野へどのように応用されているのか、またどのような倫理的課題をもたらしているのかについても考えます。

【到達目標】

生命現象を理解する上で必要とされる知識を会得し、命のしくみについて理解を深めるとともに、命というものの存在意義について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

授業は、生物学初心者でも理解できるように展開します。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

授業実施形態等の詳細につきましては「学習支援システム」を通じてお伝えします。

また、授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲示しますので、随時ご確認ください。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	命ある生物とは？	命ある生物とはどんな特徴をもつのか、そしてその生物を対象とする生物学とはどんな学問なのかについて概説します。
第 3 回	命の材料とは？	生物体はどんな物質からできているのか、そして生命の最小単位である細胞とはなにかについて概説します。

第 4 回	命の設計図とは？	生命活動を営むための情報をもつ DNA とはどのような働きをしているのかについて、その構造および複製のしくみ、また遺伝情報に基づいてタンパク質が作られるしくみを概説します。
第 5 回	命をつくる細胞の一生とは？	細胞の分裂や分化のしくみ、また細胞死やがん化について概説します。
第 6 回	命の誕生とは？	命はどのようにして誕生するのかについて、ひとつの受精卵から個体が形成されるまでの過程を、細胞の分裂・分化に着目しながら概説します。
第 7 回	命の要、タンパク質とは？	生体内において様々な役割を担うタンパク質の構造や機能について概説します。
第 8 回	命を支える細胞膜の機能とは？	生命活動に欠かせない細胞の機能について、細胞膜に発現している種々のタンパク質の働きに着目して概説します。
第 9 回	命を守るしくみとは？	体内に侵入した異物に対する防御のシステムについて概説します。
第 10 回	命のしくみを利用した新しい医療とは？	細胞・遺伝子を扱う技術を用いた新たな治療法である再生医療について概説します。
第 11 回	命に手を加えるとは？	生命科学分野の技術発展がもたらす倫理的課題について、歴史的背景とともに、実験動物の扱いや、遺伝子・幹細胞に関する技術などを例にあげながら概説します。
第 12 回	命を操作する技術とは？	細胞・遺伝子を利用した研究の実際について概説します。
第 13 回	命とはなにか？	授業で扱った各回の内容を振り返り、個々の事柄の結びつきを考えながら整理し直すことによって、本授業のテーマに対する考察を深めます。
第 14 回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basis of biological science, focusing on the principle of life. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mechanism of life phenomenon.

Lectures will also discuss current technologies related to cells and genes.

BIO200LA

教養生物学 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

町田 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『人間とはなにか？』という問いをテーマに掲げて、地球上に存在する多種多様な生物の関係性について理解を深め、その中でのヒトの特徴について生物学の立場から考えることを目的として展開します。地球上に生息するすべての生物は、自らを取り巻く環境と相互作用することにより生命活動を営んでおり、私たちヒトも例外ではありません。自分自身を知るためにも、まずは自分がどのような環境でどのようなものに囲まれて生きているのかを知る必要があるでしょう。「どうして地球上にはたくさんの種類の生物がいるのか？」、「ヒトと他の動物にはどんな共通点・相違点があるのか？」などの問いに対する答えを探りながら、ヒト（皆さん自身）が地球環境の中で他の生物と共生していくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。

【到達目標】

ヒトを含めた地球上の多種多様な生物に関する知識を会得し、生物と周囲の環境との関係性について理解を深めるとともに、ヒト（自分自身）のあり方について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。

また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

授業は、生物学初心者でも理解できるように展開します。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

授業実施形態等の詳細につきましては「学習支援システム」を通じてお伝えします。

また、授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲示しますので、随時ご確認ください。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	多種多様な生物とは？	地球上にはどれほどの種の生物が存在し、どのような特徴をもつのかについて、動物の分類方法を学びながら概説します。

- 第3回 生態系の中のヒトとは？ 地球上の多くの生物がどのような関係性の上に存在しているのかについて、ヒトの関わりにふれながら概説します。
- 第4回 生物と地球環境のつながりとは？ ヒトを含めた全ての生物を構成している物質とは何なのか、またそれらの物質と地球環境とはどのような関わりをもつのかについて概説します。
- 第5回 生物、そしてヒトの起源とは？ 地球上に生命が誕生した背景、そして生物の進化とヒトの誕生について概説します。
- 第6回 進化学とは？ ヒトはどのようにして生物の進化の謎をひも解いてきたのかについて、進化学分野の研究手法等を概説します。
- 第7回 行動の進化とは？ 生物の行動と進化の関係について、また進化論が人々にどのような生物の行動と進化の関係について、また進化論がヒトの社会にどのような影響を及ぼしてきたかについて概説します。影響を及ぼしてきたかについて概説します。
- 第8回 生物の行動にみられる特徴とは？ ヒトを含めた生物の様々な行動が引き起こされるしくみや意味について概説します。
- 第9回 種の存続とは？ 生物のオスとメスの特性、また種の存続に際しヒトを含む様々な生物の配偶者選びにはどのような特徴があるのかについて概説します。
- 第10回 ヒトによる動物の家畜化とは？ 地球上に存在する動物の中で、ヒトの管理下で生きる家畜化された動物に着目し、ヒトと動物の関わりについて概説します。
- 第11回 ヒトの動物観とは？ ヒトは他の動物をどのように見てきたのか、そしてヒトと他の動物の共生とはどのようなことなのかについて概説します。
- 第12回 ヒトの食とは？ 自然界にある「食う・食われる」という関係の中で、現代のヒトは他の生物をどのように食しているのか、命を食べるとはどのようなことなのかについて概説します。
- 第13回 人間とはなにか？ 授業で扱った各回の内容を振り返り、個々の事柄の結びつきを考えながら整理し直すことによって、本授業のテーマに対する考察を深めます。
- 第14回 授業のまとめ・試験 最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basis of biological science, focusing on biodiversity. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of human beings compared to other living things.

Lectures will also discuss harmonious symbiosis of nature and humans from many points of view.

BIO200LA

教養生物学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

町田 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『命とはなにか?』という問いをテーマに掲げて、生物学の立場から生物に共通する生命機能に対する理解を深め、命について考えることを目的として展開します。地球上に存在する多種多様な生物は、すべて細胞から構成されており、生物の遺伝形質は細胞内に収納されている遺伝子によって決定されています。この、細胞・遺伝子について学ぶことによって、「生命はなにからできているのか?」、「命はどのようにしてこの世に誕生するのか?」、「なぜ病気になるのか?」などの問いに対する答えを見つけていきます。また、この非常に複雑で精巧な生命のしくみに手を加える技術が近年急速に発展していますが、再生医療等の分野へどのように応用されているのか、またどのような倫理的課題をもたらしているのかについても考えます。

【到達目標】

生命現象を理解する上で必要とされる知識を会得し、命のしくみについて理解を深めるとともに、命というものの存在意義について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

授業は、生物学初心者でも理解できるように展開します。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

授業実施形態等の詳細につきましては「学習支援システム」を通じてお伝えします。

また、授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲示しますので、随時ご確認ください。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	命ある生物とは？	命ある生物とはどんな特徴をもつのか、そしてその生物を対象とする生物学とはどんな学問なのかについて概説します。
第 3 回	命の材料とは？	生物体はどんな物質からできているのか、そして生命の最小単位である細胞とはなにかについて概説します。

第 4 回	命の設計図とは？	生命活動を営むための情報をもつ DNA とはどのような働きをしているのかについて、その構造および複製のしくみ、また遺伝情報に基づいてタンパク質が作られるしくみを概説します。
第 5 回	命をつくる細胞の一生とは？	細胞の分裂や分化のしくみ、また細胞死やがん化について概説します。
第 6 回	命の誕生とは？	命はどのようにして誕生するのかについて、ひとつの受精卵から個体が形成されるまでの過程を、細胞の分裂・分化に着目しながら概説します。
第 7 回	命の要、タンパク質とは？	生体内において様々な役割を担うタンパク質の構造や機能について概説します。
第 8 回	命を支える細胞膜の機能とは？	生命活動に欠かせない細胞の機能について、細胞膜に発現している種々のタンパク質の働きに着目して概説します。
第 9 回	命を守るしくみとは？	体内に侵入した異物に対する防御のシステムについて概説します。
第 10 回	命のしくみを利用した新しい医療とは？	細胞・遺伝子を扱う技術を用いた新たな治療法である再生医療について概説します。
第 11 回	命に手を加えるとは？	生命科学分野の技術発展がもたらす倫理的課題について、歴史的背景とともに、実験動物の扱いや、遺伝子・幹細胞に関する技術などを例にあげながら概説します。
第 12 回	命を操作する技術とは？	細胞・遺伝子を利用した研究の実情について概説します。
第 13 回	命とはなにか？	授業で扱った各回の内容を振り返り、個々の事柄の結びつきを考えながら整理し直すことによって、本授業のテーマに対する考察を深めます。
第 14 回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかりと復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basis of biological science, focusing on the principle of life. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mechanism of life phenomenon.

Lectures will also discuss current technologies related to cells and genes.

BIO200LA

教養生物学 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

町田 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『人間とはなにものか?』という問いをテーマに掲げて、地球上に存在する多種多様な生物の関係性について理解を深め、その中でヒトの特徴について生物学の立場から考えることを目的として展開します。地球上に生息するすべての生物は、自らを取り巻く環境と相互作用することにより生命活動を営んでおり、私たちヒトも例外ではありません。自分自身を知るためにも、まずは自分がどのような環境でどのようなものに囲まれて生きているのかを知る必要があるでしょう。「どうして地球上にはたくさんの種類の生物がいるのか?」、「ヒトと他の動物にはどんな共通点・相違点があるのか?」などの問いに対する答えを探りながら、ヒト（皆さん自身）が地球環境の中で他の生物と共生していくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。

【到達目標】

ヒトを含めた地球上の多種多様な生物に関する知識を会得し、生物と周囲の環境との関係性について理解を深めるとともに、ヒト（自分自身）のあり方について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。

また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

授業は、生物学初心者でも理解できるように展開します。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

授業実施形態等の詳細につきましては「学習支援システム」を通じてお伝えします。

また、授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲示しますので、随時ご確認ください。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	多種多様な生物とは？	地球上にはどれほどの種の生物が存在し、どのような特徴をもつのかについて、動物の分類方法を学びながら概説します。

第 3 回	生態系の中のヒトとは？	地球上の多くの生物がどのような関係性の上に存在しているのかについて、ヒトの関わりにもふれながら概説します。
第 4 回	生物と地球環境のつながりとは？	ヒトを含めた全ての生物を構成している物質とは何なのか、またそれらの物質と地球環境とはどのような関わりをもつのかについて概説します。
第 5 回	生物、そしてヒトの起源とは？	地球上に生命が誕生した背景、そして生物の進化とヒトの誕生について概説します。
第 6 回	進化学とは？	ヒトはどのようにして生物の進化の謎をひも解いてきたのかについて、進化学分野の研究手法等を概説します。
第 7 回	行動の進化とは？	生物の行動と進化の関係について、また進化論が人々にどのような生物の行動と進化の関係について、また進化論がヒトの社会にどのような影響を及ぼしてきたかについて概説します。影響を及ぼしてきたかについて概説します。
第 8 回	生物の行動にみられる特徴とは？	ヒトを含めた生物の様々な行動が引き起こされるしくみや意味について概説します。
第 9 回	種の存続とは？	生物のオスとメスの特性、また種の存続に際しヒトを含む様々な生物の配偶者選びにはどのような特徴があるのかについて概説します。
第 10 回	ヒトによる動物の家畜化とは？	地球上に存在する動物の中で、ヒトの管理下で生きる家畜化された動物に着目し、ヒトと動物の関わりについて概説します。
第 11 回	ヒトの動物観とは？	ヒトは他の動物をどのように見てきたのか、そしてヒトと他の動物の共生とはどのようなことなのかについて概説します。
第 12 回	ヒトの食とは？	自然界にある「食う・食われる」という関係の中で、現代のヒトは他の生物をどのように食しているのか、命を食べるとはどのようなことなのかについて概説します。
第 13 回	人間とはなにものか？	授業で扱った各回の内容を振り返り、個々の事柄の結びつきを考えながら整理し直すことによって、本授業のテーマに対する考察を深めます。
第 14 回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basis of biological science, focusing on biodiversity. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of human beings compared to other living things.

Lectures will also discuss harmonious symbiosis of nature and humans from many points of view.

CHM200LA

教養化学ⅠA

2017 年度以降入学者

サブタイトル：エネルギーの科学

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質の変化には、エネルギーの出入りが伴います。社会や生命はこれらを上手に利用することで活動しています。エネルギーを題材にして身の回りの現象や物質について理解を深め、現在の我々の生活を支えている技術に対する興味を持って下さい。

【到達目標】

エネルギーについて原子核や電子の振る舞いをもとに理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。エネルギー問題に関する近年の話題について、自分なりの考察ができるようになることを目標として下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクタで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける理系科目の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

本科目は抽選科目です。授業開始前に抽選に参加する必要があります。

抽選の結果当選した学生のみ、履修をすることができます。

抽選エントリー日時：4月15日（水）午前10：00～4月20日（月）午前9：00

詳細は、以下に掲載の「2020 年度 ILAC 科目/市ヶ谷基礎科目大人数授業 抽選ガイド」

(<https://hosei-rinji.com/ilac/rishuguide2020/>)を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第2回	エネルギーの基礎	エネルギーの定義やエネルギー変換についての概説
第3回	原子の構造	原子を構成する成分とそれらの性質について
第4回	電子と電気	電磁誘導と発電機の仕組みについて
第5回	放射性同位体	原子核の壊変について
第6回	原子力発電	核分裂連鎖反応について
第7回	原子爆弾と核融合	ウラン濃縮や臨界量について
第8回	電磁波のエネルギー	電磁波の性質と光子仮説について
第9回	化学結合のエネルギー	化学結合が形成されるしくみについて
第10回	有機化合物	炭素原子を含む化学物質の構造

第 11 回	砂糖のエネルギー	分子の立体構造と、糖類の代謝について
第 12 回	エネルギー物質	爆薬や危険物の特徴について
第 13 回	蓄電池と燃料電池	化学電池の原理と変遷について
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や Web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回 5 問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします（配分 40%）。期末試験の結果（配分 60%）と平常点をあわせて成績評価します。授業形態によっては、期末試験が課題になる場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces fundamental principles of familiar natural phenomena. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM200LA

教養化学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：エネルギーと化学

中島 弘一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではエネルギーと環境をテーマに、エネルギーを作り出す仕組みとそれに伴う環境問題について取り上げます。

原子の構造から放射能や原子力を学び、化学結合からなぜ燃えると熱が発生するのか、太陽電池や燃料電池も原子や分子の中の電子の動きで理解することができます。

原子力は事故があったときの放射能漏れだけが問題なのではありません。温室効果ガスと地球温暖化の関係も理屈を知っておく必要があります。太陽電池や燃料電池もそのメリット、デメリットを知っておく必要があります。社会の一員として今後のエネルギー利用を、問題点を理解したうえで、自らが適切に判断できる理解力を養います。

【到達目標】

原子力エネルギーとは何か、利用に際してどういう問題があるのかという知識が身につく。石油や石炭を燃やしてどのように電気に変換されるのか？ 温暖化とどうリンクしているのかを理解できる。自然エネルギーが抱える問題点とは何か？ 水素を利用した燃料電池の特徴に関する知識が得られる。また、個々のエネルギー源が現状抱えている課題を知識として得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

エネルギーに関して化学の基礎から講義形式で解説し、あわせて社会的な問題も考察したいと考えています。原則として教室での対面授業とし、必要に応じてリアルタイムでの Zoom 配信も行う予定です。ただし、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業はオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。なお、毎回、理解度を確認する目的で簡単な課題を出します。課題の解説は翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	化学の基礎（1）	原子の構造と電子配置について振り返ります。
第 2 回	化学の基礎（2）	原子量と質量数、モルの考え方を理解します。
第 3 回	原子力エネルギーとその源は何か	質量がエネルギーに変換されること、どのような核変化がエネルギーを生み出すのかを学びます。
第 4 回	放射能とは何か	どのような物質が放射能を持つのか、放射能の特質と核分裂反応との関係を学びます。
第 5 回	放射能の人体に与える影響について	過去に日本や海外で起こった原子力関連の事故を振り返り、人体への影響を学びます。
第 6 回	原子力発電の構造と種類	原子力発電の構造を理解し、その特徴を学びます。

第 7 回	原子力の問題点	プルトニウムやその他の放射性廃棄物の処理について考察します。
第 8 回	化石燃料の種類と分子構造の違い	石油、石炭、天然ガスの特徴を学びます。
第 9 回	燃焼による発熱の仕組み	共有結合の考え方、酸素との反応によるエネルギーの発生の仕組みを学びます。
第 10 回	化石燃料の問題点	化石燃料の利用に伴う問題点(二酸化炭素による温暖化を含む)を考察します。
第 11 回	既存のエネルギーシステムの問題点	原子力、火力、水力発電のエネルギー変換効率の低さや電力の貯蔵が難しいなどその問題点を整理します。
第 12 回	自然エネルギーの利用と問題点	太陽光、風力、地熱発電などの自然エネルギーの特徴を学びます。
第 13 回	水素エネルギーと燃料電池	エネルギー源として水素の利用に伴う問題点を学びます。
第 14 回	まとめ	授業全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。テーマや内容に記載のある項目について、中学校や高校の教科書の関連のあるところを復習してくるとともに、インターネットでの検索によって事前に学習する。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜プリントを配布します。

【参考書】

この分野は日々新しい技術が生まれていて、適当な書籍は見当たりません。授業内で配布する資料で不明なことは授業内での質問やメール等を通じていつでも問い合わせてください。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出内容（30 %）と期末試験の成績（70 %）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2011 年 3 月の大震災のため特に興味を持って授業に臨む学生さんが多く、原子力に関しては今年もできるだけ詳しく解説したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

使いません。

【その他の重要事項】

専門用語がいろいろ出てきます。もちろん、始めに説明をしますが、同じ説明は二度も行いません。従って、欠席や遅刻があれば、それ以降の内容が理解できなくなることが予想されます。

【Outline and objectives】

This course introduces the mechanism of producing energy from atomic energy and fossil fuels and also environmental issues related with them to students taking this course. It also deals with performance of new energy sources such as solar, wind, geothermal energies, and especially hydrogen energy.

CHM200LA

教養化学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：環境化学

中島 弘一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術の発達によって、人類は着実に生命のなぞを解き明かしつつあります。そして不完全ながらもその知識をもとに、多種多様な薬品、食品添加物、などの製品化、あるいは技術が生み出され応用されて来ています。ホルモンの仕組みから筋肉増強剤や避妊薬の開発、遺伝子操作による害虫や農薬に強い作物への改良、倫理的な問題が不透明なまま利用されているものも少なくありません。この授業では、はじめに過去の公害事例についてその原因等を概説した後、日用品や食品など、身の回りの化学物質を取り上げながら、生命を構成する物質（糖質、脂質、たんぱく質、核酸）の働きなどとの関連を解説します。

【到達目標】

過去の公害問題の概要を理解する。

生命に係る物質がどういう分子構造をもち、どのような働きを持って機能しているかを理解することができる。例えば、食事を取って、それがエネルギーに変換される、あるいは、身体そのものに変化する仕組みを理解できる。

体の中での物質の認識の仕組みを理解できる。例えば、免疫反応の仕組みや、でんぷんを消化できて、セルロースを消化できない理由を理解できる。

合成物が生命に与える影響を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

原則として教室での対面による講義形式での授業とします。必要に応じてリアルタイムでの Zoom 配信も行う予定です。ただし、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業はオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

なお、毎回、理解度を確認する目的で簡単な課題を出します。課題の解説は翌週の講義の中で行います。質問等は適宜授業内で受け付けますが、メールでの対応も可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要、授業の進め方など	この講義の概要と、これからの授業の進め方、注意点等について説明します。
第 2 回	日本の過去の公害事例（1）	明治に始まる鉱山、精錬からの環境問題について解説します。
第 3 回	日本の過去の公害事例（2）	昭和の高度成長期にあった工場廃液、排ガスによる環境問題について解説します。
第 4 回	有機化合物の基礎	有機化合物の結合と構造、反応性について解説します。
第 5 回	日本の過去の公害事例（3）	有機塩素系化合物による環境汚染について学びます。

第 6 回	糖質（１）	エネルギー源としての利用だけではない糖質の多様性を学びます。
第 7 回	糖質（２）	砂糖の歴史や合成甘味料などの食品添加物の紹介と味覚についての話題を紹介しします。
第 8 回	脂質（１）	脂質の特徴と洗剤のしくみについて学びます。
第 9 回	脂質（２）	コレステロールや、ステロイドなどのドーピングの話題を紹介しします。
第 10 回	窒素化合物の働きと代謝（１）	生命にとって重要な働きのあるアミノ酸とタンパク質の働きを学び、老化との関係について解説します。
第 11 回	窒素化合物の働きと代謝（２）	核酸と核酸塩基の多様な働き、呼吸によるエネルギーの獲得について学びます。
第 12 回	体内での物質認識	アレルギー、免疫反応の仕組みを学びます。
第 13 回	薬物汚染	大麻、覚せい剤、麻薬など、その危険性について学びます。
第 14 回	まとめ	全般的な振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
テーマや内容に関係する項目について、中学校や高校の教科書の関連のあるところを復習するとともに、インターネットでの検索によって事前に学習する。

【テキスト（教科書）】

特に使いません、適宜プリントを配布します。

【参考書】

取り上げる項目が多岐にわたるため、適当な参考書が見当たりません。気になるキーワードを使用して図書館で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

基本的には期末試験の成績（70 %）をもとにしますが、毎回科す課題の取り組み（30 %）も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な物質を例に挙げて説明をしていますが、網羅的になりすぎて、その関係の理解が難しいと感じる人が多いようです。ポイントをもっと明確にする必要があると考えています。

【その他の重要事項】

コロナの影響で、教室の収容定員に制限がでています。対面での教室授業を行うために、システムを利用した事前抽選を行う予定です。学習支援システム等、大学からの情報に見落としの無いよう、注意願います。

【Outline and objectives】

This course introduces the functions of chemical compounds related with life and also the risk of synthetic chemicals applied to foods, cosmetics or drugs to students taking this course. It also enhances the mechanism of material recognition in our body.

CHM200LA

教養化学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：環境問題を考えるための化学

西村 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、地球が直面している環境問題は深刻です。環境問題を解決するためには、その問題点をメカニズムから理解することが大切です。そのためには基本的な化学の理解が必須であると思います。本講座は環境問題を考えることを最終目的としていますが、まずはこれに必須な化学の知識を身につけてもらうことを目的としています。

【到達目標】

環境問題の化学的メカニズムを理解してもらうことが最終目的ですが、そのために必要な化学的知識も併せて身につけてもらうことを目的としています。知識を身につけたうえで、自分はどうか考えるかということまで到達できることを期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

今年度もこの授業はオンラインに決定しています。毎週私が作成した動画を視聴することで学習してください。Hoppii にアップロードした課題を Hoppii 経由で提出してください。これが出席点となります。課題は動画を視聴すれば誰でも答えられます。課題に自分で勉強したことや感想、質問を記入してもらって構いません。課題と共に記入されている質問や素晴らしい感想には Hoppii 経由で必ず回答を返します。もちろんメールで質問してもらっても構いません。こちらはメールで回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	イントロダクション	本講座を理解するのに必要な基本的な化学法則、構造式、単位などをざっと説明。
No.2	化学基礎 1	これから講義で必要な化学の基礎を集中学習
No.3	化学基礎 2	これから講義で必要な化学の基礎を集中学習
No.4	世界の環境問題	大きなトピックとして話すほどではないが、これまで質問の多かった環境問題を取り上げる
No.5	オゾン層破壊	オゾン層破壊のメカニズムについて
No.6	酸性雨	酸性雨の原因と対策
No.7	大気汚染の健康への影響	大気汚染全般の原因と人体への影響
No.8	温室効果ガス 1	温室効果ガスとはなにか
No.9	温室効果ガス 2	温室効果ガスとはなにか
No.10	ゴミ問題から土壌汚染まで	なぜゴミの分別が必要なのか。環境を破壊するゴミ問題に関して
No.11	水質汚染	汚染水に含まれる化学物質
No.12	水質浄化	水質浄化のアイデア

No.13	現在のエネルギー	現在の発電方法について
No.14	未来のエネルギー	新エネルギーについて学習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のリアクションペーパーやレポート作成のため、学期中を通じて週約 30 時間の授業外学習を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。適宜プリントを配布します。講義で使うパワーポイントは Hoppii に事前にアップします。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

テストは行いません。最終レポート (40 %)、毎回のリアクションペーパー (60 %) を総合的に評価します。レポートは最終授業終了後に課します。リアクションペーパーは毎回の授業ごとに提出してもらいます。

成績は、「きちんと考えているか」ということを重視しています。具体的には毎週の課題に「自分の意見」をきちんと記入してください。そして、最終レポートで、授業を通じて考えたことを表現してもらえば良い成績に繋がります。

【学生の意見等からの気づき】

「私たち文系なので、わかりやすく教えてください」とコメントいただくので、わかりやすく、急がずに授業を進めていきます。

また、昨年のオンラインの授業では、とてもよく勉強している人と、適当に課題を出している人とは完全に分かれました。当たり前ですが、授業の動画も見ずに、ネットで調べて課題を出すだけでは単位は取れない可能性があることを理解してください。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続できる環境。

【その他の重要事項】

必ずしも化学が好きである必要はありませんが、新しいことを知りたいという熱意があることが望ましいです。

【Outline and objectives】

One of the most pressing issues the Earth is facing is environmental problems. Such environmental problems are universal issues, so all the people on the earth should cooperate to solve these problems. At the beginning of this course, each environmental problem will be focused from the chemical viewpoint. Then, the students with different backgrounds will delve into the matters. The ultimate goal of this course is that we think about these problems deeply by sharing possible solutions with each other.

CHM200LA

教養化学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：エネルギーの科学

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、各種エネルギー資源について注目が集まっています。それらの話題を理解するためには、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では、現代文明が大きく依存している化石燃料について利用の実態を学習し、それらが枯渇の危機に瀕していることを理解します。また、新たなエネルギー社会構築の可能性について議論します。これらの話題を化学の視点から理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

本授業では、化石燃料である石炭、石油、天然ガスについて、その構造、性質、燃焼反応、燃焼熱等について学習します。また、新しいエネルギー社会として提唱されている水素経済社会やメタノール経済社会について学習します。これらの話題を的確に理解するために必要な化学理論（化学結合論、熱力学、結合エネルギー等）を合わせて習得することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド授業（資料型）の形態によって行われます。すなわち、毎週金曜日に、学習支援システム（HOPPII）にアップロードされる学習メモ、スライド資料、プリント教材、課題ファイルなどをダウンロードして各自で学習を行います。学習メモには、内容を解説した期間限定動画の URL が記載されていますので、そちらも視聴して学習を進めてください。質問等は、HOPPII の掲示板を通して受け付けます。さらに、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、課題を課題ファイルに作成します。完成した課題ファイルは、HOPPII を通して提出期限までに提出します。課題内容については、次の講義にて解説などのフィードバックを行います。第 1 回授業の資料は、2021 年 4 月 9 日（金）に HOPPII にアップロードする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業計画と学習の仕方について講義する。
第 2 回	物質とは？	物質の基本単位である分子について学習する。
第 3 回	化学反応	物質の変化、すなわち、化学反応について学習する。
第 4 回	反応熱・エネルギー	化学反応に伴って反応系から出入りする反応熱について学習する。また、その他のエネルギー形態についても解説する。
第 5 回	石炭	現代文明で大きな役割を演じている石炭の性質や用途について学習する。

第 6 回	石油（１）	現代文明で大きな役割を演じている石油の性質や精製について学習する。
第 7 回	石油（２）	現代文明で大きな役割を演じている石油の用途について学習する。
第 8 回	天然ガス	現代文明で大きな役割を演じている天然ガスの性質や用途について学習する。
第 9 回	その他の化石燃料	オイルサンドやオイルシェール等、その他の化石燃料について性質や用途を学習する。
第 10 回	水素経済社会（１）	将来のエネルギー資源の候補である水素について、性質や用途を学習する。
第 11 回	水素経済社会（２）	水素を利用する社会システム（水素経済社会）について、その長所と短所を学習する。
第 12 回	メタノール経済社会（１）	将来のエネルギー資源の候補であるメタノールおよびメチルエーテルについて、性質や用途を学習する。
第 13 回	メタノール経済社会（２）	メタノールを利用する社会システム（メタノール経済社会）について学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協 Web サイトにて購入することができます。

書名：新版 エネルギーの科学（第 2 版）

著者名：安井伸郎

出版社：三共出版

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、学習支援システム（HOPPII）を通して提出される課題（100%）によって決定されます。課題の詳細については、授業内でお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

基盤科目（100 番台）の「入門化学 A・B」（1 年生はクラス指定有り）、リベラルアーツ科目（200 番台）の「教養化学 L C・L D」、総合科目（300 番台）の「物質の科学 A・B」および「教養ゼミ I・II」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

【Outline and objectives】

In recent years, various kinds of energy resources are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To understand such topics, natural sciences play crucial roles. In this lecture, the actual state of use of fossil fuels on which modern civilization largely depend will be discussed to understand that such the fuels are on the crisis of exhaustion. In addition, some ideas that may bring sustainable civilization will be presented. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture.

CHM200LA

教養化学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：細菌の化学

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国で発生した新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）は、2020 年に入って急速に世界中に拡散し、世界各国で感染者数を増加させています。このウイルスの感染によって引き起こされる症状は深刻である一方、新規に発生したウイルスであるため感染予防に有効なワクチンはまだ十分に流通していません。そのため、我々の生活様式から企業の経済活動にいたるまで、現代社会は COVID-19 から大きな影響を受けはじめています。したがって、今、ウイルスや関連する事項について学習することは、将来の社会を担う学生にとって最も重要なテーマであるといえます。本授業では、まず、生体を構成する種々の有機化合物についてご紹介します。それらが集合して構成される生体の最小単位である細胞について学習し、細菌や細菌によって引き起こされる疾病について学びます。ウイルスが増殖する舞台である細胞について化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

我々の生命活動の舞台である細胞、我々に病気をもたらす細菌やウイルスについて、種類、構造、性質、および、活動について化学的に理解することを目標とします。なお、これまで化学を学習したことが無い学生でも授業を理解することができるよう配慮します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第 1 回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。毎回の授業では、学習支援システム（HOPPII）にアップロードされた学習メモ、スライド資料、プリント教材、課題ファイルなどをダウンロードして各自で学習を行います。その後、対面授業、または、Zoom を使用する双方向型授業（木曜日 3 時限）に参加していただき、理解を深めます。質問等は、対面授業、Zoom 授業、および、HOPPII の掲示板を通して受付けます。さらに、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、課題を課題ファイルに作成します。完成した課題ファイルは、HOPPII を通して提出期限までに提出します。課題内容については、次の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について解説する。
第 2 回	原子	原子を構成する素粒子や原子が結合して生成する分子について解説し、原子に関する理解を深める。
第 3 回	化学結合論	原子がどのようなルールによって結合し分子を形成するかを学習する。

第4回	多重結合	化学結合論に基づいて形成される様々な化学結合の種類について学習する。
第5回	生体を構成する有機化合物	生体を構成するタンパク質、脂質、糖質、および、核酸について学習する。
第6回	分子の立体構造	種々の化学結合がなす角度と結合距離について学習し、分子の立体構造について理解を深める。
第7回	分子の立体構造と物質の性質（1）	物質の性質が分子の立体構造によって決まることを、いくつかの例を通して学習する。
第8回	分子の立体構造と物質の性質（2）	物質の性質が分子の立体構造によって決まることを、いくつかの例を通して学習する。
第9回	生体分子の立体構造（1）	タンパク質の立体構造について学習する。
第10回	生体分子の立体構造（2）	脂質や糖質の立体構造について学習する。
第11回	生体分子の立体構造（3）	核酸の立体構造について学習する。
第12回	細胞	生物とウイルスの違いや生体の基本単位である細胞について学習する。
第13回	細菌	細菌の種類や細菌によって引き起こされる疾病について学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、HOPPII からダウンロードした学習教材を通読して学習に臨んでください。対面授業、または、オンライン授業終了後は、発展的な読書やインターネットによる調査を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、学習支援システム（HOPPII）を通して提出される課題（100%）によって決定されます。各課題の詳細については、授業内でお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より開設される授業のため、コメントはありません。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

本授業は、最大履修者数 250 名で抽選が行われますので、履修を希望する方は、必ず事前の抽選に参加してください。

秋学期に開講される「教養化学LD」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline and objectives】

The new-type coronavirus (SARS-CoV-2) originated in China had rapidly spread worldwide last year to increase the number of infected patients in every country. While the symptoms generated from this virus are serious, an effective vaccine has not yet been distributed sufficiently. This situation will continuously cause severe influence to many things such as our lifestyles and economic activities of industries. Therefore, learning about virus and its related things is one of the most important subjects for university students who will lead the next generation. In this lecture, various organic compounds that comprise living organisms will be presented. Then, students will learn about the cell that is the minimum unit of the living organisms, and bacteria and its related diseases. The purpose of this lecture is to understand the properties and activities of cell that is the place of multiplication of virus from the viewpoint of chemistry.

CHM200LA

教養化学LD

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ウイルスの化学

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国で発生した新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）は、2020 年に入って急速に世界中に拡散し、世界各国で感染者数を増加させています。このウイルスの感染によって引き起こされる症状は深刻である一方、新規に発生したウイルスであるため感染予防に有効なワクチンはまだ十分に流通していません。そのため、我々の生活様式から企業の経済活動にいたるまで、現代社会は COVID-19 から大きな影響を受けはじめています。したがって、今、ウイルスや関連する事項について学習することは、将来の社会を担う学生にとって最も重要なテーマであるといえます。本授業では、まず、生体を構成する最小単位である細胞がどのような活動をおこなっているかを学習します。次に、ウイルスがその細胞に侵入して増殖するメカニズムなどを学習します。ウイルスの性質や活動について化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

我々の生命活動の舞台である細胞、我々に病気をもたらす細菌やウイルスについて、種類、構造、性質、および、活動について化学的に理解することを目標とします。なお、これまで化学を学習したことが無い学生でも授業を理解することができるよう配慮します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第1回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。毎回の授業では、学習支援システム（HOPPII）にアップロードされた学習メモ、スライド資料、プリント教材、課題ファイルなどをダウンロードして各自で学習を行います。その後、対面授業、または、Zoom を使用する双方向型授業（木曜日3時限）に参加していただき、理解を深めます。質問等は、対面授業、Zoom 授業、および、HOPPII の掲示板を通して受付けます。さらに、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、課題を課題ファイルに作成します。完成した課題ファイルは、HOPPII を通して提出期限までに提出します。課題内容については、次の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について解説する。
第2回	化学結合論と分子の立体構造	化学結合論によって原子同士がつながって分子が生成すること、および、分子の立体構造によって物質の性質が決まることを学習する。

第 3 回	生体を構成する有機化合物	生体を構成する種々の有機化合物について学習し、それらの分子構造について理解を深める。
第 4 回	遺伝情報の発現（1）	生物の遺伝子 DNA を RNA に転写する過程について学習する。
第 5 回	遺伝情報の発現（2）	mRNA が持つ遺伝情報をタンパク質に翻訳する過程について学習する。
第 6 回	遺伝情報の発現（3）	細胞分裂の際に行われる遺伝子 DNA の複製について学習する。
第 7 回	生化学の研究手法	生化学を学習する際の研究手法について学習する。
第 8 回	ウイルスの構造	種々のウイルスについて基本的な構造を理解する。
第 9 回	λ ファージ	λ ファージの生活環について学習する。
第 10 回	HIV	ヒト免疫不全ウイルス（HIV）の生活環について学習する。
第 11 回	インフルエンザウイルス	インフルエンザウイルスの構造や増殖過程について学習する。
第 12 回	新型コロナウイルス	新型コロナウイルスについて最新の研究成果を学習する。
第 13 回	ウイルス治療薬	ウイルス治療薬開発の概要について学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、HOPPII からダウンロードした学習教材を通読して学習に臨んでください。対面授業、または、オンライン授業終了後は、発展的な読書やインターネットによる調査を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、学習支援システム（HOPPII）を通して提出される課題（100%）によって決定されます。各課題の詳細については、授業内でお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より開設される授業のため、コメントはありません。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

本授業は、最大履修者数 250 名で抽選が行われますので、履修を希望する方は、必ず事前の抽選に参加してください。

春学期に開講される「教養化学ⅠC」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline and objectives】

The new-type coronavirus (SARS-CoV-2) originated in China had rapidly spread worldwide last year to increase the number of infected patients in every country. While the symptoms generated from this virus are serious, an effective vaccine has not yet been distributed sufficiently. This situation will continuously cause severe influence to many things such as our lifestyles and economic activities of industries. Therefore, learning about virus and its related things is one of the most important subjects for university students who will lead the next generation. In this lecture, students will learn the processes of expression and transmission of genetic information that is fundamental for living organisms, and then that of multiplication of viruses utilizing such the processes of the host cell. The purpose of this lecture is to understand the properties and activities of viruses from the viewpoint of chemistry.

CHM200LA

教養化学ⅠE

2017 年度以降入学者

サブタイトル：薬の科学

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

薬の開発は人類の寿命を大きく伸ばし、医学の発展に大きく寄与してきました。この授業では、薬とはどのようなものか、人体にどのような働きをするのか、薬はどのように開発されるか、など、薬の原理について有機化学を用いて紹介していきます。

【到達目標】

薬の働きについての学習を通して、有機化合物の構造式を身近なものにし、有機化合物の性質を左右する構造的特徴について理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクトで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける自然科学系科目（理系科目）の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要について説明
第 2 回	薬の歴史	古代から現代までの薬、薬の働き方の概説
第 3 回	化学の基礎	原子と分子、化学結合について。
第 4 回	有機化合物	有機化合物の構造と表記。
第 5 回	タンパク質	アミノ酸の構造、皮膚、毛髪、爪について。
第 6 回	化学物質の分析	分子の化学構造や立体構造を調べる方法について。
第 7 回	糖とアルコール	代謝による物質変化について。
第 8 回	ビタミン C	壊血病の薬、還元剤としての働きについて。
第 9 回	抗炎症剤①	花粉症などのアレルギーの薬 (H1 ブロッカー) の設計と改良。
第 10 回	抗炎症剤②	胃潰瘍の薬 (H2 ブロッカー) の分子設計。
第 11 回	抗ウイルス薬	インフルエンザやエイズの薬について。
第 12 回	がんの薬	様々な抗がん剤、それぞれの標的物質について。
第 13 回	精神の薬	脳で働く分子について。
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。授業で使用する資料を授業支援システムで配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回5問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします（配分 40%）。期末試験の結果（配分 60%）と平常点をあわせて成績評価します。授業形態によっては、期末試験がレポート課題になる場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から開講する科目のため、理解度を確かめながら進めていく予定です。

【Outline and objectives】

Pharmaceutics has extended the human lifespan and has greatly contributed to the development of medical science. This course introduce the basic principles of medical supplies using organic chemistry. The purpose of this course is to help the students understand about organic compounds and improve their scientific literacy.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 8 週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 8 週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 8 週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

物理学分野：ありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

物理学分野：参考書はありません。教材プリントをよく読んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 8 週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：なし

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

物理学分野：参考書はありません。教材プリントをよく読んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 8 週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。
物理や化学では特に参考書はありません。
教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	燃焼がどのように理解されてきたのかを、物質観の歴史とともに学ぶ。
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第 14 週	灰の文化誌（化学）	今は灰を見る機会さえなくなりましたが、かつて灰はいろいろなものに利用されてきました。灰を有効利用してきた先人たちの知恵を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。

物理や化学では特に参考書はありません。

教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 8 週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。
物理や化学では特に参考書はありません。
教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	燃焼がどのように理解されてきたのかを、物質観の歴史とともに学ぶ。
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第 14 週	灰の文化誌（化学）	今は灰を見る機会さえなくなりましたが、かつて灰はいろいろなものに利用されてきました。灰を有効利用してきた先人たちの知恵を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。

物理や化学では特に参考書はありません。

教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

メール添付などの方法を用いて課題等に対するフィードバックをおこないます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼で目に見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 8 週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 8 週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 8 週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられました。21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 8 週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられました。21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。
化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。
生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第 6 週	火－燃焼－酸化－電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応 で元素変換ができないことを理解 する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か? (生 物学)	メンデルはどうやって遺伝子を発 見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上 で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学 (生物 学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断 など応用も含めた DNA 研究の現 状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第 6 週	火－燃焼－酸化－電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応 で元素変換ができないことを理解 する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か? (生 物学)	メンデルはどうやって遺伝子を発 見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上 で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学 (生物 学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断 など応用も含めた DNA 研究の現 状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

物理学分野：ありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第 6 週	火－燃焼－酸化－電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応 で元素変換ができないことを理解 する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か? (生 物学)	メンデルはどうやって遺伝子を発 見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上 で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学 (生物 学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断 など応用も含めた DNA 研究の現 状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

物理学分野：参考書はありません。教材プリントをよく読んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第 6 週	火－燃焼－酸化－電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応 で元素変換ができないことを理解 する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か? (生 物学)	メンデルはどうやって遺伝子を発 見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上 で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学 (生物 学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断 など応用も含めた DNA 研究の現 状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

物理学分野：参考書はありません。教材プリントをよく読んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。
物理や化学では特に参考書はありません。
教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第 6 週	物質観の変遷と燃焼の理解について（化学）	燃焼がどのように理解されてきたのかを、物質観の歴史とともに学ぶ。
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。
物理や化学では特に参考書はありません。
教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。
物理や化学では特に参考書はありません。
教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第 6 週	物質観の変遷と燃焼の理解について（化学）	燃焼がどのように理解されてきたのかを、物質観の歴史とともに学ぶ。
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。
物理や化学では特に参考書はありません。
教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第 6 週	火－燃焼－酸化－電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応 で元素変換ができないことを理解 する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か? (生 物学)	メンデルはどうやって遺伝子を発 見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上 で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学 (生物 学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断 など応用も含めた DNA 研究の現 状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第 6 週	火－燃焼－酸化－電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応 で元素変換ができないことを理解 する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か? (生 物学)	メンデルはどうやって遺伝子を発 見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上 で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学 (生物 学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断 など応用も含めた DNA 研究の現 状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられました。21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第 6 週	火－燃焼－酸化－電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応 で元素変換ができないことを理解 する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か? (生 物学)	メンデルはどうやって遺伝子を発 見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上 で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学 (生物 学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断 など応用も含めた DNA 研究の現 状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられました。21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第 6 週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応 で元素変換ができないことを理解 する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か? (生 物学)	メンデルはどうやって遺伝子を発 見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上 で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学 (生物 学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断 など応用も含めた DNA 研究の現 状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ (生物 学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。

第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	火－燃焼－酸化－電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。

第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。

第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	火－燃焼－酸化－電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。

第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をを用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。

第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

物理学分野：ありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	火－燃焼－酸化－電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で 元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。

第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

物理学分野：参考書はありません。教材プリントをよく読んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。

第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	火－燃焼－酸化－電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。

第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

物理学分野：参考書はありません。教材プリントをよく読んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。

第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。
物理や化学では特に参考書はありません。
教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質観の変遷と燃焼の理解について（化学）	燃焼がどのように理解されてきたのかを、物質観の歴史とともに学ぶ。
第 3 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。

第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。
物理や化学では特に参考書はありません。
教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。

第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。
物理や化学では特に参考書はありません。
教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質観の変遷と燃焼の理解について（化学）	燃焼がどのように理解されてきたのかを、物質観の歴史とともに学ぶ。
第 3 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。

第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。
物理や化学では特に参考書はありません。
教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。

第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。

第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。

第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。

第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。

第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられました。21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	火－燃焼－酸化－電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。

第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をを用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。

第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられました。21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	火－燃焼－酸化－電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。

第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をを用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

HSS200LA

健康の科学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

藤平 杏子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「健康の科学 LA」では、「生涯にわたる健康づくり」を主要テーマとして学習する。本授業を通して、健康長寿に必要な食事・運動・休養・社会参加に関する基礎的な事項を理解できるようにする。

【到達目標】

1. 健康の維持・増進に興味を持ち、健康づくりに関する基礎的な知識を習得する。
2. 本授業で学習したことを自身や家族の健康づくりに役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義を中心に各テーマの学習を進める。毎回の授業終了時に、テーマに関する自身の考えや意見・質問などをまとめた小レポートの提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出された小レポートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容や進め方についてオリエンテーションを行います。
2	日本の健康問題	日本の医療や健康に関わる背景、生活習慣病
3	肥満とメタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームとは何か
4	高血圧	高血圧の診断、要因と予防法
5	糖尿病と脂質異常症	糖尿病、脂質異常症の診断、要因と予防法
6	骨や歯の病気	骨粗鬆症、要因と予防法 歯周病、歯の病気の予防
7	心の病気	ストレスの捉え方、鬱と対処法
8	生活習慣病の予防と体力	生活習慣病の予防、日本で行われているヘルスプロモーション
9	健康づくりのための食事	健康づくりに必要な食事方法
10	健康づくりのための運動	健康づくりに必要な運動方法、健康づくりのための身体活動基準
11	健康づくりのための休養	健康づくりに必要な休養方法、睡眠、ストレスへの対処
12	健康づくりのための社会参加	健康づくりに必要な人との関わり
13	生涯にわたる健康づくり	年代別の健康問題、予防法、喫煙と飲酒が健康に及ぼす影響
14	まとめ	授業全体の総括と総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に向けての準備や授業後に行う課題や授業内容の復習等は、各2時間を標準とする。授業に向けた準備や復習内容は、授業中に提示する。

【テキスト（教科書）】

本授業では教科書を使用しない。授業に必要なスライドは適宜、配布もしくは配信する。

【参考書】

授業の中で参考になる図書等は紹介するが、購入が必須ではない。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業終了時に小レポートの提出を求める。小レポートの内容と提出状況で成績評価の5割、最終レポートの内容と提出状況が残りの5割とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできていない。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出のため、学習支援システムもしくはメールを使用する。

【その他の重要事項】

感染症などの流行状況を鑑み、上記の授業の進め方を変更する場合がある。

【Outline and objectives】

In this class, we will study "lifelong health promotion" as the main theme. Through this class, students will be able to understand the fundamentals of nutrition, exercise, rest and social participation necessary for a long and healthy life.

HSS200LA

健康の科学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

阿部 巧

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「健康の科学 LB」では、「健康の科学 LA」で学習した内容に続いて、「高齢期の健康づくり」を主要テーマとして学習する。特に、現在の日本は世界でも類を見ない超高齢社会を迎えている。本授業を通して、日本が直面している少子・高齢化問題に対して、どのように貢献できるかについて考える。また、高齢期の健康問題には、若齢期の生活習慣が影響するものもあるため、ライフコースアプローチについて理解する。

【到達目標】

1. 高齢期に生じる健康問題とその基本的な予防・対処法について理解する。
2. 学習したことを自身や家族の健康づくりに役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に各テーマの学習を進める。授業形態は対面の回とオンラインの回を組み合わせる予定である。毎回の授業終了時に、テーマに関する自身の考えや意見・質問などをまとめたリアクションペーパーの提出を求める。各回の授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーに記載されていた内容や意見、質問を紹介・解説する形で全体にフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要説明
第2回	本邦の高齢化の現状	高齢化の現状と要因・課題
第3回	高齢期の健康1	高齢期の生活機能と体力
第4回	高齢期の健康2	老年症候群（転倒、尿失禁、閉じこもり）の現状と予防
第5回	高齢期の健康3	老年症候群（低栄養）の現状と予防
第6回	高齢期の健康4	認知症の現状と予防
第7回	高齢期の健康5	フレイルの現状と予防
第8回	高齢期の健康6	ロコモティブシンドロームとサルコペニアの現状と予防
第9回	健康づくりの三本柱：運動、栄養、社会参加1	高齢期の運動
第10回	健康づくりの三本柱：運動、栄養、社会参加2	高齢期の食習慣と社会参加
第11回	地域・職域での健康づくり1	地域に介護予防の取り組みを広げる方法と事例の紹介
第12回	地域・職域での健康づくり2	地域での介護予防の実践プロセス
第13回	高齢期の健康行動	高齢者の行動特性

第 14 回 まとめ

今後の健康づくり・介護予防の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に向けての準備や授業後におこなうべき課題や復習等は、教員からの指示に従って実践するものとし、各 2 時間を標準とする。また、日ごろから高齢者の健康に関連する話題に目を向けることも準備学習となりうる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業テーマに合わせた資料を配布する。

【参考書】

適宜、関連する書籍などを授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとのリアクションペーパー（授業への参加・取り組み・理解度：50%）、レポート課題（50%）

【学生の意見等からの気づき】

講義だけではなく、健康づくりの課題について考える機会を設ける予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況および授業実施方法（対面・オンライン）への対応によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The health science LB aims to learn about health promotion among older adults as a next step of the health science LA. Japan has been a super-aged society. This class provides the opportunity to understand public issues related to a declining birth rate and an aging population in Japan and a life course approach.

HSS200LA

健康の科学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

谷本 都栄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生 100 年時代を迎え人々の生き方が多様化する中で、身体的な健康だけでなく、生きがいや人間の尊厳をも含めたホリスティック・ヘルス（包括的健康）の視点が重要になってきている。本講義では、バイオ・サイコ・ソーシャル・ヘルスに関わる様々なトピックスから個人の健康や社会の健康について考え、ウェルネスの確立に向けて自ら実践に結びつけていくことを目指す。

【到達目標】

- ・健康の概念や健康観の変遷から、健康とは何かについて理解を深める。
- ・包括的健康の視点から、自己の生活の質や地域の課題について考える。
- ・個人及び社会におけるウェルネスの確立に向けて主体的に行動できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・オリジナルテキストや各種資料を用いて、身近な題材を交え分かり易く解説する。
- ・セルフチェックや時事的な問題を取り上げ、具体的に考えられるようにする。
- ・毎回のワークシートやリアクションペーパーにより、随時フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	健康観・健康概念の多様化	世界における健康観・健康概念がどのように多様化してきたかについて理解を深める。
第 3 回	日本における健康観の変遷	日本における健康観・健康概念の変遷について、時代背景を踏まえて理解を深める。
第 4 回	ホリスティック・ヘルスとは	ホリスティック・ヘルスの視点から現代人の心身の健康について考える。
第 5 回	心身の健康とストレス特性	自己の身体的・精神的・社会的ストレス度を測り、ストレス特性を知る。
第 6 回	ストレスマネジメント	自己のストレス特性に応じたストレス対処、セルフマネジメントについて学ぶ。
第 7 回	ストレスマネジメント実践編	日常生活で実践しやすいストレスマネジメントの方法を学ぶ。
第 8 回	日本人の生活と健康	我が国の健康政策から日本人の生活と健康課題について理解を深める。

第 9 回	0 次予防とは	0 次予防、健康のための環境づくりの考え方について学ぶ。
第 10 回	健康のための環境づくり	健康のための環境づくりの先進事例をととして地域の課題について考える。
第 11 回	ライフサイクルと健康	ライフサイクル、各ライフステージにおける健康課題について理解を深める。
第 12 回	ライフスタイルと健康	ライフコース、ライフスタイルの多様化とワークライフバランスについて考える。
第 13 回	人生 100 年時代をどう生きるか	超高齢社会におけるウェルビーイングについて考える。
第 14 回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習時間は、関連する記事や文献を読む、学んだことを実践する等、各 2 時間を標準とする。
- ・レポート課題は、複数の文献を読み込み、授業で学んだ知識も含めて総合的に論じるための準備が必要である。

【テキスト（教科書）】

- ・毎回オリジナルプリントを使用する。

【参考書】

- ・適宜テーマに関連する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（ワークシート、リアクションペーパー）70 %
- ・期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・各種資料を用いるなどして具体的に把握できるようにする。
- ・ワークシートにより各自が考えながら取り組めるようにする。
- ・リアクションペーパーを活用し、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline and objectives】

With the 100-Year Life, a life-course has become increasingly dynamic and diversified. Regarding the quality of individual lives, not only physical health but also perspective of holistic health including “ikigai” and human dignity is becoming an important concept.

Health Sciences for ways of living is based on the biopsychosocial model, which posits that biological, psychological and social well-being are interactively. The program has the following objectives.

1. Introduce students to the field of Health Sciences of body, mind, and spirit
2. Provide a basic understanding of the theory and specific issues of biopsychosocial health
3. Encourage students to practice for health promotion in their life and community

HSS200LA

健康の科学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

谷本 都栄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康はいきいきと生きていくための資源であり、自ら健康をコントロールし、改善していくことは重要なライフスキルである。本講義では、ヘルスプロモーションの視点から、栄養・運動・休養に関わる基礎的知識、健康的な生活習慣や環境づくりについて学び、各自の生活における意識の向上、具体的な実践に結びつけていくことを目指す。

【到達目標】

- ・栄養・運動・休養に関わる基礎的知識を身に付け、自己の生活習慣を見直す。
- ・健康的なライフスタイルを意識して、学んだことを日々の生活に活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・オリジナルテキストや各種資料を用いて、身近な題材を交え分かり易く解説する。
- ・セルフチェックや時事的な問題を取り上げ、具体的に考えられるようにする。
- ・毎回のワークシートやリアクションペーパーにより、随時フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	生活習慣・健康度チェック	チェックシートにより自己の生活習慣や健康度を確認する。
第 3 回	健康的なウエイトコントロール	適正体重やボディイメージを知り、健康的なウエイトコントロールについて学ぶ。
第 4 回	エネルギー必要量と摂取量	エネルギー必要量と摂取量、食事内容をチェックし、改善点を認識する。
第 5 回	食と健康	スポーツ栄養、食の安全やサプリメント等のトピックから、食と健康について考える。
第 6 回	生活習慣病の予防	メタボリックシンドローム、生活習慣病とその予防について学ぶ。
第 7 回	運動・スポーツの意義と役割	現代社会における運動・スポーツの重要性について理解を深める。
第 8 回	運動・スポーツによるトレーニング効果	人間の身体の特徴、運動・スポーツによるトレーニング効果について学ぶ。
第 9 回	適切な運動量と運動内容	適切な運動量と運動内容を知り、運動習慣の改善点を認識する。
第 10 回	生体リズムと健康	生体リズムと健康の関係について理解を深める。

第 11 回	日本人の生活と健康	経済格差と健康、企業の健康経営など時事的なトピックから、日本人の生活と健康について考える。
第 12 回	ウェルエイジング	加齢による心身の変化を知り、老いをどう生きるかについて考える。
第 13 回	超高齢社会と健康	人生 100 年時代におけるウェルビーイングについて考える。
第 14 回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習時間は、関連する記事や文献を読む、学んだことを実践する等、各 2 時間を標準とする。
 ・レポート課題は、複数の文献を読み込み、授業で学んだ知識も含めて総合的に論じるための準備が必要である。

【テキスト（教科書）】

・毎回オリジナルプリントを使用する。

【参考書】

・適宜テーマに関連する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（ワークシート）70 %
 ・期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

・各種資料を用いるなどして具体的に把握できるようにする。
 ・ワークシートにより各自が考えながら取り組めるようにする。
 ・リアクションペーパーを活用し、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline and objectives】

Health promotion is the process of enabling people to increase control over, and to improve, their health. It moves beyond a focus on individual behaviour towards a wide range of social and environmental interventions. (WHO)

To maintain a healthy body and mind is an essential life skill improving a quality of life. Developing healthy habits are needed not only to keep your life long but enhance your happiness and vitality. The program has the following objectives.

1. Provide students the foundational knowledge and skills required for healthy lifestyle
2. Encourage students to practice for health promotion in their life

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングルの文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます。ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

・正確に発音できるようになる。
 ・「～は～です、ます」「～があります、います」などを理解し、簡単な読み書きができるようになる。
 ・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、オンライン授業（ZOOM によるリアルタイム授業）です。双方向授業となりますので、マイクが必須です。授業の開始日は 4 月 13 日。前日までに、学習支援システムの「お知らせ」に、ZOOM の URL を掲示します。基本的に「授業計画」に沿って進めます。基本的な流れは、以下の通りである。

・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
 ・前回学んだことについて毎回小テストをおこないます。
 ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
 ・小テストでの間違いの多かった箇所などについて、次の授業時に全体に向けてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第 1 課：文字と発音（1）	単母音、初声その 1。
3	第 1 課：文字と発音（1）	半母音 Y、終声その 1。
4	第 2 課：文字と発音（2）	初声その 2、有声音化
5	第 2 課：文字と発音（2）	半母音 W、二重母音、連音化
6	第 3 課：文字と発音（3）	初声その 3、初声その 4
7	第 3 課：文字と発音（3）	終声その 2、濃音化
8	第 4 課：～は韓国人です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第 4 課：～は～と申します	「ですか？」「と申します」
10	第 5 課：専攻は韓国語ですか？	もう一つの「です」「ですか？」
11	第 5 課：専攻は韓国語ではありません	「～ではありません」否定形。激音化。
12	第 6 課：教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「います」「ありません」「いません」

- 13 第6課：教室は 204 助詞「に」、2 字母パッチム、漢
号室です。
14 期末試験 春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
・疑問点が生じたらすぐに質問してください。
・わからないことを放置しないようにしてください。
・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編〜コソコソ学び、カジュアルに話そう〜』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／韓日辞典』

【成績評価の方法と基準】

小テスト・課題の提出 30 %、授業への参画度 40 %、期末試験 30 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

Wi-Fi 環境の整備。

【Outline and objectives】

This course is an elementary Korean course. In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語 A」を修了したレベルの人対象の講座です。具体的には、ハングルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」「あります」「います」、漢数詞の学修を終えている必要があります。テキストの 6 課までの内容を習得していることが必要です。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになる。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、オンライン授業（ZOOM によるリアルタイム授業）です。双方向授業となりますので、マイクが必須です。授業開始前日までに、学習支援システムの「お知らせ」に、ZOOM の URL を掲示します。基本的に「授業計画」に沿って進めます。基本的な流れは、以下の通りである。

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・前回学んだことについて毎回小テストをおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・小テストで間違いの多かった箇所などについて、次の授業時に全体に向けてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第 7 課：何の本を読んでいますか？	ヘヨ体の作り方（1）
3	第 7 課：午後、時間大丈夫ですか？	助詞「を」「も」
4	第 8 課：テコンドーを教えてください。	ヘヨ体の作り方（2）
5	第 8 課：スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第 9 課：電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方（3）
7	第 9 課：何時におきますか？	助詞「～から～まで」（場所）、固有数詞。
8	第 10 課：野球が好きです	ヘヨ体の作り方（4）
9	第 10 課：野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」（時間）、曜日
10	第 11 課：時間ありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課：どこか具合悪いですか？	語幹の用言、＋用言（否定形）
12	第 12 課：両親が来られます	尊敬形

- 13 第 12 課：何をするつ ～するつもりです。～したいでもりですか？ 温泉に す。
行きたいです。
- 14 期末試験 秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
・疑問点が生じたらすぐに質問してください。
・わからないことを放置しないようにしてください。
・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、睦宗均、山田恭子著，朝日出版社，2017 年，2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／韓日辞典』

【成績評価の方法と基準】

小テスト・課題の提出 30 %、授業への参画度 40 %、期末試験 30 %。
欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用。

【Outline and objectives】

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 6 of the text book.

LANK300LA

第三外国語としての朝鮮語中級 2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語初級で学んだ知識を利用し、実践的に書く・読む練習を繰り返すことで朝鮮語の基礎を確実に身に付けることを目標にします。基礎的朝鮮語の会話にも挑戦していきます。

【到達目標】

基本会話ができることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返しながら授業を進めていきます。

諸事情により、対面・非対面授業で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	授業の進め方などにつ	授業の進め方について説明します いてと簡単な復習
第二回	今日も友達に会います	読む練習と否定形について か 1
第三回	今日も友達に会います	発音について か 2
第四回	今、何時ですか 1	会話の練習
第五回	今、何時ですか 2	数詞について
第六回	ここはデパートですか	発音練習と読む練習について 1
第七回	ここはデパートですか	連体形について 2
第八回	私の家族です 1	推量について
第九回	私の家族です 2	文章と会話
第十回	景福宮はどこですか 1	変則用言
第十一回	景福宮はどこですか 2	発音と会話
第十二回	日記を読む	発音と読解
第十三回	日記を書く	会話の文章
第十四回	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート、課題を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教室用テキスト『朝鮮語中級』（梁禮先）

【参考書】

「朝鮮語辞書」－朝鮮語の辞書ならどちらのものでもよし。

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト、課題など 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

発音をもっとやりたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

いろいろな事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline and objectives】

Our goal is to make sure to establish a strong foundation in Korean skills by harnessing the skills previously acquired in the introductory course and practicing writing and reading repeatedly. We will also try to have conversations in Korean.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングル文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます。ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・ハングルを読み正確に発音できるようになります。
- ・「～は～です、ます」「～があります、います」などを理解し、簡単な読み書きができるようになります。
- ・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は Zoom を利用したオンライン授業です。課題の提出など、学習支援システムを利用して行うので確認してください。

基本的な流れは、以下の通りです。

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・授業ごとに新しい内容を学びます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて定着を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第1課：文字と発音（1）	単母音、初声その1。
3	第1課：文字と発音（1）	半母音 Y、終声その1。
4	第2課：文字と発音（2）	初声その2、有声音化
5	第2課：文字と発音（2）	初声その2、連音化
6	第3課：文字と発音（3）	初声その3、初声その4
7	第3課：文字と発音（3）	終声その2、濃音化
8	第4課：～は韓国人です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第4課：～は～と申します	ですか？」「と申します」
10	第5課：専攻は韓国語ですか？	もう一つの「です」「ですか？」
11	第5課：専攻は韓国語ではありません	「～ではありません」否定形。激音化。
12	第6課：教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「います」「ありません」「いません」
13	第6課：教室は 204 号室です。	助詞「に」、2 字母パッチム、漢数詞。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。
- ・わからないことを放置しないようにしてください。
- ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編〜コツコツ学び、カジュアルに話そう〜』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／韓日辞典』

【成績評価の方法と基準】

授業への出席・参加度、小テスト、課題提出によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This class is the first step in learning Korean.

Students will learn Korean characters, pronunciation and basic grammar.

And will be able to have simple conversations.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語 A」を修了したレベルの人対象の講座です。具体的には、ハングルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」、「あります」「います」、漢数詞の学修を終えている必要があります。テキストの 6 課までの内容を習得している必要があります。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになります。
- ・ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになります。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は Zoom を利用したオンライン授業です。

課題の提出など、学習支援システムを利用して行うので確認してください。

基本的な流れは、以下の通りです。

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・授業ごとに新しい内容を学びます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて定着を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第 7 課：何の本を読んでいますか？	ヘヨ体の作り方（1）
3	第 7 課：午後、時間大丈夫ですか？	助詞「を」「も」
4	第 8 課：テコンドーを教えています。	ヘヨ体の作り方（2）
5	第 8 課：スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第 9 課：電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方（3）
7	第 9 課：何時におきますか？	助詞「～から～まで」（場所）、固有数詞。
8	第 10 課：野球が好きです	ヘヨ体の作り方（4）
9	第 10 課：野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」（時間）、曜日
10	第 11 課：時間がありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課：どこか具合悪いですか？	語幹の用言、+用言（否定形）
12	第 12 課：両親が来られます	尊敬形
13	第 12 課：何をしますつもりですか	? 温泉に行きたいです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。
- ・わからないことを放置しないようにしてください。
- ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、睦宗均、山田恭子著、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／韓日辞典』

【成績評価の方法と基準】

授業の出席・参加度、小テスト、課題提出により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is for those who have completed Korean A as a Third Foreign Language.

Students must have understood the basics of reading and writing Hangul and complete the Chinese numerals. And need to have studied up to the 6th chapter of the text.

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国人留学生在が「日本語」という言語をある程度マスターすれば、一般の日本人母語話者（日本人）とスムーズにコミュニケーションができると考えている人が多い。つまり、コミュニケーションにおいて大切なのは「言語」だと。コミュニケーションにおいて「言語」が大切であることはいうまでもないが、だからといって「言語」がある一定以上できるようになったからといってその知識は日本人とのコミュニケーションを保証してはくれない。

なぜなら、コミュニケーションには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。コミュニケーションは相互行為である。コミュニケーションが成り立たなかったとしても、一方だけに責任があるというわけではない。双方がそれぞれの反応が相手の期待する行動ではないとき、コミュニケーションはブレイクしてしまう。

日本語という「言語」を一つのチャンネルとして成り立たせるには、「言語」以外の要素を考慮しなければならない。この授業の名称が「日本語コミュニケーション」であるのは、日本語という「言語」によるコミュニケーションにおいて必要な知識と技能を、外国人側も日本人側も等しく身に着けることが目的だからである。

【到達目標】

文化とは何か、および文化が異なるとはどういうことか、について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに「文化」と「言語」をテーマにして講義します。必要に応じて、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ヒト・グループ・個人といった基本的な発想から、ヒトについて概観します
2	「食べる」について	「文化」の例として「食べる」を取り上げます
3	「装う（着る）」について	「文化」の例として「装う（着る）」を取り上げます
4	「文化」の定義	「文化」とは何かを考える際に考慮すべき諸項目について紹介します
5	「コード・メッセージ」について	コード・モデルを紹介します
6	「言語」について	コード・モデルのもとになった言語のとらえ方を紹介します
7	文献購読	ことばと文化について、復習を兼ねて文献を読みます
8	「音」の単位について i	コードの単位の一つである「音」の単位について紹介します
9	「音」の単位について ii	コードの単位の一つである「音」の単位について紹介します

10	「意味」の単位について	コードの単位の一つである「意味」の単位について紹介します
11	「文の構造」について	「文の構造」について解説します
12	「文法カテゴリー」について i	数・人称・クラス等の「文法カテゴリー」について紹介します
13	「文法カテゴリー」について ii	数・人称・クラス等の「文法カテゴリー」について紹介します
14	授業内試験	以上13回分の内容について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「文化」なり「言語」なりの説明に、具体的な実例をあげますが、その個々の例を覚える必要はありませんが、講義をよく聴いて自分なりに真剣に考えてみてください。そのときに深刻に考えないように注意してください。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、まずは平凡社『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点40点、試験の得点60点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な枠組みは設定していますが、具体例等について受講者の個人的な情報をさらに活用していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

日本文化の体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。また、「文化人類学」「言語学」「社会学」等の知識があったほうが望ましいですが、必須の条件ではありません。

【Outline and objectives】

For Communication, verbal is necessary but not enough, also necessary non-verbal components, they are general speaking "Culture".

In Spring, we will discuss as a topic, what is "Culture" and what is the differences of "Culture".

LANj300LA

日本語コミュニケーション B

2017 年度以降入学者

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国人留学生在が「日本語」という言語をある程度マスターすれば、一般の日本人母語話者（日本人）とスムーズにコミュニケーションができると考えている人が多い。つまり、コミュニケーションにおいて大切なのは「言語」だと。コミュニケーションにおいて「言語」が大切であることはいうまでもないが、だからといって「言語」がある一定以上できるようになったからといってその知識は日本人とのコミュニケーションを保証してはくれない。

なぜなら、コミュニケーションには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。コミュニケーションは相互行為である。コミュニケーションが成り立たなかったとしても、一方だけに責任があるというわけではない。双方がそれぞれの反応が相手の期待する行動ではないとき、コミュニケーションはブレイクしてしまう。

日本語という「言語」を一つのチャンネルとして成り立たせるには、「言語」以外の要素を考慮しなければならない。この授業の名称が「日本語コミュニケーション」であるのは、日本語という「言語」によるコミュニケーションにおいて必要な知識と技能を、外国人側も日本人側も等しく身に着けることが目的だからである。

【到達目標】

文化の異なりについて理解し、その壁を乗り越えてコミュニケーションを成立させる能力を培うこと。コミュニケーションが成立しないときには、相手との協力のもと、関係を修復できる知識と能力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は、おもに「言語」と「コミュニケーション」をテーマにして講義します。

また、必要に応じてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	試験解説・春学期のまとめ・「ことば」について	春学期の内容と試験について解説し、一般に「ことば」について解説します
2	「音声コミュニケーション」の特徴	ヒトの言語は動物のコトバとどこが異なるのか、について解説します
3	「意味」について	「意味」とは何かについて、総括的に概観します
4	「構造」について	「構造」とは何かについて、総括的に概観します
5	日本語の諸問題 i	外国人にとって問題となる日本語の問題を取り扱います
6	日本語の諸問題 ii	外国人にとって問題となる日本語の問題を取り扱います
7	「宗教」について i	「言語」のまとめとして「宗教」を取り上げます

8	「宗教」について	ii 「言語」のまとめとして「宗教」を取り上げます
9	「コミュニケーション」の定義	「コミュニケーション」とはなにかについて解説します
10	「言語」と「ことば」について	「言語」と「ことば」の相違について解説します
11	「コミュニケーション」の要素 i	「コミュニケーション」の要素について解説します
12	「コミュニケーション」の要素 ii	「コミュニケーション」の要素について解説します
13	「コミュニケーション」の制約	「コミュニケーション」における制約について解説します
14	最終試験	講義の内容に関して試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「コミュニケーション」における日本語という言語について、日本での言語生活を反省して、誤解した、誤解された等の具体例を発表できるように準備してもらいたいと思います。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、基本的なものとして平凡社の『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点30点、試験の得点30点、レポートの得点40点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションは双方向であり、問題がおこるのは、どちらか一方の問題ではないという点を確認しておきたいと思います。

【その他の重要事項】

日本文化の体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。また、「文化人類学」「言語学」「社会学」等の知識があったほうが望ましいですが、必須の条件ではありません。

【Outline and objectives】

In Autumn, we will discuss on "Language" and "Communication".

LIT300LA

漢字・漢文学 A

2017 年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。

中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

【授業形態】対面授業を基本にリアルタイム・オンライン授業とのハイブリッド型によって行う。講義形式。

受講生は、直接教室に来るかもしくは **zoom** を利用して受講するかを選択すること。後者の場合、出席確認を取る為毎回必ず顔を出して受講する必要があるので注意されたい。

毎回資料を配布し、それをもとに教員の解説しながら進める。

授業終了時に授業に関する感想や質問を **Hoppii** に入力してもらう。幾つかの感想や質問については、次回授業の初めに取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

それとは別に、何度か授業内容に関連して課題を出すことがある。その場合も全員 **Hoppii** に回答するように指示を出す。

【教科書など】指定教科書はなし。適宜レジュメや関連資料を配布する。

【対象学年】2 年生以上。1 年生は受講不可。この授業を履修し単位を取得した学生も不可。

【通信環境】リアルタイム・オンラインでの受講を希望する場合、毎週月曜 4 限の時間帯に **zoom** へ安定してアクセスできるよう、インターネット環境を整えておくこと。資料のダウンロードや課題の提出は、各自で **Hoppii** にアクセスする必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・中国史の概要紹介
第 2 回	漢字のなりたち	・「六書」の紹介 ・漢字の起源と歴史 ・「字謎」の紹介

第 3 回	権力者と文字による予言	・ 予言の種類 ・ 歴史書に見える予言 ・ 「拆字」の紹介
第 4 回	文字が左右した運命①	・ 「志怪」と「伝奇」 ・ 文字が動かした寿命 ・ 読めない文字
第 5 回	文字が左右した運命②	・ 三つの予言 ・ 詩を用いた予言
第 6 回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・ 近代諸国での流行 ・ 中国の「扶鸞」信仰
第 7 回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・ 「扶鸞」の方法と来歴 ・ 「扶鸞」の流行と評価
第 8 回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・ 宋代知識人の体験 ・ 明代のオカルト趣味 ・ 近代中国と「扶鸞」信仰
第 9 回	恋愛作品と文字	・ 『詩経』と「楽府」 ・ 恋のうたと言葉遊び
第 10 回	知識人の頓智と奇想	・ 外交における機知 ・ 知識人の応酬
第 11 回	伝統的「姓名」観	・ 避諱の制 ・ 姓名が左右した運命
第 12 回	創作活動と文字①	・ 「推敲」 ・ 現実と表現の衝突
第 13 回	創作活動と文字②	・ 詩が招いた幸運と悲運 ・ 「詩讖」の説
第 14 回	期末課題	試験もしくはレポート発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜成績評価＞

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

＜基準＞

- ・ 授業における取り組み（態度・意見）
- ・ 指示された課題に対応する能力
- ・ 授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.

From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck ; they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easily find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.

Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.

LIT300LA

漢字・漢文学 B

2017 年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業形態】対面授業を基本にリアルタイム・オンライン授業とのハイブリッド型によって行う。講義形式。

受講生は、直接教室に来るかもしくは zoom を利用して受講するかを選択すること。後者の場合、出席確認を取る為毎回必ず顔を出して受講する必要があるので注意されたい。

毎回資料を配布し、それをもとに教員の解説しながら進める。授業終了時に授業に関する感想や質問を Hoppii に入力してもらう。幾つかの感想や質問については、次回授業の初めに取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

それとは別に、何度か授業内容に関連して課題を出すことがある。その場合も全員 Hoppii に回答するように指示を出す。

【教科書など】指定教科書はなし。適宜レジュメや関連資料を配布する。

【対象学年】2 年生以上。1 年生は受講不可。この授業を履修し単位を取得した学生も不可。

【通信環境】リアルタイム・オンラインでの受講を希望する場合、毎週月曜 4 限の時間帯に zoom へ安定してアクセスできるよう、インターネット環境を整えておくこと。資料のダウンロードや課題の提出は、各自で Hoppii にアクセスする必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 授業内容の説明 ・ 「ゆめ」の多義性 ・ 中国の夢分類
第 2 回	古代中国の吉夢	・ 誕生の予言 ・ 優れた人材を教示 ・ 栄達の予言

第3回	古代中国の凶夢①	・ 死期を悟る ・ 病魔の会話
第4回	古代中国の凶夢②	・ 国家滅亡の暗示 ・ 不明瞭な悪夢
第5回	知識人たちが得たお告 げ	・ 文学的才能の獲得と喪失 ・ 創作のヒント
第6回	夢主に働きかける夢①	・ 夢と夢主 ・ 夢と現実の関連性 ・ 宗教的神秘体験
第7回	夢主に働きかける夢②	・ 死者の訴え ・ 前世の自分の訴え
第8回	復讐する死者	・ 生者に託した復讐 ・ 死者による復讐 ・ 復讐の為の転生
第9回	人外との交流	・ 助命嘆願 ・ 報恩と復讐 ・ 逆恨み
第10回	夢と恋愛文学	・ 夢での逢瀬 ・ 恋愛成就の神 ・ 夫婦の別離と再会
第11回	夢の世界の冒険	・ 怪異との接触 ・ 儚い栄達 ・ 動物への変身
第12回	他人と共有された夢	・ 「二人同夢」 ・ 危機の通達 ・ 夢での邂逅
第13回	日本における夢	・ 他人が見る夢 ・ 日本文学における夢
第14回	期末課題	試験またはレポート発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜成績評価＞

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40％、期末の試験またはレポート60％。

＜基準＞

- ・ 授業における取り組み（態度・意見）
- ・ 指示された課題に対応する能力
- ・ 授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin to Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.

Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.

In addition, this class will intends to talk about the stories of Japanese dreams.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：文芸創作の実践 A

藤村 耕治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものかを、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティブ・ライティング）における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（ディテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今semesterで書いた作品は、秋semesterで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばいいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めあう。

第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。
第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十二回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今セメスターにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今セメスターにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。
創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。
また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は、各自の力に応じて、1週間にもなれば2時間にもなります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 50 %、授業内討議への積極的な参加 30 %、期末に課すレポート（自分以外の受講生の作品〔三作以上〕への批評文）20 %。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度休講（担当者サバティカルのため）により、なし。

【Outline and objectives】

Through practical writing of poetry, essays and novels, students acquire the ability to express their own worldview and imagination.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：文芸創作の実践 B

藤村 耕治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（ディテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでももらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今セメスターでは、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。

第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。
第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。
第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。
創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は各自の力に応じて、1週間にもなれば2時間にもなります。

編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらうこともあります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 35 %、授業内討議および編集作業への積極的な参加 35 %、期末に課すレポート（自分以外の受講者の作品〔三作以上〕への批評文） 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度休講（担当者サバティカルのため）により、なし。

【Outline and objectives】

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express their own world view and imagination.
In addition, learning the basic skills of proofreading and editing by creating a collection works.

ART300LA

身体表現論 A

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、ストレート・プレイとは異なる身体運動の形態としてバレエにも着目する。通常、西洋演劇史とバレエの歴史は分けて記述されるが、本講義では出来るだけ関連付けながら捉えてみたい。

【到達目標】

- ・西洋演劇とバレエの歴史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・演劇・バレエ作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は授業の最後、または授業後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。
- ・リアクション・ペーパーに対しては、必要に応じてコメントを付し、毎回、提出者全員に返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語等の紹介
2	古代ギリシア演劇	原始社会から古代文明における演劇の発生について
3	中世演劇	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の舞踊への影響、「死の舞踊」のモチーフ、等について
4	エリザベス時代演劇	イギリス、エリザベス時代の演劇、特にシェイクスピアについて
5	フランス古典主義演劇とバレエの誕生	フランス古典主義演劇と、バレエ誕生の経緯について
6	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
7	ロマンティック・バレエ	バレエの依拠する物語や伝説、特に『ジゼル』、『 Coppélia』について
8	クラシック・バレエの発生	バレエの技術的変容と定型化、特に『白鳥の湖』について
9	クラシック・バレエの展開	クラシック・バレエからモダン・バレエ、モダン・ダンスへの展開について
10	近代演劇	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンドベリ、チェーホフについて
11	現代演劇	19世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
12	モダン・ダンス（1）	バランシン、カニンガム、ノイマイヤー等の実践について

- 13 モダン・ダンス（2） ペジャール、バウシユ、フォーサ
イス等の実践について
- 14 まとめ 授業のまとめと参考文献の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記【参考書】の文献をできるだけ読むように努める。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

『ギリシア悲劇〈1〉～〈4〉』（ちくま文庫）
シェイクスピア（福田恆存訳）『ハムレット』（新潮文庫）
シェイクスピア（安西徹雄訳）『リア王』（光文社古典新訳文庫）
日本演劇学会『ベスト・プレイズ西洋古典戯曲』（相田書房）
岩瀬孝『フランス演劇史序説』（早稲田大学出版部）
邦正美『舞踊の文化史』（岩波新書）
鈴木晶『バレエの魔力』（講談社現代新書）
長野由紀『バレエの見方』（新書館）
三浦雅士『バレエ入門』（新書館）
舞踊教育研究会『舞踊学講義』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

学期末レポート 50 % : 演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body that is embedded in daily life and reveals the possibility for new body movement. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. As well as straight play, we will also focus on ballet, another mode of theatrical performance. Although the histories of these two forms are usually described separately, this course will try to conceive the common elements, too.

ART300LA

身体表現論 B

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀以降拡大する大衆文化に見られる身体表現のあり方を概観する。このことにより、身体表現が生活のなかで孕む問題点や文化的意義を浮き彫りにする。大衆文化はメディア産業と強く関連するため、受講生のメディア・リテラシーへの意識づけも考慮しながら講義する。

【到達目標】

- ・大衆文化における各種の身体表現について考察し、記述できる。
- ・身体運動を、社会生活を営む視点から考える認識枠組を身につける。
- ・大衆文化の身体性について評価する批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は授業の最後、または授業後にリアクション・ペーパーを執筆し、提出する。
- ・リアクション・ペーパーに対しては、必要に応じてコメントを付し、毎回、提出者全員に返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語等の紹介
2	演芸	ミュージック・ホール、チャップリン、キートン等コメディアン身体表現について
3	レビュー	キャバレー、フレンチ・カンカン、レビュー、日本の「歌劇団」について
4	ミュージカル（1）	ミュージカルとオペラとの差異、ミュージカルにおける身体表現等について
5	ミュージカル（2）	ミュージカルにおける身体表現について（事例紹介）
6	反リアリズム演劇	20 世紀日本のアンガラ演劇、代表的な演出家の身体表現について
7	ジャズ・ダンス、タップ・ダンス	ジャズ・ダンス、タップ・ダンス等の各種ダンスの身体表現について
8	ミュージック・ビデオ	ミュージック・ビデオの身体表現について
9	映画（1）	男性的な英雄の系譜と英雄像について
10	映画（2）	ポップ・アイコンとしてのヘップバーンとモンローについて
11	アニメーション	アニメーションの歴史と身体表現について
12	テーマパーク	ディズニーランドの空間構成と身体表現について

- 13 事例研究（１） 『マイ・フェア・レディ』、『雨に唄えば』、『ファニー・ガール』を題材に、ミュージカル映画の女性像について考える。
- 14 事例研究（２）とまとめ 『ミー・アンド・マイ・ガール』を題材に、レビューの女性像について考える。／講義のまとめと参考文献の紹介。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記【参考書】に挙げた参考文献をできるだけ読むように努める。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

井野瀬久美恵『大英帝国はミュージック・ホールから』（朝日選書）
岩崎昶『チャーリー・チャップリン』（講談社現代新書）
ビートたけし『浅草キッド』（新潮文庫）
リサ・アビニャネジ『キャバレー ヨーロッパ世紀末の飲食文化（上）（下）』（サントリー）
小山内伸『ミュージカル史』（中央公論新社）
本橋哲也『深読みミュージカル』（青土社）
スタニスラフスキー（山田肇訳）『俳優修業』（未来社）
マイケル・チェーホフ（ゼンヒラノ訳）『演技者へ！』（晩成書房）
鈴木忠志『演劇とは何か』（岩波新書）
蜷川幸雄・長谷部浩『演出術』（ちくま文庫）
浅利慶太『劇団四季メソッド「美しい日本語の話し方」』（文春新書）
油井正一『ジャズの歴史物語』（角川ソフィア文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%：当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

学期末レポート 50 %：大衆文化における身体表現の意義を論じることができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course will offer a survey of body movement in popular culture that has been expanding since the nineteenth century, so that students will be aware of specific issues or cultural values seen in contemporary life. The course will also take the media industry into consideration, since it is closely linked to popular culture, which will enhance their level of media literacy.

ART300LA

美術論 A

2017 年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術論 A では、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要と思われる西洋近代美術史がテーマとなります。

特に

- ・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論
 - ・各時代のアーティストの実践（アイディアや制作論）
- について段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】

・西洋美術の思想や基本的な考え方について、具体的な作品例を中心に学ことができます。

・美術に関するいくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について学ぶことができます。

・ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

『ワークショップ』

各単元で学んだ内容を基にディスカッション、作品制作や展覧会企画、美術批評にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

導入（10 分）

毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

講義（40 分）

その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

レクチャー・パフォーマンス（30 分）

その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。

授業内レポート（20 分）

毎回の授業の最後に、講義やレクチャーパフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くことになります。授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

- ・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）
- ・Zoom（ミーティング）
- ・Google Classroom、Google Form（授業内容の告知、授業全般に関するフィードバック、課題提出、）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/12	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方

4/19	古代美術	講義 原始美術/先史美術 メソポタミア美術 エジプト美術 ギリシャ美術 ローマ美術 レクチャー・パフォーマンス 「ラスコーの壁画」「ローマ帝国」
4/26	中世美術	講義 初期キリスト美術 ビザンティン美術 初期中世美術 ロマネスク美術 ゴシック美術 レクチャー・パフォーマンス 「キリスト教と美術」
5/10	ワークショップ 1 古代、中世美術	単元の復習 ワークショップ 「伝える方法・絵から文字へ」
5/17	近世美術	講義 ルネサンス美術 バロック美術 ロココ美術 レクチャー・パフォーマンス 「レオナルド・ダ・ヴィンチ」
5/24	近代美術 1	新古典主義 ロマン主義 写実主義 レクチャー・パフォーマンス 「ギュスターヴ・クールベ 写実主義の思想」
5/31	ワークショップ 2 近世、近代美術	単元の復習 ワークショップ 「デッサンの手法」
6/7	近代美術 2	印象派 ポスト印象派 新印象派 レクチャー・パフォーマンス 「印象派」
6/14	近代美術 3	野獣派 キュビズム 表現主義 ナビ派 世紀末芸術 象徴主義（ロシア象徴主義） 素朴派 レクチャー・パフォーマンス 「ピカソとブラック」
6/21	ワークショップ 3 近代美術	単元の復習 ワークショップ 「アバンギャルドのアート」
6/28	現代美術 1	未来派 ダダイズム シュルレアリズム デ・ステイル バウハウス ロシア構成主義 ワークショップ 「シュルレアリスムの実験」
7/5	現代美術 2	レトリズム 抽象表現主義 ネオダダ ポップアート レクチャー・パフォーマンス 「第二次世界大戦前後」

7/12	現代美術 3	ミニマルアート コンセプチュアルアート 新表現主義 YBA リレーショナル・アート ソーシャリー・エンゲージド・アート レクチャー・パフォーマンス 「スクールレポリューションとアート」
7/19	現代美術 ワークショップ 4	単元の復習 ワークショップ 「テキストとアート」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014 年
高階秀爾『カラー版西洋美術史』美術出版社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

楽しく解りやすい授業をしていきたいと思います。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021 年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイト授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30 分程度のものを 2、3 本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い
学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。
提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

オンラインミーティング・講評会

リクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn the basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art

2. Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism

We will learn about these in a step-by-step manner.

ART300LA

美術論 B

2017 年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術 B では、古代から現代までの日本美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要と思われる西洋近代美術史がテーマとなります。

特に

- ・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論
- ・各時代のアーティストの実践（アイディアや制作論）

について段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】

- ・日本美術に関するいくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について探ります。
- ・ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基にディスカッション、作品制作や展覧会企画、美術批評にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

導入（10 分）

毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

講義（40 分）

その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

レクチャー・パフォーマンス（30 分）

その回の講義に関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。

授業内レポート（20 分）

毎回の授業の最後に、講義やレクチャーパフォーマンスに関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くことになります。授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使います。

・Google site（授業の基礎となるコンテンツの配信）

・Zoom（ミーティング）

・Google Classroom、Google Form（授業内容の告知、授業全般に関するフィードバック、課題提出、）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
9/20	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
9/27	古代美術 1	縄文・弥生・古墳時代
10/4	古代美術 2	飛鳥・白鳳時代 平安時代
10/11	ワークショップ（1）	プレゼンテーションとディスカッション
10/18	中世美術	鎌倉・室町時代
10/25	近世美術	桃山・江戸時代

11/1	ワークショップ（2）	プレゼンテーションとディスカッション
11/8	近代美術 1	明治時代 西洋画と日本画
11/15	近代美術 2	大正デモクラシー 戦争画
11/29	ワークショップ（3）	プレゼンテーションとディスカッション
12/6	戦後美術	アンデパンダン/ネオダダ/ハイ レッドセンター/実験工房/もの派/ もの派以降
12/13	現代美術 1	インスタレーション・パフォーマンス
13	現代美術 2	1990 年代、ゼロ年代、ミレニアム以降
14	ワークショップ（4）	プレゼンテーションとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014 年

辻惟雄『カラー版 日本美術史』美術出版社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

詳しい評価方法については、添付のルーブリック表を参照してください。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

楽しく解りやすい授業をしていきたいと思います。

【その他の重要事項】

遠隔授業への対応（重要）

2021 年度についても遠隔授業で実施する可能性があります。その際に以下の点に注意してください。

授業日当日の午前中に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンク先を掲載する。

1. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
2. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク先が掲載されているので、回答してその日のうちに提出する。
3. 質問については、学習支援システムの掲示板に書き込んでおくとお答えします。

学習環境

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。

授業の方法

Google Classroom を通じてを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、30 分程度のを 2、3 本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

質問や相談については Google Classroom を使ってください。

オンラインミーティング・講評会

リクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【Outline and objectives】

We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.

・ Art history and art theory which is the basis for understanding art

・ Work production, including more practical content · planning of art exhibitions · Art criticism.

We will learn about these in a step-by-step manner.

ART300LA

芸術と人間 A

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を、長年もっとも具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、各々の映画の表現を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深める。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を学ぶ。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を拡げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、コメントシートを書いてもらったりすることになる。フィードバックは授業内ないし hoppii で優れたコメントシートを紹介して行う。

初回に、定員を 50 名以内に絞り込むための選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、必ずこれに出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	ジョン・フォード 宮崎駿
3	地を走る	チャールズ・チャップリン バスター・キートン
4	地で踊る	フレッド・アステア ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	S・エイゼンシュテイン アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	キング・ヴィダー ニコラス・レイ
7	列車に乗る	リュミエール兄弟 エドウィン・S・ポーター アベル・ガンズ
8	列車に乗る 2	アルフレッド・ヒッチコック 黒澤明
9	自動車に乗る	フランク・キャプラ ジャン＝リュック・ゴダール
10	ドアを開け閉めする	エルンスト・ルビッチ 諏訪敦彦
11	壁の向うを聴く	アルフレッド・ヒッチコック ロベール・ブレッソン
12	窓を見る	アルフレッド・ヒッチコック マルグリット・デュラス
13	鏡を見る	ジョセフ・ローゼー オーソン・ウェルズ

14 まとめ

講義のまとめや補足
課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントを読む。映画館や DVD で映画を分析的に観賞する。

本授業の準備時間は 30 分を標準とし、復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回選抜試験を受けること。毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline and objectives】

In this class, we study the interaction between human behavior and space in classical films.

ART300LA

芸術と人間 B

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を、長年もっとも具体的に検討してきた表現領域である。本講義は「芸術と人間 A」の発展形にあたる。主に古典的作品を通し、映画が都市や自然をどのように表象しているのかを学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深める。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を学ぶ。自分の観る映画のジャンル・年代・地域を拓げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、出席カードに感想を書いてもらったりすることになる。フィードバックは授業内ないし hoppii で優れたコメントシートを紹介して行う。

初回に定員を 50 名以内に絞り込むための選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、「芸術と人間 A」を履修していない学生は必ずこれに出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	高層都市	フリッツ・ラング キング・ヴィダー
3	迷宮都市	ジェック・タチ オーソン・ウェルズ
4	記憶都市	アルフレッド・ヒッチコック ヴィム・ヴェンダース
5	日本家屋	成瀬巳喜男 小津安二郎
6	廃墟	ロベルト・ロッセリーニ 黒沢清
7	水と船	フリードリヒ・ムルナウ 溝口健二
8	川	ジャン・ルノワール チャールズ・ロートン
9	雨	山中貞雄 相米慎二
10	水の宇宙	アンドレイ・タルコフスキー
11	風	ジャン・エプスタン 宮崎駿
12	森と動物	宮崎駿 アビチャボン・ウィラセタクン
13	補足	講義で十分扱えなかったテーマや映画

14 まとめ

講義のまとめ

課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントを読む。映画館や DVD で映画を分析的に観賞する。

本授業の準備時間は 30 分を標準とし、復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

【学生の意見等からの気づき】

コメントシートを早めに返却する。

【その他の重要事項】

初回選抜試験を受けること。毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline and objectives】

In this class, we study the interaction between human behavior and space in classical films.

PHL300LA

仏教思想論 A

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期仏教思想・仏教史

釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。

この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。（初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論 B」も必ず履修してください。）

【到達目標】

・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることから考え、理解する。
・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、対面授業とオンライン授業（Zoom によるリアルタイム授業）とを組み合わせたハイブリッド授業となります。各授業回の授業形態は「学習支援システム」でお知らせします。

対面でもオンラインでも授業は講義形式です。

毎回、資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5 回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第 2 回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第 3 回	仏教の成立	仏陀の生涯
第 4 回	仏教の教育指導法（説法）	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第 5 回	仏教の基本思想（1）	五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印） 「諸行無常」 比較思想的考察

第 6 回	仏教の基本思想（2）	「一切皆苦」 4つの真理（四諦説） 十二支縁起 八支聖道・中道 『はじめての説法』
第 7 回	仏教の基本思想（3）	仏陀のさとり得た真理とその特徴 『梵天勧請』 『縁』経、他 比較思想的考察
第 8 回	仏教の基本思想（4）	「諸法無我」 人無我と法無我 ミリンダ王経 律蔵文獻 戒・波羅提木叉
第 9 回	仏教教団と教団運営	『ダンマパダ』 『スッタニパータ』 「慈しみ」他 『スッタニパータ』 「田を耕すバーラドヴァージャ」 他
第 10 回	初期仏典講読（1）	『スッタニパータ』 真理についての争い
第 11 回	初期仏典講読（2）	
第 12 回	初期仏典講読（3）	
第 13 回	初期仏典講読（4）	
第 14 回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料等の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK 出版新書、2013 年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績+平常点（40%）により評価します。

学期末レポート試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

殆どの学生にとって、仏陀自身の思想・本来の仏教思想を学ぶのは初めてのことだと思います。資料を深く読み、仏陀・仏教の思想を正しく真直ぐに捉え理解していただきます。解説は丁寧にを行います。

【Outline and objectives】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.

The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

PHL300LA

仏教思想論 B

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷
 インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化したのか、これらを学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。
 （本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論 A」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

- ・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
- ・仏教思想はどのように多様化したのか、その理由を理解する。
- ・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
- ・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。
 対面でもオンラインでも授業は講義形式です。毎回、資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。
 単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5 回実施予定）。
 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	この授業について なぜ仏教思想は多様化したのか？ 諸部派成立から大乘仏教へ
第 2 回	部派仏教（説一切有部）の思想（1）	有部・経量部・『俱舍論』 ダルマの体系（1）： 五位七十五法
第 3 回	部派仏教（説一切有部）の思想（2）	ダルマの体系（2）： 有為ダルマの二性質
第 4 回	部派仏教（説一切有部）の思想（3）	物質論 原子（極微）論
第 5 回	部派仏教（説一切有部）の思想（4）	仏教がとらえる内的世界（心・心作用） 心作用の区分け（6 心所）
第 6 回	仏教の世界観	『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第 7 回	大乘仏教（1）	大乘仏教の教理的特徴
第 8 回	大乘仏教（2）	大乘諸経典 『般若経』の空思想

第 9 回	大乘仏教（3）	ナーガールジュナの哲学 二真理説 空・仮・中
第 10 回	大乘仏教（4）	縁起の思想（1） 外縁起・内縁起 『入楞伽経』 『稲苳経』
第 11 回	大乘仏教（5）	縁起の思想（2） 縁起二種観察法 『稲苳経』・『稲苳経註』
第 12 回	大乘仏教（6）	大乘仏教・後期中観思想の人生観 1 到達目標・理想的境地・中道
第 13 回	大乘仏教（7）	大乘仏教・後期中観思想の人生観 2 仏陀・経典の権威について
第 14 回	まとめ・授業内試験	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習：テキスト・プリント資料の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的世界観』、Dojin 選書、2013 年
 桜部健・上山春平著『仏教の思想 2 存在の分析＜アビダルマ＞』、角川ソフィア文庫、1996 年
 その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績＋平常点（40%）により評価します。
 授業内筆記試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。
 試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

初めてインド本来の大乘仏教思想を学び、その人生観等に新鮮な驚きを感じる学生が多いようです。初期仏教より思想内容が高度になりますが、丁寧な解説を心掛けたいと思います。

【Outline and objectives】

This is a course to learn Indian Hinayana (ZrAvakayAna) Buddhism and Mahayana (BodhisattvayAna) Buddhism.
 The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.

PHL300LA

行為の理論 A

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文明の課題は、クリエイティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米の合理主義は、自己創造的なライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで行為の自己創造性の根源への道を考察します。

【到達目標】

合理主義的行為を再検討し、＜クリエイティブな行為＞を解明できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組合わせながら、講義を行います。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。課題レポートは授業終了時に提出してもらい、次回授業で講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スライド形式による授業内容紹介
2	序論	自己をクリエートする 21 世紀精神へ
3	I 行為の構造	合理主義的行為論
4	II 自己表現としての行為	ヘーゲルの自己表現論
5	III 行為の根源	《自己決定と不可避の行為とは両立するか？》
6	III 行為の根源	《善を知っているのに悪を行うとは？》
7	III 行為の根源	《行為は始める前に生ずる》
8	III 行為の根源	《行為には骨（こつ）がある》
9	III 行為の根源	《行為の失敗こそ大切である》
10	III 行為の根源	《体で動かずに心で動く》
11	III 行為の根源	《どうあってもよい行為とは？》
12	III 行為の根源	《意図を超えて因果はめぐる》
13	III 行為の根源	《運命とは自己自身である》
14	春 semester のまとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山口誠一著『クリエートする哲学—新行為論入門—』（弘文堂）の内容を教室のスクリーンにプロジェクター投射します。

【参考書】

毎回の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学年度末試験を基準 (60%) として、授業時課題レポート (20%) と出席回数 (20%) も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】

PC 接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with the process for making the selfcreation of action, with texts drawn from many languages.

PHL300LA

行為の理論 B

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文明の課題は、クリエイティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米の合理主義は、クリエイティブなライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで科学技術によってますます高度化する現代情報消費社会で追究されるべき行為の創造性を主にニーチェの行為論を手がかりに考察します。

【到達目標】

合理主義的行為を再検討し、＜クリエイティブな行為＞を解明できます。なお、その際、米国のネオプラグマティズム最新動向も検討します。また、現代文明の預言者ニーチェの思想をてがかりにしながら、広い視野から深く考察できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。課題レポートは授業終了時に提出してもらい、次回授業で講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ニーチェの行為論	スライド形式による授業内容紹介
2	自己をクリエートする行為とは？	ヘーゲルからニーチェへの展開を通して自己創造を解明する
3	動機なき行為とは、	フランスの思想家カミュの『異邦人』を映画で鑑賞しながら行為の動機を相対化する。
4	行為の意図・動機への疑念	ニーチェによる合理主義的行為批判を紹介する。
5	身体自己と目的意識との関係	権力への意志としての身体自己を解明する。
6	しくじり行為	フロイトの精神分析を手がかりに行為の身体自己の無意識性を解明する。
7	「大きな理性」としての身体自己	身体自己が意識に命令して行為が現実化することを解明する。
8	目的論の相対化	作用原因としての身体自己を解明する。
9	道徳的責任からの解放	無垢な人間のライフスタイルを解明する。
10	自己創造としての行為	作用原因としての身体自己による創造的行為を解明する。
11	自己創造としての弁証法的対話	対話を通して対話者の新たな自己が創造されてゆくメカニズムを解明する。

12	幻影・仮象に生きる	幻影・仮象による自己創造がネーミングに到ることを解明する。
13	自己創造としての変身	ネーミングによる変身が自己創造であることを解明する。
14	まとめ	行為論 B の総括・授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にスクリーンにテキストをプロジェクター投射します。また、学習支援システムでも事前に配布します。

【参考書】

毎回の授業で紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

学年度末試験を基準 (60%) として、授業時課題レポート (20%) と出席回数 (20%) も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】

P C 接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with Nietzsche's theory of action , with texts drawn from Japanese, English and German.

PHL300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：反出生主義の哲学——「生まれてこない方がよかった」というのは本当か？

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

2000 年代になってにわかに議論が喧しくなってきた哲学的問題に、「反出生主義（Antinatalism）」がある。端的に言えば、「生まれてこないほうが良かった」という思想である。それゆえ、「反出生主義」とは、「存在してしまうことの害悪」をなるべく減ずるために、将来生まれてくる可能性のある人々の誕生を防ぐことは道徳的に正しいという議論である。

哲学的に見れば、「反出生主義」の思想は、19 世紀の哲学者アルトゥル・ショーペンハウアー（1788-1860）のペシミズムに遡ることができる。彼の影響のもとに、ニーチェは、『悲劇の誕生』のなかで、「人間にとってもっとも善いことは、生まれなかったこと、存在しないこと、何者でないことだ。次に善いことは、すぐに死ぬことだ」と書き記している。

こうした「反出生主義」が再び議論を巻き起こしている背景には、デイヴィッド・ベネター（南アフリカ・ケープタウン大学准教授）が『生まれてこなかったほうが良かった——存在してしまうことの害悪（David Benatar, Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence）』（2006）を出版したことがある。森岡正博（早稲田大学教授）によれば、ベネターの哲学は、基本的にはショーペンハウアーの『意志と表象の世界』（1819 正編/1843 続編）の思想を引き継いでいるが、彼が「反出生主義」を分析哲学の手法を用いて哲学のテーマとしたことは評価できる。

そこで 2021 年度の本授業は、ベネターのテキストを取り上げ、「反出生主義」の思想を考察することにした。

【授業の目的】

本授業の目的は、ベネターの『生まれてこないほうが良かった』を検討することによって、「反出生主義」の現代的意義を考察する。ちなみにベネターによれば、生まれてくる人たちの誕生を防ぐことによって、この世界の害悪を減らしていくことが重要であり、それゆえ、人工妊娠中絶は肯定される。最終的に、彼は「人類は絶滅したほうがよい」という結論に至る。

本授業では、第一に、「たとえ質の高い人生であったとしても、私たちの人生は非常に悪いものだ」というベネターの主張に対する反論を検討する。

第二に、どのような意味で、ベネターの「反出生主義」を否定する「誕生肯定の哲学」（森岡正博）は可能かを検討する。

結果的に、私たちは「生まれてきたほうがよかった」といいうのかという問題を哲学的に検討する。

【到達目標】

- ①ベネターの「反出生主義」の思想を学ぶことができる。
- ②哲学的なテキストを読むことができる。
- ③レジュメを書くことができる。
- ④ベネター以外の「反出生主義」の思想を学ぶことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) 基本的に「演習」形式で行う。
- (2) 毎回、担当者を決め、レジュメを作成してもらう。
- ◆レジュメには、①担当箇所の翻訳と解説、②用語説明、③考察、④問題点を記載する。
- (3) 授業の進め方
- ①特定質問者を決めて、担当者の発表に対して、質問を行う。

②それ以外の授業参加者と教員を含めて質疑を行い、問題点について議論する。

(4) フィードバックの方法

・授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業の進め方についての説明 ・発表の順番等の決定
第 2 回	第 1 章 序論①	・誰がそんなに幸運なのか ・反出生主義と出生を促進する偏見
第 3 回	第 1 章 序論②	・本書の概要
第 4 回	第 2 章 存在してしまうことが常に害悪である理由①	・存在してしまうことが害悪であるということがあり得るか？
第 5 回	第 2 章 存在してしまうことが常に害悪である理由②	・なぜ存在してしまうことは常に害悪であるのか
第 6 回	第 3 章 存在してしまうことがどれほど悪いのか①	・人生の良さと悪さの差が人生の質にはならない理由 ・なぜ人生の質の自己判断は信頼できないのか
第 7 回	第 3 章 存在してしまうことがどれほど悪いのか②	・人生の質に関する三つの見解と三つの見解どれをとっても人生はうまくいかない理由 ・苦痛の世界
第 8 回	第 4 章 子どもを持つということ：反出生の見解①	・子作り ・子供を作る理由
第 9 回	第 4 章 子どもを持つということ：反出生の見解②	・障碍とロングフルライフ（望まずに生まれた命） ・生殖補助と人工生殖 ・将来生まれてくる人間を単なる手段として考えること
第 10 回	第 5 章 妊娠中絶：「妊娠中絶賛成派」の見解①	・四種類の利害〔interest〕 ・どの利害が道徳に係るのか？ ・いつから意識が生じ始めるのか？
第 11 回	第 5 章 妊娠中絶：「妊娠中絶賛成派」の見解②	・存在し続けることへの利害 ・黄金律 ・「私たちと同じような未来」 ・結論
第 12 回	第 6 章 人口と絶滅①	・人口過剰 ・人口に関する道徳理論に潜む問題を解決する
第 13 回	第 6 章 人口と絶滅②	・段階的絶滅 ・絶滅
第 14 回	第 7 章 結論	・反直観的であるという反論に反論する ・楽観主義者への応答 ・死と自殺 ・宗教的見解 ・人間嫌い人間好き

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・担当者は、テキストの該当箇所のレジュメを発表前日までに教員に提出すること。
- ・特定質問者は、テキストの該当箇所に関する質問を 3 つ以上考え、簡単な質問表を作ってくる（発表当日でよい）
- ・それ以外の参加者は、該当箇所について質問を 1 つは考え、当日の議論に参加する準備をすること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) デイヴィッド・ベネター『生まれてこないほうが良かった——存在してしまうことの害悪』、すずさわ書店、2017 年
- (2) David Benatar, Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence, Oxford University Press, 2006.

【参考書】

- (1) 「特集 反出生主義を考える——「生まれてこないほうが良かった」という思想」、『現代思想』、青土社、2019 年 11 月号

(2) 吉沢文武「ベネターの反出生主義をどう受けとめるか」、『現代思想』「特集 倫理学の論点 23」所収、青土社、2019 年 9 月号

◆その他については、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

・個別報告発表 (50 %) (回数および内容による評価)

・特定質問担当 (30 %) (質問内容による評価)

・討論参加 (20 %) (内容による評価)

※ 以上に基づいて、総合的に評価する。

※ なお、無断欠席は認めない。

※要注意

・リアルタイムオンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

最近の大学生の中には、基本的なテキスト読解が不十分な者が見受けられる。テキストを「読む」というのは、テキストを「読み解く」のであって「読み込む」のではないことは肝に銘じるべきである。「読み込む」ということは、自分の考えをテキストに投影することであり、それは単なる勝手な解釈に過ぎない。それでは、真にテキストを「読解する」ことにならない。あくまで「虚心坦懐」にテキストに向かい、「眼光紙背を徹する」態度でテキストに向かわなければ、哲学的なテキストを「読む」ことはできない。

また、担当者はレジュメを作成する上で、引用されているテキストはもちろん、それ以外にも用語・概念などについて、徹底的に下調べを行うべきである。担当者以外に対して、教員から授業中に質問することが多々あるので、担当者と同様に準備を怠らないでほしい。

演習とは **practice** (=実践) を意味しているものであり、テキストを「読む」という実践は五感を十分に活用することです。授業に参加する皆さんは、哲学を「実践する」態度で臨んでもらいたい。

【受講上の注意】

本授業は、哲学・倫理学、思想の分野に深くコミットしているために、自身の思考の鍛錬を要する。テキストを読むこと、それに基づいて自分の思考を実践すること、これらの作業は哲学研究にとって必須のものと心得てもらいたい。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to examine the contemporary significance of "anti-birth" with special reference to Benatar's "I was better off not being born." By the way, according to Benatar, it is important to reduce the harm of this world by preventing the birth of newborns, and therefore abortion is affirmed. Eventually, he comes to the conclusion that humanity should be extinct. Therefore, this class first examines the rebuttal of Benatar's assertion that "even if it is a quality life, our lives are very bad." Second, we examine in what sense a "birth affirmation philosophy" (Masahiro Morioka) that denies Benatar's "anti-birth" is possible. As a result, we consider philosophically the question of whether we should have been born.

PHL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：「反出生主義の哲学」の批判——「生まれてこない方がよかった

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

2000 年代になってにわかに議論が喧しくなってきた哲学的問題に、「反出生主義 (Antinatalism)」がある。端的に言えば、「生まれてこないほうが良かった」という思想である。それゆえ、「反出生主義」とは、「存在してしまうことの害悪」をなるべく減ずるために、将来生まれてくる可能性のある人々の誕生を防ぐことは道徳的に正しいという議論である。

哲学的に見れば、「反出生主義」の思想は、19 世紀の哲学者アルトゥール・ショーペンハウアー (1788-1860) のペシミズムに遡ることができる。彼の影響のもとに、ニーチェは、『悲劇の誕生』のなかで、「人間にとってもっとも善いことは、生まれなかったこと、存在しないこと、何者でないことだ。次に善いことは、すぐに死ぬことだ」と書き記している。

こうした「反出生主義」が再び議論を巻き起こしている背景には、デイヴィッド・ベネター (南アフリカ・ケープタウン大学准教授) が『生まれてこなかったほうが良かった——存在してしまうことの害悪 (David Benatar, Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence)』(2006) を出版したことがある。森岡正博によれば、ベネターは、基本的にはショーペンハウアーの『意志と表象の世界』(1819 正編/1843 続編) の思想を引き継いでいるが、彼が「反出生主義」を分析哲学の手法を用いて哲学のテーマとしたことである。

そこで 2021 年度の本授業は、「春学期」で取り上げたベネターのテキストを批判的に検討する。その際に、森岡正博の『生まれてこないほうが良かったのか——生命の哲学へ!』(2020) を取り上げ、「反出生主義」の批判から、「誕生肯定」の哲学へと至る道を探る。

【授業の目的】

本授業の目的は、ベネターの『生まれてこないほうが良かった』を検討することによって、「反出生主義」の現代的意義を考察する。ちなみにベネターによれば、生まれてくる人たちの誕生を防ぐことによって、この世界の害悪を減らしていくことが重要であり、それゆえ、人工妊娠中絶は肯定される。最終的に、彼は「人類は絶滅したほうがよい」という結論に至る。

そこで本授業では、第一に、「たとえ質の高い人生であったとしても、私たちの人生は非常に悪いものだ」というベネターの主張に対する反論を検討する。

第二に、どのような意味で、ベネターの「反出生主義」を否定する「誕生肯定の哲学」(森岡正博) は可能かを検討する。結果的に、私たちは「生まれてきたほうがよかった」といいうのかという問題を哲学的に検討する。

【到達目標】

- ①森岡正博の「誕生肯定」の思想を学ぶことができる。
- ②哲学的なテキストを読むことができる。
- ③レジュメを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) 基本的に「演習」形式で行う。
- (2) 毎回、担当者を決め、レジュメを作成してもらう。

◆レジュメには、①担当箇所の翻訳と解説、②用語説明、③考察、④問題点を記載する。

◆特定質問者を決めて、担当者の発表に対して、質問を行う。

(3) それ以外の授業参加者と教員を含めて質疑を行い、問題点について議論する。

(4) フィードバックの方法

◆授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・ 担当の順番を決定する ・ 授業の概要説明
第2回	第1章 「おまえは生きなければならぬ!」①	1. メフィストと「否定する精神」 2. 「お前は生きなければならぬ!」
第3回	第1章 「おまえは生きなければならぬ!」②	3. 救済されたファウストの魂 4. 『ファウスト』と誕生否定
第4回	第2章 誕生は害悪なのか①	1. オイディプス王 2. 世界と人生に対する呪詛
第5回	第2章 誕生は害悪なのか②	3. ベネターの「誕生害悪論」 4. 反出生主義の射程
第6回	第3章 ショーペンハウアーの反出生主義①	1. 生命論へと変換されたカント哲学 2. 生きようとする意志 3. いっさいの生は苦しみである
第7回	第3章 ショーペンハウアーの反出生主義②	4. 「無意志」の状態こそが最高善である 5. 自殺について 6. 死によっても壊れ得ないもの 7. ショーペンハウアーの影響
第8回	第4章 輪廻する不滅のアーマン①	1. 輪廻思想の誕生 2. 熟睡によって到達する本来の自己
第9回	第4章 輪廻する不滅のアーマン②	「お前がそれである」
第10回	第5章 ブッダは誕生をどう考えたのか①	1. 一切皆苦 2. 涅槃寂靜
第11回	第5章 ブッダは誕生をどう考えたのか②	3. 生まれてこないほうが良かったのか? 4. 原始仏教と自殺
第12回	第6章 ニーチェー—生まれてきた運命を愛せるか①	1. 生を肯定する哲学者 2. 永遠回帰 3. 運命愛
第13回	第6章 ニーチェー—生まれてきた運命を愛せるか②	4. 在るところのものに成ることを欲する 5. ニーチェと誕生肯定
第14回	第7章 誕生を肯定すること、生命を哲学すること	1. 誕生害悪論を再考する 2. 善から悪が生成することは悪なのか? 3. 子どもを産むことをどう考えるか 4. 誕生肯定の哲学へ! 5. 生命の哲学へ!

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・ 担当者は、テキストの該当箇所のレジュメを発表前日までに教員に提出すること。

・ 特定質問者は、テキストの該当箇所に関する質問を3つ以上考え、簡単な質問表を作ってくること（発表当日でよい）

・ それ以外の参加者は、該当箇所について質問を1つは考え、当日の議論に参加する準備をすること。

・ 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

森岡正博『生まれてこないほうが良かったのか? ——生命の哲学へ!』（筑摩選書、2020年）

【参考書】

(1) デイヴィッド・ベネター『生まれてこないほうが良かった——存在してしまうことの害悪』、すずさわ書店、2017年

(2) 「特集 反出生主義を考える——「生まれてこないほうが良かった」という思想」、『現代思想』、青土社、2019年11月号

(3) 吉沢文武「ベネターの反出生主義をどう受けとめるか」、『現代思想』「特集 倫理学の論点 23」所収、青土社、2019年9月号

◆ その他については、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

・ 個別報告発表（50%）（回数および内容による評価）

・ 特定質問担当（30%）（質問内容による評価）

・ 討論参加（20%）（内容による評価）

※ 以上に基づいて、総合的に評価する。

※ なお、無断欠席は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

最近の大学生の中には、基本的なテキスト読解が不十分な者が見受けられる。テキストを「読む」というのは、テキストを「読み解く」のであって「読み込む」のではないことは肝に銘じるべきである。「読み込む」ということは、自分の考えをテキストに投影することであり、それは単なる勝手な解釈に過ぎない。それでは、真にテキストを「読解する」ことにならない。あくまで「虚心坦懐」にテキストに向かい、「眼光紙背を徹する」態度でテキストに向かわなければ、哲学的なテキストを「読む」ことはできない。

また、担当者はレジュメを作成する上で、引用されているテキストはもちろん、それ以外にも用語・概念などについて、徹底的に下調べを行うべきである。担当者以外に対して、教員から授業中に質問することが多々あるので、担当者と同様に準備を怠らないでほしい。

演習とは **practice** (=実践) を意味しているものであり、テキストを「読む」という実践は五感を十分に活用することです。授業に参加する皆さんは、哲学を「実践する」態度で臨んでもらいたい。

【受講上の注意】

本授業は、哲学・倫理学、思想の分野に深くコミットしているために、自身の思考の鍛錬を要する。テキストを読むこと、それに基づいて自分の思考を実践すること、これらの作業は哲学研究にとって必須のものと心得てもらいたい。単に、カルチュラル・スタディーズや、ポスト・コロニアリズム研究などとは異なるので、注意を要する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 現代哲学（現象学・構造主義以後のフランス哲学）・現代倫理学（ケアの倫理学・応用倫理学）

<研究テーマ> 生命体・地球を含む「生の倫理学」（例えば、暴力や虐待、テロなどによるトラウマや PTSD に苦しむ人々を「生・生活・人生・生命（life）」という観点からケアしていくためにしなければならない義務・責任を考察する）

<主要研究業績>

1. 【共著】森村修「『社会政治的トラウマ』の倫理」、牧野英二・小野原雅夫・山本英輔・斎藤元紀編『哲学の変換と知の越境』所収、法政大学出版局、2019年【臨床哲学・生の倫理学】

2. 【共著】森村修「アマルティア・セン——自由と正義のアイデア」、榎木玲子／法政大学国際文化学部編『〈境界〉を生きる思想家たち』所収、法政大学出版局、2016年【現代倫理学】

3. 【共著】森村修「ヨーロッパ」という問題—テロと放射能時代における哲学」、熊田泰章編『国際文化研究への道：共生と連帯を求めて』所収、彩流社、2013年【現代哲学】

4. 【論文】森村修「市川白弦の『空-無政府-共同体論(Ś ūnya-Anarchist-Communism)』——小笠原秀実の仏教アナキズムと西谷啓治の自衛論批判をめぐって」、法政大学国際文化学部編『異文化 20』、2019年【日本哲学】

5. 【論文】森村修「技術は「ヒューマニズムを超える」か? (1) —ハイパー・ニヒリズム時代におけるハイデガーの「技術哲学」(1)」、法政大学国際文化学部編『異文化 19』論文編、2018年【現代ドイツ哲学・応用倫理学】

6. 【論文】森村修「パウル・ツェランという問題 (1) —ガダマーとデリダの「途切れない対話」(1)」、法政大学国際文化学部編『異文化』論文編、2017年【現代ドイツ・フランス哲学】

7. 【論文】森村修「思想の翻訳と文字の問題——比較思想から問文化性の比較思考へ」、比較思想学会編『比較思想研究』第42号、2016年【日本哲学・Intercultural Philosophy】
8. 【論文】森村修「センの「道徳哲学」(1)——バトナム「事実／価値二分法の崩壊」論を手がかりに(1)」、法政大学国際文化学部編『異文化17』論文篇、2016年【現代倫理学】
9. 【論文】森村修「『性的差異』のケア倫理学——フェミニズム倫理学と和辻倫理学における「肉体」の問題」、『比較思想研究』第41号、2015年【日本哲学・ケアの倫理学】
10. 【論文】森村修「喪と／あるいはメランコリー(1)——デリダの〈精神分析の哲学〉(1)」、法政大学国際文化学部編『異文化16』論文篇、2015年【現代哲学】

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to examine the contemporary significance of "Antinatalism" with special reference to Benatar's "Better Never to Have Been." By the way, according to Benatar, it is important to reduce the harm of this world by preventing the birth of newborns, and therefore abortion is affirmed. Eventually, he comes to the conclusion that humanity should be extinct.

Therefore, this class first examines the rebuttal of Benatar's assertion that "even if it is a quality life, our lives are very bad." Second, we examine in what sense a "birth affirmation philosophy" (Masahiro Morioka) that denies Benatar's "anti-birth" is possible. As a result, we consider philosophically the question of whether we should have been born.

HIS300LA

中国の民族と文化 A

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。

漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、秋学期の「中国の民族と文化 B」は春学期の学習を前提に授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第2回	漢文の基礎(1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第3回	漢文の基礎(2)	否定・可能
第4回	漢文の基礎(3)	使役・受身
第5回	漢文の基礎(4)	疑問・反語
第6回	漢文の基礎(5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第7回	漢文史料から見る歴史(1)	『史記』の描く春秋時代
第8回	漢文史料から見る歴史(2)	『史記』の描く戦国時代
第9回	漢文史料から見る歴史(3)	『史記』の描く前漢時代
第10回	漢文史料から見る歴史(4)	『後漢書』の描く後漢時代
第11回	漢文史料から見る歴史(5)	『三国志』の描く魏
第12回	漢文史料から見る歴史(6)	『三国志』の描く呉
第13回	漢文史料から見る歴史(7)	『三国志』の描く蜀
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008 年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000 年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999 年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %

試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。また、日本人学生でも、学習上の負担もあり、試験も簡単ではないので、安易な気持ちで履修するのはおやめください。

【Outline and objectives】

Outline: Studying ancient Chinese language and reading ancient Chinese texts

Objectives: Understanding the history and the culture of China

HIS300LA

中国の民族と文化 B

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。

漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較的長い文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、春学期の「中国の民族と文化 A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けていただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	漢民族の思想 (1)	『論語』と儒家
第 2 回	漢民族の思想 (2)	『論語』と政治
第 3 回	漢民族の思想 (3)	『孟子』と国家
第 4 回	漢民族の思想 (4)	『孟子』と性善説
第 5 回	漢民族の思想 (5)	『荀子』と性悪説
第 6 回	漢民族の思想 (6)	『荀子』と学問
第 7 回	漢民族の思想 (7)	『韓非子』と法家
第 8 回	漢民族の思想 (8)	『韓非子』と秦
第 9 回	儒家思想と政治の展開 (1)	唐の太宗と『貞観政要』
第 10 回	儒家思想と政治の展開 (2)	王安石と宋学
第 11 回	儒家思想と民族・学問 (1)	朱子学と歴史学
第 12 回	儒家思想と民族・学問 (2)	顧炎武の人生と明清交替
第 13 回	儒家思想と民族・学問 (3)	顧炎武の学問と国家観
第 14 回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008 年）

佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000 年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999 年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %

試験は漢文の読解力のみで評価します。

なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とする
と全くできないと思いますので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得
することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国
語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれま
すが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓
読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。
また、日本人学生でも、学習上の負担もあり、試験も簡単ではない
ので、安易な気持ちで履修するのはおやめください。

【Outline and objectives】

Outline: Studying ancient Chinese language and reading
ancient Chinese texts

Objectives: Understanding the history and the culture of China

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 A

2017 年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても
過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴
族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、
日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

【到達目標】

日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・
社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日
本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現
できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国
際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学
部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要で
ある。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込
む。その場合は、学習支援システムで提示する。2 回目以降は、授
業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからい
くつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペ
ーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活
かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、
視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終
授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏 殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舍利・塔・仏像を備えた寺院の 成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の 寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大 寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統 制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興 寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理 由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点 と相違点の考察
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

速水侑『日本仏教史 古代』（吉川弘文館、1986 年）
末本文美士編『新アジア仏教史 11 日本 1 日本仏教の礎』（佼成出版社、2010 年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018 年）
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017 年）
藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013 年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50 %、毎回の出席確認の小テスト 50 % をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの 2 段階で評価する。オンライン授業に変更された場合、具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline and objectives】

Comparative study of ancient nations and society between Japan and China using temples

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 B

2017 年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代の日本と唐における仏教者による社会事業について比較研究する。(1) 唐の悲田養病坊、(2) 唐で学んだ日本の留学僧、唐から来日した僧、唐の影響を受けた日本の為政者、(3) 日本の悲田院とそれに類する施設を取り上げて説明する。

【到達目標】

古代の日本・唐において、僧尼や為政者が行った困窮者の救済事業、橋梁・宿泊施設など交通の整備などの社会事業の実情について理解する。また日本と唐でどのような継承関係や相違点があるのかを考える。そしてその内容を自身の文章で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2 回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	仏教と社会福祉事業の歴史、古代の日中関係の概観
2	道昭	入唐と玄奘への師事、帰国後の架橋と港の整備
3	行基	布施屋の設置
4	光明皇后	悲田院・施薬院の設置
5	鑑真	悲田と敬田、揚州での無捨大会
6	鑑真の関係者	普照の道路への果樹栽種提言、道忠の関東での布教
7	最澄	東国での布教、美濃での宿泊施設設置
8	空海	讃岐国満濃池の修築
9	則天武后	悲田養病坊の設置
10	武宗	廃仏と悲田養病坊のゆくえ
11	平安京の悲田院	平安時代の悲田院の活動と矛盾
12	地方の医療救済施設	武蔵・相模・筑前等の社会施設
13	日本と唐の社会事業の比較	日本・唐の類似点と相違点
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

新村拓『日本医療社会史の研究』（法政大学出版局、1985 年）
 林陸朗『光明皇后』（吉川弘文館、1961 年）
 石田瑞磨『鑑真』（大蔵出版、1974 年）
 速水侑編『行基』（吉川弘文館、2004 年）
 道端良秀『唐代仏教史の研究』（法蔵館、1957 年）
 追塩千尋『国分寺の中世の展開』（吉川弘文館、1996 年）
 勝浦令子「七・八世紀の仏教社会救済活動」（『史論』54 集、2003 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50 %、毎回の出席確認の小テスト 50 % をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの 2 段階で評価する。オンライン授業に変更された場合、具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline and objectives】

A comparative study of social services by Buddhists in Japan and the Tang Dynasty

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 A 2017 年度以降入学者

新崎 盛吾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今も多くの米軍基地が集中する沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策やアジア・太平洋島嶼との関係、辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意の形成過程などを学ぶ。沖縄は太平洋戦争の際に、日本軍による本土決戦の捨て石として住民を巻き込んだ地上戦を強いられ、県民の 4 人に 1 人が死亡する過酷な戦争被害を受けた。1972 年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれたため、日本が抱える米軍基地の約 7 割が集中する状況に陥っている。沖縄について学ぶことで、米国のアジア戦略、日本と朝鮮半島や中国と本との関係、日本が将来的に目指すべき外交戦略の方向性が見えてくる。

【到達目標】

- ・日米安保体制下で米軍基地が集中する沖縄の現状や、戦後から現在に至るまでの歴史的経緯を知る。
- ・辺野古の新基地建設など米軍の基地集中に反対する沖縄の民意が、どのように形成されてきたのかを理解する。
- ・沖縄の現状を通して、米国のアジア戦略、中国との対立構造、韓国や北朝鮮との関係性などを学び、アジアの中で日本が目指すべき外交戦略を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルスの感染拡大状況によるが、教室を使用できずにオンラインで授業を実施する場合は、本来の授業時間帯に合わせて会議システムの「Zoom」を使用し、双方向の授業を行う。その場合、授業時間中はカメラと音声をつなぐことを原則とするので、オンライン環境の整備が必要になる。特にグループディスカッションの際には必須。

毎回の授業後にリアクションペーパーの提出を求め、出欠判断の参考にする。期末試験の代わりにレポート提出を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業全体の流れを説明
2	沖縄の現状を学ぶ	戦後の沖縄の政治、経済、基地の状況についての概説
3	辺野古の新基地建設問題について	普天間飛行場の移設先となった辺野古の反対運動や歴史的な経緯
4	グループディスカッション	沖縄の基地問題の現状と辺野古について
5	普天間飛行場の移設と辺野古移基地建設が浮上した経緯	1995 年の少女暴行事件を契機に起きた基地返還問題と、日米政府の思惑
6	日本復帰後の沖縄の政治の流れと「オール沖縄」の台頭	1972 年の日本復帰後の歴代知事の取り組み、基地を巡る政治的な動き
7	沖縄戦の悲劇と実態	なぜ沖縄で地上戦が行われたのか。本土決戦の捨て石とされた理由

8	グループディスカッション	戦後に沖縄が置かれた立場と政治的な事情
9	沖縄を軍事基地化した米国の思惑	米国施政下の沖縄の状況と日本への復帰。基地集中と日米安保の背景
10	冷戦から現代までの米軍戦略の変化	時代ごとの米軍の戦略の変化、沖縄海兵隊の役割と実態
11	米軍の世界戦略と中国の台頭	中国の尖閣諸島への進出、米国のアジア戦略
12	朝鮮半島の諸問題	韓国、北朝鮮との間で積み残した戦後処理。朝鮮半島と日本の外交戦略
13	グループディスカッション	米国と日本、アジア諸国との関係性
14	まとめ	沖縄の実状から見る日本の外交戦略とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、2016年

【参考書】

・「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Q&A Book」沖縄県発行
<http://dc-office.org/wp-content/uploads/2017/04/QA20170406.pdf>

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出、アクティブラーニングへの参加度（50％）

期末レポート（50％）

指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は全てオンラインによる授業だったため、学生同士の意見交換や相互交流が十分にできなかった。今期もオンラインによる授業が続く場合は、グループディスカッションなどを通じて、個々の学生の見方を紹介するなどして講師からの一方的な伝達ではなく、学生に自主的に考えさせる授業を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

共同通信社の社会部系記者として約30年を過ごした経験を生かし、現役のジャーナリストの視点による授業を目指す。昨年は米大統領選や沖縄県議選などの時事ニュースを盛り込み、日本のメディア事情にも言及した。

2014年から16年まで「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、メディア業界に就職を希望する学生の支援活動に取り組んできた。最近では、ジャーナリストを目指す日本と韓国の学生が交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に2回開催）の実行委員や、田中優子総長が編集委員を務める「週刊金曜日」と連携した学生向けの企画「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）の事務局長を務めている。

昨年は前期後期の授業だったが、今期は前期のみの課程のため、昨年の一年分の内容を半期に凝縮した内容となる。

【その他の注意事項】

①やむを得ない事情で欠席、遅刻する場合は、事前に理由を伝えれば評価の際の考慮材料とする。

②事前連絡のない遅刻や途中退席、講義の進行や他の受講生の学習を妨げる行為には厳しく対処する。

③オンライン授業の場合、学生の姿が常時画面に映るよう、カメラオンを原則とする。どうしてもオンにできない場合は、事前に理由を伝えるよう求める。

【Outline and objectives】

Through the current situation and history of Okinawa, where many US military bases are still concentrated, we will learn about Japan's security policy, relations with the Asia-Pacific islands, and the process of forming the people's will of Okinawa against the construction of a new base in Henoko. During the Pacific War, Okinawa was forced into a ground battle involving residents as a waste stone of the "mainland decisive battle" by the Japanese army, and suffered severe war damage that killed one in four citizens of the prefecture. Since it was under the administration of the United States until it returned to Japan in 1972, about 70% of the US military bases in Japan are concentrated. By learning about Okinawa, we can see the direction of the US Asian strategy, the relationship between Japan and the Korean Peninsula and China, and the diplomatic strategy that Japan should aim for in the future.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 B 2017 年度以降入学者

水谷 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、沖縄近現代史を中心に、アジア・太平洋島嶼の国際関係から生じる現代社会の諸問題を検討し、この地域に生きる生活者としての問題意識を養います。

【到達目標】

沖縄は現在日本の一県、一地域ですが、前近代には琉球王府の統治する別の政治体制に属し、「琉球処分」による日本への併合、その後の「同化」政策、沖縄戦と戦後の米軍統治、「日本復帰」（沖縄返還）、その後も続く基地強化など外からの政策決定と、それに対する沖縄人のさまざまな異議申し立ての中で、独自の歴史を辿っています。沖縄近現代史を確認しつつ、アジア・太平洋国際関係の中で、沖縄が現在直面している課題・問題について具体的にリサーチし、議論します。生活者の視点から、国際関係の中で、地域の問題を考え、具体的にリサーチ、議論する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の内容・テーマについて講義、授業内でのグループ・ディスカッションを中心に授業を進めます。各回のテーマについてリアクションペーパーを提出し、学期末には各自の問題関心に沿って、リサーチレポートを作成します。レポート作成に向けて、中間発表があります。ハイブリッド型で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目標と課題について確認します。
2	「琉球処分」ー東アジア史の視点から	「琉球処分」について内容を確認し、東アジア、世界史の視点から議論します。
3	近代沖縄の思想と文化	「同化」政策に対するアイデンティティーの模索と思想・文化について確認します。
4	沖縄戦ー住民虐殺・「集団自決」・マラリヤ強制疎開	沖縄戦への経緯と沖縄戦の特徴について国際関係史の視点から議論します。
5	占領とサンフランシスコ講和条約	占領政策とサンフランシスコ講和条約による戦後沖縄の状況について確認します。
6	「銃剣とブルドーザー」から島ぐるみ土地闘争・復帰運動へ	沖縄の基地化とそれに抗する運動の展開について確認します。
7	施政権返還と密約	「沖縄返還交渉」における日米外交の問題を密約から考えます。
8	「世替わり」後の沖縄と戦争の記憶	施政権返還後の沖縄の状況について、沖縄戦を記録する活動から考えます。
9	沖縄の課題（1）：戦争の記憶とその継承	教科書問題から戦争の記憶と継承について議論します。

- 10 沖縄の課題（2）：ア ジア・環太平洋の安全保障と在日米軍基地 沖縄の在日米軍基地について安全保障の観点より考えます。
- 11 沖縄の課題（3）：環 太平洋の自然と環境か 沖縄の課題を考えます。
- 12 沖縄の課題（4）：自 治・自立（自律）の 思想と試み 沖縄における自治・自立（自律）の思想と試みを確認します。
- 13 沖縄の課題（5）：沖 縄のネットワーク：移 動の経験を考える 「移民県」と言われる沖縄の移動の経験から沖縄の課題解決の試みと可能性を考えます。
- 14 レポート中間発表 リサーチレポートの内容について発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
参考文献、レジュメ・資料について、読破し、理解した上で、リアクションペーパーを書く。レポート、レポート中間発表の準備をする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業ごとにレジュメを準備します。

【参考書】

宮里政玄ほか『沖縄「自立」への道を求めて』高文研、2009 年。
田仲康博『風景の裂け目ー沖縄、占領の今ー』せりか書房、2010 年。
川瀬光義『基地維持政策と財政』日本経済評論社、2013 年。
新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店、2016 年。
金城正篤ほか編著『沖縄県の百年』山川出版社、2005 年。
屋嘉比取『沖縄戦、米軍占領史を学びなおすー記憶をいかに継承するか』世織書房、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート（30%）
レポート中間発表（20%）
リサーチレポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

感染症拡大状況に応じて、ハイブリッド型で行うため、ネット接続に対応したパソコンまたはタブレットを準備してください。

【その他の重要事項】

オフィス・アワーは授業前後の休憩時間、または、E メール：mizakiko@tsuda.ac.jp あてにご連絡ください。

【Outline and objectives】

This course is to grasp and consider some problems caused in the international relations of Asia-Pacific, especially from the history of Okinawa after the annexation to modern Japan in 1879.

HIS300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住んでいて、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業（ZOOM によるリアルタイム授業）を基本とします。本授業の開始日は 4 月 9 日とし、前日までに ZOOM の URL を学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。

基本的な流れは、以下の通りである。

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン
3	第 1 章：在日朝鮮人世界の形成。1～3（併合前から関東大震災まで）	学生によるテキストの報告、映像
4	第 1 章：在日朝鮮人社会の形成。4～6（植民地支配と日本への定着化）	学生によるテキストの報告、映像
5	第 2 章：協和会体制と戦争動員。1～3（世界恐慌期の渡航・移民。協和会）	学生によるテキストの報告、映像
6	第 2 章：協和会体制と戦争動員 4～5（強制連行、強制労働）	学生によるテキストの報告、映像
7	フィールドワーク	「在日朝鮮人歴史資料館」見学

8	第 3 章：戦後在日朝鮮人社会の形成 1（戦後在日朝鮮人の出発）	学生によるテキストの報告、映像
9	第 3 章：戦後在日朝鮮人社会の形成 2, 3（占領政策、朝鮮戦争と在日朝鮮人）	学生によるテキストの報告、映像
10	第 3 章：戦後在日朝鮮人社会の形成 4（帰国運動）	学生によるテキストの報告、映像
11	第 4 章：2 世たちの模索 1（日韓会談と在日社会）	学生によるテキストの報告、映像
12	第 4 章：2 世たちの模索 2～4（在日社会の変容）	学生によるテキストの報告、映像
13	終章：グローバル化の中の在日朝鮮人	学生によるテキストの報告、映像
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水野直樹・文京洙『在日朝鮮人 歴史と現在』（岩波新書）860 円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・期末レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【学生が準備すべき機器他】

Wifi 環境

【その他の重要事項】

秋学期に開講される教養ゼミ「在日朝鮮人の歴史 B」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に活かきて、理解が深く広がります。

【Outline and objectives】

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved. The aim of this course is to learn them and understand their existence deeply.

HIS300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住んでいて、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。春学期開講の「在日朝鮮人の歴史A」を履修していることが望ましい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。総合科目なので、受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業（ZOOM によるリアルタイム授業）を基本とします。授業形態に変更のある場合は、その都度、学習支援システムを通じて連絡します。初回授業日の前日までに、ZOOM の URL を学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。

本授業は、ゼミ形式で進めます。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在、ひいては地球規模で展開するさまざまなコリアンの姿について、春学期に学習した基礎事項をもとに、テキストの内容をレポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。グローバル時代のコリアン活躍と苦悩は、日本を照らす鏡でもある。春学期よりも、さらに掘り下げた内容の報告と討論を行っていく。理解を補う補助資料として、随時、映像資料も視聴しながら進める。参加型授業である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアンと芸能界、スポーツ界のニューヒーローたち	学生によるテキストの報告、映像
3	在日コリアンと焼き肉文化	学生によるテキストの報告、映像
4	在日コリアンの民族教育	学生によるテキストの報告、映像
5	フィールドワーク	二八独立宣言記念碑、韓国 YMCA
6	在日コリアンとパチンコ産業	学生によるテキストの報告、映像
7	在米コリアンの社会史	学生によるテキストの報告、映像

8	ベトナム戦争とコリアン	学生によるテキストの報告、映像
9	まとめ①	映像（1）
10	済州島と在日コリアン	学生によるテキストの報告、映像
11	大震災と在日コリアン	学生によるテキストの報告、映像
12	在日コリアンとスポーツ選手	学生によるテキストの報告、映像
13	まとめ②	映像（2）
14	まとめの討論	在日コリアンの将来と日本社会の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナをよく張ってこくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野村進『コリアン世界の旅』（講談社文庫）885 円。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・期末レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved. The aim of this course is to learn them and understand their existence deeply.

PHL300LA

キリスト教思想史 A

2017 年度以降入学者

酒井 健

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教の思想の変遷をその源であるユダヤ教から順次理解する。時代背景、歴史的背景をしっかりとさえる。

【到達目標】

キリスト教を学問の対象に据えて、客観的かつ公平な視点からキリスト教思想の重要な点を年代をおって考察する。信仰への道を説くのが授業の狙いではない。あくまで一つの宗教として、その特徴を、問題点も含めて冷静に考えていく。とりわけ以下の 3 点に留意する。

- 1) キリスト教とユダヤ教の相違を理解する。
- 2) 古代ローマの都市文明と初期キリスト教の関係を理解する。
- 3) 古代ローマ末期におけるキリスト教と異教の関係を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1) 講義形式。
- 2) 毎回、授業の終わりの 20 分を使って、その日の授業内容に関してかなりの分量の論述を書かせる。その意味でハードな授業になる。
- 3) 定員の 20 名を超えた場合は選抜を行うので受講希望者は必ず毎回の授業に出席すること。
- 4) 今年度の開校日は 4 月 12 日曜日（3 時限）とする。原則として教室での対面授業を予定しているが、社会状況に応じてオン・ラインでのズーム授業に転じる場合もある。
- 5) なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。また優れた課題回答に対しては授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介と選抜	今学期の授業の概要の説明。キリスト教を学ぶことの意義を中心に。定員超過の場合は選抜を行う。
第 2 回	ユダヤ教から	一神教の成り立ち。キリスト教の源流であるユダヤ教に立ち返って考察する。
第 3 回	ユダヤ教の特色	ユダヤ教の独自性（一神教と多神教の違いなど）
第 4 回	イエスとその時代	イエスの時代のユダヤ教（1）（律法主義に対するイエスの批判）
第 5 回	イエスの活動の意義	イエスの時代のユダヤ教（2）（神殿主義に対するイエスの批判）
第 6 回	イエスの死	イエスの処刑（イエスが十字架刑に処された理由）
第 7 回	残された人々	イエスの死と使徒の考え方（1）（使徒とエルサレム初期共同体）
第 8 回	パウロの解釈	イエスの死と使徒の考え方（2）（パウロの「十字架の神学」）

第 9 回	古代ローマ帝国	古代ローマ帝国とキリスト教（1）（ユダヤ教改革派からキリスト教の誕生へ）――
第 10 回	聖書はなぜ書かれたか	古代ローマ帝国とキリスト教（2）（聖書の誕生）
第 11 回	キリスト教徒はなぜ増えたのか	古代ローマ帝国とキリスト教（3）（信者の増加と迫害）
第 12 回	大帝の決断	古代ローマ帝国とキリスト教（4）（コンスタンティヌス大帝の政策）
第 13 回	国教化へ	古代ローマ帝国とキリスト教（5）（キリスト教の国教化とローマ教会の組織力）
第 14 回	試験、まとめ	今学期の授業内容の復習を兼ねて論述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キリスト教関係の新書を読んでおくこと。
授業で紹介したテーマについて基本的な歴史書にあたって復習しておくこと。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回配布する担当教員作成のレジュメ。

【参考書】

授業内で詳しく紹介する。
『キリスト教の真実』（竹下節子著、ちくま新書）
『ロマネスクとは何か 石とぶどうの精神史』（酒井健著、ちくま新書）
『一神教の誕生 ユダヤ教からキリスト教へ』加藤隆著、講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

- 1) キリスト教の源からその初期の発展に関して、学問的に本質的な点を捉えられたかどうかを評価の基準にする。
- 2) 具体的には「到達目標」で示した 3 点をしっかり理解しておくこと。
- 3) 期末の論述試験 50%と授業への積極的な貢献度 50%（毎回論述する課題の内容等）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評である。受講生からの要望には耳を傾けているので、いつでも気軽に語ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

1 年生のときに宗教論の授業を取っておくことが望ましいが、必要条件というわけではない。

【Outline and objectives】

This course introduces the Christian history from the Judaism to the Western Europe Middle Ages.

PHL300LA

キリスト教思想史 B

2017 年度以降入学者

酒井 健

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教思想の変遷を中世西欧社会から順次理解する。歴史的背景をしっかりとらえさせる。

【到達目標】

キリスト教を学問の対象に据えて、客観的かつ公平な視点からキリスト教思想の重要な点を年代をおって考察する。中世西欧社会からイタリア・ルネサンス社会がとくに対象になる。とりわけ以下の 3 点に留意する。

- 1) 中世ヨーロッパにおけるキリスト教の基本的な特色を理解する。
- 2) ロマネスクとゴシックの異同をしっかりと理解する。
- 3) イタリア・ルネサンス時代のキリスト教の新たな展開を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1) 講義形式。
- 2) 毎回、授業の終わりの 20 分を使って、その日の授業内容に関してかなりの分量の論述 3 を書かせる。その意味でハードな授業になる。
- 3) 定員の 20 名を超えた場合は選抜を行うので受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。
- 4) 今年度の開校日は 9 月 20 日曜日（3 時限）とする。原則として教室での対面授業を予定しているが、社会状況に応じてオン・ラインでのズーム授業に転じる場合もある。
- 5) なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。また優れた課題回答に対しては授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介と選抜	今学期の授業の概要の説明。キリスト教思想を学ぶことの意義を中心に。
第 2 回	中世西欧とは何か	中世西欧に対する基本的な考え方。
第 3 回	根源的な変化と表面的な変化	古代ローマ社会から初期の中世社会への移行。
第 4 回	キリスト教と修道院	修道士の活躍（1）（禁欲主義の問題）
第 5 回	新たなキリスト教へ	修道士の活躍（2）（アイルランド系修道院と修道士の特徴）
第 6 回	政治からの変化	カロリング・ルネサンス（シャルルマーニュ大帝のキリスト教政策）
第 7 回	イスラムとの関係	イスラム世界との接触（1）（西ゴート王国の滅亡とイベリア半島のキリスト教）
第 8 回	十字軍とは何か	イスラム世界との接触（2）（十字軍の問題）
第 9 回	開花する中世西欧文化	ロマネスク文化（1）（西欧の地方へのキリスト教の伝播）

第 10 回	修道院の拡大	ロマネスク文化（2）（クリュニー会とシトー会）
第 11 回	ゴシックとは何か	ゴシック文化（1）（新都市住民の感性と新たな大聖堂建築）
第 12 回	中世神学の本質	ゴシック文化（2）（光の神学）
第 13 回	イタリアから	イタリア・ルネサンスの文化（キリスト教と芸術家）
第 14 回	試験、まとめ	今学期の内容の復習をかねて論述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 基本的な入門書を読んでおいてほしい。
たとえば『世界の歴史（9）、ヨーロッパ中世』鯖田豊之著、河出文庫など
- 2) 本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回配布する担当教員作成のレジュメ。

【参考書】

授業のなかで詳しく紹介する。
『ゴシックとは何か』酒井健著、ちくま学芸文庫など。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 中世におけるキリスト教の発展を学問的にどれだけ捉えたかを基準にする。
- 2) 身体的には「到達目標」で示された 3 点の理解度を重視する。
- 3) 学期末の論述試験 50%と平素の授業態度（毎回提出の論述の内容など）50 %が具体的なデータになる。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評である。要望があれば気軽に伝えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

春学期のこの授業の履修を勧めたい。

【Outline and objectives】

This course introduces the Christian history in the Western Europe Middle Ages.

ARSh300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】アラビア語の基礎。具体的には、アラビア文字の習得。簡単な挨拶表現・自己紹介程度のアラビア語を話す。

【目的】アフロアジア世界で1 億人以上の話し手により使用されており、また国連の6 番目の公用語である「アラビア語」を身近に感じることになること。

【到達目標】

1 年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めていける素地を身に付けてもらいたいと希望します。

文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。文の構造を踏まえて、辞書が引けるようになること、これが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画に沿って、発音・文字（母音・子音）、綴り方、単語（名詞・形容詞・動詞）、その変化形（つまり曲用と活用）、文を読むまでを、懇切丁寧に解説し、訓練していきます。

なお、よかった取り組みや改善点等があれば、その都度、テーマとして取り上げ、フィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 発音と文字 1	テキストの紹介、アラビア語に関する解説の後、発音と文字について学ぶ。 発音にはあまりこだわらないが、音韻の区別は理解すること。
2	発音と文字 2	アルファベットの前半の文字を学ぶ。
3	発音と文字 3	アルファベットの後半の文字を学ぶ。
4	テキストの紹介 第0 課	テキストのつくりについて解説する。 文字と発音のおさらい
5	第1 課	こちらはムハンマドさんです
6	第2 課	これは何ですか
7	第3 課	彼は教師ですか、それともエンジニアですか
8	第4 課	あなたのお名前は？
9	第5 課	天気はどうですか
10	第6 課	アラビア語は美しく、楽しいです
11	第7 課	この作家は有名です
12	第8 課	その本は机の上にあります
13	第9 課	彼はサウジアラビア出身です

14 授業内試験

「あいさつ」「名詞文」「形容詞文」についてアラビア語の作文を課す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5 月の連休終了までに文字を覚えること。授業の予習としては、最低限どういう文法事項を学ぶことになっているのかは確認しておくこと。少なくとも2 時間程度の復習は必ず行い、疑問点等のないようにしておくこと。少しでもわからないところがあるとついでいくのは不可能になります。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストとしては、竹田敏之『アラビア語とことんトレーニング』白水社 を予定しています。

辞書については、授業中に指示します。

【参考書】

英語・フランス語・ドイツ語で書かれたアラビア語の文法書が多くあるので、各自の興味に応じて適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期は、平常点4 0 点、試験の得点6 0 点、合計1 0 0 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際にできるだけ学習者全員にとっての既習の言語、おもに英語の文法等を例にあげますが、その知識が整理できていないために無用の混乱・困難をきたすことがあります。たとえば英語に名詞の格はいくつあるか、人称とは何か、といった基本的なことがわかっていないがために、説明が通じないことがあります。理解できないことがあったらその都度質問をすることが肝要です。

普段あまり接しない言語を知することは、人間の言語に対してのみならず、人間の思考そのものや文化のありかたを考えるうえで非常に参考になります。

【Outline and objectives】

You can challenge to master one of the international languages, Arabic. Arabic language is a official language of U.N. It is necessary to understand Arabic to approach to the world of Islam, and Arabic Culture.

ARSh300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】アラビア語の基礎。具体的には、名詞・形容詞・前置詞・動詞の曲用・活用。辞書の使い方。

【目的】アフロアジア世界で1億人以上の話し手により使用されており、また国連の6番目の公用語である「アラビア語」の概要を把握すること。

【到達目標】

1年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めていける素地を身に付けてもらいたいと希望します。

文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。文の構造を踏まえて、辞書が引けるようになること、これが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画に沿って、単語（名詞・形容詞・動詞）、その変化形（つまり曲用と活用）、文を読むまでを、懇切丁寧に解説し、訓練していきます。

普段あまり触れない言語の学習を通じて発見があった等の知見は、広く紹介し、学習のモチベーションに資するよう利用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	辞書 1	辞書の引き方を紹介する
2	辞書 2	辞書の引き方を訓練する
3	第10課・第11課	私は日本人です 駅はここから遠いですか
4	第12課・第13課	このカバンは誰の？ 神戸には美しいモスクがあります
5	第14課・第15課	あなたには兄弟か姉妹がいますか ムハンマドがザイドをたたいた
6	第16課・第17課	私はあなたを愛しています この2人の通訳はプロです
7	第18課・第19課	この町にはたくさんの大学があります 彼らはサウジアラビア出身の先生方です
8	第20課・第21課	これらのカバンはユースフのですか ここにモロッコ料理店はありますか
9	第22課・第23課	ムハンマドは学生ではありません ムハンマドは学生でした
10	第24課・第25課	私はその車の色が好きです 5冊の本を買いました

11	第27課・第28課	私たちはカイロ大学で学びました 飛行機は到着しましたか
12	第29課・第30課	誰がこの料理を作ったのですか フェズまで列車に乗りました
13	第32課・第33課	どちらにお住まいですか お仕事は何をしていますか
14	まとめとレポート提出	アラビア語の動詞のまとめ（p. 88-97）とレポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期からは、動詞の変化形に入ります。各授業ごとに2時間以上をあてて完全にマスターしてください。単純な形の間に、基本的な動詞の活用形を覚えておけば、応用の仕方がわかりますが、覚えておかないと、どんどん迷路に迷い込むことになっていきます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストとしては、竹田敏之『アラビア語とことんトレーニング』白水社 を予定しています。

辞書については、授業中に指示します。

【参考書】

英語・フランス語・ドイツ語で書かれたアラビア語の文法書が多くあるので、各自の興味に応じて適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期は、平常点40点、レポートの得点60点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際にできるだけ学習者全員にとっての既習の言語、おもに英語の文法等を例にあげますが、その知識が整理できていないために無用の混乱・困難をきたすことがあります。たとえば英語に名詞の格はいくつあるか、人称とは何か、といった基本的なことがわかっていないがために、説明が通じないことがあります。理解できないことがあったらその都度質問をすることが肝要です。

全員にとって有効であるようなコメントや質問等は、積極的に活用し、学習モチベーションに資するようにフィードバックしていきます。

【Outline and objectives】

You can challenge to master one of the international languages, Arabic. Arabic language is a official language of U.N. It is necessary to understand Arabic to approach to the world of Islam, and Arabic Culture.

LIN300LA

異文化コミュニケーション論 A 2017 年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速度的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。

この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
- ②自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ③異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ④実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ⑤異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第 1～3 回目は、講義形式。第 14 回目は期末試験を行う。
- ・第 4～13 回の授業内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。
- ・Google Classroom と ZOOM を使って授業を行う。
- 連絡や課題／試験の提示、リアクションペーパーも主に Google Classroom を使い、Hoppii は補助的な位置づけとなるので、履修が決定したら Google Classroom に登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・アンケート
第 2 回	ステレオタイプ①	・日本と日本人のイメージ ・春学期プレゼンテーションの割り当て
第 3 回	ステレオタイプ②	・メディアとステレオタイプ ・ステレオタイプの影響
第 4 回	文化によって異なる色彩認識について	・虹にはいくつの色があるのか。 太陽は世界のどこでも赤いのか。
第 5 回	カテゴリー分類の差異	・蛾と蝶が同じである理由
第 6 回	文化によって異なる羞恥心	・「恥かしさ」の基準
第 7 回	日本語と外国語①	・「日本語は曖昧」か？ ・コンテキスト依存度

第 8 回	日本語と外国語②	・人称 ・指示詞 ・感情の表現
第 9 回	言語政策	・母語に対する認識 ・各国の言語政策 ・外国語教育は必要か
第 10 回	日本語の表記について	・ラジオ型言語とテレビ型言語 ・文字言語としての日本語と他言語との比較。 ・音声言語としての日本語と他言語との比較
第 11 回	日本人の宗教観	・無神論・一神論・多神論
第 12 回	住居と自然	・自然との闘い／自然との共存
第 13 回	日本の「文化多様性」	・マイノリティ問題 ・グローバル化と固有文化の維持
第 14 回	期末試験	・第 1～14 回のまとめ試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、授業前にテキストの次回授業該当箇所や、与えられた文献を読んでおくこと。
- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・本授業の復習・予習時間は、発表担当時は 5 時間以上（資料集め、その他含む）、平常時は 60 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配付する。

【参考書】

- 鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書
 鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書
 鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書
 今井むつみ『ことばと思考』岩波新書
 高野陽太郎『日本人論の危険なあやまち』ディスカバー掲書
 G. ドイツチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』
 R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
 その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度	20%
発表	30%
リアクションペーパー	20%
期末試験	30%

・4 回以上授業を欠席した場合、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。
- ・ZOOM M 授業内の発表には PC が好ましい。
- ★事前に、グーグルクラスルームへの登録を行うこと。クラスコード：nzc7p5s
- ★タブレット端末、スマートフォンの場合は、授業実施開始前に ZOOM のアプリをダウンロードしておくこと。

【その他の重要事項】

- ★受講希望者数によっては、第 1 回目（4 月 12 日）の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は第 1 回目に必ず出席すること。
- ★授業の開始、休講、授業形態の変更などを法政大学学習支援システム Hoppii に掲示を行うので、頻繁にチェックすること。

【Outline and objectives】

In this course, students will read various materials on Japanese language and culture, comparing with other cultures. Eventually they are expected to relativize the cultures of their own, and to deepen the understanding of other ones. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. The interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

LIN300LA

異文化コミュニケーション論 B 2017 年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的な参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②「異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第 1・2 回目と第 10 回は対面授業。第 1・2 回目は、講義と教室内活動中心。
- ・第 3～13 回は、指定テキストの内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。
- ・オンライン授業は、Google Classroom と ZOOM を使って行う。

連絡や課題／試験の提示、リアクションペーパーも主に Google Classroom を使い、Hoppii は補助的な位置づけとなるので、履修が決定したら Google Classroom に登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回 (対面)	・オリエンテーション ・文化と異文化間コミュニケーション	(・授業運営の打ち合わせと受講者アンケート) ・異文化コミュニケーションの背景とその領域
第 2 回 (対面)	自分を知る	・対立管理スタイルと異文化適応力
第 3 回	ステレオタイプ	・プレゼンテーションの割り当て ・ステレオタイプとは ・ステレオタイプの生成、功罪、真偽。強化 ・ステレオタイプの流布 と強化など (学生発表と質疑応答。以下 13 回まで)
第 4 回	コミュニケーション・スタイル①	・コンテキスト
第 5 回	コミュニケーション・スタイル②	・ターンテーク ・パラ言語

第 6 回	言語コミュニケーション①	・ほめ方 ・しかり方 ・謝り方
第 7 回	言語コミュニケーション②	・自己紹介と自己開示 ・誘い方と断り方
第 8 回	非言語コミュニケーション①	・表情 ・アイコンタクト
第 9 回	非言語コミュニケーション②	・しぐさとジェスチャー ・タッチング
第 10 回 (対面)	非言語コミュニケーション③	空間と対人距離
第 11 回	非言語コミュニケーション④	時間感覚
第 12 回	価値観	・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観 ・家族関係、道徳観などの基本的価値観
第 13 回	異文化コミュニケーションスキルと異文化適応	・異文化コミュニケーションスキル ・カルチャーショックと適応
第 14 回	期末試験	第 1 回～第 13 回までの内容についての筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・「自由討論」前は、テーマの設定、およびそのテーマに関する情報収集など。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

八代京子ほか（2001）『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

【参考書】

R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー
池田理知子 E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ
八代京子 他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
吉田暁・石井敏 他『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣
E. ホール『沈黙のことはばー文化・行動・思考』南雲堂
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 20 %、発表 30 %、リアクションペーパー 20% 期末試験 40 %
・授業を 4 回以上欠席すると、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・一昨年に続き、グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的な授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。
- ・グループ活動時にメンバー構成の調整方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

- ★インターネット接続可能な機器：PC/タブレット端末/スマホ
- ・ZOOM 授業内の発表には PC が好ましい。
- ・タブレット端末やスマートフォン使用の場合は、授業実施開始前に ZOOM のアプリをダウンロードしておくこと。

【その他の重要事項】

- ★受講希望者数によっては、第 1 回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ★授業の開始、休講、授業形態の変更などを法政大学学習支援システム Hoppii に掲示を行うので、頻りにチェックすること。
- ・履修が決定したら、Google Classroom に登録すること。

【Outline and objectives】

This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

LIT300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：思想と文学

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学と周辺領域の学問を学びます。

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題を考え、新たな視点を得ます。

春学期のテーマは他者論です。わたしにとって他者とはなにかについて学びます。

【到達目標】

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題について、新たな視点を得ます。

春学期は他者とはなにかについての新たな視点を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

この授業はオンデマンドです。授業開始時刻に公開されるパワーポイントを視聴し、プリントを読み、各回の課題に答える形式で進めていきます。

教員の講義が中心になりますが、各自の問題意識に基づく自由かつ活発な研究を期待します。

各回、Google フォームで課題に答えてもらいます。締め切り後、受講生の回答をまとめて公開し、受講生同士で共有します（氏名などは伏せます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の授業計画の詳細および予備知識	ガイダンス
2	他者と自己	白樺派にとっての他者とはどういうものか
3	他者とはなにか	武者小路実篤『友情』
4	他者とはなにか	志賀直哉「城の崎にて」
5	「大導寺伸介の半生」 導入——芥川龍之介の生涯	「大導寺信輔の半生」
6	他者へのまなざし	「大導寺信輔の半生」
7	人工の翼と失墜	「大導寺信輔の半生」
8	芥川龍之介から太宰治へ	『人間失格』
9	他者へのまなざし	『人間失格』
10	自己意識と他者	『人間失格』
11	吉本隆明について——導入	『転位のための十篇』
12	他者へのまなざし	『転位のための十篇』
13	近代文学を貫く、他者への恐怖	『転位のための十篇』

14 他者論のアクチュア 半期の総ざらい・結論

リー——他者と自己をどうとらえるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストは事前に熟読しなければなりません。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

武者小路実篤『友情』（新潮文庫 など当該作品の収録されているもの）

志賀直哉「城の崎にて」（『小僧の神様・城の崎にて』新潮文庫 など当該作品の収録されているもの）

芥川龍之介「大導寺伸介の半生」（『大導寺信輔の半生・手巾・湖南の扇 他十二篇』岩波文庫 など当該作品の収録されているもの）

太宰治『人間失格』新潮文庫ほか

吉本隆明『転位のための十篇』（『吉本隆明初期詩集』講談社文芸文庫 など当該作品の収録されているもの）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50%、期末のレポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味に応じて授業計画の変更もあります。意見をメールで伝えてください。

【その他の重要事項】

※ 春学期の他者論と、秋学期のテロリズム論とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時限に、学習支援システム、Google Classroom など公開されます。

※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020 年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。

※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【Outline and objectives】

This course deals with Japanese modern literature and other studies.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：思想と文学

川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学と周辺領域の学問を学びます。

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題を考え、新たな視点を得ます。

秋学期のテーマはテロリズム論です。テロリズムの原型、根底にあるものについて学びます。

【到達目標】

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題について、新たな視点を得ます。

秋学期はテロリズムの原型、根底にあるものについての新たな視点を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

この授業はオンデマンドです。授業開始時刻に公開されるパワーポイントを視聴し、プリントを読み、各回の課題に答える形式で進めていきます。

教員の講義が中心になりますが、各自の問題意識に基づく自由かつ活発な研究を期待します。

各回、Google フォームで課題に答えてもらいます。締め切り後、受講生の回答をまとめて公開し、受講生同士で共有します（氏名などは伏せます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期の授業計画の詳細および予備知識	ガイダンス
2	導入	『供犠』
3	供犠とはなにか	『供犠』
4	放棄と交換	『供犠』
5	贈与とはなにか	『贈与論』
6	贈与と放棄と交換	『贈与論』
7	供犠とテロリズム	『贈与論』
8	宮澤賢治について——導入 1	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
9	宮澤賢治について——導入 2	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
10	常不軽菩薩と賢治	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
11	賢治におけるデクノボーの意味	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
12	〈ほんたうのさいはひ〉とはなにか	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」
13	他者論とテロリズム論	「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」

14 『供犠』のアクチュア 年間の総ざらい・結論
り——他者と自己を
どうとらえるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストは事前に熟読しなければなりません。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

モース／ユベール『供犠』法政大学出版局

モース『贈与論 他二篇』岩波文庫

宮澤賢治

「グスコブドリの伝記」「虔十公園林」「気のいい火山弾」

『童話集 風の又三郎 他十八篇』岩波文庫 ほか

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50%、期末のレポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味に応じて授業計画の変更もあります。意見をメールで伝えてください。

【その他の重要事項】

※ 春学期の他者論と、秋学期のテロリズム論とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。

※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020 年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。

※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【Outline and objectives】

This course deals with Japanese modern literature and other studies.

HIS300LA

イギリスと帝国 A

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18 世紀から 20 世紀にかけてのイギリスは、巨大な帝国であった。植民地支配の過去は、現在の世界にも影響を及ぼし続けている。21 世紀の世界における、英語の普及、地域間の経済格差、異人種・異文化間の対立といった問題の多くは、イギリス帝国の歴史を考えることなしに理解することはできない。イギリス帝国に着目して、イギリスとそれ以外の地域の関係、および、過去と現在の関係を考えること、これがこの授業の目的である。

【到達目標】

- ・イギリス帝国の歴史とその特徴についての基本事項を理解する。
- ・授業で学んだことを基礎にして、現代世界が直面するさまざまな問題をイギリス帝国史の視座から批判的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づく（英語の資料を使用する場合もある）ディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	20 世紀初頭までのイギリス帝国 1：アメリカ植民地の独立まで	18 世紀末までのイギリス帝国の展開を概観する。
第 3 回	20 世紀初頭までのイギリス帝国 2：南アフリカ戦争の時代まで	18 世紀末から 20 世紀初頭までのイギリス帝国の展開を概観する。
第 4 回	イギリス帝国と統治 1：統治体制	イギリスがどのように帝国を統治していたのかを学ぶ。
第 5 回	イギリス帝国と統治 2：帝国を統治した人々	帝国を統治した人々とそこで使用された技法を学ぶ。
第 6 回	イギリス帝国と経済 1：商業と金融	帝国の経済基盤を商業と金融の観点から学ぶ。
第 7 回	イギリス帝国と経済 2：移民と労働	帝国を支えた移民とその労働形態を学ぶ。
第 8 回	イギリス帝国と文化 1：支配の文化、文化の支配	イギリス人の支配者意識と文化を通じた支配について学ぶ。
第 9 回	イギリス帝国と文化 2：批判の文化	帝国支配を批判する文化とその同時代における意義を学ぶ。
第 10 回	帝国からコモンウェルスへ 1：コモンウェルスの成立と二つの大戦	コモンウェルスが成立する過程を学ぶ。

第 11 回 帝国からコモンウェルスへ 2：帝国＝コモンウェルスの変容と脱植民地化 脱植民地化を通じた帝国＝コモンウェルスの変容を学ぶ。

第 12 回 脱植民地化の時代 1：脱植民地化の諸相 脱植民地化の多様な形態とその影響を学ぶ。

第 13 回 脱植民地化の時代 2：植民地責任 現在のイギリスと旧植民地が帝国支配の過去をどうとらえているのかを学ぶ。

第 14 回 まとめ 授業の内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000 年

木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と 20 世紀』（全 5 巻）ミネルヴァ書房、2004～2009 年

秋田茂『イギリス帝国の歴史』（中公新書）中央公論新社、2012 年
小川浩之『英連邦—王冠への忠誠と自由な連合』中央公論新社、2012 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50 %
- ・期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

This course explores the history of the British empire from the 18th century through to the 21st century. It analyzes various aspects of British imperial history, considering how Britain constructed varied relationships with other regions and how the past of imperial rule has affected former colonies as well as Britain herself.

HIS300LA

イギリスと帝国 B

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

南アフリカ戦争（1899～1902）は、帝国主義戦争の典型ともいわれ、イギリス本国、南アフリカ、イギリス帝国全体に大きな影響を及ぼした。この授業では、南アフリカ戦争に焦点をあて、それをさまざまな角度から分析することを通じて、その歴史的意義を考察したい。そうすることで、イギリスとその帝国の歴史の一断面を、重層的な文脈に位置づけて理解することを目指す。

【到達目標】

・南アフリカ戦争という歴史的事象を、さまざまな歴史の文脈に照らして考察する歴史的思考力を身につける。
・具体的なテーマを素材に歴史学を「実践」することで、その方法や問題、意義などを体験的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づく（英語の資料を使用する場合もある）ディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。なお、春学期に開講する「イギリスと帝国 A」を事前に履修することを強く勧める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	南アフリカ戦争の概要	戦争の背景と展開を概観する。
第 3 回	南アフリカ戦争の起源：開戦の原因	開戦の原因とそれをめぐる論争について考える。
第 4 回	南アフリカ戦争の経験 1：兵士と帝国臣民	兵士と帝国の人々が戦争をどう経験したのかを学ぶ。
第 5 回	南アフリカ戦争の経験 2：女性たち	女性たちが戦争をどう経験したのかを学ぶ。
第 6 回	南アフリカ戦争の経験 3：アフリカ人	アフリカ人が戦争をどう経験したのかを学ぶ。
第 7 回	南アフリカ戦争とイギリス本国 1：帝国意識	イギリス本国の戦争支持の世論を帝国意識の観点から考える。
第 8 回	南アフリカ戦争とイギリス本国 2：親ボア派	イギリス本国の戦争批判の世論を親ボア派に着目して考える。
第 9 回	南アフリカ戦争の影響 1：イギリス	戦争がイギリス本国に与えた影響を学ぶ。
第 10 回	南アフリカ戦争の影響 2：南アフリカ	戦争が南アフリカに与えた影響を学ぶ。
第 11 回	南アフリカ戦争の影響 3：帝国	戦争がイギリス帝国と他の植民地に与えた影響を学ぶ。

第 12 回	世界史のなかの南アフリカ戦争	戦争を同時代の世界史の文脈に位置づけて考える。
第 13 回	南アフリカ戦争の歴史的意義	南アフリカ戦争の意義をさまざまな歴史的文脈に即して考える。
第 14 回	まとめ	授業の内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と 20 世紀』（全 5 巻）ミネルヴァ書房、2004～2009 年（とくに第 1 巻と第 2 巻）
前川一郎『イギリス帝国と南アフリカ—南アフリカ連邦の形成』ミネルヴァ書房、2006 年
歴史学研究会編『強者の論理—帝国主義の時代』（講座世界史 5）東京大学出版会、1995 年
木畑洋一『支配の代償—英帝国の崩壊と「帝国意識」』東京大学出版会、1987 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50 %
・期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

This course examines the South African War (1899-1902) from multiple perspectives. In doing so, it considers significance and impact of this great colonial war the British empire had even fought. It also aims to provide students with opportunities to experience practice of historical research first hand, through which they can learn methodology, problems, and importance of 'doing history'.

LAW300LA

法哲学 A

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどういう社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。具体的事例・課題の検討や主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、（単に知識を覚えるだけでなく）受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。秋学期開講の「法哲学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学 B」も続けて履修すること。履修人数は 25 人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス後出「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

- ①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②法哲学的な視点と考え方を身につけ、現代社会の具体的課題・問題に対して（表層にとどまらない）根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じて Zoom 等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施上必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中で小論文作成等の課題を受講生に課し、その内容を授業の中で検討したり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。内容的には、法哲学の基礎知識・主要理論の解説をしながら、格差や差別といった現代社会の具体的問題を対象に、法哲学的観点から論点の検討と議論を行う。講義と並行して、受講生にコメント提示やレポート・小論文提出を課しながら論点の抽出と検討（討論）を行うので、受講生には、授業内外での十分な学習と討論への積極的な参加、レポート・小論文作成等を求める。受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明
第 2 回	法哲学を学ぶにあたって 1	法哲学とはどういう学問か、その特徴は何かの概説
第 3 回	法哲学を学ぶにあたって 2	「もしも法がなかったら？」を考える

第 4 回	法哲学を学ぶにあたって 3	「もしも法がなかったら？」に関する討論
第 5 回	格差・不平等問題 1	基礎知識と論点の解説
第 6 回	格差・不平等問題 2	論点と問題点の検討・討論
第 7 回	格差・不平等問題 3	理論的立場の整理
第 8 回	法と道徳 1	基礎知識と論点の解説
第 9 回	法と道徳 2	具体的事例の検討
第 10 回	復興増税 1	基礎知識と論点の解説
第 11 回	復興増税 2	論点と問題点の検討・討論
第 12 回	人工妊娠中絶 1	基礎知識と論点の解説
第 13 回	人工妊娠中絶 2	論点と問題点の検討・討論
第 14 回	人工妊娠中絶 3	出生前診断に関連する論点と問題点について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の授業内容を踏まえ、紹介された参考書を読むなどして自分の意見や疑問点を整理する。レポート・小論文の作成にあたっては、授業で取り上げた論点やその解説・検討を十分踏まえながら内容を整理して書くこと。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016 年、2500 円＋税）

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007 年）
 竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010 年）
 瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014 年）
 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論：パーシックスからフロンティアまで』（法律文化社、2019 年）
 森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015 年）
 森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016 年刊行予定）
 マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010 年）
 内藤淳『自然主義の人権論』（勁草書房、2007 年）
 内藤淳『進化倫理学入門』（光文社新書、2009 年）
 その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を中心に（評価割合 80 % 程度を予定）、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して（評価割合 20 % 程度を予定）、上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は 25 人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。秋学期開講の「法哲学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学 B」も続けて履修すること。（春学期の「法哲学 A」受講生には、秋学期の「法哲学 B」の履修を優先的に認める。）あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of legal philosophy. The main aim of this course is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, participants are expected to have their own opinions on social and legal issues and explain them rationally.

LAW300LA

法哲学 B

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどのような社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。具体的事例・課題の検討と主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、（単に知識を覚えるだけでなく）受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。

この授業では、春学期（法哲学 A）・秋学期（法哲学 B）を通じて受講人数に 25 人の制限を設けており、春学期初回に受講者選抜を行っているところ、受講にあたっては、春学期の「法哲学 A」の受講者を優先する。「法哲学 A」を受講していない学生については、春学期の受講者に欠員が出た場合にのみ受講を認めるので、該当する受講希望者は初回授業に必ず出席し、教員の指示に従うこと（本シラバス後出「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

- ①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②法哲学的な視点と考え方を身につけ、現代社会の具体的課題・問題に対して（表層にとどまらない）根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じて Zoom 等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施上必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中で小論文作成等の課題を受講生に課し、その内容を授業の中で検討したり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。

内容的には、春学期の「法哲学 A」からの継続で、法哲学の基礎知識・主要理論の解説をしながら、婚姻制度や代理出産といった現代社会の具体的問題を対象に、法哲学的観点から論点の検討と議論を行う。講義と並行して、受講生にコメント提示やレポート・小論文提出を課しながら論点の抽出と検討（討論）を行うので、受講者には、授業内外での十分な学習と討論への積極的な参加、レポート・小論文作成等を求める。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明
第 2 回	臓器売買の是非 1	基礎知識と論点の解説
第 3 回	臓器売買の是非 2	理論的立場の整理

第 4 回	臓器売買の是非 3	論点と問題点の検討・討論
第 5 回	裁判員制度の法哲学的検討 1	基礎知識と論点の解説
第 6 回	裁判員制度の法哲学的検討 2	理論的立場の整理
第 7 回	裁判員制度の法哲学的検討 3	論点と問題点の検討・討論
第 8 回	一夫一婦制と契約婚 1	基礎知識と論点の解説
第 9 回	一夫一婦制と契約婚 2	理論的立場の整理
第 10 回	一夫一婦制と契約婚 3	論点と問題点の検討・討論
第 11 回	代理出産規制の是非 1	基礎知識と論点の解説
第 12 回	代理出産規制の是非 2	理論的立場の整理
第 13 回	代理出産規制の是非 3	論点と問題点の検討・討論
第 14 回	総括	秋学期中の重要論点の補足解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の授業内容を踏まえ、紹介された参考書を読むなどして自分の意見や疑問点を整理する。レポート・小論文の作成にあたっては、授業で取り上げた論点やその解説・検討を十分踏まえながら内容を整理して書くこと。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英編『問いかけの法哲学』（法律文化社、2016 年、2500 円＋税）

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007 年）

竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010 年）

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014 年）

宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』（法律文化社、2019 年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015 年）

森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016 年刊行予定）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010 年）

内藤淳『自然主義の人権論』（勁草書房、2007 年）

内藤淳『進化倫理学入門』（光文社新書、2009 年）

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を中心に（評価割合 80 % 程度を予定）、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して（評価割合 20 % 程度を予定）上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

この授業では、春学期（法哲学 A）・秋学期（法哲学 B）を通じて受講人数に 25 人の制限を設けており、春学期初回に受講者選抜を行っているところ、受講にあたっては、春学期の「法哲学 A」の受講者を優先する。「法哲学 A」を受講していない学生については、春学期の受講者に欠員が出た場合にのみ受講を認めるので、該当する受講希望者は初回授業に必ず出席し、教員の指示に従うこと。その点を含めて、初回授業にて受講者の確定を行うので、春学期の「法哲学 A」受講者を含めて、履修希望者は初回授業に必ず出席すること。人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of legal philosophy. The main aim of this course is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, participants are expected to have their own opinions on social and legal issues and explain them rationally.

POL300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：戦争と国家

木村 正俊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代国家と戦争の関係について歴史的に考察することを目的とする。

【到達目標】

基本的目標は次の通りである：

近代国家の発展と戦争の形態の変化に関する基本的な知識を得ること
 国家と戦争の歴史的变化に関する基本的な知識を得ること
 将来の国家と戦争の変化、今後の両者の関係の変化について考察すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

演習形式で行います。

対面授業とオンライン授業のハイブリッドで行う予定です。

対面授業実施に関しては、受講生の皆さんと話し合いで行うかどうかを決めます。

参加人数によっては、一対一のチュートリアル方式で行いたいと思っています。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

課題に対するフィードバックは演習時に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
# 1	イントロダクション	ゼミの概要の確認と参加者の決定
# 2	文献講読と議論：近代国家	近代国家の形成と戦争との関係について扱う
#3	文献講読と議論：近代国家	近代的権力の特徴について扱う
#4	文献講読と議論：第一次軍事革命	第一次軍事革命の特徴について扱う
#5	文献講読と議論：第二次軍事革命と国家	第二次軍事革命と国家の関係について扱う
#6	文献講読と議論：フランス革命とナポレオン戦争	フランス革命とナポレオン戦争の特徴について扱う
#7	文献講読と議論：19 世紀のヨーロッパ国際政治	19 世紀のヨーロッパ国際政治における「平和」
#8	文献講読と議論：全体戦争としての第一次世界大戦	全体戦争としての第一次世界大戦について扱う
# 9	文献講読と議論：全体戦争としての第二次世界大戦	全体戦争としての第二次世界大戦について扱う
#10	文献講読と議論：冷戦と国家	冷戦の特徴と冷戦時代の国家について扱う
#11	文献講読と議論：ゲリラ戦争と革命（1）	中国革命と人民戦争論について扱う

#12 文献講読と議論：ゲリラ戦争と革命（2）

#13 文献講読と議論：冷戦後の紛争について扱う

14 総括

ゼミのまとめと提出されたレポートに対する講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に与えられた課題に対応すること、演習で扱う文献に必ず目を通すこと、新聞などメディアを通じて情報を得ること、そしてゼミ終了後にゼミにおける議論を振り返ることなどを 2 時間程度行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定する

【参考書】

必要に応じてゼミのときに紹介する

【成績評価の方法と基準】

毎回のゼミの内容の確認と復習を兼ねたペーパーの提出（50 %）；
 テーマに関する自己の考えを示す期末レポートの提出（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートなし

【その他の重要事項】

ゼミの内容・扱う文献に関しては、受講者の要望を最大限に尊重するつもりです。

シラバスに関して興味・疑問がある場合には以下の著作を参照してください。佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019 年）第 1 章 Syllabus とシラバスのあいだ

【Outline and objectives】

Theme: War and State

The fundamental aim of this seminar is to acquire a basic knowledge of interaction between war-making and state-making.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：疫病、国家、宗教

木村 正俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウィリアム・マクニール著『疫病と世界史』を読んで、疫病と国家と宗教の関係を歴史的に考察することを目指す。

現代世界のパンデミックを過去のパンデミックと比較して考察することを目指す。

【到達目標】

基本的目標は次の通りである：

文明世界の誕生から現在に至る、疫病と国家（政治）と宗教の間の相互関係の歴史を学ぶことによって、感染症が人類の歴史に与えた影響と今後の展望について考えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

演習形式で行います。

対面授業とオンライン授業のハイブリッドで行う予定です。

対面授業実施に関しては、受講生の皆さんと話し合いで行うかどうかを決めます。

参加人数によっては、一対一のチュートリアル方式で行いたいと思っています。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

課題に対するフィードバックは演習時に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
#1	イントロダクション	ゼミの概要の確認と参加者の決定
#2	文献講読と議論：3つの疫病	ミシェル・フーコーの3つの疫病モデルについて扱う
#3	文献講読と議論：人類の誕生と疫病	『疫病と世界史（上）』第1章
#4	文献講読と議論：都市の誕生と疫病	『疫病と世界史（上）』第2章の前半
#5	文献講読と議論：都市文明と疫病	『疫病と世界史（上）』第2章の後半
#6	文献講読と議論：4つの文明世界と疫病	『疫病と世界史（上）』第3章の前半
#7	文献講読と議論：疫病と宗教	『疫病と世界史（上）』第3章後半
#8	文献講読と議論：文明間の交流と疫病	『疫病と世界史（下）』第4章の前半
#9	文献講読と議論：モンゴル帝国の平和と黒死病	『疫病と世界史（下）』第4章の後半
#10	文献講読と議論：黒死病後の世界	『疫病と世界史（下）』第5章の前半
#11	文献講読と議論：新大陸における疫病	『疫病と世界史（下）』第5章の後半

#12	文献講読と議論：科学の発展と疫病	『疫病と世界史（下）』第6章の前半
#13	文献講読と議論：現代の疫病	『疫病と世界史（下）』第6章の後半
#14	総括	ゼミのまとめと提出されたレポートに対する講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に与えられた課題に対応すること、演習で扱う文献に必ず目を通すこと、新聞などメディアを通じて情報を得ること、そしてゼミ終了後にゼミにおける議論を振り返ることなどを2時間程度行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ウィリアム・H・マクニール『疫病の世界史（上）（下）』（中公文庫、）

【参考書】

必要に応じてゼミのときに紹介する

【成績評価の方法と基準】

毎回のゼミの内容の確認と復習を兼ねたペーパーの提出（50％）；テーマに関する自己の考えを示す期末レポートの提出（50％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

ゼミの内容・扱う文献に関しては、受講者の要望を最大限に尊重するつもりです。

シラバスに関して興味・疑問がある場合には以下の著作を参照してください。佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）第1章 Syllabus とシラバスのあいだ

【Outline and objectives】

Theme: Relations between Plague, State and Religion

The fundamental aim of this seminar is to consider the relations between plague, state and religion.

SOC300LA

福祉社会論 A

2017 年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書および授業時に配布するレジュメや文献などを用いて、社会福祉の基本的な考え方を学ぶとともに福祉の領域とされている社会問題、なかでも障害者にかかわる諸問題を取り上げ、講義形式で学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業期間中にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーの内容は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会福祉の概念を理解し、福祉的な社会とは何かを構想するとともに、社会による福祉とはどういったものなのか、政府以外の福祉の供給源、具体的には家族や企業などに目配りをしながら考察し、最終的には社会福祉をメタ的な視点から捉える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

状況の許す限り対面を考えているが、リアルタイムオンラインもしくはオンデマンド教材を配信する可能性もある。課題は毎回提出することを想定しているが、遠隔で講義を受ける学生がいる可能性やオンデマンド教材配信の場合も考慮して、システムからの提出を原則としたい。リアクションペーパーの全体講評は基本的に次の授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	福祉とは何か
2	必要の考え方と必要に基づく社会政策	必要と需要、貢献原則と必要原則
3	必要の基準と主体	必要判定、客観的な必要と主観的な必要
4	資源の供給と再分配	資源供給モデル、普遍主義と選別主義
5	官僚制と専門主義	官僚制の機能と逆機能、専門家の理念系
6	社会政策とその体系	公共政策の 3 分類
7	福祉の社会的分業	税制、企業の役割、福祉多元主義
8	福祉国家と社会変動	都市化、家族の失敗、高齢化
9	福祉国家の発展と展開	市民権の発達、福祉国家レジーム
10	福祉と科学技術	介護ロボット、身体能力の補完、エンハンスメント
11	障害の概念と社会制度	障害に関わる制度と多様な見方
12	障害者運動と生命倫理	優生思想、自立生活運動
13	障害者と学び	障害学生を取り巻く状況と当事者の語り
14	社会的包摂に向けて	ノーマライゼーション、アクティベーション、福祉国家と福祉社会の連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『福祉社会 包摂の社会政策（新版）』武川正吾 有斐閣アルマ（2011 年）2,300 円+税

【参考書】

『福祉社会学ハンドブック 現代を読み解く 98 の論点』福祉社会学会編集 中央法規（2013 年）、『社会福祉学』平岡紘一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人 有斐閣（2011 年）、DIPEX-Japan「障害学生の語り」<https://www.dipex-j.org/shougai/>

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー）50 %、期末レポート 50 %を成績の判定基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていけることが重要だと感じた。

【Outline and objectives】

Using the textbook, resumes distributed at class, and literature, students will learn the basic concepts of social welfare and will take up social issues in the field of welfare, particularly those related to people with disabilities, and study them in a lecture format. In addition, students will be required to submit reaction papers in order to consolidate and apply what they have learned. The content of the submitted reaction papers will be fed back to the class as appropriate, keeping personal information in mind.

SOC300LA

福祉社会論 B

2017 年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書および授業時に配布するレジュメや文献などを用いて、社会福祉、とくに子ども家庭福祉について学ぶ。主に講義形式をとり、可能な限り対面を想定しているが、状況によっては一部もしくはすべての授業がオンデマンド形式になる可能性もある。学習内容の定着と応用を目的として、リアクションペーパーあるいは小課題を提出する。提出された課題は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、子どもにかかわる問題群を把握し、そうした問題に対して国家や社会はどのように取り組んでいるのか、基本的な知識を身につける。その上で、子ども家庭福祉の全体像を理解し、人間が育つ過程における社会福祉の役割と意義について考える、説明できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

状況の許す限り対面を考えているが、リアルタイムオンラインもしくはオンデマンド教材を配信する可能性もある。課題は毎回提出することを想定しているが、遠隔で講義を受ける学生がいる可能性やオンデマンド教材配信の場合も考慮して、システムからの提出を原則としたい。リアクションペーパーの全体講評は基本的に次の授業とする。すべてオンデマンドになった場合には、2020 年度と同様に 5 回の小課題を出すことも検討している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	子どもの福祉を考えるということ
2	子どもの福祉の歴史	前近代から現代、日本の子どもの福祉
3	子どもの権利・福祉・法制度	子どもの権利条約、児童福祉法
4	生命倫理と母子保健	母子保健の概要、優生保護法
5	少子化対策と子育て支援	子ども数の減少、子育て家庭への経済的支援、ネウボラ
6	現代における保育とは	保育・子育て支援ニーズ、社会福祉における保育
7	学齢期の子どもの教育と福祉	児童健全育成事業、外国籍の子どもと家族への対応
8	障害と子ども・家族	障害のある子どもと家族、ヤングケアラー
9	子ども虐待	子ども虐待に対応する制度、虐待予防
10	女性と福祉	ドメスティックバイオレンス、女性の貧困
11	社会的養護	社会的養護のかかわる施設、施設養護から家庭養護へ
12	子ども・家族の貧困	子育て家族の貧困とその背景、子どもの貧困対策法

- 13 ひとり親家族の福祉 ひとり親家庭とその現状、子どもにとっての養育費施策
- 14 子ども家庭福祉の実践 子ども家庭福祉の専門職、ボランティア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『子ども家庭福祉－子ども・家族・社会をどうとらえるか』垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ編（2020 年）2,200 円＋税

【参考書】

『福祉社会学ハンドブック 現代を読み解く 98 の論点』福祉社会学会編集 中央法規（2013 年）、『社会福祉学』平岡紘一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人 有斐閣（2011 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー）50 %、期末レポート 50 %を成績の判断基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていくことが重要だと感じた。

【Outline and objectives】

This course will focus on social welfare, especially child and family welfare, using the textbook, resumes distributed in class, and literature. This course will be taught mainly in lecture format, with face-to-face interaction expected whenever possible, but some or all classes may be on-demand depending on circumstances. Students will be required to submit reaction papers or small assignments in order to consolidate and apply what they have learned. Submitted reaction papers or assignments will be fed back to the class as appropriate, keeping personal information in mind.

HUG300LA

人文地理学セミナー A

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「江戸東京」の各地域について、地図・写真・記録などの史資料を利用しながら学びます。テキスト『水都東京』『東京の歴史』を中心に輪読し、各地域を説明するうえでの重要な史資料についても取り扱っていきます。

【到達目標】

江戸東京を構成する基本的な地理的事象を理解し、江戸東京の地理を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『水都東京』および『東京の歴史』第 1 巻～第 3 巻の分担部分を発表してもらい、利用されている史資料や記述内容について議論します。資料類および発表用 PPT はすべて学習支援システム上で配信します（紙では配布しません）。プレゼンテーションや発表内容については授業内で教員がコメントします。ただし、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、グループ分け、テキストの分担の決定
第 2 回	江戸東京の地理の基礎	江戸時代から現代までの東京の変遷について講義します。
第 3 回	水都東京を読む①	第 1 章隅田川 第 2 章日本橋川
第 4 回	水都東京を読む②	第 3 章江東 第 4 章ベイエリア
第 5 回	水都東京を読む③	第 5 章皇居と濠 第 6 章山の手
第 6 回	水都東京を読む④	第 7 章杉並・成宗 第 8 章武蔵野 第 9 章多摩
第 7 回	東京の歴史第 1 巻を読む①	第 1 章地形と自然 第 2 章領域と地域
第 8 回	東京の歴史第 1 巻を読む②	第 3 章原始・古代・中世 第 4 章室町・戦国
第 9 回	東京の歴史第 2 巻を読む①	第 1 章江戸のインフラ 第 2 章拡張する江戸
第 10 回	東京の歴史第 2 巻を読む②	第 3 章成熟の江戸 第 4 章爛熟の江戸
第 11 回	東京の歴史第 3 巻を読む①	第 1 章インフラ基盤 第 2 章明治期
第 12 回	東京の歴史第 3 巻を読む②	第 3 章大正・昭和戦前期
第 13 回	東京の歴史第 3 巻を読む③	第 4 章戦後～二十世紀末
第 14 回	まとめ	江戸東京の地理についての学習内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業で紹介するテキストの分担部分を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめること、必要に応じて様々な史資料を探ること、現地調査の結果をレポートにまとめること、など。

【テキスト（教科書）】

(1) 陣内秀信『水都東京- 地形と歴史で読み解く 下町・山の手・郊外』ちくま新書
市ヶ谷図書館の指定図書です。できれば各自で購入してください。

(2) 『東京の歴史 通史編』第 1 巻～第 3 巻 吉川弘文館、2018 年 B T 12 階の地理学科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】

必要に応じて、授業支援システムのなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点 50 %、プレゼンテーションやレポート内容 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

履修者が多く発表時間が長くなると、次の授業への移動に支障がでます。昨年度は全員受講の許可をしましたが、今年度は、履修希望者が多いようならば履修者を選抜する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信を行います。学習に支障がないように、PC など機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

【Outline and objectives】

This course examines geographies of Edo-Tokyo areas by historical maps, pictures, documents.

HUG300LA

人文地理学セミナー B

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「江戸東京」の各地域について、地図・写真・記録などの史資料を利用しながら学びます。テキスト『東京の歴史 地帯編』のなかから、主要区部の巻を中心に輪読し、各地域を説明するうえでの重要な史資料についても取り扱っていきます。

【到達目標】

江戸東京を構成する基本的な地理的事象を理解し、江戸東京の地理を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『東京の歴史』第 4 巻～第 5 巻の分担部分を発表してもらい、利用されている史資料や記述内容について議論します。後半の回では、各地域に実際に赴いて、レポートして理解を深めます。授業資料類や発表 PPT は学習支援システムで配信を行います（紙での配布はしません）。プレゼンテーションや発表内容については授業内で教員がコメントします。ただし、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、グループ分け、テキストの分担の決定
第 2 回	江戸東京の地理の基礎	江戸時代から現代までの東京の変遷について講義します。
第 3 回	地帯編を読む①	千代田区
第 4 回	地帯編を読む②	新宿区
第 5 回	地帯編を読む③	文京区
第 6 回	地帯編を読む④	港区
第 7 回	地帯編を読む⑤	中央区
第 8 回	地帯編を読む⑥	台東区
第 9 回	地帯編を読む⑦	墨田区
第 10 回	地帯編を読む⑧	江東区
第 11 回	現地調査	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認する
第 12 回	現地調査の発表①	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認した結果を発表する
第 13 回	現地調査の発表②	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認した結果を発表する
第 14 回	まとめ	江戸東京の各地域についての学習内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業で紹介するテキストの分担部分を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめること、必要に応じて様々な史資料を探すこと、現地調査の結果をレポートにまとめること、など。

【テキスト（教科書）】

『東京の歴史第 4 巻地帯編 1 千代田区・港区・新宿区・文京区』吉川弘文館、2018 年

『東京の歴史第 5 巻地帯編 2 中央区・台東区・墨田区・江東区』吉川弘文館、2019 年

B T 12 階の地理学科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点 50 %、プレゼンテーションやレポート内容 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

履修者が多く発表時間が長くなるため、次の授業への移動に支障がでます。昨年度は全員受講の許可をしましたが、今年度は、もし履修希望者が多いようならば履修者を選抜する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信をします。授業に参加できるように PC など機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

【Outline and objectives】

This course examines geographies of Edo-Tokyo areas by historical maps, pictures, documents.

CUA300LA

文化人類学方法論 B

2017 年度以降入学者

石森 大知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、観光に関するテーマを文化人類学的な視点から扱います。観光の現場では、ローカルな文化・環境・宗教などが新たな意味や価値をもつものとして資源化され、ナショナルおよびグローバルな文脈に位置づけられる現象が起っています。観光客を迎える人たち（＝ホスト）はいかに資源化をおこない、観光客（＝ゲスト）はそれをどのように経験するのでしょうか。また、ゲストとホストの双方にとってより良い観光とは何でしょうか。本授業では、これらの問いや疑問について考察します。

【到達目標】

- ・文化人類学、観光人類学の専門的な概念や理論を習得する。
- ・観光に関する国内外の事例を学ぶことを通して、グローバル化時代の観光現象を広い視野から理解する能力を身に付ける。
- ・文献の内容をただ理解するだけではなく、批判的な読み方をできるようにする。その作業を通して、自らの問題関心と関連付けて考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は【ハイブリッド型授業】で行う予定です（変更の場合は学習支援システムを通して事前に連絡します）。
- ・本授業では、基本的に毎回発表者を立てます（主に履修者による発表・輪読の形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる）。
- ・発表者はレジメに基づいて発表し、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。
- ・リアクションペーパーやレポート等における興味深いコメントや質問等を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、発表順の決定
第 2 回	観光の形態	観光＋人類学とは何か
第 3 回	観光と文化	（文献の発表と討論）観光の現場で創られる文化
第 4 回	観光と開発	（文献の発表と討論）観光と地域開発の結びつき
第 5 回	日本人と海外観光	（文献の発表と討論）マストツーリズムの歴史
第 6 回	観光におけるホストとゲスト	（文献の発表と討論）ホスト／ゲスト論の再検討
第 7 回	楽園と観光	（文献の発表と討論）楽園イメージの創造
第 8 回	ふるさと／都市観光	（文献の発表と討論）日本観光の一断面
第 9 回	環境と観光	（文献の発表と討論）エコツーリズムとは何か

第 10 回	宗教と観光①	（文献の発表と討論）宗教と観光のはざま
第 11 回	宗教と観光②	（文献の発表と討論）宗教／巡礼ツーリズム
第 12 回	そのほかの観光①	（文献の発表と討論）世界遺産、ロングステイ
第 13 回	そのほかの観光②	（文献の発表と討論）テーマパーク、アニメ
第 14 回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・輪読に使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
- ・授業内で紹介する文化人類学や観光人類学の文献を読む。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学修・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

山下晋司『観光人類学の挑戦―「新しい地球」の生き方』講談社、2009 年。
橋本和也『地域文化観光論―新たな観光学への展望』ナカニシヤ出版、2018 年。
（以上の文献を使用しますが、必ずしも購入する必要はありません）

【参考書】

岡本亮輔『聖地巡礼』中公新書、2015 年。
山中弘編『宗教とツーリズム―聖なるものの変容と持続』世界思想社、2012 年。
綾部恒雄編『文化人類学 20 の理論』弘文堂、2006 年。
橋本和也ほか編『観光開発と文化―南からの問いかけ』世界思想社、2003 年。
（以上のほか、授業時に適宜紹介します）

【成績評価の方法と基準】

授業（オンラインを含む）の取り組みや各種課題を「平常点（70 %）」として重視するとともに、学期末に出す予定の「レポート（30 %）」を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

学期中にシラバスや授業計画の変更が余儀なくされた場合は学習支援システムで周知します。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of cultural anthropology, especially concerning on the tourism. The goals of this course are to obtain basic concepts and theories of the anthropology of tourism, and understand the impacts of tourism on the local culture, environment and society.

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：政治思想史古典精読 A

上村 剛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『ガリバー旅行記』を中心に、18 世紀アイルランド、イングランドで活躍した小説家ジョナサン・スウィフトの書いた文章を読む。当時のイングランドは二つの党派の対立と政治的腐敗が進行する政治状況であった。スウィフトが記した歴史論や『ガリバー旅行記』（これは児童文学ではなく、とても政治的な書物である）を読むことで、党派や腐敗といった政治状況に対してどのような議論が可能かを検討する。政治と文学の関係性も合わせて考える。

【到達目標】

- ・政治思想史の古典的なテキストを正確に理解する能力を身につける。
- ・現代の政治的事象を、歴史的な視点から相対化して推論する能力を身につける。
- ・党派対立、腐敗、専制といった政治概念について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面による少人数のゼミ形式で進める。参加者は毎週課題（多くの回は日本語 10 頁程度、ただし『ガリバー旅行記』の回は 1 回 50 頁程度）を読み、300 ～ 500 字を目安としたコメントペーパーを事前に送付する。（受講者の人数もよるが、）おおそ各回 1 人の報告者が報告する。その後、受講者全員でディスカッションを行う。教員は可能な限り発言を控えるため、学生の積極的な議論への参加が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	古典を読むとはどういう行為か、どのような意味があるかを考え、ゼミの意義を押さえる。自己紹介をする。
2	『アテネとローマにおける貴族・平民間の不和抗争』(1)	第 1 章を読み、混合政体について考え、議論する。
3	『アテネとローマにおける貴族・平民間の不和抗争』(2)	第 2 章を読み、アテネの事例について考え、議論する。
4	『アテネとローマにおける貴族・平民間の不和抗争』(3)	第 3 章を読み、ローマの事例について考え、議論する。
5	『アテネとローマにおける貴族・平民間の不和抗争』(4)	第 4 章を読み、アテネ・ローマについてのスウィフトの解釈について考え、議論する。
6	『アテネとローマにおける貴族・平民間の不和抗争』(5)	第 5 章を読み、スウィフトの現状の政治認識について考え、議論する。

7	「1710 年の政変に関する覚書き」(1)	冒頭 1/4 を読み、名誉革命体制におけるトーリーとウィッグの関係について考え、議論する。
8	「1710 年の政変に関する覚書き」(2)	前半まで読み進め、ハーリーやシンジョンといった当時の政治家の態度について考え、議論する。
9	「1710 年の政変に関する覚書き」(3)	3/4 まで読み、スウィフトの政治的な態度について考え、議論する。
10	「1710 年の政変に関する覚書き」(4)	最後まで読み、党派対立についてのスウィフトの政治思想について考え、議論する。
11	『ガリバー旅行記』(1)	第 1 話第 4 章まで読み、リリパット国の表象の意義について考え、議論する。
12	『ガリバー旅行記』(2)	第 1 話最後まで読み、リリパット国と当時のイングランドとの関係について考え、議論する。
13	『ガリバー旅行記』(3)	第 2 話第 4 章まで読み、プロブディンナグ国の表象の意義について考え、議論する。
14	『ガリバー旅行記』(4)、まとめ	第 2 話最後まで読み、プロブディンナグ国と当時のイングランドとの関係について考え、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。各回の予習範囲を予め読み、議論につなぐようなコメントペーパーを執筆することが求められる。また、自分が担当する報告の準備は、他の文献にあたることも求められるため、2 時間を大幅に超える予習時間が必要である。

【テキスト（教科書）】

角川文庫版のジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』（<https://www.kadokawa.co.jp/product/201009000096/>）を用いる。山田蘭訳、2011 年、704 円。事前に購入し、ゼミ初回に持参すること。『ガリバー旅行記』以外の課題文献についてはこちらで用意する。

【参考書】

イントロダクションで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告（20%）と毎回のコメントペーパー、議論への参加状況（80%）によって評価する。期末レポートは課さない。ただし、単位習得には、必ず最低 1 回は報告を行うことが求められる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

配布された PDF の資料をパソコンなどの電子機器で読めるようにすること。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「教養ゼミ II(Q6214)」とこのゼミは連続するため、あわせての履修を強く薦める（もちろん、他講義との都合もあるだろうから絶対に二つとも受講しなくてはならないわけではないが、そうしないと『ガリバー旅行記』が読み終わらないため）。

【Outline and objectives】

We are going to read Gulliver's Travels and some other texts written by Jonathan Swift. In Eighteenth-century Britain, corruption and discord between two political factions were important political problems. In this seminar, we will discuss how Swift tried to get over these difficulties by writing ancient historiography and a utopian novel.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：政治思想史古典精読 B

上村 剛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『ガリバー旅行記』を中心に、18 世紀アイルランド、イングランドで活躍した小説家ジョナサン・スウィフトの書いた文章を読む。当時のイングランドは二つの党派の対立と政治的腐敗が進行する政治状況であった。スウィフトが記した歴史論や『ガリバー旅行記』（これは児童文学ではなく、とても政治的な書物である）を読むことで、党派や腐敗といった政治状況に対してどのような議論が可能かを検討する。政治と文学の関係性も合わせて考える。

【到達目標】

- ・政治思想史の古典的なテキストを正確に理解する能力を身につける。
- ・現代の政治的事象を、歴史的な視点から相対化して推論する能力を身につける。
- ・党派対立、腐敗、専制といった政治概念について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面による少人数のゼミ形式で進める。参加者は毎週課題（多くの回は日本語 10 頁程度、ただし『ガリバー旅行記』の回は 1 回 50 頁程度）を読み、300～500 字を目安としたコメントペーパーを事前に送付する。（受講者の人数もよるが、）おおそ各回 1 人の報告者が報告する。その後、受講者全員でディスカッションを行う。教員は可能な限り発言を控えるため、学生の積極的な議論への参加が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	古典を読むとはどういう行為か、どのような意味があるかを考え、ゼミの意義を押さえる。自己紹介をする。
2	『書物戦争』(1)	前半を読み、古代派と近代派の関係について考え、議論する。
3	『書物戦争』(2)	後半を読みスウィフトが古代と近代のどちらを評価していたかを考え、議論する。
4	『ドレイピア書簡』第 4 書簡 (1)	前半を読み、アイルランドに対する国王大権について考え、議論する。
5	『ドレイピア書簡』第 4 書簡 (2)	後半を読み、貨幣の流通についてどのようにスウィフトが考えていたかを考え、議論する。
6	「日本の宮廷および帝国について」(1)	スウィフトは『ガリバー旅行記』と同時期に日本論を書いていた。前半を読み、日本をスウィフトがどのように描いたかを考え、議論する。

7	「日本の宮廷および帝国について」(2)	後半を読み、スウィフトがどのように当時のイングランドと日本論を関係させたかを考え、議論する。
8	『ガリバー旅行記』(5)	第 3 話第 5 章までを読み、ラビュタ国の表象の意義について考え、議論する。
9	『ガリバー旅行記』(6)	第 3 話最後まで読み、ラビュタ国と当時のイングランドとの関係について考え、議論する。
10	『ガリバー旅行記』(7)	第 4 話第 6 章まで読み、フウイヌム国の表象の意義について考え、議論する。
11	『ガリバー旅行記』(8)	最後まで読み、フウイヌム国と当時のイングランドとの関係について考え、議論する。
12	「慎ましき提案」	スウィフトの最も悪名高い文章である「慎ましき提案」を読んで議論する。
13	ジョージ・オーウェル「政治対文学」『ガリヴァー旅行記』論考	『1984 年』で知られるオーウェルのスウィフト論を読み、全体主義について考え、議論する。
14	まとめの討論	1 年間のまとめとなる討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。各回の予習範囲を予め読み、議論につながりそうなコメントペーパーを執筆することが求められる。また、自分が担当する報告の準備は、他の文献にあたることも求められるため、2 時間を大幅に超える予習時間が必要である。

【テキスト（教科書）】

角川文庫版のジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』（<https://www.kadokawa.co.jp/product/201009000096/>）を用いる。山田蘭訳、2011 年、704 円。事前に購入し、ゼミ初回に持参すること。『ガリバー旅行記』以外の課題文献についてはこちらで用意する。

【参考書】

イントロダクションで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告（20%）と毎回のコメントペーパー、議論への参加状況（80%）によって評価する。期末レポートは課さない。ただし、単位習得には、必ず最低 1 回は報告を行うことが求められる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

配布された PDF の資料をパソコンなどの電子機器で読めるようにすること。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「教養ゼミⅡ(Q6213)」とこのゼミは連続するため、あわせての履修を強く薦める（もちろん、他講義との都合もあるだろうから絶対に二つとも受講しなくてはいけないわけではないが、『ガリバー旅行記』を途中から読むことになる）。

【Outline and objectives】

We are going to read Gulliver's Travels and some other texts written by Jonathan Swift. In Eighteenth-century Britain, corruption and discord between two political factions were important political problems. In this seminar, we will discuss how Swift tried to get over these difficulties by writing ancient historiography and a utopian novel.

PSY300LA

人間行動学 A

2017 年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基盤科目の「心理学Ⅰ/Ⅱ」でアカデミックな心理学の基礎（ベーシック）を修め、リベラルアーツ科目の「心理学 LA/LB」で、より発展・応用的な心理学を学ぶことを前提とし、総合科目の「人間行動学」では、「行動」として表現される「こころ・いのち」を考えます。

【到達目標】

「臆病な自尊心と尊大な羞恥心」（from『山月記』by 中島敦）、『狂気の歴史』『性の歴史』（by M. フーコー）、『全体主義の起原』『人間の条件（活動的生）』『精神の生活』（by H. アレント）、『私の個人主義』（by 夏目漱石）、『この世は舞台（stage）、誰もが役者（player）』（from『As You Like It（お気に召すまま）』by シェイクスピア）…その他あれこれと『靈魂論』（by アリストテレス）以来の「心理学」、とりわけ「異常と正常」もしくは「マイノリティとマジョリティ」の繋がりが、絡みを学び合っています。

感染症も気候危機も明白な「人災」でしょうが、「自己責任」で押しつぶされるわけにいきません。もはや手垢にまみれた（？）「個性」だの「多様性」だの…についても突き詰め追いつめることができるのでしょうか。

当然（？）、現実的・合理的で正しい（はずの）AI（人工知能）やロボット、サイボーグ、アンドロイド、レプリカント、あるいはクローンと、誤り・間違いだらけで、夢幻・観念・妄想・変態の沼にハマる（ハマらざるを得ない）ヒト（こころ・いのち）との差異をも感じ思います。

「心の性」や「心の病」とは何か。家族や友人その他さまざまな人たちとの交わり・もつれから生じることは何か。社会・文化、歴史・時代、対人関係のもと、状況・相互作用・関係性を通して、絶えず生成・変化・展開する（しかない）自転車操業の実存・ヒトの「こころ」や「いのち」の意味は分かるのか。ヒトは何故（why）・どのように（how）生きているのか。生きているということは、「こころ・いのち」と同じなのか否か。さて、「こころ・いのち」はどこにあるのか。「こころ・いのち」とは何か。改めて考えることが目標です。その都度の相対的な真理の追究こそが科学的な態度、との立場で、相互に「対話」を積み上げて検討し、参加者各々が感じ思い考え、それぞれが、そのときどきの答えを見出しにいけるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現下の事態で、大学の行動方針レベルが（1 のままでも）2 になったとしても、講義その他の形態は、履修登録を望みなさんの状況や意向に応じ、流動的に検討・対応していきます。可能な限り、教室での「対面」を追求しつつ、Zoom を用いた「議論・対話」を試みるかもしれません。春学期初回は（全学）オンライン・オンデマンドです。その後については、随時、学習支援システムの「お知らせ・アナウンス」で告知します。

参加者自らが設定したテーマについて（単独でも共同でも）調査や研究を進め、順次、報告・発表し、ディスカッションします。これまでの担当科目では、しばしばマンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画、SNS や動画サイトその他ソーシャルメディア、メディア情報リテラシーのあり方など、さまざまな側面・角度から「こころ・いのち」を考えてきました。「こころ・いのち」が、「行動」となって顕著に表（現）れているからです。

どうかすると、私（or 貴方）は幾らか狂っていたり、少なくとも狂いたかったりするのかもしれませんが。この世間・社会の文化だの常識だのが不可思議で疑わしすぎるとしたら、私（or 貴方）の「こころ・いのち」は、何かへんなのでしょうか。

良くも悪くもサロンのイメージで、それぞれが、それぞれに、言い放ち、切り返し…と連鎖を愉しめる協働を試みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者各々の興味・関心を持ち寄り、討論の素材（教材）について全体で協議
2	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
3	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
4	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
5	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
6	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
7	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
8	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
9	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
10	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
11	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
12	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
13	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
14	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分担した報告・発表に向けて準備します。報告・発表の前の回には、参加者全員分の素材や資料が行き渡るようにします。報告・発表担当でない場合、これらの素材や資料に前もって目を通しておきます。報告・発表担当であるかないかを問わず、報告・発表時のディスカッションを踏まえ、さらに吟味します。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料がテキストとなります。

【参考書】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料が参考書となります。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)：報告・発表とともに、ディスカッションなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

以下は、従来の内容です。

《発言やリアクションペーパー記述の紹介によって、各々が多種多様に理解を深めていく過程が明瞭でした。報告・発表やディスカッションのあり方など、相談しながら一緒に進めていきます。》

ところが昨年度は、学生が全く見ず知らずのままで、「授業改善アンケート」に寄せられた次の文面のとおり雰囲気になってしまいました。

※オンラインであったことが原因だとは思いますが、もう少し他の受講者と活発なやり取りができることを期待していたのでその点は少々期待外れだった。Zoomなどを用いての討論会のようなことが実施出来たらよかったのかなとも感じた。

さて本年度の状況は想定しがたいながら、定員制(30名)の目一杯となれば、60名規模の教室に散らばって着席しながらの議論を工夫することになります。得手不得手に加え、通信(その他を含む)環境などにより、「Zoomを使うなら参加しない・できない」というケースがあることも念頭に置きつつ、試行錯誤していきます。

【その他の重要事項】

(1) 人間行動学 A(春学期)と人間行動学 B(秋学期)は連動するため、一体としての履修を望みます。

(2) 必須ではありませんが、海部が担当した「心理学 I/II」や「心理学 LA/LB」を履修した方の参加を見込みます。

(3) 当科目は定員制(30名)です。履修希望が多い場合、(秋学期のみ参加予定者も含め)春学期初回(遅くても第2回まで)に参加したなかから選抜します。

(4) 臨床心理士として、生きづらく悩み困っている and/or 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病気」、「心の性」、「心神喪失・耗弱(こうじゃく)」、「責任能力」の検証も必要でした。責任(responsibility)とは、反応する(response)能力(ability)です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不穏や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自家中毒・矛盾・煩悶(はんもん)を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪(たま)らない方ばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事? 「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち(・人権)」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。

(5) オフィスアワー(お喋りタイム?)は、原則として木曜の4時限ないし5時限に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、「授業内掲示板」または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

(6) 2020/19/18年度は、次のようなテーマの報告・発表がありました。

続 お砂糖とスパイスなんかじゃない

罪悪感について

持続可能人間

身分差

手を差し伸べることがはばかれるという難解な社会

取っ掛かりとして

正直な話

肉壁

いつまでもハラスメントに苦しみ続ける私たち

きのことたけのこ戦争

“文化的先進”は人間を辞めることなのか?

お砂糖とスパイスなんかじゃない

常識とは何か

私以外の人間は皆ロボット説

他人を引きずり落とす世の中

どうせ見ていないでしょう?

「自粛」と「自由」

ドラえもん〜ん!!!

「女の子」と「学ぶこと」

ストレスとの向き合い方について

「女の子」についての質問

岡村(もうちょっとの間)頑張れ

絶対に生きたい話

台本にアレンジを加える役者

生きる意味とは

素朴で性悪(かもしれない)疑問

“狂いたがっている”かもしれないということ

いきる とは

SNSのような感覚です

誰しもが無敵の人になる可能性があるということ

匿名によるネットバッシング：これからのファンのあり方とは

何故、人は映画版ジャイアンに惚れてしまうのか

分人主義(dividualism)という生き方：「本当の自分」という幻想

映画『パプリカ』に見られる夢表現について

暴力のない子どもへの教育をしていくために

優生学とその心理的要因

何故、人は容姿に拘るのか?

「認められたい」、その感情は顔ありきなのか?

社会・文化におけるヒロイン像の変遷

観光旅行における心理学

陰キャと陽キャに優劣はあるのか

練馬区女子大生の死体遺棄事件から見るストーキング殺人事件に関する分類について

Are You Righteous??

なぜアイドルの沼にハマるのか

あらゆる場面で嫉妬は害なのか?

『愛がなんだ』から見る恋愛依存

ADHD 型主人公の誕生と衰退

バーナム効果：占いの必要性

「男」と「女」は別の生き物なのか

川崎登戸事件から見る拡大自殺・間接自殺の背景

漫画から読み解く行動心理学

日本における制度と行動規範の乖離：労働環境に焦点を当てて

アスペルガー症候群の人には天才が多い!?

メンヘラカルチャーと「病みかわいい」

相模原障害者施設殺傷事件に見る現代社会の問題

ロボットに心はあるか

ツァイガルニク効果

自己成就予言効果

認知的不協和：自分自身から逃げない勇気

「装う」ということ：アイデンティティと自己実現

「ネタばれ」は悪くない?

パーソナルスペース

承認欲求

犠牲と正義：報復は正義になり得るのか

「君の NO は。」：世界の歪みは誰のせい? 認知バイアスと認知の歪み

バーナム効果とは

「心の監禁」からの脱出

自己欺瞞

安楽死からみる自己決定権について

返報性について

優生思想について

なぜ人は周りからよく見られようとするのか

うつ病への理解

フェティシズムと犯罪者予備軍

「炎上」はなぜ起こるのか

SNS と自己顕示欲：健全な自己顕示欲とは? また、その付き合い方

【Outline and objectives】

This subject is premised on the foundation course "Psychology I/ II " and the advanced applied course "Psychology LA/LB".

In the general course "Human behavior", we make a study of action as the mind is expressed.

PSY300LA

人間行動学 B

2017 年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基盤科目の「心理学Ⅰ/Ⅱ」でアカデミックな心理学の基礎（ベーシック）を修め、リベラルアーツ科目の「心理学 LA/LB」で、より発展・応用的な心理学を学ぶことを前提とし、総合科目の「人間行動学」では、「行動」として表現される「こころ・いのち」を考えます。

【到達目標】

「臆病な自尊心と尊大な羞恥心」（from『山月記』by 中島敦）、『狂気の歴史』『性の歴史』（by M. フーコー）、『全体主義の起原』『人間の条件（活動的生）』『精神の生活』（by H. アレント）、『私の個人主義』（by 夏目漱石）、『この世は舞台（stage）、誰もが役者（player）』（from『As You Like It（お気に召すまま）』by シェイクスピア）…その他あれこれと『靈魂論』（by アリストテレス）以来の「心理学」、とりわけ「異常と正常」もしくは「マイノリティとマジョリティ」の繋がりが、絡みを学び合っています。

感染症も気候危機も明白な「人災」でしょうが、「自己責任」で押しつぶされるわけにいきません。もはや手垢にまみれた（？）「個性」だの「多様性」だの…についても突き詰め追いつめることができるのでしょうか。

当然（？）、現実的・合理的で正しい（はずの）AI（人工知能）やロボット、サイボーグ、アンドロイド、レプリカント、あるいはクローンと、誤り・間違いだらけで、夢幻・観念・妄想・変態の沼にハマる（ハマらざるを得ない）ヒト（こころ・いのち）との差異をも感じ思います。

「心の性」や「心の病」とは何か。家族や友人その他さまざまな人たちとの交わり・もつれから生じることは何か。社会・文化、歴史・時代、対人関係のもと、状況・相互作用・関係性を通して、絶えず生成・変化・展開する（しかない）自転車操業の実存・ヒトの「こころ」や「いのち」の意味は分かるのか。ヒトは何故（why）・どのように（how）生きているのか。生きているということは、「こころ・いのち」と同じなのか否か。さて、「こころ・いのち」はどこにあるのか。「こころ・いのち」とは何か。改めて考えることが目標です。その都度の相対的な真理の追究こそが科学的な態度、との立場で、相互に「対話」を積み上げて検討し、参加者々が感じ思ひ考え、それぞれが、そのときどきの答えを見出しにいけるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加者自らが設定したテーマについて（単独でも共同でも）調査や研究を進め、順次、報告・発表し、ディスカッションします。

これまでの担当科目では、しばしばマンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画、SNS や動画サイトその他ソーシャルメディア、メディア情報リテラシーのあり方など、さまざまな側面・角度から「こころ・いのち」を考えてきました。「こころ・いのち」が、「行動」となって顕著に表（現）れているからです。どうかすると、私（or 貴方）は幾らか狂っていたり、少なくとも狂いたかったりするのかもしれませんが。この世間・社会の文化だの常識だのが不可思議で疑わしすぎるとしたら、私（or 貴方）の「こころ・いのち」は、何かヘンなのでしょう。

良くも悪くもサロンのイメージで、それぞれが、それぞれに、言い放ち、切り返し…と連鎖を愉しめる協働を試みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者各々の興味・関心を持ち寄り、討論の素材（教材）について全体で協議
2	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
3	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
4	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
5	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
6	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
7	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
8	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
9	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
10	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
11	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
12	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
13	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
14	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分担した報告・発表に向けて準備します。報告・発表の前の回には、参加者全員分の素材や資料が行き渡るようにします。

報告・発表担当でない場合、これらの素材や資料に前もって目を通しておきます。

報告・発表担当であるかないかを問わず、報告・発表時のディスカッションを踏まえ、さらに吟味します。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料がテキストとなります。

【参考書】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料が参考書となります。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）：報告・発表とともに、ディスカッションなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

以下は、従来の内容です。

《発言やリアクションペーパー記述の紹介によって、各々が多様な様に理解を深めていく過程が明瞭でした。報告・発表やディスカッションのあり方など、相談しながら一緒に進めていきます。》

ところが昨年度は、学生が全く見ず知らずのままで、「授業改善アンケート」に寄せられた次の文面のとおり雰囲気になってしまいました。

※オンラインであったことが原因だとは思いますが、もう少し他の受講者と活発なやり取りができることを期待していたのでその点は少々期待外れだった。Zoom などを用いての討論会のようなことが実施出来たらよかったのかなとも感じた。

さて本年度の状況は想定しがたいながら、定員制 (30 名) の目一杯となれば、60 名規模の教室に散らばって着席しながらの議論を工夫することになります。得手不得手に加え、通信 (その他を含む) 環境などにより、「Zoom を使うなら参加しない・できない」というケースがあることも念頭に置きつつ、試行錯誤していきます。

【その他の重要事項】

(1) 人間行動学 A (春学期) と人間行動学 B (秋学期) は連動するため、一体としての履修を望みます。

(2) 必須ではありませんが、海部が担当した「心理学 I/II」や「心理学 LA/LB」を履修した方の参加を見込みます。

(3) 当科目は定員制 (30 名) です。履修希望が多い場合、(秋学期のみ参加予定者も含め) 春学期初回 (遅くても第 2 回まで) に参加したなかから選抜します。

(4) 臨床心理士として、生きづらく悩んでいる and/or 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病気」、「心の性」、「心神喪失・耗弱 (こうじゃく)」、「責任能力」の検証も必要でした。責任 (responsibility) とは、反応する (response) 能力 (ability) です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不穏や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自家中毒・矛盾・煩悶 (はんもん) を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪 (たま) らない方ばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事? 「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち (・人権)」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。

(5) オフィスアワー (お喋りタイム?) は、原則として木曜の 4 時間ないし 5 時間に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、「授業内掲示板」または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

(6) 2020/19/18 年度は、次のようなテーマの報告・発表がありました。

続 お砂糖とスパイスなんかじゃない
罪悪感について
持続可能人間
身分差
手を差し伸べることがはばかれるという難解な社会
取っ掛かりとして
正直な話
肉壁
いつまでもハラスメントに苦しみ続ける私たち
きのことたけのこ戦争
“文化的先進”は人間を辞めることなのか?
お砂糖とスパイスなんかじゃない
常識とは何か
私以外の人間は皆ロボット説
他人を引きずり落とす世の中
どうせ見ていないでしょう?
「自粛」と「自由」
ドラえもん〜〜ん!!!
「女の子」と「学ぶこと」
ストレスとの向き合い方について
「女の子」についての質問
岡村 (もうちょっとの間) 頑張れ
絶対に生きたい話
台本にアレンジを加える役者
生きる意味とは
素朴で性悪 (かもしれない) 疑問
“狂いたがっている”かもしれないということ
いきる とは
SNS のような感覚です
誰しもが無敵の人になる可能性があるということ

匿名によるネットバッシング：これからのファンのあり方とは
何故、人は映画版ジャイアンに惚れてしまうのか
分人主義 (dividualism) という生き方：「本当の自分」という幻想
映画『パプリカ』に見られる夢表現について
暴力のない子どもへの教育をしていくために
優生学とその心理的要因
何故、人は容姿に拘るのか?
「認められたい」、その感情は顔ありきなのか?
社会・文化におけるヒロイン像の変遷
観光旅行における心理学
陰キャと陽キャに優劣はあるのか
練馬区女子大生の死体遺棄事件から見るストーキング殺人事件に関する分類について

Are You Righteous??

なぜアイドルの沼にハマるのか
あらゆる場面で嫉妬は害なのか?
『愛がなんだ』から見る恋愛依存
ADHD 型主人公の誕生と衰退
バーナム効果：占いの必要性
「男」と「女」は別の生き物なのか
川崎登戸事件から見る拡大自殺・間接自殺の背景
漫画から読み解く行動心理学
日本における制度と行動規範の乖離：労働環境に焦点を当てて
アスペルガー症候群の人には天才が多い!?
メンヘラカルチャーと「病みかわいい」
相模原障害者施設殺傷事件に見る現代社会の問題
ロボットに心はあるか
ツァイガルニク効果
自己成就予言効果
認知的不協和：自分自身から逃げない勇気
「装う」ということ：アイデンティティと自己実現
「ネタばれ」は悪くない?
パーソナルスペース
承認欲求
犠牲と正義：報復は正義になり得るのか
「君の NO は。」：世界の歪みは誰のせい? 認知バイアスと認知の歪み
バーナム効果とは
「心の監禁」からの脱出
自己欺瞞
安楽死からみる自己決定権について
返報性について
優生思想について
なぜ人は周りからよく見られようとするのか
うつ病への理解
フェティシズムと犯罪者予備軍
「炎上」はなぜ起こるのか
SNS と自己顕示欲：健全な自己顕示欲とは? また、その付き合い方

【Outline and objectives】

This subject is premised on the foundation course "Psychology I/ II " and the advanced applied course "Psychology LA/LB". In the general course "Human behavior", we make a study of action as the mind is expressed.

POL300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：憲法学入門A

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法の基本書を丹念に輪読し、質疑や議論を積み重ねることによって、憲法をより深く学んでいく。憲法条文そのものは、簡素で無機質な文字の羅列に過ぎないが、その土台となっている歴史や思想を踏まえて個々の条文を読み解くことによって、憲法が目指すべき社会像や国家像が見えてくる。この授業では、ゼミ形式による対話の中で、憲法の含意を明らかにしていく。なお、ゼミ形式の授業であるため、通常の講義科目とは異なり、参加者が自主的に調べ、報告し、議論することによって授業を進めていく。そのため、この授業では、憲法に関する知識を学ぶだけではなく、「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につけることも目的とする。

【到達目標】

- ①憲法の基礎をなす思想やその歴史的背景を理解する。
- ②日本国憲法の成立経緯を理解する。
- ③日本国憲法が保障する人権の内容について理解する。
- ④日本国憲法が定める国家機構について理解する。
- ⑤ゼミナールで必要となる「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本国憲法に関する基本書を輪読することによって、基礎的な知識を身につけた上で、さらに掘り下げて考察すべきテーマを設定し、報告者を指定して報告を求める。授業は原則として対面での実施を予定しているが、受講者の意向および感染状況によっては、ZOOMを用いたオンライン授業に変更する場合もある。いずれにしても、ゼミナール形式で行うため、受講者による報告と議論によって授業を進めていく。報告に対しては授業の中でコメントやアドバイスをしてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について説明する。
第2回	近代立憲主義の成立①	基本文献の輪読
第3回	近代立憲主義の成立②	報告と討論
第4回	日本憲法史①	基本文献の輪読
第5回	日本憲法史②	報告と討論
第6回	天皇制①	基本文献の輪読
第7回	天皇制②	報告と討論
第8回	平和主義①	基本文献の輪読
第9回	平和主義②	報告と討論
第10回	人権総論①	基本文献の輪読
第11回	人権総論②	報告と討論
第12回	思想・良心の自由①	基本文献の輪読
第13回	思想・良心の自由②	報告と討論

第14回 全体のまとめ

全体のまとめと補充報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の輪読に当たっては、受講者全員が事前に指定された文献を読み、問題点や疑問点をまとめておく。報告に当たっては、報告者は報告の準備を行うとともに、他の参加者は報告に対する質問を準備する。毎回の授業の後には、自分なりの気づきや考えを整理しておく。なお、本授業の準備学習・復習時間に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長谷部恭男『憲法講話』（有斐閣、2020年）

毛利透『グラフィック憲法入門〔第2版〕』（新世社、2021年）

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容に対する評価（50％）と、授業中の発言頻度および発言内容に対する評価（50％）を合算して評価を行う。なお、学期末にレポートを課すことがある。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミに不慣れな1・2年生が受講者の大半を占めることを考慮し、文献の探し方やレジュメの作り方などの指導にも時間を割く予定である。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn about the Constitution of Japan by carefully reading the basic books of the Constitution and discussing it. The text of the Constitution itself is nothing more than a list of simple words, but by reading each text based on the history and ideas that underlie it, we can understand the social image that the Constitution would aim for. We will clarify the implications of the Constitution in a seminar-style dialogue.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：憲法学入門 B

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期の「教養ゼミⅠ：憲法学入門 A」に引き続き、憲法の基本書を丹念に輪読し、質疑や議論を積み重ねることによって、憲法をより深く学んでいく。憲法条文そのものは、簡素で無機質な文字の羅列に過ぎないが、その土台となっている歴史や思想を踏まえて個々の条文を読み解くことによって、憲法が目指すべき社会像や国家像が見えてくる。この授業では、ゼミ形式による対話の中で、憲法の含意を明らかにしていく。なお、ゼミ形式の授業であるため、通常の講義科目とは異なり、参加者が自主的に調べ、報告し、議論することによって授業を進めていく。そのため、この授業では、憲法に関する知識を学ぶだけではなく、「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につけることも目的とする。

【到達目標】

- ①憲法の基礎をなす思想やその歴史的背景を理解する。
- ②日本国憲法の成立経緯を理解する。
- ③日本国憲法が保障する人権の内容について理解する。
- ④日本国憲法が定める国家機構について理解する。
- ⑤ゼミナールで必要となる「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本国憲法に関する基本書を輪読することによって、基礎的な知識を身につけた上で、さらに掘り下げて考察すべきテーマを設定し、報告者を指定して報告を求める。授業は原則として対面での実施を予定しているが、受講者の意向および感染状況によっては、ZOOMを用いたオンライン授業に変更する場合もある。いずれにしても、ゼミナール形式で行うため、受講者による報告と議論によって授業を進めていく。報告に対しては授業の中でコメントやアドバイスをし、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について説明する。
第 2 回	表現の自由①	基本文献の輪読
第 3 回	表現の自由②	報告と討論
第 4 回	職業選択の自由①	基本文献の輪読
第 5 回	職業選択の自由②	報告と討論
第 6 回	包括的基本権①	基本文献の輪読
第 7 回	包括的基本権②	報告と討論
第 8 回	平等原則①	基本文献の輪読
第 9 回	平等原則②	報告と討論
第 10 回	国会・内閣①	基本文献の輪読
第 11 回	国会・内閣②	報告と討論
第 12 回	裁判所①	基本文献の輪読
第 13 回	裁判所②	報告と討論
第 14 回	全体のまとめ	全体のまとめと補充報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の輪読に当たっては、受講者全員が事前に指定された文献を読み、問題点や疑問点をまとめておく。報告に当たっては、報告者は報告の準備を行うとともに、他の参加者は報告に対する質問を準備する。毎回の授業の後には、自分なりの気づきや考えを整理しておく。なお、本授業の準備学習・復習時間に要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長谷部恭男『憲法講話』（有斐閣、2020 年）

毛利透『グラフィック憲法入門〔第 2 版〕』（新世社、2021 年）

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容に対する評価（50 %）と、授業中の発言頻度および発言内容に対する評価（50 %）を合算して評価を行う。なお、学期末にレポートを課すことがある。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミに不慣れな 1・2 年生が受講者の大半を占めることを考慮し、文献の探し方やレジュメの作り方などの指導にも時間を割く予定である。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn about the Constitution of Japan by carefully reading the basic books of the Constitution and discussing it. The text of the Constitution itself is nothing more than a list of simple words, but by reading each text based on the history and ideas that underlie it, we can understand the social image that the Constitution would aim for. We will clarify the implications of the Constitution in a seminar-style dialogue.

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌A 2017 年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活に密着している自然環境のしくみを理解し、オゾン層の破壊、ヒートアイランドなど人為による気候とその対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により自然環境を理解する。
- ・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
- ・自然環境の変化による異常気象を把握する。
- ・自然環境変化の予測を考察する。
- ・人為によって気候変化した自然環境の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・課題論文をまとめることにより、論文を理解する力をつける。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また、前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。

授業の進め方は2部構成とし、第1に、地球規模から日本列島スケール、小規模までの自然環境変化を取り上げる。第2に、加速する様々な異常気象について説明する。

授業の方法は、気象学、気候学により自然環境に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストまたは課題論文のまとめを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、リアクションペーパーに記載された事項により授業内容を変更することがある。

また、第1回目の授業の際に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。この試験を受けないとその後の受講は認めないので、受講希望者は必ず第1回目の授業に出席し、試験を受けること。

なお、第1回目の授業はZoomによるオンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、気象学・気候学の理解度を確認する。
2	東日本大震災と自然環境問題	甚大な被害をもたらした、10年目となった東日本大震災と自然環境問題の相互作用について考察する。
3	オゾンホール1（成因）	成層圏の気候からオゾンの生成と役割について説明し、オゾンホール成因のメカニズムについて検討する。

4	オゾンホール2（現状と課題）	オゾンホールの現状と今後の課題について考察する。
5	紫外線	オゾン層の減少に関連して、紫外線全般について説明するとともに、人体や動植物に与える影響についても検討する。
6	越境汚染1（酸性雨）	酸性雨の成因、影響及び現状について説明する。
7	越境汚染2（黄砂）	黄砂の飛来から日本における影響を検討し、予測と対策について説明する。
8	人為による気候の気候1（ヒートアイランド）	都市化によるヒートアイランドの成因と現状を説明し、その対応について議論する。
9	人為による気候の気候2（観光鍾乳洞の気候変化）	鍾乳洞が入場者数の増大によって受ける影響について考察する。また、観光鍾乳洞の保護に関するグループ討議を行なう。
10	異常気象1（エルニーニョ現象の成因）	世界的な異常気象をもたらすエルニーニョ現象の成因と観測体制について説明する。
11	異常気象2（エルニーニョ・ラニーニャ現象の影響と予測）	エルニーニョ・ラニーニャ現象が及ぼす影響と予測について解説する。
12	異常気象3（副振動）	急激な気圧変化によって発生するとされる潮位の変動について解説し、その原因を考察する。
13	異常気象4（竜巻・突風・雷）	竜巻・突風・雷、それに増加している急な雨について説明し、近年の状況について解説する。
14	南極の環境保全まとめ	地球環境のバロメーターである南極を説明し、環境保全対策を解説する。 また、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・異常気象を知りつくす本 佐藤典人著 インデックス・コミュニケーションズ
- ・異常気象と人類の選択 江守正多著 角川SSC新書
- ・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－ 吉野正敏著 古今書院
- ・新百万人の天気教室 白木正規著 成山堂書店

【成績評価の方法と基準】

試験は実施しない。評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：20%
- ・小テスト・課題論文：40%
- ・レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、一昨年度は学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、本年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は自然環境のしくみを理解し、その上で人間活動が与えた自然環境の変化について検討することを目的とする。そのため、春学期では自然環境変化と異常気象について説明し、秋学期では地球温暖化について考察する。人間活動による環境変化において、これらは密接に関連してため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとにして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline and objectives】

Understanding the mechanism of the natural environment that is closely related to our daily life, students will consider the artificial changes in the environment like the destruction of the ozone layer and the heat island phenomenon etc... and the solutions. Then students will be able to discuss changes in the natural environment created by human activities.

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌 B 2017 年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類が直面している危機である地球温暖化について理解し、現状を把握する。その上で地球温暖化に対する緩和策と適応策について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により地球温暖化を理解する。
- ・地球温暖化への人為のかかわりについて検討する。
- ・地球温暖化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した地球温暖化の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・地球温暖化の緩和策と適応策について把握し、検討することができる。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。更に、オフィスアワーで課題のレポートに対して、個別に講評する。

授業の進め方は、地球温暖化の実態・予測などを講義し、最後に受講者全員が地球温暖化の緩和策と適応策を発表し、集団討論を実施して各自の考えや意見により議論する。

授業の方法は、気象学、気候学により地球温暖化に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、受講生からの質問には必ず回答するとともに、質問事項により授業内容を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに アラル海とイースタ島	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、講義を始めるにあたり、20 世紀最大の環境破壊と言われたアラル海の状況と森林保護を行わなかったイースタ島の悲劇について紹介し、環境問題を検討する。
2	地球温暖化の概要	地球温暖化の基礎的な知識と対応について解説する。
3	長い時間スケールの気候変化	地球の誕生から現在までの気候の変化を説明する。
4	地球温暖化のしくみと 気温・温室効果ガスの 実態	温室効果、日傘効果から地球温暖化のしくみを説明する。また温室効果ガスとその変化について説明し、気温の長期変動を解説する。

5	高層大気への影響	高層気象観測を解説するとともに、温室効果ガスによる対流圏、成層圏への影響について説明する。
6	海洋の役割と影響	地球温暖化による海洋の役割と海面水位の上昇を説明する。また、海洋汚染についても解説する。
7	地球温暖化の実態（降水・積雪・氷河・海水）	降水・積雪の長期変動、および氷河の衰退、海水の減少について説明する。
8	北極域への影響	現在、最も温暖化が進んでいる北極域について説明し、対応を検討する。また、北極振動についても解説する。
9	南極の状況	地球温暖化により注目されている、南極の状況について説明する。
10	緩和策 1（国際的な取り組み）	IPCC、COP などによる国際的な取り組みを説明する。特に、今年公表される IPCC 第 6 次評価報告書について、詳細に説明する。また、現状の課題について、検討する。
11	緩和策 2（日本の取り組み）	国際情勢にかんがみ、昨年度、日本政府が宣言した脱炭素社会への取り組みを説明する。特に、温室効果ガス削減の実施状況、問題点について考察する。
12	適応策 1（産業分野）	地球温暖化に対する世界と日本の適応への取り組みを紹介する。特に、農業、漁業分野について検討する。
13	適応策 2（災害対応）	集中豪雨、豪雪、洪水、干ばつ、熱中症などに関する適応策の現状を解説する。
14	地球温暖化への対応（地球温暖化の緩和策と適応策の発表と集団討論）とまとめ	地球温暖化の緩和策と適応策について各自で検討してまとめる。また、グループごとに発表して意見交換を行う。更に、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
授業の全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

・地球温暖化時代の異常気象、吉野正敏著、成山堂書店
・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－、吉野正敏著、古今書院
・異常気象と地球温暖化、鬼頭昭雄著、岩波新書
・地球温暖化－そのメカニズムと不確実性－、日本気象学会 地球環境問題委員会編、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：20%
- ・小テスト：40%
- ・レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があり、大変参考になったので、今年度も実施して授業に反映する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は地球温暖化を理解し、その対策を検討することを目的としている。春学期では自然環境の変化と異常気象について説明し、これは地球温暖化と密接に関連している。そのため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline and objectives】

Students will understand that global warming is the crisis we are facing now, and grasp the current situation. In addition, students will be able to discuss mitigation and adaptation measures.

MAT300LA

計算と言語のしくみ

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで、コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され、我々の生活に深く関わっている。その一方で、多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり、その動作原理を身近に触れる機会が十分あるとは思われない。こうした背景を踏まえて、魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組みに焦点を当て、「コンピュータの箱の中がどのようなになっているか?」「そうした機械的な仕組みの上で、形式言語の命令を処理したり、自然言語の意味を分析できるのは何故か?」など数学的な視点を通して解説・実験する。

【到達目標】

本講義では「コンピュータの仕組みの概要を理解すること」を目標としている。（例えば、電卓と PC の本質的な違いを尋ねられた時、皆さんは直ちに説明できるでしょうか?）その上で、実験を通して「コンピュータ上で言語を処理する幾つかの手法を体験して、その有用性を理解すること」をもう一つの目標としている。（例えば、コンピュータに膨大な量の文章を学習させるだけで「東京-日本+フランス」の計算結果として「パリ」と答えるようになります。同様に「法政大学-東京+大阪」の計算結果としてコンピュータは何を答えるのでしょうか?）こうした「処理系の違いに依存しない普遍的な原理」を理解することは、実際にコンピュータを使用する上でも様々な場面で恩恵をもたらすこととなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し、状況によっては、より簡単な方向に修正する可能性がある。対面とオンラインのどちらの形式でも取り組めるようにする予定であるが、詳細は学習支援システムで提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	PC 上でプログラムが動作する様子を観察する。
第 02 回	計算機の歴史	汎用コンピュータの開発の歴史を解説する。
第 03 回	機械と形式言語 (1)	正規言語を処理する機械的な仕組みについて解説する。
第 04 回	機械と形式言語 (2)	文書編集で正規言語の選択構文の活用事例を学ぶ。
第 05 回	機械と形式言語 (3)	文書編集で正規言語の繰返し構文の活用事例を学ぶ。
第 06 回	計算機の理論 (1)	チューリング機械の仕組みと計算の動作を解説する。
第 07 回	計算機の理論 (2)	万能チューリング機械と現代計算機の関係性を解説する。

- 第 08 回 現代計算機の構造 (1) コンピュータの演算装置等の構造を説明する。
- 第 09 回 現代計算機の構造 (2) 2 進数, 10 進数, 16 進数による正整数の表現を説明する。
- 第 10 回 現代計算機の構造 (3) 2 の補数表現による負整数の表現方法を説明する。
- 第 11 回 機械学習と自然言語 (1) Google Colab 上で Python プログラムの実行方法を学ぶ。
- 第 12 回 機械学習と自然言語 (2) 日本語の文章を品詞に分解する処理を学ぶ。
- 第 13 回 機械学習と自然言語 (3) 青空文庫の小説を使って機械学習の方法を学ぶ。
- 第 14 回 機械学習と自然言語 (4) 学習済みモデルを用いてシラバスの文章を分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題 (40%)、計算機実習 (50%) を行い、平常点 (10%) と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整（例えば、機械学習による自然言語処理の内容を多めにするなど）に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（これまでに余り触れたことがない内容だと思うので、高度で細かな部分には踏み込まずに、文系の学生にとって負担なく概要の理解・体験ができれば十分と思っています。実験についても、PC の電源を入れるところから確認しながら気軽に進める予定です。）

【Outline and objectives】

We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation for computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.

MAT300LA

コンピュータと数理の活用

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学で習得する様々な計算の原理自体は万能なものであるが、それらを実際に活用する段階になると手間がかかることが多い。（例えば、平均値を計算する方法自体は分かっているが、実際に 1000 人分のデータの平均値を手で計算する機会はない。）その一方で、身の回りには問題がはむしろ大規模になりがちであり、大きな問題こそ答を知りたいという現状がある。こうしたジレンマに対して、コンピュータによって人間の計算力を補い、実生活で直面するような大規模な問題の答を求める技術は重要である。そこで、講義では、様々な分野の中で「数学の原理」と「コンピュータの計算力」を同時に活用する経験を積むことを主な目的としている。

【到達目標】

講義では「プログラムの全てを自分で設計・作成すること」までは想定せず、あくまでも用意したプログラムを活用して「出来るだけ多くの事例に基づいて、コンピュータと数理を組み合わせた活用の勘を養うこと」を目標としている。各々の課題で扱う数学やアルゴリズムの内容は独立していて、利用するシステムも様々なものがある。（1 つの課題が理解できなくても、次の課題に影響を与えることが少ないことになります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し、状況によっては、より簡単な方向に修正する可能性がある。対面とオンラインのどちらの形式でも取り組めるようにする予定であるが、詳細は学習支援システムで提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入と準備	プログラムを用いた問題解決をデモンストレーションする。
第 02 回	計算機と数学 (1)	整数の理論を利用して、素数の分布を計算してみる。
第 03 回	計算機と数学 (2)	級数などを利用して、円周率を計算してみる。
第 04 回	計算機と数学 (3)	コンピュータを利用した統計的解析の応用事例を学ぶ。
第 05 回	行列計算の応用 (1)	基礎となる数学として、様々な行列の計算を学ぶ。
第 06 回	行列計算の応用 (2)	今後 100 年間の日本の世代人口の推移を予測する。
第 07 回	行列計算の応用 (3)	ランダムウォークに基づくシミュレーションを行う。
第 08 回	行列計算の応用 (4)	ディープラーニングへの応用事例を学ぶ。
第 09 回	線形計画法 (1)	線形計画法の例と図形的な解法を学ぶ。

第 10 回 線形計画法 (2)

シンプレックス法の解法とプログラムを紹介する。

第 11 回 線形計画法 (3)

プログラムを利用して経営計画の最適化を行う。

第 12 回 暗号の数理 (1)

基礎となる数学として、Euclid 互除法などの計算を学ぶ。

第 13 回 暗号の数理 (2)

公開鍵暗号の特徴とその計算原理を学ぶ。

第 14 回 暗号の数理 (3)

実際にプログラムを通して暗号通信の実験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題 (40%)、計算機実習 (50%) を行い、平常点 (10%) と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（これまでに余り触れたことがない内容だと思うので、高度で細かな部分には踏み込まずに、文系の学生にとって負担なく概要の理解・体験ができれば十分と思っています。実験についても、PC の電源を入れるところから確認しながら気軽に進める予定です。）

【Outline and objectives】

We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, a method to use computer programs is explained in this course. More specifically, the effectiveness of computer programs is observed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography.

MAT300LA

確率の世界 A

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思いついて入っている人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し、代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味をもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	確率の基礎 1	確率とは
第 3 回	確率の基礎 2	確率の性質
第 4 回	確率の基礎 3	確率空間とは
第 5 回	確率の基礎 4	事象の独立性
第 6 回	確率の基礎 5	確率変数の使い方
第 7 回	確率の基礎 6	期待値とは
第 8 回	確率の基礎 7	期待値の性質
第 9 回	確率の基礎 8	分散とは
第 10 回	確率分布 1	分散の性質
第 11 回	確率分布 2	二項分布とは
第 12 回	確率分布 3	二項分布の性質
第 13 回	確率分布 4	二項分布の期待値と分散
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and methods in probability.

MAT300LA

確率の世界 B

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思いついて入っている人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学習する。授業内で興味のもてるような題材に数多く接することで、より具体的な統計学の理解を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	様々な分布 1	離散分布とは
第 3 回	様々な分布 2	ポアソン分布とは
第 4 回	様々な分布 3	ポアソン分布の性質
第 5 回	様々な分布 4	ポアソン分布と二項分布
第 6 回	様々な分布 5	正規分布とは
第 7 回	様々な分布 6	正規分布の性質
第 8 回	様々な分布 7	正規分布と二項分布
第 9 回	推定と検定 1	標本の定義
第 10 回	推定と検定 2	標本平均と標本分散
第 11 回	推定と検定 3	点推定
第 12 回	推定と検定 4	区間推定
第 13 回	推定と検定 5	仮説と棄却
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「確率の世界 A」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and methods in statistics.

PHY300LA

相対性理論と宇宙 A

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中には相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、特殊相対性理論の基本的な考え方を学び、現実の世界で何が起きているのか科学的な理解を深める。

【到達目標】

- ・特殊相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・特殊相対性理論の効果が顕著になるような光のスピードに近い速さで運動したりすることを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	運動に関する考察	天動説から地動説、ニュートンの運動法則、ガリレオの意味での相対性原理について
[3]	光に関する考察	光の速さや光で情報が伝わることについて
[4]	エーテル	エーテルとは何か理解し、エーテルの検出をしようとした実験とその結果の持つ意義について
[5]	同時とは	思考実験を通じて、同時であるということの意味を考える。
[6]	時間の遅れ	光時計を用いた思考実験を通じて、時間の遅れについて考える。
[7]	長さの収縮	物の長さ、あるいは2地点の距離を測る思考実験を通じて、長さ（距離）の収縮について考える。
[8]	時空図	時空の中で起きている現象（事象とも呼ぶ）を抽象的に表現する方法である時空図について

[9]	速度の合成則と質量	動いている観測者から見た物体の速さがどうなるのか考え、速度の合成則と質量の変化について考える。
[10]	質量とエネルギー	公式 $E=mc^2$ の意味について考える。
[11]	ミューオン	ミューオンという素粒子について、その性質と相対論との関係について学ぶ。
[12]	核融合反応	太陽の中で起こっている核融合反応について
[13]	相対性理論の応用	GPS や核融合と相対論との関係について
[14]	まとめ	特殊相対性理論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。
- ・相対性理論は論理的に難しくない。ただ結論が日常経験とすごく離れているので、納得するには時間がかかる。簡単な演習問題などを課すので納得するまで反芻する習慣をつけること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回学習システムにより資料を配布する）

【参考書】

- 一般向けの相対性理論の解説書として：
 - ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）
 - ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、授業参加（20%）、期末レポート（40%）を基本とする。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of special theory of relativity, which becomes evident when one moves as fast as the speed of light.

PHY300LA

相対性理論と宇宙 B

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中には相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、一般相対性理論の基本的な考え方を学び、我々の住んでいる宇宙に関する理解を深める。

【到達目標】

- ・一般相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・一般相対性理論の効果が顕著になるような非常に重力の強い場所に行くことなどを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	ニュートンのリングと月	万有引力の法則はどのように導かれたのか理解する。
[3]	加速度運動と慣性力	加速度運動をしている観測系における物体の運動について
[4]	重力と時間	時間の進み方に対する重力の影響について
[5]	重力と空間	空間が歪んでいるとはどういうことか、空間の幾何学について考える。
[6]	時空間の歪み	重力が作用しているときの光の進み方について
[7]	宇宙の広がり（宇宙の理解）	我々は宇宙をどのように理解してきたか
[8]	宇宙の大きさと膨張宇宙	膨張宇宙の発見とビッグバン宇宙論について
[9]	星の誕生と死・元素合成	太陽のような星の一生と、我々を形作っている元素の歴史について
[10]	アインシュタイン方程式	一般相対論の基礎であるアインシュタイン方程式が、何を意味しているのかについて学ぶ。
[11]	膨張宇宙論	我々の住んでいる宇宙はどうなっているのか、そしてどうなっているのかを考える。

- [12] ブラックホール（1） ブラックホールとは何なのか、そして、その観測方法について学ぶ。
- [13] ブラックホール（2） 銀河系の中心に存在する巨大ブラックホールについて
- [14] 重力波 重力波とは何か、重力波の観測について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。
- ・相対性理論は論理的に難しくない。ただ結論が日常経験とすごく離れているので、納得するには時間がかかる。簡単な演習問題などを課すので納得するまで反芻する習慣をつけること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

一般向けの相対性理論の解説書として：

・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著

（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）

・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論

（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）

（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、授業参加（20%）、レポート（40%）を基本とする。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of general theory of relativity, which becomes evident when one is close to a place of very strong gravity field.

PHY300LA

現代の錬金術 A

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。

本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。
- ・元素について、個々の元素の化学的性質や物理的性質だけでなく、社会における利用例などを含めて多角的な観点から理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は資料配布型オンデマンド授業として実施し、資料は学習支援システムにより配布する。配布資料では、高校で物理や化学を履修しなくても理解できるよう、平易に説明する。毎回、授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第 2 回	原子は存在するのか？（1）	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第 3 回	原子は存在するのか？（2）	気体の法則と分子運動論について
第 4 回	原子は存在するのか？（3）	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第 5 回	原子は構造を持つのか？（1）	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第 6 回	原子は構造を持つのか？（2）	第 5 回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する
第 7 回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について

第 8 回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第 9 回	原子構造（1）	電子配置と元素の周期性、化学結合のしくみについて解説する
第 10 回	原子構造（2）	磁性など、量子力学により説明可能な物質の性質について解説する
第 11 回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第 12 回	原子核と放射線	原子核の性質や放射線について
第 13 回	春学期のまとめ（1）	春学期授業のまとめを行う。また、春学期の授業内容に関連する話題を紹介する
第 14 回	春学期のまとめ（2）	第 13 回までに実施した小テストの講評や解説を中心に、春学期の授業内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明と資料作りを心がけます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain attempts of the alchemy in the ancient and middle ages
- ・ Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
- ・ Discuss the evidences that indicates the existence of atoms in scientific laws
- ・ Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
- ・ Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit

PHY300LA

現代の錬金術 B

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金（元素）を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。

本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素が何かを学ぶと同時に、それに基づき、宇宙において物質がどのように誕生し、進化してきたのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。特に、物質の最小単位が何で、それによって身の回りの物質がどのように構成されているのか、それらは宇宙の中でどのように形成されたのかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は資料配布型オンデマンド授業として実施し、資料は学習支援システムにより配布する。配布資料では、高校で物理や化学を履修しなくても理解できるよう、平易に説明する。毎回、授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	20 世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第 2 回	核力	原子核を結び付けている力（核力）とそのしくみについて
第 3 回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第 4 回	原子核の反応	原子核の崩壊を含め核反応や質量エネルギーについて解説する
第 5 回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第 6 回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第 7 回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する

第 8 回 標準模型

第 7 回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する

第 9 回 加速器

加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験を解説するとともに、加速器のそれ以外の分野での利用例を紹介する

第 10 回 宇宙における元素合成（1）

元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり（ビッグバン）と元素合成についても解説する。

第 11 回 宇宙における元素合成（2）

恒星の一生と恒星内部での元素合成について

第 12 回 宇宙における元素合成（3）

恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について

第 13 回 現代の錬金術

これまでの授業内容を踏まえ、人工的に元素を生成・変換する方法について解説する

第 14 回 まとめ

秋学期授業のまとめを行う。第 13 回までに実施した小テストの講評や解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明と資料作りを心がけます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
- ・ Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
- ・ Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
- ・ Describe the importance of accelerators in modern physics
- ・ Explain the nucleosynthesis in the universe
- ・ Discuss the method to produce gold from the other elements based on the knowledge of the modern physics

PHY300LA

原子核と素粒子 A

2017 年度以降入学者

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この宇宙において元素はどのようにして誕生したのか、ということを理解するために、この授業では、この宇宙には（最近命名された原子番号 113 番ニホニウムなどを含めて）どのような元素がどれくらいの割合で存在するのかということからスタートし、元素の物理学的な実体である原子についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。また元素の存在比や原子の構造を理解することによって、「原子核と素粒子 B」での原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義の全体的な紹介する。
第 2 回	元素の周期律表	周期律表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第 3 回	元素の存在比（地球）	地球上の生物は、どのような元素からできているのか。
第 4 回	元素の存在比（宇宙）	地球以外の天体は、どのような元素からできているのか（最新研究も含めて）
第 5 回	結晶構造	物体は 3 次元的に規則正しい立体的構造をもっている。それはなぜなのか。
第 6 回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質の研究について、解説する。
第 7 回	原子のスペクトル	原子からはどのような光（電磁波）が放出されるのか、解説する。
第 8 回	原子の構造（電子の発見）	電子はどのようにして発見されたのか、紹介する。
第 9 回	原子の構造（原子核の発見）	原子核発見に関する研究について、紹介する。

第 10 回	原子の構造（前期量子論）	ボーアによる原子構造研究について、紹介する。
第 11 回	原子の構造（電子配置）	第 5 回の内容に関して、物体が立体的構造をもつメカニズムについて、解説する。
第 12 回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象について解説する。
第 13 回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第 14 回	まとめ	まとめを行う。更に「原子核と素粒子 B」についての紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」からの課題 70%と期末試験の成績 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline and objectives】

This course teaches the elementary particle physics, such as the abundance ratio of elements in the universe and the structure of atom and so on. It is the aim of this course to help students understand the element and atom.

PHY300LA

原子核と素粒子 B

2017 年度以降入学者

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この授業では、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はいったいどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義全体の説明と共に、20 世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第 2 回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第 3 回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊等に伴うエネルギーについて、解説する。
第 4 回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について解説する。
第 5 回	核分裂反応の応用	原子炉等について紹介する。
第 6 回	核融合反応の応用	熱核融合炉等について紹介する。
第 7 回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について、解説する。
第 8 回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて、解説する。
第 9 回	太陽ニュートリノ問題、ニュートリノ振動	スーパーカミオカンデ等で行われている、ニュートリノ研究について紹介する。
第 10 回	素粒子（クォークとレプトン）	現在までに判明している素粒子の種類や分類について、紹介する。
第 11 回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について、紹介する。
第 12 回	宇宙の進化	ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について、解説する。

第 13 回 宇宙の大規模構造と宇宙 最新の研究について紹介する。
宙論

第 14 回 まとめ 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」からの課題 70%と期末試験の成績 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline and objectives】

This course teaches the elementary particle physics, such as the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei, the evolution of star, the elementary particle and the universe and so on. It is the aim of this course to help students understand not only elementary particle and the universe but also the nucleosynthesis in the universe.

BIO300LA

教養ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

島野 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域を訪れ、とびきりの自然に触れ、実際に様々な調査、実習を通して、自然と私達の関係を見つめ直す。生物としての人間の生活も考える。地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か。生命とは何か。自然と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついている。現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える。

【到達目標】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に討議、授業およびゼミ形式で行う。夏休みに沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域の現地に訪れ、3泊4日での現地調査、あるいは実習、ディスカッション等をおこなう。再び、事後には討議、授業およびゼミ形式で論文形式にまとめる。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を「論文」にまとめ、論文集を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域で行うフィールドワークについて： パソコンの使い方： 調査の進め方
第2回	南西諸島の自然	南西諸島の自然について
第3回	南西諸島の歴史	南西諸島の歴史について
第4回	生物地理学とは	生物地理学概論
第5回	博物学・学名	博物学について、生物の名前の付け方。
第6回	グループワーク（1）	沖縄県の抱える問題（1）
第7回	グループワーク（2）	沖縄県の抱える問題（2）
第8回	グループワーク（3）	沖縄県の抱える問題（3）
第9回	グループ調査（1）	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第10回	グループ調査（2）	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第11回	グループ調査（3）	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第12回	発表（1）	事前調査の発表（1）
第13回	発表（2）	事前調査の発表（2）

第14回 まとめ、

各自の発表に基づいたまとめ、
フィールドワークのガイダンス、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。
また、レポートを課すので、授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能ですので行わないように。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う実験についてのレポート（50%）および授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（50%）を主たる評価とします。試験は行いません。

※オンライン開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

当然ながら、現地にフィールドワークに行きたいという意見が多いが、コロナ禍の状況をみて判断したいと思います。
メール添付などを用いて、フィードバックを行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント資料の作成をおこなってもらいます。適宜パソコンを使用できるようにしておいて下さい。

【その他の重要事項】

- 1) 現地調査のための、交通費宿泊代が必要です（約 70,000 円ガイド料宿泊料交通量など+保険料 金額は前後することがあります。）。ガイダンスに必ず出席して下さい。
- 2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。
- 3) 2017 年度以降入学生：【半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」として履修する学生】半期のみの履修登録が可能となる方、教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。
※どちらか一方だけの授業は履修できません。
- 4) 2016 年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学4（自然史）」として履修する方、年間科目として履修する方は、9 月または 2 月のフィールドワークへの参加が可能です。ことを前提とし、履修登録を行う
- 5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。
- 6) 9 月の初・中旬に沖縄でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、翌年 2 月に再スケジュールとする。

【Outline and objectives】

We consider the relationship between the biodiversity and culture of human being in Okinawa region, Southern Japan.

BIO300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

島野 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2〜4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域を訪れ、とびきりの自然に触れ、実際に様々な調査、実習を通して、自然と私達の関係を見つめ直す。生物としての人間の生活も考える。地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か。生命とは何か。自然と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついている。現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える。

【到達目標】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、フィールドワーク（1）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域で行うフィールドワークについて；
第 2 回	ガイダンス、フィールドワーク（2）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域概説
第 3 回	ガイダンス、フィールドワーク（3）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域概説
第 4 回	ガイダンス、フィールドワーク（4）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	森林ツアー、森林の生物多様性

第 5 回	ガイダンス、フィールドワーク（5）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	森林ツアー、湿地の生物多様性
第 6 回	ガイダンス、フィールドワーク（6）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	森林ツアー、夜の森林の生物多様性
第 7 回	ガイダンス、フィールドワーク（7）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	奥集落での共同体とは
第 8 回	ガイダンス、フィールドワーク（8）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	奥集落での共同体とは
第 9 回	ガイダンス、フィールドワーク（9）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	イノリの生物多様性
第 10 回	ガイダンス、フィールドワーク（10）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	ヤンバルの森林保護
第 11 回	討議（1）【現地フィールドワーク】	世界遺産指定について、
第 12 回	討議（2）【現地フィールドワーク】	エコツーリズムについて
第 13 回	発表【現地フィールドワーク】	各自で調べたテーマについて発表と討議をおこなう。
第 14 回	まとめとガイダンス【現地フィールドワーク】	発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
受け身の姿勢では、学習をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。
また、レポートを課すので、授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの **copy & paste** は、容易に判明することが可能です。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う実験についてのレポート（50%）および授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（50%）を主たる評価とします。試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

当然ながら、現地にフィールドワークに行きたいという意見が多いが、コロナ禍の状況をみて判断したいと思います。
メール添付などを用いて、フィードバックを行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント資料の作成をおこなってもらいます。適宜パソコンを使用できるようにしておいて下さい。

【その他の重要事項】

- 1) 現地調査のための、交通費宿泊代が必要です（約 70,000 円ガイド料宿泊料交通量など+保険料 金額は前後することがあります.）。ガイダンスに必ず出席して下さい。
- 2) 受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合には、選抜を行いますので、最初の授業には必ず出席して下さい。
- 3) [半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」として履修する学生] 半期のみの履修登録が可能となる方。
教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。 ※どちらか一方だけの授業は履修できません。
- 4) 年間科目「自然史」または哲学専攻科目「人間学Ⅳ（自然史）」として履修する方。
年間科目として履修する方は、9 月または 2 月のフィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行う
- 5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード 2 枚で 1 回欠席となります。
- 6) 9 月の初・中旬に沖縄でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、翌年 2 月に再スケジュールとする。

【Outline and objectives】

We consider the relationship between the biodiversity and culture of human being in Okinawa region, Southern Japan.

CHM300LA

イオンの科学 A

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義と実験を行います。授業ごとに簡単な実験を行い、ミニレポートを課します。高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識します。実験回で提出する小レポートについて、次回はじめに解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	原子の構造	原子の構造と性質
第 3 回	砂糖と塩	イオンと有機化合物の違いについて
第 4 回	塩の溶解	水に溶けやすい塩と溶けにくい塩について
第 5 回	電子の配置	イオンになりやすい原子について
第 6 回	炎色反応	各種原子固有の光について
第 7 回	ホウ砂球反応	各種イオンを含む水溶液の色について
第 8 回	3d 遷移金属	電子の軌道について
第 9 回	水と酸塩基	水中のイオンの構造について
第 10 回	イオンの化学反応	イオンと化学物質の結びつきについて
第 11 回	金属イオンの分離 1	イオンの沈殿反応について
第 12 回	金属イオンの分離 2	沈殿生成によるイオンの分離
第 13 回	金属イオンの定性分析	未知試料に含まれる金属イオンの検出
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課すレポートで平常点 (配分 70%) を評価し、学期末試験 (配分 30%) とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行われます。
席に限りがあることや、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。
受講希望者が 20 名以上の場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行います。

【Outline and objectives】

This course introduces the fundamental principles of ions. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM300LA

イオンの科学 B

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義と実験を行います。授業ごとに簡単な実験を行い、ミニレポートを課します。高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識します。実験回で提出する小レポートについて、次回はじめに解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	溶液の濃度	溶液に含まれる分子、イオンの数について
第 3 回	中和反応と pH の変化	中和反応における pH 変化の測定
第 4 回	弱酸と解離定数	物質としての酸、塩基の強弱を表す指標について
第 5 回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて
第 6 回	ボルタの電池と標準電位	電池における電解質の役割について
第 7 回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験
第 8 回	亜鉛めっきと合金	金属銅への亜鉛めっきとその合金の作成
第 9 回	無電解めっき	めっきの歴史と電気を使わないめっきについて
第 10 回	自己触媒型無電解めっき	めっきされた金属が触媒となって進行するめっき反応について
第 11 回	フォトレジスト	光化学反応による構造変化によって溶解度が変わる仕組みについて
第 12 回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止するための方法について
第 13 回	イオン液体	イオンのみからなる液体とその応用について
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課す小レポートを平常点 (配分 70%) とし、学期末試験 (配分 30%) とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行います。

席に限りがあることや、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。

受講希望者が 20 名以上の場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行います。

ただし、「イオンの科学 A,B」通年履修者を優先しているため、抽選を行わず、履修を受け付けない場合があります。

【Outline and objectives】

This course introduces the fundamental principles of ions. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM300LA

光と色の科学 A

2017 年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

人間の目がどうやって色を認識するのが理解できます。ろうそくの炎、蛍光灯、LED などが光る仕組みと違いを学ぶ。自然界にある色、あるいは人工的に作り出された色と光の関係を科学的に理解する。分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

実験室での対面授業を基本とします。講義が主体ですが、できるだけ実際に見たり、触れたりしながら授業を進めたいので、いろいろな道具を使ったり、簡単な実験も行う予定です。講義の最後に、毎回、簡単な課題を出して、理解度を確認します。課題の解説は原則、翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	1 年間分の講義の中身についてどのようなものか紹介します。
第 2 回	光と色の混色	光を混ぜ合わせた時と色素を混ぜ合わせた時の違いについて学びます。
第 3 回	視覚と色覚	目の構造と色覚についてその仕組みを学びます。
第 4 回	色覚の変遷と色覚異常	色覚異常の仕組みと視覚、色覚の進化について解説します。
第 5 回	電磁波と光	光は電磁波の一種です。大きな範囲の電磁波について学びます。
第 6 回	光の利用	身の回りにおける光や電波の利用について解説します。
第 7 回	光源の種類と発光の仕組み その 1（放電管・蛍光灯・電球）	ネオンサインと蛍光灯、電球の発光原理の違いについて学びます。
第 8 回	光源の種類と発光の仕組み その 2（電球と LED）	LED の発光原理を解説します。同じ電気で発光しているのに電球や蛍光灯ともまた違った原理で光っています。

第 9 回	オーロラ	オーロラの発光原理を学びます。
第 10 回	生物発光	ホタルや夜光虫、オワンクラゲの発光原理とその応用を学びます。
第 11 回	化学発光（実験）	ルミノール発光は血痕鑑定という犯罪捜査に利用されていますが、その仕組みを実験を通じて学びます。
第 12 回	屈折と散乱	屈折や散乱の仕組みを学び、虹や空の色を理解する。
第 13 回	干渉と偏光	干渉や偏光の仕組みを学び関連する身の回りの現象や応用例を理解する。
第 14 回	まとめ	春学期の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日ごろから身の回りの光や色について感心をもち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】
中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.
江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】
毎回科す課題への取り組み（30 %）と期末試験の結果（70 %）を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】
授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっており、理科が不得手な人にはちょっと難しい内容となっているようです。基本的なところから解説していますが、同じことを繰り返し説明する時間的余裕はありません。欠席しがちな人は履修しても理解できずに終わるものと思いますので、確実に出席できる方の履修を希望します。20 年度は実験室での対面授業ができず、道具を使っのての実験や観察ができませんでした。21 年度はコロナ対応のもと、実験室での対面授業とし、実験や観察も授業内に取り入れる予定です。

【その他の重要事項】
いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員（24 名）を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず初回の授業に出席してください。定員を超えた場合はその中から選抜を行います。A と B、両方の受講が望ましいので、秋学期の B についても春学期の初回で選抜を行います。

【Outline and objectives】
The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course “A” deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception.

CHM300LA

光と色の科学 B

2017 年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
単位数：2 単位
法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】
顔料と染料の違い、特徴を理解する。
色のあるものとなないものの違いが何に起因するのか理解できる。
色が条件によって変化する仕組みを理解する。
色を表現する方法、染色する技法について学ぶ。
分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
実験室での対面授業を基本とします。講義が主体ですが、できるだけ実際に見たり、触れたりしながら授業を進めたいので、いろいろな道具を使ったり、簡単な実験も行う予定です。講義の最後に、毎回、簡単な課題を出して、理解度を確認します。課題の解説は原則、翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
第 1 回	光と色の関係	光の 3 原色と色素の 3 原色の関係を人間の視覚とともに解説します。
第 2 回	伝統色名と表色系	基本色や伝統色名の語源や、色を伝える方法を学びます。
第 3 回	古代の色素	高松塚古墳の壁画や、古代に使用された染色材料など、古代の人々が利用した色材について解説します。
第 4 回	顔料と染料	顔料と染料の違いを学びます。
第 5 回	遷移金属イオンの色	電子配置と色の関係を金属イオンをもとに解説します。
第 6 回	宝石の色	宝石を題材に、顔料が光を吸収する仕組みを学びます。
第 7 回	有機化合物の構造と結合	化学結合の仕組みと多様な有機化合物の反応性を学習します。
第 8 回	染料分子の構造	染料分子の光吸収の仕組みを解説します。
第 9 回	自然界の色	自然界で利用されているいろいろな色素の種類と構造を学びます。

第10回	光合成と呼吸	光合成と呼吸の仕組みを学び、合わせて関連する分子の類似点を学びます。
第11回	染色の方法と種類	伝統的な染色の技法を学びます。
第12回	染色実験	草木染を実際に行います。
第13回	身の回りの色	銀塩写真やボラロイド、温度で色の変わるグッズの仕組みについて学びます。
第14回	まとめ	授業の内容の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心をもち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.

江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回科す課題への取り組み（30％）と期末試験の結果（70％）を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっており、理科が不得手な人にはちょっと難しい内容となっているようです。基本的なところから解説していますが、同じことを繰り返し説明する時間的余裕はありません。欠席しがちな人は履修しても理解できずに終わるものと思いますので、確実に出席できる方の履修を希望します。20年度は実験室での対面授業ができず、道具を使つての実験や観察ができませんでした。21年度はコロナ対応のもと、実験室での対面授業とし、実験や観察も授業内に取り入れる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員（24名）を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず春学期の「光と色の科学A」の初回の授業に出席してください。定員を超えた場合はその中から選抜を行います。AとB、両方の受講が望ましいので、秋学期のBについても春学期の初回で選抜を行います。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course “B” deals with characteristic of pigment and dye, correlation between color and molecular structure, how to dye cloth, and color coordination system.

CHM300LA

物質の科学 A

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第1回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。毎回の授業では、まず、学習支援システム（HOPPII）からプリント教材をダウンロードして各自で印刷します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。基本的には、講義や演習はオンライン授業で、実験は対面授業にて行う予定です。実験日は、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマごとに課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題はHOPPIIをとおして提出します。提出していただいた課題については次回の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	化学実験入門 (1)	安全に化学実験を行うための注意事項やノートの取り方について講義します。
第3回	化学実験入門 (2)	実験器具や試薬類の取り扱い方法を学習します。
第4回	レジンアートの解説	レジンアートに関連する化学について学習し、実際の作成に備えます。

第 5 回	ドライフラワーの作成	シリカゲルを使用してドライフラワーを作成し、シリカゲルの構造や性質について理解します。
第 6 回	シリコン樹脂の合成	二液混合型の透明シリコン樹脂を合成します。その際、第 5 回で作成したドライフラワーの入った型に樹脂を流し込み、レジンを硬化して完成させます。
第 7 回	化学基本事項の説明 (1)	物質の基本単位である分子について概要を講義します。
第 8 回	化学基本事項の説明 (2)	分子の立体的な構造がどのように決まるのかを学習します。
第 9 回	化学基本事項の説明 (3)	簡単な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第 10 回	化学基本事項の説明 (4)	石けんなどの複雑な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第 11 回	香料の精製と分析	水蒸気蒸留およびクロマトグラフィーについて原理を学習します。
第 12 回	香料 (ラベンダー) の精製	水蒸気蒸留によってラベンダーのつばみから精油を取り出します。
第 13 回	香料 (ラベンダー) の分析 (1)	薄層クロマトグラフィーの原理を学習し、薄層プレートやキャピラリの準備を行います。
第 14 回	香料 (ラベンダー) の分析 (2)	ラベンダー精油について薄層クロマトグラフィーを行い、成分の分析を行います。なお、残ったラベンダー精油は、物質の科学 B (秋学期開講) で合成する石鹸の香料として使用します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト (教科書)】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、出席 (25 %)、各テーマ毎に提出するレポート (25 %)、および、平常点 (50 %) によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「物質の科学 B」も引き続き受講してください。受講希望者が定員 (24 名) を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は第 1 回目の授業に必ず出席してください。

また、本授業の直後、すなわち、水曜日 4 時限に「教養ゼミ I・II」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに HOPPII の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline and objectives】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, we experience chemical analyses as well as syntheses. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture.

CHM300LA

物質の科学 B

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目指します。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom 等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第1回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。毎回の授業では、まず、学習支援システム（HOPPII）からプリント教材をダウンロードして各自で印刷します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。基本的には、講義や演習はオンライン授業で、実験は対面授業にて行う予定です。実験日は、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマごとに課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題は HOPPII をとおして提出します。提出していただいた課題については次回授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第 2 回	水の硬度	石けんの泡立ちに関係する水の硬度について概要と測定方法を解説します。
第 3 回	定量分析 (1)	水道水や天然水のカルシウムイオン濃度を測定します。
第 4 回	定量分析 (2)	水道水や天然水の硬度を測定します。
第 5 回	油脂の構造と種類	石けんの原料である油脂について分子構造と種類を学習します。

第 6 回 けん化価 (1)

中和滴定によりけん化価を測定します。2 回にわたって測定し精度を確保します。(第 1 回)

第 7 回 けん化価の測定 (1)

物質の基本単位である分子について概要を講義します。

第 8 回 けん化価の測定 (2)

中和滴定によりけん化価を測定します。2 回にわたって測定し精度を確保します。(第 2 回)

第 9 回 けん化価 (2)

測定したけん化価から、石けんを合成する際に必要な水酸化ナトリウムの量がどのように計算されるか学習します。

第 10 回 オリーブ油石けんの合成

測定したけん化価を利用して、オリーブ油石けんを合成します。

第 11 回 やし油石けんの合成

測定したけん化価を利用して、やし油石けんを合成します。

第 12 回 透明石けんの合成

測定したけん化価を利用して、透明石けんを合成します。

第 13 回 蒸留・比重

蒸留・比重など物質に関する基本概念を学習し実験方法を解説します。

第 14 回 アルコール濃度の測定 蒸留前・蒸留後の酒類のアルコール濃度を比重測定を通して決定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、出席 (25 %)、各テーマ毎に提出するレポート (25 %)、および、平常点 (50 %) によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「物質の科学 A」から連続して受講してください。受講希望者が定員 (24 名) を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は春学期の「物質の科学 A」の第 1 回目の授業に必ず出席してください。

また、本授業の直後、すなわち、水曜日 4 時限に「教養ゼミ I・II」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

【Outline and objectives】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, we experience chemical analyses as well as syntheses. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture.

PRI300LA

I T リテラシー

2017 年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（Information Communication Technology）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期は、コンピュータの基礎（ソフトウェア・ハードウェア）からネットワーク、プログラミング言語等、コンピュータ科学に関する話題について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第 3 回	2 進数、8 進数、16 進数（1）	2 進数について基礎的な概念を学び、応用である 8 進数、16 進数について学ぶ。
第 4 回	2 進数、8 進数、16 進数（2）	2 進数の計算から、8 進数、16 進数の計算について学ぶ。
第 5 回	2 進数、8 進数、16 進数（3）	2 進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第 6 回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第 7 回	情報システム（1）	CMS（Contents Management System）を中心とした情報システムについて学ぶ。
第 8 回	情報システム（2）	LMS、SNS を中心とした情報システムについて学ぶ。
第 9 回	情報セキュリティ（1）	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第 10 回	情報セキュリティ（2）	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第 11 回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。

第 12 回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第 13 回	インダストリー 4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料（PDF）をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

春学期ウェブ試験と平常点において合計が 50%、出席点が 50% で評価する。

【補足】

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合がある。具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に PC の画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers.

PRI300LA

コンピュータ科学

2017 年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は情報学を中心に応用事例について学ぶ。具体的には、システム開発における要求分析、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	ネットワーク（1）	ネットワークの基礎について学ぶ。
第 3 回	ネットワーク（2）	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第 4 回	ネットワーク（3）	ネットワークの応用について学ぶ。
第 5 回	オペレーティング・システム（1）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 6 回	オペレーティング・システム（2）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 7 回	データベース	データベースについて学ぶ。
第 8 回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第 9 回	ソフトウェア工学（2）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第 10 回	人工知能（1）	人工知能の基礎について学ぶ。
第 11 回	人工知能（2）	人工知能の応用について学ぶ。
第 12 回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。
第 13 回	コンパイラ（2）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を各 2 時間行うことを標準とし、時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期期末試験と平常点の合計が 70%、出席点が 30% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に PC の画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course for students is to learn the basics of Computer Science. Students will learn a wide range of theoretical and engineering aspects of computers, including the basics, science, and applied technology.

BIO300LA

人間と地球環境

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、国連の持続可能な開発目標（SDGs）が注目され日本も含め、世界各地で様々な取り組みがされています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワード、人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎に加え社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。そうすることで、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持てるようになると思います。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1）種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2）環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3）各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講座では「持続可能性」の観点から様々な話題にふれますが、大まかに二部に分けられます。第一に、私たちの暮らしの場をつくり様々な資源の供給源となる自然環境について、生態系・生物多様性の基本的特徴について学習します。第二に、私たちの生活に欠かさない食糧供給や自然資源の利用に目を向け、農業や資源管理に関連する環境問題や社会的問題について学習します。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、グループワークの機会も設ける予定です。また「学習支援システム（Hoppii）」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則として zoom によるオンライン形式で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境科学と持続可能性	導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。
第 2 回	大気の変化と生態系	地球環境における大気の組成、その変化にともなう影響を考えます。
第 3 回	水の循環と水資源利用	生態系や生命の維持に重要な物質である水の観点から物質の循環や資源の問題を考えます。
第 4 回	エネルギーの供給	生態系におけるエネルギーの供給と人間社会におけるエネルギーの供給について考えます。

第 5 回	「土」というもの	日頃目を向けない「足元の世界」に目を向け、土の成り立ちや関連する環境問題について考えます。
第 6 回	生物多様性はなぜ重要か？	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。
第 7 回	持続可能な資源利用のための応用生態学	これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決へ応用を目的としたグループワークを行います。
第 8 回	近代農業の功罪	近代農業の成果と環境負荷について解説します。
第 9 回	食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。
第 10 回	資源開発は持続可能か？	鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。
第 11 回	「望まれぬ開発」という問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。
第 12 回	多角的問題解決への挑戦	異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。
第 13 回	持続可能な社会へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。
第 14 回	地球環境の現状とこれから	学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppi 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

授業中に適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。総合成績で60%以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。今後も参加型の授業形態について検討していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスの確保。
zoom でのリモート授業になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline and objectives】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective. relationships. In order to do so, students will learn the basic aspects of environmental and social problems.

BIO300LA

Human Impact on the Global Environment 2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems, 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course, and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Although this course deals with various topics from the perspective of "sustainability", the course is divided roughly into two parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem and biodiversity, that is to say, the natural world that surrounds us and provides us with essential resources. The second part will focus on environmental and social problems related to agriculture (food production) and use of other natural resources in order to explore our personal involvement in these issues.

The course will be taught mainly in lecture-style classes, however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group activities and discussion. In addition to in-class interactions, students will utilize the learning assistance system (Hoppii) to express their opinions/reactions and to submit questions regarding the materials presented in each class so as to help the instructor to grasp students' progress as well as to address their concerns, as needed. Note that, if the university's action policy level is set to 2, in principle, this class will be taught online via zoom. Details will be announced via the "Hosei portal to pick up information (Hoppii)".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.
Week 3	Water cycle and the use of water resource	Water will be focused as an essential matter for sustaining life and ecosystem, and the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is resource development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system as needed. Standard amount of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40 %), a final assignment (40 %), and participation (20%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course material by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】

Although it is not always possible to strike a good balance between lecture and active student participation, additional efforts will be made to make the course more participatory.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to secure access to Hoppii.

Students will also need to be able to participate in online class, as needed.

【Outline and objectives】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

BIO300LA

ボルボックス生物論 A

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物の進化、特に単細胞生物から多細胞生物への進化を研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた観察・実験とその検討までを、実際に、もしくはオンラインで体験していただきます。それを通じて、対象物を正確に観察する能力、問題解決能力、実験の結果や考察を記述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・毎回、板書を基本とする講義と、テーマに沿った観察・実験を行いながら進めていきます。
- ・授業の説明に従って観察結果をノートに記録したり、課題に取り組んだりしていただきます。それらに対して、授業内で適宜フィードバックを行います。
- ・質問は Zoom のチャット欄や Hoppii の「テスト/アンケート」で受け付け、授業内で回答します。
- ・具体的な授業参加方法については、Hoppii の「お知らせ」をご覧ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	進化のモデル生物としてのボルボックス	授業の概略を説明します。
第 2 回	ボルボックスの観察①	レーウエンフック顕微鏡と同じ原理でボルボックスを見てみましょう。
第 3 回	ボルボックスの観察②	光学顕微鏡の原理を学び、明視野・暗視野で観察します。
第 4 回	ボルボックスの観察③	ボルボックスが回転しながら泳ぐようすや、周りの水流を観察します。
第 5 回	淡水産プランクトンの観察①	池や川の水を顕微鏡で観察し、どのような生き物がいるか調べます。
第 6 回	淡水産プランクトンの観察②	一週間培養した後の野外採集サンプルを観察します。
第 7 回	淡水産プランクトンの観察③	観察結果のまとめを行い、形態や運動性の多様性を理解します。
第 8 回	プラナリアの再生①	高い再生能力を持つ扁形動物プラナリアを切断する実験を行います。
第 9 回	プラナリアの再生②	切断したプラナリアの一週間後のようすを観察・記録します。
第 10 回	プラナリアの再生③	プラナリア再生実験のまとめと考察を行います。

第 11 回	走光性一眼点と鞭毛のはたらき①	光を使ってボルボックスを一箇所に集合させてみましょう。
第 12 回	走光性一眼点と鞭毛のはたらき②	ボルボックスが作り出す水流が、光に対してどのように変化するかを調べます。
第 13 回	走光性一眼点と鞭毛のはたらき③	光を感知する眼点と呼ばれる構造を観察し、走光性のしくみを考察します。
第 14 回	まとめ	第 13 回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 50%（Zoom 出席時にチャットで学生番号を投稿してもらいます。また、課題への取り組みやアンケート参加率も評価します。）
- ・授業ノート 50%（授業の説明に従って記録し、毎回 Hoppii からオンラインで提出していただきます。）
- ・試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はオンラインで実験の様子や顕微鏡像をリアルタイムで見せる形になりましたが、じっくり観察できるなど良い面も多かったようです。また、チャットや反応機能を活用することで授業に参加している雰囲気を感じることができたという意見や、考えたり予想したりする過程・他の学生の発想や疑問点を知ることを通じて学びを得たという感想をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

The green alga *Volvox* is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using *Volvox* and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.

BIO300LA

ボルボックス生物論 B

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物の進化、特に単細胞生物から多細胞生物への進化を研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた観察・実験とその検討までを、実際に、もしくはオンラインで体験していただきます。それを通じて、対象物を正確に観察する能力、問題解決能力、実験の結果や考察を記述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・毎回、板書を基本とする講義と、テーマに沿った観察・実験を行いながら進めていきます。
- ・授業の説明に従って観察結果をノートに記録したり、課題に取り組んだりしていただきます。それらに対して、授業内で適宜フィードバックを行います。
- ・質問は Zoom のチャット欄や Hoppii の「テスト/アンケート」で受け付け、授業内で回答します。
- ・具体的な授業参加方法については、Hoppii の「お知らせ」をご覧ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	進化における多細胞化	授業の概略を説明します。
第 2 回	生活環と形態形成①	ボルボックスの丸い形の形成過程「インバージョン」について学びます。
第 3 回	生活環と形態形成②	インバージョンの過程をタイムラプス撮影します。
第 4 回	生活環と形態形成③	インバージョンの観察結果から、生物の形づくりのしくみと進化について考えます。
第 5 回	有性生殖とその進化①	ボルボックスの有性生殖個体と無性生殖個体を観察して比較します。
第 6 回	有性生殖とその進化②	ボルボックスに近縁の単細胞生物クラミドモナスの有性生殖（接合）の過程を観察します。
第 7 回	有性生殖とその進化③	生物の有性生殖が同形配偶から異形配偶を経て卵生殖へと進化してきた道筋を学びます。
第 8 回	粘菌の行動①	アメーバ状単細胞生物である真性粘菌の探餌行動を調べる実験を行います。
第 9 回	粘菌の行動②	粘菌が移動するようすをタイムラプス撮影し、解析します。
第 10 回	粘菌の行動③	粘菌内部の原形質が往復流動する様子を顕微鏡で観察します。

第 11 回	突然変異体の研究への利用①	突然変異体を利用した生物の研究 方法について学びます。
第 12 回	突然変異体の研究への利用②	単細胞生物クラミドモナスの様々な突然変異体を観察し、特徴を調べます。
第 13 回	突然変異体の研究への利用③	突然変異体解析による研究の実例を示します。
第 14 回	まとめ	第 13 回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 50%（Zoom 出席時にチャットで学生番号を投稿してもらいます。また、課題への取り組みやアンケート参加率も評価します。）
- ・授業ノート 50%（授業の説明に従って記録し、毎回 Hoppii からオンラインで提出していただきます。）
- ・試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はオンラインで実験の様子や顕微鏡像をリアルタイムで見せる形になりましたが、じっくり観察できるなど良い面も多かったようです。また、チャットや反応機能を活用することで授業に参加している雰囲気を感じることができたという意見や、考えたり予想したりする過程・他の学生の発想や疑問点を知ることを通じて学びを得たという感想をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

The green alga *Volvox* is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using *Volvox* and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.

CHM300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：持続可能社会のための化学

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】

持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかがわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための化学を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom 等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第1回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。毎回の授業では、あらかじめ教科書の割り当て部分を読みます。その内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、学習ノート（レジュメ）にまとめます。完成したレジュメは、授業の前日までに課題として学習支援システム（HOPPII）を通して提出します。授業では、各回の担当者が内容の発表を行い、その後の質疑応答を通して理解を深めます。また、提出していただいた課題や発表内容についてのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第 2 回	第一章_異なる世界観のはざまで	「異なる世界観のはざまで」を学習する。
第 3 回	第二章_ハバートのベルカーブを滑り落ちる (1)	「数字のまやかし」～「実際の数字は？」を学習する。
第 4 回	第二章_ハバートのベルカーブを滑り落ちる (2)	「悲観論 VS 楽観論」～「最後の石油」を学習する。
第 5 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (1)	「文化の発展とエネルギー」～「熱力学の法則」を学習する。
第 6 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (2)	「経済発展の再考」～「大文明が崩壊する理由」を学習する。
第 7 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (3)	「ローマ帝国の熱力学」を学習する。
第 8 回	第四章_化石燃料時代 (1)	「歴史の真相」～「石油時代の幕開け」を学習する。

第 9 回	第四章_化石燃料時代 (2)	「新たな機動性」～「商業の再構築」を学習する。
第 10 回	第五章_イスラム教という波乱の要素 (1)	「ムハンマドの描いたビジョン」～「西洋の影響」を学習する。
第 11 回	第五章_イスラム教という波乱の要素 (2)	「イスラム化」～「サウジアラビア」を学習する。
第 12 回	第五章_イスラム教という波乱の要素 (3)	「民主主義はいずこへ」～「石油を政治の道具に」を学習する。
第 13 回	第六章_世界の破綻 (1)	「天然ガスでしのぐ」～「重油と気温上昇」を学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成や発表資料作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する予定です。

書籍名：水素エコノミー --- エネルギー・ウェブの時代

著者名：ジェレミー・リフキン

訳者名：柴田裕之

出版社：NHK 出版

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度、ディスカッションへの参加度等を総合的に考慮した平常点によって評価します。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

エネルギーに関する授業内容は好評であったため、引き続き、同様の内容で開講します。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミ I」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミ II」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員（30 名）を超える場合は抽選をおこないます。

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom 等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第 1 回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。

本授業は、ゼミ形式での授業であり、受講生の皆様のご希望も取り入れながら開講していきたいと思います。取り上げる内容については第 1 回の授業にて確定しますので、それまで教科書は購入しないでください。

本授業に関する質問等は、学習支援システム（HOPPII）を通して受付けます。また、各回の学習範囲やレポート課題についても、HOPPII によって指示いたします。

第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに HOPPII の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline and objectives】

Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as raw materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. In addition, they are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, we will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry.

CHM300LA

教養ゼミ II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：持続可能社会のための化学

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】

持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかがわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための化学を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom 等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第 1 回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。毎回の授業では、あらかじめ教科書の割り当て部分を読みます。その内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、学習ノート（レジュメ）にまとめます。完成したレジュメは、授業の前日までに課題として学習支援システム（HOPPII）を通して提出します。授業では、各回の担当者が内容の発表を行い、その後の質疑応答を通して理解を深めます。また、提出していただいた課題や発表内容についてのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第 2 回	第六章_世界の破綻 (2)	「工業化時代のエントロピーのつけ」～「もっと悪いシナリオ」を学習する。
第 3 回	第七章_現代社会の弱点 (1)	「バイオテロリズム」～「弱点」を学習する。
第 4 回	第七章_現代社会の弱点 (2)	「石油あつての食料生産」を学習する。
第 5 回	第七章_現代社会の弱点 (3)	「電気が停まったとき」～「危地にたつ国家」を学習する。
第 6 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (1)	「脱炭素化」～「エネルギーの錬金術」を学習する。
第 7 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (2)	「水素エネルギーの生産」～「燃料電池 --- ミニ発電所」を学習する。
第 8 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (3)	「分散型電源」～「水素エネルギー・ウェブ（HEW）」を学習する。

- 第 9 回 第八章_水素エコノミー 「車を発電所に」を学習する。
の夜明け (4)
- 第 10 回 第九章_ボトムアップに 「ワールド・ワイド・ウェブの教訓」
による新しいグローバル ～「共有財産としての水素」を学習
化 (1) する。
- 第 11 回 第九章_ボトムアップに 「エネルギーの民主化」～「理論か
による新しいグローバル ら実践へ」を学習する。
化 (2)
- 第 12 回 第九章_ボトムアップに 「貧しい人びとにパワーを」～「[安
による新しいグローバル 心」を見直す」を学習する。
化 (3)
- 第 13 回 第九章_ボトムアップに 「地政学に基づく政治から生物圏に
による新しいグローバル 基づく政治へ」を学習する。
化 (4)
- 第 14 回 まとめ 本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成や発表資料作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する予定です。

書籍名：水素エコノミー ― エネルギー・ウェブの時代

著者名：ジェレミー・リフキン

訳者名：柴田裕之

出版社：NHK 出版

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度、ディスカッションへの参加度等を総合的に考慮した平常点によって評価します。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

エネルギーに関する授業内容は好評であったため、引き続き、同様の内容で開講します。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミ I」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミ II」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員（30 名）を超える場合は抽選をおこないます。

本授業は、対面授業、および、オンライン授業（Zoom 等を使用する双方向型）を組み合わせたハイブリッド型授業です。オンラインで開催される第 1 回授業内で、対面授業を行う日程についてお知らせいたします。

本授業は、ゼミ形式での授業であり、受講生の皆様のご希望も取り入れながら開講していきたいと思ひます。取り上げる内容については第 1 回の授業にて確定しますので、それまで教科書は購入しないでください。

本授業に関する質問等は、学習支援システム（HOPPII）を通して受付けます。また、各回の学習範囲やレポート課題についても、HOPPII によって指示いたします。

【Outline and objectives】

Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as raw materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. In addition, they are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, we will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry.

LANe300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Issues in Modern Japanese Society

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced English course examines various aspects of Japanese society (such as system of education, the political economy, foreign immigrants, gender and sexuality, etc.) Most materials will be created by non-Japanese writers.

【到達目標】

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English. Students will be able to improve their speaking and writing skills as a result of participation in this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper and magazine articles) on Japan written by mostly foreign writers, as well as other media, will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, comprehension check, small and large group discussions. Students will participate in debating various topics, will give final presentations and write a term paper.

Most course feedback will be provided in class or through Google Classroom or another online system. Students may also contact the instructor through e-mail correspondence.

NOTE: For the month of April, all classes will be conducted ONLINE.

After the Golden Week Holiday, we will change to an in-person, face-to-face classroom format. Instructions will be provided for students who need to continue to take classes online from May.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction: Defining Quality of Life and Happiness	Self-introductions, course explanation, placement test
2	Japanese university education and student ability	Reading and discussion
3	The economy, careers and the job hunting of University Students	Reading and discussion

4	Gender issues: exploring the low birthrate in Jaapn	Reading and discussion
5	Gender Part II: the role of women in Japanese society	Reading,discussion and debate
6	Multicultural Japan: accepting foreign immigrants	Reading and discussion
7	Immigration in Japan (II)	Reading and discussion, and debate
8	Mid-semester Review	Midterm Essay due.
9	School education related Issues	Review of writing assignments
10	Educational Issues Pt II: School Conformity and Ijime	Readings and discussion
11	School education: the struggle for foreign language aquisition	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students presentations and feedback
13	Nationalism in Japan	Final papers submitted
14	Course wrap up: Pursuit of happiness and life satisfaction	Return final papers

【Outline and objectives】

The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that may affect them, and to give students the opportunity to discuss them in English.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Readings must be done prior to class sessions. Students are responsible for looking up unfamiliar vocabulary and preparing short answers for discussion questions, which are usually posted beforehand. Students will prepare to give a presentation and must submit a final paper for credit. Students will likely need approximately two hours or preparation time for each class session.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. Reading materials will be provided by the instructor.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary either in paper or electronic format to use both in and outside of class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated based their willingness to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm essay and Final report: 50%

Presentation: 20%

【学生の意見等からの気づき】

Students should have some prior experience writing essays and/or reports in English, Students may do short debates in pairs or groups.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences. One more absence may be permitted if verification is provided (For job hunting, etc)

In general, auditing the course (聴講) is not allowed and students must register for course credit. However, students may choose to audit the course after receiving approval from the instructor.

International (ESOP) Students are also welcome to enroll in this course if they have sufficient English proficiency.

LANe300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

【到達目標】

Students will be able to improve their academic speaking and writing skills as a result of participation in this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper articles, etc) from mostly foreign writers will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, small and big group discussions, occasional debates and final presentations by students. Readings and topics may change somewhat based on the preference and convenience of class members.

Course feedback will be provided in class and on written assignments, as well as through Google Classroom or another system. Students may correspond with the instructor via e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction: How to affect societal change with creation and revision of policy	Reading and discussion
2	How Japan is viewed overseas	Reading and discussion
3	Japan as viewed overseas (II)	Reading, video, & discussion
4	Nationalism in Japan: defining xenophobia	Reading, discussion & debate
5	Nationalism in Japan(II): the so-called "insular" student	Reading, discussion & debate
6	The declining birthrate: youth trends in Japan	Midterm reflection paper due

7	Youth trends (II): the decline of marriage	Return midterm essay; lecture on improving writing
8	Japanese belief systems: Where do values come from?	Reading and discussion
9	Belief systems (II): Spirituality and organized religion	Readings, discussion and debate
10	Death by Overwork: Made in Japan?	Lecture, readings, video & discussion
11	Overwork Suicide: A National Crisis	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students' individual presentations and class feedback
13	Is Japan's Economy getting worse? The Declinist Debate	Final papers(reports) due
14	Healthy life-work balance: A review	Return final reports & Semester Wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must come prepared to class by doing the assigned readings, looking up unfamiliar vocabulary words, etc. Students are expected to already know how to write a simple essay, including paragraph writing, introduction, body and conclusion. Approximately two hours each week will be necessary for out of class study time.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. Instructor will provide reading materials each week.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary, either paper or electronic and bring it to class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on their understanding of the material as well as their ability to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm and Final Papers: 50%

Presentation: 20%

【学生の意見等からの気づき】

More opportunities for student debate will be incorporated into classroom activities.

【その他の重要事項】

Attendance is very important. Students who have more than 3 unexcused absences may not receive credit for this course. One additional excused absence may be permitted if proper verification is provided (for job hunting, etc).

Students should have some experience in writing essays or reports in English.

Students may enroll in this course only for fall semester if they wish.

International students (ESOP) are welcome to enroll in this course.

Students wishing to audit the course may do so with the permission of the instructor.

【Outline and objectives】

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan

and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 A 2017 年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。
発音の基礎から始め、ドイツ語での表現の基本を学んでゆきます。
ドイツ語は単語や仕組みが英語とも近く、学びやすい言語です。簡単な練習をとおして一步一步確認しながら進めます。ドイツとヨーロッパについての基礎的な情報も適宜伝えてゆきます。

【到達目標】

ドイツ語による表現のための基礎的な文法事項を習得し、場面に応じたドイツ語の基礎的な表現と語彙を身につける。ドイツとヨーロッパの現在についての基礎的な情報をえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

アルファベット・発音の基礎から始め、ドイツ語の基本的な、しかし必要十分な文法と基本的な表現を学びます。はじめて学ぶ言語なので、わかりやすい、丁寧な説明をしていきます。受講者の理解によって進度も適宜、対応させていきます。学習内容の復習のための課題を出し、「学習支援システム」を通してフィードバックします。授業は当面、Zoom でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス アルファベット	授業の進め方、ねらい。成績評価について。 ドイツ語の基本的な特徴とアルファベット。以下の進捗はおおよそ目安です。
2 回	Lektion0 ドイツ語の発音	前回の復習。 ドイツ語の発音の仕方を学ぶ。
3 回	Lektion1 出会いと自己紹介－動詞の現在人称変化（1）	ドイツ語の人称代名詞と現在人称変化の基本を学びます。
4 回	Lektion1 出会いと自己紹介－動詞の現在人称変化（2）	前回学習した内容をふまえ、練習問題によって自己紹介の基本表現を学びます。
5 回	Lektion1 出会いと自己紹介－動詞の現在人称変化（3）	教科書の対話スケッチによって、自己紹介の基本表現を学びます。
6 回	Lektion2 家族について尋ねる－名詞の性/冠詞の格変化（1）	名詞の性と冠詞の格変化の基本を学びます。
7 回	Lektion2 家族について尋ねる－名詞の性/冠詞の格変化（2）	練習問題によって、名詞の性と冠詞の格変化を用いた表現を学びます。

8 回	Lektion2 家族について尋ねる－名詞の性/冠詞の格変化（3）	対話スケッチによって、名詞の性と冠詞の格変化を用いた会話表現と家族についての語彙を学びます。
9 回	Lektion3 明日の予定を尋ねる－不規則変化動詞/命令形（1）	不規則変化動詞と命令形の基本を学びます。
10 回	Lektion3 明日の予定を尋ねる－不規則変化動詞/命令形（2）	練習問題によって、不規則変化動詞と命令形を用いた表現を学びます。
11 回	Lektion3 明日の予定を尋ねる－不規則変化動詞/命令形（3）	対話スケッチによって、不規則変化動詞と命令形を用いた会話表現を学びます。
12 回	Lektion4 買い物に行く〈1〉－定冠詞類・不定冠詞類（1）	定冠詞類と不定冠詞類の基本を学びます。
13 回	Lektion4 買い物に行く〈1〉－定冠詞類・不定冠詞類（2）	練習問題によって、定冠詞類と不定冠詞類を用いた表現を学びます。
14 回	まとめ	春学期の学習内容をまとめ、まとめの課題を出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容を確実に身につけるためには復習が必要です。
あらかじめ次回の授業の箇所を読んでおきましょう。
また、課題にもかならず取り組みましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上野成利・本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』白水社。

【参考書】

電子辞書を含む市販の独和辞典。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加と授業ごとの課題への取り組みを重視します。
春学期の終わりにまとめの課題を出します。
平常点・課題への取り組み 70 %、まとめの課題 30 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な説明を基本とし、参加者の理解を確認しながら、学習内容の復習と進捗とのバランスを取りながら進めてゆく。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能な機器が必要である。

【その他の重要事項】

ドイツ語の既修者、および 1 年次にドイツ語を選択必修言語として学んでいる学生は履修できません。

【Outline and objectives】

German as third foreign language. Key words: grasping grammatical structure of the German language; basic vocabulary and speaking skill; basic knowledge of Germany and Europe today.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 B 2017 年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。春学期に学んだことを復習しながら、後半の基本的な文法事項を学び、ドイツ語の基本的な表現を身につけます。簡単な練習をとおして一步一步確認しながら進めます。ドイツとヨーロッパについての基礎的な情報も適宜伝えてゆきます。

【到達目標】

春学期に学んだことを復習しながら、ドイツ語の基本的な文法と場面に応じた基礎的な表現と語彙を身につける。ドイツとヨーロッパの現在についての基礎的な情報をえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期に引き続いて、ドイツ語の仕組みや表現をわかりやすく、丁寧に説明していきます。練習問題も丁寧に学びます。毎回、学習内容の復習のための課題を出し、「学習支援システム」を通してフィードバックします。授業は当面、Zoom でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Lektion5 買い物に行く〈2〉-複 数形/人称代名詞 (1)	授業の進め方、ねらい。成績評価について。春学期の内容の振り返り。 ドイツ語の名詞の複数形と人称代名詞の基本を学びます。
2 回	Lektion5 買い物に行く〈2〉-複 数形/人称代名詞 (2)	練習問題によって、名詞の複数形と人称代名詞を用いた表現を学びます。
3 回	Lektion5 買い物に行く〈2〉-複 数形/人称代名詞 (3)	対話スケッチによって、名詞の複数形と人称代名詞を用いた会話表現を学びます。
4 回	Lektion6 週末の予定を尋ねる- 前置詞の格支配 (1)	前置詞の使い方の基本を学びます。
5 回	Lektion6 週末の予定を尋ねる- 前置詞の格支配 (2)	練習問題によって、前置詞を用いた表現を学びます。
6 回	Lektion6 週末の予定を尋ねる- 前置詞の格支配 (3)	対話スケッチによって、前置詞を用いた会話表現を学びます。
7 回	Lektion7 趣味について尋ねる- 形容詞の格変化 (1)	形容詞の格変化の基本を学びます。
8 回	Lektion7 趣味について尋ねる- 形容詞の格変化 (2)	練習問題によって、形容詞の格変化を用いた表現を学びます。
9 回	Lektion7 趣味について尋ねる- 形容詞の格変化 (3)	対話スケッチによって、形容詞の格変化を用いた会話表現を学びます。

10 回	Lektion8 昼食を食べに行く- 話 法の助動詞/未来形 (1)	話法の助動詞と未来形の用法の基本を学びます。
11 回	Lektion8 昼食を食べに行く- 話 法の助動詞/未来形 (2)	練習問題によって、話法の助動詞と未来形を用いた表現を学びます。
12 回	Lektion9 駅の窓口で尋ねる- 分 離動詞/接続詞と複文 (1)	分離動詞と接続詞の用法の基礎を学びます。
13 回	Lektion9 駅の窓口で尋ねる- 分 離動詞/接続詞と複文 (1)	練習問題によって、分離動詞と接続詞を用いた表現を学びます。
14 回	まとめ	秋学期の学習内容をまとめ、まとめの課題を出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容を確実に身につけるためには復習が必要です。

あらかじめ次回の授業の箇所を読んでおきましょう。

また、課題にもかならず取り組みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上野成利・本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』白水社。

【参考書】

電子辞書を含む市販の独和辞典。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加と授業ごとの課題への取り組みを重視します。

秋学期の終わりにまとめの課題を出します。

平常点・課題への取り組み 70 %。まとめの課題 30 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な説明を基本とし、参加者の理解を確認しながら、学習内容の復習と進捗とのバランスを取りながら進めてゆく。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能な機器が必要である。

【その他の重要事項】

ドイツ語の既修者、および 1 年次にドイツ語を選択必修言語として学んでいる学生は履修できません。

【Outline and objectives】

German as third foreign language. Key words: grasping grammatical structure of the German language; basic vocabulary and speaking skill; basic knowledge of Germany and Europe today.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 A 2017 年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で行う。すべての回を Zoom で実施する。

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることにによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	erste kommunikative Phrasen
2	Begrueßung, Befinden 1	sich begrüessen/ verabschieden
3	Begrueßung, Befinden 2	nach dem Befinden fragen, sich und andere vorstellen
4	Angaben zur Person	ueber den Beruf und Persoenliches sprechen
5	Berufe	Verbkonjugation Singular/ Plural
6	Familie 1	Negation Ja/ Nein-Fragen Possessivartikel
7	Familie 2	Verben mit Vokalwechsel
8	Einkaufen	Beratungsgespraech, Hilfe anbieten
9	Moebel	Artikel, Personalpronomen
10	Gegenstaende, Produkte 1	um Wiederholung bitten, etwas beschreiben
11	Gegenstaende, Produkte 2	sich bedanken, ein Formular ausfuellen
12	Buero	Telefongespraech
13	Technik 1	Singular/ Plural
14	Technik 2	E-Mail/ SMS

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行う。宿題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

章末ごと小テストかレポート (60%), 授業参加（オンライン上でのパフォーマンス）(40%)

これらの観点を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom での授業を行うため、接続可能な機器が必要となる。大学で Zoom 授業を受ける場合は、マイク付きヘッドセットが必要となる。

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 B 2017 年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で行う。すべての回を Zoom で実施する

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Wiederholung
2	Freizeit 1	ueber Hobbys, Faehigkeiten sprechen
3	Freizeit 2	Modalverb koennen
4	Komplimente	Komplimente machen, um etwas bitten, sich bedanken
5	Verabredungen 1	einen Vorschlag machen und darauf reagieren
6	Verabredungen 2	temporale Praepositionen: am, um
7	Essen 1	ueber Essgewohnheiten sprechen
8	Essen 2	Konversationen beim Essen
9	Einladung zu Hause	Konjugation moegen, Wortbildung Nomen + Nomen
10	Reisen	sich informieren, ein Telefonat beenden
11	Verkehrsmittel	trennbare Verben
12	Tagesablauf	temporale Praepositionen: von ... bis, ab
13	Vergangenes	Perfekt mit haben
14	Feste, Vergangenes	Perfekt mit sein temporale Praeposition: im

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行う。宿題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

章末ごとくの小テストかレポート (60%), 授業参加（オンライン上でのパフォーマンス）(40%)

これらの観点を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom での授業を行うため、接続可能な機器が必要となる。大学で Zoom 授業を受ける場合は、マイク付きヘッドセットが必要となる。

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：独仏文化論

辻 英史、竹本 研史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ・フランス文化交流史

ドイツとフランスはヨーロッパ大陸の中央に位置する隣国同士であり、古くから影響を与えあい、ときには競合したり、激しく対立する関係にあった。このような歴史の経緯から、両国の文化はある部分は共通の要素をもっている一方で、別のある部分はいたって対照的な要素をもっている。

この二国のように共通点と差異を同時に持つ多様な文化が地域のなかに共存していることは、現代ヨーロッパの特徴でもある。この授業では、ドイツとフランスの交流関係の長い歴史の里程標をたどることで、ヨーロッパの文化的な豊かさを知ることとする。ドイツとフランスの歴史や文化に興味があり、訪問の予定がある人には最適な授業である。

なお、ここで言うドイツにはドイツ語圏のオーストリア、スイスの一部などが、フランスにはその海外県や旧植民地だった地域、スイスやベルギーの一部、ルクセンブルクなどが、それぞれ含まれる。

【到達目標】

文化や芸術作品を通じて、ドイツとフランスの相互の文化的な影響関係を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回テーマを設定し、その枠内でドイツとフランスを専門とする 2 名の教員（辻英史・竹本研史）が両国の芸術作品やその背景を紹介したのち、参加者の関心や質問に応じてさらに追加説明を加えたり、議論を広げていく。画像や映像のほか、音楽や文学作品などを取り扱う。

春学期は中世から 19 世紀までの前近代の時期を扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ ドイツとフランス——「宿敵」か？「盟友」か？	ドイツとフランスの歴史概説。
第 2 回	Part 1 中世のドイツとフランス	ローマ帝国のアルプス以北地域への影響と、中世という時代の特徴について。
第 3 回	Part 1 中世のドイツとフランス中世キリスト教文化にみるドイツとフランス	「ロマネスク」芸術と「ゴシック」芸術の両国での普及と発展。
第 4 回	Part 1 中世のドイツとフランス	中世における移動する人びと（巡礼や職人遍歴）について。
第 5 回	Part 2 宮廷社会とバロック	ルネサンス・宗教改革と絶対主義君主政の出現について。

第 6 回	Part 2 宮廷社会とバロック絶対王政とバロック芸術	フランス・ブルボン家の宮廷社会と文化について（絵画や建築、演劇にバロックと古典主義の展開）。
第 7 回	Part 2 宮廷社会とバロック	ドイツ語圏諸領邦の宮廷文化（バロック・ロココの建築）について。
第 8 回	Part 3 アンシャンレジームと 18 世紀市民社会	啓蒙主義の出現とそのヨーロッパへの影響。ドイツ語圏における啓蒙絶対主義君主の登場。
第 9 回	Part 3 アンシャンレジームと 18 世紀市民社会	18 世紀ドイツ語圏の都市音楽文化について（バロックから古典主義へ）。
第 10 回	Part 3 アンシャンレジームと 18 世紀市民社会	文学にみる 18 世紀市民文化の発展。
第 11 回	Part 4 フランス革命とナポレオン戦争	フランス革命の経緯とその政治文化の形成、ドイツ語圏への影響について論じる。
第 12 回	Part 4 フランス革命とナポレオン戦争	神聖ローマ帝国の崩壊とドイツのナショナリズムの目覚めについて。
第 13 回	Part 4 フランス革命とナポレオン戦争	皇帝ナポレオンによる統治と、同時代の芸術について。
第 14 回	まとめ	独仏関係から近代以前のヨーロッパ文化について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業の内容にもとづき、質問や感想を記したリアクションペーパーを作成して提出してもらう。毎回の授業でその前回のフィードバックをおこなう。また授業中は自分の関心にそって積極的に発言・質問して欲しい。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリントを配布するほか、モニター・画面で映像・画像を見せる。

【参考書】

授業中に適宜指示するが、山川出版社やミネルヴァ書房から出ている概説書を読んでおくことを勧める。

『新版各国世界史』（山川出版社）

ドイツ（木村靖二編）2001 年。

フランス（福井憲彦編）2001 年。

『世界歴史大系』（山川出版社）

ドイツ（成瀬治／山田欣吾／木村靖二編）全 3 巻、1997 年。

フランス（柴田三千雄／樺山紘一／福井憲彦編）全 3 巻、1995 年。

『世界文化シリーズ』（ミネルヴァ書房）

ドイツ（宮田眞治／島山寛／濱中春編著）2015 年。

フランス（朝比奈美知子／横山安由美編著）2011 年。

『初めて学ぶ○○の歴史と文化』（ミネルヴァ書房）

ドイツ（南直人／谷口健治／北村昌史／進藤修一編著）2020 年。

フランス（上垣豊編著）2020 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（15 %）、リアクションペーパー（25 %）、レポート（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

出席皆無の場合、たとえレポートを提出しても単位は認めない。

【学生が準備すべき機器他】

状況によりオンライン授業を実施します。自宅で Zoom に接続して授業を受けることができる環境を準備してください。

教室で授業をする場合も、場合により Zoom に接続してもらうことがあります。そのときはノート PC やタブレットを大学に持ってきてください。

【Outline and objectives】

History of the cultural transfer between France and Germany

LANd300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：独仏文化論

辻 英史、竹本 研史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代におけるドイツとフランスの文化

ドイツとフランスは、長い歴史のなかで相互に交流や対立の関係を結びつつ、それぞれ独特な文化を発展させてきた。とくに 19 世紀以降には、両国の活動はヨーロッパを越えて世界のさまざまな地域に広がり、そのなかには日本も含まれていくことになる。これらの交渉の過程を通じて両国の文化には外部からの影響が深く刻み込まれることになり、その一方でいわゆる「ドイツらしさ」「フランスらしさ」と呼ばれるような、世界中である程度共通する両国のイメージもまた作り上げられてきたのである。

この授業では、19 世紀から 20 世紀にかけてドイツとフランスがどのような文化をつくりあげ、それをヨーロッパと世界に向けて発信し、どのような影響を外部から受けてきたのかを、いくつかの事例を取りあげて検討する。ドイツとフランスに興味を持ち、両国の文化や芸術について学びたい人、またヨーロッパと世界の関係について学びたい人に最適の授業である。

なお、ここで言うドイツにはドイツ語圏のオーストリア、スイスの一部などが、フランスにはその海外県や旧植民地だった地域、そしてスイス、ベルギーの一部やルクセンブルクなどが、それぞれ含まれる。

【到達目標】

文化や芸術作品を通じて、19 世紀以降のドイツとフランスの社会の特徴と、ヨーロッパや世界に対して与えてきた影響がどのようなものであったかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回テーマを設定し、その枠内でドイツとフランスを専門とする 2 名の教員（辻英史・竹本研史）が両国の芸術作品やその社会背景を紹介したのち、参加者の関心や質問に応じてさらに追加説明を加えたり、議論を広げていく。画像や映像のほか、音楽や文学作品などを取り扱う。

秋学期は 19 世紀から 20 世紀後半までの近代・ポスト近代の時期を扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	近代のドイツとフランスヨーロッパの台風の目
第 2 回	Part 1	市民文化の隆盛
第 3 回	Part 1	市民文化の隆盛

第 4 回	Part 1	市民文化の隆盛	独仏両国における産業社会の発展と、市民文化と労働者文化との対抗関係について。
第 5 回	Part 2	自然への回帰	19 世紀から 20 世紀にかけて、人間と自然の関係がいかに変化してきたのかを芸術作品を例に解説する。
第 6 回	Part 2	自然への回帰	19 世紀末以降出現した、表現主義やアール・ヌーヴォーなど新しい芸術運動を扱う。
第 7 回	Part 2	自然への回帰	ヴァンダーフォージェル、素食主義、裸体主義など世紀転換期に現れた生活改革運動について。
第 8 回	Part 3	帝国主義と植民地文化	社会ダーウィニズムと人種主義を軸に、19 世紀の両国における非ヨーロッパ地域に対する眼差しや姿勢度を明らかにする。
第 9 回	Part 3	帝国主義と植民地文化	ユダヤ人問題・反ユダヤ主義の歴史を文化・芸術の観点から辿る。共生と迫害の歴史から生まれた芸術作品を紹介する。
第 10 回	Part 3	帝国主義と植民地文化	両国における「オリエンタリズム」の展開と人種差別について。ポストコロニアルの時代についても触れる。
第 11 回	Part 4	工業化と芸術	アール・デコ、ドイツ工作連盟、バウハウス説いた 20 世紀初頭の芸術潮流について。
第 12 回	Part 4	工業化と芸術	ル・コルビュジェ、ブルーノ・タウト、ペーター・ベーレンスらに代表されるモダニズム建築と都市計画について。
第 13 回	Part 4	工業化と芸術	映画、写真、ラジオといった複製技術時代の芸術作品を概観する。
第 14 回	まとめ		ドイツとフランスの発展をふりかえり、近代という時代について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業の内容にもとづき、質問や感想を記したリアクションペーパーを作成して提出してもらい。毎回の授業でその前回のフィードバックをおこなう。また授業中は自分の関心にそって積極的に発言・質問して欲しい。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリントを配布するほか、モニター・画面で映像・画像を見せる。

【参考書】

授業中に適宜指示するが、山川出版社やミネルヴァ書房から出ている概説書を読んでおくことを勧める。

『新版各国世界史』（山川出版社）

ドイツ（木村靖二編）2001 年。

フランス（福井憲彦編）2001 年。

『世界歴史大系』（山川出版社）

ドイツ（成瀬治／山田欣吾／木村靖二編）全 3 巻、1997 年。

フランス（柴田三千雄／樺山紘一／福井憲彦編）全 3 巻、1995 年。

『世界文化シリーズ』（ミネルヴァ書房）

ドイツ（宮田真治／畠山寛／濱中春編著）2015 年。

フランス（朝比奈美知子／横山安由美編著）2011 年。

『初めて学ぶ〇〇の歴史と文化』（ミネルヴァ書房）

ドイツ（南直人／谷口健治／北村昌史／進藤修一編著）2020 年。

フランス（上垣豊編著）2020 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（15 %）、リアクションペーパー（25 %）、レポート（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

出席皆無の場合、たとえレポートを提出しても単位は認めない。

【学生が準備すべき機器他】

状況によりオンライン授業を実施します。自宅で Zoom に接続して授業を受けることができる環境を準備してください。

教室で授業をする場合も、場合により Zoom に接続してもらうことがあります。そのときはノート PC やタブレットを大学に持ってきてください。

【Outline and objectives】

This course deals with the cultural interaction between France/Germany and other countries of the world from the Late Antiquity to the present day.

PHL300LA

ドイツの思想 A

2017 年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニーチェ入門をテーマとする授業です。

不確実な現代を生き、考えてゆくうえで見落とすことのできない思想家ニーチェを取り上げ、基礎的な知識を押さえながら、彼の思想世界をとらえてゆきます。また、現代思想・哲学、芸術に与えた影響にもふれてゆきます。

毎回、導入的なレクチャーをおこなった後、ニーチェの作品から読みやすい箇所を選んで、その言葉に直接ふれながら進めます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

春学期の内容は、初期のニーチェを中心としますが、中期・後期のニーチェも視野に入れます。

授業を通して、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点にふれ、捉えることを目指します。

【到達目標】

初期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテキストにふれることによって、ニーチェ思想への理解を深める。現代思想・哲学、芸術に与えた影響を捉える。概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれながら進めてゆきます。一方通行にならないよう、毎回リアクション・ペーパーの提出を求め、リアクション・ペーパーに示された感想や質問に回答しながら進めます。毎時間、テーマごとのレクチャー 40 %、言葉にふれること 40 %、質疑応答 20 % の割合で進めてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

授業は当面、Zoom でおこないます。リアクション・ペーパーは学習支援システムでの提出となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方。授業のねらい。ニーチェはどのような哲学者か。以下の進度はおおよその目安です。
第 2 回	ニーチェの生涯と思想。	ニーチェの生涯と代表作について、導入的なレクチャーをおこないます。
第 3 回	『悲劇の誕生』（1）	初期ニーチェの代表作『悲劇の誕生』について、基本的な内容をとらえます。

第 4 回	『悲劇の誕生』(2)	『悲劇の誕生』の中心概念である「ディオニュソスのもの」と「アポロ的なもの」をとらえます。
第 5 回	『悲劇の誕生』(3)	ギリシア悲劇はどのようなものか、その特徴をとらえ、ニーチェとの関係を考えます。
第 6 回	『悲劇の誕生』(4)	『悲劇の誕生』におけるソクラテス批判をとらえ、その意義を考えます。
第 7 回	ニーチェとショーペンハウアー	『悲劇の誕生』執筆の際に影響を受けた哲学者ショーペンハウアーに焦点を当て、ニーチェとの接点と違いについて考えます。
第 8 回	ニーチェとワーグナー	『悲劇の誕生』執筆の際に影響を受けた芸術家ワーグナーに焦点を当て、若きニーチェがなぜワーグナーに傾倒したのかを音楽作品にふれながら考えます。
第 9 回	ニーチェと芸術	『悲劇の誕生』の基礎にあるニーチェの芸術と音楽についての考えを紹介し、その影響と意義について考えます。
第 10 回	『反時代的考察』	『悲劇の誕生』とならぶ初期ニーチェの代表作である『反時代的考察』をとりあげ、基本的な論点と時代背景をとらえます。
第 11 回	初期ニーチェと現代哲学・思想 (1)	初期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響をドイツ系の哲学者・思想家を中心にして紹介します。
第 12 回	初期ニーチェと現代哲学・思想 (2)	初期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響をドイツ系の哲学者・思想家を中心にして紹介します。
第 13 回	初期ニーチェから中期・後期のニーチェへ	ニーチェがワーグナーとショーペンハウアーを批判するに至る経緯をたどり、中期・後期ニーチェ思想の方向性を展望します。
第 14 回	まとめ	春学期の授業の内容をまとめ、まとめの課題を提示します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートと配布のプリントによって授業の内容の整理をおこない、次の授業にそなえてください。授業の内容について、学習支援システム上でのリアクションを求めた場合には、期限内に提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントでそのつと配布します。

【参考書】

『ニーチェ全集』ちくま学芸文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』世界思想社。渡邊二郎/西尾幹二編『ニーチェを知る事典』ちくま学芸文庫。高辻知義『ワーグナー』岩波新書。ビヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』法政大学出版局。笠原賢介「ニーチェとプラトン」『法政大学文学部紀要』第 79 号。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパーを重視します。授業最終日に内容理解の確認のために課題を出します。到達目標を基準にして、平常点と課題を総合して評価します。平常点 60 %、課題 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・ペーパーへの積極的な記入を心がけてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能な機器が必要である。

【Outline and objectives】

Introduction to the philosophy of the early Nietzsche. Key words: The Birth of Tragedy, Nietzsche as classical philologist, the music of Richard Wagner, Schopenhauer's philosophy, Nietzsche's confrontation with the Platonic tradition, Nietzsche's influence to modern thoughts.

PHL300LA

ドイツの思想 B

2017 年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニーチェ入門をテーマとする授業です。ニーチェの中期・後期思想を中心としますが、春学期に取り上げた初期のニーチェ思想も視野に入れてゆきます。

毎回、テーマに関連したレクチャーをおこない、ニーチェの作品から重要な箇所を選んで、ニーチェの言葉に直接ふれてゆきます。ニーチェが現代哲学・思想、芸術に与えた影響についてもふれてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

授業を通して、図式的、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を取り出し、考えることを目指します。

【到達目標】

中期および後期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテキストにふれることによって、ニーチェ思想への理解を深める。現代哲学・思想、芸術への影響をとらえる。ニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれてゆきます。一方通行にならないよう、毎回リアクション・ペーパーの提出を求め、リアクション・ペーパーに示された質問や感想に応答しながら進めます。毎時間、テーマごとのレクチャー 50 %、言葉にふれること 40 %、質疑応答 10 %の割合で進めてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

授業は、当面 Zoom でおこないます。リアクション・ペーパーは学習支援システムでの提出となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、ねらい。ニーチェはどのような哲学者か。以下の進度はおおよその目安です。
第 2 回	初期ニーチェ思想と中期・後期ニーチェ思想の違いと連続性	春学期の内容と中・後期ニーチェの著作を概観しながら、初期ニーチェ思想と中・後期ニーチェ思想の違いと連続性を捉え、全体的な見通しを立てます。
第 3 回	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』— アフォリズムの思考 (1)	中期の作品『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』によってニーチェのアフォリズム的な思考の特徴をとらえます。
第 4 回	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』— アフォリズムの思考 (2)	前回の授業の内容を踏まえ、ニーチェのアフォリズム的な思考の特徴を掘り下げます。

第 5 回	『悦ばしき知恵』 — 〈神の死〉	『悦ばしき知恵』によって〈神の死〉をめぐるニーチェの思索を取り出します。
第 6 回	『ツァラトゥストラ』 (1) — 〈身体〉と〈心〉をめぐる	代表作『ツァラトゥストラ』によって〈身体〉と〈心〉をめぐるニーチェの思索をとらえ、考えます。
第 7 回	『ツァラトゥストラ』 (2) — 〈力への意志〉をめぐる	『ツァラトゥストラ』とニーチェの遺稿によって〈力への意志〉をめぐるニーチェの思索をとらえ、考えます。
第 8 回	『ツァラトゥストラ』 (3) — 〈時間〉をめぐる思索	『ツァラトゥストラ』によって〈瞬間〉〈永遠回帰〉をめぐるニーチェの思索をとらえ、考えます。
第 9 回	『道徳の系譜』 — 〈道徳〉への批判	『道徳の系譜』によって、ニーチェがなぜ道徳を批判したのか、論点をときほぐして考えます。
第 10 回	ニーチェと西洋哲学の伝統	これまでの授業をふまえて、ニーチェと彼以前の哲学者との違いと接点を捉えます。
第 11 回	ニーチェと現代の哲学・思想	中・後期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響について、ドイツ系思想家、哲学者を中心に要点をとらえます。
第 12 回	ニーチェと芸術 (1)	ニーチェの近・現代芸術への影響について、絵画を中心に紹介します。
第 13 回	ニーチェと芸術 (2)	ニーチェの近・現代芸術への影響について、音楽を中心に紹介します。
第 14 回	まとめ	秋学期の授業の内容をまとめ、まとめの課題を示します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートと配布のプリントによって授業の内容の整理をおこない、次の授業にそなえてください。授業の内容について、学習支援システム上でのリアクションを求めた場合には、期限内に提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントでそのつど配布します。

【参考書】

『ニーチェ全集』ちくま学芸文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』世界思想社。渡邊二郎/西尾幹二編『ニーチェを知る事典』ちくま学芸文庫。氷上英廣『ニーチェの顔』岩波文庫。ビヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』法政大学出版局。笠原賢介「ニーチェとプラトン」『法政大学文学部紀要』第 79 号。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパーを重視します。授業最終日に内容理解の確認のための試験をおこないます。到達目標を基準にして、平常点とまとめの課題を総合して評価します。平常点 60 %、まとめの課題 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・ペーパーへの積極的な記入を心がけてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能な機器が必要である。

【Outline and objectives】

Introduction to Nietzsche's Philosophy. Key words: Human- all too Human, Daybreak, The Gay Science, Thus Spoke Zarathustra, On the Genealogy of Morals, Nietzsche's confrontation with the western philosophical tradition, Nietzsche and the art of fin de siecle, Nietzsche's influence to modern thoughts.

LIT300LA

ドイツ語圏の文学 A

2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【小説とその映画化で学ぶ戦後ドイツ】

この授業では、ドイツ語圏の文学作品を、それが原作となった映画と比較・対照しながら読んでいきたいと思います。〈テキスト〉によって作られた文学作品が、〈映像〉というまったく異なるメディアで構成された映画に〈翻訳〉されることは、そもそも可能なのでしょうか？ この〈越境〉によって、何が失われ、何が新たに付け加わっているのでしょうか？

こうした問いを考えるために、春学期の授業では、ドイツの現代史をテーマとする小説と、これを原作として製作された映画をあつかります。文学とその映画化を読み／観ながら、今日のドイツ社会を作り上げた戦後ドイツの歩みについても学んでいきましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の文学作品を手掛かりに、テキストの内容を的確に理解し、その内容を相手にわかるように表現することができる。文学と映画のメディア的差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。ドイツ語圏の文学史・映画史・現代史に対する関心や理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的・メディア的越境についてお話しします（講義形式）。

また、文学作品と映画作品の表現の違いについて受講生のみなさんにグループで議論してもらい、その結果を発表してもらう時間も設けたいと思います（演習形式）。

文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要について紹介（「ドイツ語圏」とは？ なぜ〈映画化された文学作品〉をあつかうのか？ など）
第 2 回	合わせ鏡としての〈文学〉と〈映画〉？ — ディケンズ、グリフィス、カフカ	〈文学〉と〈映画〉という異なるメディアのあいだで行なわれる翻訳について
第 3 回	「第三帝国」期の日常 (1)	グラス『ブリキの太鼓』とその映画化について
第 4 回	「第三帝国」期の日常 (2)	「映画化は原作への冒瀆」？ — 〈文学作品の映画化〉論について
第 5 回	〈ホロコースト〉を語る (1)	ベッカー『ぼらふきヤーコフ』と映画『聖なる嘘つき』
第 6 回	〈ホロコースト〉を語る (2)	ホロコーストの文学史／映画史について様々な例とともに解説

第7回	愛する人が〈ナチ〉 だったら？（1）	シュリンク『朗読者』とその映画 化『愛を読むひと』
第8回	愛する人が〈ナチ〉 だったら？（2）	戦後世代の「ナチスの過去」との 対決について
第9回	ヒトラーで笑っていい かしら？（1）	ヴェルメシュ『帰ってきたヒト ラー』とその映画化について
第10回	ヒトラーで笑っていい かしら？（2）	〈ナチス〉映画の系譜——〈悪魔〉 から〈凡人〉へ
第11回	旧東ドイツでかすかな 潮騒に耳を澄ます （1）	マイヤー「通路にて」とその映画 化『希望の灯り』
第12回	旧東ドイツでかすかな 潮騒に耳を澄ます （2）	東西ドイツ分裂と再統一をめぐる 文学史／映画史
第13回	「脱原発」への序章 （1）	パウゼヴァング『みえない雲』と その映画化について
第14回	「脱原発」への序章 （2）	ドイツの環境保護運動と文化との かわりについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業であつた文学作品については該当する箇所を日本語（場合によっては英語）で配布するので、事前に目を通しておいください。授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひDVDレンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60％
学期末レポート：40％（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、念のためPCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。
授業の進度により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

Postwar Germany in Novels and Film Adaptations
In this class, we will read literary works from German-speaking countries, comparing and contrasting them with films based on them. In this semester, we will focus on novels about contemporary German history and films based on these novels.

LIT300LA

ドイツ語圏の文学 B

2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【映画化とともに読むドイツ文学の名作】

この授業では、ドイツ語圏の文学作品を、それが原作となった映画と比較・対照しながら読んでいきたいと思います。〈テキスト〉によって作られた文学作品が、〈映像〉というまったく異なるメディアで構成された映画に〈翻訳〉されることは、そもそも可能なのでしょうか？ この〈越境〉によって、何が失われ、何が新たに付け加わっているのでしょうか？

こうした問いを考えるために、秋学期の授業では、ドイツ語圏文学の名作といわれる小説と、これを原作として製作された映画をあつかいます。文学とその映画化を読み／観ながら、近現代ドイツ語圏文学史の概要について学んでいきましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の文学作品を手掛かりに、テキストの内容を的確に理解し、その内容を相手にわかるように表現することができる。
文学と映画のメディア的差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。
ドイツ語圏の文学史・映画史・現代史に対する関心や理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的・メディア的越境についてお話しします（講義形式）。また、文学作品と映画作品の表現の違いについて受講生のみなさんにグループで議論してもらい、その結果を発表してもらう時間も設けたいと思います（演習形式）。文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の振り返りと秋学期の予定について
第2回	ゲーテ『ファウスト』と映画（1）	大作『ファウスト』、その成立背景と概要
第3回	ゲーテ『ファウスト』と映画（2）	度重なる映像化をつうじたその変遷をたどる
第4回	ハインリヒ・マン『ウンラート教授』と映画『嘆きの天使』（1）	〈教養〉の失墜と〈新しい女〉の登場：世紀転換期（原作）とヴァイマル期（映画化）のあいだ
第5回	ハインリヒ・マン『ウンラート教授』と映画『嘆きの天使』（2）	トーキー映画が文学作品の映画化に与えた影響
第6回	トーマス・マン『ヴェニスに死す』とその映画化（1）	原作小説の成立背景と概要：「芸術家小説」というジャンル

第7回	トーマス・マン『ヴェニスに死す』とその映画化（2）	テキストと映像のメディア的差異、あるいは：〈美少年〉は映画化可能か？
第8回	テア・フォン・ハルプ『メトロポリス』と映画（1）	名作映画の知られざる（？）原作小説：その成立プロセス
第9回	テア・フォン・ハルプ『メトロポリス』と映画（2）	文学・映画と隣接する芸術領域（モダン建築、モダンダンス……）との比較芸術的關係
第10回	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』『点子ちゃんとアントン』と映画（1）	子供向け小説と映画：「映画は子供の眼で世界を見る」？
第11回	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』『点子ちゃんとアントン』と映画（2）	映画化された状況が物語に与える差異——文脈が物語を変容させる？
第12回	アルフレート・デブリン『ベルリン・アレクサンダー広場』と映画（1）	「映画文体」で書かれた小説が映画化される——文学が映画に学ぶとき
第13回	アルフレート・デブリン『ベルリン・アレクサンダー広場』と映画（2）	1980年のテレビドラマシリーズと「ニュー・ジャーマン・シネマ」の神話
第14回	講義内容のまとめ	〈文学作品とその映画化〉をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業であつた文学作品については該当する箇所を日本語（場合によっては英語）で配布するので、事前に目を通しておいください。授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひDVDレンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返しながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60％
学期末レポート：40％（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、念のためPCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。
授業の進度により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

Masterpieces of German Literature Read Along with the Film Adaptations
In this class, we will read literary works from German-speaking countries, comparing and contrasting them with films based on them. In this semester, we will focus on masterpieces of modern German literature and films based on these novels.

ARSk300LA

比較文化 A

2017年度以降入学者

DIETMAR HEIDENREICH

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

法文営国環キ 2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食、メディアと現代文化

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

この授業はオンライン・オンデマンド型での実施となります。参照：【授業の進め方と方法】【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【学生が準備すべき機器他】

【到達目標】

- ・異文化・自文化理解力を深めること。
- ・固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- ・海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。

基本的にさまざまなアプローチメディアを配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	予備考察（1）	「人間とは食べる場所のものである」とは？ 食文化と人間
②	予備考察（2）	団体主義社会と個人主義社会 「ステレオタイプ」、「偏見」とは？ 良い比較の例、悪い比較の例
③	日本の「食の思想」の特色	和食と「イデオロギー」
④	西洋の「食の思想」の特色	キリスト教の食の思想、近代ヨーロッパの食の思想
⑤	食物タブーと文化	日本のタブーと西洋のタブー
⑥	食と性差	性差と食の嗜好
⑦	国際化の中の食文化（1）	現代日本の食の状況
⑧	国際化の中の食文化（2）	現代ヨーロッパの食の状況
⑨	食とコミュニケーション	食と人間関係
⑩	文学と映画における食文化（1）	<i>Foodfilm</i> とは何か
⑪	文学と映画における食文化（2）	伊丹十三『タンポポ』などについて

- ⑫ 文学と映画における食文化（3） 小説『バベットの晩餐会』について
- ⑬ 文学と映画における食文化（4） 映画『バベットの晩餐会』について
- ⑭ 総復習 総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

川上睦子：『いま、なぜ食の思想か』社会評論社 2015 年。

I. ディーネセン：『バベットの晩餐会』ちくま文庫 1992 年。

【成績評価の方法と基準】

数回提出してもらう課題と、授業での練習問題に取り組む態度（平常点）を総合して評価する。

課題提出等：60%

平常点：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム「Hoppii」を介した方法のみで授業を行うため特殊な機材（Zoom など接続可能な機器）を用意する必要はありませんが、課題用紙を含めて教員から提示される文字資料は基本的に PDF ファイルになりますので、PDF フォームへの文字の入力方法などについてお持ちの PC を確認することを勧めます。

【Outline and objectives】

Food, Media and Contemporary Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly Japanese and European representations of food in various visual and printed media.

ARSk300LA

比較文化 B

2017 年度以降入学者

DIETMAR HEIDENREICH

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「神話とメルヘンにおけるシンボル動物」をテーマに、この授業では諸文化間の動物観とそれらのシンボリック意味を比べ、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高める。

この授業はオンライン・オンデマンド型での実施となります。参照：【授業の進め方と方法】【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【学生が準備すべき機器他】

【到達目標】

- ・人間と動物の関係についての異文化理解を深めること。
- ・固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- ・海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。

基本的にさまざまなアップロードメディアを配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは？	授業の内容と進め方の説明
②	日本の狐と西欧の狐（1）	女性のイメージ対悪魔のイメージ
③	日本の狐と西欧の狐（2）	民話『狐ラインケ』からゲーテ『きつねのライネッケ』へ、課題、ディスカッション
④	日本の変身童話と西欧の変身童話（1）	『日本の昔ばなし』と『グリム童話』の比較
⑤	日本の変身童話と西欧の変身童話（2）	課題、ディスカッション
⑥	宗教と動物（1）	キリスト教のシンボル動物について
⑦	宗教と動物（2）	仏教のシンボル動物について、課題、ディスカッション
⑧	ギリシャ・ローマ神話と動物（1）	イルカ、馬について
⑨	ギリシャ・ローマ神話と動物（2）	動物の犠牲について
⑩	北欧神話と動物（1）	課題、ディスカッション
⑪	北欧神話と動物（2）	「レダと白鳥」について
⑫	詩人と白鳥（1）	課題、ディスカッション
⑬	詩人と白鳥（2）	ワグナー『ローエングリン』について
⑭	総復習	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

数回提出してもらう課題と、授業での練習問題に取り組む態度（平常点）を総合して評価する。

課題提出等：60%

平常点：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム「Hoppii」を介した方法のみで授業を行うため特殊な機材（Zoom など接続可能な機器）を用意する必要はありませんが、課題用紙を含めて教員から提示される文字資料は基本的に PDF ファイルになりますので、PDF フォームへの文字の入力方法などについてお持ちの PC を確認することを勧めます。

【Outline and objectives】

What similarities and differences exist in the concept of animals and their symbols among cultures? This course is designed to allow students to explore the relationship between humans and animals with an emphasis on mythology, religious tradition and literature.

ART300LA

ドイツ語圏の芸術 A

2017 年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏の芸術」と聞いて何が思い浮かびますか。「ドイツ語圏」っぽい芸術って一体どんな芸術なのでしょうね、ってそもそも「ドイツ語圏」ってどこでしたっけ？

18 世紀から 19 世紀にかけて、中部ヨーロッパ（当時のドイツ、オーストリアとその周辺）には、「ドイツっぽい（deutsch）」や「ドイツ人（Deutsche）」の正体を、他でもない芸術を通じて追究しようとする人々が現われました。この授業では、秋学期開講の「ドイツ語圏の芸術 B」と併せて、近代ドイツ語圏の造形芸術（建築、デザイン）、音楽を概観することで、「ドイツ語圏の芸術」とカテゴライズされるもののさまざまな内実に迫ります。願わくばこの授業が、みなさんの一生の友となりうる魅力的な創造力との出会いとなりますように。

【到達目標】

第一の目標は、近代のドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイスを中心とする）の文化・芸術に関する理解を深め、概念を通じた知識を習得するとともに、芸術・文化一般に対する知的なアプローチの仕方を学ぶことです。「芸術＝天才・エキセントリックなもの」という今日の世間一般に流布するイメージの成立には、19 世紀の欧州、とりわけドイツ語圏の芸術が決定的に影響したと言っても過言ではありません。

二つめの目標は、造形芸術や音楽の形式分析を通じ、抽象的な議論に慣れることです。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21 世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。

三つめの目標は、「ドイツっぽい」というナショナルな表象（とそれに対する抵抗）を概観することで、アイデンティティの実体や困難について思考することです。「ドイツっぽい」の不確かさと同程度には、「日本ならでは…」という言い方もあやしいものかもしれません。当たり前を疑うことの面白さを、ドイツ語圏の芸術の話題を通じて楽しく味わうとともに、その価値について自ら考えてみて欲しいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

造形芸術、舞台芸術、建築、デザイン、音楽などの諸芸術のうち、今学期は 18 世紀末～20 世紀初頭の音楽と造形芸術を時系列に沿って扱います。個別の作品分析とともに、作り手（芸術家）や時代背景、作品受容とその影響について確認する作業が中心です。

・各回、基本的に担当者による解説やテキストの講読を中心とする講義形式で行いますが、適宜ペアワーク、グループワークによる議論の時間を設け、「ここまでの内容・解説についてどう理解しようと思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深められる機会とします。各回の議論でなされたコメントには即時相互のフィードバックが得られます。

・法政大学の 2021 年度授業方針に従い、「対面授業」で行います。初回授業はハイフレックス型（対面＋リアルタイム型オンライン授業）となる可能性が高いです。

・各回授業後には提出課題（小レポート）を書き提出してもらいます。・Hoppii のほか、Zoom と Google Classroom をツールとして使用します。

・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業について（オリエンテーション）、「ドイツ語圏」ってどこ？
第 2 回	ルネサンスから北方ルネサンスへー アルプス山脈を超えてみました	デューラー『野うさぎ』（1502 年）、『メランコリア I』（1514 年）ほか
第 3 回	仕事が欲しい音楽家ー「音楽の国ドイツ」の誕生？！	モーツァルト『弦楽四重奏曲第 1 番ト長調 K.80 (73f)「ローディ」』（1770-1773 年）ほか
第 4 回	ドイツ語で歌うオペラを作りたいー言語と芸術の優劣？	モーツァルト『後宮からの誘拐』（1782 年）『ドン・ジョヴァンニ』（1787 年）『魔笛』（1791 年）
第 5 回	ナポレオン後の世界と 1824 年の衝撃ー真理を「聴く」ための交響曲	ベートーヴェン『交響曲第五番ハ短調作品 67「運命」』（1808 年）『交響曲第九番ハ短調作品 125「合唱付」』（1824 年）
第 6 回	若者たちの憂いー「ドイツリート」の誕生	シューベルト『糸を紡ぐグレートヒェン』（1814 年）とゲーテ『ファウスト（悲劇第一部）』（1808 年）
第 7 回	反動と啓蒙の時代ー合唱と「ドイツ」を讃える歌	「フィルハーモニー」の誕生、「ジング・アカデミー」とゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』（1829 年）
第 8 回	「国歌」を歌ってみたい？ー「ドイツ人としての誇り」	ハイドン『弦楽四重奏曲第 77 番ハ長調「皇帝」』／「神よ、皇帝フランツを守り給え」（1797 年）／H. v. ファーラーズレーベン「ドイツの歌」（1841 年）
第 9 回	歴史を伝える絵画ー都市化するベルリンとドイツ帝国の誕生	メンツェル『ベルリン～ポツダム鉄道』（1947 年）『サンサーシ宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』（1850 年）『鉄匠延機工場』（1872-1875 年）
第 10 回	戦うオーストリアーヴィーンのワルツ・ビジネス	J. シュトラウスとその息子との確執、J. シュトラウス 2 世『青き美しきドナウ』（1867 年）『ウィーン気質』（1873 年）ほか
第 11 回	終わりの始まりー権威への思慕と反動のせめぎ合い	ヴィーン工房とヴィーン分離派（O. ヴァーグナー、J・ホフマンなど）
第 12 回	オワコンなブルジョワの本音ーヴィーン世紀末の光と影	クリムト『アデーレ・ブロッホ＝バウアーの肖像』（1907 年）ほか
第 13 回	「新たな時代の生き方」ー「ブリュッケ」（表現主義）	O. ミュラー『水浴する風景』（1906 年）、キルヒナー『ノレンドルフ広場』（1912 年）『ポツダム広場』（1914 年）
第 14 回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業資料に再度目を通すこと。
・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品のカatalogを見る、音楽を聴くなどでできればなお良いです。
・コンサート・ライブや観劇、展覧会訪問などの体験は素晴らしいことです。2020 年以降オンラインの催しは劇的に増え、無料配信のものも数多くあります。「コロナ」ゆえの様々な変化をうまく楽しんでもらえたらと思います。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布します。

【参考書】

宮田真治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015 年）

石多正男『歌曲と絵画で学ぶドイツ文化史 中世・ルネサンスから現代まで』（慶応義塾大学出版会、2014 年）
神林恒道編『ドイツ表現主義の世界 美術と音楽をめぐって』（法律文化社、1995 年）
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への積極的な参加と議論への貢献（30%）
- ・授業後の提出課題（40%）
- ・学期末レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ハイレックス型の授業となる可能性が高いです。
- ・Wi-Fi が利用可能なデジタルガジェット（PC ないしスマートフォン、タブレット）
 - ・イヤホン（ヘッドセット／ヘッドフォンマイク）

【その他の重要事項】

- ・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
- ・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
- ・ハイレックス型授業が必要な状況で、かつ機能しない場合はまた手段を考えます。随時メールと LMS (Hoppii, Google Classroom) を確認するようにしてください。

【Outline and objectives】

This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the Renaissance to the end of 19. century: It deals with mainly fine arts (including architecture and handicrafts-design) and music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. Our works in this course would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

ART300LA

ドイツ語圏の芸術 B

2017 年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏の芸術」と聞いて何が思い浮かびますか？「ドイツ語圏」っぽい芸術って一体どんな芸術なんだろうね、ってそもそも「ドイツ語圏」ってどこでしたっけ？

20 世紀、「ドイツ語圏」と呼ばれる地域は、二度の大戦を通じて国境線を幾度となく書きかえていきます。芸術家たちがいかに歴史に翻弄され、またそれに抗おうとしたのか？ この授業では、春学期開講の「ドイツ語圏の芸術 A」と併せて、近代ドイツ語圏の芸術（造形芸術、身体・舞台芸術）、建築（デザイン）、音楽を概観すること、で、「ドイツ語圏の芸術」とカテゴライズされるもののさまざまな内実に迫ります。願わくばこの授業が、みなさんの一生の友となりうる魅力的な創造力との出会いとなりますように。

【到達目標】

第一の目標は、近現代のドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイスを中心とする）の文化・芸術に関する理解を深め、概念を通じた知識を習得するとともに、芸術・文化一般に対する知的なアプローチの仕方を学ぶことです。

二つめの目標は、造形芸術や音楽の形式分析等を通じて、抽象的な議論に慣れることです。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21 世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。

三つめの目標は、「ドイツっぽい」というナショナルな表象（とそれに対する抵抗）を概観することで、アイデンティティの実体や困難について思考することです。「ドイツっぽい」ものの不確かさと同程度には、「日本ならでは…」という言い方もあやしいものかもしれません。当たり前を疑うことの面白さを、ドイツ語圏の芸術の話題を通じて楽しく味わうとともに、その価値について自ら考えてみて欲しいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

今学期は、20 世紀のドイツ語圏から発信された造形芸術、舞台芸術、建築、デザイン、音楽などの諸芸術を幅広く、おおよそ時系列に沿って扱います。個別の作品分析とともに、作り手（芸術家）や時代背景、作品受容とその影響について確認する作業が中心です。・法政大学の 2021 年度授業方針に従い、「対面授業」で行います。初回授業はハイフレックス型（対面＋リアルタイム型オンライン授業）となる可能性が高いです。

・各回授業後には提出課題（小レポート）を書き提出してもらいます。・Hoppii のほか、Zoom と Google Classroom をツールとして使用します。・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業について（オリエンテーション）、春学期の復習、第一次世界大戦が社会・芸術にもたらした変化
第 2 回	言葉と音の大胆な融合 — 国際都市チューリヒの「反芸術」	H. バル『ダダ宣言』（1916 年）、T. ツァラのチューリヒ・ダダと「キャバレー・ヴォルテールの夕べ」ほか
第 3 回	モダニズムのパラダイム — 混乱と「コラージュ」と「モンタージュ」	H. ベルリン・ダダ（R. ハウスマン、H. ヘーヒほか）、K. シュヴィッタース『メルツ絵画』（1919 年）ほか
第 4 回	美と労働と生活の結合 — 田園都市ヘレラウの実験	「デザイン」の時代の到来、ドイツ工作連盟とドイツ工芸工房、教育と芸術の融合、第一次世界大戦と生活改革運動の限界
第 5 回	身体に「リズム」を取り戻す — モダンダンスの革命・女性の時代	ヘレラウ生まれのリトミック、R. ラバンの身体教育構想、M. ヴィグマンの舞踊教育施設ほか
第 6 回	「全ては建築に収束する」 — バウハウスの誕生	W. グロピウス『バウハウス宣言』（1919 年）、表現主義と機能主義の混合、O. シュレンマーの舞台工房と『トリアディック・パレエ』（1922 年）ほか
第 7 回	審美的な芸術から機能主義へ — マイアーと M・v・d・ローエのバウハウス	バウハウス・デッサウ（1925 年）、「皆が平等に豊かな」生活と商業活動のための芸術
第 8 回	ハイパーインフレと虚無の後 — 機械の時代の芸術	O. グロス『大都会』（1927/28 年）、C. シャート『ソーニャ』（1929 年）など
第 9 回	ナチスの権力掌握と芸術 — 「大ドイツ芸術展」と「退廃芸術展」	ナチスによるバウハウスの駆逐、ナチスの権力掌握と焚書（1933 年）
第 10 回	ベルリン・フィルの運命 — 追われるユダヤ系芸術家	フルトヴェングラーのオーケストラ、近衛秀麿の見たベルリン・フィル
第 11 回	「アウシュヴィッツの後、詩を書くことは野蛮である」 — 「ドクメンタ」の誕生	ドイツにモダニズム芸術を取り戻す（第 1 回ドクメンタ）、芸術の意味の多様化、60 年代運動と「芸術家の生き方」（第 5 回ドクメンタ）
第 12 回	社会主義リアリズム — 観てはいけない映画、聴いてはいけない音楽	Th. ブルスイヒ『太陽通り』（1999 年）
第 13 回	電子音楽とクラブカルチャー — ミュジック・コンクレート、テクノ、そして「ラオプ」へ	クラフトワークから「ラブ・パレード」へ、「移民国家」のアイデンティティと NY からやってきたヒップホップ
第 14 回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業資料に再度目を通すこと。
・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品のカatalog を見る、音楽を聴くなどでできればなお良いです。
・コンサート・ライブや観劇、展覧会訪問などの体験は素晴らしいことです。2020 年以降オンラインの催しは劇的に増え、無料配信のものも数多くあります。「コロナ」ゆえの様々な変化をうまく楽しんでもらえたらと思います。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布します。

【参考書】

・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015 年）
・W. ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』ちくま学芸文庫、1995 年/1996 年所収）
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への積極的な参加と議論への貢献（30%）
- ・授業後の提出課題（40%）
- ・学期末レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ハイフレックス型の授業となる可能性が高いです。
- ・WiFi が利用可能なデジタルガジェット（PC ないしスマートフォン、タブレット）
- ・イヤホン（ヘッドセット／ヘッドフォンマイク）

【その他の重要事項】

- ・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
- ・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
- ・ハイフレックス型授業が必要な状況で、かつ機能しない場合はまた手段を考えます。随時メールと LMS（Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

【Outline and objectives】

This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the end of 19. century(modernism) to the present era(contemporary art): It deals with mainly fine arts (including architecture and handcrafts-design), theatrical arts as well as classical and popular music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might feel got understand but actually could hardly understand without reflection. The works in the classes would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を6回、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と抗議の回数に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせで実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う。基本的に、対面形式での授業実施のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内靴が必要となるので用意すること。授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	レクリエーションスポーツ	・インディアカ・ソフトバレー
3	ラケット種目	・バドミントン シングルス・ダブルス
4	講義予定	・有酸素運動＝エアロビクス 運動について
5	有酸素運動	・ダイエットについて ・ウォーキング 時間と歩数の関係と消費カロリーを知る
6	講義予定	・応急手当てについて RICE 処置・熱中症・脳震盪・コロナウイルス感染症
7	ネットスポーツ 1	・バレーボールの理論と実習

8	ボールゲーム	・バスケットボールの理論と実習
9	講義予定	・自宅でできる筋力トレーニング
10	講義予定	・健康チェックとコンディショニングについて サルコペニア、利き手利き足利き目バランス能力柔軟性
11	講義予定	・バランスチェックとストレッチング
12	ネットスポーツ 2	・卓球シングルの理論と実習
13	ネットスポーツ 3	・卓球ダブルスの理論と実習
14	まとめ	授業のまとめ (レポート課題あり)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。
適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
 - 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。
男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。
一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。
新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】

This class aim to study Japanese sport culture.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を6回、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と抗議の回数に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う。基本的に、対面形式での授業実施のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内靴が必要となるので用意すること。授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	授業概要についての説明
2 回目	レクリエーションス	・インディアカ
授業	スポーツ	・ソフトバレー
3 回目	ラケット種目	・バドミントン
授業		・シングルス・ダブルス
4 回目	講義予定 有酸素	・有酸素運動=エアロビクス運動について
授業		・ダイエットについて
5 回目	有酸素運動 有酸素運動の具体例	・ウォーキング 時間と歩数の関係と消費カロリーを知る

6 回目 講義予定 応急手当て	・応急手当てについて RICE 処置・熱中症・脳震盪・ コロナウイルス感染症
7 回目 ネットスポーツ 1	・バレーボール
8 回目 ボールゲーム	・バスケットボール
9 回目 講義予定 筋力トレー	・自宅でできる筋力トレーニング
10 回目 講義予定 健康につい	・健康チェックとコンディショニ
11 回目 講義予定 コンディ	・バランスチェックとストレッチ
12 回目 ネットスポーツ 2	・卓球
13 回目 ネットスポーツ 3	・卓球
14 回目 まとめ	授業のまとめ (レポート課題あり)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %、期末レポート 20 %、授業への参画状況 20 % の配分で評価する。なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること

【Outline and objectives】

This course aims to study Japanese sports culture.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】

本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくきとする。実技においては、最終的に歴史とルールを理解して、ダブルス・シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期・・・リモートにより「知識を知り」「意識をもって」実技で実行すること。基本となるフットワーク・ストローク技術の習得を中心にバドミントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。

実技においては、最終的にダブルス、シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にゲームの組み立てなどを動画を観戦させながら知識としても理解を深めていく。バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましく、秋学期の授業に関しては、春学期の授業を受講した者のみ受講を認めることとする。

本授業は 1 回目リモート、2 回目・3 回目は対面授業を繰り返しておこないます。

1 回目のリモートの課題を対面授業のときにフィードバック（説明・質疑応答・授業内容の説明）をします。1 4 回目の授業では理解力テストと感想・反省をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（本授業の説明）	対面によりバドミントン授業の説明（場所・内容・評価方法等）次回レポート提出（歴史とルール）
2	バドミントン	歴史とルールのテスト。ラケットとシャトルに慣れる練習と片面シングルス
3	バドミントンシングルのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解」、奥原望（リオデジャネイロシングルス銅メダル）の動画を観てイメージアップと課題提出

4	バドミントン	基本ストローク練習（サービス・ドロップ・スマッシュ・レシーブ等）半面シングルス
5	バドミントン	基本練習とシングルスゲーム
6	バドミントンダブルスのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解、高橋・松友（リオデジャネイロダブルス大逆転金メダル）の動画を観て」イメージアップと課題提出
7	バドミントン	基本ストローク練習（サービス・ドロップ・スマッシュ・レシーブ等）ダブルス練習
8	バドミントン	基本ストロークとダブルスゲーム
9	バドミントンのトリプルのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解、トリプルの動画を観て」イメージアップと課題提出
10	バドミントン	基本ストロークの練習とトリプルスゲーム
11	バドミントン	シングルスゲーム
12	バドミントンのミックスダブルスのイメージアップ	リモートにより「渡辺・東野のミックスダブルスを観て」イメージアップと課題提出
13	バドミントン	ダブルスゲーム
14	総括	歴史とルールの理解力テスト・反省・感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントン技術習得方法として重要な、予習と復習の反復練習は大切な要素です。授業内だけではなく、授業外で地域のスポーツセンター等を活用して、予習・復習することが望ましい。（2時間以上）動画を観てイメージアップを図ること（2時間以上）怪我防止のため軽い運動を行うこと。

【テキスト（教科書）】

資料はその都度配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

個人競技であるため春学期は実技点（60点）とレポート得点（20点）と歴史とルールのテスト得点（20点）

【学生の意見等からの気づき】

授業により（練習・ダブルス等）コミュニケーションを図り、積極的に友達作りをさせること。
昨年同様に授業内で全員に最低1回以上の声掛けを行い、積極的にコミュニケーションづくりをすること。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴。

【その他の重要事項】

怪我防止のために、軽い運動やトレーニングをすること。

【Outline and objectives】

In addition to responding to the essential human desire to move the body, sports provide a sense of exhilaration, accomplishment, and solidarity, as well as maintenance and promotion of health, which is the basis of a prosperous life, improvement of physical strength, and human formation of young people.

It is positioned as an extremely important act that plays an immeasurable role in

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】

本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくてきとする。実技においては、最終的に歴史とルールを理解して、ダブルス・シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期・・・リモートにより「知識を知り」「意識をもって」実技で実行すること。基本となるフットワーク・ストローク技術の習得を中心にバドミントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。

実技においては、最終的にダブルス、シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にゲームの組み立てなどを動画を観戦させながら知識としても理解を深めていく。バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましく、秋学期の授業に関しては、春学期の授業を受講した者のみ受講を認めることとする。

本授業は1回目リモート、2回目・3回目は対面授業を繰り返しておこないます。

1回目のリモートの課題を対面授業のときにフィードバック（説明・質疑応答・授業内容の説明）をします。14回目の授業では理解力テストと感想・反省をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（本授業の説明）	対面によりバドミントン授業の説明（場所・内容・評価方法等）次回レポート提出（歴史とルール）
2	バドミントン	歴史とルールのテスト。ラケットとシャトルに慣れる練習と半面シングルス
3	バドミントンシングルのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解」、奥原望（リオデジャネイロシングルス銅メダル）の動画を観てイメージアップと課題提出

4	バドミントン	基本ストローク練習（サービス・ドロップ・スマッシュ・レシーブ等）半面シングルス
5	バドミントン	基本練習とシングルスゲーム
6	バドミントンダブルスのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解、高橋・松友（リオデジャネイロダブルス大逆転金メダル）の動画を観て」イメージアップと課題提出
7	バドミントン	基本ストローク練習（サービス・ドロップ・スマッシュ・レシーブ等）ダブルス練習
8	バドミントン	基本ストロークとダブルスゲーム
9	バドミントンのトリプルのイメージアップ	リモートにより「歴史とルールを理解、トリプルの動画を観て」イメージアップと課題提出
10	バドミントン	基本ストロークの練習とトリプルスゲーム
11	バドミントン	シングルスゲーム
12	バドミントンのミックスダブルスのイメージアップ	リモートにより「渡辺・東野のミックスダブルスを観て」イメージアップと課題提出
13	バドミントン	ダブルスゲーム
14	総括	歴史とルールの理解力テスト・反省・感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントン技術習得方法として重要な、予習と復習の反復練習は大切な要素です。授業内だけではなく、授業外で地域のスポーツセンター等を活用して、予習・復習することが望ましい。（2時間以上）動画を観てイメージアップを図ること（2時間以上）怪我防止のため軽い運動を行うこと。

【テキスト（教科書）】

資料はその都度配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

個人競技であるため春学期は実技点（60点）とレポート得点（20点）と歴史とルールのテスト得点（20点）

【学生の意見等からの気づき】

授業により（練習・ダブルス等）コミュニケーションを図り、積極的に友達作りをさせること。
昨年同様に授業内で全員に最低1回以上の声掛けを行い、積極的にコミュニケーションづくりをすること。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴。

【その他の重要事項】

怪我防止のために、軽い運動やトレーニングをすること。

【Outline and objectives】

In addition to responding to the essential human desire to move the body, sports provide a sense of exhilaration, accomplishment, and solidarity, as well as maintenance and promotion of health, which is the basis of a prosperous life, improvement of physical strength, and human formation of young people.

It is positioned as an extremely important act that plays an immeasurable role in

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

前原 千佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について 様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	運動と健康について	自身の生活習慣の振り返り 運動と心身の関係
3	食事と健康について	生活習慣病とは BMI 値 五大栄養素について
4	飲酒、喫煙、薬物と健康	それぞれによる身体への影響
5	実技 ：バドミントン①	ストレッチ・体操（フィットネス） バドミントンの基本的技術とルール
6	実技 ：バドミントン②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
7	実技 ：ターゲット型①	ストレッチ・体操（フィットネス） ユニカール、クロリティーの基本的技術とルール

8	近代オリンピックについて	オリimpiズムとは
9	パラリンピックの歴史	障がい者スポーツの一例を紹介
10	近代オリンピックをめぐる諸問題について	ボイコット、商業主義、環境問題、ドーピング、ジェンダー等
11	実技 ：ターゲット型②	ストレッチ・体操（フィットネス） ボッチャ、バタングの基本的技術とルール
12	実技 ：その他の種目①	ストレッチ・体操（フィットネス） ドッジボール、フリスビー、ユニホッケーの基本技術とルール
13	実技 ：その他の種目②	ストレッチ・体操（フィットネス） フットサル、カバディ、3on3（ストリートバスケットボール）の基本的技術とルール
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まることがある。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から新規に授業を担当するため特になし

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること

3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること。
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

前原 千佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について 様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業は対面による実技とオンラインによる講義で実施する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	運動と健康について	自身の生活習慣の振り返り 運動と心身の関係
3	筋の構造と特性について	筋の収縮メカニズム 筋の分類
4	トレーニングの原理について	過負荷の原理 超回復とは
5	実技 ：卓球①	ストレッチ・体操（フィットネス） 卓球の基本的技術とルール
6	実技 ：卓球②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
7	実技 ：バレーボール型①	ストレッチ・体操（フィットネス） バレーボールの基本的技術とルール
8	救命救急と応急措置	胸部圧迫と AED の役割について 心肺蘇生法の手順について

9	食事と健康について	生活習慣病とは BMI 値 五大栄養素について
10	メンタルヘルスについて	メンタルチェック リラクゼーション法について
11	実技 ：バレーボール型②	ストレッチ・体操（フィットネス） バレーボールの基本的技術と戦術
12	実技 ：バドミントン①	ストレッチ・体操（フィットネス） バドミントンの基本的技術とルール
13	実技 ：バドミントン②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まる。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から新規に授業を担当するため特になし

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする。

4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

朝比奈 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気の関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツ・ウォーキングについて説明できる。
3. スポーツ・ウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツ・ウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べるができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概要し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分におこない、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムをつうじて周知する。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	スポーツ・ウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。

5	スポーツ・ウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
6	ヨガの起源とアーサナー (講義および実習)	ヨガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。 単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
7	ヨガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
8	スポーツ・ウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツ・ウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。 走り型にならないように注意する。
10	ヨガと呼吸 (講義および実習)	ヨガの呼吸法を身に付ける。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
11	スポーツ・ウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨガと健康 (講義および実習)	ヨガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。 基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨガとして実践する。
14	まとめ	スポーツ・ウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。

心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。

なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど） 60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。

・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。

またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することががのぞましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日 15 時～16 時 30 分の 1.5 時間を設ける。

オフィスアワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることががのぞましい。

【Outline and objectives】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨーガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨーガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツ・ウォーキングについて説明できる。
3. スポーツ・ウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツ・ウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概要し、実践することができる。
9. ヨーガの考え方を取り入れたストレッチングが理解できる。
10. ヨーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分におこない、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムをつづいて周知する。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力と健康 (講義および実習)	文部科学省新体力テストの意義や方法を説明する。 体力の概要について、行動体力、防衛体力について説明する。また健康に関わる要素について説明する。
3	身体運動と健康 (講義)	厚生労働省による資料を用いて、生活習慣病と身体活動との関係を明らかにし、運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりを理解する。

4	スポーツ・ウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。
5	スポーツ・ウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
6	ヨーガ思想と歴史 (講義および実習)	ヨーガ思想の起源や歴史について概説し、原始ヨーガ、古典ヨーガ、後期ヨーガなどを理解する。
7	ヨーガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。 アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
8	スポーツ・ウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツ・ウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
10	ヨーガと呼吸 (講義および実習)	ヨーガの呼吸法を理解し実践する。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
11	スポーツ・ウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨーガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 (講義および実習)	ヨーガニードラについて説明し、実践を通じて、身体的、精神的変化を感じる。 またヨーガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
14	まとめ	スポーツ・ウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。
心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。
なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することがのぞましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日15時～16時30分の1.5時間を設ける。

オフィスアワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることがのぞましい。

【Outline and objectives】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツ総合演習

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期・・・リモートにより「知識を知り」、「意識をもって」実技で実行すること。春学期の復讐と応用をおこないます。

経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましい。

本授業は2回のリモート、1回の対面授業を繰り返しておこないます。

2回のリモートの課題を対面授業のときにフィードバック（説明・質疑応答・授業内容の説明）をします。14回目の授業では理解力テストと感想・反省をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	リモートにより「授業の説明（内容・場所等）」
2	バドミントンを知る	リモートにより「バドミントンの歴史とルールを知り」課題を提出
3	バドミントンのイメージアップ	リモートにより「バドミントンの歴史とルールを理解したうえで、高橋・松友リオデジャネイロ大逆転金メダルの動画を観る」課題を提出
4	バドミントンを体感しよう	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・シングルスゲーム」
5	バレーボールを知る	リモートにより「バレーボールの歴史とルールを知る」課題を提出
6	バレーボールのイメージアップ	リモートにより「バレーボールの歴史とルールを理解したうえで、動画を観る」課題を提出
7	バレーボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」

8	バスケットを知る	リモートにより「バスケットボールの歴史とルールを知り」課題を提出
9	バスケットボールのイメージアップ	リモートにより「バスケットボールの歴史とルールを理解したうえで、動画を観る」課題を提出
10	バスケットボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
11	卓球を知る	リモートにより「卓球の歴史とルールを知る」課題を提出
12	卓球のイメージトレーニング	リモートにより「卓球の歴史とルールを理解したうえで、動画を観る」課題を提出
13	卓球	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
14	総括	総括として「歴史とルールの理解度テスト・反省・感想」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
動画を観てイメージアップをすること。（2時間以上）
地域の体育館等の一般開放で運動を行う（2時間以上）

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。
「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。
この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内の練習等により、積極的にチームワークとコミュニケーションづくりをさせ、友達を多くつくらせる。
昨年同様に授業内で最低一人1回以上の声掛けをして、積極的にコミュニケーションをはかります。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、軽い運動とトレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】

Acquisition and the attitude of the basic knowledge which deepens the understanding about the significance and the role of the body activity and contributes to body-like mental social healthy maintenance increase and self management through a lifetime are brought up through a lecture and a training.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツ総合演習

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期・・・リモートにより「知識を知り」、「意識をもって」実技で実行すること。春学期の復讐と応用をおこないます。

経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましい。

本授業は2回のリモート、1回の対面授業を繰り返しておこないます。

2回のリモートの課題を対面授業のときにフィードバック（説明・質疑応答・授業内容の説明）をします。14回目の授業では理解力テストと感想・反省をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	リモートにより「授業の説明（内容・場所等）」
2	バドミントンを知る	リモートにより「バドミントンの歴史とルールを知り」課題を提出
3	バドミントンのイメージアップ	リモートにより「バドミントンの歴史とルールを理解したうえで、高橋・松友リオデジャネイロ大逆転金メダルの動画を観る」課題を提出
4	バドミントンを体感しよう	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・シングルスゲーム」
5	バレーボールを知る	リモートにより「バレーボールの歴史とルールを知る」課題を提出
6	バレーボールのイメージアップ	リモートにより「バレーボールの歴史とルールを理解したうえで、動画を観る」課題を提出
7	バレーボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」

8	バスケットを知る	リモートにより「バスケットボールの歴史とルールを知り」課題を提出
9	バスケットボールのイメージアップ	リモートにより「バスケットボールの歴史とルールを理解したうえで、動画を観る」課題を提出
10	バスケットボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
11	卓球を知る	リモートにより「卓球の歴史とルールを知る」課題を提出
12	卓球のイメージトレーニング	リモートにより「卓球の歴史とルールを理解したうえで、動画を観る」課題を提出
13	卓球	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
14	総括	総括として「歴史とルールの理解度テスト・反省・感想」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
動画を観てイメージアップをすること。（2時間以上）
地域の体育館等の一般開放で運動を行う（2時間以上）

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。
「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。
この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内の練習等により、積極的にチームワークとコミュニケーションづくりをさせ、友達を多くつくらせる。
昨年同様に授業内で最低一人1回以上の声掛けをして、積極的にコミュニケーションをはかります。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、軽い運動とトレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】

Acquisition and the attitude of the basic knowledge which deepens the understanding about the significance and the role of the body activity and contributes to body-like mental social healthy maintenance increase and self management through a lifetime are brought up through a lecture and a training.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めしていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は 2 年生以上を対象としており、A・B 連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。
授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 3 回	バレーボールの歴史について（講義）	バレーボールの歴史について資料を配布し説明する。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	バレーボールのルールについて・競技場や用具（講義）	バレーボールの競技場や用具に関するルールについて資料を配布し説明する。
第 7 回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	バレーボールのルールについて・ゲームの仕方（講義）	バレーボールのゲームの仕方に関するルールについて資料を配布し説明する。
第 10 回	集団的技術（三段攻撃使用）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（三段攻撃をン用いる）を立ててゲームを行う。
第 11 回	集団的技術（チームコミュニケーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（チームコミュニケーション）を立ててゲームを行う。
第 12 回	バレーボールのルールについて・反則を含めたゲームの仕方（講義）	バレーボールの反則を含めたゲームの仕方に関するルールについて資料を配布し説明する。

第 13 回	集団的技術（総合）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。
第 14 回	授業総括と筆記試験	授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（60 %）を主な基準として、筆記試験（40%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。
・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline and objectives】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、春学期 A で習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業（スポーツ科学 B）は 2 年生以上を対象としており、スポーツ科学 A を受講した学生の連続受講が望ましい。

また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、新規受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、新規の受講希望者には志望理由を記入してもらう。
第 2 回	基本技術、集団技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学 A で行った基本的技術や集団的技術を復習する。
第 3 回	バレーボールのポジションとその役割について（講義）	各ポジションの名称と役割について資料を配布し説明する。
第 4 回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第 5 回	集団的技術・基礎（実習&講義）	スポーツ科学 A とは違うチーム分けをし、チームごとにポジション決定させてゲームを行う。
第 6 回	バレーボールのトレーニングについて・体力測定の意義（講義）	バレーボールに必要な体力要素を理解し、体力測定の意義について講義する。
第 7 回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 8 回	集団的技術（レセプション戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レセプション）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 9 回	ビーチバレーの歴史について（講義）	ビーチバレーの歴史について資料を配布し説明する。
第 10 回	集団的技術（ディグ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ディグ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 11 回	集団的技術（スパイク戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（スパイク）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 12 回	ビーチバレーのルールについて（講義）	ビーチバレーのルールについて資料を配布し説明する。

第 13 回	集団的技術（ブロック戦略重視）・ゲーム（実習 & 講義）	チームごとに戦略（ブロック）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 14 回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い、競技に必要な体力要素などを調べる、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（70%）を主な基準として、レポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。
・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline and objectives】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：パラスポーツ

秋本 成晴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動・スポーツ全般に関する基礎的知識の獲得とともに、パラスポーツ（障害者スポーツ）に関する理論と実践にふれることで、その社会的意義並びに役割を学ぶ。

【到達目標】

- ①自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③パラスポーツ（障害者スポーツ）について理解を深め、パラスポーツ実践に必要な動きを身につける。
- ④パラスポーツ（障害者スポーツ）実践を通して、他者とのより良いコミュニケーション能力の育成を図る。
- ⑤パラスポーツ（障害者スポーツ）やアダプテーションの必要性和役割について学び、これからの社会づくりに生かせる考え方を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を 6 回程度、教室での講義を 8 回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

また、本授業では、パラスポーツ（障害者スポーツ）に関する内容への理解を深めるためにも、運動・スポーツに関する基礎的な知識（栄養学やトレーニング理論）を併せて学んでいく。なお、各種理論について講義を通して学び、実習形式の授業を通して運動・（パラ）スポーツの理解を深めることを図る。なお、授業内容については、受講生の数や受講者の様子、理解度や昨今のコロナウイルス感染症に関連する大学方針などを考慮し一部変更することがある。

また、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	ウォーキングストレッチ（講義および実習）	ウォーキングとストレッチについて、その理論と実践を通して学ぶ。
3	スポーツ栄養学（1）（講義）	健康的な生活を送るために必要な栄養学の基礎知識を習得する。

4	スポーツ栄養学（2） （講義）	第3回の内容を踏まえた上で、スポーツ実践や体づくりを目指すための栄養学の知識を習得し、実践できる力を身につける。
5	体づくりとトレーニング（1） （講義）	体づくりを目指す際に必要なトレーニングの基礎知識を習得する。
6	卓球の基礎 （講義および実習）	卓球の基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う
7	卓球の応用 サウンドテーブルテニス （講義および実習）	卓球のテクニック・試合について学び、視覚を制限した状態で行う卓球について学ぶ。
8	体づくりとトレーニング（2） （講義）	第5回で学んだ内容を踏まえ、トレーニング理論に関する応用的な内容を学ぶとともに、実践につながる知識の獲得を目指す。
9	パラリンピックとパラスポーツ （講義）	パラリンピックの競技種目を観戦しながら、障害のある人のスポーツ参加の方法について学ぶ。
10	パラリンピック競技と工夫 （講義）	パラリンピックの競技種目に見られる工夫について学ぶ。
11	フットサル ボッチャ （講義および実習）	授業の前半ではフットサルの基礎について学び、後半ではパラリンピック競技の1つであるボッチャという競技について学ぶ。
12	バレーボール シッティングバレーボール （講義および実習）	バレーボールの基本について学ぶとともに、パラリンピック競技の1つであるシッティングバレーボールという競技について学ぶ。
13	パラスポーツと我々の生活 （講義）	パラスポーツが抱える困難について、我々の生活レベルに落とし込んで考えてみる。
14	総括 （講義）	これまでの授業を振り返り、互いに意見を交換を行い、授業全体の総括を行う。

【Outline and objectives】

Learning about Para-sports (disability sports) and their significance in society as well as learning the basic principles of exercises and sports.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%

2) 課題レポート 40%

の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義の開始時にその日の授業構成並びに授業のねらいを示すことで、学生の学びを促すようにする。
- ・学生の興味や関心に応じて授業内容を柔軟に変化させ、より学生の状況に合わせた学びを提供する。
- ・授業の終わりに、次回の授業で行う内容について伝えることで、学生が次回の授業のために準備できるようにする。

【その他の重要事項】

- ・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。
- ・受講者数、教場並びに昨今の新型コロナウイルスに伴う大学方針によって、授業計画の順序等が変更になることがある。
- ・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：パラスポーツ

秋本 成晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動・スポーツ全般に関する基礎的知識の獲得とともに、パラスポーツ（障害者スポーツ）に関する理論と実践にふれることで、その社会的意義並びに役割を学ぶ。

【到達目標】

- ①自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③パラスポーツ（障害者スポーツ）について理解を深め、パラスポーツ実践に必要な動きを身につける。
- ④パラスポーツ（障害者スポーツ）実践を通して、他者とのより良いコミュニケーション能力の育成を図る。
- ⑤パラスポーツ（障害者スポーツ）やアダプテーションの必要性と役割について学び、これからの社会づくりに生かせる考え方を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を6回程度、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

また、本授業では、パラスポーツ（障害者スポーツ）に関する内容への理解を深めるためにも、運動・スポーツに関する基礎的な知識（栄養学やトレーニング理論）を併せて学んでいく。なお、各種理論について講義を通して学び、実習形式の授業を通して運動・（パラ）スポーツの理解を深めることを図る。なお、授業内容については、受講生の数や受講者の様子、理解度や昨今のコロナウイルス感染症に関連する大学方針などを考慮し一部変更することがある。

また、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	ウォーキングストレッチ（講義および実習）	ウォーキングとストレッチについて、その理論と実践を通して学ぶ。
3	スポーツ栄養学（1）（講義）	健康的な生活を送るために必要な栄養学の基礎知識を習得する。

4	スポーツ栄養学（2）（講義）	第3回の内容を踏まえた上で、スポーツ実践や体づくりを目指すための栄養学の知識を習得し、実践できる力を身につける。
5	体づくりとトレーニング（1）（講義）	体づくりを目指す際に必要なトレーニングの基礎知識を習得する。
6	卓球の基礎（講義および実習）	卓球の基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う
7	卓球の応用（講義および実習）	卓球のテクニク・試合について学び、視覚を制限した状態で行う卓球について学ぶ。
8	体づくりとトレーニング（2）（講義）	第5回で学んだ内容を踏まえ、トレーニング理論に関する応用的な内容を学ぶとともに、実践につながる知識の獲得を目指す。
9	パラリンピックとパラスポーツ（講義）	パラリンピックの競技種目を観戦しながら、障害のある人のスポーツ参加の方法について学ぶ。
10	パラリンピック競技と工夫（講義）	パラリンピックの競技種目に見られる工夫について学ぶ。
11	フットサルボッチャ（講義および実習）	授業の前半ではフットサルの基礎について学び、後半ではパラリンピック競技の1つであるボッチャという競技について学ぶ。
12	バレーボールシッティングバレーボール（講義および実習）	バレーボールの基本について学ぶとともに、パラリンピック競技の1つであるシッティングバレーボールという競技について学ぶ。
13	パラスポーツと我々の生活（講義）	パラスポーツが抱える困難について、我々の生活レベルに落とし込んで考えてみる。
14	総括（講義）	これまでの授業を振り返り、互いに意見を交換を行い、授業全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%

2) 課題レポート 40%

の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義の開始時にその日の授業構成並びに授業のねらいを示すことで、学生の学びを促すようにする。
- ・学生の興味や関心に応じて授業内容を柔軟に変化させ、より学生の状況に合わせた学びを提供する。
- ・授業の終わりに、次の授業で行う内容について伝えることで、学生が次の授業のために準備できるようにする。

【その他の重要事項】

- ・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。
- ・受講者数、教場並びに昨今の新型コロナウイルスに伴う大学方針によって、授業計画の順序等が変更になることがある。
- ・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】

Learning about Para-sports (disability sports) and their significance in society as well as learning the basic principles of exercises and sports.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングの理論と実践 I

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 各自の目標達成に資する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する基礎的な理論と実践方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する知識の幅を広げる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した基礎的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。リアクションペーパー等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	トレーニングに関する専門的な学びに向けた授業概要について理解する。また、募集定員を超過した場合は受講者の決定を目的とした抽選を行う。（講義）
2	安全講習と機器の使用法	トレーニング施設使用に向けた安全講習および各種機器の使用法について学ぶ（講義及び実習）
3	トレーニングの原理・原則	トレーニングの原理・原則について学ぶ（講義）
4	トレーニング目標とプログラムの設定	トレーニング理論を踏まえたトレーニングの目標と計画を設定する（講義及び実習）
5	トレーニングと体組成	トレーニングと体組成の関係について学ぶ（講義及び実習）
6	トレーニングと栄養	トレーニング効果を高める食事とサプリメントの摂取の仕方について学ぶ（講義及び実習）

7	チームビルディングⅠ	「ジョハリの窓」を用いたグループワークを通じて自己理解を促進する（講義）
8	無酸素運動	基礎的な無酸素運動の実践方法と効果について学ぶ（講義及び実習）
9	有酸素運動	基礎的な有酸素運動の実践方法と効果について学ぶ（講義及び実習）
10	チームビルディングⅡ	グループワークを通して「他者から見た私」を知る（講義）
11	体幹のトレーニング	腹部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
12	上肢のトレーニング	基礎的な上肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
13	下肢のトレーニング	基礎的な下肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
14	レポート課題・まとめ	トレーニング計画に基づき実施したトレーニングの成果および今後の課題に関するレポートを作成する（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上であり、その具体的な取り組み内容は次の通りです。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、日々トレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終授業時に課すレポート課題： 50 %。
2. 各授業で取り組むリアクションペーパー： 25 %
3. 授業への参画状況： 25 %

※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

※原則として欠席 3 回までを評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に 20 名の受講者を決定します。当選した場合、必ず受講する方のみ抽選に参加してください。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館 3 階・柔道場の予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。
5. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。

6. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、前述の理由で欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles and methods of physical training. Students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングの理論と実践 II

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ科学 A での学びの発展を目的とし、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 各自の目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する実践的且つ効果的な理論と方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め、スポーツ科学 A において考案したトレーニングプログラムを発展させる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した実践的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。リアクションペーパー等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	より実践的なトレーニングプログラムを考案するため、これまでのトレーニング内容について再考するとともに授業概要について理解する（講義及び実習）
2	安全講習と機器の使用法の確認	安全講習および各種機器の使用法について再確認する（講義及び実習）
3	アイスブレイク	アイスブレイクを用いた自他理解の促進（講義）
4	トレーニング目標の設定	春学期に導出した課題克服に資するトレーニング目標を設定する（講義及び実習）
5	トレーニングプログラムの設定	春学期に導出した課題克服に資するトレーニングプログラムを設定する（講義及び実習）

6	胸部のトレーニング	胸部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
7	チームビルディング I	「描画法」を用いたグループワークを通じて自他理解を促進する（講義）
8	背部のトレーニング	背部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
9	肩部のトレーニング	肩部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
10	健康の科学	飲酒、喫煙、HIV・AIDS について学ぶ（講義）
11	腕部のトレーニング	腕部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
12	大腿のトレーニング	大腿のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
13	下腿のトレーニング	下腿のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
14	レポート課題・まとめ	トレーニング計画に基づき実践したトレーニングの成果および今後の課題に関するレポートを作成する（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上であり、その具体的な取り組み内容は次の通りです。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、日々トレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終授業時に課すレポート課題：50 %
 2. 各授業で取り組むリアクションペーパー：25 %
 3. 授業への参画状況：25 %
- ※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。
- ※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。
- ※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
- ※原則として欠席 3 回までを評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 春学期の初回授業時にスポーツ科学 A・B の受講者を決定します。なお、スポーツ科学 A・B の通年履修を推奨する観点から、春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

5. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。

6. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、前述の理由で欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【Outline and objectives】

With the aim of developing learning in sports science A, students will learn practical theories and methods of physical training that will help them achieve their goals, such as performance improvement, body makeup, dieting, and maintaining and improving their health, and develop their own training programs. In addition, students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③卒業後の実社会において活躍する上で、重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず2年生以上が履修可能であるが、受講者数に制限があるため、第1回目のガイダンスにおいて履修可能者が決定される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、毎回の授業においてリアクションペーパーを提出する。次回の授業初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についてのガイダンス及び履修者確定
2	講義及び体力測定	体力測定及びウォーミングアップの重要性についての講義及び測定の実施
3	講義「体力について」	体力について講義を行う
4	講義「トレーニング理論について」	トレーニングの理論について講義を行う
5	講義「ウォーミングアップとクーリングダウンについて」	ウォーミングアップ及びクーリングダウンの重要性について講義を行う
6	講義及び実技（ソフトバレーボール）	チームワーク、リーダーの役割についての講義及びソフトバレーボールの実習
7	講義及び実技（バドミントン）	運動の効果についての講義及びバドミントンの実習
8	講義及び実技（卓球）	コミュニケーションについての講義及び卓球の実習
9	講義「筋力トレーニングについて」	筋力トレーニングについて講義を行う
10	講義「健康のための運動について」	健康のための運動について講義を行う

11	講義「メンタルヘルスケアについて」	メンタルヘルスケアについて講義を行う
12	講義及び実技（フットサル）	休養と健康についての講義及びフットサルの実習 レポート課題の提示
13	講義及び実技（アルティメット）	栄養と健康についての講義及びアルティメットの実習
14	授業の総括及び実技（卓球）	授業の総括及び卓球の実習レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いように、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、その都度指示をする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①授業の活動に対する参画状況60%
②課題・レポート40%の配分として総合評価する。
この成績評価は原則的なものであり、特別な理由がある場合、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の主体性を考慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】

教場等、場合により変更の可能性もあります。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合、授業1回目のガイダンス時に決定する。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成される。
毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次の授業の初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。
授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容等についてのガイダンス 受講者確定
2	講義及び体力測定	体力測定についての講義及び測定の実施
3	講義「体力について」	体力について講義を行う
4	講義「トレーニング理論について」	トレーニング理論について 講義を行う
5	講義「ウォーミングアップ、クーリングダウンについて」	ウォーミングアップ、クーリングダウンについて講義を行う
6	講義及び実技（ソフトバレーボール）	チームワーク、リーダーの役割についての講義及びソフトバレーボールの実習
7	講義及び実技（バドミントン）	運動の効果についての講義及びバドミントンの実習
8	講義及び実技（卓球）	コミュニケーションについての講義及び卓球の実習
9	講義「筋力トレーニングについて」	筋力トレーニングについて講義を行う
10	講義「健康のための運動について」	健康のための運動について講義を行う
11	講義「メンタルヘルスケアについて」	メンタルヘルスケアについて講義を行う

12	講義及び実技（フットサル）	休養と健康についての講義及びフットサルの実習
13	講義及び実技（アルティメット）	栄養と健康についての講義及びアルティメットの実習
14	授業の総括及び実技（卓球）	授業の総括を行う及び卓球の実習レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします
授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40% の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに沿った内容の提供に心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

自分の健康管理を十分に行い、常に良好な状態で履修することが望ましい。
教場等、計画通りに進行できないこともある。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングを科学する・Basic course

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】

この授業は 2 年生以上が対象です。

トレーニング理論を包括したコンディショニングの一環であるストレングス（筋力）トレーニングについて、**各自の目的に応じたトレーニング方法に着目した研究を計画し、その効果を検証**していくゼミナールです。

履修者自ら作成したトレーニング・プログラムを実践していくアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。

【到達目標】

- 1：トレーニング器材を安全に使用できる
- 2：トレーニング器材を応用した各種測定方法を利用できる
- 3：測定結果からトレーニング効果を評価できる
- 4：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 5：トレーニングの結果を正しく記録できる
- 6：トレーニング効果を検証した学修過程を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14 回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	＜教室＞ ①シラバスの確認（授業概要と到達目標の説明） ②授業の進め方およびルールと評価方法 ③授業計画 ④受講者の決定 ⑤使用する施設・器材についての解説 ⑥授業支援システムへのメールアドレス登録と Google フォームの実施

2	課題検討期Ⅰ・測定	<トレセン> ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定し、その分析・評価を行う ②筋力を把握するための測定と分析・評価を行う
3	課題検討期Ⅱ・測定結果の評価	<教室> ①グループワークを行う ②前回の測定結果を分析する ③テーマのヒントを探る
4	課題検討期Ⅲ・トレーニング方法	<教室> ①グループワークを行う ②トレーニングの方法と効果を整理する ③テーマに適したトレーニング方法を検討する
5	課題決定期	<教室> ①ゼミで取り組む課題を明確にする ②トレーニング記録方法を確認する
6	計画立案期Ⅰ・トレーニングマシンの基本操作	<トレセン> ①トレーニングマシンの操作方法の確認 ②効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に大きな筋を刺激する種目）を検討する ③検討したトレーニング方法を記録する
7	計画立案期Ⅱ・トレーニングプログラム作成	<トレセン> ①効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に小さな筋を刺激する種目）を検討する ②決定したトレーニング方法を記録する ③トレーニングプログラムを作成する
8	計画実行期Ⅰ・トレーニング種目の仮決定	<トレセン> ①決定したトレーニング種目のプログラム一覧を提出 ②作成したトレーニングプログラムの実践と見直し（主に運動種目の配置・組み合わせ） ③実施したトレーニングを記録する
9	計画実行期Ⅱ・トレーニングプログラム種目の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（時間内に達成できる種目の順序を考える） ②実施したトレーニングを記録する
10	計画実行期Ⅲ・トレーニング強度の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（適切な運動強度の決定） ②実施したトレーニングを記録する
11	計画実行期Ⅳ・トレーニング方法の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（セット法またはピラミッド法の検討） ②実施したトレーニングを記録する
12	計画実行期Ⅳ・トレーニング方法の決定	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの方法を決定し実践する ②実施したトレーニングを記録する

13	計画実行・効果検証期	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
14	反省改善期・発表・総括	<教室> ①春学期に取り組んだ学修過程を発表する ②秋学期の課題を検討する ③春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 **2 時間**（計 **4 時間**）を標準とします。

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも **自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
2. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
3. プレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
4. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
5. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
6. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
7. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
8. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
9. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
10. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した5項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業で提示した課題のレポート： **30 %**
2. 授業におけるリアクションペーパー： **30 %**
3. 成果発表（作成した資料、発表態度など）： **40 %**

【学生の意見等からの気づき】

例年の傾向を振り返ると、本科目は小人数制の授業であるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になっていると思います。

他方では、履修者の多くが先輩や知人から紹介されて受講したようで、**2017 年度**および**2018 年度**の履修者は **25 名以上**となり、授業中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。そこで、**2019 年度**の授業においては、少人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的な授業にしました。

しかしながら、**2020 年度**は通常計画される対面授業が実施できませんでした。**Covid-19** の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンラインのリアルタイム双方向授業となりました。この授業を履修した皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は非常に良かった印象です。自分のペースでゼミ活動に取り組めた、他学部他学年との交流が進んだ、各自の研究時間が十分確保できたなど、オンライン授業の方が効率的であったという意見ばかりでした。半面、大学での実験や対面で意見交換やゼミ会をしたかったなどの意見も寄せられました。

2021 年度は **2020 年度**の新たなゼミの在り方に挑戦する年だと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウェアやシューズ

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が10名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 1を踏まえ、教養ゼミⅡまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 教養ゼミⅠの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期の教養ゼミⅡの受講を認めません。

4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

【Outline and objectives】

The subject is over 2nd grade.

In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must create their own training programs and verify their effectiveness.

Students have to take active acts in class.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングを科学する・Advanced course

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡは、「教養ゼミⅠ・トレーニングを科学する（Basic course）：月曜日3限」の応用科目です。そのため、本ゼミの基礎科目である教養ゼミⅠの単位取得者が履修できます。

基本的な授業形式は教養ゼミⅠと同様ですが、各自のトレーニング方法に着目したトレーニング・プログラムを積極的に実践して検証することを主とします。授業は履修者が主体となり能動的に進め、その検証結果を総括しゼミ内で共有します。

【到達目標】

- 1：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 2：目標達成に資する段階的な計画表を作成できる
- 3：段階的な計画を実行できる
- 4：一定期間実践したトレーニング効果を検証できる
- 5：検証したトレーニング効果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

計画では、ゼミ活動の1回目は体育館B1Fトレーニングセンター（以下、トレセン）です。

ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。課題などの提出・フィードバックに関してもHoppiiを通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

教養ゼミⅡでは、教養ゼミⅠの反省改善期に検討した課題を解決するためのトレーニングプログラムを作成し、トレーニングを積極的に行う（履修者は授業に自主的・能動的に参加）ことを目指します。そのため、ゼミの1回目からトレセンを使用し、秋学期を以下のように3期に分けて進めていきます。

1. 課題・計画を決める期間

自分自身の筋力測定と分析・評価を通じて、「夏季休暇前後の比較」を行った上で、教養ゼミⅡで取り組む課題を明確にします。

2. 実行と検証の期間

計画したトレーニングを実行する期間であり、実施した内容を正確に記録するとともに、随時その結果を自己分析し次回のゼミ活動に活かします。

3. 発表・共有の期間

トレーニング効果を総括した結果を発表し、ゼミ内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 課題・計画の検討期 Ⅰ・測定	＜トレセン＞ ①シラバスの確認（授業概要と目標の説明） ② Inbody による身体組成の分析（春学期との比較） ③教養ゼミⅠで作成したプログラムの実践 ④リアクションペーパー作成
2	課題・計画の検討期 Ⅱ・教養ゼミⅠで検証した項目の測定	＜トレセン＞ ①教養ゼミⅠで検証した項目の測定 ②測定結果について、夏季休暇の前後で比較し、新たなトレーニングプログラムを模索する
3	課題・計画の検討期 Ⅲ・測定結果の評価	＜教室＞ ①グループワーク ②授業の 1 回目および 2 回目の測定結果を分析し、共有する ③教養ゼミⅡで取り組む課題を検討する ④リアクションペーパー作成
4	課題・計画の決定期 Ⅰ・測定結果の共有	＜教室＞ ①グループワーク ②前回授業の分析内容を発表する ③リアクションペーパー作成
5	課題・計画の決定期 Ⅱ・トレーニング方法の再検討	＜教室＞ ①グループワーク ②取り組む課題解決により有効なトレーニングプログラムを再考する ③リアクションペーパー作成
6	実行期Ⅰ・新トレーニングプログラムの試作	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを試作するために、トレーニング種目を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
7	実行期Ⅱ・新トレーニングプログラム強度の再検討	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムを実行し運動強度を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
8	実行期Ⅲ・新トレーニングプログラムの仮決定	＜トレセン＞ ①トレーニング法を決め、プログラムを確定する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
9	実行期Ⅳ・新トレーニングプログラムの種目の改修	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを実行し運動強度を調整する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
10	実行期Ⅴ・新トレーニングプログラムの強度の改修	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する

11	実行期Ⅵ・新トレーニングプログラムの決定	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを実行するとともに効果を検証する方法を検討する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
12	実行期Ⅶ・新トレーニングプログラムの実践と効果検証	＜トレセン＞ ①グループワーク ②作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ③測定結果を分析・評価する ④リアクションペーパー作成
13	発表・共有期Ⅰ・新トレーニングプログラムの効果検証と分析	＜トレセン＞ ①グループワーク ②測定結果を考察し、ゼミ内で共有するためのレポートを作成する ③リアクションペーパー作成
14	発表・共有期Ⅱ、総括	＜教室＞ ①グループワーク ②トレーニング効果の検証結果を発表する ③リアクションペーパー作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
2. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
3. プレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
4. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
5. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
6. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
7. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
8. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
9. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
10. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した 5 項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業で提示した課題のレポート： 30 %
2. 授業におけるリアクションペーパー： 30 %
3. 成果発表（作成した資料、発表態度など）： 40 %

【学生の意見等からの気づき】

例年の傾向を振り返ると、本科目は小人数制の授業であるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になっていると思います。

他方では、履修者の多くが先輩や知人から紹介されて受講したように、2017 年度および 2018 年度の履修者は 25 名以上となり、授業中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。そこで、2019 年度の授業においては、少人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的な授業にしました。

しかしながら、2020年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンラインのリアルタイム双方向授業となりました。この授業を履修した皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は非常に良かった印象です。自分のペースでゼミ活動に取り組めた、他学部他学年との交流が進んだ、各自の研究時間が十分確保できたなど、オンライン授業の方が効率的であったという意見ばかりでした。半面、大学での実験や対面で意見交換やゼミ会をしたかったなどの意見も寄せられました。

2021年度は2020年度の新たなゼミの在り方に挑戦する年だと思います。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウェアやシューズ

【その他の重要事項】

1. 教養ゼミⅠを履修せずに、教養ゼミⅡのみを履修することは認めません。

基本的に教養ゼミⅠの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、教養ゼミⅠの単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。

2. 授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline and objectives】

The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester.

In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must to make a more sophisticated training program compared with class 1 and verify the effect.

Students have to take active acts in class.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を6回、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と抗議の回数に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う。基本的に、対面形式での授業実施のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内靴が必要となるので用意すること。授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	レクリエーションスポーツ	・インディアカ・ソフトバレー
3	ラケット種目	・バドミントン シングルス・ダブルス
4	講義予定	・有酸素運動=エアロビクス 運動について
5	有酸素運動	・ダイエットについて ・ウォーキング 時間と歩数の関係と消費カロリーを知る
6	講義予定	・応急手当について RICE 処置・熱中症・脳震盪・コロナウイルス感染症
7	ネットスポーツ 1	・バレーボールの理論と実習

8	ボールゲーム	・バスケットボールの理論と実習
9	講義予定	・自宅でできる筋力トレーニング
10	講義予定	・健康チェックとコンディショニングについて サルコペニア、利き手利き足利き目バランス能力柔軟性
11	講義予定	・バランスチェックとストレッチング
12	ネットスポーツ 2	・卓球シングルの理論と実習
13	ネットスポーツ 3	・卓球ダブルスの理論と実習
14	まとめ	授業のまとめ (レポート課題あり)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。
適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
 - 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。
男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。
一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。
新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもある。柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】

This class aim to study Japanese sport culture.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を6回、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と抗議の回数に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う。基本的に、対面形式での授業実施のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内靴が必要となるので用意すること。授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	授業概要についての説明
2 回目	レクリエーションス	・インディアカ
授業	ボーツ	・ソフトバレー
3 回目	ラケット種目	・バドミントン
授業		・シングルス・ダブルス
4 回目	講義予定 有酸素	・有酸素運動=エアロビクス運動について
授業		・ダイエットについて
5 回目	有酸素運動 有酸素運動の具体例	・ウォーキング
授業		時間と歩数の関係と消費カロリーを知る

6 回目	講義予定	応急手当て	・応急手当てについて
授業			RICE 処置・熱中症・脳震盪・ コロナウイルス感染症
7 回目	ネットスポーツ 1		・バレーボール
授業			
8 回目	ボールゲーム		・バスケットボール
授業			
9 回目	講義予定	筋力トレー	・自宅でできる筋力トレーニング
授業		ニング	
10 回目	講義予定	健康につい	・健康チェックとコンディショニ
授業		て	ングについて
			サルコペニア、利き手利き足利
			き目バランス能力柔軟性
11 回目	講義予定	コンディ	・バランスチェックとストレッチ
授業		ショニング運動	ング
12 回目	ネットスポーツ 2		・卓球
授業			シングルス
13 回目	ネットスポーツ 3		・卓球
授業			ダブルス
14 回目	まとめ		授業のまとめ (レポート課題あり)
授業			

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたいうで授業に臨むこと。

また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %、期末レポート 20 %、授業への参画状況 20 % の配分で評価する。なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること

【Outline and objectives】

This course aims to study Japanese sports culture.

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：身体活動による心身の変化と健康（1）

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「身体活動による生理学的効果」、「身体活動の心理的効果」、「健康関連情報の取捨選択」、「身体活動と健康」の 4 つをテーマに学習を進めて行きます。

【到達目標】

- ・身体活動による生理的および心理的効果についてエビデンスに基づく知識・情報を学ぶ
- ・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。
- ・現在の自らの身体状態や運動を含む生活習慣を適切に把握・評価できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。

その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお、身体活動の実践に向けた計画や、個人の考え・意見をまとめたプレゼンテーションを求め、評価の一部とします。

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、身体活動によって得られる効果のエビデンスを学ぶ
第 2 回	身体活動に対する先行研究のまとめと活動内容の発表	自身が探索したい身体活動による効果（筋量の増大、筋パワーの向上、減量等）について報告する（プレゼンテーション）
第 3 回	身体活動によって変化する生理的要因 1	身体活動によって生じる体脂肪や骨格筋の変化について学ぶ
第 4 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 1	身体組成（体脂肪量・骨格筋量）の測定方法とその原理を学ぶ（演習）
第 5 回	身体活動によって変化する生理的要因 2	骨格筋の役割とトレーニングによる変化について学ぶ
第 6 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 2	骨格筋の増大に向けたトレーニング法の実践について学ぶ（演習）

第 7 回	身体活動によって変化する生理的要因 3	有酸素性運動時の生理的状態と効果について学ぶ
第 8 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 3	有酸素性運動時の循環器系機能の実際および自覚の運動強度について学ぶ（演習）
第 9 回	身体活動によって変化する生理的要因 4	身体活動時の運動強度・種目に依存したエネルギー消費について学ぶ
第 10 回	身体活動に影響するエネルギー摂取の影響	身体の変化に影響を及ぼす栄養学的要因（食事）について学ぶ
第 11 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 1	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少に向けた身体活動案を提案する（プレゼンテーション）
第 12 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 2	学んだ知識や情報に基づき、グループで骨格筋量増大に向けた身体活動案を提案する（プレゼンテーション）
第 13 回	身体活動に関する心理的要因 1	健康行動を発生・継続させるための心理的要因を各自で調べ、グループで討論する。
第 14 回	身体活動に関する心理的要因 2	健康行動を発生・継続させるための心理的要因について学び、自らの生活に照らして達成を目指した計画を提案する（プレゼンテーション）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめてから次回の授業に出席することを求めます。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】

1）授業参画の状況と理解度（授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価）： 80%、2）各回のプレゼンテーションの内容： 20%、の配分で総合評価する。

※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は、すべてオンラインでの授業となってしまう、当初計画していた種々の測定や演習が出来ない状況でした。そのため、履修学生の皆さんには、実際に測定を行わない状況での様々なプレゼンや課題に取り組んでもらうことになってしまいました。2021 年度は、対面での授業を実施する予定ですので、健康や身体活動に関わる様々な知識の習得だけでなく、実際に自らの身体を測定し評価することを通じた学びを提供できるようにしていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】

本授業は、授業目的を達成する活動に際して教場等の制限があるため、履修者を最大 20 名とします。第 1 回目の授業時において履修希望者が 20 名を超えた場合には、履修人数の制限を行います。そのため、第 1 回目の授業には必ず出席してください。体調不良等どうしても出席できない場合には、事前に市ヶ谷保健体育センターに履修希望を届け出た学生のみ履修の可能性を有することとします。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的にしています。そのため、授業を通じて運動やトレーニングの実践のみを希望する者の履修は認めません。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to understand the physiological and psychological benefits accompany physical activity, sift through the evidence the health-related information, and the understanding of the relationship between physical activity and health.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：身体活動による心身の変化と健康（2）

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、目的や対象に合わせた身体活動が実践できるようになることを目的に内容を構成しています。単に体重の減量・体脂肪の減少、骨格筋の増大のための方法を学ぶだけでなく、健康や QoL の本質を理解した上で受講者自身が身体活動を実践でき、他者へも適切な助言ができるための知識や情報を学び、それらを取捨選択できる能力の獲得を目指します。

【到達目標】

- ・目的に応じて身体活動の内容を適切に構築することができる。
- ・対象者に合わせた身体活動実践の助言ができる。
- ・適切な分析方法や表現を用いて身体活動に関するエビデンスを報告できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視します。

授業はリアルタイム動画やオンデマンド動画による講義、オンラインでの受講者間のディスカッション、数種目の自宅等での身体活動および受講者自身の調査活動等から構成されます。毎回の授業は、原則時間割に設定された曜日・時限に合わせて行います。

また、授業後半においては、受講者自身が行う身体活動の実践状況、実践を通じた感想、考えや意見などのプレゼンテーションなどを行い、最終的な結果を文章として提出を求めます。

なお、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、情報選択の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンスを学ぶ
第 2 回	様々な対象における健康の考え方 1	肥満や痩せに関連する生理的・心理的要因について学ぶ
第 3 回	様々な対象における健康の考え方 2	青年期の健康と身体活動について学ぶ
第 4 回	身体活動のプログラム作成の実際 1	目的に応じて身体活動プログラムを作成して討論し、実践する（演習）
第 5 回	身体活動のプログラム作成の実際 2	前回作成した内容の実践結果を踏まえて身体活動プログラムを修正し、実践する（演習）

第 6 回	健康関連情報の取捨選択 1	日本人の健康状態と新たな健康づくりを学ぶ
第 7 回	健康関連情報の取捨選択 2	今日の健康における様々な社会問題の関与を学ぶ
第 8 回	身体活動と心身の健康	生活習慣病の成因と身体活動との関係を学ぶ
第 9 回	身体活動と心身の健康 2	痩身志向の要因と過度な痩身による生理的状态を学ぶ
第 10 回	身体活動や健康に関する情報のアウトプット	関連分野におけるエビデンスとして必要となる情報や表現・表記方法を学ぶ（演習）
第 11 回	身体活動の効果を測定・評価するための手法 1	身体活動の効果を測定するために必要な生理的・心理的手法を学ぶ（演習）
第 12 回	身体活動の効果を測定・評価するための手法 2	身体活動の効果を評価するために必要な分析方法を学ぶ（演習）
第 13 回	身体活動実践結果の報告	実践した身体活動の効果について客観的情報を踏まえて報告する（プレゼンテーション）
第 14 回	各自の身体活動に関する論議と授業のまとめ	各自が実践した内容を論議し、対象者目的に応じた身体活動に必要な知識や情報を学ぶ（演習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、授業ごとに内容を復習して個人の考え・意見をまとめた上で次の授業に出席することを求めます。さらに、第 6 ～ 12 回においては、各自の身体活動の状況や結果の報告を求めますので、これらの回においては関連のデータをまとめる作業を行ってください。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】

各授業で課した授業内学習としての課題それぞれを 100 点満点で評価した上で合計し、それをすべての課題によって獲得可能な最大得点を母数とした相対値に変換する以下の式で評価を行います。
評価得点 = 【すべての課題の「得点」の総和】 / 【すべての課題で「獲得可能な最高点」（課題数 × 100）】 × 100

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は、すべてオンライン授業となつてしまい、当初予定していた演習などが予定通りに進まず、受講生の皆さんの要望に答えられない部分もありました。ただ、結果として最終的にグループで作成した論文については、学内の研究センターの発行する雑誌へ投稿することができ、一定の評価を得ることができました。2021 年度も、受講生と相談しながら学んだ成果を発表することを念頭に、その過程における文章の執筆方法、データの集約方法などについてもしっかりと指導し、教養ゼミとして充実した活動となるように工夫して行く予定です。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備してください。

【その他の重要事項】

本授業は、同一副題の教養ゼミⅠの単位を取得していることを履修の条件とします。

ただし、第 1 回目の授業において、履修希望者が定員（20 名）を下回っている条件下においてのみ、担当教員との面談により教養ゼミⅠの単位取得者と同等の知識・情報を有していると判断された場合には履修を認めます。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的にしています。そのため、授業を通じて運動やトレーニングの実践のみを希望する者の履修は認めません。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to make it become able to practice physical activities tailored to targets for achievements and physical and mental individuality of the subjects. Besides, students aim at learning knowledge and information about the nature of health and QoL and acquire the ability to be able to provide appropriate advice to others about exercise, not simply learning the methods of how to weight and body-fat loss and skeletal muscle reinforcing.

LANf300LA

第三外国語としてのフランス語 A 2017 年度以降入学者

コルペイユ スティープ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。4 技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に学習しながらフランス語でのコミュニケーション能力を高める。また、フランスの文化や習慣についても理解を深める。

*** この科目はオンラインで実施。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級～5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎に加えて、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Leçon 1	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベットの読み方 ・挨拶表現 ・数字 1～10 ・不定冠詞（1）
2	Leçon 2	・職業や国籍を言う ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞 être
3	Leçon 3	・話せる言語を言う ・定冠詞 le, la, les ・名詞の複数形 ・動詞-er(1)
4	Leçon 4	・住んでいる国や都市を言う ・国名 /都市の前の前置詞 ・否定形
5	Leçon 5	・年齢を言う ・不定詞 (2) ・il y a ・不定の de ・動詞 avoir
6	Leçon 6	・行き先を言う ・前置詞 à と定冠詞の縮約 ・動詞 faire, aller
7	Leçon 7	・人や物を描写する ・形容詞の性、数、位置

8	中間試験	筆記試験または課題提出
9	Leçon 8	・指示形容詞 ce, cette, ces ・直接目的補語人称代名詞 le, la, les ・動詞 vouloir, prendre
10	Leçon 9	・食料品を買う ・部分冠詞 du, de la ・中性代名詞 en
11	Leçon 10	・位置関係を言う ・前置詞 de と定冠詞の縮約
12	Leçon 11	・命令をする ・命令形 ・中性代名詞 y
13	Leçon 12	・質問をする ・疑問文の作り方 ・近接未来
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。
フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Kitamura Ayako, Durrenberger Vincent（著）『Maestro 1
マエストロ 実践フランス語 初級』朝日出版者 2020 年

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズのものでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003 年。
西村牧夫他編訳、『ロバール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011 年。

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

【当面の間、オンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更することになります。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に「学習支援システム」上で公開しますので、ご確認ください。

なお、以下の評価は、対面授業の実施を前提とした従来の評価方法であるので、ご注意ください。】

平常点 10 %、中間試験 30 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話部分）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of French to students learning it as the third language. Students will also learn about French society and culture.

LANf300LA

第三外国語としてのフランス語 B 2017 年度以降入学者

コルベユ スティーブ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。4 技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に学習しながらフランス語でのコミュニケーション能力を高める。また、フランスの文化や習慣についても理解を深める。
*** この科目はオンラインで実施。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級～5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎だけでなく、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。
基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	・前期の復習 ・ Bilan
2	Leçon 13	・天気について話す ・時刻を言う ・非人称構文
3	Leçon 14	・自分の 1 日を語る ・代名動詞
4	Leçon 15	・今していることを言う ・進行形 ・近接過去
5	Leçon 16	・過去の行為や出来事を語る（1）
6	Leçon 17	・過去の行為や出来事を語る（2） ・複合過去（2）
7	Leçon 18	・過去の行為や出来事を語る（3） ・代名動詞の複合過去
8	Leçon 19	・比較する ・比較級
9	中間試験	筆記試験
10	Leçon 20	・過去の状態、習慣、感想を言う ・半過去 ・複合過去と半過去
11	Leçon 21	・実践するスポーツを言う ・ faire du/de la+ スポーツ
12	Leçon 22	・身体の状態を伝える ・ avoir mal à+ 身体語彙 ・条件法（1）

13	Leçon 23	・誘う ・tu pourrais/vous pourriez ・条件法（2）
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Kitamura Ayako, Durrenberger Vincent（著）『Maestro 1 マエストロ 実践フランス語 初級』朝日出版者 2020 年

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズのものでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003 年

西村牧夫他編訳、『ロバール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011 年

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

【当面の間、オンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更することになります。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に「学習支援システム」上で公開しますので、ご確認ください。

なお、以下の評価は、対面授業の実施を前提とした従来の評価方法であるので、ご注意ください。】

平常点 10 %、中間試験 30 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話部分）を増やすとともに、進捗にも気を付けながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of French to students learning it as the third language. Students will also learn about French society and culture.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：移民社会とポピュリズム

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界規模における経済的な相互依存が進むなかで、グローバル化への反発をその構成要素として含むポピュリズムが世界各国の政治をゆるがせています。このゼミでは、西ヨーロッパを中心に、東ヨーロッパや南北アメリカ、オセアニアを含む、欧米地域におけるいわゆる移民社会への反発と、「多数派」の有権者によるポピュリズム支持に焦点をあてながら、バイデン米大統領の就任によって特徴づけられる 2021 年の国際社会について考察します。

【到達目標】

・必ずしも現代の西ヨーロッパについて専門的に学んだことのない方をふくめ、これからの時代を生きていく人びとに必要な民主主義にかんする教養（市民性の意味における **citizenship**）を身につける。
・【言語】使用言語は日本語とする。英語、フランス語などの言語の運用能力の習得はこの授業の到達目標に入らない（※）。
・【教科書】「ポピュリズム」や「移民社会」といった概念の多義性や、言語・地域による用法の違いを認識する。
・【学生からの話題提供】時事問題など今日的な話題と教科書で得た知識を関連づけられるようにする。
・【情報リテラシー】毎回の話題提供をつうじ、あなたが作成した Google スライドや Google ドキュメントを他の授業参加者と共有する方法や、Zoom の画面共有機能を用いたプレゼンテーションをつうじ、あなたの考えや思いをオンライン上で的確に伝える方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

（ア）この科目「教養ゼミ」はハイブリッド授業（Zoom を用いたリアルタイム・オンライン授業と、教室での対面授業の混合）が予定されています。2021 年 1 月のシラバス執筆時点では、2021 年 4-7 月期の感染拡大状況を予測することは困難であるため、オンライン授業と教室での対面授業の構成比率は、履修する学生の皆さんの意見を踏まえて決定していきます。

（イ）対面、オンライン、いずれの授業形態においても、毎週の授業の内容に関係のある、簡単な話題提供を学生の皆さんにお願いしています。

（ウ）（イ）に加え、教科書の内容にかんする学生の報告と、報告を受けての他の学生からの意見や疑問点の提示、ディスカッション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	参考書などからの話題提供（教員）→ 討論	学生はとくに準備の必要なし → 掲示板への書き込み
3	ポピュリズムとは何か①	学生による話題提供（の開始）→ 教科書 7-23 頁の講読 → 掲示板への書き込み

4	ポピュリズムとは何か②	学生による話題提供 → 教科書 23-35 頁の講読 → 掲示板への書き込み
5	世界中のポピュリズム①	学生による話題提供 → 教科書 37-53 頁の講読 → 掲示板への書き込み
6	世界中のポピュリズム②	学生による話題提供 → 教科書 53-65 頁の講読 → 掲示板への書き込み
7	ポピュリズムと動員①	学生による話題提供 → 教科書 67-79 頁の講読 → 掲示板への書き込み
8	ポピュリズムと動員②	学生による話題提供 → 教科書 79-93 頁の講読 → 掲示板への書き込み
9	ポピュリズムの指導者①	学生による話題提供 → 教科書 95-107 頁の講読 → 掲示板への書き込み
10	ポピュリズムの指導者②	学生による話題提供 → 教科書 107-119 頁の講読 → 掲示板への書き込み
11	ポピュリズムとデモクラシー①	学生による話題提供 → 教科書 121-132 頁の講読 → 掲示板への書き込み
12	ポピュリズムとデモクラシー②	学生による話題提供 → 教科書 132-143 頁の講読 → 掲示板への書き込み
13	原因と対応	学生による話題提供 → 教科書 145-176 頁の講読 → 掲示板への書き込み
14	まとめ	シラバス第 13 回までの内容がこなせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（ア）教科書の次の範囲を予習してきてください。

（イ）指定する LMS（学習支援システム-Hoppii か Google Classroom）の場所に、話題提供や教科書報告用のリンクと資料、文章を授業開始時刻より前に貼り付けてください。

（ウ）この授業の準備や復習に必要な学習時間は、上記（ア）（イ）を行うのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修する授業であるため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みた場合、2 単位の講義及び演習の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

カス・ミュデ&クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム デモクラシーの友と敵』永井大輔&高山裕二訳、白水社、2018 年。

この教科書は法政大学図書館に所蔵があるが、山手線コンソーシアムに参加する近隣の他大学図書館にも複数の所蔵がある。Cf. <http://opac.lib.hosei.ac.jp/hybrid/>

また、都道府県や市区町村が運営する公立図書館にも所蔵がある。どの公立図書館にこの教科書が所蔵されているかについては、日本図書館協会のサイトなどを利用することにより都道府県ごとに横断検索できる。Cf. <http://www.jla.or.jp/link/link/tabid/167/Default.aspx#sogo>

【参考書】

Dominique Reynié, *Populismes : la pente fatale*, Plon, 2011.
Raphaël Doan, *Quand Rome inventait le populisme*, Les éditions du Cerf, 2019.

【成績評価の方法と基準】

1. 学生による発表（話題提供 1 回 3 点、教科書発表 1 回 10 点満点）55%
2. 授業参加の積極性（担当範囲外での発言など）30%
3. その他（授業運営への協力など）15%

【学生の意見等からの気づき】

（ア）法政大学が提供している LMS（学習支援システム-Hoppii や Google Classroom）を、Zoom と併用しますが、中華人民共和国など Google への接続が困難な国から接続せざるをえない履修者がいた場合は、配慮いたします。

（イ）2020 年度は、G Suite を活用した文書共有に加え、Hoppii の「OATube」機能を使い、PressReader の使い方を説明するために作った動画を掲載することも行いました。

（ウ）就職活動などによる欠席者のために、Zoom の授業録画などを、履修者のみのあいだで、一般には非公開のかたちで共有する予定です。

（エ）2020 年度にリアルタイム・オンライン授業に初めて挑戦しましたが、教室における対面授業に劣らず、オンラインでも、学生間のコミュニケーションはとれていたのではないかと思います。教員も努力しますが、履修学生の皆さんも、できれば Web カメラを ON にするなどして（強制はしません）、活発な雰囲気づくりにご協力ください。

【学生が準備すべき機器他】

①資料の配布や学生からの成果物の提出、その他さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（学習支援システム-Hoppii 等）で行ないます。

②パソコン、タブレット等を用いたプレゼンテーションを行って頂きます。Zoom 上での画面共有をもちいたプレゼンテーションをしたことがない方は、法政大学から配布済みの Zoom のアカウントをもちい、練習をしておいてください。

③学外から法政大学図書館のオンラインデータベース（JapanKnowledge や PressReader の利用を推奨しています）が利用できるよう、VPN 接続の使い方をマスターしてください。

④法政大学が提供している VPN 接続の使用方法については「全学ネットワークシステムユーザ支援 WEB サイト／VPN サービス」を検索、参照してください。

【その他の重要事項】

①市ヶ谷キャンパスの法政大学各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、千代田コンソーシアムの近隣大学の学生の履修を歓迎します。

②学外の方でこの科目への参加を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。

③参考書にはフランス語の文献があげてありますが、履修にあたりフランス語の能力は要求していません。

（※）この「教養ゼミⅠ」における使用言語は日本語ですが、時事的な内容を扱い、かつ、フランス語を授業内の使用言語とする科目に「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。

【Outline and objectives】

This seminar is an introduction to the multiple facets of French culture, history, and society. Open to students with little or no previous instruction in French, this seminar will enable students to attain a basic understanding of Mainland France and its terroirs.

ARSa300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：移民社会とポピュリズム

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界規模における経済的な相互依存が進むなかで、グローバル化への反発をその構成要素として含むポピュリズムが世界各国の政治をゆるがせています。このゼミでは、西ヨーロッパを中心に、東ヨーロッパや南北アメリカ、オセアニアを含む、欧米地域におけるいわゆる移民社会への反発と、「多数派」の有権者によるポピュリズム支持に焦点をあてながら、バイデン米大統領の就任によって特徴づけられる 2021 年の国際社会について考察します。

【到達目標】

・必ずしも現代の西ヨーロッパについて専門的に学んだことのない方をふくめ、これからの時代を生きていく人びとに必要な民主主義にかんする教養（市民性の意味における **citizenship**）を身につける。
 ・【言語】 使用言語は日本語とする。英語、フランス語などの言語の運用能力の習得はこの授業の到達目標に入らない（※）。
 ・【教科書】 「ポピュリズム」や「移民社会」といった概念の多義性や、言語・地域による用法の違いを認識する。
 ・【学生からの話題提供】 時事問題など今日的な話題と教科書で得た知識を関連づけられるようにする。
 ・【情報リテラシー】 毎回の話題提供をつうじ、あなたが作成した Google スライドや Google ドキュメントを他の授業参加者と共有する方法や、Zoom の画面共有機能を用いたプレゼンテーションをつうじ、あなたの考えや思いをオンライン上での確に伝える方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

（ア）この科目「教養ゼミ」はハイブリッド授業（Zoom を用いたリアルタイム・オンライン授業と、教室での対面授業の混合）が予定されています。2021 年 1 月のシラバス執筆時点では、2021 年 9 月-2022 年 1 月期の感染拡大状況を予測することは困難であるため、オンライン授業と教室での対面授業の構成比率は、履修する学生の皆さんの意見を踏まえて決定していきます。
 （イ）対面、オンライン、いずれの授業形態においても、毎週の授業の内容に関係のある、簡単な話題提供を学生の皆さんにお願いしています。
 （ウ）（イ）に加え、教科書の内容にかんする学生の報告と、報告を受けての他の学生からの意見や疑問点の提示、ディスカッション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	参考書などからの話題提供（教員）→ 討論	学生はとくに準備の必要なし → 掲示板への書き込み
3	現代政治の歴史的文脈における「保守主義型福祉国家」の成立	学生による話題提供（の開始）→ 教科書 1-27 頁の講読 → 掲示板への書き込み

4	中間団体政治の形成と展開／大陸型福祉国家の隘路	学生による話題提供 → 教科書 28-57 頁の講読 → 掲示板への書き込み
5	福祉国家改革の開始／パートタイム社会オランダ	学生による話題提供 → 教科書 57-100 頁の講読 → 掲示板への書き込み
6	ポスト近代社会の到来とオランダモデル	学生による話題提供 → 教科書 100-111 頁の講読 → 掲示板への書き込み
7	移民問題とフォルタイン	学生による話題提供 → 教科書 113-139 頁の講読 → 掲示板への書き込み
8	フォルタイン党の躍進とフォルタイン殺害	学生による話題提供 → 教科書 139-165 頁の講読 → 掲示板への書き込み
9	バルケネンデ政権と政策転換	学生による話題提供 → 教科書 165-182 頁の講読 → 掲示板への書き込み
10	ファン・ゴッホ殺害事件	学生による話題提供 → 教科書 182-193 頁の講読 → 掲示板への書き込み
11	ウィンデルス自由党の躍進	学生による話題提供 → 教科書 193-212 頁の講読 → 掲示板への書き込み
12	福祉国家改革と移民	学生による話題提供 → 教科書 214-227 頁の講読 → 掲示板への書き込み
13	脱工業社会における言語・文化とシティズンシップ	学生による話題提供 → 教科書 227-243 頁の講読 → 掲示板への書き込み
14	まとめ	シラバス第 13 回までの内容がこなせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（ア）教科書の次の範囲を予習してきてください。
 （イ）指定する LMS（学習支援システム-Hoppii か Google Classroom）の場所に、話題提供や教科書報告用のリンクと資料、文章を授業開始時刻より前に貼り付けてください。
 （ウ）この授業の準備や復習に必要な学習時間は、上記（ア）（イ）を行うのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修する授業であるため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みた場合、2 単位の講義及び演習の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

水島治郎『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019 年。
 ※図書館からの貸し出しを利用する場合は、下記を参考にしてください。

この教科書は法政大学図書館に所蔵があるが、山手線コンソーシアムに参加する近隣の他大学図書館にも複数の所蔵がある。Cf. <http://opac.lib.hosei.ac.jp/hybrid/>

また、都道府県や市区町村が運営する公立図書館にも所蔵がある。どの公立図書館にこの教科書が所蔵されているかについては、日本図書館協会のサイトなどを利用することにより都道府県ごとに横断検索できる。Cf. <http://www.jla.or.jp/link/link/tabid/167/Default.aspx#sogo>

【参考書】

ギュスターヴ・ル・ボン『群衆心理』櫻井成夫訳、講談社学術文庫、1993 年。
 エリアス・カネッティ『群衆と権力』（上・下）岩田行一訳、法政大学出版局、1971 年。

【成績評価の方法と基準】

1. 学生による発表（話題提供 1 回 3 点、教科書発表 1 回 10 点満点）55%
2. 授業参加の積極性（担当範囲外での発言など）30%
3. その他（授業運営への協力など）15%

【学生の意見等からの気づき】

(ア) 法政大学が提供している LMS (学習支援システム-Hoppii や Google Classroom) を、Zoom と併用しますが、中華人民共和国など Google への接続が困難な国から接続せざるをえない履修者がいた場合は、配慮いたします。

(イ) 2020 年度は、G Suite を活用した文書共有に加え、Hoppii の「OATube」機能を用い、PressReader の使い方を説明するために作った動画を掲載することも行いました。

(ウ) 就職活動などによる欠席者のために、Zoom の授業録画などを、履修者のみのあいだで、一般には非公開のかたちで共有する予定です。

(エ) 2020 年度にリアルタイム・オンライン授業に初めて挑戦しましたが、教室における対面授業に劣らず、オンラインでも、学生間のコミュニケーションはとれていたのではないかと思います。教員も努力しますが、履修学生の皆さんも、できれば Web カメラを ON にするなどして (強制はしません)、活発な雰囲気づくりにご協力ください。

【学生が準備すべき機器他】

(ア) 資料の配布や学生からの成果物の提出、その他さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上 (学習支援システム-Hoppii 等) で行ないます。

(イ) パソコン、タブレット等を用いたプレゼンテーションを行って頂きます。Zoom 上での画面共有をもちいたプレゼンテーションをしたことがない方は、法政大学から配布済みの Zoom のアカウントを使って練習をしてください。

(ウ) 学外から法政大学図書館のオンラインデータベース (JapanKnowledge や PressReader の利用を推奨しています) が利用できるよう、VPN 接続の使い方をマスターしてください。

(エ) 法政大学が提供している VPN 接続の使用方法については「全学ネットワークシステムユーザ支援 WEB サイト / VPN サービス」を検索、参照してください。

【その他の重要事項】

①市ヶ谷キャンパスの法政大学各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、千代田コンソーシアムの近隣大学の学生の履修を歓迎します。

②学外の方でこの科目への参加を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。

③参考書にはフランス語の文献があげてありますが、履修にあたりフランス語の能力は要求していません。

(※) この「教養ゼミ I」における使用言語は日本語ですが、時事的な内容を扱い、かつ、フランス語を授業内の使用言語とする科目に「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。

【Outline and objectives】

This seminar is an introduction to the multiple facets of French culture, history, and society. Open to students with little or no previous instruction in French, this seminar will enable students to attain a basic understanding of Mainland France and its terroirs.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランス語圏文化への招待

PHILIPPE JORDY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Au premier semestre, les étudiants, individuellement ou en petits groupes, présentent un thème social, culturel ou historique sur un ou plusieurs pays de la francophonie. Chaque thème continue ensuite d'être étudié sur quelques séances pour permettre un débat constructif entre tous les étudiants.

Quelques exemples de thèmes possibles : aires francophones (Europe francophone, Amérique francophone, Afrique francophone, France d'outre-mer); colonisation ; immigration ; identité nationale et langue ; cultures populaires francophones ; cinéma ou chanson francophone ; etc.

【到達目標】

Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Ce cours prépare directement à un séjour en université francophone (cf. méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau B1+) ou "kentei-shiken".

(この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Ce séminaire se déroule en français même si le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis.

Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue ensuite l'étude de ce thème pendant une ou deux séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites, grâce à la pratique des moyens de recherche suivants :

- résumé écrit ou oral.

- note de synthèse.

- commentaire de texte.

- dissertation (technique de plan, développement, rédaction).

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes - attribution des premiers exposés
②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants

③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales
⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	Dissertation personnelle rendue à ce dernier cours

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.

(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は2～4時間を標準とします。)

【テキスト（教科書）】

Il n'y a pas de manuel mais des photocopiés, souvent distribués. (プリント配布)

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà. (仏仏辞典の持参が望ましい)

Des ouvrages de référence peuvent être proposés selon les thèmes abordés.

【成績評価の方法と基準】

40% = participation (prise de parole, résumés, mini-tests, etc.) (積極性)

30% = exposé personnel de présentation (個人発表)

30% = devoir final (dissertation ou compte-rendu de lecture) (レポート)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faut apprendre, retenir et réemployer les expressions et mots nouveaux.

Le travail par groupes est organisé en fonction du nombre des étudiants.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL. Mais les étudiants sont libres d'apporter ordinateur ou smartphone pour utilisation en cours (recherches sur internet, enregistrement de son ou d'image, etc.).

【その他の重要事項】

En principe, ce cours de printemps se déroule en présentiel mais une partie des cours pourront encore avoir lieu en ligne (distanciel).

【Prerequisite】

Un niveau A2/B1 est nécessaire pour suivre ce cours de type séminaire.

【Outline and objectives】

During this first semester, students present - individually or in small groups - a social, cultural or historical theme on one or more countries of the French-speaking world. Each theme then continues to be studied over several sessions to allow for joint research and constructive debate among all students.

Some examples of possible themes: French-speaking areas (French-speaking Europe, French-speaking America, French-speaking Africa, overseas France, etc.); colonization; immigration; national identity and language; French-speaking popular cultures; French-speaking cinema or songs; etc.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランスの現代社会

PHILIPPE JORDY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Pendant ce second semestre, les étudiants, individuellement ou en petits groupes, présentent un thème social, culturel ou historique sur la France. Chaque thème continue ensuite d'être étudié pendant plusieurs séances pour permettre une recherche commune et un débat constructif entre tous les étudiants.

Quelques exemples de thèmes possibles : la crise sociale (les oppositions populaires aux "réformes"); histoire de la Ve République ; l'immigration ; la France dans l'Union Européenne ; les atouts de la France ; la gestion de la crise Covid ; etc.

【到達目標】

Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Ce cours prépare directement à un séjour en université francophone (cf. la méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau B1+) ou "kentei-shiken"(à partir du niveau 2). (この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Ce séminaire se déroule en français même si le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis.

Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue ensuite l'étude de ce thème pendant une ou deux séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites, grâce à la pratique des moyens de recherche suivants :

- résumé écrit ou oral.
- compte-rendu de lecture ou de débat.
- commentaire de texte.
- dissertation (technique de plan, développement, rédaction), etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes portant sur la France contemporaine - attribution des premiers exposés

②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales
⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	Dissertation individuelle rendue à ce dernier cours

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une présence, une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.

(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は2～4時間を標準とします。)

【テキスト（教科書）】

Des photocopies seront distribués (プリント配布).

Une liste d'ouvrages, adaptés aux thèmes retenus, sera aussi distribuée pour des lectures recommandées.

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.

(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

40% = participation (prise de parole, résumés, mini-tests, etc.) (積極性)

30% = exposé personnel de présentation (個人発表)

30% = devoir final (dissertation ou compte-rendu de lecture) (レポート)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faudra apprendre et réemployer les expressions et mots nouveaux (mini-tests de contrôle possibles).

Le travail par groupes sera organisé en fonction du nombre d'inscrits à ce cours.

【学生が準備すべき機器他】

Ce cours se déroule dans une classe LL. Les étudiants sont libres d'utiliser ordinateur personnel ou smartphone (recherches sur internet, enregistrement de sons ou d'images, etc.).

【その他の重要事項】

En principe, ce cours de printemps se déroule en présenciel mais une partie des cours pourront encore avoir lieu en ligne (distanciel).

【Prerequisite】

Un niveau A2/B1 est nécessaire pour suivre ce cours de type séminaire.

【Outline and objectives】

During this second semester, students, individually or in small groups, will present a social, cultural or historical theme about France. Each theme then continues to be studied over several sessions to allow for joint research and constructive debate among all students.

Some examples of possible themes: the social crisis (popular oppositions to "reforms"); history of the Fifth Republic; immigration; France in the European Union; the assets of France; Covid crisis in France; etc.

This is a seminar aimed at developing academic skills.

Intermediate and advanced level in French (B1/B2).

LANf300LA

フランス語コミュニケーション 2017年度以降入学者
(中・上級) A

PHILIPPE JORDY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants de niveau A1 (2 ou 3 semestres de français déjà effectués). Lire, comprendre, parler, écrire, ces 4 compétences sont activement travaillées. Ce cours présente aussi des éléments de la société et de la culture françaises.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants de niveau A1 de progresser méthodiquement vers un niveau A2 complet. C'est donc une préparation directe aux examens DELF A2 ou "kentei shiken" (仏検準2級・2級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Le manuel Édito A2 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier de travailler l'écrit ni d'étudier la grammaire et le vocabulaire de niveau intermédiaire. L'étudiant progresse avec confiance avec cette méthode complète et graduée. Elle permet aussi à l'étudiant de progresser seul en dehors des cours (révisions, compléments, périodes de vacances) grâce aux compléments du livre et aux ressources internet (site Didier).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Faisons connaissance ! Présentation de la méthode Édito et de l'unité 1 (pp.1-13)
2	Unité 1 : C'est la vie (1)	pp.14-17 : se présenter, parler de sa vie ; le passé composé
3	Unité 1 : C'est la vie (2)	pp.18-21 : sorties et loisirs ; la phrase négative
4	Unité 1 : C'est la vie (3)	pp.22-26 : le temps libre ; quizz
5	Unité 2 : Souvenirs, souvenirs (1)	pp.27-31 : le(s) souvenir(s) ; l'imparfait
6	Unité 2 : Souvenirs, souvenirs (2)	pp.32-35 : souvenirs de vacances ; pronoms de lieu "y" et "en"
7	Unité 2 : Souvenirs, souvenirs (3)	pp.36-40 : souvenirs de lieux ; préparation au DELF A2 (compréhension des écrits)
8	Unité 3 : À la recherche d'un toit (1)	pp.41-45 : le logement ; les pronoms relatifs
9	Unité 3 : À la recherche d'un toit (2)	pp.46-49 : se loger à Montréal ou à Paris ; la comparaison

10	Unité 3 : À la recherche d'un toit (3)	pp.50-54 : logements insolites ou futuristes ; les pronoms possessifs
11	Unité 4 : On n'arrête pas le progrès (1)	pp.55-59 : les innovations des sciences et techniques ; le futur simple
12	Unité 4 : On n'arrête pas le progrès (2)	pp.60-63 : smartphone et technologies de la communication ; la condition avec "si"
13	Unité 4 : On n'arrête pas le progrès (3)	pp.64-68 : internet ; le pronom "on"
14	Récapitulatif du 1er semestre	Préparation du DELF A2 (la production écrite) Test final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est exigée. A la fin de chaque cours, des exercices ou devoirs thématiques sont donnés à préparer pour le cours suivant (2 à 4 heures de préparation).

【テキスト（教科書）】

Édito niveau A2 ; Heu, Abou-Samra, Braud, Brunelle ; Éditions Didier ; ISBN : 978-2-278-08319-0

【参考書】

「かんたんフランス文法小辞典」、鈴木豊、他、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

Participation en classe : 40%

Tests et devoirs : 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

Rythme de progression ralenti.

Importance du vocabulaire et de la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL mais les étudiants sont libres d'utiliser leur ordinateur personnel ou leur smartphone pour faire des recherches internet, utiliser le dictionnaire ou enregistrer des sons ou images.

【その他の重要事項】

Le cours se déroule en classe (présentiel) mais quelques séances peuvent encore se tenir en distanciel ("online").

【Prerequisite】

Un niveau A1 en français est indispensable pour participer à ce cours.

【Outline and objectives】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically develop their oral and written communication, thus improving their overall communication skills up to the A2 level. Students general knowledge about french society or culture will also be extended.

LANf300LA

フランス語コミュニケーション (中・上級) B 2017 年度以降入学者

PHILIPPE JORDY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau A1 très complet (3 à 4 semestres de français déjà effectués). Lire, comprendre, parler, écrire, ces 4 compétences sont activement travaillées. Ce cours présente aussi des éléments de la société et de la culture françaises.

【到達目標】

Ce cours, dont c'est le second semestre, permet aux étudiants de se rapprocher d'un niveau A2 complet. Il constitue donc une préparation directe aux examens DELF A2 ou "kentei shiken" (仏検準 2 級・2 級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Le manuel Édito A2 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier de travailler l'écrit ni d'étudier la grammaire et le vocabulaire de niveau intermédiaire. L'étudiant progresse avec confiance avec cette méthode graduée. Elle permet aussi à l'étudiant de progresser seul en dehors des cours (révisions, compléments, périodes de vacances) grâce aux compléments du livre et aux ressources internet (site Didier).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation Unité 5 : En forme ? (1)	Présentation du cours au 2nd semestre pp.69-72 : avoir la forme ; l'obligation et l'interdiction
2	Unité 5 : En forme ? (2)	pp.73-75 : le corps et la santé ; le subjonctif présent
3	Unité 5 : En forme ? (3)	pp.76-79 : la santé et la médecine ; verbes irréguliers au subjonctif
4	Unité 6 : Côté cuisine (1)	pp.83-87 : les aliments ; le pronom "en" de quantité
5	Unité 6 : Côté cuisine (2)	pp.88-91 : dîner au restaurant ; le superlatif
6	Unité 6 : Côté cuisine (3)	pp.92-96 : les saveurs ; l'adverbe en "-ment" ; préparation au DELF A2 (la production écrite)
7	Unité 7 : Qui se ressemble, s'assemble (1)	pp.97-100 : noms et prénoms ; les pronoms interrogatifs
8	Unité 7 : Qui se ressemble, s'assemble (2)	pp.101-103 : le caractère ; les adjectifs indéfinis

9	Unité 7 : Qui se ressemble, s'assemble (3)	pp.104-108 : le physique ; l'expression des sentiments
10	Unité 8 : L'actu en direct (1)	pp.111-117 : les supports de l'info ; la cause et la conséquence
11	Unité 8 : L'actu en direct (2)	pp.118-122 : séries télévisées, médias, radios et télé ; l'impératif (complément)
12	Unité 11 : On recrute (1)	pp.153-157 : les études ; la mise en relief
13	Unité 11 : On recrute (2)	pp.158-163 : le monde professionnel, votre CV ; le discours rapporté
14	Récapitulatif du 2nd semestre	Préparation du DELF A2 (p.124 : compréhension de l'oral et p.152 : la production orale) Test final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est exigée. A la fin de chaque cours, des exercices ou devoirs thématiques sont donnés à préparer pour le cours suivant (2 à 4 heures de préparation).

【テキスト（教科書）】

Édito niveau A2 ; Heu, Abou-Samra, Braud, Brunelle ; Éditions Didier ; ISBN : 978-2-278-08319-0

【参考書】

「かんたんフランス文法小辞典」、鈴木豊、他、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

Participation en classe : 40%

Tests et devoirs : 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

Rythme de progression ralenti.

Importance du vocabulaire et de la prononciation.

Plus de données culturelles.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL mais les étudiants sont libres d'utiliser leur ordinateur personnel ou leur smartphone pour faire des recherches internet, utiliser le dictionnaire ou enregistrer des sons ou images.

【その他の重要事項】

Le cours se déroule en classe (présentiel) mais quelques séances peuvent encore se tenir en distanciel ("online").

【Prerequisite】

Un bon niveau A1 en français est indispensable pour participer à ce cours.

【Outline and objectives】

This course (second semester) is for intermediate students with a full A1 level in French. Students will methodically develop their oral and written communication, thus improving their overall communication skills up to the A2 level. Students general knowledge about french society or culture will also be extended.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 A 2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法。ロシア文字とその発音、最も基礎的な文法を 3 か月で学ぶ。ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を読んだり書いたりすることができる。簡単なロシア語の会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。

ポイントは以下の 4 点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。これらのポイントを、全部で 12 課のみのコンパクトな教科書を用いて順次学んでいきます。

文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。

例年 3・4 年生の履修者が多いことに配慮し、学習支援システムを活用することで、授業時間外での学習を行いやすいように工夫します。学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音 1	アルファベットとその発音
第 2 回	文字と発音 2	単語の発音
第 3 回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第 4 回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第 5 回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第 6 回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第 7 回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第 8 回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第 9 回	「（何々）の」、「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第 10 回	「（何々）に・へ」、「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第 11 回	「（何々）で・によつて」、「（何々）に取り組む」	名詞の造格、с я 動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化
第 12 回	「している／しおえる」	動詞の体（完了体／完了体）

第13回 形容詞、関係代名詞 形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化

第14回 期末試験、まとめと解説 文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

朝妻恵里子、クセーニヤ・ゴロウィナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021年、2000円＋税。

辞書は必要ありません。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社、2009年。

東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題、小テスト）20％、期末試験80％。

ロシア語は、学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするようにする。

【Outline and objectives】

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語B 2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2単位

法文営国環キ 2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法。ロシア文字とその発音、最も基礎的な文法を3か月で学ぶ。ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的な言語であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を読んだり書いたりすることができる。簡単なロシア語の会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。

ポイントは以下の4点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。これらのポイントを、全部で12課のみのコンパクトな教科書を用いて順次学んでいきます。

文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。

例年3・4年生の履修者が多いことに配慮し、学習支援システムを活用することで、授業時間外での学習を行いやすいように工夫します。学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音1	アルファベットとその発音
第2回	文字と発音2	単語の発音
第3回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第4回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第5回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第6回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第7回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第8回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第9回	「（何々）の」、「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第10回	「（何々）に・へ」、「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第11回	「（何々）で・によつて」、「（何々）に取り組む」	名詞の造格、ся動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化
第12回	「している／しおえる」	動詞の体（完了体／完了体）

- 第13回 形容詞、関係代名詞 形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化
- 第14回 期末試験、まとめと解説 文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

朝妻恵里子、クセーニヤ・ゴロウィナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021年、2000円＋税。
辞書は必要ありません。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社、2009年。
東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994年。

【成績評価の方法と基準】

宿題20%、期末試験80%。
ロシア語は、学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするようにする。

【Outline and objectives】

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 2017年度以降入学者 A

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法の学習を終えた学生を対象とする解読と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。単語・文法（構文中心）の練習、文章作成の練習を行い、ロシア語の表現力を本格的に身につけます。

【到達目標】

社会・文化に関する中級ロシア語の文書をロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。読んだ文書に関する質疑応答ができること。
この授業はロシア語能力検定試験3級、ロシア語能力試験（TPKI）A2レベルの受験勉強にも役立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

読みやすくてももしろい現代文学のテキストを解読し、単語・文法練習、聞き取り練習、文章作成の練習、会話練習を行います。授業への積極的な参加は、語学力アップにつながります。
課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。
本授業はリアルタイムオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テキスト「インターネットのお陰で」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
2	テキスト「ボルシチ」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
3	テキスト「ロシア語が簡単」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
4	テキスト「女友達たち」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
5	テキスト「30年前のロシア」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
6	テキスト「ロシア語の体系」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
7	テキスト「バレエのチケット」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
8	テキスト「レストラン予約」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
9	テキスト「実践のための会話」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
10	テキスト「メール」	テキストの聴解、解読、質疑応答
11	テキスト「何故ですか」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
12	テキスト「悪い言葉」	テキストの聴解、解読、質疑応答
13	復習	試験対策
14	期末試験	筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題提出や単語学習などはオンラインで行います。そのために学習支援システムや自習ができるオンライン学習アプリケーションを使います。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて読解プリントを配布します。ロシア語の音声ファイルの配布も学習支援システムで行います。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、小テスト、宿題、授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業を記録し、学習支援システムにて配信を行います。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PC など）、プリント、インターネット環境。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline and objectives】

This is a text reading and grammar-centered class for the students who have completed elementary Russian grammar. The students will read text related to Russian society and culture and learn intermediate grammar firmly.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 2017 年度以降入学者 B

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法の学習を終えた学生を対象とする解読と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。単語・文法（構文中心）の練習、文章作成の練習を行い、ロシア語の表現力を本格的に身につけます。

【到達目標】

社会・文化に関する中級ロシア語の文書をロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。読んだ文書に関する質疑応答ができること。

この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験（T P K II）A2 レベルの受験勉強にも役立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

読みやすくても面白い現代文学のテキストを解読し、単語・文法練習、聞き取り練習、文章作成の練習、会話練習を行います。授業への積極的な参加は、語学力アップにつながります。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

本授業は対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型授業ですが、具体的なスケジュールは学習支援システムでご参照ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テキスト「ロシア料理の歴史」前半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
2	テキスト「ロシア料理の歴史」後半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
3	テキスト「ロシアの天才たち」前半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
4	テキスト「ロシアの天才たち」後半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
5	テキスト「リコフ家」前半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
6	テキスト「リコフ家」後半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
7	テキスト「友達の作り方」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
8	テキスト「テレモク」	テキストの読解、質疑応答、文法練習
9	テキスト「銀行員」前半	テキストの読解、質疑応答、文法練習
10	テキスト「銀行員」後半	テキストの聴解、解読、質疑応答
11	テキスト「パヴェル・デュロフ」前半	テキストの読解、質疑応答、文法練習

12	テキスト「パヴェル・ テキストの聴解、解読、質疑応答 デュロフ」後半	
13	復習	試験対策
14	期末試験	筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題提出や単語学習などはオンラインで行います。そのために学習支援システムや自習ができるオンライン学習アプリケーションを使います。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時および学習支援システムにて読解プリントを配布します。ロシア語の音声ファイルの配布は学習支援システムで行います。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、小テスト、宿題、授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業になった場合は授業を記録し、学習支援システムにて配信を行います。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PC など）、プリント、インターネット環境。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline and objectives】

This is a text reading and grammar-centered class for the students who have completed elementary Russian grammar. The students will read text related to Russian society and culture and learn intermediate grammar firmly.

LANr300LA

実用ロシア語 A

2017 年度以降入学者

エレーナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。
ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 1（ТРКИ-1、B1）を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験 1 級（ТРКИ-1）受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。音声データは授業支援システム経由でダウンロードできます。
本授業はオンライン授業になります。
課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介	リスニング、会話練習
2	家族の話	リスニング、会話練習
3	趣味の話	リスニング、会話練習
4	履歴の話	リスニング、会話練習
5	ロシア伝統	リスニング、会話練習
6	お祝い、プレゼント	リスニング、会話練習
7	お買い物、化粧品	リスニング、会話練習
8	お買い物、食料品	リスニング、会話練習
9	お買い物、洋服	リスニング、会話練習
10	休暇の話	リスニング、会話練習
11	ホテルの予約	リスニング、会話練習
12	どこに行きたい	リスニング、会話練習
13	総合復習	1～12 の復習
14	期末試験	筆記テスト・その解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声データを使った宿題があります。宿題提出や単語学習などはオンラインで行います。そのために学習支援システムや自習ができるオンライン学習アプリケーションを使います。
本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムでプリント教材を配布します。

【参考書】

「大学のロシア語Ⅰ・基礎力養成テキスト」沼野恭子他（著） 東京外国語大学出版会

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 % 宿題・授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業を記録し、学習支援システムにて配信を行います。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PC など）、プリント、インターネット環境。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や学生の能力に応じて授業内容は変更できます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr300LA

実用ロシア語 B

2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 1（ТРКИ-1、B1）を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験 1 級（ТРКИ-1）受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。音声データは授業支援システム経由でダウンロードできます。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由で提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

本授業は対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型授業ですが、具体的なスケジュールは学習支援システムでご参照ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	リスニング、会話練習
2	家の話	リスニング、会話練習
3	部屋の話	リスニング、会話練習
4	家事	リスニング、会話練習
5	夢のキャリア	リスニング、会話練習
6	電話のエチケット	リスニング、会話練習
7	メールのエチケット	リスニング、会話練習
8	映画の話	リスニング、会話練習
9	いつも通うところ	リスニング、会話練習
10	ロシアの見物	リスニング、会話練習
11	街を歩く	リスニング、会話練習
12	空港にて	リスニング、会話練習
13	総合復習	1～12 の復習
14	期末試験	筆記テスト・その解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声データを使った宿題があります。宿題提出や単語学習などはオンラインで行います。そのために学習支援システムや自習ができるオンライン学習アプリケーションを使います。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時および学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

「大学のロシア語Ⅰ・基礎力養成テキスト」沼野恭子他（著） 東京外国語大学出版会

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 % 宿題・授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業になった場合は授業を記録し、学習支援システムにて配信を行います。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システムにアクセスできる端末（スマートフォン、PC など）、プリント、インターネット環境。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や学生の能力に応じて授業内容は変更します。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr300LA

ロシア語講読 A

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基礎練習（その 1）副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
2	基礎練習（その 2）能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習（その 3）受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
4	文章講読（その 1）歴史	19 世紀
5	文章講読（その 2）文学	19 世紀
6	文章講読（その 3）思想	19 世紀
7	文章講読（その 4）政治・経済	19 世紀
8	文章講読（その 5）社会	19 世紀
9	文章講読（その 1）歴史	20 世紀ないし現代
10	文章講読（その 2）文学	20 世紀ないし現代
11	文章講読（その 3）思想	20 世紀ないし現代
12	文章講読（その 4）政治・経済	20 世紀ないし現代
13	文章講読（その 5）社会	20 世紀ないし現代
14	期末試験	露文和訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。

本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。
辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40 %、期末試験 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当。

【Outline and objectives】

This is an intermediate course for students who want to improve their reading skills. Students will read texts written with various themes. Basically they will translate them from Russian to Japanese, but also have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

LANr300LA

ロシア語講読 B

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。
様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。

基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います、複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基礎練習（その 1）副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
2	基礎練習（その 2）能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習（その 3）受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
4	文章講読（その 1）歴史	19 世紀
5	文章講読（その 2）文学	19 世紀
6	文章講読（その 3）思想	19 世紀
7	文章講読（その 4）政治・経済	19 世紀
8	文章講読（その 5）社会	19 世紀
9	文章講読（その 1）歴史	20 世紀ないし現代
10	文章講読（その 2）文学	20 世紀ないし現代
11	文章講読（その 3）思想	20 世紀ないし現代
12	文章講読（その 4）政治・経済	20 世紀ないし現代
13	文章講読（その 5）社会	20 世紀ないし現代
14	期末試験	露文和訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。

本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。
辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40％、期末試験60％。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当。

【Outline and objectives】

This is an intermediate course for students who want to improve their reading skills. Students will read texts written with various themes. Basically they will translate them from Russian to Japanese, but also have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

LANr300LA

時事ロシア語 A

2017年度以降入学者

油本 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2単位

法文営国環キ 2～4年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的な文章の訳読を中心とする。語彙・文法事項の確認に加え、記事の内容についてのディスカッションも行う。講読する文章は受講者の関心に合わせて選定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	内政①	新聞記事の講読およびディスカッション
3	内政②	新聞記事の講読およびディスカッション
4	外交①	新聞記事の講読およびディスカッション
5	外交②	新聞記事の講読およびディスカッション
6	宗教①	新聞記事の講読およびディスカッション
7	宗教②	新聞記事の講読およびディスカッション
8	文化①	新聞記事の講読およびディスカッション
9	文化②	新聞記事の講読およびディスカッション
10	ビジネス①	新聞記事の講読およびディスカッション
11	ビジネス②	新聞記事の講読およびディスカッション
12	テクノロジー①	新聞記事の講読およびディスカッション
13	テクノロジー②	新聞記事の講読およびディスカッション
14	まとめ	半期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストの該当箇所を読み、単語の意味や文法事項を確認しながら日本語訳を準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、課題の取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】

各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian. The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

LANr300LA

時事ロシア語 B

2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的な文章の訳読を中心とする。語彙・文法事項の確認に加え、記事の内容についてのディスカッションも行う。講読する文章は受講者の関心に合わせて選定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	社会①	新聞記事の講読およびディスカッション
3	社会②	新聞記事の講読およびディスカッション
4	司法①	新聞記事の講読およびディスカッション
5	司法②	新聞記事の講読およびディスカッション
6	経済①	新聞記事の講読およびディスカッション
7	経済②	新聞記事の講読およびディスカッション
8	環境①	新聞記事の講読およびディスカッション
9	環境②	新聞記事の講読およびディスカッション
10	スポーツ①	新聞記事の講読およびディスカッション
11	スポーツ②	新聞記事の講読およびディスカッション
12	ナショナリズム①	新聞記事の講読およびディスカッション
13	ナショナリズム②	新聞記事の講読およびディスカッション
14	まとめ	半期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストの該当箇所を読み、単語の意味や文法事項を確認しながら日本語訳を準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、課題の取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】

各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian. The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

LANc300LA

第三外国語としての中国語 A

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。秋学期「第三外国語としての中国語 B」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、小テストを行います。テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、初級の文法を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。授業中に小テストや授業の質問に対するフィードバックを適宜行います。

※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。

※第 1 週目（初回授業）はオンラインです。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」「発音 3」	「発音の基本」ピンインの「発音 3」
3	「発音 3」「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」「動詞述語文」
6	「第 7 課」「第 8 課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」
7	「第 9 課」「第 10 課」	「主述述語文」「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」「第 12 課」	「補語」「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」「第 14 課」	「動詞述語文 2」「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」「第 16 課」	「動詞述語文 4」「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」「第 18 課」	「動詞述語文 6」「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」「第 20 課」	「完了態」「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	まとめ	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 予習・復習状況（「e 宿題」） 20 %
- ② 小テスト・授業への参加度 40 %
- ③ 期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。授業形態はハイフレックス型に対応しますので、各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc300LA

第三外国語としての中国語 B

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。春学期「第三外国語としての中国語 A」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、小テストを行います。テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、初級の文法を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。授業中に小テストや授業の質問に対するフィードバックを適宜行います。

※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」「第 22 課」	「経験態」「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」「第 24 課」	「形容詞述語文」
4	「第 25 課」「第 26 課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」1
5	「第 27 課」「第 28 課」	「名詞述語文」2
6	「第 29 課」「第 30 課」	「連体修飾語」「連用修飾語」
7	「第 31 課」「第 32 課」	「程度補語」「数量補語」
8	「第 33 課」「第 34 課」	「結果補語」「方向補語」
9	「第 35 課」「第 36 課」	「可能補語」「助動詞」
10	「第 37 課」「第 38 課」	「兼語文」「受け身表現」
11	「第 39 課」「第 40 課」	「把構文」「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	まとめ	「第 21 課から第 40 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 予習・復習状況（「e 宿題」） 20 %
- ② 小テスト・授業への参加度 40 %
- ③ 期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。授業形態はハイフレックス型に対応しますので、各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級 A 2017 年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

構文をしっかりと覚える。

発音を正確にする。

日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルを確認した上、様々な会話パターンを作って練習していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	シラバスの配布と説明。
第 2 回	あいさつ	あいさつなどの日常用語を練習する
第 3 回	実力テスト	リスニングのテストを行う
第 4 回	会話（1）	自己紹介の練習をする
第 5 回	授業内発表（1）	自己紹介を発表する
第 6 回	基本構文（1） 自由会話	1、主語・述語・目的語 2、疑問文
第 7 回	基本構文（2） 自由会話	1、連体修飾語 2、連用修飾語
第 8 回	基本構文（3）	補語
第 9 回	会話（2）	食事する時の会話
第 10 回	授業内発表（2）	講師と一対一で食事の時の会話を する
第 11 回	会話（3）	買い物する時の会話パターン
第 12 回	授業内発表（3）	講師と一対一で買い物のシミュレーションをする
第 13 回	復習	文法の復習をする
第 14 回	まとめ	口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や発表の準備など、毎回 4 時間ほどの復習をする。

また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト： 60 %

発表： 40 %

【学生の意見等からの気づき】

それぞれのレベルの差に配慮をする。

基本は対面授業ですが、参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS 等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級 B 2017 年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

「読む、書く、聞く、話す」を全体的にスキルアップを図る。
日常の中国語のコミュニケーションが取れるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルに合わせ、文法を復習しつつ、会話の練習を強化していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自由会話	夏休みの出来事を話す
第 2 回	文法（1） 自由会話	複文のさまざまな
第 3 回	文法（2） 自由会話	プリントにある文法に関する問題を解く
第 4 回	会話（1）	落とし物に関する会話
第 5 回	授業内発表（1）	落とし物に関する会話を発表
第 6 回	会話（2）	病院での会話パターン
第 7 回	授業内発表（2）	講師と一対一で病院でのやり取りを練習する
第 8 回	会話（3）	道を尋ねる/教える
第 9 回	授業内発表（3）	講師と一対一で道順に関するやり取りをする
第 10 回	会話（4）	スピーチやものの語り方
第 11 回	授業内発表（4）	スピーチ/ものを語る
第 12 回	作文	作文の練習
第 13 回	授業内発表（5）	作文の発表
第 14 回	まとめ	口頭による試験を行う まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週 4 時間を目途に復習する。

単語を調べて、オリジナルの長文及び会話文を作る。

また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

発表：40 %

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 A

2017 年度以降入学者

薬 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、参加者が中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけることです。特に日本語から中国語への訳に重点が置かれます。

【到達目標】

参加者が簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面での日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへの到達すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態はハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業の組み合わせ）となります。『学習支援システム』において、各授業日における学習内容（テキスト及び説明（音声））は、『課題』フォルダで授業日別に提示し、学習終了後に課題が必要です。翻訳課題の模範解答は、課題提出締切後に次週課題に添付される形で提供します。対面授業では、課題の要点解説や文法事項の詳細な解釈及び質疑応答を行います。

学習内容については、ネットで取得可能なニュース、観光案内、ビジネス文書の翻訳練習、テーマ別に設定した、日常生活の場面での通訳練習を行い、簡単な内容から入り、次第に深化していくようにします。

課題等へのフィードバックは以下ようになります。

- (1) 対面授業時に説明します。
 - (2) 「授業内掲示板」で随時受け付けして回答します。
 - (3) 個別相談等は shin.yaku.56@hosei.ac.jp で随時受け付けして回答します。
- 付け。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方などに関する説明
2	図書館の紹介	翻訳・通訳練習
3	バイト先の紹介	翻訳・通訳練習
4	食堂の紹介	翻訳・通訳練習
5	交通案内	翻訳・通訳練習
6	高速道路の紹介	翻訳・通訳練習
7	お正月の紹介	翻訳・通訳練習
8	空港と航空会社	翻訳・通訳練習
9	ネット事情の紹介	翻訳・通訳練習
10	携帯電話の紹介	翻訳・通訳練習
11	法政大学の紹介	翻訳・通訳練習
12	音楽の紹介	翻訳・通訳練習
13	日本の温泉の紹介	翻訳・通訳練習
14	主な翻訳・通訳技法の定着と応用	総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々起こる出来事に注目し、中国文化への関心を持つことが、「訳す力」の基礎になりますので、とにかく日常的に意欲的に中国情報に接すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。各授業日に使用されるテキストは『課題』の授業日別フォルダに記載または添付します。

【参考書】

辞書類

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 65 %、最終課題 35 %とする。

1) 平常点について（1 回～13 回）

オンラインで提出する課題を対象に次の採点基準を採用します。

- ①提出期限内に提出し、必要な項目をすべて解答した場合の得点：満点
 - ②提出期限内に提出したが、解答していない必要な項目があった場合：配点の 6 割程度
 - ③提出期限切れて（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、必要な項目をすべて解答した場合の得点：配点の 5 割程度
 - ④提出期限切れて（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、解答していない必要な項目があった場合の得点：配点の 2.5 割程度
- *対面授業または zoom によるオンライン授業に出席した場合、その日に設定される課題の提出はしなくても結構です。

2) 最終課題（14 回目）

当日提出、35 点分。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な作文練習をより多く取り入れます。

【Outline and objectives】

This lesson will conduct basic translation of Chinese and interpretation training. The aim is to acquire elementary translation and interpreting abilities corresponding to scenes related to sightseeing, business and everyday life. Especially emphasis is placed on translation from Japanese to Chinese.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 B

2017 年度以降入学者

薬 進

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、参加者が中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけることです。特に日本語から中国語への訳に重点が置かれます。

【到達目標】

簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面での日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへ到達すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態はハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業の組み合わせ）となります。『学習支援システム』において、各授業日における学習内容（テキスト及び説明（音声））は、『課題』フォルダで授業日別に提示し、学習終了後に課題が必要です。翻訳課題の模範解答は、課題提出締切後に、次週課題に添付される形で提供します。対面授業では、課題の要点解説や文法事項の詳細な解釈及び質疑応答を行います。

学習内容については、ネットで取得可能なニュース、観光案内、ビジネス文書の翻訳練習、テーマ別に設定した、日常生活の場面での通訳練習を行い、簡単な内容から入り、次第に深化していくようにします。

課題等へのフィードバックは以下ようになります。

- (1) 対面授業時に説明します。
- (2) 「授業内掲示板」で随時受け付けして回答します。
- (3) 個別相談等は shin.yaku.56@hosei.ac.jp で随時受け付けして回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コンビニの紹介	翻訳・通訳練習
2	スーパーと百貨店の紹介	翻訳・通訳練習
3	新聞とテレビの紹介	翻訳・通訳練習
4	東京の名所の紹介	翻訳・通訳練習
5	京都の名所の紹介	翻訳・通訳練習
6	家電製品の話	翻訳・通訳練習
7	留学生との交流	翻訳・通訳練習
8	日本の会社について	翻訳・通訳練習
9	和食の紹介	翻訳・通訳練習
10	居酒屋の紹介	翻訳・通訳練習
11	日本の政治について	翻訳・通訳練習
12	日本の経済状況について	翻訳・通訳練習
13	日中関係について	翻訳・通訳練習
14	主な翻訳・通訳技法の定着と応用	総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々起こる出来事に注目し、中国文化への関心を持つことが、「訳す力」の基礎になりますので、とにかく日常的に意欲的に中国情報に接すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。各授業日に使用されるテキストは『課題』の授業日別フォルダに記載または添付します。

【参考書】

辞書類

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 65 %、最終課題 35 %とする。

1) 平常点について（1 回～13 回）

オンラインで提出する課題を対象に次の採点基準を採用します。

①提出期限内に提出し、必要な項目をすべて解答した場合の得点：満点

②提出期限内に提出したが、解答していない必要な項目があった場合：配点の 6 割程度

③提出期限切れて（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、必要な項目をすべて解答した場合の得点：配点の 5 割程度

④提出期限切れて（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、解答していない必要な項目があった場合の得点：配点の 2.5 割程度

*対面授業または zoom によるオンライン授業に出席した場合、その日に設定される課題の提出はしなくても結構です。

2) 最終課題（14 回目）

当日提出、35 点分。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な作文練習をより多く取り入れます。

【Outline and objectives】

This lesson will conduct basic translation of Chinese and interpretation training. The aim is to acquire elementary translation and interpreting abilities corresponding to scenes related to sightseeing, business and everyday life. Especially emphasis is placed on translation from Japanese to Chinese.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 C

2017 年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳 1 慣用句・略語・背景知識の重要性を学ぶ	L 1 北京案内 リプロダクション サイトトランスレーション 音読確認
3	翻訳 1 同形語 難訳単語・四字成語・慣用句	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳 2 役職名、敬称、ビジネスシーンの通訳心得	L 1 逐次通訳演習 L 3 企業内通訳 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳 2 省略するスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳 3 フォーマルな表現、定型文	L 3 逐次通訳演習 L 4 宴会挨拶 リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳 3 文章記号と表記ルール	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳

8	通訳3 数字、固有名詞、リサーチ	L 4 逐次通訳演習 L 5 中国事情 リプロダクション サイトトランスレーション
9	翻訳3 適訳の選択 補って訳すスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
10	通訳4 スピードを求められる通訳、報道の表現、専門用語	L 5 逐次通訳演習 L 7 気象 リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳4 時事翻訳1	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ）
12	通訳5 講演の定型表現、現場での対応	L 7 逐次通訳演習 L 1 2 中国のIT市場
13	翻訳5 時事翻訳2	最新時事関連の応用翻訳（経済関連テーマ）
14	翻訳・通訳 総復習	既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。
通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材

通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % 期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書（スマートフォンの辞書アプリも可）

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Through lectures, reading comprehensions and translation exercises, students will learn translation theory and techniques, and improve their ability to use both Japanese and Chinese. In the process of translation practice, knowledge of the history, culture and social situation of Japan and China, as well as comparative language studies, will also be examined.

Interpreting is a means of cross-cultural communication, and lectures based on interpreting theory are combined with practical interpreting training and exercises. In addition, the processes of listening, understanding, analysing, remembering and translating are examined through practice.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 D

2017 年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳1 日中間の制度の違い、教育関連用語	L 8 教育 リプロダクション サイトトランスレーション
3	翻訳1 日本語表現の工夫 コロケーション	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳2 パブリックスピーキング、敬語	L 8 逐次通訳演習 L 9 友好都市交流 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳2 訳す順序	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳3 目的語の省略、外来語	L 9 逐次通訳演習 L 10 ファッション リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳3 時事翻訳1	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ～1）
8	通訳4 要点の把握、聞き手への対応	L 10 逐次通訳演習 L 13 対中投資 リプロダクション サイトトランスレーション

9	翻訳 4 時事翻訳 2	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ～2）
10	通訳 5 司会進行、文語的表現	L 1 3 逐次通訳演習 L 1 4 環境問題（1） リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳 5 時事翻訳 3	最新時事関連の応用翻訳（経済関連～1）
12	通訳 6	L 1 4 環境問題（2） 逐次通訳演習
13	翻訳 6 時事翻訳 4	最新時事関連の応用翻訳（経済関連～2）
14	翻訳・通訳 総復習	既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。
通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材

通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % 期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書（スマートフォンの辞書アプリも可）

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Through lectures, reading comprehensions and translation exercises, students will learn translation theory and techniques, and improve their ability to use both Japanese and Chinese. In the process of translation practice, knowledge of the history, culture and social situation of Japan and China, as well as comparative language studies, will also be examined. Interpreting is a means of cross-cultural communication, and lectures based on interpreting theory are combined with practical interpreting training and exercises. In addition, the processes of listening, understanding, analysing, remembering and translating are examined through practice.

LANc300LA

中国語講読 A

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）対策のための授業です。春学期は HSK 3, 4 級の読解を中心に扱います。読解には語彙力が必須です。そのため毎回授業で扱う本文の単語テストを行います。また本文に音声があれば、時間がある時に音声を聴き、リスニングに慣れる練習もする予定です。HSK 試験問題（閲読）に慣れておきたい方、ひとりで勉強するのが苦手な方、読解に苦手意識のある方、語彙力を増やしたい方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読と速読を通して、HSK 3, 4 級レベルの読解力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

①単語テスト、②練習問題の答案作成、③答え合わせと翻訳・内容理解・文法の解説、④仕上げて本文の速読の練習を中心に授業を進めます。受講生の様子を見ながら無理なく進めていく予定です。また、授業中に適宜単語テストや授業の質問に対するフィードバックを行います。

※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。

※第 1 週目（初回授業）はオンラインです。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認を行います。
2	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題①	単語テスト（1） HSK 3, 4 級閲読練習問題①の答案作成・翻訳と解説
3	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題②	単語テスト（2） HSK 3, 4 級閲読練習問題②の答案作成・翻訳と解説
4	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題③	単語テスト（3） HSK 3, 4 級閲読練習問題③の答案作成・翻訳と解説
5	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題④	単語テスト（4） HSK 3, 4 級閲読練習問題④の答案作成・翻訳と解説
6	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題⑤	単語テスト（5） HSK 3, 4 級閲読練習問題⑤の答案作成・翻訳と解説
7	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題⑥	単語テスト（6） HSK 3, 4 級閲読練習問題⑥の答案作成・翻訳と解説
8	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題⑦	単語テスト（7） HSK 3, 4 級閲読練習問題⑦の答案作成・翻訳と解説

9	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題⑧	単語テスト (8) HSK 3, 4 級閲読練習問題⑧の 答案作成・翻訳と解説
10	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題⑨	単語テスト (9) HSK 3, 4 級閲読練習問題⑨の 答案作成・翻訳と解説
11	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題⑩	単語テスト (10) HSK 3, 4 級閲読練習問題⑩の 答案作成・翻訳と解説
12	HSK 3, 4 級閲読対策：練習問題⑪	単語テスト (11) HSK 3, 4 級閲読練習問題⑪の 答案作成・翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	単語テスト (12) HSK 3, 4 級閲読練習問題①～ ⑪の復習
14	まとめ	HSK 3, 4 級閲読練習問題①～ ⑪のまとめの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。事前に配布した単語を覚えてきてください。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 単語テスト 30 %
- ② 授業参加度 30 %
- ③ まとめの試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業形態はハイフレックス型に対応しますので、希望者は PC の機器の準備、インターネットができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

LANc300LA

中国語講読 B

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）対策のための授業です。秋学期は HSK 4, 5 級の閲読を中心に扱います。読解には語彙力が必須です。そのため毎回授業で扱う本文の単語テストを行います。また本文に音声があれば、時間がある時に音声を聴き、リスニングに慣れる練習もする予定です。HSK 試験問題（閲読）に慣れておきたい方、ひとりで勉強するのが苦手な方、読解に苦手意識のある方、語彙力を増やしたい方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読と速読を通して、HSK 4, 5 級レベルの読解力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

①単語テスト、②練習問題の答案作成、③答え合わせと翻訳・内容理解・文法の解説、④仕上げて本文の速読の練習を中心に授業を進めます。受講生の様子を見ながら無理なく進めていく予定です。また、授業中に適宜単語テストや授業の質問に対するフィードバックを行います。

※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認を行います。
2	HSK 4, 5 級閲読対策：練習問題①	単語テスト (1) HSK 4, 5 級閲読練習問題①の 答案作成・翻訳と解説
3	HSK 4, 5 級閲読対策：練習問題②	単語テスト (2) HSK 4, 5 級閲読練習問題②の 答案作成・翻訳と解説
4	HSK 4, 5 級閲読対策：練習問題③	単語テスト (3) HSK 4, 5 級閲読練習問題③の 答案作成・翻訳と解説
5	HSK 4, 5 級閲読対策：練習問題④	単語テスト (4) HSK 4, 5 級閲読練習問題④の 答案作成・翻訳と解説
6	HSK 4, 5 級閲読対策：練習問題⑤	単語テスト (5) HSK 4, 5 級閲読練習問題⑤の 答案作成・翻訳と解説
7	HSK 4, 5 級閲読対策：練習問題⑥	単語テスト (6) HSK 4, 5 級閲読練習問題⑥の 答案作成・翻訳と解説
8	HSK 4, 5 級閲読対策：練習問題⑦	単語テスト (7) HSK 4, 5 級閲読練習問題⑦の 答案作成・翻訳と解説

9	HSK 4, 5 級閲読対策：練習問題⑧	単語テスト (8) HSK 4, 5 級閲読練習問題⑧の 答案作成・翻訳と解説
10	HSK 4, 5 級級閲読対策：練習問題⑨	単語テスト (9) HSK 4, 5 級級閲読練習問題⑨ の答案作成・翻訳と解説
11	HSK 4, 5 級級閲読対策：練習問題⑩	単語テスト (10) HSK 4, 5 級級閲読練習問題⑩ の答案作成・翻訳と解説
12	HSK 4, 5 級級閲読対策：練習問題⑪	単語テスト (11) HSK 4, 5 級級閲読練習問題⑪ の答案作成・翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	単語テスト (12) HSK 4, 5 級級閲読練習問題① ～⑪の復習
14	まとめ	HSK 4, 5 級級閲読練習問題① ～⑪のまとめの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。事前に配布した単語を覚えてきてください。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 単語テスト 30 %
- ② 授業参加度 30 %
- ③ まとめの試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業形態はハイフレックス型に対応しますので、希望者は PC の機器の準備、インターネットができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 5th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

LANc300LA

資格中国語中級 A

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の 3 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 3 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK3 級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK3 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

※ [2021.03.17 追記] 大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達するので、必ず確認してください。

授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ① 小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]
- ② リスニング問題の解説 [約 50 分]
- ③ 各種練習問題を通じたトレーニング [約 30 分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3 級リスニング対策①	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK3 級リスニング対策②	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

4	HSK3 級リスニング対策③	HSK3 級リスニング問題の第二部分（11-15）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK3 級リスニング対策④	HSK3 級リスニング問題の第二部分（16-20）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK3 級リスニング対策⑤	HSK3 級リスニング問題の第三部分（21-25）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK3 級リスニング対策⑥	HSK3 級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK3 級リスニング対策⑦	HSK3 級リスニング問題の第四部分（31-35）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK3 級リスニング対策⑧	HSK3 級リスニング問題の第四部分（36-40）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK3 級読解対策①	HSK3 級読解問題の第一部分（41-50）及び第二部分（51-55）の解説
11	HSK3 級読解対策②	HSK3 級読解問題の第二部分（56-60）及び第三部分（61-70）の解説
12	HSK3 級作文対策	HSK3 級作文問題（71-80）の解説
13	HSK3 級模擬試験と解説	HSK3 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSK リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあげておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしく くわしい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。

・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。

・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。

・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 3rd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

LANc300LA

資格中国語中級 B

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の 4 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 4 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK4 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK4 級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK4 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

※ [2021.03.17 追記] 大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達するので、必ず確認してください。

授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]
- ②リスニング問題の解説 [約 50 分]
- ③各種練習問題を通じたトレーニング [約 30 分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4 級リスニング対策①	HSK4 級リスニング問題の第一部分（1-5）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK4 級リスニング対策②	HSK4 級リスニング問題の第一部分（6-10）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

4	HSK4 級リスニング対策③	HSK4 級リスニング問題の第二部分（11-15）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK4 級リスニング対策④	HSK4 級リスニング問題の第二部分（16-20）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK4 級リスニング対策⑤	HSK4 級リスニング問題の第二部分（21-25）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK4 級リスニング対策⑥	HSK4 級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK4 級リスニング対策⑦	HSK4 級リスニング問題の第三部分（31-35）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK4 級リスニング対策⑧	HSK4 級リスニング問題の第三部分（36-40）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK4 級リスニング対策⑨	HSK4 級リスニング問題の第三部分（41-45）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
11	HSK4 級読解対策	HSK4 級読解問題（46-85）の解説
12	HSK4 級作文対策	HSK4 級作文問題（86-100）の解説
13	HSK4 級模擬試験と解説	HSK4 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSK リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 %評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。

- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

LANc300LA

資格中国語上級 A

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力、翻訳力、作文力の向上を図ります。そして言葉の使い分け、日本語と中国語の違いを理解してもらいます。

【到達目標】

学校生活や日常生活で必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを基本にして読解力、翻訳力を高めます。そして作文の書き方を指導します。事前に用意してもらい、授業中みなさんの作文をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。授業開始前、授業中、授業後、時間があれば、ご質問に答えます。社会情勢に合わせてオンデマンドとオンライン授業（リアルタイム）を実施する場合があります。課題を提出して、問題点を説明します。個別にも指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	レベルチェック
2 回	第一課	方向補語など 目的語になる動詞句と主述句など
3 回	第一課	「的」の使い方のまとめ
4 回	第二課	比較の表現 逆接の表現など
5 回	第二課	振込み用紙の書き方など
6 回	第三課	結果補語 二重目的語など
7 回	第三課	動詞述語文用法のまとめ
8 回	第四課	可能補語 慣用形など
9 回	第四課	会話練習 葉書の書き方
10 回	第五課	連用修飾語 前置詞など
11 回	第五課	主語になる動詞句 お金のいい方 慣用形など
12 回	第六課	作文の練習
13 回	第六課	作文の校正
14 回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に使うプリントの内容をしっかりと理解し、発音できると単文をちゃんと訳して用意しておくこと。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書を用意すること

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60点）、試験（40点）により総合評価します。
オンライン授業の場合、評価方法を変更する可能性があります。その時、お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生に高く評価されていました。続けてこのやり方でやります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するため通信環境・PCの準備をしてください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

LANc300LA

資格中国語上級 B

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力、翻訳力、作文力の向上を図ります。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回ちょっとしたスピーチをしてもらいます。その後翻訳の練習など。訳す力を高めると同時に、作文の書き方を指導します。事前に用意してもらい、授業中みなさんの作文をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。
社会情勢に合わせてオンデマンドとオンライン授業（リアルタイム）を実施する場合があります。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	翻訳	形容詞など
2 回	翻訳	助動詞
3 回	翻訳	副詞・接続詞など
4 回	作文練習	文章記号と原稿用紙の使い方など
5 回	作文練習	作文指導
6 回	翻訳	予定・計画、願望・意志など
7 回	翻訳	推測、仮定、因果関係など
8 回	作文練習	作文指導
9 回	翻訳	伝聞、条件、選択など
10 回	翻訳	禁止、程度、複文など
11 回	作文練習	作文指導
12 回	翻訳	期待、要請、可能性など
13 回	作文の練習	作文指導
14 回	総復習	総まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に使うプリントの内容をしっかりと理解し、発音できることと単文をちゃんと訳して用意しておくこと。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書を必ず用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60点）、試験（40点）により総合評価します。
オンライン授業の場合、評価方法を変更する可能性があります。その時、お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生が高く評価してくれました。続けてこのやり方でやります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するため通信環境・PCの準備をしてください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

ARSe300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中国の食文化

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国において地理的な条件、気候風土、生活習慣などが人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国』を教材として用いながら、地域の伝統的な食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】

- ・映像資料の鑑賞・文献の翻訳を通して、中国語運用能力の向上を目指す。
- ・中国の地理、地域の特色、食材、調理方法、年中行事、生活習慣などへの調査を通して、多角的に食文化への理解を深める。
- ・各自で中華料理店を訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『舌尖上的中国』の内容に関するスクリプト（簡体字・ピンイン付）を毎回事前に配布しますので、各自で予習をしてきてください。授業では番組を鑑賞しながらスクリプトの翻訳を行います。中国語が不慣れな方も歓迎しますので、とくに読解と解説に重点を置いて授業を進めます。また、毎回授業の終わりに翻訳とリアクションペーパーを提出してもらいます。翌週の授業内でリアクションペーパー等に対するフィードバックを行います。

※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。※履修希望者数が定員（教室収容定員）を超えた場合、初回に抽選を行いますので、授業開始前までに仮登録を済ませてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明・確認
2	中国各地の三食（1）	天津の「煎ⓧ果子」：紅さんの露店にまつわる物語
3	中国各地の三食（2）	天津の「煎ⓧ果子」：紅さんの煎ⓧ果子の秘訣
4	中国各地の三食（3）	天津の「煎ⓧ果子」：地域に愛される紅さんの露店
5	中国各地の三食（4）	広州の点心：陳勛がつくる「叉焼包」
6	中国各地の三食（5）	広州の点心：陳勛がつくる「叉焼包」と点心四天王
7	中国各地の三食（6）	広州の「早茶」習慣と働く若者の朝食事情
8	中国各地の三食（7）	深圳の工場に働く若者と社食
9	中国各地の三食（8）	深圳の企業で働く湖南出身の夫婦と食

10	中国各地の三食（9）	上海音楽学院に通う娘を支える母手製の「紅焼肉」
11	中国各地の三食（10）	上海音楽学院に通う娘を支える母手製の「紅焼肉」（続）
12	中国各地の三食（11）	「高考（大学統一入学試験）」に挑む親子と食：「 ☐ 椒蒸 ☐ 」「蒿子 ☐ 」
13	中国各地の三食（12）	「高考（大学統一入学試験）」に挑む親子と食：「干子 ☐ 肉」
14	まとめ	春学期のふりかえり・レポートの発表と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場で配布します。

【参考書】

中央☐台☐道☐『舌尖上的中国』など

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60 %（毎回のスクリプトの日本語訳の提出状況、リアクションペーパーの提出状況）
- ・レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業形態はハイフレックス型に対応しますので、希望者は PC の機器の準備、インターネットができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

ARSe300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中国の食文化

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国において地理的な条件、気候風土、生活習慣などが人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国』を教材として用いながら、地域の伝統的な食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】

- ・映像資料の鑑賞・文献の翻訳を通して、中国語運用能力の向上を目指す。
- ・中国の地理、地域の特色、食材、調理方法、年中行事、生活習慣などへの調査を通して、多角的に食文化への理解を深める。
- ・各自で中華料理店を訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『舌尖上的中国』の内容に関するスクリプト（簡体字・ピンイン付）を毎回事前に配布しますので、各自で予習をしてきてください。授業では番組を鑑賞しながらスクリプトの翻訳を行います。中国語が不慣れな方も歓迎しますので、とくに読解と解説に重点を置いて授業を進めます。また、毎回の授業前に担当箇所の仮訳を提出してもらい、授業の終わりに正しい翻訳とリアクションペーパーを提出してもらいます。翌週の授業内でリアクションペーパー等に対するフィードバックを行います。

※本授業は対面とオンライン両方に対応します（ハイフレックス型）。※履修希望者数が定員（教室収容定員）を超えた場合、初回に抽選を行いますので、授業開始前までに仮登録を済ませてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明・確認
2	中国各地の三食（1）	五穀の概念
3	中国各地の三食（2）	米食と広州の「河粉」
4	中国各地の三食（3）	陝西省西安名物の「肉夹 ☐ 」
5	中国各地の三食（4）	甘肅省蘭州の「蘭州拉麵」と広東省広州の「竹昇麵」
6	中国各地の三食（5）	陝西省岐山の「岐山臊子麵」
7	中国各地の三食（6）	蘇州の「楓鎮大肉麵」、武漢の「麵 ☐ 」「三鮮豆皮」「熱乾麵」
8	中国各地の三食（7）	蘇州の「楓鎮大肉麵」、武漢の「麵 ☐ 」「三鮮豆皮」「熱乾麵」（続）
9	中国各地の三食（8）	重慶の「牛肉麵」
10	中国各地の三食（9）	四川省樂山の周大姐が営む「麻辣 ☐ 」店
11	中国各地の三食（10）	四川省樂山の周大姐が営む「麻辣 ☐ 」店と「串串香」

12	中国各地の三食（1）	ハルビンの孔さん自家製「酸菜」
13	中国各地の三食（2）	孔さんの息子が科学技術で作る「酸菜」
14	まとめ	秋学期のふりかえり・レポートの発表と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場で配布します。

【参考書】

中央×台×道×『舌尖上的中国』など

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60 %（毎回のスクリプトの日本語訳の提出状況、リアクションペーパーの提出状況）
- ・レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業形態はハイフレックス型に対応しますので、希望者は PC の機器の準備、インターネットができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 A 2017 年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。スペイン語が話されている国の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合は Zoom によるリアルタイム双方向式で行う。講師が文法事項を説明し、履修生は音声聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。グループアクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習方法、スペイン語の特徴
2	挨拶	アルファベット、発音、アクセント、数詞 0～10
3	自己紹介	リスニングと会話練習、スペイン語圏の名前
4	職業	名詞の性数、冠詞、数詞 11～20
5	曜日	リスニングと会話練習、スペインのバル
6	スペイン語圏諸国	数詞 21～30、形容詞、主格人称代名詞、動詞 ser
7	人や物の描写	リスニングと会話練習、市場での買い物
8	小テスト、頻度表現	数詞 31～100、直説法現在規則動詞
9	習慣	リスニングと会話練習
10	服装・持ち物	指示詞、所有詞
11	日付、時刻	リスニングと会話練習、年中行事
12	場所を表す表現	動詞 ser, estar, hay
13	方角	リスニングと会話練習、道順、住居の間取り
14	期末試験、ふりかえり	春学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻博子／野村明衣『彩りスペイン語』朝日出版社、2021 年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）、小テスト（10 %）、期末試験（40 %）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

他の学生の発言や質問から学ぶことも多いので、対面でグループアクティビティも取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業ができなくなった場合、パソコンと安定したインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお薦めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 B 2017 年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

動詞の現在時制の活用と用法を覚える。
簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようにする。
スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合は Zoom によるリアルタイム双方向式で行う。講師が文法事項を説明し、履修生は音声聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。グループアクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日常生活	数詞 101～、直説法現在不規則動詞、直接目的格人称代名詞
2	旅行	リスニングと会話練習、スペイン語圏の世界遺産
3	買い物	語幹母音変化動詞、間接目的格人称代名詞
4	依頼、許可の表現	リスニングと会話練習、
5	義務の表現	動詞 tener, oír, decir, venir, ir
6	趣味	gustar 型動詞、前置詞格人称代名詞
7	体調	リスニングと会話練習
8	小テスト 天候	不定語・否定語、天候の表現
9	スペイン語圏の気候と自然	比較・最上級、リスニングと会話練習
10	一日のスケジュール	再帰動詞
11	道順	無人称文、序数
12	料理のレシピ	数量表現、動詞の復習
13	クリスマスと新年	お祝いのメッセージの書き方
14	期末試験、ふりかえり	秋学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻博子／野村明衣『彩りスペイン語』朝日出版社、2021 年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）、小テスト（10％）、期末試験（40％）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

他の学生の発言や質問から学ぶことも多いので、対面でグループアクティビティも取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業ができなくなった場合、パソコンと安定したインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお薦めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

LANs300LA

スペイン語上級 A

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン S A 修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語で書かれた多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。

【到達目標】

DELE(B2) 程度のレベルを目指す。

具体的な目標は二つ①新聞や小説などの文章が理解できるようになる。②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

あらかじめ配布された講読資料をもとに、内容について詳しく見ていく。指名された学生は、スペイン語の文章の和訳を行なう。それについて、討議などを通じて全員で議論し、内容理解に努める。また、会話については、あらかじめ決められたテーマに沿って順番に発表してもらう。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。 教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法現在形を中心とした文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法現在進行形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	関係代名詞を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	再帰代名詞を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	過去完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	直説法点過去形を用いた文章の読解。

9	講読 8 ディスカッション (習慣)	直説法線過去形を用いた文章の読解。
10	講読 9 ディスカッション (文学)	現在分詞を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (テクノロジー)	時の経過を表す表現を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (移民)	感嘆文を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	直説法未来形を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	春学期授業のふりかえり。まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の授業で指定された資料にあらかじめ目を通しておくこと。わからない点については、事前に十分な予習をして授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他学生の発表の時の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の積極的な発言を促しながら授業を展開します。

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面形式で行われるが、場合によってはオンライン形式へ変更となることがある。その場合は「学習支援システム」上で通知するので、こまめなチェックを怠らないこと。

【Outline and objectives】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.
The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

LANs300LA

スペイン語上級 B

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン S A 修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語による多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。

【到達目標】

DELE(B2) 程度のレベルを目指す。

具体的な目標は二つ①新聞や小説などの文章を理解できるようにする。②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

あらかじめ配布された講読資料をもとに、内容について詳しく見ていく。指名された学生は、スペイン語の文章の和訳を行なう。それについて、討議などを通じて全員で議論し、内容理解に努める。また、会話については、あらかじめ決められたテーマに沿って順番に発表してもらう。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。 教員による授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	テーマに関するディスカッション。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法過去未来形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	分詞構文を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	直説法過去未来完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	感覚・使役の動詞を用いた文章の読解。

9	講読 8 ディスカッション (習慣)	接続法現在形を用いた文章の読解。
10	講読 9 ディスカッション (文学)	接続法現在完了形を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (自由テーマ)	接続法過去形を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (時事問題)	接続法過去完了形を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	願望文を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	秋学期のふりかえり。まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の授業で指定された資料にあらかじめ目を通しておくこと。わからない点については、事前に十分な予習をして授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他学生の発表の時の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面形式で行われるが、場合によってはオンライン形式へ変更となることがある。その場合は「学習支援システム」上で通知するので、こまめなチェックを怠らないこと。

【Outline and objectives】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Conducted in Spanish.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級 A

2017 年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座はオンラインで実施する。Zoom を通じてリアルタイムで行う。この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。

【到達目標】

スペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回最初に Break Out Room を使って仲間同士で決まった 10 個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後、前回の復習をしてから、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。本授業には課題がない。期末には「日本の結婚式」についてスペイン語でレポートを書く必要がある。添削してからフィードバックは Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	10 個の質問 1 スペインの結婚式 1	スペイン語 1 結婚式の時間
2	10 個の質問 2 スペインの結婚式 2	スペイン語 2 セレモニーの後
3	10 個の質問 3 スペインの結婚式 3	自分の家 1 披露宴の進行
4	10 個の質問 4 スペインの結婚式 4	自分の家 2 披露宴での配置
5	10 個の質問 5 スペインの結婚式 5	趣味 1 踊りの時間 1
6	10 個の質問 6 スペインの結婚式 6	趣味 2 踊りの時間 2
7	10 個の質問 7 スペインの結婚式 7	趣味 3 踊りの時間 3
8	10 個の質問 8 スペインの結婚式 8	趣味 4 二次会
9	10 個の質問 9 スペインの結婚式 9	食べ物 1 ご祝儀 1
10	10 個の質問 10 スペインの結婚式 10	食べ物 2 ご祝儀 2
11	10 個の質問 11 スペインの結婚式 11	仕事 1 カトリック式結婚
12	10 個の質問 12 スペインの結婚式 12	仕事 2 民事婚
13	10 個の質問 13 スペインのカップル	買い物 1 信頼度

1

14 10 個の質問 14 買い物 2
スペインのカップル トラブル
2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習はあらかじめ毎週お送りする PDF のお新しい語彙を覚えることと仲間同士で練習する 10 個の質問の答えを言えるように練習しておくことである。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通しておくこと。本授業の予習と復習時間は合わせて 60 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。
出席点ではありません → 60 %
2. 期末のレポートに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【その他の重要事項】

Se requiere un nivel medio de comprensión para tomar esta clase. La lengua básica empleada será el japonés, no obstante, se empleará el español en muchas ocasiones.

【Outline and objectives】

This course will be conducted online in real time through Zoom. In this course, you will try to improve vocabulary in order to get a better communication with others.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中 2017 年度以降入学者級 B

瓜谷 アウロラ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座はオンラインで実施する。Zoom を通じてリアルタイムで行う。この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。

【到達目標】

スペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回最初に Break Out Room を使って仲間同士で決まった 10 個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後前回の復習をしてから、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。本授業には課題がない。期末には「日本のクリスマス」についてスペイン語でレポートを書く必要がある。添削してからフィードバックは Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	10 個の質問 1 スペインのクリスマス	過ぎたこと 1 12 月 22 日
2	10 個の質問 2 スペインのクリスマス	過ぎたこと 2 クリスマス宝くじ
3	10 個の質問 3 スペインのクリスマス	子供の時 1 クリスマスイブ
4	10 個の質問 4 スペインのクリスマス	子供の時 2 クリスマスの飾り
5	10 個の質問 5 スペインのクリスマス	携帯電話 1 プレゼントをもらう日
6	10 個の質問 6 スペインのクリスマス	携帯電話 2 大晦日
7	10 個の質問 7 スペインのクリスマス	経験 1 年の越し方
8	10 個の質問 8 スペインのクリスマス	経験 2 運をもたらす服
9	10 個の質問 9 スペインのクリスマス	なぜ？ 1 お正月
10	10 個の質問 10 スペインのクリスマス	なぜ？ 2 1 月 5 日

11	10 個の質問 11	いつ? 1
	スペインのクリスマス	1月6日
12	10 個の質問 12	いつ? 2
	スペインのクリスマス	学校の始まり
13	10 個の質問 13	日本の習慣 1
	スペインのクリスマス	スペインの休暇
14	10 個の質問 14	日本の習慣 2
	スペインの若者	失業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習はあらかじめ毎週お送りする PDF のお新しい語彙を覚えることとペア練習で使う 10 個の質問の答えを言えるように練習しておくことである。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してくる必要がある。本授業の予習と復習時間は合わせて 60 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。出席点ではありません → 60 %
2. 期末レポートに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【その他の重要事項】

Se requiere un nivel medio de comprensión para tomar esta clase. La lengua básica empleada será el japonés, no obstante, se empleará el español en muchas ocasiones.

【Outline and objectives】

This course will be conducted online in real time through Zoom. In this course, you will try to improve vocabulary in order to get a better communication with others.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スペイン語圏の文化と社会を読み解く：スペイン前近代史編

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ゼミ形式でスペイン（およびスペイン国家形成以前のイベリア半島）の歴史を学ぶ。春学期は前近代（古代～近世）の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いつつながら、文化史や宗教史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン前近代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の (1)、(2) に関する各自の考えを、プレゼンテーションとディベート、そして学期末レポートにおいて言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読と、それに基づく受講生のプレゼンテーションおよびディベートを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	先史時代のイベリア半島	先史時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
3	ローマ属州ヒスパニア	ローマ属州の時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
4	西ゴート王国	ローマ支配後のスペイン（イベリア）古代史について学ぶ。
5	スペイン史と三宗教	スペイン史とキリスト教、イスラーム、ユダヤ教との関係について学ぶ。
6	アル・アンダルス	イスラーム治下のスペイン（イベリア）中世史について学ぶ。
7	カスティーリャ王国	カスティーリャ中世史について学ぶ。
8	アラゴン連合王国	アラゴン中世史について学ぶ。
9	地中海世界と大西洋世界	二つの大洋にわたるスペイン史の広がりについて学ぶ。
10	カトリック両王の時代	近世初期のスペイン史について学ぶ。
11	スペイン帝国の「繁栄」と「衰退」	16、17 世紀のスペイン史について学ぶ。
12	絶対王政と啓蒙	18 世紀のスペイン史について学ぶ。

- 13 スペインの世界遺産 世界遺産を題材として、スペイン史への理解を深める。
- 14 春学期のまとめ スペイン（イベリア）前近代史を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、ISBN9784750344157、本体価格 2,000 円。

【参考書】

資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は教場にて適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014 年、ISBN 9784750340326、本体価格 5,800 円。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション：30 %、ディベートへの参加度：30 %、学期末レポート：40 %。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでスライドを使用する場合には、接続用の PC とアダプターは各自が用意すること。

【その他の重要事項】

スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide the students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading, presentation and discussion.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スペイン語圏の文化と社会を読み解く：スペイン近現代史編

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ゼミ形式でスペインの歴史を学ぶ。秋学期は近現代の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、思想史や法制史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン近現代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の (1)、(2) に関する各自の考えを、プレゼンテーションとディベート、そして学期末レポートにおいて言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読と、それに基づく受講生のプレゼンテーションおよびディベートを行う。課題等に対するフィードバックは授業内でいい、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足固めを行う。
2	旧体制の揺動	18 世紀末から 19 世紀初頭にかけてのスペイン史について学ぶ。
3	自由主義の芽生え	19 世紀前半のスペイン史について学ぶ。
4	第一共和政と王政復古体制	19 世紀後半のスペイン史について学ぶ。
5	近現代の政治思想と社会運動	政治と社会をめぐる思潮のスペインでの展開について学ぶ。
6	プリモ・デ・リベラ独裁	20 世紀初頭のスペイン史について学ぶ。
7	第二共和政	スペイン第二共和政について学ぶ。
8	内戦	スペイン内戦について学ぶ。
9	二つの世界大戦と国際政治	20 世紀スペインの国際関係史について学ぶ。
10	フランコ体制	フランコ体制の確立と展開について学ぶ。
11	民主化への道	フランコ体制の崩壊と民主化への過程について学ぶ。
12	自治州国家体制	現行制度でもあるスペインの自治州国家体制について学ぶ。
13	スペインの憲法	歴史的諸憲法を題材として、スペイン近現代史を総括する。

14 秋学期のまとめ 歴史的な理解をもとに、現在のスペインにおける諸問題を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、ISBN9784750344157、本体価格 2,000 円。

【参考書】

資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は授業内で適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014 年、ISBN 9784750340326、本体価格 5,800 円。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション：30 %、ディベートへの参加度：30 %、学期末レポート：40 %。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の再開後、プレゼンテーションでスライドを使用する場合には、接続用の PC とアダプターは各自が用意すること。

【その他の重要事項】

スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide the students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading, presentation and discussion.

LANs300LA

スペイン語講読 A

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、さまざまな時代や場所を舞台とするいくつかの物語を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれたいくつかの物語を、語彙、文法、表現等の観点から読み解いていく。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

感染拡大予防措置を講じながら教室内での対面授業を行うことが困難であることから、本授業の形態は Zoom を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。授業形態の詳細や注意点は、学期開始に先立って学習支援システム上で公開するので、初回授業の前に必ず目を通しておくこと。

ただし以下の点は特に重要であるため、予め留意すること。

【下記の「授業計画」のうち、8 回目に予定している中間テスト、及び 14 回目に予定している期末テストについては、感染拡大予防措置を十分に講じること（マスクまたはフェイスシールドの着用徹底、教室内での会話の禁止等）を前提として、教室内での筆記試験を実施する。従って 8 回目及び 14 回のみ、教室に来て受験することを必須とし、他の形での受験は認めない。】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 語彙	教科書第 1 課の語彙確認
3	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 表現	教科書第 1 課の表現確認
4	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 文法	教科書第 1 課の文法復習
5	「私のビスケット」(Mis galletas) : 語彙	教科書第 2 課の語彙確認
6	「私のビスケット」(Mis galletas) : 表現	教科書第 2 課の表現確認
7	「私のビスケット」(Mis galletas) : 文法	教科書第 2 課の文法復習

8	中間テスト 「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares)：語彙	今学期の中間テストを実施 教科書第 3 課の語彙確認
9	「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares)：表現	教科書第 3 課の表現確認
10	「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares)：文法	教科書第 3 課の文法復習
11	「最後の仕事」(El último trabajo)：語 彙	教科書第 4 課の語彙確認
12	「最後の仕事」(El último trabajo)：表 現	教科書第 4 課の表現確認
13	「最後の仕事」(El último trabajo)：文 法	教科書第 4 課の文法復習
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べるなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

サンティアゴ・フェラン、青木利夫『クエンタメ：スペイン語を学びながら楽しむ 8 つの物語-中級-』朝日出版社、2017 年、ISBN: 978-255-55087-9

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に評価する。
ただし新型コロナウイルスの感染状況の推移によっては、中間テスト及び期末テストを教室内の筆記形式で実施することが不可能となる場合も考えられるため、成績評価方法も変更の可能性がある。変更の場合は学習支援システムで速やかに通知するので、こまめに確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

本授業はリアルタイムでのオンライン形式で実施するので、パソコンおよびインターネット環境を必須とする。

【Outline and objectives】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

LANs300LA

スペイン語講読 B

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、さまざまな時代や場所を舞台とするいくつかの物語を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれたいくつかの物語を、語彙、文法、表現等の観点から読み解いていく。課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

感染拡大予防措置を講じながら教室内の対面授業を行うことが困難であることから、本授業の形態は Zoom を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。授業形態の詳細や注意点は、学期開始に先立って学習支援システム上で公開するので、初回授業の前に必ず目を通しておくこと。

ただし以下の点は特に重要であるため、予め留意すること。

【下記の「授業計画」のうち、8 回目に予定している中間テスト、及び 14 回目に予定している期末テストについては、感染拡大予防措置を十分に講じること（マスクまたはフェイスシールドの着用徹底、教室内の会話の禁止等）を前提として、教室内の筆記試験を実施する。従って 8 回目及び 14 回目のみ、教室に来て受験することを必須とし、他の形での受験は認めない。】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha)：語彙	教科書第 5 課の語彙確認
3	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha)：表現	教科書第 5 課の表現確認
4	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha)：文法	教科書第 5 課の文法復習
5	「腸詰め」(La morcilla)：語彙	教科書第 6 課の語彙確認
6	「腸詰め」(La morcilla)：表現	教科書第 6 課の表現確認
7	「腸詰め」(La morcilla)：文法	教科書第 6 課の文法復習

8	中間テスト 「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 語彙	今学期の中間テストを実施 教科書第 7 課の語彙確認
9	「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 表現	教科書第 7 課の表現確認
10	「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 文法	教科書第 7 課の文法復習
11	「ラビ」(El rabino) : 語彙	教科書第 8 課の語彙確認
12	「ラビ」(El rabino) : 表現	教科書第 8 課の表現確認
13	「ラビ」(El rabino) : 文法	教科書第 8 課の文法復習
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

サンティアゴ・フェラン、青木利夫『クエンタメ：スペイン語を学びながら楽しむ 8 つの物語-中級-』朝日出版社、2017 年、ISBN: 978-255-55087-9

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 % として総合的に評価する。

ただし新型コロナウイルスの感染状況の推移によっては、中間テスト及び期末テストを教室内での筆記形式で実施することが不可能となる場合も考えられるため、成績評価方法も変更の可能性がある。変更の場合は学習支援システムで速やかに通知するので、こまめに確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

本授業はリアルタイムでのオンライン形式で実施するので、パソコンおよびインターネット環境を必須とする。

【Outline and objectives】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション I 2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法文営国 1~4 年/レベル 2,3 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills from a pre-intermediate level.

Students will be encouraged to discuss contemporary issues related to current world events and future changes in technology and society. Additional activities will include pronunciation and use of rhythm and intonation to assist oral communication.

【到達目標】

Students will practice skills needed to make effective use of their voices to achieve more natural communication. Students will also practice speaking in "ideas" rather than words. The course will use TED Talks and current news articles to enable students become more effective and proficient in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students will be able to practice and develop their speaking skills using A++, BOOST and Yes/No/Key/Or techniques. Students will practice listening using Shadowing. We will also practice speaking through chanting of English poetry.

All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Outline of course, grading criteria and class policies. Access Google Classroom
2	Unit 1: Technology	Introduction of technology related Vocabulary; Practice A++ to encourage longer speaking
3	Technology	Discussions of Technology: Building on Original statements (BOOST)
4	Technology: Reading	BBC Articles - Transport systems. Practice different questions Yes/No/Key/Or
5	Technology: Presentation skills	TED Talk: Presentation Analysis and Discussion; Presentation Skills
6	Unit 3: Culture	Introduction of Culture related Vocabulary; Oral Practice A++. Introduce Clancy

7	Culture	Theme Discussions. Build on Original Statement. Continue Clancy
8	Culture Research a country	Theme-related topic study. Negative Questions and TAG questions. Prepare a short presentation on main elements of culture
9	Culture:	Presentation Skills: Present about another culture using presentation aids.
10	Unit 5: Beliefs	Introduce key vocabulary for Belief systems. Discuss beliefs and culture. Clancy ... cont.
11	Beliefs	Listening and Shadowing. Prepare a short presentation. Clancy ... cont.
12	Beliefs	Make a short presentation about beliefs
13	Presentation	Make a presentation of Clancy of the Overflow. with rhythm and meter.
14	Review and Recap	Watch a TED Presentation and evaluate.

Students will be encouraged to discuss contemporary issues related to current world events and future changes in technology and society. Additional activities will include pronunciation and use of rhythm and intonation to assist oral communication.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Class preparation; There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of total course value.

【テキスト（教科書）】

The English Course "Discussion Book Two" Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < theenglishcourse.jp > . Search for DB2. The CD is not required.

【参考書】

To be issued during semester.

【成績評価の方法と基準】

Class Activities & Homework 30%

In Class Worksheets 30%

Presentations 20%

Group and Pair Participation 20%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

Change of textbook from previous years.

【学生が準備すべき機器他】

A device (Laptop or Tablet) that supports word processor software. Smartphones are OK but are more difficult for students to use. Students will be required to know their Hoesi Gmail account details. Students may use voice recognition software. Google Docs is the preferred format for submitting assignments.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students can download "Classroom" from the Google Web site. Students will be required to join the subject using "Classroom".

The Classroom Code for this subject is: smjuxvf

【Outline and objectives】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills from a pre-intermediate level.

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション 2017 年度以降入学者
II

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 2,3 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills. The course will develop students ability for person to person communication and presentation skills.

The course will use TED Talks and Academic presentations to compare and contrast the different styles of presentations. Students will be required to make short presentations on a variety of topics including: alternative meat products, transport technology and climate change.

【到達目標】

The goal of this course is to further enhance students' oral communication skills. Students will practice making both formal and informal presentations. Students will practice using punctuation to join and separate ideas and using gesture to emphasize ideas. Students will practice techniques to increase eye contact during presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The level of the material should suit students at a pre-intermediate level.

Students will be able to practice and develop their speaking skills using A++, BOOST and Yes/No/Key/Or techniques. Students will practice listening using Shadowing. Students will gain critical thinking skills through comparison of different articles on the same topic. Students will also practice presentation skills including gesture, voice control, eye contact, using notes and timing of presentation.

All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction & Review	Review Presentation Techniques; Presentation Practice
2	Unit 7: The News	Introduction of Theme - related Vocabulary; Oral Practice A++, Boost.
3	The News	Listening and Shadowing / Discussions of different News media.
4	The News	Prepare a small group presentation on the News. Introduce Ballads

5	TED Talk	How to make people WANT to listen. Analysis and Discussion of Presentation Skills.
6	Unit 9: Ecotourism	Introduction of Theme- related Vocabulary; Oral Practice A++ and Boost.
7	Ecotourism	Shadowing with Text Ballad Preparation
8	Ecotourism	Presentation or Debate about Eco-Tourism. Ballad Preparation
9	TED Talk	Video Presentation Analysis and Discussion; Presentation Skills
10	Unit 11: Environment	Introduction of Theme- related Vocabulary; Oral Practice A++, Boost
11	Environment	Environmental issues Discussions and Shadowing
12	Environment	BBC Articles - synthetic Foods Presentation
13	Ballad Presentation	Small group presentation: Analysis of a Ballad.
14	TED Talk	Video Presentation Analysis and Discussion; Presentation Skills

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of total course value.

【テキスト（教科書）】

The English Course: Gary Ireland and Max Woolerton. The text is available from < theenglishcourse.jp > . Search for DB2. The CD is not required.

【参考書】

To be advised during course.

【成績評価の方法と基準】

Homework: 30%

In-Class Worksheets: 30%

Presentations: 20%

Pair and Group Participation: 20%

【学生の意見等からの気づき】

Change of text book from previous years.

【学生が準備すべき機器他】

A device (Laptop or Tablet) that supports word processor software. Smartphones are OK but are more difficult for students to use. Students will be required to know their Hisei Gmail account details. Students may use voice recognition software. Google Docs is the required format for submitting written assignments.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students can download "Classroom" from the Google Web site. The Classroom Code for this subject is: ewwvgnk

【Outline and objectives】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills. The course will develop students ability for person to person communication and presentation skills.

The course will use TED Talks and Academic presentations to compare and contrast the different styles of presentations. Students will be required to make short presentations on a variety of topics including: alternative meat products, transport technology and climate change.

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション 2017 年度以降入学者
I

棚木 玲子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 2,3 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will participate in a variety of activities designed to help them relax, enjoy and improve their English communication skills. Attention is given to pronunciation, intonation and stress. Various topics and situations are covered, but everything will be connected to culture, or cultural differences, which is basic to all forms of communication.

【到達目標】

Through this course, students will aim for fluency, exchange opinions and enhance critical thinking skills. They will overcome the fear or shyness in expressing themselves and be able to speak with increased confidence in private as well as public speaking situations. This should reflect positively on TOEFL(R), TOEIC(R), IELTS and other certifying examinations that require "speaking skills."

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Explanation by the instructor will be followed by various activities such as pair work, small group activities, conversations, discussions and presentations. The class will be student-centered, very interactive. Students are expected to be openly active learners. Materials will be from movies, television dramas, YouTube, magazines, newspapers, etc. All in all, students will be using all four language skills: reading, writing, listening and speaking, with the emphasis on the latter two. Feedback will be given regularly in class or via the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	What to expect.	Getting to know each other. Explanation of class requirements, tasks and goals. Confirming our situations concerning Covid-19.
2	Introductory learning strategies.	How to become an independent learner.
3	Oral communication (1)	Stress, pronunciation, intonation.
4	Oral communication (2)	Voice control, body language, eye contact.
5	Being descriptive (1)	Using adjectives.
6	Being descriptive (2)	Describing yourself and others.
7	Asking questions (1)	The importance of 5W1H.
8	Asking questions (2)	Flow and continuance.
9	Rhymes (1)	What are "rhymes?"
10	Rhymes (2)	Making rhymes for fun and for your vocabulary.

11	Idioms (1)	Idioms in everyday conversation.
12	Idioms (2)	Interesting idioms – history and culture.
13	The importance of oral communication.	Looking into the keys to oral communication.
14	Wrap-up	Review. Questions and answers.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation is essential. Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and/or after each class. Specific instructions will be given.

【テキスト（教科書）】

Course material will be provided in class or posted on the Learning Management System.

【参考書】

Reference books and material will be suggested by the instructor as needed.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects (30%) (2) assignments submitted in due time (20%) (3) quizzes and final examination (50%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays and pronunciation have been appreciated so the instructor will maintain such style.

【その他の重要事項】

In line with the University policy, our first class will be on-demand, with the material put up on the Learning Management System. Please make sure to register beforehand.

【Outline and objectives】

Students will participate in a variety of activities designed to help them relax, enjoy and improve their English communication skills. Attention is given to pronunciation, intonation and stress. Various topics and situations are covered, but everything will be connected to culture, or cultural differences, which is basic to all forms of communication.

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション 2017 年度以降入学者 II

棚木 玲子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 2,3 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will participate in a variety of activities designed to help them relax, enjoy and improve their English conversation skills. Attention is given to pronunciation, intonation and stress. Various topics and situations are covered, but everything will be connected to culture, or cultural differences, which is basic to all forms of communication.

【到達目標】

Through this course, the students will aim for fluency, exchange opinions and enhance critical thinking skills. They will overcome the fear or shyness in expressing themselves and be able to speak with increased confidence in private as well as public speaking situations. They will also acquire basic ways to examine what culture is and the effects that it may have on us. This should reflect positively on TOEFL(R), TOEIC(R), IELTS and other certifying examinations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Explanation by the instructor will be followed by various activities such as pair work, small group activities, conversations, discussions and presentations. The class will be student-centered, very interactive. Students are expected to be openly active learners. Materials will be from movies, television dramas, YouTube, magazines, newspapers, etc. All in all, students will be using all four language skills: reading, writing, listening and speaking, with the emphasis on the latter two. Feedback will be given regularly in class or via the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Interview/presentation	Reviewing summer.
2	What is a good presentation?	Structure and skills.
3	Discussion + Preparing for a presentation(1)	Thinking about English education in Japan.
4	Preparing for a presentation (2)	Writing and revising a script – collaborating with others.
5	Presentation	English education in Japan.
6	Discussion	Japanese food – putting into words what you already know.
7	Preparing for a presentation.	Five Japanese food or dishes.
8	Presentation	Giving a presentation on the food/dish of your choice.
9	At the table.	Different customs and manners.

10	Religion and identity(1)	Religion in Japan – what do you believe in?
11	Religion and identity (2)	What is the situation in Japan?
12	Religion and identity (3)	Introducing a shrine or temple to a visitor from another country.
13	Plans and dreams	Talking about the future.
14	Wrap-up	Review. Questions and answers.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation is essential. Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and/or after each class. Specific instructions will be given.

【テキスト（教科書）】

Course material will be provided in class or posted on the Learning Management System.

【参考書】

Reference books and material will be suggested by the instructor as needed.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects (30%) (2) assignments submitted in due time (20%) (3) quizzes and final examination (50%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays and pronunciation have been appreciated so the instructor will maintain such style.

【学生が準備すべき機器他】

The Learning Management System will be often used, so please register beforehand.

【Outline and objectives】

Students will participate in a variety of activities designed to help them relax, enjoy and improve their English conversation skills. Attention is given to pronunciation, intonation and stress. Various topics and situations are covered, but everything will be connected to culture, or cultural differences, which is basic to all forms of communication.

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション 2017 年度以降入学者 I

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 2,3 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning practical English for communicating in a global society

【到達目標】

Although emphasis is on oral communication, students will practice and improve proficiency in all four language skills. Students should be able to express themselves clearly in discussions and during presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that encourage listening and speaking English. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations given by students on various topics of interest.

Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online using Google Classroom. Students may also correspond with the instructor using e-mail.

NOTE: For the month of April classes will be conducted ONLINE.

After the Golden Week Holiday, we will change to an in-person, face-to-face classroom format. Instructions will be provided for students who need to continue to take classes online from May.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: People and Events	Dialogue & textbook activities: grammar explanation. Pair & group work. Instructions on writing a short paragraph.
3	Unit 1 Video: Role models	Video Worksheet activities. Discussion and pair work. Reading homework.
4	Unit 2: Holidays and Festivals	Grammar review. Discussion. Review writing tips.
5	Unit 2: Celebrations	Video. Instructions on preparing for and giving presentations.
6	Unit 3: Trends and entertainment	Grammar review. Reading and discussion in small groups.
7	Unit 3: Trends pt. 2	Video content and worksheet: A hotel manager. Discussion. Quiz on Units 1-3.

8	Unit 4: Identity & Personality	Lecture: Describing people and their characteristics. Grammar review. Writing assignment.
9	Unit 4: Identity & Personality Pt. 2	Writing review. Video & worksheet Discussion
10	Student Presentations	Students will give short presentations in pairs/groups on topics from the previous 4 chapters.
11	Unit 5: Future Plans	Reading comprehension and vocabulary practice. Dialogue practice and writing.
12	Unit 5: Future Plans Pt.2	Students perform dialogues in class. Discussion about future goals and plans. Presentation preparations.
13	Unit 6: Changes & Life experiences	Reading and vocabulary review. Student give mini-presentations on topics TBA.
14	Unit 6 Changes & Life Experiences pt 2	Final quiz on Units 4-6. Course wrap up.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments prior to the next class session.
Approximately 1-2 hours of homework is required of students every week.

【テキスト（教科書）】

Speak Your Mind Level 2 (MacMillan publishing)
Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students should have a notebook and/or loose sheets of paper to take notes and to hand in homework.

【参考書】

References: Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK).

【成績評価の方法と基準】

Class attendance & participation: 30%
Quizzes, writing assignments, presentations: 70%

【学生の意見等からの気づき】

This is the first year the instructor is teaching this course.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences per semester. Students who are absent during a test/quiz must contact the instructor to make it up within one week.
Arriving late to class twice = one absence (except for a good reason, such as late trains)

【Outline and objectives】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students may also be required to write paragraphs and short essays.

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション 2017 年度以降入学者 II

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 2,3 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop practical oral communication skills for students to express themselves in English.

【到達目標】

Students will improve their ability to express themselves in English in order to participate effectively in discussion and will learn to give presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities, but emphasis will be on listening and speaking. These activities include role playing dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials. Students are expected to come to class prepared by doing the assigned reading and other homework.

Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online using Google Classroom. Students may also correspond with the instructor using e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7: Work and Careers	Course introduction; Review of grammar using summer vacation reports. Reading and discussion on working lives.
2	Unit 7: Work & Careers Pt.2	Instructions and Practice in writing a resume or CV.
3	Unit 8: Hobbies and Pastimes	Video & Worksheet activities and discussion. Research assignment.
4	Unit 8 Pt. 2	Students report on research. Writing essays review.
5	Unit 9: Housing and Living arrangements	Reading assignment and discussion on types of housing. Next Presentation instruction.
6	Unit 9: Housing Pt. 2	Students give presentations in pairs. Review for midterm quiz.
7	Unit 10: Health & Wellbeing	Quiz on Units 7-9. Reading and discussion on study habits and work-life balance. Writing assignment
8	Unit 10: Wellbeing Pt. 2	Writing assignment due. Video content & worksheet. Discussion.

9	Unit 11: Recycling and the Environment	Lecture and discussion. Vocabulary practice.
10	Unit 11: Environment Pt. 2	Pairwork: writing dialogues. Students perform dialogue in class. Review tips on giving effective presentations.
11	Unit 12: Social Groups	Textbook Reading activities Reading, Discussion in pair and groups
12	Unit 12 Social groups and Networking.	Video worksheet and supplemental activities; final essay assignment due and vocabulary review.
13	Student Presentations	Quiz on Units 9-12 Student presentations
14	Class wrap up-End of year celebration	Return all quizzes and essays. Discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare by reading ahead in the textbook, looking up unfamiliar vocabulary, and completing other activities assigned in class.

Approximately 1-2 hours of weekly homework are required of students in this class.

【テキスト（教科書）】

Speak Your Mind level 2 (MacMillan)

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students must have a notebook/binder and/or loose sheets of paper.

【参考書】

Always bring a dictionary to class (paper or electronic dictionaries are acceptable).

【成績評価の方法と基準】

Class attendance & participation: 30%

Quizzes, short essays, individual and group presentations: 70%

【学生の意見等からの気づき】

This is the first year the instructor is teaching this course.

【その他の重要事項】

In principle, students are permitted up to 3 unexcused absences during the semester

Two late notices are treated as one absence (unless for a good reason—such as train delays, etc)

【Outline and objectives】

While some attention will be given to all four skills, the emphasis is on oral communication, and so we spend considerable classroom time practicing listening and speaking skills. Students will engage in classroom discussions, role play, and give short presentations on topics of interest.

LANe200LA

ビジネス・イングリッシュ I

2017 年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 3,4 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students to improve their English communications skills for business and to develop a better understanding of international business practices.

【到達目標】

Student will gain confidence to share information in English while conducting business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include pair work, group work and discussions. Some written homework will be assigned. Students will compare class assignment answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Explaining the course
2	Unit 1: Nice to meet you (1-6)	Introducing people - Pages 6-10
3	Unit 1: Nice to meet you (7-12)	Introducing people Pages 11-15
4	Unit 2: Where do you work? (1-6)	Describing companies - Pages 16-20
5	Unit 2: Where do you work? (7-12)	Describing companies - Pages 20-25
6	Unit 3: Can I have your name please? (1-6)	Having telephone conversations - Pages 26-30
7	Unit 3: Can I have your name please? (7-12)	Having telephone conversations - Pages 30-33
8	Unit 4: I'm a sales rep (1-6)	Describing occupations - Pages 34-38
9	Unit 4: I'm a sales rep (7-12)	Describing occupations - Pages 38-43
10	Unit 5: They work in shifts (1-6)	Describing time and schedules - Pages 44-48
11	Unit 5: They work in shifts (7-12)	Describing time and schedules - Pages 48-51
12	Unit 6 How's business? (1-6)	Making small talk - Pages 52-55
13	Unit 6: How's business? (7-12)	Making small talk - Pages 55-61
14	Student Pair Speaking Examination	Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing

the next pages in the textbook and completing some assignments. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Communication Spotlight: Business 1 (Alastair Graham-Marr / ABAX ELT Publishers)

【参考書】

Students will be given supplemental material to increase their knowledge of business topics.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on a pair-speaking exam (75%) and class participation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback on class activities is encouraged.

【Outline and objectives】

The business skills learned, along with more general English language instruction received, will help students to communicate clearly and effectively in both global business environments and within Japanese companies that conduct international business.

LANe200LA

ビジネス・イングリッシュⅡ

2017 年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 3,4 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students to improve their English communications skills for business and to develop a better understanding of international business practices.

【到達目標】

Student will gain confidence to share information in English while conducting business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include pair work, group work and discussions. Some written homework will be assigned. Students will

compare class assignment answers in pairs or small groups after

which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Explaining the course
2	Unit 7: How many employees are there? (1-6)	Working with large numbers - Pages 62-66
3	Unit 7: How many employees are there? (7-12)	Working with large numbers - Pages 66-71
4	Unit 8: It was a long day (1-6)	Describing past work - Pages 72-75
5	Unit 8: It was a long day (7-12)	Describing past work - Pages 75-79
6	Unit 9: Can you send me that file? (1-6)	Explaining procedures - Pages 80-83
7	Unit 9: Can you send me that file? (7-12)	Explaining procedures - Pages 83-87
8	Unit 10: It's in the filing cabinet (1-6)	Describing location - Pages 88-92
9	Unit 10: It's in the filing cabinet (7-12)	Describing location - Pages 92-95
10	Unit 11: This is good! What is it? (1-6)	Describing food - Pages 96-99
11	Unit 11: This is good! What is it? (7-12)	Describing food - Pages 99-103
12	Unit 12: She's going to give a presentation (1-6)	Describing future plans - Pages 104-107

13	Unit 12: She's going to give a presentation (7-12)	Describing future plans - Pages 107-111
14	Student Pair Speaking Examination	Final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Communication Spotlight: Business 1 (Alastair Graham-Marr / ABAX ELT Publishers)

【参考書】

Students will be given supplemental material to increase their knowledge of business topics.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on a pair-speaking exam (75%) and class participation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback on class activities is encouraged.

【Outline and objectives】

The business skills learned, along with more general English language instruction received, will help students to communicate clearly and effectively in both global business environments and within Japanese companies that conduct international business.

LANe200LA

English Reading and Vocabulary I

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will learn English using 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing). Discussion and short essay writing skills will be focused on.

【到達目標】

Students will read and learn 5-10 new vocabulary items per class.

Students will also acquire ability to handle discussions about some text topics related to economic, political, and current events related issues

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Skimming, scanning, reading for detail, reading for deep comprehension, taking dictations with cloze exercises, and role-plays based on new vocabulary.

Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Introduction	Present basic goals of course with examples.	Cover syllabus and basic ground rules for regular classes and tests.
Sustainable communities I	Keeping the social peace	Examining social goals for societies. Exploring cultural bonds.
Sustainable communities II	Social peace	Deepening understanding of social boundaries and possible conflicts.
Dilemma for a responsible tourist I	Tourists and value they bring to societies	How tourism affects our lives in both positive and negative ways.
Dilemma for a responsible tourist II	New trends of tourism	Ponder tourism negatives and positive outcomes

Protecting our world heritage I	Protecting our cultural artifacts	How buildings are preserved and design shows our history
Protecting our world heritage II	Looking at historical buildings and the events they show	Why are these buildings important for remembering history?
No more Bananas I	Engineered food and possible consequences	Quiz 1 Researching food sources and why variety is important
No more Bananas II	Scientists develop strains and their goals	Science and its end goals and how they might ruin our health
Blowing whistles I	Corruption and its problems	Looking at corporate problems and how difficult they are to solve
Blowing whistles II	Witness to government waste	Trying to eliminate waste
Breaking the law I	Bad laws	Examining when do you have an obligation to protest
Breaking the law I	Well meaning laws	Quiz 2 Researching laws that don't cover all circumstances
Summary	Taking a look at useful words learned	Reviewing useful vocabulary and its parameters

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Some reading and vocabulary review.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Issues that matter - Kinseido
ISBN 9784764740617 or 1921082018006

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Class participation 20%
Homework 40%
Quizzes 40%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

English to English dictionary or web dictionary, paper, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Blog work
Contact email
kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

Students will learn English using 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing). Discussion and short essay writing skills will be focused on.

LANe200LA

English Reading and Vocabulary II

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will learn English using four skill areas (listening, speaking, writing, and reading). Students will focus on improving discussion and short essay writing.

【到達目標】

Students will read and learn 5-10 new vocabulary items per class.

Students will acquire discussion skills to handle discussions about economic, political, and current events topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Skimming, scanning, reading for detail, reading for deep comprehension,

taking dictations with cloze exercises, and role-plays based on new vocabulary.

Feedback will be given in Google classroom comments, via email or feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Introduction	Present basic goals of course with examples.	Cover syllabus and basic ground rules for regular classes and tests.
Food politics	Food politics	How do we get our food?
Food politics II	Sourcing our food	Positives and negatives of climate change on food sourcing
Food inequality I	Food and its effects on society	Look at how inequalities affect our food
Recycling	recycling and government regulation	Show and discuss government regulations that try to reduce waste
Recycling II	Covering aspects of structure and use of waste	Looking at waste usage
Blowing whistles	Whistle blowing vs leaking	How whistle blowing affects us
Blowing whistles II	Consequences of leaking	Government actions vs leaking
Protesting	Protesting	Reasons why people protest

Protesting II	Handling protests	Why people protest and how governments handle it
Fake news	Where does fake news come from?	Talking about fake vs real news
Fake news II	Social media and fake news	Why social media is full of it
review of unit I	Review course of unit themes	Discussions of unit themes
review of unit I	Review course of unit themes	Discuss course related themes.
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
Prepare presentation material and review vocabulary lists. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.		
【テキスト（教科書）】		
Issues that matter- Kinseido ISBN 978-4-7647-4061-7		
【参考書】		
N/A		
【成績評価の方法と基準】		
Class participation 20% Homework 40% Quizzes 40%		
For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."		
【学生の意見等からの気づき】		
Require more use of English by students		
【学生が準備すべき機器他】		
English to English dictionary or web dictionary, paper, writing instrument		
【その他の重要事項】		
Contact email kasmersensei@gmail.com Blog work assigned		
【Outline and objectives】		
Students will learn English using four skill areas (listening, speaking, writing, and reading). Students will focus on improving discussion and short essay writing.		

LANe200LA

English Reading and Vocabulary I

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

【到達目標】

1. Students will understand and utilize the writing process of planning, writing, and re-writing.
2. They will learn to understand the gist, details of short articles they read and summarize a magazine article.
3. Students will improve their reading speed and increase their vocabulary knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This will be an online class so students should be prepared to use Zoom. Students will learn new vocabulary from textbook and reinforce it via discussion and readings. Feedback will be given in class and via Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 1	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
2	Unit 2	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
3	Unit 3	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
4	Unit 4	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension.
5	Unit 5	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension.

6	Unit 6	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
7	Midterm	Feedback
8	Unit 7	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
9	Unit 8	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
10	Unit 9	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
11	Unit 10	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
12	Unit 11	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
13	Unit 12	Learn new vocabulary. Reading story. Homework: prepare for final exam.
14	Final exam	feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students will study vocabulary on Quizlet and read articles.

【テキスト（教科書）】

Paul Nation: 4000 Essentials Words Book 4 (2nd edition).
Perfect Paperback

【参考書】

Book and Quizlet should be studied.

【成績評価の方法と基準】

50% quizzes and exams

25% writing exercises using new words

25% effort and participation

No more than 3 absences or missed assignments are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【学生が準備すべき機器他】

Internet enabled device to participate in class with Zoom.
Students should also be familiar with Google classroom and Hoppii.

【Outline and objectives】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

LANe200LA

English Reading and Vocabulary 2017 年度以降入学者 II

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

【到達目標】

1. They will learn to understand the gist, details of short articles they read and summarize a magazine article.
2. Students will improve their reading speed and increase their vocabulary knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will learn new vocabulary from textbook and reinforce it via discussion and readings. Feedback will be given in class and via Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 13	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
2	Unit 14	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
3	Unit 15	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
4	Unit 16	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
5	Unit 17	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
6	Unit 18	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion

7	Unit 19	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
8	Midterm Exam	Feedback
9	Unit 20	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
10	Unit 21	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
11	Unit 22	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
12	Unit 23	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
13	Unit 24	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
14	Final Exam	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hour a week for a two-credit class for a 2 hour class and 1 hour a week for a 1 hour class.

【テキスト（教科書）】

Paul Nation: 4000 Essentials Words Book 4 (2nd edition).
Perfect Paperback

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

50% quizzes and exams
25% writing exercises using new words
25% effort and participation
In principle, no more than 3 absences are allowed.
Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline and objectives】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

LANe200LA

English Academic Writing I

2017 年度以降入学者

DYLAN O SCUDDER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I use communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. Students are expected to advance academic writing skills. Special emphasis will be placed on writing academic essays.

【到達目標】

The goal of the course is to develop students' ability to recognize the elements of academic essays in order to perform successfully in an all English-speaking university environment. Students will work on expanding on their general knowledge of pursuing a question with the systematic and rigorous process expected in an English-speaking academic context.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This is a Zoom-based online class. Every class is conducted in real-time. Please see HOPPII, the University's Learning Management System for details.

Feedback on class assignments will be provided by email and/or in one-on-one discussions between the lecturer and the student. Students may request additional feedback on class assignments at any time during the semester. Thirteen elements found in academic essays in English-speaking academia will be explored in depth. Students will be expected to not only participate in classroom activities, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to a theoretical understanding of academic writing to lay the foundation for subsequent application in practice.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
One	Thesis: What question do you want to explore? Is it the kind of question that you can answer in one semester? Remember: A good question includes a hint of the answer.	This class uses a checklist for academic writing based on Gordon Harvey's Elements of the Academic Essay. You will receive a template, which you will use to write a paper of 200-400 words about the theme. You will email the template to the instructor at: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.

Two	Motive: How did you choose your question, and why should it be interesting to other people?	You will receive a template, which you will use to write a paper of 200-400 words about the theme. You will email the template and your homework to the instructor by the end of class at: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.	Ten	Orienting: Have you provided sufficient explanation for your readers to understand how you explored your topic and why you interpret the information as you do?	You will receive a template, which you will use to write a paper of 200-400 words about the theme. You will email the template and your homework to the instructor by the end of class at: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Three	Evidence: What kinds of facts or examples will you use to support your thesis?	You will receive a template, which you will use to write a paper of 200-400 words about the theme. You will email the template and your homework to the instructor by the end of class at: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.	Eleven	Stance: Have you maintained a consistent style of communication with your readers from the beginning to the end of your essay?	You will receive a template, which you will use to write a paper of 200-400 words about the theme. You will email the template and your homework to the instructor by the end of class at: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Four	Analysis: How do you explain the evidence you found?	You will receive a template, which you will use to write a paper of 200-400 words about the theme. You will email the template and your homework to the instructor by the end of class at: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.	Twelve	Style: Do you express your ideas in clear and simple terms?	You will receive a template, which you will use to write a paper of 200-400 words about the theme. You will email the template and your homework to the instructor by the end of class at: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Five	Keyterms: Have you explained the main terms and assumptions that you use in your essay?	You will receive a template, which you will use to write a paper of 200-400 words about the theme. You will email the template and your homework to the instructor by the end of class at: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.	Thirteen	Title: Does your title provide the right amount of information to make readers curious? Your title should give readers the general direction, but also make them want to know more.	You will receive a template, which you will use to write a paper of 200-400 words about the theme. You will email the template and your homework to the instructor by the end of class at: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Six	Structure: In general, are the sections in your essay in a logical order? Does your essay follow a storyline or roadmap?	You will receive a template, which you will use to write a paper of 200-400 words about the theme. You will email the template and your homework to the instructor by the end of class at: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.	Fourteen	Based on the elements of academic essays that you have studied this semester, what question or problem would you choose for your essay?	You will receive a template, which you will use to write a paper of 200-400 words about the theme. You will email the template and your homework to the instructor by the end of class at: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Seven	Stitching: In particular, are there clear connections between the parts of your essay? For example, "In the previous section, ..." "In the next section, ..." and so on.	You will receive a template, which you will use to write a paper of 200-400 words about the theme. You will email the template and your homework to the instructor by the end of class at: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Preparation and review should be around one hour per week. Preparation (homework) is a reflection paper of 200-400 words each week. The paper is based on (1) your learning goals, (2) the challenges you are experiencing as you pursue your goals, (3) the approaches you are using to overcome these challenges and (4) your plans for your next steps. Similar to your classwork, you will write your homework using a template that I will give you. You will submit your homework together with your classwork by the end of each class. 【テキスト（教科書）】 No textbook required this semester. 【参考書】 Any recommended references will be provided during class. 【成績評価の方法と基準】 Note: In principle, no more than 3 absences per term are allowed. Assuming that students are absent 3 times or less, their performance will be graded as described below. Classwork: 50% Homework: 50%		
Eight	Sources: What have other people written about your topic? Have you showed where you agree and disagree with other people's research, and have you acknowledged these people in the citations and references parts of your essay?	You will receive a template, which you will use to write a paper of 200-400 words about the theme. You will email the template and your homework to the instructor by the end of class at: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.			
Nine	Reflecting: Have you presented and explained perspectives that contradict your perspective?	You will receive a template, which you will use to write a paper of 200-400 words about the theme. You will email the template and your homework to the instructor by the end of class at: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.			

All classwork is due at the end of each class. At the beginning of each class, I will remind you of the classwork assignment (also in the syllabus). You will submit the classwork to me by the end of each class using a classwork template that I will give you. You will write 200-400 words each class.

Homework is a learning journal based on (1) your goals, (2) the challenges you are experiencing as you pursue your goals, (3) the approaches you are using to overcome these challenges and (4) your plans for your next steps. Similar to your classwork, you will write your homework using a template that I will give you. You will submit your homework together with your classwork by the end of each class. Your homework each week will also consist of 200-400 words.

There are no points for incomplete or late assignments.

In summary, if you complete all the classwork and the homework on time, you can expect a good grade.

【学生の意見等からの気づき】

Nothing in particular.

【学生が準備すべき機器他】

In order to complete and submit the classwork and homework for this class, you will need a computer and an internet connection.

【その他の重要事項】

All classes this semester are Zoom classes. Use the below link and passcode:

<https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/82479998540?pwd=ZlpWSHBsemVxNm0vMllkTDEwMVZFZdz09>

Meeting ID: 824 7999 8540

Passcode: 454451

【Outline and objectives】

I use communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. Students are expected to advance academic writing skills. Special emphasis will be placed on writing academic essays.

LANe200LA

English Academic Writing II

2017 年度以降入学者

DYLAN O SCUDDER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I use communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. Students are expected to advance academic writing skills. Special emphasis will be placed on writing academic essays.

【到達目標】

The goal of the course is to develop students' ability to recognize the elements of academic essays in order to perform successfully in an all English-speaking university environment. Students will work on expanding on their general knowledge of pursuing a question with the systematic and rigorous process expected in an English-speaking academic context.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This is a Zoom-based online class. Every class is conducted in real-time. Please see HOPPII, the University's Learning Management System for details.

Feedback on class assignments will be provided by email and/or in one-on-one discussions between the lecturer and the student. Students may request additional feedback on class assignments at any time during the semester. Thirteen elements found in academic essays in English-speaking academia will be explored in depth. Students will be expected to not only participate in classroom activities, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to a practical understanding of academic writing by producing an essay based on the systematic approach outlined in Gordon Harvey's Elements of the Academic Essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
One	Thesis: What question do you want to explore? Is it the kind of question that you can answer in one semester? Remember: A good question includes a hint of the answer.	You will receive a template, which you will use to complete the first element of your essay. You will email this first part of your essay by the end of class to the instructor at: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.

Two	Motive: How did you choose your question, and why should it be interesting to other people?	You will receive a template, which you will use to complete the second element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.	Ten	Orienting: Have you provided sufficient explanation for your readers to understand how you explored your topic and why you interpret the information as you do?	You will receive a template, which you will use to complete the tenth element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Three	Evidence: What kinds of facts or examples will you use to support your thesis?	You will receive a template, which you will use to complete the third element of your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.	Eleven	Stance: Have you maintained a consistent style of communication with your readers from the beginning to the end of your essay?	You will receive a template, which you will use to complete the eleventh element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Four	Analysis: How do you explain the evidence you found?	You will receive a template, which you will use to complete the fourth element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.	Twelve	Style: Do you express your ideas in clear and simple terms?	You will receive a template, which you will use to complete the twelfth element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Five	Keyterms: Have you explained the main terms and assumptions that you use in your essay?	You will receive a template, which you will use to complete the fifth element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.	Thirteen	Title: Does your title provide the right amount of information to make readers curious? Your title should give readers the general direction, but also make them want to know more.	You will receive a template, which you will use to complete the thirteenth element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Six	Structure: In general, are the sections in your essay in a logical order? Does your essay follow a storyline or roadmap?	You will receive a template, which you will use to complete the sixth element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.	Fourteen	Confirm that your essay includes all the elements of academic essays that were covered this semester.	Submit the final version of your essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.
Seven	Stitching: In particular, are there clear connections between the parts of your essay? For example, "In the previous section, ..." "In the next section, ..." and so on.	You will receive a template, which you will use to complete the seventh element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Preparation and review should be around one hour per week. Preparation (homework) is a reflection paper of 200-400 words each week. The paper is based on (1) your learning goals, (2) the challenges you are experiencing as you pursue your goals, (3) the approaches you are using to overcome these challenges and (4) your plans for your next steps. Similar to your classwork, you will write your homework using a template that I will give you. You will submit your homework together with your classwork by the end of each class. 【テキスト（教科書）】 No textbook required this semester. 【参考書】 Any recommended references will be provided during class. 【成績評価の方法と基準】 Note: In principle, no more than 3 absences per term are allowed. Assuming that students are absent 3 times or less, their performance will be graded as described below. Classwork: 50% Homework: 50% All classwork is due at the end of each class. At the beginning of each class, I will remind you of the classwork assignment (also in the syllabus). You will submit the classwork to me by the end of each class using a classwork template that I will give you. You will write 200-400 words each class.		
Eight	Sources: What have other people written about your topic? Have you showed where you agree and disagree with other people's research, and have you acknowledged these people in the citations and references parts of your essay?	You will receive a template, which you will use to complete the eighth element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.			
Nine	Reflecting: Have you presented and explained perspectives that contradict your perspective?	You will receive a template, which you will use to complete the ninth element of your essay. You will email your revised essay and homework by the end of class to: dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.			

Your homework each week is to prepare a draft version of the next week's classwork. For example, after our first class, you will complete a draft version of the classwork for our second class. After our second class, you will complete a draft version of the classwork for our third class and so on. Similar to your classwork, you will write your homework using a template that I will give you. You will submit your homework together with your classwork by the end of each class.

There are no points for incomplete or late assignments.

In summary, if you complete all the classwork and the homework on time, you can expect a good grade.

【学生の意見等からの気づき】

Nothing in particular.

【学生が準備すべき機器他】

In order to complete and submit the classwork and homework for this class, you will need a computer and an internet connection.

【その他の重要事項】

Nothing in particular.

【Outline and objectives】

I use communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. Students are expected to advance academic writing skills. Special emphasis will be placed on writing academic essays.

LANe200LA

English Academic Writing I

2017 年度以降入学者

MARK D BURNS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is to develop basic paragraph writing skills. The course provides practice in writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short 2-paragraph to 5-paragraph papers on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of written communication in English. It will help learners become familiar with clear paragraph structure. Starting from writing short 2-paragraph papers, students will finally be able to write longer well-structured 5-paragraph pieces.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. Supplementary activities will be provided to increase familiarity with frequently used, but non-specific, academic language. Students will read and critique each others' essays and learn from the strengths of the best papers selected by the class. This will be done anonymously to prevent any embarrassment. Individual feedback will be provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	Overview of Academic Writing I subject and explaining rules for assignment submissions and how the best assignments will be selected.
Unit 1a	Writing a paragraph about me	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write expository paragraphs and topic sentences
Unit 1b	Analysis of written assignment 1	Reading and selecting best paper. Focusing on paragraph format
Unit 2a	Writing a paragraph about another students possible career	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write logical conclusions
Unit 2b	Analysis of written assignment 2	Reading and selecting best paper. Focusing on the use of conjunctions
Unit 3a	Writing a paragraph about your partner's future success	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to support topic sentences with facts and examples

Unit 3b	Analysis of written assignment 3	Reading and selecting best paper. Focusing on direct and indirect speech
Unit 4a	Writing a paragraph about an invention	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write definition paragraphs and attention getters
Unit 4b	Analysis of written assignment 4	Reading and selecting best paper. Focusing on avoiding repetition
Unit 5a	Writing a paragraph about an important event in your life	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write cause-and-effect and introductory paragraphs
Unit 5b	Analysis of written assignment 5	Reading and selecting best paper. Focusing on cause-and-effect words
Unit 6a	Writing a paragraph about an exciting destination	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write process paragraphs and make suggestions
Unit 6b	Analysis of written assignment 6	Reading and selecting best paper. Focusing on using modifiers
End-term assignment	Final assignment feedback	Final assignment feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to edit, type up and print out a written assignment once every 2 weeks.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Writing from Within 2 (2nd Edition) Curtis Kelly and Arlen Gargagliano Cambridge University Press ISBN 978-0-521-18834-0

【参考書】

A good Japanese-English dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 written assignments (60%)

【学生の意見等からの気づき】

Supplementary activities have been added to increase familiarity with frequently used, but non-specific, academic language.

【その他の重要事項】

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is to develop basic paragraph writing skills. The course provides practice in writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short 2-paragraph to 5-paragraph papers on a wide range of subjects and purposes.

LANe200LA

English Academic Writing II

2017 年度以降入学者

MARK D BURNS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is to further develop basic paragraph writing skills. The course provides practice in writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short 2-paragraph to 5-paragraph papers on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of written communication in English. It will help learners become familiar with clear paragraph structure. Starting from writing short 2-paragraph papers, students will finally be able to write longer well-structured 5-paragraph pieces.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. Supplementary activities will be provided to increase familiarity with frequently used, but non-specific, academic language. Students will read and critique each others' essays and learn from the strengths of the best papers selected by the class. This will be done anonymously to prevent any embarrassment. Individual feedback will be provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	Overview of Academic Writing II subject and explaining rules for assignment submissions and how the best assignments will be selected.
Unit 7a	Writing a research report about your classmates	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write classification and concluding paragraphs
Unit 7b	Analysis of written assignment 7	Reading and selecting best paper. Focusing on punctuation
Unit 8a	Writing an article about good and bad interview techniques	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write comparison and contrast paragraphs
Unit 8b	Analysis of written assignment 8	Reading and selecting best paper. Focusing on giving advice
Unit 9a	Writing a letter to your future self about your goals	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write persuasive paragraphs

Unit 9b	Analysis of written assignment 9	Reading and selecting best paper. Focusing on parallel construction
Unit 10a	Writing a composition about your own dorm design	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write division paragraphs
Unit 10b	Analysis of written assignment 10	Reading and selecting best paper. Focusing on articles
Unit 11a	Writing a composition about an important person in your life	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to link paragraphs
Unit 11b	Analysis of written assignment 11	Reading and selecting best paper. Focusing on subject-verb agreement
Unit 12a	Writing a newspaper article	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write in objective, persuasive or entertaining styles
Unit 12b	Analysis of written assignment 12	Reading and selecting best paper. Focusing on verb variety
End-term assignment	Final assignment	Analysis of end-term assignments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to edit, type up and print out a written assignment once every 2 weeks.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Writing from Within 2 (2nd Edition) Curtis Kelly and Arlen Gargagliano Cambridge University Press ISBN 978-0-521-18834-0

【参考書】

A good Japanese-English dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 written assignments (60%)

【学生の意見等からの気づき】

Supplementary activities have been added to increase familiarity with frequently used, but non-specific, academic language.

【その他の重要事項】

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is to further develop basic paragraph writing skills. The course provides practice in writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short 2-paragraph to 5-paragraph papers on a wide range of subjects and purposes.

LANe200LA

English Academic Writing I

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing your own work with class members, in pairs or small groups. This course will emphasize "Academic Writing as a Process." Students will learn the structure of Academic paragraphs, different paragraph styles (Opinion, comparison, description) and appropriate formatting techniques and correct use of punctuation.

【到達目標】

The student will be able to prepare a paragraph with the basic structure of: Topic sentence (with Main Idea), supporting ideas and detail sentences.

Students will be able to communicate his/her thoughts, in written format, to an Academic audience. The course will cover: paragraph development, grammar structures for different paragraph styles and paragraph organization.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will work in pairs or groups to develop paragraphs. In-class worksheets and homework assignments will check the students understanding of the different paragraph styles. Videos of Academic presentations will be used to compare the similarities between written and oral presentations.

All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introductions Course overview Assessment Classroom Management
2.	Process Writing	Six Steps of Academic Writing. Using outlines
3.	Getting ready	Choosing a Topic Brainstorming Editing
4.	Paragraph structure	Topic Sentence Supporting sentences Concluding sentence
5.	Paragraph Development	Styles of support Detail, Explanation, Example.
6.	Peer editing	Give constructive feedback using on-line sharing.

7.	Descriptive Writing	Using Adjectives: describing people and places.
8.	Descriptive Paragraphs	Describing a process using connectors.
9.	Organising ideas	Keeping ideas connected and in order
10.	Opinion Paragraphs	Introduce opinion v.s. fact, opinion paragraphs discussion, homework
11.	Opinion Paragraphs	Persuade your readers to accept your opinion
12.	Modal Auxiliary Verbs	Grammar Review.
13.	Using Causal Adverbs	Describing causes and effects in paragraphs.
14.	Presentation	Present your paragraphs to your peers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

3 Homework assignments writing different styles of paragraph. Pre-reading of articles.

All assignments written in digital format and submitted via Google Classroom.

To assist in providing feedback, Google Docs format is preferred.

【テキスト（教科書）】

"Writing Essays: From Paragraph to Essay" by Dorothy E Zemach and Lisa A Ghuldu MACMILLAN Writing Series.

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Homework Assignments: 30%

Worksheet Assignments: 40%

Pair and Group Participation: 20%

Presentation: 10%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

A device (Laptop or Tablet) that supports word processor software. Smartphones are OK but are more difficult for students to use. Students will be required to know their Hoseni Gmail account details. Students may use voice recognition software. Google Docs is the required format for submitting written assignments.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Please download Google Classroom to your device before our first class. The "Course Code is: t6wiwmo

【Outline and objectives】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing your own work with class members, in pairs or small groups. This course will emphasize "Academic Writing as a Process." Students will learn the structure of Academic paragraphs, different paragraph styles (Opinion, comparison, description) and appropriate formatting techniques and correct use of punctuation.

LANe200LA

English Academic Writing II

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. This course will emphasize "writing as a process.

Students will learn the structure of academic ESSAYS using different paragraph styles and appropriate formatting techniques. Students will learn cohesion and unity in an essay and the use of essay outlines. Finally, students will prepare and present an academic style Essay.

【到達目標】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills for interview situations and written English tests (IELTS / TOFEL) where tests have a limited time to prepare an essay. A final document will be a document suitable for submission as an academic essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Among the methods used will be sharing & discussing one's work with class members in pair work and small groups. Students will also practice using peer editing with online documents. In a final presentation, the student will demonstrate their understanding of the features of an academic essay.

All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introduction Course Overview Assessment Classroom Management
2.	Comparing Paragraphs	Structures to compare similar ideas
3.	Contrasting Paragraphs	Structures to contrast dissimilar ideas
4.	Block Organization vs Point-by Point Organization	Different ways to present similar / contrasting ideas
5.	Advantages / Disadvantages	Making arguments for and against proposals
6.	Conditional Statements	Using conditional statements to support an argument.
7.	Problem / Solution Paragraphs	Linking problems with solutions
8.	Writing Essays	Thesis statements

9.	Writing Essays	Writing thesis statements
10.	Outlining Essays	Using modern software to create an essay outline.
11.	Outline development	Filling in the details
12.	Developing the Introduction and conclusion	The introduction to thesis statement. Linking the Conclusion to the thesis
13.	Presentation	Present your Essay to the class
14.	Review	Present your Essay to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

3 or more short Homework assignments will be set. There will also be preparation of a presentation identifying the key components of an academic essay.

【テキスト（教科書）】

"Writing Essays from Paragraph to Essay" by D.E. Zemach and Lisa A Ghulldu, MACMILLIAN Writing Series.

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Homework assignments: 30%

Classroom Worksheets: 40%

Pair and Group Participation:20%

Presentation:10%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

A device (Laptop or Tablet) that supports word processor software. Smartphones are OK but are more difficult for students to use. Students will be required to know their Hosei Gmail account details. Students may use voice recognition software. Google Docs is the preferred format for submitting assignments.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Please download "Google Classroom" to your laptop or tablet at the start of semester. The Course Code is: dn6hfeb

【Outline and objectives】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. This course will emphasize "writing as a process.

Students will learn the structure of academic ESSAYS using different paragraph styles and appropriate formatting techniques. Students will learn cohesion and unity in an essay and the use of essay outlines. Finally, students will prepare and present an academic style Essay.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 2,3 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの 1 つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2 つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1 文ずつの内容の把握だけでなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝えるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として 2～3 回の授業で 1 章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います、一字一句全て訳していくようなことはしません。各適宜、グループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第 2 回	ドイツ発：みんなで減らそう食品ロス（前半）	記事を講読します。
第 3 回	ドイツ発：みんなで減らそう食品ロス（後半）	記事を講読します。
第 4 回	ソーダに受難の時代到来（前半）	記事を講読します。
第 5 回	ソーダに受難の時代到来（後半）	記事を講読します。
第 6 回	地撮り投稿を考える（前半）	記事を講読します。
第 7 回	地撮り投稿を考える（後半）	記事を講読します。
第 8 回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。

第 9 回	デジタルデトックスの ヒント（前半）	記事を講読します。
第 10 回	デジタルデトックスの ヒント（後半）	記事を講読します。
第 11 回	中国発：一人っ子政策、その後（前半）	記事を講読します。
第 12 回	中国発：一人っ子政策、その後（後半）	記事を講読します。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	期末テスト	講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・ニューヨークタイムズ社会点描 SCARCITY AND EXCESS Technological Troubles and Social Solutions, 喜多留女／Keith Wesley ADAMS 編注, 英宝社, (¥ 2100 円 + 税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
平常点および課題（60%）
期末テスト（40%）

欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合、初回の授業時に選抜を行う可能性があります。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 2,3 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの 1 つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2 つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1 文ずつの内容の把握だけでなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝えるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として 2～3 回の授業で 1 章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。が、一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第 2 回	エアコンの寒さに耐える夏（前半）	記事を講読します。
第 3 回	エアコンの寒さに耐える夏（後半）	記事を講読します。
第 4 回	ソーダに受難の時代到来（前半）	記事を講読します。
第 5 回	ソーダに受難の時代到来（後半）	記事を講読します。
第 6 回	節水対策は互いの監視から（前半）	記事を講読します。
第 7 回	節水対策は互いの監視から（後半）	記事を講読します。
第 8 回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第 9 回	善意で始まるペア型腎臓移植（前半）	記事を講読します。

- 第10回 善意で始まるペア型腎臓移植（後半） 記事を講読します。
- 第11回 中国発：英語？ フランス語？ ブランド名は意味不明（前半） 記事を講読します。
- 第12回 中国発：英語？ フランス語？ ブランド名は意味不明（後半） 記事を講読します。
- 第13回 まとめ方を考察する 記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
- 第14回 期末テスト 講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・ニューヨークタイムズ社会点描 SCARCITY AND EXCESS Technological Troubles and Social Solutions, 喜多留女／Keith Wesley ADAMS 編注, 英宝社, (¥ 2100 円 + 税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。

平常点および課題（60%）

期末テスト（40%）

欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が3回に達するごとに1回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

岩坪 友子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 3,4 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜社会・文化の諸相を学び、英語の4技能をのばす＞

世界のさまざまな側面を扱う英語素材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、英語の4技能をのばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と興味が増すようにしていきます。

【到達目標】

- (1) 英語での発信・受信に使える語彙力がある
- (2) 英語で書かれたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (3) 英語で話されたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (4) 英語で発信されたものについて、日本語や英語で要約・説明できる
- (5) さまざまなトピックについて、多面的・客観的に考察し、自分の見解を日本語や英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

＜※この授業はハイブリッド型です。ただし、大学の行動方針レベルが2となった場合、原則としてオンラインのみでの実施となります。詳細は学習支援システムでお知らせします。＞

Zoom 授業（リアルタイム双方向）、学習支援システム（教材提示・課題提出）、（可能な場合）教室対面（受講生の発話を伴わない内容など）、を効果的に組み合わせて実施予定です。具体的にはその都度事前に学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」を通じて確認・連絡します。

予習を前提として、授業では基本的に教科書に沿って問題・内容確認・練習を行います。教科書の英語は難解ではなく、受信 → 考察 → 発信の流れを目指す構成です。進捗状況に応じて、テーマに関連するビデオクリップや記事その他の副教材を活用します。理解と考察を促すために、適宜日本語や英語で発問します（話され／書かれたものの全体やパラグラフの要旨、語彙・指示語・構文、話者や筆者の立場、受講生の意見など）。教科書に沿って日本語や英語で要約・説明する練習、論理的に意見を発信する練習を行います。リスニングとスピーキングに役立つ音読練習も行います。授業内で課題や質問等へのフィードバックやアドバイスをを行います。学期を通じて身につけた力を、授業、課題、小テスト、プレゼンテーションで発揮する流れになります。

（下記授業計画は、状況に応じて変更の場合があります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (4/8)	イントロダクション。 Unit 1 Cross-cultural understanding リスニング・パート。リーディング・パート導入	授業の概要説明。アンケート。リスニング・速読 (希望者数により選抜が必要な場合は Hoppii で指示します。)
2 (4/15)	Cross-cultural understanding リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ディスカッション
3 (4/22)	Unit 2 Foods リスニング・パート。リーディング・パート導入	リスニング・速読
4 (5/6)	Foods リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ディスカッション
5 (5/13)	Unit 3 Foreign language learning リスニング・パート。リーディング・パート導入	リスニング・速読
6 (5/20)	Foreign language learning リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ディスカッション
7 (5/27)	Unit 4 Sports リスニング・パート。リーディング・パート導入	リスニング・速読
8 (6/3)	Sports リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ディスカッション
9 (6/10)	Unit 5 Fashion リスニング・パート。リーディング・パート導入	リスニング・速読
10 (6/17)	Fashion リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ディスカッション
11 (6/24)	Unit 6 Living things リスニング・パート。リーディング・パート導入	リスニング・速読
12 (7/1)	Living things リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ディスカッション
13 (7/8)	プレゼンテーション・リハーサル	練習・アドバイス (全体と個別指導)
14 (7/15)	プレゼンテーション。まとめ	発表・意見交換・講評。学期の振り返り・今後の展望 (アンケート)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

①予習：STEP 1 テキストのリスニング・リーディング練習問題を解き、解答の根拠も言えるようにする。STEP 2 会話・文章全体を読み、(英語およびそれ以外の) 知識と想像力を総合して趣旨を把握する。未知の単語は文脈から類推した上で、かならず辞書で確認する。STEP 3 文章構成を意識して、各段落・文章全体の要約 (各 1～2 文程度) を日本語と英語で練習する。STEP 4 ダウンロード音声を読み、音読練習する。(関連教材についてもほぼ同様。)*課題は指示に沿って期限内に提出する。

②復習：STEP 5 内容を確認しながらテキストを再読する。STEP 6 ダウンロード音声 (テキストを見ながら／見ないで) 聴く、リピート／シャドーイングする。STEP 7 テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言って／書いてみる。STEP 8 題材に対する自分の意見を言って／書いてみる。STEP 9 出版物やウェブ上で情報収集、知識・視野を広げる。(関連教材についてもほぼ同様。)

③プレゼン準備：STEP 10 授業内容とプレゼン用 PDF 教材 (学習支援システム) を参考にして少しずつ学期末のプレゼンテーションの準備をする。*プレゼン原稿は指示に沿って期限内に事前提出する。

*上述の度合いは、英語に触れた時間と相関関係があると考えられるため、①②③および英語で情報収集・好きなコンテンツを楽しむ・書く・話すなどを継続するほど、英語力の伸びが期待されます。

【テキスト (教科書)】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate* (4 技能統合型で学ぶ英語コース：中級編) 金星堂、2,000 円 (税別) (*関連教材は、随時配布・指示します。)

【参考書】

英語マスメディアのウェブサイト例：BBC Learning English (<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/>), VOA Learning English (<https://learningenglish.voanews.com/>), CNN 10 (<http://edition.cnn.com/cnn10>), TED: Ideas Worth Spreading (<https://www.ted.com>), NPR (<https://www.npr.org/>), ABC News video (<http://abcnews.go.com/video>), 攻略! ABC ニュース英語 (www6.nhk.or.jp), CBS 60 Minutes (<https://www.cbsnews.com/60minutes/>), The New York Times (<http://www.nytimes.com/>), The Guardian (<http://www.theguardian.com/uk>). 参考書：『CNN® ENGLISH EXPRESS』、『CNN ニュース・リスニング 2020 [秋冬]』(朝日出版社)、『「英語モード」でライティング』(講談社)、『コンピューター対応 TOEFL® テストライティング完全制覇』、『英語で書く力。』、『英語で話す力。』(三修社)、『英語ライティングルールブック』、『映画英語のリスニング』(DHC)、『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1-7』、『公式 TOEIC Listening & Reading トレーニング リスニング編』、『同リーディング編』、『TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック』、『TOEIC® テスト公式問題で学ぶボキャブラリー』、『TOEIC® Speaking & Writing 公式テストの解説と練習問題』(一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会) ほか。国際文化学部 HP→ 関連リンク「英語リスニング・ハンドブック」、図書館、AV ライブラリー (BT3 階) など活用して自分のレベルやスタイルに合ったものを探しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (予習と授業への取り組み・課題・小テスト) 85%、プレゼンテーション 15% の割合で、上記到達目標 (1)～(5) に照らして評価します。原則として欠席が 4 回以上になると単位取得の資格を失いますので注意してください。特別な理由がある場合は、早めに担当教員に相談・連絡してください。

次のような姿勢で取り組んでください：STEP ①予習して目標を持って出席／STEP ②授業では理解を深め積極的に参加・練習／STEP ③復習と自習で定着・苦手克服・実力アップ／STEP ④授業・課題・小テスト・プレゼンテーションで成果を発揮

【学生の意見等からの気づき】

英語力や知識・思考力を広い視野で伸ばそうとするみなさん個々の継続的な取り組みと、意見交換などを通じて互いから刺激を受け学び合う姿勢が印象的でしたので、内容・手法の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよび Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

授業で使えるように辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students improve their confidence and skills in English communication. Students will practice listening to, speaking, reading and writing about various aspects of cultures and societies today, while building vocabulary, learning about the topics and developing their critical thinking skills. Students will give a short oral presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

岩坪 友子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 3,4 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<社会・文化の諸相を学び、英語の4技能をのばす>

世界のさまざまな側面を扱う英語素材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、英語の4技能をのばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と興味が増すようにしていきます。

【到達目標】

- (1) 英語での発信・受信に使える語彙力がある
- (2) 英語で書かれたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (3) 英語で話されたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (4) 英語で発信されたものについて、日本語や英語で要約・説明できる
- (5) さまざまなトピックについて、多面的・客観的に考察し、自分の見解を日本語や英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

<※この授業はハイブリッド型です。ただし、大学の行動方針レベルが2となった場合、原則としてオンラインのみでの実施となります。詳細は学習支援システムでお知らせします。>

Zoom 授業（リアルタイム双方向）、学習支援システム（教材提示・課題提出）、（可能な場合）教室対面（受講生の発話を伴わない内容など）、を効果的に組み合わせて実施予定です。具体的にはその都度事前に学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」を通じて確認・連絡します。

予習を前提として、授業では基本的に教科書に沿って問題・内容確認・練習を行います。教科書の英語は難解ではなく、受信 → 考察 → 発信の流れを目指す構成です。進捗状況に応じて、テーマに関連するビデオクリップや記事その他の副教材を活用します。理解と考察を促すために、適宜日本語や英語で発問します（話され／書かれたものの全体やパラグラフの要旨、語彙・指示語・構文、話者や筆者の立場、受講生の意見など）。教科書に沿って日本語や英語で要約・説明する練習、論理的に意見を発信する練習を行います。リスニングとスピーキングに役立つ音読練習も行います。授業内で課題や質問等へのフィードバックやアドバイスをを行います。学期を通じて身につけた力を、授業、課題、小テスト、プレゼンテーションで発揮する流れになります。

（下記授業計画は、状況に応じて変更場合があります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (9/23)	Unit 7 Art	リスニング・速読 グ・パート。リーディング・パート導入
2 (9/30)	Art	リーディング・パート詳細理解と考察 精読・要約・ディスカッション

3 (10/7)	Unit 8 Global issues	リスニング・速読 リスニング・パート。 リーディング・パート導入
4 (10/14)	Global issues	リーディング・パート詳細理解と考察 精読・要約・ディスカッション
5 (10/21)	Unit 9 Japanese culture	リスニング・速読 リスニング・パート。リーディング・パート導入
6 (11/4)	Japanese culture	精読・要約・ディスカッション リーディング・パート 詳細理解と考察
7 (11/11)	Unit 10 Human rights	リスニング・速読 リスニング・パート。リーディング・パート導入
8 (11/18)	Human rights	精読・要約・ディスカッション リーディング・パート 詳細理解と考察
9 (11/25)	Unit 11 Health & medical issues	リスニング・速読 リスニング・パート。リーディング・パート導入
10 (12/2)	Health & medical issues	精読・要約・ディスカッション リーディング・パート詳細理解と考察
11 (12/9)	Unit 12 Environmental issues	リスニング・速読 リスニング・パート。リーディング・パート導入
12 (12/16)	Environmental issues	精読・要約・ディスカッション リーディング・パート詳細理解と考察
13 (12/23)	プレゼンテーション・リハーサル	練習・アドバイス（全体と個別指導）
14 (1/13)	プレゼンテーション・まとめ	発表・意見交換・講評。学期の振り返り・今後の展望（アンケート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

①予習：STEP 1 テキストのリスニング・リーディング練習問題を解き、解答の根拠も言えるようにする。STEP 2 会話・文章全体を読み、（英語およびそれ以外の）知識と想像力を総合して趣旨を把握する。未知の単語は文脈から類推した上で、かならず辞書で確認する。STEP 3 文章構成を意識して、各段落・文章全体の要約を日本語と英語で練習する。STEP 4 ダウンロード音声聴き、音読練習する。（関連教材についてもほぼ同様。）※課題は指示に沿って期限内に提出する。

②復習：STEP 5 内容を確認しながらテキストを再読する。STEP 6 ダウンロード音声（テキストを見ながら／見ないで）聴く、リピート／シャドウイングする。STEP 7 テキストで使われている表現・文や要約を自分で言ってみる／書いてみる。STEP 8 題材に対する自分の意見を言ってみる／書いてみる。STEP 9 出版物やウェブ上で情報収集、知識・視野を広げる。（関連教材についてもほぼ同様。）

③プレゼン準備：STEP 10 授業内容と PDF 教材（学習支援システム）を参考にして少しずつ学期末のプレゼンテーションの準備をする。※プレゼン原稿は指示に沿って期限内に事前提出する。※上達の度合いは、英語に触れた時間と相関関係があると考えられるため、①②③および英語で情報収集・好きなコンテンツを楽しむ・書く・話すなどを継続するほど、英語力の伸びが期待されます。

【テキスト（教科書）】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate*（4 技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,000 円（税別）（※関連教材は、随時配布・指示します。）

【参考書】

英語マスメディアのウェブサイト例：BBC Learning English (<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/>), VOA Learning English (<https://learningenglish.voanews.com/>), CNN 10 (<http://edition.cnn.com/cnn10/>), TED: Ideas Worth Spreading (<https://www.ted.com>), NPR (<https://www.npr.org/>), ABC News video (<http://abcnews.go.com/video/>), 攻略！ABC ニュース英語 (www6.nhk.or.jp), CBS 60 Minutes (<https://www.cbsnews.com/60minutes/>), The New York Times (<http://www.nytimes.com/>), The Guardian (<http://www.theguardian.com/uk>). 参考書：『CNN® ENGLISH EXPRESS』、『CNN ニュース・リスニング 2020 [秋冬]』(朝日出版社)、『「英語モード」でライティング』(講談社)、『コンピューター対応 TOEFL® テストライティング完全制覇』、『英語で書く力』、『英語で話す力』(三修社)、『英語ライティングルールブック』、『映画英語のリスニング』(DHC)、『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1-7』、『公式 TOEIC Listening & Reading トレーニングリスニング編』、『同リーディング編』、『TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック』、『TOEIC® テスト公式問題で学ぶボキャブラリー』、『TOEIC® Speaking & Writing 公式テストの解説と練習問題』(一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)ほか。国際文化学部 HP→ 関連リンク「英語リスニング・ハンドブック」、図書館、AV ライブラリー (BT3 階) など活用して自分のレベルやスタイルに合ったものを探しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (予習と授業への取り組み・課題・小テスト) 85%、プレゼンテーション 15% の割合で、上記到達目標 (1)～(5) に照らして評価します。原則として欠席が 4 回以上になると単位取得の資格を失いますので注意してください。特別な理由がある場合は、早めに担当教員に相談・連絡してください。

次のような姿勢で取り組んでください：STEP ① 予習して目標を持って出席／STEP ② 授業では理解を深め積極的に参加・練習／STEP ③ 復習と自習で定着・苦手克服・実力アップ／STEP ④ 授業・課題・小テスト・プレゼンテーションで成果を発揮

【学生の意見等からの気づき】

英語力や知識・思考力を広い視野で伸ばそうとするみなさん個々の継続的な取り組みと、意見交換などを通じて互いから刺激を受け学び合う姿勢が印象的でしたので、内容・手法の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよび Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

授業で使えるように辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students improve their confidence and skills in English communication. Students will practice listening to, speaking, reading and writing about various aspects of cultures and societies today, while building vocabulary, learning about the topics and developing their critical thinking skills. Students will give a short oral presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

永井 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 3,4 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあるなかで、成功するため (あるいは失敗しないため) には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。

重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。

この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】

- ・ニュースメディア独特の英語の使い方があることを知り、それに文法・語彙・熟語の面で対応できるようにする
- ・文法の知識をフル活用し、文章の内容・情報を正確に読み取れるようにする
- ・発音に対してこれまで以上に意識をし、音声でのニュースメディアの英語にも対応できるよう準備する
- ・未知の、あるいはやや複雑な時事問題について自主的に調べる習慣をつけ、見識を広める (最重要)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

国内外の有名な新聞の記事で構成された教科書を使用します。ニュースの内容は社会・文化・政治経済から環境・娯楽・スポーツまで多岐にわたります。

授業中は、朗読の発音に気をつけつつ、アトランダムに指名しながら記事の内容を確認していきます。予習を怠って指名されてから初めて文章に目を通すような行為は、授業を共にしているクラス全体に迷惑がかかりますので、絶対にやめて下さい。

語彙やフレーズ、内容の把握具合、そして音声でのニュース理解を確認する小テストも実施する予定です。

記事内容の要点・感想ほか課題の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。提出物の一部は次の授業回でのフィードバックで取り上げます。

当然のことですが、聞かなくてもよい授業は一回もありません。各文の読解のポイントは聞き逃さず、メモをとりましょう。毎回の出席が原則です。欠席や遅刻の回数には限度を設けます。たとえ限度内であったとしても、欠席した分の遅れを皆さん自身が取り戻す努力をしなければ、単位取得はおぼつかなくなるでしょう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	このシラバスに書かれた内容の説明だけでなく、学期中・授業中の注意点や、次回以降の授業に必要な課題についても言及しますので、必ず出席して下さい。出席数にもカウントされます。
2	Unit 3 (1)	コアラが森林火災の犠牲に Saving the Fire Victims Who Cannot Flee: Australia's Koalas 小テスト
3	Unit 3 (2)	(前回の続き) Climate change and natural disasters
4	Unit 4 (1)	上流階級育ちの坊ちゃんの中身のない自信に気をつけろ Beware the posh boy's hollow self-confidence 小テスト
5	Unit 4 (2)	(前回の続き) The socio-economic structure in the UK
6	Unit 5 (1)	ノート型パソコンのリサイクルでの代償：タイで有毒ガスが The Price of Recycling Old Laptops: Toxic Fumes in Thailand's Lungs 小テスト
7	Unit 5 (2)	(前回の続き) The environmental impact of e-waste
8	Unit 6 (1)	他の人たちよりもずっと感染力が強い人たちがいる理由 Why Are Some People So Much More Infectious than Others? 小テスト
9	Unit 6 (2)	(前回の続き) How to save black and Hispanic lives in a pandemic
10	Unit 7 (1)	疫病の渦中で必要なのはフランスではベストリーとワイン、米国ではゴルフと銃 What's essential? In France, pastry and wine — in the US, golf and guns 小テスト
11	Unit 7 (2)	(前回の続き) Some activities reflect a national identity.
12	Unit 8 (1)	iPhone のはるか前に無線社会の基礎を築いた人たち They Laid Foundation for a Wireless Society 小テスト
13	Unit 8 (2)	(前回の続き) The 2019 Nobel Prize winners in chemistry
14	試験・まとめと解説	Unit 8 のフィードバック 筆記試験は、単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。

この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい。

具体的には、
・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさながらにこまめに辞書を引かなければいけません。

・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。
・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなら、どこかで読み間違えているはずです。

・もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種目など）を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高橋優身（他）、『15 Selected Units of English through the News Media — 2021 Edition — （15 章版：ニュースメディアの英語 — 演習と解説 2021 年度版— ）』、朝日出版社、2021 年、1200 円（税別）

【参考書】

（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。

大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。

『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が 70 %、後者が 30 % を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、**Summary** と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。

欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

教科書の記事とは別の文章を読みたいという場合には、遠慮なく申し出て下さい。

高校までの学習英語とは全く性質の違う英語を読むことに、また授業外の学習活動で要求されることの多さに「キツイ」と感じる人もいます。しかし、それは実社会で使われている本物の「生きた英語」にほとんど初めて接するのであれば当然のことなのです。逆にゼロの状態からスタートするこの1年間こそが最も大切だとも言えます。

ただごまかし続けて1年間を無駄にするのではなく、実社会の英語と付き合っていく契機として活用しましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Unit ごとの記事内容の要点・感想ほか課題類の提出に学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

初回授業（イントロダクション）には春学期の受講希望者の人数確認を（場合によっては選抜も）行ないますので、必ず出席して下さい。秋学期のみの受講を希望する学生も、初回授業（イントロダクション）に出席して説明を受けること。希望者の人数を確認して、場合によっては選抜を行ないます。

秋学期のみ受講する学生は、春学期のうちに教科書を購入しておいて下さい。

【Outline and objectives】

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.

Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

永井 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 3,4 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。

重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。

この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】

- ・ニュースメディア独特の英語の使い方があることを知り、それに文法・語彙・熟語の面に対応できるようにする
- ・文法の知識をフル活用し、文章の内容・情報を正確に読み取れるようにする
- ・発音に対してこれまで以上に意識をし、音声でのニュースメディアの英語にも対応できるよう準備する
- ・未知の、あるいはやや複雑な時事問題について自主的に調べる習慣をつけ、見識を広める（最重要）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

国内外の有名な新聞の記事で構成された教科書を使用します。ニュースの内容は社会・文化・政治経済から環境・娯楽・スポーツまで多岐にわたります。

授業中は、朗読の発音に気をつけつつ、アトランダムに指名しながら記事の内容を確認していきます。予習を怠って指名されてから初めて文章に目を通すような行為は、授業を共にしているクラス全体に迷惑がかかりますので、絶対にやめて下さい。

語彙やフレーズ、内容の把握具合、そして音声でのニュース理解を確認する小テストも実施する予定です。

記事内容の要点・感想ほか課題類の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。提出物の一部は次の授業回でのフィードバックで取り上げます。

当然のことですが、聞かなくてもよい授業は一回もありません。各文の読解のポイントは聞き逃さず、メモをとりましょう。毎回の出席が原則です。欠席や遅刻の回数には限度を設けます。たとえ限度内であったとしても、欠席した分の遅れを皆さん自身が取り戻す努力をしなければ、単位取得はおぼつかなくなるでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期の受講者に対する諸事項の確認 春学期の筆記試験(期末)にかんする総評 出・欠席にカウントされます。必ず出席して下さい。
2	Unit 9 (1)	サウジアラビア社会の変化はコーヒーハウスを覗けば分かる Saudi Society Is Changing. Just Take a Look at These Coffeehouses.
3	Unit 9 (2)	(前回の続き) As the government relaxes restrictions on men and women working and socializing together, coffeehouses are on the front lines of change.
4	Unit 10 (1)	移民流入は壁では阻止できない An Immigrant Influx That a Wall Won't Deter
5	Unit 10 (2)	(前回の続き) Millions Who Legally Enter the United States as Students or Tourists Never Go Back
6	Unit 12 (1)	ソマリアの若者たち、政府機能不全の地域に足を踏み入れる Young Somalis Step in Where Government Fails
7	Unit 12 (2)	(前回の続き) The rebuilding process in Somalia after the Shabab's control ended
8	Unit 13 (1)	新国籍法への反対運動が荒れ狂うが、インドはヒンドゥ教国となるのか As Protests Rage on Citizenship Bill, Is India Becoming a Hindu Nation?
9	Unit 13 (2)	(前回の続き) Anti-Muslim policies under Mr. Modi's government
10	Unit 14 (1)	急激な変化：ガイアナは石油で裕福になったが、民族間の緊張も増大 'It Changed So Fast.' Oil Is Making Guyana Wealthy but Intensifying Tensions
11	Unit 14 (2)	(前回の続き) A new oil-producing economy which left the agricultural majority doomed
12	Unit 15 (1)	カルロス・ゴーンの大脱走劇 The Great Escape: How Carlos Ghosn became the world's most famous fugitive
13	Unit 15 (2)	(前回の続き) Once a hero in Japan, Carlos Ghosn's news conference unlikely to restore his image
14	試験・まとめと解説	授業全体の講評 筆記試験は、単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。

この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい。

具体的には、
・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさながらにこまめに辞書を引かなければいけません。

・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。
・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなら、どこかで読み間違えているはずですよ。

・もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種目など）を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高橋優身（他）、『15 Selected Units of English through the News Media — 2021 Edition — （15 章版：ニュースメディアの英語 — 演習と解説 2021 年度版— ）』、朝日出版社、2021 年、1200 円（税別）

【参考書】

（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。

大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。

『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が 70 %、後者が 30 % を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、Summary と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。

・欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

テーマごとの背景事情の説明にもっと時間を割きます。

【学生が準備すべき機器他】

Unit ごとの記事内容の要点・感想ほか課題類の提出に学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.

Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

余田 剛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 3,4 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米の新聞、雑誌、テレビのニュースなどのメディアの英語に触れながら、英語の語学の学習をすることをテーマとする。法学部国際政治学科生への推奨科目であるため、政治問題を中心的に扱うが、趣旨に賛同できる場合は他学部・他学科の学生も歓迎する。

【到達目標】

この授業では、政治情勢をはじめとし、その他、世界各国における現代社会の様々な問題についての基礎知識を獲得し、より多くの一般的な語彙・語法とさらに高校レベルまでではなかなか出てこないような英語圏でよく使われる口語などの表現方法を覚え、使っているようで意外と有効に使えていない辞書の引き方やその他資料の集め方に関する基本的技能を身につけ、ニュースの概要をつかめる程度の基本的リスニング力を獲得し、そして今後につなげることを考えると最も大事な点であるが、辞書やその他必要な情報源を粘り強くそして適切に参照しながら、文字と音声によるより複雑な情報も自力で丁寧に理解しようとする、あらゆる分野の専門的研究を行う際に重要であると思われる態度を身につけることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

The Japan News, Newsweek, The Guardian を扱う予定であるが、最新の記事をその都度選ぶため、授業計画に記した、メディアの種類、順番、記事の内容については変わる可能性がある。精読を重視するため進み方は遅い。授業では、1 パラグラフ程のまとまりで区切り、担当者に訳読、あるいは、要約をしてもらい、その後、確認が必要な場合は語彙、語法、フレーズなどについてこちらから質問をする。そのため受講者は十分予習をしておく必要がある。また、授業内の一定時間を用いて、ニュースなどの音声教材を使ったリスニングの演習を行う。

予習を課題とし、問題や訳し方の解答や解説をフィードバックとして口頭で示す。

※本授業は教室での対面形式で実施する予定であるが、大学の方針により対面形式での実施ができない場合は 2 時限目の時間帯に Zoom で授業を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明（選抜試験を行う場合もある。選抜を行う場合は選択必修科目として履修する国際政治学科生を優先します。）
2	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Japan News のアジアあるいは中東に関する記事の序論部講読

3	リスニング演習＋記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ The Japan News のアジアある いは中東に関する記事の本論前半 部講読
4	リスニング演習＋記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ The Japan News のアジアある いは中東に関する記事の本論後半 部講読
5	リスニング演習＋記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ The Japan News のアジアある いは中東に関する記事の結論部講 読
6	リスニング演習＋記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ Newsweek のアメリカに関する 記事の序論部講読
7	リスニング演習＋記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ Newsweek のアメリカに関する 記事の本論前半部講読
8	リスニング演習＋記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ Newsweek のアメリカに関する 記事の本論後半部講読
9	リスニング演習＋記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ Newsweek のアメリカに関する 記事の結論部講読
10	リスニング演習＋記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ The Guardian のイギリスに関す る記事の序論部講読
11	リスニング演習＋記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ The Guardian のイギリスに関す る記事の本論前半部講読
12	リスニング演習＋記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ The Guardian のイギリスに関す る記事の本論後半部講読
13	リスニング演習＋記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを 題材としたリスニング問題演習＋ The Guardian のイギリスに関す る記事の結論部講読
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした授 業内試験あるいはレポート、まと めと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
辞書を使って記事をしっかりと読んでくること。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験の成績（60 %）と平常点（40 %）とから総合的に評価する。欠
席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達する
ごとに 1 回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから
30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、
交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習時間において、週 30 分未満の割合が平均に比べ
高く、予習のどこがどのように不十分であるかを授業中であてた際一
人一人に具体的に指示したり、リスニングが自習できるような教材
やインターネットのサイトを紹介することで、自習時間を増やす働
きかけを心掛けたいと思います。

【Outline and objectives】

This course teaches English using newspaper articles, maga-
zine stories, and television programs, etc. The main thematic
focus is on political issues, because this is a recommended
course for the Law Faculty's Department of Global Politics.
However, other students who are interested in these issues are
also welcomed.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

余田 剛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 3,4 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米の新聞、雑誌、テレビのニュースなどのメディアの英語に触れながら、英語の語学の学習をすることをテーマとする。法学部国際政治学科生への推奨科目であるため、政治問題を中心的に扱うが、趣旨に賛同できる場合は他学部・他学科の学生も歓迎する。

【到達目標】

この授業では、政治情勢をはじめとし、その他、世界各国における現代社会の様々な問題についての基礎知識を獲得し、より多くの一般的な語彙・語法とさらに高校レベルまでではなかなか出てこないような英語圏でよく使われる口語などの表現方法を覚え、使っているようで意外と有効に使えていない辞書の引き方やその他資料の集め方に関する基本的技能を身につけ、ニュースの概要をつかめる程度の基本的なリスニング力を獲得し、そして今後につなげることを考えると最も大事な点であるが、辞書やその他必要な情報源を粘り強くそして適切に参照しながら、文字と音声によるより複雑な情報も自力で丁寧に理解しようとする、あらゆる分野の専門的研究を行う際に重要であると思われる態度を身につけることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Newsweek, The Guardian, The New York Times を扱う予定であるが、最新の記事をその都度選ぶため、授業計画に記した、メディアの種類、順番、記事の内容については変わる可能性がある。精読を重視するため進み方は遅い。授業では、1 パラグラフ程のまとまりで区切り、担当者に訳読、あるいは、要約をしてもらい、その後、確認が必要な場合は語彙、語法、フレーズなどについてこちらから質問をする。そのため受講者は十分予習をしておく必要がある。また、授業内の一定時間を用いて、ニュースなどの音声教材を使ったリスニングの演習を行う。

予習を課題とし、問題や訳し方の解答や解説をフィードバックとして口頭で示す。

※本授業は教室での対面形式で実施する予定であるが、大学の方針により対面形式での実施ができない場合は 2 時限目の時間帯に Zoom で授業を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明（選抜試験を行う場合もある。選抜を行う場合は選択必修科目として履修する国際政治学科生を優先します。）
2	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアジアあるいは中東に関する記事の序論部講読

3	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアジアあるいは中東に関する記事の本論前半部講読
4	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアジアあるいは中東に関する記事の本論後半部講読
5	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアジアあるいは中東に関する記事の結論部講読
6	リスニング演習 + 記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Guardian のイギリスに関する記事の序論部講読
7	リスニング演習 + 記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Guardian のイギリスに関する記事の本論前半部講読
8	リスニング演習 + 記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Guardian のイギリスに関する記事の本論後半部講読
9	リスニング演習 + 記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Guardian のイギリスに関する記事の結論部講読
10	リスニング演習 + 記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The New York Times のアメリカに関する記事の序論部講読
11	リスニング演習 + 記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The New York Times のアメリカに関する記事の本論前半部講読
12	リスニング演習 + 記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The New York Times のアメリカに関する記事の本論後半部講読
13	リスニング演習 + 記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The New York Times のアメリカに関する記事の結論部講読
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験あるいはレポート、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。辞書を使って記事をしっかりと読んでくること。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験の成績（60 %）と平常点（40 %）とから総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習時間において、週 30 分未満の割合が平均に比べ高く、予習のどこがどのように不十分であるかを授業中であてた際一人一人に具体的に指示したり、リスニングが自習できるような教材やインターネットのサイトを紹介することで、自習時間を増やす働きかけを心掛けたいと思います。

【Outline and objectives】

This course teaches English using newspaper articles, magazine stories, and television programs, etc. The main thematic focus is on political issues, because this is a recommended course for the Law Faculty's Department of Global Politics. However, other students who are interested in these issues are also welcomed.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

金谷 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 3,4 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、TED TALKS のプレゼンテーションで繰り返し広げられた種々の独創的なアイデアに触れつつ、英語の 4 技能：読み、聴き、話し、書くを総合的に身につけることを目標とします。グローバル化によって、ヒトやモノがますます流動的になっていくなか、世界中で様々な人々が独自の視点で現代社会を捉えて、自らの置かれた社会、そして文化、また人生と取り組んでいることを知ることは非常に重要です。本授業では、TED TALKS の英語のプレゼンテーションを聞き、理解を試みることによって英語コミュニケーションについての基本的な事柄の習得を目指す一方で、それぞれのプレゼンテーションの論理の組み立て方、独創性、着眼点について確認しつつ、受講者自らが現代社会、そして文化について自分なりの考察を進めてゆくことを促します。

【到達目標】

- ・まとまった長さの英文の論理展開を正確に把握すること
- ・複雑な構文や語句を理解すること
- ・英文パラグラフの構造を読解を通じて学び、その知識を生かして、みずから論理的な文章が書けるようになること
- ・英語の音声を聴いて、必要な情報を得ること
- ・さまざまな意見を英語で理解し、それに対する自分の考えを英語で表現すること
- ・沢山の人の独自の考えを聞いて、世界のありようについて自分なりの見解を持つようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

各トピックについてそれぞれを 3 部構成とします。第 1 部: Lesson A では、扱われたトピックについての基礎知識、読解についての重要な技術 (Reading Skills) について学びます。第 2 部: Lesson B では、実際に TED TALK の発表を聴き、またその script を読んで、プレゼンテーションの概要や詳しい内容についての理解がなされたかを確認します。また、第 3 部として、第 1 部、第 2 部で学習した事柄をまとめ、更にリサーチを進め、TED talk に関する自分の考えを英語で表現する場を設けます。

受講者は第 1 部から第 3 部を通しての学習事項をチェックシートに書き、トピック毎に提出し、フィードバックを受けます。

【第 1 部】

第 2 週 Topic: Interdisciplinary

第 5 週 Topic: Business/ Leadership

第 8 週 Topic: Life Science

第 11 週 Topic: Sociology/ Fashion

【第 2 部】

第 3 週 : TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days

https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

第 6 週 : TED TALK by Tom Wujec : Build a Tower

https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja

第 9 週： TED TALK by David Gallo: Underwater Astonishments
https://www.ted.com/talks/david_gallo_shows_underwater_astonishments/transcript

第 12 週： TED TALK by Jessi Arrington : Wearing Nothing New
https://www.ted.com/talks/jessi_arrington_wearing_nothing_new?language=ja

【第 3 部】

第 4 週： TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days
https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

第 7 週： TED TALK by Tom Wujec : Build a Tower
https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja

第 10 週： TED TALK by David Gallo: Underwater Astonishments
https://www.ted.com/talks/david_gallo_shows_underwater_astonishments/transcript

第 13 週： TED TALK by Jessi Arrington : Wearing Nothing New
https://www.ted.com/talks/jessi_arrington_wearing_nothing_new?language=ja

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	Introduction	What is TED?
第 2 週	Unit 1: Life Changes	Lesson A Topic: Interdisciplinary Reading Skills: Understanding sequence words,... etc.
第 3 週	Unit 1: Life Changes	TED TALK by Matt Cutts Lesson B Academic Skills: Understanding main ideas,...etc.
第 4 週	Unit 1: Life Changes	Check sheet summarizing and stating opinions
第 5 週	Unit 2: Team Power	Lesson A Topic: Business Leadership Reading Skills: Identifying main ideas in paragraphs,...etc.
第 6 週	Unit 2: Team Power	TED TALK by Tom Wujec Lesson B Academic Skills: Understanding stages in a process, ...etc.
第 7 週	Unit 2: Team Power	Check sheet summarizing and stating opinions
第 8 週	Unit 3: Ocean Wonders	Lesson A Topic: Life Science Reading Skills: Identifying purpose/ referents
第 9 週	Unit 3: Ocean Wonders	TED TALK by David Gallo Lesson B Academic Skills: Understanding main ideas and key details,... etc.
第 10 週	Unit 3: Ocean Wonders	Check sheet summarizing and stating opinions

第 11 週 Unit 4: What We Wear

Lesson A

Topic: Sociology/ Fashion

Reading Skills:

Making connections/

Understanding a process

第 12 週 Unit 4: What We Wear

TED TALK by Jessi Arrington

Lesson B

Academic Skills: Recognizing

point of view

第 13 週 Unit 4: What We Wear

Check sheet

summarizing and stating

opinions

第 14 週 final test

final test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：学生は、各 Unit で扱う TED talk についての予備知識を得るためにテキストを予習し、知らなかった語彙、表現、難しい文章などを特定し、checksheet に記入しておく。

復習：扱った TED talk の要約をし、checksheet に記入した事項を習得することができたか、確認する。

宿題：授業で扱った TED talk 関連で、適宜、授業時に示される課題を提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

以下が授業で扱う TED talk です。予習復習する際に聴いて下さい。

TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days

https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

TED TALK by Tom Wujec : Build a Tower

https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja

TED TALK by David Gallo: Underwater Astonishments

https://www.ted.com/talks/david_gallo_shows_underwater_astonishments/transcript

TED TALK by Jessi Arrington : Wearing Nothing New

https://www.ted.com/talks/jessi_arrington_wearing_nothing_new?language=ja

【テキスト（教科書）】

TED TALKS 21st Century Reading 1 (Cengage Learning),

ISBN 978-1-305-26459-5

その他、配布資料

【参考書】

<https://www.ted.com>

その他、授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価基準：授業参加度（授業内での発言および Hoppii quiz）40 %、チェックシート 30 %、期末テスト 30 %

4 回以上の欠席で単位取得資格は失われます。3 回遅刻すると 1 回欠席としてカウントされます。30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。

【学生の意見等からの気づき】

英語を用いる場をなるべく多く設けます。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は Zoom で行われますので、大学の教室で受講の際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline and objectives】

This course is designed to increase the student's ability to develop their overall English Language skills while reading about specific topics of newspapers. Students are expected to improve reading comprehension skills using topical reading materials as well as to broaden their understanding of current issues.

【Overall Objectives】

To help students

・ increase vocabulary

・ improve their reading/listening comprehension skills

・ understand English sentences without translating into Japanese

・ identify main ideas

・ clarify the structure of a paragraph

- ・ develop global and cross-cultural awareness
- ・ develop creative and critical thinking skills
- ・ effectively express their opinions on current issues

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

金谷 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 3,4 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期同様本授業では、TED TALKS のプレゼンテーションで繰り広げられた種々の独創的なアイデアに触れつつ、英語の 4 技能：読み、聴き、話し、書く—を総合的に身につけることを目標とします。グローバル化によって、ヒトやモノがますます流動的になっていくなか、世界中で様々な人々が独自の視点で現代社会を捉えて、自らの置かれた社会、そして人生と取り組んでいることを知ることは非常に重要です。本授業では、TED TALKS の英語のプレゼンテーションを聞き、理解を試みることによって英語コミュニケーションについての基本的な事柄の習得を目指す一方で、それぞれのプレゼンテーションの論理の組み立て方、独創性、着眼点について確認しつつ、受講者自らが現代社会について自分なりの考察を進めてゆくことを促します。

【到達目標】

- ・まとまった長さの英文の論理展開を正確に把握すること
- ・複雑な構文や語句を理解すること
- ・英文パラグラフの構造を読解を通じて学び、その知識を生かして、みずから論理的な文章が書けるようになること
- ・英語の音声を聴いて、必要な情報を得ること
- ・さまざまな意見を英語で理解し、それに対する自分の考えを英語で表現すること
- ・沢山の人の独自の考えを聞いて、世界のありようについて自分なりの見解を持つようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

各トピックについてそれぞれを 3 部構成とします。第 1 部では、扱われたトピックについての基礎知識、読解についての重要な技術 (Reading Skills) について学びます。第 2 部では、実際に TED TALK の発表を聴き、またその script を読んで、プレゼンテーションの概要や詳しい内容についての理解がなされたかを確認します。また、セメスター終盤には、第 3 部として、学習したトピックをひとつ選び、更にリサーチを進め、TED での発表に関する自分の考えを英語で表現する場を設けます。

受講者は第 1 部から第 3 部を通しての学習事項をチェックシートに書き、トピック毎に提出し、フィードバックを受けます。

[第 1 部]

第 2 週 Topic: Architecture and Design

第 5 週 Topic: Communication/ Sociology

第 8 週 Topic: Visual Arts/ Sociology

[第 2 部]

第 3 週 : TED TALK by Iwan Baan : Ingenious Homes in Unexpected Places

https://www.ted.com/talks/iwan_baan_ingenious_homes_in_unexpected_places?language=ja

第 6 週 : TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral
https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja

第 9 週： TED TALK by Candy Chang: Before I die, I want to ...

https://www.ted.com/talks/candy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja

[第 3 部]

第 4 週： TED TALK by Iwan Baan : Ingenious Homes in Unexpected Places

https://www.ted.com/talks/iwan_baan_ingenious_homes_in_unexpected_places?language=ja

第 7 週： TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral
https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja

第 10 週： TED TALK by Cindy Chang: Before I die, I want to ...

https://www.ted.com/talks/candy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja

第 11 週~13 週： Your favorite TED Talk

<https://www.ted.com/>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	Introduction	授業の進め方についての説明 目標の確認
第 2 週	Unit6: Building Solutions	TED Talk by Iwan Baan Topic:Architecture and Design Lesson A Reading Skills: Organizing supporting details,... etc.
第 3 週	Unit6: Building Solutions	TED Talk by Iwan Baan Lesson B: Academic Skills: Understanding main ideas,summarizing ideas using a concept map,...etc.
第 4 週	Unit6: Building Solutions	TED Talk by Iwan Baan Expressing ideas on the topic
第 5 週	Unit 7: Roads to Fame	TED Talk by Kevin Allocca Topic:Communication/ Sociology Lesson A Reading Skills: Scanning for numbers,...etc.
第 6 週	Unit 7: Roads to Fame	TED Talk by Kevin Allocca Lesson B Academic Skills: Understanding main ideas,summarizing ideas using a concept map,...etc.
第 7 週	Unit 7: Roads to Fame	TED Talk by Kevin Allocca Expressing ideas on the topic
第 8 週	Unit 9: Community Voices	TED TALK by Candy Chang Lesson A Topic:Visual Arts / Sociology Reading Skills: Understanding a paragraph's purpose
第 9 週	Unit 9: Community Voices	TED TALK by Candy Chang Lesson B Topic:Visual Arts / Sociology Reading Skills: Understanding a paragraph's purpose
第 10 週	Unit 9: Community Voices	TED TALK by Candy Chang Expressing ideas on the topic
第 11 週	Your favorite TED talk	Finding your favorite TED talk.

第 12 週 Your favorite TED The Summary of the talk
talk

第 13 週 Your favorite TED Your own idea on the talk
talk

第 14 週 final test final test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：学生は、各 Unit で扱う TED talk についての予備知識（テキストに記載）を得るためにテキストを予習し、知らなかった語彙、表現、難しい文章などを特定し、checksheet に記入しておく。
復習：扱った TED talk の要約をし、checksheet に記入した事項を習得することができたか、確認する。

宿題：授業で扱った TED talk 関連で、適宜、授業時に示される課題を提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。以下が授業で扱う TED talk です。予習復習する際に聴いて下さい。

TED TALK by Iwan Baan : Ingenious Homes in Unexpected Places

https://www.ted.com/talks/iwan_baan_ingenious_homes_in_unexpected_places?language=ja

TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral

https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja

TED TALK by Cindy Chang: Before I die, I want to ...

https://www.ted.com/talks/candy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja

【テキスト（教科書）】

TED TALKS 21st Century Reading 1 (Cengage Learning), ISBN 978-1-305-26459-5

その他、資料配布

【参考書】

<https://www.ted.com>

その他、授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価基準：授業参加度（授業内での発言および Hoppii quiz）40 %、チェックシート 30 %、期末テスト 30 %

4 回以上の欠席で単位取得資格は失われます。3 回遅刻すると 1 回欠席としてカウントされます。30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多く英語を使う場を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は Zoom で行われますので、大学の教室で受講の際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline and objectives】

This course is designed to increase the student's ability to develop their overall English Language skills while reading about specific topics of newspapers. Students are expected to improve reading comprehension skills using topical reading materials as well as to broaden their understanding of current issues.

[Overall Objectives]

- ・ to help students increase vocabulary
- ・ to help students improve their reading/listening comprehension skills
- ・ to help students understand English sentences without translating into Japanese
- ・ to help students identify main ideas
- ・ to help students clarify the structure of a paragraph
- ・ to help students develop global and cross-cultural awareness
- ・ to help students develop creative and critical thinking skills
- ・ to help students effectively express their opinions on current issues

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 3,4 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフから成る記事を題材として、今社会を取り巻く経済不況や災害、環境問題や文化などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、速読、精読などを通して、必要とする情報を効果的に読み取るスキルを学習する。リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人々と対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、批判的な視点の持ち方、自分の意見の持ち方などを発表などを通して身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は全 14 回を全てオンライン（オンデマンド、資料配付型）授業とする。

第 1 週目、初回授業は、事前にアンケートを LMS を通して配布するので、履修希望者はそれに回答して提出すること。LMS を通して連絡するのでこちらも確認すること。

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Chapter を学習する。取り上げる Chapter は以下の 6 つとする

Chapter 1,2,5,6,7,10

前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業では **exercise** を解しながら精読する。

毎回 Answer Sheet を LMS を通して配布するので、その指示に従って締め切り日までに LMS を通して提出する。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、それは次の授業回までに返却され、後日解答が配布される。

小テスト部分は採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 履修者の決定	ここで履修者を決定するので、履修希望者は必ず初回アンケートに回答して LMS を通して提出すること。
2	Chapter 1 I don't know What to believe. Finding Truth among online lies.	Useful Words 解答（採点しない） Question for Understanding, Part1, 2 解答（採点する 2 点 × 8 問 = 16 点）

3	Chapter 1 I don't know What to believe. Finding Truth among online lies.	summary の解答と和訳（採点する 1 点 × 6 問 = 6 点 和訳 8 点） Over to You（採点しない）
4	Chapter 2 It's a Hikikomori World Why do some people withdraw from society ?	Useful Words 解答（採点しない） Question for Understanding, Part1, 2 解答（採点する 2 点 × 8 問 = 16 点）
5	Chapter 2 It's a Hikikomori World Why do some people withdraw from society ?	summary の解答と和訳（採点する 1 点 × 6 問 = 6 点 和訳 8 点） Over to You（採点しない）
6	Chapter 5 The World greatest Gamers. The Rise of Esports.	Useful Words 解答（採点しない） Question for Understanding, Part1, 2 解答（採点する 2 点 × 8 問 = 16 点）
7	Chapter 5 The World greatest Gamers. The Rise of Esports.	summary の解答と和訳（採点する 1 点 × 6 問 = 6 点 和訳 8 点） Over to You（採点しない）
8	Chapter 6 3-D printed Limbs and Robot Doctors Amazing advances in medicine.	Useful Words 解答（採点しない） Question for Understanding, Part1, 2 解答（採点する 2 点 × 8 問 = 16 点）
9	Chapter 6 3-D printed Limbs and Robot Doctors Amazing advances in medicine.	summary の解答と和訳（採点する 1 点 × 6 問 = 6 点 和訳 8 点） Over to You（採点しない）
10	Chapter 7 Fake Burgers and Electric Gum. The future of foods	Useful Words 解答（採点しない） Question for Understanding, Part1, 2 解答（採点する 2 点 × 8 問 = 16 点）
11	Chapter 7 Fake Burgers and Electric Gum. The future of foods	summary の解答と和訳（採点する 1 点 × 6 問 = 6 点 和訳 8 点） Over to You（採点しない）
12	Chapter 10 It's good to be Grumpy. The positive consequences of negative feelings.	Useful Words 解答（採点しない） Question for Understanding, Part1, 2 解答（採点する 2 点 × 8 問 = 16 点）
13	Chapter 10 It's good to be Grumpy. The positive consequences of negative feelings.	summary の解答と和訳（採点する 1 点 × 6 問 = 6 点 和訳 8 点） Over to You（採点しない）
14	これまでのまとめと期末試験	これまでのまとめ 期末試験課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
各 Chapter の Useful Words を必ず学習し、語彙の確認を徹底する。

【テキスト（教科書）】

Grand Tour - Seeing the World

新たな時代への扉

成美堂 1900 円 + 税

【参考書】

特になし。

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出（Answer Sheet の空欄が全て解答されていること）
20%

小テスト 30 点 ×6 回分 180 点

30%

期末試験課題

50%

*各学期、欠席 4 回以上で、原則として単位の修得は認められない。

*毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されていて（解答されていて）出席とする。（空欄の内容に全て解答すること）

【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through the essays.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 2,3 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフから成る記事を題材として、今社会を取り巻く経済不況や災害、環境問題や文化などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、速読、精読などを通して、必要とする情報を効果的に読み取るスキルを学習する。リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人々と対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、批判的な視点の持ち方、自分の意見の持ち方などを発表などを通して身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は全 14 回を全てオンライン（オンデマンド、資料配付型）授業とする。

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Chapter を学習する。取り上げる Chapter は以下の 6 つとする

Chapter 11,13,15,16,18,20

前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業では exercise を解きながら精読する。

毎回 Answer Sheet を LMS を通して配布するので、その指示に従って締め切り日までに LMS を通して提出する。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、それは次の授業回までに返却され、後日解答が配布される。

小テスト部分は採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warming Up	ここで履修者を決定するので、履修希望者は必ず初回アンケートに回答して提出すること。
2	Chapter 11 A full working Week. How long should we work ?	Useful Words 解答（採点しない） Question for Understanding, Part1, 2 解答（採点する 2 点 ×8 問 = 16 点）
3	対 Chapter 11 A full working Week. How long should we work ?	summary の解答と和訳（採点する 1 点 ×6 問 = 6 点 和訳 8 点） Over to You（採点しない）

4	Chapter 13 Try This Why giving things away can be good for business	Useful Words 解答 (採点しない) Question for Understanding, Part1, 2 解答 (採点する 2 点 ×8 問 = 16 点)
5	Chapter 13 Try This Why giving things away can be good for business	summary の解答と和訳 (採点す る 1 点 ×6 問 = 6 点 和訳 8 点) Over to You (採点しない)
6	Chapter 15 Paying for Information The Cost of News	Useful Words 解答 (採点しない) Question for Understanding, Part1, 2 解答 (採点する 2 点 ×8 問 = 16 点)
7	Chapter 15 Paying for Information The Cost of News	summary の解答と和訳 (採点す る 1 点 ×6 問 = 6 点 和訳 8 点) Over to You (採点しない)
8	Chapter 16 Your phone is soldier What does cyberwar mean?	Useful Words 解答 (採点しない) Question for Understanding, Part1, 2 解答 (採点する 2 点 ×8 問 = 16 点)
9	Chapter 16 Your phone is soldier What does cyberwar mean?	summary の解答と和訳 (採点す る 1 点 ×6 問 = 6 点 和訳 8 点) Over to You (採点しない)
10	Chapter 18 It's a Man's World The cost of ignoring Women's needs.	Useful Words 解答 (採点しない) Question for Understanding, Part1, 2 解答 (採点する 2 点 ×8 問 = 16 点)
11	Chapter 18 It's a Man's World The cost of ignoring Women's needs.	summary の解答と和訳 (採点す る 1 点 ×6 問 = 6 点 和訳 8 点) Over to You (採点しない)
12	Chapter 20 It's the Law Identifying Good and Bad Laws	) Useful Words 解答 (採点し ない) Question for Understanding, Part1, 2 解答 (採点する 2 点 ×8 問 = 16 点)
13	Chapter 20 It's the Law Identifying Good and Bad Laws	summary の解答と和訳 (採点す る 1 点 ×6 問 = 6 点 和訳 8 点) Over to You (採点しない)
14	これまでのまとめと期 末試験	これまでのまとめ 期末試験課題の提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should
be around an hour a week for a one-credit course.

各 Chapter の Useful Words を必ず学習し、語彙の確認を徹底する。

【テキスト (教科書)】

Grand Tour - Seeing the World

新たな時代への扉

成美堂 1900 円 + 税

【参考書】

特になし。

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出 (Answer Sheet の空欄が全て解答されていること)
20%

小テスト 30 点 ×6 回分 180 点

30%

期末試験課題 50%

*各学期、欠席 4 回以上で、原則として単位の修得は認められない。

*毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されていて (解答されて
いて) 出席とする。(空欄の内容に全て解答すること)

【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声
をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用す
るか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understand-
ing the international situation, an environmental problem,
natural disasters, culture
and so on through the essays.

LANe200LA

English Presentation I

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法文営国 1~4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students to improve their ability to make presentations in English. Students will increase their confidence in English communication through researching, talking, reading, writing and presenting about a variety of personal, academic, business and cultural topics. Students will choose their presentation topics according to their own interests. Students will focus in particular on developing and explaining their topics in a clear and engaging manner. Students will make three presentations of about 5-10 minutes.

【到達目標】

You will become a better presenter. You will improve your ability to communicate in front of a group, including topic selection, generating ideas, organising, collecting supporting information, visual communication, consideration of your voice, and movement. You will have many opportunities to express your thoughts in a concise and logical manner. You will try various ways to make your opinions more persuasive.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom and using Google Classroom. In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will research and collect information for your topics outside of class. You will organize and arrange your ideas, and prepare visual materials (using PowerPoint or poster paper) to accompany your presentation. Preparation is vital to participate fully and get the most from class time. In class, you will explain your research and ideas. This will enable you to become familiar with your topic and less reliant on a script. Additionally, you will have chances to find the points of interest that need more development, and the places in your work that need further re-thinking and reorganisation. You will also practise a number of important academic skills through listening and note-taking of your own and classmates' topics. These include identifying the key points, re-organising ideas, summarising and reconstructing partner's talks from your notes as well as giving critical feedback. You may be asked to prepare discussion questions related to your topic, and of course, must be ready to answer questions from the audience about your own work. Please come to class ready to participate actively and positively. You may sometimes record your presentations using easy editing software on your phone or PC to share with the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	First presentation: "How to..."	Teach us how to do something better. Look at examples. Generate ideas and select topics.
3	Developing your work	Show your ideas and make an outline. Basic presentation structure.
4	Developing your work	Revise and practise. Body language and gestures -examples and practise.
5	Final practise	Combine all the elements and review your speech. Make changes after feedback from classmates and teacher.
6	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.
7	Second presentation: SWOT analysis	A SWOT analysis. What is it? Look at examples. Generate ideas and select topics
8	Developing your work:	A SWOT analysis. Show your first research and organise. Voicework - how to vary your voice to make your words have more impact.
9	Developing your work:	Show us your presentation draft and practise. Turn your draft into notecards. Asking and answering questions during a presentation.
10	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates.
11	Third Presentation: Pechakucha	What is a pechakucha presentation? Explanation and examples. Topic planning.
12	Developing your work:	Practise. Speaking to time limits and on the spot transitions.
13	Final practise	Review and practise.
14	Presentation & Semester review	Perform your presentation. Watch and review classmates.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to find their own research materials, write presentations and prepare visual materials including Keynote or PowerPoint slides. Students will be asked to watch some speeches and share their impressions in class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

The above may change. Activities may change according to class size, students' interests and abilities. There is no textbook.

【参考書】

Recommended places to watch presentation examples are; the Pechakucha, TED and Jack Petchey Foundation websites.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 25%

Presentations 45%

Self evaluation 10%

Outside class preparation 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students wanted more time to prepare presentations.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. You will need to use colour pens, large poster paper, slide making software such as PowerPoint or Keynote. You will need to access your smartphone, tablet, or PC to watch presentation examples and do quick research in class. You will need an English dictionary.

【その他の重要事項】

Please come to class ready to participate actively and positively.

【Outline and objectives】

Make your speeches and presentations better.

LANe200LA

English Presentation II

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students to improve their ability to make presentations in English. Students will increase their confidence in English communication through researching, talking, reading, writing and presenting about a variety of personal, academic, business and cultural topics. Students will choose their presentation topics according to their own interests. Students will focus in particular on developing and explaining their topics in a clear and engaging manner. Students will make three presentations of about 5-10 minutes.

【到達目標】

You will become a better presenter. You will improve your ability to communicate in front of a group, including topic selection, generating ideas, organising, collecting supporting information, visual communication, consideration of your voice, and movement.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom and using Google Classroom. In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will research and collect information for your topics outside of class. You will organize and arrange your ideas, and prepare visual materials (using PowerPoint or poster paper) to accompany your presentation. Preparation is vital to participate fully and get the most from class time. In class, you will explain your research and ideas. This will enable you to become familiar with your topic and less reliant on a script. Additionally, you will have chances to find the points of interest that need more development, and the places in your work that need further re-thinking and reorganisation. You will also practise a number of important academic skills through listening and note-taking of your own and classmates' topics. These include identifying the key points, re-organising ideas, summarising and reconstructing partner's talks from your notes as well as giving critical feedback. You may be asked to prepare discussion questions related to your topic, and of course, must be ready to answer questions from the audience about your own work. Please come to class ready to participate actively and positively. You may sometimes record your presentation using easy editing software on your phone or PC to share with the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation and a review of the Spring Semester. First presentation: "Inspired by a movie"	A cultural or social theme picked from a movie For example. "The Lego Movie" - a comparison of the education systems of Denmark and Japan. The role of propaganda in Vietnam War movies "The Devil wears Prada" - Karoshi - is work /life balance really possible? Discussing ideas and topic selection.
2	Developing your work	Sharing research. Making outlines and considering some rhetorical techniques such as the rule of 3 and repetition.
3	Developing your work	Sharing research. Using rhetorical techniques. Review of voice techniques.
4	Final practise	Making discussion questions. Practise and make changes after feedback from classmates and teacher.
5	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.
6	Second presentation: Something I've learned that you should know	What knowledge have you gained in your university life that you think other people would benefit from knowing? generating ideas
7	Developing your work	Considering different narratives styles. Sharing ideas.
8	Developing your work	Sharing your ideas and using props in a speech.
9	Final practise	Practise your speech using a prop.
10	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.
11	Third Presentation: A persuasive speech	A speech about something you feel strongly about. Make us believe how correct and important your opinion is.
12	Developing your work:	Adding passion and emotion to your words. Speaking with your whole body - examples and practise.
13	Final practise	Looking again at body language and voice.
14	Presentation & Semester review	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to find their own research materials, write presentations and prepare visual materials including Keynote or PowerPoint slides. Students will be asked to watch some speeches and share their impressions in class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

The above may change. Activities may change according to class size, students' interests and abilities. There is no textbook.

【参考書】

Recommended places to watch presentation examples are; the peckakucha, TED and Jack Petchey Foundation websites.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 25%

Presentations 45%

Self evaluation 10%

Outside class preparation 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested more computer presentations.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. You will need to use colour pens, large poster paper, slide making software such as PowerPoint or Keynote. You will need to access your smartphone, tablet, or PC to watch presentation examples and do quick research in class. You will need an English dictionary.

【その他の重要事項】

Please come to class ready to participate actively and positively.

【Outline and objectives】

Make your speeches and presentations better.

LANe200LA

English Presentation I

2017 年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法文営国 1~4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course teaches presentation skills through watching presentations and making presentations on different topics.

【到達目標】

Students will be able to prepare and make presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include individual work, group work and discussions. Students will be required to prepare presentation material outside of classes. Students will compare class assignment answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Review syllabus and textbook
2	Getting ready (Pages 2-7)	Give Self introduction
3	Unit 1 A good friend (Pages 8-11)	- Exploring the topic - Focusing on language
4	Unit 1 A good friend (Pages 12-15)	- Organizing ideas - Adding impact techniques
5	Unit 1 A good friend (Pages 16-17)	- Developing presentation
6	Unit 1 A good friend (Pages 18-19)	Presentation "A good friend"
7	Unit 2 A favorite place (Pages 20-23)	- Exploring the topic - Focusing on language
8	Unit 2 A favorite place (Pages 24-27)	- Organizing ideas - Adding impact
9	Unit 2 A favorite place (Pages 28-29)	- Developing presentation techniques
10	Unit 2 A favorite place (Pages 30-31)	Presentation - "My Favorite Place"
11	Unit 3 A prized possession	- Exploring the topic - Focusing on language - Organizing ideas
12	Unit 3 A prized possession	- Adding impact - Developing presentation techniques
13	Unit 3	Presentation - "My Prized Possession"
14	Make-up Presentations/ Course Review	Finalize spring semester course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 1 Experiences, Second Edition (Steven Gershon, Cambridge University)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on two components:

- Presentations - 75%
- Class participation - 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student input and feedback is encouraged.

【Outline and objectives】

Students will develop confidence in their public speaking abilities.

LANe200LA

English Presentation II

2017 年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course teaches presentation skills through watching presentations and making presentations on different topics.

【到達目標】

Students will be able to prepare and make presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include individual work, group work and discussions. Students will be required to prepare presentation material outside of classes. Students will compare class assignment answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Review syllabus and textbook
2	Getting ready (Pages 2-7)	Give Self introduction
3	Unit 4 A memorable experience (Pages 44-47)	- Exploring the topic - Focusing on language
4	Unit 4 A memorable experience (Pages 48-51)	- Organizing ideas - Adding impact
5	Unit 4 A memorable experience (Pages 52-53)	- Developing presentation techniques
6	Unit 4 A memorable experience (Pages 54-55)	Presentation - "My Memorable Experience"
7	Unit 5 I'll show you how (Pages 56-59)	- Exploring the topic - Focusing on language
8	Unit 5 I'll show you how (Pages 61-63)	- Organizing ideas - Adding impact
9	Unit 5 I'll show you how (Pages 64-65)	- Developing presentation techniques
10	Unit 5 I'll show you how (Pages 66-67)	Presentation - "How to _____"
11	Unit 6 Screen magic (Pages 68-73)	- Exploring the topic - Focusing on language - Organizing ideas
12	Unit 6 Screen magic (Pages 73-77)	- Adding impact - Developing presentation techniques

13	Unit 6 Screen magic (Pages 78-79)	Presentation - "Movie or TV Show Review"
14	Make-up Presentations/ Course Review	Finalize fall semester course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 1 Experiences, Second Edition (Steven Gershon, Cambridge University Press)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on two components:

- Presentations - 75%
- Class participation - 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student input and feedback is encouraged.

【Outline and objectives】

Students will develop confidence in their public speaking abilities.

LANe200LA

English Presentation I

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法文営国 1~4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【到達目標】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国
際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学
部：DP1

【授業の進め方と方法】

Online class. All classes will be taught using zoom.

The content of the class will consist of practicing presentation techniques and delivering presentations. If time permits, there will be some discussion of the presentation topics. Student assignments will be reviewed during class time or submitted to instructor for evaluation by email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	1. Introductions HW/text pgs. 4-12	Talk about spring break. Getting started.
2	2. Text pgs. 13-14, 15-17, 18-22 HW/informative speech (pg. 17) with visuals, posture, eye contact, gestures	Watch sample presentation DVD.
3	3. Performance of informative speech HW/text pgs. 23-24, 28-29	Speech performance and feedback.

4	4. Text pgs. 30-38 HW/demonstration speech (pg. 38) with visuals, posture, eye contact, gestures, voice inflection	Demonstration speech.
5	5. Performance of demonstration speech HW/text pgs. 39-46	Student speech performances.
6	6. Text pgs. 47-48, pgs. 51-55 HW/country comparison (pgs. 49 & 56)	Prepare for country comparison speech.
7	7. Performance of country comparison HW/pgs. 57-59	Student speeches.
8	8. Text pgs. 60-67 HW/speech introduction (pg. 67)	Focus on speech introduction.
9	9. Performance of speech introduction HW/text pgs. 68-72	Speech introduction performances.
10	10. Text pgs. 73-85 HW/speech body (pg. 86)	Focus on speech body.
11	11. Performance of speech body HW/text pgs. 87-94 conclusion (pg. 95)	Student performances of speech body.
12	12. Presentation of conclusion HW/final presentation (pg. 99 steps 1,2,3)	Focus on speech conclusion.
13	Final presentations HW/None	Prepare and perform final presentations
14	Final presentations	End of term evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students will research and prepare their presentations before scheduled classes.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech Student Book MacMillan ISBN 978-4-7773-6271-4

【参考書】

Students will use online resources to research and prepare their presentations.

【成績評価の方法と基準】

Presentations (50%)

Class participation (40%)

Final presentation (10%)

*Students will be expected to attend a minimum of 80% of all classes in order to get credit for this course. This means that you can be absent no more than three times.

Three late arrivals are counted as one absence (up to 29 min.). More than 45 minutes late without a good reason will be counted as absent. Students who are absent or late for a good reason — serious train delays, injury, illness, etc. should provide some evidence to instructor.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

Zoom and headset. Students may use assigned classroom for online classes.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

Students will prepare and deliver presentations during class time.

LANe200LA

English Presentation II

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to make effective presentations on a variety of topics. Students will learn to confidently deliver multimedia informative/descriptive speeches, as well as comparative, demonstrative and argumentative/persuasive presentations. Students will also learn to evaluate the quality and content of others' presentations, to take notes on presentation content, and to provide detailed feedback to help presenters to improve their presentation technique.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The content of the class will consist of practicing presentation techniques and delivering presentations. If time permits, there will be some discussion of the presentation topics. The fall semester of this course will concentrate on the preparation and delivery of persuasive, argumentative and rhetorical speeches. Student assignments will be reviewed during class time or submitted to instructor for evaluation by email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	1. Summer vacation HW/prepare speech on summer vacation	Warm up presentation.
2	2. Presentations on summer vacation HW/read handout parts 1&2	Students deliver their summer vacation presentations.
3	3. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 1	Read background information and answer questions.

4	4. Presentations on topic 1 and discussion HW/read handout parts 1&2	Delivery of speeches.	【Outline and objectives】 Students will prepare and deliver presentations during class time.
5	5. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 2	Read background information and answer questions.	
6	6. Presentations on topic 2 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.	
7	7. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 3	Read background information and answer questions.	
8	8. Presentations on topic 3 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.	
9	9. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 4	Read background information and answer questions.	
10	10. Presentations on topic 4 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.	
11	11. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 5	Read background information and answer questions.	
12	12. Presentations on topic 5 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.	
13	13. Complete handout reading HW/prepare final presentations	Prepare for final presentations.	
14	14. Final presentation	Final performance, summary and evaluation.	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students will research and prepare their presentations before scheduled classes.

【テキスト（教科書）】

LeBeau. Charles. Speaking of Speech Level 2. MacMillan. 2015.

【参考書】

Students will make use of a variety of online resources in the research and preparation of their speeches.

【成績評価の方法と基準】

Presentations (50%)

Class participation (40%)

Final presentation (10%)

*Students will be expected to attend a minimum of 80% of all classes in order to get credit for this course. This means that you can be absent no more than three times.

Three late arrivals are counted as one absence (up to 29 min.). More than 45 minutes late without a good reason will be counted as absent. Students who are absent or late for a good reason — serious train delays, injury, illness, etc. should provide some evidence to instructor.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

LANe200LA

English Presentation I

2017 年度以降入学者

MARK D BURNS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is to develop basic presentation skills. The course provides practice in structuring, and organizing presentations, designing effective visuals, and delivering presentations in clear communicative English. Students will prepare and deliver 7 presentations on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the confidence and basic ability to deliver effective presentations in English. It will help learners become familiar with a number of presentation types and build confidence speaking in front of others. By the end of this course, students will be able to deliver an individual presentation followed by a question and answer session, while engaging the audiences in their topic. Furthermore, students will sharpen their listening skills by learning how to ask good questions and become active listeners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. In presentation weeks students are required to actively listen to other learners' presentations in order to ask relevant questions in the Question & Answer Sessions, and also to complete specific Feedback Forms. Students will be able to get direct feedback on their presentations from these forms.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	Overview of English Presentation I subject and explaining rules for assignment submissions and feedback
Unit 1	Posture	Learners prepare and present a presentation about a city they like
Unit 2	Gesture	Learners prepare and present a presentation describing the layout of an interesting place
Unit 3	Use of voice	Learners prepare and present a presentation about a recipe
Section review	Review of the physical message	Review of the physical message
Unit 4	Effective visuals	Learners prepare a presentation comparing two countries

Unit 5	Explaining visuals	Learners prepare clear explanations for slides and charts
Section review	Review of the visual message	Learners deliver a presentation comparing two countries
Unit 6	Introduction	Learners prepare and present the introduction to a product comparison presentation
Unit 7	Body	Learners prepare and present the the body a product comparison presentation
Unit 8	Conclusion	Learners prepare and present the conclusion to a product comparison presentation
Section review	Review of presentation structure	Review of presentation structure
Final performance preparation	Final performance preparation	Final performance preparation
Final performance	Final performance	Final performance

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students are required to prepare visuals and rehearse 7 presentations over the course.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech New Edition, David Harrington and Charles LeBeau, ISBN 978-4-7773-6271-4

【参考書】

A good Japanese-English dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 presentation assignments (60%)

【学生の意見等からの気づき】

Personalised individual feedback will be provided.

【その他の重要事項】

In principle, no more than 3 absences per term are allowed. Lesson schedule may change depending on student number.

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is to develop basic presentation skills. The course provides practice in structuring, and organizing presentations, designing effective visuals, and delivering presentations in clear communicative English. Students will prepare and deliver 7 presentations on a wide range of subjects and purposes.

LANe200LA

English Presentation II

2017 年度以降入学者

MARK D BURNS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

法文営国 1~4 年/レベル 4 ※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is to further develop basic presentation skills. The course provides practice in structuring, and organizing presentations, designing effective visuals, and delivering presentations in clear communicative English. Students will prepare and deliver 7 presentations on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of written communication in English. It will help learners become familiar with a number of presentation types and build confidence speaking in front of others. By the end of this course, students will be able to deliver an individual presentation followed by a question and answer session, while engaging the audiences in their topic. Furthermore, students will sharpen their listening skills by learning how to ask good questions and become active listeners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. In presentation weeks students are required to actively listen to other learners' presentations in order to ask relevant questions in the Question & Answer Sessions, and also to complete specific Feedback Forms. Students will be able get direct feedback on their presentations from these forms.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	Overview of English Presentation I subject and explaining rules for assignment submissions and feedback
Unit 1	What are the options?	Learners prepare option presentations
Unit 2	Performance 1	Option presentations and peer feedback.
Unit 3	Job hunting	Learners prepare a proposal presentation
Unit 4	Performance 2	Proposal presentations and peer feedback.
Unit 5	Have I got your attention?	Learners prepare sales presentations
Unit 6	Performance 3	Sales presentations and peer feedback.
Unit 7	Technical problems and solutions	Learners prepare technical presentations

Unit 8	Performance 4	Technical presentations and peer feedback.
Unit 9	Cite your sources	Learners prepare academic presentations
Unit 10	Performance 5	Academic presentations and peer feedback.
Unit 11	Creative innovations	Learners prepare team presentations
Unit 12	Performance 6	Team presentations and peer feedback.
End-term review	Final presentations	Final presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students are required to prepare visuals and rehearse 7 presentations over the course.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech Level 2, Charles LeBeau, ISBN 978-4-7773-6515-9

【参考書】

A good Japanese-English dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 presentation assignments (60%)

【学生の意見等からの気づき】

Personalised individual feedback will be provided.

【その他の重要事項】

In principle, no more than 3 absences per term are allowed. Lesson schedule may change depending on student numbers.

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is to further develop basic presentation skills. The course provides practice in structuring, and organizing presentations, designing effective visuals, and delivering presentations in clear communicative English. Students will prepare and deliver 7 presentations on a wide range of subjects and purposes.

LANe200LA

英語アカデミック・リーディング 2017 年度以降入学者
I

岩崎 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 2,3 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術、科学、文化、言語、環境、歴史など様々な分野を扱う論文を読む。英文を読み解くことによって新しい視点、刺激的な世界観に触れる。個々の論文には難解なものもあるが、それを読み解き理解する喜びを体験したい。パラグラフの論理的な構造に目を向け、その趣旨を的確につかむことによって、多量の英文を読みこなす能力を養う。特に、トピックセンテンスを中心に、文章を要約する方法を学ぶ。また、読んで理解した内容を、口頭で的確に表現できるようにしたい。

【到達目標】

パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようになる。

理解した内容を口頭で言い表すことができるようになる。

英語の論理的思考が、抽象から具体へと展開することを理解する。パラグラフのトピックとそれを詳述する細部との関係を理解する。トピックを理解することにより、細部に理解できないところがあっても、パラグラフの論旨を大まかにつかみ取る能力を身につける。抽象的な表現を具体的に理解する読み方を身につける。

レトリックを読み解く技術を身につける。

意味が文脈によって産出されることを理解する。

抽象的な表現の具体的内容を理解する方法を学ぶ。

テキストを批判的に読み解く技術を学ぶ。

辞書を引く意味を理解する。

辞書が活用できるようになる。

最終的に、多量の論文を効果的に読み解くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学生による要約と和訳の発表で授業を進める。不明な点、問題点があれば、全員で話し合いそれを解決して行く。各論文を読み終わった後、それに関する論評を発表しクラス全体で議論する。

フィードバックに関しては、発表するたびに教師がコメントを出し、それに基づいて発表内容を修正し、翌週に修正したものを提出する。学期末試験の答案に解説・コメントをつけて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明。	授業に関する説明の後、パラグラフの構造について理解する。

2	Session 1 What a Painting Can Tell Us 本エッセイの展望	この論文では、絵画に隠された物語を読み解く際の、筆者の論理的展開の方法に注意し、芸術作品の解釈の方法や説得力のある主張の仕方を学ぶ。リーディングスキルとしては、パラグラフの構造を理解する。筆者の主張を裏付けるトピックセンテンスと、その根拠を示す支持文を区別することによって、パラグラフの内容を大まかにつかみ要約する力を養い、論理的な文章を効果的に読むことができるようにする。 トピックセンテンスのないパラグラフにもトピックが存在することを理解する。
3	Session 1 What a Painting Can Tell Us パラグラフの構造を学ぶ	パラグラフが主題文、指示文、結論文から成ることを理解し、実際の英文の中でその構造を確認する。これを理解した上で、ピックセンテンスを見つけ、それが何故トピックセンテンスなのか、自分の言葉で説明する。
4	Session 1 What a Painting Can Tell Us パラグラフリーディングの実践	トピックセンテンスと論証部分がどのような関係になっているのか、自分の言葉で説明する。特に最後のパラグラフでは、フェルメールの絵がトピックに対してどのような論拠を与えているのか自分の言葉で説明する。
5	Session 2 Split-Brain Research 本エッセイの展望	What a Painting Can Tell Us に関して自分の意見を発表し、クラスで話し合う。 Session 2 では、右脳・左脳の機能の違いを世に知らしめた有名な事例を紹介する論文を読む。両脳間の機能上の最大の違いは、片方の脳のみが言語を扱うということに起因するという興味深い事実を学ぶ。リーディングスキルとしては、科学的論文の構造を理解する。また、図解を参照しながら英文を読む訓練をする。実験の手順を記述するパラグラフには、トピックセンテンスがないことを理解する。
6	Session 2 Split-Brain Research プロセスの記述を読む	実験の手順を詳細に記述した文を読み、実験の内容を正確に理解する。
7	Session 2 Split-Brain Research 図を見ながら本文を理解する	図と英語の記述を対応させることによって、左脳の構造を視覚的に理解する。
8	Session 2 Split-Brain Research 具体的に読む	実験の結果に関する記述が具体的に実験の何を指し示すのかを理解する。抽象的な記述を具体的に理解し説明する読みを実践する。つまり文脈をたどる訓練をする。

9	Session 9 On Speaking on Speaking 本エッセイの展望	Split-Brain Research に関する意見を発表し、クラスで話し合う。 Session 9 では、言語の変化生成に関する仮説を扱う論文を読む。言語は原初の形を痕跡として残しつつ絶えず変化し続けること、人間には言語を生み出す普遍的能力があることを学ぶ。また、一般的には理解されていない、あらゆる言語に見られる普遍的性質のいくつかを知る。 リーディングスキルとしては、トピックセンテンスと支持文の関係をより深く理解し、筆者の主張をより正確に把握する能力を養う。パラグラフの内容を自分の言葉で要約できるようする。さらに、パラグラフ間のつながりにも留意することによって、論理の展開の仕方を学ぶ。 言語は絶えず変化すること、しかも原初の要素を残しながら、別の言語に変わってしまうかのように変化していくことを知る。 言語の変化の担い手が子どもだという事実を検証する。 形式主語の it を見破る方法を学ぶ。
10	Session 9 On Speaking on Speaking 言語とは何か	
11	Session 9 On Speaking on Speaking 言語変化の担い手は誰か	
12	Session 14 Teenage Nation 本エッセイ展望	On Speaking on Speaking に関して自分の意見を発表し、クラスで話し合う。 Teenager という概念が現れた背景を歴史的に考察する論文を読む。Teenager の出現には、産業革命による労働形態の変化、教育の普及、大量消費社会の到来など、大きな社会的変革が関わっていることを理解する。現在では常識とされている事柄でも、過去においては極めて希少・斬新であったことを知るにより、新たな事実を理解するためには現在の常識を疑わなくてはならないということを知る。 リーディングスキルとしては、パラグラフ内の論理的展開に留意することにより論拠の妥当性を緊密に検証し、批判的に文章を読む術を学習する。
13	Session 14 Teenage Nation 子供が存在と教育の関係	ティーンネージャーという概念出来上がった背景には、子供が労働力から教育を受ける存在に変わったという事実があることを知る。
14	試験日	春学期試験を行う。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。
予習としては、テキストの該当箇所を読み、各パラグラフごとに簡単なメモを作成し、それを見ながら内容の要約・説明ができるようにする。特にトピックセンテンスと論証部分の関係性を自分の言葉で説明できるように準備する。
復習としては、授業で扱ったパラグラフの構造を復習し理解した上で、最低 5 回は読み返す。
各エッセイを読み終えた後、自分の意見を発表できるよう準備する。

【テキスト（教科書）】

『The Universe of English』東京大学英語教室編（東京大学出版会）

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 40 パーセント、試験 60 パーセントの比率で評価する。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まる。一度休むごとに平常点から 2 点ずつ引いていく。
4 回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めない。
原則的に遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの発言の機会を増やそうと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書持参のこと。

【その他の重要事項】

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、授業中私語をするなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。辞書を持参して下さい。教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve reading skills by understanding the basic logical structure of a paragraph in academic essays. Participants learn what kinds of connection a topic sentence and its supporting details make in each paragraph and make a summary of it. Participants are expected to read each essay critically and express their opinions in class. This course also helps students learn how to use dictionaries.

LANe200LA

英語アカデミック・リーディング 2017 年度以降入学者Ⅱ

岩崎 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 2,3 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術、科学、文化、言語、環境、歴史など様々な分野を扱う論文を読む。論文を読み解くことによって新しい視点、刺激的な世界観に触れる。個々の論文には難解なものもあるが、それを読み解き理解する喜びを体験したい。パラグラフの論理的な構造に目を向け、その趣旨を的確につかむことによって、多量の英文を読みこなす能力を養う。特に、トピックセンテンスを中心に、文章を要約する方法を学ぶ。また、読んで理解した内容を、口頭で的確に表現できるようにしたい。

【到達目標】

パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようになる。

理解した内容を口頭で言い表すことができるようになる。

英語の論理的思考が、抽象から具体へと展開することを理解する。パラグラフのトピックとそれを詳述する細部との関係を理解する。細部に理解できないところがあっても、トピックを理解することにより、パラグラフの論旨を大まかにつかみ取る能力を身につける。抽象的な表現を具体的に理解する読み方を身につける。

レトリックを読み解く技術を身につける。

意味が文脈によって産出されることを理解する。

テキストを批判的に読み解く技術を学ぶ。

辞書を引く意味を理解する。

辞書が活用できるようになる。

最終的に、多量の論文を効果的に読み解くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学生による要約と和訳の発表で授業を進める。不明な点、問題点があれば、全員で話し合いそれを解決して行く。各論文を読み終わった後、それに関する論評を発表しクラス全体で議論する。

フィードバックに関しては、発表するたびに教師がコメントを出し、それに基づいて発表内容を修正し、翌週に修正したものを提出する。学期末試験の答案に解説・コメントをつけて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	パラグラフの構造を理解する。

2	Session 17 Ecology 本エッセイの展望	エコロジーの入門書論文を読む。この論文はコンパクトながら、エコロジーの定義から始まり、生物圏の区分、食物連鎖、生物濃縮、生態遷移などに言及し、エコロジーの最も重要な分野をわかりやすく解説している。また、生態学的知識を吸収することによって、現在我々を取り巻く環境問題を考える。 リーディングスキルとしては、トピックセンテンスの無いパラグラフのトピックを理解する術を学ぶ。
3	Session 17 Ecology 概念を定義するタイプのパラグラフ	ある概念の定義を行うパラグラフ構造を知る。
4	Session 17 Ecology 抽象と具体の説得力	エコロジーの定義と具体例を読み、両者の関係と説得力について考える。
5	Session 17 Ecology 内容を要約できないパラグラフに関する説明	トピックがはっきりせず要約不能なパラグラフでも、そこには作者の意図があることを知り、それを言葉で説明する。 生態遷移という概念を具体例から理解する。
6	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy 本エッセイの展望	コロンブスが歴史上の偉人から、南米を侵略し社会を破壊した悪人に評価が変わった原因を考察する論文を読む。この論文は、コロンブスの評価の変化の背景を追うことによって、歴史そのものがいかに作り出されるかということにも言及しており、極めて興味深い。歴史が産出される構造を知ることで、歴史的事実とは決して客観的事実ではなく、政治的意図が反映されたものの見方、すなわちある特権的な視点から事象を見るひとつの解釈であることを理解し、ひいては歴史とは何かを考察する。 リーディングスキルとしては、論理的に難解な文章を読む際に必要な文脈のたどり方に重点を置く。ある文の意味を理解するということは、その文脈を理解することであるということ、言い換えると、文の意味は文脈によって作り出されるという基本的事実を理解する。
7	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy クロノジカルな記述を読む	パラグラフ内に一見トピックと関係ないように見える文も、必ずトピックと関連付けられていることを知り、それを自分の言葉で表現できるよう努力する。 歴史的記述における視点を考える。西洋中心に考えたときの「アメリカ発見」の歴史的意義を学ぶ。 トピックセンテンスの内容が言い換えによって説明されることを学ぶ。 また、主格関係と目的格関係を表す前置詞 of の用法を学び、名詞句の内容を理解できるようにする。

8	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy 歴史とは何か	コロンブスの評価が英雄から人類最悪の男に凋落した理由として筆者が援用する歴史観について考察する。筆者が提示した理論を本文に当てはめると何を読みとることができるのか考えてみる。
9	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy 反コロンブス神話とは	コロンブス以前のアメリカが理想郷として描き出されている現状の背後に隠された意図を知り、それを批判する。
10	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy コロンブスとは何なのか	コロンブスが「歴史的コマ」として、現代の政治ゲームの中でどのように利用されているか、具体的に記述の中で理解する。。 「発見」された側がコロンブスを歴史上傑出した悪人だと非難する、本当の理由を知る。
11	Session 11 Disneyland: America's Sacred Land 本エッセイの展望	ディズニーランドの人気の理由を論じるエッセイを読む。ディズニーランドの背後には、アメリカを中心とした歴史観、アメリカを代表する中西部の白人中流階層の保守的な理念があることを学ぶ。 リーディングスキルとしては、エッセイ内のパラグラフ群が互いにどのような関係になっていて、どのように有機的な読み物を作り上げているのかを考察し、エッセイ全体のテーマを理解する術を学ぶ。 トピックセンテンスの無いパラグラフに埋め込まれているトピックを考える。
12	Session 11 Disneyland: America's Sacred Land ディズニーランド人気の理由	ディズニーの世界観がどのようにディズニー・ランドに反映されているのかを知る。 また、エッセイ冒頭で示されたテーマとの関係を考察する。
13	Session 11 Disneyland: America's Sacred Land ディズニーランドの神話的意義	ディズニーランドが単なるレジャーランドを超えて、アメリカの神話作りに貢献しているという説の論拠を知る。 また、エッセイ冒頭で示されたテーマと各パラグラフの関連を考えることによって、エッセイ全体の構造とその主張をより深く理解する。
14	試験日	秋学期試験を行う。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。
予習としては、テキストの該当箇所を読み、各パラグラフごとに簡単なメモを作成し、それを見ながら内容の要約・説明ができるようにする。特にトピックセンテンスと論証部分の関係性を自分の言葉で説明できるように準備する。
復習としては、授業で扱ったパラグラフの構造を復習し理解した上で、最低 5 回は読み返す。
各エッセイを読み終えた後、自分の意見を発表できるよう準備する。

【テキスト（教科書）】

東京大学英語教室編『The Universe of English』（東京大学出版会）

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 40 パーセント、試験 60 パーセントの比率で評価する。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まる。一度休むごとに平常点から 2 点ずつ引いていく。
4 回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めない。
原則的に遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学生が話し合って問題を解決する機会を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

辞書持参のこと。

【その他の重要事項】

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、授業中私語をするなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。辞書を持参して下さい。教師と学生の対話を通して、適度楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve reading skills by understanding the basic logical structure of a paragraph in academic essays. Participants learn what kinds of connection a topic sentence and its supporting details make in each paragraph and make a summary of it. Participants are expected to read each essay critically and express their opinions in class. This course also helps students learn how to use dictionaries.

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

久慈 美貴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 3,4 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC Test listening part の速度に慣れ、重要点（設問部分）をチェックできるよう練習したい。
自習用オーディオファイルを何度も聞いて、音と速さ、設問形式になじんでほしい。

【到達目標】

TOEIC Test の listening part の速度に慣れ、単語ではなくフレーズの塊を聞き取れるようになる。
既習の文法事項を復習し再確認する。
ビジネス関連の語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの各ユニットにおける重要単語と設問をあらかじめ確認して解答を提出していただき、授業ではその解説を行い、質問を受け付けます。課題のフィードバックは、対面授業では授業時に提出用紙を返却し、学習支援システムで提出していただいた場合は支援システムを通して行います。予習していただいた課題の提出が必須となります。大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	preparation test	プリントを配布し TOEIC テストの形式を確認する
2	U.1 Arts & Amusement 名詞と代名詞	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。名詞と代名詞の使い方を復習する。
3	U.2 Lunch & Parties 形容詞と冠詞	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。形容詞と冠詞の使い方を復習する。
4	U.3 Medicine & Health 副詞	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。副詞の復習。
5	U.4 Traffic & Travel 比較級	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。比較級の使い方に注意。
6	U.5 Ordering & shipping 動詞の時制	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。動詞の時制に注意する。
7	U.6 Factories & Production 未来表現	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。未来表現を復習する。idiom review プリントを配布する。
8	U.7 Research & Development 主語と動詞の呼応	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。主語と動詞の呼応に注意する。

9	U.8 Computers & Technology 能動態と受動態	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。能動態と受動態の使い方を復習する。
10	U.9 Employment & Promotions 不定詞と動名詞	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。不定詞と動名詞の使い方に注意。idiom review プリントを配布。
11	U.10 Advertisement & Personnel 分詞	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。分詞の使い方に注意。
12	U.11 Telephone & Messages 助動詞	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。助動詞を復習する。
13	U.12 Banking & Finance U.13 Office Work & Equipment	ボキャブラリークイズとテキストの問題のチェック。関係詞と接続詞の使い方を復習する。
14	U.14 Housing & Properties U.15 Business & Management Review for Spring Term	春期のまとめ U.14-15 前置詞と条件文の使い方を復習する。 review プリントを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業は準備学習復習時間合わせて 1 時間を標準とします。】) かならず事前の語彙チェックをしましょう。毎回、ユニットの vocabulary build-up から vocabulrly quiz を行います。また、listening 練習用に音声ファイルがダウンロードできますので、繰り返し聞いて問題をチェックしてください。授業時には何度も音声チェックをする時間的な余裕がありませんので、事前にしっかり音を聞いてください。3 ユニット終了するごとに熟語のまとめプリントを配布し、宿題として提出していただきます。そのほか、必要に応じて文法プリントを配布します。

【テキスト（教科書）】

Essential Approach for the TOEIC L&R Test: Revised Edition(成美堂) 2000 円

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

毎回の提出物 80 %、春期のまとめにおける提出物 20 % として総合評価する。ただし、4 回以上欠席した場合、または 4 回分以上課題を提出しない場合、原則として単位の取得を認めない。
提出物の点が評価の大きな割合を占めるので、しっかり予習して点数を積み上げてほしい。テキストのリスニング問題は音声ストリーミング配信で聞くことができるので、何度も聞き、問題を解いてみよう。
ボキャブラリークイズは各ユニットの Vocabulary と Word-Pairs から問題を出すので、しっかり確認し、語義と発音をチェックしておくこと。

【学生の意見等からの気づき】

予習用にリスニングパートのスクリプトを配布していますが、何段階かに分けて使用していただければと思います。
まず音声ファイルのリスニングのみで問題を解いてみる、聞き取りにくい箇所をスクリプトを見ながら再度聞いてみる、スクリプトを見ながら音声ファイルと同時に声を出して読んでみる、というようにです。
じぶんで発音できれば、耳で聞いて意味をとりやすくなります。
プリントは採点して返却しますので、疑問点があれば授業時に質問して下さい。歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない。ただし、辞書は必ず携帯してください（対面授業の際は通信機器は使用しないでください）。語義だけでなく用例から、言葉の使い方をチェックしていただきたいと思います。

【その他の重要事項】

授業時は必ず辞書を携帯すること。
提出物の累計が平常点となるので、欠席しないよう注意してください。

【Outline and objectives】

Try to accustomed to each part of TOEIC questions and to the speed of announcement. You can download listening file on the publisher's website. Please get well-prepared for the class.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017 年度以降入学者

久慈 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 3,4 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音の脱落・連結音など聞き取りにくい音になじみ、より正確に設問の意図をつかむよう練習したい。
必要に応じて文法プリントや追加の reading 問題を配布し、リーディングの基礎を固めていきたい。

【到達目標】

とくに Part III のように会話の流れと設問が前後するような問題でも、聞きながら情報を整理して、回答できるようにする。

Reading part では、設問から記事のポイントを押さえて、重要点を探せるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

予習としてテキスト各ユニットの重要単語を使ったボキャブラリークイズ、テキストのリスニングおよびリーディングパートの解答を毎回提出してもらい、平常点とします。そのほかに Idiom の復習プリントを配布します。授業ではテキストの解説を行い、その際に質問等のフィードバックをします。課題を授業支援システムを通じて提出していただいた場合は、支援システムでフィードバックを行います。大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	U.1 Sightseeing / Guide Tour	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。主語と述語動詞に注意する。
2	U.2 Restaurant	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。人称の単数・複数に注意。
3	U.3 Hotel / Service	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。動詞の時制に注意する。idiom review プリントを配布。
4	U.4 Employment	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。動詞の種類に注意。
5	U.5 Entertainment	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。形容詞用法分詞を復習する。
6	U.6 Shopping / Purchases	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。文の要素に注意する。Idiomu Review プリントを配布する。
7	U.7 Sports / Health	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。補語と目的語に注意する。

8	U.8 Doctor's Office / Pharmacy	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。接続詞の用法に注意する。
9	U.9 Hobbies /Art	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。接続詞の使い方。idiom review プリントを配布。
10	U.10 Education / Schools	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。関係詞に注意する。
11	U.11 Technology / Office Supplies	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。比較級と最上級に注意する。
12	U.12 Transportation	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。仮定法と倒置に注意する。idiom review プリントを配布。
13	U.13 Travel / Airport	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。不定詞と動名詞の使い方に注意する。
14	U.14 Housing / Construction	学期のまとめ
	Review of Autumn Term	Mini Test の解答を提出する。
	Mini Test	Idiomu Review プリントを配布。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習時間は併せて 1 時間を標準とする。】毎回ボキャブラリークイズを行い、テキストの解答も提出してもらいます。事前にテキストの問題にしっかり目を通し、難解な語彙・語法をチェックしておいて下さい。また listening part のスクリプトを配布しますので、出版社のホームページから音声ファイルをダウンロードして、予習に役立ててください。また、テキストの問題に使われている熟語を復習する idiom review のプリントを宿題として配布し、提出してもらいます。（これらも評価点に含まれます。）

【テキスト（教科書）】

Progressive Strategy for the TOEIC L & R Test (成美堂 2000 円)

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

授業時の提出物 80 %、期末試験 20 % として評価する。提出物には各ユニットのボキャブラリークイズ、テキスト問題の解答、宿題として idiom review のプリントが含まれる。平常の提出物の評価割合が大きいので、欠席しないよう気をつけましょう。4 回以上欠席した場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

授業内でできるだけ多くの問題をこなしてもらいたいと考えていますが、もうすこし基本的な文法の復習と説明が必要かと考えています。Listening part の予習の際、何度も繰り返し聞く、スクリプトを参考にして音読する、という練習が必要だと思います。（聞き取るためには発音練習が必要です。）

また、Reading part、特に part VII では速読と重要語句のピックアップが必要になりますが、予習の際にはきちんと文を読み込む、できれば音読する、という準備が必要ではないかと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しない。ただし、リスニングパートの音声は各自ダウンロードまたはストリーミング配信を利用して、予習に使用してください。対面での授業時には CD で音声流しますので、スマートフォン等の通信機器は使用しないでください。

【その他の重要事項】

授業時は辞書を携行してください。対面授業では、毎回授業の最初にボキャブラリークイズを行います。提出物の点数が平常点となるので、遅刻しないよう注意してください。遅刻した場合、回数に応じて欠席にカウントされます。

【Outline and objectives】

In questions of Part III, the questions do not necessarily come to the order of the topic in the conversation. You have to get the information while listening and check up the choices on the page. Please listen to the listening file repeatedly and get accutomed to the reduction of pronunciation.

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

飛田 英伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 3,4 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC Listening & Reading Test においてリスニング 275 点以上、リーディング 325 点以上（合計 600 点以上）を獲得できるレベルを目標に、発話や文章の要点を把握する力の向上を図る。

【到達目標】

- ・英語で何が話されているか、あるいは何が書かれているかをできるだけ早く把握できるようになる。
- ・発話を聞きながら、あるいは文章を読みながら、話の流れを推測することができるようになる。
- ・発話や文章の要点を見つけることができるようになる。
- ・発話の要点をつかむのに必要となる基礎的なリスニング能力を習得する。
- ・発話や文章の要点をつかむのに必要となる基本的な語彙や文法を習得する。
- ・ビジネスで使われるような単語や表現を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

<重要>この授業は【ハイブリッド型（オンライン+対面）】です。当面はオンライン授業と対面授業を交互に行う予定ですが、感染の収束が見込まれる場合はオンライン授業の回を対面授業に変更することもあり得ます。なお、オンライン授業では Zoom を使用します。詳細は第 1 回の授業でお伝えします。

ユニット 1 つにつき、2 回の授業を充てる。1 回目の授業は【オンライン授業】とし、教科書の問題を解いて学習支援システムに答案を提出してもらう。2 回目の授業は【対面授業】とし、問題の解説を行う。また、2 回目の授業の最初に、単語（教科書の Vocabulary Check）の確認テストとリスニングの確認（穴埋め）テストを行う。なお、提出した課題等は評点・コメントを付して返却することでフィードバックを行う。また、リアクションペーパーの代わりに学習支援システムを使用し、授業でわからなかったところを書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	【オンライン（Zoom）】授業の内容・進め方についての説明
2	Unit 1: Restaurant	【オンライン】問題演習
3	Unit 1: Restaurant	【対面】小テスト、解説
4	Unit 2: Department Store	【オンライン】問題演習
5	Unit 2: Department Store	【対面】小テスト、解説
6	Unit 3: Train Station	【オンライン】問題演習
7	Unit 3: Train Station	【対面】小テスト、解説
8	Unit 4: Transportation	【オンライン】問題演習

9	Unit 4: Transportation	【対面】小テスト、解説
10	Unit 5: Post Office	【オンライン】問題演習
11	Unit 5: Post Office	【対面】小テスト、解説
12	Unit 6: Bank	【オンライン】問題演習
13	Unit 6: Bank	【対面】小テスト、解説
14	期末試験	【対面】試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】教科書の Vocabulary Check を解く。

【復習】教科書の Vocabulary Check の単語を覚える。リスニング音声聞き、重要な箇所を聞き取れるようにしておく。次回の授業で単語とリスニングの確認テストを行う。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC L&R TEST（石井隆之ほか、成美堂、2020 年、2200 円＋税）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト、受講態度）40%

期末試験 60%

欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は対面授業を設け、受講生同士で議論できるような場を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子辞書可）。

学習支援システムと Zoom を使用する。対面授業の際には、スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器を持参してほしい。

【その他の重要事項】

リスニングの音声の視聴方法については、教科書を参照のこと。また、第 1 回の授業の際に説明する。

第 1 回の授業は【オンライン（Zoom）】で実施します。なお、授業に関する最新の情報は学習支援システムに掲載するので、そちらも必ず確認してください。

【Outline and objectives】

Students will improve their skills to grasp the key points of the topics spoken or written in English, which will enable them to achieve scores higher than 275 in listening, 325 in reading, and 600 in total.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017 年度以降入学者

飛田 英伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 3,4 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC Listening & Reading Test においてリスニング 275 点以上、リーディング 325 点以上（合計 600 点以上）を獲得できるレベルを目標に、発話や文章の要点を把握する力の向上を図る。

【到達目標】

- ・英語で何が話されているか、あるいは何が書かれているかをできるだけ早く把握できるようになる。
- ・発話を聞きながら、あるいは文章を読みながら、話の流れを推測することができるようになる。
- ・発話や文章の要点を見つけることができるようになる。
- ・発話の要点をつかむのに必要となる基礎的なリスニング能力を習得する。
- ・発話や文章の要点をつかむのに必要となる基本的な語彙や文法を習得する。
- ・ビジネスで使われるような単語や表現を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

<重要>この授業は【ハイブリッド型（オンライン＋対面）】です。当面はオンライン授業と対面授業を交互に行う予定ですが、感染の収束が見込まれる場合はオンライン授業の回を対面授業に変更することもあります。なお、オンライン授業では Zoom を使用します。詳細は第 1 回の授業でお伝えします。

ユニット 1 つにつき、2 回の授業を充てる。1 回目の授業は【オンライン授業】とし、教科書の問題を解いて学習支援システムに答案を提出してもらう。2 回目の授業は【対面授業】とし、問題の解説を行う。また、2 回目の授業の最初に、単語（教科書の Vocabulary Check）の確認テストとリスニングの確認（穴埋め）テストを行う。なお、提出した課題等は評点・コメントを付して返却することでフィードバックを行う。また、リアクションペーパーの代わりに学習支援システムを使用し、授業でわからなかったところを書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	【オンライン（Zoom）】授業の内容・進め方についての説明
2	Unit 7: Airport	【オンライン】問題演習
3	Unit 7: Airport	【対面】小テスト、解説
4	Unit 8: Hotel	【オンライン】問題演習
5	Unit 8: Hotel	【対面】小テスト、解説
6	Unit 9: Hospital	【オンライン】問題演習
7	Unit 9: Hospital	【対面】小テスト、解説
8	Unit 10: Events and Performances	【オンライン】問題演習
9	Unit 10: Events and Performances	【対面】小テスト、解説
10	Unit 11: College	【オンライン】問題演習
11	Unit 11: College	【対面】小テスト、解説
12	Unit 12: Office	【オンライン】問題演習

13	Unit 12: Office	【対面】小テスト、解説
14	期末試験	【対面】試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】教科書の Vocabulary Check を解く。

【復習】教科書の Vocabulary Check の単語を覚える。リスニング音声聞き、重要な箇所を聞き取れるようにしておく。次回の授業で単語とリスニングの確認テストを行う。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC L&R TEST（石井隆之ほか、成美堂、2020 年、2200 円＋税）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト、受講態度）40%

期末試験 60%

欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は対面授業を設け、受講生同士で議論できるような場を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子辞書可）。

学習支援システムと Zoom を使用する。対面授業の際には、スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器を持参してほしい。

【その他の重要事項】

リスニングの音声の視聴方法については、教科書を参照のこと。また、第 1 回の授業の際に説明する。

第 1 回の授業は【オンライン（Zoom）】で実施します。なお、授業に関する最新の情報は学習支援システムに掲載するので、そちらも必ず確認してください。

【Outline and objectives】

Students will improve their skills to grasp the key points of the topics spoken or written in English, which will enable them to achieve scores higher than 275 in listening, 325 in reading, and 600 in total.

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

鈴木 理枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 2,3 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、TOEIC TEST650 点以上を目標に掲げる学生を対象とする。TOEIC TEST 受験に最低限必要な語彙力と文法の基礎知識の蓄積及び問題演習による解答テクニックの習得を目指す。またビジネスで必要な英語表現を習得して、実践力を養うことを目的とする。

【到達目標】

- ・ TOEIC TEST を受験して、650 点以上を獲得する。
- ・ 社会で英語を使用して働けるように、基本表現を身につける。
- ・ ビジネスに関連する語彙、表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

TOEIC 試験に関連するテキストを使用する。各 Unit 毎に TOEIC 試験に出題されるトピックに出てくる語彙と表現を学ぶ。学び方として、通訳訓練法の‘Quick Response’、‘Shadowing’、‘Repeating’、‘Slash Reading’を用い、訓練していく。ペアワーク、発表中心の演習授業になるため、積極的に参加できる学生の履修を希望する。授業内での発表に対して、口頭でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 自己紹介ゲーム	授業の目的、目標、進め方、成績のつけ方について解説する。自己紹介ゲーム。
2	Unit 1 人物の動作表現 Part 1	Vocabulary Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
3	Unit 1 品詞・代名詞の練習問題 Part 5	通訳訓練法を用いて、通訳練習 Quick Response, Shadowing, Slash Reading 発表
4	Unit 2 疑問詞で始まる疑問文 Part 2	Vocabulary Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
5	Unit 2 態・分詞の練習問題 Part 5	Vocabulary Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
6	Unit 3 店・ホテルでの会話 Part 3	Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST

7	Unit 3 読解の基礎を身につける Part 7	Vocabulary Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
8	Unit 4 留守番電話 part 4	Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
9	Unit 4 詳細情報を特定する Part 7	Vocabulary Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
10	Unit 5 物に関する描写問題 Part 1	Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
11	Unit 5 話の展開を読み取る Part 7	Vocabulary Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
12	Part 6 Yes/No 疑問文・選択疑問文 Part 2	Vocabulary Dictation Training Point 解説 Training for the TOEIC TEST
13	Part 6 接続詞・前置詞問題 Part5	通訳訓練法を用いて、通訳練習 Quick Response, Shadowing Slash Reading 発表
14	期末試験 正答解説	期末試験 正答解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講するにあたって、必ず予習して授業に臨むこと。
辞書を持参すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Mastery Drills for The TOEIC L&R Test』All in One Advanced Target 650
Koji Hayakawa
Kiriara Shoten, 2019
1,850 円＋税

【参考書】

TOEIC テスト公式問題集 新形式問題対応編

【成績評価の方法と基準】

平常点：40% 授業への積極的参加、発表の結果。他に授業中に実施する実践的な練習問題についても回収して平常点に加える。
期末試験：60%（TOEIC テスト形式）
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

発表中心の双方向の授業に対して、学生からの高評価をもらい、今後も英語力と同時に積極性を身につける授業を展開していく。

【Outline and objectives】

This class targets the students who want to get more than 650 points for the TOEIC Test. The aim of the course is to acquire the Reading and Listening skills for the TOEIC test. Students will learn the basic knowledge of vocabulary and grammar which is necessary for the test. Also students will learn the practical business English expressions.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017 年度以降入学者

鈴木 理枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 2,3 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に続き、この授業では TOEIC TEST で 650 点以上を目標に、このレベルに必要とされる知識の蓄積と、問題演習による解答テクニックの習得を目指す。社会で必要とされる知識を身につける。また、ビジネスで必要な実践的な英語表現を習得することを目的とする。

【到達目標】

- ・ TOEIC TEST を受験して、650 点以上を獲得する。
- ・ 社会で英語を使用して働けるように、基本表現を身につける。
- ・ ビジネスに関連する語彙、表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

TOEIC 試験に関連するテキストを使用する。各 Unit 毎に TOEIC 試験に出題されるトピックに出てくる語彙と表現を学ぶ。学び方として、通訳訓練法の'Quick Response'、'Shadowing'、'Repeating'、'Slash Reading'を用い、訓練していく。ペアワーク、発表中心の演習授業になるため、積極的に参加できる学生の履修を希望する。授業内での発表に対して、口頭でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス Unit 5 物に関する描写	授業内容、進め方について説明する。 Vocabulary Training Point 解説 Exercise を解く
2	Unit 5 話の展開を読み取る	Training Point 解説 Exercise を解く
3	Unit 6 Yes/No 疑問文・選択疑問文	Vocabulary Training Point 解説 Exercise を解く
4	Unit 6 接続詞・前置詞	Vocabulary Training Point 解説 Training for the TOEIC TEST Exercise を解く
5	スピーチの通訳練習	通訳訓練法を用いて、通訳練習をする。発表。
6	Unit 7 日常生活における会話	Training Point 解説 Training for the TOEIC TEST Exercise を解く
7	Unit 7 内容は悪問題に挑戦する。	Vocabulary Training Point 解説 Exercise を解く
8	Unit 8 アナウンス・宣伝	Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
9	Unit 8 語彙問題・その他	Vocabulary Training Point 解説 Exercise を解く

10	Unit 9 ステートメント・付加 疑問文	Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
11	Unit 9 時勢・代名詞・語彙	Vocabulary Training Point 解説 Training for the TOEIC TEST Exercise を解く
12	Unit 10 オフィスでの会話	Training Point 解説 Dictation Exercise を解く
13	Unit10 マルチプルパッセージ (2 つの文書)	Vocabulary Training Point 解説 Training for the TOEIC TEST Exercise を解く
14	期末試験 正答解説	期末試験 正答解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講するにあたって、必ず予習して授業に臨むこと。
辞書を持参すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1
時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Mastery Drills for The TOEIC L&R TEST』All in One
Advanced
Koji Hayakawa
kiri-hara Shoten, 2019
1,850 円＋税

【参考書】
TOEIC テスト公式問題集 新形式問題対応編

【成績評価の方法と基準】
平常点：40% 授業への積極的参加、発表の結果。他に授業中に実
施する実践的な練習問題についても回収して平常点に加える。
期末試験：60%（TOEIC テスト形式）
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
発表中心の双方向の授業に対して、学生からの高評価をもらい、今
後も英語力と同時に積極性を身につける授業を展開していく。

【Outline and objectives】
Continuing from the previous term, this class targets the
students who want to get more than 650 points for the TOEIC
Test. The aim of the course is to acquire the Reading and
Listening skills for the TOEIC test. Students will learn
the basic knowledge of vocabulary and grammar which is
necessary for the test. Also students will learn the practical
business English expressions.

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 2,3 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
TOEIC(R)650 点を目標として、文法事項、リスニングを中心として
学んでいく。従って、予習することが前提となるが、復習に重点を
置いてもらいたい。特に、リスニングは毎日自宅学習すること。自
分で勉強計画を立て、成果がわかるよう、最低 1 回は受験して、勉
強計画を修正する。また、その結果をレポートにまとめる。そのた
めには、できれば通年受講が望ましい。
この授業を受講する学生は、必ず第一回目の授業に出席すること。

【到達目標】
大学生の TOEIC(R) 全国平均（400 点台後半）以上の点を最低取れ
るようにして、実際に 500 点台の英単語を書けるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
た能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国
際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学
部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求
める。従って、毎回必ず予習することを前提として、復習に重点を
おいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノー
トを必ず持ってくる。また、授業用ノートのほかに、自宅学習
用の単語帳、練習帳を用意すること。
対面授業の際はその都度コメントを、またオンラインの場合は Hoppii
にてフィードバックを行う。
クラスの定員（およそ 30 名）以上になる場合は受講の必要度を考
慮して選抜することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進み方を詳しく説明してい く
2	文法説明	TOEIC(R) で必要とする基礎的
3	第 1 課	文法の説明
	第 1 課	リスニング
4	第 1 課 芸術と娯楽	美術館などでの会話
		音の脱落
		文中の [h], 語尾の [t], [p] など
		リーディング
5	第 2 課 ランチとパーティ	名詞&代名詞
		第 1 課小テスト
6	第 2 課 ランチとパーティ	リスニング
		ランチ、ディナー、パーティなど での会話
		[there is, come in, turn on] など に見られるリンクング
6	第 2 課 ランチとパーティ	リーディング
		形容詞&冠詞

7	第3課 医療と健康	第2課小テスト リスニング 健康問題、病院などでの会話 [call on, drop in, make up, nput on] などに見られる子音と母音の連結 リーディング 副詞
8	第3課 医療と健康	第3課小テスト リスニング 電車・バスなどでの会話 [did you, meet you, miss you, as you know] などに見られる音の混合 リーディング 比較
9	第4課 交通と旅行	第4課小テスト リスニング 郵便局やネットショッピングなどでの会話 [twenty, butter, got to] などに見られる [t 音] の変化 リーディング 動詞&時制
10	第4課 交通と旅行	第5課小テスト リスニング 工場や製造に関する会話
11	第5課 注文と輸送	第5課小テスト リスニング 授業で学んだことを試験する。まとめと解説
12	第5課 注文と輸送	
13	第6課 工場と製造	
14	授業時試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
リスニング（教科書付属の CD その他）
自分で単語帳を作って英単語を覚える

【テキスト（教科書）】

Essential Approach For The TOEIC L&R TEST 成美堂
2,000 円
ISBN978-4-7919-7189-3

【参考書】

学校語彙で学ぶ TOEIC テスト【単語集】
成美堂（1700 円）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 % 小テスト 10 % レポート課題・発言点 10 %。
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
※今年は異例の授業設定ですので、教室での授業が行われない場合は、4 回以上の課題提出の合算にて評価します。
平常授業が行われる場合は、シラバスに記入されている方法にて評価を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでの質問等への対応を早めに行う。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to acquire the reading and listening skills for the TOEIC L&R Test. Students will learn the basic knowledge of vocabulary and grammar which is necessary for the TOEIC TEST.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017 年度以降入学者

鈴木 理枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国 1～4 年/レベル 2,3 ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に続き、この授業では TOEIC TEST で 650 点以上を目標に、このレベルに必要とされる知識の蓄積と、問題演習による解答テクニックの習得を目指す。社会で必要とされる知識を身につける。また、ビジネスで必要な実践的な英語表現を習得することを目的とする。

【到達目標】

- ・ TOEIC TEST を受験して、650 点以上を獲得する。
- ・ 社会で英語を使用して働けるように、基本表現を身につける。
- ・ ビジネスに関連する語彙、表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

TOEIC 試験に関連するテキストを使用する。各 Unit 毎に TOEIC 試験に出題されるトピックに出てくる語彙と表現を学ぶ。学び方として、通訳訓練法の'Quick Response'、'Shadowing'、'Repeating'、'Slash Reading'を用い、訓練していく。ペアワーク、発表中心の演習授業になるため、積極的に参加できる学生の履修を希望する。授業内での発表に対して、口頭でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス Unit 5 物に関する描写	授業内容、進め方について説明する。 Vocabulary Training Point 解説 Exercise を解く
2	Unit 5 話の展開を読み取る	Training Point 解説 Exercise を解く
3	Unit 6 Yes/No 疑問文・選択疑問文	Vocabulary Training Point 解説 Exercise を解く
4	Unit 6 接続詞・前置詞	Vocabulary Training Point 解説 Training for the TOEIC TEST Exercise を解く
5	スピーチの通訳練習	通訳訓練法を用いて、通訳練習をする。発表。
6	Unit 7 日常生活における会話	Training Point 解説 Training for the TOEIC TEST Exercise を解く
7	Unit 7 内容は悪問題に挑戦する。	Vocabulary Training Point 解説 Exercise を解く
8	Unit 8 アナウンス・宣伝	Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
9	Unit 8 語彙問題・その他	Vocabulary Training Point 解説 Exercise を解く

10	Unit 9 ステートメント・付加 疑問文	Training Point 解説 Dictation Training for the TOEIC TEST
11	Unit 9 時勢・代名詞・語彙	Vocabulary Training Point 解説 Training for the TOEIC TEST Exercise を解く
12	Unit 10 オフィスでの会話	Training Point 解説 Dictation Exercise を解く
13	Unit10 マルチプルパッセージ (2 つの文書)	Vocabulary Training Point 解説 Training for the TOEIC TEST Exercise を解く
14	期末試験 正答解説	期末試験 正答解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講するにあたって、必ず予習して授業に臨むこと。
辞書を持参すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Mastery Drills for The TOEIC L&R TEST』All in One
Advanced
Koji Hayakawa
kiri-hara Shoten, 2019
1,850 円＋税

【参考書】

TOEIC テスト公式問題集 新形式問題対応編

【成績評価の方法と基準】

平常点：40% 授業への積極的参加、発表の結果。他に授業中に実施する実践的な練習問題についても回収して平常点に加える。
期末試験：60%（TOEIC テスト形式）
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

発表中心の双方向の授業に対して、学生からの高評価をもらい、今後も英語力と同時に積極性を身につける授業を展開していく。

【Outline and objectives】

Continuing from the previous term, this class targets the students who want to get more than 650 points for the TOEIC Test. The aim of the course is to acquire the Reading and Listening skills for the TOEIC test. Students will learn the basic knowledge of vocabulary and grammar which is necessary for the test. Also students will learn the practical business English expressions.

LANe200LA

Oral Communication I

2017 年度以降入学者

板橋 美也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

環 2～4 年/Intermediate ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で会話を続けられるようになる

【到達目標】

この授業は、英語の文法を知っていても実際の会話でそれを十分活かすことができなかったり語彙数が少なかったりするために、英語での会話が長続きしない、という問題を克服し、初歩的な文型や語彙を用いながら英語での会話を続けるための様々な方法を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書や様々なアクティビティを通して、英語での会話を円滑に進めるための方法を学びます。また、クラスメート同士の友好な関係の中で臆せず会話をすることができるよう、ペア・ワークやグループ・ワークを通して英語を話す機会を設けます。その際、様々な相手と会話ができるように配慮して、毎回教員がペアやグループを指定します。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明。
2	教科書 Unit 1: Tell me more!	会 話で質問を受けたときに Yes. や No. の一言だけで終わらせないよ うにするための練習をします。
3	教科書 Unit 2: Ask for more!	相手の発言に対し、さらに質問をして会話を続ける練習をします。
4	教科書 Unit3: Give me a sign!	相手の発言に対する様々な相づちの表現を練習します。
5	まとめ（1）	ここまで学んだ内容を、アクティビティや補足教材を通しておさらいします。
6	教科書 Unit 5: Are you with me?	相手の発言に賛成・反対の意向を示す練習をします。
7	教科書 Unit 6: How sure are you?	発言内容の確信度を示す様々な表現の練習をします。
8	教科書 Unit 8: In other words	自分または相手が知らない単語を別の単語で置きかえて話す練習をします。
9	まとめ（2）	ここまで学んだ内容を、アクティビティや補足教材を通しておさらいします。
10	教科書 Unit 9: Making it up!	使いたい語を知らない、または忘れてしまったときに、知っている言葉を用いて造語することで伝える練習をします。

11	教科書 Unit 10: Describe it!	伝えたい語を知らないときに、複数のフレーズを用いて説明する練習をします。
12	教科書 Unit 11: Say it another way	伝えたい内容が相手に伝わらなかったときに、別の文で伝える練習をします。
13	全体まとめ	1 学期間を通して学んだ内容を、アクティビティや補足教材などを通しておさらいします
14	期末試験	授業でおぼえた表現方法を用いた試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は毎回の積み重ねで会話のスキルを身に付けていくので、授業で覚えた表現方法を毎回よく復習して、次回以降の授業でも活かすことができるようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Tell Me More! (Macmillan Languagehouse)

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みの積極度 (70%) と期末試験 (30%) から総合的に評価します。欠席 4 回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

英語を楽しんでいただけて、うれしいです。

【Outline and objectives】

Learning English language skills to keep a conversation going

LANe200LA

Oral Communication II

2017 年度以降入学者

板橋 美也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

環 2～4 年/Intermediate ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で語ることができるようになる

【到達目標】

私たちは日常生活で知らず知らずのうちに、自分の経験したこと、見たこと、聞いたことについて、様々な「お話」を語っていますが、同じことを英語でできたら楽しいと思いませんか。この授業は、初歩的な文型や語彙を用いながら英語で「お話」を語るための様々な方法を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書や様々なアクティビティを通して、自分の経験したこと、見たこと、聞いたことについて英語で話す方法を学びます。クラスメート同士の友好的な関係の中で臆せず会話をすることができるように、ペア・ワークを通して英語を話す機会を設けます。その際、様々な相手と会話ができるように配慮して、毎回教員がペアを指定します。また、各 Unit でポイントとなる発音が含まれる短いフレーズを、教員による説明を踏まえて各自発音練習し、練習の成果をスマートフォン・PC 等で録音して提出します。提出の仕方については、第 1 回のガイダンスで説明します。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についての説明。
第 2 回	教科書 Unit 1: Talking about movies 教科書	自分が観た映画のあらすじについて話す練習をします。
第 3 回	教科書 Unit 2: My little accident	自分のついでに経験について話す練習をします。
第 4 回	教科書 Unit 3: was so embarrassed	ある出来事について自分がどのように感じたのかを話す練習をします。
第 5 回	教科書 Unit 4: It made me feel so good	楽しかった出来事について話す練習をします。
第 6 回	教科書 Unit 5: That must have been disappointing	相手の話に関心を持っていることを示す相づちの練習をします。
第 7 回	中間まとめ	ここまで学んだ内容を、アクティビティや補足教材を通しておさらいします。
第 8 回	教科書 Unit 6: I know what you mean	相手の話にコメントをしたり自分の話を付け加えたりする練習をします。

第 9 回	教科書 Unit 7: The day everything went wrong	良くないことが次から次へと起こった経験について話す練習をします。
第 10 回	教科書 Unit 8: We used to have so much fun	子供時代の出来事について話す練習をします。
第 11 回	教科書 Unit 9: She's a brave girl, isn't she?	身の回りの人たちについて話す練習をします。
第 12 回	教科書 Unit 10: Oh, talking about ...	会話に何か話をつけ足したり、知らない単語を説明したりする練習をします。
第 13 回	全体まとめ	1 学期間通して学んだ内容を、アクティビティや補足教材を通しておさらいします。
第 14 回	期末試験	授業でおぼえた表現方法を用いた試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、指定されたテーマ（自分の様々な経験について）で、簡単な作文を英語で書いてきてください。その作文の内容が、その週のレッスンで会話をする際の材料になります。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Tell Me Your Stories (Macmillan Languagehouse)

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みの積極度 (70%) と期末試験 (30%) から総合的に評価します。欠席 4 回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

英語を楽しんでいただけて、うれしいです。

【学生が準備すべき機器他】

発音の録音・提出のためのスマートフォン・PC 等の機器やオンライン環境を準備してください。

【その他の重要事項】

前学期の「Oral Communication I」を取っていないでも受講可能です。

【Outline and objectives】

Learning English language skills to tell stories about yourself

LANe200LA

Oral Communication I

2017 年度以降入学者

R. G. ジェイムズ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

環 2～4 年/Intermediate ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To promote the development of communication skills in English

【到達目標】

To promote the ability of students to interact in English and discuss a wide range of non-specialists topics as they relate to their own experience and opinions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

Lessons are topic-based. Each week students will share experiences and opinions about a topic introduced by the teacher by weekly worksheets, with feedback from the teacher on student answers. Questions will be both direct or discussion-based.

This class will be online. Worksheets will be uploaded weekly to Hoppii and classes will be conducted over Zoom)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction	Description of the course. Mini-lesson or placement test depending on student numbers.
Lesson 2	Family	Discuss family, family life and family members. Task: Pros and cons of living alone
Lesson 3	Friends	Discuss friends from different stages of life. Task: Assessing friendship
Lesson 4	House and Home	Discuss houses, homes and locations. Task: Deciding on a place for a permanent home.
Lesson 5	Transportation	Discuss travel and transport for work and leisure Task: Assessing Japanese public transport.
Lesson 6	Restaurants	Eating out; restaurant dishes, public smoking, cost and recommendation: Task: where to take foreign visitor.
Lesson 7	Mid-term test	Prepare a speech describing your personal lifestyle
Lesson 8	Mid-term test	Present your speech to students and teacher.
Lesson 9	School life	Discuss student lifestyles and study Task: Assessing a university curriculum

Lesson 10	Media and reading	Discuss personal tastes in clothes and fashion Task: Assess the role and usefulness of uniforms
Lesson 11	Fashion	Discuss personal tastes in clothes and fashion Task: Assess the role and usefulness of uniforms
Lesson 12	Sports	leisure or entertainment Task: Assess the relationship of sports and lifestyle.
Lesson 13	Vacations	Discuss memorable vacations. Task: Exploring ideal vacation places and activities.
Lesson 14	Review and test preparation	Review recent topics and prepare 2nd test speech.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Students should follow up lessons by compiling notes on each topic that expands on the new vocabulary and useful language they learned in each lesson. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading materials will be provided by lecturer

【参考書】

Any topic-based elementary conversational English textbook could be studied in conjunction with the course. For vocabulary study, consider a "smart" flashcard app such as "Anki" available for most desktop and mobile platforms.

【成績評価の方法と基準】

2 x essays: one at mid-term and one end-of-term. These essays will express in further detail your opinions about the topics discussed.

2 x 50% = 100%

In addition, students need to follow campus guidelines for attendance: in principle, no more than three (3) absences are permitted in per semester.

【学生の意見等からの気づき】

The topics discussed are a subset of many that could be used that reflect the interests of young people. Recent changes include discussion of online study material, particularly podcasts, the Olympics and comparisons of Eastern and Western culture.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need a Zoom client (app) and headset for online meetings, and to access Hoppii to obtain the weekly uploads.

【その他の重要事項】

Students should check the Hoppii system regularly to obtain any study material necessary for completing weekly tasks.

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to speak fairly fluently about themselves and their life as a student.

LANe200LA

Oral Communication II

2017 年度以降入学者

R. G. ジェイムズ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

環 2～4 年/Intermediate ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To promote the development of communication skills in English

【到達目標】

To promote the ability of students to interact in English and discuss a wide range of non-specialists topics as they relate to their own experience and opinions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

Lessons are topic-based. Each week students will share experiences and opinions about a topic introduced by the teacher by weekly worksheets, with feedback from the teacher on student answers. Questions will be both direct or discussion-based.

This class will be online. Worksheets will be uploaded weekly to Hoppii and classes will be conducted over Zoom)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction	Description of the course. Mini-lesson or placement test depending on student numbers.
Lesson 2	Movies	Discuss movie genres and favorite examples Task: Movie review.
Lesson 3	Jobs and work	Discuss careers, jobs and job hunting Task: Assessing criteria for choosing a company to work for.
Lesson 4	:Money	Discuss personal uses of money and obtaining it Task: Assess different countries' approach to financing students
Lesson 5	Music	Discuss tastes in music and musical styles Task: Assessing music sources in the digital age.
Lesson 6	Holidays	Discuss national holidays and traditional celebrations Task: Exploring free time and how to use it
Lesson 7	Mid-term test	Prepare a speech giving more detailed opinions about the topics discussed so far.
Lesson 8	Mid-term test	Present your speech to students and teacher, and answer any questions.

Lesson 9	The academic year	Discuss study schedules and time management Task: Pros and Cons of adopting international semester times.
Lesson 10	Traditional and virtual classrooms	Discuss what and how to study. Task: Pros and Cons of traditional school curriculum.
Lesson 11	Alternative energy.	Discuss traditional sources of energy and how they are used Task: Pros and Cons of new and alternative energy sources.
Lesson 12	Crime and safety	Discuss common types of crime in Japan and safety measures. Task: Discuss and decide on appropriate punishment for various crimes.
Lesson 13	Christmas	Discuss Christmas traditions in Japan and elsewhere Task: Selecting and justifying gifts and gift-giving.
Lesson 14	Review and test preparation	Review recent topics and prepare 2nd test speech again exploring in greater depth any topic of interest.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Students should follow up lessons by compiling notes on each topic that expands on the new vocabulary and useful language they learned in each lesson. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【参考書】

Any topic-based elementary conversational English textbook could be studied in conjunction with the course. For vocabulary study, consider a "smart" flashcard app such as "Anki" available for most desktop and mobile platforms.

【成績評価の方法と基準】

2 x essays: one at mid-term, and one at end-of-term. These essays will express your opinion on the topics studied during the preceding weeks.
2 x 50% = 100%

In addition, students need to follow campus guidelines for attendance: in principle, no more than three (3) absences are permitted in per semester.

【学生の意見等からの気づき】

The topics discussed are a subset of many that could be used that reflect the interests of young people. Recent changes include discussion of online study material, particularly podcasts, the Olympics and comparisons of Eastern and Western culture.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need a Zoom client (app) and headset for online meetings, and to access Hoppii to obtain the weekly uploads.

【その他の重要事項】

Students should regularly check the Hoppii system to obtain the study material each week.

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to speak fairly fluently about themselves and their life as a student.

LANe200LA

English through Movies and Drama I

2017 年度以降入学者

平野井 ちえ子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

環 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

A Flavor of English: Cinema and Cuisine は、映画の中の食文化について書かれたエッセイ集です。エッセイを精読し、storytelling の基礎力を養います。

【到達目標】

1. 楽しみながら英語を読む習慣を身につけます。
2. 映画の内容と食文化について理解を深めます。
3. 語句や文法の知識を正確に身につけます。
4. 自分が書いたり話したりするときのモデルとしてエッセイを活用します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

ハイブリッド型授業です。Zoom によるリアルタイム型オンライン授業を中心に、必要に応じて CALL 教室での対面授業も加えます。円滑な授業展開のため、Zoom では顔出し参加をお願いしています。
*大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

1. 単語や文法を確認しながら各課のエッセイを精読します。
 2. エッセイの音読の練習をします。
 3. 映画の見どころを解説します。
 4. ショートエッセイを書いてみます。
- ①個人別フィードバックを行います。
②課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してもフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要を説明します。(受講を希望する人は、必ず初回授業に出席してください。選抜を行う場合もあります。)
第 2 回	Chapter 1: <i>Kramer vs. Kramer</i> 『クレイマー、クレイマー』	Daddy's French Toast 時制について学ぶ
第 3 回	Chapter 2: <i>The Devil Wears Prada</i> 『ブラダを着た悪魔』	New Yorkers' Street Food 比較について学ぶ
第 4 回	Chapter 3: <i>Super Size Me</i> 『スーパーサイズ・ミー』	Fast Food and Obesity 動名詞について学ぶ
第 5 回	Chapter 4: <i>Kamome Shokudo</i> 『かもめ食堂』	Japanese Cuisine in Finland 分詞について学ぶ
第 6 回	Chapter 5: <i>The Road Home</i> 『初恋のきた道』	A Lunchbox Filled with Love 代名詞について学ぶ

第 7 回	Chapter 6: <i>Notting Hill</i> 『ノッティングヒルの恋人』	The Last Brownie 仮定法について学ぶ
第 8 回	Chapter 7: <i>No Reservations</i> 『幸せのレシピ』	A Recipe for Happiness 接続詞について学ぶ
第 9 回	ショートエッセイの書き方（テーマ編）	どのようなテーマ設定が可能か、全員でディスカッションします。
第 10 回	ショートエッセイの書き方（文章編）	英文エッセイの書き方を指導します。
第 11 回	Chapter 8: <i>Dear Frankie</i> 『Dear フランキー』	Fish & Chips with Daddy 不定詞について学ぶ
第 12 回	エッセイ・フィードバック（1）	各自の提出したエッセイについて、個人別にフィードバックします。
第 13 回	エッセイ・フィードバック（2）	各自の提出したエッセイについて、個人別にフィードバックします。
第 14 回	エッセイ・フィードバック（3）	個別の提出課題から抽出したポイントを、全体にフィードバックします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの *essay reading* と *exercises* は、予習を前提として授業を進めます。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。各映画を自主的に鑑賞することが望ましいです。期末に英文エッセイ（300 語～400 語程度の予定）を書けるよう、スケジュール管理してください。

【テキスト（教科書）】

A Flavor of English: Cinema and Cuisine (Asahi Press)

【参考書】

本橋哲也著『映画で入門カルチュラル・スタディーズ』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）と期末課題（50 %）から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「映画を楽しみながら英語を学べてよかった」、「知っているはずの文法項目でも、抜けていたところに気づけてよかった」、「個別のフィードバックが貴重だった」などと、好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

ハイブリッド型授業です。Zoom によるリアルタイム型オンライン授業を中心に、必要に応じて CALL 教室での対面授業も加えます。Zoom でも動画共有を行うので、使用機器（PC 利用のこと）とネットワークの安定性を事前に御確認ください。円滑な授業展開のため、Zoom では顔出し参加をお願いしています。その他、Hoppii と Google Classroom も利用します。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

CALL 教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline and objectives】

You will be expected to read intensively essays in *A Flavor of English: Cinema and Cuisine* as a basis for storytelling.

LANe200LA
English through Movies and Drama II

2017 年度以降入学者

平野井 ちえ子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

環 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

A Flavor of English: Cinema and Cuisine は、映画の中の食文化について書かれたエッセイ集です。エッセイを精読し、*storytelling* の基礎力を養うとともに、自分の考えを英語で伝える練習をします。

【到達目標】

1. 楽しみながら英語を読む習慣を身につけます。
2. 映画の内容と食文化について理解を深めます。
2. 語句や文法の知識を正確に身につけます。
3. 自分が書いたり話したりするときのモデルとしてエッセイを活用します。
4. 興味深く説得力のあるエッセイを書く練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

ハイブリッド型授業です。Zoom によるリアルタイム型オンライン授業を中心に、必要に応じて CALL 教室での対面授業も加えます。円滑な授業展開のため、Zoom では顔出し参加をお願いしています。*大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

1. 単語や文法を確認しながら各課のエッセイを精読します。
2. エッセイの音読の練習をします。
3. 映画の見どころを解説します。
4. ショートエッセイを書いてみます。

①個人別フィードバックを行います。

②課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してもフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要を説明します。(受講を希望する人は、必ず初回授業に出席してください。選抜を行う場合もあります。)
第 2 回	Chapter 9: <i>Seabiscuit</i> 『シービスケット』	Hard to Bite, Hard to Ride 受動態について学ぶ
第 3 回	Chapter 10: <i>Charlie and the Chocolate Factory</i> 『チャーリーとチョコレート工場』	The Sweetest Treat 疑問詞について学ぶ
第 4 回	Chapter 11: <i>Everybody's Fine</i> 『みんな元気』	Coming Together for Christmas Turkey 前置詞について学ぶ
第 5 回	Chapter 12: <i>The Witch of the West Is Dead</i> 『西の魔女が死んだ』	Making Strawberry Jam with Grandma 使役動詞・知覚動詞について学ぶ

第 6 回	Chapter 13: A Simple Life 『桃さんのしあわせ』	His Favorite Poached Ox Tongue 助動詞について学ぶ
第 7 回	Chapter 14: A Touch of Spice 『タッチ・オブ・スパイス』	A Spice for Life 関係代名詞・関係副詞について学ぶ
第 8 回	映画の原作を読んでいる	Charlie and the Chocolate Factory の一部を原作（英国児童文学）で読みます。
第 9 回	ショートエッセイの書き方（文章編）	英文エッセイの書き方を指導します。
第 10 回	英語の台詞（1）	公式 Video Clips を用いて、英語の台詞を学びます。
第 11 回	英語の台詞（2）	公式 Video Clips を用いて、英語の台詞を学びます。
第 12 回	エッセイ・フィードバック（1）	各自の提出したエッセイについて、個人別にフィードバックします。
第 13 回	エッセイ・フィードバック（2）	各自の提出したエッセイについて、個人別にフィードバックします。
第 14 回	エッセイ・フィードバック（3）	個別の提出課題から抽出したポイントを、全体にフィードバックします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの essay reading と exercises は、予習を前提として授業を進めます。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。各映画を自主的に鑑賞することが望ましいです。期末に英文エッセイ (300 語～400 語程度の予定) を書けるよう、スケジュール管理してください。

【テキスト（教科書）】

A Flavor of English: Cinema and Cuisine (Asahi Press)

【参考書】

本橋哲也著『映画で入門カルチュラル・スタディーズ』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）と期末課題（50 %）から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「映画を楽しみながら英語を学べてよかった」、「知っているはずの文法項目でも、抜けていたところに気づけてよかった」、「個別のフィードバックが貴重だった」などと、好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

ハイブリッド型授業です。Zoom によるリアルタイム型オンライン授業を中心に、必要に応じて CALL 教室での対面授業も加えます。Zoom でも動画共有を行うので、使用機器（PC 利用のこと）とネットワークの安定性を事前に御確認ください。円滑な授業展開のため、Zoom では顔出し参加をお願いしています。その他、Hoppii と Google Classroom も利用します。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

CALL 教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline and objectives】

You will be expected to read intensively essays in A Flavor of English: Cinema and Cuisine as a basis for storytelling and essay writing.

LANe200LA
English through Movies and Drama I 2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

環 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒュー・グラント主演のイギリスのコメディ映画『アバウト・ア・ボーイ』を見て、そのスクリプトと問題の載ったテキストを使い、映画を見てから、CD でスクリプトを聞き、テキストでスクリプトを読み、問題を解くことで、英語の表現を学び、語彙能力をアップし、リスニング能力の向上を目指す。

【到達目標】

映画を見て、英語特有の表現を学び、スクリプトの音源の CD を聞き、リスニング能力を向上させ、内容については、テキストで問題を解き、スクリプトを読むことで、理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

Zoom で遠隔授業します。毎回、Vocabulary Warm-Up, Phrases を CD を聞いて答え、それから、映画をワンシーン、英語字幕で二回見てから、エクササイズを解き、リスニングの問題の穴埋めをして、Language in Context をしてから、最後にもう一回、その日の映画のシーンを見る。なお、最初のレポート課題と、最後のレポート課題は、Hoppii に提出していただきます。フィードバックは、Hoppii から行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	Zoom でオンラインで授業を行う。詳細は、Hoppii（学修支援システム）を参照してください。テキストの説明、辞書の使い方について説明する。学生さんたちには自己紹介を日本語でもらう。カメラとマイクとパソコンの用意をしておいてください。なお、スマートフォンでも Zoom は可能です。教科書はこの日までになるべく買っておいてください。学習支援システム Hoppii にアップされている Youtube の画像を各自見て、簡単な課題に Hoppii で答える。
2	Unit 1 A Boy and a Man	Zoom で遠隔授業します。ふたりの男子。テキストの予習復習をする。教科書があるという前提で授業する。
3	Unit 2 Will joins SPAT	Zoom で遠隔授業します。ウィル SPAT に入会。テキストの予習復習をする。
4	Unit 3 You Need a Backup	Zoom で遠隔授業します。支えが要るんだ。テキストの予習復習をする。
5	Unit 4 Will and Marcus Become Mates	Zoom で遠隔授業します。ウィルとマーカスの奇妙な友情。テキストの予習復習をする。

6	Unit 5 Marcus's Fashion Makeover	Zoom で遠隔授業します。マーカスを変身させよう。テキストの予習復習をする。
7	Unit 6 Will's First Real Christmas	Zoom で遠隔授業します。初めての本物のクリスマス。テキストの予習復習をする。
8	Unit 7 The Boys Get Crushes	Zoom で遠隔授業します。ふたりが同時に恋をした。テキストの予習復習をする。
9	Unit 8 Lies, Half-truths & Honesty	Zoom で遠隔授業します。「ウソ」と「半端なホント」と「ホントのホント」。テキストの予習復習をする。
10	Unit 9 Marcus's Gift to Mum	Zoom で遠隔授業します。お母さんへの贈り物。テキストの予習復習をする。
11	Unit 10 No Man Is an Island	Zoom で遠隔授業します。人は孤島ではない。テキストの予習復習をする。
12	映画の前半を英語字幕で通して見る	Zoom で遠隔授業します。前半の復習をする。
13	映画の後半を英語字幕で通して見る	Zoom で遠隔授業します。後半の復習をする。
14	まとめ レポート	Zoom で遠隔授業します。まとめ復習：授業で説明する課題（レポート）を Hoppii に提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの予習復習をする。予習として、テキストの問題を解き、辞書を引きながらスクリプトに目を通して、注を読んでおく。

【テキスト（教科書）】

Peter Hedges/ Chris Weitz & Paul Weitz, 神谷久美子、Kim R.Kanel 『About a Boy』松柏社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

各時間の発表、最初のレポートを含む授業への貢献度を 5 0 %、最後の授業のレポートを 5 0 % で採点する。課題未提出、Zoom での授業参加の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度アンケートは実施してないので、アンケートは参考になりません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

Develop English skills through watching a film called *About a Boy*, and learn English expressions and what's going on in the film using its textbook.

LANe200LA
English through Movies and Drama II

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

環 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マイク・ニューエル監督、ヒュー・グラント、アンディ・マクドゥウェル主演のイギリスのラブコメディ映画『Four Weddings and a Funeral』を見て、そのスクリプトと問題の載ったテキストを使い、映画を見てから、テキストでスクリプトを読み、問題を解くことで、英語の表現を学び、語彙能力をアップし、リスニング能力の向上を目指す。

【到達目標】

映画を見て、英語特有の表現を学び、リスニング能力を向上させ、内容については、スクリプトを読み、テキストで問題を解くことで、理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

Zoom で遠隔授業します。予習を前提にした授業を行う。各章のスクリプトと問題をあらかじめ予習している状態で、映画の一部を見て、テキストのスクリプトを読み、問題を解いて理解を深める。なお、最初の課題レポートと、最後のレポート課題は、Hoppii に提出していただきます。フィードバックは、Hoppii から行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	Zoom で遠隔授業します。 Hoppii にアップされている映画のトレーラー (Youtube) を各自で見て、それについて、Hoppii に課題レポートを書く。テキストを買っておく。
2	Week 1 Prologue	Zoom で遠隔授業します。 Wedding 1 へ。テキストの予習復習をする。
3	Week 2 Reception	Zoom で遠隔授業します。披露宴。テキストの予習復習をする。
4	Week 3 After the reception	Zoom で遠隔授業します。披露宴後。テキストの予習復習をする。
5	Week 4 Wedding 2	Zoom で遠隔授業します。2 つ目の結婚式。テキストの予習復習をする。
6	Week 5 Reception	Zoom で遠隔授業します。2 つ目の結婚式の披露宴。テキストの予習復習をする。
7	Week 6 A Day Off	Zoom で遠隔授業します。休日。テキストの予習復習をする。
8	Week 7 Wedding 3	Zoom で遠隔授業します。3 つ目の結婚式。テキストの予習復習をする。
9	Week 8 Funeral	Zoom で遠隔授業します。葬式。テキストの予習復習をする。

10	Week 9 Wedding 4 (1)	Zoom で遠隔授業します。4 つ目の結婚式の前半。テキストの予習復習をする。
11	Week 10 Wedding 4 (2)	Zoom で遠隔授業します。4 つ目の結婚式の後半 & Epilogue。テキストの予習復習をする。
12	映画の前半を通して見る	Zoom で遠隔授業します。映画の前半を通して見て復習する。テキストの予習復習をする。
13	映画の後半を通して見る	Zoom で遠隔授業します。映画の後半を通して見て復習する。テキストの予習復習をする。
14	まとめ レポート	Zoom で遠隔授業します。まとめ。テキストの最初から最後まで復習しておく。まとめのレポートを書いてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの予習復習をする。予習として、辞書を引きながら、テキストのスクリーンショットに目を通して、各課の問題を解いておく。

【テキスト（教科書）】

Richard Curtis ed. & notes by Tomoko Otani, 『Four Wedding and a Funeral』 松柏社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

最初の授業のレポートに加えて、各時間の発表、授業への貢献度を含めた平常点を 50%、学期末のレポートを 50% で採点する。各課題未提出、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

昨年はアンケートを実施しておりませんので、アンケートは参考になりません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

Develop English skills through watching a film called *Four Weddings and a Funeral*, and learn English expressions and what's going on in the film using its textbook.

LANe200LA

TOEIC® I

2017 年度以降入学者

平野井 ちえ子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

環 2～4 年/Intermediate ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「TOEIC® って何？」という入門レベルの話題から出発しますが、秋学期授業終了時には、TOEIC® で問われる分野知識・言語スキルを一通り網羅できるよう、春学期から出題内容・言語スキルを系統的に学んでいきます。

【到達目標】

TOEIC® の概要を理解しスコアを伸ばすことが目的であることは言うまでもありませんが、その場限りの丸暗記や戦略本位の勉強でなく、いかに長期的視野に立って実用英語の力を養うか、を念頭に授業を運営していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

ハイブリッド型授業です。Zoom によるリアルタイム型オンライン授業を中心に、必要に応じて CALL 教室での対面授業も加えます。円滑な授業展開のため、Zoom では顔出し参加をお願いしています。＊大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

主として、後述の core text に沿った授業ですが、単なる TOEIC® 形式の問題演習だけでなく、言語知識・スキルが定着しやすいよう、身近な英語リソースの紹介を行いながら、クラス授業を展開します。進度を見計らって、e-learning による個別問題演習や実践力を養う一斉小テストも行う予定です。

学習進度に応じて、個人別フィードバック（Zoom）を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期・秋学期の概要とレベルの説明。
第 2 回	Unit 1: Travel (名詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 3 回	Unit 2: Dining Out (形容詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 4 回	Unit 3: Media (副詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 5 回	Unit 4: Entertainment (時制を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 6 回	Unit 1～4	復習のためのクイズやタスクと問題演習
第 7 回	Unit 5: Purchasing (主語と動詞の一致を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 8 回	Unit 6: Clients (能動態・受動態を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。

第 9 回	Unit 7: Recruiting (動名詞・不定詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 10 回	Unit 8: Personnel (現在分詞・過去分詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 11 回	Unit 5～8	復習のためのクイズやタスクと問題演習
第 12 回	問題演習	e-learning による個別問題演習 またはタイムキーピングのための小ペーパーテスト
第 13 回	春学期末テストと復習	1 2 回までの到達度を確認するため、リスニングを含めたテストを行います。テストの前にポイント講義や復習を行います。
第 14 回	春学期の総括	期末テストを返却して徹底解説します。秋学期授業の予告、夏季休暇中の勉強のしかたなどを説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記 Core text や関連配布プリントの予習を前提として授業を進めます。秋学期 12 月の TOEIC® 本試に向けて、各自自分の学習計画を立てるよう心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Score Booster for the TOEIC® L&R Test Intermediate（金星堂）
そのほか、プリント教材

【参考書】

『TOEIC® テスト公式問題集 新形式問題対応編』（Educational Testing Service）

『U-CAT e-Learning for the TOEIC® L&R』（朝日出版社）

URL（例）

<http://heathrow.com/>

<https://www.expedia.co.uk/>

<https://www.ox.ac.uk/gazette/> など。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は全面的に Zoom によるリアルタイム・オンライン授業でしたが、少人数であったうえ、熱心な受講生が多く、たいへん密度の濃い授業展開ができました。

【学生が準備すべき機器他】

ハイブリッド型授業です。Zoom によるリアルタイム型オンライン授業を中心に、必要に応じて CALL 教室での対面授業も加えます。円滑な授業展開のため、Zoom では顔出し参加をお願いしています。使用機器（PC 利用のこと）とネットワークの安定性を事前に御確認ください。その他、Hoppii と Google Classroom も利用します。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

CALL 教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline and objectives】

We will start with the introductory topic, 'What it is like the TOEIC® test?' Our final goal for a series of 'TOEIC(R)I・II' is to acquire knowledge and skills required for improving TOEIC® scores. We will learn such knowledge and skills systematically from the spring semester.

LANe200LA

TOEIC® II

2017 年度以降入学者

平野井 ちえ子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

環 2～4 年/Intermediate ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習を踏まえて、秋学期はとくにビジネスシーンを意識した内容に取り組みます。秋学期終了時には、TOEIC® で問われる分野知識・言語スキルを一通り網羅できるよう、系統的に学んでいきます。

【到達目標】

TOEIC® の概要を理解しスコアを伸ばすことが目的であることは言うまでもありませんが、その場限りの丸暗記や戦略本位の勉強でなく、いかに長期的視野に立って実用英語の力を養うか、を念頭に授業を運営していきます。12 月の TOEIC® 本試は全員に受験していただく予定です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

ハイブリッド型授業です。Zoom によるリアルタイム型オンライン授業を中心に、必要に応じて CALL 教室での対面授業も加えます。円滑な授業展開のため、Zoom では顔出し参加をお願いしています。*大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

主として、後述の core text に沿った授業ですが、単なる TOEIC® 形式の問題演習だけでなく、言語知識・スキルが定着しやすいよう、身近な英語リソースの紹介を行いながら、クラス授業を展開します。進捗を見計らって、e-learning による個別問題演習や実践力を養う一斉小テストも行う予定です。

学習進度に応じて、個人別フィードバック（Zoom）を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の学習内容の復習、秋学期の学習計画の説明などを行います。
第 2 回	Unit 8: Personnel (現在分詞・過去分詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 3 回	Unit 9: Advertising (代名詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 4 回	Unit 10: Meetings (比較を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 5 回	Unit 11: Finance (前置詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 6 回	Unit 8～11	復習のためのクイズやタスク
第 7 回	Unit 12: Offices (接続詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 8 回	Unit 13: Daily Life (前置詞と接続詞の違いを学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。

第 9 回	Unit 14: Sales & Marketing (関係代名詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 10 回	Unit 15: Events (語彙の結びつきを学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第 11 回	Unit 12～15	復習のためのクイズやタスク
第 12 回	問題演習	e-learning による個別問題演習またはタイムキーピングのための小ペーパーテスト
第 13 回	秋学期末テストと復習	1 2 回までの到達度を確認するため、リスニングを含むテストを行います。テストの前にポイント講義や復習を行います。
第 14 回	秋学期の総括	期末テストを返却して徹底解説します。 12 月の TOEIC® スコアレポート提出。 個人別学習アドバイスも行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記 Core text や関連配布プリントの予習を前提として授業を進めます。12 月の TOEIC® 本試に向けて、各自自分の学習計画を立てるよう心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Score Booster for the TOEIC® L&R Test Intermediate (金星堂)
そのほか、プリント教材

【参考書】

『TOEIC® テスト公式問題集 新形式問題対応編』(Educational Testing Service)

『U-CAT e-Learning for the TOEIC® L&R』(朝日出版社)

URL (例)

<http://heathrow.com/>

<https://www.expedia.co.uk/>

<https://www.ox.ac.uk/gazette/> など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末テスト 40%、12 月 TOEIC® 本試のスコア (20%) から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は全面的に Zoom によるリアルタイム・オンライン授業でしたが、少人数であったうえ、熱心な受講生が多く、たいへん密度の濃い授業展開ができました。

【学生が準備すべき機器他】

ハイブリッド型授業です。Zoom によるリアルタイム型オンライン授業を中心に、必要に応じて CALL 教室での対面授業も加えます。円滑な授業展開のため、Zoom では顔出し参加をお願いしています。使用機器 (PC 利用のこと) とネットワークの安定性を事前に御確認ください。その他、Hoppii と Google Classroom も利用します。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

CALL 教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline and objectives】

Our final goal for a series of 'TOEIC(R)I・II' is to acquire knowledge and skills required for improving TOEIC® scores. We will continue to learn such knowledge and skills systematically. Especially in the fall semester, we will focus on a variety of business situations.

LANe200LA

TOEIC® I

2017 年度以降入学者

板橋 美也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

環 2～4 年/Intermediate ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC® でリスニング力・読解力を向上させよう (1)

【到達目標】

TOEIC® の出題形式に慣れながら英語のリスニング力と読解力を磨き、TOEIC® スコア向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。

1 週ごとにリスニングとリーディングのレッスンを交互に行います。教科書の問題演習と解説を行いながら、日本人が苦手とするリスニングのポイントや、読解に必要な文法事項の確認をします。同時に、TOEIC® の傾向と対策をおさえていきます。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容、進め方、TOEIC® の概要
2	教科書 Lesson 1 Headhunting	「音の消失」を含む英語のリスニング練習 (1)
3	教科書 Lesson 2 The Internet	動詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
4	教科書 Lesson 3 Weddings	「音の消失」を含む英語のリスニング練習 (2)
5	教科書 Lesson 4 Corporate Culture	時制にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
6	教科書 Lesson 5 Music	応答の予測をしながらのリスニング練習
7	教科書 Lesson 6 Movies	形容詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
8	教科書 Lesson 7 Sightseeing	「音の同化」を含む英語のリスニング練習
9	教科書 Lesson 8 Recruiting	名詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
10	教科書 Lesson 9 Shopping	「音の短縮」を含む英語のリスニング練習
11	教科書 Lesson 10 Forecasts	分詞構文にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
12	教科書 Lesson 11 Customs	「音の連結」を含む英語のリスニング練習
13	教科書 Lesson 12 Crime	不定詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
14	期末試験	授業で勉強した内容に基づいた試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、授業で学んだ内容をよく復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Navigator for the TOEIC® Test (南雲堂)

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みの積極度 (70%) と期末試験 (30%) から総合的に評価します。欠席 4 回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

時間配分に気を付けます。

【Outline and objectives】

Improving your listening and reading skills in English through preparing for TOEIC® (1)

LANe200LA

TOEIC® II

2017 年度以降入学者

板橋 美也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

環 2～4 年/Intermediate ※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC®でリスニング力・読解力を向上させよう (2)

【到達目標】

TOEIC®の出題形式に慣れながら英語のリスニング力と読解力を磨き、TOEIC®スコア向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

1 週ごとにリスニングとリーディングのレッスンを交互に行います。教科書の問題演習と解説を行いながら、日本人が苦手とするリスニングのポイントや、読解に必要な文法事項の確認をします。同時に、TOEIC®の傾向と対策をおさえていきます。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容、進め方、TOEIC®の概要
2	教科書 Lesson 13 New Products	「音の連結」を含む英語のリスニング練習
3	教科書 Lesson 14 Global Matters	動名詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
4	教科書 Lesson15 Health	「無声化する音」を含む英語のリスニング練習
5	教科書 Lesson 16 Parties	時制の一致や主語・動詞の一致にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
6	教科書 Lesson 17 Skiing	「有声化する音」を含む英語のリスニング練習
7	教科書 Lesson 18 Travel	関係詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
8	教科書 Lesson19 Dating	「音の弱化」を含む英語のリスニング練習
9	教科書 Lesson 20 Hospitals	接続詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
10	教科書 Lesson21 Advertising	音の弱形と強形に注意しながらのリスニング練習
11	教科書 Lesson 22 Opportunities	仮定法にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
12	教科書 Lesson 23 Employment	類音語に注意しながらのリスニング練習
13	教科書 Lesson 24 Banking / Finance	否定にまつわるにまつわる文法事項を確認しながら読解練習
14	期末試験	授業で勉強した内容に基づいた試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、授業で学んだ内容をよく復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Navigator for the TOEIC® Test (南雲堂)

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みの積極度 (70%) と期末試験 (30%) から総合的に評価します。欠席 4 回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

時間配分に気を付けます。

【その他の重要事項】

前学期の「TOEIC I」を取っていないなくても受講可能です。

【Outline and objectives】

Improving your listening and reading skills in English through preparing for TOEIC® (2)

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

環 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは英検、TOEFL、IELTS の 3 種類の英語検定試験内容の紹介と基本演習を行います。「スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング」の 4 つの能力をバランス良く強化するために必要な技能を学びます。

【到達目標】

- 1 Be able to understand various kinds of texts with accuracy
- 2 Be able to understand main points of interview and lectures
- 3 Be able to talk about basic topics
- 4 Be able to write a multi-paragraphs essay with clear structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

* The first week's class will be conducted online. Instructions will be given through Hoppii. If the university's action policy level is set to 2, this class will be taught online as a rule. (第 1 週目の授業はオンラインで実施します。指示は学習支援システム Hoppii で配信します。大学の行動方針レベルが 2 となった場合には、この授業は原則としてオンラインで行います。)

1. Clarifying objectives and goals (学習動機の明確化とゴール設定)
2. Explaining basic formats of three certificate tests and practicing (英検、TOEFL、IELTS 各テスト形式と問題の紹介と演習)
3. TED mini-presentation (視聴してきた TED についてのプレゼンテーション)
4. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System. (フィードバック等は「学習支援システム」を利用する予定です)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Course Orientation	1 Self-introduction and explanation of the course 2 Clarifying objectives and goals
2 回	Introduction to STEP Eiken.	1 Explanation of the basic format of Eiken and practice 2 Listening practice 3 TED mini-presentation
3 回	Eiken practice	1 Practice to identify strength and weaknesses 2 Listening practice 3 Logical reading practice 4 TED mini-presentation
4 回	Eiken practice	1 Intensive listening practice 2 TED mini-presentation

5 回	Eiken practice	1 Learning basic writing structures and analyzing model essays 2 Writing a essay
6 回	Introduction to TOEFL TEST	1 Explanation of the basic format of TOEFL and practice 2 Listening practice 3 TED mini-presentation
7 回	TOEFL practice	1 Practice to identify strength and weaknesses 2 Listening practice 3 Logical reading practice 4 TED mini-presentation
8 回	TOEFL practice	1 Intensive listening practice 2 TED mini-presentation
9 回	TOEFL practice	1 Learning about TOEFL writing tasks 2 Intensive writing practice on task 1 3 Writing an essay
10 回	Introduction to IELTS TEST	1 Explanation of the basic format of IELTS and practice 2 Listening practice 3 TED mini-presentation
11 回	IELTS practice	1 Practice to identify strength and weaknesses 2 Listening practice 3 Logical reading practice 4 TED mini-presentation
12 回	IELTS practice	1 Learning IELTS Speaking Part 2 Intensive speaking practice 3 TED mini-presentation
13 回	IELTS practice	Intensive speaking practice
14 回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします)

1 Weekly speaking home assignments (Online TED watching for mini-presentation)

2 Weekly reading or writing home assignments

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided

【参考書】

You will be provided a list of references.

【成績評価の方法と基準】

Attendance and class participation including mini-presentation (30%)

Home assignment (20%)

Final test (50%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed. (各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

I'm going to increase speaking opportunities than before.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (学習支援システム)

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline and objectives】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken, TOEFL and IELTS tests. Students will practice logical reading, effective listening and speaking and well-organized writing skills.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

環 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは英検、TOEFL、IELTS の 3 種類の英語検定試験内容の紹介と基本演習を行います。「スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング」の 4 つの能力をバランス良く強化するために必要な技能を学びます。

【到達目標】

- 1 Be able to understand various kinds of texts with accuracy
- 2 Be able to understand main points of interview and lectures
- 3 Be able to talk about basic topics
- 4 Be able to write a multi-paragraphs essay with clear structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

* If the university's action policy level is set to 2, this class will be taught online as a rule. Details will be announced via the Learning Management System. (大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システム Hoppii で伝達します。)

1. Clarifying objectives and goals (学習動機の明確化とゴール設定)
2. Explaining basic formats of three certificate tests and practicing (英検、TOEFL、IELTS 各テスト形式と問題の紹介と演習)
3. TED mini-presentation (視聴してきた TED についてのプレゼンテーション)
4. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System. (フィードバック等は「学習支援システム」を利用する予定です)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Course Orientation	1 Self-introduction and explanation of the course 2 Clarifying objectives and goals
2 回	Introduction to STEP Eiken.	1 Explanation of the basic format of Eiken and practice 2 Listening practice 3 TED mini-presentation
3 回	Eiken practice	1 Practice to identify strength and weaknesses 2 Listening practice 3 Logical reading practice 4 TED mini-presentation
4 回	Eiken practice	1 Intensive listening practice 2 TED mini-presentation
5 回	Eiken practice	1 Learning basic writing structures and analyzing model essays 2 Writing a essay

6 回	Introduction to TOEFL TEST	1 Explanation of the basic format of TOEFL and practice 2 Listening practice 3 TED mini-presentation
7 回	TOEFL practice	1 Practice to identify strength and weaknesses 2 Listening practice 3 Logical reading practice 4 TED mini-presentation
8 回	TOEFL practice	1 Intensive listening practice 2 TED mini-presentation
9 回	TOEFL practice	1 Learning about TOEFL writing tasks 2 Intensive writing practice on task 1 3 Writing an essay
10 回	Introduction to IELTS TEST	1 Explanation of the basic format of IELTS and practice 2 Listening practice 3 TED mini-presentation
11 回	IELTS practice	1 Practice to identify strength and weaknesses 2 Listening practice 3 Logical reading practice 4 TED mini-presentation
12 回	IELTS practice	1 Learning IELTS Speaking Part 2 Intensive speaking practice 3 TED mini-presentation
13 回	IELTS practice	Intensive speaking practice
14 回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします)

1 Weekly speaking home assignments (Online TED watching for mini-presentation)

2 Weekly reading or writing home assignments

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided

【参考書】

You will be provided a list of references.

【成績評価の方法と基準】

Attendance and class participation including mini-presentation (30%)
Home assignment (20%)
Final test (50%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed. (各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

I'm going to increase speaking opportunities than before.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (学習支援システム)

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline and objectives】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken, TOEFL and IELTS tests. Students will practice logical reading, effective listening and speaking and well-organized writing skills.

LANe200LA

Business Communication I

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

環 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際ビジネスで使われる英語を学ぶことで、人間関係、および、取引関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの取り方を音声、文書の両面で習得する。

【到達目標】

英語で行われる国際ビジネス場面の話題について大まかな理解をもち、口頭および文書でコミュニケーションできるようにする。また、企業内の書類、商業通信文について英和ともに知識を習得し、英語でビジネスをする力を身に着ける。具体的には、基本的なビジネス英語の聴解や読解ができ、英語による口頭表現や E メール、英文レターなど自ら発信する文章を書くことができるようになる。これにより、TOEIC® Listening/Reading のみならず、TOEIC® Speaking/Writing にも対応できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。教室での対面の週とオンデマンドの週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。商業英語短文の Dictation による Listening 小テストを毎回行う。これらのフィードバックは授業内での解答提示で行う。メイン教材としては、まず TOEIC® 実問題によりビジネス英語に慣れる。日本語訳や問題への解答が中心になるが、これら課題には授業内で解答を提示する。その後に英文書類、E メール作成に進み、Writing は添削指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Academic English と Business English	Business Communication に必要な英語について概説する
第 2 回	Listening 1 TOEIC® Listening Test	市場 TOEIC® の Listening 問題
第 3 回	Listening 2 TOEIC® Grammar 問題 1	信用照会先 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 1（文法）
第 4 回	Listening 3 TOEIC® Grammar 問題 2	業歴 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 2（語彙）
第 5 回	Listening 4 TOEIC® Reading 問題 1	取引 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 1（単一文書単語補充）
第 6 回	Listening 5 TOEIC® Reading 問題 2	需要 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 2（単一文書読解）
第 7 回	Listening 6 TOEIC® Reading 問題 3	取扱 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 3（複数文書の関連付け）

第 8 回	Listening 7 TOEIC® Reading 問題 4	代理店 読解問題を和訳・解答しながら英 語文書に慣れる 4（図表・伝票を 含む複数文書）
第 9 回	Listening 8 英文帳票作成	見積 Leave Request Domestic/Oversea Travel Form オファー
第 10 回	Listening 9 社内文書作成	Interoffice Memo Notice
第 11 回	Listening 10 社交文書作成 1	値引 会社連絡への返信英文メール作成
第 12 回	英文電話メモ作成 社交文書作成 2	英語電話の聴解と英語による伝言 メモ作成 礼状、悔やみ状などの英文レター 作成
第 13 回	就職活動文書作成	履歴書作成 応募カバーレター 紹介状・推薦状
第 14 回	期末試験	学習内容に関する筆記試験・まと めと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

和訳担当を割り当てられたときは、必ず自宅で辞書を引くなどして準備する。授業では PC を使ってメールやレターのやりとりをするので、問題や添付ファイル等を受け取り、作業ができるメールアドレスが必要。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TOEIC® 問題、Dictation 問題、英文レター・メール等の Writing 問題はプリントを使用する。英文伝票・貿易書類作成問題は実際の書式をもとに作成したオリジナル問題。

【参考書】

授業で Writing 例文集、貿易書類サンプル、各種英語文書解説など、必要なプリントを配布するため、特に参考書は指定しない。TOEIC® や日商ビジネス英語検定試験の受験希望者には、別途参考文献を紹介する。国際ビジネスや貿易英語の基本文献についても、希望者に別途文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、課題等 20% を原則とする。よって、評価点は試験 60 点、平常点 40 点の合計 100 点とし、60% 以上の得点で合格。授業始めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、小テストも 0 点となる。割り当てられた課題を遂行しない、担当のある日に無断欠席などは課題点がマイナスになり、たいへん不利になる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

英文 Letter, E-mail など自分で書くのは難しいというご意見をいただいた。こういった書類に不慣れなことが原因なので、形式の説明も行うが、とにかく恐れず臆せず、英語を書けばよい。初めての時は難しく感じても、二度目からはまったく違い、よくできるようになる。また、返信を書くことが多いので、往信である Letter やメールの内容をしっかりと把握できていないと自分が何を書くかも決められない。わかりにくいときには往信の日本語訳を渡し、理解してもらってから返信作成に入るようにしたので、どうしても難しいときにはこのような手順を踏む。

【Outline and objectives】

This class develops communication skills in both spoken and written English needed to succeed in international business and enlarge knowledge of the international business world. At the beginning of every class, students take a short exam of dictation of English sentences frequently used in a business correspondence. There are twenty chapters and the chapter themes follow the real trading process such as Inquiry, Quotations, Offers, Discounts, Orders, Contracts, Opening L/C, Insurance, Shipment, Customs Clearance, Drafts, and so on, and students can have a knowledge of international business flow. Additionally, the main part of class has two phases: listening and reading of business related materials in TOEIC®, and writing business letters and e-mails. The former activity enables students to imagine a business scene and know the basic format of various documents and English expression used in a business world, and based on these knowledge, they try the latter activity — business correspondence. Beginning from writing formats such as “Leave Request,” “Cash-advanced Request,” “Expense Report,” and documents used in import/export, the final step is writing a business letter with a company letterhead and sending/receiving a business e-mail. All these writings are proofread and returned to students.

LANe200LA

Business Communication II 2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

環 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際ビジネスで使われる英語を学ぶことで、人間関係、および、取引関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの取り方を音声、文書の両面で習得する。

【到達目標】

英語で行われる国際ビジネス場面の話題について大まかな理解をもち、口頭および文書でコミュニケーションできるようにする。また、企業内の書類、商業通信文について英和ともに知識を習得し、英語でビジネスをする力を身に着ける。具体的には、基本的なビジネス英語の聴解や読解ができ、英語による口頭表現や E メール、英文レターなど自ら発信する文章を書くことができるようになる。これにより、TOEIC® Listening/Reading のみならず TOEIC® Speaking/Writing にも対応できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。教室での対面の週とオンデマンドの週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。商業英語短文の Dictation による Listening 小テストを毎回行う。これらのフィードバックは授業内での解答提示で行う。メイン教材としては、まず TOEIC®実問題によりビジネス英語に慣れる。日本語訳や問題への解答が中心になるが、これら課題には授業内で解答を提示する。その後に英文書類、E メール作成に進み、Writing は添削指導を行う。なお、春学期とは別の問題を使って授業を進めるため、秋学期からの履修も可能で不利は一切ない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Business English と TOEIC® 等各種資格試験	Business Communication に必要な英語と TOEIC®, ビジネス英語検定試験等について解説する
第 2 回	Listening 1 TOEIC® Listening Test	在庫 TOEIC® の Listening 問題
第 3 回	Listening 2 TOEIC® Grammar 問題 1	注文 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 1(文法)
第 4 回	Listening 3 TOEIC® Grammar 問題 2	契約 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 2(語彙)
第 5 回	Listening 4 TOEIC® Reading 問題 1	信用状 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 1(単一文書単語補充)
第 6 回	Listening 5 TOEIC® Reading 問題 2	船腹 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 2(単一文書読解)
第 7 回	Listening 6 TOEIC® Reading 問題 3	保険 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 3(複数文書の関連付け)

第 8 回	Listening 7 TOEIC® Reading 問題 4	通関 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 4(図表・伝票を含む複数文書)
第 9 回	Listening 8 英文帳票作成 1	船積 Cash Advanced Payment, Expense Report, Cash Payment Request
第 10 回	Listening 9 英文帳票作成 2	出航 Receipt を使った経費申告
第 11 回	Listening 10 貿易書類作成	値引 Packing List, Invoice
第 12 回	英語電話メモ作成 1 国際ビジネス文書 1	英語電話の聴解と英語による伝言メモ作成 1 ビジネス取引に関する英文メール作成
第 13 回	英語電話メモ作成 2 国際ビジネス文書 2	英語電話の聴解と英語による伝言メモ作成 2 ビジネス取引に関する英文レター作成
第 14 回	期末試験	学習内容に関する筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

和訳担当を割り当てられたときは、必ず自宅で辞書を引くなどして準備する。授業では PC を使ってメールやレターのやりとりをするので、問題や添付ファイル等を受け取り、作業ができるメールアドレスが必要。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TOEIC®問題、Dictation 問題、英文レター・メール等の Writing 問題はプリントを使用。英文伝票・貿易書類作成問題は実際の書式をもとに作成したオリジナル問題。

【参考書】

授業で Writing 例文集、貿易書類サンプル、各種英語文書解説など、必要なプリントを配布するため、特に参考書は指定しない。TOEIC®や日商ビジネス英語検定試験の受験希望者には、別途参考文献を紹介する。国際ビジネスや貿易英語の基本文献についても、希望者に別途文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、課題等 20%を原則とする。よって、評価点は試験 60点、平常点 40点の合計 100点とし、60%以上の得点で合格。授業始めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、小テストも 0点となる。割り当てられた課題を遂行しない、担当のある日に無断欠席などは課題点がマイナスになり、たいへん不利になる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

英文 Letter, E-mail などを自分で書くのは難しいというご意見をいただいた。こういった書類に不慣れなことが原因なので、形式の説明も行うが、とにかく恐れず臆せず、英語を書けばよい。初めての時は難しく感じても、二度目からはまったく違い、よくできるようになる。また、返信を書くことが多いので、往信である Letter やメールの内容をしっかりと把握できていないと自分が何を書くかも決められない。わかりにくいときには往信の日本語訳を渡し、理解してもらってから返信作成に入るようにしたので、どうしても難しいときにはこのような手順を踏む。

【Outline and objectives】

This class develops communication skills in both spoken and written English needed to succeed in international business and enlarge knowledge of the international business world. At the beginning of every class, students take a short exam of dictation of English sentences frequently used in a business correspondence. There are twenty chapters and the chapter themes follow the real trading process such as Inquiry, Quotations, Offers, Discounts, Orders, Contracts, Opening L/C, Insurance, Shipment, Customs Clearance, Drafts, and so on, and students can have a knowledge of international business flow. Additionally, the main part of class has two phases: listening and reading of business related materials in TOEIC®, and writing business letters and e-mails. The former activity enables students to imagine a business scene and know the basic format of various documents and English expression used in a business world, and based on these knowledge, they try the latter activity — business correspondence. Beginning from writing formats such as “Leave Request,” “Cash-advanced Request,” “Expense Report,” and documents used in import/export, the final step is writing a business letter with a company letterhead and sending/receiving a business e-mail. All these writings are proofread and returned to students.

LANe200LA

ニュース英語 I

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

環 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

ニュース英語を正確に読み取る力、聴き取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、音読やシャドーイングの練習も行う。リスニング・リーディング力の向上に効果があるシャドーイングの練習には力を入れる。基本文法や語彙の補強も行い、確実に読解力、リスニング力のレベルアップを図る。また、パラグラフの構成を意識して自分の意見を書くことも到達目標の 1 つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

授業は教科書を中心に進める。教科書は VOA(Voice of America) Learning English という英語学習者向けのニュース（通常より 3 割程度ゆっくりとしたスピードの放送）からなる。これを聞いたり、読んだり、発話練習を行いながら、記事の内容を正確に理解した上で、自分の意見を伝える練習も行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声 & 文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 2: Oceans to Hold More Plastic than Fish by 2050 (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 3 回	Unit 2: Oceans to Hold More Plastic than Fish by 2050 (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, “Reading Comprehension”
第 4 回	Unit 3: Is Your Plan Sustainable? (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 5 回	Unit 3: Is Your Plan Sustainable? (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, “Reading Comprehension”
第 6 回	Unit 4: : Saving Wild Areas May Have Unexpected Results (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”

第 7 回	Unit 4: Saving Wild Areas May Have Unexpected Results (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, “Reading Comprehension”
第 8 回	Unit 5: Freedom House: Internet Continues to Become Less Free (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 9 回	Unit 5: Freedom House: Internet Continues to Become Less Free (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, “Reading Comprehension”
第 10 回	Unit 6: New Drones Could Improve Weather Predictions (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 11 回	Unit 6: New Drones Could Improve Weather Predictions (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, “Reading Comprehension”
第 12 回	Unit 7: Artificial Intelligence: Helpful and Dangerous (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 13 回	Unit 7: Artificial Intelligence: Helpful and Dangerous (2) & 発表	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, “Reading Comprehension” & 口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ・ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

・テキストの予習やシャドーイング練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。

・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

Enhance your English Skills with Shadowing VOA Learning English (三修社, 2018) 1700 円 (税別) 978-4-384-33476-0 C1082

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書については授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50 % + 発表 20 % + 提出課題 20 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

リアルタイム配信型の授業を行なった。授業前半は、PC 操作の苦手な学生への対応に時間をとられることが多かったが、後半はスムーズな授業展開ができた。学生同士でスピーキングする時間をできるだけ多く設けるように心がけた。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業では、学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。Zoom によるリアルタイム配信型の授業では、マイク・カメラのついた PC で参加のこと。なお、大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要である。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. This course will cover a wide range of significant issues confronting the world today. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read and listen efficiently.
- ・ Students will develop critical reading and thinking skills.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe200LA

ニュース英語 II

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

環 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

ニュース英語を正確に読み取る力、聴き取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、音読やシャドーイングの練習も行う。リスニング・リーディング力の向上に効果があるシャドーイングの練習には力を入れる。基本文法や語彙の補強も行い、確実に読解力、リスニング力のレベルアップを図る。また、パラグラフの構成を意識して自分の意見を書くことも到達目標の 1 つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業は教科書を中心に進める。教科書は VOA(Voice of America) Learning English という英語学習者向けのニュース（通常より 3 割程度ゆっくりしたスピードの放送）からなる。これを聞いたり、読んだり、発話練習を行いながら、記事の内容を正確に理解した上で、自分の意見を伝える練習も行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 1: Learning How to Ask Questions (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 3 回	Unit 1: Learning How to Ask Questions (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, “Reading Comprehension”
第 4 回	Unit 10: Social Media Is Keeping Young Adults Awake (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 5 回	Unit 10: Social Media Is Keeping Young Adults Awake (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, “Reading Comprehension”
第 6 回	Unit 12: Scientists Find New Step in Brain Development (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 7 回	Unit 12: Scientists Find New Step in Brain Development (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, “Reading Comprehension”

第 8 回	Unit 13: A Child's Growing Brain Needs Love as Much as Food (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 9 回	Unit 13: A Child's Growing Brain Needs Love as Much as Food (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, “Reading Comprehension”
第 10 回	Unit 15: Coloring Books Can Cut Stress for Adults (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 11 回	Unit 15: Coloring Books Can Cut Stress for Adults (2)	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, “Reading Comprehension”
第 12 回	Unit 18: WHO: 80% of Urban Residents Breathe Unsafe Air (1)	“For Shadowing “ & “Listening comprehension”
第 13 回	Unit 18: WHO: 80% of Urban Residents Breathe Unsafe Air (2) & 発表	“Fill-in-the-blank Quiz”, “Vocabulary”, “Reading Comprehension” & 口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ・ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

・テキストの予習やシャドーイング練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

Enhance your English Skills with Shadowing VOA Learning English（三修社、2018）1700 円（税別）978-4-384-33476-0 C1082

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書については授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50 % + 発表 20 % + 提出課題 20 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなす。オンライン授業になった場合は、Zoom によるリアルタイム配信型の授業を毎週行う予定である。授業時間に参加できなかった場合は欠席扱いとなる。

【学生の意見等からの気づき】

リアルタイム配信型の授業を行なった。少人数ではあったが、熱意のある学生が多かった。学生同士で互いの学習成果をチェックする機会を設けたが、毎回の確かなコメントを伝え合っていた。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. This course will cover a wide range of significant issues confronting the world today. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read and listen efficiently.
- ・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

ARSe200LA

日本語の世界 LA

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語、特に日本語の文法について考え、学ぶ授業です。

普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、私たちの日常的な日本語運用の中に隠れているメカニズムに迫ります。

その際、日本語学、認知言語学、語用論などの知見を参照しますので、これら学問の基本的な考え方（のいくつか）についても学ぶことができます。

ただし、受講に当たって言語学の知識は全く必要ありません。日本の大学で日本語で学ぶに十分な日本語能力さえあれば、どんな人でも受講可能です。

【到達目標】

1. 日本語の諸側面について体験をもとに考える力を身につける。
2. 話し合いの中で相手の意見をよく理解しつつ、自分の意見を言うことができる。
3. あるテーマについて、自分または自分たちが考えたことをわかりやすく発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前課題→資料を用いた学習・議論→課題

各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	授業ガイダンス	授業ガイダンス
②	日本語における格 「私だけ愛してた」 ～誰が誰を愛してた？	日本語における格を考える
③	「犯人はルパンだ」vs 「犯人がルパンだ」、 「ルパンが犯人だ」vs 「ルパンは犯人だ」	「は」と「が」の機能の違いを考える
④	で、「は」と「が」って どうやって使いわけ ればいいのか？	日本語学習者に「は」と「が」の違いを教えるにはどうすればいいか考える
⑤	「プレステ5、また売り切れだって」「え、 昨日、ヨドバシ に／ で あったよ。」～こ ういう場合、デでもO Kなんですかね？	場所を表す助詞二とデの違いを考える
⑥	「あ、お湯がわいて (い) る」vs「あ、お 湯がわいた」は同じ出 来事を表している？	「てい(る)」と「た」の違いから日本語における出来事の様相の捉え方を考える

- ⑦ 「あ、レポート、今日 「た」 から日本語の時間認識を今までだった！」～今日 える
のことなのに何でタツ
て言うの？
- ⑧ 「大学へ行った」は○、「へ」「に」「で」から場所に関連
「風呂へ入った」は△、する助詞の機能の違いを考える
「電車へ乗った」は
×、の不思議
- ⑨ 「犯人はルパンにちが 根拠に基づく主張を表す文の違い
いない」vs「犯人はル を考える
パンのはずだ」
- ⑩ 共感できない相手には 相手への共感と敬語使用の関係
敬語を使え？ を考える
- ⑪ 「「のだ」がわからない 「のだ」の機能を考える
のです」
～文末の「のだ」って
いったい何なの？
- ⑫ 「あ、0 点」vs「え、0 感動詞が表す「心の動き」を考え
点」vs「げっ、0 点」 る
「へー、すごいね～」
vs「ふーん、すごいね
～」
- ⑬ ミニ発表と討論①（予 受講生が日本語に関する疑問を提
定） 起し、全員で議論する
- ⑭ ミニ発表と討論②（予 受講生が日本語に関する疑問を提
定） 起し、全員で議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の文法を観察・内省し、自分なりの問いを立てること。
本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトを配布します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（毎回の課題、事前課題）60%、期末課題 40%で、評価を決める。
期末課題は選択制（複数の課題の中から 2 つ選び、授業内容を踏まえ解答する）。

【学生の意見等からの気づき】

「普段は意識せずに使っている日本語について、深く知ることができた」「過去を表すタなど、ひとつの文法が色々な機能を持っていることがわかり興味深かった」「文法が、私たちが出来事を体験する仕方や認識する仕方と関連していることがわかり、面白かった」「授業で学んだことを生かして、外国人の友達に日本語を教えたい」と言った肯定的なコメントを踏まえ、更に授業の内容を充実させていきたいと思っています。

また、異なる国籍、文化の人たちと話し合えることが好評なので、毎回ディスカッションを実施していく予定です。

【その他の重要事項】

普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、日本語の中に隠れているメカニズムに好奇心を持って迫ってみてください。
言語学や日本語学についての特別な知識は必要ありません。
日本語をさらに深く習得したい留学生、自分の母語について少し詳しく知りたい日本語母語話者、日本語教育に携わりたい人などにとって興味深い授業となるよう努めます。
言語学を学んだことがある人ももちろん歓迎します。
なお、授業計画は、一部変更することがあります。

【Outline and objectives】

This class is an introduction of the Japanese linguistics, which especially treats some grammatical topics. Students are required to approach mechanisms hidden in our ordinary use of Japanese.

Because some ideas of Japanese linguistics, cognitive linguistics and pragmatism are introduced through the task, students can learn some basic ideas in these fields.

ARSe200LA

日本語の世界 LB

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語、特に日本語の文法について考え、学ぶ授業です。
普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、私たちの日常的な日本語運用の中に隠れているメカニズムに迫ります。
その際、日本語学、認知言語学、語用論、日本語教育学などの知見を参照しますので、これら学問の基本的な考え方（のいくつか）についても学ぶことができます。
ただし、受講に当たって言語学の知識は全く必要ありません。日本の大学で日本語で学ぶに十分な日本語能力さえあれば、どんな人でも受講可能です。

【到達目標】

1. 日本語の諸側面について体験をもとに考える力を身につける。
2. 話し合いの中で相手の意見をよく理解しつつ、自分の意見を言うことができる。
3. あるテーマについて、自分または自分たちが考えたことをわかりやすく発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

課題 → 教材を用いた学習・議論 → 課題

各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	授業ガイダンス 世界の言語の中の日本語①	授業の進め方の説明 今までに学んだ言語と日本語を比べる／先学期と今学期の授業内容の紹介
②	（キャンパスにて） 「あ、サルが 来てる／来た 」は変だが、その翌日、再びサルを見て「あ、あのサルまた 来てる／来た 」が OK の謎	タとテイルについて考える
③	「彼女にふられた（涙）」vs「彼女は私をふった」 ～日本人は受身がち？	ヴォイス（態）について考える
④	「先生、次のゼミのレジュメを書いたのですが、読んでおいていただけますか。」と言ったら、先生が少し不機嫌になった。何で？	「ておく」の意味を考える

- ⑤ A「ここ、涼しいね」 「こそあ」について考える①
B「うん、ここ、涼しい」／A「ここ、涼しいね」B「え、そこ、涼しいの？ ここは暑いよ」～「ここ」と「そこ」のあいまいな（？）境界
- ⑥ 「昨日、キャンパスで 「こそあ」について考える②
すごい人見たんだ。あの、リクルートスーツを着てるのに、頭はモヒカン刈りなんだよ。」の「あの人」に違和感を感じませんか？
- ⑦ A「432 + 123 はいく フィラーについて考える
つですか？」B「あの一、555」A「あの一、そこは「あの一」ではなくて「えーと」って言うところだと思うのですが…」～アノーとエートの使い分けは案外難しい？
- ⑧ 「じゃあ、今日はこれで終わりです」 「じゃあ」「さあ」「よし」の機能について考える
「じゃあ、また」～「じゃあ／さあ／よし」、「では」について考えよう
- ⑨ 「そうですね」vs「そうですよ」vs「そうですよね」vs「そうですか」vs「そうですって」etc.
～何事も終わりが肝心です 終助詞の機能の違いを考える
- ⑩ 「年明けは就活が「いいよ」本格化するし、今のうちに遊んどかなきゃ。それにしても「とうとう」来年度から社会人か…」 出来事の実現時期到来を表す副詞を考える
～その前に「そろそろ」期末発表の準備をしましょう
- ⑪ 「～んです」の意味が わからないんです。 ノダの機能を考える
- ⑫ 「このお茶、ちょっと癖があるけど、好きな人は好きだよ。」 トートロジーに意味はあるのか考
「そりゃそうだ。」える
～で、何が言いたいの？
- ⑬ 「さむっ」vs「さむ～い」vs「さむい…」 言い方の違いからメッセージの違いを考える
～一番寒いのは誰？
- ⑭ まとめ 今学期の学習内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の文法を観察・内省し、自分なりの問いを立てること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトを配布します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（討論での発言、リアクション・ペーパーなど）60%、
期末レポート 40%で、評価を決める。

出席率が 70%以上であることを単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

「普段は意識せずに使っている日本語について、深く知ることができた」「過去を表すタなど、ひとつの文法が色々な機能を持っていることがわかり興味深かった」「文法が、私たちが出来事を体験する仕方や認識する仕方と関連していることがわかり、面白かった」「授業で学んだことを生かして、外国人の友達に日本語を教えたい」と言った肯定的なコメントを踏まえ、更に授業の内容を充実させていきたいと思っています。

また、異なる国籍、文化の人たちと話し合えることが好評なので、毎回ディスカッションを実施していく予定です。

【その他の重要事項】

普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、日本語の中に隠れているメカニズムに好奇心を持って迫ってみてください。

言語学や日本語学についての特別な知識は必要ありません。

日本語をさらに深く習得したい留学生、自分の母語について少し詳しく知りたい日本語母語話者、日本語教育に携わりたい人などにとって興味深い授業となるよう努めます。

言語学を学んだことがある人ももちろん歓迎します。

なお、授業計画は、一部変更することがあります。

【Outline and objectives】

This class is an introduction of the Japanese linguistics, which especially treats some grammatical topics. Students are required to approach mechanisms hidden in our ordinary use of Japanese.

Because some ideas of Japanese linguistics, cognitive linguistics and pragmatism are introduced through the task, students can learn some basic ideas in these fields.

ARSe200LA

日本の文化と社会 LA

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今学期は、「生（生命・生活）」をテーマに、安楽死、障害者差別、生活保障（生活保護／ベーシックインカム）、（私たちの生を支える）食に関する倫理的問題を取り上げます。授業では、例えば、「（積極的）安楽死の是非」「障害」は「障害者」の能力（の不足・欠如）の問題なのか」「生活保護を受けることは恥ずかしいことなのか」「食べ物」であれば何を食べても倫理的に問題ないのか」といった問いについて議論し、文献を読み（ドキュメンタリーを視聴することも考えています）、更に議論を含めることで、現代日本社会が直面する具体的な問題への認識を深めます。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能です。授業を通して基本的な知識を身に付けること、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つです。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的です。

【到達目標】

1. 問題について基本的な知識を身に付けること、問題への関心を深めること。
2. 討論の中で自分の考えをわかりやすく伝えること。（授業では積極的に自分の意見を表明することが求められますが、口頭で意見を述べることを苦手とする学生でも、コメントシートなどを活用し、書くことによって、自分の意見を表明することが出来れば問題なく授業に参加することができます。）
3. 異なる意見に触れ、自らとは異なる視点から問題を考える態度を身に付けること。
4. 異なる文化的出自を持つ学生との議論を通し、自文化を相対化する観点を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ①トピックに関する議論を行う。（グループ・ディスカッション）
- ②トピックに関連する文献紹介を行う／聞く
- ③②を踏まえ、再度議論を行う。

学期後半では、②を学生が担当する可能性もあります。

各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。それぞれの興味関心を共有する。
②	議論の練習①：	グループ・ディスカッションが「探求的な対話」となるように、議論の仕方を練習する

③	安楽死について考える①	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
④	安楽死について考える②	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑤	安楽死について考える③	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑥	障害者差別について考える①	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑦	障害者差別について考える②	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑧	障害者差別について考える③	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑨	生活保障（生活保護／ベーシックインカム）について考える①	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑩	生活保障（生活保護／ベーシックインカム）について考える②	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑪	生活保障（生活保護／ベーシックインカム）について考える③	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑫	食の倫理について考える①	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑬	食の倫理について考える②	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑭	食の倫理について考える③	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

（以下の資料を通読する、ということではなく、その一部を授業内で紹介するということなのでご安心ください。）

松田純（2018）『安楽死・尊厳死の現在-最終段階の医療と自己決定』中央公論社

安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店

宮下洋一（2017）『安楽死を遂げるまで』小学館

立岩真也（2008）『よい死』筑摩書房

竹内章郎（2020）『いのちと平等をめぐる 13 章 優生思想の克服のために』生活思想社

安藤祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房

スナウラ・テイラー（2020）『荷を引く獣たち 動物の解放と障害者の解放』世界思想社

立岩真也（2001）『弱くある自由へ 自己決定・介護・生死の技術』青土社

稲葉剛（2014）『生活保護から考える』岩波書店

菅野嘉人編著（2012）『ベーシックインカムは究極の社会保障か：「競争」と「平等」のセーフティネット』堀之内出版

原田泰『ベーシック・インカム 国家は貧困問題を解決できるか』中央公論

ロナルド・L・サンドラー（2019）『食物倫理（フード・エシックス）入門：食の倫理』ナカニシヤ出版

枝廣淳子（2018）『アニマルウェルフェアとは何か——倫理的消費と食の安全』岩波書店

その他、雑誌や新聞の記事

【成績評価の方法と基準】

各回の課題（50%）、期末レポート（50%）

出席率が 70 % 以上であることを単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

また、グループ討論で異文化交流ができるという点が好評なので、多国籍のグループ構成ができるように努めます。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

【Outline and objectives】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

ARSe200LA

日本の文化と社会 LB

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今学期は、格差、差別、不平等をテーマに、ジェンダー格差、人種差別、性的マイノリティ差別の問題を取り上げます。例えば、「『○○女子』という言い方に問題はあるか」「同性婚は法制化すべきか」「日本に人種差別は存在しないのか」といった問いについて議論し、文献を読み、更に議論を含めることで、現代日本社会が直面する具体的な問題への認識を深めます。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能です。授業を通して基本的な知識を身に付け、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つです。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的です。

【到達目標】

1. 問題について基本的な知識を身に付けること、問題への関心を深めること。
2. 討論の中で自分の考えをわかりやすく伝えること。
（授業では積極的に自分の意見を表明することが求められますが、口頭で意見を述べることを苦手とする学生でも、コメントシートなどを活用し、書くことによって、自分の意見を表明することが出来れば問題なく授業に参加することができます。）
3. 異なる意見に触れ、自らとは異なる視点から問題を考える態度を身に付けること。
4. 異なる文化的出自を持つ学生との議論を通し、自文化を相対化する観点を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ① トピックに関する議論を行う。（グループ・ディスカッション）
- ② トピックに関連する文献紹介を行う／聞く
- ③ ②を踏まえ、再度議論を行う。

各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。それぞれの興味関心を共有する。
②	議論の練習①：「制服」についてどのような観点から論じられるか考える	グループ・ディスカッションが「探求的な対話」となるように、議論の仕方を練習する
③	議論の練習②：「○○男子／女子」という言葉に問題はあるか	グループ・ディスカッションが「探求的な対話」となるように、議論の仕方を練習する

④	「女らしさ／男らしさ」～「女の子みたいにボールを投げて」と言われたらどうする？	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑤	男女に仕事の向き不向きはある？	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑥	女性は管理職に就くことを望んでいない？	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑦	同性婚の法制化は必要か	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑧	SOGI とは何か	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑨	アウティング／カミングアウトについて	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑩	日本は外国人に寛容な国で人種差別は存在しない？	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑪	「日本人」とは何か？	資料の読解・視聴 グループ・ディスカッション
⑫	発表①	文献紹介または自由発表
⑬	発表②	文献紹介または自由発表
⑭	発表③	文献紹介または自由発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

（以下の資料を全て読む、ということではなく、その一部を授業内で紹介することなのでご安心ください。）

佐藤文香監修（2019）『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』明石書店

伊藤公雄・牟田和恵編（2015）『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社

加藤秀一（2017）『はじめてのジェンダー論』有斐閣

大沢真知子（2017）『なぜ女性管理職は少ないのか 女性の昇進を妨げる要因を考える』青弓社

稲原美苗他（2020）『フェミニスト現象学入門』ナカニシヤ出版

森山至貴（2017）『LGBT を読みとくークィア・スタディーズ入門』筑摩書房

砂川秀樹（2018）『カミングアウト』朝日出版社

杉山 麻里子（2016）『ルポ同性カップルの子どもたち アメリカ「ゲイビープーム」を追う』岩波書店

ハントンヒョン（2019）「外国人・移民 包摂型社会を経ない排除型社会で起きていること」、小熊英二編『平成史【完全版】』河出書房新社

望月優大（2019）『ふたつの日本 「移民国家」の建前と現実』講談社

梁英聖（2020）『レイシズムとは何か』筑摩書房

下地ローレンス（2018）『「混血」と「日本人」 ―ハーフ・ダブル・ミックスの社会史―』青土社

その他、雑誌や新聞の記事

【成績評価の方法と基準】

各回の課題（50%）、期末レポート（50%）

出席率が 70 % 以上であることを単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

また、グループ討論で異文化交流ができるという点が好評なので、多国籍のグループ構成ができるように努めます。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

【Outline and objectives】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' viewpoints. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーション I 2017 年度以降入学者

JENS OSTWALD

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。

課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 自己紹介 (簡単な表現・会話)	Einführung Zur Person (einfache Redemittel, Übungen)
②	自己紹介 (ほかの表現・練習)	Zur Person (weitere Redemittel, Übungen)
③	趣味 (簡単な表現・会話)	Hobbys (einfache Redemittel, Übungen)
④	趣味 (ほかの表現・練習)	Hobbys (weitere Redemittel, Übungen)
⑤	家族	Familie
⑥	食べ物・飲み物 (簡単な表現・会話)	Essen & Trinken (einfache Redemittel, Übungen)
⑦	食べ物・飲み物 (ほかの表現・練習)	Essen & Trinken (weitere Redemittel, Übungen)
⑧	総復習	Wiederholung (Wortschatz, Grammatik, Redemittel)
⑨	住居	Wohnung
⑩	時刻と日付 (簡単な表現・会話)	Uhrzeit und Datum (einfache Redemittel, Übungen)
⑪	時刻と日付 (ほかの表現・練習)	Uhrzeit und Datum (weitere Redemittel, Übungen)
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen
⑬	練習	Übungen zur Wiederholung

⑭ 全体のまとめとテスト Zusammenfassung
Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習・宿題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト 50%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に転換になる場合には Zoom で接続可能な機器が必要です。

【Outline and objectives】

German language course;

basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life;

introduction to German culture.

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーションⅡ 2017 年度以降入学者

JENS OSTWALD

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。

単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	Einführung
②	春学期の復習	Wiederholung
③	旅行のためのドイツ語 1 道を尋ねる (簡単な表現)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - einfache Redemittel)
④	旅行のためのドイツ語 2 道を尋ねる (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - weitere Redemittel, Übungen)
⑤	旅行のためのドイツ語 3 ホテルで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Hotel - einfache Redemittel)
⑥	旅行のためのドイツ語 4 ホテルで (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Im Hotel - weitere Redemittel, Übungen)
⑦	旅行のためのドイツ語 5 レストランで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Restaurant - einfache Redemittel)

⑧	旅行のためのドイツ語 6 レストランで (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Im Restaurant - weitere Redemittel, Übungen)
⑨	旅行のためのドイツ語 7 駅にて (簡単な表現)	Reisedeutsch (Verkehr - einfache Redemittel)
⑩	旅行のためのドイツ語 8 駅にて (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Verkehr - weitere Redemittel, Übungen)
⑪	旅行のためのドイツ語 9	Reisedeutsch (Reiseziele)
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen
⑬	復習	Übungen zur Wiederholung
⑭	全体のまとめとテスト	Zusammenfassung Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習・宿題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト 50%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に転換になる場合には Zoom で接続可能な機器が必要です。

【Outline and objectives】

German language course;
basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life;
introduction to German culture.

LANd200LA

ドイツ語表現法 I

2017 年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。会話も苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うなら是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も多く設けたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書ける。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともあります、パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Erste Schritte: Persönliche Angaben machen Sich selbst vorstellen	自己紹介を書く I 辞書の使い方 I
2.	Länder, Städte, Zahlen	自分の出身を紹介する 人を紹介する
3.	Meine Stadt beschreiben	方位と場所
4.	Mein Alltag	日常 時間を表す
5.	Tagesablauf	助動詞
6.	Hobby und Freizeit	分離動詞
7.	Freizeitangebote in der Stadt	場所と時間を表す

8.	Lieblingsdinge beschreiben	好きな「もの」を紹介する 冠詞と代名詞
9.	作文作成 2	発表
10.	Essen und Trinken	食生活についてと好み
11.	Im Restaurant	レストランのメニューと注文
12.	Süßigkeiten in Deutschland und Japan	日本のお菓子について書く
13.	Vor den Ferien I	不規則動詞 話法の助動詞
14.	Vor den Ferien II	休暇中の予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は 1 時間を標準とします。

予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト（教科書）】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明

白水社

ISBN : 9784560064177

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題に取り組む態度（50%）

提出してもらうドイツ語の作文（50%）

を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要です。電子辞書可。

Zoom で接続可能なデバイス（オンラインやハイフレックス型授業に転換になった場合）

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

In this course students will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They will also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd200LA

ドイツ語表現法Ⅱ

2017 年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。．会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うなら是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も多く設けたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書ける。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともあります。パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Nach den Ferien	現在完了形
2.	Postkarte	Postkarte schreiben 手紙を書く
3.	Wohnen	前置詞
4.	Mein Traumhaus	住まいについて書く
5.	Wohnen in der Stadt oder auf dem Land ?	理由を表す
6.	Jahreskalender Datum und Monate Feiertage	年間行事 招待状を書く
7.	Feste feiern	複文
8.	An der Universität	大学について書く
9.	Meine Universität	グループワーク： 1 大学紹介を書く

10.	Meine Universität	グループワーク発表 2
11.	Eine Reise planen	旅行計画
12.	Sehenswürdigkeiten vorstellen	観光名所の紹介文を書く
13.	Erlebnisse und Erfahrungen	過去形 1 私の人生
14.	Erlebnisse und Erfahrungen	プレゼンテーション発表 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は 1 時間を標準とします。

予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト（教科書）】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明

白水社

ISBN：9784560064177

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題に取り組む態度（50%）

提出してもらうドイツ語の作文（50%）

を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要。電子辞書可。

Zoom で接続可能なデバイス（オンラインやハイフレックス型授業に転換になった場合）

【その他の重要事項】

授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

In this class we will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd200LA

ドイツ語視聴覚 I

2017 年度以降入学者

DIETMAR HEIDENREICH

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ショートアニメで学ぶドイツ語」をテーマに、この授業では、Youtube の無料学習チャンネルを使用し、自然なドイツ語を学び、異文化に対する姿勢や意識を高めることを目的とする。
 ＊＊オンライン・オンデマンド型での実施となりました。参照：【授業の進め方と方法】【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【学生が準備すべき機器他】＊＊

【到達目標】

- ・楽しくドイツ語の読解力やリスニング力を向上させる。
- ・ドイツの視聴覚文化に関わる基礎的な知識を修得する。
- ・海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。
- ・Web 上の教材を利用して独学できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。
 基本的にアップロード動画を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と進め方の説明
2	<i>Tina besucht mich</i> (1)	新しい住まいについてドイツ語学習 (1)
3	<i>Tina besucht mich</i> (2)	新しい住まいについてドイツ語学習 (2)
4	<i>Tina und Daniel</i> (1)	新しい仕事についてのドイツ語学習 (1)
5	<i>Tina und Daniel</i> (2)	新しい仕事についてのドイツ語学習 (2)
6	<i>Am Flughafen</i> (1)	旅についてのドイツ語学習 (1)
7	<i>Am Flughafen</i> (2)	旅についてのドイツ語学習 (2)
8	<i>Vorstellungsgespräch</i> (1)	面接についてのドイツ語学習 (1)
9	<i>Vorstellungsgespräch</i> (2)	面接についてのドイツ語学習 (2)
10	<i>Ich habe einen Herzinfarkt !</i> (1)	体調不良についてのドイツ語学習 (1)
11	<i>Ich habe einen Herzinfarkt !</i> (2)	体調不良についてのドイツ語学習 (2)
12	<i>Die Weisheiten des Lebens</i> (1)	ことわざについてのドイツ語学習 (1)
13	<i>Die Weisheiten des Lebens</i> (2)	ことわざについてのドイツ語学習 (2)
14	総復習	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習の意欲が要件です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。

【参考書】

独和辞書を持ってきて下さい。電子辞書も可。

【成績評価の方法と基準】

数回提出してもらう課題と、授業での練習問題に取り組む態度（平常点）を総合して評価する。

課題提出等：60%

平常点：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム「Hoppii」を介した方法のみで授業を行うため特殊な機材（Zoom など接続可能な機器）を用意する必要はありませんが、課題用紙を含めて教員から提示される文字資料は基本的に PDF ファイルになりますので、PDF フォームへの文字の入力方法などについてお持ちの PC を確認することを勧めます。

【Outline and objectives】

"German through short animation" as theme, the goal of this class is to use Youtube's free learning channel to learn natural German and at the same time to raise the attitude and awareness toward different cultures.

LANd200LA

ドイツ語視聴覚Ⅱ

2017 年度以降入学者

DIETMAR HEIDENREICH

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ショートアニメで学ぶドイツ語」をテーマに、

この授業では、Youtube の無料学習チャンネルを使用し、自然なドイツ語を学び、異文化に対する姿勢や意識を高めることを目的とする。

オンライン・オンデマンド型での実施となりました。参照：【授業の進め方と方法】【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【学生が準備すべき機器他】

【到達目標】

- ・楽しくドイツ語の読解力やリスニング力などを向上させる。
- ・ドイツの視聴覚文化に関わる基礎的な知識を修得する。
- ・海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。
- ・Web 上の教材を利用して独学できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。

基本的にアップロード動画を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と進め方の説明
2	<i>Ich brauche ein Auto</i> (1)	車購入についてのドイツ語学習 (1)
3	<i>Ich brauche ein Auto</i> (2)	車購入についてのドイツ語学習 (2)
4	<i>Ein Tag im Leben eines Superhelden!</i> (1)	日程描写についてのドイツ語学習 (1)
5	<i>Ein Tag im Leben eines Superhelden!</i> (2)	日程描写についてのドイツ語学習 (2)
6	<i>Mein Auto wird gestohlen</i> (1)	車強盗についてのドイツ語学習 (1)
7	<i>Mein Auto wird gestohlen</i> (2)	車強盗についてのドイツ語学習 (2)
8	<i>Mein Mann hatte einen Unfall</i> (1)	家の事故についてのドイツ語学習 (1)
9	<i>Mein Mann hatte einen Unfall</i> (2)	家の事故についてのドイツ語学習 (2)
10	<i>Im Ausländeramt</i> (1)	ビザ 延長についてのドイツ語学習 (1)
11	<i>Im Ausländeramt</i> (2)	ビザ 延長についてのドイツ語学習 (2)
12	<i>Sarah und Max feiern Sylvester</i> (1)	大晦日についてのドイツ語学習 (1)

13 *Sarah und Max feiern Sylvester* (2) 大晦日についてのドイツ語学習 (2)

14 総復習 総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習の意欲が要件です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。

【参考書】

独和辞書を持ってきて下さい。電子辞書も可。

【成績評価の方法と基準】

数回提出してもらう課題と、授業での練習問題に取り組む態度（平常点）を総合して評価する。

課題提出等：60%

平常点：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム「Hoppii」を介した方法のみで授業を行うため特殊な機材（Zoom など接続可能な機器）を用意する必要はありませんが、課題用紙を含めて教員から提示される文字資料は基本的に PDF ファイルになりますので、PDF フォームへの文字の入力方法などについてお持ちの PC を確認することを勧めます。

【Outline and objectives】

"German through short animation" as theme, the goal of this class is to use Youtube's free learning channel to learn natural German and at the same time to raise the attitude and awareness toward different cultures.

LANd200LA

時事ドイツ語 I

2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツにおける時事的な出来事・事柄（2019/20）についてドイツ語で書かれた文章を読み、ドイツ語の文法的な知識を再確認するとともに、文章としてまとまったものを読む力を養成する。また同時に、こうした読解を通して、現在のドイツおよびヨーロッパについて政治、経済、スポーツ、芸術、社会などについての知識と理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

時事的なドイツ語の文章の構成や書き方に慣れ、辞書を用いながら文章を読める力を養成することができます。

また、文法的には初級文法の知識を確実なものとすると同時に、さらに少し踏み込んだ文法内容も理解することができます。

それを通して、ドイツおよびヨーロッパの現在の状況についてトータルな知識を獲得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『時事ドイツ語 2021 年度版（Neuigkeiten aus Deutschland 2019/20）』（朝日出版社）を教材として用います。

テキストに沿って基本的な文法事項を確認し、語彙や構文の復習を行いながら、受講者の理解度を見ながら進めていきます。また時事的なドイツ語の文章に慣れ、読解力を養います。

毎回、あらかじめテキストの範囲と担当者を決め、次回に訳読してもらいます。

必要に応じて文法的な復習のためのプリントを配布したり、テキストに取り上げられている時事的な事柄と関連するものがあれば、ビデオやプリントなどを使用して知識を補い、拡充していきます。また、適宜、確認小テストを行う。

課題、また確認小テストのフィードバックは次回の授業時にそのつど、解説を加えたフィードバックを行う。

訳読を行うにあたっては、精読（close reading）・解釈力の養成・文法的知識の向上が必要となる。

その十全な養成実施のために、またこの授業の定員を今年度の特別教室収容定員を考慮した数とします。

履修希望者が今年度の特別教室収容定員を考慮した数を超えた場合には、初回授業で学習支援システムでの仮登録者を対象に選抜を行います。履修希望する学生は必ず初回授業前までに仮登録をすること。仮登録をしていない学生は選抜対象になりません。授業初回時に抽選を行い、その結果を当日中に授業支援システム、Hoppii の「お知らせ」欄、また「授業内掲示板」を通して周知します。

第 1 回はオンラインで行う。Hoppii を見てください。

なお、オンライン授業を積極的に活用します。授業支援システム、Hoppii をよく見ることを。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション ドイツ分断	授業のねらいと進め方、学習の仕方についてのガイダンスをおこなう。 「ドイツ分断から統一へ」の訳読と文法事項の解説①
第 2 回	ドイツの統一	「ドイツ分断から統一へ」の訳読と文法事項の解説をおこなう②
第 3 回	時と場所を超えた音楽について	「時と場所を超えた音楽について」の訳読と文法事項の解説、練習問題をおこなう。①
第 4 回	ベートーヴェン生誕 250 年	「ベートーヴェン生誕 250 年」の訳読と文法事項の解説②
第 5 回	ドイツ人の姓について	「ドイツ人の姓」の訳読と文法事項の解説をおこなう。①
第 6 回	familiennamen について	「Familiennamen」の訳読と文法事項の解説、練習問題をおこなう。②
第 7 回	ドイツの宗教について	「ドイツの宗教」の読解と文法事項の解説をおこなう①
第 8 回	進む教会離れについて	「進む教会離れ」の読解と文法事項の解説をおこなう②
第 9 回	ドイツ語について	「ドイツ語について」の読解と文法事項の解説、練習問題をおこなう①
第 10 回	ドイツ語は危ういか、について	「ドイツ語は危ういか」の読解と文法事項の解説をおこなう②
第 11 回	スポーツについて	「スケートボード」の読解と文法事項の解説をおこなう①
第 12 回	スケボーは遊びかスポーツか	「スケボーは遊びかスポーツか」の読解と文法事項の解説、練習問題をおこなう②
第 13 回	全体的な振り返り	文法事項の確認と表現
第 14 回	試験・まとめと解説	これまでのまとめと振り返り、および試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。上記の授業の進め方を十分に遂行していくためには、毎回、予め指定した進む範囲について、各人が事前にテキストを読み、予習をおこなって授業にのぞむことが必要かつ重要です。知らない単語のチェック、調べ、またわからない構文についても授業中に質問し、自分の試読と比較して知識を確実なものとする（復習）です。テキストの内容に即したニュース解説などを読んでおくことと内容の理解も多角的になり、深まります（予習・復習）。

【テキスト（教科書）】

A.Raab+石井寿子著『時事ドイツ語 2021 年度版（Neuigkeiten aus Deutschland 2019/20）』、朝日出版社。

【参考書】

参考書は特に必要ありませんが、独和辞典は必要です。また毎回、辞書を授業に持ってきてください。

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う期末試験：50 %

平常点（テキストの訳読・課題、確認小テストなど）：50 %

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な文法説明を望む学生、またその評価が多いので、文法事項をわかりやすく説明し、また同時に日独比較などにより内容の総合的な理解にも取り組みたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業やハイフレックス型授業の場合必要な機器として Zoom で接続可能なデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】

授業の進め方にも記載したが、訳読を行うにあたっては、精読（close reading）・解釈力の養成・文法的知識の向上が必要となる。その十全な養成実施のために、またこの授業の定員を今年度の特別教室収容定員を考慮した数とします。

履修希望者が今年度の特別教室収容定員を考慮した数を超えた場合には、初回授業で学習支援システムでの仮登録者を対象に選抜を行います。履修希望する学生は必ず初回授業前までに仮登録をすること。仮登録をしていない学生は選抜対象になりません。授業初回時に抽選を行い、その結果を当日中に授業支援システム、Hoppiiの「お知らせ」欄、また「授業内掲示板」を通して周知します。

第1回はオンラインで行う。Hoppiiを見てください。

なお、オンライン授業を積極的に活用します。授業支援システム、Hoppiiをよく見ること。

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】

German for Ichigaya Liberal Arts Center(ILAC) Program.

This course provides advanced German sentences and expressions of its current news and topics including politics, economy, arts and so on through reading of the articles and is open to the students who completed German 1 and German 2 in the ILAC Program.

LANd200LA

時事ドイツ語Ⅱ

2017年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1単位

法文営国環キ2年～※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツにおける時事的な出来事・事柄（2019/20）についてドイツ語で書かれた文章を読み、ドイツ語の文法的な知識を再確認するとともに、文章としてまとまったものを読む力を養成する。また同時に、こうした読解を通して、現在のドイツおよびヨーロッパについて政治、経済、スポーツ、芸術、社会などについての知識と理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

時事的なドイツ語の文章の構成や書き方に慣れ、辞書を用いながら文章を読める力を養成することができます。

また、文法的には初級文法の知識を確実にものとすると同時に、さらに少し踏み込んだ文法内容も理解することができます。

それを通して、ドイツおよびヨーロッパの現在の状況についてトータルな知識を獲得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『時事ドイツ語 2021年度版（Neuigkeiten aus Deutschland 2019/20）』（朝日出版社）を教材として用います。

テキストに沿って基本的な文法事項を確認し、語彙や構文の復習を行いながら、受講者の理解度を見ながら進めていきます。また時事的なドイツ語の文章に慣れ、読解力を養います。

毎回、あらかじめテキストの範囲と担当者を決め、次回に訳読してもらいます。

必要に応じて文法的な復習のためのプリントを配布したり、テキストに取り上げられている時事的な事柄と関連するものがあれば、ビデオやプリントなどを使用して知識を補い、拡充していきます。また、適宜、確認小テストを行う。

課題、また確認小テストのフィードバックは次回の授業時にそのつど、解説を加えたフィードバックを行う。

訳読を行うにあたっては、精読（close reading）・解釈力の養成・文法的知識の向上が必要となる。その十全な養成実施のために初回授業で学習支援システムでの仮登録者を対象に選抜を行います。履修希望する学生は必ず初回授業前までに仮登録をすること。仮登録をしていない学生は選抜対象になりません。授業初回時に抽選を行い、その結果を当日中に授業支援システム、Hoppiiの「お知らせ」欄、また「授業内掲示板」を通して周知します。

第1回はオンラインで行う。Hoppiiを見てください。

なお、オンライン授業を積極的に活用します。授業支援システム、Hoppiiをよく見ること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション ドイツの食文化について	授業のねらいと進め方、学習の仕方についてのガイダンスをおこなう。 「ドイツの食文化の流行」の訳読と文法事項の解説を行う。

第 2 回	Ernaehrungstrends	Ernaehrungstrends の訳読と文法事項の解説、練習問題をおこなう。
第 3 回	最小限主義について	「最小限主義について」の訳読と文法事項の解説をおこなう。
第 4 回	少ないほど豊かなのか？	Weniger ist mehr. の訳読と文法事項の解説、練習問題をおこなう。
第 5 回	ほら吹き男爵について	「ほら吹き男爵」の訳読と文法事項の解説をおこなう。
第 6 回	Der Luegenbaron	Der Luegenbaron の訳読と文法事項の解説、練習問題をおこなう。
第 7 回	ドイツのドラマシリーズについて	「リンデンシュトラッセ」の訳読と文法事項の解説をおこなう。
第 8 回	Lindenstrasse	Lindenstrasse の訳読と文法事項の解説、練習問題をおこなう。
第 9 回	ドイツのコロナ状況	「ドイツのコロナ禍」の訳読と文法事項の解説をおこなう。
第 10 回	Coronakrise 1	Coronakrise 1 の訳読と文法事項の解説、練習問題をおこなう。
第 11 回	ドイツのコロナ状況の転換	「ドイツのコロナ禍の転換」の訳読と文法事項の解説をおこなう。
第 12 回	Coronakrise 2 (転換)	Coronakrise 2 (転換) の訳読と文法事項の解説、練習問題をおこなう。
第 13 回	振り返り	文法事項の確認と振り返り
第 14 回	試験、まとめと解説	総合的なまとめと解説 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。上記の授業の進め方を十分に遂行していくためには、毎回、予め指定した進む範囲について、各人が事前にテキストを読み、予習をおこなって授業にのぞむことが必要かつ重要です。知らない単語のチェック、調べ、またわからない構文についても授業中に質問し、自分の訳と比較して知識を確実なものとする（復習）です。テキストの内容に即したニュース解説などを読んでおくことと内容の理解も多角的になり、深まります（予習・復習）。

【テキスト（教科書）】

A.Raab+石井寿子著『時事ドイツ語 2021 年度版 (Neuigkeiten aus Deutschland 2019/20)』、朝日出版社。

【参考書】

参考書は特に必要ありませんが、独和辞典は必要です。また毎回、辞書を授業に持ってきてください。

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う期末試験：50 %

平常点（テキストの訳読・課題、確認小テストなど）：50 %

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な文法説明を望む学生、またその評価が多いので、文法事項をわかりやすく説明し、また同時に日独比較などにより内容の総合的な理解にも取り組みたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業やハイフレックス型授業の場合必要な機器として Zoom で接続可能なデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】

授業の進め方にも記載したが、訳読を行うにあたっては、精読 (close reading)・解釈力の養成・文法的知識の向上が必要となる。

その十全な養成実施のために、初回授業で学習支援システムでの仮登録者を対象に選抜を行います。履修希望する学生は必ず初回授業前までに仮登録をすること。仮登録をしていない学生は選抜対象になりません。授業初回時に抽選を行い、その結果を当日中に授業支援システム、Hoppii の「お知らせ」欄、また「授業内掲示板」を通して周知します。

第 1 回はオンラインで行う。Hoppii を見てください。

なお、オンライン授業を積極的に活用します。授業支援システム、Hoppii をよく見ること。

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】

German for Ichigaya Liberal Arts Center(ILAC) Program.

This course provides advanced German sentences and expressions of its current news and topics including politics, economy, arts and so on through reading of the articles and is open to the students who completed German 1 and German 2 in the ILAC Program.

LANd200LA

検定ドイツ語 I

2017 年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年生で習った文法を復習しながら、その知識を実際に応用してみる。最終的に、独検 4 級程度のドイツ語力をつける。

【到達目標】

これまで習った文法事項を思い出ししながら、それらを多くの問題演習の場面で組み合わせて能動的に利用できる。
ドイツ語検定 4 級に合格するために必要なドイツ語力をつけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ドイツ語検定の問題を演習しながら、文法を復習し、語彙力をつける。単に受け身で授業を聞いているだけでは学習が進まないと思っている人には、特におすすみたい授業形式である。
コロナ関係の制限が許す限り、グループワークなども導入したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	力試しのドイツ語検定 4 級過去問	模試（出来は成績とは関係ない。自分の欠点を知る事が大事）
第 2 回	発音	発音問題を、音声教材を利用しながら解き、ドイツ語の発音ルールを身につける
第 3 回	動詞・助動詞の現在人称変化、名詞の格変化、指示代名詞	動詞や助動詞の現在人称変化を問題演習を通じて復習する
第 4 回	所有代名詞、不定代名詞、決定疑問文	不定冠詞類の格変化を復習し、疑問文への答え方をマスターする
第 5 回	前置詞、疑問詞	格の考え方を拡張し前置詞を体系的に理解し、疑問詞の使い方を問題演習で身につける
第 6 回	接続詞、数詞	並列接続詞を復習し、数詞を集中的に聞き取れるようにする
第 7 回	分離動詞、再帰動詞	動詞の枠構造を復習しながら分離動詞を理解し、再帰代名詞の使い方を問題演習でつかむ
第 8 回	会話文	会話の授業で習った日常表現を復習しながら、会話文の問題演習を行う
第 9 回	会話文	前週に扱った会話基礎表現を復習しながら、さらに問題演習を行う
第 10 回	読解文	文法事項と単語の知識をアクティブに使う練習として、読解文の問題演習を行う
第 11 回	読解文	手紙文の書き方の基礎をおさえ、問題演習で定着をはかる
第 12 回	聞き取り問題	これまでのリスニング教材の利用の成果の腕試しを兼ねて、リスニング問題の解き方を解説

第 13 回 聞き取り問題

書き取り問題を集中的に行う

第 14 回 最後の力試しのドイツ語検定過去問

第 1 回に回答した問題にもう一度挑戦する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
この授業は単語の練習と復習を重視します。

【テキスト（教科書）】

恒吉良隆『独検対策 4 級・3 級問題集』（白水社,2016 年）

【参考書】

森泉、H-J クナウプ『新 独検対策 4 級・3 級必須単語帳』（白水社、2016 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の宿題の提出状況：40%

毎回の単語テストの出来：30%

最初のテストから最後のテストまでの成長分：30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題を提出できるパソコン（なおオンライン授業になる可能性がありますので、Zoom のインストールをお願いします）。ノートを鮮明に撮影できるカメラ（スマートフォン可）。

【その他の重要事項】

ドイツ語に自信がない方にとって最適な復習になり、資格を目指したい人の一歩目になるようなコースにします。
ドイツ語文法を 1 年生で学習した人を対象にはしますが、意欲のある初学者も相談の上受け入れることができます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to revive knowledge of basic German grammar and to pass grade 4 of the "Dokken" German diploma.

LANd200LA

検定ドイツ語Ⅱ

2017 年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年生で習った文法を復習しながら、その知識を実際に応用してみる。最終的に、独検 3 級程度のドイツ語力をつける。

【到達目標】

これまで習った文法事項を思い出ししながら、それらを多くの問題演習の場面で組み合わせて能動的に利用できる。
ドイツ語検定 3 級に合格するために必要なドイツ語力をつけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ドイツ語検定の問題を演習しながら、文法を復習し、語彙力をつける。単に受け身で授業を聞いているだけでは学習が進まないと思っている人には、特におすすめしたい授業形式である。
コロナ関係の制限が許す限り、グループワークなども導入したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	力試しのドイツ語検定 3 級過去問	模試（出来は成績とは関係ない。自分の欠点を知る事が大事）
第 2 回	発音問題	発音のルールを復習しながら、問題演習を行って注意すべきところをに気づく
第 3 回	現在完了、過去	過去のことを表現する現在完了と過去形を習得する
第 4 回	従属接続詞、関係代名詞	副文を作る表現の使い方を集中的に復習しながら、問題演習を行う。
第 5 回	zu 不定詞、受動文	不定詞句の考え方をマスターするために問題演習を行う
第 6 回	使役・知覚の動詞、形容詞の格変化	問題演習を通じて、使役と知覚の動詞の使い方をマスターし、形容詞の格変化を復習する
第 7 回	比較、接続法	形容詞の比較用法の考え方をマスターする。接続法を使えるようになる
第 8 回	会話文	会話の基礎表現を練習しながら、会話文の問題演習を行う
第 9 回	会話文	前週の復習を行いながら、さらに問題演習を行う
第 10 回	読解文	論説文を読む練習をする
第 11 回	読解文	手紙文を読み、書く練習をする
第 12 回	聞き取り	会話文の聞き取りを行う
第 13 回	聞き取り	書き取り問題を集中的に練習する
第 14 回	最後の力試しのドイツ語検定過去問	第 1 回に回答した問題にもう一度挑戦する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
この授業は単語の練習と復習を重視します。

【テキスト（教科書）】

恒吉良隆『独検対策 4 級・3 級問題集』（白水社、2016 年）

【参考書】

森泉、H-J クナウプ『新 独検対策 4 級・3 級必須単語帳』（白水社、2016 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の宿題の提出状況：40%

毎回の単語テストの出来：30%

最初のテストから最後のテストまでの成長分：30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムが使えるコンピュータ（なおオンライン授業に参与する可能性がありますので、Zoom のインストールをお願いします）およびノートに鮮明に撮影できるカメラ（スマートフォン可）

【その他の重要事項】

ドイツ語検定 4 級の合格は履修の前提ではありません。1 年生のときにドイツ語文法を学んでいることを前提します。
問題演習を通じてみなさんが習ったことを組み合わせて使えるようになる楽しみを味わっていただけたようにしたいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to revive knowledge of basic German grammar and to pass the grade 3 of the "Dokken" German diploma.

ARSA200LA

ドイツ語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。（履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。）

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- ・各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- ・映画の解釈方法を身につける。
- ・異文化理解能力を高める。
- ・テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- ・プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	オリエンテーション	授業の概説 発表の内容の取り決め
2.	ドイツ語圏の世界	地理, 言語, その他
3.	文学	ドイツと言えばゲーテ？ プレゼンテーション
4.	文学	映画：ゲーテの恋 ～君に捧ぐ 「若きウェルテルの悩み」 Goethe! (2010) ディスカッション
5.	オーストリアと日本	Sissi とミュージカル「エリザベート」
6.	スイスと日本	映画：ハイジ アルプスの物語 Heidi (2015)
7.	スイスと日本	ハイジ in Japan プレゼンテーション
8.	戦争映画 1	第一次世界大戦 西部戦線異状なし (1930) 戦場のアリア (2005) ディスカッション
9.	ドイツと日本	ベートーヴェンの「第九」 プレゼンテーション 映画：バルトの楽園 (2006)

10.	戦争映画	第二次世界大戦 プレゼンテーション ディスカッション
11.	ヒトラー	ヒトラーと女性
12.	サッカーを通してみる 戦後ドイツ社会	サッカーって文化？
13.	サッカーを通してみる 戦後ドイツ社会	映画：ベルンの奇跡 Das Wunder von Bern (2003)
14.	プレゼンテーション	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料を読んでくる宿題を出します。（資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語）
自分担当のプレゼンテーションの準備とレジュメ作成
本授業の準備学習・復習時間は、計 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピー配布

【参考書】

- ・森井 裕一（著、編集）『ドイツの歴史を知るための 50 章』（エリア・スタディーズ 151）
- ・宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化 55 のキーワード』
- ・新野守広・飯田道子・梅田紅子（編）『知ってほしい国 ドイツ』

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ：50%

授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能なデバイス（オンラインやハイフレックス型授業に転換になった場合）

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。
質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先をお願いします。
ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society. The Students' final grades will be based on a presentation and active participation in class

ARSA200LA

ドイツ語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

Schmidt Ute

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。（履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。）

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- ・各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- ・映画の解釈方法を身につける。
- ・異文化理解能力を高める。
- ・テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- ・プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	東西ドイツ	ベルリンの壁ができるまで 映画：トンネル Der Tunnel (2001)
2.	西ドイツ	極左のテロリズム バーダー・マインホフ/理想の果てに Der Baader Meinhof Komplex (2008)
3.	東ドイツ	Stasi - 東ドイツの秘密警察 映画：善き人のためのソナタ Das Leben der Anderen (2006)
4.	ドイツ統一	ベルリンの壁崩壊 映画：グッバイ、レーニン！ Good Bye Lenin (2003)
5.	ドイツ統一	プレゼンテーション ディスカッション
6.	青春	映画：50 年後のボクたちは Tschick (2016) プレゼンテーション ディスカッション

7.	ヒトラー	ヒトラーについて笑っていいのか？ 映画：帰ってきたヒトラー Er ist wieder da! (2015) プレゼンテーション ディスカッション
8.	ヒトラー	ドイツ極右組織 NSU 映画：女は二度決断する Aus dem Nichts (2017) プレゼンテーション ディスカッション
9.	テロリズム	難民問題 映画：初めてのおもてなし Willkommen bei Hartmanns (2016) プレゼンテーション ディスカッション
10.	ドイツ極右組織	
11.	ドイツ極右組織	
12.	移民国ドイツ	
13.	移民国ドイツ	
14.	移民国ドイツ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料を読んでくる宿題を出します。（資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語）
本授業の準備学習・復習時間は、計 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布

【参考書】

- ・森井裕一（著、編集）『ドイツの歴史を知るための 50 章』（エリア・スタディーズ 151）
- ・宮田真治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化 55 のキーワード』
- ・新野守広・飯田道子・梅田紅子（編）『知ってほしい国 ドイツ』

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ：50%

授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー：50%

【学生の意見等からの気づき】

特にありません

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能なデバイス（オンラインやハイフレックス型授業に転換になった場合）

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません。
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。
質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先をお願いします。
ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society. The Students' final grades will be based on a presentation and active participation in class.

ARSa200LA

ドイツの文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ドイツ語圏のキーワード

上田 知夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ」と聞いて思い浮かべるイメージはなんですか。ドイツについて全く知らない人でもいくつかのキーワードが思い浮かぶのではないのでしょうか。

この授業ではそのようなすぐ気がつくキーワードから、ちょっと通なキーワードを集めて、それらがドイツ語圏の社会で果たす役割について少しだけ深く考えて見ることにしたいと思います。ドイツ語の学習は前提しませんし、ドイツ語の文献を扱うこともありません。

【到達目標】

この授業では、ドイツ語圏の様々なキーワードの背後にある、社会や歴史的要素について理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。しかし毎回のテーマについて皆さんが知っていることを積極的に伺いますので、対話に参加して下さることを期待します。コロナの状況が許せば、グループワークなどもやってみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	ドイツとドイツ語圏について。
第 2 回	ドイツ語の歴史	ドイツ語の歴史について。
第 3 回	ドイツ語の地域性	さまざまな地域のドイツ語について。
第 4 回	ビールの現状	ドイツのビールの現状について。
第 5 回	ビールの歴史	ドイツ語圏のビールの歴史について。
第 6 回	サッカー	ローカルパトリオリズムおよびナショナリズムについて。
第 7 回	ハイジのおんじ	スイスの歴史と傭兵輸出について。
第 8 回	ハイジの旅	スイスの鉄道網の発展と観光について。
第 9 回	アウトバーン	ドイツの自動車交通について。
第 10 回	ドイツの自動車産業	ドイツの工業化と自動車産業の展開について。
第 11 回	ドイツの教育制度	マイスターを生むドイツの教育制度について。
第 12 回	ドネルケバブ	ドイツの都市とそこにやってきた移民（およびその子孫）たちについて。
第 13 回	外国語としてのドイツ語	社会の統合としての言語について。

第 14 回 まとめ

これまでの話題について振り返り、期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

予習：次のキーワードについて思いつくことをいくつか考えてから教室に来てください。

復習：レジュメを読み返してください。特に、レポートを書こうと思うテーマの回については、オフィスアワーを積極的に利用して教員と相談の上、参考文献を図書館で探してみてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。ハンドアウトを配布し、スライドを用いて授業します。

【参考書】

毎回異なる参考文献を参照するので、授業ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の小課題：40%

授業への積極的参加：10%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

個々のキーワードをなるべく有機的につなげるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、スマートフォン、タブレットなど、インターネット通信環境のある機器があれば持参のこと（なおオンライン授業になる可能性がありますので、Zoom のインストールをお願いします）。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期は独立して履修できるようにしてあります。

毎回最初の 10 分ほどでプレインストーミングを行い、最後の 10 分ほどで議論を行うので、積極的に参加してください。

【Outline and objectives】

This lecture aims to get some basic understanding of the German-speaking countries.

This lecture is organized according to keywords that tend to be associated with these countries.

This lecture does not presuppose any knowledge of the German language.

ARSa200LA

ドイツの文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

上田 知夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではドイツの文化と社会の関係を社会についての思想を手がかりに捉えることを目的にします。

その際に、ドイツ語圏の思想が、

1. さまざまな歴史的社会的な事情との関連で展開してきたこと、および、
 2. 実際には 1 つの言語圏を超えて広がっていくということを理解したいと思います。
- なお、この授業は日本語で行います。ドイツ語力は一切前提しません。

【到達目標】

この授業を通じて、

- ・ 20 世紀から 21 世紀のドイツの社会問題についての概観を得ることができます
- ・ ドイツの社会思想について概観を得ることができます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業の中心部分は講義形式ですが、最後の 10 分程度全体でディスカッションしたいと思います。また毎回リアクションペーパーの提出を求めます。

また適宜、参加者に発言を求めることがあります。積極的な発言が、平常点の加算要因です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入：ドイツ語圏の 20 世紀の歴史の概観	ドイツ語圏の 20 世紀について、高校世界史の復習をします。
第 2 回	ワイマール共和国とフランクフルト学派	フランクフルト学派の第 1 世代の研究の背景を大戦間期のドイツの政治状況と関連付けます。
第 3 回	ナチスの台頭とフランクフルト学派	1933 年以降のドイツの政治状況を概観し、それがドイツの大学に与えた影響を考察します。
第 4 回	19 世紀から 20 世紀にかけてのウィーンの文化	ウィーン学団を生んだオーストリアおよびウィーンの歴史を概観します。
第 5 回	ウィーン学団	ウィーンの歴史を文化の側面から見たときのウィーン学団の位置について概観します。
第 6 回	亡命知識人の哲学 1: アメリカのフランクフルト学派	ナチスの台頭に伴い、多くの哲学者が亡命しました。アメリカ東部の亡命知識人の状況とその思想的展開を追います。
第 7 回	亡命知識人の哲学 1: アメリカのフランクフルト学派	フランクフルト学派が西部に移動したことを概観し、カルフォルニア地域の亡命知識人の状況について概観します。

第 8 回	亡命知識人の哲学 2: 英語圏の科学哲学	ウィーン学団の哲学者たちの亡命とその後の英語圏の哲学に与えた影響について概観します。
第 9 回	亡命知識人の哲学 2: 英語圏の科学哲学	ウィーンから渡米した哲学者たちが、アメリカに定住していく様子を概観します。
第 10 回	戦後のフランクフルト学派	第 2 次世界対戦後のドイツの学問状況を哲学者たちを事例に概観します。
第 11 回	68 年世代の哲学	1968 年当時の哲学的状況を概観します。
第 12 回	ハーバマスと社会哲学 1: 社会国家と生活世界	戦後ドイツの社会国家について概説し、社会国家制度と社会哲学の関係を概観します。
第 13 回	ハーバマスと社会哲学 2: 歴史家論争	第 2 次世界対戦後のドイツが、第 2 次世界対戦をどのように振り返ってきたかについて歴史家論争を手がかりに概観します。
第 14 回	まとめ	これまでの議論をまとめ、レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
この授業では復習を中心に学習してください。とりわけ興味を持った主題についてのレポートの準備を入念に行うことを求めたいと思います。そのためのオフィスアワーの積極的利用も推奨します。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。適宜、レジュメを配布します。

【参考書】

毎回異なる参考書を利用しますので、スライドでそれらを指示します。レポートを執筆しようと思う回については、それらを一読することをお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

授業の際に提出するリアクションペーパー：50%

レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の学生の要望により、ウィーンやフランクフルトの都市の歴史を少し多めに授業しようと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、スマートフォン、タブレットなど、インターネット通信環境のある機器があれば持参のこと（なおオンライン授業になる可能性がありますので、Zoom のインストールをお願いします）。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期は独立して履修できるようにしてあります。ただし、春学期で学んだことは絶対に無駄になりませんので、春学期に履修した方の積極的な参加を期待します。

【Outline and objectives】

The theme of this lecture is the relationship between philosophical thoughts and their roles in society, especially, in German society.

ARSA200LA

フランス語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

コルベユ スティーブ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「フランス語」を介して、フランス的世界の掘りを知ることとする。フランス語を話す人々の共同体や彼らの住む領域は、一般に「フランコフォニー（フランス語圏）」と呼ばれる。本授業ではそのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域圏・地域・国にどのような地理・歴史的背景、言語状況、各種の文化（歴史建造物、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。

「フランス的なもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、フランス語学習の基礎作りを行うだけでなく、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、春学期は主にフランス共和国本土の文化と社会について学ぶ。特に、フランスの「メディア」を分析する。

***この科目はオンラインで実施。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語の世界的掘りについて理解できる。
- 3) 「フランス的なもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてもらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：国内の歴史、県・地域圏などの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国及びフランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	イントロダクション：国内の歴史、県・地域圏などの成立経緯	・フランス共和国及びフランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介

3	フランス語の方言	方言の歴史背景 フランスのテレビや映画における方言の表象 方言差別の問題
4	ノール＝パ・ド・カレー地域圏	ノール＝パ・ド・カレー地域圏の歴史と文化 フランス国内における「北」に関する偏見
5	南フランス①	プロヴァンス＝アルプ＝コート・ダジュール地域圏の歴史と文化
6	南フランス②	コルシカ地域圏の歴史と文化
7	南フランス③	フランスのメディアにおける南フランスの表象①
8	南フランス④	フランスのメディアにおける南フランスの表象②
9	ブルターニュ地域圏	ブルターニュ地域圏の歴史、文化、言語
10	フランスの広告とアール・ド・ヴィーヴル戦略	フランス国内と海外向けの観光宣伝を分析し、地方の描写を理解する
11	ジェンダー論とフランス①	フランスにおけるジェンダー論の歴史
12	ジェンダー論とフランス②	パリとフランス地方におけるジェンダー問題
13	移民とフランス	カレー地方の移民キャンプ
14	まとめ	・春学期授業のまとめ ・秋学期授業の予告：世界のフランコフォニー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 各テーマに関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
- 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができないわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
- 3) 期末レポートの執筆に向けて、「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。）
- 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

- I. 以下の 4 冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
- 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018 年。本体 2600 円＋税
- 2) ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018 年。本体 2800 円＋税
- 3) ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・パロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008 年。本体 2400 円＋税
- 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012 年。本体 3400 円＋税
- II. 以下の 2 冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。
- 5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France（フランス、地方を巡る旅）』駿河台出版社、2017 年。本体 1900 円＋税
- 6) 小松祐子、Gilles Delmaire 著『Destination francophonie: nouvelle édition（フランコフォニーへの旅：改訂版）』駿河台出版社、2019 年。本体 2300 円＋税

【成績評価の方法と基準】

【当面の間、オンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更することになります。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に「学習支援システム」上で公開しますので、ご確認ください。

なお、以下の評価は、対面授業の実施を前提とした従来の評価方法であるので、ご注意ください。】

・以下の項目を総合的に判断して評価する。

1) 30 %：平常点（コメントシート等）

2) 70 %：期末レポート

【学生の意見等からの気づき】

・初年度においては歴史的要素の説明が多くなってしまったため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・フランス共和国、フランコフォニー、フランス語などに関する予備知識は、受講の前提条件とはしない。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the different cultures and societies having in common French as a lingua franca (la francophonie), including the French Republique. Students taking this course will acquire basic knowledge regarding the geography, history, (regional) languages, literature, and media of all the regions on the syllabus. The first semester will focus on France and the second semester on other French-speaking communities.

ARSA200LA

フランス語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

コルベユ スティーブ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「フランス語」を介して、フランスの世界の広がりを知ることを主たる目的とする。フランス語を話す人々の共同体や彼らの住む領域は、一般に「フランコフォニー（フランス語圏）」と呼ばれる。本授業ではそのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域圏・地域・国にどのような地理・歴史的背景、言語状況、各種の文化（歴史建造物、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。

「フランス的なもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、フランス語学習の基礎作りを行うだけでなく、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、秋学期はフランス共和国本土以外の「地域圏」、そしてフランス共和国以外の「フランコフォニー」について扱い、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。特に、様々な「メディア」媒体におけるフランス語圏の地域の描写を分析する。

*** この科目はオンラインで実施。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語の世界の広がりについて理解できる。
- 3) 「フランス的なもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてももらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション： フランス共和国外にある地域圏、フランコフォニーの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国外にある県・地域圏について簡単に紹介 ・フランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介

2	カリブ海域の地域圏 Martinique et Guadeloupe	・カリブ海域の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
3	南米大陸の地域圏 Guyane française	・南米大陸の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
4	インド洋の地域圏 Réunion et Mayotte	・インド洋の地域研に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	太平洋の海外領土 Nouvelle-Calédonie	・太平洋の海外領土に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	北米大陸のフランス語圏① Québec (Canada)	・北米大陸カナダにおけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	北米大陸のフランス語圏② Louisiane	・北米大陸アメリカ合衆国におけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	北アフリカのフランス語圏① Algérie	・マグリブ中央部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	北アフリカのフランス語圏② Maroc et Tunisie	・マグリブ西部および東部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	サハラ以南のフランス語圏① Sénégal	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧仏領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	サハラ以南のフランス語圏② Congo-Kinshasa et Congo-Brazzaville	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧仏領およびベルギー領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	サハラ以南のフランス語圏③ Rwanda	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧ベルギー領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	ヨーロッパのフランス語圏① Belgique	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	ヨーロッパのフランス語圏② Suisse まとめ	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1）各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
- 2）映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができないわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
- 3）期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。）
- 4）期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

- I. 以下の 4 冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
 - 1）剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018 年、本体 2600 円＋税
 - 2）ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018 年、本体 2800 円＋税
 - 3）ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・パーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008 年、本体 2400 円＋税
 - 4）鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012 年、本体 3400 円＋税
- II. 以下の 2 冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。

- 5）Fabienne Guillemin 著『Tour de France（フランス、地方を巡る旅）』駿河台出版社、2017 年、本体 1900 円＋税
- 6）小松祐子、Gilles Delmaire 著『Destination francophoneie: nouvelle édition（フランコフォニーへの旅：改訂版）』駿河台出版社、2019 年、本体 2300 円＋税

【成績評価の方法と基準】

・以下の項目を総合的に判断して評価する。

- 1）30 %：平常点（コメントシート等）
- 2）70 %：期末レポート

【学生の意見等からの気づき】

・初年度においては歴史的要素の説明が多くなってしまったが、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・フランス共和国、フランコフォニー、フランス語などに関する予備知識は、受講の前提条件とはしない。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the different cultures and societies having in common French as a lingua franca (la francophonie), including the French République. Students taking this course will acquire basic knowledge regarding the geography, history, (regional) languages, literature, and media of all the regions on the syllabus. The first semester will focus on France and the second semester on other French-speaking communities.

LANf200LA

フランス語コミュニケーション (初級) I 2017 年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Demander des articles	買い物する パン屋で
2	À la poste	買い物する 郵便局で
3	Parler des quantités	量のことを話す 朝市で
4	Parler des quantités	量のことを話す スーパーで
5	Demander le prix	値段をたずねる 文房具屋で
6	Passer une commande	注文する 魚屋さんで
7	Passer une commande	注文する カフェで
8	Faire une réservation	予約する ホテルで
9	Faire une réservation	予約する 駅で
10	Faire des achats	買い物する 服屋で
11	Faire des achats	買い物する 靴屋で
12	Hésiter	買い物する 花屋で
13	Prendre rendez-vous	アポを取る 歯医者で
14	Prendre rendez-vous	アポを取る 病院で

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Communication progressive du français - Niveau débutant 出版社：CLE International 作者：Claire Miquel ISBN：978-2-09-038445-1

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 % (授業中の発言 50%や宿題の提出 50 %)。この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活の話をもっとします。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレーヤー

【Outline and objectives】

In this class, students will study French conversation and culture at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills.

LANF200LA

フランス語コミュニケーション (初級) II 2017 年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Demander des renseignements	情報を尋ねる 地下鉄で
2	Demander des renseignements	情報を尋ねる スポーツクラブで
3	Demander des renseignements	情報を尋ねる 観光局で
4	Exprimer une obligation	義務を伝える 役所で
5	Autoriser et interdire	許す・禁じる スキー所で
6	Vérifier	確かめる 海水浴所で
7	Protester	クレームを言う キャンプ所で
8	Exprimer des intentions, des projets + Test	意図と計画を言う 自転車レンタル所で + 中間テスト
9	Exprimer des intentions, des projets	意図と計画を言う 銀行で
10	Localiser	位置を説明する デパートで
11	Localiser	位置を説明する 地方で
12	Localiser	位置を説明する 紛失したものを探す
13	S'informer par téléphone	電話で問い合わせる 貸し家の賃貸
14	Comparer + Examen final	比較する バカンスについて 期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて、提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Communication progressive du français - Débutant 出版社：CLE International 作者：Claire Miquel ISBN：978-2-09-038445-1

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業中の発言 50%や宿題の提出 50 %)。この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活をもっと話します。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレーヤー

【Outline and objectives】

In this class, students will study French conversation and culture at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills.

LANf200LA

時事フランス語 I

2017 年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours a pour but d'aider les étudiants à améliorer la compréhension sur les sociétés, la politique et les médias francophones. L'accent est mis sur la communication orale et l'utilisation de vocabulaire spécialisé. En participant aux activités proposées, ils se familiariseront avec les sites Web francophones d'actualités.

【到達目標】

Les objectifs à atteindre diffèrent selon le niveau de départ de l'étudiant.e.

* Objectif d'apprentissage pour les faux-débutants et les apprenants au niveau intermédiaire : l'étudiante ou l'étudiant sera en mesure d'acquiescer, à l'issue des deux semestres de « Jiji-Furansugo », une aptitude linguistique équivalente au niveau A2 du cadre européen de référence pour les langues ou au Futsuken jun 2 kyû.

* Objectif pédagogique pour ceux qui maîtrisent déjà plus ou moins bien la langue française (les apprenants au niveau supérieur ainsi que les étudiants internationaux francophones) : l'étudiante ou l'étudiant sera capable de formuler des commentaires pertinents qui témoignent d'une compréhension solide des enjeux locaux et mondiaux traités par les médias francophones.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

À chaque séance de cours, l'enseignant propose des matériaux disponibles sur internet. Les apprenants seront invités à en dégager les éléments essentiels. Pour ce faire, ils ont le droit de consulter les ouvrages et les dictionnaires rédigés dans leur première langue (langue dite "maternelle") respective. Tous les participants doivent néanmoins s'exprimer en langue française, et contribuer à analyser ce qui se dit dans les matériaux.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Séance 1	Pourquoi vous inscrire au cours « Jiji-Furansugo » ?	Exposer l'intérêt de cours ; engager une conversation dans un français simple; Devinettes sonores - les transports; Nos langues et le français
Séance 2	Présenter le planning du semestre	Devinettes sonores - des sons étranges; Nadine se présente.

Séance 3	Parler comme une étudiante étrangère; Les symboles de la République française	« Le métro : avec qui ? » ; « Ici, en République »
Séance 4	Parler comme un étudiant étranger; Mondialisation et produits « made in France »	« Les catacombes : avec qui ? » ; « Nous allons vivre à la française »
Séance 5	Connaître le monde francophone; s'intéresser à la mode de vie française.	« En terrasse : avec qui ? » ; « Guadeloupe, couleurs Caraïbes »
Séance 6	Culture Hip-hop et le français; manger c'est important.	« La brasserie Mollard : avec qui ? » ; « Youtubeurs et engagés »
Séance 7	Découvrir une architecture dans une ville; Namur, c'est où ?	« L'église Saint-Eustache : avec qui ? » ; « La maison »
Séance 8	Que veulent dire les titres d'un journal ? ; Comprendre les différentes fonctions dans un monde professionnel - journalisme	« Les titres du journal (2 janvier 2019) » ; « Les professions »
Séance 9	Expressions typiques dans une émission d'information (rejoindre, l'Une, etc.); Région Rhône-Alpes	« Les titres du journal en français facile du 04 février 2019 » ; « Grammaire : le présent de l'indicatif »
Séance 10	S'intéresser aux régions du monde que vous ne connaissez pas bien (Asie du sud, etc.) ; Vocabulaire informatique	« Les titres du journal en français facile du 1er mars 2019 » ; « Comment stopper la haine sur les réseaux ? »
Séance 11	Rwanda, Palestine et Paris Saint-Germain; égalité des genres	« Les titres du journal en français facile du 07 avril 2019 » ; « Droits des femmes : à quand l'égalité ? »
Séance 12	Festival de Cannes ; Canada et coronavirus	« En direct de la Croisette » ; « Canada : la pandémie aggrave la crise sociale »
Séance 13	Regarder le Japon de l'extérieur; Guerres au Moyen-Orient	« Être jeune à Damas » ; « Destination Japon »
Séance 14	Crise sanitaire mondiale; mobilisation des citoyens	« L'évolution du coronavirus » ; « Des bénévoles mobilisés au Maroc »

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- Consacrez au moins une heure par semaine pour votre travail personnel (révision et préparation) en dehors du cours.
 - Assimilez la prononciation en répétant des phrases employées dans les matériaux.
 - Informez-vous régulièrement sur les actualités francophones dans le monde, en regardant une émission d'information telle que « Catch ! Sekai no Top News » (NHK-BS1) URL <https://www.nhk.or.jp/kokusaihoudou/catch/archive/list.html>

Nota Bene : Regarder une émission d'information accompagnée d'une traduction ne remplace pas votre travail personnel sur les langues. Apprendre une langue et s'informer sur l'actualité, ce sont deux types d'entraînement tout à fait distincts.

【テキスト（教科書）】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>
2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>

【参考書】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Nota Bene : L'accès hors campus à ces bases de données requiert une connexion via un réseau virtuel privé (« VPN » en anglais). Consultez le site Web du service informatique de Hôsei pour savoir comment vous connecter au VPN universitaire. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【成績評価の方法と基準】

L'évaluation se fait en contrôle continu. À chaque séance, elle sera effectuée en deux temps : préparation de la session en amont (40%) et participation en cours (40%). L'investissement de l'étudiant.e pendant le semestre ainsi que les remarques sur les fautes commises par l'enseignant seront toujours les bienvenues et prises en compte en notation (20%).

【学生の意見等からの気づき】

Un changement majeur apporté pour l'année 2021 consiste à rédiger ce syllabus en langue française. Depuis quelques années, je constate que parmi les étudiants qui s'inscrivent à ce cours il y a de plus en plus de personnes pour qui la langue japonaise n'est pas nécessairement la langue qu'ils maîtrisent le mieux. La plupart d'entre eux n'éprouve pas de difficulté pour la communication orale en japonais, alors que la langue écrite peut parfois leur poser des problèmes. C'est pourquoi je propose le français non seulement comme « langue cible » (celle que l'étudiant.e souhaite apprendre) mais aussi comme « langue médiatrice » (celle qu'on utilise en classe), alors qu'il s'agit d'un cours de français enseigné par un non-natif.

【学生が準備すべき機器他】

La connexion internet stable et illimité ainsi qu'un support informatique personnalisé comme ordinateur, tablette ou smartphone sont nécessaires. On utilise deux plateformes (« LMS » en anglais) dont (1) Google Classroom sert principalement à partager les documents et que (2) les apprenants peuvent consulter une partie de notes sur le site Hoppii. En cas de cours en distanciel, on se servira de systèmes de visioconférence comme Zoom ou Google Meet pour assurer la continuité de l'enseignement.

【その他の重要事項】

1. 【「難しいそうだし…」とこの科目の受講を迷っている方へ：プレイスメント・テスト】 Si vous n'êtes pas sûr de votre niveau linguistique, essayez de passer un « test de placement » au niveau A1 sur le site Web de la RFI URL <https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1> Inscrivez-vous à ce cours si vous pouvez répondre correctement à plus de la moitié des questions.
2. Le planning communiqué ci-dessus est encore sujet à évolution.

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

LANf200LA

時事フランス語Ⅱ

2017 年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours a pour but d'aider les étudiants à améliorer la compréhension sur les sociétés, la politique et les médias francophones. L'accent est mis sur la communication orale et l'utilisation de vocabulaire spécialisé. En participant aux activités proposées, ils se familiariseront avec les sites Web francophones d'actualités.

【到達目標】

Les objectifs à atteindre diffèrent selon le niveau de départ de l'étudiant.e.

* Objectif d'apprentissage pour les faux-débutants et les apprenants au niveau intermédiaire : l'étudiante ou l'étudiant sera en mesure d'acquiescer, à l'issue des deux semestres de « Jiji-Furansugo », une aptitude linguistique équivalente au niveau A2 du cadre européen de référence pour les langues ou au Futsuken jun 2 kyū.

* Objectif pédagogique pour ceux qui maîtrisent déjà plus ou moins bien la langue française (les apprenants au niveau supérieur ainsi que les étudiants internationaux francophones) : l'étudiante ou l'étudiant sera capable de formuler des commentaires pertinents qui témoignent d'une compréhension solide des enjeux locaux et mondiaux traités par les médias francophones.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

À chaque séance de cours, l'enseignant propose des matériaux disponibles sur internet. Les apprenants seront invités à en dégager les éléments essentiels. Pour ce faire, ils ont le droit de consulter les ouvrages et les dictionnaires rédigés dans leur première langue (langue dite "maternelle") respective. Tous les participants doivent néanmoins s'exprimer en langue française, et contribuer à analyser ce qui se dit dans les matériaux.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Séance 1	Pourquoi vous inscrire au cours « Jiji-Furansugo » ?	Exposer l'intérêt de cours ; engager une conversation dans un français simple; Devinettes sonores : les animaux; Les langues de la classe (atelier 2 - français langue maternelle)
Séance 2	Présenter le planning du semestre	Devinettes sonores : les lieux; Sous le ciel de Paris - Zaz

Séance 3	Parler comme une étudiante étrangère; jouer au journaliste en classe	« La mode : avec qui ? » ; « Flash infos (12/16) »
Séance 4	Parler comme un étudiant étranger; s'interroger sur les stéréotypes	« Le fromage : avec qui ? » ; « Un travail d'homme et de femme »
Séance 5	La vie à l'école - Cantine; parler comme une étudiante étrangère	« Les puces : avec qui ? » ; « À table (10/16) »
Séance 6	Parler comme un étudiant étranger; comment mange-t-on le midi ?	« La Poste : avec qui ? » ; « Les Français à table »
Séance 7	Raisonner par analogie; Internationaux de France de tennis	« Faire un portrait chinois de la Joconde » ; « Tennis : le stade Roland-Garros »
Séance 8	Danse et combat; profiter d'une visite guidée dans un monument architectural	« Un fan de capoeira » ; « Le Paris des grands magasins »
Séance 9	Cultiver des légumes dans un jardin; essayer de comprendre les gros titre d'une émission d'information	« Les titres du journal (11 novembre 2020) » ; « Un potager de champion »
Séance 10	Vocabulaires de base pour le journalisme politique (referendum, etc.); Le numérique à Abidjan	« Les titres du journal (01 juillet 2020) » ; « La presse et les médias »
Séance 11	Vaccinations contre le Covid-19; Construire des maisons en Afrique	« Les titres du journal (2 décembre 2020) » ; « Burkina Faso : des toits en terre »
Séance 12	Armée française et soldats africains; Populisme au Brésil	« Rendre justice aux tirailleurs sénégalais » ; « Manifestations anti-confinement à Rio »
Séance 13	Connaissez-vous le rodéo ?; La Macédoine et Albert Londres	« « Yi ha ! » » ; « Destination Les Balkans »
Séance 14	Hydroxychloroquine et George Floyd; Politique de puissance ou démocratie entre les peuples ?	« Les titres du journal (3 juin 2020) » ; « La procédure de nomination du secrétaire général de l'ONU »

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- Consacrez au moins une heure par semaine pour votre travail personnel (révision et préparation) en dehors du cours.
 - Assimilez la prononciation en répétant des phrases employées dans les matériaux.
 - Informez-vous régulièrement sur les actualités francophones dans le monde, en regardant une émission d'information telle que « Catch ! Sekai no Top News » (NHK-BS1) URL <https://www.nhk.or.jp/kokusaihoudou/catch/archive/list.html>
 Nota Bene : Regarder une émission d'information accompagnée d'une traduction ne remplace pas votre travail personnel sur les langues. Apprendre une langue et s'informer sur l'actualité, ce sont deux types d'entraînement tout à fait distincts.

【テキスト（教科書）】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>
2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>

【参考書】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Nota Bene : L'accès hors campus à ces bases de données requiert une connexion via un réseau virtuel privé (« VPN » en anglais). Consultez le site Web du service informatique de Hôsei pour savoir comment vous connecter au VPN universitaire. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【成績評価の方法と基準】

L'évaluation se fait en contrôle continu. À chaque séance, elle sera effectuée en deux temps : préparation de la session en amont (40%) et participation en cours (40%). L'investissement de l'étudiant.e pendant le semestre ainsi que les remarques sur les fautes commises par l'enseignant seront toujours les bienvenues et prises en compte en notation (20%).

【学生の意見等からの気づき】

Un changement majeur apporté pour l'année 2021 consiste à rédiger ce syllabus en langue française. Depuis quelques années, je constate que parmi les étudiants qui s'inscrivent à ce cours il y a de plus en plus de personnes pour qui la langue japonaise n'est pas nécessairement la langue qu'ils maîtrisent le mieux. La plupart d'entre eux n'éprouve pas de difficulté pour la communication orale en japonais, alors que la langue écrite peut parfois leur poser des problèmes. C'est pourquoi je propose le français non seulement comme « langue cible » (celle que l'étudiant.e souhaite apprendre) mais aussi comme « langue médiatrice » (celle qu'on utilise en classe), alors qu'il s'agit d'un cours de français enseigné par un non-natif.

【学生が準備すべき機器他】

La connexion internet stable et illimité ainsi qu'un support informatique personnalisé comme ordinateur, tablette ou smartphone sont nécessaires. On utilise deux plateformes (« LMS » en anglais) dont (1) Google Classroom sert principalement à partager les documents et que (2) les apprenants peuvent consulter une partie de notes sur le site Hoppii. En cas de cours en distanciel, on se servira de systèmes de visioconférence comme Zoom ou Google Meet pour assurer la continuité de l'enseignement.

【その他の重要事項】

1. 【「難しそうだし…」とこの科目の受講を迷っている方へ：プレイスメント・テスト】 Si vous n'êtes pas sûr de votre niveau linguistique, essayez de passer un « test de placement » au niveau A1 sur le site Web de la RFI URL <https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1> Inscrivez-vous à ce cours si vous pouvez répondre correctement à plus de la moitié des questions.
2. Le planning communiqué ci-dessus est encore sujet à évolution.

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

ARSA200LA

フランスの文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、音楽を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の観光立国ですが、人々は堅実な日常生活を営み、様々な問題を抱えています。フランス革命を通して人権宣言を發布した国でもあり、移民の長い伝統も持っています。そのような国を誰もが知っている、あるいは知る人ぞ知る曲を通して考えていきます。

フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

フランスの社会についての具体的な知識を得ることが第一の目標です。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。また音楽という言語以外の感性に訴える要素が強い媒体に込められた実社会の問題や課題を自ら探知する力を養います。「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活で必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

誰もが知っているポップな曲からかつての世界的なヒット曲、そしてこれぞフランスと言うシャンソン、知る人ぞ知るフランスのロック、変わりゆく移民の音楽、これもフランスだったの？と思う古典から近代の音楽、誰でも聞いたことのあるあの人気オペラまでを扱います。各回でテーマとして取り上げる曲を聴いて、歌詞や作曲の背景に関する情報から見て取れる課題、問題点を取り出します。皆さんはまた自分が製作にかかわったという立場でいろいろ考えてみてください。

教室での授業もしくは Zoom による授業、あるいはその組み合わせによる授業を予定しています。

いずれのやり方を取ったにせよ、皆さんは学習支援システムを通して課題を 4-5 回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明； 『オー、シャンゼリゼ』	・「オー」は「oh!」ではない／誤訳か意訳か、洋モノタイトルの翻訳 ・この歌は替え歌だった／元歌について ・なぜこの通りはかくも広く美しいのか。

2	フレンチ・ポップス	・ミシェル・ポルナレフ：スキヤンダラスな反抗児； Tout tout pour ma chérie 『シェリーに口づけ』？？？「シェリーとは君の事だよマイ・ダーリン」誤訳か意訳か（続） ・シルヴィ・ヴァルタン：アイドル ・フランシス・ギャル：もう一人のアイドル ・エディット・ピアフ：フランスの美空ひばり？ ・イヴ・モンタン 『枯葉』：Les Feuilles mortes から Autumn Leaves へ：しっとりピーターソンとばさばさエヴァンス ・シャルル・トレネ：フランスの加山雄三？
3	シャンソン	・ジョニー・アリデー：宇崎竜童というよりもフレンチ・ドロックン・ローラー ・タイ・フォン、アトール、ゴンダなど：いわゆるプログレ ・テレフォヌ：ポップ・ロック ・ダフトパンク：テクノ
4	ロック	・スリマス・アゼム：『アルジェリア、僕の美しい国』故国アルジェリアへの想い ・ダジュー：『パパ、どこなの』移民 2 世の叫び ・ザ・シンセカイ：『東京物語』フレンチヒップホップは世界にぶっ飛ぶ？
5	移民の歌	リュリ：イタリアから来た御前音楽家 マレ：わりと耳にすることの多い絶対王政下の音楽家
6	17 世紀ルイ王朝の音楽家たち	ショパン：映画、ドラマ、街中至る所で耳にする音楽。 ピアノの詩人の一生は小説よりも奇なり。
7	19 世紀の二人の移民音楽家 ショパンはポーランド人？ リストはハンガリー人？	リスト：やはり映画、ドラマ、街中至る所で耳にする音楽。 大見得を切る威風堂々の大スターは手が 4 本？？ ・ドビュッシー：CM でもおなじみの音楽。フラット 6 つで亜麻色？ 5 つだと月光色？？ Gm / C の系譜：月の光はベルガモから秋の夢想を駆け抜け天国の階段を上って月の裏側で狂ったダイヤモンドにそそぐ。
8	宿命の？ ライヴァル ショパン：リスト＝紫式部；清少納言？	・ラヴェル：展覧会の絵も白黒からカラーへ シンセサイザー（画家のパレット：冨田勲）にぴったり？ ・サティ：彼も定番。シュールとポップ
9	音の色	・シンセサイザーのお父さんオンド・マルトゥノとメシアン ・具体音楽：アナログの cut and paste ・IRCAM：今は老舗となった電子音楽の研究所 原作はメリメの中編小説。書いたのは役人。
10	前衛	
11	フランスのオペラ『カルメン』	

- 12 ジョルジュ・ビゼーの 序曲と冒頭
オペラ『カルメン』 「ハバネラ」
Femme fatale（運命 「ミカエラの歌」
の／致命的な女） VS
清純派
- 13 『カルメン』 「アルカラの竜騎兵」：ロマの踊
スペインという異郷 りが圧巻
歌手も踊る（というよりも踊れない
歌手はお呼びでない）：「鈴を
打ち鳴らす」
- 14 『カルメン』 「闘牛士の歌」
闘牛場の外で 「行進曲」
最終場面：中の祝祭と外の破局

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回、予定されている曲を検索して聞いておいてください。

1-2：フランスや他の国の歌で日本語訳が原題と異なるものを探してなぜそうなのかを考える。

3：いわゆる「スタンダード」となった曲を探して、なぜそうなったのかを考える。

4：日仏および英米のロックを比べる。

5：フランスの「移民」の歌の変遷とその背景について調べる。

6-9：フランスのバロックから近代までの音楽を鑑賞し、その特徴についてまとめる。

10：フランスの「前衛」音楽をドイツなど他の国のものと比べてその特徴についてまとめる。

11：メリメの小説『カルメン』を読む。

12-13：ビゼーのオペラ『カルメン』の音楽の特徴についてまとめる。

14：さまざまなオペラの演出の最終場面を比べてそれぞれの特徴について考える。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.

『論文レポートの文章作法』古郡延治、有斐閣新書 C164

『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書 0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、600 字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100 %）。4-5 回出していたくこととなる予定です。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、課題を出していただくのが頻繁過ぎたこともあり、私のほうでもなかなかお返しすることができませんでした。今年度は絞り込んだうえでなるべく早く見たいと思います。

【Outline and objectives】

In this course students will reflect on a variety of aspects of French society with the aid of music. Although France is one of the most popular countries for tourists, people are making their living, trying to resolve different problems, just as those in other countries. France is the country where the declaration of human rights was proclaimed, she has a long history as a host country for immigrants. The students will study well-known or almost unknown musical works which will tell us these aspects of this country. This course is designed for all students who are interested in France; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSA200LA

フランスの文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 正道

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これら様々な面について考えます。フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々（フランス国籍を持つとは限りません）の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。

「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

21 世紀に入って大ヒットした二つのいかにもフランスらしい？映画、アメリカのミュージカルのアンチテーゼのようなミュージカル映画、そして戦時中に創られた不朽の名作、さらに人気ナンバーワンのヒーローの映画化作品を扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。

教室での授業もしくは Zoom による授業、あるいはその組み合わせによる授業を予定しています。

いずれのやり方を取ったにせよ、皆さんは学習支援システムを通して課題を 4-5 回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明、 『最強のふたり』1： 2011 年のヒット作 フランス映画の特徴とは？	アメリカ映画はアクション豊富で 白黒はっきり、フランス映画は曖昧で考えさせる映画？ 「ふたり」とはどんなひとたち？
2	『最強のふたり』2： 格差社会と移民	パリの郊外とは？ 富裕層の多い区域は？

3	『最強のふたり』 3：	「介護者」とパートナー：助ける 北の海岸での出会い 人とお膳立てする人
4	『シェルブールの雨傘』 1	誰もが聞いたことのあるミシェル・ルグランの音楽； フランスのミュージカル； 原題そのままの邦題は 何を意味しているのか
5	『シェルブールの雨傘』 2	アルジェリア戦争：様々な分断 フランスにとっての 1960年代はじめ
6	『シェルブールの雨傘』 3	「曖昧な」結末：雪のクリスマス での再会と別れ <i>Westside Story</i> の向 こうを張った？
7	『天井桟敷の人々』 1	伝説的名優勢ぞろい 「犯罪大通り」 1945年の大作 19世紀のバリの下町 という空間
8	『天井桟敷の人々』 2	「言葉」の俳優とパントマイム役 者 庶民にとっての劇場
9	『天井桟敷の人々』 3	またしても「曖昧な」結末：追い かけても追いつけない悪夢 カーニバルという空間
10	『アメリ』 1	空想に駆られる主人公： 他人の幸せのために 2001年の大ヒット作 パリという空間： モンマルトルからあち こちへ
11	『アメリ』 2	・空想から現実へ ・なぜヒットしたか。 ・トットとカソヴィッ ツ
12	『シラノ』 1：	フランスのヒーロー人気ナンバー ワン：剣にすぐれて弁もたつが、 思いを打ち明けられない 17世紀の実在の人物 をモデルにした 19世 紀末の芝居
13	『シラノ』 2：	préciosité とアラスの包囲 17世紀の宮廷と社会 状況
14	『シラノ』 3：	「型破り」と自己犠牲、「身を引 く」美学 普遍的な価値

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人は AV ライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思います。

- 1：フランス映画に関する一般的なイメージについてまとめる。
 - 2：フランスの社会階層について調べる。
 - 3：なぜ『最強のふたり』がヒットしたのか考える。
 - 4：「ミュージカル」とは何であるかまとめる。
 - 5：アルジェリア戦争について調べる。
 - 6：『シェルブールの雨傘』の結末を他の作品の結末と比べて、その意味合いについて考える。
 - 7：『天井桟敷の人々』が公開された 1945 年ごろのフランスの状況について調べる。
 - 8-9：19 世紀前半のパリについて調べる。
 - 10：『アメリ』で紹介されるパリとその周辺の区域の特徴について調べる。
 - 11：主人公を演じた俳優たちの経歴について調べる。
 - 12：『シラノ・ド・ベルジュラック』の主人公のモデルとなった 17 世紀の人物について調べる。
 - 13：17 世紀当時のフランスの宮廷や社会の状況について調べる。
 - 14：なぜシラノという人物が人々を惹き付けるのかを考える。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】

『かしこい旅のバリガイド』（CD 付）、田中成和、渡辺隆司 著 駿河台出版社

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.

『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書 C164

『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書 0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、600 字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100 %）。4-5 回出していただくことになる予定です。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、課題を出していただくのが頻繁過ぎたこともあり、私のほうでもなかなかお返しすることができませんでした。今年度は絞り込んだうえでなるべく早く見たいと思います。

【Outline and objectives】

This course deals with a variety of aspects of lives in France with the aide of the movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to movie-makers. Through films we see different aspects of lives in France, problems, people's joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects which we can find in films.

This course is designed for all students who are interested in France; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSa200LA

フランス生活文化論 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：18-19 世紀フランスの観光・風景・建築

河村 英和

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、フランス語圏（フランスだけでなく、スイス、ベルギーも）の観光資源の歴史を学ぶ。山、海、森、川、湖、温泉といった自然風景のジャンル・地域別の観光リゾート地の派生、その発展期である 19 世紀ベル・エポックに好まれた建築様式や、愛国的なナショナリズムの高揚とともに増加する偉人像・モニュメントの数々、最後に余暇の発生源でもあるロクス・アモエヌス（心地良い場所）や幸福な島々、そして表裏一体としてのカタストロフ（破壊的事象）的風景についても考える。

【到達目標】

フランスの観光リゾート地の派生・発展からみた文化史を、当時の社会思想を踏まえつつ、関連する芸術作品（絵画、文学、音楽、建築）の事例から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。図像資料を紹介するためパワーポイントを使う。学期期間中、都内の美術館で開催されているフランス風景画展の見学を推奨する。意見や質問、提出物（リアクションペーパー）に対するフィードバックは、基本的に次の授業時間内に行うが、LMS などを活用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	フランス観光旅行のイメージと歴史的背景	イントロダクションとして、本講義のテーマであるフランス観光旅行の現状イメージを確認しつつ、その史的背景と全体像を概観する。
第 2 回	山へ	パルナッソス、ヴァントゥー山、プロヴァンスの山々
第 3 回	アルプスへ	シャモニーとモンブラン、グリオン、コー、レザン、モンタナ
第 4 回	レマン湖	著名人たちがゆかりのレマン湖畔の町（ジュネーヴ、ローザンヌ、モントルー、ヴヴェ、ヴィルヌーヴ）
第 5 回	田園・田舎・牧歌的風景	フェット・シャンペートル、ミルク小屋、スイス風シャレー、アルカション
第 6 回	森と岩	ファンテヌブローの森とバルビゾン派、芸術家たちを惹きつけた岩場の風景
第 7 回	学外授業、展覧会見学	フランス風景に関する展覧会の見学を予定

第 8 回 海へ：ノルマンディーとコート・ダジュール
芸術家たちの題材となった海の風景と海浜リゾート・ノルマンディーと冬の避寒・結核転地療養地から夏の海水浴リゾートへの転身するコート・ダジュール

第 9 回 水辺と温泉
画家の題材となった川辺の風景、温泉リゾート（スバ、ヴィシー、エヴィアン）

第 10 回 中世復興、歴史主義と折衷主義のパリ
文化財保護の誕生、中世趣味の流行（トゥルバドゥール様式絵画、ネオ・ロマネスク建築、ゴシック大聖堂の再評価）、古代ローマ風、ネオ・ルネサンス、ネオ・バロック建築で溢れる 19 世紀パリ大改造とグランド・ホテル

第 11 回 学外授業、展覧会見学
フランス風景に関する展覧会の見学を予定

第 12 回 マリアンヌ、ジャンヌ、ヴィエルジュ
ナショナリズムが台頭する 19 世紀に、愛国のシンボルとして急増したマリアンヌ、ジャンヌ・ダルク、聖母（ヴィエルジュ）像について

第 13 回 国家の記念碑
ナポレオン像、偉人たちの墓、エッフェル塔など国家の威信をかけたモニュメント

第 14 回 楽園とカタストロフ
ロクス・アモエヌスとしての島々と破壊的事象（カタストロフ）的風景への関心

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

気になる（なった）ことを調べたり、授業で出てきた場所を、グーグルストリートビューで歩いてみる。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎講義ごとにプリント資料を配布する。オンライン授業のさいは、google classroom（予定）にて pdf 版を配信。

【参考書】

河村英和『観光大国スイスの誕生－「辺境」から「崇高なる美の国」へ』平凡社新書、2013 年

河村英和『タワーの文化史』丸善出版、2013 年

【成績評価の方法と基準】

授業参加で 30 点、レポート 70 点による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

講師はこの講義をはじめて担当するため、過去の意見はありません。

【その他の重要事項】

講義期間中に行う美術館見学は 2 種の展覧会（各講義 1 回分相当、合計 2 回分相当で、現地集合現地解散）があり、一部観覧料（1,000 円程度）の実費がかかります。事情により展覧会見学に参加できない方には、代替レポート課題を授業中に指示します。

【Outline and objectives】

In this course, we will study the history of tourism in French-speaking countries (not only in France, but also in Switzerland, and Belgium), including the tourist spot in the different genres of the natural landscape: mountains, seas, forests, rivers, lakes, and hot springs. Finally, we will consider the origin of the leisure idea, as locus amoenus: the Fortunate Isles, until its antithesis: the catastrophic landscapes.

ARSA200LA

フランス生活文化論 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：古（いにしえ）のフランス人のイタリア旅行

河村 英和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「芸術の都パリ」という言い回しが普及する以前、ヨーロッパ人にとっての芸術の都はローマであり、ローマ留学を支援するフランス政府の権威ある奨学制度の「ローマ賞」は芸術家の登竜門だった。イタリア各地を旅したフランス人たちはその体験を数々の芸術作品（絵画、彫刻、文学、音楽、建築）に反映させてきた。この授業では、おもに 18～19 世紀のフランス人たちがいかにイタリアの風景や芸術・文化に魅せられ、影響を受けていたかを、絵画、彫刻、建築、音楽、文学といった複数のジャンルから学んでゆく。

【到達目標】

フランス文化に多大なる影響を与えたイタリアの風景・芸術・建築を、フランス人芸術家（文人、画家、彫刻家、建築家、作曲家）たちのイタリア滞在体験と関連作品を知ることによってその理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。図像資料を紹介するためパワーポイントを使う。意見や質問、提出物（リアクションペーパー）に対するフィードバックは、基本的に次の授業時間内に行うが、LMS などを活用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	18～19 世紀のフランス人がイメージする旅行先としてのイタリアとは？
第 2 回	理想郷（アルカディア）	ローマ平原をモデルに理想風景を描く在ローマのフランス人画家たちとその作品
第 3 回	ローマの廃墟	ローマの廃墟に魅せられたフランス人芸術家たちとその作品
第 4 回	サド侯爵のイタリア	小説『ジュリエット、あるいは悪徳の栄え』で知られるサド侯爵が、イタリア旅行中に訪れたところと作品に生かされたスポット
第 5 回	ローマ平原とチョチャリア地方	ローマ平原とチョチャリア地方の風景と美しい民族衣装を描く 19 世紀のフランス人画家たちとその作品、この地を舞台にしたフランスオペラやバレエ
第 6 回	スタール夫人とスタンダールのイタリア	当時はイタリア観光ガイドブックのように読まれたスタール夫人の小説『コリンス』に描かれるローマとナポリ、『バルムの僧院』で知られるスタンダールのイタリア滞在中のオペラ通いやローマ散歩について

第 7 回	ヴェスヴィオ噴火とナポリの漁師	ヴェスヴィオ火山の噴火シーンを専門とするフランス人画家、オペールのオペラ『ボルティチの囁娘』、若きナポリの漁師を描くフランス人画家や彫刻家
第 8 回	デュマのナポリ	ナポリに滞在していたアレクサンドル・デュマの旅行記『コリッコロ』、歴史小説『寵愛された女性の思い出』など、数々の著作に描かれる当時のナポリとは
第 9 回	幸あるカンパーニア	イスキア、プロチダ、カプリ、ソレント、アマルフィの海浜風景と民族衣装の娘に魅せられたフランス人芸術家たちとその作品
第 10 回	ヴェネツィア	ジョルジュ・サンド、アルフレード・ミュセ、プルースト、レニエ、モネなど、水都ヴェネツィアに魅せられた文人・芸術家とその作品、オッフェンバックのオペラ『ホフマン物語』など
第 11 回	中世・ルネサンスの再発見ーローマ・フィレンツェ	ダンテやルネサンス時代のイタリア美術をテーマにしたフランス人による芸術作品、ペルリオーズのオペラ『ペンバヌート・チェツリーニ』など
第 12 回	ローマ賞とフランスのイタリア風建築	ローマ留学あるいはイタリア旅行経験のあるフランス人建築家がフランスに残したイタリア風建築について
第 13 回	ゾラ、ロマン・ロラン、ジイドのイタリア	エミール・ゾラ『ローマ』、ロマン・ロラン『ローマの春』、アンドレ・ジイド『背徳者』『法王庁の抜け穴』に描かれるイタリア（とくにローマ）とは
第 14 回	総括	過去の講義のテーマに沿った類似・追加事例を各自で紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

気になる（なった）ことを調べたり、授業で出てきた場所を、グーグルストリートビューで歩いてみる。

【テキスト（教科書）】

毎講義ごとにプリント資料を配布する。オンライン授業のさいは、google classroom（予定）にて pdf 版を配信。

【参考書】

河村英和『イタリア旅行ー「美しい国」の旅人たち』中公新書、2011 年
河村英和『カプリ島ー地中海観光の文化史』白水社、2008 年
佐藤直樹編『ローマ（西洋近代の都市と芸術 1）』竹林舎、2013 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 点、レポートあるいは試験 70 点による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

講師はこの講義をはじめて担当するため、過去の意見はありません。

【Outline and objectives】

Before the Paris reputation as the "City of Art" became widespread, the city of art for Europeans was Rome, and the "Prix de Rome", the prestigious scholarship system of the French government to support studying in Rome, was the gateway to become a great artist. French artists who have traveled through Italy have reflected their Italian experiences in their masterpieces (paintings, sculptures, literature, music, architecture). In this course, we will learn how French people of the 18th and 19th centuries were fascinated by and influenced by the Italian landscape, art and culture.

ARSA200LA

フランス生活文化論 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：近代フランスの食文化

梶谷 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、19 世紀～20 世紀フランスの食文化を中心に、そのあり方を学びます。「フランスの食文化」という表現から、どのようなことをイメージするでしょうか。「華やか・おしゃれ」、あるいは「特別な日の料理」など様々な印象があると思いますが、実は、現代の私たちがフランス料理に対して持つイメージのルーツの多くは、近代のフランスにあります。空腹を満たす以上の価値を自国の食に見出していったフランス。なぜそうなったのか？ その背景を知って、フランス文化への理解を深めていきましょう。

【到達目標】

フランスの食文化について、歴史の流れとともに理解できるようになること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。映像資料も見ると予定です。毎回最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。授業中に皆さんの率直な意見を聞く時間も設けますので、小さなことでも、気づきはぜひ言葉にして表現してみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介。日本においてフランスの食文化はどのように紹介されているかについても解説。
第 2 回	テーブルに「映える」料理	テーブルに「映える」料理はなぜ必要だったか？／宮廷料理について
第 3 回	「華やかな食卓」の特徴の変遷	「映える」料理から「味で魅せる」料理へ／18 世紀までの価値観と、19 世紀からの価値観
第 4 回	美食を支える背景	パリの美食を支えた市場／給仕の変化
第 5 回	「美食」は誰のものか：レストラン	「おいしい」が皆のものになる時代：レストラン興隆史
第 6 回	「美食」は誰のものか：「おいしい」の基準の誕生	「おいしい」を評価するということ：ガストロノミー（前編）
第 7 回	「美食」は誰のものか	「おいしい」の評価の変遷：ガス
		トコロノミー（後編）
		食」

第 8 回	資料で見るフランスの美食	フランスの美食についての映像資料を視聴し、その後自由に意見をまとめてもらいます。
第 9 回	ディスカッション	第 8 回の映像資料についての意見を全員に発表してもらいます。疑問に感じたことも互いに交換しましょう。
第 10 回	高級料理の変遷	ヌーヴェル・キュイジーヌの誕生と、その後
第 11 回	文化としての「郷土料理」	フランスにおける郷土料理の位置／郷土料理＝文化的遺産という視点の原点
第 12 回	映像資料で見るフランスの美食その 2	映像資料の視聴（第 2 回）その後、感想や意見を書く時間を設け、提出。
第 13 回	まとめ・レポート作成の手引き	現代から見た、近代フランスの食文化の重要性 皆さんの意見もうかがいます。
第 14 回	試験日（レポート）	フランスの食文化をテーマとした小レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。下記参考書のうち、①を読み切ること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しませんが、適宜、資料を主に Hoppii を通じて配信します。授業開始までに、各自手元に用意してください。

【参考書】

- ①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013 年。
- ②ジャン・ピエール＝ブーラン、エドモン・ネランク『プロのためのフランス料理の歴史 時代を変えたスーパーシェフと食通の系譜』、山内秀文訳、学習研究社、2005 年。
- ③北山晴一『世界の食文化① フランス』、農村漁村文化協会、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末レポート 50%による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

講義形式であるため、どうしても教員から伝えることが多くなってしましますが、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。この機会を活用してくれた学生が多いので、今年度も継続していきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。対面授業実施時は、必要に応じて印刷した資料か、資料をダウンロードした PC、タブレット等を持参すること。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to study the gastronomic culture of modern France.

ARSa200LA

フランス生活文化論 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランスの食文化史

梶谷 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、フランスの食文化史を学びます。「美食の国」として名高いフランスはどのようにその食生活を営んできたのでしょうか。古代からの料理術の変遷を中心に、歴史の動きと連動させながら学びます。後半には、日本がフランスの食に与えた影響についても触れてゆきます。

【到達目標】

フランスの食文化について理解を深めること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。

毎回最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。授業中に皆さんの意見を聞く時間も設けますので、レポート作成に向け、小さなことでも、気づきはぜひ言葉にして表現してみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介／現在のフランス食文化の最前線についての解説
第 2 回	古代から中世まで	何をどのように食べてきたのか／香辛料について
第 3 回	ルネサンス	マナーの確立／イタリアとの関わり
第 4 回	17 世紀	グランド・キュイジーヌの誕生／「過剰」からの脱却と洗練
第 5 回	18 世紀	宮廷料理の最盛期／「豪勢な料理」とは？
第 6 回	フランス革命～19 世紀初頭	「レストラン」とは何か／「ガストロノミー」の誕生／「スターシェフ」の出現
第 7 回	19 世紀後半～19 世紀末	19 世紀後半～世紀末のレストラン／現代フランス料理の基礎の時代
第 8 回	20 世紀初頭	第一次世界大戦とフランスの食文化／新しい「ガストロノミー」
第 9 回	20 世紀半ば	全国的美食を求めてーガストロノミーとツーリズム／「美食ガイドブック」の誕生
第 10 回	20 世紀半ば～20 世紀末	ヌーヴェル・キュイジーヌー健康と美食

第 11 回	日本食文化のフランス食文化への影響	美しさを求めるということ／日本的味覚の広がり
第 12 回	フランス食文化の日本食文化への影響	「洋食」誕生物語
第 13 回	まとめ・レポート作成の手引き	「美食の国 フランス」のイメージはいかにして形成されたか
第 14 回	試験日（レポート）	フランスの食文化をテーマとした小レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。参考書のうち③を授業期間中に読み切ること。授業中にも、おすすめの図書を紹介します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しませんが、適宜、資料を主に Hoppii を通じて配信します。授業開始までに、各自手元に用意してください。

【参考書】

- ①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013 年。
- ②ジャン・ピエール＝ブーラン、エドモン・ネランク『プロのためのフランス料理の歴史 時代を変えたスーパーシェフと食通の系譜』、山内秀文訳、学習研究社、2005 年。
- ③北山晴一『世界の食文化①⑥ フランス』、農村漁村文化協会、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末レポート 50%による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

講義形式であるため、どうしても教員から伝えることが多くなっていますが、可能な限り皆さんからの質問にお答えすることを心掛けてきました。この機会を活用してくれた学生が多いので、今年度も継続していきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。対面授業実施時は、必要に応じて印刷した資料か、資料をダウンロードした PC、タブレット等を持参すること。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn the historical background of the gastronomic culture of France.

ARSa200LA

ロシア語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアの歴史、言語、民族、宗教などを概観し、また文化のうちとりわけ 19 世紀の文学と思想に注目する。それによって、ロシア語の背景をなす「レアリア」の基本を獲得する。
ロシア語を履修していなくても受講可能。

【到達目標】

一般の日本人にとっては理解しにくいロシアという国について、明確なイメージを持つことができる。
また、そうしたロシアの歴史や文化に関する理解を背景知識として利用することで、ロシア語の学習をより効果的に進めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義型の授業となる。

毎回授業に関する感想や質問を提出してもらい、それらに対しては学習支援システムを通じて回答したり、授業中にテーマとして取り上げたりする。

学期末に、授業で取り上げたテーマに関するレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	9 世紀半ばから 16 世紀の歴史	建国伝説、キエフ・ルーシ、タタールの軛、ツァーリ専制（リユーリク朝）
第 2 回	17 世紀から 18 世紀の歴史	「動乱」、ロマノフ朝、ピョートル大帝、エカテリーナ二世
第 3 回	19 世紀前半の歴史	ナポレオン戦争、デカブリストの乱、クリミア戦争
第 4 回	19 世紀後半の歴史	農奴解放、ナロードニキ、ロシア・マルクス主義
第 5 回	20 世紀初めの歴史	第 1 次革命、レーニン、ロシア革命、ソ連
第 6 回	20 世紀前半の歴史	スターリン主義
第 7 回	20 世紀後半の歴史	「停滞」、ペレストロイカ、ソ連崩壊
第 8 回	21 世紀初めの歴史	ロシア連邦、プーチン
第 9 回	言語	旧ソ連の言語、ロシア語話者数、スラヴ諸語、ロシア語史
第 10 回	民族	旧ソ連の民族、ロシア人人口、スラヴ民族
第 11 回	宗教	旧ソ連の宗教、ロシア正教、スラヴ民族の宗教
第 12 回	19 世紀ロシアの文学と思想（世紀前半）	デカブリスト、プーシキン、ゴーゴリ、チャーダーエフ、スラヴ派と西欧派

第 13 回	19 世紀ロシアの文学と思想（世紀後半の思想）	ゲルツェン、ニヒリスト、ナロードニキ、ソロヴィヨフ、マルクス主義者
第 14 回	19 世紀ロシアの文学と思想（世紀後半の文学）	トゥルゲーネフ、ドストエフスキー、トルストイ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
参考文献を事前に読む。授業後数日以内に感想や質問を書く。
学期末には、授業で取り上げたテーマに関するレポートを準備する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

『新版 ロシアを知る事典』平凡社、2004 年。
『ロシア文化事典』丸善出版、2019 年。
『新版世界各国史 22 ロシア史』山川出版社、2002 年。
『民族の世界史 10 スラヴ民族と東欧ロシア』山川出版社、1986 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（感想や質問の提出）40 %、期末レポート 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より担当。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to survey history and culture (languages, nations religions, etc.) of Russia, as the background of Russian language.

And we will particularly pay attention to Russian literature and thought of the 19th century.

ARSA200LA

ロシア語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアおよびその他の旧ソ連圏の国々の地理や歴史を概観することによって、ロシア語の背景をなす「レアリア」の基本を獲得する。ロシア語を履修していなくても受講可能。

【到達目標】

一般の日本人にとってなじみのないロシアおよび旧ソ連圏の国々について、明確なイメージを持つことができる。
また、そうした国々の歴史や地理に関する理解を背景知識として利用することで、ロシア語の学習をより効果的に進めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義型の授業となる。

毎回授業に関する感想や質問を提出してもらい、それらに対しては学習支援システムを通じて回答したり、授業中にテーマとして取り上げたりする。

学期末に、授業で取り上げたテーマに関するレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ロシア（ヨーロッパ・ロシア）	ヨーロッパ・ロシアの自然、地形、歴史、都市
第 2 回	ロシア（モスクワ）	モスクワの歴史、都市構造、名所
第 3 回	ロシア（ペテルブルグ）	ペテルブルグの歴史、都市構造、名所
第 4 回	ロシア（シベリア）	シベリアの自然、地形、歴史、都市
第 5 回	ロシア（極東）	極東の自然、地形、歴史、都市、中国・朝鮮半島・日本との関係
第 6 回	ウクライナ	ウクライナの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市
第 7 回	ベラルーシ	ベラルーシの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市
第 8 回	モルドヴァ	モルドヴァの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市、ルーマニア・ロシア・イスラームとの関係
第 9 回	コーカサス（ジョージア）	ジョージアの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市
第 10 回	コーカサス（アルメニア、アゼルバイジャン）	アルメニアとアゼルバイジャンの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市、アゼルバイジャンを含むトルコ系諸国とアルメニアの関係
第 11 回	中央アジア（トルクメニスタン、ウズベキスタン、カザフスタン）	トルクメニスタン、ウズベキスタン、カザフスタンの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市

第 12 回	中央アジア（キルギスタン、タジキスタン）	キルギスタン、タジキスタンの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市、タジキスタンとアフガニスタン等ベルシア系諸国の関係
第 13 回	バルト三国（エストニア、ラトヴィア）	エストニア、ラトヴィアの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市
第 14 回	バルト三国（リトアニア）	リトアニアの自然、地形、歴史、言語、宗教、都市、ポーランドとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
参考文献を事前に読む。授業後数日以内に感想や質問を書く。
学期末には、授業で取り上げたテーマに関するレポートを準備する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

『新版 ロシアを知る事典』平凡社、2004 年。

『ロシア文化事典』丸善出版、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（感想や質問の提出）40 %、期末レポート 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より担当。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to survey geography and history of countries of the former Soviet Union area, as the background of Russian language.

ARSA200LA

ロシアの文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアに興味をもつ学生であれば、ロシア語を学習していなくとも履修できます。なお、SA ロシアの2年生は必ず履修してください。ロシアは、峻厳で美しい自然、深く豊かな芸術（文学、音楽、美術、映画、アニメ、演劇、バレエ、建築など）に満ちた国、また、繊細で優美、神秘的でありながら素朴でパワフルという両極端な感覚に引き裂かれた、なんとも魅力溢れる国です。また、アジアとヨーロッパの文化的融合、社会主義から資本主義へのイデオロギー的・体制的移行、多民族の共生など、複雑で多面的な様相も興味深いものです。こうしたロシアのさまざまな側面を映像・レジュメ資料・概説を通して紹介していくのがこの授業ですが、これら多様な側面を統合して、ロシアの像を結んでいく作業を行うのはみなさん一人ひとりで。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導くこと、そして教員が提起した問題に対して意見を短時間のうちに適切な文章でまとめる力を、コメントシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業の場合は、毎回のテーマに基づき、授業時間までにレジュメを学習支援システムにアップします。これをよく読んで、参考資料や映画やドキュメンタリー、音楽などの視聴すべき動画のURLを示すので、次週までに必ず視聴の上、コメントを学習支援システムに提出すること。対面授業の場合には、教場で資料を配付し映像資料を共有しながら講義を行います。オンラインによるか対面授業となるかは、初回の授業までにゆとりを持って学習支援システムにて告知します。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：ロシアについて	ガイダンス。今日のロシア社会、地理的環境、歴史的キーワードなどを通してロシアの概略を示す。
第2回	モスクワ観光スポット（美術館、博物館、教会、劇場、世界遺産）	ロシアの首都モスクワ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、地下鉄、美術館、建築、観光スポットを紹介。
第3回	サンクト・ペテルブルクの名所（美術館、劇場、博物館、教会）	ロシア第2の都市サンクト・ペテルブルグ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、美術館、観光スポットを紹介。

第4回 民俗文化とロシア正教、国民の祝日

ロシア正教を国教とするロシア。その影響力は再び絶大なものとなっているが、キリスト教受容以前の異教との習合現象としての二重信仰の伝統もロシアに独特の文化を育んできた。異教、正教、社会主義というイデオロギーなどに信仰の対象を抱き続ける信心深いロシア人の民俗文化やこれに基づく祝祭、宗教的行事、祝日について紹介。

第5回 ロシア・バレエの世界 1

バレエ・リュスからソ連時代のバレエ史に名を残すダンサー、そして現代の国際的ダンサーまで、ロシア・バレエの粋を紹介すると同時に、政治的に抑圧を受けたバレエ界の事象、亡命したダンサーについて概観。

第6回 ロシア・バレエの世界 2

前回の授業を踏まえて、政治とバレエの問題を考える。

第7回 ロシアの音楽：グリムカ、チャイコフスキー、ムソルグスキー

ロシア・クラシック音楽の歴史を概観。グリムカからムソルグスキーまでの音楽を、指揮者ゲルギエフ、国際的に活躍する現代ロシアのソリストのパフォーマンスを通して紹介。

第8回 ロシアの音楽：政治と音楽（ショスタコーヴィチ、ラフマニノフ）

19世紀末からロシア革命時の音楽を概観。また、ショスタコーヴィチ、ストラヴィンスキー、ラフマニノフを通して音楽と政治の問題を考える。

第9回 ロシアの音楽：政治と音楽（テルミン、肋骨レコード）

反体制派と呼ばれたソリスト、抑圧された音楽について。

第10回 ロシア文学：イーゴリ軍記から 19 世紀前半

『イーゴリ軍記』における異教性、カラムジンの感傷主義、プーシキンのロマン主義とリアリズムの融合について。《余計者》の確立。ゴゴリのグロテスクな手法、《小さな人間》について、ドストエフスキーの超人思想、神人について。

第12回 ロシア文学：19 世紀後半～20 世紀（トルストイ、チェーホフ、アヴァンギャルド、フォルマリズム）

トルストイの「性愛・肉欲の否定」と聖患者の賞揚。チェーホフの創作方法について。《異化》の概念について。政治と文学について。

第13回 ロシア文学：亡命作家から現代（ソルジェニーツィン、プロツキー、ペレーヴィン）／日本文学との影響関係

亡命作家を通してみる政治と文学の問題。検閲から自由になった現代作家の営みを概観。ロシア文学と日本文学との影響関係について。

第14回 民族問題とナショナリズムの歴史と現代の民族問題（学生は期末レポート提出）

ロシアの領土拡大とオリエンタリズムについて。ソ連時代の民族統合が現代に残した問題。チェチェン紛争、グルジア紛争、現代ロシアで高まるナショナリズム。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の鑑賞に際しては、AVライブラリーの活用を勧めます。期末レポートの作成には1週間程度の時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教場で教員が作成する資料を配付します。

【参考書】

参考文献については教場もしくは学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、コメントシート（25%）、期末レポート（50%）として総合的に判断します。本授業の到達目標の60%以上を達成した学生は合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんとロシアの多様な魅力を新たに発見するような気持ちで、時事的な話題も含めながら講義を進めたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, we will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Tourist spots Moscow and Saint Peter's burg, Russian ballet, music and literature.

ARSA200LA

ロシアの文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の授業に引き続き、ロシアの文化の多様性を見ていきます。春学期に得た情報を基に、さらにそこに新たな領域・ジャンルの知識を積み重ねていくことになりますので、各自がロシアのイメージを整理しつつ、吸収していったほしいと思います。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を受けたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張をまとめる力を養うことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業の場合は、毎回のテーマに基づき、授業時間までにレジュメを学習支援システムにアップします。これをよく読んで、参考資料や映画やドキュメンタリー、音楽などの視聴すべき動画のURLを示すので、次週までに必ず視聴の上、コメントを学習支援システムに提出すること。対面授業の場合には、教場で資料を配付し映像資料を共有しながら講義を行います。オンラインによるか対面授業となるかは、初回の授業までにゆとりを持って学習支援システムにて告知します。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／ロシアの歴史1：キエフルーシ、タタールの軛、イワン雷帝	ロシアの歴史：キエフルーシ、タタールの軛、イワン雷帝について。
第2回	ロシアの歴史2	ピョートル大帝、エカテリーナ大帝、大黒屋光太夫、祖国戦争について映像資料を交えて概観。
第3回	ロシアの歴史3	農奴解放、近代化、テロリズム、日露戦争について映像資料を交えて概観。
第4回	ロシアの歴史4	ロマノフ王朝の崩壊、ロシア革命、スターリニズムについて映像資料を交えて概観。
第5回	ロシアの歴史5	雪解けから停滞へ、ペレストロイカ、チェルノブイリ原発事故、ソ連邦崩壊、新生ロシアまでを映像資料を交えて概観。
第6回	ソ連映画1	映画黎明期からモンタージュ派（エイゼンシュテイン、ヴェルトフ）、文芸映画を鑑賞しつつ、とりわけ政治的背景と映画の手法について着目する。

発行日：2021/5/1

第 7 回	ソ連映画 2	雪解け期から停滞の時代までに制作された文芸映画を、社会的背景、政治的体制、手法の観点から見ていく。
第 8 回	ソ連映画 3	反体制の烙印を押された監督（タルコフスキー、パラジャーノフ、イオセリアーニら）の作家性、手法、映像美を堪能する。また、SF映画を概観するとともに、ベレストロイカ期に多く制作された不条理作品、諷刺コメディを通して、政治と映画の問題を確認する。
第 9 回	ロシア映画 4	検閲から自由になった映画として、芸術性と映像実験を重ねるソクローフの作品、また、大国ロシアを再び謳い上げる戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状を概観する。
第 10 回	ロシア映画 5	前回に引き続き、戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状と傾向を概観する。
第 11 回	ロシア美術 1	イコン（聖像画）の機能について、移動展覧の営み、パトロンの役割について。
第 12 回	ロシア美術 2	マレーヴィチ、カンディンスキー、シャガールの絵画について。ロシア・アヴァンギャルド期の建築について紹介。
第 13 回	ロシア・アニメ 1	黎明期からプロパガンダ・アニメ、児童アニメ（タレーヴィチ、アタマノフ、ヒトルーク、カチャーノフ）の概説と作品の鑑賞。
第 14 回	ロシア・アニメ 2	アート・アニメ（ノルシュテイン、ベトロフらの作品）の概説と作品鑑賞。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の視聴には、AVライブラリーの利用を勧めます。期末レポートの作成には1週間程度の時間を要することになります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教員が作成した資料を学習支援システムにアップします。

【参考書】

教場で適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、コメントシート（25%）、期末レポート（50%）として、総合的に判断します。本授業の到達目標の 60%以上を達成した学生が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

今学期はロシアの歴史、映画が中心となりますが、時事的な話題もとりこみながらレジュメを作成します。

【Outline and objectives】

In this course, we will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Russian history, and films, pictures and animations.

LANc200LA

中国語コミュニケーション初級 I 2017 年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

構文をしっかりと覚える。

発音を正確にする。

日常会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルを確認した上、様々な会話パターンを作って練習していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	シラバスの配布と説明。
第 2 回	ピンイン	ピンインの復習
第 3 回	あいさつ	あいさつなどの日常用語の練習をする
第 4 回	会話（1）	自己紹介の練習をする
第 5 回	授業内発表（1）	自己紹介を発表する
第 6 回	基本構文（1） 自由会話	1、主語・述語・目的語 2、疑問文
第 7 回	基本構文（2） 自由会話	1、連体修飾語 2、連用修飾語
第 8 回	基本構文（3） 自由会話	1、「着」、「了」、「過」 2、補語
第 9 回	会話（2）	レストランでの会話
第 10 回	授業内発表（2）	講師と一対一でレストランでの会話をする
第 11 回	会話（3）	買い物する時の会話パターン
第 12 回	授業内発表（3）	講師と一対一で買い物のシミュレーションをする
第 13 回	復習	文法の復習をする
第 14 回	まとめ	口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や発表の準備など、毎回1時間ほどの復習をする。
また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

発表：40 %

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS 等を使って個別指導を行います。
またそれぞれのレベルの差に配慮をする。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc200LA

中国語コミュニケーション初級Ⅱ 2017 年度以降入学者**周 重雷**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

「読む、書く、聞く、話す」を全体的にスキルアップを図る。
日常の中国語のコミュニケーションが取れるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルに合わせ、文法を復習しつつ、会話の練習を強化していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	復習	春学期の授業内容の復習
第 2 回	文法（1） 自由会話	複文のさまざまな
第 3 回	文法（2）	プリントにある文法に関する問題を解く
第 4 回	会話（1）	待ち合わせ
第 5 回	授業内発表（1）	待ち合わせの会話を発表
第 6 回	会話（2）	病院での会話パターン
第 7 回	授業内発表（2）	講師と一対一で病院でのやり取りを練習する
第 8 回	会話（3）	道を尋ねる/教える
第 9 回	授業内発表（3）	講師と一対一で道順に関するやり取りをする
第 10 回	会話（4）	スピーチやものの語り方
第 11 回	授業内発表（4）	スピーチ/ものを語る
第 12 回	作文	作文の練習
第 13 回	授業内発表（5）	作文の発表
第 14 回	まとめ	口頭による試験を行う まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週 1 時間を目途に復習する。
単語を調べて、オリジナルの長文及び会話文を作る。
また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

発表：40 %

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS 等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc200LA

中国語作文初級 I

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は初級で学んだ中国語の基礎を固め、読解力や翻訳力の向上を図ります。そして正しい声調で、自然なリズムで話せるようにも指導します。

【到達目標】

中国語の基礎文法を一通り学ぶことによって一応の文章も読解でき、翻訳ができる段階まで力を付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを事前に配り、予習してもらいます。授業中にチェックします。必要に応じて授業後の指導もできます。社会情勢に合わせてオンデマンドとオンライン授業（リアルタイム）を実施する場合があります。その時、お知らせします。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	レベルチェック
2 回	数字の使い方（一）	例文解説
3 回	数詞の使い方（二）	翻訳の練習
4 回	「是」の使い方（一）	例文解説
5 回	「是」の使い方（二）、 一日の行動	翻訳の練習
6 回	連体修飾語 + 的 + 被修飾語	例文解説、翻訳の練習
7 回	「有」構文、「在」構文	例文解説、翻訳の練習
8 回	疑問詞の使い方	例文解説、翻訳の練習
9 回	介詞の使い方	例文解説、翻訳の練習
10 回	「比較」の表現	例文解説、翻訳の練習
11 回	程度補語の使い方	例文解説、翻訳の練習
12 回	アスペクト（一）	例文解説
13 回	アスペクト（二）	翻訳の練習
14 回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業にてプリント配布

【参考書】

辞書を必ず用意すること。

【成績評価の方法と基準】

対面授業が再開された場合には期末試験を実施し 40 % にします。ふだんの成績は 60 % にします。再開されなかった場合には、毎回の課題の実施状況によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

発音の指導を徹底的にやるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するため通信環境・PCの準備をしてください。

【その他の重要事項】

学生の様子によって、内容を調整する場合があります。

【Outline and objectives】

In this course, we will improve the writing skill of Chinese through reviewing the basic grammar.

LANc200LA

中国語作文初級Ⅱ

2017年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は初級で学んだ中国語の基礎を固め、読解力や翻訳力の向上を図ります。

【到達目標】

中国語の基礎文法を一通り学ぶことによって一応の文章も読解でき、翻訳できる段階まで力を付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず中国語作文の基礎を理解してもらい、基本的な文法事項や重要な文型について詳しく説明します。それを基に、単文を中心とした練習問題を解くことによって基礎的な作文能力を高めていきます。必要に応じて授業後の指導もできます。

社会情勢に合わせてオンデマンドとオンライン授業（リアルタイム）を実施する場合があります。その時、学習支援システムでお知らせします。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	能願動詞の使い方	例文解説、翻訳の練習
2 回	方向補語	例文解説、翻訳の練習
3 回	結果補語	例文解説、翻訳の練習
4 回	可能補語	例文解説、翻訳の練習
5 回	兼語文	例文解説、翻訳の練習
6 回	受身文	例文解説、翻訳の練習
7 回	「是……的」構文	例文解説、翻訳の練習
8 回	存現文	例文解説、翻訳の練習
9 回	介詞の使い方	例文解説、翻訳の練習
10 回	「比較」の表現	例文解説、翻訳の練習
11 回	「把」構文	例文解説、翻訳の練習
12 回	動量補語・時量補語	例文解説、翻訳の練習
13 回	複文・「了」の使い方	例文解説、翻訳の練習
14 回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント添付

【参考書】

辞書を必ず用意すること。

【成績評価の方法と基準】

対面授業が再開された場合には期末試験を実施し、40 % にし、ふだんの成績は 60 % にする。再開されなかった場合には、毎回の課題の出来具合によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生から高く評価された。続けてこのやり方でやります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するため通信環境・PCの準備をしてください。

【その他の重要事項】

学生の様子によって内容を調整することがあります。

【Outline and objectives】

In this course, we will improve the writing skill of Chinese through reviewing the basic grammar.

LANc200LA

中国語視聴覚初級 I

2017 年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。

【到達目標】

1 年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検3級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。

DVD 教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

簡単な中国語作文・会話練習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。本授業はハイブリッド（オンラインと対面を併用）で行います。授業についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第1課	文法理解と応用
3	第1課	会話と応用
4	第1課	読解文の理解と応用
5	第2課	文法理解と応用
6	第2課	会話と応用
7	第2課	読解文の理解と応用
8	第3課	文法理解と応用
9	第3課	会話と応用
10	第3課	読解文の理解と応用
11	第4課	文法理解と応用
12	第4課	会話と応用
13	第4課	読解文の理解と応用
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

課題提出 授業への参加度 60% 期末レポート試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【Outline and objectives】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

LANc200LA

中国語視聴覚初級Ⅱ

2017年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。

【到達目標】

1 年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検3級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。

DVD 教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

簡単な中国語作文・会話練習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス復習	授業内容に関するガイダンスと復習
2	第5課	文法理解と応用
3	第5課	会話と応用
4	第5課	読解文の理解と応用
5	第6課	文法理解と応用
6	第6課	会話と応用
7	第6課	読解文の理解と応用
8	第7課	文法理解と応用
9	第7課	会話と応用
10	第7課	読解文の理解と応用
11	第8課	文法理解と応用
12	第8課	会話と応用
13	第8課	読解文の理解と応用
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVD で学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

課題提出 授業への参加度 60% 期末レポート試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

LANc200LA

資格中国語初級 I

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK（水平考[®]）1 級～3 級合格レベルの中国語を身につけることが、この授業の目的です。春学期中に 2 級、秋学期中に 3 級に合格できるよう指導します。

ただ、HSK のリスニングは難しいので、中国検定準 4 級程度からトレーニングを始めていきます。

向上心のある学生の参加を歓迎します。単位のためだけの履修は向きません。

中国語が好きな人が集まりますので、情報交換もできて、いつも楽しいクラスです。

【到達目標】

HSK 2 級に合格できるリスニング力と読解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

HSK の過去問プリントを使って学習します。必要な単語と文法を学び、実際の過去問を解いて実践力を養います。今年度は特にリスニング練習を強化したいと考えています。中国語検定準 4 級程度の簡単なものからトレーニングを始めます。繰り返し練習して、リスニング力を養います。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時はメールで対応します。

masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	レベルチェックテスト	メンバーのレベルをチェックします。
2	HSK 1 級単語	HSK 1 級単語を学びます。リスニング練習をします。
3	HSK 1 級単語復習	HSK 1 級単語リスニングテスト
4	HSK 1 級単語	HSK 1 級単語を学びます。リスニング練習をします。
5	HSK 1 級単語復習	HSK 1 級単語リスニングテスト
6	HSK 1 級過去問	HSK 1 級過去問を解きます。
7	HSK 1 級過去問	HSK 1 級過去問を解きます。
8	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語を学びます。
9	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト。
10	HSK 2 級	HSK 2 級単語を学びます。
11	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト
12	HSK 2 級単語	HSK2 級単語を学びます
13	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト
14	春学期復習	復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

良く復習すること。覚えた単語は忘れないようにすること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布

【参考書】

HSK 過去問、単語集

【成績評価の方法と基準】

授業内テストの合計点で評価します。
積極的な学生には加点します。

【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材を充実させます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 1st~2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

LANc200LA

資格中国語初級Ⅱ

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK 3 級合格レベルの中国語を身につけることが目的です。
この授業は春学期から継続しています。秋学期からの参加も歓迎します。

中国語が好きな、意欲的な学生の参加を歓迎します。

いつも楽しいクラスです。

ほぼ全員が 3 級に合格しています。

【到達目標】

HSK 3 級合格以上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリント教材を使って、HSK 3 級の単語と文法を学びます。リスニング練習を重視します。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時はメールで対応します。

masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
2	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
3	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
4	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
5	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
6	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
7	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
8	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
9	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
10	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
11	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
12	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
13	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
14	授業の総まとめと期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを忘れないように、よく復習すること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布します。

【参考書】

HSK3 級過去問、単語集

【成績評価の方法と基準】

期末テストで評価します。4 回以上欠席の者は不合格です。

【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材を充実させ、総合的な力がつくように工夫します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 1st~2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

ARSe200LA

中国語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語ということばを通して、中国文化、また、中国という国について考えます。

【到達目標】

中国語そのものを学ぶ授業ではありませんが、中国語ということばを通してみえる世界が、日本語を通してみる世界とはいかに違うか、を実感してもらえればと思います。また、ことばについて知ること、我々自身についても新しい発見をしたり、新しいものの見方ができるような授業を心がけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインのハイブリット型を予定しています。
教員が作成、配布する資料をもとに講義をおこない、トピック毎に講義内容のまとめや課題に取り組み提出してもらいます。
質疑応答、課題等へのフィードバックは随時授業時におこなうほか、大学の学修支援システムやメールを利用します。
受講生と相談しながらよりよい進め方を模索していきたいとおもいます。
なお、感染状況によって、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行うこととします。
詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ことばとは何か	あまりにも身近すぎて気づきにくいことばのはたらきについて考えます。
②	類型論からみた中国語	英語や日本語と比較した中国語の特徴
③	中国語の音韻体系－その1	声調・韻母・声母
④	中国語の音韻体系－その2	有声音・無声音等
⑤	中国語文法概説－その1	品詞分類
⑥	中国語文法概説－その2	形態素・単語・フレーズ・センテンス
⑦	中国語文法概説－その3	承前
⑧	中国語の語彙－その1	語彙からみる中国的発想法
⑨	中国語の語彙－その2	外来語・新語・流行語
⑩	中国語の語彙－その3	中国語になった日本語と日本語になった中国語
⑪	文語と白話	書き言葉と話し言葉
⑫	中国語の方言	言語の変化－その1

- ⑬ 大陸の中国語と台湾の 言語の変化－その2
中国語
- ⑭ まとめと試験 論述式の試験をおこないます。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のまとめや課題をトピック毎に提出してもらいます。
一般的に大学の基準では、授業時間のほか、準備・復習、合わせて4時間が標準的学習時間とされています。
本授業もそれを前提におこないます。

【テキスト（教科書）】

教員が作成した教材を印刷して授業時に配布します。
また学修支援システムにも PDF を UP します。

【参考書】

- ・牛島徳次ほか、『中国文化叢書 1 言語』、大修館、1967 年
- ・朱徳熙著/中川正之・木村英樹編訳、『文法のはなし』、光生館、1986 年
- ・木村英樹、『中国語はじめての一步』、ちくま新書、1996 年
- ・藤堂明保、『漢字とその文化圏』（中国語研究学習双書 3）、光生館、1971 年
- ・阿辻哲次、『図説漢字の歴史』（普及版）、1989 年
- ・林四郎/松岡栄志『日本の漢字・中国の漢字』、三省堂、1995 年

【成績評価の方法と基準】

まとめと課題（30％）、期末試験（70％）
まとめは講義の内容を理解しているかを確認するためのもので基本的にトピック毎に提出してもらいます。
期末試験としてレポート（3200 字程度）を提出してもらいます。
レポートの題目は自身で設定してください。
ただし、以下の 3 点、すべてについて具体例をあげながら考察すること。

- ①「中国語ということば」
- ②「外国語を学ぶということ」
- ③「人間にとってことばとは」

評価の基準は、

- (1)講義の内容をふまえているか、
- (2)ことばをめぐる問題を多様な角度から捉えているか、
- (3)自身の考えをもち、それを自身のことばで表現しているか、

の 3 点です。

レポートは「まとめ」や「課題」を利用して作成できるよう、普段から心がけておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講者の中には、中国語を履修していない人もいれば、中国語を母語とする人もいます。受講理由は様々でしょうが、中国語を学ぼうとする人にはもちろん、どのような受講者にも、「ことばって面白い」と感じてもらえる授業をしたいと思います。

【その他の重要事項】

※ 4 月 30 日（木）に最初の資料をアップロードする予定です。
※それまでは参考文献にあげた文献を読むなどしてください。
(かなり難しいものも含まれていますのでかならずしも挙げたものでもなくともかまいません。)

また書籍以外でも中国語に関するものであればなんでもかまいません)

※それまでの連絡は掲示板、もしくはメールにてどうぞ。
今年は対面での授業ができずに残念ですが、その分、より丁寧に、より分かりやすい授業となるよう心がけたいと思います。
このような形式での授業は初めてですので色々試行錯誤するとおもいますがどうぞよろしくお願いします。

【Outline and objectives】

Through Chinese language, we will think about Chinese culture and view of the world.

ARSe200LA

中国語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語を表記する文字体系である漢字にまつわることがらを通して、中国的思考法について考えます。

【到達目標】

中国語そのものを学ぶ授業ではありませんが、漢字という文字体系が、中国語や中国的思考法といかに結びついているのか、を理解してもらえればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインのハイブリット型を予定しています。
教員が作成、配布する資料をもとに講義をおこない、トピック毎に講義内容のまとめや課題に取り組み提出してもらいます。
質疑応答、課題等へのフィードバックは随時授業時におこなうほか、大学の学修支援システムやメールを利用します。
受講生と相談しながらよりよい進め方を模索していきたいとおもいます。

なお、感染状況によって、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行うこととします。
詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国文化の思考基底－その1	中国的世界観・人間観の特徴
②	中国文化の思考基底－その2	儒家思想と中国の歴史・文化
③	中国文化の思考基底－その3	中国文化における道家思想の役割
④	中国文化の思考基底－その4	古い中国と新しい中国
⑤	漢字学の伝統－その1	中国の伝統的学問分類と漢字学の位置づけ
⑥	漢字学の伝統－その2	許慎と『説文解字』
⑦	漢字学の伝統－その3	漢字の分類法と字書の変遷
⑧	漢字学の伝統－その4	日本における漢字研究
⑨	漢字の歴史－その1	甲骨文・金文・戦国文字
⑩	漢字の歴史－その2	小篆・隸書・楷書
⑪	漢字の歴史－その3	文字の社会的機能の変遷
⑫	漢字の歴史－その4	新中国における文字改革
⑬	日本人と漢字	日本における漢字の受容
⑭	まとめと試験	論述形式の試験をおこないます。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布します。

【参考書】

- ・牛島徳次ほか、『中国文化叢書 1 言語』, 大修館, 1967 年
- ・朱德熙著/中川正之・木村英樹編訳,『文法のはなし』, 光生館, 1986 年
- ・木村英樹,『中国語ははじめの一步』, ちくま新書, 1996 年
- ・藤堂明保,『漢字とその文化圏』(中国語研究学習双書 3), 光生館, 1971 年
- ・阿辻哲次,『図説漢字の歴史』(普及版), 1989 年
- ・林四郎/松岡栄志『日本の漢字・中国の漢字』, 三省堂, 1995 年

【成績評価の方法と基準】

小テスト (30 %)、期末試験 (70 %)

小テストは講義の内容を理解しているかを確認するためのもので基本的に毎授業おこないます。

期末試験は論述式でおこないます。評価の基準は、①講義の内容をふまえているか、②漢字という文字、書写言語と音声言語との違い、人間にとって文字とは、というような問題を多様な角度から捉えているか、③自身の考えをもち、それを自身のことばで表現しているか、の 3 点です。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講者の中には、中国語を履修していない人もいれば、中国語を母語とする人もいます。受講理由は様々でしょうが、中国語を学ぼうとする人にはもちろん、どのような受講者にも、「ことばって面白い」と感じてもらえる授業をしたいと思います。

【Outline and objectives】

Through learning characteristics of Chinese characters, we will understand Chinese thinking process and view of the world.

ARSe200LA

中国の文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

山本 律

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、台湾は日本人の旅行先として人気となっています。

日本と台湾は長い歴史の中で深いかかわりを持っています。

本授業では映像資料を用いて日本と台湾の文化的関係についてみていきます。

【到達目標】

日本と台湾との文化的関係についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。

毎回コメントペーパーを出してもらいます。

最終回にはレポートを提出してもらいます。

課題等のフィードバックは授業時間またはメールで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について
第 2 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』(第 1 回)
第 3 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』(第 2 回)
第 4 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』(第 3 回)
第 5 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『私の少女時代』(第 1 回)
第 6 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『私の少女時代』(第 2 回)
第 7 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『私の少女時代』(第 3 回)
第 8 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『海角七号』(第 1 回)
第 9 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『海角七号』(第 2 回)
第 10 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『海角七号』(第 3 回)
第 11 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『KANO』(第 1 回)
第 12 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『KANO』(第 2 回)
第 13 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『KANO』(第 3 回)
第 14 回	授業の総まとめとレポート	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60 %、レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn about Chinese culture and society by using various materials such as movies.

ARSe200LA

中国の文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

山本 律

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。

映画は、その国の文化と社会を映し出します。

今期では、2008 年に公開されて以降、人気を博しシリーズ化されたカンフーアクション映画を軸として中国文化についてみていきます。

【到達目標】

中国の文化と社会についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回講義形式で行います。

毎回課題としてコメントペーパーを出してもらいます。

最終回にはレポートを提出してもらいます。

課題等のフィードバックは授業時間またはメールで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について
第 2 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 序章』(第 1 回)
第 3 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 序章』(第 2 回)
第 4 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 序章』(第 3 回)
第 5 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 葉問』(第 1 回)
第 6 回	レポート映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 葉問』(第 2 回)
第 7 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 葉問』(第 3 回)
第 8 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『イップマン 継承』(第 1 回)
第 9 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『イップマン 継承』(第 2 回)
第 10 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『イップマン 継承』(第 3 回)
第 11 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『イップマン 外伝』(第 1 回)
第 12 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『イップマン 外伝』(第 2 回)
第 13 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『イップマン 外伝』(第 3 回)
第 14 回	授業の総まとめと試験	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出）60 %、レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn about Chinese society and culture by using various materials such as movies.

LANs200LA

スペイン語コミュニケーション I 2017 年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 3～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座はオンラインで実施する。Zoom を通じてリアルタイムで行う。身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と置き換え練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】

身近な話題について、文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

モデルの重要な表現解説と置き換え練習後、学んだ表現を暗記し、Break Out Room で仲間と練習する。次に暗記した表現を利用してモデル文章を書き換えて Break Out Room で発表する。最後にその日に学習した内容の理解度を確認するためにリスニングの小テストを行う。授業後提出する宿題がない。自分で書き換え文章のフィードバックは毎回 Break Out Room の練習中の時にその場で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Mi nombre 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
2	Mi nombre 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
3	Mi familia 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
4	Mi familia 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
5	Mi ciudad 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
6	Mi ciudad 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
7	Mi universidad 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
8	Mi universidad 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
9	Un día normal 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
10	Un día normal 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
11	Descripciones 1	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	Descripciones 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
13	まとめ	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
14	期末理解度の確認	リスニングと発話

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の復習から始まる。履修者は Break Out Room で練習を行うので、予習をしっかり行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した短文を次の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次の授業で確認のための簡単な口頭試験を行う。学習の目安は毎回 60 分程度である。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。
出席点ではありません → 30 %
2. 毎回の小テストに基づく点数 30 % →
3. 期末の理解度確認テストに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM を使って授業を行うので、ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

This course will be conducted online in real time through Zoom. You will practice communicating familiar topics to the other party, make model sentences and practice important expression explanations and replacements. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on model sentences.

LANs200LA

スペイン語コミュニケーションⅡ 2017 年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 3～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座はオンラインで実施する。Zoom を通じてリアルタイムで行う。身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と置き換え練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】

身近な話題について文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

モデルの重要な表現解説と置き換え練習後、学んだ表現を暗記し、Break Out Room で仲間と練習する。次に暗記した表現を利用してモデル文章を書き換えて Break Out Room で発表する。最後にその日に学習した内容の理解度を確認するためにリスニングの小テストを行う。授業後提出する宿題がない。自分で書き換え文章のフィードバックは毎回 Break Out Room の練習中の時にその場で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Mi mejor viaje 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
2	Mi mejor viaje 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
3	Mis gustos 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
4	Mis gustos 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
5	Mi mejor regalo 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
6	Mi mejor regalo 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
7	Mi personaje preferido 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
8	Mi personaje preferido 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
9	Después de mi graduación 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
10	Después de mi graduación 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
11	Navidad 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
12	Navidad 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
13	Mi opinión	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
14	Examen	リスニングと発話

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の復習から始まる。履修者は Break Out Room を使ってペアで練習を行うので、予習をしっかり行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した20個程度の短文を次回の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次回の授業で確認のための簡単な口頭試験を行う。学習の目安は毎回60分程度である。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指定された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。
出席点ではありません → 30 %
2. 毎回の小テストに基づく点数 30 % →
3. 期末の理解度確認テストに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

In this course, you will practice communicating familiar topics to the other party. Make model sentences and practice important expression explanations and replacements. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on model sentences.

LANs200LA

現代のスペイン語 I

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。随時、初級文法の復習をおりませっていく。また、この授業では、スペイン語圏の文化や社会にも光をあてつつ、その歴史と現状について学んでゆく。スペイン語初級をすでに受講したことのある学生が対象となる。

【到達目標】

スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、文法事項の復習を中心に見ていく。随時小テストを行なうことによって、学生の理解度の把握に努める。採点済みの答案用紙は返却し、答え合わせをしながら基本的な文法事項のふりかえりに努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	初級文法の復習	過年度までにスペイン語初級の各クラスで学んだ文法事項の復習を行う。
3	直説法現在	直説法現在を使った文章を読解する。
4	再帰動詞	再帰動詞を使った文章を読解する。
5	現在分詞および進行形	現在分詞と進行形を使った文章を読解する。
6	過去分詞および点過去	過去分詞と点過去を使った文章を読解する。
7	線過去	線過去を使った文章を読解する。
8	直説法現在完了および過去完了	直説法現在完了と直説法過去完了を使ったペルーの古代遺跡マチュ・ピチュに関する文章を読解する。
9	指示詞と所有詞の復習	指示詞と所有詞を使った文章を読解する。
10	受動表現の復習	受動表現を使った文章を読解する。
11	比較表現の復習	比較表現を使った文章を読解する。
12	無人称表現の復習	無人称表現を使った文章を読解する。
13	春学期のまとめ	春学期に学んだ文法事項の復習を行う。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストの予習と復習は必須である。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 50 %、随時行う小テスト 20 %

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面形式で行われるが、場合によってはオンライン形式へ変更となることがある。その場合は「学習支援システム」上で通知するので、こまめなチェックを怠らないこと。

【Outline and objectives】

A further goal is for students to improve their reading-ability, by enjoying rather long books through the use of their grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.

LANs200LA

現代のスペイン語Ⅱ

2017 年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を活かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。特に、この授業では、現代のスペイン語圏の文化や社会といった諸相について、その歴史も踏まえながら学んでゆく。スペイン語初級をすでに受講したことのある学生が対象となる。

【到達目標】

スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教員が各回のテーマに関する概説と文法事項の解説を織りまぜながら、順番に指名された受講生が訳読を行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	春学期の文法の復習	春学期で学んだ文法事項の復習を行う。
3	直説法未来	直説法未来を使った文章を読解する。
4	直接法過去未来	直接法過去未来を使った文章を読解する。
5	直説法未来完了と直説法過去未来完了	直説法未来完了と直説法過去未来完了を使った文章を読解する。
6	接続法現在（名詞節）	接続法現在（名詞節）を使った文章を読解する。
7	接続法現在（形容詞節・副詞節）	接続法現在（形容詞節・副詞節）を使った文章を読解する。
8	命令法	命令法を使った文章を読解する。
9	接続法過去	接続法過去を使った文章を読解する。
10	間接話法	間接話法を使った文章を読解する。
11	知覚・使役の表現	知覚・使役の表現を使った文章を読解する。
12	時制の復習	さまざまな時制を網羅的に使った文章を読解する。
13	法の復習	直説法と接続法を対比的に使った文章を読解する。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の学習事項のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

禰野美帆ほか『世界遺産を訪ねて 改訂版』朝日出版社、2014 年、ISBN9784255550688、本体定価 2,300 円。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30 %、小テスト：20 %、学期末試験：50 %。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な修得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

辞書の活用を怠らないこと。

【Outline and objectives】

This course will focus on various current topics in Spanish-speaking countries. A further goal is for students to improve their reading-ability, by enjoying rather long books through the use of their grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.

ARSa200LA

スペイン語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

塩崎 公靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

【到達目標】

本講義では、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式でなく、学習支援システムを通じたオンデマンド形式（資料型）にて行う。※初回の講義案内・資料配布は 4/15(月)を予定。

初回講義案内において講義概要を説明したのち、学生から関心のあるテーマを聞き、担当者を決定、その後は各回の担当者がそのテーマを調べ、定期的に簡易レポート形式で提出してもらう。※各回に例としてあげたプレゼン内容はあくまで一例。自身が調べたいと思えるテーマを探してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (プレゼン担当決定)	スペイン語圏についての概説。各回の担当者を決定。
2	講義：スペイン概説①	地域から考える
3	講義：スペイン概説②	言語から考える
4	プレゼンテーション①	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの絵画)
5	プレゼンテーション②	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインのスポーツ)
6	プレゼンテーション③	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの言語)
7	プレゼンテーション④	担当者によるプレゼンテーション (例：食事に見られる地域性)
8	プレゼンテーション⑤	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの観光業)
9	プレゼンテーション⑥	担当者によるプレゼンテーション (例：EU とスペイン)
10	プレゼンテーション⑦	担当者によるプレゼンテーション (例：Brexit のスペインへの余波)
11	プレゼンテーション⑧	担当者によるプレゼンテーション (例：スペイン語とポルトガル語の違い)
12	プレゼンテーション⑨	担当者によるプレゼンテーション (例：カタルーニャ州について)
13	プレゼンテーション⑩	担当者によるプレゼンテーション (例：フラメンコの歴史)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料が指定された場合には、授業内での議論参加のため必ず目を通しておくこと。

また、映画や展覧会など課外活動に出かけることを指示することもある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に受講生各自の関心に従って決定。

【参考書】

テーマにそって授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容 (70%) と平常点 (30%) で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、こちらから何かを教えるというよりも、皆さんの興味関心を十分に聞き取り、その関心に沿ったテーマについて学べるように、よりよい授業づくりをしていきたいと考えています。

【Outline and objectives】

This class aims at improving ability to understand how the world is, through learning hispanophone countries.

Wish the students in this course to have ambition to achieve new field of view.

ARSA200LA

スペイン語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

【到達目標】

本講義では、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式でなく、学習支援システムを通じたオンデマンド形式（資料型）にて行う。

初回講義案内において講義概要を説明したのち、学生から関心のあるテーマを聞き、担当者を決定、その後は各回の担当者がそのテーマを調べ、定期的に簡易レポート形式で提出してもらう。

※各回に例としてあげたプレゼン内容はあくまで一例。自身が調べたいと思えるテーマを探してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (プレゼン担当決定)	スペイン語圏についての概説。各回の担当者を決定。
2	講義：スペイン概説①	国際関係の中のスペイン
3	講義：スペイン概説②	スペインと日本
4	プレゼンテーション①	担当者によるプレゼンテーション (例：メキシコの映画産業)
5	プレゼンテーション②	担当者によるプレゼンテーション (例：アルゼンチンのスポーツ事情)
6	プレゼンテーション③	担当者によるプレゼンテーション (例：キューバの現在)
7	プレゼンテーション④	担当者によるプレゼンテーション (例：ラテンアメリカの文学)
8	プレゼンテーション⑤	担当者によるプレゼンテーション (例：フィリピンに残るスペイン語)
9	プレゼンテーション⑥	担当者によるプレゼンテーション (例：日本のスペイン語話者)
10	プレゼンテーション⑦	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインのスタートアップ企業)
11	プレゼンテーション⑧	担当者によるプレゼンテーション (例：スペイン語圏の中の日本企業)
12	プレゼンテーション⑨	担当者によるプレゼンテーション (例：コスタリカについて)

- 13 プレゼンテーション⑩ 担当者によるプレゼンテーション
(例：スペイン語圏での日本発サ
ブカルチャーの受容)
- 14 総括 ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料が指定された場合には、授業内での議論参加のため必ず目を通しておくこと。

また、映画や展覧会など課外活動に出かけることを指示することもある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に受講生各自の関心に従って決定。

【参考書】

テーマにそって授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容 (70%) と平常点 (30%) で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、こちらから何かを教えるというよりも、皆さんの興味関心を十分に聞き取り、その関心に沿ったテーマについて学べるように、よりよい授業づくりをしていきたいと考えています。

【Outline and objectives】

This class aims at improving ability to understand how the world is, through learning hispanophone countries.

Wish the students in this course to have ambition to achieve new field of view.

LANk200LA

朝鮮語 3C I (コミュニケーション) 2017 年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次で学んだ文法と語彙の基礎の上に、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

到達目標として TOPIK（韓国語能力試験）I レベルの合格を目指します。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）を習得します。

課題や試験の勉強に取り組むことで、平易な小説が読めるようになります。

また到達目標として TOPIK（韓国語能力試験）I レベルの合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

小テストを実施します。

授業では教科書の語彙と文法の説明の後で各自練習問題を解き、音読と聞き取りをおこないます。

授業形態（対面 or オンライン）については初回から Hoppii の「お知らせ」で告知しますので、必ず登録のうえ、読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課	語基の復習, ピウブ不規則用言
2	第 1 課	語基の復習, ピウブ不規則用言
3	第 1 課	「やりもらい」と尊敬語・謙譲語
4	第 2 課	「～している」の 2 つの形, 禁止形
5	第 2 課	長い不可能形, 助詞「～に」の用法
6	中間試験	中間試験
7	第 3 課	文中の疑問形, 強調表現
8	第 3 課	存在詞と語尾の組み合わせ, 方向をあらわす動詞
9	第 4 課	もうひとつの意思・推量形, ショッ不規則用言
10	第 4 課	動詞のこそあどことば, 副詞をつくる方法
11	第 5 課	用言の名詞形, 「～することはする」
12	第 5 課	いくつかの助詞, 「～という」の短縮形
13	春学期のまとめ	春学期のまとめ
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の課題は、指定された教科書の練習問題を解いて Hoppii に提出します。

課題と小テストのための復習時間は 1 回につき 1 時間以上が標準となります。

【テキスト（教科書）】

授業で配布します

【参考書】

『コスモス朝和辞典』

【成績評価の方法と基準】

小テスト：20%

課題提出：20%

中間試験：30%

期末試験：30%

【学生の意見等からの気づき】

CD の活用

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

Hoppii に登録してください。

課題の提出は Hoppii で行います。

また、シラバスは状況によって変更される場合がありますので、

Gmail と Hoppii の「お知らせ」を必ず読んでください。

繰り返しますが、授業形態（対面 or オンライン）については初回から Hoppii の「お知らせ」で告知しますので、必ず登録のうえ、読んでください。

【Outline and objectives】

It aims to comprehensively improve each ability of "reading, writing, listening, talking" on the basis of grammar and vocabulary learned in the first year.

Students aim to pass TOPIK (Korean Language Proficiency Test) I level as an achievement goal.

LANk200LA

朝鮮語 3C II (コミュニケーション) 2017 年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、「読む、書く、聞く、話す」の各能力を総合的に向上させることを目的とします。

到達目標として TOPIK（韓国語能力試験）I レベルの合格を目指します。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）を習得します。

課題や試験の勉強に取り組むことで、平易な小説が読めるようになります。

また到達目標として TOPIK（韓国語能力試験）I レベルの合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

小テストを実施します。

授業では教科書の語彙と文法の説明の後で各自練習問題を解き、音読と聞き取りをおこないます。

授業形態（対面 or オンライン）については初回から Hoppii の「お知らせ」で告知しますので、必ず登録のうえ、読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 6 課	動作の反復、推量表現
2	第 6 課	大過去形
3	第 6 課	へヨ体の命令形
4	第 7 課	「～して」をあらわすふたつの形
5	第 7 課	「～しながら」、指定詞の第Ⅲ語基
6	中間試験	中間試験
7	第 8 課	移動をあらわす合成動詞、用言の「である」形
8	第 8 課	間接話法 1、反語表現
9	第 9 課	ハンダ体、間接話法 2
10	第 9 課	「～しはじめる」、受身形
11	第 10 課	概数の表現、間接話法と第Ⅲ語基
12	第 10 課	「～について」、「～しやすい／しにくい」
13	秋学期のまとめ	秋学期のまとめ
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の課題は、指定された教科書の練習問題を解いて Hoppii に提出します。

課題と小テストのための復習時間は 1 回につき 1 時間以上が標準となります。

【テキスト（教科書）】

授業で配布します。

【参考書】

『コスモス朝和辞典』

【成績評価の方法と基準】

小テスト：20%
課題提出：20%
中間試験：30%
期末試験：30%

【学生の意見等からの気づき】

CD の活用

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

Hoppii に登録してください。

課題の提出は Hoppii で行います。

また、シラバスは状況によって変更される場合がありますので、

Gmail と Hoppii の「お知らせ」を必ず読んでください。

繰り返しますが、授業形態（対面 or オンライン）については初回から Hoppii の「お知らせ」で告知しますので、必ず登録のうえ、読んでください。

【Outline and objectives】

Continuing from the spring semester, it aims to comprehensively improve each ability of "Reading, Writing, Listening, Talking".

Students aim to pass TOPIK (Korean Language Proficiency Test) I level as an achievement goal.

LANk200LA

朝鮮語 4 B I （視聴覚）

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力・読む能力を向上させる。

語彙・文型・表現の知識を増強する。

韓国人留学生との会話も行う予定。

一定の能力のある学生を対象とします。

【到達目標】

1 韓国の小説・ドラマ・歌・アナウンスなどの聞き取りを通し、音から朝鮮語を理解することに慣れる。

2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。

3 発音練習・暗唱を行うことで自然で美しい発音をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1 小説・ドラマの一場面を聞き、日本語訳する。

2 スクリプトを読み、日本語訳する。

3 文型・表現を学び、発音練習をする。

4 翻訳・暗唱等の課題をする。

5 単語と暗唱の小テストをする。

Zoom で行う予定なので、tablet の学生は zoom のアプリを入れておくこと。

hoppi に詳しい授業予定、Zoom URL などを載せるので毎週確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	サランバンのお客さん	聞き取り
	とオモニ ①②	スクリプト読解
	シークレットガーデン 1	文型・表現・発音練習
2	サランバンのお客さん	聞き取り
	とオモニ ③④	スクリプト読解
	シークレットガーデン 2	文型・表現・発音練習
3	歌	
	サランバンのお客さん	聞き取り
	とオモニ ⑤⑥	スクリプト読解
4	サランバンのお客さん	聞き取り
	とオモニ ⑦⑧	スクリプト読解
	アナウンス	文型・表現・発音練習
5	サランバンのお客さん	聞き取り
	とオモニ ⑨⑩	スクリプト読解
	シークレットガーデン 4	文型・表現・発音練習
6	歌など	聞き取り
	小テスト	スクリプト読解 文型・表現・発音練習

7	サランバンのお客さん とオモニ ⑪⑫ シークレットガーデン 5	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
8	サランバンのお客さん とオモニ ⑬⑭ テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
9	サランバンのお客さん とオモニ ⑮⑯ シークレットガーデン 6	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
10	サランバンのお客さん とオモニ ⑰⑱ 会話練習	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と会話
12	サランバンのお客さん とオモニ ⑲⑳ シークレットガーデン 7	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	サランバンのお客さん とオモニ 最終回 シークレットガーデン 8	スクリプト聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、聞き取り・読解・暗記等の課題を行うこと。
本授業の準備・復習時間は各 1-2 時間を要する。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

川口義一監修『耳から入る韓国語 1』学研
シークレットガーデン DVD

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加度、積極性、課題）40 %、テスト 60 %
4 回欠席の場合、落第。

【学生の意見等からの気づき】

留学生との会話が大変有意義だったという意見が多かったため今学期も留学生との会話の時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

pc あるいは tablet

【その他の重要事項】

一定の能力のある学生を対象とします。
課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。
定員制のため履修希望者が多い場合は初回に抽選をします。初回の授業には必ず出席してください。

【Outline and objectives】

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. It aims to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

LANK200LA

朝鮮語 4 B II（視聴覚）

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力・読む能力を向上させる。語彙・文型・表現の知識を増強する。
韓国人留学生との会話も行う予定。
一定の能力のある学生を対象とします。

【到達目標】

- 1 韓国のドラマ・歌・アナウンス・スピーチなどの聞き取りを通し、音から理解することに慣れる。
- 2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。
- 3 発音練習・音読を行うことで自然で美しい発音をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 ドラマ・ニュースなどを聞き、日本語訳する。
- 2 スクリプトを読み、日本語訳する。
- 3 文型・表現を学び、発音練習をする。
- 4 翻訳・暗唱等の課題をする。
- 5 単語と暗唱の小テストをする。

Zoom で行う予定なので、tablet の学生は zoom のアプリを入れておいてください。

hoppi に詳しい授業予定、Zoom URLなどを載せるので毎週確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	会話 自己紹介 華麗なる遺産 1	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	華麗なる遺産 2 歌	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	アナウンスなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	華麗なる遺産 3	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	華麗なる遺産 4 小テスト	小テスト 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	アナウンスなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	華麗なる遺産 5 テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習

8	華麗なる遺産 6	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
9	アナウンスなど	小テスト 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
10	華麗なる遺産 7 会話練習	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生との会話
12	華麗なる遺産 8 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	華麗なる遺産 9	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、スクリプト読解・音読・暗唱等の課題を行うこと。
本授業の準備・復習時間は 1-2 時間を要する。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加度、積極性、課題）40 %、テスト 60 %
4 回欠席の場合、落第。

【学生の意見等からの気づき】

留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので今学期も
会話の時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

☑か tablet

【その他の重要事項】

一定の能力のある学生を対象とします。
課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。
定員制のため履修希望者が多い場合は初回授業参加者の中から抽選
をします。初回の授業には必ず出席してください。

【Outline and objectives】

This class is designed for intermediate Korean learners.
Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. It
aims to improve listening comprehension skills and increase
vocabulary.

LANk200LA

朝鮮語 5 A I（講読）

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 3～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、朝鮮語の基礎を身につけた学習者が現代の韓国文学
に触れ、辞書を使って一人で読めるようになることを目的とする。
短いエッセイから、短編までさまざまな作家の文章を幅広く読むと
ともに、作品の背景となっている現代の韓国社会や韓国の文化につ
いても考察する。

日本で翻訳されている韓国文学と合わせ授業中に自ら原書のテキス
トを読むことで、各学習者が好きな韓国文学に出会えることを目標
とする。

【到達目標】

1. 書き言葉と間接話法が用いられた朝鮮語の文章を正確に理解する
ことができる
2. エッセイや小説などの様々なジャンルの朝鮮語の文章を、辞書を
引きながら読解できる能力を身につける
3. 授業で扱うテキストの内容について議論しながら、韓国の社会問
題や韓国文化についての理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国
際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学
部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は Zoom を利用したオンライン授業です。
課題の提出など、学習支援システムを利用して行うので確認してく
ださい。

授業の進め方は以下の通りです。

指定したエッセイや短編小説を、文法内容や関連語彙を確認なが
ら読み解いていきます。原則として、各自日本語訳した文章を授業
内で確認する予習型です。

初回の授業では、韓国文学の文献リストを配布するとともに、韓国
文学に関する互いの関心を共有します。

第 2・3 回の授業ではハムニダ体の文章を題材として、ストーリー
のある文章を読みます。

第 4 回以降、エッセイや短編作品を中心に韓国語の文章を読みます。
授業で取り上げた教材については、原書および同じ作家の日本語で
読める作品も紹介し、韓国文学についての知識を深めます。

第 14 回（最終授業）では、アクティブラーニングとして各履修者
が印象に残った文章を音読、翻訳して発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、韓国文学の文献リ ストの配布
2	ハムニダ体の講読 (1)	ストーリーのある文章を読んで、 読解に慣れる。
3	ハムニダ体の講読・ ディスカッション (2)	ストーリーのある文章を読んで、 読解に慣れる。
4	エッセイの講読・ディ スカッション (1)	エッセイを読んで、内容について 議論する
5	エッセイの講読・ディ スカッション (2)	エッセイを読んで、内容について 議論する

6	エッセイの講読・ディスカッション (3)	エッセイを読んで、内容について議論する
7	小説の講読・ディスカッション (1)	小説を読んで、内容について議論する
8	小説の講読・ディスカッション (2)	小説を読んで、内容について議論する
9	小説の講読・ディスカッション (3)	小説を読んで、内容について議論する
10	小説の講読・ディスカッション (4)	小説を読んで、内容について議論する
11	小説の講読・ディスカッション (5)	小説を読んで、内容について議論する
12	小説の講読・ディスカッション (6)	小説を読んで、内容について議論する
13	小説の講読・ディスカッション (7)	小説を読んで、内容について議論する
14	アクティブ・ラーニング 発表	課題・関心の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
指定されたテキストの予習と復習を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】

バク・ミンギユ、チェ・ウニョン、キム・エラン、チャン・ガンミョン、バク・スリンなど日本でも翻訳されている作家を中心に、エッセイ、短編を扱う。
講読テキスト・参考資料はプリントで配布する。

【参考書】

『完全版 韓国・フェミニズム・日本』斎藤真理子編集（2019、河出書房新社）
『カステラ』バク・ミンギユ著、ヒョン・ジェフン、斎藤真理子訳（2014、クレイン）
『どきどき僕の人生』キム・エラン著、きむふな訳（2013、クオン）
『マスイートソウル』チョン・イヒョン著、清水由希子訳（2007、講談社）
『韓国が嫌いで』チャン・ガンミョン著、吉良佳奈江訳（2020、ころから）
『ショウコの微笑』チェ・ウニョン著、吉川 風監修、牧野 美加、横本 麻矢、小林 由紀 翻訳（2018、クオン）

【成績評価の方法と基準】

授業の出席・参加度、課題の発表、アクティブラーニングを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストだけでなく、映画やドラマの原作なども取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

授業時に講読テキストに関連した朝鮮語の文章を配布し、読解の練習をしてもらう場合もあるため、辞書は必ず持参すること。

【その他の重要事項】

長い文章の講読は少しハードルが高いかもしれませんが、韓国で話題になっている本やエッセイを読むことは、韓国社会や韓国文化に対するより深い理解へとつながります。
初級・中級レベルの朝鮮語の学習を終えてエッセイや小説の読解に挑戦してみたいという学生の他に、韓国に留学したことがあって読解力をもっと高めたいという学生や、文学作品の翻訳に関心がある韓国の留学生の履修も歓迎します。

【Outline and objectives】

In the class, intermediate learners of Korean use dictionaries to read modern Korean literature.
The ultimate goal is to find out what Korean literature each learner likes by reading various Korean textbooks.

LANK200LA

朝鮮語 5 A II（講読）

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 3～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、朝鮮語の基礎を身につけた学習者が現代の韓国文学に触れ、辞書を使って一人で読めるようになることを目的とする。ドラマの原作や映画のシナリオなども扱い、さまざまな作家の文章を幅広く読むとともに、作品の背景となっている現代の韓国社会や韓国の文化についても考察する。

【到達目標】

1. 書き言葉と面接話法が用いられた朝鮮語の文章を正確に理解することができる
2. エッセイや小説などの様々なジャンルの朝鮮語の文章を、辞書を引ながら読解できる能力を身につける
3. 授業で扱うテキストの内容について議論しながら、韓国の社会問題や韓国文化についての理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は Zoom を利用したオンライン授業です。
課題の提出など、学習支援システムを利用して行うので確認してください。
指定したエッセイや短編小説、長編小説の一部を、文法内容や関連語彙を確認しながら読み解いていきます。原則として、各自日本語訳した文章を授業内で確認する予習型です。
初回の授業では、春学期に読んだテキストを踏まえて、韓国文学に関する互いの関心を共有します。
第 2 回以降、短編作品を中心に韓国語の文章読解を進めますが、授業で取り上げた教材については、原書および同じ作家の日本語で読める作品も紹介し、韓国文学についての知識を深めます。
第 14 回（最終授業）では、アクティブラーニングとして各履修者が印象に残った文章を音読、翻訳して発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション エッセイの講読	関心の共有 エッセイを読んで、内容について議論する
2	小説の講読・ディスカッション (1)	小説を読んで、内容について議論する
3	小説の講読・ディスカッション (2)	小説を読んで、内容について議論する
4	小説の講読・ディスカッション (3)	小説を読んで、内容について議論する
5	小説の講読・ディスカッション (4)	小説を読んで、内容について議論する
6	小説の講読・ディスカッション (5)	小説を読んで、内容について議論する
7	小説の講読・ディスカッション (6)	小説を読んで、内容について議論する
8	小説の講読・ディスカッション (7)	小説を読んで、内容について議論する

9	小説の講読・ディスカッション (8)	小説を読んで、内容について議論する
10	小説の講読・ディスカッション (9)	小説を読んで、内容について議論する
11	小説の講読・ディスカッション (10)	小説を読んで、内容について議論する
12	小説の講読・ディスカッション (11)	小説を読んで、内容について議論する
13	小説の講読・ディスカッション (12)	小説を読んで、内容について議論する
14	アクティブ・ラーニング 発表	課題・関心の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
指定されたテキストの予習と復習を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】

日本でも翻訳されている現代作家を中心に、エッセイ、短編、長編小説の一部を扱います。

【参考書】

『モンスーン』ピョン・ヘヨン著、姜信子訳（2019、白水社）
『遠足』チョン・ソンテ著 小山内園子訳（2018、クオン）
『惨憺たる光』ベク・スリン著、カン・パンファ訳（2019、書肆侃侃房）
『保健室のアン・ウニョン先生』チョン・セラン著、斎藤真理子訳（2020、亜紀書房）
その他、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・授業の出席・参加度、課題の発表、アクティブラーニングを総合的に評価します。
・課題提出とアクティブラーニングでは、完成度ではなく、問題への取り組みと積極性を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストだけでなく、映画やドラマの原作なども取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

授業時に予習なしで購読する場合もあるため、辞書は必ず持参すること。
ハングル入力ができることが望ましい。

【その他の重要事項】

大学で朝鮮語を学んでいない学生も履修は可能です。レベルについては事前に教員に相談してください。
文学作品に関心のある留学生の履修も歓迎します。

【Outline and objectives】

In the class, intermediate learners will try to understand Korean society by reading Korean literature.
The ultimate goal is to find out the favorite Korean literature for each learner.

LANk200LA

朝鮮語 5 B I（表現法）

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 3～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語で「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」の伸長を目指す。これまで学習してきた文法や語彙の定着を図り、簡単な日常会話がスムーズにできるように練習をする。
韓国の時事ニュースに触れ、時事単語、リスニング力、漢字語の力をつける。中級レベルの新しい語彙、表現を増やし、会話の幅を広げる。学生のレベルに合わせ、導入用に朝鮮韓国の昔話など簡単な読み物を読み、伝統文化への理解も深めたりする。中級向けの授業である。

【到達目標】

実際にコミュニケーションの手段として使える朝鮮語の「聞く力」「話す力」を獲得し、また身のまわりの出来事を書いたりできるようにする。自らの体験や考えを朝鮮語で発表できるようにする。言語の背景に広がる文化的社会的な理解も深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、オンライン授業（ZOOM によるリアルタイム授業）です。本授業の開始日は 4 月 9 日とし、前日までに ZOOM の URL を学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。
基本的な流れは、以下の通りである。毎回、ウォーミングアップとして、授業のはじめに、身の回りの出来事について、簡単な日常会話を交わす練習をすることで、話すことに慣れていく。慣れてきたら、PPT を作成してプレゼンテーションの練習も随時していきたい。後半は昔話や時事ニュースのテキストに沿って、聞く力の伸長、読む力、語彙力のアップを図り、隣国への幅広い理解へとつなげていく。質問は授業内、掲示板で対応し、発表については授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	「おひさまおつきさま」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
3	「トラと干し柿」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
4	『時事韓国語』BTS、KPOP 再燃するか。	会話、リスニング、リーディング、内容理解
5	『時事韓国語』韓国映画 1000 万人、	会話、リスニング、リーディング、内容理解
6	『時事韓国語』正月番組特集	会話、リスニング、リーディング、内容理解
7	『時事韓国語』南北合同チーム初登場	会話、リスニング、リーディング、内容理解
8	『時事韓国語』「シェアハウス人気」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
9	『時事韓国語』「無人化加速」	会話、リスニング、リーディング、内容理解

10	『時事韓国語』「小 1 保護者 10 時出勤」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
11	『時事韓国語』「二つの母国語」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
12	『時事韓国語』「高齢者 10 人に 1 人認知症」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
13	『時事韓国語』「変わる採用試験場」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
14	学習のまとめ	プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、読み物課題を予習・復習すること。知らない単語を確認しておく。毎回、身近な話題について韓国語で話しますので、話題を準備すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『KBS ニュースで学ぶ時事韓国語』浜之上幸監修、白帝社、2019 年、2400 円+税。昔話は授業時にプリントを配布。

【参考書】

日韓・韓日辞書。

【成績評価の方法と基準】

平常点 80 %、プレゼンテーション 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

話すことに抵抗感がなくなるように、簡単な単語を駆使して伝える技術を身に付けられるようにします。

【その他の重要事項】

学生のレベルに合わせ、順序や内容に若干の変更のある場合があります。

【Outline and objectives】

This course deals with Korean intermediate level. It also enhances the development of students' skill in reading, writing, listening and talking.

LANK200LA

朝鮮語 5 B II（表現法）

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 3～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語で「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」の伸長を目指す。これまで学習してきた文法や語彙の定着を図り、簡単な日常会話がスムーズにできるように練習をする。朝鮮韓国の昔話など簡単な読み物を読みながら、伝統文化についての理解を深めたり、時事ニュースに触れ、リスニング力、漢字語の力をつける。中級レベルの新しい語彙、表現を増やし、会話の幅を広げる。中級レベル向けの授業である。

【到達目標】

実際にコミュニケーションの手段として使える朝鮮語の「聞く力」「話す力」を獲得し、また身のまわりの出来事を書いたりできるようにする。自らの体験や考えを朝鮮語で発表できるようにする。言語の背景に広がる文化的社会的な理解も深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、ウォーミングアップとして、授業のはじめに、身の回りの出来事について、簡単な日常会話を交わす練習をする。言葉がすぐ出てくるよう、とにかく話すことに慣れること。その後は、時事ニュースのテキストに沿って、聞く力の伸長、読む力、語彙力のアップを図り、隣国への幅広い理解へとつなげていく。質問は授業内、掲示板で対応し、発表については授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 『時事韓国語』 11「政府、原発新設白 紙化問題」	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	『時事韓国語』 12「はじめて呼ぶお父 さん、お母さん」、 13「国政の安定化、協 力と統合」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
3	『時事韓国語』 14「南北 65 年ぶり終 戦宣言」 15「気候変動とウミガ メ」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
4	『時事韓国語』 16「日本の公衆ト イレ」 17「米朝 70 年の対立 に終止符」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
5	18「監視カメラ」 19「5 G 先取り競争」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
6	20「気象ニュース」 21「ヨイドの桜」	会話、リスニング、リーディング、内容理解

7	22「珍道犬」 23「仮想通貨」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
8	『時事韓国語』 24「変わる採用試験現場」 25「不動産事情、ソウル、地方」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
9	『時事韓国語』 26「経済成長と就業者の増加」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
10	『時事韓国語』 31「ワールドカップ韓国サッカー旋風」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
11	『時事韓国語』 32「野球ニュースロケット 5 連勝中」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
12	『時事韓国語』 33「ニュース解説、巨大な壁を打ち破った英雄」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
13	『時事韓国語』 34「ドラマの名所ソウル桂洞」 35「蚊を追ひ払う方法、ご存知？」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
14	36「そば粉バスタ、干しだらのカルグクス」 ●学習のまとめ	内容理解、プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、身近な話題について、簡単な会話をしますので、話題を準備をしておくこと。毎回、課題の復習を十分すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『KBS ニュースで学ぶ時事韓国語』浜之上幸監修、白帝社、2400 円＋税。

【参考書】

日韓・韓日辞書。

【成績評価の方法と基準】

平常点 80 %、プレゼンテーション 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

話すことに抵抗感がなくなるように、簡単な単語を駆使して伝える技術を身に付けられるようにします。

【その他の重要事項】

学生のレベルに合わせ、順序や内容に若干の変更のある場合があります。

【Outline and objectives】

This course deals with Korean intermediate level. It also enhances the development of students' skill in reading, writing, listening and talking.

ARSe200LA

朝鮮の文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

李 英美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では韓国の映画をとおして朝鮮・韓国の文化と社会全般について学ぶ。

韓国の映画に描かれている韓国社会の特徴や変化を通じて、韓国の文化と社会に対する理解を深めることが授業の目的である。

【到達目標】

様々なテーマを取り扱う韓国映画から韓国・朝鮮の文化と社会について何を読み取るか、その力を養うことが本授業の目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日まで具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで掲示する。

(※旧：基本的にはテキストの順に沿って進める。

ひとつのテーマについて講義したあとに、2週連続で関連映像の解説上映といった形で進める。毎回授業の最後に解説と映像に対する感想文を書いて提出する。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の目標と進め方の説明	授業の目的と進め方について説明し、テキストや参考書の使い方について説明する。
第 2 回	解説と映画鑑賞①－朝鮮半島の南北分断について	南北対立から理解へー南北分断のリアル DMZ
第 3 回	解説と映画鑑賞②－朝鮮半島の南北分断について	新しい観点から南北分断を想像するー南北兵士の心理描写
第 4 回	韓国映画史－時代区分と特徴	韓国映画史について、全体的な流れと時代別の特徴を概観する。
第 5 回	解説と映画鑑賞③－激動の韓国現代史を生きる	激動の韓国現代史を個人史で綴るー「最も平凡な父の最も偉大な話」
第 6 回	解説と映画鑑賞④－激動の韓国現代史を生きる	「産業化世代」－朝鮮戦争後の韓国再建の主役であった家族愛の父親
第 7 回	韓国近現代史と映画－日本統治下の韓国・朝鮮	韓国近現代史における日本統治時代を抜きにして韓国映画史を語ることはできない。韓国映画の創成期に当たる当時について解説する。
第 8 回	解説と映画鑑賞⑤－日本統治下の韓国・朝鮮	上海、京城（現ソウル）を舞台にした朝鮮人の朝鮮人暗殺を描写ー親日派暗殺作戦

第 9 回	解説と映画鑑賞⑥ー日本統治下の韓国・朝鮮	当時の街並み、ファッション、経済活動、居住空間、社交場など「モダン」の再現
第 10 回	最近の韓国の若者の恋愛観・結婚観と映画	時代の変化を反映する若者の恋愛観・結婚観を垣間見て、日本の若者との間の比較をととして、韓国社会と日本社会の比較を試みる。
第 11 回	解説と映画鑑賞⑦ー青春の思い出	初恋のロマンス、青春の思い出
第 12 回	解説と映画鑑賞⑧ー青春の思い出	青春の多様な感情の描写、現代韓国社会の中で大人に成長していく過程を描写
第 13 回	映画と講義について	映画は学習手段のひとつとして有効かー韓国の文化、社会、歴史上の事象、特に抽象的な事柄を、より明確に理解可能なものにしてくれる。
第 14 回	春学期のまとめと筆記テストの実施	筆記テストの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史、秋月望、キネマ旬報ムック、2015 年、3680 円

【参考書】

韓国映画 100 年史ーその誕生からグローバル展開まで、鄭ゾンファ著、野崎充彦・加藤知恵訳、明石書店、2017 年、3520 円

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
(※旧：筆記テスト 50%、平常点 50% をもって総合的に評価する。)

【学生の意見等からの気づき】

授業の進む順番が前後する場合がある。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

初回の授業には必ず出席する。

毎回短い感想文を提出する。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn about Korean and Korean culture and society through Korean films.
The purpose of the class is to deepen the understanding of Korean society through the characteristics of Korean society and changes in the times depicted in Korean movies.

ARSe200LA

朝鮮の文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

李 英美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では韓国の映画をととして朝鮮・韓国の文化と社会全般について学ぶ。

韓国の映画に描かれている韓国社会の特徴や変化を通じて、韓国の文化と社会に対する理解を深めることが授業の目的である。

【到達目標】

様々なテーマを取り扱う韓国映画から韓国・朝鮮の文化と社会について何を読み取るか、その力を養うことが本授業の目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それになう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日まで具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで掲示する。

(※旧：基本的にはテキストに沿って進めていく。

ひとつのテーマについて講義したあとに、2 週連続で関連映像の解説と上映といった形で進める。毎回授業の最後に解説と映像に対する感想文を書いて提出する。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方に関する説明。	授業の目的と進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方について説明。
第 2 回	解説と映画鑑賞①ー外国原作の小説・漫画の韓国映画化	映画の中の人物を韓国人から人類へ究極な状態に置かれた人々の動き
第 3 回	解説と映画鑑賞②ー外国原作の小説・漫画の韓国映画化	映画の中の人類における各差と不平等、階級化をととして韓国社会をみる
第 4 回	現代韓国社会と映画ー高齢化	現代韓国社会の特徴のひとつである高齢化社会をどのように描くか
第 5 回	解説と映画鑑賞③ー老いに対する考え方	現代韓国社会の諸特徴ー老いをどのように受け入れるか、どのように生きるか
第 6 回	解説と映画鑑賞④ー老いに対する考え方	現代韓国社会の諸特徴ー家族の愛情と世代間の価値観のギャップ
第 7 回	現代韓国社会と映画ー犯罪被害者を描く	神に罪を告白し、許しを得た殺人犯についてー被害者の家族は救われない。宗教、法、人間の関係を映画に投影する。
第 8 回	解説と映画鑑賞⑤ー最高の価値は人間愛	人間愛は最高の価値ー人間は人間を救うことができる。子供殺人被害者の母親。

発行日：2021/5/1

- 第 9 回 解説と映画鑑賞⑥ー宗教とは何か、人間とは何かー人間を救えない残酷な神の姿。神の許しとは。
- 第 10 回 映画に移る国家像 国家の危機管理能力についてー 2010 年代韓国政府を実例に
- 第 11 回 解説と映画鑑賞⑦ードキュメンタリー映画 国家とは何か。国家の存在理由ー国民の生命・財産の保護。
- 第 12 回 解説と映画鑑賞⑧ードキュメンタリー映画 真実究明と記者・言論の役割と力
- 第 13 回 韓国映画史を振り返るー 100 年史 創成期〜ルネサンス期まで
- 第 14 回 秋学期のまとめと筆記 テストの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでおくこと。 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

韓国映画 100 年史ーその誕生からグローバル展開まで、鄭ゾンファ著、野崎充彦・加藤知恵訳、明石書店、2017 年、3520 円

【参考書】

韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史、秋月望、キネマ旬報ムック、2015 年、3680 円

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
(※旧：筆記テスト 50%、平常点 50%をもって総合的に評価する。)

【学生の意見等からの気づき】

授業の進む順番が前後する場合がある。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

初回の授業に必ず出席すること。
映像を用いた授業お時は、毎回短い感想文を提出する。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn about Korean and Korean culture and society through Korean films.
The purpose of the class is to deepen the understanding of Korean society through the characteristics of Korean society and changes in the times depicted in Korean movies.

